

2025年度 成績優秀者の他学部公開科目履修制度対象科目 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

〔発行日：2025/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【A0001】 憲法Ⅰ [金子 匡良] 春学期授業/Spring.....	1
【A0002】 憲法Ⅱ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall.....	2
【A0003】 憲法Ⅰ [高橋 正明] 春学期授業/Spring.....	3
【A0004】 憲法Ⅱ [高橋 正明] 秋学期授業/Fall.....	4
【A0005】 憲法Ⅲ [國分 典子] 春学期授業/Spring.....	5
【A0006】 憲法Ⅳ [國分 典子] 秋学期授業/Fall.....	6
【A0007】 現代情報法Ⅰ [鈴木 秀美] 春学期授業/Spring.....	7
【A0008】 現代情報法Ⅱ [鈴木 秀美] 秋学期授業/Fall.....	8
【A0009】 国際社会と憲法Ⅰ [大津 浩] 春学期授業/Spring.....	9
【A0010】 国際社会と憲法Ⅱ [國分 典子] 秋学期授業/Fall.....	11
【A0011】 ジェンダーと法Ⅰ [寺原 真希子、三浦 徹也] 秋学期授業/Fall.....	12
【A0015】 憲法訴訟論 [高橋 正明] 秋学期授業/Fall.....	13
【A0019】 生命倫理と人権Ⅰ [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring.....	14
【A0020】 生命倫理と人権Ⅱ [洪 賢秀] 秋学期授業/Fall.....	16
【A0021】 行政法入門Ⅰ [西田 幸介] 春学期授業/Spring.....	17
【A0022】 行政法入門Ⅱ [西田 幸介] 秋学期授業/Fall.....	19
【A0023】 行政作用法Ⅰ [吉岡 郁美] 春学期授業/Spring.....	21
【A0024】 行政作用法Ⅱ [吉岡 郁美] 秋学期授業/Fall.....	23
【A0025】 行政救済法Ⅰ [高橋 滋] 春学期授業/Spring.....	25
【A0026】 行政救済法Ⅱ [高橋 滋] 秋学期授業/Fall.....	27
【A0027】 租税手続法 [阿部 雪子] 秋学期授業/Fall.....	29
【A0028】 租税実体法 [阿部 雪子] 春学期授業/Spring.....	30
【A0029】 地方自治法 [氏家 裕順] 秋学期授業/Fall.....	31
【A0030】 環境法 [高橋 滋] 春学期授業/Spring.....	32
【A0031】 民事法総論 [大澤 彩] 秋学期授業/Fall.....	33
【A0032】 契約法Ⅰ [大澤 彩] 春学期授業/Spring.....	35
【A0033】 民事法総論 [新堂 明子] 秋学期授業/Fall.....	37
【A0034】 契約法Ⅰ [新堂 明子] 春学期授業/Spring.....	38
【A0037】 契約法Ⅱ [滝沢 昌彦] 春学期授業/Spring.....	39
【A0038】 債権回収法Ⅰ [滝沢 昌彦] 秋学期授業/Fall.....	40
【A0039】 契約法Ⅱ [滝沢 昌彦] 春学期授業/Spring.....	41
【A0040】 債権回収法Ⅰ [滝沢 昌彦] 秋学期授業/Fall.....	42
【A0041】 不法行為法 [川村 洋子] 秋学期授業/Fall.....	43
【A0042】 契約法Ⅲ [川村 洋子] 春学期授業/Spring.....	44
【A0043】 契約法Ⅳ [大澤 彩] 秋学期授業/Fall.....	45
【A0044】 不法行為法 [川村 洋子] 秋学期授業/Fall.....	46
【A0045】 契約法Ⅲ [川村 洋子] 春学期授業/Spring.....	47
【A0046】 親族法 [和田 幹彦] 春学期授業/Spring.....	48
【A0047】 相続法 [和田 幹彦] 秋学期授業/Fall.....	50
【A0048】 消費者法Ⅰ [大澤 彩] 春学期授業/Spring.....	52
【A0049】 消費者法Ⅱ [大澤 彩] 秋学期授業/Fall.....	54
【A0050】 商法総則・商行為法Ⅰ [椋川 泰史] 秋学期授業/Fall.....	55
【A0054】 会社法 [椋川 泰史] 年間授業/Yearly.....	57
【A0055】 会社法 [伊藤 雄司] 年間授業/Yearly.....	59

【A0056】 手形法・小切手法 [椽川 泰史] 年間授業/Yearly	60
【A0065】 経済法Ⅰ [青柳 由香] 春学期授業/Spring	62
【A0066】 経済法Ⅱ [渡邊 昭成] 秋学期授業/Fall	64
【A0067】 国際人権法Ⅰ [佐々木 亮] 春学期授業/Spring	66
【A0068】 国際人権法Ⅱ [大津 浩] 秋学期授業/Fall	68
【A0069】 民事訴訟法Ⅰ [杉本 和士] 春学期授業/Spring	69
【A0070】 民事訴訟法Ⅱ [杉本 和士] 秋学期授業/Fall	70
【A0074】 破産法Ⅰ [杉本 和士] 春学期授業/Spring	71
【A0075】 破産法Ⅱ [杉本 和士] 秋学期授業/Fall	73
【A0077】 刑法総論Ⅰ [佐藤 輝幸] 秋学期授業/Fall	75
【A0078】 刑法総論Ⅱ [佐野 文彦] 春学期授業/Spring	76
【A0079】 刑法総論Ⅲ [佐藤 輝幸] 秋学期授業/Fall	77
【A0085】 犯罪学 [佐野 文彦] 春学期授業/Spring	78
【A0086】 刑事政策 [朝村 太一] 秋学期授業/Fall	79
【A0090】 労働法総論・労働契約法 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	80
【A0091】 労働基準法 [藤木 貴史] 秋学期授業/Fall	82
【A0092】 労働法総論・労働契約法 [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	84
【A0093】 労働基準法 [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	86
【A0094】 労働組合法 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	88
【A0095】 労働法特論 [細川 良] 秋学期授業/Fall	90
【A0096】 社会保障法Ⅰ [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	92
【A0097】 社会保障法Ⅱ [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	94
【A0098】 社会政策 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	96
【A0099】 雇用・福祉政策 [藤木 貴史] 秋学期授業/Fall	98
【A0100】 教育法Ⅰ [村元 宏行] 春学期授業/Spring	100
【A0101】 教育法Ⅱ [村元 宏行] 春学期授業/Spring	101
【A0103】 国際法基礎理論 [田中 佐代子] 秋学期授業/Fall	102
【A0104】 国際空間法 [瀬田 真] 秋学期授業/Fall	103
【A0105】 国際安全保障法 [岩月 直樹] 春学期授業/Spring	104
【A0110】 国際組織法 [菅野 直之] 春学期授業/Spring	105
【A0112】 国際刑事法 [菅野 直之] 秋学期授業/Fall	107
【A0113】 国際経済法 [猪瀬 貴道] 春学期授業/Spring	108
【A0114】 法哲学Ⅰ [大野 達司] 春学期授業/Spring	110
【A0115】 法哲学Ⅱ [大野 達司] 秋学期授業/Fall	111
【A0116】 日本法制史Ⅰ [川口 由彦] 春学期授業/Spring	112
【A0117】 日本法制史Ⅱ [川口 由彦] 秋学期授業/Fall	113
【A0118】 日本法制史Ⅲ [川口 由彦] 春学期授業/Spring	114
【A0119】 日本法制史Ⅳ [川口 由彦] 秋学期授業/Fall	115
【A0120】 ドイツ法制史Ⅰ [高 友希子] 春学期授業/Spring	116
【A0121】 ドイツ法制史Ⅱ [高 友希子] 秋学期授業/Fall	117
【A0122】 イギリス法制史Ⅰ [高 友希子] 春学期授業/Spring	118
【A0123】 イギリス法制史Ⅱ [高 友希子] 秋学期授業/Fall	119
【A0124】 法社会学 [北村 隆憲] 秋学期集中/Intensive(Fall)	120
【A0125】 英米法Ⅰ [中田 裕子] 春学期授業/Spring	122
【A0126】 英米法Ⅱ [中田 裕子] 秋学期授業/Fall	123
【A0127】 アジア法Ⅰ [陳 志明] 春学期授業/Spring	124
【A0128】 アジア法Ⅱ [陳 志明] 秋学期授業/Fall	125
【A0129】 社会安全政策論Ⅰ [梶原 田鶴、久米 一郎] 春学期授業/Spring	126
【A0131】 法思想史 [大野 達司] 秋学期授業/Fall	128
【A0132】 法と遺伝学Ⅰ [和田 幹彦] 春学期授業/Spring	129
【A0133】 法と遺伝学Ⅱ [和田 幹彦] 秋学期授業/Fall	132
【A0136】 法律学特講 (日本レコード協会寄付講座) エンタメ産業と法 [武生 昌士] 秋学期授業/Fall	135
【A0203】 行政法入門Ⅰ [高橋 滋] 春学期授業/Spring	136
【A0204】 行政法入門Ⅱ [高橋 滋] 秋学期授業/Fall	138
【A0211】 外国書講読 (独語)Ⅰ [大野 達司] 春学期授業/Spring	140
【A0212】 外国書講読 (独語)Ⅱ [大野 達司] 秋学期授業/Fall	141
【A0217】 国際法基礎理論 [田中 佐代子] 秋学期授業/Fall	142

【A0224】 会社法〔伊藤 雄司〕年間授業/Yearly	143
【A0237】 比較政治論Ⅰ〔新川 敏光〕春学期授業/Spring	144
【A0238】 比較政治論Ⅱ〔新川 敏光〕秋学期授業/Fall	145
【A0241】 保険法Ⅰ〔潘 阿憲〕春学期授業/Spring	146
【A0242】 保険法Ⅱ〔潘 阿憲〕秋学期授業/Fall	147
【A0249】 ジェンダー論Ⅰ〔中野 洋恵〕春学期授業/Spring	148
【A0250】 ジェンダー論Ⅱ〔梅垣 千尋〕秋学期授業/Fall	150
【A0251】 知的財産法Ⅰ〔武生 昌士〕春学期授業/Spring	151
【A0252】 知的財産法Ⅱ〔武生 昌士〕秋学期授業/Fall	152
【A0257】 日本政治論Ⅰ〔中嶋 一成〕秋学期授業/Fall	153
【A0258】 日本政治論Ⅱ〔藤田 直央〕春学期授業/Spring	155
【A0259】 日本政治思想史Ⅰ〔河野 有理〕春学期授業/Spring	156
【A0260】 日本政治思想史Ⅱ〔河野 有理〕秋学期授業/Fall	157
【A0265】 法律学特講（知的財産法の今日的課題）〔武生 昌士〕春学期授業/Spring	158
【A0271】 ヨーロッパ政治思想史Ⅰ〔犬塚 元〕春学期授業/Spring	159
【A0272】 ヨーロッパ政治思想史Ⅱ〔犬塚 元〕秋学期授業/Fall	160
【A0276】 福祉政策Ⅱ〔荒木 千晴〕春学期授業/Spring	161
【A0308】 行政学Ⅰ〔林 嶺那〕春学期授業/Spring	162
【A0309】 行政学Ⅱ〔林 嶺那〕秋学期授業/Fall	163
【A0314】 マス・コミュニケーション論Ⅰ〔郭 善英〕春学期授業/Spring	164
【A0315】 マス・コミュニケーション論Ⅱ〔郭 善英〕秋学期授業/Fall	165
【A0316】 日本政治史Ⅰ〔菊池 信輝〕春学期授業/Spring	166
【A0317】 日本政治史Ⅱ〔菊池 信輝〕秋学期授業/Fall	167
【A0354】 外国書講読（独語）Ⅰ〔上田 知夫〕春学期授業/Spring	169
【A0355】 外国書講読（独語）Ⅱ〔上田 知夫〕秋学期授業/Fall	170
【A0428】 法律学特講（子ども行政と法）〔村元 宏行〕春学期授業/Spring	171
【A0429】 法律学特講（政策と法）〔高橋 彰〕秋学期授業/Fall	172
【A0430】 外国書講読（英語）Ⅰ〔石井 宏司〕春学期授業/Spring	174
【A0431】 外国書講読（英語）Ⅱ〔石井 宏司〕秋学期授業/Fall	175
【A0434】 ロシア政治史Ⅰ〔油本 真理〕春学期授業/Spring	176
【A0435】 ロシア政治史Ⅱ〔油本 真理〕秋学期授業/Fall	177
【A0436】 政治過程論Ⅰ〔山口 二郎〕春学期授業/Spring	178
【A0437】 政治過程論Ⅱ〔山口 二郎〕秋学期授業/Fall	180
【A0440】 民事手続法入門〔安西 明子〕秋学期授業/Fall	181
【A0442】 法律学特講（英米法思想史）〔金井 光生〕春学期授業/Spring	182
【A0443】 行政組織法〔氏家 裕順〕春学期授業/Spring	183
【A0444】 都市法〔西田 幸介〕秋学期授業/Fall	184
【A0452】 法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅰ）〔大原 利夫〕春学期授業/Spring	185
【A0453】 法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅱ）〔大原 利夫〕秋学期授業/Fall	186
【A0457】 外国書講読（仏語）Ⅰ〔大津 浩〕春学期授業/Spring	187
【A0458】 外国書講読（仏語）Ⅱ〔大津 浩〕秋学期授業/Fall	188
【A0476】 金融商品取引法Ⅰ〔田中 綾〕春学期授業/Spring	189
【A0477】 金融商品取引法Ⅰ〔田中 綾〕春学期授業/Spring	190
【A0478】 金融商品取引法Ⅱ〔田中 綾〕秋学期授業/Fall	191
【A0479】 金融商品取引法Ⅱ〔田中 綾〕秋学期授業/Fall	192
【A0480】 経済法Ⅲ〔青柳 由香〕春学期授業/Spring	193
【A0481】 法律学特講（（法学部同窓会寄付講座）企業法務への案内）〔武生 昌士〕春学期授業/Spring	195
【A0485】 政治学特殊講義Ⅰ（安全保障政策）〔川名 晋史〕秋学期授業/Fall	197
【A0503】 外国書講読（英語）Ⅰ〔和田 幹彦〕春学期授業/Spring	198
【A0504】 外国書講読（英語）Ⅱ〔和田 幹彦〕秋学期授業/Fall	200
【A0522】 コミュニティ政策（日本）〔名和田 是彦〕春学期授業/Spring	202
【A0523】 コミュニティ政策（理論・国際比較）〔名和田 是彦〕秋学期授業/Fall	204
【A0530】 環境政策〔西谷内 博美〕秋学期授業/Fall	206
【A0531】 都市の環境問題〔松村 正治〕秋学期授業/Fall	207
【A0534】 市民公益活動論〔熊谷 紀良〕秋学期授業/Fall	209
【A0535】 外国書講読（中国語）Ⅰ〔黄 偉修〕春学期授業/Spring	211
【A0536】 外国書講読（中国語）Ⅱ〔黄 偉修〕秋学期授業/Fall	212

【A0552】 知的財産法Ⅲ [武生 昌士] 秋学期授業/Fall	213
【A0553】 法律学特講 (憲法哲学) [金井 光生] 秋学期授業/Fall	214
【A0554】 政治学特殊講義Ⅰ (現代の政治理論) [面 一也] 春学期授業/Spring	215
【A0555】 政治学特殊講義Ⅱ (現代の政治理論) [面 一也] 秋学期授業/Fall	216
【A0573】 憲法Ⅳ [國分 典子] 秋学期授業/Fall	217
【A0574】 憲法Ⅲ [國分 典子] 春学期授業/Spring	218
【A0575】 法律学特講 (コンテンツビジネスの実相と知的財産権) [安田 和史] 秋学期授業/Fall	219
【A0606】 財政と金融Ⅰ [島澤 諭] 春学期授業/Spring	222
【A0607】 財政と金融Ⅱ [島澤 諭] 秋学期授業/Fall	223
【A0610】 自治体論 [土山 希美枝] 春学期授業/Spring	224
【A0611】 自治体政策論 [土山 希美枝] 秋学期授業/Fall	225
【A0627】 International Politics [Emily Szu-hua Chen] 秋学期授業/Fall	226
【A0644】 外交総合講座 [本多 美樹] 秋学期授業/Fall	228
【A0649】 国際NGO論Ⅰ [高橋 清貴] 春学期授業/Spring	229
【A0650】 国際NGO論Ⅱ [堀場 明子] 秋学期授業/Fall	231
【A0652】 国際文化交流Ⅰ [牧田 東一] 春学期授業/Spring	232
【A0653】 国際文化交流Ⅱ [牧田 東一] 春学期授業/Spring	233
【A0662】 アジア国際政治概論 [水野 孝昭] 秋学期授業/Fall	234
【A0664】 グローバル・ガバナンス [本多 美樹] 春学期授業/Spring	236
【A0667】 中東の政治と社会Ⅰ [木村 正俊] 春学期授業/Spring	238
【A0668】 中東の政治と社会Ⅱ [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	239
【A0715】 旧ソ連諸国の政治と社会Ⅰ [長谷川 雄之] 春学期授業/Spring	240
【A0716】 旧ソ連諸国の政治と社会Ⅱ [長谷川 雄之] 秋学期授業/Fall	241
【A0717】 国際協力論Ⅰ [志賀 裕朗] 春学期授業/Spring	242
【A0718】 国際協力論Ⅱ [志賀 裕朗] 秋学期授業/Fall	244
【A0719】 国際公共政策Ⅰ [坂根 徹] 春学期授業/Spring	246
【A0733】 平和・軍事研究Ⅱ [権 鎬淵] 秋学期授業/Fall	247
【A0736】 オセアニアの政治と社会Ⅰ [今泉 裕美子] 春学期授業/Spring	248
【A0737】 オセアニアの政治と社会Ⅱ [今泉 裕美子] 秋学期授業/Fall	250
【A0755】 ラテンアメリカの政治と社会Ⅰ [渡部 奈々] 春学期授業/Spring	252
【A0756】 ラテンアメリカの政治と社会Ⅱ [渡部 奈々] 秋学期授業/Fall	253
【A0757】 東南アジアの政治と社会Ⅰ [松野 明久] 春学期授業/Spring	254
【A0758】 東南アジアの政治と社会Ⅱ [田中 李歩] 秋学期授業/Fall	256
【A0771】 朝鮮半島の政治と社会Ⅰ [権 鎬淵] 春学期授業/Spring	257
【A0772】 朝鮮半島の政治と社会Ⅱ [権 鎬淵] 秋学期授業/Fall	258
【A0777】 平和・軍事研究Ⅰ [権 鎬淵] 春学期授業/Spring	259
【A0820】 法律実務入門Ⅰ [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	260
【A0821】 法律実務入門Ⅱ [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	261
【A0832】 外国書講読 (英語)Ⅰ [中野 勝郎] 春学期授業/Spring	262
【A0833】 外国書講読 (英語)Ⅱ [中野 勝郎] 秋学期授業/Fall	263
【A0838】 外国書講読 (仏語)Ⅰ [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	264
【A0839】 外国書講読 (仏語)Ⅱ [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	265
【A0840】 ヨーロッパ政治史Ⅰ [網谷 龍介] 春学期授業/Spring	266
【A0841】 ヨーロッパ政治史Ⅱ [網谷 龍介] 秋学期授業/Fall	267
【A0846】 日本の政治と社会Ⅰ [塚本 英樹] 秋学期授業/Fall	268
【A0868】 人権と企業社会Ⅰ [土屋 仁美] オータムセッション/Autumn Session	269
【A0898】 アメリカ政治史Ⅰ [中野 勝郎] 春学期授業/Spring	270
【A0899】 アメリカ政治史Ⅱ [中野 勝郎] 秋学期授業/Fall	271
【A0900】 協同組合論 [杉崎 和久、上山 紀子、小林 幸治] 秋学期授業/Fall	272
【A0901】 企業規制の法律学Ⅰ [青柳 由香] 春学期授業/Spring	274
【A0917】 政治学特殊講義Ⅰ (日韓比較政治思想) [崔 先鎬] 春学期授業/Spring	275
【A0918】 政治学特殊講義Ⅱ (日韓比較政治思想) [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall	276
【A0919】 政治学特殊講義Ⅰ (近代日本における〈道徳〉と〈政治〉) [金子 元] 春学期授業/Spring	277
【A0920】 政治学特殊講義Ⅱ (近代日本における〈道徳〉と〈政治〉) [金子 元] 秋学期授業/Fall	278
【A0921】 現代政策学特講Ⅰ (立法学) [正木 寛也] 春学期授業/Spring	279
【A0922】 現代政策学特講Ⅱ (立法学) [正木 寛也] 秋学期授業/Fall	280
【A0925】 外国書講読 (朝鮮語)Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授業/Spring	281

【A0926】	外国書講読（朝鮮語）Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall	282
【A2212】	哲学特講（１）－１ [奥田 和夫] 春学期授業/Spring	283
【A2213】	哲学特講（１）－２ [山下 真] 秋学期授業/Fall	284
【A2216】	哲学特講（３）－１ [佐藤 真人] 春学期授業/Spring	285
【A2217】	哲学特講（３）－２ [古屋 俊彦] 秋学期授業/Fall	287
【A2218】	哲学特講（４）－１ [菅沢 龍文] 春学期授業/Spring	288
【A2219】	哲学特講（４）－２ [近堂 秀] 秋学期授業/Fall	289
【A2221】	哲学特講（５）－２ [相原 博] 秋学期授業/Fall	290
【A2222】	哲学特講（６）－１ [大橋 基] 春学期授業/Spring	291
【A2223】	哲学特講（６）－２ [押山 詩緒里] 秋学期授業/Fall	292
【A2224】	哲学特講（７）－１ [富田 絢矢] 春学期授業/Spring	293
【A2225】	哲学特講（７）－２ [鶴澤 和彦] 秋学期授業/Fall	294
【A2226】	哲学特講（８）－１ [木島 泰三] 春学期授業/Spring	295
【A2227】	哲学特講（８）－２ [中釜 浩一] 秋学期授業/Fall	296
【A2553】	日本文芸批評史A [伊東 祐吏] 春学期授業/Spring	297
【A2555】	日本文芸批評史B [伊東 祐吏] 秋学期授業/Fall	298
【A2561】	中国文芸史A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring	299
【A2563】	中国文芸史B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	300
【A2566】	書誌学 [山口 恭子] 春学期授業/Spring	301
【A2568】	メディアと社会 [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	302
【A2584】	表現と著作権A [平井 彰司] 春学期授業/Spring	303
【A2586】	表現と著作権B [平井 彰司] 秋学期授業/Fall	304
【A2604】	古文・漢文の基礎 [栗山 元子] 秋学期授業/Fall	305
【A2661】	日本文芸研究特講（２）中古A [栗山 元子] 春学期授業/Spring	306
【A2662】	日本文芸研究特講（２）中古B [加藤 昌嘉] 秋学期授業/Fall	307
【A2665】	日本文芸研究特講（３）中世A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	308
【A2666】	日本文芸研究特講（３）中世B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	309
【A2669】	日本文芸研究特講（４）近世A [小林 ふみ子] 春学期授業/Spring	310
【A2670】	日本文芸研究特講（４）近世B [齊藤 千恵] 秋学期授業/Fall	311
【A2677】	日本文芸研究特講（６）現代A [藤木 直実] 春学期授業/Spring	312
【A2678】	日本文芸研究特講（６）現代B [藤木 直実] 秋学期授業/Fall	313
【A2679】	日本文芸研究特講（６）現代C [高口 智史] 春学期授業/Spring	314
【A2680】	日本文芸研究特講（６）現代D [梅澤 亜由美] 秋学期授業/Fall	316
【A2681】	日本文芸研究特講（７）漢文A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring	317
【A2682】	日本文芸研究特講（７）漢文B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	318
【A2685】	日本文芸研究特講（８）言語A [塩田 雄大] 春学期授業/Spring	319
【A2686】	日本文芸研究特講（８）言語B [塩田 雄大] 秋学期授業/Fall	320
【A2687】	日本文芸研究特講（９）表現A [藤谷 治] 春学期授業/Spring	321
【A2688】	日本文芸研究特講（９）表現B [藤谷 治] 秋学期授業/Fall	322
【A2689】	日本文芸研究特講（１０）演劇A [深澤 希望] 春学期授業/Spring	323
【A2690】	日本文芸研究特講（１０）演劇B [深澤 希望] 秋学期授業/Fall	324
【A2693】	日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史A [本塚 亘] 春学期授業/Spring	325
【A2694】	日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史B [本塚 亘] 秋学期授業/Fall	326
【A2699】	日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸A [福 寛美] 春学期授業/Spring	327
【A2700】	日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸B [福 寛美] 秋学期授業/Fall	328
【A2703】	日本文芸研究特講（１５）国際日本学A [スティーヴン ネルソン] 春学期授業/Spring	329
【A2704】	日本文芸研究特講（１５）国際日本学B [スティーヴン ネルソン] 秋学期授業/Fall	330
【A2707】	日本文芸研究特講（１６）特域C [安原 眞琴] 春学期授業/Spring	331
【A2708】	日本文芸研究特講（１６）特域D [山口 恭子] 秋学期授業/Fall	332
【A2804】	英語学概論A [椎名 美智] 春学期授業/Spring	333
【A2805】	英語学概論B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	334
【A2806】	言語学概論A [石川 潔] 春学期授業/Spring	335
【A2807】	言語学概論B [石井 創] 秋学期授業/Fall	336
【A2808】	英語・言語学講義A [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	338
【A2809】	英語・言語学講義B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	339
【A2810】	社会言語学 [椎名 美智] 春学期授業/Spring	340
【A2811】	応用言語学 [川崎 貴子] 秋学期授業/Fall	341

【A2824】 比較文学A〔柳橋 大輔〕 春学期授業/Spring	342
【A2825】 比較文学B〔柳橋 大輔〕 秋学期授業/Fall	343
【A2901】 英語史A〔福元 広二〕 春学期授業/Spring	344
【A2902】 英語史B〔福元 広二〕 秋学期授業/Fall	345
【A2903】 英文学史A〔田中 裕希〕 春学期授業/Spring	346
【A2904】 英文学史B〔小澤 央〕 秋学期授業/Fall	347
【A2905】 米文学史A〔宮川 雅〕 春学期授業/Spring	348
【A2906】 米文学史B〔宮川 雅〕 秋学期授業/Fall	349
【A2907】 英米文学講義ⅠA〔波戸岡 景太〕 春学期授業/Spring	350
【A2908】 英米文学講義ⅠB〔波戸岡 景太〕 秋学期授業/Fall	351
【A2909】 英米文学講義ⅡA〔小澤 央〕 春学期授業/Spring	352
【A2910】 英米文学講義ⅡB〔田中 裕希〕 秋学期授業/Fall	353
【A2911】 英語学講義A〔福元 広二〕 春学期授業/Spring	354
【A2912】 英語学講義B〔福元 広二〕 秋学期授業/Fall	355
【A2913】 言語学講義ⅠA〔石川 潔〕 春学期授業/Spring	356
【A2914】 言語学講義ⅠB〔石川 潔〕 秋学期授業/Fall	357
【A2915】 言語学講義ⅡA〔伊藤 達也〕 春学期授業/Spring	358
【A2916】 言語学講義ⅡB〔伊藤 達也〕 秋学期授業/Fall	359
【A2919】 英語音声学A〔川崎 貴子〕 春学期授業/Spring	360
【A2920】 英語音声学B〔川崎 貴子〕 秋学期授業/Fall	361
【A2969】 文学研究方法論A〔波戸岡 景太〕 春学期授業/Spring	362
【A2970】 文学研究方法論B〔波戸岡 景太〕 秋学期授業/Fall	363
【A2977】 英語の文法力Ⅰ〔椎名 美智〕 春学期授業/Spring	364
【A2978】 英語の文法力Ⅱ〔椎名 美智〕 秋学期授業/Fall	365
【A2979】 メディア・リテラシーⅠ〔田中 邦佳〕 秋学期授業/Fall	366
【A2980】 メディア・リテラシーⅡ〔吉川 純子〕 秋学期授業/Fall	367
【A2981】 比較文化論（Ⅰ）〔波戸岡 景太〕 秋学期授業/Fall	368
【A2982】 英米文化概論A〔田中 裕希〕 春学期授業/Spring	369
【A2983】 英米文化概論B〔田中 裕希〕 秋学期授業/Fall	370
【A2988】 ComparativeCulture(2)〔田中 裕希〕 秋学期授業/Fall	371
【A3113】 日本考古学〔高橋 健〕 秋学期授業/Fall	372
【A3114】 日本古代史〔春名 宏昭〕 春学期授業/Spring	373
【A3115】 日本中世史〔及川 亘〕 秋学期授業/Fall	374
【A3116】 日本近世史〔大橋 幸泰〕 秋学期授業/Fall	375
【A3117】 日本近代史〔内藤 一成〕 春学期授業/Spring	376
【A3118】 日本現代史〔劉 傑〕 春学期授業/Spring	377
【A3121】 日本古代史科学Ⅰ〔春名 宏昭〕 秋学期授業/Fall	378
【A3124】 日本近世史科学Ⅰ〔清水 詩織〕 春学期授業/Spring	379
【A3125】 日本近世史科学Ⅱ〔清水 詩織〕 秋学期授業/Fall	380
【A3126】 日本近代史科学〔内藤 一成〕 秋学期授業/Fall	381
【A3127】 日本現代史科学〔劉 傑〕 秋学期授業/Fall	382
【A3135】 東洋古代史〔飯尾 秀幸〕 春学期授業/Spring	383
【A3136】 東洋中世史〔塩沢 裕仁〕 秋学期授業/Fall	384
【A3143】 西洋古代史〔内田 康太〕 春学期授業/Spring	385
【A3144】 西洋中世史〔内川 勇太〕 春学期授業/Spring	386
【A3145】 西洋近代史〔中嶋 毅〕 春学期授業/Spring	387
【A3146】 西洋現代史〔古川 高子〕 秋学期授業/Fall	388
【A3152】 考古学概論〔高橋 健〕 春学期授業/Spring	389
【A3153】 史学概論〔齋藤 勝〕 春学期授業/Spring	390
【A3154】 日本史特講Ⅰ〔大橋 幸泰〕 春学期授業/Spring	391
【A3155】 日本史特講Ⅱ〔大塚 紀弘〕 春学期授業/Spring	393
【A3157】 日本史特講Ⅳ〔中山 学〕 秋学期授業/Fall	394
【A3158】 日本史特講Ⅴ〔清水 詩織〕 秋学期授業/Fall	395
【A3159】 日本史特講Ⅵ〔米崎 清実〕 春学期授業/Spring	396
【A3160】 日本史特講Ⅶ〔山田 康弘〕 春学期授業/Spring	397
【A3162】 東洋史特講Ⅰ〔飯尾 秀幸〕 秋学期授業/Fall	399
【A3163】 東洋史特講Ⅱ〔澁谷 由紀〕 春学期授業/Spring	400

【A3164】 東洋史特講Ⅲ [芦沢 知絵] 秋学期授業/Fall	401
【A3165】 東洋史特講Ⅳ [塩沢 裕仁] 秋学期授業/Fall	402
【A3168】 西洋史特講Ⅰ [内田 康太] 秋学期授業/Fall	403
【A3169】 西洋史特講Ⅱ [伊丹 聡一郎] 秋学期授業/Fall	404
【A3171】 西洋史特講Ⅳ [皆川 卓] 春学期授業/Spring	405
【A3172】 西洋史特講Ⅴ [皆川 卓] 秋学期授業/Fall	407
【A3173】 西洋史特講Ⅵ [遠藤 泰生] 春学期授業/Spring	409
【A3174】 西洋史特講Ⅶ [遠藤 泰生] 秋学期授業/Fall	411
【A3201】 日本史特講Ⅸ [内藤 一成] 春学期授業/Spring	413
【A3202】 日本史特講Ⅹ [森田 貴子] 秋学期授業/Fall	414
【A3204】 日本古代史科学Ⅱ a [山口 英男] 春学期授業/Spring	415
【A3209】 東洋考古・美術史 [塩沢 裕仁] 春学期授業/Spring	417
【A3217】 東洋史特講Ⅶ [徳留 大輔] 春学期授業/Spring	418
【A3218】 東洋史特講Ⅷ [松本 隆志] 春学期授業/Spring	420
【A3219】 西洋史特講Ⅸ [吉岡 潤] 秋学期授業/Fall	421
【A3408】 地誌学概論(1) [小寺 浩二] 春学期授業/Spring	422
【A3412】 地球科学概論Ⅰ [宍倉 正展] 春学期授業/Spring	423
【A3413】 地球科学概論Ⅱ [宍倉 正展] 秋学期授業/Fall	424
【A3417】 自然環境論 [福興 直人] 春学期授業/Spring	425
【A3443】 世界地誌(1) [倉光 ミナ子] 秋学期授業/Fall	426
【A3444】 世界地誌(2) [小原 丈明] 春学期授業/Spring	427
【A3445】 世界地誌(3) [小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	428
【A3453】 自然地理学特講(3) [丸本 美紀] 春学期授業/Spring	429
【A3455】 人文地理学特講(1) [小田 宏信] 春学期授業/Spring	430
【A3457】 人文地理学特講(3) [松井 圭介] 秋学期授業/Fall	431
【A3482】 文化地理学(1) [吉野 裕] 春学期授業/Spring	432
【A3483】 文化地理学(2) [川添 航] 秋学期授業/Fall	433
【A3500】 自然地理学特講(1) [藁谷 哲也] 春学期授業/Spring	434
【A3513】 地理学史 [杉山 和明] 秋学期授業/Fall	436
【A3601】 心理学概論 [福田 由紀] 春学期授業/Spring	437
【A3602】 心理学史 [矢口 幸康] 秋学期授業/Fall	438
【A3619】 脳の科学 [木村 健太] 秋学期授業/Fall	439
【A3620】 認知心理学 [竹島 康博] 秋学期授業/Fall	440
【A3621】 認知科学入門 [田嶋 圭一] 春学期授業/Spring	441
【A3622】 発達心理学 [渡辺 弥生] 春学期授業/Spring	442
【A3623】 教育心理学 [福田 由紀] 秋学期授業/Fall	443
【A3624】 学習心理学 [藤田 哲也] 春学期授業/Spring	444
【A3667】 言語心理学 [福田 由紀] 春学期授業/Spring	445
【A3670】 行動分析学 [熊 仁美] 春学期授業/Spring	446
【A3687】 社会心理学特講 [渡辺 弥生、福田 由紀、田嶋 圭一、竹島 康博、木村 健太] 秋学期授業/Fall	447
【A3819】 歴史地理学(1) [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	448
【A3820】 歴史地理学(2) [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	449
【A3901】 地誌学概論 [南 春英] 春学期授業/Spring	450
【A3905】 社会経済地理学A(1) [小原 丈明] 春学期授業/Spring	451
【A3906】 社会経済地理学A(2) [小原 丈明] 秋学期授業/Fall	452
【A3907】 社会経済地理学B(1) [伊藤 達也] 春学期授業/Spring	453
【A3908】 社会経済地理学B(2) [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	454
【A3909】 社会経済地理学C(1) [佐々木 達] 春学期授業/Spring	455
【A3910】 社会経済地理学C(2) [佐々木 達] 秋学期授業/Fall	456
経営学科専門科目200番台 【A4362】 キャリア・マネジメントⅡ(2019年度以降入学者) [小川 憲彦] 秋学期授業/Fall	457
経営学科専門科目300番台 【A4363】 経営組織論Ⅰ [長岡 健] 春学期授業/Spring	458
経営学科専門科目300番台 【A4364】 経営組織論Ⅱ [長岡 健] 秋学期授業/Fall	460
経営学科専門科目300番台 【A4369】 人的資源管理Ⅰ [佐野 嘉秀] 春学期授業/Spring	462
経営学科専門科目300番台 【A4370】 人的資源管理Ⅱ [佐野 嘉秀] 秋学期授業/Fall	464
経営学科専門科目300番台 【A4379】 税務会計論Ⅰ [藤井 誠] 春学期授業/Spring	466
経営学科専門科目300番台 【A4380】 税務会計論Ⅱ [藤井 誠] 秋学期授業/Fall	467

経営学科専門科目 300 番台 【A4393】 組織経済学 [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	468
【A4394】 組織経済学 I (2018 年度以前入学者) [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	469
経営戦略学科専門科目 300 番台 【A4423】 日本経営史 I [二階堂 行宣] 春学期授業/Spring	470
経営戦略学科専門科目 300 番台 【A4424】 日本経営史 II [二階堂 行宣] 秋学期授業/Fall	472
経営戦略学科専門科目 300 番台 【A4425】 企業評価論 I [高橋 美穂子] 春学期授業/Spring	474
経営戦略学科専門科目 300 番台 【A4426】 企業評価論 II [高橋 美穂子] 秋学期授業/Fall	475
経営戦略学科専門科目 300 番台 【A4427】 経営分析論 I [福多 裕志] 春学期授業/Spring	476
経営戦略学科専門科目 300 番台 【A4428】 経営分析論 II [福多 裕志] 秋学期授業/Fall	477
【A4437】 経営分析 I (2018 年度以前入学者) [高橋 美穂子] 春学期授業/Spring	478
【A4438】 経営分析 II (2018 年度以前入学者) [高橋 美穂子] 秋学期授業/Fall	479
【A4439】 経営分析 III (2018 年度以前入学者) [福多 裕志] 春学期授業/Spring	480
【A4440】 経営分析 IV (2018 年度以前入学者) [福多 裕志] 秋学期授業/Fall	481
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4465】 日本経営論 I [金 容度] 春学期授業/Spring	482
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4466】 日本経営論 II [金 容度] 秋学期授業/Fall	483
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4471】 デリバティブ入門 I (2019 年度以降入学者) [山崎 輝] 春学期授業/Spring	484
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4472】 デリバティブ入門 II (2019 年度以降入学者) [山崎 輝] 秋学期授業/Fall	485
市場経営学科専門科目 300 番台 【A4475】 産業組織論 I [矢野 智彦] 春学期授業/Spring	486
市場経営学科専門科目 300 番台 【A4476】 産業組織論 II [矢野 智彦] 秋学期授業/Fall	487
市場経営学科専門科目 300 番台 【A4477】 情報技術論 I [入戸野 健] 春学期授業/Spring	488
市場経営学科専門科目 300 番台 【A4478】 情報技術論 II [入戸野 健] 秋学期授業/Fall	489
市場経営学科専門科目 300 番台 【A4481】 経営のための経済学 [宮澤 信二郎] 春学期授業/Spring	490
【A4487】 ファイナンス論 I (2018 年度以前入学者) [山崎 輝] 春学期授業/Spring	491
【A4488】 ファイナンス論 II (2018 年度以前入学者) [山崎 輝] 秋学期授業/Fall	492
【A6050】 English Test Preparation for IELTS [Marcus Lovitt] 春学期授業/Spring	493
【A6052】 Introduction to Statistics [Adam Randall Smith] 春学期授業/Spring	494
【A6053】 Professional Communication [Mark Birtles] 秋学期授業/Fall	496
【A6062】 Introduction to Fine Art [Timothy Betjeman] 秋学期授業/Fall	497
【A6064】 Introduction to Programming [Alfons Josef Schuster] 秋学期授業/Fall	499
【A6065】 Leadership and Career Development [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring	500
【A6067】 Chinese A I [Nao Sato] 春学期授業/Spring	501
【A6068】 Chinese A II [Nao Sato] 秋学期授業/Fall	502
【A6069】 Chinese B I [Konae Yanagi] 春学期授業/Spring	503
【A6070】 Chinese B II [Konae Yanagi] 秋学期授業/Fall	504
【A6071】 French A I [Masamichi Suzuki] 春学期授業/Spring	505
【A6072】 French A II [Masamichi Suzuki] 秋学期授業/Fall	507
【A6073】 French B I [Tamio Okamura] 春学期授業/Spring	509
【A6074】 French B II [Tamio Okamura] 秋学期授業/Fall	510
【A6075】 Spanish A I [Taiga Wakabayashi] 春学期授業/Spring	511
【A6076】 Spanish A II [Taiga Wakabayashi] 秋学期授業/Fall	512
【A6077】 Spanish B I [Yoshifumi Onuki] 春学期授業/Spring	513
【A6078】 Spanish B II [Yoshifumi Onuki] 秋学期授業/Fall	514
【A6200】 Political Philosophy [Joel Van Fossen] 春学期授業/Spring	515
【A6201】 Topics in Philosophy [Joel Van Fossen] 秋学期授業/Fall	516
【A6202】 Applied Psychology [Sayaka Aoki] 春学期授業/Spring	517
【A6204】 Quantitative Research Methods [Yu Niiya] 春学期授業/Spring	518
【A6207】 English Teaching in Primary School [Machiko Kobori] 秋学期授業/Fall	519
【A6210】 Digital Writing and Publication [Mark Birtles] 春学期授業/Spring	520
【A6212】 East Asian Popular Culture [Kukhee Choo] 春学期授業/Spring	521
【A6213】 Japanese Popular Culture [Kukhee Choo] 秋学期授業/Fall	522
【A6214】 Art and Design [Timothy Betjeman] 春学期授業/Spring	523
【A6215】 Drama Workshop [John Wescott Oglevee] 秋学期授業/Fall	524
【A6218】 Music and Culture [Cathy Cox] 秋学期授業/Fall	525
【A6219】 American History and Society [Robert Sinclair] 春学期授業/Spring	526
【A6223】 Gender, Sexuality and Society [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	527
【A6224】 Gender, Sexuality and Society [Daiki Hiramori] 秋学期授業/Fall	528
【A6225】 Media Effects [Muge Igarashi] 春学期授業/Spring	529
【A6227】 Sociology of Work and Employment [Allen Kim] 秋学期授業/Fall	530

[A6230] Accounting II [Noriaki Okamoto] 春学期授業/Spring	531
[A6231] Brand Management [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring	532
[A6232] Business Negotiation [Takamasa Fukuoka] 秋学期授業/Fall	533
[A6233] Creative Industries [Stevie Suan] 秋学期授業/Fall	534
[A6234] Entrepreneurship and New Ventures [Sean Michael Hackett] 秋学期授業/Fall	535
[A6236] Marketing Research [Kayhan Tajeddini] 秋学期授業/Fall	536
[A6237] Organizational Behavior [Junko Shimazoe] 春学期授業/Spring	537
[A6240] Development Economies [Delgado Narro Augusto Ricardo] 春学期授業/Spring	538
[A6242] Macroeconomics II [Karen Kai Lin Lai] 秋学期授業/Fall	539
[A6243] Microeconomics II [Delgado Narro Augusto Ricardo] 秋学期授業/Fall	541
[A6249] Environment and Development [Stephen Chitengi Sakapaji] 春学期授業/Spring	542
[A6250] Environment and Society [Eliud Kiprop] 秋学期授業/Fall	543
[A6251] American Politics and Foreign Policy [Jonathan Seth Snider] 秋学期授業/Fall	545
[A6258] Japanese Politics [Heiko Lang] 春学期授業/Spring	546
[A6262] Religion and Politics [Christopher Kavanagh] 秋学期授業/Fall	547
[A6265] Tourism Development in Japan [John Melvin] 春学期授業/Spring	548
[A6270] Psycholinguistics [Mako Ishida] 秋学期授業/Fall	549
[A6271] Semantics and Pragmatics [Nobumi Nakai] 春学期授業/Spring	550
[A6274] Teaching Pronunciation [Katsuya Yokomoto] 春学期授業/Spring	551
[A6276] Topics in English Linguistics [Mark Birtles] 春学期授業/Spring	552
[A6278] Performance Studies [Stevie Suan] 春学期授業/Spring	553
[A6281] Topics in English Literature [Miui Watanabe] 春学期授業/Spring	554
[A6282] Topics in Japanese Literature I [Gregory Kheznejat] 秋学期授業/Fall	555
[A6283] Topics in Japanese Literature II [Kevin Thomas Niehaus] 春学期授業/Spring	556
[A6300] Advanced Topics in Philosophy I [Joel Van Fossen] 春学期授業/Spring	557
[A6301] Advanced Topics in Philosophy II [Joel Van Fossen] 秋学期授業/Fall	558
[A6302] Existentialism [Joel Van Fossen] 秋学期授業/Fall	559
[A6303] Readings in Philosophy [Robert Sinclair] 春学期授業/Spring	560
[A6304] Advanced Topics in Social Psychology [Yu Niiya] 秋学期授業/Fall	561
[A6305] Clinical Psychology [Keiko Ito] 秋学期授業/Fall	562
[A6306] Community Psychology [Toshiaki Sasao] 春学期授業/Spring	563
[A6307] Cultural Psychology [Yu Niiya] 秋学期授業/Fall	564
[A6308] Topics in Morality [Christopher Kavanagh] 秋学期授業/Fall	565
[A6309] English Teaching in Primary School: Advanced [Tomoko Shigyo] 春学期授業/Spring	566
[A6311] East Asian Cinema [Kukhee Choo] 春学期授業/Spring	567
[A6314] Media Research [Kukhee Choo] 春学期授業/Spring	568
[A6315] Postcolonial Studies [Kukhee Choo] 秋学期授業/Fall	569
[A6316] Qualitative Research Methods [Allen Kim] 秋学期授業/Fall	570
[A6317] Realism and Cinema [Catherine Munroe Hotes] 秋学期授業/Fall	571
[A6318] Art in Everyday Life [Timothy Betjeman] 春学期授業/Spring	572
[A6319] Contemporary Art [Utako Shindo] 秋学期授業/Fall	573
[A6320] Special Topics in Art I [Gary McLeod] 春学期授業/Spring	574
[A6321] Twentieth Century Film Studies [Catherine Munroe Hotes] 春学期授業/Spring	575
[A6322] Advanced Topics in Critical Theory I [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	576
[A6323] Advanced Topics in Critical Theory II [Daiki Hiramori] 秋学期授業/Fall	577
[A6324] Migration and Diaspora [Chris Park] 秋学期授業/Fall	578
[A6325] Race, Class and Gender II: Global Inequalities [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	579
[A6326] Social Theory: Perspectives on Inequality [Hazuki Kaneko] 秋学期授業/Fall	580
[A6330] Corporate Social Responsibility [Sairan Hayama] 秋学期授業/Fall	581
[A6333] Financial Statement Analysis [Karen Kai Lin Lai] 春学期授業/Spring	582
[A6335] International Finance [Keiichiro Omae] 秋学期授業/Fall	583
[A6337] Services Marketing [John Melvin] 春学期授業/Spring	584
[A6338] Supply Chain Management [Kayhan Tajeddini] 秋学期授業/Fall	585
[A6339] International Economics [Karen Kai Lin Lai] 春学期授業/Spring	586
[A6340] Stock Investment [Shiaw Jia Eyo] 秋学期授業/Fall	587
[A6343] International Environmental Policy [Stephen Chitengi Sakapaji] 秋学期授業/Fall	588
[A6344] Globalization and Politics [Jenny Balboa] 秋学期授業/Fall	589

[A6345] International Relations of the Asia-Pacific [Takeshi Yuzawa] 春学期授業/Spring	591
[A6346] Advanced Comparative Politics [Sam-Sang JO] 春学期授業/Spring	592
[A6347] Global Political Economy [Nathalie Cavin] 春学期授業/Spring	594
[A6348] International Development Policy [Ippeita Nishida] 春学期授業/Spring	595
[A6349] International Law [Kiyoshi Adachi] 秋学期授業/Fall	597
[A6350] Peace Building [Aigul Kulnazarova] 秋学期授業/Fall	598
[A6351] Strategic Studies [Takeshi Yuzawa] 秋学期授業/Fall	600
[A6352] Cultural Tourism [John Melvin] 秋学期授業/Fall	601
[A6356] Advanced Topics in American Literature [Gregory Khezhnejat] 秋学期授業/Fall	602
[A6357] Advanced Topics in English Literature [Miui Watanabe] 秋学期授業/Fall	603
[A6358] Advanced Topics in Japanese Literature [Gregory Khezhnejat] 春学期授業/Spring	604
[A6401] Seminar: Diversity of English I [Yutai Watanabe] 春学期授業/Spring	605
[A6402] Seminar: Diversity of English I [Yutai Watanabe] 春学期授業/Spring	606
[A6403] Seminar: Diversity of English II [Yutai Watanabe] 秋学期授業/Fall	607
[A6404] Seminar: Diversity of English II [Yutai Watanabe] 秋学期授業/Fall	608
[A6405] Seminar: Language Teaching and Learning I [Machiko Kobori] 春学期授業/Spring	609
[A6406] Seminar: Language Teaching and Learning I [Machiko Kobori] 春学期授業/Spring	610
[A6407] Seminar: Language Teaching and Learning II [Machiko Kobori] 秋学期授業/Fall	611
[A6408] Seminar: Language Teaching and Learning II [Machiko Kobori] 秋学期授業/Fall	612
[A6409] Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I [Hazuki Kaneko] 春学期授業/Spring	613
[A6410] Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I [Hazuki Kaneko] 春学期授業/Spring	614
[A6411] Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II [Hazuki Kaneko] 秋学期授業/Fall	615
[A6412] Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II [Hazuki Kaneko] 秋学期授業/Fall	616
[A6413] Seminar: Self and Culture I [Yu Niiya] 春学期授業/Spring	617
[A6414] Seminar: Self and Culture I [Yu Niiya] 春学期授業/Spring	618
[A6415] Seminar: Self and Culture II [Yu Niiya] 秋学期授業/Fall	619
[A6416] Seminar: Self and Culture II [Yu Niiya] 秋学期授業/Fall	620
[A6417] Seminar: International Relations I [Takeshi Yuzawa] 春学期授業/Spring	621
[A6418] Seminar: International Relations I [Takeshi Yuzawa] 春学期授業/Spring	622
[A6419] Seminar: International Relations II [Takeshi Yuzawa] 秋学期授業/Fall	623
[A6420] Seminar: International Relations II [Takeshi Yuzawa] 秋学期授業/Fall	624
[A6421] Seminar: Tourism Management I [John Melvin] 春学期授業/Spring	625
[A6422] Seminar: Tourism Management I [John Melvin] 春学期授業/Spring	626
[A6423] Seminar: Tourism Management II [John Melvin] 秋学期授業/Fall	627
[A6424] Seminar: Tourism Management II [John Melvin] 秋学期授業/Fall	628
[A6425] Seminar: Entrepreneurship & Innovation I [Shiaw Jia Eyo] 春学期授業/Spring	629
[A6426] Seminar: Entrepreneurship & Innovation I [Shiaw Jia Eyo] 春学期授業/Spring	630
[A6427] Seminar: Entrepreneurship & Innovation II [Shiaw Jia Eyo] 秋学期授業/Fall	631
[A6428] Seminar: Entrepreneurship & Innovation II [Shiaw Jia Eyo] 秋学期授業/Fall	632
[A6429] Seminar: Global Strategic Management I [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring	633
[A6430] Seminar: Global Strategic Management I [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring	634
[A6431] Seminar: Global Strategic Management II [Takamasa Fukuoka] 秋学期授業/Fall	635
[A6432] Seminar: Global Strategic Management II [Takamasa Fukuoka] 秋学期授業/Fall	636
[A6433] Seminar: Literature in Theory and Practice I [Gregory Khezhnejat] 春学期授業/Spring	637
[A6434] Seminar: Literature in Theory and Practice I [Gregory Khezhnejat] 春学期授業/Spring	638
[A6435] Seminar: Literature in Theory and Practice II [Gregory Khezhnejat] 秋学期授業/Fall	639
[A6436] Seminar: Literature in Theory and Practice II [Gregory Khezhnejat] 秋学期授業/Fall	640
[A6437] Seminar: Media Across Borders I [Stevie Suan] 春学期授業/Spring	641
[A6438] Seminar: Media Across Borders I [Stevie Suan] 春学期授業/Spring	642
[A6439] Seminar: Media Across Borders II [Stevie Suan] 秋学期授業/Fall	643
[A6440] Seminar: Media Across Borders II [Stevie Suan] 秋学期授業/Fall	644
[A7540] 日本語の世界 L A [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	645
[A7541] 日本語の世界 L B [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	647
[A7550] 日本の文化と社会 L A [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	649
[A7551] 日本の文化と社会 L B [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	651
[A7560] 日本語コミュニケーション A [副島 健作] 春学期授業/Spring	653
[A7561] 日本語コミュニケーション B [副島 健作] 秋学期授業/Fall	655

システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1010】開発と国際協力〔浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史〕秋学期授業/Fall.....	657
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1010】開発と国際協力〔浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史〕秋学期授業/Fall.....	658
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】文化と文明〔小林 信也〕秋学期授業/Fall.....	660
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】文化と文明〔小林 信也〕秋学期授業/Fall....	661
建築学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】文化と文明〔小林 信也〕秋学期授業/Fall.....	662
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1018】環境とエネルギー〔下田 昭郎〕春学期授業/Spring.	663
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1018】環境とエネルギー〔下田 昭郎〕春学期授業/Spring.....	664
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1019】環境とエネルギー〔下田 昭郎〕春学期授業/Spring	665
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1268】ジオロジカルエンジニアリング〔中谷 匡志〕秋学期授業/Fall.....	666
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2005】デザイン文化論〔辻村 亮子〕春学期授業/Spring	668
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2005】デザイン文化論〔辻村 亮子〕春学期授業/Spring.....	669
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2005】デザイン文化論〔辻村 亮子〕春学期授業/Spring	670
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2007】色彩論〔大高 知子〕秋学期授業/Fall.....	671
建築学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン〔高見 公雄〕春学期前半/Spring(1st half).....	673
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2051】都市デザイン〔高見 公雄〕春学期前半/Spring(1st half)....	674
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2051】都市デザイン〔高見 公雄〕春学期前半/Spring(1st half) .	675
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2054】地図とGIS〔丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一〕春学期後半/Spring(2nd half).....	676
建築学科_専門科目_基礎科目【B2054】地図とGIS〔丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一〕春学期後半/Spring(2nd half).....	677
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2054】地図とGIS〔丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一〕春学期後半/Spring(2nd half).....	678
建築学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策〔土屋 愛自〕春学期前半/Spring(1st half).....	679
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策〔土屋 愛自〕春学期前半/Spring(1st half)	680
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策〔土屋 愛自〕春学期前半/Spring(1st half) .	681
建築学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習〔竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登、大西 景太〕秋学期授業/Fall.....	682
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習〔竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登、大西 景太〕秋学期授業/Fall.....	683
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習〔竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登、大西 景太〕秋学期授業/Fall.....	684
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2057】デザイン思想史概論〔高橋 美礼〕秋学期授業/Fall	685
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2057】デザイン思想史概論〔高橋 美礼〕秋学期授業/Fall.....	686
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2057】デザイン思想史概論〔高橋 美礼〕秋学期授業/Fall.....	687
建築学科_専門科目_導入科目【B2151】建築のしくみ〔安藤 直見〕秋学期授業/Fall.....	689
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2345】デザイン理論(SD)〔秋元 淳〕秋学期授業/Fall.....	691
建築学科_専門科目_基礎科目【B2401】建築生理心理1〔加用 現空〕春学期授業/Spring.....	693
システムデザイン学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English〔ディン ボリバン〕秋学期授業/Fall.....	694
建築学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English〔ディン ボリバン〕秋学期授業/Fall.....	696
都市環境デザイン工学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English〔ディン ボリバン〕秋学期授業/Fall.....	698
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B2505】数値計算法〔酒井 久和〕春学期前半/Spring(1st half).....	700
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2633】インタフェースデザイン〔土屋 雅人〕秋学期前半/Fall(1st half)	701
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2638】材料と構造のデザイン(2022年度以前入学生)〔武居 秀樹〕春学期前半/Fall(1st half).....	702
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2639】熱と流れのデザイン〔坂間 清子〕秋学期後半/Fall(2nd half)	703
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2640】オペレーションズリサーチ〔高須賀 将秀〕秋学期後半/Fall(2nd half).....	705
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2668】デザインケーススタディ〔土屋 雅人、大西 景太、SEONG YOUNG AH〕春学期授業/Spring.....	706
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2671】情報システムデザイン〔田岡 賢輔〕秋学期授業/Fall.....	708

システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2708】 プロダクトデザイン理論 [安積 伸] 春学期授業/Spring.....	709
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2726】 メカニカルデザイン [山田 泰之] 春学期後半/Spring(2nd half)	710
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2734】 スマートマシンデザイン [梅館 拓也] 秋学期前半/Fall(1st half)	711
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2735】 ゲームプログラミング [岩月 正見] 春学期前半/Spring(1st half).....	712
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2737】 ARプログラミング [馬場 祐人] 秋学期後半/Fall(2nd half)	713
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3007】 福祉工学 [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	714
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3007】 福祉工学 [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	715
建築学科_専門科目_展開科目 【B3007】 福祉工学 [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	716
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [大木 一、保 清人] 春学期授業/Spring	717
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [大木 一、保 清人] 春学期授業/Spring	719
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [大木 一、保 清人] 春学期授業/Spring	721
建築学科_専門科目_展開科目 【B3011】 建築フォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人] 秋学期授業/Fall	723
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3013】 環境工学 [中野 淳太] 春学期授業/Spring	725
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3013】 環境工学 [中野 淳太] 春学期授業/Spring	726
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3013】 環境工学 [中野 淳太] 春学期授業/Spring	727
建築学科_基礎科目_総合系_情報分野 【B3016】 数理統計学 [牧野 倫子] 春学期授業/Spring	728
システムデザイン学科_基礎科目_総合系_情報分野 【B3016】 数理統計学 [牧野 倫子] 春学期授業/Spring	729
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3017】 タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half)	730
建築学科_専門科目_展開科目 【B3017】 タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half)	731
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3017】 タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half)	732
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3406】 西洋建築史 [稲益 祐太] 春学期授業/Spring	733
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3409】 日本建築史 [高村 雅彦] 秋学期授業/Fall	734
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3410】 建築計画1 [岩佐 明彦] 春学期授業/Spring	735
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3411】 建築計画2 [岩佐 明彦] 秋学期授業/Fall	736
建築学科_専門科目_展開科目 【B3417】 木造建築の構法 [網野 禎昭] 秋学期前半/Fall(1st half)	737
建築学科_専門科目_展開科目 【B3427】 空間の構造デザイン [浜田 英明] 春学期授業/Spring	738
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3436】 建築生理心理2 [加用 現空] 秋学期授業/Fall	739
建築学科_専門科目_展開科目 【B3438】 光・視環境 [中野 淳太] 春学期授業/Spring	740
建築学科_専門科目_展開科目 【B3439】 音・振動環境 [星 和磨] 秋学期授業/Fall	741
建築学科_専門科目_展開科目 【B3540】 都市建築史 [高村 雅彦] 春学期授業/Spring	742
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3580】 サステイナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	743
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3580】 サステイナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half)	744
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3580】 サステイナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half)	745
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3580】 サステイナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	746
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3580】 サステイナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	747
【B3580】 サステイナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half)	748
【B3581】 デザインフォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人] 秋学期授業/Fall	749
【B3581】 デザインフォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人] 秋学期授業/Fall	751
【B3581】 デザインフォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人] 秋学期授業/Fall	753
【B3590】 アントレプレナーシップ [姜 理恵] 秋学期前半/Fall(1st half)	755
都市環境デザイン工学科_基礎科目_理工系_自然科学分野 【B3699】 生態学概論 [山田 由美] 秋学期授業/Fall	757
建築学科_基礎科目_理工系_自然科学分野 【B3699】 バイオ・ケミカルエンジニアリング (2019～2022年度入学生) [山田 由美] 秋学期授業/Fall	759
【B3699】 生態学概論 [山田 由美] 秋学期授業/Fall	760
【B3699】 生態学概論 [山田 由美] 秋学期授業/Fall	761

システムデザイン学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B3699】バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019～2022年度入学生）[山田 由美] 秋学期授業/Fall	762
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3809】メカトロニクス [伊藤 文臣] 秋学期前半/Fall(1st half).....	763
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3812】システム工学 [森 健一郎] 春学期後半/Spring(2nd half) ...	765
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3816】素材と機能 [堀井 辰衛] 春学期後半/Spring(2nd half)	767
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3825】コストマネジメント [北山 一真] 秋学期授業/Fall	769
建築学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall.....	771
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall	772
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall	773
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3831】プロジェクトマネジメント（SD）[川村 武也] 秋学期前半/ Fall(1st half)	774
【B3837】マテリアルサイエンス概論 [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half)	775
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3837】マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half)	776
【B3837】マテリアルサイエンス概論 [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half)	777
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3837】マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half)	778
【B3837】マテリアルサイエンス概論 [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half)	779
建築学科_専門科目_基礎科目【B3837】マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half)	780
【B3838】医療福祉工学 [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	781
【B3838】医療福祉工学 [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	782
【B3838】医療福祉工学 [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	783
【B3841】素材と機能のデザイン [堀井 辰衛] 春学期後半/Spring(2nd half)	784
【B3842】Webアプリプログラミング演習 [馬場 祐人] 秋学期後半/Fall(2nd half)	786
【B3845】材料と構造のデザイン [武居 秀樹] 秋学期前半/Fall(1st half)	787
【B3847】数理統計学 [牧野 倫子] 春学期授業/Spring	788
【C0210】統計処理法 [吉田 一星] 春学期授業/Spring	789
【C0211】システム論 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	790
【C0212】デジタル情報学概論 [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	791
【C0213】文化情報学概論 [森村 修] 春学期授業/Spring	792
【C0214】情報産業論 [今和泉 仁] 春学期授業/Spring	794
【C0215】ネット文化論 [神戸 雅一] 秋学期授業/Fall	796
【C0220】表象文化概論 [稲垣 立男、島田 雅彦、森村 修、LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	798
【C0221】メディアと情報 [君塚 洋一] 春学期授業/Spring	800
【C0222】社会と美術 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	802
【C0224】身体表象論 [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	805
【C0230】比較文化 [岩下 弘史] 春学期授業/Spring	806
【C0231】言語文化概論 [衣笠 正晃] 秋学期授業/Fall	807
【C0232】現代思想 [森村 修] 秋学期授業/Fall	808
【C0233】ジェンダー論 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	809
【C0234】異文化間コミュニケーション [副島 健作] 秋学期授業/Fall	811
【C0235】国際関係学概論Ⅰ [今泉 裕美子] 春学期授業/Spring	813
【C0236】国際関係学概論Ⅱ [今泉 裕美子] 秋学期授業/Fall	815
【C0241】国家と民族 [石森 大知] 春学期授業/Spring	817
【C0242】国際文化協力 [松本 悟] 春学期授業/Spring	818
【C0244】宗教と社会 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	819
【C0245】Religion and Society [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	821
【C0300】世界の言語Ⅰ [輿石 哲哉] 春学期授業/Spring	822
【C0301】世界の言語Ⅱ [内山 政春] 春学期授業/Spring	824
【C0302】世界の英語 [小中原 麻友] 春学期授業/Spring	825
【C0432】メディア表現法 [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	828
【C0433】プログラミング言語基礎 [和泉 順子] 春学期授業/Spring	830
【C0434】仮想世界研究 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	831
【C0437】社会とデータサイエンス [和泉 順子] 秋学期授業/Fall	832
【C0438】道具による感覚・体験のデザイン [甲 洋介] 春学期授業/Spring	833
【C0439】メディアアートの世界 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	834
【C0535】英語アプリケーションⅥ [ラスカイル L.ハウザー] 春学期授業/Spring	836
【C0537】英語アプリケーションⅧ [DANIEL G DUSZA] 秋学期授業/Fall	837
【C0595】ドイツ語アプリケーション [林 志津江] 春学期授業/Spring	838

【C0596】ドイツ語アプリケーション [小川 敦] 春学期授業/Spring	840
【C0597】ドイツ語アプリケーション [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	841
【C0598】ドイツ語アプリケーション [小川 敦] 秋学期授業/Fall	842
【C0625】フランス語アプリケーション [ル ルー 清野 ブレンダン] 春学期授業/Spring	843
【C0626】フランス語アプリケーション [ル ルー 清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall	844
【C0627】フランス語アプリケーション [カレンス フィリップ] 春学期授業/Spring	845
【C0628】フランス語アプリケーション [ル ルー 清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall	846
【C0655】ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	847
【C0656】ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	848
【C0657】ロシア語アプリケーション [エレナ 三神] 秋学期授業/Fall	849
【C0685】中国語アプリケーションⅠ [張 玉萍] 秋学期授業/Fall	850
【C0686】中国語アプリケーションⅣ [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	851
【C0687】中国語アプリケーションⅢ [周 重雷] 春学期授業/Spring	852
【C0688】中国語アプリケーションⅡ [張 勝蘭] 秋学期授業/Fall	853
【C0715】スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	854
【C0716】スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	855
【C0720】スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	856
【C0721】スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	857
【C0770】文化情報のデザインワークショップ [甲 洋介、松田 美奈子] 秋学期授業/Fall	858
【C0771】文化情報のためのネットワーク技法 [和泉 順子] 春学期授業/Spring	859
【C0773】情報アプリケーションⅠ [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	860
【C0774】情報アプリケーションⅡ [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	861
【C0800】こころの科学 [岡本 郁子] 秋学期授業/Fall	862
【C0801】ゲーム構築論 [重定 如彦] 春学期授業/Spring	863
【C0802】こころとからだの現象学 [森村 修] 春学期授業/Spring	864
【C0810】道具のデザイン学 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	866
【C0813】情報セキュリティとプライバシー [和泉 順子] 春学期授業/Spring	867
【C0814】文化と生物 [島野 智之、川上 裕司、黒沼 真由美、松崎 素道、鈴木 忠、富川 光] 秋学期授業/Fall	868
【C0815】文化と環境情報 [島野 智之、佐々木 美貴、中西 由季子、忽那 賢志、塚田 訓久、島田 瑞穂、吉川 翠、長谷川 真紀子] 秋学期授業/Fall	869
【C0821】コンピュータ音楽と音声情報処理 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	871
【C0830】コネクション・デザイン [川村 たつる] 秋学期授業/Fall	873
【C0831】情報の編集論 [川村 たつる] 春学期授業/Spring	874
【C0832】文化情報の哲学 [森村 修] 春学期授業/Spring	875
【C0850】パフォーマンスの美学 [森村 修] 春学期授業/Spring	877
【C0852】サブカルチャー論 [島田 雅彦] 春学期授業/Spring	879
【C0854】現代美術論 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	880
【C0860】マルチメディア表現法 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	883
【C0862】クリエイティブ・ライティング [島田 雅彦] 秋学期授業/Fall	885
【C0864】五感共生論 [川村 たつる] 秋学期授業/Fall	886
【C0870】映像文化論 [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	887
【C0871】写真論 [丹羽 晴美] 秋学期授業/Fall	888
【C0872】映像と文学 [林 志津江] 秋学期授業/Fall	889
【C0880】演劇論 [竹内 晶子] 秋学期授業/Fall	891
【C0883】空間デザイン論 [前田 尚武] 秋学期授業/Fall	892
【C0884】Gender and Japanese Culture [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	894
【C0900】世界の中の日本文学 [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	896
【C0901】世界の中の日本語 [大野 ロベルト] 秋学期授業/Fall	897
【C0902】世界とつながる地域の歴史と文化 [高柳 俊男] 春学期授業/Spring	898
【C0910】中国の文化Ⅰ（現代中国社会）[張 勝蘭] 春学期授業/Spring	900
【C0913】中国の文化Ⅳ（中国語の構造）[永江 貴子] 秋学期授業/Fall	902
【C0920】朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）[神谷 丹路] 春学期授業/Spring	903
【C0931】ロシア・中央アジアの文化 [佐藤 大雅] 春学期授業/Spring	904
【C0932】ロシア・東欧の文化 [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	906
【C0941】ドイツ語圏の文化Ⅱ [林 志津江] 春学期授業/Spring	908
【C0942】フランス語圏の文化Ⅰ（思想）[大中 一彌] 秋学期授業/Fall	909
【C0945】スペイン語圏の文化Ⅰ [久木 正雄] 春学期授業/Spring	912

【C0946】	スペイン語圏の文化Ⅱ [佐々木 直美] 秋学期授業/Fall	914
【C0950】	カタルーニャの文化Ⅰ (言語A) [DANIEL FORTEA MUNOZ] 春学期授業/Spring	915
【C0951】	カタルーニャの文化Ⅱ (言語B) [DANIEL FORTEA MUNOZ] 秋学期授業/Fall	917
【C0952】	カタルーニャの文化Ⅲ (歴史・社会A) [DANIEL FORTEA MUNOZ] 春学期授業/Spring	919
【C0953】	カタルーニャの文化Ⅳ (歴史・社会B) [DANIEL FORTEA MUNOZ] 秋学期授業/Fall	921
【C0962】	英語圏の文化Ⅲ (現代事情) [栗飯原 文子] 春学期授業/Spring	923
【C0963】	英語圏の文化Ⅳ (文学と社会A) [須藤 祐二] 秋学期授業/Fall	924
【C0964】	英語圏の文化Ⅴ (文学と社会B) [宇治谷 義英] 秋学期授業/Fall	925
【C0965】	英語圏の文化Ⅵ (文学と社会C) [中和 彩子] 春学期授業/Spring	926
【C0966】	英語圏の文化Ⅶ (英語の構造) [輿石 哲哉] 春学期授業/Spring	927
【C0967】	英語圏の文化Ⅷ (英語の歴史) [輿石 哲哉] 秋学期授業/Fall	929
【C1000】	比較表象文化論 [竹内 晶子] 秋学期授業/Fall	931
【C1001】	異文化適応論 [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall	932
【C1011】	異文化と身体表現 [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	933
【C1021】	日英翻訳論 [大野 ロベルト] 春学期授業/Spring	934
【C1023】	言葉と社会 [小川 敦] 春学期授業/Spring	935
【C1031】	宗教社会論Ⅱ [佐々木 一恵] 秋学期授業/Fall	937
【C1040】	国際関係研究Ⅰ [松本 悟] 春学期授業/Spring	939
【C1041】	国際関係研究Ⅱ [松本 悟] 秋学期授業/Fall	940
【C1043】	人の移動と国際関係Ⅰ [張 勝蘭] 秋学期授業/Fall	941
【C1045】	人の移動と国際関係Ⅲ [水谷 明子] 秋学期授業/Fall	943
【C1046】	地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	944
【C1048】	実践国際協力 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	946
【C1052】	実践社会調査法 [松本 悟] 春学期授業/Spring	947
【C1053】	Approaches to Transnational History [佐々木 一恵] 秋学期授業/Fall	948
【C1055】	国際関係研究Ⅲ [栗飯原 文子] 秋学期授業/Fall	950
【C1056】	国際関係研究Ⅳ [石森 大知] 秋学期授業/Fall	951
【C1060】	インターンシップ事前学習 [岩下 弘史] 春学期授業/Spring	952
【C2002】	民法Ⅰ [中川 義宏] 春学期授業/Spring	954
【C2003】	民法Ⅱ [中川 義宏] 秋学期授業/Fall	955
【C2004】	国際法Ⅰ [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	956
【C2005】	国際法Ⅱ [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	957
【C2012】	刑法の基礎 [渡辺 靖明] 春学期授業/Spring	958
【C2016】	環境法Ⅳ [渡辺 靖明] 秋学期授業/Fall	960
【C2017】	国際環境法 [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	962
【C2019】	労働環境法 [櫻井 洋介] 秋学期授業/Fall	963
【C2020】	自治体環境政策論Ⅰ [小島 聡] 春学期授業/Spring	965
【C2021】	自治体環境政策論Ⅱ [小島 聡] 秋学期授業/Fall	967
【C2025】	地球環境政治論 [横田 匡紀] 春学期授業/Spring	969
【C2104】	現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	971
【C2106】	経営学入門 [金藤 正直] 春学期授業/Spring	973
【C2107】	環境経営と会計 [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	974
【C2112】	環境経営論Ⅰ [金藤 正直] 春学期授業/Spring	975
【C2113】	環境経営論Ⅱ [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	977
【C2120】	途上国経済論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	979
【C2121】	途上国経済論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	981
【C2126】	環境ビジネス論 [竹ヶ原 啓介] 秋学期授業/Fall	983
【C2203】	NPO・ボランティア論 [新田 英理子] 秋学期授業/Fall	985
【C2212】	地域福祉論 [宮脇 文恵] 春学期授業/Spring	987
【C2213】	地域コモンズ論 [船戸 修一] オータムセッション/Autumn Session	989
【C2217】	環境社会論Ⅰ [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	990
【C2218】	環境社会論Ⅱ [藤田 研二郎] 秋学期授業/Fall	992
【C2223】	NGO活動論 [小野 行雄] 秋学期授業/Fall	994
【C2227】	災害政策論 [中川 和之] 春学期授業/Spring	995
【C2229】	社会開発論 [新村 恵美] 秋学期授業/Fall	998
【C2241】	科学技術社会論Ⅰ [金光 秀和] 春学期授業/Spring	1000
【C2242】	科学技術社会論Ⅱ [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	1002

【C2302】 日本詩歌の伝統 [日原 傳] 春学期授業/Spring	1004
【C2303】 比較演劇論Ⅰ [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	1005
【C2304】 比較演劇論Ⅱ [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	1006
【C2310】 環境倫理学Ⅰ [竹中 真也] 秋学期授業/Fall	1007
【C2311】 環境倫理学Ⅱ [加藤 壮一郎] 秋学期授業/Fall	1008
【C2316】 環境人類学Ⅰ [高橋 五月] 春学期授業/Spring	1009
【C2317】 環境人類学Ⅱ [高橋 五月] 秋学期授業/Fall	1010
【C2322】 環境表象論Ⅰ [梶 裕史] 春学期授業/Spring	1011
【C2323】 環境表象論Ⅱ [梶 裕史] 秋学期授業/Fall	1013
【C2400】 サイエンスカフェⅠ [石井 利典] 春学期授業/Spring	1015
【C2401】 サイエンスカフェⅡ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	1016
【C2402】 サイエンスカフェⅢ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	1017
【C2411】 気候変動論Ⅰ [松本 倫明] 春学期授業/Spring	1018
【C2413】 自然環境政策論Ⅰ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	1019
【C2416】 環境科学Ⅰ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	1020
【C2417】 環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	1021
【C2418】 環境科学Ⅲ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	1022
【C2419】 衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	1023
【C2420】 衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	1024
【C2421】 衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	1025
【C2432】 自然災害論 [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	1026
【C2433】 自然環境論Ⅳ [佐々木 美貴] 秋学期授業/Fall	1027
【C2500】 環境管理論Ⅰ [大野 香代] 春学期授業/Spring	1028
【C2501】 環境管理論Ⅱ [大野 香代] 春学期授業/Spring	1030
【C2503】 環境教育論 [野田 恵] 春学期授業/Spring	1032
【C2504】 キャリア入門 [櫻井 洋介] 春学期授業/Spring	1034
【C2505】 食と農の環境学Ⅰ [西川 邦夫] 春学期授業/Spring	1036
【C2559】 現代思想と人間Ⅰ [竹本 研史] 春学期授業/Spring	1038
【C2560】 現代思想と人間Ⅱ [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	1039
【C5024】 キャリアと心理学 [熊谷 智博] 秋学期授業/Fall	1040
【C5028】 キャリアと労働法 [砂押 以久子] 春学期授業/Spring	1041
基幹科目_選択【C5030】 ファシリテーション論 [徳田 太郎] 秋学期授業/Fall	1043
【C5031】 若者と自立支援 [大山 宏] 秋学期授業/Fall	1045
【C5032】 労働市場と職業選択 [上西 充子] 春学期授業/Spring	1046
【C5033】 ジェンダーと労働 [上西 充子] 秋学期授業/Fall	1047
基幹科目_選択【C5034】 ライフコース論 [百瀬 由璃絵] 秋学期授業/Fall	1048
【C5035】 生活設計論 [高尾 真紀子] 秋学期授業/Fall	1049
基幹科目_選択【C5036】 キャリアモデル・ケーススタディ [なかむら アサミ] 春学期授業/Spring	1051
【C5037】 外書講読A【2025年度以降入学者用】 [長岡 智寿子] 春学期授業/Spring	1052
【C5038】 キャリアコミュニケーション (英語) [福田 紀子] 春学期授業/Spring	1053
【C5039】 生涯発達心理学 [廣川 進] 春学期授業/Spring	1055
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育【C5040】 キャリアカウンセリングⅠ [廣川 進] 春学期授業/Spring	1056
【C5047】 臨床教育学 [遠藤 野ゆり] 春学期授業/Spring	1057
【C5048】 キャリア教育 [児美川 孝一郎] 春学期授業/Spring	1059
【C5049】 メディアリテラシーA [村上 郷子] 春学期授業/Spring	1060
【C5050】 市民社会における学びと実践 [池田 佳代] 秋学期授業/Fall	1062
【C5052】 ダイバーシティと学校 [松尾 知明] 春学期授業/Spring	1064
【C5057】 教育社会学【2025年度以降入学者用】 [筒井 美紀] 春学期授業/Spring	1065
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育【C5058】 教育経済学 [荒木 宏子] 秋学期授業/Fall	1066
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育【C5059】 教育政策 [村上 純一] 秋学期授業/Fall	1068
【C5060】 市民社会と教育改革 [仲田 康一] 春学期授業/Spring	1069
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育【C5061】 学習の社会史A [山口 真里] 秋学期授業/Fall	1071
展開科目_選択必修 (領域別)_発達・教育【C5062】 学習の社会史B [寺崎 里水] 春学期授業/Spring	1072
【C5063】 外書講読B【2025年度以降入学者用】 [林 洋一郎] 春学期授業/Spring	1073
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス【C5064】 人材育成論Ⅰ [佐藤 厚] 春学期授業/Spring	1075
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス【C5065】 人材育成論Ⅱ [佐藤 厚] 秋学期授業/Fall	1077
展開科目_選択必修 (領域別)_ビジネス【C5066】 産業・組織心理学Ⅰ [坂爪 洋美] 春学期授業/Spring	1080

【C5067】 組織行動論Ⅰ [古田 克利] 春学期授業/Spring	1081
【C5069】 簿記Ⅰ [兄玉 麻衣子] 春学期授業/Spring	1082
【C5070】 簿記Ⅱ [青木 成樹] 秋学期授業/Fall	1083
【C5071】 経営統計 [中野 貴之] 秋学期授業/Fall	1085
【C5072】 経営分析Ⅰ [中野 貴之] 春学期授業/Spring	1086
【C5073】 経営分析Ⅱ [平井 裕久] 秋学期授業/Fall	1087
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス 【C5074】 経営組織論Ⅰ [梅木 眞] 春学期授業/Spring	1088
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス 【C5075】 経営組織論Ⅱ [梅木 眞] 秋学期授業/Fall	1090
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス 【C5076】 マーケティング論 [小川 浩孝] 春学期授業/Spring	1091
【C5077】 マーケティング・リサーチ [小川 浩孝] 秋学期授業/Fall	1093
【C5078】 仕事の経済学 [佐藤 一磨] 春学期授業/Spring	1095
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5079】 ブランド創造論 [石原 篤] 春学期授業/Spring	1096
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス 【C5080】 国際経営論 [森 直子] 秋学期授業/Fall	1098
【C5082】 サービスビジネス論 [村田 茂] 春学期授業/Spring	1099
【C5083】 外書講読C 【2025年度以降入学用】 [荒川 裕子] 秋学期授業/Fall	1101
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5085】 コミュニティ社会論Ⅰ [青木 淳弘] 春学期授業/Spring	1102
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5086】 若者文化論 [玉川 博章] 秋学期授業/Fall	1103
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5087】 身体表現論 [叶 雄大] 春学期授業/Spring	1105
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5088】 地域文化論 [八田 益之] 秋学期授業/Fall	1106
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5089】 アート・マネジメント論 [荒川 裕子] 春学期授業/Spring	1107
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5090】 メディア文化論 [堤 信子] 秋学期授業/Fall	1108
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5091】 文化マーケティング論 [横石 崇] 春学期授業/Spring	1110
【C5095】 進歩と平和 [熊谷 智博] 秋学期授業/Fall	1111
【C5096】 多文化社会論A [小田 昌教] 春学期授業/Spring	1112
【C5097】 多文化社会論B [挽地 康彦] 春学期授業/Spring	1115
【C5098】 多文化社会論C [挽地 康彦] 秋学期授業/Fall	1117
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5099】 アジア社会論Ⅰ [日下部 尚徳] 秋学期授業/Fall	1119
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5100】 アジア社会論Ⅱ [日下部 尚徳] 秋学期授業/Fall	1120
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5101】 国際関係論Ⅰ [塩田 潤] 春学期授業/Spring	1121
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5102】 国際関係論Ⅱ [塩田 潤] 秋学期授業/Fall	1123
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5103】 国際地域研究Ⅰ [浅川 聖] 春学期授業/Spring	1125
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5104】 国際地域研究Ⅱ [浅川 聖] 秋学期授業/Fall	1127
【C5105】 キャリアカウンセリングⅡ(ケーススタディ) 【2025年度以降入学用】 [宮脇 優子] 春学期授業/Spring	1129
【C5106】 メディアリテラシーB [村上 郷子] 秋学期授業/Fall	1131
【C5107】 リスク社会における包括支援と教育 [筒井 美紀] 秋学期授業/Fall	1133
【C5109】 現代の教育思想 [岩本 俊一] 秋学期授業/Fall	1134
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス 【C5110】 産業・組織心理学Ⅱ [今城 志保] 秋学期授業/Fall	1135
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス 【C5111】 キャリア開発論 [武石 恵美子] 秋学期授業/Fall	1136
【C5112】 組織行動論Ⅱ [古田 克利] 秋学期授業/Fall	1137
【C5114】 職業キャリア政策論 [岩月 真也] 春学期授業/Spring	1138
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5115】 コミュニティ社会論Ⅱ [青木 淳弘] 秋学期授業/Fall	1140
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5116】 家族論 [齋藤 嘉孝] 春学期授業/Spring	1141
【C5117】 プログラム評価論 [安田 節之] 秋学期授業/Fall	1142
【C5118】 社会心理学 [熊谷 智博] 春学期授業/Spring	1143
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C5119】 文化経営論 [荒川 裕子] 秋学期授業/Fall	1144
関連科目 【C5293】 国際コミュニケーション語学(英語Ⅰ) [Robert Durham] 春学期授業/Spring	1145
関連科目 【C5294】 国際コミュニケーション語学(英語Ⅱ) [Robert Durham] 秋学期授業/Fall	1147
関連科目 【C5295】 国際コミュニケーション語学(英語Ⅲ) [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	1149
関連科目 【C5296】 国際コミュニケーション語学(英語Ⅳ) [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	1151
関連科目 【C5297】 国際コミュニケーション語学(英語Ⅴ) [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	1153
関連科目 【C5298】 就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合- [武石 恵美子、佐藤 厚] 秋学期授業/Fall	1155
関連科目 【C5299】 就業応用力養成Ⅰ [鈴木 美伸] 春学期授業/Spring	1157
関連科目 【C5300】 就業応用力養成Ⅱ [鈴木 美伸] 秋学期授業/Fall	1159
応用情報工学科_学科専門科目 【H4036】 数論 [安田 幹] 春学期授業/Spring	1161
応用情報工学科_学科専門科目 【H4043】 プログラミング言語 J A V A [山口 大輔] 春学期授業/Spring	1163
応用情報工学科_学科専門科目 【H4044】 プログラミング言語 J A V A [山口 大輔] 春学期授業/Spring	1165
創生科学科_学科専門科目 【H4065】 複素関数論 [西村 滋人] 春学期授業/Spring	1167

機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5149】応用数学（機械）〔寺田 至〕春学期授業/Spring	1168
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5150】応用解析（機械）〔坂田 繁洋〕秋学期授業/Fall	1169
電気電子工学科_学科専門科目【H5616】複素関数論（電気）〔岩城 敏〕春学期授業/Spring.....	1170
電気電子工学科_学科専門科目【H5650】応用数学（電気）〔鳥飼 弘幸〕春学期授業/Spring.....	1171
電気電子工学科_学科専門科目【H5652】確率統計（電気）〔斉藤 利通〕秋学期授業/Fall	1172
電気電子工学科_学科専門科目【H5663】応用物理学〔加来 滋〕秋学期授業/Fall	1173
応用情報工学科_学科専門科目【H6154】応用数学（情報）〔陸名 雄一〕春学期授業/Spring.....	1174
応用情報工学科_学科専門科目【H6155】応用解析（情報）〔陸名 雄一〕秋学期授業/Fall	1175
経営システム工学科_学科専門科目【H6781】数値解析（経営）〔土屋 卓也〕秋学期授業/Fall	1176
経営システム工学科_学科専門科目【H6856】常微分方程式〔磯島 伸〕春学期授業/Spring.....	1177
経営システム工学科_学科専門科目【H6858】複素関数（経営）〔勝島 義史〕秋学期授業/Fall	1178
学部共通科目【H7001】グリーンケミストリ〔渡邊 雄二郎〕春学期授業/Spring.....	1180
学部共通科目【H7006】環境と人間〔植田 央〕秋学期授業/Fall	1181
学部共通科目【H7007】植物薬理学〔鈴木 聡〕秋学期授業/Fall	1182
学部共通科目【H7010】グリーンケミストリ〔利谷 翔平〕春学期授業/Spring	1183
学部共通科目【H7011】環境と人間〔吉川 圭子、長谷川 敬洋〕春学期授業/Spring.....	1184
学部共通科目【H7017】高分子化学〔渡辺 敏行〕秋学期授業/Fall	1186
学部共通科目【H7018】環境安全化学〔大波 英幸、福島 由美子〕春学期授業/Spring	1187
学部共通科目【H7019】環境安全化学〔吉原 利一〕春学期授業/Spring	1188
学部共通科目【H7020】分析化学〔渡邊 雄二郎〕春学期授業/Spring	1190
学部共通科目【H7021】バイオエンジニアリング〔稲本 進〕秋学期授業/Fall	1191
学部共通科目【H7023】物質構造化学〔緒方 啓典〕秋学期授業/Fall.....	1192
学部共通科目【H7024】機器分析学〔橋本 伸哉〕秋学期授業/Fall	1193
学部共通科目【H7025】機器分析学〔猿渡 茂、野口 恵一、加藤 敏代〕秋学期授業/Fall.....	1195
学部共通科目【H7031】バイオエンジニアリング〔松田 寛子〕秋学期授業/Fall.....	1196
学部共通科目【H7032】分析化学〔宮村 一夫〕秋学期授業/Fall	1197
学部共通科目【H7033】物質機能化学〔緒方 啓典〕春学期授業/Spring	1198
学部共通科目【H7034】物質変換化学〔奥村 和〕春学期授業/Spring	1199
学部共通科目【H7035】物質循環化学〔明石 孝也〕秋学期授業/Fall.....	1200
学部共通科目【H7036】バイオマテリアル〔張 民芳〕秋学期集中/Intensive(Fall).....	1201
学部共通科目【H7038】分子エレクトロニクス〔見附 孝一郎〕春学期集中/Intensive(Spring).....	1202
学部共通科目【H7040】蛋白工学〔常重 アントニオ〕秋学期授業/Fall	1204
学部共通科目【H7041】生物有機化学〔芝 清隆〕春学期授業/Spring.....	1205
学部共通科目【H7042】食品科学〔三浦 豊〕春学期授業/Spring.....	1208
学部共通科目【H7043】遺伝子工学〔佐藤 勉〕秋学期授業/Fall	1209
生命機能学科_学科専門科目【H7045】生体超分子〔曾和 義幸〕春学期授業/Spring	1210
学部共通科目【H7071】基礎有機化学 I〔河内 敦〕春学期授業/Spring	1211
学部共通科目【H7072】基礎有機化学 I I〔河内 敦〕秋学期授業/Fall.....	1212
学部共通科目【H7073】応用環境化学〔渡邊 雄二郎〕秋学期授業/Fall	1213
学部共通科目【H7081】分子生物学 I〔佐藤 勉〕春学期授業/Spring.....	1214
学部共通科目【H7082】分子生物学 I〔片山 映、山中 幸〕春学期授業/Spring	1215
学部共通科目【H7083】分子生物学 I I〔木口 悠也〕秋学期授業/Fall.....	1216
学部共通科目【H7084】分子生物学 I I〔小見 美央〕秋学期授業/Fall.....	1217
学部共通科目【H7085】生物化学 I〔廣野 雅文〕春学期授業/Spring.....	1218
学部共通科目【H7086】生物化学 I〔田島 寛隆〕春学期授業/Spring.....	1219
学部共通科目【H7087】蛋白質構造機能学 I〔廣野 雅文〕春学期授業/Spring	1220
学部共通科目【H7088】蛋白質構造機能学 I I〔曾和 義幸〕秋学期授業/Fall.....	1221
学部共通科目【H7089】分子薬理学〔小藤 智史〕春学期授業/Spring	1222
生命機能学科_学科専門科目【H7090】構造生物学〔金丸 周司〕春学期授業/Spring	1223
学部共通科目【H7303】植物医科学概論〔鍵和田 聡、津田 新哉、池田 健太郎、舟木 康郎、廣岡 裕吏〕春学 期授業/Spring	1224
学部共通科目【H7304】植物病理学概論〔濱本 宏〕秋学期授業/Fall	1225
学部共通科目【H7305】植物分子細胞生物学〔鍵和田 聡〕秋学期授業/Fall	1226
生命機能学科_学科専門科目【H7502】計算機科学概論 I〔豊田 太郎〕春学期授業/Spring	1227
生命機能学科_学科専門科目【H7503】計算機科学概論 I I〔豊田 太郎〕秋学期授業/Fall	1228
生命機能学科_学科専門科目【H7509】発生生物学〔小林 麻己人、川岸 万紀子〕秋学期集中/Intensive(Fall)....	1229
生命機能学科_学科専門科目【H7512】物理化学概論 I〔見附 孝一郎〕春学期授業/Spring	1230

生命機能学科_学科専門科目	【H7513】物理化学概論 I I [見附 孝一郎] 秋学期授業/Fall	1232
生命機能学科_学科専門科目	【H7515】生理病理学 [丸井 朱里] 秋学期授業/Fall	1234
生命機能学科_学科専門科目	【H7533】細胞工学 [廣野 雅文] 秋学期授業/Fall	1235
生命機能学科_学科専門科目	【H7534】細胞情報学 [川岸 郁郎] 春学期授業/Spring	1236
生命機能学科_学科専門科目	【H7536】神経科学 [高田 耕司] 秋学期授業/Fall	1237
生命機能学科_学科専門科目	【H7537】分子免疫学 [金山 剛士] 秋学期授業/Fall	1238
生命機能学科_学科専門科目	【H7538】バイオイメージング [笠井 倫志、矢島 潤一郎、藤原 敬宏、吉澤 亮] 秋学期授業/Fall	1239
生命機能学科_学科専門科目	【H7551】生物化学 I I [西川正俊] 秋学期授業/Fall	1240
生命機能学科_学科専門科目	【H7552】生物物理学 I [西川正俊] 春学期授業/Spring	1241
生命機能学科_学科専門科目	【H7553】生物物理学 I I [曾和義幸] 秋学期授業/Fall	1242
学部共通科目	【H7554】細胞生物学 I [金子 智行] 春学期授業/Spring	1243
学部共通科目	【H7555】細胞生物学 I [小見 美央] 春学期授業/Spring	1244
生命機能学科_学科専門科目	【H7556】細胞生物学 I I [川岸 郁郎] 秋学期授業/Fall	1245
学部共通科目	【H7558】生物統計学 [谷合 弘行] 秋学期授業/Fall	1246
生命機能学科_学科専門科目	【H7560】ゲノム構造機能学 I [佐藤 勉] 春学期授業/Spring	1247
生命機能学科_学科専門科目	【H7561】ゲノム構造機能学 I I [山中 幸] 秋学期授業/Fall	1248
学部共通科目	【H7562】細胞構造機能学 I [川岸 郁郎] 春学期授業/Spring	1249
学部共通科目	【H7563】細胞構造機能学 I I [金子 智行] 秋学期授業/Fall	1251
生命機能学科_学科専門科目	【H7564】生体分子分析学 I [豊岡 博子 (Hiroko KAWAI-TOYOOKA)] 春学期授業/Spring	1252
生命機能学科_学科専門科目	【H7565】生体分子分析学 I I [林 勇樹] 秋学期授業/Fall	1253
学部共通科目	【H7566】分子微生物学 [山中 幸] 春学期授業/Spring	1254
学部共通科目	【H7569】バイオインフォマティクス [豊岡 博子 (Hiroko KAWAI-TOYOOKA)] 秋学期授業/Fall	1255
学部共通科目	【H7570】ケミカルバイオロジー [影近 弘之] 秋学期授業/Fall	1256
生命機能学科_学科専門科目	【H7571】バイオエナジェティクス [常重 アントニオ] 春学期授業/Spring	1257
生命機能学科_学科専門科目	【H7572】医用生体工学 [林 真人] 秋学期授業/Fall	1258
応用植物科学科_学科専門科目	【H8003】栽培植物学 [佐野 俊夫] 春学期授業/Spring	1259
応用植物科学科_学科専門科目	【H8004】植物病原菌類学 [廣岡 裕史] 春学期授業/Spring	1260
応用植物科学科_学科専門科目	【H8005】植物病防除学 [池田 健太郎] 秋学期授業/Fall	1261
応用植物科学科_学科専門科目	【H8006】土壌科学 [亀和田 國彦] 秋学期授業/Fall	1262
応用植物科学科_学科専門科目	【H8009】診断技術論 [大井田 寛、濱本 宏、水久保 隆之、廣岡 裕史] 春学期授業/Spring	1264
応用植物科学科_学科専門科目	【H8013】植物生理生態学 [佐野 俊夫] 秋学期授業/Fall	1265
応用植物科学科_学科専門科目	【H8014】雑草学 [佐野 俊夫、村岡 哲郎] 秋学期授業/Fall	1266
応用植物科学科_学科専門科目	【H8015】植物医科ビジネス論 [宮内 陽介、川名 祥史、小倉 里江子] 秋学期授業/Fall	1267
応用植物科学科_学科専門科目	【H8017】フードセイフティ論 [川本 伸一、八戸 真弓] 秋学期授業/Fall	1268
学部共通科目	【H8021】植物バイオテクノロジー概論 [川合 伸也] 春学期授業/Spring	1269
学部共通科目	【H8022】植物メディカルゲノム学 [大島研郎、濱本宏] 秋学期授業/Fall	1271
学部共通科目	【H8023】植物細菌学 [大島 研郎] 春学期授業/Spring	1272
学部共通科目	【H8024】植物ウイルス学 [津田 新哉] 秋学期授業/Fall	1273
学部共通科目	【H8025】微生物生態学 [堀 知行] 春学期授業/Spring	1275
応用植物科学科_学科専門科目	【H8026】環境昆虫学 [安田 耕司] 春学期授業/Spring	1276
応用植物科学科_学科専門科目	【H8027】媒介システム学 [津田 新哉] 春学期授業/Spring	1277
応用植物科学科_学科専門科目	【H8028】植物メディカルシステム学 [濱本 宏] 春学期授業/Spring	1279
応用植物科学科_学科専門科目	【H8031】植物臨床医科学 [池田 健太郎] 春学期授業/Spring	1280
応用植物科学科_学科専門科目	【H8032】生物制御化学 [望月 文昭] 秋学期授業/Fall	1281
応用植物科学科_学科専門科目	【H8033】植物医科学法論 [福盛田 共義] 春学期授業/Spring	1283
応用植物科学科_学科専門科目	【H8034】ポストハーベスト論 [廣岡 裕史、宮ノ下 明大] 秋学期授業/Fall	1284
応用植物科学科_学科専門科目	【H8035】植物生理病理学 [佐野 俊夫、亀和田 國彦] 春学期授業/Spring	1285
応用植物科学科_学科専門科目	【H8103】国際食料需給論 [鶴岡 康夫] 春学期授業/Spring	1286
応用植物科学科_学科専門科目	【H8104】植物管理技術論 [安達 俊輔、桂 圭佑] 春学期授業/Spring	1287
応用植物科学科_学科専門科目	【H8106】基礎植物害虫学 [大井田 寛] 秋学期授業/Fall	1288
応用植物科学科_学科専門科目	【H8107】グリーン経済学 [鶴岡 康夫] 秋学期授業/Fall	1289
応用植物科学科_学科専門科目	【H8108】植物栄養学 [亀和田 國彦] 春学期授業/Spring	1290
応用植物科学科_学科専門科目	【H8113】応用植物害虫学 [大井田 寛] 春学期授業/Spring	1292

応用植物科学科_学科専門科目	【H8114】 食料・地域政策論 [鶴岡 康夫] 秋学期授業/Fall	1293
応用植物科学科_学科専門科目	【H8115】 自然再生学概論 [大井田 寛、安田 耕司、橋本 智美、鶴岡 康夫] 秋学期授業/Fall	1294
応用植物科学科_学科専門科目	【H8117】 ホーティカルチャー論 [津田 新哉、鈴木 栄、彦坂 晶子、堀内 尚美] 春学期授業/Spring	1295
応用植物科学科_学科専門科目	【H8120】 実践植物遺伝学 [坂井 真、黒羽 剛] 春学期授業/Spring	1296
環境応用化学科_学科専門科目	【H8501】 化学熱力学 I [森 隆昌] 秋学期授業/Fall	1298
環境応用化学科_学科専門科目	【H8502】 化学熱力学 I I [山下 明泰] 春学期授業/Spring	1299
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】 応用化学基礎 [河内 敦] 春学期授業/Spring	1301
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】 応用化学基礎 [緒方 啓典] 春学期授業/Spring	1302
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】 応用化学基礎 [渡邊 雄二郎] 春学期授業/Spring	1303
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】 応用化学基礎 [藤井 孝太郎] 春学期授業/Spring	1304
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】 応用化学基礎 [明石 孝也] 春学期授業/Spring	1305
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】 応用化学基礎 [高井 和之] 春学期授業/Spring	1306
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】 応用化学基礎 [森 隆昌] 春学期授業/Spring	1307
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】 応用化学基礎 [山下 明泰] 春学期授業/Spring	1308
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】 応用化学基礎 [杉山 賢次] 春学期授業/Spring	1310
環境応用化学科_学科専門科目	【H8512】 無機化学概論 [明石 孝也] 秋学期授業/Fall	1311
環境応用化学科_学科専門科目	【H8523】 応用化学入門 [高井 和之] 春学期授業/Spring	1312
環境応用化学科_学科専門科目	【H8525】 物理化学 I [緒方 啓典] 春学期授業/Spring	1313
環境応用化学科_学科専門科目	【H8526】 物理化学 I I [高井 和之] 秋学期授業/Fall	1314
環境応用化学科_学科専門科目	【H8527】 無機化学 I [藤井 孝太郎] 春学期授業/Spring	1315
環境応用化学科_学科専門科目	【H8528】 無機化学 I I [藤井 孝太郎] 秋学期授業/Fall	1316
環境応用化学科_学科専門科目	【H8529】 有機化学 I [杉山 賢次] 春学期授業/Spring	1317
環境応用化学科_学科専門科目	【H8530】 有機化学 I I [杉山 賢次] 秋学期授業/Fall	1318
環境応用化学科_学科専門科目	【H8533】 コンピュータ利用化学 [小鍋 哲] 秋学期授業/Fall	1319
環境応用化学科_学科専門科目	【H8541】 電気化学 [片山 英樹] 春学期授業/Spring	1320
環境応用化学科_学科専門科目	【H8545】 反応工学 [小堀 深] 春学期授業/Spring	1321
環境応用化学科_学科専門科目	【H8548】 量子化学 [野口 真理子] 春学期授業/Spring	1322
環境応用化学科_学科専門科目	【H8549】 錯体化学 [田所 誠] 春学期授業/Spring	1323
環境応用化学科_学科専門科目	【H8553】 化学統計力学 [藤森 裕基] 秋学期授業/Fall	1324
環境応用化学科_学科専門科目	【H8554】 物質設計化学 [高井 和之] 秋学期授業/Fall	1325
環境応用化学科_学科専門科目	【H8555】 エネルギー環境化学 [打越 哲郎] 秋学期授業/Fall	1326
環境応用化学科_学科専門科目	【H8556】 触媒化学 [藤井 孝太郎] 春学期授業/Spring	1327
環境応用化学科_学科専門科目	【H8580】 環境化学工学概論 [森 隆昌] 秋学期授業/Fall	1328
環境応用化学科_学科専門科目	【H8581】 環境化学工学応用 [山下 明泰] 春学期授業/Spring	1329
環境応用化学科_学科専門科目	【H8584】 無機素材反応化学 [明石 孝也] 春学期授業/Spring	1331
創生科学科_学科専門科目	【H9270】 フーリエ変換 [西村 滋人] 春学期授業/Spring	1332
創生科学科_学科専門科目	【H9271】 空間の幾何 [福島 莊之介] 春学期授業/Spring	1333
創生科学科_学科専門科目	【H9272】 対称性と構造 [長谷 正司] 春学期授業/Spring	1334
	【J0401】 情報科学入門 [日高 宗一郎] 春学期授業/Spring	1335
	【J0402】 情報科学入門 [坂本 寛] 春学期授業/Spring	1337
	【J0403】 コンピュータシステム入門1 [高村 誠之] 春学期授業/Spring	1339
	【J0404】 コンピュータシステム入門1 [坂本 寛] 春学期授業/Spring	1340
	【J0405】 コンピュータシステム入門2 [村上 健一郎] 秋学期授業/Fall	1341
	【J0406】 コンピュータシステム入門2 [小池 崇文] 秋学期授業/Fall	1342
	【J0409】 離散構造1 [佐藤 裕二] 春学期授業/Spring	1343
	【J0410】 離散構造1 [小池 崇文] 春学期授業/Spring	1344
	【J0411】 離散構造2 [佐々木 晃] 秋学期授業/Fall	1345
	【J0412】 離散構造2 [首藤 裕一] 秋学期授業/Fall	1346
	【J0419】 論理回路入門 [李 亜民] 秋学期授業/Fall	1347
	【J0420】 プログラミング入門1 [赤石 美奈] 春学期前半/Spring(1st half)	1348
	【J0421】 プログラミング入門1 [黒木 帝聡] 春学期前半/Spring(1st half)	1349
	【J0422】 プログラミング入門1 [西田 圭吾] 春学期前半/Spring(1st half)	1350
	【J0423】 プログラミング入門1 [佐藤 周平] 春学期前半/Spring(1st half)	1351
	【J0424】 プログラミング入門2 [赤石 美奈] 春学期後半/Spring(2nd half)	1352
	【J0425】 プログラミング入門2 [黒木 帝聡] 春学期後半/Spring(2nd half)	1353

【J0426】	プログラミング入門2	〔西田 圭吾〕	春学期後半/Spring(2nd half)	1354
【J0427】	プログラミング入門2	〔佐藤 周平〕	春学期後半/Spring(2nd half)	1355
【J0429】	プログラミング入門3	〔佐々木 晃〕	秋学期授業/Fall	1356
【J0430】	プログラミング入門3	〔小林 郁夫〕	秋学期授業/Fall	1357
【J0431】	プログラミング入門3	〔馬 建華〕	秋学期授業/Fall	1358
【J0432】	プログラミング入門3	〔高村 誠之〕	秋学期授業/Fall	1359
【J0433】	データ構造とアルゴリズム1	〔首藤 裕一〕	春学期授業/Spring	1360
【J0434】	データ構造とアルゴリズム1	〔坂本 寛〕	春学期授業/Spring	1361
【J0439】	最適化	〔佐川 浩彦〕	秋学期授業/Fall	1362
【J0440】	最適化	〔佐藤 裕二〕	秋学期授業/Fall	1363
【J0501】	プログラミング1(C/C++)	〔廣津 登志夫、佐藤 周平〕	春学期集中/Intensive(Spring)	1364
【J0505】	プログラミング2(C/C++)	〔相島 健助、廣津 登志夫〕	秋学期集中/Intensive(Fall)	1366
【J0509】	プログラミング演習(C/C++)	〔廣津 登志夫〕	春学期授業/Spring	1368
【J0511】	形式言語とオートマトン	〔藤田 悟〕	春学期授業/Spring	1369
【J0512】	形式言語とオートマトン	〔日高 宗一郎〕	春学期授業/Spring	1371
【J0513】	コンピュータ構成と設計入門	〔八巻 隼人〕	春学期授業/Spring	1373
【J0514】	コンパイラ	〔佐々木 晃〕	春学期授業/Spring	1374
【J0516】	データ構造とアルゴリズム2	〔首藤 裕一〕	秋学期授業/Fall	1375
【J0519】	統計学2	〔高村 誠之〕	秋学期授業/Fall	1376
【J0520】	統計学2	〔川畑 史郎〕	秋学期授業/Fall	1377
【J0521】	情報基礎学A	〔尾花 賢〕	秋学期授業/Fall	1378
【J0522】	情報基礎学B	〔川畑 史郎〕	春学期授業/Spring	1379
【J0523】	コンピュータ構成と設計	〔李 亜民〕	秋学期授業/Fall	1380
【J0524】	情報理論	〔尾花 賢〕	秋学期授業/Fall	1381
【J0526】	オペレーティングシステム	〔山田 浩史〕	春学期授業/Spring	1382
【J0527】	型システムと関数型言語	〔日高 宗一郎〕	秋学期授業/Fall	1383
【J0528】	ソフトウェア工学	〔栗田 太郎〕	秋学期授業/Fall	1384
【J0529】	並列分散処理	〔八巻 隼人〕	秋学期授業/Fall	1386
【J0531】	情報・ネットワークセキュリティ入門	〔青木 慧、和田 紘帆、前田 智紀〕	秋学期授業/Fall	1388
【J0534】	プログラミング2(Java)	〔細部 博史〕	秋学期授業/Fall	1390
【J0536】	ヒューマンコンピュータインタラクション	〔細部 博史〕	春学期授業/Spring	1391
【J0537】	データベース	〔日高 宗一郎〕	秋学期授業/Fall	1392
【J0538】	データベース	〔坂本 寛〕	秋学期授業/Fall	1393
【J0539】	人工知能	〔赤石 美奈〕	秋学期授業/Fall	1394
【J0540】	人工知能	〔藤田 悟〕	秋学期授業/Fall	1396
【J0541】	プログラミング3(Java)	〔馬 建華〕	春学期授業/Spring	1398
【J0542】	コンピュータネットワーク	〔廣津 登志夫〕	春学期授業/Spring	1399
【J0543】	サービスコンピューティング	〔藤田 悟〕	春学期授業/Spring	1400
【J0544】	オペレーションズリサーチ	〔小西 克巳〕	春学期授業/Spring	1402
【J0545】	オブジェクト指向プログラミング	〔藤田 悟〕	秋学期授業/Fall	1403
【J0546】	情報検索	〔相島 健助〕	春学期授業/Spring	1404
【J0547】	ユビキタスインテリジェンス	〔馬 建華〕	秋学期授業/Fall	1405
【J0549】	コンピュータグラフィックス	〔佐藤 周平〕	秋学期授業/Fall	1407
【J0550】	機械学習	〔伊藤 克亘、佐藤 裕二〕	秋学期授業/Fall	1408
【J0551】	プログラミング(MATLAB)	〔伊藤 克亘〕	秋学期授業/Fall	1409
【J0552】	プログラミング演習1(python)	〔伊藤 克亘〕	春学期授業/Spring	1411
【J0553】	フーリエ級数と変換	〔秋野 喜彦〕	春学期授業/Spring	1413
【J0555】	デジタル信号処理	〔高村 誠之〕	春学期授業/Spring	1414
【J0556】	画像処理	〔花泉 弘〕	秋学期授業/Fall	1415
【J0557】	音声情報処理	〔藤村 浩司〕	秋学期授業/Fall	1416
【J0558】	プログラミング演習2(MATLAB)	〔花泉 弘〕	春学期授業/Spring	1418
【J0560】	科学技術計算	〔相島 健助〕	春学期授業/Spring	1419
【J0561】	微積分法の応用2	〔秋野 喜彦〕	秋学期授業/Fall	1420
【J0562】	生体情報論	〔小西 克巳〕	秋学期授業/Fall	1422
【J0563】	プログラミング演習1(python)	〔伊藤 克亘〕	春学期授業/Spring	1423
【K6054】	日本経済論A	〔小黒 一正〕	春学期授業/Spring	1425
【K6055】	日本経済論A	〔小崎 敏男〕	春学期授業/Spring	1426

【K6056】 日本経済論B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	1427
【K6057】 日本経済論B [小崎 敏男] 秋学期授業/Fall	1428
【K6058】 国際経済論A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	1429
【K6059】 国際経済論A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	1430
【K6060】 国際経済論B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	1431
【K6061】 国際経済論B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	1432
【K6062】 財政学A [小林 克也] 春学期授業/Spring	1433
【K6063】 財政学A [廣川 みどり] 春学期授業/Spring	1434
【K6064】 財政学B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	1435
【K6065】 財政学B [廣川 みどり] 秋学期授業/Fall	1436
【K6066】 金融論A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	1437
【K6067】 金融論A [高橋 秀朋] 春学期授業/Spring	1438
【K6068】 金融論B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	1439
【K6069】 金融論B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	1440
【K6070】 経済の数理A [篠原 隆介] 春学期授業/Spring	1441
【K6071】 経済の数理B [篠原 隆介] 秋学期授業/Fall	1442
【K6094】 計量経済学A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	1443
【K6095】 計量経済学B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	1444
【K6103】 企業と経済・応用B [河村 真] 秋学期授業/Fall	1445
【K6108】 現代ファイナンス入門A [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	1446
【K6109】 現代ファイナンス入門B [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	1447
【K6122】 経済データ分析A [明城 聡] 春学期授業/Spring	1448
【K6123】 経済データ分析B [明城 聡] 秋学期授業/Fall	1449
【K6124】 経済地理 [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	1450
【K6125】 産業集積論 [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	1451
【K6128】 コーポレートガバナンス論A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	1452
【K6129】 コーポレートガバナンス論B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	1454
【K6130】 リスク・マネジメントA [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	1455
【K6131】 リスク・マネジメントB [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	1456
【K6132】 企業経営史A [飯塚 陽介] 春学期授業/Spring	1457
【K6133】 企業経営史B [飯塚 陽介] 秋学期授業/Fall	1458
【K6136】 企業経営論A [内田 彬浩] 春学期授業/Spring	1459
【K6137】 企業経営論B [内田 彬浩] 秋学期授業/Fall	1460
【K6140】 企業実務研究A [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	1461
【K6141】 企業実務研究B [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	1463
【K6142】 国際会計制度A [田中 優希] 春学期授業/Spring	1465
【K6143】 国際会計制度B [田中 優希] 秋学期授業/Fall	1466
【K6144】 金融ビジネス論A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	1467
【K6146】 金融ビジネス論B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	1468
【K6148】 開発経済論A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	1469
【K6149】 開発経済論B [池上 宗信] 秋学期授業/Fall	1470
【K6150】 国際関係論A [富永 靖敬] 春学期授業/Spring	1471
【K6151】 国際関係論B [富永 靖敬] 秋学期授業/Fall	1473
【K6152】 経済人類学A [友松 夕香] 春学期授業/Spring	1475
【K6153】 経済人類学B [友松 夕香] 秋学期授業/Fall	1476
【K6154】 環境経済論A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	1477
【K6155】 環境経済論A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	1478
【K6156】 環境経済論B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	1479
【K6157】 環境経済論B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	1480
【K6160】 経済地理A [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	1481
【K6161】 経済地理B [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	1482
【K6164】 ヨーロッパ経済論A [進藤 理香子] 春学期授業/Spring	1483
【K6165】 ヨーロッパ経済論B [進藤 理香子] 秋学期授業/Fall	1484
【K6166】 現代アジア経済論A [馬場 敏幸] 春学期授業/Spring	1485
【K6167】 現代アジア経済論B [馬場 敏幸] 秋学期授業/Fall	1486
【K6168】 中国経済論A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	1487
【K6169】 中国経済論B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	1489

[K6180]	ドイツ語セミナーA [北岡 幸代]	春学期授業/Spring	1491
[K6181]	ドイツ語セミナーB [北岡 幸代]	秋学期授業/Fall	1492
[K6182]	フランス語セミナーB [橋本 到]	秋学期授業/Fall	1493
[K6183]	フランス語セミナーA [橋本 到]	春学期授業/Spring	1494
[K6184]	ロシア語セミナーA [松澤 暢子]	春学期授業/Spring	1495
[K6185]	ロシア語セミナーB [松澤 暢子]	秋学期授業/Fall	1496
[K6186]	中国語セミナーA [石 碩]	春学期授業/Spring	1497
[K6187]	中国語セミナーB [石 碩]	秋学期授業/Fall	1498
[K6188]	スペイン語セミナーA [芝田 幸一郎]	春学期授業/Spring	1499
[K6189]	スペイン語セミナーB [芝田 幸一郎]	秋学期授業/Fall	1500
[K6190]	現代社会と情報A [坂本 憲昭]	春学期授業/Spring	1501
[K6191]	現代社会と情報B [菅 幹雄]	秋学期授業/Fall	1502
[K6194]	経済統計論A [菅 幹雄]	春学期授業/Spring	1503
[K6195]	経済統計論B [菅 幹雄]	秋学期授業/Fall	1504
[K6196]	日本文化論 [黒田 俊太郎]	秋学期授業/Fall	1505
[K6200]	政治過程論 [岡崎 加奈子]	春学期授業/Spring	1506
[K6201]	国際政治論 [曹 海石]	秋学期授業/Fall	1507
[K6202]	日本思想史 [古澤 直人]	春学期授業/Spring	1508
[K6203]	開発経済入門A [池上 宗信]	春学期授業/Spring	1509
[K6204]	開発経済入門B [池上 宗信]	秋学期授業/Fall	1510
[K6209]	環境科学A [岡部 雅史]	春学期授業/Spring	1511
[K6210]	環境科学B [岡部 雅史]	秋学期授業/Fall	1512
[K6214]	日本文化史 [古澤 直人]	秋学期授業/Fall	1513
[K6219]	経済学史A [平瀬 友樹]	春学期授業/Spring	1514
[K6220]	経済学史B [平瀬 友樹]	秋学期授業/Fall	1515
[K6221]	公共経済論A [篠原 隆介]	春学期授業/Spring	1516
[K6222]	公共経済論B [篠原 隆介]	秋学期授業/Fall	1517
[K6223]	環境政策論A [西澤 栄一郎]	春学期授業/Spring	1518
[K6224]	環境政策論B [西澤 栄一郎]	秋学期授業/Fall	1519
[K6225]	日本経済史A [萬代 悠]	春学期授業/Spring	1520
[K6226]	日本経済史B [萬代 悠]	秋学期授業/Fall	1522
[K6227]	社会経済思想史A [後藤 浩子]	春学期授業/Spring	1524
[K6228]	社会経済思想史B [後藤 浩子]	秋学期授業/Fall	1525
[K6229]	経済政策論A [小原 拓也]	春学期授業/Spring	1526
[K6230]	経済政策論B [小原 拓也]	秋学期授業/Fall	1527
[K6231]	農業経済論A [西澤 栄一郎]	春学期授業/Spring	1528
[K6232]	農業経済論B [西澤 栄一郎]	秋学期授業/Fall	1529
[K6233]	社会政策論A [菅原 琢磨]	春学期授業/Spring	1530
[K6234]	社会政策論B [菅原 琢磨]	秋学期授業/Fall	1531
[K6235]	労働経済論A [酒井 正]	春学期授業/Spring	1532
[K6236]	労働経済論B [酒井 正]	秋学期授業/Fall	1533
[K6237]	金融各論ⅠA [高橋 秀朋]	春学期授業/Spring	1534
[K6238]	金融各論ⅠB [高橋 秀朋]	秋学期授業/Fall	1535
[K6239]	情報経済論A [鈴木 豊]	春学期授業/Spring	1536
[K6240]	情報経済論B [鈴木 豊]	秋学期授業/Fall	1537
[K6241]	地方財政論A [小林 克也]	春学期授業/Spring	1538
[K6242]	地方財政論B [小林 克也]	秋学期授業/Fall	1540
[K6243]	社会保障論A [小黑 一正]	春学期授業/Spring	1542
[K6244]	社会保障論B [小黑 一正]	秋学期授業/Fall	1543
[K6245]	産業組織論A [河村 真]	春学期授業/Spring	1544
[K6246]	産業組織論B [河村 真]	秋学期授業/Fall	1545
[K6247]	金融各論ⅡA [武田 浩一]	春学期授業/Spring	1546
[K6249]	金融各論ⅡB [武田 浩一]	秋学期授業/Fall	1547
[K6251]	企業金融論A [胥 鵬]	春学期授業/Spring	1548
[K6252]	企業金融論B [胥 鵬]	秋学期授業/Fall	1549
[K6253]	数理統計学A [阿部 俊弘]	春学期授業/Spring	1550
[K6254]	数理統計学B [阿部 俊弘]	秋学期授業/Fall	1551

【K6268】 国際金融論A [ブー トウン カイ] 春学期授業/Spring	1552
【K6269】 国際金融論B [ブー トウン カイ] 秋学期授業/Fall	1553
【K6270】 企業経済論A [砂田 充] 春学期授業/Spring	1554
【K6271】 企業経済論B [砂田 充] 秋学期授業/Fall	1555
【K6312】 世界の文化と思想A [芝田 幸一郎] 春学期授業/Spring	1556
【K6313】 世界の文化と思想B [芝田 幸一郎] 秋学期授業/Fall	1557
【K6314】 地球環境論A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	1558
【K6315】 地球環境論B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	1559
【K6326】 国際貿易論A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	1560
【K6327】 国際貿易論B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	1561
【K6332】 監査論A [岸 牧人] 春学期授業/Spring	1562
【K6333】 監査論B [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	1563
【K6337】 マクロ経済学A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	1564
【K6338】 マクロ経済学B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	1565
【K6339】 ミクロ経済学A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	1566
【K6340】 ミクロ経済学B [平井 俊行] 秋学期授業/Fall	1567
【K6341】 現代経済学応用A [八木橋 毅司] 春学期授業/Spring	1568
【K6342】 現代経済学応用B [八木橋 毅司] 秋学期授業/Fall	1569
【K6343】 マクロ経済学A [八木橋 毅司] 春学期授業/Spring	1570
【K6344】 マクロ経済学B [八木橋 毅司] 秋学期授業/Fall	1571
【K6345】 ミクロ経済学A [西村 健] 春学期授業/Spring	1572
【K6346】 ミクロ経済学B [西村 健] 秋学期授業/Fall	1573
【K6347】 財政学A (市ヶ谷開講) [島澤 諭] 春学期授業/Spring	1574
【K6348】 財政学B (市ヶ谷開講) [島澤 諭] 秋学期授業/Fall	1575
【K6349】 経済政策論A (市ヶ谷開講) [森脇 大輔] 春学期授業/Spring	1576
【K6350】 経済政策論B (市ヶ谷開講) [前田 佐恵子] 秋学期授業/Fall	1577
【K6351】 国際経済論A (市ヶ谷開講) [田村 晶子] 春学期授業/Spring	1578
【K6352】 国際経済論B (市ヶ谷開講) [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	1579
【K6501】 特別講義 (寄付講座 証券市場論) [大和証券 (株)] 春学期授業/Spring	1580
【K6575】 特別講義 (ビジネス日本語A) [大石 有香] 春学期授業/Spring	1581
【K6576】 特別講義 (ビジネス日本語B) [大石 有香] 秋学期授業/Fall	1582
【K6695】 Business Communication I A [ROBERT A FORD] 春学期授業/Spring	1583
【K6696】 Business Communication I B [ROBERT A FORD] 秋学期授業/Fall	1585
【K6697】 Business Communication I A [MARK W CRAIG] 春学期授業/Spring	1587
【K6698】 Business Communication I B [MARK W CRAIG] 秋学期授業/Fall	1589
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6699】 Business	
Communication II A [YONGUE JULIA SALLE] 春学期授業/Spring	1591
【K6699】 Business Communication II A [YONGUE JULIA SALLE] 春学期授業/Spring	1592
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6700】 Business	
Communication II B [YONGUE JULIA SALLE] 秋学期授業/Fall	1593
【K6700】 Business Communication II B [YONGUE JULIA SALLE] 秋学期授業/Fall	1594
【K6701】 Business Communication II A [MARK OSELAND] 春学期授業/Spring	1595
【K6702】 Business Communication II B [MARK OSELAND] 秋学期授業/Fall	1596
【K6705】 日本国憲法A [村元 宏行] 春学期授業/Spring	1597
【K6706】 日本国憲法B [村元 宏行] 秋学期授業/Fall	1598
【K6707】 民法一部A [菅 富美枝] 春学期授業/Spring	1599
【K6708】 民法一部B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall	1600
【K6709】 民法二部A [菅 富美枝] 春学期授業/Spring	1601
【K6710】 民法二部B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall	1602
【K6711】 商法一部A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	1603
【K6712】 商法一部B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	1604
【K6713】 商法二部A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	1605
【K6714】 商法二部B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	1606
【K6715】 経済法A [杉崎 弘] 春学期授業/Spring	1607
【K6716】 経済法B [杉崎 弘] 秋学期授業/Fall	1608
【K6717】 労働法A [山本 圭子] 春学期授業/Spring	1609
【K6718】 労働法B [山本 圭子] 秋学期授業/Fall	1610

【K6719】経営学A [砂田 充] 春学期授業/Spring	1611
【K6720】経営学B [砂田 充] 秋学期授業/Fall	1612
【K6721】Principles of Economics A [JESS DIAMOND] 春学期授業/Spring	1613
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅱ. Global Economy 【K6721】Principles of Economics A [JESS DIAMOND] 春学期授業/Spring	1614
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅱ. Global Economy 【K6722】Principles of Economics B [JESS DIAMOND] 秋学期授業/Fall	1615
【K6722】Principles of Economics B [JESS DIAMOND] 秋学期授業/Fall	1616
【K6723】International Economics A [倪 彬] 春学期授業/Spring	1617
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅱ. Global Economy 【K6723】International Economics A [倪 彬] 春学期授業/Spring	1618
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅱ. Global Economy 【K6724】International Economics B [倪 彬] 秋学期授業/Fall	1619
【K6724】International Economics B [倪 彬] 秋学期授業/Fall	1620
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅱ. Global Economy 【K6725】Area Studies A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	1621
【K6725】Area Studies A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	1623
【K6726】Area Studies B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	1625
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅱ. Global Economy 【K6726】Area Studies B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	1627
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅲ. Global Business 【K6727】Business Research Seminar A [山本 ミッシェール] 春学期授業/Spring	1629
【K6727】Business Research Seminar A [山本 ミッシェール] 春学期授業/Spring	1630
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅲ. Global Business 【K6728】Business Research Seminar B [山本 ミッシェール] 秋学期授業/Fall	1631
【K6728】Business Research Seminar B [山本 ミッシェール] 秋学期授業/Fall	1632
【K6729】簿記ⅡA [岸 牧人] 春学期授業/Spring	1633
【K6730】簿記ⅡB [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	1634
【K6731】地域経済論A [川邊 安彦] 春学期授業/Spring	1635
【K6732】地域経済論B [川邊 安彦] 秋学期授業/Fall	1637
【K6733】Academic Research Seminar A [飯野 厚] 春学期授業/Spring	1639
【K6734】Academic Research Seminar B [飯野 厚] 秋学期授業/Fall	1640
【K6735】Academic Research Seminar A [伊藤 健彦] 春学期授業/Spring	1641
【K6736】Academic Research Seminar B [伊藤 健彦] 秋学期授業/Fall	1642
【K6741】世界経済史A [進藤 理香子] 春学期授業/Spring	1643
【K6742】世界経済史B [進藤 理香子] 秋学期授業/Fall	1644
【K6745】財務諸表論A [竹口 圭輔] 春学期授業/Spring	1645
【K6746】財務諸表論B [竹口 圭輔] 秋学期授業/Fall	1646
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅱ. Global Economy 【K6747】Demography A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	1647
【K6747】DemographyA [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	1648
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅱ. Global Economy 【K6748】Demography B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1649
【K6748】DemographyB [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1650
【K6749】原価計算A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	1651
【K6750】原価計算B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	1652
【K6751】会計学入門A [古賀 裕也] 春学期授業/Spring	1653
【K6752】会計学入門B [古賀 裕也] 秋学期授業/Fall	1654
【K6755】管理会計A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	1655
【K6756】管理会計B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	1656
【K6757】スポーツ経済論 [杉本 龍勇] 春学期授業/Spring	1657
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅲ. Global Business 【K6764】Business Communication I A [JOHN THOMAS LACEY] 春学期授業/Spring	1658
【K6764】Business Communication IA [JOHN THOMAS LACEY] 春学期授業/Spring	1659
【K6765】Business Communication IB [JOHN THOMAS LACEY] 秋学期授業/Fall	1660
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅲ. Global Business 【K6765】Business Communication I B [JOHN THOMAS LACEY] 秋学期授業/Fall	1661

Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6770】 Japan and ASEAN Economy A 【MANISH SHARMA】 春学期授業/Spring	1662
【K6770】 Japan and ASEAN Economy A 【MANISH SHARMA】 春学期授業/Spring	1663
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6771】 Japan and ASEAN Economy B 【MANISH SHARMA】 秋学期授業/Fall.....	1664
【K6771】 Japan and ASEAN Economy B 【MANISH SHARMA】 秋学期授業/Fall	1665
【K7001】 演習 [岸 牧人] 年間授業/Yearly	1666
【K7002】 演習 [小黒 一正] 年間授業/Yearly	1668
【K7003】 演習 [平井 俊行] 年間授業/Yearly	1670
【K7004】 演習 [岡部 雅史] 年間授業/Yearly	1671
【K7005】 演習 [奥山 利幸] 年間授業/Yearly	1673
【K7007】 演習 [杉浦 未樹、海野 浩三] 年間授業/Yearly	1674
【K7008】 演習 [小沢 和浩] 年間授業/Yearly	1676
【K7011】 演習 [黒田 俊太郎] 年間授業/Yearly	1677
【K7012】 演習 [河村 真] 年間授業/Yearly	1678
【K7013】 演習 [阿部 俊弘] 年間授業/Yearly	1680
【K7016】 演習 [JESS DIAMOND] 年間授業/Yearly	1682
【K7018】 演習 [武田 浩一] 年間授業/Yearly	1683
【K7019】 演習 [後藤 浩子] 年間授業/Yearly	1685
【K7020】 演習 [小林 克也] 年間授業/Yearly	1687
【K7021】 演習 [近藤 章夫] 年間授業/Yearly	1689
【K7023】 演習 [坂本 憲昭] 年間授業/Yearly	1690
【K7025】 演習 [馬 欣欣] 年間授業/Yearly	1691
【K7026】 演習 [酒井 正] 年間授業/Yearly	1693
【K7027】 演習 [胥 鵬] 年間授業/Yearly	1694
【K7028】 演習 [菅 富美枝] 年間授業/Yearly	1696
【K7029】 演習 [鈴木 豊] 年間授業/Yearly	1698
【K7030】 演習 [砂田 充] 年間授業/Yearly	1700
【K7031】 演習 [竹口 圭輔] 年間授業/Yearly	1702
【K7032】 演習 [八木橋 毅司] 年間授業/Yearly	1703
【K7033】 演習 [武智 一貴] 年間授業/Yearly	1705
【K7034】 演習 [田村 晶子] 年間授業/Yearly	1707
【K7035】 演習 [田中 優希] 年間授業/Yearly	1708
【K7036】 演習 [山崎 友紀] 年間授業/Yearly	1709
【K7037】 演習 [芝田 幸一郎] 年間授業/Yearly	1710
【K7038】 演習 [ブー トウン カイ] 年間授業/Yearly	1712
【K7041】 演習 [池上 宗信] 年間授業/Yearly	1713
【K7042】 演習 [ROBERT D STROUD] 年間授業/Yearly	1715
【K7043】 演習 [西澤 栄一郎] 年間授業/Yearly	1717
【K7044】 演習 [新田 誠吾] 年間授業/Yearly	1718
【K7045】 演習 [明城 聡] 年間授業/Yearly	1720
【K7046】 演習 [朴 宗玄] 年間授業/Yearly	1722
【K7047】 演習 [橋本 到] 年間授業/Yearly	1724
【K7048】 演習 [馬場 敏幸] 年間授業/Yearly	1726
【K7051】 演習 [平瀬 友樹] 年間授業/Yearly	1727
【K7052】 演習 [廣川 みどり] 年間授業/Yearly	1728
【K7053】 演習 [濱秋 純哉、青野 幸平] 年間授業/Yearly	1729
【K7054】 演習 [伊藤 健彦] 年間授業/Yearly	1731
【K7055】 演習 [古澤 直人] 年間授業/Yearly	1732
【K7056】 演習 [JAY M TANAKA] 年間授業/Yearly	1733
【K7058】 演習 [松波 淳也] 年間授業/Yearly	1735
【K7059】 演習 [宮崎 憲治] 年間授業/Yearly	1736
【K7060】 演習 [石 碩] 年間授業/Yearly	1737
【K7064】 演習 [富永 靖敬] 年間授業/Yearly	1738
【K7066】 演習 [湯前 祥二] 年間授業/Yearly	1740
【K7067】 演習 [YONGUE JULIA SALLE] 年間授業/Yearly	1741
【K7068】 演習 [山田 快、飯田 麻紗子] 年間授業/Yearly	1743

【K7070】	演習 [梅津 亮子] 年間授業/Yearly	1744
【K7071】	演習 [杉本 龍勇] 年間授業/Yearly	1745
【K7073】	演習 [飯野 厚] 年間授業/Yearly	1747
【K7074】	演習 [進藤 理香子] 年間授業/Yearly	1749
【K7075】	演習 [菅 幹雄] 年間授業/Yearly	1750
【K7076】	演習 [高橋 秀朋] 年間授業/Yearly	1752
【K7077】	演習 [藤田 貢崇] 年間授業/Yearly	1754
【K7078】	演習 [篠原 隆介] 年間授業/Yearly	1756
【K7079】	演習 [菅原 琢磨] 年間授業/Yearly	1757
【K7080】	演習 [松野 響] 年間授業/Yearly	1758
【K7082】	演習 [田村 理香] 年間授業/Yearly	1760
【K7083】	演習 [張 欣] 年間授業/Yearly	1762
【K7084】	演習 [中谷 安男、山本 ミッシェール] 年間授業/Yearly	1763
【K7085】	演習 [倪 彬] 年間授業/Yearly	1764
【K7086】	演習 [友松 夕香] 年間授業/Yearly	1765
【K7087】	演習 [西村 健] 年間授業/Yearly	1766
【K7088】	演習 [萬代 悠] 年間授業/Yearly	1768
【K7089】	演習 [大森 祥輔] 年間授業/Yearly	1770
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅲ. Global Business 【K7510】 Multinational Enterprises A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring		
【K7510】	Multinational Enterprises A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1771
【K7511】	Multinational Enterprises B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1772
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅲ. Global Business 【K7511】 Multinational Enterprises B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall		
【K7511】	Multinational Enterprises B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1775
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅲ. Global Business 【K7512】 Japanese Finance and Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring		
【K7512】	Japanese Finance and Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1777
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_Ⅲ. Global Business 【K7513】 Japanese Finance and Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall		
【K7513】	Japanese Finance and Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1779
【LA004】	政治学理論Ⅰ [白鳥 浩] 春学期授業/Spring	1785
【LA005】	政治学理論Ⅱ [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall	1786
【LA006】	日本経済論 [澁谷 朋樹] 秋学期授業/Fall	1787
【LA007】	憲法 [天本 哲史] 春学期授業/Spring	1788
【LA008】	民法 (総則) [松田 佳久] 春学期授業/Spring	1789
【LA009】	民法 (財産法) [松田 佳久] 秋学期授業/Fall	1791
【LA012】	組織論 [多田 和美] 秋学期授業/Fall	1793
【LA014】	財政学Ⅰ [森田 圭亮] 春学期授業/Spring	1794
【LA015】	財政学Ⅱ [森田 圭亮] 秋学期授業/Fall	1795
【LA016】	行政学 [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	1796
【LA017】	行政法Ⅰ [天本 哲史] 春学期授業/Spring	1798
【LA018】	行政法Ⅱ [天本 哲史] 秋学期授業/Fall	1799
【LA019】	政策と制度 [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	1800
【LA020】	人的資源論 [恵羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	1801
【LA102】	社会・イノベーション論Ⅰ [糸久 正人] 春学期授業/Spring	1802
【LA103】	社会・イノベーション論Ⅱ [糸久 正人] 秋学期授業/Fall	1804
【LA104】	中小企業論 [糸久 正人] 春学期授業/Spring	1806
【LA105】	地域産業論Ⅰ [加藤 寛之] 春学期授業/Spring	1808
【LA106】	地域産業論Ⅱ [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall	1809
【LA107】	産業社会学Ⅰ [恵羅 さとみ] 春学期授業/Spring	1810
【LA108】	産業社会学Ⅱ [恵羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	1811
【LA109】	国際経営論Ⅰ [多田 和美] 春学期授業/Spring	1812
【LA110】	国際経営論Ⅱ [多田 和美] 秋学期授業/Fall	1813
【LA111】	経済政策論 [北浦 康嗣] 春学期授業/Spring	1814
【LA112】	金融システム論 [松田 岳] 春学期授業/Spring	1815
【LA202】	環境経済学Ⅰ [明日香 壽川] 春学期授業/Spring	1817
【LA203】	環境経済学Ⅱ [明日香 壽川] 秋学期授業/Fall	1818

【LA206】 エネルギー論 [鞠子 茂] 秋学期授業/Fall	1819
【LA207】 気候変動論 [川村 賢二] 春学期授業/Spring	1820
【LA210】 社会保障法Ⅰ [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	1822
【LA211】 社会保障法Ⅱ [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	1823
【LA212】 環境政策論Ⅰ [高橋 洋] 春学期授業/Spring	1824
【LA213】 環境政策論Ⅱ [高橋 洋] 秋学期授業/Fall	1825
【LA303】 市民運動論 [竹元 秀樹] 春学期授業/Spring	1826
【LA304】 地方財政論 [早崎 成都] 秋学期授業/Fall	1827
【LA305】 地方自治論Ⅰ [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	1829
【LA306】 地方自治論Ⅱ [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall	1831
【LA308】 国際協力論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	1833
【LA309】 イスラム社会論 [岡野内 正] 春学期授業/Spring	1834
【LA310】 国際経済論Ⅰ [増田 正人] 春学期授業/Spring	1835
【LA311】 国際経済論Ⅱ [増田 正人] 秋学期授業/Fall	1837
【LB004】 社会学理論AⅠ [鈴木 智之] 春学期授業/Spring	1839
【LB005】 社会学理論AⅡ [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	1840
【LB006】 社会学理論BⅠ [佐藤 成基] 春学期授業/Spring	1841
【LB007】 社会学理論BⅡ [佐藤 成基] 秋学期授業/Fall	1842
【LB010】 理論社会学 [鈴木 智之] 春学期授業/Spring	1843
【LB011】 社会学史Ⅰ [徳安 彰] 春学期授業/Spring	1844
【LB012】 社会学史Ⅱ [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	1845
【LB013】 歴史社会学Ⅰ [鈴木 智道] 春学期授業/Spring	1846
【LB014】 歴史社会学Ⅱ [鈴木 智道] 秋学期授業/Fall	1847
【LB015】 数理社会学Ⅰ [斎藤 友里子] 春学期授業/Spring	1848
【LB016】 数理社会学Ⅱ [斎藤 友里子] 秋学期授業/Fall	1849
【LB017】 原典講読 [佐藤 成基] 秋学期授業/Fall	1850
【LB018】 社会学総合特講A [山田 唐波里] 春学期授業/Spring	1851
【LB019】 社会学総合特講B [堀川 三郎] 秋学期授業/Fall	1852
【LB026】 統計調査法 [斎藤 友里子] 春学期授業/Spring	1853
【LB102】 発達・教育の理論Ⅰ [山下 大厚] 春学期授業/Spring	1854
【LB103】 発達・教育の理論Ⅱ [山下 大厚] 秋学期授業/Fall	1855
【LB104】 家族社会学Ⅰ [菊澤 佐江子] 春学期授業/Spring	1856
【LB105】 家族社会学Ⅱ [菊澤 佐江子] 秋学期授業/Fall	1857
【LB106】 臨床社会学Ⅰ [三井 さよ] 春学期授業/Spring	1858
【LB107】 臨床社会学Ⅱ [三井 さよ] 秋学期授業/Fall	1859
【LB108】 社会心理学Ⅰ [渡邊 寛] 春学期授業/Spring	1860
【LB109】 社会心理学Ⅱ [渡邊 寛] 秋学期授業/Fall	1861
【LB110】 エイジングの社会学 [姫野 宏輔] 秋学期授業/Fall	1862
【LB202】 環境社会学Ⅰ [堀川 三郎] 春学期授業/Spring	1863
【LB203】 環境社会学Ⅱ [堀川 三郎] 秋学期授業/Fall	1864
【LB301】 文化社会学B [武田 俊輔] 秋学期授業/Fall	1865
【LB304】 文化人類学 [謝 荔] 春学期授業/Spring	1866
【LB305】 宗教社会学 [永井 美紀子] 春学期授業/Spring	1867
【LB306】 スポーツ文化論 [越部 清美] 秋学期授業/Fall	1868
【LB402】 国際社会学Ⅰ [久保山 亮] 春学期授業/Spring	1869
【LB403】 国際社会学Ⅱ [久保山 亮] 秋学期授業/Fall	1872
【LB404】 国際関係論Ⅰ [二村 まどか] 春学期授業/Spring	1876
【LB405】 国際関係論Ⅱ [二村 まどか] 秋学期授業/Fall	1877
【LB406】 国際社会と民族 [佐藤 成基] 春学期授業/Spring	1878
【LB407】 開発とジェンダー [吉村 真子] 秋学期授業/Fall	1879
【LB408】 地域研究 (ヨーロッパ) [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	1880
【LB409】 地域研究 (アジア) [吉村 真子] 春学期授業/Spring	1881
【LB410】 地域研究 (中国) [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	1882
【LD009】 メディアの思想 [小林 直毅] 秋学期授業/Fall	1883
【LD011】 社会問題とメディア [大森 翔子] 秋学期授業/Fall	1884
【LD012】 認知科学 [天野 陽一] 秋学期授業/Fall	1885
【LD013】 知的財産権法 [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	1886

【LD014】メディア法〔白田 秀彰〕秋学期授業/Fall	1887
【LD015】公共性と民主主義Ⅰ〔鈴木 宗徳〕春学期授業/Spring.....	1888
【LD016】公共性と民主主義Ⅱ〔鈴木 宗徳〕秋学期授業/Fall	1889
【LD023】特講（コミュニケーション・デザイン論）〔石寺 修三、青木 貞茂〕春学期授業/Spring	1890
【LD100】メディア文化論〔琴 仙姫〕春学期授業/Spring.....	1892
【LD103-a】広告・消費文化論〔青木 貞茂〕春学期授業/Spring.....	1894
【LD103-b】広告・消費文化論〔青木 貞茂〕秋学期授業/Fall	1895
【LD104】広告・PR論〔青木 貞茂〕秋学期授業/Fall	1896
【LD106】情報科学とコミュニケーション〔河合 政之〕秋学期授業/Fall.....	1897
【LD107】認知映像論〔河合 政之〕秋学期授業/Fall	1898
【LD200】消費者行動論〔木暮 美菜〕春学期授業/Spring.....	1899
【LD206】メディアの歴史〔小林 直毅〕春学期授業/Spring	1900
【LD210】メディアコンテンツ論〔藤田 真文〕春学期授業/Spring	1901
【LD213】空間メディア論Ⅰ〔森 幹彦〕春学期授業/Spring.....	1902
【LD214】空間メディア論Ⅱ〔森 幹彦〕秋学期授業/Fall	1903
【LD300】メディアテクノロジーと社会〔橋爪 絢子〕春学期授業/Spring	1904
【LD301】メディアテクノロジーと社会分析〔橋爪 絢子〕秋学期授業/Fall	1905
【LD303】社会ネットワーク論Ⅰ〔宇野 斉〕春学期授業/Spring.....	1906
【LD304】社会ネットワーク論Ⅱ〔宇野 斉〕秋学期授業/Fall	1907
【LD306】デジタル情報環境論〔土橋 臣吾〕春学期授業/Spring	1908
【LD307】デジタル情報環境分析〔土橋 臣吾〕秋学期授業/Fall	1909
【LD309】ソーシャルメディア論〔藤代 裕之〕春学期授業/Spring	1910
【LD310】ソーシャルメディア分析〔藤代 裕之〕秋学期授業/Fall	1911
専門教育科目_専門基幹科目【M1620】スポーツトレーニング論Ⅰ〔木村 新〕春学期授業/Spring.....	1912
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M1730】スポーツリスクマネジメント〔木下 訓光〕秋学期授業/Fall	1913
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1750】スポーツビジネス論Ⅰ〔片上 千恵〕秋学期授業/Fall	1915
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1790】スポーツコーチング論A〔荻部 俊二〕秋学期授業/Fall	1916
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3080】スポーツメディア論〔片上 千恵〕秋学期授業/Fall.....	1917
専門教育科目_専門基幹科目【M3170】スポーツビジネス論Ⅱ〔望月 拓実〕春学期授業/Spring	1918
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3230】マーケティングリサーチ実習〔山口 和真〕春学期授業/ Spring	1919
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3240】マーケティングリサーチ演習〔山口 和真〕秋学期授業/ Fall.....	1920
【N1001】地域問題入門〔野田 岳仁〕春学期授業/Spring	1921
【N1002】コミュニティマネジメント入門〔水野 雅男、図司 直也、土肥 将敦、野田 岳仁、杉浦 ちなみ〕春 学期授業/Spring	1922
【N1003】社会問題論〔高良 麻子〕春学期授業/Spring	1923
【N1006】心理学（2020年度以前入学者）〔服部 環〕春学期授業/Spring	1924
【N1006】心理学（2021年度以降入学者）〔服部 環〕春学期授業/Spring	1925
【N1050】福祉国家論〔渡辺 寛人〕秋学期授業/Fall.....	1926
【N1052】社会的包摂論〔水野 雅男〕秋学期授業/Fall	1927
【N1053】地域計画論〔杉浦 ちなみ〕秋学期授業/Fall	1928
【N1054】コミュニティビジネス論〔土肥 将敦〕秋学期授業/Fall	1929
【N1055】ローカルイノベーション論〔野田 岳仁、水野 雅男、図司 直也、土肥 将敦〕秋学期授業/Fall	1930
【N1059】アジア地域開発論（2021年度以降入学者）〔小林 尚朗〕春学期授業/Spring.....	1931
【N1059】アジア地域開発論（2020年度以前入学者）〔小林 尚朗〕春学期授業/Spring.....	1932
【N1101】社会福祉原理〔岩崎 晋也〕秋学期授業/Fall	1933
【N1102】医療政策論〔小磯 明〕オータムセッション/Autumn Session	1934
【N1107】都市住宅政策論〔水野 雅男〕春学期授業/Spring	1935
【N1108】地域文化政策論〔杉浦 ちなみ〕春学期授業/Spring	1936
【N1109】環境政策論〔藤澤 浩子〕春学期授業/Spring	1937
【N1110】地方自治論〔中嶋 学〕秋学期授業/Fall	1939
【N1113】地域経済論〔図司 直也〕秋学期授業/Fall.....	1941
【N1116】国際協力論〔小林 尚朗〕春学期授業/Spring	1942
【N1151】地域経営論〔遠藤 聖子〕春学期授業/Spring	1943
【N1152】ソーシャルイノベーション論〔土肥 将敦〕春学期授業/Spring	1945
【N1153】ソーシャルマネジメント論〔樋口 邦史〕春学期授業/Spring	1946

【N1154】	ソーシャルファイナンス論 [徳永 洋子] 春学期授業/Spring	1947
【N1155】	NPO論 [渡真利 紘一] 秋学期授業/Fall	1948
【N1156】	協同組合論 [西井 賢悟] 秋学期授業/Fall	1950
【N1158】	居住福祉論 [大原 一興] 春学期授業/Spring	1952
【N1160】	人権活動論 [寺中 誠] 春学期授業/Spring	1953
【N1161】	農山村とコミュニティ [図司 直也] 春学期授業/Spring	1954
【N1162】	コミュニティアート [吉野 裕之] 秋学期授業/Fall	1955
【N1164】	地域遺産マネジメント論 [須田 英一] 春学期授業/Spring	1956
【N1165】	地域ツーリズム [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	1957
【N1171】	ボランティアアクション (2020年度以前入学者) [高井 大輔] 秋学期授業/Fall	1958
【N1171】	ボランティアアクション (2021年度以降入学者) [高井 大輔] 秋学期授業/Fall	1959
【N1206】	老いの文化と福祉 [金 慧英] 秋学期授業/Fall	1960
【N1208】	セルフヘルプグループ [横川 剛毅] 春学期授業/Spring	1961
【N1211】	多文化ソーシャルワーク [伊藤 正子] 秋学期授業/Fall	1962
【N1212】	死生観とソーシャルワーク [安西 美咲] 春学期授業/Spring	1963
【N1219】	家族心理学 [松本 聡子] 秋学期授業/Fall	1964
【N1222】	コミュニティ心理学 [丹羽 郁夫] 春学期授業/Spring	1965
【N1223】	異文化心理学 [奥山 今日子] 春学期授業/Spring	1966
【N1225】	教育心理学特講 [金山 裕介] 春学期授業/Spring	1968
【N1453】	心理療法 [上倉 安代] 春学期授業/Spring	1969
【N1505】	臨床心理学特講 [末武 康弘] 秋学期授業/Fall	1970
【N1506】	精神分析学 [関谷 秀子] 秋学期授業/Fall	1971
【N1507】	児童精神医学 [関谷 秀子] 春学期授業/Spring	1972
【N1508】	認知行動療法 [金築 優] 秋学期授業/Fall	1973
【N1512】	グループアプローチ [大竹 直子] 秋学期授業/Fall	1974
【N1608】	精神生理学特講 [望月 聡] 春学期授業/Spring	1975
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)		
【Q0101】	情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	1976
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0102】 情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall		
		1977
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0103】 情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring		
		1978
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0104】 情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall		
		1979
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0105】 情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring		
		1980
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0106】 情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall		
		1981
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0107】 情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring		
		1982
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0108】 情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall		
		1983
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0109】 情報処理演習Ⅰ [中村 文隆] 春学期授業/Spring		
		1984
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0110】 情報処理演習Ⅱ [中村 文隆] 秋学期授業/Fall		
		1985
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0111】 情報処理演習Ⅰ [中村 文隆] 春学期授業/Spring		
		1986
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0112】 情報処理演習Ⅱ [中村 文隆] 秋学期授業/Fall		
		1987
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0113】 情報処理演習Ⅰ [河内谷 幸子] 春学期授業/Spring		
		1988
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0114】 情報処理演習Ⅱ [河内谷 幸子] 秋学期授業/Fall		
		1990
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0115】 情報処理演習Ⅰ [岡嶋 裕史] 春学期授業/Spring		
		1992

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0116】情報処理演習Ⅱ〔岡嶋 裕史〕秋学期授業/Fall.....	1993
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0117】情報処理演習Ⅰ〔岡嶋 裕史〕春学期授業/Spring.....	1994
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0118】情報処理演習Ⅱ〔岡嶋 裕史〕秋学期授業/Fall.....	1995
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0119】情報処理演習Ⅰ〔重定 如彦〕春学期授業/Spring.....	1996
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0120】情報処理演習Ⅱ〔重定 如彦〕秋学期授業/Fall.....	1998
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0121】情報処理演習Ⅰ〔重定 如彦〕春学期授業/Spring.....	2000
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0122】情報処理演習Ⅱ〔重定 如彦〕秋学期授業/Fall.....	2002
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0127】情報処理演習Ⅰ〔河内谷 幸子〕春学期授業/Spring.....	2004
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0128】情報処理演習Ⅱ〔河内谷 幸子〕秋学期授業/Fall.....	2006
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0129】情報処理演習Ⅰ〔河内谷 幸子〕春学期授業/Spring.....	2008
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0130】情報処理演習Ⅱ〔河内谷 幸子〕秋学期授業/Fall.....	2010
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0135】情報処理演習Ⅰ〔名兄耶 厚〕春学期授業/Spring.....	2012
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0136】情報処理演習Ⅱ〔名兄耶 厚〕秋学期授業/Fall.....	2013
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0137】情報処理演習Ⅰ〔名兄耶 厚〕春学期授業/Spring.....	2014
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0138】情報処理演習Ⅱ〔名兄耶 厚〕秋学期授業/Fall.....	2015
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0139】情報処理演習Ⅰ〔名兄耶 厚〕春学期授業/Spring.....	2016
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0140】情報処理演習Ⅱ〔名兄耶 厚〕秋学期授業/Fall.....	2017
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0141】情報処理演習Ⅰ〔名兄耶 厚〕春学期授業/Spring.....	2018
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0142】情報処理演習Ⅱ〔名兄耶 厚〕秋学期授業/Fall.....	2019
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0143】情報処理演習Ⅰ〔星 善光〕春学期授業/Spring.....	2020
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0144】情報処理演習Ⅱ〔星 善光〕秋学期授業/Fall.....	2021
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0145】情報処理演習Ⅰ〔星 善光〕春学期授業/Spring.....	2022
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0146】情報処理演習Ⅱ〔星 善光〕秋学期授業/Fall.....	2023
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0301】情報処理演習〔大間 哲〕春学期授業/Spring.....	2024
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0303】情報処理演習〔大間 哲〕春学期授業/Spring.....	2027
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0305】情報処理演習〔大間 哲〕春学期授業/Spring.....	2030
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0307】情報処理演習〔御園生 純〕春学期授業/Spring.....	2033
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0501】大学を知ろう <法政学>への招待〔小林 ふみ子、金子 匡良〕春学期授業/Spring.....	2035

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0503】法政学の探究L B〔北口 由望〕春学期授業/Spring.....	2037
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0504】法政学の探究L A〔高柳 俊男、北口 由望〕秋学期授業/Fall	2039
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1001】日本古典文学A〔表 きよし〕春学期授業/Spring	2041
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1002】日本古典文学B〔表 きよし〕秋学期授業/Fall.....	2043
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1003】日本古典文学A〔園 明美〕春学期授業/Spring.....	2045
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1004】日本古典文学B〔園 明美〕秋学期授業/Fall	2046
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1005】日本古典文学A〔成島 知子〕春学期授業/Spring	2047
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1006】日本古典文学B〔成島 知子〕秋学期授業/Fall.....	2049
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1007】日本古典文学A〔成島 知子〕春学期授業/Spring	2051
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1008】日本古典文学B〔成島 知子〕秋学期授業/Fall.....	2053
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1009】日本近・現代文学A〔細沼 祐介〕春学期授業/Spring.....	2055
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1010】日本近・現代文学B〔細沼 祐介〕秋学期授業/Fall	2056
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1013】日本文学A〔島田 雅彦〕春学期授業/Spring	2057
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1014】日本文学B〔島田 雅彦〕秋学期授業/Fall	2058
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1015】日本文学A〔関口 雄士〕春学期授業/Spring	2059
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1016】日本文学B〔関口 雄士〕秋学期授業/Fall	2060
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1017】外国文学A〔D. ハイデンライヒ〕春学期授業/Spring.....	2061
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1018】外国文学B〔D. ハイデンライヒ〕秋学期授業/Fall	2062
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1019】外国文学A〔近江屋 志穂〕春学期授業/Spring.....	2063
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1020】外国文学B〔近江屋 志穂〕秋学期授業/Fall	2064
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1021】外国文学A〔吉井 涼子〕春学期授業/Spring	2065
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1022】外国文学B〔吉井 涼子〕秋学期授業/Fall	2067
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1023】外国文学A〔吉井 涼子〕春学期授業/Spring	2069
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1024】外国文学B〔吉井 涼子〕秋学期授業/Fall	2071
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1027】日本近・現代文学A〔細沼 祐介〕春学期授業/Spring.....	2073
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1028】日本近・現代文学B〔細沼 祐介〕秋学期授業/Fall	2074
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1061】文章論〔安藤 優一〕春学期授業/Spring	2075
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1062】文章論〔関口 雄士〕春学期授業/Spring	2076

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1063】 文章論 [関口 雄士] 春学期授業/ Spring	2078
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1064】 文章論 [関口 雄士] 秋学期授業/Fall	2079
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1065】 文章論 [細沼 祐介] 春学期授業/ Spring	2081
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1069】 文章論 [細沼 祐介] 秋学期授業/Fall	2082
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1081】 言語学A [板井 美佐] 春学期授業/ Spring	2083
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1082】 言語学B [板井 美佐] 秋学期授業/ Fall.....	2084
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1083】 言語学A [副島 健作] 春学期授業/ Spring	2085
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1084】 言語学B [副島 健作] 秋学期授業/ Fall.....	2087
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1085】 言語学A [齊藤 雄介] 春学期授業/ Spring	2089
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1086】 言語学B [齊藤 雄介] 秋学期授業/ Fall.....	2090
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1093】 哲学I [計良 隆世] 春学期授業/ Spring	2091
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1094】 哲学II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	2092
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1095】 哲学I [伊藤 功] 春学期授業/Spring	2093
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1096】 哲学II [伊藤 功] 秋学期授業/Fall	2094
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1097】 哲学I [内山 真莉子] 春学期授業/ Spring	2095
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1098】 哲学II [内山 真莉子] 秋学期授業/ Fall.....	2096
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1099】 哲学I [内山 真莉子] 春学期授業/ Spring	2097
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1100】 哲学II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	2098
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1101】 哲学I [谷口 力] 春学期授業/Spring	2099
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1102】 哲学II [谷口 力] 秋学期授業/Fall	2100
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1103】 哲学I [大西 正人] 春学期授業/ Spring	2101
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1104】 哲学II [大西 正人] 秋学期授業/Fall	2102
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1105】 哲学I [近堂 秀] 春学期授業/Spring	2103
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1106】 哲学II [近堂 秀] 秋学期授業/Fall	2104
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1107】 哲学I [越部 良一] 春学期授業/ Spring	2105
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1108】 哲学II [越部 良一] 秋学期授業/Fall	2106
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1109】 哲学I [伊藤 功] 春学期授業/Spring	2107
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1110】 哲学II [伊藤 功] 秋学期授業/Fall	2108
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1121】 倫理学I [越部 良一] 春学期授業/ Spring	2109
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1122】 倫理学II [越部 良一] 秋学期授業/ Fall.....	2110
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1123】 倫理学I [杉本 隆久] 春学期授業/ Spring	2111
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1124】 倫理学II [杉本 隆久] 秋学期授業/ Fall.....	2112
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1125】 倫理学I [森村 修] 春学期授業/ Spring	2113
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1126】 倫理学II [森村 修] 秋学期授業/Fall	2114
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1127】 倫理学I [田島 樹里奈] 春学期授 業/Spring	2115
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1128】 倫理学II [田島 樹里奈] 秋学期授 業/Fall	2117

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1129】 倫理学Ⅰ [上田 瑞季] 春学期授業/ Spring	2119
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1130】 倫理学Ⅱ [上田 瑞季] 秋学期授業/ Fall.....	2120
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1131】 倫理学Ⅰ [佐藤 英明] 春学期授業/ Spring	2121
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1132】 倫理学Ⅱ [佐藤 英明] 秋学期授業/ Fall.....	2122
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1133】 倫理学Ⅰ [越部 良一] 春学期授業/ Spring	2123
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1134】 倫理学Ⅱ [越部 良一] 秋学期授業/ Fall.....	2124
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1141】 論理学Ⅰ [大西 正人] 春学期授業/ Spring	2125
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1142】 論理学Ⅱ [大西 正人] 秋学期授業/ Fall.....	2126
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1143】 論理学Ⅰ [鶴澤 和彦] 春学期授業/ Spring	2127
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1144】 論理学Ⅱ [鶴澤 和彦] 秋学期授業/ Fall.....	2129
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1145】 論理学Ⅰ [計良 隆世] 春学期授業/ Spring	2130
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1146】 論理学Ⅱ [計良 隆世] 秋学期授業/ Fall.....	2132
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1147】 論理学Ⅰ [鶴澤 和彦] 春学期授業/ Spring	2134
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1148】 論理学Ⅱ [鶴澤 和彦] 秋学期授業/ Fall.....	2136
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1149】 論理学Ⅰ [大貫 義久] 春学期授業/ Spring	2137
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1150】 論理学Ⅱ [大貫 義久] 秋学期授業/ Fall.....	2138
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1151】 論理学Ⅰ [計良 隆世] 春学期授業/ Spring	2139
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1152】 論理学Ⅱ [計良 隆世] 秋学期授業/ Fall.....	2141
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1153】 論理学Ⅰ [菅沢 龍文] 春学期授業/ Spring	2143
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1154】 論理学Ⅱ [菅沢 龍文] 秋学期授業/ Fall.....	2145
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1155】 論理学Ⅰ [相原 博] 春学期授業/ Spring	2147
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1156】 論理学Ⅱ [相原 博] 秋学期授業/Fall	2148
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1161】 東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授業/ Spring	2149
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1162】 東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	2150
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1163】 東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授業/ Spring	2151
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1164】 東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	2152
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1165】 東洋史Ⅰ [板橋 暁子] 春学期授業/ Spring	2153
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1166】 東洋史Ⅱ [板橋 暁子] 秋学期授業/ Fall.....	2154
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1167】 東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授業/ Spring	2155
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1168】 東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	2156

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1169】 東洋史Ⅰ [板橋 暁子] 春学期授業/ Spring	2157
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1170】 東洋史Ⅱ [板橋 暁子] 秋学期授業/ Fall.....	2158
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1181】 西洋史Ⅰ [大澤 広晃] 春学期授業/ Spring	2159
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1182】 西洋史Ⅱ [大澤 広晃] 秋学期授業/ Fall.....	2160
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1183】 西洋史Ⅰ [大澤 広晃] 春学期授業/ Spring	2161
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1184】 西洋史Ⅱ [大澤 広晃] 秋学期授業/ Fall.....	2162
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1185】 西洋史Ⅰ [内川 勇海] 春学期授業/ Spring	2163
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1186】 西洋史Ⅱ [渡辺 知] 秋学期授業/Fall	2164
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1187】 西洋史Ⅰ [内川 勇海] 春学期授業/ Spring	2166
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1188】 西洋史Ⅱ [渡辺 知] 秋学期授業/Fall	2167
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1201】 日本史Ⅰ [芳賀 和樹] 春学期授業/ Spring	2169
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1202】 日本史Ⅱ [芳賀 和樹] 秋学期授業/ Fall.....	2171
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1203】 日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授業/ Spring	2173
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1204】 日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授業/ Fall.....	2175
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1205】 日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授業/ Spring	2177
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1206】 日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授業/ Fall.....	2179
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1207】 日本史Ⅰ [真辺 美佐] 春学期授業/ Spring	2181
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1208】 日本史Ⅱ [真辺 美佐] 秋学期授業/ Fall.....	2182
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1209】 日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授業/ Spring	2183
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1210】 日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授業/ Fall.....	2185
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1211】 日本史Ⅰ [芳賀 和樹] 春学期授業/ Spring	2187
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1212】 日本史Ⅱ [芳賀 和樹] 秋学期授業/ Fall.....	2189
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1221】 宗教論Ⅰ [榎本 香織] 春学期授業/ Spring	2191
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1222】 宗教論Ⅱ [榎本 香織] 秋学期授業/ Fall.....	2192
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1223】 宗教論Ⅰ [古澤 有峰] 春学期授業/ Spring	2193
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1224】 宗教論Ⅱ [古澤 有峰] 秋学期授業/ Fall.....	2194
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1231】 芸術A [嘉藤 笑子] 春学期授業/ Spring	2195
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1232】 芸術B [嘉藤 笑子] 秋学期授業/Fall	2197
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1233】 芸術A [小澤 慶介] 春学期授業/ Spring	2199
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1234】 芸術B [小澤 慶介] 秋学期授業/Fall	2200

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1235】芸術A〔中川 三千代〕春学期授業/ Spring	2201
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1236】芸術B〔中川 三千代〕秋学期授業/ Fall.....	2203
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1301】日本文学と文化L A〔阿 部 真弓〕春学期授業/Spring	2205
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1302】日本文学と文化L B〔阿 部 真弓〕秋学期授業/Fall.....	2206
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1303】日本文学と文化L C〔中 司 由起子〕春学期授業/Spring	2207
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1304】日本文学と文化L D〔中 司 由起子〕秋学期授業/Fall	2208
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1307】日本文学と文化LG〔榎 本 正樹〕春学期授業/Spring	2209
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1308】日本文学と文化LH〔榎 本 正樹〕秋学期授業/Fall.....	2211
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1309】外国文学と文化L A〔鈴 木 正道〕春学期授業/Spring	2213
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1310】外国文学と文化L B〔鈴 木 正道〕秋学期授業/Fall.....	2215
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1311】外国文学と文化L C〔日 原 傳〕春学期授業/Spring	2217
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1312】外国文学と文化L D〔日 原 傳〕秋学期授業/Fall	2218
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1313】外国文学と文化L E〔大 崎 さやの〕春学期授業/Spring	2219
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1314】外国文学と文化L F〔大 崎 さやの〕秋学期授業/Fall	2220
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1315】文学と社会L A〔梶 裕 史〕春学期授業/Spring.....	2221
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1316】文学と社会L B〔梶 裕 史〕秋学期授業/Fall	2223
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1319】文学と社会L C〔白戸 満喜子〕春学期授業/Spring.....	2225
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1320】文学と社会L D〔白戸 満喜子〕秋学期授業/Fall	2226
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1321】文学と社会L E〔中澤 忠之〕春学期授業/Spring	2228
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1322】文学と社会L F〔中澤 忠之〕秋学期授業/Fall.....	2229
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1323】日本文学と文化LG〔榎 本 正樹〕春学期授業/Spring	2230
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1324】日本文学と文化LH〔榎 本 正樹〕秋学期授業/Fall.....	2232
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1362】音声学L〔副島 健作〕秋 学期授業/Fall	2234
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1385】哲学L A〔大西 正人〕春 学期授業/Spring	2235
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1386】哲学L B〔大西 正人〕秋 学期授業/Fall	2236
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1387】哲学L A〔白根 裕里枝〕 春学期授業/Spring	2237
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1388】哲学L B〔白根 裕里枝〕 秋学期授業/Fall.....	2238
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1389】哲学L C〔政井 啓子〕春 学期授業/Spring	2240

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1390】哲学L D [鈴木 由加里]	
秋学期授業/Fall	2241
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1391】倫理学L I [上田 瑞季]	
春学期授業/Spring	2243
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1392】倫理学L II [上田 瑞季]	
秋学期授業/Fall	2244
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1393】倫理学L I [佐藤 英明]	
春学期授業/Spring	2245
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1394】倫理学L II [佐藤 英明]	
秋学期授業/Fall	2246
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1395】倫理学L I [杉本 隆久]	
春学期授業/Spring	2247
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1396】倫理学L II [杉本 隆久]	
秋学期授業/Fall	2249
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1397】倫理学L I [伊藤 直樹]	
春学期授業/Spring	2251
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1398】倫理学L II [伊藤 直樹]	
秋学期授業/Fall	2252
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1399】倫理学L I [田島 樹里奈]	
春学期授業/Spring	2253
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1400】倫理学L II [田島 樹里奈]	
秋学期授業/Fall	2255
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1401】倫理学L I [森村 修]	
春学期授業/Spring	2257
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1402】倫理学L II [森村 修]	
秋学期授業/Fall	2259
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1411】論理学L I [佐々木 護]	
春学期授業/Spring	2261
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1412】論理学L II [佐々木 護]	
秋学期授業/Fall	2262
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1425】東洋史L A [水上 香織]	
春学期授業/Spring	2263
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1426】東洋史L B [水上 香織]	
秋学期授業/Fall	2264
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1427】東洋史L C [長谷部 圭彦]	
春学期授業/Spring	2265
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1428】東洋史L D [長谷部 圭彦]	
秋学期授業/Fall	2266
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1437】西洋史L A [内田 康太]	
春学期授業/Spring	2267
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1438】西洋史L B [皆川 卓]	
秋学期授業/Fall	2268
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1439】西洋史L C [渡辺 知]	
春学期授業/Spring	2270
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1440】西洋史L D [内川 勇海]	
秋学期授業/Fall	2272
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1441】日本史L I [森 朋久]	
春学期授業/Spring	2273
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1442】日本史L II [森 朋久]	
秋学期授業/Fall	2274
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1443】日本史L I [仁平 義孝]	
春学期授業/Spring	2275
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1444】日本史L II [仁平 義孝]	
秋学期授業/Fall	2276
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1445】日本史L I [貫井 裕恵]	
春学期授業/Spring	2277

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1446】日本史ⅡⅡ [貫井 裕恵] 秋学期授業/Fall	2278
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1447】日本史ⅡⅠ [鈴木 多聞] 春学期授業/Spring	2279
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1448】日本史ⅡⅡ [鈴木 多聞] 秋学期授業/Fall	2280
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1451】宗教論ⅡⅠ [古澤 有峰] 春学期授業/Spring	2281
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1452】宗教論ⅡⅡ [古澤 有峰] 秋学期授業/Fall	2282
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1471】西洋史ⅡⅡ [竹下 和亮] 春学期授業/Spring	2283
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1472】西洋史ⅡⅡ [内川 勇太] 秋学期授業/Fall	2284
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2001】法学Ⅰ [山本 圭子] 春学期授業/ Spring	2285
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2002】法学Ⅱ [山本 圭子] 秋学期授業/Fall	2286
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2003】法学Ⅰ [山口 哲史] 春学期授業/ Spring	2287
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2004】法学Ⅱ [山口 哲史] 秋学期授業/Fall	2288
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2005】法学Ⅰ [村元 宏行] 春学期授業/ Spring	2289
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2006】法学Ⅱ [村元 宏行] 秋学期授業/Fall	2290
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2007】法学Ⅰ [吉村 千冬] 春学期授業/ Spring	2291
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2008】法学Ⅱ [吉村 千冬] 秋学期授業/ Fall	2292
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2009】法学Ⅰ [陳 志明] 春学期授業/Spring	2293
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2010】法学Ⅱ [陳 志明] 秋学期授業/Fall	2294
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2011】法学Ⅰ [水野 圭子] 春学期授業/ Spring	2295
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2012】法学Ⅱ [水野 圭子] 秋学期授業/Fall	2297
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2013】法学Ⅰ [山口 哲史] 春学期授業/ Spring	2299
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2014】法学Ⅱ [山口 哲史] 秋学期授業/Fall	2300
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2017】法学Ⅰ [吉岡 郁美] 春学期授業/ Spring	2301
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2018】法学Ⅱ [吉岡 郁美] 秋学期授業/Fall	2302
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2031】法学（日本国憲法）[金子 匡良] 春 学期授業/Spring	2303
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2032】法学（日本国憲法）[金子 匡良] 秋 学期授業/Fall	2304
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2033】法学（日本国憲法）[茂木 洋平] 春 学期授業/Spring	2305
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2034】法学（日本国憲法）[茂木 洋平] 秋 学期授業/Fall	2306
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2041】経済学Ⅰ [玉之内 直] 春学期授業/ Spring	2307
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2042】経済学Ⅱ [玉之内 直] 秋学期授業/ Fall	2308
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2043】経済学Ⅰ [千葉 千尋] 春学期授業/ Spring	2309
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2044】経済学Ⅱ [千葉 千尋] 秋学期授業/ Fall	2310
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2045】経済学Ⅰ [梅溪 健児] 春学期授業/ Spring	2311

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2046】 経済学Ⅱ [梅溪 健児] 秋学期授業/ Fall.....	2312
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2049】 経済学Ⅰ [玉之内 直] 春学期授業/ Spring	2313
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2050】 経済学Ⅱ [玉之内 直] 秋学期授業/ Fall.....	2314
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2061】 マクロ経済学Ⅰ [平田 英明] 春学 期授業/Spring	2315
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2062】 マクロ経済学Ⅱ [平田 英明] 秋学 期授業/Fall.....	2317
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2063】 マクロ経済学Ⅰ [平田 英明] 春学 期授業/Spring	2319
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2064】 マクロ経済学Ⅱ [平田 英明] 秋学 期授業/Fall.....	2321
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2071】 心理学Ⅰ [望月 由紀子] 春学期授 業/Spring	2323
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2072】 心理学Ⅱ [望月 由紀子] 秋学期授 業/Fall	2324
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2073】 心理学Ⅰ [久木田 敦志] 春学期授 業/Spring	2325
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2074】 心理学Ⅱ [久木田 敦志] 秋学期授 業/Fall	2326
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2075】 心理学Ⅰ [望月 由紀子] 春学期授 業/Spring	2327
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2076】 心理学Ⅱ [望月 由紀子] 秋学期授 業/Fall	2328
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2077】 心理学Ⅰ [浅川 希洋志] 春学期授 業/Spring	2329
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2078】 心理学Ⅱ [浅川 希洋志] 秋学期授 業/Fall	2330
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2079】 心理学Ⅰ [浅川 希洋志] 春学期授 業/Spring	2332
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2080】 心理学Ⅱ [浅川 希洋志] 秋学期授 業/Fall	2333
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2081】 心理学Ⅰ [櫻井 登世子] 春学期授 業/Spring	2335
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2082】 心理学Ⅱ [櫻井 登世子] 秋学期授 業/Fall	2336
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2083】 心理学Ⅰ [櫻井 登世子] 春学期授 業/Spring	2337
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2084】 心理学Ⅱ [櫻井 登世子] 秋学期授 業/Fall	2338
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2085】 心理学Ⅰ [久木田 敦志] 春学期授 業/Spring	2339
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2086】 心理学Ⅱ [久木田 敦志] 秋学期授 業/Fall	2340
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2111】 地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授業/ Spring	2341
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2112】 地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授業/ Fall.....	2342
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2113】 地理学Ⅰ [前川 明彦] 春学期授業/ Spring	2343
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2114】 地理学Ⅱ [前川 明彦] 秋学期授業/ Fall.....	2345
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2115】 地理学Ⅰ [米家 志乃布] 春学期授 業/Spring	2347

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2116】 地理学Ⅱ [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	2348
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2117】 地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授業/Spring	2349
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2118】 地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授業/Fall	2350
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2119】 地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授業/Spring	2351
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2120】 地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授業/Fall	2352
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2131】 社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授業/Spring	2353
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2132】 社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	2354
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2133】 社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授業/Spring	2355
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2134】 社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	2356
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2135】 社会学Ⅰ [高橋 徹] 春学期授業/Spring	2357
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2136】 社会学Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fall	2358
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2137】 社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授業/Spring	2359
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2138】 社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	2360
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2139】 社会学Ⅰ [服部 あさこ] 春学期授業/Spring	2361
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2140】 社会学Ⅱ [服部 あさこ] 秋学期授業/Fall	2362
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2141】 社会学Ⅰ [橋本 みゆき] 春学期授業/Spring	2363
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2142】 社会学Ⅱ [橋本 みゆき] 秋学期授業/Fall	2364
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2143】 社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授業/Spring	2365
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2144】 社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	2366
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2145】 社会学Ⅰ [松下 優一] 春学期授業/Spring	2367
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2146】 社会学Ⅱ [松下 優一] 秋学期授業/Fall	2368
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2161】 政治学Ⅰ [及川 智洋] 春学期授業/Spring	2369
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2162】 政治学Ⅱ [及川 智洋] 秋学期授業/Fall	2370
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2163】 政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授業/Spring	2371
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2164】 政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall	2372
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2165】 政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授業/Spring	2373
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2166】 政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall	2374
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2167】 政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授業/Spring	2375
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2168】 政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授業/Fall	2376
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2169】 政治学Ⅰ [及川 智洋] 春学期授業/Spring	2377
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2170】 政治学Ⅱ [及川 智洋] 秋学期授業/Fall	2378
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2171】 政治学Ⅰ [面 一也] 春学期授業/Spring	2379

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2172】 政治学Ⅱ [面 一也] 秋学期授業/Fall	2380
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2173】 政治学Ⅰ [岡崎 加奈子] 春学期授業/Spring	2381
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2174】 政治学Ⅱ [岡崎 加奈子] 秋学期授業/Fall	2382
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2175】 政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授業/Spring	2383
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2176】 政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授業/Fall	2384
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2191】 文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授業/Spring	2385
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2193】 文化人類学 [渡辺 浩平] 春学期授業/Spring	2386
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2195】 文化人類学 [北原 卓也] 春学期授業/Spring	2387
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2199】 文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授業/Spring	2388
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2201】 文化人類学 [菊池 真理] 春学期授業/Spring	2389
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2203】 文化人類学 [菊池 真理] 春学期授業/Spring	2390
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2205】 文化人類学 [相田 豊] 春学期授業/Spring	2391
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2207】 文化人類学 [渡辺 浩平] 春学期授業/Spring	2393
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2209】 文化人類学 [石森 大知] 春学期授業/Spring	2394
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2211】 社会思想Ⅰ [村田 玲] 春学期授業/Spring	2395
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2212】 社会思想Ⅱ [村田 玲] 秋学期授業/Fall	2396
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2213】 社会思想Ⅰ [村田 玲] 春学期授業/Spring	2397
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2214】 社会思想Ⅱ [村田 玲] 秋学期授業/Fall	2398
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2215】 社会思想Ⅰ [林 嵩文] 春学期授業/Spring	2399
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2216】 社会思想Ⅱ [林 嵩文] 秋学期授業/Fall	2400
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2217】 社会思想Ⅰ [阿部 崇史] 春学期授業/Spring	2401
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2218】 社会思想Ⅱ [阿部 崇史] 秋学期授業/Fall	2402
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2219】 社会思想Ⅰ [洪 貴義] 春学期授業/Spring	2403
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2220】 社会思想Ⅱ [洪 貴義] 秋学期授業/Fall	2404
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2321】 経済学ⅠA [中平 千彦] 春学期授業/Spring	2405
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2322】 経済学ⅠB [中平 千彦] 秋学期授業/Fall	2407
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2323】 経済学ⅠA [鈴木 誠] 春学期授業/Spring	2409
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2324】 経済学ⅠB [鈴木 誠] 秋学期授業/Fall	2411
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2325】 経済学ⅠA [陳 文挙] 春学期授業/Spring	2413

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2326】 経済学L B [陳 文挙] 秋学期授業/Fall	2415
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2327】 経済学L A [小峯 敦] 春学期授業/Spring	2417
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2328】 経済学L B [小峯 敦] 秋学期授業/Fall	2419
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2341】 心理学L A [金子 楓] 春学期授業/Spring	2420
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2342】 心理学L B [金子 楓] 秋学期授業/Fall	2421
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2343】 心理学L A [金子 楓] 春学期授業/Spring	2422
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2344】 心理学L B [金子 楓] 秋学期授業/Fall	2423
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2351】 地理学L A [関戸 明子] 春学期授業/Spring	2424
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2352】 地理学L B [朝倉 慎人] 秋学期授業/Fall	2425
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2353】 地理学L C [片岡 義晴] 春学期授業/Spring	2426
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2354】 地理学L D [片岡 義晴] 秋学期授業/Fall	2427
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2357】 地理学L A [関戸 明子] 春学期授業/Spring	2428
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2358】 地理学L B [朝倉 慎人] 秋学期授業/Fall	2429
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2359】 地理学L C [前川 明彦] 春学期授業/Spring	2430
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2360】 地理学L D [前川 明彦] 秋学期授業/Fall	2432
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2361】 社会学L A [松下 優一] 春学期授業/Spring	2434
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2362】 社会学L B [松下 優一] 秋学期授業/Fall	2435
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2363】 社会学L C [徐 玄九] 春学期授業/Spring	2436
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2364】 社会学L D [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	2438
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2372】 政治学L B [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	2439
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2382】 文化人類学L [ベル 裕紀] 秋学期授業/Fall	2440
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2384】 文化人類学L [渡辺 浩平] 秋学期授業/Fall	2442
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2386】 文化人類学L [北原 卓也] 秋学期授業/Fall	2443
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2390】 文化人類学L [ベル 裕紀] 秋学期授業/Fall	2444
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2392】 文化人類学L [菊池 真理] 秋学期授業/Fall	2446
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2394】 文化人類学L [渡辺 浩平] 秋学期授業/Fall	2447
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2396】 文化人類学L [相田 豊] 秋学期授業/Fall	2448
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2398】 文化人類学L [菊池 真理] 秋学期授業/Fall	2450

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2400】文化人類学L [石森 大知] 秋学期授業/Fall	2451
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2401】社会思想L A [洪 貴義] 春学期授業/Spring	2453
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2402】社会思想L B [洪 貴義] 秋学期授業/Fall	2454
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2403】社会思想L A [林 嵩文] 春学期授業/Spring	2455
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2404】社会思想L B [林 嵩文] 秋学期授業/Fall	2456
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2411】地理学L E [呉羽 正昭] 春学期授業/Spring	2457
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2412】地理学L F [加賀美 雅弘] 春学期授業/Spring	2458
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3001】教養数学A [平田 康史] 春学期授業/Spring	2459
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3002】教養数学B [平田 康史] 秋学期授業/Fall	2460
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3003】教養数学A [平田 康史] 春学期授業/Spring	2461
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3004】教養数学B [平田 康史] 秋学期授業/Fall	2462
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3005】教養数学A [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring	2463
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3006】教養数学B [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	2464
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3007】教養数学A [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring	2465
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3008】教養数学B [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	2466
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3011】教養数学A [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	2467
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3012】教養数学B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	2468
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3015】教養数学A [佐藤 洋祐] 春学期授業/Spring	2469
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3016】教養数学B [佐藤 洋祐] 秋学期授業/Fall	2470
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3017】教養数学A [佐藤 洋祐] 春学期授業/Spring	2471
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3018】教養数学B [佐藤 洋祐] 秋学期授業/Fall	2472
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3021】教養数学A [佐藤 洋祐] 春学期授業/Spring	2473
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3022】教養数学B [佐藤 洋祐] 秋学期授業/Fall	2474
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3031】基礎数学Ⅰ [若井 健太郎] 春学期授業/Spring	2475
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3032】基礎数学Ⅱ [若井 健太郎] 秋学期授業/Fall	2476
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3033】基礎数学Ⅰ [江口 直日] 春学期授業/Spring	2477
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3034】基礎数学Ⅱ [江口 直日] 秋学期授業/Fall	2478
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3035】基礎数学Ⅰ [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	2479

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3036】基礎数学Ⅱ [池田 宏一郎] 秋学期 授業/Fall	2480
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3037】基礎数学Ⅰ [若井 健太郎] 春学期 授業/Spring	2481
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3038】基礎数学Ⅱ [若井 健太郎] 秋学期 授業/Fall	2482
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3039】基礎数学Ⅰ [江口 直日] 春学期授 業/Spring	2483
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3040】基礎数学Ⅱ [江口 直日] 秋学期授 業/Fall	2484
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3041】基礎数学Ⅰ [井沼 学] 春学期授業/ Spring	2485
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3042】基礎数学Ⅱ [井沼 学] 秋学期授業/ Fall	2486
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3047】基礎数学Ⅰ [江口 直日] 春学期授 業/Spring	2487
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3048】基礎数学Ⅱ [江口 直日] 秋学期授 業/Fall	2488
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3051】入門物理学A [吉田 智] 春学期授 業/Spring	2489
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3052】入門物理学B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall	2490
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3053】入門物理学A [井坂 政裕] 春学期 授業/Spring	2491
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3054】入門物理学B [井坂 政裕] 秋学期 授業/Fall	2492
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3055】入門物理学A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring	2493
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3056】入門物理学B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall	2494
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3057】入門物理学A [鈴木 裕武] 春学期 授業/Spring	2495
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3058】入門物理学B [鈴木 裕武] 秋学期 授業/Fall	2497
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3059】入門物理学A [井坂 政裕] 春学期 授業/Spring	2499
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3060】入門物理学B [井坂 政裕] 秋学期 授業/Fall	2500
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3061】入門物理学A [吉田 智] 春学期授 業/Spring	2501
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3062】入門物理学B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall	2502
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3065】入門物理学A [鈴木 裕武] 春学期 授業/Spring	2503
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3066】入門物理学B [鈴木 裕武] 秋学期 授業/Fall	2505
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3081】入門生物学A [木原 章] 春学期授 業/Spring	2507
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3082】入門生物学B [木原 章] 秋学期授 業/Fall	2508
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3083】入門生物学A [木原 章] 春学期授 業/Spring	2510
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3084】入門生物学B [木原 章] 秋学期授 業/Fall	2511
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3085】入門生物学A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	2513

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3086】 入門生物学B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	2514
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3087】 入門生物学A [宇野 真介] 春学期 授業/Spring	2515
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3088】 入門生物学B [宇野 真介] 秋学期 授業/Fall	2517
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3089】 入門生物学A [宇野 真介] 春学期 授業/Spring	2519
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3090】 入門生物学B [宇野 真介] 秋学期 授業/Fall	2521
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3091】 入門生物学A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	2523
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3092】 入門生物学B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	2524
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3093】 入門生物学A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	2525
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3094】 入門生物学B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	2526
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3111】 入門化学A [田中 雅人] 春学期授 業/Spring	2527
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3112】 入門化学B [田中 雅人] 秋学期授 業/Fall	2528
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3113】 入門化学A [小林 令子] 春学期授 業/Spring	2529
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3114】 入門化学B [小林 令子] 秋学期授 業/Fall	2530
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3117】 入門化学A [田中 雅人] 春学期授 業/Spring	2531
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3118】 入門化学B [田中 雅人] 秋学期授 業/Fall	2532
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3119】 入門化学A [石塚 芽具美] 春学期 授業/Spring	2533
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3120】 入門化学B [石塚 芽具美] 秋学期 授業/Fall	2534
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3121】 入門化学A [小林 令子] 春学期授 業/Spring	2535
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3122】 入門化学B [小林 令子] 秋学期授 業/Fall	2536
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3125】 入門化学A [中田 和秀] 春学期授 業/Spring	2537
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3126】 入門化学B [中田 和秀] 秋学期授 業/Fall	2538
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3171】 天文学A [小野 宜昭] 春学期授業/ Spring	2539
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3172】 天文学B [小野 宜昭] 秋学期授業/ Fall	2540
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3173】 天文学A [水田 晃] 春学期授業/ Spring	2541
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3174】 天文学B [水田 晃] 秋学期授業/Fall	2542
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3175】 天文学A [小野 宜昭] 春学期授業/ Spring	2543
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3176】 天文学B [小野 宜昭] 秋学期授業/ Fall	2544
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3189】 科学論A [木島 泰三] 春学期授業/ Spring	2545
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3190】 科学論B [木島 泰三] 秋学期授業/ Fall	2547

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3191】科学論A [金光 秀和] 春学期授業/ Spring	2549
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3192】科学論B [金光 秀和] 秋学期授業/ Fall.....	2551
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3193】科学論A [木島 泰三] 春学期授業/ Spring	2553
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3194】科学論B [木島 泰三] 秋学期授業/ Fall.....	2555
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3201】数学特講L A [安東 祐 希] 春学期授業/Spring.....	2557
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3202】数学特講L B [安東 祐 希] 秋学期授業/Fall	2558
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3211】発展数学L I [倉田 俊 彦] 春学期授業/Spring.....	2559
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3212】発展数学L II [倉田 俊 彦] 秋学期授業/Fall	2560
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3213】発展数学L I [倉田 俊 彦] 春学期授業/Spring.....	2561
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3214】発展数学L II [倉田 俊 彦] 秋学期授業/Fall	2562
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3215】発展数学L I [池田 宏 一郎] 春学期授業/Spring	2563
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3216】発展数学L II [池田 宏 一郎] 秋学期授業/Fall.....	2564
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3221】教養物理学L A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	2565
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3222】教養物理学L A [石川 壮一] 秋学期授業/Fall.....	2566
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3223】教養物理学L B [吉田 智] 春学期授業/Spring.....	2567
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3224】教養物理学L B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	2568
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3225】教養物理学L A [石川 壮一] 秋学期授業/Fall.....	2569
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3226】教養物理学L C [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2570
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3231】教養生物学L A [野崎 久義] 春学期授業/Spring	2572
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3232】教養生物学L B [野崎 久義] 秋学期授業/Fall.....	2574
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3233】教養生物学L A [野崎 久義] 春学期授業/Spring	2576
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3234】教養生物学L B [野崎 久義] 秋学期授業/Fall.....	2578
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3241】教養生物学L C [町田 郁子] 春学期授業/Spring	2580
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3242】教養生物学L D [町田 郁子] 秋学期授業/Fall.....	2582
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3243】教養生物学L C [町田 郁子] 春学期授業/Spring	2584
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3244】教養生物学L D [町田 郁子] 秋学期授業/Fall.....	2586
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3261】教養化学L A [向井 知 大] 春学期授業/Spring.....	2588
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3262】教養化学L A [中田 和 秀] 秋学期授業/Fall	2589

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3263】教養化学L B [向井 知大] 春学期授業/Spring	2590
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3264】教養化学L B [西村 直美] 秋学期授業/Fall	2591
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3266】教養化学L A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2592
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3267】教養化学L C [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2593
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3268】教養化学L D [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	2594
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3269】教養化学L E [向井 知大] 秋学期授業/Fall	2595
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3301】サイエンス・ラボA [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2596
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3302】サイエンス・ラボB [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2597
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3303】サイエンス・ラボA [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2598
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3304】サイエンス・ラボB [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2599
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3305】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	2600
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3306】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2601
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3307】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2602
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3308】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2603
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3309】サイエンス・ラボA [工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2604
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3310】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2605
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3311】サイエンス・ラボA [工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2606
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3312】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2607
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3313】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2608
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3314】サイエンス・ラボB [土居 英男、島野 智之、石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2609
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3315】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2610
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3316】サイエンス・ラボB [土居 英男、島野 智之、石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2611
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3317】サイエンス・ラボA [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2612
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3318】サイエンス・ラボB [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2613
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3319】サイエンス・ラボA [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2614
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3320】サイエンス・ラボB [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2615
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3321】サイエンス・ラボA [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2616
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3322】サイエンス・ラボB [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2617

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3323】サイエンス・ラボA [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2618
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3324】サイエンス・ラボB [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2619
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3325】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	2620
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3326】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2621
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3327】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2622
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3328】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2623
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3329】サイエンス・ラボA [工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2624
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3330】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2625
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3331】サイエンス・ラボA [工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2626
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3332】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2627
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3333】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2628
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3334】サイエンス・ラボB [土居 英男、島野 智之、石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2629
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3335】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2630
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3336】サイエンス・ラボB [土居 英男、島野 智之、石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2631
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3337】サイエンス・ラボA [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2632
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3338】サイエンス・ラボB [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2633
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3339】サイエンス・ラボA [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2634
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3340】サイエンス・ラボB [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2635
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3341】サイエンス・ラボA [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2636
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3342】サイエンス・ラボB [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2637
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3343】サイエンス・ラボA [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2638
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3344】サイエンス・ラボB [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2639
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3345】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	2640
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3346】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2641
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3347】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2642
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3348】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2643
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3349】サイエンス・ラボA [工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2644
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3350】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2645

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3351】サイエンス・ラボA [工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2646
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3352】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2647
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3353】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2648
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3354】サイエンス・ラボB [土居 英男、島野 智之、石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2649
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3355】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2650
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3356】サイエンス・ラボB [土居 英男、島野 智之、石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2651
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3357】サイエンス・ラボA [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2652
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3358】サイエンス・ラボB [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2653
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3359】サイエンス・ラボA [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2654
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3360】サイエンス・ラボB [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2655
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_5群 (保健体育分野) 【Q5451】健康の科学L A [鈴木 康弘] 春学期授業/Spring	2656
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_5群 (保健体育分野) 【Q5452】健康の科学L B [鈴木 康弘] 秋学期授業/Fall	2658
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_5群 (保健体育分野) 【Q5453】健康の科学L A [谷本 都栄] 春学期授業/Spring	2659
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_5群 (保健体育分野) 【Q5454】健康の科学L B [谷本 都栄] 秋学期授業/Fall	2660
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6101】漢字・漢文学A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	2661
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6102】漢字・漢文学B [加納 留美子] 秋学期授業/Fall	2662
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6103】教養ゼミⅠ [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	2663
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6104】教養ゼミⅡ [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	2665
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6107】日本芸能論A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	2666
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6108】日本芸能論B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	2667
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6109】身体表現論A [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	2668
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6110】身体表現論B [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	2669
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6111】美術論A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	2670
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6112】美術論B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	2673
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6113】芸術と人間A [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	2675
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6114】芸術と人間B [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	2676
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6115】仏教思想論A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	2677
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6116】仏教思想論B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	2679
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6121】中国の民族と文化A [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	2681
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6122】中国の民族と文化B [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	2682
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6125】古代日本・中国の法と社会A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	2683
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6126】古代日本・中国の法と社会B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	2684

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6127】 アジア・太平洋島嶼国際関係史A〔新崎盛吾〕春学期授業/Spring	2685
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6128】 アジア・太平洋島嶼国際関係史B〔水谷明子〕秋学期授業/Fall.....	2687
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6129】 教養ゼミⅠ〔神谷 丹路〕春学期授業/Spring	2688
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6130】 教養ゼミⅡ〔神谷 丹路〕秋学期授業/Fall	2689
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6131】 クィア・スタディーズA〔LETIZIA GUARINI〕春学期授業/Spring	2690
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6132】 クィア・スタディーズB〔LETIZIA GUARINI〕秋学期授業/Fall.....	2692
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6133】 キリスト教思想史A〔鵜澤 和彦〕春学期授業/Spring	2694
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6134】 キリスト教思想史B〔鵜澤 和彦〕秋学期授業/Fall	2696
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6137】 異文化コミュニケーション論A〔山本 所のこ〕春学期授業/Spring	2698
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6138】 異文化コミュニケーション論B〔山本 所のこ〕秋学期授業/Fall.....	2700
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6141】 教養ゼミⅠ〔矢澤 美佐紀〕春学期授業/Spring	2702
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6142】 教養ゼミⅡ〔矢澤 美佐紀〕秋学期授業/Fall	2703
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6143】 イギリスと帝国A〔大澤 広晃〕春学期授業/Spring	2704
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6144】 イギリスと帝国B〔大澤 広晃〕秋学期授業/Fall	2705
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6145】 教養ゼミⅠ〔副島 健作〕春学期授業/Spring	2706
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6146】 教養ゼミⅡ〔副島 健作〕秋学期授業/Fall	2708
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6147】 徳と倫理A〔内山 真莉子〕春学期授業/Spring	2710
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6148】 徳と倫理B〔内山 真莉子〕秋学期授業/Fall	2711
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6149】 人間存在論A〔森村 修〕春学期授業/Spring	2712
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6150】 人間存在論B〔森村 修〕秋学期授業/Fall	2714
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6201】 法哲学A〔内藤 淳〕春学期授業/Spring	2716
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6202】 法哲学B〔内藤 淳〕秋学期授業/Fall ...	2718
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6203】 教養ゼミⅠ〔坂根 徹〕春学期授業/Spring	2720
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6204】 教養ゼミⅡ〔坂根 徹〕秋学期授業/Fall	2721
【Q6209】 人文地理学セミナーA〔増淵 敏之〕春学期授業/Spring	2722
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6209】 人文地理学セミナーA〔増淵 敏之〕春学期授業/Spring	2724
【Q6210】 人文地理学セミナーB〔増淵 敏之〕秋学期授業/Fall.....	2726
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6210】 人文地理学セミナーB〔増淵 敏之〕秋学期授業/Fall.....	2728
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6211】 文化人類学方法論A〔菊池 真理〕春学期授業/Spring	2730
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6212】 文化人類学方法論B〔菊池 真理〕秋学期授業/Fall	2732
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6215】 人間行動学A〔久木田 敦志〕春学期授業/Spring	2734
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6216】 人間行動学B〔久木田 敦志〕秋学期授業/Fall.....	2735
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6217】 教養ゼミⅠ〔浅川 希洋志〕春学期授業/Spring	2736
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6218】 教養ゼミⅡ〔浅川 希洋志〕秋学期授業/Fall	2737
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6219】 沖縄を考えるA〔中野 勝郎、大里 知子〕春学期授業/Spring	2738
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6220】 沖縄を考えるB〔中野 勝郎、大里 知子〕秋学期授業/Fall.....	2739

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6225】 ヨーロッパ政治経済論A [千葉 千尋] 春学期授業/Spring	2740
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6226】 ヨーロッパ政治経済論B [千葉 千尋] 秋学期授業/Fall	2741
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6303】 数理論理学A [安東 祐希] 春学期授業/Spring	2743
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6304】 数理論理学B [安東 祐希] 秋学期授業/Fall	2744
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6305】 計算と言語のしくみ [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	2745
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6306】 コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	2746
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6307】 確率の世界A [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	2747
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6308】 確率の世界B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	2748
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6311】 相対性理論と宇宙A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	2749
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6312】 相対性理論と宇宙B [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2750
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6313】 現代の錬金術A [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2751
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6314】 現代の錬金術B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2752
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6315】 原子核と素粒子A [吉田 智] 春学期授業/Spring	2753
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6316】 原子核と素粒子B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	2754
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6317】 教養ゼミⅠ [島野 智之] 春学期授業/Spring	2755
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6318】 教養ゼミⅡ [島野 智之] オータムセッション/Autumn Session	2757
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6323】 イオンの科学A [向井 知大] 春学期授業/Spring	2759
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6324】 イオンの科学B [向井 知大] 秋学期授業/Fall	2760
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6327】 物質の科学A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2761
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6328】 物質の科学B [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	2762
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6329】 ITリテラシー [児玉 靖司] 春学期授業/Spring	2763
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6330】 コンピュータ科学 [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall	2764
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6335】 人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	2765
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6336】 Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	2767
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6337】 ボルボックス生物論A [植木 紀子] 春学期授業/Spring	2769
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6338】 ボルボックス生物論B [植木 紀子] 秋学期授業/Fall	2770
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6339】 教養ゼミⅠ [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2771
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6340】 教養ゼミⅡ [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	2772
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6341】 バイオイメーシングの世界A [木原 章] 春学期授業/Spring	2773
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6342】 バイオイメーシングの世界B [木原 章] 秋学期授業/Fall	2774
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6343】 環境の科学A [田中 雅人] 春学期授業/Spring	2775

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6344】環境の科学B [田中 雅人] 秋学期授業/Fall	2776
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6403】Issues in Modern Japanese Society A [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	2777
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6404】Issues in Modern Japanese Society B [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	2778
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6421】第三外国語としてのドイツ語A [林 志津江] 春学期授業/Spring	2779
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6422】第三外国語としてのドイツ語B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	2781
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6423】ドイツ語コミュニケーション中級A [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	2782
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6424】ドイツ語コミュニケーション中級B [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	2783
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6425】教養ゼミⅠ [上田 知夫] 春学期授業/Spring	2784
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6426】教養ゼミⅡ [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	2785
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6427】ドイツの思想A [吉田 敬介] 春学期授業/Spring	2786
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6428】ドイツの思想B [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall	2787
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6429】カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏A [林 志津江] 春学期授業/Spring	2788
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6430】カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	2790
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6431】比較文化A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	2792
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6432】比較文化B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	2793
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6437】ドイツ語圏の公共哲学A [上田 知夫] 春学期授業/Spring	2794
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6438】ドイツ語圏の公共哲学B [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	2795
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6439】ドイツ語圏の歴史A [辻 英史] 春学期授業/Spring	2796
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6440】ドイツ語圏の歴史B [辻 英史] 秋学期授業/Fall	2798
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6441】ドイツ語講読A [吉田 敬介] 春学期授業/Spring	2799
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6442】ドイツ語講読B [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall	2801
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6501】スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	2803
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6502】スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	2805
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6505】スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	2807
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6506】スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	2809
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6507】スポーツ科学A [白井 隆長] 春学期授業/Spring	2811
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6508】スポーツ科学B [白井 隆長] 秋学期授業/Fall	2813
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6509】スポーツ科学A [武井 敦彦] 春学期授業/Spring	2815
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6510】スポーツ科学B [武井 敦彦] 秋学期授業/Fall	2817
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6511】スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	2819

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6512】 スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授業/ Fall.....	2821
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6513】 スポーツ科学A [吉田 康伸] 春学期授業/ Spring	2823
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6514】 スポーツ科学B [吉田 康伸] 秋学期授業/ Fall.....	2824
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6517】 スポーツ科学A [中澤 史] 春学期授業/ Spring	2825
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6518】 スポーツ科学B [中澤 史] 秋学期授業/Fall	2827
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6519】 スポーツ科学A [魚住 智広] 春学期授業/ Spring	2829
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6520】 スポーツ科学B [魚住 智広] 秋学期授業/ Fall.....	2830
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6529】 スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業/ Spring	2831
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6530】 スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業/ Fall.....	2833
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6534】 エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A [林 容市] 春学期授業/Spring	2835
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6535】 エビデンスから学ぶ健康と身体の変化B [林 容市] 秋学期授業/Fall	2837
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6538】 スポーツ科学A [朝比奈 茂] 春学期授業/ Spring	2839
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6539】 スポーツ科学B [朝比奈 茂] 秋学期授業/ Fall.....	2841
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6540】 教養ゼミⅡ [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	2843
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6601】 第三外国語としてのフランス語A [廣松 勲] 春学期授業/Spring.....	2845
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6602】 第三外国語としてのフランス語B [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	2846
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6605】 教養ゼミⅠ [大中 一彌] サマーセッション/ Summer Session.....	2847
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6606】 教養ゼミⅡ [大中 一彌] オータムセッション/ Autumn Session	2849
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6607】 教養ゼミⅠ [ルルー 清野 ブレンダン] 春 学期授業/Spring	2851
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6608】 教養ゼミⅡ [ルルー 清野 ブレンダン] 秋 学期授業/Fall	2853
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6609】 フランス語コミュニケーション(中・上級)A [ルルー 清野 ブレンダン] 春学期授業/Spring	2855
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6610】 フランス語コミュニケーション(中・上級)B [ルルー 清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall	2857
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6701】 第三外国語としてのロシア語A [佐藤 裕 子] 春学期授業/Spring.....	2859
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6702】 第三外国語としてのロシア語B [佐藤 裕 子] 秋学期授業/Fall	2860
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6703】 第三外国語としてのロシア語中級A [エレ ナ 三神] 春学期授業/Spring	2861
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6704】 第三外国語としてのロシア語中級B [エレ ナ 三神] 秋学期授業/Fall.....	2862
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6705】 実用ロシア語A [エレナ 三神] 春学期 授業/Spring	2863
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6706】 実用ロシア語B [エレナ 三神] 秋学期 授業/Fall	2864
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6707】 ロシア語講読A [木部 敬] 春学期授業/ Spring	2865
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6708】 ロシア語講読B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	2866

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6709】 時事ロシア語A [油本 真理] 春学期授業/ Spring	2867
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6710】 時事ロシア語B [油本 真理] 秋学期授業/ Fall.....	2868
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6801】 第三外国語としての中国語A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	2869
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6802】 第三外国語としての中国語B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall.....	2870
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6803】 第三外国語としての中国語中級A [木村 佳代子] 春学期授業/Spring.....	2871
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6804】 第三外国語としての中国語中級B [木村 佳代子] 秋学期授業/Fall	2872
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6805】 中国語視聴覚中級A [劉 渴水] 春学期授 業/Spring	2873
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6806】 中国語視聴覚中級B [劉 渴水] 秋学期授 業/Fall	2874
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6807】 中国語作文中級A [楊 心苗] 春学期授業/ Spring	2875
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6808】 中国語作文中級B [楊 心苗] 秋学期授業/ Fall.....	2876
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6809】 中国語コミュニケーション中級A [周 重 雷] 春学期授業/Spring.....	2877
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6810】 中国語コミュニケーション中級B [周 重 雷] 秋学期授業/Fall	2878
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6811】 中国語翻訳・通訳A [王 安] 春学期授業/ Spring	2879
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6812】 中国語翻訳・通訳B [王 安] 秋学期授業/ Fall.....	2880
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6817】 中国語講読中級A [岩田 和子] 春学期授 業/Spring	2881
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6818】 中国語講読中級B [岩田 和子] 秋学期授 業/Fall	2882
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6821】 資格中国語上級A [任 麗潔] 春学期授業/ Spring	2883
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6822】 資格中国語上級B [任 麗潔] 秋学期授業/ Fall.....	2884
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6823】 教養ゼミⅠ [岩田 和子] 春学期授業/Spring	2885
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6824】 教養ゼミⅡ [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	2886
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6901】 第三外国語としてのスペイン語A [杉下 由紀子] 春学期授業/Spring.....	2887
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6902】 第三外国語としてのスペイン語B [杉下 由紀子] 秋学期授業/Fall	2888
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6905】 スペイン語上級A [佐々木 直美] 春学期 授業/Spring.....	2889
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6906】 スペイン語上級B [佐々木 直美] 秋学期 授業/Fall	2890
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6907】 スペイン語コミュニケーション中級A [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring.....	2891
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6908】 スペイン語コミュニケーション中級B [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	2893
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6909】 教養ゼミⅠ [久木 正雄] 春学期授業/Spring	2895
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6910】 教養ゼミⅡ [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	2896
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6911】 スペイン語講読A [若林 大我] 春学期授 業/Spring	2897
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6912】 スペイン語講読B [若林 大我] 秋学期授 業/Fall	2898

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2301】英語オーラル・コミュニケーションⅠ [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	2899
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2302】英語オーラル・コミュニケーションⅡ [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	2901
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2303】英語オーラル・コミュニケーションⅠ [CHRISTOPHER MASCHIO] 春学期授業/Spring	2903
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2304】英語オーラル・コミュニケーションⅡ [CHRISTOPHER MASCHIO] 秋学期授業/Fall	2904
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2351】ビジネス・イングリッシュⅠ [JOHN REILLY] 春学期授業/Spring	2905
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2352】ビジネス・イングリッシュⅡ [JOHN REILLY] 秋学期授業/Fall	2906
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2353】ビジネス・イングリッシュⅠ [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	2907
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2354】ビジネス・イングリッシュⅡ [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	2908
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2381】English Reading and VocabularyⅠ [ウォルター カズマー] 春学期授業/Spring	2909
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2382】English Reading and VocabularyⅡ [ウォルター カズマー] 秋学期授業/Fall	2910
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2383】English Reading and VocabularyⅠ [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	2911
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2384】English Reading and VocabularyⅡ [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	2912
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2391】English Academic WritingⅠ [PAUL K KALLENDER] 春学期授業/Spring	2913
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2392】English Academic WritingⅡ [PAUL K KALLENDER] 秋学期授業/Fall	2915
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2395】English Academic WritingⅠ [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	2917
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2396】English Academic WritingⅡ [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	2919
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2401】英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	2921
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2402】英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	2923
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2403】英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [根本 怜奈] 春学期授業/Spring	2925
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2404】英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [根本 怜奈] 秋学期授業/Fall	2926
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2405】英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [舟橋 美香] 春学期授業/Spring	2927
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2406】英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall	2929
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2407】英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [鈴木 博雄] 春学期授業/Spring	2931
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2408】英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [鈴木 博雄] 秋学期授業/Fall	2932
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2409】英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [金谷 優子] 春学期授業/Spring	2933
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2410】英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [金谷 優子] 秋学期授業/Fall	2935
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2411】英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [大曲 陽子] 春学期授業/Spring	2937
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R2412】英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [大曲 陽子] 秋学期授業/Fall	2939

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2441】 English Presentation I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	2941
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2442】 English Presentation II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	2943
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2443】 English Presentation I [JOHN REILLY] 春学期授業/Spring	2945
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2444】 English Presentation II [JOHN REILLY] 秋学期授業/Fall	2946
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2445】 English Presentation I [コートランド デイビッド スミス] 春学期授業/Spring	2947
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2446】 English Presentation II [コートランド デイビッド スミス] 秋学期授業/Fall	2949
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2451】 英語アカデミック・リーディング I [岩崎 博] 春学期授業/Spring	2951
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2452】 英語アカデミック・リーディング II [岩崎 博] 秋学期授業/Fall	2953
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2481】 英語検定試験対策 I [妻鹿 裕子] 春学期授業/Spring	2955
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2482】 英語検定試験対策 II [妻鹿 裕子] 秋学期授業/Fall	2956
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2483】 英語検定試験対策 I [青山 恵子] 春学期授業/Spring	2957
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2484】 英語検定試験対策 II [青山 恵子] 秋学期授業/Fall	2958
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2485】 英語検定試験対策 I [小堀 洋] 春学期授業/Spring	2959
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2486】 英語検定試験対策 II [小堀 洋] 秋学期授業/Fall	2960
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2487】 英語検定試験対策 I [高橋 佳江] 春学期授業/Spring	2961
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2488】 英語検定試験対策 II [高橋 佳江] 秋学期授業/Fall	2963
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2601】 Oral Communication I [板橋 美也] 春学期授業/Spring	2965
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2602】 Oral Communication II [板橋 美也] 秋学期授業/Fall	2966
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2611】 English through Movies and Drama I [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	2967
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2612】 English through Movies and Drama II [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	2968
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2613】 English through Movies and Drama I [舟橋 美香] 春学期授業/Spring	2969
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2614】 English through Movies and Drama II [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall	2970
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2621】 TOEIC(R) I [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	2971
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2622】 TOEIC(R) II [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	2972
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2623】 TOEIC(R) I [板橋 美也] 春学期授業/Spring	2973
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2624】 TOEIC(R) II [板橋 美也] 秋学期授業/Fall	2974
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2631】 英語検定試験対策 I [青山 恵子] 春学期授業/Spring	2975
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2632】 英語検定試験対策 II [青山 恵子] 秋学期授業/Fall	2976

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2641】 Business Communication I [今井 澄子] 春学期授業/Spring	2977
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2642】 Business Communication II [今井 澄子] 秋学期授業/Fall	2979
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2651】 ニュース英語 I [塩谷 幸子] 春学期授業/Spring	2981
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2652】 ニュース英語 II [塩谷 幸子] 秋学期授業/Fall	2982
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4281】 ドイツ語コミュニケーション I [JENS OSTWALD] 春学期授業/Spring	2983
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4282】 ドイツ語コミュニケーション II [JENS OSTWALD] 秋学期授業/Fall	2984
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4283】 ドイツ語表現法 I [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	2985
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4284】 ドイツ語表現法 II [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	2986
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R4295】 ドイツ語の世界 L A [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	2987
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R4296】 ドイツ語の世界 L B [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	2988
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R4297】 ドイツの文化と社会 L A [小川 敦] 春学期授業/Spring	2990
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R4298】 ドイツの文化と社会 L B [小川 敦] 秋学期授業/Fall	2991
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5271】 フランス語の世界 L A [廣松 勲] 春学期授業/Spring	2992
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5272】 フランス語の世界 L B [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	2994
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5273】 フランス語コミュニケーション(初級) I [ニコラ ガイヤール] 春学期授業/Spring	2996
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5274】 フランス語コミュニケーション(初級) II [ニコラ ガイヤール] 秋学期授業/Fall	2997
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5279】 時事フランス語 I [大中 一彌] 春学期授業/Spring	2998
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5280】 時事フランス語 II [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	3001
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5291】 フランスの文化と社会 L A [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	3004
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5292】 フランスの文化と社会 L B [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	3006
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5295】 フランス生活文化論 L A [梶谷 彩子] 春学期授業/Spring	3008
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R5296】 フランス生活文化論 L B [梶谷 彩子] 秋学期授業/Fall	3010
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R6241】 ロシア語の世界 L A [木部 敬] 春学期授業/Spring	3011
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R6242】 ロシア語の世界 L B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	3012
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R6243】 ロシアの文化と社会 L A [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	3014
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野) 【R6244】 ロシアの文化と社会 L B [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	3016
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R6245】 検定のロシア語 A [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	3018
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R6246】 検定のロシア語 B [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	3019

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R7413】中国語コミュニケーション初級Ⅰ [周 重雷] 春学期授業/Spring.....	3020
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R7414】中国語コミュニケーション初級Ⅱ [周 重雷] 秋学期授業/Fall.....	3021
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R7433】中国語視聴覚初級Ⅰ [劉 渴水] 春学期授業/Spring.....	3022
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R7434】中国語視聴覚初級Ⅱ [劉 渴水] 秋学期授業/Fall.....	3023
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R7437】資格中国語初級Ⅰ [青木 正子] 春学期授業/Spring.....	3024
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R7438】資格中国語初級Ⅱ [青木 正子] 秋学期授業/Fall.....	3025
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7445】中国語の世界ⅠA [高柳 浩平] 春学期授業/Spring.....	3026
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7446】中国語の世界ⅠB [高柳 浩平] 秋学期授業/Fall.....	3027
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7447】中国の文化と社会ⅠA [山本 律] 春学期授業/Spring.....	3028
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7448】中国の文化と社会ⅠB [山本 律] 秋学期授業/Fall.....	3029
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7449】中国の文化と社会ⅠC [陳 瀟瀟] 春学期授業/Spring.....	3030
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7450】中国の文化と社会ⅠD [陳 瀟瀟] 秋学期授業/Fall.....	3032
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R8301】スペイン語コミュニケーションⅠ [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring.....	3034
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R8302】スペイン語コミュニケーションⅡ [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall.....	3035
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R8303】現代のスペイン語Ⅰ [久木 正雄] 春学期授業/Spring.....	3036
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R8304】現代のスペイン語Ⅱ [久木 正雄] 秋学期授業/Fall.....	3037
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R8305】スペイン語の世界ⅠA [佐々木 直美] 春学期授業/Spring.....	3038
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R8306】スペイン語の世界ⅠB [佐々木 直美] 秋学期授業/Fall.....	3039
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R9283】朝鮮語4BⅠ(視聴覚) [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring.....	3040
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R9284】朝鮮語4BⅡ(視聴覚) [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall.....	3041
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R9285】朝鮮語5AⅠ(講読) [荻野 優子] 春学期授業/Spring.....	3042
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R9286】朝鮮語5AⅡ(講読) [荻野 優子] 秋学期授業/Fall.....	3043
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R9287】朝鮮語5BⅠ(表現法) [神谷 丹路] 春学期授業/Spring.....	3044
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R9288】朝鮮語5BⅡ(表現法) [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall.....	3045
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R9291】朝鮮語4CⅠ(コミュニケーション) [乾 浩] 春学期授業/Spring.....	3046
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R9292】朝鮮語4CⅡ(コミュニケーション) [乾 浩] 秋学期授業/Fall.....	3047

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法 I

金子 匡良

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の土台を成す立憲主義とそれが成立した歴史的経緯を概観した上で、国民主権などの日本国憲法の基本原理、および人権の分類や主体などの人権に関わる総論的な事項について学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

【到達目標】

- ①立憲主義の内容およびその歴史的背景について理解する。
- ②日本国憲法の基本原理、特に国民主権の規範内容について理解する。
- ③人権の分類と個々の権利の特質について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントを教材にして、対面の講義形式で行う。質問に対する回答やアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	立憲主義の意義	法体系における憲法の意義と機能、および立憲主義の意義について学ぶ。
第3回	憲法の内容と特質	憲法を構成する規範内容と憲法の特質および憲法の類型について学ぶ。
第4回	憲法の歴史①：近代憲法の成立	近代国家と近代憲法の成立過程について学ぶ。
第5回	憲法の歴史②：現代憲法の成立	近代国家から現代国家への変容と、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ。
第6回	日本憲法史	明治憲法と日本国憲法の対比、および日本国憲法成立の法理について学ぶ。
第7回	天皇制	象徴天皇制の意義および天皇の国事行為について学ぶ。
第8回	国民主権	国民主権の意義とその規範的意味について学ぶ。
第9回	平和主義	平和主義の内容と戦力不保持規定の意義について学ぶ。
第10回	人権の類型	人権の類型と個々の人権の特質、および新しい人権について学ぶ。
第11回	人権の享有主体	人権の享有主体、特に外国人の人権享有主体性について学ぶ。
第12回	人権の限界	人権の限界、特に公共の福祉の規範的意味について学ぶ。
第13回	人権の私人間効力	人権の私人間効力に関する学説と判例について学ぶ。

第14回 人権の国際的保障 国際人権条約の意義と人権条約の国内適用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントに沿って行う。

【参考書】

入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法 I・II 〔第2版〕』（日評ベーシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法 I・II』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選 I・II』（有斐閣、2019年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う定期試験の点数によって成績を評価する（100％）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度向上のために、なるべく平易な解説を心がけるようにしたい。

【その他の重要事項】**【実務経験のある教員による授業】**

授業担当者は、国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

【Outline (in English)】

In this class, we first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, we learn about the history and the fundamental principles of the Constitution of Japan. Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by WebClass. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100AB (法学 / law 100)

憲法Ⅱ**金子 匡良**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本国憲法に規定された個々の人権について、保障内容と特質を明らかにした上で、その権利に関する学説・判例を学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

【到達目標】

- ①日本国憲法が保障する人権の体系について理解する。
- ②個々の人権の保障内容について理解する。
- ③個々の人権に関する論点と、その論点に関する学説・判例を理解する。
- ④現代社会の様々な人権問題について、憲法学的な視点から分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントに沿って、対面形式の講義で行う。質問に対する回答やリアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	人権の類型	日本国憲法が保障する人権の体系と類型について学ぶ。
第3回	法の下での平等（平等権）	法の下での平等の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第4回	思想・良心の自由	思想・良心の自由の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第5回	信教の自由	信教の自由の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第6回	政教分離原則	政教分離原則の内容、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第7回	表現の自由①：表現の自由の内容	表現の自由およびそこから派生する権利の内容について学ぶ。
第8回	表現の自由②：表現の自由の限界	表現の自由の限界について、それに関する学説・判例を中心に学ぶ。
第9回	経済的自由権	経済的自由権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第10回	身体的自由権	身体的自由権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。

第11回	社会権①：生存権	生存権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第12回	社会権②：教育を受ける権利・労働基本権	教育を受ける権利と労働基本権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第13回	参政権	参政権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第14回	国務請求権	国務請求権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントに沿って行う。

【参考書】

入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ〔第2版〕』（日評ベシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、2019年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う定期試験の点数によって成績を評価する（100％）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度を高めるため、なるべく平易な解説を心がけるようにしたい。

【その他の重要事項】**【実務経験のある教員による授業】**

授業担当者は、国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the content and characteristics of the individual human rights guaranteed by the Constitution of Japan, and then study theories and judicial precedents concerning these rights.

Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by WebClass. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法 I

高橋 正明

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H-N・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法総論及び人権総論について学び、これらの分野の基本的知識を習得するとともに、憲法問題に関する洞察力を深め、憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。この授業は全てのコースに配置されている。

【到達目標】

- ①基本的知識を習得した上で、具体的な憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。
- ②憲法が日々の生活において果たす機能・役割を知るとともに、市民の間で価値観や利害の対立が生じる背景について洞察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

基本的事項に関する講義を行った後、講義内容を復習するための演習問題を解き、解説を行うという流れで進行する。授業はレジュメに沿って進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 憲法を学ぶ上での前提知識	授業の全体像、授業の進め方、参考書について説明する。 憲法と法律の違い、法解釈の方法について学ぶ。
第2回	憲法の意味 判例の意味 統治機構・権力分立	学習上、最初に理解しておくべき憲法の基本概念・用語（憲法の意味、判例の意味、統治機構の概要）について学ぶ。
第3回	日本憲法史	明治憲法と日本国憲法それぞれの制定・運用過程について検討し、その違い・特徴を学ぶ。
第4回	平和主義	憲法9条の解釈、自衛隊を巡る問題などについて学ぶ。
第5回	国民主権・天皇制	国民主権の意味や、象徴天皇制に関する諸論点について学ぶ。
第6回	違憲審査制 人権の分類・歴史	憲法判例を分析する上で前提となる違憲審査制の概要について学ぶ。 人権の分類とそれぞれの特徴、人権の歴史的展開について学ぶ。
第7回	人権の限界 人権の主体（1）	公共の福祉、違憲審査の基準について学ぶ。 天皇・皇族、法人の人権について学ぶ。
第8回	人権の主体（2）	こども、外国人の人権（総論・在留制度）について学ぶ。
第9回	人権の主体（3）	外国人の参政権、外国人に認められるその他の人権について学ぶ。

第10回	人権の私人間適用	私人間効力の基本的考え方、判例や具体的な適用方法について学ぶ。
第11回	幸福追求権（1）	幸福追求権の基本的な考え方、自己決定権（医療行為関係）について学ぶ。
第12回	幸福追求権（2）	自己決定権（生殖、ライフスタイル、家族形成）について学ぶ。
第13回	幸福追求権（3）	プライバシー権（個人情報保護）について学ぶ。
第14回	平等－総論	平等問題についての基本的な考え方や判例の判断枠組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、授業に関連する参考書や事前に配布されるレジュメを読む。

授業後は、レジュメやノートを基に授業の内容を振り返りつつ、レジュメの文章題の回答を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】

【基本書】

〈入門的なもの〉

中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）

〈標準的なもの〉

新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

〈発展的なもの〉

毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法I 総論・統治』『憲法II 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）

【判例集】

〈入門的なもの〉

小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）

〈標準的なもの〉

長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選I・II』第7版（有斐閣、2019年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

- ①私語などの迷惑行為については厳しく対処するので、注意すること。
- ②レジュメは、学習支援システムにアップするので、各自で印刷し、持参するか、パソコンで見られる状態にすること。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this course, students will learn the general theories of constitutional law and human rights, gaining insight into constitutional issues, developing ability to solve them logically.

< Learning Objectives >

The objective of this course is to cultivate ability to solve the specific constitutional issues logically, to know the role of constitution in our daily life, and to cultivate insight into backgrounds of those issues.

< Learning activities outside of classroom >

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法Ⅱ

高橋 正明

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H・N・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法に規定された個別の人権規定について学び、人権各論分野の基本的知識を習得するとともに、憲法問題に関する洞察力を深め、憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。この授業は全てのコースに配置されている。

【到達目標】

- ①人権各論分野に関する基本的知識を習得した上で、具体的な憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。
 ②憲法、とりわけ個別の人権規定が日々の生活において果たす機能・役割を知るとともに、市民の間で価値観や利害の対立が生じる背景について洞察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

基本的事項に関する講義を行った後、講義内容を復習するための演習問題を解き、解説を行うという流れで進行する。授業はレジュメに沿って進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 前期授業の振り返り 平等（2）－家族形成	秋学期授業の進め方について説明する。 憲法訴訟の基本枠組みと、人権論の基本的考え方について確認をする。 平等の各論的問題として家族形成に関する判例について学ぶ。
第2回	思想・良心の自由	思想・良心の自由に関する基本的な考え方と、判例の展開（君が代伴奏・起立斉唱）について学ぶ。
第3回	信教の自由と政教分離（1）	信教の自由に関する判例について学ぶ。
第4回	信教の自由と政教分離（2）	政教分離に関する判例について学ぶ。
第5回	表現の自由（1）	表現の自由の特徴（優越的地位、二重の基準）について説明した上で、判例を素材に内容規制・内容中立規制について学ぶ。
第6回	表現の自由（2）	表現の自由とプライバシー・名誉毀損との調整問題について判例を素材に学ぶ。
第7回	表現の自由（3） 学問の自由	集会の自由に関する判例について学ぶ。 学問の自由の意味や現代的課題について学ぶ。
第8回	経済的自由権（1）	職業選択の自由の意義や関連する判例について学ぶ。
第9回	経済的自由権（2）	財産権に関する基本的考え方、判例の展開について学ぶ。

第10回	生存権	生存権の法的性格や、判例理論について学ぶ。
第11回	教育を受ける権利 労働基本権	教育を受ける権利の法的性格について学ぶ。 労働基本権の法的性格、関連する判例について学ぶ。
第12回	公務員の労働基本権 及び政治活動の自由	公務員の労働基本権、政治活動の自由に対してどのような制約があるかを確認し、関連する判例の展開について学ぶ。
第13回	人身の自由	憲法31条の適正法定手続の内容と、関連する判例について学ぶ。
第14回	参政権 国務請求権	参政権の性質及び関連する判例について学ぶ。 国務請求権の性格・種類について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、授業に関連する参考書や事前に配布されるレジュメを読む。

授業後は、レジュメやノートを基に授業の内容を振り返りつつ、レジュメの文章題の回答を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）

【参考書】**【基本書】**

〈入門的なもの〉

中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）

〈標準的なもの〉

新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

〈発展的なもの〉

毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法I 総論・統治』『憲法II 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）

【判例集】

〈入門的なもの〉

小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）

〈標準的なもの〉

長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

- ①私語などの迷惑行為については厳しく対処するので、注意すること。
 ②レジュメは、学習支援システムにアップするので、各自で印刷し、持参するか、パソコンで見られる状態にすること。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this course, students will learn about constitutional rights guaranteed by individual constitutional provisions, gaining insight into constitutional issues, developing ability to solve them logically.

< Learning Objectives >

The objective of this course is to cultivate ability to solve the specific human rights issues logically, to know the role of constitutional rights in our daily life, and to cultivate insight into backgrounds of those issues.

< Learning activities outside of classroom >

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法Ⅲ**國分 典子**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「行政・公共政策と法」コースに位置づけられるものとして、憲法の統治機構の諸問題を扱います。立法、行政、司法という水平的権力分立と中央と地方という垂直的権力分立の二つの側面から、日本の統治機構のあり方を勉強します。また、立憲主義の発展過程の中で権力分立制がどのように展開されてきたか、さらにそれが民主主義論とどのように結びついているのかを比較法的な視点も踏まえて考察します。

【到達目標】

日本国憲法における権力分立制のあり方を通し、民主主義と立憲主義の関係を理解することが目標です。具体的には、国会、内閣、裁判所、地方自治に関する憲法上のトピックを学び、統治機構の枠組とその現代的変化の状況を把握することを目指します。また振り返って権力分立制がなぜ必要なのか、日本の政治社会の動向の中で統治のしくみがどうあるべきなのかを自ら考えてゆく力を身につけることをも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど〇×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと本講義の序論	授業の進め方について 権力分立制の歴史的展開と現代的変化
2	権力分立	日本国憲法における権力分立制の枠組と日本国憲法下の天皇制の位置づけ
3	国民主権	国民主権の意味
4	選挙	日本国憲法下の選挙制度とその諸問題
5	国会（1）	国会の権限と活動
6	国会（2）	国会議員の地位
7	内閣（1）	日本国憲法における議院内閣制と内閣の権限を巡る諸問題
8	内閣（2）	総理大臣の地位と権限
9	これまでのまとめ	日本の議院内閣制の比較法的位置づけ
10	裁判所（1）	司法の機能
11	裁判所（2）	司法権の限界
12	裁判所（3）	裁判所の組織と司法権の独立
13	地方自治	地方自治を巡る諸問題
14	これまでのまとめ	後半のまとめと全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で挙げる参考書を事前に読んで授業に臨みます。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、関連判例などを自分で調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題に関心をもって、憲法との関連で考えてみるようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（出版社は指定しないので、使いやすいものを選ぶこと。）

【参考書】

憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすいものをいくつか挙げておきます。

〈入門的なもの〉

中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）

〈標準的なもの〉

新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

〈発展的なもの〉

毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法I 総論・統治』『憲法II 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

やコンパクトなものとして、

小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
などがあります。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80％）及び理解度確認テスト（20％）により評する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

もう少し時事的な内容を加味して授業をできるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ等の資料は学習支援システムにアップしますので、あらかじめダウンロードして授業に臨んでください。

【Outline (in English)】

This lecture will focus on the issues of government institutions in terms of comparative perspectives of constitution.

At the end of the course, students are expected to understand the relationship between democracy and Constitutionalism.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB (法学 / law 200)

憲法Ⅳ

国分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政・公共政策と法」コースに位置づけられる科目として、日本国憲法のトピックのうち、違憲審査制、安全保障、財政などの論点について講義を行います。授業では、比較憲法的な視点も踏まえながら、近代立憲主義とその現代の変容という視点から、日本国憲法がどのような民主主義および立憲主義のあり方を想定しているのかをを学んでいきます。

【到達目標】

日本国憲法における違憲審査制、安全保障の問題、憲法保障、財政に関する論点を理解するようにします。またそれらを通じて、現代日本における政治的な問題について法的視点から考え、判断できる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど〇×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。授業の際も受け付けますが、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと違憲審査制（1）	違憲審査制の歴史と諸類型
2	違憲審査制（2）	憲法訴訟の基礎
3	違憲審査制（3）	憲法判断の方法
4	違憲審査制（4）	判例の展開
5	違憲審査制（5）	違憲審査の基準論とその問題
6	これまでのまとめ	違憲審査についてのまとめ
7	安全保障（1）	日本国憲法の想定する平和と安全
8	安全保障（2）	安全保障を巡る変化と政府見解
9	安全保障（3）	安全保障を巡る現代的課題と憲法
10	安全保障（4）	判例の分析
11	財政（1）	財政民主主義
12	財政（2）	財政に関する憲法的論点
13	憲法保障	国家緊急権と抵抗権
14	民主主義と立憲主義	民主主義論からみた本授業のトピックの意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】

憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすいようなものをいくつか挙げておきます。

〈入門的なもの〉

中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）

〈標準的なもの〉

新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法Ⅰ 総論・統治』『憲法Ⅱ 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

〈発展的なもの〉

毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ 総論・統治』『憲法Ⅱ 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）

また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

やコンパクトなものとして、
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）

などがあります。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）及び2回の理解度確認テスト（20％）により評価する予定です。なお、期末試験は定期試験期間外に行う可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に留意したい。また違憲審査論についての説明がわかりにくくなりがちなので、できるだけ平易な説明を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップし、理解度確認テストも学習支援システム上で行う予定です。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course will focus mainly on the issues of the constitutional review system, the fiscal system, and the national security under the Constitution of Japan.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to develop the ability to think and judge political issues in Japan from a legal perspective

(Learning Activities outside of Classroom)

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

現代情報法 I

鈴木 秀美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々生起する「情報や表現（言論）」に関わる問題をきっかけに、現在の日本の日常ではあまりにも当たり前のものとして、取り立てて意識することが少ないであろう「表現の自由」を、半期の講義を通して問い直します。いったいなぜ、表現の自由なのか、何が守られるべき権利なのかを考えます。ソーシャルメディアによる投稿のように、表現活動とその限界は私たちの生活のあらゆる場面において問題となりうるので、どのコースとの関係でも意義のある授業内容です。

【到達目標】

表現の自由の基本原則、メディア・ジャーナリズム活動を支える法・社会制度について、その全体像のイメージを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

なぜ民主主義の社会において表現の自由が大切なのかという視点から、表現の自由の意味や保障の限界、名誉やプライバシーと表現の自由の調整の仕方、国家秘密や裁判の公正のための取材・報道に対する制限をめぐる裁判例、ジャーナリストに憲法上認められた特別扱いとはどのようなものかについて学びます。具体的な事例を手がかりに、それがどのように解決されており、その解決の仕方によどのような問題があるかを検討します。ジャーナリストを目指す人だけでなく、ソーシャルメディアによる情報発信者として誰でも知っておくべき表現の自由についての基礎知識を解説します。授業で扱う個別テーマの順番や内容は変更する可能性があります。

なお、授業形態は「対面授業」です。第1回のオリエンテーションは対面としますが、第2回から第7回までの6回はオンライン（オンデマンド）で授業を行う予定です。

毎回、「学習支援システム」でレジュメのデータを配布します。対面授業に際しては、教室で印刷したレジュメも配布します。オンライン授業の場合、「学習支援システム」を通じて授業動画へのアクセス方法を連絡します。また、「学習支援システム」に各回授業についての質問欄を設けます。質問には個別に回答するほか、必要に応じて授業の中でも解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	表現の自由1	名誉毀損総論
第3回	表現の自由2	名誉毀損各論
第4回	表現の自由3	プライバシーの侵害
第5回	表現の自由4	犯罪報道とその限界
第6回	表現の自由5	事前差止め
第7回	表現の自由6	表現の内容規制と内容中立規制
第8回	表現の自由7	ヘイトスピーチ規制（外国）
第9回	表現の自由8	ヘイトスピーチ規制（日本）
第10回	取材の自由・報道の自由1	法廷カメラ取材の規制を中心に
第11回	取材の自由・報道の自由2	取材源の証言強制
第12回	取材の自由・報道の自由3	取材資料の提出強制と取材の自由

第13回 取材の自由・報道の自由4 国家秘密と取材の自由

第14回 取材の自由・報道の自由5 特定秘密と取材の自由

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。復習にあたっては、各回レジュメの確認問題で理解度をセルフチェックしたうえで、冒頭に書かれている論述問題の答案を作成してみるとよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

鈴木秀美＝山田健太編著『よくわかるメディア法〔第2版〕』（ミネルバ書房、2019年）

【参考書】

長谷部恭男ほか編『メディア判例百選〔第2版〕』有斐閣、2018年
 松井茂記『マスメディア法入門〔第5版〕』日本評論社、2013年
 山田健太『法とジャーナリズム〔第3版〕』学陽書房、2014年
 ＊このほかは配布する授業レジュメに記載します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に実施する論述式の筆記試験（持込不可）によります（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

各回のテーマがどのような問題なのかについての気づきや理解のきっかけとなるよう、各回のテーマに関連する判例や具体的事件を手がかりにするようにします。

【その他の重要事項】

この授業では、表現の自由についての発展的問題や応用問題を扱います。この授業を履修するためには、まえもって、憲法（人権）の授業を履修しておくか、自分で憲法の教科書のなかの表現の自由についての解説を読んでおくといよいでしょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the Information Law (defamation, hate speech law, freedom of the press and State secret etc.). (Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. (Grading Criteria) Your overall grade in the Class will be decided based on Term-end examination: 100%.

LAW200AB (法学 / law 200)

現代情報法Ⅱ

鈴木 秀美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々生起する「情報や表現（言論）」に関わる問題をきっかけに、現在の日本の日常ではあまりにも当たり前のものとして、取り立てて意識することが少ないであろう「表現の自由」を問い直す。いったいなぜ、表現の自由なのか、何が守られるべき権利なのかを、放送法、インターネット法、情報公開法、個人情報保護法を中心に考えます。テレビ番組の政治的公平性や真実性、また、ソーシャルメディアによるプライバシー権や肖像権の侵害など、表現活動とその限界は私たちの生活のあらゆる場面において問題となりうるので、どのコースとの関係でも意義のある授業内容です。

【到達目標】

放送とインターネットを支える法・社会制度について、また、情報公開法と個人情報保護法について、その全体像のイメージを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

なぜ民主主義の社会において表現の自由が大切なのか、なぜ政治がメディアに圧力をかけてはいけないのかという視点から、放送法や放送倫理、インターネット法やインターネットリテラシー、情報公開法などについて学びます。また、なぜ自分が自分らしくあるためにプライバシーは保護されるべきなのかという視点から個人情報保護法についても学びます。具体的事例を手がかりに、それがどのように解決されており、その解決の仕方にどのような問題があるかを検討します。テレビ局やIT企業で働くことを目指す人だけでなく、視聴者として、また、ソーシャルメディアによる情報発信者として誰もが知っておくべき基礎知識を解説します。授業で扱う個別テーマの順番や内容は変更する可能性があります。

なお、授業形態は「対面授業」です。第1回は対面としますが、第2回から第7回までの6回はオンライン（オンデマンド）で授業を行う予定です。

毎回、「学習支援システム」でレジュメのデータを配布します。対面授業に際しては、教室で印刷したレジュメも配布します。オンライン授業の場合、「学習支援システム」を通じて授業動画へのアクセス方法を連絡します。また、「学習支援システム」に各回授業についての質問欄を設けます。質問には個別に回答するほか、必要に応じて授業の中でも解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	放送法制1	放送制度の概要
第2回	放送法制2	番組編集準則の合憲性
第3回	放送法制3	「真実」確保のための放送法の仕組み
第4回	放送法制4	訂正放送と反論権
第5回	放送法制5	公共放送の仕組みと役割
第6回	放送法制6	放送法制における法的規制と自主規制
第7回	インターネット法1	インターネット上の表現の自由
第8回	インターネット法2	プロバイダの責任
第9回	インターネット法3	検索結果削除請求権（忘れられる権利?）
第10回	インターネット法4	ソーシャルメディア法規制

第11回	インターネット法5	インターネット上の青少年保護
第12回	情報公開・個人情報保護1	知る権利はどのように法制度として具体化されているか?
第13回	情報公開法・個人情報保護2	自己情報コントロール権はどのように法制度として具体化されているか? メディア適用除外はなぜ認められているか?
第14回	情報公開法・個人情報保護法3	情報公開制度と個人情報保護制度はどのような関係にあるか?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。復習にあたっては、各回レジュメの確認問題で理解度をセルフチェックしたうえで、レジュメ冒頭に書かれている論述問題の答案を作成してみるとよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

鈴木秀美＝山田健太編著『よくわかるメディア法〔第2版〕』ミネルヴァ書房、2019年

【参考書】

鈴木秀美＝山田健太編著『放送制度概論』商事法務、2011年
松井茂記＝鈴木秀美＝山口いつ子『インターネット法』有斐閣、2015年
長谷部恭男ほか編『メディア判例百選〔第2版〕』有斐閣、2018年
松井茂記『マスメディア法入門〔第5版〕』日本評論社、2013年
山田健太『法とジャーナリズム〔第3版〕』学陽書房、2014年
*そのほかの参考書は授業レジュメに記載します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に実施する論述式の筆記試験（持込不可）によります（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

各回のテーマがどのような問題なのかについての気づきや理解のきっかけとなるよう、各回のテーマに関連する判例や具体的事件を手がかりにするようにします。

【その他の重要事項】

この授業では、表現の自由についての発展的問題や応用問題を扱います。この授業を履修するためには、まえもって、憲法（人権）の授業を履修しておくか、自分で憲法の教科書のなかの表現の自由についての解説を読んでおくといよいでしょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the Information Law (broadcasting law, internet Law, official information disclosure system, personal information protection system etc.). (Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. (Grading Criteria) Your overall grade in the Class will be decided based on Term-end examination: 100%.

LAW300AB（法学 / law 300）

国際社会と憲法 I

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西欧の近現代憲法史の流れの中で、「外見的立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴とその成立背景、そして立憲主義間の対立を学ぶ。そのうえで、現代のイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の基本的特徴、各国憲法に共通する「現代立憲主義」化の特徴と21世紀のグローバル立憲主義への対応状況についても考察する。

本授業は、「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」に属する。

【到達目標】

西欧の近現代憲法史の流れの中で、「外見的立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴とその成立背景、そして立憲主義間の対立を理解できるようになる。現代のイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の基本的な特徴を理解したうえで、それぞれの憲法の違いを超えて共通して存在する「現代立憲主義」化の傾向とそのような変化の基本的な要因を理解できるようになる。最後に、21世紀のグローバル立憲主義における西欧憲法原理の展開方向を見通す力を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

イギリス、フランス、ドイツの近現代憲法史を講義する中で、「外見的立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴と成立背景、及び立憲主義間の対立を解説する。その上で、20世紀以降、現在までのイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の特徴と変容を分析することで「現代立憲主義」の特徴と21世紀のグローバル立憲主義の展開方向を解説する。

授業はwebclassに事前にアップしたレジュメや資料を用い、レジュメに沿って講義中心で授業を進める。原則として毎授業後にwebclassを通じて小テストを課し、次の授業時にその内容を解説することを通じて授業内容の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と比較憲法の方法論、及び「近代市民憲法」成立の歴史的背景について講義する。
第2回	近代イギリス憲法（1）	イギリス市民革命とイギリスにおける近代立憲主義の成立について講義する。
第3回	近代イギリス憲法（2）	イギリスにおける議会政治の発達と近代立憲主義の確立について講義する。
第4回	現代イギリス憲法	現代イギリス憲法の特徴について講義する。
第5回	近代フランス憲法（1）	フランス革命期の「近代立憲主義」と「民衆型立憲主義」の対立について講義する。
第6回	近代フランス憲法（2）	フランス第3共和制における近代立憲主義の確立と現代立憲主義への変容の萌芽について講義する。

第7回	現代フランス憲法（1）	フランス第4共和制憲法の成立と崩壊、ならびに第5共和制憲法の成立について講義する。
第8回	現代フランス憲法（2）	フランス第5共和制憲法の特徴について講義する。
第9回	現代フランス憲法（3）	第5共和制憲法の特徴を引き続き講義したのちに、現在のフランス憲法の変容について講義する。
第10回	近代ドイツ憲法（1）	ドイツにおける近代立憲主義の困難性とフランクフルト憲法成立について講義する。
第11回	近代ドイツ憲法（2）	プロイセン憲法とドイツ帝国憲法の分析を踏まえつつ、「外見的立憲主義」について講義する。
第12回	現代ドイツ憲法（1）	ワイマール憲法について講義する。
第13回	現代ドイツ憲法（2）	現行ドイツ憲法の成立過程とその人権保障の特徴について講義する。
第14回	現代ドイツ憲法（3）	現行ドイツ憲法の統治機構面の特質、ならびに欧州統合におけるその変容について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

西欧近現代史について、毎回の講義の時間で扱われる予定の部分を自主的に勉強し、あるいは授業後に自主的に復習すること。また、イギリス、フランス、ドイツそれぞれについて、テキストの各国憲法の「概説」部分を予習すること。

受講生は可能な限り、webclassにアップした各回の授業内容ビデオ（オンデマンド式）と文字ベースの授業内容要旨を事前・又は事後に読了すること。加えて、同じくアップする予定の小テストに授業後に解答し、授業内容の確認に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初宿正典・辻村みよ子編『新解説世界憲法集（第5版）』2020年、三省堂、2,700円＋税

【参考書】

杉原泰雄『憲法の歴史～新たな比較憲法学のすすめ～』岩波書店（1996年）

辻村みよ子『比較憲法（第3版）』岩波書店（2018年）

辻村みよ子・糠塚康江『フランス憲法入門』三省堂（2012年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験又は定期試験に代わる期末レポート（80%）、初回アンケートへの参加と各回の小テストの合計（15%）、及び授業参加の積極度（5%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多いため進捗が遅れがちとなり、授業の最後で急ぐ傾向があるので、時間配分に留意するよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

予習や復習用にPC、タブレット、スマートフォン等の情報端末が必要。

【その他の重要事項】

レジュメや資料はwebclassで事前配布するので、特に対面式授業の場合は、必ず事前にプリントアウトして持参してほしい。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Lecture of some constitutional histories and their actual constitutionalism in the developed democratic countries like England, France and Germany.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to be able to understand some different characters of constitutionalism type between England, France and Germany and their futures under the globalization.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understanding the course content in following the lecture videos and some contents offered in the Hoppii.

【Grading Criteria/Politics】 Your overall grade in the class will be decided based on the following;

成績優秀者の他学部公開科目履修制度対象科目 発行日：2025/5/1

Term-end examination or report 80%, Total of short tests:15%,
and in-class contribution;5%.

LAW300AB（法学 / law 300）

国際社会と憲法Ⅱ

国分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代立憲主義は西洋の産物です。アジア諸国はそれを受容しつつ、自らの法文化と融合させて独自の憲法を発展させてきました。本講義は、東アジアの立憲主義が歴史的にどのように形成されたか、また国際社会のなかで東アジア地域の憲法がどのような特徴をもつものと考えられるかを比較法的視点をもって分析、理解するとともに近代立憲主義の意味をアジアの視点から考え直すことを目標とします。なお、この講義は、「行政・公共政策と法コース」および「国際社会と法コース」に属するものです。

【到達目標】

日本の近隣地域である韓国、台湾、中国の憲法を学ぶことによって、それぞれの政治体制の特徴を把握するとともに、それがこの地域の抱える特有の法的および政治的問題とどのように関係しているかを理解することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

歴史的背景を踏まえつつ、東アジア地域の今日の憲法状況を概観します。近代化や今日のアジア地域の変化に触れると同時に、東アジア地域で日本の憲法がどのような位置づけを有すると考えられるかも考察します。

時々、出席を兼ねて感想やわからなかった点等についての簡単なコメントを書いてもらい、わからなかった点に関しては、次の授業の際にお答えるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要、教科書、成績の基準等について説明する。
第2回	東アジアの近代国家形成と法	日本を含めた東アジア地域の近代化のなかでの立憲主義の発展について考える。
第3回	韓国の近現代史と憲法	日韓関係をも視野に入れつつ、韓国の憲法史を概観する。
第4回	韓国の憲法の特徴	韓国憲法の特徴と特殊性を検討する。
第5回	韓国の統治機構	韓国の統治機構を概観する。
第6回	韓国の司法と憲法裁判	韓国の法院と憲法裁判所の機能を概観する。
第7回	韓国の違憲審査制	韓国の違憲審査システムの特徴と問題点を考察する。
第8回	台湾の歴史と憲法	台湾の憲法の歴史的背景を概観する。
第9回	台湾の憲法状況	台湾の憲法の特徴と特殊性を概観する。
第10回	台湾の統治機構	台湾の統治機構を概観する。
第11回	中国憲法の形成過程	中華人民共和国の形成過程から中国憲法の特徴を考える。
第12回	中国憲法の特徴	中国憲法前文に見られる特徴を検討する。
第13回	中国の統治機構と人権	統治と人権の観点から中国憲法を概観する。

第14回 東アジアにおける日 戦後補償問題等を素材に東アジア地域における日本・日本法の位置づけを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から東アジア諸国の政治・社会状況について関心をもつようにします。また日本の憲法についての基礎知識についても復習しつつ授業に参加するようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中国や韓国の憲法条文を参照するために：

初宿正典・辻村みよ子編『新解説 世界憲法集』第5版三省堂2020年などの憲法集を各自用意してください（図書館等で本講義で扱う国の憲法をコピーするのも結構です）。韓国と台湾の憲法は、ネット上でも見るできるので、これについては授業の初日に説明します。中国憲法の2018年改正後の最新版の翻訳が出ているのは、おそらく前記の三省堂の憲法集のみではないかと思われます。

【参考書】

尹龍澤ほか編『コリアの法と社会』（日本評論社、2020年）、鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009年）、稲正樹・孝忠延夫・国分典子編『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010年）

【成績評価の方法と基準】

時々出してもらったコメントをもって平常点とし、平常点20%と学期末の筆記試験80%によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加者の問題関心を汲み取って説明する必要があると感じています。

【Outline (in English)】

〈Course Outline〉

This course will focus on the constitutional problems of East Asian country from the comparative point of view.

〈Learning Objectives〉

By studying the constitutions of Korea, Taiwan and China, students are expected to understand the characteristics of each political system and how they relate to the specific legal and political issues facing the region.

〈Learning activities outside of classroom〉

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

〈Grading Criteria〉

Final grade will be calculated according to the following process: comment papers (30%) and term-end examination (70%).

LAW200AB (法学 / law 200)

ジェンダーと法 I

寺原 真希子、三浦 徹也

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダーという言葉は多義的だが、本講義では「性差についての観念」と広く捉え、交際関係、職場、政治、行政、司法などの様々な場面におけるジェンダーに基づいた偏見や差別の問題を取り上げる。そして、ジェンダーに基づいた偏見や差別の構造を理解し、法律による対処とその理論的な問題について学ぶ。

対象とするのは女性差別に限らず、男性差別やセクシュアル・マイノリティに対する差別を含む。特にセクシュアル・マイノリティに関する議論は、近年、重要な裁判所の判断が続いているため、実際の裁判の事例を通じて、セクシュアル・マイノリティに関する議論に対する理論的なアプローチについて学ぶ。

2. 本講義の終盤では、それまでの講義の応用編として、選択的夫婦別姓訴訟と結婚の自由をすべての人に訴訟（いわゆる同性婚訴訟）について取り上げ、現在進行形の取組みとその法的な課題について学ぶ。

【到達目標】

1 日常の様々な場面にジェンダーの問題が潜んでいることを知り、それに対して日本や国際社会がどのように取り組んできた内容や議論の到達点を知る。

2 ジェンダーや人権に鋭敏な問題意識を養い、ジェンダーに関する新たな問題に対しても、理論的なアプローチができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

1 対面での授業をおこなう。資料は授業日の2日前までに学習支援システムに掲示するので、予習として授業の前に資料に目を通してくること。

2 授業では毎回リアクションペーパーを作成し、学習支援システムに非公開で提出する。なお、講義ではセンシティブな内容を扱うことがあるが、リアクションペーパーは自分のことについて無理に開陳する必要は全くない。講義の感想や意見を、教員に開示できる範囲で記載して欲しい。リアクションペーパーに対しては適宜講義の中でフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダー論の歴史と意義
2	交際関係とジェンダー	デートDV、性被害等の問題
3	労働とジェンダー	男女間の雇用差別、賃金格差等の問題
4	政治・行政とジェンダー	政治参加の分野や行政における男女格差の問題
5	司法とジェンダー	国連憲章、女性差別撤廃条約
6	男性にとってのジェンダー論	男性学、男性差別
7	セクシュアル・マイノリティをめぐる諸問題	セクシュアル・マイノリティに関する基本的な知識

8	性自認にかかる裁判事例	経済産業省事件、特例法4号要件事件
9	性的指向にかかる裁判事例	同性カップルをめぐる裁判例等
10	応用編：選択的夫婦別姓訴訟 1	夫婦の氏に関する裁判の歴史
11	応用編：選択的夫婦別姓訴訟 2	夫婦の氏に関する憲法論の現在
12	応用編：結婚の自由をすべての人に訴訟（同性婚訴訟） 1	日本における婚姻平等の展開
13	応用編：結婚の自由をすべての人に訴訟（同性婚訴訟） 2	法律上同性の者同士の婚姻に関する憲法論の現在
14	総括	これまでの講義の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にアップする資料を使って予習すること。実際の裁判例を取り上げる場合には、紛争の内容や事件の争点、判断基準や各要素の評価の方法を整理して把握するよう努めること。

また、講義において取り上げる法は、憲法、民法、刑法、労働法など多岐にわたる。講義の中でも必要に応じて解説をするが、受講者において、予習・復習として各法の関連分野を学習し、各法の議論の中で、ジェンダーの問題がどのように位置づけられるのかを体系的に整理することが望ましい。

授業後は、毎回リアクションペーパーを提出すること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法（『ポケット六法』『デイリー六法』等）

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（90％）及び平常点（リアクションペーパー含む）（10％）で判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

【実務経験のある教員による授業】

授業担当者は、ジェンダーやセクシュアリティに関する事案や訴訟に日頃から関与している弁護士として、その経験と知識を踏まえた授業を行う。

【Outline (in English)】

In this course, we are going to learn gender-based biases and discrimination in everyday situations.

Furthermore, students will delve into theoretical approaches to discussions about sexual minorities by analyzing real legal cases.

Towards the end of the course, we will examine ongoing efforts and legal challenges, including cases like selective surname use and same-sex marriage lawsuits.

【Learning Objectives】

1 To know about gender issues in various everyday situations, understand Japan's and the international community's efforts in response, and grasp the current state of gender discussions.

2 To aim to develop theoretical approaches to new gender-related issues.

【Learning activities outside of classroom】

Reading textbook and making your own answer about each topic are recommended for 2 hours each before and after lecture.

【Grading Criteria / Policy】

1 In-class contribution(including reaction papers)(10%)

2 Term-end examination(90%)

LAW300AB (法学 / law 300)

憲法訴訟論

高橋 正明

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法訴訟論について学び、この分野の基本的知識を習得するとともに、憲法訴訟に関する諸問題について論理的に考える力を養う。憲法訴訟に関する論点は多岐に渡るが、司法権・違憲審査制の意義・限界について検討した上で、違憲審査の対象、憲法判断の方法、判決の効力などの問題について判例・学説を素材に理解を深める。

【到達目標】

- ①憲法訴訟に関する基本的知識を習得した上で、憲法訴訟に関する諸問題を論理的に解決する力を養う。
- ②刑事、民事、行政裁判の中で憲法問題がどのように扱われているのか、判例を素材として具体的に理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的事項に関する講義を行った後、講義内容を復習するための演習問題を解き、解説を行うという流れで進行する。授業はレジュメに沿って進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 憲法訴訟の特徴 司法権の概念・意義	授業の進め方 憲法訴訟とはどのようなものかを簡単に説明した上で、司法権とは何かについて学ぶ。
第2回	司法権の限界	司法権が及ばない紛争とそれらを巡る法理論（統治行為論、部分社会論など）について学ぶ。
第3回	違憲審査制の分類	諸外国における違憲審査制度の特徴について学ぶ。
第4回	日本の違憲審査制	日本の違憲審査制の特徴や課題について学ぶ。
第5回	違憲審査の対象	違憲審査の対象（条約、立法不作為、国の私法上の行為）に関する論点について学ぶ。
第6回	憲法訴訟の当事者適格	訴訟当事者が第三者の権利侵害を主張することはできるのかについて学ぶ。
第7回	違憲審査の範囲 憲法判断の方法（1）	法令審査、適用審査、処分審査について学ぶ。 憲法判断回避の原則について学ぶ。
第8回	憲法判断の方法（2）	合憲限定解釈、適用違憲、部分違憲、処分違憲について学ぶ。
第9回	憲法判断の方法（3）	合憲拡張解釈について学ぶ。
第10回	実体的違憲審査の方法	利益衡量論、違憲審査基準論、比例原則論について学ぶ。
第11回	違憲判決の効力	法令違憲判決の効力は当事者以外に及ぶのか、過去になされた行為にも効力は及ぶのかについて学ぶ。
第12回	違憲確認の活用	確認訴訟の意義・課題について学ぶ。

第13回	憲法判例の変更 違憲審査制の活性化 のための制度論	判例変更に関する理論的課題について学ぶ。 違憲審査制を機能させるための制度設計のあり方について学ぶ。
第14回	まとめ	授業の振り返りを行うとともに、論じきれなかった事項について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、授業に関連する参考書や事前に配布されるレジュメを読む。

授業後は、レジュメやノートを基に授業の内容を振り返りつつ、レジュメの文章題の回答を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）

【参考書】**【基本書】**

高橋和之『体系・憲法訴訟』（岩波書店、2017年）
新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）
渡辺康行・宍戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法II 総論・統治』（日本評論社、2020年）

【判例集】

<入門的なもの>

小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）

<標準的なもの>

長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】**【その他の重要事項】**

- ①私語などの迷惑行為については厳しく対処するので、注意すること。
- ②レジュメは、学習支援システムにアップするので、各自で印刷し、持参するか、パソコンで見られる状態にすること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, students will learn theories of constitutional litigation, gaining insight into issues related to constitutional litigation, developing ability to solve them logically.

【Learning Objectives】 The objective of this course is to cultivate ability to solve the specific issues regarding constitutional litigation logically, and also to learn about how constitutional problems are solved in a criminal, civil, or administrative litigation based on actual cases.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understanding the course content.

【Grading Criteria/Politics】 Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

生命倫理と人権 I

鵜澤 和彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命倫理は、20世紀中葉の非人道的な人体実験を背景にして、今日の形態へと発展してきました。本授業は、このような歴史的な人権問題を考慮しながら、生命倫理の四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）、三種類の同意概念（インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意）そして、関連する法規定（法律、ガイドライン、宣言）を学びます。その際、授業内容に関連する医療ドラマを視聴しながら、生命倫理の諸概念や人権問題の理解を深めていきます。なお、本科目は「文化・社会と法コース」にあげられている法的教養を深めるのに適した科目です。また「行政・公共政策と法」の各コースにも配置されています。

【到達目標】

- ①生命倫理と人権思想の連関を把握し、日常生活の出来事から倫理的及び法律的問題を見つけることができる。
- ②具体的な事例に基づいて、生命倫理の土台を成す四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）を把握することができる。
- ③インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意という三種類の同意概念、そして、それらに関連する法規定（法律、ガイドライン、宣言）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面の形式で行われます。学習支援システム **webclass** を通じて、パワーポイント原稿、解説動画、授業資料、課題を提供します。課題は主に医療ドラマから出され、受講生はこの視聴覚教材を視聴し、課題に答えてください。課題の提出並びに教員からのフィードバックは、**webclass** を通じて行います。出席、質問、感想は、**Google Form** を通じて提出してもらいます。質問は次の授業時にお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	教員の自己紹介、到達目標、授業内容、授業の進め方について説明します。また、スピッツの「ホスピタリズム」研究から人間の生命について考えます。
第2回	生命倫理と人権思想の歴史的考察①	生命倫理の成立史（ニュルンベルク綱領、ヘルシンギ宣言、ベルモントレポート）を解説します。
第3回	生命倫理と人権思想の歴史的考察②	ロバート・J・リフトンによるナチズムの研究から、生命倫理と人権、とくに差別、抑圧、暴力の問題について考えます。
第4回	終末期医療と患者の人権①	死の概念、患者の自己決定権、インフォームド・コンセント（IC）、パターナリズム、いのちの「終わり」の選択（①セデーション、②自然死、③安楽死、④延命治療）を解説し、それぞれの問題点とそれに関するモラル・ジレンマを明らかにします。
第5回	終末期医療と患者の人権②	がん告知に関する法整備、がん告知についての統計、がん告知の問題、終末期患者への対応、死の受容に関する五段階説（エリザベス・キューブラー・ロス）、医療資源の配分などの問題を考えていきます。
第6回	終末期医療と患者の人権③	第4回と第5回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第7回	小児医療と子供の人権①	ホスピタリズムと幼児の能力（ヤヌシュ・コルチャック、内藤寿七郎）、幼児の精神的な病気（スピッツ）、インフォームド・アセント（IA）の概念、親の許諾、患児の賛同、IAの適用例、日本におけるIAの実施率について考察します。

第8回	小児医療と子供の人権②	拒食症と宗教的理由から輸血を拒否する事例を取り上げ、パターナリズムと治療の拒否権について考えます。
第9回	小児医療と子供の人権③	第7回と第8回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第10回	コンピテンスと患者の人権①	判断能力のない患者（生まれながらに判断能力を持ちえない患者と事故や病気で判断能力を失った患者）、リビング・ウィル、成年後見、代理同意とその基準（最高利益と代理判断）及び問題点、臓器移植法改正、家族の範囲について考察します。
第11回	コンピテンスと患者の人権②	自律、コンピテンス、人権との関係、及びコンピテンスの臨床基準について説明します。
第12回	コンピテンスと患者の人権③	第11回と第12回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第13回	生命倫理の四原則と人権	自律尊重、仁恵、無危害、正義の諸原則を整理し、それらの原則と人権思想との関連をまとめます。
第14回	生命倫理における同意概念と人権	人権との関連でインフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意の概念をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：受講生は授業に関連する教科書の該当箇所を読んでおいてください。また、参考書を使って、専門用語の意味等を理解してください（2時間）。復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）を読み直してください。そして、授業支援システムを使って、各授業後に出される課題に答えてください。さらに、ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えをまとめてください（3時間）。

【テキスト（教科書）】

塚田敬義・前田和彦編『生命倫理・医事法 第3版』医療科学社、2023年、3,300円、ISBN-978-4-86003-133-6

【参考書】

- ①樋口範雄・土屋裕子（編集）『生命倫理と法』、弘文堂、3520円、ISBN-10:433535343X
- ②小林亜津子著『はじめて学ぶ生命倫理』、ちくまプリマー新書、780円、ISBN-10:4480688684
- ③トム・L・ビーチャム他著『生命医学倫理』、成文堂、7,560円、ISBN-10:4792360641

【成績評価の方法と基準】

試験方法：定期試験、実施時期：定期試験期間。各課題50%、筆記試験50%の総合評価。筆記試験と毎回の課題は、到達目標に挙げられた以下の基準に従って評価されます。①自分の経験や見聞した知見による例証が、適切に行われているかどうか（40%）。②四原則の内容が、適切に理解され、説明されているかどうか（30%）。③三種類の合意概念が、正しく把握されて、使用されているかどうか（30%）。なお、グループディスカッションで司会（及び「まとめ」の執筆）を担当した受講生には、授業評価点として5点が追加されます。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外の学習教材は、すべて学習支援システム **webclass** にアップロードされていますので、病気などで欠席した方は、これを活用して各自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム **webclass** を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

NPO法人ホームケアエクスパート協会、日本生殖医療看護学会（第13回実践セミナー）、文部省SSH事業。医療や介護の現場の声を生かしながら、現代の医療・介護問題の本質を明らかにし、生命倫理に即した解決策を考えます。

【Outline (in English)】

This course examines the evolution of bioethics from mid-20th-century human experimentation to its modern form, with a focus on human rights issues. Students will explore the four principles of bioethics — respect for autonomy, beneficence, nonmaleficence, and justice — as well as the three types of consent: informed consent, informed assent, and proxy consent. The course also covers relevant legal frameworks, including laws, guidelines, and declarations. To deepen their understanding of ethical dilemmas, students will watch medical dramas related to the course content.

This course is part of the "Culture, Society and Law" and "Administration, Public Policy and Law" tracks. Students are expected to read the assigned textbook sections and reference materials before each class to familiarize themselves with key concepts. After class, they should review the lecture notes and complete assignments using the class support system. Additionally, students are encouraged to summarize their thoughts on the topics discussed, incorporating insights from peer discussions.

Assessment will be based on assignments (50%) and a written exam (50%). Grading criteria include the ability to provide relevant examples (40%), a clear understanding of the four bioethical principles (30%), and the correct application of consent concepts (30%). Students who moderate group discussions and submit a summary will receive an additional five points toward their final grade.

LAW200AB (法学 / law 200)

生命倫理と人権Ⅱ**洪 賢秀**授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命科学技術の進展により、私たちは、「いのちにどこまで人為的な介入を許すべきか」という難題に直面しています。本授業では、生命倫理をめぐる諸課題について社会的・文化的背景を踏まえながら、各社会が新たに登場した生命科学技術をどのように受容し対応しているのかについて、人権及び法的視点からアプローチしていきます。法律学科のコース制との関係では、「裁判と法」「行政・公共政策と法」及び「文化・社会と法」の各コースに属する科目です。

【到達目標】

本授業では、生殖医療技術、遺伝子関連技術、再生医療、移植医療、終末期医療などについて、各社会がどのような規制をもち、どのような議論をしているのか、具体的な事例を検討し、生命倫理に関する基本的情報を習得します。また、他の人との意見交換をとおして、生命倫理に関する多様な立場や価値観への理解を示すとともに、自分の考えを深めていくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業内容の理解度を確認し、テーマにおける自分の考えを整理していただくために、ミニレポートを課し提出してもらいます。提出されたミニレポートに対して、個人への回答やコメントが必要な場合には、個別に回答・コメントをお送りします。また、全体として共有したほうがよいと思われる内容については、次の講義の際に、おさらいと補足をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命倫理とは何か	人間の欲望と歴史的教訓としての倫理
第2回	生殖医療技術と倫理	生殖医療と諸課題
第3回	遺伝子関連技術と倫理①	遺伝情報と差別
第4回	遺伝子関連技術と倫理②	ゲノム研究とゲノム医療
第5回	遺伝子関連技術と倫理③	ゲノム編集と遺伝子関連検査
第6回	再生医療と倫理①	クローン技術
第7回	再生医療と倫理②	人体組織と再生医療
第8回	エンハンスメントと倫理	エンハンスメントの問題と背景
第9回	移植医療をめぐる倫理①	脳死と臓器移植
第10回	移植医療をめぐる倫理②	いのちの贈物の光と影
第11回	移植医療をめぐる倫理③	移植ツーリズムにおける諸課題
第12回	死をめぐる倫理①	終末期医療
第13回	死をめぐる倫理②	安楽死
第14回	死をめぐる倫理③	死体の研究利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において適宜指示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

準備学習としては、授業内容と関連するテーマについてテキストや参考文献を読んで、授業に臨んでください。毎回のミニレポートの作成は、授業内容の論点整理や理解を確認するための復習の時間となります。

【テキスト（教科書）】

神里 彩子・武藤 香織 編『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』第2版（東京大学出版会、2023年、税込2,640円）
棚島次郎著、『先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書、2020年、税込880円）

【参考書】

『ジュリスト増刊 ケース・スタディ 生命倫理と法』、松原洋子・伊吹友秀『生命倫理のレポート・論文を書く』（東京大学出版会）、棚島次郎『先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書）
その他、授業において毎回レジュメや資料を配布し、参考文献は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は、期末レポート50%と、ミニレポートの課題50%とし、総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、提出してもらうミニレポートなどから得られた学生さんからのご質問やご意見について必要に応じてクラス全体で共有し、受講者とのコミュニケーションが活性化できるようにしていきます。

【Outline (in English)】

Advances in the life sciences and technologies are forcing us to confront the difficult question of “How much artificial intervention into life should be permitted?” In this class, drawing on the social and cultural background of a variety of issues surrounding bioethics, we adopt a legal and human rights perspective as we approach the question of how each society accepts and responds to newly emerging life sciences and technologies. With reference to the law school’s course system, this class is affiliated with the following courses: “Courts and the Law,” “Administrative and Public Policy and the Law,” and “Culture, Society, and Law.”

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Instructions will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. As for preparatory study, please read the textbook and references on the topics related to the class contents before coming to class. The preparation of mini-reports for each class will serve as review time to organize the issues and confirm your understanding of the class content.

【Grading criteria】

Evaluation will be allocated as follows: 50%for the final report and 50%for the mini-report assignment.

LAW200AB（法学 / law 200）

行政法入門Ⅰ

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。このため、学習者は行政法の体系や基本原理を法典を通して知ることができない。「行政法は難しい」といわれる理由の一つはこの点にあらう。行政法も、法の一種であるから、権利義務あるいは法律関係を対象とする。しかし、行政法では、民事法と異なり、権利義務の有無よりも行政の行為の適法性が問題となる。

この授業では、行政法を学ぶ土台を作るために、行政法の概略、行政法とはどのような法なのか、行政の組織に関する法律論の基礎的な枠組みおよび行政法の基本原理を学ぶ。

この科目は全てのコースに配当されている。

【到達目標】

- ①行政法とは何かを説明することができる。
- ②行政主体と行政機関について説明することができる。
- ③権限の代行について説明することができる。
- ④指揮監督について説明することができる。
- ⑤行政法の基本原理について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、一般的な講義とし、対面（ハイフレックス）で実施する。学習支援システムとGoogleクラスルームを利用する。学習支援システムは授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Googleクラスルームを主として利用する。Googleクラスルームを通して、成績評価を含む必要事項を受講者に周知し、また、理解度確認のための小テストの実施（任意）とリアクションペーパーの提出（任意）に利用する。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことによって行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 行政法のイメージ	授業の進め方 行政法令の諸相 行政の主体とプロセス
第2回	行政法序論（1）	行政と行政法 行政法の三分野 行政法典の不在
第3回	行政法序論（2）	行政の意義と分類
第4回	行政法序論（3）	公法私法二元論 民事法の適用
第5回	行政主体と行政機関（1）	行政主体の種類
第6回	行政主体と行政機関（2）	行政機関の権限と分類
第7回	行政主体と行政機関（3）	行政機関の類似概念

第8回	行政機関の相互関係	指揮監督 権限の代行
第9回	行政法の基本原理（1）	法律による行政の原理の意義と内容
第10回	行政法の基本原理（2）	法律による行政の原理の形式性とその克服
第11回	行政法の基本原理（3）	信義誠実の原則
第12回	行政法の基本原理（4）	権利濫用禁止の原則
第13回	行政法の基本原理（5）	比例原則
第14回	行政法の基本原理（6）	平等原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政法入門講義』（生協書籍部で販売）を用いる。

【参考書】

教科書・体系書

- ・稲葉馨ほか『行政法』（2023年、第5版、有斐閣）
- ・今村成和（著）＝畠山武道（補訂）『行政法入門』（2012年、第9版、有斐閣）
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（2023年、第8版、有斐閣）
- ・小早川光郎『行政法上』（1999年、弘文堂）、『行政法講義下Ⅰ』（2002年、弘文堂）
- ・塩野宏『行政法Ⅰ』（2024年、第6版補訂版、有斐閣）
- ・芝池義一『行政法読本』（2016年、第4版、有斐閣）
- ・高橋滋『行政法』（2023年、第3版、弘文堂）
- ・原田尚彦『行政法要論』（2012年、全訂第7版補訂2版、学要書房）
- ・藤田宙靖『新版行政法総論（上）』（2020年、青林書院）
- その他
- ・斎藤誠ほか（編）『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（2022年、第8版、有斐閣）
- ・芝池義一ほか（編）『判例行政法入門』（2022年、第7版、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100％）のみで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。引き続き授業改善に努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Googleクラスルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでの受講は推奨せず、それによって不都合が生じている受講者に特別の対応は実施しない。

【その他の重要事項】

行政法の科目としては、行政法入門Ⅰ・Ⅱのほかに、行政作用法Ⅰ・Ⅱ、行政救済法Ⅰ・Ⅱ、行政組織法、地方自治法、環境法、都市法、租税実体法、租税手続法がある。行政法の科目を履修または受講する場合、いずれも行政法入門Ⅰ・Ⅱを受講していることを前提として授業が行われるので、単位修得の有無にかかわらず、2年次に行政法入門Ⅰ・Ⅱを受講しておくことが望ましい。ただし、行政法の他の科目を履修するに当たって、行政法入門Ⅰ・Ⅱの履修あるいは単位取得は必須の条件としていない。

これらのほか、法学部のカリキュラムでは行政法として位置づけられていないが、教育法、経済法、社会保障法など行政と密接に関係する法律分野もある。行政に関する法律問題を学びたいと思っている学生は、行政法の科目のみならず、これらの科目を受講するとよいだろう。

【Outline (in English)】

Administrative Law is whole body of Laws concern to Public Administration. Although Administrative Law regulate legal relationship between Nation and Natural or Legal Person, in Administrative Law, legality of acts that Administrative Agency do is very important matter. In this course, Students learn about outline of Administrative Law, Administrative Organ and basic principal of Administrative Law.

At the end of the course, students are expected to understand outline of Administrative Law, Administrative Organ and basic principal of Administrative Law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report: 100%.

LAW200AB（法学 / law 200）

行政法入門Ⅱ

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法入門Ⅱでは、行政法入門Ⅰに引き続きそれを前提に、行政作用法および行政救済法の基本的な理論について解説する。

行政作用とは行政主体が私人に対してする行政活動を指し、これを規律するのが行政作用法である。行政作用法の詳細は、この授業に続く行政作用法Ⅰ・Ⅱで取り扱われる。行政作用は人権に関わる。たとえば、営業規制は営業（職業選択・職業活動）の自由を、建築規制は財産権を、それぞれ規制するものであるし、生活保護は生存権を実現するためのものといえる。この意味で行政法は、人権侵害に対抗するための法律論である。

この授業では、こうした認識を前提に、行政作用については、行政作用に関する法律論の基礎的な枠組みを示すとともに、行政作用に関する一般制度として行政手続を取り上げる。前者では、とりわけ、行政機関が行政主体のために行政作用としてする行為（行政の行為）の法形式的整理が重要である。行政の行為には様々なものがあるが、それは、権力性、法効果および具体性の三要素によって分類される。この基準によって行政の行為の法的性質を見極められるようになることが、まずもって必要である。

行政救済とは、行政作用により私人に生じた不利益の救済のことをいい、これを行政救済法は規律する。その主要法律として、行政事件訴訟法、行政不服審査法および国家賠償法がある。行政救済法の詳細は、この授業に続く行政救済法Ⅰ・Ⅱで取り扱われる。行政法学では、行政救済に関して、行政事件訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償請求などを取り上げてきた。行政救済とは別の観点として、行政作用の司法審査というものがある。これは、行政作用の適法性を行政とは個別される国家機関である裁判所が審査するものであり、それは行政事件訴訟だけでなく民事訴訟や刑事訴訟においても行われる。

この授業の受講者は、行政法入門Ⅰで学んだ行政法の基本原則と行政組織法の基礎を前提に、行政作用法と行政救済法の基本的な法制度を理解し、行政法現象を法的に把握できるようになることを期待される。

なお、この科目は全てのコースに配当されている。

【到達目標】

- ①行政の各種の行為（行為形式）について説明することができる。
- ②行政救済の概略を説明することができる。
- ③行政手続について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、一般的な講義とし、対面（ハイフレックス）で実施する。学習支援システムとGoogleクラスルームを利用する。学習支援システムは授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Googleクラスルームを主として利用する。Googleクラスルームを通して、成績評価を含む必要事項を受講者に周知し、また、理解度確認のための小テストの実施（任意）とリアクションペーパーの提出（任意）に利用する。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことによって行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	行政の各種の行為（1）	内部的行為と外部的行為 行政の行為形式
第2回	行政の各種の行為（2）	行政行為
第3回	行政の各種の行為（3）	法規命令
第4回	行政の各種の行為（4）	行政契約 実力行使 行政指導
第5回	行政救済法の基礎（1）	行政作用の司法審査 行政事件訴訟の意義
第6回	行政救済法の基礎（2）	取消訴訟の意義
第7回	行政救済法の基礎（3）	取消訴訟の訴訟要件
第8回	行政救済法の基礎（4）	無効等確認訴訟 差止訴訟
第9回	行政救済法の基礎（5）	義務付け判決 当事者訴訟
第10回	行政救済法の基礎（6）	民衆訴訟 機関訴訟
第11回	行政救済法の基礎（7）	行政上の不服申立て
第12回	行政救済法の基礎（8）	国家賠償・損失補償
第13回	行政手続の基礎（1）	適正手続の保障
第14回	行政手続の基礎（2）	行政手続の手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政法入門講義』（生協書籍部で販売）

【参考書】

教科書・体系書

- ・稲葉馨ほか『行政法』（2023年、第5版、有斐閣）
- ・今村成和（著）=畠山武道（補訂）『行政法入門』（2012年、第9版、有斐閣）
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（2023年、第8版、有斐閣）
- ・小早川光郎『行政法上』（1999年、弘文堂）、『行政法講義下Ⅰ』（2002年、弘文堂）
- ・塩野宏『行政法Ⅰ』（2024年、第6版補訂版、有斐閣）
- ・芝池義一『行政法読本』（2016年、第4版、有斐閣）
- ・高橋滋『行政法』（2023年、第3版、弘文堂）
- ・原田尚彦『行政法要論』（2012年、全訂第7版補訂2版、学要書房）
- ・藤田宙靖『新版行政法総論（上）』（2020年、青林書院）

その他

- ・斎藤誠ほか（編）『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（2022年、第8版、有斐閣）
- ・芝池義一ほか（編）『判例行政法入門』（2022年、第7版、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Googleクラスルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでの受講は推奨せず、それによって不都合が生じている受講者に特別な対応は実施しない。

【その他の重要事項】

行政法入門Ⅱのカリキュラム上の位置づけについては、行政法入門Ⅰのシラバス参照。

【Outline (in English)】

In this course, the basic legal theories of acts of Administrative Agency and the outline of Administrative Remedies are taken up. Acts of Administrative Agency are concerned to Fundamental Human Rights. For example, Regulation to Occupation will regulate the Freedom to act Occupation. Livelihood Protection will realize the Right to live. So, in these meanings, the Administrative Law theories are means of Human Rights Protection. Administrative Remedies mean remedies to rights or interests that are injured by acts of Administrative Agency.

At the end of the course, students are expected to understand legal forms of act of Administrative Agency, law of Administrative Remedies and law of Administrative Procedure.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report: 100%.

LAW300AB (法学 / law 300)

行政作用法 I

吉岡 郁美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、われわれ私人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、立法活動も行っており、私人の権利義務を一般的抽象的に規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。

行政活動に関する法である行政作用法には、行政代執行法、行政手続法、行政機関の情報の公開に関する法律などの一般法や、建築基準法、警察官職務執行法、食品衛生法、道路交通法、都市計画法などの個別法がある。その多くは個別法である。行政法学における主な検討課題は、一般法に関してはそれらの具体的な解釈であり、また、個別法に関してはそれらにおいて規定されている行為に共通する性格をもつ「行政の行為」の法的規制等の法律論である。ここにいる行政の行為には、行政規範の制定（行政立法）、行政行為、行政上の強制執行、即時強制、行政契約、行政指導がある。また、行政計画、行政調査の意義・法的規制も行政法学における検討課題である。行政罰及び制裁的措置の意義・法的規制も重要である。上記のうち、行政上の強制執行、行政罰、制裁的措置は行政の実効性確保の仕組みないし手段といえる。

行政作用法 I では行政法の基本原則および行政行為を中心にとりあげ、その意義や法的規制・法律論について学ぶ。

行政作用法 I は、「裁判と法」「行政・公共政策と法」及び「文化・社会と法」の各コースに属する。

【到達目標】

学生が、

- ・行政法とは何か、その特徴を説明することができる。
- ・行政法の基本原則を説明することができる。
- ・行為形式論とは何か、そして行政行為の意義、内容について説明することができる。
- ・行政手続法の基本的仕組みについて説明することができる。
- ・裁量行為の特徴について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式を基本とする。教科書とレジュメによって授業を行う。

毎回の授業中に課題を課すほか、授業のレジュメは配布せず各自でダウンロードしてもらうことを想定しているため、学習支援システムが利用できる環境が必要である。

質問およびフィードバックは随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方 行政法とは（導入講義）
第2回	行政法の基礎知識（1）	法源 近年の特徴 基本原則
第3回	行政法の基礎知識（2）	基本原則、特に法律による行政の原理

第4回	行政行為（1）	行為形式論 行政行為とは
第5回	行政行為（2）	行政行為の意義、特に事後救済の観点から
第6回	行政行為（3）	行政行為の効果
第7回	行政行為（4）	司法上の諸問題等
第8回	中間試験	中間試験を行う。
第9回	行政手続（1）	行政手続法の仕組み
第10回	行政手続（2）	理由付記等
第11回	行政手続（3）	環境影響評価等その他の行政手続
第12回	行政裁量（1）	裁量行為とは 司法統制
第13回	行政裁量（2）	専門裁量等
第14回	まとめ	授業の内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・参考書を参照しながら、予習・復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋『行政法〔第3版〕』（弘文堂、2023年）3,500円+税

【参考書】

判例集として

・斎藤誠、山本隆司編『行政判例百選 I 〔第8版〕』（有斐閣、2022年）
また参考書として

・塩野宏『行政法 I 〔第6版補訂版〕』（有斐閣、2024年）

・宇賀克也『行政法概説 I 行政法総論 〔第8版〕』（有斐閣、2023年）
参考書については、初回の授業においても紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40％）と学期末の試験（60％）で行う。また、毎回の授業中に出される課題への取り組み等を平常点として加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを授業中に利用できる環境が必要である。

【その他の重要事項】

行政法入門を受講していることが望ましい。

また、行政作用法は I と II があるため、どちらも履修することを想定している。

【Outline (in English)】

This course is designed to help you learn meaning and legal controls of acts performed by the executive agencies (hereinafter the executive agencies' acts are simply referred to as 'acts'), especially focusing on 'Gyousei Kouji'.

'Gyousei Kouji' in Japanese shall decide rights, obligations, and other legal status finally without consent of the person(s) to whom it is addressed. About 'Gyousei Kouji', there are several issues. It is considered, for instance, what effect 'Gyousei Kouji' has on individual rights and obligations. When performing 'Gyousei Kouji' may involve exercise of some discretionary power, it is also examined where discretion exists and how courts control exercise of discretionary power.

After completing this course, you should be able to:

- ・ Explain meaning and sorts of 'Gyousei Kouji';
- ・ Explain legal controls of 'Gyousei Kouji';
- ・ Explain when 'Gyousei Kouji' comes into existence and becomes effective;
- ・ Explain typical features (or typical qualities) of 'Gyousei Kouji';
- ・ Explain conditions, time limits, and other manifestations of intention added to 'Gyousei Kouji';
- ・ Explain invalidity of 'Gyousei Kouji' (this invalidity means 'Gyousei Kouji' has no legal effect - without any executive agency's measure - from a date it actually took place);
- ・ Explain acts making void ab initio (with relation back) 'Gyousei Kouji' which has become effective;
- ・ Explain acts making void ex post facto 'Gyousei Kouji' which has become effective;
- ・ Explain where discretion exists in doing 'Gyousei Kouji';

- ・ Explain tests used by courts against misuse of executive discretionary powers.

You should learn independently by reading the textbook and your own reference book(s) in order to prepare for and/or review every class. The STANDARD time for preparation and review is 2 hours each.

Evaluation will be based on a mid-term exam (40%) and a final exam at the end of the semester (60%) .

LAW300AB（法学 / law 300）

行政作用法Ⅱ

吉岡 郁美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、われわれ私人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、立法活動も行っており、私人の権利義務を一般的抽象的に規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。

行政活動に関する法である行政作用法には、行政代執行法、行政手続法、行政機関の情報の公開に関する法律などの一般法や、建築基準法、警察官職務執行法、食品衛生法、道路交通法、都市計画法などの個別法がある。その多くは個別法である。行政法学における主な検討課題は、一般法に関してはそれらの具体的な解釈であり、また、個別法に関してはそれらにおいて規定されている行為に共通する性格をもつ「行政の行為」の法的規制等の法律論である。ここにおいて行政の行為には、行政規範の制定（行政立法）、行政行為、行政上の強制執行、即時強制、行政契約、行政指導がある。また、行政計画、行政調査の意義・法的規制も行政法学における検討課題である。行政罰及び制裁的措置の意義・法的規制も重要である。上記のうち、行政上の強制執行、行政罰、制裁的措置は行政の実効性確保の仕組みないし手段といえる。

行政作用法Ⅰの授業では、行政法の基本原則、行政行為を中心に講義を行った。行政作用法Ⅱでは、行政行為以外の行為形式や、行政の実効性確保の手段、行政情報の収集・管理・公開についてとりあげ、その意義や法的規制について主に学ぶ。

行政作用法Ⅱは、「裁判と法」「行政・公共政策と法」及び「文化・社会と法」の各コースに属する。

【到達目標】

学生が、
 ・行政指導、行政計画などの様々な行為形式について、その特徴や問題点を説明することができる。
 ・行政の実効性確保手段について、それぞれの手段の特徴や問題点を説明することができる。
 ・行政情報の収集・管理・公開の仕組みについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式を基本とする。教科書とレジュメによって授業を行う。
 毎回の授業中に課題を課すほか、授業のレジュメは配布せず、各自でダウンロードしてもらうことを想定しているため、学習支援システムが利用できる環境が必要である。
 質問およびフィードバックは随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方 行政作用法Ⅰの復習
第2回	行政指導	行政指導の概念、規律、救済
第3回	行政契約	行政契約の種類、特徴
第4回	行政立法（1）	行政立法とは 法規命令

第5回	行政立法（2）	行政規則 その他規範
第6回	行政計画	行政計画とは 計画統制 計画担保責任 中間試験を行う。
第7回	中間試験	概論
第8回	行政の実効性確保（1）	強制執行
第9回	行政の実効性確保（2）	行政罰
第10回	行政の実効性確保（3）	誘導 即時強制
第11回	行政情報の収集	行政調査等
第12回	行政情報の管理・利用 行政情報の公開（1）	公文書管理等 情報公開法
第13回	行政情報の公開（2）	情報公開法の続き 個人情報保護法
第14回	まとめ	授業の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・参考書を参照しながら、予習・復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋『行政法【第3版】』（弘文堂、2023年）3,500円+税

【参考書】

判例集として
 ・斎藤誠、山本隆司編『行政判例百選Ⅰ【第8版】』（有斐閣、2022年）
 また参考書として
 ・塩野宏『行政法Ⅰ【第6版補訂版】』（有斐閣、2024年）
 ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ行政法総論【第8版】』（有斐閣、2023年）
 参考書については、初回の授業においても紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40％）と学期末の試験（60％）で行う。また、毎回の授業中に出される課題への取り組み等を平常点として加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを授業中に利用できる環境が必要である。

【その他の重要事項】

行政法入門を受講していることが望ましい。
 また、行政作用法はⅠとⅡがあるため、どちらも履修することを想定している。

【Outline (in English)】

This course is designed to help you learn meaning and legal controls of some acts performed by the executive agencies (hereinafter the executive agencies' acts are simply referred to as 'acts'), especially focusing on (1)Various forms of Administrative Act, (2)Ensuring Administrative Efficacy, (3)Management of Administrative Information.

After completing this course, you should be able to:

- ・ Explain the Feature of various Administrative Akt(ex. Administrative Plan)
- ・ Explain sorts of Measures for Ensuring Administrative Efficacy;
- ・ Sketch out the Act on Access to Information Held by Administrative Organs;
- ・ Sketch out management systems of personal information in the public sector which systems are provided in the Act on the Protection of Personal Information;
- ・ Sketch out management systems of Administrative Documents laid down in the Public Records and Archives Management Act.

You should learn independently by reading the textbook and your own reference book(s) in order to prepare for and/or review every class. The STANDARD time for preparation and review is 2 hours each.

Evaluation will be based on a mid-term exam（40％）and a final

成績優秀者の他学部公開科目履修制度対象科目 発行日：2025/5/1

exam at the end of the semester (60 %) .

LAW300AB（法学 / law 300）

行政救済法Ⅰ

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法入門で習得した知識・能力を基盤として、行政救済法に関して学部レベルで期待される知識・能力の修得を目指す。この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「文化・社会と法」の各コースに配置されている。

Ⅱ行政救済法Ⅱと併せて4単位の講義であることから、条文解釈を含めた行政法令の理解、学説の対立点と背景、最高裁判例についての事実関係と判旨の正確な理解を修得することを目指す。

Ⅲ具体的には、行政訴訟を取り扱う。時間数の関係上、行政争訟制度のうち、客観訴訟、仮の救済、行政不服審査、苦情処理については、行政救済法Ⅱにおいて取り扱う。

【到達目標】

Ⅰ知識面

行政救済法のうち、行政訴訟を取り扱う。関係法令、学説、判例に係る学部レベルでの知識の確実な修得を目指す。

Ⅱ能力面

①行政救済法分野における学部生向けの解説書・解説文を自ら読解できる能力を養う。併せて、最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。

②解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら学術論文を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

Ⅰ一般的な講義形式による(全面対面方式)。出席票を配布し、回収する(Ⅱ・①を参照)。

Ⅱ①講義時間中にWeb Classの「Timed Test」の正誤問題の機能を利用して簡単な確認テストを実施する。出席票を提出していない者は出席点を付与せず、又、出席票を提出せずに確認テストに回答した者にはペナルティを課す。また、ペナルティは違反回数に照らして加重して賦課する。

②2回の中間テストを実施する(2クラスに分ける。30分、2題の正誤の組合せによる4択問題)。

Ⅱ受講者は教科書を購入すること。また、講義資料は教室では配布しない。学習支援システムからダウンロードした資料を利用すること。

Ⅲ受講者は、予習をし、講義によって学習を深め、その後の復習を通じて理解を定着させること。

Ⅳ学生に対するフィードバックは、講義時間中の確認テスト(40%を加点)、2回の中間テストを通じて実施する。出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、確認テストの結果を成績に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・行政争訟法（概説）、行政訴訟・概説（1）	ガイダンス 行政争訟法（概説） 行政訴訟（沿革等） 行政統制と司法（1）

第2回	行政訴訟・概説（2）	行政訴訟と司法（2） 行政事件訴訟の意義と類型 行政事件と民事事件
第3回	抗告訴訟（1）	取消訴訟の訴訟要件（1） 処分性（1）
第4回	抗告訴訟（2）	取消訴訟の訴訟要件（2）処分性（2）
第5回	第1回中間試験（30分の正誤問題。2クラスに分けて実施する）	第1回中間試験（試験範囲- 第1回～第4回（処分性に限る））
第6回	抗告訴訟（3）	取消訴訟の訴訟要件（3）原告適格（1）
第7回	抗告訴訟（4）	取消訴訟の訴訟要件（4）原告適格（2） 狭義の訴えの利益（1）
第8回	抗告訴訟（5）	取消訴訟の訴訟要件（5）狭義の訴えの利益（2）、他の訴訟要件
第9回	抗告訴訟（7）	取消訴訟の審理（1）- 訴訟物 主張立証責任 文書提出義務
第10回	抗告訴訟（8）	取消訴訟の審理（2）- 違法判断の基準時 主張制限・原処分主義 処分理由の追加・差換え
第11回	第2回中間試験（30分の正誤問題。2クラスに分けて実施する）	第2回中間試験（試験範囲- 第7回～第10回）
第12回	抗告訴訟（9）	取消訴訟の審理（3）- 複雑な訴訟形態、参加 取消訴訟の終了（1）
第13回	抗告訴訟（10）	取消訴訟の終了（2） その他の抗告訴訟（不作為の違法 確認訴訟・無効等確認訴訟）
第14回	抗告訴訟（11）	その他の抗告訴訟（義務付け訴訟・差止訴訟）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政救済法Ⅰ・Ⅱを合計して学部4単位の講義科目であるので、指定教科書を熟読し、わからない用語等があれば、参考文献を調べる。興味が出た事項・判例については、参考文献・ウェブサイトの判例データベースを自ら調べ、それでも解決できない場合は、教員に質問できるよう準備をしてくる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋『行政法〔第3版〕』（弘文堂、2023年）3,500円

最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、旧版の使用は推奨しない。旧版の記述に依拠して解答した場合は及第点が獲得できない可能性がある。

【参考書】

以下のものを推奨する（図書館等において、参照し活用すること）。

斎藤誠＝山本隆司『行政判例百選Ⅱ〈第8版〉』（有斐閣、2022）

塩野宏『行政法Ⅱ〈第6版〉』（有斐閣・2019）、

宇賀克也『行政法概説Ⅱ 行政救済法〈第7版〉』（有斐閣・2021）

芝池義一『行政救済法』（有斐閣・2022）

【成績評価の方法と基準】

Ⅰ2回の中間試験(30%)、期末試験(70%)の合計100%とする。中間試験は正誤問題、期末試験は文章問題とする。学習支援システムのテスト機能を用いた正誤問題による平常点の評価については40%の範囲で加点する。

Ⅱ講義への出席が講義内容の理解度の向上に寄与するとの観点、及び、出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、講義時間中に正誤問題による簡単な確認テストを実施する。接続不良の際の回答ミスの場合の届出方法については、別途、周知する(基本的に当該時点における接続不良の画面をスマホ等で撮影した画像の提出が必要となる)。

Ⅲ学生に対するフィードバックは、講義時間内の正誤問題への解説、中間テストへの解説等によって実施する。

【学生の意見等からの気づき】

- ① 新型コロナウイルス感染症の5類相当への移行に伴い、全面対面方式に戻すこととした。
- ② 出席にインセンティブを与える見地から平常点の取扱いを維持することとした。

【学生が準備すべき機器他】

P C ・ 無線ルーターの準備については大学の方針を参照されたい。

【その他の重要事項】

行政法入門を受講していない者については、受講を推奨しない。判例の分析を重視し、かつ、様々な行政学説を見渡したバランスの良い解説を心がけることとする。

【Outline (in English)】

【Course outline ・ Learning Objectives 】 In the "Administrative Remedy Law I", we will deal with the field of the Administrative Remedy Law in conjunction with the "Administrative Remedy Law II. The aim of this lecture is to acquire an understanding of administrative laws and regulations, including the methods of interpretation about articles of administrative statutes, the logical constructions and backgrounds of the administrative law theories, and an accurate understanding of the facts and judgment reasons of the Supreme Court's cases in the field of administrative law.

【Learning activities outside of classroom 】 Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face or high-flex lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.

【Grading Criteria /Policy 】 I. Two mid-term examinations (40%) and a final exam (60%) totaled 100%. In both cases, the midterm exam is a true/false question, and the final exam is a written question (points are added in the range of 40%for evaluation of normal scores based on true/false questions).

II. Conduct a simple confirmation test with true/false questions during lecture time. The notification method in the case of an answer error in the event of a bad connection will be separately disseminated (basically, it is necessary to submit an image taken with a smartphone or the like of the screen of the connection failure at that time). Answers to true/false questions using the test function of the learning support system will be added as normal points (up to 40%will be added).

LAW300AB (法学 / law 300)

行政救済法Ⅱ

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I 行政救済法Ⅰに続き、行政法入門で習得した知識・能力を基盤として、行政救済法に関して学部レベルで期待される知識・能力の修得を目指す。この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「文化・社会と法」の各コースに配置されている。

II 行政救済法Ⅰと併せて4単位の講義であることから、条文解釈を含めた行政法令の理解、学説の対立点と背景、最高裁判例についての事実関係と判旨の正確な理解を修得することを目指す。

III 具体的には、当事者訴訟、民衆訴訟・機関訴訟、仮の救済、行政不服審査制度、苦情処理・オンブズマン、損失補償、国家賠償法、国家補償の谷間を取り扱う。

【到達目標】

I 知識面

行政救済法のうち、当事者訴訟、客観訴訟、仮の救済、行政不服審査制度等の狭義の行政争訟制度、国家補償制度について、関係法令、学説、判例に係る学部レベルでの知識の確実な修得を目指す。

II 能力面

① 行政救済法分野における学部生向けの解説書・解説文を自ら読解できる能力を養う。併せて、最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。

② 解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら学術論文を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

I 一般的な講義形式による(全面対面方式)。出席票を配布し、回収する(Ⅱ・①を参照)。

II ① 講義時間中に Web Class の「Timed Test」の正誤問題の機能を利用して簡単な確認テストを実施する。出席票を提出していない者は出席点を付与せず、又、出席票を提出せずに確認テストに回答した者にはペナルティを課す。また、ペナルティは違反回数に照らして加重して賦課する。

② 2回の中間テストを実施する(2クラスに分ける。30分、2題の正誤の組合せによる4択問題)。

II 受講者は教科書を購入すること。また、講義資料は教室では配布しない。学習支援システムからダウンロードした資料を利用すること。

III 受講者は、予習をし、講義によって学習を深め、その後の復習を通じて理解を定着させること。

IV 学生に対するフィードバックは、講義時間中の確認テスト(40%を加点)、2回の中間テストを通じて実施する。出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、確認テストの結果を成績に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	当事者訴訟・民衆訴訟	当事者訴訟・民衆訴訟
第2回	機関訴訟・仮の救済	機関訴訟・仮の救済
第3回	行政不服審査(1)	審査請求とその手続
第4回	行政不服審査(2)、 国家補償法・概説、 損失補償(1)	行政審判等 国家補償法の体系 利害調整の制度 損失補償の理念 憲法29条3項 正当な補償 損失補償の要否 損失補償の方法 損失補償と訴訟
第5回	損失補償(2)	第1回中間試験(試験範囲は、第1回～第5回) 国家賠償の沿革、国家賠償法の体系、国家賠償法1条の本質論 国家賠償法1条の要件(1) - 公権力の行使と公務員、違法性と故意・過失(1)
第6回	第1回中間試験(30分の正誤問題。2クラスに分けて実施する)	国家賠償(2) 国家賠償(3) 国家賠償(4)
第7回	国家賠償(1)	国家賠償法1条の要件(2) - 違法性と故意・過失(2)
第8回	国家賠償(2)	国家賠償法1条の要件(3) - 職務行為基準説とその評価、その他の要件
第9回	国家賠償(3)	第2回中間試験(試験範囲は、第7回～第10回) 国家賠償法2条(1) - 营造物の概念、設置・管理の瑕疵(道路)
第10回	国家賠償(4)	国家賠償法2条(2) - 設置管理の瑕疵(河川)等、国家賠償法3条
第11回	第2回中間試験(30分の正誤問題。2クラスに分けて実施する)	国家賠償法4条ないし6条、国家補償の谷間
第12回	国家賠償(5)	
第13回	国家賠償(6)	
第14回	国家賠償法(7)、国家補償の谷間	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政救済法Ⅰ・Ⅱを合計して学部4単位の講義科目であるので、指定教科書を熟読し、わからない用語等があれば、参考文献を調べる。興味が出た事項・判例については、参考文献・ウェブサイトの判例データベースを自ら調べ、それでも解決できない場合は、教員に質問できるよう準備してくる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋『行政法〔第3版〕』（弘文堂、2023年）3,500円

*最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第1版・第2版の使用は推奨しない。第1版・第2版の記述に依拠して解答した場合は及第点が獲得できない可能性がある。

【参考書】

以下のものを推奨する（図書館等において、参照し活用すること）。

斎藤誠＝山本隆司『行政判例百選Ⅱ〈第8版〉』（有斐閣、2022）

塩野宏『行政法Ⅱ〈第6版〉』（有斐閣・2019）、

宇賀克也『行政法概説Ⅱ 行政救済法〈第7版〉』（有斐閣・2021）

芝池義一『行政救済法』（有斐閣・2022）

【成績評価の方法と基準】

I 2回の中間試験(40%)、期末試験(60%)の合計100%とする。いずれも、中間試験は正誤問題、期末試験は文章問題とする（正誤問題による平常点の評価については40%の範囲で加点する）。

II 講義への出席が講義内容の理解度の向上に寄与するとの観点、及び、出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、講義時間中に正誤問題による簡単な確認テストを実施する。接続不良の際の回答ミスの場合の届出方法については、別途、周知する(基本的に当該時点における接続不良の画面をスマホ等で撮影した画像の提出が必要となる)。学習支援システムのテスト機能を用いた正誤問題の回答については平常点として加点する(最大40%を加点)。

Ⅲ 学生に対するフィードバックは、講義時間内の正誤問題への解説、中間テストへの解説等によって実施する。

【学生の意見等からの気づき】

- ① 新型コロナウイルス感染症の5類相当への移行に伴い、全面対面方式に戻すこととした。
- ② 出席にインセンティブを与える見地から平常点の取扱いを維持することとした。

【学生が準備すべき機器他】

P C ・無線ルーターの準備については大学の方針を参照されたい。

【その他の重要事項】

行政救済法Ⅰを受講していない者については、受講を推奨しない。教科書は引き続き、行政救済法Ⅰのものを指定する。その上で、判例の分析を重視し、かつ、様々な行政学説を見渡したバランスの良い解説を心がけて、行政救済法Ⅰとの整合性・連続性を確保する。

【Outline (in English)】

【Course outline ・ Learning Objectives 】 In the "Administrative Remedy Law Ⅱ", we will deal with the field of the Administrative Remedy Law in conjunction with the "Administrative Remedy Law Ⅰ". The aim of this lecture is to acquire an understanding of administrative laws and regulations, including the methods of interpretation of articles of administrative statutes, the logical constructions and backgrounds of the administrative law theories, and an accurate understanding of the facts and judgment reasons of the Supreme Court's cases in the field of administrative law.

【Learning activities outside of classroom 】 Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face or high-flex lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.

【Grading Criteria /Policy 】 I. Two mid-term examinations (40%) and a final exam (60%) totaled 100%. In both cases, the midterm exam is a true/false question, and the final exam is a written question (points are added in the range of 40%for evaluation of normal scores based on true/false questions).

II. Conduct a simple confirmation test with true/false questions during lecture time. The notification method in the case of an answer error in the event of a bad connection will be separately disseminated (basically, it is necessary to submit an image taken with a smartphone or the like of the screen of the connection failure at that time). Answers to true/false questions using the test function of the learning support system will be added as normal points (up to 40%will be added).

LAW300AB（法学 / law 300）

租税手続法**阿部 雪子**授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、租税の申告、更正・決定等の確定手続きや納税の滞納処分などの租税徴収手続に関する基本的事項を学習する。租税の確定手続や徴収手続は、行政法や民法などの法領域とも密接に関連しているため、これらの法も参照しながら租税の手続的側面について学ぶ。租税手続法上の重要論点は、裁判例を通じて知識を確実なものとする。なお、この科目は「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業経営と法コース(商法中心)」、「国際社会と法コース」に配置されている。

【到達目標】

租税手続法は、租税の確定手続や徴収手続を対象とする法分野である。本講義では、租税の確定手続及び徴収手続に関する法律上の要件や効果について基本的な知識を習得する。この講義を通じて、租税手続法の解釈や適用問題について理解できるようになる。税制改革の論議や税制に関わる記事にも関心をもち得るような能力を涵養する。司法試験、公務員採用試験などの各種資格試験の勉強にも資するものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業用教材は、随時、学習支援システムにアップロードするので、各自、印刷して使用すること。講義内容や課題等への質問事項に対するフィードバックの方法として授業時間内に解説時間を設けたり、必要に応じて学習支援システムの教材機能に参照資料を掲載したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	授業の進め方、租税手続法とは
第2回	租税法の基本原則(1)	租税法主義
第3回	租税法の基本原則(2)	租税公平主義
第4回	租税法の解釈と適用	租税法と私法、租税回避、偽装行為
第5回	租税手続法、租税確定手続(1)	租税義務の確定手続と租税徴収手続との関係、納税義務の成立と確定
第6回	租税手続法、租税確定手続(2)	申告納税制度、青色申告制度
第7回	租税手続法、租税確定手続(3)	加算税制度
第8回	租税手続法、租税確定手続(4)	更正・決定、源泉徴収制度
第9回	租税手続法、租税確定手続(5)	推計課税の要件・方法、納税環境の整備
第10回	租税手続法、租税確定手続(6)	質問検査権(税務調査)、質問検査の法的根拠、質問検査の要件
第11回	租税徴収手続・納付と徴収(1)	租税の納付、徴収納付(源泉徴収等)、租税の徴収
第12回	租税徴収手続・納付と徴収(2)	連帯納付義務、第二次納税義務
第13回	租税徴収手続・納付と徴収(3)	滞納処分、違法性の承継
第14回	租税徴収手続・納付と徴収(4)	租税債権の優先劣後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、授業内に指示された判例、参考文献にもとづく学習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

金子 宏『租税法』（弘文堂、2021）
水野忠恒『大系租税法第3版』（中央経済社、2024）
水野忠恒編『テキストブック租税法』（中央経済社、2024）
中里実・佐藤英明・増井良啓・渋谷雅弘編『租税判例百選（第7版）』（有斐閣、2021）
酒井克彦『クローズアップ租税行政法2版』（財経詳報社、2016）
阿部雪子『資産の交換・買換えの課税理論』（中央経済社、2017）

【成績評価の方法と基準】

中間試験20%（レポート）、期末試験70%、平常点10%とする。

【学生の意見等からの気づき】

抽象的な説明にならないように、授業では裁判例を多く取り上げるなどの工夫をしている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

関連科目として行政法、憲法、民法、会社法等を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

The student can learn the basic matter of collection procedure, such as tax procedures to fixes, such as decision (filing of return, correction, determination) of a tax, payment, return of a tax, and a notice of tax payment, a disposition for failure to pay, by this lecture. Since a tax procedures to fix and collection-of-taxes procedure are closely connected with law, such as Civil Code and the administrative law, the student can learn the fundamental knowledge of the procedural side of a tax, referring to these law. The student can learn exact knowledge by analysis of a judicial precedent about the important point of argument of tax adjective law.

LAW300AB（法学 / law 300）

租税実体法

阿部 雪子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

租税実体法は、所得税法、法人税法、相続税法、消費税法、地方税法などを総称する法分野である。これらの税目のうち特に所得課税の分野である所得税法、法人税法を中心に学習し、租税法の基礎理論を習得する。各税法の解釈や適用の問題は、裁判例を通じて確実な知識を身につける。

なお、この科目は、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業経営と法コース(商法中心)」、「国際社会と法コース」に配置されている。

【到達目標】

所得税法及び法人税法を体系的に学習することを通じて、社会で必要な税法の知識を身につける。所得税法では、所得税の基本理念が理解できるようになる。また、法人税法では法人所得の計算と企業会計の関係について必要な知識を習得する。税制改革の論議や税制に関わる記事にも関心を持ち得るような能力を涵養する。司法試験、公務員採用試験などの各種資格試験の勉強にも資するものとする。なお秋学期は、租税法分野のうち租税手続法を取扱い、租税の確定や徴収に関する手続的側面の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業用教材は、随時、学習支援システムにアップロードするので、各自、印刷して使用すること。講義内容や課題等への質問事項に対するフィードバックの方法として、授業時間内に解説の時間を設けたり、必要に応じて学習支援システムの教材機能に参照資料を掲載し解説したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、租税法とは、租税の現状、租税の必要性	授業の進め方、租税体系
第2回	租税法の基本原則、申告納税制度	租税法律主義、租税公平主義、シャープ税制の成立
第3回	所得税法、所得の定義、非課税所得	所得概念の理論・消費型・支出型所得概念、発生型・取得型所得概念、非課税所得
第4回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得(1)	所得区分、所得分類の意義、各種所得区分の判例(1)
第5回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得(2)	所得区分、所得分類の意義、各種所得区分の判例(2)
第6回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得(3)	所得区分、所得分類の意義、各種所得区分の判例(3)
第7回	所得の年度帰属、必要経費	年度帰属の原則、権利確定主義、必要経費の意義、家族的企業と必要経費、判例
第8回	損益通算、所得控除と税額控除、確定申告	損益通算制度、所得控除と税額控除の意義、課税標準と税額

第9回	法人税法と法人税の納税義務者	法人の形態と納税義務者、事業体の課税問題
第10回	法人所得・法人税額の計算(1)	法人所得の計算と企業会計の関係
第11回	法人所得・法人税額の計算(2)	益金、益金の別段の定め、判例
第12回	法人所得・法人税額の計算(3)	損金、損金の別段の定め①
第13回	法人所得・法人税額の計算(4)	損金、損金の別段の定め②、判例
第14回	特殊関係法人の課税問題・総括	同族会社の課税・同族会社の行為・計算の否認規定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、授業内に指示された判例、参考文献にもとづく学習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。復習を重視すること。

【テキスト（教科書）】

水野忠恒編『テキストブック租税法』（中央経済社、2024）

【参考書】

金子 宏『租税法』（弘文堂、2021）

水野忠恒『大系租税法第4版』（中央経済社、2024）

中里実・佐藤英明・増井良啓・渋谷雅弘編『租税判例百選（第7版）』（有斐閣、2021）

阿部雪子『資産の交換・買換えの課税理論』（中央経済社、2017）

【成績評価の方法と基準】

中間試験20%（レポート）、期末試験70%、平常点10%とする。

【学生の意見等からの気づき】

抽象的な説明にならないように裁判例を多く取り上げるなどの工夫をしている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

関連科目として行政法、憲法、民法、会社法等を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

A Tax substantive law is a law field that collectively refers to the Income Tax Law, Corporate Tax Law, Inheritance Tax Law, Consumption Tax Law, and Local Tax Law. The students can learn the basic theory of tax law, focusing on the fields of income taxation and corporate income taxation. The problem of the interpretation and application of each tax law will be acquired through court cases. The student can learn exact knowledge according to a judicial precedent about application of Income Tax Law, Corporate Tax Law, or an interpretative important point of argument.

LAW300AB (法学 / law 300)

地方自治法

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市町村、都道府県などの地方公共団体は、国とほぼ同じ分野において行政活動を行っており、住民の活動を規制し住民に対して給付するほか、租税の賦課徴収もしている。立法活動については、条例などを制定して、住民の権利義務を抽象的に規律する場合がある。地方公共団体の活動は住民の生活に深く関わるものである。その活動に関して住民は、直接請求権を行使し、また、住民訴訟を提起するなど、権利主体として法的な主張をすることができる。住民の権利のありようなどの、地方公共団体と住民に関わりのある法的問題は重要なものである。

憲法が規定している地方自治を詳細化する、各種の法令・地方自治法（＝地方自治法）が存在するが、授業では、地方自治の一般的・基本的枠組みを定めている地方自治法を主に参照しながら、地方公共団体と住民をめぐる主要な法的問題について学ぶ。その目的は、行政・公共政策と法コースにあげられているような、法的問題を理解し、その問題の解決に向けて積極的に取り組むことができる能力を身につけることにある。

【到達目標】

①住民自治・団体自治、②地方公共団体の意義と種類、③住民の権利、④議会と長の関係、⑤条例制定権の限界・地方自主法相互の関係、⑥国と普通地方公共団体及び普通地方公共団体相互間の行政事務配分、⑦国の行政的関与について、それぞれ説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。いわゆるハイフレックス授業の方式を採用する予定。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	主要な法的問題
第2回	地方自治の基礎	地方制度から地方自治の保障へ 住民自治と団体自治
第3回	地方公共団体の意義と種類(1)	普通地方公共団体の意義と種類 団体間の組織・権限の違い
第4回	地方公共団体の意義と種類(2)	大都市制度 普通地方公共団体の再編
第5回	地方公共団体の意義と種類(3)	特別地方公共団体の意義と種類
第6回	住民の権利(1)	住民の意義 参政権
第7回	住民の権利(2)	直接請求権
第8回	住民の権利(3)	公の施設の利用権
第9回	住民の権利(4)	住民監査請求 住民訴訟
第10回	住民の権利(5)	住民投票
第11回	地方公共団体の組織	議会と長の関係

第12回	地方公共団体の自治立法権	条例制定権の限界・地方自主法相互の関係
第13回	地方公共団体の自治行政権	国と普通地方公共団体及び普通地方公共団体相互間の行政事務配分
第14回	国と地方公共団体の関係	国の行政的関与の概要

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書のいずれかを参照しながら、予習・復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布レジメ。テキストは使用しない。

【参考書】

宇賀克也『地方自治法概説〔第10版〕』（有斐閣、2023年）
 塩野宏『行政法III〔第5版〕』（有斐閣、2021年）
 人見剛・須藤陽子編著『ホーンブック地方自治法〔第3版〕』（北樹出版、2015年）
 白藤博行ほか著『アクチュアル地方自治法』（法律文化社、2010年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100％）が、感染症リスクの回避のため通学できない場合にはレポートによる（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

最新版の六法。これは毎回持参すること。また、学習支援システムの利用のために必要なPCあるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。感染症リスク回避のために通学できない場合にはさらに、(1) ZoomやWebexが利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するためのPDF閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader〔無料〕など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc、.docxの形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Wordなど）が必要となる。

【その他の重要事項】

この科目は行政法科目に該当する。あらかじめ行政法入門を履修したか、現に履修中であることが、科目での学びが効果的なものとなるため、望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to help you learn major problems concerning local authorities and the public, while consulting Local Autonomy Act 1947 (c.67) which lays down fundamental and general framework of local autonomy system.

After completing this course, you should be able to:

- Explain a principle of local autonomy;
- Explain definition and sorts of local authorities;
- Explain individual rights which the Act 1947 provides for;
- Explain relationship between the council (which is comparable though not identical idea of county council, district council, parish council, and so on) and head of a local authority;
- Explain limits on legislative powers of local authorities;
- Explain differences between public services necessarily delivered by the state and local authorities;
- Explain a manner of state intervention in (local authorities' carrying out) the executive functions.

You should learn independently by reading your own reference book(s) in order to prepare for and/or review every class. The STANDARD time for preparation and review is 2 hours each.

Assessment for your comprehension is done by an end-of-term exam (100%). If you cannot attend school due to the impact of the COVID-19 infection, it is done by an essay using the 'Learning Management System [an internet-based system for learning]'.

LAW300AB (法学 / law 300)

環境法

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法に関する2単位の科目として、環境法の全体像の紹介を試みる。環境保全の制度の進展は目覚ましく、環境法令についても頻繁に制定・改廃が行われているが、最新の法令の状況、学説の議論を踏まえつつも、環境法の基本的な考え方の修得に講義の重点を置くことにしたい。

本科目は「行政・公共政策と法コース」、「国際社会と法コース」に属する。民法・憲法等の基本関連科目のほか、「行政法入門Ⅰ・Ⅱ」、「行政法作用法Ⅰ・Ⅱ」、「行政救済法Ⅰ・Ⅱ」の知識・理解をもつ受講者には、より精確な講義の理解が可能となる。

【到達目標】

Ⅰ 知識面

①受講者が、環境法分野における法令、理論、判例を学ぶことができる。憲法、民法、行政法等の関連知識を確実なものとするができる、あるいは、これらの分野を本格的に学習する足がかりとすることができる講義を目指す。

②さらに進んで、受講者が、地球温暖化問題、東アジアの環境汚染、環境問題への参加、司法アクセスの改善等、法政策的な課題についても、最新の知識が取得できる講義を目指す。

Ⅱ 能力面

①受講者が、法律文献を正確に読解できる力を身に付けることを目指す。併せて、受講者が、最高裁判所をはじめとする裁判例の論理を正確に把握できる能力を身に付けることを目指す。

②受講者が、関連する自然科学上の知識について高校レベルの正確な知識を踏まえ、環境問題の正しい把握の上に法的な分析を行うことのできる能力を身に付けることを目指す。

③受講者が、興味・関心に応じ、自然科学の基礎的な文献にも取り組む積極的な姿勢を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

通常の講義形式(全面対面方式)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要・成績評価の方法。
第2回	環境法の生成（１）	公害法の生成、公害対策基本法、公害・環境訴訟の展開
第3回	環境法の生成（２）・環境法の諸原則	地球環境問題、環境基本法、原子力法制の環境法への組み込み 環境法の諸原則(概要)
第4回	環境法の基礎（１）	環境法の理念、環境法における主体、環境保全の手法①(規制的手法、土地利用規制手法、事業手法、買上げ・管理契約手法、計画的な管理手法)
第5回	環境法の基礎（２）	環境保全の手法②(非権力的手法)・③(経済的インセンティブ・ディスインセンティブ)・④(情報を媒介としたインセンティブ・ディスインセンティブ)
第6回	環境法の基礎（３）	環境保全の費用負担

第7回	環境法の基礎（４）	国際的な環境保全、東アジアの環境問題
第8回	環境汚染の規制・環境保全（１）	環境の保全と計画的な手法
第9回	環境汚染の規制・環境保全（２）	公害規制（大気汚染・土壌汚染を例として）
第10回	環境汚染の規制・環境保全（３）	原子力安全規制（１）- 歴史・概要
第11回	環境汚染の規制・環境保全（４）	原子力安全規制（２）- 福島原発事故以降の改革、化学物質規制
第12回	環境汚染の規制・環境保全（５）	廃棄物処理・循環型社会形成
第13回	地球環境問題とその対策	地球環境問題とその対策
第14回	公害・環境紛争と司法・行政上の解決(概論)	共同不法行為・環境行政訴訟(訴訟要件、住民訴訟、団体訴訟の課題)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○学際的な科目であり、応用科目であるので、授業中でわからない用語等が出てきた場合には、自主的に環境省ホームページ等を検索して調べることが望ましい。

○また、環境問題の実態は科学技術上の基礎知識がないと理解できないことも多いので、興味関心のあるテーマについては環境省のホームページ等の解説を調べるのが望まれる。

○本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。学習支援システムに事前に資料をアップする。教室においては配布しない。

【参考書】

(図書館等において、参照し活用すること)

大塚直『環境法BASIC（第3版）』（有斐閣、2021年） 4,730円

大塚直『環境法〔第4版〕』（有斐閣、2020年） 5,280円

北村喜宣『環境法〔第6版〕』（弘文堂、2023年） 4,620円

【成績評価の方法と基準】

Ⅰ 期末の教場試験(100%)。リアクションペーパーの提出(毎回の講義におけるリアクションペーパーの提出は加点要素とする。40%)

Ⅱ リアクション用のPC及び無線ルーターの準備については、大学の方針を参照されたい。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム等を使用する。参照すべき行政法規がミニ六法には掲載されていないこともあるので、対面での参加の場合には、法令データベースを参照できる情報機器(無線LANの接続が可能なPC、スマートフォン等)を持参することが望ましい。六法(WEB上に政府の法令データベースが公開されている)。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture is a two-credit course and deals with an overview of environmental law.

【Learning Objectives】 The purpose of this lecture is to learn the basics of environmental law while focusing on domestic environmental law.

【Learning activities outside of classroom】 Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face or high-flex lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.

【Grading Criteria/Policy】 I. End-of-term classroom exam (70%), report (30%). Submission of reaction papers (Submission of reaction papers in each lecture is an additional point. Total 40%)

LAW100AB（法学 / law 100）

民事法総論

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として民法総則を中心に扱い、民法の基本制度、基本原則、さらには消費者問題、高齢者問題といった現代社会特有の問題に対処する上で民法が果たす役割について学ぶ。「裁判と法コース」など全コースに属している。

【到達目標】

民法総則のうち、特に信義則・権利濫用、権利外観法理、法人、時効の基本的知識・考え方を判例や学説をもとに理解することができる。また、消費者問題、高齢者問題など現代社会特有の問題に民法が果たす役割について、民法総則の知識を生かして幅広い視点から考える力を身につけることができる。

以上の学習にあたり、実際の紛争の内容およびその解決の在り方（条文の解釈・適用の仕方）について、判例をもとに理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民事法総論では、主として民法総則を講義の対象とし、民法の定める基本原則の意味のほか、物の概念、無効と取消し、時効といった民法の基本知識に加え、権利外観法理や法人制度など、これまでの民法の講義で学んだ分野の発展的問題をとりあげる。毎回の講義において、これらの分野の基本知識・考え方を説明するとともに、関連する判例を読んで民法の規定が具体的にどのように解釈・適用されるかを理解する。

また、民法は私たちの生活にとって身近かつ重要な法律であることを踏まえ、現代社会における民法の役割、重要性についても発展的な講義を行う。これらについても、関連する判例をもとに説明する。具体的には、①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること。②授業日はWebexまたはZOOMで解説を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。WebexまたはZOOMでの解説は同時録音・録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。WebexまたはZOOMでもチャットで質問を受け付ける。また、隔週になると思われるが、対面での質問受付の機会を設けるので、進路相談や学習相談に活用して欲しい。事前課題や小テストの解説、および、学生からの質問への回答は授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	民法とは何か・民法上の基本概念（物とは何か）	民法とは何か、民法の「物」概念および関連規定についての講義
第2回	民法の基本原則①	民法の信義則概念についての講義・判例分析
第3回	民法の基本原則②	民法の権利濫用法理についての講義・判例分析

第4回	権利の主体・発展問題①民法における外観法理	民法94条2項と110条をめぐる判例の解説
第5回	権利の主体・発展問題②法人	法人とは何か、法人の設立についての講義
第6回	権利の主体・発展問題③法人	法人の対外関係についての講義
第7回	無効と取消しについて	無効・取消しの意義、両者の違いをめぐる講義
第8回	時効①	時効とは何か、時効の援用についての講義
第9回	時効②	時効の完成猶予、更新についての講義
第10回	時効③	消滅時効についての講義
第11回	時効④	時効の起算点をめぐる判例の分析
第12回	現代における民法の役割①消費者問題と民法	消費者契約法についての解説・民法との関係についての説明
第13回	現代における民法の役割②高齢者問題と民法	高齢者問題をめぐる裁判例の分析・成年後見制度についての講義
第14回	条件・期限その他、民事法総論のまとめ	条件・期限など補足。2年生以降の民法科目について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業2日前までにアップするレジュメを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次回の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、民法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日にWebexまたはZOOMでの解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。特に判例集に掲載された判例については、紛争の内容および争点を図を書くなどして具体的に把握する。本授業の予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐久間毅『民法の基礎1 総則（第5版）』（有斐閣、2020年）（講義の予習・復習用として必ず購入すること）。
潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選I（第9版）』（有斐閣、2023年）以上2点ともに、開講時の最新版を購入すること。
六法（出版社は問わないが、『ポケット六法』や『デイリー六法』といったコンパクトなもので十分である）

【参考書】

学習の理解を助けるものとして、大村敦志『新基本民法1 総則（第2版）』（有斐閣、2019年）。
滝沢昌彦『民法がわかる民法総則（第5版）』（弘文堂、2023年）
その他の参考書は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った小テストを学期中に複数回行う（行う場合には、事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること）。このテストによる評価を20～30%とする。
また、学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を70～80%とする。
つまり、小テストと定期試験の合計（100%）で評価する。
以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでの疲労軽減のための工夫や、小テストを行う時間が授業終了後、次の時限にかからないようにするなどの工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材を配布したり、小テストを行う。また、講義や質疑応答はWebexまたはZOOMで行う。そのことから、パソコンかタブレットを準備することを勧める。

【その他の重要事項】

レジュメ、板書に頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。自分で教員の話聞き取った上で要点をまとめてノートに書くという作業を行うことで、さらに授業の理解が深まり、また、記述式試験の対策にもなる。少なくとも「契約法Ⅰ」を受講した上でこの科目を受講すること。学習支援システムで随時お知らせを配信するため、こまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

We learn the general provisions of Civil Code, especially, the juridical person and the prescription. The goals of this course are to comprehend this rule.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mini-examination(20%) and term-end examination(80%).

LAW100AB（法学 / law 100）

契約法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法のうち、契約の成立、有効要件、および、契約の主体に関する法的問題を扱う。「裁判と法コース」など全コースに属している。民法には家族、契約、物の所有といった、私達にとって身近な事柄に関する規定が設けられているが、このうち、この授業では私達が日々行っている契約に関する基本ルールを学ぶ。

大学に入学して初めて民法を学ぶ機会でもあることから、民法とは何か、契約とは何かといった民法の基本的な考え方はもちろん、判例の調べ方、文献の調べ方といった民法の学習方法も身につける。

【到達目標】

契約の成立、有効要件、および契約の主体にかかわる民法総則、契約総論部分の知識・考え方を判例や学説をもとに理解することができる。

また、実際の紛争の内容およびその解決の在り方（条文の解釈・適用の仕方）について、判例をもとに理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民法総則は、民法全体にわたる規定であり、しかも、抽象的な規定が多いことから、必ずしも理解が容易な分野ではない。講義では契約における法的問題を中心に学説・判例の考え方を示すとともに、判例を実際に読むことで紛争を解決するための法的思考方法や民法の規定が具体的にどのように解釈・適用されるかについても説明する。具体的には、①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること、②授業日はWebexあるいはZOOMで解説を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。WebexあるいはZOOMでの解説は同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。WebexあるいはZOOMでもチャットで質問を受け付ける。また、隔週になると思われるが、対面での質問受付の機会を設けるので、進路相談や学習相談に活用して欲しい。事前課題や小テストの解説、および、学生からの質問への回答は授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	契約とは何か（ガイダンスも兼ねて）	民法とは何か、契約法とは何か
第2回	契約の成立	民法における契約の成立に関する規定
第3回	契約の解釈・契約の内容	契約の解釈、公序良俗規定
第4回	契約の有効要件①意思表示総論、意思の不存在	意思表示総論、心裡留保、虚偽表示①
第5回	契約の有効要件②意思の不存在	虚偽表示②、錯誤
第6回	契約の有効要件③意思表示の瑕疵	詐欺、強迫

第7回	契約の主体①自然人	権利能力、失踪宣告
第8回	契約の主体②自然人	意思能力、行為能力①行為能力とは何か、未成年者
第9回	契約の主体③自然人	行為能力②成年被後見人、被保佐人、被補助人、取引の相手方の保護
第10回	代理①	代理とは何か、代理の種類、代理人の義務
第11回	代理②	代理権の濫用、代理行為、無権代理①
第12回	代理③	無権代理②、無権代理と相続
第13回	代理④	表見代理①民法109条、110条
第14回	代理⑤	表見代理②民法112条、109条と110条の重畳適用、110条と112条の重畳適用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業2日前までにアップするレジュメを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、民法判例百選の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしていることを前提に授業日にWebexあるいはZOOMでの解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例百選の指定箇所を読むと理解が深まる。

特に民法判例百選に掲載された判例については、紛争の内容および争点を図を書くなどして把握するよう努めること。

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐久間毅『民法の基礎1 総則（第5版）』（有斐閣、2020年）（講義の予習・復習用として必ず購入すること）。

潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選I（第9版）』（有斐閣、2023年）以上2点ともに、開講時の最新版を購入すること。

六法（出版社は問わないが、『ポケット六法』や『デイリー六法』といったコンパクトなもので十分である）

【参考書】

学習の理解を助けるものとして、大村敦志『新基本民法1 総則（第2版）』（有斐閣、2019年）

滝沢昌彦『民法がわかる民法総則（第5版）』（弘文堂、2023年）

その他、詳しくは開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った小テストを学期中に複数回行う（行う場合には、事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること）。このテストによる評価を20～30%とする。

また、学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を70～80%とする。

つまり、小テストと定期試験の合計（100%）で評価する。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでの疲労軽減のための工夫や、小テストが授業終了後、次の時限にかからないようにするなどの工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材を配布したり、小テストを行う。また、講義や質疑応答はWebexまたはZOOMで行う。そのことから、パソコンかタブレットを準備することを勧める。

【その他の重要事項】

レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。自分で教員の話聞き取った上で要点をまとめてノートに書くという作業を行うことで、さらに授業の理解が深まり、また、記述式試験の対策にもなる。学習支援システムで随時お知らせを配信するため、こまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

We learn the juristic acts, the agency, and the formation of contracts of Civil Code. The goals of this course are to comprehend this rule.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process

Mini-examination (20 – 30%) and term-end examination(70 – 80%).

LAW100AB（法学 / law 100）

民事法総論**新堂 明子**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H-N

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法総則のうち、無効、取消し、代理、法人、消滅時効を扱う。これに関する法律（民法等）、判例を学び、適宜、学説について検討する。

民法総則はすべてのコースの基本となる。とくに、裁判と法コースを選択する場合、履修を強くすすめる。

【到達目標】

民法総則のうち、無効、取消し、代理、法人、消滅時効を説明することができる。これに関する法律（民法等）、判例を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。

教材中の設例に対し、授業中に適宜解説および解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	法学入門	法学入門
第2回	民法入門	民法入門
第3回	無効と取消し（1）	無効と取消し（1）
第4回	無効と取消し（2）	無効と取消し（2）
第5回	代理（1）	有権代理の要件と効果（1）
第6回	代理（2）	有権代理の要件と効果（2）
第7回	代理（3）	無権代理（1）
第8回	代理（4）	無権代理（2）
第9回	代理（5）	表見代理（1）
第10回	代理（6）	表見代理（2）
第11回	法人（1）	法人（1）
第12回	法人（2）	法人（2）
第13回	消滅時効（1）	消滅時効（1）
第14回	消滅時効（2）	消滅時効（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は軽く、復習は重く。

民法の条文を声に出して読み上げる。授業でよく分からなかった箇所を教科書で確認する。学期中、試験前に教科書の該当箇所を初めから終わりまで通読する。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

自分に合った（自分で選んだ）教科書（参考書の中から選んでください。）

『民法判例百選Ⅰ総則・物権〔第9版〕』

六法

（必ず最新版をそろえましょう。）

【参考書】

潮見佳男＝滝沢昌彦＝沖野真巳『民法1 総則（有斐閣アルマ Specialized）』（2024年）

佐久間毅『民法の基礎1 総則〔第5版〕』（2020年）

四宮和夫＝能見善久『民法総則〔第九版〕』（2018年）

（必ず最新版をそろえましょう。）

【成績評価の方法と基準】

定期試験。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

関係図、時系列を板書し、学生の理解に努めたい。

【その他の重要事項】

私語厳禁です。周囲の学生に迷惑をかけないよう気をつけましょう。注意しても止まない場合、退出をお願いすることがあります。

録音、録画厳禁です。録音、録画が必要な学生は別途相談を受け付けます。もちろん、板書の写メも厳禁です。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

studying voidance, agency, corporation and the statute of limitations in the Japanese Civil Code

【Learning Objectives】

understanding voidance, agency, corporation and the statute of limitations in the Japanese Civil Code

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

term-end examination: 100%

LAW100AB（法学 / law 100）

契約法 I**新堂 明子**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H-N

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法総則のうち、契約の成立要件、有効要件、効果を扱う。これに関する法律（民法）、判例を学び、適宜、学説について検討する。

民法総則はすべてのコースの基本となる。とくに、裁判と法コースを選択する場合、履修を強くすすめる。

【到達目標】

民法総則のうち、契約の成立要件、有効要件、効果を説明することができる。これに関する法律（民法）、判例を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。

教材中の設例に対し、授業中に適宜解説および解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	法学入門	法律要件、法律効果、法的三段論法
第2回	民法入門（1）	所有→物権、契約→債権の抽象化。法律行為、意思表示の意味。「総則」の意味
第3回	民法入門（2）	契約の成立
第4回	民法入門（3）	契約の終了
第5回	権利能力、意思能力、行為能力（1）	権利能力、意思能力、未成年者
第6回	行為能力（2）	成年被後見人と成年後見人
第7回	行為能力（3）	被保佐人と保佐人、被補助人と補助人
第8回	意思表示（1）	心裡留保、虚偽表示（1）
第9回	意思表示（2）	虚偽表示（2）
第10回	意思表示（3）	錯誤（1）
第11回	意思表示（4）	錯誤（2）
第12回	意思表示（5）	詐欺・強迫（1）
第13回	意思表示（6）	詐欺・強迫（2）
第14回	強行規定違反、公序良俗違反	強行規定違反、公序良俗違反

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は軽く、復習は重く。

民法の条文を声に出して読み上げる。授業でよく分からなかった箇所を教科書で確認する。学期中、試験前に教科書の該当箇所を初めから終わりまで通読する。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

自分に合った（自分で選んだ）教科書（参考書の中から選んでください。）

『民法判例百選 I 総則・物権〔第9版〕』

六法

（必ず最新版をそろえましょう。）

【参考書】

潮見佳男＝滝沢昌彦＝沖野真已『民法 1 総則（有斐閣アルマ Specialized）』（2024年）

佐久間毅『民法の基礎 1 総則〔第5版〕』（2020年）

四宮和夫＝能見善久『民法総則〔第9版〕』（2018年）
（必ず最新版をそろえましょう。）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

関係図、時系列を板書し、学生の理解に努めたい。

【その他の重要事項】

私語厳禁です。周囲の学生に迷惑をかけないよう気をつけましょう。注意しても止まない場合、退出をお願いすることがあります。

録音、録画厳禁です。録音、録画が必要な学生は別途相談を受け付けます。もちろん、板書の写メも厳禁です。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

studying formation of contracts in the Japanese Civil Code

【Learning Objectives】

understanding formation of contracts in the Japanese Civil Code

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

term-end examination: 100%

LAW200AB（法学 / law 200）

契約法Ⅱ

滝沢 昌彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いわゆる債権総論（民法第3編第1章）のうち契約に直接に関わる部分、すなわち、債権の目的（第1節）、債務不履行責任（第2節第1款）、および、債権の消滅（第6節）を扱う。「契約法Ⅱ」と題する所以であり、契約法ⅠやⅢと密接に関連するし、これらの科目との重複を厭わず契約法全般に話を広げながら講義をする。

なお、本授業は、「裁判と法コース」など全てのコースに属する。

【到達目標】

民法の基本的な概念や制度について理解し、また、運用上問題となる論点について判例や学説を参考にして解釈する能力を身に付ける。そして、最終的には、基本的な事例問題について民法を適用して解決できるようにすること、つまり、民法を「使える」ようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに従って講義をするが、適宜、債権総論以外の分野にも必要に応じて言及する。なるべく民法を全体として理解してもらう為である。

また、随時復習を行うし、場合によっては「眠気防止」の為に受講生を指名して発言を求めることがあるかもしれない。なお、授業の中で課題を課した場合には、返却等適宜授業の中でフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	契約概論①	債権総論からは外れるが、契約の成立について紹介して（契約概論②とともに）契約制度の概観をする。
第2回	契約概論②	債権総論からは外れるが、契約の効力について紹介して（契約概論①とともに）契約制度の概観をする。
第3回	債権の目的	特定物債権と種類債権 金銭債権等
第4回	契約の履行①	弁済
第5回	契約の履行②	弁済による代位、弁済の充当等
第6回	契約の履行③	相殺
第7回	契約の履行④	その他の債権消滅原因
第8回	債務不履行責任：履行請求権	履行の請求と強制
第9回	債務不履行責任：損害賠償①	損害賠償の要件
第10回	債務不履行責任：損害賠償②	損害賠償の範囲
第11回	債務不履行責任：損害賠償③	過失相殺、損害賠償の予定等
第12回	債務不履行責任：損害賠償④	損害賠償による代位、代償請求権等

第13回 債務不履行責任：まとめ 契約違反に対する救済精度のまとめ

第14回 総復習 これまでの講義を適宜補充した上で、全体的な総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当部分を読み、事後的には、知識の定着を図る為の復習を行う。語学と同様に、反復練習が必須です。準備・復習に各2時間を想定している。

【テキスト（教科書）】

難波他『コンシェルジュ民法3 契約・債権総論』北大路書房（2024年）

【参考書】

民法判例百選Ⅱ（第9版）（有斐閣、2023年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

イメージを具体的に作る為に、時系列や関係図を板書する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn articles of Japanese Civil Law Part3 Chapter1, which relate Contract Law, namely §§399-411, §§412-422-2, §§473-520.

【Learning Objectives】

Students are expected to understand the meaning of the articles and to be able to apply the articles.

[Learning activities outside of classroom]

Your study time will be about four hours for each class.

【Grading Criteria/Politics】

Term-end examination 100 %

LAW200AB（法学 / law 200）

債権回収法 I

滝沢 昌彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いわゆる債権総論（第3編第1章）のうち、債権の回収に関わる部分、すなわち、債権者代位権（第2節第2款）、詐害行為取消権（第2節第3款）、多数当事者の債権・債務（第3節）、債権譲渡（第4節）、および、債務引受け（第5節）を扱う。なお、この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

民法の基本的な概念や制度について理解し、また、運用上問題となる論点について判例や学説を参考にして解釈する能力を身に付ける。そして、最終的には、基本的な事例問題について民法を適用して解決できるようにすること、つまり、民法を「使える」ようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに従って講義をするが、適宜、債権総論以外の分野にも必要に応じて言及する。なるべく民法を全体として理解してもらう為である。

また、随時復習を行うし、場合によっては「眠気防止」の為に受講生を指名して発言を求めることがあるかもしれない。なお、授業の中で課題を課した場合には、返却等適宜フィードバックを授業でする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	債権の効力	給付の受領・保持 第三者に対する妨害排除の可否
第2回	債権譲渡①	債権譲渡の対抗問題
第3回	債権譲渡②	債務者の抗弁 特に相殺
第4回	債務引受・契約上の地位の譲渡	併存すべき債務引受・免責的債務引受、契約上の地位の譲渡
第5回	債権者代位権①	債権者代位権の要件
第6回	債権者代位権②	詐債権者代位権の効果、転用例
第7回	債権譲渡①	債権譲渡の対抗要件
第8回	債権譲渡②	債権譲渡の効果
第9回	債務引受・契約上の地位の移転	併存的債務引受け 免責的債務引受け 契約上の地位の移転
第10回	詐害行為取消権①	詐害行為取消権の要件
第11回	詐害行為取消権②	詐害行為取消権の効果
第12回	多数当事者の債権関係	分割債権・債務、不可分債権・債務、連帯債権債務
第13回	保証	保証、連帯保証等
第14回	総復習	ここまでの講義を適宜補充し、全体的な総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当部分を読み、事後的には、復習により知識の定着を図る。語学と同様に、反復練習が必須です。準備・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

難波他『コンシェルジュ民法3 契約・債権総論』北大路書房（2024年）

【参考書】

民法判例百選Ⅱ（第9版）（有斐閣、2023年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100パーセント）。

【学生の意見等からの気づき】

イメージを具体的にする為、時系列や関係図を板書する。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will learn Subrogation Right or other Rights for Creditors (§§423-426), Claims and Obligation of multiple Parties (§§427-465-10), and Assignments of Claims (§§466-472-4) in Japanese Civil Law Part3 Chapter1.

[Learning Objectives]

Students are expected to understand the meaning of the articles and to be able to apply the articles.

[Learning activities outside of classroom]

Your study time will be about four hours for each class.

[Grading Criteria/Politics]

Term-end examination 100 %

LAW200AB（法学 / law 200）

契約法Ⅱ

滝沢 昌彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いわゆる債権総論（民法第3編第1章）のうち契約に直接に関わる部分、すなわち、債権の目的（第1節）、債務不履行責任（第2節第1款）、および、債権の消滅（第6節）を扱う。「契約法Ⅱ」と題する所以であり、契約法ⅠやⅢと密接に関連するし、これらの科目との重複を厭わず契約法全般に話を広げながら講義をする。

なお、本授業は、「裁判と法コース」など全てのコースに属する。

【到達目標】

民法の基本的な概念や制度について理解し、また、運用上問題となる論点について判例や学説を参考にして解釈する能力を身に付ける。そして、最終的には、基本的な事例問題について民法を適用して解決できるようにすること、つまり、民法を「使える」ようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに従って講義をするが、適宜、債権総論以外の分野にも必要に応じて言及する。なるべく民法を全体として理解してもらう為である。

また、随時復習を行うし、場合によっては「眠気防止」の為に受講生を指名して発言を求めることがあるかもしれない。なお、授業の中で課題を課した場合には、返却等適宜授業の中でフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	契約概論①	債権総論からは外れるが、契約の成立について紹介して（契約概論②とともに）契約制度の概観をする。
第2回	契約概論②	債権総論からは外れるが、契約の効力について紹介して（契約概論①とともに）契約制度の概観をする。
第3回	債権の目的	特定物債権と種類債権 金銭債権等
第4回	契約の履行①	弁済
第5回	契約の履行②	弁済による代位、弁済の充当等
第6回	契約の履行③	相殺
第7回	契約の履行④	その他の債権消滅原因
第8回	債務不履行責任：履行請求権	履行の請求と強制
第9回	債務不履行責任：損害賠償①	損害賠償の要件
第10回	債務不履行責任：損害賠償②	損害賠償の範囲
第11回	債務不履行責任：損害賠償③	過失相殺、損害賠償の予定等
第12回	債務不履行責任：損害賠償④	損害賠償による代位、代償請求権等

第13回 債務不履行責任：まとめ 契約違反に対する救済精度のまとめ

第14回 総復習 これまでの講義を適宜補充した上で、全体的な総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当部分を読み、事後的には、知識の定着を図る為の復習を行う。語学と同様に、反復練習が必須です。準備・復習に各2時間を想定している。

【テキスト（教科書）】

難波他『コンシェルジュ民法3 契約・債権総論』北大路書房（2024年）

【参考書】

民法判例百選Ⅱ（第9版）（有斐閣、2023年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

イメージを具体的に作る為に、時系列や関係図を板書する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn articles of Japanese Civil Law Part3 Chapter1, which relate Contract Law, namely §§399-411, §§412-422-2, §§473-520.

【Learning Objectives】

Students are expected to understand the meaning of the articles and to be able to apply the articles.

[Learning activities outside of classroom]

Your study time will be about four hours for each class.

【Grading Criteria/Politics】

Term-end examination 100 %

LAW200AB (法学 / law 200)

債権回収法 I

滝沢 昌彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いわゆる債権総論（第3編第1章）のうち、債権の回収に関わる部分、すなわち、債権者代位権（第2節第2款）、詐害行為取消権（第2節第3款）、多数当事者の債権・債務（第3節）、債権譲渡（第4節）、および、債務引受け（第5節）を扱う。なお、この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

民法の基本的な概念や制度について理解し、また、運用上問題となる論点について判例や学説を参考にして解釈する能力を身に付ける。そして、最終的には、基本的な事例問題について民法を適用して解決できるようにすること、つまり、民法を「使える」ようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに従って講義をするが、適宜、債権総論以外の分野にも必要に応じて言及する。なるべく民法を全体として理解してもらう為である。

また、随時復習を行うし、場合によっては「眠気防止」の為に受講生を指名して発言を求めることがあるかもしれない。なお、授業の中で課題を課した場合には、返却等適宜フィードバックを授業でする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	債権の効力	給付の受領・保持 第三者に対する妨害排除の可否
第2回	債権譲渡①	債権譲渡の対抗問題
第3回	債権譲渡②	債務者の抗弁 特に相殺
第4回	債務引受・契約上の地位の譲渡	併存すべき債務引受・免責的債務引受、契約上の地位の譲渡
第5回	債権者代位権①	債権者代位権の要件
第6回	債権者代位権②	詐債権者代位権の効果、転用例
第7回	債権譲渡①	債権譲渡の対抗要件
第8回	債権譲渡②	債権譲渡の効果
第9回	債務引受・契約上の地位の移転	併存的債務引受け 免責的債務引受け 契約上の地位の移転
第10回	詐害行為取消権①	詐害行為取消権の要件
第11回	詐害行為取消権②	詐害行為取消権の効果
第12回	多数当事者の債権関係	分割債権・債務、不可分債権・債務、連帯債権債務
第13回	保証	保証、連帯保証等
第14回	総復習	ここまでの講義を適宜補充し、全体的な総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当部分を読み、事後的には、復習により知識の定着を図る。語学と同様に、反復練習が必須です。準備・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

難波他『コンシェルジュ民法3 契約・債権総論』北大路書房（2024年）

【参考書】

民法判例百選Ⅱ（第9版）（有斐閣、2023年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100パーセント）。

【学生の意見等からの気づき】

イメージを具体的にする為、時系列や関係図を板書する。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will learn Subrogation Right or other Rights for Creditors (§§423-426), Claims and Obligation of multiple Parties (§§427-465-10), and Assignments of Claims (§§466-472-4) in Japanese Civil Law Part3 Chapter1.

[Learning Objectives]

Students are expected to understand the meaning of the articles and to be able to apply the articles.

[Learning activities outside of classroom]

Your study time will be about four hours for each class.

[Grading Criteria/Politics]

Term-end examination 100 %

LAW100AB（法学 / law 100）

不法行為法

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律1,3,4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得を含む）の二つに大別されるが、本授業では、後者の法定債権を扱う。交通事故や医療過誤など私人間の多様な加害事例における被害者救済制度として機能する不法行為法を、その現代的役割に照らして、学習する。私人間の財産関係を規律する財産法分野における重要領域であり、法学の基本科目の一つとして、民法による問題解決の仕方の基礎を固める意義をもつ。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

基本型不法行為の類型並びに要件・効果、及び、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果を述べることができる。

その他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド方式によるオンライン授業を原則とする（一部、リアルタイム配信を利用する場合もある）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第2回	基本型不法行為の要件論①	直接加害型不法行為の不法性——主観的要件と権利侵害
第3回	基本型不法行為の要件論②	間接加害型不法行為の不法性——客観的過失
第4回	基本型不法行為の要件論③	間接加害型不法行為における過失認定①——医療過誤
第5回	基本型不法行為の要件論④	間接加害型不法行為における過失認定②——交通事故と工作物責任
第6回	基本型不法行為の要件論⑤	間接加害型不法行為における過失認定③——名誉・プライバシー侵害等
第7回	基本型不法行為の要件論⑥	損害発生・因果関係
第8回	基本型不法行為の要件論⑦	責任能力 責任無能力者の監督義務者等の責任（714条）
第9回	基本型不法行為の効果論①	賠償されるべき損害事実の範囲

第10回	基本型不法行為の効果論②	損害事実の金銭評価処理
第11回	基本型不法行為の効果論③	減額調整——過失相殺と損益相殺
第12回	基本型不法行為の効果論④	損害賠償請求権者の範囲・間接損害
第13回	複合型不法行為	使用者責任（715条）と共同不法行為（719条）
第14回	その他の法定債権	事務管理と不当利得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの指示による授業の予習と復習、小テスト。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅱ 不法行為法』（第4版、2021年、新世社）。通常の書籍版があるほか、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡康宏他『民法Ⅳ－債権各論』（第5版）、潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ』（不当利得・事務管理の箇所）（第4版）、平野裕之『コア・テキスト民法Ⅵ』（第2版）、大村敦志『新基本民法6 不法行為編』（第2版）、平井宜雄『債権各論Ⅱ 不法行為』、『民法判例百選Ⅱ』（第9版）など。詳細は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライド・ホワイトボードの利用を増やすなど、オンライン上の授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料等の配信、小テストの実施等について学習支援システムを利用するので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

This course introduces students to the organizing principles of tort law, such as civil liability, negligence, duty of care, causation, damages and vicarious liability. The general principles of tort law is provided in Chapter 5, Part.3 of the Japanese Civil Code, and tort law is a branch of law whose rules and methods are mainly developed through court decisions, thereby we will concentrate on case law analysis as well as legislative provisions. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code.

This course falls under all Course Models.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major tort issues which may arise in a particular factual situation.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

[Grading Criteria /Policy]

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW200AB（法学 / law 200）

契約法Ⅲ

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有償契約の典型である売買契約を対象として、交換型契約の基礎理論を学習する。無償の財産の提供である贈与契約とも対比し、両者の特徴を正確に理解することを目的とする。

法律学の基本的科目である民法のうち、私人間の取引を規律する財産法分野の最重要領域である売買契約の学習を通じて、民法による問題解決の仕方を身につける意義をもつ。この科目は全てのコースに属する。

【到達目標】

契約の概念、双務契約上の権利義務の発生・関係・消滅、売買契約に関する基本的ルール、及び贈与契約の特殊的効果等について、述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面による講義方式で行う。補足的にオンデマンド配信を利用するほか、状況により、数回程度、オンライン授業を実施する場合もありうる（オンデマンド又はリアルタイム配信）。

事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

授業後、及び学習支援システムの掲示板上で、質問を受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第2回	有償諾成契約法総論①	物権と債権の概念 民法の体系における契約法の位置づけ
第3回	有償諾成契約法総論②	契約の成立——申込と承諾
第4回	有償諾成契約法総論③	契約の効力——同時履行の抗弁 権・危険負担
第5回	有償諾成契約法総論④	契約の終了段階——解除と危険負担
第6回	売買の成立	売買契約の成立要件と契約の拘束力
第7回	売買の効力①	売買契約の当事者の義務——総説
第8回	売買の効力②	売主の責任①——権利の瑕疵（不適合）
第9回	売買の効力③	売主の責任②——物の瑕疵（不適合）
第10回	売買の効力④	契約上の危険の移転・期間制限等
第11回	売買の終了	売買契約の解除の効果

第12回	贈与	贈与契約の成立と効力
第13回	契約交渉	契約交渉段階の法律関係
第14回	契約関係の清算	不当利得（給付利得）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメで指示される予習と復習、小テスト。

契約法Ⅲが対象とする債権編については2020年4月から改正法が施行されている。六法は改正法に対応したものを使用すること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ 契約法・事務管理・不当利得』（第4版、2022年、新世社）。通常の書籍版もあるが、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡・磯村他『民法Ⅳ－債権各論』（第5版）、中田裕康『契約法〔新版〕』、大村敦志『新基本民法5 契約編』（第2版）、『民法判例百選Ⅱ』（第9版）、その他債権法改正（2017年成立）に対応しているもの。開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライドや板書の利用を増やすなど、授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料の配布等に学習支援システムを利用するので、準備しておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Contract law is the study of legally enforceable promises between individuals and this course introduces students to the basic concepts of contract law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to contracts. The principles of contract law are mostly provided in Chapter 2, Part.3 of the Japanese Civil Code, of which this course addresses Section 1 General Provisions, applicable to all types of contracts, Section 2 Gifts and Section 3 Sales, of specific contracts. Among the Topics covered are: formation (offer and acceptance), effect and termination of a contract, rights and obligations of the parties to a contract of sale, seller's warranty in particular and enforceability of gift promises. This course falls under all Course Models.

【Learning Objectives】

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract issues which may arise in a particular factual situation.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW300AB（法学 / law 300）

契約法Ⅳ

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

契約各則のうち、貸借型（消費貸借・賃貸借・使用貸借）、役務提供型（請負・委任・雇用・寄託）、その他（組合など）について学習する。「裁判と法コース」など全てのコースに属する。

私達の日常生活においては売買以外の契約も多く見られる。例えば家を借りる、お金を借りる、家を建ててもらい、医者診療を受ける、といった有償の取引はもちろん、友達に本を借りる、ホテルのフロントに荷物を預けるといった無償での約束も、実は民法の売買契約以外の契約類型に該当する。このような現代取引において重要な契約類型を学ぶことで、現代取引におけるルールのほか、現代取引のあり方について学ぶ。

【到達目標】

賃貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任、雇用、寄託、組合等についてその権利義務の発生・その内容・終了に関わるルールを意識と内容を理解することができる。

具体的には各契約における当事者間の権利義務の発生、権利義務の内容、契約の終了を中心に、規定の内容やそれに関する学説や判例を理解する。単に規定の内容を学ぶだけではなく、各契約類型の特徴およびその現代取引における役割を意識しながら、なぜそのような規定となっているのか、現行規定にはどのような問題があるのか、といった観点から学ぶ。

また、契約類型によっては民法以外の特別法において詳細なルールが設けられていることも多い。本講義ではこれらのうち、実際の取引において重要な役割を果たしているものについても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題をアップする。これらを使って予習すること、②授業日はレジュメをもとに解説を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。授業前後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。学生からの質問や意見については、授業内にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	概要 参考文献の指示
第2回	貸借型①	消費貸借①民法の消費貸借
第3回	貸借型②	消費貸借②クレジット契約、消費者信用
第4回	貸借型③	使用貸借
第5回	貸借型④	賃貸借①賃貸借とは、賃貸借契約の成立
第6回	貸借型⑤	賃貸借②賃貸人・賃借人の義務
第7回	貸借型⑥	賃貸借③譲渡・転賃、第三者との関係

第8回	貸借型⑦	賃貸借④賃貸借の終了、定期借家権
第9回	役務型①	委任①
第10回	役務型②	委任②サービス契約の規定の在り方
第11回	役務型③	請負①請負とは、請負の成立
第12回	役務型④	請負②請負の効力、終了
第13回	役務型⑤	雇用、寄託
第14回	その他	組合契約について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業2日前までにアップするレジュメを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次回の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、民法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山本敬三監修・大澤彩＝三枝健治＝田中洋『有斐閣ストゥディア民法5 契約』（有斐閣、2022年）。

【参考書】

判例教材として、瀬川信久＝内田貴『民法判例集債権各論第4版』（有斐閣、2020年）。

窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ（第9版）』（有斐閣、2023年）契約各論に関しては、以下の4つの書籍を特に薦める。経済的事情が許せば購入して学習して欲しい。

契約各論の全体像および現代における契約規定の在り方を考える上で有益な書籍として、大村敦志『新基本民法5 契約編 各種契約の法（第2版）』（有斐閣、2020年）

山本豊＝笠井修＝北居功『民法5 契約（有斐閣アルマ）』（有斐閣、2018年）。

中田裕康『（新版）契約法』（有斐閣、2021年）

曾野裕夫ほか『民法Ⅳ 契約』（有斐閣、2021年）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験100％で評価する。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業での解説は聞き取りやすい速度で、レジュメを工夫しながら行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【Outline (in English)】

In this lesson, we learn the rule of each contract in a Civil Code, for example, the lease contract, the service contract. The goals of this course are to comprehend this rule.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

不法行為法

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H・N・法律1,3,4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得を含む）の二つに大別されるが、本授業では、後者の法定債権を扱う。交通事故や医療過誤など私人間の多様な加害事例における被害者救済制度として機能する不法行為法を、その現代的役割に照らして、学習する。私人間の財産関係を規律する財産法分野における重要領域であり、法学の基本科目の一つとして、民法による問題解決の仕方の基礎を固める意義をもつ。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

基本型不法行為の類型並びに要件・効果、及び、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果を述べることができる。

その他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド方式によるオンライン授業を原則とする（一部、リアルタイム配信を利用する場合もある）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第2回	基本型不法行為の要件論①	直接加害型不法行為の不法性——主観的要件と権利侵害
第3回	基本型不法行為の要件論②	間接加害型不法行為の不法性——客観的過失
第4回	基本型不法行為の要件論③	間接加害型不法行為における過失認定①——医療過誤
第5回	基本型不法行為の要件論④	間接加害型不法行為における過失認定②——交通事故と工作物責任
第6回	基本型不法行為の要件論⑤	間接加害型不法行為における過失認定③——名誉・プライバシー侵害等
第7回	基本型不法行為の要件論⑥	損害発生・因果関係
第8回	基本型不法行為の要件論⑦	責任能力 責任無能力者の監督義務者等の責任（714条）
第9回	基本型不法行為の効果論①	賠償されるべき損害事実の範囲

第10回	基本型不法行為の効果論②	損害事実の金銭評価処理
第11回	基本型不法行為の効果論③	減額調整——過失相殺と損益相殺
第12回	基本型不法行為の効果論④	損害賠償請求権者の範囲・間接損害
第13回	複合型不法行為	使用者責任（715条）と共同不法行為（719条）
第14回	その他の法定債権	事務管理と不当利得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの指示による授業の予習と復習、小テスト。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅱ 不法行為法』（第4版、2021年、新世社）。通常の書籍版があるほか、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡康宏他『民法Ⅳ－債権各論』（第5版）、潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ』（不当利得・事務管理の箇所）（第4版）、平野裕之『コア・テキスト民法Ⅵ』（第2版）、大村敦志『新基本民法6 不法行為編』（第2版）、平井宜雄『債権各論Ⅱ 不法行為』、『民法判例百選Ⅱ』（第9版）など。詳細は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライド・ホワイトボードの利用を増やすなど、オンライン上の授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料等の配信、小テストの実施等について学習支援システムを利用するので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

This course introduces students to the organizing principles of tort law, such as civil liability, negligence, duty of care, causation, damages and vicarious liability. The general principles of tort law is provided in Chapter 5, Part.3 of the Japanese Civil Code, and tort law is a branch of law whose rules and methods are mainly developed through court decisions, thereby we will concentrate on case law analysis as well as legislative provisions. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code.

This course falls under all Course Models.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major tort issues which may arise in a particular factual situation.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

[Grading Criteria /Policy]

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW200AB（法学 / law 200）

契約法Ⅲ

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有償契約の典型である売買契約を対象として、交換型契約の基礎理論を学習する。無償の財産の提供である贈与契約とも対比し、両者の特徴を正確に理解することを目的とする。

法律学の基本的科目である民法のうち、私人間の取引を規律する財産法分野の最重要領域である売買契約の学習を通じて、民法による問題解決の仕方を身につける意義をもつ。この科目は全てのコースに属する。

【到達目標】

契約の概念、双務契約上の権利義務の発生・関係・消滅、売買契約に関する基本的ルール、及び贈与契約の特殊的効果等について、述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面による講義方式で行う。補足的にオンデマンド配信を利用するほか、状況により、数回程度、オンライン授業を実施する場合もありうる（オンデマンド又はリアルタイム配信）。

事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

授業後、及び学習支援システムの掲示板上で、質問を受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第2回	有償諾成契約法総論①	物権と債権の概念 民法の体系における契約法の位置づけ
第3回	有償諾成契約法総論②	契約の成立——申込と承諾
第4回	有償諾成契約法総論③	契約の効力——同時履行の抗弁 権・危険負担
第5回	有償諾成契約法総論④	契約の終了段階——解除と危険負担
第6回	売買の成立	売買契約の成立要件と契約の拘束力
第7回	売買の効力①	売買契約の当事者の義務——総説
第8回	売買の効力②	売主の責任①——権利の瑕疵（不適合）
第9回	売買の効力③	売主の責任②——物の瑕疵（不適合）
第10回	売買の効力④	契約上の危険の移転・期間制限等
第11回	売買の終了	売買契約の解除の効果

第12回	贈与	贈与契約の成立と効力
第13回	契約交渉	契約交渉段階の法律関係
第14回	契約関係の清算	不当利得（給付利得）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメで指示される予習と復習、小テスト。

契約法Ⅲが対象とする債権編については2020年4月から改正法が施行されている。六法は改正法に対応したものを使用すること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ 契約法・事務管理・不当利得』（第4版、2022年、新世社）。通常の書籍版もあるが、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡・磯村他『民法Ⅳ－債権各論』（第5版）、中田裕康『契約法〔新版〕』、大村敦志『新基本民法5 契約編』（第2版）、『民法判例百選Ⅱ』（第9版）、その他債権法改正（2017年成立）に対応しているもの。開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライドや板書の利用を増やすなど、授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料の配布等に学習支援システムを利用するので、準備しておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Contract law is the study of legally enforceable promises between individuals and this course introduces students to the basic concepts of contract law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to contracts. The principles of contract law are mostly provided in Chapter 2, Part.3 of the Japanese Civil Code, of which this course addresses Section 1 General Provisions, applicable to all types of contracts, Section 2 Gifts and Section 3 Sales, of specific contracts. Among the Topics covered are: formation (offer and acceptance), effect and termination of a contract, rights and obligations of the parties to a contract of sale, seller's warranty in particular and enforceability of gift promises. This course falls under all Course Models.

【Learning Objectives】

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract issues which may arise in a particular factual situation.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW300AB（法学 / law 300）

親族法

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この科目は「他学部公開科目」でもあり、どの学部の学生でも3-4年生は履修できます。

●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。

【授業の概要と目的】：

●民法典の「第4編 親族」の法解釈と、法改正論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正論を含めた法制度を論じられる能力を身につけます。

●法学部生、他学部生とも、必ず人生で1度は深く考える「婚姻」や「夫婦別氏」、そして日本で比率がどんどん高まっている「離婚」を含む「民法・親族法」の諸問題などを、法学が必ずしも身近ではないであろう他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。

●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・親族法と法改正、そして「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）。正しい答えは一つではない。」

●学生同士のグループディスカッションにより、教科書の論点についての疑問点・解釈の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、親族法およびその中の個別条文・制度・判例・諸学説・新説の理解を深めることも目的です。

【到達目標】

●学生は、学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、親族法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力を身につけます。

●また21世紀に民法の第3編「債権法」と第5編「相続法」の大改正が行われました。第1編の「総則」も部分的に改正されています。こうした「民法大改正」のうねりの中で、本授業で扱う第4編「親族法」も去年2024年4月から改正・施行されたのが、≪女性のみの再婚禁止期間をついに撤廃した改正民法≫です。さらに同じ2024年には国会で≪離婚後の嫡出子、そして父に認知された嫡出でない子、双方について：旧来の単独親権に加えて、共同親権も選択肢とする≫民法（親族法）の新改正が行われました（近々、施行されます）。

●こうした親族法の激動の中で、さらにどのような親族法改正が必須かも学び、考えます。本科目では「夫婦別氏」・「同性婚」も含めて、憲法との関連で学生と教員がともに考察を深めます。

以上を含めて、「民法、その中でも『親族編』すなわち親族法の諸問題を、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【成績評価の方法と基準】も参照すること：

●講義・解説形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。

●学生は、学期中に毎回、学習支援システム上の「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、独自の考察に加えて、授業への質問・感想・批判などを書き、提出します（匿名・ペンネームの可否などについては初回の授業で詳しく説明します）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。

●学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。

●学生は、法の解釈を学ぶには、一に適用できる条文の有無の確認、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、正しい答えは一つではありません。

●学生皆さんが生きていく21世紀の日本では、国内外、実務・生活、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。

●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「親族法」が、ただの「教室での勉強」に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・民法立法過程（1）	開講にあたって、シラバスの説明も含めて、この授業で学ぶこと及び教科書や成績評価方法などの確認&質疑応答
第2回	民法立法過程（2）・家族法概論	現行民法改正過程（主に1946-47年）に関する解説&ディスカッション
第3回	婚姻法（1）成立要件	民法中の婚姻、特に婚姻の成立要件に関する解説&ディスカッション
第4回	婚姻法（2）夫婦財産制度	民法中の婚姻、夫婦財産制度に関する解説&ディスカッション
第5回	離婚法（1）成立要件	民法中の離婚、特に離婚の成立要件に関する解説&ディスカッション
第6回	離婚法（2）財産分与	民法中の離婚、特に離婚の際の財産分与に関する解説&ディスカッション
第7回	婚外関係の法的処理	旧くは判例で「内縁」、現在社会では「事実婚」と呼ばれる（法律婚では無い）関係の保護に関する解説&ディスカッション
第8回	実親子関係の発生（1）：嫡出推定制度	法的夫婦間にできた子どもの法的地位の発生に関する解説&ディスカッション
第9回	実親子関係の発生（2）：認知制度	法的婚姻関係に無い女性・男性の間の子どもの法的地位の発生に関する解説&ディスカッション
第10回	実親子関係の発生（3）：人工生殖	不妊治療や、そうではない人工生殖により出生した子の実親子関係の発生に関する解説&ディスカッション
第11回	養親子関係：子の親権；扶養	養親子関係、特に「特別養子縁組」、および子全般の親権、親子や夫婦の間の扶養に関する解説&ディスカッション
第12回	親族法中の新たな論点(1)	教科書にもまだ掲載の無い、親族法中の幾つかの新たな問題・論点を考察する解説&ディスカッション
第13回	親族法中の新たな論点(2)	教科書に掲載の無い、親族法中の民法改正に関する幾つかの新たな問題・論点を考察する解説&ディスカッション
第14回	本授業の総括	本授業「親族法」の「到達目標」に達したかを、毎回の授業の解説・ディスカッションとその評価を振り返って総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
- 学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
- 準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】

教科書は以下を使用する【秋学期の「相続法」でも同一の教科書を使用する】：
高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法7 親族・相続』第7版 2023年刊 有斐閣アルマ ¥2,500+税

【参考書】

必要に応じて指示する。【購入は必須では無い。】

【成績評価の方法と基準】

【予定】：新・学習支援システム(lms2025；以下同様)の機能に従い、初回授業で詳しく説明する。

【1】平常点【配点100点】：【授業計画】の各回も参照。

以下の詳細は初回の授業で指示する：

各回の授業テーマの教員による解説の後、教室の履修者/授業参加者を数グループに分け、事前に学習支援システムでの「お知らせ」等で告知したテーマ（法的課題・論点）について、教室でグループディスカッションを行い、各グループから議論の内容を発表してもらう。その結果を踏まえ、授業の最後に十分な時間を取り、各自が今度は独自に深めた考察で、テーマを論じる「ミニ課題（長めのリアクションペーパー）」を書いて提出する。以上全体を、授業1回につき、0～10点で評価する。

【5回以上、教室での授業に欠席した者は、単位を与えない。】

各回の授業で：

【例a】評価が高い9点を毎回取得 ⇒10回授業に参加⇒90点⇒成績S

【例b】評価が低い5点を毎回取得⇒全14回授業に参加⇒70点⇒成績B-

【例c】評価が中程度の平均6点取得⇒10回授業に参加⇒60点⇒成績C-

【例d】評価が低い5点を毎回取得 ⇒10回授業に参加⇒50点⇒成績D

病気その他やむを得ない事情で欠席した学生などの例外は初回の授業で詳しく説明する。

【2】期末試験・レポートは無い。その代わりに、【1】の教室での授業参加に基づく平常点評価を厳密に行うので、単位取得予定者は十分に注意すること。

●春学期を通じて、グループディスカッションとその内容の発表、その内容を踏まえたリアクションペーパーの内容では、到達目標である：

1) 親族法の学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、親族法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力

2) 親族法の改正論を含む諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力

以上2点を身につけたかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

●質問をしやすい環境をより良く整備します。

●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。

●【動画教材】「目からも学ぶ」ことを重視し、ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。

●時々、【教科書】にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業に参加しやすくします。

【学生が準備すべき機器他】

電子機器として、最低限、スマートフォンは毎回教室に持参すること（パソコン持参が可能な学生は持参を勧める）。

【その他の重要事項】

●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、日本民法の特徴を踏まえた「親族法」を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

●法学部以外の学生も、3-4年生はどなたでも履修ができます。

「親族法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。

●法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。

●法学部政治学科・国際政治学科の学生も、他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「親族法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかりと持って下さい。

●全学部生に、秋学期の「相続法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】：To learn the Japanese Family Law, the fourth book of the Japanese Civil Code.

【Learning Objectives】：To learn, to think on your own, and further to express your own interpretations of Articles of and court precedents on Family Law and of and on current issues of institutions set forth therein, all showing your reasoning.

【Learning activities outside of classroom】：Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.

【Grading Criteria/Policy】：Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB (法学 / law 300)

相続法

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この科目は「他学部公開科目」でもあり、どの学部の学生でも3-4年生は履修できます。

●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。

【授業の概要と目的】：

●民法典の「第5編 相続」の法解釈と、法改正を含む法制度論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正を含む法制度論を論じられる能力を身につけます。

●法学部生、他学部生とも、必ず人生で1度は深く考える「相続」の諸問題などを、法学が必ずしも身近ではないであろう他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。

●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・相続法と法改正、そして「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）。正しい答は一つではない。」

●学生同士のグループディスカッションにより、教科書の論点についての疑問点・解釈の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、相続法およびその中の個別条文・制度・判例・諸学説・新説の理解を深めることも目的です。

【到達目標】

●学生は、学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答は一つではない」との大前提の下に、「独自の思考による考察（自分の頭で考えること）」により、相続法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力を身につけます。

●また21世紀に入って、同じ民法の第3編「債権法」の大改正が、まさいに行われました。それに伴い、第1編の「総則」も部分的に改正されています。並行して、第4編「親族法」でも昨年2024年中には、改正民法が施行され、さらに国会では新たな改正が議決されました（近々、施行されます）。

こうした「民法大改正」の一環として、第5編「相続法」にも2018年に国会で大きな改正が行われ、すでに施行されていることを学びます。

そこで、どのような相続法改正がなされたかと合わせて、さらに「民法、その中でも『相続編』の諸問題を、独自の思考で考察し（自分の頭で考え）、今後必要となるであろう法改正論も含めて法制度論を論じ、根拠を明示した上で論述する能力」を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【成績評価の方法と基準】も参照すること：

●講義・解説形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。

●学生は、学期中に毎回、学習支援システム上の「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、独自の考察に加えて、授業への質問・感想・批判などを書き、提出します（匿名・ペンネームの可否などについては初回の授業で詳しく説明します）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。

●学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。

●学生は、法の解釈を学ぶには、一に適用できる条文の有無の確認、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、正しい答は一つではありません。

●学生皆さんが生きていく21世紀の日本では、国内外、実務・生活、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。

●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「相続法」が、ただの「教室での勉強」に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	全体的な授業計画	開講にあたって、シラバスの説明も含めて、この授業で学ぶこと及び教科書や成績評価方法などの確認&質疑応答
第2回	相続法総論	相続法総則 相続の開始 法定相続と遺言相続 相続回復請求権：相続法改正要点と今後の改正の展望の解説&ディスカッション
第3回	相続人（1）	1. 胎児と相続 2. 相続人の範囲の解説&ディスカッション
第4回	相続人（2）	3. 相続権の喪失・相続欠格と廃除 4. 同時死亡の推定の解説&ディスカッション
第5回	相続の効力(1)	1. 相続財産の範囲 2. 法定相続分の解説&ディスカッション
第6回	相続の効力（2）	3. 指定相続分 4. 具体的相続分・特別受益、寄与分の解説&ディスカッション
第7回	遺産分割	1. 遺産の共有 2. 分割協議と利益相反 3. 分割の効力 4. 遺産分割の指定または禁止の解説&ディスカッション
第8回	相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在	1. 相続の承認と放棄 2. 相続財産の分離 3. 相続人の不存在の解説&ディスカッション
第9回	遺言	1. 遺言の要式性 2. 遺言能力 3. 共同遺言の禁止 4. 普通方式遺言と特別方式遺言の解説&ディスカッション
第10回	遺言の効力	1. 効力発生時期 2. 公序良俗違反の内容を含む遺言の効力 3. 遺贈 4. 遺言の執行 5. 遺言の撤回 & 質疑応答
第11回	遺留分	1. 遺留分制度の趣旨 2. 遺留分権利者の範囲と遺留分の分割 3. 遺留分算定の基礎になる財産 4. 遺留分侵害額請求権 5. 遺留分の放棄の解説&ディスカッション

第12回	相続法中の新たな論点(1)	教科書にもまだ掲載の無い、相続法中の幾つかの新たな問題・論点を考察する解説&ディスカッション
第13回	相続法中の新たな論点(2)	教科書に掲載の無い、相続法中の民法改正に関する幾つかの新たな問題・論点を考察する解説&ディスカッション
第14回	本授業の総括	本授業「相続法」の「到達目標」に達したかを、毎回の授業の解説・ディスカッションとその評価を振り返って総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
- 学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
- 準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】

教科書は以下を使用する【春学期の「親族法」と同一の教科書を使用する】：
高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法7 親族・相続』第7版 2023年刊 有斐閣アルマ ￥2,500+税

【参考書】

必要に応じて指示する。【購入は必須ではありません。】

【成績評価の方法と基準】

【予定】：新・学習支援システム(lms2025；以下同様)の機能に従い、初回授業で詳しく説明する。

【1】平常点【配点100点】：【授業計画】の各回も参照。

以下の詳細は初回の授業で指示する：

各回の授業テーマの教員による解説の後、教室の履修者/授業参加者を数グループに分け、事前に学習支援システムでの「お知らせ」等で告知したテーマ（法的課題・論点）について、教室でグループディスカッションを行い、各グループから議論の内容を発表してもらう。その結果を踏まえ、授業の最後に十分な時間を取り、各自が今度は独自に深めた考察で、テーマを論じる「ミニ課題（長めのリアクションペーパー）」を書いて提出する。以上全体を、授業1回につき、0～10点で評価する。

【5回以上、教室での授業に欠席した者は、単位を与えない。】

各回の授業で：

【例a】評価が高い9点を毎回取得 ⇒10回授業に参加⇒90点⇒成績S

【例b】評価が低い5点を毎回取得⇒全14回授業に参加⇒70点⇒成績B-

【例c】評価が中程度の平均6点取得⇒10回授業に参加⇒60点⇒成績C-

【例d】評価が低い5点を毎回取得 ⇒10回授業に参加⇒50点⇒成績D

病気その他やむを得ない事情で欠席した学生などの例外は初回の授業で詳しく説明する。

【2】期末試験・レポートは無い。その代わりに、【1】の教室での授業参加に基づく平常点評価を厳密に行うので、端取得予定者は十分に注意すること。

●秋学期を通じて、グループディスカッションとその内容の発表、その内容を踏まえたリアクションペーパーの内容では、到達目標である：

1) 相続法の学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、相続法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力

2) 相続法の改正論を含む諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力

以上2点を身につけたかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- 質問をしやすい環境をより良く整備します。
- 授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。

●【動画教材】「目からも学ぶ」ことを重視し、ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。

●時々、【教科書】にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業に参加しやすくします。

【学生が準備すべき機器他】

電子機器として、最低限、スマートフォンは毎回教室に持参すること（パソコン持参が可能な学生は持参を勧める）。

【その他の重要事項】

●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して財産法とも関連の深い相続法を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

●法学部以外の学生も、3-4年生はどなたでも履修ができます。

「相続法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。

●法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」「親族」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。

●法学部政治学科・国際政治学科の学生は、他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「相続法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかりと持って下さい。

●全学部生に、春学期の「親族法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】：To learn the Japanese Law of Inheritance (Inheritance Law), the fifth book of the Japanese Civil Code.

【Learning Objectives】：To learn, to think on your own, and further to express your own interpretations of Articles of and court precedents on Inheritance Law and of and on current issues of institutions set forth therein, all showing your reasoning.

【Learning activities outside of classroom】：Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.

【Grading Criteria/Policy】：Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB（法学 / law 300）

消費者法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの消費生活では、契約トラブル、悪質商法、食の安全など、日々様々な法律問題が生じている。このような法律問題を考える上で必要となってくるのが、消費者法と呼ばれる領域の法知識・考え方である。本講義は消費者法についての考え方、知識を身につけ、日常生活における法律問題を考える際に必要なリーガルマインドを有した「消費者」になることを目的とする。

学習にあたっては、民法はもちろん、消費者契約法・製造物責任法などの特別法、さらには消費者行政に重要な役割を果たしている行政機関や行政規制の役割、民事訴訟を中心とした紛争解決制度の現状など、様々な分野にわたる知識・理解・関心が求められる。

消費者法 I では、主に契約をめぐる法的問題につき、民法のみならず消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の内容とともに学ぶ。それにより、消費者契約をめぐるトラブルに対処するための法解釈・適用の在り方を理解することができる。

「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

民法の契約総論、各論部分のみならず、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の知識を身につける。

契約トラブルなどの日常的な消費者問題に対して民法・各種特別法がいかなる役割を果たしているのかについて、法律の規定のみならず判例・学説をもとに理解する。これによって、民法の特に総則・債権法部分の発展的な学習を行うこともできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者法とは何か①	消費者法とは何か。消費者基本法。教科書Unit1
第2回	消費者法とは何か②	消費者・事業者概念。教科書Unit2
第3回	消費者契約の締結過程の適正化①契約の成立	消費者契約の成立、契約締結上の過失。教科書Unit3
第4回	消費者契約の締結過程の適正化②民法の役割	民法の錯誤、詐欺。教科書Unit4
第5回	消費者契約の締結過程の適正化③消費者契約法	消費者契約法4条など。教科書Unit5

第6回	消費者契約の締結過程の適正化④交渉力の不均衡	民法の強迫、消費者契約法4条など。教科書Unit6
第7回	消費者契約の内容の適正化①中心的債務：公序良俗	公序良俗規定と消費者取引。教科書Unit7
第8回	消費者契約の内容の適正化②不当条項規制その1	民法による不当条項規制、約款論。教科書Unit8
第9回	消費者契約の内容の適正化③不当条項規制その2	消費者契約法8条～10条。教科書Unit9
第10回	消費者契約と特定商取引法①	特定商取引法の概要。教科書Unit11
第11回	消費者契約と特定商取引法②	クーリングオフ、通信販売規制、過量販売規制など。教科書Unit12
第12回	消費者取引とシステム責任論①割賦販売法	割賦販売法の概要、抗弁の接続。教科書Unit13
第13回	消費者取引とシステム責任論②名義貸し、不正利用、預金トラブル	クレジットカードの不正利用、預金トラブル。教科書Unit14
第14回	消費者取引と不法行為法	消費者取引における不法行為法の役割。教科書Unit15

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業2日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤彩『消費者法』（商事法務、2023年）

このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第5版）』（日本評論社、2022年）

河上正二＝沖野真已編『消費者法判例百選（第2版）』（有斐閣、2020年）
 松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017年）

大村敦志『消費者法（第4版）』（有斐閣、2011年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を100%とする。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの記述が詳細なので、レジュメの内容や授業ではもう少しかみ砕いた説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【その他の重要事項】

・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。

・学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。
 ・契約法（I～IV）・不法行為法の講義をすでに受講、ないしは同時に受講していることが望ましい。

・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

秋学期に開講される「消費者法Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。

SDG s の観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】

We learn the consumer law, especially, the consumer contract law. The goals of this course are to comprehend this law.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

消費者法Ⅱ

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者法Ⅰの理解をもとに、消費者取引における物・サービスの品質・安全に関する法制度を学ぶ。また、消費者取引のうち、特殊な法的問題をはらむ数種の取引類型をとりあげ、民法、特別法が果たす役割を学ぶ。さらに、行政組織、訴訟手続など消費者法を形成している制度についても理解を深める。

「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

物・サービスの品質、安全についての民事ルール、業法ルールの知識を身につける。

消費者取引のうち、特に問題となることが多い取引類型につき、民法、特別法が果たしている役割を理解する。

消費者問題に関連する行政規制、訴訟法の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者取引の対象① 物の品質	民法の規定との関係。教科書Unit16
第2回	消費者取引の対象② 物の安全性（1）	製造物責任①。教科書Unit17
第3回	消費者取引の対象③ 物の安全性（2）	製造物責任法。教科書Unit18
第4回	消費者取引の対象④ 品質・安全性に関する行政規制	食品表示法などの行政規制。教科書Unit19
第5回	消費者取引の対象⑤ サービス契約論	民法の規定・特定商取引法。教科書Unit20
第6回	消費者取引・各論① 悪質商法	悪質商法の各類型についての説明。教科書Unit21
第7回	消費者取引・各論② 金融商品	金融商品トラブルをめぐる民事判例および特別法。教科書Unit22
第8回	消費者取引・各論③ 建築取引	建築トラブルをめぐる民事判例。教科書Unit23
第9回	消費者取引・各論④ 電子商取引	インターネット取引でのトラブル。教科書Unit24
第10回	消費者保護制度論① 行政機関の役割	消費者庁、国民生活センターの役割。教科書Unit25

第11回	消費者保護制度論② 消費者紛争解決制度 その1	ADR制度、消費者団体訴訟。教科書Unit26
第12回	消費者保護制度論③ 消費者紛争解決制度 その2	集団的消費者被害救済について。教科書Unit26
第13回	消費者取引と市場の公正	独禁法と消費者法の関係、景品表示法について。教科書Unit27
第14回	消費者・事業者の活動	消費者団体の役割、公益通報者保護法。教科書Unit28

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業2日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞しておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤彩『消費者法』（商事法務、2023年）

このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第5版）』（日本評論社、2022年）

河上正二＝沖野真已編『消費者法判例百選（第2版）』（有斐閣、2020年）

松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017年）

大村敦志『消費者法（第4版）』（有斐閣、2011年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を100%とする。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの記述が詳細なので、レジュメの内容や授業ではもう少しかみ砕いた説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【その他の重要事項】

・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。

・学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。
 ・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

SDGsの観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】

We learn consumer law, especially, the safety and the quality of the goods and the service. The goals of this course are to comprehend this law.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

商法総則・商行為法 I

椋川 泰史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

商法と会社法によって規整されているものは、私法上の権利義務関係、すなわち本来は民法によって規整されるはずの生活関係です。そこで疑問となるのは「なぜ民法の他にわざわざ商法や会社法といった法律が制定されたのか？」ということですね。この疑問に対して、商法や会社法がその適用対象としている人（法人も含む）や組織のもつ特徴に視点をあてて疑問への答を探ろう、ということがこの講義のテーマとなります。

(1)まず、民法と比較しながら、商法という法分野（注：法分野としての商法は、「商法」という名称の法律も含まれますが、それよりももっと広い概念で、例えば「会社法」も法分野としての商法に含まれます）にはどのような特色があるのかについて学びます。その際に重要になる法概念が「商人」及び「商行為」です。この2つの概念については、法律上の厳密な定義がありますから、この定義をしつかり覚え身に付けることが、この講義の第1関門になります。

(2)次に、「企業」という概念について学びます。これは「商人」とは異なり、厳密な法的定義のない言葉ですが、商法を学ぶ際に鍵となる概念です。やや抽象的な議論になりがちなところですが、現実にある様々な形態・業態の企業をイメージしながら考えていきましょう。

(3)次に企業の営みであり、また企業の組織そのものを指す言葉でもある「営業」「事業」についての商法・会社法上の規定と、その意義について学びます。ここら辺から本格的に判例についても言及していきます。予め読んでおいて欲しい判例は事前に示しますので、講義当日には指定された判例の全文を手元に置いて講義を聞くようにして下さい。

(4)次に、「営業」「事業」と不可分の関係にある「商号」について学びます。併せて「営業所」「支店」「商業帳簿」など、企業の物的設備に関する規整も学びましょう。

(5)企業の人的設備と言われる「使用人」についての規定も学びます。民法の「代理」についての定めの特則になる部分ですので、民法における代理に関する諸規定も併せて復習しながら考えていきます。

(6)商業登記に関する規整を検討します。同じ登記でも不動産登記とは大きく異なる制度ですので、混乱しないようについてきて下さい。

(7)最後に商取引の分野における民法とは異なる商法の規律について検討します。

なお、本講義は『裁判と法コース』および『企業・経営と法コース（商法中心）（労働法中心）』に属します。

【到達目標】

商法及び会社法の「総則」部分および商法の「商行為」に置かれている条文が、実際にどのような場面で、どのような規範として適用されることになるのかを理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形態で行います。

対面授業です。ただし、都合によりオンライン授業（動画配信）とする場合があります。その場合には予めHoppiiのメッセージ機能等を通じてお知らせします。

また、1時間限目の授業であることから、授業に参加できなかった受講者のために授業の録画を動画配信します。（動画配信はあくまでも救済のためのものですので、録画に失敗した場合などには、改めて授業動画を提供することはいたしません。）

本シラバスだけではなく、各回の授業用のレジュメや参考資料を配付して理解の助けとなるようにします。資料等は学習支援システム（WebClass）の【教材】機能を利用して、極力事前配付します。授業外や課題に関連する質問については、授業（配信動画を含む）の中でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	開講にあたって・商法とは何か	講義の進め方と全体像／民法と規整範囲が重なる商法・会社法が制定されなければならないのは何故なのかを考える。
第2回	商人と商行為	「商人」及び「商行為」の法律上の定義について学ぶ。
第3回	民法と商法の関係	商法1条の「商事」とは何を指すかについて、商的色彩説と企業法説とを紹介しながら、民法と商法の異同とその関係を考える。〔テキスト第1章〕
第4回	客観的意義における営業・事業	譲渡の対象となる営業・事業とは何か。営業譲渡・事業譲渡の要件及び効果はどのようなになっているかを検討する。〔テキスト pp.33-38〕
第5回	営業譲渡・事業譲渡（1）	営業譲渡の意義・譲渡人の法定責任・譲受人の法定責任〔テキスト pp.43-48〕
第6回	営業譲渡・事業譲渡（2）	営業譲受人の法定責任・許営営業譲渡〔テキスト pp.43-49〕
第7回	商号の保護と名板貸責任	商号の意義、商号権の侵害と商号権侵害に関する救済方法、他人に商号使用を許諾した場合（名板貸）に生じ得る責任について学ぶ。〔テキスト第3章・第7章〕
第8回	商業使用人	支配人など商業使用人の資格と権限及び義務、表見支配人の行為に関する営業主の責任について学ぶ。〔テキスト pp.75-90、第8章〕
第9回	商業登記	商業登記の意義・商業登記の公示力〔テキスト第5章〕
第10回	悪意擬制説・不実登記	表見支配人制度と商業登記の関係・不実登記の効力〔テキスト第8章・第9章〕
第11回	商事代理	商事代理における非顕名主義・商事代理における本人の死亡〔テキスト pp.191-197〕
第12回	商事担保	多数債務者・保証人間の関係の特則／商事留置権／流質契約〔テキスト第11章〕
第13回	商事売買	商事売買に関する特則〔テキスト第12章〕
第14回	総まとめ	第13回までの論点で論じ足りなかった点や判例解説の補足全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・民法のなかでも、法律行為（特に代理）、債権譲渡、債務不履行責任については、ひととおりは学修してあることが望ましい。
- ・受講者はテキストの該当部分を事前に一読しているということを前提として講義を進めます。
- ・予め指定された判例については、最低でも下記【参考書】欄に掲げた判例百選の該当判例の部分を読んでおいて下さい。できれば解説部分にも目を通していただければ更に講義内容についての理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大塚英明ほか『商法総則・商行為法（第4版）』（有斐閣アルマ・2023年）

【参考書】

神作裕之ほか『商法判例百選』別冊ジュリスト243号（有斐閣・2019年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

・法律学科の専門科目ですから言うまでもないことですが、商法・会社法だけでなく他の法令も登載されている六法を常に参照可能な状態で用意しておいて下さい。

・六法は(a)最新の条文が反映され、(b)講義中に口頭で指示される指定条文を素早く一覧できるものを使用して下さい。(a・bの2条件を満たしていれば紙に印刷されたものである必要はありませんが、教壇から見ていると、スマホで条文を引いている方の中には、指定の条文に辿り着くのにかかる時間がかかっている方が多いようです。課金を厭わず学修するために最適な六法を利用して下さい。)

・なお、定期試験では印刷された六法以外の参照は禁止されます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Participants in this course will learn about the following legal issues; the definition of a merchant, business transfer, trade name, commercial registration, commercial agency, commercial sales and purchases, and commercial collateral.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to grasp the rules of commercial transactions, contrasting them with the rules of civil law.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours understanding the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your grade in the class will be decided based on the term-end examination (100%) .

LAW200AB（法学 / law 200）

会社法

稼川 泰史

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 単位数：4単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律3年H-N・法律2・4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

こんにちは！ 会社法を担当するトチカワです。
 この授業は法曹コース必修科目でもあることから、受講者の学習レベルとしては既に「会社法入門」を履修している者を想定して実施します。

「会社法入門」で学ばれたように、会社とは、複数の人が共同出資をして継続する事業体として営利事業を営むための法律上の道具です。「継続する」ことが前提ですので、そこには多数の利害関係が束になって存在します。この多数の利害関係を私法上の権利義務関係として整理して相互の調整を図り、この企業体が維持・発展するのを助けることが会社法の目的です。

会社法とは、共同出資者間の私的利害調整という点に着目すれば、民法の典型契約の一つである「組合契約」に関する一連の任意規定の特則と位置づけられますが、継続する事業体では利害関係が複雑多岐にわたるため、シンプルに「契約自由の原則」にばかり頼ってはいられません。そこで、2005年に公布された「会社法」という名前の制定法と「会社法施行規則」「会社計算規則」「社債、株式等の振替に関する法律」といった強行規定を含む各種法令、さらにこれらの法令及び2005年以前の「商法」「有限会社法」など旧法令の下での判例、そして業界自主ルールのようなソフト・ローなどが取り巻く、これらが全体として「実質的意義における会社法」といわれる大きなルールの体系をなしているわけです。

この全体像を4単位28回の講義で論じ尽くすことは到底できませんが、会社という企業体が事業を進めていくうえで、どのようなシーンにどのような法的問題が生じ、これをどのような手法で規律されているのかを学ぶことで、会社をめぐる様々な生活関係を、できるだけ厳密に定義される「権利・義務」の視点から捉えるという考え方・視点を受講生の皆さんが身につけることを本講義の目的とします。

法曹コース所属の3年次生にとっては、この科目は必修科目となっていますので、会社法について、法科大学院の既修者コース入学者として最低限必要な「見通し」を持って進学できるようお手伝いをするということもこの授業の目的となのですが、結局のところ、上記のような「考え方・視点」を身につけていただくことがまさにその目的に合うことだと考えております。

なお、この科目は法律学科の全コースに属しています。

【到達目標】

- ① 株式会社は一体どのように設立され、どのように運営されているのか、また出資者である株主や会社債権者を保護するために法はどのような規制を設けているのかについて、法的な権利義務の視点から基本的な説明ができるようになること。
- ② ビジネスに必要な様々な用語やスキームを理解し、経済／企業関連ニュースを楽しく読み解くことができるようにする。
- ③ 就職活動に役立つ専門知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ① 教室での対面授業（全28回中14回以上は対面授業を実施）です。第1回授業はオンライン授業（動画配信によるオンデマンド授業）とします。第1回授業でこの授業の受講のしかたについてより詳細な説明をおこないますので、必ず視聴して下さい。
- ② シラバスに従って授業を進めます。シラバスにはテキスト（教科書）の該当範囲を記載してありますので、予め当該部分を（少なくとも）一読してあることを前提に講義をします。

③ 講義は、スクリーンにパワーポイントのスライドや資料等を提示しながら進めますが、毎回、事前に学習支援システム（WebClass）にその回に使用するパワーポイント画面（PDFファイル）と資料をアップロードしておきますので、適宜ダウンロードやプリントアウトして授業に臨んで下さい。（資料については、著作権等の事情で配信に適さないものについては、アップロードせずに画面だけで提示する場合があります。）ただし、授業当日になって資料を差し替える場合があります。その場合にはアップロードしたファイルも後日差し替えます。

④ 毎回、学習支援システム（WebClass）を利用してその回の授業についてのリアクションを提出していただきます。リアクションに求める内容は、【教材】欄にもその都度記載しますが、その回の授業で《自分としてはここがポイントだと思った》点を要約することと、授業や会社法一般についての質問で、感想の記入は不要です。リアクションで寄せられた質問へは、できるだけその次の回の冒頭でお答えするようにしますが、後の方の回の授業内容に関連する場合は、その回の授業まで回答を待っていただくこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと授業の全体像	〔テキスト第1章〕 ・授業の進め方と成績評価基準 ・組合、持分会社、株式会社 ・会社法の役割
第2回	株式と株主	〔テキスト第3章第1節〕 ・「株式」の意義 ・株主の権利 ・株主の義務と責任
第3回	株式の種類と株主平等原則	〔テキスト第3章第1節〕 ・株式の内容についての特別な定め ・株式の種類（種類株式） ・株主平等原則 ・株主の権利行使に関する利益供与
第4回	株式譲渡自由の原則と例外	〔テキスト第3章第2節〕 ・株式譲渡自由の原則 ・譲渡制限付株式の譲渡 ・契約による株式譲渡制限
第5回	株式譲渡の方法と株主権行使の方法	〔テキスト第3章第3節〕 ・株式譲渡の方法 ・株主名簿の効力 ・共有株式の権利行使方法
第6回	コーポレートガバナンスと株式会社の機関設計	〔テキスト第4章第1節〕 ・コーポレートガバナンス ・株主総会 ・機関設計のルール
第7回	株主総会の意義と招集	〔テキスト第4章第2節〕 ・株主総会の役割 ・株主総会の招集 ・株主提案権
第8回	株主総会の運営	〔テキスト第4章第2節〕 ・株主の議決権 ・株主総会の議事運営 ・株主総会の決議 ・総会検査役
第9回	瑕疵ある株主総会決議	〔テキスト第4章第2節〕 ・株主総会決議取消しの訴え ・株主総会決議無効確認・不存 ・訴えの利益に関する問題
第10回	株式会社の取締役の地位と権限	〔テキスト第4章第3節〕 ・株式会社の「業務執行の決定」「業務の執行」 ・取締役の地位 ・社外取締役

第11回	取締役会と代表取締役	〔テキスト第4章第3節〕 ・取締役会設置会社／非設置会社 ・取締役会の権限 ・取締役会設置会社の代表取締役／業務執行取締役
第12回	監査役・監査役会	〔テキスト第4章第5節〕 ・監査役的地位 ・監査役会の権限 ・監査役会の役割
第13回	監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社	〔テキスト第4章第7～8節〕 ・監査等委員会設置会社の各機関の役割 ・指名委員会等設置会社の各機関の役割
第14回	春学期のまとめ	・株主の法的地位 ・株式会社のガバナンス（コーポレートガバナンス）
第15回	取締役と会社の利害対立局面	〔テキスト第4章第3節〕 ・競争禁止義務 ・利益相反取引規制 ・報酬規制
第16回	取締役の一般的義務	〔テキスト第4章第3節〕 ・取締役の善管注意義務 ・取締役の忠実義務
第17回	株式会社の役員等の責任	〔テキスト第4章第9節〕 ・役員等の任務懈怠責任 ・役員等の対第三者責任
第18回	会社業務の適正を確保するための株主権行使	〔テキスト第4章第9節〕 ・株主代表訴訟 ・違法行為差止請求権 ・検査役選任請求権
第19回	株式会社の計算と株主への分配	〔テキスト第5章〕 ・会計帳簿と計算書類 ・資本金／準備金／剰余金 ・剰余金の配当 ・会社による自己の株式の取得 ・分配可能額規制
第20回	株式の発行	〔テキスト第6章第1・2節・第3章第5節〕 ・自己資本の調達 ・募集株式の発行 ・株式発行数の調整
第21回	新株予約権	〔テキスト第6章第3節〕 ・新株予約権の意義 ・新株予約権の発行 ・新株予約権の行使と消滅
第22回	株式・新株予約権の発行における瑕疵	〔テキスト第6章第2節・第3節〕 ・株式発行無効の訴え／自己株式処分無効の訴え ・募集株式発行等の差止め
第23回	会社の買収	〔テキスト第9章第1～2節〕 ・会社の買収の意義 ・株式公開買付 ・第三者割当増資 ・キャッシュ・アウト
第24回	敵対的買収と防衛策	〔テキスト第9章第5節〕 ・取締役会による防衛策 ・事前警告型防衛策 ・ブルドックソース事件
第25回	株式会社の設立	〔テキスト第7章〕 ・発起設立と募集設立 ・設立の手続 ・発起人の行為と「設立中の会社」 ・会社設立の瑕疵
第26回	組織再編の全体像	〔テキスト第9章第3節〕 ・合併 ・会社分割 ・株式交換 ・株式移転 ・株式交付

第27回	組織再編の手続	〔テキスト第9章第3節〕 ・組織再編契約（計画） ・事前開示 ・株主総会と反対株主の株式買取請求権 ・組織再編と債権者 ・組織再編の無効
第28回	秋学期のまとめ	・株式会社の役員等の責任 ・コーポレートファイナンス ・会社の買収と組織再編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「会社法入門」（2単位）が履修済みであることを前提として講義を進める。
・民法の総則、担保物権、債権総論、契約総則について、ひととおり勉強しておくことが望ましい。
・予め指定された判例については、最低でも下記【参考書】欄に掲げた判例百選の該当判例の部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中亘『会社法【第5版】』（東京大学出版・2025年）

【参考書】

別冊ジュリスト254号「会社法判例百選【第4版】」（有斐閣・2021年）
山下友信・神田 秀樹（編著）「商法判例集 第9版」（有斐閣・2023年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績（90％）
小テスト・レポートの提出状況／質問による授業への貢献などの平常点（10％）

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイム・オンライン授業（ZoomまたはWebex使用）とオンデマンド授業（動画配信とPDF等による配布資料との併用）とを受講できる情報機器。

【その他の重要事項】

上記指定テキストの他、最新の六法を毎回必ず用意すること。

★「最新の」というところが大事です。電子デバイスで利用できる六法もありますが、今のところ定期試験で「六法参照可」の場合、紙媒体の六法しか参照は許可されませんので、普段から印刷された紙版の六法の利用に慣れておくという意味でも、安くはないうえに重くてどうも恐縮ですが、紙媒体の六法の利用を強くお勧めします。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the major legal issues regarding types of business companies, incorporation of Kabusiki Kaisha (joint stock companies), corporate governance, corporate finance, and mergers and acquisitions.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to provide a basic explanation of the system of corporate law relating to the status of shareholders and the operation of the business of a stock company.

(Learning activities outside of the classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%

LAW200AB（法学 / law 200）

会社法**伊藤 雄司**

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、会社に関わる法制度を取り扱うものである。講義においては、基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う。

【到達目標】

株式会社においては、株主や会社債権者をはじめとする多くのステークホルダー（利害関係人）が存在しており、会社法はこれらのステークホルダーの利害調整を行う役割も果たしている。本講義では、会社法上の各種のルールが個々のステークホルダーの利益保護にとってどのような意義を有しているのかに着目しながら、会社法の基礎を学んでもらうことを目的としており、本講義を通じて、会社法の基本的な仕組みとその機能を理解することができることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で行う。受講者の理解を促すため、それぞれのテーマについて、関連する裁判例を取りあげて解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	会社法総論①	・会社法の歴史 ・会社法の基本構造
第2回	会社法総論②、会社法総則	・会社の意義 ・会社法総則
第3回	株式①	・株式の意義、内容
第4回	株式②	・種類株式
第5回	株式③	・株式の流通 ・株主の権利行使
第6回	機関総説	・機関の意義 ・機関設計
第7回	株主総会①	・株主総会の権限 ・株主総会の議事
第8回	株主総会②	・株主総会決議の瑕疵
第9回	役員の選解任	・役員の意義 ・役員の選解任
第10回	取締役・代表取締役、非取締役会設置会社	・取締役の地位、権限
第11回	取締役会	・取締役会の権限 ・取締役会決議の瑕疵
第12回	監査役・監査役会	・監査役・監査役会の権限
第13回	役員の責任	・会社に対する責任 ・第三者に対する責任 ・代表訴訟
第14回	監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社	・監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社のシステム
第15回	春学期のまとめ	・第14回までの講義内容のまとめ
第16回	募集株式の発行等①	・新株発行規制の概要
第17回	募集株式の発行等②	・新株発行の瑕疵
第18回	新株予約権①	・新株予約権の意義 ・新株予約権の発行規制

第19回	新株予約権②	・新株予約権の機能 ・新株予約権発行の瑕疵
第20回	計算①	・計算書類の意義
第21回	計算②	・計算書類の確定
第22回	組織再編①	・組織再編概論
第23回	組織再編②	・組織再編の手続き
第24回	組織再編③	・利害関係者の保護
第25回	持分会社	・各種の持分会社
第26回	設立	・設立の意義、概要
第27回	社債	・社債の意義
第28回	秋学期まとめ	・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前にテキスト及び関連条文に目を通しておくこと。予習・復習に4時間程度を充てることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

笠原武朗ほか『NBS会社法』（日本評論社、2021）

神作裕之ほか『会社法判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2021）

【参考書】

神田秀樹『会社法』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(100%)によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This lecture deals with the legal system related to companies. The objective of this lecture is to enable students to understand the basic structure of corporate law and the basic principles for coordinating the interests of parties related to companies. Students are expected to attend this lecture and devote 4 hours to self-study. Grading will be based solely on the results of a final examination.

LAW300AB（法学 / law 300）

手形法・小切手法

椋川 泰史

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

手形や小切手は企業間の取引における決済と金融の手段として長らく使われてきた法的な技術ですが、情報技術を利用した決済手段の多様化や、リスク評価手法が洗練されたことによる企業への資金供給ルートの拡大により、近年では存在感が薄れてきています。しかしながら、そうした新しい決済・金融手段においても、手形や小切手が提供してきた法的技術が形を変えて利用されています。本講義は、そのような決済・金融についての法技術と、それが実際に利用された場合に生じる種々の法的問題について考えていきます。「手形法・小切手法」という標題は、いわばそうした法的問題の代表例であって、本講義はより幅広く、モバイル決済や暗号資産など、現代的な決済取引に関する法の現状を取り上げて論じていきたいと考えています。

【到達目標】

〔春学期〕手形法・小切手法が提供してきた基本的な法原則の内容を理解すること。

〔秋学期〕現代の決済システムの運用上生じる法的問題の所在を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

(1) 講義形態で行います。事前に指定された教科書の該当箇所を読んできていることを前提として、ポイントを絞った解説をします。

(2) 対面授業（14回以上を教室での対面授業で実施）とします

(3) 教科書や講義の内容の理解度を確保する目的で、Hoppiiの学習支援システム(WebClass)を利用した事前または事後の小テストを随時実施します。

※授業外や課題に関連する質問については、授業の中でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	民法と「有価証券法理」	この授業について 手形・小切手の使い方 私法上の「有価証券」と手形・小切手
第2回	決済証券の経済的機能	決済システムの中で機能する手形・小切手 信用の道具として機能する手形
第3回	手形関係と実質関係	約束手形当事者の法律関係 手形関係と実質関係
第4回	手形・小切手の無因性	手形関係の無因性 実質関係が手形関係に及ぼす影響
第5回	手形行為	法律行為と手形行為 手形行為の無因性・文言性・要式性 手形客観解釈の原則
第6回	約束手形の振出	約束手形要件 要件欠缺手形
第7回	裏書と裏書連続	裏書の要件と効果 裏書の連続 形式的資格

第8回	手形行為と署名	署名の意義 法人署名 他人名義の署名
第9回	善意取得・善意支払	形式的資格と善意取得 形式的資格と善意支払
第10回	手形行為の性質	交付欠缺 契約説か創造説か 権利外観理論
第11回	手形行為と民法総則・商法総則	手形行為と意思表示の瑕疵 無権限の者による手形行為 名板貸と手形行為
第12回	電子記録債権	電子記録債権法 「でんさい」における電子記録債権
第13回	手形・小切手の喪失対策	除権決定手続 小切手の静的安全保護制度
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめ 授業中に触れなかった重要判例についての補足
第15回	手形・小切手関係と原因関係の精算	原因関係と手形関係 無効な証券による決済と利得の精算
第16回	手形抗弁の制限	手形抗弁とは 物的抗弁と人的抗弁 手形法17条の意義
第17回	手形所持人に対する人的抗弁と物的抗弁	物的抗弁 原因関係上の抗弁 融通手形の抗弁
第18回	手形所持人に対する様々な原因関係上の抗弁	戻裏書 後者の抗弁 二重無権の抗弁
第19回	決済システムと多様な支払手段	様々な支払手段と決済システム 決済システムと種々のリスク
第20回	預金振込	預金振込の仕組み 預金取引と銀行間資金決済システム
第21回	預金者の決定	定期預金の預金者 普通預金の預金者
第22回	誤振込	誤振込みの法律関係 誤振込みによる預金の成立 振込み取引の「無因性」
第23回	でんさいネット	でんさいネットの概要 でんさいネット当事者の法律関係
第24回	一括決済	一括決済システム 一括決済システムの法リスク
第25回	銀行振込以外の資金移動手段	出資法・銀行法・資金決済法 資金移動業に関する規制
第26回	電子マネー・クレジットカード	電子マネー決済の法的構造 クレジットカード決済の法的構造 電子マネー・クレジットカードに関する法規制
第27回	暗号資産	暗号資産の定義 暗号資産交換業
第28回	総まとめ	秋学期のまとめ 全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・民法総則と債権総則に該当する部分については履修済みであることが望ましい。

・予め指定された判例がある場合には、最低でも下記【参考書】欄に挙げた「手形小切手判例百選」の当該判例部分については目を通しておくこと。できれば判決全文を持って講義に臨むことが望ましい。

・本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

早川徹『基本講義 手形法小切手法〔第2版〕』（新世社・2019年）
小塚壮一郎・森田果『支払決済法〔第3版〕』（商事法務・2018年）

【参考書】

別冊ジュリスト「手形小切手判例百選(第7版)」(有斐閣・2014年)
堀 天子『実務解説 資金決済法〔第5版〕』（商事法務・2022年）

中島真志＝宿輪 純『決済システムのすべて〔第3版〕』（東洋経済新報社・2013年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験(100%)

[ただし、質問等での授業への貢献や、小テストを実施した場合に成績が優れていた者については、その評価を定期試験の得点に加味する。]

【学生の意見等からの気づき】

(特になし。)

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the legal principles of negotiable instruments from the perspective of payment systems law.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to acquire a basic knowledge of negotiable instruments law, and of legal relations regarding the operation of payment systems.

(Learning activities outside of the classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

(Grading Criteria /Policies)

The final grade will be calculated according to the term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

経済法Ⅰ

青柳 由香

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講義上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について認識を得る。

【到達目標】

独占禁止法の基本概念を習得している。
 事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。
 事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済法Ⅰおよび経済法Ⅱでは、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。

経済法Ⅰでは、独占禁止法による規制のうち「不当な取引制限」及び「私的独占」について学習する。講義ではルールの概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

本講義は教室における対面での開講を原則とする。講義形式でレジュメに沿って授業を進める。受講生の発言を求める場面がある。各回毎に提出される受講生からのリアクションペーパーで寄せられた重要な質問等について回答することでフィードバックを図る。

数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。また、ゲストスピーカーを迎えて授業を行うことも予定している。いずれも、日程や実施方法については授業等で周知する。ゲストスピーカー回の日程によって、授業計画にずれが生じる可能性があることを承知されたい。ゲストスピーカー回については、相手方の都合により実現できない可能性もある。何らかの事情でやむなくゲストスピーカーを迎えることがかなわない場合には、通常の授業を行う。

また、成績評価の対象となる課題・小テストを何回か課すことを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論(1)	独占禁止法の目的および体系
第2回	独占禁止法の沿革(1)	戦前の経済体制や戦後の独占禁止法の導入
第3回	独占禁止法の沿革(2)	独禁法導入にかかる理論的説明、導入後の運用の状況
第4回	独占禁止法のエンフォースメント(1)	組織・行政手続き
第5回	独占禁止法のエンフォースメント(2)	行政上の効果（排除措置命令・課徴金・リニエンシー制度）
第6回	独占禁止法のエンフォースメント(3)	民事・刑事上の効果、独禁法の実務

第7回	不当な取引制限(1)	概観、事業者概念
第8回	不当な取引制限(2)	行為要件、競争の実質的制限
第9回	不当な取引制限(3)	事例(1) 価格カルテルの事例を扱う。
第10回	不当な取引制限(4)	事例(2) 入札談合等の事例を扱う。
第11回	私的独占(1)	概観、行為要件
第12回	私的独占(2)	事例(1) 支配型私的独占の事例を扱う。
第13回	私的独占(3)	事例(2) 排除型私的独占の事例を扱う。
第14回	独禁法の実務	ゲスト講師による実務経験に基づく独禁法運用の実情

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のいずれかを教科書として用意すること。版に注意すること。
 ①★推奨★岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第9版補訂、2022年）2970円
 または
 ②白石忠志『独禁法講義』（有斐閣、第11版、2025年3月）2530円

【参考書】

金井貴嗣ほか『経済法判例・審決百選（第2版）』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験80％、平常点20％。
 期末試験は持ち込み不可を予定している（事例問題、論述問題等を予定）。
 小さな課題と小テストを課す可能性がある。また毎回の授業ではリアクションペーパーの提出を求める。これらはいずれも平常点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業のありかたは、おおむね好評だった。ゲストスピーカーによる講義は受講生に好評であるので、継続することとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を「学習支援システム」において共有する。また、数回オンライン授業を実施する可能性がある。PCやタブレット等の必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】

独占禁止法の基本的な内容について、経済法Ⅰ（春学期）及び経済法Ⅱ（秋学期）の一年間で全範囲を学習することを予定している。独占禁止法の全範囲について基本的な内容を学習したいと考える学生には、春学期・秋学期あわせて履修することを推奨する。
 経済法Ⅲでは、独禁法の先端分野を扱うので、発展的な内容に関心をもつ学生は、さらに継続して履修されたい。また、企業規制の法律学Ⅰでは経済法のうち事業法にあたる分野を中心に扱っている。これも合わせて履修すると経済法全体に対する理解が広がるだろう。

【Outline (in English)】

(1)Course Outline

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

(2)Learning Objectives

Acquiring basic concepts of antitrust law.

Understanding sufficiently the mechanism by which competition is restricted in the market due to restrictive competition actions by business operators.

Understanding the nature and necessity of "fair competition" in business activities.

(3)Learning Activities Outside of Classroom

Review the textbook, reference books, and lecture materials after the lecture. Students are expected to obtain information on recent cases from newspapers and other sources. The standard preparation and review time for this class is 4 hours for each class.

(4)Grading Criteria /Policy

70%for the final exam and 30%for others.

In the final exam, students are not allowed to bring in references.

Small assignments and quizzes may be required. In addition, a reaction paper will be required in each class. All of these will be subject to the above "30%".

LAW200AB（法学 / law 200）

経済法Ⅱ

渡邊 昭成

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講義上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。

講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正で自由な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について認識を得る。

経済法Ⅰおよび経済法Ⅱでは、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。この講義（経済法Ⅱ）では、独占禁止法による規制のうち「不正な取引方法」について学ぶ。講義ではルールの概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

【到達目標】

独占禁止法の基本概念を習得している。
 事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。
 事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は教室における対面での開講を原則とする。講義形式でレジュメに沿って授業を進める。受講生の発言を求める場面がある。各回毎に提出される受講生からのリアクションペーパーで寄せられた重要な質問等について回答することでフィードバックを図る。数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。また、ゲストスピーカーを迎えて授業を行うことも予定している。いずれも、日程や実施方法については授業等で周知する。ゲストスピーカー回については、相手方の都合により実現できない可能性もある。ゲストスピーカー回の日程によって、授業計画にずれが生じる可能性があることを承知されたい。また何らかの事情でやむなくゲストスピーカーを迎えることがかなわない場合には、通常の授業を行う。また、成績評価の対象となる課題・小テストを何回か課すことを予定している。

本講義では、経済法Ⅰを履修済みで、独占禁止法についてかなりの知識を有していることを前提に授業を実施する。経済法Ⅰの未履修者に対して、経済法Ⅰの範囲について個別の対応はしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ、不正な取引方法（1）	不正な取引方法の概要
第2回	不正な取引方法（2）	不正な取引方法の位置づけ
第3回	不正な取引方法（3）	公正競争阻害性
第4回	不正な取引方法（4）	取引拒絶の概要

第5回	不正な取引方法（5）	取引拒絶の事例
第6回	不正な取引方法（6）	抱合せの概要
第7回	不正な取引方法（7）	抱合せ行為の事例
第8回	不正な取引方法（8）	再販売価格維持行為
第9回	不正な取引方法（9）	再販売価格維持行為の事例
第10回	不正な取引方法（10）	再販売価格維持行為の事例
第11回	不正な取引方法（11）	優越的地位の濫用
第12回	不正な取引方法（12）	優越的地位の濫用
第13回	不正な取引方法（13）	日本における実務の状況
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のいずれかを教科書として用意すること。版に注意すること。

- ①★推奨★岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第9版補訂、2022年）2970円
 または
 ②白石忠志『独禁法講義』（有斐閣、第11版、2025年3月刊行予定）2530円

【参考書】

金井貴嗣ほか『経済法判例・審決百選（第2版）』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点 30 %。
 期末試験は持ち込み不可を予定している（事例問題、論述問題等を予定）。
 小さな課題と小テストを課す可能性がある。また毎回の授業ではリアクションペーパーの提出を求める。これらはいずれも平常点の対象とする。
 ＊2024年9月19日AM8:50変更
 期末試験は、期末試験期間に実施する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のありかたに対しては、おおむね好評だったのではないかと。継続しつつ、資料や事案の参照などについて、より理解を促進するような内容・形式にバージョンアップを図りたい。ゲストスピーカーは受講生に好評だったので継続することとしている。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムを通じて共有する。また、数回オンライン授業を実施する可能性がある。PCやタブレット等の必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】

独占禁止法の基本的な内容について、経済法Ⅰ（春学期）及び経済法Ⅱ（秋学期）の一年間で全範囲を学習することを予定している。経済法Ⅱ（秋学期）は、経済法Ⅰ（春学期）の講義内容の学習を通じて独占禁止法について十分な知識を有していることを前提に授業を実施する。経済法Ⅰの未履修者に対して、経済法Ⅰの範囲について個別の対応はしない。

【Outline (in English)】

(1)Course Outline

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

(2)Learning Objectives

Acquiring basic concepts of antitrust law.

Understanding sufficiently the mechanism by which competition is restricted in the market by restrictive competition actions of business operators.

Understanding the nature and necessity of "fair competition" in business activities.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Review the textbook, reference books, and lecture materials after the lecture. Students are expected to obtain information on recent cases from newspapers and other sources. The standard preparation and review time for this class is 4 hours for each class.

(4) Grading Criteria /Policy

70% for the final exam and 30% for others.

In the final exam, students are not allowed to bring in references.

Small assignments and quizzes may be required. In addition, a reaction paper will be required in each class. All of these will be subject to the above "30%".

LAW300AB（法学 / law 300）

国際人権法 I

佐々木 亮

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際人権法の歴史や各人権条約の仕組み、それらの国内適用にあたっての憲法上の課題を考えることを通して、基本的人権とは何か、基本的人権を守るためにいかなる制度が用意され、どのように機能し、国内法の下でどのように適用されているのかを理解する。

それを基礎として、受講者が関心を持つ様々な人権問題が、国際人権法上どのように扱われているのかを調査し、どのような権利の主張・擁護の方法があり得るのかを考え、自分の考えをアウトプットできるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ①国家を越えて、人権を国際社会において保障することの意義及びそのための仕組みを理解する。
- ②国際人権法の国内実施制度について理解する。多様な人権の内容について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は大別して、以下の3つの要素からなる：

- 1) 現代世界で生じている人権問題に関心を持つ；
 - 2) 国際的人権保障制度の意義と限界を理解する；
 - 3) 人権の主張や人権擁護のために、国際的人権保障制度を活用する方法について、考えを深める。
- 現代世界が抱える人権問題に目を向けることに加えて、様々な人権条約と関連付けてその問題を捉え、どのような権利擁護の方法があり得るのか、受講者が自身の見解を持てるようになることを目指して授業を進める。原則として、担当者が作成した資料に基づいて講義を行うが、必要に応じて国際機関のwebサイトや映像等も活用する。また、国際人権法に関連するデータベースを活用した資料収集の実習を行う。

講義資料の配布や授業時間外での質問の受付等のために、学習支援システムを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入（授業の内容と進め方・評価方法に関する説明を含む）	国際人権法の枠組で扱う問題、国際人権法を学ぶ意義や方法を概観する。
2	人権の思想的基礎と国際人権法の法源	国際人権法の発展と形成の歴史をたどり、その根底にある哲学的基礎と国際人権保障を支える法的枠組について学ぶ。
3	人権基準の発展と人権の分類（1）：第1・第2・第3世代の人権	国際人権法によって保障されている「人権」とはどのようなものなのか、その歴史的発展を踏まえながら理解する。
4	人権基準の発展と人権の分類（2）：非差別・平等と合理的配慮	社会的弱者を含む全ての人の基本的権利を保護するための法としての国際人権法の基本原則、及び、主要な人権条約によって保障されている権利と、それら諸権利の法的性格を検討する。

5	国家の人権保護・促進義務	国際人権法を遵守するために、国家はどのような義務を履行しなければならないのかを検討する。
6	国連の主要人権条約を通じた国際人権法の実施	世界レベルの主要な人権条約の履行監視制度について検討する。
7	国連人権理事会による国際人権法の実施	国連人権理事会の活動と人権保障におけるその意義、人権条約との異同を検討する。
8	地域的人権保障制度	国際人権保障における地域的国際機構の役割とその意義について検討する。
9	国際人権法の調査とその情報源	国際人権法の実態についてより詳しく調べるために有用な情報源の使い方について学ぶ。
10	公共政策への人権基準の反映と人権擁護	人権侵害の防止や被害者の救済のために、国際人権法をどのように活用し得るのか検討する。
11	地球規模課題と国際人権法	地球規模課題としての気候変動に起因する人権侵害の事例を検討し、持続可能な社会の実現のために、国際人権法がいかなる意義を有するかを考察する。
12	人権の普遍性と文化多様性	「国際人権基準と両立しない文化的慣行を維持することも人権なのか」という問いについて考えながら、国際人権法及び人権の普遍的性格を再問する。
13	国家の保護を受けられない人々の人権：難民・避難民	国家による人権保障の枠組から排除された存在としての「難民」に注目し、国際的な難民保護の仕組みや日本の難民認定制度の問題点を検討する。
14	武力紛争下での人権保護と平和に対する権利	武力紛争の下で生じる人権侵害を防止するための法的な枠組と、平和のうちに生きることの人権としての性格を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布レジメを読んで疑問点を明らかにしておく。各回の講義の後に、資料に示された参考文献も活用しながら十分に復習することが期待される。しっかり復習することは、結果として期末レポートの準備にもなる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。

【参考書】

講義資料の中で、その回の内容に関連する参考文献を紹介するが、授業全体に関わる参考文献として、例えば、以下のものがある：

岸田健太郎、薬師寺公夫、坂元茂樹『ブリッジブック国際人権法』第2版（信山社、2017）

東澤靖『国際人権法講義』（信山社、2022）

横田洋三（編）『新国際人権入門』（法律文化社、2021）

藤田早苗『武器としての国際人権－日本の貧困・報道・差別』（集英社新書、2022）

日本弁護士連合会：国際人権ライブラリー、
<https://www.nichibenren.or.jp/activity/international/library.html>

外務省：人権外交、
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken.html>

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（100%）

国際人権機関が公表している文書を検索しその内容を要約する課題、および、受講者が関心を持つ人権問題について、国際人権法に照らして考察する課題を含む期末レポートにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

映像を使用した授業の希望があったので試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

第9週（国際人権法の調査とその情報源）では、PCまたはタブレットを使用します。

【Outline (in English)】

This module aims to provide participants with basic understanding on international human rights law, including a concept of human rights, international mechanisms for human rights protection. It is expected that participants discuss on contemporary global and international affairs based on a comprehensive understanding on human rights.

Participants are expected, at the end of this module, to be able to;

- understand what human rights are, including their historical and philosophical backgrounds, legal basis and contemporary debate on them;
- understand how and by what international mechanisms in both world and regional levels, human rights are protected and promoted; and
- be involved in a debate on contemporary global and international affairs from a viewpoint of human rights.

Learning outcome of participants will be assessed on the basis of the end-of-term essay, in which a survey on international legal materials provided by the database of the UN human rights institutions, and discuss a human rights issue from a legal point of view.

LAW300AB（法学 / law 300）

国際人権法Ⅱ**大津 浩**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

憲法と国際法の両法学の交差点としての国際人権法の意義と内容を学ぶ。受講生は、新たに発展しつつある国際人権法の基礎知識を身に着けるとともに、今後の国際人権法の発展について展望する力を身に着けることが目的である。

【到達目標】

国際人権の法の基礎知識を身に着けて、具体的な国際人権問題について、自分の力で調べ、問題解決を図れる力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中、適宜、質疑応答を行い、あるいはアンケートを採ることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の紹介と進め方の説明。
第2回	人権法の成立と国際人権法の基礎（1）	テキスト第1章第1部の内容を説明する。
第3回	人権法の成立と国際人権法の基礎（2）	テキスト第1章第2節と第3節を説明する。
第4回	国際人権法の全体像（1）	テキスト第2章第1節、第2節を説明する。
第5回	国際人権法の全体像（2）	テキスト第2章第3節、第4節を説明する。
第6回	国際人権法の実施メカニズム（1）	テキスト第3章第1節、第2節を説明する。
第7回	国際人権法の実施メカニズム（2）	テキスト第3章第3節、第4節を説明する。
第8回	国際人権法各論（1）	存在と人間性に関する権利について説明する。
第9回	国際人権法各論（2）	人間の精神活動に関する権利について説明する。
第10回	国際人権法各論（3）	平等の権利と差別の撤廃について説明する。
第11回	国際人権法各論（4）	司法救済と刑事手続上の権利について説明する。
第12回	国際人権法各論（5）	移動に関わる自由と保護について説明する。
第13回	自治体による国際人権保障（1）	人権の地域的保障をめぐる理論的課題について説明する。
第14回	自治体による国際人権保障（2）	日本における自治体による国際人権保障の現状について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は事前に教科書や参考書の該当ページを予習しておく。授業後は、授業の無いと許可書を照らし合わせながら、自分の理解の深まりを確認する。

【テキスト（教科書）】

東澤靖『国際人権法講義』（2022年、信山社）

【参考書】

大津浩編『新国際人権法講座第7巻・国際人権法の深化』（2024年、信山社）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（90%）と授業への積極的参加度（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

あまり専門的になり過ぎないように分かりやすく講義する。できる限り具体的な事例を紹介し、イメージしやすい授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】**【Course Outline】**

Study of academic contents of human rights international.

【Learning Objectives】

The goal of this course is a recognition of the importance of human rights international in the contemporary world society.

【Learning activities outside of classroom】

Students have to read the text before the class and review of contents after the class by oneself.

【Grading Criteria /Policy】

The test of the end of semester (90%) and the active participation to the class (10%).

LAW300AB（法学 / law 300）

民事訴訟法 I

杉本 和士

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、具体的な民事紛争を念頭に置きながら、民事紛争の解決という観点からみて民事訴訟がどのような性格を有しているのか、民事訴訟法における諸概念がどのような意義を有しているのか、また、具体的にどのような手続として運営されているのかについて理解することを目的とします。

・なお、この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」、「同（労働法中心）」及び「法曹コース」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・第1審までにおける民事訴訟手続（判決手続）の手続構造を理解し、かつ、個々の規律を条文に即して説明することができる。

・民事訴訟法における基本概念及び基本原則について、条文及び具体例に即して適切に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行って来ることを前提として講義を行います。

・各回の講義の初めに、前回の講義に関して学習支援システム上で提出されたリアクションペーパーの内容を採り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方等） 民事紛争解決制度としての民事訴訟 民事訴訟審理の基本構造と基本概念	ガイダンスを行った後、民事訴訟制度の全体像及びその基本構造について概観する。
第2回	訴えの提起（1）その1	訴え・処分権主義・請求の趣旨及び原因・訴訟物・請求の客観的併合
第3回	訴えの提起（1）その2	訴え・処分権主義・請求の趣旨及び原因・訴訟物・請求の客観的併合
第4回	訴えの提起（2）その1	訴訟要件、訴えの利益
第5回	訴えの提起（2）その2	訴訟要件、訴えの利益
第6回	訴えの提起（3）	当事者、当事者の確定
第7回	訴えの提起（4）	当事者能力、訴訟能力
第8回	訴えの提起（5）	訴訟上の代理、法人等の代表者
第9回	訴えの提起（6）	当事者適格、第三者の訴訟担当
第10回	訴えの提起（7）	裁判所・裁判官、管轄
第11回	訴えの提起（8）	訴え提起の効果（送達を含む）、二重起訴禁止
第12回	口頭弁論（1）	口頭弁論の意義及びその必要性、口頭弁論における諸原則
第13回	口頭弁論（2）	弁論主義①（総論、第1テーマ）

第14回 口頭弁論（3） 弁論主義②（第2テーマ、裁判上の自白）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示は、初回講義冒頭のガイダンスで行うほか、各回の講義内容に関する具体的な予習・復習の内容に関しては、「予習用課題・復習テスト」の教材を配布することで指示します。

・なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書として、山本弘ほか『民事訴訟法（アルマシリーズ）』（有斐閣、第4版、2023年）を指定します。

【参考書】

<入門書>

・伊藤眞『民事訴訟法への招待』（有斐閣、2022年）

○また、本講義を受講するに当たり、下記のいずれか（できれば双方）を熟読しておくことを強く推奨します。いずれも民事訴訟手続に対する理解に大いに役立つ、小説仕立ての入門書です。

・福永有利＝井上治典著・中島弘雅＝安西明子補訂『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣、2016年）

・山本和彦『よくわかる民事裁判〔第4版〕』（有斐閣、2023年）

<本格的な体系書として>

・新堂幸司『新民事訴訟法』（弘文堂、第6版、2019年）

・伊藤眞『民事訴訟法』（有斐閣、第8版、2023年）

<各テーマに関する詳細な検討について>

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（上）』（有斐閣、第2版補訂版、2013年）

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（下）』（有斐閣、第2版補訂版、2014年）

<判例集> 下記のいずれか1冊を持っておくことをお勧めします。

・上原敏夫ほか『基本判例民事訴訟法』（有斐閣、第2版補訂、2010年）

・高田裕成ほか編『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第6版、2023年）

・中島弘雅＝岡伸浩編著『民事訴訟法判例インデックス』（商事法務、2015年）

・山本和彦『最新重要判例250 民事訴訟法』（弘文堂、2022年）

【成績評価の方法と基準】

・成績評価は、リアクションペーパー又はレポート等による平常点（30%）及び期末試験（70%）によります。具体的な方法等は、「学習支援システム」において提示します。

なお、成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

-This course introduces the principles of civil procedure to students taking this course.

-The goals of this course are to

(1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil procedure.

(2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

-Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

-Your overall grade in the class will be decided based on the following ;

Term-end examination: 70%and Mid-term report : 30%

LAW300AB (法学 / law 300)

民事訴訟法Ⅱ

杉本 和士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、具体的な民事紛争を念頭に置きながら、民事紛争の解決という観点からみて民事訴訟がどのような性格を有しているのか、民事訴訟法における諸概念がどのような意義を有しているのか、また、具体的にどのような手続として運営されているのかについて理解することを目的とします。

・なお、この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」、「同（労働法中心）」及び「法曹コース」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・第1審までにおける民事訴訟手続（判決手続）の手続構造を理解し、かつ、個々の規律を条文に即して説明することができる。

・民事訴訟法における基本概念及び基本原則について、条文及び具体例に即して適切に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行って来ることを前提として講義を行います。

・各回の講義の初めに、前回の講義に関して学習支援システム上で提出されたリアクションペーパーの内容を採り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方等） 民事訴訟審理の基本構造と基本概念の復習（「民事訴訟法Ⅰ」の学修内容の確認）	ガイダンスを行った後、「民事訴訟法Ⅰ」における学修内容を踏まえて、改めて民事訴訟手続の基本構造について確認を行う。
第2回	口頭弁論（4）	口頭弁論における当事者の行為、訴えの変更・反訴、共同訴訟・独立訴訟参加・補助参加
第3回	口頭弁論（5）	裁判所による口頭弁論の指揮、釈明権・釈明義務
第4回	口頭弁論（6）	口頭弁論期日の実施とその準備、争点整理手続、送達
第5回	口頭弁論（7）	証拠調べ（証拠法）総論
第6回	口頭弁論（8）その1	証拠調べ各論
第7回	口頭弁論（8）その2	証拠調べ各論
第8回	口頭弁論（9）	自由心証主義、証明責任
第9回	終局判決による訴訟の終結（1）	判決の種類、判決の成立・確定、処分権主義
第10回	終局判決による訴訟の終結（2）その1	確定判決の効力：既判力
第11回	終局判決による訴訟の終結（2）その2	確定判決の効力：既判力
第12回	終局判決による訴訟の終結（2）その3	確定判決の効力：既判力 訴訟承継との比較

第13回	裁判によらない訴訟の終結	訴訟上の和解、請求の認諾・放棄、訴えの取下げ
第14回	上訴、非常救済手続	控訴、上告、抗告、特別上訴、再審

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示は、初回講義冒頭のガイダンスで行うほか、各回の講義内容に関する具体的な予習・復習の内容に関しては、「予習用課題・復習テスト」の教材を配布することで指示します。

なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書として、山本弘ほか『民事訴訟法（アルマシリーズ）』（有斐閣、第4版、2023年）を指定します。

【参考書】

<入門書>

・伊藤眞『民事訴訟法への招待』（有斐閣、2022年）

○また、本講義を受講するに当たり、下記のいずれか（できれば双方）を熟読しておくことを「強く」推奨します。いずれも民事訴訟手続に対する理解に大いに役立つ、小説仕立ての入門書です。

・福永有利＝井上治典著・中島弘雅＝安西明子補訂『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣、2016年）

・山本和彦『よくわかる民事裁判〔第4版〕』（有斐閣、2023年）

<本格的な体系書として>

・新堂幸司『新民事訴訟法』（弘文堂、第6版、2019年）

・伊藤眞『民事訴訟法』（有斐閣、第8版、2023年）

<各テーマに関する詳細な検討について>

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（上）』（有斐閣、第2版補訂版、2013年）

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（下）』（有斐閣、第2版補訂版、2014年）

<判例集> 下記のいずれか1冊を持っておくことをお勧めします。

・上原敏夫ほか『基本判例民事訴訟法』（有斐閣、第2版補訂、2010年）

・高田裕成ほか編『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第6版、2023年）

・中島弘雅＝岡伸浩編著『民事訴訟法判例インデックス』（商事法務、2015年）

・山本和彦『最新重要判例250 民事訴訟法』（弘文堂、2022年）

【成績評価の方法と基準】

・成績評価は、リアクションペーパー又はレポート等による平常点（30%）及び期末試験（70%）によります。具体的な方法等は、「学習支援システム」において提示します。

・なお、成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline (in English)】

-This course introduces the principles of civil procedure to students taking this course.

-The goals of this course are to

(1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil procedure.

(2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

-Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

-Your overall grade in the class will be decided based on the following ;

Term-end examination: 70%and Mid-term report : 30%

LAW300AB（法学 / law 300）

破産法Ⅰ

杉本 和士

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義では、倒産法、倒産処理法と呼ばれる法分野のうち、清算型手続の基本法である破産法に関する手続的規律を中心に学修します。
・なお、この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」、「同（労働法中心）」及び「法曹コース」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・法的倒産手続の概要を説明できるとともに、特に破産手続に関する基本概念及び規律について理解し、条文に即して具体的な事例を元に基本概念・規律について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行って来ることを前提として講義を行います。
・各回の講義の初めに、前回の講義に関して学習支援システム上で提出されたリアクションペーパーの内容を採り上げて、全体に対してフィードバックを行います。
・なお、この講義では破産法における破産手続に関する規律を中心に扱い、いわゆる倒産実体法の分野については「破産法Ⅱ」の講義で扱います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方等）	ガイダンスを行った上で、「倒産」という概念、法的整理と私的整理の区別、清算型倒産手続と再建型倒産手続の特徴について説明をします。
第2回	破産手続・再生手続の概要	社会的に、破産手続及び再生手続の全体の流れについて概観します。
第3回	破産手続の開始—破産手続開始決定手続（1）	破産手続開始段階の手続を概観するとともに、破産手続開始の要件、破産手続開始の効果、そして手続開始前の保全措置について説明をします。
第4回	破産手続の開始—破産手続開始決定手続（2）：破産手続開始の原因	破産手続開始の要件、特に破産手続開始の原因である支払不能・債務超過概念について説明をします。
第5回	破産手続における破産者、裁判所、破産管財人及び破産財団（1）：破産者、裁判所、破産管財人	破産手続において登場する利害関係人及び機関として、破産者、裁判所、破産管財人及び破産財団について説明をします。

第6回	破産手続における破産者、裁判所、破産管財人及び破産財団（2）：破産財団	破産財団の意義及び範囲等に関する規律について説明をします。
第7回	破産手続における債権の処遇—破産債権、財団債権、取戻権（1）：破産債権の要件	破産債権の概念とその要件、種類について説明をします。
第8回	破産手続における債権の処遇—破産債権、財団債権、取戻権（2）：財団債権、取戻権	財団債権の概念とその処遇、種類について、さらに取戻権について説明をします。
第9回	破産債権の届出・調査・確定	破産債権の届出・調査・確定に関する手続について説明をします。
第10回	係属中の手続関係の処理	破産手続開始時において係属している各手続（訴訟手続、強制執行手続等）の処理に関する規律について説明をします。
第11回	破産債権に対する配当 破産手続の終了	破産債権に対する配当の種類や手続について説明をします。 破産手続の終了に関する規律について説明をします。
第12回	破産手続における免責・復権—債務者の経済生活の再生へ（1）	個人債務者に関する免責制度の理念、免責手続に関する規律、復権制度について説明をします。
第13回	破産手続における免責・復権—債務者の経済生活の再生へ（2）	特に免責許可の要件（免責許可事由）及び非免責債権の種類について説明をします。
第14回	倒産処理手続の選択—破産手続か再生手続か	倒産処理を選択するにあたり、特に再生手続と比較しつつ、破産手続の特徴について検討し、全体のまとめとします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示は、初回ガイダンスで行うほか、各回の講義の進行に応じて行います。
・予習用教材及び講義ノートにおいて下記の参考書の該当箇所を指摘します。したがって、各自の予習復習の際にしっかりと読み込んでおくことが受講学生には求められます。

【テキスト（教科書）】

・教科書として、杉本和士ほか『倒産法（LEGAL QUESTシリーズ）』（有斐閣、2024年）を指定します。

【参考書】

＜入門書＞
倉部真由美ほか『倒産法（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣、2018年）
山本和彦『倒産処理法入門』（有斐閣、第6版、2024年）
＜判例集＞
松下淳一＝菱田雄郷編『倒産判例百選〔第6版〕』（別冊ジュリスト252号）（有斐閣、2021年）
＜その他、詳しく調べるための参考書として＞
伊藤眞『破産法・民事再生法』（有斐閣、第5版、2022年）
伊藤眞ほか『条解破産法』（弘文堂、第3版、2020年）

【成績評価の方法と基準】

・成績評価は、リアクションペーパー又はレポート等による平常点（30%）及び期末試験（70%）によります。具体的な方法等は、「学習支援システム」において提示します。
なお、成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

・直近の担当科目ではないため、なし。

【Outline (in English)】

-This course introduces the principles of insolvency law to students taking this course.
-The goals of this course are to

(1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of insolvency law.

(2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

-Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

-Your overall grade in the class will be decided based on the following ; Term-end examination: 70%and Mid-term report : 30%

LAW300AB（法学 / law 300）

破産法Ⅱ

杉本 和士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義では、倒産法、倒産処理法と呼ばれる法分野のうち、清算型手続の基本法である破産法における実体的規律について、再建型手続に関する民事再生法や会社更生法における規律と比較しつつ学修します。
・なお、この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」、「同（労働法中心）」及び「法曹コース」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・破産手続における実体的法律関係の処遇に関する規律について理解し、条文に即して具体的な事例について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行って来ることを前提として講義を行います。
・各回の講義の初めに、前回の講義に関して学習支援システム上で提出されたリアクションペーパーの内容を採り上げて、全体に対してフィードバックを行います。
・なお、この講義では破産法における実体的規律（倒産実体法）を中心に扱い、破産手続の内容については「破産法Ⅰ」の講義で扱います。したがって、すでに「破産法Ⅰ」を受講し、そこでの基礎知識を持っていることを前提に講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方等） 破産手続の復習、倒産実体法の考え方	ガイダンスを行い、「破産法Ⅰ」で学習した破産手続について復習を行った上で、この講義で扱う倒産実体法に関する基本的な考え方について説明をします。
第2回	物的担保（1）—破産手続における別除権	物的担保制度の果たす機能について説明をした上で、破産手続における別除権の概念について説明をします。
第3回	物的担保（2）—破産手続における別除権の行使	破産手続において別除権を行使する際の方法、被担保債権の不足額に関する規律について説明をします。
第4回	物的担保（3）—別除権行使に対する対処	破産手続における別除権行使に対する破産管財人の側からの対処として、担保権消滅許可制度を中心に説明をします。
第5回	人的担保	人的担保制度の果たす機能について説明をした上で、主たる債務者が破産した場合の債権者及び保証人に関する規律につき、いわゆる現存額主義を中心に説明をします。

第6回	契約関係の処理（総論）	破産手続における双務契約処理の一般原則について、通常の売買契約を想定しつつ、説明をします。
第7回	契約関係の処理（各論）（1）—継続的契約、賃貸借契約、ライセンス契約、ファイナンス・リース契約	破産手続における双務契約処理の各論として、継続的契約、賃貸借契約、ライセンス契約、ファイナンス・リース契約の処遇について説明をします。
第8回	契約関係の処理（各論）（2）—雇用契約、請負契約、委任契約	破産手続における双務契約処理の各論として、雇用契約、請負契約、委任契約の処遇について説明をします。
第9回	相殺権（1）—相殺の位置付けと相殺権行使の要件、方法等	破産手続における相殺の位置付けについて確認した上で、破産手続における相殺権行使の要件、その方法等について説明をします。
第10回	相殺権（2）—相殺禁止	破産手続における相殺禁止の規律について説明をします。
第11回	相殺権（3）—相殺権行使の方法、確答催告権、破産法上の規整対象外の相殺	破産手続における相殺権行使の方法、破産管財人からの確答催告権、破産法上規整対象外の各種相殺について説明をします。
第12回	否認権（1）—否認権の意義と目的、基本型	破産手続開始後の法律行為に関する規律を概観した上で、破産手続における否認権制度の意義と目的について検討し、基本型である詐害行為否認と偏頗行為否認の概要について説明をします。
第13回	否認権（2）—詐害行為否認と偏頗行為否認に関する否認類型	詐害行為否認と偏頗行為否認に関する各否認類型の規律について説明をします。
第14回	否認権（3）—特殊な否認類型と否認権の行使	特殊な否認類型に関する規律を概観した上で、否認権行使に関する規律について説明をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示は、初回ガイダンスで行うほか、各回の講義の進行に応じて行います。
・予習用教材及び講義ノートにおいて下記の参考書の該当箇所を指摘します。したがって、各自の予習復習の際にしっかりと読み込んでおくことが受講学生には求められます。

【テキスト（教科書）】

・教科書として、杉本和士ほか『倒産法（LEGAL QUESTシリーズ）』（有斐閣、2024年）を指定します。

【参考書】

＜入門書＞
倉部真由美ほか『倒産法（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣、2018年）
山本和彦『倒産処理法入門』（有斐閣、第6版、2024年）
＜判例集＞
松下淳一＝菱田雄郷編『倒産判例百選〔第6版〕』（別冊ジュリスト252号）（有斐閣、2021年）
＜その他、詳しく調べるための参考書として＞
伊藤眞『破産法・民事再生法』（有斐閣、第5版、2022年）
伊藤眞ほか『条解破産法』（弘文堂、第3版、2020年）

【成績評価の方法と基準】

・成績評価は、リアクションペーパー又はレポート等による平常点（30%）及び期末試験（70%）によります。具体的な方法等は、「学習支援システム」において提示します。
なお、成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

・直近の担当科目ではないため、なし。

【Outline (in English)】

-This course introduces the principles of insolvency law to students taking this course.
-The goals of this course are to

(1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of insolvency law.

(2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

-Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

-Your overall grade in the class will be decided based on the following ; Term-end examination: 70%and Mid-term report : 30%

LAW100AB（法学 / law 100）

刑法総論 I**佐藤 輝幸**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的な理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論Ⅰと刑法総論Ⅱが設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論Ⅰでは、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論Ⅱで学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、対面の講義形式で行う。

開高時限の異なるクラスが別途設定されているので、間違えないように登録すること。

毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、授業前後、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・刑法総論とは	授業の進め方、教材等の説明。 刑法総論の意義
第2回	刑法の基本原則	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第3回	構成要件	構成要件の意義と機能・因果関係
第4回	違法性Ⅰ	刑法における違法の意義
第5回	違法性Ⅱ	緊急避難
第6回	違法性Ⅲ	正当防衛
第7回	違法性Ⅳ	その他の違法性阻却事由
第8回	責任Ⅰ	刑法における責任の意義・故意前半
第9回	責任Ⅱ	故意後半
第10回	責任Ⅲ	過失、責任能力
第11回	責任Ⅳ	その他責任要素
第12回	不作為犯論	不作為犯の意義と作為義務
第13回	未遂犯論	実行の着手、不能犯、中止犯
第14回	共犯	共犯の処罰根拠・教唆補助・共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3時間程度でも復習しておくことより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に3時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を流し読みしておくといい。さらに、レポート及び定期試験の前に、対策を兼ねて、15～20時間程度かけて全体の復習をしておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

山口厚ほか『判例刑法総論〔第8版〕』（2023，有斐閣）及び六法（小型のもので良い）は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での抜き打ちの小テスト20％、期末試験80％の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。

なお、過年度のレポートや試験の質問に正面から答えていない答案も多く見られた。とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、正しく理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものである。それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。
分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

Students are expected to spend 3 hours to review the lesson after each class, and 15-20 hours to review the whole lessons before the mid-term report and term-end exam. The overall grade will be based on the in-class test (20%) and term-end exam (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

刑法総論Ⅱ

佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑法総論の分野について、刑法総論Ⅰで学修したことを前提に、さらに踏み込んだ議論を学修する。重要判例や議論状況を正確に把握することで、具体的な問題や発展的な問題についても自ら解決の方向性を示す能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

刑法総論Ⅰで学修した基本的な考え方を前提に、重要判例を丹念に読むことで、基礎的な知識に肉付けを行うと共に、理論・実務における発展的な問題の考え方を身につける。具体的には、主に刑法総論に関する近時の重要判例を題材とし、先例や学説との関係でその意義と射程を正確に理解することで、刑法総論の各分野の知識を深めつつ、交錯領域等の問題について、その捉え方を具体的に学ぶことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面での講義を予定しているが、一部オンライン授業となる。詳細は初回講義において説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	ガイダンス、刑法総論Ⅰの復習
第2回	構成要件論（1）	因果関係
第3回	構成要件論（2）	未遂犯
第4回	違法論	正当防衛における急迫性・自招侵害
第5回	違法論・責任論	過剰防衛・誤想防衛・誤想過剰防衛
第6回	間接正犯	間接正犯に関する近時の判例を中心とした検討
第7回	原因において自由な行為	原因において自由な行為を巡る判例学説の検討
第8回	正犯共犯論（1）	共同正犯の成立要件
第9回	正犯共犯論（2）	共犯と錯誤・共謀の射程・共犯関係の解消
第10回	正犯共犯論（3）	承継的共犯、共犯と身分
第11回	正犯共犯論（4）	その他の共犯の諸問題
第12回	罪数論	法条競合・包括一罪・科刑上一罪・併合罪
第13回	全体のまとめ・期末試験	全体の振り返り。授業内試験。
第14回	期末試験のフィードバック	学生の解答を踏まえた検討。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習が求められる。特に刑法総論Ⅰで学んだ内容や、教員の事前に指定する判例について、事前に確認することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口厚ほか『判例刑法総論〔第8版〕』（有斐閣、2023）及び六法（小型のもので可）

は毎回参照できるようにすること。追加資料がある場合は適宜配布する。

【参考書】

基本書等については受講者に委ねるが、初回に多少の案内を行う。

【成績評価の方法と基準】

第13回に実施する期末試験で評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義を受講している学生と、出席のみしている学生・受講せずレジュメだけ見ていると思われる学生とでは、評価に大きな開きがある。レジュメは講義の補助資料であり、レジュメだけでは具体的な考え方は身につかないので、毎週講義を受講すること。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the advanced materials on the general elements of crime and the criminal defenses.

Before/after each class, students are expected to spend 2 hours to prepare for/review the lesson. The overall grade will be based on the term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

刑法総論 I

佐藤 輝幸

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H-N・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的な理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論Ⅰと刑法総論Ⅱが設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論Ⅰでは、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論Ⅱで学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、対面の講義形式で行う。

開高時限の異なるクラスが別途設定されているので、間違えないように登録すること。

毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、授業前後、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・刑法総論とは	授業の進め方、教材等の説明。 刑法総論の意義
第2回	刑法の基本原則	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第3回	構成要件	構成要件の意義と機能・因果関係
第4回	違法性Ⅰ	刑法における違法の意義
第5回	違法性Ⅱ	緊急避難
第6回	違法性Ⅲ	正当防衛
第7回	違法性Ⅳ	その他の違法性阻却事由
第8回	責任Ⅰ	刑法における責任の意義・故意前半
第9回	責任Ⅱ	故意後半
第10回	責任Ⅲ	過失、責任能力
第11回	責任Ⅳ	その他責任要素
第12回	不作為犯論	不作為犯の意義と作為義務
第13回	未遂犯論	実行の着手、不能犯、中止犯
第14回	共犯	共犯の処罰根拠・教唆補助・共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3時間程度でも復習しておくにより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に3時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を流し読みしておくといい。さらに、レポート及び定期試験の前に、対策を兼ねて、15～20時間程度かけて全体の復習をしておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

山口厚ほか『判例刑法総論〔第8版〕』（2023，有斐閣）及び六法（小型のもので良い）は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での抜き打ちの小テスト20％、期末試験80％の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。

なお、過年度のレポートや試験の質問に正面から答えていない答案も多く見られた。とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、正しく理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものである。それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。
分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

Students are expected to spend 3 hours to review the lesson after each class, and 15-20 hours to review the whole lessons before the mid-term report and term-end exam. The overall grade will be based on the in-class test (20%) and term-end exam (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

犯罪学

佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、犯罪をコントロールする方法を研究する刑事学のうち、犯罪の現状、すなわち、犯罪の原因や発生状況を分析することを目的とする。このような犯罪学は、刑法学における犯罪の成立要件の解釈や刑事政策学における犯罪予防の方策の研究に対して、基礎となる犯罪の現状認識を提供し、合理的かつ有効な研究を可能とするものである。

【到達目標】

前半の授業により、我が国における犯罪の現状について、データを基礎に（但し、データの限界を踏まえて）、その現状を理解することができる。

後半の授業により、なぜ犯罪が生じるのかについて、生物学、心理学、社会学等を利用した分析手法を学ぶ。

両者を総合して、犯罪対策、刑事政策のベースとなる正確なデータと理論的な仮説を調査し、自ら批判的に分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に強く関連。「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面での講義を予定しているが、一部オンデマンド授業とする。詳細は初回授業において説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、教材等の説明、犯罪学の意義。
第2回	犯罪統計の読み方	犯罪統計の種類と意義、分析の注意点など、犯罪統計の基本用語。
第3回	我が国の犯罪の全体像	我が国の治安に対するイメージ、認知件数・検挙件数の推移。
第4回	犯罪者の処遇に関する近年の動向	刑事手続きの各段階における処遇の現状。
第5回	個別の犯罪の検討(1)	殺人の件数の推移、被害者との関係、処遇の動向、強盗の件数の推移、手口、処遇の動向。
第6回	個別の犯罪の検討(2)	窃盗及び覚せい剤事犯、女性犯罪、高齢者犯罪。
第7回	個別の犯罪の検討(3)	再犯者による犯罪の推移。
第8回	個別の犯罪の検討(4)	少年の犯罪・非行に対する手続の概観、少年犯罪・非行の件数の推移。
第9回	近時の犯罪の動向・刑事政策への繋がり	令和期に入ってからの変化。犯罪現象論と刑事政策の関係。
第10回	犯罪原因論の歴史の概観	古典派犯罪学、犯罪生物学、犯罪心理学、犯罪社会学。
第11回	犯罪原因論の分析手法(1)	古典派犯罪学の意義、初期の犯罪生物学の評価、新しい犯罪生物学。

第12回	犯罪原因論の分析手法(2)	初期の社会学的アプローチ、社会過程アプローチ、緊張理論、葛藤理論。初期の社会学的アプローチ、社会過程アプローチ、緊張理論、葛藤理論。新しいアプローチ。
第13回	犯罪原因論の総括・期末試験。	犯罪現象論・犯罪原因論・刑事政策の繋がり。獲得された知識の応用。
第14回	期末試験へのフィードバック。	解答を受けたうえでの総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。また、犯罪等に関する報道等に注意し、授業やデータに照らして考えてみることも望ましい。

【テキスト（教科書）】

法務省『令和6年版 犯罪白書』（冊子版の他、法務省のホームページ（https://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html）でも閲覧可能）。

【参考書】

やや古いが犯罪学全体についての定評ある教科書として、瀬川晃『犯罪学』（1998、成文堂）。

犯罪統計の分析に関する詳細かつわかりやすい解説として、浜井浩一編著『犯罪統計入門』（第2版、2013、日本評論社）、同編著『刑事司法統計入門』（2010、日本評論社）。

その他文献については初回講義にて連絡する。

【成績評価の方法と基準】

第13回に実施する期末試験で評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the basics of criminology. The first half of the class will focus on learning how to read statistics while the second half will introduce the main theories and their evolution.

Before/after each class, students are expected to spend 2 hours to prepare for/review the lesson. The overall grade will be based on the term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

刑事政策

朝村 太一

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①刑罰と保安処分、②非行少年を含む犯罪者の処遇、③犯罪被害者の保護および支援に関する議論の概況を把握することによって、これらに関する諸問題について考えるに当たっての知的基盤を形成する。

【到達目標】

(1)①刑罰と保安処分、②非行少年を含む犯罪者の処遇、③犯罪被害者の地位に関する基本的な諸問題について、立法の動向等を踏まえつつ、現在の議論の到達点を把握する。

(2)1)を踏まえて、刑事政策分野の古典的な論点及び近時の問題について、具体的な知識に根ざした議論を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に強く関連。「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う（六法を持参すること）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義で学ぶこと
第2回	刑罰と保安処分①	刑罰目的論 量刑理論 犯罪化と非犯罪化
第3回	刑罰と保安処分②	死刑 自由刑
第4回	刑罰と保安処分③	財産刑 資格制限 保安処分
第5回	犯罪者の処遇①総説 司法	ディヴァージョン 微罪処分
第6回	犯罪者の処遇②司法 的処遇1	起訴猶予 刑の執行猶予
第7回	犯罪者の処遇③施設 的処遇2	宣告猶予
第8回	犯罪者の処遇④施設 内処遇1	受刑者の矯正処遇
第9回	犯罪者の処遇⑤社会 内処遇2	受刑者の法的地位 施設内の規律及び秩序の維持 不服申立制度 行刑運営の透明性の確保
第10回	犯罪者の処遇⑥社会 内処遇1	総説 仮釈放 保護観察 その他の社会内処遇
第11回	非行少年の処遇①	少年法の基本原理 少年法の適用年齢
第12回	非行少年の処遇②	少年手続の概要
第13回	犯罪被害者の地位①	刑事手続における犯罪被害者の 法的地位
第14回	犯罪被害者の地位②	刑事手続外における被害者の保 護と救済
第15回	授業内試験	授業内試験とその講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：教科書の該当部分及び配布されるレジュメを読む（各回2時間程度）。

復習：教科書や各回末に紹介する参考文献を適宜参照しつつ、自分なりに講義内容を整理する（各回2時間程度）。

【テキスト（教科書）】

川出敏裕＝金光旭『刑事政策〔第3版〕』（成文堂、2023）

【参考書】

ガイダンス及び各回末に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

関係機関が作成した動画を適宜活用することによって、検察官・刑務官・保護観察官・家庭裁判所調査官などの刑事政策に関わる人々の活動を受講者が具体的に想像できるようにしながら進めていきたい。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

In this course, students will gain an overview of the debate on various issues in the field of criminal policy.

[Learning Objectives]

The goals of this course is to be able to discuss classic and recent issues in the field of criminal policy, based on specific knowledge.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class, students are expected to spend 2 hours to prepare for/review the lesson.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade will be based on the term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いいため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働法総論・労働契約法では、個別的労働法の枠組み部分を扱います。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が強いので、継続して履修することを強く勧めます。

この科目は選択必修科目であり、全てのコースに属しています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働法の意義／労働法の体系／労働法と紛争解決
第2回	労働者の自由と権利	労働憲章／未成年保護／寄宿舎規定
第3回	労働法のプレーヤー	労働者性／使用者性・事業／労働組合・過半数代表者／労働法の法源
第4回	労働契約規制（1）	本体的権利義務／使用者の付随義務
第5回	労働契約規制（2）	労働者の付随義務

第6回	労働契約規制（3）	労働基準法上の規制／国際的労働契約
第7回	労働契約の開始	労働契約の成立／内定（内々定）／試用期間
第8回	労働契約の終了（1）	合意解約と辞職／定年／解雇制限
第9回	労働契約の終了（2）	解雇権濫用法理
第10回	懲戒	懲戒処分の種類／根拠と限界
第11回	労働条件の決定（1）	労働契約・労使慣行／就業規則
第12回	労働条件の決定（2）	就業規則と労働契約法
第13回	労働条件の決定（3）	就業規則の不利益変更
第14回	労働紛争の実態	労働紛争の実態を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[予習]（1時間程度）

- ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。

[復習]（3時間程度）

- ・LMS上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所 2020年）

大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】

日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2025年版）』

三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間テスト、期末テストを、それぞれ実施します。

[小テスト] 3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）

[中間テスト] 2割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

[期末テスト] 5割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

授業資料については比較的评价が高かったので継続して利用します。中間テストに対するフィードバックはより素早く行えるように準備します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

【関連科目】

- ・労働基準法との連続履修を強く勧めます。
- ・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

[授業を受ける姿勢]

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
- ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In this lecture, students learn about the framework of individual labor & employment law. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

- (1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.
- (2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.
- (3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-midterm exam(20%)

-final exam(50%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法**藤木 貴史**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱い。ため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働基準法では、労働条件に対する法規制や労働契約の展開を規律する法規制を学びます。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が高い授業ですので、連続して受講することを強く推奨します。

この科目は、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目です。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働契約法の復習／労働基準法の全体像
第2回	賃金（1）	賃金総論／最低法賃金／賃金支払いの4原則
第3回	賃金（2）	賞与／退職金／休業手当
第4回	賃金（3）	賃金債権の確保／休業手当／解雇と賃金
第5回	労働時間（1）	労働時間の定義／休憩・休日

第6回	労働時間（2）	時間外労働、休日労働／割増賃金／固定残業代
第7回	労働時間（3）	弾力的労働時間制度／裁量労働制／労働時間法制の適用除外
第8回	年次有給休暇	年休権の法的性質／計画年休制度／年休付与義務
第9回	人事制度（1）	配転／出向、転籍
第10回	人事制度（2）	昇進・降職／昇格・降格／人事考課
第11回	企業組織再編	合併／事業譲渡／企業分割
第12回	労災（1）	労災保険とは何か／通勤災害と労災保険
第13回	労災（2）	過労死・過労自殺／労災民訴
第14回	労働基準行政	労働基準の実情を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

〔予習〕（1時間程度）

- ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
 - ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
 - ・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。
- 〔復習〕（3時間程度）
- ・LMS上の小テストを解きましょう。
 - ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
 - ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどういうルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
 - ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）

大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】

日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2025年版）』

三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間テスト、期末テストを、それぞれ実施します。

- ・〔小テスト〕3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
- ・〔期末テスト〕7割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

授業資料についてはおおむね良好な評価を得ているので、引き続き利用を継続します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

- ・労働法総論・労働契約法との連続履修を強く勧めます。
- ・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

〔授業を受ける姿勢〕

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
- ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】**1.Course outline**

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In Labor Standards Law, students learn about laws and regulations governing working conditions and the development of labor contracts. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-Final exam(70%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「労働法総論」部分については、労働法関連科目を通じた労働法の目的・必要性、すなわち基本原則について説明する。「労働契約法」部分については、解雇や労働条件の変更といった問題を扱う。2008年3月に施行された労働契約法の内容を説明し、関連する多くの判例法理を整理して講義する。

◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
- ・本講義は、対面授業とします。
- ・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月8日（火））で行います。
- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容や評価方法について。 労働法の全体像について
第2回	労働法の法源と労働条件決定ルール	労働条件決定の多様なツールについて
第3回	労働関係のプレイヤ－	労働者、使用者について
第4回	労働契約上の権利・義務	労働契約上当然にある権利・義務について
第5回	労働契約の終了（1）	解雇の手続き規制、法律上の解雇理由規制、労使の自主的ルールによる規制について

第6回	労働契約の終了（2）	解雇権の濫用について
第7回	労働関係の終了（3）	整理解雇について
第8回	労働関係の終了（4）	辞職、合意解約、定年、当事者の消滅について
第9回	懲戒	企業秩序遵守義務とその違反に関するルールについて
第10回	採用・採用内定・試用	採用内定の取消しや、試用期間後に本採用しないこと（本採用の拒否）に関するルールについて
第11回	就業規則と労働条件の変更	就業規則による労働条件の不利益変更法理について
第12回	人事（1）	同一使用者のもとでの労働者の異動である配転について
第13回	人事（2）	異なる使用者間の労働者の異動である出向・転籍について
第14回	紛争解決	労働関係の紛争解決手段について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80点）
- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
- ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
- Web小テスト（20点）
- ・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【【専門領域と研究業績】】

- <専門領域> 社会法（社会保障法・労働法）
- <研究テーマ> 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
- <主要研究業績>
- 【主な著書】
- （編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
- （編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
- （分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19 第7巻」（すいれん舎）
- （分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
- （分担執筆）「ニューレクチャー労働法〔第3版〕」（成文堂）
- （編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
- （分担執筆）「講座労働法の再生第3巻 労働条件論の課題」（日本評論社）
- （分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）
- 【主な論文】
- 「『同一労働同一賃金』と見直しが迫られる『あたりまえ』の処遇」（JP総研Research63号）
- 「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」（労働法律旬報2035号）

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」(労働法律旬報2026号)
「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」(年金と経済41巻4号)
「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」(季刊労働者の権利349号)
「フランチャイズ店舗加盟店主の労組法上の労働者性」(労働法律旬報2014号)
・「労働契約申込みなし制度における偽装請負と『免れる目的』」(法律時報94巻9号)
・「プラットフォームワーカーの自由と保障—『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」(世界960号)

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. A basic principles of labor law;
- 2. A Labor Contract Act;
- 3. A case law concerning the Labor Contract Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test /legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H・N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、労働基準法とこれに関連する判例法理を扱う。

法律学科の選択必修科目の一つであり、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

「企業・経営と法（労働法中心）」コースをモデルとして履修計画をたてている者は、良好な成績で単位を修得することが強く求められる。

◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とします。

・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月23日（火））で行います。

- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・労働基準法の適用範囲と実効性の確保	講義内容や評価方法の説明について 労働基準法が定める基準を守らせるための手段について
第2回	労働基準法の労働者・使用者（1）	労働基準法上の「労働者」について
第3回	労働基準法の労働者・使用者（2）	労働基準法上の「使用者」について

第4回	労働者の人権	均等待遇原則、強制労働の禁止について
第5回	賃金（1）	賃金の定義、賃金支払規制について
第6回	賃金（2）	休業手当、最低賃金規制について
第7回	賃金（3）	賞与（ボーナス）、退職金に関する諸問題について
第8回	労働時間規制（1）	法定労働時間規制、労働時間の概念について
第9回	労働時間規制（2）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制について
第10回	労働時間規制（3）	割増賃金、労働時間規制の適用除外について
第11回	フレキシブルな労働時間制度（1）	変形労働時間制・フレックスタイム制について
第12回	フレキシブルな労働時間制度（2）	事業場外労働のみなし時間制・裁量労働制について
第13回	休暇	年次有給休暇等について
第14回	労働者の安全衛生	労働安全衛生法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80点）
- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
 - ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
- Web小テスト（20点）
- ・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

シラバスの内容を変更し、実務家の方による講演を実施することがあります。

【【専門領域と研究業績】】

- ＜専門領域＞ 社会法（社会保障法・労働法）
＜研究テーマ＞ 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
＜主要研究業績＞

【主な著書】

- （編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
（編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
（分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19 第7巻」（すいれん舎）
（分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
（分担執筆）「ニューレクチャー労働法［第3版］」（成文堂）
（編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
（分担執筆）「講座労働法の再生第3巻 労働条件論の課題」（日本評論社）
（分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）

【主な論文】

「『同一労働同一賃金』と見直しが迫られる『あたりまえ』の処遇」
(JP総研Research63号)

「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」(労働法律旬報2035号)

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」(労働法律旬報2026号)

「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」(年金と経済41巻4号)

「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」(季刊労働者の権利349号)

「フランチャイズ店舗加盟店主の労組法上の労働者性」(労働法律旬報2014号)

・「労働契約申込みみなし制度における偽装請負と『免れる目的』」(法律時報94巻9号)

・「プラットフォームワーカーの自由と保障—『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」(世界960号)

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. About a Labor Standards Act;
- 2. A case law concerning the Labor Standards Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test /legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW300AB（法学 / law 300）

労働組合法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱い。ため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられるようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働組合法では、労働法のうち、集団的労働法に関する基礎的部分を扱います。労働法総論・労働契約法、労働基準法を履修していることが望ましいです。

この科目は、企業・経営と法コース（労働法中心）に属しています。〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の2点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる

【到達目標】

- ①集団的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②集団的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働組合法総論	・労働組合法の意義/目的 ・憲法28条の規範的意義と法的効果 ・労働組合法上の労働者・使用者
第2回	公務労働と団結権保障	・憲法28条の効果 ・公務員法制
第3回	不当労働行為（1）	・行政救済の特徴 ・救済の名宛人
第4回	不当労働行為（2）	・不利益取扱い ・支配介入
第5回	団結権（1）	・労働組合の組織的類型 ・法内組合
第6回	団結権（2）	・ユニオン・ショップ協定 ・統制処分
第7回	団体行動権（1）	・団体行動の類型 ・団体行動の正当性（主体、目的）
第8回	団体行動権（2）	・団体行動の正当性（態様）
第9回	団体行動権（3）	・団体行動と賃金 ・使用者側の対抗手段 ・損害賠償責任

第10回	映像で学ぶ労働法	・期末テストに向けて ・映像で学ぶ労働法
第11回	団体交渉権（1）	・交渉類型 ・団体交渉の相手方、当事者 ・団交応諾義務
第12回	団体交渉権（2）	・誠実交渉義務 ・中立保持義務
第13回	労働協約（1）	・労働協約の規範的効力・債務的効力
第14回	労働協約（2）	・労働協約の不利益変更

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。
- 〔予習〕（1時間程度）
 - ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
 - ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
 - ・内容を忘れた場合、前回の講義音声聞きなおし（オンライン授業時）。
- 〔復習〕（3時間程度）
 - ・LMS上の小テストを解きましょう。
 - ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
 - ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
 - ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

指定教科書が品切れのため、Hoppiiで決まり次第連絡し、4月第1回授業で改めて説明します。さしあたりは参考書①をご利用ください。→下記教科書を指定します
三井正信『基本労働法III』（成文堂、2014年）

【参考書】

- ①藤本茂ほか『ファーストステップ労働法』エイデル出版（2020年）
- ②大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）
- ③西谷敏『労働組合法（第3版）』（有斐閣（2012年）
- ④日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2025年版）』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②の計測のために期末テストを、それぞれ実施します。
・〔小テスト〕3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
・〔期末テスト〕7割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

教材については好評でしたので継続します

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

- ・労働法総論・労働契約法、労働基準法を履修していることが望ましいです。また、労働法特論、社会政策論との並行履修を強くすすめます。
- ・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識が必要です（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）。
- 〔授業を受ける姿勢〕
 - ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
 - ・六法／法令集は授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
 - ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
 - ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。
 - ・授業中の感染症予防のため、マスク着用を推奨します（義務ではありません）。

【Outline (in English)】

Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers are less powerful than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor law is a field of law that prevents these difficulties and imposes various regulations so that people can live like human beings.

Labor Union Law deals with the basic part of labor law that relates to collective labor law. It is desirable for students to have taken General Labor Law, Labor Contract Law, and Labor Standards Law.

Learning Objectives

(1) Acquire basic knowledge of collective labor laws.

(2) To be able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with collective labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Grading Criteria /Policy

A quiz will be given to measure achievement goal (1), and a final exam will be given to measure achievement goal (2).

[Quiz] 30%(fill-in-the-blank questions/choice-type questions to measure the level of retention of basic knowledge)

[Final exam] 70%(to determine whether students can explain the structure of labor law through explanatory questions and case study questions).

LAW300AB（法学 / law 300）

労働法特論

細川 良

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、非正規労働者に関する法（労働契約法のうち有期契約労働者に関する部分、パートタイム労働法など）、労働市場に関する法（職業安定法、労働者派遣法など）、高齢者雇用・障害者雇用に関する法を扱う。

法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。「企業・経営と法（商法中心）」「文化・社会と法」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域における基本的な制度の概要、およびそこで生じている法的な議論や紛争の論点がどのようなものであるかについて理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域における制度の詳細や、関連する政策についての歴史的な変遷、およびそこで生じている法的な議論における一般的・通説的な理解を把握し、基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようにする。
3. 授業の概要で示した法領域における制度、関連する政策をめぐって生じている法的な議論状況を整理し、関連する裁判例を理解し、事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認してください
 ※

・本講義は、対面授業とします。

※状況によって、オンライン授業またはハイフレックス授業を併用する場合があります。オンライン授業またはハイフレックス授業となった場合は、Zoom または Webex を使用します。

・授業の進め方の説明については、第1回ガイダンスで行います。ガイダンスの受講方法については、学習支援システム「HOPPII」で確認してください（シラバス執筆時点（2024年2月）では、第1回のガイダンスは、オンラインで配信する予定です）。

・授業計画に記されている予定は、あくまでも「予定」です。変更が生じることがあり得ることに留意してください。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める予定です。

・授業に関する質問等については、原則として、授業終了後にて対応し、その場でフィードバックします。学習支援システムを通じた質問については、全てに対応できない場合や、複数の同趣旨の質問に対して、まとめて解答する場合があります。個別に確実に対応がほしい場合は、授業終了後の時間を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容や評価方法の説明。労働法の全体像の説明。労働法特論の労働法における位置付けの説明。
第2回	女性・年少者の保護	女性・年少者の保護のカタログについて学習する。

第3回	性差別の禁止（1）	男女同一賃金原則について学ぶ。
第4回	性差別の禁止（2）	均等法の制定と発展について学ぶ。
第5回	ハラスメント	職場における様々な形態のハラスメントについて学ぶ。
第6回	育児介護休業法	育児介護休業法上の諸制度について理解する。
第7回	有期雇用労働者・パート労働者（1）	有期契約労働者に関する保護策について学習する。
第8回	有期雇用労働者・パート労働者（2）	均衡・均等処遇を中心にパート有期法について学習する。
第9回	派遣労働者（1）	労働者派遣の歴史について学ぶ。労働者派遣の基本的枠組みを理解する。
第10回	派遣労働者（2）	派遣元事業主と派遣先事業主が講じるべき措置等について学習する。
第11回	高年齢者	高年齢者の雇用の安定に関する措置について学ぶ。
第12回	障害者	障害者権利条約の批准と障害者雇用促進法の改正点について学習する。
第13回	外国人労働	外国人労働者の就労と関連する法制度、法政策について学習する。
第14回	まとめ	本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
- ・授業時間中における進行速度などによっては、講義内容を補完するための動画を配信し、視聴してもらう場合があります。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）
- ※その他、労働法を学習するための基本的な文献については、初回の講義で解説します。また、各回の授業内容に関連する文献や論文等を適宜紹介したいと思います。

【成績評価の方法と基準】

- 試験（100点）
- ・期末試験として1回実施。択一式問題、説明問題、論述形式の問題（事例問題）を組み合わせで出題する予定です。変更がある場合には、授業時間中に説明します。
 - ・単位認定の基準は、本講義において求められる最低限の到達目標がクリアできているか否かで判断します。そのうえで、成績評価の基準としては、講義内容の全体にわたっての理解度、およびより深い内容の理解ができているか（より高い到達目標に達しているか）によって振り分けられることになります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境とZoom ないしWebexを利用可能な端末。
- ・レジュメ等はPDFデータで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

- ・「労働法総論・労働契約法」、「労働基準法」を履修していることが望ましい。

・同時に、「社会政策」、「雇用・福祉政策」を履修するとより理解を深めることができる。

【実務経験のある教員による授業】

講義担当者は、厚生労働省所管のシンクタンク（独立行政法人 労働政策研究・研修機構）で研究員として勤務しており、労働政策立案に関する調査・研究および厚労省における委員会・検討会での報告、政策立案担当者に対するレクチャーなどに従事していました。本講義においても、こうした経験を生かして、法制度の立法および運用に関する背景や経緯についても解説したいと思います。

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on development subjects of Japanese Labor Law.

The outline is as follows:

- 1. A law on non-regular workers;
- 2. The Law of the Labor Market;
- 3. A law on Employment of the Elderly;
- 4. A law on Employment of Persons with Disabilities.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test /legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Term-end examination: 100%

LAW300AB (法学 / law 300)

社会保障法 I

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会保障法のうち社会保障法総論及び福祉関係法を扱う。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目であり、「行政・公共政策と法」コースの履修推奨科目である。社会保障の総論や社会福祉は、企業が提供する法定内外の福利厚生に密接に関連する。さらに社会保障は、誰もがその恩恵を受けうるものであり、「企業・経営と法」コースを主体に科目選択している学生だけではなく、すべての学生にとって必要な知識である。したがって、社会保障制度の理論的根拠としての総論をふまえて、個別の諸制度の目的、制度内容そしてその課題についての情報を提供する。

社会保障は、行政サービスの大きな部分を占めていることから、法律学科の「行政・公共政策と法」コースが想定する職業に就くことを検討している方も、受講するのがのぞましい。

【到達目標】

1. 社会保障法の定義、法体系などの総論的事項、および生活保護法と福祉法の概要を説明できるようになる。
2. 生活保護法と福祉法の法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
3. 1～2で獲得した知識をもって、実社会で想定される公的扶助・社会福祉領域での基本的問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
- ・本講義は、対面授業とします。
- ・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月8日（火））で行います。
- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第2回	社会保障法の概論	社会保障法学の射程、限界などに関して考察する。
第3回	社会保障法の法源等	社会保障法の定義・法体系・発展経緯を解説する。
第4回	生存権	生存権の意義・学説・判例について考察する。
第5回	生活保護法の概要	公的扶助の歴史、生活保護法の原理・原則、自立の意義について考える。
第6回	生活保護法における補足性の原理	補足性の原理の具体的内容、および関連判例を検討する。
第7回	生活保護法のその他の原理・原則等	世帯単位の原則ほか、被保護者の権利・義務について説明し、関連判例について考察する。

第8回	福祉関係法の概要	福祉の意義、福祉法制の発展経緯のほか、社会福祉基礎構造改革について説明する。
第9回	福祉関係法（障害者福祉）	障害者関連法の概要について解説する。
第10回	福祉関係法（高齢者福祉）	介護保険法など、高齢者福祉に関する法律について検討する。
第11回	福祉関係法（児童福祉）	児童福祉に関する法律について説明する。
第12回	福祉関係法（家庭福祉）	ひとり親世帯等の福祉に関する法律について説明する。
第13回	社会手当法	社会手当の概念、および子ども手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法の概要を説明する。
第14回	総合研究	社会保障法に関する近年の法的諸問題を取り上げて、考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

- ・本沢己代子・新田秀樹編『トピック社会保障法（第19版）』（信山社、2025年4月刊行予定）
 - ・菊池馨実『社会保障法【第3版】』（有斐閣、2022年）
- このほか、生活保護制度の行政実務の実態を理解するためには、柏木ハルコ作の『健康で文化的な最低限度の生活』のコミック各巻は、大いに参考となる。

【成績評価の方法と基準】

試験（80点）

- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
- ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。

Web小テスト（20点）

・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】

- ・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on Japanese Social Welfare Law.

The outline is as follows:

- 1. About Article 25 of the Constitution of Japan;
- 2. Japanese Public Assistance Act;
- 3. Welfare law for people with disabilities;
- 4. Elderly Welfare law;
- 5. Child Welfare Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Be able to explain the definition of social security law, general matters such as legal system, and outline of public assistance law and welfare law.
- B. You will be able to persuasively discuss your views on the legal issues of the Public Assistance Act and the Welfare Act.
- C. With the knowledge acquired in A to B, you will be able to actively participate in the basic problems in the field of public assistance and social welfare that are expected in the real world with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW300AB (法学 / law 300)

社会保障法Ⅱ

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会保障法のうち社会保険法を扱う。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目であり、「行政・公共政策と法」コースの履修推奨科目である。社会保険は、企業が提供する法定内外の福利厚生に密接に関連する。さらに社会保障は、誰もがその恩恵を受けうるものであり、「企業・経営と法」コースを主体に科目選択している学生だけではなく、すべての学生にとって必要な知識である。社会保険法に含まれる個別の諸制度の目的、制度内容そしてその課題についての情報を提供する。

社会保障は、行政サービスの大きな部分を占めていることから、法律学科の「行政・公共政策と法」コースが想定する職業に就くことを検討している方も、受講するのがのぞましい。

【到達目標】

1. 社会保障法のうち社会保険法（医療関係法、年金法、労災保険法、雇用保険法）の概略について説明できるようになる。
2. 社会保障法のうち社会保険法（医療関係法、年金法、労災保険法、雇用保険法）の法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
3. 1～2で獲得した知識をもって、実社会で想定される社会保険法上の基本的問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
- ・本講義は、対面授業とします。
- ・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月23日（火））で行います。
- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第2回	医療保障（1）	医療関係法の法体系、医療受給権の特徴などについて説明する。
第3回	医療保障（2）	保険診療の仕組みを説明し、関連判例について考察する。
第4回	医療保障（3）	健康保険法の概要を説明し、関連判例について考察する。
第5回	医療保障（4）	国民健康保険法等の概要を説明し、関連判例について考察する。
第6回	年金保険（1）	年金法の法体系、概要、年金受給権の法構造、スライド制などについて説明する。
第7回	年金保険（2）	老齢年金と障害年金の概要を説明し、関連判例について考察する。

第8回	年金保険（3）	遺族年金の概要を説明し、関連判例について考察する。
第9回	年金保険（4）	年金分割制度等について説明する。
第10回	労災保険（1）	労災保険法の概要、同法で使用される諸概念について説明する。
第11回	労災保険（2）	業務災害給付について説明し、関連判例を考察する。
第12回	労災保険（3）	通勤災害給付について説明し、関連判例を考察する。
第13回	雇用保険（1）	求職者給付について説明し、関連判例を考察する。
第14回	雇用保険（2）	就職促進給付、教育訓練給付、雇用継続給付について説明し、関連判例を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

- ・東京都産業労働局「働く人のための労働保険 社会保険」(<http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/sodan/siryo/index.html>)
- ・本沢己代子・新田秀樹編『トピック社会保障法（第19版）』（信山社、2025年4月刊行予定）
- ・菊池馨実『社会保障法【第3版】』（有斐閣、2022年）

【成績評価の方法と基準】

試験（80点）

- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
- ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。

Web小テスト（20点）

- ・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】

- ・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

事前に社会保障法Ⅰを履修していることがのぞましい。

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on Japanese Social Insurance Law.

The outline is as follows:

- 1. Japanese Health Insurance Act;
- 2. Japanese Pension Insurance Law;
- 3. Japanese Unemployment Insurance Law.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. You will be able to explain the outline of the social insurance law (medical care law, pension law, labor accident insurance law, employment insurance law) among the social security laws.
- B. You will be able to persuasively discuss your own views on the legal issues of the social insurance law (medical care law, pension law, labor accident insurance law, employment insurance law) among the social security laws.
- C. With the knowledge acquired in A to B, you will be able to actively participate in the basic problems of social insurance law that are assumed in the real world with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW300AB (法学 / law 300)

社会政策**藤木 貴史**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、働くことだけが人生ではありません。働くこと以外にも「人間らしい豊かな生活」を送るためのサポートが必要です。社会政策は、それらを実現するための政策体系です。

「社会政策」の講義では、講義上の「社会政策」領域のうち、労使関係論を主たる対象とします。現代的な問題を考えるための前提として、日米比較を行い、日本的雇用慣行の特徴と形成史を学びます。

法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」の中心科目であり、「行政・公共政策と法コース」の履修推奨科目です。また、「文化・社会と法コース」において、履修することが望ましいとされている科目でもあります。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の2点です。

- ①社会政策の体系的・専門的な知識を身につける
- ②社会政策について自主的に学習し、多角的観点から問題を分析する能力を身につける。

【到達目標】

到達目標は次の2点です。

- ①労使関係論をめぐる問題について、専門的な知識を理解することができる。
- ②労使関係論の形成史を理解し、多角的な観点から問題を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書・参考書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会政策とは何か	経済社会の変遷／社会政策論争
第2回	福祉国家の類型	エビセン・アンデルセンによる分類と批判／日本国憲法と福祉国家
第3回	福祉国家と被用者保険	社会保障における被用者中心主義
第4回	労使関係の世界史	労使関係論の概観
第5回	アメリカの労使関係(1)	産業別労働組合の形成
第6回	アメリカの労使関係(2)	ニューディール政策とNLRA
第7回	アメリカの労使関係(3)	ビジネス・ユニオニズムの挫折

第8回	労使関係の日米比較	年功型賃金（長時間労働）／解雇規制／企業別組合
第9回	労使関係と労働運動(1)	明治期から戦前の労使関係
第10回	労使関係と労働運動(2)	戦中・戦後の労使関係
第11回	労使関係と賃金制度(1)	年功賃金制度の萌芽
第12回	労使関係と賃金制度(2)	電産型賃金から同一労働・同一賃金へ
第13回	労使関係と雇用保障(1)	新卒採用と雇用維持への戦い
第14回	労使関係と雇用保障(2)	複雑な法規制／実態を支える論理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習時間は各1時間を、復習時間は各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石畑良太郎・牧野富夫・佐賀一道編著『よくわかる社会政策 [第3版]』（ミネルヴァ書房、2019年）

【参考書】

野村達朗『アメリカ労働民衆の歴史』ミネルヴァ書房（2013年）

アンドルー・ゴードン『日本労使関係史1853-2010』岩波書店（2013年）

濱口桂一郎・海老原嗣男『働き方改革の世界史』ちくま新書（2020年）

濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書（2021年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②の計測のために期末テストを実施します。

[小テスト] 3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）

[期末テスト] 7割（語句選択式記述問題により、社会政策の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望を受けて教科書を見直しました。

【その他の重要事項】

[関連科目]

・労働法総論・労働契約法／労働基準法の2科目は、履修済であることを前提に授業をします。法律学科以外の学生は、各自で自習してください。

・労働組合法と同時に履修することを強く推奨します。

・雇用・福祉政策とは連続性が高いため、併せて履修することを強く推奨します。

・社会保障法Ⅰ・Ⅱと併せて履修することを勧めます。

[授業を受ける姿勢]

・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。

・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。

・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

・必要に応じ、オンライン授業となる場合があります。

【Outline (in English)】

Course outline

In our society, many people live by being employed, working, and earning wages. However, working is not the only part of life. In addition to working, we need support to live a "rich and humane life. Social policy is a system of policies to realize these goals.

In the "Social Policy" course, the main subject is the theory of labor-management relations in the area of "social policy" in academia. As a prerequisite for considering contemporary issues, we will examine how employment practices in Japan and the U.S. have developed over the course of history.

Learning Objectives

The two goals of the course are as follows.

(1) To understand the specialized knowledge of the issues surrounding labor-management relations theory.

(2) To be able to understand the history of the formation of labor-management relations theory and analyze the issues from multiple perspectives.

Learning activities outside of classroom

Students are required to read the handouts and reference materials distributed in advance.

Grading Criteria /Policy

A quiz will be given to measure the achievement goal (1), and a final exam will be given to measure the achievement goal (2).

Quiz: 30%(fill-in-the-blank questions/choice-type questions will be used to measure the level of retention of basic knowledge)

Final exam] 70%(to assess whether students can explain the mechanism of social policy by means of explanatory questions and case study questions)

LAW300AB (法学 / law 300)

雇用・福祉政策

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、働くことだけが人生ではありません。働くこと以外にも「人間らしい豊かな生活」を送るためのサポートが必要です。社会政策は、それらを実現するための政策体系です。

「雇用・福祉政策」の講義では、講義上の「社会政策」領域のうち、非正規労働の生活保障問題や、雇用と社会保障の交錯領域等の現代的な問題を対象とします。各問題について、現状の制度を確認したのち、政策的な対応について検討・解説を行います。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」の中心科目であり、「行政・公共政策と法コース」の履修推奨科目です。また、「文化・社会と法コース」において、履修することが望ましいとされている科目でもあります。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の2点です。

- ①社会政策の体系的・専門的な知識を身につける
- ②社会政策について自主的に学習し、多角的観点から問題を分析する能力を身につける

【到達目標】

到達目標は次の2点です。

- ①社会政策上の現代的問題について、専門的な知識を理解することができる。
- ②社会政策上の現代的問題を理解し、多角的な観点から問題を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書・参考書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、評価方法説明／社会政策と日本的雇用慣行の復習
第2回	労働時間（1）	生活時間と労働時間／労働時間規制の歴史
第3回	労働時間（2）	日本の労働時間規制の原則と例外
第4回	労働時間（3）	長時間労働の背景と課題
第5回	非正規労働（1）	日本型雇用と非正規労働者／有期労働者の雇用保護
第6回	非正規労働（2）	パートタイム労働者と均等・均衡処遇

第7回	非正規労働（3）	労働者派遣制度を体感する
第8回	非正規労働（3）	労働者派遣制度と労働市場
第9回	非正規労働（4）	自営的就労者と労働市場
第10回	雇用平等（1）	非正規雇用と女性労働／国内における法整備
第11回	雇用平等（2）	正規労働者の男女格差
第12回	少子高齢化	少子高齢化と社会保障政策
第13回	高齢者	少子高齢化と雇用政策
第14回	障害者	障害者と雇用・福祉政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習時間は各1時間を、復習時間は各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石畑良太郎・牧野富夫・佐賀一道編著『よくわかる社会政策 [第3版]』（ミネルヴァ書房、2019年）

【参考書】

藤本茂ほか『ファーストステップ労働法』エイデル研究所（2020年）
濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書（2021年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②の計測のために期末テストを実施します。

[小テスト] 3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）

[期末テスト] 7割（語句選択式記述問題により、社会政策の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望を受けて新たに教科書を指定しました。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

【関連科目】

- ・社会政策とは連続性が高いため、併せて履修することを勧めます。
- ・労働法特論、社会保障法Ⅰ・Ⅱと併せて履修すると、理解が深まります

【授業を受ける姿勢】

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。
- ・状況に応じて、オンライン授業となる場合があります。

【Outline (in English)】

Course outline

In our society, many people live by being employed, working, and earning wages. However, working is not the only part of life. In addition to working, we need support to live a "rich and humane life. Social policy is a system of policies to realize these goals.

In the "Employment and Welfare Policy" course, we will focus on contemporary issues such as livelihood security for irregular workers and the intersection of employment and social security, among other "social policy" areas in academia. For each issue, the current system will be reviewed, and then policy responses will be discussed and explained.

Learning Objectives

The objectives of the course are as follows

- (1) To be able to understand the specialized knowledge of contemporary social policy issues.
- (2) To be able to understand contemporary social policy issues and analyze them from multiple perspectives.

Learning activities outside of classroom

Students are required to read the handouts and reference materials distributed in advance.

Grading Criteria /Policy

A quiz will be given to measure achievement goal (1), and a final exam will be given to measure achievement goal (2).

Quiz: 30%(fill-in-the-blank questions/choice-type questions to measure the level of retention of basic knowledge)

Final exam] 70%(to determine whether students can explain the structure of labor law by means of explanatory questions and case study questions)

LAW200AB（法学 / law 200）

教育法 I

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法（労働法中心）コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法 I では教育法の基本原理から、国家による教育統制に関わる問題についてまでを取り上げることとします。

【到達目標】

教育法制についての基礎的理解を深める。国家の教育統制とその限界、教育の自由との関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は対面を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第2回	教育法の基本原理	教育法の歴史、教育法の法源など
第3回	戦前教育の特色	戦前教育法制について
第4回	戦後教育改革	憲法・教育基本法制の生成過程について
第5回	戦後教育政策の展開	国家の教育統制の歴史的流れについて
第6回	新・教育基本法制（旧法）	旧教育基本法について
第7回	新・教育基本法制（新法）	新教育基本法について
第8回	教育三法改正ほか	教育基本法改正後の主要法律の改正について
第9回	教育権—学習指導要領（沿革、学説）	学習指導要領の法的拘束力について沿革、学説を通して考察する。
第10回	教育権—学習指導要領（判例）	学習指導要領の法的拘束力について判例・裁判例を通して考察する。
第11回	教育権—教科書検定（沿革、学説）	家永教科書訴訟について沿革、学説を通して考察する。
第12回	教育権—教科書検定（判例）	家永教科書訴訟について判例・裁判例を通して考察する。

第13回	教育権—学力テスト事件（沿革、学説）	旭川学力テスト事件について沿革、学説を通して考察する。
第14回	教育権—学力テスト事件（判例）	旭川学力テスト事件最高裁判決について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ハンディ教育六法 2025年版』北樹出版、2025年

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and its historical background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200AB（法学 / law 200）

教育法Ⅱ

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法Ⅱでは、子どもの人権保障の動向と、学校教育における子どもの人権、そして近年の教育政策の動向について取りあげることとします。

【到達目標】

子どもの人権保障の国際的動向や国内の課題について理解を深める。学校内部での子どもの人権保障について、人権侵害事件を具体的に学んで理解を深める。

近年の教育政策の動向と課題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は対面を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	子どもの人権保障の国際的動向	子どもの権利条約に至るまでの国際的動向について
第2回	子どもの権利条約の理念	子どもの権利条約の基本原則について
第3回	国内における子どもの権利保障の動向	子どもの権利条約を踏まえた国内での子どもの権利保障について
第4回	学校における子どもの人権：校則（沿革、学説）	校則をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第5回	学校における子どもの人権：校則（判例）	校則をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第6回	学校における子どもの人権：体罰（沿革、学説）	体罰をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第7回	学校における子どもの人権：体罰（判例）	体罰をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第8回	学校における子どもの人権：いじめ（沿革、学説）	いじめをめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する

第9回	学校における子どもの人権：いじめ（判例）	いじめをめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第10回	学校における子どもの人権：その他学校災害	その他の学校事故、学校災害の救済法制について
第11回	最近の教育政策の動向（教育政策の形成過程）	教育政策の形成過程と問題点について
第12回	最近の教育政策の動向（最近の教育政策）	最近の教育政策の特色と課題について
第13回	教育改革と学校参加（現状）	子ども・親・住民の学校参加についての現状
第14回	教育改革と学校参加（今後の課題）、まとめと試験	子ども・親・住民の学校参加についての今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ハンディ教育六法 2025年版』北樹出版、2025年

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

その他履修にあたっての注意事項は開講時に説明するので、初回の授業には出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200AB（法学 / law 200）

国際法基礎理論

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は主として国家間関係を規律する法である。この授業では、国際法の法源や主体といったいわゆる総論分野を中心に学ぶ。法学部法律学科のコース制における位置づけとしては、この科目は「国際社会と法」コースに最も強く関連するが、「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも配置されている。グローバル化の進展が著しい今日においては、日本国内の法律専門家、公務員、企業に勤める者にも国際法の基本知識が求められる局面が増えており、それに対応するための素地を作ることも目指している。国際法という特定の分野についての科目であることはもちろんだが、同時に、国際法の特徴（国内法との相違）を理解することを通じて、そもそも法とは何か、社会の中でどのような意味を持っているかを考える契機を与えるという基礎的な側面も有する。

【到達目標】

国際法の総論分野を中心とする各事項（具体的には下記【授業計画】参照）について、国際社会の構造との関係を意識しながら理解し、概念や制度を説明できるようになること。同時に、国際法の歴史的展開と現状を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきか自ら考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

下記【授業計画】に示す項目について検討する。授業は、教員からの講義だけでなく、受講生とのやりとりをまじえながら、進める。個別のテーマに関する専門家を招いてゲスト講義を実施することもある。学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。授業時間中以外の質問については、学習支援システム等で対応する。基本的に対面授業を予定しているが、一部、オンライン授業とすることもある。授業方法等についてより具体的な指示は、学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介
第2回	法源（1）	総論的検討、条約
第3回	法源（2）	国際慣習法、その他の法源
第4回	条約法（1）	条約の締結、効力
第5回	条約法（2）	条約の解釈、終了・運用停止
第6回	国際法と国内法の関係（1）	伝統的理論、国際法における国内法
第7回	国際法と国内法の関係（2）	国内法における国際法
第8回	国家	国家の成立と変動
第9回	国家管轄権	意義、適用基準、競合と調整
第10回	主権免除	裁判権免除、執行免除
第11回	国際法における個人	法主体性、国籍、外国人の地位、犯罪人引渡
第12回	領域	領域権原、領域紛争

第13回 国家責任（1） 国家責任法の機能、国家責任の発生要件

第14回 国家責任（2） 救済、追及

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲を予習すること。詳細は初回に指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

・森川幸一ほか編『国際法で世界がわかる——ニュースで読み解く32講』（岩波書店、2016年）（第2版（近刊））を使用する予定である。学習支援システム上および授業内の指示を確認した後に購入することを推奨する。）
・『国際条約集』（有斐閣）（最近のものであれば、最新年度版でなくとも構わない。）

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験による（100％）。平常点を加味する場合は、初回授業にて説明する。

【学生の意見等からの気づき】

大学では、どのような形態の授業であれ、与えられるのを待つのではなく、自ら学ぶ姿勢が重要であることを、学生に改めて理解してもらえようになりたい。その上で、受講生からの質問等には、引き続き丁寧に対応していきたい。

【その他の重要事項】

「国際法入門」で扱った内容を繰り返し説明することはしない。「国際法入門」と合わせて履修することを強く推奨する。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 This course provides students with a basic understanding of public international law with reference to general topics including but not limited to: sources of law, law of treaties, relationship between international and municipal law, States and its territory, jurisdiction and immunity, and international responsibility of States.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read the assignment before each class.

【Grading Criteria /Policy】 Grading is based on the term-end examination (100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際空間法

瀬田 真

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海、空、宇宙、サイバー空間といった国家領域以外の空間に関する国際法について学ぶ。法学部法律学科のコース制における位置づけとしては「国際社会と法コース」に最も強く関係する。同時に、この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも属している。

現代社会において、国際法はもはや外交官や国際公務員のものだけでなく、一般企業に働く際にも必要とされる知識となってきた。中でも、本授業で扱う空間法は、海運業や航空業はもちろんのこと、その他、非常に多くのビジネスにかかわる分野といえる。また、国際法の基礎的な知識を前提として、より発展的な知識を学ぶことで、日々の国際問題に対し、国際法の規則がどのように適用されるかをより深く理解する。

【到達目標】

海、空、宇宙、サイバー空間といった国家領域以外の空間に関する国際法の規則について理解する。その上で、実際に起きている問題について、実際に国際法規則がどのように適用されるかについて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本書をはじめ、文献を読んだうえで授業に臨むことを期待する。臨機応変に対応する予定ではあるが、基本的に一定程度の予習を前提にし、その上で、より細かい点について、各回深く掘り下げるようにし、意見交換ができればと考えている。そのため、受講生は単に座って話を聞くだけでなく、授業時間中も積極的に関与することを期待する。また、各回、授業の感想・疑問点を提出してもらい、それに対するコメントを次回冒頭に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業スケジュール。空間法とは。海洋法序論。
第2回	海洋法（1）	水柱の水域区分と航行規則
第3回	海洋法（2）	非生物資源の開発と海底の水域区分
第4回	海洋法（3）	沿岸国水域の画定
第5回	海洋法（4）	海上における人・船舶の規律
第6回	海洋法（5）	生物資源
第7回	海洋法（6）	海洋環境：汚染の防止
第8回	海洋法（7）	海上警察活動
第9回	空域	領空、国際空域、航空犯罪等
第10回	宇宙（1）	宇宙法の生成と展開
第11回	宇宙（2）	近年の宇宙活動の動向とその規律
第12回	極域	南極と北極
第13回	サイバー空間	サイバー空間を規律する法
第14回	授業全体のまとめ	授業全体についての復習・質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システム上の教材を予習すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、どちらかと言えば予習の比重が大きく、予習3時間、復習1時間の目安となる。（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

瀬田真『海洋法』（弘文堂、2025年）

【参考書】

加藤信行、萬歳寛之、山田卓平編著『概説国際法』（有斐閣、2024年）『国際条約集』（ここ数年のものであれば、出版社は問わず、最新年度版でなくても構わない。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）。平常点（各回のコメント・質問及び授業内の議論への参加）（50％）。
詳細な成績評価方法・基準は、授業内で説明するとともに学習支援システム上で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

NA（初年度であるため）

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 This course provides students with a basic understanding of international law regulating areas and spaces other than territories attributed to States, such as the sea, air and outer space, polar region and cyber space, if possible.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read the assignment before each class and occasionally required to submit short comments and questions.

【Grading Criteria /Policy】 Grading is based on the term-end examination (50%) and the in-class participation (50%).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際安全保障法

岩月 直樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際社会における「平和」の維持と回復に関わる国際法を対象とする。国際社会における「平和」は、なによりもまず、紛争を平和的に解決することで安定した国際秩序を維持することを意味する。そのためには、①紛争を平和的に解決し、②それが軍事的な事態に展開することのないように管理する必要がある。③そして軍事的な衝突が現実生じてしまった場合には、その中で非人道的な行為が行われないように抑制するとともに、事態の沈静化をはかることが求められる。また現在では、④武装勢力やテロ組織のような私的団体の暴力的活動が国際社会の平和と安全の維持を脅かし、それに如何に対処するかが重要となってきた。国際法は、こうした一連の要請に応じる形で、国際紛争の平和的解決（①に相当）、武力行使規制と軍備縮小（②に相当）、そして国際安全保障と国際人道法（③と④に相当）を整備してきている。本講義では、これらの国際法について、その歴史的な展開をふまえて、理解することを目的とする。

学生には、国際安全保障に関わる国際法についての基本的な知識と歴史的な展開の観点からその概要を捉えることで、国際安全保障に関わる事件について、自ら分析し、検討する視点を得られるようになることを期待する。

【到達目標】

紛争の平和的解決、国際社会の平和と安全の維持に関わる国際法について理解することが目標となる。同時に、本分野における国際法の歴史的展開と今日の実態を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えられるようになることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回の対象事項を示した予習用レジュメを事前に配布する。学生は当該レジュメに示された教科書の対象範囲に事前に目を通し、所定の方法に従って質問を提示することが求められる。授業では、受講生からの質問をふまえて、各回の対象事項に関わる基本的な原則・規則・手続・制度について、歴史的な展開という視点から講義する。基本的に対面授業を予定しているが、一部、オンライン授業とすることもある。授業方法等についてより具体的な指示は、学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本分野を学ぶ意義、参考文献紹介
第2回	国際紛争の平和的解決（1）	国際紛争の平和的解決の歴史的展開
第3回	国際紛争の平和的解決（2）	国際司法裁判所における争訟手続①：管轄権と受理可能性
第4回	国際紛争の平和的解決（3）	国際司法裁判所における争訟手続②：付随手続と本案手続
第5回	国際紛争の平和的解決（4）	国際紛争の平和的解決における対抗措置の許容可能性
第6回	国際の平和と安全の維持（1）	武力行使の制限・禁止の歴史的展開

第7回	国際の平和と安全の維持（2）	国際安全保障の歴史的展開
第8回	国際の平和と安全の維持（3）	国連平和維持活動（PKO）の意義と展開
第9回	国際の平和と安全の維持（4）	国連における集団的安全保障の現代的展開
第10回	国際の平和と安全の維持（5）	個別国家による軍事的対応の許容可能性
第11回	国際の平和と安全の維持（6）	軍備縮小・軍備管理
第12回	武力紛争の法的規制（1）	武力紛争における戦闘行為に対する法的規律
第13回	武力紛争の法的規制（2）	国際刑事裁判所による個人の刑事責任の追及
第14回	武力紛争の法的規制（3）	武力紛争に対する第三国の対応：「中立」の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システム上の教材を予習すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法 〔第2版〕』（東京大学出版会・2023年）
＊他の教科書による代替可能性については、初回授業時に説明する。

【参考書】

『国際条約集』（有斐閣）。（ここ数年のものであれば、最新年度版でなくても構わない。）
『国際法判例百選 〔第3版〕』（有斐閣・2021年）
西村弓・石垣友明・森肇志・真山全・酒井啓亘『防衛国際法』（弘文堂・2021年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）。平常点（事前あるいは事後の質問の提出）（20％）。詳細な成績評価方法・基準は、授業内で説明するとともに学習支援システム上で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 This course explores the international law relating to the settlement of disputes, armed conflicts, and the threat and use of force.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read the assignment before each class.

【Grading Criteria /Policy】 Grading is based on the term-end examination (80%) and the in-class contribution (20%).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際組織法

菅野 直之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際組織のうち政府間組織に関する法制度（国際（公）法分野）を中心に取り上げる。まず国際組織に関する法制度の基本的な考え方について学び（総論）、どのような特色があり、どのように機能しているか理解する。その後、具体的な国際組織の活動と法的課題について取り上げて問題解決を考える。この科目は「行政・公共政策と法コース」と「国際社会と法コース」に属している。

【到達目標】

国際組織に関する法制度の基本構造（基本的考え方、法規範の原則と例外、手続や制度など）について基礎的な知識を修得する。

その上で、国際組織が関わる法的課題の実際について、関連条約や先例から基本的な判断枠組を理解して適切に説明ができる。

具体的には、授業の後半で取り上げる具体的分野（「グローバル経済」「地球環境」「安全保障」「個人の保護」など）について、授業の前半で学ぶ「国際組織の法的地位」「国際組織と加盟国との関係」などの観点から、関連条約の条文や事例などに基づいて整理して適切に説明でき、その課題について指摘できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

下記【授業計画】に示す項目について、授業については原則として教員が解説を行う講義方式で実施し、関連する条約の条文や国際組織による文書、事例などを参照しながら基本構造について教員が解説する。各授業回の資料は、学習支援システム等によって事前に配布することを予定している。理解度チェックの小テストによって知識修得状況を確認する。

受講人数等に応じて授業における口頭質疑または授業後のリアクションペーパーによって学生の理解状況を確認しながら進める。フィードバックは原則として授業での解説に取り入れる形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	科目全体の内容、授業の進め方と注意事項の確認をして、国際組織法の射程について取り上げる。
2	国際組織の萌芽	主権国家を中心とした国際社会の構造の中から誕生した国際組織の萌芽的形態について学ぶ。
3	国際組織の発展	国際組織の歴史的な発展について国際聯盟期～第二次世界大戦後の国際連合体制について学ぶ。
4	国際法と国際組織法	国際法全体の体系の中で国際組織に関する法制度がどのように位置づけられるのか確認する。
5	国際組織の設立・活動・解散	国際組織を設立するための設立条約について取り上げ、国際組織の設立・活動・解散について学ぶ。
6	国際組織の法的地位	国際法・国内法の観点から、国際組織の法的地位（法主体性、法人格、特権・免除など）について学ぶ。

7	国際組織と加盟国	国際組織と加盟国との関係について、加盟国の地位の変動、加盟国の権利・義務などについて学ぶ。
8	国際組織の内部構造	国際組織の一般的な組織構造を確認して、意思決定手続きなどについて学ぶ。
9	国際組織と海洋法	国際組織による海洋資源・海洋環境の保護・保全の仕組みについて学ぶ。
10	国連による安全保障・平和維持活動	国際組織による具体的活動として、国連による安全保障と平和維持活動について学ぶ。
11	グローバル経済と国際組織	グローバル経済体制における国際組織の役割や活動についてWTOを中心に取り上げる。
12	国際組織による地球環境問題対策	気候変動など地球環境問題における国際組織の機能について特徴と課題を学ぶ。
13	国際組織による個人の保護	難民保護、人権保障、公衆衛生など個人が関わる問題について国際組織が果たす役割と課題について学ぶ。
14	国際組織の役割と課題	科目全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が、到達目標の達成に必要と考える内容の授業時間外の学習を行う必要がある。本科目の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし学習時間については個人差があることに留意が必要である。また期末試験のための復習などに重点的に配分することもできる。参考例としては、準備学習としては、教科書・参考書・参考資料の関連分野に目を通してわからない部分を把握する。復習としては、教科書、配布資料と自分で作成したノートを見直し整理する。その他、授業において個別の課題を指示する場合がある。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない（下記の参考書のなかから1冊手元において授業内容を確認しながら受講することが望ましい）

【参考書】

横田洋三（監修）『入門 国際機構』法律文化社（2016年）
佐藤哲夫『国際組織法』有斐閣（2005年）
家正治（編・著）『講義国際組織入門』不磨書房（2003年）
庄司克宏『国際機構 新版』岩波書店（2021年）
山田哲也『国際機構論入門』（第2版）東京大学出版会（2023年）
他の国際法科目を受講している場合、そのテキスト等も活用すること。個別の参考資料については授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

理解度チェック小テスト（20％）、期末試験（国際組織法の現状・課題に関する論述型筆記試験またはレポート課題）（80％）により評価する。

期末試験（論述型筆記試験またはレポート課題）の評価基準は、出題の意図を正しく捉えて、正確な知識に基づいて論理的に私見を述べているもの（単なる意見や感想は不可）を単位修得の水準として、論じている視点・論点の豊富さ、記述内容の正確さ、論拠の説得力、他の法制度との比較の巧みさなどにより加点し、文章の稚拙さ、余計な表現・表記や誤字・脱字などは減点する。

以上を基本的な評価方法・基準としたうえで、授業への能動的な参加（積極的な質問等）および各授業回のリアクションペーパーを加点要素とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体的事例を取り上げて、法規範の理解を深める内容にする予定である。大枠は、上記授業計画に従って行うが、受講者数、受講者の希望等に応じて調整する。また細かな知識の修得も重要であるが、基本的な考え方の修得を重視する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム等を活用して資料配布や連絡指示などを行うため、対応した情報機器（パソコン等）および通信環境をできるだけ整備してほしい。

【その他の重要事項】

【実務経験のある教員による授業】

外務省において外交交渉に関わった経験をもとに、実務における国際法の意義にも触れつつ授業を行う。

【Outline (in English)】

This course serves as an introduction to fundamental principles governing the law of International Organizations (Inter-Governmental Organizations) for enrolled students.

The primary objective of this course is to provide students with a foundational understanding of international organizational law, enabling them to articulate and analyze contemporary issues in the field.

Students are expected to diligently complete assigned coursework following each class session. A minimum of four hours of study time per class is recommended.

Final grades will be determined based on the following criteria: mini-tests administered via the Learning Management System (20%), a comprehensive term-end examination or report (80%), and active participation in class discussions (additional points).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際刑事法**菅野 直之**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、国際法の一分野である国際刑事法の基本構造を理解し、国際刑事法に関する基礎的な知識を修得することを目的とする。特に、主として国家間関係を規律する法である国際法体系において、個人がいかなる法的地位を有し得るかという点について、国際犯罪の処罰という観点から理解することを目指す。この科目は「国際社会と法コース」に属している。

【到達目標】

- （１）ニュルンベルク裁判から国際刑事裁判所（ICC）にいたる国際社会における個人の処罰の歴史を理解する。
- （２）国際犯罪の基本的な類型について学び、その処罰の枠組みについて理解する。
- ①コア・クライムと称される国際社会における最も重大な犯罪（ジェノサイド、戦争犯罪、人道に対する犯罪、侵略犯罪）について概要を確認したうえで、国際的な刑事裁判所（ICTY, ICTR, ICC）の基本構造および活動について学ぶ。またシエラレオネやカンボジアなどに設置された国際混合法廷についても、設置の経緯や活動内容等を理解する。
- ②国際テロリズム、海賊行為、その他の国際犯罪（例として薬物犯罪、金融犯罪）などの概要を確認し、これらの処罰の法的構造についても理解する。
- （３）上記（１）、（２）をもとに、国際刑事法に関わる国際社会の今日の問題について考察し、自らの言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式とする（原則として対面にて実施予定）。授業の具体的な進め方などに関する詳細は、初回の授業において説明する。
 課題等に対しては、以下の方法でフィードバックを行う。
 ・リアクションペーパー：授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
 ・小テスト：授業の初めに前回の授業で課された小テストに関する解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の概要説明、参考文献紹介、成績評価に関する説明
第2回	国際刑事法とは	国際刑事法の発展・特色
第3回	国際社会における個人の処罰の歴史	戦間期の動き、ニュルンベルク裁判から国際刑事裁判所（ICC）設立まで
第4回	国際犯罪の種類	国際犯罪の3類型
第5回	国際刑事司法協力	犯罪人引渡制度の概要、意義
第6回	海賊行為と海上犯罪	海賊行為とその他の海上犯罪規制の歴史と現状
第7回	国際テロリズム（1）	テロリズムの定義、テロリズム防止関連諸条約の概要
第8回	国際テロリズム（2）	テロリズムの処罰方式の特徴、現代のテロリズムへの対処枠組み

第9回	その他の国際犯罪	薬物犯罪、金融犯罪など
第10回	国際裁判所における個人の処罰（1）	旧ユーゴ国際刑事裁判所（ICTY）、ルワンダ国際刑事裁判所（ICTR）
第11回	国際裁判所における個人の処罰（2）	国際刑事裁判所（ICC）：設立経緯、対象犯罪、管轄権行使の要件など
第12回	国際裁判所における個人の処罰（3）	国際刑事裁判所（ICC（続き））：裁判例、ICCの課題など
第13回	その他の訴追方法	国際混合法廷（カンボジア、シエラレオネなど）
第14回	まとめと解説	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：授業に関連する資料を事前に配布する場合があるので、それを十分に読んだうえで授業に臨む。
 復習：各回の授業後に、講義内容についてノートを見つつ十分に復習する。
 本授業の準備学習・復習時間は、1回につき、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

条約集を準備すること。岩沢雄司ほか編『国際条約集 2025年版』（有斐閣、2025年）を推奨するが、これ以外のものでも可。出版年度は最近のものであれば、2025年版でなくとも構わない。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（1回）（80％）。
 授業内容に関する課題（小テスト（短答式クイズ）、リアクションペーパーなど）（20％）
 詳細は初回の授業において説明する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容に関連する参考資料などを配布するが、受講者はノートを取り、講義内容についてその都度復習することが重要である。

【その他の重要事項】

【実務経験のある教員による授業】

外務省において外交交渉に関わった経験をもとに、実務における国際法の意義にも触れつつ授業を行う。

【Outline (in English)】

Course outline:

The objective of this course is to understand the basic structure of International Criminal Law. Through this course, students will learn and understand the legal status of individuals in International Law which is the set of rules among nations.

Learning Objectives:

At the end of the course, students are expected to understand and explain the historical evolution of international crimes and international criminal tribunals, principle of individual criminal responsibility, and legal structure of punishment of individuals who are responsible for international crimes, such as genocide, war crimes, crime against humanity, international terrorism and piracy.

Learning activities outside classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend each two hours to understand the course content.

Grading Criteria:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 80%, quizzes and reaction papers: 20%

LAW300AB（法学 / law 300）

国際経済法

猪瀬 貴道

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済活動のうち貿易および投資を規律する法制度（国際（公）法的分野）を中心に上げて基本原則について学び、どのような特色があり、どのように機能しているか理解する。国際経済活動における法的課題について解決を考える。この科目は「企業・経営と法（商法中心）コース」と「国際社会と法コース」に属している。

【到達目標】

貿易および投資を中心とする国際経済活動に関する法的規律の基本構造（基本的考え方（原理）および原則と例外）について基礎的な知識を修得する。

国際経済活動から生じる問題や紛争の処理の実際について、先例から基本的な判断枠組を理解して適切に説明ができる。具体的な例として「WTOの基本原則と例外の関係」「WTOにおける貿易救済措置」「投資条約に基づく投資家＝国家間紛争処理」「国際経済法と国家の規制権限」などについて関連条約の条文や事例などに基づいて適切に説明でき、その課題について指摘できる。

（発展的目標）国際経済法と「途上国の開発・発展」「人権の保障」「環境の保護」などを規律する法規範との調整方法について考えて適切な意見を持てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

貿易・投資・金融・商取引などの国際経済活動のうち、貿易分野の法的規律（世界貿易機関WTOを中心とする）および投資分野の法的規律（二国間投資条約BIT、自由貿易協定FTA、経済連携協定EPAおよび投資紛争解決国際センターICSID）について取り上げる。原則として講義方式で実施し、WTO協定などの関連する条約の条文および事例を参照しながら基本構造について教員が解説する。教科書を指定するが、授業計画は教科書の章立てとは若干異なるので、各授業回において適宜参照箇所は指示する。

受講人数等に応じて、授業における口頭質疑または授業後のリアクションペーパー・理解度チェックの小テスト（LMS等を活用）によって理解状況を確認する。フィードバックは原則として授業での解説に取り入れる形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション／国際経済法の基本枠組	授業の進め方と注意事項をシラバスを参照しながら確認し、国際経済活動の範囲とその法的規制について整理して、その規律原理と規律対象を概説する。
2	世界貿易機関の歴史と機能	国際貿易を規律するWTOの組織と機能について、紛争解決を含めて概要と特徴を取り上げる。
3	WTOの基本原則その1（無差別原則）	WTOの基本原則である無差別原則について条文や事例を参照しながら解説する。
4	WTOの基本原則その2（自由化原則）	WTOの基本原則である自由化原則について条文や事例を参照しながら解説する。

5	WTOにおける例外	WTOの基本原則の例外として規定されるルールについてその内容や意義を整理する。
6	WTOにおける貿易救済措置	貿易救済措置として認められているセーフガード、アンチダンピング、補助金・相殺措置について概説する。
7	物品貿易以外の諸協定	農業貿易、サービス貿易、知的財産権関連についてのWTOの規律を概説する。
8	多数国間制度と地域経済統合、二国間制度	多角的自由貿易体制を原則とするWTOの限界、国際経済における地域主義の位置づけについて検討する。
9	国際投資の法制度	私人による国境を超える経済活動の一形態である外国直接投資の規律について概説する。
10	投資条約制度の基本枠組	投資条約による外国投資の規律の基本枠組について条文や事例を参照しながら整理する。
11	投資条約における紛争処理手続	投資家と国家との間の投資紛争の処理方法の概要と特徴を取り上げる。
12	国際経済法と他分野その1	国際経済法の規律原理と他分野（経済開発、環境保護、人権保障など）の間に生じる問題を関連事例とともに概説する。
13	国際経済法と他分野その2	国際経済法の規律原理と他分野（経済開発、環境保護、人権保障など）の間に生じる問題を関連事例とともに概説する。
14	国際経済法の課題（授業内試験実施の場合あり）	国際経済法の課題について考え（授業内試験実施の場合あり）ととも講義全体のまとめを行う。レポートではなく期末試験の場合、授業内試験（20分準備・60分試験・20分解説）を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が、到達目標の達成に必要と考える内容の授業時間外の学習を行う必要がある。準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、準備学習・復習時間のいずれかに重点を置く、期末レポート（または試験）に向けた学習に多めに配分するなど自由に配分することができる。準備学習の例は、教科書・参考書・参考資料の関連分野に目を通してわからない部分を把握する。復習の例は、教科書、配布資料と自分で作成したノートを見直し整理する。その他、授業において個別の課題を指示する場合がある。

【テキスト（教科書）】

小林友彦・飯野文・小寺智史・福永有夏『WTO・FTA入門：グローバル経済のルールを学ぶ』（第2版）法律文化社（2020年）

【参考書】

中川淳司・清水章雄・平覚・間宮勇『国際経済法』（第3版）有斐閣（2019年）

柳赫秀（編集）『講義 国際経済法』東信堂（2018年）

小寺彰（編著）『国際投資協定』三省堂（2010年）

柳赫秀（編著）『国際経済紛争解決手続法』博英社（2023年）

松下満雄・中川淳司・清水章雄（編）『ケースブックWTO法』有斐閣（2009年）

小寺彰・中川淳司（編）『基本経済条約集』（第2版）有斐閣（2014年）
経済産業省通商政策局編『不公正貿易報告書』（経済産業省 https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/tsusho_boeki/fukosei_boeki/report_2024/honbun.html）

その他の資料は授業の際に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への能動的な参加・各授業回のリアクションペーパー・理解度チェックの小テスト（20～30％）、期末試験（第14回授業内試験）またはレポート課題（履修者数等を考慮して第5回授業までに決定する）（70～80％）により評価する。

期末試験の場合は、基本的知識の修得と上記の到達目標の達成度を確認する出題とする。レポート課題の場合の評価基準は、出題の意図を正しく捉えて、正確な知識に基づいて論理的に私見を述べているもの（単なる意見や感想は不可）を基本点として、論じている視点・論点の豊富さ、記述内容の正確さ、論拠の説得力、他の法制度との比較の巧みさなどにより加点し、文章の稚拙さ、余計な表現・表記や誤字・脱字などは減点する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的事例を取り上げて、法規範の理解を深める内容にする予定である。基本的には、上記授業計画に則って行うが、受講者数、受講者の希望等に応じて調整する。また、本科目の対象分野はルール形成の途上にあることから知識だけではなく基本的な考え方の修得について重視する。

【学生が準備すべき機器他】

LMS（学習支援システム）などを活用して関連資料について指示や課題管理を行う。対応した情報機器（PC、タブレット等）および通信環境をできるだけ準備してほしい。

【Outline (in English)】

This course focuses on the international law (public international law) governing international economic activities, especially international trade, and investment. I will lecture on fundamental knowledge. We will discuss what the basic principles are and how they work. We consider solutions to legal issues in international economic activities. This course belongs to the "Corporate, Management, and Law (Commercial Law)" and "International Society and Law" courses.

Students will be expected to study preparation and review for 4 hours for each class meeting. Example of preparation: to read the relevant chapter(s) from the text. Example of review: review the textbook, handouts, and your notes.

The final grade will be calculated according to the following process, 2 or 3 times mini-tests (administered through the LMS) (20-30%), term-end report (or examination) (70-80%), and in-class contribution (comments on each class meeting, etc. Points-adding element).

LAW200AB (法学 / law 200)

法哲学 I

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見ることができるようになることを本講義の目標とする。

本科目は、法律学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】

法哲学は大きく分けて、法が追求するべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とからなる。法哲学1では、前者の正義論の基本を理解する。具体的には、社会が追求するべき正義とはなにか、客観的な価値は存在するのか、自由や平等という価値はどのようなものであるのかという諸問題を代表的な法哲学者の議論を通じて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本としますが、必要に応じてオンライン（あるいはオンデマンド）の可能性があります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。質問は随時受け付けます。授業内か、必要に応じて学習支援システムで応答します。テキスト各章に上がっている事例について意見交換の時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第2回	古典的正義論	現代正義論以前の正義論を見る
第3回	功利主義	正義とは諸個人の快の総和であるとする功利主義について見る
第4回	ロールズと『正義論』	現代正義論において最も主要な論者であるジョン・ロールズのリベラリズムのうち、前期における議論について見る
第5回	ロールズと『政治的リベラリズム』	後期ロールズの議論を見る
第6回	ロールズとグローバル正義論	ロールズのグローバル正義論を見る
第7回	ロールズに対する批判	功利主義・リバタリアニズム・共同体論などからの問題提起を取り上げる。
第8回	リバタリアニズム	最小国家を超える国家は正当化できないとするリバタリアニズムの議論を見る
第9回	コミュニタリアニズム	正義と人間の生き方を区別するリベラリズムを批判するコミュニタリアニズムの議論を見る
第10回	リベラリズム対コミュニタリアニズム	リベラリズムとコミュニタリアニズムの対立を整理する
第11回	自由	J・S・ミルを中心に自由に関する議論を見る
第12回	平等	正義と平等の関係について見る
第13回	権利	権利の概念・特質について

第14回 自然権と人権

自然権・人権の歴史と現代の状況について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメや教科書、下記に挙げる参考書、講義時に記載したノートに基づいて予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）、2,800円＋税

【参考書】

那須耕介・平井亮輔編『レクチャー法哲学』法律文化社、2020年
宇佐美誠／児玉聡／井上彰／松元雅和『正義論』法律文化社、2019年
瀧川裕英編『問いかける法哲学』法律文化社、2018年
平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』有斐閣、2002年
住吉雅美『あぶない法哲学』講談社、2020年

【成績評価の方法と基準】

授業全体に関する期末レポート（予定：5000字程度）と各回終了後の内容確認オンライン「クイズ（10問ほど、穴埋め）」による。平常点／クイズ30%、期末レポートを70%とする。（クイズは復習が主なので二週間ほどの期限内、何度でも回答可）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（レジュメとクイズ）とグーグル・クラスルーム（大きい資料がある場合）を利用する。

【Outline (in English)】

(Course outline) "Philosophy of Law" is a discipline, which considers fundamental legal ideas and backgrounds of positive laws.

(Learning Objectives) The aim of this lecture is that students can understand basic concepts or principles, and get various viewpoints for laws. The main themes of "Philosophy of Law 1" are around Theory of Justice, namely Liberty, Equality, (Human) Rights and so on.

(Learning activities outside of classroom) Before each lesson, participants should read the relevant chapter.

(Grading Criteria/Policy) After each lesson, a simple "quiz" to check the contents will be given online(30%), and grades will be evaluated based on the term-end report(70%).

LAW200AB (法学 / law 200)

法哲学Ⅱ

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見るができるようになることを本講義の目的とする。法哲学Ⅰを受けて、Ⅱでは教科書6章からはじめるが、Ⅰの履修条件にはしない。

本科目は、法律学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】

法哲学は大きく分けて、法が追求するべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とからなる。本講義では、後者の法概念論を講義する。具体的には、法を用いるという活動はどのような活動なのか、法と道徳や慣習はどのような相違点を持つのか、裁判官に代表される法律家の営みはどのように理解されるべきかといった諸問題、国際的正義、世代間正義、環境問題、動物の権利、違法義務と市民的不服従などに関する代表的な法哲学者の議論を理解できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者が、教科書における指定箇所を読んできていることを前提として講義を行う。基本的には教科書を踏まえて講義するが、教科書では取り上げられていないが担当者が重要と考える法哲学に関するトピックも取り上げる。対面授業の場合、授業内で各章の設例をもとに討論の機会を適宜設けたい。

対面授業ができない場合、音声等のファイルと、レジュメをもとにすすめる。授業時間内・指定した期間に質問を学習支援システムで受け付け、随時応答する。各授業後に、内容確認のため、簡単なクイズをオンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第2回	6章正義論の最前線、その1	1節グローバル正義論を中心に
第3回	6章正義論の最前線、その2	2節世代間正義と3節姓名と環境を中心に
第4回	7章ルールとしての法、その1	1節命令としての法、2節命令からルールへを中心に
第5回	7章ルールとしての法、その2	3節法と道徳を中心に
第6回	8章法の価値	自然法論・法の中の道徳、法の底にある善
第7回	9章法の権威	二つの法実証主義、理由・権威・法
第8回	10章解釈としての法	法の意味論的理論、解釈、規約主義とプラグマティズム、批判と応答
第9回	11章批判理論	「主流派法学」の批判、CLSの理論と主張、その後の批判理論
第10回	12章違法義務、その1	違法義務という問題、違法義務の正当化論、

第11回	12章違法義務、その2	自然状態と自然義務、悪法と不服従
第12回	エピソード法哲学の基礎理論、その1	メタ倫理学と価値の多元性
第13回	エピソード法哲学の基礎理論、その2	法哲学はどのような分野か
第14回	全体のまとめ	後期全体のまとめと相互の関連について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）、2,800円＋税

【参考書】

宇佐美誠／児玉聡／井上彰／松元雅和『正義論』法律文化社、2019年
 平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』有斐閣、2002年
 瀧川裕英編『問いかける法哲学』法律文化社、2016年
 那須耕介・平井亮輔編『レクチャー法哲学』法律文化社、2020年
 住吉雅美『あぶない法哲学』筑摩書房、2020年

【成績評価の方法と基準】

期末試験、もしくはレポート（オンラインの場合）、各回に簡単なクイズを実施する（オンライン）。それぞれ70％、30％。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ、資料配付、クイズなどにつき授業支援システム。資料が大きい場合、グーグル・クラスルーム。必要に応じてオンライン授業（zoom）となる場合がありますので、対応できるように。

【その他の重要事項】

法哲学Ⅰの受講が望ましいが、要件ではないので、ご自由に受講して下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline) Philosophy of law is an academic discipline that learns the fundamental and background ideas and theories of the positive law. This lecture aims to acquire basic concepts in Philosophy of law and to be able to see the law from various viewpoints. "Philosophy of Law" is a discipline, which considers fundamental legal ideas and backgrounds of positive laws. The aim of this lecture is that students can understand basic concepts or principles, and get various viewpoints for laws. (Learning Objectives) The main themes of "Philosophy of Law 2" are not only theoretical problems as the concept of law, or theories of legal reasoning, but also, the analysis of actual problems from the perspectives of it, namely "Global Justice", "Justice among different generations", "environmental justice", "animal rights", "civil disobedience" and so on.

(Learning activities outside of classroom) Before each lesson, participants should read the relevant chapter (Grading Criteria/Policy) After each lesson, a simple "quiz" to check the contents will be given online (30%), and grades will be evaluated based on the term-end report (70%).

LAW200AB (法学 / law 200)

日本法制史 I

川口 由彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、法律学科の「文化・社会と法」コースにおかれている。また、「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（商法中心）/（労働法中心）」の各コースでも履修が推奨されている。法を理解するためには、公法・私法、刑事法・民事法など諸分野の法の相違を認識することが必要である。この認識には、解釈論的理解と並んで法制史的理解も必要となる。平面的ではなく、立体的に法を学ぶ機会を提供するのが、法制史である。

【到達目標】

現代日本法は、制定法を主体とし、六法典を中心に据えるという形態をとっている。しかし、このようなあり方は、必ずしも近代法一般の態様ではない。近代国家の下でも、判例法を主体とする国もあるし、法典主義の国でも法典の数異なることはよくあるからである。

なぜ、日本の近代法はこのような姿なのか、それはどのような経緯を経てそうなったのかを理解するのがこの授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

人類社会は、生まれたときから何らかのルールをもってきた。それは、形態、内容、実質、執行システム等いずれも多様なものである。

法といわれているものは、こうしたルールの中のあるグループのことなのだが、こうしたグループは、歴史上発生を見た社会もあれば、発生しなかった社会もある。日本社会は、幸か不幸か、この法というグループをもつにいたった社会である。

しかし、そうはいっても、この法という社会規範は、国により民族により、時代によりきわめて多様で、簡単に一般論を語らせてくれない難物である。

この難物を扱うには、いろいろな方法があるが、各時代の人々から「法」と呼ばれたものをピックアップして相互に比較し、そのうえで、おのおのの特徴を捉えるというのは有効なアプローチの方法である。法史学という学問の意義も一つには、そのあたりにある。

講義では、明治以降の、通常「近代法」と呼ばれる「法」のあり方を座標軸とした、今日の法の特徴を考えてみたい。

現代日本法は、ほとんどが明治期に作られたものである。試みに六法をみてみよう。すると、民法の制定年は明治29年（1896年）となっていて19世紀の産物であることがわかる。商法も明治32年（1899年）と19世紀の産物である。刑法は、明治40年（1907年）制定だから、何とか20世紀の所産といえるが、いずれにせよ明治時代の産物で、しかも、この刑法は、明治13年（1880年）に制定された刑法（旧刑法）の条文をかなりひきずっているから、やはり、歴史ある法典といえる。日本の法典には、一世紀以上の長い歴史があるのである。

このような法は、一体どのようにして、どのような考え方の下でつくられたのか。考えてみれば、これら諸法典は、封建領主支配が解体してから、ほんのわずかの年数を経て外国法を摂取しつつつくられているのだから、その営為たるや驚異的といえる。

この急速な法の形成は、当然ながら、江戸時代にみられた法との「断絶」を生み出した。この「断絶」には、封建法から近代法への変化という他国にも共通してみられるものと、日本的なものから西欧的なものへの変容という二様のものがある。

しかも、こうした「近代法」の形成は、一概に既存の法との「断絶」のみとは特徴づけられず、すぐれて日本的なもの・東アジア的なものの継承という要素を多分に残したものであった。

講義では、このような諸契機、諸要素が、どのように絡み合っているかに焦点をあてつつ、日本の「近代法」の形成過程を考察したい。

講義では、単元が終わる都度、質問を募り、それに回答する。また、授業支援システム上でも質問を募り、講義時間内に回答する。また、最終授業で、質問内容を含めた履修者の授業理解について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方・試験等についての説明
第2回	日本近代法史概観	時期区分について
第3回	19世紀近代法とは何か	伝統ヨーロッパの「市民社会」と法
第4回	19世紀のイギリス近代法	判例法主義の歴史の実態
第5回	19世紀のフランス・ドイツ近代法	法典主義の歴史の実態
第6回	固有名詞としての「維新法」	明治初期の法的混乱
第7回	律型法典と西欧型法典1	criminalからのcivilの分離・独立
第8回	律型法典と西欧型法典2	東洋型罪刑法定主義と西欧型罪刑法定主義
第9回	律型法典と西欧型法典3	教育刑と応報刑－その歴史的文脈
第10回	近代法の形成1	太政官制と内閣制
第11回	近代法の形成2	「統治権」と「主権」
第12回	近代法の形成3	ボアソナードと旧民法
第13回	近代法の形成4	法典論争－大分裂の謎
第14回	近代法の形成5	法典調査会と明治民法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

明治期以降の法制史を論じる場合は、教科書、参考書を読んでくること。江戸幕末期の法制史を論じる場合は、配布したプリントを読んでくること。いずれの場合でも、わからないことがあれば、図書館のオンラインサービス・ジャパンナレッジLibを使って調べること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川口由彦『日本近代法制史 第2版』（新世社）

【参考書】

伊藤孝夫「日本近代法史講義」（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

論述式筆記試験100%（テキスト・講義内容より出題。持ち込み不可。）

教室で試験が出来ない場合は、期末レポートにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生によって歴史知識の有無がかなり異なることがわかってきたので、この点に留意したい。

【Outline (in English)】

It is necessary to recognize difference in legal fields - public law/private law, criminal law/civil law- to understand law. Also it is necessary to understand legal history besides law interpretation. It is legal history to provide the opportunity to learn jurisprudence not superficially but three-dimensionally. At the end of the course, participants are expected to understand how Japanese legal system has been formed. In this lesson, the corresponding section of a textbook is read out and those contents are explained in detail after that. The participant has to read a textbook and a reference book. A participant needs to spend 2 hours, respectively for preparation and review of this lesson.

Results are decided by a written examination(100%). An exam questions is an essay type.

LAW200AB (法学 / law 200)

日本法制史Ⅱ

川口 由彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、法律学科の「文化・社会と法」コースにおかれている。また、「裁判と法」「行政と公共政策と法」「企業・経営と法（商法中心）/（労働法中心）」の各コースでも履修が推奨されている。法を理解するためには、公法・私法、刑事法・民事法など諸分野の法の相違を認識することが必要である。この認識には、解釈論的理解と並んで法制史的理解も必要となる。平面的ではなく、立体的に法を学ぶ機会を提供するのが、法制史である。

【到達目標】

制定法主義を最も特徴的に表現する六法が成立する頃、日本社会は急速に変化の様相を呈していく。この時期は、行政・軍事官僚システムや司法官僚システムが自律性を高めていく時期で、明治末から大正にかけて重大な法的变化が生じるようになる。

司法・行政・立法の連携構造や公法・私法関係の変容を理解し、法を立体的にとらえられるようにすることが授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

日本法制史Ⅰでは、明治期に六法典を中心とする日本近代法が成立する過程を述べた。

これらの法の作成に際して参照された外国法は、フランス、ドイツ、イタリア、イギリス、アメリカ、オランダ、ベルギー等多岐にわたるが、これらの様々な外国法は、日本人法律家の手によって吟味され、選択的に輸入されたものであった。

この選択のあり方を規定したのが、当時の日本がおかれた国際的位置（不平等条約改正のための西欧型法典の速やかな作成）と、国内の規範状況であった。国内の規範状況とは、江戸時代に形成された国家と社会の関係、及び広範に日本社会を覆った慣習規範と西欧的規範の接合・すりあわせのあり方に他ならない。

このように形成された規範構造は、明治末から早くも再編成され、大正・昭和期に大きな変更を加えられることとなる。

日露戦争を契機に、都市商工業に富を吸いあげられた農村の疲弊が顕著となり、その救済が特別法により行われるようになっていく。また、ネーションステイツ化が強調され、これに応じて、教育・社会事業等の分野に新たな立法が展開されることとなるのである。現代法の中で肥大化してあらわれる福祉法制や教育法制の原像がここに垣間見られる。

政治的にも、明治天皇の死によって憲法システムは動揺をきたし、新たな国家機構の構築が模索されていった。

明治憲法体制は、本来、法的装置と法外的装置の組み合わせによって機能するようになっていたが、「天皇の意思」がシステム上大きな後退をみるとともに、特別法による憲法機構の再構築という新たな展開がみられるようになるのである。

また、社会的矛盾が拡大し、都市市民運動、労働運動、借地借家運動、小作運動などが広く見られるようになり、これに応じて言論規制は後退する。これら社会運動の展開に対応するため、調停法の制定や選挙法の改正、治安政策の再編成が行われ、社会的主張が大幅に国家法の世界に流れ込むこととなった。もっとも、これは、同時に国家的統合の触手がより深く社会の底部に及ぶことを意味していた。

この時期には、給与生活者世帯や単身者世帯が増加し、「他人」同士の社会的接触の程度が高まって、「家族」をめぐる法は大きな変動の中におかれる。民法制定当初から不安定だった「家」秩序は、決定的な解体過程に入り、民法・家族法の改正論が展開することとなり、これが、第二次大戦後の「家」制度解体につながるのである。

このような変化の様相を考察し、今日の法構造に直接接続する史的文脈を描出する。

講義では、単元が終わる都度、質問を募り、それに回答する。また、授業支援システム上でも質問を募り、講義時間内に回答する。また、最終授業で、質問内容を含めた履修者の授業理解について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、試験等についての説明
第2回	明治期近代法史概観	法典体制の成立
第3回	明治天皇と法1	和協の詔勅と大臣罷免
第4回	明治天皇と法2	対外戦争と大元帥
第5回	明治天皇と法3	軍令の成立
第6回	明治天皇と法4	伊藤博文・梅謙次郎と植民地法制
第7回	刑法大改正	明治40年刑法の成立
第8回	大正天皇と法1	天皇機関説の行方
第9回	大正天皇と法2	国家・天皇・政党
第10回	大正天皇と法3	宮中某重大事件
第11回	選挙法と治安対策	「普通選挙」と治安維持法による国家・社会システムの再編
第12回	法の「民衆化」	各種調停法と陪審法の制定
第13回	昭和天皇と法1	内閣瓦解
第14回	昭和天皇と法2	軍縮と軍部

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

明治期以降の法制史を論じる場合は、教科書、参考書を読んでくることが。江戸幕末期の法制史を論じる場合は、配布したプリントを読んで来ること。いずれの場合でも、わからないことがあれば、図書館のオンラインサービス・ジャパンナレッジLibを使って調べること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川口由彦『日本近代法制史 第2版』（新世社）

【参考書】

伊藤孝夫「日本近代法史講義」（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

論述式筆記試験100%（テキスト・講義内容から出題。持ち込み不可。）

教室で試験が出来ない場合は、期末レポートにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生によって歴史知識の有無がかなり異なることがわかってきたので、この点に留意したい。

【Outline (in English)】

It is necessary to recognize difference in legal fields - public law/private law, criminal law/civil law- to understand law. Also it is necessary to understand legal history besides law interpretation. It is legal history to provide the opportunity to learn jurisprudence not superficially but three-dimensionally. At the end of the course, participants are expected to understand how Japanese legal system has been formed. In this lesson, the corresponding section of a textbook is read out and those contents are explained in detail after that. The participant has to read a textbook and a reference book. A participant needs to spend 2 hours, respectively for preparation and review of this lesson.

Results are decided by a written examination(100%). An exam questions is an essay type.

LAW300AB (法学 / law 300)

日本法制史Ⅲ

川口 由彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、法律学科の「文化・社会と法」コースにおかれている。また、「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（商法中心）/（労働法中心）」の各コースでも履修が推奨されている。法を理解するためには、公法・私法、刑事法・民事法など諸分野の法の相違を認識することが必要である。この認識には、解釈論的理解と並んで法制史的理解も必要となる。平面的ではなく、立体的に法を学ぶ機会を提供するのが、法制史である。

【到達目標】

日本の近代法が作成されていく過程で近代法とは何かを示唆するような事件がいくつも起きた。日本国家、日本社会の変動を法の視点から理解できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

1889年に大日本帝国憲法が制定される以前の明治前半期は、国家は極めて弱体で不安定だった。憲法はこの不安定さを克服するために作成されたものである。この不安定さを理解するために、奇兵隊員脱走事件、佐賀の乱、赤坂喰違の変、地租改正反対一揆、竹橋事件、紀尾井坂の変、秩父事件、条約改正反対運動等を取りあげる。

講義では、単元が終わる都度、質問を募り、それに回答する。また、授業支援システム上でも質問を募り、講義時間内に回答する。また、最終授業で、質問内容を含めた履修者の授業理解について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の概要 講義の進め方と成績評価について
第2回	大日本帝国憲法の構造1	「シラス」と「国約」
第3回	大日本帝国憲法の構造2	内閣と議会
第4回	大日本帝国憲法の構造3	宮中と府中
第5回	事件と法1	大村益次郎襲撃事件
第6回	事件と法2	奇兵隊員脱走事件
第7回	事件と法3	佐賀の乱
第8回	事件と法4	赤坂喰違事件
第9回	事件と法5	地租改正反対一揆
第10回	事件と法6	竹橋事件
第11回	事件と法7	紀尾井坂の変
第12回	事件と法8	秩父事件
第13回	事件と法9	三大事件建白運動
第14回	事件と法10	大隈重信襲撃事件

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

明治期以降の法制史を論じる場合は、教科書、参考書を読んでくること。江戸幕末期の法制史を論じる場合は、配布したプリントを読むこと。いずれの場合でも、わからないことがあれば、図書館のオンラインサービス・ジャパンナレッジLibを使って調べる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川口由彦『日本近代法制史 第2版』（新世社）

【参考書】

伊藤孝夫「日本近代法史講義」（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

論述式筆記試験100%（テキスト・講義内容より出題。持ち込み不可。）

教室で試験が出来ない場合は、期末レポートにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生によって歴史知識の有無がかなり異なることがわかってきたので、この点に留意したい。

【Outline (in English)】

It is necessary to recognize difference in legal fields - public law/private law, criminal law/civil law- to understand law. Also it is necessary to understand legal history besides law interpretation. It is legal history to provide the opportunity to learn jurisprudence not superficially but three-dimensionally. At the end of the course, participants are expected to understand how Japanese legal system has been formed. In this lesson, the corresponding section of a textbook is read out and those contents are explained in detail after that. The participant has to read a textbook and a reference book. A participant needs to spend 2 hours, respectively for preparation and review of this lesson.

Results are decided by a written examination(100%). An exam questions is an essay type.

LAW300AB (法学 / law 300)

日本法制史Ⅳ

川口 由彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、法律学科の「文化・社会と法」コースにおかれてい
る。また、「裁判と法」「行政と公共政策と法」「企業・経営と法」の
各コースでも履修が推奨されている。法を理解するためには、公法・
私法、刑事法・民事法など諸分野の法の相違を認識することが必要で
ある。この認識には、解釈論的理解と並んで法制史的理解も必要と
なる。平面的ではなく、立体的に法を学ぶ機会を提供するのが、法
制史である。

【到達目標】

近代日本の法典体系は、1898年に完成した姿をあらわす。この時
期以降に起こった諸事件を通して、日本近代法の再編の姿を理解で
きるようにすることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
た能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

法典体系が整備され、日清戦争、日露戦争を経て日本の国家は社
会を深く統制する力を獲得していく。この過程で生じた、星亨暗
殺事件、日比谷焼打事件、伊藤博文暗殺事件、大逆事件、米騒動、原
敬暗殺事件、大杉栄殺害事件、315事件、416事件、515事
件、帝人事件、226事件等を取りあげる。

講義では、単元が終わる都度、質問を募り、それに回答する。ま
た、授業支援システム上でも質問を募り、講義時間内に回答する。ま
た、最終授業で、質問内容を含めた履修者の授業理解について講評
を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、試験等について の説明
第2回	国制の再編	憲法と政党
第3回	事件と法1	星亨暗殺事件
第4回	事件と法2	日比谷焼打事件
第5回	事件と法3	伊藤博文暗殺事件
第6回	事件と法4	大逆事件
第7回	事件と法5	米騒動
第8回	事件と法6	原敬暗殺事件
第9回	事件と法7	大杉栄殺害事件
第10回	事件と法8	315事件
第11回	事件と法9	416事件
第12回	事件と法10	515事件
第13回	事件と法11	帝人事件
第14回	事件と法12	226事件

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

明治期以降の法制史を論じる場合は、教科書、参考書を読んでくるこ
と。江戸幕末期の法制史を論じる場合は、配布したプリントを読んで
くること。いずれの場合でも、わからないことがあれば、図書館
のオンラインサービス・ジャパンナレッジLibを使って調べること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川口由彦『日本近代法制史 第2版』（新世社）

【参考書】

伊藤孝夫「日本近代法史講義」（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

論述式筆記試験（テキスト・講義内容より出題。持ち込み不可。）
教室で試験が出来ない場合は、期末レポートにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生によって歴史知識の有無がかなり異なることがわかってきた
ので、この点に留意したい。

【Outline (in English)】

It is necessary to recognize difference in legal fields - public
law/private law, criminal law/civil law- to understand law.
Also it is necessary to understand legal history besides law
interpretation. It is legal history to provide the opportunity to
learn jurisprudence not superficially but three-dimensionally.
At the end of the course, participants are expected to
understand how Japanese legal system has been formed.

In this lesson, the corresponding section of a textbook is read
out and those contents are explained in detail after that. The
participant has to read a textbook and a reference book. A
participant needs to spend 2 hours, respectively for preparation
and review of this lesson.

Results are decided by a written examination(100%). An
exam questions is an essay type.

LAW200AB（法学 / law 200）

ドイツ法制史 I

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国の法体系は、系統的な分類においていわゆる大陸法に属し、古代ローマに遡るヨーロッパ法の伝統を受け継いでいます。このことは、明治期の法典編纂過程において、主としてプロイセン（ドイツ）やフランスの法を継受したことに起因しています。では、ヨーロッパ法の伝統とはどのようなもののでしょうか。

法制度や法の形成・発展はその国や地域の長い歴史と密接な関係にあるため、発展の経緯や理由を理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を得ること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

I では、古代ローマ、中世ヨーロッパにおける社会や法の歴史的な展開を概観することを通じて、その成立および発展の過程を理解していきます。

この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 歴史の観点から考察することを通じて、我が国の母法である「ヨーロッパ法」の形成・展開の過程およびその特徴を理解する。
- 2 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本の法制度を客観的に考察・検討できるようになる。
- 3 自らとは異なる属性や理念を持つ人々や、自らとは異なる慣習のもとで生きていた「他者」である過去の人々が、経験してきたことや直面したことがどのような意味を持っているのかを考えることを通じて、複雑な事象を柔軟で多様な視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。

質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業支援システムを通じて、あるいは授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	ヨーロッパ古代の法と社会（1）	ローマ市民法の世界
第3回	ヨーロッパ古代の法と社会（2）	古典期ローマ法曹と法学
第4回	ヨーロッパ古代の法と社会（3）	古代ローマ法
第5回	ヨーロッパ古代の法と社会（4）	古ゲルマンの法と社会
第6回	ヨーロッパ中世の法と社会（1）	部族法典
第7回	ヨーロッパ中世の法と社会（2）	ユスティニアヌス法典
第8回	ヨーロッパ中世の法と社会（3）	フランク王国の法と法制

第9回	ヨーロッパ中世の法と社会（4）	封建社会：身分の成立と展開
第10回	ヨーロッパ中世の法と社会（5）	中世法の理念と現実
第11回	ヨーロッパ中世の法と社会（6）	ボローニャ大学とローマ法のルネサンス
第12回	ヨーロッパ中世の法と社会（7）	中世ローマ法学と条例理論
第13回	ヨーロッパ中世の法と社会（8）	カノン法：教皇権と法の合理化
第14回	まとめ	第13回までの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備してあるクイズに取り組んでください。

更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、ヨーロッパの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメ・資料を配布します。

【参考書】

勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2004年）。

ピーター・スタイン（屋敷二郎監訳、関良徳・藤本幸二訳）『ローマ法とヨーロッパ』（ミネルヴァ書房、2003年）。

ウルリッヒ・マンテ（田中実・瀧澤栄治訳）『ローマ法の歴史』（ミネルヴァ書房、2008年）。

佐藤篤士監訳『ガイウス法学提要』（敬文堂、2002年）。

小川浩三・松本尚子・宮坂渉編著『キーンコンセプト法学史』（ミネルヴァ書房、2024年）。

P. ミッチェル他（屋敷二郎日本語版監修／湊麻里訳）『法の歴史大図鑑』（河出書房新書、2024年）。

柴田光蔵『法律ラテン語辞典』（日本評論社、1985年）。

その他については、レジュメおよび講義中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）、クイズ（20％）、小レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念が出てくることもありますが、資料や図、ホワイトボードなどを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もあります。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the origins and development of European Law, legal institutions and the legal profession.

Students will be able to 1) have basic knowledge of European legal history, from ancient Rome to middle age, 2) understand /discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of European legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture. Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB（法学 / law 200）

ドイツ法制史Ⅱ

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国の法体系は、系統的な分類においていわゆる大陸法に属し、古代ローマに遡るヨーロッパ法の伝統を受け継いでいます。このことは、明治期の法典編纂過程において、主としてプロイセン（ドイツ）やフランスの法を継受したことに起因しています。では、ヨーロッパ法の伝統とはどのようなもののでしょうか。

法制度や法の形成・発展はその国や地域の長い歴史と密接な関係にあるため、発展の経緯や理由を理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を得ること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

Ⅱでは、近世、近・現代ヨーロッパにおける社会や法の歴史的な展開を概観することを通じて、その成立および発展の過程を理解していきます。

この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 歴史の観点から考察することを通じて、我が国の母法である「ヨーロッパ法」の形成・展開の過程およびその特徴を理解する。
- 2 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本の法制度を客観的に考察・検討できるようになる。
- 3 自らとは異なる属性や理念を持つ人々や、自らとは異なる慣習のもとで生きていた「他者」である過去の人々が、経験してきたことや直面したことがどのような意味を持っているのかを考えることを通じて、複雑な事象を柔軟で多様な視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。

質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業支援システムを通じて、あるいは授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	ヨーロッパ近世の法と社会（1）	学識法曹とローマ法継受
第3回	ヨーロッパ近世の法と社会（2）	帝室裁判所と宗派対立
第4回	ヨーロッパ近世の法と社会（3）	糾問訴訟と魔女裁判
第5回	ヨーロッパ近世の法と社会（4）	ローマ法の相対化
第6回	ヨーロッパ近世の法と社会（5）	身分制議会と絶対主義国家
第7回	ヨーロッパ近世の法と社会（6）	パンデクテンの現代的慣用
第8回	ヨーロッパ近世の法と社会（7）	自然法論

第9回 ヨーロッパ近世の法と社会（8） 啓蒙主義と法典編纂

第10回 ヨーロッパ近・現代の法と社会（1） 歴史法学派

第11回 ヨーロッパ近・現代の法と社会（2） パンデクテン法学と私法実証主義

第12回 ヨーロッパ近・現代の法と社会（3） 近代公法学の誕生

第13回 ヨーロッパ近・現代の法と社会（4） 近代法システムの完成と揺らぎ

第14回 まとめ 第13回までの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備してあるクイズに取り組んでください。

更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、ヨーロッパの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメ・資料を配布します。

【参考書】

勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2004年）。

ピーター・スタイン（屋敷二郎監訳・関良徳・藤本幸二訳）『ローマ法とヨーロッパ』（ミネルヴァ書房、2003年）。

K.W. ネル（村上淳一訳）『ヨーロッパ法史入門：権利保護の歴史』（東京大学出版会、1999年）。

U. ファルクほか編（小川浩三ほか監訳）『ヨーロッパ史のなかの裁判事例：ケースから学ぶ西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2014年）。

小川浩三・松本尚子・宮坂渉編著『キーコンセプト法学史』（ミネルヴァ書房、2024年）。

M. シュトライス（福岡安都子訳）『ドイツ公法史入門』（勁草書房、2023年）。

P. ミッチェル他（屋敷二郎日本語版監修／湊麻里訳）『法の歴史大図鑑』（河出書房新書、2024年）。

その他については、レジュメおよび講義中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50%）、クイズ（20%）、小レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念が出てくることもありますが、資料や図、ホワイトボードなどを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もあります。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the origins and development of European Law, legal institutions and the legal profession.

Students will be able to 1) have basic knowledge of European legal history, from early modern to 20th century, 2) understand /discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of European legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture. Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB（法学 / law 200）

イギリス法制史 I

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、手続法は権利・義務などの法律関係や内容を規定する実体法（例えば民法）を実現するためのものと理解していると思いますが、イギリスでは手続法が実体法に先んじて発展しました。そのイギリスは、成文法主義の日本とは異なり判例法主義で、判例の中から法が形成されてきました。またイギリス法の理解に欠かせないコモン・ローとエクイティは、数多くの裁判所が併存する形で運用され、弁護士や裁判官は、大学（オックスフォードやケンブリッジ）の法学部ではなく、ロンドンにある法曹学院といういわゆるギルドで養成されてきました。

法制度や法の形成・発展はその国の長い歴史と密接な関係にあるため、なぜこのような発展を遂げてきたのかを理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を得ること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

I では、イギリスの法制度を歴史の観点から考察することを通じて、その成立および発展の過程を理解していきます。

この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 イギリスの法制度を歴史の観点から考察することを通じて、判例法、慣習法の世界を理解する。
- 2 コモン・ローとエクイティの歴史を学ぶことを通じて、正義の多様性とそのバランスについて理解・検討できるようになる。
- 3 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本の法制度を客観的に考察・検討できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。

質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業支援システムを通じて、あるいは授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	イギリス法の基礎（1）	判例法主義
第3回	イギリス法の基礎（2）	コモン・ローとエクイティ
第4回	イギリス法の基礎（3）	法の支配と議会主権
第5回	初期ブリテン島の法と慣習／コモン・ローの諸起源	中央と地方の裁判所、旅する裁判官
第6回	コモン・ロー上位裁判所	王座裁判所、人民訴訟裁判所、財務府裁判所
第7回	コモン・ロー訴訟手続（1）	令状体系と訴訟方式：手続法が実体法に先んじた世界

第8回	コモン・ロー訴訟手続（2）	訴答と陪審：裁判における法律家と素人の役割
第9回	大法官府裁判所とエクイティ	コモン・ロー裁判所で救済されない事件への対応とその方法／エクイティはイギリスに固有のものだろうか？
第10回	国王評議会系列の裁判所	コモン・ローでもエクイティでもない、国王の大権の裁判権に基づく裁判所とは？
第11回	カノン法と教会裁判所	教会法と世俗の法、ローマ教皇と国王
第12回	司法審査制度	上訴、誤審、再審
第13回	法学教育と法曹養成	大学法学部と法曹学院
第14回	法源	判例、慣習、制定法と法の解釈、法改革運動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備してあるクイズに取り組んでください。

更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、イギリスの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメ・資料を配布します。

【参考書】

J.H. バイカー・葛西康徳編『コモン・ロー入門』（東京大学出版会、2025年）。

J.H. バイカー（深尾裕造訳）『イギリス法史入門（第4版）第I部〔総論〕』（関西学院大学出版会、2014年）。

戒能通弘・竹村和也『イギリス法入門』（法律文化社、2018年）。

幡新大実『イギリスの司法制度』（東信堂、2009年）。

小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社、2011年）。

君塚直隆『イギリスの歴史』（河出書房新社、2022年）。

その他については、レジュメおよび講義中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）、クイズ（20％）、小レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念が出てくることもあると思いますが、資料や図、ホワイトボードなどを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もあります。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the origins and development of English Law, legal institutions and the legal profession.

Students will be able to 1) have basic knowledge of English legal history, 2) understand/discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of English legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture.

Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB（法学 / law 200）

イギリス法制史Ⅱ

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、手続法は権利・義務などの法律関係や内容を規定する実体法（例えば民法）を実現するためのものと理解していると思いますが、イギリスでは手続法が実体法に先んじて発展しました。そのイギリスは、成文法主義の日本とは異なり判例法主義で、判例の中から法が形成されてきました。またイギリス法の理解に欠かせないコモン・ローとエクイティは、数多くの裁判所が併存する形で運用され、弁護士や裁判官は、大学（オックスフォードやケンブリッジ）の法学部ではなく、ロンドンにある法曹学院といういわゆるギルドで養成されてきました。

法制度や法の形成・発展はその国の長い歴史と密接な関係にあるため、なぜこのような発展を遂げてきたのかを理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を得ること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

Ⅱでは、個別の法分野における法の形成および発展の過程を、政治・経済・文化などの背景を踏まえて考察していきます。
この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 訴訟方式を利用した裁判の特徴を知り、手続法が実体法に先行する世界を理解する。
- 2 判例を中心に、個別の法分野を政治や経済などの背景を踏まえて歴史の観点から考察することを通じて、法（ルール）の形成・発展のプロセスだけでなく、様々な法分野の重なりや、現代に至るまでの、あるいは現代とは異なる法の枠組みを理解する。
- 3 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本法を客観的に考察・検討することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。
質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業支援システムを通じて、あるいは授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要
第2回	契約法（1）	金銭債務訴訟と捺印契約訴訟、捺印証書による契約とよらない契約、合意
第3回	契約法（2）	特殊主張訴訟、約因、意思理論の展開、厳格責任、公平の理念
第4回	不法行為法（1）	侵害訴訟、引受の不存在と不注意、王国の慣習、特殊主張訴訟
第5回	不法行為法（2）	産業革命と事故の増加、訴訟方式の限界、注意義務、産業・商業の拡大とネグリジェンス

第6回	土地法（1）	封建制のもとでの土地保有、土地の占有とコモン・ロー上の救済
第7回	土地法（2）	信託、継承財産設定、不動産譲渡に関する改革
第8回	人権（1）	恣意的な拘束と法の支配
第9回	人権（2）	植民地と奴隷制
第10回	刑事法（1）	自力救済、刑事訴追、刑事事件における審理、刑事責任、重罪と刑罰の回避
第11回	刑事法（2）	正式起訴状に基づく審理、原理・原則の形成、刑事法の発展
第12回	家族法（1）	婚姻、夫婦
第13回	家族法（2）	子、離婚
第14回	まとめ	第13回までの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組んでください。更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、イギリスの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメ・資料を配布します。

【参考書】

J.H. バイカー・葛西康德編『コモン・ロー入門』（東京大学出版会、2025年）。
J.H. バイカー（深尾裕造訳）『イギリス法史入門（第5版）第Ⅰ部〔総論〕』（関西学院大学出版会、2023年）。
J.H. バイカー（深尾裕造訳）『イギリス法史入門（第5版）第Ⅱ部〔各論〕』（関西学院大学出版会、2024年）。
小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社、2011年）。
君塚直隆『イギリスの歴史』（河出書房新社、2022年）。
その他については、レジュメおよび講義中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（60％）、クイズ（20％）、小レポート（20％）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念はありますが、資料や図、ホワイトボードなどを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もあります。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the relationship between English legal system and its background: social, economical and political force.
Students will be able to 1) have basic knowledge of English legal history from case studies, 2) understand/discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of English legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture.
Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB（法学 / law 200）

法社会学

北村 隆憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期集中/Intensive(Fall)
単位数：4単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（遠隔オンライン授業の方法により実施します。ただし、1回目の授業は、ズームにより遠隔対面授業を行う予定。毎回、授業ビデオと関連書類をシステムにアップするので、受講生は毎回それらを学習して、レポート課題を提出してもらうことになります）法社会学は、法規も含めて様々な法的な制度やメカニズムが、実際の社会・文化の中でどのように機能しているのかについて、経験科学的な方法を用いて研究する社会科学の一分野であり、「文化・社会と法コース」に属する。法社会学は他の実定法分野と異質な研究目標と研究方法を有するので、単に知識の提供にとどまらず、法に対する「見方」「考え方」の相違についての認識を持ってもらうことに、本講義の重要な目的の一つがある。今回は、エスノメソドロジーと会話分析という社会学のアプローチを使って、日常コミュニケーションと法的場面における様々なコミュニケーションを検討する。

【到達目標】

法的場面における様々なコミュニケーションについて理解し、自分でも概要を分析できるようにする。法的コミュニケーションの特徴と機能について分析・理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は毎回、授業ビデオとスライド資料を利用しておこなう。必要な資料は授業前に配布する。また、授業の内容や課題や質問に対しては、個別にメールで対応して質疑や議論のフィードバックを行う。また、提出された課題については、そこでの問題点への対応を含めて次回の授業でフィードバックされるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	法的コミュニケーションと法社会学	法的コミュニケーションとは何か。法社会学的観点から理解する。
第2回	法的コミュニケーションの詳細	法的コミュニケーションのメカニズムについて学習する
第3回	日常的コミュニケーションと法的コミュニケーション	日常的コミュニケーションと法的コミュニケーションの諸特徴と応用
第4回	日常的コミュニケーションのメカニズム（順番交替）	順番交代と会話の関係について
第5回	日常的コミュニケーションのメカニズム（順番交替と行為連鎖）	行為連鎖のメカニズムについて。
第6回	行為連鎖について考える	順番交代のルールと行為連鎖のメカニズムの関係
第7回	修復のメカニズムとは何か	修復の秩序
第8回	修復のメカニズムと法的コミュニケーション	修復のメカニズムと法的コミュニケーション

第9回	陪審制度における法的コミュニケーション	司法への国民参加市民の司法参加について理解する
第10回	裁判員制度における法的コミュニケーション	陪審と裁判員ビデオの視聴と分析
第11回	優先性のメカニズムと法	優先性の秩序とは何か？
第12回	会話と優先性	優先性の秩序と法規範の関係
第13回	成員カテゴリーと法	成員カテゴリーとコミュニケーション
第14回	法における成員カテゴリーと結合活動	成員カテゴリーと結合活動の法的関連性
第15回	成員カテゴリーと適用規則	成員カテゴリー化装置の概要
第16回	成員カテゴリー化と法的コミュニケーション	成員カテゴリー化装置が法的コミュニケーションにどのような関連性を持つか
第17回	反対尋問におけるコミュニケーション	反対尋問のコミュニケーションの意義
第18回	反対尋問におけるコミュニケーションと会話の秩序	ケネディースミス・レイブ事件における反対尋問 ブラックの反対尋問のメカニズム
第19回	反対尋問の具体例と相互行為分析	日本における反対尋問コミュニケーションの実際
第20回	反対尋問と成員カテゴリー分析	日本の反対尋問教育について
第21回	市民の司法参加と評議のコミュニケーション	陪審評議のコミュニケーションと常識の利用
第22回	評議のコミュニケーションにおける常識	裁判員評議における常識の利用
第23回	常識とは何か？	実際の評議データから「常識」を発見する
第24回	評議における常識とは何か？	実際の評議データから「常識」を発見する：特にその相互行為的特徴を学習
第25回	学校型コミュニケーションの諸特徴	オウム説法のコミュニケーションと教育場面のコミュニケーションの比較
第26回	学校型コミュニケーションと法的コミュニケーション	教育場面のコミュニケーションと法的コミュニケーションの異同
第27回	評議における裁判官の発言	評議における裁判官のコントロールの技法
第28回	緊急通報電話	緊急通報電話の特徴の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のレジュメを復習する。授業の進行に合わせてテキストの該当部分を読む。課題を行う本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料は大学のウェブシステムで配布する。

【参考書】

エスノメソドロジー—人びとの実践から学ぶ（ワードマップ）単行本（ソフトカバー） 前田 泰樹（編集）、水川 喜文（編集）、岡田 光弘（編集）新曜社（2007/8/3）

【成績評価の方法と基準】

評価は、毎回の課題レポート提出に対する評価に基づいて行う（100パーセント）。課題レポートは原則として授業日後1週間の締め切りを付す。2度を超えるレポート不提出の場合には、単位が与えられないことがある。

【学生の意見等からの気づき】

授業ビデオの音声をより聞きやすいものとした。また、スライドをより見やすく理解しやすいものに改善した。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に参加するためのPCと通信環境については受講生が責任をもって準備をしてください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The sociology of law, or "law and society" studies, is a research field in which to study how the law actually works in a variety of settings in our society by collecting and examining various kinds of data from social scientific perspectives. This year the class focuses particularly on how communications in law-related situations are conducted, including examinations in court, jury deliberations, lawyers' interviews/counseling with their clients, mediations and legal negotiations, and examines the data from the perspective of ethnomethodology and conversation analysis as a research method.

(Learning objectives)

The goal of this course is to enable students to understand and analyze interactions in legal situations on their own, to grasp the reality and problems of such interactions, and to gain a broader perspective on the law and the legal system as a result.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to thoroughly review the presented materials and assignments before and after class. Details will be given in class and in the materials to be uploaded.

(Grading criteria/policy)

Grading will be based on the submission of appropriate answers to each assignment and the degree of proactive and active participation in each class.

LAW300AB (法学 / law 300)

英米法 I

中田 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米法 I では、英米法総論とイギリスとアメリカの憲法を中心に学習します。総論では、英米の裁判所の成り立ち、司法制度や陪審制などを学習して、日本法との相違点を示します。

【到達目標】

授業の到達目標に、以下の3点を掲げます。

1. 英米法の基本用語を理解する。
2. 基本用語が生まれる背景となった社会的、文化的背景を理解できるようにすること。
3. 英米法の法制度を理解した上で、日本法の問題点等を比較法的視点で考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

1) 授業形態

本講義は原則対面で行いますが、数回オンライン講義に切り替える可能性があります。必ず、学習支援システム等を利用してお知らせしますので、確認するようにしてください。

2) 授業の進め方

前回講義の復習（質問への対応）を簡単に行った後、その日の講義を行い、最後に必ず、復習ワードを提示します。講義後、その復習ワードを中心に学習を行って下さい。

3) リアクション課題について

リアクション課題については、何度かに一度行う予定です。「正解」のない問題について、一歩立ち止まって考えてもらいます。なお、リアクション課題については、紙ベースのものと学習支援システムを通じて提出して頂くものの2種類があります。授業内でその都度指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 英米法を学ぶ意義	授業の進め方、成績評価の方法等のガイダンスを行った後に、英米法で学ぶことの意義について考える。
第2回	コモン・ローとエクイティ	コモン・ローとエクイティについて、裁判所の歴史を学びます。
第3回	司法制度（1）	イギリスの裁判所とアメリカの裁判所について学びます。
第4回	司法制度（2）	法曹一元：裁判官やその役割を中心に学習します。
第5回	陪審制	日本の裁判員制度と比較しながら、英米の陪審制について学びます。
第6回	イギリス憲法とBrexit	Brexitを通じて、イギリスの憲法体制について学びます。
第7回	アメリカ憲法（1）	アメリカ憲法のはじまり（建国の歴史）について学びます。
第8回	アメリカ憲法（2）	司法審査権について学びます。
第9回	アメリカ憲法（3）	修正14条：平等保護条項について学びます。
第10回	アメリカ憲法（4）	修正14条：アファーマティブアクションについて学びます。

第11回	アメリカ憲法（5）	修正14条：中絶問題について学びます。
第12回	アメリカ憲法（6）	修正14条：同性婚について学びます。
第13回	アメリカ憲法（7）	修正2条：銃社会アメリカについて学びます。
第14回	まとめと注目判例	今学期に学習したもののまとめと、今開廷期に注目すべき判例を紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、キーワードを「復習ワード」として提示するので、それらを中心に復習してください。また、予めアップロードされている教材に目を通すようにしてください。

上記の復習及び予習の時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、初回レジュメに提示された参考書の中から、自分に合うものを用意することが望ましい。

【参考書】

E・アラン・ファーンズワース『アメリカ法への招待』（勁草書房・2014）

樋口範雄『はじめてのアメリカ法（補訂版）』（有斐閣・2013）

田中英夫（編）『BASIC 英米法辞典』（東京大学出版会・1993）

各単元ごとに、参考資料はその都度提示することにする。

【成績評価の方法と基準】

本講義は、以下の通りで、評価する。

リアクション課題 20%

定期試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

レジュメ等については、現在の詳細レジュメを評価してもらっており、さらに、講義の聞き取りやすさも評価してもらっていた。現状維持ではなく、よりわかりやすい授業を提供できるように私自身も努力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布には、学習支援システム等を利用する予定です。また、各回のレジュメ枚数が多いため、パソコンやタブレット等を利用した方で便利かもしれません。

【Outline (in English)】

Common Law I introduces general theory of common law legal system. Then it will go on to discuss the UK and US constitutions. In this course, students learn about the courts system, the judicial system and the jury system especially in the US and the UK, and are shown how they differ from Japanese legal system.

This course aims at acquiring knowledge of basic legal terms of Common Law legal system and together with its societal and cultural background. In addition to the above, this course aims to develop the ability to identify problems in comparison with Japanese law.

Students will be expected to review the key words which will be presented as 'review words' at the end of each session. They are also encouraged to read through the material uploaded beforehand. Students will be expected to spend for at least four hours to complete the above tasks.

Your final grade in this class will be decided based on the following:

Reaction papers 20%

Term-end examination 80%

LAW300AB (法学 / law 300)

英米法Ⅱ

中田 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米法Ⅱでは、イギリスとアメリカの私法（契約法、不法行為法、財産法と信託法）を中心に学習します。日本法との比較を通じて日本法のより深い理解を目指す。

【到達目標】

授業の到達目標に、以下の3点を掲げます。

1. 英米法の基本用語を理解する。
2. 基本用語が生まれる背景となった社会的、文化的背景を理解できるようにすること。
3. 英米法の法制度を理解した上で、日本法の問題点等を比較法的視点で考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

1) 授業形態

本講義は原則対面で行いますが、数回オンライン講義に切り替える可能性があります。必ず、学習支援システム等を利用してお知らせしますので、確認するようにしてください。

2) 授業の進め方

前回講義の復習（質問への回答）を簡単に行った後、その日の講義を行い、最後に必ず、復習ワードを提示します。講義後、その復習ワードを中心に学習を行って下さい。

3) リアクション課題について

リアクション課題については、何度かに一度行う予定です。「正解」のない問題について、一歩立ち止まって考えてもらいます。なお、リアクション課題については、紙ベースのものと学習支援システムを通じて提出して頂くものの2種類があります。授業内でその都度指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 英米法の特徴	授業の進め方、成績評価の方法等のガイダンスを行った後に、英米法の特徴について学びます。
第2回	契約法（1）	英米の Contract と日本の契約の違いについて考えます。
第3回	契約法（2）	契約の成立について学びます。
第4回	契約法（3）	Consideration とその例外について学びます。
第5回	契約法（4）	Hadley v. Baxendale 判決について学びます。
第6回	不法行為法（1）	故意不法行為について学びます。
第7回	不法行為法（2）	過失不法行為について学びます。
第8回	不法行為法（3）	厳格責任と製造物責任について学びます。
第9回	財産法（1）	英米財産概念の基礎知識について概観します。
第10回	財産法（2）	財産の取引について学びます。
第11回	信託法（1）	信託に関する基礎知識を学びます。
第12回	信託法（2）	信託義務について学びます。
第13回	信託法（3）	アメリカとイギリスの信託の違いについて学びます。

第14回 まとめと最新判例 今学期に学習したもののまとめと最新判例を紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、キーワードを「復習ワード」として提示するので、それらを中心に復習してください。また、予めアップロードされている教材に目を通すようにしてください。
 上記の復習及び予習の時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、初回レジュメに提示された参考書の中から、自分に合うものを用意することが望ましい。

【参考書】

樋口範雄『はじめてのアメリカ法（補訂版）』（有斐閣・2013）
 島田真琴『イギリス取引法入門』（慶応義塾大学出版会・2014）
 田中英夫（編）『BASIC 英米法辞典』（東京大学出版会・1993）
 各単元ごとに、参考資料はその都度提示することにする。

【成績評価の方法と基準】

本講義は、以下の通りで、評価する。

リアクション課題 20%

定期試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

レジュメ等については、現在の詳細レジュメを評価してもらっており、さらに、講義の聞き取りやすさも評価してもらっていた。現状維持ではなく、よりわかりやすい授業を提供できるように私自身も努力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布には、学習支援システム等を利用する予定です。また、各回のレジュメ枚数が多いため、パソコンやタブレット等を利用した方で便利かもしれません。

【Outline (in English)】

Common Law II introduces the area of private law including contract law, tort law, property law, trust law and elderly law in the US and the UK. The comparison with Japanese law will also lead to greater understanding of Japanese law.

This course aims at acquiring knowledge of basic legal terms of Common Law legal system and together with its societal and cultural background. In addition to the above, this course aims to develop the ability to identify problems in comparison with Japanese law.

Students will be expected to review the key words which will be presented as 'review words' at the end of each session. They are also encouraged to read through the material uploaded beforehand. Students will be expected to spend for at least four hours to complete the above tasks.

Your final grade in this class will be decided based on the following:

Reaction papers 20%

Term-end examination 80%

LAW300AB (法学 / law 300)

アジア法 I

陳 志明

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、アジア法Ⅱ（秋学期）と一体をなすものであり、アジア各国・地域の法制度（特に憲法制度）をテーマとしています。アジア法Ⅰ及びアジア法Ⅱは、法律学科の専門教育科目では基礎法科目に属し、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「企業・経営と法コース（労働法中心）」、「国際社会と法コース」及び「文化・社会と法コース」では履修が望まれる選択科目に挙げられています。春学期のアジア法Ⅰでは、総論としてアジアの法制度の特質を概観した上で、東南アジアに属する各国の法制度を中心に取り上げる予定です。

【到達目標】

受講生がアジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解し、自分なりの問題意識及びそれに対する見解を持つに至ることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明
第2回	総論（アジアの法制度）	アジアの法制度の特質 アジアの法制度を理解する上での留意点
第3回	フィリピンの法制度①	フィリピンの概観 フィリピンの歴史と法制度の変遷 現在のフィリピン憲法
第4回	フィリピンの法制度②	フィリピンの統治構造 フィリピンの人権
第5回	マレーシアの法制度①	マレーシアの概観 マレーシアの歴史と法制度の変遷 現在のマレーシア憲法
第6回	マレーシアの法制度②	マレーシアの統治構造 マレーシアの人権
第7回	シンガポールの法制度	シンガポールの概観 シンガポールの歴史と法制度の変遷 現在のシンガポール憲法
第8回	タイの法制度①	タイの概観 タイの歴史と法制度の変遷 現在のタイ憲法
第9回	タイの法制度②	タイの統治構造 タイの人権
第10回	インドネシアの法制度①	インドネシアの概観 インドネシアの歴史と法制度の変遷 現在のインドネシア憲法
第11回	インドネシアの法制度②	インドネシアの統治構造 インドネシアの人権

第12回	ベトナムの法制度	ベトナムの概観 ベトナムの歴史と法制度の変遷 現在のベトナム憲法
第13回	カンボジアの法制度	カンボジアの概観 カンボジアの歴史と法制度の変遷 現在のカンボジア憲法
第14回	授業内試験（教室レポート）	レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を読むことと併せて、新聞等でアジアの最新動向を追うことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009年）
稲正樹・孝忠延夫・國分典子編著『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010年）

松尾弘『発展するアジアの政治・経済・法—法は政治・経済のために何ができるか』（日本評論社、2016年）

鮎京正訓・四本健二・浅野宜之編『新版 アジア憲法集』（明石書店、2021年）

一般社団法人共同通信社編著『世界年鑑2025』（共同通信社、2025年）
知花いづみ・今泉慎也『現代フィリピンの法と政治—再民主化後30年の軌跡』（アジ研選書53、アジア経済研究所、2019年）

青木まさ編『タイ 2019 年総選挙—軍事政権の統括と新政権の展望』（電子書籍 PDF 版）』（情勢分析レポート 32、アジア経済研究所、2020年、https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Jpn_Books/Josei/032.html、2025年2月1日閲覧）

鮎京正訓編集代表・島田弦編著『インドネシア—民主化とグローバリゼーションへの挑戦』（アジア法整備支援叢書、旬報社、2020年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期末の授業内試験（教室レポート）（80％）及び平常点（20％）により、「到達目標」に掲げた「アジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

例年受講生が大変多いこともあり、授業の形式は片方向的なものとなりがちですので、一定の双方向性を確保するため、授業後における個別の質問を歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of the legal system in Asia and the legal system of each country belonging to Southeast Asia. At the end of the course, students are expected to understand the legal systems of Asian countries and regions, taking into account the factors (history, culture, etc.) behind them. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW300AB（法学 / law 300）

アジア法Ⅱ

陳 志明

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、アジア法Ⅰ（春学期）と一体をなすものであり、アジア各国・地域の法制度（特に憲法制度）をテーマとしています。アジア法Ⅰ及びアジア法Ⅱは、法律学科の専門教育科目では基礎法科目に属し、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「企業・経営と法コース（労働法中心）」、「国際社会と法コース」及び「文化・社会と法コース」では履修が望まれる選択科目に挙げられています。秋学期のアジア法Ⅱでは、東アジアに属する各国・地域の法制度を中心に上げますが、南アジアに属するインドの法制度、さらにイスラム法も取り上げる予定です。

【到達目標】

受講生がアジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解し、自分なりの問題意識及びそれに対する見解を持つに至ることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インドの法制度①	インドの概観 インドの歴史と法制度の変遷 現在のインド憲法
第2回	インドの法制度②	インドの統治構造 インドの人権
第3回	イスラム法	イスラム法と聖典 イスラム法学と法学派 イスラム法の淵源
第4回	韓国の法制度①	韓国の概観 韓国の歴史と法制度の変遷 現在の韓国憲法
第5回	韓国の法制度②	韓国の統治構造 韓国の人権
第6回	北朝鮮の法制度	北朝鮮の概観 北朝鮮の歴史と法制度の変遷 現在の北朝鮮憲法
第7回	モンゴルの法制度	モンゴルの概観 モンゴルの歴史と法制度の変遷 現在のモンゴル憲法
第8回	中国の法制度①	中国の概観 中国の歴史と法制度の変遷 現在の中国憲法
第9回	中国の法制度②	中国の統治構造 中国の人権
第10回	香港の法制度	香港の概観 香港の歴史と法制度の変遷 現在の香港基本法
第11回	マカオの法制度	マカオの概観 マカオの歴史と法制度の変遷 現在のマカオ基本法

第12回	台湾の法制度①	台湾の概観 台湾の歴史と法制度の変遷 現在の台湾統治基本法
第13回	台湾の法制度②	台湾の統治構造 台湾の人権
第14回	授業内試験（教室レポート）	レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を読むことと併せて、新聞等でアジアの最新動向を追うことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

鮎谷正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009年）
 稲正樹・孝忠延夫・國分典子編著『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010年）
 松尾弘『発展するアジアの政治・経済・法—法は政治・経済のために何ができるか』（日本評論社、2016年）
 鮎谷正訓・四本健二・浅野宜之編『新版 アジア憲法集』（明石書店、2021年）
 一般社団法人共同通信社編著『世界年鑑2025』（共同通信社、2025年）
 孝忠延夫・浅野宜之『インドの憲法〔新版〕—「国民国家」の困難性と可能性』（関西大学出版部、2018年）
 大河原知樹・堀井聡江『イスラム法の「変容」—近代との邂逅』（イスラームを知る17、山川出版社、2015年）
 尹龍澤・青木清・大内憲昭・岡克彦・國分典子・中川敏宏・三村光弘編著『コリアの法と社会』（日本評論社、2020年）
 王雲海・周劍龍・周作彩編著『よくわかる中国法』（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ、ミネルヴァ書房、2021年）
 金永完『中国における「一国二制度」とその法的展開—香港・マカオ・台湾問題と中国の統合』（国際書院、2011年）
 蔡秀卿・王泰升編著『台湾法入門』（法律文化社、2016年）
 その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期末の授業内試験（教室レポート）（80％）及び平常点（20％）により、「到達目標」に掲げた「アジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

例年受講生が大変多いこともあり、授業の形式は片方向的なものとなりがちですので、一定の双方向性を確保するため、授業後における個別の質問を歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the legal system of India, the Islamic law, and the legal system of each country and region belonging to East Asia. At the end of the course, students are expected to understand the legal systems of Asian countries and regions, taking into account the factors (history, culture, etc.) behind them. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW300AB (法学 / law 300)

社会安全政策論 I**梶原 田鶴、久米 一郎**授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

犯罪等の人の行為に起因する危険から個人や社会を守るためには、誰がどのような行動をとればよいのでしょうか。本講義では、現実社会で問題となっている各種の治安事象について説明しつつ、それに対する各方面からの取組を紹介します。講義や議論を通じて、犯罪の発生状況や犯罪対策について正確に理解するとともに、社会を担う一員として、社会の安全安心についての考え方を確立することを目指します。

【到達目標】

人は常に犯罪の危険にさらされています。よって、この講義により、犯罪リスク、逸脱行動への対処の仕方を学びます。
また、人は犯罪を抑止することができます。この講義を受けることで、皆さんが社会の構成員として担うべき役割、責務を学び、安全な社会を作るプレーヤーとしての能力を養うことを目指します。
その他、近年の我が国における治安情勢についての理解を深め、効果的かつ均衡のとれた政策の在り方について考察する素養を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

グラフや画像を活用した分かりやすい資料を講師が毎回作成し、配布します。
出席した皆さんから講義に関する質問や意見を受け付け、いただいた質問には次回講義で回答します。
講義時間外の質問も可能です。その場合は、メールを原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・総論①(担当:久米一郎)	授業のテーマ、進め方、評価の仕方、警察組織の概要、社会安全政策論の定義等
第2回	総論②(担当:久米一郎)	日本の犯罪情勢に係る統計、“安全”と“安心”の違い、犯罪予防の理論等
第3回	総論③(担当:久米一郎)	捜査の概要、刑事司法手続の概要、捜査の高度化のための取組等
第4回	ストーカー・DV・児童虐待(担当:梶原田鶴)	ストーカー・DV・児童虐待をめぐる現状と対策等
第5回	薬物対策(担当:久米一郎)	薬物の基礎知識、薬物犯罪情勢、対策等
第6回	暴力団対策(担当:久米一郎)	暴力団の現状、資金獲得活動の実態、対策等
第7回	匿名・流動型犯罪グループ対策(担当:久米一郎)	匿名・流動型犯罪グループの現状と対策等
第8回	特別講義(担当:特別講師)	警察実務者による講義
第9回	少年を取り巻く現状と課題(担当:梶原田鶴)	少年非行、少年保護など少年を取り巻く現状と課題等

第10回	テロ対策(担当:特別講師)	国内外のテロ情勢及びテロ対策等
第11回	交通安全対策(担当:梶原田鶴)	交通事故情勢、交通事故防止等の交通安全対策等
第12回	特別講義(担当:特別講師)	警察実務者による講義
第13回	サイバー空間をめぐる脅威への対処(担当:梶原田鶴)	サイバー犯罪の現状と対策等
第14回	犯罪被害者等支援(担当:久米一郎)	被害者等が直面する現実(困難)、被害者等支援施策の概要等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

治安事象に関する報道等に広く関心を持って下さい。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

全体を通じて、警察政策学会編『社会安全政策論』立花書房（2018年）、警察白書、犯罪白書等を参考としてください。警察白書は警察庁ウェブサイト、犯罪白書は法務省ウェブサイトに掲載されていますので、購入せずとも見ることができます。
その他、講義ごとに参考資料を示します。

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や課題提出状況（ミニレポート・数回程度）等を平常点として評価します。
また、学期末にレポートを提出してもらいます。
成績評価に当たっては、それぞれ50％を配分します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容について概ね肯定的な評価をいただいたことから、新年度の授業についても、基本的な構成は踏襲しつつ、学生の関心に応えられるよう最新の情勢を反映するなど、さらなる改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

講義で使用する資料は、原則として事前に学習支援システムにアップロードしますので、可能な限り資料を印刷して目を通してください。

【その他の重要事項】**【実務経験のある教員による授業】**

講師は警察庁職員であり、警察庁のほか、他省庁や都道府県警察でも勤務した経験を持ちます。講師の知見を活かしつつ、現実社会に即した社会安全政策論について、分かりやすく解説します。
刑法、刑事訴訟法の基礎知識があると理解が平易になります。

【Outline (in English)】

This course, Theory on Social Security Policy, deals with policies for protecting the individual or society from dangers arising from people's behavior, mainly related to crimes. The course provides theoretical understanding of the dramatic improvement of the public safety situation in the recent years. The students can also get some keys to properly handle the risks or other challenges they might face in the future. This course ultimately aims to develop their ability to grasp and analyze various kinds of problems in society, and find out solutions.

(Learning Objectives)

People are always at risk of crime. Therefore, by this lecture, the students will learn how to deal with criminal risks and deviant behavior.

Also, one can deter crime. By taking this lecture, the students will learn the roles and responsibilities they should play as members of society to create safer society. In addition, the course will help the students to deepen the understanding of the security situation in Japan in recent years, and acquire the ability to consider an effective and balanced policy.

(Learning activities outside of classroom)

Please pay attention to media reports on security events.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

The learning situation and degree of participation in class is evaluated as normal points.

The students will also be asked to submit a report at the end of the semester.

50% will be allocated to each grade evaluation.

LAW100AB（法学 / law 100）

法思想史**大野 達司**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「文化・社会と法コース」に属する。
 近代日本の法思想・法制度に対する海外法思想の影響と理解を概観する。

【到達目標】

近代日本法思想の海外法思想の受容と歴史的背景を理解し、近代化の意味とともに、とくに西欧法思想をわたしたちが学ぶ意味をとらえ、一般に目にする西欧中心の法思想史を学ぶきっかけをうる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、学習支援システムで配布するレジュメに基づいて授業を進める。

対面授業ができない場合は、概要について動画・または音声ファイルをシステムにアップする予定。同システムを通じて、授業時間内・また一定の期間質問を受け付ける。次回授業か、学習支援システムで応答する。授業各回のあとで、内容確認のため、オンラインクイズを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第二回	第一章法と権利	近代初期日本への法と権利概念の継受
第三回	際2章自然法の思想	西欧自然法論の概要
第四回	第3章公と知識人	明治期の「市民社会」＝公共圏のありか
第五回	第4章憲法と自治	明治憲法制定期の議会制と自治をめぐる議論
第六回	第5章初期明治憲法理論 第12章天皇機関説事件の法思想	穂積八東・美濃部達吉・上杉慎吉らの法思想
第七回	第6章明治民法学	日本とドイツの法典論争
第八回	第7章刑法理論の対立	初期刑法学以降の旧派と新派の対立と意味
第九回	第8章大正デモクラシー	大正デモクラシーの法・政治思想と初期フェミニズム
第十回	第9章マルクス主義法学	社会法の法思想のはじまりと、思想弾圧
第十一回	第10章国際法と国際政治	第一次大戦後の国際法・政治思想とケルゼン・シュミット
第十二回	第11章国粹主義の法思想	昭和初期の政治基盤の変容と右派法思想
第十三回	第13章総動員体制（新体制）の構築と法思想 第14章戦時体制下の法思想	第二次大戦に突入するころの法思想
第十四回	第15章新憲法体制の法思想	第二次大戦直後の法思想の対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに基づいて予習復習をすること。教科書を利用する場合は、事前に指示した箇所を確認しておくこと本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大野・森元・吉永『近代法思想史入門』法律文化社、2016年

【参考書】

教科書にあげられているものの他、西欧法思想史について
 森村進編『法思想の水脈』法律文化社、2016年
 西村清貴『近代ドイツの法と国制』成文堂、2017年
 中山・浅野・松嶋・近藤『法思想史』有斐閣、2019年
 西村清貴『法思想史入門』成文堂、2020年
 戒能通弘・神原和宏・鈴木康文『法思想史を読み解く』法律文化社、2020年

日本思想史について、山口種臣／福家崇洋篇『思想史講義』明治1、大正、戦前昭和篇、ちくま新書、2022年（明治2は2023年刊予定とのこと）。

授業では触れられないかもしれないが、
 オリヴァー・リーマン『イスラム哲学への扉』中村廣治郎訳、ちくま学芸文庫、2002年

小嶋祐馬『中国思想史』KKベストセラーズ、2017年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(70%)とオンラインクイズ(30%)。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

学習支援システムが使えるように。またgoogle classroomも使えるように。

【その他の重要事項】

授業で話しきれない部分は、オンデマンドで提供します。必要に応じて視聴してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) This lecture focuses on the modern Japanese legal thoughts and their receptions from foreign legal thoughts as their backgrounds.

(Learning Objectives) To understand origins and backgrounds of modern legal thoughts and their historical importance and reality in Japan.

(Learning activities outside of classroom) Before each lesson participants should read the relevant capitals by themselves.

(Grading Criteria/Policy) Grade evaluation is based on answers to quizzes after each lesson (30%) and term-end reports (70%).

LAW300AB (法学 / law 300)

法と遺伝学 I

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この授業は、「他学部公開科目」であり、他学部生も3-4年生ならどなたでも履修できます！

●テーマ：21世紀の遺伝学・医学・細胞学と法・法学・政策
 そこの人！ ハイ、この頁に目をとめたあなたです。ちょっと考えてみて下さい。

【授業の概要】

①デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもって法的・政策的にアリでしょうか？
 2018年に中国において現実に誕生したデザイナー・チャイルド3人はどうなったのでしょうか？

②同性婚の法制度が議論されています。それとは別に「同性間の実子」つまり女性2人の遺伝子や、あるいは男性2人の遺伝子を継ぐ子どもってありえるのでしょうか？

③イギリスでは2015年に既に「3人のDNAを受け継ぐ子ども」が法制度上認められました。日本ではどうなっているのでしょうか？

【授業の目的・意義】

以上の中の一つでも関心があれば…これらの問いを解明するのが本授業の目的・意義です。ただ、ちょい待ち…正しい答は一つではない。世界中で誰もこの3つの間に絶対的な答を出した人はいないのです。答は一人一人が「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」のです。論理的に、法学的に。法学部生以外の方も市民の目線で。本授業「法と遺伝学I」の内容は、21世紀の人類社会の構図を決める問題なのです。ならば、遺伝学・医学・細胞学という自然科学の発展を踏まえ、「法と遺伝学」の関係を、法学の専門家だけでなく、市民が自ら考察し、理解を深めましょう。それこそがこの授業の問いかけであり、目的・意義なのです。

★この科目は「文化・社会と法コース」に属します。

【到達目標】

●学生は、21世紀の遺伝学・医学・細胞学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策的・社会的な解決法を、「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」能力を身につけます。

●学生同士のグループディスカッションにより、教材中の論点についての疑問・理解の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、上記の新たな問題について「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、新たな解決策を見いだす能力を身につけることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【成績評価の方法と基準】も参照すること：

●講義・解説形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。

●法学部生・他学部生の皆さんには馴染みが薄い遺伝学・医学・細胞学の分野を、まず解りやすく解説します。

●学生は、学期中に毎回、学習支援システム上の「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、独自の考察に加えて、授業への質問・感想・批判などを書き、提出します（匿名・ペンネームの可否などについては初回の授業で詳しく説明します）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。

●学生は、指定された教材の箇所を、次回の授業までに必ず予習し、後日復習します。

●学生は、法的問題とその解決を学ぶには、教員との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。

●授業の進め方の基本方針：「自分の頭で考える：正しい答は一つではない！」日々の生活で実践できる、論理的・法学的思考を訓練します。＜法と遺伝学＞の問題には、いまだに世界中のどこにも「一つの正しい答」はありません。だから「誤った発言」はありえない。安心して自分から議論して下さい。その中で、法学的思考が少しずつ身に付くように、教員が工夫します。発言・掲示板投稿が恥ずかしいという学生も、毎年、皆すぐ慣れて発言・投稿しています。それに「モノ言う能力」は21世紀を生きていく中で必須です！これこそ国際市場と日本の社会で、今、求められている技能です。

●学生の皆さんが授業で学ぶ「法と遺伝学I」の内容が、ただの「教室での勉強」に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「法と遺伝学」を学ぶに当たっての「遺伝学入門」	テーマに基づく講義&質疑応答・ビデオ動画教材による遺伝学入門：および最新遺伝学に基づく過去の遺伝学の誤解と現在の理解；さらに21世紀社会を生き抜く我々にとって、特に法学を学ぶ学生にとって、なぜ「遺伝学の基礎的知識」が必須か、そして「法と遺伝学」の学びが必要か、の解説とディスカッション
第2回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非	2001-02年の国際連合の「ヒトクローン禁止条約」の試みで、デザイナーチャイルド問題は、どのように取り上げられていたか？の解説&ディスカッション
第3回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非	(1) 2003-05年の日本で、デザイナー・チャイルド問題はどのように取り上げられていたか？を解説した上で(場合による解説&ディスカッション)
第4回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非	(2) 2015-17年の中国における研究で、デザイナー・チャイルド問題は、どのように取り上げられていたか？そして2018年、ついに中国でも規程違反とされたデザイナー・チャイルドの現実での誕生に世界はどう応じたか？の解説&ディスカッション
第5回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの人権・法的権利	2018年に中国において現実に誕生したデザイナー・チャイルド3人が日本国籍を取得し、日本在住である事例を想定し、子の人権・法的権利、特に「出自を知る権利」、その父・母の「出自を知らせる権利・義務」についての解説&ディスカッション
第6回	同性間の実子(1)	多くの国で同性婚が立法化され、日本を含む諸国でも立法が検討される中、本授業「法と遺伝学I」は近未来のテーマとして＜同性2者から精子と卵子が細胞学により作成可能となり、同性間の実子誕生があり得る場合＞を想定し、法的・倫理的・社会的問題を考察する。関連するビデオ動画教材も見て、ディスカッションを行う。

第7回	同性間の実子(2)	現時点で既に哺乳類で可能となっている≪同性2者から精子と卵子が細胞学により作成され、同性間の実子が誕生している≫マウス(ネズミ)、試行中のサイ(絶滅危惧種)、政府の委員会でも議論中のヒトの現実を解説する。その法的・倫理的・社会的問題の解説&ディスカッションについてディスカッション
第8回	同性間の実子(3)	法的に同性婚をした2者の≪遺伝子を受け継いだ子の姿をデジタルアーティストがシミュレーション≫した例(動画)を見て、「人工主体」の観点も交えての解説&ディスカッション
第9回	「人工主体」と「法と遺伝学」	ブレイン・マシン・インターフェース(Brain Machine Interface; BMI)を超えて、自己・各自の脳の記憶が死後も完全に「人工主体」として保存される「新たな遺伝」の可能性を解説し、その法的・倫理的・社会的問題について解説&ディスカッション
第10回	3人のDNAを受け継ぐ子ども(1)	2015年2月、イギリスで改正されたこの法律が及ぼした波紋の解説と、ディスカッション；アメリカ・メキシコほかでも、法改正に先行して「3人のDNAを受け継ぐ子ども」が出生した正当性と法的・倫理的・社会的諸問題の解説&ディスカッション。日本政府の対応も検討する。
第11回	3人のDNAを受け継ぐ子ども(2)	2015年2月、イギリスで改正されたこの法律の模範性の評価の解説と、ディスカッション；アメリカ・メキシコほかで、法改正に先行して「3人のDNAを受け継ぐ子ども」が出生した諸問題、および日本政府の対応の適否について解説&ディスカッション
第12回	「法と遺伝学I」の新たな論点(1)	教材にもまだ掲載の無い、「法と遺伝学I」に直結する幾つかの新たな問題・論点を考察する解説&ディスカッション
第13回	「法と遺伝学I」の新たな論点(2)	教材にもまだ掲載の無い、「法と遺伝学I」に直結する幾つかの新たな問題・論点、特に新たな【法・法律の構築・法改正】を考察する解説&ディスカッション
第14回	本授業の総括	本授業「法と遺伝学I」「到達目標」に達したかを、毎回の授業の解説・ディスカッションとその評価を振り返って総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
- 学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
- 準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】

- 【教科書/教材】必須の教材文献を初回および各回の授業で指示する。教員の和田がネット上のURLを教示、またはPDF化して学習支援システムの「教材」にアップロード・配布する予定。【教材の例】のPDF配布は以下の通り：

★和田幹彦著『法と遺伝学』2005年より、抜粋した教材。

★和田幹彦著『「デザイナー・ベビー」『同性間の実子』再訪：実現性高まる——『ゲノム編集』『男性iPS細胞からの卵子作製』の新技術と法規制・立法の要否：同性婚認容のアメリカ連邦最高裁判決』2015年

★和田幹彦著「3人のDNAを継ぐ子を認める法改正——英国の新『ヒト受精及び胚研究法』」2015年

★ほかに、2020-2025年の「内閣府生命倫理専門調査会」の最新公表資料など

★星塚淳子（監修）『遺伝のしくみ』新星出版社、2021年刊の必要な頁のみ【購入不要】

【参考書】

必要に応じて指示する。【購入は必須では無い。】

【成績評価の方法と基準】

【予定】：新・学習支援システム(lms2025；以下同様)の機能に従い、初回授業で詳しく説明する。

【1】平常点【配点100点】：【授業計画】の各回も参照。

以下の詳細は初回の授業で指示する：

各回の授業テーマの教員による解説の後、教室の履修者/授業参加者を数グループに分け、事前に学習支援システムでの「お知らせ」等で告知したテーマ（法的課題・論点）について、教室でグループディスカッションを行い、各グループから議論の内容を発表してもらう。その結果を踏まえ、授業の最後に十分な時間を取り、各自が今度は独自に深めた考察で、テーマを論じる「ミニ課題（長めのリアクションペーパー）」を書いて提出する。以上全体を、授業1回につき、0～10点で評価する。

【5回以上、教室での授業に欠席した者は、単位を与えない。】

各回の授業で：

【例a】評価が高い9点を毎回取得 ⇒10回授業に参加⇒90点⇒成績S

【例b】評価が低い5点を毎回取得⇒全14回授業に参加⇒70点⇒成績B-

【例c】評価が中程度の平均6点取得⇒10回授業に参加⇒60点⇒成績C-

【例d】評価が低い5点を毎回取得 ⇒10回授業に参加⇒50点⇒成績D

病気その他やむを得ない事情で欠席した学生などの例外は初回の授業で詳しく説明する。

【2】期末試験・レポートは無い。その代わりに、【1】の教室での授業参加に基づく平常点評価を厳密に行うので、単位取得予定者は十分に注意すること。

●春学期を通じて、グループディスカッションとその内容の発表、その内容を踏まえたリアクションペーパーの内容では、到達目標である：

≪21世紀の遺伝学・医学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策的・社会的な解決法を、「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」能力を身につけた≫かどうかを基準として、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

●質問をしやすい環境をより良く整備します。

●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。

●ビデオ、DVD、ブルーレイ教材を多用する予定です。

●時々、教科書や参考書にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・遺伝子操作・最先端医学・細胞学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【学生が準備すべき機器他】

電子機器として、最低限、スマートフォンは毎回教室に持参すること（パソコン持参が可能な学生は持参を勧める）。

【その他の重要事項】

●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、各国の法・法律・法制度・政策・政治が本科目のテーマにどのように対応しているかを、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

●法学部以外の学生でも3-4年生はどなたでも履修ができます。この科目を履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。

●法学部法律学科生は、通常の選択必修科目・選択科目を適正に履修していれば、準備は十分です。

●法学部政治学科・国際政治学科生は、他の法律科目履修の必要はありません。本授業で「政策と同時に、法学も学ぶ！」姿勢をしっかりと持って下さい。

●全学部生に、同じく私による秋学期の「法と遺伝学Ⅱ」との合わせての履修を強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】 : To learn the new issues of "Law and Genetics" which emerged in our domestic and international society of 21st Century.

【Learning Objectives】 : To learn and to think on your own, further to express your own understanding of the new issues of "Law and Genetics" with the backdrop of most recent developments of genetics, medicine and cytology.

【Learning activities outside of classroom】 : Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.

【Grading Criteria/Policy】 : Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB (法学 / law 300)

法と遺伝学Ⅱ

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この授業は「他学部公開科目」でもあり、他学部生も3-4年生はどなたでも履修できます！

★その人！ ハイ、この頁に目をとめたあなたです。ちょっと考えてみて下さい。

【授業の概要】

人間の法と行動って、どこまで遺伝子・生物進化、そしてその産物である脳・思考の影響があるのでしょうか？ 例えば：

①なぜ民法の「親族法」には、そもそも結婚についての法律があるの？ その根源的な理由って何？ ヒトの進化と関係があるの？（あります！ 第8回授業【人類進化でなぜ家族は重要か、そこから「家族法」がいかに進化したか】を参照）

②なぜ民法の「相続法」により相続はできるのか？ その根源的な理由って何？ ヒトの進化と関係があるの？（あります！ 第9回授業【「家父長制・相続の起源」「現代の個人相続」の解説】を参照）

③憲法や民法の詳しい法律の根底には、他の生物と共通の「法の根源的基盤」があるのか？（あります！ 第5回授業【「法の進化的基盤」の解説】を参照）

【授業の目的・意義】

以上の中の一つでも関心があれば…これらの問いを解明するのが本授業の目的・意義です。ただ、ちょい待ち…正しい答は一つではない。世界中で誰もこの3つの問いに絶対的な答を出した人はいないのです。答は一人一人が「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」のです。論理的に、法学的に。法学部生以外の方も市民の目線で。本授業「法と遺伝学Ⅱ」の内容・到達目標の1つ「進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか」は、21世紀の人類社会の構図を決める問題なのです。ならば、自然科学の発展を踏まえ、「法と遺伝学」の関係を、法学の専門家だけでなく、市民が自ら考察し、理解を深めましょう。それこそがこの授業の問いかけであり、目的・意義なのです。

★この科目は「文化・社会と法コース」に属します。

【到達目標】

【1】学生は、21世紀の遺伝学・進化生物学・文化進化論の発展の基礎を学び、これらの自然科学と連動して、新たに「法とは何か？」という法学の根源的な問いと向き合います。そして「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより「この問いに『応える』」能力を身につけること。

【2】さらに「生物とヒトとヒトの法がこのように進化した」結果は決して「現代の人間集団と国際社会」を束縛するのではなく、逆に「進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか」という問いへの考察に繋げること。

【3】学生同士のグループディスカッションにより、教材中の論点についての疑問・理解の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、上記の新たな問いについて「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、新たな解決策を見いだす能力を身につけることも目標です。

以上の【1】【2】【3】がこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【成績評価の方法と基準】も参照すること：

●法学部生・他学部生の皆さんには馴染みが薄い科学の分野を、まず解りやすく解説します：遺伝学・進化生物学・文化進化論の基礎と、さらに法・法学との関係を解説していきます。

●講義・解説形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問・投稿を歓迎します。

●学生は、学期中に毎回、学習支援システム上の「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、独自の考察に加えて、授業への質問・感想・批判などを書き、提出します（匿名・ペンネームの可否などについては初回の授業で詳しく説明します）。次の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。

●学生は、指定された教材の箇所を、次の授業までに必ず予習し、後日復習します。

●授業の進め方の基本方針：「自分の頭で考える：正しい答は一つではない！」日々の生活で実践できる、論理的・法学的思考を訓練します。＜法と遺伝学＞の問題には、いまだに世界中のどこにも「一つの正しい答」はありません。だから「誤った発言」はありえない。安心して自分の心の中で議論して下さい。その中で、法学的思考が少しずつ身に付くように、教師が工夫します。発言・掲示板投稿が恥ずかしいという学生も、毎年、皆すぐ慣れて発言・投稿しています。それに「モノ言う能力」は21世紀を生きていく中で必須です！これこそ国際市場と日本の社会で、今、求められている技能です。

●学生の皆さんが授業で学ぶ「法と遺伝学Ⅱ」の内容が、ただの「教室での勉強」に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「法とは何か？」の自然科学による再分析・定義の可能性の解説とディスカッション；動画教材による人類400万年史の解りやすい紹介【リアクションペーパー全員提出；以下同様】
第2回	法の新たな定義と新たな法源	「法」の再定義に先立つ、遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学の基礎的解説とディスカッション；動画教材の人類400万年史視聴(続き)
第3回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(1) [(2)は第11回]	教科書欄の【教材1】に基づき、ヒト集団・社会に法が進化した「機能」「進化史」「しくみ」「発達」の概要解説とディスカッション
第4回	遺伝学モデルに基づく「文化進化論」による「法の進化」	教科書13章「ヒトに於ける文化の重要性」に基づく「文化としての法」の「文化進化」の解説とディスカッション
第5回	「遺伝学」による「生物進化学」の解説：「自然淘汰」の基礎(1)	教科書1,2,3章+【教材2】に基づき「遺伝学は生物進化に直結すること」と「法の進化的基盤」の解説；動画教材視聴；テーマの解説&ディスカッション
第6回	「遺伝学」による「生物進化学」の解説：「自然淘汰」の基礎(2)	教科書1,2,3章に基づき「生物進化の遺伝学上のしくみ」の解説；テーマのディスカッション
第7回	ヒト属集団・社会の200万年史における「法の進化」	教科書4,5,6章【+河田雅圭・動画教材】に基づき「人類史上の進化の中で法はどのように進化し得たか」の解説；テーマのディスカッション
第8回	ヒト属集団・社会における「家族・家族法」の重要性；及び「家族以外との協力行動」としての「法の進化」	教科書7,8,9章に基づき「人類進化でなぜ家族は重要か、そこから「家族法」がいかに進化したか；家族以外との協力行動こそ「法の進化」の中核であることの解説；テーマのディスカッション

第9回	「遺伝学」による「生物進化学」の解説：「性淘汰」の基礎	教科書10,11章に基き「生物とヒトにおける性淘汰」と性差・「家父長制・相続の起源」「現代の個人相続」の解説；それがジェンダー・性的志向・性自認ほかに基づく「差別の根拠とならない」ことの学び；テーマのディスカッション
第10回	ヒトの心の進化と「法の進化」の結びつき	教科書12章に基き「ヒトの心の進化」が「法の進化」にいかに関結つくかの考察・解説；テーマのディスカッション
第11回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(2) [(1)は第3回]	教科書欄の【教材1】【教材4】に基づき、ヒト集団・社会に法が進化した「機能」「進化史」「しくみ」「発達」「言語進化と法の進化の連動性」の詳細解説とディスカッション
第12回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(3)	新たな「教材」で提示する藤本悠雅博士の研究に基づく、《言語進化以前のヒト集団・社会における法の進化》の詳細解説とディスカッション
第13回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(4)	縄文時代の日本において、「認知考古学」という新しい研究方法に基づく《言語進化以後の集団・社会規範とそれに基づく法の進化》の詳細解説とディスカッション
第14回	本授業の総括	本授業「法と遺伝学II」の「到達目標」に達したかを、総括する解説とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 学生は、各回に必ず【教科書】と【教材】の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
- 学生は、授業で扱った【教科書】と【教材】の箇所と授業内容を必ず復習すること。
- 準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】

- 【教科書】長谷川寿一・長谷川眞理子・大槻久『進化と人間行動』第2版（2022年）東京大学出版会（2,500円＋税）：多用するので、必ず入手すること。

- 【教材】追加的に、最新の文献を含めて初回および各回の授業で指示する。教員の和田がネット上のURLを教示、またはPDF化して学習支援システムの「教材」にアップロード・配布する予定。

【例】【教材1】和田幹彦(2021年刊)「律する」『進化でわかる人間行動の事典』234-238頁.pdf

【教材2】和田幹彦(2023年刊)「法の進化」研究・素描」.pdf

【教材3】河田雅圭〔東北大学教授・進化生物分野〕(2021年版；学術的内容)「ヒトはいつ出現し、どう進化をたどってきたのか」

<https://note.com/masakadokawata/n/n79991282d860>

【教材4】河田雅圭〔同上〕『多様性と異文化理解』（東北大学出版会/2021年）の第1章「進化的視点からみる人間の『多様性の意味と尊重』」（購入は不要；以下の公式サイトを用いる）

<https://note.com/masakadokawata/n/nb758462b63fb>

【教材5】経塚淳子（監修）『遺伝のしくみ』新星出版社、2021年刊の必要な頁のみ【購入不要】

【参考書】

不要（特に指定しない）。

【成績評価の方法と基準】

【予定】：新・学習支援システム(lms2025；以下同様)の機能に従い、初回授業で詳しく説明する。

[1] 平常点【配点100点】：【授業計画】の各回も参照。

以下の詳細は初回の授業で指示する：

各回の授業テーマの教員による解説の後、教室の履修者/授業参加者を数グループに分け、事前に学習支援システムでの「お知らせ」等で告知したテーマ（課題・論点）について、教室でグループディスカッションを行い、各グループから議論の内容を発表してもらう。その結果を踏まえ、授業の最後に十分な時間を取り、各自が今度は独自に深めた考察で、テーマを論じる「ミニ課題（長めのリアクションペーパー）」を書いて提出する。以上全体を、授業1回につき、0～10点で評価する。

【5回以上、教室での授業に欠席した者は、単位を与えない。】

各回の授業で：

【例a】評価が高い9点を毎回取得 ⇒10回授業に参加⇒90点⇒成績S

【例b】評価が低い5点を毎回取得⇒全14回授業に参加⇒70点⇒成績B-

【例c】評価が中程度の平均6点取得⇒10回授業に参加⇒60点⇒成績C-

【例d】評価が低い5点を毎回取得 ⇒10回授業に参加⇒50点⇒成績D

病気その他やむを得ない事情で欠席した学生などの例外は初回の授業で詳しく説明する。

【2】期末試験・レポートは無い。その代わりに、【1】の教室での授業参加に基づく平常点評価を厳密に行うので、単位取得予定者は十分に注意すること。

●秋学期を通じて、グループディスカッションとその内容の発表、その内容を踏まえたリアクションペーパーの内容では、到達目標である：

【1】21世紀の遺伝学・進化生物学・文化進化論の発展の基礎を学び、これらの自然科学と連動して、新たに「法とは何か？」という法学の根源的な問いと向き合えたか。そして「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより「この問いに『応える』」能力を身につけられたか。

【2】さらに「生物とヒトとヒトの法がこのように進化した」結果は決して「現代の人間集団と国際社会」を束縛するのではなく、逆に「進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか」という問いへの考察に繋げることができたか。

【3】学生同士のグループディスカッションにより、教材中の論点についての疑問・理解の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、上記の新たな問いについて「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、新たな解決策を見いだす能力を身につけることができたか。

以上を基準として、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- 質問をしやすい環境をより良く整備します。

- 授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。

- 【動画教材】ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。

- 時々、【教科書】【教材】【参考書】にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【学生が準備すべき機器他】

電子機器として、最低限、スマートフォンは毎回教室に持参すること（パソコン持参が可能な学生は持参を勧める）。

【その他の重要事項】

- 「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、各国の法・法律・法制度の共通点に着目し、「法とは何か？」という主題を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

- 法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。

この科目履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。

- 法学部法律学科の学生は、通常の選択必修科目、選択科目を適正に履修していれば、準備としては十分です。

- 法学部政治学科・国際政治学科生は「法学を学際的に学ぶ！」姿勢をしっかりと持って下さい。

- 全学部生に、同じく私による春学期の「法と遺伝学I」との合わせての履修を強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】 : To learn the new issues of "Law, Behavioral Genetics, Evolutionary Biology & Psychology, and Neuroscience".

【Learning Objectives】 : To learn and to think on your own, further to express your own understanding of the evolutionary foundations of law, and law's evolution itself.

【Learning activities outside of classroom】 : Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.

【Grading Criteria/Policy】 : Class participation for 50/100 points. Final exam or paper for 50/100 points.

LAW200AB (法学 / law 200)

法律学特講（日本レコード協会寄付講座）エンタメ産業と法**武生 昌士**授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、音楽・放送・出版・ゲームなどのエンターテインメント産業について、具体的なビジネスの内容やそれらを支える法制度（著作権法等）について、各界の第一線で活躍する方々をゲストスピーカーとしてお招きし、オムニバス講義形式で授業を行います。各業界の現状・構造がどのようなものか、情報化社会の進展によりそれがどのように変容しているのかを学ぶとともに、将来の進路の選択肢のひとつとしてエンターテインメント産業を意識してもらうことにより、受講生にキャリア形成の幅を広げてもらうことが本授業の目的です。

【到達目標】

受講生が、エンターテインメント産業の現状と今後について、それを支える著作権法などの法制度に関する事柄も含めて、重要な事項や概念を正しく理解し、説明できるようになること。

また、エンターテインメント産業を進路の選択肢のひとつとして意識し、講義内容を自身のキャリア形成に具体的に役立てるとともに、自身が講義から受けた影響を言語化して説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

エンターテインメント産業の第一線で活躍される方々をゲストスピーカーとしてお招きし、オムニバス形式で講義していただく形で授業を進めます。市ヶ谷キャンパスでの対面授業を基本としますが、多摩・小金井の学生にも受講してもらえるよう、オンライン同時配信（Zoom または Webex、受講者数により判断）を実施します。（市ヶ谷の学生にもオンライン受講を認める予定ですが、受講者数なども勘案しつつ、開講後に改めて指示します。）

講義終了後、学習支援システムを通じて感想文を提出してもらいます。また、講義後に同じく学習支援システムに公開する小テストにも取り組んでいただく予定です。

以下には2024年度の実績を基に仮の授業計画を示しますが、テーマ・順番共に変更される可能性がありますので、詳細は開講後に学習支援システムで確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、エンターテインメント産業と著作権法	講義の概要や成績評価方法の説明、著作権法の概要
第2回	レコード産業の構図と現状	レコード産業の現状と課題、課題への法的対応など
第3回	放送業界	放送業界の現状と課題
第4回	レコード会社のビジネス	レコード会社のビジネスの実情、今後の課題など
第5回	音楽著作物の集中管理	音楽著作物の集中管理の実務と今後の課題
第6回	音楽配信ビジネス	音楽配信ビジネスの現状と展望
第7回	ライブ・コンサートビジネス	ライブ・コンサートビジネスの実情、今後の課題など
第8回	アニメ業界	アニメ業界の現状と課題

第9回	コンテンツをめぐる紛争	コンテンツ制作やコンテンツ利用をめぐる法律紛争について
第10回	アーティストプロモーション	アーティストプロモーションの現状と課題など
第11回	ゲーム業界	ゲーム業界の現状と課題、ゲーム業界の法務
第12回	キャラクタービジネス	キャラクタービジネスの現状・課題・展望
第13回	出版業界	出版業界の実務
第14回	日本のコンテンツビジネス戦略	コンテンツ産業の政策実務

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習については、事前に資料の紹介などがなされた場合、一読してから授業に臨んでください。

授業後、リアクションペーパー（感想文）の提出、及び小テストへの解答を、それぞれ学習支援システムから行ってください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。（授業の資料は学習支援システムにアップします。）

【参考書】

参考書は、必要に応じて、各回の授業において提示されます。

著作権法を含む知的財産法に関する参考文献として、茶園成樹編『知的財産法入門〔第3版〕』（有斐閣、2020）、前田健ほか編『図録知的財産法』（弘文堂、2021）など。

【成績評価の方法と基準】

（1）毎回、授業後に、学習支援システムを通じて感想文を提出してもらい、これによって成績評価をする予定です（30％）。

（2）また、同じく授業後に学習支援システムに公開される小テストによっても成績を評価する予定です。（70％）。

※ただし、上記（1）・（2）のいずれも、学習支援システムのリブレイスをもたず影響次第で見直す可能性もあります。詳細は初回授業及びその後にも随時、改めて指示致します。

以上の基準について、初回の授業でより詳細に説明を致しますので、受講を検討されている方は、できるだけ初回から出席するようにしてください。第2回以降から出席する場合、最低限、初回の講義資料の内容をよく読んで、成績評価の方法をよく理解して出席するようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方法をよく理解しないまま、漫然と「小テストだけ」・「感想文だけ」提出している受講生が少なからず見受けられるので、初回授業でより丁寧に説明するほか、期中にも定期的に注意喚起を行うようにしたい。（その上で、成績評価は一昨年度・昨年度よりもより厳正に行うこととしたい。）

【Outline (in English)】**【授業の概要（Course outline）】**

This omnibus course covers the entertainment industry and entertainment law in Japan.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of the entertainment industry and entertainment law in Japan.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on:

— online quiz(short test) : 70%

— online reaction paper : 30%

LAW200AB (法学 / law 200)

行政法入門Ⅰ

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I 行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。しかしながら、市場及び国民生活に対する公的な介入としての行政のメカニズムに即して、行政法は独自の体系を構築している。

II 本講義は、行政法に関する入門科目として、行政法入門Ⅱとともに、行政法に関する題材を幅広く取扱い、行政法の全体像の把握、行政法の基礎知識に関する修得を目指す。

III 行政法入門Ⅰにおいては、具体的には、行政法の基礎、行政組織法の基礎、行政活動（作用）法入門(前半)を取り扱う。全てのコースに配置されている科目である。

【到達目標】

I 知識面

① 行政法の全体像を把握し、各学習項目について基礎的な知識を確実に理解する。

② 行政法の基礎的な理解に不可欠な行政法令、代表的な最高裁判所の判決の概要について、確実な知識を身に付ける。

③ 具体的には、次のものを取り扱う。

行政法の体系、法治主義と法の支配、行政法の基本原理、行政組織法の基礎
行政行為

II 能力面

① 行政法分野における基礎的な解説文が読解できる能力を養う。併せて、代表的な最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。

② 解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら基礎的文獻を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

I 一般的な講義形式による(全面対面方式)。出席票を配布し、回収する(Ⅱ・①を参照)。

II ① 講義時間中に Web Class の「Timed Test」の正誤問題の機能を利用して簡単な確認テストを実施する。出席票を提出していない者は出席点を付与せず、又、出席票を提出せずに確認テストに回答した者にはペナルティを課す。また、ペナルティは違反回数に照らして加重して賦課する。

② 2回の中間テストを実施する(2クラスに分ける。30分、2題の正誤の組合せによる4択問題)。

II 受講者は教科書を購入すること。また、講義資料は教室では配布しない。学習支援システムからダウンロードした資料を利用すること。

III 受講者は、予習をし、講義によって学習を深め、その後の復習を通じて理解を定着させること。

IV 学生に対するフィードバックは、講義時間中の確認テスト(40%を加点)、2回の中間テストを通じて実施する。出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、確認テストの結果を成績に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方・行政法令の例 行政法とは何か
第2回	行政法基礎（1）	行政法の基本原理(1)
第3回	行政法基礎（2）・行政組織法(1)	行政法の基本原理(2)・行政組織法(1)(行政主体)
第4回	行政法組織法(2)	行政組織法(2)(国・地方関係、地方分権)
第5回	第1回中間試験(30分の正誤問題。2クラス分けをして実施する)	第1回中間試験(試験範囲は、第1～第4回)
第6回	行政組織法(3)	行政組織法(3)(公私協働、行政機関)
第7回	行政作用法入門(1)	行政作用法入門(1)(行政の行為形式論、「行政行為」①(概説))
第8回	行政作用法入門(2)	行政作用法入門(2)(行政行為②(行政行為と事後的救済の制度①))
第9回	行政作用法入門(3)	行政行為③(行政行為と事後的救済の制度②)
第10回	第2回中間試験(30分の正誤問題。2クラス分けて実施する)	第2回中間試験(試験範囲は、第6回～第9回)
第11回	行政作用法入門(4)	行政行為④(行政手続①- 概説・申請に対する処分)
第12回	行政作用法入門(5)	行政行為⑤(行政手続②- 不利益処分)
第13回	行政作用法入門(6)	行政行為⑥(行政裁量)
第14回	行政作用法入門(7)	行政指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

入門科目であるので、テキストを熟読すること。また、適宜、講義資料をアップするので、それも必要に応じて参照すること。さらに、わからない用語等があれば、法律辞典等を調べること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋＝野口貴公美＝磯部哲＝大橋真由美編『行政法 Visual Materials 〔第3版〕』（有斐閣、2025年2月）価格は2700円＋税）
* 最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第1版・第2版の使用は推奨しない。第1版・第2版の記述に依拠して解答した場合は及第点が獲得できない可能性がある。

【参考書】

高橋滋『行政法(第3版)』（弘文堂、2023年）3,500円

【成績評価の方法と基準】

I 2回の中間試験(30%)、期末試験(70%)の合計100%とする。中間試験は正誤問題、期末試験は文章問題とする。Web Class のテスト機能を用いた正誤問題による平常点の評価については40%の範囲で加点する。

II 講義への出席が講義内容の理解度の向上に寄与するとの観点、及び、出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、講義時間中に正誤問題による簡単な確認テストを実施する。接続不良の際の回答ミスの場合の届出方法については、別途、周知する(基本的に当該時点における接続不良の画面をスマホ等で撮影した画像の提出が必要となる)。

III 学生に対するフィードバックは、講義時間内の正誤問題への解説、中間テストへの解説等によって実施する。

【学生の意見等からの気づき】

① 新型コロナウイルス感染症の5類相当への移行に伴い、全面対面方式に戻すこととした。

② 出席にインセンティブを与える見地から平常点の取扱いには維持することとした。

【学生が準備すべき機器他】

PC・無線ルーターの準備については、大学方針を参照されたい。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】 As an introductory lecture of administrative law, together with Introduction to Administrative law II, this lecture handles many materials about the administration. ① Introduction of administrative law. ② Theory of administrative organization and civil service. ③ Theories of administrative dispositions and guidance of administrative organization.

【Learning Objectives】 Students are expected to grasp the whole structure of the subject and to acquire basic knowledge about the administrative law.

【Learning activities outside of classroom】

Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face or high-flex lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.

【Grading Criteria /Policy】 I. Two mid-term examinations (40%) and a final exam (60%) totaled 100%. In both cases, the midterm exam is a true/false question, and the final exam is a written question (points are added in the range of 40% for evaluation of normal scores based on true/false questions).

II. Conduct a simple confirmation test with true/false questions during lecture time. The notification method in the case of an answer error in the event of a bad connection will be separately disseminated (basically, it is necessary to submit an image taken with a smartphone or the like of the screen of the connection failure at that time). Answers to true/false questions using the test function of the learning support system will be added as normal points (up to 40% will be added).

LAW200AB (法学 / law 200)

行政法入門Ⅱ

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I 行政法に関する入門科目として、行政法入門Ⅰとともに、全てのコースに置かれている。行政法に関する題材を幅広く取扱い、行政法の全体像の把握、行政法の基礎知識に関する修得を目指す。
 II 実定法、特に行政法の講義内容が抽象的なものとなりがちであることに留意し、行政法の複雑な仕組みを平易に説明した図・グラフ、重要判例の事案の理解に資する図・説明文、行政実務に用いられている文書等を多く用い、行政法全体の体系に関する基礎的な理解及び基礎知識が1年間4単位の講義を通じて修得できることを目指す。
 III 具体的には、次の内容を取り扱う。
 行政立法、行政計画、行政契約
 情報公開、個人情報保護
 国家補償法入門、国家賠償、損失補償
 行政争訟法入門、行政訴訟

【到達目標】

I 知識面
 ①行政法の全体像を把握し、各学習項目について基礎的な知識を確実に理解する。
 ②行政法の基礎的に理解に不可欠な行政法令、代表的な最高裁判所の判決の概要についても、確実な知識を身に付ける。
 II 能力面
 ①行政法分野における基礎的な解説文が読解できる能力を養う。併せて、代表的な最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。
 ②解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら基礎的文献を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

I 一般的な講義形式による（全面対面方式）。出席票を配布し、回収する（Ⅱ・①を参照）。
 II ① 講義時間中にWeb Classの「Timed Test」の正誤問題の機能を利用して簡単な確認テストを実施する。出席票を提出していない者は出席点を付与せず、又、出席票を提出せずに確認テストに回答した者にはペナルティを課す。また、ペナルティは違反回数に照らして加重して賦課する。
 ② 2回の中間テストを実施する（2クラスに分ける。30分、2題の正誤の組合せによる4択問題）。
 II 受講者は教科書を購入すること。また、講義資料は教室では配布しない。学習支援システムからダウンロードした資料を利用すること。
 III 受講者は、予習をし、講義によって学習を深め、その後の復習を通じて理解を定着させること。
 IV 学生に対するフィードバックは、講義時間中の確認テスト（40%を加点）、2回の中間テストを通じて実施する。出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、確認テストの結果を成績に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	行政契約・行政立法①	行政契約・行政立法①(概説)(対面、オンラインのクラス分けを実施。後半クラスが対面)
第2回	行政立法②	行政立法②(法規命令・行政規則①)
第3回	行政立法③・行政計画	行政立法③(行政規則②)・行政計画
第4回	行政情報の公開	行政情報の公開
第5回	行政情報と個人情報保護	行政情報と個人情報保護
第6回	第1回中間試験（30分。2クラスに分けて実施する）	第1回中間試験(試験範囲は、第1回から第5回)
第7回	行政訴訟の基礎・抗告訴訟①	行政訴訟の基礎・抗告訴訟の種類・取消訴訟の要件①
第8回	抗告訴訟②	取消訴訟の訴訟要件①- 処分性・原告適格
第9回	抗告訴訟③	その他の抗告訴訟・仮の救済
第10回	当事者訴訟・客観訴訟	当事者訴訟・客観訴訟
第11回	第2回中間試験(30分。2クラスに分けて実施する)	第2回中間試験(試験範囲は、第7回～第10回)
第12回	国家賠償法①	国家賠償法①- 概説、公務員・公権力の行使
第13回	国家賠償法②	国家賠償法②- 故意・過失・違法性、職務行為基準説
第14回	国家賠償法③	公の营造物の設置管理の瑕疵・国家補償の谷間

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

入門科目であるので、テキストを予め熟読すること。また、わからない用語等があれば、参考文献を調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋＝野口貴公美＝磯部哲＝大橋真由美編『行政法 Visual Materials 〔第3版〕』（有斐閣、2025年2月）価格は2700円＋税
 * 最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第1版・第2版の使用は推奨しない。第1版・第2版の記述に依拠して解答した場合は及第点が獲得できない可能性がある。

【参考書】

高橋滋『行政法(第3版)』（弘文堂、2023年） 3,500円

【成績評価の方法と基準】

I 2回の中間試験(30%)、期末試験(70%)の合計100%とする。中間試験は正誤問題、期末試験は文章問題とする。学習支援システムのテスト機能を用いた正誤問題による平常点の評価については40%の範囲で加点する。
 II 講義への出席が講義内容の理解度の向上に寄与するとの観点、及び、出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、講義時間中に正誤問題による簡単な確認テストを実施する。接続不良の際の回答ミスの場合の届出方法については、別途、周知する(基本的に当該時点における接続不良の画面をスマホ等で撮影した画像の提出が必要となる)。
 III 学生に対するフィードバックは、講義時間内の正誤問題への解説、中間テストへの解説等によって実施する。

【学生の意見等からの気づき】

① 新型コロナウイルス感染症の5類相当への移行に伴い、全面対面方式に戻すこととした。
 ② 出席にインセンティブを与える見地から平常点の取扱いには維持することとした。

【学生が準備すべき機器他】

PC及び無線ルーターの準備については大学の方針を参照されたい。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

【Course outline】 As an introductory lecture of administrative law, together with Introduction to Administrative law I, this lecture handles many materials about the administration.

① Introduction to administrative operations (last half), ② Freedom of Administrative Information and Protection of Personal Data, ③ State Compensation, ④ Appeals, and Suits against Administration.

【Learning Objectives】 Students are expected to grasp the whole structure of the subject and to acquire basic knowledge about the administrative law.

【Learning activities outside of classroom】

Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face or high-flex lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.

【Grading Criteria /Policy】 I. Two mid-term examinations (40%) and a final exam (60%) totaled 100%. In both cases, the midterm exam is a true/false question, and the final exam is a written question (points are added in the range of 40%for evaluation of normal scores based on true/false questions).

II. Conduct a simple confirmation test with true/false questions during lecture time. The notification method in the case of an answer error in the event of a bad connection will be separately disseminated (basically, it is necessary to submit an image taken with a smartphone or the like of the screen of the connection failure at that time). Answers to true/false questions using the test function of the learning support system will be added as normal points (up to 40%will be added).

LAW200AB (法学 / law 200)

外国書講読 (独語) I

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、各コースの基礎となるものであり、法学の学問的視野を広げる土台となることを目的としている。対象はドイツ法・政治であり、関連するドイツ語文献を読んでみる。なお、ドイツ語未修者でも履修できる。

【到達目標】

法学や政治学の基本概念である「正義」Gerechtigkeitを、思想史の中で理解する。思想や社会の歴史的な背景に配慮しながら、それぞれの時代での理解・転換を跡づける。各自ドイツ語の文献に挑戦し、授業の中で文献の内容を理解できるようになる。未修者は自分で辞書を引きながら調べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回一頁ほどのペースで、テキストの輪読を行う。参加者の習熟に合わせて増減する。各回の「予定」は外国書講読2とあわせてテキストの目次をもとに、内容を紹介しているので、関心があるところを探しておいてほしい。

対面授業が難しい場合には、zoomを用いて実施する。テキストは授業支援システムで配布する。語学そのものというより、内容理解と背景の確認ができるように。質問は学習支援システム、授業内で受け付け、応答する。なお、大学院法学研究科の類似授業との乗り入れで実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本書のイントロダクションと概要の説明 Gerechtigkeit, Konzepte und Praktiken eines europaischen Grundbegriffs im Wandel.
2	イントロダクション	前回の続き
3	古代概観	古代のイントロダクション
4	プラトン	Gerechtigkeit als Recht zur Selbstverwirklichung bei Plato.
5	プラトン2	前回の続き
6	ローマ法	"Ehrenhaft leben - niemandem verletzen - jedem das Seine gewahren", DerGerechtigkeitsdiskurs in Rom zwischen Tradition, Ethik und Recht
7	ローマ法2	前回の続き
8	ローマ共和制	Gerechtigkeitskonkurrenzen in der politischen Praxis der roemischen Republik
9	ローマ共和制2	前回の続き
10	中世概観	中世のイントロダクション

11	中世の秩序論	Die Begrueudung der besten Ordnung. Gerechtigkeitskonzeptionen im Mittelalter
12	中世の秩序論2	前回の続き
13	中世政治	Gerechtigkeit und politische Praxes im Mittelalter zwischen Konsens und Transzendenz
14	中世政治2	前回の続き

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前の予習。文法的な問題だけでなく、内容について日本語の文献を参考にしながら、できるだけ自分で調べておく。授業外では、毎週1時間程度の予習・復習をする。

【テキスト (教科書)】

Gert Melville, Gregor Vogt-Spira, Mirko Breitenstein (Hg.), Gerechtigkeits, Boehlau, 2014.Sorge, 2015 のなかから該当箇所を配布する予定。

【参考書】

大野・森元・吉永『近代法思想史入門』など

【成績評価の方法と基準】

平常点と「努力点」70 + 30 %

平常点は、各回での参加度合い。努力点とは、参加者それぞれで出発点が違うので、初回と比べて最終回までにどれだけ理解度が増したか、を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

実施せず

【学生が準備すべき機器他】

とくにないが、テキストを学習支援システムで配布することがある。

【その他の重要事項】

内容に関連したドイツ映画を参考にすることがある。大学院との合同授業。初学者・他学科学生も歓迎。

【Outline (in English)】

(Course outline) Students and teacher read together German Text about legal, political or social topics and translate it into Japanese.

(Learning Objectives) The aim is to understand their basic concepts and to acquire skills for reading German text by oneself.

(Learning activities outside of classroom) Before each lesson participants should read the relevant text by themselves.

(Grading Criteria/Policy) Grades are based on normal points.

LAW200AB (法学 / law 200)

外国書講読 (独語) II

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、各コースの基礎となるものであり、法学の学問的視野を広める土台となることを目的としている。対象はドイツ法・政治であり、関連するドイツ語文献を読んでみる。なお、ドイツ語未修者でも履修できる。

【到達目標】

法学や政治学の基本概念である「正義」Gerechtigkeitを、思想史の中で理解する。思想や社会の歴史的な背景に配慮しながら、それぞれの時代での理解・転換を跡づける。各自ドイツ語の文献に挑戦し、授業の中で文献の内容を理解できるようになる。未修者は自分で辞書を引きながら調べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回一頁ほどのペースで、テキストの輪読を行う。参加者の習熟に合わせて増減する。各回の「予定」は外国書講読2とあわせてテキストの目次をもとに、内容を紹介しているので、関心があるところを探しておいてほしい。

対面授業が難しい場合には、zoomを用いて実施する。テキストは授業支援システムで配布する。語学そのものというより、内容理解と背景の確認ができるように。質問は学習支援システム、授業内で受け付け、応答する。なお、大学院法学研究科の類似授業との乗り入れで実施する。

「1」からの継続となるが、「2」からの履修も可。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	近世概観	近世のイントロダクション
2	初期近世	Gerechtigkeitskonzeptionen in der Frühen Neuzeit
3	初期近世2	前回の続き
4	私法の紛争解決諸形式	Formen des privaten Rechts. Schiedsprueche im gesellschaftlichen und wirtschaftlichen Leben Norditaliens im Uebergang zur fruehen Neuzeit
5	私法の紛争解決諸形式2	前回の続き
6	啓蒙時代概観	啓蒙期のイントロダクション
7	啓蒙された正義	Aufgeklärte Gerechtigkeit. Einheit der Vernunft und Vielfalt der Lebensformen
8	啓蒙された正義2	前回の続き
9	啓蒙時代の iustitia	Iustitia im Zeitalter der Aufklärung: Dislurs und Verfahren
10	啓蒙時代の iustitia 2	前回の続き
11	現代概観	現代のイントロダクション

12	今日の論争における正義	Gerechtigkeit im Theoriediskurs der Gegenwart
13	結果平等から機会平等	Von der Ergebnisgleichheit zur Chancengleichheit? Gerechtigkeitsvorstellungen der Bevoelkerung der Gegenwart im Wandel
14	正義への期待喪失	Gerechtigkeit kann man nicht erwarten - nur ein Urteil

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前の予習。文法的な問題だけでなく、内容について日本語の文献を参考にしながら、できるだけ自分で調べておく。授業外では、毎週1時間程度の予習・復習をする。

【テキスト (教科書)】

Gert Melville, Gregor Vogt-Spira, Mirko Breitenstein (Hg.), Gerechtigkeitskonzeptionen, Boehlau, 2014. Sorge, 2015のなかから該当箇所を配布する予定。なお上の内容の他、イスラムに関する小がある。Gerechtigkeit und Vollkommenheit der irdischen Verhältnisse in islamischer Sicht.

【参考書】

戒能・神原・鈴木『法思想史を読み解く』、法律文化社、2020年、大野・森元・吉永『近代法思想史入門』、法律文化社、2016年など

【成績評価の方法と基準】

平常点と「努力点」70 + 30 %

平常点は、各回での参加度合い。努力点とは、参加者それぞれで出発点が違うので、初回と比べて最終回までにどれだけ理解度が増したか、を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

実施せず

【学生が準備すべき機器他】

とくにないが、テキストを学習支援システムで配布することがある。

【その他の重要事項】

内容に関連したドイツ映画を参考にすることがある。大学院との合同授業。初学者・他学科学生も歓迎。

【Outline (in English)】

(Course outline) Students and teacher read together German Text about legal, political or social topics and translate it into Japanese.

(Learning Objectives) The aim is to understand their basic concepts and to acquire skills for reading German text by oneself.

(Learning activities outside of classroom) Before each lesson participants should read the relevant text by themselves.

(Grading Criteria/Policy) Grades are based on normal points.

LAW200AB（法学 / law 200）

国際法基礎理論

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は主として国家間関係を規律する法である。この授業では、国際法の法源や主体といったいわゆる総論分野を中心に学ぶ。法学部法律学科のコース制における位置づけとしては、この科目は「国際社会と法」コースに最も強く関連するが、「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも配置されている。グローバル化の進展が著しい今日においては、日本国内の法律専門家、公務員、企業に勤める者にも国際法の基本知識が求められる局面が増えており、それに対応するための素地を作ることも目指している。国際法という特定の分野についての科目であることはもちろんだが、同時に、国際法の特徴（国内法との相違）を理解することを通じて、そもそも法とは何か、社会の中でどのような意味を持っているかを考える契機を与えるという基礎的な側面も有する。

【到達目標】

国際法の総論分野を中心とする各事項（具体的には下記【授業計画】参照）について、国際社会の構造との関係を意識しながら理解し、概念や制度を説明できるようになること。同時に、国際法の歴史的展開と現状を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきか自ら考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

下記【授業計画】に示す項目について検討する。授業は、教員からの講義だけでなく、受講生とのやりとりをまじえながら、進める。個別のテーマに関する専門家を招いてゲスト講義を実施することもある。学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。授業時間中以外の質問については、学習支援システム等で対応する。基本的に対面授業を予定しているが、一部、オンライン授業とすることもある。授業方法等についてより具体的な指示は、学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介
第2回	法源（1）	総論的検討、条約
第3回	法源（2）	国際慣習法、その他の法源
第4回	条約法（1）	条約の締結、効力
第5回	条約法（2）	条約の解釈、終了・運用停止
第6回	国際法と国内法の関係（1）	伝統的理論、国際法における国内法
第7回	国際法と国内法の関係（2）	国内法における国際法
第8回	国家	国家の成立と変動
第9回	国家管轄権	意義、適用基準、競合と調整
第10回	主権免除	裁判権免除、執行免除
第11回	国際法における個人	法主体性、国籍、外国人の地位、犯罪人引渡
第12回	領域	領域権原、領域紛争

第13回 国家責任（1） 国家責任法の機能、国家責任の発生要件

第14回 国家責任（2） 救済、追及

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲を予習すること。詳細は初回に指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

・森川幸一ほか編『国際法で世界がわかる——ニュースで読み解く32講』（岩波書店、2016年）（第2版（近刊））を使用する予定である。学習支援システム上および授業内の指示を確認した後に購入することを推奨する。）
 ・『国際条約集』（有斐閣）（最近のものであれば、最新年度版でなくとも構わない。）

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験による（100％）。平常点を加味する場合は、初回授業にて説明する。

【学生の意見等からの気づき】

大学では、どのような形態の授業であれ、与えられるのを待つのではなく、自ら学ぶ姿勢が重要であることを、学生に改めて理解してもらえようになりたい。その上で、受講生からの質問等には、引き続き丁寧に対応していきたい。

【その他の重要事項】

「国際法入門」で扱った内容を繰り返し説明することはしない。「国際法入門」と合わせて履修することを強く推奨する。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 This course provides students with a basic understanding of public international law with reference to general topics including but not limited to: sources of law, law of treaties, relationship between international and municipal law, States and its territory, jurisdiction and immunity, and international responsibility of States.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read the assignment before each class.

【Grading Criteria /Policy】 Grading is based on the term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

会社法

伊藤 雄司

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律3年A-G・法律2・4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、会社に関わる法制度を取り扱うものである。講義においては、基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う。

【到達目標】

株式会社においては、株主や会社債権者をはじめとする多くのステークホルダー（利害関係人）が存在しており、会社法はこれらのステークホルダーの利害調整を行う役割も果たしている。本講義では、会社法上の各種のルールが個々のステークホルダーの利益保護にとってどのような意義を有しているのかに着目しながら、会社法の基礎を学んでもらうことを目的としており、本講義を通じて、会社法の基本的な仕組みとその機能を理解することができることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で行う。受講者の理解を促すため、それぞれのテーマについて、関連する裁判例を取りあげて解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	会社法総論①	・会社法の歴史 ・会社法の基本構造
第2回	会社法総論②、会社法総則	・会社の意義 ・会社法総則
第3回	株式①	・株式の意義、内容
第4回	株式②	・種類株式
第5回	株式③	・株式の流通 ・株主の権利行使
第6回	機関総説	・機関の意義 ・機関設計
第7回	株主総会①	・株主総会の権限 ・株主総会の議事
第8回	株主総会②	・株主総会決議の瑕疵
第9回	役員の選解任	・役員の意義 ・役員の選解任
第10回	取締役・代表取締役、非取締役会設置会社	・取締役の地位、権限
第11回	取締役会	・取締役会の権限 ・取締役会決議の瑕疵
第12回	監査役・監査役会	・監査役・監査役会の権限
第13回	役員の責任	・会社に対する責任 ・第三者に対する責任 ・代表訴訟
第14回	監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社	・監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社のシステム
第15回	春学期のまとめ	・第14回までの講義内容のまとめ
第16回	募集株式の発行等①	・新株発行規制の概要
第17回	募集株式の発行等②	・新株発行の瑕疵

第18回	新株予約権①	・新株予約権の意義 ・新株予約権の発行規制
第19回	新株予約権②	・新株予約権の機能 ・新株予約権発行の瑕疵
第20回	計算①	・計算書類の意義
第21回	計算②	・計算書類の確定
第22回	組織再編①	・組織再編概論
第23回	組織再編②	・組織再編の手続き
第24回	組織再編③	・利害関係者の保護
第25回	持分会社	・各種の持分会社
第26回	設立	・設立の意義、概要
第27回	社債	・社債の意義
第28回	秋学期まとめ	・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前にテキスト及び関連条文に目を通しておくこと。予習・復習に4時間程度を充てることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

笠原武朗ほか『NBS会社法』（日本評論社、2021）

神作裕之ほか『会社法判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2021）

【参考書】

神田秀樹『会社法』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(100%)によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This lecture deals with the legal system related to companies. The objective of this lecture is to enable students to understand the basic structure of corporate law and the basic principles for coordinating the interests of parties related to companies. Students are expected to attend this lecture and devote 4 hours to self-study. Grading will be based solely on the results of a final examination.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

比較政治論 I**新川 敏光**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、欧米における近代国民国家の様々な発展パターンを民主主義と資本主義経済に焦点をあて、比較検討する。

【到達目標】

現代政治の諸問題を、歴史的空間比較の視座（比較歴史制度発展論）から、体系的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義方式によって行う。

二回目以降の講義では、前回の講義に関する質問や疑問への対応を含む、簡単なまとめを行う。また最終回では、講義全般に関するまとめと質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	本講義の射程	比較とは何か、政治とは何かをテーマに本講義の目的と対象範囲を明らかにする。
第二回	権力と支配	権力とは何か、そして支配とは何かについて検討する。
第三回	近代国民国家	近代国民国家をモデル化し、英仏独米における国民国家形成を比較する。
第四回	政治体制：リベラルデモクラシー	近代における政治範型である自由民主主義についてモデル化する。
第五回	実証的デモクラシー論	現代デモクラシーの実証諸理論と各国の事例を比較検討する。
第六回	資本主義経済の発展：レッセ・フェール・夜警国家から帝国主義の時代へ	資本主義経済の発展とそれに呼応した国家機能の拡大を考察する。
第七回	左右イデオロギーの収斂	資本主義経済の批判理論である社会主義理論と擁護理論である自由主義、双方における変化（収斂）を考察する。
第八回	福祉国家パラダイム	国民国家、資本主義経済、階級政治の新たな枠組の誕生として福祉国家を検討する
第九回	福祉国家の多様性	福祉国家の多様性を類型論に基づいて紹介する。
第一〇回	福祉国家の経済体制	フォーディズム、ケイン主義、埋め込まれた自由主義について検討する。
第一一回	福祉国家の政治体制	階級闘争の民主化、民主的階級闘争がリベラル・デモクラシーの安定化をもたらしたことを論ずる。

第一二回 福祉国家と資本主義の多様性 福祉国家の多様性は、各国の資本主義経済システムの多様性と連動するものであることを明らかにする。

第一三回 福祉国家の影 福祉国家の負の側面として、管理社会化、国家部門の肥大を検討する。

第一四回 試験 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にアップロードされた教材について予習し、講義後はノートを整理し、理解が不十分な点について調べ、不明な点は次回質問すること。

【テキスト（教科書）】

新川敏光『政治学：概念・理論・歴史』（ミネルヴァ書房）。本書は比較政治論Ⅱにおいても使用する。

【参考書】

新川敏光『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、筆記試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

事前に学習支援システムに教材をアップロードする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【その他の重要事項】

本講義は、内容的に秋学期の比較政治論Ⅱに連続している。

【Outline (in English)】

This course aims to compare various patterns of nation-state development, focusing on democracy and capitalism.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

比較政治論Ⅱ

新川 敏光

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀後半以降、とりわけ福祉国家の危機、東西冷戦の終焉、グローバル化といわれる時代におきた政治経済の変化について、欧米を中心に検討する。

なお本講義は、比較政治論Ⅰと相互補完的内容となっているので、本講義の前にⅠを受講することが望ましい。

【到達目標】

本講義では、20世型国民国家パラダイムともいうべき福祉国家が国際システム、資本主義経済、社会構造の変化に伴い有効性を失い、国民統合の手段として再分配に代わってイデオロギーが再び大きな役割を担うようになり、その結果暴力の爆発、ポピュリズムの台頭、格差の深刻化が生じていることを概念的理論的に理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義方式による。二回目以降の講義では、前回の講義に関する質問や疑問への対応を含む、簡単なまとめを行う。また最終回は、全体に関するまとめのほか、それまでの提出物への講評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	福祉国家の危機①	ケインズ主義に代わって経済学主流となったネオ・リベラリズムの政治的文脈を明らかにする。
第二回	福祉国家の危機②	ネオ・リベラリズム台頭の背景として、戦後の国際経済システム、「埋め込まれた自由主義」の崩壊を明らかにする。
第三回	福祉国家の危機③	豊かな社会のなかでの階級的求心力の低下と脱フォーディズムにおける労働の柔軟化について検討する。
第四回	新自由主義の現実	1980年代いち早く新自由主義政権が生まれた英サッチャー政権、米レーガン政権、日本中曽根政権を比較検討する。
第五回	グローバル化と格差社会	東西冷戦によって本格化したグローバル化の世界的影響力について検討する。
第六回	左の右旋回：「第三の道」、「新しい中道」	ネオ・リベラリズムの台頭に対する左の刷新（穏健化）について、英米独を中心に検討する。
第七回	危険社会論	個人化が進むなかで、階級社会論に代わって出てきた危険社会論のもつ射程と限界について検討する。
第八回	人口減少社会とジェンダー・ポリティクス	近代を超える新たな政治論として注目されるジェンダー論について検討する

第九回	文明の衝突	東西冷戦の終焉は、「文明の衝突」を招くというハンチントン・テーゼについて検討する
第十回	ポピュリスト・ナショナリズム：分断の政治	欧米における福祉ショービニズム、そしてポピュリスト・ナショナリズムの台頭を紹介する。
第一一回	リベラル・ナショナリズムと多文化主義	右翼ポピュリズムへの対抗基軸としての利部ある・ナショナリズムとその具体的展開として多文化主義を紹介する。
第一二回	パトリオティズム	ナショナリズムとは異なるパトリオティズムの可能性として、共和主義パトリオティズムと憲法パトリオティズムを紹介する。
第一三回	民主主義の可能性と市民社会の再生	民主主義の危機とその克服について、市民社会の再生をめざす運動から考える。
第一四回	試験	授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アップロードされた教材を参考に予習し、講義後はノートを整理し、理解が不十分な点は調べ、なお不明な点は次回質問すること。

【テキスト（教科書）】

新川敏光『政治学：概念・理論・歴史』（ミネルヴァ書房）。本書は比較政治論Ⅰにおいても用いる。

【参考書】

新川敏光『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房）

新川敏光他『政治学』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、筆記試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

事前に教材を学習支援システムにアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【その他の重要事項】

比較政治論ⅡはⅠを前提としているので、Ⅰを履修してからのほうが理解しやすい。

【Outline (in English)】

This course aims to clarify the transformation of the 20th century paradigm of political economy by examining the crisis of the welfare state, the end of the cold war, and globalization. Taking Comparative Politics I before II is highly recommended due to their complementarity.

LAW300AB（法学 / law 300）

保険法 I**潘 阿憲**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保険法 I は、2010 年から施行された「保険法」のうち総則と損害保険契約を対象とするものです。保険は、リスク移転の仕組みであり、学生の皆さんも含め、ほとんどすべての人は何らかの形で保険によるリスク移転のメリットを受けていると言えます。この講義は、このように我々の日常生活に不可欠なリスク移転の仕組みに係る法律関係を対象とするもので、多くの学生の受講を歓迎します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、リスク移転の仕組みに係わる法律関係、すなわち各種の「保険に係る契約」＝保険契約の内容を正確に理解し習得することです。将来、保険の実務に従事する際の専門的知識のみならず、万が一火災等の不慮の事故に遭遇した場合の権利義務関係の処理に使える知識を習得することが狙いです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行う。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期授業の全体的な説明および教科書等の説明など
第2回	保険制度	保険の仕組みなどの説明
第3回	保険契約と保険契約の当事者、関係者	保険契約の種類と各種の保険契約の特徴
第4回	損害保険契約の成立と効力（1）	損害保険の概念、保険事故、保険価額、保険金額
第5回	損害保険契約の成立と効力（2）	被保険者利益、告知義務
第6回	損害保険契約の成立と効力（3）	第三者のためにする損害保険契約
第7回	損害保険契約の成立と効力（4）	超過保険、保険価額の減少、危険の減少
第8回	損害保険契約に基づく保険給付（1）	損害防止義務と損害発生の通知義務
第9回	損害保険契約に基づく保険給付（2）	保険者免責
第10回	損害保険契約に基づく保険給付（3）	支払保険金の算定
第11回	損害保険契約に基づく保険給付（4）	保険代位
第12回	損害保険契約に基づく保険給付（5）	責任保険契約と火災保険契約に基づく保険給付
第13回	損害保険契約の終了（1）	終了原因、保険契約者による任意解除
第14回	損害保険契約の終了（2）	危険増加による解除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、予習のうえ、毎週1回の講義に出席すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

潘阿憲『保険法概説〔第2版〕』（2018年、中央経済社）

【参考書】

山下友信＝竹濱修ほか著『保険法第4版』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（100％）により、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This lecture is to study of Insurance Contract Law in Japan. The goals of this course are to understand how the insurance law works. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination(100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

保険法Ⅱ

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保険法Ⅱは、2010年から施行された「保険法」のうち、生命保険契約および傷害疾病損害保険契約を取り上げ、それぞれの保険契約の特徴と内容を正確に理解し習得することです。保険は、リスク移転の仕組みであり、学生の皆さんも含め、ほとんどすべての人は何らかの形で保険によるリスク移転のメリットを受けていると言えます。この講義は、このように我々の日常生活に不可欠なリスク移転の仕組みに係る法律関係を対象とするもので、多くの学生の受講を歓迎します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、リスク移転の仕組みに係わる法律関係、すなわち各種の「保険に係る契約」＝保険契約の内容を正確に理解し習得することです。将来、保険の実務に従事する際の専門的知識のみならず、万が一火災等の不慮の事故に遭遇した場合の権利義務関係の処理に使える知識を習得することが狙いです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行う。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命保険契約の内容	生命保険契約の保険事故と保険金額
第2回	生命保険契約の成立と効力（1）	契約の成立と責任開始
第3回	生命保険契約の成立と効力（2）	告知義務制度の内容
第4回	生命保険契約の成立と効力（3）	第三者のためにする生命保険契約
第5回	生命保険契約に基づく保険給付（1）	保険者免責
第6回	生命保険契約に基づく保険給付（2）	生命保険契約上の権利の処分と差押え
第7回	生命保険契約に基づく保険給付（3）	特別受益の持ち戻し遺留分減殺
第8回	生命保険契約の終了（1）	・保険契約者による任意解除 ・危険増加による解除 ・重大事由解除
第9回	生命保険契約の終了（2）	・被保険者の解除請求に基づく解除
第10回	傷害疾病定額保険契約（1）	傷害疾病定額保険契約の概要
第11回	傷害疾病定額保険契約（2）	傷害保険契約の保険給付事由その1
第12回	傷害疾病定額保険契約（3）	傷害保険契約の保険給付事由その2
第13回	傷害疾病定額保険契約（4）	疾病保険の特徴とその内容
第14回	傷害疾病定額保険契約（5）	契約前発病不担保条項とその問題点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、予習のうえ、毎週1回の講義に出席すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

潘阿憲『保険法概説〔第2版〕』（2018年、中央経済社）

【参考書】

山下友信＝竹濱修ほか著『保険法第4版』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（100％）により、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This lecture is to study of Insurance Contract Law in Japan. The goals of this course are to understand how the insurance law works. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

POL200AC（政治学 / Politics 200）

ジェンダー論 I

中野 洋恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既存の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論 I では、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。いわばジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来になく新しい観点から再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そしてそれがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ジェンダーの視点から政治、政策の中心的な課題を問い直します。

(1) ジェンダー概念

本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、そのそしてその要因はどのような政治的、社会的と関わっているのかを理解します。

この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様々な社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。

(2) 様々な政策からジェンダー問題を理解する

1999年に可決された男女共同参画社会基本法、2020年12月に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画」をもとに様々な分野で推進されている政策を理解することによって、政策決定過程やあらゆるレベルの政策及びシステムをジェンダー平等にするための政策理念「ジェンダー主流化（Gender Mainstreaming）」概念を明確にします。

(3) ジェンダー平等を進めるために

平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。

どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進めます。課題ごとのレポートを提出していただきます。また、提出していただいた課題ごとのレポートについては授業の初めに、いくつか内容を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。

授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
第2回	講義の全体像の理解 ジェンダーとは？① ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第3回	ジェンダーとは？② ジェンダーをめぐる最近の動向について考える	現在ジェンダーをめぐる課題が大きく取り上げられるようになっている。多様性をどう考えるかLGBTQやパートナーシップ制度等に関する法制度の整備も進んでいる。政策の動向についても考察する。また、各地の裁判所が出された判決についても言及する。
第4回	家族とジェンダー	未婚化、少子化が進んでいる。家族を形成する結婚や子育ての状況が変化している。歴史的な動向を説明すると主に現状の問題を考えるとともに、少子化に対応する子育て支援施策（異次元の少子化対策）についてジェンダーの視点から考える。
第5回	教育とジェンダー①	一般に教育の場は男女平等だと言われている。問題はないのかを考える。教育の中に潜むジェンダー問題を明らかにする。
第6回	教育とジェンダー②	「理系は男子が得意で女子は文系が得意」という言説について考える。内在しているアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）を理解する。
第7回	労働とジェンダー①	「女性の活躍」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。女性活躍推進法の改正によって、2022年から条件に該当する企業は「男女の賃金の差異」情報の公表が義務付けられることになった。また、「年収の壁」を意識せず働くことができる環境づくりも進められている。このような動きの中で男女賃金格差問題を考える。

第8回	労働とジェンダー②	男女ともに働きやすい職場環境を作るために「ワーク・ライフ・バランス」の取組が進んでいる。2022年に男性の育児休業取得促進のための子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みの創設された。男性が育児に関わることの意味と課題を考える。
第9回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。
第10回	女性に対するあらゆる暴力の根絶	女性に対する暴力は重大な人権侵害である。その予防と被害からの回復、暴力の根絶を葉来するためのはどうすべきかを考える。改正された刑法について説明し「性的同意」を考える。
第11回	政治とジェンダー	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている、特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。2018年に施行された「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」についても言及する。
第12回	国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを「男女共同参画基本計画」を基に理解する。特に今年の12月には「第6次男女共同参画基本計画」が閣議決定されることが予定されているのでその内容についても説明する。
第13回	国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。SDGs、GGGI等の国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。ジェンダー平等が達成されていない分野を明確にし。その要因も考える。 今年は第4回世界女性会議から30年が経過し、「北京+30」の取組の世界的なレビューが予定されている。国際的にみたジェンダー平等の達成と課題について説明する。
第14回	授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】

・三浦まり『さらば、男性政治』（岩波新書2023年）
 ・牧野百恵『ジェンダー格差』（中公新書2023年）
 ・関口洋平『イクメンを疑え！』
 ・第5次男女共同参画基本計画
http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html
 ・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて

<http://www.cao.go.jp/wlb/index.html>

・女性に対する暴力

若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材

http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html

NWEC実践研究第9号「ジェンダーに基づく暴力」

・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト

http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html

・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html>

・内閣府男女局 理工チャレンジ（リコチャレ）

<http://www.gender.go.jp/c-challenge/>

・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進

<http://www.jst.go.jp/diversity/index.html>

・初等中等教育における男女共同参画

国立女性教育会館 <https://www.nwec.jp/about/publish/kyoin-program.html>

【成績評価の方法と基準】

内容ごとの課題レポートの提出（50%）

筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。ジェンダー平等に向けてどのような社会を構築することが持て目られるのかは様々な意見があります。現状の何が課題となっているのかをデータや理論から丁寧な説明を心がけます。意見交換の場の充実を検討します。

【Outline (in English)】

Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.

Course outline

This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena.

Lecture/Exercise (two-credits)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ジェンダー論Ⅱ

梅垣 千尋

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目です。ジェンダーと政治をめぐる問題を、時間的にも空間的にも射程を広げてとらえ返すことを目的とします。具体的には、おもにイギリス近現代史に焦点を当てながら、ジェンダーの視点からみた政治のあり方について、現代日本に生きる私たちに新たな気づきを与えるさまざまな歴史的事例を学びます。

【到達目標】

・現代日本のジェンダーと政治をめぐる問題を、国際的および歴史的視点から相対化できるようになる。
 ・ジェンダーの視点から、議会内外の政治のあり方を複眼的にとらえ、政治の多元性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義が中心となりますが、可能なかぎり視聴覚資料を使用して理解を助けます。授業の終わりに小テストを提出してもらい、次の授業でその内容をいくつか取り上げ、全体にむけてフィードバックを行いながらさらなる議論に活かします。また、前半のテーマと後半のテーマのそれぞれの締め括りの回では、全体でディベートを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	〈ジェンダーと政治〉について考える
第2回	歴史とジェンダー（1）	近世君主制とジェンダー
第3回	歴史とジェンダー（2）	近代君主制とジェンダー
第4回	歴史とジェンダー（3）	現代君主制とジェンダー
第5回	歴史とジェンダー（4）	女性君主をめぐる問題
第6回	歴史とジェンダー（5）	日本における女性天皇の可能性
第7回	女性と政治参加（1）	政治の民主化とフェミニズム
第8回	女性と政治参加（2）	女性参政権運動
第9回	女性と政治参加（3）	政治運動とジェンダー
第10回	女性と政治参加（4）	ウーマンリブ運動
第11回	女性と政治参加（5）	労働運動とジェンダー
第12回	女性と政治参加（6）	女性首相の誕生
第13回	女性と政治参加（7）	政治的リーダーシップとジェンダー
第14回	女性と政治参加（8）	日本におけるクォータ制の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、講義予定を勘案しながら、キーワードとなる人物や事柄について調べておくこと。授業後は、講義内容を振り返り、各自の関心に従って参考文献を読み進めること。この講義の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業時にその都度、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点85%（小テスト、発言など）
 ・レポート15%

詳しい評価基準については、初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの記述内容を（匿名で）取り上げて紹介したり、授業中にブレインストーミングの時間をもったりすることで、受講者同士での学び合いを促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出は、学習支援システムを利用する予定です。受講にあたっては、学習支援システムを活用できる環境が必要です。

【その他の重要事項】

履修登録期間終了後は、オンライン授業の場合でも原則としてリアルタイム型とし、録画を公開しませんのでご注意ください。

【Outline (in English)】

COURSE OUTLINE

This course explores a range of historical issues relating to gender and politics with a particular focus on modern British history.

LEARNING OBJECTIVES

By the end of the course, students will be able to gain comparative perspectives on issues surrounding gender and politics, both internationally and historically.

LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM

Students are required to complete weekly assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

GRADING CRITERIA

Grading will be decided based on weekly assignments (85%) and a short report (15%).

LAW300AB（法学 / law 300）

知的財産法Ⅰ

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち主要なもののひとつである著作権法を一通り学ぶことを内容とする。著作権法は基本的には民法の特別法に位置付けられ、その意味ではやや応用的な科目ではあるものの、表現活動全般において問題となり得る法律であるため、「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」などを中心に幅広く関連を有し得る身近な法律であり、その基礎的な理解を身に付けておくことは、受講生にとって将来的に公私両面にわたって意義を有するものといえる。

【到達目標】

著作権法について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後著作権法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、第一に、著作権法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、著作権法が問題となる具体的な事例（紛争）について、著作権法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の中核を担う法律のひとつである著作権法について、文化の発展に寄与するためにどのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は出席票・メール・学習支援システムを通じて随時受け付けるほか、授業前後に直接口頭でご質問いただいてももちろん構わない。フィードバックは個別に、あるいは次回授業冒頭に全体に対して、行うこととしたい。期末の試験（レポート）に関しては、学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第2回	著作権法総説・権利の客体(1)	著作権法の概要、著作物の定義（総説）
第3回	権利の客体(2)	著作物の定義（創作性要件など）
第4回	権利の客体(3)	著作物の具体例、特殊な問題など
第5回	権利の主体	著作者の認定、職務著作、映画の場合など
第6回	著作者人格権	公表権・氏名表示権・同一性保持権など
第7回	著作権(1)	各支分権について
第8回	著作権(2)	著作権の制限
第9回	著作権(3)	保護期間など

第10回	著作権に関する取引	著作権の譲渡、利用許諾など
第11回	著作隣接権	実演家の権利など
第12回	侵害と救済(1)	侵害成立のための要件（依拠性・類似性）、間接侵害など
第13回	侵害と救済(2)	民事的救済（差止め・損害賠償など）及び刑事罰など
第14回	まとめ	講義全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料（論文・裁判例等）を指定する場合があるので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、著作権法の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

島並良ほか『著作権法入門〔第4版〕』（有斐閣、2024）、田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『著作権法〔第4版〕』（有斐閣、2023）、愛知靖之ほか『知的財産法〔第2版〕』（有斐閣、2023）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する（期末試験100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は印刷したものを教室で配布するほか、学習支援システムからも利用できるようにする予定である。

【その他の重要事項】

民法（物権法、不法行為法など）や民事訴訟法などの科目を履修済みか、並行して履修することが望ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

著作権法と特許法とを比較しながら学習することによって、知的財産法の特徴をより深く理解することができるため、できれば秋学期の「知的財産法Ⅱ」を本講義に続けて受講してほしい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Copyright Law of Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Copyright Law System.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

LAW300AB (法学 / law 300)

知的財産法Ⅱ

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち主要なもののひとつである特許法を一通り学ぶことを内容とする。特許法は基本的には民法の特別法と位置付けられるほか、特許権の発生には特許庁という行政庁が関係することもあり、私法・公法両面にわたり学習を進めた者がそれらの理解を活かしてさらに進んで学ぶべき応用的な科目と位置付けることができる。特に「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」における学習の最終段階において受講すべき科目のひとつである。

【到達目標】

特許法について制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後特許法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養すること、また、そのことを通じて、法的なものの考え方や法制度設計の技法を習得することが目標である。

より具体的には、第一に、特許法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、特許法が問題となる具体的な事例（紛争）について、特許法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の中核を担う法律のひとつである特許法について、産業の発達に寄与するためにどのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は出席票・メール・学習支援システムを通じて受け付けるほか、授業の前後に口頭でご質問いただいても構わない。フィードバックは個別に、あるいは次回授業の冒頭に全体に対して、行うこととしたい。期末試験に関しては、学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第2回	特許法の概要・権利の客体(1)	特許法の全体像、発明の定義（自然法則の利用要件）
第3回	権利の客体(2)・特許の要件(1)	発明の定義（その他の要件）、特許要件（新規性・進歩性）
第4回	特許の要件(2)	特許要件（先願・拡大先願など）
第5回	権利の主体(1)	発明者、特許を受ける権利、共同発明、冒認出願に対する救済など
第6回	権利の主体(2)	職務発明など
第7回	権利取得の手続	出願、出願公開、審査、補正など

第8回	審判・審決取消訴訟	各種審判及び審決取消訴訟の目的と概要
第9回	特許権(1)	特許権の内容・存続期間など
第10回	特許権(2)	特許権の制限、法定通常実施権など
第11回	特許権に関する取引	特許権の譲渡、専用実施権、通常実施権など
第12回	侵害と救済(1)	文言侵害・均等侵害・間接侵害など
第13回	侵害と救済(2)	抗弁事由、民事的救済など
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料（論文・裁判例等）を指定する場合があるので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、特許法の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『特許法〔第5版〕』（弘文堂、2023）、島並良ほか『特許法入門〔第2版〕』（有斐閣、2021）、愛知靖之ほか『知的財産法〔第2版〕』（有斐閣、2023）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は印刷したものを教室で配布するほか、学習支援システムからも利用できるようにする予定である。

【その他の重要事項】

民法（物権法、不法行為法など）や民事訴訟法、行政法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

特許法と著作権法とを比較しながら学習することによって、知的財産法の特徴をより深く学習することができるため、できれば春学期の「知的財産法Ⅰ」と連続で受講してほしい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Patent Law of Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Patent Law System.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

POL200AC（政治学 / Politics 200）

日本政治論Ⅰ

中嶋 一成

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昨年の衆院選で少数与党とはなったものの、55年体制確立後、一時期を除き、第1党であり続ける自民党を軸に、歴代政権の施策や長期政権を成り立たせる政権維持システムを検証するとともに、自民党と対峙する野党の在り方や有権者の投票行動などを取り上げ、現代の日本政治を理解するための基礎を学ぶ。政治という幅広い概念の中から、有権者として必要な知識を身につける

【到達目標】

民主主義は自覚を持った1人1人の国民によって成立するものであり、国民が主権者として存在できることが必要条件であることを再確認する。政治が「遠い存在」でも「誰かに任せておけばよいもの」でもなく、現代の政治が過去の主権者の「選択の結果」であることを意識し、自らの毎日の生活に多大な影響を与えていることを、知識に基づいて理解する。国政、地方政治を問わず、虚偽の情報や伝聞に惑わされず、先入観や固定観念も排し、何が真実なのかを論理的に自らの力で見極められるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とするが、諸感染症の状況や学生の希望なども考慮しながら、オンデマンドを含むオンラインによる授業とすることもありうる。シラバスをはじめ授業計画の変更などは、授業内で告知するとともに、学習支援システムに提示する。主要テーマや新聞に掲載された諸課題などに関して、計3つの課題の小レポートを求める。リアクションペーパーの毎回提出は必須としないが、氏名を伏した上で授業の中で取り上げることもありうる。授業の初めに、リアクションペーパーや提出された小レポートを取り上げ、講評や解説をする形でフィードバックさせる

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本政治の現状と課題	政治とは何か。現代日本の政治に求められているものは何か、欠落しているものは何か。浮かび上がる課題を考える
2	自民党の歴史	55年体制の誕生から現在に至るまでの自民党の歴史とともに、派閥や地方組織も含めた自民党の組織形態など、自民党に関する基礎知識を得る
3	政権運営①～個性	「列島改造論」の田中内閣、「クリーン」を掲げた三木内閣を例に、首相の個性が政権運営や政策などに与える影響を考える
4	政権運営②～ブレン政治	「戦後政治の総決算」を唱え、国鉄民営化などに取り組んだ中曽根内閣が多用した「ブレン」を使った政権運営を取り上げる
5	政権運営③～積み上げ	消費税の導入を例に、複数政権による政策実現過程を振り返る

6	政権運営④～官邸主導型	橋本内閣における「行政改革」、小泉内閣の「郵政民営化」、安倍内閣の「官邸官僚政治」を取り上げ、官邸主導型政治の利点ならび問題点を考える
7	自民党の政権維持システム①	政権維持のために構築してきたシステムの「伝統的手法」を取り上げる
8	自民党の政権維持システム②	予算措置を伴わない政権維持システムと連立政権の役割を掘り下げる
9	自民党の政権維持システム③	政権維持システムの限界と少数与党化における変容を分析する
10	野党	「批判ばかり」と揶揄される野党の役割は何か。現状とその課題を探る
11	政治と民意①	候補者たる政治家がどのように民意を得ようとするのか。報道機関が実施する世論調査やSNSによる世論形成にも触れつつ、有権者はいかに政党や候補者を選んでいるのか、を考察する
12	政治と民意②	民主主義では民意を反映する政治が求められる一方、迷惑施設の建設などで示されるような、民意と政治の方針の対立も起こりうる。政治は解決手段を持っているのか、を考える
13	政治と民意③	沖縄の米軍普天間飛行場の代替施設建設をめぐる住民投票や選挙結果を例に、示された民意と政治の関係性、ならびに、基本的知識の欠如や思い込み、根拠のない噂話によって形成される民意による「暴力」を検証する
14	試験・まとめと解説	授業全般を通して学習したことに関し試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々、新聞や雑誌、ネットの政治記事を読んで何が起きているかを把握し、自分なりに考察する。授業冒頭で起きている事象や課題について解説することもあり、学生の意見を求めることがある。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

毎回必ず使用する教科書はないが、新聞に掲載された問題に関して、授業や課題で取り上げることもあるため、新聞を読むことは必須

【参考書】

「ドキュメント 平成政治史1～5」（後藤謙次、岩波書店、2014年～2024年）
「戦後政治史 第4版」（石川真澄、山口二郎共著、岩波新書、2021年3月、1254円）
「平成政治史」（大嶽秀夫著、ちくま新書、2020年、1000円）
「自民党―「一強」の実像」（中北浩爾著、中公新書、2017年、880円）
「「江戸の選挙」から民主主義を考える」（柿崎明二著、岩波ブックレット、2023年、792円）
「現代日本政治入門」（新藤宗幸、阿部齋共著、東京大学出版会、2016年、3190円）
「戦う民意」（翁長雄志著、角川書店、2015年、1540円）
* 沖縄の米軍普天間飛行場移設問題に関して、あまり知識がない学生は必読。なお、電子版の入手は容易、1100円）

【成績評価の方法と基準】

3問の提出を求める課題ごとの小レポートで35%、講義内容を基礎にした期末試験が50%、講義への出席、リアクションペーパー提出を含む平常点が15%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを利用し、その後の授業に生かす

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

出席を取る。単位取得には①一定数以上の講義への出席②3問の小レポートの提出③授業内で行う期末試験の受講（ただし、所定の手続きを踏んだ場合の欠席は除く）の全てが必要となる。「課題の提出だけ」などでは単位は得られない。リアクションペーパーは、内容の採点はしないが、出席点に加味する。小職は共同通信社政治部で20年以上にわたり、政治取材を続け、ここ十数年は国政、地方選を問わず、どの候補者が当選するかを判断する総括責任者として主に選挙の現場から政治を見てきた。授業では日本の政治を体系的に俯瞰、分析するだけでなく、学生も有権者として政治の重要なアクターになることを踏まえ、渦中にある当事者の視点や気づき、学生との対話も交えながら授業を行う

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to help you acquire the knowledge you need as a voter from a wide range of political concepts.

We need to be aware that what makes democracy possible is not “politicians” or “activists,” but each individual citizen, and that it is essential for the people to be able to exist as the protagonists. Understand, based on knowledge, that politics is not a “distant entity” or “something that should be left to someone else,” but that it has a huge impact on daily life.

To this end, we will discuss the characteristics of the Liberal Democratic Party, which has almost monopolized the government since the establishment of the 1955 regime through the so-called conservative coalition in 1955, its system for maintaining power, movements of opposition parties, voting behavior of voters, and the actual state of election campaigns conducted by politicians. , learn the basics for understanding contemporary Japanese politics. In particular, from this year to next year, national elections for the House of Representatives and the House of Councilors will be held, so whether it is national or local politics, as a voter, it is important not to rely on groundless rumors or temporary emotions, but rather to act logically. Acquire the ability to think objectively.

Attendance is taken. To earn credits, students must: 1) attend a certain number of lectures; 2) submit three short reports; and 3) take a final exam in class (excluding absences that are not covered by the prescribed procedures).

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination: 50%、three times short reports : 35%、in class contribution(including re-action papers): 15%

POL200AC (政治学 / Politics 200)

日本政治論Ⅱ

藤田 直央

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治とは、私たちが目指す社会のあり方について合意を探り、実践する営みだ。民主主義の日本で有権者となった皆さんは、民意が投票結果へと変換されることで動いていく政治をどのように捉え、関わっていくのか。そうした所作を養うために、戦後から今日にかけての度重なる国政選挙を通じた「国民の選択」が、日本政治にどのような変化をもたらしてきたのかを学ぶ。対象の時期は主に、私が新聞記者になった1990年代以降。

【到達目標】

近年まで続いた歴代最長の安倍内閣と、野党の分断に象徴される自民党「一強」政権。それが生まれるに至った戦後政治の経緯と最近の動揺を、政権交代が繰り返された1990年代以降を中心に学んで理解する。節目節目の政治課題と選挙結果という「国民の選択」をたどることで、今の政治の動きや課題、日本にとって望ましい政治のあり方について考えを深められるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

2021年に開講して5年目になります。

授業前に課題資料を読み、講義・質問、授業後のリアクションペーパー提出というサイクルで進めます。授業の初めに前回のリアクションペーパーをいくつか取り上げてフィードバックします。新聞記者（朝日新聞編集委員）らしく取材経験を交えて話し、時事問題も「今週の政治の動き」といった形で説明します。第13回の授業では築地の朝日新聞社を見学します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに いま日本政治に何が起きているのか	昨年の衆院選で自民一強が崩れた背景。リアル政治を動かした始めたSNS。能登半島震災が問う政治の役割。授業の進め方も説明
2	敗戦～1980年代末	敗戦、主権回復を経て55年の自民結党から長期政権下の派閥抗争、腐敗から93年の下野へ
3	1990年代の激動	変転する政権。93年の非自民連立→94年の自社連立。今につながる選挙制度・政治資金改革
4	自公政権の源流	1998年参院選での自民敗北から99年、今も続く自公政権が発足
5	「自民党をぶっ壊す」	2001～06年の小泉内閣での官邸主導、劇場型政治
6	衆参ねじれ国会から政権交代へ	2006～09年に安倍（一次）、福田、麻生と内閣が転々。与党参院過半数割れで窮地に
7	民主党政権の混乱①	政権交代可能な二大政党制の追求の帰結。鳩山内閣の普天間問題での暗転

8	民主党政権の混乱②	菅内閣の東日本大震災対応。野田内閣の消費増税解散と民主党分裂
9	安倍内閣、歴代最長の理由①	1990年代の政治・行政改革が、小泉内閣や民主党政権を経て歴代最長の安倍内閣に至る
10	安倍内閣、歴代最長の理由②	日本政治最大のイベントである衆院解散とは何か。安倍内閣でどのように運用されたか
11	安倍内閣終焉とその後の混乱	安倍首相を退陣に追い込んだものは。コロナ対策に追われた菅内閣。安倍氏暗殺、旧統一教会問題、裏金問題に揺れた岸田内閣
12	朝日新聞社を見学	16時に築地の本社に集合。記事や新聞はどのようにつくられるか
13	崩れた「一強」自民	石破首相の解散による昨年の衆院選で自公過半数割れ。この夏の参院選を経て政治はどうなる
14	まとめ	期末レポートの課題も説明 講義改善のための反省会を兼ねて。期末レポートはこの日24時締め切り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習では毎回の授業に向け読むべき資料を新聞記事中心に示す。復習はリアクションペーパーの作成など。各1時間を標準とする。ほかおすすめとしては、現在進行形の課題に政府がどう対応しようとしているか、国会でどんな議論がされているかについて、新聞記事（ネット可）を読んで把握しておく。SNS等で関心を持った国会議員や政党の経歴、主張をウェブサイトなどでさらに掘ってみるのもいい。

【テキスト（教科書）】

必ず使う教科書はないが、参考書に挙げた本の中で新書はわかりやすいのでざっと目を通すことをおすすめする。

【参考書】

・自民党（北岡伸一、中公文庫、2008年、1026円）
 ・戦後政治史 第三版（石川真澄・山口二郎、岩波新書、2010年、940円）
 ・政権交代とは何だったのか（山口二郎、岩波新書、2012年、880円）
 ・「戦後保守」は終わったのか（日本再建イニシアティブ、2015年、860円）
 ・徹底検証 沖縄密約（藤田直央、朝日新聞出版、2023年、1650円）
 ・戦後日本政治史（境家史郎、中公新書、2023年、1056円）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとのリアクションペーパー（出席確認を兼ねて当日中）で60%、期末レポートで40%。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーをその後の授業に生かします。最後の授業では、学生たちからの意見をもとに授業の進め方の反省会もします。

【Outline (in English)】

By studying post-war Japanese political history, this course aims to understand that politics sets and realizes the goal of our society generally and to learn the basic contemporary issues of Japanese politics especially.

POL100AC（政治学 / Politics 100）

日本政治思想史 I

河野 有理

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本政治思想史I」：政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属します。江戸から明治にかけての政治思想史の流れについて、主要な思想家の議論の概要を押さえつつ、理解を深めていきます。

【到達目標】

現代日本においてたとえ「保守」的立場を標榜する人物といえども、江戸時代への「復古」を本気で主張することはほとんど想定できません。しかし、なぜなのでしょう。考えてみれば不思議なことです。この問いは、もちろん、日本にとって明治維新（明治革命）がいかなる意味を持ったのかという問いと深く結びついています。「維新」という言葉や明治維新についての通俗的イメージは広く流布していますが、明治維新を江戸の政治思想史からさかのぼって説明できる人は決して多くありません。なぜ明治維新は起きたのか。そしてそれにはどんな意味があったのか。説明してみたいとは思いませんか。この講義はそのための機会を提供することを目指しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、対面講義を想定しています。適宜、小レポートやアンケートの提出を求めることで双方向性を確保します。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の進め方や評価の方法について。
第2回	江戸時代とは何か	「名」と「身分」
第3回	武士について	軍人と「ならずものの道徳」
第4回	儒学について	東アジアのグローバル政治哲学
第5回	伊藤仁斎	儒学の日本化
第6回	新井白石	日本の儒学化
第7回	荻生徂徠（1）	「礼楽」の政治思想——方法、学問、言語
第8回	荻生徂徠（2）	「礼楽」の政治思想——アーキテクチュアによる支配
第9回	本居宣長（1）	「みやび」の（反）政治思想——方法・学問・言語
第10回	本居宣長（2）	「みやび」の（反）政治思想——「美」の逆説
第11回	海保青陵	「市場」の政治思想
第12回	横井小楠・吉田松陰	「危険思想」としての儒学
第13回	福澤諭吉（1）	「社交」の政治思想
第14回	福澤諭吉（2）	「愛国心」と「やせ我慢」について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、指定したテキストを通読し、講義の内容をよく復習しつつ、翌週の講義に臨むようにしてください。また、講義で紹介した史料、あるいはテキストに引用されている史料の原典に当たり、教員やテキスト執筆者の解釈のあらさがしをすることも望ましい授業外学習として推奨に値します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡辺浩『日本政治思想史 十七～十九世紀』（東京大学出版会、2010年）

【参考書】

荻部直『日本思想史への道案内』（NTT出版、2017年）
 原武史『日本政治思想史』（放送大学教材、2017年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）、小テスト・アンケートの提出状況（30％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

感染症の流行等に伴い講義形態の変更がありえますので、学生ポータルで最新の情報を入手するように注意してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to overview the history of Japanese political thought from 1600 to 1868, focusing on some Confucian Thinkers and Native-Learning(Kokugaku) thinkers.

POL100AC (政治学 / Politics 100)

日本政治思想史Ⅱ

河野 有理

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本政治思想史Ⅱ」：政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属します。近代日本の政治思想史について、主要な思想家の議論を概観しつつ、時に原典史料にあたり、その理解を深めていきます。

【到達目標】

「日本」とはいったい何でしょうか。それはいったいいかなるものであったのでしょうか、あるいはありえたのでしょうか。「これからどうすべきか」を論じるにあたり、しばしば「今までがどうであったのか」についてのイメージを持つことが重要になってきます。この講義では、近代日本に大きな影響を与えた思想家のなかでも特に「これまで日本がどうであったのか」を自らの立論の前提として重視している（ように見える）人々をとりあげ、彼ら（残念ながらすすべて男性なのですが、随時、同時代の女性の視点を導入して相対化する努力をしていきたいと思います）が提示する様々なる「日本」像について考えていきたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、対面講義を行う予定です。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	進行方法や成績評価について
第2回	福澤諭吉と田口卯吉	「文明論」の衝撃
第3回	植木枝盛と中江兆民	反〈上から目線〉の政治思想
第4回	徳富蘇峰と陸羯南	それでも〈上から目線〉の必要について
第5回	竹越三又と山路愛山	〈史論〉の復権
第6回	内村鑑三と新渡戸稲造	〈キリスト教 made in Japan〉の破壊力
第7回	高山樗牛と北村透谷	〈美的反逆〉の系譜
第8回	「国民道徳」と井上哲次郎	道徳憲法としての「教育勅語」とその新しさ
第9回	柳田国男と折口信夫	「民俗学」の登場：私たちは私たちのことをよく知っているのか？
第10回	和辻哲郎と津田左右吉	「日本」について改めて
第11回	権藤成卿と大川周明	〈偽史〉の政治学
第12回	「講座派」と三木清・戸坂潤	〈マルクス主義〉の降臨
第13回	京都学派	〈超克せよ〉と近代は言う
第14回	丸山眞男	〈作為せよ〉と近代は言う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、指定したテキストを通読し、講義の内容をよく復習しつつ、翌週の講義に臨むようにしてください。また、講義で紹介した史料、あるいはテキストに引用されている史料の原典にあたり、教員やテキスト執筆者の解釈のあらさがしをすることも望ましい授業外学習として推奨に値します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

荻部直『日本思想史への道案内』（NTT出版、2017年）

【参考書】

渡辺浩『日本政治思想史 十七～十九世紀』（東京大学出版会、2010年）
原武史『日本政治思想史』（放送大学教材、2017年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（90パーセント）、講義への積極的な貢献度（10パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

無し。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

感染症の流行等に伴い、講義形態の変更があります。学生ポータルサイトから最新情報の入手につとめてください。

【Outline (in English)】

This course is designed to overview the history of Japanese political thought from 1868 to 1945, focusing on various thinkers who tried to embrace "Western Impact" in various ways.

LAW200AB (法学 / law 200)

法律学特講 (知的財産法の今日的課題)**武生 昌士**授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では、知的財産法に関する諸問題のうち、著作権法・特許法・標識法以外のものの中から、その時々により重要と思われる課題を個別的に採り上げ、どのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例や関連する他の法制度にも触れながら学んでいく。

今年度も、近時その重要性をますます高めつつある営業秘密の保護を中心に採り上げる。雇用の流動性が高まりつつある今日、その反面として、退職従業員による営業秘密の流出といった案件を報道において目にする機会もまた多くなっている。営業秘密の保護は、知的財産法のひとつである不正競争防止法において規定されているものであるが、これは、市場において競争を行っている事業者のみならず、その従業員や役員といった個人にも関係してくる規律であるため、これについて一定の理解を身に付けておくことは、社会に出た際に少くない意義を有するものである。

この授業は、以上のような営業秘密に関する規律を中心に、不正競争防止法のうちのいくつかの規定等を学ぶことを目的とするものである。民法(不法行為法)や労働法を学んだ上での応用科目といった意味合いを有するが、情報の秘密管理といった事柄は幅広い分野に関連し得るため、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース(商法中心)」、「同(労働法中心)」などの各コースにおける学習の最終段階において受講すべき科目のうちのひとつとして位置付けられる。

【到達目標】

不正競争防止法における営業秘密の保護に関する規律などを中心に、関連する知的財産法上の規律について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後関連する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、第一に、営業秘密保護の規律などを理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、営業秘密保護などが問題となる具体的な事例(紛争)について、不正競争防止法を適用するとどのような帰結が導かれる(解決が図られる)こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、不正競争防止法における営業秘密の保護(及びデザイン保護に関する法制度等)をテーマとし、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は出席票・メール・学習支援システムを通じて受け付けるほか、授業前後に直接口頭で質問していただいても構わない。フィードバックは個別に、あるいは次回授業冒頭に全体に対して、行うこととしたい。期末試験に関しては、学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像に占める本講義の位置
第2回	営業秘密の不正利用(1)	不競法2条1項4～10号総説、営業秘密の定義(秘密管理性等)
第3回	営業秘密の不正利用(2)	営業秘密の定義(有用性、非公知性等)
第4回	営業秘密の不正利用(3)	不正利用行為
第5回	営業秘密の不正利用(4)	適用除外、救済手段など
第6回	営業秘密の不正利用(5)	営業秘密に関する問題演習、答案の書き方の解説など
第7回	限定提供データの不正利用	不競法2条1項11号～16号の概説
第8回	商品形態模倣行為の規律(1)	不競法2条1項3号の制度趣旨、保護の要件
第9回	商品形態模倣行為の規律(2)	保護の要件、適用除外
第10回	商品形態模倣行為の規律(3)	請求主体、救済手段など
第11回	意匠法概説(1)	登録意匠制度とは、意匠の定義
第12回	意匠法概説(2)	意匠の定義、登録要件
第13回	意匠法概説(3)	登録要件、意匠権・意匠権侵害概説など
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料や解いてくるべき課題などを出す場合があるので、取り組んだ上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、不正競争防止法等の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。詳細は開講時に改めて指示する。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第5版〕』(有斐閣、2010)、茶園成樹編『知的財産法入門〔第3版〕』(有斐閣、2020)、愛知靖之ほか『知的財産法〔第2版〕』(有斐閣、2023)、茶園成樹編『意匠法〔第2版〕』(有斐閣、2020)など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する(期末試験100%)。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の理解の度合いを見計らいながら授業を進めるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は印刷したものを教室で配布するほか、学習支援システムからも利用できるようにする予定である。

【その他の重要事項】

民法(特に不法行為法)や労働法、民事訴訟法、知的財産法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

【Outline (in English)】**【授業の概要 (Course outline)】**

This course covers the basics of Trade Secret Protection and Design Protection in Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Trade Secret Protection and Design Protection.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

POL200AC（政治学 / Politics 200）

ヨーロッパ政治思想史 I

犬塚 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパにおける政治学の歴史（政治学史）や、政治思想の歴史（政治思想史）を学びます。政治学の源流をたどることを通じて、政治や政治学について理解を深める科目です。この科目は、政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属する科目です。I は、古代からルネサンスまでを扱います。

【到達目標】

- ・政治学の基本（基本的な用語や考え方）を理解する。
- ・政治学史、ヨーロッパ政治思想史の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式。事前にオンライン配布する資料にもとづいて講義をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この授業の概要	政治思想史から政治学を学ぶ
第2回	日本の弥生時代にギリシアでは	古代ギリシアの民主主義の制度設計
第3回	幸福になるために必要なものはなにか	プラトン1（『ソクラテスの弁明』）
第4回	本当は「弱肉強食こそが自然の掟である」？	プラトン2（『ゴルギアス』）
第5回	優秀な人による政治か、みんなの政治か	プラトン3（『ポリテイア』）
第6回	どんな政治体制が安定するか（1）	アリストテレス1（『ニコマコス倫理学』）
第7回	野獣でも、神でも、機械でもない人間	アリストテレス2（『政治学』）
第8回	かつてサンデルブームがありました	アリストテレス3（『政治学』）
第9回	どんな政治体制が安定するか（2）	古代ローマの政治思想（ポリュビオス『歴史』）
第10回	神に仕えるか、王に仕えるか	政治思想としてのキリスト教
第11回	甦る古代思想	ルネサンスとマキアヴェッリ（1）
第12回	『君主論』は、やりたい放題のすすめ？	マキアヴェッリ（2）
第13回	理想社会（ユートピア）の構想	『ユートピア』と『太陽の都』
第14回	試験・まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業で紹介する古典をひとつでも読んでみるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しません。必要な資料は、学習支援システムを通じて配布します。資料配布については、初回の講義で説明します。

【参考書】

より詳しく学ぶための参考文献は、各回の授業で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（48％）、期末の授業内試験（52％）。各回の授業後に、学習支援システムのテスト機能を用いて、復習のための小テストを実施します。

【学生の意見等からの気づき】

高校で「世界史」を学んでいる必要はありません（これは「世界史」の授業ではなく、政治学を学ぶための一科目です）。できるだけわかりやすく授業をおこないます。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業後に、学習支援システムのテスト機能を用いて小テストを実施しますので、教室から学習支援システムにアクセスするための機器（スマートフォン、タブレット端末、パソコンなど）を持参する必要があります。

【Outline (in English)】

This class helps to clarify your understanding of politics and political science by studying the history of political theory and the history of political thought in Europe.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ヨーロッパ政治思想史Ⅱ

犬塚 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパにおける政治学の歴史（政治学史）や、政治思想の歴史（政治思想史）を学びます。政治学の源流をたどることを通じて、政治や政治学について理解を深める科目です。この科目は、政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属する科目です。Ⅱは、宗教対立から20世紀までを扱います。

【到達目標】

- ・政治学の基本（基本的な用語や考え方）を理解する。
- ・政治学史、ヨーロッパ政治思想史の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式。事前にオンライン配布する資料にもとづいて講義をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サタンは滅ぼすべし」	宗教対立の時代の始まり（ルター、カルヴァン、オトマン）
第2回	あの世の幸せか、この世の秩序か	ボダン
第3回	「みんな平等だから、独裁者が必要である」	イングランドの宗教対立1（ホブズ）
第4回	ケーキを平等に切り分けるためにはどうしたらよいか	イングランドの宗教対立2（ハリントン）
第5回	クーデタのすすめ（が自由主義の古典になった）	イングランドの宗教対立3（ロック）
第6回	「熱狂して熱くなるのは格好悪い」	18世紀の文明社会論（ヒューム）
第7回	「いまの社会は腐りきっている」	ジャン＝ジャック・ルソー
第8回	派閥と派閥争いをどうしたらよいか	革命の時代1（『フェデラリスト』）
第9回	理想主義を疑う	革命の時代2（『フランス革命の省察』と保守主義）
第10回	世間の圧力と戦う	19世紀の自由主義（トクヴィル、ミル）
第11回	社会主義・共産主義とはなんだったか	19世紀の社会主義（『共産党宣言』）
第12回	ユートピアの失墜	ディストピア論（オーウェル、ハクスリー）
第13回	民主主義という難問	20世紀初頭のデモクラシー論（リップマン、シュミット、ダール）
第14回	試験・まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業で紹介する古典をひとつでも読んでみるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しません。必要な資料は、学習支援システムを通じて配布します。資料配布については、初回の講義で説明します。

【参考書】

より詳しく学ぶための参考文献は、各回の授業で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（48％）、期末の授業内試験（52％）。各回の授業後に、学習支援システムのテスト機能を用いて、復習のための小テストを実施します。

【学生の意見等からの気づき】

高校で「世界史」を学んでいる必要はありません（これは「世界史」の授業ではなく、政治学を学ぶための一科目です）。できるだけわかりやすく授業をおこないます。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業後に、学習支援システムのテスト機能を用いて小テストを実施しますので、教室から学習支援システムにアクセスするための機器（スマートフォン、タブレット端末、パソコンなど）を持参する必要があります。

【Outline (in English)】

This class helps to clarify your understanding of politics and political science by studying the history of political theory and the history of political thought in Europe.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

福祉政策Ⅱ**荒木 千晴**授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。

日本の社会福祉制度は、対象者別に発展してきたが、現在「地域共生社会の実現」に向けて、地域を基盤に、社会福祉の各制度を包括化する方向で展開されている。

本授業では福祉政策の展開と論点を理解するとともに、近年の福祉政策を特徴づける包括的支援体制について検討する。また、海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴について理解を深める。

【到達目標】

- ・福祉政策が求められる背景にある社会問題を理解する。
- ・現在の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要を理解する。
- ・近年における福祉政策の展開を理解する。
- ・福祉政策の内容と実際について、複数のテーマにおける事例をもとに理解する。
- ・海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・福祉政策に関する基礎概念、政策、団体、海外の制度等、毎回中核となる主題をとりあげる。また、テーマに即した具体的な事例等を通じて、多角的・実践的な視点から福祉政策の理解をすすめる。
- ・なお、各回のリアクションを受け止めるため、専用のメールを開設する。このメールに質問、感想などを求め、理解度や疑問に対応しながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし /No**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要、注意事項、評価方法等を説明する。
第2回	福祉政策の展開	日本における福祉政策の歴史的な展開を理解する。
第3回	今日の社会問題と福祉政策	現代における社会問題を概括し、福祉政策に求められている論点について考える。
第4回	所得保障に関する福祉政策	所得保障に関する各制度の概要、生活保護、生活困窮者自立支援事業等の政策動向について理解する。
第5回	高齢者福祉政策	高齢者福祉に関する福祉政策について、介護保険や地域包括ケアシステムの概要・政策動向を理解する。
第6回	障害者福祉政策	障害者福祉政策について、障害者自立支援制度をはじめ制度の概要・地域の支援体制を理解する。
第7回	子ども家庭福祉政策	地域において子どもと家庭を支援する福祉政策について、概要・政策動向を理解する。

第8回	権利擁護に関する福祉政策	地域における権利擁護体制の推進について、成年後見制度の利用促進・意思決定支援等の政策を例に理解する。
第9回	社会的包摂に関する福祉政策	地域共生社会に向け、多文化共生や司法福祉など、社会的包摂の観点が求められる福祉政策の現状について理解する。
第10回	災害と福祉政策	災害時における福祉政策について、事例をもとに検討する。
第11回	地域福祉政策と包括的支援体制	包括的支援体制の構築の基盤となる地域福祉政策の展開、体制および地域福祉計画について、自治体の取組事例をもとに検討する。
第12回	福祉政策を推進する体制	福祉政策を推進するための各機関や人材等について理解し、各機関の連携・協働等今後の体制のあり方を考える。
第13回	海外の福祉政策	海外における福祉政策の展開との比較から、日本の福祉政策の特徴を理解する。
第14回	授業のまとめ、到達度確認（試験）	第13回までの授業を振り返り、授業のまとめを行う。到達度を確認する試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に提供した資料、記録をもとに復習を行うとともに、各回のテーマについて居住する自治体の情報やニュース等、福祉政策の実際に触れ、情報収集を行い、理解を深めることが推奨される。学習支援システムを通じて教材を事前配布した場合には、授業前に読んで検討しておくことが準備学習として求められる。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、学習支援システムを通じて教材の配布を行う。

【参考書】

- ・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「社会福祉の原理と政策」2021年、中央法規出版
 - ・小田 憲三他監修「社会福祉概論 第5版: 社会福祉の原理と政策」2021年、勁草書房
 - ・厚生労働省「地域共生社会のポータルサイト」：
<https://www.mhlw.go.jp/kyouseisyakaiportal/>
- その他の文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）、授業内リアクションペーパー（30％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度には授業内アンケートを受け、関心の高い分野における最新のトピックスを題材として扱うとともに、自治体等における具体的な福祉政策の展開事例を、映像等を用いて紹介を行っている。

【Outline (in English)】

This subject belongs to the "policy-oriented" field within the Department of Political Science courses.

Japanese social welfare system has been developed by the target groups. Currently, however, the system is being developed in the direction of making each social welfare system more inclusive, based on the community, toward the "realization of a regional inclusive society".

In this class, we will understand the development and issues of welfare policy and examine the comprehensive support system that characterizes recent welfare policy. In addition, we will deepen our understanding of the characteristics of Japanese welfare policy by comparing it with welfare policies in other countries.

Students will be Assessed by;

Written Exam 70%, Reaction Paper 30%

POL100AC（政治学 / Politics 100）

行政学 I

林 嶺那

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に日本を素材として、行政や官僚制の構造と機能の解説を行う。

【到達目標】

行政や官僚制の構造と機能に関する基本的なテーマを理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

行政や官僚制の構造と機能に関わる13のトピックを、1回の授業で1つずつ取り上げ、逐次解説を行う。授業は一般的な座学の形式をとる。授業の最後にコメントを回収し、次の回の冒頭でフィードバックを行う。学期の中間と最後に計2度の定期試験を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の狙いと方針について論じる。
第2回	官僚制①	官僚制の諸モデルについて論じる。
第3回	官僚制②	政官関係について論じる。
第4回	議院内閣制と大統領制	議院内閣制と大統領制の下での行政の位置づけについて論じる。
第5回	公務員制度とその運用	公務員の採用・昇進・配置について論じる。
第6回	省庁	日本の中央省庁を中心とした行政組織について論じる。
第7回	予算編成	予算の編成プロセスについて論じる。
第8回	地方自治①	地方自治の諸アクターについて論じる。
第9回	地方自治②	政府間関係について論じる。
第10回	政府と市場	政府と市場の関係性について論じる。
第11回	ガバナンス	統治をめぐるアクター間の関係性について論じる。
第12回	政策類型	政策の類型について論じる。
第13回	アジェンダ設定	アジェンダ設定の理論と実証について論じる。
第14回	政策決定	政策決定と合理性について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政に関する新聞、インターネット、テレビ、雑誌等の情報に接するように努力する。本授業の準備学習・復習時間は、教科書購読15分、新聞閲読毎日15分×7日＝115分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価4290円

曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価2970円

【成績評価の方法と基準】

①平常点（40％）

コメントを提出

各回のコメントを3段階で評価（おおむね2:6:2）

②期末試験（60％）

持ち込み不可

単語穴埋め問題、論述問題

【学生の意見等からの気づき】

前年度は受講者が300人ほどの多数に及び、学生相互のディスカッションを行うことが困難であった。その分、コメントに対する応答に時間を割くことで、一定の双方向性を担保することに努めた。今年度も、コメント対応に時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

新聞／雑誌を読む。

【Outline (in English)】

This class covers the structure and function of public administration and bureaucracy, based mainly on Japan.

POL100AC（政治学 / Politics 100）

行政学Ⅱ**林 嶺那**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に日本を素材として、行政や官僚制の構造と機能の解説を行う。

【到達目標】

行政や官僚制の構造と機能に関する基本的なテーマを理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

行政や官僚制の構造と機能に関わる13のトピックを、1回の授業で1つずつ取り上げ、逐次解説を行う。授業は一般的な座学の形式をとる。授業の最後にコメントを回収し、次の回の冒頭でフィードバックを行う。学期の中間と最後に計2度の定期試験を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の狙いと方針について論じる。
第2回	政策決定	利益・制度・アイディアについて論じる。
第3回	政策実施	第一線公務員論等の政策実施論について論じる。
第4回	政策評価	政策評価について論じる。
第5回	行政組織の研究系譜	行政組織をめぐる研究史について論じる。
第6回	マネジメントの公民比較	マネジメントに関する公民の異同について論じる。
第7回	人事行政①	モチベーションについて論じる。
第8回	人事行政②	リーダーシップ、チームワークについて論じる。
第9回	価値	行政組織が目指す価値について論じる。
第10回	組織文化	行政組織をめぐる組織文化について論じる。
第11回	組織変革	行政組織の変革について論じる。
第12回	行政と技術	行政における技術の導入と利用について論じる。
第13回	管理とパフォーマンス	行政管理とパフォーマンスの関係について論じる。
第14回	日本の行政システム	日本の行政システムの特徴について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政に関する新聞、インターネット、テレビ、雑誌等の情報に接するように努力する。本授業の準備学習・復習時間は、教科書購読15分、新聞閲読毎日15分×7日＝115分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価4290円

曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価2970円

【成績評価の方法と基準】

①平常点（40％）

コメントを提出

各回のコメントを3段階で評価（おおむね2:6:2）

②期末試験（60％）

持ち込み不可

単語穴埋め問題、論述問題

【学生の意見等からの気づき】

前年度は受講者が300人ほどの多数に及び、学生相互のディスカッションを行うことが困難であった。その分、コメントに対する応答に時間を割くことで、一定の双方向性を担保することに努めた。今年度も、コメント対応に時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

新聞／雑誌を読む。

【Outline (in English)】

This class covers the structure and function of public administration and bureaucracy, based mainly on Japan.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

マス・コミュニケーション論 I

郭 善英

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マス・コミュニケーションの特徴・役割など関する基本的な概念と理論を学び、実際行っているコミュニケーション、メディア現象をより分析的・批判的に考察できる能力を養う。

【到達目標】

- 1) マス・コミュニケーションに関する概念・理論を理解する。
- 2) 現代社会におけるマスコミュニケーションの役割・重要性を理解し、分析的・批判的に考察する。
- 3) 学習した理論・概念を現実のメディア・コミュニケーション現象に適用し、自分の意見・議論を共有する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に強く関連。「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 主に講義とケース分析を行い、ケース分析では最近話題になるメディア現象などを中心に紹介します。学生には自らのケース紹介およびディスカッション参加が求められます。
- 授業内容に応じて、意見・感想をワークシートに記入してもらったり、グループワークを行うことがあります。ワークシートは原則、授業当日中に提出してもらい、提出内容につきましては次回の授業中に解説を行い、意見・感想の内容はクラスで共有し議論します。
- レポートとテストは採点の後、学習情報システムにて返却します。
- 対面授業が難しい場合、Zoomによるリアルタイム授業を行い、出席できない学生には授業の録画を提供します。（事前相談必要）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要：マス・コミュニケーションとは？	授業の構成とマス・コミュニケーション論を学ぶ意義について紹介します。
2	マス・コミュニケーションの歴史と機能	マス・コミュニケーション、マス・メディアの歴史と関連概念の変遷について学びます。
3	表現の自由と規範理論	マス・メディアの在り方に関する規範理論を学びます。
4	2つのパラダイム(1)	コミュニケーション学の2大パラダイムの中、主流・伝統パラダイムを学びます。
5	2つのパラダイム(2)	マルクス主義に基づく批判的パラダイムを学びます。
6	ニュースの社会学	報道の過程に影響を及ぼす社会的要因を通じて、マス・メディアと社会の関係を考察します。
7	マス・コミュニケーションと民主主義	民主主義のためのメディアの役割について学びます。
8	【TOPIC】選挙とコミュニケーション	コミュニケーションと選挙の関係、日本の選挙報道における「公正性」について考察します。
9	オールド・メディアとニュー・メディア	インターネットなどニュー・メディアの特徴について学びます。
10	マス・コミュニケーション効果理論	マス・コミュニケーションの効果に関する理論を学びます。

11	オーディエンス論	批判的理論の伝統の中発展してきたオーディエンスに関する理論を学びます。
12	メディア倫理I	倫理問題が問われるケースから、倫理問題が発生する理由についてグループワークを行います。
13	メディア倫理II 【TOPIC】非常戒厳とメディア論	授業前半は、前回のグループワークを発表します。 後半には韓国で起こった非常戒厳事態を持って、これまで学習した内容を復習します。
14	期末テスト	オープンブック形式で、授業内容に基づき自分の意見を述べます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットニュースなど、メディア・コンテンツに接し、気になる現象、議論などを考えておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。

【参考書】

マクウェール、デニス(2010)『マスコミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

McQuail, Denis and Mark Deuze. 2020. McQuail's Mass Communication Theory. London: Sage.

スタンリー J. バラン、デニス K. デイビス (2007) 『マス・コミュニケーション理論—メディア・文化・社会』新曜社

Baran, Stanley J. and Dennis K. Davis. 2020. Mass Communication Theory: Foundations, Ferment, and Future. Oxford University Press.

大石裕 (2022) 『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

【成績評価の方法と基準】

授業参加 15%（出席・ワークシートなど）

テスト 40%（オープンブック形式）

期末レポート 25%

選挙報道課題 10%

メディア倫理グループワーク 10%

【学生の意見等からの気づき】

映画などの活用は学生から反応が良いし、良いコメント・議論にもなりますので引き続き活用します。前年度のグループワークから斬新で発展的な議論が出来たので、今年度も積極的に活用したいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces basic concepts and theories about the characteristics and roles of mass communication, in order to provide grounds on that students can develop analytical and critical viewpoints on communication and media phenomena.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

マス・コミュニケーション論Ⅱ

郭 善英

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マス・コミュニケーションⅠから学んだマス・コミュニケーション一般の概念・理論を元に、コミュニケーション学の具体的な分野の概念・理論を学び、周りのメディア・コミュニケーション現象を批判的に考察することを目的とする。

【到達目標】

1) コミュニケーション学の具体的な分野の概念・理論を理解する。
 2) 学習した理論・概念を現実のメディア・コミュニケーション現象に適用し、自分の意見・議論を共有する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に強く関連。「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 主に講義とケース分析を行い、ケース分析では最近話題になるメディア現象などを中心に紹介します。学生には自らのケース紹介およびディスカッション参加が求められます。
 - 授業内容に応じて、意見・感想をワークシートに記入してもらったり、グループワークを行うことがあります。ワークシートは原則、授業当日中に提出してもらい、提出内容につきましては次回の授業中に解説を行い、意見・感想の内容はクラスで共有し議論します。
 - レポートとテストは採点の後、学習情報システムにて返却します。
 - 対面授業が難しい場合、Zoomによるリアルタイム授業を行い、出席できない学生には授業の録画を提供します。（事前相談必要）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要・課題案内	授業で紹介するコミュニケーション学の分野について紹介し、期末プロジェクトのケース研究について案内します。
2	国際コミュニケーション：概念と理論 (1)	国境を越えて行われるコミュニケーション現象を語る理論の中、主流パラダイムの流れを学びます。
3	国際コミュニケーション：概念と理論 (2)	文化帝国主義など、国際コミュニケーションを語る批判的理論を学びます。展過程について学びます。
4	【TOPIC】 グローバル・オーディエンスとファン活動	海外のコンテンツを消費するオーディエンスについて学び、積極的なファン活動の様子とその影響力について議論します。
5	メディア・イベントと国際報道	海外の出来事を報道する国際報道の特徴を国際的なメディア・イベントを中心に議論します。
6	メディア産業	メディア産業の特徴を学びます。
7	グローバルメディア企業とローカル戦略	メディア企業のグローバル戦略について検討します。
8	広告と消費社会	現代社会における広告の役割と位置づけについて議論します。
9	【TOPIC】 フェイクニュース (1)	フェイクニュースに関する番組を視聴し、その原因と対策についてグループワークを行います。

10	【TOPIC】 フェイクニュース (2)	グループワークの結果を共有します。
11	子供とコミュニケーション	メディアが子供に及ぼす影響や子供のメディア表象、子供のメディア利用など、子供とメディアの関係を語る概念を学びます。
12	コミュニケーションと多様性	ジェンダー、人種、社会的マイノリティなど、コミュニケーションと多様性の問題について話します。
13	世界のメディア・システム	日本とは違う、海外のメディア・システムとその背景について学びます
14	期末テスト	オープンブック形式で、授業内容に基づき自分の意見を述べます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットニュースなど、メディア・コンテンツに接し、気になる現象、議論などを考えておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。

【参考書】

マクウェール、デニス(2010)『マスコミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

McQuail, Denis and Mark Deuze. 2020. McQuail's Mass Communication Theory. London: Sage.

スタンリー J. バラン、デニス K. デイビス (2007) 『マス・コミュニケーション理論 上—メディア・文化・社会

Baran, Stanley J. and Dennis K. Davis. 2020. Mass Communication Theory: Foundations, Ferment, and Future. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

授業参加 15%（出席・ワークシートなど）

テスト 50%（オープンブック形式）

レポート 25%

グループワーク（フェイクニュース） 10%

【学生の意見等からの気づき】

映画などの活用は学生から反応が良いし、良いコメント・議論にもなりますので引き続き活用します。前年度のグループワークから斬新で発展的な議論が出来たので、今年度も積極的に活用したいと思います。

【Outline (in English)】

With the foundation of the theories and concepts studied in Mass Communication I, this course introduces concepts and theories in specific fields of communication studies.

POL100AC (政治学 / Politics 100)

日本政治史 I

菊池 信輝

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代政治史研究を題材に、個々の受講者が近代日本像を自分なりに再構成し、現代日本を考察する際の歴史学的前提を得ることを目的とする。

【到達目標】

吉川弘文館『日本近代の歴史』（全6巻）、『岩波講座日本歴史』近代1～4巻等、近年の近代日本政治の通史的研究で得られた知見、論争点を理解し、現代日本の歴史的前提である近代日本政治の諸特徴を把握した上で現代日本政治について考察できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

- ①テーマとトピックを明示したレジュメに基づいて講義
- ②資料はレジュメで提示。映像資料も適宜使用
- ③適宜講師の見解も加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ——世界の中の明治維新	授業の目的・到達目標・成績評価方法などにつき説明。明治維新の世界史的意味を考える。
第2回	明治維新とは何だったのか	狭義の明治維新の過程について考える。
第3回	中央集権制国家の形成と困難	日本における近代国家形成の困難と特徴について考える。
第4回	地方自治制度と自由民権運動	近代日本の特徴の1つである地方制度および自由民権運動との関係について考える。
第5回	大日本帝国憲法の制定	大日本帝国憲法の形成過程とその特徴について考える。
第6回	維新期の日本社会の変容	近代日本の形成期の社会はどのように変化したのかについて考える。
第7回	大日本帝国憲法下の政党政治	日本近代における政党政治の成り立ちとその特徴について考える。
第8回	二つの近代戦争と帝国日本の形成	日清・日露戦争について考える。
第9回	近代日本政治体制の特徴	日清・日露戦争とそれが近代日本政治の形成に与えた影響について考える。
第10回	近代日本の社会問題	日露戦争後に噴出する日本の社会問題について考える。
第11回	戦間期の国際社会と日本1	第一次世界大戦から戦間期の日本政治、いわゆる大正デモクラシーについて考える。
第12回	戦間期の国際社会と日本2	普選体制と戦前期の二大政党制、および世界恐慌を契機とした日本政治の動揺について考える。

第13回	満州事変と日本政治	日本の政党政治と軍国主義化の一契機となったいわゆる満州事変の関係について考える。
第14回	日本における総力戦体制	いわゆる日中戦争勃発以降の日本における総力戦体制と太平洋戦争とその敗戦について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義レジュメを事前に学習支援システムに挙げておくので、事前学習に活用すること。講義後、学習支援システムにてリフレクション・ペーパーを課すので、次の講義までに答えること。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に用いない。

【参考書】

大津透、桜井英治、藤井譲治、吉田裕、李成市編『岩波講座 日本歴史』第15巻（近現代1）～第19巻（近現代4）、岩波書店、2013～2015年、『日本近代の歴史』（全6巻）吉川弘文館、2016～2017年。その他講義中に随時例示する。

【成績評価の方法と基準】

・評価方法：論述試験（85％）とリフレクション・ペーパー（15％）の総合評価

①リフレクション・ペーパー計15回

②論述試験（3題中1題を選択）。ノートとプリントのみ持ち込み可（コピー可）。審査するポイントは講義内容の把握（30%）、講義内容を把握した上での独自の意見の構築（40%）、論述力（15%）。

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度のため、他大学のアンケート結果をもとに、資料を必ず事前に配布するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

受講生は学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Based on the study of modern Japanese political history, Political history of Japan 1's aim is for each student to reconstruct the image of modern Japan in their own way and obtain historical perspective when considering modern Japan.

【Learning objectives】

The goal is to understand the findings and controversies obtained from the general historical research of modern Japanese politics in recent years, such as Yoshikawa Kobunkan's *History of Modern Japan* (6 volumes in total) and *Iwanami Lecture Japanese History* (Modern and Contemporary Volumes 1 to 4), and to be able to consider contemporary Japanese politics after grasping the characteristics of modern Japanese politics, which is the historical perspective of modern Japan.

【Learning activities outside of classroom】

The lecture resume will be listed in the learning support system in advance, so use it for prior study. After the lecture, the reflection paper will be assigned in the learning support system, so please answer by the next lecture.

【Grading criteria/policy】

Evaluation method: Comprehensive evaluation of the essay test (85%) and reflection paper (15%)

1 Reflection paper 15 times in total

2 Essay test (choose 1 out of 3 questions). Only notebooks and prints are allowed (copying is allowed). The key points to be reviewed are the understanding of the lecture content (30%), the construction of your own opinions (40%) based on the understanding of the lecture content, and the ability to discuss (15%).

POL100AC (政治学 / Politics 100)

日本政治史Ⅱ

菊池 信輝

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後日本政治の画期となったトピックについて、経済史や社会史、運動史も交えながら考察し、多面的に現代日本政治を理解することを目的とする。

【到達目標】

戦後日本政治の流れを理解するとともに、その背景にある企業社会や新自由主義に親和的な社会構造、平和憲法を抱くが故に特殊に日本的な国際関係を踏まえながら、今後の日本政治の行く末を考察できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

- ①テーマとトピックを明示したレジュメに基づいて講義
- ②資料はレジュメで提示。映像資料も適宜使用
- ③適宜講師の見解も加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ——戦前と戦後の連続・断絶	授業の目的・到達目標・成績評価方法などにつき説明。日本の戦前と戦後が連続しているのか断絶しているのかについて考える。
第2回	戦後改革と逆コース	日本の戦後改革期における変革と、米国の政策変更による影響について考える。
第3回	55年体制の形成	戦後日本の二大政党制（一荷二分の一政党制）の特徴について考える。
第4回	1960年の安保闘争と戦後体制の確立	戦後日本政治史の一題画期となった1960年の安保闘争について考える。
第5回	高度成長と労働運動の変質	高度成長にともなう日本政治の変質、その背景にあった労働運動の変質について考える。
第6回	後期高度成長期の社会問題	高度成長の弊害とそれを受けた日本政治について考える。
第7回	オイルショックと75春闘	1973年のオイルショックと、それを受けた1975年のインフレ率以下での賃上げ決定の持つ意味について考える。
第8回	新自由主義構想の噴出	石油ショック後に澎湃として起こってきたいわゆる新自由主義について考える。
第9回	日本の経済大国化と政治大国化の試み	日本が経済大国化した過程と、それが故に引き起こされた日本政治の変貌の試みについて考える。
第10回	93年政変と新自由主義	1993年におこった、自民党38年ぶりの下野と、非自民連立政権が持った意味について考える。

第11回	自民一民主の二大政党制時代1—小泉構造改革	自民党と民主党の二大政党制について、特に小泉純一郎政権が行った政治について考える。
第12回	自民一民主の二大政党制時代2—格差問題と政権交代	自民党と民主党の二大政党制について、特に民主党政権が行った政治について考える。
第13回	自民党政権の復活1—第二次安倍政権とポピュリズム	2012年に復活した自民党首班政権の特徴について考える。
第14回	自民党政権の復活2—自公連立政権の構造	第二次安倍政権以降の日本政治について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義レジュメを事前に学習支援システムに挙げておくので、事前学習に活用すること。講義後、学習支援システムにてリフレクション・ペーパーを課すので、次の講義までに答えること。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に用いない。

【参考書】

大門正克、大槻奈巳、岡田知弘、佐藤隆、進藤兵、高岡裕之、柳沢遊編『シリーズ高度成長の時代』《全3巻》大月書店、2010～2011年、安田常雄編、大串潤児、高岡裕之、西野肇、原山浩介編集協力、『シリーズ戦後日本社会の歴史』《全4巻》、岩波書店、2012～2013年、大津透、桜井英治、藤井譲治、吉田裕、李成市編『岩波講座 日本歴史』第18巻（近現代4）第19巻（近現代5）、岩波書店、2015年、菊池信輝『日本型新自由主義とは何か』岩波書店、2016年、増田弘編『戦後日本首相の外交思想——吉田茂から小泉純一郎まで』ミネルヴァ書房、2016年、年報日本現代史編集委員会編『年報日本現代史 第23号 新自由主義の歴史的射程』現代史料出版、2018年、その他講義中に随時例示する。

【成績評価の方法と基準】

・評価方法：論述試験（85％）とリフレクション・ペーパー（15％）の総合評価
 ①リフレクション・ペーパー計15回
 ②論述試験（3題中1題を選択）。ノートとプリントのみ持ち込み可（コピー可）。審査するポイントは講義内容の把握（30%）、講義内容を把握した上での独自の意見の構築（40%）、論述力（15%）。

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度のため、他大学のアンケート結果をもとに、資料を必ず事前に配布するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

受講生は学習支援システムを小マメにチェックするようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Japanese political history 2's aim is to understand modern Japanese politics in many aspects by examining the topics that became a groundbreaking period in post-war Japanese politics, including economic history, social history, and social movement history.

【Learning objectives】

Students will be able to understand the trend of post-war Japanese politics, and consider the future of Japanese politics while having a social structure that is so called “the corporate society” and friendly to neoliberalism behind it, and a specific Japanese international relations based on Japan's Peace Constitution.

【Learning activities outside of classroom】

The lecture resume will be listed in the learning support system in advance, so use it for prior study. After the lecture, the reflection paper will be assigned in the learning support system, so please answer by the next lecture.

【Grading criteria/policy】

Evaluation method: Comprehensive evaluation of the essay test (85%) and reflection paper (15%)
 1 Reflection paper 15 times in total

2 Essay test (choose 1 out of 3 questions). Only notebooks and prints are allowed (copying is allowed). The key points to be reviewed are the understanding of the lecture content (30%), the construction of your own opinions (40%) based on the understanding of the lecture content, and the ability to discuss (15%).

POL300AC（政治学 / Politics 300）

外国書講読（独語）Ⅰ

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハーバマスの『事実性と妥当性』第8章「市民社会および政治的公共圏の役割」から第3節「市民社会のアクター、公共的意見、コミュニケーション的権力」をドイツ語で読み、学術的なドイツ語の読解力を身につけ、政治哲学の議論に触れる。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。

政治哲学についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します（各回約2ページ進むことを目指します）。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

また内容について、各回教員が小さな議論を作ってきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション：今回扱う文献の紹介
第2回	第3節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第3回	第3節精読（第2回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第4回	第3節精読（第3回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第5回	第3節精読（第4回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第6回	第3節精読（第5回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第7回	第3節精読（第6回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第8回	第3節精読（第7回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第9回	第3節精読（第8回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第10回	第3節精読（第9回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第11回	第3節精読（第10回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第12回	第3節精読（第11回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第13回	第3節精読（第12回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Jürgen Habermas, Faktizität und Geltung (Suhrkamp, [1992]/1998), Abs. 8.1.
初回にコピーを配布します。

【参考書】

今回の文献には邦訳がすでにあります。

ユルゲン・ハーバマス（河上倫逸・耳野健二訳）『事実性と妥当性（下）』（未来社、2003年）

こちらを参照するのは自由です。

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』（三修社）

『大独和辞典』（小学館）

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します(100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読することはしません。

文法について考えるのみではなく、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。

文法書または文法教科書も、必ず持ってきてください。

（どちらも平常点の評価ポイントになります。）

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。（昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。）

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading Habermas's most recent work.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires 2 hours of preparation.

【Grading Criteria / Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

POL300AC (政治学 / Politics 300)

外国書講読 (独語) II

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ハーバマスの『事実性と妥当性』第8章「市民社会および政治的公共圏の役割」から第3節「市民社会のアクター、公共的意見、コミュニケーション的権力」をドイツ語で読み、学術的なドイツ語の読解力を身につけ、政治哲学の議論に触れる。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。

政治哲学についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します (各回約2ページ進むことを目指します)。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

また内容について、各回教員が小さな議論を作ってきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション：今回扱う文献の紹介
第2回	第3節精読 (春学期の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第3回	第3節精読 (第2回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第4回	第3節精読 (第3回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第5回	第3節精読 (第4回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第6回	第3節精読 (第5回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第7回	第3節精読 (第6回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第8回	第3節精読 (第7回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第9回	第3節精読 (第8回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第10回	第3節精読 (第9回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第11回	第3節精読 (第10回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第12回	第3節精読 (第11回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第13回	第3節精読 (第12回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Jürgen Habermas, Faktizität und Geltung (Suhrkamp, [1992]/1998), Abs. 8.3.
 初回にコピーを配布します。

【参考書】

今回の文献には邦訳がすでにあります。
 ユルゲン・ハーバマス (河上倫逸・耳野健二訳) 『事実性と妥当性 (下)』 (未来社, 2003 年)

こちらを参照するのは自由です。
 ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、
 『アクセス独和辞典』 (三修社)
 『大独和辞典』 (小学館)
 などを入手してください。
 文法書を所有していない人は、
 中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』 (白水社)
 などを持参してください。
 その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します (100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読することはしません。
 文法について考えるのみではなく、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。
 文法書・文法教科書も、必ず持ってきてください。
 (どちらも平常点の評価ポイントになります。)

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。(昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。)
 春学期の続きを読みますが、途中参加も可能です。

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading Habermas's most recent work.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires 2 hours of preparation.

【Grading Criteria /Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（こども行政と法）**村元 宏行**授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「行政・公共政策と法コース」に位置付けられています。

従来から、子どもをめぐる行政制度は縦割り行政の弊害等が指摘されてきました。このような中、2022年に「こども基本法」が公布され、こども家庭庁が創設されるなど、大きな変革が起こっています。

この授業では、以上の動向をふまえ、子どもをめぐる行政についてその概要と課題点を学んでいきます。

【到達目標】

子ども行政を考察する前提としての子どもの最善利益について理解している。

こども基本法とこども家庭庁について説明できる。

子ども行政を担っている国、地方自治体の諸機関について説明できる。

子ども行政をめぐる諸課題について自分なりの考察ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は対面を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第2回	子どもの最善の利益とは	子ども行政の理念としての、子どもの最善の利益について
第3回	こども基本法①	こども基本法制定の背景
第4回	こども基本法②	こども基本法の逐条考察（前半）
第5回	こども基本法③	こども基本法の逐条考察（後半）
第6回	こども家庭庁①	こども家庭庁創設の背景
第7回	こども家庭庁②	こども家庭庁の概要
第8回	国の子ども行政の課題	国の子ども行政をめぐる今後の課題
第9回	地方の子ども行政①	国と地方の役割分担について
第10回	地方の子ども行政②	地方自治体の子ども行政の実態
第11回	個別考察：子どもの貧困	子どもの貧困について、国、地方自治体、民間の役割等を考察する
第12回	個別考察：子ども虐待	子ども虐待について、行政の役割を考察する
第13回	個別考察：少子化	少子化について、政策と課題を考察する
第14回	まとめ	授業全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや関連文献による復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】**Course outline**

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the administration for Children and its background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the administration for Children and its background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200AB (法学 / law 200)		
法律学特講 (政策と法)		
高橋 彰		
授業形式：講義 開講セメスター：秋学期授業/Fall 単位数：2単位		
その他属性：〈優〉〈実〉		
【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】		
民主主義国家、また法治国家である日本では、私たちの生活の多くの事柄は法律と密接に関わっている。しかし、公共政策と一口に言っても、調査や補助金、法律に限らず政令や省令といった行政命令、自治体などの条例とさまざまな方法がとられる。法律の裏付けはもちろん重要な一方、法規制だけでは社会課題を解決することはできない。この授業では、最初に公共政策や政策形成、政治も含めた意思決定の基本を学んだ上で、様々な社会課題における「法」と「政策」それぞれの役割、その課題や限界について学ぶ。担当教員は官僚 (官)、議員秘書 (政)、大手広告代理店 (民)、大学院留学 (英国) ... と豊富な実務経験や海外経験を有しているため、国内外の実例なども交えながら、学生が幅広く知見を習得し、多角的に社会課題を分析する能力を獲得できるよう手助けする。		
【到達目標】		
①公共政策における法律と政策の内容、意義、役割について理解できる		
②社会課題について、雰囲気や大衆的な意見で考えるのではなく、法と政策の観点から分析し、解決策を見出す能力を得る		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。		
【授業の進め方と方法】		
授業は原則として教員作成の資料に沿って講義形式で行う。原則として講義形式だが、授業中、テーマを決めてグループディスカッションを行い、グループごとに簡単な発表を行う。「正解」がない問いに各学生が活発に意見交換することで他者の意見を尊重し、また刺激を受け合うことを目的とする。また、ディスカッション後に教員による解説やフィードバックを行う。		
なお、テーマに関連して、「第一線のプロに聞く」コーナーを設け、実社会で活躍する政治家、官僚、研究者、ビジネスパーソンのコメンタリーを紹介する場合がある。		
【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】		
あり /Yes		
【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1講	イントロダクション- 公共政策における「法」と「政策」とは？	①授業の全体像、②講義の進め方、③評価方法 ④「法と政策」を学ぶ意義などについてオリエンテーションを行う。 また、公共政策における「法」と「政策」の役割について概要を学ぶ
第2講	政策形成論①-政策形成過程と事前審査制	国の政策形成と立法過程、年間の政策形成スケジュールを知り、日本政治において重要な位置付けを占める事前審査制についても学ぶ。
第3講	政策形成論②-自民党政治と鉄の三角形	「世界で最も安定している」と言われた自民党の55年体制と派閥、鉄の三角形を学ぶ。また、関連して実際に「必要な」政治資金とは何か、その透明化についても学ぶ
第4講	政策形成論③-政策形成過程の日米比較	世界のリーダーでありながら、実は「国内では不自由」と言われるアメリカ大統領の行政リーダーシップ、立法過程、2大政党制について学び、日本の政策形成との比較を行うことで、理解を深める。
第5講	政策課題①-物価高と賃上げ政策	2025年春闘や最低賃金の動向、物価高の要因の分析、日本国内外での政策動向などの概要を学ぶとともに、法律では誘導できない賃上げの限界についても考察する。
第6講	政策課題②-“足りない日本” - 労働力不足 (2024年問題/2025年問題)は解消するか	従来から続く労働力不足 (2024年問題・2025年問題)に加え、厳格化される残業規制が続くことで影響を受ける産業 (医療機関や輸送業など) やその解決策を学ぶ。また、労働政策や残業規制 (労働法) についての基礎的知識を身につける。
第7講	政策課題③-「歓迎」か「排斥」か-先進国の移民・難民問題	人手不足解消によく言及される「移民の受け入れ」だが、欧州や欧米では移民排斥が相次ぐ。かつては移民を受け入れることで労働力不足を補った各国の現状や制度、歴史を紐解き、日本の技能実習制度も含めた課題を考える。また、難民の受け入れ問題についても、思いやりだけでは解決できない、先進国が悩む課題について学ぶ。
第8講	政策課題④-金融立国を目指す日本の課題	金融立国を目指そうとする日本の取組について学ぶ。英国などの金融先進国の失敗や、個人誘導型の規制緩和についても学ぶ。
第9講	政策課題⑤-変わる社会保障と制度概論	保険証廃止、運転免許証との統合といった技術的だが歴史的な変化に加え、「年取の壁」や社会保険の適用拡大などの制度変更が相次ぐ社会保障について、その制度と変化を学ぶ。その際、医療や年金、雇用保険の仕組みなど、政策の基礎や背景の考え方についても知り、知見を深める。
第10講	政策課題⑥-偽情報、情報戦、サイバーセキュリティ	選挙介入や世論操作、災害後の混乱増加など、様々な場面で用いられる偽情報について学ぶ。また、日本の技術を守る情報戦や、近年の「能動的サイバー防御」をはじめとした日本のサイバーセキュリティについて法的・政策的枠組みについても学ぶ。
第11講	政策課題⑦-地域創生と持続的な地域の発展	異次元の少子化対策や観光など、本来、各種の政策を担い、リードする役割を持つ「現場」である地域だが、「地域創生」は大きくフォーカスされてこなかった。他方で、「伸びる地域」、「伸びない地域」の明暗も分かれつつあり、人口増加のための「高付加価値型」産業への転換や、市民が「自分ゴトだ」と感じることで活性化に成功した事例など、国内外のケーススタディーから知見を深める。

第12講	政策課題⑧-異次元？ の子育て政策はどこ へ向かうのか	2024年から始まった異次元の少 子化・子育て政策について、法 律上の位置付けと、これまでの 政策の流れも含めた全体像を把 握し、将来を担う世代の育成 はどうあるべきかを考える。
第13講	ロビーイング実践-乳 児用液体ミルクの国 内解禁	特定の政策目的を達成するため に行われる「ロビーイング」に ついて、事例で学ぶ。本講では、 一人の主婦のアンケートから始 まった「赤ちゃんミルク」の日 本における解禁事例をケースス タディとして扱い、政策形成に おけるNGO、企業、行政、立法 それぞれの役割を学ぶ。
第14講	試験・まとめと解説	講義における基礎部分（政策形 成論）及び個別政策における共 通課題について振り返り、最終 試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回テーマについて、図書館やインターネットで概観を調べ、「気になること」や「自分の意見」を考えてくること(2h)。毎回授業後にミニテストに回答すること。また、加点要素として、任意で事後レポートを提出することができる(2h)。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

砂原他,「政治学の第一歩〔新版〕」,有斐閣,2020

各回に関連する資料を必要に応じて授業において配布するほか、テーマ別の参考書籍は各回において紹介する

【成績評価の方法と基準】

各回の授業後ミニテスト(40%), 最終試験(40%), 平常点(20%※)
※平常点は、クラスへの貢献(発言など)や授業後レポート(任意・加点要素)を加味。なお、授業態度が不良な場合、レポートや試験点などが高くとも、総合点を大幅に減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

万一オンラインにて行う場合に備えて、ZOOMが視聴できる環境。

【その他の重要事項】

事前に政治学などの基礎知識は不要である（基礎から理解できる内容とする）。

ただし、特に序盤は理論の解説が続くため、積極的に授業に参加する態度がないと、中盤以降の内容の理解が表層的になり、最終的に本講の到達目標に達しない（＝単位不認定になる）場合がある。

【実務経験のある教員による授業】

厚生労働省（I種法律職）で危機管理や省内統括部門を中心に勤務。退職後、英国グラスゴー大学で国際安全保障学修士号。帰国後、参議院議員秘書として、政策提言等に従事。直近はエジンバラ大学博士課程(中途退学)を経て、株式会社博報堂で大型公共事業の中核チーム等を担当。官・民・政での実務経験を担当科目に活かし、実践的教育を行っている。

【Outline (in English)】

In Japan, a democratic and rule-of-law-based country, many aspects of our daily lives are closely connected to legal frameworks. Public policy, however, is not limited to legislation and subsidies; it also involves various methods such as government ordinances, ministerial regulations, and municipal bylaws.

While a legal basis is undoubtedly crucial, legal regulations alone cannot resolve all social issues. In this course, students will first learn the basics of public policy, policymaking, and decision-making, including political processes. Following this, they will explore the roles, challenges, and limitations of both "law" and "policy" in addressing various social issues.

The instructor brings extensive practical and international experience, having worked in diverse fields such as government (bureaucracy), politics (as a parliamentary secretary), the private sector (major advertising agency), and overseas graduate studies in the United Kingdom. By incorporating real-world examples from both domestic and international contexts, the course aims to help students gain broad knowledge and develop a multifaceted perspective to analyze social issues.

LAW200AB (法学 / law 200)

外国書講読 (英語) I

石井 宏司

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、すべてのコースに属する科目である。本科目では、外国語の法律文献のうち、英語で書かれたものを読む能力を養う。そのために英語で書かれたアメリカの文献を精読する。

今回はアメリカの大学生向けの法律のシステムについての概説書を原文で読んでいく。授業ではこの本で取り上げられる様々な問題について日本の法律のシステムとの比較をしながら授業中で説明し議論する予定である。

授業において近年のアメリカ法で顕著に発達している West や Hein Online 等の法律データベースを利用して様々な発展的な学習をする予定である。

なお、本講義は毎年異なる部分を精読するので連続して履修してもよい。

【到達目標】

辞書を参照しながら、英語で書かれたアメリカの法律文献を正確に読み、その内容を理解することができる。

特に授業中に資料として渡す英語の専門用語については重要なものを覚えるようにしてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

アメリカの大学の学部生向けに書かれた、同国の法律のシステムについて解説している教科書から、An Introduction to the Legal System of the United States を読む予定。

毎回数ページ程度、参加者が予習したものを発表する形式とする。フィードバックは授業内に行う予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 輪読する文献の紹介
第2回	輪読	文献を読む① Part1 Historical Background(1)
第3回	輪読	文献を読む② Part1 Historical Background(2)
第4回	輪読	文献を読む③ Part1 Historical Background(3)
第5回	輪読	文献を読む④ Part7 Statute(1)
第6回	輪読	文献を読む⑤ Part7 Statute(2)
第7回	輪読	文献を読む⑥ Part7 Statute(3)
第8回	輪読	文献を読む⑦ Part8 Secondary Authority(1)
第9回	輪読	文献を読む⑧ Part8 Secondary Authority(2)
第10回	輪読	文献を読む⑨ Part8 Secondary Authority(3)

第11回	輪読	文献を読む⑩ Part9 Classification(1)
第12回	輪読	文献を読む⑪ Part9 Classification(2)
第13回	輪読	文献を読む⑫ Part9 Classification(3)
第14回	輪読	文献を読む⑬ 総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回指定される範囲を予習するとともに、復習も行う。予習では文法構造を把握し、法律用語を辞書で調べる。辞書はオリエンテーションで紹介する。復習では授業で重要であると指摘されたことを理解できているかどうかを確認する。本授業の準備学習時間は3時間を、復習時間は1時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

輪読する文献の該当箇所のコピーを配布する予定である。

【参考書】

E. Allan Farnsworth, An Introduction to the Legal System of the United States(4th ed. 2010).

【成績評価の方法と基準】

文献を読み、意味を正しく把握し、専門用語を正確に翻訳できるか、また、法的な文章として適切に翻訳を行えるかを基準として評価を行う。

予習において指定した範囲について授業で発表 (50%)

授業内において指定した箇所の翻訳の課題 (50%)

で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

輪読する予定の文献の英語については最初の方は特に歴史用語等法律以外の単語が出てくるのでその点で難しいことが想定される。ただし、予習・復習を行えば、理解できると考えられるので予習・復習の手助けとなるような助言を適切に行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業出席時にはインターネット上のウェブサイトや図書館のデータベース等を閲覧するのでPCやスマホ等を用意すること。

【Outline (in English)】

In order to enhance your linguistic ability to read English-language material on law, this course is designed to read US textbook such as E. Allan Farnsworth , An Introduction to the Legal System of the United States, Fourth Edition (4th ed, 2010, Oxford University Press) .

After completing this course, :

・ To be able to accurately read American law legal literature in English.; and

・ Understand their meanings.

It would be normal to spend 3 hours preparing for each coursework and to take 1 hour following up each class.

The final mark bases on work done during a course of study (100%).

LAW200AB (法学 / law 200)

外国書講読 (英語) II

石井 宏司

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、すべてのコースに属する科目である。本科目では、外国語の法律文献のうち、英語で書かれたものを読む能力を養う。そのために英語で書かれたアメリカの文献を精読する。

今回はアメリカの大学生向けの法律のシステムについての概説書を原文で読んでいく。授業ではこの本で取り上げられる様々な問題について日本の法律のシステムとの比較をしながら授業中で説明し議論する予定である。

授業において近年のアメリカ法で顕著に発達している West や Hein Online 等の法律データベースを利用して様々な発展的な学習をする予定である。

なお、本講義は毎年異なる部分を精読するので連続して履修してもよい。

【到達目標】

辞書を参照しながら、英語で書かれたアメリカの法律文献を正確に読み、その内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

アメリカの大学の学部生向けに書かれた、同国の法律システム等について解説している教科書である、An Introduction to the Legal System of the United States を読む予定。

毎回数ページ程度、参加者が予習したものを発表する形式とする。フィードバックは授業内に行く予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 輪読する文献の紹介
第2回	輪読	文献を読む① Part10 Procedure(1)
第3回	輪読	文献を読む② Part10 Procedure(2)
第4回	輪読	文献を読む③ Part10 Procedure(3)
第5回	輪読	文献を読む④ Part10 Procedure(4)
第6回	輪読	文献を読む⑤ Part10 Procedure(5)
第7回	輪読	文献を読む⑥ Part11 Private Law(1)
第8回	輪読	文献を読む⑦ Part11 Private Law(2)
第9回	輪読	文献を読む⑧ Part11 Private Law(3)
第10回	輪読	文献を読む⑨ Part11 Private Law(4)
第11回	輪読	文献を読む⑩ Part12 Public Law(1)
第12回	輪読	文献を読む⑪ Part12 Public Law(2)

第13回	輪読	文献を読む⑫ Part12 Public Law(3)
第14回	輪読	文献を読む⑬ 総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回指定される範囲を予習するとともに、復習も行う。予習では文法構造を把握し、法律用語を辞書で調べる。辞書はオリエンテーションで紹介する。復習では授業で重要であると指摘されたことを理解できているかどうかを確認する。本授業の準備学習時間は3時間を、復習時間は1時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。輪読する文献の複写物を配布する。

【参考書】

E. Allan Farnsworth, An Introduction to the Legal System of the United States (4th ed. Oxford University Press 2010).

【成績評価の方法と基準】

文献を読み、意味を正しく把握し、専門用語を正確に翻訳できるか、また、法的な文章として適切に翻訳を行えるかを基準として評価を行う。

予習において指定した範囲について授業で発表 (50%)

授業内において指定した箇所の翻訳の課題 (50%)
で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

輪読する予定の文献の英語については最初の方は特に歴史用語等法律以外の単語が出てくるのでその点で難しいことが想定される。ただし、予習・復習を行えば、理解できると考えられるので予習・復習の手助けとなるような助言を適切に行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業においては受講者が準備すべきものは、PCあるいはスマートフォンである。そのほかの用意すべき機器等については予め授業内で指定する。

宿題の提出においては Google Student 等のサービスを利用する予定であるため、PC 又はスマホ等が必要となる。なお、詳細については授業内で説明する。

【Outline (in English)】

In order to enhance your linguistic ability to read English-language material on law, this course is designed to read US textbook such as E. Allan Farnsworth, An Introduction to the Legal System of the United States, Fourth Edition (4th ed, 2010, Oxford University Press).

After completing this course, :

・ to be able to accurately read American law legal literature in English.; and

・ Understand their meanings.

It would be normal to spend 3 hours preparing for each coursework and to take 1 hour following up each class.

The final mark bases on work done during a course of study (100%).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ロシア政治史 I

油本 真理

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシア政治史」では主に20世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史Ⅰ」では、帝政末期からソ連期を経て現在に至るまでの通史を概観する。なお、本科目は「歴史・思想科目群」に属する。

【到達目標】

(1)ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2)政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。質問やコメントは授業の前後およびGoogleフォームで受け付け、次回授業の冒頭でフィードバックする。
※毎回の授業は対面形式で行うが、Zoomによるリアルタイム配信及び録画リンクの共有も実施する予定である。期末試験（授業内試験）は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、本講義の対象地域について
2	帝政期	「大改革」とその後
3	ロシア革命①	帝政の終焉とソ連政権の樹立
4	ロシア革命②	内戦と初期のソ連・ソ連建国
5	ソ連①	スターリン時代
6	ソ連②	大祖国戦争・後期スターリン時代
7	ソ連③	フルシチョフ時代
8	ソ連④	ブレジネフ時代
9	ソ連⑤	ペレストロイカとソ連の解体
10	現代ロシア①	エリツィン時代
11	現代ロシア②	第一次プーチン政権
12	現代ロシア③	「タンデム」期
13	現代ロシア④	第二次プーチン政権
14	まとめ	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

油本真理・溝口修平編『現代ロシア政治（地域研究のファーストステップ）』法律文化社、2023年。

【参考書】

栗生沢猛夫『図説ロシアの歴史増補新装版』河出書房新社、2014年。
和田春樹編『ロシア史（新版 世界各国史）』山川出版社、2002年。
川端香男里・佐藤経明編『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業に対するリアクション）（20%）、期末試験（80%）。

【学生の意見等からの気づき】

歴史をより身近に感じられるようにするため、可能な限り写真や映像を用いて授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will explore the history and politics of Russia. The first part of the course will be structured in a chronological order. The discussion topics will include causes and consequences of the Russian Revolution, characteristics of Soviet rule, collapse of the Soviet Union, regime change (including transition to market economy), and recent development of authoritarianism under Vladimir Putin. No prior knowledge of Russian history and politics is required.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to 1) explain Russian history and politics, and 2) apply various theories of political science to analyze the Russian case.

【Learning activities outside of classroom】

Read through the reference materials before class. After the class, review the lecture contents again for a better understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be based on the following:

Term-end examination: 80%, Reflection papers: 20%.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ロシア政治史Ⅱ

油本 真理

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシア政治史」では主に20世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史Ⅱ」では、様々なテーマを取り上げ、ソ連・ロシアの事例を他国の経験とも比較しながら検討する。なお、本科目は「歴史・思想科目群」に属する。

【到達目標】

(1)ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2)政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。講義内容へのリアクションおよび質問はGoogleフォームで受け付け、次回授業の冒頭でフィードバックする。
※毎回の授業は対面形式で行うが、Zoomによるリアルタイム配信及び録画リンクの共有も実施する予定である。期末試験（授業内試験）は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の進め方、取り上げるテーマについて
2	政治体制①	政治制度
3	政治体制②	政党
4	国家と社会①	選挙
5	国家と社会②	体制と市民
6	様々な政治主体①	宗教と政治
7	様々な政治主体②	軍・治安機関
8	国家と市場①	経済体制
9	国家と市場②	社会政策
10	民族と政治①	連邦制
11	民族と政治②	国民統合
12	ロシアと戦争①	戦争の歴史と記憶
13	ロシアと戦争②	核開発
14	まとめ	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

油本真理・溝口修平編『現代ロシア政治（地域研究のファーストステップ）』法律文化社、2023年。

【参考書】

松戸清裕・浅岡善治・池田嘉郎・宇山智彦・中嶋毅・松井康浩編『ロシア革命とソ連の世紀（全5巻）』岩波書店、2017年。
川端香男里・佐藤経明編『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業に対するリアクション）（20％）、期末試験（80％）。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへのフィードバックを重視し、双方向的な授業を心がける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will explore the history and politics of Russia. The second part of the course will be structured according to the relevant topics. The discussion topics will include political regime, state – society relationship, politics and economy, center – periphery relationships, and ethnicity and nationalism. In each class, we will try to focus on the continuity and discontinuity between the Soviet Union and present Russia.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to 1) explain Russian history and politics, and 2) apply various theories of political science to analyze the Russian case.

【Learning activities outside of classroom】

Read through the reference materials before class. After the class, review the lecture contents again for a better understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be based on the following:

Term-end examination: 80%, Reflection papers: 20%.

POL100AC (政治学 / Politics 100)			第4回		
政治過程論 I			1 続き ②政府の得意分野 ③政府はなぜ嫌われるか		
山口 二郎			世の中の前提条件を整える 様々なルールの必要性 力はなぜ必要か 共同体との対比 市場との対比 嫌われても必要な政府 自然の法則には逆らえない 何が自然で何が人工的なものか？ 当たり前を疑うところから民主主義が始まった ルールは常に公平か？ ルールと世の中の力関係 黙っているは無視される 絶対的ルールと相対的ルール 人間の多様性と 共存の必要性 どのように決めるのが望ましいのか 多数決はなぜ必要か 多数決の限界はどこにあるのか →法の支配と立憲主義 多数とは誰のことか？ = 誰が社会に境界線を引くのか？ 市民は選挙の時だけ自由（ルソー） 代表民主政治と直接民主政治 政治参加の様々な形態＝動くことの大切さ 権利を生かすこと 性悪説→ホッブズ、マキャヴェリの世界 権力と強制 性善説→アナーキズムとユートピア 人間の矛盾と限界 所与性の拒絶と理想の探求 理想主義の落とし穴 なぜ革命は裏切られるのか 懐疑的理想主義、楽観的現実主義の必要性 巨大社会と民主政治 メディアの必要性 イメージとステレオタイプ 判断における知性と感情 デマゴーグと民主主義 多数の専制と自己破壊的政治 世論の質をいかに担保するか 言葉の機能：約束と言葉 Double Think と New Speak わかりやすさと単純化 人はなぜ自己破滅的選択をするのか 民主政治を担う市民をいかに育てるか 地方自治 中間団体 直接的接触（コミュニケーション）と熟議 生きることはそれ自体が最高の価値 生きることは人それぞれ異なる 崇高な生き方を押しつけることの危うさ		
授業形式：講義 開講セメスター：春学期授業/Spring 単位数：2単位 その他属性：〈優〉			第5回		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この科目は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、現代の民主政治において政策が立案、決定、実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み、概念を理解することを目指す。			2 参加と民主主義 ①自然の法則と人工のルール ②誰が何のためにルールを決めるのか		
【到達目標】 現代政治の基本的な構図を理解すること。 テレビ、新聞等を通して伝えられる政治記事を読み解き、批判的に理解すること。 市民として政治に対する問題意識を持つこと。			第6回		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			2 続き ③多数決と民主主義		
【授業の進め方と方法】 基本的な枠組みとして、民主政治における主要なアクター（政党、官僚制、圧力団体、メディア）などの特徴と行動原理について説明する。さらに政治決定過程を分析するための理論枠組み（エリート支配、多元主義、政策コミュニティ）の概念について説明する。 具体的な問題として、これらのアクター分析や概念設定が戦後日本政治の文脈において、いかなる形をとって来たのかレヴューする。 1990年代以降の日本における様々な改革を取り上げ、それらが目指した課題、改革策の議論、決定、実施の過程を明らかにする。最後に、2009年に起こった政権交代の意義について考え、これからの日本の政党政治、民主主義の可能性を展望する。			第7回		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし /No			2 続き ④民主主義はどこにあるか		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No			第8回		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			3 人間の不完全性と民主政治 ①人間の本性をめぐって ②政治における理想と現実		
回 テーマ 内容			第9回		
第1回	はじめに	・今という時代	3 続き ③私たちはいかにして物事を知るか		
	政治学を学ぶことの意味	戦後日本的なるものの終わり 雇用と家族の変化 生きづらさの構図 ・学問が役に立つとはどういうことか 原発事故の教訓 批判的知性の必要性和学問の自由 専門知と一般知の関係 ・リスクの拡大とセキュリティの確保 →the last resortとしての政府 自発的秩序形成能力と自然状態 権	第10回		
第2回	はじめに2	・力の必要性 ・政治学とはどんな学問か 学問が役に立つとはどういうことか 実学思考の落とし穴 騙されることの責任 懐疑主義と理想主義	3 続き ④民主政治と衆愚政治 ⑤政治と言葉 ⑥市民教育と民主政治		
	政治とはいかなる活動か	共同体 市場 政府 それぞれの長所と短所	第11回		
第3回	1 政府とは何か ①問題解決の3つの方法		4 民主政治における重要な価値 ①生命		

第13回	4 続き ②自由	多様性と寛容＝権力・多数派からの自由 生産力の上昇と経済的自由の登場 自由の特権化と複数の自由の衝突 自由からの逃走 自を使うことの大切さ：メディア社会と自己抑制
第14回	4 続き ③平等	原初的平等のイメージ 自由の普遍化としての平等 平等と強制、画一化 自由と平等の緊張関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介された参考書をなるべくたくさん読む

毎日、新聞を読む

講義の前日までにパワーポイント資料を授業支援システムにアップするので、ダウンロードしておくこと

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口二郎 『今を生きるための政治学』（岩波書店）、2013年、

【参考書】

開講時にリストを配布する

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する

【学生の意見等からの気づき】

なるべく双方向的な議論の時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する

学習支援システムから資料を各自ダウンロードすること

【Outline (in English)】

1 Aim

This lecture aims at providing basic framework and concepts to understand the modern democracy. It also explains how democracy works and how we should engage in democratic politics.

2 Requirement

Students are required to read assigned articles, and submit an mid-term essay.

3 Grading

Grading will be made based on mid-term essay(30%) and term-end examination(70%).

POL100AC（政治学 / Politics 100）

政治過程論Ⅱ

山口 二郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、現代日本の民主政治の歴史的展開を理解し、そこにおいて政策が立案、決定、実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み、概念を理解することを目指す。

【到達目標】

現代政治の基本的な構図を理解すること。
テレビ、新聞等を通して伝えられる政治記事を読み解き、批判的に理解すること。
市民として政治に対する問題意識を持つこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

戦後日本政治を題材に、日本における民主政治の形成と展開についてまず歴史的な概観を試みる。第2次世界大戦の敗戦から2010年代までの70年の日本政治を、政治体制、政策、政党システムなどの政治学の概念を用いて解説する。

次に、政治学の分析概念を用いて、日本における政策形成過程を分析する。特に、1990年代以降の日本における様々な改革を取り上げ、それらが目指した課題、改革策の議論、決定、実施の過程を明らかにする。最後に、2009年に起こった政権交代の意義について考え、これからの日本の政党政治、民主主義の可能性を展望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1 戦後日本の政治体制 ①憲法制定過程	戦後日本の政治体制の基礎はいかに形成されたか
第2回	1 戦後日本の政治体制 体制をめぐる政治の展開	constitutional politics の日本的展開を分析する
第3回	1 戦後日本の政治体制 ②高度成長時代の政治	1960年代という転機を分析する
第4回	1 戦後日本の政治体制 経済成長と多元的政治過程	55年体制における政策形成の特徴を分析する
第5回	1 戦後日本の政治体制 ③戦後政治体制の動揺	1990年という転機を分析する
第6回	1 戦後日本の政治体制 90年代の政治過程	90年代の改革政治を分析する
第7回	1 戦後日本の政治体制 政権交代と日本政治	2009年の政権交代と10年代の政治を概観する

第8回	2 政治システムの改革 ①政治の循環システム	政治システムという概念の解説
第9回	2 政治システムの改革 ②入力システムの改革	政治参加のシステムをめぐる問題点と改革
第10回	2 政治システムの改革 ③変換システムの改革	変換システムとしての行政官僚制とその問題点
第11回	2 政治システムの改革 ④出力システムの改革	出力システムとしての官僚制とその問題点
第12回	2 政治システムの改革 中央地方関係の改革	出力システムとしての中央地方関係とその問題点
第13回	3 グローバル化と民主政治 ①グローバル化は何を変えたか	国家の衰弱と国家権力の強化リスクの巨大化
第14回	3 グローバル化と民主政治 ②民主主義は生き残れるか	先進国における民主政治の劣化現象をどう理解し、どのような対策を考えだすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際に使うパワーポイントの原稿を前日までに授業支援システムにアップするので、ダウンロードすること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口二郎『今を生きるための政治学』岩波書店、2013年
石川真澄、山口二郎『戦後政治史』岩波書店、2010年

【参考書】

開講時に文献リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験による。

【学生の意見等からの気づき】

双方向的な議論の機会を確保したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで講義資料を各自ダウンロードすること

【その他の重要事項】

政治過程論Ⅰを履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

1 Aim

This lecture aims at providing basic knowledge about post-war Japanese politics. It deals with the development of post-war Japanese politics, dynamics of policy process and participation. It also covers such current issues as deterioration of democratic politics in advanced countries.

2 Requirement

Students are required to read assigned articles and try to read recommended books as much as possible. Mid-term essay is requirement for credits.

3 Grading

Grading will be made based on mid-term essay(30%) and end-term examination.

LAW200AB（法学 / law 200）

民事手続法入門

安西 明子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民事紛争を解決するために裁判所で行われる手続のなかから、民事保全手続、民事訴訟手続（判決手続）、そして、民事執行手続のそれぞれの手続の基礎を理解する。

本科目は、入門として全てのコースに配置される。

【到達目標】

・具体的な民事紛争に対処するイメージをもちながら、訴え提起の準備から始まり、権利の実現に至るまでの一連の手続の流れを理解することができる。

・民事紛争を解決するために裁判所で行われる手続として、民事保全手続、民事訴訟手続（判決手続）、そして、民事執行手続のそれぞれの手続の意義・目的、流れ、仕組みを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民事紛争は、いつ何をきっかけに生じるかわからない。例えば、交通事故にあい、治療費がかかったが、加害者が損害を賠償してくれない、アルバイト先が給料を払わないといったことは、学生の皆さんのまわりでも起こりうることである。

本講義では、民事紛争を処理・解決するために用意されている様々な手段・手続の中から、裁判所で行われる訴訟手続を中心に扱う。具体的な事例を想定しながら、できる限り実際の紛争処理の流れに沿って解説していく。

授業外での質問には個別に対応するほか、必要に応じて、授業中に共有してコメントする。課題についてのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	民事手続法の世界へようこそ	ガイダンス
第2回	民事紛争と民事手続法	民事紛争を解決するために利用することができる手続を概観する。
第3回	民事裁判の特徴と概要	裁判所の組織、管轄、裁判官・書記官・弁護士など法廷の人々、民事裁判の大まかな流れを扱う。
第4回	訴え提起の準備／民事保全	訴えを提起する前に行われる準備、民事保全手続の意義・目的・流れと仕組みを扱う。
第5回	訴えの提起	訴えの提起、当事者を扱う。
第6回	訴えの種類と利益／訴訟物	給付・確認・形成の訴えの内容とそれぞれの利益、訴訟物の意義を扱う。
第7回	審理	審理、弁論主義、釈明権、口頭弁論の意義と内容を扱う。
第8回	争点整理手続	争点整理手続の意義・目的、種類と内容を扱う。
第9回	証拠調べ／証拠の収集	証拠、証明責任、証拠調べ、証拠の収集のために使われる手続を扱う。

第10回	訴訟の終了・判決	当事者による訴訟の終了、判決の意義と効力について扱う。
第11回	民事執行手続の概要	民事執行手続の意義・目的・流れと仕組みを扱う。
第12回	不動産執行	不動産執行の手続の流れを扱う。
第13回	動産執行・債権執行	動産執行・債権執行の手続の流れを扱う。
第14回	総括	第13回までの授業内容を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、講義で配布するレジュメを基に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・安西ほか『民事訴訟法・第3版』有斐閣ストゥディア 2023(4刷 2024年)

（下記の参考書のうち②をテキストとして使用しても良い）

毎回事前にテキストの参照箇所を示したレジュメを配布する予定。また、必要な資料等はレジュメに記載する。六法を持参し適宜参照できるようにすること。

【参考書】

民事訴訟の流れを理解するために早い時期に一読をお勧めするもの
①福永有利=井上治典『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣、2016年）

いわゆる民事手続法全般を網羅的に扱っているもの

②井上治典編『ブリッジブック民事訴訟法・第3版』（信山社、2022年）

③中野貞一郎『民事裁判入門〔第3版補訂版〕』（有斐閣、2012年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with the procedures, principles, and rules that courts in Japan use to resolve civil disputes. We will focus primarily on Civil procedure law and Debtor-creditor law.

Students are expected to understand the procedures, principles, and rules that courts in Japan use to resolve civil disputes. Before/after each class, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination 100%.

LAW200AB (法学 / law 200)

法律学特講 (英米法思想史)

金井 光生

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

主として、「文化・社会と法コース」との関連が深い授業です。
法思想史のうち、「英米系の法思想史」を概観します。

法も人間が「権利のための闘争」の中で生み出してきた共同の文化遺産である以上、人類の長い思想の物語 (narratives) に裏づけられています。

法の意義と意味を深く知り、より生産的な実定法解釈を実践するために、単なる思想の理解や知識の獲得を目的とするだけでなく、その現代日本法における意義も考えながら「自分で思索できる」ようになることを目指します。

英米法思想における先人たちの知恵に学びつつ、現代の私たちがどうしていくべきか、法・正義・人権などについて原理的に考えていきましょう。

「人は哲学を学ぶことはできない…ただ哲学することを学ぶうのみである」(カント『純粹理性批判』B866)。

【到達目標】

- (1) 基本的な論点を理解できる。
- (2) 主要な思想を「自分の言葉で」説明できる。
- (3) 諸思想を踏まえたうえで、現代日本法の考え方にアプローチできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教科書を前提に、レジュメ等を配布して「テキスト読解重視」の講義を行います。

授業内容は、主に「コモン・ロー主義と制定法主義」という図式の下で、(1) イギリス近代まで (2) アメリカ近代まで (3) 現代の英米法思想、を扱う予定です。

適時にリアクションペーパーやレポートを課すことで理解度を測り、その後の授業で、リアクションペーパーについては応答し、レポートについては講評することで、フィードバックします。

*授業計画はあくまで予定で、履修者や時間の関係等では変更する可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	英米法思想史を学ぶ意味と意義
第2回	英米法と英米法思想	コモン・ローと法思想
第3回	イギリスの自然法論と法実証主義①	E. クック vs. Th. ホップズ
第4回	イギリスの自然法論と法実証主義②	J. ロック vs. D. ヒューム
第5回	イギリスの自然法論と法実証主義③	W. ブラックストーン vs. J. ベンサム
第6回	イギリスの分析法学と歴史法学	J. オースティン vs. H. メイン
第7回	イギリス・アメリカの憲法思想①	マグナ・カルタ、権利章典、『ザ・フェデラリスト』など
第8回	イギリス・アメリカの憲法思想②	独立宣言、合衆国憲法、プラグマティズム法学など
第9回	現代英米正義論①	J. ロールズ
第10回	現代英米正義論②	R. ドゥオーキン、A. セン

第11回	現代英米正義論③	R. ノージック、M. サンドルなど
第12回	現代英米正義論④	H.L.A. ハート vs. R. ドゥオーキン
第13回	英米における現代の法思想の潮流	批判法学・フェミニズム法学など
第14回	まとめ：日本法の源流としての英米法思想	日本法思想との対話

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- (1) テキストとレジュメ・資料の指定範囲を予習・復習する。
 - (2) 下記の参考書を活用して、自分なりに補習する。
 - (3) 用語や関連する論点等を各自で図書館やデータベースを活用して調べる。
- *本授業の準備・復習時間は「4時間以上」を標準とします。

【テキスト (教科書)】

深田三徳ほか編著『よくわかる法哲学・法思想 (第2版)』(ミネルヴァ書房、2015年)

【参考書】

竹下賢ほか編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』(ミネルヴァ書房、2010年)

田中成明ほか『法思想史 (第2版)』(有斐閣、1997年)

中山竜一ほか『法思想史』(有斐閣、2019年) *オススメ

田中英夫『英米法のことば』(有斐閣、1986年)

大野達司ほか『近代法思想史入門』(法律文化社、2016年)

戒能通弘『近代英米法思想の展開』(ミネルヴァ書房、2013年)

金井光生『裁判官ホームズとプラグマティズム』(風行社、2006年)

中山竜一『二十世紀の法思想』(岩波書店、2000年)

田中英夫編集代表『英米法辞典』(東京大学出版会、1991年)

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」の達成の度合いに応じて評価します。

平常点およびリアクションペーパー (50%) + 期末試験またはレポート課題 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

レジュメ・資料等を改良した

【その他の重要事項】

「大陸法思想史」および「英米法」の科目も履修することを推奨します (年度により不開講の場合あり)。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We learn the history of Anglo- American legal ideas. And we think thoughtfully those ideas in comparison to Japanese legal ideas.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the basic issues and think them thoughtfully.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination or term-end report: 50 %, Short reports: 50 %.

LAW300AB (法学 / law 300)

行政組織法

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や都道府県・市町村などの行政主体が実際に行政活動をするには、大臣、副大臣、局長・部長・課長（室長）、徴収職員、知事・市町村長、副知事・副市町村長、消防吏員などの行政機関がなければならない。多数の行政機関の体系的な機構を行政組織という。その設置・名称・構成・所掌事務などを規律する法が、狭義の行政組織法である（以下、狭義の行政組織法を「行政組織法」という）。

行政機関は、行政主体のために行政事務を担当する自然人をその地位で捉えたものであり、その意味で観念的存在であって、そのため現実の行政活動の遂行には、行政主体のために働く自然人も必要である。その自然人のうち、行政主体と勤務関係にある者を公務員という。公務員を規律する法が、公務員法である。

また、行政活動の遂行には、庁舎・その土地、事務用品などの物品もなければならない。また、行政目的の達成には、道路・河川・保健所などの物的施設の提供・管理も不可欠である。これらの物品・物的施設のような、行政主体により直接に公の目的に供される有体物を公物という。公物に関する法が、公物法である。

行政組織法では、行政主体や行政機関の意義・種別、行政機関相互の関係なども検討されるが、これらは行政法入門でとりあげられているため、授業では、これらとの重複を避ける。学習するのは、現行法上の行政組織の編成であり、また、公務員法と公物法の概要である。それらの学びを通して、国や地方公共団体の抱える法的問題を把握したり、その法的問題に対処したりする能力を養ってほしい（行政・公共政策と法コース）。

【到達目標】

内閣・内閣府・外局などの、現行法上の行政組織の編成について説明することができる。

公務員の意義、種類、勤務関係、権利と義務について説明することができる。

公物の意義、種類、管理権、使用権について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。いわゆるハイフレックス授業の方式を採用する予定。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	行政組織法・公務員法・公物法のイメージと本授業での学び
第2回	行政組織法(1)	内閣
第3回	行政組織法(2)	内閣府
第4回	行政組織法(3)	省
第5回	行政組織法(4)	外局等
第6回	行政組織法(5)	地方公共団体の行政組織の編成
第7回	公務員法(1)	公務員の意義と種類 人事行政機関

第8回	公務員法(2)	勤務関係
第9回	公務員法(3)	公務員の権利
第10回	公務員法(4)	公務員の義務（職務専念義務、法令及び上司の命令に従う義務）
第11回	公務員法(5)	公務員の義務（争議行為等の禁止、政治的行為の制限など）
第12回	公物法(1)	公物の意義と種類
第13回	公物法(2)	公物管理権の主体と内容
第14回	公物法(3)	公共用物の使用関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

後掲の参考書のいずれかを用いて予習・復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、各回配布するレジメ等を使用する。

【参考書】

宇賀克也『行政法概説III〔第6版〕』（有斐閣、2024年）
塩野宏『行政法III〔第5版〕』（有斐閣、2021年）
藤田宙靖『行政組織法〔第2版〕』（有斐閣、2022年）
室井力編『新現代行政法入門（2）』（法律文化社、2004年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100％）が、感染症リスクの回避のため通学できない場合にはレポートによる（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

【学生が準備すべき機器他】

最新版の六法。これは毎回持参すること。また、学習支援システムの利用のために必要なPCあるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。感染症リスク回避のために通学できない場合にはさらに、(1) ZoomやWebexが利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するためのPDF閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader〔無料〕など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc、.docxの形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Wordなど）が必要となる。

【その他の重要事項】

この科目は行政法科目に該当する。あらかじめ行政法入門を履修したか、現に履修中であることが、科目での学びが効果的なものとなるため、望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to help you understand a contemporary composition of the executive branch, to provide an overview of law on civil service, and to sketch out law on tangible things used directly by public entities or made available to the public (about tangible things, see Art. 85 of the Civil Code).

After completing this course, you should be able to:

- ・ Explain a contemporary composition of the executive branch, such as the Cabinet, the Cabinet Office, the Ministry;
- ・ Explain a notion, sorts, and recruitment (including working conditions) of civil servants, and also spell out their rights and obligations;
- ・ Explain a notion and sorts of the tangible things used directly by public entities or made available to the public, and also expound public entities' power to administer them and individual rights to use them.

You should learn independently by reading your own reference book(s) in order to prepare for and/or review every class. The STANDARD time for preparation and review is 2 hours each.

Assessment for your comprehension is done by an end-of-term exam (100%). If you cannot attend school due to the impact of the COVID-19 infection, it is done by an essay using the 'Learning Management System [an internet-based system for learning]'.

LAW300AB (法学 / law 300)

都市法**西田 幸介**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市空間の利用を制御し都市空間の整備や保全を規律するのが都市法である。都市空間の利用は、私人だけでなく国や地方公共団体によっても行われる。都市空間の整備・保全は主として国や地方公共団体が行うが、私人がこれに関与することもある。この授業は、このような都市法について、できるだけ身近な問題を取り上げながら、検討することを目的とする。

具体的には、都市計画、開発規制、建築規制、土地収用、都市計画事業（土地区画整理、市街地再開発等）、都市問題に関連して生じる紛争の解決を取り上げる。いずれのテーマも、一見とすると、人の生活に直接関係がないように見える。しかし、各自が居住する地域を思い巡らせば容易に分かるように、個人の居宅、マンション、商店、オフィスビル、ショッピングセンターなどの建設は、日々、行われており、また、道路や公園の整備は個人の生活に深く関係する。この授業は、具体的には、これらの法律問題について検討するものである。

この授業の受講者は、都市法を学ぶことを通して、都市空間の利用を制御する法、都市空間の整備や保全を規律する法を修得し、また、それらの問題点を把握し、さらに、都市法を利用してよりよい生活環境を享受するためにいかなる行動をとるべきかを判断できるようになることを期待される。

なお、この科目は「行政・公共政策と法コース」に配当されている。

【到達目標】

- ①都市法と都市問題の関係について説明することができる。
- ②新たな建築を行う場合に当該建築物がどのような建築規制を受けることとなるかを調べ確認して説明することができる。
- ③都市計画の内容や決定・変更の手続について説明することができる。
- ④都市計画制限について説明することができる。
- ⑤土地収用について、事業認定や収用裁決の適否を含め、説明することができる。
- ⑥区画整理・再開発について、その仕組みやメリット・デメリット、それらに伴う紛争解決のあり方について、説明することができる。
- ⑦都市計画事業について、その概略を説明することができる。
- ⑧建築紛争や開発調整について、具体例を含めて、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、一般的な講義とし、対面（ハイフレックス）で実施する。学習支援システムとGoogleクラスルームを利用する。学習支援システムは授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Googleクラスルームを主として利用する。Googleクラスルームを通して、成績評価を含む必要事項を受講者に周知し、また、理解度確認のための小テストの実施（任意）とリアクションペーパーの提出（任意）に利用する。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことにより行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国土利用と都市法制（1）	都市問題と都市法 都市法とは何か
第2回	国土利用と都市法制（2）	国土利用計画法 都市計画法
第3回	国土利用と都市法制（3）	マスタープラン 都市計画提案制度
第4回	都市空間の制御（1）	開発と建築 開発規制
第5回	都市空間の制御（2）	建築基準法 建築物概念
第6回	都市空間の制御（3）	用途地域制
第7回	都市空間の制御（4）	建築物の高さ制限 日影規制
第8回	都市空間の制御（5）	道路に関する規制
第9回	都市空間の制御（6）	建築確認
第10回	都市空間の制御（7）	地区計画 建築協定
第11回	都市空間の形成（1）	土地収用の対象とプロセス
第12回	都市空間の形成（2）	土地収用と損失補償
第13回	都市空間の形成（3）	都市計画事業
第14回	都市空間の形成（4）	土地区画整理事業 市街地再開発事業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『都市法講義』（法政大学生協書籍部のみで販売）

【参考書】

- ・大橋洋一『都市法』（2024年、有斐閣）
- ・生田長人『都市法入門講義』（2010年、信山社）
- ・稲本洋之助・小柳春一郎・周藤利一『日本の土地法 第3版』（2016年、成文堂）
- ・確井光明『都市行政法精義Ⅰ』（2013年、信山社）、『都市行政法精義Ⅱ』（2014年、信山社）
- ・久保茂樹『都市法入門』（2024年、三省堂書店／創英社）
- ・逐条解説建築基準法編集委員会（編）『逐条解説建築基準法』（2012年、ぎょうせい）
- ・安本典夫『都市法概説 第3版』（2017年、法律文化社）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。ただし、今後とも授業改善に努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Googleクラスルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでの受講は推奨せず、それによって不都合が生じている受講者に特別の対応は実施しない。

【Outline (in English)】

Urban Law controls use of urban space and regulates maintenance and conservation of urban space. This course covers urban planning, development regulations, building regulations, land acquisition, and urban planning projects (land readjustment, urban redevelopment, etc.).

Students who take this course are expected to master legal method to resolve urban problems by Urban Law. They are also expected to become able to find what actions should be taken to enjoy a better living environment by Urban Law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report: 100%.

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅰ）

大原 利夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、社会保障法に関する基礎的知識と判断能力を得るために、貧困と児童虐待に関する諸問題を学びます。
この科目は、すべてのコースに属しています。

【到達目標】

学生は、ホームレス、貧困母子家庭、生活保護、児童虐待に関して、問題を抽出し、その解決策を提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面型の講義形式で行います。学生は、解説を聞き、また資料映像を見て、毎回、レポートを提出します。
レポートのフィードバックは、授業または学習支援システムにおいて全体に対して行います。
なお、教材のリニューアル等にもとない、授業内容・方法を修正する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	社会保障法のイメージ、授業の進め方、授業の受け方などについてシラバスに基づいて説明する。
第2回	導入	社会保障とボランティアの関係について扱う。
第3回	社会保障財政と貧困	社会保障財政の現状と貧困・所得格差について扱う。
第4回	水際作戦	生活保護の水際作戦と、姉妹孤立死について扱う。
第5回	女性と児童虐待	女性への児童虐待について扱う。
第6回	ガールズ・ブア	近年注目される女性の貧困について扱う。
第7回	被虐待児の保護	児童相談所の役割と里親について扱う。
第8回	母子家庭の貧困	母子家庭の貧困に焦点をあてて、銚子心中未遂事件などを扱う。
第9回	被虐待児への支援1	虐待を受けた子どもに対する自立支援の課題や取り組みなどを扱う。
第10回	10代の貧困	10代の貧困とその社会構造を考察する。
第11回	被虐待児への支援2	虐待を受けた子どもに対する自立支援の課題や取り組みなどを扱う。
第12回	ホームレス	現代のホームレスとその支援を扱う。
第13回	世界の貧困	世界の貧困の実態と支援の実践を扱う。
第14回	世界の所得格差	所得格差をグローバルに考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示に従って予習および復習をして下さい。
また授業の中で紹介した参考書等により、知見をさらに深めて下さい。
本授業の準備学習・復習時間は合計2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

本沢巳代子ほか『トピック社会保障法 第18版』（信山社、2024年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（レポート、質疑応答、受講態度）100％により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の仕方を工夫したいと思います。また、資料の用い方を工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、QRコードを読み取り、インターネット接続のできる端末、たとえばスマートフォン、iPadなどのタブレットなどが原則として必要となります。

【その他の重要事項】

質問は授業終了後またはメールにて受け付けます。

e-mail:toshio.oohara.tv@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This course introduces various problems of poverty and child abuse.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to gain rudimentary knowledge and Judgment ability of social security law, especially poor law and child abuse act.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be calculated according to the following process: Usual performance score 100%,

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅱ）**大原 利夫**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、社会保障法の基礎的知識と判断能力を得るために、主に障がい者福祉に関する諸問題を学びます。

この科目は、すべてのコースに属しています。

【到達目標】

学生は、特別支援学校、盲導犬、サリドマイド薬害、障がい者排斥思想、脳死、顔の異形、出生前診断等に関して、問題を抽出し、その解決策を提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面型の講義形式で行います。一部はオンデマンド授業で行います。学生は、解説を聞き、また資料映像を見て、毎回、レポートを提出します。

レポートのフィードバックは、授業または学習支援システムにおいて全体に対して行います。

また、教材のリニューアル等にもとない、授業内容・方法を修正する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスに基づき、授業の内容、すすめ方を説明する。
第2回	導入	社会保障法におけるボランティアと社会事業について考察する。
第3回	視覚障がい	盲導犬とペットを比較するかたちで、視覚障がいについて扱う。
第4回	福祉に携わる人びと	児童福祉の分野において功績を遺した澤田美喜を扱う。
第5回	介護労働	福祉の現場における介護人材について扱う。
第6回	特別支援学校	特別支援学校の分教室を取り上げて、障がい者と健常者の関係性について考察する。
第7回	顔の異形	顔のアザなど、顔の異形と障がいについて扱う。
第8回	T4作戦	障がい者への排斥思想を扱う。
第9回	障がいと薬害	サリドマイド薬害について扱う。
第10回	出生前診断	出生前診断と障がいについて扱う。
第11回	社会事業	民間部門としての社会事業について扱う。
第12回	死の判定基準	死に関する2つの判断基準と脳死について扱う。
第13回	高福祉社会と低福祉社会	高・低福祉社会について考えるために諸外国を扱う。
第14回	規制と変革	医療における規制とその変革を扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は不要です。指示に従って復習をして下さい。また授業の中で紹介した参考書等により、知見をさらに深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

本沢巳代子ほか『トピック社会保障法 第18版』（信山社、2024年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（レポート、質疑応答、受講態度）100％により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

資料の用い方を工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、QRコードを読み取り、インターネット接続のできる端末、たとえばスマートフォン、iPadなどのタブレットなどが原則として必要となります。

【その他の重要事項】

質問は授業終了後またはメールにて受け付けます。

e-mail:toshio.oohara.tv@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This course introduces various problems of disability welfare.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to gain rudimentary knowledge and Judgment ability of disability law.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be calculated according to the following process: Usual performance score 100%.

LAW200AB（法学 / law 200）

外国語講読（仏語） I

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の重要な政治・社会問題に関して、平易なフランス語で書かれていて読みやすいフランス公法のテキストを輪読することで、フランス語の翻訳・読解能力と現代フランス公法学そのものについての理解を深めるコースワーク科目である。今回はイギリスのEU離脱（Brexit）をめぐる憲法問題をフランス人憲法学者の目から分析する論文を輪読する。なお、本授業ではできる限り教師がすでに日本語に翻訳しているテキストを用い、したがって事前にこの翻訳も配布するので、フランス語法律原典に不慣れな学生であっても、容易に授業に参加できる。

【到達目標】

フランス語原典を読みこなす力を身に着ける。加えて、現代フランスの公法学の基礎を十分に理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

輪番制を採る。学生は割り当てられた部分のフランス語原典を翻訳し、報告する。教師は適宜、文法や訳語について解説を行う。加えて、参考書などを利用してテキストが扱うフランスの公法理論と政治思想についての解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方とローテーションの設定を行う。
第2回	フランス憲法学者から見たイギリス Brexitの法的側面に関する問題提起	テキスト序論の輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス公法学から学ぶことの意義について検討する。
第3回	Brexitが抱える矛盾の根源（1）	テキスト1頁後半を輪読してフランス公法学からのBrexit分析の意義について学ぶ。
第4回	Brexitが抱える矛盾の根源（2）	テキスト2頁前半を輪読してフランス公法学からのBrexit分析の意義について学ぶ。
第5回	Brexitが抱える矛盾の根源（3）	テキスト2頁後半を輪読してフランス公法学からのBrexit分析の意義について学ぶ。
第6回	Brexitに至るイギリス政治の分析（1）	テキスト3頁前半を輪読してBrexitの政治的背景をフランス語で学ぶ。
第7回	Brexitに至るイギリス政治の分析（2）	テキスト3頁後半を輪読してBrexitの政治的背景をフランス語で学ぶ。
第8回	Brexitに至るイギリス政治の分析（3）	テキスト4頁前半を輪読してBrexitの政治的背景をフランス語で学ぶ。
第9回	Brexitに至るイギリス政治の分析（4）	テキスト4頁後半を輪読してBrexitの政治的背景をフランス語で学ぶ。

第10回	レファレンダムと議会主権の分析（1）	テキスト5頁前半を輪読してイギリス型民主主義についてのフランス憲法の視点からの分析をフランス語で学ぶ
第11回	レファレンダムと議会主権の分析（2）	テキスト5頁後半を輪読してイギリス型民主主義についてのフランス憲法の視点からの分析をフランス語で学ぶ
第12回	レファレンダムと議会主権の分析（3）	テキスト6頁を輪読してイギリス型民主主義についてのフランス憲法の視点からの分析をフランス語で学ぶ
第13回	レファレンダムと議会主権の分析（4）	テキスト7頁を輪読してイギリス型民主主義についてのフランス憲法の視点からの分析をフランス語で学ぶ
第14回	レファレンダムと議会主権の分析（5）と前半のまとめ	テキスト8頁を輪読してイギリス型民主主義についてのフランス憲法の視点からの分析をフランス語で学ぶ。加えて最後に半年間を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各回の予定部分の仏語原文を各自で翻訳しておくこと。事後には、授業で示された翻訳内容と自己の翻訳とを照らし合わせて、よりよい仏語翻訳の技術を身に着けること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Julien Boudon, "Aspects juridiques du Brexit – Le point de vue d'un constitutionnaliste français", 2019. このテキストは、2019年春の日本における講演のための原稿であって公開されたものではない。受講者には、事前にコピーを配布する。加えて本講演については日本語訳（公開済み）も事前に配布する。

【参考書】

授業中、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

輪番で割り当てられた原典の翻訳内容（60％）と質疑その他の授業への積極的参加度（40％）

【学生の意見等からの気づき】

初歩のフランス語を学ぶ学生が多い場合、進度を遅らせて、フランス語の文法や法思想、政治思想の背景についての解説の時間を多くとることが必要だった。今後も学生の状況に応じて、進度については臨機応変に進める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Reading of some easy texts about the French public law.

【Learning Objectives】

The goal of this course is a learning of French language and French public law theories.

【Learning activities outside of classroom】

Students have to read and translate each part of text by oneself.

【Grading Criteria /Policy】

Quality of translation of the part of text assigned to the student (60%) and the active participation to the discussion (40%).

LAW200AB（法学 / law 200）

外国書講読（仏語）Ⅱ

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、現代の重要な政治・社会問題に関して、平易なフランス語で書かれていて読みやすいフランス公法のテキストを輪読することで、フランス語の翻訳・読解能力と現代フランス公法学そのものについての理解を深めるコースワーク科目である。今回は「法治国家とコロナ・パンデミック」についての論文を輪読する。なお、本授業ではできる限りすでに日本語に翻訳されているテキストを用い、したがって事前にこの翻訳も配布するので、フランス語法律原典に不慣れな学生であっても、容易に授業に参加できる。

【到達目標】

フランス語原典を読みこなす力を身につける。加えて、現代フランス公法学の十分な基礎知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

輪番制を採る。学生は割り当てられた部分のフランス語原典を翻訳し、報告する。教師は適宜、文法や訳語について解説を行う。加えて、参考書などを利用してテキストが扱うフランスの公法理論と政治思想についての解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方とローテーションの設定を行う。
第2回	序論（1）	テキスト1ページの輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス公法学から学ぶことの意義について検討する。
第3回	序論（2）	テキスト2ページの輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス公法学から学ぶことの意義について検討する。
第4回	第1章「自由への侵害によって動揺させられた法治国家」（1）	テキスト3ページの輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス公法学から学ぶことの意義について検討する。
第5回	第1章「自由への侵害によって動揺させられた法治国家」（2）	テキスト4ページの輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス公法学から学ぶことの意義について検討する。
第6回	第1章「自由への侵害によって動揺させられた法治国家」（3）	テキスト5ページの輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス公法学から学ぶことの意義について検討する。
第7回	第1章「自由への侵害によって動揺させられた法治国家」（4）	テキスト6ページの輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス公法学から学ぶことの意義について検討する。
第8回	第1章「自由への侵害によって動揺させられた法治国家」（5）	テキスト7ページの輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス公法学から学ぶことの意義について検討する。

第9回	第2章「新たな挑戦に直面する法治国家」（1）	テキスト8ページの輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス公法学から学ぶことの意義について検討する。
第10回	第2章「新たな挑戦に直面する法治国家」（2）	テキスト9ページの輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス公法学から学ぶことの意義について検討する。
第11回	第2章「新たな挑戦に直面する法治国家」（3）	テキスト10ページの輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス公法学から学ぶことの意義について検討する。
第12回	第2章「新たな挑戦に直面する法治国家」（4）	テキスト11ページの輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス公法学から学ぶことの意義について検討する。
第13回	第2章「新たな挑戦に直面する法治国家」（5）	テキスト12ページの輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス公法学から学ぶことの意義について検討する。
第14回	第2章「新たな挑戦に直面する法治国家」（6）及びまとめ	テキスト13ページの輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス公法学から学ぶことの意義について検討する。加えて本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各回の予定部分の仏語原文を各自で翻訳しておくこと。事後には、授業で示された翻訳内容と自分の翻訳とを照らし合わせて、より良い仏語翻訳の技術を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Jean-Marie Pontier, "L'Etat de droit, la gestion de la pandémie et l'après-Covid", 2023. このテキストは、2023年春に日本で行われたシンポジウムでの教授の報告のための原稿であって公開されたものではない。受講者には、事前にコピーを配布する。加えて本報告については日本語訳（未公開）があるので、これも事前に配布する。なお、適宜、フランス語の復習に役立つような仏文の抜粋のコピーも配布する予定である。

【参考書】

授業中、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

輪番で割り当てられた原典の翻訳内容（60％）と質疑その他の授業への積極的参加度（40％）

【学生の意見等からの気づき】

初歩のフランス語を学ぶ学生がいる場合は、進度を遅らせて、フランス語の文法や法思想、政治思想についての解説を行うことが必要だった。今後も学生の状況に応じて、進度については臨機応変に進める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Reading of some easy texts about the French public law.

【Learning Objectives】

The goal of this course is a learning of French language and French public law theories.

【Learning activities outside of classroom】

Students have to read and translate each part of text by oneself.

【Grading Criteria / Policy】

Quality of translation of the part of text assigned to the student (60%) and the active participation to the discussion (40%).

LAW300AB（法学 / law 300）

金融商品取引法 I

田中 綾

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

株式の取引などの金融商品取引の意義およびその法規制の必要性と概要等について理解することにより、企業を取り巻く法環境について問題を防止・解決するための基礎知識を身につけることを目標とする。

【到達目標】

金融商品取引に関する法の基礎知識を習得し、全体構造を理解する。金融商品取引に関する専門用語や法の趣旨・規範等を理解・説明でき、問題とその対策等を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・金融商品取引法に加えて、関連する会社法等の基礎知識等についても、時間が許す範囲で説明する。
 ・授業は、基本的に講義形式で行う。
 ・対面講義（14回中7回以上が対面で行われる講義）を原則とするが、履修者数やコロナの感染状況・政府や大学側の方針変更等によっては、オンライン講義に変更になることがある。また、数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。
 ・各回の講義形態・授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。
 ・講義資料の共有、授業に関する連絡等は、学習支援システムを通じて行う予定である。
 ・質問応答は、メールまたはサーバー等のITツールを用いて質問を集約して、類似の質問をまとめた上で、原則、授業中に返答することを検討している。質問方法に変更等がある場合は、授業または学習支援システムで連絡する。具体的な質問方法は初回イントロダクションで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の運営方法等
第2回	資金調達の方法	資金調達の方法としてどのようなものがあるかを説明する
第3回	会社の種類等	会社の種類等の次回以降の講義内容を理解するために必要な基礎知識について説明する
第4回	金融商品市場の基本的な仕組み等	金融商品市場の基本的な仕組み等の次回以降の講義内容を理解するために必要な基礎知識について説明する
第5回	金融商品取引法等の概要	金商法や会社法の目的・概要
第6回	金融商品取引法の適用範囲	有価証券・デリバティブ取引
第7回	有価証券の取引方法等	有価証券取引の仕組み等について説明する
第8回	企業内容等に関する開示規制	開示規制の概要
第9回	企業内容等に関する開示規制（発行開示規制）	発行開示規制の概要 発行開示規制が必要となる場合（募集・売出し）

第10回	企業内容等に関する開示規制（発行開示規制）	有価証券届出書等
第11回	企業内容等に関する開示規制（継続開示規制）	継続開示制度の概要 継続開示書類（有価証券報告書等）
第12回	企業内容等に関する開示規制（継続開示規制）	継続開示書類続き
第13回	企業内容等に関する開示規制	開示情報の正確性を確保するための制度 虚偽の情報開示を行なった者の責任
第14回	企業内容等に関する開示規制	虚偽の情報開示を行なった者の責任の続き 以上は予定です。多少前後します。発展的な内容等は後ろの方の回に回すことがあります。 時間が余った場合は株式や資金調達等の金融商品取引と関連する会社法等の講義かこれまでの復習等を行います。 授業計画に変更がある場合には、講義または学習支援システムで連絡します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習と復習時間は、各回予習1時間復習3時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回講義にて説明する。
 現在のところ以下を予定している。
 近藤光男・志谷匡史・石田眞得・鎌田薫子「基礎から学べる金融商品取引法」(成文堂)
 開講時最新版を推奨する。

【参考書】

初回講義にて説明する。
 現在のところ以下を予定している。
 飯田秀総「金融商品取引法（ライブラリ現代の法律学 B 16）」(新世社)
 神田秀樹・神作裕之編「金融商品取引法判例百選」(有斐閣)
 開講時最新版を推奨する。

【成績評価の方法と基準】

定期テスト100%で評価することを原則とする。
 コロナ感染状況や履修者数等により、成績評価方法が変更になる可能性があるが、その場合は授業でまたは学習支援システムから連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度のためなし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやzoom等にネットワーク経由でアクセスできるパソコンまたはpad等の情報機器

【その他の重要事項】

会社法もしくは会社法入門の講義を受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course provides an overview of the current legal system and practical issues regarding Financial Instruments and Exchange Act. This course will be taught in Japanese. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination(100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

金融商品取引法 I

田中 綾

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

株式の取引などの金融商品取引の意義およびその法規制の必要性と概要等について理解することにより、企業を取り巻く法環境について問題を防止・解決するための基礎知識を身につけることを目標とする。

【到達目標】

金融商品取引に関する法の基礎知識を習得し、全体構造を理解する。金融商品取引に関する専門用語や法の趣旨・規範等を理解・説明でき、問題とその対策等を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・金融商品取引法に加えて、関連する会社法等の基礎知識等についても、時間が許す範囲で説明する。
 ・授業は、基本的に講義形式で行う。
 ・対面講義（14回中7回以上が対面で行われる講義）を原則とするが、履修者数やコロナの感染状況・政府や大学側の方針変更等によっては、オンライン講義に変更になることがある。また、数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。
 ・各回の講義形態・授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。
 ・講義資料の共有、授業に関する連絡等は、学習支援システムを通じて行う予定である。
 ・質問応答は、メールまたはサーバー等のITツールを用いて質問を集約して、類似の質問をまとめた上で、原則、授業中に返答することを検討している。質問方法に変更等がある場合は、授業または学習支援システムで連絡する。具体的な質問方法は初回イントロダクションで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の運営方法等
第2回	資金調達の方法	資金調達の方法としてどのようなものがあるかを説明する
第3回	会社の種類等	会社の種類等の次回以降の講義内容を理解するために必要な基礎知識について説明する
第4回	金融商品市場の基本的な仕組み等	金融商品市場の基本的な仕組み等の次回以降の講義内容を理解するために必要な基礎知識について説明する
第5回	金融商品取引法等の概要	金商法や会社法の目的・概要
第6回	金融商品取引法の適用範囲	有価証券・デリバティブ取引
第7回	有価証券の取引方法等	有価証券取引の仕組み等について説明する
第8回	企業内容等に関する開示規制	開示規制の概要
第9回	企業内容等に関する開示規制（発行開示規制）	発行開示規制の概要 発行開示規制が必要となる場合（募集・売出し）

第10回	企業内容等に関する開示規制（発行開示規制）	有価証券届出書等
第11回	企業内容等に関する開示規制（継続開示規制）	継続開示制度の概要 継続開示書類（有価証券報告書等）
第12回	企業内容等に関する開示規制（継続開示規制）	継続開示書類続き
第13回	企業内容等に関する開示規制	開示情報の正確性を確保するための制度 虚偽の情報開示を行なった者の責任
第14回	企業内容等に関する開示規制	虚偽の情報開示を行なった者の責任の続き 以上は予定です。多少前後します。発展的な内容等は後ろの方の回に回すことがあります。 時間が余った場合は株式や資金調達等の金融商品取引と関連する会社法等の講義かこれまでの復習等を行います。 授業計画に変更がある場合には、講義または学習支援システムで連絡します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習と復習時間は、各回予習1時間復習3時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回講義にて説明する。
 現在のところ以下を予定している。
 近藤光男・志谷匡史・石田真得・鎌田薫子「基礎から学べる金融商品取引法」(成文堂)
 開講時最新版を推奨する。

【参考書】

初回講義にて説明する。
 現在のところ以下を予定している。
 飯田秀総「金融商品取引法（ライブラリ現代の法律学 B 16）」(新世社)
 神田秀樹・神作裕之編「金融商品取引法判例百選」(有斐閣)
 開講時最新版を推奨する。

【成績評価の方法と基準】

定期テスト100%で評価することを原則とする。
 コロナ感染状況や履修者数等により、成績評価方法が変更になる可能性があるが、その場合は授業でまたは学習支援システムから連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度のためなし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやzoom等にネットワーク経由でアクセスできるパソコンまたはpad等の情報機器

【その他の重要事項】

会社法もしくは会社法入門の講義を受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course provides an overview of the current legal system and practical issues regarding Financial Instruments and Exchange Act. This course will be taught in Japanese. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination(100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

金融商品取引法Ⅱ**田中 綾**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

株式の取引などの金融商品取引の意義およびその法規制の必要性と概要等について理解することにより、企業を取り巻く法環境について問題を防止・解決するための基礎知識を身につけることを目標とする。

【到達目標】

金融商品取引に関する法の基礎知識を習得し、全体構造を理解する。金融商品取引に関する専門用語や法の趣旨・規範等を理解・説明でき、問題とその対策等を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・金融商品取引法に加えて、関連する会社法等の基礎知識等についても、時間が許す範囲で説明する。
- ・授業は、基本的に講義形式で行う。
- ・対面講義（14回中7回以上が対面で行われる講義）を原則とするが、履修者数やコロナの感染状況・政府や大学側の方針変更等によっては、オンライン講義に変更になることがある。また、数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。
- ・各回の講義形態・授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。
- ・講義資料の共有、授業に関する連絡等は、学習支援システムを通じて行う予定である。
- ・質問応答は、メールまたはサーバー等のITツールを用いて質問を集約して、類似の質問をまとめた上で、原則、授業中に返答することを検討している。質問方法に変更等がある場合は、授業または学習支援システムで連絡する。具体的な質問方法は初回イントロダクションで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の運営方法等
第2回	企業支配に関する開示制度	公開買付規制（公開買付けの概要・強制的公開買付け）
第3回	企業支配に関する開示制度	公開買付規制（公開買付けの開示規制等）
第4回	企業支配に関する開示制度	大量保有報告制度
第5回	企業支配に関する開示制度	委任状勧誘規制
第6回	不公正な取引の規制	包括的規定・インサイダー取引規制等
第7回	不公正な取引の規制	インサイダー取引規制等
第8回	不公正な取引の規制	相場操縦等
第9回	資金調達等	株式や募集株式の発行等の概要・手続等の金融商品の取引と関連する会社法等の制度について説明する
第10回	資金調達等	募集株式の発行等の瑕疵等の金融商品の取引と関連する会社法等の制度について説明する

第11回	資金調達等	新株予約権の概要等の金融商品の取引と関連する会社法等の制度について説明する
第12回	資金調達等	新株予約権の発行手続等の関連する会社法等の制度について説明する
第13回	資金調達等	新株予約権の発行の瑕疵等の関連する会社法等の制度について説明する
第14回	資金調達等	社債等の関連する会社法等の制度について説明するか、または、これまでの復習等を行う。 以上は予定です。多少前後します。発展的な内容等は後ろの方の回に戻すことがあります。授業計画に変更がある場合には、講義または学習支援システムで連絡します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習と復習時間は、各回予習1時間復習3時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回講義にて説明する。
 現在のところ以下を予定している。
 近藤光男・志谷匡史・石田眞得・鎌田薫子「基礎から学べる金融商品取引法」(成文堂)
 開講時最新版を推奨する。

【参考書】

初回講義にて説明する。
 現在のところ以下を予定している。
 飯田秀総「金融商品取引法（ライブラリ現代の法律学 B 16）」(新世社)
 神田秀樹・神作裕之編「金融商品取引法判例百選」（有斐閣）
 開講時最新版を推奨する。

【成績評価の方法と基準】

定期テスト100%で評価することを原則とする。
 コロナ感染状況や履修者数等により、成績評価方法が変更になる可能性があるが、その場合は授業でまたは学習支援システムから連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度のためなし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやzoom等にネットワーク経由でアクセスできるパソコンまたはpad等の情報機器

【その他の重要事項】

会社法もしくは会社法入門の講義を受講することが望ましい。
 金融商品取引法Ⅰを履修していることを前提として授業を行う。金融商品取引法Ⅰの未履修者に対して特段のフォローは行わないため、未履修者は教科書等で自習が必要である。

【Outline (in English)】

This course provides an overview of the current legal system and practical issues regarding Financial Instruments and Exchange Act. This course will be taught in Japanese. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination(100%).

LAW300AB（法学 / law 300）		
金融商品取引法Ⅱ		
田中 綾		
授業形式：講義 開講セメスター：秋学期授業/Fall 単位数：2単位		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 株式の取引などの金融商品取引の意義およびその法規制の必要性と概要等について理解することにより、企業を取り巻く法環境について問題を防止・解決するための基礎知識を身につけることを目標とする。		
【到達目標】 金融商品取引に関する法の基礎知識を習得し、全体構造を理解する。金融商品取引に関する専門用語や法の趣旨・規範等を理解・説明でき、問題とその対策等を把握する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
【授業の進め方と方法】 ・金融商品取引法に加えて、関連する会社法等の基礎知識等についても、時間が許す範囲で説明する。 ・授業は、基本的に講義形式で行う。 ・対面講義（14回中7回以上が対面で行われる講義）を原則とするが、履修者数やコロナの感染状況・政府や大学側の方針変更等によっては、オンライン講義に変更になることがある。また、数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。 ・各回の講義形態・授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。 ・講義資料の共有、授業に関する連絡等は、学習支援システムを通じて行う予定である。 ・質問応答は、メールまたはサーバー等のITツールを用いて質問を集約して、類似の質問をまとめた上で、原則、授業中に返答することを検討している。質問方法に変更等がある場合は、授業または学習支援システムで連絡する。具体的な質問方法は初回イントロダクションで説明する。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の運営方法等
第2回	企業支配に関する開示制度	公開買付規制（公開買付けの概要・強制的公開買付け）
第3回	企業支配に関する開示制度	公開買付規制（公開買付けの開示規制等）
第4回	企業支配に関する開示制度	大量保有報告制度
第5回	企業支配に関する開示制度	委任状勧誘規制
第6回	不公正な取引の規制	包括的規定・インサイダー取引規制等
第7回	不公正な取引の規制	インサイダー取引規制等
第8回	不公正な取引の規制	相場操縦等
第9回	資金調達等	株式や募集株式の発行等の概要・手続等の金融商品の取引と関連する会社法等の制度について説明する
第10回	資金調達等	募集株式の発行等の瑕疵等の金融商品の取引と関連する会社法等の制度について説明する
第11回	資金調達等	新株予約権の概要等の金融商品の取引と関連する会社法等の制度について説明する
第12回	資金調達等	新株予約権の発行手続等の関連する会社法等の制度について説明する
第13回	資金調達等	新株予約権の発行の瑕疵等の関連する会社法等の制度について説明する
第14回	資金調達等	社債等の関連する会社法等の制度について説明するか、または、これまでの復習等を行う。 以上は予定です。多少前後します。発展的な内容等は後ろの方の回に回すことがあります。授業計画に変更がある場合には、講義または学習支援システムで連絡します。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の予習と復習時間は、各回予習1時間復習3時間以上を標準とする。		
【テキスト（教科書）】 初回講義にて説明する。 現在のところ以下を予定している。 近藤光男・志谷匡史・石田眞得・鎌田薫子「基礎から学べる金融商品取引法」(成文堂) 開講時最新版を推奨する。		
【参考書】 初回講義にて説明する。 現在のところ以下を予定している。 飯田秀総「金融商品取引法（ライブラリ現代の法律学 B 16）」(新世社) 神田秀樹・神作裕之編「金融商品取引法判例百選」（有斐閣） 開講時最新版を推奨する。		
【成績評価の方法と基準】 定期テスト100%で評価することを原則とする。 コロナ感染状況や履修者数等により、成績評価方法が変更になる可能性があるが、その場合は授業でまたは学習支援システムから連絡する。		
【学生の意見等からの気づき】 開講初年度のためなし		
【学生が準備すべき機器他】 学習支援システムやzoom等にネットワーク経由でアクセスできるパソコンまたはpad等の情報機器		
【その他の重要事項】 会社法もしくは会社法入門の講義を受講することが望ましい。 金融商品取引法Ⅰを履修していることを前提として授業を行う。金融商品取引法Ⅰの未履修者に対して特段のフォローは行わないため、未履修者は教科書等で自習が必要である。		
【Outline (in English)】 This course provides an overview of the current legal system and practical issues regarding Financial Instruments and Exchange Act. This course will be taught in Japanese. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination(100%).		

LAW300AB（法学 / law 300）

経済法Ⅲ

青柳 由香

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講義上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法、および同法と関連する法制度との交錯領域等や、発展・先端的な論点を取り上げる。講義を通じて、独占禁止法の発展的な内容を理解し、複雑な経済事象を背景とする事業活動における「公正で自由な競争」のあり方について多面的に検討する。

※本講義では、経済法Ⅰを履修してすでに独禁法の知識を得ていることを前提とする。したがって、経済法Ⅰを未履修の者は登録すべきではない。注意されたい。なお、経済法Ⅱと並行して履修することは想定している。

【到達目標】

独占禁止法のより先端的な内容について、各領域における特徴を理解する。特に以下の領域。

- (1) 知的財産権と独占禁止法
- (2) 著作物再販
- (3) デジタルエコノミー
- (4) 独占禁止法と労働法の交錯

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教場での対面授業を原則としつつ、数回オンライン授業を実施する可能性を予定している。授業実施方法が授業計画とは異なる場合は、授業内および学習支援システム Hoppii を通じて周知する。

授業では、配布するレジュメにそって講義を行う。講義では、事例等を用いて説明すると。事実関係の図などを板書するので、PC 等で講義ノートを作成する受講生は、素早く作図することが可能なタブレット、あるいは紙のノートなどを携帯されたい。

オンライン授業では、リアルタイム・オンライン授業、あるいはオンデマンド・オンライン授業を行う（未定）。オンライン授業を実施する場合、事前に授業および Hoppii 等を通じて日時・方法について周知する。

いずれの授業形式においても、受講者は各授業の受講後にリアクションペーパーを提出されたい。これに基づいて、授業中にフィードバックを行う。またレポート課題を複数課すことを予定している。

また、ゲストスピーカーを迎える授業を 1 回開催することを予定している。実施の有無、実施の詳細については、授業内および学習支援システム Hoppii を通じて周知するので注意されたい。ゲストスピーカー回の日程によって、授業計画にずれが生じる可能性があることを承知されたい。また何らかの事情でやむなくゲストスピーカーを迎えることがかなわない場合には、通常の授業を行う。

※本講義では、受講者が経済法Ⅰを履修済みで、独占禁止法についてかなりの知識を有していることを前提に授業を実施する。経済法Ⅰの未履修者に対して、経済法Ⅰの範囲について個別の対応はしない。経済法Ⅱとの並行しての履修は許容される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	独占禁止法の確認、現代的な問題の所在。
第2回	知的財産権と独禁法（1）	独禁法と適用除外制度の概要、21条に基づく適用除外

第3回	知的財産権と独禁法（2）	知的財産権が関与する事例
第4回	知的財産権と独禁法（3）	知的財産権が関与する事例
第5回	知的財産権と独禁法（4）	著作物再販
第6回	知的財産権と独禁法（5）	新聞特殊指定
第7回	知的財産権と独禁法（6）	その他の論点
第8回	デジタル・エコノミーと独占禁止法（1）	デジタル・エコノミーの概要
第9回	デジタル・エコノミーと独占禁止法（2）	事例の検討
第10回	デジタル・エコノミーと独占禁止法（3）	事例の検討
第11回	デジタル・エコノミーと独占禁止法（4）	労働法と独禁法（スケジュールが前後する可能性がある）
第12回	デジタル・エコノミーと独占禁止法（5）	プラットフォーム規制の動向等
第13回	ビジネスを規制する法制度に関する実務	実務の動向
第14回	まとめ	本講義で取り上げたテーマに共通の問題等の検討および課題について講評等を通じて、全体的な理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた事例を、授業後に再度読み、理解を深めてほしい。また、新聞などを通じて最新の独禁法の運用動向に触れるようにされたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レポートを作成する際に、教科書が必要になるので購入すること。購入する場合には版に注意。

岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第9版補訂、2022）

※過去に経済法Ⅰまたは経済法Ⅱを受講した際に用意した独占禁止法の教科書が数年内のものであれば足りるので、新たに購入する必要はない。ただし、近年の事例・法改正（特に手続法）に対応していないことに注意されたい。

【参考書】

授業中に指示する。ウェブ上の資料等を活用したい。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 70 %、平常点 30 %。

レポート課題は複数回課す。授業ではリアクションペーパーの提出を求め、平常点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて授業の在り方について様々なコメントを受けた。おおむね好評であった。全体のスタイルは継続しつつ、事例・図・資料等を活用してさらに理解を促すような授業を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

六法、ないし独禁法と関連する法律の条文を毎回用意されたい。オンラインで授業を実施する可能性があるため、PC やタブレットなどの機材を用意されたい。

【その他の重要事項】

本講義では、少なくとも経済法Ⅰを履修済みで、すでに独禁法の基礎的な知識を得ていることを前提として実施する。経済法Ⅱは受講済みであることが望ましくはあるものの、本講義と並行しても受講できるように思われる。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

Economic law is an academic concept that includes multiple laws to develop and maintain economic order in the markets. This lecture will focus on the antitrust law, which is the core of the economic law, and the area where the law intersects with the related legal systems.

Through lectures, students will understand the evolution of the Antimonopoly Act, and will consider "fair competition" in the context of complex and dynamic economy from various aspects.

(2) Learning Objectives

Understand the characteristics of the advanced themes of antitrust law in each area. In particular, the following areas.

- (a) Intellectual property rights and antitrust law
- (b) Resale price maintenance of copyrighted works
- (c) Extraterritorial application
- (d) Digital Economy

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students are encouraged to review the cases discussed in class after class to deepen their understanding. Also, it is encouraged to keep abreast of the latest trends regarding the application of antitrust laws through newspapers and other media. The standard preparation and review time for this class is 4 hours.

(4) Grading Criteria /Policy

70% for the assignments and 30% for participation and others. Several report assignments will be given. Reaction papers will be required in class and they are subject to class participation grades (30%).

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（（法学部同窓会寄付講座）企業法務への案内）**武生 昌士**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、いわゆる企業法務とは何か、法律学科で学んだ内容を活かして企業等で働くとは実際にはどういうことなのかといった事柄を、本学の卒業生を中心としたゲストスピーカーの先生方からお話を伺うことを通じて学んでいくものです。

我が国では、社会の成熟・複雑多様化が進展するに伴い、個人や企業、あるいは団体（地方公共団体や学校法人・NPO法人など）を取り巻く権利義務関係も、より複雑かつ精密なものとなりつつあります。これを受けて、社会における法の支配の必要性はますます高まっており、社会のあらゆる場面において、法律に準拠した判断を行うことによって紛争を未然に防止し、あるいは適正かつ迅速に解決することが要請されているのが現状です。

これに伴って、企業・団体に設けられた法務部は、その重要性に対する社会的認識が日増しに高まるとともに、その活動も急速に充実化しつつあります。このような法務部が取り扱う諸問題（契約、人事・労務、経営、M&A、知財、会計・税務、環境、訴訟等）が、実際に企業等でどのように扱われているのか、その実態を法務部等の最前線で現に活躍しておられるゲストスピーカーの先生方から学ぶのが、この授業の目的です。

なお、ここでいう「法務」は、必ずしも狭義の「法務部」の仕事には限定されるものではありません。法務の仕事を他の部署が担っている会社も少なくないですし、また法務部のみが法的な思考をしていればそれで足りるというものでもないからです。法的素養を活かして働くという事柄に関心を持つ皆さんが幅広く受講して下さることを期待しています。

以上のように、法律学科での学びが将来どのように活かされるかを知るための講義ですので、本講義は法律学科に設けられた6つのコースすべてに関係するものと位置付けられます。

【到達目標】

受講生が、我が国における法務部の取り扱う問題とそれに関係する法律の解釈適用の実情を理解し、卒業後の進路のひとつとしての法務部、あるいは法的素養を活かしつつ企業等で働くということに関する具体的なイメージを獲得すること。また、企業・団体の法務部が、法律の専門的素養を活かすことができる職場であり、かつ、社会的にも有用でやり甲斐のある職場であることを理解すること。

さらに、そのような職場を目指すために、在学中にどのような法分野を学習しておくべきかについて、主体的に捉えることができるようになることも、この授業の目標とするところです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、本学の卒業生を中心に、企業・団体の法務部等において実務経験を有する方々をゲストスピーカーとしてお招きし、講義をしていただく形で授業を進めます。

講義していただく内容は、企業・団体の法務部等で実際に取り扱った事例に即したものととなります。事例の具体的な分野としては、契約、人事・労務、経営、M&A、知財、会計・税務、環境、訴訟等が想定されます。そして、取り上げられた事例がどのようにして処理ないし解決されていったかということ、実務の機微に触れる形でご紹介いただきます。ゲストスピーカーの先生によっては、受講生を指名して質問をされる場合があります。

以下、過去の実績をベースに仮の授業計画を示しますが、テーマ・順番ともに変更される可能性があります。

ゲストスピーカーの先生方への質問は、当日お答えいただくほか、必要に応じて後日、学習支援システムを通じてフィードバックします。また、期末のレポートに関しても、学習支援システムを通じて講評を公開する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	担当教員によるこの授業に関する説明
第2回	企業法務とは何か？（企業法務総論）	ゲストスピーカーによる講演
第3回	消費財メーカーの法務	ゲストスピーカーによる講演
第4回	AI・データと法	ゲストスピーカーによる講演
第5回	紛争・トラブル対応と企業法務	ゲストスピーカーによる講演
第6回	コンプライアンス・コーポレートガバナンス	ゲストスピーカーによる講演
第7回	総合商社の法務とキャリアパス	ゲストスピーカーによる講演
第8回	地方自治体における政策法務の現況	ゲストスピーカーによる講演
第9回	競争法（国際カルテルを中心に）	ゲストスピーカーによる講演
第10回	法学部生が知っておきたい金融経済	ゲストスピーカーによる講演
第11回	人口減少時代のまちづくり	ゲストスピーカーによる講演
第12回	不動産業界における法務対応	ゲストスピーカーによる講演
第13回	リーガルテックとは何か	ゲストスピーカーによる講演
第14回	まとめ	担当教員による講義全体の総括等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は基本的には必要ありませんが、事前準備を求められたテーマについては、事前配布資料の読み込みなどが必要となる場合があります。

復習については、各回の話題で特に興味を持った点について、各自自分なりに調べてみる事が推奨されます。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特にありません。毎回、レジュメを配布する予定です。

【参考書】

経営法友会 企業法務入門テキスト編集委員会編著『企業法務入門テキスト——ありのままの法務』（商事法務、2016）。

このほか、必要に応じて各回に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回講義後に、学習支援システムを通じて、講義に対する感想文を提出してもらう予定であり、これによって平常点を評価します（60％）。なお、ゲストスピーカーの講義回の出席数（感想文の提出数）が半数に満たない場合、単位を付与しません（いわゆる「足切り」）。

このほか、期末のレポートによっても評価します（40％）。ゲストスピーカーの先生方のお話の中から、興味を持ったテーマについてさらに掘り下げて調べたものをレポートとしてご提出いただきます。詳細は学習支援システムを通じて改めて提示します。

なお、毎回の感想文にせよ、期末レポートにせよ、自身の将来の働き方にどのように活かせるかを考えつつ、真剣にゲストスピーカーのお話を聞いたということが読み手に伝わるような文章であることが、最低限求められます。大半の学生にはわざわざ注意するまでもない事柄ですが、一部、こちらの予想がまったく及ばないような低水準の感想文・レポートが見られることがあったので、念のため注意喚起しておきます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

【受講年次について】

4年生の受講者からは、受講した感想として、「もっと早い学年で受講しておけばよかった」という意見が少なからず見受けられます。実際、講義内容を皆さんの進路選択に際して活かしていただくためには、2年次又は3年次での履修が推奨されます。（もっとも、4年生の履修を妨げるものではありません。）

【出席（感想文提出）要件について】

この授業は、多様な分野にわたるゲストスピーカーのお話を幅広く聴講することを通じて、受講者の見聞や興味関心を広げることに より、今後の進路選択等に役立ててもらおうということを狙いとしています。それゆえに、受講者が自身の興味関心のあるテーマの回のみをつまみ食いに聴講するという受講の仕方は、推奨されるものではありません。

このような理由から、上記「成績評価の方法と基準」欄にも記載したとおり、出席数（感想文提出数）による「足切り」を実施しています。こうした授業の性質をよく理解した上で受講するようにしてください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This omnibus course covers the basics of "corporate legal affairs". Most of the speakers are the graduates of this university.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of "corporate legal affairs".

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on:

— Short reports(60%)

— Term-end report(40%)

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義 I (安全保障政策)

川名 晋史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、戦後日本の安全保障政策史を紐解きながら、現代の安全保障問題の構造を考察するものである。講義の過程では、いくつかの核となる問いに答えを見出していく。たとえば、日本が外国から攻撃を受けた際、在日米軍をはじめとする米軍部隊は日本を防衛するのだろうか。米国の政策決定者は「日本防衛」について具体的にどのように解釈し、日米安全保障条約を運用してきたのか。なぜ日本には米国や朝鮮国連軍の基地があり、それはなにゆえ沖縄に集中しているのか。受講者はこれらの問いを考察しながら、現代の日本の安全保障政策が抱える具体的な課題を理解していく。

【到達目標】

本講義を履修することで次の能力を修得する。

- 1) 日本の安全保障政策史を対米関係の文脈において理解する。
- 2) 日本の安全保障のありようを多角的かつ相対的に考察でき、また自身の思考を文章で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、対面での講義を中心に進める。状況次第では、少人数グループと教員との間のディスカッション・セッションを設ける。詳細は、学習支援システムを通じて告知する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	日本の安全保障政策を学ぶ意義を理解する
第2回	総論－世界の中の日本	日本の安全保障の固有性と一般性を理解する
第3回	占領と基地－忘れられた英連邦軍	戦後日本の安全保障の始原を理解する
第4回	朝鮮戦争－日米安保と国連軍地位協定	日本の安全保障政策の進路を決定づけた朝鮮戦争の影響を理解する
第5回	安保改定－何がどう変わったのか	日米安全保障条約の特質と米国の思惑を理解する
第6回	基地問題の転回－本土から沖縄へ	今日の沖縄基地問題のターニングポイントを理解する
第7回	「日本防衛の解釈」	米国による「対日防衛」の意味を理解する
第8回	沖縄返還と基地問題	沖縄の施政権返還の安全保障への影響を理解する
第9回	国連軍後方基地の存在意義	日本にある国連軍基地の政治的・戦略的役割を理解する
第10回	「同盟漂流」と沖縄	冷戦終結後の沖縄基地問題の展開を理解する
第11回	役割の拡大－集団的自衛と基地	平和安全法制が日本の安全保障政策にもたらした影響を理解する
第12回	米中対立と多国間安全保障	日本の対中政策における対米、対同志国政策を理解する
第13回	安全保障政策の現在地	今日の日本の安全保障政策上の課題を理解する

第14回 まとめ

戦後日本の安全保障政策を歴史的かつ構造的に理解する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関心を持ったトピックについて、新聞記事や図書で関連用語を調べてください。

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

川名晋史『在日米軍基地－米軍と国連軍、「2つの顔」の80年史』中央公論新社、2024年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業への出席を前提に、レポート (100%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

This lecture is designed to examine the structure of contemporary security issues through an analysis of Japan's postwar security policy. Throughout the course, several key questions will be addressed, including:

- In the event that Japan is attacked by a foreign entity, would U.S. forces, inclusive of those stationed in Japan, provide defense for the country?

- How have U.S. policymakers construed the concept of "Japan's defense" and how has the U.S.-Japan Security Treaty been applied in practice?

- What is the rationale for the presence of U.S. military bases and United Nations Command (UNC) facilities in Japan, particularly in relation to their concentration in Okinawa?

By exploring these inquiries, students will develop a comprehensive understanding of the specific challenges facing Japan's security policy and assess Japan's position within the framework of contemporary international relations.

LAW200AB（法学 / law 200）

外国書講読（英語）Ⅰ

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★本授業は、2年生も含めて、2, 3, 4年生が履修できます。

★本授業「外国書講読（英語）Ⅰ」は、同じ教員・和田幹彦担当で過去に履修済の2,3,4年生の方も、再度履修できます（制度上、許可されています）。該当する学生がいる場合、教材は全て新たな英文を取り上げます。

★法律学科、政治学科、国際政治学科の学生、どなたも歓迎します。

★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的な英語の文献の読解力の向上が最重要な目的です。並行して、英語で聞き、理解する能力の向上も目的とします。

★学生同士の日本語を（場合により英語も）用いたグループディスカッションにより、英文テキストについての疑問点・解釈の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、英文テキストの理解を深めることも目的です。

【到達目標】

★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的な英文の読解力の向上。

★英語の基礎的および応用的な文法の復習や、新たな文法上の学び。

★英語の新たな表現、（たとえば「法と遺伝学」といった）学問や研究の新分野の新しいボキャブラリーの習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

概略以下のとおり予定：

★現時点の英語力レベルにかかわらず履修可能。どの授業参加者も、各自が望み目指す英語力を向上させられるよう、個別の学生のレベルに応じて教師が工夫しながら授業を勤める。具体的には：

★第1, 2, 3回目の授業の時期に、学習支援システム上で、各学生の自己申告による≪各自の現時点の英語力・本授業で目標とするのはどのような英語力の向上か etc.≫をヒアリング調査し（教員のみが見ます；個人情報として保護します）、それに基づき、英語力レベルが多様な多くの学生に対しても、個々人の英語力向上希望に応じた授業の進行を工夫します。

★初回授業以後：必ず英和辞典を持参すること（電子辞書・スマホ・英英辞典も可）。

★授業方法：基本的にゼミ形式で、日本語と英語双方を使いながら行います。（但し、英語の聞き取り／発言が不得手でも、努力により参加は十分可能です。）ネット上の質の高い動画・ビデオ・DVD・ブルーレイの教材や映画も見ます。

事前：次回以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布——参加者はダウンロード・持ち帰り、予習する。予習に際しては、新出単語・表現・内容に関連する疑問点を（英和・英英）辞書やグーグルで徹底的に調べてくる。

授業：①参加学生全員による英語文献の音読・講読 意味内容の把握（要約；部分的に精読・全訳）：授業時間の一部で、数グループに分かれてのグループディスカッションも行う。

②文献の検討：国際的生命政策・先端的法分野 について、質問し、議論する。

●課題・発表・質問等に関するフィードバックは、授業において、適宜、行います。

★本授業の準備学習・復習時間は各2時間、合計4時間を標準とします。

★予習・復習における翻訳AI、生成系AIの使用を許可する。ただその場合、「どのAIをどの部分の予習・復習（さらに授業中）に使ったか」を必ず授業で教員に各自申し出ること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教材①の配信・配布・講読	英和辞典（電子辞書・スマホ・英英辞典も可能）での法学専門用語の見つけ方の基礎の解説と、ディスカッション
第2回	教材①【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材①テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解→学生・教員間のディスカッション
第3回	教材①の講読（2）	教材①の英文の特徴の把握とディスカッション
第4回	教材①の講読（3）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第5回	教材①の講読（4）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第6回	教材①の講読（5）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション
第7回	教材②【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材②テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第8回	教材②の講読（2）	教材②の英文の特徴の把握とディスカッション
第9回	教材②の講読（3）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第10回	教材②の講読（4）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第11回	教材②の講読（5）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション
第12回	教材③【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材③テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第13回	教材③の講読（2）	教材③の英文の特徴の把握とディスカッション
第14回	教材③の講読（3）	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

★本授業の予習・復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とします。

★次回の授業以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布するので、授業参加者（履修者）は、事前にダウンロード・持ち帰り、予習する。

★予習に際しては、教材の英語のみならず、【内容】を理解できるように、解らない新出の単語・熟語・表現、そして英文テキストの内容に関連する疑問点を、（英和・英英）辞書やグーグルで徹底的に調べてくること。

★繰り返しますが：予習・復習における翻訳AI、生成系AIの使用を許可する。ただその場合、「どのAIをどの部分の予習・復習（さらに授業中）に使ったか」を必ず授業で教員に各自申し出ること。

【テキスト（教科書）】

初回の授業時に教員が指示します。その後は、その都度、必要な資料を、教員が学習支援システム上の「資料」で配信・配布します。

【以下の具体的例は2022-23年度の例を含む；2025年度は更新した最新内容の英文テキストを教員が指示する。】

①国際的政策に関する法的・倫理的・社会的諸問題に関する英語文献。具体的例としては：

★国連関連の条約や付随文書：国連憲章；国連人権規約；最新の国連総会議決：

"Resolution adopted by the General Assembly on 26 April 2022"

"Optional Protocol to the International Covenant on Civil and Political Rights"

<https://www.ohchr.org/en/instruments-mechanisms/instruments/optional-protocol-international-covenant-civil-and-political>

★The International Society for Stem Cell Research (ISSCR), "ISSCR Guidelines for Stem Cell Research and Clinical Translation"

<https://www.isscr.org/guidelines>

②先端的法分野：「医事法」「人工生殖」「法と遺伝学」等。具体的例としては：

★イギリスの代表的新聞 The Guardian, "Chinese scientist who edited babies' genes jailed for three years," 31 Dec 2019

<https://www.theguardian.com/world/2019/dec/30/gene-editing-chinese-scientist-he-jiankui-jailed-three-years>

★同上紙 "Scientist who edited babies' genes says he acted 'too quickly'," 4 Feb 2023

<https://www.theguardian.com/science/2023/feb/04/scientist-edited-babies-genes-acted-too-quickly-he-jiankui>

③SOGI (sexual orientation and gender identity)関連。具体的例としては：

★2015年6月のアメリカ連邦最高裁の、同性婚を全国で合憲とした判決文。

★CBS NEWSの書き起こし記事："Diving into the debate over trans athletes," MARCH 27, 2022

<https://www.cbsnews.com/news/diving-into-the-debate-over-trans-athletes/>

★BBC NEWS記事："What Singapore's move to legalise egg freezing says about its society," 28 April, 2022

<https://www.bbc.com/news/world-asia-61076349>

★同上："Toronto professor Jordan Peterson takes on gender-neutral pronouns," 4 November 2016

<https://www.bbc.com/news/world-us-canada-37875695>

④その他、履修者が高い関心を示す分野の、質の高い英文テキスト

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎週の授業での質問や議論への参加（平常点：50点）と、事前の予習準備の程度（50点）で評価します。（期末試験なし。）

【学生の意見等からの気づき】

●クラス内の、うち解けた雰囲気でのディスカッションをもっと重視します。

●英語の教材や、映画をDVD、ブルーレイも見ます。

●春学期・秋学期合わせての履修を推奨しますが、義務ではありません。

●春学期の「法と遺伝学I」、秋学期の「法と遺伝学II」の履修を推奨しますが、義務ではありません。

●持参すべきものは、英和・和英辞典（電子辞書、スマホも可能）、グーグル検索のできるスマホ。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書（電子辞書・書籍）を所持していない場合は、それに代わるスマホ（英英辞典も可能）。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して特に英米法・日本法と、法制度に関連する英語圏・日本の政策・政治を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

【Outline (in English)】

【Course outline】: To learn how to read English text on legal, political and international issues.

【Learning Objectives】: Acquire the skill of understanding most recent news English of high quality and essential English text, on law, international /national politics and political science.

【Learning activities outside of classroom】: Check new words, idioms, expressions of English and the unknown contents of the text in advance before the class, using dictionary and reliable websites on the Internet.

【Grading Criteria /Policy】: attendance/participation (50%) and preparation for the class (50%).

LAW200AB（法学 / law 200）

外国書講読（英語）Ⅱ

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★本授業は、2年生も含めて、2, 3, 4年生が履修できます。

★本授業「外国書講読（英語）Ⅱ」は、同じ教員・和田幹彦担当で過去に履修済の2,3,4年生の方も、再度履修できます（制度上、許可されています）。該当する学生がいる場合、教材は全て新たな英文を取り上げます。

★法律学科、政治学科、国際政治学科の学生、どなたも歓迎します。

★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的な英語の文献の読解力の向上が最重要な目的です。並行して、英語で聞き、理解する能力の向上も目的とします。

★学生同士の日本語を（場合により英語も）用いたグループディスカッションにより、英文テキストについての疑問点・解釈の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、英文テキストの理解を深めることも目的です。

【到達目標】

★法・政治・国際政策にかかわる、やや専門的な英文の読解力の向上。

★英語の基礎的および応用的な文法の復習や、新たな文法上の学び。

★英語の新たな表現、（たとえば「AIと法」「法と心理学」という）学問や研究の新分野の新しいボキャブラリーの習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

概略以下のとおり予定：

★現時点の英語力レベルにかかわらず履修可能。どの授業参加者も、各自が望み目指す英語力を向上させられるよう、個別の学生のレベルに応じて教師が工夫しながら授業を勤める。具体的には：

★第1, 2, 3回目の授業の時期に、学習支援システム上で、各学生の自己申告による「各自の現時点の英語力・本授業で目標とするのはどのような英語力の向上か etc.」をヒアリング調査し（教員のみが見ます；個人情報として保護します）、それに基づき、英語力レベルが多様な多くの学生に対しても、個々人の英語力向上希望に応じた授業の進行を工夫します。

★初回授業以後：必ず英和辞典を持参すること（電子辞書・スマホ・英英辞典も可）。

★授業方法：基本的にゼミ形式で、日本語と英語双方を使いながら行います。（但し、英語の聞き取り／発言が不得手でも、努力により参加は十分可能です。）ネット上の質の高い動画・ビデオ・DVD・ブルーレイの教材や映画も見ます。

事前：次回以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布——参加者はダウンロード・持ち帰り、予習する。予習に際しては、新出単語・表現・内容に関連する疑問点を（英和・英英）辞書やグーグルで徹底的に調べてくる。

授業：①参加学生全員による英語文献の音読・講読 意味内容の把握（要約；部分的に精読・全訳）：授業時間の一部で、数グループに分かれてのグループディスカッションも行う。

②文献の検討：国際的生命政策・先端的法分野 について、質問し、議論する。

●課題・発表・質問等に関するフィードバックは、授業において、適宜、行います。

★本授業の準備学習・復習時間は各2時間、合計4時間を標準とします。

★予習・復習における翻訳AI、生成系AIの使用を許可する。ただその場合、「どのAIをどの部分の予習・復習（さらに授業中）に使ったか」を必ず授業で教員に各自申し出ること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教材①②の配信・配布	英和辞典（電子辞書・スマホ・英英辞典も可能）での法学専門用語の見つけ方の基礎の解説と、ディスカッション
第2回	教材①【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材①テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第3回	教材①の講読（2）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第4回	教材①の講読（3）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第5回	教材①の講読（4）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解に基づく「この論文が例えば『サイエンス誌(Science)』『ネイチャー誌(Nature)』に掲載された意味」の英語による学習とディスカッション
第6回	教材②【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材②テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第7回	教材②の講読（2）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第8回	教材②の講読（3）	教材②における法学と、法学に直結する科学の専門的英語・熟語の学び方の解説と、ディスカッション
第9回	教材③【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材③テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第10回	教材③の講読（2）	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第11回	教材③の講読（3）	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第12回	教材③の講読（4）	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解に基づく「この論文が例えば『ガーディアン紙(The Guardian)』『ニューヨークタイムズ紙(New York Times)』に掲載された意味」の英語による学習とディスカッション
第13回	教材④の講読（1）	教材④テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第14回	教材④の講読（2）	教材④における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の発展性の理解と、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

★本授業の予習・復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とします。

★教材の内容を理解できるように、分からない単語、熟語は全て辞書（スマホで使える辞書でも良い）とグーグルで予習して調べておくこと。

★繰り返しますが：予習・復習における翻訳AI、生成系AIの使用を許可する。ただその場合、「どのAIをどの部分の予習・復習（さらに授業中）に使ったか」を必ず授業で教員に各自申し出ること。

【テキスト（教科書）】

初回の授業時に教員が指示します。その後は、その都度、必要な資料を、教員が学習支援システム上の「資料」で配信・配布します。

【以下の具体的例は2022-23年度の例を含む；2025年度は更新した最新内容の英文テキストを教員が指示する。】

①国際的生命政策 関連:「デザイナー・ベビーの是非と国際的な規制の要否（ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる子どもに関する法的・倫理的・社会的諸問題）」。具体的例としては：

Rosario Isasi et al. (2016), "Editing policy to fit the genome?" in "Science"

<https://www.science.org/doi/10.1126/science.aad6778>

②先端的法分野：例「法と心理学」。具体的例としては：

Keelah E.G. Williams et al. (2019), "Capital and punishment: Resource scarcity increases endorsement of the death penalty"

<https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S1090513818300175>

③質の高い時事英語ニュース記事。具体的例としては：

Nature 誌: "The effects of overturning Roe v. Wade in seven simple charts," 10 August 2022

<https://www.nature.com/articles/d41586-022-02139-3>

④その他、履修者が高い関心を示す分野の、質の高い英文テキスト。例えば日本語ではほとんど紹介されない諸外国の文化に関する記事。具体的例としては：

"Inclusion for All in Bengkala, Bali's Deaf Village"

<https://www.ashleyderrington.com/blog/post-9>

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎週の授業での質問や議論への参加（平常点：50点）と、事前の予習準備の程度（50点）で評価します。（期末試験なし。）

【学生の意見等からの気づき】

●クラス内の、うち解けた雰囲気でのディスカッションをもっとも重視します。

●英語の教材や、映画をDVD、ブルーレイも見ます。

●春学期・秋学期合わせての履修を推奨しますが、義務ではありません。

●春学期の「法と遺伝学Ⅰ」、秋学期の「法と遺伝学Ⅱ」の履修を推奨しますが、義務ではありません。

●持参すべきものは、英和辞典（電子辞書・スマホ・英英辞典も可能）、グーグル検索のできるスマホ。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書（電子辞書・書籍）を所持していない場合は、それに代わるスマホ（英英辞典も可能）。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して特に英米法・日本法と、法制度に関連する英語圏・日本の政策・政治を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

【Outline (in English)】

【Course outline】: To learn how to read English text on legal, political and international issues.

【Learning Objectives】: Acquire the skill of understanding most recent news English of high quality and essential English text, on law, international /national politics and political science.

【Learning activities outside of classroom】: Check new words, idioms, expressions of English and the unknown contents of the text in advance before the class, using dictionary and reliable websites on the Internet.

【Grading Criteria /Policy】: attendance/participation (50%) and preparation for the class (50%).

POL200AC（政治学 / Politics 200）			第4回		
コミュニティ政策（日本）			地域的まとまりを「運営」するための制度的諸条件		
名和田 是彦			ミルトン・コトラーの考え方に学びながら、地域的まとまりを秩序づけるためには、どのような制度的条件が必要かを考える。そして、日本では、自治会・町内会が民間組織であるにもかかわらず、地域的まとまりを運営できてきたことを解明する。昭和の大合併が終わったあと日本は経済の高度成長に入り、都市化の道を歩む。その結果生じた諸矛盾の激発がコミュニティ政策を促した。その最初の時期から1970年代の様子を概観する。		
授業形式：講義 開講セメスター：春学期授業/Spring 単位数：2単位			第5回		
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉			コミュニティ政策の開始		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 政治学科の科目の中では行政・地方自治科目群に属します。「コミュニティ」及び「コミュニティ政策」とは何であるか、日本のそれはどのような特徴を持っているかを理解することが、この「コミュニティ政策（日本）」のテーマであり、到達目標です。結論から言うと、日本の「コミュニティ」は、欧米なら地方自治体等として政治制度の中に位置づけられているはずの身近な地域単位です。それが日本では長らく民間サイドに放置されてきました。高度成長期後にこうした「コミュニティ」を再び制度化する政策が試みられ、コミュニティは政治社会の構成要素となっていました。そして、バブル経済崩壊の1990年代以降の厳しい時代においては独特な役割を期待され、また新たな法制度のもとに展開してきています。自治体内分権とか都市内分権といわれる仕組みがそれです。本講義は、都市内分権制度を中心に、日本特有の身近な地域社会の構造を解明することを目指しています。			第6回		
【到達目標】 コミュニティ、自治体内分権（都市内分権）、協働といった政策用語が織りなす今日の日本のコミュニティ政策の概要と、その日本の特性を、理解すること。			1980年代のコミュニティ政策とその転換		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。			第7回		
【授業の進め方と方法】 コミュニティ政策はある意味で日本に特有なものです。それを理解するためには、日本と異なった構造をもつ国や比較的類似した国との比較の視点をもつことが不可欠です。外国の状況をそれとして扱うのは「コミュニティ政策（理論・国際比較）」の課題とし、本講義では、諸外国との比較を念頭に置きつつ、コミュニティ政策論の基礎理論を端的に提示し、それに基づいて日本のコミュニティとコミュニティ政策について概説します。 各回とも事前に講義資料を配付しますので、受講者は予習をして講義に臨んでください。また、講義中に受講者に投げかけをしたり議論をしたりしますので、受講者はそれに呼応して積極的に発言してください。数回程度リアクションペーパーまたは課題を提出していただきますが、それに対しては原則として次の回にコメントをいたします。			日本型自治体内分権の成立		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes			第8回		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No			日本型自治体内分権と自治会・町内会		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			第9回		
回	テーマ	内容	日本型自治体内分権の類型的特徴		
第1回	序説 コミュニティ政策というもの、地域的まとまりという発想	「地域的まとまり」の「重層構造」について、受講者の直感的理解を掘り起こし、講義の理論的基礎を獲得する。	第10回		
第2回	自治会・町内会の構造と特質	自治会・町内会の理解抜きには日本のコミュニティは語れない。日本独自の地域組織とされる自治会・町内会の基本的な性格を、これまでの社会学等の研究に基づいて整理する。	日本型自治体内分権制度としての地域自治区制度の運用		
第3回	自治会・町内会の構造と特質 続き	前回に引き続いて、自治会・町内会について整理する。	第11回		
			日本型自治体内分権の事例研究		
			第12回		
			日本型自治体内分権の限界と可能性		

第13回	現代日本のコミュニティ政策の総体的動向	以上を総括しつつ、現代日本の政策においてコミュニティがどのように見られ扱われているかを整理する。
第14回	現代コミュニティの展望	財政危機と不況の中で格差が拡大している。この状況のもとでコミュニティはどのような役割を果たせるのか、総務省や日本都市センターなどが行った全国調査をもとに私見を述べ、受講者と意見交換したい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を事前に配布し、これに基づいて講義を行いますので、受講者はこれを予習・復習することが基本です。さらに、講義中に参考文献を紹介しますので、これも読んで学習してください。また、課題を何度か出すことを予定していますので、その際には、単に講義資料の該当箇所を復習するだけでなく、課題を解答するために必要な資料を自ら探して調べることも求められます。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。特に三つ目のものは、一般向けのブックレットですから、入門書として薦められます。

名和田是彦『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）

名和田是彦編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）

名和田是彦『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）

【成績評価の方法と基準】

成績は、何度か（2回または3回を予定）出題する課題と期末の試験によって判定します。課題の採点に当たっては、内容の正しさよりも、課題を受け止めてよく調べよく考えたかどうかを重視して採点します。社会科学においては、正解が複数ある、あるいは正解がはっきりしない、という場合もよくあります。どこかにある「正解」なるものを探す、という学習態度では身につけません。成績判定に占める比重は、課題が全体で30%、期末の試験が70%と想定しています。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍の間はほとんどオンライン授業であったため、頻繁に課題を出して、かつこれを採点するのみならず、次回授業で論評するという双方向的なやりとりがあり、私も多くを学ぶことができました。説明の仕方、提示の仕方によって思わぬ誤解が生じたりすることにも気づきました。今年度の講義資料は、これを生かしてブラッシュアップしたいと思います。課題を見ていると、学期中にグッと力をつけてくる受講者が何人かいて、励みになります。

【Outline (in English)】

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries, especially Germany.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

POL200AC (政治学 / Politics 200)		
コミュニティ政策 (理論・国際比較)		
名和田 是彦		
授業形式：講義 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
単位数：2単位		
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉		
【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】		
政治学科の科目の中で、行政・地方自治科目群に属する科目です。コミュニティないしコミュニティ政策は、ある意味で日本特有の現象といえます。諸外国は、日本でコミュニティ政策として処理している課題を、別な形で処理しているからです。この「コミュニティ政策 (理論・国際比較)」では、諸外国 (特にドイツ) との比較を正面から行なうことによって、日本でコミュニティ政策が必然化してくることを明らかにできる、普遍的な理論枠組を提示したいと思います。		
【到達目標】		
日本のコミュニティ政策の概略を理解した上で、こうした政策的営みが国際的に見てきわめて特異なものであることを理解し、日本社会の特異な構造の一側面を考えることができるようになること。具体的には、近代地方自治制度のもとでは、市町村こそがコミュニティを運営する基本的な仕組みであること、市町村合併を経たのちコミュニティにどのような制度的枠組を付与するかで国際比較的な偏差が生ずることの理解、その中で日本はきわめて特異な経過をたどったことの理解、こうした理解を可能にする理論枠組である「地域的まとまり論」の理解、が到達目標です。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。		
【授業の進め方と方法】		
基本的に講義形式ですが、時折受講者からの発言を求め、受講者の問題意識を共有したり、理解度や知識水準を確認したりして、授業内容を受講者の能力とニーズに合ったものにするように努めます。また、配布資料を充実し、事前事後の学習に役立つようにします。数回程度リアクションペーパーや課題を提出していただきますが、それに対しては原則としてその次の回にコメントをいたします。		
【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり /Yes		
【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	地域的まとまり論の概略と	国民国家の中央政府の機能だけでは、民主的な意思決定とはいえないし、身近な公共サービスもきちんと行なわれない。身近な地域社会 (本講義ではこれを「コミュニティ」とよぶ) にも運営組織が必要である。それが市町村であった。その制度的特徴はどこにあるかを考えて導入的序論とする。春学期の「コミュニティ政策 (日本)」の復習でもある。
第2回	日本のコミュニティ政策	春学期の「コミュニティ政策 (日本)」では扱うことのできなかったコミュニティ政策の分野、特に試飲活動支援、コミュニティセンター自主管理、都市計画分野のコミュニティ分権などについて、概説し、日本のコミュニティ政策の特質を確認する。
第3回	ドイツの政治制度と地域コミュニティ	本講義ではドイツを主要な対象としているので、ドイツの政治制度や地域社会について入門的概説を行う。
第4回	ドイツの都市内分権制度 その1 プレーメンの戦後史と都市内分権制度の発展	しばらくドイツの都市内分権制度について説明する回が続く。その初回として、プレーメン市の都市内分権の歴史的経緯を扱う。
第5回	ドイツの都市内分権制度 その2 プレーメン市の地域評議会制度の実態と仕組み	プレーメン市の都市内分権制度の実態をまずは入門的に概観し、ついで法令に基づいて制度的仕組みの説明を行う。
第6回	ドイツの都市内分権制度 その3 プレーメン市の地域評議会制度の仕組み	現行法令に基づき、プレーメン市の都市内分権制度を、前回に引き続き、説明する。
第7回	ドイツの都市内分権制度 その4 プレーメン市地域評議会制度の実態分析	制度的な仕組みが理解されたところで、プレーメン市の都市内分権の実態を細かく分析していく。
第8回	ドイツの都市内分権制度 その5 ノルトライン＝ヴェストファーレン州とハンブルク市	プレーメン市以外の事例として、ドルトムント市ないしノルトライン＝ヴェストファーレン州及びハンブルク市の仕組みを説明する。
第9回	ドイツの農村部における小規模自治体連携制度 その1 概説	市町村合併を経ても、きめ細かな自治の重層構造をつくり、身近な地域社会を制度化して丁寧に政治に反映させるドイツのやり方は、都市部に限らない。今回は農村部の仕組みを見る。
第10回	ドイツの農村部における小規模自治体連携制度 その2 ニーダーザクセン州の「連合自治体」制度	前回は引き続き、ドイツの農村部の仕組みを見るが、今度はニーダーザクセン州にしばり、その「連合自治体」制度を詳しく説明する。
第11回	都市内分権制度の法的性格をめぐる憲法裁判から	考察の材料が出そろったところで、理論的考察に入る。まずは、都市内分権制度をめぐる行われたドイツの四つの憲法裁判を手がかりとする。
第12回	ドイツの「協働」政策とボランティア観念	ドイツの都市内分権は基本的に「参加」型で、日本の「協働」型とは好対照であるが、現代ドイツは「協働」的な政策を必要としていないわけではない。ドイツの「市民社会」重視政策を見る。
第13回	ギールケとプロイスの「領域社群」論	本講義が提唱している「地域的まとまり」論は、ドイツのゲルマニスト法学派が提唱した「領域社群」概念を淵源としている。その源流をたどる。
第14回	マックス・ヴェーバーの「領域団体」論と地域的まとまり論の理論構成	ギールケとプロイスによって完成された「領域社群」概念を、社会科学的分析概念として再構成したマックス・ヴェーバーの理論を説明し、これらの理論史を踏まえ、また自治会・町内会という独自の「領域団体」が展開する日本の現実をも踏まえて、「地域的まとまり論」の基本骨格を提示する。
【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】		
毎回事前に学習支援システムを通じて講義資料を配付します。これの予習・復習が基本です。また講義の中で参考文献や参考資料を提示しますので、それも勉強してください。課題が出された場合には、講義資料の該当箇所を復習することを基本としながらも、自分で資料を探して調べることも必要です。		

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。

名和田是彦『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）

名和田是彦『コミュニティの法理論』（創文社）

名和田是彦編著『コミュニティの自治』（日本評論社）

特に最後のものは、共同研究者とともに作った本で、欧米やアジアのコミュニティについても論じています。やや高価ですが図書館で読むことができます。

【成績評価の方法と基準】

課題(2回を予定)を出し、それを採点すること、及び期末に試験を行なうことによって、成績評価を行なう予定です。成績評価における比重は、課題が30%、期末試験が70%と予定しています。

上記のように、課題への解答に当たっては、該当する講義資料の箇所を十分に復習することはもちろん、参考として提示した資料や文献、さらには独自に探して調べた資料などをもとに、取り組んでください。「正解」かどうかよりも、各自が主張する結果にどのようにたどり着いたか、その論証過程が主たる評価の対象となります。社会科学においては、「正解」が複数あったり、そもそも「正解」が不明だったりがよくあります。大切なのは、そうした問題について、各自が十分に調べて考え抜き、説得力ある論証を提示することです。

な

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍のあいだはほぼオンライン授業で、講義資料も充実させ、また頻繁に課題を出して次の回に論評するというをやったので、受講者の反応も比較的良好に感じました。提示の仕方や話す順序によって思わぬ誤解が生ずるなど、気をつけるべき点にも気づきました。今年度も、双方向のコミュニケーションを大切にしたいと思います。また、学期中にグッと力をつけてくるのがわかる受講者も何人かおり、励みになります。

【Outline (in English)】

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. In this lecture I focus on an international comparison of Japanese community policy with that in European, American and Asian countries, especially Germany so that students can understand the characteristics of the Japanese community policy as well as the Japanese society itself.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

環境政策

西谷内 博美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な分野の環境問題について、国内政策と国際政策の視点から、政策の展開・枠組み、手法、課題などを体系的に学習します。具体的には、大気環境、水環境、廃棄物、気候変動、SDGs などを取り上げます。

【到達目標】

・各分野の環境政策について、自分の言葉で説明できるようになる。
・言い換えれば、授業で扱う政策や概念を単に暗記するのではなく、それらの成り立ちや意義、仕組みについて納得し理解することが求められる。したがって、応用可能なレベルまで理解を深めることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストに基づいて授業を進めます。

授業形態は講義よりも、宿題（個人ワーク）と授業内でのグループワークが中心となります。具体的には、授業前の学習では、宿題を中心にテキストやその他の外部資料を用いて各自で十分に学習します。授業内では、その知識を持ち寄り、グループワークを通じて知識を定着させたり、理解を深めたりします。

また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを書き、その回での学びを振り返り、整理します。宿題とリアクションペーパーの回答は、クラス内でフィードバックされます。

なお、以下の授業計画は暫定的なものであり、受講者のニーズに応じて進捗のペースを調整します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と進め方を共有します。
2	環境政策の考え方と手法 1	テキスト序章
3	環境政策の考え方と手法 2	テキスト序章
4	大気環境	テキスト第1章
5	水環境	テキスト第2章
6	廃棄物と資源循環	テキスト第3章
7	中間試験・まとめと解説	前半の授業内容について中間試験を実施します。
8	気候変動	テキスト第4章
9	化学物質	テキスト第5章
10	生物多様性	テキスト第6章
11	持続可能な開発とSDGs	テキスト第7章
12	SDGs達成に向けた取組	テキスト第8章
13	環境政策の展開	テキスト終章
14	期末試験・まとめと解説	後半の授業内容について期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。

準備学習は特に重要です。テキストの指定箇所を能動的に読み、十分に理解を深めてください（クリティカルリーディング）。また、宿題を提出してください。そのためには、テキストに加えて任意の外部資料にも目を通し、理解を深めることが求められます。復習については、各回の授業内容を十分に理解し、定着させておいてください。

【テキスト（教科書）】

竹本和彦編, 2020, 『環境政策論講義——SDGs達成に向けて』東京大学出版会。

【参考書】

倉坂秀史, 2014, 『環境政策論 第3版』信山社出版。

白井信雄, 2020, 『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』大学教育出版。

吉田徳久, 2019, 『環境政策のクロニクル——水俣病問題からパリ協定まで』早稲田大学出版部。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 25 %、期末テスト 25 %、平常点 50 %。

平常点の内訳は、宿題 20 %、発言シートとグループワーク 20 %、リアクションペーパー 10 % を予定していますが、受講人数等に応じて調整する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

前回は、1章あたり1回の授業ではなく、おおむね1.5～2回の授業をかけて丁寧に進めました。この進め方が好評だったため、これ以降も計画をこなすことよりも学生の理解度を優先し、進捗を調整します。

【学生が準備すべき機器他】

共有ドライブ等への入力作業が多くあります。PCなどの端末を準備してください（慣れていればスマートフォンでも大丈夫だと思います）。

【Outline (in English)】**[Course Outline]**

In this course, students will systematically study environmental issues from various fields, focusing on domestic and international policy perspectives. The course will address air quality, water quality, waste management, climate change, and SDGs, among others.

[Learning objectives]

At the end of the course, students will have the ability to explain their views on environmental policy using the technical terms and concepts covered in class.

[Learning activities outside of classroom]

Students are required to read the relevant chapter(s) from the text prior to every class meeting. It takes you more than four hours to study for each class meeting.

[Grading Criteria /Policies]

Your overall grade in the class will be determined by the midterm and final exams, which each amount to 25%, and class participation, which will amount to 50%.

The class participation point will be allocated as follows: 20% for homework, 20% for speaking in class and group work, and 10% for reaction papers (This allocation may be modified according to factors such as the number of students attending the class).

POL200AC（政治学 / Politics 200）			5	都市と物質循環・水循環	物質循環・水循環の視点から都市を見つめます。江戸のリサイクル事情、東京ごみ戦争、ダム問題、水道事業の民営化などを取りあげます。
都市の環境問題			6	都市と権力	都市は食料自給率が低いにもかかわらず、戦時中を除いて飢えることはありません。藤田弘夫『都市の論理』を参考にしながら、このような都市を支える権力構造について考えます。
松村 正治			7	都市の交通問題	都市内の交通問題と都市間の高速交通ネットワークの問題について考えます。宇沢弘文『自動車の社会的費用』、新幹線公害、リニア中央新幹線などを取りあげます。
授業形式：講義 開講セメスター：秋学期授業/Fall 単位数：2単位			8	都市再開発・ジェントリフィケーション	都市の再開発は環境の改善を目指すものですが、それによって行き場を失う人々が現れることがあります。批判的地理学の研究からジェントリフィケーションの議論を学びながら、誰ひとり取り残さない都市環境について考えます。
その他属性：〈優〉〈実〉			9	東京一極集中と脱成長	コロナ禍が落ち着き、日本国内では東京一極集中の傾向が依然として見られます。この弊害を理解するとともに、脱成長や里山資本主義の議論を参考に、これからの日本の都市のありかたを考えます。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 本講義で扱う範囲は、都市の中で発生する環境問題だけではなく、都市に伴う力が引き起こす地方や遠方の環境問題も扱います。こうした対象に迫るために、都市と環境に関わる社会学・都市計画学・地理学・歴史学・生態学など、複合領域の知見を取り入れます。都市と環境は対立的な概念と思われがちですが、本講義では、都市が環境問題を引き起こす必要悪とは捉えません。環境問題を都市の問題として引き受け、どのような都市をつくれれば、誰ひとり取り残さない環境を実現できるのかを考えます。			10	都市と農・里山コモンズ	かつて都市には農地は不要と言われていましたが、今日では都市の諸問題を解決する場として農的な役割が期待されています。都市農業、コミュニティガーデン、里山コモンズなど、最新の動向を取りあげます。
【到達目標】 ・環境問題とは何かについて、社会学的に考えられるようになる。 ・都市に伴う権力を理解し、さまざまな環境問題を都市の問題として認識できるようになる。 ・環境-社会-経済というレイヤーで、環境問題の解決法を模索できるようになる。 ・都市のあり方について具体的に考え行動することが面白いと思えるようになる。			11	都市の生態学	都市は人間生活の利便性を高めるための空間に違いないですが、この中にはさまざまな生きものがいます。都市生態学の最新の知見を参照しながら、都市の生物多様性を高め方について考えます。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。			12	都市に生きる幸福な若者	少子高齢化、低成長が続く日本社会ですが、若者の主観的な幸福度は高いことが知られています。コミュニティが希薄化し、社会問題・環境問題への当事者意識は低いなかで、都市の環境問題をどう解決できるのかを考えます。
【授業の進め方と方法】 講義形式で授業をおこないます。基本的にシラバスに示した進めますが、受講生の理解度や社会情勢の変化などによって変更することがあります。 授業に用いる教材は学習支援システムを通して提供します。 基本的に毎回リアクションペーパーを提出していただき、次の授業にフィードバックします。			13	社会を変えるには	都市的な経済社会のあり方に疑問を感じても、課題を解決していくイメージが湧かなければ、社会を変えようという気持ちにならないでしょう。環境や社会が「こうあるべき」と、私が「こうありたい」を両立させる方法を探ります。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり /Yes			14	まとめにかえて：都市と分解	これまでの講義をふりかえりながら、分解という視点からあらためて都市を捉えます。その上で、誰ひとり取り残さない環境に向けて、どうすれば持続可能な都市を実現できるのかを考えます。
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
1	ガイダンス／「環境問題」とは何か	本講義の進め方などを短く案内したあと、本講義でいう「環境問題」とは社会的に構築されるものであることを説明します。			
2	都市の公害史・終わらない公害	都市の環境問題として「公害」に焦点を当て、おもに1960年代以降の公害史と今日の公害（光害・香害など）を紹介します。			
3	「東京」にとっての水俣・福島	公害を象徴する水俣病事件と今世紀最悪の公害である福島第一原発事故による放射能汚染を、見田宗介『現代社会の理論』を参考にして、これを「東京」の都市問題として考えます。			
4	グローバル化と環境正義	現在の都市環境がきれいになったとしても、都市から排出される廃棄物が地方に、遠方に、将来に運ばれているとしたら公正ではありません。その不公正をただす環境正義や、近年話題の気候正義について考えます。			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業終了後に、授業をふりかえり、リアクションペーパーを提出してください。

本講義に関連する参考図書を読むことを勧めます。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

さらに深く学びたい場合、以下の参考書が助けになります（発行年順）。

宇沢弘文（1974）『自動車の社会的費用』岩波書店。

藤田弘夫（1993）『都市の論理：権力はなぜ都市を必要とするか』中央公論社。

見田宗介（1996）『現代社会の理論：情報化・消費化社会の現在と未来』岩波書店。

品田譲（2004）『ヒトと緑の空間：かかわりの原構造』東海大学出版会。

小熊英二（2012）『社会を変えるには』講談社。

デビッド・ハーヴェイ（2013）『反乱する都市：資本のアーバナイゼーションと都市の再創造』作品社。

宮内泰介編（2013）『なぜ環境保全はうまくいかないのか：現場から考える「順応的ガバナンス」の可能性』新泉社。

矢部宏治（2014）『日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないのか』集英社。

藤原辰史（2019）『分解の哲学：腐敗と発酵をめぐる思考』青土社。

セルジュ・ラトゥーシュ（2020）『脱成長』白水社。

エマ・マリス（2018）『「自然」という幻想：多自然ガーデニングによる新しい自然保護』草思社。

安藤聡彦・林美帆・丹野春香編（2021）公害スタディーズ：哀しみ、闘い、語りつぐ』ころから。

マシュー・サイド（2021）『多様性の科学』ディスカヴァー・トゥエンティワン。

新保奈穂美（2022）『まちを変える都市型農園：コミュニティを育む空き地活用』学生出版社。

山本真人（2022）『コモンズ思考をマッピングする：ポスト資本主義的ガバナンス』BMFT出版部。

ジェレミー・リフキン（2023）『レジリエンスの時代：再野生化する地球で、人類が生き抜くための大転換』集英社。

斎藤幸平（2023）『マルクス解体：プロメテウスの夢とその先』講談社。

藤川賢・友澤悠季編（2023）『なぜ公害は続くのか：潜在・散在・長期化する被害（シリーズ 環境社会学講座 1）』新泉社。

福永真弓・松村正治編（2025）『答えのない人と自然のあいだ：「自然保護」以後の環境社会学（シリーズ 環境社会学講座 4）』新泉社。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出するコメント：65%

期末に提出するコメント：35%

※授業内容をまとめても評価できません。授業で取りあげた概念、方法論、事例などをもとに、何を考えたのかを評価します。

※授業中の発言内容によって加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に発言を求めることが難しいですが、そのことを前提にできるだけ双方向型の授業にしていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

【実務経験のある教員による授業】環境コンサルタント会社・環境系行政研究機関に約5年勤務、環境NPO代表など市民活動の経験は20年以上。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The scope of this lecture covers not only environmental problems that arise within cities, but also local and remote environmental problems caused by the power that accompanies cities. In order to approach these subjects, we will incorporate knowledge from multidisciplinary fields such as sociology, urban planning, geography, history and ecology related to cities and the environment. We take on environmental problems as urban problems and consider what kind of city can realise an environment where no one is left behind.

【Learning objectives】

- ・ Be able to think sociologically about what environmental problems are.
- ・ Be able to understand the power that comes with cities and to recognise various environmental problems as urban problems.
- ・ Be able to seek solutions to environmental problems on an environment-social-economic layer.
- ・ It becomes interesting to think and act specifically about how cities should be.

【Learning activities outside of classroom】

After the class, look back at the class and submit a reaction paper.

I recommend that you read a reference books.

【Grading Criteria /Policies】

Reaction papers (may include quizzes): 100%

*Additional points may be given depending on what is said in class.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

市民公益活動論

熊谷 紀良

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公益をめざした事業や取り組みは、行政だけが行うものではありません。

市民が自分だけでなく他者のために、社会をより良くしたいと考えて取り組むものもまた、公益性をもった活動といえます。市民が取り組むこのような活動は、社会問題の解決をめざして広がり深まりをもって展開されています。

この授業では、ボランティアやNPOなど市民が参加する活動の成り立ちと発展、活動から見える社会問題や市民の活動上の課題など、具体的な事例を通して学び、社会における市民公益活動の意義やあり方を考察します。

【到達目標】

- ・公益について、非営利・市民セクターについて整理し、市民活動・公益活動の社会的意義と活動を支える仕組みや制度について理解する。
- ・市民の活動により取り組まれる社会的問題と取り組みの歴史と現状、アプローチの方法を理解し、考察することによって活動の意義と課題を知る。
- ・受講者自らが社会的問題と問題への取組みに関心をもち、調べ、仲間とともに考えることによって、主体性・連帯性・先駆性・非営利性の意味と意義を認識し理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・各回毎に、テーマに沿った講義を行います。テーマによって、ボランティア・市民活動者によるゲストスピーチを取り入れます。
- ・講義やゲストスピーチに関連した話し合いをグループに分かれるなどして行ない、話し合いで出た意見やワークの結果、個人で調べたことを発表・共有してもらうことがあります。
- ・質問・意見については、講義のその場で、または次回の授業でコメントし振り返ります。また、振り返りから発展して、出された意見をもとに討議をすすめ、お互いで意見やアイデアを出し合い、学びを深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション「市民」とは・「公益」とは	授業の目標、内容、進め方について 市民社会と市民セクターについて
第2回	ボランティアとは何か	ボランティア活動の成り立ちと歴史 ボランティアの主体性、連帯性、無償性、先駆性
第3回	市民活動と非営利組織（NPO）への展開	NPOの意味と歴史 多様な組織形態と法制度、法人格
第4回	社会問題への取り組み①	地域の福祉問題（高齢、障害、子ども・子育て）と向き合うボランティア・NPOの実践事例から
第5回	社会問題への取り組み②	環境問題（ごみ、河川・森林保全、気候変動）と向き合うボランティア・NPOの実践事例から

第6回	社会問題への取り組み③	外国にルーツをもつ人たちが抱える問題・多文化共生や国際協力に取り組むボランティア・NPOの実践事例から
第7回	社会問題への取り組み④	貧困・格差・孤立がもたらす問題（路上生活、自死、DV、マイノリティ）と向き合うボランティア・NPOの実践事例から
第8回	社会問題への取り組み⑤	子ども食堂・地域の中の居場所づくり活動の広がり実践事例から
第9回	社会問題への取り組み⑥	災害ボランティアと災害に備えたNPO・広範な団体のネットワークと実践事例から
第10回	市民公益活動を支える制度とNPO・行政の協働	市民活動・NPOと行政との協働形態（参画、共催、補助、委託）と条例、協定、協約
第11回	多様な団体による社会問題解決のための参加と協働	企業、学校、地縁組織や各種団体、専門家等によるプラットフォームと連携・協働
第12回	参加と協働をすすめる「中間支援組織」とは	中間支援組織の意義と役割、実態
第13回	授業の振り返りと発表①	中間支援機能の広がりへの期待 授業の振り返り・半期を通じて調べてきた市民公益活動と参加と協働を支える制度についての発表
第14回	授業の振り返りと発表②・まとめ	授業の振り返り・半期を通じて調べてきた市民公益活動と参加と協働を支える制度についての発表、発表をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回ともレジュメ（スライド資料等）を配布するので、授業後に各自で授業内容を振り返り内容をよく理解し、自分なりの考えを整理してください。疑問点や感想・意見についてリアクションペーパーにて提出してください。
- ・欠席した場合は授業支援システムからレジュメをダウンロードして授業内容を把握しておいてください。
- ・各自で、関心のある分野のボランティア・NPOの事例をインターネットやボランティア・市民活動・NPO支援センター等で情報収集したり、活動に体験参加してみることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

授業の中でテーマに関連する資料や参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発言・発表、リアクションペーパーの提出、グループ討議を含む参加姿勢など）：40 %
テスト・レポート：60 %
なお、原則として、4回以上欠席した者は、成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

受講生と教員とが一緒になって授業に関連したコミュニケーションを深めていけるようにするためにも、関心のある社会問題や活動分野のボランティア・NPOの事例を収集したり体験参加できる方法等については、開講後早い段階で情報提供し相談できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

20年以上、中間支援組織であるボランティア・市民活動センターにて、ボランティアへの参加、NPOなど市民活動団体の設立・運営支援、社会課題に取り組むネットワーク運営などを行ってきました。活動での経験をもとに、具体的な事例や体験談を交えて授業を行います。

【Outline (in English)】

公益をめざした事業や取り組みは、行政だけが行うものではありません。

市民が自分だけでなく他者のために、社会をより良くしたいと考えて取り組むものもまた、公益性をもった活動といえます。
市民が取り組むこのような活動は、社会問題の解決をめざして広がり
りと深まりをもって展開されています。
この授業では、ボランティアやNPOなど市民が参加する活動の成
り立ちと発展、活動から見える社会問題や市民の活動上の課題など、
具体的な事例を通して学び、社会における市民公益活動の意義やあ
り方を考察します

POL300AC（政治学 / Politics 300）

外国語講読（中国語） I

黄 偉修

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言語は生き物、進化する物」と言われていますが、その言語を使う国における政治、経済、社会、文化などの要因が、言語の「生き方」「進化」に影響を与えたのです。この授業は、毎回時事的な中国語、具体的には雑誌及び新聞記事の講読を行います。また、中国大陸に限らず、台湾と香港などでも中国語が使用されているため、中国語圏の文献を幅広く使用します。履修者が読解には必要な力を身に付けることは本講の主な目的です。また、履修者が文献を通じて中国語圏全体への理解を深めることも本講の重要な目的ですので、中国語圏の事情に興味のある学生、これから中国語圏の事情について学びたい学生の履修を歓迎します。

【到達目標】

- ①辞書さえあれば中国語の新聞や雑誌の内容が理解できる能力を身に付けます。
- ②中国語の文献を通じて中国語圏の政治、経済、社会、文化などに対する理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ①辞書の持参：必ず辞書を持参してください。電子辞書も可。
- ②授業の進行：文献の意味内容の把握（教員による専門用語・文法の解説、音読）→文献の検討（教員の解説、受講者の質問、議論）→感想文の提出
- ③教員は受講者の能力や関心の方向に応じて文献・補足の教材・解説に柔軟に調整し、工夫します。
- ④課題に対するフィードバックの方法：感想提出後に学習支援で学生に対して個別に、あるいは次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行います。また、最終授業で、13回までの講義内容のまとめ、復習、講評、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよびブレースメントテスト	①授業方針などを説明します。 ②学生の中国語力を確認するために簡単な試験を行います（成績評価基準に含みません）。辞書を必ず持参してください。 ③中国語検定の合格証明書を持っていれば持ってきてください。 ④ブレースメントテストの解説を行います
第2回	中国語教材の読解	文献の読解。
第3回	中国語教材の読解	同上
第4回	中国語教材の読解	同上
第5回	中国語教材の読解	同上
第6回	中国語教材の読解	同上
第7回	中国語教材の読解	同上
第8回	中国語教材の読解	同上
第9回	中国語教材の読解	同上
第10回	中国語教材の読解	同上
第11回	中国語教材の読解	同上
第12回	中国語教材の読解	同上

第13回	中国語教材の読解	同上
第14回	総括	期末課題の回収と今学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業に出席するだけでは語学は身に付きません。今まで学んだ文法と単語を繰り返して復習してください。
- ②中国を中心とするアジアに関する記事（日本語の記事も可）を読む習慣を身につけてください。
- ③本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。担当教員が中華圏を紹介する文献、必要な参考資料を受講者の中国語能力と希望、興味関心などを考慮して印刷・配布します。

【参考書】

各自の持っている日中・中日辞書

【成績評価の方法と基準】

課題（50%）、授業内での議論への参加（50%）を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

記事の内容が難しいという意見が時にありましたが、外国語を学ぶことは、言葉を通して自分の知らない世界を知ることにつながります。そのため、はじめは時に難しい単語、わからない分野の知識が多くて骨が折れます。しかし、身に付けば自分の世界が広がります。担当教員が柔軟に調整・工夫していきますので、一緒に頑張りましょう。

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて随時お知らせします。

【Outline (in English)】

This course will offer students a series of literature from the Chinese world (Taiwan, Hong Kong, and China). The goal of this course is to enable students to not only comprehend the usage of Chinese vocabulary at progressively higher levels, but also to also enhance their ability to translate simple phrases (from Chinese to Japanese). Additionally, this course will provide students with a basic understanding of the Chinese world through literature. This course's goals will be accomplished by the student's ability to apply a basic core of reading skills (e.g. skimming and making inferences).

POL300AC (政治学 / Politics 300)

外国語講読 (中国語) II

黄 偉修

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「言語は生き物、進化する物」と言われていますが、その言語を使う国における政治、経済、社会、文化などの要因が、言語の「生き方」「進化」に影響を与えたのです。この授業は、毎回時事的な中国語、具体的には雑誌及び新聞記事の講読を行います。また、中国大陸に限らず、台湾と香港などでも中国語が使用されているため、中国語圏の文献を幅広く使用します。履修者が読解には必要な力を身に付けることは本講の主な目的です。また、履修者が文献を通じて中国語圏全体への理解を深めることも本講の重要な目的ですので、中国語圏の事情に興味のある学生、これから中国語圏の事情について学びたい学生の履修を歓迎します。

【到達目標】

- ①辞書さえあれば中国語の新聞や雑誌の内容が理解できる能力を身に付けます。
- ②中国語の文献を通じて中国語圏の政治、経済、社会、文化などに対する理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ①辞書の持参：必ず辞書を持参してください。電子辞書も可。
- ②授業の進行：文献の意味内容の把握 (教員による専門用語・文法の解説、音読) → 文献の検討 (教員の解説、受講者の質問、議論) → 感想文の提出
- ③教員は受講者の能力や関心の方向に応じて文献・補足の教材・解説に柔軟に調整し、工夫します。
- ④課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法：感想提出後に学習支援システムで学生に対して個別に、あるいは次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行います。また、最終授業で、13回までの講義内容のまとめ、復習、講評、解説を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよびブレースメントテスト	①授業方針などを説明します。 ②学生の中国語力を確認するために簡単な試験を行います (成績評価基準に含みません)。辞書を必ず持参してください。 ③中国語検定の合格証明書を持っていれば持ってきてください。 ④ブレースメントテストの解説を行います。
第2回	中国語教材の読解	文献の読解。
第3回	中国語教材の読解	同上
第4回	中国語教材の読解	同上
第5回	中国語教材の読解	同上
第6回	中国語教材の読解	同上
第7回	中国語教材の読解	同上
第8回	中国語教材の読解	同上
第9回	中国語教材の読解	同上
第10回	中国語教材の読解	同上
第11回	中国語教材の読解	同上
第12回	中国語教材の読解	同上

第13回	中国語教材の読解	同上
第14回	総括	期末課題の回収と今学期の授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ①授業に出席するだけでは語学は身に付きません。今まで学んだ文法と単語を繰り返して復習してください。
- ②中国を中心とするアジアに関する記事 (日本語の記事も可) を読む習慣を身につけてください。
- ③本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は特に指定しません。担当教員が中華圏を紹介する文献、必要な参考資料を受講者の中国語能力と希望、興味関心などを考慮して印刷・配布します。

【参考書】

各自の持っている日中・中日辞書

【成績評価の方法と基準】

期末課題 (50%)、授業内での議論への参加 (50%) を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

記事の内容が難しいという意見が時にありましたが、外国語を学ぶことは、言葉を通して自分の知らない世界を知ることにつながります。そのため、はじめは時に難しい単語、わからない分野の知識が多くて骨が折れます。しかし、身に付けば自分の世界が広がります。担当教員が柔軟に調整・工夫していきますので、一緒に頑張りましょう。

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて随時お知らせします。

【Outline (in English)】

This course will offer students a series of literature from the Chinese world (Taiwan, Hong Kong, and China). The goal of this course is to enable students to not only comprehend the usage of Chinese vocabulary at progressively higher levels, but also to also enhance their ability to translate simple phrases (from Chinese to Japanese). Additionally, this course will provide students with a basic understanding of the Chinese world through literature. This course's goals will be accomplished by the student's ability to apply a basic core of reading skills (e.g. skimming and making inferences).

LAW300AB（法学 / law 300）

知的財産法Ⅲ

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち、「ブランド」の保護などに関連する、いわゆる「標識法」に分類される法制度（商標法及び不正競争防止法の一部）について一通り学ぶことを目的とする。これらの法律はいずれも民法の特別法に位置付けられるほか、消費者法や行政法、独占禁止法とも関連を有するものであり、「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」における学習の最終段階において受講すべき応用的な科目のひとつである。

【到達目標】

知的財産法のうち、いわゆる標識法に分類される法制度について、一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後関連する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、第一に、標識法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、標識法が問題となる具体的な事例（紛争）について、不正競争防止法・商標法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この講義では、標識法に関する法制度としてどのようなものが設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は出席票・メール・学習支援システムを通じて受け付けるほか、授業前後に直接口頭で質問していただいても構わない。フィードバックは個別に、ある

いは次回授業の冒頭に全体に対して、行うこととしたい。期末試験に関しては、学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第2回	標識法概説・不正競争防止法総説	標識法の概説、不正競争防止法の全体像
第3回	混同惹起行為の規律(1)	不競法2条1項1号の趣旨及び要件
第4回	混同惹起行為の規律(2)	不競争2条1項1号の要件
第5回	混同惹起行為の規律(3)	不競法2条1項1号の要件及び効果
第6回	著名表示冒用行為の規律(1)	不競法2条1項2号の趣旨及び要件
第7回	著名表示冒用行為の規律(2)	不競法2条1項2号の要件及び効果

第8回	不競法のその他の関連規定	不競法2条1項19号等の概説
第9回	商標法総説	商標法の全体像
第10回	商標の登録要件(1)	積極的登録要件
第11回	商標の登録要件(2)	消極的登録要件
第12回	商標権の保護範囲	商標権の内容、商標の類似性など
第13回	商標権の制限	権利行使が制限される場合について
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料等を指定する場合がありますので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、不正競争防止法等の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣、2010）、茶園成樹編『知的財産法入門〔第3版〕』（有斐閣、2020）、愛知靖之ほか『知的財産法〔第2版〕』（有斐閣、2023）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は印刷したものを教室で配布するほか、学習支援システムからも利用できるようにする予定である。

【その他の重要事項】

民法（特に不法行為法）や消費者法、行政法、経済法、民事訴訟法、知的財産法（特許法・著作権法）などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心掛けたい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Trademark Protection in Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Trademark Protection.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（憲法哲学）

金井 光生

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化・社会と法コース」と密接な関連を有する科目です。

本講義では、諸々の市民の法的な物語群（narratives）に支えられたリアルなフィクションとしてのRecht理念の現象態である共同の文化作品として「憲法」を捉えて、人間の存在のconstitutionに照応した国家のconstitutionとして、憲法をナラティヴ論の観点から哲学的解釈学的に解明し、立憲主義の普遍的な精神的基礎を哲学的人間学的に探究します。

その際は、憲法物語として、多彩なテキスト（文芸作品、宗教聖典、戦争文学、東日本大震災と福島原発事故の記録etc.）を読解しながら、「法の支配」・「立憲主義」の思想を読み取り、多様な人間の平和的共生のための「希望」のよすがとして、1946年日本国憲法の記憶をthoughtfulに思索していきます。

単なる実定法解釈学以上の憲法の魂に触れたい人、せっかく大学に入ったのだから本格的な学芸としての法の醍醐味を味わいたい人、または、大学に来てしまった者の責任として「学芸としての法」をじっくり思索したい人の主体的な受講を求めます。

【到達目標】

- (1) 基本的な論点を理解できる。
- (2) テキストの基本的な読解ができる。
- (3) 立憲主義をめぐる主要な思想を「自分の言葉で」物語ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

「テキスト読解重視」の講義形態です。教科書に加えてレジュメ等を配布します。

本講義は実験的なものです。授業の後半に取り上げるテキストは年度ごとに異なります。「文芸作品」「聖書」「仏典」に引き続いて、今年度は「日本仏教思想」を中心に引き上げ、以前取り上げたテキストも参照・比較しつつ、「リアルなフィクション」としての憲法ナラティヴズの観点から憲法哲学的に読解していく予定です。宗教としてではなく、「法思想」との関連でその象徴的意味を解釈していきます。

下記【授業計画】はあくまで予定であり、受講者との対話的応答の中で、内容は変更する場合があります。大学の授業は学生のみならずとも思索しながら、その都度の対話的探究の中で共同制作していくものですから。

そのためにも、適時にリアクションペーパーやレポートを課すことで理解度を測り、その後の授業で、リアクションペーパーについては応答し、レポートについては講評することで、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：「憲法哲学」ということ	「リアルなフィクション」としてのRecht理念に規整された憲法物語群（ナラティヴズ）と立憲的信
第2回	法とナラティヴズ①	法と物語の哲学
第3回	法とナラティヴズ②	法と哲学的解釈学
第4回	小括	「リアルなフィクション」としての言霊と神話と法
第5回	憲法物語①	イエスの思想と聖書入門
第6回	憲法物語②	インド思想とダルマ
第7回	憲法物語③	シャカの思想と仏教入門
第8回	憲法物語④	大乘仏典入門
第9回	憲法物語⑤	日本仏教史概論
第10回	憲法物語⑥	最澄（天台宗）と空海（真言密教）
第11回	憲法物語⑦	道元（禅宗・曹洞宗）
第12回	憲法物語⑧	日蓮（法華宗）
第13回	憲法物語⑨	法然（浄土宗）と親鸞（浄土真宗）
第14回	まとめ：全世界の国民の平和的生存権	「ナラティヴ」としての1946年日本国憲法と、カフカ「法の前で」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 該当箇所の予習・復習をする
 - (2) 図書館を徹底的に活用する（参考書など）
 - (3) 本講義や関連科目の学びを自分の生き方や将来の職業にかす
- *本授業の準備・復習時間は「4時間以上」を標準とします。

【テキスト（教科書）】

島蘭進『宗教を物語でほどく——アンデルセンから遠藤周作へ』（NHK出版新書、2016年）

【参考書】

中村元『中村元の仏教入門』（春秋社、2014年）
末本文美士編著『日本仏教再入門』（講談社学術文庫、2024年）
平川宗信『憲法的刑法学の展開——仏教思想を基盤として』（有斐閣、2014年）
B.R. アンペードカル（山際素男訳）『ブッダとそのダンマ』（光文社新書、2004年）
今村仁司『親鸞と学的精神』（岩波書店、2009年）
佐々木閑『大乘仏教』（NHK出版新書、2019年）
島蘭進『日本仏教の社会倫理』（岩波現代文庫、2022年）
H. アーレント（大久保和郎訳）『エルサレムのアイヒマン（新版）』（みすず書房、2017年）
大野達司ほか『近代法思想史入門』（法律文化社、2016年）
奥平康弘『「憲法物語」を紡ぎ続けて』（かもがわ出版、2015年）
H.-G. ガダマー（齋田収ほか訳）『真理と方法（全3巻）』（法政大学出版局、1986-2012年）
金井光生『フクシマで日本国憲法（前文）を読む』（公人の友社、2014年）
来栖三郎『法とフィクション』（東京大学出版会、1999年）
小森陽一『ことばの力 平和のちから』（かもがわ出版、2006年）
R. ドゥオーキン（小林公訳）『法の帝国』（未來社、1995年）
野家啓一『物語の哲学』（岩波現代文庫、2005年）
林田清明『「法と文学」の法理論』（北海道大学出版会、2012年）
福島大学行政政策学類編『大学的福島ガイド』（昭和堂、2024年）
渡邊二郎『構造と解釈』（ちくま学芸文庫、1994年）
東京電力福島原子力発電所事故調査委員会『国会事故調報告書』（徳間書店、2012年）

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」の達成の度合いに応じて評価します。

平常点およびリアクションペーパー（50％）＋期末試験またはレポート課題（50％）

【学生の意見等からの気づき】

「学習内容が他の法律学や日々の生活にリンクすることも多く、今後の学習や就職・人生の思考にも有益で、難解だがいろいろ考えさせられて面白かった」等のアンケートを踏まえて、一層レジュメや資料等を改良した。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We read the constitutional narratives as major literary works etc., because a Constitution is also a constitutional narrative. We think thoughtfully The Constitution (of Japan) who is supported by peoples' narratives representing constitutional faiths.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the basic issues and think them thoughtfully.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination or term-end report: 50 %, Short reports: 50 %.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義 I (現代の政治理論)

面 一也

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、デモクラシーの危機が唱えられている。実際に、極右勢力やポピュリズムといった反デモクラシー的な政治勢力が、世界各地で台頭している。日本においても、投票率の低下や国会審議の形骸化など、デモクラシーの機能不全が長く続いている。はたして、デモクラシーに未来はあるのか？

これらの問題を捉えるには、出来事をただ表面的に追いかけるのではなく、理論的なアプローチが不可欠である。この授業では、デモクラシーを考える上で重要な複数の政治理論をそれぞれ体系的に学びながら、デモクラシーはそもそも望ましい政治体制なのかどうか、それが問題や限界を抱えているなら、より望ましい政治体制はどのようなものなのか、といった問いについて考察していく。

【到達目標】

1. F・ニーチェ、C・シュミット、H・アーレントの政治理論を、それぞれ体系的に学習する。
2. デモクラシーをめぐる上記の三人による議論を理解する。
3. デモクラシーの未来について理論的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出(2回程度)を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方、教材などについて。
2	フリードリヒ・ニーチェ 1	文法の技法、キリスト教道徳への批判
3	ニーチェ 2	近代デモクラシーへの批判
4	ニーチェ 3	末人と超人
5	ニーチェ 4	大いなる政治
6	カール・シュミット 1	政治的なものの概念 ―友と敵の区別―
7	シュミット 2	リベラル・デモクラシーと近代社会への批判
8	シュミット 3	権威体制の擁護
9	シュミット 4	ナチズムへの関与
10	ハンナ・アーレント 1	活動、自由、公的空間
11	アーレント 2	全体主義への批判
12	アーレント 3	人間の条件：近代の価値転倒
13	アーレント 4	公的空間の再興 ―それが不可能なら―
14	期末筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

復習に力点を置くことを勧める。ノートと引用資料をよく読み返し、自らの考察を簡単に書き留めておくことよい。初回授業時に詳しく説明するが、成績評価に際しても考察を重視する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

授業時に配布する引用資料を主に用いる。

【参考書】

藤原保信、飯島昇蔵編著『西洋政治思想史Ⅱ』新評論、1995年。
 杉田敦、川崎修編著『西洋政治思想資料集』法政大学出版社、2014年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50%)、リアクションペーパー (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

In recent years, there have been calls for a crisis of democracy. In fact, anti-democratic political forces such as extreme right-wing groups and populism have emerged in many parts of the world. Also in Japan, democracy has been dysfunctional for a long time, as evidenced by the declining voter turnout and the disorganization of parliamentary deliberations. Does democracy really have a future?

In order to grasp these issues, it is essential to take a theoretical approach rather than merely following events superficially. In this course, we will systematically study several political theories that are important for thinking about democracy, and consider questions such as whether democracy is a desirable political system in the first place, and if it has problems and limitations, what kind of political system would be more desirable.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義Ⅱ (現代の政治理論)

面 一也

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

私たちは自由な社会で生きている、とされる。実際に、日本を含む多くの国家が採用する政治体制では、思想や言論などの諸自由が、憲法によって保障されている。しかし他方で、虐待や同調圧力やブラック労働など、およそ自由と相容れない事態も、私たちの社会に広く見られる。これらの事態は、たんに自由に反するだけでなく、自由な社会それ自体を原因とする、皮肉かつ逆説的な結果ではないのか…？

これらの問題を捉えるには、出来事をただ表面的に追いかけるのではなく、理論的なアプローチが不可欠である。この授業では、自由を考える上で重要な複数の政治理論をそれぞれ体系的に学びながら、私たちは本当に自由な社会で生きているのか、それが問題や限界を抱えているなら、それはどのように (または、そもそも) 克服されるのか、といった問いについて考察していく。

【到達目標】

1. J・ベンサム、M・フーコー、J・ロールズの政治理論を、それぞれ体系的に学習する。
2. 自由をめぐる上記の三人による議論を理解する。
3. 自由な社会の未来のあり方について、理論的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出 (2回程度) を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方、教材などについて。
2	ジェレミー・ベンサム 1	功利主義の成立：T・ホブズ、J・ロック、A・スミスとの関連から
3	ベンサム 2	個人の利益と社会の利益の調和…？
4	ベンサム 3	人民主権と集権体制
5	ベンサム 4	快楽と個性：J・S・ミルによる批判
6	ミシェル・フーコー 1	“真理”を語る者は誰か？：近代批判としての系譜学的問い
7	フーコー 2	規律=訓練テクノロジー：権力への自発的服従
8	フーコー 3	司牧者権力と生政治：知と権力の結託による生の監視
9	フーコー 4	近代への抵抗：新しい主体の可能性
10	ジョン・ロールズ 1	正義論の構想：ヘトナム戦争や人種差別への反対、功利主義の克服

11	ロールズ 2	正義の二原理：リベラル・テ
12	ロールズ 3	モクラシーと福祉国家の擁護
13	ロールズ 4	正義論をめぐる論争：新自由主義による批判を中心に
		正義論の国際社会への適用：永遠平和のための正しい戦争、人道的介入、核武装
14	期末筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

復習に力点を置くことを勧める。ノートと引用資料をよく読み返し、自らの考察を簡単に書き留めておくことよい。初回授業時に詳しく説明するが、成績評価に際しても考察を重視する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

授業時に配布する引用資料を主に用いる。

【参考書】

藤原保信、飯島昇藏編著『西洋政治思想史Ⅱ』新評論、1995年。
 杉田敦、川崎修編著『西洋政治思想資料集』法政大学出版社、2014年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50%)、リアクションペーパー (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

It is said we live in a free society. In fact, in the political systems adopted by many nations, including Japan, freedom of thought, speech, and other freedoms are guaranteed by the Constitution. However, there are many situations in our society that are incompatible with freedom, such as abuse, peer pressure, black labor, etc. These situations are not only contrary to freedom, but are ironic and paradoxical consequences of a free society itself…?

In order to grasp these issues, it is essential to take a theoretical approach rather than merely following events superficially. In this course, we will systematically study each of the political theories that are important for thinking about freedom, and consider questions such as: do we really live in a free society, and if it has problems and limitations, how (or whether) can they be overcome?

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法Ⅳ

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政・公共政策と法」コースに位置づけられる科目として、日本国憲法のトピックのうち、違憲審査制、安全保障、財政などの論点について講義を行います。授業では、比較憲法的な視点も踏まえながら、近代立憲主義とその現代の変容という視点から、日本国憲法がどのような民主主義および立憲主義のあり方を想定しているのかをを学んでいきます。

【到達目標】

日本国憲法における違憲審査制、安全保障の問題、憲法保障、財政に関する論点を理解するようにします。またそれらを通じて、現代日本における政治的な問題について法的視点から考え、判断できる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど〇×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は授業の際も受け付けますが、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと違憲審査制（1）	違憲審査制の歴史と諸類型
2	違憲審査制（2）	憲法訴訟の基礎
3	違憲審査制（3）	憲法判断の方法
4	違憲審査制（4）	判例の展開
5	違憲審査制（5）	違憲審査の基準論とその問題
6	これまでのまとめ	違憲審査についてのまとめ
7	安全保障（1）	日本国憲法の想定する平和と安全
8	安全保障（2）	安全保障を巡る変化と政府見解
9	安全保障（3）	安全保障を巡る現代的課題と憲法
10	安全保障（4）	判例の分析
11	財政（1）	財政民主主義
12	財政（2）	財政に関する憲法的論点
13	憲法保障	国家緊急権と抵抗権
14	民主主義と立憲主義	民主主義論からみた本授業のトピックの意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】

憲法の基本書といわれるものには、
 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
 佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
 などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすそうなものをいくつか挙げておきます。

〈入門的なもの〉

中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）

〈標準的なもの〉

新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法Ⅰ 総論・統治』『憲法Ⅱ 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

〈発展的なもの〉

毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ 総論・統治』『憲法Ⅱ 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）

また判例集として、
 長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

やコンパクトなものとして、

小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）

などがあります。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）及び2回の理解度確認テスト（20％）により評価する予定です。なお、期末試験は定期試験期間外に行う可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に留意したい。また違憲審査論についての説明がわかりにくくなりがちなので、できるだけ平易な説明を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップし、理解度確認テストも学習支援システム上で行う予定です。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course will focus mainly on the issues of the constitutional review system, the fiscal system, and the national security under the Constitution of Japan.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to develop the ability to think and judge political issues in Japan from a legal perspective

(Learning Activities outside of Classroom)

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法Ⅲ**國分 典子**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「行政・公共政策と法」コースに位置づけられるものとして、憲法の統治機構の諸問題を扱います。立法、行政、司法という水平的権力分立と中央と地方という垂直的権力分立の二つの側面から、日本の統治機構のあり方を勉強します。また、立憲主義の発展過程の中で権力分立制がどのように展開されてきたか、さらにそれが民主主義論とどのように結びついているのかを比較法的な視点も踏まえて考察します。

【到達目標】

日本国憲法における権力分立制のあり方を通し、民主主義と立憲主義の関係を理解することが目標です。具体的には、国会、内閣、裁判所、地方自治に関する憲法上のトピックを学び、統治機構の枠組とその現代的変化の状況を把握することを目指します。また振り返って権力分立制がなぜ必要なのか、日本の政治社会の動向の中で統治のしくみがどうあるべきなのかを自ら考えてゆく力を身につけることをも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど〇×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと本講義の序論	授業の進め方について 権力分立制の歴史的展開と現代的変化
2	権力分立	日本国憲法における権力分立制の枠組と日本国憲法下の天皇制の位置づけ
3	国民主権	国民主権の意味
4	選挙	日本国憲法下の選挙制度とその諸問題
5	国会（1）	国会の権限と活動
6	国会（2）	国会議員の地位
7	内閣（1）	日本国憲法における議院内閣制と内閣の権限を巡る諸問題
8	内閣（2）	総理大臣の地位と権限
9	これまでのまとめ	日本の議院内閣制の比較法的位置づけ
10	裁判所（1）	司法の機能
11	裁判所（2）	司法権の限界
12	裁判所（3）	裁判所の組織と司法権の独立
13	地方自治	地方自治を巡る諸問題
14	これまでのまとめ	後半のまとめと全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で挙げる参考書を事前に読んで授業に臨みます。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、関連判例などを自分で調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題に関心をもって、憲法との関連で考えてみるようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（出版社は指定しないので、使いやすいものを選ぶこと。）

【参考書】

憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすいものをいくつか挙げておきます。

〈入門的なもの〉

中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）

〈標準的なもの〉

新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

〈発展的なもの〉

毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法I 総論・統治』『憲法II 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

やコンパクトなものとして、

小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
などがあります。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80％）及び理解度確認テスト（20％）により評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

もう少し時事的な内容を加味して授業をできるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ等の資料は学習支援システムにアップしますので、あらかじめダウンロードして授業に臨んでください。

【Outline (in English)】

This lecture will focus on the issues of government institutions in terms of comparative perspectives of constitution.

At the end of the course, students are expected to understand the relationship between democracy and Constitutionalism.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（コンテンツビジネスの実相と知的財産権）

安田 和史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2023年のコンテンツ産業の市場規模は13兆3,597億円であり、過去最高を遂げている。

* 2024年のデータは2025年9月頃公表されますので講義では情報を更新して解説します。

コンテンツビジネスは、流通や収益構造などに大きな変化があらわれており、毎年キープレイヤーが入れ替わっている。また、コンテンツビジネスは多岐の分野にわたるが、授業では大きな変化が見られているゲーム市場、出版市場、および、近年エンタテインメント化が進む広告、各市場において大きな影響を与えている生成AIの問題等をテーマに、法的な課題等を交えて解説を行う。

なお、コンテンツ関係の時事問題が生じたときには積極的にケーススタディとして採用したいと考えている。

この授業は、知的財産法に分類される法律のうちコンテンツビジネスに関連するものを中心として学ぶことを内容とするが、知的財産法を横断的に取り扱うことになる。従って、知的財産法Ⅰ～Ⅲ[武生昌士]および法律学特講（知的財産法の今日的課題）[武生昌士]を受講している（あるいは、将来受講する）と全体的な理解が深まるようになると思われることから推奨する。

「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「行政・公共政策と法コース」、「文化・社会と法コース」などを中心に幅広く関連を有し得る。

【到達目標】

コンテンツビジネス（ゲーム、出版、広告等）にかかる法的問題について理解し、それを解消するための考え方を身につける。授業では、判例や実務的な解決手段等を紹介するが、問題解決の手段はそれだけに留まらない。この授業あるいはそれ以外で得た知識をフル活用して、自分であればどのような解決手段を提案できるかということを考えられるようになってほしい。

Able to propose solutions to legal issues related to the content business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、コンテンツビジネス市場についてゲーム、出版、広告を中心に主要なテーマに掲げ、最新技術の動向を交えながら、コンテンツと法に関する解説を行う。また、ある程度ビジネス環境等の理解ができたところで、法的問題について海賊版サイト問題や、ゲームのチートに関する法的な問題など、皆さんに身近なケースを紹介しながら解説し理解を深める。知識を深めるということも重要であるが、問題解決のための考え方を養ってもらいたい。

授業形態は、原則対面形式の講義形式で行う。ゲストスピーカーを承知する場合がある。ただし、講師の都合により最大5回程度オンラインにする場合がある。

講義の後にリアクションペーパーを回収する。その中で、質問等がある場合には記載してもらい、翌週の冒頭に質問に回答する。

原則的に、対面形式での授業を行う。

詳細は、学習支援システムを通じてお知らせする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンテンツビジネスの実相と知的財産の概要	初回講義では、講義の進め方および講師の紹介、成績評価の方法などについて説明を行う。また、現在のコンテンツ市場について、解説を行う。
2	コンテンツビジネスの実相と知的財産～プロテクト技術と知的財産法～	ゲームは、ゲーム機側とソフト側双方にプロテクトがかけられており、違法なソフトは起動しない技術的な工夫がされている。しかしながら、このような手段を回避するための装置やプログラムを提供する者が存在しており、この対応として著作権法や不正競争防止法の規定が用いられる。近年においては、民事対応のみならず、不正競争防止法による刑事対応および、関税法における水際措置が効果を上げている。授業では、ゲームの技術的保護と関連法に関する具体例を中心に解説する。
3	コンテンツビジネスの実相と知的財産～通信規格・メモリ等のインフラ～	ゲーム機やソフトウェアの流通において、メモリや通信関連技術、ファイル圧縮技術等の標準化が不可欠となる。標準化は、複数の企業が所有する特許権をプールすることで成立する。これらの特許はFRAND宣言され、公正、合理的かつ非差別的な条件（FRAND条件）でライセンスされることになる。しかしながら、FRAND条件の前提があったとしても、特許権者とこれらの特許を使用する者との間でライセンス交渉が行われるにあたり、具体的な条件等について折り合わず紛争が起きている。FRANDに関する問題は、日本のみならず国際的な問題であることから、日米欧の現状について解説する。
4	コンテンツビジネスの実相と知的財産～オンラインゲーム（1）～	オンラインゲーム市場は、コンテンツ市場の中でも極めて好調である。ソーシャルモデルとフリーミアムモデルによる相乗効果もあり、高収益化に成功している。他方で、オンラインゲームは悪質なユーザーによる「チート」行為の被害が深刻化している。チート行為は、ゲーム内の秩序を破壊し、企業に経営上の被害をもたらす。授業では、チート行為の一部が、知的財産法による法的対応が可能であり、民事対応による損害賠償請求や刑事対応が効果をあげていることについて解説する。

- 5 コンテンツビジネスの実相と知的財産～オンラインゲーム(2)～
- ゲームアプリは、AppleのApp StoreやgoogleのGoogle Play等を通じてダウンロードされており、その総数は、其々200万以上とも言われている。このように競争が激しいゲームアプリ市場において、自社のゲームコンテンツを知的財産権等により保護することは極めて重要である。AR技術・スマホの位置情報技術を用いたゲームアプリが世界中で大ヒットしているが、関係各社は技術やキャラクターについての知的財産権による保護に余念がなく現在のところ同種のゲームアプリの追従を許していない。また、スタートアップ系の企業に勢いのあるゲームアプリ業界であるが、知的財産権のクリアランスが不十分であれば、将来の経営リスクになる。授業では、具体的な紛争事例等を交えながら、ゲームアプリの知的財産権による保護について解説する。
- 6 コンテンツビジネスの実相と知的財産～AI編
- 生成AI技術の動向について、解説をするとともに、近年の産業界の動きや知財法関連の改正についても解説する。
- 7 コンテンツビジネスの実相と知的財産～出版市場のデジタル化と流通の変化～
- デジタル出版が可能となったことで、出版社を介さずに、直接出版することが可能になった。出版社を介した出版の場合、作家に入る印税は10%である。他方で、大手の電子出版サービスを利用すると、70%が作家に入ることになる。このような事実から、出版社が将来的に不要になるのではとの考え方も成立し得るが、プロの作家は必ずしもそのようには考えていない。この問題をひも解くために、作品の創作において出版社がどのような役割を担っているのかという点、および、法的立場を明らかにした上で、「デジタル出版時代には出版社は不要か？」という点を考察する。
- 8 コンテンツビジネスの実相と知的財産～海賊版サイトに対する出版社の戦い～
- インターネット上の違法コンテンツについては、米国DMCAに準拠した方式（我が国ではプロバイダ責任法）による削除申請をサイト事業者にすることで削除される場合がある。また、これらはサイトによっては検出から削除まで自動化されており一定の効果を上げていて作業効率も上がっている。講義では、毎年新しい試みが行われている出版社による海賊版対策の実態と法的対抗手段について解説する。
- 9 複雑化する海賊版サイト問題
- 海賊版サイトは、毎年のように姿や国を変え、コンテンツ事業者を翻弄している。講義では海賊版サイト問題について詳述するとともに、海賊版サイトへの対抗手段について解説する。

- 10 「コンテンツを工学する」とは何か？
- コンテンツ市場の成長に工学的なアプローチが不可欠になっている。海外市場を見据えた取り組みや、海賊版対策、新たなプラットフォームの構築などにおいて国内のスタートアップ企業がしのぎを削っている。これらの最新動向について解説する。
- 11 コンテンツビジネスの実相と知的財産～広告コンテンツの創作と法的制約1～
- 広告は、法的な制約を受けており、その枠組みの中でクリエイターが制作を行っている。具体的には、他人の知的財産権等をはじめとする権利を侵害しないように留意する必要がある他、広告に関連する法的規制も受けている。さらに、倫理上の制約等も存在している。授業では、これらの法的規制および広告コンテンツの創作との関係について2回に渡って解説する。前回の続き
- 12 コンテンツビジネスの実相と知的財産～広告コンテンツの創作と法的制約2～
- 13 コンテンツビジネスの実相と知的財産～WEBマーケティングにおけるブランド等名称の重要性と知的財産法による保護～
- WEB広告などを中心に行われているマーケティングにおいてリコメンドを行うにあたりブランド等の名称の重要性が増している。ブランド名称を不正に利用されないためにどのような対抗手段が考えられるか具体的なケースを参酌しながら解説を試みる。
- 14 コンテンツビジネスの実相と知的財産まとめ
- コンテンツビジネスの実相と知的財産について総括する。また、この講義の時点で起きている注目すべき事例などがあれば解説を行う。その他、期末レポートの課題について説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメの内容について十分に復習すること。事前配布した資料については、授業当日までに内容について検討しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

Read the distributed resumes carefully. Approximately 2 hours of preparation and review are required.

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、レジュメを必要に応じて配布します。なお、プロジェクターには投影できても、事情により配布できない資料もありますのでご了承ください。

【参考書】

経済産業省 商務情報政策局（監修）『デジタルコンテンツ白書2025』一般財団法人デジタルコンテンツ協会（2025年8月頃発刊予定）
総務省『令和6年版 情報通信白書』※総務省ウェブサイトで無料で取得可能。

『逐条解説 不正競争防止法』※経産省ウェブサイトで無料で取得可能。
前田健他編著『図録 知的財産法』（弘文堂、2021年02月）

その他、鳥並良ほか『著作権法入門〔第3版〕』（有斐閣、2021）、田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『著作権法〔第4版〕』（有斐閣、2023）、土肥一史『知的財産法入門〔第16版〕』（中央経済、2019）、藤野仁三（著、編集）＝FRAND研究会（編集）『標準必須特許ハンドブック SEP HANDBOOK〔第3版〕』発明推進協会（2025年1月）、小林 十四雄、末吉 互他編著『重要判例分析×ブランド戦略推進 商標の法律実務』中央経済社（2023年1月）。小泉 直樹、茶園 成樹他『条解著作権法』弘文堂（2023年6月）。上野 達弘（編集）、奥邨 弘司（編集）『AIと著作権』勁草書房（2024年2月）。

高林 龍、三村 量一、上野 達弘（編集）『年報知的財産法2023-2024』日本評論社（2024年1月）。

谷川 和幸『リンク提供行為と著作権法 (知財研究叢書)』弘文堂 (2024 年 4 月)。
上沼紫野 (監修), メディア・ビュー (編集)『③ルールをやぶるとどうなるの? (気をつけよう! 海賊版・違法ダウンロード)』汐文社 (2024 年 3 月)。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション [30%]+期末レポート [60%]+平常点 [10 %] を基本とする。

期末レポートが未提出の場合は、成績を与えません。

リアクションペーパーの回収は期限厳守。公欠を除き、事後提出は認めません。

期末レポートの課題は、12 月初旬に学習支援システムから提示します。

リアクションの提出は、対面の場合紙で提出していただきます。

平常点は、リアクションの内容や授業への積極的な取り組み等を評価します。

Your final grade will be calculated according to the following process:

Reactions will be submitted after the lecture[30%].Final Report[60%].Usual performance score[10%].

【学生の意見等からの気づき】

コンテンツビジネスと知的財産法の問題の中でも、現在ニュースなどで報じられている問題や、皆さんの身近で起きている問題、皆さんが抱えている疑問などについては、質問をしてもらえれば、可能な限り講義で取り扱うようにします。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各回の冒頭に配布を予定していますが、事情により配布できない場合もありますのでご了承ください。

【その他の重要事項】

知的財産法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけます。

【Outline (in English)】

Lectures on content business and intellectual property law.

ECN100AC（経済学 / Economics 100）

財政と金融 I

島澤 諭

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：経済学部「財政学 A（K6347）」との合併科目

その他属性：〈優〉〈実〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
	財政学の歴史	財政学の歴史
第2回	外部性（1）	外部性の本質
第3回	外部性（2）	ピグー税・補助金
第4回	外部性（3）	コースの定理
第5回	公共財（1）	公共財、準公共財
第6回	公共財（2）	公共財の最適供給
第7回	公共選択（1）	リンダールメカニズム、ただ乗り
第8回	公共選択（2）	アローの不可能性定理、直接民主制
第9回	公共選択（3）	間接民主制、ログローリング
第10回	税の帰着（1）	租税原則
第11回	税の帰着（2）	税の帰着
第12回	最適課税（1）	超過負担
第13回	最適課税（2）	最適物品税
第14回	最適課税（3）	最適所得税

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学15講』新世社
- (5) 林宜嗣等『財政学（第4版）』新世社

(6) Gruber Public Finance and Public Policy Worth Publishers Inc.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

官庁エコノミスト（経済企画庁（現内閣府））として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

To understand the concept of the role of government in a market-based economy. Also, understand the issues surrounding Japan's public finances and finance. Students will then acquire the logical thinking and analytical skills to be able to form their own opinions on the role of the government and how Japan's finances should be and will be in the future.

At present, we plan to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

The plan is to evaluate the students on the basis of their in-class assignments (40%) and a final exam (60%).

ECN100AC (経済学 / Economics 100)

財政と金融Ⅱ

島澤 諭

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：経済学部「財政学B（K6348）」との合併科目

その他属性：〈優〉〈実〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
	財政学の歴史	財政学の歴史
第2回	日本の財政の歴史	日本の財政史
第3回	予算制度	財政と法律、予算制度
第4回	政府の大きさ	経済活動と政府、財政の役割、 大きな政府と小さな政府
第5回	財政金融政策の効果（1）	景気循環、GDPギャップ
第6回	財政金融政策の効果（2）	国民所得の決定、乗数、ビルトインスタビライザー
第7回	財政金融政策の効果（3）	IS-LM分析、財政・金融政策の効果
第8回	所得再分配	ベンサム、ロールズ、ジニ係数
第9回	国債の負担（1）	国債の種類、新正統派
第10回	国債の負担（2）	新古典派
第11回	国債の負担（3）	リカード＝バローの等価定理
第12回	財政の持続可能性（1）	日本の財政再建の歴史
第13回	財政の持続可能性（2）	ドーマーの条件、ドーマーの命題
第14回	財政の持続可能性（3）	ボンジスキーム、プライマリーバランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

（1）井堀利宏『財政学（第4版）』新世社

（2）畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣

（3）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社

（4）小黒一正等『財政学15講』新世社

（5）小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論

（6）島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

The goal of this course is to acquire basic knowledge to understand the current status and issues of Japanese public finances, finance, and social security systems and financial resources, and to examine the effects of fiscal and social security systems and monetary policies from an economics perspective.

At present, it is planned to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

The plan is to evaluate the students on the basis of their in-class assignments (40%) and a final exam (60%).

POL200AC（政治学 / Politics 200）

自治体論

土山 希美枝

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方自治の基礎を学ぶことにより、他の自治体政策に関する科目を理解できるようになることを目的とする。地方自治の最新の動向を、市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるように教養を身につける。

【到達目標】

他の自治体政策に関する科目を理解できるように、地方自治に関連する基礎知識を幅広く学習する。このことにより、地方自治体が多様な公共サービスを提供し、自らの生活といかに関連しているかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面で授業を行う。映像や新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを伝える。また、取り扱った内容に関連して、適宜リアクションペーパーの提出を求める場合がある。授業に対する質問に関し、クラス全体に共有した方が良い内容については、全受講者に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	地方自治の理念・基本的な考え方	地方自治の理念の重要性や、地方自治がなぜ必要なのかを講義する。
2回	地方自治の基本制度	二層制、行政機構・公務員、広域行政、指定都市・中核市制度など、基本的な制度の解説する。
3回	府県間関係と地方分権	国と地方政府としての都道府県、市町村の関係や、地方分権がどのように進展したかを解説する。
4回	地方財政	中央政府と比較して、地方政府の財政がいかに運営されているのかを解説する。
5回	法令と条例・規則・要綱	中央政府が制定する法律の範囲内で、地方政府がいかに条例などを制定して自治体行政を運営しているかを解説する。
6回	直接請求権・市民参加	自治体に対して認められている直接請求権制度について解説するほか、同制度を利用した市民参加などについても講義する。
7回	自治体とNPO等との協働	様々な行政課題に対し、NPOや地域社会との協働がいかになされているのか、またその課題について解説する。
8回	自治体の政策体系と行政サービス	自治体の政策が、各行政分野ごとにいかに異なり、自治体内で「調整」されているのかを解説する。
9回	地方自治と地域社会の今日的課題のトピック	実際の社会現象を取り上げ、今までの講義で学んできた地方自治論の観点からどのような分析が可能なのかを解説する。

10回	個別行政（子ども・子育て支援政策）	国や自治体の子ども・子育て支援政策について解説する。
11回	個別行政（学校教育）	国や自治体の学校教育に関する政策や制度を解説する。
12回	個別行政（高齢者福祉）	国や自治体の高齢者福祉に関する政策や制度を解説する。
13回	現代の地方自治の課題	現在の地方自治の課題を、今までの講義をふまえて解説し、1－12回の講義のまとめを行う。
14回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。
講義で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索するなど情報収集に努めること。
自分の住んでいる自治体の財政状況などを調べること。
日常的に地方自治に関連のありそうな新聞記事を読む習慣を身につけること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

特に参考書は指定しない。必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（70％）に授業内の小レポート・リアクションペーパーの提出状況等（30％）を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に対面で授業を行うので、適宜質問の時間を設ける。また、メール等を通じた質問も歓迎する。地方自治に関心が持てるよう、身近なニュース等をお伝えするよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to learn the basics of local autonomy so that you can understand subjects related to other lectures of local government policies.

It is aim in this lecture to acquire the basic knowledge to be involved as taxpayers in the local government and to think it independently as citizens.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students will be expected to have read the relevant newspaper articles to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、Short reports : 30%

POL200AC（政治学 / Politics 200）

自治体政策論

土山 希美枝

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、国や自治体が様々な公共サービスを住民や企業などに提供している現状を把握し、公共政策がいかに大きな影響を私たちの生活に与えているのかを学ぶ。また、地方自治の最新の動向を市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける。

【到達目標】

自治の機構としての自治体とその政策の構造、特徴、展開を理解する。自治と自治体における政策課題の広がり・深まりを歴史的にとらえ、政策主体の多様化と政策手法の開発を、実践と理論を架橋しながらとらえる。

これらを通じて、地域課題を自治の視点からとらえ、政策を構想する基礎的な知識と能力を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面で授業を行う。映像や新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを伝える。また、取り扱った内容に関連して、適宜リアクションペーパーの提出を求める場合がある。授業に対する質問に関し、クラス全体に共有した方が良い内容については、全受講者に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及び、政策の調査と立案	ガイダンスと、公共政策の基礎的な理論や構造などについて概説する。
第2回	自治体政策、公共政策とは何か	政策決定過程における基礎的な制度や理論について概説する。
第3回	地域にある様々なコミュニティ	公共サービスを担うのは、行政だけではない。町内会・自治会が歴史的に果たしてきた役割やNPOが地域の活性化にどのように寄与しているのかを考える。
第4回	自治体内の課題をどう発見・把握するのか	見過ごしてしまいがちな小さな出来事から、その地域が抱えている課題を考える。
第5回	都市や地域の課題を解決するのか誰なのか	都市政策や地域政策に影響を与える人々について考える。
第6回	高齢化社会	孤独死の現状と、その対策を行っている自治体の政策がどのように展開されているのかを考える。
第7回	中心市街地「活性化」	なぜ中心市街地が衰退したのか、シャッター通りが出現したのか、大規模ショッピングモールの出店が商店街に及ぼした影響を考える。

第8回	自治体と学校教育	公立の小学校、中学校は市区町村によって運用されているが、中央政府、都道府県もそれぞれ教育行政について責任を分有している。その制度や運用について検討する。
第9回	景観とまちづくり	条例を制定し、環境に配慮したまちづくりをしてきた自治体の取り組みの検討を通じ、「まち」には何が必要なのかを考える。特に地方における公共交通機関維持の困難性を検討し、住み続けられる地域であるために何が必要かを考える。
第10回	公共交通機関の役割	空家問題の現状を理解し、どうすれば解決できるのかを具体例を検討しながら考える。
第11回	空家家の現状とその対策	事例をもとに、市民と自治体による先駆政策について学ぶ
第12回	市民と自治体の先駆政策	自治体政策の今日的課題を学ぶ
第13回	自治体政策と分権と自治の課題	
第14回	まとめと試験	学期試験を実施し、フィードバックとして問題の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回授業で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索するなど情報収集に努めること。自分の住んでいる自治体の政策などを調べる。日常的に公共政策に関連のありそうな新聞記事を読む習慣を身につけること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。文献等は必要に応じて、授業中に適宜紹介する。

【参考書】

参考書は特に指定しない。文献等は必要に応じて、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は学期試験70%、平常点30%を基本とし、総合的に判断する。なお、平常点にはリアクションペーパーの提出状況及び内容に対する評価が含まれる。メール等による質問も歓迎する。

【学生の意見等からの気づき】

講義終了時にコメントや質問を受け付け、その後の講義にいかす。授業に対する質問に関し、クラス全体に共有した方が良い内容については、次の講義で全受講者に対してフィードバックを行う。メール等による質問も歓迎する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】**【Outline (in English)】**

It is aim in this lecture to acquire the basic knowledge to be involved as taxpayers in the local government and to think it independently as citizens.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students will be expected to have read the relevant newspaper articles to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、Short reports : 30%

POL200AD (政治学 / Politics 200)

International Politics

Emily Szu-hua Chen

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In our era of globalization, what happens on the other side of the world affects our lives. The COVID-19 outbreak in a Chinese city in 2019 evolved into a worldwide pandemic. Russia's months-long war in Ukraine has accelerated a global energy and cost-of-living crisis and caused an economic slowdown in many countries. Understanding the problems that seem far away from home has become ever more important in this global era as we cannot afford to ignore them. What are the specific issues and challenges facing our world today, and how can we interpret and tackle them? This introductory course in international politics and global affairs is designed to equip students with the knowledge and analytical skills to explore and explain solutions to real-world problems.

The course consists of three sections. First, we will look at the historical background of today's international system, focusing on the evolution from the end of the bipolarity of the Cold War to the emerging global order increasingly led by rising powers. The second section will cover the main concepts and three major strands of theory in the discipline of international relations (IR). These conceptual tools help us analyze global problems and are necessary knowledge for students who wish to continue their studies of international politics after the conclusion of this course. In the final and main section of this course, we will investigate contemporary issues that are likely to affect the world for years to come.

Students of all disciplines who are interested in international relations or political science are welcome to enroll. There are no prerequisites; prior knowledge of IR theory is not required, but it would be an advantage.

【到達目標】

At the end of this course, students should be able to:

- ・ Describe the historical development of the international system from the end of the Cold War to the present
- ・ Demonstrate a foundational understanding of the major IR theories and concepts and apply them to historical cases and current events
- ・ Analyze and consider solutions to global challenges in the contemporary world
- ・ Show research, communication, and writing skills useful for future career paths in the field

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」に強く関連。「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

The course will meet once a week. The structure of the course will consist of a mixture of lectures, student presentations, and group discussions. Lectures, which will introduce background information on each week's topic, will be followed by student presentations on selected seminal texts related to a weekly debate question designed to expand students' knowledge of the topic. Students will have a chance to interact with each other in small groups to review the ideas introduced in class and respond to the debate question. (Students will be randomly assigned to groups on Hoppii twice throughout the semester: once at the beginning of the semester and once in the middle.)

In the last few sessions of the class, students will each share a proposal for their intended research either in front of the class or within their groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction I	Introduction to the course
2	Introduction II	Where do you get your news?
3	The Historical Context I: Post-Cold War International Relations	Continuity and change in the post-Cold War world
4	The Historical Context II	U.S. leadership and China's rise
5	The Historical Context III	The liberal world order challenged?
6	Theoretical Approaches I: How Can We Explain State Behavior?	Realism
7	Theoretical Approaches II	Liberalism
8	Theoretical Approaches III	Constructivism
9	Contemporary Issues in International Politics I	Nuclear nonproliferation
10	Contemporary Issues in International Politics II	Nationalism and divided memories in Northeast Asia
11	Contemporary Issues in International Politics III	Global health
12	Contemporary Issues in International Politics IV	Human rights
13	Conclusion I	Research proposal presentations
14	Conclusion II	Research proposal presentations/Wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Outside of formal classes, students are expected to:

- ・ Read or watch the required materials and prepare relevant questions to clarify and confirm their understanding or discuss in class
 - ・ Summarize and assess assigned readings and prepare their analysis to share with the class
 - ・ Conduct an individual research project on an issue of interest in global affairs and present its results via oral presentation and written submission
- Students are encouraged to do the following to contribute meaningfully to the class discussion:

- ・ Explore supplemental readings provided on the list
- ・ Keep abreast of current events by reading major news stories relating to international politics

Students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

All required course materials will be made available via hyperlinks in the syllabus or through Hoppii. No purchases are necessary.

【参考書】

The optional reference readings below are on reserve in the library. They provide helpful background information, particularly for the IR theoretical foundations.

- ・ Baylis, John, Steve Smith, and Patricia Owens. 2020. The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations. Oxford: Oxford University Press.
- ・ Brown, Chris. 2019. Understanding International Relations. London: Bloomsbury Academic.
- ・ Pevehouse, Jon C., and Joshua S. Goldstein. 2019. International Relations. London: Pearson.

【成績評価の方法と基準】

- ・ Class Participation (30%): This requirement includes class attendance and active participation in class discussions.
- ・ Presentation on Required Reading (30%): Students will give a presentation on one article from the entire reading list for debate questions during the semester. Students will sign up for the readings on which they wish to present in the first two weeks of class.
- ・ Individual Research Project (40%): Students will select a policy issue of interest in global affairs as a research project. The requirement includes a proposal presentation on their intended research (20%) and the submission of a 1000 – 1500-word final research paper (20%).

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

The instructor will use Hoppii to manage the course.

【その他の重要事項】

While time constraints limit the detail in which we can address the broad range of material covered in class, if students wish to discuss certain topics in detail on an individual basis, they should feel free to reach out after class or make an appointment with the instructor via email. Students are also welcome to discuss their performance in class with the instructor at any time during the semester.

【Outline (in English)】

Same as above.

POL200AD (政治学 / Politics 200)

外交総合講座

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、日本と国際社会の主要なカウンターパートとの外交関係の現状と課題を知るとともに、軍縮問題、移民問題、開発や環境問題といった国際社会が共に直面する越境的な諸問題について、日本が多様なアクターと協働してどのように取り組んでいるのかについて理解を深めることにある。各回の授業には、政府や国際機関で活躍する実務家、ジャーナリスト、研究者、民間企業やNGOからの有識者に登壇していただき、質疑応答も活発に行うことによって、政府間関係からでは知りえない広義の「外交」への理解を深める。

【到達目標】

- ・国際社会の主要なカウンターパートと日本の外交関係の現状と課題について基本的な知識を身に着ける。
- ・国際社会が直面する地球規模の諸問題に対して日本がどのような政策を取り、他の主体（アクター）とどのように協働して取り組んでいるのか、現状と課題を知る。
- ・日本の各分野の政策における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

政府間関係だけではない広義の「外交」への理解を促すため、ゲストスピーカーの講義の後には毎回、質疑応答の場を設ける。（*ゲストスピーカーの予定と調整を行うため、授業の順序とトピックは変更する可能性がある。）
 毎回の授業後には講義への理解を確認するため、Hoppiiを通じて課題の提出を求める。課題に対するフィードバックは個々に行うとともに、必要に応じて次の授業の際にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方の説明
2	日本の対アジア太平洋政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
3	日本の対ヨーロッパ政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
4	日本の対アフリカ外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
5	平和維持活動から考える外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
6	移民と難民：国際社会と日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
7	核と日本の外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
8	日本の経済外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
9	日本のメディアと外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
10	日本企業と国際社会	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
11	日本企業と国際社会	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
12	国際NGO/NPOと日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答

13	日本と国際人権	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
14	まとめ	これまでのゲストスピーカーの講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義に関連する資料を事前に読んでから授業に臨むこと。授業の予習復習には2時間程度時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特になし。関連資料は毎回事前に学習システムで配布する。

【参考書】

関連資料は随時授業時に知らせる。

【成績評価の方法と基準】

授業や質疑応答への活発な参加などの平常点（40%）と課題の提出状況と内容（60%）から総合的に判断する。なお、4回以上課題の提出を怠った学生には単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生は日々のニュースをフォローするなど、国際社会での出来事に関心を寄せること。関連するセミナーやシンポジウムへの参加が望ましい。これについても随時紹介する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会による平和のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な近著として、「経済制裁は平和のために有効か」石田淳ほか編著『国際平和論—脅威の認識と対応の模索』（有斐閣、2024年）121-141頁；"Japan: COVID-19 and the Vulnerable," M. Caballero-Anthony and N. M. Morada (eds.), Covid-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2022) pp.136-156；『非伝統的安全保障』によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021年）；Miki Honda, "Smart Sanctions' by the UN and financial sanctions," Sachiko Yoshimura ed., United Nations Financial Sanctions(Routledge, 2021)pp. 18-33；「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）などがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn about the current status and challenges of diplomatic relations between Japan and its major counterparts in the international community, and to deepen understanding of how Japan works with diverse actors to tackle transnational/global issues that the international community faces, such as disarmament, migration, development, and environmental issues. Each class invites a guest speaker from Japanese ministries, international institutions, the media, think tanks, NGOs, and businesses. A Q&A session is held every after each lecture to have a better understanding of "diplomacy" in a broader sense than is possible from an intergovernmental perspective.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

国際NGO論Ⅰ

高橋 清貴

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会が健全に機能するためには、社会資本や公共サービスなどの「公共財」を供給する政府（行政）の役割、社会が必要とする商品やサービスを提供し経済活動を回しながら利益追求型で成長する企業の役割、そして、NGOを含めた非営利組織の役割が必要と言われる。近年では、教育、環境、災害、貧困、人権、福祉、医療などでも非営利組織の顕著な活動が増えてきている。

この授業では、実際に国際協力NGOの実務に関わる講師と共に、世界のNGO・NPO、日本のNGO・NPOの発展と歴史について学ぶ。

また、授業ではNGOの社会的意義のみならず、現場の経験や葛藤から感じた困難や課題について議論を行い、今後私たちが考えるべき論点を探る。

これらを通して、現代社会、未来におけるNGO・NPOの可能性と課題を学ぶ。

【到達目標】

- 1、社会における非営利組織の存在意義/役割について理解できるようになる
- 2、非営利組織の構造的・制度的な課題について理解できるようになる
- 3、非営利組織の存在を身近なものとして捉え、自分の意見をもてるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

実際に現役でNPOの代表を務める講師が、スライドや映像を使って具体的事例なども組み込んで実践的に学びます。講師が長年従事してきた国際協力NGOや政府開発援助での経験を踏まえて、その社会的意義と役割のみならず葛藤や課題についても率直に共有し、議論したいと思います。講義だけではなく、なるべくグループワークや議論、発表などを通して学生が参加する機会も設けます。グループディスカッションに参加する姿勢を持って授業に臨んでください。授業後には、毎回振り返りのコメントを提出してもらいます。それが必要に応じて、次の授業での材料とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の狙い、春学期の授業計画の説明。また、講師の経験を通して得たNGOの意義について概説。
第2回	NGO・NPOとは何か	社会におけるNGO・NPOの位置付け。政府や企業との違い。国際NGOの歴史と主な活動。
第3回	国際NGOの実践手法	参加型開発と対話型ファシリテーション手法について
第4回	ワークショップ①	関心課題に取り組んでいるNGOについてリサーチ
第5回	ワークショップ②	グループワーク発表、質疑応答、講評。
第6回	『アフリカ支援は甘くない』を観る①	テーマ「無益な施し」。質疑応答、講評。

第7回	『アフリカ支援は甘くない』を観る②	テーマ「村人の協力」。質疑応答、講評。
第8回	『アフリカ支援は甘くない』を観る③	テーマ「時間との闘い」。質疑応答、講評。
第9回	『アフリカ支援は甘くない』を観る④	テーマ「村に残されたもの」。質疑応答、講評。
第10回	『アフリカ支援は甘くない』を観て	国際協力プロジェクトの進め方について、PCM手法を使って分析し、批評する。
第11回	NGO・NPOの組織マネジメント	NGOの財源、組織運営、ガバナンス、アカウンタビリティ
第12回	NGO・NPOの法人制度	組織に人格を与えるとは？1998年に成立したNPO法の背景と成立過程、税制優遇制度の導入
第13回	NGOと社会運動	市民社会とは？ ニーズに応えるだけがNGOの役割か？ NGOは、「新しい社会」を拓けるか？ 春学期の授業の全体を振り返る
第14回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、適時次回授業までの課題および予習がある際には内容を指示します。

また、期末にレポート提出があります。

本授業の準備学習・復習時間は計2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業にて固定的に使用するテキストはありません。必要に応じて、レジュメと参考文献をこちらで準備します。

また、授業にて使用するパワーポイント（スライド）は授業後、適切な方法で共有します。

【参考書】

『NPO・NGOの世界』大橋 正明／利根川 佳子編、放送大学教育振興会、2021年

『国際協力NGOダイレクトリー』JANIC編、JANIC、2008年
『「連続講義」国際協力NGO』今田克司／原田勝弘編著、日本評論社、2004年

『NGOの選択』JVC、めこん、2005年

『人道援助、そのジレンマ』ロニー・ブローマン、産業図書、2000年

『子どものための小さな援助論』鈴木啓嗣、日本評論社、2012年

『NGOとボランティアの21世紀』デビッド・コーテン、学陽書房、1995年

『変容する参加型開発』サミュエル・ヒッキ／ジャイルズ・モハン編著、明石書店、2008年

『開発援助か社会運動か』定松栄一著、コモンズ、2002年

【成績評価の方法と基準】

「テスト/アンケート機能」での振り返りコメント提出（40%）

グループ発表（20%）

期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを使えるようにしておいてください

【その他の重要事項】

授業後10分を、オフィスアワーとします。質問等がある方は、有効活用してください。

・【実務経験のある教員による授業】

授業担当者は、30年近くODA、NGOで国際協力関係の仕事に従事してきた教員による授業です。これによって国際NGOの社会的意義と役割について実務者の視点から講義をすることができます。また、実際に活動する場合に必要なプロジェクト立案や組織マネジメントについても学ぶことができます。概念学習に終わらず、体験にもとづく具体的かつ実践的な授業科目です。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In order for society to function soundly, there is a role for the government (administration) to provide "public goods" such as social capital and public services, and there are companies that provide products and services and grow in pursuit of profit. In addition to these roles, it is said that the roles of non-profit organizations, including NGOs, are necessary. In recent years, notable activities of non-profit organizations have increased in areas such as education, environment, disasters, poverty, human rights, welfare, and medicine.

In this class, students will learn about the development and history of NGOs and NPOs in the world and in Japan with a lecturer who is actually involved in development NGO practice. In addition, students will share the issues and difficulties attained from the experiences of the lecturer who has been directly involved in NGOs, and will be invited to explore through questions and discussions.

Through these activities, students will learn about the possibilities and challenges of NGOs and NPOs in today's society and in the future.

(Learning Objectives)

- 1、To be able to understand the significance/role of non-profit organizations in society
- 2、To be able to understand the structural and institutional challenges of nonprofit organizations
- 3、Become familiar with non-profit organizations and be able to have your own opinion

Instructors who are actually active representatives of NPOs use textbooks and use slides and videos to proceed with the lessons. I would like to share and discuss frankly not only my experiences, but also my conflicts and challenges, as my generation is somewhat similar to yours.

(Grading Criteria /Policy)

In addition to lectures, there will be opportunities for student participation through group work, discussions, and presentations. Please come to class with an attitude of participation in group discussions.

After each class, students are asked to submit comments on their reflections using the "test/survey function". This will be used as material for the next class.

Submission of reflection comments via the "test/survey function" (40%)

Group presentation (20%)

Final report (40%)

POL300AD (政治学 / Politics 300)

国際NGO論Ⅱ

堀場 明子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

飢餓や貧困、人権侵害、環境破壊など、様々な地球規模の課題がますます深刻化しています。これらの課題に対して、国境を越えて市民の立場から非営利で解決に取り組むNGOの役割が重要になってきています。

NGOの支援においては、物質的な支援だけではなく、人々の潜在的な能力を強め、住民自身が自立的に改善に取り組んでいくことを重視しています。このようなNGOの活動理念やアプローチを実例から学び、NGOが社会の中で果たす役割と今後の課題を理解し、自分たちに何ができるかを考えることを目的とします。

【到達目標】

- (1) 地球規模課題に取り組むNGOの特徴と課題を理解する。
- (2) 一人ひとりの市民が、国際協力にどのように関わることができるか、糸口を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

私が実際に途上国や日本国内で経験してきた現場の活動を中心に、パワーポイントやビデオを使って授業を進めます。

講義だけではなく、グループワークや投票・発表など、学生の皆さんにも参加してもらう機会を作ります。

授業終了後に「テスト/アンケート機能」や「レポート機能」を使った授業の振り返りを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	NGOについての概要
第2回	政府と非政府	政府の役割とNGOの役割について
第3回	民主化支援のNGO	東南アジアの民主化支援NGOを事例に
第4回	環境保護の取り組み	森林保護をめぐるNGOの活動について
第5回	平和構築への取り組み	東南アジアの紛争から考える。
第6回	NGO間のネットワーク	ネットワークの意義とNGO間の連携
第7回	人道支援NGO	国内外の緊急支援NGOについて
第8回	NGOと企業との連携	NGOと企業との連携の意義および課題と事例
第9回	NGOの組織運営とファンデレイジング	NGOの組織の特徴と、NGO活動を支える組織運営・資金調達についての概要
第10回	NGOについて調べてグループ発表1	関心のあるNGOを選び、グループで調べ発表
第11回	NGOについて調べてグループ発表2	関心のあるNGOを選び、グループで調べ発表
第12回	NGOについて調べてグループ発表3	関心のあるNGOを選び、グループで調べ発表
第13回	NGOについて調べてグループ発表4	関心のあるNGOを選び、グループで調べ発表
第14回	まとめ	全体の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、適時次回授業までの課題および予習内容を指示します。また、発表してもらうため、その準備に関しては授業中に指示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使いません。

授業中に使用するパワーポイントを学習支援システムにアップします。

【参考書】

- ・めざすは貧困なき世界、高柳彰夫、フェリス女学院大学
- ・SDGs—危機の時代の羅針盤、南博、稲場雅紀、岩波新書
- ・あの日私たちは東北へ向かった 国際協力NGOと3・11、国際協力NGOセンター、早稲田大学出版部
- ・ジャパンプラットフォーム ウェブサイト
<https://www.japanplatform.org/>
- ・国際協力NGOセンター（JANIC） ウェブサイト
<https://www.janic.org/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、課題の発表とその内容（60%）、授業中のグループディスカッションでの発言内容（20%）、授業後のリフレクションペーパー（20%）を目安とします。

【学生の意見等からの気づき】

資料については、見やすい資料を作るように心がけるとともに、できるだけ最新のデータを収集して作成します。

グループに分かれての議論やワークショップに対する要望が多いので、授業にできるだけ議論する場を取り入れます。そのため、この授業を取る学生は、グループディスカッションで積極的に発言することを求めます。

【Outline (in English)】

Various global issues such as hunger, poverty, human rights abuses, and environmental destruction are becoming increasingly serious. The role of NGOs, which work for non-profit solutions to these issues from the standpoint of citizens beyond national borders, is becoming ever more important.

In providing assistance, NGOs focus not only on material support, but also on strengthening people's own abilities to reach their potential and to work for self-reliance and improvement by the residents themselves. The purpose of this program is to learn the philosophy and approach of NGO activities from actual examples, to understand the role NGOs play in society and the challenges they face in the future, and to think about what we can do to contribute.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

国際文化交流 I

牧田 東一

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：国際関係論の中で扱われる文化の問題について基本的な理解をしたうえで、歴史的な経緯を追いながら、今日の国際文化関係の基層となっている、国民国家と文化の関係、帝国主義時代の宗主国と植民地の文化関係、脱植民地化の過程で問われてきた文化的依存関係等について、何が不公平なのか、何が問題であるのかを考える。

授業の目的・意義：国際政治の本質を理解するために、文化という国家のもっとも基礎的な部分を理解し、国際政治・国際関係の動因の重要な要素としての文化が分かるようになる、ことを目的とする。

【到達目標】

国際関係論で取り上げられる文化は他の学問領域における文化とは異なり、国際政治に影響を与えるものとしての文化である。その点をまず理解することが必要である。その上で、普遍に捉えられる国際関係に、文化の違いがどのように影響するのかを理解すること。今日の国家間関係の中で文化の問題とされる諸課題の歴史的経緯を理解すること。そこで、何が不公平なのかを理解すること。さらに、国家がどのように文化を国家アイデンティティの表象として用いるのかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的には対面で行います。対面授業の出欠はとります。ただし、状況により、Youtubeを使った授業ビデオを事前に見て、小テストに各自答えていただく（オンデマンド授業）場合もある可能性があります。詳しくは、授業支援システムの「授業内掲示板」を見てください。対面授業では、講義に加えて、テーマを与えてグループディスカッションを行います。授業後、授業支援システムを使っての小テストを行います。授業を欠席すると、小テストへの回答は出来ません。締め切りは授業当日の23：55です。成績評価は小テストの平均値（50％）と期末レポート（50％）とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：国際関係における文化の問題	国際関係という政治経済を中心とする領域において、文化がどのように扱われるのか。
第2回	ナショナリズムと国民国家	国家の成立と文化の関係をナショナリズムの観点から理解する。
第3回	伝統とは何か：伝統の創造	国家と文化の関係において重要な「伝統」の操作について。
第4回	帝国主義と文化政策	国民国家とはことなる帝国における支配政策が被支配民族の文化をどのように扱うのか。
第5回	文化国際主義	国家を超えようとする国際主義は、どのように多様な国際社会の文化を扱おうとするのか。
第6回	近代化へのアンチテーゼ、文化相対主義	帝国主義支配への反省から、人類文化の普遍性に挑戦する文化相対主義の考え方とは何か。

第7回	文化変容の理論、文化触変論	国際交流、異文化接触によって、文化はどのように変容するのか。
第8回	文化帝国主義批判	欧米文化の不当な影響力を批判する文化帝国主義批判とは何か。
第9回	文明の衝突論	ハンチントンの文明の衝突論の内容とそれへの批判。
第10回	原理主義	冷戦後の宗教の重要性和原理主義の国際社会への影響を考える。
第11回	欧米諸国の対外文化政策	国家が文化を用いて対外政策を組み立てるという観点から、欧米諸国の外交における文化の位置づけを考える。
第12回	日本の対外文化政策	明治以降の近代日本は、どのように外に対して自らの文化を表象してきたのか。
第13回	地域形成のための域内文化協力	EU統合に見られる新しい欧州人アイデンティティ形成に向けてのEU文化政策とは何か。
第14回	ユネスコと文化政策	世界遺産登録というユネスコの人類規模の文化政策はどのような意味があるのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後、与えられた課題にこたえる小テストに回答する必要があります。回答のためには、自ら情報を集めて、考察し、回答を考えることが求められます。また、授業の各回で参考文献を紹介するので、関心のあるテーマについて、自ら進んで勉強を進めることが期待されます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めない。

【参考書】

参考文献は授業の各回にレジュメで示す。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加50％、期末レポート50％。（レポートは1回）。授業への参加は、第1回を除いて、小テストを行い、その点数の平均とする。遅刻の場合は、小テストの点数を半分とするので、遅刻しないように。期末レポートは、授業の中盤で課題を示す。参考文献を最低1冊読んで、課題について自分の意見をまとめる。提出は授業支援システムを利用。対面授業の時は、欠席すると回答できず、その回はゼロ点になります。何らかの特別な理由で欠席を認めた場合は回答できます。理由については初回授業で説明します。小テストの採点については、簡単なコメントをつける他、次の回の授業の際に、共通の問題点（減点の理由）を解説し、また高得点の回答の内容を紹介するなど、フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。連絡先は、makita@obirin.ac.jp。

【Outline (in English)】

This lecture deals with the various issues related culture in International Relations. It follows historical course of cultural issues appeared, including relationship between nation state and culture, cultural relations between Capital country and its colonies during imperialism period, problems of cultural dependency voiced in the process of decolonization, focusing on unfairness and real problems raised.

The students are expected to understand the issue of culture that is the base of nation and an important factor of dynamism of international politics.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

国際文化交流Ⅱ

牧田 東一

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：国際移民の問題を多文化共生の観点から理解する。日本の多文化状況について理解を深めると同時に、他の先進国における移民政策や移民の人権擁護について理解する。

授業の目的・意義：国際移民を国際関係における一つの避けがたい現象であることをまず理解し、客観的な観点、また国際人権の観点から考える姿勢を身につけることを目的とする。その前提の上で、政府がとりうる政策について、最終的には日本の政策の可能性について、自ら考えるための基礎的な知識を身につける。

【到達目標】

日本を含む先進国の多文化状況の現状、原因、課題について理解する。移民問題の一つの対処方法である多文化主義の理念と現実について、海外の事例を含めて理解する。日本における多文化共生の理念と現実について理解する。日本の移民に対する政府、自治体、市民社会の政策や活動について、内容と課題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には対面で行います。

ただし、状況により Youtube を使った授業ビデオを事前に見て、小テストに回答する（オンデマンド授業）の可能性もあります。Zoom は無料で簡単にダウンロードできます。詳しくは、授業支援システムの「授業内掲示板」をご覧ください。

対面授業では、講義に加えて、テーマを与えてグループディスカッションを行います。対面授業では出欠をとります。

授業後、授業支援システムを使っての小テストを行います。締め切りは授業当日の 23：55 です。成績評価は小テストの平均値（50％）と期末レポート（50％）とします。授業を欠席すると小テストに回答できません。その回はゼロ点になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際移民の時代	国際移民を歴史的に概観し、グローバル化と移民の関係を理解する。
第2回	在日韓国朝鮮人の移民の原因	帝国主義の時代の遺産である旧植民地出身者の中で最大集団である在日韓国朝鮮人の形成を歴史的に理解する。
第3回	在日韓国朝鮮人の社会生活、文化	戦後日本において、在日韓国朝鮮人がどのように生きてきたのか、その社会的貢献を含めて理解する。
第4回	アジア系新移民	1970年代以降のアジア系の新移民について、その原因や置かれた状況を理解する。
第5回	日系移民	1990年代にアジア系に取って代わった中南米からの日系移民の原因と現状を理解する。
第6回	フランス、ドイツの移民問題	フランスとドイツの移民問題、移民政策の基本を理解する。

第7回	イギリスの移民問題、多文化主義	イギリスの移民問題、多文化主義の思想を理解する。
第8回	アメリカの移民問題、多文化主義	アメリカの移民問題、多文化主義を理解する。
第9回	カナダの多文化主義	カナダの移民問題、多文化主義を理解する。
第10回	オーストラリアの多文化主義	オーストラリアの移民問題、多文化主義を理解する。
第11回	在日外国人が抱える諸問題	在日外国人の人々が抱えている様々な問題を広く把握する。
第12回	日本の移民政策の変化と現状	日本政府の移民政策を歴史的に見ると同時に、現状の課題を考える。
第13回	地方自治体の外国人政策の変化と現状	地方自治体で行われている外国籍住民への政策を神奈川県を例に見る。
第14回	民間NPOによる外国人支援	外国人支援を行っている民間団体、NPOの活動の特徴、限界などを見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に、出された課題に対して小テストに回答していただきます。回答にはある程度自分で調べる作業が必要になります。その後、情報を比較検討して、自分の考えをまとめる作業が必要です。また、授業で取り上げる様々なテーマについて、参考文献を自ら読み進め、理解を深めることが期待されます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めない。

【参考書】

参考文献は授業の各回にレジュメで示す。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加50％、期末レポート50％。（レポートは1回）。授業への参加は、第1回を除いて、小テストを行い、その点数の平均とする。欠席すると小テストには回答できません。その回はゼロ点になります。特別の場合には公欠を認め、小テストへの回答を認めます。具体的には初回授業で条件などを説明します。遅刻の場合は、小テストの点数を半分とするので、遅刻しないように。期末レポートは、授業の中盤で課題を示す。参考文献を最低1冊読んで、課題について自分の意見をまとめる。提出は授業支援システムを利用。小テストの採点については、簡単なコメントをつける他、次の回の授業の際に、共通の問題点（減点の理由）を解説し、また高得点の回答の内容を紹介するなど、フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

連絡は、makita@obirin.ac.jp までメールで。

【Outline (in English)】

This lecture deals with problems related to migration and multicultural situation in the recipient society, focusing on Japanese situation, but it also deals with immigration and human rights policy in other developed countries.

The students are expected to understand international migration as an unavoidable phenomenon of the present world and see it from objective viewpoint and international human rights protection. Then, they are also expected to acquire knowledge to think by themselves possible government migrant policies in Japan.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

アジア国際政治概論

水野 孝昭

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

米国のトランプ2.0政権は国際関係を揺るがせています。超大国の米国が「覇権国」であることを放棄するなら、欧州やアジア諸国も外交・安全保障の見直しを迫られます。中台関係や朝鮮半島の緊張は高まり、民主化の挫折や平和構築の失敗も続きます。過去の事例を学び、日々のニュースを追いつながら、領土問題や歴史認識など立場の違いを理解しつつ「共存」できる視点を探ります。

【到達目標】

- ①アジアの現代を欧州と比較し、国際政治の基礎知識と理論を把握する
- ②軍事、経済、ソフトパワーなど国際社会を動かすパワーの視点から日米中のトライアングル関係を理解する
- ③中国と台湾、朝鮮半島、ベトナムなど「分断国家」を通じてアジアのナショナリズムを理解する
- ④グローバルサウスを代表するASEAN諸国の視点や、APEC, TPPなど経済統合を理解する
- ⑤以上を通じて、日本とアジアの将来について自分の言葉で語れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

事前にアップした資料や動画をもとに、対面授業と討論を行います。前半はアジアの戦争を欧州と比較して「米国による平和@アジア」を考えます。後半は領土紛争、歴史認識、地域統合など争点を取り上げます。授業のテーマ毎に受講生から「報告者」「討論者」を募集します。その時々の国際ニュース解説もまじえます。複雑な国際問題を歴史的背景から理解して「議論する力」を身につけましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・「新冷戦の時代とは」	トランプ2.0は何を目指す？／リアリズムとリベラリズム／アジアと米国／外交理念と「国益」
第2回	「冷戦とは？」欧州とアジアの経験	欧州とアジアの冷戦の違い／「封じ込め」と熱い戦争／アジアの「分断国家」とドイツ統一の教訓
第3回	分断国家①：「二つの中国」と台湾の地位	国共内戦と「中国の喪失」／毛沢東と蒋介石／中ソ対立と米中接近／中国共産党の世界観
第4回	分断国家②：朝鮮戦争と日米安保	植民地と「民族解放」／米韓同盟と日米同盟の違い／日韓基本条約と平壤宣言
第5回	分断国家③ ベトナム戦争と「グローバルサウス」	内戦と代理戦争／第3世界のナショナリズム／ソフトパワーとしてのメディアと反戦運動
第6回	冷戦後①中国の「平和的台頭」から「民族復興」への変質	天安門事件と鄧小平／米中関係とWTO加盟／香港返還と「一国二制度」／習近平路線へ

第7回	冷戦後②韓国の民主化と「核保有国」となった北朝鮮	韓国民主化まで／金大中の太陽政策から／「非核化」交渉の失敗・六者協議
第8回	冷戦後③カンボジアと平和と米越和解	ドイモイと市場経済／日本の和平努力／国連PKOの役割／
第9回	冷戦後④ASEAN：地域機構の意義と限界	ベトナムの加盟とARF外交／アジア金融危機と開発独裁／APECの迷走／CCTPPと「一帯一路」
第10回	民主化と関与政策：フィリピン、ミャンマー、タイ	「開発独裁」から民主化したフィリピンやインドネシア、民主化から逆戻りしたタイ、ミャンマー
第11回	習近平体制のいま	対米関係と台湾問題／少数民族と「中華民族の偉大なる復興」／「共同富裕」と市場経済／ロシア、インド、日本の位置づけ
第12回	米中関係の展開	トランプ2.0政権の対中政策／経済安全保障と台湾／ウクライナ戦争と核抑止
第13回	日本の選択は	「日米同盟」の歴史と現状／台湾海峡と尖閣問題／朝鮮半島有事と日韓関係／歴史認識問題への姿勢
第14回	まとめ：日本の選択は？	「平和国家」のアイデンティティー／「経済大国」のパワーと国家安全保障戦略／日本の「抑止力」とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に配る参考文献リストから毎回の参考文献や資料を紹介するので、事前に目を通して下さい。アジアで日々起る問題について、国際政治の視点から背景、現状、対応を説明できるようにニュースを日々読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しません。学習支援システムやgoogle クラウドルームを使ってレジュメや資料などを配布します。参考文献は授業の初回で指示します。

【参考書】

小原雅博『戦争と平和の国際政治』（ちくま新書）
 千々和泰明『戦後日本の安全保障』（中公新書）
 千々和泰明『戦争はいかに終結したか』（中公新書）
 佐橋亮『米中対立』（中公新書）
 毛利和子『日中漂流』（岩波新書）
 服部龍二『外交ドキュメント 歴史認識』（岩波新書）
 同『日中国交正常化』（中公新書）
 阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』（新潮選書）
 五味洋治『朝鮮戦争はなぜ終わらないのか』（創元社）
 ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』（岩波書店）
 イアン・ブルマ『戦争の記憶 日本人とドイツ人』（朝日新書）
 若宮啓文『和解とナショナリズム』（朝日新書）
 波多野澄雄『日本の歴史問題』（中公新書）
 朴裕河『帝国の慰安婦』（朝日新聞出版）
 木宮正史『日韓関係史』（岩波書店）
 ドン・オーバードーフアー『二つのコリア』（共同通信）
 吉田文彦『核のアメリカ』（岩波書店）
 加納雄大『東南アジア外交』（信山社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、授業参加30%で評価します。
 期末試験の代わりに、自分で選んだテーマについてプレゼンをして、その内容を3000字程度のレポートにまとめて提出することも認めます。プレゼンする人はシラバスに沿ったテーマを選んで、7回目までに決めて下さい。やり方は授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業内容や順序はできるだけ現実の国際社会の動きに合わせていく。必ずアジアに関する日々の国際ニュースをチェックすること。

【学生が準備すべき機器他】

ipad などネットが閲覧できる情報機器を持参するのが望ましい。

【その他の重要事項】

朝日新聞での30年間の記者経験、とくにハノイ、ワシントン、ニューヨークでの特派員としての経験をいかして、戦争報道や国際報道のメディアリテラシーを高めることを目指す。

【Outline (in English)】

This class tries to provide a fresh look at strategic landscapes in Asian region through Japan's experiences. Asian countries in general have been enjoying economic growth and development by trade and investment. Regional economic integrations and economic interdependences, however, do not mean political reconciliation nor a stable regional order. We will examine these trends and think of the future perspectives in Asia.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

グローバル・ガバナンス

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈G〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル・ガバナンスの概念は比較的新しく、その概念をめぐっては議論が続いている。しかし、実際の国際社会では、開発援助の分野においてだけでなく、さまざまな地球規模の問題領域に応用されている概念である。この講義の目的は、グローバル・ガバナンスの基本的な知識を理論と実践の両方において身に付けることにある。まず、グローバル・ガバナンスの概念の登場と発展について整理したのち、グローバル・ガバナンスのおもな担い手である国連による実践例として、人権ガバナンス、地球環境ガバナンス、安全保障におけるガバナンス、ガバナンスを支える規範や価値、視座などを取り上げる。その際、ガバナンスが形成されてきた分野、ガバナンスに参加する行為主体（アクター）、ガバナンスのしくみと実践の手段に注目する。そして、各グローバル・ガバナンスの有効性と限界、課題について考える。

【到達目標】

・理論と実践の両方において、「グローバル・ガバナンス」に関する基本的な知識を身に付ける。
・「グローバル・ガバナンス」の有効性、限界、課題について自分なりの考えをもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進める。毎回の授業後に課題の提出を求める。毎回授業の初めに、前回の授業後に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業に出席する前に支援システムにアップされたスライドに目を通し、授業後には復習をすること。また、関心を持ったトピックについては、各自で調べ学習をして理解を深めること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、グローバルゼーションとグローバル・ガバナンス	授業の目的と進め方、グローバルゼーションとは？
2	ガバナンスの概念の登場と発展	ガバナンス概念の登場と発展
3	ガバナンス形成に有効な分析概念	国際規範、価値、視座とは？
4	ガバナンスの実践① 国際開発援助分野（1）	開発ガバナンスⅠ
5	ガバナンスの実践② 国際開発援助分野（2）	開発ガバナンスⅡ
6	ガバナンスの実践③ 人権分野（1）	人権ガバナンスⅠ
7	ガバナンスの実践④ 人権分野（2）	人権ガバナンスⅡ
8	ガバナンスの実践⑤ 地球環境分野（1）	環境ガバナンスⅠ

9	ガバナンスの実践⑥ 地球環境分野（2）	環境ガバナンスⅡ
10	ガバナンスの実践⑦ 保健衛生分野	グローバルヘルス/感染症ガバナンス
11	ガバナンスの実践⑧ 人の移動をめぐるガバナンス	人の移動をめぐるガバナンス
12	ガバナンスの実践⑨ 安全保障分野（1）	集団安全保障体制
13	ガバナンスの実践⑩ 安全保障分野（2）	軍縮ガバナンスⅠ（大量破壊兵器）
14	ガバナンスの実践⑪ 安全保障分野（3） / まとめ	軍縮ガバナンスⅡ（通常兵器） / ガバナンスの有効性、限界、課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々のニュースをフォローするなど国際社会での出来事に関心を寄せること。授業前には配布資料を読み、授業後には復習を行うこと。関連するセミナーなどへの参加も望ましい。授業の準備・復習を2時間程度行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。PPTおよび関連資料は毎回事前に学習支援システムで配布する。

【参考書】

・石田淳ほか編著『国際平和論：脅威の認識と対応の模索』有斐閣、2024年。
・山田哲也『国際機構論入門』（第2版）東京大学出版会、2023年。
・山田満ほか編著『新しい国際協力論－グローバル・イシューに立ち向かう』（第3版）明石書店、2023年。
・内田孟男編著『地球社会の変容とガバナンス』中央大学出版部、2010年。
・村田晃嗣・君塚直孝ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015年。
・世界地図。
・Stiglitz, Josef E. and Mary Kaldor eds., The Quest for Security: Protection without Protectionism and Challenge of Global Governance, Columbia University Press, 2013.
その他、各回の関連文献・資料については、授業の際に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後の課題提出状況と課題の内容40%、期末試験60%のウェイトで成績評価をする。

*遅刻は20分までとし、それ以降の入室は欠席と見なす。

*4回以上課題の提出を怠った学生は期末試験を受ける資格を失う。よって単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメと配布資料、パワーポイントや資料映像を使用する。

【その他の重要事項】

日々国際社会で起きる出来事に関心をもち、関連文献を積極的に読むこと。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会による平和のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な近著として、「経済制裁は平和のために有効か」石田淳ほか編著『国際平和論—脅威の認識と対応の模索』（有斐閣、2024年）121-141頁；"Japan: COVID-19 and the Vulnerable," M. Caballero-Anthony and N. M. Morada (eds.), Covid-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2022) pp.136-156；『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021年）；Miki Honda, "Smart Sanctions' by the UN and financial sanctions," Sachiko Yoshimura ed., United Nations Financial Sanctions(Routledge, 2021)pp. 18-33；「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」』（明石書店、2016年）などがある。

【Outline (in English)】

The international community faces diversified transnational issues such as poverty, refugees, human rights abuse, organized crimes, financial crisis and so on. Who can control such global issues? These issues cannot be understood within the nation-centered narratives anymore. This course provides students with opportunities to become acquainted with "global issues" and learn that diversified international actors have made efforts to tackle with these issues. Students are expected to know that states, businesses, NGOs and other entities can make contributions to the settlement of these issues in cooperation with each other, and with regional and international institutions. These efforts and social movements by the diversified actors are called "global governance." Students will understand how the international community tries to formulate, maintain, and manage "global governance" today. Students are expected to know realities of global governance and challenges in the international society.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

中東の政治と社会 I

木村 正俊

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中東イスラーム世界の宗教と国家の歴史的展開に関する基本的知識を身につけることを目的とする。同時に、第一次大戦後の中東世界の政治を考えることに必要な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。

中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。

中東地域と他の地域（特にヨーロッパ）との関係についての理解。

国際政治学や比較政治に関する基本的な知識の習得。

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire knowledge of politics, history and religion in the Middle East

To understand the relationship between the Middle East and other regions (especially Europe)

To acquire basic knowledge of international politics and comparative politics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

交通事情や天候その他の理由でオンライン（Zoom）のみの授業になる時があります。

ただし初回はオンラインのみで授業を行います。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要の紹介と講義のやり方
#2	古代末期文明	古代末期文明における宗教
#3	疫病、国家、宗教	ユスティアヌスのベスト
#4	イスラームの出現	古代末期文明とイスラームの出現
#5	初期イスラームとベスト	ベスト／疫病に対するイスラームの原則
#6	イスラームの確立	スンナ派とシーア派
#7	聖戦と正戦	宗教と戦争
#8	黒死病とその後	中東と西ヨーロッパのベストに対する対応の比較
#9	中東の火薬帝国	オスマン朝とサファヴィー朝
#10	預言者の医学	イスラームと医学の関係
#11	国家と疫病	疫病対策に関するオスマン帝国とヨーロッパ諸国の相違
#12	エジプトの近代化	ムハンマド・アリー登場以降のエジプト
#13	オスマン帝国の近代化	オスマン帝国の近代化とヨーロッパ外交
#14	第一次世界大戦へ	講義のまとめと第一次世界大戦後の中東世界の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習のために配布したプリントに目を通すこと。

新聞やインターネットなどを利用して中東で生じている問題に関心をもつこと。

可能なかぎり紹介された文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。この時間には各種メディアを通じた中東に関する情報へアクセスすることも含まれる。

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Be Interested in problems occurring in the Middle East by using newspapers and the Internet.

Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】

テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中間レポート 50% 学期末テスト 50%

The final grade will be calculated based on the midterm report and the final exam.

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば個別にZOOMによるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしてください。

【その他の重要事項】

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に2時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）を参照してください。

【Outline (in English)】

This course deals with political and religious history of the Middle East from roughly 600 to 1914. The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Christianity, Islam and Judaism, and to consider the relations between politics and religion. In addition, we aim to get a lens through which politics and public affairs can be viewed.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

中東の政治と社会 II

木村 正俊

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一次世界大戦後の中東諸国の政治および中東の国際政治に関する知識とともに、宗教、とくにイスラームと政治の関係に関する知識を身につけてもらうことを目指す。これによって、比較政治学や国際政治学の基本的知識を習得することを目標とする。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。
中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。
中東地域と他の地域に関する理解。
国際政治学や比較政治に関する知識の習得。

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire knowledge of politics, history and religion in the Middle East

To acquire basic knowledge of international politics and comparative politics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

交通事情や天候その他の理由でオンライン（Zoom）のみの授業になる時があります。

ただし初回はオンラインのみで授業を行います。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要の紹介と講義のやり方
#2	第一次世界大戦と中東世界	イスラーム帝国の解体と国民国家の登場
#3	アラブ・ナショナリズム	アラブ・ナショナリズムの思想・運動と第一次中東戦争
#4	ナセルのエジプト	ナセル時代のエジプトとアラブ世界
#5	ナセル後のエジプト	エジプトの権威主義体制の特徴
#6	イスラームと政治	エジプトのムスリム同胞団とアラブの春
#7	シリア	シリアのバアス党体制
#8	イラク	イラクのバアス党体制とその後
#9	サラフィー主義	サラフィー主義の思想・運動
#10	USと中東	UAの中東政策
#11	湾岸諸国	ガルフ資本主義と湾岸地域国際政治
#12	イラン	革命国家イランと地域国際政治
#13	パレスチナ問題	パレスチナとイスラエル
#14	Outro.	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習のために配布したプリントに目を通すこと。

新聞やインターネットなどを利用して中東で生じている問題に関心をもつこと。

可能なかぎり紹介された文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。この時間には各種メディアを通じた中東に関する情報へアクセスすることも含まれる。

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Be Interested in problems occurring in the Middle East by using newspapers and the Internet.

Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】

講義形式で行う。

対面授業は最低7回以上行う。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中間レポート 50% 学期末テスト 50%

The final grade will be calculated based on the midterm report and the final exam.

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であればZOOMによるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしてください。

【その他の重要事項】

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に2時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）を参照してください。

【Outline (in English)】

This course deals with domestic and regional politics in the Middle East

since WW II. The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Christianity, Islam and Judaism, and to consider the relations between politics and religion. In addition, we aim to get a lens through which politics and public affairs can be viewed.

POL100AD（政治学 / Politics 100）

旧ソ連諸国の政治と社会 I

長谷川 雄之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プーチン政権下の現代ロシア政治・外交・軍事安全保障の基礎を理解するために、1993年憲法体制の成り立ちから2020年の大規模な憲法修正まで、重要な政治事象に注目して講義を展開する

【到達目標】

現代ロシアの政治・外交・軍事安全保障に関する基礎を学び、重要なテーマについて、議論できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントやレジメを使って講義を行います。リアクションペーパーなどを用いて双方向性を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明、参考文献の説明
2	方法論入門	地域研究と比較政治学のアプローチについて
3	現代ロシア政治史	1991年12月から現在に至るまでの政治史を概観
4	1993年ロシア連邦憲法（1）	制度設計と統治機構
5	1993年ロシア連邦憲法（2）	2020年憲法修正
6	大統領	ロシアの大統領権力について
7	議会・司法	議会・司法制度について
8	連邦制	エリツィン政権期の連邦制とプーチン政権下の垂直権力の構築について
9	政党・市民社会・メディア	政党制度改革とメディア空間について
10	現代ロシアの外交・軍事安全保障（1）	政策のメカニズム、ロシア-NATO関係、ロシア-EU関係
11	現代ロシアの外交・軍事安全保障（2）	ロシア・ウクライナ戦争
12	現代ロシアの外交・軍事安全保障（3）	中露関係と上海協力機構・BRICS、アジア太平洋／インド太平洋
13	日露関係	領土問題や対露経済制裁について
14	総括	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で関心を持ったテーマについて、自分で調べて知識を深めていく習慣をつけること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

油本真理・溝口修平編著『現代ロシア政治』法律文化社、2023年、2700円税別

【参考書】

長谷川雄之『ロシア大統領権力の制度設計』慶應義塾大学出版会、2024年

【成績評価の方法と基準】

小レポート（30％）

期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりアンケートを実施していません。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞現代ロシア政治・安全保障、ロシア地域研究

＜研究テーマ＞ソ連邦解体後の現代ロシアにおける政治・外交・軍事安全保障政策など

＜主要研究業績＞

『ロシア大統領権力の制度設計』慶應義塾大学出版会、2024年（単著）

『現代ロシア政治』法律文化社、2023年（共編著）

など

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the Contemporary Russian Politics from the 1993 Russian Constitutional crisis until the 2020 Constitutional amendments examining the important political events.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

旧ソ連諸国の政治と社会Ⅱ

長谷川 雄之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア及び旧ソ連圏の地域情勢の基礎を理解するために、ソ連邦解体から2022年に勃発した第2次ロシア・ウクライナ戦争まで、重要な政治・外交・軍事安全保障上の事象に注目して講義を展開する

【到達目標】

ロシア及び旧ソ連圏の地域情勢に関する基礎を学び、重要なテーマについて、議論できるようになる。また、関連する新聞報道などについて簡単に解説できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントやレジメを使って講義を行います。リアクションペーパーなどを用いて双方向性を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明、参考文献の説明
2	ソ連邦解体（1）	ソ連崩壊期のロシアにおける政治・経済情勢について
3	ソ連邦解体（2）	中央アジア、コーカサス地域におけるソ連邦解体のインパクトについて
4	ソ連邦解体（3）	ウクライナ、ベラルーシにおけるソ連邦解体のインパクトについて
5	地域紛争（1）	旧ソ連圏における地域紛争について概観
6	地域紛争（2）	旧ソ連圏における地域紛争に関する個別事例研究を実施
7	地域紛争（3）	旧ソ連圏における地域紛争についてナゴルノ・カラバフ紛争など最近の事例を紹介
8	地域安全保障機構（1）	集団安全保障条約機構について
9	地域安全保障機構（2）	上海協力機構（SCO）について
10	BRICS	新興国の台頭とBRICSの機能について
11	中国の対一路政策	旧ソ連圏における中国の影響力について分析
12	中露・露朝関係	軍事・経済面におけるロシアと中国、北朝鮮の関係について
13	米露関係と国際政治の展望	ウクライナ戦争下における米露関係とトランプ新政権下における国際政治の展望
14	今学期のまとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で関心を持ったテーマについて、自分で調べて知識を深めていく習慣をつけること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

油本真理・溝口修平編著『現代ロシア政治』法律文化社、2023年、2700円税別

【参考書】

初回に提示します

【成績評価の方法と基準】

小レポート（30％）

期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりアンケートを実施していません。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞現代ロシア政治・安全保障、ロシア地域研究

＜研究テーマ＞ソ連邦解体後の現代ロシアにおける政治・外交・軍事安全保障政策など

＜主要研究業績＞

『ロシア大統領権力の制度設計』慶應義塾大学出版会、2024年（単著）

『現代ロシア政治』法律文化社、2023年（共編著）

など

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the Central Asian studies and the Contemporary Russian studies from the Disso-lution of the Soviet Union until the second Russo-Ukrainian War examining the important political events and regional security issues.

POL100AD (政治学 / Politics 100)		
国際協力論 I		
志賀 裕朗		
授業形式：講義 開講セメスター：春学期授業/Spring		
単位数：2単位		
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ゲ〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
ウクライナ戦争やトランプ第二次政権の登場は世界のあり方を大きく変えつつある。国際社会が団結して環境問題や貧困問題、感染症対策等の地球規模課題に取り組む必要性は明白だが、大国の対立や各国の思惑の違いなどのために国際社会は一致団結できておらず、世界の将来はますます不確実となっている。		
こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めようとして、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。		
本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。		
【到達目標】		
まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているのか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。		
次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。		
【授業の進め方と方法】		
インターアクティブな授業とする。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の積極的な受講を期待している。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法、学生の心構え等の説明を行う。
2	危機に瀕する国際協力	アメリカをはじめとする先進国における自国第一主義的な行動や排外主義の高まり、大国間競争の激化が国際協力をどのように難しくしているかを検討する。
3	危機に瀕する国際協力②	同上。
4	途上国が直面する課題	途上国が長年直面してきた様々な課題を、SDGS（持続可能な開発目標）を参考にしながら広く検討する。
5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO等）が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODAにはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本のODAの代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター（二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等）の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突き付けたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか？ 日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか？
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
特に使用しない。		
【参考書】		
西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学：「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。		

木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開：途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。

木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊：開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

授業中に提出を求める課題（40％）と最終試験（60％）で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。

■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.

This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD（政治学 / Politics 100）			3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
国際協力論Ⅱ					
志賀 裕朗					
授業形式：講義 開講セメスター：秋学期授業/Fall 単位数：2単位					
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】					
世界の政治経済を巡る秩序が大きな転換点を迎え、世界の先行きはますます不透明になっている。こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたいと、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。					
本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。					
【到達目標】					
本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。					
なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。					
【授業の進め方と方法】					
本講義では、各テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に十分な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたいと願う学生の受講を期待している。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。			
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界のHIV-AIDS患者の7割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では30代前半の女性の罹患率が36％という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。	4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族を共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。
			5	途上国が直面する多様な課題④	1970年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。
			6	開発思想と援助手法①	「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。
			7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい権威主義体制国に対しては援助すべきではない」という主張の是非を検討する。
			8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実（post-truth）の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
			9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015年に採択されたSDGs（持続可能な開発目標）を読み、2000年に策定されたMDGs（ミレニアム開発目標）と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
			10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行（AIIB）等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。

11	日本の政府開発援助（ODA）の特徴①	第二次大戦における敗北から10年も経っていない1954年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方によってどのように影響したかを検討する。
12	日本の政府開発援助（ODA）の特徴②	日本のODAは借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。
13	日本の政府開発援助（ODA）の特徴③	2015年に日本政府が発表し23年に改訂された「開発協力大綱」を読み、日本がODAを通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA大綱（1992年制定、2003年改訂）」と比較しながら読み解く。
14	授業内容の振り返りと総括	これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー（A4サイズで2枚以内）を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する（シラバス通りとは限らない）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しないが、第一回講義に際しては、事前に講読文献を指定し、その感想を当日講師に直接提出することを求める。これを提出しない学生は、それ以降の受講を一切認めないので留意すること。

【参考書】

近藤康太郎、2020年、『三行で撃つー＜善く、生きる＞ための文章塾』、CCCメディアハウス。

小坂井敏晶、2017年、『答えのない世界を生きる』、祥伝社。

【成績評価の方法と基準】

授業で提出を求める課題（60％）およびディスカッションへの積極的参加の度合い（40％）によって成績を評定する予定（最終試験は行わない）であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論Ⅰ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

国際公共政策 I**坂根 徹**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：政治学科「国際行政論 I」との合併科目

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学科の本授業（国際公共政策 I）（政治学科の国際行政論 I との合同授業）では、「グローバルな国際公共政策・国際行政」をテーマに、国際公共政策・国際行政について以下の諸項目で記載した要領で学習を進めていく。それにより、関連の専門知識を得るとともに、政策・行政的思考を行うことができる能力の涵養を図ることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。

【到達目標】

国際公共政策・国際行政について、グローバルな見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について考察し、その考察と結果をまとめ発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際公共政策・国際行政をグローバルな視点から考察していく。具体的には、グローバルな最大の国際機関群である国連システムを事例として、先ず様々な国際公共政策・国際行政の政策分野などについて、次いで国際公共政策・国際行政の制度と組織・資源の調達と管理などについて検討する。また、履修者は各自の関心に基づき、本講義に関連する任意の具体的な国際公共政策・国際行政等のテーマを設定し、そのテーマについて考察し、その考察と結果をまとめ発表する（なおその発表に対しては時間が許す範囲で検討・議論等が予定される）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業のテーマや進め方の概要などの導入講義
第2回	国際公共政策・国際行政の政策分野 1	持続可能な開発目標(SDGs)政策と地球環境エネルギー政策の検討
第3回	国際公共政策・国際行政の政策分野 2	国際防災・人道・危機管理政策と国際安全保障・国連PKO政策の検討
第4回	関心テーマの表明と調査研究テーマの検討	国際公共政策・国際行政における各自の関心テーマの表明と調査研究テーマの検討
第5回	調査研究テーマの選定と調査実施に向けた検討	調査研究テーマの選定と今後の調査実施に向けた検討
第6回	国際公共政策・国際行政の政策分野 3	国際貿易・金融・経済政策と移民・難民・国際人権政策の検討
第7回	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する調査の進捗状況や今後の課題についての中間発表
第8回	国際公共政策・国際行政の政策分野 4	国際感染症・保健医療・公衆衛生政策と国際教育・文化・科学技術政策の検討
第9回	国際公共政策・国際行政の制度と組織	国連システムを事例とした国際公共政策・国際行政の制度と組織の検討

第10回	国際公共政策・国際行政の資源の調達と管理	国連システムを事例とした国際公共政策・国際行政の資源の調達と管理の検討
第11回	最終発表に向けた検討	最終発表に向けた進捗状況や課題の検討
第12回	調査研究テーマの最終発表 1	各自の調査研究テーマに関する最終発表の開始
第13回	調査研究テーマの最終発表 2	各自の調査研究テーマに関する最終発表の継続
第14回	調査研究テーマの最終発表 3 とまとめ	各自の調査研究テーマに関する最終発表の継続とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で学んだ内容の復習を重点的に行い、理解を確認していくことに加えて、特に各自の関心に基づき設定したテーマに関する発表に向けての事前準備をしっかりと行うこと。本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

福田耕治・坂根徹『国際行政の新展開：国連・EUとSDGsのグローバル・ガバナンス』法律文化社、2020年。

【参考書】

開講時などに適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50点）と期末プレゼンテーション（50点）による。平常点は、主に講義中の期末よりも前の発表や配布するレスポンスペーパーにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進度や履修者数及び履修者の関心テーマ等により修正・変更されることがありうる。

【Outline (in English)】

Main theme of this course (International Public Policy I) is to learn and consider about global international public policy and administration. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies and administration. In addition, students are expected to nourish presentation skills.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours. Actual needed time will be varied depending on various elements especially when each student is assigned and scheduled presentations.

Grading will be decided based on in-class study (50%) and final presentation (50%).

POL300AD（政治学 / Politics 300）

平和・軍事研究Ⅱ

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の前半は、戦後日本の軍事政策の概要と歩みに関して分析や解説を行う。授業の後半は、日本をめぐる東アジアの軍事情勢を詳しく分析する。領土問題をはじめ、日本や東アジアの主要な軍事争点を解説する。

これらを通じて、国際政治における戦争と平和に関する専門知識と東アジア地域の軍事情勢に関する知識を身につける。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチ、東アジア地域の情勢認識、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に教員の講義をもって授業を行うが、理解を助けるために各種の映像物を見せることもある。関係する展示会（例えば、国際航空宇宙展など）や記念施設への展覧や感想文を求めることもある。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	終戦の状況と戦後日本のスタート	「過去の大戦」とは何か。戦争終結要因の分析、終戦の状況を解説
第2回	米国の対日占領政策	GHQの非武装政策、平和憲法、領土処理を解説
第3回	自衛隊創設と日本の主権回復	朝鮮戦争、自衛隊創設、サンフランシスコ講和条約、集団的自衛権問題を解説
第4回	日米安保Ⅰ	1951年の旧日米安保条約、日米行政協定を解説
第5回	日米安保Ⅱ	1960年の新日米安保条約を解説。極東条項と核戦争巻き込まれ論など。
第6回	領土問題Ⅰ	北方四島について
第7回	領土問題Ⅱ	独島・竹島、尖閣諸島、沖縄について
第8回	シビリアンコントロール	天皇統帥権、軍政軍令分離論、シビリアンコントロールの意味
第9回	日本の核政策	非核3原則、核燃料リサイクル政策、T-1政策について
第10回	日本の軍事計画Ⅰ	一次防から「防衛大綱達成(1990年)」まで
第11回	日本の軍事計画Ⅱ	冷戦終結以降の軍事計画について
第12回	中国の軍事政策	中国の核戦力・通常戦力
第13回	北朝鮮の軍事政策	核とミサイル戦力
第14回	韓国の軍事政策	南の韓国に対する戦略 北に対する戦略 通常戦力、兵役制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念施設、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示する。

【参考書】

開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10～20％）、課題（10～30％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course will explain and analyze the history of Japan's postwar military policy and the military situation in East-Asia surrounding Japan.

The aim of this course is to help students understand the correlation of war and peace, and the knowledge of Japan's military policy and military situation surrounding Japan.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

オセアニアの政治と社会Ⅰ

今泉 裕美子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：定員制 ※詳細は【授業の進め方と方法 / Method(s)】に記載の通り

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オセアニアというとオーストラリアやニュージーランドを思い浮かべる人が多いであろう。近年の日本の報道では、「自由で開かれたインド・太平洋」を耳にする機会が増えたが、肝心な「太平洋」を構成する国や地域は、大国間の競争に翻弄される客体として報じられ、情報も圧倒的に少ない。

オセアニアはオーストラリア、ニュージーランド、メラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの存在から説明されるが、これらは外来者が区分し、命名したものである。すなわち欧米、日本の植民地や占領地とされた経験もち、そこで生み出された民族対立、資源の枯渇、プランテーション経営の「遺産」は、今なお島々の自立に影を落としている。また、海面上昇や巨大台風襲来、核実験や放射性廃棄物による被ばくは、島の人びとの心身を傷つけ、難民化を促し、彼らには社会・文化の消滅すら現実的なものとして認識されている。

しかし、こうした状況にあるからこそ、オセアニアの島嶼国・地域はゆるやかな協同を通じて、大国中心の国際関係や平和の問い直しを促し、国際社会に提言してきた。また、植民地化の過程で外来のものの受け入れを強いられ、それと格闘しながら、祖先から引き継いだ知恵をいかし、共同体を鍛え、島を離れた同胞たちともつながりつつ、課題に取り組んできた。

本授業では、オセアニアの特に島嶼を対象に、政治、社会の特徴、抱える問題を理解するため、オセアニアへの人類の到達から第一次世界大戦までの歴史を学ぶ。「オセアニアの政治と社会Ⅱ」の前提となる授業である。

【到達目標】

1. オセアニアの特に島嶼について、政治や社会の特徴、直面する問題の独自性を自然環境や歴史のなかで理解すると同時に、世界の諸地域に通底する問題としても理解することができる。
2. オセアニアの特に島嶼に関する情報の所在を知り、それら情報を学術的な方法によって分析、理解し、自身の認識を再構成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 初回授業はオンラインライブで実施する予定である。受講を希望する学生には、初回授業（欠席する場合は、配布資料を読んで）のリアクションペーパーを定められた方法と期限（初回授業時及びHoppiiで通知）までに提出してもらう。受講者数を調整する必要がある場合は、初回授業のリアクションペーパー提出者から抽選する。
2. 授業にはレジュメや資料を配布することを原則とする。
3. リアクションペーパーは毎回提出してもらう。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。注目すべきコメントや質問があれば授業で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
4. オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、注意事項の説明。

第2回	「オセアニア」とは？	オセアニア、太平洋に関する呼称、範囲、概念を学ぶ。
第3回	現代日本におけるオセアニア認識	日本社会および受講者のオセアニア認識を明らかにし、本授業のアプローチを確認する。
第4回	オセアニアを島嶼から学ぶ意味①	受講生の関心などを踏まえ、第6回以後の授業につながるトピックスを選ぶ。
第5回	オセアニアを島嶼から学ぶ意味②	受講生の関心などを踏まえ、第6回以後の授業につながるトピックスを選ぶ。
第6回	オセアニアへの人類の進出とくらし①	島嶼の人々がアイデンティティーのよりどころとする海への認識、航海や漁労を学ぶ。
第7回	オセアニアへの人類の進出とくらし②	島嶼の人々がアイデンティティーのよりどころとする巨石文化を学ぶ。
第8回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化①	近代国際関係のなかでヨーロッパ人のオセアニア進出、島嶼の人々との「出会い」、これらが双方の社会にもたらした影響を学ぶ。
第9回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化②	近代国際関係のなかで列強による島嶼の植民地化を学び、現在の脱植民地化において直面する課題との関係を考察する。
第10回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化③	列強による島嶼の植民地化を、具体的な事例から学ぶ。
第11回	オセアニアにとっての第一次世界大戦①	ANZACを事例に、オセアニアにとっての第一次世界大戦を学び、その経験を今なお記念する意味を考察する。
第12回	オセアニアにとっての第一次世界大戦②	第一次世界大戦によるオセアニアの再分割を委任統治制度の創設から理解し、現代に続く問題を学ぶ。
第13回	受講生の関心に基づいたテーマ	第6回以後の授業での受講生の関心を踏まえてテーマを選び、学ぶ。
第14回	まとめ	春学期授業の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
2. オセアニア関連のHPなどを参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000年。
 印東道子編『ミクロネシアを知るための58章』明石書店、2005年。
 吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009年。
 石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための58章』明石書店、2010年。
 中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための54章』2012年。
 今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本－日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第20巻（地域論）』岩波書店、2014年。
 今泉裕美子「太平洋分割のなかの日本の南洋群島統治－委任統治と「島民」の創出」中野聡・安村尚己責任編集、棚橋調編集協力『岩波講座世界歴史19 太平洋海域世界～20世紀』岩波書店、2023年。
 石森大知他編『ようこそオセアニア世界へ』昭和堂、2023年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物などを総合したもの（50%）、セメスター末のテスト（50%）。

以上の成績評価をもとに、授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

・提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情とこれを示す証明資料の提出は定期試験のルールに則る）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

オセアニアに関する基礎知識や関心がなくとも、適切な情報を知ることができ、関心が広がった、あるいは、他の授業との関連づけが出来る、の感想を得ているので、継続して丁寧な情報提供や考察を行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】

1. 講義内容に関する日本語での研究や情報は必ずしも多くはないため、特に英語の資料を用いる機会が多い。
2. 対面で行うが、オンラインで実施する場合はHoppiiで連絡する(第1回目はオンライン)。
3. Hoppiiは自主的にチェックすること。教員への連絡はTAを通じて行う。
4. リアクションペーパーを含む提出物において、他人や生成系AIが作成した文章をあたかも自分が作成したかのようにみせかけたり、あるいは、前後関係や語句を若干変更して用いたりすることは認めない。
5. 沖縄県の県史、市史などの編さん、執筆に関わったり、ミクロネシアの研究者、教育者と交流を続けているので、地域住民の歴史をどう記録し、次世代に継承するか、聞き取りの方法、地域外の研究者として地域にいかに関わるか、の経験に基づいた「地域研究」の方法も紹介する。

【Outline (in English)】

This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.

The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on before World War II. This course is highly recommended for those who are planning to take "Politics and Society of Oceania II".

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Develop an awareness of the Pacific Islands and their peoples by learning their politics, society, culture and historical experience.
2. Understand the history of imperialism, colonialism and militarism of Pacific islands and struggle against them by Pacific Islanders.
3. Reviewing key concepts and theories of International Studies and structure of international relations based on the history of Pacific Islands.
4. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world from the viewpoints of Pacific Islanders.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
2. Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

POL300AD（政治学 / Politics 300）

オセアニアの政治と社会Ⅱ

今泉 裕美子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：定員制 ※詳細は【授業の進め方と方法 / Method(s)】に記載の通り

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説家・島尾敏雄は太平洋世界のなかで日本を捉えるために、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアに着目し、複数の島々からなる日本を「ヤボネシア」と表現した。これら3つの「ネシア」を含むオセアニアの「島」にくらす人びとは、太平洋に生存を委ね、海は人びとを隔てる存在ではなく、つなぐ存在として捉えてきた。日本で生活し、日本を「島国」と表現する私たちに、そのような認識があるだろうか。

オセアニアはオーストラリア、ニュージーランド、メラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの存在から説明されるが、これらは外来者が区分し、命名したものである。すなわち欧米、日本の植民地や占領地とされた経験をもち、そこで生み出された民族対立、資源の枯渇、プランテーション経営の“遺産”は、今なお島々の自立に影を落としている。また、海面上昇や巨大台風襲来、核実験や放射性廃棄物による被ばくは、島の人びとの心身を傷つけ、難民化を促し、彼らには社会・文化の消滅すら現実的なものとして認識されている。こうしたオセアニアの植民地支配、軍事占領、そして核実験には、日本も大きく関わってきたことも殆ど知られていない。

本授業ではオセアニアの特に島嶼を対象に、政治、社会の特徴、抱える問題を理解するため、ミクロネシア（旧南洋群島）と日本との関わり合いの歴史を中心に学ぶ。

【到達目標】

1. ミクロネシア（旧南洋群島）と日本との関係史や現状について、研究や情報を適切に選び、批判的に考察するための視点や方法を身に着ける。
2. オセアニアの特に島嶼について、政治や社会の特徴、直面す問題の独自性を自然環境や歴史のなかで理解すると同時に、世界の諸地域に通底する問題としても理解することができる。
3. ミクロネシア（旧南洋群島）に関する情報の所在を知り、それら情報を学術的な方法によって分析、理解し、自身の認識を再構成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 初回授業はオンラインライブで実施する予定である。受講を希望する学生には、初回授業（欠席する場合は、配布資料を読んで）のリアクションペーパーを定められた方法と期限（初回授業時及びHoppiiで通知）までに提出してもらう。受講者数を調整する必要がある場合は、初回授業のリアクションペーパー提出者から抽選する。
2. 授業にはレジュメや資料を配布することを原則とする。
3. リアクションペーパーは毎回提出してもらう。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。注目すべきコメントや質問があれば授業で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
4. オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションー本講義の視点と方法、進め方	授業の進め方、注意事項の説明。「オセアニアの政治と社会Ⅰ」との関連づけ。
第2回	ミクロネシアと日本との現在の交流	ミクロネシアと日本との現在の交流を、日本統治下南洋群島で生活した人びとと土の草の根の交流を中心に戦前、戦後のミクロネシアと日本の関係を学ぶ意義を確認する。
第3回	日本の南洋群島統治を分析する視点	南洋群島統治をめぐる日本政府、研究者の評価を批判的に検討し、本授業のアプローチを学ぶ。
第4回	「南洋群島」時代のミクロネシア①ー植民地の法制度から	国際連盟の委任統治制度のもとで行われた日本の南洋群島統治の特徴を、第一次世界大戦後の世界の植民地支配体制の中で、また日本の植民地法制度のなかで学ぶ。
第5回	「南洋群島」時代のミクロネシア②ー植民地社会の特徴	現地住民人口の2倍もの日本人が移民し、なかでも沖縄出身者が多かった植民地社会の特徴を学ぶ。
第6回	「南洋群島」時代のミクロネシア③ーチャモロとカリロニアン	チャモロとカリロニアンの植民地経験を、日本の教育政策を中心に学ぶ。
第7回	The Typhoon of Warーミクロネシアの第二次世界大戦経験①	沖縄戦に先駆けて地上戦が行われた南洋群島での戦争を、沖縄戦と比較し関係づけながら学び、ミクロネシアにとっての戦争経験を考察する。
第8回	The Typhoon of Warーミクロネシアの第二次世界大戦経験②	南洋群島での戦争を生きのびた人々が戦争経験をどう捉え、若い世代に伝えようとしているか、非体験者として考察する。
第9回	ミクロネシアにみる Nuclear Colonialism ①	国際連合の戦略的信託統治として行われたアメリカのミクロネシア統治の特徴を、冷戦体制下アメリカの核軍力を支えたマーシャル諸島での初の核実験を中心に学ぶ。
第10回	ミクロネシアにみる Nuclear Colonialism ②	米国がビキニ環礁で行った水爆 Bravo 投下による実験での、住民の核被害の実態、その経験と継承から学び、現代世界の核兵器問題、放射能被害の考察につなげる。
第11回	ミクロネシアにみる Nuclear Colonialism ③	日本にとっての水爆 Bravo の経験、すなわち「ビキニ事件／第五福竜丸事件」を学び、現代世界の核兵器問題、放射能被害の考察につなげる。
第12回	ミクロネシアへの日本の再進出	「ミクロネシア協定」から始まる戦後日本とミクロネシアとの関係を学ぶ。
第13回	受講生の関心に基づくトピックス	受講生の関心に基づくトピックスを選び、これまでの学びを深め、発展させる。
第14回	まとめ	授業を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
2. オセアニア関連のHPなどを参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000年。
 印東道子編『ミクロネシアを知るための58章』明石書店、2005年。
 吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009年。
 石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための58章』明石書店、2010年。
 中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための54章』2012年。
 今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本－日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第20巻（地域論）』岩波書店、2014年。
 今泉裕美子「太平洋分割のなかの日本の南洋群島統治－委任統治と「島民」の創出」中野聡・安村尚己責任編集、棚橋訓編集協力『岩波講座世界歴史19 太平洋海域世界～20世紀』岩波書店、2023年。
 石森大知他編『ようこそオセアニア世界へ』昭和堂、2023年。
 その他必要に応じて、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物などを総合したもの（50%）、セメスター末のテスト（50%）。以上の成績評価をもとに、授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
 ・提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情とこれを示す証明資料の提出は定期試験のルールに則る）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

本授業ではディスカッションは行わないものの、リアクションペーパーの意見や質問を取り上げて紹介し、適切な情報源や情報を紹介したことが、積極的に学ぶ姿勢につながったとの意見が多いため、こうした取り組みを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】

1. 講義内容に関する日本語での研究や情報は必ずしも多くはないため、特に英語の資料を用いる機会が多い。
 2. 対面で行うが、オンラインで実施する場合はHoppiiで連絡する（第1回目はオンライン）。
 3. Hoppiiは自主的にチェックすること。教員への連絡はTAを通じて行う。
 4. リアクションペーパーを含む提出物において、他人や生成系AIが作成した文章をあたかも自分が作成したかのようにみせかけたり、あるいは、前後関係や語句を若干変更して用いたりすることは認めない。
 5. 沖縄県の県史、市史などの編さん、執筆に関わったり、ミクロネシアの研究者、教育者と交流を続けているので、地域住民の歴史をどう記録し、次世代に継承するか、聞き取りの方法、地域外の研究者として地域に関わるか、の経験に基づいた「地域研究」の方法も紹介する。

【Outline (in English)】

This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.

The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on Micronesia-Japan relations. It is strongly recommended that this course be taken after taking “Politics and Society of Oceania I.”

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the Oceania focused on the historical relationship between Micronesia and Japan with reviewing international relations and Japanese modern and contemporary history.

2. Acquire the fundamental understanding of Micronesia-Japan relations especially about imperialism, colonialism, militarism and decolonization.

3. Develop a critical thinking about the role and responsibilities of Japan/Japanese as a member of Pacific Islands/Pacific Islanders.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%

2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

POL100AD (政治学 / Politics 100)

ラテンアメリカの政治と社会 I

渡部 奈々

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ラテンアメリカ地域の政治と社会における多様性を学ぶ、いわばラテンアメリカ研究入門である。講義ではまず、現在のラテンアメリカを形づくっている人種・民族、文化、歴史、地理的特徴を理解する。そのうえで先植民地期（1492年以前）から20世紀前半までの政治史を学ぶ。

【到達目標】

1. ラテンアメリカ地域の政治と社会の多様性ならびに地域的特徴について説明できる。
2. 先植民地期から20世紀前半までのそれぞれの時代におけるラテンアメリカ政治の特徴を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行うが、グループでの分かち合いやディスカッションの機会を設け、学生自身が学び考えたことを発信することを重視する。履修者数や授業の進み具合によって、予定を変更することがある。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ラテンアメリカに対するステレオタイプに気づく
第2回	ラテンアメリカ概要	地域的多様性と文化的同質性を理解する
第3回	ラテンアメリカの民族	人種・民族構成の歴史と特徴を知る（インディオ、メスティーソ）
第4回	ラテンアメリカの文化	食文化、音楽、スポーツ
第5回	ラテンアメリカの宗教	祖先崇拜、キリスト教、アフリカ系宗教、宗教祭事、聖地巡礼
第6回	ラテンアメリカ政治の全体像	政治体制と経済水準、時代区分からラテンアメリカ諸国を理解する
第7回	独立前のラテンアメリカ	古代から19世紀初頭までのラテンアメリカ政治
第8回	ラテンアメリカの独立と国家形成	ブルボン改革と各地で起きた独立運動
第9回	独立直後の国家形成	国家形成期の政治社会と奴隷制廃止
第10回	ラテンアメリカの近代化	近代化、都市化、新移民の流入
第11回	ポピュリズムの政治	労働者階層の拡大とポピュリズム
第12回	メキシコ革命と国民国家形成	メキシコ革命、壁画運動、クリステロ戦争
第13回	期末試験	春学期に学んだ事項を確認する
第14回	まとめ	期末試験の解説と春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を参照し講義内容の理解を深めると共に、ラテンアメリカの現状への理解を深めるためテレビ・新聞・インターネット等で伝えられる地域の政治・経済・社会に関する情報に積極的に触れるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

舛方周一郎・宮地隆廣『世界の中のラテンアメリカ政治』東京外国語大学出版社、2023年。
ラテンアメリカ文化事典編集委員会編『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版、2021年。
その他の参考資料は授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 60%
授業内課題・平常点（授業態度、リアクションペーパー等） 40%

【学生の意見等からの気づき】

ラテンアメリカという必ずしも熟知されているわけではない地域を扱う授業であり、具体的な問題を扱いながら、イメージを持ってもらえるような授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出の際には、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

課題は次回講義の予習内容となるため、必ず課題をして授業に臨むこと。課題の未提出は欠席扱いとする。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the field of Latin American Studies focusing on the political and cultural diversity. Toward this goal, the course is designed to study such topics as individuals, cultures, histories and geographies that distinguish the region. This class is also intended to encourage students to understand the political history from Pre-Columbian era to the first half of 20th century.

POL100AD（政治学 / Politics 100）

ラテンアメリカの政治と社会Ⅱ

渡部 奈々

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ラテンアメリカ地域の政治と社会における多様性を学ぶ、いわばラテンアメリカ研究入門である。講義では20世紀半ばから現代にいたるラテンアメリカ政治の特徴を学び、後半では現代ラテンアメリカが抱える社会問題（貧困、先住民、麻薬、ジェンダー、LGBTQ+等）に焦点を当てて、ラテンアメリカを多角的に理解することを目的とする。

【到達目標】

- 20世紀半ばから現代までのラテンアメリカ政治の特徴を理解し説明できる。
- 現代ラテンアメリカ社会が抱える問題について考察し、自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行うが、グループワークや発表の機会を設け、学生自身が学び考えたことを発信することを重視する。履修者数や授業の進み具合によって、予定を変更することがある。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の確認と授業の進め方説明
第2回	ラテンアメリカのナショナリズムと1930年代	ナショナリズムの形成とモノカルチャー経済の破綻
第3回	冷戦体制と革命運動	反共体制、グアテマラ革命、キューバ革命
第4回	ポピュリズム政治の挫折と左翼革命運動	アルゼンチンの事例、左翼ゲリラ闘争
第5回	軍事政権時代と革命	国家安全保障ドクトリン、ペルー革命、チリ革命
第6回	1980年代と民主化	民主化の波、失われた10年
第7回	新自由主義改革	債務危機、構造調整政策
第8回	現代ラテンアメリカの課題①	貧困、格差、貧困削減政策
第9回	現代ラテンアメリカの課題②麻薬問題	麻薬と組織犯罪（コロンビアとメキシコの事例）
第10回	現代ラテンアメリカの課題③政教関係	カトリック教会と政治（アルゼンチンの事例）
第11回	現代ラテンアメリカの課題④ジェンダー	ジェンダー・LGBTQ+（アルゼンチンの事例）
第12回	成果発表①	グループごとのポスターセッションと質疑応答
第13回	成果発表②	グループごとのポスターセッションと質疑応答
第14回	まとめ	秋学期で学んだ内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を参照し講義内容の理解を深めると共に、ラテンアメリカの現状への理解を深めるためテレビ・新聞・インターネット等で伝えられる地域の政治・経済・社会に関する情報に積極的に触れるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

舩方周一郎・宮地隆廣『世界の中のラテンアメリカ政治』東京外国語大学出版社、2023年。
畑恵子・浦部浩之編『ラテンアメリカ 地球規模課題の実践』新評論、2021年。
清水 達也 編『ラテンアメリカ経済入門』アジア経済研究所、2024年。
その他の参考資料は授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

ポスターセッション発表（レポート含む） 60%
授業内課題・平常点（授業態度、リアクションペーパー等） 40%

【学生の意見等からの気づき】

ラテンアメリカという必ずしも熟知されているわけではない地域を扱う授業であり、具体的な問題を扱いながら、イメージを持ってもらえるような授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出にあたっては、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は春学期開講の「ラテンアメリカの政治と社会Ⅰ」を履修済みであることを必須条件とします。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the field of Latin American Studies focusing on the political and cultural diversity. Toward this goal, the course is designed to understand the political history from the second half of 20th century to the present. This class is also intended to encourage students to examine the social issues such as poverty, ethnic people, drug trafficking, gender, LGBTQ+ and human rights.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

東南アジアの政治と社会 I

松野 明久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアの政治と社会についての基礎知識をえることを目的とする。東南アジアの地理的、民族的、宗教的多様性を知り、世界史の中で受けてきた影響、そして国民国家建設、民主主義、人権、紛争などの課題を理解する。地域の人口も今や7億人近くなり、日本との政治的・経済的関係の深い東南アジアを理解することは日本の立ち位置、未来を考える上で重要なことである。

【到達目標】

1. 東南アジアが歩んだ歴史の流れを把握し、それを述べるができる。
2. 東南アジア各国の歴史の特徴を把握し、それを述べるができる。
3. 東南アジア各国の現代の課題を理解し、それを議論することができる。
4. 東南アジアと日本の関係について基礎的事項を知り、それを述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は教科書を用い、講義形式で行います。必要に応じてレジュメを配布します。時々簡単な課題を出しますので、レポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	東南アジア事始め～なぜ、私は東南アジアを研究しているのか	講師個人が研究を志した動機や問題意識、当時の時代背景、またその後の時代の移り変わりなど、東南アジアの魅力、研究する意義を解説する。
第2回	教科書第1章：国民国家以前の東南アジア	古代インド化の時代から、イスラーム伝播の波、植民地支配、反植民地主義とナショナリズムの勃興までを解説する。
第3回	教科書第2章：マレーシア、シンガポール、ブルネイ	東南アジア大陸部・島嶼部にまたがる大英帝国植民地（英領マレー）から独立した国々の成立過程と現状を概観する。
第4回	教科書第3章：フィリピン	スペイン植民地支配の遺産（大土地所有制やカトリックの普及）、米国統治の遺産（英語の普及、議会制度、米国への依存）、日本占領のインパクトの上に戦後政治が築かれた。現在でもエリート支配が根強いフィリピンの基礎を学ぶ。
第5回	教科書第4章：(1) インドネシア	多様性の中の統一を求める国民形成が独立闘争、冷戦、民主化の各時代に変化してきた激動の軌跡をたどる。
第6回	教科書第4章：(2) 東ティモール	21世紀で最初の独立国となった小国の苦難の闘争とそれをめぐる国際政治を理解する。

第7回	教科書第5章：タイ	東南アジアでは唯一植民地にならなかった王国として独自の近代化を遂げたタイの政治体制、今日の争点を学ぶ。
第8回	教科書第6章：ミャンマー	多様な少数民族の存在と中央集権化をめざす政府の確執が続き、1962年以降軍事政権が上からの「安定」を押しつける時代が続いた。民政移管が行われたが、今また軍事政権に戻っている。ミャンマーにとっていかなる体制が安定的・平和的なのかを考える。
第9回	教科書第7章：ベトナム、ラオス、カンボジア	フランス植民地支配を受け「インドシナ3国」と呼ばれた国々のそれぞれの発展、対立、共存の歴史を学ぶ。とくにベトナム戦争がもたらしたインパクトについて理解する。
第10回	教科書第8章：国民国家建設	ここからは比較政治学の観点から、地域を横断的に見ていく。国民国家建設は地域の主要な課題であり、各国の事情に応じてさまざまなテーマと歴史があることを学ぶ。
第11回	教科書第9章：政治体制と体制変動	冷戦期、東南アジアは分断され、一党支配や独裁政権、あるいは権威主義体制が地域の特徴となった。それには伝統的政治体制や植民地支配も背景要因としてある。歴史的文脈と関係させながら政治体制について学ぶ。
第12回	教科書第11章：模索する民主主義	東南アジアでは1980年代後半から1990年代にかけて民主主義が進展した。今なお課題は多いが、民主主義は大きな論争点の一つになっている。各地でいかなる民主化運動が展開し、いかなる問題を解決しようとしてきたのかを学ぶ。
第13回	教科書第12章：国際政治の中の東南アジア	古来より東南アジアは域外の勢力の影響を受けてきたが、冷戦下では米ソの対立、現代では米中の対立の中で、バランスを取ろうとしてきた。それは具体的にどういうことかを学ぶ。
第14回	教科書終章：日本と東南アジア	東南アジアと日本の関係史を学ぶ。東南アジアは日本に近く、経済的には資源供給源、投資先、製品市場などとなってきた。近年は日本への移住労働者も多い。一方で、太平洋戦争中日本は東南アジア各地を侵略し、大きな傷痕を残した。そうした複雑な現代史の関係を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 予習として教科書の該当箇所を読んでおく。
 2. 予習または復習として、NHKニュースサイト（日本語）、BBCニュースサイト（英語）など主要なニュースサイトで該当する国やテーマについてのニュース記事をさがし、読む。
 3. 復習として教科書の各章の最後にある「読書案内」や「reference」の中から関心あるテーマのものを読むか、それらの著者の書いた短い論考・エッセーを読む。
- （本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】

増原綾子・鈴木綾女・片岡樹・宮脇聡史・古屋博子著『はじめての東南アジア政治』有斐閣、2018年。定価2,420円、本体2,200円、ISBN 978-4-641-15058-4。

【参考書】

概論的な参考書は多くあり、また教科書にも紹介されている。以下は、ストーリー性をもったモノグラフで、東南アジアや世界を考える上で参考になる本である。

アンダーソン, B. / 白石隆・白石さや訳 (2007) 『定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』 書籍工房早山。

倉沢愛子 (2013) 『9・30 世界を震撼させた日—インドネシア政変の真相と波紋』 岩波書店。

倉沢愛子・松村高夫 (2023) 『ワクチン開発と戦争犯罪—インドネシア破傷風事件の真相』 岩波書店。

後藤乾一 (1995) 『近代日本と東南アジア—南進の「衝撃」と「遺産」』 岩波書店。

根本敬 (2015) 『アウンサンソーチーのビルマ—民主化と国民和解の道』 岩波書店。

松野明久 (2002) 『東ティモール独立史』 早稲田大学出版部。

【成績評価の方法と基準】**1. レポート課題 20%**

評価基準：引用が適切にできており、趣旨が明確かどうか。

2. 期末テスト 80%**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

担当教員は、国際連合が東ティモールに展開した住民投票ミッション「国連東ティモール派遣団 (UNAMET)」(1999年)の選挙管理官を務め、国連暫定行政下東ティモールで設置された「東ティモール受容真実和解委員会 (CAVR)」の上級歴史アドバイザー (2003-2004年)を務め、国際協力事業団 (JICA) の東ティモール政府に対する短期専門家 (2007年)を務めた。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of politics and societies of Southeast Asia. Students will learn geographical, ethnical, and religious diversity of Southeast Asia, and will deepen understanding of the influences from the world history and challenges such as the nation building, democracy, human rights, and conflict. The region's population is now about 700 millions, and Japan has very deep political and economic relations with the region. The understanding of Southeast Asia is important when we think about our own position in the world and the future of our country.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

東南アジアの政治と社会Ⅱ

田中 李歩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアは、地理環境・社会・政治経済の多様性に富み、各国が独自の魅力を有する反面、統一的に理解することは難しい地域だと考えられます。本講義では、受講生が東南アジア地域および各国の政治経済や社会に関する知識を習得すること、ならびにその修得の前提となる地理、文化、歴史等の基礎的な知識を身につけること、またそれらのトピックに関連した問題についての理解の手がかりを得ることをねらいとします。

【到達目標】

・東南アジア地域および各国の政治経済や社会に関する知識を修得していること、またその前提となる地理、文化、歴史等の知識を修得していること。
・東南アジア地域および各国が直面している問題について理解する手がかりを得ていること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心としますが、毎回授業後に提出のミニ課題への受講生のコメントに適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・イントロダクション	オリエンテーションでは授業の進め方・評価方法について理解します。イントロダクションでは東南アジアの概要を把握します。
2	東南アジアの基礎知識①地理と環境	東南アジアの政治経済や社会について学ぶための基礎知識として、地理・環境について学びます。
3	東南アジアの基礎知識②民族と宗教	東南アジアの政治経済や社会について学ぶための基礎知識として、民族・宗教について学びます。
4	東南アジアの基礎知識③言語と文化	東南アジアの政治経済や社会について学ぶための基礎知識として、言語・文化について学びます。
5	植民地期までの東南アジア	植民地期までの東南アジアの歴史について学びます。
6	第2次世界大戦と東南アジア	第2次大戦期の東南アジアの状況について学びます。
7	ASEAN4+シンガポールにおける工業化	ASEAN4+シンガポールにおける工業化の展開について学びます。
8	ASEAN4+シンガポールの経済発展過程と政治体制	東南アジア、特にASEAN4+シンガポールの経済発展過程における政治体制について学びます。
9	第2次大戦後のCLMV諸国とブルネイの政治・経済	第2次大戦後のCLMV諸国とブルネイがどのような政治・経済状況にあったかを学びます。

10	東南アジアの社会変容	東南アジアにおける人口の変化や都市化とそのもたらした影響について学びます。
11	東南アジアにおける社会階層・格差と教育	東南アジアにおける社会階層や格差の状況、またそれらと教育のかかわりについて、具体例とともに学びます。
12	現代東南アジア各国の政治	現代東南アジア各国の政治体制や政情について把握します。
13	東南アジアが直面する政治関連の問題とASEAN	東南アジアが直面している人権や領土に関する問題について把握し、ASEANの機能についても学びます。
14	現代東南アジアの経済、東南アジアと日本	東南アジアの現在の経済状況について把握し、日本とのつながりについても学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・東南アジア全体あるいは各国に関連するニュース等に関心を持ち、積極的に情報を収集します。特に関心を持った内容について、学期中に1度ミニ課題で報告します。
・毎授業後、授業資料を確認しながらミニ課題に取り組むことで、各回授業内容の復習を行います。
※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配布します。

【参考書】

古田元夫（2021）『東南アジア史10講』（岩波新書）、岩波書店。
増原綾子他（2018）『はじめての東南アジア政治』（有斐閣ストゥディア）、有斐閣。
岩崎育夫（2017）『入門東南アジア近現代史』（講談社現代新書）、講談社。

【成績評価の方法と基準】

・毎授業後のミニ課題の提出（30%）。
・期末試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

ミニ課題に取り組む際の生成AIを使用は基本的に禁止します。

【Outline (in English)】

Southeast Asia is a region of great geographical, social and political-economic diversity, and while each country has its own unique attractiveness, it is difficult to understand the region in a unified way. In this course, students will be provided with knowledge of the political economy and society of Southeast Asia as a region and the countries within it, as well as the geography, culture and history that underpin this knowledge, and clues to understanding issues related to these topics.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

朝鮮半島の政治と社会 I**権 鎬淵**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に1945年以後の朝鮮半島における政治史および政治システムを主なテーマとして取り上げ、韓国及び北朝鮮政治に関する基本知識を身につける。

【到達目標】

朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、南北分断の背景、朝鮮戦争の状況、冷戦構造の確立、南北それぞれの政治体制・経済体制・国際関係の成立過程、日韓関係の主要争点の概要と歴史を講義する。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦後東アジアの始り	戦争の終戦状況：中国、ソ連、朝鮮半島
第2回	朝鮮半島の分断	38度線の由来 分断の状況、分断の責任
第3回	南北権力の特徴	李承晩、金日成
第4回	朝鮮戦争	戦争の背景 戦争の展開過程と終わり方
第5回	東アジアの冷戦構造	朝鮮戦争の国際・国内政治構造
第6回	4・19学生革命と 5・16軍事クーデター	4・19学生革命と5・16軍事クーデターを解説
第7回	朴正熙政権とその政策	朴正熙の経歴と政策内容
第8回	日韓国交正常化	その過程、内容と問題点
第9回	全斗煥政権	1979-88年
第10回	民主化運動とその実現	1987年新憲法成立
第11回	金泳三、盧泰愚政権	主な政策を中心に
第12回	金大中、盧武鉉政権	その政策を中心に
第13回	李明博、朴槿恵、 文在寅、尹錫悦政権	その政策を中心に
第14回	対日政策	日本との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

1. 孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020年
2. ドン・オーバードーフアー、ロバート・カーリン『二つのコリア〔第三版〕—国際政治の中の朝鮮半島』共同通信社、2015年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10～20％）、課題（10～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Projectorを使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】

This course introduces the post-war political histories of Korean peninsular (South Korea and North Korea).

The aim of this course is to help students understand the political system and its situations of South Korea and North Korea, and the relations of them and Japan.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

朝鮮半島の政治と社会Ⅱ**権 鎬淵**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に1945年以後の朝鮮半島の経済制度や社会文化システムを主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。韓国だけではなく、北朝鮮についても説明する。

【到達目標】

南北朝鮮の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、朝鮮半島の経済制度・社会システム・文化を分析する。主に講義による説明によって授業を行うが、映像（Youtube、映画など）や書物の感想文の提出や特定テーマに関する意見交換を行うこともある。

授業の中で、前回の授業で提出されたりアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	韓国の対北政策	北風政策 vs 太陽政策
第2回	北朝鮮の対南政策	統一戦線戦略、敵対国家論
第3回	北朝鮮の核兵器や弾道ミサイル問題	核兵器、ミサイル能力
第4回	南北の兵役制度	徴兵制の詳細説明
第5回	大統領制度	選挙システム・権限・役割
第6回	国会、憲法裁判所、司法システム	機関の役割
第7回	韓国の経済制度 1	財閥、不動産
第8回	韓国の経済制度 2	税金、福祉、雇用
第9回	北朝鮮の経済システム	どこが問題か
第10回	教育制度	受験戦争、就職難
第11回	韓国の社会問題 1	地域対立、格差問題
第12回	韓国の社会問題 2	女性関連
第13回	日韓の主要争点	歴史認識の問題 領土問題、慰安婦問題
第14回	統一の可能性について	吸収合併論、急変事態論、漸進的統一論などを点検

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

1. 孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020年
2. ドン・オーバードファー、ロバート・カーリン『二つのコリア（第三版）—国際政治の中の朝鮮半島—』共同通信社、2015年

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20％）、課題（0～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Projectorを使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】

This course introduces the economic, social and culture system of post-war Korean peninsular (South Korea and North Korea).

The aim of this course to help students understand Korea's basic system and consider the more desirable relations with Japan and Korea.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

平和・軍事研究 I

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えにくかった現象がより明確に理解できると同様に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えてくるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全たる軍事的な判断能力が求められる。

この科目は軍事というレンズで世界や国際秩序を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るため」の必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことを考えなければならない。平和を理想だけに求めず、武力万能論にも走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

世界の基本秩序は軍事力の力関係によって形づくられるが、その力関係の根本を作るのはやはり核兵器である。核兵器を語らずに世界秩序の基本を語ることはできない。武器というものは使われない時でも存在するだけで力を発揮しており、核兵器はなおさらである。被爆経験のある日本ではこれまで正面で取り上げることがなかった、核兵器や核戦略のことを徹底的に分析する。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	軍事という観点から世界を見る。	軍事はなぜ重要なのか
第2回	原子爆弾と水素爆弾の構造	作る方法と作らせない方法も
第3回	核戦略序論	両方とも核を保有している場合、どう戦うのか？
第4回	相互確証破壊戦略	奇抜な内容の戦略が世界を支配する
第5回	限定的な核使用戦略	核兵器を使いやすくする戦略
第6回	Middle Powerの核戦略	イギリス、フランス、中国の核戦略の考え方。
第7回	冷戦終了後の核兵器状況	2024年の時点で、世界に1万2千発の核兵器が現存
第8回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第9回	北朝鮮の核	なぜ、北朝鮮は核兵器に固執するのか。
第10回	日本の冷戦時代の戦略	「非核3原則」「専守防衛」は表面的なだけで、実態とは全然異なる。

第11回	日本の核能力	核燃料リサイクル政策と今後取りうる核戦略の選択肢を説明する。
第12回	中国の核戦力	中国の核戦略、核戦力の詳細
第13回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第14回	ミサイル防衛	「飛んでくる弾を弾で落とす」戦略は有効か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念施設、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
 本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10～20％）、課題（10～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces the international political history, mainly based on arms race competition for supremacy in nuclear warfare between the United States, the Soviet Union, and their respective allies during the Cold War.

It introduces also contemporary big military issues, missile defense system and nuclear proliferation issues.

The aim of this course is to help students understand international political situations with basic knowledge of nuclear warfare systems.

LAW200AB (法学 / law 200)

法律実務入門 I

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法律実務家をめざす人のための入門講座です。法学部で法律の勉強をしている学生で、法律実務家の実態を知らない者は意外と多いと感じます。弁護士や裁判官、検察官といった「法曹三者」についてはある程度理解していても、自分の将来の進路としては少し難しすぎると考える学生も多くいて、結局は法律実務家の道をあきらめてしまうのでしょうか。しかし、世の中には、法曹三者以外にも、実に様々な法律実務家が存在し、彼らは立派に自立して社会的に有益な活動をしています。こうした法律実務家のことをほとんど知らない学生に、その仕事の内容とその資格を得るためのノウハウを知ってもらうことがこの授業の目的です。この科目は全てのコースに属しています。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生が自分の進むべき道を考えることができれば目標は達成されたと思っています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP1」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
 ・外部からゲストスピーカーを招へいし、講演をしてもらう形で授業を行います。
 ・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月7日（月））で行います。
 ・この講義は、外部講師によるオムニバス方式で実施されます。外部講師の先生方は、法政大学の教職員でない方が多くいらっしゃいます。そのため、この講義の様子が第三者に配信されるとトラブル発生の原因ともなりかねません。対面実施・オンライン実施にかかわらず、講義の録画・録音は絶対にしないでください。
 ・講義は原則として対面形式で行います。ただし、外部講師の事情により、教室でオンラインで講義される場合があります。
 ・新型コロナウイルス感染学生などの特別な事情がある場合に限り、オンラインで配信いたします。
 ・質問は、学習支援システムの「課題」を通じて受け付けます。
 ・教材（レジュメ等）は、学習支援システムの「教材」欄に事前にアップロードいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この講義の目的と全体構成について	担当者によるこの講義の目的や授業の進め方についての説明
第2回	法律実務家を目指す諸君へ	法政士業の会・会員による講義
第3回	弁護士の職務と役割	弁護士による講義
第4回	裁判官の職務と役割	元裁判官による講義
第5回	検察官の職務と役割	検察官による講義
第6回	法科大学院の仕組みと機能	法科大学院教授による講義
第7回	地方公務員の職務と役割	地方公務員による講義
第8回	労働基準監督官の職務と役割	労働基準監督官による講義

第9回	公認会計士の職務と役割	公認会計士による講義
第10回	弁理士の職務と役割	弁理士による講義
第11回	中間まとめ	担当者による講義
第12回	社会保険労務士の職務と役割	社会保険労務士による講義
第13回	不動産鑑定士の職務と役割	不動産鑑定士による講義
第14回	法律実務家を目指すことについて	担当者による総括と定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をよく聞いて、必ず復習をすること。
 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありませんが、各講師の授業についてのレジュメを配布します。「授業支援システム」の「教材」欄を参照してください。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

◎ミニテスト、中間・定期試験および平常点・質問によって評価します。

<授業内定期試験>

・本講座の目的・趣旨からどのくらい真剣に向き合っているかを評価基準にします（配点90点）

<平常点・質問>

・講義ごとに実施するリアクションペーパー（質問）の提出及びその内容を評価対象とします。評価基準は、講義への積極的参加度などです。（配点10点）

【学生の意見等からの気づき】

おおむね評判の良い講義ですが、実務家の講師選択に対する注文もあります。講師の幅を広げてみることを考えないと思っています。
 従前の課題－受講生の数に対応しない教室の狭隘さ、マイク設備の不備－は、改善されています（対面授業の場合）。

過去において学生の私語や授業途中の無断（注意無視の）退席など、講師の先生に対する失礼な行動も散見されました。学生のモラルに問いかけつつ、厳粛に対応する必要も感じています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
 （新型コロナウイルス感染症などの理由でオンライン参加する場合には、Zoomが利用できる環境が必須となる。）

【Outline (in English)】

(1)【Course outline】

This course will lecture only to second grade student of department of law about the activity of Law practitioners.

We know many kind of Law practitioners, for example, Lawyer, Judge, Prosecutor, Patent attorney, Certified Public Accountants, Labor standards inspectors, etc.

This course contents from 11 guest speakers of above Law practitioners.

(2)【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to study specialized subjects with prospects for the profession.

(3)【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(4)【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

LAW200AB（法学 / law 200）

法律実務入門Ⅱ

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、文字通り法律実務家をめざす人のための入門講座です。春学期の「法律実務入門Ⅰ」の続編です。

法学部で法律の勉強をしている学生で、法律実務家の実態を知らない者は意外と多いと思います。この科目は法律実務家から直に職務を伺うことにより、近い将来の進路を真剣に考えるきっかけとし、その仕事の内容とその資格を得るためのノウハウを知ってもらうことを目的としています。

秋学期は、弁護士の様々な仕事をより具体的なテーマに即して講義をしていただきます。

この科目は全てのコースに属しています。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生が自分の進むべき道を考えることができれば目標は達成されたと思われる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP1」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・外部からゲストスピーカーを招へいし、講演をしてもらう形で授業を行います。

・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月22日（月））で行います。

・この講義は、外部講師によるオムニバス方式で実施されます。外部講師の先生方は、法政大学の教職員でない方が多くいらっしゃいます。そのため、この講義の様子が第三者に配信されるとトラブル発生の原因ともなりかねません。対面実施・オンライン実施にかかわらず、講義の録画・録音は絶対に行わないでください。

・講義は原則として対面形式で行います。ただし、外部講師の事情により、教室でオンラインで講義される場合があります。

・新型コロナウイルス感染学生などの特別な事情がある場合に限り、オンラインで配信いたします。

・質問は、学習支援システムの「課題」を通じて受け付けます。

・教材（レジュメ等）は、学習支援システムの「教材」欄に事前にアップロードいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この講座の目的を考える－秋学期を迎えて	担当者による本講義の目的と内容
第2回	知的財産権と弁護士	弁護士による講義
第3回	家事事件と弁護士	弁護士による講義
第4回	法律実務家をめざすことをあらためて問う。	大学教員による講義
第5回	会社再建と弁護士	弁護士による講義
第6回	農業法務と弁護士	弁護士による講義
第7回	人権裁判と弁護士	弁護士による講義
第8回	司法書士の職務と役割	司法書士による講義
第9回	法学系大学教員の職務と役割	大学教員による講義

第10回	税理士の職務と役割	税理士による講義
第11回	スタートアップ企業と法	経営者・企業法務担当者による講義
第12回	会社顧問弁護士の役割	弁護士による講義
第13回	労働者側弁護士の役割	弁護士による講義
第14回	「働き方」としての弁護士	弁護士による講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をよく聞いて、必ず復習をすること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはないが、各講師の授業についてのレジュメを配布する予定。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

◎定期試験および平常点・質問によって評価します。

<期末試験>

・本講座の目的・趣旨からどのくらい真剣に向き合っているかを評価基準にします。（配点20点）

<平常点・質問>

・講義ごとに実施するリアクションペーパー（質問）の提出及びその内容を評価対象とします。評価基準は、講義への積極的参加度などです。（配点10点）

【学生の意見等からの気づき】

おおむね評判の良い講義であるが、実務家の講師選択に対する注文もある。講師の幅を広げてみることも考えたい。

なお、従前の課題－受講生の数に対応しない教室の狭さ、マイク設備の不備－は、昨年度新教室に移動したことによって改善された。

後部座席の学生の私語や学生の授業途中の退席などの指摘もある。学生のモラルに問いかけつつ対応したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】**(1)【Course outline】**

This course will lecture only to second grade student of department of law about the activity of Law practitioners.

We know many kind of Law practitioners, for example, Lawyer, Judge, Prosecutor, etc.

This course contents from 11 guest speakers of Lawyers, Judicial scrivener, Tax Accountant, etc.

(2)【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to study specialized subjects with prospects for the profession.

(3)【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(4)【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 90%

in class contribution: 10%

POL300AC (政治学 / Politics 300)

外国書講読 (英語) I

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Sheldon S. Wolin, *Fugitive Democracy and Other Essays* (Princeton University Press, 2016) に所収されている論文を読みます。

現代社会においてデモクラシーがなお有効な政治理念でありうるのかを検討するために、デモクラシーを再考し再構成しようとしているウォーリンの論文を読んでいきます。

【到達目標】

英語を正確に読み、かつ、日本語の文章の作成能力を向上させることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

テキストを逐語的に輪読します。

内容の理解を深めるために、あわせて討論もおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
テキスト	Fugitive	文献輪読 1
講読 1	Democracy 1	
テキスト	Fugitive	文献輪読 2
講読 2	Democracy 2	
テキスト	Fugitive	文献輪読 3
講読 3	Democracy 3	
テキスト	Fugitive	文献講読 4
講読 4	Democracy 4	
テキスト	Fugitive	文献講読 5
講読 5	Democracy 5	
テキスト	Fugitive	文献講読 6
講読 6	Democracy 6	
テキスト	People's Two Bodies 1	文献講読 7
講読 7		
テキスト	People's Two Bodies 2	文献講読 8
講読 8		
テキスト	People's Two Bodies 3	文献講読 9
講読 9		
テキスト	People's Two Bodies 4	文献講読 10
講読 10		
テキスト	People's Two Bodies 5	文献講読 11
講読 11		
テキスト	People's Two Bodies 6	文献講読 12
講読 12		
テキスト	People's Two Bodies 7	文献講読 13
講読 13		
テキスト	People's Two Bodies 8	文献講読 14
講読 14		

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、事前にテキストを和訳しておくことが求められます。

【テキスト (教科書)】

Sheldon S. Wolin, *Fugitive Democracy and Other Essays* (Princeton University Press, 2016)

初回にコピーを配布します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点 (100%) により成績評価をおこないます。

【学生の意見等からの気づき】

一人で読むのは困難であるが、複数人で精読すれば理解可能なテキストを選びました。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書 and/or 英英辞書を毎回持参してください。

【Outline (in English)】

Reading several essays of *Fugitive Democracy and Other Essays* (Princeton University Press, 2016) written by Sheldon S. Wolin

POL300AC (政治学 / Politics 300)

外国書講読 (英語) II

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Sheldon S. Wolin, *Fugitive Democracy and Other Essays* (Princeton University Press, 2016) に所収されている論文を読みます。

現代社会においてデモクラシーがなお有効な政治理念でありうるのかを検討するために、デモクラシーを再考し再構成しようとしているウォーリンの論文を読んでいます。

【到達目標】

英語を正確に読み、かつ、日本語の文章の作成能力を向上させることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

テキストを逐語的に輪読します。

内容の理解を深めるために、あわせて討論もおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
テキスト 講読 1	essay 1-1	文献講読 1
テキスト 講読 2	essay 1-2	文献講読 2
テキスト 講読 3	essay 1-3	文献講読 3
テキスト 講読 4	essay 1-4	文献講読 4
テキスト 講読 5	essay 1-5	文献講読 5
テキスト 講読 6	essay 1-6	文献講読 6
テキスト 講読 7	essay 1-7	文献講読 7
テキスト 講読 8	essay 2-1	文献国毒 8
テキスト 講読 9	essay 2-2	文献講読 9
テキスト 講読 10	essay 2-3	文献講読 10
テキスト 講読 11	essay 2-4	文献講読 11
テキスト 講読 12	essay 2-5	文献講読 12
テキスト 講読 13	essay 2-6	文献講読 13
テキスト 講読 14	essay 2-7	文献講読 14

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、事前にテキストを和訳しておくことが求められます。

【テキスト (教科書)】

Sheldon S. Wolin, *Fugitive Democracy and Other Essays* (Princeton University Press, 2016) から、受講者の関心にしたがって選んだ論文を読みます。

初回にコピーを配布します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点 (100%) で成績評価をおこないます。

【学生の意見等からの気づき】

初めての開講のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書 and/or 英英辞書を毎回持参してください。

【Outline (in English)】

Reading several essays of *Fugitive Democracy and Other Essays* (Princeton University Press, 2016) written by Sheldon S. Wolin

POL300AC（政治学 / Politics 300）

外国語講読（仏語）Ⅰ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やしながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

中級レベル以上の読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

文章の訳読をする他、文法の問題を解いたり、文章の音読の練習を行ったりします。課題へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	ルイーズ＝ルネ・ル デュック（1）	受動態
3	ルイーズ＝ルネ・ル デュック（2）	直接目的語と過去分詞の性数一致
4	ジョルジュ・サンド	関係代名詞（1）
5	ジョルジュ・サンド （2）	関係代名詞（2）
6	ルイーズ＝ミシェル	疑問代名詞
7	ルイーズ・ミシェル （2）	複合形の疑問代名詞
8	ユベルティエヌ・ オークレー	非人称構文
9	ユベルティエヌ・ オークレー（2）	強調構文
10	マドレーヌ・ベル ティエ	接続法
11	マドレーヌ・ベル ティエ（2）	接続法（2）
12	ココ・シャネル	比較級
13	ココ・シャネル（2）	最上級
14	総括	授業内課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の予習を行うこと。
 ・文章を音読する練習も行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『フランス史のなかの「異人」たち 2－世界を変えた女性たち』南
 コニー他著、朝日出版社、2025年（2050円＋税）

◎受講者の習熟度によって教材を変更することもあり得ますので、
 テキストを購入する前に、授業内で教員の指示を確認してください。

【参考書】

森本英夫・三野博司著『新・リュミエール フランス文法参考書』駿
 河台出版社、2008年

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

テキストを使用しない場合は、早い段階で授業内容の全体像を明確
 に示すようにします。

【学生が準備すべき機器他】

・仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも構いません。）
 ・文法の知識が定着していない人は、初級のフランス語の授業（「フ
 ランス語1」など）で使用した文法の教科書

【その他の重要事項】

・予定している授業内容・授業テキストは「授業計画」・「テキスト
 （教科書）」に記した通りですが、最終的に受講者のフランス語習熟
 度と関心も考慮して決定します。関心のある方は初回授業に参加し
 てみてください。
 ・もしテキストを使わない場合は、プリントを配布します。短編と
 評論の抜粋を交互に読みたいと思います。

【Outline (in English)】

Reading a French text. This course is designed for students
 who are improving French reading comprehension.

The goal of this course is to obtain the level B1-B2 of CEFR.

Before each class meeting, students will be expected to have
 read the relevant chapter from the text.

Your required study time is at least one hour for each class
 meeting.

Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

POL300AC（政治学 / Politics 300）

外国書講読（仏語）Ⅱ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やしながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

中級レベル以上の読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。

初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

文章の訳読をする他、文法の問題を解いたり、文章の音読の練習を行ったりします。

課題へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	ジョセフィン・ペイカー	現在分詞
3	ジョセフィン・ペイカー（2）	ジェロンディフ
4	シモーヌ・ド・ボーヴォワール	条件法
5	シモーヌ・ド・ボーヴォワール（2）	条件法（2）
6	シモーヌ・ヴェイユ	直説法単純未来
7	シモーヌ・ヴェイユ（2）	直説法前未来
8	ブリジット・バルドー	代名動詞
9	ブリジット・バルドー（2）	代名動詞（2）
10	ジューン・バーキン	中性代名詞
11	ジューン・バーキン（2）	中性代名詞（2）
12	クララ・ルティアーニ他	不定形容詞
13	クララ・ルティアーニ他（2）	不定代名詞
14	総括	授業内課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の予習を行うこと。

・文章を音読する練習も行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『フランス史のなかの「異人」たち 2－世界を変えた女性たち』南コニー他著、朝日出版社、2025年（2050円＋税）

◎春学期にこの教科書を採用した場合は、春学期の続きを読みます。秋学期からの受講者は、教員の指示を確認してから教科書を購入してください。

【参考書】

森本英夫・三野博司著『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社、2008年

【成績評価の方法と基準】

平常点100%

【学生の意見等からの気づき】

半年間の授業内容や到達目標が明確に分かるよう、テキストがあった方が良かったと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも構いません。）

・文法の知識が定着していない人は、初級のフランス語の授業（「フランス語1」など）で使った文法の教科書

【その他の重要事項】

予定している授業内容・授業テキストは「授業計画」・「テキスト（教科書）」に記した通りですが、春学期に別のテキストを使用する場合があります（外国書講読（仏語）Ⅰのシラバス参照）、両方とも変更することになります。その場合はプリントを配布し、短編と評論の抜粋を交互に読みたいと思います。

関心のある方は初回授業に参加してみてください。

【Outline (in English)】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

The goal of this course is to obtain the level B1-B2 of CEFR.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ヨーロッパ政治史 I

網谷 龍介

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視点から鳥瞰するものである（したがってミクロな歴史過程を講じるものではない）。

政治の世界は、個人の創発的行為と集合的に形成されたパターンの双方から織り成されている。しかもその「パターン」は様ではなく、時代・社会毎に異なっている。

そこで、政治現象の理解には、ある社会の事例を他の社会との比較の中におくとともに、その事例を歴史的な文脈に位置付けて理解することが重要となる。この作業をヨーロッパを題材として行うのが、この授業の内容である。

学生はこの授業を通じて、特定の国（たとえば日本）の現在の政治を理解するために必要な背景となる知識と、政治の多様性についての認識を獲得することができる。

【到達目標】

- ・ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略を理解する
- ・各社会の対応のヴァリエーションを類型化しながら理解する
- ・ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義により行う。学生は概ね2回につき1通の予習課題を提出する。予習課題を基礎として、授業時間中には理解が不足している部分の補足や、発展的内容を中心に講じる。毎回リアクションペーパーを実施し、理解度を確認しながら進めていく。

リアクションペーパーや予習課題を通じて提示された質問や意見に対しては、リプライを配布するほか、重要なものについて授業中に応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	内容の導入を行うとともに、授業の前提としてヨーロッパに成立した「国民国家」という枠組について説明する。
2	自由主義的議会政治	19世紀のヨーロッパ政治を概観し、そこにおける中心的な理念としての自由主義と、それを基礎とする議会政治の枠組みについて説明する。
3	民主主義の挑戦	20世紀に入って選挙権がすべての成人（男子）に拡大されたことで、19世紀の政治モデルがどのような困難に直面し、どのような解決が模索されたか、概観する。
4	オランダ・ベルギー(1)	オランダやベルギーの政治発展を、「柱」という観点から検討する。

5	オランダ・ベルギー(2)	オランダやベルギーの政治発展を、「多極共存型デモクラシー」という観点から検討する。
6	北欧諸国(1)	北欧諸国の政治発展を、「社会的亀裂」という観点から検討する。
7	北欧諸国(2)	北欧諸国の政治発展を、「福祉国家」という観点から検討する。
8	レビュー・セッション(1)	これまでの内容をまとめるとともに、補足的内容を講じる。
9	ドイツ(1)	ドイツの政治発展を「民主主義の崩壊」という観点から検討する。
10	ドイツ(2)	ドイツの政治発展を「連邦制」という観点から検討する。
11	イギリス(1)	イギリスの政治発展を「近世的政治制度の漸進的拡張」という観点から検討する。
12	イギリス(2)	イギリスの政治発展を「戦後コンセンサス」と「サッチャリズム」という観点から検討する。
13	レビュー・セッション(2)	これまでの内容をまとめるとともに、補足的内容を講じる。
14	全体のまとめ	授業全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習課題提出回については、テキストの事前に指定された部分を読み、要約やコメントを提出する。授業終了後は内容を復習しコメントペーパーや小テストに備える。事前学習・復習を合わせて授業時間外学習は各回概ね4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

網谷龍介・伊藤武・成廣孝『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第2版』ナカニシヤ出版、2014年。

【参考書】

マーク・マゾワー『暗黒の大陸』未来社、2015年。
 篠原一『ヨーロッパの政治』東京大学出版会、1986年。
 馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック 第2版』東京大学出版会、2010年。
 中山洋平・水島治郎『改訂版 ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会、2024年。

【成績評価の方法と基準】

授業前提出課題34%：A4で1ページ程度の予習課題を提出。テキストの指定部分について内容のまとめとコメント・疑問を記載する。内容を自分で理解しようとしているか、疑問やコメントが適切に記載されているかを評価する。
 授業内課題26%：主にリアクション・ペーパー。授業内容についての理解度を確認する。
 学期末試験40%：全体としての講義の理解度と到達目標の達成度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course gives an overview of European political history from the perspective of "Political Development" leading to democratic regimes. "Politics" of a given society in a given era is moulded by the collective patterns of political behaviour and creative and path-breaking action of a person. We focus on those patterns, which has been forged historically and takes different forms in various societies. For that reason, it is important to take comparative and historical approach to understand "politics" in a given setting. Therefore, the course is concentrated on the European cases but has further implication to understand democratization pathways.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

ヨーロッパ政治史Ⅱ

網谷 龍介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視点から鳥瞰するものである（したがってミクロな歴史過程を講じるものではない）。

政治の世界は、個人の創発的行為と集合的に形成されたパターンの双方から織り成されている。しかもその「パターン」は一樣ではなく、時代・社会毎に異なっている。

そこで、政治現象の理解には、ある社会の事例を他の社会との比較の中におくとともに、その事例を歴史的な文脈に位置付けて理解することが重要となる。この作業をヨーロッパを題材として行うのが、この授業の内容である。

学生はこの授業を通じて、特定の国（たとえば日本）の現在の政治を理解するために必要な背景となる知識と、政治の多様性についての認識を獲得することができる。

【到達目標】

- ・ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略を理解する
- ・各社会の対応のヴァリエーションを類型化しながら理解する
- ・ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義により行う。学生は概ね2回につき1通の予習課題を提出する。予習課題を基礎として、授業時間中には理解が不足している部分の補足や、発展的内容を中心に講じる。毎回リアクションペーパーを実施し、理解度を確認しながら進めていく。

リアクションペーパーや予習課題を通じて提示された質問や意見に対しては、リプライを配布するほか、重要なものについて授業中に応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	内容の導入を行う。
2	戦後ヨーロッパの政治変動	第二次大戦後のヨーロッパ政治と、そこにおける政治変動の「波」を概観する。
3	デモクラシーの変容から融解へ？	戦後ヨーロッパ型のデモクラシーがどのように変容してきたかを概観する。
4	フランス(1)	フランスの政治発展を、「議会主権体制」という観点から検討する。
5	フランス(2)	フランスの政治発展を、「半大統領制」という観点から検討する。
6	イタリア(1)	イタリアの政治発展を、「自由主義と政治的クライエントリズム」という観点から検討する。
7	イタリア(2)	イタリアの政治発展を、「政権選択型デモクラシーの創出」という観点から検討する。
8	レビュー・セッション(1)	これまでの内容をまとめるとともに、補足的内容を講じる。

9	南欧諸国(1)	スペイン・ポルトガルの政治発展を「権威主義体制」という観点から検討する。
10	南欧諸国(2)	スペイン・ポルトガルの政治発展を「民主制への移行」という観点から検討する。
11	中欧諸国(1)	中欧諸国の政治発展を「社会主義体制からの体制変動」という観点から検討する。
12	中欧諸国(2)	中欧諸国の政治発展を「民主制の定着」という観点から検討する。
13	レビュー・セッション(2)	これまでの内容をまとめるとともに、補足的内容を講じる。
14	全体のまとめ	授業全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習課題提出回については、テキストの事前に指定された部分を読み、要約やコメントを提出する。授業終了後は内容を復習しコメントペーパーや小テストに備える。事前学習・復習を合わせて授業時間外学習は各回概ね4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

網谷龍介・伊藤武・成廣孝『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第2版』ナカニシヤ出版、2014年。

【参考書】

マーク・マゾワー『暗黒の大陸』未来社、2015年。

篠原一『ヨーロッパの政治』東京大学出版会、1986年。

馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック 第2版』東京大学出版会、2010年。

中山洋平・水島治郎『改訂版 ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会、2024年。

【成績評価の方法と基準】

授業前提出課題34%：A4で1ページ程度の予習課題を提出。テキストの指定部分について内容のまとめとコメント・疑問を記載する。内容を自分で理解しようとしているか、疑問やコメントが適切に記載されているかを評価する。

授業内課題26%：小テスト、リアクション・ペーパーなどを実施する。授業内容についての理解度を確認する。

学期末試験40%：全体としての講義の理解度と到達目標の達成度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course gives an overview of European political history from the perspective of "Political Development" leading to democratic regimes.

"Politics" of a given society in a given era is moulded by the collective patterns of political behaviour and creative and path-breaking action of a person. We focus on those patterns, which has been forged historically and takes different forms in various societies. For that reason, it is important to take comparative and historical approach to understand "politics" in a given setting. Therefore, the course is concentrated on the European cases but has further implication to understand democratization pathways.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

日本の政治と社会 I

塚本 英樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

日本近現代史を通じて、政治と社会の関係を歴史的視点から理解することを目指す。現在社会も過去の積み重ねによって成り立っている以上、それを理解するうえで歴史的視点は有効なものである。この授業では内政と外交の相互関係を意識しつつ、政治史・外交史的視点から日本近現代史の概要を示したい。

【授業の目的・意義】

歴史的視点に基づき、現代社会の成り立ちを理解し、相対化する視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

日本近現代史を通じて政治と社会の関係を歴史的に理解し、説明することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態 講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何故、歴史を学ぶのか？	ガイダンス
第2回	近世から近代へ（幕末・維新）	身分制社会が解体し、近代国家へと移行する過程について述べる
第3回	近代日本の国内政治①	初期議会期の政治過程を大日本帝国憲法と議会の関係を中心に講義する。
第4回	近代日本の対外関係①	近代日本の対外関係の変容を中国を中心とした朝貢体制から西洋国際法体制への移行という視点から講義する。
第5回	近代日本と国内政治②	近代日本における政治過程を政党政治の成立過程という視点から講義する。
第6回	近代日本の対外関係②	日清・日露戦争、第一次世界大戦に至る対外膨張を講義する。
第7回	近代日本の国内政治③	近代日本の政治過程を政党政治の確立と崩壊という視点から講義する。
第8回	近代日本の対外関係③	第一次世界大戦の惨禍を受けて成立した国際協調体制の意義とその崩壊について講義する。
第9回	近代日本の国内政治④	政党政治崩壊後の国内政治について講義する。
第10回	近現代日本と選挙	近代日本における選挙を制度的変化を意識しつつ解説する
第11回	近代日本の対外関係④	国際協調体制離脱後の対外関係について講義する
第12回	対米開戦と終戦	対米開戦及び終戦への政治過程について講義する。

第13回 戦後史

戦後の政治過程・対外関係について講義する。

第14回 現代史及び総括

高度経済成以降の政治過程及び対外関係について講義したうえで、講義全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するプリント、提示した参考文献の該当ページを読んだうえで、次の授業に臨んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業でプリントを配布する。

【参考書】

北岡伸一『日本政治史－外交と権力 増補版』（有斐閣,2017年）
 佐々木雄一『近代日本外交史 幕末の開国から太平洋戦争まで』（中公新書,2022年）
 季武嘉也『日本近現代史〔新訂〕：民意と政党』（放送大学教育振興会,2021年）
 村井良太『「憲政常道」の近代日本：戦前の民主化を問う』（NHK出版,2025年）

【成績評価の方法と基準】

リサーチペーパーの提出による平常点20%、学期末提出のレポート80%。

【学生の意見等からの気づき】

リサーチペーパーに記載されたコメントに対して、授業冒頭に適宜対応する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through modern and present Japanese history, the course aims and acquires aim to understand the relationship between politics and society from a historical perspective. Since present-day society is also built on the accumulation of the past, a historical perspective is useful for understanding it. In this class, we will provide an overview of modern Japanese history from the perspectives of political history and diplomatic history, while being conscious of the interrelationship between domestic and foreign affairs.

【Learning Objectives】

Based on a historical perspective, the course aims to understand the formation of contemporary society and acquire a perspective that allows us to view it in relative terms.

LAW300AB (法学 / law 300)

人権と企業社会 I

土屋 仁美

授業形式：講義 | 開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代資本主義社会の経済活動は、企業によって支えられ、企業の活動は、社会全体に大きな影響力を与えています。現代社会における企業活動には、営利を追求するだけでなく、社会の一員として、労働、環境、消費等に関わる社会的な問題を解決するための行動が求められています。そこで、現代社会が抱える問題に企業が対応する意義や必要性について理解を深めつつ、人権保障の観点から問題を考察する力を身に付けます。「企業・経営と法コース」のコース配当科目③憲法科目に位置づけられます。

【到達目標】

- ① 企業活動における関係当事者の権利を理解する。
- ② 人権保障の観点から、企業活動に求められる対応や取組を理解する。
- ③ 法的な観点から問題を把握し、考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

企業活動における利害関係者の権利を理解したうえで、国内外の具体的な事例について、関連する判例や学説をもとに、講義形式で授業を進めていきます。

授業内で取り組んだ課題等(テスト／レポート)については、学習支援システム等を用いてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回（9月11日）	企業社会の形成と企業の社会的責任	日本型企業社会の特徴と、社会の一員としての企業の責任について学びます。
第2回（9月11日）	企業活動による人権保障の重要性	企業活動における人権保障の重要性について、人権の私人間効力の観点から学びます。
第3回（9月11日）	ステークホルダーの権利と法規範	企業活動に関わる利害関係者として、労働者、消費者、地域住民等の権利について学びます。
第4回（9月11日）	国際社会におけるビジネスと人権	国際法の中でも経済分野に焦点を当て、自由貿易体制の維持と人権保障について学びます。
第5回（9月11日）	環境保護に対する国内外の取組	気候変動や公害の輸出の問題について、環境権の観点から企業活動における環境保護の必要性について学びます。
第6回（9月12日）	長時間労働の是正と過労死等の防止	長時間労働の是正と過労死等の防止の観点から、労働者の権利保障について学びます。
第7回（9月12日）	雇用分野における女性の活躍の推進	雇用分野における男女格差の是正について、ジェンダー平等やポジティブアクションの観点から学びます。
第8回（9月12日）	消費者問題の特徴と消費者の権利	消費者被害の現状を把握し、消費者契約の特徴について、消費者の権利の観点から学びます。

第9回（9月12日） 食品の安全性の確保

消費者の生命権・健康権の観点から、商品・サービスにおける安全性確保の必要性について学びます。

第10回（9月12日） 営利的表現としての広告・表示

営利的表現としての広告・表示について、事業者の表現の自由と消費者の知る権利の観点から学びます。

第11回（9月13日） AIネットワーク社会における自己決定

プロファイリングに基づくマーケティングの問題点について、消費者の自己決定の観点から学びます。

第12回（9月13日） ビッグデータの利活用と個人情報の保護

プライバシー権の観点から、企業が保有するビッグデータの利活用における個人情報保護について学びます。

第13回（9月13日） 巨大IT企業と競争市場の維持

企業が活動する市場に焦点を当て、営業の自由の観点から、巨大IT企業に対する規制について学びます。

第14回（9月13日） 試験（レポート）・まとめと解説

授業内容についての試験（レポート）を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。
講義時にレジュメ・資料を配布します。
講義の際には、六法を持参してください。

【参考書】

元山 健・建石真公子編『現代日本の憲法〔第2版〕』（法律文化社、2016年）

『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅰ 第7版』（有斐閣、2019年）

『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅱ 第7版』（有斐閣、2019年）

『（別冊ジュリスト）労働判例百選 第10版』（有斐閣、2022年）

『（別冊ジュリスト）環境法判例百選 第3版』（有斐閣、2018年）

『（別冊ジュリスト）消費者法判例百選 第2版』（有斐閣、2020年）

【成績評価の方法と基準】

各講義の小テスト(40%)、レポート(60%)により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が能動的に参加できるように、受講者自身が問題と向き合い考える時間(小テスト・小レポート)を設けます。受講者数によって、グループディスカッション等を行う場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

In Modern capitalism, business activities have great influence on society. As a member of society, business enterprises need to take actions with social problems related to labor, environment, and consumption, etc. The aim of this course is to help students learn about the significance of business activities to protect the human rights.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

The overall grade for the class will be determined based on the following.

short tests(each class): 40%, short reports(3 times): 60%

POL200AC (政治学 / Politics 200)

アメリカ政治史 I

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国を理解するための前提について検討します。

【到達目標】

アメリカ合衆国を理解するのに必要な視点を構築することをめざします。

アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると思います。

また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。

The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S. has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には、教室での講義形式の授業をおこないます。

授業にかんする情報も、すべて、HOPPIIにアップします。

受講者は、毎回、質問・コメントなどがあれば、HOPPIIにアップしてください。

（すぐれたリアクションペーパーは、成績評価の際に加味します）

In-person lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「アメリカ」と「合衆国」について考える
第2回	アメリカ史における「時間」1	「空間」という視点からアメリカを考える1
第3回	アメリカ史における「時間」2	「空間」という視点からアメリカを考える2
第4回	アメリカ史における「時間」3	「空間」という視点からアメリカを考える3
第5回	アメリカ史における「空間」1	「空間」という視点からアメリカを考える1
第6回	アメリカ史における「空間」2	「空間」という視点からアメリカを考える2
第7回	アメリカ史における「空間」3	「空間」という視点からアメリカを考える3
第8回	アメリカ史における「空間」4	「空間」という視点からアメリカを考える4
第9回	アメリカ史における「人間」1	「人間」という視点からアメリカを考える1
第10回	アメリカ史における「人間」2	「人間」という視点からアメリカを考える2
第11回	アメリカ史における「人間」3	「人間」という視点からアメリカを考える3
第12回	アメリカ史における「人間」4	「人間」という視点からアメリカを考える4

第13回	アメリカニズム	アメリカのナショナリズムについて考える
第14回	「文脈」の理解	アメリカ現代社会をアメリカ史の「文脈」において捉える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。

授業以外の学習時間は各回4時間が標準です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

齋藤真『アメリカとはなにか』（平凡社、1995）（旧版、『アメリカ史の文脈』（岩波書店）でも可）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験(100%)

Grading will be decided on the term-end examination only.

なお、HOPPIIへのコメントが優れている場合には、期末試験の点数に加点して成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【Outline (in English)】

This course aims to analyze several hallmarks of politics and society of U.S.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

アメリカ政治史Ⅱ**中野 勝郎**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の政治を歴史的に考察します。
 本学は、第二次大戦以降現代までのアメリカ政治史がテーマです。

【到達目標】

リベラルな政治体制・政治秩序の確立・発展・崩壊という視点からアメリカ現代史を考察します。

The goal of this course is to elucidate a history of the liberal order since 1945.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には、教室での講義形式の授業をおこないます。

授業にかんする情報も、すべて、HOPPIIにアップします。

受講者は、毎回、質問・コメントなどがあれば、HOPPIIにアップしてください。

（すぐれたリアクションペーパーは、成績評価の際に加味します）

In-person lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リベラルな体制の胎動1	冷戦の発生
第2回	リベラルな体制の胎動2	ニューディール・コンセンサスの確立
第3回	リベラルな体制への挑戦1	人種問題・対抗文化・反戦運動1
第4回	リベラルな体制への挑戦2	人種問題・対抗文化・反戦運動2
第5回	リベラルな体制の崩壊	「偉大な社会」計画とベトナム戦争の遺産
第6回	レーガン保守主義1	さまざまな保守主義
第7回	レーガン保守主義2	レーガン保守革命
第8回	冷戦の終結	冷戦の終結と新世界秩序の模索
第9回	民主党の変容	「第三の道」の模索
第10回	ネオコンの時代	ブッシュ・ジュニア政権時代の内政と外交
第11回	オバマ政権の誕生	「中道」の模索と分断化の進行
第12回	トランプの時代	トランプ政権誕生の背景と権威主義体制化
第13回	バイデン政権と民主党の分裂	リベラルの巻き返し？
第14回	トランプ化した共和党	わがわれはなにを見ているのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。

授業以外の学習時間は各回4時間が標準です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

斎藤眞・古矢旬『アメリカ政治外交史[第二版]』（東京大学出版会、2012年）

【参考書】

久保文明・岡山裕『アメリカ政治史講義』（東京大学出版会、2022年）、その他の参考文献については、授業中に適宜紹介します。

資料は、コピーして配布するかHOPPIIにアップします。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験(100%)

Grading will be decided on the term-end examination only.

なお、HOPPIIへのコメントが優れている場合には、期末試験の点数に加点して成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】

この授業は、アメリカ政治史Ⅰの続編です。できるだけ、両方の科目を履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

American Political History from 1945

POL200AC (政治学 / Politics 200)

協同組合論

杉崎 和久、上山 紀子、小林 幸治

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目である。

一人ひとりが尊重され、生き活きと暮らし続ける社会を実現していくため、協同組合やNPO等の非営利市民事業による様々な取り組みが行なわれています。グローバリズムが加速する中で、貧困根絶や仕事の創出等に関する協同組合の貢献は国際的に評価されており、国連は2012年を「国際協同組合年」とし、2013年に社会的連帯経済タスクフォースを立ち上げ、さらに2025年を2回目の「国際協同組合年」としました。

一方、日本では人口が減少し、超高齢社会に突入し、働く者の数が減少する中、経済ばかりでなく社会システムの停滞・行き詰まりが表面化していますが、こうした問題に市場や行政だけでは十分に対応できない状況下においても、諸外国のように生協等の協同組合による実践の価値や可能性が広く認識されているとはいえません。このようなかで2020年12月労働者協同組合法が成立しました。協同組合運動は新しい段階を迎えています。なぜ今、「非営利・協同」の運動と事業に期待がよせられているのか。「もう一つの世界は可能かー協同組合と社会的連帯経済」この点を本講座の中心テーマとし、協同組合あるいは非営利市民事業の歴史的社会的背景、現状、そして今後の展望や可能性について、第一線の学者および実践者による講義を行います。

【到達目標】

- ① 世界における協同組合および社会的企業の歴史・沿革を踏まえ、日本における活動状況や今日の新たな意義や課題について知ること。
- ② 非営利市民事業及び協同組合が展開する事業・活動が、市民生活に及ぼす役割について知ること。
- ③ 協同組合をはじめ非営利市民事業の今後の展望や可能性等について考えることなどを通じて、生活者・市民が主体者である新しい公共政策の理論と実践について考える基礎力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は原則「対面」で行う予定であるが、第1回、第2回はオンデマンド教材での実施を予定している、また、講師等の都合によりオンデマンド教材などを併用することがある。

この講座では、①世界の協同組合をはじめとした非営利・協同セクターが切り開いてきた歴史を学ぶとともに、②生協を中心にした日本の協同組合やNPO等の非営利市民事業の活動を広く検証し、③協同組合やNPO等を中心とする非営利・協同セクターが今日の日本の地域の課題解決にどのような可能性を持っているか、④生活者・市民が主体者である公共政策をどのように実践し、担っていくのか、など協同組合・非営利市民事業の現代的意義について、テーマ毎にゲストスピーカーによる実践報告を交えながら検討する。授業中に授業内容に関するコメントを提出する。なお、小レポート等から提出された質問等について、学習支援システムを通じて、適宜回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及び協同組合の動向	協同組合の歴史的経緯、国連・諸外国等の動向、国内の協同組合や生活クラブ及び運動グループによる運動・取組み（FEC-W、ローカルSDGs、など）、社会的連帯経済や国際協同組合年の国内での動向などの概要を紹介し、次回以降の講座の道しるべとします。
第2回	非営利活動と協同組合	協同組合法制の概要、NPO法（組織）をはじめとする非営利組織や労働者協同組合の制度や組織、諸外国との違いなどを中心にして「協同」の理念や政策・制度の動向などを紹介します。
第3回	生活クラブの消費材（づくり）と共同購入	生活クラブの運動と事業の根幹をなす「F（フード）自給への挑戦」の取組みの背景（食を取り巻く課題）と現在を、組合員参加のもとにする「消費材づくり」と「共同購入」の仕組みなどを中心に紹介します。
第4回	地球と身体にやさしい食～私の食が世界・地球をつくる～	日本の協同組合が日本の食文化を守り伝えていくことに果たした役割は大きく、日本の風土に沿った食のあり方や添加物などの問題をとおした生活提案やまちづくりの取組みなどを紹介します。
第5回	協同（共同）でつなぐ都市農業・福祉・教育	生活クラブは、都市農業の保全、育成、強化を柱の一つとしてきました。2016年度から開始しました、「生活クラブ農園・あきるの野」の実践の意義や成果、都市農業が抱える課題などを紹介します。
第6回	協同でつくるエネルギー～エネルギー共同購入の試み	気候危機が地球規模での課題となっていますが、日本の施策は大幅に遅れています。「再生可能エネルギー」の開発と供給の実践、発電施設地域との交流と社会貢献など、生活クラブのエネルギー自給の取組みや課題、今後の展望などを紹介します。
第7回	協同（共同）ですすめる地域福祉	協同組合型の市民事業として、地域福祉の推進と地域社会づくりをめざす、ACTの活動を中心に、誰もが尊厳をもって、住み慣れた地域で暮らしつづけるための、課題を共有します。また、市民版地域福祉計画を作る中で、地域の仕組みの確立をめざす取り組みを伝えます。
第8回	協同組合と子育て支援	次の時代を担う人を育む子育て支援事業は、サステナブルな社会を目指す取組みの一つです。「子育て・子育て」を社会がどのように支えるのかなど、生活クラブ保育園ほむと子育て広場ぶらんこの実践をとおして紹介します。
第9回	協同（共同）でつくる地域の場づくり	「個人化」時代の中、生活クラブ及び運動グループが取組む地域活動として、子どもを中心にした多世代の「居場所づくり」と福祉事業・活動とのつながり、促進するための助成のしくみ、実践事例などについて紹介します。

第10回	ワーカーズ・コレクティブと労働者協同組合「協同労働」の実践	地域の社会的なニーズに対応して、市民相互の助け合い・支えあいを基本にした様々な事業活動を展開するワーカーズ・コレクティブとは何か、またその実践事例を紹介します。
第11回	「協同労働」とコミュニティワーク	人々が大事にされる働き方（ディーセントワーク）とデポワーカーズなどによるコミュニティワークの実践の社会的な意義を紹介し、地域で働く地域（まち）づくりの担い手の取り組み、共同・協同の仕組みを紹介します。
第12回	市民・組合員のお金の使い道・使い方	「草の根市民基金・ぐらん」など、資金助成による市民活動への支援や資金循環の流れを紹介します。
第13回	協同の力で自治体政策をつくり・変える	運動グループ政策担当、政策委員会、東京政策推進会議などの取り組みから、地域づくりに必要な自治体政策づくりと実現に向けた活動（政策提案運動）を紹介します。
第14回	協同組合で働く	講座全体の振り返りを通じて、非営利・協同組合（セクター）の今日的なミッションと意義について理解を深めます。また、そのミッションへの取り組みとして、生活クラブが多様な働き方を推し進める可能性を紹介しまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予定されたテーマについて自分なりに調べてみてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。配布資料は、授業前日までに学習支援システムにアップロードしますので、各自対応してください。

【参考書】

適宜、案内します。

【成績評価の方法と基準】

・評価は、「①授業ごとに出席する課題（14回）」の合計（84%）、「②レポート課題」（16%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②が未提出である場合には成績評価をしない（E評価とする）。

・①は各回講義の最後に講義内容に関するコメントをリアクションペーパーに記入し提出する。

・なお、小レポートの評価は下記とする。

A：授業内容を踏まえて、独自の視点からの意見や考え方が記述されている。

B：適切な分量（リアクションペーパーの7割以上）を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。

C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。

D：未記入

なお、授業時間外に提出した場合には理由の如何に関係なく、受理しない。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問へは、なるべく早く対応したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講師によって、パワーポイント、映像を活用します。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This lecture will learn about the history, current situation, future prospects and possibilities of cooperatives or nonprofit projects.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Learning about the status of activities in Japan and its significance and issues today, based on history of cooperatives and social enterprises around the world.

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

C.Acquiring the basic ability to think about the theory and practice of new public policy in which consumers and citizens are the main actors.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on reports at each class.

LAW300AB（法学 / law 300）

企業規制の法律学 I

青柳 由香

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、公益事業などを対象とする事業規制（事業法等）について、その規制のあり方や意義等を扱う。電気通信、運輸、エネルギー事業等の公益事業は、国民にとってきわめて身近であり、日常的に利用し、また料金の支払いを行っているものである。公益サービス等を通じて国民生活を支える各種事業が、どのように規律されているかを理解することにより、市場経済にありながらも、完全な自由競争に委ねられず、国家の介入を受ける形で事業が実施されていること、それにより安定的なサービス供給等が可能となっていることについて理解を深める。（公益事業以外の産業であっても、事業に対する規制を受ける事業分野を取り上げることがある。）個別の事業法として、本年度は、特に航空法と放送法を取り上げる。なお、いわゆる事業法は講義上の経済法に含まれる重要な法制である。本講義において事業法を学ぶことにより、経済法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲとあわせて広く経済法に関する知見を得ることが可能となる。

【到達目標】

以下の理解を得ることを目標とする。

- （１）事業法の運用と機能の外觀
- （２）市場経済における規制の役割

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。論点ごとに可能であれば事例を扱うことによって理解を深める。事例の検討等において学生の挙手や発言を求めることがある。積極的な参加を歓迎する。教場での対面授業を原則としつつ、数回オンライン授業を実施する可能性を予定している。オンライン授業を実施する場合、日程や実施方法については授業とHoppii等で周知する。いずれの授業形式においても、受講者は各授業の受講後にリアクションペーパーを提出されたい。各回毎に提出される受講生からのリアクションペーパーで寄せられた重要な質問等に対して回答することによってフィードバックを図る。積極的に質問や意見等を提示されたい。複数回の課題を予定している。レジュメと参考資料を適宜配布する。またゲストスピーカーを迎えて実施する対面授業を予定している。講義計画の記載の都合上、最終回に記載しているが、講師とのスケジュール調整により授業期間のどこかで実施する。実施予定日は授業等を通じて周知する。講師の都合により、オンラインリアルタイムへの変更、開催の取りやめ（その場合には通常の授業を実施する）の可能性がある。また、成績評価の対象となる課題・小テストを何回か課すことを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	市場経済における規制の役割
第2回	歴史的沿革	戦時経済統制法から現代までの規制の沿革
第3回	法制度における位置づけ	事業法の法的性質
第4回	規制の策定過程	政策過程、形式
第5回	事業法	事業法総論
第6回	規制類型（１）	参入・退出規制

第7回	規制類型（２）	料金規制
第8回	規制類型（３）	その他のタイプの規制
第9回	料金規制	料金規制の概要、問題点
第10回	事業別分野の法制度	航空法 1
第11回	事業別分野の法制度	航空法 2
第12回	事業別分野の法制度	放送法 1
第13回	事業別分野の法制度	放送法 2、その他
第14回	企業規制と実務	企業規制に関する実務の状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に授業後の復習をされたい。また、公益事業等に関する新聞記事などに触れてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜資料等を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題70%、平常点30%。
レポート課題は複数回課す。授業ではリアクションペーパーの提出を求め、平常点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業のありかたに対しては、おおむね好評だった。継続しつつ、資料や事案の参照などについて、より理解を促進するような内容・形式にバージョンアップを図りたい。また、具体的な事例や近時の動向等、受講生の関心に沿った授業の実施を心がけたい。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This lecture will cover business regulations especially for public utilities. Utilities, such as telecommunications, transportation, and energy, are very familiar to people's life. We use them on a daily basis, and pay for them. We will learn how the various businesses are regulated, and why businesses are not entrusted to complete free competition and receive state intervention, despite being in a market economy. Also, business

sectors subject to regulations besides so called utilities may be covered in the lecture.

Business regulations are an important legal system included in the economic law. Through this lecture, attendees will gain broader understanding of so called economic law along with other courses titled economic law I, II, III.

(2) Learning Objectives

The course objective is to gain an understanding of the following;

(a) The appearance of the operation and function of business law

(b) The role of regulation in a market economy

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students are encouraged to review the cases discussed in class after class to deepen their understanding. Also, it is encouraged to keep abreast of the latest trends regarding the application of antitrust laws through newspapers and other media. The standard preparation and review time for this class is 4 hours.

(4) Grading Criteria / Policy

70% for the assignments and 30% for participation and others. Several report assignments will be given. Submission of the reaction papers will be required in class and they are subject to class participation grades (30%).

POL300AC（政治学 / Politics 300）

政治学特殊講義 I（日韓比較政治思想）**崔 先鎬**授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目です。この講義においては、近代と日韓の思想を通して、両国における政治・社会・文化についての思考能力、並びに両国関係をめぐる諸問題に対する関心の向上を目指します。

近代という時代を克服して、戦後の日韓と世界で指導的役割を発揮しながら活躍した知識人の思想を基に、現在を構成する一員としての我々が備えるべき問題意識を歩むべき方向性について真剣に考えて行きたいです。

【到達目標】

一般論としての政治学分野に加えて、最も重要な近隣諸国である日韓関係についての理解を高めたい学生のために、両国の歴史・文化・社会をめぐる諸問題について考察していく予定です。

社会科学としての政治思想分野、とくに日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

政治学的一般論について理論書を通して学習しつつ、歴史的な取り組みから現代の時事問題に至るまでの内容を包括して説明を行います。日韓をめぐるいろいろな問題意識を有する学生を包含し、文書購読を行います。また、理論的文献の他に、新聞、雑誌、並びに、ドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行います。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	（前期） オリエンテーション	講義全般についての紹介
第二回	近現代の日韓における状況について	関連内容の紹介・説明
第三回	日韓関係をめぐる市民社会の論理と心理について①	関連内容の紹介・説明
第四回	日韓関係をめぐる市民社会の論理と心理について②	関連内容の紹介・説明
第五回	日韓における人間と道徳認識について①	関連内容の紹介・説明
第六回	日韓における人間と道徳認識について②	関連内容の紹介・説明
第七回	日韓におけるナショナリズムの諸問題について①	関連内容の紹介・説明
第八回	日韓におけるナショナリズムの諸問題について②	関連内容の紹介・説明

第九回	歴史的視座から見た日韓における西欧認識について①	関連内容の紹介・説明
第十回	歴史的視座から見た日韓における西欧認識について②	関連内容の紹介・説明
第十一回	日韓の学問世界における普遍的ものの追求について①	関連内容の紹介・説明
第十二回	日韓の学問世界における普遍的ものの追求について②	関連内容の紹介・説明
第十三回	現代の日韓における態度決定の諸問題について①	関連内容の紹介・説明
第十四回	現代の日韓における態度決定の諸問題について②	関連内容の紹介・説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。授業中はノートを取る。授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対しないこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』東京、慶應義塾大学出版会、2020年
（必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像を使用いたします。その他、必要な場合はコピーを配布いたします。）
三谷太一郎『日本の近代とは何であったかー問題史的考察』岩波新書1650、東京、岩波書店、2017年

【参考書】

木宮正史 他『戦後日韓関係史』東京、有斐閣アルマ、2017年
南原繁『政治哲学序説』、岩波書店、1988年
白樂濤『歴史と文化』、延世大学出版部、1995年
中野勝郎・杉田敦・崔先鎬ほか『市民社会と立憲主義』、法政大学出版局、2012年
中野勝郎・崔先鎬ほか『境界線の法と政治』、法政大学出版局、2016年

【成績評価の方法と基準】

受講態度(=手書きのレポートなどの提出物、40%) + 試験(60%)
（上記の何れも学習支援システムで対応する場合がある。）

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係における持続可能な信頼の構築

【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
（授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。）
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

By this subject about the modern history in Japanese & Korean politics, society, the culture study it. In addition, by this lecture, to the improve interest about various the relationship around Japanese & Korean's modern age. Particularly, to consider education system with the Elite between these two countries.

POL300AC（政治学 / Politics 300）

政治学特殊講義Ⅱ（日韓比較政治思想）**崔 先鎬**授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目です。この講義においては、近代と日韓の思想を通して、両国における政治・社会・文化についての思考能力、並びに両国関係をめぐる諸問題に対する関心の向上を目指します。

近代という時代を克服して、戦後の日韓と世界で指導的役割を發揮しながら活躍した知識人の思想を基に、現在を構成する一員としての我々が備えるべき問題意識を歩むべき方向性について真剣に考えて行きたいです。

【到達目標】

一般論としての政治学分野に加えて、最も重要な近隣諸国である日韓関係についての理解を高めたい学生のために、両国の歴史・文化・社会をめぐる諸問題について考察していく予定です。

社会科学としての政治思想分野、とくに日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

政治学的一般論について理論書を通して学習しつつ、歴史的な取り組みから現代の時事問題に至るまでの内容を包括して説明を行います。日韓をめぐるいろいろな問題意識を有する学生を包含し、文書購読を行います。また、理論的文献の他に、新聞、雑誌、並びに、ドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行います。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	（後期） オリエンテーション	講義全般についての紹介
第二回	日韓における文化的 共通認識と歴史的価値について①	関連内容の紹介・説明
第三回	日韓における文化的 共通認識と歴史的価値について②	関連内容の紹介・説明
第四回	日韓における文化的 共通認識と歴史的価値について③	関連内容の紹介・説明
第五回	日韓におけるリベラ リズムとデモクラ シーについて①	関連内容の紹介・説明
第六回	日韓におけるリベラ リズムとデモクラ シーについて②	関連内容の紹介・説明
第七回	日韓におけるリベラ リズムとデモクラ シーについて③	関連内容の紹介・説明
第八回	日韓における市民社 会について①	関連内容の紹介・説明

第九回	日韓における市民社 会について②	関連内容の紹介・説明
第十回	日韓における市民社 会について③	関連内容の紹介・説明
第十一回	日韓における文化多 元主義について①	関連内容の紹介・説明
第十二回	日韓における文化多 元主義について②	関連内容の紹介・説明
第十三回	国際関係としての日 韓について	関連内容の紹介・説明
第十四回	日韓友好関係の意義 と可能性について	関連内容の紹介・説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。授業中はノートを取る。授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対しないこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』東京、慶應義塾大学出版会、2020年
（必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像を使用いたします。その他、必要な場合はコピーを配布いたします。）
三谷太一郎『日本の近代とは何であったか―問題史的考察』岩波新書1650、東京、岩波書店、2017年

【参考書】

木宮正史 他『戦後日韓関係史』東京、有斐閣アルマ、2017年
南原繁『政治哲学序説』、岩波書店、1988年
白樂濬『歴史と文化』、延世大学出版部、1995年
中野勝郎・杉田敦・崔先鎬ほか『市民社会と立憲主義』、法政大学出版局、2012年
中野勝郎・崔先鎬ほか『境界線の法と政治』、法政大学出版局、2016年

【成績評価の方法と基準】

受講態度（＝手書きのレポートなどの提出物、40%）＋試験（60%）
（上記の何れも学習支援システムで対応する場合がある。）

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係における持続可能な信頼の構築

【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
（授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。）
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

By this subject about the modern history in Japanese & Korean politics, society, the culture study it. In addition, by this lecture, to the improve interest about various the relationship around Japanese & Korean's modern age. Particularly, to consider education system with the Elite between these two countries.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義Ⅰ (近代日本における〈道徳〉と〈政治〉)

金子 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の概要：この授業では、「政治」という営みを広く人と人とのつながりと捉えて、政治や倫理について20世紀の思想家たちがどのように捉えてきたのか、そして、彼らが21世紀にどのような問題を投げかけているのか、を明らかにすることを試みる。代表的な思想家として丸山眞男とハンナ・アーレントを取り上げ、ある点で共通しながらある点で対照的な両者の思想を比較して論じる。

授業の目的：授業で取り上げる諸著作の内容を手がかりに、現代における政治の意味について自分なりの考えを組み立てることを目標とする。

【到達目標】

- ・現代社会の諸問題についての知識を獲得する。
- ・現代社会の諸問題について自分なりの考えを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に講義形式で行います。毎回のプリントに加えて、講義に該当する丸山やアーレントの諸著作を示唆しますのでそのうちのどれかに目を通しておいください。
- ・リアクションペーパーのうち興味深いものは授業内で紹介し、考察を深める材料とします。
- ・レポート課題はやや早めに提出し、最終日に講評を行う予定です (受講者数によっては全員のレポートについて言及できないことがあります)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業の概要、進行方法、成績評価などを説明する。
第2回	かれらの時代／われらの時代	丸山やアーレントが生きた時代の諸問題を確認し、それが現在にどのような意味を持つかを考える。
第3回	思索の原点	丸山の戦前の江戸思想史研究、アーレントのアウグスティヌス研究等を紹介する。
第4回	「全体主義」と「超国家主義」①	アーレントが論じた「全体主義」について考える。
第5回	「全体主義」と「超国家主義」②	丸山眞男が論じた「超国家主義」について考える。
第6回	「革命」と「開国」	アーレントや丸山が時代の変化をどのようにとらえたのかについて考える。
第7回	「活動」と「する」①	アーレントが『人間の条件』で論じた政治のあり方について考える。
第8回	「活動」と「する」②	丸山が『日本の思想』で論じた政治のあり方について考える。
第9回	「観想」と「古層」①	アーレントが西洋哲学の伝統に見出した思考様式について考える。

- 第10回 「観想」と「古層」② 丸山が日本人の根底にあるとした思考様式について考える。
- 第11回 「パーリア」と「異端」 アーレントと丸山がマイノリティについてどのように考えたかを検討する。
- 第12回 「複数性」と「正統」 両者の思想におけるコミュニケーションと秩序形成のあり方について考える。
- 第13回 「自由」 両者が求めた自由とは何かについて考える。
- 第14回 まとめとレポート講評 これまでの内容のまとめとレポートの講評を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で指定・配布する資料を授業内容に即して正確に理解することに加えて、関連する文献を読み、自分なりの視点で考えをまとめることを推奨します。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。レジュメ・資料はHoppii等を通じて配布します。

【参考書】

- ・『ハンナ・アーレント 屹立する思考の全貌』 森分大輔 (ちくま新書)2019年
- ・『丸山眞男 リベラリストの肖像』 荻部直 (岩波新書) 2006年
- ・『丸山眞男と加藤周一 知識人の自己形成』 山辺春彦・鷲巣力 (筑摩選書) 2023年

【成績評価の方法と基準】

レポート (60%)、リアクションペーパー・授業内発言 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの記述を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし (教育活動レベルによってweb接続が可能なPCが必要となります)。

【その他の重要事項】

- ・必須ではありませんが春学期と秋学期を連続して履修することにより問題の見通しがよくなるでしょう。
- ・ヨーロッパ政治思想史Ⅰおよび日本政治思想史Ⅰ・Ⅱの事前あるいは同時履修によってさらに理解が深まると思います。

【Outline (in English)】

This course aims to broadly understand the endeavor of "politics" as connections among people, exploring how 20th-century thinkers have conceptualized politics and ethics. Additionally, we seek to elucidate the questions these thinkers pose for the 21st century. By focusing on prominent philosophers such as Masao Maruyama and Hannah Arendt, we will compare and discuss their thoughts.

The goal of this course is to construct personal reflections on the meaning of politics in the contemporary context, using the content of the discussed works as a clue.

POL300AC（政治学 / Politics 300）

政治学特殊講義Ⅱ（近代日本における〈道徳〉と〈政治〉）

金子 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：この授業では、「政治」という営みを広く人と人とのつながりと捉えて、政治や倫理について20世紀の思想家たちがどのように捉えてきたのか、そして、彼らが21世紀にどのような問題を投げかけているのか、を明らかにしようと試みる。代表的な思想家として和辻哲郎とマルティン・ハイデガーを取り上げ、ある点で共通しながらある点で対照的な両者の思想を比較して論じる。

授業の目的：授業で取り上げる諸著作の内容を手がかりに、現代における政治の意味について自分なりの考えを組み立てることを目的とする。

【到達目標】

- ・現代社会の諸問題について知識を獲得する。
- ・現代社会の諸問題について自分なりの見方を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に講義形式で行います。毎回のプリントに加えて、和辻やハイデガーのテキストを指定しますので、意欲的な受講者は該当範囲をあらかじめ読んで内容を把握しておくことより深い理解につながるでしょう。
- ・リアクションペーパーのうち興味深いものは授業内で紹介し、考察を深める材料とします。・レポート課題はやや早めに出題し、最終日に講評を行う予定です（受講者数によっては全員のレポートについて言及できないことがあります）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業の概要、進行方法、成績評価などを説明する。
第2回	かれらの時代／われらの時代	和辻やハイデガーが生きた時代背景と現在の問題について考える。
第3回	近代批判の端緒	両者のニーチェ論などを手がかりに近代批判の契機を探る。
第4回	古代への沈潜	和辻の日本古代研究、ハイデガーのギリシャ哲学研究の意義を探る。
第5回	考えるためのことば	『言葉についての対話』・「日本語と哲学の問題」を手がかりにハイデガーと和辻における言葉と思想の関係を考察する。
第6回	時間と場所①	『存在と時間』を手がかりにハイデガーの社会思想について考察する。
第7回	時間と場所②	『風土』を手がかりに和辻の社会思想を考察する。
第8回	倫理①	後期ハイデガーの思索を中心にハイデガーの社会理論の展開を考察する。
第9回	倫理②	『倫理学』等を手がかりに和辻の社会理論の展開を考察する。

第10回	時局と思想	ナチズムや軍国主義に対するハイデガーや和辻の姿勢を考察する。
第11回	戦後のとらえ方	戦後の世界を両者がどのようにとらえていたのかを考察する。
第12回	美と技術	両者の美についての議論を社会や政治の問題に絡めて考察する。
第13回	近代と現代	授業内容を踏まえて彼らの思想が現代に投げかけている問題を改めて総括する。
第14回	まとめとレポート講評	授業全体のまとめとレポートの講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で指定・配布する資料を授業内容に即して正確に理解することに加えて、関連する文献を読み、自分なりの視点で考えをまとめることを推奨します。
- ・本授業の準備・復習時間は、該当範囲の予習に3時間、復習に1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要なレジュメ・史資料類は配布します。

【参考書】

- ・『ハイデガーの哲学 〔存在と時間〕から後期の思索まで』轟孝夫（講談社現代新書）2023年
- ・『光の領国 和辻哲郎』荏部直（岩波現代文庫）2010年

【成績評価の方法と基準】

レポート（60％）、リアクションペーパー・授業内発言（40％）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの記述を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし（教育活動レベルによってweb接続が可能なPCが必要となります）。

【その他の重要事項】

- ・必須ではありませんが春学期と秋学期を連続して履修することにより問題の見通しがよくなるでしょう。
- ・ヨーロッパ政治思想史および日本政治思想史の事前あるいは同時履修によってさらに理解が深まると思います。

【Outline (in English)】

This course aims to broadly understand the endeavor of "politics" as connections among people, exploring how 20th-century thinkers have conceptualized politics and ethics. Additionally, we seek to elucidate the questions these thinkers pose for the 21st century. By focusing on prominent philosophers such as Tetsuro Watsuji and Martin Heidegger, we will compare and discuss their thoughts.

The goal of this course is to construct personal reflections on the meaning of politics in the contemporary context, using the content of the discussed works as a clue.

POL300AC（政治学 / Politics 300）

現代政策学特講Ⅰ（立法学）

正木 寛也

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんが学んでいる法制度は、多くの人間の「利害」が交わる中で作られ、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。立法学は、この観点から法の有り様を捉えなおす学問であり、古くから、日本の法学（教育及び研究）の中心にある解釈法学に対する概念としてその必要性が指摘され、様々な分野の研究者が各自の視点から論じてきました。

本科目は、法制度の形成過程を着眼点として、Ⅰ・Ⅱを通して立法学の全体像を俯瞰しようとするものです。具体的には、これまでの立法学に関する議論を整理した上で、法制度がいかにして形成されていくかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容と憲法を頂点とする法体系、ひいては法や正義との関係といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に体系的に位置付けることを試みます。Ⅰでは、主に政策の形成過程から分析します。

【到達目標】

政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程における政策形成からそのアウトプットの一形態としての法制度構築までの一連の流れを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法を、それを誰が主体的に作っているのかという視点を加えることで動的なものとして理解することにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体的に取り上げる事例についても、授業中にアンケートを取り、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第2回	「立法学」とはなにか	テーマに沿った講義
第3回	立法学の再定位	テーマに沿った講義
第4回	政策形成過程総論	テーマに沿った講義
第5回	政府における政策形成過程（1）	テーマに沿った講義
第6回	政府における政策形成の事例研究（1）	テーマに沿った講義
第7回	政府における政策形成過程（2）	テーマに沿った講義
第8回	政府における政策形成の事例研究（2）	テーマに沿った講義

第9回	政党における政策形成過程	テーマに沿った講義
第10回	政党における政策形成の事例研究	テーマに沿った講義
第11回	政策形成と選挙制度の関係	テーマに沿った講義
第12回	日本の選挙の実態（1）	テーマに沿った講義
第13回	日本の選挙の実態（2）	テーマに沿った講義
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえるといいと思います。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布します。

【参考書】

法制執務・法令用語研究会『条文の読み方〔第2版〕』（有斐閣、2021年）。その他については、講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせて適時（学期中に数回）課す課題（50%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

国といった大きな枠で語られると忘れがちですが、法制度や政治というものは本来極めて身近で、我々の日常生活の中にあるものです。授業を通して、より皆さんにそのこと、その「面白さ」を感じてもらえるような話ができるように努めたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用及びオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

教員は、25年以上にわたり衆議院で勤務しており、この間、議員立法の補佐等を通じて衆議院の政治・立法過程に携わってきました。授業では、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、その時点で国会の争点となっている重要テーマ（近年の授業で紹介した事例としては、安全保障関連法案、違法伐採、入管法改正、旧統一教会問題、旧優生保護法問題、選択的夫婦別氏制度などがあります。）を取り上げて具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。授業は基本的に対面で行いますが、仕事の関係でオンライン（オンデマンド）に切り替えることがあります。いずれの場合も、授業の内容は配信する予定です。

【Outline (in English)】

In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.

The goal of this course is to get some points of view about five Ws on legislative process in Japan.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Students will be graded on:

Short reports(50%), Term-end report(50%).

POL300AC（政治学 / Politics 300）

現代政策学特講Ⅱ（立法学）

正木 寛也

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんが学んでいる法制度は、多くの人間の「利害」が交わる中で作られ、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。立法学は、この観点から法の有り様を捉えなおす学問であり、古くから、日本の法学（教育及び研究）の中心にある解釈法学に対する概念としてその必要性が指摘され、様々な分野の研究者が各自の視点から論じてきました。

本科目は、法制度の形成過程を着眼点として、Ⅰ・Ⅱを通して立法学の全体像を俯瞰しようとするものです。具体的には、これまでの立法学に関する議論を整理した上で、法制度がいかにして形成されていくかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容と憲法を頂点とする法体系、ひいては法や正義との関係といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に体系的に位置付けることを試みます。Ⅱでは、議会（国会）における議論・調整を通じた法制度の形成過程から分析します。

【到達目標】

政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程における政策形成からそのアウトプットの一形態としての法制度構築までの一連の流れを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法を、それを誰が主体的に作っているのかという視点を加えることで動的なものとして理解することにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体的に取り上げる事例についても、授業中にアンケートを取り、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第2回	選挙制度概論	テーマに沿った講義
第3回	比較選挙制度論	テーマに沿った講義
第4回	選挙制度と二院制	テーマに沿った講義
第5回	日本の選挙制度改革の歴史と方向性	テーマに沿った講義
第6回	議会制度概論	テーマに沿った講義
第7回	立法過程論	テーマに沿った講義
第8回	立法過程と二院制	テーマに沿った講義
第9回	日本の立法の量的・質的分析	テーマに沿った講義

第10回	立法の今日的課題	テーマに沿った講義
第11回	事例研究（1）	具体的な法律の立法過程の分析
第12回	事例研究（2）	具体的な法律の立法過程の分析
第13回	事例研究（3）	具体的な法律の立法過程の分析
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえるといいと思います。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布します。

【参考書】

法制執務・法令用語研究会『条文の読み方〔第2版〕』（有斐閣、2021年）。その他については、講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせて適時（学期中に数回）課す課題（50％）、学期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

国といった大きな枠で語られると忘れがちですが、法制度や政治というものは本来極めて身近で、我々の日常生活の中にあるものです。授業を通して、より皆さんにそのこと、その「面白さ」を感じてもらえるような話ができるように努めたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用及びオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

教員は、25年以上にわたり衆議院で勤務しており、この間、議員立法の補佐等を通じて衆議院の政治・立法過程に携わってきました。授業では、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、その時点で国会の争点となっている重要テーマ（近年の授業で紹介した事例としては、安全保障関連法案、違法伐採、入管法改正、旧統一教会問題、旧優生保護法問題、選択的夫婦別氏制度などがあります。）を取り上げて具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。授業は基本的に対面で行いますが、仕事の関係でオンライン（オンデマンド）に切り替えることがあります。いずれの場合も、授業の内容は配信する予定です。

【Outline (in English)】

In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.

The goal of this course is to get some points of view about five Ws on legislative process in Japan.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Students will be graded on:

Short reports(50%), Term-end report(50%).

POL300AC（政治学 / Politics 300）

外国書講読（朝鮮語）Ⅰ

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義においては、ハングルを通して、政治・社会・文化についての思考能力、並びに文献分析能力の向上を目指します。この科目を受講するには、「母語使用者以外で第二外国語として初級レベルの韓国語を履修済み・TOPIK三級以上・ハングル検定三級以上の何れかの語学力」が必要です。

【到達目標】

基礎レベルのハングル学習能力をもとに、基本的なハングル文献判読能力を高めたい学生のために学習を行う予定です。語学としてのハングル・日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

文例集を参考にさまざまな実用文について学習しつつ、現地の時事雑誌などを使用して訳の比較を行います。少ない語彙で表現できるレベルから、語彙そのものを高めるレベルまで、いろいろな語学水準の学生を包容し、文書講読の練習を行います。また、ハングル文献、新聞、雑誌、並びに、現地で制作したドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行う予定です。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	（前期）レベルテスト・オリエンテーション	レベルテスト・講義全般についての紹介
第二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第五回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第六回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第七回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第八回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第九回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十一回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

第十三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。必要に応じてノートを取る。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

尹亨仁 編『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』三省堂、2024年（紙の辞書を必ずご用意ください。）

その他、コピーを配布いたします。

（必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像、並びに音楽等を使用して進めて行く予定です。また、必要な場合はWeb上の文書にて対応する場合があります。）

【参考書】

日韓・韓日辞書は必要です。紙の辞書を用意してください。

Hana 韓国語教育研究会編『韓国語ライティングの文例集』、アルク、2010年

【成績評価の方法と基準】

平常点：参加度（＝受講態度・授業内での発表40%）＋レポートなどの提出物（60%）
（上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。）

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係の再構築

【学生が準備すべき機器他】

紙の辞書（日韓・韓日兼用のポケット版）

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。

（授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。）
黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

By this lecture, the consider about Japanese &Korean politics, society, culture through by the Korean language (=Hangul) and improve the ability of the documents analysis.

Hangul of the beginner's class level as the second foreign language has been studied to attend this subject or linguistic ability more than the TOPIK third grade is necessary.

POL300AC（政治学 / Politics 300）

外国書講読（朝鮮語）Ⅱ

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義においては、ハングルを通して、政治・社会・文化についての思考能力、並びに文献分析能力の向上を目指します。この科目を受講するには、「母語使用者以外で第二外国語として初級レベルの韓国語を履修済み・TOPIK三級以上・ハングル検定三級以上の何れかの語学力」が必要です。

【到達目標】

基礎レベルのハングル学習能力をもとに、基本的なハングル文献判読能力を高めたい学生のために学習を行う予定です。語学としてのハングル・日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

文例集を参考にさまざまな実用文について学習しつつ、現地の時事雑誌などを使用して訳の比較を行います。少ない語彙で表現できるレベルから、語彙そのものを高めるレベルまで、いろいろな語学水準の学生を包容し、文書講読の練習を行います。また、ハングル文献、新聞、雑誌、並びに、現地で制作したドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行う予定です。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	（後期）レヴェルテスト・オリエンテーション	レヴェルテスト・講義全般についての紹介
第二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第五回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第六回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第七回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第八回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第九回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十一回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

第十三回 文献購読

関連語彙、並びに用語の紹介・説明

第十四回 文献購読

関連語彙、並びに用語の紹介・説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。必要に応じてノートを取る。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

尹亨仁 編『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』三省堂、2024年（紙の辞書を必ずご用意ください。）

その他、コピーを配布いたします。

（必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像、並びに音楽等を使用して進めて行く予定です。また、必要な場合はWeb上の文書にて対応する場合があります。）

【参考書】

日韓・韓日辞書は必要です。紙の辞書を用意してください。

Hana 韓国語教育研究会編『韓国語ライティングの文例集』、アルク、2010年

【成績評価の方法と基準】

平常点：参加度（＝受講態度・授業内での発表40%）＋レポートなどの提出物（60%）
 （上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。）

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係の再構築

【学生が準備すべき機器他】

紙の辞書（日韓・韓日兼用のポケット版）

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。（授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。）試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

By this lecture, the consider about Japanese &Korean politics, society, culture through by the Korean language (=Hangul) and improve the ability of the documents analysis.

Hangul of the beginner's class level as the second foreign language has been studied to attend this subject or linguistic ability more than the TOPIK third grade is necessary.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (1) - 1

奥田 和夫

授業コード：A2212 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ソクラテスについて III

2021、2022 年度の 2 回にわたり、この特殊講義において「ソクラテスについて」と題する講義をおこなった。それらの講義の中で、当然のことであるが、とりわけプラトンとクセノポンに注目し、そのソクラテス像を受講者に紹介しながら、歴史上に実在したソクラテスが現実にはどのような人物であったのか、手探りで考えてみた。

上の 2 回の特殊講義にておぼろげながら感じられたことが 2 点ある。それらは次のようなことである。

1. ソクラテスを若者に接する人物としてみた場合、クセノポンのソクラテスはプラトンのソクラテスと大きく相違するとは見えないこと (この点は欧米の研究者たちの意見にも幅がある)、つまり、教育者としてのソクラテスは当時の人々の中にあって、ある特徴的な型を有する個性的な人物であったのではないかと想像がふくらむ。
2. その「ある型」としてクセノポンのソクラテスから気づかされることは、ソクラテスはまず克己節制の人であり、また自身でも克己節制の重要性を強く自覚していたらしいことである。この特徴は、プラトンのソクラテス (=『パイドン』始めの箇所での快苦の考察を長く行なってきたことを示唆する登場人物ソクラテス、『国家』の「魂の機能の三区分」説における節制の特別な役割を語る登場人物ソクラテス) にも反映されているのではないかとさえ思われる。

今年度のこの授業は上の 2 回の講義の続編である。講義概要と目的にも変更はない。自分の読解を頼りに、もう少し前にすすんでみたい。

【到達目標】

関連テキストの慎重な読解と分析にもとづき、新たに、ソクラテスの人物と哲学に関する解釈上の正当な論点をさぐる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、その授業の概要と資料を提示し、講義形式ですすめる。質問は口頭でもリアクションペーパーでも受けつける。後者の場合、回答は次回の授業の冒頭にて前回の授業の復習を行なう際にのべる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ソクラテスを考えるときの資料とその性格
第2回	クセノポンとソクラテス	2021,2022 年度授業のまとめ クセノポンの人物とソクラテスを知る条件と制限
第3回	クセノポンのソクラテス 1	『ソクラテスの思い出』から 1
第4回	クセノポンのソクラテス 2	『ソクラテスの思い出』から 2
第5回	クセノポンのソクラテス 3	『ソクラテスの思い出』から 3
第6回	クセノポンのソクラテス 4	クセノポン『ソクラテスの弁明』から
第7回	クセノポンのソクラテス 5	クセノポン『饗宴』から
第8回	プラトンのソクラテス 1	初期作品から 1

第9回	プラトンのソクラテス 2	初期作品から 2
第10回	プラトンのソクラテス 3	中期作品から
第11回	プラトンのソクラテス 4	プラトン作品に登場するソクラテス像 (変化と全体像)
第12回	プラトンのソクラテスとクセノポンのソクラテス 1	両者の相違点と近似点
第13回	プラトンのソクラテスとクセノポンのソクラテス 2	彼らはソクラテスに何を見ていたのか
第14回	ソクラテスの人物と哲学 まとめ	ソクラテスはどのような人物であつたと考えられるのか

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義で紹介する著作、関連する著作を読む。本授業の準備・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書はない。講義内容と講義で使用する資料からともに考えてもらう。

【参考書】

田中美知太郎『ソクラテス』(岩波新書) その他は講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 数回の小レポート (40%) ② 期末レポートの内容 (60%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

(Course outline) In 2021,2022, we read Aristophanes, Xenophon, Plato and Aristotle, and challenged the Socratic Problem anew. This year we renew the subject and read mainly the texts of Xenophon and Plato to grasp Socrates' personality and thoughts.

(Learning Objectives) The goals of this course are careful reading of texts, and understanding of the way Socrates thinks and estimation of his personality and thoughts.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination(60%), and short reports(40%).

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講（１）－２

山下 真

授業コード：A2213 | 曜日・時限：水4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義のテーマは、「ハイデガーとアレント：〈共に在ること〉と〈複数性〉の哲学」です。

20世紀ドイツの哲学者、マルティン・ハイデガーの著書『存在と時間』（1927年）は、今日に至るまで現代哲学に甚大な影響を与えています。この書物の目的は、「存在とは何か？」という究極の問いの解明を通じて、西洋哲学の伝統を根本的に克服することでした。そのためにハイデガーは、人間存在の鋭利な構造分析を展開。〈死〉の不安にさらされた有限な主体が、他の誰とも異なる自らの〈単独性〉へと立ち返り、自己自身の〈本来性〉に目覚める過程を提示しました。他者へと埋没する人間に警鐘を鳴らし、〈個〉の在り方を問うこの議論は、優れた実存思想です。しかしそれは後に、ハイデガーのナチス加担を背景として、「決断主義」や「他者の不在」といった批判を招くことにもなりました。

一方、ハイデガーのもとで学んだ弟子、ハンナ・アレントは、ユダヤ人迫害のためにドイツを追われ、最終的にアメリカへ亡命。無国籍難民となって世界を流浪した体験から、独自の政治哲学を確立しました。彼女の思想は、他者を圧殺する〈全体主義〉誕生の歴史的経緯の反省により、あるべき政治の回復を目指すものです。とりわけ『人間の条件』（1958年）では、人間存在の根源的な〈複数性 Plurality〉に基づき、多様な人格が〈個〉として現れ得る空間、コミュニケーション的な〈公共性〉の論理が探究されています。

授業では、ハイデガーとアレントの哲学を説明し、両者の思想的関係や対立点を検討します。ハイデガーが語った〈共に在ること／共存在 Mitsein〉の概念は、何を意図し、どこに限界があったのか。アレントは、ハイデガーから何を受け継ぎ、それを〈複数性〉の概念によってどう乗り越えようとしたのか。受講者は、こうした問題の考察を通して、人間存在の共同性に対する哲学的理解を深めることになるでしょう。

【到達目標】

受講者が達成すべき目標は、以下の三点です。

- ① ハイデガーとアレント、それぞれの哲学の問題設定や基本概念について学ぶ。
- ② 両者の哲学を比較し、その影響関係を踏まえ、問題点や対立点を具体的に理解する。
- ③ 現代に生きる自分たちにとって、人間の〈共同性〉や〈複数性〉の思考が持つ意義を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料を使って講義形式で進めます。毎回、テーマとなる哲学者の中心課題や基本概念を解説し、問題となっている事柄を捉えています。受講者には、出席票を兼ねたリアクションペーパーで、感想や意見、質問を提出してもらいます。そのうち重要なものについては、次の授業でいくつか取り上げ、応答することとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要と導入	ハイデガー、アレントの思想と生涯
第2回	ハイデガー（１）	〈存在の問い〉の基本構想と現存在分析
第3回	ハイデガー（２）	〈世界内存在〉と実存の開示性
第4回	ハイデガー（３）	道具連関、および他者との〈共存在〉
第5回	ハイデガー（４）	日常性における頹落、〈ひと〉
第6回	ハイデガー（５）	〈死への先駆〉から自己の本来性へ
第7回	ハイデガー（６）	本来的共存在と〈民族〉の概念
第8回	アレント（１）	全体主義と複数性の破壊
第9回	アレント（２）	〈公的領域〉と〈私的領域〉
第10回	アレント（３）	〈活動的生の〉諸相：〈労働〉と〈仕事〉
第11回	アレント（４）	〈活動的生の〉諸相：〈行為／活動〉と言論
第12回	アレント（５）	哲学的理性と政治的判断力
第13回	アレント（６）	アイヒマン裁判、〈悪の凡庸さ〉と〈無思考性〉
第14回	講義全体の総括	複数性の哲学の今日的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、配布資料や指定した参考文献を読解し、予習・復習を実施して参加すること（大学の基準では、本授業の準備・復習時間は、毎回4時間以上が標準とされています）。

各回の連続性が高いので、欠席が多いと内容を理解できなくなります。学んだ事柄を自主的に整理した上で、極力休まず参加してください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

多岐に渡るので、各回の授業内で配布資料に掲載して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況およびリアクションペーパーでの理解度や意見・質問の積極性、受講態度などの平常点（50％）と、筆記による論述形式の期末テスト（50％）で、上記「到達目標」三点の達成度を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各人の経験に引きつけて思考できるよう、常に具体的な事例を織り交ぜた説明を心がけています。また、背景となる哲学史的な知識や、様々な術語の原語に含まれるニュアンスなど、詳しく話しています。配布資料では哲学者のテキストを多く引用し、原典の言葉から問題を理解できるような手法をとります。リアクションペーパーへの応答は参考になるとの声が多いので、各回時間を取って対応しています。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The theme of this lecture is “Heidegger and Arendt: Philosophy of With-being and Plurality”. Martin Heidegger's ontology in “Being and Time (Sein und Zeit)” presented a structural analysis of finite and individual human existence and its authenticity (Eigentlichkeit). However, later, his philosophy was criticized for lack of otherness. This is because his concept of “With-being (Mitsein)”, which aims to ground human community, has limitations. On the other hand, Hannah Arendt, who studied under Heidegger, proposed her own political philosophy based on the “plurality” of human existence. Arendt thought the realm in which individual personalities communicate through speech and action by her central concept of “publicness” or “space of appearance”. In this lecture, we will consider the relationships and conflicts between the philosophies of Heidegger and Arendt. The student will obtain basic knowledge about human plurality as philosophical issue by this lecture.

[Learning Objectives]

The goals of this course are

- (1) to learn basic knowledge about the outline and concepts of the philosophies of Heidegger and Arendt.
- (2) to understand contemporary problems and meanings of the thought of plurality.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to have read the teaching materials and reference books. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading Criteria]

Grading will be decided based on usual performance score (50%), and term-end examination (50%).

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (3) - 1

佐藤 真人

授業コード：A2216 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

デカルトの「考える私」によって近世哲学は華々しく幕を開けたと喧伝されてきた一方で、その解釈史は批判 (カント、フッサール、ハイデガー) と誤解の歴史でもありました。「私」の問題は古代ギリシアやとりわけアウグスティヌスにおいて既に見られるものの、デカルトの「私」にはたしかにそれらとは一線を画す内容が含まれています。

デカルトの「私」の革新性と哲学的意義はいかなる点にあり、後の哲学者たちは、デカルトの「私」の何を批判 (ないし誤解、あるいは自身の哲学のための「踏み台」に) してその超克をもくろんだのか。そもそも、「私」とは何ものなのか。

こういった問いを検討するため、「私」の理論が含む問題点とその可能性について、パスカルの「憎むべき私」を皮切りに、デカルトと諸哲学者の議論を対比したうえで考察することが本講義の目的です。

【到達目標】

- ① 「私」の概念形成史を精確に理解する。
- ② 「私」とは何であるかについて、特にデカルトを中心とした哲学者たちの解釈と思想を精確に理解する。
- ③ 理解・学習・考察した内容を基に文献を調べて問題を探究し、論理的な議論を構築できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で、配布テキストとスライド資料 (またはレジュメ) を用いつつ説明するので、必ず事前にテキストを読むこと。授業後に出席票を兼ねたリアクション・ペーパー (小レポート) を毎回提出してもらい、その幾つかを次回授業で共有してコメントします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	パスカルと憎むべき「私」	なぜ「私」は憎まれねばならないのか
第2回	「汝自身を知れ」	古代ギリシアの「私」論と「主体」について
第3回	友を求める「私」	アリストテレスとキケローの友情論について
第4回	「私」の中には何があるのか	アウグスティヌスの懐疑・記憶・愛について
第5回	「私」とは何か	デカルトの「考える私」について
第6回	「この私」	デカルトによる心身の実在的区別と「私」の意識について
第7回	「個別的な自然としての私」	心身の実体的結合による「私」の悲しみと喜びについて
第8回	「私」の失敗	スピノザ『知性改善論』はなぜ未完なのか
第9回	「私」と「自己」	ロックにおける知性、内省、意識について
第10回	多くを語る「私」	ライプニッツによる困難な「私」と世界の調和について
第11回	「私」には何が可能か	ドイツ観念論における「自我」について

第12回	「私」とは誰か	フッサールによる現象学的還元とハイデガーによる「私」の形而上学の終焉について
第13回	新たな哲学を切り拓く「私」	マリオンによる「私」の飽和について
第14回	「私」を超える「私」	再びデカルトへ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布されたテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

内容のまとめと、疑問・質問を明らかにしたうえで授業に臨めば理解がいつそう深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、もっと知りたいという思考の流れの好循環が生まれます。本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Hoppil上またはコピーで配布予定。
とりわけ、アウグスティヌス『告白』、パスカル『パンセ』、デカルト『省察』、スピノザ『知性改善論』、ライプニッツ『形而上学叙説』『モナドロジー』、フッサール『イデー』、ハイデガー『存在と時間』を中心に考察予定 (購入は任意ですが、いずれも持っておいて損はありません)。

【参考書】

G・ロディス・レヴィス『デカルトの著作と体系』、紀伊国屋書店、1990年
野田又夫『デカルト』、岩波新書、1966年
小林道夫『デカルト哲学の体系』、勁草書房、1995年
福居純『デカルト研究』、創文社、1997年
上野修『スピノザの世界』、講談社現代新書、2005年
— 『デカルト、ホッブズ、スピノザ』、講談社学術文庫、2011年
— 『哲学者たちのワンダーランド』、講談社、2013年
— 『スピノザ考』、青土社、2024年
その他は授業で適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (リアクション・ペーパーの内容や参加姿勢) 約40%、期末試験 (またはレポート) 約60%の割合で、到達目標の達成度合いに応じて成績評価します。

なお、欠席4回で不可としますので注意してください (事情がある場合は要相談)。

【到達目標】欄の事項の達成度合いが評価基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧でわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

- ・進捗状況に応じて、関連する他の著述を読む可能性もあり、授業の順序や内容は多少変わる場合もあります。
- ・パソコン・携帯電話等は使用禁止。必ず手でノートを取ってください。
- ・体調不良等の事情がある場合を除き、授業途中の入退室は認めませんので、充分注意してください。

【Outline (in English)】

While Descartes's 'ego cogito' has been touted as the dawn of the European early modern philosophy, its interpretative history has also been a history of criticism (Kant, Husserl, Heidegger) and misunderstanding. Although the question of the 'ego' (myself or self) can already be found in ancient Greece and especially in Augustine, Descartes' self certainly contains something that sets it apart from them.

What is the innovative nature of Descartes' self, how was it formulated, and what philosophical significance does it have? And what did later philosophers criticize (or misunderstand, or use as a 'springboard' for their own philosophy) Descartes' self and attempt to transcend it?

In order to examine these questions, the aim of this lecture is to consider the problems and possibilities involved in the theory of the self, starting with Pascal's 'hateful self' and contrasting the arguments of Descartes and various philosophers. Students are expected by the end of the course (1) to understand precisely the history of the formation of the concept of self.

(2) to accurately understand the interpretations and ideas of philosophers, especially Descartes, on what the self is.

(3) to be able to research the issue by examining the literature based on what has been understood, studied and discussed, and to construct logical arguments.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. The group or individual in charge of the presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 40%, Term-end examination or report: 60%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (3) - 2

古屋 俊彦

授業コード：A2217 | 曜日・時限：火5/Tue.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ソシュールの『一般言語学講義』を詳しく読み、現代思想の理解に不可欠な言語の本質についての考察を学ぶ。ソシュール自身が書いた草稿も合わせて読む。
構造主義と構造主義以後の現代思想を理解するためにはソシュールの『一般言語学講義』における考察を正確に知っていなければならない。
今は古典となっているこのような本の丁寧な読解は常に必要だが、特にソシュールの『一般言語学講義』は本質的かつ具体的な言語の考察が際立っていて今でも特異性を失わないので読む価値がある。更に構造主義思想の具体的な展開を知るためにデュルケムとモースとレヴィ=ストロースの著書を参照する。

【到達目標】

ソシュールの『一般言語学講義』に書かれている、言語の本質に関する考え方や基本的な概念とその言い換えなどを理解する。予備知識として十九世紀から二十世紀の言語学の歴史を把握し、『一般言語学講義』の考察を、その中で位置づけて理解する。更に、『一般言語学講義』の考察を、現代思想、その中でも特に構造主義と構造主義以後の思想への影響の中で理解する。以上の理解を前提として、課題となる小論文の中で、『一般言語学講義』にならって言語に関する原理的な考察を自分なりに試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ソシュールの『一般言語学講義』の講読を講義形式で進める。受講者は、事前に本を読み、疑問点や問題点を授業中あるいはウェブサイトで提示する。受講生は、毎回、受講報告として、授業を受けて考えたことを文章で書いて提出する。教員は疑問点や問題点を検討して次の回に返答する。受講報告についても同様に次の回に詳しく返答する。要約や詳述などの資料は独自に作成したウェブサイトを使用して講義と同時に開示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業概要	授業の説明、自己紹介
第2回	まえおき その1	『一般言語学講義』の成立事情、基本概念、同時代の思想との関連
第3回	まえおき その2	言語学者としてのソシュールの経歴、影響関係、比較言語学、音韻論、ソシュール以後の言語学との関係
第4回	まえおき その3	デュルケム、モース、レヴィ=ストロースなどの構造主義思想の展開
第5回	前年度までの内容 その1	序論
第6回	前年度までの内容 その2	第1部 一般原理
第7回	前年度までの内容 その3	第2部 共時言語学
第8回	前年度までの内容 その4	第3部 通時言語学
第9回	前年度までの内容 その5	第3部と第4部への付録
第10回	前年度までの内容 その6	第4部 言語地理学
第11回	第4部 言語地理学	第1章から第2章 第3章 地理的多様性の原因 第4章 言語的な波の伝搬
第12回	第5部 回顧的言語学の諸問題	2つの観点 第2章 最古の言語と原型 第3章 再建
第13回	第5部 回顧的言語学の諸問題	第4章 人類学と先史学での言語の証拠 第5章 語族と言語類型
第14回	ソシュール自身の草稿	一般言語学講義メモなど

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ソシュールの『一般言語学講義』の指定箇所をあらかじめ読み、疑問点、問題点を書き出しておく。授業と並行して、小論文の課題を進める。小論文は、できるだけ早く提出を始めて、書き直しながら再提出を繰り返す。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『一般言語学講義』 フェルディナン・ド・ソシュール、町田健訳、研究社、3500円

【参考書】

フェルディナン・ド・ソシュール『一般言語学』著作集、岩波書店
エミール・デュルケム『社会学的方法の規準』、岩波文庫
マルセル・モース『贈与論』、岩波文庫
それ以外は、授業の中で、必要に応じて紹介していく

【成績評価の方法と基準】

小論文60%
『一般言語学講義』の理解に基づいて言語に関する原理的な考察を継続的に文章の中で仕上げていく過程を特に評価の対象とする。基本的な概念の理解は重要だが考察を積み重ねていく努力を特に重視する。
平常点40%
毎回提出する受講報告から授業への取り組みの度合いを評価する

【学生の意見等からの気づき】

要約の資料だけでなく解説的な補足資料を用意する

【Outline (in English)】

(Course outline)
Reading of the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure in japanese translation. We learn about the essence of the language itself for understanding of the contemporary philosophy.
(Learning Objectives)
Understanding the fundamental concept concerning essence of language in the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure, and as a background knowledge, the history of linguistics of 19 and 20 century, and the influences to the contemporary thinking especially the structuralism. On the assumption of that, the continuous exercise is writing and polishing of the essay on the own thinking about the language.

(Learning activities outside of classroom)
Reading of the concerned text in advance of each lecture, and extracting the phrases that is obscure. At the same time, try to write and polish of the essay continuously.
(Grading Criteria /Policies)
writing and polishing of the essay concerning language: 60%
short reports to each lecture: 40%

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講（４）－１

菅沢 龍文

授業コード：A2218 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カント『人倫の形而上学』の内容についてテキストに沿って順次学び、道徳にかんするカントの洞察について考えます。そして、毎回のテーマの内容について考えることにより、全体としては、法と倫理とについてのカント独特の考え方の理解を深め、道徳的に生きるとはどういうことかを考えます。

【到達目標】

- (1) 法と倫理との相補的な関係について、考察を深めて表現できる。
- (2) 法の義務と倫理（徳）の義務について、考察を深めて表現できる。
- (3) 法的正しさ、倫理的善さの観点から、物事について考察を深めて表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 授業の初めに、前回は提出された作文について、フィードバックされます。
- (2) プロジェクターおよびプリント（PDF）と板書を用いて説明し、質問を受け付けます。
- (3) 毎回、授業で考えたことにかんして作文をして授業支援システム（Hoppii）に提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	(1)オリエンテーション (2)テキストへの導入	(1)本授業について (2)「人倫の形而上学」について
第2回	『法論の形而上学的原理』①	「法論」について
第3回	『法論の形而上学的原理』②	「私法」について
第4回	『法論の形而上学的原理』③	「公法」について
第5回	『徳論の形而上学的原理』①	「徳論」について ー同時に義務でもある目的ー
第6回	『徳論の形而上学的原理』②	「法論」と「徳論」の区別について
第7回	『徳論の形而上学的原理』③	「徳の義務」について
第8回	『徳論の形而上学的原理』④	自分自身に対する義務について（自殺の禁止、他）
第9回	『徳論の形而上学的原理』⑤	自分自身に対する義務について（良心、他）
第10回	『徳論の形而上学的原理』⑥	他者に対する「徳の義務」について（愛）
第11回	『徳論の形而上学的原理』⑦	他者に対する徳の義務について（尊敬）
第12回	『徳論の形而上学的原理』⑧	人間の状態にかんする人間相互の倫理的義務 ー友情および社交ー
第13回	『徳論の形而上学的原理』⑨	倫理学の教授法、修行法 ーおよび道徳と宗教ー
第14回	全体を振り返っての考察	法と倫理にかんして、全体を振り返ってレポートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
(予習) 授業で取り上げる内容について、テキスト等を参照して考えておく。
(復習) 授業で考えたことにかんして作文して学習支援システム（Hoppii）に提出する。

【テキスト（教科書）】

- (1) カント『人倫の形而上学 第一部 法論の形而上学的原理』熊野純彦訳、岩波文庫、2024年
- (2) カント『人倫の形而上学 第二部 徳論の形而上学的原理』宮村悠介訳、岩波文庫、2024年

【参考書】

- ・カント『人倫の形而上学』（カント全集：岩波版・第11巻、理想社版・第十一巻）
- ・カント『道徳形而上学の基礎づけ』大橋容一郎訳、岩波文庫（最新訳）
（本書には他にも沢山の邦訳書がある。1～2章は授業に関係が深い。）
- ・高峯一愚『カント講義』（論創社）

（「第三章 道徳の問題」の箇所が関係が深い。）

※その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【成績評価基準】

- (1) 授業への出席および参加姿勢と、毎回提出の作文への取り組み
- (2) セメスター末（第14回）の期末レポート
- (1)を7割、(2)を3割として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明の際に、発音を明瞭にし、ゆっくり分かりやすく話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の作文を作成して提出するために学習支援システム（Hoppii）を用いるので、インターネットに接続可能なパソコン（推奨）または、タブレットやスマホが必要となります。

【Outline (in English)】

Course outline:

We will study the content of Kant's *Metaphysics of Morals* in sequence with the text and consider Kant's insights into morality. By considering the content of each topic, we will deepen our understanding of Kant's unique ideas about law and ethics and what it means to live morally as a whole.

Learning Objectives:

- (1) Can reflect on and express the complementary relationship between law and ethics.
- (2) Can reflect on and express the duties of law and ethics (virtue).
- (3) Can reflect on and express things from the perspective of legal rightness and ethical goodness.

Learning activities outside of classroom:

The standard preparation and revision time for this class is 2 hours each.

(Preparation) Students should think about the topics to be discussed in class, using the textbooks and other sources.

(Review) Write an essay on the topics discussed in class and submit it to the learning support system (Hoppii).

Grading Criteria /Policy :

- (1) Attendance and participation in class and commitment to the essay submitted each time.
- (2) Final report at the end of the semester (14th session).
- (1) 70%and (2) 30%of the overall grade.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (4) - 2

近堂 秀

授業コード：A2219 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

イマヌエル・カントの哲学思想の現代的意義を分析哲学との関係に注目して検討する。

【到達目標】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

カントの主要著作を読み、関連文献を参照しながら、カントと現代の哲学思想の関係を考察する。授業は講義形式で進め、課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学を学ぶとは	時代状況と哲学
第2回	カントの哲学思想(1)	カント哲学の概要
第3回	カントの哲学思想(2)	カントの理論哲学
第4回	カントの哲学思想(3)	カントの実践哲学
第5回	『純粋理性批判』を読む(1)	超越論的感性論と超越論的論理学
第6回	『純粋理性批判』を読む(2)	超越論的分析論と超越論的弁証論
第7回	『純粋理性批判』を読む(3)	純粋悟性概念の形而上学的演繹
第8回	『純粋理性批判』を読む(4)	純粋悟性概念の超越論的演繹
第9回	『純粋理性批判』を読む(5)	『純粋理性批判』の自己意識論
第10回	カントと現代の哲学思想	カントと現象学、分析哲学、プラグマティズム
第11回	カントと分析哲学(1)	カントとウイトゲンシュタイン
第12回	カントと分析哲学(2)	カントと超越論的論証
第13回	カントと分析哲学(3)	カントと心の哲学
第14回	カントの哲学思想の現代的意義	『純粋理性批判』の言語分析哲学的解釈

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査する。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

授業内で指示する。

【参考書】

牧野英二編『新・カント読本』、法政大学出版局、2018年。
 近堂秀『『純粋理性批判』の言語分析哲学的解釈——カントにおける知の非還元主義』、晃洋書房、2018年。
 トム・ロックモア『カントの航跡のなかで——二十世紀の哲学』牧野英二監訳、法政大学出版局、2008年。

【成績評価の方法と基準】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学の著作を読む力は出席率と授業の内容理解度によって、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力は学期末レポートによって、それぞれ30%と70%の割合で評価する。

※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容と理解度とのバランスを調整する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the philosophical problems of Kant and analytic philosophy.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the fundamental problems of Kant's philosophy and modern philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

PHL300BB（哲学 / Philosophy 300）

哲学特講（5）－2

相原 博

授業コード：A2221 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の内容は、「考えながら学ぶ哲学」の発展編です。授業では毎回、私たちに身近なテーマを取り上げて、そのテーマにかんする哲学の基本的な考えを学びます。身近なテーマとは、授業計画にあるように、同情、芸術鑑賞、技術や労働、自由や歴史などです。これらのテーマについて、過去の哲学者の考えを紹介することで、受講生が「自分で考える」ためのヒントを提供する予定です。また哲学を学ぶことは、たんに過去の哲学者の考えを理解すること、暗記することではありません。自分で考えることにこそ、哲学の哲学たるゆえんがあります。そのため、授業では実際に問題を考えてもらうことで、自ら「哲学する」訓練をしてもらいます。具体的には、哲学の問題について、他の受講生たちと対話してもらいます。それによって、自分で考える力、哲学的に考える能力を得ることを目的とします。

【到達目標】

第一に、哲学にかんする知識を身につけながら、自分で説明することができる。第二に、日常の様々な出来事について、哲学的に問題を立てて考えるとともに、論じることができる。第三に、議論を通して、多様な意見の存在を知り、自分の考えを深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。また積極的に参加してもらうため、毎回の授業ではグループで議論し、その結論を発表してもらいます。受講にあたって、自分自身で考えること、他の受講生と議論すること、また授業で発言できることが必要です。その他、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・哲学とは何か	授業の進め方、評価方法などについて説明する
第2回	なぜ他者に同情するのか	アダム・スミスとショーペンハウアーの考えを説明する
第3回	芸術鑑賞には準備が必要か	ヒュームとヘーゲルの考えを説明する
第4回	芸術作品は複製できるか	カントとベンヤミンの考えを説明する
第5回	労働をどう考えるべきか	ルソーとアーレントの考えを説明する
第6回	社会のなかで自由は実現できるか	フーコーとキルケゴールの考えを説明する
第7回	技術の進歩をどう考えるべきか	ベーコンとホルクハイマーおよびアドルノの考えを説明する
第8回	技術の可能性をどう考えるべきか	デカルトとヨナスの考えを説明する
第9回	「理性的」とは何か	デカルトとホルクハイマーの考えを説明する
第10回	意識の働きはどのようなものか	ジェームズとフッサールの考えを説明する
第11回	無意識は存在するのか	フロイトとフロムの考えを説明する
第12回	政治とは何か	カントとアーレントの考えを説明する
第13回	歴史をどう考えるべきか	コンドルセとニーチェの考えを説明する
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

貴成人『哲学マップ』、ちくま新書、2004年。
熊野純彦『西洋哲学史—古代から中世へ』、岩波新書、2006年。
熊野純彦『西洋哲学史—近代から現代へ』、岩波新書、2006年。
伊藤邦武『物語 哲学の歴史 自分と世界を考えるために』、中公新書、2012年。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度と授業後のレポートによって、哲学者の考えを理解しているかどうか、また自分の考えを表現できるかどうか評価します(40%)。また学期末試験によって、哲学者の考えを正しく理解しているかどうか、また哲学的に問題を立てて考え、論じることができるかどうか評価します(60%)。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。またわかりやすい授業を行うために努力したい。

【Outline (in English)】

The content of this course is the advanced part of "Learning Philosophy While Thinking". In each class, we will take up a theme that is familiar to us and learn the basic philosophical ideas related to that theme. Familiar themes include sympathy, art, technology and labor, freedom, and history, as described in the lesson plan.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. While acquiring knowledge of philosophy, students will be able to give their explanations.

B. Students will be able to formulate, think about, and discuss philosophical issues regarding various everyday events.

C. Through discussion, students can learn about the existence of diverse opinions and deepen their thinking.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 60%, Short reports and in class contribution: 40%.

PHL300BB（哲学 / Philosophy 300）

哲学特講（6）－1

大橋 基

授業コード：A2222 | 曜日・時限：金3/Fri.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「民主政治の形骸化」を避けるためにアーレントとハーバーマスの導いた批判原理の意義と難点を検討する。

【到達目標】

古代ギリシアの「公的生活」を理想化したアーレントの問題意識を説明できる。
 「自由な対話」の成立条件を定めるハーバーマスの「討議倫理学」を応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が「学習支援システム」からプリントアウト・持参する、または、授業時に PC で参照する）を用いた講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（教員からの回答は、次回授業時とする）。

期末レポートの評価に関しては、「学習支援システム」から提出者全体の回答傾向に応じた「総評」を示す。また希望者には、同システムの「教材」機能から、各自のレポートに対する「コメント」を返却する（ただし、得点は開示しない）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	ガイダンス	講義概要・授業方法・成績評価の説明
講義	ワイマール民主制の自己解体	なぜ民衆は「ナチズム」を選んだのか？
講義	『全体主義の起源』の特異な歴史観	国粋主義＋人種差別＝全体主義？
講義	『イェルサレムのアイヒマン』の倫理問題	凡庸な殺人者の法外な罪悪
講義	『人間の条件』の政治思想	古代ギリシアを理想化した「活動的生活」
講義	『革命について』における理想と現実の接点	歴史における「活動」の痕跡
講義	伝統的な哲学の「非政治的性格」	なぜ哲学は政治に対して無関心だったのか？
講義	伝統的な哲学の「独話論的性格」	なぜ哲学は単一の原理に執着してきたのか？
講義	『公共性の構造転換』における政治の閉塞化	近代民主制が形骸化した経緯
講義	『コミュニケーション的行為の理論』の時代診断	システムによる「生活世界」の植民地化
講義	「討議倫理学」における発想の転換	「民主政治」が再生する可能性の条件
講義	自由主義経済と民主政治の均衡点	リベラリズムとコミュニタリアニズムの論争点
講義	情報革命以後の政治動向	民主政治は独裁政治に反転してしまうのか？
レポート	期末レポート	「活動」概念と「討議倫理学」の意義と限界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」にアップされている該当回の「講義用資料」を参照して、その要点や疑問点を整理し、授業のさいに確認・質問できるようにしておく。講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

授業内で適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（小論文形式）70 %、平常点 30 %の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。リアクションペーパー・Eメール・口頭での質問・意見から平常点を算出する。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」に掲載して、常時、確認可能にする（そのさい学生の個人名は伏せる）。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii や Zoom を利用できる電子端末

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the Public Philosophy as developed by Hannah Arendt and Jürgen Habermas who precisely define the democratic ideal against the political division in the present society. It deals with three themes as follow: 1. Arendt's critique of "totalitarianism" as political institution that denies human rights and free will and her political ideal as "vita activa" has its origin in ancient Greece, 2. The undemocratic features of "non-political thought" and "monologue reasoning" in western classical philosophies, 3. Habermas' critique of "procedural political system" and his "discourse ethics" for activating our "living world" as a basis for democratic consensus building. By the end of the course, students should be able to give careful consideration to the possibility and limit of the liberal and democratic society after the information revolution. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report: 70%, and in class contribution: 30%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講（6）－2

押山 詩緒里

授業コード：A2223 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの生きている世界は、多様な価値観、多様な文化、多様なアイデンティティ、多様な「意見」によって構成されています。多様さは、一方で人間存在の豊かな可能性の現れですが、他方で異なる価値観の間に摩擦を生じさせ、誤解と対立を招く原因でもあります。

こうした人間の多様さについて思索をしたのが、20世紀を代表する政治哲学者の一人であるハンナ・アーレント（Hannah Arendt, 1906-1975）です。アーレントによれば、自由で平等な公的空間は、政治的な「想像力」（imagination）によって形成可能になります。政治的な想像力とは、自分とは異なる他者の立場について、自分自身の頭で考える働きを意味しています。人間一人ひとりが想像力によって、異質な他者と「語り」と「聴取」の関係をそのつど形成することが、政治の本来の意味であり、人間として生きるための根源的な条件だということです。

なぜアーレントは、政治的な想像力と公的空間の重要性を主張したのでしょうか。それは、「誰もが公の場所に姿を現し、声を発すること」ができなくなったとき、どれだけ悲惨で、非人間的な事態が起こるのかを、自身の体験とともに知っていたからです。その最も象徴的な事例は、20世紀のナチスドイツ政権下で行われた大量虐殺であり、絶滅収容所でした。

本授業では、アーレントの『人間の条件』（1958）を基本的なテキストとして、哲学的思索の重要性や、「異質な他者と共に生きること」の意味について考えます。アーレントの思索を学ぶことを通じて、参加者の一人ひとりが哲学的な問いを自分自身の問題として考える力を身につけることを目指します。

【到達目標】

- (1) 「哲学的思索」の訓練を通じて、論理的な思考力と、自分自身の問題と結びつける実践的な思考力を身につける。
- (2) アーレントの政治哲学の基本的な知識を学ぶ。
- (3) 受講者ひとりひとりが、自分自身の生き方について、自分の頭で考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は対面による講義形式で行います。
- ・学習支援システムを通じて、授業資料の提示を行います。
- ・毎回の授業でリアクションペーパー（ミニレポート）の配布と回収を行い、次の授業の冒頭でペーパーに対する回答やコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業概要 ・レジュメ、レポートの書き方について ・卒論の書き方について ・アーレントとは誰か？
第2回	『人間の条件』①	・労働、仕事、活動
第3回	『人間の条件』②	・政治的自由とはなにか？
第4回	『人間の条件』③	・人間存在の「かけがえのなさ」
第5回	『人間の条件』④	・「生の物語」の開示と聴取
第6回	『人間の条件』⑤	・制作と活動
第7回	『人間の条件』⑥	・「現れの空間」とはなにか？
第8回	『人間の条件』⑦	・「政治的想像力」と「共通感覚」
第9回	『人間の条件』⑧	・行為の不可逆性と赦し
第10回	『人間の条件』⑨	・行為の予測不可能性と約束
第11回	アイヒマン裁判	・根源悪と「悪の凡庸さ」
第12回	「哲学的思索」とはなにか	・カント、ハイデガー、アーレントにおける「思考」の意味
第13回	現代的な意義と課題	・ジュディス・バトラーのアーレント批判 ・アーレントとパレスチナ ・「真理」と「意見」の差異
第14回	まとめ	・授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業前に、次回範囲のテキストを必ず読んでおくこと。
- ・本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・ハンナ・アーレント『人間の条件』、志水速雄訳、筑摩書房、1994年

【参考書】

- ・Hannah Arendt, *The Human Condition*, 2nd ed., introduction by Margaret Canovan, University of Chicago Press, 2018.
- ・H・アーレント『イェルサレムのアイヒマン——悪の陳腐さについての報告』（新版）、大久保和郎訳、みすず書房、1994年
- ・R・J・バーンスタイン『根源悪の系譜——カントからアーレントまで』、阿部ふく子ほか訳、法政大学出版局、2013年（新装版2021年）
- ・E・ヤング＝ブルーエル『なぜアーレントが重要なのか』、矢野久美子訳、みすず書房、2008年
- ・M・カノヴァン『アレント政治思想の再解釈』、寺島俊徳・伊藤洋典訳、未來社、2004年
- ・杉浦敏子『ハンナ・アーレント入門』、藤原書店、2002年
- ・千葉真『アーレントと現代——自由の政治とその展望』、岩波書店、1996年
- ・押山詩緒里『〈砂漠〉の中で生きるために——アーレント政治哲学の現象学的研究』、法政大学出版局、2024年
- ※ その他必要なものは、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験・レポート（30％）、授業内レポート・レジュメ（30％）、平常点（40％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・哲学のテキストは、抽象的な表現や、難解な専門用語が多く用いられています。そのため、身近な事例などを挙げながら、具体的に分かりやすく説明するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパー、課題提出等に学習支援システムを利用することがあります。授業前後に確認してください。

【その他の重要事項】

- ・本授業は「自分自身の頭で哲学的思索の訓練」を行う場所です。そのため、レポート等における生成AIツールの使用を禁止します。
- ・受講希望者は、初回授業に必ず出席するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Modern society is composed of plural values, plural cultures, plural identities, and plural opinions. Plurality, on the one hand, is a manifestation of the rich possibilities of human existence, but on the other hand, it gives rise to misunderstandings and conflicts between different values.

Hannah Arendt (1906-1975), one of the leading political philosophers of the 20th century, considered plurality of human being. This course aims to study meaning and problems of "living with other", using Arendt's *The Human Condition* (1958) as the basic text.

According to Arendt, the public space composed among plural people is constituted by imagination, the ability to think in one's own mind about the position of others who are different from oneself.

Why did Arendt insist on the importance of imagination and public space? Perhaps it is because she knew from her own experience that the loss of freedom of voice and public space causes tragic and dehumanizing situations. The most symbolic example of this was the genocide and extermination camps under the Nazi regime in the 20th century.

The purpose of this course is to consider what the imagination means for our political life. By reading Arendt's text, students will be expected to develop the ability to think for themselves about a variety of issues.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to think philosophically.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 40%.

PHL300BB（哲学 / Philosophy 300）

哲学特講（7）－1

富田 絢矢

授業コード：A2224 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、哲学の中でも特に、「道徳哲学」を中心に扱います。

「道徳」というと、みなさんは何を思い浮かべますか？ 他の人に「親切」にすることでしょうか？ たしかに、道徳的な人はたいてい親切ですが、道徳哲学において「道徳」と言うときはもっと狭く、〈人間ならば誰もが最低限守るべき決まりごと〉のことを指します。とはいえ、具体的に何をすると決まりごと違反になるのでしょうか。多分こう言われて、みなさんの頭の中にはまず、「常識」的な考え方の数々が浮かぶでしょうけれども、そうした「常識」は、どこまで根拠のあるものなのでしょう？ 他の人の目を気にせず考えたときに、あなた自身は、それらの常識に心から納得できますか？ 道徳哲学とは、簡単に言えば、〈道徳について、じっくり考えた上で、たしかに守る価値があると思われる決まりごとを見定める〉こと、言い換えれば、〈よく考えてみたら大して根拠のない慣習は、きっぱり切り捨てる〉こと、また、そうして〈新たな決まり事を率先して考案すること〉です。

本授業では、わたしたちが現実の生活の中で判断を迫られている「応用」問題と、哲学者たちが悩み抜いた未考案してきた「理論」とを往復しつつ、道徳哲学の基礎知識の獲得を目指します。

【到達目標】

- （１）日々の中に道徳の問題を見つけ、「本当にこの慣習のままでよいのだろうか？」と立ち止まる知的体力をみなさんが身に着けること。
（２）（１）に際して、まったくの素人考えというわけではなく、道徳哲学の専門的な道具立てを使って考える、一定程度熟達した技法をみなさんが獲得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による一方的な講義のみでなく、グループディスカッションを用い、互いに意見交換・議論しつつ進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	道徳哲学とは何であるか	道徳とは何か、それについて哲学的に考えるとは何をすることなのかを考えます。
第2回	通俗的道徳を乗り越える（１）——不快と《シンセツ》	通俗的に「道徳」と呼ばれる《シンセツ》について、批判的に検討します。
第3回	通俗的道徳を乗り越える（２）——義務論と《シンセツ》	第2回で見た《シンセツの道徳》を、義務論の立場から批判的に検討します。
第4回	喫 煙	タバコ規制をめぐる繰り広げられがちな通俗的な議論を乗り越えることを目指します。
第5回	変容の経験・平等について（１）	私たちのアイデンティティがさまざまな経験を通じて「変容」することについて考えます。また、男女平等について考えます。
第6回	平等について（２）——そもそも平等とは何なのか	カントの「人間性の方式」や、基本的人権を踏まえつつ、私たちの等しさが何にあるのかを考えます。
第7回	ケアの道徳・過集中・依存	ケアの道徳の強みを引き継ぎつつ、単なる依存ではない道徳的依存について考えます。

第8回	功利主義	ときには悪名高い「功利主義」ですが、ここでは功利主義の何が画期的だったのかを考えます。
第9回	ルッキズム（１）——イケメンや美人が好きで悪いか	よく問題にされる「ルッキズム」ですが、それはどのように定義されるべきなのかを考えます。
第10回	モノ化・ヘア主義的な平等	ルッキズムの問題を紐解くのに、「モノ化」の概念でどこまでいけるか、考えてみます。
第11回	ルッキズム（２）・サールの構成的規則	ルッキズム問題に、ヘア主義に基づいて一応の終止符を打った上で、いよいよ道徳の一般原則を考える準備に取り掛かります。
第12回	契約論とマッキー	道徳についての契約論の基礎的知識を踏まえた上で、マッキーの契約論を批判的に検討します。
第13回	道徳と人生の意味（１）	道徳が生き方の問題である以上、それは人生の意味と無関係でありえません。ここでは人生の意味について考えるための道具立てを作ります。
第14回	道徳と人生の意味（２）	人生の意味について論じられるようになった上で、この議論がもつ暴力性について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の最後に小課題を示し、それに対して解答してもらい、期限までに提出してもらいます。なお、小課題においては、みなさんの側からも問題提起をしてもらうため、これが予習を兼ねます。これらを合わせて4時間程度を想定しています。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は使いません。授業に必要な資料は、すべて授業時に配布します。

【参考書】

【基本書】

- ・永井玲衣『水中の哲学者たち』晶文社、2021年。
- ・ジュリアン・パッジーニ、ピーター・フォスル（長滝祥司、廣瀬覚訳）『倫理学の道具箱』共立出版、2012年。

【より専門的に学びたい人へ】

- ・永井均『倫理とは何か——猫のアインジヒトの挑戦』ちくま書房、2011年。
- ・富田絢矢『道徳はなぜ価値判断の問題になるのか——ヘアの道徳哲学と好敵手たち』名古屋大学出版会、2023年。

【成績評価の方法と基準】

【各回の小課題】 80 %

小課題の詳細については、授業時間外の学習の欄に記載の通りです。なお、原則以下の二つの規準によって評価を行います。

- （１）授業の内容を踏まえていること。
（２）みなさん自身の心からの疑問に基づく、独自の観点からの問題提起が為されていること。

【学期末レポート】 20 %

評価規準は小課題と同じです。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目なので、アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with applied ethics.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to be able to step back and think carefully about moral problems in daily life, using technical theories in ethics.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports in class: 80%, Term-end report: 20%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (7) - 2

鶴澤 和彦

授業コード：A2225 | 曜日・時限：水5/Wed.5
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カントと形而上学の問題

本授業では『純粋理性批判』の「弁証論」を講読しながら、特殊形而上学（魂・世界・神の存在）に対するカントの批判を考察するとともに、経験認識の体系的統一を目指す理念の統制的使用の意義を学びます。あわせて「自然」と「自由」の二律背反とその批判的解決が、カントの批判哲学体系の基礎となることを解説します。

【到達目標】

①『純粋理性批判』「弁証論」には、特殊形而上学を批判する消極的側面と、理念を統制的に使用する積極的側面があります。本授業を通じて、これらの側面を正確に理解できるようになります。
 ②カント哲学体系の根底にある「自然」と「自由」の二元論、すなわち彼の多元的思考の原点について学び、カント批判哲学体系の理解を深めることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行われ、3回から4回に1度の割合でグループワーク（ディスカッションを含む）の時間を取ります。グループワークの目的は、授業内容が理解されているかを確認すること、ならびに、ディスカッションを通じて内容理解の深化を図ることです。課題の出題・提出、評価は、学習支援システムHoppiiを通じて行います。出席・質問・感想は、各授業の教材欄にあるGoogle Formに記入してください。各授業の最後に、その認証コードをお伝えします。質問に対する解答は、次回授業時の冒頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入	授業のガイダンスのほか、導入として「形而上学」「弁証論」の意味を解説します。
第2回	序論	理性の論理的使用と純粋使用、「仮象」および「理念」、超越論的理念の体系について説明します。
第3回	第1章 純粋理性の誤謬	合理的心理学における魂（自我）の実体性、単純性に対する批判の論拠を説明します。
第4回	純粋理性の誤謬推論：同一性、現実性	合理的心理学における魂（自我）の同一性、現実性に対する批判の論拠を解説します。
第5回	第1回グループワーク	第1回から第3回までの課題と授業内容に関する質疑応答を行います。
第6回	第2章 純粋理性の二律背反	第1から第4の二律背反の論拠と解説を行います。
第7回	超越論的観念論	宇宙論的弁証論の解決の鍵としての超越論的観念論について解説します。
第8回	理性の統制的使用	自然必然性の普遍的法則と調和する自由による因果性の可能性を説明します。

第9回	第2回グループワーク	第5回から第7回までの課題と授業内容に関する質疑応答を行います。
第10回	第3章 純粋理性の理想	理想一般、神の現存在を推論する証明根拠の批判について解説します。
第11回	存在論的証明	神の現存在の存在論的証明に対する批判について説明します。
第12回	宇宙論的証明	神の現存在の宇宙論的証明に対する批判を解説します。
第13回	自然神学の証明	自然神学による神の現存在の目的論的証明に対する批判を説明します。
第14回	第3回グループワーク	第9回から12回までの課題と授業内容に関する質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定した箇所のテキストを読み、理解できない点をまとめる。また、それに関連する哲学の諸概念を調べる。（2時間）
 復習：再度テキストを読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認する。さらに質問があれば、Google Formに質問を記入してください。（2時間）

【テキスト（教科書）】

牧野英二編『新・カント読本』（法政大学出版局、2018年）

【参考書】

原佑/渡辺二郎[訳]『純粋理性批判』上、中、下（平凡社ライブラリー、2005年）

【成績評価の方法と基準】

①平常点と毎回の課題プリント（到達目標の知識と態度の習得）、②セメスター末の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①と②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、カントの理論哲学の概念とその議論を的確に理解しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで休んでも、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされてありますので、Hoppiiから教材をダウンロードして、自習なさってください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システムHoppiiとGoogle Formを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

Google Formに入力する出席は必須ですが、質問と感想の入力は任意です。授業終了後に出席だけ先に出して、後で質問と感想を書くこともできます。また、授業時間内にGoogle Formを入力する時間も設けます。

【Outline (in English)】

This course explores Kant's critique of special metaphysics and the regulative use of ideas in Critique of Pure Reason. We will also examine how the antinomy between "nature" and "freedom" shapes his critical philosophy.

The following are the aims of the study of Kant's dialectic.

1. Understand Kant's critique of special metaphysics and the regulative use of ideas.
2. Gain insight into the dualism of "nature" and "freedom" as the foundation of his philosophy.

Homework: Read the textbook and the handouts in Hoppii to get an overview (2 hours). Review the contents of the previous class using the handouts to ensure that you have acquired the knowledge of epistemology (2 hours). Grading Criteria: (1) Ordinary points, including class participation and assignment evaluations, and (2) the winter semester exam scores. Each component will account for 50% of the final grade.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講（8）－1

木島 泰三

授業コード：A2226 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：心理学科生は「科学哲学Ⅰ」として履修。
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「近代科学と目的論」をテーマとする。よく知られているように、17世紀科学革命はアリストテレスの「目的論的自然観」を根底から掘り崩す自然観の変動、すなわち「機械論的自然観」の成立をもたらした。だが、自然に対する目的論的な見方は直ちに消滅したわけではなく、「デザイン神学」に基づく自然神学やさまざまな生気論的思想としてその後も生き延びた。ダーウィンの自然選択説はデザイン神学を凋落させ、生命現象の目的論的説明を不要にしたが、それは同時に「目的論の自然化」を可能にし、現代進化生物学における「適応主義」という研究プログラムを可能にした。そして現在、このような適応主義プログラムは人間の心における「真の意味での」目的論な思考活動の「自然化」を射程に入れ始めている。本講義では、このような目的論的自然観と近代科学との複雑な関係を歴史的な経過を追う中で概観し、考察していくことを目指すものである。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項やそれと関連する哲学的諸問題について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
(2) その知識をベースに、上記の事項および諸問題に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後学習支援システムを通じて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、受講後学習支援システムから受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など
第2回	神話から哲学への移行と心のモジュール構造／ソクラテス以前の自然哲学	「神話から哲学へ」と称される古代ギリシャにおける哲学的／科学的思考の誕生を、現代における認知宗教科学（CSR）の知見をベースに考察する。続いて古代ギリシャの初期自然哲学を概観する
第3回	デモクリトスとプラトン	イオニア自然哲学の一つの頂点としてのデモクリトスの原子論と、その後に登場したソクラテス・プラトンによるそれへの反動を見ていく
第4回	アリストテレスの目的論的自然観(1)	師プラトンの神話的自然学を科学的な目的論的自然観へと構築し直したアリストテレス自然学を見ていく
第5回	アリストテレスの目的論的自然観(1)／ストア派とエピクロス派	引き続きアリストテレス自然学を見ていき、その後、目的論的自然観について対照的な立場をとったストア派とエピクロス派の自然哲学を概観する
第6回	中世の思想と17世紀科学革命	中世思想のいくつかの重要なトピックを概観した上で、17世紀科学革命の概観を示す
第7回	デカルトによる機械論的自然観の哲学的基礎づけ	17世紀科学革命の成果を体系化し、機械論的自然観を哲学的に基礎づけたデカルトの形而上学を概観する
第8回	ライブニッツとニュートンの論争	デカルト主義的機械論をベースにしつつ、なおも目的論的自然観の延命をはかる2つの路線としての「デザイン論」と「生気論」の初期の代表者としてのライブニッツとニュートンの論争を見ていく

第9回	ヒューム『自然宗教をめぐる対話』に見られるデザインの問題	ダーウィンに先立つ時代において自然目的論の問題を徹底して思索した哲学者ヒュームの『対話』を、当時の論争状況の批判的概観として読み解く
第10回	ダーウィンの自然選択説(1)	ダーウィン『種の起原』の前身とその核心に位置する自然選択説の内容を詳しく見ていく
第11回	ダーウィンの自然選択説(2)	引き続き、自然選択説について、それへのありがちな誤解の検討などを中心に見ていく
第12回	「ダーウィニズムの失墜」から総合説の成立、その背景となる生命観の変遷	ダーウィン以降に生じた「ダーウィニズムの失墜」と、その後の「総合説」の成立を、近代的生気論の歴史と共に見ていく
第13回	現代における「目的論の自然化」のさらなる動向	ダーウィンがもたらした「目的論の自然化」を補完する、分子生物学や「認知革命」などによる機械論的自然観の現代的勝利の経過を追う
第14回	社会生物学論争と進化論的人間観の哲学的考察	1980年代以降の「社会生物学論争」とそれ以降確立しつつある現代の進化論的人間観の歴史的な経過の学びとその哲学的考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後学習支援システムを用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてよい）。講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。特にレポート準備においてはこれら講義外での調査や学習も重要になる。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、主要な参考書として、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、ウリカ・セーゲルストローレ『社会生物学論争史——誰かが真理を擁護していた（1・2）』（みすず書房）、キース・E・スタノヴィッチ『the ROBOT'S REBELLION ロボットの反逆』（ダイヤモンド社）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】

各講義の受講確認課題により、「到達目標」(1)の到達度の評価、および、平常の受講態度の評価を行う(30%)。加えて、期末レポートによる(2)の到達度の評価を行う(70%)。

【学生の意見等からの気づき】

板書なるべく整理して書くこと、急がず落ち着いて語ることを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

受講確認課題、および期末レポートの提出のため、受講後学習支援システムにアクセス可能な端末が必要となる。講義資料をPDFファイルで配布する場合があります、pdf閲覧できる環境が望ましいが、できない場合は相談に応じる。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline:

Our theme is "Modern science and teleology". As is well known, the scientific revolution of the 17th century brought about a change in the view of nature that undermined Aristotelian teleological view of nature and the establishment of a mechanistic view of nature. However, the teleological view of nature did not immediately disappear, but survived thereafter as natural theology based on "design argument" and various vitalistic theories. Darwin's theory of natural selection caused the fall of design theology, rendering teleological explanations unnecessary, but it also made possible the "naturalization of teleology" and the research program of "adaptationism" in modern evolutionary biology. And now, such an adaptationist program is beginning to include the naturalization of "truly" teleological activity in the human mind. This lecture aims to review and discuss the complex relationship between such an teleological view of nature and modern science over the course of history.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through internet and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (70%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(30%) .

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (8) - 2

中釜 浩一

授業コード：A2227 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考 (履修条件等)：心理学科生は「科学哲学Ⅱ」として履修。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：自己と自己知。

「自己の正体と自己知の本性」の問題は、多くの哲学者を悩ませてきた難問の一つである。この問題に対するデカルト以降の代表的哲学者達の見解を現代的視点から検討することで、「自己」の問題への洞察を深める。

【到達目標】

「自己とは何か」に関する哲学者達の議論を理解し、「自己について知るとはということか」を考える際の哲学的論点を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とそれに対する学生からの疑問・質問、およびその解答によって議論を進める。

授業の冒頭で前回の小課題の解説、質問・疑問への解答をする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	「自己」はなぜ哲学の問題となるのか
第2回	デカルトと自己 (1)	「自己」と確実な知識
第3回	デカルトと自己 (2)	実体としての「自己」
第4回	ロックと自己 (1)	自己の同一性の問題
第5回	ロックと自己 (2)	身体と記憶
第6回	バークリーと自己 (1)	観念論と自己
第7回	バークリーと自己 (2)	想像力と自己
第8回	ヒュームと自己 (1)	「自己」の知覚不可能性
第9回	ヒュームと自己 (2)	「自己」の非存在
第10回	現代哲学と自己 (1)	ウィトゲンシュタインの議論 (1)
第11回	現代哲学と自己 (2)	ウィトゲンシュタインの議論 (2)
第12回	現代哲学と自己 (3)	パーフィットの議論
第13回	現代哲学と自己 (4)	シューメーカーの議論
第14回	まとめ	自己について何が解けていないのか

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に課された小課題をHoppii上で提出する。

デカルト、ロック、バークリー、ヒューム、ウィトゲンシュタインらの著作から「自己」に関する議論を読んでおく。

本講義の準備復習時間は、毎回4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

使用しない。

【参考書】

デカルト「省察」、ロック「人間知性論」、バークリー「人知原理論」、ヒューム「人間本性論」、ウィトゲンシュタイン「哲学探究」など。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出70%、期末レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

学生の疑問点には可能な限り答える。

【Outline (in English)】

Theme: Self and Self-knowledge

Problems of the Self and Self-knowledge is one of the most difficult philosophical problems which have puzzled many great philosophers over the centuries. We will discuss some of main positions since Descartes, and deepen our insight concerning our own Self.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the content and to write the short paper on the topic of the day.

Grading Criteria: assignments 70%term-end test: 30%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸批評史A

伊東 祐吏

授業コード：A2553 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本の近代文学の概説	前史と西洋近代文学の影響
第2回	批評とは何か	その特徴について
第3回	坪内逍遙と二葉亭四迷	日本の近代文学のはじまり
第4回	尾崎紅葉と幸田露伴	その後の文学の展開
第5回	森鷗外の評論	坪内逍遙との論争
第6回	北村透谷の批評	山路愛山との論争
第7回	高山樗牛の評論	作品と若者への影響について
第8回	斎藤緑雨の箴言	風刺と皮肉の効用
第9回	正岡子規の歌論	短歌・俳句と写生文
第10回	自然主義の誕生	国木田独步、島崎藤村、田山花袋
第11回	言文一致運動	その過程の論争
第12回	反自然主義	自然主義と違う立場の作家
第13回	平塚雷鳥と与謝野晶子	女性解放運動をめぐる批評
第14回	大逆事件	石川啄木や徳富蘆花の評論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇] および[昭和篇]（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50%for regular work and 50%for presentations (assignments).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸批評史B

伊東 祐吏

授業コード：A2555 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大正・昭和期の文学の概説	20世紀の西洋文学との比較
第2回	夏目漱石の批評	文明批評について
第3回	和歌と漢文	日本人の文化的喪失について
第4回	白樺派	武者小路実篤の作品と批評
第5回	佐藤春夫と印象批評	菊池寛との論争
第6回	谷崎潤一郎と芥川龍之介	純文学と通俗小説に関する論争
第7回	プロレタリア文学と新感覚派	関東大震災後の新たな潮流
第8回	小林秀雄の批評	日本における近代文芸批評の確立
第9回	戦時下の文学と言論	日本浪漫派と文学報国会
第10回	敗戦と占領下の批評	終戦直後の状況について
第11回	坂口安吾と太宰治	無頼派の批評や作品について
第12回	「政治と文学」論争	「近代文学」と中野重治の論争
第13回	吉本隆明と江藤淳	戦後を代表する左派と右派の思想
第14回	ポストモダンとその後	柄谷行人と加藤典洋について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇]および[昭和篇]（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50%for regular work and 50%for presentations (assignments).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

中国文芸史A

遠藤 星希

授業コード：A2561 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【先秦・漢・魏・晋・南北朝文芸史】

中国文芸史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白や杜甫、白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、その唐詩を生み出す源泉となった唐より前の時代の文芸がどのようなものであったのかを学ぶ。

【到達目標】

先秦時代から南北朝時代までの文芸史のアウトラインを理解すること。また、各時代の代表的な文学作品を読解することを通して、中国文芸の様々なジャンルについて広く学び、同時に作品の背景にある中国文化や民間習俗、日本文化との違いについても確認すること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受けつける）。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中国古典文学についての概説
第2回	中国神話	中国の古代神話とその特徴について
第3回	詩経	中国最古の歌謡集である『詩経』の歌謡を読む
第4回	楚辞	戦国時代の楚の地方で発祥した韻文『楚辞』の諸篇を読む
第5回	諸子百家	戦国時代の諸子百家の思想書を読む
第6回	漢代の楽府	「楽府」と呼ばれる民間歌謡を読む
第7回	漢代の賦と『史記』	漢代に盛行した「賦」と呼ばれる文学ジャンルと司馬遷の『史記』から、漢代の人々の世界観をさぐる
第8回	漢代の古詩	漢代に発祥した五言詩を読む
第9回	西晋の文学（1）	西晋の代表的文人である潘岳の悼亡詩を読む
第10回	西晋の文学（2）	西晋の左思が自分の娘を詠んだ「嬌女の詩」を読む
第11回	六朝志怪小説（1）	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第12回	六朝志怪小説（2）	志怪小説中に見える異類婚姻譚を読む
第13回	陶淵明の詩賦と南朝の艶詩	東晋の陶淵明の作品と、南朝で流行した「艶詩」と呼ばれるジャンルの詩を読む
第14回	南朝の民歌	南朝の民間歌謡に見える恋の歌を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975年）
・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will focus on the literature and the underlying social background of the most ancient periods, from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese, and in this course we will learn about the characteristics of literature of periods prior to the Tang dynasty, which formed the foundation for the creation of Tang poetry.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. understand the outline of the history of literature from the Pre-Qin Dynasty to the Northern and Southern Dynasties;
- B. have knowledge of the various genres of Chinese literature through reading representative literary works of each period, and at the same time understand the background of Chinese culture, folk customs, and differences with Japanese culture; and
- C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

中国文芸史B

遠藤 星希

授業コード：A2563 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【唐代文芸史】

中国文芸史における時代区分のうち、日本文学への影響力がとりわけ強かった唐代の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白・杜甫・白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、唐代の文芸ジャンルは詩だけではなく、「伝奇」と呼ばれる小説や韓愈・柳宗元らの散文も文芸史上において重要な意義を持っている。本授業では、唐代各期の様々なジャンルの文学作品を読解することを通して、唐代に書かれた詩や小説・散文の多様性、現代にも通じるその芸術性及び現代では理解しがたい特殊性などについて、幅広い知識を習得する。

【到達目標】

唐代文芸史のアウトラインを理解すること。また、唐詩の形式的特徴（絶句・律詩など）や内容的特徴（辺塞詩・閨怨詩・送別詩など）及び唐代に書かれた小説や散文の特徴について、具体例に即して人に説明できるようになること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受けつける）。課題や質問に対するフィードバックは、次の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（1）	唐代文学についての概説
第2回	ガイダンス（2）	中国古典詩における諸々の規則についての概説
第3回	初唐の詩	初唐の代表的な詩人の作品を読む
第4回	辺塞詩	辺境地帯の風物や出征兵士の嘆きを詠じた「辺塞詩」というジャンルの詩について
第5回	閨怨詩	愛の喪失を嘆く女性の姿を詠じた「閨怨詩」というジャンルの詩について
第6回	盛唐の詩（1）	中国を代表する詩人であり、「詩仙」とも呼ばれる李白の詩を読む
第7回	盛唐の詩（2）	中国を代表する詩人であり、「詩聖」とも呼ばれる杜甫の詩を読む
第8回	唐代伝奇小説（1）	唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短篇小説についての概説
第9回	唐代伝奇小説（2）	中国では散逸し、日本に渡って生き残った伝奇「遊仙窟」を読む
第10回	唐代伝奇小説（3）	中島敦「山月記」の粉本として知られる伝奇「李徴」を読む
第11回	唐代伝奇小説（4）	芥川龍之介による翻案で知られる伝奇「杜子春」を読む
第12回	中唐の詩	中唐の代表的な詩人である韓愈・柳宗元・李賀の詩を読む
第13回	唐代古文運動	中唐期に勃興した古文復興運動について概説し、あわせて韓愈と柳宗元の散文を読む
第14回	晩唐の詩	晩唐期の代表的な詩人である杜牧と李商隠の詩を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

- ・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975年）
- ・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005年）
- ・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話だけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will be focus on the literature and the underlying social background during the Tang dynasty, when there was a particularly strong influence on Japanese literature. As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese. Poetry, however, was not the only literary genre of the Tang, and novels called *chuan-qi* as well as the prose of Han Yu and Liu Zongyuan are particularly noteworthy in the history of Chinese literature. In this course, through reading literary works of various genres from each period during the Tang, we will attain broad knowledge of the diversity of poetry, novels and prose written during the Tang dynasty, their artistry that can be appreciated today, as well as peculiarities that are difficult to understand today.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. understanding the outline of Tang-Dynasty literary history;
- B. understand the form and content of Tang poetry and the characteristics of novels and prose written in the Tang Dynasty; and
- C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT300BC (文学 / Literature 300)

書誌学

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2566 | 曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・授業の概要
本授業では、書誌学の基礎を講ずるとともに、くずし字解説を行い、翻刻の基礎力を養います。
書誌学とは、「本」そのものを研究対象とする学問です。本の形態や歴史、料紙や出版書肆など幅広く精査し、それを踏まえてその本の作成年代や流通などについて追究することを目的とします。本授業では、とくに日本の江戸時代までの本を対象とし、書物の装訂や素材、出版の展開など、書誌学の基礎的なことについて講義します。
・授業の目的
日本古典籍書誌学の基礎を学ぶことを目的とします。本にまつわる様々な文化、およびそれを作りあげた人々の知の世界と一緒に眺め学んでゆきましょう。書誌学を学び和本の知識をもつことは、将来、学芸員や司書、その他、本や文化財に携わりたいというかたにおおいに役立ちます。また、今日の本や出版の文化への理解を深めることにもつながります。

【到達目標】

・「書誌学」の概念を知る。
・日本古典籍書誌学の基礎的事項、とくに江戸時代までの写本と版本の特徴や歴史、本にまつわる文化について理解し、かつそれらを的確に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業各回において、まず書誌学的な調査研究に欠くことのできない基本的なくずし字の解説（翻刻）作業を行います。次いで、日本古典籍書誌学の基礎的事項を講義してゆきます。
・くずし字については写本・版本の教材（和歌等）を皆で翻刻してゆく時間を設けます。書誌学についてはパワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。
・毎時、リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。
・受講生の数によって、授業内容に若干の変更が生ずることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・「書誌学」という学問の概要や目的について ・くずし字の基礎について ・授業計画について
第2回	装訂の様々	・卷子本から冊子本に至る、書物の主な装訂と発展について
第3回	写本の姿（1）	・写本に関する様々な用語の意味と使い方について
第4回	写本の姿（2）	・転写本における「写す」方法と特徴について
第5回	古筆切と手鑑	・古筆切の種類と特徴、および手鑑の歴史について
第6回	料紙について（1）	・紙の歴史、および和紙の材料と製法について
第7回	料紙について（2）	・日本の加工料紙、とくに平安時代の料紙装飾について
第8回	版本の歴史（1）	・版本の種類に関する概説
第9回	版本の歴史（2）	・中世までの印刷の歴史について ・キリシタン版について
第10回	版本の歴史（3）	・古活字版の特徴と種類について ・古活字版から整版本への移行について
第11回	江戸時代の本屋について	・書肆（本屋）の始まりと展開について
第12回	本の顔かたち（1）	・本の構成要素、とくに、「表紙」「外題」のバリエーションについて

第13回	本の顔かたち（2）	・本の構成要素、とくに、「内題」「奥付」「刊記」について ・前回の講義内容とあわせ、書物の特徴を理解するための観点について講ずる
第14回	まとめ	半期の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・参考文献や授業資料に予め目を通し、授業に臨みましょう。
・随時配布される復習用プリントをもとに復習に努めましょう。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

くずし字の翻刻のために笠間影印叢刊行会編『字典かな』（笠間書院）を用意すること（他社の字典をすでにお持ちであればそれを使用して構いません）。書誌学に関してはテキストを定めず、配布プリントを用います。

【参考書】

・廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社、1998年）
・『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、1999年）
・橋口侯之介『和本入門』・『続和本入門』（平凡社、2005年・2007年）
・堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010年）
このほか、授業時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（70%）に、平常点（30%）を加味して評価します。期末試験は筆記試験とし、書誌学という学問の意味を理解したか、そして、授業において講じた書誌学の基本事項を理解したかを主な評価基準とします。後者は、書誌学的事項を正しく説明できるかについての評価も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

実際の古典籍を多く見せたり、現代の書物・出版物との関連を示すなどすることで、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: *Shoshigaku* (“bibliography”) is the study of books. This course deals with the basic concepts of bibliography.

Learning Objectives: The purposes of this course are as follows:

- (1) to master basic knowledge of classical Japanese bibliography
- (2) to understand the culture of books

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course.

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (70%); performance in class (30%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

メディアと社会

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2568 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸創作は社会から孤立した営為ではありません。文芸作品は社会の中に置かれています。この講義では、社会の中に置かれた文芸創作、文章表現などがどのような問題性をもっているのかを学んでもらいます。同時に創作とは何か？表現とは何か？という根本的な問題を現実の事例を通して、受講生ひとりひとりに考察してもらうことが目標になります。

Relationship between media and society

【到達目標】

社会的制度から創作とは何を考えるのが目的です。また情報技術の変化がメディアにもたらす変化についても考察する手がかりを得てください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式です。講師にはそれぞれの分野の第一線で活躍している先生方をお招きしています。授業時にはコメント付きの出席をとります。コメントはHOPPIIを用いて提出してもらいます。コメントの内容については授業時に適宜、御紹介いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業のねらいについてお話しします。(中沢けい)
第2回	韓国文学を紹介する。	近年、韓国の文化、芸術は多方面にわたり注目を集めています。そのなかから日本での韓国文学の受容についてお話いただきます。
第3回	同上	金承福講師（クオン主催者）
第4回	海外の著作権取得について	翻訳書を作る時、海外から著作権を取得します。それはどのような作業なのでしょう。
第5回	同上	山口和人講師（元講談社文芸局勤務）
第6回	アニメーションをプロデュースする。	多様な人が関わるアニメーション制作の現場でのプロデュースについてお話いただきます。
第7回	同上	石井龍講師（アニメーションプロデューサー）
第8回	編集とはどのような仕事か	編集をいうものが持つ意味を広い視野で捉えます
第9回	同上	仲俣暁生講師（編集者）
第10回	ノンフィクションの現在	ノンフィクションの意味。現在のノンフィクションについて考えます。
第11回	同上	安田浩一講師（ノンフィクション作家）
第12回	建築と文学の空間創造	文学と建築、この一見、異なる世界の繋がりを考えてみましょう。
第13回	建築と文学の空間創造	鈴木隆之講師（建築家、小説家）
第14回	現代社会と表現の相克	中沢けい まとめの講義とともに受講生の意見交換をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第一線で御活躍の講師の先生をお招きしてお話をお聞きます。講師の御著作を紹介いたしますので、読んでおくようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にそれぞれの講師からプリントが配布されます。プリントはレポートで使用しますのでファイルしておいて下さい。

【参考書】

講師から提示されます。

【成績評価の方法と基準】

「配分（％）」：レポート30％ 平常点 70％

「評価基準」：積極的な授業参加と洞察力に富んだレポート内容。

【学生の意見等からの気づき】

現在、起きていることについて具体的な講義を聞くのがこの授業の目的です。新聞報道などに多く目を通し、感覚を磨くようにしておくことが重要になります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：ご都合などにより講義の順番が変更されることがありますのでご注意ください。

中沢けい

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Literary creation is not an activity isolated from society; on the contrary, literary works are situated within society. In this course, students will learn about the issues involved in literary creation and written expression in society.

Learning Objectives: The objective is to consider what creation means from the perspective of social systems and institutions. The course will also provide hints for considering the changes that shifts in information technology are bringing to the media.

Learning Activities Outside of the Classroom: We will invite lecturers who are active in the forefront of the field to speak to us. Please be sure to read the lecturers' publications. Standard preparation and review time for each class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Performance in class (70%); report (30%). The criteria are active class participation and insightful report content.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

表現と著作権A

平井 彰司

夜間時間帯

授業コード：A2584 | 曜日・時限：火5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権の歴史と権利の淵源を概観し、著作権法を読み解くことを通じて、著作権思想の全体像をつかむ。著作権の基礎を学習して、著作権と社会との関係がテーマの秋学期へと繋ぐ。

【到達目標】

我が国著作権法の主要な規定について、その内容と効用を習得することを目指す。併せて文学部生に求められる法秩序の基本を理解し、法律の記述ルールや条文読解のポイントを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者が法律学の基礎カリキュラムを通過していないことを前提に講義形式で行います。また、必要に応じて発言を求める場合があります。原則として、毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。疑問や意見、感想など自由に記入してください。次回以降にフィードバックを行うとともに、授業の進行に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	文学部生が身につけるべき著作権理解について考える。
第2回	創作の系譜	作品の形式と伝達の変化を抑えつつ、創作行為と受容の類型を理解する。
第3回	近代著作権の概要	著作権誕生の背景とそれを支える思想、概念の変遷をたどる。
第4回	著作権法	我が国の法秩序における位置づけの確認と、基本的な構成を概観する。
第5回	著作物	著作物とは何か。類例を基に著作性について考える。
第6回	著作者	著作者とは誰か。著作者者との違いとは何かを整理する。
第7回	保護の対象・期間	法律で保護される種類と範囲を見ていく（海外作品も含めて）。
第8回	権利の種類	著作権者が専有する権利（支分権）の詳細を理解する。
第9回	権利の制限	例外的に権利者の許諾なしに利用可能な場合と、その要件を整理する
第10回	人格権・隣接権	著作者の財産権以外で法律に規定されている権利を知る。
第11回	許諾・契約	著作物の利用許諾の態様や利用契約の実際に触れる。
第12回	著作権管理、補償金	多くの著作権を集めて管理したり、補償金を分配する組織の実際に触れる。
第13回	裁定・登録・あっせん	私権である著作権に対して行政が調整的機能を持つ事例を見ていく。
第14回	補足・まとめ	学習の成果を踏まえ、著作権の基礎を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した参考文献・資料等には極力目を通しておくこと。折に触れて、世界史や国際関係、ビジネスに関する知識が求められます。各受講者の必要に応じた予備学習を心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

Please make an effort to read through the references and materials introduced in class as much as possible. Knowledge of world history, international relations, and business will be required from time to time. Please be mindful of doing preliminary study according to your needs. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

【テキスト（教科書）】

最新の著作権法をネットや図書館等を通じて準備すること。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを含む平常点50%、期末レポートの内容50%を評価の目安とします。

The grading criteria will be 50%based on regular class performance including reaction papers and 50%on the content of the final report.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

表現と著作権A・Bの通年履修を推奨します。

日本文藝家協会事務局長。筑摩書房にて知的財産の保護・活用、デジタルビジネスの企画・開発、表現の自由と人権問題等の編集コンプライアンスを掌管。著作権領域に関する出版界全体の調整、著作者団体・各種利用者・関係省庁等へのロビイングに従事。2021年より現職。

<専門領域>出版分野を中心とした著作権実務全般

<研究テーマ>著作権制度、メディア論、出版論

<主要研究業績>特になし

【Outline (in English)】

The course provides an overview of the history of copyright and the abyss of rights, and through a reading of copyright law, students will grasp the overall picture of copyright thought. The course will connect to the fall semester, in which the theme will be the relationship between copyright and society, by learning the basics of copyright.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

表現と著作権B

平井 彰司

夜間時間帯

授業コード：A2586 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権そのものへの理解を深めた春学期を受けて、テクノロジーの進化／深化を軸に著作権と外部とのかわり＝社会との相互関係やビジネスとの相克等を総合的に考察していく。

【到達目標】

法律条文の解釈論にとどまらず、社会全体の視座から著作権が創作・媒介・受容の営みに果たす役割について理解し、文学部生として身につけるべき著作権リテラシー習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者が法律学の基礎カリキュラムを通過していないことを前提に講義形式で行います。また、必要に応じて発言を求める場合があります。原則として、毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。疑問や意見、感想など自由に記入してください。次回以降にフィードバックを行うとともに、授業の進行に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	著作権の基本を再確認し、現状が抱える諸問題の射程を整理する。
第2回	紛争処理・罰則	民事解決と刑事罰、賠償額の算定や罰則の水準について学ぶ。
第3回	係争と裁判手続	著作権裁判の実例を見ていくとともに、和解解決やソフトローを紹介する。
第4回	著作権制度	法律改正の要件から成立、公布・施行、運用までのプロセスを理解する。
第5回	知的財産権	知的財産権一般と対比しながら、他とは一線を画す特殊な性格を知る。
第6回	文字記録・印刷物	グーテンベルク以前から現代まで。パッケージの進歩や頒布方法を含めて。
第7回	保存・再生技術の歴史	画像・音声・映像。創作の領域を拡張する技術の進化をたどる。
第8回	伝達手段の展開	移動・運搬から通信・放送へと位相を転じた伝達の変遷を見ていく。
第9回	デジタルテクノロジー	コンピュータとネットワークの進化は著作物をめぐる環境をどう変えたか。
第10回	出版物の電子化	書籍書籍・電子ジャーナル等を手掛かりに読書行為への影響を探る。
第11回	海賊版・アーカイブ	著作権を制限する運動やデジタルアーカイブの展開、海賊版対策の実態を知る。
第12回	A I ・メタバース	創作と伝達、受容をとりまく最新のトピックを採り上げる。
第13回	著作権とは	著作権の性質と構造を再確認し、社会における意義や射程について考察する。
第14回	補足・まとめ	現在の著作権システムの考察を通じて、創作・媒介・受容の未来を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した参考文献・資料等には極力目を通しておくこと。折に触れて、世界史や国際関係、ビジネスに関する知識が求められます。各受講者の必要に応じた予備学習を心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

Please make an effort to read through the references and materials introduced in class as much as possible. Knowledge of world history, international relations, and business will be required from time to time. Please be mindful of doing preliminary study according to your needs. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

【テキスト（教科書）】

最新の著作権法をネットや図書館等を通じて準備すること。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを含む平常点50%、期末レポートの内容50%を評価の目安とします。

The grading criteria will be 50%based on regular class performance including reaction papers and 50%on the content of the final report.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

表現と著作権A・Bの通年履修を推奨します。

日本文藝家協会事務局長。筑摩書房にて知的財産の保護・活用、デジタルビジネスの企画・開発、表現の自由と人権問題等の編集コンプライアンスを掌管。著作権領域に関する出版界全体の調整、著作者団体・各種利用者・関係省庁等へのロビイングに従事。2021年より現職。

<専門領域>出版分野を中心とした著作権実務全般

<研究テーマ>著作権制度、メディア論、出版論

<主要研究業績>特になし

【Outline (in English)】

Following the spring semester in which we deepened our understanding of copyright itself, we will comprehensively examine the relationship between copyright and the outside world = interrelationships with society and conflicts with business, etc., centered on the evolution/deepening of technology.

LIT100BC (文学 / Literature 100)

古文・漢文の基礎

栗山 元子

授業コード：A2604 | 曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今年度は江戸後期の学者・尾崎雅嘉著『百人一首一夕話』を題材に、百人一首作者についての評伝を読む中で、歌の解釈・歌人の逸話・歌に影響を与えた漢籍故事や漢詩文などについて学んでいきます。その過程を通じて古文や漢文を読み解くのに必要な基礎知識を学び直し、古典作品への理解・興味を深めていくことを目指します。

【到達目標】

- ①古文・漢文を理解するのに役立つ文法などを学び直し、正確な理解ができる力を養います。
- ②古典や漢文を読むにあたって必要な文学史・歴史的背景について知ること、古典作品をより深く理解することができます。
- ③古典作品に対する解釈が一樣ではなく、多様な解釈がさまざまな語られていることを知ることで、文学の受容という問題への視点を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとして岩波文庫『百人一首一夕話』を使用し、必要に応じて、参考資料を配布します。
- ・授業は対面で行い、講師による講読を行います。理解の促進のためにパワーポイントも使用します。
- ・毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を課します。
- ・リアクションペーパーに対するフィードバックは次回の授業の冒頭が第14回のまとめの回で行います。メールでの質問などは常時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容・方針についての説明を行います。
第2回	巻の一・「安倍仲磨」を読む	安倍仲磨の百人一首歌の解釈・逸伝中に引用される漢詩文の解説などを行います。
第3回	巻の二・「小野小町」を読む①	小野小町についての評伝を読んでいます。文が長いので、二回に分けて読んでいきます。
第4回	巻の二・「小野小町」を読む②	小野小町についての評伝を読んでいます。文が長いので、二回に分けて、前回に続いて講読していきます。
第5回	巻の二・「蟬丸」を読む	蟬丸の評伝を読み、歌の解釈・蟬丸をめぐる逸話の展開について確認していきます。
第6回	巻の二・「参議簋」を読む	小野簋の百人一首歌の解釈・逸話の読解・逸伝中に引用される漢詩文の解説などを行います。簋をめぐる伝説についても紹介します。
第7回	巻の二・「河原左大臣」を読む	源融の百人一首歌の解釈・評伝に引用される河原院伝説の紹介を行います。
第8回	巻の二・「在原業平朝臣」を読む	在原業平の百人一首歌の解釈・評伝を講読します。
第9回	巻の三・「菅家」を読む①	菅原道真の百人一首歌の解釈・評伝を講読し、引用された漢詩文の読解も行います。
第10回	巻の三・「菅家」を読む②	前回に続き、菅原道真の百人一首歌の解釈・評伝を講読し、引用された漢詩文の講読も行います。
第11回	巻の三・「菅家」を読む③	菅原道真の評伝が長文のため、三回に分けて読んでいきます。あわせて道真作の漢詩文の講読も行います。
第12回	巻の四「壬生忠見」を読む	壬生忠見の百人一首歌の解釈・評伝の講読を行います。
第13回	巻の四・「藤原実方朝臣」を読む	藤原実方の百人一首歌の解釈・評伝の講読を行います。
第14回	まとめと試験	授業のまとめと総括、理解度を測る試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にはテキストで取り上げる人物についての記載内容を読み、大体の概要をつかんでおいてください。また授業後には授業内容を整理・復習し、古語や歴史用語などの言葉についても辞書などで確認をしておいてください。授業前後の学習は各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は『百人一首一夕話（上）』（尾崎雅嘉著・古川久校訂 岩波文庫 黄235－1 ISBN9784003023518）を使用します。上巻のみを今回は扱いますので、下巻は購入せずとも結構です。

【参考書】

『百人一首で読み解く平安時代』（吉海直人著 角川選書 516 ISBN9784047035164）、『百人一首の作者たち』（目崎徳衛著 角川ソフィア文庫 ISBN9784044056018）、『百人一首－編集がひらく小宇宙』（田淵句美子 岩波新書新赤版 ISBN9784004320067）など。

【成績評価の方法と基準】

- ①毎回の授業を踏まえてのリアクションペーパーを授業時間内に提出してもらいます。
- ②最終週に試験を行います。
- ③これらを授業に対する取り組み姿勢・授業内容の理解度を測るものとして評価していきます。成績をつけるにあたっての①と②の比重については、①が70%、②が30%の割合とし、その合算により最終的な評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

課題やコメントシートに書かれた疑問に対しては、次回の授業冒頭の時間などを利用して答えたり、意見なども紹介を行う形でフィードバックを行います。

【Outline (in English)】

Course Outline:In this class, we will read "Hyakunin Isshu hitoyogatari" by Masaya Ozaki, a scholar from the late Edo period. This book contains anecdotes from Hyakunin Isshu poets, including interpretations of their poems, and is useful for deepening knowledge of Japanese and Chinese classical literature.**Learning Objectives:** The goals of this course are to acquire and expand basic knowledge of Chinese and Japanese classical literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to read in advance the next time we deal with the text. After each class, students are expected to revise the class content. These tasks take four hours each week.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on 14 assignments (70%) and a examination (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（２）中古A

栗山 元子

授業コード：A2661 | 曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『源氏物語』の主人公・光源氏は、現代ではとく好色のイメージが先行し、批判的に捉えられることが多いようです。しかしそもそも物語の主人公とは常人と異なる美質を有していたり、当時の理想を具現化したような人物として描かれるべき存在であるはずで、光源氏の場合もまた、輝かしい魅力的な主人公としてまずは登場しているものと言ってよいでしょう。では、その光源氏の理想性とは一体どのような点に見受けられるのでしょうか。さらに光源氏の人物像への評価は時代により異なるところがあるのでしょうか。そして『源氏物語』成立以前の物語の主人公や以後の物語の主人公像とはどのような影響関係が見られるのでしょうか。この授業では、こういった光源氏の人物造型をめぐる謎についての考察を通じて、『源氏物語』および古典文学作品を読む力を深めていくことを目指します。

【到達目標】

- ①主人公の造型法を通じて、物語史の展開の様相についての学びを深めることができる。
- ②古典文学作品を読む際に必要な歴史的・文学的知識を修得することで、古典作品の読解力を高め、その魅力や意義について深く知ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師の作成したプリントを配布し講義を行います。
- ・毎回授業内容についての理解度を計るために、授業内でのリアクションペーパーの提出を課します。
- ・リアクションペーパーに書かれた意見の紹介や質問への解答を通じてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業に関する説明と『源氏物語』についての基礎的な知識の確認	授業内容・方針・方法などについての説明を行い、『源氏物語』の概要についての講義を行います。
第2回	平安期の社会と女性	『源氏物語』を読むにあたって必要な知識である、平安期の社会における女性の地位や生き方、結婚などについて学んでいきます。
第3回	異常出生譚と光源氏の成長	光源氏の幼少期の描かれ方について見ていきます。
第4回	光源氏の容姿美	光源氏的美貌の意味、その持つ力について考えていきます。
第5回	光源氏の若紫君略奪について考える①	若紫巻での光源氏の若紫君略奪について考察していきます。
第6回	光源氏の若紫君略奪について考える②	若紫巻での光源氏の若紫君略奪について、継子いじめ譚との関わりから考察していきます。
第7回	『伊勢物語』の昔男像と光源氏	光源氏の造型における『伊勢物語』の影響について考えていきます。

第8回	光源氏と末摘花	没落した高貴な女性と光源氏との関わりから、源氏の理想性について考えていきます。
第9回	光源氏の准掎	光源氏像造型に影響を与えていると考えられる人物を紹介し、その意味を考察していきます。
第10回	光源氏像の変化	第一部と第二部における光源氏像の変化について考察していきます。
第11回	光源氏の晩年の描かれ方／後期物語の主人公像への影響について	光源氏の晩年の姿がどのように描かれているかを見ていきます。また『源氏物語』以後の物語の男主人公像には光源氏像の影響はあるのかということについて見ていきます。
第12回	光源氏に対する後世の評価①	光源氏という主人公に対し、後世はどのような評価をしていたのかについて見ていきます。
第13回	光源氏に対する後世の評価②	主に近現代を中心に、光源氏という主人公に対し、どのような評価がなされてきたかを見ていきます。
第14回	授業のまとめと試験	授業のまとめと理解度の確認のためのテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習としては問題意識をもって授業に臨めるように参考文献にあげた図書などを各自読んで自習をしてください。授業後には授業内容を振り返って整理し、要点の把握に努め、自分で関連論文などにあたって学びを深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講師作成の資料を作成します。

【参考書】

中野幸一編『新装版 常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院 2012）、林田孝和他編集『源氏物語事典』（大和書房 2002）、高木和子『源氏物語を読む』（岩波新書 2021）、岩波文庫『源氏物語』（1～9）、小学館『新編日本古典文学全集 源氏物語』1～6など。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に課すリアクションペーパーに拠る評価が70%、授業内容の理解度を測る試験による評価が30%とします。評価のポイントは、課題への取り組み姿勢と授業内容の理解度の深浅に拠ります。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義を心がけたいと思います。なお授業に関しての質問や意見にはフィードバックとして次回の授業冒頭で対応をするようにします。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we will learn various aspects of how the ideal nature of" Hikaru Genji, the protagonist of The Tale of Genji, is portrayed. By looking at the world of expression in "The Tale of Genji" through the existence of Hikaru Genji, this course aims to enhance students' ability to read classical literary works.**Learning Objectives:** The goals of this course is to get the knowledge necessary for understanding of Japanese classic literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to have read the materials listed in the bibliography.After each class, students are expected to revise the class content, read the materials related to the lecture content.These tasks take four hours each week.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on 14 assignments (70%) and a examination (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（2）中古B

加藤 昌嘉

授業コード：A2662 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆この授業のテーマは、物語における《超自然現象》《怪奇事件》です。例えば、未来予言、生まれ変わり、テレパシー、天人降臨、霊、鬼、天狗、蛇、龍、生首、血など。

◆この授業では、中古（平安時代）の『今昔物語集』や『うつほ物語』などを読んでゆきます。さらに、中世（鎌倉～室町時代）・近世（江戸時代）のお伽草子や浄瑠璃や読本も取り挙げます。近現代の小説も取り挙げます。

◆説話集の編者は、《超常現象》を、独自の概念によって整理しています。フィクションの作者は、《超常現象》を、ストーリーを展開するための仕掛けとして使っています。それらを客観的に考察してゆきます。

【到達目標】

A、中古・中世の思想・宗教・世界観を知る。

B、フィクションの仕掛けを客観的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

●毎回、プリントを配布して講義を行います。

●受講者からの質問やアイデアは、授業内で紹介し、フィードバック（フォローアップ）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『今昔物語集』	霊鬼
2	『今昔物語集』	僧と天狗
3	『今昔物語集』	狐、野猪
4	『日本霊異記』『沙石集』	雷、蛇
5	『栄花物語』『紫式部集』など	物の気、怨霊
6	『源氏物語』『マクベス』	未来を予言する
7	『うつほ物語』	音楽で天が感応
8	『狭衣物語』『夜の寝覚』	天人降臨、神託
9	『浜松中納言物語』	愛する人が転生
10	古代の信仰・習俗	夢、鏡、虹
11	お伽草子『天稚彦草子』など	蛇、龍、七夕
12	『阿弥陀胸割』『妹背山婦女庭訓』	生肝、鹿の血
13	上田秋成『春雨物語』	笑う首、乾かぬ血
14	泉鏡花『紫障子』など	基石を飲む、魚が降る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業で取り上げられた本のうち、面白そうだったものを、書店や図書館で入手して、（部分的でもよいので）読んでみることを。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

●毎回、プリントを配布します。

【参考書】

▼各回のプリントで、入門書・解説書を紹介します。

▼この授業に関連する解説書を2つだけ挙げておきます。

◎森正人『今昔物語集の怪異を読む』（勉誠社、2023年）

◎小山聡子『もののけの日本史』（中公新書、2020年）

▼以下の事典は、世界の様々な物語のモチーフ・アイテムを整理していて、たいへん有益です。

◎神山重彦『物語要素事典』（国書刊行会、2024年）

▼古典文学の原文＋現代語訳＋注釈は、以下のシリーズに収録されています。レポートを書く際に使ってください。

◎新編日本古典文学全集（小学館）

◎新潮日本古典集成（新潮社）

◎新日本古典文学大系（岩波書店）

◎岩波文庫（岩波書店）

◎角川ソフィア文庫（KADOKAWA）

◎講談社学術文庫（講談社）

【成績評価の方法と基準】

●期末レポート（72％）、各回のリアクションペーパー（28％）。

※期末レポートは、複数のテーマの中から1つを選択し、2000～3000字程度の小論文を書くものです。

※毎回、リアクションペーパー（コメントカード）に、疑問やアイデアなどを書いて提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

●上記【授業計画】は、予定に過ぎません。受講者から出された疑問やアイデアなどをもとに、臨機応変に、授業内容を膨らませてゆきます。

●比較として、海外の文学や、現代のドラマ・マンガなどにも言及します。

【Outline (in English)】

Course Outline: ◆The theme of this class is “Supernatural Phenomena” and “Mysterious Incidents” in stories. For example, prophecy of the future, reincarnation, telepathy, descent from heaven, spirits, demons, dragons, fresh heads, blood, etc.

◆In this class, we will read *Konjaku Monogatari-shu* and *Utsuho Monogatari* from the Heian period. In addition, fictions from the Kamakura - Muromachi period, Edo period, and Meiji period will also be discussed.

◆Story editors organize the paranormal into their own concepts. The author of the fiction uses the paranormal as a device to develop the story. We need to consider them objectively.

Learning Objectives: The goals of the course are the following two points:

- To learn about the culture and thought of the Heian - Muromachi period.

- To develop the ability to objectively analyze how stories are made.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to read the books introduced in class. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on a final report (72%), and reaction papers for each session (28%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (3) 中世A

阿部 真弓

授業コード：A2665 | 曜日・時限：火2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立の問題を解説した後、代表的和歌について講義します。今年度は天皇・上皇の和歌を取り上げ、各歌の解釈のほか、当該歌をめぐる問題や『百人一首』の古注釈ではどのように解釈されているか等について解説します。そして、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、現代の注釈書のほか、適宜、歌学書や古注釈を参照しながら、解説します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』の謎	成立の問題について
第3回	『百人一首』の謎	二条派歌人の動向
第4回	『百人一首』古注釈	中世・近世の古注釈について
第5回	『百人一首』講読	天智天皇「秋の田の」歌(1)解説
第6回	『百人一首』講読	天智天皇「秋の田の」歌(1)古注釈
第7回	『百人一首』講読	持統天皇「春さぎて」歌(2)解説
第8回	『百人一首』講読	持統天皇「春さぎて」歌(2)古注釈
第9回	『百人一首』講読	後鳥羽院「人もをし」歌(99)解説
第10回	『百人一首』講読	藤原定家と後鳥羽院の関係
第11回	『百人一首』講読	後鳥羽院「人もをし」歌(99)古注釈
第12回	『百人一首』解説	順徳院「もしきや」歌(100)解説
第13回	『百人一首』解説	順徳院「もしきや」歌(100)古注釈
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

・講談社学術文庫『百人一首』(有吉保、講談社、1983年)
 ・角川ソフィア文庫『新版 百人一首』(島津忠夫、KADOKAWA、1999年)
 ・角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首(全)』(谷知子、KADOKAWA、2010年)
 その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート(70%)、平常点(30%)によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (3) 中世B

阿部 真弓

授業コード：A2666 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

当科目では中世日記文学『とはずがたり』を取りあげます。作者は後深草院に仕えた二条という女性です。若く美しい作者は後深草院の寵愛を受けることになりますが、それが彼女の苦悩の始まりでした。

この作品には、両統迭立期の院御所の有様がつぶさに記され、後深草院と亀山院の対立関係、公卿たちの動向、そしてそうした場で繰り広げられる男女の愛憎劇が描写されており、きわめて複雑な作品構造をしています。混沌とした中で一つの軸として見えてくるのは作者自身と後深草院の関係性という問題です。

当授業では、作者が後深草院をどのように描写しているか、院と自分との関係をどのように認識し表現しているのかに注目しながら、読解を進めます。表現・人物造型の方法、政治的動向を描く際の手法等を分析しながら、日記文学の特質や面白さ、また文学史的位置づけについて考察していきます。

【到達目標】

- ①日記文学に関する基本的な知識を習得する。
- ②中世の歴史的文化的背景を理解した上で作品を解釈する。
- ③和歌や物語の享受の様相を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。学習支援システムにアップロードされた質問やコメントに、できるかぎり回答していきます。授業を進めます。また状況に応じてクリッカーを用い、理解度を確認したり、アンケートをとったりします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『とはずがたり』概説	作品の概要、研究史など
第3回	『とはずがたり』巻一	後深草院との新枕
第4回	『とはずがたり』巻一	後深草院と「雪の曙」
第5回	『とはずがたり』巻一	東二条院へのとりなし
第6回	『とはずがたり』巻二	粥杖事件
第7回	『とはずがたり』巻二	「有明の月」との関係
第8回	『とはずがたり』巻二	六条院の女楽事件
第9回	『とはずがたり』巻三	「有明の月」への仲介
第10回	『とはずがたり』巻三	院御所からの追放
第11回	『とはずがたり』巻四	伏見での邂逅
第12回	『とはずがたり』巻五	熊野での夢想
第13回	『とはずがたり』巻五	後深草院の葬送
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにしてください。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート (70%)、平常点 (30%) によって評価します。レポートは【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、学習支援システムに毎回提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

現代語訳付きプリントを配布する等、古典文学に苦手意識がある人にも理解しやすい、また復習しやすい教材作りに努めます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with *The Confessions of Lady Nijō* (とはずがたり *Towazugatari*).

Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of works of courtly literature of the Kamakura period.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（４）近世A

小林 ふみ子

授業コード：A2669 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【近世文学と古典文学】

江戸時代には、出版文化を背景に中世までのさまざまな古典をふまえた作品が作られました。それら現代でいう二次創作の作品は、原作にたいして、ちやかしたり、オマージュを捧げたり、態度はさまざまですが、それぞれ原作を当世（現代）＝江戸時代化することで成り立っています。『源氏物語』『平家物語』をはじめ、さまざまな古典文学に親しみつつ、江戸時代的特徴を考える一挙両得の講義です。

【到達目標】

1. 江戸文芸に表れた近世的特徴を理解する。
2. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
3. デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

2～3回で1ジャンルを学ぶ。

提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。

100分を個人での課題への取り組み、グループ・ディスカッションでの共有、講義などを織りまぜて構成、作品の作り方を追体験してもらうべく、創作にも挑戦する。

発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	江戸時代の特徴を知る。
第2回	パロディ文芸のはじまり①	江戸時代初期のパロディ文芸のなかから『吉原徒然草』を読む
第3回	パロディ文芸のはじまり②	『吉原徒然草』にならってパロディに挑戦する
第4回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』①	西鶴の『好色一代男』巻一～の設定から光源氏のやつしとしての世之介を考える
第5回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』②	『好色一代男』巻四～二形見の水櫛において『伊勢物語』『源氏物語』がどう活かされているかを考える
第6回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ①	狂歌というジャンルと江戸狂歌について知る
第7回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ②	歌麿描く江戸狂歌の名作『画本虫撰』を読んで創作にチャレンジする
第8回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ③	狂歌とことば遊びの見立絵本『絵本見立仮響尽』を読み、創作にチャレンジする
第9回	『平家物語』のストーリーをちやかす-黄表紙①	「源平の戦いも面倒なので」打たれる真似をして茶番で済ませる!?という設定の恋川春町画作『万歳集著微来歴』前半をよむ
第10回	『平家物語』のストーリーをちやかす-黄表紙②	「万歳集著微来歴」後半を読む
第11回	『平家物語』を言葉でちやかす-滑稽本①	ことばの面白さを追求した式亭三馬が『平家物語』敦盛最期をちやかして遊んだ『大千世界楽屋探』を読む
第12回	『平家物語』を言葉でちやかす-滑稽本②	『大千世界楽屋探』を分析し、創作にチャレンジする
第13回	『源氏物語』を近世化する-合巻①	黄表紙の後継ジャンルである合巻について学び、『修紫田舎源氏』の大枠を知る
第14回	『源氏物語』を近世化する-合巻②	『修紫田舎源氏』の『源氏物語』夕顔巻に該当する部分の前半を読む
第15回	『源氏物語』を近世化する-合巻③	『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分の後半を読む
まとめ		最後にこの時代の文芸の特質を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとに小課題を出します。

本授業の準備学習は30分・復習時間は平均して3時間程度を標準に考えます。

【テキスト（教科書）】

各回、資料提供し、参照すべきURLを提示します。

【参考書】

長島弘明編『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』（文学通信 2019）・小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル［インターナショナル新書］、2019）ほか

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー（20％）、単元ごとの課題の得点（80％）を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの解説と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。そしてなにより、パロディ、妖怪・・・今日のサブカルチャーにも通じる江戸戯作の世界をご堪能ください！

【学生が準備すべき機器他】

デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も（スマホでもいいのですが）、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意すると便利です。図書館のデータベースのうちジャパナレッジは随時使えるようにしておきましょう。

【Outline (in English)】

Course Outline: Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.

Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes and Review for **Course Outline:** Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.

Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes, review for 2hours for each class. It will be about 4 hours, including the time for writing 4 short reports/semester.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (20%), short reports (80%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（４）近世Ｂ

齊藤 千恵

授業コード：A2670 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「忠臣蔵」とその周辺文化について学ぶ。
赤穂義士の討ち入り事件は広く世に知られ、早くから舞台化も行われた。なかでも大ヒットしたのは、『仮名手本忠臣蔵』である。人形浄瑠璃として作られ、すぐに歌舞伎化されたこの作品は、さまざまなジャンルの「忠臣蔵もの」作品を生み出す母体となった。その流れは今日まで続き、「忠臣蔵」を扱った小説、テレビドラマや映画なども多く作られている。本講義では、「忠臣蔵もの」作品が生まれる母体となった「仮名手本忠臣蔵」と、その派生的作品をいくつか採り上げ、忠臣蔵文化の拡がりを学ぶ。

【到達目標】

- ①人形浄瑠璃・歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の特色を学び、日本人を魅了し続けた芸能について深く理解する。
- ②「仮名手本忠臣蔵」から派生した「忠臣蔵もの」の作品を分析できる。
- ③人形浄瑠璃・歌舞伎・浮世絵・近世小説・落語などに触れ、その楽しみ方、味わい方を身につける。
- ④現代にも通じる「忠臣蔵」文化の始原のあり様を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、質問・意見はリアクション・ペーパーを用いて募る。また、半時間で2回程度、小課題の提出を求める。リアクション・ペーパー及び小課題については、授業中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・時代背景	物語の生み出された土壌と、史実の赤穂事件について理解を深める。
第2回	人形浄瑠璃と歌舞伎	人形浄瑠璃と歌舞伎の芸能としての特性を理解し、『仮名手本忠臣蔵』が生み出されるまでの流れを知る。
第3回	「仮名手本忠臣蔵」①	判官の無念の死はどのように引き起こされたのか。『仮名手本忠臣蔵』に描かれた事件の真相に迫る。
第4回	「仮名手本忠臣蔵」②	勘平はどのようにして追い詰められ、早すぎた死を選ぶのか。運命に翻弄された男の悲劇を味わう。
第5回	「仮名手本忠臣蔵」③	遊興にふける由良之助の真意はどこにあるのか。それを悟った兄妹の動向を理解する。
第6回	「仮名手本忠臣蔵」④	大星家と加古川家の関係を考える。本蔵の死によってもたらされたものを知る。
第7回	「仮名手本忠臣蔵」⑤	敵討を支える登場人物たちの動きから、上演の問題点を把握する。
第8回	歌舞伎「東海道四谷怪談」①	作品の成り立ちと初演時の上演形態から、「忠臣蔵」との関わりを読み解く。
第9回	歌舞伎「東海道四谷怪談」②	鶴屋南北の表現手法と演出技法に触れ、作品の魅力に迫る。
第10回	「忠臣蔵もの」の浮世絵	「忠臣蔵」を描いたさまざまな浮世絵に触れ、その面白さを知る。
第11回	「忠臣蔵もの」の草双紙	「忠臣蔵」のパロディ絵本を読み解く。
第12回	「忠臣蔵もの」の舌耕文芸	落語「中村仲蔵」『四段目』の面白さを味わう。
第13回	「忠臣蔵もの」の滑稽本と劇書	評論『忠臣蔵偏痴気論』『古今いろは評林』を読む。
第14回	まとめ 「忠臣蔵もの」のゆくえ	「忠臣蔵もの」文芸の特質を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読み、予習・復習に生かすこと。
授業外に提出課題を課すことがある。
本授業の準備時間は1時間程度、復習時間は平均して3時間程度とする。
最近多く配信されている古典芸能の映像を鑑賞したり、ネット公開されている各種関連資料を閲覧してみるなど、積極的に見聞を広めてほしい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

『仮名手本忠臣蔵を読む』（服部幸雄編、吉川弘文館、2008）
『新潮日本古典集成 浄瑠璃集』（土田衛校注、新潮社）
『新編日本古典文学全集 浄瑠璃集』（鳥越文蔵ほか校注・訳、小学館）
その他、講義中にも参考書・URL等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーへの取り組み）：40 %
小課題（×2回）：60 %

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材を用いて、イメージを捉えやすい講義を行う。
講義で扱う近世文芸の各ジャンルについても、ジャンルの特性に触れられるよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiを活用するため、スマートフォン・タブレット等を用意してほしい（ただし、何らかの事情で利用できない学生にも適宜配慮します）。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けませんが、質問等は授業後およびリアクションペーパーで受け付ける。
第8回以降で扱う作品は、受講生の状況により変更する可能性もある。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture course is about *Kanadehon Chūshingura* (*The Treasury of Loyal Retainers*) and derivative works. The historical incident of the revenge of the forty-seven *rōnin* of Akō is widely known, and was adapted for the stage from early on. One of the most successful stage productions was *Kanadehon Chūshingura*. Originally a puppet play (*ningyō jōruri*), it was soon performed on the *kabuki* stage, and many derivative works were born in various other genres. This trend has continued to the present day, and many novels, TV dramas, and movies have been produced on the same theme.

Learning Objectives: At the completion of this course, students will:

1. understand the characteristics of the *ningyō jōruri* and *kabuki* versions of *Kanadehon Chūshingura*;
2. will be able to analyze works derived from *Kanadehon Chūshin-gura*;
3. will have learned how to enjoy and savor *ningyō jōruri*, *kabuki*, *ukiyo*, early modern novels, *rakugo*, etc.
4. will understand the evolution of *Chūshingura* as a cultural phenomenon, which still retains its relevance today.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are required to read the handouts and use them for preparation and review. About 2 assignments are to be done outside of class. Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content. The standard learning and review time after each class is 3 hours.

Grading Criteria/Policy: Performance in class (reaction papers): 40% . Short assignments (2): 60 %.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（6）現代A

藤木 直実

授業コード：A2677 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外作品とそのアダプテーション（鷗外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学作品および演劇や映画を、ジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

To learn how to read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present day.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第2回	「舞姫」(1)	「近代の自我とその挫折の物語」としての受容の系譜
第3回	「舞姫」(2)	定番教材としての受容の系譜
第4回	「舞姫」(3)	「妊娠小説」へのパラダイムシフトと日本のフェミニズム文学批評について
第5回	「舞姫」(4)	ジェンダーの観点から「舞姫」を再読する
第6回	映画「舞姫」(1)	篠田正浩監督「舞姫」を鑑賞する
第7回	映画「舞姫」(2)	鑑賞の続きとグループワークによる批評
第8回	映画「舞姫」(3)	各グループでの討議内容の発表
第9回	鷗外と女性たち	鷗外と明治大正期の女性表現者たちとのかわりを知る
第10回	鷗外と第一波フェミニズム(1)	鷗外と第一波フェミニズムとの関わりを踏まえて、「さへづり」を読む
第11回	鷗外と第一波フェミニズム(2)	鷗外と第一波フェミニズムとの関わりを踏まえて、「なのりそ」「団子坂」その他を読む
第12回	鷗外と性欲の問題系	「キタ・セクスアリス」などの鷗外作品を読む
第13回	鷗外と性暴力の問題系	「魔睡」「鼠坂」などの鷗外作品を読む
第14回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。鷗外作品の多くについては青空文庫でのダウンロードを用いる。

。映像作品の視聴方法については授業時に指示する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』（岩波書店）、金子幸代編『鷗外女性論集』（不二出版）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーおよび小レポートの内容30%、期末レポート(または試験)70%。3分の2以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパー用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが使用できることが望ましい。プリンターがあれば学習効率がより高くなると思われる。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については授業時に受け付けるほかメールでも対応する。メールでの質問の場合は、件名を「日本文芸研究特講 学籍番号 氏名」とすること。メール宛先は開講時に指示する。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（6）現代B

藤木 直実

授業コード：A2678 | 曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外作品とそのアダプテーション（鷗外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。To acquire the ability to carefully read modern and contemporary literature from the perspective of gender and sexuality, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present age.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の内容、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第2回	森鷗外「半日」の波紋	「半日」をめぐる私小説としての受容について
第3回	森鷗外「半日」の戦略	設定とプロットを検討し、「半日」のテーマを考える
第4回	「作家の妻」とテクスチュアルハラスメント	森しげ（鷗外後妻）へのハラスメントについて知る
第5回	永井愛「鷗外の怪談」(1)	演劇作品「鷗外の怪談」(2014)の鑑賞
第6回	永井愛「鷗外の怪談」(2)	鑑賞の続きと解説
第7回	鷗外と大逆事件	大逆事件の影響下で書かれた鷗外作品の概略を知る
第8回	森しげ「波瀾」の戦略と「あだ花」の宛先	森しげの代表作を読む
第9回	鷗外・しげのインテリクステュアリティ	二作家の作品群のテキスト間相互関連性について知る
第10回	森しげ「お鯉さん」の逸脱と挫折	「お鯉さん」に描かれた女性から女性への欲望の様相を読む
第11回	雑誌『三越』と鷗外、しげ、与謝野晶子(1)	三越百貨店機関雑誌『三越』の成立と、寄稿された鷗外作品について
第12回	雑誌『三越』と鷗外、しげ、与謝野晶子(2)	三越百貨店機関雑誌『三越』の成立と、寄稿された森しげと与謝野晶子の作品について
第13回	鷗外と与謝野晶子	自然主義時代における与謝野晶子の活動と鷗外との関係について
第14回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』（岩波書店）、『明治文学全集』（筑摩書房）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容 30%、期末レポート（または試験）70%。3分の2以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日的トピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパーを用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については各回の授業時に対応するほかメールでも受け付ける。メールでの質問の場合は件名を「学籍番号 氏名」とすること。メール宛先については開講時に指示する。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（6）現代C

高口 智史

夜間時間帯

授業コード：A2679 | 曜日・時限：木6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1940年代前半の文学を読む

1940年代前半とは昭和15年から20年までの5年間を指す。歴史的には太平洋戦争の前年から敗戦までの5年間であり、最も戦争が苛烈だった時代である。これまでの文学史では、この時代の文学は言論・表現の自由が奪われ、たとえ存在しても国策に追従するものばかりの「暗黒の時代」と考えられている。しかし本当に文学は死んだのだろうか。文学史年表を見ると、この時代には数は少ないが今日でも読み継がれている「名作」を見ることが出来るだろう。

今回取り上げるのは、新美南吉「おじいさんのランプ」「ごんごろ鐘」、井伏鱒二「へんろう宿」、堀辰雄「曠野」、太宰治「待つ」、中島敦「山月記」「李陵」といった作家や作品である。

なぜこの時期に、今日でも読み継がれる作品が書かれたのだろうか。（同じ時期の作品としてここに堀辰雄「菜穂子」や太宰の「走れメロス」や「津軽」、中島敦の「名人伝」「弟子」を加えてもいい。）戦時下の文学というと「反戦」（権力への抵抗）や「転向」（権力への屈服）といった枠組みで作品を評価してしまいがちだが、それでは答えは出てこない。

これらの作家、作品を見ると、教科書教材に採用されているものが結構多いのにも気づくだろう。私たちが戦時下の文学の豊穡性に気づかなかったのは、これらの作品はこれまで歴史的コンテクストを消去することによって読まれてきたからだ。そこでこの授業では戦時下という時代状況との関係を念頭に作品を読むことを通し、1940年代前半の文学と時代に新たな光を当てていきたいと思う。

【到達目標】

- ・戦時下の文学の歴史的意味を新しい視点から理解する。
- ・文学作品のもつ想像性や批評性を理解する。
- ・小説の基本的な構造分析を学び読みの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業終了時ごとに、作品や授業についての感想や質問、意見を提出してもらい、適宜その内容について授業で発表し問題を共有していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	① 授業内容の概要と進め方について ② 評価の方法について
第二回	新美南吉を読む―〈転向〉再考 第一回	「おじいさんのランプ」「ごんごろ鐘」を読む
第三回	新美南吉を読む―〈転向〉再考 第二回	1930年代と1940年代の差異について考える―「ごんぎつね」「ひろったラッパ」との比較を通して
第四回	井伏鱒二「へんろう宿」を読む	① 「へんろう宿」を読む ② 戦時下の表現と批評―その抵抗のかたち
第五回	堀辰雄「曠野」を読む 第一回	「曠野」を読む―原作「今昔物語集」との差異
第六回	堀辰雄「曠野」を読む 第二回	① 承前 ② 戦時下の表現と批評―全体主義と個の問題について
第七回	中島敦「山月記」を読む 第一回	「山月記」の語りの構造について―対話の物語を読む
第八回	中島敦「山月記」を読む 第二回	① 承前 ② 戦時下における生き方をめぐる思索
第九回	太宰治「待つ」を読む	「待つ」を読む―戦時下を生き延びる批評と方法（女性の語りの意味）
第十回	中島敦「李陵」を読む 第一回	① 「一」の語りの方法と意図について（「山月記」との関連から） ② 「二」司馬遷の物語を読む―戦時下の表現として
第十一回	中島敦「李陵」を読む 第二回	① 承前 ② 「三」李陵の物語を読む―戦時下の表現として

第十二回	中島敦「李陵」を読む 第三回	① 承前 ② 中島敦―戦時下の批評と抵抗
第十三回	まとめ	1940年代前半「戦時下」の文学の可能性―戦時下の文学が批評する現在（戦後に持ち越された問いについて） ①授業の理解を確認する試験 ②試験の解説
第十四回	学期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に参加して作品についてたんに「知識」として学ぼうとするだけではない。事前に必ず作品を読んで授業に臨んでほしい。その過程で自分なりの表現についてのこだわりを確認してもらいたい。いずれも文庫でテキストが手に入りやすい作品なので、その周辺の作品にも目を通しておけばよりよい。また今回取り上げる作品の歴史的コンテクストについても予習し、時代についてのおおまかなイメージをつかんでおいてもらいたい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは基本的にこちらで準備したものを使用する。ただし中島敦「山月記」「李陵」だけは新潮文庫を使用する。

【参考書】

- ・内田樹『映画の構造分析』（文春文庫）なぜテキスト論なのか、映画を対象にテキスト分析の実際をわかりやすく論じている。
- ・土方洋一『物語のレッスン』（青簡舎）絶版で手に入りにくいですが、読み方をめぐる最良の入門書。探してでも読んでほしい。
- ・廣野由美子『批評理論入門―『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書）カタログ的な本だが、テキスト分析用語、様々な批評理論についての知識を身につけるためにはよい。
- ・三原芳秋他編『〈クリティカル・ワード〉文学理論 読み方を学び文学と出会えなおす』（フィルムアート社）さらに深く文学理論について学びたい人は挑戦しよう。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点＝各作品をめぐる感想や授業コメント等（30％）
授業に対する取り組み姿勢（作品をしっかりと読みこんでいるか、授業を理解しようとする姿勢があるか等）
- ・課題レポート＝学期の途中に一回レポートを提出してもらう。（20％）
- ・学期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義形式で一方通行になりがちなので、学習支援システムを有効に活用し出来る限りリアクションペーパーや感想を通して受講生の声を取り上げていきたい。
- ・話が早くて理解が追いつかないという意見もあった。なるべく基本的な点については丁寧に説明するように心掛けたい。

【Outline (in English)】

Reading literature from the early 1940s
Historically, the early 1940s were the five years from the year before the Pacific War until Japan's defeat, when the war was at its most intense. In the history of literature so far, literature of this period is considered a "dark age" in which freedom of speech and freedom of expression were taken away, and those that existed, if at all, were only in accordance with national policies. But did literature really die? Looking at the chronology of literature history, we can see some masterpieces; from this period that are still being read today, even though they are few in number. This time, we will look at authors and works such as Niimi Nankichi's "Grandfather's Lamp"; and "Gongoro Bell," Ibuse Masuji's "Henro Inn," Hori Tatsuo's "Kyouya," Dazai Osamu's "Waiting," and Nakajima Atsushi's "Sangetsuki"; and "Li Ling." Why were works that are still being read today written during this period? Other works from the same period include Hori Tatsuo's "Naoko," Dazai's "Run Meros," and "Tsugaru," and Nakajima Atsushi's "Meijinden"; and "Deshi." When it comes to wartime literature, we tend to evaluate works within the framework of "anti-war" (resistance to authority) or "conversion" (submission to authority), but that does not provide the answer. Looking at the authors and works listed above, you will notice that quite a few have been adopted as textbook materials. The reason we have not noticed the richness of wartime literature is that until now these works have been read without any historical context. In this class, therefore, we would like to shed new light on the literature and times of the early 1940s by reading these works with the wartime situation in mind. Learning activities outside of classroom

It is not enough to simply learn the works as "knowledge." Please make sure to read the works before coming to class. In the process of reading the works, please check the points that impressed you about the expressions. Since all of the works are easily available in paperback, it is even better if you read the works related to them by the author. Also, please prepare in advance for the historical context of the works to be covered this time, and get a rough idea of the era. The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each work.

Grading Criteria /Policy

· Regular marks = impressions on each work, class comments, etc. (30%)

Attitude toward the class (whether the works have been thoroughly read, whether there is an attitude of trying to understand the class, etc.)

· Assignment report = Please submit a report once during the semester. (20%)

· Final exam (50%)

LIT200BC（文学 / Literature 200）		
日本文芸研究特講（6）現代D		
梅澤 亜由美		
夜間時間帯		
授業コード：A2680 曜日・時限：月5/Mon.5		
秋学期授業/Fall・2単位 配当年次：2～4年		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
＊近代小説の語りの構造、および視点と小説の関係について考える。 →この授業では、1930年代以降の一人称で書かれた小説を読みます。小説の背景を学ぶと同時に、一人称の小説の語りの構造、および視点に注目し、その効果を考えていきます。また、実際に自分で一人称小説を探し、分析してもらいます。最終的には、小説における語り・視点の分析が自分でできること、またその役割について理解することを目標とします。		
【到達目標】		
1、小説における語り・視点の役割について、理解することができる。 2、語りの構造や視点と小説の関係を分析することができる。 3、学んだことを応用し、自分で小説の分析ができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連		
【授業の進め方と方法】		
基本的には、以下の3つによって講義を進めます。 1、指定された資料を用いての事前学習 2、教員による講義、および学生同士の意見交換 3、その日のワーク ワーク①：小説の内容確認や語り・視点についての分析をしてもらいます。 ワーク②：語り・視点を変えた場合の小説の可能性について考察してもらいます。 →ワークについては、前回の授業で提出されたものの中からいくつかをとりあげ、フィードバックを行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ、目標、やり方について説明する。
第2回	武田泰淳『審判』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第3回	梅崎春生『蜆』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第4回	太宰治『トカトントン』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第5回	小松左京『くだんのはは』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第6回	吉屋信子『鶴』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第7回	三島由紀夫『雛の宿』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第8回	遠藤周作『パロディ』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第9回	安部公房『死んだ娘が歌った……』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第10回	村上春樹『レキシントンの幽霊』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第11回	川上弘美『神様』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第12回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第13回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第14回	まとめ①	一人称小説の語り、視点の特徴とは何か。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
・【事前学習】指定されたテキストを必ず読み、以下を行う。 →登場人物を抜き出す（テキストに印をつける）。 →語り手の特徴を抜き出す（テキストに印をつける）。 ・【事後学習】講義のもとに、提示された課題を行い、学習支援システムから提出する →語り・視点を変えた場合の小説への影響を考える（他の人物が語り手になったらどう変わるか）。語りの特徴について、分析する。 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
小説テキストについては、第1回で指示します。教員が使用しているのは、以下になります。 武田泰淳『審判』、『上海の蜩・審判』P+D BOOKS所収 梅崎春生『蜆』、『ボロ家の春秋』講談社文芸文庫 太宰治『トカトントン』、『ヴィヨンの妻』新潮文庫 小松左京『くだんのはは』、『くだんのはは』ハルキ文庫 吉屋信子『鶴』、『鬼火・底のぬけた柄杓』講談社文芸文庫 三島由紀夫『雛の宿』、『女神』新潮文庫所収 遠藤周作『パロディ』、『遠藤周作短篇名作選』講談社文芸文庫所収 安部公房『死んだ娘が歌った……』、『R 62号の発明・鉛の卵』新潮文庫所収 村上春樹『レキシントンの幽霊』文春文庫 川上弘美『神様』中公文庫		
【参考書】		
安藤宏『「私」をつくる一近代小説の試み』岩波新書 廣野由美子『一人称小説とは何か―異界の「私」の物語』ミネルヴァ書房 石原千秋他・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋世織『読むための理論』世織書房		
【成績評価の方法と基準】		
①各回課題（60パーセント）、②学期末課題（40パーセント）の評価を合わせ、総合的に判断します。		
【学生の意見等からの気づき】		
・ワークはワードファイルでワークを提出してもらっていたのが、少し手間というコメントがありました。インライで提出できるようにします。 ・他の人の意見を聞くのが参考になるという声が多いので、意見発表の場を重視したいと思います。 ・学期末課題の発表会も、おおむね肯定的です。みなさんの発表を多くすることも検討中です。		
【学生が準備すべき機器他】		
PC、タブレット、スマホなど。PDFのファイルを見るのに利用します。		
【その他の重要事項】		
・秋学期の授業となります。必ず秋学期最初に、再度、シラバスを確認するようにしてください。なお、選定された小説、および順序に若干の変更がでる可能性があります。 ・学期末課題は、以下の2つから1つを選んでもらう予定です。 ①自分で一人称小説を探し、学んだことをもとに分析してもらいます。近代文学～現代文学まで、自分で一人称の在り方が面白いと思う小説をとりあげてほしいです。 ②語り手を変えて、小説の一部を書き換えてもらいます。 なお、学期末課題の提出は11回授業終了後、12月初旬となります。授業のまとめとして、提出されたレポートを紹介していく予定です。		
【Outline (in English)】		
Course Outline: This course introduces the style of stories called “first-person novels” written after the 1930’s. We learn about its position in the history of literature, and analyze examples in terms of the expression of perspective.		
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:		
・ Understand the role of narrative in novels.		
・ Explain the relation between narrative and theme in novels.		
・ Write analytical papers of their original thought using the theory learned in class.		
Learning Activities Outside of the Classroom:		
Preparation: Students read each novel and think about the characters and the narrator in the novel.		
Review: Students write and upload a short paper after each class meeting.		
Your study time will be more than four hours for a class.		
Grading Criteria/Policy: Your final grade will be calculated according to the following process: regular short papers (60%); final paper (40%).		

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（7）漢文A

遠藤 星希

授業コード：A2681 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先秦時代の諸子百家の書から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。諸子百家の「諸子」とは、孔子・孟子・韓非子・老子・莊子・墨子・孫子などを代表とする諸々の思想家たちのこと、「百家」とは、儒家・法家・道家・墨家・兵家などを代表とする数多くの学派のことである。戦乱が恒常化した世の中で、学術・思想の自由競争社会を生き抜くため、春秋・戦国時代の思想家たちは様々な思索をめぐらせた。諸子百家の書を通じて彼らの思索を追体験することにより、現代社会をとらえ直す新たな視野を獲得することを目指し、同時に漢文を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 諸子の各学派の思想的特徴を把握する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受け付ける）。課題や質問に対するフィードバックは、次の週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	諸子百家の思想とその時代背景についての概説
第2回	儒家の思想（1）	『論語』を読む（1）：「為政篇」「公冶長篇」「先進篇」等より
第3回	儒家の思想（2）	『論語』を読む（2）：「雍也篇」「述而篇」「憲問篇」等より
第4回	儒家の思想（3）	『孟子』を読む（1）：「公孫丑上」「離婁上」等より
第5回	儒家の思想（4）	『孟子』を読む（2）：「梁惠王上」「尽心上」等より
第6回	道家の思想（1）	『老子』を読む：「第一章」「第五章」等より
第7回	道家の思想（2）	『莊子』を読む（1）：「齊物論篇」「大宗師篇」等より
第8回	道家の思想（3）	『莊子』を読む（2）：「応帝王篇」「秋水篇」等より
第9回	道家の思想（4）	『列子』を読む：「天瑞篇」「周穆王篇」等より
第10回	法家の思想（1）	『韓非子』を読む（1）：「五蠹篇」等より
第11回	法家の思想（2）	『韓非子』を読む（2）：「外儲説篇」等より
第12回	雑家の思想	『淮南子』を読む：「人間訓」等より
第13回	墨家の思想	『墨子』を読む：「非攻篇上」等より
第14回	兵家の思想	『孫子』を読む：「謀攻篇」「軍争篇」等より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは1週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を教室で配布する。

【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015年）
- ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009年）

- ・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010年）
 - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011年）
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
- ・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will carefully select relatively famous passages from the writings of the *zhuzi baijia* (the Hundred Schools of Thought) during the Pre-Qin period in China and closely read them in the original language. *Zhuzi* in *zhuzi baijia* refers to various thinkers including Confucius, Mencius, Han Fei, Laozi, Zhuangzi, Mozi, and Sunzi. *Baijia* refers to a variety of schools including Confucianism, Daoism, Mohism, and the School of the Military. Against the backdrop of continuous wars, thinkers during the Spring and Autumn period and the Warring States period pursued their thoughts in various forms in order to survive the free competition between schools of thought. Through the works of *zhuzi baijia*, we will relive their thoughts and in so doing seek to attain a novel perspective from which to revisit contemporary society, while at the same time developing basic skills for reading literary Chinese.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. have acquired Classical Chinese grammar and be able to read and comprehend plain Classical Chinese texts;
- B. be able to accurately read Chinese classical writings with *kunten* (marks for reading the Chinese into literary Japanese);
- C. be able to add return markers to the unmarked Chinese texts with reference to transcription of the Chinese classics into Japanese;
- D. have grasped the characteristics of the philosophy of the *zhuzi baijia*; and
- E. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (7) 漢文 B

遠藤 星希

授業コード：A2682 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

史書の『戦国策』と『史記』の中から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。『戦国策』は、戦国時代の遊説家の弁論や献策、逸話などを国別にまとめたもので、前漢末の劉向の編とされる。平安時代の日本にはすでに伝来しており、その後もわが国で広く読まれた。『史記』は前漢の司馬遷が著した史書であり、黄帝の時代から前漢中期に至る三千年にわたる通史である。『枕草子』に「ふみは、文集、文選、新賦、史記五帝本紀……」とあるように平安時代の貴族にとって最も馴染み深い漢籍の一つであり、『源氏物語』にもその影響が色濃く見えるのみならず、その後の日本文学にも影響力を持ち続けた。本授業では、『戦国策』と『史記』の文を精読することを通して、古代中国の社会・文化に対する理解を深め、そこに描かれた人々の英知を吸収すると同時に、漢文資料を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点(句読点・返り点・送り仮名)がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 『戦国策』と『史記』についての基礎的な知識を習得する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書(辞典・目録など)を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう(同時に質問も受けつける)。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『戦国策』ガイダンス	『戦国策』と中国の戦国時代についての概説
第2回	『戦国策』精読(1)	「斉策」より
第3回	『戦国策』精読(2)	「燕策」より
第4回	『戦国策』精読(3)	「楚策」より
第5回	『戦国策』精読(4)	「魏策」より
第6回	『史記』ガイダンス	『史記』と司馬遷についての概説
第7回	『史記』精読(1)	「廉頗藺相如列伝」より「完璧」
第8回	『史記』精読(2)	「廉頗藺相如列伝」より「渾池の会」
第9回	『史記』精読(3)	「項羽本紀」より
第10回	『史記』精読(4)	「淮陰侯列伝」より
第11回	『史記』精読(5)	「管晏列伝」より
第12回	『史記』精読(6)	「伍子胥列伝」より
第13回	『史記』精読(7)	「孫子呉起列伝」より
第14回	『史記』精読(8)	「刺客列伝」より

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

資料のプリントは1週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習(辞書を引いて文意をつかむ等)をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

テキスト(教科書)は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』(ちくま学芸文庫、2015年)
 - ・古田島洋介『これならわかる返り点』(新典社、2009年)
 - ・加地伸行『漢文法基礎』(講談社学術文庫、2010年)
 - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』(明治書院、2011年)
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』(新典社、2012年)
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100%学期末試験(筆記)の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
- ・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will carefully select and read relatively famous passages from *Zhan Guo Ce* (*Strategies of the Warring States*) and *Shiji* (*Records of the Grand Historian*) in the original language. *Zhan Guo Ce* is a compilation by dynasty of rhetoric, strategic suggestions and anecdotes of strategists during the Warring States period, compiled by Liu Xiang at the end of the former Han period. It had already been introduced to Japan by the Heian period, and was widely read thereafter. *Shiji* is a history book written by Sima Qian during the early Han period, and is one of the most familiar Chinese classic books that not only exerted strong influence on *The Tale of Genji* but also had enduring effects on subsequent Japanese literature. In this course, through close reading of passages from *Zhan Guo Ce* and *Shiji*, we will deepen our understanding of ancient Chinese society and culture and absorb the wisdom of the people described therein, and develop basic skills for reading Chinese classical writings.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. have acquired Classical Chinese grammar and be able to read and comprehend plain Classical Chinese texts.
- B. be able to accurately read Chinese classical writings with *kunten* (marks for reading the Chinese into literary Japanese);
- C. be able to add return markers to the unmarked Chinese texts with reference to transcription of the Chinese classics into Japanese;
- D. have acquired a basic knowledge of *Zhan Guo Ce* and *Shiji*.
- E. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (8) 言語A

塩田 雄大

授業コード：A2685 | 曜日・時限：水1/Wed.1
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。当講義では、この前者と後者を行きつ戻りつしながら、日本語学そして言語学の一端を (広く薄く) 概観しようとするものである。

この講義で取り扱うテーマは非常に多岐にわたり、音声言語 (音声日本語) に限らず、視覚言語 (日本手話) についても考察を進める。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。(履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある)

【到達目標】

日本語学的・言語学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講師による説明・解説だけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の紹介を積極的におこなう。また、各自のPC・タブレット等を用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じておこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全般、および取り上げる概要の説明
第2回	音声・音韻(1)	母音、子音、連濁 ほか
第3回	音声・音韻(2)	モーラ、アクセント ほか
第4回	手話言語(1)	手話は世界共通か、手話に「文法」はあるのか ほか
第5回	手話言語(2)	手話単語の音韻、非手指表現、バリエーション ほか
第6回	方言・社会言語学(1)	地域方言、社会方言 ほか
第7回	方言・社会言語学(2)	言語接触、スタイル、インターアクション ほか
第8回	認知言語学(1)	全称量化と存在量化 ほか
第9回	認知言語学(2)	きもちの文法、体験と知識 ほか
第10回	語用論(1)	ことばの意味と話し手の意味 ほか
第11回	語用論(2)	世間話の意味 ほか
第12回	日本語史	動詞の活用、です・ますの成立 ほか
第13回	心理言語学	語・文法・第二言語の獲得 ほか
第14回	ふりかえり	講義の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題の事前準備 (テキスト該当箇所の要約および批判的検討)・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間 (標準的には4時間以上) が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト (教科書)】

『よくわかる言語学』(窪蘭晴夫編、ミネルヴァ書房、2019年、2860円)

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b472725.html>

※上記、履修者は必ず購入のうえ持参すること。テキストなしでの受講は不可。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。

関連する文献は講義内で適宜紹介するが、下記、例をいくつか掲げておく。

- (1) 『ことばの力学 - 応用言語学への招待』(白井恭弘、岩波書店、2013年)
- (2) 『子どもに学ぶ 言葉の認知科学』(広瀬友紀、筑摩書房、2022年)
- (3) 『新世代の言語学 - 社会・文化・言語をつなぐもの』(飯野公一ほか 編著、くろしお出版、2003年)
- (4) 『その一言が余計です。』(山田敏弘、筑摩書房、2013年)
- (5) 『改訂新版 はじめての手話』(木村晴美・市田泰弘、生活書院、2014年)

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の事前準備課題 30 %
- ・最終レポート 70 %

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、手話言語への理解を深める目的で、簡単な日本手話の練習を講義内でおこなったが、これがためになったという意見が寄せられた。今年度も、講義末尾等の時間で練習をおこなう予定である。

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項および資料配付は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。紙資料は配付しないため、毎回の受講時には【PCまたはタブレット】を持参するのが望ましい (スマホのみだと配付資料が読みにくいはず)。

【その他の重要事項】

▼質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上に随時受け付ける。

▼本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。

▼耳の聞こえて苦労している学生の履修も当然歓迎するので、ぜひ申し出られたい。

▼この講義は毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline (in English)】

＊ ＊ Course outline ＊ ＊

To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". This lecture attempts to give an overview of some aspects of (Japanese) linguistics, moving back and forth between the former and the latter.

The topics covered in this lecture are very diverse, and are not limited to spoken language (spoken Japanese), but also include visual language (Japanese Sign Language).

＊ ＊ Learning Objectives ＊ ＊

The students are expected to be able to see and think about things in terms of (Japanese) linguistics.

＊ ＊ Learning activities outside of classroom ＊ ＊

Students will be expected to prepare and submit assignments in advance (summarizing and critically reviewing the relevant sections of the textbook). Please be aware that a certain amount of time (typically 4 hours or more) will be required for preparation each time.

＊ ＊ Grading Criteria /Policy ＊ ＊

Preparatory work for each class (30%), and final report (70%).

Plagiarism and unauthorized quotations are not

allowed in the assignments and final report, nor is writing only on the content of the textbook or the content presented by the instructor in the lecture.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (8) 言語B

塩田 雄大

授業コード：A2686 | 曜日・時限：水1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

言語を研究する観点として、各言語のいわゆる「標準語」に焦点を当てて分析を進める姿勢が一つにある。しかし、当然のことだが、各言語は「標準語」だけから成り立つものではない。当講義では、日本語の「標準語」と「方言」の両方を射程に入れて、おもに音声面および文法面の特性の一端を概観しようとするものである。
この講義で取り扱うテーマは、音声および文法に関して多岐にわたる。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」の標準語・方言の使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。(履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある)

【到達目標】

標準語および方言を視野に入れた「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講師による説明・解説だけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の紹介を積極的におこなう。また、各自のPC・タブレット等を用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。
課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じておこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義全般の説明、基本的な問題の提示
第2回	母音と子音	発音のしくみ ほか
第3回	五十音図と特殊拍	「ん」とは、「っ」とはどんな音か ほか
第4回	アクセント	「箸を持って橋の端を渡る」はどう発音するか ほか
第5回	形態素	「酒(さけ)」と「酒屋(さかや)」の形態論 ほか
第6回	語と句	「古い新聞」と「古新聞」は同じか ほか
第7回	格ととりたて	「屋根まで飛んだ」は何が飛んだのか ほか
第8回	複文	「ボタンを〔押せば／押すと／押したら〕ジュースが出てくる」 ほか
第9回	活用	「早く〔しゃべれ／しゃべろ〕」ほか
第10回	ヴォイス	「恋人にふられた」と「雨に降られた」 ほか
第11回	アスペクト、テンス	「このあと、授業あった？」は過去形なのか ほか
第12回	モダリティ	話し手の「気持ち」を表す言語要素 ほか
第13回	待遇表現	敬語の体系 ほか
第14回	ふりかえり	講義の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題の事前準備 (テキスト該当箇所の課題回答と批判的検討)・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間 (標準的には4時間以上) が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト (教科書)】

『ワークブック 方言で考える日本語学』(松丸真大ほか、くろしお出版、2023年、1650円)

https://www.9640.jp/book_view/?934

※履修者は必ず購入のうえ持参すること。テキストなしでの受講は不可。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。
関連する文献は講義内で適宜紹介するが、下記、例をいくつか掲げておく。
(1)『方言学入門』(木部暢子ほか編著、三省堂、2013年)
(2)『はじめて学ぶ方言学』(井上史雄ほか編著、ミネルヴァ書房、2016年)

(3)『実践方言学講座 第1巻 社会の活性化と方言』(半沢康・新井小枝子編著、くろしお出版、2020年)
(4)『新・方言学を学ぶ人のために』(徳川宗賢ほか編、世界思想社、1991年)

【成績評価の方法と基準】

・毎回の事前準備課題 30 %
・最終レポート 70 %

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したもの、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、方言への理解を深める目的で、簡単な沖縄語(沖縄方言)の練習を講義内でおこなったが、これがためになったという意見が寄せられた。今年度も、講義末尾等の時間で練習をおこなう予定である。

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項および資料配付は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。紙資料は配付しないため、毎回の受講時には【PCまたはタブレット】を持参するのが望ましい(スマホのみだと配付資料が読みにくいはず)。

【その他の重要事項】

▼質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上に随時受け付ける。
▼本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。また、首都圏以外の地域の方言を持つ学生は特に積極的に履修してほしい。
▼耳の聴こえて苦勞している学生の履修も当然歓迎するので、ぜひ申し出られたい。
▼この講義は毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline (in English)】

＊ ＊ Course outline ＊ ＊

One perspective on studying languages is to focus on the so-called 'standard language' of each language. However, as a matter of course, each language does not consist only of a 'standard language'. This lecture attempts to give an overview of some of the main phonetic and grammatical characteristics of both the 'standard' and 'dialects' of the Japanese language.

＊ ＊ Learning Objectives ＊ ＊

The students are expected to be able to 'see and think things' with a view to standard and dialectal languages.

＊ ＊ Learning activities outside of classroom ＊ ＊

Students will be expected to prepare and submit assignments in advance (answering the assignments and critically reviewing the relevant sections of the textbook). Please be aware that a certain amount of time (typically

4 hours or more) will be required for preparation each time.

＊ ＊ Grading Criteria /Policy ＊ ＊

Preparatory work for each class (30%), and final report (70%).

Plagiarism and unauthorized quotations are not allowed in the assignments and final report, nor is writing only on the content of the textbook or the content presented by the instructor in the lecture.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（９）表現A

藤谷 治

授業コード：A2687 | 曜日・時限：水3/Wed.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

【到達目標】

文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「君」とは何か	文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について
第2回	表現の存在意義	なぜ表現はあるのか
第3回	文学とは何か	文学を定義する
第4回	文学の評価	文学を評価するための基本について
第5回	文学の拠点	文学のありかについて
第6回	書く	文学における創作という側面と、その価値について
第7回	表現と情報	表現と情報の違いについて
第8回	小説 人物の複数性	小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について
第9回	作者の存在	小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について
第10回	小説の自由	小説表現が本来持っている自由について
第11回	稗史としての小説	稗史と、その子孫としての小説の一面について
第12回	非現実	小説における荒唐無稽や空想について
第13回	ストーリー	小説にとってのストーリーの位置と価値
第14回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「小説は君のためにある」（ちくまプリマー新書）

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

授業後に毎回アクション・ペーパーを提出していただきます。そこからの意見や質問等を選び、次回の授業で応じます。

【その他の重要事項】

講師は小説家。2003年デビュー。2015年『世界でいちばん美しい』で第31回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』（第21回三島由紀夫賞候補）『船に乗れ！』（第7回本屋大賞第7位）『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will undertake an elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.**Learning Objectives:** At the end of the course, students are expected to be able to see the significance of “expression” from multiple perspectives.**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook.**Grading Criteria/Policy:** Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（9）表現B

藤谷 治

授業コード：A2688 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における表現の諸相が、作品を実際を書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

【到達目標】

表現と創作の実際的な困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。レポートを課します。

各授業ごとにHoppiにてリアクションペーパーを提出してください。

レポートの課題は授業内、およびHoppiにて告知します。

提出された課題は可否判定の上、短評をつけてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発想	趣向について
第2回	取材	空気を吸うことについて
第3回	文章	スタイルの選択
第4回	起筆	書き出しについて
第5回	持続	書き続けることの困難
第6回	題名	題名を決める
第7回	人物	性格の否定について
第8回	禁止	自らに課す禁止事項及びボルノの自戒について
第9回	推敲	文章の検討と批判
第10回	改稿	初稿の否定について
第11回	構成	作品全体について
第12回	秘密	語りえないこと及び読者との秘密の共有について
第13回	完成	作品の独立について
第14回	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「燃えよ、あんず」（小学館文庫）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

【その他の重要事項】

職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will analyze the way a story progresses, with selected example from novels, and discuss how aspects of expression are realized in literary works.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the realistic difficulty and inconsequentiality of expression.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meetings, students will be expected to spend two hours to read the textbook.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（１０）演劇 A

深澤 希望

授業コード：A2689 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

台本を読解した上で、映像で舞台を鑑賞する。狂言という演劇の特徴を理解し、作品を深く味わう。

【到達目標】

- ・鑑賞する上で必要な基本的な知識を習得し、狂言という芸能について自分の言葉で説明できるようになる。
- ・狂言の台詞の特徴を理解し、作品の内容を解釈できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業。基本的には講義形式で進めるが、台本の音読は受講生にも参加してもらう。舞台芸術を取り上げる授業のため、視聴覚資料を用いる。古典芸能である狂言は、独自の約束事が多い。毎回配布するコメントカードに疑問に思った事柄等を積極的に記入してほしい。回答は次回の授業冒頭で行い、フィードバックしながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	狂言とは何か
第2回	狂言「附子」を読む	狂言の台本について知る
第3回	狂言「附子」を鑑賞する	狂言の主従関係①太郎冠者・次郎冠者 VS 主
第4回	狂言「呼声」を読む	狂言の主従関係②太郎冠者 VS 主・次郎冠者
第5回	狂言「呼声」を鑑賞する	囃子物の効果
第6回	狂言「鞍馬」を読む	狂言の主従関係③大名・太郎冠者・猿引
第7回	狂言「鞍馬」を鑑賞する	動物を演じること
第8回	狂言「鎌腹」を読む	狂言に描かれる夫婦関係
第9回	狂言「鎌腹」を鑑賞する	わわしい女と頼りない男
第10回	狂言「節分」を読む	狂言に描かれる鬼
第11回	狂言「節分」を鑑賞する	鬼の演技
第12回	狂言「無布施経」を読む	狂言に描かれる宗教者
第13回	狂言「無布施経」を鑑賞する	「間」の演技
第14回	まとめ	狂言の広がり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習の時間は各2時間を標準とする。準備学習は台本を精読し正確に音読できるようすること、復習は鑑賞後の感想をまとめ疑問点を明かにすること等を中心に取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、プリントを随時配布する。

【参考書】

小山弘志編『狂言鑑賞案内』岩波講座能・狂言7（岩波書店、1990）

【成績評価の方法と基準】

コメントカード（毎回）70％、学期末レポート30％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge about Kyōgen.

The goal of this course is to enable students to interpret Kyōgen works.

Lecture/two credits

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Comment cards: 70%, Term-end report: 30%

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（１０）演劇Ｂ

深澤 希望

授業コード：A2690 | 曜日・時限：水1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

謡曲を読解した上で、映像で舞台を鑑賞する。能という芸能の特徴を理解し、作品を深く味わう。

【到達目標】

謡曲を読解した上で、映像で舞台を鑑賞する。能という芸能の特徴を理解し、作品を深く味わう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業。基本的には講義形式で進めるが、台本の音読は受講生にも参加してもらう。舞台芸術を取り上げる授業のため、視聴覚資料を用いる。古典芸能である能は、独自の約束事が多い。毎回配布するコメントカードに疑問に思った事柄等を積極的に記入してほしい。回答は次回の授業冒頭で行い、フィードバックしながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	能とは何か
第2回	能「実盛」を読み・鑑賞する①	世阿弥伝書、本説『平家物語』
第3回	能「実盛」を読み・鑑賞する②	アイの独語、ワキの独語、シテの登場
第4回	能「実盛」を読み・鑑賞する③	シテ・ワキの応対
第5回	能「実盛」を読み・鑑賞する④	アイの物語、ワキの待受、後ジテの登場
第6回	能「実盛」を読み・鑑賞する⑤	ワキ・シテの応対、シテの物語①
第7回	能「実盛」を読み・鑑賞する⑥	シテの物語②
第8回	能「井筒」を読み・鑑賞する①	世阿弥伝書、本説『伊勢物語』
第9回	能「井筒」を読み・鑑賞する②	ワキの登場、前シテの登場
第10回	能「井筒」を読み・鑑賞する③	ワキ・シテの応対
第11回	能「井筒」を読み・鑑賞する④	前シテの物語
第12回	能「井筒」を読み・鑑賞する⑤	アイの語り、ワキの待受、後ジテの登場
第13回	能「井筒」を読み・鑑賞する⑥	後ジテの舞事、結末
第14回	まとめ	世阿弥の作能法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習の時間は各2時間を標準とする。準備学習は台本を精読し正確に音読できるようすること、復習は鑑賞後の感想をまとめ疑問点を明らかにすること等を中心に取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、プリントを随時配布する。

【参考書】

小山弘志ほか編『能鑑賞案内』岩波講座能・狂言6（岩波書店、1989）
別冊太陽 日本のこころ173『能』（平凡社、2010年）

【成績評価の方法と基準】

コメントカード（毎回）70％、学期末レポート30％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge about Nō.

The goal of this course is to enable students to interpret Nō works.

Lecture/two credits

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Comment cards: 70%, Term-end report: 30%

ART200BC（芸術学 / Art studies 200）

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史 A

本塚 亘

授業コード：A2693 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。春学期は「日本の音楽とは何か」という問題について考えます。雅楽や仏教音楽、平家語りなどを中心に、「日本の音楽」を外来文化とのかかわりの中で客観的に捉え、その普遍性と特殊性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要について理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の音楽と外来文化との関係性について理解を深めます。
- ・日本の音楽の普遍性と客観性について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。

授業は4つのテーマ、すなわち「Ⅰ：日本の音楽とは」、「Ⅱ：日本音楽略史」、「Ⅲ：外来楽について」、「Ⅳ：在来楽について」、および「補論」に分かれます。ⅠからⅣについては、小課題として要約などの課題を設けます。

資料の配布・公開、質問の受付、小課題の提出、およびフィードバックは、教室で直接行う場合と、学習支援システムを介して行う場合と、またはこれらを併用する場合とがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Ⅰ：日本の音楽とは - ガイダンス	授業の進め方、扱う範囲、評価方法等の確認。小課題（全4回）と期末レポートの出題。
第2回	- ジャンルと楽器	雅楽（管絃）に用いられる楽器や楽譜、演奏形式の由来について考える。
第3回	- フィードバック	「Ⅰ：日本の音楽とは」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第4回	Ⅱ：日本音楽略史 - 制度の形成	出土品や『隋書』倭国伝、『古事記』の記述などをもとに、日本の音楽の黎明について学び、その様相や対外的な機能について考える。
第5回	- 確立と発展	律令制度の整備に伴って組織化された日本の音楽の体系を学び、その機能や思想的背景について考える。
第6回	- フィードバック	「Ⅱ：日本音楽略史」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第7回	Ⅲ：外来楽について - 舞楽（左方・右方）	舞楽（左方・右方）の編成や形式などについて学び、『源氏物語』における舞楽の描写を鑑賞する。
第8回	- 管絃と御遊	管絃の編成や御遊の形式などについて学び、『源氏物語』における管絃の描写を鑑賞する。
第9回	- フィードバック	「Ⅲ：外来楽について」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第10回	Ⅳ：在来楽について - 国風歌謡	国風歌舞（久米舞、大和舞、東遊などの在来歌舞）について学び、その由来や享受について考える。
第11回	- 催馬楽について	御遊などで歌われる催馬楽について学び、その音楽性や歌謡の性質について学ぶ。
第12回	- フィードバック	「Ⅳ：在来楽について」に関する履修者の質問に回答、および補遺。
第13回	V：補論 - 源氏物語と音楽	『源氏物語』における音楽場面（舞楽・管絃・催馬楽など）について取り上げる。

第14回 - 平家語り、語り物の普遍性

平家語りについて学び、雅楽や声明から受けた影響について考える。また国外の語り物文化との関係について学び、語り物芸能の普遍性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、学習支援システム上で小課題等の入力をお願いします。

- ・小課題：テーマ毎（Ⅰ～Ⅳ）に要約等の課題を設けます。全4回。
- ・期末レポート：3000字程度のレポートを課します。
- ・質問（任意）：毎時受け付けます。
- ・アンケート（任意）：都度協力をお願いする場合があります。

課題回答、および準備学習・復習については4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。教室での配布資料、または学習支援システムを経由して資料を公開します。

【参考書】

- ・岸辺成雄『古代シルクロードの音楽』（講談社、1982）
- ・平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
- ・『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
- ・遠藤徹『雅楽を知る事典』（東京堂出版、2013）
- その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

すべての授業に出席していただくことを前提に授業を進めます。そのため、特別な事由がある場合を除き、5回以上の欠席がある受講者は評価不可となります（休講・公欠は出席としてカウントします）。その上で、【到達目標】に照らして以下の2項目を評価の対象とします。

- ・小課題 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

2023-

- ・毎時の学習到達目標を明確にする。
- ・学生の反応をみながら難易度を適宜調整する。

2024-

- ・小課題・期末レポートの出題・回答期間の調整。
- ・小課題の評点および採点基準の一部開示。
- ・小課題の主題内容、難易度、回答条件の調整。
- ・単位修得の条件として最低出席回数を設定。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等で学習支援システムにアクセスできるPC、インターネット環境を用意してください。教室内でPCを利用してもかまいませんが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、学習支援システムにて連絡いたします。

【Outline (in English)】

Outline: This is an undergraduate-level lecture that provides an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the spring semester, we will focus on the question “What is Japanese music?” by learning about *gagaku*, Buddhist music, *Heike-gatari* and so on. We objectively consider these genres of “Japanese music” in relation to foreign cultures and learn about their universal and unique characteristics.

Goals: By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The relationship between Japanese music and foreign cultures.
- The universality and objectivity of Japanese music.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Attendance in all classes. Students who miss more than 5 classes will not be evaluated unless there is a justifiable reason, such as an official absence. And in accordance with the above **Goals**, the following two elements will be graded:

- Subtasks (60%).
- Final report (40%).

ART200BC（芸術学 / Art studies 200）

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史B

本塚 亘

授業コード：A2694 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。秋学期は「うたと音楽との関係」について考えます。和歌や催馬楽、朗詠などを中心に、旋律に乗って歌われる言葉の機能や、替え歌によって生じるイメージの拡がりや分析し、その多様性と歴史的な複層性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要についての理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の「うた」の文学性と音楽性についての理解を深めます。
- ・歌謡における旋律と詞章との重層的な関係について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。

授業は4つのテーマ、すなわち「Ⅰ：和歌をうたう」、「Ⅱ：表記と歌唱形式」、「Ⅲ：和歌のレトリック」、「Ⅳ：歌合について」、および「補論」に分かれます。ⅠからⅣについては、小課題として要約などの課題を設けます。

資料の配布・公開、質問の受付、小課題の提出、およびフィードバックは、教室で直接行う場合と、学習支援システムを介して行う場合と、またはこれらを併用する場合とがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Ⅰ：和歌をうたう - ガイダンス	授業の進め方、扱う範囲、評価方法等の確認。小課題（全4回）と期末レポートの出題。
第2回	- 和歌の歌唱例	現代における和歌の発声・歌唱例を鑑賞する。
第3回	- フィードバック	「Ⅰ：和歌をうたう」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第4回	Ⅱ：表記と歌唱形式 - 『万葉集』のうたいかた	『万葉集』中の歌の発声や演奏に関する表現を概観し、音声としての和歌の享受の在り方を学ぶ。
第5回	- 歌謡と歌体	記紀歌謡や『万葉集』における歌体と、『琴歌譜』などで実際に歌われた形式とを比較し、その関係を学ぶ。
第6回	- フィードバック	「Ⅱ：表記と歌唱形式」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第7回	Ⅲ：和歌のレトリック - 上代～中古	和歌（短歌）の成立過程、および枕詞、序詞などのレトリックについて学び、その発声上の機能について考える。
第8回	- 中世・その他	縁語や掛詞、本歌取り、体言止めなどのレトリックについて学び、和歌史における質的な変遷について考える。
第9回	- フィードバック	「Ⅲ：和歌のレトリック」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第10回	Ⅳ：歌合について - 初期の歌合	歌合の歴史を概観しながら、初期歌合における演出や、和歌の詠唱方法、歌の評価観等について学ぶ。
第11回	- 歌合の変遷	平安時代末から中世にかけて起こった歌合の変化について学ぶ。
第12回	- フィードバック	「Ⅳ：歌合について」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第13回	補論 - 越殿楽の系譜	雅楽が寺院歌謡に取り込まれ、やがて越殿楽歌物として様々な芸能分野に拡散していく過程を追う。

第14回 - 君が代の歴史

和歌や朗詠、隆達節歌謡など、様々な形で伝播し、やがて数奇な運命をたどるに至った「君が代」について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、学習支援システム上で小課題等の入力をお願いします。

- ・小課題：テーマ毎（Ⅰ～Ⅳ）に要約等の課題を設けます。全4回。
 - ・期末レポート：3000字程度のレポートを課します。
 - ・質問（任意）：毎時受け付けます。
 - ・アンケート（任意）：都度協力を願う場合があります。
- 課題回答、および準備学習・復習については4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。教室での配布資料、または学習支援システムを経由して資料を公開します。

【参考書】

- ・平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
 - ・青柳隆『日本朗詠史 研究篇』（笠間書院、1999）
 - ・『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
 - ・渡部泰明編『和歌とは何か』（岩波文庫 新赤版 1198、2013）
- その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

すべての授業に出席していただくことを前提に授業を進めます。そのため、特別な事由がある場合を除き、5回以上の欠席がある受講者は評価不可となります（休講・公欠は出席としてカウントします）。その上で、【到達目標】に照らして以下の2項目を評価の対象とします。

- ・小課題 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

2023-

- ・毎時の学習到達目標を明確にする。
- ・学生の反応をみながら難易度を適宜調整する。

2024-

- ・小課題・期末レポートの出題・回答期間の調整。
- ・小課題の評点および採点基準の一部開示。
- ・小課題の主題内容、難易度、回答条件の調整。
- ・単位修得の条件として最低出席回数を設定。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等で学習支援システムにアクセスできるPC、インターネット環境を用意してください。教室内でPCを利用してもかまいませんが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、学習支援システムにて連絡いたします。

【Outline (in English)】

Outline: This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the autumn semester, we center on the relationship between song and music by learning about *waka*, *saibara*, *rōei*, and so on. We analyze the function of the words sung to the melody and the spread of the image caused by change in the lyrics, and think about the diverse and historical multilayered nature of song.

Goals: By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The literary and musical characteristics of ancient Japanese *uta* songs.
- The multilayered relationship between melody and lyrics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Attendance in all classes. Students who miss more than 5 classes will not be evaluated unless there is a justifiable reason, such as an official absence. And in accordance with the above **Goals**, the following two elements will be graded:

- Subtasks (60%).
- Final report (40%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸A

福 寛美

授業コード：A2699 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

琉球王国初めの文字資料である神歌集、『おもろさうし』のおもろ（神歌）に親しむ。また琉球の口頭伝承を記した『遺老説伝（いろうせつでん）』の説話や口頭伝承に影響を及ぼしたと考えられる日本本土由来の説話のことも考察していく。その過程を通し、琉球の神歌や文芸が周辺諸地域と関わりを持ちつつ、独自の世界を形成していることを知ることができる。

【到達目標】

『おもろさうし』は簡単な漢字とひらかなを用いた神歌集であるが、内容は難解で日本本土のどのような歌とも似ていない。その不思議な神歌（おもろ）の世界に分け入り、独特の世界観と信仰を知ることが目的とする。あわせて、琉球王国時代の口頭伝承を書き記した『遺老説伝（いろうせつでん）』、おもろや口頭伝承に影響を及ぼした、と考えられる日本本土由来の説話のことも考察していく。その過程を通し、琉球の神歌や文芸が周辺諸地域と関わりを持ちつつ、独自の世界を形成していることを知ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。琉球・沖縄の文学を知るためには、民俗や音楽も知る必要があり、音源を鑑賞する時間も設ける。また、授業数回に一回程度、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーに対しては、次の授業でフィードバックする。具体的には質問にこたえ、感想に対して所感を述べる。状況に応じて学習支援システムを用い、簡単な課題を出す。課題に目を通し、各自に対し所感を述べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『おもろさうし』の驚の用例	『おもろさうし』のおもろの読み方と、おもろ世界の驚の用例をみる。
第2回	『おもろさうし』の「驚をつかう」という用例	おもろの中で「驚をつかう」という用例がある。その用例をみていく。
第3回	『おもろさうし』の「驚をとる」という用例	「驚をとる」というおもろの意味を考えていく。
第4回	驚の霊能がどのようなものか	おもろ世界の驚は霊能を持つ存在である。その具体例をみていく。
第5回	驚が不可視のものをみる、という霊能を持つことについて	おもろ世界の驚は不可視のものをみる、とされる。その意義を考える。
第6回	驚のつく地名	おもろ世界では驚のつく地名がある。その地名を考察していく。
第7回	驚と王権との結びつき	おもろ世界の驚と王権は結びついていて、そのことを考察していく。
第8回	驚が戦勝の霊力を持つことについて	驚には戦勝の霊力があるとみなされていた。そのことを考察する。
第9回	船と驚のダブルイメージについて	おもろ世界の船が猛禽類のダブルイメージについて考察する。
第10回	琉球船と猛禽類の同一視について	琉球船は猛禽類と同一視されることがある。そのことを考察していく。
第11回	説話集、『遺老説伝』の驚羽について	琉球の口頭伝承を集めた『遺老説伝』にある驚羽の事例をみていく。
第12回	驚のイメージと神話、そして驚の尾羽が矢羽根になることについて	巨大な驚のイメージがいかに形成されたかを神話などから考察する。
第13回	驚のイメージと「鳥の墓」について	南西諸島の百合若大臣の物語の鷹のイメージを考察する。
第14回	「驚之鳥節」の驚について	八重山諸島で現在も愛される驚之鳥節の驚のイメージを考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の『火山と竹の女神』の「おもろ世界の驚」を読むこと。また、おもろを読んでいく上で必要なことは、別にプリントを作成する。学習支援システムにアップするので、教科書の理解を進めるために、読んでいくこと。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『火山と竹の女神』（福寛美、七月社、2021年、本体2500円）を教科書として使用する。

【参考書】

『喜界島・鬼の海域』（福寛美、新典社、2008年）
『「おもろさうし」と群雄の世紀』（福寛美、森話社、2013年）

『ぐすく造営のおもろ』（福寛美、新典社、2015年）
『奄美群島おもろの世界』（福寛美、南方新社、2018年）

【成績評価の方法と基準】

・記述式の期末試験を行う。問題をいくつか提示し、その内2つを選んで、それぞれ300字以上記述する、という形をとる。
・平常点も参考にする。最低6回は出席すること。
・期末試験で70%、平常点で30%の配分とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を『おもろさうし』主体にすると、必ず難解である、という学生からの意見がある。それは仕方がない部分もあるが、なるべくわかり易く説明するように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期、秋学期は同じ教科書を使用する。

【Outline (in English)】

Course Outline: The *Omoro sōshi* is the first written compilation of sacred songs and poems collected by the Ryukyu kingdom. The Ryukyuan folklore in the *Irō setsuden* and the Okinawan cultural background may have affected the development of its oral traditions. In this course, you will learn how Ryukyuan sacred songs and literature are related to the cultures of the surrounding areas and developed their own unique styles.

Learning Objectives: The goal is to understand the difference between Ryukyuan and Japanese literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the textbook and references carefully.

Grading Criteria/Policy: Attend at least 6 times and take the exam. The exam makes up 70% of the grade, and performance in class makes up 30%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸B

福 寛美

授業コード：A2700 | 曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南西諸島の神話や民俗は南九州と深く関わっている。薩摩（さつま）、そして薩南の島々を自在に航海していた人々を、隼人（はやと）という。その隼人の神話を学び、移動する海民について考察する。日本神話における隼人の重要性を認識することを到達目標とする。

【到達目標】

- ・日本神話と火山、という視点は従来あまり顧みられなかった。しかし、火山列島でもある日本で、噴火はまさに神の仕業としか考えられなかったはずである。その視点で神話を読み解くと、新たな知見が得られる。
- ・コノハナノサクヤビメ、そしてその神話的末裔の『竹取物語』のカグヤヒメを火山と関わる存在、と捉えたと興味深い事象が認識できる。
- ・南九州を出自とする隼人と日本神話の関係から、日本神話における隼人の存在価値を知り、古代の九州の文化への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。授業数回に一回、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーには講義内容に対する質問などを書くこととする。次の授業で質問に答えるようつとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	噴火	日本古代における火山の噴火について述べる。
第2回	コノハナノサクヤビメ	降臨した天孫（てんそん）と結ばれた地上の女神について考察する。
第3回	コノハナノサクヤビメの行動	女神についての神話を解説し、女神が天上のアマテラスを模すこと、一方で隼人の女神らしい行動をとることを述べる。
第4回	ヨ（よ・世・代・節）1	ヨ（ユ）は区切られた年代のほか、様々な意味を持つ。そのことを考察する。
第5回	ヨ2	南西諸島の祭祀において、世を乞う（ユークイ）という儀礼が行なわれる。ヨ、ユとは何かを考察する。
第6回	ヨ3	『竹取物語』のカグヤヒメは竹の節にいた。この節もまたヨといわれる。そのことを考察する。
第7回	カグという語	カグヤヒメのカグは、大和三山の香具（カグ）山、火の神のカグツチと関わる。そのことを考察する。
第8回	カゲ（影）	カゲは靈力を意味する言葉であり、南西諸島では光を意味することもある。その用例を考察する。
第9回	隼人と畿内	南九州の隼人が畿内に移動していたことと、その働きについて考察する。
第10回	このはなのサクヤビメと なよたけのカグヤヒメ	サクヤビメとカグヤヒメの神話的類似について考察する。
第11回	富士山	コノハナノサクヤビメは富士山の女神とされる。そのことを考察する。
第12回	隼人と水の献上	隼人は古代の朝廷で水を献上する役割を担っていた。そのことを考察する。
第13回	日向出身の皇妃	神話には日向出身の隼人の女性が皇妃になったことを語る。その意義を考察する。
第14回	隼人と狗（いぬ）吠え	朝廷で、隼人は魔を祓うため特殊な声を出す（狗吠え）役割を担っていた。そのことを考察し、秋学期の授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・『火山と竹の女神』の「火山と竹の女神」の項目をよく読むこと。また授業内容の理解を助けるためのプリントを授業支援システムにアップするので、プリントも参照すること。
- ・簡単な参考文献、インターネットで読める資料なども周知するようにするので、そちらも参考にすること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『火山と竹の女神』（福寛美、七月社、2021年、本体価格2500円）を教科書とする。

【参考書】

『夜の海、永劫の海』（福寛美、新典社、2011年）
『うたの神話学』（福寛美、森話社、2010年）
『新うたの神話学』（福寛美、新典社、2020年）

【成績評価の方法と基準】

- ・学期末に試験を行う。問題を複数提示し、2問を選び、それぞれ300字以上記述する、という形にする。
- ・平常点も留意する。最低6回は出席すること。
- ・試験を70%、平常点を30%として採点する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が受講生にとって未知で難解なものである場合、戸惑いの声を聞くこともあるが、なるべくわかりやすく解説するようにつとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期、秋学期ともに同じ教科書を使用する。

【Outline (in English)】

Course Outline: The myths and folklore of the Nansei Islands are closely related to those of Southern Kyushu. The Hayato were the people who sailed across the Southern Kyushu and Southern Satsuma islands. In this course, we will learn about the myth of the Hayato and the people of the sea who sailed across the Nansei areas. The relationship between the Hayato from the Southern Kyushu and Japanese myths reveals the presence of Hayato people in Japanese myths. The culture of ancient Kyushu will be looked at in detail.

Learning Objectives: The goal is to recognize the importance of the Hayato in Japanese mythology.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the textbook and references carefully.

Grading Criteria/Policy: Attend at least 6 times and take the exam. The exam makes up 70% of the grade, and performance in class makes up 30%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（15）国際日本学A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese* [1894]の改訂版）。
・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】

・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・13回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート プレゼンテーション担当の調整
第2回	「(国際) 日本学」とは	世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第3回	日本意識の芽生えと発展	「中華思想」との接触 中世の日本意識 プレゼンテーションの準備（続）
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究
第5回	討論会① 内村鑑三著 『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第6回	明治維新前後の外国人 の活躍①	オールコック、アストン等
第7回	明治維新前後の外国人 の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japanの設立と活動
第8回	明治維新前後の外国人 の活躍③	チェンバレン、ハーン
第9回	討論会② 新渡戸稲造 『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第10回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第11回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の大出世
第12回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからバウンド・イエイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第6回 参考書 pp. 10-17

第7回 参考書 pp. 18-23

第8回 参考書 pp. 64-69、70-77

第14回 参考書 pp. 104-111

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。

【参考書】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（ISBN4-12-100832-4）

その他、授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分でないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講 (15) 国際日本学B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた*The Chrysanthemum and the Sword* (菊と刀、1946) と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で20世紀前半の日本を捉えた*The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
・戦後、特に1960年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会 (授業第5・9・12回) で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第2回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第3回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第4回	『菊と刀』③	青木保 (『日本文化論』の変容) の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第5回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第5章“Debtor to the Ages and the World”と第6章“Repaying One-Ten-Thousandth”
第6回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー等の活躍
第7回	60～70年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー等
第8回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま (極論も含めて)
第9回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第7章“The Repayment Hardest to Bear”と第8章“Clearing One's Name”
第10回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第11回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧 (イ・オリョン)、ハルミ・ベフ、青木保、ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第12回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第10章“The Dilemma of Virtue”と第12章“The Child Learns”
第13回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化の恥」論
第14回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第5・9・12回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第2回 参考書① pp. 182-187

第4回 参考書② pp. 31-55

第6回 参考書① pp. 214-219、266-271

第7回 参考書① pp. 248-253

第11回 参考書① pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書を使用しない。

【参考書】

①佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』(中央公論社、1987) 中公文庫 832 (ISBN4-12-100832-4)

②青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティ』(中央公論社、1990) 中公文庫 533、1999 (ISBN4-12-203399-3)

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー (35%)、プレゼンテーションと議論への参加度 (25%)、期末レポート (プレゼンテーションを文章化したもの、40%)。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict's *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict's book, students participate in one of three presentations on Benedict's discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 & 6), *giri* (Chapters 7 & 8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict's book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（16）特域C

安原 眞琴

夜間時間帯

授業コード：A2707 | 曜日・時限：木6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：・本科目を「文化史1」として履修できるのは日本文学科生のみです。他学科公開科目の「文化史1」は哲学科主催のA2262「文化史1」です。

・本科目を履修済みの場合、A2581「文化史1」（夜間科目）は履修できません。

・日本文学科生が学芸員の資格を取得するにはA2581「文化史1」を履修する必要があります。特域Cでは学芸員科目になりませんのでご注意ください。

・日本文学科生でない文学部生が「文化史1（資格）」を履修する場合、哲学科主催のA3851「文化史1（資格）」を履修してください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸読解の前提としての江戸／東京を、古地図や浮世絵などを見ながら学ぶ。

【到達目標】

- ・現在我々がいる「場」への関心、理解を高めることができる。
- ・文学の舞台の重要性に気付くことができる。
- ・古地図や浮世絵の知識を身に付けることができる。
- ・資料の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し、それらを咀嚼し発表するなど、活用することができる。
- ・現在と過去の町を比較することで、都市の成り立ちや町づくりのあり方などを考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回リアクションペーパーを提出し平常点を付加していく。

授業は講義形式だが、中間レポート以降、各自実際に町に出て調査してもらう予定である。

リアクションペーパーと中間レポートはMLS上で点数でフィードバックする。最終レポートはブラッシュアップ時に必要であればアドバイスするが、最終的な点数などの評価はフィードバックも公表もしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方などを説明する。 ・文学の舞台になってきた武蔵野／江戸／東京の土地の歴史を学ぶ。
第2回	東京の概要を知る	「東京」の成り立ちを学ぶ。
第3回	東京の概要を知る	23区の1区ごとの位置や特徴などを学ぶ。（国会図書館のサイト参照）
第4回	古地図の見方を知る	古地図の種類と見方を学ぶ。
第5回	「江戸城」を知る	町の中心「江戸城」について学ぶ。
第6回	城下町「江戸」を知る	町の構造「下町と山の手」について学ぶ。
第7回	日本橋を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（下町の中心）
第8回	上野を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（町の鬼門）
第9回	浅草を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（武蔵野以来の要衝地）
第10回	品川を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（繁華街・四宿）
第11回	両国を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（繁華街・火除地）

第12回	吉原を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（日本最大の繁華街）
第13回	吉原を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（日本最大の繁華街）
第14回	王子・飛鳥山を知る	具体的な町の歴史や特徴を学ぶ。（郊外・遊山・散歩）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：授業内容に関する事柄を事前に学習してくる（2時間）

復習：授業で学んだことを踏まえて、事前学習をブラッシュアップしてくる。（2時間）

宿題：担当する町について調べる。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、授業時に指示する。

【参考書】

錦絵で楽しむ江戸の名所（国会図書館のサイト：<https://www.ndl.go.jp/landmarks/index.html>）

安原眞琴『東京の老舗を食べる』（亜紀書房、2015）

安原眞琴『東京おいしい老舗散歩』（東海教育研究所、2017）

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを毎回提出させ平常点として加算していきます。60%

・中間レポート（宿題）20%

・期末レポート20%

これらの総合判断により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、まじめな学生が多く、この先どんな分野に進むにせよ、ますますの成長を楽しみにさせてくれる。これからも、何か少しでも自分のために学ぼうとし、且つ学んだことを自分のこやしにしていってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使いたいと思っています。

【その他の重要事項】

授業終了時の教壇前での会話・相談をオフィスアワーとします。

ただし、重要な連絡がある場合は、次の安原眞琴公式ホームページのコンタクト欄を使用します。

<http://www.makotooffice.net/>

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn about Edo/Tokyo as a premise for reading comprehension, while examining old maps and ukiyo-e woodblock prints.

Learning Objectives: The aims of the class are to become more conscious of where we are, and of the settings of works of literature, while gaining knowledge about old maps and ukiyo-e. Students learn to collect and digest relevant information, and report on it. Comparing urban areas of the past and present gives students insight into how they are formed and evolve.

Learning Activities Outside of the Classroom: 1 to 2 hours of preparation on the topic of each lecture, and a similar amount of time of review. This will occasionally be supplemented with short assignments.

Grading Criteria/Policy: Grading is based on the following: written reactions to each lecture (60%); mid-semester assignments (20%); and final report (20%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講 (16) 特域D

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2708 | 曜日・時限：木6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：・本科目を「文化史2」として履修できるのは日文学科生のみです。他学科公開科目の「文化史2」は哲学科主催のA2263「文化史2」です。

・本科目を履修済みの場合、A2582「文化史2」（夜間科目）は履修できません。

・日文学科生が学芸員の資格を取得するにはA2582「文化史2」を履修する必要があります。特域Dでは学芸員科目になりませんのでご注意ください。

・日文学科生でない文学部生が「文化史2（資格）」を履修する場合、哲学科主催のA3852「文化史2（資格）」を履修してください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史的事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起りから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。

なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国書道史1 (殷・周の書)	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第2回	中国書道史2 (秦・漢の書)	・始皇帝の文字統一 ・隸書の発展と後漢の石碑
第3回	中国書道史3 (三国の書)	・書体の発展
第4回	中国書道史4 (東晋の書)	・王羲之、王献之の書
第5回	中国書道史5 (南北朝の書)	・北朝の石刻について
第6回	中国書道史6 (唐の書)	・初唐の三大家と楷書
第7回	日本書道史1 (飛鳥・奈良の書)	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第8回	日本書道史2 (平安前期の書)	・三筆の書
第9回	日本書道史3 (平安中期の書)	・三蹟の書 ・和様の成立
第10回	日本書道史4 (仮名の書のさまざま)	・仮名の書とその書美
第11回	日本書道史5 (平安後期の書)	・西本願寺本三十六人家集
第12回	日本書道史6 (中世の書)	・尊円親王の書 ・さまざまな書流
第13回	日本書道史7 (近世の書)	・寛永の三筆の書
第14回	まとめ	・中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（萱原書房、2005年）

・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）

・名晃耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）

そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）により評価します。試験では、主要な書道史的事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんとともに考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

Learning Objectives: This course aims to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (50%), assignments (30%), and regular class performance (20%).

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

英語学概論 A

准 名 美智

授業コード：A2804 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学の研究領域の全体を、2セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるように広い視野を持って学習します。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1年次に、春・秋と連続して履修することが望ましいです。

【到達目標】

英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始は4月7日です。テキストはそれまでに自分で生協にて買ってください。課題、読んではしい箇所などの情報はHoppii「学習支援システム」でお知らせします。ハンドアウト、パワーポイント、課題、指示、いろんなメディアを使って、授業のエッセンスをお伝えします。基本的には対面授業の予定ですが、場合によっては、オンデマンドやオンラインになることもあるかもしれませんが、そうした情報も含め、全て前日までにはHoppiiでお知らせします。なお、Hoppiiから皆さんへは、メールでお知らせがいくようになります。

「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、パワーポイントを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エキササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。

リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	英語学研究の概説と春学期の授業の毎週、授業日の前日に、進め方や履修条件について説明します。
第2回	世界の英語(1)	世界語としての英語について
第3回	世界の英語(2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第4回	形態論(1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第5回	形態論(2)	形態論と形態素
第6回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第7回	意味論(1)	意味論の概説
第8回	意味論(2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第9回	語用論(1)	語用論の概説、言葉の意味について
第10回	語用論(2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第11回	文体論(1)	文体論の概説
第12回	文体論(2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第13回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第14回	社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション、課題に対する解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、Hoppiiにアップロードされた授業の資料は必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】

内容ごとに参考文献や資料を紹介し、Hoppiiにアップロードします。

【成績評価の方法と基準】

通常の授業では、学期末試験70%、レポート20%、平常点10%で、評価します。変更しなければならない状況になったら、Hoppiiにて連絡をします。

【学生の意見等からの気づき】

初めてのことはかなりなので、授業を聞いているだけでは難しいかもしれませんが、授業の前後に予習と復習をきちんとすると、だんだん理解できるようになります。

【学生が準備すべき機器他】

課題は、基本的に学習支援システムから、添付ファイルの形で提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・パワーポイントの資料は、必要な場合には、授業後にHoppiiにアップします。
・オフィスアワーは木曜4限です。事前にメールで予約をしてください。詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics. The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.

The leaning object of this class is to have an overview of the English linguistics and also become able to locate one's own research interest in the field.

Students need to read the chapter before attending the class and also to review what they have learned in the class after the class.

The grade includes the term end exam (70%), academic essays (20%), and attendance (10%). Any change will be announced in the class or by Hoppii.

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

英語学概論 B

福元 広二

授業コード：A2805 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、伝統的文法から最新の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究的基礎となるような内容が身につきます。

【到達目標】

この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第2言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最新の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第2回	英語学とは	英語学の基本を解説する
第3回	音声・音韻論(1)	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み 音韻論の演習:母音の発音の実践
第4回	音声・音韻論(2)	音声学の概説:子音の仕組み
第5回	音声・音韻論(3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第6回	音声・音韻論(4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第7回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第8回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第9回	言語構造の解析	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第10回	英語の歴史(1)	英語史の概説
第11回	英語の歴史(2)	英語の音韻・統語・形態・意味の変化
第12回	言語習得(1)	言語習得の基礎的概念
第13回	言語習得(2)	言語習得を説明する主な理論
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引ながらとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』

影山太郎、日比谷潤子、ブレント デ・シェン 著
くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に示した、その分野の基礎的知識が十分に理解できているかで評価します。

期末試験 60%

平常点 40%

【学生の意見等からの気づき】

教科書の解説も丁寧に行うようにします。

【その他の重要事項】

できれば、1年次に春学期「英語学概論A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論A」と「英語学概論B」を両方履修してはじめて得られます。授業の構成や順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合があります。出席は毎回とります。4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language. Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English linguistics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%)

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

言語学概論 A

石川 潔

授業コード：A2806 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るというより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことを目指します。どの分野を自分が楽しめそうか、楽しめなさそうかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きの判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。基本的には講義です。リアクションペーパーを募りますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入、および「音素」その1（音声学・音韻論）	この授業の紹介、および、 <i>party</i> はカタカナで何と言うべき？
第2回	「音素」その2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第3回	「音節」その1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第4回	「音節」その2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第5回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第6回	今日の文法理論その1（統語論）	統語論「研究」実体験：日本語を例として
第7回	今日の文法理論その2（統語論）	「5文型」の不適切さ、X-bar Theory
第8回	今日の文法理論その3（統語論）	英語の「動詞句」って何だろう？ そんなもの、本当に native speaker の頭の中にあるの？
第9回	今日の文法理論その4（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第10回	今日の文法理論その5（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第11回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	<i>Without her contributions failed to come in.</i> ってどういう意味？ …… 「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第12回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	実験方法、そして人間の文処理の方式の理由
第13回	言語習得（心理言語学）	言語生得説、そして U-curve development
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に應用して考えてみましょう。なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、100%。
公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、一昨年から改善を志したものの、却って失敗した面があったと自分では思っています。その割には授業改善アンケートでは好意的な反応の方が圧倒的に多く、ありがたかったのですが、特に「文法」関係はもっと丁寧に説明したいと思います。また、実習的な面をもっと増やしたいと思っています。

【その他の重要事項】

この授業は『言語学概論B』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to linguistic sciences for novice. (Learning Objectives) To clear up common misconceptions concerning language, and to get a feel of how research in each of the fields is typically conducted. (Learning activities outside of classroom) Reaction papers (Grading Criteria /Policy) Final (100%)

LIN100BD (言語学 / Linguistics 100)

言語学概論 B

石井 創

授業コード：A2807 | 曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、「『経験科学』としての言語学入門」です。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 身近で話されている言語の事実に敏感に気付ける、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対し、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 形態

教室での「対面授業」を毎回実施する予定ですが、諸事情により部分的に「オンライン授業」を実施する場合があります。

2. 進め方

教員による講義形式が基本となりますが、内容理解を助けるために、受講者が授業内や宿題で練習問題を解く機会も適宜設けていきます。教員は具体的な言語現象とそれに関わる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもともとしさを自分で疑う姿勢を大切にし、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパーで積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパー等で得られた面白い質問やコメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介して教員がそれに答えることで、授業における話題や議論を広げるのに役立てていきます。なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかかる授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要説明、「言語学って何を学ぶの?」、「語学と違うの?」、「言語学が科学?」
第2回	理論言語学とは?	下位分野とそれぞれで扱われる謎の種類
第3回	言語理論と言語観の変遷1	Saussure ～アメリカ構造主義言語学
第4回	言語理論と言語観の変遷2	Chomsky ～認知言語学
第5回	形態論1	語の内部構造と形態素
第6回	形態論2	語形成（派生と屈折）
第7回	音声学1	音声産出と子音・母音の体系
第8回	音声学2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第9回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第10回	統語論1	句構造と X-bar Theory
第11回	統語論2	句構造から文構造へ（生成文法における「移動」）
第12回	意味論1	意味の記述と語彙分解
第13回	意味論2	述語のアスペクト
第14回	音韻論	音節とモーラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業1回あたりの標準の準備・復習時間は、各2時間とします。

1. 準備

事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通しておくと、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。

2. 復習（宿題、その他応用学習も含む）

その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されている場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出てきたら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや授業後の質問のような形で教員に示してもらえれば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。紙のハンドアウトは教室で配布せず、授業日の前にその日に使用するハンドアウトの電子データを学習支援システムにアップロードします。受講者は各自でハンドアウトのデータを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください（授業中にハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはデータに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください）。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験：100%

シラバス執筆時点では、(A) 教室内試験、(B) 学習支援システムの「教材」機能を用いたオンライン試験、のどちらになるか未定です。(A) の場合は、最終授業後の定期試験期間に実施します。

2. プラスアルファの加点

上記の通り、本科目の成績は期末試験による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には成績にプラスアルファで少々の加点をいたします。

(a) リアクションペーパー (RP) や質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者（但し、以下の*の場合には減点の可能性あり）

(b) 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者（不参加の者が減点されることはない）

*本授業では出席は取りません。また RP は出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見や質問、希望を記すためのものであり、「出さないと減点される」という類のものではありません。よって、出席票を出すノリでいい加減な RP (e.g., 氏名を記入しただけのもの、「面白かった」「興味深かった」等)の一言感想だけのものを提出した者は、逆に成績から減点します。

【学生の意見等からの気づき】

1. 昨年度は「専門用語が多く、その用語があらわす内容を理解できないまま授業が進んでしまった」という旨の意見が複数見られ（一方で「分かりやすい授業だった」という意見もあり）、その点に対して「用語説明をもっと充実させてほしい」、「既習用語の振り返り確認を授業中にもっと行ってほしい」という要望があった。これらを踏まえ、本年度は「『学生にとっての分かりやすさ』をより意識して説明の仕方を工夫する」、「時間の許す限り、以前の授業内容の振り返りを増やす」、等の改善を行っていきたい。
2. 受講生が授業中にスマホや PC から送信したコメントが教室内スクリーン上に匿名で流れるアプリを一昨年度より導入しているが、一昨年度と異なり、昨年度は毎回の授業で受講生からの意見・質問コメントを得られ、またそれに対して「匿名かつ気軽に質問や要望を送れ、それに対応してもらえてありがたかった」という好意的な意見をいただいた。本年度も引き続き本環境を活用し、より積極的にコメントをいただけるように工夫しながら、受講生の自由な意見発信や授業理解度の把握に役立てていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。

(a) 双方向通信アプリの Zoom を使用できるデバイス

(b) Zoom によるリアルタイム配信授業の視聴が可能なインターネット回線

【その他の重要事項】

本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりで学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいてください。

【Outline (in English)】

1. Course outline

This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

2. Learning objectives

In this course, students are expected:

- (a) to acquire the ability to understand basic knowledge in each field of linguistics.
- (b) to become sensitive to, and to acquire the ability to give a rudimentary analysis to, facts about languages that are spoken around them.

(c) to gain a correct understanding of a scientific research methodology.

3. Learning activities outside of classroom

Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.

(a) Preparation

Before each class meeting, take a look at the handout to be delivered beforehand. In addition, you should also recall the contents of the previous class meeting that are related to the upcoming meeting.

(b) Review

You should reflect on what you have learned in the classroom, and work on the assignment if any. If you encounter a problem, you should first tackle it yourself, and let me know the results, however imperfect they are; I will then give a feedback to your attempt. Furthermore, employ the analysis methods you have learned to solve the problem you encounter in your daily life that is similar to the phenomenon taken up in the class.

4. Grading Criteria /Policy

Term-end examination: 100%

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語・言語学講義 A

椎名 美智

授業コード：A2808 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業形態は基本的には対面ですが、変更するときはHoppiiで連絡します。互いに日本語で話をしているのに、なにを言いたいのかわからない時があります。外国語だとおそろそうです。原因の多くは「意味論の意味」と「語用論の意味」のズレ、つまり言葉の辞書的な意味と伝えたいメッセージが一致していないことにあります。本講義では、そうした「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面を探ります。講義のテーマは、「語用論」の中でも特に注目されている「ポライトネス」です。理論的枠組みを学び、知識としてだけでなく、実際のコミュニケーションの技術を身につけ、人間関係を見つめなおす切り口を探ることです。「語用論」を学ぶことによって、「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面を探ります。

【到達目標】

授業の最終目標は、コミュニケーション力を向上させていく感性を身につけることです。語用論やポライトネス理論を学ぶと、日常生活でのコミュニケーションギャップの理由が理解できるようになります。よって、「コミュニケーション力」アップを目指す学生への履修をお勧めします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書、ハンドアウト、PPTを使った講義形式です。日本語のテキストなので、授業前に予習をしてください。実際に人々のコミュニケーションを観察するフィールドワークやロールプレイも行います。基本的には対面授業の予定ですが、状況に応じて、授業の形式は変わりますので、毎週、授業の前日までにはHoppiiを見てください。毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学問領域の概説と、各自の課題設定
第2回	語用論とは何か	語用論とポライトネスについて概説
第3回	第1章：ポライトネスの背景（1）	人間関係に関わる普遍的なルール
第4回	第1章：ポライトネスの背景（2）	ポライトネスについて
第5回	第2章：ブラウン＆レビンソンのポライトネス理論（1）	効率と配慮について
第6回	第2章：ブラウン＆レビンソンのポライトネス理論（2）	ポライトネスと言語文化について
第7回	第3章：敬語とポライトネス（1）	会話の場で人間関係を切り分けることについて
第8回	第3章：敬語とポライトネス（2）	敬語と距離感について
第9回	第4章：距離とポライトネス（1）	「人を呼ぶこと」と「ものを呼ぶこと」の語用論
第10回	第4章：距離とポライトネス（2）	呼称と指示語について
第11回	第5章：ポライトネスのコミュニケーション（1）	会話のスタイル・言語行為・文化差について
第12回	第5章：ポライトネスのコミュニケーション（2）	言語の形式と機能について
第13回	第6章：終助詞の意味とポライトネス	話者が直観的にしていることについて
第14回	歴史語用論概説	歴史語用論の射程の方法論について、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活における人々のコミュニケーションを観察するフィールド・ワークを実践します。自分の生活の中の会話の分析をします。レポートの課題については、ワークショップの形で考えていきたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』（研究社）

【参考書】

椎名美智（2022）『「させていただく」の使い方—日本語と敬語のゆくえ—』（角川新書）
「ポライトネス」「語用論」「コミュニケーション論」といったタイトルのついた本は参考になります。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート80%、平常点（提出物/出席）20%で評価します。学期末のレポート以外に、学期中に教員が提案したテーマについて提出された課題レポートは加点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使ったPPT資料は、希望があれば、授業後に学習支援システムにアップするので、それを参考にしてください。授業中はスクリーンの内容をノートにとることよりも、授業の内容に集中してください。講義中心の一方通行の授業になりがちなので、テーマにそって議論できるチャンスを毎回作ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは木曜日4限です。事前に予約メールをください。メールアドレスは初回の授業でお知らせします。
「社会言語学」も履修すると、さらに広い言語観を身につけることができるようになります。

【Outline (in English)】

This course deals with human communication with politeness on focus. Students are expected to find problems regarding their own everyday communication.

The goal of this class is to learn pragmatics and politeness theory and raise the consciousness on one's own communication.

Students need to review what they learn in the class.

The grading includes presentation (20%) and term paper (80%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語・言語学講義 B

石川 潔

授業コード：A2809 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なネタを取り上げた講義、および訳や作文の実習。

訳や作文に授業時にコメントを加え、かつ、リアクションペーパーで重要なものにはコメントを返す予定です。

なお、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	巷の日本語論の嘘（その1）	うなぎ文（その1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第2回	巷の日本語論の嘘（その2）	うなぎ文（その2）：奥津説、菅井説、そして……
第3回	「訳」についての誤解（その1）	代名詞と「役割語」
第4回	「訳」についての誤解（その2）	意味と文法的手段
第5回	文化と思考と言語	概念の切り取り方の文化／言語ごとの違い
第6回	ハとガ、英語の冠詞（その1）	情報の新旧説……英語の冠詞
第7回	ハとガ、英語の冠詞（その2）	情報の新旧説……日本語の助詞
第8回	「黒人」英語（その1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第9回	「黒人」英語（その2）	無意識の規則
第10回	「黒人」英語（その3）	必要な（意味論的）概念の整備
第11回	「黒人」英語（その4）	細かい意味的な区別
第12回	強形・弱形・再強勢形	do の3単現（その1）
第13回	音節量	do の3単現（その2）
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えてきてください。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粹加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでの理解度のスコアは、2022年度より2023年度は上がりましたが、2024年度は2022年度よりも下がってしまいました。理解度を2023年度のように上げるべく頑張りたいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline) Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

(Learning Objectives) To clear up misconception concerning language.

(Learning activities outside of classroom) Translations and compositions; reaction papers.

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

社会言語学

椎名 美智

授業コード：A2810 | 曜日・時限：木3/Thu.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会言語学は文字通り「社会と言語の関係についての学問」ですが、この授業では、幅広い視野から社会言語学を概観し、言語的側面から歴史、社会、政治、そして日常生活を見直す考え方を身につけることを目標にしています。

【到達目標】

世界中の様々な国に住む、様々な民族の言語状況に目を向け、その背後にある政治的・社会的・歴史的・民族的な要因を考える習慣を身につけてもらいたいと思います。それと同時に、自分の生活環境における言語の実情を自分で調べる「フィールド・ワーク」をする習慣を身につけてもらいたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

初回の授業は4月10日です。

国会では標準語で話しているのに、地元での選挙演説では方言を使う政治家がよくいます。また、電車の中でおしゃべりしている中高校生の語彙やイントネーションが、まるで外国語のように奇妙に聞こえることも、よくあることです。日常生活におけるこうした言語をめぐるおもしろい言語現象をきっかけに、「社会」と「人間」と「言語」の関わりを探っていきます。また、世界における言語状況を自分たちの身近な問題として考えていきます。テキストおよびハンドアウト、PPTを使った講義形式です。なお、各回の内容は、履修学生の興味によって変更する可能性があります。毎時間、リアクションペーパーに講義で学んだこと、考えたことなどを書いて、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	社会言語学の学問領域の概説と各自の課題設定
第2回	社会言語学の定義	「社会」と「言語」の関係について
第3回	社会言語学の射程	扱う領域について
第4回	多言語社会	世界における民族と言語について
第5回	ダイグロッシア	二言語が使用されている社会について
第6回	ドメイン	言語が使い分けられる領域について
第7回	コードスイッチング	言語が切り替わる状況と要因について
第8回	言語の死	使われなくなっていく少数民族の言語について
第9回	ピジンとクレオール	複数の言語が出会う状況での言語状況について
第10回	方言	地域方言と社会方言
第11回	言語と文脈	言語が使用されるコンテキスト
第12回	敬語とボライトネス	日本語の敬語システムと敬語演習、およびボライトネスという概念
第13回	言語とジェンダー	ジェンダーの差違と言語使用
第14回	ケース・スタディー	『マイフェアレディ』における「方言」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は2時間必要です。自分の言語環境を、社会言語学的な観点から見直す訓練をします。

【テキスト（教科書）】

田中晴美、田中幸子編著『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』（1996）ミネルヴァ書房

【参考書】

内容ごとに参考文献を紹介し、資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

レポート8割（フィールド・ワーク重視）、平常点2割（課題も含む）で評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

例年、配付資料が数多く、授業内で扱いきれないので、厳選して資料を配付します。PPT資料は、授業後に授業支援システムにアップしますので、参考にしてください。授業中はノートをとることよりも、講義の内容に集中し、テーマにそって議論できるように、自ら考えるようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントはリクエストがあれば、授業支援システムにアップします。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to become aware of the use of language in society. By the end of the term, the students will have a fair linguistic sense towards languages in the world.

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

応用言語学

川崎 貴子

授業コード：A2811 | 曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】

こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。授業後にオンラインでいただいたコメント・質問には次の授業冒頭で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の内容説明
第2回	言語知識	子供と大人の言語知識
第3回	第一言語習得1	子供の言語習得
第4回	第一言語習得2	入力の問題点・生得性
第5回	第一言語習得3	臨界期仮説
第6回	第一言語習得4	第一言語習得の研究
第7回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第8回	第二言語習得1	第二言語習得における入力問題
第9回	第二言語習得2	L1とL2の相違点
第10回	第二言語習得3	言語差と難易度
第11回	SLA研究	実験方法の変遷
第12回	SLA理論1	パラメタと有標性
第13回	SLA理論2	パラメタの習得
第14回	SLA研究の教育への応用	理論と教育、第二言語教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。PDFファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

Lightbown, Patsy and Nina Spada 2011. How Languages Are Learned. Oxford University Press. [P. ライトバウン & N. スパダ『言語はどのように学ばれるか——外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』白井恭弘&岡田雅子（訳）2014. 岩波書店]
その他、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を100%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

第二言語習得のみならず、扱ったさまざまなことに興味を広げていただいたことがよかったと思います。

【Outline (in English)】

Outline: This course deals with Applied Linguistics, focusing on the theory of Language Acquisition, especially second language acquisition. Through classes and participation in experiments, students will learn what kind of research has been conducted in the field of language acquisition.

Goal: The purpose of this course is to provide students with knowledge about language acquisition and to enable them to think logically about issues related to language acquisition.

Learning activities outside of classroom: The required amount of study time is a minimum of four hours for each meeting of the class.

Grading Criteria:

Final exam: 100%

LIT200BD (文学 / Literature 200)

比較文学 A

柳橋 大輔

授業コード：A2824 | 曜日・時限：火5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【〈感染〉イメージの変奏】

古来から繰り返し猛威を振るい人々に襲いかかってきた伝染病は、歴史を通じて様々な文学作品や映画作品で主題化され続けてきました。広範囲の人々に襲いかかる〈感染〉のイメージはまた、多くの人々に犠牲を強いる戦争、ひいては文化の伝播や大衆現象などを表す比喩としても用いられてきました。この授業では、ドイツ・英米・日本など異なる文化圏で生み出された文学および映画のなかで様々な姿を変えて変奏されてきた〈感染〉というモチーフの系譜をたどります。

【到達目標】

文化的・メディアの越境およびモチーフの変奏について、具体例をもとに概略的に説明することができる。
 文学・映画などの文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。
 英米・ドイツ・日本の各文化圏における文学・映画などの文化やその歴史に関心を持ち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディアの越境とモチーフの変奏についてお話しします（講義形式）。なお、場合によってはその途中で受講生のみなさんに質問を投げかけ、必要があればさらに説明を行います（演習形式）。文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容の概要と紹介／「比較文学」とは？
第2回	導入：〈感染〉とは何か	伝染病をめぐる医学史と〈感染〉イメージ
第3回	〈ペスト〉の意味論（1）	〈ペスト文学〉の系譜：ボッカチオ、デフォー、カミュ
第4回	〈ペスト〉の意味論（2）	共同体に下される神罰：ゲーテ、映画『フィレンツェのペスト』
第5回	〈ペスト〉の意味論（3）	戦争という不条理：カミュ『ペスト』
第6回	〈吸血鬼〉は何を〈感染〉させるのか？（1）	ストーカーから映画『吸血鬼ノスフェラートゥ』へ
第7回	〈吸血鬼〉は何を〈感染〉させるのか？（2）	〈吸血鬼〉の変容：映画『ドラキュラ』から『トワイライト』へ
第8回	〈ゾンビ〉の意味論（1）	映画『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』からマシスン、映画『アイ・アム・レジェンド』へ
第9回	〈ゾンビ〉の意味論（2）	ゾンビは〈内在化〉する？ 新しい〈ゾンビ小説〉・〈ゾンビ映画〉
第10回	〈洗脳〉——思考が〈感染〉する（1）	大衆社会、第一次世界大戦、催眠術
第11回	〈洗脳〉——思考が〈感染〉する（2）	〈私が見ているのは現実？〉：映画『カリガリ博士』と『シャッター アイランド』
第12回	メディアとプロパガンダ（1）	映像は思考をコントロールする？：初期映画と〈催眠〉言説
第13回	メディアとプロパガンダ（2）	映画がリアリティを動揺させる——〈マインド・ゲーム・フィルム〉
第14回	〈トランスカルチャー〉・〈トランスメディア〉（まとめにかえて）	時代・文化・メディアを超えて行なわれるイメージの変奏

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、それぞれ約2時間を標準とします。
 授業であつた文学作品の該当箇所を日本語（場合によっては英語）で配布する場合があるので、事前に目を通しておいてください。
 授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。

なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。その場合は授業ノートを読み返しながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつと配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60％
 学期末レポート：40％（提出しない場合は単位の認定ができません）
 ——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に直接関係する感想や意見はリアクションペーパーで、それ以外のご連絡はメールでお寄せください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業はオンライン（Zoomをもちいたリアルタイム配信型）で行なう予定です。また、2回目以降は対面授業を想定しているものの、状況によってはオンライン授業に移行する必要があることもありえます。Zoomが使用できるよう、PCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
 授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。
 オフィスアワーは火曜18:30～19:00としますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

"Variations of the Imagery of 'Contagion'"

In this class, we will analyze the genealogy of the "infection" motif as it has been transformed in literature and film produced in the different cultures of Germany, Britain, the United States, and Japan.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

LIT200BD（文学 / Literature 200）

比較文学 B

柳橋 大輔

授業コード：A2825 | 曜日・時限：火5/Tue.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【〈動物と（しての）人間〉をめぐる想像力の歴史】

近代的な人間中心主義が疑問に付されつつあります。テクノロジーの発展により従来の〈人間〉観が拡張されてきただけでなく、気候危機とともに、動物としての人間がその〈他者〉である自然環境に深く依存していることが明らかになっています。人間が動物と見做されうのように、動物にも人間のような権利（アニマル・ライツ）が認められるべき、という主張も高まっています。〈他者〉であり〈パートナー〉でもある動物というテーマは、〈ポストヒューマン〉が唱えられる以前から、さまざまなかたちで議論され、文学や映画、アニメなどのなかで描き出されてきました。本授業では、とりわけ英米圏やドイツ語圏、日本語圏に登場した〈動物〉と〈人間〉との関係性をめぐるイメージの系譜をたどります。

【到達目標】

文化的・メディアの越境およびモチーフの変奏について、具体例をもとに概略的に説明することができる。
文学・映画などの文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。
英米・ドイツ・日本の各文化圏における文学・映画などの文化やその歴史に関心をもち、理解を深める。
文化的なコンテンツを対象としたリサーチとプレゼンテーションのスキルを実地に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

第10回までの授業で、教員が論及の対象となる文学作品を紹介し、映像作品の抜粋を視聴しながら、その作品が置かれた文化的文脈についてお話しします（講義形式）。

第11回以降は、〈動物と／しての人間〉モチーフをあつかった作品（映画、アニメ、漫画などポップカルチャーを含む）を受講生のみなさんに自由に選んでもらい、これについてグループ発表を行なってもらいます。その後、その他の参加者のみなさんと質疑応答の時間を設けます。（演習形式）。

講義内容や文学作品・映画作品について、また発表についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の授業で取り上げます（フィードバック）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の振り返り／今学期の講義内容の概要
第2回	導入：〈動物と人間〉、〈動物としての人間〉	西洋文学における〈動物〉モチーフの歴史概観
第3回	〈パートナーとしての動物〉	種の壁を乗り越える愛？：「蛙の王さま」、映画『プリンセスと魔法のキス』、『崖の上のポニョ』
第4回	〈他者としての動物〉	コミュニケーション不能の怪物？：メルヴィル、ヘミングウェイ、映画『鳥』、『ジョーズ』
第5回	〈動物化する人間〉 1	内なる野獣が露わになるとき：ステューヴンソン、ゾラから映画『動物界』まで
第6回	〈動物化する人間〉 2	〈人間園〉で家畜化される？：『家畜人ヤプー』、映画『マトリックス』、『動物化するポストモダン』
第7回	〈動物化する人間〉 3	本源的なるものへの回帰：裸体文化運動から映画『ファイト・クラブ』、『おおかみこどもの雨と雪』へ
第8回	〈動物化する人間〉 4	スーパーヒーローはパラサイト？：映画『スパイダーマン』、『ヴェノム』、漫画『寄生獣』
第9回	〈人間化する動物〉 1	動物もまた〈人間〉である？：ロンドン、カフカ、シートン
第10回	〈人間化する動物〉 2	人間の〈鏡〉としての動物：『動物農場』、映画『猿の惑星』、『ズートピア』
第11回	〈パートナー／他者としての動物〉 表象分析	受講生によるグループ発表と議論

第12回	〈動物化する人間〉 表象分析	受講生によるグループ発表と議論
第13回	〈人間化する動物〉 表象分析	受講生によるグループ発表と議論
第14回	カルチュラル・アニメ・スタディーズと比較文学（まとめにかえて）	発表の講評／レポート執筆に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、それぞれ約2時間を標準とします。

授業であつかう文学作品の該当箇所を日本語（場合によっては英語）で配布する場合があるので、事前に目を通してください。

授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。

なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。その場合には授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつと配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（グループ発表やディスカッションなど授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60％
学期末レポート：40％（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に直接関係する感想や意見はリアクションペーパーで、それ以外のご連絡はメールでお寄せください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業はオンライン（Zoomをもちいたリアルタイム配信型）で行なう予定です。また、2回目以降は対面授業を想定しているものの、状況によってはオンライン授業に移行する必要があることもありえます。Zoomが使用できるよう、PCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

オフィスアワーは火曜18:30～19:00としますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

"Histories of Imagination about Humans and/as Animals"

In this course we will reflect on the images of the relationship between 'animals' and 'humans' as they have been transformed in literature and film produced in the different cultures of Britain, the United States, Germany, and Japan.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%,in class contribution: 60%

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語史 A

福元 広二

授業コード：A2901 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約1500年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。DVDなどの映像教材も使用して理解を深めます。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の紹介
第2回	世界の英語	世界中に広がる英語について
第3回	英語外面史	英語外面史の概説
第4回	インド・ヨーロッパ祖語	インド・ヨーロッパ祖語とゲルマン語族
第5回	古英語の時代背景	古英語期における社会的・文化的時代背景
第6回	古英語の名詞	古英語における名詞の性・数・格
第7回	古英語の代名詞	古英語における代名詞の語形変化
第8回	古英語の形容詞・副詞	古英語における形容詞と副詞の特徴
第9回	古英語の動詞	古英語の強変化動詞と弱変化動詞の活用
第10回	古英語の語順・否定	古英語における語順、否定、その他
第11回	古英語の作品講読	古英語の代表的な作品を講読する
第12回	中英語の時代背景	中英語期における社会的・文化的時代背景
第13回	中英語の名詞・形容詞	中英語における名詞と形容詞の語形変化
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宗宮喜代子 (2024)『歴史をたどれば英語がわかる』開拓社

【参考書】

寺澤盾 『英語の歴史』（中公新書）
中尾俊夫『英語の歴史』（講談社現代新書）
岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）
朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える－英文法の「なぜ」』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験と平常点を総合して評価します。
期末試験60%、平常点40%

【学生の意見等からの気づき】

クラスでのディスカッションを増やしていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、秋学期に開講される「英語史B」と合わせて履修することをお勧めします。
4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語史 B

福元 広二

授業コード：A2902 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約1500年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

- ・英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
- ・現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。DVDなどの映像教材も使用して理解を深めます。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期で扱うテーマの紹介
第2回	中英語の発音・代名詞	中英語における発音と代名詞の語形変化
第3回	中英語の動詞	中英語における強変化動詞と弱変化動詞
第4回	中英語の借用語	中英語期における借用語
第5回	中英語の作品講読	中英語の代表的な作家であるChaucerの作品講読
第6回	初期近代英語の時代背景	初期近代英語期における社会的・文化的時代背景
第7回	初期近代英語の文法	初期近代英語期に特徴的な文法
第8回	Shakespeareの英語	Shakespeareの英語の特徴を概説する
第9回	初期近代英語の作品講読	初期近代英語の代表的な作家であるShakespeareの作品講読
第10回	後期近代英語の時代背景	後期近代英語期における社会的・文化的時代背景と英文法書・辞書の発達
第11回	後期近代英語の文法と作品講読	後期近代英語期に特徴的な文法と文学作品を講読する
第12回	アメリカ英語の成立	アメリカ英語の成立と語彙の特徴
第13回	現代英語の変化	現在進行中である英語の文法的变化
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宗宮喜代子 (2024)『歴史をたどれば英語がわかる』開拓社

【参考書】

寺澤盾 『英語の歴史』（中公新書）
中尾俊夫『英語の歴史』（講談社現代新書）
岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）
朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える一英文法の「なぜ」』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験と平常点を総合して評価します。
期末試験60%、平常点40%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、春学期に開講される「英語史A」と合わせて履修することをお勧めします。
4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英文学史 A

田中 裕希

授業コード：A2903 | 曜日・時限：木2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古英語の時代（中世前期）から20世紀中期までのイギリス詩の歴史をたどりつつ、英詩において「私」がどのように表現されているかについて学ぶ。個人の内面を表現する抒情詩に対する理解を、国家の成立など大きなテーマを扱う叙事詩との比較を通じて深めていく。

【到達目標】

イギリス詩の流れを、歴史の大きな動向と関連づけながら概観する。そのことをとおして、イギリスにおける抒情詩の伝統がどのように形成されてきたのかを学ぶ。文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力の向上もめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。対面授業とオンライン授業を併用する。その授業形式にあわせて、授業内容の順序を変えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、中世前期	叙事詩と抒情詩
第2回	中世後期	Chaucer
第3回	ルネサンス（1）	近世の恋愛詩
第4回	ルネサンス（2）	Shakespeareの英語
第5回	ルネサンス（3）	Shakespeareの登場人物
第6回	17世紀（1）	形而上詩人
第7回	17世紀（2）	Miltonと叙事詩
第8回	18世紀	ロマン派と抒情詩
第9回	19世紀（1）	ロマン派第二世代
第10回	19世紀（2）	dramatic monologueを読む
第11回	20世紀（1）	モダニズムとは
第12回	20世紀（2）	第一次世界大戦と詩
第13回	20世紀（3）	第二次世界大戦と詩
第14回	期末試験とまとめ	学期全体をとおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

『新編 イギリス名詩選』（岩波文庫 赤273-2）川本 皓嗣（編集）

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則、未提出のリアクションペーパーが4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: This class will cover the history of British poetry from the era of the Old English (the early Medieval period) to the mid 20th century.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: reaction papers (30%), final exam (70%).

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英文学史 B

小澤 央

授業コード：A2904 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス文学の歴史を、散文を中心に学ぶ。近代小説以前の散文から、18世紀の（反）リアリズム小説、ヴィクトリア朝の社会小説、歴史小説、家庭小説、教養小説、20世紀のモダニズム小説、ポストコロニアル小説、さらに多様化する今日の小説まで、名作の抜粋を読みながら英文学史を辿る。政治的・文化的文脈を踏まえ、作品を原作とする映画を確認しながら、授業を進める。

英文学史の知識や文学解釈の基本を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

【到達目標】

この授業を履修することで、学生は
 ・歴史的文脈において英文学の散文の名作を位置づけられる
 ・文学を解釈するとはどういうことかを把握し実践できる
 ・辞書や和訳を参照しながらも、英文学の抜粋を原文で読める英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパーなどを提出してもらい、授業の冒頭で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	散文の歴史概観、近代小説以前
第2回	18世紀(1)	政治的・文化的背景
第3回	18世紀(2)	Defoe, <i>Robinson Crusoe</i> など
第4回	18世紀(3)	Swift, <i>Gulliver's Travels</i> など
第5回	19世紀(1)	政治的・文化的背景
第6回	前半の講義のまとめ	総括と補足
第7回	19世紀(2)	Austen, <i>Pride and Prejudice</i> など
第8回	19世紀(3)	Dickens, <i>A Christmas Carol</i> など
第9回	20世紀前半(1)	政治的・文化的背景
第10回	20世紀前半(2)	Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> など
第11回	20世紀後半以降(1)	政治的・文化的背景
第12回	20世紀後半以降(2)	Ishiguro, <i>The Remains of the Day</i> など
第13回	後半の講義のまとめ	総括と補足
第14回	期末試験と今学期のまとめ	今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予め指示された資料（レジュメなど）を読むこと、リアクション・ペーパーなどを提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自身で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業のレジュメ

【参考書】

・授業で扱う文学作品
 ・浦野郁、奥村沙矢香編、『よくわかるイギリス文学史』、ミネルヴァ書房、2020年
 ・白井義昭著、『読んで愉しむイギリス文学史入門』、春風社、2013年
 ・石塚久郎ほか編、『イギリス文学入門』、三修社、2014年

【成績評価の方法と基準】

・リアクション・ペーパーなどの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%
 ・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

授業中の正当な理由なき入退室や私語は、ほかの学生の迷惑となるので、厳しく対処していきたい。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to learn the history of English literature, particularly British fiction, from the 16th to the 21st century, by reading extracts from the text in English and considering the historical background. This course also deals with films based on British fiction. The goals of this course are to position masterpieces of British fiction in historical contexts, learn the basics of interpretation of literature and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD（文学 / Literature 200）

米文学史 A

宮川 雅

授業コード：A2905 | 曜日・時限：水3/Wed.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ文学の「アメリカンネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。
春学期Aは、植民地時代の文学から19世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティブ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。
目的は、
(1)アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
(2)積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
により、アメリカ文学の歴史的なパースペクティブを得ることである。

【到達目標】
(1)英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
(2)アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
(3)アメリカ文学作品の背景の知識を得ている。
(4)文学作品の鑑賞方法を身につける。
(5)アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
(6)アメリカ文学について人に語れる。
(7)好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふう読み取れるのか、どんなふうにつかしかいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。
前期のAでは17世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。講義。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。
今年度は、昨年度と同様、（1）なんでもいいから米文学史の本を各自1冊読むこと（ただしボルヘスの注釈付きアメリカ文学史を参考文献として「教材」にいます）、（2）レポートは3作品、3本とします。
提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No
【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	移民の国アメリカ	イントロダクション：アメリカという国の性格について。米文学史読書案内ふ作家作品リストを配布し、レポート課題を説明する。
第2回	植民地時代の文学I	ピューリタニズム (Puritanism) とタイポロジー (typology) の想像力。
第3回	植民地時代の文学II	エレジー (elegy) と名前の重要性。
第4回	ベンジャミン・フランクリンの自伝	アメリカの宗教と理神論 (Deism) について。プロテスタンティズムと資本主義の精神。自伝とフィクション。ノヴェル対ロマンス。ゴシック・ロマンス (gothic romance)。
第5回	チャールズ・ブロックデーン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	
第6回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales"とウェスタンのヒーロー像。フロンティア (frontier) と文学的想像力。
第7回	ワシントン・アーヴィング	ゴシックの変容とアメリカ的ユーモア (American humor)。アメリカの短篇小説の特徴。
第8回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカ的ロマン主義 (American romanticism) と自己信頼。ソーロとホイットマン。
第9回	エドガー・アラン・ポー	ロマン主義とゴシック。ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義。

第10回	ホーソーとロマンス	ホーソーの小説論。ノヴェル対ロマンス (2)。
第11回	メルヴィルの小説	小説の極限について。長篇・短篇・詩。
第12回	感傷小説の伝統	大衆小説、高級小説。プロット、ストーリー、キャラクター。女性読者・女性作家・男性作家。
第13回	ホイットマンとディキンソン	詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統。
第14回	南北戦争その他	19世紀の文化と社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を必ず一冊読むこと（試験において確認する）。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間は各2時間を標準とする。
【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを示したりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。
【参考書】
現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義 アメリカ文学史【全4巻】』（研究社、2007、2010）であろう。文学的洞察として（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社、2010）……絶版のようだが図書館等にある。英語で書かれたもので、（まだ「文学史」が成立していた頃の本として）すぐれたものは、だいぶ古いですが、英国の学者による（すなわち他者視点による）Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思う。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ている）。
さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。第二次大戦後の研究書の古典中の古典を2冊だけ前もってあげておくなら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソー学者 Randall Stewart の *American Literature and Christian Doctrine* (1958)（邦訳『アメリカ文学とキリスト教』）、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス＝ノヴェルとした Richard Chase の *The American Novel and Its Tradition* (1958)（邦訳『アメリカ小説とその伝統』）。

【成績評価の方法と基準】
(1)授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20％）、(2)3作品を読んだレポート（40％）、(3)期末試験（40％）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格なしし大幅な減点となる。
【学生の意見等からの気づき】
むづかしくなりすぎないようにやさしく語ること。やさしくなりすぎないように論理を構築すること。
【その他の重要事項】
後期（秋学期）の「米文学史B」との継続履修が望ましい。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature." [Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content. [Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:
1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
2) End-of-term examination (40%)

LIT200BD（文学 / Literature 200）

米文学史 B

宮川 雅

授業コード：A2906 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカネス」（ナショナル・アイデンティティーとかかわるもの）とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

秋学期 B は、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後 20 世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて 1960 年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語れる。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふう読み取れるのか、どんなふうにつまみ食いのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

後期の B では南北戦争から現代までを扱う予定。
ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

A と同様、本年度は、（1）なんでもいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと（ただし、ホルヘ・ルイス・ボルヘスの文学史を電子化して英語原書＋注釈書として配布）、（2）レポートは 3 作品、3 本とすること、とします。

提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体。
第 2 回	ルイーザ・メイ・オールコットの家庭小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統。
第 3 回	サミュエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American vernacular について。
第 4 回	ヘンリー・ジェイズと幽霊	視点（point of view）の問題。
第 5 回	フランク・ノリス、ステューヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学。
第 6 回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学。
第 7 回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学。
第 8 回	S F と探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題。
第 9 回	T・S・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩。
第 10 回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーグ、ゲアリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学。
第 11 回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える。

第 12 回	トマス・ピンチオンとジョン・バーズ	ポスト=モダンな意識とは何か。
第 13 回	アメリカン・ドラマ	演劇とミュージカル。
第 14 回	同時代作家たち	アメリカ文学の現在。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいから米文学史の本を一冊読むこと。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間はそれぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

渡辺利雄『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）
平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）
Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books)
Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)
Jorge Luis Borges, *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974)
亀井俊介『アメリカ文学史講義 [全 3 巻]』（南雲堂、1997-2000）
竹内理矢・山本洋平編『深まりゆくアメリカ文学——源流と展開』（ミネルヴァ書房、2021）
諏訪部浩一編『アメリカ文学入門 [新版]』（三修社、2023）

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20％）、(2) 作品 3 冊を読んだレポート（40％）、(3) 期末試験（40％）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

やさしさを心がける。

【その他の重要事項】

前期（春学期）の「米文学史 A」からの継続履修がかなり絶対的に近いくらい望ましい。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature." [Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
- 2) End-of-term examination (40%)

LIT200BD (文学 / Literature 200)

英米文学講義 I A

波戸岡 景太

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

1. Quizzes in class: 50%.
2. Final exam: 50%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしうるかを学びます。

【到達目標】

- (1) 現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
- (2) ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
- (3) 英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。また、各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代文学とカルチャー
第2回	第二次世界大戦の記憶	ホロコースト以後の文学
第3回	体制とカルチャー	1950年代の若者たち
第4回	超大国の挫折	1960-70年代のアメリカ（教科書 1-1）
第5回	スター・ウォーズの時代	「帝国」への抵抗（教科書 1-2）
第6回	経済成長の限界	ノスタルジア・ブーム（教科書 1-3）
第7回	「るつば」の先へ	移民とフェミニズム（教科書 1-4）
第8回	ファンタジーランド	陰謀論の台頭（教科書 1-5）
第9回	暴力の表象	ダークな想像力（教科書 1-6）
第10回	新しいファシズム	ナチス表象の再来
第11回	表象と倫理	ソントグの批評を読む
第12回	1980年代を考える	大統領と文学（教科書 2-1）
第13回	ノスタルジア再び	再男性化するヒーロー像（教科書 2-2）
第14回	まとめ／期末試験	ポストモダン文学の可能性／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

【テキスト（教科書）】

丸山俊一他『世界サブカルチャー史 欲望の系譜 アメリカ70～90s「超大国」の憂鬱』（祥伝社、2022年）

【参考書】

Pynchon, Thomas. *Gravity's Rainbow*. Viking, 1973.
 -. *Slow Learner*. Brown, Little, 1984.
 Sontag, Susan. *Against Interpretation*. Picador, 2001.
 -. *Under the Sign of Saturn: Essays*. Farrar Straus & Giroux, 1980.
 -. *Illness as Metaphor and Aids and Its Metaphors*. Picador, 2001.
 Vonnegut, Kurt. *Slaughterhouse-Five*. Delacorte, 1969.

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストの結果（50％）、最終回に実施する期末試験（50％）を合計し、60％以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学が現代の諸問題にいかに向き合ってきたかを、本授業を通じて初めて知ったという声が多かったため、今年度はより具体的なケースを分析することで作品解説を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英米文学講義 I B

波戸岡 景太

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしているかを学びます。

【到達目標】

- (1) 現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
- (2) ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
- (3) 英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。また、各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	嘘とフィクションの違い
第2回	文学における「若さ」	ビート世代からZ世代まで
第3回	1980年代のマイノリティ	文化の盗用について（教科書2-3）
第4回	ニュー・ロストジェネレーション	ハイパー資本主義（教科書2-4）
第5回	ポスト冷戦	新しいヒーロー像（教科書3-1）
第6回	ジェネレーションX	クープランド作品を読む（教科書3-2）
第7回	マトリックスの時代	情報化社会の文芸（教科書3-3）
第8回	大きな物語の終焉	パルプ・フィクションの新しさ（教科書3-4）
第9回	9・11と文学	フォアとピンチョン
第10回	デリーロの新しさ	ホワイト・ノイズ再読
第11回	ハルキの文学	日本とアメリカの「戦後」（教科書第4-1）
第12回	記憶と文学	ディックの予見（教科書4-2）
第13回	非暴力の力	ソローからバトラーへ
第14回	まとめ／期末試験	世界的課題と文学の役割について／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

【テキスト（教科書）】

丸山俊一他『世界サブカルチャー史 欲望の系譜 アメリカ70～90s「超大国」の憂鬱』（祥伝社、2022年）

【参考書】

Butler, Judith. *The Force of Nonviolence: An Ethico-Political Bind*. Verso Books, 2020.

Davis, Lydia. *Almost No Memory*. Picador, 2001.

DeLillo, Don. *White Noise*. Viking, 1985.

-. *Point Omega*. Scribner, 2010.

Foer, Jonathan Safran. *Extremely Loud and Incredibly Close*. Penguin, 2006.

Haraway, Donna. *Simians, Cyborgs and Women: the Reinvention of Nature*. Routledge, 1991.

-. *Companion Species Manifesto: Dogs, People, and Significant Otherness*. Prickly Paradigm, 2003.

Kakutani, Michiko. *The Death of Truth: Notes on Falsehood in the Age of Trump*. William Collins, 2018.

Pynchon, Thomas. *Vineland*. Little, Brown, 1990.

-. *Bleeding Edge*. Penguin, 2013.

その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストの結果（50％）、最終回に実施する期末試験（50％）を合計し、60％以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学が現代の諸問題にいかに関与してきたかを、本授業を通じて初めて知ったという声が多かったため、今年度はより具体的なケースを分析することで作品解説を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

1. Quizzes in class: 50%.
2. Final exam: 50%.

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英米文学講義Ⅱ A

小澤 央

授業コード：A2909 | 曜日・時限：木4/Thu.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学、特にイギリス文学を理解するうえで前提となるイギリス文化の基本的概念を紹介する。シェイクスピア、紅茶、湖水地方、探偵、階級、ユーモアなど、イギリス文化を特徴づけるキーワードに注目し、映像資料も交えながら解説する。

イギリス文化の入門的知識を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

【到達目標】

・代表的なイギリス文化について自分の言葉で説明できる
 ・辞書や和訳を参照しながらも、イギリス文化を紹介する文章やイギリス文学の抜粋を原文で読める英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパーなどを提出してもらい、授業の冒頭で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	イギリス（文化）とは何か
第2回	文学、劇場、シェイクスピア(1)	時代背景など
第3回	文学、劇場、シェイクスピア(2)	シェイクスピアの生涯
第4回	紅茶、砂糖、奴隷貿易(1)	時代背景など
第5回	紅茶、砂糖、奴隷貿易(2)	ウィリアム・ウィルバーフォースの生涯
第6回	前半の講義のまとめ	総括と補足
第7回	ナショナル・トラスト、湖水地方、女性の権利	ビアトリクス・ポターの生涯
第8回	探偵、スコットランド、植民地	コナン・ドイルとシャーロック・ホームズ
第9回	階級、王室、カントリー・ハウス(1)	時代背景など
第10回	階級、王室、カントリー・ハウス(2)	使用人の世界
第11回	ユーモア、風刺、戦争(1)	時代背景など
第12回	ユーモア、風刺、戦争(2)	チャールズ・チャップリン『独裁者』
第13回	後半の講義のまとめ	総括と補足
第14回	期末試験と今学期のまとめ	今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予め指示された資料（レジュメなど）を読むこと、リアクション・ペーパーなどを提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自身で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業のレジュメ

【参考書】

・レジュメで紹介する資料
 ・板倉徹一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子著、『映画でわかるイギリス文化入門』、松柏社、2008年
 ・木下卓、窪田憲子、久守和子編著、『イギリス文化 55のキーワード』、ミネルヴァ書房、2009年

【成績評価の方法と基準】

・リアクション・ペーパーなどの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%
 ・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

授業中の正当な理由なき入退室や私語は、ほかの学生の迷惑となるので、厳しく対処していきたい。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of British culture, such as Shakespeare, tea, the Lake District, detectives, the class system and humour. The goals of this course are to survey the history of British culture and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英米文学講義ⅡB

田中 裕希

授業コード：A2910 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語圏の詩を精読し、翻訳することで、英詩の特徴と伝統を概観する。また授業では学生の翻訳を合評する機会を設け、英詩を現代の日本語に訳す方法を模索する。人称やリズム、文化的背景など、翻訳されることで失われるニュアンスをどう伝えるか。

【到達目標】

英語圏の詩を精読し、英詩の特徴を学ぶ。また英詩を和訳することで、能動的に詩を理解し、総合的な英語力また日本語力を伸ばす。言葉の意味や音楽性に敏感になり、英語文学の読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。授業内でのフィードバックをもとに訳文を練り直す。コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	英詩の特徴
第2回	英詩のリズム	韻律について
第3回	翻訳ワークショップ (1)	リズムをどう訳すか
第4回	"I"をどう訳すか	英語の"I"と日本語の「私」
第5回	翻訳ワークショップ (2)	人称代名詞をどう訳すか
第6回	英詩の形式	Form とは
第7回	翻訳ワークショップ (3)	詩型をどう訳すか
第8回	英詩の「声」	Voice とは
第9回	翻訳ワークショップ (4)	口調をどう訳すか
第10回	英詩の多様性	英詩の中の非英語
第11回	翻訳ワークショップ (5)	異文化をどう訳すか
第12回	英詩の読者	歴史的背景と詩
第13回	翻訳ワークショップ (6)	歴史をどう訳すか
第14回	期末試験とまとめ	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詩を翻訳し、お互いの訳文を読み批評する。また配布されたプリントを読む。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムを通じて配布。

【参考書】

阿部公彦『英詩のわかり方』（研究社）

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度50%（リアクションペーパー、翻訳など）

期末レポート50%

原則、未提出の課題・リアクションペーパーが計4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this course, we will read English-language poetry. The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be determined based on weekly responses and assignments (50%) and the final paper (50%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語学講義 A

福元 広二

授業コード：A2911 | 曜日・時限：火2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。また、英語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイント使って講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクションペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第2回	英文法の問題	実際に英語の問題を解いてみよう
第3回	品詞	英語の品詞について
第4回	英語の文型	5文型の分析
第5回	自動詞と他動詞	他動性について
第6回	意味役割	意味役割とは何か
第7回	テンス（1）	現在時制
第8回	テンス（2）	過去時制と未来表現
第9回	アスペクト（1）	進行相
第10回	アスペクト（2）	完了相
第11回	モダリティ（1）	法助動詞
第12回	モダリティ（2）	準助動詞
第13回	態	受動態
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

畠山雄二『大学で教える英文法』くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験と平常点で、総合的に判断します。
 期末試験60%、平常点40%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。
 4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語学講義 B

福元 広二

授業コード：A2912 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点を紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語学講義Bの授業では、認知言語学や英語の代表的な構文についての知識を持てるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイントを用いて講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクションペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容についての概説
第2回	日英語比較	事態把握
第3回	認知言語学（1）	メタファー
第4回	認知言語学（2）	メトニミーとシネクドキ
第5回	認知言語学（3）	文法化
第6回	談話標識	談話標識の分析
第7回	不定詞（1）	不定詞節
第8回	不定詞（2）	繰り上げ動詞とコントロール動詞
第9回	動名詞	名詞的動名詞と動詞的動名詞
第10回	不定詞と動名詞	不定詞と動名詞の意味
第11回	There構文	There構文の特徴
第12回	二重目的語構文	与格交替について
第13回	関係代名詞	関係代名詞の制約
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

畠山雄二 『大学で教える英文法』くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験と平常点で、総合的に判断します。

期末試験60%、平常点40%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、春学期の内容をどの程度理解できているかに応じて柔軟に対応させていきます。

4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures. The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義 I A

石川 潔

授業コード：A2913 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（英語学習者または英語教師になる人のための）音声知覚、単語の聞き取りや文理解に関する心理言語学の入門

【到達目標】

（英語学習／教育にも役立つはずの）人間の言語情報処理に関する入門レベルの知識の習得

言語研究にも役立つけど、社会人一般にも役立つ、データ分析の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義ですが、実習（やグループ・ディスカッション？）を行う回もある予定です。

リアクションペーパーには、オンライン配信または口頭で、フィードバックを行う予定です（フィードバック方法は内容／文量によります）。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業全体の説明
第2回	<i>Olympic</i> を片仮名表記するとしたら、「オリンピック」と「オリムピック」の、どっちにすべき？	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓（その1）
第3回	<i>rice</i> と <i>rise</i> 、語尾に母音を入れないで発音できる？	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓（その2）
第4回	「しおり」は可愛い……のかな？ 比較対象は？	実験と統計分析の必要性：統制条件、仮説と予測
第5回	強形と弱形	<i>syllable</i> の概念が必要な理由、英語の <i>stress</i> の物理的実体
第6回	英語のリズム	知識を得た上で、聞き取り実習
第7回	英語の L と R、聞き分けられる？	フォルマント（遷移）の概念
第8回	英語その他での「有声・無声」の違い	VOT の概念
第9回	音響情報のままには聞き取れない場合	語彙効果など
第10回	「発音できたら聞き取れるようになる」って本当？	<i>Motor Theory</i> が解決してくれる／くれないこと
第11回	その単語、どういう意味？（その1）	意味ブライミング（その1）：単語検索
第12回	その単語、どういう意味？（その2）	意味ブライミング（その2）： <i>ambiguity resolution</i>
第13回	単語が聞き取れない!!	単語認識の諸モデル
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ話に基づいて、テレビやネットの報道や広告を批判的に眺め直してみてください。

また、英語で歌う機会も設けてください（理由は授業を受ければわかる…はず）。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて資料配布。

【参考書】

適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30％、期末試験 70％。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

2023年度に比べて2024年度の方が理解度の数値が上がりました。2024年度に心がけた構造化の効果が出たものと思います。それでも、まだ理解度の数値は充分ではないように思うので、まずは用語の説明をもっと丁寧にしたいと思います。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to psycholinguistic studies of speech perception, auditory word recognition and sentence processing (for English learners as well as prospective teachers of English).

(Learning Objectives) To grasp experimental methods on the one hand, and an introductory knowledge of human language processing on the other.

(Learning activities outside of classroom) Critically examine advertisements etc. encountered on the net etc. Furthermore, sing in English! (Why sing? Well, join the class to find out!)

(Grading Criteria/Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義Ⅰ B

石川 潔

授業コード：A2914 | 曜日・時限：月3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語と日本語を「文法」の面から比較します。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・でも、言語間には共通性もあることを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主として講義の予定です。
リアクションペーパーには、オンラインまたは口頭でのフィードバックを行う予定です。
学生の理解度や要望などに応じて、計画は柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	英語の「助動詞」って何なのか、改めて考える	統語論的な規則性と意味的な「直感」とのズレ
第2回	英語の「主語」、日本語の「主語」	「主語」は、「行為をする人」という意味では、ないです。
第3回	英語の時制とアスペクト1	述語の2分類
第4回	英語の時制とアスペクト2	英語の進行形の基本
第5回	英語の時制とアスペクト3	英語の進行形の応用
第6回	英語の時制とアスペクト4	英語に「未来形」ってあるのか？
第7回	英語の時制とアスペクト5	英語の完了形の基本
第8回	英語の時制とアスペクト6	英語の完了形の応用
第9回	日本語の時制とアスペクト1	日本語に「現在形・過去形」はない？
第10回	日本語の時制とアスペクト2	telicity
第11回	日本語の時制とアスペクト3	主観 対 客観
第12回	日本語の時制とアスペクト4	絶対テンス 対 相対テンス
第13回	日本語の時制とアスペクト5	テイルの意味（基本編）
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日英語の文法比較のうち授業でカバーできるのは、ごく一部だけですが、授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、見つけてください（きっと見つかるはず）。もし学期中に見つかれば、教員に反論してくださいませ（有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれば、平常点に大幅加点となります）。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材配信。

【参考書】

教材に記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

2023年度に比べて2024年度の方が理解度の数値が下がってしまいました。内容をもっと整理して構造化の度合いを上げると同時に、各回の最後の「まとめ」をもっと充実したいと思います。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義ⅠA」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Comparisons of English and Japanese "grammars."
(Learning Objectives) To grasp differences and commonalities between English and Japanese; to acquire logical analysis skills.
(Learning activities outside of classroom) To seek for answers to those questions left unanswered in the classroom; to try to find counterexamples to the analyses presented in the classroom.
(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義Ⅱ A

伊藤 達也

授業コード：A2915 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。春学期はとくに形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学を概観します。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第2回	形態論(1)	形態素の種類
第3回	形態論(2)	派生と語の内部構造
第4回	形態論(3)	造語
第5回	統語論(1)	文の構成素分析
第6回	統語論(2)	句構造規則で文を作る
第7回	統語論(3)	変形規則で文を変える
第8回	意味論(1)	語、句、文の意味
第9回	意味論(2)	直喩、隠喩、換喩
第10回	語用論(1)	協調の原理と会話の公理
第11回	語用論(2)	発話行為、ポライトネス
第12回	社会言語学(1)	地域や人種による言語の変異
第13回	社会言語学(2)	ジェンダーと言語
第14回	春学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006

『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と平常点(30%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようにします。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義Ⅱ B**伊藤 達也**

授業コード：A2916 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。秋学期はとくに音声学、音韻論、歴史言語学、心理言語学を概観します。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第2回	音声学(1)	母音、子音
第3回	音声学(2)	自然類
第4回	音韻論(1)	弁別素性
第5回	音韻論(2)	音素と異音
第6回	音韻論(3)	音韻規則
第7回	音韻論(4)	強勢
第8回	歴史言語学(1)	イギリス史、語彙変化
第9回	歴史言語学(2)	音声変化、統語変化、意味変化
第10回	歴史言語学(3)	言語の系統
第11回	心理言語学(1)	文の解析
第12回	心理言語学(2)	言語習得
第13回	機能主義	機能主義的な文法現象の説明
第14回	秋学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と平常点(30%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようにします。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN100BD (言語学 / Linguistics 100)

英語音声学 A

川崎 貴子

授業コード：A2919 | 曜日・時限：木2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学び、日本語・英語の基礎的な音声・音韻構造の知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。

授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第2回	発声・調音 (1)	呼吸、発声・構音
第3回	発声・調音 (2)	調音器官
第4回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第5回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第6回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第7回	中間テスト 気音とVOT	中間テスト 音素、VOTと範疇知覚
第8回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第9回	日本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第10回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第11回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第12回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第13回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第14回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

中間テスト・・・20％
 学期末試験・・・80%

【学生の意見等からの気づき】

学生が理解を深められるよう、練習問題を時折、配布し、進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。配付資料閲覧のためにはPDFやWebサイト閲覧のための情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学B」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are expected to study at least 4 hours a week outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Mid exam 20%Final exam 80%

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

英語音声学 B

川崎 貴子

授業コード：A2920 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。日本語と英語の音声学・音韻論の基礎知識を習得し、日本語と英語の音声学・音韻論の違いが日本語母語話者の英語学習にどのような影響を与えるかを理解することを目標とします。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	音声学の基礎 (1)	日・英の子音・母音
第2回	音声学の基礎 (2)	音節構造・モーラなど
第3回	音声規則 (1)	音素・音声変化の記述
第4回	音声規則 (2)	英語の音声変化—気音化
第5回	音声規則 (3)	英語の音声変化—flapping
第6回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第7回	中間テスト& 日本語のプロソディー	中間テスト& モーラとアクセント
第8回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第9回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第10回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第11回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第12回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第13回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第14回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内容の復習をすることがとても重要です。
- また、「英語音声学A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学A」の内容を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布いたします。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

中間テスト...20 %

学期末試験...80 %

【学生の意見等からの気づき】

英語音声学Aとの連続履修をするよう指示しているが、Aを履修せずに追いつかない学生もいるようです。途中で各自の理解を確かめられるよう、中間テストを行うように変更しました。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。配付資料閲覧のためにはPDFやWebサイト閲覧のための情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

この授業の内容は「英語音声学A」で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学A」（木曜日）と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetics and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 100%

LIT200BD (文学 / Literature 200)

文学研究方法論 A

波戸岡 景太

授業コード：A2969 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

- ①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
 - ②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
 - ③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
 - ④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
- という4つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。

題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の関係から、主にアメリカ文学・文化に関わる作品を扱うが、理解促進のため日本のコンテンツも比較対象として使用する。

【到達目標】

- ①「授業の概要と目的」に掲げた4つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
- ②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
- ③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

O・ヘンリーの短編「賢者の贈り物」とレイモンド・カーヴァーの短編「風呂」を主なテキストとして、タイトル、プロット、キャラクター、テーマ……といった物語の基本的な要素を講義形式で分析する。各回の最後にはリアクションペーパーの提出が必須となるが、回によっては試作した物語の提出が求められることもある。また、授業の始まりには、前回授業にて提出されたリアクションペーパーならびに課題に対する、教員からの総合的なフィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	物語の「おもしろさ」を言語化するための方法について
第2回	物語を分解する(1)	O・ヘンリーの短編「賢者の贈り物」の「おもしろさ」を図式化する
第3回	物語を分解する(2)	レイモンド・カーヴァーの短編「風呂」の「おもしろさ」を図式化する
第4回	物語の内と外をはっきりさせる(1)	「賢者の贈り物」の「語る側」と「語られる側」の関係を意識する
第5回	物語の内と外をはっきりさせる(2)	「風呂」の「語る側」と「語られる側」の関係を意識する
第6回	作者を知る(1)	O・ヘンリーの生涯を知る
第7回	作者を知る(2)	レイモンド・カーヴァーの生涯を知る
第8回	英語と日本語を比較する(1)	「賢者の贈り物」の原文と訳文を比較する
第9回	英語と日本語を比較する(2)	「風呂」の原文と訳文を比較する
第10回	ジャンルをまたいで比較する	「賢者の贈り物」と新海誠監督作品『君の名は。』を比較する
第11回	編集の功罪を考える	「風呂」とディズニー作品『アナと雪の女王』を比較する
第12回	物語を試作する(1)	「賢者の贈り物」のパターンを使って短編小説を試作する
第13回	物語を試作する(2)	「風呂」のパターンを使って短編小説を試作する
第14回	まとめ／期末試験	「おもしろさ」の発見を文学研究につなげるための方法論／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。(2時間)

・授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。(2時間)

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

石原千秋『読者はどこにいるのか：読者論入門』（河出文庫、2021年）
カーヴァー、レイモンド『愛について語るときに我々の語ること』（村上春樹訳、中央公論新社、2017年）
クロン、リサ『脳が読みたくなるストーリーの書き方』（府川由美恵訳、フィルムアート社、2016年）
ヘンリー、O『O・ヘンリー ニューヨーク小説集 街の夢』（青山南他訳、ちくま文庫、2022年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50％
期末試験（授業内容を踏まえた論述問題が中心）：50％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in.

Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (50%)
- 2) Final exam (50%)

LIT200BD（文学 / Literature 200）

文学研究方法論B

波戸岡 景太

授業コード：A2970 | 曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

- ①文学を学ぶことは何がおもしろいのか
 - ②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
 - ③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
 - ④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
- という4つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。

題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の関係から、主にアメリカ文学・文化に関わる作品を扱うが、理解促進のため日本のコンテンツも比較対象として使用する。

【到達目標】

- ①「授業の概要と目的」に掲げた4つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
- ②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
- ③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

O・ヘンリーの短編「最後の一夜」とレイモンド・カーヴァーの短編「ダンスしないか？」を主なテキストとして、タイトル、プロット、キャラクター、テーマ……といった物語の基本的な要素を講義形式で分析する。各回の最後にはリアクションペーパーの提出が必須となるが、回によっては試作した物語の提出が求められることもある。また、第2回以降の授業では、前回授業にて提出されたリアクションペーパーならびに課題に対する、教員からの総合的なフィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	物語の「語られていない部分」を言語化するための方法について
第2回	プロットを明らかにする(1)	「最後の一夜」の語られて【いる】部分を図式化する
第3回	物語を分解する(1)	「最後の一夜」の語られて【いない】部分を浮き彫りにする
第4回	プロットを明らかにする(2)	「ダンスしないか？」の語られて【いる】部分を図式化する
第5回	物語を分解する(2)	「ダンスしないか？」の語られて【いない】部分を浮き彫りにする
第6回	物語の内と外をはっきりさせる(1)	「最後の一夜」の「語る側」と「語られる側」の関係を意識する
第7回	物語の内と外をはっきりさせる(2)	「ダンスしないか？」の「語る側」と「語られる側」の関係を意識する
第8回	英語と日本語を比較する(1)	「最後の一夜」の原文と訳文を比較する
第9回	英語と日本語を比較する(2)	「ダンスしないか？」の原文と訳文を比較する
第10回	ジャンルをまたいで比較する(1)	「最後の一夜」とピクサー作品『トイ・ストーリー』を比較する
第11回	ジャンルをまたいで比較する(2)	「ダンスしないか？」とジブリ作品『となりのトトロ』を比較する
第12回	物語を試作する(1)	「最後の一夜」のパターンを使って短編小説を試作する
第13回	物語を試作する(2)	「ダンスしないか？」のパターンを使って短編小説を試作する
第14回	まとめ／期末試験	「語られていない部分」の発見を文学研究につなげるための方法論／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。(2時間)
- ・授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。(2時間)

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

石原千秋『読者はどこにいるのか：読者論入門』（河出文庫、2021年）
カーヴァー、レイモンド『愛について語るときに我々の語ること』（村上春樹訳、中央公論新社、2017年）
クロン、リサ『脳が読みたくなるストーリーの書き方』（府川由美恵訳、フィルムアート社、2016年）
ヘンリー、O『O・ヘンリー ニューヨーク小説集 街の夢』（青山南他訳、ちくま文庫、2022年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50％
期末試験（授業内容を踏まえた論述問題が中心）：50％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in. Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor. Grades will be determined based on the following:
1) Participation and in-class assignments (50%)
2) Final exam (50%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語の文法力 I

椎名 美智

授業コード：A2977 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大學生に必要な英語力を身につけるために、reading, listening, speaking, writingの4技能をバランスよく勉強します。その基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力ですので、本授業は、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせることを目的にしています。

【到達目標】

英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるようになります。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるようになります。また、PPTを使って、英語でプレゼンテーションができるようになる勉強もします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始日は4月27日です。しばらくは「教材」に入れた資料を見て学習してください。できればテキストを手に入れてください。テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生によるプレゼンテーションも行います。少人数での演習タイプの授業を行う予定なので、履修希望者が多い場合は、小テストによる選抜を行います。よって、履修希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究領域の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第2回	Unit 1: 動詞の基礎と文型 (1)	学生のプレゼンテーション、動詞の基礎と文型についての復習と総括
第3回	Unit 1: 動詞の基礎と文型 (2)	学生のプレゼンテーション、動詞の基礎と文型についての演習、小テスト
第4回	Unit 2: 動詞 2 (1)	学生のプレゼンテーション、動詞についての復習と総括
第5回	Unit 2: 動詞 2 (2)	学生のプレゼンテーション、動詞の用法と演習、小テスト
第6回	Unit 3: 時制 (1)	学生のプレゼンテーション、時制についての復習と総括
第7回	Unit 3: 時制 (2)	学生のプレゼンテーション、時制についての演習、小テスト
第8回	中間のまとめと復習	学生のプレゼンテーション、これまでの復習と演習、小テスト
第9回	Unit 4: 助動詞 (1)	学生のプレゼンテーション、助動詞についての復習と総括、小テスト
第10回	Unit 4: 助動詞 (2)	学生のプレゼンテーション、助動詞についての演習、小テスト
第11回	Unit 5: 名詞・冠詞・代名詞 (1)	学生のプレゼンテーション、名詞・冠詞・代名詞についての復習と総括、小テスト
第12回	Unit 5: 名詞・冠詞・代名詞 (2)	学生のプレゼンテーション、名詞・冠詞・代名詞についての演習、小テスト
第13回	Unit 6: 形容詞と副詞 (1)	学生のプレゼンテーション、形容詞と副詞についての復習と総括、小テスト
第14回	Unit 6: 形容詞と副詞 (2)、試験とまとめ	学生のプレゼンテーション、形容詞と副詞についての演習、春セメスターで学んだことについての試験と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習し、問題をやった上で、授業に出席する必要があります。また、復習をきちんと行い、宿題で指定された構文を暗記して、小テストに備える必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

町田健・豊島克己（2014）『大学生のための英文法再入門』研究社

【参考書】

必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験80%、プレゼンテーション20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題はハードコピーで提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋学期と、連続して履修してください。
・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語の文法力Ⅱ

椎名 美智

授業コード：A2978 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生に必要な英語力を身につけるために、reading, listening, speaking, writingの4技能をバランスよく勉強します。その基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力ですので、本授業では、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせる勉強をします。

【到達目標】

英文法を総復習し、反復的な演習を行うことによって、英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるように練習します。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるように勉強します。また、パワーポイントを使って英語でプレゼンテーションができるようになる練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生はプレゼンテーションを行います。少人数による演習タイプの授業を行う予定です。履修希望者が多い場合は、初回の授業で、小テストによる選抜を行いますので、履修希望者は必ず初回授業に出席してください。秋セメスターは基本的にリモート授業ですが、コロナの感染状況により大学の基準が変更した場合は、授業形式も変更します。その場合は、HOPPIIでお伝えします。大学のHPも定期的にみてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	扱う領域の概説と秋学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第2回	Unit 7: 態 (1)	学生によるプレゼンテーション、態についての復習と総括
第3回	Unit 7: 態 (2)	学生によるプレゼンテーション、態についての演習、小テスト
第4回	Unit 8: 否定・疑問 (1)	学生によるプレゼンテーション、否定・疑問についての復習と総括、小テスト
第5回	Unit 8: 否定・疑問 (2)	学生によるプレゼンテーション、否定・疑問についての演習、小テスト
第6回	Unit 9: 準動詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、準動詞についての復習と総括、小テスト
第7回	Unit 9: 準動詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、準動詞についての演習、小テスト
第8回	中間のまとめと復習	学生によるプレゼンテーション、これまでの復習と演習、エッセイライティング
第9回	Unit 10: 準動詞2・接続詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、準動詞2・接続詞についての復習と総括、小テスト
第10回	Unit 10: 形容詞と副詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、準動詞2・接続詞についての演習、小テスト
第11回	Unit 11: 関係詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、関係詞についての復習と総括、小テスト
第12回	Unit 11: 関係詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、関係詞についての演習、小テスト
第13回	Unit 12: 形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句 (1)	学生によるプレゼンテーション、形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句についての復習と総括、小テスト
第14回	Unit 12: 形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句 (2)、テストと振り返り	学生によるプレゼンテーション、形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句について演習、秋セメスター全体のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習し、問題をやった上で、授業に出席する必要があります。また、復習をきちんと行い、宿題で指定された構文を暗記して、小テストに備える必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

町田健・豊島克己（2014）『大学生のための英文法再入門』研究社

【参考書】

必要場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験80%、プレゼンテーション20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題やレポートはハードコピーで提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋学期と、続けて履修してください。
・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

メディア・リテラシー I

田中 邦佳

授業コード：A2979 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞、雑誌、テレビなどのメディアやインターネット上には多種多様なデータがグラフなどの形で可視化され掲載されています。データを目に見える形にする方法には様々な手法があり、読み取りが困難であったり、そのまとも方に何らかの意図が込められている場合もあります。

本授業は、これまでデータ分析にあまり馴染みのない参加者を対象にします。授業では、データを受け取る側として各種のグラフの読み取り方や、読み取りの注意点を学び、データを発信する側として、データの種類によってどのような手法を用いるのが適切か、また、データ化や可視化における注意点を学びます。

授業の参加者各自が何らかのテーマを設定し、データを可視化して誰にもわかりやすいレポートを完成することを最終目的とします。

【到達目標】

- (1) 各種のグラフの読み取りができるようになる。
- (2) 具体的な場合に応じたデータのグラフ化ができるようになる。
- (3) データを客観的に文で報告できるようになる。
- (4) 上記の3つの項目を踏まえて、何らかのデータを適切に発信できるように1枚のポスターにしてまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式でメディア上で見られる、各種のデータ・グラフを紹介しします。

参加者は、それらのデータから読み取れることを考えたり、作図する演習を行い、レポート執筆の準備を行います。データの解釈やまとめ方についてグループディスカッションを行うこともあります。

授業の最終目標のレポートの完成に向け、各自が考えたデータ分析のテーマや可視化の手法について教員からコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方の説明
第2回	様々なグラフ	グラフの種類の紹介
第3回	棒グラフ	棒グラフを学ぶ
第4回	ヒストグラム	ヒストグラムを学ぶ
第5回	折れ線グラフ	折れ線グラフを学ぶ
第6回	2つの手法が組み合わされたグラフ	2つの手法が組み合わされたグラフを学ぶ
第7回	散布図	散布図を学ぶ
第8回	円グラフ	円グラフを学ぶ
第9回	適しているグラフ、適していないグラフ	データのまとめ方に合わせたグラフの選び方を学ぶ
第10回	データを表にする	データを表にする方法を学ぶ
第11回	データの数値化	データを数値としてまとめる時の注意点を学ぶ
第12回	平均値と中央値	平均値と中央値を学ぶ
第13回	標準偏差	標準偏差を学ぶ
第14回	ことばで報告する	データを文で説明する場合の注意点を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、各種データを読み取って文にまとめたり、数値データをまとめてグラフなどの形に作図し準備しておく必要があります。最終レポートに向け、データ分析の計画を立て、途中経過を報告する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

特にありません。

個別の項目に対し、参考になりそうな情報は授業中にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

20%: 期末課題（ポスター）

80%: 授業内外の課題

以下のいずれかに該当する場合は評価の対象としません。

・授業での課題の未提出が4回に達した場合

・期末の課題が提出されなかった場合

【学生の意見等からの気づき】

実現可能なレポートのテーマの設定や、データの構築、分析に時間を要することが伝わっていないように感じました。その点についてより実感を持って理解できるように促すことができたと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出のために学習支援システムを使用する予定です。

【その他の重要事項】

作図の演習では、データの入力など初歩的な項目から実際のデータ分析においてミスをしてしまいがちなポイントや、困難点になりそうな点を紹介します。

本授業では、卒業論文などのために調査や実験の結果の可視化の具体的な手法を学びたい、今後のためにデータの可視化の手法を学びたいという参加者を対象にします。授業では記述統計の手法を扱いますが、推測統計は扱わないことに留意してください。

【Outline (in English)】

Course outline: In the class, (1) as a receiver of data, students will learn how to read various types of graphs and what to pay attention to when reading them. (2) As an analyzer of data, each student will learn what methods of visualizations are appropriate for different types of data.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- (1) Read various types of graphs.
- (2) Make graph data according to specific cases.
- (3) Report data objectively in writing.
- (4) Summarize some data in a poster.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, each student are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final report (poster) 20%, Class Assignment 80%

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

メディア・リテラシーⅡ

吉川 純子

授業コード：A2980 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、今日的なさまざまなトピックについて自分で調べ、何が正しいのか比較検討して選択をする訓練を通して、主体的に情報の取捨選択ができる力、すなわちメディア・リテラシーを身につけます。

【到達目標】

学校で教わったことやマスコミで流される情報を鵜呑みにしている人のことを、ネットの世界では「情報弱者（情弱）」と呼びます。だまされて操られる「カモ」にされかねない「情弱」を脱却し、一つのトピックについて異なる立場や意見があることを調べて理解できるようになり、考えて議論することができるように、主体的に情報を取捨選択できる「情報強者（情強）」になることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、対面の演習形式で行います。初回の授業で、各トピックについてのリーディングリストを受講者全員に配布します。ただし、それはあくまで考えるきっかけであって、そこに書いてあることを鵜呑みにしてほしいわけではありません。発表担当者はそのトピックについて調べ、わかったことや考えたことを発表します。その際、自分がこれまで知っていたこと、思っていたことと何が違うのかをはっきりさせてください。そして、どのような意見の違いがあるのかを紹介し、自分の考えを述べます。他の受講者は、同じトピックについて自分でも調べて考えてきてください。授業では担当者の発表の後、議論をしますが、結論を出すことが目的ではなく、立場の違いが明確になればよしとします。一人最低一回は発表をしなければなりません、発表後に教員のコメントを述べる形でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロダクション	「情弱」と「情強」	授業の進め方など
第一回	過労死しないために	過労死を防ぐにはどうしたらいいのか
第二回	健康格差	経済と健康のリンク
第三回	日本の人口減少	人口の減少によって何が起るのか
第四回	棄民世代	ロスジェネ世代はなぜ貧困に陥る可能性が高いのか
第五回	健康保険	健康保険の仕組み
第六回	介護保険	介護保険の仕組み
第七回	消費税	消費税の仕組み
第八回	コロナ禍とワクチン	コロナ禍とワクチンをめぐる論争
第九回	食糧問題	食品添加物、農業、遺伝子組み換え食品など
第十回	グレート・リセット	デジタル化と監視社会
第十一回	ショック・ドクトリンと新自由主義	惨事便乗資本主義とは何か？
第十二回	戦後の日米関係と日米安全保障条約	なぜ重要なのか？
第十三回	今期学んだことのまとめ	今期学んだことを振り返り、議論する。レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、担当のトピックについて調べて論点を整理します。他の受講者も、同じトピックについて調べて考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回にリーディングリストを配布します。

【参考書】

初回に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表30%、授業への貢献度30%、期末レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

「情報強者への一歩を踏み出した」「マスコミの情報を鵜呑みにしてはいけないということがわかった」という感想をいただいて、とても心強く思いました。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

取りあげるトピックは、知って楽しいものはないかもしれませんが、皆さんがこれから社会に出て大人として生きていくにあたって重要なもののばかりです。社会の厳しい現実を直視し、「情報強者」として生き延びていくための重要な武器の一つはメディア・リテラシーです。「知的サバイバー」を目指して、ぜひこの授業に主体的に参加してください。

【Outline (in English)】

We are going to acquire media literacy by making research and giving presentations, and having discussions on several important topics.

We are going to grow out of "the information-illiterate", who never doubt what they have learned at school or from the mass-media, and become "the information-literate", that is, those who have media literacy, can make research on, think about, and discuss various important topics, and choose appropriate information on the mass-media.

Presenters need to make research on the assigned topic, and prepare for their presentations. The other students also need to make research on the same topic, and think about it. Preparation and the review of each class takes 4 hours.

Grading criteria of this course consist of presentation(30%), contribution to the class(30%), and a report at the end of the semester(40%).

ARS200BD

比較文化論（1）

波戸岡 景太

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国の暮らしのなかでも、特に「食」に注目し、日本の食文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテキストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】

- 1) 英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2) アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3) 英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5) 以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国との比較を念頭に置きながら、「食」を中心とした様々な文化的事象を学ぶ。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。実施されたプレゼンテーションについては、授業参加者全体でフィードバックを行い、最後に担当教員から総評を伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよび授業の導入	履修者の自己紹介、日米の食文化史を学ぶ上での見取り図を提示する
第2回	ワークショップ①「身近な食文化の発見」	比較文化を学ぶ前提として、自分たちのこれまでの食生活と食文化を振り返る
第3回	留学生を迎えてのアクティビティ・ラーニング①	第2回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第4回	アメリカの「食」における非西洋の伝統	アメリカの国民食ができるまでの歴史を概観する
第5回	「食」の土着化と独立革命の影響	アメリカ食文化における地域的多様性を学ぶ
第6回	産業社会への移行と食の変革	移民の流入とファストフードの文化を考察する
第7回	ワークショップ②「食文化のローカルとインターナショナルを考える」	ガラパゴス化する日本の食文化を分析する
第8回	留学生を迎えてのアクティビティ・ラーニング②	第7回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第9回	有機農業と自然食品	カウンターカルチャーが食文化にもたらした影響を考察する
第10回	食文化革命の到達点	エスニックフード、スローフード、ビーガン料理など「食」の現在を概観する
第11回	日米における「食」の生産・流通・消費	食文化をビジネスとツーリズムの側面から考察する
第12回	ワークショップ③「未来の食文化を考える」	オーガニック食材、ハラールフード、コシヤフードを知る
第13回	留学生を迎えてのアクティビティ・ラーニング③	第12回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第14回	まとめと期末試験	食文化の教授法を考える／授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2時間）
 ・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1時間）

・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1時間）

【テキスト（教科書）】

教員が作成したプリントを授業開始時に配付します。

【参考書】

ジョナサン・サフラン・フォア『イーティング・アニマル：アメリカ工場式畜産の難題』（黒川由美訳、東洋書林、2011年）
 鈴木透『食の実験場アメリカ：ファーストフード帝国のゆくえ』（中央公論社、2019年）

【成績評価の方法と基準】

授業内ワークショップ・プレゼンテーション：50%

授業内期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

ゲーム・エクササイズをとりいれた留学生とのアクティブ・ラーニングが好評だったため、今学期も参加型の授業を実施します。

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。
 履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American food culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

Grades will be determined based on the following:

1) Participation and in-class assignments (50%)

2) Final exam (50%)

ARS200BD

英米文化概論A

田中 裕希

授業コード：A2982 | 曜日・時限：木3/Thu.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帝国」をテーマに、19世紀末から20世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。授業の後半では、イギリス統治下のアイルランドと南アフリカについても学ぶ。

【到達目標】

歴史的文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	帝国主義とは
第2回	Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i>	啓蒙思想と帝国
第3回	<i>Heart of Darkness</i>	語りの構造
第4回	<i>Heart of Darkness</i>	『闇の奥』批判
第5回	戦争詩人	第一次世界大戦
第6回	<i>The King's Speech</i>	第二次世界大戦
第7回	<i>The King's Speech</i>	人間としての王
第8回	W. B. Yeats, "The Song of Wandering Aengus"	アイルランド文芸復興運動
第9回	James Joyce, "Araby"	アイルランドの夢と現実
第10回	Yeats, "Easter, 1916"	イースター蜂起
第11回	Nadine Gordimer, "Once Upon a Time"	南アフリカにおける植民地政策
第12回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	ポストコロニアリズムとは
第13回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	現代イギリスと移民
第14回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『闇の奥』（光文社古典新訳文庫） ジョゼフ コンラッド（著）、黒原 敏行（翻訳）

必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル、K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30%

期末テスト 70%

原則、未提出のリアクションペーパーが4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用する。

【Outline (in English)】

This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze the foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

ARS200BD

英米文化概論B

田中 裕希

授業コード：A2983 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学・映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強くなるアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを体現するに至ったかも考える。

【到達目標】

歴史的な文脈・文化的な文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史
第2回	Walt Whitman, <i>Song of Myself</i>	建国の理念と叙事詩
第3回	<i>Red River</i>	民主主義の夢
第4回	<i>Red River</i>	西部劇と民主主義
第5回	F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i>	語りの構造
第6回	<i>The Great Gatsby</i>	情景描写と文明批判
第7回	<i>The Great Gatsby</i>	幻想としてのアメリカンドリーム
第8回	Langston Hughes	人種と夢
第9回	Sylvia Plath	ジェンダーと夢
第10回	<i>Easy Rider</i>	60年代のアメリカ
第11回	<i>Easy Rider</i>	New Hollywoodとは
第12回	<i>Moonlight</i>	マイノリティの夢
第13回	<i>Moonlight</i>	成長物語
第14回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『グレート・ギャツビー』（新潮文庫）フィッツジェラルド（著）、野崎 孝（翻訳）
必要に応じて、授業支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル, K・トンプソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則、未提出のリアクションペーパーが4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大規模の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用する。

【Outline (in English)】

In this class, we will analyze the representation of the American Dream in literature and films. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

ARS200BD

ComparativeCulture(2)

田中 裕希

授業コード：A2988 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：定員30名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this writing-intensive class, we will learn how to read and write poems with close attention to the properties of English that are often overlooked in traditional language classes, such as rhythm and figurative language. By the end of the semester, students will come away with a broader understanding of English, not just as a tool for communication but as a means of self-expression.

【到達目標】

By the end of the semester, students will develop a deeper awareness of rhythm, sound, and figurative language in English. They will learn to craft poems with attention to diction, syntax, and tone, gaining a broader appreciation of language as a tool for creativity and self-expression.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will read poems, and then write their own poems based on prompts suggested by the assigned poems. Each writing assignment is followed by a workshop, where students will comment on each other's work.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Workshop guidelines
第2回	Imagery	Against cliché
第3回	Rhythm	English vs. Japanese
第4回	Workshop 1	Discussion
第5回	Persona	Writing as though you were someone else
第6回	Workshop 2	Discussion
第7回	Ekphrasis	Writing based on an artwork
第8回	Workshop 3	Discussion
第9回	Object	Writing as though you were non-human
第10回	Workshop 4	Discussion
第11回	Associative Poem	Writing as digression
第12回	Workshop 5	Discussion
第13回	Poetry reading	Recitation
第14回	Conclusion	Final discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading assigned texts, writing poems, and preparing for in-class discussions (4 hours)

【テキスト（教科書）】

Handouts will be distributed.

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Final paper (40%)

Workshop poems/assignments(30%)

Class participation(30%)

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこないます（文学部生を優先とする）。

履修希望者は、辞書（電子辞書可・携帯電話不可）を持参の上、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

N/A

HIS200BE（史学 / History 200）

日本考古学

高橋 健

授業コード：A3113 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の旧石器時代から古墳時代にかけての歴史展開において、物質文化にもとづいて講義する。社会を支える食料の獲得・生産の方法が時代によってどのように変化したのかを学ぶ。

【到達目標】

日本列島の環境に適応したそれぞれの時代の生業とその特徴について説明することができる。また、考古資料から生業にアプローチする方法とその有効性について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人間の生活のもっとも基礎となる食料の獲得・生産・加工の方法がどのように変化したのかを、考古資料にもとづいて探る。各回の授業でトピックを設定して行う予定である。

授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用するが、プリントも併用する。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の方法・評価基準 この授業で扱う時代の概説
第2回	旧石器時代の環境	遊動的な生活
第3回	旧石器時代の生活	洞穴遺跡の生業
第4回	縄文時代の環境	時期と地域による環境の変化
第5回	縄文時代の生業①	貝塚と動物質食料
第6回	縄文時代の生業②	植物質食料を採る
第7回	縄文時代の生業③	理化学的分析など
第8回	縄文時代の調理	土器を使った料理
第9回	弥生時代の生業①	穀物栽培の開始
第10回	弥生時代の生業②	農耕民による狩猟と漁労
第11回	弥生・古墳時代の調理	コメ調理方法の変化
第12回	北方地域の生業①	稲作を行わなかった文化：続縄文文化・擦文文化
第13回	北方地域の生業②	外来の文化：オホーツク文化
第14回	総括	考古学からみた生業の変遷

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等をよく読み、時代ごとの特徴を理解するとともに、環境と生業についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

西本豊弘・新美倫子編2010『事典人と動物の考古学』吉川弘文館
 工藤雄一郎他編2013『ここまでわかった! 縄文人の植物利用』新泉社
 横浜市歴史博物館編2019『おにぎりの文化史』河出書房新社
 その他の参考書は、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績の70%は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class will cover the historical development of Japan from the Paleolithic to the Kofun period, based on material culture.

(Learning Objectives)

Students learn how the methods of acquiring and producing food have changed over time.

(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Students should read references to understand the characteristics of each eras and deepen their knowledge of the environment and subsistence.

(Grading Criteria /Policy)

Submit a reaction paper for each class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end report (70%) and in class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本古代史

春名 宏昭

授業コード：A3114 | 曜日・時限：水5/Wed.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「平安時代と貴族社会」と題して講義します。平安前期の改革の時代の国家・政治のあり方、貴族たちのあり方を理解するようつとめます。

【到達目標】

平安時代の貴族社会のあり方の把握を目指します。基礎的な知識を得て、その上でそれぞれの事象に興味を持ってアプローチし、国家・政治の本質を理解できる能力を身につけましょう。平安時代の官僚のあり方は現代の日本にも通じるオンタイムの問題ですから、現代の政治が抱える問題点も理解できるようになるでしょう。そのような視点から課題レポートにも取り組んで下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

平安前期の改革によって国家・政治のあり方がどのように変わっていったのか、この変化が平安中期の王朝貴族の時代に帰結していったのかを検証していきます。この授業では、一般啓蒙書に書かれることのない天皇や貴族たちのあり方を見ていきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組む必要があります。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。質問がある場合は、授業後に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容の説明
第2回	〈時代〉の変化	ワンランク上の国家を目指して
第3回	官人たちの変化	良吏政治のスタート＝大同元年勅
第4回	天皇の性格変化	桓武天皇と平城天皇
第5回	良吏政治の展開	嵯峨朝への政策継承
第6回	良吏政治の実践	弘仁三年勅から天長元年官符へ
第7回	承和の変の前奏（1）	嵯峨朝の政治状況
第8回	承和の変の前奏（2）	淳和朝の政治状況
第9回	承和の変の前奏（3）	仁明朝の政治状況
第10回	承和の変	母橘嘉智子と娘正子内親王
第11回	貴族の時代へ	文徳朝・清和朝の様相
第12回	応天門の変	安定の時代、摂関政治へ
第13回	藤原基経の国政運営	清和天皇の悲嘆と陽成天皇の廃位
第14回	平安前期という時代	平安時代史概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

平安時代に関して問題意識を持つには、その前提として平安前期・中期の知識が必要です。奈良時代から平安時代への推移についても概括的な理解は必要です。それらを得るために、どれでも参考書（該当巻）を読んでみて下さい。ただし、著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。この講義では、通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを述べます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。また、平城天皇の事績をより詳しく知るには私の『平城天皇』（吉川弘文館人物叢書）を、延喜年間以降については『岩波講座日本歴史』第5巻の「摂関時代と政治構造」を読んで下さい。この講義の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

春名宏昭『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）
中央公論社（文庫）・小学館（文庫）・集英社・講談社（文庫）から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波書店の『シリーズ日本の古代史』（新書）、『岩波講座日本歴史』の該当巻。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点30%、レポート70%です。レポートで取り上げる範囲は平安時代に限りますが、テーマは学生各人で選んでよいことにしています。ただ、どのようなテーマを選んでも、授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作ってください。

【Outline (in English)】

This lecture is attended under the heading of “The Heian period and the aristocracy”. This course introduces how should be the nation and aristocrats in the former term of the Heian period to students taking this course. By the end of the course, students should be able to understand the essence of the nation and politics. Before/after each class meetings, students will be expected to spend four hours to read the textbook and one of reference books introduced. Grading will be decided based on term-end report(70%) and usual contribution(30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本中世史

及川 亘

授業コード：A3115 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における16～17世紀は中世から近世へと社会が変容する時期であり、日本における城郭もその時期に確立する。「普請」という言葉をキーワードとして、主に徳川家康による城郭建設の事例の検討を通じて、中世城郭から近世城郭への進化の過程を政治史的に跡付け、併せて当該期の日本の政治・社会の在り方を考える。

【到達目標】

16～17世紀の城郭建設を通じて政治・経済・社会の変容を学び、併せて当該期史料の読解の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義形式で行うが、前もって城郭建設に関連する史料のプリントを配布し、参加者には史料の音読と解釈をしてもらう。それに対して訂正・補足説明（フィードバック）して、さらにその内容を参考史料を提示しながら解説する。併せてそれぞれの史料が持つ城郭史における意義を政治・社会の状況と関連付けて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業テーマ・進め方について説明する。
第2回	中世の「普請」	「普請」という言葉の原義などについて解説する。
第3回	戦国大名の城郭建設と「普請役」①	戦国大名武田氏の普請役について解説する。
第4回	戦国大名の城郭建設と「普請役」②	戦国大名後北条氏の普請役について解説する。
第5回	織田信長と豊臣秀吉の城郭建設と「普請役」	織田信長と豊臣秀吉の城郭建設について解説する。
第6回	豊臣秀吉の朝鮮出兵と城郭建設	朝鮮半島南岸に建設された倭城について解説する。
第7回	徳川家康の天下統一	豊臣政権から徳川政権への移行を解説する。
第8回	江戸城の巡見	江戸城の堀・石垣を実地見学する。
第9回	徳川家康の城郭建設 江戸城①	慶長八年（1605）・慶長十一年（1608）の江戸城の建設について解説する。
第10回	徳川家康の城郭建設 江戸城②	慶長十九年（1614）の江戸城の建設について解説する。
第11回	徳川家康の城郭建設 駿府城	駿府城の建設について解説する。
第12回	徳川家康の城郭建設 名古屋城	名古屋城の建設について解説する。
第13回	大坂の陣後の城郭建設	江戸幕府による大坂城再築などについて解説する。
第14回	まとめ	中世城郭から近世城郭への過程をおさらいする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

史料読解の予習・復習が必要である。（合計4時間程度）

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、史料プリントを配布する。

【参考書】

及川亘「名古屋御城石垣絵図を読む」（名古屋城調査研究センター編『史料が語る 名古屋城石垣普請の現場』名古屋城調査研究報告3 史料調査研究報告書1、2022年）
同「「公儀御普請」一現場監督する大名」（『城郭史研究』41号、2022年）
北原糸子『江戸城外堀物語』ちくま新書、1999年
斎藤慎一・向井一雄『日本城郭史』吉川弘文館、2016年
白峰旬『日本近世城郭史の研究』校倉書房、1998年
同『豊臣の城・徳川の城』校倉書房、2003年
『日本名城集成 江戸城』小学館、1986年
『日本名城集成 名古屋城』小学館、1985年
『日本名城集成 大坂城』小学館、1985年
『大御所徳川家康の城と町』（駿府城関連史料調査報告書）静岡市教育委員会、1999年

など

【成績評価の方法と基準】

平常点40％、期末試験（またはレポート）60％で評価する。
積極的な授業参加を期待する。

【学生の意見等からの気づき】

歴史学では必ずしも一つの答えが見つかるわけではないが、史料読解や論理展開にいくつかの可能性がある場合も、参考史料なども提示しながらそれらなるべく分かりやすく整理して解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The 16th and 17th centuries in Japan was a period of social transformation from the Middle Ages to the modern age, and castles in Japan were also established during this period. Mainly through the examination of cases of castle construction by Tokugawa Ieyasu, We trace the process of evolution from medieval castles to modern castles in political history, and consider the state of Japanese politics and society during that period

【Learning Objective】

Through the construction of castles in the 16th and 17th centuries, learn about the transformation of politics, economy, and society, and at the same time learn the basics of reading historical materials of the period.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 4 hours of preparation and review of reading comprehension of historical materials is required.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation is based on 50%of the average score and 50%of the final exam (or report).

Expect active class participation.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本近世史

大橋 幸泰

授業コード：A3116 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、日本列島に生活した過去の人々の営為のうち、おもに近世人(江戸時代に生きた人々)の生活を材料に、歴史を学ぶことの意味を考えようとするものである。近世は前近代的な要素と近代的な要素の両方の性格が混在していた時代である。この時代を通じて、前近代の秩序が変化し、近代の秩序が準備されたと言い換えることもできる。しかし、近世が、前近代から近代への単なる過渡期だったとはいえない。近世にはその時代固有の常識や価値観が存在したことも事実であるからだ。この講義では、近世日本の政治・経済・文化の諸相から、近代・現代の秩序とは異なる近世独自の秩序を見だし、その特徴について考えるための材料を提供しよう。

【到達目標】

歴史学は過去の人々の営為を時系列的に理解し、人々を取り巻く秩序がどのように変化してきたかを考える学問である。私たち現代人が常識だと思い込んでいることは、実は過去の人々にとっても常識であったとは限らない。過去の人々は現代人とは異なる常識や価値観のなかで生きていた。私たちが目にする現代の諸問題には、現代人が自分の常識や価値観を疑わないために生じていることも少なくない。私たちの常識や価値観は歴史的産物であることを知って初めて私たちはそれらを相対化することができ、そこに内在する問題に向き合うことが可能となる。本講義で扱う近世日本の政治・経済・文化の諸相は、そのための材料である。したがって、この講義の到達目標は、近世日本の秩序が近代・現代の秩序とはどのように異なっているかを理解し、現代人の常識や価値観のどこにどのような問題が内在しているかを知ることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義を基本とするが、受講生には毎回200～400字程度で、講義を要約した講義記録を提出することを求める。第7回と第13回では、講義内容をめぐってディスカッションする時間を設ける。また、講義の予習として、教科書として指定した牧原成征編『日本史の現在4 近世』の該当箇所を熟読してくることを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／歴史的存在としての私たち 日常生活のサイクル	本講義の目的と概要について説明するとともに、前近代と近現代との差異について、日常生活のサイクルを材料に講義する。
2	幕藩体制の成立と幕府政治	「1天下人による列島統合」「5泰平の世の幕府政治」について扱う。
3	17世紀の朝廷と幕府	「2近世前期の朝廷と文化」「3近世前期の政治と外交」について扱う。
4	身分とジェンダー	「4身分社会の見方」「18近世社会におけるジェンダー」について扱う。
5	藩世界の秩序	「6藩から江戸時代を見直す」「11大名屋敷と江戸の都市社会」について扱う。

6	民衆の生活と政治意識	「7環境と生業」「8民衆思想と民衆運動」について扱う。
7	中間小活	近世秩序の成立と展開について議論する。
8	琉球と蝦夷地	「9近世日本と清・琉球」「16列島北方の社会と交流」について扱う。
9	商業活動と出版文化	「10商人の活動と交通」「13知と書物の広がり」について扱う。
10	災害と病	「12近世の大火・水害・地震」「17医療をめぐる社会と文化」について扱う。
11	地域社会と民衆文化	「14土豪・豪農と地域社会」「15歌舞伎・浄瑠璃にみる民衆文化」について扱う。
12	19世紀の政治と対外関係	「19大御所時代」「20世界の中の幕末日本」について扱う。
13	総括	近世秩序の変容と崩壊について議論する。
14	総復習	試験を含む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の予習として、教科書として指定した牧原成征編『日本史の現在4 近世』の該当箇所(各回内容の番号は同書の章番号)を熟読してくることを求める。授業後は、講義中に紹介した参考文献の他、関連する研究文献を自分で探して知見を広げてほしい。事前・事後の学習はそれぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

牧原成征編『日本史の現在4 近世』(山川出版社、2024年)【要購入】

【参考書】

深谷克己著『日本の歴史6 江戸時代』(岩波ジュニア新書、2000年)その他、適宜必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験60％／日本近世史の基本的な概念が理解できているかが試される。
レポート30％／学期末までに、講義に関する文献を論評するレポートを求める。
平常点評価10％／毎回、200～400字程度で、講義を要約した講義記録を提出することを求める。
その他／レポートを提出した者が試験の受験資格を有する。平常点が0点である場合、単位の取得は困難であることを付記する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックなし。

【Outline (in English)】

This lecture aims to consider the meaning of studying history by examining the activities of people who lived in the Japanese archipelago in the past, primarily those who lived in the early modern period (those who lived during the Edo period). The early modern period was a time when both pre-modern and modern elements coexisted. It can also be said that throughout this period, the pre-modern order changed and the modern order was prepared. However, the early modern period cannot be said to have been a simple transitional period from pre-modern to modern. This is because it is also true that the early modern period contained common sense and values unique to that time. In this lecture, we will look at various aspects of early modern Japan's politics, economy, and culture to discover the unique order of the early modern period, which differed from modern and contemporary orders, and provide material for thinking about its characteristics. Grades will be assessed based on 60%exams, 30%short reports, and 10%daily class performance.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本近代史

内藤 一成

授業コード：A3117 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史を、政治史を中心に天皇の観点から読み解く。その際、明治・大正・昭和、三代の天皇についての人間像や歴史的な役割を重視する。近年、天皇個人に関する歴史的解明が進んだことから、君主制の各国比較など議論が活発である。授業を通じて、実証研究の蓄積が学問領域に新たな地平を開くことを明らかにしていく。

【到達目標】

①日本近代史と立憲君主制について歴史的に理解する。②制度と人間、双方に注目しながら歴史を再考する。③歴史の連続性について考える手がかりを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第2回	近世の朝廷と幕府	近世の天皇・朝廷と幕府について最新の研究動向をもとに論じる
第3回	明治天皇1 明治維新と天皇	幕末維新の政治を孝明天皇・明治天皇の観点から再考する
第4回	明治天皇2 天皇と日本の近代化	明治日本の近代化について天皇の観点から見直す
第5回	明治天皇3 天皇と立憲政治	憲法制定と立憲政治の歩みを天皇の観点から見直す
第6回	明治天皇4 天皇と戦争	西南戦争・日清戦争・日露戦争、明治国家が経験した大きな戦争を天皇との関わりから論じる
第7回	明治天皇5 天皇のまなざしと支配	近代天皇の支配原理とは何か。「臨・覧・聴」という天皇の行為から読み解く
第8回	大正天皇1 大帝の相続者	明治の終焉と大正新政、大日本帝国はいかに引き継がれたのかを大正天皇の観点から見直す
第9回	大正天皇2 デモクラシーと天皇（1）	第一次大戦後の世界的なデモクラシーの潮流のなか、日本の政党政治はいかに成立したのか。天皇の観点から見直す
第10回	昭和天皇1 デモクラシーと天皇（2）	昭和初期、政党政治と天皇はどう向き合ったのかをみていく
第11回	昭和天皇2 デモクラシーと天皇（3）	政党政治の危機と終焉に、天皇はどう向き合ったのかをみていく
第12回	昭和天皇3 天皇と軍事	昭和期の軍部の台頭に、天皇はどう向き合ったのかをみていく
第13回	昭和天皇4 昭和の大戦と天皇	天皇は対米開戦をいかにして受け入れ、終戦を決断したのか、最新の研究動向をもとにみていく
第14回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する資料には必ず目を通しておく。授業後には内容をよく確認し、指示のあった文献や資料に目を通しておく。平素より参考文献を読んでおくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。参照が必要な文献等がある場合には、講義の際、指示する。

【参考書】

『明治天皇紀』全13巻、『大正天皇実録 補訂版』全6巻、『昭和天皇実録』全19巻、伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、同『昭和天皇伝』（文芸春秋）、古川隆久『大正天皇』（吉川弘文館）、同『昭和天皇』（中公新書）、『天皇の歴史』全10巻（講談社学術文庫）、吉田孝『歴史のなかの天皇』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

現時点ではないが、クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能なIT機器

【その他の重要事項】

- ・「日本近代史科学」（秋学期）との継続履修を推奨する。
- ・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究」Ⅰ）である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムのお知らせ機能や、授業内掲示板機能を利用して行うので、見落とさないようにすること。
- ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline (in English)】 (Course outline)

This course examines the modern era of Japan, focusing on political history. I will explain while paying attention to the personalities and historical roles of the three emperors, namely Emperor Meiji(1852-1912), Emperor Taisho(1879-1926), and Emperor Showa(1901-1989). A particular emphasis in this course is a correct and historical understanding of modern Japanese history and the constitutional monarchy.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- － A. Historical understanding of modern Japan and constitutional monarchy.
- － B. Rethinking history while paying attention to both institutions and humans.
- － C. Get clues to think about the continuity of history.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE（史学 / History 200）

日本現代史

劉 傑

授業コード：A3118 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て、世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、昭和期日本の内政と外交に対する理解を深め、「昭和」は日本にとってどのような時代だったのかを考えていきたい。多様な近代史史料の利用法も学んでいく。

昭和戦前期日本の内政と外交は、戦争と密接な関係にあった。議会や軍部はもちろん、経済界、メディアなども外交政策の策定や外交交渉の遂行に影響を与えた。複雑な力が働くなかで、外務省はどのように行動したのか。とりわけ外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。「事件」や「事変」、戦争が絶えなかった時代における外交の可能性について、考えていきたい。

【到達目標】

内政と外交に関する多様な記録を教員と共に選択し、解読することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、外交の特徴や、内政と外交の関係、及び外交政策に影響する諸要素を討論形式で考え、客観的、多面的な歴史理解をめざす。講義や討論を通じて、日本と世界の国々とのかわりかたを理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を読み解く方法を学んでいく。授業中の質問に対しては討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「昭和」という時代（1）	日本近代史の中の昭和時代について考える。
第2回	「昭和」という時代（2）	昭和初期の世相を多様な資料を通じて理解する。
第3回	「昭和」という時代（3）	メディアと政治について討論する。
第4回	外務省と軍部	外務省の歴史を概観し、日本外交の特質を理解する。
第5回	外務省とメディア	世論の形成と外交官の世論への影響を考える。
第6回	昭和初期の外務省と外交官（1）	外務省内の中国通はどのように形成したのか、その役割について討論する。
第7回	昭和初期の外務省と外交官（2）	外務省の外交政策論を諸外国と比較しながら考える。
第8回	山東出兵と日本外交（1）	山東出兵の経緯と中国の対応を事例として、日本外交に対する理解を深める。
第9回	山東出兵と日本外交（2）	田中外交と幣原外交、蔣介石の対日認識と政策について討論する。
第10回	満洲事変と日本外交（1）	日本にとって、満洲はなんだったのかを理解する。
第11回	満洲事変と日本外交（2）	満洲事変への各方面の対応を検討する。
第12回	満洲事変と日本外交（3）	満洲国の成立、満洲国が目指したもの、満洲国の評価について討論する。
第13回	日中戦争前の国交調整	陸軍の華北進出と日本の中国政策について考える。
第14回	試験・まとめと解説：昭和戦前期の日本外交	日中戦争までの日本外交について総合討論を行い、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業終了後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとうり便利であろう。
策原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016年））
増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007年）
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）
川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007年）
劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006年）
劉傑・川島真『1945年の歴史認識』（東京大学出版会、2009年）
劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013年）
波多野澄雄・中村元哉『日中戦争はなぜ起きたのか』（中央公論新社、2018年）
川島真・岩谷将『日中戦争研究の現在』（東京大学出版会、2022年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を実施する。普段のレポートや討論への参加も成績評価の対象になる。試験7割、平常点3割。

【学生の意見等からの気づき】

講義に関する詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの通信機器を用意してほしい。
教材や課題の指示は、学習支援システムを利用する。見落とさないように注意し、指示にしたがって講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

This lecture covers the domestic affairs and diplomacy of Japan in the Showa period.

Congress and the military as well as the economic circle and the media influenced the formulation of foreign policy and diplomatic negotiations. How did the Ministry of Foreign Affairs act before the Sino-Japanese War? How did diplomats' recognition and techniques influence Japanese diplomacy? We will think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :
Term-end examination: 70%. Short reports and regular assessments:30%.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本古代史科学 I

春名 宏昭

授業コード：A3121 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『続日本紀の史料学』と題して講義を行います。八世紀の日本は、当時先進の文化を誇った中国のような国家建設を目標に掲げて邁進していました。『続日本紀』を題材に史料への取り組み方を学び、日本古代史における歴史の流れ、あり方の把握を目指します。

【到達目標】

続日本紀の記事を数点取り上げ、史料へのアプローチの仕方を習得することができます。この授業を通して、奈良時代の基礎的な理解を身につけ、他の史料に対してもつねに興味を持って臨めるようになり、それを論理的に解析し正しい理解に到達できる技能を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

取り上げた記事を糸口に、その背後にある問題点を探り出し検証していきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組むことが必要です。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。質問がある場合は、授業後に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（1）	続日本紀とはどのような史料か？
第2回	ガイダンス（2）	続日本紀のテキスト
第3回	オオキミへの疑念（1）	続日本紀の宣命と稲荷山古墳鉄剣銘
第4回	オオキミへの疑念（2）	天皇と親王・諸王
第5回	天平二年の太政官奏（1）	天平二年六月甲寅朔条の紹介
第6回	天平二年の太政官奏（2）	続日本紀の3つのテキスト
第7回	天平二年の太政官奏（3）	わずか31文字の史料の“奥行”
第8回	慶雲元年の公廨銀（1）	慶雲元年七月庚子条の紹介
第9回	慶雲元年の公廨銀（2）	公廨銀から見えてくるもの
第10回	左右京尹の設置（1）	天平宝字五年二月丙辰朔条の紹介
第11回	左右京尹の設置（2）	左右京尹に対する理解
第12回	左右京尹の設置（3）	左右京尹の新たな性格分析
第13回	税司主鑑（1）	大宝二年二月乙丑条の紹介
第14回	税司主鑑（2）	大宝令施行直後の地方政治

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた記事が含む意味を理解するためには、それぞれの記事に現れた事象の時代背景を知る必要があります。そのためには、どれでもいいですから参考書（奈良時代該当巻）を読んでみて下さい。著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。

この講義では、現在の通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを書いていきます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。

この講義の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

岩波書店・新日本古典文学大系『続日本紀』が基本です。他に平凡社『続日本紀』、現代思潮社『続日本紀』があります。一般啓蒙書として、中央公論社(文庫)・小学館(文庫)・集英社・講談社(文庫)から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波新書『シリーズ日本の古代史』、『岩波講座日本歴史』の該当巻があります。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点30%、レポート70%です。レポートで取り上げるテーマは学生各人で選んでよいことにしていますが、どのようなテーマを選んでも授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作ってください。 ”自分で考える”がキーワードです。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉日本古代政治史

〈研究テーマ〉日本古代の皇権と官制

〈主要研究業績〉

『律令国家官制の研究』（吉川弘文館）

『平城天皇』（吉川弘文館）

『皇位継承 歴史をふりかえり変化を見定める』（共著、山川出版社）

『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）

【Outline (in English)】

This lecture is offered under the title of “The world of Shokunihongi”. It deals with key aspects of ancient Japanese history, particularly referring to “shokunihongi”. By the end of the course, students will be able to understand how to make a new approach to historical sources. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (70%) and usual contribution (30%).

HIS300BE（史学 / History 300）

日本近世史科学 I

清水 詩織

授業コード：A3124 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世社会では、日常のあらゆる場面で様々な文書がやりとりされ、膨大な量の文書が作成されました。近世史研究を行う際は、これらの近世史料を研究テーマに則して調査・収集し、集めた史料を一言一句丁寧に読解する作業が必要となります。しかし、近世史料はいわゆる候文と呼ばれる文体の上、くずし字で書かれているので、近世史料の読解には専門的な訓練が必要となります。そこで、本講義ではまず活字化された近世史料を使用し、近世史料の基本的な解釈方法や語句等の調べ方・読み方を訓練します。その後、くずし字の読解にも挑戦します。

【到達目標】

近世史料の基礎的な扱い方と読解方法を学び、基本的な読解力を身につけることができるようになることが目標です。基本的な読解力とは、近世史料を正確に読み、その言葉の意味を調べて文章を理解し、史料批判をしつつ論理的に説明することができることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用します。授業内で翌週までの課題を提示するので、まずは自力で取り組みます。翌週、授業時に学生は割り当てられた範囲を報告し、教員は該当部分の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業に関するガイダンスを行います。
第2回	史料研究の方法	辞書類の使用方法をレクチャーします。
第3回	近世社会の文書	近世文書の種類について整理します。
第4回	古文書の形式	やや長文の文章に挑戦します。
第5回	幕府の史料を読むー『徳川実紀』ー	江戸幕府の基本資料である、『徳川実紀』の読解に挑戦します。
第6回	幕府の史料を読むー『御触書集成』ー	江戸幕府が発行した法令を読解します。
第7回	藩の史料を読むー幕府令の伝達ー	藩に伝達された幕府の法令を読みま
第8回	藩の史料を読むー藩士の職務規則ー	藩士の勤務規則についての史料を読みます。
第9回	くずし字を読むー実物を見る・触れるー	本物の古文書を使用して崩し字に挑戦します。
第10回	くずし字を読むー塩谷宕陰上書・基礎事項ー	昌平黉儒者塩谷宕陰の上書を読みます。
第11回	くずし字を読むー塩谷宕陰上書・字体ー	塩谷宕陰は、能書家としても著名でした。字形にも注目します。
第12回	くずし字を読むー塩谷宕陰上書・長州戦争記事ー	長州戦争記事を読みます。
第13回	くずし字を読むー塩谷宕陰上書・横浜鎖港記事ー	横浜鎖港問題について読みます。
第14回	くずし字を読むー塩谷宕陰上書・最幕末の幕臣たちー	史料読解を通して、前期のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布する史料について、毎回予習・復習を行ってください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

くずし字の辞書を一冊用意してください。（授業内でも紹介する予定なので、それを聞いてからどれにするか選んでもいいです。）児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、1981年）、林英夫監修『増訂 近世古文書 解読辞典』（柏書房、1972年）、林英夫監修『音訓引き古文書字典』（柏書房、2004年）など。

【参考書】

参考書は授業中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：50 %
平常点：50 % 授業内での取り組みを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本授業担当者は、学芸員の実務経験を有しており、実際の古文書の扱い方についても情報を交えながら授業を行います。

【Outline (in English)】

Students will learn basic methods of interpreting early modern historical documents.

Students will be trained how to look up and read words and phrases.

Students will also be challenged to decipher kuzushiji characters.

The goal is to acquire basic reading comprehension skills of early modern historical documents.

Preparation and review will take 4 hours each.

Evaluation will be based on 50% of the examination score and 50% of the normal score.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本近世史科学Ⅱ

清水 詩織

授業コード：A3125 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世史料の中でも、各地域で作成された名主家文書を始めとする史料は地方文書と呼ばれます。地方文書は一般的に読解の難易度が高い上、まだ未翻刻の史料も膨大な数量に及びます。地方文書を扱う場合には、くずし字で書かれた史料を扱う可能性が高いといえます。本授業では、前期の授業で身につけた方法を使用し、地方文書に挑戦します。くずし字史料は前期よりもやや難易度の高いものを扱います。

【到達目標】

近世史料の読解力を身につけることが目標です。授業では、自力で研究活動が出来るよう、近世史料の扱い方と読解方法を学び、高度な読解力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用します。授業内で翌週までの課題を提示するので、まずは自力で取り組みます。翌週、授業時に学生は割り当てられた範囲を報告し、教員は該当部分の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業に関するガイダンスを行います。
第2回	村の史料を読む	御用留について紹介します。
第3回	村の史料を読む	台風被害の報告の史料を読みます。
第4回	江戸の史料を読む	『藤岡屋日記』に挑戦します。
第5回	史料調査とアーカイブズ	史料調査の方法について紹介します。
第6回	くずし字を読む―「漂流記」に挑戦①	江戸時代海難事故を扱います。
第7回	くずし字を読む―「漂流記」に挑戦②	明和年間の漂流記を読みます。
第8回	くずし字を読む―「漂流記」に挑戦③	安南漂流記事を読みます。
第9回	くずし字を読む―「漂流記」に挑戦④	漂流記のまとめを行います。
第10回	くずし字を読む「はつか艸」に挑戦①	江戸市中の記事を読みます。
第11回	くずし字を読む「はつか艸」に挑戦②	辻六郎左衛門の記事を読みます。
第12回	くずし字を読む「はつか艸」に挑戦③	町奉行の記事を読みます。
第13回	くずし字を読む「はつか艸」に挑戦④	御成の記事を読みます。
第14回	試験とまとめ	期末試験とまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習にはそれぞれ2時間かかります。

【テキスト（教科書）】

くずし字の辞書を一冊用意してください。児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、1981年）、林英夫監修『増訂 近世古文書 解読辞典』（柏書房、1972年）、林英夫監修『音訓引き古文書字典』（柏書房、2004年）など。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）

期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、経験をふまえて古文書の扱い方などの情報も織り交ぜて授業を行います。

【Outline (in English)】

Students will learn how to highly interpret early modern historical documents.

Students will train how to look up and read words and phrases.

Students will be challenged with difficult crudities.

The goal is to develop advanced reading skills of early modern historical documents.

Preparation and review will take 4 hours each.

Evaluation will be based on 50% of the exam score and 50% of the normal score.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本近代史料学

内藤 一成

授業コード：A3126 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史研究では、数多くの、かつさまざまな史（資）料を駆使して議論を組み立てることが珍しくない。本授業では各種の史（資）料を取り上げ、それぞれの特色や限界を明らかにしていく。さらに自ら史料発掘やオーラルヒストリーに取り組むときの手順についても学ぶことで、実践的なスキルを磨く。これらの内容を通じて、日本の歴史史（資）料の特色の一端を窺うことができるようになる。

【到達目標】

①一次・二次史料の違いとそれぞれの特色を理解する。②公文書・私文書の違いとそれぞれの特色を理解する。③文字・非文字資料の違いと、それぞれの特色を理解する。①～③を総合し、近代史（資）料について基礎的な理解をはかる。また独自に史（資）料調査を行う際に必要となる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式をとる。板書とパワーポイントを併用する。授業で使用する史（資）料は、学習支援システムを利用して配布する。史（資）料は授業時に音読したり、内容の検証を行う。状況が許せば学外で行う講義もある。また講義時には、質疑応答の時間を設けるほか、学習支援システムに課題の回答を掲示するなどフィードバックに関しても適宜対応していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第2回	書簡研究（1）	近代の書簡の形態・書式等について
第3回	書簡研究（2）	近代の書簡の内容について（政治家の書簡を読む）
第4回	書簡研究（3）	近代の書簡の内容について（文化人の書簡を読む）
第5回	日記研究（1）	近代の日記の形態・書式等について
第6回	日記研究（2）	近代の日記の内容について（政治家の日記を読む）
第7回	日記研究（3）	近代の日記の内容について（文化人の日記を読む）
第8回	公文書研究	さまざまな公文書の特色について
第9回	新聞、雑誌、書籍の世界	新聞、雑誌や各種書籍といった活字資料の特色と歴史研究での活用法について学ぶ
第10回	史料調査の世界	史料調査の手順や注意点について学ぶ
第11回	オーラルヒストリーの世界	オーラルヒストリーとは何か、調査の手順、注意点について学ぶ
第12回	金石文の世界	金石文の特色について、フィールドワークとともに学ぶ
第13回	編纂史料の世界	翻刻された史料や伝記などの編纂物の特色について
第14回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する史（資）料には必ず目を通しておく。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストに使用する史（資）料は、学習支援システムにより事前に配布する。

【参考書】

五味文彦・杉森哲也編『日本史史料論』（放送大学教育振興会）、中村隆英・伊藤隆編『近代日本研究入門 [増補版]』（東京大学出版会）、佐々木隆「近代文書と政治史研究」（『日本の時代史30 歴史と素材』吉川弘文館）、御厨貴編著『近現代日本を史料で読む』（中公新書）、『日記に読む近代日本』全5巻（吉川弘文館）、御厨貴編『オーラル・ヒストリーに何ができるか』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能なIT機器

【その他の重要事項】

- ・「日本近代史」（春学期）との継続履修を推奨する。
- ・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究」Ⅱ）である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムのお知らせ機能や、授業内掲示板機能を利用して行うので、見落とさないようにすること。
- ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline (in English)】 (Course outline)

In this course, I will explain the characteristics and limitations of each of the various modern Japanese historical materials while analyzing them in detail. I will also teach you the steps to discover historical sources and conduct oral history research yourself. Through the lessons, you will gain basic knowledge and understanding of historical materials. (Learning Objectives)

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS300BE（史学 / History 300）

日本現代史料学

劉 傑

授業コード：A3127 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代史史料の探し方、読み方を学び、史料のなかの日本外交を考える。
具体的には、外交記録、日記、手紙、報告書、回想録など多様な史料の調査法、利用法などを習得する。

昭和12年、日本と中国は全面戦争に突入する。戦争の拡大と平行して展開された外交は、戦争そのものだけでなく、戦後日本のあり方にも大きな影響を与えた。外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。戦争の時代における外交の可能性について考える。

また、戦後の日本外交は対米関係を基軸に展開され、日本は直接戦争に巻き込まれることなく今日の繁栄を築きあげた。戦後日本の政治家と外交官の外交理念を辿りながら、平和な国際環境を創出するための日本外交の戦後史を学ぶ。

【到達目標】

近現代の日本外交に関連する記録を解説し、近現代日本外交の特徴や、外交政策に影響する諸要素を史料のなかから読み解く方法を身に付けることができる。

史料の探し方、史料批判の方法、史料利用の方法などについて検討し、多様な史料を手がかりに、日本とアジア、世界とのかかわりかたを理解する。

また、討論を通じて、世界の中の日本を理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解説」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては、討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	昭和史研究と史料	昭和期史料の特徴を概観する。
第2回	史料で学ぶ日中戦争と外交(1)	史料を読み、日中戦争中の「和平工作」を考える。
第3回	史料で学ぶ日中戦争と外交(2)	「近衛声明」の意味とその影響について討論する。
第4回	史料で学ぶ外交官と戦争(1)	外交官の日記を読み、その史料価値を考える。
第5回	史料で学ぶ外交官と戦争(2)	外交官の報告を読み、その影響について分析する。
第6回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交(1)	開戦をめぐる諸問題を外交官の報告で考える。
第7回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交(2)	対中外交を軍人の報告書で読む。
第8回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交(3)	占領地政権問題を日記で考える。
第9回	史料で学ぶ終戦外交(1)	陸軍の終戦構想を記録で検証する。
第10回	史料で学ぶ終戦外交(2)	外交記録で終戦を読む。
第11回	史料で学ぶ冷戦下の日本外交(1)	メディアのあり方と冷戦について討論する。
第12回	史料で学ぶ冷戦下の日本外交(2)	中国、台湾の公的文書をよみ、日本のアジア外交を考える。
第13回	史料で学ぶ日中国交回復とアジア外交の新展開	日中両国の史料を読み、日中関係の特質について討論する。
第14回	試験・まとめと解説：近代日本のアジア外交	日中の新聞記事を分析し、日本のアジア外交を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。

箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016年））
増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007年）
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）
川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007年）
劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006年）
劉傑・川島真『1945年の歴史認識』（東京大学出版会、2009年）
劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013年）
波多野澄雄・中村元哉『日中戦争はなぜ起きたのか』（中央公論新社、2018年）
川島真・岩谷将『日中戦争研究の現在』（東京大学出版会、2022年）

【成績評価の方法と基準】

毎回授業時間内に討論か、小レポート課題を完成していただく。学期末にこれを参考にし（50％）、試験（50％）とともに成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義の詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用するなど、履修者によりよく内容を理解してもらうように努める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの通信機器を用意してほしい。
教材や課題の指示は、学習支援システムを利用する。見落とさないように注意し、指示にしたがって講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

In this lesson, we will learn how to research and read historical materials of the modern history of Japan. Also, think about Japanese diplomacy in historical materials.

Specifically, we will learn how to find and analyze documents such as diplomatic records, diaries, letters, reports, memoirs.

In 1937, Japan and China started a general war. The diplomatic negotiations between Japan and China had a great influence not only on the war itself but also on the way of Japan after the war. We will discuss how did diplomats' perceptions and diplomatic approaches influence China-Japan relations? And think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :
Term-end examination: 50%, Short reports :30%, in class contribution: 20%.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋古代史

飯尾 秀幸

授業コード：A3135 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、人類の誕生とともに居住単位・婚姻単位・経済単位として存在するが、歴史の各段階においてそれは変遷する。この授業においては、文化人類学・考古学の成果に学びつつ、婚姻単位としての家族が如何なる構造をもつものであったのかを中国古代史を対象として考える。

【到達目標】

家族とは、いかなるものかを19世紀～20世紀における文化人類学の展開から理解し、説明できる。
また、集落・家屋といった考古学的研究の成果をどのように歴史学に取り入れるかを習得することができる。
史料の扱い方（漢籍と甲骨文字・青銅器銘文など）に精通することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

文化人類学の調査などを参考に、歴史学において家族をどう捉えたらよいかを考え、中国の新石器時代における家族を、とくに婚姻単位としての家族という観点から位置づける。
現代の家族問題と比較して、受講生自身の問題意識を高め議論を深めていきたい。

なおリアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	歴史学における空間（地域）を考える。	n地域論を理解し、具体的に地域間の諸関係を考える。
第2回	歴史学における時間（時代区分論）を考える。	時代区分論を理解し、具体的に時代の画期を提示し、その変化の意味を考える。
第3回	核家族のイメージの再考	モン族（中国南部）、モン族（ヴェトナム北部）の集落構造・婚姻制度から歴史的家族を考える。
第4回	婚姻単位としての家族を考える。	文化人類学における家族の方法論から家族論を検討する。
第5回	経済単位としての家族を考える	社会経済史の議論から家族論を考える
第6回	歴史学が考える家族の成立と社会・国家との関係を検討する。	婚姻単位・経済単位としての家族が居住単位としての家族に合一することを家族の成立と定義する意味を考える。
第7回	国家と社会・家族の理論的展開を概観する。	社会と家族が国家支配と如何なる関係にあるのかを検討する。
第8回	中国考古学の成果を検討する。	中国文明の地域的多様性を考える。
第9回	姜寨遺跡の紹介	発掘された紀元前4500年ころの一つの集落の構造を考える。
第10回	ボロロ族の集落構造	レヴィ・ストロースの調査に基づいて、ブラジルのボロロ族の集落構造・婚姻制度を紹介する。
第11回	姜寨遺跡からみた集落構造の意味	ボロロ族を参考に、仰韶文化期の集落構造を考える。
第12回	半坡遺跡、その他の仰韶文化期の遺跡の紹介	仰韶文化期のその他の遺跡から集落構造、婚姻制度を考える。
第13回	竜山文化期以降の集落遺跡の紹介と「家族」成立前史	新石器時代後半の集落と家屋の状況を考える。
第14回	春学期のまとめ・解説	歴史学、文化人類学での家族の扱い方をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとした概説書を読むことを予習として、知識を得てください。また授業中で歴史学、文化人類学などの研究書を紹介いたしますので、参照してください。とくに興味を引くテーマには積極的に検索して書物のありかを確認して調べていただきたい。

予習・復習は、講義1回につき4時間を標準とします。

また絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムで提出された各回の授業内容についての200字程度のレポート、および学期末に提出を課すレポート（600字程度）で評価する。前者を40％・後者を60％とする。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することに心がけます。

【その他の重要事項】

質問は、授業中に原則として受けます。また学習支援システムにEメールアドレスを提示しますので、いつでもメールで質問してください。

【Outline (in English)】

This course introduces about the formation of the family in ancient China.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history , family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

The goals of this course are to learning about the formation of the family in ancient China and understanding how to handle historical materials. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end report (60%), and in-class contribution.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋中世史

塩沢 裕仁

授業コード：A3136 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていきます。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきます。

【到達目標】

水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解します。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、パワーポイントと板書で説明しますので、ノートに必要事項を記入し、説明を記録します。また、文献、地図、写真、絵、表などの資料の使い方も学習し、与えられた資料を使って、分析する方法を学びます。学生からの質問に関しては授業終了後に受け付け、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	水問題	水問題と学習の意義
第2回	河川史 1	黄河
第3回	河川史 2	長江
第4回	河川史 3	渭水
第5回	河川史 4	洛水
第6回	運河史 1	運河の構造
第7回	運河史 2	運河の発展
第8回	穀倉	穀物の運搬と保管
第9回	水戦史 1	三国志の水戦
第10回	水戦史 2	淝水の戦い
第11回	水戦史 3	襄陽をめぐる戦い
第12回	庭園	庭園の種類と発展
第13回	水害	災害と防災
第14回	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で資料、論文等を配布もしくは指示しますので、それを読んでおいてください。また、質疑応答により確認をし、理解度を高め、授業後は各自参考書等により補足します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書はありません。

資料については配布しますが、レジュメは配布しません。

【参考書】

愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009年改訂版
 富谷至・森田憲司編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2016年改訂版
 『中国の歴史（全集叢書）』講談社、2005年
 その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)と筆記試験(70%)

【学生の意見等からの気づき】

この授業では自分で書くことにより、「自分のノート」を作ってもらいたいのので、写真撮影を禁じます。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆：作業をしてもらいます。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese history in respect to various issues on water. The aim of this course is to help students acquire an importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋古代史

内田 康太

授業コード：A3143 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ史に関する諸問題のうち、「共和政期（前6世紀～前1世紀）における公職選挙」を取り上げる。共和政ローマの運営を支えた公職選挙のしくみを制度と実態の両面から分析することで、その支配構造の特質について学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。
・共和政ローマにおける公職選挙について基礎的知識を習得する。
・一次資料の扱い方を習得し、公職者の選出に対する民衆の影響力について自ら考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、第12回・第13回は受講生によるディスカッションを組み入れる。講義形式の授業については、授業時間内の質疑応答に加えて、授業後に毎回アクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ローマ共和政と公職選挙
第2回	公職のしくみ	諸公職の機能と公職階梯（クルスス・ホノルム）
第3回	公職選挙のしくみ（1）	トリブス民会／平民会
第4回	公職選挙のしくみ（2）	ケントゥリア民会
第5回	クリエンテラ	庇護する者（パトロヌス）と庇護される者（クリエンス）
第6回	選挙運動（1）	固定票の保持をめぐって
第7回	選挙運動（2）	浮動票の獲得をめぐって
第8回	選挙不正	賄賂の分配とその効果
第9回	秘密投票	導入の経緯とその効果
第10回	対立候補	共和政末期（前1世紀）における競争の激化と票の分散
第11回	優先投票	優先投票ケントゥリア（ケントゥリア・ブラエロガティウア）の役割
第12回	投票者（1）	だれが投票したのか
第13回	投票者（2）	どのように投票したのか
第14回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

エルンスト・マイヤー『ローマ人の国家と国家思想』（鈴木一州訳、岩波書店、1978年）。
島田誠『世界史リブレット3 古代ローマの市民社会』、山川出版社、1997年。
長谷川岳男／樋脇博敏『古代ローマを知る事典』、東京堂出版、2004年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80％）
リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

一次資料（日本語訳）の読解に興味をもつ受講生が多かったことから、史料分析を取り込んだかたちでの講義を継続する。また、受講生の関心を把握し、それに沿った授業を進めるために、引き続きリアクションペーパーを通じた質疑応答を活用する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the issue of elections in the Roman Republic (6-1 century B.C.). Analyzing it from both institutional and practical aspects, it helps students learn the characteristics of governance in this ancient polity.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.
- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning elections in the Roman Republic.

- Using primary sources properly, students are able to estimate the influence of the people over the outcome of elections.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE (史学/History 200)

西洋中世史

内川 勇太

授業コード：A3144 | 曜日・時限：水2/Wed.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アングロ＝サクソン期イングランドの歴史を、写本や文書などの文字資料・貨幣・考古学資料等の画像を積極的に活用しながら概観する。前半において政治史を中心に歴史的展開を整理したのち、後半においてテーマ別にアングロ＝サクソン期イングランドの諸側面を考察する。

【到達目標】

アングロ＝サクソン期イングランド（450年頃から1066年）の歴史的展開を、政治・宗教・社会・文化等の諸側面から説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回終了後にリアクションペーパーを提出してもらい、全体に共有すべき質問等は次の授業冒頭において取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アングロ＝サクソン期イングランドの概要
第2回	イングランドの政治的統合過程①	アングロ＝サクソン人の移住と諸王国の成立
第3回	イングランドの政治的統合過程②	キリスト教への改宗と教会組織の整備
第4回	七王国（ヘブターキー）概念とブリテンの覇者（ブレトワルダ）概念	歴史学用語としての七王国（ヘブターキー）とブリテンの覇者（ブレトワルダ）の成立とその是非
第5回	イングランドの政治的統合過程③	マーシア王国の覇権
第6回	イングランドの政治的統合過程④	ヴァイキングの侵入
第7回	イングランドの政治的統合過程⑤	ウェセックス王国によるイングランド地域の政治的統合
第8回	イングランドの政治的統合過程⑥	デーン人とノルマン人による2度の征服とアングロ＝サクソン期イングランドの終焉
第9回	物質文化	アングロ＝サクソン期の考古学的遺物と写本
第10回	ラテン語と古英語	アングロ＝サクソン期イングランドのラテン語・古英語併用状況
第11回	集会を通じた統治と文書利用	アングロ＝サクソン期イングランドの集会における文書利用を通じた統治
第12回	貨幣	アングロ＝サクソン期イングランドの貨幣の発掘、貨幣の種類、貨幣制度の発展
第13回	『アングロ＝サクソン年代記』の2つの「十字」と天文・大気光学現象	『アングロ＝サクソン年代記』の2つの「十字」が指す天文・大気光学現象とその科学史上の意義
第14回	まとめ	授業の復習とレポートの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の予習、授業内容の復習、参考書等の学修を合わせて毎回4時間以上の予習・復習を行う。

【テキスト（教科書）】

講義で使用する資料は全てpdfあるいはパワーポイント形式で配布する。

【参考書】

1. 近藤和彦編『イギリス史研究入門』山川出版社 2010
2. 青山吉信編『世界歴史体系イギリス史1：先史・中世』山川出版社 1991
3. トマス・チャールズ・エドワーズ編・常見信代監訳『オックスフォードブリテン諸島の歴史2：ポスト・ローマ』慶應義塾大学出版会 2010
4. ウェンディ・デイヴィス編・鶴島博和監訳『オックスフォードブリテン諸島の歴史3：ヴァイキングからノルマン人へ』慶應義塾大学出版会 2015
5. 川北稔編『新版世界各国史11 イギリス史』山川出版社 1998

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(70%)、毎回のリアクションペーパー(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

参考資料を参照可能な機器（パソコン、タブレット、スマートフォン等）。

【Outline (in English)】

Course outline: An overview of the history of Anglo-Saxon England will be presented by using written sources, coin finds and archaeological finds. The first part concerns with the political development of the period while the second part considers its various aspects.

Learning Objectives: This course aims to outline the history of Anglo-Saxon England (c. 450-1066) from political, religious, social and cultural perspectives.

Learning activities outside of classroom: reading of the text before and after each class, reading of references

Grading Criteria/Policy: Report(70%), Reaction Papers(30%)

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋近代史

中嶋 毅

授業コード：A3145 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代ロシアの政治社会を多面的に考察する。本講義では、ロシア帝国の形成から第一次世界大戦に至るまでのロシア近代史を概観し、ヨーロッパの政治発展の一類型としてのロシア世界を考察する。

【到達目標】

近代ロシア帝国の歩みを、主に政治社会史の観点から検討し、近代国家の特徴を比較考察する視角を習得する。また、ロシア近代史の経験を近代世界の中に位置づける作業を通じて、歴史的思考を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業の最後に小課題を提示し、Hoppiiで提出してもらう。その際、授業および課題作成にあたっての質問を随時記載してもらい、次回授業時までには回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	授業の概要と授業の進め方
第2回	ロシア帝国の形成（1）	ピョートル1世と帝国の形成
第3回	ロシア帝国の形成（2）	ピョートルからエカチェリーナへ
第4回	ロシア帝国の形成（3）	エカチェリーナ2世とロシア帝国の発展
第5回	19世紀前半のロシア帝国（1）	ナポレオンを破った大国ロシア
第6回	19世紀前半のロシア帝国（2）	ニコライ1世と帝国の安定化
第7回	ロシア帝国の近代化（1）	アレクサンドル2世の「大改革」
第8回	ロシア帝国の近代化（2）	近代化の苦悩
第9回	近代ロシアの成熟	19世紀末のロシア帝国
第10回	近代ロシアの危機	ニコライ2世のロシア帝国
第11回	第一次世界大戦とロシア帝国	総力戦への対応
第12回	二月革命	ロシア帝国から共和制ロシアへ
第13回	十月革命とボリシェヴィキ政権	社会主義ロシアへの転換
第14回	全体のまとめ	近代ロシアの特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近代ロシア史の概説書を読み、歴史の大まかな流れを理解する。また、授業の際に提示する課題に取り組み、復習や準備学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。配布資料を用いて授業を進める。

【参考書】

和田春樹編『ロシア史』上・下（山川セクション）山川出版社、2023年。田中陽児・倉持俊一・和田春樹編『世界歴史大系・ロシア史』全3巻（山川出版社、1994-97年）。

【成績評価の方法と基準】

授業中に課する課題の提出（50％）と学期末レポート（50％）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course will introduce students to the modern history of Russia from the formation of the Russian empire to the First World War. The Russian world as a type of European political development will be considered.

Students will acquire knowledge about various aspects of the Russian Empire. In doing so they will acquire a perspective to compare and consider the characteristics of modern nations.

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Assignments (50 %), term paper (50 %)

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋現代史

古川 高子

授業コード：A3146 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史的考察力を養い、現代世界で生じている様々な事件や事柄を理解するために、国民国家、国民、民族、地域という視点から歴史を学ぶ。

【到達目標】

西洋近現代史において扱われる国民国家、国民、民族、地域といった概念で示される事象が具体的にどのようなものだったのか、またどのような意味を持っていたのかを理解する。そして、国民国家の形成とその変遷や地球全体にまたがる人の移動等の歴史の変容過程を学ぶことで、現在の新自由主義時代に生じている諸問題の端緒を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・国民、国民国家、自由主義、国民主義、帝国主義、ファシズム等の諸概念に関する歴史学上の議論を紹介するとともに、西洋諸国が支配した地域における問題も含めた近現代史の諸事象を国民や民族、地域といった視点で考察する。授業は講義を中心に進める。
・講義のレジュメは、前日までに学習支援システムを通じて配布するので、各自プリントアウトして、授業にそれを利用すること。
・講義において疑問に感じたことについては授業の最後の時間に質問時間を設けるのでそこで行うこと。時間不足で解答できなかった質問については学習支援システムを通して全員に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	試験等の受け方、書評の行い方、注の付け方等の説明
第2回	国民国家の諸問題	ネイション概念、国民国家、ネイション・ナショナリズム研究の紹介、地域概念等の解説
第3回	フランス革命と国民	フランス革命の意味、フランス革命と植民地支配、女性にとってのフランス革命
第4回	自由主義と国民主義	事例研究：ハプスブルク帝国の19世紀後半における国民社会形成、多言語使用地域
第5回	産業革命・社会問題	資本と労働、階級形成、社会問題、社会主義の思想、1848年革命、ウィーンの労働者街区
第6回	帝国主義の時代	帝国主義、米西戦争、南アフリカ戦争他
第7回	世界をマクロとミクロに把握する	近代化論、従属論、世界システム論、エトノスという把握の仕方
第8回	人の移動と世界	大都市の成立、新大陸、移民の世紀
第9回	ヴェルサイユ体制と国民国家の制度化	第一次世界大戦前のネイションとナショナリティ、ウィルソンの14箇条、マイノリティ保護
第10回	ファシズム時代の国民主義と国民的抵抗	世界各地のファシズム、世界恐慌、反ファシズム
第11回	アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国	冷戦、アジア諸国の独立、アラブ地域の動向と中東戦争、アフリカ諸国の独立、ラテンアメリカの動向
第12回	冷戦の時代	ヨーロッパにおける冷戦、国民国家体制の普遍化、冷戦国家
第13回	新自由主義の時代	新自由主義の成立、グローバル・サウス、新自由主義のヘゲモニー
第14回	試験、まとめ	授業内筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示する参考書をできるだけ読み、国民、国民国家、民族あるいは地域といった概念や事例の理解を深めること。本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に用いない。

【参考書】

参考書は授業中に適宜指示する。但し、以下の参考書は本講義において重要なので可能な限り読んでおくこと。

・小沢弘明「東欧における地域とエトノス」歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 II 1980-2000年 国家像・社会像の変貌』（青木書店、2003）pp. 223-237。
・木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店、2014）。

【成績評価の方法と基準】

・レポート（書評論文）を含む平常点（40％）および筆記試験（60％）による総合評価を行う。

【レポート（書評論文）】は、講義で示す参考書から各自の選好に従って、2冊選んで読み、相互に結びつけながら書評を行った上で、評者=学生の意見まで入れたものとする。それを学習支援システムを通じて提出（提出時期は講義開始時に指示）。書評「論文」であることに注意せよ。

【筆記試験】は、ノート・レジュメのみ、持ち込み可の論述試験。授業で学んだ事柄について、多くの参考書を読んで理解を深め、論点を抜き出してノートにまとめておき、それをもとに筆記・レポート試験に臨むこと。試験当日に参考文献を読んでも間に合わない知識と思考力および論理力を試す試験を行うので、必ず参考書を読んでおくこと。試験は暗記したものを記すものではないので、文章を正しく、論理的に書く練習をしておくこと。

【注意】レポート（書評論文）において、参考文献を利用した場合は、かならず、出典（頁も含む）および引用註を付けること。剽窃が判明した場合は、全体の評価をしないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Goals of the course】

Studying history from the perspective of nation-states, nations, ethnic groups and areas. And enhancing the thinking ability and understanding the meanings and roles of various events in the world history of 19. and 20. century.

【Learning objectives and methods】

Introducing ideas and discussions about nations, nation-states, and ethnic groups. Including some case studies, examining events in world history from the viewpoint of nations, nation-states, and ethnic groups. Basically lectures, including answering questions.

【Learning activities outside of classroom】

Reading suggested books in the class to learn and understand historical concepts and events.

【Grading criteria/policy】

40 % from contributing through positive attitude in class and book reviews, 60%from a writing test with notes, reports and summary.

HIS200BE（史学 / History 200）

考古学概論

高橋 健

授業コード：A3152 | 曜日・時限：月2/Mon.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。

日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を理解し、歴史学・考古学の研究を行う上で不可欠な歴史的事実の解釈方法を身につけることを目標とする。

【到達目標】

考古学的な成果に基づいて、各時代における文化的な特色、人々の自然環境・社会環境への対応、人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広がった弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が発達した古墳時代までの展開について、考古資料を中心として学ぶ。また稲作導入後に異なる歴史をたどった北海道島についても扱う。

授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用するが、プリントも併用する。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし /No**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要と方法・評価基準
第2回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化
第3回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の展開
第4回	縄文時代の概要	地域的・時期的な多様性と共通性
第5回	縄文時代の生業	狩猟・漁労と採集・栽培
第6回	縄文時代の社会	集落と墓からみる社会構造
第7回	縄文から弥生へ	稲作の伝来と社会の変化
第8回	弥生のムラの姿	環濠集落と集団関係
第9回	青銅器と貝製品	遠くに運ばれる儀礼の道具
第10回	弥生墓制と社会の特質	地域的な墓制の展開と地方間の関係
第11回	続縄文文化	稲作を行わなかった地域
第12回	前方後円墳の成立と波及	古墳の成立と社会
第13回	古墳文化の変容と終焉	技術革新と古代国家への道
第14回	埴文文化とオホーツク文化	アイヌ文化の祖先

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。このほかの文献については授業内で紹介する。

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ
佐藤宏之（2019）『旧石器時代 日本文化のはじまり』敬文舎
今村啓爾（2017）『縄文文化 考古調査ハンドブック17』ニューサイエンス社

石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史1』岩波新書

白石太一郎（2001）『古墳とその時代 日本史リブレット4』山川出版

【成績評価の方法と基準】

期末に論述式の筆記試験を行う（ノート持ち込み可）。試験は成績評価の70%とする。平常点は成績評価の30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will learn an overview of the Japanese archipelago from the Paleolithic period to the Kofun period.

(Learning Objectives)

The purpose of this course is to understand the trends of primitive and ancient human groups, which form the basis of Japanese history, and to learn how to interpret historical facts, which are essential for conducting historical and archeological research.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read related literature and deepen their understanding of the period from the Paleolithic period to the Kofun period. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Submit a reaction paper for each class.

Grading will be decided based on (%)(%), term end examination (70%) and in class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

史学概論**齋藤 勝**

授業コード：A3153 | 曜日・時限：木1/Thu.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学という学問の特性について認識を深める。

自らの歴史研究のあり方や位置づけを省みるために、歴史学という学問のもつ特性を多角的に学ぶ。

【到達目標】

歴史学という学問の性質、方法、潮流、他の学問との関係等についての理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。質問等は原則として授業の前後に行って下さい。課題等に対するフィードバックは、学習支援システムを通じて行います。なお、授業の進捗等により授業計画が変更される場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文学部史学科の位置づけ	伝統的な学問の分類と文学部史学科
第2回	歴史学の流れと現在	史学概論の扱う課題
第3回	史学概論と歴史学①	史学概論の位置づけ・目的と歴史学の特性
第4回	史学概論と歴史学②	歴史学の可能性と限界、約束ごと
第5回	歴史学の目的①	学問の効用・意義と目的
第6回	歴史学の目的②	歴史学の目的の主要な三分
第7回	歴史学の目的③	三つの歴史学の相互関係
第8回	歴史学の目的④	歴史学の効用
第9回	歴史学の対象①	歴史学の対象の設定
第10回	歴史学の対象②	事実についての問題
第11回	歴史学の対象③	事実の種類
第12回	歴史学の対象④	史料による事実の確認と復元
第13回	歴史学の対象⑤	事実の認識
第14回	まとめ	歴史学の特性と研究の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

予習・復習として指定された関連文献を読むことが求められます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験もしくはレポート100%。

試験かレポートかは授業の進展に応じて決めていきます。

講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象とする予定です。

決定や変更については、試験実施もしくはレポート提出期限の二週間前までに告知します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with characteristics of the study of history.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider characteristics, methods and history of the study of history and relations with other academic fields.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report or examination(100%)

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅰ

大橋 幸泰

授業コード：A3154 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近世（いわゆる江戸時代）は、平和な時代であったとイメージされがちである。確かに、江戸時代が対外・対内を問わず戦争のない時代であったことは確かであるが、その一方で、徳川幕府が軍事政権であったことも事実である。軍事体制のもとで、なぜ200年以上にわたって「惣無事」という戦争のない時代が継続したのか。その条件を考えることは、今後、平穏な世界を実現するために、現代人である私たちに何が求められているのかを考えることにつながる。こうした課題意識により、本講義では近世日本の宗教・身分・民衆運動を主な材料として、この時代の「惣無事」の条件について検討しようと思う。それは同時に、近世人の秩序認識を理解することにもなる。以上のような本講義の考察にあたって主軸にすえるのが、民衆史研究と属性論という方法である。

【到達目標】

いつの時代でも人々は何かによって拘束されている。人々が何ものにも拘束されない時代など存在しない。ただし、人々が何によって拘束されているのかは、それぞれの時代によって異なる。過去の人々を取り巻く秩序と人々の秩序認識について正確に知るには、その時代固有の条件にそくして考えることが求められる。現代人である私たちの常識を基準に近世人の思考や行動を理解することはできない。現代とは異なる近世の秩序を知ることは、現代人の秩序認識のどこにどんな問題があるかを知ることにつながる。本講義の到達目標は、近世の人々の秩序認識を理解し、それを比較の対象として現代に生きる私たちの秩序認識を相対化できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義を基本とするが、受講生には毎回200～400字程度で、講義を要約した講義記録を提出することを求める。第7回と第13回では、講義内容をめぐってディスカッションする時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス—民衆史研究と属性論の射程	本講義の目的と概要について説明するとともに、民衆史研究と属性論の射程を講義する。
2	近世人の常識(1)—仁政という支配イデオロギー	近世人の常識である仁政という支配イデオロギーについて講義する。
3	近世人の常識(2)—所有観念	近世人の所有観念について講義する。
4	近世人の常識(3)—身分と属性	近世人の身分と属性について講義する。
5	島原天草一揆と近世秩序(1)—経済闘争か宗教戦争か	島原天草一揆の性格について講義する。
6	島原天草一揆と近世秩序(2)—近世人の一揆認識	近世人の一揆認識について講義する。

7	中間小活—近世人の常識と東アジアの政治文化／近世政治文化をめぐる議論の時間	中間小活として、近世の政治文化について議論する。
8	異端的宗教活動と近世秩序(1)—宗門改と類族改	宗門改と類族改について講義する。
9	異端的宗教活動と近世秩序(2)—潜伏キリシタン存続の外在的条件	潜伏キリシタン存続の外在的条件について講義する。
10	異端的宗教活動と近世秩序(3)—潜伏キリシタン存続の内在的条件	潜伏キリシタン存続の内在的条件について講義する。
11	近代移行期の秩序認識(1)—潜伏キリシタンの明治維新	潜伏キリシタンの明治維新について講義する。
12	近代移行期の秩序認識(2)—民衆宗教の登場と「信教の自由」	民衆宗教の登場と「信教の自由」について講義する。
13	総括—「日本人は無宗教」か？／近世宗教をめぐる議論の時間	総括として、近世宗教について議論する。
14	総復習	試験を含む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義と並行して、教科書として指定した大橋幸泰著『潜伏キリシタン 江戸時代の禁教政策と民衆』（講談社学術文庫、2019年）を読み進めるとともに、講義の予習として同書の該当箇所を熟読してくることを求める。授業後は、講義中に紹介した参考文献の他、関連する研究文献を自分で探して知見を広げてほしい。事前・事後の学習はそれぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大橋幸泰著『潜伏キリシタン 江戸時代の禁教政策と民衆』（講談社学術文庫、2019年）【要購入】

【参考書】

大橋幸泰・深谷克己編『〈江戸〉の人と身分6 身分論をひろげる』（吉川弘文館、2011年）
大橋幸泰著『検証 島原天草一揆』（吉川弘文館、2008年）
大橋幸泰著『近世日本邪正論 江戸時代の秩序維持と隠れ／隠し念仏』（勉誠社、2024年）
そのほか、適宜、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験60％／近世日本の宗教・身分・民衆運動の基本的な概念を理解できているかが試される。
レポート30％／学期末までに、講義に関する文献を論評するレポートを求める。
平常点評価10％／毎回、200～400字程度で、講義を要約した講義記録を提出することを求める。
その他／レポートを提出した者が試験の受験資格を有する。平常点が0点である場合、単位の取得は困難であることを付記する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックなし。

【Outline (in English)】

The early modern period in Japan (the so-called Edo period) is often thought of as a time of peace. It is true that the Edo period was a time without war, both internally and externally, but it is also true that the Tokugawa Shogunate was a military government. Why did the war-free period of "all peace" continue for over 200 years under a military system? Thinking about the conditions for this leads to thinking about what is required of us, the modern people, to realize a peaceful world in the future. With this in mind, in this lecture I would like to examine the conditions for "all peace" in this period, using religion, social status, and popular movements in early modern Japan as the main materials. At the same time, this will also help us understand the perception of order among people in the early modern period. The main axis of the above-mentioned considerations in this lecture is the study of popular history and the method of attribute theory. Grades will be assessed based on 60%exams, 30%short reports, and 10%daily class performance.

HIS200BE（史学/History 200）

日本史特講Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3155 | 曜日・時限：金4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代を中心とする中世社会の特質について理解するため、都市（宿、港町のような町場を含む）と仏教を題材として取り上げる。そして、都市および交通路の実態と仏教の役割、それぞれの関わりについて、最近の研究動向をふまえ、具体的な事例を基に考察する。合わせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の研究方法を習得する。

【到達目標】

都市、交通路、仏教という側面から、中世社会の特質について理解し、自分なりに説明することができる。中世史料の日本漢文を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

7章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。配布プリントとパワーポイントの文面は、事前に章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。章ごとに計7回の小テストを実施する。小テストは、「学習支援システム」から授業日の翌日までに提出すること。小テストに記入された疑問点については、次の授業で回答する（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本中世の都市と仏教（1）	履修のガイダンスと概説
第2回	日本中世の都市と仏教（2）	履修のガイダンスと概説（小テスト1）
第3回	鎌倉の交通路と都市民（1）	都市鎌倉の道路・海路と都市民の居住形態
第4回	鎌倉の交通路と都市民（2）	都市鎌倉の道路・海路と都市民の居住形態（小テスト2）
第5回	東アジアの中の日本中世仏教（1）	先行研究の問題点と新たな枠組みの提示
第6回	東アジアの中の日本中世仏教（2）	先行研究の問題点と新たな枠組みの提示（小テスト3）
第7回	鎌倉の都市民と仏教信仰（1）	都市鎌倉の武士・町人と仏教の関わり
第8回	鎌倉の都市民と仏教信仰（2）	都市鎌倉の武士・町人と仏教の関わり（小テスト4）
第9回	京都・鎌倉の寺院と異文化受容（1）	中世都市を特徴づける中国文化の受容
第10回	京都・鎌倉の寺院と異文化受容（2）	中世都市を特徴づける中国文化の受容（小テスト5）
第11回	西大寺流の全国展開と交通路（1）	西大寺流律家の教化活動と交通路との関わり
第12回	西大寺流の全国展開と交通路（2）	西大寺流律家の教化活動と交通路との関わり（小テスト6）
第13回	一遍時衆の遊行と宿・港町（1）	一遍時衆の教化活動と町場・都市との関わり
第14回	一遍時衆の遊行と宿・港町（2）	一遍時衆の教化活動と町場・都市との関わり（小テスト7）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。授業時間内に提出できなかった小テストに取り組む。ノート等を見直して復習し、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。章ごとにプリント（PDFファイル）を配布する。

【参考書】

新城常三『鎌倉時代の交通』（吉川弘文館、1967年）
 佐藤信・吉田伸之編『新体系日本史6 都市社会史』（山川出版社、2001年）
 藤原良章『中世のみちと都市』（山川出版社、2005年）
 榎原雅治『中世の東海道をゆく』（中央公論社、2008年）
 『週刊朝日百科 週刊新発見！日本の歴史21 鎌倉時代4 鎌倉仏教の主役は誰か』（朝日新聞出版、2013年）
 その他は、授業時に章ごとに指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストの合計点数100%で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの問題と採点を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「学習支援システム」から期限内に小テストを提出すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn historical research methods of reading historical materials. The goals of this course are to pursue historical facts, and drawing historical images. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 100%.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅳ

中山 学

授業コード：A3157 | 曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目では、江戸幕府第8代の将軍、徳川吉宗の活動に注目します。この人物は、次期将軍に内定してから間もない正徳6年（1716）6月3日における「御代々の御書物目録」の閲覧を手始めとして、在職中は一貫して徳川将軍家伝世の諸書物の校合、校勘に注力しました。具体的には、自らも武家方や堂上方の儀礼の成り立ちに関して示唆的な書物の「御見合」、「御引合」を行いつつ、御書物奉行や幕府内外の諸学者にも命じて諸書物のテキストを点検、精査させました。当科目では、その事業過程における吉宗本人の活動を復元的に考察するところから、こうした作業がいったい何のために実施されたものか検討します。歴史的なテキストそれ自体に権威を付与、温存させてゆく中心化のあり方にも注意を払いながら、現代を生きる私たちとの連関についても考えたいと思っています。

【到達目標】

史料に基づき、徳川吉宗が実施した伝世書物の「御見合」の目的とその歴史的意義を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

史料を読み解きながら講義を実施します。また、学習内容の整理と理解確認のために授業実施期間中にリポート作成を2回課し、それへのフィードバックによって理解を助けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに（ガイダンス）	当科目の目的、進め方、成績評価の方法等
第2回	吉宗と書物(1)	正史中の逸話
第3回	吉宗と書物(2)	逸話が示す吉宗の視界
第4回	吉宗と将軍家「御文庫」(1)	「御文庫」の機能、性格
第5回	吉宗と将軍家「御文庫」(2)	先行研究にみる吉宗の実績、目録への関心
第6回	将軍襲職内定後の初動(1)	書物目録の請求
第7回	将軍襲職内定後の初動(2)	初の請求書物、その後の継続閲覧
第8回	旧家家伝書への関心(1)	幕臣小笠原常春、小笠原持廣との接触
第9回	旧家家伝書への関心(2)	幕臣伊勢貞益との接触
第10回	旧家家伝書への関心(3)	「犬迫物類聚」、「流鏑馬類聚」の成立
第11回	書物「御見合」とその意義(1)	『寛政重修諸家譜』所載の小笠原持廣の経歴にみる吉宗の活動
第12回	書物「御見合」とその意義(2)	『略譜』所載の小笠原持廣の経歴にみる吉宗の活動
第13回	書物「御見合」とその意義(3)	『寛政重修諸家譜』の作為
第14回	おわりに	歴史的テキスト、権力、伝統の創出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①本授業の準備学習・復習：各2時間
- ②授業実施期間中のリポート作成2回：各4時間程度
- ③フィールドワーク（史料保存機関の見学及び史料の原本実見）：教員引率1時間程度（ただし授業時間外で実施、参加任意）

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。史料を配付します。

【参考書】

辻 達也『徳川吉宗公伝』東照宮（1962年）
福井 保『江戸幕府の参考図書館 紅葉山文庫』郷学舎（1980年）
辻 達也『徳川吉宗』吉川弘文館（1985年）
吉岡 孝「吉宗政権における古式復興と儀礼」『国史学』第200号所収（2010年）
小川剛生『日本史リブレット78 中世の書物と学問』山川出版社（2013年3刷）

【成績評価の方法と基準】

授業実施期間中リポート2回（50％）、期末リポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

講義編制を見直し、学生が史料の読解、内容消化の時間を確保できるように工夫しました。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（リポート提出等に学習支援システムを使用するため）
ノート1冊（講義メモ用）
ファイルまたはフォルダ（配布史料の保管と毎回授業への持参のため）

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will focus on the activities of Tokugawa Yoshimune, the eighth shogun of the Edo shogunate. During his time as a shogun, this person focused on proofreading books collected by successive shoguns since Tokugawa Ieyasu. He himself proofread the texts of historical books originating from ancient or medieval times that teach the origins of the rituals of court nobles and samurai families, while also ordering book magistrates and scholars to inspect and scrutinize the texts of books in various fields.

In this course, we will examine Tokugawa Yoshimune's own activities in the course of his business from a reconstructive perspective. Then, consider why such work was carried out. While paying attention to the centralization that gives and preserves authority to historical texts themselves, I would also like to think about how they relate to us.

As a side note, the lecture will proceed while reading early modern Japanese historical materials related to this theme.

(Learning activities outside of classroom)

1. Preparatory study/review: 2 hours each

2. Report creation 2 times during the course: approximately 4 hours each

3. In addition, tours of historical materials preservation facilities and viewing of original historical materials: Approximately 2 to 3 hours led by a teacher (separate guidance will be provided during the class period) (Grading Criteria /Policy)

Several reports submitted during the course: 50%

Course-end report: 50%

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅴ

清水 詩織

授業コード：A3158 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、日本近世史を題材に、受験科目としての日本史ではなく、歴史学の手法や方法を通して歴史を学ぶ意味を考えようとするものです。高校までの日本史は、政治史や国家史的な事件を中心に歴史的な人物の名前や功績などを暗記する科目であるという印象が強いでしょう。しかし、各時代に日本列島に生活していた無数の人びともまた、その背景には確かに存在していました。彼らの日々の生活とその変化もまた、歴史を動かす原動力でした。これらの過去の人びとが何を考え、何に価値を置いて生きていたのかを明らかにすることは、歴史学における大きな課題の一つです。そして、歴史学は現代社会を生きる私達が何者であるのか、どこへ向かうべきなのかの一つの指標にもなり得ます。現代社会の私達のあり方もまた、歴史的に成立してきたものであることは、歴史学を学ぶことでより鮮明になるでしょう。本講義では、主に近世に生きた人びとの活動を通して、歴史を学ぶ意味を考えます。

【到達目標】

本講義では近世日本を事例に、歴史学の基本的な方法や各テーマの研究を解説します。まずは、歴史学に関連する知識を深めること、必要に応じて文献を自力で探し、その解釈が出来ることを目指します。その上で、歴史を学ぶ意味を自分の中で明確にすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式ですすめますが、毎回授業後にリアクションペーパーを提出してもらいます。翌週の授業開始時に、リアクションペーパーのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業に関するガイダンスを行います。
第2回	近世史研究の方法	近世史研究を行う上で必要な参考文献を紹介しします。
第3回	国家と民衆	国家史とは異なる、民衆史について解説します。
第4回	日本史の歴史	日本史研究の歴史について解説します。
第5回	自力救済の世界	自力救済から惣無事への転換を解説します。
第6回	明清交代期と東アジア	17世紀の世界変動と近世社会について概括します。
第7回	仁政と百姓一揆	近世社会の社会構造について解説します。
第8回	対外秩序と海外知識	18世紀の対外秩序と海外知識について解説します。
第9回	北方への注目と地図	地図・地誌の作成について解説します。
第10回	二つの海防令	異国船打払令・薪水給与令について解説します。
第11回	海防と地域社会	海防に関わる地域社会の活動について考察します。
第12回	ペリー来航	ペリー来航がもたらした近世社会への影響を考察します。
第13回	幕末維新期とは何か	幕末維新期研究の現在を解説します。
第14回	試験	教場試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習・復習を行ってください。目安時間は各2時間程です。授業内で紹介した参考文献を読み、理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %

平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更につきフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will explain the basic methods of historiography and research trends, using the history of early modern Japan as a case study. Students will consider the meaning of studying history through the activities of people who lived in the early modern period.

The goal is to deepen students' knowledge of historiography and to enable them to conduct research on their own. And to clarify the meaning of studying history in one's own mind.

Preparation and review time is about two hour each.

Evaluation will be based on 50%regular marks and 50%examinations.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅵ

米崎 清実

授業コード：A3159 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本各地には文化遺産ともいえる近世の地方文書が伝来しています。近世の国家や社会を理解するために、地方文書の分析を通じた地域社会からアプローチする方法があります。授業では、地方文書の解読、分析方法を学ぶとともに、それらを通じた近世地域社会の成立、維持運営、展開について理解します。

【到達目標】

- ・地域史研究の意義を理解します。
- ・さまざまな近世の地方文書が作成され、伝来してきた意義を理解します。
- ・地方文書を解読し、分析できる力を修得します。
- ・地方文書の分析を通じて、近世の国家や社会を理解します。
- ・今日の街づくりや地域文化について考える視野を培います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主に関東の地方文書の解読、分析を通じて近世の地域社会の成立から近代移行期までを項目ごとに解説します。受講生自らが史料を解読し、主体的に考え、意見を述べてもらう双方向の授業運営を図ります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の内容と評価の方法、課題の説明、文化遺産としての地方文書、近世地域史研究の意義
第2回	近世の支配体制と地方文書	近世の支配体制、地方文書の成立、地方文書の種類
第3回	近世村落の成立と検地	検地帳の記載内容、検地帳の分析、検地の意義、郷から村
第4回	百姓の家	宗門人別帳の記載内容、宗門人別帳の分析、家の特徴、村内の家格
第5回	村の法・財政と村落運営	村議定、村入用、村役人の家、村役人制
第6回	村組と地域格差	村の中のムラ、村組の役割、村の中心、村役人をめぐる村組の対立
第7回	支配のしくみと地域社会	幕領支配のしくみ、中間支配機構の成立と役割、非領国地域の特質
第8回	百姓の年貢諸役	年貢諸役、年貢諸役を負担するしくみと意識
第9回	地域社会の身分集団	地域社会の身分集団、村を訪れる人々、村人と身分集団
第10回	村人の信仰と文化活動	村社会と寺院、村人の信仰、旅と参詣、村人の文化活動
第11回	村の祭りと若者仲間	村の社会組織・祭祀組織、祭礼の秩序とその変容、若者仲間と地域意識
第12回	村社会の生業と百姓意識	村人の生業、商品生産の展開、救済と百姓成り立ち
第13回	村社会と家の秩序	村落生活の変化と家族、家族への眼差し、家と村の存続
第14回	まとめ	近世から近代へ、異文化としての近世の地域社会、現代まで続く近世の地域社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付する史料（活字にした近世の地方文書）を理解できるように、わからない文言などを辞書で調べて、授業に出席してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。史料を配付します。

【参考書】

木村礎『近世の村』（1980年、教育社）、水林彪『封建制の再編と日本の社会の確立』（1987年、山川出版社）、大石学編『多摩と江戸』（2000年、けやき出版）、大藤修『近世村人のライフサイクル』（2003年、山川出版社）、水本邦彦『村—百姓たちの近世—』（2015年、岩波新書）その他授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）、平常点（20％）。
全授業回数の2／3以上の出席を期末試験受験の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

史料（活字にした近世の地方文書）を用いて具体的に近世の地域社会について解説します。また、学生との意思疎通を図る双方向の授業運営を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

事前の史料の配付、課題の提出は学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

日本近世・近代史。博物館学。文化政策学。

【Outline (in English)】

Local documents of Edo period, which can be regarded as cultural heritage exist in all part of Japan. In order to understand the nation and society of Edo period, there is a method to approach from local community through analysis of regional documents. In this course students learn the method of deciphering and analyzing the documents. And through the process, students comprehend formation, operation and maintenance of local communities of Edo period.

The goals to be achieved in this course are the following five points.

- ・ Understand the significance of regional history research.
- ・ Understand the significance of the creation and transmission of various modern local documents.
- ・ Acquire the ability to decipher and analyze local documents.
- ・ Apprehend modern nations and societies through analysis of local documents.
- ・ Cultivate a perspective to think about today's community development and local culture.

Assignment:

Before the class, please check the words you do not understand in the dictionary to be able to understand handouts. The standard preparation & review time for this course is 2 hours each.

Grade evaluation: Final exam (80%), usual performance score (20%)

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅶ

山田 康弘

授業コード：A3160 | 曜日・時限：金1/Fri.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、戦国時代を素材に「戦争はなぜ起きるのか」、「どうすれば戦争を回避し、協調しあえるのか」を考えていく。

戦国時代は、他の時代にくらべ戦争が多かった。それは、列島各地に割拠した戦国大名たちが戦いあっていたからである。ただし、大名たちはいつも戦争をしていたわけではなかった。戦争は、リスクもコストも高い。それゆえ、大名たちはできるだけ「戦いを回避しよう」ともしていたのだ。では、大名たちはそのために、いかなる方策をとっていたのだろうか。また、そもそもなぜ大名間で戦争が起きていたのだろうか。すなわち、大名間において協調生成を阻害していた要因とは、いったい何だったのか。

本講義ではこうした問題を、受講生の諸君と一緒に考えていく。人類は有史以来、戦いをくり返してきた。人類の歴史は「戦争の歴史」といっても過言ではない。したがって「戦争はなぜ起き、これを回避するにはどうしたらよいのか」という問題は、私たち人類が考えるべき最重要テーマである。そこで、本講義ではこのテーマを、歴史学、さらに国際政治学や社会心理学といった隣接諸科学の知見も援用しながら、皆で考えていく予定である。

【到達目標】

歴史学の存在意義を認識しうるとともに、論理整合性と事実立脚性という歴史学の決まりごとを理解することができる。また、データ（史料）の正しい取りあつかい方や、問題設定から歴史像の構築にいたるまでの手法を把握することができる。さらに、歴史学研究の「社会的使命」をきちんと理解したうえ、歴史学の隣接諸科学におけるさまざまな理論の使い方などを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

3部構成とし、講義形式で進める。すなわち、第1・2・4回において「歴史学とは何を目的とする学問なのか」、「研究の「型」はどのようなものか」を解説していく。次いで第3・5・6回では「戦国期における日本列島の全体像」を「おおづかみに」示していく。そして残りの7～13回において「なぜ戦国大名間で戦争が起きていたのか」「大名たちは戦いを避けるためにいかなる工夫をしていたのか」という問題を、国際政治学や社会心理学の知見を取りいれながら解説し、受講生たちと議論していく。

また、毎回講義の最後に、その日の講義内容を確認する、簡単な小テストを実施する（6問程度。4問以上正解で合格）。なお、講義では配布プリントを使って解説していく。出席カードやリアクションペーパーに記入された疑問点については、次回の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何百年も昔のことを知る「意味」とは何か——歴史学の存在意義。	過去を知ったら、教訓をえたり、未来を予測したりすることが可能なのか？。ここでは、歴史学が現代において「何の役に立つのか」を議論していく。
第2回	問題をどう見つけるのか——まず「比較する」ことから始めよ。	自分で「問い」を立てるには、どうしたらよいのか？。ここでは、問いを立てることから歴史像の構築まで、歴史学研究の基礎的な「やり方」を示していく。
第3回	なぜ「強力な共通の上位権力」不在になったのか——戦国時代のはじまり。	足利将軍が次第に弱体化していったのはなぜか？。ここでは、戦国時代がどのようにして始まっていったのか、その経緯について考えていこう。
第4回	「京兆専制」論にどう反論したのか——反証の仕方を具体的に学ぶ。	既存の学説にどう挑戦していけばよいのか？。ここでは、戦国時代研究の定説とされてきた学説を素材に、問いを立て、史料を集め、検証する、その具体的な仕方を示していく。
第5回	足利将軍は戦国時代に何をしていたのか——国際機関との比較から考える。	戦国期の将軍たちは無力だったのか？。ここでは、将軍がなかなか滅亡しなかった理由を、現代における国際機関の役割などと対比しながら考えていこう。

第6回	戦国期日本列島の全体像はいかなるものか——二つの次元、三つの側面。	戦国期列島を「おおづかみに」とらえると、どうなるのか？。ここでは、この時代における列島のもつ主要な特徴を選びだし、列島の全体像についての「モデル」を描きだしていく。
第7回	戦争はなぜ起きてしまうのか——多湖淳『戦争とは何か』を読む。	国家はなぜ「協調したほうが得だ」とわかっていても戦争をしてしまうのか？。ここでは、近年刊行された国際政治学の著書から、国家間における戦争の原因を学んでいく。
第8回	協調を生み出す有効な方策は何か——大坪庸介『仲直りの理』を読む。	「他者と仲直りする」ためのベターな戦略とは何か？。ここでは、社会心理学の著書から「協調戦略」を学ぶことで、戦国大名同士の関係を考えるヒントを探っていこう。
第9回	戦国大名たちはなぜ対立しあったのか——薩摩島津氏のケースから考える。	大名間で戦争が起きていた原因は何か？。ここでは、戦国末期の南九州における島津氏と近隣大名との「外交」関係から、戦争を引き起こす「二つの問題」を考えていく。
第10回	戦国大名たちはどう「うまくつきあった」のか——大坂本願寺のケースから考える。	大名たちは戦争をどうやって避けていたのか？。ここでは、浄土真宗の本山・大坂本願寺を事例にとりあげ、近隣大名と協調関係を保つ「技術」を探っていこう。
第11回	信長包囲網が形成された理由は何か——「予防戦争」という考え方。	多くの大名たちはなぜ、織田信長を封じこめようとしたのか？。ここでは「パワーシフト」「予防戦争」をキーワードに、大名たちが信長包囲網形成にいたった事情を整理し、議論していく。
第12回	信長包囲網は、なぜうまくいかなかったのか——共通の敵はいつも団結を生むのか。	「合従策」の弱点とは何か？。ここでは、「鹿狩りの寓話」などを紹介しながら、現代の国家間関係の理解にも役立つ「対等な者同士が協調しあうことの困難さ」を考えていこう。
第13回	まとめ——歴史学は「過去だけでなく、今を知るためにある」。	歴史学とは何をする学問であり、何のためにあるのか？。ここでは、歴史学の「歴史」という言葉は過去と同義ではないこと、歴史学以外の学問の知見も学ぶべきこと、などをあらためて示そう。
第14回	試験。	論述問題（1～2問）を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリント、ノートを見直して復習する。また、毎日、必ず新聞を読むこと。歴史学は「現代（現在）をより深く知る」ことを目的のひとつとしている。それゆえ、「現代に無関心」というのでは歴史学は学べない。現代に関心をもつためには、毎日、新聞を読むことが最適である。それゆえ、受講生には新聞を読むことを求める（全国紙ならどれでもよい。なお、読み方は授業時に指示する）。

本授業のために、準備学習・復習時間は、合計2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

以下の三冊は必読文献であり、①は第5回、②は第7回、③は第8回までに必ず読んでおくこと。
①山田康弘『足利将軍たちの戦国乱世』（中公新書、2023年）。
②多湖淳『戦争とは何か』（中公新書、2020年）。
③大坪庸介『仲直りの理』（ちとせプレス、2021年）。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数50％、小テスト20％、レポート20％、平常点10％の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席の場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

出席カードやリアクションペーパーなどで授業に関する疑問点などを書いてもらえれば、次回授業の際に取り上げていく。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

毎回講義の最後に、その日の講義内容を確認する、簡単な小テストを実施する（6問程度。4問以上正解で合格）。また、必読文献はかならず読んでおくこと。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course introduces “What is war?”, and “Historical research methods” to students taking this course.

【到達目標（Learning Objectives）】

The goals of this course are to know and understand what History is and how we study it.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 2 hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Mini exams: 20%、Short reports: 20%、in
class contribution: 10%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅰ

飯尾 秀幸

授業コード：A3162 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、居住単位・婚姻単位・経済単位として存在したが、歴史のある段階で、その三者が合一する。そのことをこの授業においては、家族の成立と考え、その家族の成立過程において、婚姻単位と経済単位とが居住単位としての家族と如何なる関係を持ち、それらの関係がどう変容し、どのように三者が合一していったのかを、中国古代史を対象にして考える。

【到達目標】

考古学資料を歴史学として扱う方法を身に付ける。

甲骨文字・青銅器銘文（金文）をどう扱うかを習得する。

文字史料を読み込む力をつける。

家族を歴史的に把握する方法を得ることで、現代の家族の問題を考える視点を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

殷代における居住単位・婚姻単位・経済単位としての「家族」の変遷を、考古学の成果、甲骨文字、殷代青銅器銘文などを概観しつつ、中国の最古の「王朝」と呼ばれる時代の家族の形態を中心に、家族の在り方について考える。現代の家族問題と比較して、受講生の問題意識を高め議論を深めていきたい。なおアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	家族とは何か	中国新石器時代の姜寨集落遺跡とブラジルのボロロ族集落を比較する（確認）
第2回	中国考古学の成果—青銅器時代	二里頭文化の前期・後期の概要を紹介し、夏と殷について考える。
第3回	殷墟文化とその社会	殷代の祭祀区と墓葬区（小屯と侯家莊遺跡）を紹介し、殷代社会構造を考える。
第4回	甲骨文字の出土と甲骨文字の性格	甲骨文字の性格（祭祀と占いと政治）を考える。
第5回	殷代の政治と社会の構造	甲骨文字から見える殷代の政治方法と社会構造を考える。
第6回	殷代の「家族」に関する諸学説の紹介	王位の継承についての二学説（王家存在説と王家不存在説）を紹介し、問題点を考える。
第7回	王家不存在説からみた王族グループの存在	王家不存在説から王族の構造を考える。王名・王妣名と太陽神話（10個の太陽）との関連を紹介する。
第8回	王家不存在説からみた王位継承法	王位継承の仮説から、王族グループの構造について考える。姜寨集落遺跡との比較（連続性）
第9回	王家不存在説への批判とそれへの反論としての殷代青銅器銘文の性格	親族称問題を紹介する。殷代青銅器銘文の分類から親族称問題を考える。
第10回	殷代青銅器銘文分類のうちの寶貝賜与金文の構造	寶貝賜与金文から青銅器作器者問題を考え、それが親族称問題と密接につながることが理解する。
第11回	殷代青銅器の種類と青銅器鑄造方法、青銅器鑄造集団の存在。	外范分割法の紹介。銘文と文様の鑄込み方を紹介する。
第12回	殷代青銅器作器者問題を考える事例紹介	鬲・鬶の比較から青銅器作器者問題を考える。
第13回	親族称問題と青銅器作器者問題のまとめ	王家不存在説という仮説が成立していることを確認し、家族構造が連続していることの意味を考える。
第14回	秋学期の解説	各授業での質疑を含め、秋学期のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとする概説書を読んで知識を得てください。また興味を引いたテーマについては図書館などで研究書のありかを検索し、積極的な学びを実践していただきたい。

予習・復習は、講義1回につき4時間を標準とします。

絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

授業内で資料・図版を配布する。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムで提出された各回の授業内容についての200字程度のレポート、および学期末に提出を課すレポート（600字程度）で評価する。前者を40％・後者を60％とする。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することを心掛けたい。

現代の問題と関連づけて授業を進めることとしたい。

【その他の重要事項】

質問は授業内で原則受け付けます。また学習支援システムにEメールアドレスを提示するので、質問などはメールにていつでも送信してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history, family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

The goals of this course are to learning about the formation of the family in ancient China and understanding how to handle historical materials. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end report (60%), and in-class contribution.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅱ

澁谷 由紀

授業コード：A3163 | 曜日・時限：水5/Wed.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、19世紀はじめから現代までのベトナム社会の形成過程をたどることで、ベトナム近現代史の基本的な流れを理解することを目指します。授業を通じてベトナム史の主な特徴を理解し、それを基盤として現代のベトナムに関する様々な問題について自ら探求する力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ・ベトナムの地理と歴史にかかわる基本的な事項を知ること
- ・ベトナム近現代史の特徴を理解すること
- ・ベトナムの諸問題に関して自らの見解を述べる力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義中心に進めます。提出された課題は、①担当教員のコメントを付し（匿名化のうえ）クラス内で共有し議論する、または②担当教員のコメントを付し個別に返却するという形でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ベトナムの地理
第2回	歴史圏の成立	阮朝期まで
第3回	植民地期(1)	植民地の形成
第4回	植民地期(2)	経済開発と社会変動
第5回	植民地期(3)	民族運動の世紀
第6回	中間まとめ	まとめと課題に対するコメント
第7回	植民地期(4)	第二次世界大戦
第8回	植民地期(5)	第一次インドシナ戦争
第9回	戦場から市場へ(1)	戦間期のインドシナ
第10回	戦場から市場へ(2)	第二次インドシナ戦争
第11回	戦場から市場へ(3)	17度線の南をめぐる
第12回	現代(1)	社会主義の建設とドイモイ
第13回	現代(2)	現代における近現代史
第14回	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題（主として文献講読）に取り組み、原則として次回授業開始時まで提出してください。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- ・石井米雄・桜井由躬雄編. 1999.『東南アジア史Ⅰ 大陸部』（新版世界各国史5）山川出版社。（うち、「Ⅱ 世界のなかの東南アジア」の第1章と第5章、「Ⅲ 現代の東南アジア」の第1章）
- ・古田元夫. 2017.『ベトナムの基礎知識』めこん。

【成績評価の方法と基準】

- ・課題（40%）・期末テスト（60%）

【学生の意見等からの気づき】

課題作成の際には、法政大学図書館のウェブサイトの「お役立ちサポート：レポート・論文を書くには」(<https://www.hosei.ac.jp/library/kensaku/support/report/>)を参考にしてください。

【その他の重要事項】

2024年度東洋史特講Ⅱと別内容です。

【Outline (in English)】

This course explores modern Vitenamse history. By the end of this course, students will understand the basic trajectory of modern Vietnamese history, tracing the formation of Vietnamese society from the early 19th century to the present day. Students are required to make a thorough review, mainly by completing assignments. Evaluations will be based on their submitted assignments (40%) and term-end examination (60%).

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅲ

芦沢 知絵

授業コード：A3164 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたりアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、本授業ではやや専門的な内容を扱うため、中国近現代史の概略については、各自である程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第2回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第3回	清末の近代化①	開港と外国資本
第4回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第5回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第6回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第7回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第8回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第9回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第10回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第11回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第12回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第13回	改革開放と経済成長②	WTO加盟とグローバル化
第14回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013年。（第4・5章）
 久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016年。
 丸川知雄『現代中国経済 新版』有斐閣、2021年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30%

主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末レポート 70%

授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

中国経済の動向に合わせて、授業計画を一部変更する場合がある（授業内で通知）。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of the modern Chinese economy. The goal of this course is to understand the historical process and problems of China's economic growth.

After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on term-end report (70%) and in-class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅳ

塩沢 裕仁

授業コード：A3165 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	長安の都市と陵墓	長安の都市圏と皇帝陵墓
第2回	洛陽の都市と陵墓	洛陽が有する都市空間
第3回	漢の諸文化	馬王堆漢墓
第4回	後漢三国・北朝の都城	許昌と鄴都
第5回	六朝の都城	六朝の都城建康と貴族文化
第6回	遊牧都市文化	フフホト・盛楽・大同・洛陽の遺構と出土遺物
第7回	仏教文化1	西域・敦煌・麦積山石窟
第8回	仏教文化2	雲崗・龍門石窟
第9回	隋唐の長安	隋唐の都城長安と隋唐陵墓
第10回	隋唐の洛陽	煬帝・武則天の都城洛陽
第11回	法門寺出土遺物	唐代の金属工芸技術
第12回	青磁と曜変天目	越窯・汝窯・鈞窯・建窯
第13回	白磁	定窯と景德鎮窯
第14回	漆器	茶文化と漆器

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）には目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological data in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅰ

内田 康太

授業コード：A3168 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ史に関する諸問題のうち、「共和政期（前6世紀～前1世紀）における立法」を取り上げる。共和政ローマの運営を支えた立法のしくみを制度と実態の両面から分析することで、その支配構造の特質について学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。

- ・共和政ローマにおける立法について基礎的知識を習得する。
- ・一次資料の扱い方を習得し、法律の制定に対する民衆の影響力について自ら考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、第12回・第13回は受講生によるディスカッションを組み入れる。講義形式の授業については、授業時間内の質疑応答に加えて、授業後に毎回アクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ローマ共和政と立法
第2回	立法のしくみ	法案の起草から民会での票決まで
第3回	元老院	立法における元老院の役割とその時代的変遷
第4回	政治集会（コンティオ）（1）	開催・運営の制度と特質
第5回	政治集会（コンティオ）（2）	参加者の構成
第6回	政治集会（コンティオ）（3）	議論の内容
第7回	情報の公開	「ローマ民主政論」
第8回	票決のゆがみ	法案の可決、法案の否決と撤回
第9回	立法プロセスの再検討（1）	法案の起草から公示まで
第10回	立法プロセスの再検討（2）	政治集会（コンティオ）における議論をめぐって
第11回	立法プロセスの再検討（3）	法案の公示から民会での票決まで
第12回	投票者（1）	だれが投票したのか
第13回	投票者（2）	どのように投票したのか
第14回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

エルンスト・マイヤー『ローマ人の国家と国家思想』（鈴木一州訳）、岩波書店、1978年。
 島田誠『世界史リブレット3 古代ローマの市民社会』、山川出版社、1997年。
 長谷川岳男／樋脇博敏『古代ローマを知る事典』、東京堂出版、2004年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80％）

リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

一次資料（日本語訳）の読解に興味をもつ受講生が多かったことから、史料の分析を取り込んだかたちでの講義を継続する。また、受講生の関心にも配慮した授業を進めるために、引き続きリアクションペーパーを通じた質疑応答を活用する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the issue of legislation in the Roman Republic (6-1 century B.C.). Analyzing it from both institutional and practical aspects, it helps students learn the characteristics of governance in this ancient polity.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning legislation in the Roman Republic.

- Using primary sources properly, students are able to estimate the influence of the people over the outcome of lawmaking.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅱ

伊丹 聡一郎

授業コード：A3169 | 曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、9-16世紀にかけてのルーシ地域と周辺諸地域との相互関係について概観した上で、そこから現在のロシア国家へと繋がるモスクワ政治権力が分かれ出てきた歴史的経緯について論じる。

【到達目標】

1. 「ルーシ」から「ロシア」へと至る歴史的経緯を包括的に理解できる。
2. 北欧、ビザンツ、モンゴルがルーシの歴史に与えた影響を理解できる。
3. 14世紀ルーシにおける政治秩序の再編とその歴史的意義を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は講義形式で実施する。授業で配布したプリントをその都度見返し、さらに参考文献を読むことで、授業内容についての理解を定着させること。なお、毎回リアクションペーパーを配布・回収し、翌週の講義冒頭でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的と概要、授業の進め方について
第2回	ロシア中世史学概論	歴史学研究において「ルーシ」はどのように見られてきたのか
第3回	ヴァイキングとルーシ①	ヴァイキングの登場と東方進出について
第4回	ヴァイキングとルーシ②	キエフ大公国の成立と発展にヴァイキングが果たした役割について
第5回	ビザンツとルーシ①	ビザンツ帝国を中心とする東方正教世界の特徴について
第6回	ビザンツとルーシ②	ルーシのキリスト教化にビザンツ帝国が果たした役割について
第7回	モンゴルとルーシ①	モンゴル帝国によるルーシ支配の展開について
第8回	モンゴルとルーシ②	モスクワ大公国の台頭とその後の対モンゴル関係について
第9回	14世紀ルーシにおける政治秩序の再編①	ガーリチ・ヴォルィーニ大公国とノヴゴロド共和国について
第10回	14世紀ルーシにおける政治秩序の再編②	ヴォルガの河川賊ウシクイニクの活動について
第11回	14世紀ルーシにおける政治秩序の再編③	全ルーシ府主教座の政治的役割及び修道院運動の展開について
第12回	14世紀ルーシにおける政治秩序の再編④	ペルミの宣教師ステファンの活動について
第13回	「ルーシ」から「ロシア」へ	15世紀以降のモスクワによる河川ネットワークを通じた辺境進出について
第14回	試験・まとめと解説	本講義の総括及び授業内レポート試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：事前に参考書の関連箇所を読み、授業内容の背景を理解しておく。
復習：配布資料を用いて授業内容を振り返る。
本授業の準備学習・復習時間は1回あたり4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業でプリントを配布する。

【参考書】

田中陽児・倉持俊一・和田春樹共編『世界歴史体系 ロシア史1：9～17世紀』山川出版社、1995年。
宮野裕『世界史リテラシー 「ロシア」はいかにして生まれたのか：タタールのくびき』NHK出版、2023年。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（80%）
リアクションペーパーを用いた平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture will provide an overview of the interrelationships between the Rus' and the surrounding areas from the 9th to the 16th centuries, and then discuss the historical process through which Muscovite political power emerged from the Rus', eventually leading to the present Russian state.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand medieval Russian history, understand the influence of neighboring powers on the Rus', and understand the restructuring of the political system in 14th century Rus' and its historical significance.

(Learning activities outside of classroom)

Students should consolidate their understanding of the course content by reviewing the handouts and reading the bibliography.

(Grading Criteria / Policy)

Term-end examination: 80%, in class contribution: 20%

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅳ

皆川 卓

授業コード：A3171 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世から近代までの歴史を通してヨーロッパの「国家的アイデンティティ」(national identity) を学びます。最初に近代の「ナショナリズム」の構造を紹介し、近代人の中にも無限に多様な「ナショナリズム」があること、しかしそれにも拘わらず何らかの歴史的事情によって一定の地域毎に統合されていることを確認します。そののちそれぞれタイプの異なるフランス、ブリテン（イギリス）およびドイツ（旧神聖ローマ帝国）の状況を概観し、何がそれぞれをまとめるのかを学びます。

【到達目標】

「ナショナリズム」が近代主権国家の諸条件のもとで成立すること、その方向性が各国の近世の歴史的発展に依拠することを学ぶとともに、そこで創られたさまざまなコンセプトが、どのようなメカニズムのもとで国への感情的執着に発展するのかを、それぞれタイプの違う近世史を抱えるヨーロッパ三か国の例から理解し、歴史的観点から合理的・客観的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「国家的アイデンティティ」(national identity) とは何か	受講者が日々触れる現代生活における文化と情念の関係を分析しながら、社会秩序や社会的価値への愛情が成立・発展する心的条件を論じます。
第2回	ナショナリズムの光と影	ナショナリズムの出発点となる情念が社会価値化するメカニズムを解析し、ナショナリズムの多義性と多様性を各国近世・近代史の特徴的な出来事から明らかにします。
第3回	近代以前に国民主義は存在するか（1）	ナショナリズム現象とされる活動を歴史の諸例から取り上げ、ゲルナー、ホブズボーム、アンダーソン、スミスなど近年の諸説に照らしながら、その類型を提示します。
第4回	近代以前に国民主義は存在するか（2）	前近代史の中に、近代になって初めてナショナリズムの神話形成に用いられるトピックが多数あることを確認します。
第5回	歴史の中のエスニシティとその分析方法（1）	現代ヨーロッパにおける遺伝子ビッグデータの成果などから、「民族」が文化的集団であることを確認し、その基準であるエスニシティとは何かを、機能的な側面から分析します。
第6回	歴史の中のエスニシティとその分析方法（2）	エスニシティを分析するには、その歴史的文脈、特に集団同士の関係に注目することがポイントであることを実証的に紹介します。
第7回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「王国」のフランス（1）	君主の身体と血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながらそのメカニズムを解き明かします。
第8回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「王国」のフランス（2）	君主の血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながら、普遍的な性格を持つ新しいエスニシティを発見する過程を分析します。
第9回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「帝国」のブリテン（1）	「議会の中の王」「幸いなる島国」「反カトリシズム」「商業国家」など多様なエスニック要素を組み合わせて小国を束ね、大国化したブリテン（イギリスの）例を紹介します。

第10回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「帝国」のブリテン（2）	ブリテンに束ねられたスコットランド、アイルランドなどの小国の視点とそれらのリアクション形成、そしてそこから生じる垂直的・水平的なアイデンティティの多元性を論じます。
第11回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（1）	統一的な主権国家とは異なり、新旧の要素が同居する多元的な秩序を生み出した神聖ローマ帝国の特徴と、それをサポートするものとして生み出された「ドイツ」の観念の起こりを紹介します。
第12回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（2）	神聖ローマ帝国の国家連合化によるアイデンティティの空白を埋める目的で「ドイツ」が文化的共同体に発展する過程を論じます。
第13回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（3）	「ドイツ」アイデンティティが他国との関係に対する優越的価値「民族」となり、秩序も個人もそれに支配されていく過程を分析します。
第14回	総合評価とまとめー「愛国」のカルテ	近世ヨーロッパ各国の国家的アイデンティティを構成する要素とその組み合わせのタイプを振り返り、それらとの比較から歴史的な「愛国」とは何かを、「少数民族」の観点も展望しながら相対化し、批判的にまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
- ・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
- ・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。
- ・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。（配布プリントがその機能を担います）

【参考書】

- E.ホブズボーム／T.レンジャー『創られた伝統』紀伊国屋書店 1992
- E.ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店 2000
- B.アンダーソン『想像の共同体』NTT出版 1997
- A.D.スミス『ネイションとエスニシティー歴史社会的考察』名古屋大学出版会 1999
- F.フローデル『フランスのアイデンティティ』（第1篇・第2編）論創社 2015
- H.トーマス『中世の「ドイツ」ーカール大帝からルターまで』創文社 2005
- 松本彰・立石博高『国民国家と帝国』山川出版社 2005
- 谷川稔『国民国家とナショナリズム』山川出版社 1999
- 指昭博編『王はいかに受け入れられたかー政治文化のイギリス史』刀水書房 2008
- 岩井淳・指昭博編『イギリス史の新潮流ー修正主義の近世史』彩流社 2000
- その他教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は平常点（20%）、単元毎の小テスト（30%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
- ・ナショナリズムを含む国家的アイデンティティの歴史の変遷を知識として正確に把握できているか【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、各時代の国家的アイデンティティを歴史学の方法に従って経験科学的・論理的に分析し、説明できるか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】、が基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

- ・欠席者がついて行けなくなる事態を防ぐため、最初に15～20分程度、前回の内容の復習時間を取ることにします。
- ・小テストの回答はある程度時間を取っていますが（2週間程度）、事情により遅れても提出できるようにします（ただしやむを得ない事情以外、期日を守っている受講生との公平性を考慮し、一定の減点をします）。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】： We learn about Europe's "national identity" throughout history, from the Middle Ages to modern times. First, I will introduce the structure of modern "nationalism" and confirm that there is an infinite variety of "nationalism" among modern people, but that it is nevertheless integrated in a certain region due to some historical circumstances. You will then get an overview of the different types of France, Britain (Great Britain) and Germany (formerly the Holy Roman Empire) and learn what brings them together.

【到達目標（Learning Objectives）】： We come to understand that "nationalism" is established under the conditions of modern sovereign states and that its direction depends on the historical development of each country in the early modern period, and that the various concepts created there will develop into emotional attachment to their countries by understanding the mechanisms by which they develop into emotional attachment to their countries from the examples of three European countries with different types of early modern histories, and to explain rationally and objectively from a historical perspective.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

- ・ Be sure to read the handouts distributed in advance before class and keep the general contents in mind (1 hour each time).
- ・ Before class, you will look up all the words you know for the first time or words you only know by name through reference books and the Internet, and make notes on printouts (1 hour each time).
- ・ After the class, you will do your own research or ask questions to the instructor about points that you did not understand during the class (1 hour each time).
- ・ Take notes on what you thought after listening to the class and prepare for writing a final report (1 hour each time)

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】：・ The evaluation will be based on a combination of normal scores (20%), quizzes for each unit (30%), and final reports (50%).

・ The criteria are whether the student has an accurate grasp of the historical transition of national identity, including nationalism as knowledge [1st evaluation process: in light of 30% of the quiz for each unit], and whether the national identity of each era can be analyzed and explained empirically and logically according to the method of historiography [2nd evaluation process: corresponding to 50% of the final report].

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅴ

皆川 卓

授業コード：A3172 | 曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世ヨーロッパにおける社会的流動性（social mobility：地位、身分、職業や職場、信仰、居住地などの変更）が、人や人の集団同士の生活やアイデンティティ、仕組みに与えた影響について、近年の研究成果を紹介します。受講者はそこから、社会的流動性が歴史の発展に深くかかわっていることを学ぶとともに、さまざまな成長期の社会に生きる人々が、いかにして社会に前向きに関われるかを省察します。

【到達目標】

近世ヨーロッパの人々は、現代から見れば経済成長率が極端に低い中であっても、自ら身分や地位、職業や活動地域の変更を求め、異なる環境の衝撃に耐えて自らを活かす可能性を拓くばかりでなく、自分の求めた自己を実現する社会的枠組みをも形成していった。この近世ヨーロッパ「社会」の動的側面の実相と、それが近代の形成に果たした役割を多角的に学び、社会的流動性を持つ可能性を客観的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会的流動性とは何か（1）	社会的流動性（社会移動）は人間生活の活力を左右する基礎的条件ですが、それが分析の対象となることは多くありません。身近な生活を例に、社会的流動性とは何かを簡単に紹介します。
第2回	社会的流動性とは何か（2）	社会的流動性を歴史的に見ると、どのようなことが分かってくるかを、高校までの既習知識の中にある事例から指摘し、それが過去の社会の分析に有効であることを論じます。
第3回	中世ヨーロッパの社会的流動性（1）	中世ヨーロッパの厳格な身分が、権力者に強制された制度ではなく、むしろ職業教育の未発達やコミュニケーションの未熟な中、人々自身から作られたものであることを論じます。
第4回	中世ヨーロッパの社会的流動性（2）	中世後期に徐々に活発化する社会的流動性が、人々の認識の変化を促し、それが社会の集団意識に逆反射して、仕組みや制度をも徐々に変えていく実態を紹介します。
第5回	社会的流動性の舞台【教会と信仰】（1）	近世ヨーロッパの人々に自分の生活環境を変えるチャンスとなった様々な場の中で、キリスト教の教会組織と信仰によるネットワークが大きな影響を及ぼしたことを論じます。
第6回	社会的流動性の舞台【教会と信仰】（2）	教会組織や信仰のネットワークにおける社会的流動性が、次第に既存の組織の持つバイアスを変化させ、教会の改革や信仰の自由に導いていく展開を説明します。
第7回	社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】（1）	近世の厳格な身分の壁を超える場の一つに、権力者が営む宮廷と軍隊がありました。そのうち宮廷に注目し、どのような人材がそれを利用して流動性の波に乗れたのかを詳しく論じます。
第8回	社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】（2）	前回に続いて軍隊に注目し、そこでどのような能力が評価されたのか、またそこにはどのような限界があり、結果として軍隊の流動性はどのようなものになったのかを分析します。

第9回	社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（1）	近世ヨーロッパの都市は、ビジネスを通じてそれまで閉じ込められていた境遇から自分を解放し、流動性の波に乗る重要な場でした。そこではどのような可能性があったのかを概観します。
第10回	社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（2）	都市とビジネスの流動性は、そこで動く人々の内面をも変化させました。それがどのようなものであり、彼らはより望ましい場の実現を求めてどのような社会を促したのかを論じます。
第11回	社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（1）	近世ヨーロッパでは、様々な教育の場が、本来の目的であった宗教や職業を超えて生活に広く役立てられました。そこから生まれた流動性の特徴を、いくつかの事例に即して検討します。
第12回	社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（2）	近世ヨーロッパの流動性の特徴として、メディアによる流動性があります。直接地位や居住地を変えなくても、認識を共有した集団の中から生み出されたコミュニケーションと価値に注目します。
第13回	社会的流動性の変質と「社会」の誕生	近世ヨーロッパの流動性は、身分や資産の上下に留まらず、好み（ハビトゥス）や人生観、知性など精神面の発展も促しました。それが自由な個人の支える社会という発想を生み出すまでを論じます。
第14回	総合評価とまとめ	近世ヨーロッパの流動性が、単なる地位や富の上下を超え、多様性を承認する「市民」という新たな秩序の枠組みを創造しえたのはなぜなのか、これまでの授業を振り返りながらまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。
・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。（レジュメがテキストの機能を担います）

【参考書】

清水廣一郎『中世イタリアの都市と商人』講談社 2021
成瀬治『近代ヨーロッパへの道』講談社 2011
高澤紀恵／G・カレ『「身分」を交差させる一日本とフランスの近世』東京大学出版会 2023
L・ストーン（佐田玄治訳）『エリートの攻防―イギリス教育革命史』お茶の水書房 1985
角山栄他『生活の世界歴史(10)産業革命と民衆』河出書房新社 1992
Ch・ハルツィヒ他（大井由紀訳）『移民の歴史』筑摩書房 2023

【成績評価の方法と基準】

・評価は平常点（20%）、単元毎の小テスト（30%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
・ヨーロッパ近世史の中に展開される社会的流動性の概要を理解することができ【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、そこから歴史のマクロ的な動きを読み取り、受講者の活きる現代社会と比較・相対化することで、歴史を客観的に論じるための俯瞰的な視点をどれだけ達成しているか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】をみます。

【学生の意見等からの気づき】

・様々な研究対象を持つ受講生の理解のために、現代社会や他の時代・地域との比較を交えながら論じます。
・受講生が欠席のため授業内容について行けなくなる事態を抑制するため、授業の最初に15～20分の復習を行います。そのため進度は多少変動します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】：The lecturer introduces the results of recent research on the impact of social mobility (changes in status, status, occupation, workplace, religion, place of residence, etc.) in early modern Europe on the lives, identities, and structures of people and groups of people. From there, students will learn that social mobility is deeply involved in the development of history, and reflect on how people living in various growing societies can be positively involved in society.

【到達目標 (Learning Objectives)】 : Even in the midst of extremely low economic growth rates from the perspective of modern times, the people of early modern Europe sought to change their status, status, occupation, and area of activity, and not only opened up the possibility of making the most of themselves by withstanding the impact of different environments, but also formed a social framework to realize the self they wanted. we learn from various perspectives the reality of the dynamic aspects of early modern European "society" and the role it played in the formation of modernity, and objectively understand the potential of social mobility.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

・ Be sure to read the handouts distributed in advance before class and keep the general contents in mind (1 hour each time).

・ Before class, you will look up all the words you know for the first time or words you only know by name through reference books and the Internet, and make notes on printouts (1 hour each time).

・ After the class, you will do your own research or ask questions to the instructor about points that you did not understand during the class (1 hour each time).

・ Take notes on what you thought after listening to the class and prepare for writing a final report (1 hour each time)

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 : ・ The evaluation will be based on a combination of normal scores (20%), quizzes for each unit (30%), and final reports (50%).

- Students will be able to understand the outline of social mobility that unfolds in the history of early modern Europe [1st Evaluation Process: Corresponding to 30%of the quiz for each unit], and from there, by reading the macro movements of history and comparing and relativizing it with the current society in which the participants are active, they will be able to see how well they have achieved a bird's-eye view for objectively discussing history [2nd Evaluation Process: Corresponding to 50%of the final report].

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅵ

遠藤 泰生

授業コード：A3173 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第47代大統領ドナルド・トランプが就任したアメリカ合衆国では、「社会の分断」が際立つという。いったい何が「分断」しているというのだろうか。アメリカ合衆国における保守とリベラルの分断線をなす理念とはいったいどのようなものなのだろうか。国の成立時に立ち返ってその起源を省みることが今ほど求められている時はない。

本授業では、理念に基づく人工国家とすら呼ばれるアメリカ合衆国が、国民国家としての体裁を整えるまでの近代史を概観する。時代的には17世紀初頭から19世紀末までを中心に振り返り、ヨーロッパ人の入植活動、独立革命を経ての共和主義政体の確立、南北戦争の終戦処理などを主要な論点に、人種・ジェンダー・エスニシティ他の要素を横断的に統合する理念の共和国が成立した歴史を学ぶ。

政治文書にとどまらず、文学、絵画、映画など多様なメディアに刻まれた時代の相貌に触れることで、立体的な歴史理解の獲得を目指す。諸外国における人種規範、ジェンダー規範などを比較の対象におくことで、アメリカの歴史の特徴を相対化させることにも心掛ける。

【到達目標】

アメリカ合衆国の近代史に関する基礎知識を体系的に習得する。そのうえで、現代アメリカ社会に潜在する諸問題の歴史的淵源を理解することの一つの目標をおく。その意味で、本授業では外国理解に歴史的知見を動員する姿勢を学生に身に付けさせる。

政治文書、文学、絵画、建造物など、異なるメディアの史料読解を通し、さまざまな歴史主体の声に学生は耳を傾けられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体に進めるが、演習形式の授業も途中で混ぜる。とくに、史料読解の訓練に際しては、担当学生をあらかじめ決め、授業冒頭に簡潔な導入報告をしてもらうことがある。課題読書レポートにはコメントを付して返却する。そのほか、歴史地図の作図提出を学期中に数回求める。これらの作業を通して、確かな基礎知識に基づく議論を学生は行うことができるようになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：今なぜアメリカの歴史と文化を学ぶのか	アメリカ社会を規定する歴史観として「有用なる過去」の考えを紹介する。
第2回	先住インディアンのアメリカ	先住民インディアンの文化とその多様性を学ぶ。
第3回	北米ニューイングランド植民地	アメリカ例外主義の淵源の一つとして、ピューリタニズムに潜在する選民意識の歴史を学ぶ。
第4回	ロードアイランド植民地の経験	アメリカにおける思想信条の自由を制度化した政教分離の歴史を学ぶ。
第5回	中部大西洋沿岸植民地	18世紀大西洋文化圏におけるアメリカン・モダニティの萌芽を学ぶ。

第6回	南部大西洋沿岸植民地	黒人奴隷制がアメリカに定着した歴史を世界における奴隷制の歴史を文脈に学ぶ。
第7回	アメリカ独立宣言	アメリカ独立革命において人民主権の概念が果たした役割を学ぶ。
第8回	アメリカ共和国の成立	共和主義を成文化した文書として合衆国憲法を捉え、その成立過程を学ぶ。
第9回	アメリカ女権運動の黎明	「共和国の母」とも呼ばれた建国期のアメリカ女性が展開した女権運動の歴史を学ぶ。
第10回	自由への逃走	逃亡奴隷フレデリック・ダグラスの著した『自伝』（1845）を読む。歴史を学ぶのに文学をどのように用いるか、史料としての文学の可能性を合わせて検討する。
第11回	西への衝動	絵画に描かれた西部のヴィジョンをアメリカ人の心的原風景の一つと捉え、国土西漸運動の歴史を学ぶ。史料としての絵画の可能性を検討する。
第12回	南北戦争の勃発と総力戦の展開	自由労働と奴隷労働の二つの労働理念をめぐる南北の確執を学ぶ。
第13回	戦争の終わらせ方	国家の分断と融和をもたらしたリンカン大統領の言葉の政治を学ぶ。
第14回	春学期の学習の振り返りとまとめ	春学期の講義の振り返りを行いつつ、南北戦争以後の歴史を見通す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定する教科書の該当する章をあらかじめ読み、疑問点を整理しておくことが望ましい。予習の該当箇所については、第一回の授業時に一覧にして知らせる。

フレデリック・ダグラス著『自伝』の読書レポートを第11回授業開始時を締め切り提出してもらう。Webを通して提出。長さは2400字以上。

準備・復習・課題作成に必要な時間は、平均4時間を予定している。

【テキスト（教科書）】

- 遠藤泰生・小田悠生共編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2023）、3500円。
- フレデリック・ダグラス著 樋口映美監修『アメリカの奴隷制を生きるーフレデリック・ダグラス自伝（増補改訂）』（彩流社、2025）、1900円。
- その他の必要な史料は適宜コピーして授業で配付する。

なお、教科書に指定した『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』は、テキスト内に挙げた図版、絵画、地図、写真等の原典URLをQRコード化し、選択的ではあるが、巻末にまとめて掲載している。すべてオープンアクセスの史料ばかりなので、携帯の画面を通してカラー刷りの原典に親しみ、各時代の息吹に触れて欲しい。

【参考書】

アメリカ学会編『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018）

【成績評価の方法と基準】

期末試験：60%

課題読書レポート：20%

歴史地図提出：10%

通常点：10%

【学生の意見等からの気づき】

毎回授業時には質疑応答の時間を設け、学生の疑問や授業への希望を聞くほか、授業方法への希望も聞き、講義の改善に役立てる。

【その他の重要事項】

英語が得意でなくとも史料の読解ができるように指導する。

【Outline (in English)】

This class surveys the history of the United States in the 18th and 19th centuries. This year, history of racial, gender, and ethnic norms, which has exerted a significant influence on the division of contemporary American political landscape, will be examined with special attention. This examination will be indispensable for those who want to delve into Trampism and its impact for years to come in the United States. Students are expected to cultivate balanced sensibilities to differences of racial, gender, and ethnic identities in our diversified age and society.

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅶ

遠藤 泰生

授業コード：A3174 | 曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大西洋と太平洋の二つの海洋に挟まれたアメリカ合衆国の近代史は、大陸の歴史として人々の記憶に永らく記憶されてきた。奴隷制プランテーションの深南部への展開や大陸西漸運動の歴史にアメリカ近代史家が多大な関心を払ってきたのがその何よりの証左である。その歴史解釈の狭隘を是正するために、本授業では、19世紀半ばに未曾有の内戦を経て連邦国家を再建したアメリカ合衆国が、太平洋国家へと変貌を遂げる過程に注目して歴史を学ぶ。この間の社会の変容を奴隷国家から移民国家への変容と唱える観方に新たに海の歴史の視点を加え、太平洋アジアとの邂逅が国民規範の再編を同国に余儀なくさせたという仮説のもと、20世紀初頭に現代アメリカが成立する過程を検証する。グローバルな「海の歴史」が提唱する空間論的展開と通例の国民統合の歴史とを架橋することで、20世紀のアメリカ合衆国史を見通す新しい視野を切り開くことを目指す。日本近世史の研究成果も動員し、太平洋を跨ぐグローバルな19世紀史の展開を心掛ける。

【到達目標】

南北戦争後のアメリカ合衆国の歴史を紐解きつつ、グローバルな海洋国家に変貌を遂げた大陸国家アメリカが、空間論的展開を経る中で国民統合規範の再編を余儀なくされた過程を学生は理解する。植民地時代以来アメリカが継承する大西洋国家の相貌と新たに生まれ出た太平洋国家の相貌の両方に着目し、さまざまな歴史史料の読解を通してその接触と融合の過程を理解する。その作業を通し、よりグローバルなアメリカ合衆国の歴史理解を学生は獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体に進めるが、演習形式の授業も途中で混ざる。とくに、史料読解の訓練に際しては、担当学生をあらかじめ決め、授業冒頭で簡潔な導入報告を求めることがある。課題図書読書のレポートにはコメントを付して返却する。このほか、歴史地図の作図提出を数回求める。これらの作業を通して、確かな基礎知識に基づく議論を学生は出来るようになる。

なお、2回程度、状況に応じてオンラインによる遠隔授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：大陸史観と海洋史観	近年の歴史研究における陸の歴史の視点と海の歴史の視点の架橋の問題を紹介する。
第2回	南北戦争を生きたさまざまな歴史主体	アフリカ系アメリカ人、女性、アイルランド系移民、それぞれの視点から見た南北戦争の意義を学ぶ。
第3回	記憶の彫琢と漂白	戦争の記憶と彫琢と漂白を通して白人至上主義が制度化された歴史を学ぶ。
第4回	工業化と都市化	南北戦争後の「金びか」時代を帝国主義への前奏として学ぶ。
第5回	「分離すれども平等」の確立	ジムクロウが合衆国南部に定着した歴史を学ぶ。

第6回	「二重意識」の民：こと	W・E・B・デュボイス『黒人の「問題」として生きる たましい』（1903）を読む。
第7回	19世紀アメリカの太平洋進出	貿易商、捕鯨船員、科学将校の捉えた太平洋世界像を学ぶ。
第8回	漂流民と異文化接触	中浜万次郎とアメリカ彦蔵のアメリカ異文化体験を検証する。
第9回	ペリー艦隊のアジア遠征とその衝撃	異なる太平洋像を抱いていた日米の邂逅が、その後の東アジアの世界秩序形成に与えた影響を学ぶ。
第10回	合衆国海軍天文台の歴史	帝国主義の時代を前に空と海の空間把握が列強の知的課題に浮上した歴史を学ぶ。
第11回	もう一つの岸辺から来た人々	清朝末期の中国と明治初期の日本からアメリカ合衆国に渡った移民の歴史を学ぶ。
第12回	「徳の政治」とアメリカ	19世紀前半の北米で始まった太平洋世界へのキリスト教伝道活動の歴史を「徳の政治」の干渉という視点から学ぶ。
第13回	太平洋国家アメリカの出現	ハワイ・フィリピン・プエルトリコを領有したアメリカ合衆国の国民規範の再編を、人種主義による国民の階層化の過程と捉え学ぶ。
第14回	秋学期の学びの振り返りとまとめ	秋学期の学びの振り返りとその先への問題提起。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業に臨む前に読むべき史料や教科書の該当箇所を第一回授業時に一覧にして説明する。やや一般的ではないテーマに沿った歴史の授業なので、複数の著作から論文などを拾い上げ、予習の資料とする。

W・E・B・デュボイス著『黒人のたましい』（1903）の読書課題レポートを第7回授業時開始を締め切りに提出する。Webで提出する。著作自体は大著なので、読むべき章はあらためて指示する。長さは2400字以上。このほか、歴史地図の作図提出を数回求める。各回の予習・復習・課題提出に必要な時間は、平均約4時間になる。なお、2回程度、状況に応じてオンラインによる遠隔授業を行う。

【テキスト（教科書）】

- 遠藤泰生・小田悠生共編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2023）、3500円。
- W・E・B・デュボイス『黒人のたましい』（1903）（岩波文庫、1992）
- その他、必要な史料は適宜コピーして教室で配付する。なお、教科書に指定した『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』は、テキストに挙げた図像・地図・絵画・写真等の原典URLを、選択的ではあるが、まとめて巻末に掲載している。すべてオープンアクセスの史料ばかりなので、携帯の画面を通してカラー刷りの原典に親しみ、各時代の息吹に触れて欲しい。

【参考書】

- 金澤周作編著『海のイギリス史』（昭和堂、2013）
- 兼子歩・貴堂貴之編『ヘイトに抗するアメリカ史——マジョリティを問い直す』（彩流社、2020）
- 田中きく代・遠藤泰生・金澤周作他編『海のグローバルサーキュレーション』（関西学院大学出版会、2023）
- アメリカ学会編『アメリカ文化辞典』（丸善出版、2018）

【成績評価の方法と基準】

- 期末試験：60％
- 課題図書読書レポート：20％
- 歴史地図提出：10％
- 通常点：10％

【学生の意見等からの気づき】

授業時には毎回、質疑応答の時間を設け、学生の疑問や授業に対する希望を聞き、改善に努める。そのほかにも、教授形式への希望を常時受け付け、講義の改善に役立てる。

【その他の重要事項】

英語が得意でなくとも史料の読解ができるように指導する。逆に日本近世史の史料に馴染が無い学生には、史料読解の新たな機会を提供することになろう。

【Outline (in English)】

The history of the United States has long been remembered as a continental history. To correct the narrow scope of this traditional historical interpretation, this course examines the transformation of the United States from a continental federation, rebuilt after an unprecedented civil war in the mid-19th century, into a Pacific nation. Incorporating a maritime historical perspective into prevailing interpretations that describe this transformation as mainly a shift from a slave state to an immigrant nation, the course explores how encounters with Pacific Asia compelled a radical reconfiguration of civic norms of the United States. Additionally, drawing on research from early modern Japanese history, the course seeks to illuminate the global dimensions of 19th-century American history across the Pacific.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅹ

内藤 一成

授業コード：A3201 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日露戦後の日本について、青年のまなざしと活動を通じて歴史的に考察する。具体的には、三島弥彦と石川啄木、立場も経歴もまったく異なる二人の青年の日記をもとに追体験する。時期的には、明治41年1～6月を取り上げる。授業を通じて、歴史を教科書や年表に記された事実の羅列ではなく、多面かつ重層的な世界であることが理解できるようになることをめざす。

【到達目標】

①歴史を単なる過去ではなく、実感を持ったものとして理解する。②史料の多彩な読み方を理解する。③近代日本の歩みを歴史的にとらえ、未来を展望する上での示唆を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第2回	明治41年1月の弥彦	西洋文化としてのスポーツの受容と定着など
第3回	明治41年1月の啄木	東京と地方など
第4回	明治41年2月の弥彦	近代の恋愛事情など
第5回	明治41年2月の啄木	近代スポーツと学校の役割など
第6回	明治41年3月の弥彦	明治の文学者など
第7回	明治41年3月の啄木	学歴エリートの世界など
第8回	明治41年4月の弥彦	健康、保養思想の受容と定着など
第9回	明治41年4月の啄木	近代スポーツの広がりなど
第10回	明治41年5月の弥彦	明治の大学生など
第11回	明治41年5月の啄木	日米野球と国際交流など
第12回	明治41年6月の弥彦	園遊会と社交文化など
第13回	明治41年6月の啄木	青年の日常など
第14回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する史料等には必ず目を通しておく。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

内藤一成『弥彦と啄木 日露戦後の日本と二人の青年』芙蓉書房出版、2024年

【参考書】

『三島弥彦—伝記と史料』（芙蓉書房出版）、ドナルド・キーン『石川啄木』（新潮社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

現時点ではないが、クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能なIT機器

【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
・授業に関連する連絡は、学習支援システムのお知らせ機能や、授業内掲示板機能を利用して行うので、見落とさないようにすること。
・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline (in English)】
(Course outline)

In this course, I will consider Japan after the Russo-Japanese War. Specifically, we will focus on Yahiko Mishima(1886-1954) and Takuboku Ishikawa(1886-1912), analyze their diaries from January to June 1908, and compare them. Through this lecture, I aim to be able to understand history as a multifaceted and multi-layered one.
(Learning Objectives)

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.
(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講X

森田 貴子

授業コード：A3202 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、近代日本において都市がいかに形成されてきたのか、歴史的事実に基づき考察し、日本の近代を歴史的事実に基づき理解し、広い視野と現代社会を主体的に考察する視角を得ることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、近代都市がいかにして形成されてきたのか、明治初年から第二次世界大戦までの日本の都市を取り上げ、都市計画、都市財政、都市行政、都市と社会問題、インフラストラクチャー等、多角的な観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回、テーマごとに講義を進めながら、近代日本の都市形成と諸制度について、考えていく。

毎回、リアクションペーパー（小レポート）を提出する。

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小レポート）から良い意見や多く出された意見を取り上げて紹介し、議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 近世から近代へ（1）	授業の目的・進め方。歴史学の方法。 現代社会について主体的に考察するための歴史学の持つ意義について。 都市人口（1）
第2回	近世から近代へ（2）	都市人口（2）
第3回	都市計画（1）	都市計画（1）
第4回	都市計画（2）	都市計画（2）
第5回	都市計画（3）	都市計画（3）
第6回	都市計画（4）	都市計画——事例
第7回	都市財政	都市財政
第8回	都市と交通	電車事業
第9回	都市と社会問題	都市と貧困
第10回	都市と災害	都市と災害
第11回	都市とインフラ（1）	都市とインフラ（1）
第12回	都市とインフラ（2）	武家地から住宅街へ
第13回	都市とインフラ（3）	武家地からビジネス街へ
第14回	試験、まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースを、積極的に読むこと。

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は、特に指定しない。

適宜、資料レジュメを配布する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回提出するリアクションペーパー（小レポート）（40％）と、学期末の試験1回（60％）による。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン回は、ディスカッションタイムを実施予定です。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続できるパソコン。

【その他の重要事項】

評価には、3分の2以上（9回以上）のリアクションペーパー（小レポート）の提出と、学期末試験を受けることを必須とします。

【Outline (in English)】

This course aims for students to study how modern cities have been formed from diverse perspectives. The goals of this course are to understand from multiple perspectives such as urban planning and social problems and infrastructure, etc. Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports: 40%.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本古代史科学Ⅱ a

山口 英男

授業コード：A3204 | 曜日・時限：火5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正倉院文書と木簡を中心に、日本古代史料研究の課題、古代史料の特徴、歴史情報抽出の方法を学び考えます。史料のどこに注目したらよいかを知ることで、史料の背後の世界へと視野が広がります。日本古代史を研究するための材料となる史料は、他の時代に比べて数が限定されている印象が強く、新たな検討の余地は少ないように思われがちです。しかし、周知の史料でありながら十全な検討がなされていないものや、研究の進展に応じた再調査・再検討が必要となっている史料が意外に多くあります。

何よりも、正倉院文書や木簡など、当時の実務の現場で用いられた書面が大量に残されていることが、日本古代史料の特質です。現代に引きつけていけば、お役所の内部書類が外部に流出したようなものです。まさに「宝の山」といってよい史料群であり、見つけ出されることを待っている情報がまだまだたくさんあります。

そうした情報にどうやれば接近できるのか。記載内容（文字）を読み取るだけでなく、史料を「もの」として分析することで、古代史科学・古文書学の新たな知見が蓄積されて来ています。実務を進める中で、その書面がどのように使われたのか。それを明らかにしていくことがポイントになります。より多くの情報を史料から抽出することで、古代史研究の地平をさらに広げていくことが期待できます。本講義では、古代史料の「すがた・かたち」を検討しながら、史料の分類と分析の視角・手法を考え、古代史研究の新たな視野を展望します。

【到達目標】

古代史料研究の課題について理解する。

古代史料の特徴を知り、歴史情報に接近するための視角と方法をも身につける。

史料に対する目のつけどころ、問いかけ方を学ぶことで、史料の持つ豊かで多様な情報に近づくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式（対面授業）で進めます。

配布した史料プリントを使いながら、史料の分析とはどういう作業であるのか、その結果何がわかるのか、具体的な例を挙げながら解説します。

3回程度の講義のまとめりとごに、小レポートを提出してもらうことで、理解と認識の深まりを確かめながら進めます。小レポートについては、下記も参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義のねらいと進め方
第2回	古代の実務文書の面白さ	正倉院文書と木簡
第3回	古代史科学の課題と視角①	古代史料の概要と「史料批判」
第4回	古代史科学の課題と視角②	古代史料の特徴と分析視角
第5回	古代史科学の課題と視角③	実務官司の仕事と書面

第6回	古代史料に見る情報の定着と移動①	情報の記録・伝達と「書類学」という考え方
第7回	古代史料に見る情報の定着と移動②	仕事に用いる文書とメモ
第8回	古代史料に見る情報の定着と移動③	仕事の進行とともに役割を変えていく書面
第9回	木簡と帳簿①	木簡と古代史科学の関係
第10回	木簡と帳簿②	紙の書面と木簡
第11回	木簡と帳簿③	「食口」という方法と木簡
第12回	口頭伝達と書面の関係①	書面の背後に見える口頭伝達
第13回	口頭伝達と書面の関係②	口頭伝達の記録
第14回	口頭伝達と書面の関係③	「口状」の発見からわかった業務の実態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するテキストに目を通しておいください。また、講義の内容を、自分なりに文章に整理しておくことをすすめます。参考書や、講義中に紹介した研究文献にもできるだけ目を通してください。本授業の準備・復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので、講義に必ず持参してください。教科書は使用しません。

【参考書】

柴原永遠『正倉院文書入門』（角川学芸出版、2011年）
 市川理恵『正倉院写経所文書を読みとく』（同成社、2017年）
 山口英男『日本古代の地域社会と行政機構』（吉川弘文館、2019年）
 山口英男ほか『読み解き古代史料』（山川出版社、2024年）
 山口英男「装潢小治田人公口状とその背景」（古瀬奈津子編『古代日本の政治と制度—律令制・儀式・史料—』同成社、2021年）
 山口英男「正倉院文書に見える「口状」について」（佐藤信編『史料・史跡と古代社会』吉川弘文館、2018年）
 山口英男「写経所の機構」（犬飼隆編『古代の文字文化』竹林舎、2017年）
 山口英男「正倉院文書から見た「間食」の意味について」（『正倉院文書研究』13、2013年）
 東京大学史料編纂所編『日本史の森を行く』（中公新書、2014年）
 山口英男「正倉院文書に見える文字の世界」（国立歴史民俗博物館他編『古代日本と古代朝鮮の文字文化交流』大修館書店、2014年）
 正倉院文書マルチ支援（多元的解析支援）データベース SHOMUS・奈良時代大日本古文書フルテキストデータベース（東京大学史料編纂所 SHIPS データベース <http://www.wap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>）
 奈良文化財研究所 木簡庫 データベース <http://mokkanko.nabunken.go.jp/en/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期間中に提出してもらう複数の小レポートの内容によって行います。講義の進行に合わせて課題を出します。小レポートでは、講義の受講を前提に、講義内容の整理とその批判的論評を求めます。理解力（40%）、調査・考察力（30%）、文章力・独創性（30%）を基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートは、提出の翌週にコメントと評価を付して返却しますので、次のレポート作成の参考にしてください。これを繰り返すことで、文章のレベルや内容、説得力が確実にアップしますので、この機会を積極的に利用してください。

【その他の重要事項】

インターネット等から文章を「剽窃」したレポートに対しては、法政大学のルールにしたがい厳格な措置を取ります。他人の文章を盗み、あたかも自分の文章であるかのように人に欺く行為が許されないことを十分認識してください。
 レポートは、講義内容の理解を前提に自分で調べたり考えたりした内容を求めますので、生成AIの利用は推奨しません。あえて利用する場合は、下記①～③の対応がすべてなされているものに限り、成績評価の対象とします。

- ①生成A I を利用したことをレポートに明記する。
 - ②生成A I との応答の記録をレポートに添付する。
 - ③生成A I から提供された情報のもととなった文献・論文等を探し出し、自身で読んだ上で、レポートの中でそれらの文献・論文等の指摘と同じ内容の部分には、どの文献・論文等に書かれていることがわかるように説明・注釈をつける。
- ※なお、生成A I が作成した文章を、その旨明記せずに引用した場合は「剽窃」と同様の扱いとなります。

【Outline (in English)】

Course outline

To acquire the ability to read and understand historical materials on the imperial court ritual of the Heian period.

Learning Objectives

Be able to read and understand documents related to government affairs and ceremonies during the Heian period.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Please read the historical materials to be covered in class in advance.

Grading Criteria /Policy

Grades will be determined based on active participation in class, presentation content, materials prepared, participation in discussions, and report content.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋考古・美術史

塩沢 裕仁

授業コード：A3209 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	中国考古学の現状
第2回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物1	仰韶文化と彩陶
第3回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物2	竜山文化と灰陶、黒陶
第4回	文明多元論	河母渡・大地湾・夏家店・良渚文化
第5回	中国王朝の曙	二里頭遺址と出土遺物
第6回	殷王朝の文化1	偃師商城・鄭州商城遺址と出土遺物
第7回	殷王朝の文化2	殷墟の甲骨と青銅器
第8回	周王朝の文化1	周原の遺跡と出土遺物
第9回	周王朝の文化2	東周洛陽の遺跡と出土遺物
第10回	春秋戦国の文化1	曾公乙墓と出土遺物
第11回	春秋戦国の文化2	曲阜孔廟と関連遺産
第12回	四川独自の文化	三星堆の遺構と出土遺物
第13回	秦初期の文化	天水・雍城の遺構と出土遺物
第14回	始皇帝の理想とその文化	始皇帝陵と兵马俑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）などには目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100％。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological datas in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅶ

徳留 大輔

授業コード：A3217 | 曜日・時限：月5/Mon.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】東アジア陶磁史——中国陶磁史を中心に
【目的・意義】東アジアの陶磁史は悠久の歴史を有する。その陶磁器の生産は素材である粘土の採取をはじめ、それぞれの地域・窯が所在する自然地理的環境に大きな影響を受ける。そのためそれぞれに独自の陶磁器文化を生み出してきた。その一方で、国・地域を超えて人々の交流が密になるなかで、陶磁器の造形や意匠、様式にも交流の結果による変化や新しい陶磁器文化を生み出した。本講義では考古学・美術史・歴史学的研究成果をもとに「人」「交流」をキーワードに東アジアの陶磁史を学ぶ。

【到達目標】

陶磁器を「考古学」「美術史」「歴史学」という様々な研究方法から学ぶことで、それぞれの研究のアプローチの方法を修得することができる。また国・地域を超えた相互の交流によって生み出される文化・芸術を学ぶことで、「国際性」を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心としながら、授業内での発表、リアクションペーパーの提出、2～3回程度課題を出し、それに対するフィードバックを行う。また少なくとも1回は博物館・美術館で陶磁関係の展覧会の見学を予定している（なお交通費は各自負担）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	第1回目は「陶磁器（やきもの）」とはいったいどのような物質なのか。やきものは何のために、なぜ生まれたのか？ まずは皆で考えてみるとともに、陶磁器を通してどのようなことが分かるのか、どのような魅力があるのか体験してみる。
第2回	土器を知る！	東アジアの中でも古くから様々な種類の土器を生み出した、中国新石器時代の土器、なかでも彩陶、黒陶を中心にその機能や社会的意味を考える。イントロダクションで触れた陶磁器の概要をもとに土器・陶器・炆器・磁器、白磁・青磁・青花・黒釉・五彩（色絵）など、陶磁器の分類・枠組を理解する
第3回	陶磁器の分類・枠組	
第4回	東西交流のはじまり	いまから2000年前。アジアの西と東で交流が密になる中で、工芸品の分野では青銅器、ガラス製品だけでなく、陶磁器が交流の表舞台に現れる。シルクロード、海の道を介して本格化する東西交流のはじまりと陶磁器を介して探る。
第5回	チャイナインパクトー世界に影響を与えた中国陶磁器①	8世紀後半から中国の陶磁器は貿易品として本格的に中国国外へ輸出される。晩唐・五代、宋時代における中国陶磁器の特徴を理解する。
第6回	チャイナインパクトー世界に影響を与えた中国陶磁器②	晩唐から宋時代における中国陶磁器の輸出先と貿易港をとりあげ、この時代の東西交流の様子を紐解く。
第7回	「青花」の誕生	14世紀前半、突如として流行する青花磁器。白磁の上にコバルトを用いて筆書きにより表された意匠は、西アジアの人々を魅了した中国陶磁であった。またあわせて中国国内、東南アジアでも広く受容された。その青花が誕生し、流行した背景について西アジアの工芸品も含めながら、考察していく。

第8回	明清陶磁の展開と官窯	明清時代には景德鎮にて官窯が設置され、皇帝・宮廷用の陶磁器と民間用の陶磁器生産体制ならびに様式・質にも大きな違い生まれる。とくに明時代に着目しながら、官窯製品の特徴、また時期により異なる官民の製品の影響関係について理解を深める。
第9回	大航海時代と陶磁器	大航海時代には中国・日本の陶磁器が欧州をはじめ世界へ広がる。東アジアの陶磁器はなぜ世界を魅了したのか。明清時代の陶磁器、そして日本の古伊万里、柿右衛門を取り上げる。
第10回	唐物茶碗と茶の湯	茶の湯で用いられる茶碗には多くの唐物（中国陶磁器など）がある。それらは時代により流行する陶磁器が異なる。それはなぜなのか。陶磁器の受容という視点からその背景を探る。
第11回	日本における陶磁器鑑賞の歴史	日本では古くより寺社仏閣、茶の湯や華道など様々な分野で陶磁器を用いてきた。一方で、近代に入り欧州から新しい価値感をもとに陶磁器を使用するのではなく、鑑賞することにより主眼をおく見方が生まれる。それによりそれまで顧みられることがなかった、あるいは見過ごされてきた陶磁器が注目をうけることになる。その鑑賞の歴史を学ぶ。
第12回	日本における近現代陶芸の世界	明治維新後、日本の陶芸の世界は新しい時代を迎える。それまでの窯や産地を中心する陶磁器だけでなく、個人作家が生まれる。ここでは近現代陶芸のパイオニアである板谷波山を中心に欧州の芸術様式の影響、中国や日本の古陶磁や工芸品が作家の作品づくりにどのような影響を与えたのか見ていく。
第13回	博物館見学	実際に陶磁器作品を見て、立体造形の陶磁器の魅力を感じ取る
第14回	まとめ	本講義で学んだことの復習。陶磁器の魅力について感想を求めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義の際にレジュメの配布ならびに内容にあわせて参考文献を紹介します。授業の前・後に読んで要点をまとめて授業に臨んでください。また授業では課題を出しますので、次の講義時に提出してください。

【テキスト（教科書）】

講義では教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。ただし、【参考書】に関してはぜひ一読してください。

【参考書】

葉結民原著、出川哲朗 監訳、徳留大輔／新井崇之 訳『中国陶磁史』科学出版社東京、国書刊行会、2019年
徳留大輔責任編集『茶の湯の茶碗 唐物茶碗』淡交社、2021年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート60％、各講義時に課す課題（宿題）20％、平常点20％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義の担当者は美術館に勤務する学芸員であり、陶芸を中心とする工芸分野を担当しています。可能な限り、実物作品の実見や資料などの観察の方法のレクチャーや資料にふれる機会を設けるようにします。

【教員の専門領域など】

<専門領域>考古学・東洋陶磁史
<研究テーマ>中国初期王朝形成過程の考古学的研究、中国陶磁史
<主要研究業績>

徳留大輔責任編集『茶の湯の茶碗 第一巻 唐物茶碗』淡交社、2021年
葉結民原著、出川哲朗 監訳、徳留大輔／新井崇之 訳『中国陶磁史』科学出版社東京、国書刊行会、2019年
徳留大輔編集『宋磁―神秘のやきもの』（展覧会・図録）、出光美術館、2018年

【Outline (in English)】

【Outline】The history of ceramics in East Asia focuses on the history of Chinese ceramics.

【Purpose and Significance】 The history of ceramics in East Asia has a long history. The production of ceramics is greatly influenced by the natural geographical environment of each region and kiln, including the extraction of clay, which is the raw material for ceramics. This is why each region and kiln has developed its own unique ceramic culture. On the other hand, as people interacted more closely with each other across countries and regions, the shapes, designs, and styles of ceramics also changed and new ceramic cultures emerged as a result of these interactions. In this lecture, we will study the history of ceramics in East Asia with the keywords "people" and "exchange" based on the results of archaeological, art historical, and historical studies.

[Learning activities outside of the classroom)]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination (report) : 60%、Short reports : 20%、in class contribution: 20%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅷ

松本 隆志

授業コード：A3218 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島での預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

【到達目標】

この授業を通じて学生は、高校までの世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解を形成していくことになります。そうして形成された歴史理解を、学生各自が自分の言葉で語れるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は講師による講義と受講生による課題の作成・提出で構成されます。課題は毎回の授業内容に関する論述です。提出された課題については次の授業冒頭でフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。
第2回	古代地中海世界の宗教伝統	古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。
第3回	古代末期の地中海世界とアラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。
第4回	預言者ムハンマドと神の啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。
第5回	預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代～第一次内乱に至る出来事について。
第6回	統一の崩壊と再生	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。
第7回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。
第8回	ウマイヤ朝の限界	ウマイヤ朝最盛期の歴史的位置付けと問題点について。
第9回	ウマイヤ朝の衰退、アッバース朝の誕生	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ運動について。
第10回	アッバース朝カリフ権力の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第11回	革命をもう一度	アミンとマアムーンによるアッバース朝の内乱とその背景について。
第12回	イスラームの完成、帝国の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関係について。
第13回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。追加文献に目を通したり、提出した課題を再検討することが復習になります。また、配布資料で示される次のキーワードについて調べることが予習になります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。
毎回授業資料を配布します。

【参考書】

・概説書
小杉泰、『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）、講談社、2016年。
菊地達也編著、『図説イスラム教の歴史』、河出書房新社、2017年。
・工具書
大塚和夫ほか編、『岩波イスラーム辞典』、岩波書店、2002年。
その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出の課題（50％）、期末レポート（50％）
課題については毎回素点をつけ、その累積を成績評価の50％に換算します。期末レポートについては、レポート作成要領を5月中に配布するので、それに基づいて計画的にレポート作成に取り組んでください。授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことを評価します。レポートの点数を成績評価の50％に換算します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容についての改善の指摘は特になかった。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めに作成します。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】

In this course, we will study the initial process of the formation of "Islam" as we know it today. We will start from the ancient Mediterranean world, through the emergence of the Prophet Muhammad in the Arabian Peninsula, the development of the Middle East, and the division of the region, to the completion of "Islam".

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to form their own understanding of the creation and development of Islam, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.

【Learning activities outside of classroom】

Additional references will be introduced in the handouts distributed each class, and key words related to the contents of the next session will be indicated. Reading through the references and reviewing the submitted papers will serve as review. And researching the key words in the next lecture will serve as preparatory study.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policies】

Papers to be submitted each class (50%), final exam (50%)

The papers will be graded based on the cumulative score.

The final exam will be an essay exam. Both the papers and the exam will be about each student's views. Students will be graded on the basis of their own views and interpretations, and on their ability to present them logically in writing.

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅹ

吉岡 潤

授業コード：A3219 | 曜日・時限：月4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国境線を通して見た20世紀の国際関係史を、中・東欧諸国、特にポーランドの事例を中心に検討する。
現代は国民国家というあり方が世界中を覆い、ほぼすべての陸地が国境線で区切られ、ほぼすべての人間がどこか一つの国家に所属することになった時代である。戦争が繰り返され、国境線が引き直され、それに伴い難民や移民、強制移住やジェノサイドといった問題が深刻化した時代でもある。そしてこれらの問題が凝縮して現れた地域が中・東欧、とりわけ国家の消滅と復活を繰り返し、その度に国境線と住民構成を大きく変化させてきたポーランドである。本講義では、そのポーランドが歴史の節目節目でどのような国境線を持とうとし、そして実際に持つことになったのか（あるいは、持たされることになったのか）を概観する。今日のポーランドの国家的存在を基礎づけた第一次世界大戦後の独立に際しての国境線画定と、今日のポーランド国家の国境線を実質的に定めた第二次世界大戦後の国境線変更について検討し、中・東欧における地域秩序の形成およびその変動の国際関係史的意味を考察する。

【到達目標】

今ある国際関係の歴史的背景を知ること。
国際秩序や地域秩序の変動を歴史的に考察する手がかりを得ること。
現代の国際関係において国境線が持つ機能と意味を、現場の地域性と歴史性を踏まえて分析できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。授業回ごとにコメントシートを提出してもらい、そこで出された質問やコメントに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	国境線を通して見る国際関係史、20世紀の国際秩序と国境線
第2回	前提	国境線を通して見るポーランド近現代史
第3回	第一次世界大戦と国境線（1）	第一次世界大戦とポーランド
第4回	第一次世界大戦と国境線（2）	第一次世界大戦の戦後処理
第5回	第一次世界大戦と国境線（3）	第一次世界大戦後のポーランドの国境画定
第6回	両大戦間期の国際関係と国境線（1）	中・東欧諸国の国境線と民族問題
第7回	両大戦間期の国際関係と国境線（2）	ナチ・ドイツと中・東欧諸国
第8回	第二次世界大戦と国境線（1）	独ソによる秩序変更
第9回	第二次世界大戦と国境線（2）	戦時国際関係とポーランド問題
第10回	第二次世界大戦と国境線（3）	第二次世界大戦の戦後処理
第11回	戦後国際秩序と国境線（1）	第二次世界大戦後のポーランドの国境画定
第12回	戦後国際秩序と国境線（2）	冷戦とポーランドの国境線
第13回	戦後国際秩序と国境線（3）	冷戦終結後の国際秩序と国境線
第14回	まとめ	国境線を通して見た20世紀国際関係史

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業中に紹介した参考文献を読むなど、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートの提出など平常点と、期末課題とによる評価。評価における両者間の配分は、＜平常点のパーセンテージ：期末課題のパーセンテージ＞でおよそ40：60とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

This course deals with border issues in Central and Eastern Europe, especially in Poland, after World War I. Students are expected to learn about such topics as the problems of international relations in Central and Eastern Europe, the process of demarcation of Poland's borders after the First and Second World Wars, and shifting policies of the Great Powers towards Poland during the 20th century. Before and/or after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (60%) and in-class contribution (40%).

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

地誌学概論 (1)

小寺 浩二

授業コード：A3408 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：2023年度以降入学生は受講不可。
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学に関する基礎知識の習得と具体的な「自然誌」作成能力の育成。地誌学の概論を講義するとともに、日本の自然誌についてのサンプルを示し、自分誌や自然誌を具体的に記述することで、自分で地誌を作成する力を育成する。GISの活用など、技術的なものも身に着ける。

【到達目標】

「地理学」において、「系統地理学」と並んで重要な分野である「地誌学」の歴史や方法論などについての基礎知識を習得する。あわせて、具体的な地域を取り上げた「自然誌」を作成し、「地誌」作成の基礎能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業全体を通して、「地理学」および「地理学的概念」、「地理学的研究手法」において重要な役割を果たす「地誌学」の歴史、理論、手法などについての基礎知識が習得できるように構成している。

また、授業の流れに沿って指示される2つの「自然誌」作成と、その講評・課題提示によって、基本的な「自然誌」作成能力の育成を目指す。さらに、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上、論文作成技術の基礎を習得する。

毎回、独自の授業記録簿を提出し、その結果をもとに、次の授業で、記述された質問や意見を踏まえた授業を行う。数回、提出を求める課題についても、全て次回までに採点し、個別に添削を行って、正しいレポート作成の仕方を習熟させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義内容概略	授業計画と課題説明
第2回	地理学と地誌学	地理学の中での地誌学の位置づけ
第3回	地誌学の歴史	地誌学の発展の歴史と主要文献紹介
第4回	地誌学の学派・方法論	フランス・ドイツ・アメリカなどの学派と地誌の方法論
第5回	広域地誌	広域地誌の定義と事例
第6回	国家地誌	国家地誌の定義と事例
第7回	総合的地誌	総合的地誌の定義と事例
第8回	動態地誌	動態地誌の定義と事例
第9回	景觀論	景觀論とそれに基づいた地誌
第10回	行政界と自然界	地誌における地域界について
第11回	自然誌	総合自然誌と主題自然誌
第12回	自分誌	自分誌の定義と事例
第13回	歩く自然誌	実際の経験によって組み立てる地誌
第14回	画像・映像による地誌	様々な画像や映像を用いた地誌

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事をもとに、様々な地域の地誌をまとめる。
自分の成長と共に変化した空間認識の違いについて「自分誌」としてまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景の中の自然地理「改訂版」』、古今書院
・配布プリント資料

【参考書】

・長谷川典夫(1994)：『地誌学研究－地誌学作成法とその実例』、大明堂

・山本正三・田中真吾・太田 勇（1973）：『世界の自然環境』、大明堂
・藤岡謙二郎ほか（1982）：『世界地誌』-改訂増補版-、大明堂
その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）課題、試験による総合評価。
平常点3割、課題3割、試験4割とする。
試験は、最終時限に授業内試験として実施する予定。

【学生の意見等からの気づき】

今までの学生からの意見などをもとに、教材を新たに作成し直した。毎回の講義の結果からも修正していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

原則として、毎回、PowerPointや映像資料を活用してわかりやすく説明する。様々な分布図の作成のためのGIS活用法についてもコンピュータを用いて示す。

【その他の重要事項】

本科目は、「地理学」を理解する上で欠かすことのできない「地誌学」を基礎から学ぶ科目であると同時に、卒論に至る重要なステップであるという位置づけのもとに授業内容を構成している。資料の検索・収集法からデータ整理・解析法の基礎、レポート・論文執筆のノウハウも伝授する。こうした知識・技術の習得如何で卒論の質が大きく異なってくるので、前向きな学習への取り組みを期待する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

Basic knowledge is acquired about the history of "topography science" and the methodology which are the important field as well as "systematic geography" in "geography". The "natural topography" I disqualified for an area in detail all together is made and the basis ability of the "topography" making is acquired.

In "Geography", acquire basic knowledge about the history and methodology of "Regional geography", which is an important field along with "Systematic geography". At the same time, create a "natural magazine" that covers specific areas, and acquire the basic ability to create a "geographical magazine".

Throughout the course, you will be able to acquire basic knowledge about the history, theory, and methods of "geography," which plays an important role in "geography," "geographical concepts," and "geographical research methods." is doing.

In addition, we aim to develop basic "natural magazine" creation ability by creating two "natural magazines" that are instructed along the flow of the lesson and presenting their comments and assignments.

In addition, lectures will be given on data processing, result plotting, thematic map creation, etc., to improve report writing ability and learn the basics of dissertation writing technology. Based on newspaper articles, we will summarize the geographies of various regions.

Summarize the differences in spatial perception that changed with your growth as a "self-magazine". The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Normal score (quick test) assignments, comprehensive evaluation by exams.

Normal points are 30%, tasks are 30%, and exams are 40%.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

地球科学概論Ⅰ

糸倉 正展

授業コード：A3412 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：「地球科学概論Ⅰ」の受講者は原則として秋学期授業/Fallの「地球科学概論Ⅱ」も連続して受講し、1年を通じて受講すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球は生きていると言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか、またどのような理（ことわり）で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や津波の予測について説明し、地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらう。

【到達目標】

我々が住む地球がどのように生まれ、我々の祖先となる生物がどのように進化してきたのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論による地震のメカニズムなど、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地球科学に関するニュースに接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業においてリアクションペーパーや課題レポートを提出することで、授業内容の理解度が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として14回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のテーマの説明と評価法などについて説明する。
第2回	宇宙の中の地球	宇宙論の変遷、太陽系の成因論、地球のでき方について説明する。
第3回	地球の構造	地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るか説明する。
第4回	地球に働く力	地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第5回	プレートテクトニクス1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第6回	プレートテクトニクス2	プレートテクトニクスの研究の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第7回	地球誕生からの歴史	地球誕生46億年の歴史を生命の進化とともに説明する。
第8回	地震の基礎1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。
第9回	地震の基礎2	地震のメカニズム、予測に関する様々な観測などを説明する。
第10回	地震の基礎3	地震予知情報に関する説明を行う。
第11回	グループワーク（地震）	地震予測をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第12回	津波1	津波発生のしくみ、津波の高さの定義について説明する。
第13回	津波2	過去の津波災害や津波堆積物について説明する。
第14回	グループワーク（津波）	津波災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から宇宙や地球、地震、火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは適宜紹介する。

【参考書】

西本昌司「改訂新版 地球のはじまりからダイジェスト-地球のしくみと生命進化の46億年」合同出版
http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=487
泊次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容 戦後日本の地球科学史」東京大学出版会
<http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html>
糸倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>
大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版
<http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518>

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10%）。
全14回（予定）の授業のうち2/3以上の出席およびレポート提出をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは積極的に参加する者とそうでない者の差があり、前者の負担が大きくなるという意見があった。そこでなるべく少人数でそれぞれの顔が見える形にすることや、ディスカッションテーマもなるべく広く関心が持てる内容を設定することを目指している。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にアンケート（クリッカー）を行うので、ノートPCやタブレット端末、スマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】

この授業はグループワークの班分けの都合から受講定員は80名程度とし、第1回の授業において80名以上の受講希望者がいる場合は選抜を行う。選抜方法は学習支援システムを通じたレポートの提出により採点を行い、可否は第2回授業までに教員より連絡する。また地球科学概論Ⅰの受講者は原則として秋学期の地球科学概論Ⅱも連続して受講し、1年を通じて受講すること。本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関や自治体等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course outline]
The ground motion of earthquakes and volcanic eruptions in the Japan Islands are giving a real sense of the living earth. This course explains how the earth has appeared and evolution, and how the earth's actions work from the point of view of solid earth science. Also, this course explains the forecast of earthquakes and tsunamis and ask them to understand the possibilities and limitations of earth science to contribute to society.

[Learning Objective]

The goal of this course is to understand how the Earth we live on was created, how our ancestors evolved, global phenomena such as tides and magnetic fields, earthquakes and volcanic eruptions based on the theory of plate tectonics, and various other events related to the Earth. In addition, students will be exposed to news related to earth science regularly, and acquire an attitude of knowing the latest situation in science beyond the scope of the textbook. Students will be evaluated on their understanding of the class content by submitting reaction papers and assignment reports every week.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to collect information on recent topics related to space, earth, earthquakes, and volcanoes, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet, and use this information to prepare reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).
Only those who attend and submit a report more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

地球科学概論Ⅱ

穴倉 正展

授業コード：A3413 | 曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：この授業は原則として春学期授業/Springの「地球科学概論Ⅰ」から連続して受講するもの以外は受講を認めない。
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球表層の気圏、水圏・地圏それぞれで生じる現象は、我々人類に様々な影響を与えている。地殻変動や火山活動とそれが生み出す資源、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすとともに、様々な恵みをもたらしている。本講義では地球科学概論Ⅰにおいて学んだ知識を基礎として、これらの自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題について議論をしていく。

【到達目標】
我々が目にする山や川、海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解し、地球のシステムを知って自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解することを目標とする。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業において出される課題に答え、また感想・質問を書いて提出することで、授業内容の理解度が評価され、論理的な思考能力と表現能力が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。
毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。
提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として14回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	地殻の様々な動き 1	最初に秋学期の講義全体の内容について説明。 後半は観測でわかる緩急様々な様式の地殻変動を紹介する。
第2回	地殻の様々な動き 2	地形や生物に記録された過去の地殻変動を紹介する。
第3回	火山 1	火山の種類や噴火メカニズムなどについて説明する。
第4回	火山 2	破滅的巨大大噴火や火山災害に関する説明を行う。
第5回	グループワーク（火山）	火山災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第6回	大気と海洋	大気と海洋の構造、表層や深層の循環などについて説明する。
第7回	気候変動 1	10万年スケールで繰り返してきた氷期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。
第8回	気候変動 2	歴史的な気候変動や現在の地球温暖化について考える。
第9回	グループワーク（気候変動）	気候変動をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第10回	侵食と堆積 1（山・斜面）	地球表層で生じる外的作用としておもに山の侵食を司る斜面移動について説明。
第11回	侵食と堆積 2（河川）	地球表層で生じる外的作用としておもに川の侵食と堆積および水害について説明。
第12回	侵食と堆積 3（海岸・海底）	地球表層で生じる外的作用として海岸の侵食・堆積について説明。
第13回	グループワーク（気象災害）	気象災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

第14回 地球科学と防災教育 地球科学の防災教育上の意義と社会的貢献について説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
津波、地殻変動、気候変動、水害・土砂災害、資源などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめるクセをつけること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

【参考書】
杉村 新「大地の動きを探る」岩波書店
<https://www.iwanami.co.jp/BOOKS/11/7/1151980.html>
穴倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>
矢守克也「巨大大災害のリスク・コミュニケーション 災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房
<http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html>

【成績評価の方法と基準】
1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10%）。
全14回（予定）の授業のうち2/3以上の出席とレポート提出をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業中の私語が気になるという意見があった。注意喚起を徹底したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業中にアンケート（クリッカー）を行うので、ノートPCやタブレット端末、スマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】
この授業は原則として春学期の地球科学概論Ⅰから連続して受講するもの以外は受講を認めない。
本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関や自治体等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。
教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Phenomena occurring in the atmosphere, hydrosphere, and geosphere of the earth surface give human various influences. Crustal deformation, volcanic activity and related resources, global climate change, and the accompanying local erosion and sedimentation bring us not only disasters but also various blessings. Based on the knowledge of the lecture in the spring semester, this lecture explains the mechanism of such phenomena and also discusses associated disasters and their issues.

[Learning Objective]
The goal of this course is to help students understand that the mountains, rivers, and coastal landscapes we see are shaped by both internal and external forces, as well as by human actions, and to help them understand the relationship between geological phenomena and natural disasters by developing an understanding of the Earth's systems and an eye for nature. In addition, students will be exposed to news about natural disasters and disaster prevention measures regularly and will learn to think about the relationship between earth science and society. Students will be required to answer the questions and write down their impressions and questions in each class to evaluate their understanding of the class content, as well as their ability to think logically and express themselves.

[Learning activities outside of classroom]
Students are expected to collect information on recent topics related to volcanic eruptions, crustal movement, climate change, floods, and landslides, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]
1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).
Only those who attend and submit a report more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

自然環境論**福與 直人**

授業コード：A3417 | 曜日・時限：月4/Mon.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模および地域的な環境変動に焦点を当て、自然環境に関する基礎的な知識を学ぶことを目的とします。過去の環境変動から現代の環境問題までを縛らずに抽出し、持続可能な未来に向けた課題を考察します。これにより、現代社会における環境問題を多角的に理解する能力を養います。

【到達目標】

過去の地球環境変動についての基礎知識を理解できる。
 現代の環境問題とその背景を説明できる。
 持続可能な社会に向けた課題について論述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、毎回スライドを投影します。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらいます。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。
2	地球環境変動の基礎	地球環境の変動要因とその影響について概説する。
3	地球の物質循環	地球環境における物質循環について概説する。
4	過去の環境変動の復元方法	過去の地球環境をどのように復元するのか学ぶ。
5	世界の環境変動(1)	陸域を中心とした過去の地球環境の変動について学ぶ。
6	世界の環境変動(2)	海域を中心とした過去の地球環境の変動について学ぶ。
7	日本列島の環境変動	日本列島における過去の環境変動について学ぶ。
8	環境変動と人類社会(1)	環境変動と人類社会との関わりについて、世界史的な観点から学ぶ。
9	環境変動と人類社会(2)	環境変動と人類社会との関わりについて、日本的な観点から学ぶ。
10	人的要因による環境変動	近代以降の事例を中心に、人為的に引き起こされた環境変動について学ぶ。
11	現代の環境変動	現在も進行している環境変動について学ぶ。
12	地球環境の将来予測と対策	地球温暖化を中心に、環境変動の将来予測とその対策について学ぶ。
13	人新世とはなにか	「人新世」と呼ばれる時代区分について概観する。
14	最終試験とまとめ	最終試験を行い、授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの授業内容を復習し、授業で習った内容に関連することを自ら図書館やインターネットで自分なりに調べて、理解を深める努力が必要です。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目に従い、評価を行います。

平常点：10%

毎回のリフレクションペーパーによる評価：40%

期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

文系理系問わず、また高校時代に地理や地学を履修していない学生も歓迎します。

【Outline (in English)】**Course Outline**

This course focuses on global and regional environmental changes, providing students with foundational knowledge about the natural environment. By examining past environmental changes and modern environmental issues, students will develop a multifaceted understanding of current environmental challenges and explore pathways toward a sustainable future.

Learning Objectives

By the end of this course, students should be able to:

Understand the fundamental knowledge of past global environmental changes.

Explain the background and causes of current environmental problems.

Critically analyze and discuss challenges for achieving a sustainable society.

Learning Activities Outside of Classroom

Before and after each class, students are expected to review the course materials and independently research topics related to the lecture content using library resources or the internet. Students should dedicate at least 2 hours of preparation and review for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be calculated as follows:

Class participation: 10%

Reflection papers: 40%

Final examination: 50%

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

世界地誌（1）

倉光 ミナ子

授業コード：A3443 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オセアニアの中でも、とくにあまり知られていない島嶼地域を取り上げて、豊かな自然環境を含めた地域の成り立ち、その歴史的な変容、そして、現代における地域の特徴を学ぶ。それらを通して、日本に隣接しながらあまり知られていない広大なオセアニア地域への関心を養うことを目的とする。また、授業を通して、最終的にはオセアニアに関わらず、世界地誌の基盤となるであろう海外地域研究に携わるために必要な基礎的な知識を身につけること目指していく。

【到達目標】

講義を通して、具体的には1）オセアニアの土着社会・文化にはどのような特徴があるのか、2）オセアニアの土着社会・文化は西洋との出会いにより、どのように変容したのか、そして、3）現代のオセアニア地域の特徴や課題にはどのようなものがあるのかという3点について理解することを目指す。それらを通して、最終的には海外地域研究に携わるときに必要な視点を身につけることも目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントを利用して、講義形式で進める。授業単位認定に回によっては、映像を使用した学習も行う。また、全体通して、3回はどグループワークを行う。なお、リアクションペーパーなどはその内容やタイミングに応じて、授業中あるいは学習支援システムのいずれかで収集し、そのフィードバックも状況に応じて授業中あるいは学習支援システムのいずれかを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業の内容と授業評価の説明 ・地誌学と地域研究の関係
第2回	オセアニアの自然環境	オセアニア全体の自然環境の特徴を概観する。
第3回	オセアニアの成り立ち	ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアの地域区分の成り立ちを概観する。
第4回	土着の世界観	ポリネシアを事例に、西洋との接触前の島々の世界観を学ぶ。
第5回	土着の社会システム	島嶼社会のもともとの社会システムの特徴を学ぶ。
第6回	西洋人の来訪	何を目的として、西洋人がオセアニアにやってきたのか。そして、それがどのような影響を及ぼしたのか概観する。
第7回	ハワイ諸島の変貌①	西洋との接触の影響をハワイ諸島を事例に学ぶ
第8回	ハワイ諸島の変貌②	ハワイ諸島における日本人の移民の歴史からオセアニアと日本の関係を学ぶ
第9回	南洋群島①	ミクロネシアにおける歴史的な変貌を学ぶ。
第10回	南洋群島②	日本による南洋統治とその第二次世界大戦中の経験を映像から学ぶ。
第11回	現代のオセアニアへ	グループワークを通して、現代のオセアニアの島嶼社会が抱える問題を考える。
第12回	環境問題	オセアニアにおける環境問題を取り上げる。
第13回	国際移動のある生活	サモア諸島を事例に、日常生活にある国際移動を考える
第14回	試験とまとめ	期末試験（60分） 総括（40分）を予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【事前学習】

授業前に授業のアウトラインと示したワードファイルや参考文献を学習支援システム（Hoppii）に掲載します。ワードファイルを概観し、授業の流れを予習しておいてください。参考文献が掲載されたときは必ず読んできてください。

【事後学習】

授業後には授業で使ったパワーポイントをPDFにして学習支援システムに掲載します。PDFを見ながら復習し、その回のリアクションペーパーを作成し、期日までに提出してください。
※本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

・石森大知・黒崎岳大（2023）『ようこそオセアニア世界へ（シリーズ地域研究のすすめ 4）』昭和堂。
・山本真鳥（2023）『オセアニアの今—伝統文化とグローバル化』明石書店。
・熊谷圭知・片山一道（2010）『オセアニア（朝倉世界地理講座15）』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

1）平常点（グループワークへの参加、リアクションペーパーなどの提出率と内容）60％
2）期末試験40％

1）と2）に基づき総合的に評価する。

なお、平常点のみで単位認定に必要な最低得点に達する可能性もあるが、期末試験の受験は単位認定上の必須条件とする（未受験の場合は単位を認定しない）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。授業前に配布する簡易ワードファイルは、必要な人はダウンロードしてパソコンに入れて持ってくるか、印刷して持ってきてください。

授業中にパソコンが必要な場合は事前の授業で連絡します。

【その他の重要事項】

受講者の人数により、内容と授業方法に変更がある場合があります。変更がある場合は初回の授業で説明しますので、履修を考えている人は必ず初回の授業に参加してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】We will focus on island regions in Oceania and learn about the origins of these regions, including their rich natural environments, their historical transformations, and the characteristics of these regions in the modern era. Through this, we aim to foster an interest in the Oceania region, which is adjacent to Japan but not well known. In addition, through the course, we will ultimately aim to acquire the basic knowledge necessary to engage in overseas area studies, regardless of whether it is in Oceania or elsewhere.

【Grading Criteria】

1) Regular points (participation in group work, submission rate and content of reaction papers, etc.) 60%
2) Final exam 40%

The final grade will be based on a comprehensive evaluation of 1) and 2).

It is possible to reach the minimum score required for credit based on regular points alone, but taking the final exam is a necessary condition for credit (if you do not take the exam, you will not be awarded credit).

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

世界地誌（2）

小原 文明

授業コード：A3444 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学とは、特定の地域の様々な事象について、有機的な繋がりを持って体系的かつ総合的に考え、理解する学問です。本科目では北米各国・各地域の歴史・文化や産業、都市の発展に焦点を当てて授業を行っていきます。とりわけ、国境を越えて展開される産業（アグリビジネス、製造業など）について学びます。

【到達目標】

本科目を通じて、世界における北米地域の位置づけや同地域の産業の展開を理解することができるようになります。また、本科目では、北米地域の地誌についての知識を修得するだけでなく、それら諸事象について体系的・総合的に考察する力を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、北米地域全体の自然環境や人口分布、世界における位置づけ、アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの関係性などについて学びます。それらを踏まえて、各国の歴史・文化や産業などについて考えます。そして最後に、都市ならびにエスニックマイノリティ（日本人）に焦点を当て、都市・都市圏構造や都市開発、エスニックビジネスなどについて考えていきます。

なお、小レポート課題等のフィードバックは次回以降の授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／北米の概略①	授業の進め方／自然環境
第2回	北米の概略②	人口分布／アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの関係性
第3回	アメリカ合衆国の地誌①	歴史・文化／人口
第4回	アメリカ合衆国の地誌②	産業①：農業の展開
第5回	アメリカ合衆国の地誌③	産業②：工業の展開
第6回	カナダの地誌①	歴史・文化／人口
第7回	カナダの地誌②	産業①：農業の展開
第8回	カナダの地誌③	産業②：工業の展開
第9回	メキシコの地誌①	歴史・文化／人口
第10回	メキシコの地誌②	産業：農業の展開
第11回	メキシコの地誌③	産業：工業の展開
第12回	北米における都市発展	都市・都市圏／都市システム／都市開発
第13回	北米における日本人	エスニックタウン／エスニックビジネス
第14回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内外でレポート課題（授業外課題・小レポート課題等）に取り組んでもらいます。また、授業で紹介する参考文献については、自主的に読むことを求めます。

なお、本科目の授業外学習（レポート・準備・復習時間）は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業レジュメや資料はこちらで作成・準備し、配布します。

【参考書】

・飯野正子・竹中 豊編著（2010）：『現代カナダを知るための57章』明石書店。
・飯野正子・竹中 豊編著（2012）：『カナダを旅する37章』明石書店。
・小塩和人・岸上伸啓編（2006）：『朝倉世界地理講座―大地と人間の物語―13 アメリカ・カナダ』朝倉書店。
・国本伊代編著（2011）：『現代メキシコを知るための60章』明石書店。
・坂井正人・鈴木 紀・松本栄次編（2007）：『朝倉世界地理講座14 ラテンアメリカ』朝倉書店。
・田辺 裕監修（1997）：『図説大百科世界の地理1・2 アメリカ合衆国Ⅰ・Ⅱ』朝倉書店。
・田辺 裕監修（1999）：『図説大百科世界の地理4 中部アメリカ』朝倉書店。
・田辺 裕・竹内信夫監訳（2008）：『アメリカ ベラン世界地理体系17』朝倉書店。
・日本カナダ学会編（2009）：『はじめて出会うカナダ』有斐閣。

・モンテス、クリスティアンほか（2018）：『地図で見るアメリカハンドブック』原書房。
・矢ヶ崎典隆編（2011）：『世界地誌シリーズ4 アメリカ』朝倉書店。
・矢ヶ崎典隆（2010）：『食と農のアメリカ地誌』東京学芸大学出版会。
・矢ヶ崎典隆ほか編著（2003）：『アメリカ大平原―食糧基地の形成と持続性―』古今書院。
・吉田栄人編著（2005）：『メキシコを知るための60章』明石書店。
・その他の参考文献については、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30％、期末試験：70％。それぞれの事象の背景や要因、結果について総合的かつ論理的に考える力を重視します。なお、期末試験は論述形式の筆記試験を行います。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが、多くの資料・データを提示することで、受講生自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

【Outline (in English)】

This course introduces the regional geography of the north American counties to students taking this course. The goals of this course are to be able to understand the basic geographical concepts and points of view, to analyze the causes, processes, influences and interrelationships of various phenomena of the area, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 4 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

世界地誌 (3)

小寺 浩二

授業コード：A3445 | 曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地理学において、系統地理学と並び重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。まず、世界の中のアジアを理解し、つぎに、アジアの個々の地域について概観する。講義を踏まえて、具体的な地域を選定して自然誌を作成し、地誌を記述する上での技術についても学ぶ。

【到達目標】

わが国と地理的にもっとも近いアジアの自然と、そこに暮らす人々の生活を理解する。気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴を中心とした「自然誌」の理解を前提に、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

アジア全体の概観から各諸地域、個別の国の地誌を講義する。古くからの資料を活用しながらも、最新の研究成果なども紹介し、古くて新しいアジアの現況を示す。また、具体的なデータなどから、自ら理解する工夫なども行い、「地誌の記述」についての理解も深めるよう指導する。毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要・ガイダンス	講義の概要と授業の進め方について説明。
第2回	アジア総論 (1)	アジアの特殊性についての概要。
第3回	世界の中のアジア概観	
第4回	アジア総論 (2)	アジアの地理的位置・地質構造・大位置・地質・地形
第5回	アジア総論 (3)	アジアの代表的な河川・湖沼と気候の特徴。
第6回	アジア総論 (4)	アジアの植生の特徴と、地域区分を理解。
第7回	東アジア (1)	中国と台湾
第8回	東アジア (2)	中国と台湾以外の東アジアについて。
第9回	東南アジア (1)	インドシナ半島の自然環境と諸国について。
第10回	東南アジア (2)	東南アジアの島嶼国について。
第11回	南アジア (1)	南アジア全域とインドの概要。
第12回	南アジア (2)	スリランカ・パキスタン・バングラディッシュ・ネパールなど。
第13回	中央アジア (1)	中央アジア全域とウズベキスタン・カザフスタンの概要。
第14回	中央アジア (2)	キルギスタン・タジキスタン・トルクメニスタンなど。
第15回	西アジアの概要	イラン・イラク・サウジアラビア・トルコなど。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

普段からアジア全体の動きに注目し、テレビのニュースや新聞の記事には、つねに問題意識を持つようにしてほしい。特に復習に力を注いで頂きたい。毎回の講義に対して、予習・復習をそれぞれ2時間、小レポートに関しては3時間程度、最終レポートに関しては、数時間以上は時間を確保して取り組むことが望ましい。

【テキスト (教科書)】

多田文男(1972)：『世界地誌Ⅰ(アジア)』,法政大学通信教育部,291p.
古い教科書であるため、新しい情報は、講義の度にプリントなどで紹介する。

【参考書】

小寺浩二 (2020)：『自然地理学概論 (1)』,法政大学通信教育部,294pp.
河野通博編(1991)：世界地誌ゼミナールⅠ『新訂 東アジア』,大明堂, 242p.
岩田慶治編(1972)：世界地誌ゼミナールⅡ『南アジア』,大明堂,212p. など。講義の度に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み・課題・試験による総合評価。取り組み3割、課題3割、試験4割を原則とするが、その他小テストなどを行う場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

課題についての説明を、わかりやすく詳しく行い、積み上げ型の学習の価値を理解し効果的に取り組めるようにする。情報を、できるだけ、最新のものに更新し、時事的な内容についても触れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学・GISを用いた地域解析
<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

Even during understanding an important basis of "topography science" as well as systematic geography in a geography, an Asian topography in detail as a target area of the world topography and a wide area topography is learned and it's learned about a description method as various regional characteristics and the topography. First Asia in the world is understood and it next is surveyed about each Asian area.

Understand the nature of Asia, which is geographically closest to Japan, and the lives of the people who live there. Based on the understanding of "natural magazines" focusing on the characteristics of various natural environments such as climate, topography, vegetation, and water environment, we will also understand cultural and social characteristics and learn how to write geographies.

Lectures on regional geography of each region and individual country from an overview of Asia as a whole. While utilizing old materials, it also introduces the latest research results and shows the current state of old and new Asia.

In addition, we will also devise ways to understand ourselves from specific data, etc., and instruct them to deepen their understanding of the "description of the geography".

In each lesson, write a summary of the lesson, questions, etc. in the attendance book and submit it, and comment on the contents in the next lesson.

In addition, we will ask you to submit a small report and a final report, evaluate each, and explain the ideal report based on the model answer. I would like you to keep an eye on movements throughout Asia and always be aware of problems in TV news and newspaper articles. Please pay particular attention to the review.

For each lecture, it is desirable to secure 2 hours for preparation and review, 3 hours for small reports, and several hours or more for the final report.

Comprehensive evaluation based on class initiatives, assignments, and exams. In principle, 30%of efforts, 30%of tasks, and 40%of tests are conducted, but other quizzes may be conducted.

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

自然地理学特講（3）**丸本 美紀**

授業コード：A3453 | 曜日・時限：金4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、気候変動の歴史と気象災害について扱います。近年、地球温暖化により増加している日本の気象災害を取り上げ、これらの現状と要因について、地理学の観点から学んでいきます。また、これらを通して、地理学における気候学の研究方法や役割についても考えていきます。

【到達目標】

1. 気候変動と気象災害の関連とそのメカニズムについて理解することができる。
2. 地球温暖化に対して、どのような気象災害が起こるのかを予測し、行動することができる。
3. 地理学、気候学の理解に繋げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各回、パワーポイントで講義を行い、ミニレポートを授業内に提出してもらいます。提出してもらったミニレポートは翌授業以降にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要紹介
第2回	気候学の研究方法①	地理学における気候学の役割
第3回	気候学の研究方法②	量的研究（観測と気象データなど） 質的研究（気候地名、古気候など）
第4回	気候変動の歴史	気圧配置ごよみ 過去の気候変動と気候復元方法
第5回	中世気候異常期①	中世気候異常期の気候と気象災害
第6回	中世気候異常期②	平安時代の気象災害 貞観時代の自然災害
第7回	地球温暖化の現状	地球温暖化の現状と要因
第8回	地球温暖化と異常気象	異常気象、気象情報 気象災害の構造
第9回	地球温暖化と気象災害①	地球温暖化と猛暑
第10回	地球温暖化と気象災害②	地球温暖化と集中豪雨
第11回	地球温暖化と気象災害③	地球温暖化と台風
第12回	地球温暖化とその他への影響①	地球温暖化と雪、海氷など
第13回	地球温暖化とその他への影響②	地球温暖化と生物、農業への影響
第14回	まとめ 試験	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
 天気予報やインターネット、テレビ、新聞等、身近な気象・気候の情報に関心を持ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。毎回、資料を配布します。

【参考書】

各回の講義内で紹介します

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、授業内ミニレポート（平常点）+レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

防災士の資格を生かして、防災の観点も取り入れて授業を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course deals with climate change and climatic disasters in Japan. And we will consider the significance of climatology in geography. At the end of the course, students are expected to understand histories of climate change and climatic disasters in Japan. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

HUG300BF (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学特講 (1)

小田 宏信

授業コード：A3455 | 曜日・時限：月5/Mon.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

産業立地論と産業集積論をベースにした経済地理学の主要な関心事について、基本的な考え方と研究事例を紹介します。これを通じて、地理的見方、考え方を培い、地理学の立場から現代の経済社会をみつめる一助とします。

【到達目標】

1. 経済地理学の視点から、地域の発展と変容のメカニズムを理解できる。
2. 産業立地論と産業集積論の基本を理解できる
3. 産業立地と経済発展の関わりについて理解できる。
4. 地理学の観点から現代社会を見つめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オーソドックスな講義形式の授業です。

学習支援システムを通じた小課題の提出をお願いする予定です。フィードバックは授業時に口頭で、もしくは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	産業立地論の基本概念——距離と拡がり	産業活動にとつての距離と拡がりについて考えます。 →テキスト：序章、第1章1節
第2回	産業立地論の古典(1)——チューネンの農業立地論	チューネン理論の意義について考えます。 →テキスト：第1章2節(1)
第3回	産業立地論の古典(2)——ウェーバーの工業立地論	ウェーバーの工業立地論について輸送費指向論を中心に紹介します。 →テキスト：第1章2節(2)
第4回	産業立地論の古典(3)——クリスタラーの中心地理論	中心地論の基本的な考え方を学びます。 →テキスト：第1章2節(3)
第5回	集積と外部経済の理論	ウェーバー、マーシャルやヴァーノンの古典的理解を中心に、産業集積論の基本的な考え方を学びます。 →テキスト：第1章3節、第10章1節
第6回	グローバル化のなかでのローカリゼーション——ICTおよびコンテンツ産業を中心に	グローバル化の中で、ローカルなものもつ役割について考えます。 →テキスト：第5章2節(1)、第7章2節(3)、第10章2節(1)、第13章
第7回	工業分散と企業内地域間分業——前グローバル化期までの日本を事例に	工業立地の分散と企業内地域間分業について、事例を通じて考えます。 →テキスト：第1章3節(2)、第5章1節
第8回	グローバル生産ネットワークの形成——対外直接投資と多国籍企業の事業展開	直接投資の理論を紹介するとともに、日本の自動車メーカーを事例に、海外展開の実際を紹介します。 →テキスト：第5章2節3節、第11章
第9回	グローバルな商品流動と商品連鎖	グローバルな商品連鎖が途上国の発展の道筋に与える影響を考えます。 →テキスト：第6章
第10回	新興国の工業化と大都市問題	東南アジアを事例に工業化のプロセスを追ひ、それに伴う諸問題を考えます。 →テキスト：第11章
第11回	国民経済の地域間不均衡と都市群システム	地域格差の形成のメカニズムについて考えます。 →テキスト：第2章2節および第9章2節
第12回	大都市の衰退と再生、そして世界都市化	大都市圏のダイナミズムと世界都市化に伴う諸問題を考えます。 →テキスト：第8章および第9章1節

第13回	大都市のものづくり産業	東京を中心に大都市におけるものづくり産業集積の現代的意義を考えます。 →テキスト：第7章2節(4)および第10章
第14回	まとめ	全体を振り返り、到達度を確認します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストを用いて毎回の予習・復習を着実に心がけてください。復習用の課題が出た場合には、それに取り組んで下さい。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020年。

このテキストの、序章、第1章、第2章、第5章、第6章、第7章、第8章、第9章、第10章、第11章、第13章の部分を扱います。

【参考書】

経済地理学会編『キーワードで読む経済地理学』原書房、2018年。

小田宏信『現代日本の機械工業集積』古今書院、2005年。

竹内淳彦・小田宏信編『日本経済地理読本(第9版)』東洋経済新報社、2014年。

貝沼恵美・小田宏信・森島清『変動するフィリピン』二宮書店、2009年。

杉浦芳夫編『空間の経済地理』朝倉書店、2004年。

青山裕子ほか(小田宏信ほか訳)『経済地理学キーコンセプト』古今書院、2014年。

菊地俊夫・小田宏信編『東南アジア・オセアニア』朝倉書店、2014年。

加賀美雅弘編『ヨーロッパ』朝倉書店、2019年。

矢ヶ崎典隆ほか編『グローバルゼーション』朝倉書店、2018年。

サクセニアン、A. (山形浩生・柏木亮二訳)『現代の二都物語』日経BP、2009年。

サクセニアン、A. (酒井泰介訳)『最新・経済地理学』日経BP、2008年。

フロリダ、R. (井口典夫訳)『クリエイティブ都市論』ダイヤモンド社、2009年。

【成績評価の方法と基準】

平常時の小課題(60%)と最終の到達度確認テスト(40%)より評価します。

【学生の意見等からの気づき】

最初の方は抽象的でイメージしにくい部分もあるかも知れませんが、徐々に具体的な話になってきますので、しばらくご辛抱ください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

配布プリントは毎回、A4で4ページないし8ページ分をお渡しします。ファインリングすると、小冊子となりますので、整理を心がけてください。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to economic and industrial geography. Topic areas include economic globalization, spatial distribution of industrial sectors, multinational corporations, regional economic development, and illegal economic activities.

The goals of this course are to understand the impacts and effects of industrial location on regional economic growth and decline.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

Final grade will be calculated according to the following process in-class report (60%) and term-end examination (40%).

HUG300BF (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学特講 (3)

松井 圭介

授業コード：A3457 | 曜日・時限：月1/Mon.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地理学とは、人間の営む生活文化の諸特性について、とくに環境との相互作用から考える学問である。なかでも文化地理学は、人間と場所との関わりに強い関心を有してきた。人間は所与の環境条件の制約のもと、場所を資源として利用してきた。その結果、人間生活には多様な地域性が生み出されてきたといえる。本講義において受講生は、ある場所が特別な意味をもち、価値づけがなされ、商品化されていくプロセスに関する講義を通して、人間による場所に働く力へのダイナミズムを理解することを学ぶ。なかでも文化の商品化をめぐる現状と課題について、講義と事前事後学習を通して、理解を深めていくことが期待される。なお講義で取り上げるトピックスについては、履修者の関心にも留意したうえで決定する。

【到達目標】

本講義では次の3段階の達成目標を設定する。

第1段階：受講生はまず初めに、文化地理学・人文地理学の学説史の流れを理解することが求められる。古典理論(20世紀初頭)から現代の潮流(21世紀)を学ぶことを通して、履修者は文化地理学的なモノの見方・考え方の基礎を修得する。

第2段階：複数の具体的なトピックスに関して、文化地理学研究の具体的な内容紹介を通して、受講生は場所の政治学にかかわる文化地理学的な知の営みの一端を理解することが期待される。

第3段階：以上を通じて受講生は、文化地理学に関わる批判的・創造的思考力、文化的現象の分析力、文化的課題への対応力などに関わる知識や思考様式を身につけることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、対面講義を主に必要に応じて、オンデマンド教材(講義)を活用しながら進める。対面講義については、教員による説明が主となるが、オンデマンド教材を活用した講義においては、テーマに沿った文献調査やリアクションペーパー作成が求められる。提出されたリアクションペーパー等のフィードバックを対面講義で行いながら、講義内容の理解を深化させていく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに・Introduction	オリエンテーション(本講義の目的と概要)を説明、文化地理学の枠組み(地理学の見方・考え方)
第2回	文化地理学の展開(1)	文化地理学の古典理論(文化生態・文化伝播・文化景観など)
第3回	文化地理学の展開(2)	現代地理学への道(計量主義・新しい文化地理学の勃興)
第4回	景観と環境から読み解く地域社会(1)	ケーススタディ：五箇山・白川郷の集落景観と地域生態①
第5回	景観と環境から読み解く地域社会(2)	ケーススタディ：五箇山・白川郷の集落景観と地域生態②
第6回	文化景観をめぐるポリティクス(1)	文化遺産をめぐる場所のポリティクス
第7回	文化景観をめぐるポリティクス(2)	都市景観にみる権力と政治性①
第8回	文化景観をめぐるポリティクス()	都市景観にみる権力と政治性②
第9回	世界遺産と宗教ツーリズム①	インバウンドツーリストは熊野古道に何を求めるのか？
第10回	世界遺産と宗教ツーリズム②	なぜキリシタンが観光資源化されるのか？ 長崎におけるカトリック
第11回	世界遺産と宗教ツーリズム③	なぜキリシタンが観光資源化されるのか？ ホスト地域の観光動態と戦略
第12回	世界遺産と宗教ツーリズム④	キリシタンの資源化はいかになされたのか？ 世界遺産への動き 教会を訪れる人びと
第13回	世界遺産と宗教ツーリズム⑤	キリシタンの資源化はいかになされたのか？ 創造される聖地巡礼
第14回	世界遺産と宗教ツーリズム⑥	場所の商品化は何をもたらすのか？ 信仰か観光か 持続可能なツーリズムとは

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受講生は準備学習として、関連文献の探索・精読や地域情報の収集を行う。各授業回ではリアクションペーパー・小課題の提出が求められるので、授業内容の復習とともに宿題作成を授業時間外に行う。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

松井圭介(2017)：『観光戦略としての宗教-長崎の教会群と場所の商品化』筑波大学出版会。

山中 弘編(2013)：『宗教とツーリズム』世界思想社。

竹中克行ほか(2009)：『人文地理学』ミネルヴァ書房。

森 正人・中川 正(2022)：『文化地理学ガイダンス(改訂版)』ナカニシヤ。講義の中で必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートもしくは筆記試験(50%)および講義終了後に提出させるリアクションペーパー・小課題(50%)の比率で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目(授業担当者変更)のため、アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

シラバス作成時点では、全授業を対面講義で実施する予定であるが、感染症の状況や教員の都合などにより、オンライン(オンデマンド)講義になる場合がある。その時には、講義中に周知する。

【Outline (in English)】

Geography is the study of the characteristics of human life and culture, especially in terms of their interaction with the environment. Cultural geography, in particular, has been strongly interested in the relationship between humans and places. Human beings have used places as resources under the constraints of given environmental conditions. As a result, we can say that a variety of local characteristics have been produced in human life. In this course, students will learn to understand the dynamism of human power over places through lectures on the processes by which places take on special meaning, are given value, and are commodified. In particular, students are expected to deepen their understanding of the current situation and issues surrounding the commodification of culture through the lectures and pre and post-lecture studies. The topics to be covered in the lectures will be determined based on the interests of the students.

Students are expected to search for and read relevant literature and collect information on the region as preparatory study. Students are required to submit a reaction paper and a small issue in each class session, so they should review the contents of the class and prepare homework assignments.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The evaluation will be based on the ratio of the end-of-term report or written exam (50%) and the reaction paper or small issue (50%) to be submitted after the lecture.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

文化地理学 (1)

吉野 裕

授業コード：A3482 | 曜日・時限：火1/Tue.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は地理学分野のひとつである「文化地理学」をテーマにしています。文化地理学の研究対象は、たとえば、都市や集落の景観、言語、宗教、衣食住、社会集団、世界観（人々の空間のとらえ方）など非常に多様です。この授業では文化地理学の学問上の位置づけや、これがどのようなテーマで研究されてきたか、研究史にもふれながら紹介していきます。その際に、文化地理学の研究がいかなる方法・資料を用いて行われてきたかについても具体的に説明します。みなさんはこの科目を履修することにより、文化地理学の研究上の視野が極めて広く、なおかつ、その研究手法が非常に多様であることを深く理解できるでしょう。

【到達目標】

- ①文化地理学の学問上の位置づけとその研究史について説明できる。
- ②文化地理学の視点でなされた研究の特徴、ならびに、その研究方法について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業形態：講義。
- ・毎回、リアクションペーパー（成績評価に使用します）に授業に関する質問・意見を記載し、これを提出していただきます。
 - ※質問・意見に関するフィードバックを次の授業で行います。
- ・毎回、資料を配付します。インターネットを通じての配布・配信はいたしませんのでご注意ください（欠席された場合は、翌週、お声がけ下さい）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講上の注意事項と文化地理学の学問上の位置づけを確認しよう
第2回	文化地理学の歴史①	環境論とは何か？
第3回	文化地理学の歴史②	多様化する研究の視点
第4回	文化地理学の研究とその方法とは？	海外でのフィールドワークの紹介
第5回	「地域のとらえ方」について学ぼう①	等質地域と機能地域から地域構造を把握しよう
第6回	「地域のとらえ方」について学ぼう②	「農作物の世界的な旅」から分布が形成される仕組みを把握しよう
第7回	「地域のとらえ方」について学ぼう③	メンタルマップ・知覚と行動
第8回	「地域のとらえ方」について学ぼう④	好きな空間と嫌いな空間
第9回	文化地理学の研究の紹介①	言語
第10回	文化地理学の研究の紹介②	風土に根ざした生業・生活文化
第11回	文化地理学の研究の紹介③	宗教と人口
第12回	文化地理学の研究の紹介④	民俗
第13回	文化地理学の研究の紹介⑤	ジェンダー
第14回	試験・総括	試験の実施と授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業で学修した専門用語の定義を地理学の事典などで調べる。
- ②授業内容に関する図書などを探し、これらを読んで知識を獲得する。毎回、授業の前後に上記①・②の準備学習・復習を行って下さい（合計4時間を毎回の標準とします）。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

- ・森 正人・中川 正『文化地理学ガイダンス 改訂版』ナカニシヤ出版、2022年（第1版）。
- ・高橋伸夫・田林 明・小野寺 淳・中川 正『文化地理学入門』東洋書林、1995年（第1版）。
- ・千葉徳爾『文化地理入門』大明堂、1991年（第2版）。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業内テスト:第14回の授業時に試験を実施します(70%)。
 - ②授業参画度:毎回、リアクションペーパーに授業に関する質問・意見などを記載して提出していただきます。その内容をもとに授業の理解度を評価します(30%)。
- 上記の①・②をもとに、成績を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに記載いただいたご質問・ご意見をふまえて授業を進めて参ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

- ①非常勤講師につき、オフィスアワーの設定はありません。授業の前後に質問や書類へのサイン・受け取りなどに対応しますので、お声がけ下さい。
- ②やむを得ない事情で授業形式を変更したり、休講したりする場合、大学LMSの「文化地理学 (1)」のページを通じてお知らせいたします。重要な情報を見逃さないようにご確認ください。

【Outline (in English)】

- ・Course outline: The objective of this course is to understand the methods of study on cultural geography, and to obtain wide knowledge of it.
- ・Grading Criteria /Policy: By the end of this semester, students will be able to explain the methods of study on cultural geography, and regional characteristics originated in nature, culture, economy, population, and so on.
- ・Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant books and dictionaries. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
- ・Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, reaction papers: 30%

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

文化地理学 (2)

川添 航

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文化地理学の対象と手法をさまざまなトピックから学ぶ。受講生が文化地理学を身近なものに結び付けて考察できるようになることを目的とする。

【到達目標】

文化地理学のさまざまな知識や概念、方法を学び、文化地理学の深層を理解できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

文化地理学に関連する教科書をもとに、文化地理学のさまざまなトピックを学ぶ。授業末にコメントシートの作成を指示することがあるため、必要に応じて作成・提出すること (次回以降の授業時にフィードバックを行うことがある)。高等学校等で使用していた地図帳を持参することがのぞましい。あわせて、授業ノートを準備すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：地理学における「文化」	文化地理学とは？
第2回	文化地理学の展開①：環境と景観	環境決定論と環境可能論
第3回	文化地理学の展開②：自然環境の変化と人間活動	自然環境の変化と人間活動の影響
第4回	文化地理学の展開③：文化と地域	「地域」という考え方と人間活動
第5回	文化地理学の展開④：人間の知覚とメンタルマップ	メンタルマップが示すもの
第6回	文化地理学の展開⑤：文化と都市・農村関係	都市と農村における文化とその結びつき
第7回	文化地理学の展開⑥：文化の政治学 (ポリティクス)	政治と環境・地域・景観
第8回	文化地理学の展開⑦：文化地理学の調査手法	文化地理学に関連する地域調査の方法
第9回	都市の文化地理：都市構造の転換と祭礼	都市と環境・地域・景観
第10回	ものづくりの文化地理：伝統的工芸品の流通と消費	伝統工芸と環境・地域・景観
第11回	観光の文化地理①：観光と環境・地域・景観	観光と環境・地域・景観
第12回	観光の文化地理②：観光資源としての文化	観光資源の創出と環境・地域・景観
第13回	宗教の文化地理①：宗教と環境・地域・景観	宗教現象と環境・地域・景観
第14回	宗教の文化地理②：現代社会と宗教の変化	現代社会と宗教との結びつき

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストとともに各回授業では参考文献を提示するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで準備学習・復習等に臨んでほしい。また、受講時に作成したノートや授業動画を見直し、講義の内容について復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は指定しない。参考文献については授業内で適宜指示する。

【参考書】

森 正人・中川 正(2022)：『文化地理学ガイダンス [改訂版]』(ナカニシヤ出版) ¥2,400
中俣均編(2011)：『空間の文化地理』(朝倉書店)¥4,180
竹中克行・大城直樹・梶田 真・山村亜希編(2009)：『人文地理学』(ミネルヴァ書房) ¥3,000
高橋伸夫・田林 明・小野寺 淳・中川 正(1995)：『文化地理学入門』(東洋書林) ¥2,500

【成績評価の方法と基準】

平常点 (コメントシートなどの内容、参加態度で評価) (20%)、期末レポート (80%) で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

可能な限り文化地理学 (1) を履修したうえで登録・履修してほしい。授業の進み具合や受講者数により授業計画を変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need 2hours. Final grade will be decided based on the exam and class participations. Grading will be based on regular points (based on the contents of comment sheets, etc., and participation attitude) (20%), and the final report (80%).

GEO300BF（地理学 / Geography 300）			第4回		乾湿風化プロセスと粘土鉱物	乾湿風化プロセスと粘土鉱物について説明する。 【事前学習】大谷石について調べておく。(2時間) 【事後学習】粘土鉱物の特徴をノートに整理する。(2時間)
自然地理学特講（1）			第5回		塩類風化プロセスと微地形形成	塩類風化プロセスと微地形形成について説明する。 【事前学習】塩類について知識を得ておく。(1時間) 【事後学習】タフオニと塩類風化の関係をノートに整理し、関連文献をもとにレポートを作成する。(3時間)
藁谷 哲也			第6回		凍結風化プロセスと周氷河地形	凍結風化プロセスと周氷河地形について説明する。 【事前学習】周氷河地形について調べる。(2時間) 【事後学習】凍結風化プロセスと地形変化についてノートに整理する。(2時間)
授業コード：A3500 曜日・時限：月4/Mon.4 春学期授業/Spring・2単位 配当年次：3・4年			第7回		シーティングおよび生物の物理的風化プロセス	シーティングおよび生物活動由来の風化プロセスについて説明する。 【事前学習】インゼルベルクについて調べておく。(2時間) 【事後学習】生物風化の事例をノートに整理する。(2時間)
その他属性：〈優〉			第8回		化学的風化プロセスおよび溶食地形	化学的風化プロセスおよび溶食地形について説明する。 【事前学習】カルスト地形について調べる。(2時間) 【事後学習】鉱物の科学的風化の順位を整理する。(2時間)
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			第9回		風化殻の形成と発達	風化殻の形成と発達について説明する。 【事前学習】土壌化のプロセスについて調べる。(2時間) 【事後学習】風化とマスマーブメントの関係を整理する。(2時間)
一般に、地形変化が生じる前に地形を構成する物質（地形物質）は、風化プロセスによる強度低下を起こす。強度低下によって、地形はより侵食されやすくなる。侵食プロセスが進むためには、風化による地形物質の強度低下（劣化）は不可欠である。このことから、風化プロセスは地形変化の準備段階として重要な意味を持っている。この講義で学生は、さまざまな風化プロセスとそれらのメカニズム、地形変化との関係性について学習し、地形変化に関する理解を深めることができる。			第10回		風化制約環境と運搬制約環境	気候と風化プロセスおよび風化制約環境と運搬制約環境について説明する。 【事前学習】気候区分図を地図帳で確認する。(2時間) 【事後学習】風化制約の地形変化を整理する。(2時間)
【到達目標】			第11回		岩石の風化速度	岩石の風化速度について説明する。 【事前学習】石造文化財の劣化について調べる。(1時間) 【事後学習】風化速度の特徴を整理し、指定文献をもとにレポートを作成する。(3時間)
学生は、地形変化の仕組みに風化作用がかかっていることや身近に豊富な事例のあることが説明できる。地形の形成・変化と岩石の風化プロセスの関連性について、いくつかの事例をもとに説明することができる。また、講義を通じて得た経験や学修から得られた豊かな知識と教養を基に、自己の倫理観を倫理的な課題に適用することができる。入手した客観的な情報を基に、論理的・批判的な思考をすることができる。			第12回		石造文化財の保存・修復に対する風化研究の貢献	カンボジア・アンコール遺跡に☒られる風化プロセスを例に風化研究の貢献を説明する。 【事前学習】アンコール遺跡についてインターネットで調べる。(2時間) 【事後学習】アンコール遺跡の風化の特徴を整理する。(2時間)
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			第13回		組織地形と岩石制約論	組織地形と岩石制約論について説明する。 【事前学習】地形変化と風化の関係をまとめる。(2時間) 【事後学習】風化プロセスについて整理する。(2時間)
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連						
【授業の進め方と方法】						
授業は講義形式で進める。パワーポイントのスライドや配布教材をもとに説明し、グループワーク、レポート作成やテスト等も適宜実施する。授業に対する質疑応答、およびテスト・レポート等の課題に対するフィードバックは、いずれも教室あるいは学習支援システムを通じて行う。						
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes						
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No						
【授業計画】 授業形態：対面/face to face						
回	テーマ	内容				
第1回	ガイダンス	講義のテーマや到達目標および講義の方法について説明する。 【事前学習】シラバスを事前に確認し、地形学の学習内容を確認する。(2時間) 【事後学習】学習支援システムの教材を復習し、不明箇所を参考資料から調べる。(2時間)				
第2回	地形を構成する岩石の物性	地形構成物質の物理的・化学的性質を説明する。 【事前学習】地形学実験のテキストを確認する。(2時間) 【事後学習】岩石物性についてノートに整理する。(2時間)				
第3回	熱風化プロセス	熱疲労と熱衝撃破砕について説明する。 【事前学習】乾燥地域の分布をノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】岩石の熱破砕についてノートに整理する。(2時間)				

第14回 試験・総括

期末試験を行うとともに、これまでの学修内容の解説を行い、授業の理解を深める。

【事前学習】第1回から第13回までの講義内容を復習する。(2時間)

【事後学習】試験内容を振り返り、学修課題を見つける。(2時間)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画の各回ごとに記載。事前に、授業計画に示した講義テーマに関する基礎知識を参考図書やインターネットなどから得ておくこと。また、講義後は質問や参考資料などで疑問点を解消し、講義内容をノートにまとめること。これら事前、事後の準備学習（予習、復習）には1回につき4時間以上かかると想定されます。

【テキスト（教科書）】

使用しない。講義資料を配布します。

【参考書】

松倉公憲 『地形変化の科学－風化と侵食－』 朝倉書店 2008年 第1版

松倉公憲 『地形学』 朝倉書店 2021年

上記を推薦します。その他、講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内テスト:授業内で実施し、評価します(50%)。

授業参画度:授業中の質問に対する取り組み、回答、レポート、およびグループワークの成果などから評価します(50%)。

成績評価は、これらをもとにした総合評価です。

【学生の意見等からの気づき】

隔年開講科目につき、前年度のアンケート結果はありません。一般に自己学習時間が短いようなので、課題を出題して図書館や参考図書の利用を積極的に促したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等では、学習支援システムを利用することがあります。

【その他の重要事項】

授業計画を参考にして、参考書やインターネットなどから授業の前に基礎知識を獲得して準備する。授業後は、講義内容を整理してノートにまとめる。講義内容に対する質問や意見をするようにしてください。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will get an understanding of the different weathering processes, their mechanisms and their relationship to landform changes. Students can explain the involvement of weathering processes in the mechanisms of landform change and the abundance of familiar examples. Students can explain the link between the formation and change of landforms and the weathering process of rocks, based on some examples.

Students are also able to apply their own sense of ethics to ethical issues, based on the wealth of knowledge and education they have gained from their experience and studies through this lecture. They are able to think logically and critically on the basis of objective information obtained.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (40%), term-end examination (50%), and in-class contribution(10%).

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

地理学史

杉山 和明

授業コード：A3513 | 曜日・時限：金5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現代地理学の枠組みを踏まえつつ、地理学史への理解を深めることを目的とする。学術誌の読解を通じて、時代と地域を縦横に行き来しながら、さまざまな地理思想を学んでいく。地理学史のなかでこれまで蓄積されてきた学説や知見を、自らの関心と関連づけて考察できるようになることを目指す。

【到達目標】

地理学史・地理思想の大枠を理解し、それらと受講生自身の地理学的な問題関心とのつながりを主体的に探求できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・まず、地理学史の概要を把握する。次に、一般社団法人 人文地理学会が発行する学術誌『人文地理』の「学界展望（「総説」「学史・方法論）」の読解を行い、さまざまな時代と地域のなかで、固有の地理思想が構築されてきた過程を学んでいく。

・優秀な「小レポート」については講義中に紹介し、さまざまな見解・意見を受講者のあいだで共有していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の対象・課題、進め方、評価方法
第2回	地理学史の見取り図（1）	古代・中世の地理思想、近代地理学の成立、現代地理学の体系
第3回	地理学史の見取り図（2）	日本における地理学の成立と展開
第4回	学史（1）	『人文地理』62巻3号
第5回	学史（2）	『人文地理』63巻3号
第6回	学史（3）	『人文地理』64巻3号
第7回	学史（4）	『人文地理』65巻3号、66巻3号
第8回	学史（5）	『人文地理』67巻3号、68巻3号
第9回	学史（6）	『人文地理』69巻3号、70巻3号
第10回	学史（7）	『人文地理』71巻3号、72巻3号
第11回	学史（8）	『人文地理』73巻3号
第12回	学史（9）	『人文地理』74巻3号
第13回	学史（10）	『人文地理』75巻3号
第14回	まとめ	これからの地理学に向けて、重要事項の復習・確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。
・提示された資料を事前に読んで内容を十分に理解しておくこと。未知の語句については自主的に調べておくこと。
・「小レポート」（200字以上）を毎回執筆し、講義後2日以内に学習支援システムを用いて提出すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。

【参考書】

・人文地理学会編 2013.『人文地理学事典』丸善出版。
・日本地理学会編 2023.『地理学事典』丸善出版。

・野間晴雄ほか 2022.『ジオ・パルNEO 地理学・地域調査便利帖』海青社。

・森 正人 2021.『文化地理学講義—〈地理〉の誕生からポスト人間中心主義へ—』新曜社。

・Couper, P. 2014. A Student's Introduction to Geographical Thought. SAGE Publications.

・Cresswell, T. 2013. Geographic Thought: A Critical Introduction. Wiley-Blackwell.

・Holt-Jensen, A. 2018. Geography: History and Concepts. SAGE Publications.

※その他、参考文献・資料は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・毎回提出する「小レポート」を一つにまとめた「最終レポート」（95%）を中心に、「自己紹介レポート」（5%）の内容も踏まえう

えで、総合的に判断する。

・「小レポート」は計9回以上の提出を必須とする。

・「最終レポート」は3,000字以上を必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のフィードバックから得られた知見をもとに、次の授業を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

・資料配布・課題提出のために学習支援システムなどを活用する。
・視認性・一覧性に優れた情報機器（ノート型PCなど）を必ず持参すること。

【その他の重要事項】

講義計画に従って進める予定だが、進行の具合、時事問題への言及などに応じて、順序や同一テーマの回数を変えることがある。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the history of geography, while keeping in mind the framework of contemporary geography. Through the reading of academic journals, students will learn about various geographical thoughts as they move vertically and horizontally between different ages and regions. The course aims to enable students to consider the theories and findings accumulated so far in the history of geography in relation to their own interests.

(Learning Objectives)

The aim is to understand the broad outlines of the history of geography and geographical thought, and to be able to actively explore the connections between these and the students' own geographical concerns.

(Learning activities outside of classroom)

・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・Please read the materials provided in advance and make sure you fully understand the content. If there are any unfamiliar words, please look them up on your own.

・Please write a "short report" (200 characters or more) each time and submit it using the learning support system within 2 days after the lecture.

(Grading Criteria /Policy)

・The final report (95%), which is a compilation of the short reports submitted each time, will be the main factor in the overall assessment, along with the content of the self-introduction report (5%).

・It is compulsory to submit a total of at least 9 short reports.

・The final report must be at least 3,000 characters long.

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

心理学概論

福田 由紀

授業コード：A3601 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることが本授業の目的です。それにより、日常生活において心理学的な見方が身につくでしょう。また、法政心理で学べる心理学分野の概略が理解できます。さらに、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①心理学の基礎知識が身につく。
- ②心理学的な見方ができる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します!」の持参してください。また、Hoppiiを通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、心理学的な見方	授業の進め方の説明、心理学的な見方とは
第2回	感覚・知覚	知覚の特性、視覚システムの特徴
第3回	行動の形成	遺伝－環境論争、人間の行動の特徴
第4回	学習理論とその応用	古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習
第5回	記憶とその変容	ワーキングメモリ、記憶の変容
第6回	読むことと書くこと	文章の理解と産出
第7回	思考	問題解決、人の思考のクセ
第8回	自己意識の発達、心の理論	自己意識の発達、心の理論
第9回	動機づけ	動機づけの機能と種類、ストレス
第10回	認知発達	ピアジェ・ヴィゴツキー・情報処理理論的な考え方
第11回	集団の中の個人	集団の圧力、研究の倫理的な問題
第12回	帰属過程	帰属理論、帰属のバイアス
第13回	性格	性格の記述の考え方、性格測定法
第14回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて、短い宿題が出ます。授業前にHoppiiから提出して下さい。

- 第1回 錯視を体験する。
- 第2回 ヒトの行動の形成に影響する要因を考え、書く。
- 第3回 自動的に行っている日々の行動を省察する。
- 第4回 自分の記憶術を振り返る。
- 第5回 行間を理解することを体験する。
- 第6回 覆面算と水がめ問題を体験する。
- 第7回 中間テストの準備を行い、自己評価する。
- 第8回 日常のストレス状態を省察する。
- 第9回 保存課題を体験する。
- 第10回 一人きりで一日を過ごせないことを省察する。
- 第11回 他者の行動の帰属を推測する。
- 第12回 性格テストを体験する。
- 第13回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

* 受講した授業の内容に関して、小テストをHoppiiを通じて行います。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学要論-こころの世界を探る- 改訂版」福田由紀編 培風館 2010年

【参考書】

適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

「工夫していた」8割超、「授業を受けてよかった」が約8割と回答してくれました。ありがとうございます！主に1年生が受講している授業です。法政大学では100分授業。高校までよりかなり長いですね。そのために、授業を2ないしは3分割して、そこまでのまとめを自分で書いてもらう活動を入れています。その活動に関する自由記述です。「まとめの時間が個人的には非常に有意義な学習時間だった。単純に講義を受けるだけでは、先生のわかりやすい説明を聞いてさもわかったかのような気分になって終わってしまうが、まとめを自分の言葉でまとめ、記述することで、自身の理解度を客観性を持って理解することができた。」このように、まとめの時間を入れることは学習効果がありそうなので、続けていきますね。

【その他の重要事項】

大学の授業では、高校までの授業とは異なり、科目担当者の専門性に反映した内容が取り上げられます。そのため、類似した科目名であっても重点が置かれている内容が異なります。例えば、ILAC科目には「心理学I/II（100番台）」、「心理学LA/LB（200番台）」、総合科目「人間行動学A/B（300番台）」、教養ゼミI/II「心理的ウェルビーイングを考えるA/B（300番台）」などがあります。それぞれの科目担当者の先生は、以下の通りです。

* 宇野カオリ先生担当：ポジティブ心理学

* 櫻井登世子先生担当：発達心理学（特に児童心理学）

* 浅川希洋志先生担当：フロー理論、臨床心理学、文化心理学

シラバスの内容をよく読んで、履修可能性年次も考慮しつつ、自分の興味にあった科目を選択して下さい。

また、本授業は、様々な分野を抱えている心理学全般に関する入門的内容になっています。そのため、授業の中で、心理学科に置かれている2年次以降に履修できる基礎科目や専門科目を紹介します。特定の授業回で興味を持った場合には、それらの科目を受講してください。

【教員の実務経験】

- ・小学校国語教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム 2014年10月21日－2017年2月14日
- ・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces psychology.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about psychology
- B. broaden their perspectives form psychology
- C. take memos while hearing
- D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

心理学史

矢口 幸康

授業コード：A3602 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では心理学の歴史を学びます。心理学が独立した学問として認められたのはまだ120年ほど前のことであり、それからさまざまな変遷がありました。現在の心理学を当たり前のものと考えずに、人々が人間のこころや行動について考えるとはどういうことかをさらに深く理解するために、心理学の歴史と前史を学びます。

【到達目標】

この心理学史を受講することで、心理学の流れを理解することができます。19世紀後半にまず欧米の大学で心理学を学ぶことが可能になりましたが、なぜその時代にならないと学べなかったのかを理解するために、まず19世紀までの前史を学びます。そのあとで心理学における20世紀の3大潮流を学び、「心理学の世紀」と呼ばれた20世紀の展開を学びます。これらの知識から、なぜ今の心理学が統計学や実験方法を使う一方で、個人の主観的な言説をデータとして利用しているのかについて理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを利用した講義が中心です。心理学史において有名な人物は必ずしも他の授業のなかで登場するわけではないので、そういう人々の生涯も含めて説明します。パワーポイントの資料はhoppiiに事前に掲載するので、授業を欠席した人も内容を事後に確認することができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	心理学史を学ぶ意義と、心理学史の方法論について
第2回	心理学誕生前史	19世紀哲学・医学・生物学が心理学へ与えた影響について
第3回	近代心理学の始まり・展開	ドイツにおける心理学の誕生と展開について
第4回	アメリカにおける心理学の展開	アメリカにおける大学心理学の展開について
第5回	日本における心理学の展開	日本における大学心理学の展開について
第6回	社会における心理学の展開	20世紀初頭の社会において心理学が果たした役割について
第7回	20世紀の3大潮流(1)行動主義	行動主義の誕生と展開について
第8回	20世紀の3大潮流(2)精神分析	精神分析の誕生と展開について
第9回	20世紀の3大潮流(3)ゲシュタルト心理学	ゲシュタルト心理学の誕生と展開について
第10回	第3勢力の台頭(1)認知心理学	認知心理学の誕生と展開について
第11回	第3勢力の台頭(2)人間性心理学	人間性心理学の誕生と展開について
第12回	戦争が心理学に与えた影響	第一次・第二次世界大戦が心理学研究に与えた影響について
第13回	臨床心理学の展開	心理学研究成果の社会還元について
第14回	まとめと振り返り	授業内容の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は「心理学概論」の内容を理解していることを前提としています。それでも授業のなかで知らない概念が出てきた場合には、復習して理解してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。各回資料PDFはHopiiで閲覧可能です。

【参考書】

サトウタツヤ・高砂美樹 2022 流れを読む心理学史【補訂版】 有斐閣
アルマ
高砂美樹 2021 心理学史はじめての一步（改訂電子版） アルテ

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

1年生の受講科目だと思って油断していると、上級生でも単位を落とすことがあります。他学部の履修者にも心理学の基礎知識を要求しますので、それを理解したうえで受講してください。

【学生が準備すべき機器他】

使う予定の資料（PDF）はHoppiiにあげておきますので、適宜、事前に自分でダウンロードして教科書代わりに使用してください。

【Outline (in English)】

The lectures on the basic history of psychology, including Japanese one, are given. The students are supposed to understand the background and the transition of trends of psychology from the late 19th to the end of the 20th century after the whole lectures. The slides to be used in the lectures can be obtained through Hoppii to prepare for better understanding. The grading criteria: 80%final exam, 20%attendance with small tasks.

By taking this course in the history of psychology, you can understand the flow of psychology. It was not until the late 19th century that it became possible to study psychology at universities in the West, but in order to understand why it could not be studied until that era, we first learn the prehistory up to the 19th century. After that, we learn about the three major trends in psychology in the 20th century and the development of the 20th century, which was called the “century of psychology”. From this knowledge, you can understand why current psychology uses statistics and experimental methods, while also utilizing individual subjective discourse as data.

This course assumes that you understand the content of “Introduction to Psychology.” Even so, if unfamiliar concepts emerged during the course, please review and understand them. The standard time for the preparatory study and review for this course was 2 h each.

The grade of this subject was determined by the final examination (100%).

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

脳の科学

木村 健太

授業コード：A3619 | 曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学が扱うさまざまな心の働きについて、脳の科学という観点から基礎的な知見を学びます。脳の構造や機能について学ぶだけではなく、心理学の中でも脳の科学からのアプローチが盛んなトピックを取り上げて、具体的な研究成果の紹介を通して心の働きと脳の関係性について広く学びます。また、脳の科学が社会においてどのように役立てられているか、産業やサービス、健康分野等における応用例についても学びます。

【到達目標】

- ・心の働きに関わる脳神経基盤を明らかにするための認知神経科学的方法について、それぞれの方法の長所・短所とともに説明できるようになる。
- ・認知や感情などさまざまな心の働きに関わる脳神経基盤の概略について、具体的な研究知見を交えて説明できるようになる。
- ・脳の科学の実社会応用例について説明できるとともに、その制限・課題を理解することで適切な態度（科学リテラシー）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基礎的な知識を学びます。講義はスライドや動画といった視覚教材を活用して実施します。授業中に出される課題への回答や授業に関する疑問・感想を記載したリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業で疑問や感想に対するフィードバックを含めた授業を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や授業目標の確認、心理学で「脳の科学」を学ぶ意義、脳の研究史
第2回	心はどこから生まれるか	神経細胞や神経回路などの脳の仕組みと働き、脳以外の身体の仕組みと働き
第3回	脳を科学する方法	ニューロン活動記録、脳波、脳機能イメージングなどの認知神経科学的な研究方法
第4回	認知する脳	視覚や聴覚を中心とした知覚・認知を支える脳神経基盤
第5回	学び、覚える脳	学習、記憶を支える脳神経基盤
第6回	実行する脳	目標指向行動、実行機能、意思決定を支える脳神経基盤
第7回	感じる脳	恐れや怒りといった感情を生み出す脳神経基盤
第8回	せめぎ合う脳	感情の抑制や制御を支える脳神経基盤
第9回	共存する脳	他者との相互作用や集団行動など社会生活を支える脳神経基盤
第10回	発達する脳	心の発達や社会性の発達と脳の発達の関連性
第11回	脳だけでいいのか？	心の働きと内臓、内分泌、免疫系の生理活動の関連性
第12回	脳の個人差	精神疾患、パーソナリティなどの個人差と脳神経基盤の個人差の関連性
第13回	脳の科学の実社会応用	実社会でのモノづくりやサービスへの脳の科学の応用
第14回	まとめ	授業の復習、授業内容の理解度を確認するためのテスト実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を標準とします。
- ・次回の授業内容について参考図書等を読むなどの事前学習を行ってください。
- ・授業内で解説した脳の科学的知見を、日常の自分や他者の行動に当てはめて考えることが知識の定着のための復習になります。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を配布します。

【参考書】

リタ・カーター（著） 養老孟司（監修）（2022）ブレインブック（原書第3版）
みえる脳 南江堂

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回授業に関係する10分程度の達成度テストを行います。また、期末に試験を行います。
- ・成績評価は達成度テストの実施提出・レポート課題を含む平常点（50％）と期末試験（50％）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・授業の進め方や授業計画、授業目標の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
- ・オフィスアワー：春・秋学期ともに木曜日3限（BT1109研究室）。訪問希望者は、メール（k.kimura[at]hosei.ac.jp）等で前日までに連絡してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will learn basic findings from brain science including cognitive neuroscience research. In addition to the structure and function of the brain, we will learn about the relationship between the brain and the mind through the introduction of specific research results on topics in psychology that have been actively approached from the perspective of brain science. We will also learn how brain science is utilized in society and how it is applied in industry, services, health, and other fields.

(Learning Objectives)

1. To be able to explain the methodology of cognitive neuroscience for clarifying the neural basis of mental functions, along with the advantages and disadvantages of each method.
2. To be able to explain the neural basis of various mental functions, such as cognition and emotion, with specific research findings.
3. We will be able to explain examples of real-world applications of brain science and develop appropriate attitudes (scientific literacy) by understanding the limitations and challenges of these applications.

(Learning activities outside of classroom)

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

(Grading Criteria /Policy)

Final examination 50%in clear contribution 50%including achievement test.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

認知心理学

竹島 康博

授業コード：A3620 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学において人間の認知機能がどのように研究されてきたのかを解説します。この授業を通じて、実験を中心に進められてきた認知心理学という分野の特徴やその研究法について理解することを目的とします。

【到達目標】

人間の感覚情報処理について、主に高次な認知機能に関連した情報処理やその研究手法について理解を深める。人間の感覚情報処理が心理実験を中心に研究されてきた背景を学ぶことにより、物事を科学的に捉える思考力を身に付けることを目指す。期末試験においては、認知心理学における専門用語が理解できているか、基礎的な現象について適切に説明できるかを評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

高次な認知機能に関連した情報処理の内容を中心に講義を進めていく。講義はパワーポイントのスライドや動画といった視覚教材を活用して実施する。また、認知心理学の研究の中で用いられてきた実験手法を体験する機会を設け、学術的な問いに対してどのような手法で解決していくことができるのかについて学ぶことも重視した授業を実施する。各授業の最後に理解度の確認を兼ねてコメントペーパーを提出してもらう。コメントペーパーのフィードバックは毎回まとめて授業資料としてアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の進め方を説明、認知心理学の歴史についての解説
第2回	記憶の機能（1）	物事を記憶する一連の過程や仕組みについての解説
第3回	記憶の機能（2）	記憶したことの忘却や変容の過程についての解説
第4回	注意の機能（1）	情報処理における「注意」の機能についての解説
第5回	注意の機能（2）	視覚的な注意を中心とした注意の研究法についての解説
第6回	感情の機能（1）	感情の経験が生じる過程に関する諸理論についての解説
第7回	感情の機能（2）	感情と注意および記憶といった機能との関連を解説
第8回	感覚情報処理（1）	順応や恒常性といった感覚全般の持つ基本特性について解説
第9回	感覚情報処理（2）	知覚と呼ばれる主観的な経験を可視化する研究方法について解説
第10回	異種感覚間相互作用	異なる感覚情報を統合した知覚の処理についての解説
第11回	感性情報処理	美感を中心とした感性情報処理についての解説
第12回	心的イメージ	心的イメージの機能についての解説
第13回	問題解決と意思決定	問題解決および意思決定の過程についての解説
第14回	授業内試験と全体の総括	全体の総括として、授業内で試験を行ったうえで、その解説を行うことでまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内で紹介した現象について、日常場面に当てはめて考えることを復習として行います。また、関連した内容を参考図書等で自主学習します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

御領謙・菊地正・江草浩幸・伊集院睦雄・服部雅史・井関龍太『最新 認知心理学への招待 [改訂版]——心の働きとしくみを探る——』2016 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーによる授業の理解度の平常点を評価の40%とし、残り60%を学期末に行う授業内試験の成績とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度からコメントペーパーを利用して各回の授業の理解度を確認して、それを平常点の評価に使うようにしました。授業を聞きながらまとめられるスタイルにしたのが学習の補助になったようなので、今年度も同様のやり方で進めていきます。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with human information processes, especially with higher-order cognitive processing.

[Learning objectives]

The goals of this course are to understand psychology of cognition.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (40%) and term-end examination (60%).

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

認知科学入門

田嶋 圭一

授業コード：A3621 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

見る、聞く、言葉を読む、覚える、考える、他者とのかかわるといった日常的に無意識に行われる知的活動を可能にする心の働きを、様々な学問的視点から追究する認知科学について学びます。

【到達目標】

認知科学の歴史と、視覚・聴覚・言語・記憶・推論・社会的認知といった各部門の概略について、各自の具体的な経験などを踏まえて他者に的確に説明できるようにすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また、授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり、授業活動結果をHoppiiに書き込んだりするなど、授業への能動的な参加が期待されます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	シラバスの説明、「認知科学」とはどんな学問か、認知科学が対象とする「知的活動」とはどんな活動か
第2回	認知科学の歴史	心理学の略歴、認知科学の誕生、認知科学の諸分野
第3回	知覚	心への入口としての感覚と知覚、感覚の範囲、物理量と心理量の関係、感覚のしくみと種類
第4回	視知覚	感覚の一般的特性、形の知覚と知覚的体制化
第5回	視知覚と高次認知過程	奥行き知覚、高次知覚過程（パターン認識、トップダウン処理とボトムアップ処理、文脈効果）、顔の表情認知
第6回	聴知覚	音の正体、音の大きさ・高さ・音色の知覚、聴覚情景分析
第7回	中間テスト、視聴覚の統合	選択的注意、音声の知覚、視覚と聴覚の統合
第8回	言語	言語とはどんなものか、言語知識、言語獲得
第9回	記憶	記憶の流れと区分、短期記憶と長期記憶、日常生活と記憶、記憶の変容
第10回	知識	概念やスキーマとしての知識、心的表象（世界を脳内でどのように表現しているか）、命題や文の心的表象
第11回	思考	思考、推論、問題解決
第12回	情動	情動とは、情動と脳、情動を認知するためのメカニズム、情動の変化を定量的に捉える
第13回	社会的認知	社会的認知とは何か、社会的条件の影響、対人認知、認知科学の今後の展望
第14回	期末テスト、授業の総括	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップされた資料を読んだり、動画を視聴したり、授業後に課題に取り組んだり内容を振り返ったりすることで、毎回の授業の予習・復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。レジュメ等の資料を学習支援システム経由で配布します。

【参考書】

行場 次郎・箱田 祐司（編）（2014）『新・知性と感性の心理 ―認知心理学最前線―』福村出版。
北原 義典（2022）『イラストで学ぶ認知科学』講談社。
鈴木 宏昭（2016）『教養としての認知科学』東京大学出版会。

内村 直之・植田 一博・今井 むつみ・川合 伸幸・嶋田 総太郎・橋田 浩一（2016）『はじめての認知科学』新曜社。
大津 由紀雄・波多野 諠余夫（編著）（2004）『認知科学への招待 ―心の研究の面白さに迫る―』研究社。
都築 誉史（編）（2002）『認知科学パースペクティブ ―心理学からの10の視点―』信山社。
大島 尚（編）（1986）『ワードマップ：認知科学』新曜社。

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題25%、中間テスト25%、期末テスト50%の割合で評価する予定です。原則として、正当な理由なく4回を超えて授業を欠席した場合、または期末テストを未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

回答者73名のうち、「履修してよかった」と回答してくれた人が64名（88%）、「理解できた」が61名（84%）、「工夫されていた」が65名（89%）でした。いずれも昨年度とはほぼ同じ割合でした。授業外学習時間については「30分～1時間」が48%で最も多く、次いで「1～2時間」が30%、「ほとんど行っていない」が11%でした。「ペアワークがあったことで、理解できていない部分をお互い補うことができたのでよかった」「教え合いの時間があったため自分で整理しながら相手の話も聞いて補完できた」といった肯定的なコメントをいただきましたが、教え合いに積極的に参加したくない人、一人でのワークを望んでいそうな人もいたようで、大講義だと全員にとって有意義な活動を行うのが難しいと感じています。テスト前の復習用に学習支援システムの課題に再び取り組めるように設定したのですが（ちょっと面倒でした笑）、一定数の人が有効活用してくれました。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces students to cognitive science, an interdisciplinary field that studies the inner workings of the mind, that is, the mental processes that enable people to engage in everyday activities such as seeing, hearing, using language, remembering, thinking, and interacting with others.

[Learning objectives]

Through this course, students should be able to understand and explain based on their own experiences the mechanisms underlying mental processes such as visual and auditory perception, language, memory, reasoning, and social cognition.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

[Grading criteria/policy]

Your overall grade will be determined based on class participation and homework (25%), midterm test (25%), and final test (50%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

発達心理学

渡辺 弥生

授業コード：A3622 | 曜日・時限：火2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は3・4年生です

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質的および量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

【到達目標】

- 心の発達について興味関心を高め、各時期における発達の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで討論したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実際に活かすことができるようになることを目標とする。
- （1）人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
 - （2）人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
 - （3）生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるように視聴覚教材を適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。初回が終わり、受講者数が多いことから2回の仮登録までを履修者として、以降制限する。課題のフィードバックについては、学習支援システムで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	発達ということ	発達理論の枠組みの理解 「発達」が意味することや、研究方法、さらには、主要な理論の存在について認識する。
第2回	胎児の発達	お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期に起きている神秘ともいえる変化について理解する。
第3回	感覚・知覚の発達	見える世界、聞こえる世界の理解：感覚や知覚が年齢とともにどのように変化するのかを理解する。
第4回	感情の発達	泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？：当たり前と考えていたことが、実は明確でないことや、感情のメカニズムについて知る。
第5回	認知の発達	考えることの発達：考えるということの意味や、認知と感情、行動の関係について学ぶ。
第6回	言語の発達	ことばを覚える、ことばを使う：言葉の獲得や言葉の使用など、言葉の発達の様々な側面を理解する。
第7回	親子関係の発達	「ひとりでも泣かないよ」 乳幼児期の親子関係をを中心に、基本的な理論を習得する。
第8回	友人関係の発達	友人関係を築き維持すること：友人関係を築くこと、維持することなど、また、友人関係のトラブルへの対応などについて学ぶ。
第9回	知能の発達	頭が良いとはどういうこと？ 知能の概念や、それをどのように測定するかという点について理解する。
第10回	意欲・動機づけの発達	やる気メカニズム：勉強嫌いや、無気力になってしまう原因などを考え、意欲的に学習するためのメカニズムを知る。

第11回	自我の発達	一生涯続く「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。
第12回	性役割の発達	ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物学的な違いなのか後天的な違いなのか、いくつかの研究から考えてみる。
第13回	道徳性の発達	善悪の判断はどのように育つ？：道徳的な人とそうでない人は、発達の違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。
第14回	発達障害の理解	発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確にしておく。動画教材でポイントは理解し、関連の書籍や論文を読んで、理解を深めたい。わからないことは支援システムなどで質問するようにし、授業後は復習する。予習復習には、各2時間(合計4時間)をかけるようにする。

【テキスト（教科書）】

必ず使用する。
『ひと目でわかる発達心理学』、渡辺弥生・西野泰代 編著（福村出版）2020

【参考書】

『子どもの「10歳の壁」とは何か？ 一乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（光文社）2020
『よくわかる発達心理学』渡辺弥生監修（ナツメ社）2021
『まんがでわかる発達心理学』渡辺弥生監修（講談社）2019

【成績評価の方法と基準】

1回目から必ず出席してください。ミニクイズ10回（正答かどうかによって配点が異なります。提出したから得点になるとは限りません）と課題2回の総合点で評価する。ミニクイズの評価は70%。課題の評価は30%。ただし、成績評価の対象は「ミニクイズを6回以上かつ課題を2つとも締め切り内に提出した人のみ」となります。それ以外の場合は成績を評価しません。また課題の提出ミスなどは考慮しませんが正確に提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の予習および復習をする上でより意欲的に取り組める課題を考える。

【学生が準備すべき機器他】

テキストを持参すること。学習支援システムに入ること。

【その他の重要事項】

学習支援システムに登録すること。初回は必ず出席。

【Outline (in English)】

・ The aims of this course are to understand the flow of research to date and research questions that have been previously clarified, from the viewpoint of lifelong development, including from infancy to elderly.
・ By the end of the course, students are expected to consider how to contribute to society by the researches in this area.
・ Students will be expected to have completed the required assignments before /after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
・ The grade will be based on the total score of 10 mini-quizzes (the points will vary depending on whether the answers are correct or not) and 2 assignments. The mini-quiz will be graded at 70%. The assignment will be graded at 30%. However, only those who submit at least 6 mini-quizzes and both assignments will be graded. Otherwise, no grade will be given.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

教育心理学

福田 由紀

授業コード：A3623 | 曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育心理学とは、教育における人間の営みに関する心理学です。教育心理学は、発達心理学や学習心理学、言語心理学、脳科学などの知見を教育に応用する学問です。毎日、皆さんが通っている「学校」という場を心理学的な観点から紹介していきます。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①教育心理学の基礎的な知識が身につく。
- ②学べる教える関係に関して、心理学的な観点から分析できる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また、Hoppiiを通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・教育心理学とは	授業の進め方の説明，教育心理学の目標・対象・研究法，教育心理学への3つのアプローチ
第2回	円滑なコミュニケーションの実現のために	言語力と心の理解の発達
第3回	教える人と教わる人の関係	友人関係の発達，道徳性の発達
第4回	学習理論・記憶理論とその応用	自己意識の発達，他者理解の発達，円滑なコミュニケーション
第5回	深い理解とは	適応的熟達者，知識のネットワーク
第6回	読み書きからの学習	文章による学習，読解力，書くことの学習
第7回	学校不応適とその予防	いじめのメカニズム，いじめ防止策
第8回	上手に教える1	授業過程，伝統的な教授法
第9回	上手に教える2	最近流行の教授法，素朴概念への挑戦
第10回	上手に学ぶ	メタ認知，学習方略
第11回	知能と認知スタイル	知能検査の結果や認知スタイルを教室に活かす
第12回	学力と評価	最適な評価とテストの組合せとは
第13回	学習障がいとその支援	学習障がい，ADHDなど
第14回	期末テストとその解説，まとめ	期末テストの実施とその解説，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。Hoppiiから提出して下さい。

- 第1回 自分の心の理解の発達と他者の心の理解の発達はどちらの方が早いと思いますか？ それとも同じくらいですか？ その理由は？
- 第2回 一番好きだった先生は、いつのどの教科、あるいは部活の先生でしたか？
- 第3回 記憶の定着は休息すると良くなるのでしょうか？ それとも、睡眠を取ると良くなるのでしょうか？ ヒントはコラム3！
- 第4回 使える知識にするためには、学習者にはどのような工夫が必要ですか？
- 第5回 読書の効用を3つ挙げてください。
- 第6回 生徒同士のいざこざをいじめに発展させないために、どうしたらいいと思いますか？ 自分の意見を書いてください。
- 第7回 どのような形式の授業が一番好きでしたか？
- 第8回 小集団に分かれての授業形式の良い点を2つと悪い点を2つ挙げてください。
- 第9回 添付ファイルを読んでください。記事の中に下線が引かれた部分が2カ所あります。これらは、ある心理学的な概念を活用した具体的な例です。それぞれについて、その心理学的な概念は何でしょうか？
- 第10回 添付ファイルを開いて下さい。標準図形と全く同じ図形を選択図形AからFの中から1つ選んでください。

第11回 テスト以外に生徒・学生の思考力をどのように評価をしたいと思いますか？

第12回 模擬期末試験問題を基礎問題と応用問題の二つを作成して下さい。

第13回 期末レポートの準備を行い、自己評価する。

*受講した授業の内容に関して、小テストを授業支援システムを通じて行います。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「教育心理学」 原田・福田・森山（編） 大学教育出版 印刷中

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

2023年度と2024年度のこの授業は他の先生が担当してくださいましたので、2022年度の授業改善アンケートの気づきを掲載します。

教育心理学の知識や考え方は、教室場面だけではなく、人生の様々なところで役立ちます～という観点から授業をしていました。そのような授業に対して、「心理学的な概念だけではなく、日常にどのように応用できるかという視点から学ぶことができた。過去に自分が受けてきた教育の意図が知れて楽しかった。」とのコメント。嬉しいですね。また、「教材が階層構造でまとまっていたり、様々なイラストを使っていたりして、とても工夫されていて復習しやすかったです。毎回宿題があったので、これも復習に活用できました。」といった授業資料ややり方についてもお褒めのコメント。次回も頑張ります。

【その他の重要事項】

授業のテーマにも記しましたが、教育心理学は応用心理学の一つです。そのために、心理学に対する基礎的な知識が必要です。具体的には、心理学概論といった授業を修得したレベルを考えています。また、授業では、時間の制約のために、基礎知識については扱いません。教科書の指定した箇所は、自分で読んでください。

【教員の実務経験】

- ・小学校国語教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日～2015年3月31日
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム2014年10月21日～2017年2月14日
- ・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日～2023年3月31日

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces educational psychology.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about educational psychology
- B. analyze educational activities in terms of educational psychological perspective
- C. take memos while hearing
- D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

学習心理学

藤田 哲也

授業コード：A3624 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の活動に不可欠な「学習」という現象を、心理学的に幅広く捉え、理解することがこの授業の目的です。単に心理学の知識として授業内容を覚えるのではなく、実際に自分自身の日常生活に応用できるレベルで理解します。そうすることで、自分の生活をより有意義なものにしていくという考え方を身につけます。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。
1. 学習に関する心理学的な現象や理論について、概要を適切に説明すること。
2. 自分自身の日常生活に、学習に関する心理学的な現象や理論をどのように応用可能なかを説明すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

条件づけという基礎的な学習理論から授業を始めますが、動物実験の結果は人間にも当てはまります。次に、主に教育場面における学習活動を客観的に捉え、動機づけや学習方略、メタ認知などについて学びます。また、知識の獲得過程として記憶のしくみの基礎を知り、自分自身の学習活動にも役立て下さい。講義形式の授業ですが、より深い理解を促すために、ペア・ワークなど用いて、受講生が積極的に参加する機会を設けます。同様に、授業内容に関連した簡単な実験や質問紙を通じて、自分自身の学習過程についても見つめる機会をできるだけ提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第2回	古典的条件づけ	〇〇恐怖症の原因
第3回	オペラント条件づけ	報酬と罰の使い分け
第4回	観察学習	暴力映像視聴の影響
第5回	動機づけの基礎	やる気のメカニズム
第6回	動機づけの応用	やる気のコントロール
第7回	記憶の分類	認知活動を支える記憶
第8回	作動記憶・手続記憶	短期記憶と長期記憶
第9回	記憶の理論を活かす	エピソード記憶獲得法
第10回	学習方略	自律的な学習のために
第11回	メタ認知と学習観	認知の認知を客観視
第12回	ここまでのまとめ	振り返りと理解度確認
第13回	レポート回収と解説	自己評価と動機づけ
第14回	授業の総括	到達目標自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、一回の授業で教科書の1章分進み、毎回の授業は、予習をしてあることを前提に行います。「ただ読むだけ」ではなく、内容を把握することを目的意識に持って、予習をしてきてください。深い理解を伴う予習を行うために、毎回「予習シート」を完成させ、授業の二日前までに学習支援システムに提出したうえで授業に臨んでください。また、毎回発行する「授業通信」を読んで、前の週の授業内容を振り返ることも求めます。半期に2回、それまでの授業内容に関する「振り返りシート」に取り組みます。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絶対役立つ教育心理学[第2版] 実践の理論、理論の実践」藤田哲也(編)(2021) ミネルヴァ書房

【参考書】

毎回の授業内容に合わせて、随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。
「大学基礎講座」藤田哲也(編)(2006)北大路書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）…授業の二日前までに予習シートを学習支援システムに提出すること、授業へ出席し積極的にペアワークに参加すること、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することのすべてがそろっている場合に、その授業回分の平常点を付与します。
期末レポート（60％）…授業内容についての基本的な理解と、その授業内容を日常生活に応用できるレベルで理解できているかどうかの両者を主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業改善アンケートから：毎年高い評価を得ているので、授業内容には大きな変更はしませんでした。「履修してよかった」は4.47で及第点といえるでしょう。「理解度」は昨年の4.58から少し下がり4.47でした。これは「授業外学習時間」の最頻値が「週1時間～2時間未満」で47.1%、「2-3時間」は29.4％、3時間を超える人がいなかったことを反映しているかもしれません。自由記述は5名のみでしたが、すべて肯定的な内容でした。予習課題をより実質化して授業内で活用している感覚を高めるためにも、ペアの組み方についても、しっかり効果的なものに促していこうと思います。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。初回はオンラインで行いますが、2回目からは対面形式を予定しています。この授業の運営の仕方それ自身が、学習心理学の教材となっていますので、毎回、積極的に授業に参加することを求めます。ペア・ワークなどの授業内の活動にも心理学的な裏付けがありますし、解説もしていきますので、授業運営の仕方について十分に理解した上で受講するかどうかを決めてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students understand the phenomenon of "learning" necessary for human activities from a psychological point of view.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can properly explain the outline of psychological phenomena and theories related to learning.
- 2.Students can explain how psychological phenomena and theories about learning can be applied to one's own daily life.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to read the textbook and then submit their preparatory sheets. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, report 60%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

言語心理学

福田 由紀

授業コード：A3667 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトが文章を読む時に、どのようなことが頭の中で起こっているか、言語心理学・脳生理学・認知心理学・教育心理学の研究の成果の知識や見方を得ることが目的です。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①言葉を読むときに何が起きているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
- ②言葉の働きについて、心理学的な見方でできる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。適宜、様々な問題について作業をし、その内容を体験したり、グループで討論したりしてもらいます。

また、Hoppiiを通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、言語心理学の研究の対象とその目的	授業の進め方、心的表象の特徴と種類
第2回	言語力の発達	語彙の発達、読み書きの発達の概観
第3回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	言葉を使わないコミュニケーションの難しさの体験
第4回	単語認知に影響する要因	心的辞書、認知に影響する要因、材料を統制するとは？
第5回	処理過程からみた単語認知	ボトムアップ処理とトップダウン処理
第6回	文の理解：曖昧性の解消	ガーデンパス文、作業記憶量
第7回	文章の理解：対象と構成された知識	文章の何を理解するのか、読み手の推論の力
第8回	文章理解に影響する要因1：既有知識	物語文法、物語スキーマ
第9回	文章理解に影響する要因2：既有知識	スクリプト、視点
第10回	文章の理解モデル	状況モデル
第11回	状況モデルの新たな展開1：モデルの深まり	最近の状況モデル研究
第12回	状況モデルの新たな展開2：対象の広がり	メタ認知、自己概念、感情
第13回	状況モデルの新たな展開3：日常生活への応用	広告の作成や教育
第14回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

*次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前にHoppiiから提出して下さい。

- 第1回 モーラの概念を使えるようにする。
- 第2回 コミュニケーションにおける言葉とそれ以外の割合を考え、書く。
- 第3回 類似語を選定する。
- 第4回 規則語と例外語の例を書く。
- 第5回 ガーデンパス文を修正する。
- 第6回 Sacksの実験材料を読み、質問に答える。
- 第7回 桃太郎の物語の要約を書く。
- 第8回 行間を読むとは具体的にどのようなことを指すかを書く。
- 第9回 Morrow et al.の実験材料である地図を記憶する。
- 第10回 文庫本には行間が空いている箇所がある。その理由を書く。
- 第11回 小説を読んだときの体験を書く。
- 第12回 大学案内と車内広告作成におけるポイントを書く。
- 第13回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

*受講した授業の内容に関して、小テストを授業支援システムを通じて行います。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「言語心理学入門－言語力を育てる－」福田由紀編 培風館 2012年

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

「大変工夫していた/工夫していた」が90%越え。「大変理解できた/理解できた」が70%越えてした。様々な学科の人が受講している授業なので、これらの結果は嬉しいです。宿題のFBや小テストがあったために復習がしっかりできたといった声がありました。また、授業内でまとめの時間をとり、その場で自分でまとめたり、確認をする方法が高評価でした。これからも、続けますね。

【その他の重要事項】

【教員の実務経験】

- ・小学校国語教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム 2014年10月21日－2017年2月14日
- ・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日

【実験参加へのお願い】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline：This course introduces various activities of language in terms of psychological perspective.

Learning Objectives：By the end of the course, students should be able to do the following:

- － A. deepen their understanding about psychology of language
- － B. analyze various activities of language in terms of psychological perspective
- － C. take memos while hearing
- － D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom：Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria：Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

行動分析学

熊 仁美

授業コード：A3670 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行動分析学は、“行動の予測と制御”を目指す心理学です。これまで明らかにされてきた行動の法則を学ぶことで、多様な社会の課題や個々の困りごとの解決にも応用が可能です。
行動分析学は、社会や個人にとって重要な課題を行動としてとらえ、その原因を個体ではなく、環境との相互作用に求めていきます。この授業では、そういった行動分析学の基本的な考え方を、障害福祉領域の子どもの支援事例を主に取り上げながら学んでいただきます。
ビデオワークやロールプレイおよび事例研究サポートアプリAI-PAC - LAB.を通じ、行動分析学に基づく介入や記録、分析等の疑似体験を行うことで、理論と応用を往復しながら学びを深めることができます。

【到達目標】
○行動分析学における「こころ」や「行動」の考え方について説明ができる。
○基本的な行動原理（強化、弱化、消去、弁別など）や課題分析、ABC分析、AB分析について、概念や用語を説明できるようになる。
○標的行動を具体的に定義し、測定し、記録し、簡単な分析ができるようになる。
○応用的な支援事例について、行動分析学の概念を使って話し合い、討論できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、障害福祉領域における子ども支援を中心に、保護者や支援者のトレーニングなどを扱います。具体的には、自閉症の子どもへの早期介入、強度行動障害への対応、学齢期のソーシャルスキルトレーニング、ペアレントトレーニングなどです。
授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックはGoogle Class roomで行います。クラスコードは、学習支援システムで共有します。
模擬事例研究の実施時に、AI-PAC LAB. というWEBアプリを活用します。
AI-PAC LAB. https://ai-pac.adds.or.jp/report_users/sign_in
学習支援システム：<https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>
Google Classroom (Google クラス)：<https://classroom.google.com/>
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業内容と方法、約束事を説明します。
第2回	こころと行動の区別	・こころと行動について行動分析の見方を学びます。
第3回	行動随伴性の基礎	・個人攻撃の罠について学びます。
第4回	行動随伴性の基礎	・生得性・習得性好みと嫌子の定義を学びます。
第5回	行動の形成	・基本的な行動随伴性の特に強化と弱化について学びます。
第6回	行動の形成	・課題分析の手法を学びます。
第7回	ABC分析#1	・新しい行動レパートリーを教えるシェイピングを学びます。
第8回	ABC分析#2	・行動の制御変数を見つける機能的分析、ABC分析の手法を学びます。
第9回	AB分析#1	・行動の制御変数を見つける機能的分析、ABC分析の手法を学びます。
第10回	AB分析#2	・オペラントとレスポナントの区別について学びます。情動の条件づけや消去、系統的脱感作法について学びます。
第11回	ABC分析#3	・オペラントとレスポナントの区別について学びます。情動の条件づけや消去、系統的脱感作法について学びます。

第12回	行動観察法	・インターバル記録法とタイムサンプリング記録法について学びます。
第13回	実験計画法	・模擬事例をつかった仮想研究のデータや分析を行います。
第14回	まとめ	・行動分析学の実験計画法について学びます。
		・模擬事例をつかった仮想研究について発表します。
		・行動分析学の考え方のまとめと確認を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げる内容に関連して、予習課題が出る場合があります。最終回までに、模擬事例の研究レポートを作成し提出します。
本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
○『行動分析学入門（第2版）』杉山ら 2023年 産業図書

【参考書】
○『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗 理（著）2014年 ちくま書房
○『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗 理（著）2010年 光文社新書
○『パフォーマンス・マネジメント—問題解決のための行動分析学— 第2版』島宗 理（著）2022年 米田出版
*教科書は第2版を使います。ご注意ください○『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一（著）2016年（改訂版）培風館
○『行動分析学事典』一般社団法人日本行動分析学会（編）、2019年 丸善出版

【成績評価の方法と基準】
○課題の遂行度（60％）およびテストの得点（40％）から成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムやGoogle クラスへのアクセスや課題の作成、提出などにPCやスマホ/タブレットを利用します。

【その他の重要事項】
○本授業では、応用行動分析学の専門家として障害福祉領域での当事者、家族支援、機関コンサルテーション等を提供している担当者が、その経験を活かした講義をします。

【Outline (in English)】
【Outline】
Behavior analysis views important social and individual issues in terms of behavior and seeks to understand their causes through interactions with the environment rather than within the individual. Through video exercises and role-playing, you will engage in simulated experiences of interventions, recording, and analysis based on behavior analysis. This hands-on approach will help deepen your understanding by connecting theory with practical application.

【Learning Objectives】
In this course, you will learn the fundamental concepts of behavior analysis by examining case studies of children receiving support in the field of disability welfare.
【Learning activities outside of classroom】
There may be homework assignments.
By the final round, participants will create and submit a research report on a mock case.
The average preparation and review time for this class is two hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

社会心理学特講

渡辺 弥生、福田 由紀、田嶋 圭一、竹島 康博、木村 健太

授業コード：A3687 | 曜日・時限：土3,4,5（隔週）/Sat.3,4,5（隔週）

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様化、高齢化が急速に進む現代社会においては、わが国の歴史や文化に対する理解を深めながら、広い視野を持ち、自分とは異なる価値観や考え方を持つ他者と共生していけること、すなわち、良識ある公民たることが求められます。

本授業では、現代社会が直面している様々な問題を取り上げ、これに対する心理学からのアプローチを紹介します。

【到達目標】

様々な社会的問題を、1) 先行研究や統計資料などのデータを活用して記述し、2) 多面的、客観的、主體的に考察し、3) 他者との議論を活かしながら、公正な判断を下せるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は変則的な隔週のオムニバス形式の授業として開講します。2～3回の授業時限を1単元とし、単元ごとに1つの社会的問題や課題を取り上げ、これに関連する心理学の研究や実践などについて担当教員が講義します。学生はこれをもとに、自らの考えをまとめ、授業内で討論します。さらに、自らの考えを他者に伝え、他者の考えを積極的に聞く練習をしながら、最終的に単元ごとにレポートを作成して提出します。

レポートの提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
第01回（2025/10/04：対面）対人環境の心理学：講義（竹島）3, 4, 5時限
第02回（2025/10/18：対面）社会への適応を支える心理・生物学的基盤：講義（木村）3, 4時限

第03回（2025/11/08：対面）異文化・言語と心理学：講義（田嶋）3, 4, 5時限

第04回（2025/11/22：対面）共生社会における相互理解と心理学：講義（福田）3, 4, 5時限

第05回（2025/12/06：対面）危機予防の心理学：講義（渡辺）3, 4, 5時限

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	現代社会が直面する問題について概観し、本授業の進め方やレポート課題、成績評価方法などについて説明する。
第2回	対人環境の心理学(1)	「自分の周囲に他者がいる」という対人環境が個人に与える様々な影響について、影響の受けやすさに関連する個人特性も含めて解説する。
第3回	対人環境の心理学(2)	自分の個人特性を理解し、対人環境からの影響の受けやすさを理解した上で、そのような環境下でどのように行動するかを受講生同士で議論する。他者とのインタラクションや集団内での行動の背後にある心や脳のメカニズムについて、研究のアプローチや最新の知見も含めて解説する。
第4回	社会への適応を支える心理・生物学的基盤(1)	人の社会の中での活動を支える心理・生物学的な基盤を理解した上で、個々人の社会への適応のあり方を受講生同士のグループディスカッションを通して考える。
第5回	社会への適応を支える心理・生物学的基盤(2)	言語はなぜ文字通りに伝わらないのか、しゃべっていないのになぜ伝わるのか、言語によって相手や自分にどのように気を配っているか、特に異文化間の違い注目しながら考える。
第6回	異文化・言語と心理学(1)	異文化あるいは同一文化の相手と誤解なくかつ円滑に意思疎通を図るにはどのようにすればよいか、議論しながら考える。
第7回	異文化・言語と心理学(2)	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入手し、レポートを作成する。
第8回	テーマ別調べ学習とレポート作成	

第9回	共生社会における相互理解と心理学(1)	既有知識がある場合と無い場合における相手とのコミュニケーションを体験して、共有された世界を構築するために何が必要なのかを考える。
第10回	共生社会における相互理解と心理学(2)	異文化あるいは同一文化の相手と誤解なくかつ円滑に意思疎通を図るにはどのようにすればよいか、チームで議論し、レポート作成の準備を行う。
第11回	テーマ別調べ学習とレポート作成	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入手し、レポートを作成する。
第12回	危機予防の心理学(1)	いじめ、不審者侵入などあらゆる種類の学校危機に対する予防のあり方をエビデンスをもとに解説する。
第13回	危機予防の心理学(2)	心理的な危機を予防するためにどのようなアプローチやプログラムが可能かを議論し、具体案を作成する。
第14回	テーマ別調べ学習とレポート作成	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入手し、レポートを作成する。必要に応じて講義担当教員へ質問し、最終的にレポートをまとめ、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内にも調べ学習などの時間とっておりますが、単元ごとに提出するレポートの作成には図書館へ行ったり、文献を検索したり、レポートを書く時間を確保しておきましょう。各単元のレポートにかかる時間は各単元ごとの復習6時間とレポート作成6時間の計12時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

参考文献を紹介します（以下は一例です）。

- Chance, P., &Heward, W. L. (2010). Climate Change: Meeting the Challenge. The Behavior Analyst, 33, 197– 206.
- Abrahamse, W., Steg, L., Vlek, C., &Rothenatter, T. (2005). A review of intervention studies aimed at household energy conservation. Journal of Environmental Psychology, 25, 273-291.
- 山崎 勝幸・戸田 有一・渡辺 弥生 (2013). 世界の学校予防教育 金子書房
- Brock, S.E., &Jimerson, S. R. (Eds.) (2012). Best Practices in School Crisis Prevention and Intervention 2nd edition, National Association of School Psychologists.
- 石原 邦雄 (2008). 家族のストレスとサポート 放送大学教育振興会
- 井出 祥子・平賀 正子 (2005). 講座社会言語科学〈第1巻〉異文化とコミュニケーション ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

テーマ別レポート（全5題）をそれぞれ20点満点で採点し、合計得点が満点（100点）に占める割合で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度は未開講でした。

【その他の重要事項】

代表として竹島のオフィシアワーを掲載しておきます。他の教員のオフィシアワーについては各自が担当する授業シラバスを参照して下さい。
○オフィシアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の4限、場所は研究室（富士見坂校舎6階研究室3）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In today's rapidly diversifying and aging society, we need to be sensible citizens, who understand our country's history and culture, have a broad perspective, and can coexist with others who have different values and ways of thinking from our own. The purpose of this course is to learn research-based psychological solutions to various social problems that modern society is facing such as energy consumption, family issues, risk management at schools, communication, and cross-cultural understanding.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to discuss, in their own words, the research-based psychological solutions to today's social issues covered in this class.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to 1) read the materials distributed in class, 2) search and read relevant papers and articles, and 3) write and submit reports. 2 hours of study per class is expected.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the total score of five reports (20%x 5 = 100%).

HUG200BA（人文地理学 / Human geography 200）

歴史地理学（1）

米家 志乃布

授業コード：A3819 | 曜日・時限：水1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：「歴史地理学Ⅰ」を修得済みの場合は履修不可。
・地理学科生は専門科目の選択必修として履修。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史地理学について説明します。2. 日本における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。大学の方針で、対面授業を基本としますが、学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします。授業の効率化のため紙での配布しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明、成績評価の基準など
第2回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第3回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第4回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第5回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第6回	奈良の歴史地理	奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第7回	京都の歴史地理①	都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第8回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造、江戸時代の京都の名所、近代・現代の歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第9回	伏見の歴史地理	豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ
第10回	江戸東京の歴史地理①	江戸の都市構造、江戸の名所について学ぶ
第11回	江戸東京の歴史地理②	東京の都市構造、東京の名所、人々の観光行動の変化について学ぶ
第12回	大阪の歴史地理①	石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ
第13回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義、大阪のまちづくり

第14回 歴史観光都市・観光地の 京都の祇園祭と現在
取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験50%、平常点50%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。ビデオなど映像教材も活用します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認することができるよう、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand and practice about historical geography of heritage and tourism.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end examination:50% and in class contribution:50%

HUG200BA (人文地理学 / Human geography 200)

歴史地理学 (2)

米家 志乃布

授業コード：A3820 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考 (履修条件等)：・「歴史地理学Ⅱ」を修得済みの場合は履修不可。

・地理学科生は専門科目の選択必修として履修。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理

本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀～20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどのようなものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講生のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。大学の方針により、対面授業とします。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します。授業の効率化のため、紙での配布はありません。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明、成績評価基準について
第2回	画像資料を通して地理的認識をめぐる歴史地理学	画像資料の利用方法を中心に、新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	NHKスペシャルを鑑賞する
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題を考える
第12回	千島列島 (クリル諸島)・樺太 (サハリン) の歴史地理	千島列島・樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第13回	現代に生きるアイヌ民族の若者たち	NHKスペシャルを鑑賞する
第14回	日本におけるアイヌ民族の法的地位と文化振興	日本における先住民族政策史をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的状况についておさえる

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト (教科書)】

米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021年、法政大学出版局を使います。授業に持参してください。その他、必要に応じて、適宜資料をPDFファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%、平常点50%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に教科書の記述をもとにパワーポイントで捕捉しながら説明するか、学習支援システムで資料配信します (紙での配布はしません)。随時確認できるように、教科書は対面授業に持参し、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、通年での履修を推奨します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end examination: 50% and in class contribution:50%

GEO100BF（地理学 / Geography 100）

地誌学概論

南 春英

授業コード：A3901 | 曜日・時限：金2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
 備考（履修条件等）：2022年度以前入学生は「地誌学概論（2）（A3409）」を履修する（配当年次は2～4）
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学は地誌学と系統地理学とに大別されます。本講義の到達目標は、講義を通して地誌学のアプローチを理解し、グローバル地誌とテーマ別地誌、比較交流地誌のアプローチを組み合わせる対象とする地域を説明できるようになることです。地域概念について理解し、空間スケールに着目しながら日本および世界の地理的多様性に関する知見を深めます。

【到達目標】

本講義を受講することによって受講者は、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることと、地域を科学的に見ることが出来るよう目指します。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていく。講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布する。スライドやプリントに多くの図や写真などを示すことで、視覚的に理解できるように努める。途中、授業理解の促進のために、DVD等を使用する予定です。

毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらいます。次の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行います。ミニ課題は授業支援システムを通して提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面	イントロ	授業内容の説明
対面	地誌学とは	地誌学の目的とアプローチ
対面	地誌学と国際理解教育	アジアにおける地誌教育
対面	身近な事例	原宿：歴史と若者の街
対面	世界の多様性①	生活と環境
対面	世界の多様性②	世界の食肉文化
対面	グローバル地誌①	現代世界のグローバル化地誌
対面	グローバル地誌②	グローバリゼーションと日本
対面	テーマ別地誌①	中国の多民族と文化の多様性
対面	テーマ別地誌②	中国の都市化と課題
対面	比較交流地誌①	朝鮮半島の文化
対面	網羅累積地誌①	アメリカ合衆国の多様性
対面	地域差①	自然環境と歴史からうまれた北京と上海の住民の省民性
対面	まとめ	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、講義で扱う地域を地図帳などで確認し、基本的な位置関係や地名を確認しておくことが求められます。また、講義中に紹介する文献をよむことを望みます。こうしたことから、各自がそれぞれ2時間以上自ら学ぶことを期待します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

【参考書】

時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱ってきたい。
 可児弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社
 河上税・田村俊和（2009）『日本からみた世界の地域 世界地誌概説』原書房
 菊地俊夫（2011）『日本』朝倉書店
 国立国語院（2006）『韓国伝統文化事典』教育出版
 高井潔司・藤野 彰・曾根康雄（2012）『現代中国を知るための40章』明石書店
 帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域NOW』帝国書院
 帝国書院編集部（2020）『新・世界の国々＜9＞ 世界各地の生活と環境』帝国書院
 藤野 彰（2018）『現代中国を知るための52章』明石書店
 矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店
 立正大学地理学教室（2007）『日本の地誌』古今書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題）：40％、期末試験（持ち込み不可）：60％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

多くの資料・データを提示することで、受講者自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となることを心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces various fundamental knowledge of regional geography to students taking this course. The goal of this course are to obtain fundamental knowledge of various regions and to acquire the ability to generally and systematically consider various geographical phenomena. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (40%), term-end examination (60%)

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学A (1)

小原 丈明

授業コード：A3905 | 曜日・時限：火3/Tue.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は地理学（主として都市地理学、経済地理学、社会地理学）の立場を中心に関係する他分野も踏まえつつ、都市開発について学ぶものです。都市開発がどのような事象に関わって展開されているのか、都市開発にはどのような利点や問題点があるのかなど、都市開発の諸側面について考えていきます。

【到達目標】

本科目を通じて、都市開発に関わる諸事象を題材にして、地理学、とりわけ都市地理学の見方・考え方を修得することを目標とします。また、都市開発を考えるには都市地理学の見方・考え方のみでは不十分であることから、隣接学問分野の考え方や見方も含めて身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は講義形式で行います。まず、都市開発との概念や種類など基本事項の理解に努めます。それを踏まえ、土地利用や土地所有、地価・地代、立地、デベロッパーなど都市開発に関わるさまざまな側面について学び、その上で都市開発の功罪（利点や問題点）などについて考えていきます。

本科目では、授業で扱う内容について受講生自身が考えることを求めます。それゆえ、適宜、授業内課題（小レポート課題）や授業外課題を課すことになるので、積極的に取り組むことを期待します。それら課題のフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／都市開発の概要	講義の進め方／都市開発の基本概念・種類
第2回	土地利用①	都市の水平的拡大／都市的土地利用
第3回	土地利用②	都市の垂直的拡大／高度化・高密度化
第4回	土地所有①	土地所有の変遷
第5回	土地所有②	土地所有者の意思決定
第6回	地価・地代	地価の変遷／都市開発と地価の関係性
第7回	立地と開発①	住宅地の立地・開発
第8回	立地と開発②	マンションの立地・開発
第9回	立地と開発③	業務施設（オフィス）の立地・開発
第10回	立地と開発④	商業施設の立地・開発
第11回	都市再開発①	都市再開発の法制度
第12回	都市再開発②	都市再開発の歴史的展開
第13回	都市再開発③	アクターからみた都市再開発
第14回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示する課題（授業外課題・授業内小レポート課題）に取り組んでもらうことがあります。また、授業で紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。なお、本授業の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

- ・橋川武郎・粕谷 誠編（2007）：『日本不動産業史』名古屋大学出版会。
- ・實 清隆（2008）：『都市における地価と土地利用変動』古今書院。
- ・全国市街地再開発協会編（1991）：『日本の都市再開発史』同協会。
- ・堤 純（2009）：『土地利用変化のメカニズム』古今書院。
- ・松原 宏（1988）：『不動産資本と都市開発』ミネルヴァ書房。
- ・渡辺尚志・五味文彦編（2002）：『土地所有史』山川出版。
- ・その他の参考文献は講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30％、期末試験（持ち込み不可）：70％。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが、多くの資料・データを提示することで、受講生自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

【Outline (in English)】

This course introduces urban developments, especially the advantages and problems of the phenomena from the point of view of geography to students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of urban developments and to acquire the way of geographical thinking.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学A (2)

小原 文明

授業コード：A3906 | 曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（1）（A3426）」として履修する
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、農業や工業、商業、サービス産業、オフィスといった各種産業における立地について学び、考えていきます。各種産業の立地の実態を把握するだけでなく、それぞれの理論についての理解も深めていきます。具体的には、理論についてはチューネンやウェーバー、クリスタラー、マーシャル、スコット、ポーター、クルーグマンなどの理論それぞれについて学ぶだけでなく、各理論間の関係性についても考えていきます。また、具体的な事例を通じて、各種産業の立地や集積の実態についても考えていきます。

【到達目標】

本科目を通じて、各種理論のメカニズムや問題点などについて理解できるようになるだけでなく、各産業における立地や集積の実態について理解が深まるようになることを目標とします。また、各種理論や各産業における立地・集積の実態の問題点について批判的に捉え、自身の意見を提示することができるようになることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は講義形式で授業を行うので、基本的には授業担当者からの話題提供が中心となります。授業のコンテンツはパワーポイントによるスライドの内容、配布資料（レジュメ、図表等資料）、口頭説明からなります。なお、特定の教科書は使用しません。授業においては、適宜、授業内小レポート課題や授業外レポート課題を出します。それらレポート課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／概念整理	授業の狙い・進め方／概念・用語・事象の整理／産業立地論を学ぶ意味
第2回	立地・集積の理論について考える①：チューネンの農業立地論	農業に関する立地・集積の理論
第3回	立地・集積の理論について考える②：ウェーバーの工業立地論1	工業に関する立地・集積の理論／輸送費指向論と労働費指向論
第4回	立地・集積の理論について考える③：ウェーバーの工業立地論2	工業に関する立地・集積の理論／ウェーバーの工業立地論と現代の事象
第5回	立地・集積の理論について考える④：クリスタラーの中心地理論	都市の立地に関する理論／クリスタラーの中心地理論
第6回	立地・集積の理論について考える⑤：レッシュの中心地理論	都市の立地に関する理論／レッシュの中心地理論
第7回	立地・集積の理論について考える⑥：古典的な集積論	マーシャルの集積論／ウェーバーの集積論
第8回	立地・集積の理論について考える⑦：新しい集積論1	スコットの新産業空間論
第9回	立地・集積の理論について考える⑧：新しい集積論2	ポーターの産業クラスター論
第10回	工業立地の実態を考える①：伝統産業	伝統産業の立地の実態
第11回	工業立地の実態を考える②：コンテンツ産業	コンテンツ産業の立地動向・政策の展開・実態（ソフトウェア産業・ゲーム産業・アニメーション産業）
第12回	商業立地の実態を考える	商業（特にチェーンストア）の立地のメカニズム
第13回	オフィス（業務施設）立地の実態を考える	オフィス（業務施設）の立地のメカニズム
第14回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示する課題（授業外課題・授業内小レポート課題）に取り組んでもらうことがあります。また、授業で紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。なお、本科目の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業資料（レジュメ、配布資料等）は授業内で配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30％、期末試験（持ち込み不可）：70％。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの理論や事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の理解度の状況に合わせて授業を進めていきます。

【Outline (in English)】

This course introduces various location theories about agriculture, industry and service industry, and relationship between theories and realities to students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of mechanism about various location theories. Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学B (1)

伊藤 達也

授業コード：A3907 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（2）（A3427）」として履修する
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業ではわが国の水問題を全般的に学び、問題の本質の理解に努めます。

【到達目標】

授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	講義概要と目的の説明をします。
第2回	環境問題を考える	環境とは何か、環境問題とは何かについて説明します。
第3回	環境の中の水資源	水資源の特徴について説明します。
第4回	水資源利用の変遷	水資源利用の変遷について説明します。
第5回	水資源開発の論理	ダム・河口堰による水資源開発の方法について説明します。
第6回	ダム・河口堰による環境問題の発生	ダム・河口堰による水資源開発に伴う環境コストについて説明します。
第7回	ダム・河口堰をめぐる全国の動き	ダム・河口堰をめぐる全国の動きについて説明します。
第8回	公共事業をめぐる状況と住民運動	ダム・河口堰を中心とする公共事業のあり方について説明します。
第9回	「日本は水資源が豊かなか？」	建設省（現国交省）の日本の水資源理解について考えます。
第10回	「日本は水資源が豊かなか？」の答え	建設省（現国交省）の日本の水資源理解について解説します。
第11回	利根川の水問題とハツ場ダム（1）	利根川の水資源問題について説明します。
第12回	利根川の水問題とハツ場ダム（2）	利根川の水資源問題、特にハツ場ダム問題について検討します。
第13回	水資源政策を展望する（1）	わが国の水資源問題の解決策について説明します。
第14回	水資源政策を展望する（2）	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
蔵治光一郎編『長良川のアユと河口堰』農文協 2024年
伊藤達也『水資源問題の地理学』原書房 2023年
伊藤達也・梶原健嗣『長良川河口堰とハツ場ダムを歩く』成文堂 2023年

【成績評価の方法と基準】

期末試験70％、平常点30％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline (in English)】
Course outline

The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in general.
Learning Objectives
The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture. Learning activities outside of classroom
Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each.
Grading Criteria /Policy
The final exam is 70%and the normal score is 30%.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学B (2)

伊藤 達也

授業コード：A3908 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業ではわが国の水問題を中心に個別事例について学び、問題の本質の理解に努めます。

【到達目標】

授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロー水資源問題の様々（地域性）ー	講義概要と目的の説明をします。水資源問題の地域性について考えます。
第2回	ダムと山村	ダムが山村に与えた影響について説明します。
第3回	山村地域への還元策	水源地域への還元策（水源税等）について説明します。
第4回	脱ダム下における五木村の地域再生	熊本県五木村の地域再生について説明します。
第5回	脱ダムにかけた五木村村民の意識	熊本県五木村村民が脱ダムの状況の中でどのような意識にあったかを解説します。
第6回	ダムと環境保全について考える。	2020年の球磨川水害に伴って再燃した川辺川ダム計画について説明します。
第7回	長良川河口堰問題の現在石木ダム問題	長良川河口堰問題の推移と現状を説明します。
第8回	韓国の水辺環境改変事業	韓国のダム・堰問題について説明します。
第9回	石木ダム問題	石木ダム問題について説明します。
第10回	農業用水と地域社会	わが国における農業用水の特徴と地域社会について説明します。
第11回	カッパによる水辺環境保全・地域振興（1）	地域社会とカッパの歴史的関係について説明します。
第12回	カッパによる水辺環境保全・地域振興（2）	現代の地域社会に占めるカッパの果たす役割について説明します。
第13回	カッパによる水辺環境保全・地域振興（3）	カッパによる水辺環境保全、地域振興について説明します。
第14回	水資源問題を解決する	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

蔵治光一郎編『長良川のアユと河口堰』農文協、2024年
伊藤達也・梶原健嗣『長良川河口堰とハッ場ダムを歩く』成文堂、2023年
伊藤達也『水資源問題の地理学』原書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

期末試験70％、平常点30％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることに気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline (in English)】

Course outline

The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in regionally.

Learning Objectives

The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture. Learning activities outside of classroom

Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each. Grading Criteria /Policy

The final exam is 70%and the normal score is 30%.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学C (1)**佐々木 達**

授業コード：A3909 | 曜日・時限：火3/Tue.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済現象は地域性をどのように作り出すかという経済地理学のオーソドックスな枠組みに基づいて、地域社会や地域経済の変容メカニズムについて企画的な方法論を学習することを狙いとする。

【到達目標】

到達目標①：経済地理学の学問的性格を理解する。

到達目標②：地域（社会・経済）の変容メカニズムについて説明できること

到達目標③：産業立地の基本的枠組みを説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

人文地理学は、地球上で展開される人間の諸活動が自然環境や社会環境を反映してどのような地域の特徴を作り出すのかを明らかにする、いわば「輪切りにされた歴史」を把握する学問分野である。本講義は、経済地理学の枠組みから地理の見方や地域の変化を捉える基礎的視点を学習する前半部分と、地域の変化をもたらす産業の在り方や現代的課題を地理学的に考察する後半部分からなる。

授業開始時には、前回のリアクションペーパーに基づいて、講義内容に関する質問や感想について答える。また、講義内容に関する理解度を推し量るために、小問題を課し、回答をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済現象の地域性の解明とは？	経済地理学の基本的な枠組みについて解説する。
第2回	社会科学としての地理学	社会を科学するとは？
第3回	社会的分業と地域の形成①	地域は最初からあるものではなく、作られるものである。
第4回	社会的分業と地域の形成②	資本主義社会の元での地域
第5回	産業立地と地域経済の発展	立地論と地域経済の理論について解説する。
第6回	農業立地論と日本の農業地域	チューネンの農業立地論
第7回	食料供給の地理学	これからも腹いっぱい食べることができるか？
第8回	食のグローバル化はどう進んだか？	グローバル商品としての「醤油」を事例に
第9回	工業立地論と日本の工業地域	ウェーバーの工業立地論
第10回	工業の地方分散と農村工業化	立地論の適用事例
第11回	中心地理論とコンビニの立地戦略	同じ店名のコンビニストアはなぜ向かい側に立地するのか？
第12回	立地競争と日本の商業環境	均衡立地と最適立地
第13回	土地利用を読み解く地図学習の方法	仙台市の交通渋滞の原因は伊達政宗にある！？
第14回	試験とまとめ	試験を実施し、まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から日本経済新聞等に目を通して、社会や経済に関心をもってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

中澤高志『経済地理学とは何か』、旬報社、2021年

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著『経済地理学への招待』、ミネルヴァ書房、2020年

竹中克行編著『人文地理学への招待』、ミネルヴァ書房、2015年

竹内敦彦・小田宏信編著『日本経済地理読本 第9版』、東洋経済新報社、2014年

松原宏編著『地域経済論』、古今書院、2014年

川端基夫『改訂版立地ウォーズ』、新評論、2013年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（50％）、期末試験（50％）に基づいて総合的に成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic framework of economic geography.

【Learning Objectives】 There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understanding the basic characteristics of economic geography.

2. Understanding the mechanisms of regional socio-economic transformation.

3. Understanding the explanation of industrial location theory.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.**【Grading Criteria /Policy】** Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学C (2)

佐々木 達

授業コード：A3910 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（3）（A3428）」として履修する

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、日本経済の地域構造の再編と農業地域の変貌について学習する。経済現象の地域性を明らかにする経済地理学の枠組みから、日本の経済社会と農業・農村問題の基本問題を明らかにすることが目的である。

【到達目標】

授業のテーマ：日本経済の構造変化と農業地域の変貌

到達目標①：日本経済の変化とそのもとでの国土空間の利用の特徴を理解すること

到達目標②：戦前と戦後の日本経済の発展構造の違いを理解すること

到達目標③：日本経済の構造変化に対する農業地域の対応を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は2部構成をとる。第1部は日本経済の地域構造の変化である。戦前から戦後の日本社会がどのような変化を辿ってきたのか、その地理的特徴について説明する。第2部は、日本の農業地域の変容メカニズムである。第1部を踏まえて経済構造の変化に農業地域はどのような対応を示してきたのかを検討する。これらを通じて、現在、日本が直面している多くの問題は歴史的なつながりで生み出されていること、および地域間関係の中で形成されてきたことを理解することがねらいとなる。

また、上記の方法を確認するために、双方向型の授業づくりとして複数回のリアクションペーパーや受講生による質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会経済地理学の枠組み	経済現象の地域性とは？
第2回	産業資本確立期の日本経済の地域構造	明治期の日本経済の課題
第3回	戦前期の日本経済の再生産構造と国土利用	近代的産業、植民地、地主制
第4回	戦後復興期の日本経済の地域構造の再編	敗戦と戦後復興期の国土利用の特徴
第5回	高度経済成長のメカニズム	太平洋ベルトの工業化
第6回	高度経済成長下の農業農村	労働力の大移動と出稼ぎ
第7回	オイルショックと産業構造の転換	電気機械工業の成長と地方の時代
第8回	安定成長期の農業・農村	発展なき成長メカニズムと農家兼業
第9回	低成長期とバブル経済	産業構造の再編と国土利用
第10回	経済のグローバル化と地域	産業空洞化と投資主導型経済構造
第11回	人口減少社会への突入	地方消滅論と農村社会の行方
第12回	これからの日本経済と国土利用	少子高齢化と日本経済の展望
第13回	日本の農業地域はどこに向かうのか？	減反50年、食料消費の多様化、食料自給率について
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本経済や農業・農村の基本的な知識については、新書を読むなどしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

長岡顕・中藤康俊・山口不二雄編『日本農業の地域構造』、大明堂、1978年
石井素介・浮田典良・伊藤喜栄編『図説日本の地域構造』、古今書院、1986年
生源寺真一『日本農業の真実』、ちくま新書、2011年
吉川洋『高度成長』、中公文庫、2012年
増田寛也編著『地方消滅』、中公新書、2014年
中澤高志『住まいと仕事の地理学』、旬報社、2019年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（50%）、試験（50%）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the structural reorganization of Japanese economy and development of agricultural region.

【Learning Objectives】 There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understanding the changes in the Japanese economy and the characteristics of national land use

2. Understanding the differences in the development structure of the Japanese economy before and after the war.

3. Understanding the reflection of agricultural region to structural changes in the Japanese economy

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

MAN200FA (経営学 / Management 200)

キャリア・マネジメントⅡ (2019年度以降入学者)

小川 憲彦

経営学科専門科目200番台 2～4 (経営学科) 3～4 (経営戦略学科・市場経営学科) 年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

【到達目標】

- ①就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること
- ②社会人との交流が適切に行えること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
- (2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメントⅠの振り返り
第2回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第3回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第4回	ゲスト (キャリアセンター職員)	キャリア・センターの活用と30代の女性職員の方のキャリア
第5回	ゲスト (菓子メーカー)	40代人事部長 (1社内でのタテ型のキャリア)
第6回	ゲスト (リクルート)	リクルート社5年目の若手OB
第7回	ゲスト (鉄道会社)	大手私鉄入社20年近いOB
第8回	ゲスト (サービス・販売)	入社30年近い段階での管理職者の転職
第9回	ゲスト (三菱電機)	入社4年目の若手OB
第10回	ゲスト (アクセンチュア)	コンサル会社入社1年目の新人OB
第11回	ゲスト (中国でのキャリア)	外国籍の女性による中国でのキャリア (日本でのコンサル会社勤務などを経て現在は帰国し教員)
第12回	近年のキャリア論①	プロティアン・キャリア
第13回	近年のキャリア論②	バウンダリレス・キャリア (転職等の効果について)
第14回	まとめ or 出世について	伝統的キャリアと近年のキャリア観、あるいは大企業での出世や昇進のメカニズムについて

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

任意の宿題 (レポートや課題図書) を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) might be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

【テキスト (教科書)】

授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。

鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著 (2023) 『1からのキャリア・マネジメント』 碩学舎。

【参考書】

金井壽宏 (2002) 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 PHP研究所。
大久保幸夫 (2006) 『キャリアデザイン入門 (1) 基礎力編』・『キャリアデザイン入門 (2) 専門力編』 日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏 (訳) (2003) 『キャリア・アンカー ―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プランニング』 白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点100% (リアクションペーパーや小レポート等含む)

- ・出席は取りませんが適宜課題を出すことがあります。
- ・高い評価を目指す方や単位が心配な方向けに任意のレポートを設けます。ただし内容が不十分であれば加点にはなりません。

(質の低さ、コピペ、読めないものなど)

- ・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。

・詳細は授業で指示します。

Grading will be decided based on your in-class attitudes and regular assignments (100%).

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】

各回の内容は過年度のものです。ゲストは毎年変更しています。

参加上の注意点は以下です。常識的に参加すれば問題ありません。

①初回講義で具体的な注意など示します。以後は1度は注意をしますが、2回目以降は②のような対応をします。なお、スマホ (携帯電話) で写真や動画を撮ったりUPしたりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサンングラスをしない等は基本です。

②仮に1度目であっても、度を越えた不適切な参加態度であると私がみなした場合に退会を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。

関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
- (2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

Learning activities outside of the class

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

Grading criteria/policy

Grading will be decided based on your in-class attitudes and regular assignments.

MAN300FB（経営学 / Management 300）

経営組織論 I

長岡 健

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

(1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。

(2) 経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。

(3) 組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

春学期の授業（経営組織論 I）では、「組織と個人の創造的関係」という視点から、関連する概念や理論をもとに、振る舞いの背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①個人の振る舞い、②キャリア開発、③集団の振る舞い、④組織と個人の関係、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2 週を 1 モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行います。受講者が主体的に考え、発言する機会（旧 twitter を使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	個人の振る舞い①	仕事の中での「学習と成長」に関する基礎概念
第3回	個人の振る舞い②	組織における「モチベーション」に関する基礎概念
第4回	事例研究①	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第5回	キャリア開発①	組織における「キャリア・デザイン」の基礎概念
第6回	キャリア開発②	組織における「専門職」の意味／意義／位置づけ
第7回	事例研究②	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第8回	集団の振る舞い①	経営学における「グループ」の意味／意義／位置づけ
第9回	集団の振る舞い②	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題
第10回	事例研究③	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第11回	組織と個人の関係①	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題
第12回	組織と個人の関係②	組織における「リーダーシップ」の基礎概念
第13回	事例研究④	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第14回	ラップアップ	春学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書 (1)『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。

(2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。

(3) 各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計4回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40％）。

(4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。

- (1) 金井壽宏『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
- (2) ロビンズ, S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
- (3) グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

- (1) 最終レポート（1回）：40％
- (2) 振り返りレポート（4回）：40％
- (3) ゲスト講義へのコメント（4回）：20％

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoom を使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。
- (2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、旧 twitter (X) を活用する予定です。受講者は旧 twitter (X) のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
- (3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

- (1) オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。
- (2) 『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】

- (1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>
- (2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>
- (3) FACEBOOK
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>
- (4) X (旧 twitter)
<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

- (1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and

(2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]

The learners in this class are expected to to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB (経営学 / Management 300)

経営組織論Ⅱ

長岡 健

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

(1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。

(2) 経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。

(3) 組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業 (経営組織論Ⅱ) では、「変わる社会、変わる組織」という視点から、関連する概念や理論をもとに、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①組織構造、②組織文化、③社会と組織、④変化と適応、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2 週を 1 モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行います。受講者が主体的に考え、発言する機会 (旧 twitter を使用) をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論・概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	組織構造①	組織設計の視点とピラミッド型組織の基本原則
第3回	組織構造②	組織形態のフラット化・ネットワーク化の進展
第4回	事例研究①	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第5回	組織文化①	企業文化論から見た日本の経営の特長と問題点
第6回	組織文化②	国際化・情報化の進展による日本の経営の変容
第7回	事例研究②	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第8回	社会と組織①	技術的進化と制度的変化 (第四次産業革命と SDGs の影響)
第9回	社会と組織②	ダイバーシティ・マネジメントの可能性と課題
第10回	事例研究③	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第11回	事例研究④	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第12回	変化と適応①	組織変革を阻む要因 (問題解決症候群：有能さの罠)
第13回	変化と適応②	学習棄却 (アンラーニング) と越境活動の意味と方法
第14回	ラップアップ	秋学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

(1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書 (1) 『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。

(2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。

(3) 各テーマ (モジュール) ごとに振り返りレポートを作成します (合計 4 回)。この振り返りレポートは成績評価の対象となります (成績評価中 40%)。

(4) 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この 3 冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。

(1) 金井壽宏 『経営組織』(日経文庫) 日本経済新聞社

(2) ロビンズ, S. P. 『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

(3) グロービス経営大学院 『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

(1) 最終レポート (1 回) : 40%

(2) 振り返りレポート (4 回) : 40%

(3) ゲスト講義へのコメント (4 回) : 20%

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

(1) zoom を使ったオンライン授業 (リアルタイム配信型) を受講するための機器と環境は各自で準備してください (詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください)。

(2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、旧 twitter (X) を活用する予定です。受講者は旧 twitter (X) のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。

(3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

(1) オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。

(2) 「組織論入門」を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】

(1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>

(2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>

(3) FACEBOOK
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>

(4) X (旧 twitter)
<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

(1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and

(2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]

The learners in this class are expected to to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

Grading will be decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

人的資源管理Ⅰ

佐野 嘉秀

経営学科専門科目300番台経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。

人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個々人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。そのためには様々な工夫と配慮が必要となります。

この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
2) 人的資源管理の領域として、①社員格付け制度、②雇用区分、③採用管理、④要員管理、⑤労働時間管理、⑥教育訓練、⑦配置転換、⑧昇進管理、⑨人事評価、⑩賃金管理、⑪福利厚生、⑫多様な人材と就業形態の管理の各領域について学ぶ。

「人的資源管理Ⅰ」では、1) の基礎的な理解に加え、2) の各領域のうち①～⑤について学習し、「人的資源管理Ⅱ」では⑥～⑫について学習することで、人的資源管理の広い領域に関して基本的な考え方を体系的に理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。「人的資源管理Ⅰ」「人的資源管理Ⅱ」とともに、①教科書による学習と、②教科書に準拠した学習支援システム上の教材（スライド資料およびスライド資料を音声解説した映像資料）による学習を各自、進めてください。学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	人的資源管理の考え方①：人的資源管理の目的と役割	「人的資源管理Ⅰ」の概要、人的資源管理の目的、人的資源管理の基本的な役割、など
第2回	人的資源管理の考え方②：人的資源管理の範囲	人事管理から人的資源管理へ、人的資源管理の意味の広がり、など
第3回	人的資源管理のコンテキスト①：経営戦略と人的資源管理の関係	経営戦略との「ベストフィット」、人的資源管理の「ベストプラクティス」、など
第4回	人的資源管理のコンテキスト②：労使コミュニケーション	労使コミュニケーションの効果、日本企業での労使コミュニケーション、など
第5回	社員格付け制度①：社員格付け制度の機能と条件	社員格付け制度の機能、社員格付け制度の条件、など
第6回	社員格付け制度②：社員格付け制度の変化と多様性	「成果主義」と社員格付け制度の変化、仕事にもとづく格付けと能力にもとづく格付け、など

第7回	雇用区分①：雇用区分の機能と組み合わせ	雇用区分による社員の位置づけ、2つの「柔軟性」と「柔軟な企業」モデル、など
第8回	雇用区分②：日本企業における「雇用区分型」管理の特徴	日本企業における「雇用区分型」管理の特徴、多様なキャリア志向と雇用区分、「雇用区分型」管理と「個別型」管理、など
第9回	採用管理①：採用計画と採用対象	採用計画、採用対象（新卒採用と中途採用）、など
第10回	採用管理②：人材の募集と選考	人材を募集する、選考プロセスと選考基準、など
第11回	要員管理①：要員計画と要員管理	要員計画の立て方、日本企業の要員計画と要員管理、など
第12回	要員管理②：雇用保障と雇用調整	「終身雇用」と雇用保障、雇用保障と雇用調整、など
第13回	労働時間管理①：労働時間の長さの管理	労働時間の長さの管理、労働時間の長さとのワークライフバランス、など
第14回	労働時間管理②：労働時間のタイミングの管理	労働時間のタイミングの管理、労働時間の柔軟性、など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。①各回の授業（映像資料にて実施）に対応する教科書の章・節を各自読むことで理解を確実なものとする。②本授業で学習したテーマや論点に関して、日頃から新聞記事等を読んで理解を深める。③インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。

【テキスト（教科書）】

佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太郎（2025）『人的資源管理—事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房

【参考書】

発展的な学習に向けては、人事管理に関わる学術雑誌である『日本労働研究雑誌』や『日本労務学会誌』に掲載の論文を読むことが、人的資源管理についての関心を広げ、理解を深めるうえで有益です。いずれもバックナンバーはフリーで読むことができますので、雑誌名で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）：30%

期末試験：70%

春学期と秋学期ともに、小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績をつけます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。

定期試験期間中に教室での期末試験を実施します。形式はマークシート方式。資料は持ち込み不可です。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する「人的資源管理Ⅰ」と秋学期に開講の「人的資源管理Ⅱ」の授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline (in English)】**【Course Description】**

The aim of the course is to learn and understand basic human resource management theory and practice. HRM practices in Japanese companies will be discussed from a comparative perspective; HRM practices can be understood as a system. The course will focus on each of the areas of HRM that make up a system.

【Learning objectives】

(I) Understand and be able to explain the basic concepts of human resource management.

(II) Learn about the areas of HRM: (1) ranking system, (2) employee classification, (3) recruitment, (4) workforce management, (5) working time management, (6) training, (7) reassignment, (8) internal promotion, (9) personnel evaluation, (10) wage management, (11) employee benefits and (12) diversity management.

Human Resource Management I focuses on (I) and (1) to (5) in (II), while Human Resource Management II focuses on (6) to (12) in (II).

Students will understand and be able to explain the basic concepts of each field.

【Learning outside the classroom】

(1) Read the textbook to ensure understanding of what is studied in the video materials.

(2) Deepen the understanding of the themes and issues studied in the lectures by reading newspaper articles on a daily basis.

(2) Deepen understanding of the learning content by reflecting on the realities and issues of human resource management based on the theories learned in the lectures while engaging in activities related to human resource management, such as internships, part-time jobs and circle activities.

The standard preparation and review time for lectures is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary marks (based on taking short tests): 30%.

Examination: 70%.

In both the spring and autumn semesters, students will be graded on the basis of their performance on the ordinary marks (based on taking short tests) and the examination. The examination questions will be designed to test whether students have a sufficient understanding of the concepts, theories, ideas and arguments related to human resource management studied in the lecture.

The examination will be held in classrooms during the regular examination period. The format is mark-sheet based. Students are not allowed to bring in any materials.

MAN300FB（経営学 / Management 300）

人的資源管理Ⅱ

佐野 嘉秀

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位

[秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。

人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個々人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。そのためには様々な工夫と配慮が必要となります。

この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
2) 人的資源管理の領域として、①社員格付け制度、②雇用区分、③採用管理、④要員管理、⑤労働時間管理、⑥教育訓練、⑦配置転換、⑧昇進管理、⑨人事評価、⑩賃金管理、⑪福利厚生、⑫多様な人材と就業形態の管理の各領域について学ぶ。

「人的資源管理Ⅰ」では、1) の基礎的な理解に加え、2) の各領域のうち①～⑤について学習し、「人的資源管理Ⅱ」では⑥～⑫について学習することで、人的資源管理の広い領域に関して基本的な考え方を体系的に理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。「人的資源管理Ⅰ」「人的資源管理Ⅱ」とともに、①教科書による学習と、②教科書に準拠した学習支援システム上の教材（スライド資料およびスライド資料を音声解説した映像資料）による学習を各自、進めてください。学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	教育訓練①：人材育成の役割	「人的資源管理Ⅱ」の概要、能力の変異性と人材育成、人材育成の多様な役割、など
第2回	教育訓練②：教育訓練の方法と教育訓練投資	OJTのプロセス、OJTを促す条件、Off-JTと自己啓発支援、教育訓練への投資、など
第3回	配置転換①：配置転換の機能と範囲	配置転換の機能、配置転換の範囲、など
第4回	配置転換②：配置転換の決定方法と出向・転籍	配置転換の決定と人事部門の関わり、社員の意向の配置転換への反映、出向と転籍、など
第5回	昇進管理①：昇進・昇格の仕組みと機能	2重のランキング・システム、昇進における選抜の機能、など
第6回	昇進管理②：昇進選抜のタイミングの管理	昇進選抜のタイミング、「遅い」選抜の合理性、日本企業における昇進選抜の変化、など
第7回	人事評価①：人事評価の機能と評価方法	個別管理の手段としての人事評価、絶対評価法と相対評価法、など

第8回	人事評価②：人事評価制度の設計	評価要素の選択と組み合わせ、「成果主義」と目標管理制度、人事評価制度の設計と運用、など
第9回	賃金管理①：賃金総額の管理	人材確保と賃金相場、社員全体への賃金配分を決める、など
第10回	賃金管理②：個別賃金の管理と雇用関係	社員各人への賃金配分と仕事への動機づけ、雇用関係と賃金制度、など
第11回	福利厚生①：法定福利と法定外福利	法定福利と法定外福利、法定外福利の多様な施策、など
第12回	福利厚生②：法定外福利・退職金・企業年金の機能	法定外福利の効果と課題、退職金と企業年金、など
第13回	多様な人材と就業形態の管理①：ダイバーシティマネジメント	多様な属性の人材の活用、ダイバーシティマネジメント、など
第14回	多様な人材と就業形態の管理②：派遣社員とフリーランスの活用	派遣社員に対する人的重管理、フリーランスに対する人的資源管理、など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。①各回の授業（映像資料にて実施）に対応する教科書の章・節を各自読むことで理解を確実にものとする。②本授業で学習したテーマや論点に関して、日頃から新聞記事等を読んで理解を深める。③インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。

【テキスト（教科書）】

佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太郎（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房

【参考書】

発展的な学習に向けては、人事管理に関わる学術雑誌である『日本労働研究雑誌』や『日本労務学会誌』に掲載の論文を読むことが、人的資源管理についての関心を広げ、理解を深めるうえで有益です。いずれもバックナンバーはフリーで読むことができますので、雑誌名で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）：30%

期末試験：70%

春学期と秋学期ともに、小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績をつけます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。

定期試験期間中に教室での期末試験を実施します。形式はマークシート方式。資料は持ち込み不可です。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する「人的資源管理Ⅰ」と秋学期に開講の「人的資源管理Ⅱ」の授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline (in English)】**【Course Description】**

The aim of the course is to learn and understand basic human resource management theory and practice. HRM practices in Japanese companies will be discussed from a comparative perspective; HRM practices can be understood as a system. The course will focus on each of the areas of HRM that make up a system.

【Learning objectives】

(I) Understand and be able to explain the basic concepts of human resource management.

(II) Learn about the areas of HRM: (1) ranking system, (2) employee classification, (3) recruitment, (4) workforce management, (5) working time management, (6) training, (7) reassignment, (8) internal promotion, (9) personnel evaluation, (10) wage management, (11) employee benefits and (12) diversity management.

Human Resource Management I focuses on (I) and (1) to (5) in (II), while Human Resource Management II focuses on (6) to (12) in (II).

Students will understand and be able to explain the basic concepts of each field.

【Learning outside the classroom】

(1) Read the textbook to ensure understanding of what is studied in the video materials.

(2) Deepen the understanding of the themes and issues studied in the lectures by reading newspaper articles on a daily basis.

(2) Deepen understanding of the learning content by reflecting on the realities and issues of human resource management based on the theories learned in the lectures while engaging in activities related to human resource management, such as internships, part-time jobs and circle activities.

The standard preparation and review time for lectures is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary marks (based on taking short tests): 30%.

Examination: 70%.

In both the spring and autumn semesters, students will be graded on the basis of their performance on the ordinary marks (based on taking short tests) and the examination. The examination questions will be designed to test whether students have a sufficient understanding of the concepts, theories, ideas and arguments related to human resource management studied in the lecture.

The examination will be held in classrooms during the regular examination period. The format is mark-sheet based. Students are not allowed to bring in any materials.

MAN300FB（経営学 / Management 300）

税務会計論Ⅰ

藤井 誠

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、学生が、税務会計論の中心である「法人税」について、企業会計との関連に触れながら、体系的な理解と知識の習得することを目的とする。各論点の学習に際しては、必要に応じて、対応する企業の論点との関連に触れながら、損益計算構造理論および所得計算構造理論の理解を深める。

国家試験との関連においては、主に、税理士試験の法人税法および公認会計士試験の租税法における出題論点を扱う。このうち、税務会計論Ⅰでは、基本論点を中心に学習する。

【到達目標】

税務会計論の前提となる簿記論および財務会計論の内容について、税務会計の観点から再確認し、知識の定着を図ることができる。

ビジネスの現場において必須といえる税務申告書の作成に関する理論と技法を習得することができる。

税理士試験（法人税法）、公認会計士試験（租税法）、司法試験（租税法）、国税専門官試験等の職業会計人として求められる高度な知識を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。

学習支援システムにおいて、講義レジュメと小テストをアップロードするので、講義を受けた後に、小テストを受ける形で学習を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび条文の読み方	講義の概要説明を行い、法人税法の読み方の基礎を学習する。
第2回	法人税の概要	法人税の種類および性質、法体系構造を学習する。
第3回	法人税の税率構造	法人税の税率構造と実効税率について学習する。
第4回	所得計算の通則①	課税所得計算における「益金」「損金」の意味と所得計算の基本構造を学習する。
第5回	所得計算の通則②	公正処理基準、資本等取引について学習する。
第6回	税務会計の一巡	所得計算および税額計算の一巡の流れを学習する。
第7回	法人概念と受取配当等の益金不算入制度	法人税法における「法人観」とそれに基づく所得概念を学習する。
第8回	所得税額控除制度、外国税額控除制度	所得税や外国法人税に関係する二重課税調整について学習する。
第9回	棚卸資産、有価証券	棚卸資産および有価証券の課税関係について学習する。
第10回	減価償却資産	減価償却の対象となる資産の課税関係について学習する。
第11回	圧縮記帳制度	法人税法および租税特別措置法に規定されている圧縮記帳制度について学習する。
第12回	同族会社関連規定	同族会社の定義および関連規定について学習する。
第13回	寄附金および交際費の損金不算入制度について学習する。	寄附金および交際費の損金不算入制度について学習する。
第14回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中の解説や自分で考えたことを講義レジュメやノートにメモし、それらについて「なぜそのような規定が設けられるに至ったのか」を考えながら復習することが期待される。その際、講義で学習した内容を理解できているかを確認し、理解できていないあるいは理解が十分ではない用語や規定については、参考図書や図書館等を利用して確認することが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】

講義レジュメをPDFファイルにて配信し、これを用いながら、必要に応じてPowerPointのスライドを用いて講義を行う。なお、講義レジュメには十分な余白を設けているので、講義中のメモ等を書き込む（タブレット端末の利用も可）ことを推奨する（別途ノートを用意しても構わない）。

【参考書】

大下勇二著（2019）『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵・生協販売）。

坂本雅士編著（2025）『現代税務会計論』（最新版が望ましい）中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（50%）と定期試験（50%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい）。

【その他の重要事項】

本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回到教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。

税務会計論は、簿記論および財務会計論の知識の上に成り立つ科目であることから、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。

「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を未履修であっても、本講義を履修することができるが、その場合、各自でこれらの科目に相当する学習を並行して進めることを勧める。

本講義の履修に際しては、相乗効果が期待されるため、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を履修することを勧める。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is for students to acquire a systematic understanding and knowledge of "corporate tax," which is the core of tax accounting theory, while touching on its relationship with corporate accounting. When studying each topic, students will deepen their understanding of the profit and loss accounting structure theory and the income accounting structure theory, while touching on the differences with the corresponding corporate issues as necessary. The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.

Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (50%) and regular exams (50%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

税務会計論Ⅱ**藤井 誠**

経営学科専門科目300番台経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、学生が、税務会計論の中心である「法人税」について、企業会計との関連に触れながら、体系的な理解と知識を習得することを目的とする。各論点の学習に際しては、必要に応じて、対応する企業会計の論点との関連に触れながら、損益計算構造理論および所得計算構造理論の理解を深める。国家試験との関連においては、主に、税理士試験の法人税法および公認会計士試験の租税法における出題論点を扱う。このうち、税務会計論Ⅱでは、応用論点を中心に学習する。

【到達目標】

税務会計論の前提となる簿記論および財務会計論の内容について、税務会計の観点から再確認し、知識の定着を図ることができる。
ビジネスの現場において必須といえる税務申告書の作成に関する理論と技法を習得することができる。
税理士試験（法人税法）、公認会計士試験（租税法）、司法試験（租税法）、国税専門官試験等の職業会計人として求められる高度な知識を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。
学習支援システムにおいて、講義レジュメと小テストをアップロードするので、講義を受けた後に、小テストを受ける形で学習を進める。
また、必要に応じて、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと税務貸借対照表	講義の概要説明を行い、税務貸借対照表の存在意義とその構造について学習する。
第2回	給与、租税公課	給与および租税公課に関する課税関係について学習する。
第3回	貸倒損失、引当金	貸倒損失と法人税法上の引当金について学習する。
第4回	移転価格税制	移転価格を利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第5回	過少資本税制	過少資本を利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第6回	タックス・ヘイブン税制	タックス・ヘイブンを利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第7回	株式交換・株式移転	株式交換や株式移転が行われた場合の課税関係を学習する。
第8回	企業組織再編税制	合併や分割等の企業組織再編税制を学習する。
第9回	グループ法人通算税制	親子会社等の企業集団課税について学習する。
第10回	グループ法人税制	親子会社間の内部取引に関わる課税関係について学習する。
第11回	収益認識と益金の関係	企業会計における収益認識基準と税務会計における益金との関係について学習する。
第12回	繰延資産、リース取引、外貨建取引	法人税法上の繰延資産、リース取引、外貨建取引の課税関係について学習する。
第13回	ヘッジ取引	ヘッジ取引の課税関係について学習する。
第14回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中の解説や自分で考えたことを講義レジュメやノートにメモし、それらについて「なぜそのような規定が設けられるに至ったのか」を考えながら復習することが期待される。その際、講義で学習した内容を理解できているかを確認し、理解できていないあるいは理解が十分でない用語や規定については、参考図書や図書館等を利用して確認することが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】

講義レジュメをPDFファイルにて配信し、これを用いながら、必要に応じてPowerPointのスライドを用いて講義を行う。なお、講義レジュメには十分な余白を設けているので、講義中のメモ等を書き込む（タブレット端末の利用も可）ことを推奨する（別途ノートを用意しても構わない）。

【参考書】

大下勇二著（2019）『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵・生協販売）。
坂本雅士編著（2025）『現代税務会計論』（最新版が望ましい）中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（50%）と定期試験（50%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】

本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。

税務会計論は、簿記論および財務会計論の知識の上に成り立つ科目であることから、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。

「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を未履修であっても、本講義を履修することができるが、その場合、各自でこれらの科目に相当する学習を並行して進めることを勧める。

本講義の履修に際しては、相乗効果が期待されるため、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を履修することを勧める。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is for students to acquire a systematic understanding and knowledge of "corporate tax," which is the core of tax accounting theory, while touching on its relationship with corporate accounting. When studying each topic, students will deepen their understanding of the profit and loss accounting structure theory and the income accounting structure theory, while touching on the differences with the corresponding corporate accounting topic as necessary. In relation to national examinations, the course will mainly deal with topics that appear in the Corporate Tax Law of the Tax Accountant Examination and the Tax Law of the Certified Public Accountant Examination. Of these, Tax Accounting Theory II will focus on applied topics.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.

Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (50%) and regular exams (50%).

ECN300FB（経済学 / Economics 300）

組織経済学

奥西 好夫

経営学科専門科目300番台経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。
・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。
・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。
・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システムにアップするので、各自ダウンロードすること。
・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。
・課題提出等は学習支援システムを通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理（1）	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理（2）	・経済合理性
第3回	人間の行動原理（3）	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理（4）	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準（1）	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準（2）	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理（1）	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理（2）	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン（1）	・組織構造
第10回	組織デザイン（2）	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン（3）	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題（1）	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題（2）	・賃金制度への応用
第14回	講義内容のまとめ	・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学生は、授業前に学習支援システムにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。
・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。
・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。
・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は学習支援システムを通じて配付する。
・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。
・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。
・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。
・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。
・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。
・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したものである。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に1回課題提出を行い、それらと期末試験の合計得点（ウェイトは50：50）で成績を評価する。
・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いがなかったという学生もいた。同じ用語でも、日常的な意味と経済学の専門用語としての意味が異なる場合があるので注意されたい。
・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限（2025年度は金曜1限）ということもあり、出席状況は良くなかった。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。特に、上記で指摘した用語の意味などは授業中に詳しく説明している。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となった。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」（Iは秋学期、IIは春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可）。
・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.
・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.
・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently.
・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
・The final grade depends on the total points of the assignment and the final exam (the weights are 50:50).

ECN300FB（経済学 / Economics 300）

組織経済学 I（2018年度以前入学者）

奥西 好夫

経営学科専門科目 3～4年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。
・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。
・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。
・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システムにアップするので、各自ダウンロードすること。
・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。
・課題提出等は学習支援システムを通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理（1）	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理（2）	・経済合理性
第3回	人間の行動原理（3）	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理（4）	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準（1）	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準（2）	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理（1）	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理（2）	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン（1）	・組織構造
第10回	組織デザイン（2）	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン（3）	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題（1）	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題（2）	・賃金制度への応用
第14回	講義内容のまとめ	・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学生は、授業前に学習支援システムにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。
・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。
・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。
・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は学習支援システムを通じて配付する。
・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。
・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。
・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。
・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。
・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。
・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したものである。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に1回、課題提出を行い、それらと期末試験の合計（ウェイトは50:50）で成績を評価する。
・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いがなかったという学生もいた。同じ用語でも、日常的な意味と経済学の専門用語としての意味が異なる場合があるので注意されたい。
・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限（2025年度は金曜1限）ということもあり、出席状況は良くなかった。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。特に、上記で指摘した用語の意味などは授業中に詳しく説明している。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となった。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」（Iは秋学期、IIは春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非こちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可）。
・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.
・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.
・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
・The final grade depends on the total points of the assignments and the final exam (the weights are 50:50).

MAN300FC（経営学 / Management 300）

日本経営史 I

二階堂 行宣

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19世紀後半～20世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
・「各時代における経済・経営環境の変化→ビジネス・チャンスの発生→企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2回を予定／提出期限あり）をこなす。
③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。
・授業動画は、100分×14回の形でアップロードするのではなく、各章ごとにアップロードします。ただし、総時間数は1400分以内になるようにします。
・「100分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
第2回	幕末維新期の経営	概説：幕末維新期の日本経済
第3回	幕末維新期の経営	幕末維新期の新興商人：丁吟と吉村屋の発展
第4回	幕末維新期の経営	大店の明治維新：三井家と三野村利左衛門
第5回	幕末維新期の経営	海運業の発展：内海船と北前船
第6回	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
第7回	明治前期の経営	政商の登場：三菱の創始者・岩崎弥太郎
第8回	明治前期の経営	政商の登場：住友の事業再編と広瀬幸平
第9回	明治前期の経営	企業家活動の組織化：「会社」の誕生と渋沢栄一
第10回	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
第11回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三菱合資会社と荘田平五郎
第12回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三井の財閥化と中上川彦次郎
第13回	産業革命期の経営	地方からの産業革命：安川敬一郎とその時代
第14回	まとめ	幕末～産業革命期のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に18世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。
・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。
・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

①経営史学会編（2004）『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）

②三和良一・原朗編（2010）『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会）
③宇田川勝・生島淳編（2011）『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣）
④三和良一（2012）『概説日本経済史 近現代（第3版）』（東京大学出版会）
⑤粕谷誠（2012）『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会）
⑥宮本又郎（2013）『企業家たちの挑戦』（中央公論新社）
⑦沢井実・谷本雅之（2016）『日本経済史』（有斐閣）
⑧武田晴人（2019）『日本経済史』（有斐閣）
⑨宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橋川武郎（2023）『日本経営史〔第3版〕』（有斐閣）
⑩谷本雅之（2024）『日本経済の比較史』（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

・論述課題60%（実施回数で均等配分）、期末課題40%で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が60点以上であること、の2点です。
・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
・科目の性格上、課題はすべて長文の論述式とします。マーク式、記号選択式の課題を出題する予定はありません。
・毎回の課題では、授業内容を理解しているかを確認する問題のほか、刊行物・記事・論文・インターネット上などさまざまな情報源を活用し、独自の考察を行っていただく問題を出題します。後者の配点が極めて高いので、受講される方は十分に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。
・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でアップロードとします。
・昨年度は、授業動画のアップロードを「Youtube」のみを通じて行っていたため、勘弁に視聴できるという意見があった一方で、動画再生中に広告が頻繁に再生されるため集中できないとの声もありました。アップロード先を複数用意するなどの対処法を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。
・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末課題を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。
・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。

https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

・産業史Ⅰ／Ⅱ
・日本経営論Ⅰ／Ⅱ
・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・Business History of Modern Japan.
・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.
・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

【Learning Objectives】

・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.
・Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.
・Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.

【Learning Activities outside of Classroom】

・Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.
・After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.

- ・ To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.

- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

- ・ Evaluate with 60%for essay assignments and 40%for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.

- ・ When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.

- ・ Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style. There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol selection type.

MAN300FC（経営学 / Management 300）

日本経営史Ⅱ

二階堂 行宣

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19世紀後半～20世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
・「各時代における経済・経営環境の変化→ビジネス・チャンスの発生→企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2回を予定／提出期限あり）を何度かこなす。
③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。
・授業動画は、100分×14回の形でアップロードするのではなく、各省ごとにアップロードします。ただし、総時間数は1400分以内になるようにします。
・「100分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
第2回	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済①
第3回	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済②
第4回	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業者活動：鈴木商店と金子直吉
第5回	両大戦間期の経営	概説：1920～30年代の日本経済①
第6回	両大戦間期の経営	概説：1920～30年代の日本経済②
第7回	両大戦間期の経営	都市型産業の発展：小林一三と阪急
第8回	両大戦間期の経営	新興コンツェルンの発展：日本産業と日本窒素肥料
第9回	戦後期の経営	概説：復興から高度経済成長へ
第10回	戦後期の経営	概説：高度成長の終焉と日本経済
第11回	戦後期の経営	概説：バブルの発生と崩壊
第12回	戦後期の経営	大衆消費社会の到来
第13回	戦後期の経営	規制緩和によるビジネス・チャンス
第14回	まとめ	近現代日本のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に18世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。
・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。
・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

- ①経営史学会編（2004）『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）
- ②三和良一・原朗編（2010）『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会）
- ③宇田川勝・生島淳編（2011）『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣）
- ④三和良一（2012）『概説日本経済史 近現代（第3版）』（東京大学出版会）
- ⑤粕谷誠（2012）『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会）
- ⑥宮本又郎（2013）『企業家たちの挑戦』（中央公論新社）
- ⑦沢井実・谷本雅之（2016）『日本経済史』（有斐閣）

⑧武田晴人（2019）『日本経済史』（有斐閣）

⑨宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橋川武郎（2023）『日本経営史〔第3版〕』（有斐閣）

⑩谷本雅之（2024）『日本経済の比較史』（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

・論述課題60%（実施回数で均等配分）、期末課題40%で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が60点以上であること、の2点です。
・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
・科目の性格上、課題はすべて長文の論述式とします。マーク式、記号選択式の課題を出題する予定はありません。
・毎回の課題では、授業内容を理解しているかを確認する問題のほか、刊行物・記事・論文・インターネット上などさまざまな情報源を活用し、独自の考察を行っていただく課題を出題します。後者の配点が極めて高いので、受講される方は十分に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。
・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でアップロードとします。
・昨年度は、授業動画のアップロードを「Youtube」のみを通じて行っていたため、勘弁に視聴できるという意見があった一方で、動画再生中に広告が頻繁に再生されるため集中できないとの声もありました。アップロード先を複数用意するなどの対処法を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。
・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末試験答案を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。
・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。
https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

・産業史Ⅰ／Ⅱ
・日本経営論Ⅰ／Ⅱ
・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・Business History of Modern Japan.

・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.

・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

【Learning Objectives】

・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.

・Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.

・Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.

【Learning Activities outside of Classroom】

・Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.

・After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.

・To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.

・The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

- ・ Evaluate with 60%for essay assignments and 40%for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.
- ・ When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.
- ・ Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style. There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol selection type.

MAN300FC（経営学 / Management 300）

企業評価論Ⅰ

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅰでは、企業の過去から現在までの実績や特徴を分析する方法、企業評価論Ⅱでは、過去の実績に基づいて将来分析を行い、それを企業価値評価につなげる方法に焦点をあてて学びます。

企業評価論Ⅰの授業では、まずはじめに、企業について調べたい、何らかの分析を行いたいと考えた時に、その企業を分析する上で有益な情報とその入手方法を説明します。次に、企業の経営環境や事業内容を理解するための情報や分析ツールを解説します。続いて、企業活動の成果や事業の特徴が財務諸表にどのように反映されるのかを理解するために、財務諸表の見方を解説します。最後に、収益性や安全性などの企業特性を評価するための財務比率や経営指標を説明します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 企業活動と関連付けて財務諸表を読むことができる
2. 財務比率や経営指標の内容が理解できる
3. 分析の目的に応じて（上記2の）財務比率や経営指標を活用できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めます。ただし、学生の積極的な参加を促すため、授業中にグループで問題を考えたり、計算を行ったりと、適宜アウトプットを行う時間も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義と全体像
第2回	情報収集	重要な情報とその入手方法
第3回	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
第4回	事業の理解（2）	企業戦略分析
第5回	事業の理解（3）	セグメント分析
第6回	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系・会計情報の特徴
第7回	会計分析（2）	損益計算書の見方
第8回	会計分析（3）	貸借対照表の見方
第9回	会計分析（4）	キャッシュフロー計算書の見方
第10回	財務比率分析（1）	収益性の分析・ROAとROEの関係、ROEの基本分解
第11回	財務比率分析（2）	利益率の分析
第12回	財務比率分析（3）	回転率の分析
第13回	財務比率分析（4）	安全性の分析
第14回	財務比率分析（5）	成長性の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 evalによる財務分析と評価』、マグローヒル・エデュケーション、2015年。

K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）の内容は理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、簿記や会計の基礎的な知識を修得してから本授業を履修してください。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. Students learn a framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

- 1.Understand financial statements in relation to corporate activities
- 2.Understand major financial ratios and performance indicators
- 3.Utilize financial ratios and indicators (as described in 2. above) according to the purpose of analysis

(Learning activities outside of classroom)

Please review the content of the class and do the exercises/assignments.

Standard preparation and review time for this course is 4 hours per class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the final exam (100%).

MAN300FC（経営学 / Management 300）

企業評価論Ⅱ

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅱでは、企業評価論Ⅰで学んだ内容を掘り下げて、企業の過去の実績を分析するとともに、予測財務諸表を作成し、それを企業価値評価につなげる方法を学びます。

授業では、はじめに企業評価論Ⅰ（春学期）の内容で取り上げた主要な財務比率を復習します。次に、ROEを事業活動の成果と財務活動の効果に分解する上級ROE分解を解説し、事業活動の成果と資本構成の影響がROEに与える影響を切り離して理解することを目指します。さらに、主要な財務比率に基づいて予測財務諸表を作成し、それを用いて株主価値を推定する枠組みを解説します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 財務比率や経営指標の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
2. 資本利益率（ROA・ROE）と資本コスト、企業（株主）価値の理論的關係が理解できる
3. 過去の実績や仮定に基づいて予測財務諸表を作成できる
4. 予測財務諸表を用いて株主価値を推定する方法が理解できることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は原則、講義形式で進めます。ただし、学生の積極的な参加を促すため、授業中にグループで問題を考えたり、計算を行ったりと、適宜アウトプットを行う時間も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
第2回	春学期の復習（1）	財務諸表の構成要素と体系
第3回	春学期の復習（2）	ROEの基本分解を復習する
第4回	収益性の分析（1）	純事業資産利益率を理解する。
第5回	収益性の分析（2）	ROEの上級分解（1）：純事業資産利益率・有利子負債のコスト・レバレッジの関係を理解する
第6回	収益性の分析（3）	ROEの上級分解（2）：純事業資産利益率・純金融資産利益率・レバレッジの関係を理解する
第7回	収益性の分析（4）	ROEの上級分解（3）：純金融資産の保有がROEに与える影響を理解する
第8回	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率を理解する
第9回	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解する
第10回	企業価値評価の考え方と手法	マーケットアプローチ・インカムアプローチ・コストアプローチによる評価方法の特徴を理解する
第11回	貨幣の時間的価値と割引計算・資本コスト	資本コストの推定方法を学習する
第12回	株主価値評価の理論（1）	配当割引モデルと超過利益モデルを学習する
第13回	株主価値評価の理論（2）	超過利益モデルから株主価値を推定する方法を学習する
第14回	貸借対照表項目と損益計算書項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測貸借対照表と損益計算書を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。
S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マクローヒル・エデュケーション、2015年

K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）ならびに企業評価Ⅰ（春学期）の内容を理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、該当科目を履修してからこの授業を受講してください。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. In this course, students will learn more advanced content from Business Analysis and Valuation I. Topics that will be covered are advanced ROE analysis, preparation of forecasted financial statements and valuation models.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Comprehend financial ratios and performance indicators and be able to utilize them to understand the underlying corporate characteristics
2. Understand the relationship between return on capital (ROA and ROE), cost of capital, and corporate (shareholder) value
3. Prepare forecasted financial statements
4. Understand how to estimate shareholder value using forecasted financial statements

(Learning activities outside of classroom)

Please review the content of the class and do the exercises/assignments. Standard preparation and review time for this course is 4 hours per class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the final exam (100%).

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析論 I

福多 裕志

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。

本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、原則として製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】

本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にはば焦点を絞り講義する。経営分析 I では、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。この結果、参加者は、（1）財務諸表分析の基本的な枠組み（2）データベースを利用した財務指標の算出、（3）安全性、効率性、収益性、成長性に関する具体的指標の算出と解釈の仕方について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第2回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第3回	財務諸表の枠組み：BSとIS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第4回	財務諸表の枠組み：CFS	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第5回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第6回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第7回	効率性：その1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第8回	効率性：その2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第9回	収益性：その1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標－ROS、ROE、ROA等について説明
第10回	収益性：その2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第11回	損益分岐点分析の基本	固定分解、最小二乗法
第12回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その1	損益分岐点比率、安全余裕率
第13回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その2	エクセル上での損益分岐点分析の展開
第14回	成長性および総括	代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994年。
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版、2012年。
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社、2006年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験80%、発表20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを旨とする。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。

関連科目：管理会計論 I / II、経営管理論 I / II、基礎統計学 I / II

【Outline (in English)】

[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools.

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析論Ⅱ

福多 裕志

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。

本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。秋学期では、幾つかの株価関連財務比率を計算し、その後、不確実性の下での意思決定原理や創出した会計情報の価値を算出する。

【到達目標】

本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、秋学期は株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。この結果、参加者は、（１）株価関連指標、（２）総合評価の方法、（３）リスクおよび不確実性下での意思決定モデル、（４）創出情報の価値算出等について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当授業では、インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期講義計画および株価関連指標：その1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第2回	株価関連指標：その2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第3回	外国企業の財務諸表分析：その1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第4回	外国企業の財務諸表分析：その2	EDGARより米国企業の財務情報を入手し、日米企業の財務体質比較
第5回	総合評価：その1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第6回	総合評価：その2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第7回	経営分析の応用：その1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第8回	経営分析の応用：その2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第9回	経営分析の応用：その3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第10回	経営分析の応用：その4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第11回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第12回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の学習
第13回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第14回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店, 2022年.
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社, 1999年.
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002年.
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994年.
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版, 2012年.
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996年.
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社, 2006年.
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会, 2003年.
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験80%、発表20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。

関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis II' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester.

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析Ⅰ（2018年度以前入学者）

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅰでは、企業の過去から現在までの実績や特徴を分析する方法、企業評価論Ⅱでは、過去の実績に基づいて将来分析を行い、それを企業価値評価につなげる方法に焦点をあてて学びます。

企業評価論Ⅰの授業では、まずはじめに、企業について調べたい、何らかの分析を行いたいと考えた時に、その企業を分析する上で有益な情報とその入手方法を説明します。次に、企業の経営環境や事業内容を理解するための情報や分析ツールを解説します。続いて、企業活動の成果や事業の特徴が財務諸表にどのように反映されるのかを理解するために、財務諸表の見方を解説します。最後に、収益性や安全性などの企業特性を評価するための財務比率や経営指標を説明します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 企業活動と関連付けて財務諸表を読むことができる
2. 財務比率や経営指標の内容が理解できる
3. 分析の目的に応じて（上記2の）財務比率や経営指標を活用できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めます。ただし、学生の積極的な参加を促すため、授業中にグループで問題を考えたり、計算を行ったりと、適宜アウトプットを行う時間も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義と全体像
第2回	情報収集	重要な情報とその入手方法
第3回	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
第4回	事業の理解（2）	企業戦略分析
第5回	事業の理解（3）	セグメント分析
第6回	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系・会計情報の特徴
第7回	会計分析（2）	損益計算書の見方
第8回	会計分析（3）	貸借対照表の見方
第9回	会計分析（4）	キャッシュフロー計算書の見方
第10回	財務比率分析（1）	収益性の分析・ROAとROEの関係、ROEの基本分解
第11回	財務比率分析（2）	利益率の分析
第12回	財務比率分析（3）	回転率の分析
第13回	財務比率分析（4）	安全性の分析
第14回	財務比率分析（5）	成長性の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。
 S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018年。
 ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 evalによる財務分析と評価』、マグローヒル・エデュケーション、2015年。
 K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）の内容は理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、簿記や会計の基礎的な知識を修得してから本授業を履修してください。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. Students learn a framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

- 1.Understand financial statements in relation to corporate activities
- 2.Understand major financial ratios and performance indicators
- 3.Utilize financial ratios and indicators (as described in 2. above) according to the purpose of analysis

(Learning activities outside of classroom)

Please review the content of the class and do the exercises/assignments.

Standard preparation and review time for this course is 4 hours per class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the final exam (100%).

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析Ⅱ（2018年度以前入学者）

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅱでは、企業評価論Ⅰで学んだ内容を掘り下げて、企業の過去の実績を分析するとともに、予測財務諸表を作成し、それを企業価値評価につなげる方法を学びます。

授業では、はじめに企業評価論Ⅰ（春学期）の内容で取り上げた主要な財務比率を復習します。次に、ROEを事業活動の成果と財務活動の効果に分解する上級ROE分解を解説し、事業活動の成果と資本構成の影響がROEに与える影響を切り離して理解することを目指します。さらに、主要な財務比率に基づいて予測財務諸表を作成し、それを用いて株主価値を推定する枠組みを解説します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 財務比率や経営指標の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
2. 資本利益率（ROA・ROE）と資本コスト、企業（株主）価値の理論的關係が理解できる
3. 過去の実績や仮定に基づいて予測財務諸表を作成できる
4. 予測財務諸表を用いて株主価値を推定する方法が理解できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は原則、講義形式で進めます。ただし、学生の積極的な参加を促すため、授業中にグループで問題を考えたり、計算を行ったりと、適宜アウトプットを行う時間も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
第2回	春学期の復習（1）	財務諸表の構成要素と体系
第3回	春学期の復習（2）	ROEの基本分解を復習する
第4回	収益性の分析（1）	純事業資産利益率を理解する。
第5回	収益性の分析（2）	ROEの上級分解（1）：純事業資産利益率・有利子負債のコスト・レバレッジの関係を理解する
第6回	収益性の分析（3）	ROEの上級分解（2）：純事業資産利益率・純金融資産利益率・レバレッジの関係を理解する
第7回	収益性の分析（4）	ROEの上級分解（3）：純金融資産の保有がROEに与える影響を理解する
第8回	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率を理解する
第9回	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解する
第10回	企業価値評価の考え方と手法	マーケットアプローチ・インカムアプローチ・コストアプローチによる評価方法の特徴を理解する
第11回	貨幣の時間的価値と割引計算・資本コスト	資本コストの推定方法を学習する
第12回	株主価値評価の理論（1）	配当割引モデルと超過利益モデルを学習する
第13回	株主価値評価の理論（2）	超過利益モデルから株主価値を推定する方法を学習する
第14回	貸借対照表項目と損益計算書項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測貸借対照表と損益計算書を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マクローヒル・エデュケーション、2015年

K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）ならびに企業評価Ⅰ（春学期）の内容を理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、該当科目を履修してからこの授業を受講してください。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. In this course, students will learn more advanced content from Business Analysis and Valuation I. Topics that will be covered are advanced ROE analysis, preparation of forecasted financial statements and valuation models.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Comprehend financial ratios and performance indicators and be able to utilize them to understand the underlying corporate characteristics
2. Understand the relationship between return on capital (ROA and ROE), cost of capital, and corporate (shareholder) value
3. Prepare forecasted financial statements
4. Understand how to estimate shareholder value using forecasted financial statements

(Learning activities outside of classroom)

Please review the content of the class and do the exercises/assignments. Standard preparation and review time for this course is 4 hours per class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the final exam (100%).

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析Ⅲ（2018年度以前入学者）

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。

本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、原則として製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】

本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にはば焦点を絞り講義する。経営分析Ⅰでは、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。この結果、参加者は、（1）財務諸表分析の基本的な枠組み（2）データベースを利用した財務指標の算出、（3）安全性、効率性、収益性、成長性に関する具体的指標の算出と解釈の仕方について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第2回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第3回	財務諸表の枠組み：BSとIS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第4回	財務諸表の枠組み：CFS	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第5回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第6回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第7回	効率性：その1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第8回	効率性：その2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第9回	収益性：その1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標－ROS、ROE、ROA等について説明
第10回	収益性：その2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第11回	損益分岐点分析の基本	固定分解、最小二乗法
第12回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その1	損益分岐点比率、安全余裕率
第13回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その2	エクセル上での損益分岐点分析の展開
第14回	成長性および総括	代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994年。
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版、2012年。
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社、2006年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験80%、発表20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを旨とする。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。

関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools.

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析Ⅳ（2018年度以前入学者）

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。

本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。秋学期では、幾つかの株価関連財務比率を計算し、その後、不確実性の下での意思決定原理や創出した会計情報の価値を算出する。

【到達目標】

本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、秋学期は株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。この結果、参加者は、（１）株価関連指標、（２）総合評価の方法、（３）リスクおよび不確実性下での意思決定モデル、（４）創出情報の価値算出等について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当授業では、インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期講義計画および株価関連指標：その1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第2回	株価関連指標：その2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第3回	外国企業の財務諸表分析：その1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第4回	外国企業の財務諸表分析：その2	EDGARより米国企業の財務情報を入手し、日米企業の財務体質比較
第5回	総合評価：その1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第6回	総合評価：その2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第7回	経営分析の応用：その1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第8回	経営分析の応用：その2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第9回	経営分析の応用：その3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第10回	経営分析の応用：その4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第11回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第12回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の学習
第13回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第14回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店, 2022年.
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社, 1999年.
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002年.
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994年.
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版, 2012年.
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996年.
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社, 2006年.
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会, 2003年.
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験80%、発表20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。

関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis II' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester.

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN200FD (経営学 / Management 200)

日本経営論 I

金 容 度

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4 (市場経営学科) 3～4 (経営学科・経営戦略学科) 年次／2 単位 [春学期授業 / Spring]

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業システムの特長性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、学期ごとに1回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
第2回	日本の企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などの特徴を概観する。
第3回	日本企業のトップマネジメント	戦後日本の経営者の属性とキャリアパス、経営上の特性、経営者報酬などについて講義する。
第4回	トップマネジメントの日米比較	20世紀の日米企業の経営者にどのような共通点と相違点があるかを講義する。
第5回	日本のコーポレートガバナンス	日本企業のコーポレートガバナンス(企業統治)の特徴を検討する。
第6回	日本のコーポレートガバナンスの変化	1990年代以降、日本のコーポレートガバナンスはどのように変化しているかを講義する。
第7回	コーポレートガバナンスの日独比較	日本とドイツのコーポレートガバナンスの共通点と相違点を講義する。
第8回	コーポレートガバナンスの日米比較	日本とアメリカのコーポレートガバナンスの共通点と相違点を講義する。
第9回	日本企業の研究開発	戦後日本企業の研究開発活動の特徴を講義する。
第10回	労使関係・人的資源管理の日米比較①	日本的経営の「3種の神器」といわれるのがすべて労使関係及び人的資源管理と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係・人的資源管理の共通点について講義する。

第11回	労使関係・人的資源管理の日米比較②	内部労働市場が形成された戦後日米企業で、70年代まで、労使関係・人的資源管理理上どのような共通点と相違点があったかを講義する。
第12回	労使関係・人的資源管理の日米比較③	1980年代以降最近まで、日米企業の労使関係・人的資源管理においてどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第13回	日本企業の資金調達	戦後日本企業の資金調達行動を時期別に分析、講義する。
第14回	日本の企業経営の展望	今後の日本の企業経営の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

金容度(2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は毎週授業支援システムに掲載する。

【参考書】

①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直(2018)『現代日本経済第4版』有斐閣

②金容度(2021)『日本の企業間取引』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、期末試験(70%)、授業中の小試験(30%)である。授業中の小試験は3回行われる。ディスカッション時の発言者には加算点を与える。また、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文(1回)についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語は絶対禁ずる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Every week class consists of lecture, discussion and Q&A on business management in Japan. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on Japanese management by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】 The learning objective of this course is to understand business management in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】 Attend every week class after reading the references. Read the every week references to be uploaded to the "Hoppii" before the class. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】 Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN200FD (経営学 / Management 200)

日本経営論Ⅱ

金 容 度

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目 2～4 (市場経営学科) 3～4 (経営学科・経営戦略学科) 年次／2単位 [秋学期授業 / Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視角から日本の企業間関係の現状と歴史を講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。具体的に、メインバンクシステム、企業間の取引のケースが取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。それによって、日本の企業間関係についての理解を深めると共に、企業間関係の諸現象を論理的に考える能力を高めることが本授業の目的である。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業間関係の特殊性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業間関係における組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業間関係の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業間関係をみる理由と視点	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義する。
第2回	日本の企業間関係の特徴と日米共通点	日本の企業間関係の特徴を概観すると共に、国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
第3回	メインバンクシステム1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
第4回	メインバンクシステム2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
第5回	メインバンクシステム3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
第6回	メインバンクシステム4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
第7回	自動車部品の企業間取引1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
第8回	自動車部品の企業間取引2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900年代～1910年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第9回	自動車部品の企業間取引3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920年代～40年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第10回	自動車部品の企業間取引4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。

第11回	鉄鋼の企業間関係1	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
第12回	鉄鋼の企業間関係2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
第13回	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、その企業間取引を検討する。
第14回	日本の企業間関係の展望	今後の日本の企業間関係の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

金容度(2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は授業支援システムに掲載する。

【参考書】

- ①金容度(2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣
- ② Kim,Yongdo(2015).The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.
- ③金容度(2006)『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末試験70%、授業中の小テスト30%(1回10%×3回)。ディスカッション時の発言者には加算点を与える。また、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文(1回)についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、質問を受け付け、答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語を禁じる

【Outline (in English)】

【Course outline】 Every week class consists of lecture, discussion and Q&A on the inter-firm relationships. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on the inter-firm relationships by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】 The learning objective of this course is to understand the inter-firm relationships in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】 Attend every week class after reading the references. Read the every week references to be uploaded to the "Hoppii" before the class. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】 Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

ECN200FD（経済学 / Economics 200）

デリバティブ入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目200番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。最初に「デリバティブとは何か？」という基本的な問いから講義をしますが、その後、金融や財務のさまざまな場面でデリバティブ取引がどのように活用されているかを具体的に理解していきます。本授業の主な目的は、ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提としたデリバティブの価格決定理論を学ぶことです。同時に、金融実務における活用例も詳しく解説します。さらに、デリバティブ理論の応用として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」といったトピックについても取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や著名な事件なども適宜紹介し、理論と実務の両面から学びを深めます。本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にもつながる知識を提供します。

【到達目標】

この4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先渡取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	金融・証券市場の基礎知識（1）	金融・証券市場の概観、直接金融と間接金融、発行市場と流通市場、金融市場の規制と監視
第3回	金融・証券市場の基礎知識（2）	債券市場、債券の種類、利付債と割引債、国債と社債の発行市場、債券の流通市場
第4回	金融・証券市場の基礎知識（3）	株式市場、株式の種類、普通株と優先株、株式の発行市場、株式の流通市場、株式市場の再編
第5回	金融・証券市場の基礎知識（4）	外国為替市場、短期金融市場、デリバティブ市場、デリバティブに関連する事件
第6回	キャッシュフローと現在価値（1）	金融取引の基礎概念、キャッシュフロー、将来価値、現在価値、複利運用
第7回	キャッシュフローと現在価値（2）	付利期間、半年複利、キャッシュフローの価値比較、割引因子とその性質
第8回	効率的市場と無裁定価格理論	ケインズの美人投票、効率的市場仮説、裁定取引、無裁定条件、無裁定価格理論
第9回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約のしくみ、為替予約のペイオフ、為替予約によるヘッジ取引と投機取引
第10回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、為替予約と無裁定条件、金利パリティ、フォワード・プレミアム・パズル
第11回	債券と金利の関係（1）	債券の価格公式、複利最終利回り、所有期間利回り、スポットレート、イールドカーブ
第12回	債券と金利の関係（2）	フォワードレート、ブートストラップ法、短期金利と将来価値・現在価値

第13回 先渡取引（3） 金利先渡取引、FRAのしくみ、FRAのペイオフ、FRAによるヘッジ取引と投機取引

第14回 先渡取引（4） 先渡金利の決定理論、FRAと無裁定条件、先渡金利の公式、中央銀行の金融政策と先渡金利

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（80％）と授業期間中の小テスト（20％）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での事例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN200FD（経済学 / Economics 200）

デリバティブ入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目200番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。特に、デリバティブの中でも最も重要とされる「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的です。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例についても詳しく解説します。

さらに、デリバティブ理論の応用として、「さまざまな相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買付（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げ、理論と実務の両面から学びを深めます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や重要な事件も適宜紹介し、背景知識の理解を助けます。

本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先物取引やスワップ取引、オプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
- (4) オプション取引の関する簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	デリバティブ入門Ⅰの復習	キャッシュフローと現在価値、無裁定条件、無裁定価格理論、スポットレート、短期金利
第3回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物、債券先物、値洗いと証拠金、先物によるヘッジ取引と投機取引
第4回	先物取引（2）	先物価格の決定理論、日経平均先物と無裁定条件、レバレッジ型投資信託と先物
第5回	スワップ取引（1）	スワップ取引の概要、金利スワップとその活用方法、通貨スワップとその活用方法
第6回	スワップ取引（2）	IRSとスワップレート、スワップレートの決定理論、固定・変動利付債の同時取引、パーレート、ブートストラップ法
第7回	オプション取引（1）	オプション取引の概要、代表的なオプション取引、コールとプット、オプションのペイオフ
第8回	オプション取引（2）	オプションのペイオフ関数、複製戦略、プット・コール・パリティ、オプションによる取引戦略
第9回	確率論の基礎（1）	確率論の基礎概念、確率とその性質、確率変数、無裁定価格理論と確率
第10回	確率論の基礎（2）	期待値、分散、標準偏差、平均リターン、ボラティリティとリスクの概念
第11回	オプション価格理論（1）	オプション価格の決定問題、1期間2項モデル、複製ポートフォリオと無裁定条件
第12回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率と期待収益率、オプション価格理論を用いたTOB（株式公開買付）の分析

第13回	オプション価格理論（3）	2期間2項モデル、複製ポートフォリオの組み替えと無裁定条件
第14回	オプション価格理論（4）	動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタ、ブラック・ショールズ理論の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（80％）と授業期間中の小テスト（20％）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での事例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

産業組織論Ⅰ

矢野 智彦

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業組織論は、特定の市場における企業の意思決定や産業の構造について考察する経済学の一分野です。その知見は実務と密接に関係しており、価格戦略やマーケティングなどの企業戦略の場面や、M&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等などの実務で用いられています。講師は実際に産業組織論を用いて主にM&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等の場面でコンサルティングを行うコンサルタントです。

この講義では、産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、自分自身が産業組織論のものの見方を実務や実生活で活用できるようになることを目指します。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、また、実務における用いられ方について考察します。

Iでは、まず、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学びます。カルテルや寡占競争など市場で実際に見られる現象についても理論的に分析すると共に、これらの産業組織論の考え方が実際に用いられる実務の現場を具体的に解説します。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、将来的に産業組織論の実務に関わる基礎を作り、また、産業組織論に基づくものの見方で普段目にするビジネスを分析するなど実生活で活用できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド型オンライン授業として、全14回、YouTubeによる動画配信で授業を実施します。

全て講義形式で行い、講義にはスライドを用います。授業内課題として、授業の基本的な理解を問う課題を出題し、各回の講義内容の理解を深めます。

学習内容の確認のために期末試験を行います。

学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインタクションを持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	産業組織論とはどのような分野であるか 授業の方式・評価方法
第2回	ミクロ経済学の復習と産業組織論のトピックの概観	ミクロ経済学の復習（主に企業の利潤最大化と完全競争） 産業組織論Iで取り扱うトピックの紹介
第3回	独占	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違い なぜ独占になるのか
第4回	寡占競争(1)	企業が生産・販売の数量を決定して競争を行う場合（クールノー競争）に、企業の数の変化に応じて競争がどのように変わるのか
第5回	寡占競争(2)	消費者が企業間の差異を質的に区別できないような財・サービスの市場（同質財市場）において、企業が生産・販売の数量の代わりに価格を決定して競争を行う場合（ベルトラン競争）にはクールノー競争とどのように競争が異なるか
第6回	寡占競争(3)	消費者が企業間の差異を質的に区別できる財・サービスの市場（製品差別化市場）におけるベルトラン競争
第7回	競争の実務(1)	競争法・競争政策の概要
第8回	競争の実務(2)	独禁法違反事件や独禁法違反に関わる訴訟・紛争の実務
第9回	合併	企業が合併したら消費者と企業それぞれに何が起きる
第10回	ゲーム理論(1)	ゲーム理論とは何か
第11回	ゲーム理論(2)	最適反応とナッシュ均衡
第12回	ゲーム理論(3)	ゲーム理論による寡占市場の理論（第4回から第6回）の整理

第13回	復習	期末試験に向けて本講義で扱ったトピックを整理
第14回	問題演習	期末試験のための問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『ミクロ経済学』奥野正寛編著 東京大学出版会 2008年
『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018年
また、定期試験に向けた準備としては、以下の書籍が有益です。
『ミクロ経済学演習（第2版）』奥野正寛編・猪野弘明・井上朋紀・加藤晋・川森智彦・矢野智彦 山口和男著 東京大学出版会 2018年

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業動画のURL、関連するスライド等の資料や、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。

学習支援システムへの頻繁なアクセスが出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。

産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

産業組織論Ⅱ

矢野 智彦

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業組織論は、特定の市場における企業の意味決定や産業の構造について考察する経済学の一分野です。その知見は実務と密接に関係しており、価格戦略やマーケティングなどの企業戦略の場面や、M&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等などの実務で用いられています。講師は実際に産業組織論を用いて主にM&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等の場面でコンサルティングを行うコンサルタントです。

この講義では、産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、自分自身が産業組織論のものの見方を実務や実生活で活用できるようになることを目指します。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、また、実務における用いられ方について考察します。

Ⅱでは、春学期で学んだ産業組織論Ⅰを前提として、価格差別、製品差別化など現実によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶと共に、これらの産業組織論の考え方が実際に用いられる実務の現場を具体的に解説します。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、将来的に産業組織論の実務に関わる基礎を作り、また、産業組織論に基づくものの見方で普段目にするビジネスを分析するなど実生活で活用できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド型オンライン授業として、全14回、YouTubeによる動画配信で授業を実施します。

全て講義形式で行い、講義にはスライドを用います。授業内課題として、授業の基本的な理解を問う課題を出題し、各回の講義内容の理解を深めます。学習内容の確認のために期末試験を行います。

学習支援システムの掲示板を活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	秋学期に扱うトピックの概要
第2回	産業組織論Ⅰの復習	産業組織論Ⅰで扱ったトピックの中で、Ⅱでも重要な内容について復習
第3回	価格差別(1)	価格差別の考え方
第4回	価格差別(2)	第1種価格差別、第2種価格差別、第3種価格差別
第5回	価格差別(3)	各種価格差別のうち価格差別(2)で扱えなかったもの
第6回	参入と退出・参入阻止	市場における企業の数はどうに決まるのか？ 参入阻止と市場競争との関係 参入阻止を可能にする企業の戦略
第7回	製品差別化(1)	差別化の源泉と経済モデル
第8回	製品差別化(2)	製品差別化の経済モデルの紹介
第9回	特許と知的財産	技術開発・特許制度と市場競争との関係
第10回	ネットワーク外部性とプラットフォーム(1)	ネットワーク外部性、スイッチングコスト
第11回	ネットワーク外部性とプラットフォーム(2)	直接ネットワーク効果と間接ネットワーク効果
第12回	再販価格維持	再販価格維持
第13回	復習①	秋学期に学んだ内容について総復習
第14回	復習②	秋学期に学んだ内容について総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『ミクロ経済学』奥野正寛編著 東京大学出版会 2008年

『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018年

また、定期試験に向けた準備としては、以下の書籍が有益です。

『ミクロ経済学演習（第2版）』奥野正寛編・猪野弘明・井上朋紀・加藤晋・川森智彦・矢野智彦・山口和男著 東京大学出版会 2018年

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業動画のURL、関連するスライド等の資料や、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。

学習支援システムへの頻繁なアクセスが出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。

産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

COT300FD（計算基盤 / Computing technologies 300）

情報技術論 I

入戸野 健

市場経営学科専門科目300 番台市場経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解することを目的とします。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説します。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行きます。

この科目の授業は原則として、学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用してオンデマンド形式で行います。毎回の授業では学習支援システムで提示される教材(講義資料)の内容に沿って学習を進めてください。合わせて出題される課題などについて期限までに提出してください。

課題等についての講評は適宜、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの発展	計算の道具としてのコンピュータの変遷について解説する。
第2回	デジタル表現とコンピュータ	コンピュータの内部処理について概観する。
第3回	情報の量	ビット、バイトといった情報の量の表わし方について説明する。
第4回	アナログとデジタル	アナログとデジタルの違いについて考察する。
第5回	情報のデジタル化	情報のデジタル化の考え方について解説する。
第6回	コンピュータの動作と仕組み	コンピュータの動作原理について概観する。
第7回	論理演算とコンピュータ	コンピュータ内で行われる論理演算について説明する。
第8回	基数の変換	数の表現方法として10進数・2進数などの性質や変換の方法について解説する。
第9回	コンピュータ内部の数と文字の表現	数や文字の内部表現や符号化について解説する。
第10回	コンピュータの構成装置(1)	演算装置、制御装置、主記憶装置の機能と役割について解説する。
第11回	コンピュータの構成装置(2)	補助記憶装置、入出力装置の機能と役割について解説する。
第12回	周辺機器の接続とインターフェース	各種機器をPCへ接続するためのインターフェースについて説明する。
第13回	ICとデジタル回路	論理演算を基にしたデジタル回路とその集積回路(IC)の基礎について解説する。
第14回	デジタル機器とデジタル家電	PCやスマートフォンと連携する各種の身の回りのデジタル家電を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習をしておいてください。授業後は各自で授業内容の要点を整理してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

授業の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（15％）：毎回の授業で出題されるクイズや受講確認を提出してください。

課題レポート（15％）：授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で2～3回程度出題します。

期末考査（70％）：期末には期末レポートを作成して提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

資料スライドの構成や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用します。

【関連科目】

情報学基礎 I / II

プログラミング言語 I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computers.

(Learning Objectives) The goal of this course is to understand the current information and communication technologies and to acquire the basic knowledge to find ways to use them in an advanced way.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to prepare for the classes by referring to the literature and the Internet and to review the points after the classes.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on quiz in every class (15%), mid-term reports (15%), and term-end report (70%).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

COT300FD (計算基盤 / Computing technologies 300)

情報技術論Ⅱ

入戸野 健

市場経営学科専門科目300 番台市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解することを目的とします。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説します。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行きます。

この科目の授業は原則として、学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用してオンデマンド形式で行います。毎回の授業では学習支援システムで提示される教材(講義資料)の内容に沿って学習を進めてください。合わせて出題される課題などについて期限までに提出してください。

課題等についての講評は適宜、学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ソフトウェアとプログラム	ソフトウェアの特性について解説する。
第2回	基本ソフトとカーネル	基本ソフト（オペレーティングシステム）とカーネルの役割について説明する。
第3回	プログラミング言語の概要	主要なプログラミング言語の種類と用途について解説する。
第4回	情報インフラストラクチャーと通信ネットワーク	情報インフラとしての通信ネットワークの変遷について概観する。
第5回	LANとその発展	LANや小規模なネットワークからその発展による広域化について解説する。
第6回	インターネットの構成と利用技術	インターネットの仕組みとその利用技術について解説する。
第7回	Web技術とeコマース	Webによるサービスの展開方法を解説しeコマースの事例を考察する。
第8回	マルチメディアとその応用	マルチメディアに必要となる各種の技術について解説する。
第9回	コンピュータグラフィックスとその応用	コンピュータグラフィックスの技法を概観し各種分野への応用事例を紹介する。
第10回	移動体通信と携帯電話	スマートフォンや携帯電話等の移動体通信の仕組みを解説する。
第11回	情報とセキュリティ	高度情報化に伴う問題・課題と必要となるセキュリティについて考察する。
第12回	情報技術とインターネットビジネス	インターネットを利用したビジネスモデルを考察する。
第13回	情報化と社会活動	新しい情報ツールが日常生活や組織活動へ与える影響について展望する
第14回	応用と展望	IoT (モノのインターネット) やAI (人工知能) 等の応用技術を考察し今後を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習を行ってください。授業後は各自で授業内容の要点を整理してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

授業の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（15％）：毎回の授業で出題されるクイズや受講確認を提出してください。

課題レポート（15％）：授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で2～3回程度出題します。

期末考査（70％）：期末には期末レポートを作成して提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

資料スライドの構成や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用します。

【関連科目】

情報学基礎Ⅰ/Ⅱ

プログラミング言語Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computers.

(Learning Objectives) The goal of this course is to understand the current information and communication technologies and to acquire the basic knowledge to find ways to use them in an advanced way.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to prepare for the classes by referring to the literature and the Internet and to review the points after the classes.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on quiz in every class (15%), mid-term reports (15%), and term-end report (70%).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

経営のための経済学

宮澤 信二郎

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業の経営者あるいは部門の責任者は、どのようなことに注意して、どのように行動したら良いのでしょうか。どのような人を雇って、どのように処遇したら良いのでしょうか。必要となるお金はどのように調達したら良いのでしょうか。この授業では、ミクロ経済学の考え方を企業の取引関係、人事・組織、財務に関するさまざまな問題に当てはめる（応用する）、いわゆる、「企業の経済学」、「経営の経済学」について、その初歩を学びます。同時に、最適化理論、ゲーム理論、情報の経済学、契約理論といった理論の基礎を学びます。

【到達目標】

以下の3点をこの授業の到達目標とします。

- 1) 企業の取引関係、人事・組織、財務に関して、どのようなことに注意して、どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。
- 2) 関連する経済学の考え方、つまり、最適化、ゲーム、契約の理論に関して、その基本を押さえ、具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。
- 3) 複雑な状況の本質を押さえ、より論理的に考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」と「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業では、各テーマについて、具体的な状況の例を挙げながら、基本的な考え方を説明します。説明にあたっては、概念図や簡単なグラフなどを用い、なるべく直観的に理解できるようにします。質疑・応答の時間を十分に取、必要に応じて、簡単な例題を出題するなどして、受講者の理解度を確認しながら進めます。受講者は、毎回、授業内容の復習をすることが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論：企業を営む者！？	企業の経営に関して、まず何を把握しなくてはいいののかについて考えます。
2	企業の意思決定：経営についてじっくり考えよう！	企業の目的について検討したのちに、便益と費用を比較して意思決定する方法について学びます。
3	生産：何をどうやって作る？	生産技術と生産の決定に関して学びます。
4	販売：誰にいくらで売る？	市場の環境に応じて、誰にいくらで売ることになるのかについて学びます。
5	交渉：もうけを分け合う？！	特定の相手との間の交渉について学びます。
6	情報：良いものなんだけど売れない？	取引相手との間で情報の非対称性があるときにどのようなことが起こるのかについて学びます。
7	組織：いつも一緒にやる！？	「組織を形成するのはなぜか」「組織で生じる問題は何か」について検討したうえで、「どのような組織が良いのか」について学びます。
8	採用（1）：学歴で選ぶのはあり？	労働者の能力に関する情報の問題と学歴のシグナリング機能に関して学びます。
9	採用（2）：仕事を選んでもらおう！	コース別採用のスクリーニング機能について学びます。
10	人材（1）：仕事を頑張ってもらおう！	労働者の努力に関する情報の問題と成果給の役割と問題について学びます。
11	人材（2）：スキルアップしてもらおう！？	能力開発における企業と労働者との利害関係と待遇上の工夫について学びます。
12	財務（1）：いいビジネスなんだけどお金はどうする？	企業が必要な資金を調達する手段として、負債と株式の違いについて学びます。
13	財務（2）：どうしたらお金を貸してもらえるの？	資金を調達する際にどのような問題が起こり得るのかについて学びます。
14	倒産と企業再生：失敗したけどどうなる？	企業が財務危機についてどのように考え、対応したらよいのかについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容の復習をしてください。それ以外では、他の授業の復習や新聞を読んだりニュースを聞いたりする中で、この授業で扱っている内容と関連がある話を探し、当てはめて考える訓練をしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣（2012年）
 伊藤元重『ビジネス・エコノミクス（第2版）』日本経済新聞出版（2021年）
 神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社（2004年）
 柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社（2000年）
 デイビッド・ベサソコほか（奥村昭博・大林厚臣監訳）『戦略の経済学』ダイヤモンド社（2002年）
 エドワード・ラジャー、マイケル・ギブス（樋口美雄監訳）『人事と組織の経済学実践編』日本経済新聞出版社（2017年）
 などです。必要に応じて授業中に追加を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）と期末試験（70％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過年度の授業中に回収したリアクションペーパーへの記載内容等を踏まえ、学生が興味を持つような内容を、より丁寧に説明しようと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出に学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- 1) 専門入門科目の「経済学入門」と「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」（旧カリキュラムの学生の場合は専門基礎科目A群）を履修している、あるいは同等以上の内容を学習していることが望ましいです。
- 2) 関連する専門科目として、「産業組織論」、「組織経済学」、「コーポレートファイナンス入門」（旧「企業財務論」）、「金融論」、「日本経済論」、「国際経済論」などがあります。
- 3) 担当者は銀行において貸出業務に従事した実務経験を有しています。これに関連して、企業の資金調達（銀行借入を含む）に関する授業を行います。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this class, you will learn various applications of basic ideas of microeconomics on corporate management regarding (i) trade relation, (ii) personnel and organization, and (iii) corporate finance. You will also learn the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.

[Learning Objectives] By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A) Analysing various matters regarding trade relation, personnel and organization, and corporate finance, by themselves.
- B) Investigating various practical situations based on the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.
- C) Understanding the essence of complex situations and thinking more logically.

[Learning activities outside of classroom] Students are required to review the lesson contents after each class meeting. Further they will be expected to find some contents related to what they have learned in this class in other classes of lessons and daily news, and to train themselves to apply the ideas they have learned. Before/after each class meeting, they will be expected to spend four hours to practice the above activities.

[Grading Criteria/Policy] Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in class contribution (30%).

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

ファイナンス論Ⅰ（2018年度以前入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。最初に「デリバティブとは何か？」という基本的な問いから講義を始めますが、その後、金融や財務のさまざまな場面でデリバティブ取引がどのように活用されているかを具体的に理解していきます。本授業の主な目的は、ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提としたデリバティブの価格決定理論を学ぶことです。同時に、金融実務における活用例も詳しく解説します。さらに、デリバティブ理論の応用として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」といったトピックについても取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や著名な事件なども適宜紹介し、理論と実務の両面から学びを深めます。本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にもつながる知識を提供します。

【到達目標】

この4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先渡取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	金融・証券市場の基礎知識（1）	金融・証券市場の概観、直接金融と間接金融、発行市場と流通市場、金融市場の規制と監視
第3回	金融・証券市場の基礎知識（2）	債券市場、債券の種類、利付債と割引債、国債と社債の発行市場、債券の流通市場
第4回	金融・証券市場の基礎知識（3）	株式市場、株式の種類、普通株と優先株、株式の発行市場、株式の流通市場、株式市場の再編
第5回	金融・証券市場の基礎知識（4）	外国為替市場、短期金融市場、デリバティブ市場、デリバティブに関連する事件
第6回	キャッシュフローと現在価値（1）	金融取引の基礎概念、キャッシュフロー、将来価値、現在価値、複利運用
第7回	キャッシュフローと現在価値（2）	付利期間、半年複利、キャッシュフローの価値比較、割引因子とその性質
第8回	効率的市場と無裁定価格理論	ケインズの美人投票、効率的市場仮説、裁定取引、無裁定条件、無裁定価格理論
第9回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約のしくみ、為替予約のペイオフ、為替予約によるヘッジ取引と投機取引
第10回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、為替予約と無裁定条件、金利パリティ、フォワード・プレミアム・パズル
第11回	債券と金利の関係（1）	債券の価格公式、複利最終利回り、所有期間利回り、スポットレート、イールドカーブ
第12回	債券と金利の関係（2）	フォワードレート、ブートストラップ法、短期金利と将来価値・現在価値

第13回 先渡取引（3）

金利先渡取引、FRAのしくみ、FRAのペイオフ、FRAによるヘッジ取引と投機取引

第14回 先渡取引（4）

先渡金利の決定理論、FRAと無裁定条件、先渡金利の公式、中央銀行の金融政策と先渡金利

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（80％）と授業期間中の小テスト（20％）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での事例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

ファイナンス論Ⅱ（2018年度以前入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。特に、デリバティブの中でも最も重要とされる「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的です。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例についても詳しく解説します。さらに、デリバティブ理論の応用として、「さまざまな相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買付（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げ、理論と実務の両面から学びを深めます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や重要な事件も適宜紹介し、背景知識の理解を助けます。本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先物取引やスワップ取引、オプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
- (4) オプション取引の関する簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	デリバティブ入門Ⅰの復習	キャッシュフローと現在価値、無裁定条件、無裁定価格理論、スプレット、短期金利
第3回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物、債券先物、値洗いと証拠金、先物によるヘッジ取引と投機取引
第4回	先物取引（2）	先物価格の決定理論、日経平均先物と無裁定条件、レバレッジ型投資信託と先物
第5回	スワップ取引（1）	スワップ取引の概要、金利スワップとその活用方法、通貨スワップとその活用方法
第6回	スワップ取引（2）	IRSとスワップレート、スワップレートの決定理論、固定・変動利付債の同時取引、パーレート、ブートストラップ法
第7回	オプション取引（1）	オプション取引の概要、代表的なオプション取引、コールとプット、オプションのペイオフ
第8回	オプション取引（2）	オプションのペイオフ関数、複製戦略、プット・コール・パリティ、オプションによる取引戦略
第9回	確率論の基礎（1）	確率論の基礎概念、確率とその性質、確率変数、無裁定価格理論と確率
第10回	確率論の基礎（2）	期待値、分散、標準偏差、平均リターン、ボラティリティとリスクの概念
第11回	オプション価格理論（1）	オプション価格の決定問題、1期間2項モデル、複製ポートフォリオと無裁定条件
第12回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率と期待収益率、オプション価格理論を用いたTOB（株式公開買付）の分析

第13回 オプション価格理論（3） 2期間2項モデル、複製ポートフォリオの組み替えと無裁定条件

第14回 オプション価格理論（4） 動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタ、ブラック・ショールズ理論の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（80％）と授業期間中の小テスト（20％）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での事例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

LAN100ZA

English Test Preparation for IELTS

Marcus Lovitt

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 水 1/Wed.1

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

English Test Preparation for IELTS is designed to teach language skills, effective test-taking techniques, and strategies for the IELTS examination.

【Goal】

This course is designed for students who are interested in improving their English test scores or who want to study in the United Kingdom, Australia or New Zealand in the future. Its purpose is to help you attain advanced command of English, which shall be reflected in your IELTS test scores.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 4”.

【Method(s)】

Students will learn effective strategies for increasing scores in each section of the IELTS through class discussion and exercises throughout the course. These include becoming familiar with the test format, understanding question types, and learning how to expand speaking and writing responses. Personal advice on methods of individual study (which is strongly recommended) will be given as required. As this is a skills-based course, emphasis will be placed on practical skills rather than class lectures. To this end, students will also participate in regular vocabulary and idiom quizzes, as peer review activities. Feedback on coursework will be given during class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Writing I	・ Introduction to the writing section. The class will look at question types, scoring and test strategies ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
3	Speaking I	・ Introduction to the speaking section. The class will study question types, scoring and test strategies ・ Practice for Speaking Part 1 ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
4	Listening I	・ Introduction to the listening section. We will cover questions types, scoring and test strategies ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
5	Reading I	・ Introduction to the reading section. The class will cover question types, scoring and strategies ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
6	Writing II	・ Practice for writing task 1. The class will study language for summarizing data. ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
7	Mid-term examination; Speaking II	・ This class will consist of a short exam to test student progress ・ Practice for speaking part 2
8	Listening II	・ The class will undertake listening and summarizing exercises ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz

9	Reading II	・ The class will do exercises for the reading section and practice techniques such as skimming and scanning ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
10	Writing III; Speaking III	・ Practice for writing task 2. The class will study opinion techniques, paraphrasing etc. ・ Practice for speaking parts 2 &3 ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
11	Listening III; Reading III	・ Practice for listening tasks 3 &4 ・ Practice for reading section (timed exercises, etc.) ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
12	Writing IV; Speaking IV	・ Review of the writing and speaking sections
13	Listening IV; Reading IV	・ Review of the listening and reading sections
14	Final Examination and Wrap-Up	Assessing the degree to which students understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

1. Pauline Cullen, Amanda French, et al. The Official Cambridge Guide to IELTS Student's Book with Answers with DVD-ROM. Cambridge English (Feb 27, 2014)

【References】

1. Essential Words for the IELTS: With Downloadable Audio by Lin Lougheed Ph.D. Barrons Educational Series. Third edition (December 1, 2016)
2. Cambridge Univ Press. IELTS 14 Academic Student's Book with Answers with Audio: Authentic Practice Tests (Jun 20, 2019)

【Grading criteria】

Assessment will be based on the following:

1. Class participation and homework (30%)
2. Mid-term exam /practice test (30%)
4. Final exam (40%)

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Not applicable

【Prerequisite】

None.

PRI100ZA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

Introduction to Statistics

Adam Randall Smith

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木1/Thu.1

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course introduces students to fundamental statistical concepts and methods used in data analysis. Students will learn how to organize, summarize, and interpret data using statistical techniques. The course covers descriptive and inferential statistics, including probability, hypothesis testing, and correlation. The focus is on real-world applications in a variety of disciplines, preparing students to use statistical reasoning in decision-making and research.

[Goal]

By the end of this course, students should be able to:

1. Understand and apply descriptive statistics, including measures of central tendency and variability.
2. Interpret data visualizations such as histograms, scatter plots, and bar graphs.
3. Conduct basic inferential statistical tests, including t-tests and regression analysis.
4. Use probability concepts to make informed decisions.
5. Differentiate between population vs. sample and understand the significance of sample distributions.
6. Apply statistical reasoning in various fields, including business, social sciences, and health sciences.
7. Gain familiarity with statistical processing software, especially Microsoft Excel, R, and ChatGPT.
8. Enjoy statistics; if you can truly understand basic statistics, you will see the world in a new and beautiful way!

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

This course uses a lecture-based approach combined with interactive problem-solving activities. Students will engage in real-world examples, in-class exercises, and discussions. The use of statistical software and spreadsheets will be introduced but a full understanding of these programs is not required (i.e., you will only be taught as much as is necessary for each topic). Homework assignments reinforce concepts covered in class, and students are encouraged to actively participate and ask questions.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Statistics & Course Overview	What is statistics? Why does it matter? Overview of course structure, grading, and key concepts. Basic introduction to data types.
2	Descriptive Statistics (1)	Understanding measures of central tendency (mean, median, mode) and their significance. Data visualization techniques (histograms, box plots).
3	Descriptive Statistics (2) & Variability	Understanding variability: range, interquartile range (IQR), variance, and standard deviation. The importance of data spread.
4	Correlation & Scatter Plots	Understanding relationships between two variables. How to interpret scatter plots and calculate correlation coefficients.
5	Population vs. Sample & Probability Basics	Introduction to probability concepts. Understanding populations, samples, and the importance of representative sampling.
6	Probability Distributions & Z-scores	Normal distribution, standardization, and Z-scores. How to compare individual scores to a population.

7	Hypothesis Testing: Concepts & Framework	Understanding null vs. alternative hypotheses, Type I & Type II errors, and p-values. Interpreting statistical significance.
8	Midterm Exam (In-Class)	Assessment covering descriptive statistics, probability, correlation, and hypothesis testing. Designed to gauge progress before moving into inferential statistics.
9	T-tests (1): Understanding Mean Comparisons	When and why we use t-tests. Introduction to one-sample and independent-samples t-tests.
10	T-tests (2): Paired Samples & Applications	Understanding paired t-tests and how they apply to repeated measures. Practical examples and real-world applications.
11	Regression Analysis (1): Understanding Relationships	Introduction to simple linear regression. How to interpret regression equations and coefficients.
12	Regression Analysis (2): Multiple Regression & Predictions	Expanding to multiple predictors. Interpreting R-squared, coefficients, and making data-driven predictions.
13	Common Statistical Misconceptions & Real-World Applications	Exploring how statistics are misused in media, politics, and research. Common pitfalls in data interpretation and how to spot misleading statistics.
14	Preparing for the Final Exam	Review of key topics. Practice problems, common mistakes, and strategies for success on the Final Exam. Q&A session.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete weekly homework assignments that reinforce key concepts covered in class. These assignments will involve problem-solving, data analysis, and interpretation of statistical results. Additionally, students are encouraged to review their lecture notes and handouts after each class.

Students should expect to spend at least 2 hours per week on assignments, reviewing concepts, and practicing problems outside of class.

Regular practice is essential for developing a solid understanding of statistical methods and their applications.

[Textbooks]

No textbook will be used. Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

[References]

References will be introduced in class.

[Grading criteria]

Students will be evaluated on the basis of active participation and assignments given in each class (40%). There will also be two exams, a Midterm Exam (30%) and Final Exam (30%). The purpose of the Midterm Exam is to assure you are learning at a suitable pace, and identify any potential learning problems early.

No credit will be given to students with more than two unexcused absences.

[Changes following student comments]

Not applicable

[Others]

This course is strongly recommended for students interested in various disciplines in the social sciences. It will be particularly useful for students intending to conduct their own research as part of a seminar, psychology courses, or related fields.

Additionally, students will be encouraged to use AI tools such as ChatGPT and statistical software to enhance their learning. AI can assist with data visualization, summarizing concepts, and generating study resources. However, its use should remain supplementary—not a replacement for critical thinking and problem-solving.

Rules regarding AI use:

1. AI-generated responses must be fact-checked and not used blindly.
2. AI tools may not be used during exams.
3. If AI is used, students must cite AI contributions in assignments (e.g., "ChatGPT was used for initial topic brainstorming").

By engaging critically with both statistical methods and modern tools such as AI, students will develop a deeper understanding of data analysis and research design while strengthening their ability to navigate technological advancements in the field.

Final note: I am an Assistant Professor of Psychology at ICU; I typically teach over 150 students in my Introductory Statistics Courses. Therefore, I am very much looking forward to teaching a smaller group of students at Hosei! Either way, please feel free to reach out to me any time.

【Prerequisite】
None.

CAR100ZA (キャリア教育 / Career education 100)

Professional Communication

Mark Birtles

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木3/Thu.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Communication is one of the key skills employers look for in potential employees. The rapid diversification of global communications and the collapse of traditional professional working practices in the first two decades of the twenty-first century have made these skills even more salient; modern employers increasingly demand transferrable skills, interdisciplinary knowledge and an ability to address a diverse audience. At their very heart, these competencies are enhanced by an ability to understand, construct and manipulate written information in order to use them in a variety of situations.

【Goal】

Graduates with a good command of English are likely to end up in the global job market, so this course aims at giving students a competitive edge when embarking upon their chosen career path. This course will help students prepare for the English-language job hunting process and provide an overview of the key professional communication styles, as well as a chance to see how these have a real application in the professional world.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

The first half of the course will look at the English-language job hunting process, from analysing a job advertisement to creating a CV (résumé) and cover letter. Students will learn how to make their application documents stand out from the crowd and then participate in a mock interview for the job. These documents and skills can be used in a real-life job, or internship, application. The second half of the course then aims to build familiarity in some of the key forms of professional communication, such as press releases, emails and business documents. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Job Hunting: Writing a CV I	Explanation of the features of a good CV (résumé)
3	Job Hunting: Writing a CV II	Producing an English language CV (résumé)
4	Job Hunting: The Cover Letter I	Explanation of the features of a good cover letter
5	Job Hunting: The Cover Letter II	Writing an original cover letter
6	Professional Writing: Style and Tone	Putting ideas into words quickly and concisely
7	Job Hunting: Preparing for an Interview	What will they ask?
8	Mock Job Interviews	Students will participate in an online mock job interview
9	Formal Emails	Striking the right tone in communication
10	Editing	Common errors and ways to improve written English
11	Press Releases	The basics of how to prepare information for publication
12	Reports	Communicating business information
13	Agendas and Minutes	Outlining standard layouts of everyday documents
14	Final Exam and Wrap Up	Written examination and summary

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No single textbook will be used; the instructor will provide materials.

【References】

Anderson, J. & Dean, D. (2014). *Revision decisions: talking through sentences and beyond*. Portland, US: Stenhouse Publishers.
Garner, B. (2012). *Harvard Business Review guide to better business writing*. Boston, US: Harvard Business Review Press.
Marsen, S. (2020). *Professional writing (fourth edition)*. London, UK: Palgrave Macmillan.
Strunk, W & White, E. (1999). *The elements of style (fourth edition)*. Boston, US: Allyn & Bacon.

【Grading criteria】

Class participation (10%), assignments (25%), CV and cover letter (20%), mock interview (20%), final exam (25%).

【Changes following student comments】

The mock interviews will be conducted via Zoom as the medium allows students to be immersed in an authentic-looking interview environment. The interviews are recorded and shared with the student for self-reflection and critical analysis.

【Equipment student needs to prepare】

A laptop will be required in most sessions. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

【Prerequisite】

None.

ART100ZA (芸術学 / Art studies 100)			2	Gesture drawing	This class emphasizes capturing the energy and movement of a subject through quick, expressive sketches. Students will explore gesture drawing as a way to convey the essence and action of a scene. Practical Exercise: Using a variety of live models or reference images to create a series of quick gesture drawings, focusing on capturing the overall movement and flow of the subjects.
Introduction to Fine Art					
Timothy Betjeman					
Credit(s) : 2 Semester : 秋学期授業/Fall Year : 1～4					
Day/Period : 金 1/Fri.1					
その他属性 : 〈優〉					
[Outline and objectives]					
In this course, students will develop their knowledge of fine art actively by exploring the fundamental principles of drawing. The course is structured to provide a comprehensive overview of various drawing techniques, materials, and concepts, catering to individuals with diverse backgrounds and interests.					
The outline of the course encompasses a progression from basic line drawing to more complex compositions, through reference to contemporary and art historical examples and live demonstrations, encouraging students to develop their observational skills and artistic intuition. Through guided practice, discussions, hands-on exercises and engaging projects, participants will gain a solid foundation in drawing while fostering their personal expression and visual communication abilities.					
[Goal]					
The primary goal of this introductory course is to provide a comprehensive foundation in drawing skills, working toward both technical proficiency and individual expression. Throughout the course, students will engage in a series of progressively challenging exercises and projects aimed at developing their observational abilities, understanding of composition, and creative mark-making techniques. A key focal point of the course is the cultivation of a personal portfolio, wherein students will compile a selection of their best works across various themes and techniques explored during the semester, and have an opportunity to benefit from a discussion/critique with their peers on the work. The ultimate objective is for students to present a cohesive and compelling portfolio that reflects their artistic growth, visual literacy, and the application of learned concepts, showcasing the diverse ways in which drawing can be a powerful tool for communication and self-expression.					
[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]					
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.					
[Method(s)]					
Classes will begin with a brief lecture, slideshow, or screening introducing the week's topic, with reference to artists and/or artistic traditions. This will be followed by a guided practical activity, involving an extended focus on a given subject.					
Students will be expected to keep a sketchbook and journal, and weekly drawing/writing assignments completed outside of class will form an important part of the structure of the course.					
Students will receive critical feedback on their work in the form of in class critiques, group discussions, and grades or written comments on assignments submitted online.					
[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]					
あり /Yes					
[Fieldwork in class]					
なし /No					
[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face					
No.	Theme	Contents	3	Shapes and forms/ light and shadow	Building on the foundations of Weeks 1 and 2, this class delves into the use of shapes and forms in drawing. Students will experiment with geometric and organic shapes, under various lighting conditions, understanding how they contribute to creating a sense of volume and three-dimensionality. Practical Exercise: Drawing a still life with a strong light source
1	Introduction to drawing	This session provides an overview of the course, introducing basic drawing materials and techniques. Students will engage in simple line exercises to familiarize themselves with the act of mark-making and begin developing hand-eye coordination. Practical Exercise: Creating a series of contour drawings focusing on everyday objects, emphasizing the importance of observation and the relationship between eye and hand.	4	Tools of mark making	This session encourages students to experiment with a variety of drawing tools and mark-making techniques to describe forms, express emotions and convey a sense of energy and movement in their drawings. Practical Exercise: Choose a subject that evokes a specific emotion and create a drawing using expressive marks to capture the mood and atmosphere.
			5	Understanding proportions and scale	This week focuses on honing observational skills by exploring proportions and scale in drawing. Students will engage in exercises aimed at accurately representing the relationships between objects and their sizes in a composition. Practical Exercise: Self-portrait
			6	Introduction to perspective drawing	Students will delve into the basics of linear perspective, learning how to create depth and space in their drawings. This class introduces one-point, two-point, and unconventional perspective techniques. Practical Exercise: Construct a simple interior or exterior scene using one-point or two-point perspective, applying the principles learned in class.
			7	Exploring texture and detail	This session emphasizes the importance of texture in drawing and introduces techniques for capturing fine details. Students will explore various mark-making methods to convey different textures realistically. Practical Exercise: Choose an object with interesting textures (e.g., fabric, tree bark, or a feather) and create a detailed drawing, focusing on the texture and surface qualities.
			8	Creative composition	This class focuses on the principles of composition in drawing, including balance, harmony, and focal points. Students will explore how these elements contribute to the overall visual impact of their work. Practical Exercise: Compose a drawing using found objects, arranging them in a visually interesting way, and paying attention to the overall balance and flow of the composition.

9	Negative space and figure-ground relationship	Students will explore the concept of negative space and how it contributes to the overall composition. This class also introduces the figure-ground relationship and its importance in creating dynamic and visually engaging drawings. Practical Exercise: Create a drawing that emphasizes the negative space, incorporating both positive and negative shapes to define the subject matter.
10	Color in drawing	Introducing color into the drawing process, this class explores the use of various drawing media to add vibrancy and dimension to artwork. Practical Exercise: Experiment with colored pencils, pastels, gouache, or watercolor to add color to a previously created drawing, exploring the effects and possibilities of each medium.
11	Portfolio preparation	Group discussions reviewing drawings produced so far.
12	Portfolio review	In class portfolio presentation and critique for all students. Individual presentations to the class.
13	Portfolio review	In class portfolio presentation and critique for all students. Individual presentations to the class.
14	Portfolio review/ interdisciplinary applications	Individual presentations and critiques continue, followed by a discussion and reflection on drawing as a mode of thought, and how it might be applied in situations outside the scope of fine arts.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students are required to complete practical activities outside of class time.

In addition to class activities and regular notebook work, students will be required to spend time every week working towards their portfolio before the final review.

Research on an artist selected by the student will also be expected.

[Textbooks]

No textbook will be used

[References]

Berger, John (1977) Ways of Seeing, Penguin Books. · Dexter, Emma (2005) Vitamin D: New Perspectives in Drawing. Phaidon Press.

Ingold, Tim (2007) Lines: A Brief History. Routledge Classics.

Weschler, Lawrence (1982) Seeing is Forgetting the Name of the Thing One Sees, UCLA Press.

Weschler, Lawrence (2009) True to Life: 25 Years of Conversations with David Hockney, UCLA Press.

[Grading criteria]

Participation and attitude - 25%

Tasks - 30%

Completed portfolio - 30%

Presentation - 15%

[Changes following student comments]

More time has been allocated for portfolio review presentations.

[Equipment student needs to prepare]

A sketchbook (A3) and notebook (A5-A4) with plain white paper.

Loose sheets of paper for quick sketching.

Basic drawing materials:

Pencils (ex. 2B, 4B, 6B)

Black ball-point pen

30cm ruler

Gum (putty) eraser, block eraser

Charcoal or chalk pastels

Additional materials will be specified throughout the course as required.

[Prerequisite]

None.

FRI100ZA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 100)

Introduction to Programming

Alfons Josef Schuster

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 1/Mon.1

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Today, computers and computer programs (software) are omnipresent in the world around us. This course is an introductory course on computer programming. Programming is a creative activity, and the course emphasizes hands-on computer programming. The course aims to familiarize students with fundamental programming concepts such as Variables, Strings, Arrays, Operators, Conditional Statements, Loops, Functions, and so on. The course also aims to apply these basic programming concepts to computer-based problem-solving methods.

【Goal】

By the end of the semester, students should: (i) understand fundamental programming concepts shared by most programming languages, (ii) be able to apply these concepts to a wide range of problem situations, and (iii) have gained an understanding of the popular Python programming language.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

The main elements of the course are lectures, assignments, programming exercises, and in-class discussions. The lectures relate to the topics mentioned in the course schedule below. A class typically provides feedback and guidance on assignments. In addition, each class provides various programming exercises that allow students to engage actively, discuss, and practice current issues in computer programming.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course.	Introduction to the course and to programming in Python.
2	Introduction to basic programming elements.	For example, comments, variables, data types, numbers, or casting. Programming exercises.
3	Introduction to basic programming elements.	For example, strings, booleans, or operators. Programming exercises.
4	Introduction to basic programming elements.	Data structures. For example, lists, tuples, sets, or dictionaries. Programming exercises.
5	Introduction to basic programming elements.	Control statements. For example, if-else, while, or for loop. Programming exercises.
6	Introduction to basic programming elements.	Review and consolidation of material so far. Programming exercises.
7	Review and midterm exam.	Review and final tips. Midterm exam.
8	Introduction to basic programming elements.	Functions. Programming exercises.
9	Introduction to basic programming elements.	File handling. Programming exercises.
10	Introduction to basic programming elements.	Review and consolidation of basic programming elements. Programming exercises.
11	Introduction to more advanced Python programming elements.	Python modules. Programming exercises.
12	Introduction to more advanced Python programming elements.	Python Matplotlib. Programming exercises.
13	Introduction to more advanced Python programming elements.	Modern Python environments (e.g., Anaconda, Jupyter notebook). Programming exercises.
14	Final examination & wrap-up.	Review and final tips. Final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Class preparation and review for this class are 2 hours each. Students are expected to read various course related materials carefully to acquire a thorough understanding of the ideas and concepts presented to them in class. In addition, students are given weekly assignments. These assignments are an important element in the course and contribute to the overall mark that a student may achieve.

【Textbooks】

There is no required textbook for this course. The course uses online materials. In addition, handouts and other reading materials will be provided by the instructor.

【References】

Python Basics: A Practical Introduction to Python. Authors: David Amos, Dan Bader, Joanna Jablonski, and Fletcher Heisler. Publisher: Real Python (realpython.com) (2021). ISBN-10: 1775093328. ISBN-13: 978-1775093329.

【Grading criteria】

Participation (10%).

Assignments (20%).

Midterm exam (30%).

Final exam (40%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

The first class provides instructions about setting up a Python working environment on a PC/laptop.

【Prerequisite】

None.

MAN100ZA (経営学 / Management 100)

Leadership and Career Development

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 月 5/Mon.5

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】

The primary objective of this course is to provide students with a deep understanding of entrepreneurship, and careers in both Japanese global companies and foreign affiliated companies. The knowledge and insights based on the real-life experiences of GGLI Fellows will assist students in learning the necessary skills, strategies, and thought processes for success in today's business environment. This course covers everything from the fundamentals of starting a business to actual business case studies, with the aim of integrating theory with practice. Furthermore, the global perspectives offered by GGLI Fellows, who come from diverse cultural backgrounds, will deepen students' understanding of how to thrive in international markets. Through this course, students will learn about adapting business models in different markets, the importance of intercultural communication, and ways to demonstrate leadership in various business environments. Additionally, for students aspiring to pursue entrepreneurship or careers in the global arena, this course will also provide opportunities for contemplation on career paths through these experiences.

【Goal】

The key learning objectives to be achieved through this course are as follows:

1. Understanding Entrepreneurship: Students will understand the skills, strategies, and mindset required to be a successful entrepreneur and learn how to actualize their own ideas.
2. Adaptability in a Global Business Environment: Students will grasp the complexities of conducting business across cultures and acquire the knowledge and skills necessary for adapting business models in international markets.
3. Leadership and Problem-Solving Skills: Students will learn how to exhibit leadership and propose innovative solutions to complex problems in real business scenarios.
4. Discovering and Planning One's Career Path: Based on their strengths and interests, students will learn how to plan their career path as entrepreneurs or in Japanese global corporations and multinational companies, and take the first steps toward it.
5. Adapting to Real Business Environments: Students will learn how to respond to challenges in real business environments through actual business case studies.

Upon completing this course, students will have established a foundation for thriving in the modern business environment and will be able to take practical steps toward shaping their future careers.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The teaching method of this course emphasizes a practical and interactive approach. GGLI Fellows will bridge the gap between theory and practice by sharing their own experiences and expertise. Through lectures and interactive discussions, students will have opportunities to analyze real business scenarios and develop problem-solving skills.

This course encourages active participation and self-expression from students, and has the aim of deepening their thinking and enhance their skills. Each week, following the lecture by a Fellow, the instructor will facilitate interaction between the Fellow and the students. By the end of the course, students will have acquired practical knowledge and confidence for success in a global business environment.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	Entrepreneurship and Foreign Affiliated Company	Exploring entrepreneurship through the perspective of managing and collaborating with foreign-affiliated companies in a global setting.

3	Government Organizations and International Business	Examining how government organizations facilitate the overseas expansion of Japanese companies and support foreign companies entering Japan.
4	The Impact of Market Changes on Human Resources Management	Analyzing market shifts and their impact on human resource strategies, recruitment practices, and workforce planning.
5	Cloud Services and Business	Examining how cloud services reshape business models, enhance operational efficiency, and drive global digital innovation.
6	Financial Markets and the Financial Industry	Examining Japan's financial markets and industry while exploring key institutions, regulatory frameworks, and market dynamics.
7	STEM Education and Future Prospects	Exploring the significance of STEM education and examining its impact on career opportunities and the evolving role of science, technology, engineering, and mathematics in society.
8	The Consulting Industry and Career Paths	Exploring the fundamentals of consulting while examining essential skills, job responsibilities, and career paths within the industry.
9	Entrepreneurship and Social Contribution	Examining the role of entrepreneurship in addressing and solving social issues.
10	Overcoming Cultural Challenges: Global Management at Overseas Office 1	Exploring strategies for global managers to navigate and overcome cultural differences in international workplaces.
11	Overcoming Cultural Challenges: Global Management at Overseas Office 2	Exploring strategies for global managers to navigate and overcome cultural differences in international workplaces.
12	Understanding the IT Industry and Careers	Exploring the IT industry while examining essential skills, job roles, and career opportunities for professionals in the field.
13	Platform Strategy and Business	Exploring future business strategies while examining the impact of platform businesses, their market influence, and key success factors.
14	Review and Final Exam	Review and Final Exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Each week, students are required to review the lecture materials and prepare for the upcoming week's lecture. Preparatory study and review time for this class are expected to be 2 hours for each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】

References will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on a reaction paper submitted after the lectures (70%) and an essay in the final exam (30%). Grades will not be assigned from A to E, but will be determined as pass or fail. The passing criteria is set at a score of 70% or above.

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

None

【Others】

This course is available to GIS sophomores, juniors, seniors, and others (GIS freshmen and students from other faculty /departments) and accepts more students than the standard number of students at GIS. However, the priority for enrollment will be in the following order: GIS juniors, seniors, sophomores, freshmen, and then students from other departments if the number exceeds the limit. We may impose enrollment restrictions by grade level.

【Prerequisite】

None.

LANc100ZA (中国語 / Chinese language education 100)

Chinese A I

Nao Sato

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

この授業は、中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、中国語を使って初級レベルの意思疎通ができるようになることを目的とする。授業では、指定の教科書に沿って文法を解説し、「読む・書く・聞く・話す」練習をおこなうことで、中国語の基礎を身につけていく。

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to help students acquire basic communication skills in Chinese. In every class, the lecturer will explain the grammar in line with the textbook and students will practice reading, writing, listening and speaking, in order to improve their basic skills in Chinese.

【Goal】

この授業の到達目標は以下のとおりである。

1. 中国語の発音と文法の基礎を理解し、正しくもちいることができる。
2. 基本的な中国語の読み書き、聞きとり、会話によって、日常的な場面において初級レベルの意思疎通ができる。

The goals of this course are as follows:

1. Students will become able to understand the basics of pronunciation and grammar of Chinese and use them precisely.
2. Students will become able to communicate with others at a basic level by reading, writing, listening and speaking in everyday situations.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

- ・基本的には、指定の教科書に沿って毎回1課ずつ進める。まず担当講師が文法を解説し、その内容を理解してもらったうえで、学生に教科書の練習問題を解いてもらう。
- ・発音と文法に慣れるため、授業では講師が学生を指名するので、音読や回答をしてもらう。また、前に出て板書してもらったり、学生どうして会話練習してもらったりする機会も設ける。
- ・継続的な学習が必要となるため、毎回の授業の初めに小テストをおこなう。担当講師は、添削した小テストを学生に返却し、まちがいの多かった問題については随時解説する。
- ・授業で学んだ項目の定着を図るため、自宅でeラーニングに取り組んでもらう。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第1課あるいは第2課	発音 (一) [簡体字とピンイン]、発音 (二) [声母]
3	第3課あるいは第4課	発音 (三) [韻母]、発音 (四) [二音節語の声調 20 パターン]
4	第5課あるいは第6課	自己紹介 [您贵姓?]、動詞述語文 [你学习什么?]
5	第7課あるいは第8課	形容詞述語文 [北京大学很大]、名詞述語文 [我十八岁]
6	第9課あるいは第10課	主述述語文 [你哪儿不舒服?]、連体修飾語・連用修飾語 [一年级的学生 都学外语]
7	第11課あるいは第12課	補語 [你每天看几个小时?]、動詞述語文 (一) [她是谁?]
8	第13課あるいは第14課	動詞述語文 (二) [这是什么?]、動詞述語文 (三) [你有铅笔吗?]
9	第15課あるいは第16課	動詞述語文 (四) [你家有几口人?]、動詞述語文 (五) [这儿有邮筒吗?]
10	第17課あるいは第18課	動詞述語文 (六) [请再念一次]、動詞述語文 (七) [去中国干什么?]
11	第19課あるいは第20課	完了態 [这本书你看了吗?]、変化態 [快要考试了]
12	復習①	Spring学期の学習項目の総復習
13	復習②	Spring学期の学習項目の確認
14	総括	これまでの学習内容の総括

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・毎回の授業で学んだ事項の復習をしっかりとこなうこと。中国語の発音や文法に慣れるため、繰り返しデジタル教材およびeラーニング教材 (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei>) を活用してほしい。

・予習および復習の合計時間は、毎回1時間を標準とする。

・After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei>)

・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

大石智良ほか『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店) 2010年

【References】

とくになし。必要があれば授業中に紹介する。

【Grading criteria】

毎回の授業の初めにおこなう小テストの平均点で100%評価し、学期末試験はおこなわない。小テストは100点満点とし、そのうち40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

【Changes following student comments】

正しい文法と発音を身に着けてもらうため教科書の解説の時間を確保するが、可能なかぎり学生が中国語を話す時間をとりたい。

【Equipment student needs to prepare】

デジタル教科書やeラーニングを活用するため、PCなどの機器を使用する予定である。詳細は授業時に説明する。

【Others】

- ・この授業はすべての回の出席を評価の前提とするので、欠席は原則として認めない。体調不良などのやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自でしかるべき対応をとること。
- ・小テストは毎回授業の最初におこなうので、遅刻は厳禁である。
- ・オンライン授業が実施される場合には、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。こうした変更についての連絡は学習支援システムで連絡する。
- ・授業にかなする連絡や指示は学習支援システムをつづけておこなうことがあるので、学習支援システムを随時確認すること。
- ・必ずChinese B I と同セメスターで履修すること。2015年以前に入学した学生は、2単位となる。

【Prerequisite】

None.

LANc100ZA (中国語 / Chinese language education 100)

Chinese A II

Nao Sato

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

この授業は、中国語を使って初級レベルの意思疎通ができるようになることを目的とする。授業では、指定の教科書に沿って文法を解説し、「読む・書く・聞く・話す」練習をおこなうことで、中国語の基礎を身につけていく。

The aim of this course is to help students acquire basic communication skills in Chinese. In every class, the lecturer will explain the grammar in line with the textbook and students will practice reading, writing, listening and speaking, in order to improve their basic skills in Chinese.

【Goal】

この授業の到達目標は以下のとおりである。

1. 中国語の発音と文法の基礎を理解し、正しくもちいることができる。
2. 基本的な中国語の読み書き、聞きとり、会話によって、日常的な場面において初級レベルの意思疎通ができる。

The goals of this course are as follows:

1. Students will become able to understand the basics of pronunciation and grammar of Chinese and use them precisely.
2. Students will become able to communicate with others at a basic level by reading, writing, listening and speaking in everyday situations.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

・基本的には、指定の教科書に沿って毎回1課ずつ進める。まず担当講師が文法を解説し、その内容を理解してもらったうえで、学生に教科書の練習問題を解いてもらう。

・発音と文法に慣れるため、授業では講師が学生を指名するので、音読や回答をしてもらう。また、前に出て板書してもらったり、学生どうしで会話練習してもらったりする機会も設ける。

・継続的な学習が必要となるため、毎回の授業の初めに小テストをおこなう。担当講師は、添削した小テストを学生に返却し、まちがいの多かった問題については随時解説する。

・授業で学んだ項目の定着を図るため、自宅でeラーニングに取り組んでもらう。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	既習項目の復習・確認	Spring学期の既習項目（第1課～第20課）の復習と確認
2	第21課あるいは第22課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持續態 [你在做什么呢?]
3	第23課あるいは第24課	形容詞述語文（一）[水饺好吃吗?]、形容詞述語文（二）[明天比今天还热]
4	第25課あるいは第26課	形容詞述語文（三）[比泰山高一点儿]、名詞述語文（一）[今天几月几号?]
5	第27課あるいは第28課	名詞述語文（二）[现在几点?]、名詞述語文（三）[这只手表多少钱?]
6	第29課あるいは第30課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
7	第31課あるいは第32課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几网球?]
8	第33課あるいは第34課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
9	第35課あるいは第36課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
10	第37課あるいは第38課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受け身表現 [衣服被淋湿了]
11	第39課あるいは第40課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
12	復習①	Fall学期の学習項目の総復習
13	復習②	Fall学期の学習項目の確認
14	総括	これまでの学習内容の総括

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・毎回の授業で学んだ事項の復習をしっかりとこなうこと。中国語の発音や文法に慣れるため、繰り返しデジタル教材およびeラーニング教材（<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei>）を活用してほしい。

・予習および復習の合計時間は、毎回1時間を標準とする。

・After every class, students review the items they have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei>)

・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

大石智良ほか『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』（東方書店）2010年

【References】

とくになし。必要があれば授業中に紹介する。

【Grading criteria】

毎回の授業の初めにおこなう小テストの平均点で100%評価し、学期末試験はおこなわない。小テストは100点満点とし、そのうち40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

【Changes following student comments】

正しい文法と発音を身につけてもらうため教科書の解説の時間を確保するが、可能なかぎり学生が中国語を話す時間をとりたい。

【Equipment student needs to prepare】

デジタル教科書やeラーニングを活用するため、PCなどの機器を使用する予定である。詳細は授業時に説明する。

【Others】

・この授業はすべての回の出席を評価の前提とするので、欠席は原則として認めない。体調不良などのやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自でしかるべき対応をとること。

・小テストは毎回授業の最初におこなうので、遅刻は厳禁である。

・オンライン授業が実施される場合には、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。こうした変更についての連絡は学習支援システムで連絡する。

・授業にかんする連絡や指示は学習支援システムをつうじておこなうことがあるので、学習支援システムを随時確認すること。

・必ずChinese B IIと同セメスターで履修すること。2015年以前に入学した学生は、2単位となる。

【Prerequisite】

None.

LANc100ZA (中国語 / Chinese language education 100)

Chinese B I

Konae Yanagi

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 木4/Thu.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

[Goal]

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) Spring学期の学習を完了した段階で、HSK1級に合格できるレベルの中国語能力を身に付ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を持ち、積極的に異文化を理解することができる。

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 1 by the end of the spring semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain “DP 3”.

[Method(s)]

- ・授業は基本的にテキストに沿って毎回1課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1.小テスト(約20分)、2.前回の復習(約10分)、3.テキストの学習(約40分)、4.問題演習・コミュニケーション活動など(約30分)。
- ・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。
- ・この授業ではブレンド型学習(教室での対面学習と自宅でのeラーニングを組み合わせた学習方法)を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。
- ・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音(一)[簡体字とピンイン]、発音(二)[声母]
3	第三課あるいは第四課	発音(三)[韻母]、発音(四)[二音節語の声調20パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介[您贵姓?]、動詞述語文[你学习什么?]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文[北京大学很大]、名詞述語文[我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文[你哪儿不舒服?]、連体修飾語・連用修飾語[一年级的学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語[你每天看几个小时?]、動詞述語文(一)[她是谁?]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文(二)[这是什么?]、動詞述語文(三)[你有铅笔吗?]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文(四)[你家有几口人?]、動詞述語文(五)[这儿有邮局吗?]
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文(六)[请再念一次]、動詞述語文(七)[去中国干什么?]
11	第十九課あるいは第二十課	完了態[这本书你看了吗?]、変化態[快要考试了]
12	復習	Spring学期の学習項目の総復習
13	HSK1級問題	HSK1級問題の紹介・解説

14

総括

これまでの学習内容の総括を行う

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- ・受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及びeラーニング教材(<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei/>)を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。
- ・予習／復習の時間は毎回1時間を標準とする。
- ・After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei/>)
- ・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

[Textbooks]

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店) 2010年

[References]

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華(他) 2019『實用現代漢語語法(第三版)』北京:商務印書館
- ・相原茂(他) 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京:同学社
- ・守屋宏則(他) 2019『やさしく かわいい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京:東方書店

[Grading criteria]

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100%評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

[Changes following student comments]

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けたい。

[Equipment student needs to prepare]

デジタル教科書やeラーニングを活用するため、PC等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

[Others]

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、HSK(中国語版TOEFLと呼ばれる中国政府公認の中国語検定)の紹介・解説を行う予定。HSKは、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSKのホームページ(<http://www.hskj.jp/>)も参照。
- ・必ずChinese A Iと同セメスターで履修すること。2015年度以前に入学した学生は、2単位となる。

[Prerequisite]

None.

[Outline (in English)]

[Outline]

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

[Goal]

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 1 by the end of the spring semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- ・After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei/>)
 - ・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
- [Grading criteria]
- ・The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc100ZA (中国語 / Chinese language education 100)

Chinese B II

Konae Yanagi

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木4/Thu.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

【Goal】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) Fall 学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を持ち、積極的に異文化を理解することができる。

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 1 by the end of the spring semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

- ・授業は基本的にテキストに沿って毎回1課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1.小テスト (約20分)、2.前回の復習 (約10分)、3.テキストの学習 (約40分)、4.問題演習・コミュニケーション活動など (約30分)。
- ・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。
- ・この授業ではブレンド型学習 (教室での対面学習と自宅でのeラーニングを組み合わせた学習方法) を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。
- ・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することによって随時フィードバックを行う。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	既習項目の復習・確認	既習項目 (第一課～第二十課) の復習と確認
2	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持續態 [你在做什么呢?]
3	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水餃好吃吗?]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
4	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号?]
5	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点?]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱?]
6	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
7	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
8	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
9	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
10	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受身表現 [衣服都被淋湿了]
11	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
12	復習	Fall 学期の学習項目の総復習
13	HSK2 級問題	HSK2 級問題の紹介・解説

14

総括

これまでの学習内容の総括を行う

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及びeラーニング教材 (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。
- ・予習／復習の時間は毎回1時間を標準とする。
- ・After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei/>)
- ・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』 (東方書店) 2010 年

【References】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華 (他) 2019 『實用現代漢語語法 (第三版)』 北京: 商務印書館
- ・相原茂 (他) 2016 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 東京: 同文社
- ・守屋宏則 (他) 2019 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』 東京: 東方書店

【Grading criteria】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100%評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

【Changes following student comments】

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けた。

【Equipment student needs to prepare】

デジタル教科書やeラーニングを活用するため、PC等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【Others】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、HSK (中国語版TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定) の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。
- ・必ずChinese A II と同セメスターで履修すること。2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となる。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

【Outline】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 2 by the end of the fall semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei/>)
 - ・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
- 【Grading criteria】
- ・The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANf100ZA (フランス語 / French language education 100)

French A I

Masamichi Suzuki

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 木3/Thu.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners (or more advanced students). The aim of this course is to help students acquire basic skills of communication. In our epoch of "globalization", knowledge of only one foreign language (for example, English) is far from sufficient.

By learning French, students will have more opportunities to work on the world stage.

【Goal】

The goal of this course is to develop basic daily communication skills:

asking for information, answering questions, speaking about oneself, and understanding simple texts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 3".

【Method(s)】

Mr.Okamura (French BI) and I will use the same textbook (see below) and conduct the class in relay. The students will learn all basic skills - speaking, listening, reading and writing although learning of practical skills takes precedence in this course. (Mr. Okamura will rather focus on learning the grammar. It is therefore required that the students attend both of the courses). Active participation is necessary not only for the acquisition of communicative skills through various means (e.g., role-playing), but for an understanding of French culture or that of other French-speaking countries.

The students will get information about the course by way of Learning Management System (LMS).

During the semester, the students are required to submit several assignments through LMS. They will get them back equally through LMS.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation - Initiation 1 Bonjour.	Orientation - Initiation 1 Greetings.
2	Initiation 2 Je suis français.	Self introduction
3	Lesson 1 Il s'appelle comment?	Introduction; Asking questions about people
4	Lesson 2 Qu'est-ce qu'elle fait dans la vie?	Asking about jobs
5	Lesson 2 Vous parlez anglais?	Expressions about jobs
6	Lesson 3 Vous connaissez Omar Sy?	"Do you know...? "

7	Lesson 3 Quelle langue est-ce qu'on parle au Canada?	"What language do they speak?"
8	Lesson 4 Qu'est-ce que vous aimez?	Expressing likes and dislikes
9	Lesson 4 Qu'est-ce que vous préférez, la mer ou la montagne?	Expressing preferences
10	Lesson 5 Qu'est-ce que vous aimez faire le week-end?	Expressing what one likes to do
11	Lesson 5 Tu voudrais faire quoi ce week-end?	Expressing what one wants to do
12	Lesson 6 Vous aimez le golf?	Explaining the reason for preferences
13	Terminal examination Lesson 6 Comment est-ce qu'elle est?	Terminal examination Describing a person
14	Review of the examination Lesson 6 Elle n'est pas sérieuse.	Review of the examination Describing a person

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1st week: Review of greetings and preparation for the next lesson

2nd week: Homework and preparation for the next lesson

3rd week: Review of introductions and preparation for the next lesson

4th week: Review of expressions of jobs and preparation for the next lesson

5th week: Homework and preparation for the next lesson

6th week: Homework and preparation for the next lesson

7th week: Review of expressions of likes and preparation for the next lesson

8th week: Homework and preparation for the next lesson

9th week: Homework and preparation for the next lesson

10th week: Review of expressions for phone conversation and preparation for the next lesson

11th week Review of expressions for favorite activities and preparation for the next lesson

12th week: Preparation for the examination

13th week: Review of description of persons /

Preparation for the next lesson

14th week: Total review

Preparatory study and review time for this class is 1 hour.

【Textbooks】

Spirale: nouvelle édition 『新スピラルー日本人初心者のためのフランス語教材』, Gaël Crépieux, Philippe Callens, 高瀬智子, 根岸純, アシェット・ジャポン (Hachette Japon), 2015年

【References】

『英語がわかればフランス語はできる』久松健一、駿河台出版社、1999年

French Demystified: A Self-Teaching Guide, Annie Heminway, McGraw-Hill, 2007

【Grading criteria】

Progress will be assessed by classwork and assignments. A term-end examination will be held. Continuous assessment: 50%; term-end examination: 50%. Students must work routinely at home: they must read aloud expressions and sentences given in the textbook. They must be able to use them in oral or writing class activities. Active participation in role-playing is important.

【Changes following student comments】

It is sometimes difficult to animate oral exercise during the class. I will try to create an optimum situation which can facilitate students' class performance.

【Others】

Students should also attend Mr.Okamura's course French BI.

【Prerequisite】

None.

LANf100ZA (フランス語 / French language education 100)

French A II

Masamichi Suzuki

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 月5/Mon.5

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course is designed for beginners (or more advanced students). The aim of this course is to help students acquire basic skills of communication. In our epoch of "globalization", knowledge of only one foreign language (for example, English) is far from sufficient.

By learning French, students will have more opportunities to work on the world stage.

[Goal]

The goal of this course is to develop basic daily communication skills:

asking for information, answering questions, speaking about oneself, and understanding simple texts.

The students must make an effort to reach the level A1 of CEFER.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 3".

[Method(s)]

As in the spring semester, Mr. Okamura (French BII) and I will use the same textbook (see below) and conduct the class in relay. The students will learn all basic skills - speaking, listening, reading and writing although learning of practical skills takes precedence in this course. (Mr. Okamura will rather focus on learning of the grammar. It is therefore required that the students attend both of the courses). Active participation is necessary not only for the acquisition of communicative skills through various means (e.g., role-playing), but for an understanding of French culture or that of other French-speaking countries.

The students will get information about the course by way of Learning Management System (LMS).

During the semester, the students are required to submit several assignments through LMS. They will get them back equally through LMS.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり/Yes

[Fieldwork in class]

なし/No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation, Lesson 7 Quel âge avez-vous?	Orientation, Lesson 7 Asking about someone's age
2	Lesson 7 Vous avez quels cours le mardi matin?	University life
3	Lesson 8 Est-ce que vous avez une voiture?	Describing objects
4	Lesson 8 Excusez-moi, vous avez un stylo, s'il vous plaît?	In the class

5	Lesson 9 Le Louvre, qu'est-ce que c'est?	Describing sights
6	Lesson 9 Est-ce qu'il y a un restaurant italien dans le quartier?	Asking for directions
7	Lesson 10 Madame, qu'est-ce que vous faites demain?	Asking about activities
8	Lesson 10 Qu'est-ce que vous lisez en ce moment?	Asking for more details about activities
9	Lesson 11 Est-ce que vous faites du sport?	Speaking about one's activities
10	Lesson 11 Quels sports est-ce que les hommes font en général en France?	Speaking about statistical data
11	Lesson 12 Tu habites avec ta famille?	Speaking about one's family
12	Lesson 12 Qu'est-ce que vous avez fait?	Past tense 1
13	Terminal examination Lesson 13 Où allez-vous ce week-end?	Terminal examination Asking about one's plan
14	Review of the examination Lesson 13 Est-ce que vous êtes sorti ce weekend?	Review of the examination Past tense 2

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1st week: Homework and preparation for the next lesson

2nd week: Homework and preparation for the next lesson

3rd week: Review of expressions for sightseeing and preparation for the next lesson

4th week: Review of expressions for directions and preparation for the next lesson

5th week: Review of expressions for activities and preparation for the next lesson

6th week: Homework and preparation for the next lesson

7th week: Homework and preparation for the next lesson

8th week: Homework and preparation for the next lesson

9th week: Reviews of expressions for family members and preparation for the next lesson

10th week: Reviews of expressions for E-mail and preparation for the next lesson

11th week: Review of expressions for destination and preparation for the next lesson

12th week: Preparation for the examination

13th week: Review of the past tense

14th week: Total review

Preparatory study and review time for this class is 1 hour.

[Textbooks]

The same textbook that is used during the first semester:
Spirale, Nouvelle édition, Gaël Crépieux, Philippe Callens,
Tomoko Takase, Jun Negishi, Hachette, 2015

[References]

『英語がわかればフランス語はできる』久松健一、駿河台出版社、
1999年

French Demystified: A Self-Teaching Guide, Annie Heminway,
McGraw-Hill, 2007

【Grading criteria】

Progress will be assessed by classwork and assignments. A term-end examination will be held. Continuous assessment: 50%; term-end examination: 50%.

The students must work routinely at home: they must read aloud expressions and sentences given in the textbook. They must be able to use them in oral class activities. Active participation in role-playing is important.

【Changes following student comments】

It is sometimes difficult to animate oral exercise during the class. I will try to create an optimum situation which can facilitate students' class performance.

【Others】

The students should also attend Mr.Okamura's course French BII .

【Prerequisite】

None.

LANf100ZA (フランス語 / French language education 100)

French B I

Tamio Okamura

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 水2/Wed.2

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

フランス語初級文法を学びます。時間の許すかぎり、フランス語圏の社会・歴史・文化についても学びます。

【Goal】

フランス語初級文法の習得。初級レベルのオーラル能力の獲得。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

French AI と連動し、『Spirale Nouvelle édition』を学習し、練習問題を解きます。また『新版 3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』を併用し、体系的な文法学習を補います。各課終了ごとに小テスト(10点満点)を行います。フィードバックは講義と hoppii を通して行います。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	ガイダンス Initiation 1	-ガイダンス -挨拶① -数0～5
2	Initiation 2	-挨拶② -数6 10 -動詞 être -動詞 aller
3	Leçon 1	-動詞 faire -否定形①
4	Leçon 1	-疑問文
5	Leçon 2	-所有形容詞
6	Leçon 2	-名詞・形容詞の男性形/女性形①
7	Leçon 3	-動詞 connaître -人称代名詞 on
8	Leçon 3	-定冠詞 -国名
9	Leçon 4	-動詞 aimer
10	Leçon 4	-否定形② -動詞 préférer
11	Leçon 5	-aimer 不定法
12	Leçon 5	-vouloir の条件法現在
13	期末テスト	-期末テストの実施
14	復習 Leçon 6	-期末テストの返却と答え合わせ -形容詞の男性形/女性形② -trouver の用法

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

前回の復習。ときどき宿題。また各課終了ごとに小テストを出すのでその準備をしてください。Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『Spirale Nouvelle édition 新スピラール日本人初学者のためのフランス語教材 』(アシェット・ジャボン、2015年、3025円)

『新版 3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』(白水社、2003年、2640円)

【References】

講義内で適宜指示します。

【Grading criteria】

授業内評価50%+期末試験50%。

【Changes following student comments】

宿題に関して、hoppiiで添削を示すか、正答を示します。

【Others】

『Spirale』という同一教科書をFrench AIと交互にレリーしながら使用するので、必ずFrench AIと合わせて履修してください。なおBIでは『フランス語トレーニング・コース』も使用します。2冊の教科書を使用するので、早めに生協で購入してください。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】Students study Elementary French grammar.

【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANf100ZA (フランス語 / French language education 100)

French B II

Tamio Okamura

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 水3/Wed.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

フランス語初級文法を学びます。時間の許す限りでフランス語圏の社会・歴史・文化についても学びます。

We study Elementary French grammar.

【Goal】

フランス語初級文法の習得。初級のオーラル能力の獲得。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 3".

【Method(s)】

French AII とリレーしながら、『Spirale Nouvelle édition』を学習し、練習問題を解きます。また『新版 3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』を併用し、体系的な文法学習を補います。各科ごとに小テストを行います。フィードバックは講義と hoppii を通じて行います。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Leçon 6	-形容詞の男性形/女性形③
2	Leçon 7	-自分について話す (年齢、学年) -科目について話す
3	Leçon 7	-時間の使い方・時間割について話す
4	Leçon 8	-持っているもの -所有形容詞 -物を借りる
5	Leçon 8	-場所について説明する
6	Leçon 9	-il y a
7	Leçon 9	-場所についてたずねる -savoir
8	補習	-avoir 型の複合過去
9	Leçon 10	-何をするか尋ねる、答える -sortir, lire, faire, voir -否定形②
10	Leçon 10	-詳しくきく -指示形容詞 -部分冠詞
11	Leçon 11	-趣味・余暇について話す -faire de, jouer de -頻度を表す
12	Leçon 11	-習慣について話す -jouer à
13	期末テスト	期末テストの実施
14	復習	期末テストの返却と答えあわせ

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

復習。ときどき宿題。各課終了ごとに小テストを行います。 Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『Spirale 新スピラルー日本人初心者のためのフランス語教材 Nouvelle édition』(アシェット・ジャボン、2015年、3025円)

『新版 3段階式フランス語トレーニング・コース』(白水社、2003年、2640円)

【References】

授業内で適宜指示します。

【Grading criteria】

授業内評価50%+期末試験50%

【Changes following student comments】

宿題に関して、hoppii で添削を示すか、正答を示します。

【Others】

『Spirale』という同一教科書を French A II と交互にリレーしながら使用する
ので、必ず French A II と合わせて履修してください。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students study Elementary French grammar.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】 Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANs100ZA (スペイン語 / Spanish language education 100)

Spanish A I

Taiga Wakabayashi

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 金 5/Fri.5

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

This course begins with the Spanish alphabet. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting.

The feedback for homework will be given through Hoppii Learning Assistant System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
	Alphabet	The Spanish alphabet
2	Pronunciation and Accent	Rules of Spanish pronunciation and spelling
3	Gender, Singular and Plural	Masculine, feminine and neuter nouns of Spanish Singular and plural form of nouns
4	Definite and Indefinite Articles	Definite (“el”, “la”, “lo”) and indefinite (“un”, “una”) articles Their distinction and singular / plural forms
5	Adjectives I	Inflection of adjectives with vowel and consonant termination
6	Adjectives II	Inflection of adjectives which express place-names and nationalities Adjectives whose termination is omitted by inflection
7	Conjugation of the Verb “ser”	Conjugation of the verb “ser” which expresses nature and quality
8	Mid-term Exam Self-introduction	Practice of self-introduction in Spanish Asking and telling the place of origin
9	Conjugation of the Verb “estar” Expression of Existence	Conjugation of the verb “estar” which expresses state and condition The phrase “Hay ...” which expresses “There is ...”
10	Existence, Quality and State	How to differentiate among “ser”, “estar” and “hay” Prepositions and pronouns
11	Regular Indicative Conjugation of Verbs (present tense)	Rule of regular indicative conjugation of verbs with “-ar”, “-er” and “-ir” terminations
12	Expression of Time I Numbers I	Expression of time to say “at ... o'clock” Numbers from 1 to 12
13	Demonstrative Adjectives and Pronouns	Demonstrative adjectives (“este/ a”, “ese/a”, “aquel/lla”) and pronouns (“esto”, “eso”, “aquello”)
14	Final Exam & Wrap-up	Final exam (written) Review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary using a dictionary.

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）、2011年、2,310円（税込）

ISBN: 978-4-560-01679-4

【References】

A Spanish-Japanese dictionary is essential for Spanish learning. Students have to bring a dictionary to the class every week. Although a particular dictionary is not required,『西和中辞典』（小学館） is recommended. Also an electronic dictionary is useful for quick look-ups. Other Spanish-Japanese dictionaries can be found on the web. For example:

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【Grading criteria】

Evaluation is by midterm and final exam. Class participation and attitude towards learning will be taken into consideration.

Evaluation is as follows:

Class participation and attitude: 30%

Midterm exam: 30%

Final exam: 40%

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ずSpanish BIと同セメスターで履修すること。

【Prerequisite】

None.

LANs100ZA (スペイン語 / Spanish language education 100)

Spanish A II

Taiga Wakabayashi

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 金5/Fri.5

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

This course begins where “Spanish AI” and “Spanish BI” ended. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting. The feedback for homework will be given through Hoppii Learning Assistant System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) I	Class overview Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense
2	Possessive Adjectives Numbers III	Prepositive possessive adjectives ("mi", "nuestro/a", "tu", "vuestro/a", "su") Numbers from 31 to 99
3	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) II Expression of Obligation and Necessity	Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense Expression of obligation and necessity ("tener que ...")
4	Numbers IV Direct and Indirect Objective Pronouns	Numbers from 100 to 999 Direct and indirect objective pronouns ("me", "nos", "te", "os", "lo/le/la", "los/les/las")
5	Verb "gustar"	Use of the verb "gustar" which expresses "like (to) ..." or "love (to) ..."
6	Other Verbs of "gustar" Type	Verbs of "gustar" type whose subjective corresponds to things or matters
7	Reflexive Verbs Impersonal Expressions	Reflexive verbs whose objective corresponds to the subject Impersonal expressions with the reflexive pronoun "se"
8	Mid-term Exam Expression of Time II Expression of Weather I	Expression of time to say "It's ... o'clock" and "do ~ at ... o'clock" Expression of weather I
9	Regular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Regular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
10	Expression of Weather II	Expression of weather II
11	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Irregular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
12	Months	Names of months in Spanish
13	Regular and Irregular Indicative Conjugation of Verbs (preterite past tense)	Regular and irregular indicative conjugation of verbs in the preterite past tense
14	Final Exam & Wrap-up	Final exam (written) Review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』(白水社)、2011年、2,310円(税込)

ISBN: 978-4-560-01679-4

【References】

A Spanish-Japanese dictionary is essential for Spanish learning. Students have to bring a dictionary to the class every week. Although a particular dictionary is not required, 『西和中辞典』(小学館) is recommended. Also an electronic dictionary is useful for quick look-ups. Other Spanish-Japanese dictionaries can be found on the web. For example:

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【Grading criteria】

Evaluation is by midterm and final exam. Class participation and attitude towards learning will be taken into consideration.

Evaluation is as follows:

Class participation and attitude: 30%

Midterm exam: 30%

Final exam: 40%

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ずSpanish BIIと同セメスターで履修すること。

【Prerequisite】

None.

LANs100ZA (スペイン語 / Spanish language education 100)

Spanish B I

Yoshifumi Onuki

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 火 4/Tue.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

This course begins with the Spanish alphabet. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction Alphabet Pronunciation and Accent	Guidance to the class Spanish alphabet Rules of Spanish pronunciation and spelling
2	Gender, Singular and Plural of Nouns	Masculine, feminine and neuter nouns of Spanish Singular and plural form of nouns
3	Definite and Indefinite Articles	Definite (“el”, “la”, “lo”) and indefinite (“un”, “una”) articles Their distinction and singular / plural forms
4	Adjectives I	Inflection of adjectives with vowel and consonant termination
5	Adjectives II	Inflection of adjectives which express place-names and nationalities Adjectives whose termination is omitted by inflection
6	Conjugation of the Verb “ser”	Conjugation of the verb “ser” which expresses nature and quality
7	Self-introduction	Practice of self-introduction in Spanish Asking and telling the place of origin
8	Conjugation of the Verb “estar” Expression of Existence	Conjugation of the verb “estar” which expresses state and condition The phrase “Hay …” which expresses “There is …”
9	Existence, Quality and State	How to differentiate among “ser”, “estar” and “hay” Prepositions and pronouns
10	Regular Indicative Conjugation of Verbs (present tense)	Rule of regular indicative conjugation of verbs with “-ar”, “-er” and “-ir” terminations
11	Expression of Time I	Expression of time: “at … o’clock”
12	Numbers I	Numbers from 1 to 12
12	Demonstrative Adjectives and Pronouns	Demonstrative adjectives (“este/a”, “ese/a”, “aquel/lla”) and pronouns (“esto”, “eso”, “aquello”)
13	Numbers II	Numbers from 13 to 30 Questions and concerns about the content of the entire semester will be accepted for the final exam

14 Review and Final Exam Review and Final Exam (written)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『スペイン語キックオフ』 泉水浩隆 (白水社) ISBN : 9784560016794

【References】

『西和中辞典』 (小学館)

『わかるスペイン語文法』 西川喬 (同学社)、2010年

授業中の携帯電話やノートパソコンを利用したのオンライン辞書の使用は認められない

【Grading criteria】

Students evaluations are based on class participation (50%) and the final exam (50%). Participation and attitude will factor in the final grade.

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

The first class will be meeting in person, not online.

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish AI と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

LANs100ZA (スペイン語 / Spanish language education 100)

Spanish B II

Yoshifumi Onuki

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 火4/Tue.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 3".

【Method(s)】

This course begins where "Spanish AI" and "Spanish BI" ended. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) I	Class overview
2	Possessive Adjectives Numbers III	Prepositive possessive adjectives ("mi", "nuestro/a", "tu", "vuestro/a", "su") Numbers from 31 to 99
3	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) II Expression of Obligation and Necessity	Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense Expression of obligation and necessity ("tener que ...")
4	Numbers IV Direct and Indirect Objective Pronouns	Numbers from 100 to 999 Direct and indirect objective pronouns ("me", "nos", "te", "os", "lo/le/la", "los/les/las")
5	Verb "gustar"	Use of the verb "gustar" which expresses "like (to) ..." or "love (to) ..."
6	Other Verbs of "gustar" Type	Verbs of "gustar" type whose subjective corresponds to things or matters
7	Reflexive Verbs Impersonal Expressions	Reflexive verbs whose objective corresponds to the subject Impersonal expressions with the reflexive pronoun "se"
8	Expression of Time II Expression of Weather I	Expression of time to say "It's ... o'clock" and "do at ... o'clock" Expression of weather I
9	Regular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Regular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
10	Expression of Weather II	Expression of weather II
11	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense) Months	Irregular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense Names of months in Spanish
12	Regular and Irregular Indicative Conjugation of Verbs (preterite past tense)	Regular and irregular indicative conjugation of verbs in the preterite past tense

13	Differences between Indefinite and Preterite Past Tenses	Proper use and differentiation of the indefinite /preterite tenses Questions and concerns about the content of the entire semester will be accepted for the final exam
14	Review and Final Exam	Review and Final Exam (written)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Work to be done outside of class":
"Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『スペイン語キックオフ』 泉水浩隆 (白水社) ISBN : 9784560016794

【References】

『西和中辞典』(小学館)等

『わかるスペイン語文法』西川喬 (同学社)、2010年

授業中の携帯電話やノートパソコンを利用するのオンライン辞書の使用は認められない

【Grading criteria】

Students evaluations are based on class participation (50%) and the final exam (50%). Participation and attitude will factor in the final grade.

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

The first class will be meeting in person, not online.

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ずSpanish AIIと同セメスターで履修すること。

2015年度以前に入学した学生は、2単位となります。

【Prerequisite】

None.

PHL200ZA (哲学 / Philosophy 200)

Political Philosophy

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木1/Thu.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Humans are deeply social creatures. Unlike other social creatures, humans create and exist within complex and dynamic political arrangements with laws, customs, institutions, and designated sources of authority. This situation presents us with the question of how we should arrange ourselves politically. The rational inquiry into this question is the primary task of political philosophy. In this course, we will explore a variety of topics in political philosophy with an emphasis on the social contract tradition and theories of justice.

[Goal]

This course has four primary learning goals. First, students will acquire knowledge about the various and diverging views on political philosophy. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning about political philosophy. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging text. Finally, students will improve their writing skills to communicate complex ideas clearly and confidently.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Classes will begin with a one-hour lecture with interactive slides. In many meetings, an in-class activity will accompany the lecture. These activities are interactive and require active participation. Each class will end either (1) with a discussion about the course content or (2) an open discussion about the in-class activity for that day. Students will prepare questions for the discussion period as homework before coming to class. Finally, there are two in-class exams. These exams will include multiple choice, short answer, and essay questions. Students will receive written feedback on their exams.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is political philosophy?
2	The Social Contract 1	The need for a state
3	The Social Contract 2	The legitimacy of political authority
4	The Social Contract 3	The nature of consent
5	The Social Contract 4	The social contract
6	The Social Contract 5	The corrupting influence of the state
7	The Social Contract 6	Political pessimism
8	Midterm	Review and midterm exam
9	Political Values 1	Freedom
10	Political Values 2	Equality
11	Justice 1	Liberal Egalitarianism
12	Justice 2	Libertarianism
13	Justice 3	Socialism
14	Final Exam and Review	Wrap-up, review, and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

[References]

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>

[Grading criteria]

Class Participation (15%), Discussion Questions (15%), Midterm Exam (30%), Final Exam (40%)

[Changes following student comments]

Students evaluated this class positively in the previous year. One small change is that slides will be provided online before class rather than posted afterward.

[Prerequisite]

There is no prerequisite for this course. Students who intend to register for this course are required to attend the first class (online). A screening will be conducted in the class if necessary.

PHL200ZA (哲学 / Philosophy 200)

Topics in Philosophy

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 1/Thu.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Philosophy & Aesthetics

Whether in nature or art, humans love beauty. In fact, appreciating and taking pleasure in beautiful things seems central to what it means to be a human. But what is beauty? What is art? Does art need to be beautiful? What is the value of art and beauty? What's the relation between the value of beauty and other values, like moral value? Why is art so important to us? These questions are the primary concern for the branch of philosophy called "aesthetics." In this course, we will investigate these questions in depth by exploring various texts on aesthetics from the history of philosophy. Philosophers surveyed in this course include Plato, Aristotle, Francis Hutcheson, David Hume, Immanuel Kant, G.W.F. Hegel, Arthur Schopenhauer, Friedrich Nietzsche, Leo Tolstoy, and Ludwig Wittgenstein.

[Goal]

This course has four primary learning goals. First, students will learn about various and diverging views on aesthetics. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging text. Finally, students will improve their communication skills to present complex ideas clearly and confidently in written and spoken forms.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Classes will begin with a one-hour interactive lecture that includes discussion periods. Students will prepare questions for the discussion period as homework before coming to class. However, for meetings 5-13, student presentations will precede the lecture. Each student must present once throughout the semester. Student presentations apply the course's various theoretical topics and ideas to analyze the students' choice of some piece(s) of art. The instructor will provide more detailed instructions on Hoppii. In addition to presentations, there will be a final exam in the last meeting. The final exam will consist of essay questions. Students will receive written feedback on the presentation. Feedback for the exam will be provided on Hoppii.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is aesthetics?
2	The Value of Beauty 1	Plato, Hippias Major and Ion
3	The Value of Beauty 2	Plato, Republic
4	The Value of Beauty 3	Aristotle, Poetics
5	Aesthetic Pleasure 1	Francis Hutcheson, excerpts from various works
6	Aesthetic Pleasure 2	David Hume, "Of the Standard of Taste"
7	Aesthetic Pleasure 3	Immanuel Kant, excerpts from the Critique of Judgment
8	Aesthetic Pleasure 4	Immanuel Kant, excerpts from the Critique of Judgment (cont.)
9	Beauty Beyond Pleasure 1	G.W.F. Hegel, excerpts from Introductory Lectures on Aesthetics
10	Beauty Beyond Pleasure 2	Arthur Schopenhauer, excerpts from The World as Will and Representation
11	Beauty Beyond Pleasure 3	Friedrich Nietzsche, excerpts from Twilight of the Idols
12	What is Art? 1	Leo Tolstoy, excerpts from What is Art?
13	What is Art? 2	Ludwig Wittgenstein, Lectures on Aesthetics
14	Final Exam and Review	Review, wrap-up, and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

[References]

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>

[Grading criteria]

Class Participation (15%), Presentations (30%), Discussion Questions (15%), Final Exam (40%)

[Changes following student comments]

Students evaluated this class positively in the previous year. As such, there are no changes from the previous year.

[Prerequisite]

None

PSY200ZA (心理学 / Psychology 200)

Applied Psychology

Sayaka Aoki

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 2/Mon.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course focuses on how psychology is applicable to our own life. Students will acquire new perspectives to analyze and conceptualize themselves and world. They will also acquire various psychological skills that can be useful to improve the quality of their daily life.

【Goal】

Upon completion of this course, students will have

- (1) learned some psychological concepts and theories that are applied to tackle the issues in various settings in our life, including schools and workplaces
- (2) acquired a basic knowledge about how one's psychological characteristics are assessed and mental and behavioral problems are treated, and
- (3) developed an array of skills that can be used to understand one's psychological characteristics and handle mental and behavioral problems in daily life

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course is taught primarily through lectures and in-class activities students are expected to be engaged in. At the end of each class, students complete a brief reflection paper, which will be graded and returned with feedback comments from the lecturer by the beginning of the next class. In the middle of the course, students are also asked to work on a small project, which is directly related to the contents of the final exam.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of the course	Introduction of the course
2	Assessment (I)	Overview of psychological assessment - How do we know ourselves?
3	Assessment (II)	Psychological tests (i)
4	Assessment (III)	Psychological tests (ii)
5	Assessment (IV)	Questionnaire
6	Assessment (V)	Interview
7	Assessment (VI)	Observation
8	Intervention (I)	Overview of psychological intervention - How do we change ourselves?
9	Intervention (II)	Cognitive behavior therapy
10	Intervention (III)	Dialectic behavior therapy
11	Intervention (IV)	Emotional control
12	Intervention (V)	Behavioral management
13	Intervention (VI)	Motivation control
14	Final Exam & Wrap-up	Review and Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to print out and read over the slides for the class in advance, which are uploaded on the class website. Reading assignments, links to relevant websites for the next class, will be also included in the last slide. Students are also expected to consider the answers for the essay questions in the final exam which are shared in the beginning of the course. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No specific textbooks are used; class materials are uploaded in the class website.

【References】

Braden, J. P. (2013). Psychological assessment in school settings. In J. R. Graham, J. A. Naglieri, & I. B. Weiner (Eds.), *Handbook of psychology: Assessment psychology* (pp. 291–314). John Wiley & Sons, Inc..
 Spiegler, M. D., & Guevremont, D. C. (2015). *Contemporary behavior therapy*, 6th ed. Belmont, CA, : Wadsworth/Cengage Learning.

Beck, J.S. (2021). *Cognitive behavior therapy, Basics and beyond*, 3rd ed. Guilford Press.

【Grading criteria】

The following show approximate activity-by-activity percentage points toward your final course grade: (a) active participation, preparation, and engagement (10%); (b) Reflection papers and assignment (40%); (c) Final exam (in-class report) (50%)

【Changes following student comments】

For the final exam, students are expected to start preparation well in advance, as they need to develop their own answers through experiences of practicing what they learned in the classes in on their own lives. For this purpose, the questions are shared in the beginning of this course.

【Equipment student needs to prepare】

Bringing one's computer/tablet to the classes is recommended.

【Others】

None

【Prerequisite】

None

PSY200ZA (心理学 / Psychology 200)

Quantitative Research Methods

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月2/Mon.2

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

The goal of this course is to introduce the students to various quantitative research methods used in the social sciences. When making important decisions, be it choosing a strategy to increase the sales of a product, implementing an intervention program to boost people's well-being, or selecting a school program to increase students' learning, people can rely on their intuition and experience, or they can base their decisions on facts: data. In this course, students will develop skills to obtain valid and reliable data through experimental and survey methods. The course will also cover topics related to research ethics, some basic statistics, and APA-style writing.

【Goal】

This course provides an overview of the 'how's and 'why's of quantitative research in social sciences, and it covers such topics as design, ethics, and APA-style writing and such strategies as field experiments and surveys. Students will develop the ability to design, conduct, evaluate, and report empirical studies. By developing hypotheses and critically assessing information, students will improve on their critical thinking skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

【Method(s)】

The course consists of lectures, in which general ideas and methods of research will be presented, and hands-on applications of the methods, in which student's research projects will be planned and presented. Although some of the class time will be set aside for planning students' research, the majority of it will be done as assignments to be completed outside class. Feedback for research will be given during class time. Comments for papers will be given via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is research? Why should we care?
2	The Fundamentals of Research	How do we define variables? How do we measure them? What is good research? How do I know if I can trust the findings?
3	Common Experimental Designs	Evaluating causal claims with experiments: random assignment and control
4	Understanding Research Paper	Understanding the structure of a research paper
5	Experimental Research I	Presentation of the research question, hypotheses, and theories
6	Experimental Research II	Identifying the various threats to internal validity
7	Data Analyses I	Understanding the basics of inferential statistics
8	Correlational Research I	How are the two variables associated? How can we write clear questions?
9	Correlational Research II	Presentation of the research question, hypotheses, and theories
10	Correlational Research III	Creating a questionnaire
11	Sampling Issues and Validities	How generalizable are my findings?
12	Data Analyses II	Computing reliabilities and correlations

13	Data Analyses III	Data analysis workshop using a statistical software
14	Students Poster Presentations	Poster presentations of group research

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will have to complete the assigned homework on time to successfully complete the class. They will be asked to do the readings, create research materials, collect data, etc. outside the class. Please bear in mind that the course will require that students spend a considerable amount of time outside class (at least 2 hours every week, sometimes more). Most work will be done in small groups, suggesting that students need to be flexible in finding time to meet other students during the week. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbooks required.

【References】

Morling, B. (2021). *Research methods in psychology: Evaluating a world of information* (4th ed.). New York, NY: W.W. Norton & Company.

Hacker, D. & Sommers, N. (2020). *A pocket style manual*. (8th ed.). APA Version.

The reference books are available in the library and the GIS Reference Room for those who wish to learn about each topic in more detail. Handouts and reading materials are on the course website.

【Grading criteria】

Final grades are based on two research papers (20% and 30%), a poster presentation (20%), and the quality and timeliness of group work done outside class (30%).

【Changes following student comments】

Students in previous years found this course very demanding but rewarding. Some students aimed to accomplish at a higher level while others were somewhat struggling to meet the requirements. I will provide office hours and other consulting time outside the class to meet the need of individual students.

【Equipment student needs to prepare】

For some weeks, students will be asked to bring laptop computers. Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

【Others】

Students who have successfully completed Statistics will be given priority during enrollment.

Students must take and pass this course if they wish to enroll in the Self and Culture seminar. Students who plan to enroll in other seminars in social sciences are also strongly encouraged to take this course.

【Prerequisite】

none

EDU200ZA (教育学 / Education 200)

English Teaching in Primary School

Machiko Kobori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木3/Thu.3

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈ゲ〉〈優〉

【Outline and objectives】

This course is designed for students interested in exploring the multifaceted landscape of teaching English to young learners (TEYL) within the context of primary English education. Specifically, it focuses on primary pupils to provide a historical and theoretical overview of their second language learning (SLL) within the Japanese context and on a global scale, particularly concerning primary English as a foreign language (EFL). It gives an insight into a range of SLL theories to feature primary pupils from psychological, educational, and linguistic perspectives. Integrating these perspectives ensures a holistic understanding of TEYL, fostering consistency in language education across primary and secondary levels. By examining theoretical frameworks, practical considerations, and global trends, students are expected to be familiar with valuable insights into effective TEYL practices. They will also be encouraged to develop their own perspectives on the teaching of English in primary schools in Japan and overseas.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to do the following:

1. Understand the core issues of SLL theories of young learners.
2. Explain different perspectives on the core issues of L2 education in primary school.
3. Examine the connection between the core issues of young learners' SLL and L2 pedagogy in primary school within the Japanese and overseas contexts.
4. Utilise the theoretical knowledge of L2 education for young learners to give an insight into cultivating L2 pedagogy in primary school from a micro-perspective.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

For the completion of this course, students are required to complete daily tasks by choosing topics related to lectures every week. A presentation, final exam, and writing assignment are also required at the end of the course; students are required to choose one of the course topics, make a presentation, and submit a writing assignment on it. The final requirements and feedback will be submitted on the learning management systems (WebClass, etc.).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Rationales of English Teaching in Primary School(1)	Issues in the historical overview of primary EFL in Japan and overseas
3	Rationales of English Teaching in Primary School(2)	Issues in primary EFL from different perspectives (1)
4	Rationales of English Teaching in Primary School(3)	Issues in primary EFL from different perspectives (2)
5	SLL of Young Learners (1)	Issues in L2 pedagogical approaches (1)
6	SLL of Young Learners (2)	Issues in L2 pedagogical approaches (2)
7	Primary L2 Education (1)	Issues in teaching four skills (1)
8	Primary L2 Education (2)	Issues in teaching four skills (2)
9	Primary L2 Education (3)	Issues in teaching four skills (3)
10	Primary L2 Education (4)	Issues in assessing primary pupils

11	Presentation (1)	Preparation for presentation: checking contents, materials, procedure and performance
12	Presentation (2)	Discuss and review (1)
13	Presentation (3)	Discuss and review (2)
14	Consolidation of English Teaching in Primary School	Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Every week before class, students are required to comprehend the assigned readings and be ready for group discussion on related topics in class.
2. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Annamaria Pinter. (2017). *Teaching young language learners*. Oxford University Press.

【References】

1. Cameron, L. (2001). *Teaching languages to young learners*. Cambridge University Press.
2. Bland, J & Lütge, C. (eds.). (2013). *Children's literature in second language education*. Bloomsbury USA Academic.
3. Coyle, D., Hood, P., & Marsh, D. (2010). *CLIL: Content and language integrated learning* (1st ed.). Cambridge University Press.
4. Curtain, H. & Dahlberg, A. C. (2009). *Languages and children: Making the match, new languages for young learners, grades K-8* (4th ed.). Allyn & Bacon.
5. Ellis, G., Brewster, J., & Girard, D. (2002). *The primary English teacher's guide*. (New). Penguin English Guides.
6. Garton, S. & Copland, F. (eds.). (2018). *The Routledge handbook of teaching English to young learners*. Routledge.
7. VanPatten, B., Smith, M., & Benati, A. (2020). *Key questions in second language acquisition*. Cambridge UP.
- 8.『創造的な学びを育む初等英語教育—時代を超えて生き続ける理論と実践—』(2022) 津田塾大学言語文化研究所早期英語教育研究会 (編) 朝日出版社.
9. 文部科学省 (2017)『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説外国語活動・外国語編』開隆堂.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Daily tasks (20%)
3. Presentation (20%)
4. Writing assignment (30%)
5. Final Exam (20%)

【Changes following student comments】

More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given through utilising LMS and in-person information to:

- 1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course
- 2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in WebClass.

【Others】

Recommended to complete at least one of the courses presented below:

1. TESOL II
2. Comparative Education

【Prerequisites】

Required to complete at least one of the courses presented below:

1. TESOL I
2. Second Language Acquisition

LAN200ZA

Digital Writing and Publication

Mark Birtles

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木3/Thu.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Technological advances have pushed society toward an ever-more participatory global culture; we both consume and create vast quantities of the written word on our phones, laptops and tablets. These digital texts have expanded the definition of what we call writing and what we can do with it. This course will look more closely at how this kind of digital copy is produced and the way it impacts our daily life. Together, we will examine the planning, writing and publication stages of digital content creation, as well as the practical and ethical issues that are involved.

[Goal]

Frederich Nietzsche once said, "it is my ambition to say in 10 sentences what others say in a whole book," and that is what we will aim to do: produce clear and concise written communication. As part of this process, we will:

- Examine how technology has profoundly altered traditional writing practices
- Learn how to deliver content to a brief, within set style guidelines
- Be engaged in the analysis and production of digital writing, both individually and as part of a team
- Consider the fundamentally new set of ethical issues the online world has created.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

Digital Writing and Publication has a focus on quality rather than quantity; in today's digital world, information must be conveyed quickly and attractively. An assignment may be as short as 50 words, but students will learn how to make those 50 words count. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. We will look at practices that promote a collaborative approach toward a common goal via technology. Students will also learn industry-standard practices, such as writing to a specific style guide and for a specific audience.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Principles of Good Writing	The foundation of good copywriting practices
3	Identifying the Audience	Before we write a single word, we need to answer three questions: who is our audience? What do they need? What is our purpose?
4	Choosing a Voice and Writing to a Brief	The importance of tone and examples of the kind of brief a writer may be given
5	AP Style	A close look at the importance of writing to a specific style, using the standard AP stylebook
6	Editing	A dive into the world of content editing
7	Review and Midterm Exam	Review and written examination of content thus far
8	Visual Style and Publication	An examination of the interplay between text, images, video and colour
9	Digital Ethics I	Current debates regarding ownership, copyright and fair use
10	Collaborative Working Practices I	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content
11	Digital Ethics II	Current debates regarding standards and ethical codes
12	Collaborative Working Practices II	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content

13	AI and the Future of Writing	Will the machines take over?
14	Final Presentations and Assessment	Student presentations and take-home assessment

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be required in class, materials will be supplied by the instructor.

[References]

Alexander, J., & Rhodes, J. (2018). *The Routledge handbook of digital writing and rhetoric*. New York, US: Routledge.
 Anderson, J. & Dean, D. (2014). *Revision decisions: talking through sentences and beyond*. Portland, US: Stenhouse Publishers.
 Beach, R. (2014). *Understanding and creating digital texts: an activity-based approach*. Lanham, US: Rowman & Littlefield.
 Carroll, B. (2017). *Writing and editing for digital media (third edition)*. New York: Routledge.
 DeVoss, D., Eidman-Aadahl, E. and Hicks, T. (2010). *Because digital writing matters*. San Francisco, US: Jossey-Bass.
 Strunk, W & White, E. (1999). *The elements of style (fourth edition)*. Boston, US: Allyn & Bacon.

[Grading criteria]

Class participation 15%, assignments 10%, midterm exam 20%, collaborative project/presentation 30%, final exam 25%.

[Changes following student comments]

The collaborative working sessions have been split to allow students more out-of-class working time on the project.

[Equipment student needs to prepare]

Please bring a laptop computer to every class. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

[Prerequisite]

None.

ART200ZA (芸術学 / Art studies 200)

East Asian Popular Culture

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 水3/Wed.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This class will examine popular culture across Asia, focusing on the region of East Asia, specifically media and cultural practices in South Korea, China, Taiwan, and Japan. Over this semester we will examine how various media — music, film, TV dramas, and internet videos — are part of local cultural practices in each place. This will include an examination of their histories in the area, their connections to society, and what cultural practices they accompany. However, instead of focusing exclusively on different countries, we will concentrate on how these cultural products work across borders, operating transnationally. By close examination of the production, distribution, and consumption of these media across East Asia, students will gain insight into connections beyond the countries they are usually associated with. In other words, this class will analyze the links between these countries that are facilitated by the media. With this in mind, this class will ultimately consider how media flows across national boundaries and engages with cultural regionalism.

【Goal】

In addition to teaching the students about contemporary East Asian societies and media, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn methodologies to examine popular culture from Asia; 2) explore the histories of various popular cultural products from Asia; 3) examine how cultural practices cross national boundaries and interact; 4) consider how these cultural products engage with regionalization in Asia.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be discussion-based, with visual material such as clips of films and animation. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the class content and discussion. Discussions based off of the reading material will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Feedback will be given throughout the course via discussion topics. Students will be assessed on their understanding of the readings and discussions through their presentations and exam.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Nationalism and Popular Culture	Readings on how popular culture influences our everyday lives
3	Early Asian Film Practices	Wartime/postwar film industries in Asia
4	Film Adaptation Across Borders	Pan-Asian Hong Kong films
5	Powtwar Western Influences in Asia	American culture in Japan
6	Television in Japan	Japanese drama and modernity
7	Midterm review	Midterm exam
8	Japanese Popular Culture in Asia	Manga and Jpop across Asia
9	Online Fan Practices of Asian popular Culture	Online circulation of Japanese popular media
10	New Develoments of the 21st Century	Changes in Asian entertainment industries
11	Korean Wave/Korean Drama	Transnational Korean media
12	Globalization of Cool Japan	Cultural policy changes in Asia
13	Hybrid Asian Popular Culture	New developments in race/gender/national identities
14	Final review	Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 3 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Various articles will be uploaded on Hoppii.

【Grading criteria】

Minimum absences (10%)

Reading assignments (20%)

Asking questions, speaking up during class discussions, and participation behavior (20%)

Midterm exam/assignment (20%)

Final exam/assignment (30%)

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Pen and paper notebook. Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class so students must take notes by hand in class. They are also responsible for bringing hard copies of the required readings to class.

【Others】

This course requires students to have intermediate knowledge of media culture and globalization. Previously taking classes on media, race and gender, and East Asian history will enhance the learning experience for this class.

Do not miss the first class as a selection process may occur. The content of this syllabus may be subject to change.

【Prerequisite】

None.

ART200ZA (芸術学 / Art studies 200)

Japanese Popular Culture

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水4/Wed.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

When asked to speak about Japan, individuals often turn to pop-cultural phenomena, such as manga, anime, or cosplay. This implies a link between culture and nation that is vital, yet ambiguous. What do folks mean when they say they like Japanese culture? Why has Japan become so popular?

Drawing on cultural and media studies, this course will explore the historical and theoretical study of Japanese popular culture. Lectures and discussions will engage with media forms and case studies from many eras, covering topics ranging from Takarazuka theater and pre-war radio culture to anime fandom and the so-called “golden age of Japanese cinema.” The course culminates with students delivering a presentation and submitting an essay on a pop-cultural phenomenon not covered in depth during a class session.

【Goal】

Students will learn many of the key theories, terms, and arguments of cultural studies, especially as those ideas relate to Japan. Students will practice analyzing, historically contextualizing, and writing about specific pop-cultural phenomena. Students should leave the course with a refined ability to define and discuss abstract concepts such as nation, culture, and what it means for something to be “Japanese.”

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will combine lectures, discussions, and student presentations. In addition to reading critical and theoretical texts, students are expected to experience, or refer back to their past experiences with, cultural objects and practices in question, and analyze them in a global context in their final papers. Students will also conduct research for the final paper. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. In-class oral feedback will be provided for presentation assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Why study popular culture?
2	"Japanese" and Nihonjinron	Readings on Nihonjinron
3	The Image of Japan	Theories
4	Visualizing Modernity	Japanese cinema
5	Development of Television	Postwar TV culture and nationalism
6	Popular Television Programs	NHK morning dramas, variety programs
7	Midterm review	Midterm review
8	Popular Music	Jpop and idol culture
9	"Cute" Culture	Shoujo culture and Hello Kitty
10	Manga	History of boys and girls manga
11	Anime	Globalization of Anime
12	Otaku culture	Subculture and gender
13	Globalization of Japanese Popular Culture	Japan brand strategy
14	Final review	Final review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to complete reading assignments so that they are ready for class discussions. Students will regularly be asked to summarize and reflect upon the weekly articles. There will be a midterm and final exam. Preparatory study and review time for this class are 3 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Reading materials will be provided by lecturer in PDF format.

【References】

All reading material will be uploaded to HOPPII.

【Grading criteria】

Class participation (10%)

Reading assignments (20%)

Asking questions, speaking up during class discussions, and participation behavior (20%)

Midterm exam (20%)

Final exam (30%)

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Pen and paper notebook. Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class so students must take notes by hand in class. They are also responsible for bringing hard copies of the required readings to class.

【Others】

Do not miss the first class as a selection process may occur. The content of this syllabus may be subject to change.

【Prerequisite】

None.

ART200ZA (芸術学 / Art studies 200)

Art and Design

Timothy Betjeman

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 5/Tue.5

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Art and design play important roles in society. This is true not only for the 21st century, as art and design have been formative in the shaping of the history of societies throughout the world for centuries. This course introduces students to the fields of art and design, identifying and exploring the differences and the overlaps between them.

[Goal]

Through this course, students will learn about the relationship between art and design and society, while also gaining an understanding of concepts relating to aesthetics, media studies, art history and contemporary art and design. Through the ideas introduced in this course, students will become more aware of the impact of art and design in the world around them, and equip themselves with the knowledge and vocabulary to engage in discussions related to the topics raised.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

[Method(s)]

In addition to attending lectures on art and design, students will engage in weekly tasks in response to the subjects of the lectures. As the first half of the course concludes, the students are expected to choose a topic for their final presentation.

The presentation of the project will be a combination of oral presentation, slides(optional) and presentation of preparatory notebook work.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

Feedback on presentations will be given in class. Separate feedback will be given via email or the Learning Management System if required.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	The functions of art	What does/should art do? What should art not do? Considering aesthetics, entertainment politics, ritual and other functions of art in society.
3	The functions of design	The purpose of design and the various roles within its production. Considering branding, products, and their impact on society.
4	Authorship in art and design	From the author as genius to the anonymous company designer, considering the importance of authorship in art and design
5	Art objects	Exploring art objects as commodities
6	Beyond function	Creativity in design and how design is not always functional
7	Mid-term presentations	Students present their proposed topic in a group and discuss how to develop each person's topic towards the final presentation.
8	Focus on media art	Art beyond the art object: technology in art
9	Focus on technology in design	Cutting-edge technology and new materials in design
10	Innovation	Innovation in art and design in the 21st century:
11	Entertainment becomes art	Examples in computer games, cinema, etc.

12	Future Trajectories	Examine the potential of cutting-edge technologies and materials, works of science fiction, speculative inventions, and theories about the evolution of art in society.
13	Final Presentations	End of term presentations and discussion 1
14	Final Presentations	End of term presentations and discussion 2

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used.

The instructor will provide digital notes through Google Classroom, as well as access to reading materials.

[References]

Manoich, Lev (2002) *The Language of New Media*, MIT Press. Berger, John (2012/1972) *Ways of Seeing*, Penguin. Lidwell, William, et al. (2010) *Universal Principles of Design*, Rockport. Meggs, Philip, Purvis, Alston (2016) *Meggs' History of Graphic Design*, Wiley. Wagner, Richard (1993/1849) *"The Art-Work of the Future" and Other Works* < . >

[Grading criteria]

Participation:

Includes classroom activities, assigned readings, weekly submitted tasks/response.

Final Presentation: Students choose examples of "innovative" art or design they have experienced or engaged with directly. The presentation should include key points such as innovation, value, authorship, the user/viewer experience, and also logically reason the work's appeal to them and to the general public. In addition to the presentation itself, preparatory work in a notebook will be assessed to form the final grade. Students are free to choose their topic, but must present the chosen topic in class during the first half of the semester.

Final assessment is based on:

Active participation 60%(including weekly tasks submitted through Google Classroom = 50%and mid-term presentation/discussion = 10%), Final Project 40%(Presentation = 30%preparatory notebook work = 10%)

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Students will need a computer, a notebook (e.g. sketchbook/notebook), and general stationary (e.g. pen, pencil, glue, tape). A digital notebook/tablet is also acceptable.

Students will need access to a camera or scanner to submit digital images of their notebook work online.

[Prerequisite]

None.

ART200ZA (芸術学 / Art studies 200)

Drama Workshop

John Wescott Oglevee

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水 1/Wed.1

Notes : < GIS students > 2023年度までの入学者は配当年次1~4年

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course is a practical, semester-long practice of nohgaku.

We will have hands on experience of the following:

1. Noh dance
2. Noh chant
3. Noh instruments
4. Kyogen style speech
5. Writing a new noh

【Goal】

By the end of this course, students will have:

1. Memorized the movement and chant for one noh shimai (short dance) and one kyogen komai.
2. Be familiar with the flute, and hand drums of noh.
3. Be able to chant in a group of a short excerpt from a full noh.
4. Be able to differentiate between noh and kyogen.
5. Have and outline and numerous parts of an original "shinsaku" (new) noh.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

1. This course will use traditional teaching methods of hands on experiential practice.
2. Students will be using their voices and bodies to repeat the techniques learned in class and express themselves.
3. Traditional techniques of noh instruction will be utilized. For instance, students will be required to sit on the floor (seiza) (exemptions will be made for those with physical limitations).
4. Feedback from the teacher will be given in class as well as to the students in response to their journal submissions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview of syllabus as well as brief history of nohgaku.
2	Shimai /utai day 1	Shimai /utai day 1
3	Shimai /utai day 2	Shimai /utai day 2
4	Shimai /utai day 3	Shimai /utai day 3
5	Shodan explanation Shimai /utai day 4	Discuss components of a noh. Shimai /utai day 4
6	Hayashi day 1	Shidai Hayashi day 1
7	Hayashi day 2	Michi yuki Hayashi day 2
8	Hayashi day 3	Kuri, Sashi, Kuse Hayashi day 3
9	Kyogen day 1	Machi utai Kyogen day 1
10	Kyogen day 2	Shinsaku noh revisions Kyogen day 2
11	Shimai /utai /komai practice	Students will prepare for in-class recital (happyokai)
12	Shimai /utai /komai practice	Students will have the opportunity to try their dance with a mask.
13	Final practice	Final practice
14	Final Performances.	The second group of students will perform to the class
	Shinsaku noh presentations and class evaluations.	Wrap-up & review. Students will have the opportunity to share their shinsaku noh as well as fill out class evals. The evaluations will then be submitted at the conclusion of the class

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must practice what they have learned in class on their own. The physical movement and chant style of noh takes time to develop and only comes with repetition. Students should be prepared to practice noh a minimum of 15 minutes EACH DAY.

Students will be required to keep an "experience journal" an example of which will be distributed on the first day of class.

Total preparatory study and review time/practice for this class are 2 hours each week.

【Textbooks】

Material will be provided by the instructor and distributed in class.

【References】

A list of related references - when and if necessary - will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Participation 30%

Shinsaku noh submissions 20%

Experience journal 30%

Final recital 20%

【Changes following student comments】

n/a

【Equipment student needs to prepare】

Students must come to class if possible in white indoor tabi. If the student has trouble acquiring them, please ask the teacher for assistance. If it is impossible to purchase tabi, students must come to class in socks. Another essential tool for practicing noh is a noh fan. Orders for fans will be taken on the first day of class. For students not able to purchase one, alternatives will be suggested.

【Prerequisite】

None.

ART200ZA (芸術学 / Art studies 200)

Music and Culture

Cathy Cox

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水5/Wed.5

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

What is our relationship to music? How do we participate in musical activity? How are our musical practices a reflection of our society? In this course we will investigate music from a global perspective. We will pay special attention how musical practices have been influenced or shaped through the movements of people, the movement of music through mediating technologies, and combinations of these factors. Each week students will contemplate specific musical practices in relation to concepts introduced through assigned readings.

[Goal]

Students will be able to:

- (1) develop vocabulary to talk about music;
- (2) develop an awareness and appreciation of various musics of the world;
- (3) develop an ability to recognize how their own musical behavior reflects contemporary society;
- (4) think critically about the complex cultural workings within a piece of music or musical practice.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course is taught through a combination of lectures, documentary-viewings and group discussions. The course will facilitate self-learning through required weekly reading and listening assignments that will be assessed through short writing assignments, as well as collective learning through a final group presentation. Feedback will be given collectively in class or through the Learning Management System (Google Classroom), depending on the nature of the assignment.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course and requirements.
2	Music, Politics & Modernization	Eastern and Western musical practices in Japan.
3	Music & Identity in the Diaspora	Korean music and music of the Korean diaspora in North America.
4	Music & Colonialism	Relationship between colonialism and the musical practices of Indonesia.
5	Review of weeks 2-4	Open discussion and review of musical practices from weeks 2-4.
6	Orientalism & Exoticism	The Romani diaspora in Europe.
7	Appropriation & Assimilation	Music of the African diaspora in the United States.
8	World Music	Hip-Hop as a World Music
9	Review of weeks 6-8	Open discussion and review of musical practices from weeks 6-8
10	Sound recording	Sound recording technology as a means to collect and distribute folk musics.
11	Music technology	Musical hyperreality, disembodiment and dislocation through technology.
12	Ownership of music	Questions of copyright and ownership of music in the age of mechanical reproduction.
13	Globalization	Music as a tool to unite and divide in a globalized world.
14	Final Review & Presentations	Student presentations; review of topics and materials

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read assigned texts, listen to assigned recordings, and complete assigned writing tasks. Students are also expected to find music examples to share with the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours per week.

[Textbooks]

Fosler-Lussier, D. (2020) *Music on the Move*. Ann Arbor, MI: University of Michigan Press. <https://doi.org/10.3998/mpub.9853855>.

[References]

Bakan, M. (2007). *World Music: Traditions and Transformations*, Second Edition. New York: McGraw-Hill.
Cornelius, S. and M. Natvig. (2018). *Music: A Social Experience*, Second Edition. New York: Routledge.
Milioto Matsue, J. (2016). *Music in Contemporary Japan*. New York: Routledge.

[Grading criteria]

Class Discussion and Activities: 30%,
Questionnaires for Weekly Reading and Reflection: 50%,
Group Presentation: 20%

[Changes following student comments]

- Adoption of free online textbook.
- Revised content to increase relevance for GIS students.

[Equipment student needs to prepare]

Some in-class activities may require the use of computers, tablets or smartphones for the creation and/or playback of sound.

[Others]

Class materials and assignments can be accessed through Google Classroom.

[Prerequisite]

None.

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

American History and Society

Robert Sinclair

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course will introduce students to the culture and society of the United States, focusing primarily on events of the 20th and 21st century. A central theme will be the idea of America as a place of unlimited possibility and opportunity. This idea presents the United States as a new type of social experiment, where true freedom is available and where everyone can look to a better future. As we examine this perspective on America, we will further explore the conflict between American ideals and social reality as seen in the tensions between continuity and change, individualism and community, consensus and diversity.

【Goal】

Students will acquire knowledge about various aspects of America and American life, including its history, geography and political system, as well as its economic, educational, social and foreign policy. Students can then expect to (1) acquire general knowledge of the society and people in contemporary America, (2) learn how America developed from a small British colony into a major superpower, and (3) examine the new realities facing America and its global influence. We will be especially interested in understanding the consequences of the current US administration.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Students will attend lectures, read related material, give a class presentation and have two written examinations. Concerning assignments, students will receive feedback in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	American History: An Overview	American Revolution, Civil War, Reconstruction, Gilded Age, Progressive Era, The New Deal, rise as a superpower, The Cold War, recent developments
3	People	Native Americans, African Americans, immigration
4	US Political Institutions	The US Constitution, Federal Government, branches of government
5	US Religious Culture	US religions, church and state, religion and education
6	US Education	The American education system, education and democracy, recent problems
7	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which students understand the subject
8	US Economy	Economic Liberalism, social class and economy, the contemporary economy
9	US Foreign Policy	History of American foreign policy
10	Student Presentations	Students will discuss current issues in American Society.
11	Student Presentations	Students will discuss current issues in American Society.
12	Student Presentations	Students will discuss current issues in American Society.
13	Student Presentations	Students will discuss current issues in American Society.
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the degree to which students understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation and discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Contemporary America. 4th edition, Russell Duncan and Joe Goddard, 2013, Palgrave Macmillan.

American Civilization: An Introduction, 7th Edition, David Mauk and John Oakland, 2017, Routledge.

【References】

A - Z of Modern America, Alicia Duchak, 1999, Routledge.

Oxford Guide to British and American Culture, Jonathan Crowther, 2005, Oxford University Press.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on a selection exam (10%) class participation (10%) class presentation (30%) and two exams (50%).

【Changes following student comments】

Some of the topics and readings covered in the class have been changed.

【Prerequisite】

None.

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

Gender, Sexuality and Society

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course serves as an introduction to the sociology of gender and sexuality. The first half of the course covers the sociology of gender, and the second half of the course covers the sociology of sexuality. While a range of issues relevant to gender and sexuality will be taken up, this course focuses on the perspectives offered by relevant social science theories and concepts to interpret findings from social science research. In this course, students will learn to look at gender and sexuality issues critically and understand the subtle social processes through which taken-for-granted ideas and practices about gender and sexuality are created.

[Goal]

By the end of this course, students will be able to: (1) identify the difference between sex, gender, and sexuality, (2) define the key theories and concepts of gender and sexuality (remembering/understanding), (3) apply those concepts to understand how gender and sexuality affect individuals' experiences embedded in structures of power (applying), and (4) analyze the ways in which sex, gender, and sexuality are socially constructed (analyzing).

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

[Method(s)]

This course is taught primarily through interactive lectures. A variety of active learning techniques, such as in-class writing assignments, small group discussions, and comment sheets, are used to accommodate diverse student learning styles. In-class quizzes are held occasionally so that students understand their own level of understanding of the course materials at the moment. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Also, feedback for the previous class is given at the beginning of each class. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is gender? What is sexuality?
2	Sexing the Body	How is sex determined in human beings?
3	Gender Theory	What are some of the major gender theories?
4	Gender and Family	Why does housework remain "women's work"?
5	Gender and Education	What are the major sources of gender inequality in education?
6	Gender and Labor	What do we know about gender inequality at work?
7	Review & Midterm Exam	Course review, students' inquiries, and midterm exam
8	Dimensions of Sexuality	What is the "social construction" of sexuality?
9	History of LGBTQ movements	How do LGBTQ movements advocate for the human rights of LGBTQ people in society?
10	Same-Sex Marriage	How might same-sex marriage oppress those who are most marginalized within the LGBTQ community?
11	Discrimination against Transgender People	What social-institutional barriers do transgender people face?
12	Sexual/Gender Minorities and Social Attitudes	Is Japan "tolerant" of non-normative gender and sexuality?
13	Demography of Sexual Orientation and Gender Identity	How many people are LGBTQ? Do LGBTQ people earn more or less than non-LGBTQ people?

14 Review & Final Exam What have we learned in this course? Final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to review the lecture slides and other course materials after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Electronic slides will be provided by the instructor.

[References]

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

[Grading criteria]

Participation: 20%

In-class quizzes: 20%

Midterm exam: 30%

Final exam: 30%

[Changes following student comments]

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

[Equipment student needs to prepare]

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

[Prerequisite]

None.

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

Gender, Sexuality and Society

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 1/Thu.1

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course serves as an introduction to the sociology of gender and sexuality. The first half of the course covers the sociology of gender, and the second half of the course covers the sociology of sexuality. While a range of issues relevant to gender and sexuality will be taken up, this course focuses on the perspectives offered by relevant social science theories and concepts to interpret findings from social science research. In this course, students will learn to look at gender and sexuality issues critically and understand the subtle social processes through which taken-for-granted ideas and practices about gender and sexuality are created.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify the difference between sex, gender, and sexuality, (2) define the key theories and concepts of gender and sexuality (remembering/understanding), (3) apply those concepts to understand how gender and sexuality affect individuals' experiences embedded in structures of power (applying), and (4) analyze the ways in which sex, gender, and sexuality are socially constructed (analyzing).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

【Method(s)】

This course is taught primarily through interactive lectures. A variety of active learning techniques, such as in-class writing assignments, small group discussions, and comment sheets, are used to accommodate diverse student learning styles. In-class quizzes are held occasionally so that students understand their own level of understanding of the course materials at the moment. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Also, feedback for the previous class is given at the beginning of each class. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is gender? What is sexuality?
2	Sexing the Body	How is sex determined in human beings?
3	Gender Theory	What are some of the major gender theories?
4	Gender and Family	Why does housework remain "women's work"?
5	Gender and Education	What are the major sources of gender inequality in education?
6	Gender and Labor	What do we know about gender inequality at work?
7	Review & Midterm Exam	Course review, students' inquiries, and midterm exam
8	Dimensions of Sexuality	What is the "social construction" of sexuality?
9	History of LGBTQ movements	How do LGBTQ movements advocate for the human rights of LGBTQ people in society?
10	Same-Sex Marriage	How might same-sex marriage oppress those who are most marginalized within the LGBTQ community?
11	Discrimination against Transgender People	What social-institutional barriers do transgender people face?
12	Sexual/Gender Minorities and Social Attitudes	Is Japan "tolerant" of non-normative gender and sexuality?
13	Demography of Sexual Orientation and Gender Identity	How many people are LGBTQ? Do LGBTQ people earn more or less than non-LGBTQ people?
14	Review & Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to review the lecture slides and other course materials after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Electronic slides will be provided by the instructor.

【References】

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 20%

In-class quizzes: 20%

Midterm exam: 30%

Final exam: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

【Prerequisite】

None.

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

Media Effects

Muge Igarashi

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Media such as news, movies, and the Internet affect us both individually and socially. On the one hand media shapes our everyday lives at the individual level through our inspirations, career goals, and consumption patterns. On the other hand, at the social level, media can influence our perceptions on political decisions, leaders, economic performance, our global allies and/or enemies.

This course examines both of these individual and social effects of media, offering students a toolbox of terms and theories in order to recognize, analyze, and personally manage the pervasive effects of media in our lives.

【Goal】

- 1) Introduce basic terms and theories of media effects research.
- 2) Provide case studies on major topics in media effects research such as violence, consumer desire, nationalism, gender, and culture industries.
- 3) Equip students with basic skills to recognize and manage media effects on a personal level.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course focuses on the impact of the mass media on individuals and society. An overview of the history of media effects research will be presented and dominant theories in the field will be introduced.

Classes will also often include the textual reading of a particular media such as advertisements, TV shows, films, or web pages.

Students should be eager to participate in class discussion and share their ideas and experiences.

Students are required to submit three assignments and to participate in a group presentation.

Feedback on each assignment will be provided individually through Google Classroom.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Media as Medium	"The medium is the message" (McLuhan)
3	Media Effects	Introduction to media effects.
4	Media Influence	Brief historical overview of media influence on individuals and society.
5	Media Theory I	Cultivation Theory - Student presentations.
6	Media Effect: Case Study I	Effect of media: violence and sexuality - Student Presentations. Assignment #1 due.
7	Media Theory II	Agenda setting and framing - Student presentations.
8	Media Theory III	Uses and gratifications - Student presentations. Assignment #2 due.
9	Media Effect: Case Study II	Media Effects of Gaming and the Internet - Student presentations.
10	Media Effect: Case Study III	Anime, manga, and gaming in Japan - Student presentations.
11	Society, Culture, and Mass Media	Culture industries.
12	Media Effect in Japan	Idols and Japanese entertainment industry - Student presentations.
13	Group Discussion	Group discussion on media effects. Assignment #3 due.
14	Wrap-up and Final Exam	Wrap-up and Final Exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to review class materials, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are two hours per week.

【Textbooks】

There is no single textbook required for this course. Readings as well as relevant media will be uploaded to Google Drive.

【References】

- Jennings Bryant, Susan Thompson, and Bruce Finklea. (2013). Fundamentals of Media Effects. Second Edition. Waveland: Illinois.
- Potter, James. (2012). Media Effects. Sage Publications: UK, India, Singapore.

【Grading criteria】

Participation 10%
Presentation 10%
Group Discussion 10%
Assignments 45%
Final Exam 25%

【Changes following student comments】

None.

【Prerequisite】

None.

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

Sociology of Work and Employment

Allen Kim

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 土4/Sat.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course is broadly concerned with the sociological analysis of work and society. Frequently, the first question we ask when we meet someone is “What do you do?” For many, the routine cycle of getting up, getting dressed, going to work and returning home to repeat the cycle the following day is common in contemporary industrialized economies. We devote many hours on the job. Work has powerful effects on both economic and social wellbeing. This course explores the sociological study of both the structure and nature of work, major economic changes including globalization, and concerns of workers such as earnings, promotions, personal finance, the “gigged” society, unemployment and the balance between work and family. We will examine broad topics including: education, the social organization of work, employment trends, inequalities at work, and the purpose of work as it relates to opportunity and rewards. Critical reading of texts, cogent writings, articulate oral presentations, and full participation in dialogue are all mandatory. Class assignments will measure your ability to grasp and apply the sociological perspective from readings and from information emerging from class discussions. Analytical projects provide opportunities to pursue interests in greater depth.

[Goal]

Through this course, students will acquire the basic sociological tools to analyze the development and impact of work and employment by learning the key concepts and theories used in social analysis and applying them in written assignments and discussions. Through the various assignments in this class, students will develop critical thinking, writing, discussion, and research skills.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Lectures are conducted weekly to introduce students to key concepts, theories, and research related to each topic. Students will interview professionals outside of the classroom setting. Short discussions are also integrated into the lectures to help students learn and apply the concepts and theories. In addition, there are also formal small group discussions for which students have to prepare in advance. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

あり /Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	The “Sociological Imagination”	The “Sociological Imagination”
2	Basic Concepts & Theories (1).	Major sociological perspectives
3	Contours of Work	Broad changes and trends of work
4	Industrialization and its Consequences	Rapid social and economic changes
5	Bureaucratic Organizations & Globalization	McDonaldization and stratification
6	New Ways of Working	“Gigged society”?
7	Workplace Culture and Socialization	Professionalization
8	Rewards, Perils and Pressures of Work	Concerns of workers
9	Income Inequality	Economic and social wellbeing
10	Unemployment and Income	Disappearance of work and meaning
11	Gender, Family and Work	Balancing work and life
12	Presentations	Class presentations
13	Money and Work	Financial literacy and retirement
14	Occupational Analysis	Interview reports

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

In addition to completing assignments and preparing for discussion, students are expected after each class to review class materials, and prepare for their occupation projects and interviews. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Class materials and reading materials will be uploaded or distributed via email.

[References]

TBA

[Grading criteria]

The grade will be calculated as follows: Mini-think Journal (50%), Occupational Analysis Poster (25%), Interview a Professional Report and Presentation (25%).

[Changes following student comments]

NA

[Equipment student needs to prepare]

NA

[Others]

This is an intermediate level sociology course. A background in the discipline is highly recommended. Students who intend to register for this course are required to attend the first class. A screening test based on the lecture and discussion will be conducted.

[Prerequisite]

None.

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Accounting II

Noriaki Okamoto

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 水2/Wed.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The main objective of this course is to theoretically and practically understand the new trends in accounting: accounting for sustainability and social impact. After taking this course, students will gain relevant knowledge about accounting for corporate sustainability and social impact. More specifically, students can learn the basics of how to recognize, measure, and report corporate sustainability and social impact.

[Goal]

This course consists of accounting for sustainability and social impact, both of which have recently gained prominence in corporations and attracted stakeholders' attention. By taking this course, students can understand theories and academic findings regarding accounting for sustainability and social impact. Moreover, students can discuss practical topics such as specific institutions (some frameworks to calculate sustainability and social impact) and real leading companies' practices.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

This course is taught through lectures, discussions and exercises. At my discretion, I may assign one or more mini-projects to be completed during, or outside of, the class. Occasionally, students are required to submit reaction paper (mini-essay) at the end of the session. Students are also encouraged to ask questions and to request that particular points be explained if they remain confused or uncertain about items discussed during the class. Feedback on the students' performance in the assignments during the course will be given. At the end of the course, final exam and (individual or group) presentation will be assigned.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview and introduction	General explanation of the course overview and structure
2	Accounting for Sustainability: Historical Development and Background ①	Review and discuss the historical development of accounting for sustainability (handouts/slides)
3	Accounting for Sustainability: Historical Development and Background ②	Understand global diffusion of accounting for sustainability (handouts/slides)
4	Accounting for Sustainability: Key Concepts and Theories ①	Learn the basic conceptual basis for accounting for sustainability (handouts/slides)
5	Accounting for Sustainability: Key Concepts and Theories ②	Discuss and analyze the theoretical framework for accounting for sustainability (handouts/slides)
6	Accounting for Sustainability: Sustainability Reporting ①	Learn the current state of accounting for sustainability (handouts/slides)
7	Accounting for Sustainability: Sustainability Reporting ②	Understand and discuss different types of accounting for sustainability (handouts/slides)
8	Accounting for Sustainability: Sustainability Reporting ③	Consider the structures and effects of accounting for sustainability (handouts/slides)

9	Accounting for Social Impact ①	Understand the significance of impact investment and accounting for social impact (handouts/slides)
10	Accounting for Social Impact ②	Understand the different types of accounting for social impact (handouts/slides)
11	Accounting for Social Impact ③	Consider and discuss the measurement of social impact (handouts/slides)
12	Accounting for Social Impact ④	Analyze and discuss some cases of social impact measurement (handouts/slides)
13	Review exam	Comprehensive review exam
14	Final presentation	Final presentations (individual/group) and Q&A

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the assigned handouts (textbook chapters, etc.) before each class. Also, in addition to the preparation for presentations, there will be homework during the course. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no specific textbook students should get. Necessary chapters from references will be given (will be uploaded on the course website).

[References]

Matias Laine, Helen Tregidga, and Jeffrey Unerman (2022), *Sustainability Accounting and Accountability* 3rd edition, Routledge.
Gunnar Rimmel (2020), *Accounting for Sustainability*, Routledge.
Stewart Jones, Helena de Anstiss, and Carman Garcia (2022), *Social Impact Investing: An Australian Perspective*, Routledge.
Ronald Cohen (2020), *Impact: Reshaping Capitalism to Drive Real Change*, Ebury Press.

[Grading criteria]

Projects /homework 30%,
Class participation /discussion 20%, Review exam 30%, and Final presentation 20%

[Changes following student comments]

None

[Equipment student needs to prepare]

A calculator

[Others]

Purchasing the textbook is not required.

[Prerequisite]

None.

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Brand Management

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】

To explore effective management for building a strong corporate / regional brand. Brand strategy has been receiving attention since the 1980s, after the innovative concept of brand equity became an important part of marketing strategy, helping companies and local governments to survive a competitive marketplace. In this course, students will examine some significant theories by Aaker and Keller, who are eminent researchers in this field. Basic /advanced theories by other researchers will also be explored.

【Goal】

The purpose of this course is to develop an understanding of branding and branding strategy. Students will learn effective ways to build a strong brand.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

In this course, students will read theories, discuss and analyze some case studies to find out the most suitable processes for building a strong brand, which will be helpful in increasing domestic and overseas sales. Moreover, as a wrap-up, we will also discuss the future outlook of brand management from a strategic viewpoint.

Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	What is a Brand?	Learn how the definition of "brand".
3	Brand Equity	Learn how new brand equity is a set of assets.
4	Brand Loyalty	Learn new brand loyalty is one of the brand assets, and key considerations when placing a value on a brand that is to be bought or sold.
5	Brand Awareness	Learn new brand awareness and the strength of a brand's presence in the consumer's mind.
6	Perceived Quality	Learn about how new perceived quality is a brand association that is elevated to the status of a brand asset.
7	Brand Associations	Learn how new brand equity is supported in great part by associations that consumers make with a brand.
8	Name, Symbol and Slogan	Learn how the new name, symbol and slogan are the basic core indicators of a brand.
9	Brand Extension	Learn about line extensions, brand stretching, brand extensions, and co-branding.
10	Brand Identity	Learn the definition of brand identity and related concepts.
11	Brand Personality	Learn how new brand personality is a set of human characteristics associated with a given brand.
12	Brand Strategies over Time	Learn the reason why consistency is good.
13	Managing Brand Systems	Learn how to manage brands in a complex environment.

14 Review and Final Exam

Review of what students have learned from this course and final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】

Aaker, D.A (1991) *Managing Brand Equity: Capitalizing on the Value of Brand Name*, Free press.

Aaker, D.A (1996) *Building Strong Brand*, Free press.

Keller, K.L (1998) *Strategic Brand Management: Building, Measuring, and Managing Brand Equity*, Prentice-Hall, Pearson Education.

【Grading criteria】

Class participation (20%)

Assignment (20%)

Final exam (60%) (Midterm reviews will cover some questions in the final exam)

【Changes following student comments】

The course structure and content was favorably evaluated.

【Others】

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

【Prerequisite】

None

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Business Negotiation

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : 〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】

Negotiation is an interdisciplinary study (psychology, business management, economics, politics, law, etc.) which has been developed since the 1970s, when Harvard University started researching negotiation in a systematic manner. The study of this has become increasingly significant to global society. This course introduces students to the basic negotiation theories and techniques.

【Goal】

The purpose of this course is to learn basic negotiation theories and techniques, and utilize them in both business negotiations and daily life.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

In this course, students will learn basic negotiation theories, read and discuss case studies, and study consensus building so as to be able to interact with different societies. Feedback can be given verbally in class, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	What is Negotiation?	Learn the definition of negotiation.
3	Negotiation and Conflict	Learn how negotiation is a method to resolve conflicts.
4	Win-Lose Negotiation (distributive bargaining)	Learn Win-Lose negotiation (theory and techniques).
5	Case Study (1)	Read and discuss case studies of Win-Lose negotiation.
6	Win-Win Negotiation (integrative bargaining)	Learn Win-Win negotiation (theory and techniques).
7	Case Study (2)	Read and discuss case studies of Win-Win negotiation.
8	Pareto-Optimal Solution	Learn how to search for Pareto-Optimal solutions in negotiation.
9	Negotiation Strategy and BATNA	Learn why BATNA is important in negotiation.
10	Case Study (3)	Read and discuss BATNA case studies.
11	Case Study (4)	Read and discuss BATNA case studies.
12	Consensus Building	Learn how to build consensus while negotiating complex issues.
13	Intercultural Negotiation	Learn cultural differences and effective intercultural negotiation methods.
14	Review and Final Exam	Review and final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】

Fisher, Roger and William Ury. *Getting to Yes: Negotiating Agreement Without Giving In* New York: Penguin Books, 1983.

Wheeler, Michael. *The Art of Negotiation: How to improvise Agreement in a Chaotic World* New York: Simon and Schster, 2013.

Bazerman, Max and Margaret Neale. *Negotiating Rationally* Free Press, 1994.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class participation (20%), a writing assignment (20%), and the final exam (60%)(Midterm reviews will cover some questions in the final exam)

【Changes following student comments】

The lecturer will provide more business negotiation tips.

【Prerequisite】

None.

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Creative Industries

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木4/Thu.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

In this class, we will explore different elements of contemporary creative industries and their surrounding cultures in Japan. This will include examining the differing conceptions of creativity they enable, and how this is connected to changes in media technologies and business strategies. Over the course of the semester we will explore the history of the idea of creative industries, examining specific industries in Japan. We will be focusing on the areas that are currently promoted locally and globally as key cultural industries in Japan. This includes anime, manga, toys, and the character business, exploring how these industries interacted and influenced one another. We will then move on to see how this connects to other industries, such as tourism. Lastly, we will examine the Japanese fashion industry in detail. For each of these commercial industries, we will analyze their production, distribution, and consumption as we examine different approaches to branding and creativity.

【Goal】

In addition to teaching the students information on the cultural production, economics, and marketing of the creative industries, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) critically engage with the concept of creativity; 2) learn the history of different creative industries and their shifts in business strategies and marketing; 3) explore how these shifts reflect societal changes in Japan.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions and analyses on certain themes. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Anime's Business Structure	History and technology
3	Media-mix and Marketing I	Case study I
4	Media-mix and Marketing II	Case study II
5	Media-mix and Marketing III	Anime tourism
6	(Re)Conceptualizing Creativity I	Creativity and branding
7	(Re)Conceptualizing Creativity II	Robots and creativity
8	Smartphone Games	Production and problematics
9	Kawaii Culture	Local and global branding successes
10	Fashion I	Fashion and lifestyle branding
11	Fashion II	Branding Japanese Americana
12	Student Presentations	Feedback and Discussion
13	Student Presentations	Feedback and Discussion
14	Student Presentations	Feedback and Discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Steinberg, Marc. *Anime's Media Mix: Franchising Toys and Characters in Japan*. University of Minnesota Press, 2012.

Marx, W. David. *Ametora: How Japan Saved American Style*. Basic Books, 2015.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Entrepreneurship and New Ventures

Sean Michael Hackett

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火2/Tue.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course is an active learning course centered on the fundamentals of entrepreneurship and entrepreneurial management. The course is positioned as an entry point for learners who think that they might want to start their own business “someday,” and want to learn about — and practice elements of — the lean startup process now. Specifically, the course is designed to help learners develop a better understanding of how to find, frame, and solve problems; generate and/or discover business ideas; articulate and evaluate business concepts; convert surviving business concepts into business opportunities through creativity, market analysis and segmentation, design thinking, lean startup customer development processes and business model design while searching for a validated business model; and then prepare to drive sales while leveraging a digital presence and infrastructure.

[Goal]

The learning goal of the course is developing entrepreneurial management competency. The learning objectives for this course include the following: developing an entrepreneurial mindset; understanding various frameworks; developing critical thinking, communication, leadership, teamwork, and ethical reasoning skills; developing a practice of reflection.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

- Preparation. Students must complete the assigned reading and take the pre-class quiz before each class.
- Class. In the first half of each class, there is a lecture. After the lecture, students break into groups to complete experiential exercises that require students to apply key concepts from the lecture and the assigned reading.
- Review & Reflect. After each class, students must complete a journal entry describing their key takeaways from the class. Teams must submit the results of their experiential exercise.
- The Mid-Term is a Short Paper that includes a description of a Business Concept and a 5Cs analysis.
- The Final Deliverable in the course is a Business Model Canvas and Executive Summary.
- Feedback. Feedback is provided via the grade book feature in the Learning Management System (LMS) used by the Professor. Additionally, when warranted, comments are provided by the Professor via the LMS.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	The Fundamentals of Entrepreneurship.
2	Finding, Framing, and Solving Problems	Frameworks that entrepreneurs use in the initial stages of the entrepreneurial process.
3	Worth Solving Recognizing & Shaping Opportunities for a New Business	Distinguishing among business ideas, business concepts, and business opportunities; brainstorming skills and discovery skills.
4	Creativity and Business Concepts	How creativity can strengthen a business concept and help entrepreneurs discover transformative strategies.
5	Segmenting, Targeting, Customer Value Propositioning, and Positioning	Market analysis; positioning and customer value propositioning for targeted customer segments.
6	Business Models	Business models.
7	Design Thinking & New Product Development	The design thinking process as it is applied to new product development.

8	Lean Start-Ups &The Business Model Canvas	The three core elements of lean startups: business model canvas; customer development model; and agile development.
9	Customer Experience	How good customer experience design and good website design can translate into more sales.
10	Leveraging Cloud Computing, AI, and Workflow Automations	How cloud computing, AI, and workflow automations can be harnessed by entrepreneurial managers.
11	Go-to-Market Strategy	Go-to-Market Strategy.
12	SEO Marketing + Social Commerce	Using a case study to explore the potential for using SEO Marketing, Social Commerce, and an Entrepreneurial Mindset to compete against large enterprises.
13	Counterfeit Goods & System D	The logic of counterfeiters and the challenge of competing against them and System D (the informal economy).
14	Course Wrap Up	This session is a review of the course.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Before each class, participants complete the assigned reading(s) and complete an online quiz. After each class, students summarize their key takeaways in an online journal entry; teams submit the results of their experiential exercise. In accordance with MEXT guidelines for 2-credit courses, I recommend allocating at least 150 minutes to read the assigned reading, and at least 150 minutes to review, reflect, and write the post-class journal entry after each class.

[Textbooks]

The instructor will create an online coursepack of readings from the Harvard Business School Publishing repository. The cost of the coursepack is approximately US \$60. (Note: Payments for the coursepack can be made with either a credit card or a debit card).

[References]

If you want to read a book before taking the class, I recommend the new expanded edition of Disciplined Entrepreneurship by William Aulet.

[Grading criteria]

- LMS registration: REQUIRED
- Attendance: REQUIRED
- Pre-Class Quizzes: 130 points (12%)
- Class Participation & Attitude: 130 points (12%)
- Group Experiential Exercises: 180 points (17%)
- Journal Entries: 364 points (34%)
- Mid-Term Short Paper: 100 points (9%)
- Final Deliverable: 175 points (16%)

Total Available Points: 1079 (100%)
(%is rounded)

[Changes following student comments]

N/A

[Equipment student needs to prepare]

- A credit or debit card to pay for the online coursepack.
- A PC & internet connection.

[Others]

- IMPORTANT: Before the first class, please complete the Onboarding Survey which is located at <https://hackettlabs.com/gis/>

Also, this course does not use HOPPII or WebClass. Instead, this course uses Canvas, a global Learning Management System (LMS).

[Prerequisite]

None

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Marketing Research

Kayhan Tajeddini

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 5/Thu.5

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course will provide an introduction to market research as a business decision-making tool. The primary goal of this course is to equip students with an understanding of how market research can help them make business decisions and how they can transform research findings into actionable business insights. The course also aims to help students gain the ability to evaluate and interpret research designed and conducted by outside providers. During the course, we will discuss a wide range of research methods, including in-depth interviews, focus groups, surveys and modeling, and their application to the services and non-profit sectors. We will also discuss data sources and data collection methods. Students will have the opportunity to define a business problem, develop a research plan, collect and analyze data and present findings and their implications as a class project.

This course aims to help students:

- (1) Discuss what market research is and how, why, and when it's useful.
- (2) Identify a range of market research tools (e.g., focus groups, interviews, surveys), consider their strengths and weaknesses, and discuss when it would (and wouldn't) make sense to use each.
- (3) Use these tools to solve business problems and craft business strategies.

【Goal】

At the completion of this course, students are expected to be able to:

- (1) Understand the importance of marketing research
- (2) Formulate a research problem
- (3) Design a questionnaire
- (4) Collect respondent data
- (5) Enter respondent data into a computerized spreadsheet
- (6) Analyze respondent data with statistical software
- (7) Write a research report
- (8) Make a in-class presentation about the findings

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course will be lecture, case, and discussion based. The assignments are designed to help students build skills that cover scientific, information, and communication literacy. Effort will be made to make the class both challenging and exciting.

We will use a combination of text and cases to explore and apply the topics. It is vitally important that you come to class prepared and ready to discuss the topics. If you read and prepare the materials you will learn more during the discussions and will be successful at the assignments.

Regarding the presentation and case studies, it will be explained in the first class with all guidelines, expectations and standards. The strengths and weaknesses of each presentation and reports will be discussed individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Overview of Marketing Research Process	This session gives an overview of the process of marketing research and an introduction on research design.
3	Secondary Data and Research Question	This session explains the role of secondary data and how to clarify research question from secondary data.
4	Measurement	This session discusses measurement and measurement scales.
5	Data Gathering Instrument	This session introduces two important groups of data gathering instrument: (1) Survey and interview (2) Questionnaire.
6	Sample	This session discusses sample method and sample size.

7	Midterm Exam Basic Statistics	Midterm exam This session offers a crash course in basic statistics useful in marketing research.
8	Statistical Software	This session offers a crash course in how to use SPSS effectively.
9	Analyzing and Interpreting Data	This session introduces methods in analyzing and interpreting data: (1) Preparation and description (2) Exploring and displaying.
10	Analyzing and Interpreting Data	This is a follow up session of week 9 and introduces methods in analyzing and interpreting data: (1) Hypothesis testing (2) Measures of association.
11	Presenting Findings	This session discusses how to present findings by oral presentation and written report.
12	Review and Case Study	This session reviews the course contents by studying a complete case.
13	Student Presentation	Reserved for students to present their work.
14	Course Review Final Written Exam & Wrap-up	Course Review Final written exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Attendance is required at all scheduled class sessions, presentation and examinations. Students are expected to conduct their own project, write a report, and make a presentation. The project should begin after lecture 3. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

- Naresh K. Malhotra (2015) *Essentials of Marketing Research: A Hands-On Orientation*, Prentice Hall, New Jersey.

- Alvin C. Burns, Ann Veeck, Ronald F. Bush (2016) *Marketing Research (8th Edition)*, Prentice Hall, New Jersey.

Students will be advised in the first week on whether they need to purchase the textbook(s).

【References】

Burns A. C. & Bush, R. F. (2014): *Marketing Research (7th Edition)* Prentice Hall, New Jersey.

【Grading criteria】

Quiz: 20%

Presentation: 20%

Midterm Exam: 20%

Final Exam: 40%

【Changes following student comments】

Not applicable

【Others】

This course is self-contained. Basic knowledge in statistics is desirable but not necessary.

【Prerequisite】

None

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Organizational Behavior

Junko Shimazoe

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金5/Fri.5

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

In this course, students learn (1) why modern organizations behave as they do, (2) how the behavior emerges from inside the organization, and (3) how exogenous forces influence formation of the behavior. Since studies of organizations are fundamentally cross-disciplinary, this course approaches organizations from sociological, social psychological, public policy, and psychological perspectives about organizational behavior. For the same reason, examples covered in this course include organizations in the public, private, and non-profit sectors. At the end of this course, students will develop a multifaceted view of their own to explain various problems of modern organizations.

[Goal]

This course has three goals. First, students are expected to understand the scientific approach to study organizations. For example, what does it mean to study organizational behavior in a scientific manner? What are the objects of studying, organizational structure, performance, routines, or interactions among people and organizations? How is it possible to explain the relationship between behavior of people and organizational behavior? Second, students are expected to understand “organic aspects” of organizations. Organizations are more than machines whose structures and rules repeatedly generate intended results. Members interact with each other and in organizational contexts, from which unintended outcomes may emerge. In addition, organizations are influenced from temporal, geographical, and other environmental conditions. It is important for students to understand organizations as evolving and interactive actors with members and other organizations. Finally, students are expected to become able to explain problems caused by modern organizations in their own words. Regardless of their career after graduation, organizations are everywhere in modern life, and students may encounter minor to major issues caused both in and by organizations. It is essential for students to apply concepts that they learn in this course to organizational behavior that they observe in real life.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

In each class, I will assign readings to explore the topic of the next class. Finish them before class.

Active participation in class is required. In this course, we will use lectures by the instructor, audiovisual materials, discussion, and group presentations. The contents covered in class will go beyond assigned readings of the week. In the case of being unable to come to the class, send an e-mail in advance to the lecturer unless the reason is that you are sick.

In this course, students work together to study and make a presentation about organizational accidents. In the group presentation, explain the probable causes of the accidents and their implications to society using the knowledge from this course. Do not simply repeat what the internet sources, books, or other authorities say about the problems. Build your own explanation based on what you learn in this course. Students will receive feedback on their presentations in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

なし /No

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Diversity in an Organization	- Diversity and its challenges
3	Individual Differences #1	- Values - Personality
4	Individual Differences #2 Attitudes and Behaviors	- Perception - Work attitudes and behaviors - Psychological contract - Relationships at work - OCB
5	Motivating Work Environment	- Job design - Goal setting - Performance appraisals - Performance incentives

6	Motivation	- Maslow's Hierarchy - EPG theory - Theory X, Theory Y
7	Stress and Emotion at Workplace	- Stress - Stress process - Workplace stressors - Role demands - Outcomes of stress - Individual differences in experiences and managing stress - Organizational approaches to managing stress - Emotions - Emotional contagion - Emotions at work - Emotional labor
8	Groups and Teams	- Groups - Development stages - Cohesion - Problems of too much cohesion - Teams - Team roles - Types of teams - Designing effective teams
9	Decision Making	- Decision making - Ideal process - Reality - Game plan?
10	Organizational Accident and Learning	- Organizational accident - Risk vs. uncertainty - Normal accident - Organizational learning - Barriers to organizational learning - high-reliability organization
11	Power in an Organization Knowledge Management	- Power - Sources and conditions of power - Knowledge management - Intellectual capital
12	Leadership Organizational Change	- Organizational memory - Traits for leadership - Types of leadership - Process and forces of organizational change
13	Organizational Culture	- Organizational culture - Types of organizational culture - Why culture matters - Weakness of the strong culture - Strength of the adaptive culture - Organizational socialization - Outcomes
14	Group Presentations	- Presentations - Wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

In each class, I will assign readings to explore the topic of the next class. Students have to finish them before they come to the class. Students are also required to understand distributed materials in the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

University of Minnesota Libraries. (2017). Organizational Behavior (University of Minnesota Libraries Publishing Edition). Minneapolis: online textbook available at <https://open.lib.umn.edu/organizationalbehavior/>. (Original author removed at request of original publisher.)

[References]

N/A

[Grading criteria]

- Class participation (15%)
- Group presentation (40%)
- Final paper (45%)

[Changes following student comments]

N/A

[Equipment student needs to prepare]

N/A

[Prerequisite]

None

ECN200ZA (経済学 / Economics 200)

Development Economies

Delgado Narro Augusto Ricardo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木4/Thu.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This is an introductory course to the field of Economic Development. This course aims to understand the main issues of development economics, analyze the economic problems of developing countries, and discuss strategies for achieving inclusive growth and reducing poverty and extreme inequality. This understanding will help the students answer key questions: Why do some countries achieve high levels of economic development and others do not? What policies can governments implement to change their countries' growth path? This course will start from a "macro" perspective and later introduce a "micro" viewpoint of the problems to explore the socioeconomic factors that affect economic development. This course will cover economic growth, agricultural development, food security, population, education, migration, poverty reduction, informality, and more.

【Goal】

1. Understand: (1) why some emerging countries have been successful in catching up with rich countries in per capita income while others are left behind, (2) why half of humanity remains poor, and many of them are living with less than \$2 per day, and (3) why environmental degradation and resource exploitation are commonly associated with income growth.
2. Understand: what can be done to promote development through policies. Learn to analyze the economic and social impacts of specific initiatives.
3. Use data to conduct development analyses such as growth diagnostics, poverty assessments, impact analysis of development projects.
4. Encourage students to explore alternative paths of economic development that promote the well-being of individuals and communities.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The course combines lectures and student presentations. The first part of the course will be conducted through lectures with the objective of learning, understanding, and using the fundamental concepts of development economics. Additionally, we will analyze some applications of our learned concepts. Students are encouraged and expected to participate in classes.

In the last part of our course, we will have presentations depending on the number of students. Feedback will be given to students at the end of each presentation.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview of the course.
2	Growth & Development. Economic Growth Theories.	-Link between Economic Growth and Development Economics (Income Inequality and Poverty). -Economic Growth Theories: Exogenous and Endogenous.
3	Economic Convergence and the Middle-Income Trap.	-Evidence of the Economic Growth Models. -Economic Convergence: Absolute and Relative Convergence. -New Economic Convergence View: Clubs of convergence. -The role of external economic shocks.
4	Inequality and Poverty.	-Income Inequality. -Poverty. -Poverty and Income Inequality.
5	Review of Classes 1-4. Quiz 1.	Assess students' understanding of the 1st half of course materials (Week 1-4)
6	Food and Nutrition.	-Food and Nutrition. -Basic Model. -Food-based poverty trap.

7	Population, Migration, and Cities.	-Role of population on the Development Process. -Migration and its impact. -Cities and Economic Development.
8	Education and Health.	-Human Capital Concept. -Role of Education. -Role of Health.
9	Illegal and Informal Economy.	-Informal Economy. -Illegal Economy. -Measurement and basic concepts.
10	Review of Classes 6-9. Quiz 2.	-Assess students' understanding of the 2nd half of course materials (Week 6-10)
11	Presentations Groups 1	-Presentations of Groups. -Q&A from the class. -Feedback.
12	Presentations Groups 2	-Presentations of Groups. -Q&A from the class. -Feedback.
13	Presentations Groups 3	-Presentations of Groups. -Q&A from the class. -Feedback.
14	Presentations Groups 4	-Presentations of Groups. -Q&A from the class. -Feedback.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the assigned materials (textbook/articles /cases), participate in class discussion, and make a presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Ray, Debraj. (1998), Development Economics, Princeton University Press.

I highly recommend to buy this book for better understanding and complement our classes.

【References】

Additional references will be provided in the class.

【Grading criteria】

1. Quiz 1: 25%
2. Quiz 2: 25%
3. Presentation: 40%*
4. Class Participation: 10%**

* Presentation is divided into two sections: 30% for a presentation at his/her corresponding time and 10% for participating during classmates' presentations by making comments or questions.

** Class participation refers to student's participation during lectures.

【Changes following student comments】

Students are encouraged to provide feedback and suggestion regarding the course. Constructive suggestion is appreciated and may be taken for course adjustment.

【Others】

Quiz 2 is scheduled to be taken in class on the 10th. However, depending on the number of students, time, and number of groups, Quiz 2 may be changed to class 11th.

【Prerequisite】

None

ECN200ZA (経済学 / Economics 200)

Macroeconomics II

Karen Kai Lin Lai

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course will provide students with more knowledge of the core theories in macroeconomics, particularly on the economics of open economies, unemployment, monetary growth and inflation, and the model of aggregate demand and supply. Moreover, the role of fiscal and monetary policy to stimulate the economy will be discussed.

To prepare students for embarking confidently on their journey in the world of economic analysis and for seriously analyzing the economic signals and data we all face daily to be able to justify views and opinions with sound economic reasoning.

【Goal】

By the end of this course, students should be able to:

1. Apply macroeconomic knowledge to analyze contemporary macroeconomic issues and real-world problems.
2. Learn and apply the theory of the open economy to understand the factors that affect the economy's trade balance and exchange rate.
3. Understand the determinants of inflation, and apply the money-demand-and-supply model and the quantity equation to explain increases in the level of prices as well as its consequences.
4. Understand unemployment and the main factors that contribute to structural and frictional unemployment.
5. Learn the most important macroeconomic (Keynesian) model that is used by governments (policymakers) to formulate fiscal and monetary policies that stimulate the economy.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will be mainly conducted through lectures, with analysis of appropriate case studies related to each topic. Students are expected to read the required material prior to the lecture to discuss and solve problems in class. Assignments and related feedback will be given via the learning-management system. Additionally, midterm-exam and in-class-assignment feedback will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course (Syllabus)	Introduction to the Course (Syllabus)
	Application: International Trade (Ch9)	The determinants of trade The winners and losers from trade
2	Application: International Trade (Ch9)	The effects of a tariff
	Open-economy macroeconomics (Ch31)	The international flows of goods and capital The prices for international transactions

3	Open-economy macroeconomics (Ch31) International economics (Wheelan, 2019)	A first theory of exchange-rate determination How did a nice country like Iceland go bust? (Ch11,p.250-259)
4	Theory of the open economy (Ch32)	Supply and demand for loanable funds and the foreign-currency exchange Equilibrium in the open economy
5	Theory of the open economy (Ch32) International economics (Wheelan, 2019)	How policies and events affect an open economy How did a nice country like Iceland go bust? (Ch11,p.259-267)
6	Unemployment (Ch28)	Identifying unemployment Frictional unemployment Structural unemployment
7	Review &midterm exam	Assess students' performance for the 1st half of the course (week 1-6).
8	Money Growth and Inflation -1 (Ch30)	The classic theory of inflation
9	Money Growth and Inflation -2 (Ch30)	The cost of inflation Case study
10	Aggregate demand and aggregate supply -1 (Ch33)	Economic fluctuations The aggregate demand curve The aggregate supply curve
11	Aggregate demand and aggregate supply -2 (Ch33)	The aggregate supply curve Two causes of economic fluctuations Problems
12	The influence of monetary and fiscal policy on aggregate demand (Ch34)	How monetary policy influences aggregate demand
13	The influence of monetary and fiscal policy on aggregate demand (Ch34)	How fiscal policy influences aggregate demand
14	Review &final exam	Assess students' performance for the 2nd half of the course (week 8-13).

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the relevant material (textbook /articles/cases) and participate in class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Mankiw, N. Gregory. *Principles of Economics*, 9th Edition. Cengage, 2021. (ISBN-13: 9780357562833). Digital version. MindTap-access code included and required to submit your assignments. (Required; sold as a bundle by Cengage at <https://www.cengageasiaestore.com/jp/principles-of-economics-mindtap-12-months-digital-access.html>).

Importantly, students of Macroeconomics I who bought 24-month-access codes last year should not buy the code again.

Other students should not buy the physical copy of the textbook. You should buy MindTap, 12-month-digital access, which includes the eText for "Principles of Economics", from Cengage through the link shared above. This is the REQUIRED material to submit assignments.

Cengage provides a 60%discount on the purchase to Hosei University students when using the following discount code: JPCFE2024SP (Available till 2024/5/20) Special Price: 7,120 JPY (before tax) 7,832 JPY (with tax). To obtain the discount, add the product to the cart and then apply the discount code before proceeding to checkout.

【References】

Principles of Macroeconomics, by Stevenson and Wolfers, Worth Publishers, Second Edition (2023).

Macroeconomics, by Blanchard, Pearson, 8th Edition (2021).

Wheelan, C., "Naked Economics: Undressing the Dismal Science", Fully revised and updated, WW Norton & Company (2019).

【Grading criteria】

1. Participation: 10%
2. Homework: 20%
3. Midterm exam: 35%
4. Final exam: 35%

【Changes following student comments】

Students are encouraged to provide feedback and suggestion regarding the course. Constructive suggestion is appreciated and may be taken for course adjustment.

【Equipment student needs to prepare】

A calculator and a ruler are required.

【Others】

None

【Prerequisite】

Macroeconomics I. Students who have taken other economics courses need to discuss with the instructor for permission.

ECN200ZA (経済学 / Economics 200)

Microeconomics II

Delgado Narro Augusto Ricardo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水2/Wed.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This is the second part to an introductory course in microeconomics. (See prerequisite below.)

In this semester, we will continue covering fundamental concepts and principles in microeconomics. This time, we will focus on producer and consumer theory and the labor market. In the first half of the semester, we will study firm behavior and market structures. In the second half of the semester, we will discuss consumer theory. The labor market and income determination will also be examined.

【Goal】

The intention of this course is to integrate theory and application. At the end of the course, students should grasp and be able to discuss fundamental concepts in microeconomics, i.e. how different market structures affect producers and consumers and how the labor market works. Students should be able to examine issues related to consumption, production, the labor market, income inequality, and poverty.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	-Introduction to the course. -Explanation of the grading system and course knowledge requirements.
2	Perfect Competition.	-Perfect Competition assumptions and implications. -Supply and Demand dynamics. -Brief review of Microeconomics 1.
3	Producer Theory 1: Profit Maximization.	-Economic Profits. -Profit Maximization problem.
4	(*) Producer Theory 2: Cost Minimization	-Economic Costs. -Factors versus Inputs. -Cost Minimization problem. -Monopoly (Chapter 15) -Differences with Perfect Competition.
5	(*) Review of previous topics. (*) Quiz 1.	-Practical Applications of learned topics.
6	Non-Competitive Markets 1: Monopoly.	-Monopolistic competition (Chapter 16) -Differences with other systems.
7	Non-Competitive Markets 2: Oligopoly and Monopolistic Competition.	-Oligopoly (Chapter 17) -Monopolistic Competition. -Differences with other systems.
8	Non-Competitive Markets 3: Industrial Organization.	-Cournot competition. -Bertrand competition. -Bertrand Paradox. -Hotelling Linear City.
9	(*) Review of previous topics. (*) Quiz 2.	-Practical Applications of learned topics.
10	Consumer Theory 1: Utility maximization.	-Preferences (Chapter 21). -Utility Curves. -Marginal Rate of Substitution.
11	Consumer Theory 2: Budget Constrain.	-Budget Constrain. -Coupons and discounts. -Price Ratio.

12	Consumer Theory 3: Labor.	-Labor demand and supply (Chapter 18). -Labor vs Leisure. -New budget constrain.
13	(*) Review of previous topics. (*) Quiz 3.	-Practical Applications of learned topics.
14	(*) Final Comments. (*) Q&A	-Final Comments. -Review of main topics. -Learning agenda.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Readings - Students are expected to read the textbook chapters carefully and to prepare for the lecture. Special attention should be paid to understanding the tables and the graphs. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Mankiw, Gregory. N. (2015) *Principles of Microeconomics*, 7th edition, Cengage Learning.

【References】

Other materials, if any, will be given by the instructor or shall be announced in class.

【Grading criteria】

Class Participation: 10%

Quiz 1: 30%*

Quiz 2: 30%

Quiz 3: 30%

*Quizzes are, in principle, individual; however, depending on the number of registered students, these may change to be held in small groups.

【Changes following student comments】

The lecture schedule may be adjusted depending on the pace of the class or at the discretion of the instructor. Any changes will be announced in class.

【Others】

This course requires students to have a good understanding of mathematics and graphic analysis.

【Prerequisite】

Microeconomics I, Understanding Microeconomics or an equivalent introductory course in microeconomics or economics.

SES200ZA (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200)

Environment and Development

Stephen Chitengi Sakapaji

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 水1/Wed.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course examines the complex relationship between environmental issues and development processes, focusing on the interplay between economic development, environmental degradation, and social well-being. The course integrates theoretical perspectives from political ecology, sustainable development, and environmental governance with real-world case studies from both the Global North and South. Students will critically explore themes such as climate change, natural resource management, biodiversity conservation, environmental justice, and sustainable development.

[Goal]

By the end of the course, students will:

1. Understand the key concepts and debates in the field of environment and development.
2. Critically assess the environmental impacts of various development models.
3. Explore the role of international, national, and local institutions in managing environmental challenges.
4. Analyze case studies from different regions and assess sustainable development initiatives.
5. Evaluate policy responses to environmental challenges and their implications for equity and social justice.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

[Method(s)]

The course will be structured around weekly lectures, class discussions, presentations, debates, and readings from textbooks and articles. Each session will focus on a specific theme or case study, allowing students to delve into the core concepts and engage critically with the material. Feedback will be given through the following:

- Comments from submitted reaction papers and insightful comments from reaction papers will be introduced in class and used in deeper discussions.
- Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.
- In the final class, comments and explanations will be given for assignments (tests and reports, etc.) for all classes taken/held during the semester.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Environment and Development	Overview of course themes and objectives. Key concepts: development, sustainability, and political ecology.
2	Theories of Development and Environmental Change	Historical perspectives on development and environmental degradation. Development paradigms: modernization, dependency theory, and neoliberalism.
3	Sustainable Development and Global Environmental Governance	The concept of sustainable development: critiques and alternatives. Global institutions and agreements: UN, SDGs, and international conventions.
4	Climate Change and Development	Climate change science, impacts, and global inequalities. Policy responses: mitigation, adaptation, and climate finance.
5	Conservation and Development	The politics of conservation: biodiversity, protected areas, biodiversity offsets, and community-based conservation.

6	Environmental Justice and Development	Environmental justice: North-South inequalities, vulnerable populations, and activism. Case studies: Industrial pollution, deforestation, and climate displacement.
7	Group Presentation	Covering topics discussed from week 1-6
8	Natural Resource Management and Development	The political economy of natural resources: Land, water, and energy. Case studies: Land grabs, mining, and deforestation in the Global South
9	Agriculture, Food Security, and Development	Industrial agriculture vs. sustainable agriculture. Case studies: agroecology, food sovereignty, and corporate farming.
10	Urbanization, Development, and the Environment	Urban sustainability: green cities, infrastructure, and social equity. Case studies: Mega-cities and informal settlements in the Global South
11	Water Security, Development, and Conflict	Water as a critical resource: access, privatization, and conflict. Case studies: water rights and hydropower projects.
12	Globalization, Trade, and the Environment	The impact of globalization on the environment: trade, consumption, and environmental degradation. Case studies: Supply chains, trade agreements, and ecological footprints
13	Environmental Movements and Social Change	Grassroots movements, activism, and environmental resistance. Case studies: Indigenous movements, climate protests, and ecofeminism.
14	Conclusion	Course retrospective (remaining presentations, as necessary)

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Reading of materials identified (and often provided) by the instructor; preparation of discussion talking points and questions; group report/presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Required Readings:

Robbins, P., Hintz, J., & Moore, S. (2014). *Environment and Society: A Critical Introduction* (2nd Edition). Wiley-Blackwell.

[References]

Additional Readings:

- Escobar, A. (1995). *Encountering Development: The Making and Unmaking of the Third World*. Princeton University Press.
- Guha, R., & Martinez-Alier, J. (1997). *Varieties of Environmentalism: Essays North and South*. Earthscan.
- Adams, W. M. (2009). *Green Development: Environment and Sustainability in a Developing World* (3rd Edition). Routledge.
- Peet, R., & Watts, M. (2004). *Liberation Ecologies: Environment, Development, and Social Movements*. Routledge.
- Shiva, V. (2016). *Who Really Feeds the World? The Failures of Agribusiness and the Promise of Agroecology*. North Atlantic Books.
- Weekly articles, reports, and multimedia sources will also be assigned, and all readings will be available via the course learning management system.

[Grading criteria]

1. Class Participation (30%): Active participation in class discussions/presentations/reflection papers/debates and demonstrating engagement with class readings.
2. Group Presentation (30%): Students will select a topic of their choice from a given list of discussed class topics (Week 1-6).
3. Final Exam (40%): A mix of multiple-choice questions and short essay questions covering key concepts from five key topics discussed in class.

[Changes following student comments]

Students are encouraged to utilize the discussion time to speak in class.

[Equipment student needs to prepare]

None

[Others]

Instructor reserves the right to adapt this syllabus as they deem fit during the course.

[Prerequisite]

None.

SES200ZA (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200)

Environment and Society

Eliud Kiprop

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木1/Thu.1

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Students in this course will do a comprehensive exploration of the intricate relationship between human societies and the environment. They will examine the interplay of cultural, political, and economic factors in shaping environmental changes. The ultimate goal of this course is for the students to understand these interactions and help in building environmentally sustainable societies. Through this understanding, students will be equipped to contribute to the development of practices and policies that promote environmental health and sustainability, addressing the urgent need for societies that can coexist harmoniously with the natural world.

【Goal】

- 1.To provide students with an in-depth understanding of the dynamic interrelationship between society and the environment.
- 2.To enable students to critically analyze the impact of culture, politics, and economics on environmental issues.
- 3.To encourage students to develop sustainable solutions to pressing environmental challenges.
- 4.To combine varied perspectives, including ethics and global considerations, for comprehensive sustainable development.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course will be delivered through a combination of traditional lectures and active student participation in class discussions. There will be group presentations based on the design of future societies. Responses to student assignments, quizzes, and mid-term exams, will be provided during classroom sessions or via the Hosei Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course guidance	・ Course guidance ・ Course introduction
2	Introduction to Environmental Sociology	・ Overview of environmental sociology ・ Society-environment interactions ・ Environmental challenges in contemporary society
3	Biodiversity and Endangered Species Conservation	・ Significance of biodiversity in sustaining life and ecosystem services ・ Threats to biodiversity and endangered species ・ Conservation strategies for endangered species and biodiversity ・ Complete Quiz 1
4	Valuing Nature and Ecosystem Services	・ Approaches to valuing natural capital and ecosystem services ・ Sustainable development paradigms ・ Economic valuation methods and controversies ・ Complete Quiz 2
5	Socio-Economic Policies and Environmental Impact	・ Role of socio-economic policies in environmental impact ・ Case studies on policy-environment interactions ・ Economic growth vs. environmental sustainability ・ Complete Quiz 3

6	Interdisciplinary Approaches for Sustainability	・ Integration of societal, economic, and environmental aspects ・ Building a sustainable society ・ Technological innovations for sustainability ・ Complete Quiz 4
7	Globalization and Environmental Change	・ Global perspectives on environmental change ・ Effects of globalization on the environment ・ International environmental policies and agreements ・ Complete Quiz 5
8	Midterm Exam	・ Review the previous classes ・ Midterm exam
9	Future Societies and Sustainable Practices	・ Future societal trends and sustainability ・ Innovative sustainable practices ・ Role of education and awareness in sustainability ・ Case studies on successful community-based sustainability initiatives
10	Urbanization and Environmental Challenges	・ Urbanization and associated environmental challenges ・ Urban sustainability initiatives ・ Urban planning for environmental conservation ・ Group discussions I: Future Societies ・ Complete Quiz 6
11	Environmental Movements and Political Ecology	・ History and impact of environmental movements ・ Political dimensions of environmental issues ・ Environmental justice movements and their impact ・ Community-based approaches to environmental justice ・ Group discussions II: Future Societies ・ Complete Quiz 7
12	Global Perspectives on Environment-Society Relationships	・ Global challenges and solutions for sustainable development ・ The role of multilateral organizations in environmental governance ・ Ethical considerations in international environmental agreements ・ Group discussions II: Future Societies
13	Group Presentations	・ Design of Future Societies ・ Review Session for the Final Exam
14	Final Exam & Wrap-up of the course	・ Final exam and course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are anticipated to dedicate time to reading and/or conducting research assignments as preparation for lectures, as well as reviewing materials post-class. Additionally, they are encouraged to utilize this time outside of class for researching and composing essays. The expected time allocation for these preparatory and review activities for this course is approximately 2 hours each. Students are expected to complete all the assignments and quizzes on time.

【Textbooks】

This course does not require a specific textbook. Handouts and other relevant materials will be distributed in class.

【References】

Hannigan, J. (2022). Environmental sociology. Taylor & Francis.
Dasgupta, P. (2021). The economics of biodiversity: the Dasgupta review. Hm Treasury
Miller, G. T., & Spoolman, S. E. (2021). Living in the Environment. Cengage Learning.

【Grading criteria】

The primary assessment methods will be quizzes, midterm, presentations, and final exams.

Quizzes: 15%

Interactive Activities: 10%

Midterm Exam: 20%

Presentation: 15%

Final Exam: 40%

Quizzes will be completed on LMS.

Midterm and final exams will be paper test.

[Changes following student comments]

In response to student feedback and my own reflections, I have implemented two key enhancements to the course:

1. Group Project on Designing Future Cities: Students will collaborate to design future urban environments that address current and anticipated environmental challenges. This project encourages innovative thinking and practical application of course concepts.
2. Weekly Discussion Questions: Each week, students will prepare solutions to assigned discussion questions related to course material and present them in the following class. This initiative aims to foster critical thinking, active engagement, and collaborative learning.

[Prerequisite]

None.

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

American Politics and Foreign Policy

Jonathan Seth Snider

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月 1/Mon. 1

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

The purpose of this introductory course is to facilitate a broad understanding of the theories, concepts and issues associated with a sub-discipline of Political Science – American Politics. Research within this large and extensive field of study holds many points of applications, including various inputs into policymaking. Generally, the study of this discipline at the undergraduate level entails a broad range of political, military and institutional issues at a fairly theoretical level. Throughout the course, this approach will be complemented by a deeper dive into several real-world case studies from the perspective of the theoretical tools learned.

【Goal】

- 1) Students are expected to develop an understanding of basic structure of the United States government.
- 2) Students are expected to gain knowledge of the ways in which different branches of the United States government interact and impact foreign policy.
- 3) Students are expected to understand and critically analyze how governmental and non-governmental factors influence American politics and foreign policy.
- 4) Students are expected to understand some of the political ideals that have influenced American politics since the country's founding.
- 5) Students are expected to develop their ability to engage in academic research and writing through the completion of short essays.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will be structured around lectures.

There will also be discussion questions for each week's lecture topic. Although time will be given in class to answer these questions, the questions will be posted on Hoppii each week. Students will be expected to post answers to these questions.

Feedback: Assignments will be submitted on Hoppii, and feedback will be included.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Pilgrims, Puritans and The Fight for Independence	The City on a Hill Redcoats and Revolutionary Ideas
2	Structural Dimensions of American Political System	The US Constitution Federalism
3	Civil Rights and Civil Liberties	Bill of Rights and Various Freedoms Civil Disobedience
4	The Presidency and Congress	Executive Powers Commander in Chief Branches and Powers of Congress Committee System Law Making
5	Bureaucracy, Judiciary and Interest Groups	Government Departments Supreme and Federal Courts Lobbying
6	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which students understand the subject and Exam: short-answer questions and a short-essay (online test via Hoppii)
7	Rhetoric, Mass Media and Political Culture	The Role of the Media Misinformation and Political Debate
8	Modern Presidents and Presidential Power	The Presidency in the Modern Era Imperial Presidency?
9	Principles, Pragmatism and Engagement	Exceptionalism, Isolationism and Expansionism The American Century

10	Cold War, Containment and Nuclear Weapons	Truman Doctrine, Korean War and Cuban Missile Crisis Strategic Doctrines in the Cold War Context
11	Military Force and Diplomacy After the Cold War	Conventional Military Power International Diplomacy
12	Terrorism, Proliferation and Arms Control	War on Terrorism The Control of Nuclear Weapons Case Study: A World Without Nuclear Weapons?
13	Future Challenges in U.S. Foreign Policy	An Evolving Global Security Landscape Climate Change Technology and War
14	Final Exam	Assessing the degree to which students understand the subject and Exam: short-answer questions and a short-essay (online test via Hoppii)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to have completed the readings before class. Expect roughly 15-30 pages of reading per week. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

All course reading materials will be uploaded to the course website.

Kernell, Samuel et al. The Logic of American Politics, 11th Edition (Thousand Oaks: CQ Press, 2024).

Kaufman, Joyce P. A Concise History of U.S. Foreign Policy, Fourth Edition (Lanham: Rowman & Littlefield, 2017).

McDougall, Walter. Promised Land, Crusader State: The American Encounter with the World Since 1776 (Boston: Houghton Mifflin, 1997).

Crenson, Matthew and Benjamin Ginberg. Presidential Power: Unchecked and Unbalanced (New York: W.W. Norton & Company, 2007).

【References】

The following books will prove to be good reference materials.

【Grading criteria】

Participation: 10%

Quizzes – 20%

Midterm Exam – 30%

Final Examination – 40%

【Changes following student comments】

Documentary responses will replace reading responses to reduce the reading load for two weeks.

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

Students who have completed General Topics II: American Politics and Foreign Policy can not take this course.

【Prerequisite】

None.

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

Japanese Politics

Heiko Lang

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 4/Tue.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course is designed as an introduction to Japanese politics.

The first part traces the historic development of Japan's politics since the Second World War, focusing on the main turning-points and political choices. In the second part, we look at the principal actors and structures that inform Japan's political system. The third part will focus on contemporary political issues.

[Goal]

Students who have completed this course will be able to

- understand the basics of Japan's political system,
- understand the main issues in contemporary Japanese politics,
- develop informed opinions on these issues, and
- critically assess the policies taken by the Japanese Government in response to these issues.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course will be based on a combination of lectures and discussion. You will be encouraged to engage in critical debate, thorough textual analysis, and group work.

In each class, a lecture by the instructor will introduce the main aspects of the session's topic. This will be followed by discussion activities which will give you the chance to ask questions and share your opinions with the class.

You will be given timely feedback on your contributions in class or through Hoppii.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introducing the main issues in Japanese politics
2	Occupation Reforms and Constitution	Analyzing the emergence of Japan's post-war political system
3	Historic Overview I	Analyzing the turning points in Japanese politics from the early postwar period to the end of the Cold War
4	Historic Overview II	Analyzing the turning points in Japanese politics since the 1990s
5	Diet and Electoral System	Analyzing the electoral system and the workings of the Japanese Parliament
6	Political Parties	Analyzing the LDP and other parties
7	Bureaucracy and Prime Minister	Analyzing the roles of public servants
8	Review and Mid-Term Exam	Exam and summary of the course content so far
9	Civil Society	Analyzing the influence of non-state actors on Japanese politics
10	War Memory and Responsibility	Analyzing the influence of history on Japanese politics
11	Immigration	Analyzing policies regarding immigration and other demographic challenges
12	National Security and Foreign Policy	Analyzing recent changes in Japan's foreign policy
13	Environment and Climate	Analyzing the role of environmental issues in Japanese politics
14	Conclusion and Final Exam	Wrap-up of the course content and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each week.

Students are expected to closely read the assigned texts before class, submit discussion points on the readings before each class, and to engage in discussion.

[Textbooks]

There is no need to buy a textbook.

[References]

The weekly readings will mainly rely on the following two books:

- Neary, Ian (2019): The State and Politics in Japan, Cambridge etc.: Polity Press

- Pekkanen, Robert J. and Pekkanen, Saadia M. (eds.) (2022): The Oxford Handbook of Japanese Politics, Oxford: Oxford University Press. A detailed list of required and recommended readings, and further materials for reference, will be distributed in class.

All required texts will be uploaded to the online course management system.

[Grading criteria]

Participation and discussion: 20%

Mid-term exam: 40%

Final exam: 40%

In this course, 20% of your grade will depend on your participation and contribution to the class discussion.

In class 8, you will be given a mid-term exam; in class 14, you will be given the final exam.

[Changes following student comments]

(not applicable)

[Others]

Students who have completed General Topics II: Japanese Politics can not take this course.

[Prerequisite]

None.

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

Religion and Politics

Christopher Kavanagh

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月 5/Mon.5

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course is designed to introduce students to the complex relationships between religion and politics, drawing on cross-cultural case studies that range from the premodern to the contemporary period. The course takes a cross-disciplinary approach, examining research from anthropology, sociology, psychology, and history.

“Religion,” as defined in the course, refers not only to doctrinal beliefs and formal institutions but also to informal supernatural beliefs, ritual practices, and the various subcultures and social aspects associated with religious communities. The principal aim of the course is to explore how religions, as cultural systems, interact with and affect political systems and nation-states.

By the end of the course, students will have a firm understanding of the complex relationships that religious groups, institutions, and larger traditions have with political systems. Students will critically engage with diverse perspectives, analyze the role of religion in both fostering political cohesion and inciting conflict, and develop the ability to assess contemporary issues where religion and politics intersect. This course is intended to improve students’ analytical skills, increase cross-cultural awareness, and provide them with the tools to understand the significance of religion in global and local political contexts.

[Goal]

By the end of the course, students will be able to:

- 1) Analyze and discuss the roles that religion has played historically and cross-culturally in politics and public life.
- 2) Understand and explain the complex and diverse ways that religion and politics can interact in different cultural and historical contexts.
- 3) Critically evaluate scholarly research and media accounts that explore issues of religion and politics, identifying biases and methodological strengths or weaknesses.
- 4) Compare and contrast various theoretical models of religion and politics, articulating the key arguments and implications of each.
- 5) Apply theoretical frameworks to contemporary case studies, demonstrating the ability to assess real-world interactions between religion and politics.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course will be taught through a combination of lectures, class discussions, and small group activities. Each session will begin with a lecture introducing key concepts and case studies, followed by class and group discussions based on the assigned readings. Students will be required to submit reaction papers online to reflect on specific topics covered in selected classes, fostering deeper engagement with the material. Additionally, each student will select a topic related to the course content and prepare an oral presentation. Presentations must be accompanied by a written script, and students will receive constructive written feedback on both the content and delivery of their presentations and reaction papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Religion and Politics: Course Introduction and Overview	Religion and Politics: Course Introduction and Overview
2	Defining Religion and Politics	An examination of the debates surrounding how to define religion and politics and the associated theoretical approaches.
3	The evolutionary role of religion in society	Exploring the role of religion in human societies from a cultural evolutionary perspective. Discussing its potential role in enabling large scale cooperation.
4	Religion and the State: Compatibility, Conflict, and Convergence	An examination of the varied relationships between religions and states, drawing on historical and contemporary examples.

5	Secularization Thesis	A critical assessment of the secularization thesis and the evidence presented for and against the position.
6	Resurgent Religiosity	An examination of contemporary claims of resurgent religiosity and growth in alternative religious beliefs.
7	Mid-term Exam & Course Review	Mid-term Exam and Course Review
8	Religious Identity & Intergroup Conflict	Exploring the role of religious identity in conflicts through case studies: 1. Buddhist nationalism and Hindu minority identities in Sri Lanka. 2. The role of Catholic & Protestant identity in the Northern Irish ‘Troubles’ 3. Religious identities in the Palestine/Israel Conflict
9	Religious Activism and Social Protest	Exploring the ability for religion to function as a source of activism including as an anti-state counter-hegemonic, emancipatory force.
10	Online Gurus, Conspiracy Cults, & New Political Movements	Reviewing new interactions between religion and politics in the contemporary world, especially in the online sphere.
11	State Religion & War	Examining the nature of state religions through a case study of State Shinto & Buddhist institutions involvement in WW2.
12	Religious Extremism & Terrorism	A critical examination of the role that religious doctrines and personal beliefs play in terrorism.
13	Religion and Social Issues: Evolution, Abortion, and Same-Sex Marriage	Investigating the role that religion plays in controversial social issues. Focusing on debates surrounding the teaching of evolution, abortion, and same sex marriage.
14	Final Exam & Wrap-up	Course wrap up and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete their weekly reading assignments and reaction papers, participate in class discussions and prepare a 15-20 minute oral presentation on a topic of their choice. For selected weeks students will be asked to summarise key readings. Preparatory study/reading and review time for this class is estimated to be at least 4 hours per week.

[Textbooks]

All readings will be distributed by the instructor on the online platform for class material.

[References]

Haynes, J. (Ed.). (2008). Routledge handbook of religion and politics. Routledge.

Fox, J. (2018). An introduction to religion and politics: Theory and practice. Routledge.

These books are useful references but not necessary to purchase.

[Grading criteria]

Presentation 25%

Mid-term exam 25%

Final exam 25%

Reaction Papers 25%

[Changes following student comments]

There will be an increased emphasis on class discussions to add variety and promote active engagement alongside lectures. Revision guides will be provided for exams.

[Equipment student needs to prepare]

Students do not need any specialist equipment beyond access to a PC /laptop & the internet. Students will need to complete readings before each class and submit reaction papers online via Google Classroom. At various points in the semester, students should be prepared to participate in discussions of ideas and concepts covered in readings.

[Prerequisite]

None.

TRS200ZA (観光学 / Tourism Studies 200)

Tourism Development in Japan

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 1/Tue.1

その他属性 : 〈優〉〈実〉

[Outline and objectives]

The post-coronavirus recovery of inbound tourism to Japan has surpassed expectations and 2024 was a record-breaking year for visitor numbers and spending.

After a consideration of historical tourism development, this course will examine a range of topical issues, including relations with South Korea, the Tokyo Olympics in 2021 and the impact of UNESCO World Heritage Site designation of Mt. Fuji. We will analyze different management and marketing approaches of tourism in different prefectures. We will consider the factors behind the remarkable recovery of inbound tourism after the 2011 Great East Japan Earthquake and how Japanese tourism may develop in 2025 and beyond.

[Goal]

Upon completion of this course students should be able to:

- 1) Understand how tourism in Japan has developed into its present form
- 2) Understand some of the key stakeholders involved in planning tourism in Japan
- 3) Consider destination management and how to harness the social and economic potential of tourism for revitalizing Japan at local level
- 4) Critically analyze prefectural and national government tourism management and marketing initiatives
- 5) Critically analyze sustainable tourism development in different prefectures

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to have group and class discussions. A range of case studies can help students consolidate their learning by illustrating the lecture content with real examples.

In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a particular prefecture, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.

Assignments will be submitted and returned, with feedback, via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content and class format and a consideration of contemporary tourism in Japan
2	The Roots of Japanese Travel Culture and Tourism Development	Exploring the historical development and evolution of the tourism sector in Japan, and the emergence of the 'leisure concept' in Japan in the 1970s
3	Destination Management and Marketing	Analysis of destination competitiveness, and an introduction to some of the key organizations involved in tourism management and planning in Japan
4	Rural Japan: Tourism as an Economic and Social Lifeline	Exploring destination management and tourism sustainability. Also the economic potential of niche tourism for local and regional development 'off the beaten track' to tackle serious demographic problems.
5	Tourism Marketing I	Considering marketing strategy and different approaches to tourism marketing
6	Tourism Marketing II: Prefectural Campaigns	Analyzing examples of prefectural marketing campaigns

7	Japan and Asia. Case Study: Japan and South Korea	Examining the current & historical connections with some of Japan's close neighbors, with a particular focus on South Korea
8	Tourism Resources: Events	Analyzing how Japan's rich event calendar provides competitive advantage at local and international levels
9	Tourism Resources: Natural, Built and Cultural	Analyzing the tangible and intangible resources in Japan, with a particular focus on World Heritage Sites. We will consider Mt Fuji from a sustainable tourism management perspective.
10	Tourism Focus: Niche Tourism & A Cross-Disciplinary Activity (Literary Tourism)	Considering different forms of tourism including ecotourism, gastronomic tourism and cultural tourism related to anime, manga, movies and TV shows. Guest lecture from Professor Khezrejat on literary tourism.
11	Group Presentations	Presentations on tourism in selected prefectures
12	Group Presentations	Presentations on tourism in selected prefectures
13	Disaster Management and Recovery	Analyzing how destinations can manage disasters. The response to the Great East Japan earthquake in 2011 will be considered, as will the rapid recovery from the coronavirus pandemic.
14	Contemporary Tourism Focus and Submission of Examination	Submission of examination and consideration of Airbnb in Japan

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

[References]

Various reference books are available in the library and in the GIS Reference Room, including:

Funck, C. and Cooper, M. (2013) *Japanese Tourism: Spaces, Places and Structures*. Berghahn: New York
 Sharpley, R. and Kato, K. (2020) *Tourism Development in Japan: Themes, Issues and Challenges (Contemporary Geographies of Leisure, Tourism and Mobility)*. Routledge: London

[Grading criteria]

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group project (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures. *To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.*

[Changes following student comments]

In light of the rapid growth of inbound tourism, the course will have a greater focus on sustainable tourism management and overtourism.

[Equipment student needs to prepare]

N/A

[Others]

I can draw from my experience as marketing director of a tourism business and event organizer in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues. Although not essential, students are encouraged to have taken (or concurrently take) the 100-level 'Introduction to Tourism Studies' course.

[Prerequisite]

None.

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

Psycholinguistics

Mako Ishida

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火2/Tue.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course will cover the basic notions of psycholinguistics – how languages are acquired, learnt, used, and understood in daily situations. It primarily focuses on human speech communication - how auditory and visual information is processed and integrated in the human brain. We will explore research findings in linguistics, acoustics, psychology, and neuroscience.

[Goal]

There are three main goals:

- (1) Students understand the basic structures of language.
- (2) Students understand communication strategies including auditory and optical illusion.
- (3) Students understand the basic brain structure and functions for human speech communication.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

[Method(s)]

This course consists of lectures, discussions, pop-quizzes, and midterm/final reviews. Handouts and worksheets are provided in class. Students are expected to actively participate in class: take notes, be responsive to questions, and work in pairs and groups. Feedback for course contents and assignments will be provided in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Language Acquisition	How did we acquire a first language?
3	Speech Communication 1	The basic components of language 1
4	Speech Communication 2	The basic components of language 2
5	Speech Communication 3	The basic components of language 3
6	Speech Communication 4	The basic components of language 4
7	Checkpoint	Review and midterm exam
8	Speech Chain 1	Speech Production
9	Speech Chain 2	Physical and Psychological Properties
10	Speech Chain 3	Speech Perception
11	Neuroscience 1	Basic brain anatomy and function
12	Neuroscience 2	Auditory Illusions
13	Neuroscience 3	Optical illusions
14	Checkpoint	Review and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to review what was covered in class every week. If you miss a class, please be sure to contact your classmates or the course instructor about lecture notes and assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Handouts and worksheets are provided in class.

[References]

Berninger, V.W., & Richards, T.L. (2002). Brain literacy for educators and psychologists. San Diego, CA: Academic Press.
Carroll, D.W. (2008). Psychology of language (5th edition). Belmont, CA: Cengage Learning/Wadsworth.
O'Grady, W., Dobrovolsky, M., & Katamba, F. (1996). Contemporary linguistics: An introduction. Essex: Pearson Education.

[Grading criteria]

Attitude and participation (20%), Pop quizzes (20%), Midterm exam (30%), Final exam (30%).

Please be sure to attend every class. Absence three times without prior and reasonable notice will result in the failure of this course. A delay can be counted as an absence. Pop quizzes are “open-notes” (not “open-book”), and they are intended to assess your comprehension of materials.

[Changes following student comments]

No particular change.

[Equipment student needs to prepare]

Not applicable.

[Others]

Students who are interested in human speech communication are welcome.

[Prerequisite]

None.

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

Semantics and Pragmatics

Nobumi Nakai

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Semantics is the study of meaning in language. Pragmatics is the study of the ways people use language in actual conversations. The aim of this course is to provide students with an essential understanding of semantics and pragmatics, with examples drawn from English and Japanese.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- (1) Have a general understanding of the interface between semantics and pragmatics.
- (2) Understand key concepts and major theories in the fields.
- (3) Survey the wide range of semantic and pragmatic phenomena in all their richness and variety.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course begins by covering some essential issues of semantics. In subsequent lectures, we will discuss how the identification of the semantic contribution of words and sentences gets us only partway to understanding what an utterance means. The course is a combination of lectures, group discussions, and review exercises. Feedback will be given during class discussions as necessary.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	An Overview of Semantics	Describes the components of linguistic meaning and introduces lexical and compositional semantics.
3	Lexical Semantics (1): The Meanings of Words	Examines the different ways that word senses could be represented in the mind of a language user and discusses the types of reference that words can have.
4	Lexical Semantics (2): Word Relations	Discusses the kinds of meaning relationships that exist between words.
5	Compositional Semantics (1): The Meanings of Sentences	Introduces propositions, truth values, and truth conditions, and discusses relationships between propositions.
6	Compositional Semantics (2): Putting Meanings Together	Introduces the Principle of Compositionality in more detail and discusses different ways that lexical meanings combine to give rise to phrasal meanings.
7	Practice (1)	Provides exercises, discussion questions, and activities.
8	Language in Context	Explores several ways in which context can affect the meaning of utterances, and introduces the idea of felicity in discourse.
9	Rules of Conversation	Discusses why conversation needs to follow rules, and introduces Grice's maxims for cooperative conversation.
10	Drawing Conclusions	Shows ways in which language users may employ context to convey or derive meaning that is not part of an utterance's entailed meaning.
11	Speech Acts	Outlines many of the jobs that speakers accomplish with language and the ways in which they accomplish them.
12	Presupposition	Discusses another precondition for felicity.

13	Practice (2)	Provides exercises, discussion questions, and activities.
14	Examination & Wrap-up	Semester-end exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read the relevant reading materials carefully in advance so that they can actively participate in discussions. Practice problems will be assigned occasionally. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbooks are used. All reading materials and exercises will be provided in class or/and through Hoppii.

【References】

The following books will be helpful for a general understanding of the fields.

(1) Cruse, Alan (2010)

Meaning in language: An introduction to semantics and pragmatics, Oxford UP.

(2) Riemer, Nick (2010)

Introducing semantics, Cambridge UP.

(3) Saeed, John I. (2015)

Semantics, John Wiley Inc.

(4) Birner, Betty J. (2012)

Introduction to pragmatics, Wiley-Blackwell.

(5) Senft, Gunter (2014)

Understanding pragmatics: An interdisciplinary approach to language use, Hodder Arnold/Routledge.

(6) Loebner, Sebastian (2012)

Understanding semantics, Hodder Arnold/Routledge.

【Grading criteria】

Student evaluations are based on class participation (30%), in-class assignments (30%), and a final exam (40%). More than two unexcused absences will result in failure of the course. Attendance at the first class is mandatory.

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

The handouts are downloadable in PDF format.

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

Teaching Pronunciation

Katsuya Yokomoto

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火5/Tue.5

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course will cover the theoretical and practical aspects of pronunciation teaching. We will look at pronunciation variations, and explore possible obstacles that adults and children come across in speech perception and production. We will discuss how teachers can help students learn and understand the articulation of English sounds.

【Goal】

At the end of this course, students will be able to:

- (1) Understand and explain the articulation of individual sounds in English,
- (2) Understand and explain the basic rules about the connected speech, rhythm, and intonation in English,
- (3) Understand the common challenges that learners encounter in learning pronunciation in English, and
- (4) Apply the knowledge about the English pronunciation and learners' difficulties into pronunciation teaching.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

【Method(s)】

This course is offered through lectures and discussions in class. Handouts are provided in class, and students are expected to participate in all class activities actively. Individual members' contributions to group work are vital to successful learning. Please make sure to complete preparatory study to maximize your contributions to class members and therefore learning outcomes. Good comments in group discussions will be introduced to the class for further discussions, and comments and explanations for tests will be given either in class or in a recording. Written feedback on microteaching will be given to individual students.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction: Pronunciation and pronunciation teaching
2	The consonant system in English	Phonetic symbols of English consonants How to pronounce consonants in English
3	Practical issues in teaching consonants in English	How to teach English consonants Practice planning a lesson on teaching English consonants
4	The vowel system in English	Phonetic symbols of English vowels How to pronounce vowels in English
5	Practical issues in teaching English vowels	How to teach English vowels Practice planning a lesson on teaching English vowels
6	Practice teaching segmentals	Microteaching: Consonants and vowels
7	Review: Teaching segmentals	Review and midterm examination
8	Connected speech in English	Basic rules of connected speech in English Practice planning a lesson on connected speech
9	Stress in English	Word stress and sentence stress in English Practice planning a lesson on stress in English
10	Practice teaching connected speech and stress in English	Microteaching: Connected speech and stress in English
11	Prominence in English	Roles of prominence in English Practice planning a lesson on prominence in English

12	Intonation in English	Basic rules about intonation in English Practice planning a lesson on intonation in English
13	Practice teaching prominence and intonation	Microteaching: Prominence and intonation
14	Review: Teaching suprasegmentals	Review and final examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read handouts thoroughly and think about the questions and issues in the handouts before class. Students are also expected to refer to recommended readings when necessary as preparatory study for class discussion. If you miss a class, please make sure to contact your classmates or the instructor about lectures, discussions, and assignments. Students are expected to spend 2 hours for preview and 2 hours for review.

【Textbooks】

No textbook will be used.

【References】

Levis, J. M. (2018). Intelligibility, oral communication, and the teaching of pronunciation. Cambridge University Press.

Murphy, J. (2013). Teaching pronunciation. TESOL International Association.

Murphy, J. (Ed.). (2017). Teaching the pronunciation of English: Focus on whole courses. University of Michigan Press.

Celce-Murcia, M., Brinton, D. M., Goodwin, J. M., & Griner, B. (2010). Teaching pronunciation: A course book and reference guide. Cambridge University Press.

【Grading criteria】

Participation (20%), Microteaching (20%), Midterm exam (30%), and Final exam (30%)

Students are expected to attend every class. When you have legitimate reasons for being absent, please notify your instructor of your absence prior to class. Being absent three times without reasonable notice will result in the failure of this course. Students will choose a teaching focus (e.g., consonants) for microteaching, and rubrics for microteaching will be provided in advance.

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Not applicable

【Others】

Students who are interested in teaching English and/or teaching pronunciation are welcome.

【Prerequisite】

None

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

Topics in English Linguistics

Mark Birtles

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金3/Fri.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

“Language” is much more than simply words, symbols and grammar. Discourse analysis explores how these tools are used in real life to construct meaning in everyday exchanges. This course is an introduction to the central analysis methods and how they can be applied to examine the interplay between language use, social structures, and power dynamics. Students will explore theoretical frameworks and methodological practices, before applying them to discourse across different forms of communication. Through this theoretical and practical engagement, students will develop an understanding of the nuances of how discourse operates in the real world.

【Goal】

The course goal is to impart competence in the following:

- ・ Understanding the foundations of discourse analysis
- ・ Applying different analytical frameworks to discourse
- ・ Examining naturally occurring discourse across contexts
- ・ Developing research and analytical skills

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Lectures and readings will introduce the concepts and theories on how discourse analysis can contribute to our understanding of language and the world. At the beginning of each session, concepts from the previous class are reviewed and checked through an exploration of ideas generated in take-home assignments. Discussions and practical exercises allow students to engage with primary texts and case studies to understand how discourse analysis can be used for critical engagement with discourse. Then, students can apply practical tools to understand how language shapes and reflects the world around them, whether analysing a political speech, a newspaper front page, or a casual conversation.

Information on feedback methods will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Overview of the weeks ahead
2	What is discourse?	Definition of key terms and the relationship between context and language
3	Discourse & Genre I	Steps in genre analysis
4	Discourse & Genre II	Applying a genre analysis and consideration of social and cultural context
5	Critical Discourse Analysis I	Principles of CDA
6	Critical Discourse Analysis II	An examination of ideology and power
7	Multimodal Discourse I	Kress and van Leeuwen on multimodality
8	Multimodal Discourse II	Multimodality in our world
9	Midterm Assessment	Assessment of theoretical and methodological knowledge
10	Discourse and Conversation I	Aspects of conversation analysis
11	Discourse and Conversation II	Analysis of a conversation
12	Discourse and Society I	An exploration of language, identity and gender
13	Discourse and Society II	Linguistic landscapes
14	Final Assessment	Assessment of theoretical and methodological knowledge

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required in class, materials will be supplied by the instructor.

【References】

Fairclough, N. (2013). Critical Discourse Analysis: The Critical Study of Language. New York: Routledge.
 Gee, J. (2014). An Introduction to Discourse Analysis: Theory and Method. Routledge
 Hutchby, I., & Wooffitt, R. (2008). Conversation Analysis (2nd ed.). Cambridge: Polity Press.
 Jones, R. (2024). Discourse analysis: A resource book for students. New York: Routledge.
 Kress, G., & Van Leeuwen, T. (2021) Reading images: The grammar of visual design New York: Routledge
 van Dijk, T. (2008). Discourse and Power. New York: Palgrave Macmillan.
 Paltridge, B. (2022) Discourse analysis: an introduction. London: Bloomsbury.

【Grading criteria】

Participation and Discussion (20%) – Engagement in class discussions and application of concepts to real-world examples.

Assignments (10%) – Short critical reflections on readings and class discussions.

Midterm Assessment (20%) – Assessment of theoretical and methodological knowledge.

Conversation analysis (20%) – Writing up and analysing a student conversation

Final Assessment (30%) – Assessment of theoretical and methodological knowledge

【Changes following student comments】

This is the first year the course has run; students will be invited for feedback at the end of the semester.

【Equipment student needs to prepare】

Please bring a laptop computer to every class. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

【Prerequisite】

None.

LIT200ZA (文学 / Literature 200)

Performance Studies

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木3/Thu.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This class will explore performance studies, an interdisciplinary field which uses various conceptions of performance to analyze the world around us. To perform can mean many things: to execute (to perform an action), to bring about (to perform a ritual: "I hereby pronounce the official beginning of the Olympics"), to judge ("how well did she perform at the Olympics?"). This includes performance in the traditional sense, such as in the theater, but also in everyday life, in our societies and daily practices of living, how we think about ourselves and our relationship to society: how are we performing when we use SNS or when we change our behavior with friends or family? How can thinking about the world as a series of performances allow us to analyze the news, public elections, gender, branding, and technology. Throughout the class we will be using Richard Schechner's textbook, developed to introduce Performance Studies, to guide the course. We will look at an overview of the major approaches used in the field, examine their theories, and explore how they can reveal important insights about our world.

【Goal】

In addition to teaching the students about the fundamentals to performance studies, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn various methodologies and theories about performance; 2) explore how to apply these concepts to other subject matter beyond the theater; 3) to learn how to articulate what, where, how, and why we are performing; 4) learn how to conduct analyses on various topics by applying the concepts from performance studies.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as video clips and images. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Each week students will be assigned a section from Schechner's book. This reading will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	What is Performance?	Performance beyond the theatrical stage
3	Conceptualizing Performance	Ways of examining performances around us
4	Ritual Practices	Types of rituals across cultures
5	Modern Rituals	Regular practices in modern society
6	Playing and Performance	Thinking about "playing" beyond games
7	Philosophies of Play	Gradients of playfulness in various contexts
8	Performativity of Language	How are words active on us
9	Performativity of Gender	How gender is constituted as practice
10	Ways of Performing	Types of acting and their implications on us
11	Shifting Frames of Reference	Stages in everyday life and how they effect us
12	Intercultural Performances	Performance on the global stage

13 Student Presentations Student presentations

I

14 Student Presentations Student presentations; final paper submission

II

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Schechner, Richard. *Performance Studies: An Introduction*. 3rd ed., Routledge, 2013.

【References】

Bial, Henry. *The Performance Studies Reader*. 3rd ed., Routledge, 2013.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

LIT200ZA (文学 / Literature 200)

Topics in English Literature

Miui Watanabe

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course examines the evolution of literary tradition through the lens of the Arthurian legend, one of the most enduring and adaptable narratives in Western literature. Using key texts from the medieval, Victorian, and modern era, students will explore how themes such as love, loyalty, and moral conflict are reimagined across time. The course also introduces critical approaches to reading texts and other forms of storytelling in modern popular culture, focusing on issues of genre, gender, and the construction of myth. Through this case study, students will develop a deeper understanding of how literary traditions are shaped, adapted, and interpreted. Designed for students with a general interest in literature and mythology, this course builds on foundational skills in literary analysis.

【Goal】

- Develop an understanding of how themes, characters, motifs evolve across different periods and genres, using the Arthurian legend as a case study for broader literary developments.
- Understand key themes and literary devices of English literary tradition
- Foster interdisciplinary approaches to literature, connecting literary analysis to history, film criticism, and cultural studies to understand how stories transcend their original medium.
- Develop transferrable skills, such as critical reading and academic writing, developing persuasive arguments supported by textual evidence and critical scholarship.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Each class session will begin with a lecture by the instructor, introducing students to key concepts and providing literary and/or historical context for the relevant work(s). This will be followed by interactive activities, including discussions, group-work, close analytical reading, etc. Students will also be required to regularly submit reaction papers. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course description; introduction to literary tradition
2	History and Myth-Making	Historical and cultural origins; issues of historicity
3	Genre	Birth of courtly romance; Grail Cycle
4	Literature and Politics	Issues of historicity (2); Arthurian tradition in medieval political writing
5	<i>Le Morte d'Arthur</i> (1)	Print culture and editorial concerns
6	<i>Le Morte d'Arthur</i> (2)	Close reading; discussion of themes
7	Victorian Arthur	Arthurian Revival; Victorian Ideals in <i>Idylls of the King</i>
8	Mid-Term	Mid-Term course review; Q&A Session
9	Adaptation: 20th Century Novels	Arthurian motifs in speculative fiction and children's literature
10	Adaptation: Feminist Re-imaginings	Fate, gender, power dynamics in <i>Mists of Avalon</i>
11	Adaptation: Satire and Parody	From <i>Don Quixote</i> to <i>Monty Python</i> ; Social commentary in <i>A Connecticut Yankee in King Arthur's Court</i>
12	Adaptation: Film and Popular Culture	Arthurian motifs in modern media
13	Course Review	Essay preparation; Q&A Session
14	Wrap-Up	Review of entire course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all assigned readings before each class and arrive prepared to contribute to discussions. Additionally, they will be required to submit assignments, write reaction papers, and prepare for class activities on designated topics. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

None. Reading material will be provided by the instructor.

【References】

Lacy, Norris J., editor. *The New Arthurian Encyclopedia*. Garland Publishing, 1996.Birch, Dina, editor. *The Oxford Companion to English Literature*. 7th ed., Oxford University Press, 2009.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on Class participation (30%), Comparative Writing (20), Analytical Essay (30), and Reflection Papers (20). More than two unexcused absences will result in failure of the course.

【Changes following student comments】

Not Applicable.

【Prerequisite】

None.

LIT200ZA (文学 / Literature 200)

Topics in Japanese Literature I

Gregory Kheznrejat

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 1/Thu.1

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈ゲ〉〈優〉

【Outline and objectives】

This course examines the social, political, and cultural forces that shape the canon of Japanese literature available in English translation. In particular, we will focus on translations published in the United States in the postwar period. How did publishers determine which authors to introduce to an American audience, and how did those choices influence our image of Japanese literature in Japan, the US, and globally?

【Goal】

Students will think critically about the discourses of translation, publication, and world literature. Students will also develop critical reading and writing skills through class assignments.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will consist of lectures followed by group discussions. Quizzes will be used to check reading comprehension, and students will complete two papers for midterm and final evaluations. In-class feedback will be given for daily reaction papers, and students will receive personal feedback on written assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to the class and selection exam
2	The Postwar	Knopf and the Japanese
3	Translation Project	literature publication project
3	Osaragi Jiro and Postwar Narratives	Osaragi, <i>Homecoming</i>
4	Traditional Aesthetics	Tanizaki, <i>In Praise of Shadows</i>
5	Visions of Modernity	Tanizaki, <i>In Praise of Shadows</i>
6	Visions of Japan in the Postwar US	Loti, <i>Madame Chrysanthemum</i>
7	Tanizaki and Orientalism	Tanizaki, <i>In Praise of Shadows</i> (1954 translation)
8	Review and Midterm Examination	A review of topics covered in the first half of the course
9	Negotiating Japanese and Western Modernities	Tanizaki, <i>Some Prefer Nettles</i>
10	Orientalism and Self-Orientalism	Tanizaki, <i>Some Prefer Nettles</i>
11	O-Hisa and Femininity	Tanizaki, <i>Some Prefer Nettles</i>
12	Reconsidering the “Return to Japan”	Tanizaki, <i>Some Prefer Nettles</i>
13	Tanizaki in Translation	Primary sources related to Tanizaki’s introduction in the US
14	Final Synthesis	A review of the major themes of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

You are expected to perform close readings of all assigned texts and come to class prepared to engage in discussions with classmates and the instructor. As you read, take notes and jot down any questions you may have. These will be helpful during discussions and allow you to make a positive contribution to the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Tanizaki, Junichiro. *In Praise of Shadows*. Vintage, 2001.

Tanizaki, Junichiro. *Some Prefer Nettles*. Vintage, 2001.

Other readings will be provided as handouts in class.

【References】

References will be announced in class.

【Grading criteria】

Class contribution (15%), response papers and written assignments (20%) reading quizzes (15%), midterm paper (25%), final paper (25%)

【Changes following student comments】

None.

【Prerequisite】

None.

LIT200ZA (文学 / Literature 200)

Topics in Japanese Literature II

Kevin Thomas Niehaus

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 水 4/Wed.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This class considers the development of Modern Japanese literature through a close examination of the literature and thought of the Meiji Era (1868-1912). Through a reading of many of this era's canonical works of fiction, this class will familiarize students with the many and variegated attempts of writers to craft a distinctly modern Japanese literature (from 1868 to 1912), and it will consider the literary, cultural, and socio-historical frames through which scholars have subsequently analyzed these texts.

【Goal】

1. Become familiar with canonical texts in modern Japanese literature
2. Become conversant in contemporary methods of literary analysis
3. Encourage critical thinking and the exchange of ideas
4. Improve one's writing about literature

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Literature classes thrive upon lively and informed conversations. In order to facilitate discussion, students are encouraged to read and think about the readings before class. Students will also be prohibited from using smartphones during class.

Tablets and other devices, however, may be used to access the readings. Additionally, students are required to submit a short reaction paper by midnight of the day before class. Reaction papers should be 250 words (or more), contain an argument about the text, and include evidence to support that argument. Reaction papers should be uploaded to Hoppii. Finally, depending on the size of the class, students may be asked to read and present on critical texts that have informed how we understand the literature of the Meiji period.

Feedback on assignments will come in several forms. Comments on student writing will be uploaded to Hoppii by the professor, and particularly enlightening comments from the response papers will be introduced in class to deepen discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Greetings	Introduction and Syllabus
2	Between Premodern and Modern	Higuchi Ichiyo
3	Between Premodern and Modern	Koda Rohan
4	First Experiments	Futabatei Shimei and Tsubouchi Shoyo
5	First Experiments	Futabatei Shimei and Tsubouchi Shoyo
6	The Modern Subject	Mori Ogai
7	Naturalism and Romanticism	Kunikida Doppo
8	Naturalism and Romanticism	Izumi Kyoka
9	The I-novel	Tayama Katai
10	The Modern Subject	Natsume Soseki
11	The Modern Subject	Natsume Soseki
12	Women's Writing	Tamura Toshiko
13	Early Modernism	Tanizaki Junichiro
14	The End of Modern Literature	Mori Ogai

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

All readings must be completed before class. Students will also be required to write a reaction paper and submit it to Hoppii midnight of the day before class.

【Textbooks】

All course materials will be available for download on Hoppii. The uploaded materials will be English translations of the original Japanese fictions, but if students wish, they may also read the original Japanese and discuss that text in class.

【References】

None

【Grading criteria】

50%— In-class participation and attendance. Missing more than two classes in a grade reduction, and missing four classes will result in failure of the course

25%— Reaction papers

25%— Final paper (details to be announced)

【Changes following student comments】

None

【Prerequisite】

None.

PHL300ZA (哲学 / Philosophy 300)

Advanced Topics in Philosophy I

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火3/Tue.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Philosophy of Love

Love comes in many forms: romantic love, familial love, and friendship are some examples. Moreover, love and loving relationships play important roles in human life and well-being, and because of this, many of us are familiar with love. Despite love's familiarity, puzzling philosophical questions arise when reflecting on its nature. What exactly is love? Is love irrational? Can it be immoral? How do advances in technology alter or shape how we think about love? These are all questions that we will explore in this course.

【Goal】

This course has four primary learning goals. First, students will learn about various and diverging views on the philosophy of love. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning, especially in the context of philosophical debate. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging text. Finally, students will improve their writing skills to communicate complex ideas clearly and confidently.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Each meeting will include an interactive lecture with slides and an active learning period. The lectures will occupy roughly one hour of each meeting. Students will also participate in a class discussion. Students will prepare questions for the discussion period as homework before coming to class. The instructor will assess students primarily on their final paper. Students will produce a paper proposal before writing a paper draft. After the proposal has been approved, students will write a draft of their paper. Students will then exchange papers with each other, and they will write a peer-reviewed report of another student's paper. Students should consider this report when revising their final drafts. The instructor will provide written feedback for the proposal, reports, and the final paper via Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Love, society, and biology
2	Love and rationality 1	Irrational love
3	Love and rationality 2	Loving humanity
4	Love and rationality 3	Love and relationships
5	Love and rationality 4	Loving someone for their good qualities
6	Love and morality 1	Partiality
7	Love and morality 2	Immoral love
8	Love and morality 3	Moral love
9	Love and morality 4	Love and respect
10	Love and happiness 1	Love and pleasure
11	Love and happiness 2	Love and meaningfulness
12	Love and Applied Ethics 1	Love, robots, and AI
13	Love and Applied Ethics 2	Love drugs
14	Love and Applied Ethics 3	The right to be loved

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study time for this class is 3-4 hours, and review time for this class is 2 hours.

【Textbooks】

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

【References】

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>

The philosopher Jim Pryor has created helpful guides for writing and reading philosophy papers. Writing: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html> Reading: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

【Grading criteria】

Participation (15%), Discussion questions (20%), Peer-review report (15%), Final paper (50%)

【Changes following student comments】

In the previous semester, the content of this course was focused on the philosophy of emotions in general. It is now focused on the philosophy of love.

【Prerequisite】

None

PHL300ZA (哲学 / Philosophy 300)

Advanced Topics in Philosophy II

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金3/Fri.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Metaethics

This course offers an introduction to metaethics, a branch of ethics distinct from normative ethics. While normative ethics focuses on determining what we ought to do morally, metaethics examines the nature of those very questions. It explores issues such as: Do moral questions have right or wrong answers? If they do, how can we know them? What, if anything, makes moral claims true or false? When we make moral judgments—like deeming something unfair or recognizing obligations to others—what kind of mental state are we in? Do these judgments imply the existence of objective moral facts? Is it possible for moral truth to be relative, and if so, what would that entail? In this class, we will explore these fundamental questions and examine key perspectives and theories from contemporary metaethical scholarship.

【Goal】

This course has four primary learning goals. First, students will learn about various and diverging views in metaethics. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning, especially in the context of philosophical debate. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging text. Finally, students will improve their writing skills to communicate complex ideas clearly and confidently.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Each meeting will include an interactive lecture and an active learning period. The lectures will occupy roughly half of each meeting. Students will then participate in a class discussion. The instructor will assess students primarily on their final paper. Students will produce a paper proposal before writing a paper draft. After the proposal has been approved, students will write a draft of their paper. They will then exchange papers with each other, and they will write a peer-reviewed report of another student's paper. Students should consider this report when revising their final drafts. The instructor will provide feedback on the paper proposal, final paper, and peer-review report via Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Background on Metaethics
2	Moral Realism 1	Intro to moral realism
3	Moral Realism 2	Naturalist realism
4	Moral Realism 3	Minimal realism
5	Moral Realism 4	Robust realism
6	Challenging Moral Realism 1	Morality and evolution
7	Challenging Moral Realism 2	Morality and disagreement
8	Challenging Moral Realism 3	Morality and metaphysics
9	Challenging Moral Realism 4	The authority of morality
10	Alternatives to Moral Realism 1	Error theory
11	Alternatives to Moral Realism 2	Emotivism
12	Alternatives to Moral Realism 3	Expressivism
13	Alternatives to Moral Realism 4	Constructivism
14	Alternatives to Moral Realism 5	Relativism

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes after every class. Preparatory study time for this class is 3-4 hours, and review time for this class is 2 hours.

【Textbooks】

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

【References】

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>
The philosopher Jim Pryor has created helpful guides for writing and reading philosophy papers. Writing: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html> Reading: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

【Grading criteria】

Class Participation (15%), Discussion Questions (20%), Peer-review report (15%), Final Paper (50%)

【Changes following student comments】

Students evaluated this class positively in the previous year. No substantial changes will be made.

【Prerequisite】

None

PHL300ZA (哲学 / Philosophy 300)

Existentialism

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 4/Mon.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Existentialism is a branch of philosophy that confronts some of the most problematic aspects of existence. These include the value of freedom and rationality, whether living an authentic life is achievable, whether life can be meaningful, the nature of absurdity, whether modern life is nihilistic, and the role of emotions in ethics. This course is an in-depth exploration of several themes from existentialist thought. This course focuses on the philosophical writings of Albert Camus, Søren Kierkegaard, Friedrich Nietzsche, Jean-Paul Sartre, Keiji Nishitani, Simone de Beauvoir, and Iris Murdoch.

[Goal]

This course has four primary learning goals. First, students will learn about various and diverging views on the philosophy of existentialism. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging philosophical and literary texts. Finally, students will improve their writing skills to communicate complex ideas clearly and confidently.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Each meeting will include an interactive lecture with slides and a discussion period. The lectures will occupy roughly one hour of each meeting. Each class will end either (1) with a discussion about the course content or (2) an open discussion about the paper prompts. Students will prepare questions for the discussion period as homework before coming to class. Students will receive feedback from the instructor on short papers and the final exam via Hoppii.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is existentialism?
2	Albert Camus	Life without objective meaning
3	Søren Kierkegaard 1	The paradox of faith
4	Søren Kierkegaard 2	Infinite resignation
5	Friedrich Nietzsche 1	The death of God
6	Friedrich Nietzsche 2	Eternal recurrence and the affirmation of life
7	Jean-Paul Sartre 1	Existence precedes essence
8	Jean-Paul Sartre 2	Bad faith
9	Keiji Nishitani	Buddhism and existentialism
10	Simone de Beauvoir 1	Existentialist ethics
11	Simone de Beauvoir 2	Existentialism and politics
12	Iris Murdoch 1	The selfishness of existentialism
13	Iris Murdoch 2	Love and existentialism
14	Final Exam	Review, wrap-up, and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study time for this class is 3-4 hours, and review time for this class is 2 hours.

[Textbooks]

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

[References]

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>
The philosopher Jim Pryor has created helpful guides for writing and reading philosophy papers.

Writing: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html>

Reading: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

[Grading criteria]

Class Participation (15%), Discussion Questions (15%), Short Papers (30%), Final Exam (40%)

[Changes following student comments]

Students evaluated this class positively in the previous year. No substantial changes will be made.

[Others]

Students who intend to register for this course are required to attend the first class (online). A screening will be conducted in the class if necessary.

[Prerequisite]

There is no prerequisite for this course.

PHL300ZA (哲学 / Philosophy 300)

Readings in Philosophy

Robert Sinclair

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Special Topic: Capitalism, Marx and Climate Change

This course examines the ethical foundations of capitalism and its relation to the problem of climate change. It begins with an overview of the market economy and its alternatives. Next, we consider Marx's classical criticism of capitalism. Lastly, we will examine whether capitalism or communism provides the resources to address the threat of global warming.

[Goal]

1. This course will help students develop a deeper understanding of the basic issues, concepts and viewpoints found in the ethical treatment of capitalism.
2. This course will introduce students to the relationship between political philosophy and political economy.
3. This course will help students recognize the moral implications of the market economy and its impact on climate change.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Students will attend lectures, read related materials and have two written examinations. Feedback on completed assignments will be given in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	What is Capitalism? Definitions and Controversies	Offers a working definition of capitalism and how it contrasts both with alternative systems like socialism and feudalism, and how the economic status quo might be viewed as a mixture of these systems.
2	Political Economy and Economic Justice	Explores how political economy is an attempt to unify what are now recognized as the distinct disciplines of economics and political philosophy.
3	Hierarchy and Feudalism	Adam Smith regarded "commercial society" as the chief alternative to Feudalism. We will use this starting point for considering the moral foundations of a capitalist order.
4	Market Order and Market Failure	We will discuss the most influential argument in favor of a capitalist economy: the argument from price signaling. We will then look at the limits of price signaling and other alleged cases of "market failure."
5	So Why Not Socialism?	We will consider some influential arguments for socialism. Two key internal questions are whether a socialist economy is based on coercion or voluntary cooperation, and whether production should involve markets and competition.
6	Mill's Market Socialism	We will examine Mill's attempt to combine a market economy within a socialist framework.
7	Review & Midterm Exam	Review
8	Marx and Engels The Communist Manifesto	We will examine in more detail Marx's criticisms of the capitalist economy.

9	Climate Change and the Imperial Mode of Living	Discusses the relationship between the globalization of capitalism and environmental destruction.
10	The Limits of Green Keynesianism	Can a Green New Deal really save us from harmful impact of the Anthropocene?
11	Shooting Down Degrowth Capitalism	In order to combat climate change we must abandon economic growth and consider degrowth. This week we investigate the possible options for this turn to degrowth economics.
12	Degrowth Communism Will Save the World	Discusses the question of how to bring about degrowth communism in concrete terms, and how this transition helps to solve the climate crisis.
13	Conclusions	Concluding discussion on the relationship between the global economy, Marx and climate change.
14	Final Exam & Wrap-up	Review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation and discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

The Ethics of Capitalism, Halliday and Trasher, 2020 Oxford University Press

Slow Down, The Degrowth Manifesto, Saito, 2024. Astra House.

Miller, D. E. (2003). Mill's 'Socialism'. Politics, Philosophy & Economics, 2(2), 213-238.

All readings and handouts will be made available in class or through Hoppi.

[References]

Smith, Adam (1776) Wealth of Nations (WON).

Mill, John Stuart (1848) Principles of Political Economy.

Hayek, F.A., (1945) "The Use of Knowledge in Society" American Economic Review, 25(4): 519- 30.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on a selection exam (10%) class participation (10%) midterm exam (40%) and final exam (40%).

[Changes following student comments]

Some changes have been made to the topics covered in the class.

[Others]

This course is intended for the those new to the philosophical study of political economy, presupposing little or no background in philosophy.

[Prerequisite]

none.

PSY300ZA (心理学 / Psychology 300)

Advanced Topics in Social Psychology

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

We all want to live a happy life and yet we may be inadvertently creating obstacles to achieving happiness. In this course, students will learn how we get to know ourselves, the maladaptive habits that our minds develop to protect the self from various ego threats, and various ways to improve psychological well-being of the self and others.

【Goal】

Upon completion of the course, students should be able to:

- Identify and explain classic and contemporary theories relating to the self.
- Critically analyze and synthesize empirical research in social psychology.
- Apply their learning to their own life to critically evaluate and explain interpersonal experiences during daily life.
- Verbally present their reactions and experiences to course content.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course mostly combines lectures and student-led class discussions on assigned readings. Students will receive oral and written feedback on their discussion questions and reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Overview of course and review of syllabus
2	Know Thyself	How do we get to know ourselves? How accurate is our understanding? What are the consequences of knowing ourselves?
3	Evaluating Ourselves (1)	What is self-esteem?
4	Evaluating Ourselves (2)	What is self-esteem for?
5	Evaluating Ourselves (3)	Is it better to have high self-esteem?
6	The Vulnerable and Maladaptive Self (1)	What causes our self-esteem to be vulnerable?
7	The Vulnerable and Maladaptive Self (2)	What do people do to maintain self-esteem?
8	The Vulnerable and Maladaptive Self (3)	What are the consequences of protecting self-esteem?
9	Self-Analysis Workshop	What causes anxiety? What do I do to protect myself?
10	Transcending the Self (1)	How can we expand our views beyond the current self?
11	Transcending the Self (2)	How can I be compassionate to myself?
12	The Self in the Ecosystem (1)	How can we promote our well-being without worrying about self-esteem?
13	The Self in the Ecosystem (2)	How do compassionate goals allow us to take interpersonal risks?
14	Synthesis	What have we learned so far and where do we go from here?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should review their notes and be able to explain the major concepts and theories they have learned in previous lectures. They will read the assigned readings before each class and prepare a reaction paper and discussion questions based on the readings. They must also download and print out handouts prior to each class and bring them to class to take notes. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

None.

【References】

The assigned readings will be uploaded on Hoppii.

【Grading criteria】

Students are evaluated based on a final paper (30%), in-class quizzes (10%), discussion questions (15%), reaction papers (30%), and class contribution (15%).

【Changes following student comments】

Some students found it easier to have discussions in small groups while others preferred discussions in a larger group. In fact, several students pointed out that changing the format of the discussion can be refreshing and motivating. I will continue experimenting with the format of the discussions to ensure that everybody feels comfortable sharing their experiences and thoughts during class.

【Others】

Students will be asked to reflect on their daily experiences and share examples that illustrate various concepts and theories covered in the course.

Students who have taken and passed courses in psychology and statistics may be given priority in student selection.

【Prerequisite】

Students must have taken and passed one of the following courses: Social Psychology 1, Social Psychology 2, or Cultural Psychology.

PSY300ZA (心理学 / Psychology 300)

Clinical Psychology

Keiko Ito

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月6/Mon.6

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Major topics include definition, psychological assessment methods, psychotherapy approaches, along with the history of treatment and the role of science in clinical psychology. The course also explores some of the most common mental illnesses.

【Goal】

Major Course Objectives.

By the end of the course, you should be able to:

- Demonstrate an understanding of how clinical psychologists approach mental health from a biological, cognitive, and social perspective.
- Explain the importance of the scientist-practitioner model of clinical psychology.
- Describe the types of questions clinical psychologists ask and realize that appropriate research methods must be employed in order to answer them.
- Identify the major tasks and responsibilities of clinical psychologists as health care professionals.
- Engage with the ethical framework for the practice of psychology.
- Identify diversity issues as they relate to clinical psychology.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Through a series of lectures, readings, exercises, films, and group projects, this course introduces and provides a broad overview of the field of clinical psychology. 1. Final Project -presentation

The final project is to be completed in small groups of students (if you want to do it individually, you must clear it with myself). The goal of the final project is for students to research and present information about the topic of clinical psychology in class by using power-point slides. Projects will focus on and cover the specific topic of clinical intervention. Possible examples of the projects include: Person-centered therapy, Psychodynamics therapy, Humanistic & Existential Psychotherapies, Behavior therapy, Cognitive-Behavioral therapy, Child & Family therapy, Couple therapy, Psychopharmacology, etc.

The topic could be a specific issues in clinical psychology other than intervention, but those who wants to do so must consult myself in advance.

2.Movie Report: A list of movies will be provided in class.

3. Exams: There will be no exam, but a brief final paper will be assigned.

4. Research Article Summary: In order to help you develop your understanding of psychological findings and methodology, you will be required to complete a brief (2 to 5 pages) summary of a research article. Articles appropriate for this paper can be found on the website or in library. Use an article of interest to you as long as it is appropriate to the course content and relevant to the field of clinical psychology.

Insightful comments from reaction papers will be introduced in class and used in deeper discussions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & Guidance.	Orientation & Guidance.
2	History	The history of psychiatry and clinical psychology.
3	Group project discussion /Library research	Assessment of psychopathology and personality
	Overview of Assessment (1)	Projective tests personality test
4	Overview of Assessment (2)	Intelligence testing
		Neuropsychological assessment, behavioral assessment
		DSM & ICD 10
5	Major Psychiatric Disorder (1)	Anxiety disorder(includes panic/ OCD /PTSD)
6	Major Psychiatric Disorder (2)	Mood disorder (depression / bipolar)

7	Major Psychiatric Disorder (3)	Schizophrenia
8	Developmental Disorders	ADHD Learning disorder Autistic syndrome
9	Culture Issues in Clinical Psychology	Multicultural counseling Therapists' culture identity development
10	Stress management	Stress and its coping methods
11	Clinical Interventions/ Therapies	Psychoanalytic Therapy, Person Centered Therapy, CBT, Behavior Therapy, and other psychological interventions
12	Group Project Presentation (1)	Topics in clinical psychology and its intervention (2)
13	Group Project Presentation (2)	Topics in clinical psychology and its intervention (3)
14	The Road to Becoming a Clinical Psychologist	Wrap up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

· Class Preparation: An active learning approach requires students to prepare the readings and assignments BEFORE class.

· Group Project: Students should expect to allocate time outside of class to meet with their group members to discuss/prepare project assignment.

· Movie assignments: Write reflection essays on the movie.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

None.

【References】

· Class handouts will be provided in class.

· Supplemental readings will be provided in class.

· There will be an instructions session for how to find the research article assignment and articles to use in class.

· The APA Ethics Code including 2010 amendments can be downloaded for free directly from the APA website: <http://www.apa.org/ethics/code/index.aspx>.

【Grading criteria】

Participation: 20%

Reaction Papers: 10%

Movie Report (2): 10%

Group (or individual) Project: 35%

Research Article Summary: 10%

Final Report: 15%

Total: 100%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Not in particular (there will be a power point presentation in class).

【Others】

Dates and contents of a class may change somewhat depending on our progress in covering the material.

Office hours (contact by email).

【Prerequisite】

None.

PSY300ZA (心理学 / Psychology 300)

Community Psychology

Toshiaki Sasao

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水3/Wed.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course has been designed to provide a rigorous undergraduate-level introduction to the theories and methods of community psychology. Community psychology is concerned with person-environment interactions and the ways society impacts individual and community functioning. The field focuses on social issues, social institutions, and other settings that influence individuals, groups, and organizations. Community psychology aims to optimize the well-being of individuals and communities with innovative alternative interventions designed in collaboration with affected community members and with other related disciplines inside and outside of psychology. Students are expected to gain a comprehensive understanding of working knowledge and skills in community psychology, as practiced around the world.

[Goal]

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) to develop an understanding of the role of social-historical factors in the development of community psychological perspectives while dispelling the popular myth about the field;
- (b) to gain a working knowledge of different theoretical approaches for prevention of social and psychological problems in the community and begin to think about how these can be practically implemented and evaluated;
- (c) to critically analyze the community psychological literature; and
- (d) to appreciate professional careers and practices in community psychology.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including lectures, class discussion, film discussion, and small group work. The requirements of the course include: (a) active participation, preparation, and engagement in class, (b) in-class and take-home exercises, and (c) midterm and final exam. Feedback will be provided via individual face-to-face sessions and/or the Hosei Hoppi System.

Required Readings

Students are expected to come to class fully prepared to participate in class discussion and other activities. In order to do so, students are required to have read the readings for each module prior to coming to class sessions.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction & Overview	Introduction & Overview
2	Community Psychology (CP): History, Values, & Assumptions	Introduces and discusses key historical events, values and assumptions in CP practice and research
3	Embracing Social Change	Discusses the nature of social change and theories
4	Empowerment	Introduces several empowerment models and theories of empowerment
5	Community and Citizen Participation	Discusses theoretical frameworks for community and citizen participation
6	Ecological and Environmental Approaches (1)	Introduces ecological models for understanding life space
7	Ecological and Environmental Approaches (2)	Discusses ecological interventions and a video presentation
8	Midterm Review	In-Class Review and/or Film Review
9	Appreciating and Affirming Human and Cultural Diversity	Discusses models of human diversity and interventions around the world

10	Prevention, Strengths & Promotion Approaches (1)	Discusses key concepts in prevention science
11	Prevention, Strengths & Promotion Approaches (2)	Introduces "best practices" in prevention interventions
12	Stress & Coping Approaches	Compare and contrast several clinical approaches to stress and coping with CP approaches
13	Social Justice Approaches	Introduces the idea of social justice for community psychology
14	Emerging Trends in Community Psychology	Ends the course with discussion on several recent trends and future directions in CP research and practice; Final Exam will be given at the end. Hurray!
	Final Exam	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete all the reading assignments, and are prepared to engage in class activities and discussion. The course requirements and assignments are explained above in the Method(s) section, but depending on the level of students' preparation and interest, chances are that some of the requirements may be subject to change slightly, if not entirely. Preparatory study and review time for this class are 3 hours each.

[Textbooks]

Class readings will be available online. Some of the chapters will be drawn from the following textbooks, and from American Journal of Community Psychology, American Psychologist, Journal of Community Psychology, etc.

Kelly, J.G. et al. (2004). *Six community psychologists tell their stories: History, contexts, and narratives*. Binghamton, NY: Haworth Press.

Jason, L. A. et al. (2019). *Introduction to community psychology*. Downloadable free of charge from

<https://press.rebus.community/introductiontocommunitypsychology/>

[References]

Additional references and readings will be introduced and/or provided in class.

[Grading criteria]

The following show approximate activity-by-activity percentage points toward your final course grade: (a) Active Participation, Preparation, and Engagement (30%); (b) In-class and take-home Exercises (30%) and (c) Midterm (20%) and Final (20%). Please note that students are expected to be actively involved in class by sharing your ideas and thoughts, reactions to lectures and class discussion, based on careful reading of the assigned materials.

[Changes following student comments]

From time to time during class sessions, ideas and opinions are solicited from students re the class structure and format.

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

Successful completion of general psychology, social psychology, clinical psychology, or a few psychology-related courses may be assumed and desirable, but not required. Additional coursework in sociology, education, social work, public health, international relations, anthropology, etc. would be useful.

Use of Internet technology esp. AI functions must comply with Hosei University's guidelines.

[Prerequisite]

It would be helpful if any intro, social, or developmental psych courses were taken previously.

PSY300ZA (心理学 / Psychology 300)

Cultural Psychology

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金2/Fri.2

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

This course introduces the perspectives and major research findings of cultural psychology. The course will introduce general theories and perspectives underlying cultural psychology, explore cultural influences on a wide range of psychological processes, including socialization, self-concept, motivation, emotion, and cognition. The course will also explain the mechanisms underlying cultural differences and examine the process of acculturation and biculturalism in an increasingly diverse world. Throughout the course, students will learn how culture (i.e., institutions, social interactions, and cultural ideas) shapes the way we think and behave and how we, at the same time, shape these cultures.

【Goal】

One of the aims of this course is to introduce students to the perspectives, research methods, and findings of cultural psychology. Another equally important aim of this course is cultivating students' abilities to understand and deal with variations in psychological processes across cultural and ethnic groups, as well as to gain an understanding of the cultural groundings of their own experiences and actions. By the end of the course, students will be able to demonstrate understanding of how cultural systems influence individuals' psychological processing, including development, self-concepts, motivation, emotion, and cognition. They will also critically engage and analyze cultural products, such as books, films, and advertisements.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Instructional methods include lectures, films, discussion over assigned readings, and small group activities.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is culture? Why is cultural psychology important?
2	Models of Person, Self, and Agency I	How are different "selves" constructed?
3	Models of Person, Self, and Agency II	What are the independent models and their consequences?
4	Models of Person, Self, and Agency III	What are the interdependent models and their consequences?
5	Culture and Emotion I	How does culture shape our emotions?
6	Culture and Emotion II	How does culture shape how we should feel?
7	Review and Midterm Exam	What have we learned so far? Multiple choice and short-essays
8	Culture and Cognition I	How does culture shape what we perceive in the world?
9	Culture and Cognition II	How does culture shape how we make sense of others' behaviors?
10	Culture and Cognition III	Where do these cultural differences come from?
11	Socialization I	How do cultural practices shape us?
12	Socialization II	How does education shape us?
13	Review and Final Exam	What have we learned so far? Multiple choice and short-essays
14	Acculturation and Biculturalism	How do we adjust ourselves to the cultural contexts?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should review their notes before each class and be prepared to explain the major concepts and theories they have learned. Students must download and print out the handouts before each class and bring them to class to take notes. Students are required to do the assigned readings and submit reaction papers during the term. Each student will be asked to find and share an example of a cultural product or practice and connect it to the course material.

【Textbooks】

None.

【References】

Heine, S. J. (2015). *Cultural Psychology*. New York: Norton.Cohen, D. & Kitayama, S. (2019). *Handbook of cultural psychology*. Second edition. New York: Guilford Press.Markus, H. R., & Conner, A. (2013). *Clash! 8 cultural conflicts that make us who we are*. New York: Hudson Street Press.

The reference books are available in the library and the GIS Reference Room for those who wish to learn about each topic in more detail. Handouts and reading materials are on the course website.

【Grading criteria】

Final grades are based on two exams (25% each), reaction papers for assigned readings (30%), presentation over a cultural product (10%), and class participation (10%).

【Changes following student comments】

Students found this class difficult but appreciated the challenge. A lot of the class materials have been updated to address the dynamics of culture and individuals, going beyond the comparisons between cultures.

【Prerequisites】

Students must have taken and received credits in at least one (preferably both) of the following courses: Social Psychology I, Social Psychology II. Exception applies to those who have done study abroad the previous year(s). Please ask the instructor for permission on the first day of class.

PSY300ZA (心理学 / Psychology 300)

Topics in Morality

Christopher Kavanagh

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 4/Mon.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to the major theoretical perspectives and empirical research on morality, with a primary focus on psychological approaches. In recent decades, there has been a renaissance in research exploring morality and its associated psychological aspects. Accordingly, this course will emphasize psychological research from a variety of fields, including cognitive psychology, comparative psychology, social psychology, developmental psychology, and evolutionary psychology, while also incorporating discussions of related work in philosophy, animal behavior, economics, and neuroscience.

The course is intended to provide an introductory overview of morality and related research while also addressing core questions, such as: What is morality? Where does it come from? Do humans have core innate moral intuitions, or are they socially learned and culturally dependent? Is there evidence of morality in any other species?

By the end of the course, students will have a greater appreciation of potential answers to these questions and the ongoing debates that surround them.

【Goal】

By the end of the course, students should be able to:

- 1) Recognise and understand key terms and major theoretical approaches in the study of morality, with a focus on psychological perspectives.
- 2) Discuss relevant empirical studies, identifying strengths and weaknesses in their methodologies and theoretical models.
- 3) Compare and contrast different theories of morality and evaluate their application to selected scenarios and real-world situations.
- 4) Critically assess key theoretical approaches from various disciplines and consider their relevance to everyday moral judgments and decision-making.
- 5) Apply theoretical frameworks to case studies, demonstrating the ability to assess real-world interactions by integrating psychological and interdisciplinary perspectives.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will be taught primarily through a combination of lectures and group discussions. In the first part of each class, lectures will introduce key topics and theories, followed by group discussions focusing on related readings and debates. Reaction papers will be assigned for selected topics to encourage deeper engagement with the material. Over the course of the semester, students will prepare an oral presentation discussing the research on a topic of their choice covered in the course. Mid-term and final exams will consist of questions evaluating lecture content and core readings. Readings, reaction papers, and feedback will be provided via the online class platform.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Psychology of Morality	Introduction to Psychology of Morality
2	What is morality?	Introducing key psychological theories of morality, including classical approaches & moral foundations theory.
3	Where does morality come from?	Exploring the evolutionary origins of morality and comparative research on morality in non-humans.
4	Morality and religion	Examining the complex relationship between religion and morality and the impact of concepts like supernatural punishment and High Gods.

5	Person Centred Morality	Exploring how a person centred approach to morality might offer an alternative to deontological and utilitarian perspectives.
6	Developmental Psychology and Morality	Addressing the evidence for innate moral intuitions in infants.
7	Mid-Term Exam & Review	Mid-Term Exam & Review
8	Emotions and Moral Judgments	Examining the role that emotional responses, especially disgust, play in determining moral judgments and the social intuitionist model
9	Mind Perception and Moral Judgement	Reviewing how perception of intentionality & agency impact moral judgements and the Dyadic Morality model
10	Empathy: For & Against	Exploring the arguments for and against empathy as a core component of ethical moral systems.
11	The role of punishment in morality	Examining the role of punishment in moral systems and how it influences psychological responses
12	Moral Responsibility, Free Will & Determinism	Addressing the various perspectives on free will and how they impact concepts of moral responsibility.
13	Morality, Genetics, and Politics	Exploring the role that moral sentiments play in determining political beliefs and whether there is evidence these are impacted by genetic factors.
14	Final Examination & Wrap-up	Final Exam & Course Wrap Up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete weekly reading assignments, participate in class discussions, and prepare an oral presentation on a topic of their choice. Reaction papers will be assigned for specific weeks and can be submitted online via Google Classroom. Preparatory study and review time for this class will be at least 4 hours per week.

【Textbooks】

All readings will be distributed by the instructor.

【References】

Joshua Greene (2014). *Moral Tribes: Emotion, Reason and the Gap Between Us and Them* (English Edition), Penguin Books.

Valerie Tiberius (2014). *Moral Psychology: A Contemporary Introduction* (First Edition), Routledge Contemporary Introductions to Philosophy).

These books are not necessary to buy but provide good introductions to the topics covered on the course.

【Grading criteria】

Presentation 25%

Mid-term exam 25%

Final exam 25%

Reaction papers & In-class participation 25%

【Changes following student comments】

More time will be provided for interactive class discussions and we will focus each week primarily on the core readings to enable greater consistency amongst students. Revision guides will be provided for the exams.

【Equipment student needs to prepare】

There is no specialist equipment required beyond a PC/laptop and access to the internet. Some classes may be held online. Weekly readings and reaction papers will be distributed via Google Classroom.

【Others】

None.

【Prerequisite】

You must have taken and received credits in at least 2 courses in psychology.

EDU300ZA (教育学 / Education 300)

English Teaching in Primary School: Advanced

Tomoko Shigyo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金4/Fri.4/Fri.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course is for students intending to teach English to young learners as primary pupils. It provides an overview of the curriculum development of the teaching of English in primary school based on second language learning (SLL) theories to primary pupils. Its purpose is to cultivate skills to implement second language (L2) education in primary school appropriately. It particularly looks at how to design English classes to facilitate literacy skills (reading and writing) of primary pupils with consideration to make consistency in L2 education from the primary to secondary levels. Students are encouraged to develop their own perspectives on designing English classes and practice modern EFL pedagogy such as content and language integrated learning (CLIL) and using picture books.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to do the following:

1. Understand how children learn to read and write.
2. Understand how to link picture books with curriculum.
3. Develop curriculum of CLIL using picture books.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Developing a lesson plan, micro-teaching and final assignment are required for the completion of this course; students are to create their lesson plans and demonstrate their English lessons based on the plans. They are required to reflect on their lessons in class and to revise their lesson plans based on the reflection in the final assignment. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPII).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance
2	Issues in Children Learning L2: Literacy (1)	Phonological awareness and children's development
3	Issues in Children Learning L2: Literacy (2)	For starting to read and write in English
4	Issues in Children Learning L2: Picture books	Development of children's literacy-picture books
5	Issues in Children Learning L2: Stories (1)	Learning through stories
6	Issues in Children Learning L2: Stories (2)	Language and stories
7	Lesson Planning (1)	Curriculum development (1)
8	Micro-teaching (1)	Micro-teaching (1), review and discuss(1)
9	Issues in Children Learning L2: CLIL	Introduction of CLIL
10	Issues in Children Learning L2: CLIL with picture books	CLIL and picture books
11	Issues in Children Learning L2: Assessment	CLIL and assessment
12	Lesson Planning (2)	Curriculum development (2)
13	Micro-teaching (2)	Micro-teaching (2), review and discuss(2)
14	Consolidation of English Teaching in Primary School: Advanced	Reflection & Summary

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week before attending class, students are expected to have completed the assigned readings. Students are required to choose a topic, prepare a presentation, and write a reflective paper. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Cameron, L. (2001). Teaching Languages to Young Learners. Cambridge University Press.

【References】

1. Coyle, D., Hood, P., Marsh, D. (2010). CLIL: Content and language integrated learning. Cambridge.
2. Dale, L. and Tanner, R. (2012). CLIL Activities: A resource for subject and language teachers. Cambridge University Press.
3. Mehisto, P. (2008). Uncovering CLIL: Content and language integrated learning in bilingual and multilingual education. MacMillan Education, Limited
4. Jalongo, M. R. (2004). Young children and picture books. Naeyc.
5. Fresch, M. J. and Hakens, P. (2009). The power of picture books: Using content area literature in middle school. NCTE.
6. 吉田真理子・佐藤佳子・執行智子 (2021) 『小学校英語に児童文学をー絵本・ナースリータイム・ストーリーテリングの世界に遊ぶ』春風社
7. 津田塾大学言語文化研究所早期英語教育研究会 (編) (2022) 『創造的な学びを育む初等英語教育一時代を超えて生き続ける理論と実践』朝日出版社
8. 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説外国語活動・外国語編』開隆堂

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (30%)
2. Micro-teaching (30%)
3. Final assignment (40%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. on Hoppi.

【Prerequisite】

None.

ART300ZA (芸術学 / Art studies 300)

East Asian Cinema

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水4/Wed.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course offers a historical study of cinemas in East Asia. Spring 2025 will mainly focus on the themes and visualities of Korean cinema in relation to other East Asian cinematic developments. Korean cinema has witnessed a remarkable growth both domestically and internationally during the past two decades. This course will follow the historical development of Korea's film industry during the 20th and 21st Century beginning with early films from the 1930s to the mega blockbusters of the 1990s-2000s. Themes such as modernity, gender and masculinity, nationalism as well as globalization and localization will be covered.

【Goal】

By the end of the course, students will be able to

- Understand the historical development of Korean cinema in relation to East Asian cinematic development
- Engage in academic discourses regarding East Asian cinema at large
- Improve critical thinking, oral and writing skills and demonstrate this ability by constructing strong arguments during class discussions and papers

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be discussion-based, with visual material such as clips of films and videos. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the class content and discussion. Discussions based on the reading material will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Feedback will be given throughout the course via discussion topics. Students will be assessed on their understanding of the readings and discussions through their midterm and final assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Early Korean cinema	Readings on early Korean cinema
3	Under the Japanese empire	Readings on Korean cinema during the colonial era
4	Postwar cinema	Readings on 1950s Korean films
5	Cinema renaissance	Readings on 1960s Korean films
6	Melodrama modernity	Readings on Korean melodrama films
7	Midterm review	Midterm assignment
8	Redefining film industry	Readings on 1970s Korean cinema
9	Military censorship	Readings on 1980s Korean films
10	Feminism and new Korea	Readings on 1990s Korean films
11	New Wave cinema	Readings on New Millennial Korean cinema
12	Era of blockbusters	Readings on 2000s Korean films
13	Hallyu and cinema	Readings on Korean Wave films

14 Final review

Final assignment

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are total 5 hours (2 hours for at-home film viewing and 3 hours for reading assigned articles).

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Assigned articles will be uploaded to HOPPII.

【Grading criteria】

Class participation (10%)

Reading/Viewing assignments (20%)

Asking questions, speaking up during class discussions, and class behavior (20%)

Midterm assignment (20%)

Final assignment (30%)

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Pen and paper notebook. Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class so students must take notes by hand in class. They are also responsible for bringing hard copies of the required readings to class.

【Others】

Do not miss the first class as a selection process may occur. Students will not be accepted from the second week.

The content of this syllabus may be subject to change. Any changes in the syllabus will be notified during class and a new syllabus will be updated on HOPPII.

【Prerequisite】

This course requires students to have intermediate knowledge of the history of cinema and East Asian media culture.

CUA300ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

Media Research

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 4/Tue.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course aims at helping students historicize and contextualize the socio-political and economic influences that media technology has had on our everyday lives and how that influence manifested itself in media representations. The study of media technology as material culture through its production, dissemination and uses has become more urgent as new forms of media are created faster than ever. In this course, students will analyze how media technology has developed throughout history and will further examine the pros and cons, social embracement and anxieties associated with each technology and their representations. Students will apply what they learn about the development of media technology and how it has been represented from a historical and socio-economic perspective and reflect it in their research projects.

[Goal]

By the end of the course, students will be able to,

- understand the history of media technology and its institutional development through their research projects
- learn theories regarding the development of media technology and learn how the technological development of media and its institutions has informed human perception, anxieties, body, gender and politics throughout history
- improve critical thinking ability about how the historical development of media technology has changed the institutional landscape as we know it and demonstrate that understanding by constructing strong arguments during class discussions

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

The course will cover the historical development of media technology through required readings and watching relevant media examples. The class will be centered on student discussions related to the required readings and topics and the instructor will guide the discussions accordingly.

Comments/feedback for assignments (tests and reports, etc.) are written directly on their assignments, or if students want, may be given during office hours.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Print culture	Readings on print culture
3	Photography	Readings on photography
4	Film	Readings on cinema
5	Telegraph	Readings on telegraph
6	Telephone	Readings on telephone
7	Midterm review	Midterm review
8	Radio	Readings on radio
9	Television	Readings on television
10	Computers	Readings on computers
11	Video games	Readings on video games
12	Internet	Readings on the Internet
13	Digital divide	Readings on the influence of the Internet
14	Final review	Final research project & wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 3 hours each. Students will be expected to complete weekly readings and therefore, must read all required readings before class.

[Textbooks]

No text book required. Instructor will provide reading material.

[References]

All reading material will be uploaded to HOPPII.

[Grading criteria]

Class participation (10%)

Reading assignments (20%)

Asking questions, speaking up during class discussions, and class behavior (20%)

Midterm research project (20%)

Final research project (30%)

[Changes following student comments]

None.

[Equipment student needs to prepare]

Pen and paper notebook. Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class so students must take notes by hand in class. They are also responsible for bringing hard copies of the required readings to class.

[Others]

Do not miss the first class as a selection process may occur. The content of this syllabus may be subject to change. Any changes in the syllabus will be notified during class and a new syllabus will be updated on Hoppii.

[Prerequisite]

None.

CUA300ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

Postcolonial Studies

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水3/Wed.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course will introduce students to essential critical theories, ranging from Marxism, psychoanalysis, gender and sexuality, racism, postcolonialism to postmodernism. Critical theory contextualizes, examines, and theorizes culture as it influences and shapes our everyday lives and social structures. Students will learn about the various academic approaches on how to analyze culture based on the canonical works of critical theories, especially focusing on postcolonial studies, and learn how to apply such critical theories to our everyday lives.

[Goal]

In addition to teaching the students about critical theories and postcolonialism and related media examples, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will:

- learn methodologies to analyze various media through the lens of postcolonial theories
- examine the specific operations of how postcolonial concepts influence media representations
- learn how to analyze the postcolonial relationships to self and society
- improve critical thinking ability and demonstrate that ability by constructing strong arguments during class discussions and through written class assignments

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Classes will be discussion-based, with visual material such as images and clips of news, films, popular culture, etc. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the class content and discussion. Discussions based on the reading material will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the readings through class discussions and presentations. In class, feedback is given using some comments in relation to student questions and comments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Why critical theory?
2	Ideology	Readings on Marxism
3	Hegemony	Readings on how to analyze culture
4	Psychoanalysis	Readings on how to analyze the mind
5	Structuralism	Readings on how to analyze language
6	Poststructuralism	Readings on how to analyze thinking processes
7	Midterm review	Midterm exam
8	Feminism, Gender & Sexuality	Readings on gender and sexuality
9	Race & Racism	Readings on racism
10	Postcolonialism	Readings on colonialism and its aftermath
11	Orientalism	Readings on race, gender, and class
12	Postmodernism	Readings on postmodernism
13	21st century issues	How to stay critical
14	Final review	Final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are about 3 hours each.

[Textbooks]

Storey, John (2021). Cultural theory and popular culture: An introduction (10th ed.). Routledge.

[References]

Additional reading material will be provided on HOPPII.

[Grading criteria]

Class participation (10%)

Reading assignments (20%)

Asking questions, speaking up during class discussions, and class behavior (20%)

Midterm exam (20%)

Final exam (30%)

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Pen and paper notebook. Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class so students must take notes by hand in class. They are also responsible for bringing hard copies of the required readings to class.

[Others]

Do not miss the first class as a selection process may occur.

The content of this syllabus may be subject to change.

[Prerequisite]

None.

CUA300ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

Qualitative Research Methods

Allen Kim

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 土3/Sat.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to qualitative research methods. The course begins with research problems, questions and design considerations. The course follows with training, through lecture, group work and hands-on experiences, in data collection methods commonly used in qualitative research—field observation, interviews, and the use of documents and archival data. Students will undertake a pilot research study as part of the course requirements. This includes designing a research question, doing a literature review, creating a questionnaire, observing a field setting, analyzing field notes, and presenting on preliminary research findings. The exercises are intended to develop the mindset required to think through, design, and execute a qualitative study.

【Goal】

Provide students with an appreciation for and the basic steps of qualitative research design. Acquaint students with a diversity of qualitative methods and associated theoretical, ethical, and pragmatic issues. Instruct students on how to conduct qualitative research that is descriptively rich, theoretically illuminating, and personally meaningful. Each student will be able to create her/his own research questions, decide a research site/community, conduct original research, and present their findings.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Although the instructor will provide the basic framework in a lecture format, students are expected to actively participate in and contribute to class discussion. This includes asking questions, seeking clarification and offering your critical ideas and interpretation about student projects, practical fieldwork issues, and lectures on other fieldwork techniques. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

あり /Yes

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Design	Types of research
3	Designing and QR set up	Beginning of individual project. Conceptual frameworks, research validity in data gathering
4	Starting a study	Entry into the field; developing rapport; role of the researcher; confidentiality; collecting background information, sampling
5	Literature Review	Reviewing existing scholarly work
6	Writing Research Proposal	Research questions, site, methods, contribution
7	Presentation and Data Collection Procedures	Research proposal presentation (summary of existing literature & introduction of research question) Write a summary of issues/challenges in data collection and bring to class for discussion
8	Interviews: Fieldwork I	Types of interviews (structured to unstructured). How to design interview questions; how to conduct interviews
9	Observations: Fieldwork II	Taking notes, types of observation. Analyzing social settings. How to observe and focus. Discuss fieldwork, share challenges.
10	Documents and internet data	Definition, review of sources and types of data, methods of collection and analysis.

11	Integrating, synthesizing data. Coding and Coding categories	Reflexivity and organizing data
12	Student Presentations I	Student presentations on mini-research proposal and feedback
13	Student Presentations II	Student presentations on mini-research proposal and feedback
14	Wrap up and Writing tips	Writing Qualitative Research Method Tips

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should come to class having read and prepared to discuss assigned readings. The course will also require students to conduct participant-observational fieldwork outside of class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used for the course. Readings will be provided through the online course management system.

【References】

References will be shared in class.

【Grading criteria】

Field I, II, III Assignments: 60%
Research Proposal/Presentation 40%

Three or more unexcused absences will result in an incomplete grade (marked “E” on grading sheet). Please provide documentation if you need to be absent from class for medical reasons, job interviews and family emergency. If you arrive late or leave early, each will be counted as one ½ absence. 5 absences will result in “not passing.”

【Changes following student comments】

Weekly assignments have been updated.

【Equipment student needs to prepare】

None. You may use laptop or tablet to take notes.

【Others】

Slight modifications may be expected. Our goal in this class will not be to memorize or master a series of clear-cut answers; rather, by engaging in lively discussions, we aim to hone our ability to ask critical questions so as to further develop our skills as writers, readers and thinkers. In order to create such a learning environment, students should speak to each other and the instructor with respect. Abusive and harsh language will not be tolerated. Students with special needs should notify the instructor as early as possible, no later than the third week of the semester. Student attendance is critical because each lecture builds on the previous week. Missing out on critical components of the research process will put you behind in being able to design and implement a full project.

【Prerequisite】

None.

LIT300ZA (文学 / Literature 300)

Realism and Cinema

Catherine Munroe Hotes

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course will examine how reality is depicted on film, from the advent of cinema to contemporary forms of online media. We will look at how the tropes of documentary fiction and non-fiction were developed and changed with new technologies.

【Goal】

Students will learn documentary film theory and narrative film theory with particular emphasis on how cinematography, mise-en-scène, sound, editing and other techniques are used by filmmakers in both fiction and non-fiction films to give the impression of realism. We will also discuss the ethics of depicting the lives of real people and events on film. Students will learn to engage critically with media and learn how to determine fact from fiction.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Lecture, readings, film analysis, quizzes, group work, exam, and essay writing.

Lectures take a hybrid form that actively encourages student participation in discussion.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System or Google Classroom.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction & Introduction to Documentary Theory	Course introduction & Introduction to Documentary Theory
2	Kino Pravda	Man with a Movie Camera (Dziga Vertov, 1929)
3	Docudrama	Nanook of the North (Robert J. Flaherty, 1922)
4	Propaganda	Triumph of the Will (Triumph des Willens, Leni Riefenstahl, 1935)
5	Ethnographic Filmmaking & Indigenous Perspectives	Selection of National Film Board of Canada shorts
6	Introduction to Direct Cinema & Cinéma Vérité	Cinéma Vérité: Defining the Moment (Peter Wintonick, 1999)
7	Docufiction, Direct Cinema, Cinéma Vérité	Chronique d'un été (Jean Rouch & Edgar Morin, 1961) and NFB shorts
8	First Person Narration	Waiting for Fidel (Michael Rubbo, 1974)
9	Activist Cinema: Studio D	Our Dear Sisters (Kathleen Shannon, 1975), Sisters in the Struggle (Dionne Brand & Ginny Stikeman, 1991)
10	Biographical Films (BioPics)	Selected biopics about the lives of women
11	Historical Dramas	Braveheart (Mel Gibson, 1995), The Favourite (Yorgos Lanthimos, 2018)
12	Reality TV	The Thin Blue Line (Errol Morris, 1998), The Truman Show (Peter Weir, 1988), The Hunger Games (clips)
13	Animated Documentaries: Capturing Psychological Reality on Film	A selection of animated films from the 2000s & 2010s
14	How AI is changing Cinematic Reality	A selection of clips from The Lord of the Rings to The Mandalorian. Final Paper Due

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading academic texts and answer comprehension questions (4 hours each week). The estimated preparation time includes watching video clips.

【Textbooks】

Nichols, Bill. Introduction to Documentary. 3rd ed. Bloomington: Bloomington UP, 2017. (available as an ebook)

【References】

Bordwell, David. The Way Hollywood Tells It: Story and Style in Modern Movies. Berkeley: U of California P, 2006.

Bordwell, David, Kristin Thompson and Jeff Smith. Film Art: An Introduction. 12th ed. New York: McGraw-Hill, 2019.

Other materials will be made available using online library resources or shared files.

【Grading criteria】

Tasks/Quizzes (5 x 10%), Essay (30%), Participation (20%)

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Students should bring their device (laptop, tablet, et al.) to class in order to refer to course readings if necessary.

【Others】

Enrollment is limited to 3rd and 4th year students.

【Prerequisite】

None

ART300ZA (芸術学 / Art studies 300)

Art in Everyday Life

Timothy Betjeman

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 1/Tue.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Despite art being a part of human culture and civilisation for millennia, the art world is often looked upon as something disconnected from everyday life. In this course, we will examine how art and everyday life are intertwined. This will be followed by study on the forms art takes in contemporary society, the value of art, spaces for art, and case studies on how artists live and work in contemporary society.

[Goal]

Through this course, students will gain an understanding of the role of contemporary art in society.

An important aspect of this study is to comprehend the processes of creation and the thinking behind public exhibitions, the multifaceted approaches of artists, the infrastructure of the world of contemporary art in Japan and abroad, and how the art world is connected to the "real" world.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

[Method(s)]

In addition to lectures on relevant topics, students will take part in practical exercises to gain first-hand knowledge and experience of the processes involved in contemporary art-making.

- ・ Drawing to communicate
- ・ Collating images to create narrative
- ・ Combining text and images to change meaning
- ・ Action-based art

Students will also research a living artist working now, and will make a presentation on the results of this research.

In addition to the above, students must keep track of their weekly learning by collating images and text in a class notebook, 2 pages (minimum) per week that are relevant to the course material.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

Feedback on presentations will be given in class. Separate feedback will be given via email or the Learning Management System if required.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Art as communication	Sharing experiences through drawing. Practical activity to explore the communicative qualities of images.
3	Worthless art(?)	Artists with subversive approaches to value: Marcel Duchamp, Andy Warhol, Jeff Koons, Tracy Emin, etc.
4	Art with value	Group and class discussion on artworks with value for the 21st century
5	Connecting with the land	Connecting art practices with pre-historic art and ritual. Artists who work directly in the landscape: Robert Smithson, Richard Long, Christo and Jean Claude, Nancy Holt, etc.
6	Originality: It's all been done before	Tracing the thread of an idea in art; redefining originality
7	Art as action	Performance art and happenings, activism as art, and the importance of documentation
8	A working artist	A visit from, or case study of, an artist, discussing their works and career
9	Text and Images: Making meaning	Study of examples from art and online media. Practical exercises in making meaning

10	Outside of the gallery system	Artist-led initiatives and unconventional art spaces in Japan and abroad
11	Curation as practice	How curation creates meaning. Planning a fictional exhibition.
12	Student Presentations I & discussion	On each student's artist of choice working in the world today
13	Student Presentations II & discussion	On each student's artist of choice working in the world today
14	Final discussion and review	Presentation of notebooks and group discussion on art in the real world

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to prepare a notebook and basic writing and drawing materials. Reading and preparation activities will be assigned on a weekly basis.

Students are also expected to visit at least one art exhibition and conduct research in preparation for a presentation (suggestions will be provided).

Students are also expected to use their notebook to keep a record of ideas, samples of artworks, and other experiences throughout the semester. A digital notebook is acceptable.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Lecture slides/notes/other materials will be provided online.

[References]

Berger, John. *Ways of Seeing*, Penguin Books (1972)

Sontag, Susan. *On Photography* (1977)

Benjamin, Walter. *Art in the Age of Mechanical Reproduction* (1935)

Debord, Guy. *The Society of the Spectacle* (1967)

Krauss, Rosalind. *Sculpture in the Expanded Field* October, vol. 8, 1979, pp. 31–44.

Shifman, Limor. *Memes in Digital Culture*, The MIT Press (2013)

Foster, Hal. *Art Since 1900: Modernism, Antimodernism, Postmodernism*. London: Thames & Hudson (2004)

Weschler, Lawrence. *Seeing is Forgetting the Name of the Thing One Sees*. University of California Press (1982)

Weschler, Lawrence. *True To Life* University of California Press (2009)

[Grading criteria]

Participation:

This applies to class activities, assigned readings, exhibition visit and regular contribution to the group discussions.

Weekly submitted responses:

This is a requirement to submit weekly assignments. Examples of weekly assignments are: Pages from your workbook; a written response to class contents, a response to an assigned reading, evidence of activities completed in class that week.

Presentation: each student must make a short presentation on a living, working artist within the context of the course.

The final grade is calculated as follows:

Active participation 30%

Weekly submitted responses 40%

Presentation 30%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Students will need a class notebook (e.g. A5-A4 sketchbook/notebook), and general stationary (e.g. pen, pencil, glue, tape, scissors). A digital notebook is also acceptable. Access to a computer, as weekly responses and submissions will be digital only.

Details of other items required will be given as required.

[Others]

You do not need to be "good at art" or have previous practical experience in art to take this class.

What is essential for this class is to be curious and open-minded about what art can be, and to be willing to engage in discussions on topics that are new and, at times, challenging.

Students are expected to be punctual. As many of the topics are open for debate, participation in group and class discussions will be expected of all students.

Weekly responses must be submitted before the next week's class, through an online system.

[Prerequisite]

None.

ART300ZA (芸術学 / Art studies 300)

Contemporary Art

Utako Shindo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Since the late 19th century we have witnessed various shifts in the arts from the modern to the contemporary periods. That includes the birth of abstraction and minimal art, the expansion of new and interdisciplinary media, the rise of conceptual and critical practice, and towards more participatory and collaborative works. The course looks at these shifts while paying attention to the essence of art, for us gaining more nuanced understanding, and further asks how art can emancipate us and inspire our being in this life-world. Artworks of different origins, and referential texts and audio-visual materials will be studied.

【Goal】

You will become familiar with some key works, artists' voices and aesthetic concepts from the late modern to the contemporary periods.

You will become aware of and comfortable with your ways to engage with art and express your appreciation in writing and conversation.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Referential materials such as texts, videos and class slides will be shared through Google Classroom for each class. In the class we will look into them together to learn and discuss how certain artistic expressions were nourished and also understood in a certain milieu. Unless your question involves something personal, please ask any questions during the class. In addition, you are asked to visit an exhibition or a relevant location off-camps, which will be determined by or consulted with the instructor. You will then give a short presentation about an artwork that you respond most from the visit. The presentation will be developed into a research paper to be submitted. We will also experiment to explore our own creative possibilities.

NOTE 1: The feedback to the discussions, the presentations and the experiments will be provided during the class or through the Google Classroom.

NOTE 2: The schedule and the content may change in response to the students' needs. The change will be notified in the classes as well as through the Google Classroom.

NOTE 3: Please be aware that some works shown in the class may address controversial issues and may include nudity.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

あり /Yes

【Schedule】授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Poetic embodiment of the Untranslatable /Arata Isozaki, Jacques Derrida (* a selection process may occur.)
2	New Ways of Perception	Post-Impressionism /Claude Monet, Paul Cezanne /Victor Stoichita, Maurice Merleau-Ponty
3	Modernity and Wars	Abstraction /Pablo Picasso, Piet Mondrian, Wassily Kandinsky / Hilla Rebay
4	New World and East	Abstract Expression /Jackson Pollock, Agnes Martin /Giorgio Agamben, Toshihiko Izutsu
5	Expansion of New Media	Post Minimalism /Donald Judd, Fujiko Nakaya, Robert Rauschenberg, Richard Tuttle
6	Institutional Critique	Conceptual Art /Marcel Duchamp, Joseph Kosuth, High Red Center / Lucy Lippard
7	Questioning Norms	Post-Conceptual Art /Jenny Holzer, Yasumasa Morimura, Felix Gonzales-Torres /Jose Esteban Munoz
8	Problem of Representation	Counter Monument /Rachel Whiteread, Isamu Noguchi, Daniel Libeskind

9	Emancipatory Practice	Story Telling /William Kentridge, Neshat Shirin /Jacques Rancière
10	Interdisciplinary Possibility	Collaboration /Rirkrit Tiravanija, Koki Tanaka, Edmund De Waal / Mary Caroline Richards
11	Short Presentation 1	Student presentations 1
12	Short Presentation 2	Student presentations 2
13	Short Presentation 3	Student presentations 3
14	Prospect	Experimentation /your life and expression /Gilles Deleuze

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are encouraged to engage with the class materials (readings, audio-visual references) and to be prepared for class discussions and activities. Additionally, students are required to make at least one visit to an art exhibition or related location suggested by the instructor in order to prepare their presentations and research papers. Preparatory study and review time for this class are a maximum of 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Readings will be made available on Google Classroom.

【References】

References will be made available on Google Classroom.

【Grading criteria】

Participation (30%) : Actively attend the class to study the referential materials. Encouraged to express your thoughts and feelings through discussion and in-class exercise.

Short Presentation (25%) : Discuss the chosen work from your visit to an exhibition/location, in relation to referential materials from the class.

Project Paper (25%) : Write a research paper, as development of your presentation, through finding an article that discusses the chosen artwork or the artist.

Experimentation (20%) : Reflect an idea introduced during the course and connect it to your interdisciplinary interest. Experiment to imagine and express your creative work.

【Changes following student comments】

I have updated some class contents to make it more accessible for students with diverse interests.

I have updated some class contents to make it more possible to learn deeper into each topic.

【Others】

Do not miss the first class as a selection process may occur.

【Prerequisite】

None.

ART300ZA (芸術学 / Art studies 300)

Special Topics in Art I

Gary McLeod

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 土2/Sat.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

How can photography help to understand the world around us? Can it support or shape the way in which we interact with it? This course looks at the role of photography in an increasingly digital and time-poor society. Through “rephotography”, a set of visual practices for expanding conversations about place over time, the course explores the dual pressures upon today’s camera users to evidence and record reality while embodying authentic acts of personal expression.

[Goal]

Students carry out an independent rephotography project from conception to publication under a broader research agenda to visually record time and place in Tokyo. Through producing a photo book, students will develop critical perspectives toward contemporary image-making while learning to articulate research methodologies and give constructive feedback.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course uses a practical approach. Workshops, assignments and supporting lectures are employed to develop students’ understanding of contemporary photography and improve critical skills regarding the production of images (i.e. visual literacy). Students produce and print a contact sheet of 35 photographs every week which is used for discussion in class. Final submission comprises a photo book and evidence of participation (12 submitted contact sheets). Attendance is recorded weekly using visual media (e.g. photograph). Feedback is given through ongoing dialogue between students and instructor during production of the contact sheets and photobook.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

あり /Yes

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Slow Glass	Introducing photography as a visual methodology.
2	Looking Again	Photographing the campus ‘in’ time.
3	The Landscape of Rephotography	Discussing rephotography as a diverse set of visual strategies.
4	Re-entering the Past	Discussing the relationship between rephotography and place.
5	Now and Again	Discussing the relationship between rephotography and time.
6	Conversations with the future	Sharing ideas for visually exploring time and place in Tokyo.
7	Photo Book Research	Analysing photo books in the university library.
8	Developing Strategies	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of strategies.
9	Developing Sequences	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of sequences.
10	Refining Selections	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of selections.
11	Expanding Horizons	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of outcomes.
12	Draft Photobook	Making preparations for producing a booklet.
13	Photobook Review	Reviewing reflection and notation in workbooks.
14	Final Photobook Review	Making final improvements to books prior to submission.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must regularly take photographs throughout the semester. Every week students are required to bring a contact sheet containing 35 photographs made during the week before, which will be discussed in class. They are also expected to use the photo book resource in the library and do assigned readings. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Handouts and reading materials will be will be uploaded on Hoppii or distributed in class.

[References]

Batchen, Geoffrey (2008) *William Henry Fox Talbot*, Phaidon.
 Berger, John (1977) *Ways of Seeing*, Penguin Books.
 Flusser, Vilém (2014) *Gestures*, University of Minnesota Press.
 Ruetz, Michael (2008) *Eye on Infinity*, Steidl.
 Ritchin, Fred (2013) *Bending the Frame*, Aperture.
 Sagami, Tomoyuki (2018) *YKTO*, Steidl.
 Tomiyasu, Hayahisa (2018) *TTP*, Mack Books.
 Watanabe, Toshiya. (2018) *Thereafter*, Steidl.
 Additional references will be provided by the instructor in class.

[Grading criteria]

Participation: this applies to weekly contact sheets (minimum of 12) More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.
 Photo book: each student must produce a small photo book (min. 96 pages) that communicates ideas relating to the city and time.
 The final grade is based on: Participation 40%and Photo book 60%. As a variety of predictable and unpredictable factors are involved in the process of creating a photobook, evaluation considers a blend of concept, research, originality, visual communication ability and tenacity.

[Changes following student comments]

Changes have been made in response to student feedback, thank you.

[Equipment student needs to prepare]

Students will need a laptop with photo-editing software and a camera. Please note that the use of a smartphone camera is acceptable for this course. However, if you have regular access to other kinds of cameras (and wish to use them), please bring them to class and the instructor will happily show you how to use them.

[Others]

Being naturally creative is not a requirement for this course. However, students are expected to come to class on time, participate and demonstrate an active interest.

[Prerequisite]

None.

ART300ZA (芸術学 / Art studies 300)

Twentieth Century Film Studies

Catherine Munroe Hotes

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水3/Wed.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the study and analysis of film. Over the course of the semester you will be exposed to key critical and theoretical approaches in 20th century film studies (genre, auteur theory, realism, formalism, etc.), in addition to gaining further knowledge into world cinema history and major film movements. All films screened in class are in their original language with English subtitles.

【Goal】

(1) Students will learn the basic terminology of film form in order to describe and analyse films. (2) Students will learn the key concepts of film authorship and genre. (3) Students will gain an understanding of film history and major film movements. (4) Students will learn, practice, and improve their film writing skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1” and “DP 4”.

【Method(s)】

Each class consists of a lecture (50%), film clips (30%), and discussion (20%). Feedback on quizzes and written assignments will be sent via the Learning Management System or Google Classroom.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction: What is Film Studies?	Introduction: What is Film Studies?
2	Early Film History and Approaches to Film	A selection of early shorts (Lumières, Edison, Méliès, Alice Guy-Blaché) and film excerpts (D.W. Griffith, Edwin S. Porter, Mack Sennett, Germaine Dulac)
3	Classical Hollywood, the Studio System, and Mise-en-scène	Cleopatra (Cecil B. DeMille, USA, 1934); Casablanca (Michael Curtiz, 1942)
4	Soviet montage, Russian Cinema, and the Kuleshov Effect	Battleship Potemkin (Sergei Eisenstein, 1925)
5	Cinematography, Composing the Frame, and Authorship	North by Northwest (Alfred Hitchcock, 1959)
6	Narrative Form I	Citizen Kane (Orson Welles, 1941)
7	Narrative Form II	Midterm Scene Analysis (20%) Rashomon (Akira Kurosawa, Japan, 1950), I've Heard the Mermaids Singing (Patricia Rozema, 1987)
8	Editing, and Camera Movement, and the Long Take	Touch of Evil (Orson Welles, 1958) and Jeanne Dielman, 23 quai du Commerce, 1080 Bruxelles (Chantal Akerman, 1975)
9	New Hollywood and the Blockbuster Economy	The Godfather (Martin Scorsese, 1972), The Conversation (Francis Ford Coppola, 1974)
10	Art Cinema and the Festival Circuit	Hiroshima mon amour (Alain Resnais, 1959), La Jetée (Chris Marker, 1962), Black Girl (Ousmane Sembène, 1966)
11	Genre I: Melodrama, Colour, Affect	Written on the Wind (Douglas Sirk, 1945)
12	Genre II: Film Noir and Lighting	Double Indemnity (Billy Wilder, 1944)
13	Sound, Cinephilia, Discontinuity Editing, and the French New Wave	Cléo de 5 à 7 (Agnès Varda, 1962, France).

14 Semester Recap and Tips for Completing the Analytical Essay.

For their final, students apply the film analysis techniques they have acquired in class to write an analytical essay about a film. The essay film will be announced the week after the midterm exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Materials will be made available using online library resources or shared files.

【References】

Bordwell, David, Kristin Thompson & Jeff Smith, Film Art: An Introduction, 12th ed. New York: McGraw-Hill Education, 2020.
Pramaggiore, Maria & Tom Wallis, Film: A Critical Introduction, 2nd ed. Pearson, 2008.

【Grading criteria】

Quizzes (5x10%): 50%

Midterm Scene Analysis: 20%

Film Analysis Essay: 30%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

This is a paper-free class. Students will need to access class materials and submit assignments online. Students may bring their device (laptop, tablet, et al.) to class in order to refer to course readings if necessary.

【Prerequisite】

None.

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

Advanced Topics in Critical Theory I

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 1/Thu.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Students will learn the fundamental concepts of feminist theory, which has been attracting attention in recent years not only in the humanities but also in the social sciences. In this year's class, in addition to the foundational texts of feminist studies, students will read texts in feminist methods and Chicana feminist theory to acquire proficiency in the consideration of social phenomena related to gender and sexuality.

[Goal]

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes of feminist theory (remembering/understanding), (2) apply feminist theory to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various strands of feminist theory (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on gender and sexuality (evaluating/creating).

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory as Liberatory Practice	What is the role of theory in feminist studies?
3	Black Feminist Thought	What is Black feminist theory?
4	Intersectionality as Critical Social Theory	What are some of the unsolved issues with the intersectionality framework?
5	Transgender Feminism	Who are included as women in feminism?
6	Marxist Feminism	What is the relationship between feminism and Marxism?
7	Postcolonial Feminism	What is the relationship between feminism and nation?
8	Feminism in Japan	What does feminism in Japan look like?
9	Feminist Methods	How does feminist theory inform research methods?
10	Gender and Science	How has feminism changed science?
11	Chicana Feminist Theory I	What are the characteristics of Chicana feminism? What is "la conciencia de la mestiza"?
12	Chicana Feminist Theory II	What is the "methodology of the oppressed"?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for the final paper
14	Theory in Action	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

[References]

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

[Grading criteria]

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading responses: 30%

Final paper: 30%

[Changes following student comments]

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

[Equipment student needs to prepare]

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

[Prerequisite]

Students who intend to enroll in this course are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

Advanced Topics in Critical Theory II

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 1/Tue.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Students will learn the fundamental concepts of queer theory, which has been attracting attention in recent years not only in the humanities but also in the social sciences. In this year's class, in addition to the foundational texts of queer studies, students will read Black queer studies and queer demography literature to acquire proficiency in the consideration of social phenomena related to gender and sexuality.

[Goal]

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes of queer theory (remembering/understanding), (2) apply queer theory to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various strands of queer theory (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on gender and sexuality (evaluating/creating).

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	The Development of Queer Thinking	Why can't sexuality be properly studied within gender studies?
3	The Beginning of Queer Theory I	What are the core principles of queer theory?
4	The Beginning of Queer Theory II	What is homosociality?
5	Gender	How does gender performativity differ from gender performance?
6	Trans Politics	What does critical trans politics envision?
7	HIV/AIDS in the '80s	How does the HIV/AIDS crisis affect queer theory?
8	HIV/AIDS in the '00s	How does a queer theoretical understanding of barebacking subculture differ from an epidemiological understanding?
9	Homonormativity	What happens when neoliberalism meets LGBT movements?
10	Homonationalism	What happens when nationalism meets LGBT movements?
11	Black Queer Studies	How does sexuality intersect with race?
12	Queer Demography	How can LGBTQ populations be studied from a queer theoretical perspective?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for the final paper
14	Theory in Action	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

[References]

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

[Grading criteria]

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading responses: 30%

Final paper: 30%

[Changes following student comments]

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

[Equipment student needs to prepare]

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

[Prerequisite]

Students who intend to enroll in this course are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

Migration and Diaspora

Chris Park

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火4/Tue.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Scholarship on diaspora has drastically increased in the last three decades, and the issues pertaining to immigration and exile, as well as nation-state, nationalism, citizenship, identity and belonging have been explored and examined through a lens of diaspora in various academic disciplines. The course will address various issues that constitute diaspora such as the process of transmigration, settlement, and creation of diasporic communities, as well as identity formation, cultural hybridization, and cultural/knowledge productions – all of which are informed by race, gender, sexuality, class, religion, language and others.

In so doing, the class will first locate the roots of diasporas. As early historical references of the Jewish diaspora and the Black diaspora suggest, the displacement of people and communities from the original homeland often involved both internal and external forces that rendered them “exiles” or “slaves” against their will. Similarly, more recent diasporas emerge as a result of conflicts, wars, colonization, decolonization and globalization that result dispersion of people as “immigrants,” “refugees” and “adoptees.” Situating diaspora in broader projects of nation-building and empire-building, the course will ask and complicate the questions not simply about who, but also when, how, and under what circumstances people become diaspora, as well as how they (re)construct diasporic subjectivity and identity. Finally, the course will have a special focus on women’s experiences and voices.

【Goal】

At the end of this course, students should be able to:

- Explain such concepts as nationalism, citizenship, identity and belonging
- Explain historical and contemporary issues faced by various displaced people categorized as “immigrants,” “refugees,” and “adoptees” in their process of transmigration, settlement, and creation of diasporic communities
- Analyze various data sources including policies, legislations, historical facts, popular cultural production and personal narratives
- Use intersectionality as a lens of analysis to discuss issues pertaining to identity formation

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Although the instructor will provide the basic framework in a lecture format, students are expected to actively participate in and contribute to class discussion. This includes asking questions, seeking clarification and offering critical ideas and interpretation. In addition, a small group of 3-5 individuals will work on a project and present findings and analyses on a topic of their choice. Further directions will be given in class.

In addition, it is possible that some comments from the reaction papers may be introduced in class to elaborate on each lecture and to facilitate discussions.

Comments for assignments and the final reports are given through email.

Students are expected to regularly check (at least once or twice a week) their university email account and Hoppii for course announcements and updates.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview & Self-introduction	Course Overview & Self-introduction
2	Definitional Questions	Theories and concepts: Migrant categories, return migration, migrants to citizens, diasporas and transnational communities.
3	Identity/ies for Diasporic Subjects	Why the poorest don't migrate: examining systems, links, chains, routes, networks and diverse migrant motivations.

4	"Military Wives"	Japanese women's departure, becoming American, the "modernized subjects"
5	"To Save the Children"	Origin of international adoption
6	Militarized Process of "Leaving"	How "refugee" subjects are created and mobilized through spaces and modernity.
7	War, Racism and Incarceration	Japanese American internment experience during WWII
8	Forced Identity	Representation of "Good" & "Grateful" minority
9	Racialized as "Invisible Asians"	Korean adoptees' experience
10	Orphan with Two Mothers	Film: Liem, Deann Borshay, First Person Plural (2000)
11	Diasporic Homecoming	Homecoming experiences: Japanese Brazilians v. Japanese Americans
12	Between Home and Homeland	Film: Yang, Yonghi. Dear Pyongyang (2005)
13	Group Presentations I	Student presentations
14	Group Presentations II	Student presentations

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

In addition to preparing for discussions, students are expected to review class materials after each class, note down reflections on the videos shown in class, and do the prescribed readings. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts, readings and other materials will be distributed in class and/or uploaded on online course management system.

【References】

Espiritu, Y. *Home bound Filipino American lives across cultures, communities, and countries*. UC Press, 2003.

【Grading criteria】

Participation: 30%

Reading and Writing Assignments: 20%

Presentation on Weekly Reading: 20%

Group Project: 30%

Students are not allowed for more than 2 unexcused absences. These exclude absences due to medical reasons, job interviews, but include those due to family emergency and train delays. If students arrive late or leave early, each will be counted as one ½ absence. If students miss 20 min of class time, it will be considered as 1 absence. 3 or more absences will result in not-passing. Students must complete all the assignments to pass the course. If students have special needs, exceptions may be made. Contact the instructor no later than Week 3.

【Changes following student comments】

NA

【Equipment student needs to prepare】

NA

【Others】

Changes to the above class schedule may take place. For example, the schedule for group presentations may be given depends on the number of enrolled students.

Students who intend to enrol in this class are expected to have passed or taken Understanding Society or Introduction to Sociology.

This prerequisite may be waived through consultation with the instructor.

【Prerequisite】

NA

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : 〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【Outline and objectives】

This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】

A major goal is to develop students' sensitivity towards issues of inequality and skills in social analysis and critical thinking. By exploring social issues in an international and global context, students will learn to see how any global issue is multidimensional, and specifically, how inequalities are complex and constituted by the interconnection of race, class, gender, and other bases of inequality.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theoretical Understanding of Race, Class and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	Population and Globalization	What is demography? How do demographers study population processes?
4	Population Dynamics and Global Change	Why do population trends matter in a globalized society?
5	Domestic Helpers	How do race, class, gender and migration intersect?
6	Queer Migration	Do LGB immigrants really come to the United States from repressive countries?
7	Transnational Adoption	What does kinship look like in the context of transnational adoption?
8	Global Economy of Desire	How do race, sex, and romance intersect in the global economy of desire?
9	Diversity Policy in Global Companies	How is diversity policy in global companies localized?
10	Critically Quantitative	How to quantitatively measure community cultural wealth?
11	War and Violence	What is the "comfort women" issue?
12	Human Trafficking and Sex Work	What is sex work? What are some issues faced by migrant sex workers?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for the final paper
14	Review & Final Paper Preparation	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading responses: 30%

Final paper: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

【Prerequisite】

To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

Social Theory: Perspectives on Inequality

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水 5/Wed.5

その他属性 : 〈優〉〈S〉

【Outline and objectives】

Social inequality has always been a part of human society, and social scientists have invested much effort into “figuring out” why there is social inequality and how social inequality is sustained and reproduced. Earlier efforts focused mostly on socioeconomic inequality, while later endeavors explored racial, gender, sexual inequalities and their interconnections. These efforts resulted in classical and contemporary social theories on inequality. In this course, students will learn these theories, which are interesting in and of themselves, but more importantly, they will learn to think about inequality deeply and sophisticatedly.

Many theories covered in this course come from Western scholars. Therefore, it is important to explore their limitations in non-Western contexts and to consider the possibility of alternative perspectives.

【Goal】

In mastering the social theories covered in this course, students will hone their critical thinking skills, develop their own theories of various aspects of society and the world and consider solutions to lessen inequality. Students will acquire the skills to engage with complex ideas and think systematically and logically, and remaining aware of social injustices and problems. By the end of the course, students should be able to form and support their opinions with ease.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course is taught through a combination of lectures interwoven with short discussions, student presentations based on readings, and post-presentation discussions.

After the active learning section, the instructor will give feedback to each student personally in verbal or written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	The Trio in Classical Theories (1)	Karl Marx on social class
3	The Trio in Classical Theories (2)	Max Weber on social stratification
4	The Trio in Classical Theories (3) Yet Another View?	Emile Durkehim on the division of labor in society Ralph Dahrendorf's theory of the origin of inequality
5	Norms and Inequality The Cultural Turn in Social Theory?	Pierre Bourdieu's <i>Distinctions</i> and the significance of taste and lifestyle
6	Presentation and Discussion: A "Common Sense" Theory and its Critique	Student presentation and discussion on Davis and Moore's structural-functionalist theory and Tumin's critique
7	Race, Ethnicity and Inequality (1)	Theories related to racial inequality: The work of W.E.B. Du Bois, Michael Omi & Howard Winant, Joe Feagin
8	Race, Ethnicity and Inequality (2)	Theories related to racial inequality: Critical Race Theories (CRT)
9	Student Presentation and Discussion	Student presentation and discussion of CRT
10	The "F" word: "Classic" Feminist Theories on Gender Inequality	What is feminism? Liberal Feminism: <i>the feminist theory?</i> Mary Wollstonecraft, John Stuart & Harriet Taylor Mill, and Betty Friedan
11	It's All Together Now: Race, Class and Gender	Black Feminist Standpoint Theory: Patricia Hill Collins Intersectional Theories: understanding multiple inequalities

12	Global Inequality	Dependency Theory and World-Systems Theory: Fernando Henrique Cardoso, Enzo Faletto and Immanuel Wallerstein
13	Basic Concepts and Theories	Student presentation based on theories introduced in class.
14	Theories on Inequality: One More Time	What have we learned? Where to go from here? Short presentation and discussions of "favorite concepts"

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Since the class is centered on reading and discussion, students are expected to do the readings before class and also review materials after each class. Every effort will be made to keep the amount of readings reasonable and enjoyable. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

The instructor will prepare materials to be distributed in class or downloaded from the university portal.

【References】

Grabb, Edward G. 2007. *Theories of Social Inequality*. 5th edition. Toronto, Canada:Thomson Nelson.

【Grading criteria】

Presentations (22%), reading assignments (40%), take-home examination (30%), class participation (8%).

【Changes following student comments】

No feedback has been made (a new instructor).

【Others】

If you like to read, think and discuss, this is the course for you. If you have taken and liked courses in political theory, philosophy, cultural anthropology or other sociology courses, it's likely that you find this course enjoyable as well.

Also, students who have passed *Introduction to Sociology* will be given admission priority. All students who intend to enroll in this class have to attend the first class.

【Prerequisite】

None

MAN300ZA (経営学 / Management 300)

Corporate Social Responsibility

Sairan Hayama

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce and explore the diversified perspectives and understandings on Corporate Social Responsibility (CSR). We are going to develop an understanding of CSR in the global context and learn why and how modern corporations are managing CSR in their business activities. The major topics dealt with in this course will be Defining CSR, CSR Concepts and Theories, Cases For and Against CSR, Responsibilities to Stakeholders, CSR in the Marketplace, and CSR in the Workplace.

【Goal】

The goal of this course is to help students build the basic understanding of CSR, know how CSR is applied in different arenas of business and explore CSR management in companies. Students will be able to define CSR and explain the meanings of CSR strategic practices in modern corporations after taking this course.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The class format consists of lecture and discussion, group work, class presentation, assignments, quizzes, and exams. In order to develop a global vision and analytical thinking, students will be encouraged to discuss their findings from the course materials and compare their own personal cultural views with those of their peers. Therefore, regular attendance is required for this course. Feedback will be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & Introduction	Orientation & introduction
2	CSR in a Global Context	Introduce the key concepts in corporate social responsibility, the essential issues relevant to the responsible management of businesses.
3	The Cases for and against CSR-1	Discuss different perspectives for and against arguments regarding CSR. (lecture & discussion)
4	The Cases for and against CSR-2	Discuss different perspectives for and against arguments regarding CSR. (lecture & discussion)
5	CSR-Related Concepts and Theories-1	Explore the concepts and related theories of CSR. (lecture & discussion)
6	CSR-Related Concepts and Theories-2	Explore the concepts and related theories of CSV. (lecture & discussion)
7	Responsibilities to Stakeholders-1	Who are the stakeholders? How should companies respond to these stakeholders? (lecture & discussion)
8	Responsibilities to Stakeholders-2	What are the responsibilities of companies for stakeholders? (lecture & discussion)
9	Case Study-1 Mid-term Exam	Company A regards employees as No.1 stakeholders and adopt stakeholder-oriented management philosophy and implement CSR positively.
10	CSR and ESG in the Marketplace	How to improve the triple(ESG) bottom line by implementing an engaging, authentic, and business-enhancing CSR program that helps staff and business thrive.(lecture & discussion)

11	Case Study-2	Company B - BOP business in Africa. A case study on the business designed for people who live at the bottom of the base pyramid.
12	CSR and SDGs	Discuss human rights ,work-life balance and SDGs related issues. (lecture & discussion)
13	Case Study-3	Company C - family friendly company. A case study on the work-life balance implementations.
14	Case Study-4 Final Exam (Presentation)	Company D - corporate citizenship in the community. A case study on corporate citizenship and sustainable development.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to have their own text material copies and prepare for each class by reading through the materials to be covered before coming to class. The textbook is available in the library but you are recommended to have your own copy. Preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Andrew Crane, Dirk Matten and Laura J. Spence (2014), Corporate Social Responsibility: Readings and Cases in a Global Context, Routledge.

【References】

1. Andrew Crane & Dirk Matten (2016), Business Ethics: Managing Corporate Citizenship and Sustainability in the Age of Globalization, Oxford Univ. Printing.
2. Charlotte Walker & John D. Kelly edited (2015), Corporate Social Responsibility? : Human Rights in the New Global Economy, University of Chicago Press.
3. Jeremy Moon (2015), Corporate Social Responsibility: A Very Short Introduction, Oxford Univ. Printing.
4. J.Okpara & S.O. Idowu edited (2016), Corporate Social Responsibility: Challenges, Opportunities and Strategies for 21st Century Leaders(CSR, Sustainability, Ethics & Governance), Springer.
5. Peter Baines (2015), Doing Good By Doing Good: Why Creating Shared Value is the Key to Powering Business Growth and Innovation, Wrightbooks.

【Grading criteria】

Participation 20%, presentation 20%, report /homework 20%, mid-term 20 %, final exam 20%

【Changes following student comments】

Students taking this course are required to have basic business management knowledge.

【Others】

A formal document of proof is necessary when you are absent from the class meetings because of recruiting interviews which are on an assigned date by the company. Absences for free selection group interviews will not be given consideration since the needs of the class have priority.

【Prerequisite】

None.

MAN300ZA (経営学 / Management 300)

Financial Statement Analysis

Karen Kai Lin Lai

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水3/Wed.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course provides a comprehensive understanding of financial statement analysis and equips students with essential knowledge and skills to evaluate companies' financial health and performance. It covers fundamental principles and theories necessary for interpreting financial statements, including understanding banking financial statements. While the course primarily consists of lectures, active participation, and class discussion are highly encouraged. By the end of this course, students will develop a comprehensive understanding of financial analysis and its crucial role in decision-making processes.

【Goal】

The goals of this course are to:

1. Understand the structure and content of financial statements.
2. Apply financial ratios and analytical techniques to assess company performance.
3. Conduct comprehensive financial analysis for decision-making processes.
4. Demonstrate critical thinking and communication skills through case studies and presentations.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

At the start of each class, quizzes will be distributed or group discussions held to help students review key concepts before beginning a new chapter. Feedback will be provided after the quizzes: answers will be provided, followed by a short discussion and revision. I highly recommend that students utilize the lecture slides available on the Hosei Learning Management System (HOPPII) both during and after class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Overview of Financial Statement Analysis (Business Analysis)	Overview of Financial Statement Analysis (Business Analysis).
3	Balance sheet, Income statement, and cash flow statements	Balance sheet, Income statement, and cash flow statements
4	Financial Ratios 1	Financial Ratios 1
5	Financial Ratios 2 (Assignment 1)	Financial Ratios 2 (Assignment 1)
6	Analyzing Financing Activities (Assignment 1 is due)	Analyzing Financing Activities (Assignment 1 is due)
7	Analyzing Investing Activities	Analyzing Investing Activities
8	Analyzing Operating Activities	Analyzing Operating Activities
9	Return on Invested Capital and Profitability Analysis	Return on Invested Capital and Profitability Analysis
10	Comprehensive case study(Group Presentation)(Assignment 2)	Comprehensive case study(Group Presentation)(Assignment 2)
11	Comprehensive case study(Group Presentation)(Assignment 2 is due)	Comprehensive case study(Group Presentation)(Assignment 2 is due)
12	Understanding Banking Financial Statements	Understanding Banking Financial Statements
13	Review	Review
14	Wrap-up and the Final Exam	Wrap-up and the Final Exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the assigned readings and slides of the next class before each class.

【Textbooks】

None. Electronic handouts and reading material will be provided.

【References】

For supplementary readings, please refer to "Financial Statement Analysis" by K. R. Subramanyam and John J. Wild (10th or 11th editions are also acceptable).

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on assignments (30%), group presentation (20%), participation (20%), and final exam (30%).

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

None.

【Prerequisite】

Basic knowledge of accounting principles and financial reporting is preferred.

MAN300ZA (経営学 / Management 300)

International Finance

Keiichiro Omae

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火6/Tue.6

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course is an advanced class to learn key concepts of international finance. We cover topics such as financial markets (money, foreign exchange, bonds, stocks, etc.) and roles of financial institutions (commercial banks, investment banks, insurance companies and various types of funds (hedge funds, pension funds, etc.)). We also cover variety of financial products such as derivatives (futures, options), structured products and cryptocurrencies.

Regardless of whether you want to work in financial industry or not, in your future professional career, you will work with global financial institutions and be impacted by international financial markets in various situations no matter what type of business you engage in. Through this course, you will obtain deep and practical understanding of financial markets, institutions and products that will be a great asset for your future career.

【Goal】

You should be able to apply theories and knowledge we learn in the class in a real-world situation. The goal of this course is to prepare yourselves to start your professional career successfully in international business environment.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This class consists of lecture and discussion based on real-world examples. In addition to a Final Exam, several mini tests (quiz) will be conducted from time to time to check your understanding of basic concepts. While class participation is also an important component of the entire grade, adoption of “cold call” or “warm call” will be decided depending upon the preparedness and enthusiasm of registered students. Feedback is given in class or after class on a group or an individual basis.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction and review of key concepts
2	Basics of Finance and Market	Understand the role of finance and market in the economy
3	The Stock Market	Understand how the stock market works including roles of Stock Exchange
4	The Bond Market	Understand how the bond market works and how the interest rates are decided
5	The Foreign Exchange Market	Understand how the foreign exchange market works
6	Derivatives	Understand derivatives such as futures, forwards and options
7	Financial Institutions and Funds	Understand roles and characteristics of financial institutions
8	Valuation (1)	Learn valuation using Discount Cash Flow method
9	Valuation (2)	Learn valuation using comparable method
10	Option (1)	Learn concept of option including “real option”
11	Option (2)	Learn option pricing model
12	Recent Topics in International Finance	To apply learned concepts to real world financial economy
13	Wrap Up	Review all concepts learned
14	Final Exam and Review	Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

You will be expected to read and digest materials distributed before each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. It is also expected to prepare questions in case you do not fully understand the facts or concepts in the materials. Detail of expected preparation for the following class will be provided in each class.

【Textbooks】

There are no textbooks required. Handouts and case studies will be distributed in advance for each class.

【References】

Zvi Bodie, Alex Kane, and Alan J. Marcus. (2021). Essentials of Investments 12th ed. McGraw-Hill. (ISBN: 978-1260772166)

Zvi Bodie, Alex Kane, and Alan J. Marcus. (2023). Investments 13th ed. McGraw-Hill. (ISBN: 978-1266837319)

(The textbooks below are discontinued and available only in libraries)

Bodie, Zvi, Robert C. Merton, and David L. Cleeton. (2009). Financial Economics. 2nd ed. Prentice Hall. (ISBN: 978-0131579521)

(Japanese Translation)

『現代ファイナンス論』(原著第2版) ボディ、マートン、クリートン著

大前恵一朗訳 ビアソン (2011) (ISBN: 978-4864010160)

【Grading criteria】

The grading will be based on the final exam (50%), quizzes/assignments (30%) and class participation (discussion, etc.) (20%).

【Changes following student comments】

None.

【Equipment student needs to prepare】

Using a laptop PC in class is permitted but not required.

【Others】

There is no prerequisite in terms of financial knowledge to take this course.

However, because this is an advanced class, basic understanding of economics and financial statements is preferred, but not required.

The first class will be held in person in class. However, please pay attention to the announcement in Hoppi and/or the class management system to confirm the format of the first class.

【Prerequisite】

None.

MAN300ZA (経営学 / Management 300)

Services Marketing

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 1/Mon.1

その他属性 : 〈優〉〈実〉

[Outline and objectives]

What are services? The service sector, which includes finance, education and tourism, now accounts for around 80% of developed countries' economies and today's graduates are highly likely to be employed in such organizations. The purpose of this course is to provide students with an in-depth understanding of the theoretical and practical processes of marketing services, with a particular focus on tourism. Driven particularly by more demanding customers and advances in technology, organizations are pursuing closer and more interactive relationships with their customers, with important consequences for marketing. It is essential for companies and destinations to understand the impact of these changes in order to maintain and develop competitive advantage.

This course will consider strategic issues in services marketing; we will also consider micro-marketing issues relating to service design, the service experience, tourist behavior and the challenges and opportunities for managers presented by recent technological developments.

Students will engage in additional learning opportunities such as group discussions and presentations. We will analyze a number of tourism-related case studies in addition to other service sectors.

[Goal]

This course aims to give students insights into the particular characteristics of marketing services such as tourism. After exploring current marketing theory on destination marketing, consumer value creation and the consumer experience, the course will apply these to the management and marketing of services.

From the consumer perspective, students will learn about consumer behavior, the impact of the service environment and forming relationships with service providers. From an organizational perspective, we will consider managing the service environment, innovation and developing service brands in order to facilitate consumer value creation and provide more memorable and rewarding experiences.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Classes will take place in an interactive environment, with students contributing through group discussions and a presentation in addition to lectures. In group projects, students will gain an in-depth understanding of a particular organization/destination and must then present the results of their analysis.

Assignments will be submitted and returned, with feedback, via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content, the class format and the field of services marketing
2	Marketing Intangible Experiences	Considering the challenges of marketing intangible experiences and utilizing the 7Ps
3	Consumer Value Creation	Considering the concept of value, and analyzing theories relating to the new marketing paradigm of value co-creation
4	The Experience Economy	Analyzing this seminal text and considering the implications for service providers as economies evolve beyond goods and services
5	The Service Experience and the Servicescape	Exploring the design of the service environment and the impact on service consumption & customer satisfaction. In addition, considering the various stages of service delivery.

6	Case Study I	An in-depth analysis of service marketing & management: examining the role of employees in facilitating consumer value creation, including intercultural sensitivity
7	Consumer Decision Making	Examining the influences on consumer decision-making and how organizations can manage these
8	Service Quality and Service Delivery	Examining consumer perceptions of quality and organizational strategy
9	Case Study II	An in-depth analysis of contemporary service marketing & management: The Kiwi Experience
10	Innovation and New Service Development	Considering the challenges and opportunities for organizations in developing new services: focus on Airbnb
11	Developing Service Brands	Investigating branding and differentiation from a tourist destination perspective
12	Group Presentations I	Student group presentations
13	Group Presentations II	Student group presentations
14	Marketing, Sustainability, Corporate Social Responsibility (CSR) & Submission of Examination	Analyzing organizational approaches towards sustainability and how organizations are adopting more responsible business approaches. Also submit examination.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned both individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

[References]

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge
Palmer, A. (2014) (7th Edition) *Services Marketing*. London: McGraw Hill
Pine, J. and Gilmore, J. (2011) (Updated Edition). *The Experience Economy*. Harvard: Harvard University Press

[Grading criteria]

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%- individually assessed)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

[Changes following student comments]

Some of the case studies have been updated to reflect the growing interest in sustainability and its importance on services marketing.

[Equipment student needs to prepare]

N/A

[Others]

Students are strongly encouraged to have taken/concurrently take **at least one** other tourism-related courses, such as the 100-level 'Introduction to Tourism Studies', the 200-level 'Event Management' and 'Tourism Development in Japan' courses or the 300-level 'Cultural Tourism' course.

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

None.

MAN300ZA (経営学 / Management 300)

Supply Chain Management

Kayhan Tajeddini

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木6/Thu.6

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Global supply chains interact with all facets of business and society. In this interdisciplinary course, students will gain a multi-faceted perspective on the global dimensions of today's business operations. Students will explore the interrelationships between global supply chains, logistics operations, society, and the environment. The study of business operations will be set in the context of social science theories and popular perspectives on the history, geography, structure and ethics of trade. Students will examine the impacts of current trade systems on both production and consumption regions and the human and environmental consequences of trade patterns.

[Goal]

1. For students to gain a multi-faceted perspective on the global dimensions of today's business operations through understanding how modern, global supply chains and logistics networks operate.
2. For students to understand the multi-disciplinary facets of how a global supply chain can be viewed, analyzed, and operated.
3. For students to explain multiple key social science theories and popular perspectives on the history, geography, structure and ethics of trade, and apply them to the analysis of supply chains.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course will be lecture, case, and discussion based. The assignments are designed to help students build skills that cover scientific, information, and communication literacy. Effort will be made to make the class both challenging and exciting.

We will use a combination of text and cases to explore and apply the topics. It is vitally important that you come to class prepared and ready to discuss the topics. If you read and prepare the materials you will learn more during the discussions and will be successful at the assignments.

Regarding the presentation and case studies, it will be explained in the first class with all guidelines, expectations and standards. The strengths and weaknesses of each presentation and reports will be discussed individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

あり /Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introductory Session Operations and Productivity	Introductory session - operations and productivity
2	Project Management	Demand forecasting in a supply chain
3	Design of Goods and Services	Concepts for product and service design that include a supply chain perspective
4	Managing Quality, Statistical Process Control	The use of statistical techniques to control a process or production method
5	Process Strategy and Sustainability	The development and implementation of process strategy the development
6	Capacity and Constraint Management, Location Strategies	Incorporating capacity issues into management
7	Midterm Exam Layout Strategies	Midterm Exam How to develop an economic layout
8	Human Resources, Job Design, and Work Measurement	How human resources, job design, and work measurement affect the organizational effectiveness
9	Supply-Chain Management	Main components of supply chain management

10	Outsourcing as a Supply Chain Strategy Inventory Management	Manage, improve and optimize the supply chain by hiring a third-party company
11	Aggregate Planning Material Requirements Planning (MRP) and ERP	Understanding the difference between ERPs and MRPs in managing different levels of performance and capabilities
12	Short-Term Scheduling, JIT and Lean Operations	Different types of production system
13	Maintenance and Reliability	The importance of maintenance and reliability management in any well-functioning production
14	Course Review Final Exam	Course review Final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete regular reading assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Jay Heizer, Barry Render, 2011, Operations Management, 10e
Principles of Operations Management, 8e
Pearson Education, Inc. publishing as Prentice Hall
ISBN-13: 9780135107263

[References]

Chopra, Sunil and Peter Meindl, *Supply Chain Management*, Sixth
Edition, Person Education, Inc., Upper Saddle River, NJ, 2015.
Johnsen, Thomas, Mickey Howard, and Joe Miemczyk, *Purchasing and
Supply Chain Management: A Sustainability Perspective*, Routledge,
2014.

[Grading criteria]

Quiz: 20%
Presentation: 20%
Midterm Exam: 20%
Final Exam: 40%

[Changes following student comments]

Student requests and comments will be taken into consideration.

[Prerequisite]

None

ECN300ZA (経済学 / Economics 300)

International Economics

Karen Kai Lin Lai

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水2/Wed.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

The course provides a thorough exploration of international trade, including core principles, theories, and practical aspects. It covers topics such as the Ricardian and Heckscher-Ohlin models, trade policies, and the functions of international economic institutions. Additionally, it addresses crises and responses within the realm of international trade. While the course primarily involves lectures, I highly encourage active participation and class discussions.

【Goal】

The goals of this course are to:

1. Understand the fundamental principles, theories, and practical aspects of international trade.
2. Evaluate the impact of various trade policies on international trade flows and economic welfare.
3. Examine the roles and functions of international economic institutions, identify crises, and analyze their responses."

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

At the start of each class, quizzes will be distributed, or group discussions will be held to reinforce key concepts before introducing a new chapter. Feedback will be provided after the quizzes: answers will be provided, followed by a brief discussion and review. I highly recommend that students make use of the lecture slides available on the Hosei Learning Management System (HOPPII) both during and after class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course	Introduction to the course
2	Absolute Advantage	Absolute Advantage
3	Ricardian Model of Comparative Advantage	Ricardian Model of comparative advantage
4	Heckscher-Ohlin Model of Comparative Advantage	Heckscher-Ohlin Model of comparative advantage
5	Intra-Industry Trade	Intra-Industry Trade
6	The Political Economy of Trade	The Political Economy of Trade
7	Midterm exam (Assignment 1)	Midterm exam (Assignment 1)
8	Trade Policy Analysis(Assignment 1 due)	Trade Policy Analysis(Assignment 1 due)
9	The World Trade Organization	The World Trade Organization
10	Preferential Trade Agreements	Preferential Trade Agreements
11	Multinational Enterprise and Foreign Direct Investment (Assignment 2)	Multinational Enterprise and Foreign Direct Investment (Assignment 2)
12	Crises and Responses (Assignment 2 due)	Crises and Responses (Assignment 2 due)
13	Review and Discussion (Global Value Chains)	Review and Discussion (Global Value Chains)
14	Wrap-up and the Final Exam	Wrap-up and the Final Exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review are required. Students are expected to read the assigned readings and slides of the next class before each class.

【Textbooks】

The primary materials for the course are the lecture slides.

【References】

For reference, please consult "An Introduction to International Economics" by Kenneth A. Reinert, Second Edition.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on Class participation (20%), Assignments (20%), Midterm exam (30%) and Final exam (30%)

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Attendance Policy

Students are permitted a maximum of two absences per semester. Those exceeding this limit must schedule a consultation with me.

Important Note:

If you have been enrolled in this class but wish to drop it, please send me an email before the second week of class.

Students who did not attend the first week (selection week) are not eligible to enroll in this class.

【NONE】

Basic knowledge of business, economics, and finance is preferred.

ECN300ZA (経済学 / Economics 300)

Stock Investment

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 2/Tue.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This is an advanced level finance course that focuses on the concepts of stock investment: characteristics of stocks, the market, stock valuation and dividend policy. Students will also apply investment theories into practice based on a virtual stock market simulation.

[Goal]

The end goal of the class is to apply the strategies of stock investment into an actual stock portfolio based on a virtual stock market simulation.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course is taught primarily through lectures and discussions. Feedback is given during class, using tools such as HOPPII or email. Interactive class participation is encouraged.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and overview
2	Basics of Stock Investing (1)	Setting up your virtual account Common approaches and risks
3	Basics of Stock Investing (2)	Snapshot of the market
4	Basics of Stock Investing (3)	Investing for growth and income
5	Investment Strategies (1)	Technical analysis (SMA, MACD, Momentum, Volume and RSI)
6	Investment Strategies (2)	Technical analysis (Dow Theory)
7	Investment Strategies (3)	Ten challenges and opportunities for stock investors
8	Investment Strategies (4)	"The Intelligent Investor" by Benjamin Graham
9	Financial Assets (1)	Financial markets and institutions
10	Financial Assets (2)	Stocks and their valuations
11	Financial Assets (3)	Valuing constant growth stocks and non-constant growth stocks
12	Distribution to Shareholders	Dividends versus capital gains
13	Stock Market Discussion	Stock market booms and crashes
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the degree to which you understand the subject

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Read the chapters in the assigned reference book as well as textbook. Update and monitor your stock portfolio constantly. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used

[References]

Mladjenovic, Paul. *Stock Investing For Dummies*, 2016.

Graham, Benjamin. *The Intelligent Investor: The Definitive Book On Value Investing*, 2016 (Revised Edition).

Brigham, Eugene, Houston, Joel F. *Essentials of Financial Management*, 4th Edition, Cengage Learning Asia Pte Ltd, 2018.

[Grading criteria]

Students will be evaluated based on class participation (20%), portfolio report (40%), and one final exam (40%).

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Others]

Preference will be given to students who have taken 'Foundations of Finance' because we will be utilizing knowledge of financial statement analysis and time value of money in this course.

Students who are interested in taking this course must attend the first week of class. A selection process will be conducted during the first week prior to the enrollment of this course.

[Prerequisite]

Foundations of Finance.

SES300ZA (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300)

International Environmental Policy

Stephen Chitengi Sakapaji

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水2/Wed.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course explores opportunities and challenges for international environmental regulations, examining the interactions between international organizations, national governments, NGOs, multinational corporations, and local communities in global environmental rule-making. Students will engage in a detailed analysis of global environmental governance, addressing key sectors such as agriculture, forestry, biodiversity, climate, urbanization, and trade. Through case studies, policy analysis, and simulations, students will develop a critical understanding of the complex dynamics involved in shaping international environmental policy.

[Goal]

By the end of this course, students should be able to:

1. Understand the historical evolution and current state of global environmental governance.
2. Identify the roles of key actors in the international environmental policy arena.
3. Analyze the interaction between global environmental policies and national/local governments.
4. Critically evaluate the effectiveness of various international environmental agreements.
5. Develop and propose policy solutions to address global environmental challenges.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

[Method(s)]

The course consists of short lectures and interactive class discussions and presentations in which students address, from a critical perspective, the topics covered each week (prepared prior to class). Feedback will be given through the following:

- Comments from submitted reaction papers and insightful comments from reaction papers will be introduced in class and used in deeper discussions.
- Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.
- In the final class, comments and explanations will be given for assignments (tests and reports, etc.) for all classes taken/held during the semester.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to International Environmental Policy	Overview of key themes, historical evolution of governance, introduction to key actors
2	Global Environmental Governance Frameworks	Discussion on multilateral environmental agreements (MEAs), principles of environmental governance
3	Role of International Organizations	Group presentations on the role of international organizations
4	National Governments and Environmental Policy	Case study: U.S. withdrawal from the Paris Agreement
5	The Role of NGOs in International Env-policy Discussions	Case study: Greenpeace's impact on global climate policy
6	Multinational Corporations and Environmental Governance	Debate on the role of corporations in environmental governance
7	Group Presentations	Group Presentations
8	Biodiversity and International Environmental Policy	Case study: International efforts to protect endangered species
9	Agriculture, Forestry, and Environmental Governance	Role-playing simulation on international deforestation negotiations

10	Urbanization, Trade, and Environmental Policy	Case study: Sustainable urban development in megacities
11	Trade and Environmental Conflicts	Case study: The tuna-dolphin dispute between the US and Mexico
12	Local Communities and International Policy	Case study: Indigenous rights in international climate policy
13	Global Environmental Justice and Equity	Group discussion on global environmental equity
14	Conclusion	Reflections on the course and the way forward for int. env. policy

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Reading of materials identified (and often provided) by the instructor; Preparation of discussion talking points and questions; Group report/presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

1. Biermann, F., & Pattberg, P. (Eds.). (2012). Global Environmental Governance Reconsidered. MIT Press.
2. Carter, N. (2021). The Politics of the Environment: Ideas, Activism, Policy (4th ed.). Cambridge University Press
3. Chasek, P. S., Downie, D. L., & Brown, J. W. (2020). Global Environmental Politics (8th ed.). Routledge.
4. IPCC reports, WTO case files, and other supplementary articles will be provided weekly.

[References]

Various references will be noted within the course materials. Each week's materials would include essential resources that would be accessed through reputable platforms such as UNEP, IPCC, CBD, WTO, and academic journals like Global Environmental Politics and Environmental Politics. These would provide comprehensive overviews, case studies, and frameworks for deeper understanding.

[Grading criteria]

1. Class Participation (30%): Active participation in class discussions/presentations/reflection paper/debates and demonstrating engagement with class readings.
2. Group Presentation (30%): Students will select a topic of their choice from a given list of discussed class topics.
3. Final Exam (40%): A mix of multiple-choice questions and short essay questions covering key concepts from five key topics discussed in class.

[Changes following student comments]

Students are encouraged to utilize the discussion time to speak in class.

[Equipment student needs to prepare]

Computer

[Others]

The instructor reserves the right to adapt this syllabus as they deem fit during the course of the semester. Students will be promptly informed of any such changes in class.

[Prerequisite]

none

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

Globalization and Politics

Jenny Balboa

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course aims to examine the current global political issues and their implications. The rise of populist and authoritarian leaders in many parts of the world – in the US, Europe, and Asia – had threatened global stability and the future of democracy. The reelection of Trump as US President is creating uncertainty in the polarized US politics and has a far-reaching impact on global politics. The UK's vote for Brexit provided a striking image of the power of far-right movements in the UK and Europe to influence the politics and policies of a country. The resurgence of these movements is fueled not only by the people's frustrations with traditional institutions, but also by post-truth politics, denialism, and fake news which imperil civic engagement and democratic ideals. These developments are thought to be connected to the negative consequences of globalization, notably the deepening of inequality, the cultural clash, and the divide of values, which led to social and economic fragmentation and political polarization. Adding to the global anxiety are the conflicts and wars in various parts of the world, and Trump's unorthodox leadership style. These crucial global events and issues need thorough examination and reflection since they significantly affect our lives, the future of democracy, and the rules-based international order. At the same time, we need to understand our options, as well as the appropriate choice of policy actions to counter the negative impacts of the social, economic and political changes that are brought by these challenges.

[Goal]

In examining globalization and political change, the course aims to answer three questions: 1) What are the impacts and consequences of globalization? 2) What are the recent trends in global politics? and 3) What is the future of globalization and politics?

Globalization has provided opportunities for international cooperation and for minor voices to be heard; however, it has also become a significant source of domestic and global friction and instability. Globalization has both positive and negative consequences. We need to understand how we can benefit from its positive impact, and as much as possible, work on how the positive benefits can be harnessed. Meanwhile, we also need to carefully study the negative impact, and how they can be managed, reduced, or even eliminated. This course will help you develop a deeper understanding of contemporary political issues and strengthen your ability to analyze the impact of crucial global events. With these, we will engage in exercises that will improve your critical thinking skills, as well as help you effectively communicate your ideas and personal reflections on the reading materials and current events. The final exam will be an objective and essay and test on what you learned from the key themes of the course.

We will have active learning tasks composed of group discussions and individual student reports that will help you improve your confidence in presenting your ideas clearly and logically.

To receive credit from the class, you need to attend the lectures, participate in the active learning tasks, submit a mid-term reflective essay, and pass the final examinations, which require you to read and reflect on the materials provided.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

The class combines lectures with active learning tasks, such as group reports, debates, and individual presentations. To make the class more lively and interesting, you are encouraged to participate actively and share your opinion regarding the topic of the day and the reading materials. The first half of the course tackles the nature, impact, and consequences of globalization. The second half of the course examines the recent trends and future direction of globalization and politics.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. Feedback will be provided in the Midterms and Final Exams.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview of the Course	Outline of the course, definition of terms, explanation of course requirements
2	Impact and Consequences of Globalization (a)	Nature and consequences of globalization/Group assignments are decided
3	Impact and Consequences of Globalization (b)	Globalization and inequality/Individual report topics are discussed and decided
4	Impact and Consequences of Globalization (c)	Global rift, resistance and backlash/Individual Report topics are discussed and decided
5	Active Learning 1: Task Group presentation	Group Presentation and Discussion
6	Recent Trends in Global Politics (a)	Post-truth politics and Identity politics
7	Recent Trends in Global Politics (b)	Populist and authoritarian leaders
8	Recent Trends in Global Politics (c)	Illiberal democracy
9	Recent Trends in Global Politics (d)	Brexit and the Far Right Movement in Europe
10	Active Learning Task: 1st Group	Individual student report
11	Active Learning Task: 2nd Group	Individual student report
12	Active Learning Task: 3rd Group	Individual student report
13	The Future of Globalization and Politics and Wrap-up /Review	Strategies to counter populism, illiberalism and deniers of history and science & Wrap-up discussion/Review
14	Course Review	Final examination

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class is at least 2 hours each for every meeting. The students are expected to read the assigned materials prior to class and conduct research for the active learning tasks.

[Textbooks]

Class materials will be provided by the Instructor.

[References]

Arendt, Hannah. 1967. Truth and Politics. The New Yorker. February 25, 1967. Accessed at <https://www.newyorker.com/magazine/1967/02/25/truth-and-politics>
Case, Anne & Angus Deaton. 2020. Deaths of Despair and the Future of Capitalism. Princeton University Press.
Frieden, Jeffry. 2017. The Politics of Globalization and Backlash: Sources and Implications. Conference Paper, American Economics Association, January 6, 2018.
<https://institute.global/policy/high-tide-populism-power-1990-2020>
https://scholar.harvard.edu/files/jfrieden/files/the_political_economy_of_the_globalization_backlash.pdf

- Fukuyama, Francis. 2018. Against Identity Politics: The New Tribalism and the Crisis of Democracy. Council on Foreign Relations: Foreign Affairs. <https://www.foreignaffairs.com/articles/americas/2018-08-14/against-identity-politics-tribalism-francis-fukuyama>
- Huntington, Samuel. 1991. Democracy's Third Wave. *Journal of Democracy*. Spring 1991.
- Huntington, Samuel. 2011. "The Clash of Civilizations?" In *Essential Readings in World Politics*. Mingst, Karen and Jack Snyder (eds). The Norton Series in World Politics. (pp. 159-166)
- Kyle, Jordan and Brett Meyer. 2020. High Tide? Populism in Power, 1990-2020. Tony Blair Institute for Global Change. Accessed at <https://institute.global/policy/high-tide-populism-power-1990-2020>
- Milanovic, Branko. 2016. *Global Inequality*. Cambridge, Massachusetts, London: The Belknap Press of Harvard University Press. Chapters 1&3.
- Milner, Helen. 2018. Globalization and its Political Consequences: The Effects on Party Politics in the West. APSA Conference Paper, 2018. https://scholar.princeton.edu/sites/default/files/hvmilner/files/milner_globalization_political_consequences.pdf
- Ott, Brian & Greg Dickinson. 2019. *The Twitter Presidency: Donald J. Trump and the Politics of White Rage*. Routledge Focus.
- Rodrik, Dani. 2000. "Has Globalization Gone Too Far?". In *The Global Transformations Reader*. David Held and Anthony McGrew (Eds). Polity Press. Chapter 28.
- Sen, Amartya. 2004. "How to Judge Globalism." In *The Globalization Reader*. Frank Lechner and John Boli (Eds). Blackwell Publishing.
- Sen, Amartya. 2004. "Universal Truths: Human Rights and Westernizing Illusion". In *Essential Readings in World Politics*. Mingst, Karen and Jack Snyder (eds). The Norton Series in World Politics.
- Zakaria, Fareed. 1997. *The Rise of Illiberal Democracy*. Accessed at <https://www.foreignaffairs.com/articles/1997-11-01/rise-illiberal-democracy>

[Grading criteria]

Grading Criteria:

- 1) Class participation — 10%
- 2) Active learning tasks — 30%
- 3) Midterm Reflective essay— 20%
- 4) Final Examination — 40%

Notes:

- a) For the active learning tasks, other than applying what you learned in class, the activities also aim to enhance your presentation and team work skills. Excellent marks will be given to well-prepared, interesting presentations.
- b) Class participation – excellent marks will be given to those who raise relevant issues, contribute in class discussions in ways that reflect the reading materials, and treat the opinions of others with respect.

[Changes following student comments]

The active learning tasks may change depending on class size.

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

There are strict university guidelines about plagiarism and AI (ChatGPT, Grammarly, etc) use. You may not use AI-generated work and pass it as your own for your class reports and essay tests. This would qualify as cheating and could result in disciplinary action. If you are using the work of others, including AI use, you need to cite them in your essay and reports.

[Prerequisite]

None.

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

International Relations of the Asia-Pacific

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木3/Thu.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course will explore the nature of international relations in the Asia-Pacific. It will mainly examine and discuss the following: (1) factors for stability and peace in the Asia-Pacific region after the end of the Cold War; (2) roles for the great powers in the region: the United States, China, and Japan; (3) problems and prospects for regional security and economic cooperation; (4) the evolution of regional institutions; (5) the prospects for regional order.

【Goal】

The course objectives are: (1) to develop students' ability to effectively use IR theories to analyze and explain developments in regional affairs; (2) to enable students to analyze the foreign policies of the major powers and selected regional countries; (3) to enable students to assess the developments of regional institutions; (4) to enable students to examine and assess the status and prospects for regional order.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

This course is composed of twelve lectures. In each class, a background lecture on a pre-selected topic will be provided to students. After a lecture, there will be a discussion. While the lectures will provide an overview of the topics in question, the discussions will give students an opportunity to examine policies in more depth.

Comments for assignments are given during class and office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	The United States and the Asia-Pacific	Examining US foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
3	China and the Asia-Pacific I	Examining China's foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
4	China and the Asia-Pacific II	Examining China's foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
5	Japan and the Asia-Pacific I	Examining Japan's foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
6	Japan and the Asia-Pacific II	Examining Japan's foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
7	Review and Mid-term exam	Written test and review
8	The Development of ASEAN	Investigating the processes behind the development of ASEAN
9	Economic Cooperation and Integration in the Asia-Pacific	Investigating the problems and prospects for regional economic cooperation
10	Security Cooperation and Multilateralism in the Asia-Pacific	Investigating the problems and prospects for regional security cooperation
11	Prospects for Regional Order in the Asia-Pacific I	Examining prospects for regional order
12	Prospects for Regional Order in the Asia-Pacific II	Examining prospects for regional order
13	Review	Review of lectures from week 2 to 12

14 Final examination Written test and review and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to have pored over assigned readings before attending the lectures. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course. Students are required to read the journal articles and the book chapters specified in the reading list.

【References】

David Shambaugh and Yahuda, Michael Yahuda, eds. *International Relations of Asia*. Third edition. Rowman & Littlefield Publishers, 2022. Michael Yahuda. *The International Politics of the Asia Pacific*. Fourth and revised edition. Routledge, 2019.

Michael K. Conors, Rémy Davison and Jorn Dosch, eds. *The New Global Politics of the Asia-Pacific*. Third edition. Routledge, 2017.

Saadia Pekkanen, John Ravenhill and Rosemary Foot, eds. *The Oxford Handbook of the International Relations of Asia*. Oxford University Press, 2014.

Wallis, Joanne Wallis and Andrew Carr, eds. *Asia-Pacific Security: An Introduction*. Georgetown University Press, 2016.

【Grading criteria】

Contribution to discussion (10%), Mid-term Examination (45%), Final Examination (45%)

【Changes following student comments】

Handouts to be provided in a timely manner.

【Equipment student needs to prepare】

Course materials will be delivered via the Hoppii.

【Others】

none.

【Prerequisite】

Students wishing to take this course are required to have completed "Introduction to International Relations"

Non-GIS students wishing to take part in this course should have a basic knowledge of International Relations theories and adequate English skills to complete the course work and assignments.

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

Advanced Comparative Politics

Sam-Sang JO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This advanced comparative politics course is designed to significantly enhance students' comprehension of the subject matter by broadening and deepening their knowledge, as well as enhancing their problem-solving abilities. Building upon the foundational concepts covered in "Introduction to Comparative Politics," the course navigates into more intricate aspects, facilitating a comprehensive exploration of the crises and challenges faced by political institutions. Specifically, the course undertakes a nuanced examination of the causes of crises and challenges to political institutions, requiring students to engage in a profound study encompassing modernization theory, its critics, nation-building, political development, parliamentary government, presidency, authoritarian institutions, regional institutions, the crisis of democracy, the populist explosion, a third wave of autocratization, and inequality. The goal is not only to develop a nuanced understanding of these critical topics but also to present a promising avenue for enhancing students' problem-solving abilities. This strategic approach aims to empower students with the tools to address real-world challenges within political institutions and to actively contribute to the improvement of political institutions, fostering a comprehensive skill set that goes beyond theoretical knowledge.

[Goal]

The overarching goal of this course is to deepen students' understanding of key crises and challenges faced by political institutions while enhancing their problem-solving abilities. Additionally, the course aims to refine students' skills as critical thinkers, analysts, and effective communicators. It is hoped that by the end of the semester students will find the course to be informative, interesting and enjoyable.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Students are expected to engage in an appropriate amount of reading and will be evaluated through class participation, a mid-term exam, presentation, and short essay.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theoretical Approach: Modernization Theory and its Critics	Samuel P. Huntington. 2006. "Political Order and Political Decay." In <i>Political Order in Changing Societies</i> . New York: Yale University Press.
3	The Historical Context: Nation-Building and Political Development	Francis Fukuyama. 2015. "What is Political Development?" In <i>Political Order and Political Decay: From the Industrial Revolution to the Globalization of Democracy</i> . New York: Profile Book.
4	Parliamentary Government	Arend Lijphart. 2012. "The Westminster Model of Democracy." In <i>Patterns of Democracy: Government Forms and Performance in Thirty-Six Countries</i> . Yale University Press.
5	Presidency	Matthew Soberg Shugart. 2008. "Comparative Executive-Legislative Relations." In <i>The Oxford Handbook of Political Institutions</i> . R. A. W. Rhodes and Sarah Binder (eds.). Oxford: Oxford University Press.

6	Authoritarian Institutions	Daniel Bell. 2016. "Preface to the Paperback Edition." In <i>The China Model: Political Meritocracy and the Limits of Democracy</i> . New Jersey: Princeton University Press.
7	Beyond the Nation-State: Regional Institutions	Donald J. Puchala. 2000. "Building Peace in Pieces: The Promise of European Unity." In <i>The Global Agenda</i> , Charles Kegley and Eugene Wittkopf (eds.). New York: McGraw-Hill, Inc.
8	Mid-term exam	Review
9	The Crisis of Democracy: Political Decay	Francis Fukuyama. 2015. "America the Vetocracy." In <i>Political Order and Political Decay</i> .
10	The Populist Explosion: Populism and Euroscepticism	John B. Judis. 2016. "The Rise of European Populism." In <i>The Populist Explosion: How the Great Recession Transformed American and European Politics</i> . Columbia Global Reports.
11	A Third Wave of Autocratization	Sergei Guriev and Daniel Treisman. 2023. "Fear and Spin." <i>Spin Dictators: The Changing Face of Tyranny in the 21st Century</i> . New Jersey: Princeton University Press.
12	Industrial Policy and Its Discontents: Inequality and Supercapitalism	Robert Reich. 2008. "The Paradox." In <i>Supercapitalism: The Transformation of Business, Democracy, and Everyday Life</i> , New York: Vintage.
13	An Alternative to Electoral Democracy?	No readings assigned Recommended: Daniel Bell. 2016. "Is Democracy the Least Bad Political System?" In <i>The China Model: Political Meritocracy and the Limits of Democracy</i> . New Jersey: Princeton University Press
14	Oral Presentation	Students must present your chosen essay topics to your peers. You are expected not only to provide an analysis for the identified issue but also to propose fresh ideas for the improvement of political institutions. The oral presentation should be around 5-6 minutes.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

In order to get the most out of class, you must be prepared when you come to class. Students are required to complete the readings prior to class meetings and to come to class ready to discuss them. I expect everyone to participate actively in the discussion of the day. The class is organized around the required readings and their topics. Every student should be able to summarize, analyze, synthesize, and evaluate each assigned reading by addressing the following questions:

- What is the author's purpose?
- What is the basic theme(s) or argument(s) of the reading?
- What are the most important historical events, information, concepts, etc. discussed in the reading?
- How does this reading relate to the other readings and to the central themes of the course?
- How powerful or weak is the argument and the evidence? Why?

[Textbooks]

A course packet containing assigned articles and book chapters will be posted in Hoppii.

[References]

Francis Fukuyama. 2015. *Political Order and Political Decay: From the Industrial Revolution to the Globalization of Democracy*. New York: Profile Book.

[Grading criteria]

class participation (20%), a mid-term exam (30%), presentation (20%), and short essay (30%)

[Changes following student comments]

Nothing in particular.

[Others]

· If you have any questions or complications that we should be aware, feel free to contact me. The best way to contact me is probably through email. My email address: samsangjo@gmail.com

・ The class will be structured around what I call a class dialogue in which information, knowledge, and thought will be generated through lecture, discussion and, in particular, the Socratic method. I will often play the role of provocateur and advocate to stimulate participation. The class dialogue emphasizes the importance of student participation and active learning as a means to improve one's skills, interest, information, knowledge, and, ultimately, understanding. In essence, class discussions will consist of an active exchange between the student and professor.

[Prerequisite]

None.

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

Global Political Economy

Nathalie Cavasin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水4/Wed.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

We will examine the structure of the contemporary global political economy. Students will be introduced to the theories, debates and paradigms using case studies to develop an understanding of the global political economy. Students will also debate on the new political economy landscape and its effect on the global supply chain, the war in Ukraine, the war in the Middle East, the global rise in resource nationalism, the increase of state intervention in the economy, the global environmental governance among other topics. Specific attention will be put on the role of China and its increased participation in the global political economies, the geopolitical tensions in the world and the recent trends regarding India's new enthusiasm in the new globalization regime.

[Goal]

Students through the assignments that are based on current events in the world (analysis with back-up from recent news) will be able to learn to express their opinions and develop their critical thinking skills.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Each week, in addition to readings to be done, written assignments will be assigned. These written assignments are mandatory as they are included in the evaluation. In addition, there will be an individual essay with a group presentation (topic to be decided later with the supervision of the professor) a book review project (on selected chapters) to be written and a critical written assignment during the last class. Students will receive written feedback (eventually oral feedback and mini-discussions with the professor in class) from the professor.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview of the Course	Introduction and overview of the course
2	Understanding the Evolution of the World Economy	Evolution of the world economy from the industrial revolution
3	Post-war Global Economy	The global economy: from 1945 to today
4	International Trade Patterns	International trade
5	- Transnational Production Systems	Transnational production - Discussion on the impact of transnational corporations
6	How the Global Financial System Operates	The global financial system Decision on the topics for the essay-presentation project
7	- International Division of Labor - Analyzing Women in the World Economy	The international division of labor
8	Understanding the Notion of Development Today	Economic development
9	Discussion and Debate Essay - Submission (group 1)	Political economy of gender
10	What are the Most Challenging Environmental Issues Today in the World? Essay-Presentation (group 1) Essay - Submission (group 2) Ideas on Global Political Economies	Global environmental changes

11	Essay-Presentation (group 2) Looking at the Security in Political Economy Essay - Submission (group 3)	Political economy of global security
12	Essay-Presentation (group 3) How Domestic and International Politics & Determine and Impact on How the Global Economy is Functioning Essay - Submission (group 4) Short Book Review Assignment in Class	Theoretical perspectives on global political economy
13	Essay-Presentation (group 4)	Governing the global political economy I
14	Critical Review of an Academic Paper: In-class Assignment	Governing the global political economy II

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Be always ready by preparing the pages of the readings given in advance before coming to the next class. Additional homework will be assigned such as preparing an update with a current affair in the world related to the discussion/class contents. It is expected to read newspapers and news magazines several times a week. Students will need to update themselves with current news to stay informed about key issues and debate both within Japan and in the world. Students should prepare the work for the essay and book review at the date defined in the course agenda table. Preparatory study and review time for this course are an average of 4 hours each week.

[Textbooks]

O'Brien R., and Williams M., *Global political economy: evolution and dynamics*, London, Bloomsbury Academic, 2022.

Additional materials will be distributed in class by the professor.

[References]

Examples of on-line websites to access the news:

- The Financial Times
- The New York Times
- The Financial Times
- The Guardian
- The Economist
- Foreign Affairs
- The Wall Street Journal
- Time
- Nikkei Asia
- Foreign Policy

[Grading criteria]

Participation (10%)

Participation (news debriefing report and one news report presentation, presentation related to homework) (20%)

Book Review (25%) (written assignment in Class 12)

Essay (20%) (Submission from Class 9 to 12(according to group number))

Final: (Written assignment in class- critical review of an academic paper) (25%)

[Changes following student comments]

N/A

[Equipment student needs to prepare]

The professor may request that you use a computer, tablet or smartphone in order to access the Internet to prepare for the discussion or fact-check during the class. Otherwise, such devices cannot be used.

[Others]

- Taking photos in class (the slides or notes on the board or in the class) is not allowed unless requested by Hosei University. Recording in class is not allowed.

- AI (Artificial Intelligence) type of software is not allowed to be used for discussions in class or for written assignments in this course. Write all the assignments in your own words by using appropriately the academic sources from scientific journals.

[Prerequisite]

N/A

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

International Development Policy

Ippeita Nishida

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

International development policies have been formulated along two domains, one by the donor coordination group (i.e. providers of Official Development Aid), traditionally represented by the OECD-DAC and another at the multilateral agenda setting forum such as the United Nations. Then, increasingly, voices of the emerging economies such as India are assuming more weight than before. While these serve the purpose of advancing the lives of people and discussions are mutually-related, each has distinct interests and constraints. In this course, we aim to understand how international development policy/agenda is being formulated and what the current (and future) issues are. Specifically, students will explore: (1) the rationale and evolution of development policies by the donor community, (2) the more holistic and people-centered agenda setting at the United Nations and (3) interests of the emerging donors and current policy issues that would impact on the policies of international development, such as the "Global South" debate, the great power competition, and deterioration of international cooperation, etc.

【Goal】

The course objectives are:

- 1) To enable students to assess the development policy debates from multiple aspects.
- 2) To make students able to differentiate development agenda formulation process at different stakeholder groups.
- 3) To equip students with the holistic understanding of the on-going issues that affect on the process of global development, through groupwork and discussion.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This class will have lectures and interactive discussions, as well as group/individual presentations where appropriate. Active participation is required. Students will undertake a final exam and have occasional quizzes and short papers to write. In addition to general feedback, insightful comments may be introduced in class to deepen discussions.

The course is composed of three parts. The first part (weeks 3-6) will have lectures on debates among traditional donors. In the second part (weeks 7-9), lectures will cover key discourses at the United Nations such as the basic human rights and the Sustainable Development Goals. The third part (weeks 10-13) will examine current policy issues that are related to development. Students may be tasked to do small researches and make individual/group presentations.

Except the first day, in principle, this class will adopt the face-to-face format, to allow students' direct interaction. Yet, it may use the online platform when necessary (in such case, students will be notified in advance). When possible and appropriate, on-going global events that relate to the course's subject will be touched. Also, pending on students' interests and availabilities of the host, one or two fieldwork trips may be introduced.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	・ Introduction
2	Overview of Discourse	・ History and institutions, and stakeholders ・ Emergence of the voice from "the South"
3	Concept of Aid	・ Concept of helping others, aid by state
4	Foreign Aid and ODA	・ Uses of "aid" in foreign policy ・ “Official Development Assistance (ODA)”, Role of DAC
5	Debates over the Responsibility	・ Aid effectiveness ・ Financing aid ・ Common But Differentiated Responsibility (CBDR)
6	Donors' Policy	・ National agenda and policy orientation (case studies)
7	United Nations	・ Mandates and structure for development ・ Human rights and people-centric approach
8	SDGs	・ Formulating the “Sustainable Development Goals (SDGs)”
9	Synthesis Discussion 1	・ Reconciling states' interests and global agenda
10	Current Policy Issues 1	Contesting strategy and approaches to development: China's BRI and Japan's FOIP
11	Current Policy Issues 2	・ Debates on the "Global South"
12	Current Policy Issues 3	・ Impact of emerging donors
13	Synthesis Discussion 2	・ Impact of Trump 2.0 on international cooperation
14	Final Exam & Wrap-up	・ Considering the world we live and the role of development cooperation ・ In-class ・ Review of the learnings.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Occasional reading and writing assignments. Individual and/or group work for presentation. Preparatory study and review time for this class are expected about 2 hours each.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course. Students are required to read handouts and suggested articles/chapters from the references. Students may also be requested to watch short online videos at home.

【References】

Students are encouraged to read following references to further their understandings.

OECD (2006), *DAC in Dates: The History of OECD's Development Assistance Committee* (available online at www.oecd.org/dac/1896808.pdf)

Lancaster, Carol (2007), *Foreign Aid: Diplomacy, Development, Domestic Politics*, University of Chicago Press

UN Document, A/RES/70/1, 21 October 2015 *Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development* (available online at <http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>)

Sachs, Jeffrey D (2015), *The Age of Sustainable Development*, Columbia University Press

Wickstead, Myles A. (2015) *Aid and Development: A Brief Introduction*, Oxford University Press

Hynes, W. and S. Scott (2013), *The Evolution of Official Development Assistance: Achievements, Criticisms and a Way Forward*, OECD Development Co-operation Working Papers, No. 12, OECD Publishing
(available at <http://dx.doi.org/10.1787/5k3v1dv3f024-en>)

[Grading criteria]

Class Participation: 20%

Quiz, Short Papers, etc.: 40%

Final Exam: 40%

[Changes following student comments]

Constructive comments and feedback from students are always welcomed and will be taken into consideration.

[Equipment student needs to prepare]

None in the class.

But, access to PC/electric device and Wi-Fi may be required, when class is held on-line (e.g. first class).

[Others]

For students to successfully complete the class, basic understandings of the development theory, development thoughts as well as international relations are needed. GIS students wishing to register for this class are recommended to have taken "Introduction to Development Studies" and/or "Development Studies". Also, knowledge of international relations, international organizations and foreign policy will be of benefit, etc. Those who are keen to learn on-going global affairs may also find some of the class contents interesting.

*There are minor modifications on the contents and procedure of the class from previous years.

[Prerequisite]

None (see "Others" for recommended classes).

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

International Law

Kiyoshi Adachi

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水 4/Wed.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course aims to provide students with a basic understanding of international law, with a particular emphasis on the impact that international law instruments and practices have on national laws and policies. The course begins with an introduction to general principles of international treaty and customary law, examining important cases and doctrines that have developed over time. The first part of the course will conclude with a framework of analysis that students may consider in assessing both the respective merits and limitations of international law instruments. The second part of the course will look at how international law has attempted to shape the world we live in by examining selected areas where it has tried to influence human behavior, including security, human rights, the environment, health, trade/investment and other commercial issues, and the global commons. This year's course will be offered online by a Legal Officer of the United Nations.

【Goal】

At the end of the course, students should be able to have a basic understanding of international law instruments, with an emphasis on recognizing the impact and limitations of treaties in their historical, economic, social and political contexts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

The course will be conducted using lectures, group discussion and exercises, and one negotiation simulation exercise. As an online course, students will need access to the Internet. Writing assignments will include a case brief, mid-term exam and final exam. All assignments will be returned graded with feedback within a week.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Introduction to International Law	Introduction to International Law
2	Treaties	A Brief History of Treaties The Vienna Convention; How to Read Cases and Write a Case Brief
3	Resolving International Disputes	International, Regional and National Courts, Arbitration, Jurisdiction
4	Treaties Related to Security Issues	Treaties and Wars - Versailles, Potsdam and San Francisco; The UN Charter; Treaties Limiting Arms (Nuclear Arms, Chemical/Biological Weapons, etc); Bilateral and Multilateral Approaches
5	Treaties Related to Humanitarian Issues	The Geneva Conventions; The 1951 Refugee Convention and 1967 Protocol Group Exercise: Applying the Refugee Convention; A Framework for Analyzing Treaties
6	Human Rights	Universal Declaration of Human Rights; International Covenant on Civil and Political Rights International Covenant on Economic and Social Rights; Convention on the Rights of the Child; Convention on the Elimination of All forms of Discrimination against Women

7	Mid-Term Examination	Examination will be distributed to students at the beginning of the period and due at the end of class
8	Health-related Treaties	The UN Drug Control Conventions (1961, 1971 and 1988); Case Study - The Curious Case of Cannabis; Framework Convention on Tobacco Control
9	Review Mid-Term Examination. Treaties on Economic, Commercial and related Issues	Policy Space and Developing Countries; The WTO Agreements - Multilateral Agreement on Trade in Goods; Agreement on Trade-related aspects of Intellectual Property Rights; Bilateral and Plurilateral Preferential Trade and Investment Agreements; US, Japanese and European Bilateral Agreements; CPTPP; Interface between Commercial and other issues
10	Treaties on Economic, Commercial and related Issues	Policy Space and Developing Countries; The WTO Agreements - Multilateral Agreement on Trade in Goods; Agreement on Trade-related aspects of Intellectual Property Rights; Bilateral and Plurilateral Preferential Trade and Investment Agreements; US, Japanese and European Bilateral Agreements; CPTPP; Interface between Commercial and other issues Case Study: Plain Packaging of Tobacco Products in Australia Explanation of the Group Simulation Exercise
11	Group Simulation Exercise	Negotiating a Bilateral Trade Agreement
12	Environmental Treaties	CITES, Convention on Biological Diversity, UNFCCC/Paris Agreement
13	Global Commons	Law of the Sea - UNCLOS World Heritage, Antarctica
14	Final Examination and Wrap Up	Examination will be distributed to students at the beginning of the period and due at the end of class

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to attend the online classes and read weekly assignments ahead of the session for which it is assigned. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Klabbers, *International Law*, 4th Ed., Cambridge University Press. case readings, treaty text, articles as assigned

【References】

Additional reference material will be provided in class.

【Grading criteria】

1 Case Brief Writing Assignment 10%
1 Mid-Term Examination 35%
1 Final Examination 35%
Group Work and Participation 20%

【Changes following student comments】

n/a

【Equipment student needs to prepare】

As an online course, students should have access to the internet and a quiet place to listen to the lectures, participate in group work, as well as to take the mid-term and final examinations.

【Others】

In delivering the course, the instructor will draw upon his experience as a legal officer with the United Nations.

【Prerequisite】

None.

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

Peace Building

Aigul Kulnazarova

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水 4/Wed.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course explores the emerging field of peacebuilding in international relations, with a focus on the social, economic, and political dynamics of war and peace, conflict prevention and resolution, use of force, and other related issues. The course is designed for upper-level undergraduate students specializing in global studies, international relations, security studies, and similar programs. Building on lectures, readings, and case studies, the course aims to enhance students' understanding of critical issues and challenges related to international peacebuilding processes, as well as their transformation in today's global politics. Students will engage with theoretical and policy debates while developing analytical skills essential for evaluating peacebuilding efforts at international, regional, and local levels.

[Goal]

By the end of the course, successful students will be able to:

- Explain various conceptual and theoretical frameworks of peacebuilding in international relations.
- Analyze the legal, political, and ethical aspects of armed conflicts and their resolution in accordance with international law.
- Identify links between humanitarian interventions and prospects for sustainable peacebuilding.
- Understand the growing role of humanitarian factors as well as their specific challenges and constraints in post-conflict peacebuilding.
- Integrate knowledge, skills, and competencies in peace and conflict studies, international relations, international law, and the emerging field of peacebuilding.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This class will follow the GIS standard curriculum and teaching approach, which is primarily lecture-based. The class will meet once a week for 100 minutes. Approximately 85 minutes will be dedicated to lectures, and the remaining 15 minutes will be set aside for students to ask questions related to the week's topic. There will be two timed exams, one in Week 7 and another in Week 14. Each exam will include multiple-choice, true/false, and short-answer questions. Additionally, the final exam will feature two essay questions. Both exams will be timed, closed book, and will take place during class time. No materials, including student notes, will be allowed during the exams (For additional information about the exam policy, see “Others”). The midterm exam (Week 7) will cover the lectures from weeks 1 through 6, while the final exam (Week 14) will cover the lectures from weeks 1 through 13. Retakes will not be allowed. Students are expected to attend classes, take notes, and review the content covered to succeed in these exams. In the interim between the two exams, there will be short-response assignments in Week 2, Week 4, and Week 9 to test students' cognitive, independent learning and critical thinking skills. These assignments will reflect the topics covered during those weeks, as well as the associated reading materials.

Feedback on written assignments completed online will be provided individually after results and grades are announced. If students need a more detailed explanation, they are encouraged to reach out to the professor separately (outside of class time is acceptable).

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Peacebuilding	Definition of peacebuilding and its significance in international relations. Historical context: peacebuilding in the post-World War II era. Key concepts: conflict, peace, security, peacebuilding.

2	Theoretical Diversity: Conflict and Peace	Theories of conflict (realist, liberal, constructivist). Theories of peace (negative vs. positive peace, transformative peace). The role of international law in conflict resolution.
3	Conflict Prevention and Early Warning Systems	Definition of conflict prevention. The role of diplomacy and international organizations. Early warning signs and peacekeeping missions.
4	The Role of the United Nations in Peacebuilding	Overview of UN peacekeeping and peacebuilding operations. Case studies: Bosnia, Rwanda, and East Timor. Criticisms and reforms of UN peacebuilding efforts.
5	Use of Force	Legal and ethical considerations in the use of force. Just War theory and Responsibility to Protect (R2P). UN Charter, state sovereignty, and military interventions. Case studies: Iraq, Afghanistan, Russia-Ukraine conflict.
6	Humanitarian Intervention	The evolution of humanitarian intervention. Sovereignty vs. human rights: dilemmas and debates. The role of international organizations and coalitions in humanitarian intervention. Case studies: Kosovo, Libya, Syria.
7	Review.	Review (Weeks 1-7). Timed, closed-book exam.
8	Midterm Exam Peace Agreements	Components and structures of peace agreements. The role of international mediators (UN, regional organizations, etc.) Case studies: Dayton Accords, Good Friday Agreement, Sudan Peace Agreement. Challenges of implementation and enforcement. The role of spoilers.
9	Peacebuilding I: International and Regional Frameworks	UN peacebuilding architecture. The role of regional organizations. Post-conflict reconstruction and reconciliation strategies. The Sustainable Development Goals (SDGs) and peacebuilding.
10	Peacebuilding II: Local Contexts and Development	Role of “The Local” in peacebuilding. The role of civil society and grassroots peacebuilding initiatives. Economic reconstruction and post-conflict recovery. State-building, governance, and institution-building. The role of education, media, and cultural heritage in peacebuilding.
11	Peacebuilding III: Human Security, Human Rights and Governance	Human security vs. traditional security paradigms. Transitional justice, truth commissions, and reconciliation mechanisms. Strengthening rule of law and democratic governance. Protection of minorities, refugees, and displaced populations.
12	Peacebuilding IV: Women, Peace, and Security	The significance of UN Security Council Resolution 1325. Gender-sensitive approaches to peacebuilding and conflict resolution. Women's roles in mediation, negotiation, and post-conflict reconstruction. Case studies of women-led initiatives.

13	Challenges of Peacebuilding for the 2020s. The Future of Peacebuilding	Emerging security threats: climate change, cyber conflicts, AI in warfare. Hybrid warfare and the role of non-state actors in conflict. The crisis of multilateralism and the future of international peacebuilding.
14	Wrap-Up. Final Exam	Wrap-up (Weeks 1-14). Timed and closed book exam.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class is 2 hours per week.

[Textbooks]

There are no required textbooks for this course.

[References]

Weekly readings selected from academic journals will be posted on Hoppii.

[Grading criteria]

Short-response assignments - 30%

Midterm exam - 30%

Final exam - 40%

Note: The overall score reflects participation and learning attitude, which are assessed as part of the three components above.

For additional information about the exam policy, see “Others”.

[Changes following student comments]

Any changes made to the syllabus are based on the instructor’s reflection and not directly influenced by student feedback.

[Equipment student needs to prepare]

Students are NOT allowed to use electronic devices (including smartphones, PCs, etc.) during class. They are strongly encouraged to take notes from lectures each week using a good set of pens and notepads to pass exams. No lecture material will be posted online.

[Others]

Exam Policy:

The midterm and final exams are closed book. Students will not be permitted to use notes, textbooks, electronic devices, or any external materials during the exam. Any student found violating this rule will be disqualified from the exam and will receive a score of zero (0) for that assessment. Cases of academic misconduct will be reported in accordance with university policies.

Attendance Policy:

Attendance in all classes is expected as part of the university’s academic regulations. Absences without legitimate documentation, such as a doctor’s certificate, will not be accepted. In accordance with the GIS rule, absences due to job hunting or similar activities will not be considered valid excuses.

[Prerequisite]

No course prerequisites are required.

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

Strategic Studies

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
 Day/Period : 木3/Thu.3
 Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈ゲ〉〈優〉

【Outline and objectives】

This course covers the studies of grand strategy in international relations (IR). Grand strategy is the comprehensive framework that guides a state's efforts to coordinate and employ its military, economic, diplomatic resources to achieve long-term national objectives, often in the face of changing strategic environment. The course examines a wide range of issues in the field, ranging from the historical evolution of and theoretical perspectives on grand strategy, material and ideational foundations of grand strategy, domestic and external challenges facing state leaders in crafting and implementing their nation's grand strategy, to empirical case studies of major countries' grand strategies.

【Goal】

The course objectives are: (1) To enable students to broadly understand the concept and theories of grand strategy in IR; (2) To enable students to comprehend material and ideational sources of grand strategy; (3) To enable students to understand domestic and international challenges that state leaders face in designing and applying their country's grand strategy; (4) To enable students to acquire the ability to analyze the grand strategy of major countries.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will first provide a series of lectures on key topics in the studies of grand strategy, including the concept and theories of grand strategy in IR, material and ideational foundations of grand strategy, and domestic and international challenges for the formulation and implementation of grand strategy. The course will subsequently delve into various case studies relating to the grand strategy of major states. Comments for assignments are given during class and office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Broad examinations of the concept of grand strategy
2	History of Grand Strategy	Examining history of grand strategy
3	Theoretical Approaches to Grand Strategy(1)	Studying theories of grand strategy
4	Theoretical Approaches to Grand Strategy(2)	Studying theories of grand strategy

5	Sources of Grand Strategy(1) (Military, Economy, Technology)	Investigating foundations of grand strategy
6	Sources of Grand Strategy(2)(Idea, Culture, Identity)	Investigating foundations of grand strategy
7	Instruments of Grand Strategy	Examining instruments of grand strategy
8	Major Challenges for the formulation and Implementation of Grand Strategy	Examining major external and internal challenges for the formulation and implementation of grand strategy
9	Case studies(1)	Case studies based on a group presentation and discussion
10	Case studies(2)	Case studies based on a group presentation and discussion
11	Case studies(3)	Case studies based on a group presentation and discussion
12	Case studies(4)	Case studies based on a group presentation and discussion
13	Review	Review of lectures from week 2 to week 12
14	Final Examination and Review	Written test and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be required to pore over the chapters of the books listed in the reference section before attending the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Students are expected to prepare for their presentations under the instructor's guidance.

【Textbooks】

No textbook will be used. However, students are required to read the relevant chapters of the books listed in the reference section.

【References】

Thierry Balzacq and Ronald R. Krebs, eds. *The Oxford Handbook of Grand Strategy*, Oxford University Press, 2021.
 Hal Brands, ed. *The New Makers of Modern Strategy: From the Ancient World to the Digital Age*, Princeton University Press, 2023.
 Balzacq, Thierry, Peter J. Dombrowski, and Simon Reich, eds. *Comparative Grand Strategy: A Framework and Cases*, Oxford University Press, 2019.
 John Lewis Gaddis. *On Grand Strategy*, Penguin Books, 2019.
 John Baylis, James J. Wirtz and Colin S. Gray *Strategy in the Contemporary World*. Seventh Edition. Oxford University Press, 2022.

【Grading criteria】

Contributions to class discussion and group presentations (40%), Final exam (60%).

Regarding the group presentation, the performance of each student will also be assessed by the Group Evaluation Form. Students in the same presentation group will be required to evaluate each other independently and confidentially so that the instructor can effectively assess individual contribution to the group.

【Changes following student comments】

Handouts to be provided in a timely manner.

【Prerequisite】

Students wishing to take this course are recommended to have completed "Introduction to International Relations"

Non-GIS students wishing to take part in this course should have a basic knowledge of International Relations theories and adequate English skills to complete the course work and assignments.

TRS300ZA (観光学 / Tourism Studies 300)

Cultural Tourism

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火2/Tue.2

その他属性 : 〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】

Cultural tourism is defined as “A form of tourism that relies on a destination’s cultural heritage assets and transforms them into products that can be consumed by tourists.” (du Cros &McKercher, 2015: p.6).

Regarded as one of the oldest forms of tourism, it exists in many forms. This course will cover the 4 elements within the definition: (i) Cultural tourism within the broader field of tourism, (ii) Utilization of destinations’ Cultural Assets, (iii) Consumption of Cultural Tourism Experiences, and (iv) Tourists and the Host Community.

We will consider the importance of cultural assets: as a way to define and understand nations, as a manifestation of people’s ethnicities and identities as well as a vital driver of tourism. To do so, we will analyze the role played by various stakeholders, such as governments, businesses, the media, NGOs and conservation organizations such as UNESCO &ICOMOS.

【Goal】

Upon completion of this course students should be able to:

- 1) Understand the various forms of cultural tourism
- 2) Understand the key organizations involved in providing and conserving cultural tourism at local, national and international level
- 3) Understand the role of cultural tourism in destination branding and marketing
- 4) Understand the role of cultural resources in forming people’s national and local identity, and how these are preserved and managed
- 5) Understand the complexities of stakeholder relations in the management of cultural tourism resources

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A broad range of case studies can help students consolidate their learning.

In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a selected destination through a case study, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.

Assignments will be submitted and returned with feedback via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Cultural Tourism and the Class Format	Introduction to the course content, the class format and the field of cultural tourism (CT)
2	Stakeholder Management &Social Values	Considering the principles of stakeholder management & different stakeholders’ axiological perspectives
3	Cultural Tourists & Host Communities	Analyzing tourist demand for CT and the role of CT in destination management &development. Also, considering the important socio-cultural role of CT from the host community’s perspective.
4	Cultural Tourism and Authenticity	What is an ‘authentic’ experience? Considering the authenticity of tangible and intangible resources, and the importance of authenticity for visitors &local communities.
5	Impacts of Cultural Tourism	Considering the economic and socio-cultural impacts of CT on host communities
6	Culture &Nation Branding	Considering the strategic role of culture for developed &developing countries’ destination brands and tourism ‘portfolios’

7	Politics of Cultural Tourism &Dark Heritage Sites	Considering the role of socio-political attitudes in influencing how culture is interpreted and the subjectivity of history: whose version of history prevails and from what perspective(s) is it presented?
8	World Heritage Sites 1	Considering concepts and definitions of heritage tourism, and the management of built and natural heritage resources
9	World Heritage Sites 2	Considering the value of heritage resources for host communities, and the management and preservation of heritage sites
10	Cultural Visitor Attractions	Considering the educational and conservational role of cultural visitor attractions. Also the range of management issues, including developing an engaging visitor experience and designing effective interpretation.
11	Group Presentations	Presentations on group case study destinations
12	The Marketing of Cultural Tourism	Considering the challenges & issues relating to the marketing of CT
13	Case Study	Analyzing the management and marketing issues for Kakadu National Park, a mixed WHS in Australia
14	Gastrotourism &The Future of Cultural Tourism	Considering the role of food & drink as cultural resources. Also possible ways cultural tourism may develop in the future.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned reading individually and in groups as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. *Please note, as a 300-level class the reading load is heavy.*

【Textbooks】

There is no set textbook. The course will refer frequently to the textbook by Park (2014; see below), which can be bought or rented through the publisher’s website, or accessed via the Hosei library. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】

du Cros, H. and McKercher, B. (2015). *Cultural Tourism* (2nd Edition). London: Routledge
Jimura, T. (2019). *World Heritage Sites: Tourism, Local Communities and Conservation Activities*. London: CABI
Park, H. (2014). *Heritage Tourism*. London: Routledge

【Grading criteria】

1. Class participation &assignments (30%)
2. Group project (40%)
3. Term paper (30%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures. Students are expected to complete a lot of reading for this course!

To improve students’ group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

Although not essential, this course will be more accessible for students who have taken other tourism-related courses. As such, students are strongly recommended to have taken one or more of the following: 100-level Introduction to Tourism Studies or the 200-level Event Management or Tourism Development in Japan courses.

I can draw from my experience in organizing events and as the marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】

None

LIT300ZA (文学 / Literature 300)

Advanced Topics in American Literature

Gregory Kheznrejat

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火3/Tue.3

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈ゲ〉〈優〉

【Outline and objectives】

Southern literature is perhaps the best-known regional literature of the United States, featuring a distinct traditions of voices, genres, and motifs. But it is far from a monolith, with works reflecting the diverse cultures, peoples, and languages of the region. Southern literature has often provided a sharp focus to social, historical, and cultural issues of the United States, serving as a grim counterpoint to more optimistic national mythmaking. This course will focus on southern literature in the twentieth century, exploring how writers respond to questions of war, race, memory, class, and modernization.

【Goal】

Students will examine the historical context and major themes of southern literature. Students will also develop critical reading and writing skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Class time will be divided between lectures and group discussions. In-class feedback will be given for reaction papers, and students will receive personal feedback on written assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction, Defining the South	Introduction to the class and selection exam
2	Postwar Culture and Modernity	Tate, <i>Ode to the Confederate Dead</i>
3	The South and Slavery	Washington, <i>Up From Slavery</i>
4	Community and Memory	Faulkner, <i>A Rose for Emily</i>
5	Race in the Postwar South I	Wright, <i>The Ethics of Living Jim Crow</i>
6	Race in the Postwar South II	Welty, <i>Where is the Voice Coming From?</i>
7	Review and Midterm Examination	A review of topics covered in the first half of the course
8	Southern Gothic	O'Connor, <i>A Good Man is Hard to Find</i>
9	Southern Poetry I	Walker, Selected Poems
10	Southern Poetry II	Dickey, Selected Poems
11	Culture and Authenticity	Walker, <i>Everyday Use</i>
12	The Modern South I	Gates, <i>Colored People</i>
13	The Modern South II	Rash, <i>Speckled Trout</i>
14	Final Synthesis	Review of the major themes of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should perform close readings of each of the assigned texts. Students should come to class prepared to ask questions and engage in discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Readings will be provided in class as handouts.

【References】

Andrews, William et al. *The Literature of the American South*. Norton, 1998.

Monteith, Sharon et al. *The Cambridge Companion to the Literature of the American South*. Cambridge, 2013.

Additional references will be announced in class.

【Grading criteria】

Class contribution (15%), response papers and written assignments (20%), reading quizzes (15%), midterm paper (25%), final paper (25%)

【Changes following student comments】

None.

【Others】

The readings and schedule are subject to modification at the instructor's discretion. Any changes will be announced in the first week of the course.

【Prerequisite】

None.

LIT300ZA (文学 / Literature 300)

Advanced Topics in English Literature

Miui Watanabe

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 5/Mon.5

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Medieval and Early Modern English literature had a profound impact on the English language, and its literary and cultural legacy pervades modern popular culture, from fantasy novels to Hollywood blockbusters. The course introduces students to some of the canonical texts of English literature, beginning with Old English poetry and concluding with writers from the English Renaissance, such as Shakespeare and Spenser. By providing students with the opportunity to engage with texts across a wide spectrum of genres, periods, and languages, the course facilitates a deeper understanding of how English literature emerged and developed during this crucial period in literary history. Simultaneously, it encourages students to question pre-existing notions of 'English literature'. The writings will be studied with regard to their literary and socio-historical context, making reference to topics including class, religion, gender, and other thematic concerns. In addition to close analytical readings of the texts in modern English translations, students will also be introduced to literary forms and practices of pre-modern English literature through the examination of works in their original language. Prior experience in a literature course is recommended, but not required.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- Gain basic knowledge of the major works and the cultural and historical circumstances of their production/reception.
- Understand key concepts and terms of literary studies, particularly those crucial to understanding medieval and early modern literature.
- Be able to analyse texts and make critical interpretations.
- Develop transferrable skills, including critical reading and academic writing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Classes will consist of introductory lectures by the instructor, followed by discussions, presentations, and/or close analytical reading of the text. Feedback on assignments will be provided through the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course description; introduction to early English literature.
2	Old English Poetry	Introduction to Old English poetry
3	Old English Poetry - <i>Beowulf</i> (1)	Historical background; structure and style
4	Old English Poetry - <i>Beowulf</i> (2)	Scholarship; issues of translation; class discussion.
5	<i>Sir Gawain and the Green Knight</i> (1)	Introduction to romance; alliterative revival.
6	<i>Sir Gawain and the Green Knight</i> (2)	analytical reading; presentations; quiz.
7	Mid-Term	Course review; Q&A Session.
8	14th Century Moral Texts	Social commentary; allegory; <i>Piers Plowman</i> .
9	<i>The Canterbury Tales</i> - <i>Nun's Priest's Tale</i> (1)	Social/historical context; beast fable; analytical reading.
10	<i>The Canterbury Tales</i> - <i>Nun's Priest's Tale</i> (2)	Close analytical reading.
11	<i>The Canterbury Tales</i> - <i>Nun's Priest's Tale</i> (3)	Presentation; review of text.
12	English Renaissance (1) - Sonnets	From Middle English to Early Modern; <i>Philip Sidney</i> , <i>Edmund Spenser</i> .
13	English Renaissance (2) - Theatre	Mystery & Morality Plays; <i>William Shakespeare</i> .

14

Course Review

Review of entire course; Q&A Session.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the assigned readings for each week and come to class prepared to contribute to class discussions. Additionally, they will be required to submit assignments and give presentations based on an assigned topic or reading passage. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

None. Reading material will be provided by the instructor.

【References】

Alexander, Michael. *A History of English Literature*. 3rd ed., Palgrave Macmillan, 2013.

Goring, Paul, et al, editors. *Studying Literature: The Essential Companion*, 2nd ed, Bloomsbury Academic, 2010.

Lapidge, M., et al., editors. *The Wiley Blackwell Encyclopedia of Anglo-Saxon England*, 2nd ed. Wiley, 2013.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class participation (30%), two written assignments (50%), and quizzes (20%). More than two unexcused absences will result in failure of the course.

【Changes following student comments】

Additional review time has been incorporated throughout the course to support student comprehension.

【Prerequisite】

None.

LIT300ZA (文学 / Literature 300)

Advanced Topics in Japanese Literature

Gregory Kheznrajat

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火2/Tue.2

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

How do we process the experience of encountering a new language and culture? How does that process in turn affect our own personal language and identity? In this course, we will read translations of personal essays and fiction written in the Japanese language by contemporary authors undergoing such experiences, including Japanese authors living abroad and non-Japanese authors writing in their adopted language. As we compare their stories and observations, we will also consider how the act of writing provides each author with a space to form and perform new cultural identities and personal idioms.

【Goal】

Students will practice reading and writing critically as they explore dynamics of culture, language, and identity in modern Japanese literature.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be divided roughly evenly between lectures and guided discussions. Short quizzes will be given to assess comprehension of weekly readings. Students will submit midterm and final papers. In-class feedback will be given for reaction papers, and students will receive personal feedback on written assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction and selection exam
2	Transnational Literature and the Modern Canon	Considering the place of the stories in this class in “Japanese literature”
3	Culture Shock and Interpretation	Tawada, <i>Where Europe Begins</i>
4	Exophony and Border Crossing	Tawada, <i>Where Europe Begins</i>
5	Language, Literature, and Imagined Communities	Mizumura, <i>A True Novel</i>
6	Language and the Construction of Identity	Mizumura, <i>The Fall of Language in the Age of English</i>
7	Review and Midterm Examination	A review of topics covered in the first half of the course
8	Language and Belonging	Levy, <i>A Room Where the Star-Spangled Banner Cannot Be Heard</i>
9	The Right to Language	Levy, <i>A Room Where the Star-Spangled Banner Cannot Be Heard</i>
10	Transnationalism and Ideology	Zoppetti, <i>Ichigensan</i>
11	Writing within the Canon	Zoppetti, <i>Ichigensan</i>
12	Modern Trends I	Yang, <i>Wan-chan</i>
13	Modern Trends II	Li, <i>Solo Dance</i>
14	Final Synthesis	Review major themes of the course and discuss new frontiers in transnational Japanese literature

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to perform close readings of weekly reading assignments and prepare to actively engage in class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Readings will be distributed through Hoppii.

【References】

Li, Kotomi. *Solo Dance*. World Editions, 2022.

Levy, Ian Hideo. *A Room Where The Star-Spangled Banner Cannot Be Heard: A Novel in Three Parts*. Columbia University Press, 2011.

Mack, Edward. *Manufacturing Modern Japanese Literature: Publishing, Prizes, and the Ascription of Literary Value*. Duke University Press, 2010.

Mizumura, Minae. *A True Novel*. Other Press, 2014.

Mizumura, Minae. *The Fall of Language in the Age of English*. Columbia University Press, 2015.

Tawada, Yoko. *Where Europe Begins*. New Directions, 2007.

Zoppetti, David. *Ichigensan: The Newcomer*. Ozaru Books, 2011.

【Grading criteria】

Class contribution (15%), response papers and written assignments (20%), quizzes (15%), midterm paper (25%), final paper (25%)

【Changes following student comments】

None.

【Others】

The readings and schedule are subject to modification at the instructor's discretion. Any changes will be announced in the first week of the course.

【Prerequisite】

None.

LIN400ZA (言語学 / Linguistics 400)

Seminar: Diversity of English I

Yutai Watanabe

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

With estimated 2.3 billion users, the global dominance of the English language is in no dispute. However, the language has developed a wide range of variations, depending on the social and cultural contexts where it was transplanted and the other languages it exists alongside. This seminar explores lesser-known varieties of English in the Inner Circle and the L2 use of English in the Expanding Circle. We start the spring semester by reviewing Kachru's (1985) three-circle model and Schneider's (2007) model of postcolonial English. Then we focus on New Zealand English (NZE), one of the youngest Inner Circle varieties, examining how it is distinguishable from UK, US and Australian English. The latter part of the semester addresses L2 English speakers' attitudes towards their accents, the use of English as a lingua franca (ELF) in Europe, and strategies for incorporating accented English and ELF into pop-cultural productions.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- (1) understand the evolution and diversity of the English language,
- (2) examine the phonetic features of NZE in comparison to those of UK and US English,
- (3) explore L2-accented English and its speakers' attitudes towards various accents, and
- (4) study the current use of accented English and ELF in international contexts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This seminar is presentation and discussion oriented: Students take turns to review a book chapter or journal article assigned by the instructor, noting key terms and concepts, which could be proactively studied by consulting reference materials. The other students in the class contribute to the discussion with their questions and observations. Detailed comments and suggestions for further study are provided at the end of each presentation.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	(1) Outlining the course contents and instructional methodologies (2) APA style: In-text citations and references (3) Hosei and GIS libraries, and online resources
2	Essential Phonetics	(1) IPA (2) Phonemes and allophones (3) Suprasegmentals
3	World Englishes	(1) The world's major languages (2) Indo-European language family (3) L1 and L2 English (4) Kachru's (1985) three-circle model

4	Postcolonial English	(1) Schneider's (2007) model (2) Foundation of NZE
5	Phonetic Features of NZE (Part 1)	(1) Rhoticity (2) H-dropping (3) /l/vocalisation (4) TR-affrication
6	Phonetic Features of NZE (Part 2)	(1) Flapping /t/ (2) TH-fronting (3) Short front vowels (4) NEAR/SQUARE merger
7	NZ Accent in Films	Phonetic features observed in NZ films
8	L2 English Speakers' Attitudes towards Accents	(1) Japanese students' attitudes (2) Thai students' attitudes (3) Norwegian students' attitudes (4) Swiss people's attitudes
9	Euro-English and ELF	(1) Euro-English (2) EU citizens' views on ELF (3) Conceptualising English in Europe
10	Indexicality of L2 Accents	(1) Indexicality of Japanese-accented English in NZ (2) Identification of the provenance of speakers
11	English in Pop Culture (Part 1)	(1) L2 English pop singers (2) Language choice in Eurovision Song Contest (ESC) (3) The use of English in ESC
12	English in Pop Culture (Part 2)	(1) Stereotyping and films (2) Dialects and accents in films
13	ELF and Education	(1) <i>The Course of Study in English</i> (2) English education in EU and Japan
14	Conclusion	(1) Review and final discussion (2) Preparation for seminar papers

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read in advance the references posted on the course website and the handouts emailed by presenters. Preparatory study and review time for this course are 4 hours each.

【Textbooks】

Hay, J., MacLagan, M., & Gordon, E. (2008). *New Zealand English*. Edinburgh University Press.

【References】

Detailed references are listed on the website, while the following books will be helpful as a general introduction.

Melchers, G., Shaw, P., & Sundkvist, P. (2019). *World Englishes* (3rd ed.). Routledge.

Trudgill, P., & Hannah, J. (2017). *International English: A guide to varieties of English around the World* (6th ed.). Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on presentation (70%) and class discussion (30%).

【Changes following student comments】

The schedule and contents may be partially modified based on students' interests and needs. Details of any modifications will be notified in the first class and/or four weeks prior to the change.

【Equipment student needs to prepare】

The presentations are delivered using PowerPoint slides and Internet resources. The handouts are downloadable in PDF format.

【Others】

Successful applicants must be knowledgeable and enthusiastic about the seminar theme. They are expected to have completed 200-level linguistics courses with a good understanding.

【Prerequisite】

No prerequisite is required.

LIN400ZA (言語学 / Linguistics 400)

Seminar: Diversity of English I

Yutai Watanabe

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 4/Fri.4/Fri.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

With estimated 2.3 billion users, the global dominance of the English language is in no dispute. However, the language has developed a wide range of variations, depending on the social and cultural contexts where it was transplanted and the other languages it exists alongside. This seminar explores lesser-known varieties of English in the Inner Circle and the L2 use of English in the Expanding Circle. We start the spring semester by reviewing Kachru's (1985) three-circle model and Schneider's (2007) model of postcolonial English. Then we focus on New Zealand English (NZE), one of the youngest Inner Circle varieties, examining how it is distinguishable from UK, US and Australian English. The latter part of the semester addresses L2 English speakers' attitudes towards their accents, the use of English as a lingua franca (ELF) in Europe, and strategies for incorporating accented English and ELF into pop-cultural productions.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- (1) understand the evolution and diversity of the English language,
- (2) examine the phonetic features of NZE in comparison to those of UK and US English,
- (3) explore L2-accented English and its speakers' attitudes towards various accents, and
- (4) study the current use of accented English and ELF in international contexts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

This seminar is presentation and discussion oriented: Students take turns to review a book chapter or journal article assigned by the instructor, noting key terms and concepts, which could be proactively studied by consulting reference materials. The other students in the class contribute to the discussion with their questions and observations. Detailed comments and suggestions for further study are provided at the end of each presentation.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	(1) Outlining the course contents and instructional methodologies (2) APA style: In-text citations and references (3) Hosei and GIS libraries, and online resources
2	Essential Phonetics	(1) IPA (2) Phonemes and allophones (3) Suprasegmentals
3	World Englishes	(1) The world's major languages (2) Indo-European language family (3) L1 and L2 English (4) Kachru's (1985) three-circle model
4	Postcolonial English	(1) Schneider's (2007) model (2) Foundation of NZE
5	Phonetic Features of NZE (Part 1)	(1) Rhoticity (2) H-dropping (3) /l/vocalisation (4) TR-affrication
6	Phonetic Features of NZE (Part 2)	(1) Flapping /t/ (2) TH-fronting (3) Short front vowels (4) NEAR/SQUARE merger
7	NZ Accent in Films	Phonetic features observed in NZ films

8	L2 English Speakers' Attitudes towards Accents	(1) Japanese students' attitudes (2) Thai students' attitudes (3) Norwegian students' attitudes (4) Swiss people's attitudes
9	Euro-English and ELF	(1) Euro-English (2) EU citizens' views on ELF (3) Conceptualising English in Europe
10	Indexicality of L2 Accents	(1) Indexicality of Japanese-accented English in NZ (2) Identification of the provenance of speakers
11	English in Pop Culture (Part 1)	(1) L2 English pop singers (2) Language choice in Eurovision Song Contest (ESC) (3) The use of English in ESC
12	English in Pop Culture (Part 2)	(1) Stereotyping and films (2) Dialects and accents in films
13	ELF and Education	(1) The <i>Course of Study in English</i> (2) English education in EU and Japan
14	Conclusion	(1) Review and final discussion (2) Preparation for seminar papers

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read in advance the references posted on the course website and the handouts emailed by presenters. Preparatory study and review time for this course are 4 hours each.

【Textbooks】

Hay, J., MacLagan, M., & Gordon, E. (2008). *New Zealand English*. Edinburgh University Press.

【References】

Detailed references are listed on the website, while the following books will be helpful as a general introduction.

Melchers, G., Shaw, P., & Sundkvist, P. (2019). *World Englishes* (3rd ed.). Routledge.

Trudgill, P., & Hannah, J. (2017). *International English: A guide to varieties of English around the World* (6th ed.). Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on presentation (70%) and class discussion (30%).

【Changes following student comments】

The schedule and contents may be partially modified based on students' interests and needs. Details of any modifications will be notified in the first class and/or four weeks prior to the change.

【Equipment student needs to prepare】

The presentations are delivered using PowerPoint slides and Internet resources. The handouts are downloadable in PDF format.

【Others】

Successful applicants must be knowledgeable and enthusiastic about the seminar theme. They are expected to have completed 200-level linguistics courses with a good understanding.

【Prerequisite】

No prerequisite is required.

LIN400ZA (言語学 / Linguistics 400)

Seminar: Diversity of English II

Yutai Watanabe

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
 Day/Period : 金3/Fri.3
 Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

English is the most common international language in business, education, and mass media, and is used by more than one billion people in the world as L2 speakers alone. The fall semester focuses on the use of English in the Expanding Circle, particularly in mainland Europe and Japan. We compare the two regions regarding their use of and attitudes toward English as a lingua franca (ELF). Through individual or collaborative research, we also explore various sociolinguistic issues as potential topics for seminar papers.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- (1) study the use of English in mainland Europe,
- (2) become aware of the extensive use of ELF in education and pop culture, and
- (3) get used to collecting and analysing data for research purposes.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This seminar is presentation and discussion oriented: Students take turns to review a journal article assigned by the instructor, noting key terms and concepts, which could be proactively studied by consulting reference materials. The other students in the class contribute to the discussion with their questions and observations. Detailed comments and suggestions for further study are provided at the end of each presentation. All students are expected to write an extended essay on their chosen topic towards the end of the semester.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	Outlining the course contents and instructional methodologies
2	Project Introduction	Introducing each research project
3	Use of English in EU	(1) English as a EU lingua franca (2) English-taught bachelor's programmes (3) German and Swedish teachers' attitudes
4	Use of English in Japan (Papers)	(1) Postgraduate students' attitudes towards ELF (2) English as a corporate official language (3) English in popular culture and J-pop music
5	Guide to Choosing Topics	Source of research topics
6	Use of English in Japan (Data Collection)	(1) Analysis of high school textbooks (2) CEFR and private sector English tests (3) Linguistic landscapes

7	Review	Review of previous studies and Q &A.
8	Students' Presentations (Part 1)	Oral presentations and discussions
9	Students' Presentations (Part 2)	Oral presentations and discussions
10	Guide to Writing Papers	The structure and format of a seminar paper
11	Editing (Part 1)	Support for writing papers
12	Editing (Part 2)	Support for writing papers
13	Editing (Part 3)	Further support for writing papers
14	Conclusion	(1) Final discussion and future perspectives (2) Submission of the seminar papers

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read in advance the references posted on the course website and the handouts emailed by presenters. Preparatory study and review time for this course are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbooks are used. All handouts are posted on the course website, while additional materials will be provided in the classroom.

【References】

Detailed references are listed on the website, while the following books will be helpful as a general introduction.

Galloway, N., & Rose, H. (2015). *Introducing global Englishes*. Routledge.

Jenkins, J. (2015). *Global Englishes: A resource book for students* (3rd ed.). Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class discussion (10%), presentation (30%), and a submitted essay (60%). More than two unexcused absences per semester will result in failure of the course.

【Changes following student comments】

The schedule and contents may be partially modified based on students' interests and needs. Details of any modifications will be notified in the first class and/or four weeks prior to the change.

【Equipment student needs to prepare】

The presentations are delivered using PowerPoint slides and Internet resources. The handouts are downloadable in PDF format.

【Others】

Successful applicants must be knowledgeable and enthusiastic about the seminar theme. They are expected to have completed 200-level linguistics courses with a good understanding.

【Prerequisite】

No prerequisite is required.

LIN400ZA (言語学 / Linguistics 400)

Seminar: Diversity of English II

Yutai Watanabe

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 金4/Fri.4/Fri.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

English is the most common international language in business, education, and mass media, and is used by more than one billion people in the world as L2 speakers alone. The fall semester focuses on the use of English in the Expanding Circle, particularly in mainland Europe and Japan. We compare the two regions regarding their use of and attitudes toward English as a lingua franca (ELF). Through individual or collaborative research, we also explore various sociolinguistic issues as potential topics for seminar papers.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- (1) study the use of English in mainland Europe,
- (2) become aware of the extensive use of ELF in education and pop culture, and
- (3) get used to collecting and analysing data for research purposes.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This seminar is presentation and discussion oriented: Students take turns to review a journal article assigned by the instructor, noting key terms and concepts, which could be proactively studied by consulting reference materials. The other students in the class contribute to the discussion with their questions and observations. Detailed comments and suggestions for further study are provided at the end of each presentation. All students are expected to write an extended essay on their chosen topic towards the end of the semester.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	Outlining the course contents and instructional methodologies
2	Project Introduction	Introducing each research project
3	Use of English in EU	(1) English as a EU lingua franca (2) English-taught bachelor's programmes (3) German and Swedish teachers' attitudes
4	Use of English in Japan (Papers)	(1) Postgraduate students' attitudes towards ELF (2) English as a corporate official language (3) English in popular culture and J-pop music
5	Guide to Choosing Topics	Source of research topics
6	Use of English in Japan (Data Collection)	(1) Analysis of high school textbooks (2) CEFR and private sector English tests (3) Linguistic landscapes
7	Review	Review of previous studies and Q &A.
8	Students' Presentations (Part 1)	Oral presentations and discussions
9	Students' Presentations (Part 2)	Oral presentations and discussions
10	Guide to Writing Papers	The structure and format of a seminar paper
11	Editing (Part 1)	Support for writing papers
12	Editing (Part 2)	Support for writing papers
13	Editing (Part 3)	Further support for writing papers
14	Conclusion	(1) Final discussion and future perspectives (2) Submission of the seminar papers

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read in advance the references posted on the course website and the handouts emailed by presenters. Preparatory study and review time for this course are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbooks are used. All handouts are posted on the course website, while additional materials will be provided in the classroom.

【References】

Detailed references are listed on the website, while the following books will be helpful as a general introduction.

Galloway, N., & Rose, H. (2015). *Introducing global Englishes*. Routledge.

Jenkins, J. (2015). *Global Englishes: A resource book for students* (3rd ed.). Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class discussion (10%), presentation (30%), and a submitted essay (60%). More than two unexcused absences per semester will result in failure of the course.

【Changes following student comments】

The schedule and contents may be partially modified based on students' interests and needs. Details of any modifications will be notified in the first class and/or four weeks prior to the change.

【Equipment student needs to prepare】

The presentations are delivered using PowerPoint slides and Internet resources. The handouts are downloadable in PDF format.

【Others】

Successful applicants must be knowledgeable and enthusiastic about the seminar theme. They are expected to have completed 200-level linguistics courses with a good understanding.

【Prerequisite】

No prerequisite is required.

EDU400ZA (教育学 / Education 400)

Seminar: Language Teaching and Learning I

Machiko Kobori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course is designed for students interested in exploring second language (L2) education from a global perspective. It delves into both the theoretical and practical aspects of second language learning (SLL). The course investigates effective strategies for teaching and learning languages applicable to both in-person and online environments within the Japanese and global contexts. It caters to a diverse range of L2 learners within and outside traditional classroom settings. A key focus of the course is on the core issues impacting L2 education, such as exploring various teaching approaches related to L2 motivational issues, educational settings with ICT, and so on that foster successful second language learning (SLL). Students are expected to develop, discuss and examine strategies to put theories into practice in dealing with various L2 learning situations. This course also addresses educational inequality through language education on a global scale. Students are also encouraged to consider their potential contributions to L2 learner achievement and to carve out their career paths in related educational fields worldwide.

[Goal]

The course provides opportunities to:

1. Learn challenging global issues of L2 education.
2. Examine how L2 education is implemented effectively with the expertise of SLL.
3. Acquire theoretical knowledge of core issues in L2 education.
4. Discuss the connection between theoretical aspects of SLL and various L2 education pedagogy.
5. Practice basic ideas for effective L2 education within the Japanese and global context.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

For the completion of this course, students are required to have Q&A/discussion sessions on a topic related to lecture contents and consolidate it as a daily task every week. A presentation, final exam, and writing assignment are also required at the end of the course; students are required to choose one of the course topics, make a presentation, and submit a writing assignment on it. Fieldwork is also required to complete related tasks and activities occasionally. The final requirements and feedback will be submitted on the learning management systems (WebClass, etc.).

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

あり /Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Studies of SLL (1)	Issues in Bilingualism (1)
3	Studies of SLL (2)	Issues in Bilingualism (2)
4	Studies of SLL (3)	Issues in Bilingualism (3)
5	Studies of SLL (4)	Issues in Bilingualism (4)
6	Studies of SLL (5)	Issues in the theory of teaching & learning conditions (1)
7	Studies of SLL (6)	Issues in the theory of teaching & learning conditions (2)
8	Studies of SLL (7)	Issues in the theory of teaching & learning conditions (3)
9	Studies of L2 motivation (1)	Issues in the practice of L2 teaching methods and approaches (1)
10	Studies of L2 motivation (2)	Issues in the practice of L2 teaching methods and approaches (2)
11	Studies of L2 motivation (3)	Issues in the practice of L2 teaching methods and approaches (3)
12	Studies of L2 motivation (4)	Issues in the practice of creating and using educational materials and platforms (1)

13	Studies of L2 motivation (5)	Issues in the practice of creating and using educational materials and platforms (2)
14	Consolidation of Seminar I	Reviews and discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1. Every week before class, students are required to comprehend the assigned readings and be ready to make presentations and group discussions on related topics in class.
2. Preparatory study and review time for this class is 4 hours each.

[Textbooks]

1. Baker, C. (2021). *Foundation of bilingual education and bilingualism*. Multilingual Matters.
2. Dörnyei, Z., &Ushioda, E. (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
3. Mitchell, R., Myles, F., & Marsden, E. (2019). *Second language learning theories*. Hodder Education.

[References]

1. Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge UP.
2. Dörnyei, Z. (2020). *Innovations and challenges in language learning motivation*. Routledge.
3. Dörnyei, Z., &Ushioda, E. (2021). *Teaching and researching motivation*. (3rd ed.). Cambridge UP.
4. Hagenauer, G., Lazarides, R. &Järvenoja, H. (2023). *Motivation and emotion in learning and teaching across educational contexts: Theoretical and methodological perspectives and empirical insights*. Routledge.
5. Gegenfurtner, A. &Kollar, I. (2024). *Designing effective digital learning environments*. Routledge.
6. Larsen-Freeman, D. &Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching*. Oxford UP.
7. Mäkitalo, Å., Nicewonger, E. T. &Elam, M. (2019). *Designs for experimentation and inquiry: Approaching learning and knowing in digital transformation*. Routledge.
8. Schunk, D. H. (2013). *Motivation in education: Theory, research, and applications*. (4th ed.). Pearson.
9. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.
10. VanPatten, B., Smith, M., &Benati, A. (2020). *Key questions in second language acquisition*. Cambridge UP.
11. Walker, R. &Adelman, C. (1992). *A guide to classroom observation*. Routledge.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Daily tasks (10%)
3. Presentation (20%)
4. Writing assignment (30%)
5. Educational practices &fieldwork (30%)

[Changes following student comments]

More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given through utilising LMS and in-person information to:

- 1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course
- 2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

[Equipment student needs to prepare]

Use a laptop in class, get lecture materials, etc., in WebClass.

[Others]

1. Students are expected to be actively involved in various seminar activities, including fieldwork targeting different types of L2 learners in ages and proficiency levels to ensure the related studies examined in the seminar.
2. Information about details of the seminar activities is provided and discussed in class.

[Prerequisites]

1. Required to complete both TESOL I & II (priorities on those who also completed TESOL III and TESOL IV)
2. Required to complete at least one of the following courses (priorities on courses taught by the seminar instructor): Comparative Education, English Teaching in Primary School &its advanced course and Second Language Acquisition

EDU400ZA (教育学 / Education 400)

Seminar: Language Teaching and Learning I

Machiko Kobori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course is designed for students interested in exploring second language (L2) education from a global perspective. It delves into both the theoretical and practical aspects of second language learning (SLL). The course investigates effective strategies for teaching and learning languages applicable to both in-person and online environments within the Japanese and global contexts. It caters to a diverse range of L2 learners within and outside traditional classroom settings. A key focus of the course is on the core issues impacting L2 education, such as exploring various teaching approaches related to L2 motivational issues, educational settings with ICT, and so on that foster successful second language learning (SLL). Students are expected to develop, discuss and examine strategies to put theories into practice in dealing with various L2 learning situations. This course also addresses educational inequality through language education on a global scale. Students are also encouraged to consider their potential contributions to L2 learner achievement and to carve out their career paths in related educational fields worldwide.

[Goal]

The course provides opportunities to:

1. Learn challenging global issues of L2 education.
2. Examine how L2 education is implemented effectively with the expertise of SLL.
3. Acquire theoretical knowledge of core issues in L2 education.
4. Discuss the connection between theoretical aspects of SLL and various L2 education pedagogy.
5. Practice basic ideas for effective L2 education within the Japanese and global context.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

For the completion of this course, students are required to have Q&A/discussion sessions on a topic related to lecture contents and consolidate it as a daily task every week. A presentation, final exam, and writing assignment are also required at the end of the course; students are required to choose one of the course topics, make a presentation, and submit a writing assignment on it. Fieldwork is also required to complete related tasks and activities occasionally. The final requirements and feedback will be submitted on the learning management systems (WebClass, etc.).

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

あり /Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Studies of SLL (1)	Issues in Bilingualism (1)
3	Studies of SLL (2)	Issues in Bilingualism (2)
4	Studies of SLL (3)	Issues in Bilingualism (3)
5	Studies of SLL (4)	Issues in Bilingualism (4)
6	Studies of SLL (5)	Issues in the theory of teaching & learning conditions (1)
7	Studies of SLL (6)	Issues in the theory of teaching & learning conditions (2)
8	Studies of SLL (7)	Issues in the theory of teaching & learning conditions (3)
9	Studies of L2 motivation (1)	Issues in the practice of L2 teaching methods and approaches (1)
10	Studies of L2 motivation (2)	Issues in the practice of L2 teaching methods and approaches (2)
11	Studies of L2 motivation (3)	Issues in the practice of L2 teaching methods and approaches (3)
12	Studies of L2 motivation (4)	Issues in the practice of creating and using educational materials and platforms (1)

13	Studies of L2 motivation (5)	Issues in the practice of creating and using educational materials and platforms (2)
14	Consolidation of Seminar I	Reviews and discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1. Every week before class, students are required to comprehend the assigned readings and be ready to make presentations and group discussions on related topics in class.
2. Preparatory study and review time for this class is 4 hours each.

[Textbooks]

1. Baker, C. (2021). *Foundation of bilingual education and bilingualism*. Multilingual Matters.
2. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
3. Mitchell, R., Myles, F., & Marsden, E. (2019). *Second language learning theories*. Hodder Education.

[References]

1. Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge UP.
2. Dörnyei, Z. (2020). *Innovations and challenges in language learning motivation*. Routledge.
3. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2021). *Teaching and researching motivation*. (3rd ed.). Cambridge UP.
4. Hagenauer, G., Lazarides, R. & Järvenoja, H. (2023). *Motivation and emotion in learning and teaching across educational contexts: Theoretical and methodological perspectives and empirical insights*. Routledge.
5. Gegenfurtner, A. & Kollar, I. (2024). *Designing effective digital learning environments*. Routledge.
6. Larsen-Freeman, D. & Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching*. Oxford UP.
7. Mäkitalo, Å., Nicewonger, E. T. & Elam, M. (2019). *Designs for experimentation and inquiry: Approaching learning and knowing in digital transformation*. Routledge.
8. Schunk, D. H. (2013). *Motivation in education: Theory, research, and applications*. (4th ed.). Pearson.
9. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.
10. VanPatten, B., Smith, M., & Benati, A. (2020). *Key questions in second language acquisition*. Cambridge UP.
11. Walker, R. & Adelman, C. (1992). *A guide to classroom observation*. Routledge.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Daily tasks (10%)
3. Presentation (20%)
4. Writing assignment (30%)
5. Educational practices & fieldwork (30%)

[Changes following student comments]

More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given through utilising LMS and in-person information to:

- 1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course
- 2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

[Equipment student needs to prepare]

Use a laptop in class, get lecture materials, etc., in WebClass.

[Others]

1. Students are expected to be actively involved in various seminar activities, including fieldwork targeting different types of L2 learners in ages and proficiency levels to ensure the related studies examined in the seminar.
2. Information about details of the seminar activities is provided and discussed in class.

[Prerequisites]

1. Required to complete both TESOL I & II (priorities on those who also completed TESOL III and TESOL IV)
2. Required to complete at least one of the following courses (priorities on courses taught by the seminar instructor): Comparative Education, English Teaching in Primary School & its advanced course and Second Language Acquisition

EDU400ZA (教育学 / Education 400)

Seminar: Language Teaching and Learning II

Machiko Kobori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 火3/Tue.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course is designed for students interested in exploring second language (L2) education from a global perspective. It delves into both the theoretical and practical aspects of second language learning (SLL). The course investigates effective strategies for teaching and learning languages applicable to both in-person and online environments within the Japanese and global contexts. It caters to a diverse range of L2 learners within and outside traditional classroom settings. A key focus of the course is on the core issues impacting L2 education, such as exploring various teaching approaches related to L2 motivational issues, educational settings with ICT, and so on that foster successful second language learning (SLL). Students are expected to develop, discuss and examine strategies to put theories into practice in dealing with various L2 learning situations. This course also addresses educational inequality through language education on a global scale. Students are also encouraged to consider their potential contributions to L2 learner achievement and to carve out their career paths in related educational fields worldwide.

[Goal]

The course provides opportunities to:

1. Learn challenging global issues of L2 education.
2. Examine how L2 education is implemented effectively with the expertise of SLL.
3. Acquire theoretical knowledge of core issues in L2 education.
4. Discuss the connection between theoretical aspects of SLL and various L2 education pedagogy.
5. Practice basic ideas for effective L2 education within the Japanese and global context.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

For the completion of this course, students are required to have Q&A/discussion sessions on a topic related to lecture contents and consolidate it as a daily task every week. A presentation, final exam, and writing assignment are also required at the end of the course; students are required to choose one of the course topics, make a presentation, and submit a writing assignment on it. Fieldwork is also required to complete related tasks and activities occasionally. The final requirements and feedback will be submitted on the learning management systems (WebClass, etc.).

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

あり /Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Exploring L2 Education Research Studies (1)	Review of SLL theories (1)
3	Exploring L2 Education Research Studies (2)	Review of SLL theories (2)
4	Exploring L2 Education Research Studies (3)	Review of L2 motivation and SLL (1)
5	Exploring L2 Education Research Studies (4)	Review of L2 motivation and SLL (2)
6	Exploring L2 Education Research Studies (5)	Reviews and discussion
7	Research Design (1)	Essay writing: topics and methods (1)
8	Research Design (2)	Essay writing: topics and methods (2)
9	Research Design (3)	Essay writing: topics and methods (3)
10	Research Design (4)	Essay writing: presentation and discussion (1)

11	Research Design (5)	Essay writing: presentation and discussion (2)
12	Research Design (6)	Essay writing: presentation and discussion (3)
13	Consolidation (1)	L2 education: review and discussion (1)
14	Consolidation (2)	L2 education: review and discussion (2)

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1. Every week before class, students are required to comprehend the assigned readings and be ready to make presentations and group discussions on related topics in class.
2. Preparatory study and review time for this class is 4 hours each.

[Textbooks]

1. Creswell, W. J. & Creswell, J. D. (2018). *Research Design*. (5th ed.). SAGE.
2. Gegenfurtner, A. & Kollar, I. (2024). *Designing Effective Digital Learning Environments*. Routledge.
3. Hagenauer, G., Lazarides, R. & Järvenoja, H. (2023). *Motivation and emotion in learning and teaching across educational contexts: Theoretical and methodological perspectives and empirical insights*. Routledge.

[References]

1. Baker, C. (2021). *Foundation of bilingual education and bilingualism*. Multilingual Matters.
2. Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge UP.
3. Dörnyei, Z. (2020). *Innovations and challenges in language learning motivation*. Routledge.
4. Dörnyei, Z., & Taguchi, T. (2009). *Questionnaires in second language research: construction, administration, and processing*. Routledge.
5. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
6. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2021). *Teaching and researching motivation*. (3rd ed.). Cambridge UP.
7. Larsen-Freeman, D. & Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching*. Oxford UP.
8. Mäkitalo, Ä., Nicewonger, E. T. & Elam, M. (2019). *Designs for experimentation and inquiry: Approaching learning and knowing in digital transformation*. Routledge.
9. Mitchell, R., Myles, F., & Marsden, E. (2019). *Second language learning theories*. Hodder Education.
10. Schunk, D. H. (2013). *Motivation in education: Theory, research, and applications*. (4th ed.). Pearson.
11. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.
12. VanPatten, B., Smith, M., & Benati, A. (2020). *Key questions in second language acquisition*. Cambridge UP.
13. Walker, R. & Adelman, C. (1992). *A guide to classroom observation*. Routledge.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Daily tasks (10%)
3. Presentation (20%)
4. Writing assignment (30%)
5. Educational practices & fieldwork (30%)

[Changes following student comments]

More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given through utilising LMS and in-person information to:

- 1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course
- 2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

[Equipment student needs to prepare]

Use a laptop in class, get lecture materials, etc., in WebClass.

[Others]

1. Students are expected to be actively involved in various seminar activities, including fieldwork targeting different types of L2 learners in ages and proficiency levels to ensure the related studies examined in the seminar.
2. Information about details of the seminar activities is provided and discussed in class.

[Prerequisites]

1. Required to complete all the following courses: Seminar I, TESOL III and TESOL IV
2. Required to complete at least one of the following courses (priorities on courses taught by the seminar instructor): Comparative Education, English Teaching in Primary School & its advanced course and Second Language Acquisition

EDU400ZA (教育学 / Education 400)

Seminar: Language Teaching and Learning II

Machiko Kobori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火4/Tue.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course is designed for students interested in exploring second language (L2) education from a global perspective. It delves into both the theoretical and practical aspects of second language learning (SLL). The course investigates effective strategies for teaching and learning languages applicable to both in-person and online environments within the Japanese and global contexts. It caters to a diverse range of L2 learners within and outside traditional classroom settings. A key focus of the course is on the core issues impacting L2 education, such as exploring various teaching approaches related to L2 motivational issues, educational settings with ICT, and so on that foster successful second language learning (SLL). Students are expected to develop, discuss and examine strategies to put theories into practice in dealing with various L2 learning situations. This course also addresses educational inequality through language education on a global scale. Students are also encouraged to consider their potential contributions to L2 learner achievement and to carve out their career paths in related educational fields worldwide.

[Goal]

The course provides opportunities to:

1. Learn challenging global issues of L2 education.
2. Examine how L2 education is implemented effectively with the expertise of SLL.
3. Acquire theoretical knowledge of core issues in L2 education.
4. Discuss the connection between theoretical aspects of SLL and various L2 education pedagogy.
5. Practice basic ideas for effective L2 education within the Japanese and global context.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

For the completion of this course, students are required to have Q&A/discussion sessions on a topic related to lecture contents and consolidate it as a daily task every week. A presentation, final exam, and writing assignment are also required at the end of the course; students are required to choose one of the course topics, make a presentation, and submit a writing assignment on it. Fieldwork is also required to complete related tasks and activities occasionally. The final requirements and feedback will be submitted on the learning management systems (WebClass, etc.).

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

あり /Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Exploring L2 Education Research Studies (1)	Review of SLL theories (1)
3	Exploring L2 Education Research Studies (2)	Review of SLL theories (2)
4	Exploring L2 Education Research Studies (3)	Review of L2 motivation and SLL (1)
5	Exploring L2 Education Research Studies (4)	Review of L2 motivation and SLL (2)
6	Exploring L2 Education Research Studies (5)	Reviews and discussion
7	Research Design (1)	Essay writing: topics and methods (1)
8	Research Design (2)	Essay writing: topics and methods (2)
9	Research Design (3)	Essay writing: topics and methods (3)
10	Research Design (4)	Essay writing: presentation and discussion (1)

11	Research Design (5)	Essay writing: presentation and discussion (2)
12	Research Design (6)	Essay writing: presentation and discussion (3)
13	Consolidation (1)	L2 education: review and discussion (1)
14	Consolidation (2)	L2 education: review and discussion (2)

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1. Every week before class, students are required to comprehend the assigned readings and be ready to make presentations and group discussions on related topics in class.
2. Preparatory study and review time for this class is 4 hours each.

[Textbooks]

1. Creswell, W. J. & Creswell, J. D. (2018). *Research Design*. (5th ed.). SAGE.
2. Gegenfurtner, A. & Kollar, I. (2024). *Designing Effective Digital Learning Environments*. Routledge.
3. Hagenauer, G., Lazarides, R. & Järvenoja, H. (2023). *Motivation and emotion in learning and teaching across educational contexts: Theoretical and methodological perspectives and empirical insights*. Routledge.

[References]

1. Baker, C. (2021). *Foundation of bilingual education and bilingualism*. Multilingual Matters.
2. Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge UP.
3. Dörnyei, Z. (2020). *Innovations and challenges in language learning motivation*. Routledge.
4. Dörnyei, Z., & Taguchi, T. (2009). *Questionnaires in second language research: construction, administration, and processing*. Routledge.
5. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
6. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2021). *Teaching and researching motivation*. (3rd ed.). Cambridge UP.
7. Larsen-Freeman, D. & Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching*. Oxford UP.
8. Mäkitalo, Ä., Nicewonger, E. T. & Elam, M. (2019). *Designs for experimentation and inquiry: Approaching learning and knowing in digital transformation*. Routledge.
9. Mitchell, R., Myles, F., & Marsden, E. (2019). *Second language learning theories*. Hodder Education.
10. Schunk, D. H. (2013). *Motivation in education: Theory, research, and applications*. (4th ed.). Pearson.
11. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.
12. VanPatten, B., Smith, M., & Benati, A. (2020). *Key questions in second language acquisition*. Cambridge UP.
13. Walker, R. & Adelman, C. (1992). *A guide to classroom observation*. Routledge.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Daily tasks (10%)
3. Presentation (20%)
4. Writing assignment (30%)
5. Educational practices & fieldwork (30%)

[Changes following student comments]

More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given through utilising LMS and in-person information to:

- 1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course
- 2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

[Equipment student needs to prepare]

Use a laptop in class, get lecture materials, etc., in WebClass.

[Others]

1. Students are expected to be actively involved in various seminar activities, including fieldwork targeting different types of L2 learners in ages and proficiency levels to ensure the related studies examined in the seminar.
2. Information about details of the seminar activities is provided and discussed in class.

[Prerequisites]

1. Required to complete all the following courses: Seminar I, TESOL III and TESOL IV
2. Required to complete at least one of the following courses (priorities on courses taught by the seminar instructor): Comparative Education, English Teaching in Primary School & its advanced course and Second Language Acquisition

SOC400ZA (社会学 / Sociology 400)

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈S〉

[Outline and objectives]

Race, class, gender and sexuality, nation and so on constitute our identities, shape our experiences, and constrain as well as enrich our lives. Importantly, they constitute interconnecting sources of inequality in society and in the world today. In this seminar, students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

[Goal]

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality". Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

Students will conduct original research over the course of two years as a graduation project. This seminar paper can be used as a writing sample for graduate school applications, a foundation for future research, and a way to showcase your research skills and interests during job hunting. In the first year, students will develop research questions, identify research gaps, and create a feasible research proposal. In the second year, they will collect and analyze data, discuss the findings, and write up their paper.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Since this course is a seminar, it is taught primarily through student presentations and discussions. Students deliver presentations on selected readings as well as on their own research. Further, they also engage in discussions based on critical reading of extant research and theories, as well as on current relevant social issues. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Doing Social Research	Overview of social research
	Critiquing Academic Works	Learning to critique a journal article
3	Reading on Intersectionality (1)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
4	Reading on Intersectionality (2)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
5	Research Proposal	Student presentation of research interests and topics Learning to use library resources in research
6	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
7	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
8	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
9	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research

11	Research Reading and Discussion (6)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Student presentations and discussion of research
14	Research Paper Presentations (2)	Student presentations and discussion of research

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them and other students. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

[References]

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.
 Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.
 Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.
 Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.
 Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.
 Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.
 Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and Power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

[Grading criteria]

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (18%)

Critiques on readings (20%)

Research topic presentation and research paper presentation (14%)

Research paper (40%)

[Changes following student comments]

The instructor will constantly check in with students to ensure a manageable workload.

[Others]

Students are expected to have passed Race, Class and Gender I. However, this prerequisite may be waived if a student has the equivalent academic background.

Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

[Prerequisite]

See "Others".

SOC400ZA (社会学 / Sociology 400)

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈S〉

【Outline and objectives】

Race, class, gender and sexuality, nation and so on constitute our identities, shape our experiences, and constrain as well as enrich our lives. Importantly, they constitute interconnecting sources of inequality in society and in the world today. In this seminar, students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

【Goal】

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality". Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

Students will conduct original research over the course of two years as a graduation project. This seminar paper can be used as a writing sample for graduate school applications, a foundation for future research, and a way to showcase your research skills and interests during job hunting. In the first year, students will develop research questions, identify research gaps, and create a feasible research proposal. In the second year, they will collect and analyze data, discuss the findings, and write up their paper.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Since this course is a seminar, it is taught primarily through student presentations and discussions. Students deliver presentations on selected readings as well as on their own research. Further, they also engage in discussions based on critical reading of extant research and theories, as well as on current relevant social issues. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Doing Social Research	Overview of social research
	Critiquing Academic Works	Learning to critique a journal article
3	Reading on Intersectionality (1)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
4	Reading on Intersectionality (2)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
5	Research Proposal	Student presentation of research interests and topics Learning to use library resources in research
6	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
7	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
8	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
9	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research

11	Research Reading and Discussion (6)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Student presentations and discussion of research
14	Research Paper Presentations (2)	Student presentations and discussion of research

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them and other students. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

【References】

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.
 Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.
 Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.
 Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.
 Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.
 Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.
 Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and Power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

【Grading criteria】

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (18%)

Critiques on readings (20%)

Research topic presentation and research paper presentation (14%)

Research paper (40%)

【Changes following student comments】

The instructor will constantly check in with students to ensure a manageable workload.

【Others】

Students are expected to have passed Race, Class and Gender I. However, this prerequisite may be waived if a student has the equivalent academic background.

Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

【Prerequisite】

See "Others".

SOC400ZA (社会学 / Sociology 400)

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈S〉

[Outline and objectives]

Continuing with what they have learned in the spring semester in "Seminar: Intersectionality I", students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

[Goal]

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality." Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

Students conduct original research over the course of two years as a graduation project. This seminar paper can be used as a writing sample for graduate school applications, a foundation for future research, and a way to showcase your research skills and interests during job hunting. In the first year, students will develop research questions, identify research gaps, and create a feasible research plan. In the second year, they will collect and analyze data, discuss the findings, and write their paper.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This is a continuation of the seminar in the Spring semester, with the same emphasis but more time devoted to student research. The seminar research and readings, as much as possible, will be based on students' individual research interests. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted. Talks by seminar alumni on their careers and connection of the seminar to their work will be scheduled in November and December. An updated schedule will be provided in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Workshop (1)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
3	Research Workshop (2)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
4	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
5	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
6	Research in Progress	Research paper progress report and help session Decision on individual research readings in the second half of the seminar
7	Seminar Reading (1)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
8	Seminar Reading (2)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
9	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research

10	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultation and peer critique on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Research paper presentations and discussions
14	Research Paper Presentations (2)	Research paper presentations and discussions

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

[References]

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.
 Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.
 Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.
 Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.
 Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.
 Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.
 Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and Power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

[Grading criteria]

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (18%)

Critiques on readings (20%)

Research-in-progress presentation, peer critique, and research paper presentation (14%)

Research paper (40%)

[Changes following student comments]

The instructor will constantly check in with students to ensure a manageable workload.

[Others]

Students are expected to have passed Seminar: Intersectionality I. Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

[Prerequisite]

See "Others".

SOC400ZA (社会学 / Sociology 400)

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月4/Mon.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈S〉

[Outline and objectives]

Continuing with what they have learned in the spring semester in "Seminar: Intersectionality I", students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

[Goal]

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality." Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

Students conduct original research over the course of two years as a graduation project. This seminar paper can be used as a writing sample for graduate school applications, a foundation for future research, and a way to showcase your research skills and interests during job hunting. In the first year, students will develop research questions, identify research gaps, and create a feasible research plan. In the second year, they will collect and analyze data, discuss the findings, and write their paper.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This is a continuation of the seminar in the Spring semester, with the same emphasis but more time devoted to student research. The seminar research and readings, as much as possible, will be based on students' individual research interests. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted. Talks by seminar alumni on their careers and connection of the seminar to their work will be scheduled in November and December. An updated schedule will be provided in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Workshop (1)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
3	Research Workshop (2)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
4	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
5	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
6	Research in Progress	Research paper progress report and help session Decision on individual research readings in the second half of the seminar
7	Seminar Reading (1)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
8	Seminar Reading (2)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
9	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research

10	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultation and peer critique on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Research paper presentations and discussions
14	Research Paper Presentations (2)	Research paper presentations and discussions

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

[References]

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.
 Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.
 Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.
 Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.
 Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.
 Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.
 Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and Power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

[Grading criteria]

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (18%)

Critiques on readings (20%)

Research-in-progress presentation, peer critique, and research paper presentation (14%)

Research paper (40%)

[Changes following student comments]

The instructor will constantly check in with students to ensure a manageable workload.

[Others]

Students are expected to have passed Seminar: Intersectionality I. Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

[Prerequisite]

See "Others".

PSY400ZA (心理学 / Psychology 400)

Seminar: Self and Culture I

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, by drawing on empirical literature in social and cultural psychology. In both the spring and fall semesters, the seminar will meet once a week for 2 periods. In the spring, class time will be devoted to group discussions on assigned readings. In addition, third-year students will decide on the research questions, hypotheses, and theories of the research they will pursue in the seminar. Fourth-year students will collect data by running an experiment or a survey and will analyze them using a statistical package of their choice (JASP, HAD, SPSS, or R).

[Goal]

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) To learn how social psychology can help understand our behaviors and decisions via literature review and in-depth discussion;
- (b) To develop a working knowledge of different approaches and methods of social and cultural psychology;
- (c) To develop a deeper understanding of our own lives, using knowledge and wisdom gained through the seminar;
- and
- (d) To develop research skills and knowledge to apply selected social psychological theories to a real-life context.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course combines several pedagogical strategies including student-led weekly class discussions and presentations. Students will receive oral and written feedback on their presentations and weekly reaction papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Share course overview, expectations, and requirements
2	Seminar Reading and Discussion (1)	Student presentations and discussions of assigned readings
3	Seminar Reading and Discussion (2)	Student presentations and discussions of assigned readings
4	Proposing Research Ideas	Discussing students' research proposals
5	Seminar Reading and Discussion (3)	Student presentations and discussions of assigned readings
6	Seminar Reading and Discussion (4)	Student presentations and discussions of assigned readings
7	Proposing Research Questions	Discussing students' research proposals
8	Seminar Reading and Discussion (5)	Student presentations and discussions of assigned readings
9	Seminar Reading and Discussion (6)	Student presentations and discussions of assigned readings
10	Proposing Research Hypotheses	Discussing students' research proposals
11	Seminar Reading and Discussion (7)	Student presentations and discussions of assigned readings
12	Seminar Reading and Discussion (8)	Student presentations and discussions of assigned readings
13	Seminar Reading and Discussion (9)	Student presentations and discussions of assigned readings
14	Final Synthesis	What have we learned and what are the next steps?

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete all the reading assignments, write weekly reaction papers, and post them on the course website by the designated date. Those assigned to lead discussions will further prepare the summaries of the readings and discussion questions. Third-year students will formulate research questions and hypotheses based on a comprehensive review of relevant literature on the topic. Fourth-year students are expected to run their survey or experiment and collect data for their graduation thesis. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

none

[References]

The weekly readings and other resources will be posted on the course website.

Hacker, D. & Sommers, N. (2020). *A pocket style manual*. (8th ed.). APA Version.

[Grading criteria]

Progress on research 30%

Weekly questions & papers 30%

Participation in discussion 20%

Final synthesis paper 10%

Leading discussion 10%(3rd year students)

Research support 10%(4th year students)

[Changes following student comments]

Students preferred that they split the task between those who present the readings and those who lead the discussions, as they did last year in the fall term. I agree that the quality of the presentation and discussions had improved by splitting the tasks. This will give more opportunities for students to present. I will make this change for this year. Thank you for the helpful feedback.

[Equipment student needs to prepare]

Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

[Others]

Students are strongly encouraged to have successfully completed the following courses prior to joining this seminar: Statistics, Social Psychology I and II, and Quantitative Research Methods. Instructor's permission is required.

[Prerequisites]

none

PSY400ZA (心理学 / Psychology 400)

Seminar: Self and Culture I

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月4/Mon.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, by drawing on empirical literature in social and cultural psychology. In both the spring and fall semesters, the seminar will meet once a week for 2 periods. In the spring, class time will be devoted to group discussions on assigned readings. In addition, third-year students will decide on the research questions, hypotheses, and theories of the research they will pursue in the seminar. Fourth-year students will collect data by running an experiment or a survey and will analyze them using a statistical package of their choice (JASP, HAD, SPSS, or R).

[Goal]

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) To learn how social psychology can help understand our behaviors and decisions via literature review and in-depth discussion;
- (b) To develop a working knowledge of different approaches and methods of social and cultural psychology;
- (c) To develop a deeper understanding of our own lives, using knowledge and wisdom gained through the seminar;
- and
- (d) To develop research skills and knowledge to apply selected social psychological theories to a real-life context.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course combines several pedagogical strategies including student-led weekly class discussions and presentations. Students will receive oral and written feedback on their presentations and weekly reaction papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Share course overview, expectations, and requirements
2	Seminar Reading and Discussion (1)	Student presentations and discussions of assigned readings
3	Seminar Reading and Discussion (2)	Student presentations and discussions of assigned readings
4	Proposing Research Ideas	Discussing students' research proposals
5	Seminar Reading and Discussion (3)	Student presentations and discussions of assigned readings
6	Seminar Reading and Discussion (4)	Student presentations and discussions of assigned readings
7	Proposing Research Questions	Discussing students' research proposals
8	Seminar Reading and Discussion (5)	Student presentations and discussions of assigned readings
9	Seminar Reading and Discussion (6)	Student presentations and discussions of assigned readings
10	Proposing Research Hypotheses	Discussing students' research proposals
11	Seminar Reading and Discussion (7)	Student presentations and discussions of assigned readings
12	Seminar Reading and Discussion (8)	Student presentations and discussions of assigned readings
13	Seminar Reading and Discussion (9)	Student presentations and discussions of assigned readings
14	Final Synthesis	What have we learned and what are the next steps?

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete all the reading assignments, write weekly reaction papers, and post them on the course website by the designated date. Those assigned to lead discussions will further prepare the summaries of the readings and discussion questions. Third-year students will formulate research questions and hypotheses based on a comprehensive review of relevant literature on the topic. Fourth-year students are expected to run their survey or experiment and collect data for their graduation thesis. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

none

[References]

The weekly readings and other resources will be posted on the course website.

Hacker, D. & Sommers, N. (2020). *A pocket style manual*. (8th ed.). APA Version.

[Grading criteria]

Progress on research 30%

Weekly questions & papers 30%

Participation in discussion 20%

Final synthesis paper 10%

Leading discussion 10% (3rd year students)

Research support 10% (4th year students)

[Changes following student comments]

Students preferred that they split the task between those who present the readings and those who lead the discussions, as they did last year in the fall term. I agree that the quality of the presentation and discussions had improved by splitting the tasks. This will give more opportunities for students to present. I will make this change for this year. Thank you for the helpful feedback.

[Equipment student needs to prepare]

Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

[Others]

Students are strongly encouraged to have successfully completed the following courses prior to joining this seminar: Statistics, Social Psychology I and II, and Quantitative Research Methods. Instructor's permission is required.

[Prerequisites]

none

PSY400ZA (心理学 / Psychology 400)

Seminar: Self and Culture II

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, drawing on empirical literature in social and cultural psychology. In both the spring and fall semesters, the seminar will meet once a week for 2 periods. In the fall, class time will be devoted to group discussions on assigned readings related to students' research interest as well as to group discussions on student led research. Third year students will design and prepare an experiment or a survey to be conducted the following year; fourth year students will analyze their data and write a research paper in APA-style. Students will receive guidance on each step of research, from identifying and refining a research question, conducting a literature review, to creating a questionnaire, analyzing data, and reporting their results.

[Goal]

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) To learn how social psychology can help understand our behaviors and decisions via literature review and in-depth discussion;
- (b) To develop a deeper understanding of our own lives, using knowledge and wisdom gained through the seminar;
- (c) To design and implement a small-scale empirical study on the basis of previous research and skills;
- (d) To analyze and interpret collected data using statistical software (e.g., JASP, SPSS, R, HAD); and
- (e) To write up a research paper formatted in APA style (for fourth year students).

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including student-led weekly class discussions and presentations. Students will receive oral and written feedback on their presentations and papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Share course overview, expectations, & requirements
2	Seminar Reading and Discussion (1)	Discussion of readings relevant to students' research interest
3	Developing Research Procedure (1)	Shares and gets feedback on the progress of student research
4	Seminar Reading and Discussion (2)	Discussion of readings relevant to students' research interest
5	Developing Research Procedure (2)	Shares and gets feedback on the progress of student research
6	Seminar Reading and Discussion (3)	Discussion of readings relevant to students' research interest
7	Analyzing and Interpreting Data (1)	Shares and gets feedback on data analyses
8	Seminar Reading and Discussion (4)	Discussion of readings relevant to students' research interest
9	Analyzing and Interpreting Data (2)	Shares and gets feedback on data analyses
10	Seminar Reading and Discussion (5)	Discussion of readings relevant to students' research interest
11	Developing Research Materials (1)	Shares and gets feedback on research materials
12	Developing Research Materials (2)	Shares and gets feedback on research materials
13	Research Presentation (1)	Reviews the entire semester, and shares research findings
14	Research Presentation (2)	Reviews the entire semester, and shares research findings

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete all the reading assignments, write reaction papers, and post them on the course website by the designated date. Those assigned to lead discussions will further prepare the summaries of the readings and discussion questions. Third-year students will design an experimental or survey study, prepare research materials, and write up a research proposal. Fourth-year students will collect and analyze data, and write up their graduation thesis. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

None.

[References]

Readings and other resources will be provided on the course website.

Additional references will be introduced in class.

Hacker, D. & Sommers, N. (2020). *A pocket style manual*. (8th ed.). APA Version.

[Grading criteria]

Students are evaluated based on their research (70%), contribution to the seminar (20%), and contribution to the discussion on the assigned readings (10%).

For graduating students, their research grade will be based on progress and punctuality (30%), final draft (30%), and final presentation (10%).

For third-year students, their research grade will be based on consistent progress (30%), research proposal (20%), ethics approval form (10%), and final presentation (10%).

[Changes following student comments]

Students preferred that they split the task between those who present the readings and those who lead the discussions, as they did last year in the fall term. I agree that the quality of the presentation and discussions had improved by splitting the tasks. This will give more opportunities for students to present. I will make this change for this year. Thank you for the helpful feedback.

[Equipment student needs to prepare]

Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

[Others]

Students are strongly encouraged to have successfully completed the following courses prior to joining this seminar: Statistics, Social Psychology I and II, and Quantitative Research Methods. Instructor's permission is required.

[Prerequisite]

None.

PSY400ZA (心理学 / Psychology 400)

Seminar: Self and Culture II

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月4/Mon.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, drawing on empirical literature in social and cultural psychology. In both the spring and fall semesters, the seminar will meet once a week for 2 periods. In the fall, class time will be devoted to group discussions on assigned readings related to students' research interest as well as to group discussions on student led research. Third year students will design and prepare an experiment or a survey to be conducted the following year; fourth year students will analyze their data and write a research paper in APA-style. Students will receive guidance on each step of research, from identifying and refining a research question, conducting a literature review, to creating a questionnaire, analyzing data, and reporting their results.

[Goal]

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) To learn how social psychology can help understand our behaviors and decisions via literature review and in-depth discussion;
- (b) To develop a deeper understanding of our own lives, using knowledge and wisdom gained through the seminar;
- (c) To design and implement a small-scale empirical study on the basis of previous research and skills;
- (d) To analyze and interpret collected data using statistical software (e.g., JASP, SPSS, R, HAD); and
- (e) To write up a research paper formatted in APA style (for fourth year students).

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including student-led weekly class discussions and presentations. Students will receive oral and written feedback on their presentations and papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Share course overview, expectations, & requirements
2	Seminar Reading and Discussion (1)	Discussion of readings relevant to students' research interest
3	Developing Research Procedure (1)	Shares and gets feedback on the progress of student research
4	Seminar Reading and Discussion (2)	Discussion of readings relevant to students' research interest
5	Developing Research Procedure (2)	Shares and gets feedback on the progress of student research
6	Seminar Reading and Discussion (3)	Discussion of readings relevant to students' research interest
7	Analyzing and Interpreting Data (1)	Shares and gets feedback on data analyses
8	Seminar Reading and Discussion (4)	Discussion of readings relevant to students' research interest
9	Analyzing and Interpreting Data (2)	Shares and gets feedback on data analyses
10	Seminar Reading and Discussion (5)	Discussion of readings relevant to students' research interest
11	Developing Research Materials (1)	Shares and gets feedback on research materials
12	Developing Research Materials (2)	Shares and gets feedback on research materials
13	Research Presentation (1)	Reviews the entire semester, and shares research findings
14	Research Presentation (2)	Reviews the entire semester, and shares research findings

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete all the reading assignments, write reaction papers, and post them on the course website by the designated date. Those assigned to lead discussions will further prepare the summaries of the readings and discussion questions. Third-year students will design an experimental or survey study, prepare research materials, and write up a research proposal. Fourth-year students will collect and analyze data, and write up their graduation thesis. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

None.

[References]

Readings and other resources will be provided on the course website.

Additional references will be introduced in class.

Hacker, D. & Sommers, N. (2020). *A pocket style manual*. (8th ed.). APA Version.

[Grading criteria]

Students are evaluated based on their research (70%), contribution to the seminar (20%), and contribution to the discussion on the assigned readings (10%).

For graduating students, their research grade will be based on progress and punctuality (30%), final draft (30%), and final presentation (10%).

For third-year students, their research grade will be based on consistent progress (30%), research proposal (20%), ethics approval form (10%), and final presentation (10%).

[Changes following student comments]

Students preferred that they split the task between those who present the readings and those who lead the discussions, as they did last year in the fall term. I agree that the quality of the presentation and discussions had improved by splitting the tasks. This will give more opportunities for students to present. I will make this change for this year. Thank you for the helpful feedback.

[Equipment student needs to prepare]

Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

[Others]

Students are strongly encouraged to have successfully completed the following courses prior to joining this seminar: Statistics, Social Psychology I and II, and Quantitative Research Methods. Instructor's permission is required.

[Prerequisite]

None.

POL400ZA (政治学 / Politics 400)

Seminar: International Relations I

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木4/Thu.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic changes in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States over world politics is declining vis-à-vis rising states, most notably China. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values (such as democracy, the rule of law, and human rights) that have constituted an important feature of an American-led order are being challenged by the rise of alternative norms and values, supported by non-democratic rising states. This trend has been further reinforced by growing public distrust of existing political systems in many Western democracies, mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, which was previously dominated by states, has increasingly featured non-state actors, including multinational corporations (in particular giant IT companies), non-government organizations, and transnational terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: What will be the shape of the world order in the 21st century?

In order to address this question, this seminar will examine the following:

- 1) Shifts in power distribution among great powers and their strategic competitions.
- 2) Prospects for global governance (Climate Change, Trade and Investment, Financial Crisis)
- 3) New technology and geopolitics (Rivalries among major powers regarding AI and clean energy technologies, The roles of "Big-Tech" companies)
- 4) The political effects of economic globalization (The rise of populism and the decline of democracy in major countries)
- 5) Competition among differing norms and values: disputes over capitalism, democracy, human rights, and self-determination in the Middle East, Africa, and East Asia.

[Goal]

The course objectives are:

- 1) To provide students with a background for eventual careers in fields (including work in government, international organizations, business, and the media) which require articulate, clear-thinking individuals with a grasp of contemporary international relations (IR);
- 2) To enable students to establish a firm foundation for studying IR at graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate mastery of the subject matter of the course through the expression of relevant factual knowledge and the comprehension of relevant theory, deployed with appropriate analytical skill, as evidenced in discussion, oral presentation and written work.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The spring semester will have detailed discussion on topics relating to the main theme of this seminar. Extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester.

During the fall semester (and the summer camp), students will undertake their own research projects. Seminar members will also engage in some group work relating to their research topics, role-play, and simulation studies).

Students will be required to write several short essays (only in the spring semester) and one research paper during the course (submitting a research paper by late January 2026). Students can choose any topics within the discipline of IR. Minimum length for the research paper is 4,000 words. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects during the year. Dissertation subjects can be on anything within the IR discipline. Minimum length is 8,000 words, excluding bibliography, but including notes, any appendices and tables.

Comments for assignments are given during class and office hours.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Review of IR Theories	Reviewing IR theories
3	Seminar Topic 1	Discussion on the assigned topic
4	Seminar Topic 2	Discussion on the assigned topic
5	Debate 1	Debate
6	Seminar Topic 3	Discussion on the assigned topic
7	Seminar Topic 4	Discussion on the assigned topic
8	Debate 2 and the Mid-term	Presenting preliminary research proposal
	Presentation (4th year students)	
9	Seminar Topic 6	Discussion on the assigned topic
10	Seminar Topic 7	Discussion on the assigned topic
11	Debate 3	Debate
12	Seminar Topic 8	Discussion on the assigned topic
13	Seminar Topic 9	Discussion on the assigned topic.
14	Final Research	Presenting a research proposal
	Proposal Presentation (Fourth-year students)	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer. No textbook is required.

[References]

Information relating to references will be provided during the course.

[Grading criteria]

Third year students: Essays (45%), Presentations and Discussions (35%), Debate (20%). Fourth year students: Class Contributions (15%), Mid-Term and Final Presentations (25%), Research Proposals (60%).

[Changes following student comments]

Handouts to be provided in a timely manner.

[Prerequisite]

Students wishing to take this seminar are required to have completed "Introduction to International Relations" .

POL400ZA (政治学 / Politics 400)

Seminar: International Relations I

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木5/Thu.5

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic changes in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States over world politics is declining vis-à-vis rising states, most notably China. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values (such as democracy, the rule of law, and human rights) that have constituted an important feature of an American-led order are being challenged by the rise of alternative norms and values, supported by non-democratic rising states. This trend has been further reinforced by growing public distrust of existing political systems in many Western democracies, mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, which was previously dominated by states, has increasingly featured non-state actors, including multinational corporations (in particular giant IT companies), non-government organizations, and transnational terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: What will be the shape of the world order in the 21st century?

In order to address this question, this seminar will examine the following:

- 1) Shifts in power distribution among great powers and their strategic competitions.
- 2) Prospects for global governance (Climate Change, Trade and Investment, Financial Crisis)
- 3) New technology and geopolitics (Rivalries among major powers regarding AI and clean energy technologies, The roles of "Big-Tech" companies)
- 4) The political effects of economic globalization (The rise of populism and the decline of democracy in major countries)
- 5) Competition among differing norms and values: disputes over capitalism, democracy, human rights, and self-determination in the Middle East, Africa, and East Asia.

[Goal]

The course objectives are:

- 1) To provide students with a background for eventual careers in fields (including work in government, international organizations, business, and the media) which require articulate, clear-thinking individuals with a grasp of contemporary international relations (IR);
- 2) To enable students to establish a firm foundation for studying IR at graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate mastery of the subject matter of the course through the expression of relevant factual knowledge and the comprehension of relevant theory, deployed with appropriate analytical skill, as evidenced in discussion, oral presentation and written work.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The spring semester will have detailed discussion on topics relating to the main theme of this seminar. Extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester.

During the fall semester (and the summer camp), students will undertake their own research projects. Seminar members will also engage in some group work relating to their research topics, role-play, and simulation studies).

Students will be required to write several short essays (only in the spring semester) and one research paper during the course (submitting a research paper by late January 2026). Students can choose any topics within the discipline of IR. Minimum length for the research paper is 4,000 words. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects during the year. Dissertation subjects can be on anything within the IR discipline. Minimum length is 8,000 words, excluding bibliography, but including notes, any appendices and tables.

Comments for assignments are given during class and office hours.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Review of IR Theories	Reviewing IR theories
3	Seminar Topic 1	Discussion on the assigned topic
4	Seminar Topic 2	Discussion on the assigned topic
5	Debate 1	Debate
6	Seminar Topic 3	Discussion on the assigned topic
7	Seminar Topic 4	Discussion on the assigned topic
8	Debate 2 and the Mid-term	Presenting preliminary research proposal
	Presentation (4th year students)	
9	Seminar Topic 6	Discussion on the assigned topic
10	Seminar Topic 7	Discussion on the assigned topic
11	Debate 3	Debate
12	Seminar Topic 8	Discussion on the assigned topic
13	Seminar Topic 9	Discussion on the assigned topic.
14	Final Research Proposal Presentation (Fourth-year students)	Presenting a research proposal

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer. No textbook is required.

[References]

Information relating to references will be provided during the course.

[Grading criteria]

Third year students: Essays (45%), Presentations and Discussions (35%), Debate (20%). Fourth year students: Class Contributions (15%), Mid-Term and Final Presentations (25%), Research Proposals (60%).

[Changes following student comments]

Handouts to be provided in a timely manner.

[Prerequisite]

Students wishing to take this seminar are required to have completed "Introduction to International Relations" .

POL400ZA (政治学 / Politics 400)

Seminar: International Relations II

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 木 4/Thu.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic changes in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States over world politics is declining vis-à-vis rising states, most notably China. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values (such as democracy, the rule of law, and human rights) that have constituted an important feature of an American-led order are being challenged by the rise of alternative norms and values, supported by non-democratic rising states. This trend has been further reinforced by growing public distrust of existing political systems in many Western democracies, mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, which was previously dominated by states, has increasingly featured non-state actors, including multinational corporations (in particular giant IT companies), non-government organizations, and transnational terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: What will be the shape of the world order in the 21st century?

In order to address this question, this seminar will examine the following:

- 1) Shifts in power distribution among great powers and their strategic competitions.
- 2) Prospects for global governance (Climate Change, Trade and Investment, Financial Crisis)
- 3) New technology and geopolitics (Rivalries among major powers regarding AI and clean energy technologies, The roles of "Big-Tech" companies)
- 4) The political effects of economic globalization (The rise of populism and the decline of democracy in major countries)
- 5) Competition among differing norms and values: disputes over capitalism, democracy, human rights, and self-determination in the Middle East, Africa, and East Asia.

【Goal】

The course objectives are:

- 1) To provide students with a background for eventual careers in fields (including work in government, international organizations, business, and the media) which require articulate, clear-thinking individuals with a grasp of contemporary international relations (IR);
- 2) To enable students to establish a firm foundation for studying IR at graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate mastery of the subject matter of the course through the expression of relevant factual knowledge and the comprehension of relevant theory, deployed with appropriate analytical skill, as evidenced in discussion, oral presentation and written work.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The spring semester will have detailed discussion on topics relating to the main theme of this seminar. Extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester.

During the fall semester (and the summer camp), students will undertake their own research projects. Seminar members will also engage in some group work relating to their research topics and class simulation studies (role play game).

-

Students will be required to write several short essays (only in the spring semester) and one research paper during the course (submitting a research paper by the late January 2026). Minimum length for the research paper is 4,000 words. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects during the year. Minimum length is 8,000 words, excluding bibliography, but including notes, any appendices and tables.

Comments for assignments are given during class and office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Revised Research Proposal I	Revised Research Proposal I
2	Revised Research Proposal II	Presenting revised research proposals
3	Newspaper Content Analysis I	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
4	Role play I	A simulation and role play exercise
5	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
6	Mid-term Presentation on Research Papers (Third-year students)	Reporting progress on research papers
7	Mid-term Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Reporting progress on dissertations
8	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
9	Role play II	A simulation and role play exercise
10	Newspaper Content Analysis II	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
11	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
12	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
13	Final Presentation on Research Papers (Third-year students)	Presenting research papers
14	Final Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Presenting dissertations

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. For this reason, students are expected to organize study groups (sub-seminars) outside of class. This seminar will host a summer camp. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer. No textbook is required.

【References】

Information relating to references will be provided during the course.

【Grading criteria】

Third year students: Research Papers (including Mid-Term and Final Presentations) (70%), Newspaper Content Analysis (20%), Role Play (10%).

Fourth year students: Role Play (10%), Newspaper Content Analysis (10%) Dissertations (including Mid-Term and Final Presentations (80%)).

【Changes following student comments】

Handouts to be provided in a timely manner.

【Equipment student needs to prepare】

Course materials will be delivered via Hoppii.

【Prerequisite】

Students wishing to take this seminar are required to have completed either "Introduction to International Relations " or "World Politics."

POL400ZA (政治学 / Politics 400)

Seminar: International Relations II

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 木5/Thu.5

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic changes in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States over world politics is declining vis-à-vis rising states, most notably China. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values (such as democracy, the rule of law, and human rights) that have constituted an important feature of an American-led order are being challenged by the rise of alternative norms and values, supported by non-democratic rising states. This trend has been further reinforced by growing public distrust of existing political systems in many Western democracies, mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, which was previously dominated by states, has increasingly featured non-state actors, including multinational corporations (in particular giant IT companies), non-government organizations, and transnational terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: What will be the shape of the world order in the 21st century?

In order to address this question, this seminar will examine the following:

- 1) Shifts in power distribution among great powers and their strategic competitions.
- 2) Prospects for global governance (Climate Change, Trade and Investment, Financial Crisis)
- 3) New technology and geopolitics (Rivalries among major powers regarding AI and clean energy technologies, The roles of "Big-Tech" companies)
- 4) The political effects of economic globalization (The rise of populism and the decline of democracy in major countries)
- 5) Competition among differing norms and values: disputes over capitalism, democracy, human rights, and self-determination in the Middle East, Africa, and East Asia.

【Goal】

The course objectives are:

- 1) To provide students with a background for eventual careers in fields (including work in government, international organizations, business, and the media) which require articulate, clear-thinking individuals with a grasp of contemporary international relations (IR);
- 2) To enable students to establish a firm foundation for studying IR at graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate mastery of the subject matter of the course through the expression of relevant factual knowledge and the comprehension of relevant theory, deployed with appropriate analytical skill, as evidenced in discussion, oral presentation and written work.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The spring semester will have detailed discussion on topics relating to the main theme of this seminar. Extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester.

During the fall semester (and the summer camp), students will undertake their own research projects. Seminar members will also engage in some group work relating to their research topics and class simulation studies (role play game).

-

Students will be required to write several short essays (only in the spring semester) and one research paper during the course (submitting a research paper by the late January 2026). Minimum length for the research paper is 4,000 words. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects during the year. Minimum length is 8,000 words, excluding bibliography, but including notes, any appendices and tables.

Comments for assignments are given during class and office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Revised Research Proposal I	Revised Research Proposal I
2	Revised Research Proposal II	Presenting revised research proposals
3	Newspaper Content Analysis I	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
4	Role play I	A simulation and role play exercise
5	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
6	Mid-term Presentation on Research Papers (Third-year students)	Reporting progress on research papers
7	Mid-term Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Reporting progress on dissertations
8	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
9	Role play II	A simulation and role play exercise
10	Newspaper Content Analysis II	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
11	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
12	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
13	Final Presentation on Research Papers (Third-year students)	Presenting research papers
14	Final Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Presenting dissertations

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. For this reason, students are expected to organize study groups (sub-seminars) outside of class. This seminar will host a summer camp. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer. No textbook is required.

【References】

Information relating to references will be provided during the course.

【Grading criteria】

Third year students: Research Papers (including Mid-Term and Final Presentations) (70%), Newspaper Content Analysis (20%), Role Play (10%).

Fourth year students: Role Play (10%), Newspaper Content Analysis (10%) Dissertations (including Mid-Term and Final Presentations (80%)).

【Changes following student comments】

Handouts to be provided in a timely manner.

【Equipment student needs to prepare】

Course materials will be delivered via Hoppii.

【Prerequisite】

Students wishing to take this seminar are required to have completed either "Introduction to International Relations " or "World Politics."

TRS400ZA (観光学 / Tourism Studies 400)

Seminar: Tourism Management I

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

[Outline and objectives]

While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned. The post-coronavirus recovery process offered a rare chance for the tourism industry to consider revising hitherto unsustainable business practices, but it seems that many destinations are returning to 'business as usual'. Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will also be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be the completed during the second year of the seminar.

[Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work. This will include multiple aspects of tourism management including stakeholder management, tourism impacts, Airbnb, overtourism and niche tourism development.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced valuable research and analytical skills that will be of great use in their future. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.

While seminars will be partly instructor-led, students will play an increasing role in giving presentations & leading discussions on the Core Readings. As students' own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise on their subject areas and research methods with the other students.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

あり /Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Seminar Reading 1	Case study 1: tourism & stakeholder management
3	Seminar Reading 2	Case study 2: branding & an introduction to a sustainable tourism framework
4	Seminar Reading 3	Case study 3: sustainability & marketing.
5	Research Methods	Tourism entrepreneurs: stakeholder management
6	Seminar Reading 4	Introduction to research methods: the literature review

7	Seminar Reading 5	Case study 4: destination management Research methods: netnography
8	Research Project	Case study 5: anime tourism pilgrimages in Japan
9	Seminar Reading 6	Case study 6: authenticity - indigenous tourism in Canada Research methods: surveys
10	Seminar Reading 7	Case study 7: ecotourism & gender
11	Research Workshop and Consultation	
12	Presentations on Student Research Proposal 1	Case study 8: destination marketing & Instagram
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Presentations workshop
14	Final Discussion	Group presentations & discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete the assigned Core Reading(s) as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge.
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

In alternate years we will use one of the above textbooks so you will need to have both. More details will be provided in class.

Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on Hoppii.

[References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge

[Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Update (40%).

Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

[Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will hope to take both a summer trip and undertake field work during the semesters.

[Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

Seminar students **must** concurrently enroll in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).

Students are expected to study in the seminar for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

[Prerequisite]

Seminar students should have taken at least two of the following courses: Cultural Studies; Event Management; Hospitality Management in Japan; Introduction to Business; Introduction to Tourism Studies; Marketing in Japan; Marketing Management; Marketing Research; Principles of Marketing; Tourism Development in Japan.

TRS400ZA (観光学 / Tourism Studies 400)

Seminar: Tourism Management I

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

[Outline and objectives]

While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned. The post-coronavirus recovery process offered a rare chance for the tourism industry to consider revising hitherto unsustainable business practices, but it seems that many destinations are returning to 'business as usual'.

Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will also be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be the completed during the second year of the seminar.

[Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work. This will include multiple aspects of tourism management including stakeholder management, tourism impacts, Airbnb, overtourism and niche tourism development.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced valuable research and analytical skills that will be of great use in their future. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.

While seminars will be partly instructor-led, students will play an increasing role in giving presentations & leading discussions on the Core Readings. As students' own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise on their subject areas and research methods with the other students.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

あり /Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Seminar Reading 1	Case study 1: tourism & stakeholder management
3	Seminar Reading 2	Case study 2: branding & an introduction to a sustainable tourism framework
4	Seminar Reading 3	Case study 3: sustainability & marketing.
5	Research Methods	Tourism entrepreneurs: stakeholder management
6	Seminar Reading 4	Introduction to research methods: the literature review

7	Seminar Reading 5	Case study 4: destination management
8	Research Project	Research methods: netnography
9	Seminar Reading 6	Case study 5: anime tourism pilgrimages in Japan
10	Seminar Reading 7	Case study 6: authenticity - indigenous tourism in Canada
11	Research Workshop and Consultation	Research methods: surveys
12	Presentations on Student Research Proposal 1	Case study 7: ecotourism & gender
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Case study 8: destination marketing & Instagram
14	Final Discussion	Presentations workshop
		Group presentations & discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete the assigned Core Reading(s) as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge.

Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

In alternate years we will use one of the above textbooks so you will need to have both. More details will be provided in class.

Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on Hoppii.

[References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge

[Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Update (40%).

Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

[Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will hope to take both a summer trip and undertake field work during the semesters.

[Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

Seminar students **must** concurrently enroll in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).

Students are expected to study in the seminar for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

[Prerequisite]

Seminar students should have taken at least two of the following courses: Cultural Studies; Event Management; Hospitality Management in Japan; Introduction to Business; Introduction to Tourism Studies; Marketing in Japan; Marketing Management; Marketing Research; Principles of Marketing; Tourism Development in Japan.

TRS400ZA (観光学 / Tourism Studies 400)

Seminar: Tourism Management II

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】

This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be the completed during the second year of the seminar.

Building on knowledge acquired in the Spring semester on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management. These will vary from year to year based on students' research interests and current affairs.

【Goal】

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work or graduate school.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, junior students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, senior students will research and write their 5000-word extended research paper.

In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction & Update	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester Case study 1: virtual reality & tourism
2	Seminar Reading	Case study 2: the visitor experience
3	Seminar Reading	Case study 3: creativity & branding
4	Seminar Reading	Case study 4: tourism management & local stakeholders (NIMBY)
5	Marketing Task Field Study Preparation	Marketing Plan analysis & preparation for the field study
6	Field Study (off-campus)	Conducting the field study at a tourism-related site
7	Field Study Feedback	Review of the field study
8	Seminar Reading	Case study 5: niche tourism (destinations & LGBTQ+ tourist segments)
9	Seminar Reading	Case study 6: niche tourism (tourism routes)

10	Seminar Reading	Case study 7: tourism development in Japan
11	Seminar Reading	Case study 8: niche tourism (gastrotourism)
12	Group Presentations & Discussions on Students' Research Projects	Presentations on niche tourism & discussions on students' individual research projects
13	Seminar Reading	Case study 9: disaster preparedness
14	Presentations on Students' Research Projects 2 & Final Discussion	Presentations on students' individual research projects and wrapping up the year

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must complete the assigned Core Reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge.
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

In alternate years we will use one of the above textbooks so you will need to have both. More details will be provided in class.

Also, weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

【References】

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge

【Grading criteria】

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and 5000-word Final Paper (50%).

Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

【Changes following student comments】

Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will hope to undertake both a summer trip and undertake field work during the semesters.

【Equipment student needs to prepare】

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

Students are expected to study in the seminar for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

【Prerequisite】

Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

TRS400ZA (観光学 / Tourism Studies 400)

Seminar: Tourism Management II

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月4/Mon.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

[Outline and objectives]

This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be the completed during the second year of the seminar.

Building on knowledge acquired in the Spring semester on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management. These will vary from year to year based on students' research interests and current affairs.

[Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work or graduate school.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, junior students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, senior students will research and write their 5000-word extended research paper.

In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

あり /Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction & Update	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester Case study 1: virtual reality & tourism
2	Seminar Reading	Case study 2: the visitor experience
3	Seminar Reading	Case study 3: creativity & branding
4	Seminar Reading	Case study 4: tourism management & local stakeholders (NIMBY)
5	Marketing Task Field Study Preparation	Marketing Plan analysis & preparation for the field study
6	Field Study (off-campus)	Conducting the field study at a tourism-related site
7	Field Study Feedback	Review of the field study
8	Seminar Reading	Case study 5: niche tourism (destinations & LGBTQ+ tourist segments)
9	Seminar Reading	Case study 6: niche tourism (tourism routes)

10	Seminar Reading	Case study 7: tourism development in Japan
11	Seminar Reading	Case study 8: niche tourism (gastrotourism)
12	Group Presentations & Discussions on Students' Research Projects	Presentations on niche tourism & discussions on students' individual research projects
13	Seminar Reading	Case study 9: disaster preparedness
14	Presentations on Students' Research Projects 2 & Final Discussion	Presentations on students' individual research projects and wrapping up the year

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete the assigned Core Reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge.
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

In alternate years we will use one of the above textbooks so you will need to have both. More details will be provided in class.

Also, weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

[References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge

[Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and 5000-word Final Paper (50%).

Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

[Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will hope to undertake both a summer trip and undertake field work during the semesters.

[Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

Students are expected to study in the seminar for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

[Prerequisite]

Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Entrepreneurship & Innovation I

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

[Goal]

The goal of this seminar is to provide students with fundamental theories, and contemporary practices of entrepreneurship and innovation. Students will learn the importance of entrepreneurship and innovation to a country's economic growth. In addition, through case studies, students will learn how firms use innovation to create new products, new markets, new organizations, new business model and new industries.

Spring Innovation Themes: Innovation Theories and Concepts, Open Innovation and Disruptive Innovation.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course is taught primarily through presentations and discussions. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email. Students give presentations on selected readings as well as on their own research.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (1)	Schumpeter on innovation and entrepreneurship
3	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (2)	History's best examples of business Transformation
4	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (3)	Introduction to innovation management
5	Managing Innovation - Market Adoption and Technology Diffusion (1)	The dilemma of innovation management
6	Managing Innovation - Market Adoption and Technology Diffusion (2)	Organization structure and innovation
7	Managing Organizational Knowledge	Technology trajectories
8	Open Innovation and Technology Transfer	Open innovation
9	Open Innovation and Technology Transfer (2)	Technology transfer
10	Disruptive innovation (1)	What is disruptive innovation?
11	Disruptive innovation (2)	Disruptive innovation in various industries
12	Case studies (1)	Presentation and discussion
13	Case studies (2)	Presentation and discussion
14	Case studies (3)	Presentation and discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading and preparation for discussion /presentation. Students are required to read the assigned readings and case studies adequately to be able to engage in active discussion in class. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used

[References]

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015

Christensen, Clayton. *The Innovation Dilemma*, Harvard Business Review, 2013

Chesbrough, Henry. *Open Innovation: The New Imperative for Creating And Profiting from Technology*, Harvard Business Review, 2006

Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley. 2016

Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

[Grading criteria]

Students will be evaluated based on class participation (20%), case study presentations and discussions (50%) and a final paper (30%).

[Changes following student comments]

Not applicable

[Prerequisite]

Students who passed the interview for this seminar.

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Entrepreneurship & Innovation I

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金2/Fri.2

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

【Goal】

The goal of this seminar is to provide students with fundamental theories, and contemporary practices of entrepreneurship and innovation. Students will learn the importance of entrepreneurship and innovation to a country's economic growth. In addition, through case studies, students will learn how firms use innovation to create new products, new markets, new organizations, new business model and new industries.

Spring Innovation Themes: Innovation Theories and Concepts, Open Innovation and Disruptive Innovation.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course is taught primarily through presentations and discussions. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email. Students give presentations on selected readings as well as on their own research.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (1)	Schumpeter on innovation and entrepreneurship
3	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (2)	History's best examples of business Transformation
4	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (3)	Introduction to innovation management
5	Managing Innovation – Market Adoption and Technology Diffusion (1)	The dilemma of innovation management
6	Managing Innovation – Market Adoption and Technology Diffusion (2)	Organization structure and innovation
7	Managing Organizational Knowledge	Technology trajectories
8	Open Innovation and Technology Transfer	Open innovation
9	Open Innovation and Technology Transfer (2)	Technology transfer
10	Disruptive innovation (1)	What is disruptive innovation?
11	Disruptive innovation (2)	Disruptive innovation in various industries
12	Case studies (1)	Presentation and discussion
13	Case studies (2)	Presentation and discussion
14	Case studies (3)	Presentation and discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading and preparation for discussion /presentation. Students are required to read the assigned readings and case studies adequately to be able to engage in active discussion in class. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used

【References】

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015

Christensen, Clayton. *The Innovation Dilemma*, Harvard Business Review, 2013

Chesbrough, Henry. *Open Innovation: The New Imperative for Creating And Profiting from Technology*, Harvard Business Review, 2006

Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley. 2016

Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), case study presentations and discussions (50%) and a final paper (30%).

【Changes following student comments】

Not applicable

【Prerequisite】

Students who passed the interview for this seminar.

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Entrepreneurship & Innovation II

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 1/Fri.1

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

【Goal】

This is a continuation of the seminar from the Spring semester. We will continue to learn concepts and theories related to entrepreneurship and innovation but more emphasis will be placed on case studies. Students will refine their skills in discussion and presentation. Students will also conduct their own research related to a theme in this seminar.

Fall Innovation Theme: Industry analysis, Resources and Capabilities, Competitive Advantage and Business Plan

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Students will further examine the theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation through case studies. Students will read and discuss papers and research conducted in this area. In the process, they will acquire tools and perspectives to formulate a research question and to apply what they have learnt to their own research. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Strategy (1)	From theory to practice
3	Strategy (2)	Industry Analysis
4	Strategy (3)	Case studies
5	Resources and Capabilities (1)	From theory to practice
6	Resources and Capabilities (2)	Case studies
7	Research paper	Discuss how to write a research paper
8	Competitive Advantage (1)	From theory to practice
9	Competitive Advantage (2)	Case studies
10	Business Ideas, Business Model and Business Plan (1)	From theory to practice
11	Business Ideas, Business Model and Business Plan (2)	Develop a business canvas based on a business plan
12	Company visit.	Company visit
13	Final Presentation (1)	Term paper and research paper presentation
14	Final Presentation (2)	Term paper and research paper presentation

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading, preparation for discussion/presentation for case studies. Students are required to read the assigned readings adequately to be able to engage in active discussion in class. 4th year students are required to write their research paper/graduation thesis.

Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No particular textbook.

【References】

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015

Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley. 2016

Portales, Luis. *Social innovation and social entrepreneurship: Fundamentals, Concepts, and Tools*, Palgrave Macmillan. 2019

Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), case study presentations and discussions (40%) and a term paper/research paper (40%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

This seminar is only for GIS students who passed the seminar interview and have taken Seminar: Entrepreneurship and Innovation I.

【Prerequisite】

Seminar: Entrepreneurship and Innovation I

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Entrepreneurship & Innovation II

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 金2/Fri.2

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

【Goal】

This is a continuation of the seminar from the Spring semester. We will continue to learn concepts and theories related to entrepreneurship and innovation but more emphasis will be placed on case studies. Students will refine their skills in discussion and presentation. Students will also conduct their own research related to a theme in this seminar.

Fall Innovation Theme: Industry analysis, Resources and Capabilities, Competitive Advantage and Business Plan

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Students will further examine the theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation through case studies. Students will read and discuss papers and research conducted in this area. In the process, they will acquire tools and perspectives to formulate a research question and to apply what they have learnt to their own research. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Strategy (1)	From theory to practice
3	Strategy (2)	Industry Analysis
4	Strategy (3)	Case studies
5	Resources and Capabilities (1)	From theory to practice
6	Resources and Capabilities (2)	Case studies
7	Research paper	Discuss how to write a research paper
8	Competitive Advantage (1)	From theory to practice
9	Competitive Advantage (2)	Case studies
10	Business Ideas, Business Model and Business Plan (1)	From theory to practice
11	Business Ideas, Business Model and Business Plan (2)	Develop a business canvas based on a business plan
12	Company visit.	Company visit
13	Final Presentation (1)	Term paper and research paper presentation
14	Final Presentation (2)	Term paper and research paper presentation

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading, preparation for discussion/presentation for case studies. Students are required to read the assigned readings adequately to be able to engage in active discussion in class. 4th year students are required to write their research paper/graduation thesis.

Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No particular textbook.

【References】

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015

Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley, 2016

Portales, Luis. *Social innovation and social entrepreneurship: Fundamentals, Concepts, and Tools*, Palgrave Macmillan, 2019

Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), case study presentations and discussions (40%) and a term paper/research paper (40%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

This seminar is only for GIS students who passed the seminar interview and have taken Seminar: Entrepreneurship and Innovation I.

【Prerequisite】

Seminar: Entrepreneurship and Innovation I

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Global Strategic Management I

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on “Global Marketing Strategy”, including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

【Goal】

By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international/global business (b) learn “practical wisdom” by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical/critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager's perspective, (f) making presentations and discussion based on “facts and data” and “experience”, (g) participating in business contests.

In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries. Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

あり /Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Methods	Understanding of the Qualitative and Quantitative approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal
13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.
- ・Students need to make good preparations for individual/group study.
- ・Students are encouraged to join the summer training camp.

・ Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】

Participation (presentation/discussion etc.) (40%)

Assignment (20%)

Individual Report (3rd year students) (40%)

Final Report (4th year students) (40%)

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

【Prerequisite】

None.

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Global Strategic Management I

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 4/Fri.4/Fri.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on “Global Marketing Strategy”, including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

【Goal】

By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international /global business (b) learn "practical wisdom" by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical /critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager's perspective, (f) making presentations and discussion based on “facts and data” and “experience”, (g) participating in business contests.

In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries. Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

あり /Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Methods	Understanding of the Qualitative and Quantitative approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal
13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・ Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.
 ・ Students need to make good preparations for individual /group study.
 ・ Students are encouraged to join the summer training camp.

・ Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】

Participation (presentation /discussion etc.) (40%)

Assignment (20%)

Individual Report (3rd year students) (40%)

Final Report (4th year students) (40%)

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

【Prerequisite】

None.

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Global Strategic Management II

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】

Following Global Strategic Management I, Global Strategic Management II is designed for more group discussion and puts emphasis on planning and conducting independent research based on what students learn in the spring semester. Students are expected to participate in a business contest in this course, work with companies /local governments, and conduct a field study.

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on Global Marketing Strategy, Cross-Culture Management, Intercultural Communication, Brand Management, Global Advertisement, Decision Making, and CSR Strategy.

【Goal】

By the end of the seminar, students will gain (1)academic knowledge about international /global business, (2) practical wisdom by pursuing the reality in business activities, (3) the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking,(4) logical / critical thinking ability and effective presentation skills, (5) the ability to develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through (1) learning theoretical studies and case studies, (2) visiting companies and local areas, (3) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (4) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (5) approaching from manager's perspective, (6) making presentations and discussions based on “facts and data” and “experience”, (7) participating business contests. Necessary feedback will be given for the diversified academic activities at the class meetings.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

あり /Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation and Introduction	Orientation and introduction
2	Preparation for the Field Study	Preparation for the field study based on students' interest
3	Field Study (Outside the Campus)	Conduct of field study based on students' interest
4	Presentation and Discussion	Presentation and Discussion based on the findings in the field study
5	Presentation of your field study	Findings and Management Issues for your field study
6	Preparation of Business Plan Competition (1) —Marketing Analysis	Marketing analysis (analysis of the status quo)
7	Preparation of Business Plan Competition (2)—Planning	Planning from a strategic view point
8	Preparation of Business Plan Competition (3)—Presentation and Discussion	Presentation and discussion
9	Preparation of Business Plan Competition (4)—Final Presentation and Discussion	Revised presentation and discussion
10	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic viewpoint

11	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
12	Oral Presentation for Individual Research (1)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
13	Oral Presentation for Individual Research (2)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
14	Review for this course	Student will be asked to present on what they have learned in this course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・ Students are expected to engage in this course to deepen their understanding about global management strategy, analysis methods, business model, etc.
- ・ Students need to prepare for individual /group study and presentations.
- ・ Students are encouraged to join the summer training camp.
- ・ Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor if necessary.

【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】

Participation (presentation /discussion etc.)—40%

Assignment—20%

Interim Report (3rd year students)—40%

Final Report (4th year students)—40%

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Prerequisite】

Global Strategic Management I

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Global Strategic Management II

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 金4/Fri.4/Fri.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】

Following Global Strategic Management I, Global Strategic Management II is designed for more group discussion and puts emphasis on planning and conducting independent research based on what students learn in the spring semester. Students are expected to participate in a business contest in this course, work with companies /local governments, and conduct a field study.

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on Global Marketing Strategy, Cross-Culture Management, Intercultural Communication, Brand Management, Global Advertisement, Decision Making, and CSR Strategy.

【Goal】

By the end of the seminar, students will gain (1)academic knowledge about international /global business, (2) practical wisdom by pursuing the reality in business activities, (3) the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking,(4) logical / critical thinking ability and effective presentation skills, (5) the ability to develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through (1) learning theoretical studies and case studies, (2) visiting companies and local areas, (3) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (4) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (5) approaching from manager's perspective, (6) making presentations and discussions based on “facts and data” and “experience”, (7) participating business contests. Necessary feedback will be given for the diversified academic activities at the class meetings.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

あり /Yes

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation and Introduction	Orientation and introduction
2	Preparation for the Field Study	Preparation for the field study based on students' interest
3	Field Study (Outside the Campus)	Conduct of field study based on students' interest
4	Presentation and Discussion	Presentation and Discussion based on the findings in the field study
5	Presentation of your field study	Findings and Management Issues for your field study
6	Preparation of Business Plan Competition (1) —Marketing Analysis	Marketing analysis (analysis of the status quo)
7	Preparation of Business Plan Competition (2)—Planning	Planning from a strategic view point
8	Preparation of Business Plan Competition (3)—Presentation and Discussion	Presentation and discussion
9	Preparation of Business Plan Competition (4)—Final Presentation and Discussion	Revised presentation and discussion
10	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic viewpoint

11	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
12	Oral Presentation for Individual Research (1)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
13	Oral Presentation for Individual Research (2)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
14	Review for this course	Student will be asked to present on what they have learned in this course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・ Students are expected to engage in this course to deepen their understanding about global management strategy, analysis methods, business model, etc.
- ・ Students need to prepare for individual /group study and presentations.
- ・ Students are encouraged to join the summer training camp.
- ・ Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor if necessary.

【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】

Participation (presentation /discussion etc.)—40%

Assignment—20%

Interim Report (3rd year students)—40%

Final Report (4th year students)—40%

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Prerequisite】

Global Strategic Management I

LIT400ZA (文学 / Literature 400)

Seminar: Literature in Theory and Practice I

Gregory Kheznrajat

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木3/Thu.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

Written assignments: 30%

Presentation: 25%

Final paper: 25%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who have previously taken literature courses in GIS – particularly Introduction to Literature and/or Comparative Literature – will be given priority consideration.

【Prerequisite】

There are currently no prerequisites for this seminar.

【Outline and objectives】

This seminar is for students interested in literature, literary research, and composition. What separates a strong reading from a weak reading? How do critics and theorists evaluate and discuss a text? What tools and methods do researchers employ to deepen our understanding of a work of literature and its context? In this course, we will be exploring these questions through reading, researching, and discussing a selection of modern and contemporary pieces of short fiction.

【Goal】

Over the course of this seminar, students will:

- (1) develop advanced close reading skills
- (2) grasp the basic theory and methodology of literary research
- (3) develop the ability to discuss prose fiction in multiple technical and theoretical contexts

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This seminar will be primarily based around reading short fiction and essays. Students will conduct independent research on assigned short stories, which they will then present in class. These presentations will be interspersed with lectures and guided readings by the instructor. Students will be assessed based on class participation, presentations, and written submissions. Feedback on presentations and written assignments will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Methods	An introduction to methods and resources for literature research
3	Reading Literary Research (1)	Reading and critiquing secondary sources in literature research
4	Reading Literary Research (2)	Reading and critiquing secondary sources in literature research
5	Reading 1	Presentation and discussion related to student research
6	Reading 2	Presentation and discussion related to student research
7	Reading 3	Presentation and discussion related to student research
8	Reading 4	Presentation and discussion related to student research
9	Reading 5	Presentation and discussion related to student research
10	Reading 6	Presentation and discussion related to student research
11	Reading 7	Presentation and discussion related to student research
12	Reading 8	Presentation and discussion related to student research
13	Reading 9	Presentation and discussion related to student research
14	Synthesis	A review of the major themes and concepts of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to perform close readings of each of the assigned texts outside of class. This seminar will also require the completion of an independent research project. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Texts will be provided through Hoppii.

【References】

Relevant references will be provided in class by the instructor.

【Grading criteria】

Class contribution: 20%

LIT400ZA (文学 / Literature 400)

Seminar: Literature in Theory and Practice I

Gregory Kheznrajat

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木4/Thu.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

Written assignments: 30%

Presentation: 25%

Final paper: 25%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Others]

Students who have previously taken literature courses in GIS – particularly Introduction to Literature and/or Comparative Literature – will be given priority consideration.

[Prerequisite]

There are currently no prerequisites for this seminar.

[Outline and objectives]

This seminar is for students interested in literature, literary research, and composition. What separates a strong reading from a weak reading? How do critics and theorists evaluate and discuss a text? What tools and methods do researchers employ to deepen our understanding of a work of literature and its context? In this course, we will be exploring these questions through reading, researching, and discussing a selection of modern and contemporary pieces of short fiction.

[Goal]

Over the course of this seminar, students will:

- (1) develop advanced close reading skills
- (2) grasp the basic theory and methodology of literary research
- (3) develop the ability to discuss prose fiction in multiple technical and theoretical contexts

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This seminar will be primarily based around reading short fiction and essays. Students will conduct independent research on assigned short stories, which they will then present in class. These presentations will be interspersed with lectures and guided readings by the instructor. Students will be assessed based on class participation, presentations, and written submissions. Feedback on presentations and written assignments will be provided in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Methods	An introduction to methods and resources for literature research
3	Reading Literary Research (1)	Reading and critiquing secondary sources in literature research
4	Reading Literary Research (2)	Reading and critiquing secondary sources in literature research
5	Reading 1	Presentation and discussion related to student research
6	Reading 2	Presentation and discussion related to student research
7	Reading 3	Presentation and discussion related to student research
8	Reading 4	Presentation and discussion related to student research
9	Reading 5	Presentation and discussion related to student research
10	Reading 6	Presentation and discussion related to student research
11	Reading 7	Presentation and discussion related to student research
12	Reading 8	Presentation and discussion related to student research
13	Reading 9	Presentation and discussion related to student research
14	Synthesis	A review of the major themes and concepts of the course

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to perform close readings of each of the assigned texts outside of class. This seminar will also require the completion of an independent research project. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Texts will be provided through Hoppii.

[References]

Relevant references will be provided in class by the instructor.

[Grading criteria]

Class contribution: 20%

LIT400ZA (文学 / Literature 400)

Seminar: Literature in Theory and Practice II

Gregory Kheznrejat

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 木3/Thu.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This seminar is for students interested in literature, literary research, and composition. How do authors approach the composition of a text? How does a text change through the revision process? How does the act of writing transform how we read literature? In this seminar, students will put their research from the spring into practice by creating their own pieces of short fiction.

【Goal】

Over the course of this seminar, students will:

- (1) develop advanced close reading skills
- (2) practice planning, composing, revising, and workshopping prose fiction
- (3) develop the ability to discuss prose fiction in multiple technical and theoretical contexts

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Students will utilize the theories and examples covered in the spring to write their own pieces of short fiction, which they will present, workshop, and revise. Students will also be responsible for providing constructive feedback to their classmates each week. These workshops will be interspersed with lectures and guided readings by the instructor. Students will be assessed based on class contributions, workshops, and written submissions. Feedback on workshops and written assignments will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theories of Writing 1	An introduction to various approaches to composing prose fiction
3	Theories of Writing 2	An introduction to various approaches to composing prose fiction
4	Practice Workshop	An introduction to the format and structure of fiction workshops
5	Workshop 1	Reading, discussing, and revising student compositions
6	Workshop 2	Reading, discussing, and revising student compositions
7	Workshop 3	Reading, discussing, and revising student compositions
8	Workshop 4	Reading, discussing, and revising student compositions
9	Workshop 5	Reading, discussing, and revising student compositions
10	Workshop 6	Reading, discussing, and revising student compositions
11	Workshop 7	Reading, discussing, and revising student compositions
12	Workshop 8	Reading, discussing, and revising student compositions
13	Workshop 9	Reading, discussing, and revising student compositions
14	Synthesis	A review of the major themes and concepts of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to perform close readings of each of the assigned texts outside of class. This seminar will also require the completion of an independent composition assignment. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Readings will be provided in class by the instructor.

【References】

Relevant references will be provided in class by the instructor.

【Grading criteria】

Class contribution: 20%

Written assignments: 30%

Workshop draft: 25%

Final draft: 25%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who have previously taken literature courses in GIS – particularly Introduction to Literature and/or Comparative Literature – will be given priority consideration.

【Prerequisite】

There are currently no prerequisites for this seminar. However, this course is intended to be taken in tandem with Seminar: Literature in Theory and Practice I in the spring semester.

LIT400ZA (文学 / Literature 400)

Seminar: Literature in Theory and Practice II

Gregory Kheznrejat

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 木4/Thu.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This seminar is for students interested in literature, literary research, and composition. How do authors approach the composition of a text? How does a text change through the revision process? How does the act of writing transform how we read literature? In this seminar, students will put their research from the spring into practice by creating their own pieces of short fiction.

【Goal】

Over the course of this seminar, students will:

- (1) develop advanced close reading skills
- (2) practice planning, composing, revising, and workshopping prose fiction
- (3) develop the ability to discuss prose fiction in multiple technical and theoretical contexts

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Students will utilize the theories and examples covered in the spring to write their own pieces of short fiction, which they will present, workshop, and revise. Students will also be responsible for providing constructive feedback to their classmates each week. These workshops will be interspersed with lectures and guided readings by the instructor. Students will be assessed based on class contributions, workshops, and written submissions. Feedback on workshops and written assignments will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theories of Writing 1	An introduction to various approaches to composing prose fiction
3	Theories of Writing 2	An introduction to various approaches to composing prose fiction
4	Practice Workshop	An introduction to the format and structure of fiction workshops
5	Workshop 1	Reading, discussing, and revising student compositions
6	Workshop 2	Reading, discussing, and revising student compositions
7	Workshop 3	Reading, discussing, and revising student compositions
8	Workshop 4	Reading, discussing, and revising student compositions
9	Workshop 5	Reading, discussing, and revising student compositions
10	Workshop 6	Reading, discussing, and revising student compositions
11	Workshop 7	Reading, discussing, and revising student compositions
12	Workshop 8	Reading, discussing, and revising student compositions
13	Workshop 9	Reading, discussing, and revising student compositions
14	Synthesis	A review of the major themes and concepts of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to perform close readings of each of the assigned texts outside of class. This seminar will also require the completion of an independent composition assignment. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Readings will be provided in class by the instructor.

【References】

Relevant references will be provided in class by the instructor.

【Grading criteria】

Class contribution: 20%

Written assignments: 30%

Workshop draft: 25%

Final draft: 25%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who have previously taken literature courses in GIS – particularly Introduction to Literature and/or Comparative Literature – will be given priority consideration.

【Prerequisite】

There are currently no prerequisites for this seminar. However, this course is intended to be taken in tandem with Seminar: Literature in Theory and Practice I in the spring semester.

CUA400ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400)

Seminar: Media Across Borders I

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

It has often been noted that animation is the dominant medium of the current era. For instance, Disney is the world's largest media company, anime is a globally popular media, and we even use animated LINE stamps to communicate with each other. Considering how our lives are now so "animated" as the point of departure, this seminar will explore ways of thinking about media broadly, including anime and films, manga and music, games, lifestyle, fashion, and SNS. Learning various theoretical and methodological approaches, this seminar will explore how different media are both affected by and affect the global societies we live in.

[Goal]

Throughout the seminar, students will learn how to engage with various media by examining relevant theories and research, exploring them through group work and discussion. They will also learn how to apply and critique the approaches examined in class. To do so, there will be presentations as well as smaller projects that work with specific theories and methods that focus on certain media. The students will have the opportunity to examine first-hand what media theorists and researchers are discussing about contemporary (and past) media and how such media reflect and affect society. Across the semester, students will also develop their own research project on a specific media of their choosing, applying the theories and methods we explored in class.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

As a seminar, these classes will primarily be discussion and presentation-based. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic, engaging with methodological and theoretical concepts in ways that connect to their research interests. Students will have group and class discussions on certain themes and prepare group presentations and activities to better engage with that week's reading. Classes will also feature visual material such as images and clips of films and animation to better address, apply, and critique the readings. Students will also receive individual feedback and consultation at different points in the semester. Assessments of their work will be based on their understanding and application of the readings through their presentations, participation in discussion, and final papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory and Methods I	Overview of some foundational theories and methodologies as a class
3	Theory and Methods II	In depth examination of important methods and theories as a class
4	Theory and Methods III	Focusing on applying and critiquing specific theories and methods as a class
5	Reading Research I	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
6	Reading Research II	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
7	Reading Research III	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
8	Reading Research IV	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
9	Research Project Workshop I	Individual consultation on each students' research project

10	Reading Research V	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
11	Reading Research VI	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
12	Reading Research VII	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
13	Reading Research VIII	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
14	Research Project Workshop II	Presentations and discussions on students' own research

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Each week there will be articles/chapters to read, preparations for the discussion, presentation, and/or conducting research. All students are expected to be diligent and keep up with this workload to ensure that the seminar works for the class, the other students, and their own research interests. Reading, preparation, and review time for this class are at least 8 hours.

[Textbooks]

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

[References]

Hansen, Mark B. N., and W. J. T. Mitchell. *Critical Terms for Media Studies*. Chicago and London: The University of Chicago Press, 2010.
 Jin, Dal Yong. *Transmedia Storytelling in East Asia: The Age of Digital Media*. New York: Routledge, 2020.
 Manovich, Lev. *The Language of New Media*. Cambridge: MIT Press, 2000.
 Ngai, Sianne. *Ugly Feelings*. Cambridge, Mass.; London: Harvard University Press, 2007.
 Santiago Iglesias, José Andrés, and Ana Soler Baena, eds. *Anime Studies: Media-Specific Approaches to Neon Genesis Evangelion*. Stockholm: Stockholm University Press, 2021.
 Silvio, Teri. *Puppets, Gods, and Brands: Theorizing the Age of Animation from Taiwan*. Honolulu: University Press of Hawai'i Press, 2019.
 Storey, John. *Cultural Theory and Popular Culture: A Reader*. New York: Routledge, 2019.

[Grading criteria]

Class participation 20%, Comment/Question sheets 20%, Group activity I 15%, Group activity II 15%, Research plan 30%

[Changes following student comments]

The professor will check constantly with students to make sure the workload and content are reasonable.

[Others]

It is not required but suggested that you have taken one or more of the following courses: Introduction to Media Theory, Performance Studies, Creative Industries. Students are expected to take both Media Across Borders I and II and to continue for two years. However, special arrangements may be made for students who study abroad.

[Prerequisite]

None.

CUA400ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400)

Seminar: Media Across Borders I

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金4/Fri.4/Fri.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

It has often been noted that animation is the dominant medium of the current era. For instance, Disney is the world's largest media company, anime is a globally popular media, and we even use animated LINE stamps to communicate with each other. Considering how our lives are now so "animated" as the point of departure, this seminar will explore ways of thinking about media broadly, including anime and films, manga and music, games, lifestyle, fashion, and SNS. Learning various theoretical and methodological approaches, this seminar will explore how different media are both affected by and affect the global societies we live in.

[Goal]

Throughout the seminar, students will learn how to engage with various media by examining relevant theories and research, exploring them through group work and discussion. They will also learn how to apply and critique the approaches examined in class. To do so, there will be presentations as well as smaller projects that work with specific theories and methods that focus on certain media. The students will have the opportunity to examine first-hand what media theorists and researchers are discussing about contemporary (and past) media and how such media reflect and affect society. Across the semester, students will also develop their own research project on a specific media of their choosing, applying the theories and methods we explored in class.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

As a seminar, these classes will primarily be discussion and presentation-based. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic, engaging with methodological and theoretical concepts in ways that connect to their research interests. Students will have group and class discussions on certain themes and prepare group presentations and activities to better engage with that week's reading. Classes will also feature visual material such as images and clips of films and animation to better address, apply, and critique the readings. Students will also receive individual feedback and consultation at different points in the semester. Assessments of their work will be based on their understanding and application of the readings through their presentations, participation in discussion, and final papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり /Yes

[Fieldwork in class]

なし /No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory and Methods I	Overview of some foundational theories and methodologies as a class
3	Theory and Methods II	In depth examination of important methods and theories as a class
4	Theory and Methods III	Focusing on applying and critiquing specific theories and methods as a class
5	Reading Research I	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
6	Reading Research II	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
7	Reading Research III	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
8	Reading Research IV	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
9	Research Project Workshop I	Individual consultation on each students' research project

10	Reading Research V	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
11	Reading Research VI	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
12	Reading Research VII	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
13	Reading Research VIII	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
14	Research Project Workshop II	Presentations and discussions on students' own research

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Each week there will be articles/chapters to read, preparations for the discussion, presentation, and/or conducting research. All students are expected to be diligent and keep up with this workload to ensure that the seminar works for the class, the other students, and their own research interests. Reading, preparation, and review time for this class are at least 8 hours.

[Textbooks]

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

[References]

Hansen, Mark B. N., and W. J. T. Mitchell. *Critical Terms for Media Studies*. Chicago and London: The University of Chicago Press, 2010.
Jin, Dal Yong. *Transmedia Storytelling in East Asia: The Age of Digital Media*. New York: Routledge, 2020.
Manovich, Lev. *The Language of New Media*. Cambridge: MIT Press, 2000.
Ngai, Sianne. *Ugly Feelings*. Cambridge, Mass.; London: Harvard University Press, 2007.
Santiago Iglesias, José Andrés, and Ana Soler Baena, eds. *Anime Studies: Media-Specific Approaches to Neon Genesis Evangelion*. Stockholm: Stockholm University Press, 2021.
Silvio, Teri. *Puppets, Gods, and Brands: Theorizing the Age of Animation from Taiwan*. Honolulu: University Press of Hawai'i Press, 2019.
Storey, John. *Cultural Theory and Popular Culture: A Reader*. New York: Routledge, 2019.

[Grading criteria]

Class participation 20%, Comment/Question sheets 20%, Group activity I 15%, Group activity II 15%, Research plan 30%

[Changes following student comments]

The professor will check constantly with students to make sure the workload and content are reasonable.

[Others]

It is not required but suggested that you have taken one or more of the following courses: Introduction to Media Theory, Performance Studies, Creative Industries. Students are expected to take both Media Across Borders I and II and to continue for two years. However, special arrangements may be made for students who study abroad.

[Prerequisite]

None.

CUA400ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400)

Seminar: Media Across Borders II

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This class is the second semester in the Media Across Borders seminar. As such, it will build on what the students learned in the spring semester. This semester will continue the exploration and examination of various theories and methods pertaining to media studies, and in particular, animation as broadly conceived. There will also be more focus on students' research projects, with the students presenting their research projects in a more extended form at the end of the semester and submitting their final written versions. There will also be the opportunity to get more feedback on their topics as it develops across the semester

【Goal】

Throughout the seminar, students will learn how to engage with various media by examining relevant theories and research, exploring them through group work and discussion. They will also learn how to apply and critique the approaches examined in class. To do so, there will be presentations as well as smaller projects that work with specific theories and methods that focus on certain media. The students will have the opportunity to examine first-hand what media theorists and researchers are discussing about contemporary (and past) media and how such media reflect and affect society. Across the semester, students will also develop their own research project on a specific media of their choosing, applying the theories and methods we explored in class.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

As a seminar, these classes will primarily be discussion and presentation-based. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic, engaging with methodological and theoretical concepts in ways that connect to their research interests. Students will have group and class discussions on certain themes and prepare group presentations and activities to better engage with that week's reading. Classes will also feature visual material such as images and clips of films and animation to better address, apply, and critique the readings. Students will also receive individual feedback and consultation at different points in the semester. Assessments of their work will be based on their understanding and application of the readings through their presentations, participation in discussion, and final papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory and Methods I	Overview of some foundational theories and methodologies as a class
3	Theory and Methods II	In depth examination of important methods and theories as a class
4	Theory and Methods III	Focusing on applying and critiquing specific theories and methods as a class
5	Reading, Applying, Critiquing Research I	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
6	Reading, Applying, Critiquing Research II	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
7	Reading, Applying, Critiquing Research III	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
8	Research Project Workshop I	Individual consultation on each students' research project

9	Reading, Applying, Critiquing Research IV	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
10	Reading, Applying, Critiquing Research V	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
11	Reading, Applying, Critiquing Research VI	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
12	Research Project Workshop II	Research project presentations and feedback
13	Research Project Workshop III	Research project presentations and feedback
14	Research Project Workshop IV	Research project presentations and feedback

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Each week there will be articles/chapters to read, preparations for the discussion, presentation, and/or conducting research. All students are expected to be diligent and keep up with this workload to ensure that the seminar works for the class, the other students in their group, and their own research interests. Reading, preparation, and review time for this class are at least 8 hours.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Chung, Hye Jean. *Media Heterotopias: Digital Effects and Material Labor in Global Film Production*. Durham: Duke University Press, 2018.
 Durham, Meenakshi Gigi, and Douglas Kellner. *Media and Cultural Studies: Keywords*. Malden: Wiley-Blackwell, 2012.
 Heise, Ursula. *The Routledge Companion to the Environmental Humanities*. New York: Routledge, 2017.
 Heise, Ursula K. *Sense of Place and Sense of Planet: The Environmental Imagination of the Global*. Oxford, New York: Oxford University Press, 2008.
 Morton, Timothy. *All Art Is Ecological*. London: Penguin Books, 2021.
 Roudometof, Victor. *Glocalization: A Critical Introduction*. New York: Routledge, 2016.

【Grading criteria】

Class participation 20%, Comment/Question sheets 20%, Group activity I 10%, Group activity II 10%, Research Presentation 10%, Research Paper 30%

【Changes following student comments】

The professor will check constantly with students to make sure the workload and content are reasonable.

【Others】

It is not required but suggested that you have taken one or more of the following courses: Introduction to Media Theory, Performance Studies, Creative Industries. Students are expected to take both Media Across Borders I and II and to continue for two years. However, special arrangements may be made for students who study abroad.

【Prerequisite】

None.

CUA400ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400)

Seminar: Media Across Borders II

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金4/Fri.4/Fri.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This class is the second semester in the Media Across Borders seminar. As such, it will build on what the students learned in the spring semester. This semester will continue the exploration and examination of various theories and methods pertaining to media studies, and in particular, animation as broadly conceived. There will also be more focus on students' research projects, with the students presenting their research projects in a more extended form at the end of the semester and submitting their final written versions. There will also be the opportunity to get more feedback on their topics as it develops across the semester

【Goal】

Throughout the seminar, students will learn how to engage with various media by examining relevant theories and research, exploring them through group work and discussion. They will also learn how to apply and critique the approaches examined in class. To do so, there will be presentations as well as smaller projects that work with specific theories and methods that focus on certain media. The students will have the opportunity to examine first-hand what media theorists and researchers are discussing about contemporary (and past) media and how such media reflect and affect society. Across the semester, students will also develop their own research project on a specific media of their choosing, applying the theories and methods we explored in class.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

As a seminar, these classes will primarily be discussion and presentation-based. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic, engaging with methodological and theoretical concepts in ways that connect to their research interests. Students will have group and class discussions on certain themes and prepare group presentations and activities to better engage with that week's reading. Classes will also feature visual material such as images and clips of films and animation to better address, apply, and critique the readings. Students will also receive individual feedback and consultation at different points in the semester. Assessments of their work will be based on their understanding and application of the readings through their presentations, participation in discussion, and final papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory and Methods I	Overview of some foundational theories and methodologies as a class
3	Theory and Methods II	In depth examination of important methods and theories as a class
4	Theory and Methods III	Focusing on applying and critiquing specific theories and methods as a class
5	Reading, Applying, Critiquing Research I	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
6	Reading, Applying, Critiquing Research II	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
7	Reading, Applying, Critiquing Research III	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
8	Research Project Workshop I	Individual consultation on each students' research project

9	Reading, Applying, Critiquing Research IV	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
10	Reading, Applying, Critiquing Research V	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
11	Reading, Applying, Critiquing Research VI	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
12	Research Project Workshop II	Research project presentations and feedback
13	Research Project Workshop III	Research project presentations and feedback
14	Research Project Workshop IV	Research project presentations and feedback

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Each week there will be articles/chapters to read, preparations for the discussion, presentation, and/or conducting research. All students are expected to be diligent and keep up with this workload to ensure that the seminar works for the class, the other students in their group, and their own research interests. Reading, preparation, and review time for this class are at least 8 hours.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Chung, Hye Jean. *Media Heterotopias: Digital Effects and Material Labor in Global Film Production*. Durham: Duke University Press, 2018.

Durham, Meenakshi Gigi, and Douglas Kellner. *Media and Cultural Studies: Keywords*. Malden: Wiley-Blackwell, 2012.

Heise, Ursula. *The Routledge Companion to the Environmental Humanities*. New York: Routledge, 2017.

Heise, Ursula K. *Sense of Place and Sense of Planet: The Environmental Imagination of the Global*. Oxford, New York: Oxford University Press, 2008.

Morton, Timothy. *All Art Is Ecological*. London: Penguin Books, 2021.

Roudometof, Victor. *Glocalization: A Critical Introduction*. New York: Routledge, 2016.

【Grading criteria】

Class participation 20%, Comment/Question sheets 20%, Group activity I 10%, Group activity II 10%, Research Presentation 10%, Research Paper 30%

【Changes following student comments】

The professor will check constantly with students to make sure the workload and content are reasonable.

【Others】

It is not required but suggested that you have taken one or more of the following courses: Introduction to Media Theory, Performance Studies, Creative Industries.

Students are expected to take both Media Across Borders I and II and to continue for two years. However, special arrangements may be made for students who study abroad.

【Prerequisite】

None.

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 200)

日本語の世界 L A

尾形 太郎

サブタイトル：

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：定員制（30名）／2017年度以降入学者_ILAC
科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語、特に日本語の文法について考え、学ぶ授業です。
「文法について学ぶ」といっても、中学校や高校で学ぶような用語（主語、述語、修飾語、〇〇活用等々）や、日本語学校での勉強や日本語能力試験のための勉強のような文型の用法を暗記することがこの授業の目的ではありません。

本授業の目的は、普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、私たちの日常的な日本語運用の中に隠れているメカニズムに迫ることにあります。

その際、日本語学、認知言語学、語用論などの知見を参照しますので、これら学問の基本的な考え方（のいくつか）についても学ぶことができます。

ただし、受講に当たって言語学の知識は全く必要ありません。日本の大学で日本語で学ぶに十分な日本語能力さえあれば、どんな人でも受講可能です。

【到達目標】

1. 日本語文法への理解を深める。
2. 日本語学におけるいくつかの基本的概念や理論を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-I」「DP-III」「DP-IV」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo

【授業の進め方と方法】

資料を用いた学習・議論➡課題

各回の課題へのフィードバックは授業中に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業ガイダンス	授業ガイダンス
②	日本語における格	日本語における格を考える
	「♪私だけ愛してた」	
	～誰が誰を愛してた？	
③	「大学へ行った」は	「へ」「に」「で」から場所に関連
	○、「風呂へ入った」	する助詞の機能の違いを考える
	は△、「電車へ乗った」は×	の不思議
④	「新しい●●、また売り切れだって」「え、	場所を表す助詞二とデの違いを
	昨日、ヨドバシ に／	考える
	で あったよ。」～こ	
	ういう場合、デでも	
	OKなんですかね？	

- ⑤ 「(●●) ヨドバシで 場所を表す助詞二とデの違いを
あったよ」とは言え 考える
ても、「(●●)、ノー
トPCコーナーの隣で
あったよ」とは言え
ないのはなぜ？
- ⑥ 「あ、お湯がわいて 「てい(る)」と「た」の違いか
(い)る」vs「あ、お ら日本語における出来事の様相
湯がわいた」は同じ の捉え方を考える
出来事を表してい
る？
- ⑦ 「あ、レポート、今日 「た」から日本語の時間認識を考
までだった！」～今 える
日のことなのに何で
タって言うの？
- ⑧ 「犯人はルパンだ」vs 「は」と「が」の機能の違いを考
「犯人がルパンだ」、 える
「ルパンが犯人だ」vs
「ルパンは犯人だ」
- ⑨ で、「は」と「が」っ 日本語学習者に「は」と「が」
てどうやって使いわ の違いを教えるにはどうすれば
ければいいの？ いいか考える
- ⑩ 「あ～何だか体がだる 「はずだ」の意味と機能を考える
い。風邪を引いたは
ずだ。」とは言えない
のはなぜ？
- ⑪ 学生「先生、「あ 「あの一」と「えーと」の機能を
の一」の意味ってな 考える
んですか？」
先生「えーと、「あ
の一」の意味はです
ね、あの一…」
- ⑫ 「あ、0点」vs「え、0 感動詞が表す「心の働き」を考
点」vs「お、0点」 える
- ⑬ A「この授業、退屈 「でも」と「ところが」の違いを
だね」 考える
B「うん。|でも／??
ところが、試験は簡
単らしいよ。」
- ⑭ 学期のまとめ まとめと期末課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の文法を観察・内省し、自分なりの問いを立てること。
本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトを配布します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（毎回の課題、事前課題）50%、期末課題50%で、評価を決める。
期末課題は選択制（複数の課題の中から2つ選び、授業内容を踏まえ解答する）。

【学生の意見等からの気づき】

「普段は意識せずに使っている日本語について、深く知ることができた」「過去を表すタなど、ひとつの文法が色々な機能を持っていることがわかり興味深かった」「文法が、私たちが出来事を体験する仕方や認識する仕方と関連していることがわかり、面白かった」「授業で学んだことを生かして、外国人の友達に日本語を教えたい」と言った肯定的なコメントを踏まえ、更に授業の内容を充実させていきたいと思っています。
また、異なる国籍、文化の人たちと話し合えることが好評なので、毎回ディスカッションを実施していく予定です。

【その他の重要事項】

普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、日本語の中に隠れているメカニズムに好奇心を持って迫ってみてください。
言語学や日本語学についての特別な知識は必要ありません。
日本語をさらに深く習得したい留学生、自分の母語について少し詳しく知りたい日本語母語話者、日本語教育に携わりたい人などにとって興味深い授業となるよう努めます。

言語学を学んだことがある人ももちろん歓迎します。

なお、授業計画は、一部変更することがあります。

※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）

※ ESOP Students are required JLPT N1 for registration.
(Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

This class is an introduction of the Japanese linguistics, which especially treats some grammatical topics. Students are expected to approach mechanisms hidden in our ordinary use of Japanese.

Because some ideas of Japanese linguistics, cognitive linguistics and pragmatism are introduced though the task, students can learn some basic ideas in these fields.

Goal : (1) Deepen understanding of Japanese grammar
(2) Learn some basic concepts and theories in the field of the Japanese linguistics

Work to be done outside of class (preparation, etc. : one hour

Grading criteria : Participation (50%), Final report (50%)

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 200)

日本語の世界 L B

尾形 太郎

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：定員制（30名）／2017年度以降入学者_ILAC
科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語、特に日本語の文法について考え、学ぶ授業です。
「文法について学ぶ」といっても、中学校や高校で学ぶような用語（主語、述語、修飾語、〇〇活用等々）や、日本語学校での勉強や日本語能力試験のための勉強のような文型を暗記することがこの授業の目的ではありません。

本授業の目的は、普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、私たちの日常的な日本語運用の中に隠れているメカニズムに迫ることにあります。

その際、日本語学、認知言語学、語用論、日本語教育学などの知見を参照しますので、これら学問の基本的な考え方（のいくつか）についても学ぶことができます。

ただし、受講に当たって言語学の知識は全く必要ありません。日本の大学で日本語で学ぶに十分な日本語能力さえあれば、どんな人でも受講可能です。

また、春学期の授業（日本語の世界LA）を受講していない人でも受講可能です。

【到達目標】

- 1) 日本語文法への理解を深める
- 2) 日本語学におけるいくつかの基礎的な概念や理論について学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-I」「法政DP-III」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo

【授業の進め方と方法】

課題→教材を用いた学習・議論→課題

各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業ガイダンス 世界の言語の中の日本語	授業の進め方の説明 今までに学んだ言語と日本語を比べる／先学期と今学期の授業内容の紹介
②	「彼女にふられた（涙）」vs「彼女は私をふった」 ～日本人は受身がち？	ヴォイス（態）について「視点」概念から考える
③	～「あ、黒猫が黒猫を追いかけてる」vs「あ、黒猫が黒猫に追いかけてる」 ～能動／受動はどのように使い分けられているのか	ヴォイス（態）について「人称階層」概念から考える

- ④ A「ここ、涼しいね」「こそあ」の「対立型」「融合型」
B「うん、ここ、涼しい」／A「ここ、涼しいね」B「え、そこ、涼しいの？ここは暑いよ」～
について考える
- ⑤ （壁に飾られた絵を見「こそあ」について「注意」概念
ているBにAが話しから考える
かける）
A「|その／あの|絵、
私が描いたんです。」
～「その」と「あの」
のあいまいな（？）
境界
- ⑥ 「昨日、キャンパスで「こそあ」について「知識説」
すごい人見たんだ。「体験／概念」説から考える
あの人、リクルート
スーツを着てるのに、
頭はモヒカン刈りな
んだよ。」の「あの人」
に違和感を感じ
ませんか？
- ⑦ 孫「おじいちゃんが「こそあ」について複数の心的領
域説から考える
学生の時ってどんな
だった？」祖父「学
生の頃か…、|あの
／?? その|頃はな
…」～なぜアは自然、
ソは不自然なのか～
- ⑧ 「あ、（私の猫がみかんを）食べてる」が、
「Vている」の意味と機能を分類
する
My cat is eating an
orange.を意味しな
いのはどんな時？
- ⑨ （科学者が実験室の明「Vている」の意味と機能を「証
明」を消して）「さ
あ、これで何も|見
えませんが|見えてい
ません|」～「てい
る」が使えるのはど
んな時？
- ⑩ 車内放送で「この電「つもり」の意味と機能を分類す
車は終点東京まで各
駅に止まるつもりで
す。」と言われたら、
ちょっと心配になっ
てしまうのはなぜ？
- ⑪ 先生「Aさん、予習 発話における「つもり」の機能
しましたか？」を
語用論的に考える
学生A「はい、しま
した。」
先生「ふーん、それ
でしたつもりですか」
～「～つもりですか」
と言われると責めら
れている気がするの
はなぜ？
- ⑫ 学生「先生、すみま 無助詞の機能を「は」との比較
せん、これ、先週締
め切りのレポートで
す。」vs「先生、す
みません、これは、先
週締め切りのレポ
ートです。」～「は」
がないほうがいいよ
うに感じませんか？
- ⑬ 「そうですね」vs「そ 終助詞の機能の違いをグルー
うですよ」vs「そう
ですよ」で議論し、仮説を立てる

- ⑭ ヨとネには色々な説 終助詞の機能の違いを「情報の
があります |よ／ね| 管理権限」から考える
～諸説を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の文法を観察・内省し、自分なりの問いを立てること。

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトを配布します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（討論での発言、リアクション・ペーパーなど）60%、

期末レポート40%で、評価を決める。

出席率が70%以上であることを単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

「普段は意識せずに使っている日本語について、深く知ることができた」「過去を表すタなど、ひとつの文法が色々な機能を持っていることがわかり興味深かった」「文法が、私たちが出来事を体験する仕方や認識する仕方と関連していることがわかり、面白かった」「授業で学んだことを生かして、外国人の友達に日本語を教えたい」と言った肯定的なコメントを踏まえ、更に授業の内容を充実させていきたいと思っています。

また、異なる国籍、文化の人たちと話し合えることが好評なので、毎回ディスカッションを実施していく予定です。

【その他の重要事項】

普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、日本語の中に隠れているメカニズムに好奇心を持って迫ってみてください。

言語学や日本語学についての特別な知識は必要ありません。

日本語をさらに深く習得したい留学生、自分の母語について少し詳しく知りたい日本語母語話者、日本語教育に携わりたい人などにとって興味深い授業となるよう努めます。

言語学を学んだことがある人ももちろん歓迎します。

なお、授業計画は、一部変更することがあります。

※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）

※ ESOP Students are required JLPT N1 for registration.
(Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

This class is an introduction of the Japanese linguistics, which especially treats some grammatical topics. Students are expected to approach mechanisms hidden in our ordinary use of Japanese.

Because some ideas of Japanese linguistics, cognitive linguistics and pragmatism are introduced through the task, students can learn some basic ideas in these fields.

Goal : (1) Deepen understanding of Japanese grammar
(2) Learn some basic concepts and theories in the field of the Japanese linguistics

Work to be done outside of class (preparation, etc. : one hour

Grading criteria : Participation (50%), Final report (50%)

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 200)

日本の文化と社会 L A

尾形 太郎

サブタイトル：

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：定員制（30名）／2017年度以降入学者_ILAC

科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の名前から、日本文化・社会の概説を期待した人もいるかもしれない。そこで期待されていたのは、ある意味「標準的な」日本（文化ないし社会）の姿や、日本において「普通」とされる考え方や価値観なのかもしれない。だが、本授業が目指すのは、そのような「普通」を問い直し、「普通」と表裏一体である「普通ではない（とされる）もの」に対する構造的な排除や差別（日本社会のあり方や、多くの人が共有する考え方に由来する排除や差別）を検討することである。端的に言えば、日本における「普通」を問うことを通して、「日本の文化と社会」に対する理解を深めることである。

具体的には、本授業は、①安楽死、②障害者差別という2つの観点から「日本の文化と社会」を検討する。

【①安楽死】近年、海外において「安楽死を遂げた日本人」がメディアによりしばしば取り上げられている。現在、日本では安楽死は合法ではないが、メディアによる報道の影響もあり、合法化に賛成する声は小さくない。ところで、通常、「（自分あるいは他者を）死なせる」ことは許されないが、安楽死肯定論は、なぜ安楽死に限り「死なせる」ことが許容されると考えるのだろうか。それは、安楽死を求める人々の状況が「通常」とは異なる（つまり「普通ではない」）と考えられているからだろう（例えば、彼・彼女らは「不治」の病により、「余命」僅かであるにもかかわらず、「無意味な」処置を施され、「耐え難い苦痛」に苦しんでいる、等）。だが、このような見方は非常に一面である。また、「普通ではない」生であるなら「終わらせてもよい」と見なすことは、多様であるはずの生に序列を持ち込み、「生きる価値のある生」とそのような価値をもたない生との間に線を引くことにならないだろうか。そして、そのことによって、生き続ける可能性を奪われかねない人々がいることを、安楽死肯定論は見逃している。また、そのような問題がメディアで取り上げられることは稀である。本授業では安楽死肯定論の主張を検討したうえで、その問題点を指摘する。また、実際に安楽死が合法化されている国の現状も紹介する。

【②障害者差別】「多様性」あるいは「ダイバーシティ」は（いい意味でも悪い意味でも）日本社会においてすっかり定着した言葉となった。加えて、障害者差別解消法の施行・改正などにより、障害者福祉に一定の推進が見られるのは事実であろう。一方で、「障害」とは当事者本人の問題であり、障害者に対する配慮の根本は、健常者から障害者に対する「思いやり」であるとする考え（「普通」である私たちが、「普通ではない」彼・彼女らを思いやってあげる」と言った考え）が広く共有されているのではないだろうか。そのような考えに潜むいくつかの問題を、障害学や社会学の知見、及び障害当事者の声に基づき、考察する。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能である。授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つである。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的のひとつである。ただし、ディスカッションと同じぐらい、授業後のコメント（学習支援システム利用）を重視するので、ディスカッションが苦手な人、ディスカッションで言いそびれたことがある人には、授業後に書くコメントを大いに活用していただきたい。コメントは次回の授業で紹介する。

【到達目標】

1. 安楽死の分類、歴史的背景について、基本的な知識を得ること。
2. 安楽死肯定論が拠って立つ根拠とその問題点について理解すること。

3. 日本における「安楽死・尊厳死」に関する議論の経緯と現在の状況について理解すること。

4. 「障害」の個人モデル（医療モデル）と社会モデルについて理解すること。

5. 障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解すること。

6. マジョリティ／マイノリティの「非対称性」、「みえない特権」概念の基本的な考え方を理解すること。

7. 「差別解消」を「思いやり」に求める考え方（「思いやり」モデル）の問題点、及び「人権」モデルの必要性に関する議論について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-I」「DP-III」「DP-IV」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo

【授業の進め方と方法】

①前回の授業の振り返り（コメントの紹介）

②その日のテーマに関する講義

③②に関するグループ・ディスカッション

授業後に学習支援システムよりコメントを入力する。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、「安楽死」と「尊厳死」の違い	「安楽死」「尊厳死」についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？ 「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死（学生による文献紹介を含む）	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する
⑥	「尊厳死法案」とその批判	「尊厳死法案」とその批判と批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える
⑦	社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）	安楽死が合法化された国における現状を踏まえ、社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える
⑧	ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える	障害者に対する「乗車拒否」の事例について考える
⑨	障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル	「障害」とは？ 「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える
⑩	障害者差別解消法と合理的配慮	障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める

⑪	みえない特権とは何か (学生の文献紹介を含む)	「健常者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」概念に基づき考える
⑫	マジョリティ/マイノリティの非対称性 (学生の文献紹介を含む)	マジョリティ/マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」概念から考える
⑬	「心のバリアフリー」概念の批判的検討 (学生の文献紹介を含む)	「思いやり」による「差別解消」アプローチを批判的に検討する
⑭	自由発表（文献紹介またはレポートの構想発表）	安楽死または障害者差別に関する文献紹介またはレポートの構想を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介しますが、まずは以下の2点を挙げておきたいと思います。

安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店

荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房

【成績評価の方法と基準】

各回の課題：30%

発表（文献紹介）：20%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）

※ESOP Students are required JLPT N1 for registration.
(Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours
Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 200)

日本の文化と社会 L B

尾形 太郎

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：定員制（30名）／2017年度以降入学者_ILAC
科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の名前から、日本文化・社会の概説を期待した人もいるかもしれない。そこで期待されていたのは、ある意味「標準的な」日本（文化ないし社会）の姿や、日本において「普通」とされる考え方や価値観なのかもしれない。だが、本授業が目指すのは、そのような「普通」を問い直し、「普通」と表裏一体である「普通ではない（とされる）もの」に対する構造的な排除や差別（日本社会のあり方から多くの人が共有する考え方由来する排除や差別）を検討することである。端的に言えば、日本における「普通」を問うことを通して、「日本の文化と社会」に対する理解を深めることである。

具体的には、本授業は、①ジェンダー格差、②性的マイノリティに対する差別という2つの観点から「日本の文化と社会」を検討する。【ジェンダー格差】日本のジェンダー格差は国際的に見ても小さいとは言えない（例えば、世界経済フォーラム（WEF）が毎年公表しているジェンダーギャップ指数（GGGI）の日本の指数は0.663で156か国中118位である）。このことについて、聞いたことがある、何となく知っているという人は多いだろう。だが、どこに、どのような意味で、ジェンダー格差が存在するのか、なぜ格差はなかなか解消しないのか、格差の背景には何があるのか、知っているという人、学んだことがあるという人は少ないのではないだろうか。本授業では、様々な調査や先行研究に基づき、現代日本社会におけるジェンダー格差の現状を把握すると同時に、「家族」「労働（雇用・キャリア）」「教育」といった観点からその背景を探る。

【性的マイノリティに対する差別】近年、「LGBTQ+」「SOGI」といった言葉は日本社会に広く浸透しているように思われる。しかし、これらの言葉の正確な定義を把握したうえで、これらの概念が何を問題にしているのか十分に理解されているとは言えない。端的に言えば、これらの概念は、異性愛やシスジェンダー（出生時に割り当てられた性別と自分の性自認が一致している性自認のあり方）を「普通」と見なし、そのことによって、異性愛以外の性愛やシスジェンダー以外のジェンダーに排除的な従来の社会のあり方を批判している（もし、この文章を読んでいるあなたが、ここに書かれていることが実感できないのであれば、あるいはそもそも何が言いたいのか意味が理解できないのであれば、本授業は自分自身の「普通」を問い直すきっかけ、知らず知らず「差別的」であるかもしれない自分の考え方を問い直すきっかけとなるかもしれない）。本授業では、これらの批判の含意を検討し、同時に同性婚や性別変更に関する日本の法制度の現状に関する理解を深める。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能である。授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つである。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的のひとつである。ただし、ディスカッションと同じぐらい、授業後のコメント（学習支援システム利用）を重視するので、ディスカッションが苦手な人、ディスカッションで言いそびれたことがある人には、授業後に書くコメントを大いに活用していただきたい。コメントは次の授業で紹介する。

【到達目標】

1. 日本社会におけるジェンダー格差の現状を把握したうえで、その背景を家族・雇用・教育といった観点からどのように議論されているのか、基本的な知識を身に付けること。
2. 「異性愛」以外の性愛のあり方に関する基本的な知識を身に付けること。
3. 性自認の多様性に関する基本的な知識を身に付けること。
4. 日本における同性婚をめぐる論点を把握すること。

5. 日本における性別変更をめぐる論点を把握すること。
6. トランスジェンダー当事者が直面する様々な困難や差別に関する知識を深めること。
7. カミングアウトとは何か、単なる「秘密の告白」とは何が異なるのか理解を深めること。
8. アウティングとは何か、どのような点で問題なのか、理解を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-I」「DP-III」「DP-IV」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo

【授業の進め方と方法】

①前回の授業の振り返り（コメントの紹介）

②その日のテーマに関する講義

③②に関するグループ・ディスカッション

授業後に学習支援システムよりコメントを入力する。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション／ジェンダー格差・差別について、身近な言葉から考える	授業の進め方を説明する。それぞれの興味関心を共有する／「〇〇男子/女子」という言い方は問題か？
②	日本における「性別役割分業」の実態	日本において、性別役割分業は「解決済み」の問題なのか、統計データをもとに考える
③	「家族」という観点からジェンダーを考える／第2波フェミニズムの主張	「近代家族」における「母親」の役割／第2波フェミニズムはなぜ性別役割分業を批判した（する）のか
④	「日本型雇用」という観点からジェンダー格差を考える	「日本型雇用慣行」の特徴、あるいは「メンバーシップ型」雇用と呼ばれる雇用のあり方がジェンダー格差とどのように影響するのか探る
⑤	ステレオタイプはキャリアにどのような影響を与えるか	ステレオタイプとは何か／リーダーに関するジェンダーバイアスとその形成要因／何が女性の管理職志向を妨げるのか／好意的性差別主義とは何か
⑥	理系の女性はなぜ少ないのか	教育におけるジェンダー格差の現状／数学ステレオタイプの様々な影響／格差解消のために必要なこと
⑦	そもそも「ジェンダー」とは何か	社会構築主義の立場から「ジェンダー」概念を捉える
⑧	「性的マイノリティ」について、SOGIから考える	SOGI概念を理解し、性的マイノリティを考える上で必要な基本的な考え方を理解する
⑨	性的指向の多様性と異性愛中心主義について考える	性的指向の多様性（異性愛・同性愛・両性愛・無性愛など）を理解し、既存の社会制度が規範の異性愛中心主義であることを検討する
⑩	日本における同性婚をめぐる論点	「同性愛」の病理化・脱病理化の過程／同性婚が合法化が認められていない現状は憲法に反しているか（「結婚の自由をすべての人に」訴訟から考える）

⑪	「トランスジェンダー」概念	「生物学的性の多様性」、「出生時に割り当てられた生」、「性別違和」等の概念からトランスジェンダーとは何か学ぶ
⑫	トランスジェンダーに対する差別（学生による文献紹介を含む）	「教育」「医療」「法律」「労働」の観点からトランスジェンダーに対する差別の実態を考える
⑬	「カミングアウト」と「アウティング」（学生による文献紹介を含む）	「カミングアウト」とはどのような行為なのか、なぜ「カミングアウト」するのか、また「アウティング」の暴力性について事例を通して考える
⑭	学生による発表	履修生が、学期中に扱ったテーマに関する文献紹介または自由発表（レポートの構想）・質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介しますが、まずは以下を紹介しておきます。
 周司あきら・高井ゆと里（2023）『トランスジェンダー入門』集英社
 新々江章友（2022）『クィア・アクティヴィズム』花伝社
 牧野百恵（2023）『ジェンダー格差』中央公論新社
 森山至貴（2017）『LGBTを読みとくークィア・スタディーズ入門』筑摩書房

【成績評価の方法と基準】

各回の課題（50%）、期末レポート（50%）

出席率が70%以上であることを単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントがあったため、今後も「考えるきっかけ」を与えられるよう心がけたい。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）

※ESOP Students are required JLPT N1 for registration.
 (Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

The class will treat Gender disparity and sexual minority discrimination issues in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours
 Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

LHNj300LA

日本語コミュニケーションA

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：市ヶ谷
備考（履修条件等）：定員制（30名）／2017年度以降入学者_ILAC
科目_300番台 総合科目_総合科目
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般の日本人母語話者（日本人）は「日本語」が話せるので、ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。しかし、「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら、コミュニケーションは相互行為であり、そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合、コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。

日本語コミュニケーションをスムーズに行うため、身近な日本語がどのように成り立っているかを分析し、無意識に使っている日本語の奥にひそむ法則性を見つけ出す。日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】

1. 言語資料から言語的事象を取り出す方法を身につける。
2. 広く相対的な観点から日本語を捉える方法を身につける。
3. 相手の感情を害する誤用とはどういうものか、発話スタイルなど、誤用以外にも相手の感情に影響するものがあるか、考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-I」「DP-III」「DP-IV」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo

【授業の進め方と方法】

おもに、身近な日本語、不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。

必要に応じて、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の基本的な姿勢、自分で考え、自分の考えをほかの人に積極的に伝え、ほかの人に意見を聞いてさらに考えを深めようという姿勢について概観します
2	「ことばの意味」について	分析の材料として「ことばの意味」を取り上げます
3	「和語・漢語・外来語」について	分析の材料として「和語・漢語・外来語」を取り上げます
4	「会話の失敗」について	分析の材料として「会話の失敗」を取り上げます
5	「ことば遊び」について	分析の材料として「ことば遊び」を取り上げます
6	「話しことばと書きことば」について	分析の材料として「話しことばと書きことば」を取り上げます
7	「あいまい文」について	分析の材料として「あいまい文」を取り上げます

8	「マンガのことば」について	分析の材料として「マンガのことば」を取り上げます
9	「方言」について	分析の材料として「方言」を取り上げます
10	「漫才とことば」について	分析の材料として「漫才とことば」を取り上げます
11	「非母語話者の日本語」について	分析の材料として「非母語話者の日本語」について取り上げます
12	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 1	これまで学んできた内容をふまえて、受講生が気になる日本語の現象について議論します。受講生の半分が発表します。
13	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 2	これまで学んできた内容をふまえて、受講生が気になる日本語の現象について議論します。前回発表しなかった受講生が発表します。
14	授業内試験	以上13回分の内容についての理解度を確認するとともに、到達目標がどのくらい達成されたかを測ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各トピックについての日本語の現象について、身近な例をたくさん集め、意識的に観察し、自分なりに真剣に考えてみてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野田尚史・野田晴美（2017）『日本語を分析するレッスン』大修館書店

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

課題: 20%
平常点: 20%
発表: 20%
試験の得点: 40%
合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

日本語コミュニケーションの体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。

ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします（希望者が多い場合は選考します）。

ESOP Students are required JLPT N1 for registration. (Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To learn how to extract linguistic events from linguistic materials.
2. To learn how to understand the Japanese language from a broad and relative perspective.
3. To think about what kinds of misuse of Japanese language are harmful to others' feelings, and whether there are other things that affect others' feelings besides misuse, such as speech style.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to collect many familiar examples of Japanese phenomena on each topic, observe them consciously, and think seriously about them in your own way. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Presentation performance: 20%, Assignments : 20%, in class contribution: 20%

LHNj300LA

日本語コミュニケーションB

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：定員制（30名）／2017年度以降入学者_ILAC
 科目_300番台 総合科目_総合科目
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般の日本人母語話者（日本人）は「日本語」が話せるので、ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができるかと考えている人が多い。しかし、「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら、コミュニケーションは相互行為であり、そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。現実のことは「非流ちょう」であるが、母語話者のことばと非母語話者のことばには「規則性」において大きな違いがある。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合、コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。

日本語コミュニケーションをスムーズに行うため、母語話者の非流ちょうな日本語、とくに文節単位のコマ切れ発話を分析し、どのような規則性があるかを見つけ出す。日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】

1. 現実の発話の姿について理解し、コミュニケーションを成立させる能力を培うこと。
2. コミュニケーションが成立しないときには、相手との協力のもと、関係を修復できる知識と能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-I」「DP-III」「DP-IV」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo

【授業の進め方と方法】

おもに、身近な日本語、不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。

また、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「ことば」について	一般に「ことば」について解説します
2	「きもちの文法」について	「きもちの文法」について解説します
3	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係について概観します
4	「きもちの文法」の先行研究	「きもちの文法」の先行研究について概観します
5	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について i: 付属語だけの発話と従属節の発話	きもち・権力・会話を取り入れることで新たに与えられる発話を取り扱います ・付属語だけの発話 ・従属節の発話

6	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について ii: 文節の発話と語の発話	きもち・権力・会話を取り入れることで新たに与えられる発話を取り扱います ・文節の発話 ・語の発話
7	「非流ちょう性」について i: ことばの量の不具合とことばの質の不具合	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます ・ことばの量の不具合 ・ことばの質の不具合
8	「非流ちょう性」について ii: ことばの処理サイズの縮小とことばが出てこず発話が停滞	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます ・ことばの処理サイズの縮小 ・ことばが出てこず発話が停滞
9	「こま切れの文法」の定義	「文節単位のコマ切れ発話」とはなにかについて解説します
10	「文節単位のコマ切れ発話」について i: 語順、イントネーション、判定詞の表れ	「文節単位のコマ切れ発話」の特徴について解説します ・語順 ・イントネーション ・判定詞の表れ
11	「文節単位のコマ切れ発話」について ii: 終助詞の表れと【跳躍的上昇】の現れ	「文節単位のコマ切れ発話」の特徴について解説します ・終助詞の表れ ・【跳躍的上昇】の現れ
12	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 1	これまで学んできた内容をふまえて、受講生が気になる日本語の現象について議論します。受講生の半分が発表します。
13	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 2	これまで学んできた内容をふまえて、受講生が気になる日本語の現象について議論します。前回発表しなかった受講生が発表します。
14	最終試験	講義の内容に関して試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「コミュニケーション」における日本語という言語について、日本での言語生活を反省して、誤解した、誤解された等の具体例を意識的に観察し、その原因・理由について自分なりに真剣に考えてみてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

定延利之 (2019) 『文節の文法』大修館書店

『コミュニケーション事典』平凡社

その他、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題: 20%

平常点: 20%

発表: 20%

試験の得点: 40%,

合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

日本語コミュニケーションの体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。

ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします（希望者が多い場合は選考します）。

ESOP Students are required JLPT N1 for registration. (Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to understand what speech looks like in real life, and to develop the ability to establish communication.
2. to acquire the knowledge and ability to reflect on speech when communication is not successful, and to revise expressions to avoid misunderstanding.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to reflect on your linguistic life in Japan, and consciously observe specific examples of misunderstandings and misinterpretations, and think seriously about the causes and reasons for these misunderstandings. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Presentation performance: 20%, Assignments : 20%, in class contribution: 20%

POL100NA（政治学 / Politics 100）

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・事例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODAについて理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICAの活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生生活体験である。さらに、JICAの活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループによりJICAの活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1）	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグルー分けを行う。
第二回	我が国の国際協力	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGsを参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1）	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2）	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3）	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎にJICA報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4）	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5）	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える。

第十回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20％。課題パワーポイント作成と発表課題50％、課題レポート：30％。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPowerpointを使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説とSDGs設定の背景の解説を主として行う。
随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japan's involvement in international cooperation with developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by examining cultural differences. The focus is on official development assistance (ODA) carried out by the Japanese government. A group project that reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required in addition to regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her global perspective.

1. Understand the current situation of developing countries and the activities of the Japan International Cooperation Agency (JICA), which is the implementing agency for Japan's Official Development Assistance (ODA), and learn about career development in the case of working overseas in the future.
2. Understand the reality of studying abroad.
3. Form groups of 6 to 8 students to investigate the JICA report and present its contents and opinions. Through this group work, students will improve three basic abilities of working adults (the ability to step forward, to think things through, and to work in a team), as well as deepen our understanding of ODA, improve the ability to write reports, create power points, and make presentations.
4. After group work, by summarising their thoughts on international cooperation in the assigned report, students will develop the ability to look abroad broadly and utilize the results of their studies from a global perspective after graduation.

Investigation of JICA reports and preparation of PowerPoint and reports.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

In class performance: 20%. The assignment PowerPoint and presentation are 50%, and the assignment report is 30%.

Students absent four or more times will not be allowed to earn credits (rating D).

POL100NA（政治学 / Politics 100）

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODAについて理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 45%
(B) 技術者倫理 30%
(C) 工学基礎学力
(D) 専門基礎学力
(E) 専門知識の活用・応用力
(F) 総合デザイン能力 25%
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICAの活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生活体験である。さらに、JICAの活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループによりJICAの活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1）	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグルー分けを行う。
第二回	我が国の国際協力	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGsを参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1）	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2）	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3）	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。

第七回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎にJICA報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4）	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5）	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20％。課題パワーポイント作成と発表課題50％、課題レポート：30％。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPowerpointを使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説とSDGs設定の背景の解説を主として行う。
随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japan's involvement in international cooperation with developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by examining cultural differences. The focus is on official development assistance (ODA) carried out by the Japanese government. A group project that reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required in addition to regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her global perspective.

1. Understand the current situation of developing countries and the activities of the Japan International Cooperation Agency (JICA), which is the implementing agency for Japan's Official Development Assistance (ODA), and learn about career development in the case of working overseas in the future.
2. Understand the reality of studying abroad.
3. Form groups of 6 to 8 students to investigate the JICA report and present its contents and opinions. Through this group work, students will improve three basic abilities of working adults (the ability to step forward, to think things through, and to work in a team), as well as deepen our understanding of ODA, improve the ability to write reports, create power points, and make presentations.

4. After group work, by summarising their thoughts on international cooperation in the assigned report, students will develop the ability to look abroad broadly and utilize the results of their studies from a global perspective after graduation.

Investigation of JICA reports and preparation of PowerPoint and reports.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

In class performance: 20%. The assignment PowerPoint and presentation are 50%, and the assignment report is 30%.

Students absent four or more times will not be allowed to earn credits (rating D).

ART100NA（芸術学 / Art studies 100）

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	都市を視る目	都市図を読解する。
第02回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第03回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第04回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第05回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第06回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第07回	江戸の裏店層	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第08回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第09回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第10回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第11回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第12回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第13回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第14回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002年）

【成績評価の方法と基準】

平常点10%と期末の論述試験90%。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

ART100NA（芸術学 / Art studies 100）

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	15%
(C) 工学基礎学力	5%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	5%
(F) 総合デザイン能力	5%
(G) コミュニケーション能力	10%
(H) 継続的学習能力	5%
(I) 業務遂行能力	5%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	都市を視る目	都市図を読解する。
第02回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第03回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第04回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第05回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第06回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第07回	江戸の裏店層	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第08回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第09回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第10回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第11回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第12回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第13回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第14回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002年）

【成績評価の方法と基準】

平常点10％と期末の論述試験90％。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

ART100NA（芸術学 / Art studies 100）

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	◎	◎	○	○	◎	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	都市を視る目	都市図を読解する。
第02回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第03回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第04回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第05回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第06回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第07回	江戸の裏店屋	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第08回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第09回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第10回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第11回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第12回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第13回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第14回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002年）

【成績評価の方法と基準】

平常点10％と期末の論述試験90％。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- 原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
- 資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムにアップロードを予定
- 授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA（国際エネルギー機構）のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80％）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20％）により評価します。

欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしています。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use.

Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Attitude toward the class(80%) and class attendance(20%).More than 4 absences are not acceptable.

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていくことを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- 原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
- 資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムにアップロードを予定
- 授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA(国際エネルギー機構)のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取り組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80％）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしています。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Attitude toward the class(80%) and class attendance(20%).More than 4 absences are not acceptable.

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動を増徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。

○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムにアップロードを予定

○授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA(国際エネルギー機構)のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20%）により評価します。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしします。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Attitude toward the class(80%) and class attendance(20%).More than 4 absences are not acceptable.

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

ジオロジカルエンジニアリング

中谷 匡志

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジオロジカルエンジニアリングは、地質学と工学の境界領域の学問と位置づけられる。本講座では、主として土木構造物に分類されるダムやトンネル・橋梁などの建設といった、とくに社会基盤事業にかかわる技術者に必要な地盤工学（あるいは地質工学）の基礎と、それを応用する知識を養うことを目的としている。

【到達目標】

1. 土木構造物の基礎となる地盤について、その見方・考え方を習得する。
2. 調査・設計・施工の各プロセスにおける地盤評価の重要性とその方法・内容を理解する。
3. 地盤に起因するトラブルについて、評論家の立場ではなく、一技術者として倫理感や問題意識を持てるような思考力を培う。
4. 基礎岩盤の支持力や斜面の安定対策の見識を深め、簡易な安定計算ができるようにする。
5. 講義中に行う演習などによって、技術者としての文章表現力の基礎を習得する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 60%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

地質情報概論（0.5回）は、学問領域における位置づけと、社会基盤事業とのかかわりを考える。
地質の基礎知識（1.5回）は、岩盤の種類と成因、地質年代と特徴、岩種からの問題点のイメージを通じて、地質に対する理解を深める。
特別講義（2回）では、「地球の動き／地震」「原子力発電所の地震・津波対策」を通じて、ジオロジカルエンジニアリングの最近の動向・トピックを紹介する。
地質調査・試験（1回）では、ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験、地盤の分類（1回）では岩盤の工学的分類法について理解を深める。
ダムと地質情報（2回）、トンネルと地質情報（2回）、構造物基礎と地質情報（1回）では、重要な社会基盤事業であるダム、トンネル、橋梁の種類や施工方法、地質情報との関係を講義するとともに、貴重な実際の建設記録をDVDなどで紹介し、理解を深める。
のり面と地質情報（2回）では、のり面の基本、設計方法、安定対策について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。
地すべりと地質情報（1回）では、近年、ゲリラ豪雨や台風などによる災害が多発している地すべり地形の特徴と見方について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。
最終の講義では、上記14回の講義内容、演習、小論文に対する講評、解説も行う。
授業形態は、原則スライドショーで行い、毎回演習を実施する。なお、演習解答の提出を出欠の確認とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地質情報概論、地質の基礎知識(1)	ジオロジカルエンジニアリングの講義内容、社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関係。岩盤の種類と成因、年代と特徴、岩種からの問題点のイメージ。
2	地質の基礎知識(2)	岩盤の風化・変質、地質構造。
3	特別講義(1)	地震・活断層、津波、プレートテクトニクス、地震予知。
	「地球の動き／地震」の解釈の歴史の変遷、現状を理解する。	

4	地質調査・試験	ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験。
	代表的な地質調査・試験方法について知識を深める。	
5	地盤の分類（岩盤分類）	岩盤分類法、海外の岩盤分類。
	岩盤を定量的に区分する方法について理解する。	
6	ダムと地質情報(1)	ダムの種類、ダムの基礎処理。日本で最も大きい黒部ダム施工事例。
	ダムの設計と施工方法を理解する。	
7	ダムと地質情報(2)	ダムの歴史的発展、ダムの安定計算方法。
	ダムの設計と施工方法を理解する。	
8	特別講義(2)	原子力発電所の地震対策、津波対策、再稼働方法。
	「原子力発電所の地震・津波対策について」最新の現状を理解する。	
9	トンネルと地質情報(1)	トンネル・地下空洞の種類、施工方法、切羽前方探査。
	トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	
10	トンネルと地質情報(2)	日本で最も長い青函トンネルと大規模地下空洞である小丸川地下発電所の施工事例。
	トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	
11	構造物基礎と地質情報	橋梁の種類と発展、橋梁基礎の安定性に関わる施工事例。
	橋梁の歴史の変遷と橋梁基礎の安定性に関する考え方を理解する。	
12	のり面と地質情報(1)	掘削のり面の基本、岩盤の異方性と掘削のり面の基本と岩盤の異方性を通じて安定性を理解する。
	掘削のり面の基本と岩盤の異方性を通じて安定性を理解する。	
13	のり面と地質情報(2)	掘削のり面の安定対策、直線すべりのり面の安定対策方法と設計方法を習得する。
	掘削のり面の安定対策方法と設計方法を習得する。	
14	地すべりと地質情報	地すべり地形の特徴と見方、円弧すべりの安定計算。講義全般のキーワードの確認。
	地すべり地形の見方と安定計算方法を習得する。	
	講義全般をまとめる。	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 教科書全体の通読、教科書1章地盤の地質の予習・復習
 2. 教科書1章地盤の地質の予習・復習
 3. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
 4. 教科書2章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
 5. 教科書2章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
 6. 教科書3章ダムと地質調査の予習・復習
 7. 教科書3章ダムと地質調査の予習・復習
 8. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
 9. 教科書4章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
 10. 教科書4章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
 11. 教科書6章基礎と地盤地質の予習・復習
 12. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
 13. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
 14. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

改訂新版「建設工事と地盤地質」著者：古部 浩・武藤 光・山本浩之・宇津木慎司、発行所：古今書院 を使用する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で実施する演習問題(記述・作図・計算など)の提出により習得度を評価し、その合計から評価点(100点満点)を算出する。
合否の基準は、100-90点をS、89-87点をA+、86-83点をA、82-80点をA-、79-77点をB+、76-73点をB、72-70点をB-、69-67点をC+、66-63点をC、62-60点をC-とし合格とする。59-0点または欠席4回以上をD、未受講、採点不能をEとし不合格とする。
期末試験は実施しないが、演習の習得度によりレポート提出を求める場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

演習については、十分な時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

三角関数付き電卓、目盛り付き三角定規、分度器を必携とする。

【その他の重要事項】

現役の建設会社に勤務する博士（学術）、技術士（応用理学）の資格を有する教員が、その経験と知識に則した地形・地質の観点から建設工事の着目点を講義する。なお、質問がある場合は、随時電子メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

Geological engineering is a discipline combining geology and civil engineering. In this course, we will introduce the basic of geotechnics (or geotechnical engineering) necessary for engineers involved in projects of social infrastructure, such as construction of dams, tunnels and bridges, which are mainly classified as civil engineering structures, and the knowledge to apply them.

At the end of the course, students are expected that understand the importance of ground evaluation in each process of survey, design and construction, and its method and contents.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on evaluating by submitting exercises to be conducted in each lecture. No final exam will be held.

DES100NA (デザイン学 / Design science 100)

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「手つかずの自然」とはよく聞く言葉です。しかし実はその言葉は幻想に近く、現在地球上にはそのようなものはほとんど残されていません。我々人類は、自然と向きあい、土地を耕し農業を興し、人間がつくったもっとも大きな人工物といわれる「都市」を地球上に生み出してきたのです。

地球上の人間の半分以上、日本に至っては9割の人が都市で生活しているという現在、私たちの目にふれるものはすべて人間によって「デザインされたもの」と言ってもよいでしょう。

この授業では、こうした自分たちの身のまわりの世界を、デザインという観点から見ていきます。

また3学科が集まる人数の多い授業となりますが、「見る」だけではなく、「書く」と「書く」ということも授業で体験してもらう予定です。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育てる。
- 2) 「創造」のための目を養う。
- 3) 「創造」のための方法を自分で探究することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義。課題提出。各自のプレゼンテーション。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4月9日	ガイダンス	授業登録人数の確認（120名を超える場合は抽選方式）、授業の進め方と注意事項など。
4月16日	イントロダクション	教員の自己紹介 課題の説明
4月23日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か?	現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか？ ダ・ヴィンチの功績をみる。
5月7日	課題のプレゼンテーションと自己紹介1	自分の作品をプレゼンテーションする。
5月14日	課題のプレゼンテーションと自己紹介2	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
5月21日	課題のプレゼンテーションと自己紹介3	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
5月28日	課題のプレゼンテーションと自己紹介4	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月4日	西洋文化の源流ギリシア神話と神々の住むところ	人の作品を鑑賞する。 ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明を見る。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6月11日	万国博覧会と建築・デザインの関係	10月13日まで開催中の大阪・関西万博。万博の歴史は建築・デザインに深く寄与している。その歩みを概観する。
6月18日	都市の観察1 ヤンゴン	都市化が進むということはどういうことか。 アジアの一都市の発展を政治・文化・宗教的側面とともに考える
6月25日	都市の観察2 ヘルシンキ他	フィンランドの首都ヘルシンキを例に、ひとつの首都の、過去と現代の建築及び都市施設と交通を考察する。尚、この講義はフィンランドの郊外からのオンライン授業を予定している。
7月2日	都市の観察3 千田 勝 フランスからのレクチャー	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田 勝氏。「パリの持続可能なライフスタイル」をリモート講義する。
7月9日	都市の観察4 東京	高輪築堤という産業遺産から、鉄道・地下鉄といった都市施設を通して我が国のデザインを振り返り展望する。

7月16日 都市の観察5 台北他

東京以外の都市の交通、また産業遺産の都市への活かしたを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作成5時間、レポート作成8時間

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート40%、一部授業後の提出物30%、平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像の提出については、スマートフォンの写真ではなくきちんとスキャンして提出すること。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を120名ほどに限定する可能性がある。
最新情報を授業で紹介することが多いので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また履修人数によっても、講義内容に変更や、前後する可能性がある。
フランスから教室内のモニターにリモートで、千田勝氏にレクチャーをしてもらう予定だが、スケジュールについては変更する可能性もある。
ヘルシンキの授業はオンライン授業を予定しているが、インターネットの状況によっては変更する可能性もある。
授業終了後に教室で質問を受け付ける

【Outline (in English)】

We often use the word "Wild Nature". But that word is an illusion.
We human beings have been cultivating nature and created the greatest artifact, the city on the earth.
In a sense, nowadays everything we see is "designed" by human beings.
We will see such the world around us from the perspective of design.
And not only "see", we will also experience "drawing" and "writing" in this class.

DES100NA (デザイン学 / Design science 100)

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「手つかずの自然」とはよく聞く言葉です。しかし実はその言葉は幻想に近く、現在地球上にはそのようなものはほとんど残されていません。我々人類は、自然と向きあい、土地を耕し農業を興し、人間がつくったもっとも大きな人工物といわれる「都市」を地球上に生み出してきたのです。

地球上の人間の半分以上、日本に至っては9割の人が都市で生活しているという現在、私たちの目にふれるものはすべて人間によって「デザインされたもの」と言ってもよいでしょう。

この授業では、こうした自分たちの身のまわりの世界を、デザインという観点から見ていきます。

また3学科が集まる人数の多い授業となりますが、「見る」だけではなく、「書く」と「書く」ということも授業で体験してもらう予定です。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育てる。
- 2) 「創造」のための目を養う。
- 3) 「創造」のための方法を自分で探究することができる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

◎

○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義。課題提出。各自のプレゼンテーション。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4月9日	ガイダンス	授業登録人数の確認（120名を超える場合は抽選方式）、授業の進め方と注意事項など。
4月16日	イントロダクション	教員の自己紹介 課題の説明
4月23日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か?	現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか？ダ・ヴィンチの功績をみる。
5月7日	課題のプレゼンテーションと自己紹介1	自分の作品をプレゼンテーションする。
5月14日	課題のプレゼンテーションと自己紹介2	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
5月21日	課題のプレゼンテーションと自己紹介3	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
5月28日	課題のプレゼンテーションと自己紹介4	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月4日	西洋文化の源流ギリシア神話と神々の住むところ	人の作品を鑑賞する。 ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明を見る。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6月11日	万国博覧会と建築・デザインの関係	10月13日まで開催中の大阪・関西万博。万博の歴史は建築・デザインに深く寄与している。その歩みを概観する。
6月18日	都市の観察1 ヤンゴン	都市化が進むということはどういうことか。 アジアの一都市の発展を政治・文化・宗教的側面とともに考える
6月25日	都市の観察2 ヘルシンキ他	フィンランドの首都ヘルシンキを例に、ひとつの首都の、過去と現代の建築及び都市施設と交通を考察する。 尚、この講義はフィンランドの郊外からのオンライン授業を予定している。

7月2日 都市の観察3 千田 勝
フランスからのレクチャー

7月9日 都市の観察4 東京

7月16日 都市の観察5 台北他

法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田 勝氏。「パリの持続可能なライフスタイル」をリモート講義する。
高輪築堤という産業遺産から、鉄道・地下鉄といった都市施設を通して我が国のデザインを振り返り展望する。
東京以外の都市の交通、また産業遺産の都市への活かしたを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作成5時間、レポート作成8時間

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート40%、一部授業後の提出物30%、平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像の提出については、スマートフォンの写真ではなくきちんとスキャンして提出すること。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を120名ほどに限定する可能性がある。
最新情報を授業で紹介することが多いので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また履修人数によっても、講義内容に変更や、前後する可能性がある。
フランスから教室内のモニターにリモートで、千田勝氏にレクチャーをしてもらう予定だが、スケジュールについては変更する可能性もある。
ヘルシンキの授業はオンライン授業を予定しているが、インターネットの状況によっては変更する可能性もある。
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

We often use the word "Wild Nature". But that word is an illusion.
We human beings have been cultivating nature and created the greatest artifact, the city on the earth.
In a sense, nowadays everything we see is "designed" by human beings.
We will see such the world around us from the perspective of design.
And not only "see", we will also experience "drawing" and "writing" in this class.

DES100NA（デザイン学 / Design science 100）

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「手つかずの自然」とはよく聞く言葉です。しかし実はその言葉は幻想に近く、現在地球上にはそのようなものはほとんど残されていません。我々人類は、自然と向きあい、土地を耕し農業を興し、人間がつくったもっとも大きな人工物といわれる「都市」を地球上に生み出してきたのです。

地球上の人間の半分以上、日本に至っては9割の人が都市で生活しているという現在、私たちの目にふれるものはすべて人間によって「デザインされたもの」と言ってもよいでしょう。

この授業では、こうした自分たちの身のまわりの世界を、デザインという観点から見ていきます。

また3学科が集まる人数の多い授業となりますが、「見る」だけではなく、「書く」と「書く」ということも授業で体験してもらう予定です。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育てる。
- 2) 「創造」のための目を養う。
- 3) 「創造」のための方法を自分で探究することができる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	20%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	5%
(D) 専門基礎学力	5%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	5%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	5%
(I) 業務遂行能力	5%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義。課題提出。各自のプレゼンテーション。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4月9日	ガイダンス	授業登録人数の確認（120名を超える場合は抽選方式）、授業の進め方と注意事項など。
4月16日	イントロダクション	教員の自己紹介 課題の説明
4月23日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か？	現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか？ ダ・ヴィンチの功績をみる。 自分の作品をプレゼンテーションする。
5月7日	課題のプレゼンテーションと自己紹介1	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
5月14日	課題のプレゼンテーションと自己紹介2	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
5月21日	課題のプレゼンテーションと自己紹介3	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
5月28日	課題のプレゼンテーションと自己紹介4	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月4日	西洋文化の源流ギリシア神話と神々の住むところ	ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明を見る。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6月11日	万国博覧会と建築・デザインの関係	10月13日まで開催中の大阪・関西万博。万博の歴史は建築・デザインに深く寄与している。その歩みを概観する。
6月18日	都市の観察1 ヤンゴン	都市化が進むということはどういうことか。 アジアの一都市の発展を政治・文化・宗教的側面とともに考える。

6月25日	都市の観察2 ヘルシンキ他	フィンランドの首都ヘルシンキを例に、ひとつの首都の、過去と現代の建築及び都市施設と交通を考察する。尚、この講義はフィンランドの郊外からのオンライン授業を予定している。
7月2日	都市の観察3 千田 勝 フランスからのレクチャー	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田 勝氏。「パリの持続可能なライフスタイル」をリモート講義する。
7月9日	都市の観察4 東京	高輪築堤という産業遺産から、鉄道・地下鉄といった都市施設を通して我が国のデザインを振り返り展望する。
7月16日	都市の観察5 台北他	東京以外の都市の交通、また産業遺産の都市への活かしたを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作成5時間、レポート作成8時間

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート40%、一部授業後の提出物30%、平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像の提出については、スマートフォンの写真ではなくきちんとスキャンして提出すること。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を120名ほどに限定する可能性がある。
最新情報を授業で紹介することが多いので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また履修人数によっても、講義内容に変更や、前後する可能性がある。
フランスから教室内のモニターにリモートで、千田勝氏にレクチャーをしてもらう予定だが、スケジュールについては変更する可能性もある。
ヘルシンキの授業はオンライン授業を予定しているが、インターネットの状況によっては変更する可能性もある。
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

We often use the word "Wild Nature". But that word is an illusion.
We human beings have been cultivating nature and created the greatest artifact, the city on the earth.
In a sense, nowadays everything we see is "designed" by human beings.
We will see such the world around us from the perspective of design.
And not only "see", we will also experience "drawing" and "writing" in this class.

DES100ND (デザイン学 / Design science 100)

色彩論

大高 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が受け取る情報の8割以上が五感の「視覚」に頼っている。人が1日に触れる色の数は1000万色とも言われる。光・場所・メディア・材質など、様々な要因で変化する「モノや色が見えるしくみ」から、色もたらす意味・効果・色彩情報・色彩計画表現に不可欠な「色彩の基礎」を学ぶ。

【到達目標】

講義から多角的な視点で色彩の概念・本質・知識を理解する。
講義をもとに課題制作を通して、微妙な色の識別判断や色の認知、色彩表現技術を体験し、習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

色彩の知識があることと色彩が使えることは異なるため、段階的に幅広く両者を習得できる手法で進める。
・各回のテーマに沿った講義形式を軸にした授業を行う。
・微妙な色彩の識別判断や色彩表現を学習しながら手作業による課題制作を実施する。
・各回のテーマにかかわる様々な色彩の現物サンプルを提示する。
・提出された課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対して講評する。
・提出された発想練習、リアクションペーパー、アンケート等を集計し、全体に対してフィードバックする。
・随時、発想練習、リアクションペーパー、アンケート等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方と方法についての説明と確認
2	色彩の始まりと色彩学の基本	自然から学ぶ色彩と古代の色彩 光の干渉・回折などの光学研究の分野を切り開いたニュートンの光学 色彩感情・心理を最初に論じたゲーテの色彩論
3	色の成り立ちとHVC表現	光と色の三原色 色の三属性HVC（色相・明度・彩度） 色相環
4	色彩の尺度	様々なカラーオーダーシステムと様々な業界のカラーチャートによる色の数値化表現
5	色の見え・1	色の認知と行動 色覚説モデル 様々な順応・対比 補色・残像 明るさ・色の対比
6	色の見え・2	光源による色の見え 色覚特性 安全と色彩
7	色彩文化・1	西洋文化におけるカラーコミュニケーションの歴史

8	色彩文化・2	日本文化におけるカラーコミュニケーションの歴史
9	情報と色彩	色彩心理 色彩戦略
10	風土と都市と色彩	環境色彩 スーパーグラフィック 景観法の色彩
11	モノとコトと色彩	流行色 イロモノ家電 色の常識 色の可能性
12	イメージの色彩・1	イメージからの色彩配色コンボジション・1
13	イメージの色彩・2	イメージからの色彩配色コンボジション・2
14	今期まとめ	全講義内容、課題の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・身の周りの色彩観察
・各回ごとの授業の復習
・手作業による課題制作
・発想練習、リアクションペーパー、アンケート等の作成
本授業の復習、課題制作時間、発想練習等の作成は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【参考書】

特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と取り組みによる平常点（40％）、および各課題の完成度（60％）を考慮し総合的に評価する。
課題の内容、数に応じて配分を割り振る。
※未提出物がある学生、4回以上欠席した学生は評価の対象としない（D評価）。遅刻・早退は2回で欠席1回と換算する。（ただし正当な理由がある場合は遅刻・早退、欠席ともその限りではない）

【学生の意見等からの気づき】

講義では色彩の基礎のほか、学生に身近な話題についても多角的な視点から毎年豊富に導入・改善を試みている。
課題を通して色彩認識が深まるため、学生が興味を持ち達成感を得られる内容としている。

【学生が準備すべき機器他】

・課題制作は手作業のためハサミやカッター、定規、ノリなど紙を切り貼りするための道具を使用。
・提出物は学習支援システムを利用する。
・提出物の内容によりスキャンすることがある。

【その他の重要事項】

・授業終了後に教室で質問を受け付ける。
・初回ガイダンスで発想練習、アンケートを実施する。
・授業の進捗、学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更することがある。
・プロダクトデザイナーとしてのメーカー勤務経験、デザインディレクターとしての現在の経験を活かし、多角的に幅広く色彩に関する講義を行う。

【Outline (in English)】

Over 80 percent of the information which humans receive rely on the perception known as "sight". It is said that everyday we encounter 10 million different colors.

From the sources of changing light and objects such as light, places, media and materials, students will learn the fundamental principles indispensable for describing the implications, effect, information and design of color.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 1 hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

assignment :60%、in class contribution: 40%

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実に求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
○	◎					

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に定める都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。

11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の重要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する。
12	スケッチのデジタル化	演習その1〜4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源一・高見公雄・篠原修編著

【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト(50%)並びに作図課題(50%)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

[learning goal]

Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.

Get an overview of the history of urban design.

Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.

[Learning activities outside the classroom]

Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

[Evaluation Criteria/Policy]

Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実に求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、多様な都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り返す。

作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいえるべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の重要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する。

12	スケッチのデジタル化	演習その1〜4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト(50%)並びに作図課題(50%)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

[learning goal]

Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.

Get an overview of the history of urban design.

Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.

[Learning activities outside the classroom]

Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

[Evaluation Criteria/Policy]

Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実に求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。

都市デザインの歴史の概略を知る。

テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力 40%

(D) 専門基礎学力 40%

(E) 専門知識の活用・応用能力 20%

(F) 総合デザイン能力

(G) コミュニケーション能力

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。

作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの承襲と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。

9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の重要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する。
12	スケッチのデジタル化	演習その1〜4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドローソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト(50%)並びに作図課題(50%)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。学生からの質問等については授業前後教室で受けけるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

【learning goal】

Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.

Get an overview of the history of urban design.

Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.

【Learning activities outside the classroom】

Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Evaluation Criteria/Policy】

Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

GEO200NA（地理学 / Geography 200）

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通したコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 40%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 20%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

地図およびGIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70％、ミニレポート30％

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを使用

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。

オフィスアワー：木曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination: 70 %, Short reports: 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

To understand the methods and basic techniques of communication through visual representation of spatial information.

GEO200NA（地理学 / Geography 200）

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通したコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

地図およびGIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、ミニレポート30%
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを使用

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。

オフィスアワー：木曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination: 70 %, Short reports: 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

To understand the methods and basic techniques of communication through visual representation of spatial information.

GEO200NA（地理学 / Geography 200）

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通したコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

地図およびGIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70％、ミニレポート30％

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを使用

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。

オフィスアワー：木曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination: 70 %, Short reports: 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

To understand the methods and basic techniques of communication through visual representation of spatial information.

CST200NA（土木工学 / Civil engineering 200）

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考ええる。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組む中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説Q&A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：	30%
②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：	30%
③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：	30%
④授業内演習	10%

欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。
なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on oversea cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

report01 ; Setting model area and analyzing. 30%

report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%

report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST200NA（土木工学 / Civil engineering 200）

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考えられる。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組む中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現状分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴

14 演習課題（3）持続可能な都市づくりにおける政策
な都市づくりに向けて 提言レポートの発表
の課題レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説Q&A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：	30%
②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：	30%
③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：	30%
④授業内演習	10%
- 欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。
なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

report01 ; Setting model area and analyzing.	30%
report02 ; Quantitative evaluation of model area.	30%
report03 ; Policy proposal for model area.	40%

CST200NA（土木工学 / Civil engineering 200）

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考え。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組む中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現状分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けて	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説Q&A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
- ②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
- ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：30%
- ④授業内演習10%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on oversea cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

- report01 ; Setting model area and analyzing. 30%
- report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%
- report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登、大西 景太

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方や技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30%）、最終成果物（70%）。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドローソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登、大西 景太

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方や技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30%）、最終成果物（70%）。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登、大西 景太

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方や技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。

新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30%）、最終成果物（70%）。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

デザイン思想史概論

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを主軸に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。

国内外のデザイン思想を遡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーヴメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーヴメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーヴメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンライン（遠隔授業）で講義を実施します。
講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。
ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。
授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探る。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、同時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョア階級の台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユウゲントシュティール、AEG社、バウハウスを事例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	バウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。
9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のジャコ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。
10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。
11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。
12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。

13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探る。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。
指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は講義中に示します。

【参考書】

「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店
「デザインの歴史」暮沢剛巳、伊藤潤、山本政幸、天内大樹、高橋裕行 学芸出版社
その他の参考書は講義中に示します。

【成績評価の方法と基準】

授業は毎回必ず参加してください。
最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポート及び最終レポート課題です。
レポート：80％
—授業で取り上げたポイントへの理解度：80％のうちの2割
—各事象のつながり（デザイン史の理解度）：80％のうちの7割
—ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度：80％のうちの1割
平常点：20％
—授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業の場合、講義動画（zoomの録画データ）は、概ね授業後1週間を目処に残しておきますので、必要に応じて速やかに再視聴してください。動画の無断録音、保存、再配布等は禁止します。

【学生が準備すべき機器他】

講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。
ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリ（主にMicrosoft Wordで提出）を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

教員の実務経験：デザインジャーナリストとして主に雑誌やウェブメディアにて、国内外のデザインを考察して記事を執筆しています。
・ウェブメディア「JDN」注目のデザイナー担当キュレーター
・雑誌「PEN」デザイン連載ページ担当
初回の授業でも、これまでの実務からいくつかを自己紹介として短くお伝えします。
オフィスアワー：オンライン授業の場合は、講義中にチャット欄から随時質問してください。また、毎回講義終了後にも質問を受け付けます。講義全体に関することは、Hoppiiの掲示板に書き込んでも構いません。

【Outline (in English)】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art.

By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.

Attendance in every class is required.

Lectures will be conducted online.

Students are required to attend the lectures and submit a mini-report each time.

Themes and issues to be covered in the mini-reports will be presented during the class, so please pay attention and concentrate on the class.

Unauthorized recording or screenshots of the class is prohibited.

The greatest emphasis will be placed on the mini-report and final report assignment to be submitted after each class.

Report: 80%.

—Comprehension of points covered in class: 20%of 80

—Connectedness of each event (understanding of design history): 70% of 80%.

—Readability of the mini-report, accuracy of Japanese: 10%of 80

Ordinary score: 20%of 80%.

— Attendance in class (listening to online lectures) will be scored here.

DES200NA (デザイン学 / Design science 200)

デザイン思想史概論

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを主軸に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。

国内外のデザイン思想を遡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーヴメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーヴメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーヴメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンライン（遠隔授業）で講義を実施します。
講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。
ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。
授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探る。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、同時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョア階級の台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユウゲントシュティール、AEG社、バウハウスを事例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	バウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。
9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のシャカ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。
10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。
11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。
12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。

13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探る。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。
指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は講義中に示します。

【参考書】

「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店
「デザインの歴史」 暮沢剛巳、伊藤潤、山本政幸、天内大樹、高橋裕行 学芸出版社
その他の参考書は講義中に示します。

【成績評価の方法と基準】

授業は毎回必ず参加してください。
最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポート及び最終レポート課題です。
レポート：80％
—授業で取り上げたポイントへの理解度：80％のうちの2割
—各事象のつながり（デザイン史の理解度）：80％のうちの7割
—ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度：80％のうちの1割
平常点：20％
—授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業の場合、講義動画（zoomの録画データ）は、概ね授業後1週間を目処に残しておきますので、必要に応じて速やかに再視聴してください。動画の無断録音、保存、再配布等は禁止します。

【学生が準備すべき機器他】

講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。
ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリ（主にMicrosoft Wordで提出）を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

教員の実務経験：デザインジャーナリストとして主に雑誌やウェブメディアにて、国内外のデザインを考察して記事を執筆しています。
・ウェブメディア「JDN」注目のデザイナー担当キュレーター
・雑誌「PEN」デザイン連載ページ担当
初回の授業でも、これまでの実務からいくつかを自己紹介として短くお伝えします。
オフィスアワー：オンライン授業の場合は、講義中にチャット欄から随時質問してください。また、毎回講義終了後にも質問を受け付けます。講義全体に関することは、Hoppiiの掲示板に書き込んでも構いません。

【Outline (in English)】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art. By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.

Attendance in every class is required.

Lectures will be conducted online.

Students are required to attend the lectures and submit a mini-report each time.

Themes and issues to be covered in the mini-reports will be presented during the class, so please pay attention and concentrate on the class.

Unauthorized recording or screenshots of the class is prohibited.

The greatest emphasis will be placed on the mini-report and final report assignment to be submitted after each class.

Report: 80%.

—Comprehension of points covered in class: 20%of 80

—Connectedness of each event (understanding of design history): 70% of 80%.

—Readability of the mini-report, accuracy of Japanese: 10%of 80

Ordinary score: 20%of 80%.

— Attendance in class (listening to online lectures) will be scored here.

DES200NA (デザイン学 / Design science 200)

デザイン思想史概論

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを主軸に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。

国内外のデザイン思想を遡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーヴメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーヴメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーヴメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンライン（遠隔授業）で講義を実施します。

講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。

ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。
授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探る。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、同時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョアジーの台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユーゲントシュティール、AEG社、バウハウスを実例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	バウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。
9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のシャカ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。
10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。

11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。
12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。
13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探る。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。

指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は講義中に示します。

【参考書】

「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店

「デザインの歴史」 暮沢剛巳、伊藤潤、山本政幸、天内大樹、高橋裕行 学芸出版社

その他の参考書は講義中に示します。

【成績評価の方法と基準】

授業は毎回必ず参加してください。

最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポート及び最終レポート課題です。

レポート：80%

—授業で取り上げたポイントへの理解度：80%のうちの2割

—各事象のつながり（デザイン史の理解度）：80%のうちの7割

—ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度：80%のうちの1割

平常点：20%

—授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンラン授業の場合、講義動画（zoomの録画データ）は、概ね授業後1週間を目処に残しておきますので、必要に応じて速やかに再視聴してください。動画の無断録音、保存、再配布等は禁止します。

【学生が準備すべき機器他】

講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。

ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリ（主にMicrosoft Wordで提出）を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

教員の実務経験：デザインジャーナリストとして主に雑誌やウェブメディアにて、国内外のデザインを考察して記事を執筆しています。

・ウェブメディア「JDN」注目のデザイナー担当キュレーター

・雑誌「PEN」デザイン連載ページ担当

初回の授業でも、これまでの実務からいくつかを自己紹介として短くお伝えします。

オフィスアワー：オンライン授業の場合も、講義中にチャット欄から随時質問してください。また、毎回講義終了後にも質問を受け付けます。講義全体に関することは、Hoppiiの掲示板に書き込んでも構いません。

【Outline (in English)】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art.

By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.

Attendance in every class is required.

Lectures will be conducted online.

Students are required to attend the lectures and submit a mini-report each time.

Themes and issues to be covered in the mini-reports will be presented during the class, so please pay attention and concentrate on the class.

Unauthorized recording or screenshots of the class is prohibited.

The greatest emphasis will be placed on the mini-report and final report assignment to be submitted after each class.

Report: 80%.

- Comprehension of points covered in class: 20%of 80
 - Connectedness of each event (understanding of design history): 70% of 80%.
 - Readability of the mini-report, accuracy of Japanese: 10%of 80
- Ordinary score: 20%of 80%.
- Attendance in class (listening to online lectures) will be scored here.

ADE100NB（建築学 / Architecture and building engineering 100）

建築のしくみ

安藤 直見

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は建築を学び始める学生が建築のしくみ（物的構成）の基本を知ることとを目的としています。「巨匠たちの住宅」（国内および海外の著名な建築）を題材として、その形態構成・空間構成と架構法・ディテールとの関係を理解しながら、建築の主要な架構形式である鉄筋コンクリート壁式構造、鉄筋コンクリートラーメン構造、木造軸組構造、鉄骨構造の基本的なしくみについて学びます。

（以下、教科書の「はじめに」より）

本書の2章以降では、「住吉の長屋」、「サヴォワ邸」、「ファンズワース邸」、「白の家」といった20世紀を代表する住宅を実例として取り上げ、その形態・空間がどのような建築のしくみによって成立しているかを解説している。取り上げた住宅は、それぞれ、鉄筋コンクリート壁構造、鉄筋コンクリートラーメン構造、鉄骨構造、木造軸組構造という異なった構造形式でつくられている。それらは現代においても（変更：現在の）建築の主要な構造形式であるから、これらの住宅を学ぶことで、建築の主要なしくみがどのように形態・空間を構成しえるかを理解することができると思う。

さて、しかし、取り上げた住宅が、主要な建築のしくみを学ぶために適した実例であるかどうかという点には疑問の余地があるかもしれない。これらの住宅が、後に続く建築に、決定的な影響を与えた建築であることに間違いはないのだが、これらの住宅は、研ぎ澄まされた形態と空間をもつがゆえに、建築の特殊解（変更：例）だといえなくもないからだ。街にあふれる多くの建築では、建築を物的に構成する柱や壁が見えない部分に隠されていることが多いのだが、これらの住宅は、そういった建築とはいささか異なっている。しかし、建築のしくみという視点（変更：観点）でいえば、4つの住宅が、街にあふれる多くの建築とまったく異なっているわけではない。現代の建築技術は、産業革命以降に発展した工業技術に根ざしているから、4つの住宅と街にあふれる多くの建築は同一の技術に基づいて成立している。両者が異なっているのは、4つの住宅では、建築のしくみが至高の形態と空間に昇華しているという点だけだ。本書で取り上げる4つの住宅は、建築を架構する壁や柱の構成が建築の形態・空間を決定づけているという意味において「裸の建築」と呼ぶこともできると思う。これらの住宅は、「裸」であるからこそ美しい。建築のしくみを形態・空間と関連づけ、すなわち、建築のしくみを建築の美しさに関連づけて学んで欲しいことも本書のねらいである。

【到達目標】

建築にしくみに関する以下の知識の習得が目標です。

- 鉄筋とコンクリート
- 壁構造とラーメン構造
- 基礎・壁・床・屋根・開口部・その他の各部の構成
- 鉄骨の形状と接合方法
- ガラスの構成
- 木造の基礎・床組・軸組・小屋組

（以下、教科書の「はじめに」より）

建築のしくみは建築の技術の一端である。一つの考え方として、建築のしくみは先行したデザインの後からついていくものであり、しくみの積み重ねによってデザインが生まれることはないという考え方があると思う。その考え方に従えば、しくみを表す図面・模型よりも、細部の構成にはこだわらない1枚のスケッチこそが建築デザインにとってもっとも重要だということになる。そのことに間違いはないと思うのだが、だからといって、建築のしくみを学ばなくてもいいということにはならない。この先に描かれるであろう1枚のスケッチがどのようなしくみによって成立するかは未知のことであっていいが、現在の建築が（現代に多大な影響を与えた建築が）どのようなしくみによって成立しているかを理解することは、建築を学び始める学生にとって重要であるはずだ。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎		○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、各回のテーマに関する解説に続いて、学習支援システムを利用して、授業内オンラインテストを実施します。解説は教科書に沿って進めるので、重要なポイントにマークをするなどして、教科書に書かれていることをよく理解してください。その上で、教科書を参照しながら、テストに解答し、重要なポイントを再確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	建築の主要な架構形式	ガイダンス
2	住吉の長屋(1)：鉄筋コンクリート壁構造による建築架構の概要	教科書2章1節～2節（住吉の長屋と壁構造の概要）
3	住吉の長屋(2)：コンクリート打放しと壁仕上げ、断熱材、建具の納まりなど	教科書2章3節（平面の構成）
4	住吉の長屋(3)：基礎、壁、床、天井、屋根の架構法など	教科書2章4節～5節（断面と立面の構成）
5	サヴォワ邸(1)：鉄筋コンクリートラーメン構造による建築架構の概要	教科書3章1節～3節（サヴォワ邸とラーメン構造の概要）
6	サヴォワ邸(2)：構造壁と間仕切り壁などについて学ぶ	教科書3章4節～6節（1階・2階・屋上の構成）
7	サヴォワ邸(3)：鉄筋コンクリートによる造作（開口部など）	教科書3章7節～9節（立面・断面・窓の構成）
8	これまでのまとめ：鉄筋コンクリート構造による建築の工事現場の事例	スライドレクチャー（予定）
9	ファンズワース邸(1)：鉄骨構造による建築架構の概要など	教科書4章1節～2節（ファンズワース邸と鉄骨構造の概要）
10	ファンズワース邸(2)：鉄骨フレームのしくみなどについて学ぶ	教科書4章3節～4節（鉄のフレームと床・屋根）

- 11 ファンズワース邸(3) 教科書4章5節～7節（ガラスの壁・階段・設備コア）
ガラスのディテール。
カーテンウォールのディテールなど
- 12 白の家(1)： 教科書5章1節～3節（白の家と木造軸組構造による建築架構の概要。ツープイフォー構法、パネル構法などの概要）
- 13 白の家(2)： 教科書5章4節～5節（基礎と床軸組、床組、軸組部材の名称と役割）
- 14 白の家(3)： 教科書5章6節～8節（軸組・小小屋組、軸組構造の枠廻り、壁、床、天井の仕上げ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書該当部分の予習と復習が必要です。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「建築のしくみ／住吉の長屋、サヴォワ邸、ファンズワース邸、白の家」（安藤直見・柴田晃宏・比護結子著、丸善、2008年）※
※この教科書は1年次配当科目（必修科目）である「デザインスタジオ1（建築）」でも使用します

【参考書】

- 安藤忠雄、安藤忠雄のディテール／原図集／六甲の集合住宅・住吉の長屋、彰国社、1984年
 - GAディテール No.1／ミース・ファン・デル・ローエ／ファンズワース邸／1945－50、A.D.A. EDITA Tokyo Co., Ltd., 1976年
 - 篠原一男、白の家・上原通りの住宅、世界建築設計図集、同朋舎、1984年
 - 篠原一男、住宅論、SD選書 No.49、鹿島出版会、1970年
 - (5) エドワード・R・フォード、巨匠たちのディテール、八木幸二監訳、丸善、1999年
 - 安藤直見・石井翔太・浅古陽介・種田元晴、建築のカタチ：3Dモデリングで学ぶ建築の構成と図面表現、丸善、2020年
 - 内田祥哉他、建築構法（第五版）、市ヶ谷出版社、2007年
 - 建築構造ポケットブック（第4版）、共立出版、2006年
 - 加藤道夫、建築における三次元空間の二次元表現／ショワジー『建築史』における軸測図の使用について、図学研究、第32巻3号、日本図学会、1998年9月
 - 佐々木睦朗、私のベストディテール／接合部の痕跡を消す、日経アーキテクチュア No.709（2002年1月7日号）
 - サヴォワ邸／1931／フランス／ル・コルビュジエ、バナナブックス、2007年
 - Jacques Sbriglio, Le Corbusier: La Villa Savoye, Foundation Le Corbusier, Birkhäuser, 1999
 - Werner Blaser, Mies van der Rohe, Farnsworth House: weekend house, Birkhäuser, 1999
- ▼参考ホームページ
- ファンズワース・ハウス（アメリカ・イリノイ州）
： <http://www.farnsworthhouse.org/>
 - フランス国立モノユメントセンター：
<http://www.monuments-nationaux.fr/>
 - ル・コルビュジエ財団（パリ）：
<http://www.fondationlecorbusier.asso.fr/>
 - ル・コルビュジエ アーカイブ（大成建設）：
<http://www.taisei.co.jp/galerie/archive.html>
- ▼教科書「建築のしくみ～」の中国語版
建筑构造-从模型3D图解世界四大名宅安藤直見・柴田晃宏・比護結子・陶新中（校）・董新生（校）、中国建筑工业出版社（2016年1月）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業にて実施する授業内テストにより評価します（100％）。
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業評価アンケートに「眠くなる」という回答がありました。「眠くならないような演出」として、何か手を動かすような演習を交えるようにします。なお、授業の前日には十分な睡眠をとってください。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で、学習支援システム（hoppii）を用いた「テスト」（演習）を実施します。「テスト」を受けるには、ノートパソコンまたはスマートフォンが必要となります。
また、授業時に、学習支援システムを通して、3DモデルのCGデータ（スケッチアップのファイル）などの資料を配布します。CGデータを参照すると、建築の構成がよくわかります。ノートパソコン等を用意して、CGデータを参照してください。

【その他の重要事項】

この授業の題材とする4つの住宅のうちの「サヴォワ邸」（フランス・パリ近郊）と「ファンズワース邸」（アメリカ・シカゴ近郊）は文化財として一般に公開されているので、ぜひ実物を見に行ってください。教科書では、4つの住宅の図面・模型・CG（Computer Graphics）の製作方法について解説しています。ぜひ図面を描き、模型を作ってみてください。また、教室の中で建築の実物を工事することは不可能ですが、コンピュータ上でなら組み立てることができます。CGの制作にもチャレンジしてください。3年次以上秋学期配当科目（選択科目）である「デジタルスタジオ」は、実在の建築のCGを制作する演習を含んでいるので、ぜひ受講をしてください。
授業後および授業支援システムにて質問に対応します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to provide students, who have started architectural studies, with knowledge of fundamental building constructions.

【Learning objectives】

Through understanding the relationship between forms and spacial compositions as well as framework and details in construction, students will learn the basic structures, such as reinforced concrete wall structure, reinforced concrete frame structure, steel frame structure, and wooden frame structure.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare and Review online tests

【Grading criteria/policy】

Grading is based on the evaluation of online tests (100%)

DES100ND (デザイン学 / Design science 100)

デザイン理論 (SD)

秋元 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「デザインの現在地を知る基礎講座」です。デザインが対象とする領域の幅、デザインの目的の幅、それぞれが拡がっている現在におけるデザインの理論＝考え方を理解します。一つは「デザインという営みの基礎を成す普遍としての理論」であり、もう一つは「様々なデザインのそれぞれを成り立たせている個別解としての理論」です。今日のデザインはそれらの理論＝考え方の上に立ち、さまざまな手法を通じてさまざまな成果をもたらしていると捉えられます。

人間が誰もがより良く希望をもって生きられる社会であるためにデザインは必要とされていて、そのために「デザインをする」人が社会に求められています。この授業では、受講者の皆さんが「ものごとをデザインする」という姿勢のもと、これからデザインと主体的に関わっていけるように後押しができれば、と考えています。

【到達目標】

今日の社会におけるデザインの位置づけと、デザインが社会でどのように機能しているかを一人ひとりが理解して、今後自らがデザインと関わっていくうえでの視野を養い、実践へ向けた素地をつくるのがこの授業における目的です。

そのために、時代・社会の変化とデザインの変化との相関を知ること、社会におけるデザインの役割を認識します。さらに各分野における具体的なデザインの実践内容を知ること、いかに多様なデザインの担い手がそれぞれの目的性を持ってデザインに臨んでいるかを理解し、デザインが持つ可能性への開眼につなげます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

前半では社会とデザインの関係を理解するための基礎的な講義を実施します。時代と社会の変化と歩調を合わせてきたデザインの変化を、1950年代以降のグッドデザイン賞デザインを題材に解説します。これによりいまデザインが何を担っているかについて基礎的な理解をもたらします。

後半ではさまざまな分野のグッドデザイン賞の受賞事例を題材にしながら、そこから読み取れる目的性、特色、可能性などについて掘り下げていきます。授業で取り上げるデザインの事例やテーマは、なるべくその時々の社会の状況に則した旬なものを選択していきます。これら授業の進行過程で、定期的にリアクションペーパーによる受講者の見識のキャッチアップを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／グッドデザイン賞の紹介	・講師自己紹介 ・本授業の内容展開のベースとなる「グッドデザイン賞」の説明
2	社会の変化とデザインの変化1	社会の変化とデザインの対象及び目的の拡張
3	社会の変化とデザインの変化2	いまデザインは何をデザインしているか
4	デザインの本質1	人間中心という考え方
5	デザインの本質2	可視化という考え方
6	デザインの本質3	デザインに期待されること

7	中間まとめ	最新のグッドデザイン賞受賞作などを題材に、今日におけるデザインの意義を確認
8	事例：社会課題とデザイン1	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介
9	事例：社会課題とデザイン2	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介
10	事例：社会課題とデザイン3	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介
11	事例：社会課題とデザイン4	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介
12	事例：社会課題とデザイン5	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介
13	デザインにおける普遍	テクノロジーとデザインの関係
14	最終まとめ	人間中心というデザインにおける本質をめぐる考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

つねに社会の動向と人々の関心・行動を意識して、デザインがそれらとどのように関わっているかに目を向けるようにしてください。「デザインは社会の変化と相関する」「誰に対しても・どのようなことに対してもデザインは関わる」という認識のもと、自らが関心のある事象に対して「デザインの対象として捉えてみる／そこにデザインがどのように関わるかを考えてみる」という視点を持ち続けてください。そうした関心に応えられる授業内容を目指したいと思います。

授業内で紹介したデザインの事例について、積極的に追加情報を得て自らの関心事となるように心がけてください。

2025年11月に東京都内で開催予定の、最新グッドデザイン賞受賞作の紹介イベントを視察することを勧めます。デザインの最新の実践例に触れることができます。

【テキスト（教科書）】

特になし（授業時間内で指示することがあります）

【参考書】

特になし（授業時間内で指示することがあります）

【成績評価の方法と基準】

授業の期間中を通じて1回課すレポートの成果を主体に、授業への参加度も加えて総合的に判断して評定を実施します。レポートで課すテーマは、授業への参加度合いが著しく低い場合には対応が難しい内容を想定しています。なおテストは行わない予定です。

出席数が多くてもレポートの提出が行われない場合、合格評価はしません。さらに授業内容の理解度・解釈度が著しく希薄なレポート内容であるとみなされる場合（授業内容を踏まえなくても書けるような内容に終始している場合など）も合格評価をしないことがあります。

評価の内訳：レポート提出（100％）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに務めています。

【その他の重要事項】

担当講師がグッドデザイン賞の運営に携わっているため、本授業で扱う内容は基本的にグッドデザイン賞を通じたことがベースになる点を、前提として承知しておいてください。なお、グッドデザイン賞はデザインの価値を定める絶対的な正解や正論ではありませんから、この授業で受講者の皆さんへ「正しいデザインを教える」といった意図はありません。あくまでも皆さんのデザインの見方や考え方のサポートとなるべく、グッドデザイン賞というフィルターを通じたケーススタディを提示していると理解して、授業に臨んでもらえるのがよいでしょう。

グッドデザイン賞に対する根本的な疑問や不信感を持っているような人だと、授業内容への関心が持てないことが予想されるため履修は薦めません。

なお、この授業では実技習得目的での、描写や造形や編集行為などに関する演習・ワークショップ・グループワークは実施しません。各回とも座学での実施です。

レポートを課す際は、提出締め切り日の一ヶ月前には予告を行います。またレポートは原則として授業支援システムを介してのデータでの提出・受取とします。

質問は授業終了後に教室で受け付けます。

当シラバスで記した「授業計画」（スケジュール）に関して、取り上げる事例のテーマや順番は、その時々为社会情勢や講師の都合などを反映して、この想定から変更することがあります。

【Outline (in English)】

This class is a “basic course to understand where design is today. This course is designed to help students understand the current theories of design, which are expanding in terms of the range of areas covered by design and the range of purposes for which design is used. One is “the theory as a universal that forms the basis of the activity of design,” and the other is “the theory as an individual solution that makes each of various designs possible. Today’s design is based on these theories, or ways of thinking, and is considered to bring about results through a variety of methods.

Design is needed for a society in which everyone can live better and with hope, and people who “do design” are needed by society for this purpose. In this class, I hope to encourage the students to become proactively involved with design from now on, based on the attitude of “designing things”.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築生理心理 1

加用 現空

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体と建築空間の間でやりとりされる物質・エネルギーに着目すると、建築デザインが我々の生命活動に重要な役割を果たしていることがわかる。さらに、建築をとりまく周辺環境と建築空間の間でも物質・エネルギーがやりとりされ、我々の住環境、都市空間が出来上がる。本講義では、こうした環境とシステムの入れ子構造に着目し、建築空間と我々身体とのつながりを理解するための基礎的な建築環境学の知識を学習する。

【到達目標】

- ・ 建築環境における「システムと環境」の概念を理解する。
- ・ 建築デザインと環境要素のふるまいの関係を理解する。
- ・ デザイン検討のために必要な手法を学ぶ。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎	○				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を展開する。講義資料は配布しないが、講義後復習用に講義録画リンク（Zoom）を公開する。講義は座学を中心に進めるが、授業内演習などを含む。受動的に聴講する授業形式ではなく、履修者同士で話し合いながら理解を深める授業形式を目指す。他履修者の妨げとなる私語は避け、相互に学びを深める学修環境構築への協力を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	講義の目的、概要
2	環境（1）	温冷感とエネルギー収支
3	環境（2）	人体のエネルギー収支
4	環境（3）	水蒸気のふるまい（空気線図、水蒸気分圧）
5	環境（4）	太陽光（太陽光、散乱、放射と波長、空の温度）
6	環境（5）	植物と光・エネルギー収支
7	建築（1）	環境と建築形態（境界のデザイン）
8	建築（2）	アクティブシステム：太陽光パネルと電灯照明
9	建築（3）	パッシブシステム：昼光利用
10	建築（4）	アクティブシステム：換気の原理
11	建築（5）	パッシブシステム：自然換気のエネルギー収支
12	都市（1）	屋外の熱環境1（放射環境、形態係数、熱影響）
13	都市（2）	屋外の熱環境2（風圧係数、気流）
14	まとめ	建築設計に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に授業終了時点で理解が十分でない部分については次回授業までに理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『人・建築・地球とエクセルギー環境物理学入門』 宿谷昌則著(2024) 建築資料研究社
『エクセルギーと環境の理論: 流れ・循環のデザインとは何か』 宿谷昌則著(2010) 井上書院

【成績評価の方法と基準】

講義中に課す演習課題（30%）、授業後のフィードバックフォームの記入内容（30%）、講義終了後の期末試験（40%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline (in English)】

Course Outline: The architectural design takes an important role to create a secured and sanitary environment for our body system. The course focuses on the behaviour of mass and energy between the human body and the architectural space. Also, the behaviour can be seen between the architecture and the environment. The aim of the course is to understand the nested structure of the systems and the environment and connections between architectural space and our body system.

Learning Objectives: 1) To understand the concept of "System and the Environment", 2) To understand the behaviour of physical elements in the architecture, 3) To develop basic skills of mathematical modeling through exercises.

Learning Activities Outside of The Classroom: The preparation and review time for each lecture is about 2 hours. In particular, students, who don't have a sufficient understanding of the issue at the end of the lecture, are recommended to deepen their understanding before the next lecture.

Grading Criteria /Policy: Grades will be determined by the results of assignments during the course (30%), quality and quantity of the feedback form at the end of each lecture (30%), and the result of the final examination at the end of the course (40%). Grades will not be given to students who have not taken the examination or submitted the assignments.

ADE200NA (建築学 / Architecture and building engineering 200)

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.

学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

【到達目標】

The goals of the class are to:

- 1.Improve students conversational abilities.
- 2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
- 3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.

クラスの目標は以下の通りです：

- 1.学生の会話能力向上
- 2.様々な建築領域の語彙提供
- 3.学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.
Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details.

Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries, and the students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture.
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements.
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class.
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features.
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city.
Class 8	Micro Architecture	The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor.
Class 9	Micro Architecture; Presentation	The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.
Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.

Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.

クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

50%: Participation in group discussion

50%: Preparation of presentation materials

50%：グループディスカッションへの参加

50%：プレゼンテーション資料の準備

【学生の意見等からの気づき】

During the last semester, students were divided into small discussion groups, which provided a more comfortable and less intimidating setting than formal presentations in front of the class. This group discussion format proved successful, fostering better collaborative learning and increasing student engagement. Nevertheless, a few presentations will be included to recap the skills learned.

前学期には、学生を小さなディスカッショングループに分けました。これにより、クラス全体の前で行う正式なプレゼンテーションよりも、リラックスできて話しやすい環境が生まれました。このグループディスカッション形式は成功し、協働学習を促進し、学生の参加意欲を高める効果がありました。それでも、習得したスキルを振り返るために、いくつかのプレゼンテーションを実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

The teacher is working in an international architectural practice.

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

ADE200NA (建築学 / Architecture and building engineering 200)

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.

学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

【到達目標】

The goals of the class are to:

- 1.Improve students conversational abilities.
- 2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
- 3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.

クラスの目標は以下の通りです：

- 1.学生の会話能力向上
- 2.様々な建築領域の語彙提供
- 3.学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.

Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details. The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries. The students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture. The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements. Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class. The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features. The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city. The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor. The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class. The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.
Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	
Class 8	Micro Architecture	
Class 9	Micro Architecture; Presentation	
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	

Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.
Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.

クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

50%: Participation in group discussion

50%: Preparation of presentation materials

50%：グループディスカッションへの参加

50%：プレゼンテーション資料の準備

【学生の意見等からの気づき】

During the last semester, students were divided into small discussion groups, which provided a more comfortable and less intimidating setting than formal presentations in front of the class. This group discussion format proved successful, fostering better collaborative learning and increasing student engagement. Nevertheless, a few presentations will be included to recap the skills learned.

前学期には、学生を小さなディスカッショングループに分けました。これにより、クラス全体の前で行う正式なプレゼンテーションよりも、リラックスできて話しやすい環境が生まれました。このグループディスカッション形式は成功し、協働学習を促進し、学生の参加意欲を高める効果がありました。それでも、習得したスキルを振り返るために、いくつかのプレゼンテーションを実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

The teacher is working in an international architectural practice.

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

ADE200NA (建築学 / Architecture and building engineering 200)

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.

学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

【到達目標】

The goals of the class are to:

- 1.Improve students conversational abilities.
- 2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
- 3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.

クラスの目標は以下の通りです：

- 1.学生の会話能力向上
- 2.様々な建築領域の語彙提供
- 3.学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.
Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details.

Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries, and the students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture.
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements.
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class.
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features.
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city.
Class 8	Micro Architecture	The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor.
Class 9	Micro Architecture; Presentation	The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.
Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.

Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.

クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

50%: Participation in group discussion

50%: Preparation of presentation materials

50%：グループディスカッションへの参加

50%：プレゼンテーション資料の準備

【学生の意見等からの気づき】

During the last semester, students were divided into small discussion groups, which provided a more comfortable and less intimidating setting than formal presentations in front of the class. This group discussion format proved successful, fostering better collaborative learning and increasing student engagement. Nevertheless, a few presentations will be included to recap the skills learned.

前学期には、学生を小さなディスカッショングループに分けました。これにより、クラス全体の前で行う正式なプレゼンテーションよりも、リラックスできて話しやすい環境が生まれました。このグループディスカッション形式は成功し、協働学習を促進し、学生の参加意欲を高める効果がありました。それでも、習得したスキルを振り返るために、いくつかのプレゼンテーションを実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

The teacher is working in an international architectural practice.

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

COS200NC (計算科学 / Computational science 200)

数値計算法

酒井 久和

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学の分野において、数学を用いる場面は多岐にわたる。また、簡易な計算はプログラミングを習得することにより、計算ミス、作業時間の大幅な短縮が可能である。本講義では、基礎的な数値解析手法を学習するとともに、実務で必須となるExcelの高度利用として、マクロを利用したプログラミング技法を習得する。

【到達目標】

授業で紹介した数値解析手法を道具として活用し、Excelの効率的な使用法とプログラミング技術を習得することで、様々な工学問題が解けるようになるとともに、研究や実務での効率向上可能な技術を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 60%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

工学分野の基礎的な数値解析手法として、ベクトルと行列、連立一次方程式の解法、非線形方程式の解法、補間、数値積分、数値微分を紹介する。講義の後、講義内容に関する演習を行うことにより、知識としての定着を図る。解析ツールとしてExcelを使用する。
授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、Excelの基本的な使い方、マクロ	講義内容の紹介。講義で使用するExcelの基本的な使い方とマクロの使用方法についての解説する。
第2回	数値解析の基礎	数値解析の基礎として、アナログとデジタルの違い、有効数字について解説する。
第3回	関数の近似と補間	テーラー展開、補間について解説する。
第4回	演習	第3回講義内容に関する演習問題を解く。
第5回	微分	差分近似、3点差分公式、5点差分公式について説明する。
第6回	演習	第5回講義内容に関する演習問題を解く。
第7回	数値積分	長方形近似、台形近似、シンプソン公式について解説する。
第8回	演習	第7回講義内容に関する演習問題を解く。
第9回	非線形方程式	ニュートン・ラフソン法、2分法、はさみうち法
第10回	演習	第9回講義内容に関する演習問題を解く。
第11回	ベクトルと行列	ベクトルの演算、行列の演算
第12回	演習	第11回講義内容に関する演習問題を解く。
第13回	連立一次方程式	ガウスの消去法、非線形連立方程式の解説
第14回	演習	第13回講義内容に関する演習問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中または講義後に演習課題の実施、数回の課題の提出を求める。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊津野和行、酒井久和：Excelではじめる数値解析、森北出版

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

演習課題の提出による評価40%、期末試験60%で総合的に評価する。4回以上欠席したものは単位の取得を認めない。
期末試験は、教科書、自分で行った演習課題を参照、PC持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を確認しながら授業を進めているが、1週間ごとの授業では前回の内容を忘れる学生がいる。そのため1週間に2コマの授業で1コマ目は講義、2コマ目は演習を中心に授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートパソコンを必ず持参すること。

【Outline (in English)】

The main objectives of the Numerical Calculation Method Program are the following:

- 1) Understanding of fundamental numerical calculation methods.
- 2) Utilization of Microsoft Excel.
- 3) Acquisition of skills for creating macros in Excel.

This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.

Grade evaluation: Periodic examination 60%+ Report 40%= 100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

HUI200ND（人間情報学 / Human informatics 200）

インタフェースデザイン

土屋 雅人

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、各種電子機器の操作は複雑なヒューマンインタフェース（以下インタフェース）を通して行なわれることが多いため、インタフェースデザインが製品の評価を決める重要な要素になっている。インタフェースデザインの各種事例を通して、デザインに必要なヒューマンファクターを理解し、その体系的なデザイン手法を学習する。

【到達目標】

インタフェースデザインに必要なヒューマンファクターを理解する。
インタフェースの設計方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、
「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

インタフェースデザインは、ひとつひとつの操作を積み重ねる時間軸を持つことが特徴である。そのため、一連の操作を通して問題点を把握し、新たなデザインを提案するプロセスの実験が重要である。本授業では、身近な機器を題材にして、インタフェース設計ガイドラインやユーザビリティ評価手法等を導入し、「身体的」「認知的」「感性的」側面から、インタフェースデザイン方法論を体感的に学習する。授業の中では、前半にインタフェースの問題抽出と解決方法を事例を通して解説し、後半で自ら実製品のインタフェースデザインを演習的に体験する。複数の演習課題に対して、その特徴的なレポートを抽出し、授業の中で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の進め方、授業評価について説明する。
2	インタフェースデザインとは	インタフェースデザインの概論、歴史、手法等について解説する。
3	身の回りのインタフェース	事例を通してインタフェースデザインの重要性を解説する。
4	アンソロポメトリ	インタフェースに係わる人間工学的課題を解説する。
5	視覚・反応	視覚感覚の特性について解説する。
6	認知・判断 1	人の認知について解説する。
7	知覚・認知・判断 2	事例を通して人の情報処理の流れを解説する。
8	記憶・意思決定	記憶の特性と意思決定の特徴について解説する。
9	インタフェースデザインプロセス	インタフェースデザインのプロセスを解説する。
10	ユーザビリティ評価	事例を通してユーザビリティ評価を解説する。
11	ヒューマンエラー 1	ヒューマンエラーの事例について解説する。
12	ヒューマンエラー 2	ヒューマンエラーの構造について解説する。
13	インタフェースデザインの課題	課題の発表、評価を行う。
14	インタフェースデザインの将来	次世代の入出力デバイス等今後の方向性を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別講義では、講師の指示する課題を授業時間外に対応すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてテキストを配布する。

【参考書】

こんなデザインが使いやすさを生む、三菱電機デザイン研究所、工業調査会

ユーザビリティテスト、黒須正明、共立出版

デザインと感性、井上勝雄、土屋雅人他、海文堂出版

ユーザビリティハンドブック、共立出版

【成績評価の方法と基準】

各課題の達成度、および授業態度を総合して評価する。
授業の中でのインタフェースデザイン技術に関する課題を課し、その内容を評価に加える。
平常点（20％）＋課題合計（40％）＋試験（40％）＝合計100％

【学生の意見等からの気づき】

指示した場合を除き、ノートパソコンによる講義録メモや、デジタルカメラによる授業資料撮影を禁止する。

【学生が準備すべき機器他】

課題によってノートパソコンを使用する（授業の中で指示する）。

【Outline (in English)】

Electronic devices need complicated human interfaces to perform high level functions in recent years, and interface design is becoming more important for the evaluation of products. Through various examples of interface design, we will study the human factors which are necessary for the design and learn systematic design methods.

After each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content and to write reports.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

In class contribution:20%, Short reports: 40%, Term-end examination:40%.

MTL200ND (材料工学 / Material engineering 200)

材料と構造のデザイン (2022年度以前入学生)

武居 秀樹

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、外力の作用が構造物や機械（および部品）などの実際の「もの」に対して、どのように影響するかを理解するための基礎的知識や解析方法を学ぶ。さらに、力やモーメントの作用によって構造物や機械（および部品）がどのように変形し、内部にどのような力が発生するかを学ぶ。

【到達目標】

講義と演習をとおして、力やモーメントの釣り合いに関する原理を応用することができる能力を開発し、現実の構造物や機械部品などをデザインするための力学的解析が行えるようになるとともに安全性を評価できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義2コマ続きで1つのテーマの学習を行う。はじめに、講義資料を用いて学ぶべき内容の解説を行い、その後、講義で学んだ知識をもとに演習を行う。演習時にはヒントを出すものの、自ら演習課題を解くことで、問題を解決するためのスキルを身につける。演習課題の解答は、授業中に解説したり授業支援システムに掲載する。また、レポートについては、添削の上返却する。なお、学生の理解度に応じて、次回講義の最初に追加説明を行うことがある。

授業中の演習は、授業中に解説する。また、宿題となった課題については、次の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	空間の力（1）	①空間における力 ②空間における合力 ③力の水平、垂直成分
2	空間の力（2）	前回の講義内容についての演習
3	空間の力の釣り合い（1）	①モーメントと外積 ②偶モーメントの合力 ③力の縮約
4	空間の力の釣り合い（2）	前回の講義内容についての演習
5	断面の性質（1）	①図心 ②断面諸量 ③断面の主軸
6	断面の性質（2）	前回の講義内容についての演習
7	材料の力学的性質（1）	①応力とひずみ ②フックの法則 ③弾性係数とポアソン比
8	材料の力学的性質（2）	前回の講義内容についての演習
9	組み合わせ応力（1）	①応力の座標変換 ②主応力 ③モールの応力円
10	組み合わせ応力（2）	前回の講義内容についての演習
11	はりのデザイン（1）	①断面力 ②断面力図 ③はりの応力度 ④はりの変形
12	はりのデザイン（2）	前回の講義内容についての演習
13	柱のデザイン（1）	①柱の種類 ②短柱 ③長柱 ④トラス構造
14	柱のデザイン（2）	前回の講義内容についての演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを用いて講義資料を事前に配布するので、各自で事前にダウンロードし、予め目を通し、下記の参考書等を用いて予習を行っておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストをpdfファイルにしたものが学習支援システムに登録されているので必要に応じてダウンロード可能である。

【参考書】

R.C.Hibbeler：Statics and Mechanics of Materials, 5/e, Prentice Hall Intl. Edition

工業力学、材料力学、構造力学、応用力学などの参考書

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題（30%） 各テーマ毎に行う演習とその課題（レポート）をとおして、基礎的な理解度を評価する

理解度確認試験（50%） 全体を通して得た知識を活用して、応用問題を解決できる能力を評価する。

演習状況（20%） 決められた時間内に演習課題を処理する能力を評価する。

ただし、出席日数が全体の2/3に満たない学生は評価の対象外(E)とする。

なお、1時間目に30分以上遅れて入室した学生に関しては、特別な理由が無い限り、その日は欠席扱いとする。

【評価基準】

履修の手引きに記載されているS～Eまでの12段階評価基準に基づく。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は添削して返却するので、指摘事項を確認し、復習しておくこと。

【学生が準備すべき機器他】

演習時に、関数電卓を使用するので、毎回持参すること。なお、携帯電話や、事務用の電卓では、計算できない課題もあるため、必ず、関数電卓を用意すること。試験の際にも関数電卓を使用する（試験の際にスマートフォンを持ち込むのは禁止）。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this program, students acquire basic knowledge and analytical methods on structural and materials mechanics in order to understand the effects of external forces on structures and machine elements. In addition, students acquire knowledge about deformation and internal forces when a load acts on structures or machine elements. (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1)Application of principles regarding equilibrium of forces and moments

2)Mechanical analysis for designing structures and machine elements

3)Assessment of the safety of structures and machine elements

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two

hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on short reports (30%), term end

examination (50%), and in class contribution (20%).

MEC300ND（機械工学 / Mechanical engineering 300）

熱と流れのデザイン

坂間 清子

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身のまわりの物体は、運動したり、変形したり、状態（温度、圧力、体積など）が変化したりする。また製品をデザインするためには、こうした物体の力学的な特性や状態変化を十分に理解しておくことが重要である。

本授業のテーマは、まず最初に、このような物体の運動や変形、状態の変化を、自然科学や技術の変遷の中で、「熱」や「流れ」の力学として考える。次に、熱と流れに関する課題を取り上げ、シミュレーション等により自ら解決したり、その結果を可視化手法等により表現したりする。さらに、具体的な実習課題を通して、熱や流れに関する性質を製品のデザインに活かすことを学ぶ。

【到達目標】

- ・物体の運動や変形、状態の変化を「熱」や「流れ」の力学として理解できること。
- ・熱と流れに関する課題を計算やシミュレーション等により自ら解決したり、その結果を可視化手法等により表現したり説明したりできること。
- ・熱や流れに関する性質を製品のデザインに活かすことができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するため、授業の前半では、まず熱と流れの力学に関する自然科学や技術の変遷を紹介し、物体の変形にともなう力学的な諸問題を「流体」や「流れ」という概念でとらえ、流れの性質や数学的な表現を解説する。

次に授業の後半では、物体の熱の出入りにともない生じる状態変化を「熱学」という物体の巨視的な状態変化と仕事やエネルギーの概念でとらえ、熱の特徴的な性質、熱力学の法則やパワーサイクルの考え方を概観する。

講義授業回毎に与えられたリアクションペーパーや演習問題を記入・作成し、提出する。また「流れ」と「熱」に関する理解度を確認するための2回の試験を行ない、途中までの理解度を評価する。

授業の最後では、熱と流れの可視化手法や測定手法を紹介し、数値シミュレーション結果の処理を行うための基礎事項を解説する。さらに具体的な実習課題や例題演習を通して理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物体の運動と状態の変化	物体の運動や変形、状態の変化を「熱」や「流れ」の力学として理解する。熱や流れの力学を自然科学や技術の変遷の中で理解する。単位系とその考え方を理解する。 ・力学の学問体系 ・流れと熱の力学史 ・流体力学と熱力学 ・単位系とその考え方
2	流体の性質、静水力学	変形しながら運動する物体（流体）に特徴的な性質を理解する ・圧力 ・密度と比重 ・粘性と圧縮性 ・静水圧 ・マンメータ ・パスカルの原理と力増幅装置 ・浮力
3	流れの基礎事項	流れの数学的な表現の中で重要となる連続の式と運動量保存則について、力学的な視点で理解する ・流速と流量 ・連続の式（質量保存則） ・レイノルズ数 ・オイラーの運動方程式
4	エネルギー保存則とベルヌーイの式	前回に引き続き、流れの数学的な表現の中で重要となるエネルギー保存則を理解する。さらに圧力の測定方法や流れの表現方法（可視化手法）についても理解する) ・エネルギー保存則 ・ベルヌーイの定理 ・動圧と静圧 ・ピトー管と圧力の測定法 ・流れの可視化と表現法

5	流体の運動量・レイノルズの相似則	流体の運動量や特徴的な性質である粘性と圧縮性について、その役割や基礎事項について理解する ・流体の運動量と運動量理論 ・粘性の役割 ・非圧縮・粘性流れの基礎方程式 ・流れの相似則とレイノルズ数 ・層流と乱流 ・圧縮性流れの基礎方程式
6	管路内流れと損失	工学的な流れの基本となる管路内流れについて、その基礎事項を理解する ・管路内流れ ・管摩擦損失 ・境界層
7	物体まわりの流れ	流体中に置かれた物体に働く力や流れの様子についての基礎事項を理解する ・物体周りの流れ ・抗力と揚力 ・第1回～7回のまとめ ・理解度確認試験1
8	物質の熱力学的特性	物体の熱の出入りにともない生じる状態変化を「熱学」という物体の巨視的な状態変化と仕事やエネルギーの概念として理解する ・物体の状態変化 ・熱エネルギーと仕事 ・圧力と体積と温度
9	熱エネルギーの利用と伝熱	熱の移動に関する基礎事項を熱の利用の観点から理解する ・伝熱の形態 ・熱輻射 ・熱伝導 ・熱伝達 ・断熱
10	理想気体の状態変化と仕事	理想気体の状態変化と仕事に関する基礎事項を熱と仕事の等価性の関係で理解する ・理想気体の状態変化 ・熱と仕事
11	熱エネルギーの状態変化と仕事	熱と仕事とエントロピーに関する基礎事項を理解する ・熱と仕事とエントロピー ・熱力学の第一法則 ・準静的変化 ・可逆変化と不可逆変化
12	熱力学の法則とパワーサイクル	熱力学の法則と熱エネルギーを利用したパワーサイクルの考え方について理解する ・様々なプロセス ・熱力学の法則 ・熱機関の動作原理とパワーサイクル
13	様々な熱機関のパワーサイクル	身の周りの様々な熱機関をパワーサイクルの観点で理解する ・オットーサイクル ・ディーゼルサイクル ・スターリングサイクル ・ブレイトンサイクル ・ランキンサイクル ・ヒートポンプ
14	熱と流れの可視化・計測手法・画像処理まとめ	熱と流れの可視化や計測手法に関する基礎事項を例題と実習を通じて理解する ・熱と流れの可視化と例題実習 ・計測手法と例題実習 ・画像処理と例題実習 ・第8回～14回のまとめ ・理解度確認試験2 ・授業改善アンケートの記入

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認
返却されたリアクションペーパーの復習
課題レポートの作成と提出
提出した課題の見直しと復習
講義資料の内容の事前の確認と事後の復習
理解度確認試験の自己採点と評価結果の見直し・復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜、プリントや演習問題を配布する。
すべての教材や演習問題、リアクションペーパーは授業支援システムを用いて電子媒体で配布する。

【参考書】

細井：教養・流れの力学，東京電機大学出版局
日本機械学会編・JSMEテキストシリーズ：流体力学
日本機械学会編・JSMEテキストシリーズ：熱力学

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパーや演習問題（40％）
授業中に配布されたリアクションペーパーや演習課題を、教員からの指示に従い、記入・回収し、結果を確認して、次回に返却する。その提出状況と記入結果を各回5点満点で評価する。各回の授業内容の理解と記入状況が評価の基準である。
- ・理解度確認試験（60％）
2回の理解度確認試験の結果を、それぞれ、100点満点で評価する。理解度確認試験1では、第1回～7回で行われた授業内容の「流れ」に関する力学的な理解が評価の基準である。理解度確認試験2では、第1回と第9回～13回で行われた授業内容の「熱」に関する力学的な理解が評価の基準である。
- ・レポート課題（必要に応じて加点する）
第1回～14回のレポートの提出状況と内容を各5点満点で評価する。実習課題のレポートでは得られた知識を活用し、自ら計算やシミュレーションの結果を理解表現できること、また得られた知見を製品のデザインに活かせるようになったかが評価の基準である。
- ・最終的な成績評価は、上記のすべての結果から総合的に判断評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の解答例の詳細な解説を行ってほしい旨の意見があったので、時間の許す限り解答例の解説を行う。
リアクションペーパーへの記入例は、講義終了後、授業支援システムを使って電子的にアップする。

【学生が準備すべき機器他】

大学から配布されたノートPCを使用する。

【Outline (in English)】

This course introduces fluid dynamics and thermodynamics to students taking this course. Liquids and gasses can both be classified as fluids. The first half of the lecture deals with fluid properties, fluid statics and fluid dynamics. The second half of the lecture deals with thermodynamics. Thermodynamics is the study of a substance's energy-related properties. The properties of a substance and the procedures used to determine those properties depends on the state and the phase of the substance. By the end of the course, students learn to utilize the properties related to fluid dynamics and thermodynamics to product design through practical tasks.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,
Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, In class contribution: 20%.

SSS200ND（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 200）

オペレーションズリサーチ

高須賀 将秀

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペレーションズリサーチ（Operations Research, OR）とは、「実社会における問題解決や意思決定を支援するための数理的・科学的な方法論や技法」を対象とする研究分野である。ORの幾つかの代表的テーマについて基礎知識・技能を学ぶ。

【到達目標】

1. 連続最適化、組合せ最適化を理解している。
2. ネットワーク最適化を理解している。
3. 2024年物流問題を理解している。
4. シミュレーション・整数計画問題を理解している。
5. 待ち行列を理解している。
6. 不確実性下での意思決定を理解している。
7. ゲーム理論を理解している。
8. 実社会における最適化問題をいくつか答えることができる。
9. Microsoft Excelのソルバー機能（Excelソルバー）を用いて最適化問題を解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なテーマとして、「数理最適化」「グラフ・ネットワーク」「シミュレーション」「待ち行列」「不確実性下での意思決定」「ゲーム理論」を取り上げ、これらの基礎知識と代表的な手法について説明する。理解度確認のための演習（テーマによってはノートパソコンを使用）や小テストを適宜授業時間内に行う。また、授業外に行うべき課題を各テーマごとに課す。課題の回収や小テストの実施には学習支援システムを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、オペレーションズリサーチとは	・ 授業の進め方、評価について ・ オペレーションズ・リサーチとは ・ 実社会の活用シーン
2	最適化問題	・ 最適化問題 ・ 連続最適化と組合せ最適化 ・ 代表的な最適化問題とアルゴリズム
3	連続最適化	・ 連続最適化問題 ・ 線形計画問題 ・ 線形計画ソルバーと利用法 ・ 感度分析
4	組合せ最適化	・ 組合せ最適化 ・ 連続最適化と組合せ最適化の違い ・ 組合せ最適化におけるソルバーの利用法 ・ 割当問題 ・ 研究室配属問題 ・ 安定マッチング問題
5	ネットワーク最適化1	・ グラフとネットワーク ・ 最短路問題
6	ネットワーク最適化2	・ 最小費用流問題 ・ ネットワークを用いた割当問題
7	シミュレーション1	・ 決定論的シミュレーション ・ 破産の確率 ・ 在庫管理
8	シミュレーション2	・ モンテカルロ法 ・ 信頼区間
9	待ち行列理論1	・ 待ち行列モデル ・ 到着率とサービス率 ・ 単一窓口待ち行列 ・ ランダム到着
10	待ち行列理論2	・ 複数窓口待ち行列 ・ M/M/1型待ち行列システム ・ リトルの公式
11	不確実性下での意思決定（意思決定原理）	・ 不確実性下での意思決定 ・ マクシミン原理/マクシマックス原理/ミニマックス後悔原理 ・ ラプラスの原理 ・ 期待値原理/期待値・分散原理 ・ 最尤未来原理/要求水準原理

12	不確実性下での意思決定（ディシジョンツリー・効用）	・ ディシジョンツリー ・ 多段階の意思決定問題 ・ 効用関数 ・ 期待効用最大化の原理
13	ゲーム理論	・ ゲーム理論 ・ 支配戦略 ・ 囚人のジレンマ ・ ナッシュ均衡
14	物流2024年問題、授業内容のまとめ	・ 物流2024年問題 ・ 応用事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ 事前学習（基礎知識の習得）
・ 授業内容の復習
・ 演習課題の実施と提出
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。資料を配布する。

【参考書】

授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

科目認定条件
※出席率について80%以上であること。
※定められた提出物が80%以上提出されていること。
科目評価方法
演習課題（全7回） 100 %
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・ edu2020 貸与ノートパソコン：演習・小テスト等に利用する。毎回持参すること。
・ 学習支援システム：お知らせの配信・資料やスライドの配布・課題の提示や回収・授業内小テスト等に利用する。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。または随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course provides basic knowledge and skills on some of the major themes of operations research (OR). Learn the basic knowledge and skills of several representative topics of OR.

[Learning Objectives]

1. Understand simultaneous and combinatorial optimization.
2. Understand network optimization.
3. Understand the logistics problem in 2024.
4. Understand simulation and integer programming problems.
5. Understand queueing.
6. Understand decision making under uncertainty.
7. Understand game theory.
8. Can answer some real-world optimization problems.
9. Be able to solve optimization problems using Microsoft Excel's solver function (Excel Solver).

[Learning activities outside of classroom]

- ・ Preliminary study (acquisition of basic knowledge)
- ・ Review of class contents
- ・ Exercises and submission of exercises

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

Course Approval Conditions

- ・ Attendance rate must be 80% or more.
- ・ Submission of the required materials must be more than 80%.

Course Evaluation Method

- ・ Exercise assignment 100%

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

デザインケーススタディ

土屋 雅人、大西 景太、SEONG YOUNG AH

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デザインケーススタディは、一部演習を交えた講義形式の授業となります。

授業は3部構成となり、3名の教員が交代で行います。

本授業では、複雑化するデザインの開発領域において、実際の製品やサービスの事例を挙げながら、今日のデザインの社会的意義(デザインファンクション)、技術と社会との関係(デザインインターセクション)、および市場ニーズの分析手法(デザインマーケティング)を学びます。

第一部:デザインファンクション

第二部:デザインインターセクション

第三部:デザインマーケティング

【到達目標】

デザインファンクションおよびデザインインターセクション、デザインマーケティングの開発手法、開発理念に関する知識と今後のデザインのあり方を考察する能力を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本に行います。

講義全体は三部構成となり、第一部は1回目より5回目、第二部は6回目から9回目、第三部は10回目から14回目の講義となります。1回目はガイダンスが含まれます。

それぞれの講義概要は次の通りです。

第一部:デザインファンクションでは、今日のデザインが社会に与える役割、働き、価値などを、様々なデザイン領域の事例を通して解説し、その意義を学びます。

第二部:デザインインターセクションでは、技術変革と社会変動がデザインの創作/活用/評価にどのような影響を与え、議論を起こしながら相互発展してきたかについて解説し、その意義や使い方について学びます。

第三部:デザインマーケティングでは、デザイン開発に求められるユーザーニーズの分析手法として、多変量解析を用いた主観評価手法を事例を通して学習し、マーケット分析方法とコンセプトプランニングを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス グラフィックデザイン1 大西景太	この授業の要点、注意事項の説明をします。 広告、ブランディングなどのグラフィックデザインの実例を解説します。
2	グラフィックデザイン2 大西景太	新しいグラフィック表現の開発とその活用例を解説します。
3	タイムベースドデザイン1 大西景太	CM、MV、TVコンテンツなど映像デザインの事例を解説します。
4	タイムベースドデザイン2 大西景太	AR、VR、MRに関するデザイン事例を解説します。

5	タイムベースドデザイン3 大西景太	webやアプリ、展示空間などノンリニア映像の事例を解説します。
6	デザインとテクノロジー1 ソン ヨンア教授	AIが生成する創作物について最新事例を解説します。
7	デザインとテクノロジー2 ソン ヨンア教授	インタフェースや分析ツールの変革が影響を与えたデザイン史について解説します。
8	デザインと社会1 ソン ヨンア教授	Technocracyの概念を紹介し、Speculative Designなど技術と未来社会との関係を問うデザイン分野について解説します。
9	デザインと社会2 ソン ヨンア教授	持続可能性、共生社会に向けたデザインの事例を解説します。
10	感性価値、ニーズ分析1 土屋雅人教授	価値の多様性とユーザーニーズを学習します。
11	ニーズ分析2 土屋雅人教授	身近な商品を題材としたニーズ分析、商品地図法を学びます。
12	ニーズ分析3 土屋雅人教授	多変量解析（クラスター分析）を学びます。
13	ニーズ分析4 土屋雅人教授	多変量解析（主成分分析）を学びます。
14	ニーズ分析5 土屋雅人教授	多変量解析（クラスター分析、主成分分析）を組み合わせたニーズ分析を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「デザインファンクション」「デザインインターセクション」「デザインマーケティング」の講義の中核は、デザイン活動が社会に与える役割や創造活動への貢献であり、デザインシンキングの視点から多面的な学習を行ってください。

授業内容の理解を促す課題（レポート等）には、指示に従って提出してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示します。

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。5回以上欠席および連続3回欠席の受講生は成績評価対象外となります。

遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない）。

成績は平常点30%、課題40%、試験30%です。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容をよく理解するためにも、参考図書、資料等の紹介を行う。

【学生が準備すべき機器他】

「第三部:デザインマーケティング」(担当土屋)ではノートPCを使用しますので、必ず持参してください。

その他、ノートPC（Windows）を用いる箇所がありますので、教員の指示に従ってください。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the social significance of design (Design Function), the relationship between technology and society (Design Intersection) and the analysis method of market needs (Design Marketing), while giving examples of actual products and services in the complicated design development.

Part 1: Design Function

Part 2: Design Intersection

Part 3: Design Marketing

After each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content and to write reports.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

In class contribution:30%, Short report:40%, Term-end examination:30%.

MAN300ND（経営学 / Management 300）

情報システムデザイン

田岡 賢輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

企業活動でIT利活用を推進して行くために、主として次のテーマについて考え、具体的な手法を習得する。

1. 情報システムを構成する要素とそれぞれの位置づけ、役割を理解する
2. 企業の実際のビジネスにおいて情報システムがどのように適用されているか？
3. 企業の実際の情報システムにおいてシステムデザインはどのように行われているか？
4. 効果的・効率的な情報システムの構築にはどのようにシステムデザインを行えばよいのか？
5. AI、IoT、ビッグデータ等の新しい考えを情報システムにどう組み入れてゆくか？ また現在の社会の動向・課題にどう情報システムが応えてゆけるか？

【到達目標】

企業において情報システムデザインを行う一員として、企業の業務要件を正確に表現できるモデルを作成する。さらに作成したモデルを最新のテクノロジーを活用し、効果的・効果的な情報システムとして構築できる手法を習得する。また常に変化するIT環境と社会のニーズに対して、課題を捉えて整理し、どう対応すべきか自ら方針を策定出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

情報システムデザインを推進する方法を事例紹介・ケース演習・ケーススタディ等を通し、実務的な視点を加えながら検討する。また、DXの進展などITの最新動向について新聞などの最新情報を活用しながら常に変化する情報システムへの理解を深めてゆく。受け身の講義だけでなく、出来るだけ自分で考えて双方向で議論し、演習やレポート提出は、個人単位とグループを組み合わせて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報システムデザインのための概念 業務をモデル化して理解する	・授業の進め方 ・情報システムデザインのための概念：モデル化 ・業務のデータモデルとプロセスモデルによる表現と理解 情報システムを構成する要素と位置づけ
第2回	情報システムを構成する要素とその位置づけを理解する	・ハードウェア ・ソフトウェア ・ミドルウェア ・アプリケーションソフトウェア
第3回	企業におけるビジネス活動と情報システムを理解する(1)	企業における種々のビジネス活動とそのための情報システムを下記題材について理解する ・販売管理 ・生産管理
第4回	企業におけるビジネス活動と情報システムを理解する(2)	企業における種々のビジネス活動とそのための情報システムを下記題材について理解する ・財務会計 ・全銀ネット
第5回	情報システムデザインの概要	・要件定義 ・基本設計 ・詳細設計 それぞれについての概要を理解する
第6回	業務要件の理解と整理(1)	営業活動支援を例にしてその業務要件を理解して整理する
第7回	業務要件の理解と整理(2)	生産管理に關しての業務要件を理解して整理する
第8回	基本設計-機能編(1)	整理した業務要件から必要となる機能を洗い出して整理する
第9回	基本設計-機能編(2)	機能を処理とデータの流れという形で理解して整理する
第10回	基本設計-データ編	要件を満たし機能を実現するためのデータを洗い出してデータベース設計を行う

第11回	基本設計-UI編	要件を満たし機能を実現するためのユーザーインターフェース設計を行う
第12回	情報システムの開発手法	開発手法について新しい考えも含め理解する ・ウォーターフォール型 ・アジャイル開発 ・プロトタイプ開発
第13回	AI等の活用等、情報システム技術の最前線について	新しいITが情報システムにどのようにかかわるかを理解する ・AI（生成AI）のシステム開発への適用など） ・IoT ・ビッグデータ
第14回	今日の社会環境における情報システムの課題	今日の社会環境において情報システムが抱える課題を理解する ・情報産業の現状と課題 ・新技術対応へ向けてのIT人材像 ・社会のニーズと情報システムの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

別途授業で指示

本授業の準備学習・課題への対応時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の組み合わせを予定

1. 授業でプリントを配布
2. 授業支援システムより教材パワーポイントをダウンロード

【参考書】

「高校数学でわかるディープラーニングの仕組み」(バレー出版 ISBN978-4-86064-602-8)

【成績評価の方法と基準】

下記により総合的に評価する。

1. 平常点（授業中の参加の度合、貢献度） 50%
2. 期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施、グループワークの実施方法等について、学生からの意見等を活かすことに努めている。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、エクセル、その他インターネット上のツール等を活用するためノートPC必須

情報共有と課題に授業支援システムを活用

生成AI（ChatGPT）の無料アカウントの取得

【その他の重要事項】

本講義の講師は情報システムやIT製品の設計・開発に長年従事しており、そこの知見を活かして授業を行う。これにより、学生には情報システムデザインに関する知識・手法を理解するのみでなく、そこで実際に起きる問題・課題は何か、そしてどのように対応するかを考えられる人材を目指してもらう。また変化するIT環境に対応できるよう、生成AIなども実際に使いながら情報システムへの活用方法を考えて行く。オフィスアワーについて：質問は授業終了後に教室で受け、また電子メールでも随時受けることとする

【Outline (in English)】

In this course students will learn about the following system design methods, used to promote usage/effectiveness of information systems in enterprises.

1. Elements of information systems and their roles.
2. How information systems are applied to actual businesses.
3. How design is practiced in information systems at enterprises.
4. What is effective and efficient design for information systems.
5. How new technologies like AI, IoT and Big Data are introduced in information systems. And how information system responds to current social needs.

Learning activities outside of classroom

Instructions will be provided in a separate class.

The standard preparation and assignment response time for this course is two hours each.

Grading Criteria /Policy

The evaluation will be based on the following criteria:

1. Regular points (degree of participation and contribution in class) 50%
2. Final report 50%

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

プロダクトデザイン理論

安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、プロダクトデザイン（以下PD）の創造性にとって重点な基礎知識・理論を学ぶ。
人間の創造行為としてのPDの歴史認識、社会的意義、デザインと機能の関係、PDと人間工学、PDに多く使用される素材と製造技術などを学習し、デザインと工学の関連性を理解する。

【到達目標】

インダストリアルデザインの近代～今日までの文化的文脈を理解する。
プロダクトデザイン開発プロセス概要の理解。PD企画の理解。PDの形状・造形の理解。PDと素材、素材表面処理の理解。PDの量産、小ロット生産技術概要の理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

AB期14回（金曜日5限）

講義ノートを必ずとる事。

プロダクトデザインと基礎技術：

PD設計に必要な製品製造工法、素材、素材表面処理技術に関して学ぶ事が出来ます。

プロダクトデザインの基礎歴史的文脈：

現代のプロダクデザインが成立するまでの様々な取り組み事例や思想、近代デザインの歴史的文脈を学ぶことが出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス プロダクトデザインの原点 プロダクトデザインの対象	デザインの黎明から現在までを俯瞰し、プロダクトデザインという概念について紹介する。
2	プロダクトデザインの目的	事例を通してプロダクトデザイン目的、価値を考察する。
3	Thonetと大量生産のデザイン	Thonetの開発した大量生産技術により開かれた、デザインの可能性について解説する。
4	W.Morrisとアーツアンドクラフツ運動	アーツアンドクラフツ運動の背景・思想・作品をW.Morrisの生涯と共に紹介する。
5	モダンデザインへの展開	モダニズムへの過渡期に興った様々な思想と取り組みを紹介する。
6	ドイツ工作連盟	ドイツ工作連盟の思想・取り組み・後年への影響などを取り上げる。
7	バウハウス	バウハウスによって確立され、世界に多大な影響を及ぼしたデザインと思想について紹介する。
8	アメリカデザインの黎明	米国から生まれたデザインの思想と事例を紹介する。
9	縄文時代のものづくり	縄文時代のものづくり、加工法などを紹介する
10	民芸運動	民芸運動を近代日本のプロダクトデザインの潮流のひとつと捉え、紹介する
11	現代におけるプロダクトデザイン事例 ①	現在進行形で現在進められているプロダクトデザインについて紹介する。
12	家具デザインと工法	家具デザインを通し、様々な工業生産技術を紹介する。
13	現代の展開と課題	プロダクトデザインにおける現在の取り組みと課題について紹介する。
14	現代におけるプロダクトデザイン事例 ②	現在進行形で現在進められているプロダクトデザインについて紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義ノートを取り、内容について復習する

2週に1回、課題レポートの提出を求める

課題に要する時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義進捗に合わせ適宜授業参考資料を配布する。

【参考書】

「もの」はどのようにつくられているのか？、Chris Lefteri 著、オライリー・ジャパン
心を動かすデザインの秘密、荷方邦夫著、実務教育出版
プロダクトデザイン101のアイデア、スン・ジャン マシュー・フレデリック著、フィルムアート社
世界デザイン史、安倍公正監修、美術出版社
他

【成績評価の方法と基準】

講義全体で4回以上の欠席および連続3回欠席の受講生は成績評価対象外となります。

遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。欠席一回につきー4点、遅刻-2点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）

評価； 出席（40%）レポート課題（60%）

【学生の意見等からの気づき】

説明をよりゆっくと進める

【その他の重要事項】

英国、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の文化的文脈基礎知識及び製造の基本技術を講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn the basic theory behind fundamental requirements in Product Design and creativity.

【Learning Objectives】

The aims of this course are the following:

- Understanding the cultural context of industrial design from modern

times to today.

- Understanding the overview of the product design development

process.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to submit an assignment report every two weeks. The standard time required for the homework is approximately two hours.

【Grading Criteria /Policy】

Grading Evaluation: Attendance (40%), Report assignment (60%)

MEC200ND（機械工学 / Mechanical engineering 200）

メカニカルデザイン

山田 泰之

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物体と物体の動きの関係を定める機構（メカニズム）に焦点をあてる。様々な機械に用いられる機構を中心に、機械をつくる材料特性、加工、生産性などの多角的視点から学ぶ。また実際に具体化させるための基礎的、応用的知識と実践方法を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 基本的な機械の機構（メカニズム）が理解できる。
- 2) メカニカルデザインを具体化するために必要は材料、加工法等の実設計について理解できる。
- 3) 1)と2)の学修を通じて、機械の機構を企画・設計（デザイン）する手法の基礎を理解し、応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

動きをとまらぬあらゆる製品には「機構（メカニズム）」が存在する。機構は製品を企画・設計（デザイン）するにあたり、エンジニアはもちろん、デザイナーも理解しておかなければならない重要な要素である。本講義では、リンク機構、カム機構、伝動装置、歯車、流体駆動、ロボットなど、主なメカニズムの基礎と、その具体化にかかわる材料や加工法の選定などを含めたメカニカルデザイン全般について学ぶ。講義は対面を主体に実施するが、状況をみてオンラインやコンテンツ配信なども併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	・機械設計とは何か、身近な機械機構、材料と加工法の事例紹介
第2回	設計基礎	図面とCADを用いた機械設計と設計プロセス
第3回	機械要素	機械要素や規格品の活用（締結要素や材料規格）
第4回	機械要素	構造と材料の選定について
第5回	伝達機構	機械要素：ギヤ 様々な伝達機構や、柔軟伝達機構について説明する。
第6回	カム機構	・カム機構
第7回	リンク機構	・リンク機構、緩衝装置
第8回	液体伝達機構	液体伝達要素を利用したメカニカルデザイン
第9回	アクチュエータ	アクチュエータのメカニカルデザインについて紹介する。
第10回	中間課題	中間課題
第11回	材料	様々な材料を利用したメカニカルデザイン
第12回	構造	機械の様々な構造
第13回	機械加工・工具	様々な部品の機械加工方法や道具の紹介
第14回	移動機構	移動機構のメカニカルデザインについて紹介する。
第15回	応用的なメカニカルデザイン	応用的なメカニカルデザインについて紹介する。
第16回	期末課題	期末課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) シラバスの内容を事前に確認する
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な教材、資料は随時で紹介する。
参考図書の機構学（ISBN-13: 978-4627668911）は、学内あるいはVPN接続により、電子書籍で閲覧可能です。
https://kinoden.kinokuniya.co.jp/hosei_u/bookdetail/p/KP00031635/
参考図書の基礎機械材料は図書館にあります。

【参考書】

- 1) 機構学 ISBN-13: 978-4627668911
- 2) 基礎機械材料 ISBN-13: 978-4563069216

【成績評価の方法と基準】

平常点・確認小テスト（30％）
課題提出と期末テストにより（70％）

により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習内容が、「実際にどのような商品や製品に応用され活用されているのかが、イメージできない」との指摘があった。事例紹介を増やし、学習内容と実社会で利用されている技術の関連付けを明確にしながら説明するよう心がける。

【Outline (in English)】

The theme of this course is to apply basic principles of geometry and general mechanics to various mechanical problems. Students will solve problems by modeling motion phenomena using simulation software and visualization techniques. Through the above process, they will understand the basics of methods for designing highly functional mechanisms through lectures and practical training. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

HUI300ND（人間情報学 / Human informatics 300）

スマートマシンデザイン

梅舘 拓也

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IoTやロボットなどの先端工学を応用した次世代の機械であるスマートマシンの実践的な設計方法を学ぶ。具体的には、各種マイコン（Arduino, M5Stack など）でのさまざまなセンサやアクチュエータ扱い方を、ウェブ教材と実際の電子部品を用いた実習形式で学ぶ。

【到達目標】

各種センサ、アクチュエータ、マイコンを使った電子回路設計、コーディングを習得し、生徒自らが今後の技術開発の展望を描けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

解説と実習を交互に行う。また、解説の理解度をはかるために下記のものの提出を要求する：講義を基に作った電子工作作品のコードや回路などをまとめたレポート課題の提出（7回）、本授業使った課題提出（1回）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業の内容のご説明と電気回路・マイコンシミュレータTinkercadの使い方の説明	本授業の大まかな流れを説明します。また、電気回路・マイコンシミュレータTinkercadの使い方のログイン方法、使い方を解説します。
2	Tinkercadを使った演習	Tinkercad上で、Arduino, N型のMOSFET, 抵抗, 外部電源, 豆電球を使って、豆電球を5秒ごとに点滅させてみる演習を行います。
3	Tinkercadとマイコン実機を使ったアクチュエータの駆動方法の解説	電気回路・マイコンシミュレータTinkercadを使ってアクチュエータの使い方を解説します。
4	Tinkercadとマイコン実機を使ったアクチュエータの駆動する実習	電気回路・マイコンシミュレータTinkercadを使ってモータの使い方の実習を行います。
5	Arduinoでアクチュエータ（つづき）とセンサの使い方の解説	マイコンアクチュエータの駆動方法（前回の続き）とマイコンでのセンサ値の読み取り方法を解説します。
6	Tinkercad上で可変抵抗とスライドスイッチでモータの回転方向・速度を制御する実習	スイッチの状態と可変抵抗の抵抗値をマイコンで読み取り、その値を基にモータが正転逆転、回転速度が変わる回路をTinkercad上で作る実習を行います。
7	Arudinoを使って割り込みとエンコーダ読み取り方法を解説	割り込みを使ってエンコーダの回転角度を読み取る方法を解説します。
8	実機マイコンを用いたLチカとシリアル通信を行う実習	実機マイコンを使ってLチカとシリアル通信を行う実習を行います
9	Tinkercad, マイコン実機でPD制御を実行の仕方に関しての解説	古典制御の最大の成果であるPD制御を、マイコン上でどのようにコーディングするかに関して学びます。
10	P制御をTinkercadで行う実習	Tinkercad上で、エンコーダ付きモータを使ってP制御を実行する演習を行います。
11	スマートマシンデザインの活用事例として「ソフトロボティクスとは何か？」の講演	講師が今まで行ってきた研究をケーススタディとして、ソフトロボティクスという今急成長している研究分野を紹介します。
12	最終課題「本授業を習ったことを使って作成する課題」の解説と、わからなかったことを聞く質問タイム	マイコン実機に関して、動かない、書き込みが上手く行かないなどのトラブルの相談にのります。
13	マイコンから出力された値をProcessingで描画の方法とPCBボードの作り方	マイコン実機からシリアル通信経由で出力される値を基に、さまざまな図形をPC上で描画する方法を学びます。
14	P制御をマイコン実機を使って実践してみる実習	マイコン実機を使ってP制御を行っててもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に対する抱負と、2, 4, 6, 8, 10, 14回の実習として出題する課題のレポートを提出すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。加えて、それぞれ独自に取り組む課題（自分でなにか作ってたものを解説する動画 or IF2以上の論文/IROS/ICRA 予稿を著者になったつもりで解説する動画など）の提出を求めます。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業スライドをPDFとして配布するので、特別テキストの購入の必要はありません。

【参考書】

Prototyping Lab 第2版 — 「作りながら考える」ためのArduino実践レシピ (Make: PROJECTS)

【成績評価の方法と基準】

出席、課題提出に基づいて採点します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【学生が準備すべき機器他】

AtomLite, モータドライバIC, LED, 可変抵抗など法政大学で配布したものを利用します。また、これとはエンコーダ付きモータも課題遂行者に配布する予定です。

【その他の重要事項】

本講義の履修に際しては線形代数と微積分に関する知識が必要。

履修条件として、2年次に「メカトロニクス」、「メカトロニクス演習」、「ロボットデザイン」、「機械の機構と設計」、「福祉工学」のうち少なくとも一つの科目を受講済みであること。

授業終了後にZoomなどで質問を受け付ける、または随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Participants can learn practical methods for designing and developing smart machines. Smart machines are next-generation devices that advanced engineering applies (e.g., IoT devices and robotics). Specifically, students will learn how to handle various sensors and actuators on microcontrollers (Arduino, M5Stack, etc.). The lecture and hands-on experiments are provided using a web-based microcomputer and electric-circuit emulator (i.e., Tinkercad), and also hardware.

FRI300ND（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300）

ゲームプログラミング

岩月 正見

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、3次元コンピュータグラフィックス（3DCG）の技術がどのような原理によって実現され、いかにしてゲーム開発に応用されているかについて、ゲーム開発統合環境Unityを用いて、実際に3Dシーンを構築し、プログラミングを行いながら具体的に理解していく。また、3Dオブジェクトに物理属性を与えたり、インタラクティブな操作を行ったりする手法についても学ぶ。

【到達目標】

本授業は、3DCG技術を用いて自分のアイディアに基づくゲームや3Dコンテンツを具体的に制作できるようになることを目標とする。特に、現在多くの開発者に利用されているゲーム開発統合環境Unityを利用することにより、3Dゲームやインタラクティブな3Dコンテンツが容易に開発できることを実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

チュートリアルビデオを見ながら、ゲーム開発統合環境Unityの操作方法を学び、3DCGゲームを開発するための具体的に制作しながら学んでいく。また、各チュートリアルの詳細な解説と補足説明も行い、使われている素材の入手方法や作成方法についても詳しく解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゲームプログラミングとは	ゲーム制作の要素 1. グラフィクス 2. サウンド 3. UI 4. プログラミング
2	ゲーム開発統合環境Unityの基礎	ゲーム開発統合環境Unityのインストールを行い、各パネルの役割や操作方法の基本を学ぶ。
3	オブジェクトの物理属性と衝突判定	オブジェクトを剛体として、質量や反発係数などの物理特性を与える方法を学ぶ。また、オブジェクト間の衝突を判定する方法を学ぶ。
4	外部入力検出とプレハブ	キーボード入力によってオブジェクトを操作する手法を学ぶ。また、プレハブと呼ばれる使いまわしのできるプロトタイプオブジェクトを利用する方法を学ぶ。
5	オブジェクトの生成と消滅およびタイマー	スクリプトによってオブジェクトを動的に生成・消滅させる方法を学ぶ。また、ゲームに欠かせないタイマーを利用する方法を学ぶ。
6	オブジェクトの基本的な移動と力の与え方	オブジェクトの3次元的な移動方法を学ぶ。また、オブジェクトに力を与える方法を学ぶ。
7	演習	これまでの知識を総合してボーリングゲームを作成する。
8	マテリアル属性とオーディオの基礎	オブジェクトにテクスチャを貼る方法を学ぶ。また、オーディオを生成する方法を学ぶ。
9	ジョイントと矢印キーによる入力	複数のオブジェクトを結合したり、関節でつなぎ合わせる方法を学ぶ。また、矢印キーによる入力方法について学ぶ。
10	トリガー衝突判定とGUIおよびカウンター	オブジェクトが衝突したことを通知するトリガーを使う方法を学ぶ。グラフィカルユーザインタフェース(GUI)を作成する方法とカウンターの使い方を学ぶ。
11	スクリプトによるコンポーネントの追加とシーンの切り替え	スクリプトによって、オブジェクトの属性を与えるコンポーネントを動的に追加する方法を学ぶ。また、ゲームの終了時などのためのシーンの切り替え方法を学ぶ。

12	スクリプトによるコンポーネント属性の調整およびローカル・グローバル座標	スクリプトによって、コンポーネント属性の内容を調整する方法を学ぶ。また、シーン中のローカル・グローバル座標について学ぶ。
13	オブジェクトへの視線追跡とIF条件節	主オブジェクトを追跡するLookAt()関数の使い方について学ぶ。また、IF条件節について学ぶ。
14	最終作品発表	これまで学んだ知識を駆使して、各自オリジナル作品を制作し、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミング（C#, C++, Java等）の基礎を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定しない。講義資料を配布する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（20％）＋講義内での演習（40％）＋最終作品（40％）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の持ち込むPCによって動作に不具合や差が出るため、それらを配慮して演習を考える。

【学生が準備すべき機器他】

PC

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand how to create 3DCG game applications by using Unity, a cross platform game engine. Students will acquire game programming skills through exercises for creating various game scenes with a physics engine and interactive user interface. Students should have a basic understanding of programming (C#, C++, Java, etc.).

Standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Comprehensive evaluation will be made on the basis of the assignments (60%) and the evaluation of the student's work on the final project and the achievement and explanations at the presentation (40%).

HUI300ND（人間情報学 / Human informatics 300）

ARプログラミング

馬場 祐人

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SNSやニュースアプリ、スマホゲームなどWeb上で提供されるサービスやソフトウェアをWebアプリと呼ぶ。常時インターネットにつながった環境が当たり前となった今、PCやスマホといったクライアントと、サーバとでデータを通じて、様々な情報を随時やり取りすることが可能である。本授業では、Webアプリの開発に必要なフロントエンドとバックエンドの技術を習得してWebアプリを開発する方法を実際に制作しながら学ぶ。

【到達目標】

本授業では、Webアプリ開発環境「Next.js」を用いて、Webアプリケーションの応用的な開発手法を学ぶ。Webアプリ開発に必要なフロントエンド、バックエンドの技術、具体的にはJavaScript、HTML、CSS、データベースエンジンに関する構成を理解し、技術を習得して、実際にプログラミングしながら実装手法を理解する。そして各自のアイディアに基づいてオリジナルのWebアプリを制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Webプログラミングに関する幅広い領域の専門用語や技術構成を適宜解説する。講義時間内で、持参したノートPCを用いて、実際に様々な機能をプログラムとして実装しながら、Webアプリの開発手法を理解する。理解度を把握するため、演習作品を提出し、最終成果物として披露してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Webアプリとは	Webアプリとは何か。どのように構成されているかを学ぶ
第2回	開発環境(Next.js, Docker)の準備	Webアプリ開発環境(Next.js, Docker)をインストールする
第3回	フロントエンドとバックエンド	フロントエンドとバックエンドの違い、それぞれの役割について学ぶ
第4回	簡単なWebアプリの開発	単純なWebアプリを制作する
第5回	バックエンド開発	バックエンドのシステム開発について学ぶ
第6回	データベースの構成	バックエンドで用いるデータベースを構築する
第7回	フロントエンド開発	フロントエンドに必要なUIデザインについて学ぶ
第8回	クライアント側の設計	Webアプリの基本となる登録アプリのフロントエンドを設計する
第9回	WebアプリのUI制作	フロントエンドとなるUIをHTML、CSS、JavaScriptで制作する
第10回	サーバ側の設計	Webアプリの基本となる登録アプリのバックエンドを設計する
第11回	Webアプリのデータベース設計	Webアプリのバックエンドで情報を記録するデータベースを設計する
第12回	Webアプリのセキュリティ	Webアプリを作るにあたって考慮すべきセキュリティの基礎対策について学ぶ
第13回	Webアプリのテスト	制作したWebアプリをテストする
第14回	最終作品発表	これまで学んだことの集大成として最終作品を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講に当たりJavaScript、HTML、CSSそれぞれのプログラミングの基礎を理解しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点(出席、講義内演習等での貢献・取り組み態度)(30%)、各授業ごとの演習課題提出(30%)、最終作品と発表(40%)を基準として、総合的に判断し評価する。
最終作品についてはプレゼンテーション形式の発表を実施する。発表は試験に相当する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケートを踏まえて、円滑な授業進行と授業の内容の改善に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC(貸与PCもしくはWindowsパソコン使用を推奨)。各自のPCに、ソフトウェアをインストールして演習を行なう。PCにソフトウェアをインストールするためにSSD/HDDの空き容量を3GBほど確保しておくこと。資料配布、課題の提出などに、授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・本講義は秋学期開講の「コンテンツプログラミング演習」の応用的な内容となる。受講に当たっては「コンテンツプログラミング演習」の受講を推奨する。
- ・プログラミング言語処理系やWeb技術に関する実務経験を有する教員の観点から、Webアプリ開発の基礎的な概念や技術要素を解説する。
- ・授業終了後時間が許す範囲で、教室で質問を受け付ける。またHoppiiに記載したメールアドレスにて質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Services and software provided on the Web, such as SNS, news apps, and smartphone games, are called web applications. Web applications communicate various information and constantly exchange data between clients such as PCs and smartphones and servers. In this class, you will learn how to develop web applications by acquiring the front-end and back-end technologies necessary for developing web applications.

Assessment will be made as follows: In-class contributions 30%, in-class-hours practices 30%, final presentation 40%.

Before/after each class-hours, students will be expected to spend an hour to understand the course content.

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

- 福祉工学の基本理念を理解する
- 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
- 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『認知脳科学』（コロナ社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末のレポート課題（50%）で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:
In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to:
- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.
Learning activities outside of classroom:
For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.
Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.
Grading criteria/policy:
Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

- 福祉工学の基本理念を理解する
- 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
- 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『認知脳科学』（コロナ社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末のレポート課題（50%）で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:
In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電氣的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電氣的現象について講義する。
4	生体計測3：電氣的計測	生体から電氣的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。

- 14 福祉・医療機器のこれから 福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイborg：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『認知脳科学』（コロナ社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

DES200NA (デザイン学 / Design science 200)

ランドスケープデザイン

大木 一、保 清人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ランドスケープデザインの基礎知識や事例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】

ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義、見学会、設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ、見学会を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	事例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べて必要な機能を検討する
(4)	見学会またはゲストレクチャー	ランドスケープデザインの実例見学会またはゲスト講師を招いてのレクチャーを行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表・エスキス	課題の作業状況について中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインを検討する
(9)	見学会またはゲストレクチャー	ランドスケープデザインの実例見学会またはゲスト講師を招いてのレクチャーを行う
(10)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインの内容を深化させる
(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する

(12)	ランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ
(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める
(14)	設計演習/講評会	提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 課題対象地の敷地分析
 - 3・4 設計コンセプト案の検討
 - ゾーニング・配置計画の検討
 - 中間発表準備
 - 3・8 配置計画・空間デザインの検討
 - 空間デザインの検討
 - 中間発表準備
 - 11・12 提案内容のブラッシュアップ
 - 講評会準備
 - 最終提出物の作成
- 本授業の準備・復習時間は、各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】

忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）
 長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）
 小野寺康：広場のデザイン（彰国社）
 武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）
 JLAU：ランドスケープアーキテクトになる本I, II（マルモ出版）

【成績評価の方法と基準】

中間発表（2回）の内容（30%）、最終講評および成果品の内容（70%）による。
 発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。
 中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。
 欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から講師が交代するため該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。
 検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】

実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。
 オフィスアワーについて、質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.

(Learning activities outside of classroom)

2 Site analysis of the subject site

3 &4 Examination of proposed design concept

5 Examination of zoning and layout plan

6 Preparation for interim presentation

7 &8 Study of layout plan and spatial design

9 Examination of space design

10 Preparation for mid-term presentation

11 &12 Brush up on proposals

13 Preparation for critique session

14 Preparation for final submission

The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.

(Grading Criteria /Policy)

The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.

Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.

Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).

No credit for more than four absences (grade D) will be given.

DES200NA (デザイン学 / Design science 200)

ランドスケープデザイン

大木 一、保 清人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ランドスケープデザインの基礎知識や事例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】

ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	◎			○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義、見学会、設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ、見学会を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	事例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べて必要な機能を検討する
(4)	見学会またはゲストレクチャー	ランドスケープデザインの実例見学会またはゲスト講師を招いてのレクチャーを行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表・エスキス	課題の作業状況について中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインを検討する
(9)	見学会またはゲストレクチャー	ランドスケープデザインの実例見学会またはゲスト講師を招いてのレクチャーを行う
(10)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインの内容を深化させる
(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する
(12)	ランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ
(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める

- (14) 設計演習/講評会 提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 2 課題対象地の敷地分析
- 3・4 設計コンセプト案の検討
- 5 ゾーニング・配置計画の検討
- 6 中間発表準備
- 7・8 配置計画・空間デザインの検討
- 9 空間デザインの検討
- 10 中間発表準備
- 11・12 提案内容のブラッシュアップ
- 13 講評会準備
- 14 最終提出物の作成

本授業の準備・復習時間は、各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】

忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）
長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）
小野寺康：広場のデザイン（彰国社）
武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）
JLAU：ランドスケープアーキテクトになる本I、II（マルモ出版）

【成績評価の方法と基準】

中間発表（2回）の内容（30%）、最終講評および成果品の内容（70%）による。

発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。

中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。

欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から講師が交代するため該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。

検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】

実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。
オフィスアワーについて、質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.

(Learning activities outside of classroom)

- 2 Site analysis of the subject site
- 3 & 4 Examination of proposed design concept
- 5 Examination of zoning and layout plan
- 6 Preparation for interim presentation

7 &8 Study of layout plan and spatial design

9 Examination of space design

10 Preparation for mid-term presentation

11 &12 Brush up on proposals

13 Preparation for critique session

14 Preparation for final submission

The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.

(Grading Criteria /Policy)

The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.

Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.

Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).

No credit for more than four absences (grade D) will be given.

DES200NA (デザイン学 / Design science 200)

ランドスケープデザイン

大木 一、保 清人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ランドスケープデザインの基礎知識や事例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】

ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義、見学会、設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ、見学会を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	事例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べて必要な機能を検討する
(4)	見学会またはゲストレクチャー	ランドスケープデザインの実例見学会またはゲスト講師を招いてのレクチャーを行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表・エスキス	課題の作業状況について中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽を含めた空間デザインを検討する
(9)	見学会またはゲストレクチャー	ランドスケープデザインの実例見学会またはゲスト講師を招いてのレクチャーを行う
(10)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽を含めた空間デザインの内容を深化させる
(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する
(12)	ランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ
(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める
(14)	設計演習/講評会	提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 2 課題対象地の敷地分析
- 3・4 設計コンセプト案の検討

- 5 ゾーニング・配置計画の検討
- 6 中間発表準備
- 7・8 配置計画・空間デザインの検討
- 9 空間デザインの検討
- 10 中間発表準備
- 11・12 提案内容のブラッシュアップ
- 13 講評会準備
- 14 最終提出物の作成

本授業の準備・復習時間は、各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】

忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）
 長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）
 小野寺康：広場のデザイン（彰国社）
 武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）
 JLAU：ランドスケープアーキテクトになる本I, II（マルモ出版）

【成績評価の方法と基準】

中間発表（2回）の内容（30%）、最終講評および成果品の内容（70%）による。

発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。

中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。

欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から講師が交代するため該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。
 検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】

実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。
 オフィスアワーについて、質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.

(Learning activities outside of classroom)

- 2 Site analysis of the subject site
- 3 & 4 Examination of proposed design concept
- 5 Examination of zoning and layout plan
- 6 Preparation for interim presentation
- 7 & 8 Study of layout plan and spatial design
- 9 Examination of space design
- 10 Preparation for mid-term presentation
- 11 & 12 Brush up on proposals
- 13 Preparation for critique session

14 Preparation for final submission

The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.

(Grading Criteria /Policy)

The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.

Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.

Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).

No credit for more than four absences (grade D) will be given.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築フォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマを組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で7回となっているのは、各講演の時間が2時間分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成 (1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成 (2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成 (3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成 (4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成 (5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成 (6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%）と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

[Learning Objectives]

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

環境工学

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築は、内部に快適な環境を創りだすとともに、周囲に対する悪影響（負荷）を最小限におさねなければならない。環境要素として熱、空気、光、音、太陽を取り上げ、これらが人間に与える影響を理解するとともに、環境をコントロールするための建築的手法（パッシブデザイン）と建築設備（アクティブデザイン）の役割を習得する。

【到達目標】

環境要素が人体に与える影響および建築の環境デザインへの応用を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回の講義でテーマが設定されており、物理的側面からの解説と環境デザインへの応用事例から構成されている。身の回りにある環境デザインを意識し、授業中に出される課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、気候と伝統的民家	世界各地の気候特性、伝統的民家の気候適応
2回	人と環境01 温熱環境	体温調節機能、暑さ・寒さの感覚、温熱環境6要素、行動性体温調節
3回	人と環境02 光環境	目の構造、明るさ・まぶしさの感覚、昼光照明、人工照明
4回	人と環境03 空気環境	衛生と換気、汚染物質、自然換気、機械換気
5回	人と環境04 音環境	耳の構造、音の大きさ・高さ・音色、遮音と吸音
6回	人と環境05 健康と知的生産性	住環境と健康、執務環境と知的生産性、最新オフィスの設計
7回	建築デザインと環境01 太陽光	直射光と天空光、採光窓、室内での光の拡散
8回	建築デザインと環境02 熱	太陽熱・日射、日除け、断熱・気密、ソーラーハウス
9回	建築デザインと環境03 空気と風	室内空気の流れ、採風、煙突効果、ビル風
10回	建築デザインと環境04 環境デザインの事例紹介	建築環境デザインの事例とできあがるまでのプロセス
11回	建築設備と環境01 身の回りの建築設備	空調設備、給排水設備、電気設備、住宅の建築設備、ビルの建築設備
12回	建築設備と環境02 建築とエネルギー	住宅のエネルギー使用特性、建築物省エネ法、省エネルギー技術、LCCO2
13回	建築設備と環境03 建築設備デザインの事例紹介	建築設備設計デザインの事例、設計のプロセス
14回	講評会	課題のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる環境要素を意識し、身の回りの環境デザインを発見すると共にその意図を考察し、課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜、資料を配付する。

【参考書】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学[改訂4版]』、井上書院
萩原廣高ほか、『建築環境デザインのディテール』、彰国社

【成績評価の方法と基準】

課題、プレゼンテーションの内容を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を聞くだけにとどめず、理解した内容をノートに取ることが重要である。

【Outline (in English)】

Architecture must create a comfortable environment inside and minimize the negative impact on the surrounding environment. The course focuses on heat, air, light, sound, and the sun to understand their effects on humans and the role of passive and active methods in controlling the environment. Each lecture has a theme and consists of explanations from the physical aspect and environmental design applications. Students are expected to become aware of the environmental design around them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be made according to the working assignments and presentations.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

環境工学

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築は、内部に快適な環境を創りだすとともに、周囲に対する悪影響（負荷）を最小限におさねなければならない。環境要素として熱、空気、光、音、太陽を取り上げ、これらが人間に与える影響を理解するとともに、環境をコントロールするための建築的手法（パッシブデザイン）と建築設備（アクティブデザイン）の役割を習得する。

【到達目標】

環境要素が人体に与える影響および建築の環境デザインへの応用を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回の講義でテーマが設定されており、物理的側面からの解説と環境デザインへの応用事例から構成されている。身の回りにある環境デザインを意識し、授業中に出される課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、気候と伝統的民家	世界各地の気候特性、伝統的民家の気候適応
2回	人と環境01 温熱環境	体温調節機能、暑さ・寒さの感覚、温熱環境6要素、行動性体温調節
3回	人と環境02 光環境	目の構造、明るさ・まぶしさの感覚、昼光照明、人工照明
4回	人と環境03 空気環境	衛生と換気、汚染物質、自然換気、機械換気
5回	人と環境04 音環境	耳の構造、音の大きさ・高さ・音色、遮音と吸音
6回	人と環境05 健康と知的生産性	住環境と健康、執務環境と知的生産性、最新オフィスの設計
7回	建築デザインと環境01 太陽光	直射光と天空光、採光窓、室内での光の拡散
8回	建築デザインと環境02 熱	太陽熱・日射、日除け、断熱・気密、ソーラーハウス
9回	建築デザインと環境03 空気と風	室内空気の流れ、採風、煙突効果、ビル風
10回	建築デザインと環境04 環境デザインの事例紹介	建築環境デザインの事例とできあがるまでのプロセス
11回	建築設備と環境01 身の回りの建築設備	空調設備、給排水設備、電気設備、住宅の建築設備、ビルの建築設備
12回	建築設備と環境02 建築とエネルギー	住宅のエネルギー使用特性、建築物省エネ法、省エネルギー技術、LCCO2
13回	建築設備と環境03 建築設備デザインの事例紹介	建築設備設計デザインの事例、設計のプロセス
14回	講評会	課題のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる環境要素を意識し、身の回りの環境デザインを発見すると共にその意図を考察し、課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜、資料を配付する。

【参考書】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学[改訂4版]』、井上書院
萩原廣高ほか、『建築環境デザインのディテール』、彰国社

【成績評価の方法と基準】

課題、プレゼンテーションの内容を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を聞くだけにとどめず、理解した内容をノートに取ることが重要である。

【Outline (in English)】

Architecture must create a comfortable environment inside and minimize the negative impact on the surrounding environment. The course focuses on heat, air, light, sound, and the sun to understand their effects on humans and the role of passive and active methods in controlling the environment. Each lecture has a theme and consists of explanations from the physical aspect and environmental design applications. Students are expected to become aware of the environmental design around them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be made according to the working assignments and presentations.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

環境工学

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築は、内部に快適な環境を創りだすとともに、周囲に対する悪影響（負荷）を最小限におさえなければならない。環境要素として熱、空気、光、音、太陽を取り上げ、これらが人間に与える影響を理解するとともに、環境をコントロールするための建築的手法（パッシブデザイン）と建築設備（アクティブデザイン）の役割を習得する。

【到達目標】

環境要素が人体に与える影響および建築の環境デザインへの応用を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	○		◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回の講義でテーマが設定されており、物理的側面からの解説と環境デザインへの応用事例から構成されている。身の回りにある環境デザインを意識し、授業中に出される課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、気候と伝統的民家	世界各地の気候特性、伝統的民家の気候適応
2回	人と環境01 温熱環境	体温調節機能、暑さ・寒さの感覚、温熱環境6要素、行動性体温調節
3回	人と環境02 光環境	目の構造、明るさ・まぶしさの感覚、昼光照明、人工照明
4回	人と環境03 空気環境	衛生と換気、汚染物質、自然換気、機械換気
5回	人と環境04 音環境	耳の構造、音の大きさ・高さ・音色、遮音と吸音
6回	人と環境05 健康と知的生産性	住環境と健康、執務環境と知的生産性、最新オフィスの設計
7回	建築デザインと環境01 太陽光	直射光と天空光、採光窓、室内での光の拡散
8回	建築デザインと環境02 熱	太陽熱・日射、日除け、断熱・気密、ソーラーハウス
9回	建築デザインと環境03 空気と風	室内空気の流れ、採風、煙突効果、ビル風
10回	建築デザインと環境04 環境デザインの事例紹介	建築環境デザインの事例とできあがるまでのプロセス
11回	建築設備と環境01 身の回りの建築設備	空調設備、給排水設備、電気設備、住宅の建築設備、ビルの建築設備
12回	建築設備と環境02 建築とエネルギー	住宅のエネルギー使用特性、建築物省エネ法、省エネルギー技術、LCCO2
13回	建築設備と環境03 建築設備デザインの事例紹介	建築設備設計デザインの事例、設計のプロセス
14回	講評会	課題のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる環境要素を意識し、身の回りの環境デザインを発見すると共にその意図を考察し、課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜、資料を配付する。

【参考書】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学[改訂4版]』、井上書院
萩原廣高ほか、『建築環境デザインのディテール』、彰国社

【成績評価の方法と基準】

課題、プレゼンテーションの内容を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を聞くだけにとどめず、理解した内容をノートに取ることが重要である。

【Outline (in English)】

Architecture must create a comfortable environment inside and minimize the negative impact on the surrounding environment. The course focuses on heat, air, light, sound, and the sun to understand their effects on humans and the role of passive and active methods in controlling the environment. Each lecture has a theme and consists of explanations from the physical aspect and environmental design applications. Students are expected to become aware of the environmental design around them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be made according to the working assignments and presentations.

PRI200NA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。
※授業中およびメールやノートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。

12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
- ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
- ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいはノートにて連絡する。
- ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勤めの本は以下の通りです。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正資 共著 培風館 2010年）
- ★統計学基礎（統計検定3級・2級対応） 日本統計学会
- ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント
テスト2：40パーセント。
課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。
授業終了後に教室で質問を受け付ける。また、各回のチェックシートおよび電子メールで質問を随時受け付ける。

【Outline (in English)】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

PRI200NA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して解析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。
※授業中およびメールや✓シートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。

14 テスト2、まとめと解説 第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
- ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
- ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいは✓シートにて連絡する。
- ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勤めの本は以下の通りです。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010年）
- ★統計学基礎（統計検定3級・2級対応） 日本統計学会
- ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント
テスト2：40パーセント。
課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。
授業終了後に教室で質問を受け付ける。また、各回のチェックシートおよび電子メールで質問を随時受け付ける。

【Outline (in English)】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

DES300NA（デザイン学 / Design science 300）

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメント についての概略	タウンマネジメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの 新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの 演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの 管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウン マネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタ ウンマネジメントの概 要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマ ネジメント事例につ いて	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの 先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの 先進的な取り組みと課 題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（拠点開発型）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（官民連携型）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講 義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
 2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
 3. HPなどで事例検索
 4. 演習課題をまとめる
- 本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
・「縮小まちづくり一成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
・「エリアマネジメント・ケースメソッド」(官民連携による地域経営の教科書) 学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意
レポート 85 %
演習課題 15 %
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動をし、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）
なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Leaning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

DES300NA (デザイン学 / Design science 300)

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネージメント についての概略	タウンマネージメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウン マネジメントについて	タウンマネージメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの 新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの 演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの 管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウン マネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタ ウンマネジメントの概 要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマ ネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの 先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの 先進的な取り組みと課 題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（拠点開発型）	タウンマネージメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネージメントの事例
12	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（官民連携型）	タウンマネージメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講 義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
・「縮小まちづくりー成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

レポート 85%

演習課題 15%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組むまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Leaning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

DES300NA (デザイン学 / Design science 300)

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネジメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメント についての概略	タウンマネジメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの 新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの 演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの 管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウン マネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタ ウンマネジメントの概 要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマ ネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの 先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの 先進的な取り組みと課 題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（拠点開発型）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（官民連携型）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講 義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくり成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
- ・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

レポート 85%

演習課題 15%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動をし、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Leaning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

西洋建築史

稲益 祐太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、西洋の建築や都市の歴史に関するものです。建築はそれぞれの時代や地域における文化や社会のあり方を示しており、その発展・変容・多様化の歴史的背景と変遷を理解することは、建築に対する多面的な見方を養うことに繋がります。そして、先人たちの歩んできた道（過去）を学ぶことは、未来をつくることと言えます。そこでこの授業では、時代を追って西洋建築の様式とその成立と変容の背景を学びます。

【到達目標】

西洋建築の様式を理解し、建てられた時代や地域が見分けられるようになります。また、その成立の背景についても理解することができるようになります。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎			○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。参考資料を配り、スライドで画像を投影しながら説明していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業のねらい
2	古代ギリシア建築	西洋建築の原点、美の規範、オーダー、神殿、アクロポリスとアゴラ
3	古代ローマ建築	建設技術と材料の発達、建築空間の洗練、豊かな市民生活、人間のための空間、凱旋門、バシリカ、劇場、競技場、市場、浴場
4	古代地中海世界の都市	都市計画、広場、聖域、住宅、集合住宅、インフラ、ボンベイとオステティア
5	初期キリスト教建築とビザンチン建築	バシリカ形式、モザイク、集中式プラン、ドーム
6	イスラーム建築	モスク、ドーム、中庭建築、庭園、幾何学的構成、迷宮都市の構造、バザール、隊商宿
7	ロマネスク建築	修道院と巡礼路教会、ヴォールト天井、空間構成
8	ゴシック建築	大聖堂の象徴性、構造の美学、垂直性、ステンドグラス、光の演出
9	初期ルネサンス建築	フィレンツェ、ルネサンスの勃興とその背景、ブルネレスキの活躍、アルベルティ、パラッツォ、ヴィツラ、祝祭・演劇、パトロンと建築家
10	盛期ルネサンス建築と理想都市	万能の人、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ブラマンテ、古典主義の確立、集中式プラン
11	マニエリスム建築	マニエリスム 形式の組み替え・手法、ヴィニョーラ、ジュリオ・ロマーノ、パラーディオ、ミケランジェロ
12	バロック建築1	ローマ・バロック、バロックの背景、永遠の都ローマの都市改造、舞台としての都市空間、ベルニーニとボッロミーニ
13	バロック建築2	他都市のバロック、多様なバロック、サヴォイア家トリノ、祝祭都市ヴェネツィア、レッツェ・バロック、シチリア南東部、ナポリ
14	新古典主義・歴史主義	理論、プロジェクト、実践、リヴァイヴァル、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

日本建築学会編『西洋建築史図集 三訂版』彰国社、1983年、2750円【推薦図書】
陣内秀信他『図説 西洋建築史』彰国社、2005年、3080円
吉田鋼市『西洋建築史』森北出版、2007年、2640円
ベグスナー『ヨーロッパ建築序説』彰国社、1989年、5170円
コストフ『建築全史』住まいの図書館、1990年、24563円

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（20％）、期末試験（80％）の合計で評価し、60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course students will learn about historical European architecture and cities. Architecture is an expression of the culture and society of each period and region, and an understanding the historical background and transitional flow of developments/changes/diversification allows one to obtain a multifaceted point of view. Studying the (past) path travelled by our forerunners is how we build our future.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B.

-A. Students be able to understand Western architectural styles and identify the period and region in which they were built.

-B. Students will also be able to understand the background of the formation of the style.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (70%).

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

日本建築史

高村 雅彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は原則対面で行います。様々な情報は逐一「学習支援システム」を利用し、履修者の大学メールアドレスに送信しますので確認するようにしてください。

以下に概要と目的を示します。

日本の建築の歴史を神社、寺院、廟、住宅、都市から理解し、それらが成立した背景を重点に考える。テーマは、上記の内容を各回において詳細に解説する。

【到達目標】

日本建築全般の基礎学力を身に着けることが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎				○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「建築史は、建築の歴史を学ぶためのものではなく、建築を学ぶために存在している」

本講では、日本の建築の歴史を見ながら、建築の歴史の大筋を把握するとともに、時代が超えても変わらない本質的なものが存在することを理解し、その様々な歴史的要素がいかに現代に受け継がれているかを論じてみたい。毎回、スライドを見ながら、視覚的に内容を把握し、次にその背景を捉えなおし本質的な意味を探る方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本建築史序説 講義全体の流れを理解する。	建築史の意義と目的、日本とアジアの建築の関係、なぜ今建築史か？
2	日本建築の特質 日本建築の特徴を概観し理解する。	「建物につくられた空間」と「空間につくられた建物」、羅列的、面的、洗練とは？
3	古代の形式化 神社の特徴とその成立背景を知る。	建築の誕生、神の社、神明、大社、遷宮、形式の確立、意味の継承、聖と俗、橋－柱－端－簷－梯。
4	外来文化の受容 仏教建築が求めた意味を探る。	仏教建築、法隆寺、薬師寺、東大寺、隋・唐の仏寺、雲中供養菩薩が語る意味、重力からの解放。
5	和様・大仏様・禅宗様 寺院建築の様式に隠された意味を考える。	架構と空間、重源と陳和卿、組物、伽藍配置の世界観、宋の建築技術、構造美とは？
6	近世の霊廟と宗教建築 江戸時代の意味を宗教建築から探る。	日光東照宮、善光寺、権現造り、生産力の進展、ブルーノ・タウト、歌舞伎座、仏壇、霊柩車、天海。
7	中間試験 どこまで理解できたかを自分で知る。	ここまでの内容による中間試験。
8	日本の都市 都城と城下町	日本の都市の歴史を知る。藤原京から平城京、平安京、そして城下町へ
9	風水都市・江戸と聖地・日光 江戸時代の都市計画に隠された風水を読み解く。	人がつくる風水、藤堂高虎、天海、見立ての富士山、宮内庁の陰謀。
10	都市の聖地 一水系と地質から読む都市の環境空間―「地質聖地論」の試み	見えない都市、新たな都市解読の方法を探る、聖地の意味論、環境空間を浮かび上がらせる
11	日本住宅の源流 日本の住宅のオリジナルを見る。	寝殿造り、空間の建築、宮殿との関係、中国建筑との関係、対象から非対称へ、日本の変容へ。
12	住空間の変容と茶室 現代に結びつく住宅建築の歴史を知る。	書院造り、装置の建築、より自由で日本的なものへ、装飾と区画、現代日本住宅への影響。

13	文化財建造物の保存と修復 文化財保存の制度や実情を理解する。	保存の意義、移築保存、選定－解体－組立－再生へ。
14	総合質疑 日本建築の歴史とは何だったのかを探る。	これまでの講義を総合的に考え、日本の建築の歴史を再読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日本建築の歴史について興味を持つ。
 2. 参考文献などから、日本建築を調べてみる。
 3. 配布プリントの意味を再読する。
 4. 配布プリントの意味を再読する。
 5. 配布プリントの意味を再読する。
 6. 配布プリントの意味を再読する。
 7. これまでの配布プリントを再読する。
 8. 配布プリントの意味を再読する。
 9. 配布プリントの意味を再読する。
 10. 配布プリントの意味を再読する。
 11. 配布プリントの意味を再読する。
 12. 配布プリントの意味を再読する。
 13. 配布プリントの意味を再読する。
 14. 講義の内容を総合的に考え直してみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布。

【参考書】

太田博太郎『日本建築史序説』彰国社、日本建築学会『日本建築史図集』彰国社。

【成績評価の方法と基準】

中間試験および期末試験からなる総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

板書を適宜おこなう。
ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、教員はPCを使用するが、学生は用意する必要はない。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course students will consider Japan's architectural history from the beginnings of its shrines, temples, houses and cities. Topics will involve the detailed understanding of each of these areas.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn basic scholastic ability of the overall Japanese building.

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Criteria /Policy : ill be decided based on the following, to be passed in the above 60 points of examinations to describe in the midterm examination and term-end examination.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築計画 1

岩佐 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築計画学とは建築設計において規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。

本講は建築設計初学者を対象とし、身近な事例を手がかりに建築空間とその決定原理の関係を理解するとともに、建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ・設計事例からその空間の意図を読み取るとともに、そこで行われる活動を想定する技術を身につける。
- ・建築空間を規定する原理や根拠を理解する。
- ・建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を身につける。
- ・設計根拠の導出を通して社会・文化と建築設計を接続して思考する視点を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
		○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
- ・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
- ・講義内で演習を行う。
- ・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。
- ・「建築計画2」と併せて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／建築設計と決定根拠	身近な場所に学ぶ空間の決定原理 DS3 課題の補足解説
第2回	住む1／住戸・住宅	環境の中の距離・寸法 用途や動作で規定される空間
第3回	住む2／住宅+α	図式化による空間の理解
第4回	働く1／オフィス・コワーキングスペース	用途や動作で規定される空間 室と場面
第5回	働く2／オフィス・コワーキングスペース	知的生産性と環境 ワーケーション
第6回	育てる1／幼稚園・保育園・こども園	目的・制度・ユーザー・行為から考 える幼稚園 DS3 課題の補足解説
第7回	育てる2／幼稚園・保育園・こども園	子供環境を考える DS3 課題の事例解説
第8回	知る1／図書館	プログラムと建築 情報媒体の進化と建築の変化
第9回	知る2／図書館	蔵書の拡大と建築の変化
第10回	知る3／図書館	機能分化と平面計画
第11回	知る4／図書館	知の広場としての図書館 「本」の役割の変化
第12回	教える・学ぶ1／学校・ラーニングセンター	学びと環境
第13回	教える・学ぶ2／学校・ラーニングセンター	教育システムと建築
第14回	災害と建築／避難所	セーフティネットと建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「建築計画のリベラルアーツ社会を読み解く12章」朝倉書店

【参考書】

建築計画教科書（彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSEなどの各建築雑誌

【成績評価の方法と基準】

- ・講義内の演習課題（50%）
- ・レポート課題（50%）
- ・レポートに関しては、インターネットの記事や他に提出されたレポートに甚だしく類似した内容のものは評価外とする。
- ・合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン形式のため、PCの使用は必須である。
資料配布はpdfで行うが、一部資料はプリントアウトが必要である。
講義内の演習で色鉛筆（12色程度）と細ペン（0.3～0.5mm）を使用するので準備すること。

【その他の重要事項】

- ・DS3に関連した項目を取り扱うため、DS3と併せて履修することが望ましい。
- ・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
- ・レポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Architectural planning is a normative theory of architectural design, which is based on various decision-making principles such as human dimensions, motion characteristics, perception, psychology, cultural context, communication, work efficiency, and social systems.

This course is intended for beginning architectural designers to understand the relationship between architectural space and its decision-making principles using familiar examples, and to learn the basics of applying decision-making principles appropriately in architectural design.

[Learning Objectives]

To understand the intention of the space from design examples and to acquire the skills to envision the activities that will take place in the space.

To understand the principles and rationale that define architectural space.

To acquire the basis for applying the principles of decision making appropriately in architectural design.

To acquire the viewpoint to think about the connection between society and culture and architectural design through the derivation of design rationale.

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the keywords and building examples introduced in class, it is necessary to organize and grasp your knowledge by doing your own research after class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Exercises in the lecture (50%)

Report assignment (50%)

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築計画 2

岩佐 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築計画学とは建築設計において規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。

本講は「建築計画学1」で学んだ知識を更に発展させ、より広範な社会の仕組みや制度と建築空間の関係を理解するとともに、建築設計を通して社会に貢献していくための手法を学ぶ。

【到達目標】

- ・建築空間を規定する原理や根拠の理解を通して、建築と社会・文化とのつながりを学ぶ。
- ・空間の意図やそこで行われる活動を建築設計にフィードバックする技術を身につける。
- ・社会の課題解決の手法としての建築設計の役割を理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・「建築計画1」が履修済みであることが望ましい。
- ・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
- ・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
- ・講義内で演習を行う。
- ・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会と建築は合せ鏡である DS4 課題解説
2	集う1／集合住宅・住宅地	住宅供給と社会
3	集う2／集合住宅・住宅地	住戸配置の計画 住戸のアクセス形式
4	集う3／集合住宅・住宅地	住戸の平面計画 都市と集合住宅
5	鑑る1／美術館・博物館	美術館の歴史 DS4 課題解説
6	鑑る2／美術館・博物館	美術館の計画（展示室）
7	鑑る3／美術館・博物館	第4世代の美術館
8	住の多様性1	コーポラティブ住宅 シェアハウス
9	住の多様性2	暮らし方と住宅計画
10	住の多様性3	ポストコロナの建築計画
11	セーフティネット1／応急仮設	応急仮設住宅 危機的環境移行を支える建築
12	セーフティネット2／災害復興	復興公営住宅
13	セーフティネット3／高齢社会	グループホーム コレクティブハウス
14	演じる／劇場	演劇空間の計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「建築計画のリベラルアーツ社会を読み解く12章」朝倉書店

【参考書】

建築計画教科書（彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSEなどの各建築雑誌
建築と都市のパブリックスペース（鹿島出版会）
アクティビティを設計せよ（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

- ・講義内の演習課題（50%）
- ・レポート課題（50%）
- ・レポートに関しては、インターネットの記事や他に提出されたレポートに甚だしく類似した内容のものは評価外とする。
- ・合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン形式のため、PCの使用は必須である。
資料配布はpdfで行うが、一部資料はプリントアウトが必要である。
講義内の演習で色鉛筆（12色程度）と細ペン（0.3～0.5mm）を使用するので準備すること。

【その他の重要事項】

- ・DS4に関連した項目を取り扱うため、DS4と併せて履修することが望ましい。
- ・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
- ・レポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Architectural planning is a normative theory of architectural design, which is based on various determinants such as human dimensions, behavioral characteristics, perception, psychology, cultural context, communication, work efficiency, and social systems.

This course is designed to further develop the knowledge acquired in "Architectural Planning 1" to understand the relationship between architectural space and broader social systems and institutions, and to learn methods to contribute to society through architectural design.

【Learning Objectives】

To understand the connection between architecture and society and culture through an understanding of the principles and rationale that define architectural space.

To acquire the skills to feed back the intention of space and the activities that take place in it to architectural design.

To understand the role of architectural design as a method of solving social problems.

【Learning activities outside of classroom】

In order to deepen your understanding of the keywords and building examples introduced in class, it is necessary to organize and grasp the knowledge by doing your own research after class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Exercises in the lecture (50%)

Report assignment (50%)

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

木造建築の構法

網野 禎昭

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多数の伝統建築や現代の先端事例を多角的に分析し、木造建築の設計や開発に必要な知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

日本、欧州の伝統構法のしくみを理解する。さらに、これら伝統構法の発展形としての現代の諸構法や、さまざまな工業化木質材料を活用した構法についても理解する。

Understanding traditional wooden building constructions in Japan and in Europe. Understanding the evolution of constructions and contemporary varieties including industrialized building systems.

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎	○		◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回、実際の木造建築事例をとりあげ、これらを建築設計、構造設計、物理設計、生産施工計画等の諸側面から総合的に分析する。標準的な構法よりも、よりイノベティブな実例の解説に重きをおき、学生諸氏の創造力を刺激する考えである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	民家 1	地域性と木造民家の形- 日本
2	民家 2	地域性と木造民家の形- 欧州
3	民家 3	地域性と木造民家の形- 欧州
4	歴史的木橋 1	グルーベンマン、パラディオの橋 他、産業革命以前の木橋
5	歴史的木橋 2	グルーベンマン、パラディオの橋 他、産業革命以前の木橋
6	現代の木橋 1	木造エンジニアによる木橋
7	現代の木橋 2	木造エンジニアによる木橋
8	現代の木橋 3	木造エンジニアによる木橋
9	塔	Gliwice, Pyramidenkogel, Sauvabelin, Korkeasaari の各塔他
10	大型スパン建築 1	梁架構、方杖架構、アーチ、トラス、張弦梁等、様々なフレーム・システム
11	大型スパン建築 2	折板、吊屋根、シェル等、様々な面構造システム
12	非戸建木造 1	木造集合住宅
13	非戸建木造 2	木造によるオフィス、学校建築などの最新事例
14	木造研究	低質木材の活用 木質コンポジット材 非木材林産資源による建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

木造建築の挙動を実感するために、「壁－1 グランプリ」の見学あるいは参加を勧める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Observing “Kabe-1 grand prix” is recommended to understand the behavior of wooden structures. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

Timber Construction Manual

【成績評価の方法と基準】

期末試験結果（100％）による

Evaluate the final exam result.

期末試験の得点60%以上を合格とします。

A passing score of the final exam is 60%or more.

【学生の意見等からの気づき】

写真や図版などの映像資料の質の充実
教員による実作の詳細解説

【学生が準備すべき機器他】

特に使用しない

【その他の重要事項】

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】

This course aims to provide the knowledge required for the designing of wooden structures, analyzing a range of diverse traditional and cutting-edge modern construction examples.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

空間の構造デザイン

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造は建築に力学的安全性を与えると同時に、建築の造形とも大きく関わっている。また、建築構造を理解するには、解析・計算によるアプローチの他に、構造を概念として把握する必要がある。この授業では、様々な構造システムの発想と歴史的変遷、力学的メカニズム、造形上の問題、具体的実現例などを解説し、建築空間における構造デザインの意味についての理解を促す。

【到達目標】

建築物の基本骨格となる様々な構造要素および構造システムの概念をスケッチや図式等を用いて具体的に記述・表現できる程度の、建築家としての基礎的な素養を身につけることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎	◎		○			○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト「建築構造のしくみ」に従い、基本的には数式を一切使用することなく、さまざまな建築構造要素・システムについての基本概念を段階的に述べ、それらに応用した構造デザイン例を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	梁と柱（1）	梁の発生、梁のメカニズム、梁の種類と諸形式
2	梁と柱（2）	梁と柱の構造、マガサ構造、ラーメン構造
3	トラス（1）概説	トラスの原始的発想と現代的発想、迫り持ちトラスと梁トラス
4	トラス（2）メカニズム	迫り持ちトラスのメカニズム、梁トラスのメカニズム、ヒンジ、2次応力、不静定トラス
5	トラス（3）諸形式	平行弦トラスと小屋組トラス、ハウ、ブラット、ワーレン、タウン、キングポスト、橋梁トラス
6	アーチ（1）概説	アーチの出現、組積アーチ、ヴォールト、スラスト
7	アーチ（2）メカニズム、諸形式	荷重支持のメカニズム、アーチの形状と荷重、静定・不静定アーチ、アーチの安定
8	ドーム（1）概説	アーチとドーム、パンテオン、組積ドームの発展
9	ドーム（2）メカニズム	球殻、経線応力、緯線応力、古代ドームと近代ドーム、テンションリング
10	シェル構造	曲面の分類、EPシェル、HPシェル、シェルのメカニズム、膜応力、応力攪乱
11	スペースフレーム	スペースフレームの定義、大量生産、骨組パターンの構成、ジオデシックドーム、B.フラウ、均質立体骨組、ジョイント
12	ケーブル構造	ケーブル構造の原理、1方向、2方向、放射方向、吊りケーブル、押えケーブル、コンプレッションリング
13	膜構造	膜構造、空気膜構造の原理、エアドームとエアアーチ、サスペンション膜、骨組膜
14	タワーと超高層建築耐震・免震・制振	タワーの変遷と構造システム、超高層建築の変遷と構造システム、耐震、免震、制振

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された模範的構造デザイン例の見学あるいは建築雑誌等からの資料収集を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川口衛 他：建築構造のしくみ 力の流れとかたち 第2版（建築の絵本）、彰国社

【参考書】

授業内で適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題：40%（A～Dの4段階評価で、未提出はD評価）

定期試験：60%（試験の際、各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）

なお、5回以上欠席したものは成績評価しない

評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

模型を使用した説明の割合を増やす。

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline:

At the same time as lending mechanical stability, structure is strongly related to a building's form. In order to understand building structure, in addition to approaches through analysis and calculation, comprehending structure as a concept is important. This course will develop understanding of the meaning of structural design in construction space through elucidating the concepts and historical transitions of various structural systems, mechanisms, problems related to form and solutions of real world problems.

Learning Objectives:

The goal of this course is to provide students with the basic architectural knowledge to the extent that they can describe and express the various structural elements and structural system concepts that form the basic framework of buildings using sketches, diagrams, etc.

Learning activities outside of classroom:

Students will observe exemplary structural design examples introduced in class or collect materials from architectural journals.

Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築生理心理2

加用 現空

開講時期： 秋学期授業/Fall | 選択・必修の別： 選択
備考（履修条件等）： 建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科目「建築整理心理1」では、建築空間と我々身体とのつながりを理解するための基礎的な建築環境学の知識について学習した。これらの知識を適用し、建築デザインに還元するためには、数理的手法が必要となる。しかしながら、現在の高度に発展したシミュレーションツールは多重的な計算過程を繰り返すため、計算の詳細が確認できない。本講義では、体感的環境経験と建築環境学の基礎的知識を統合し、建築デザインに応用する演繹的検討モデリングに必要な知識と技能を習得する。

【到達目標】

- ・ 建築環境の状態を把握するための視点を獲得する。
- ・ 建築環境をモデル化する基礎的技能を習得する。
- ・ デザイン検討のために必要な手法を学ぶ。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を展開する。講義資料は配布しないが、講義後復習用に講義録画リンク（Zoom）を公開する。講義は座学を中心に進めるが、授業内演習などを含む。受動的に聴講する授業形式ではなく、履修者同士で話し合いながら理解を深める授業形式を目指す。他履修者の妨げとなる私語は避け、相互に学びを深める学修環境構築への協力を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	講義の目的、概要、プログラムイン ストール
2	数理モデリング基礎 （1）	建築環境学の数理モデリング、環境 とシステム、入力と出力
3	数理モデリング基礎 （2）	収支式、差分方程式
4	モデリング演習（1）	R言語プログラミング
5	モデリング演習（2）	Grasshopperプログラミング
6	パラメトリックスタディ	目的関数、設計変数、制約条件
7	演習（1）	建築形態のデザイン検討（太陽軌道、 日射熱取得量）
8	熱収支のモデル化	伝導、対流、放射
9	演習（2）	屋根面構成のデザイン検討
10	光の振る舞いのモデル化	反射、吸収、透過
11	演習（3）	昼光導入のデザイン検討
12	空間換気特性のモデル化	圧力エネルギー、運動エネルギー、 熱エネルギー
13	演習（4）	開口位置と開口面積のデザイン検討
14	まとめ	建築デザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

パワーポイントを用いて講義を展開する。講義資料は共有しないが、講義後復習用に講義録画（Zoom）リンクを公開する。講義内容や課題に対する質問はHoppiiの掲示板等で回答する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『人・建築・地球とエクセルギーー環境物理学入門』 宿谷昌則著(2024) 建築資料研究社
『エクセルギーと環境の理論: 流れ・循環のデザインとは何か』 宿谷昌則著(2010) 井上書院
『建築環境デザインのディテール 光・熱・風・水・音』 荻原廣高(他) 著 (2024) 彰国社
『Parametric Design with Grasshopper 建築／プロダクトのための、Grasshopper クックブック [改訂第3版]』 石津優子、堀川淳一郎著 (2024) ビー・エヌ・エヌ

【成績評価の方法と基準】

講義中に課す演習課題（30%）、授業後のフィードバックフォームの記入内容（30%）、講義終了後の期末試験（40%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline (in English)】

Course Outline: In the course "Physiology and Psychology in Building 1", The knowledge about the basics on building physics which focuses on the connection between the human body and the environment. To apply this knowledge in architectural design, the mathematical modelling method is needed. However, the recent computational simulation tools are highly developed and its algorithms are in the black boxes. The aim of the course is to integrate sensitive recognition by the human body and the knowledge of building physics, and to learn applying mathematical modelling methods into architectural design with deductive approach.

Learning Objectives: 1) To acquire the scope to understand the status of the built environment, 2) To understand the basics of mathematical modeling, 3) To develop basic skills of mathematical modeling through exercises.

Learning Activities Outside of The Classroom: The preparation and review time for each lecture is about 2 hours. In particular, students, who don't have a sufficient understanding of the issue at the end of the lecture, are recommended to deepen their understanding before the next lecture.

Grading Criteria /Policy: Grades will be determined by the results of assignments during the course (30%), quality and quantity of the feedback form at the end of each lecture (30%), and the result of the final examination at the end of the course (40%). Grades will not be given to students who have not taken the examination or submitted the assignments.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

光・視環境

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築における光環境として日照、日射、自然採光、人工照明を対象とし、光や熱に対する理論を学習し、人間の視覚特性を理解しながら、建築デザインに生かす手法を習得する。

【到達目標】

到達目標は下記の通り。

- 1）太陽位置を把握して、日影や日照時間、日射熱量、建築の日射受熱量などの算定方法を習得する。
- 2）測光量と単位、採光・照明の基礎理論を理解し、照明計画などの応用手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○			◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1回の授業はテーマを明確にし、2回目以降は基礎理論の解説（講義）と演習により構成している。予め、テキストの該当部分を予習し、主体的に講義を受けて理解し、限られた時間内で演習を行い、そのテーマを習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、太陽位置算	地方真太陽時、地方平均太陽時、中に定に必要な時刻表現
2回	太陽位置の算定方法	中央標準時均時差
3回	日影図	太陽方位角、太陽高度、太陽赤緯
4回	日差し曲線	日影図、日影曲線、日影時間曲線
5回	各平面への日影	日差し曲線、日照図表
6回	日射量	水平面・鉛直面への影
7回	日除けの設計	直達日射、天空日射、全天日射、日射受熱量
8回	光の物理表記と単位	庇、袖壁、ルーバー、ブリーズソレイユ
9回	点光源による照度・均等拡散面の性質	光束、照度、光束発散度、光度、輝度
10回	光束法	入射の余弦定理、完全拡散面、反射、吸収、透過、拡散
11回	昼光照明	光束法を用いた照明計画
12回	X Y Z 表色系	昼光率、立体角投射率
13回	色彩調和理論	R G B 表色系、X Y Z 表色系、xy色度図
14回	総復習	色度図

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での演習問題の復習を十分行っておくこと。さらに、身近な例を学習関連する新聞記事を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中俊六他著『最新 建築環境工学』、井上書院

【参考書】

『理科年表』、丸善

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習点：20％、期末試験点：80％の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

- ・太陽光は地球環境と密接に関係しているので、そのつもりで履修すること。
- ・光環境は、熱環境とも関連しているので、建築気候の熱環境の分野も復習すること。
- ・授業は遅刻をしないこと。学生証カードによる出欠は参照していない。
- ・日影図は、単純な幾何なのに従来から理解していない学生が多いので、注意すること。

【学生が準備すべき機器他】

関数の付いた電卓は必ず持参すること。また、教員の指示に応じて製図用具等を準備すること。

【Outline (in English)】

This course focuses on sunlight, solar radiation, daylighting, and artificial lighting as light environments in architecture. Students will learn theories of light and heat, understand human visual characteristics, and acquire methods to apply them to architectural design.

Through this class, students will be able to:

- (1) Understand the position of the sun and learn how to calculate shading, hours of sunlight, solar heat capacity, and the amount of heat received by buildings by solar radiation.
 - (2) To understand the basic theory of photometric quantities and units, lighting, and illumination, and to master applied methods such as color planning based on color psychology by understanding the color system.
- The course comprises a lecture on fundamental theory and exercises with a clear theme. Students are expected to prepare the relevant part of the textbook in advance, attend and understand the lecture independently, and master the theme by doing exercises within a limited time. Students are expected to review the exercises in the class sufficiently. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the following ratios: 20%for the exercises in each class and 80%for the final examination.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

音・振動環境

星 和磨

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外部からの騒音に悩まされない住宅、響きが良いコンサートホール、声がよく通る教室等、建築物の設計に際して内部で実現される音環境への配慮は大変重要である。音は、人々に快感から不快感まで幅広い感覚刺激を呼び起こす。従って、機能、用途毎に音質が的確に対応していなければならない。そのためには音とは何かという基本的理解が必要である。また、音の取り扱いと振動の取り扱いに関しては類似する点も多いことから、講義の後半では遮音の原理を通じて振動現象に関する基礎についても学ぶ。本講義では、音・振動環境に関する基礎的な知識を習得し、その後空間形態、建築用途に対応する理想的設計要件を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

- ・音が物体の中を伝わる振動現象であるという物理現象を理解する。
- ・音、振動に関わる特徴的な単位、演算方法を習得する。
- ・吸音、遮音のための物性、構法などを基礎知識として理解する。
- ・建築設計の際に音・振動を考慮することが重要であることを認識する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

予め穴埋め形式講義ノートをデジタルで配布するので、適宜メモを取り、穴を埋めながら講義を受けること。
また授業の最後に演習問題を解きながら、授業内容の理解を深める。
講義内容や課題に対する質問はHoppiiの掲示板等で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の設置目的、到達目標、概要の紹介
2	音波の物理	振動の物理、音の物理、音波、波の表し方
3	音の大きさとレベル	ウェーバ・フェフィナーの法則、物理量から感覚量への変換、音圧と音圧レベル、音響インピーダンス
4	ラウドネスとA特性補正	耳の構造、ラウドネスとラウドネスレベル、当ラウドネス曲線、オクターブバンドとオクターブバンドレベル
5	様々な騒音とその評価	騒音の定義と種類、等価騒音レベル、単発騒音暴露レベル、騒音にかかる環境基準、静ひつ性の評価
6	様々な音源と距離減衰	点音源、線音源、面音源から放射される音の減衰
7	定常波と質の固有振動	管の共鳴、部屋の共鳴、軸・接線・斜めモードとその周波数、室寸法と縮退の関係
8	吸音率と響きの長さ	吸音率の定義、残響時間の定義、W.C.Sabineの功績、残響時間の予測
9	音響エネルギー密度と室内平均音圧レベル	拡散音場とは、音響エネルギー密度と平均音圧レベルの関係、直接音レベルと反射音レベル、臨界距離
10	吸音機構と吸音材料	吸音の仕組みと建築材料（内装材）、吸音不足による室性能の低下、吸音に配慮した設計事例の紹介
11	遮音の基礎と質量則	吸音と遮音の違い、等価エネルギーと等価損失、等価損失の周波数特性を決める法則
12	二重壁の遮音と空気音遮断性能の評価	中空二重壁の共鳴透過現象とその対策、複層ガラスのメリットとデメリット、空気音遮断性能の評価
13	床衝撃音とその評価	集合住宅における騒音問題、軽量床衝撃音と重量床衝撃音の違いとそれらの対策
14	試験・まとめと解説	これまで13回の内容に関する理解度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は暗記内容、計算問題ともに多いので講義終了後に知識定着のために各自帰宅後に内容を復習すること。建築士試験の問題として出題される内容も多く取り扱うことから、ここで知識を体系的に定着させておくことが望ましい。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

独自に作成した講義資料を講義前に配布する。

また、「最新建築環境工学（改訂第4版）」田中俊六 他著（井上書院）を適宜参照しながら進める

【参考書】

「建築音響」阪上公博 編著（コロナ社）
「建築・環境音響学」前川純一 他著（共立出版）
「建築音響と騒音防止計画」木村翔 著（彰国社）
「コンサートホールの科学」日本音響学会 編著（コロナ社）

【成績評価の方法と基準】

講義中に課す演習課題（50%）と講義終了時課す最終課題または試験（50%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業演習用紙の下部に、授業の理解度評価とコメントを記述する欄を設けている。
このアンケートにもとづき、次回授業に改善を図るとともに、質問に回答する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

音環境は光環境とは違い直接目に見えない。そのため音響設計は後回しにされることが多く、結果として、音響的な検討が足りないことがある。そのような場合、竣工後にクライアントや周辺住民から音に関する苦情があることも少なくなく、場合によっては大幅な改修を余儀なくされる。
このように音環境は室内外の快適性に大きく影響する。この科目はエンジニアリング（工学）系の科目だが、意匠設計を志す学生も含めた全ての学生に受講していただきたい。そして音環境に関する基礎知識をもって様々な立場で活躍する人材になってほしい。
オフィスアワー：授業の前後あるいはLMSで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Course Overview: It is very important to consider the sound environment that will be realized when designing buildings, such as houses that do not suffer from inside and outside noise, concert halls with rich sound, and classrooms with a good speech intelligibility. Sound evokes a wide range of sensations, from pleasure to discomfort. Therefore, the sound quality must be precisely tailored to each function and application. This requires a basic understanding of what sound is. In addition, since there are many similarities between sound and vibration, students will learn the basics of vibration phenomena in the second half of the lecture. The goal of this course is to acquire a basic knowledge of sound and vibration environments and then to learn ideal design requirements according to spatial form and architectural use. Learning Objectives: 1) Understand the physical phenomenon that sound is a vibrational phenomenon transmitted through an object, 2) Understand the physics of sound and vibration, 3) Understand the basic knowledge of physical properties and construction methods for sound absorption and sound insulation, 4) Understand the importance of considering sound and vibration in building design. Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In particular, students are encouraged to deepen their understanding before the next class if they do not have a sufficient understanding of the subject matter at the end of the class. Grading Criteria /Policy: Grades will be determined by a final exam at the end of the lecture (50%) and exercises assigned during the lecture (50%). Grades will not be given to students who have not taken the examinations or submitted the assignments.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

都市建築史

高村 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、前半の4月と5月を授業の録画に見るオンデマンド型、後半の6月と7月を原則対面として実施します。お知らせ等は「学習支援システム」で周知するので確認するようにしてください。
なお、新カリ「都市建築史」と旧カリ「近現代建築史」は読替の授業であり、授業内容も同じで、春学期開講期となります。
以下に概要と目的を記述します。
日本を含むアジアも近現代の都市と建築を対象に、それらがつくられた背景を理解する。また、現代建築のデザインに見られる歴史の稀薄性について、ディズニールランドなどを例に解説していく。テーマは、各回において、上記の内容ごとに見ていく。

【到達目標】

こうした講義を通じて、見た目だけではない、都市や建築の本質を見ようと
する姿勢を身に付けることが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎				○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「建築史は、建築の歴史を学ぶためのものではなく、建築を学ぶために存在し
ている」

本講では、日本を含めたアジアに注目しながら、劇場、庭園、商業施設、遊園
地の成り立ちについて、比較の視点を持ちながら見ていきたい。また、失われ
た都市と建築の歴史を知るために、絵巻物に描かれた世界の解説も行う。さら
に、現代の日本の都市と建築が、いかに歴史的なつながりの中で成立してい
るのか、近代都市や娯楽施設の歴史を通して考えていく。各回、スライド
を見ながら視覚的に把握し、その背景にある本質を解説する方法をとる。
授業は三つのステージからなり、古代から近世の世界観、宇宙観、自然観、近
代の建築と都市の象徴性、現代の排除の構造がテーマとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス この授業では何を学ぶ のかを理解する。	近現代のアジアにおける都市と建築 の歴史をいかに考えるか？
2	アジアの劇場建築 近世以前の建築につい て、劇場を考える。	能舞台、歌舞伎の演劇空間、世界の 演劇空間比較、演出効果、宇宙観
3	日本の能舞台 能舞台と劇場空間の歴 史を解説する。	中世から近世への都市変容、洛中洛 外図屏風、江戸図屏風、都市と自然
4	庭園文化の空間史 近世以前の建築につい て、庭園を考える。	ゆがめられた空間、日中欧庭園比較 論、エロスと誕生、庭園の持つ意味、 宇宙観。
5	絵巻物から読む都市 世界Ⅰ 近世以前の都市につい て、絵巻物から比較す る。	幕末の「弘化勸進能図」を解説しな がら、劇場に秘められた世界観を見 ていく。
6	絵巻物から読む都市 世界Ⅱ 近世以前の都市につい て、絵巻物を読む。	『清明上河図』を読む、閉鎖型社会か らの開放、中世都市の空間と人々の 暮らし
7	東京の古代地形と文化 的景観	神田明神から見えたもの、どこから 江戸城は見えたのか、地形を読み込 んで成立する江戸東京の聖地
8	疾走する城塞都市－香港 近代の都市とは建築の 本質とは何かを学ぶ。	植民都市としての香港、ネオバロッ クとアールデコの対決、摩天楼対決、 田園と都市、近代の理想
9	享楽のアジア近代－新 世界 近代における民間側の都 市と建築の理念を学ぶ。	理想としての近代、欲望の象徴とし ての塔、大阪新世界から浅草・上海 を経て北京へ！

10	山下啓次郎と明治の刑 務所 近代日本のアジアの関係 を刑務所を通して知る。	明治の建築世界、薩長と出身地、明 治に課せられた課題、文明国として の日本の誇示、近代デザイン
11	東京－都市美の戦後 現代に結びつく戦後の 東京の都市美に課せら れた役割を建築的に解 読する。	戦後復興に夢見た「都市美」、失われ ゆく水辺空間、露店収容建築、水上 居住者、時計塔、街路照明
12	広がる虚像の世界 現代のデザイン論につ いてディズニーを通し て考える。	ディズニールランド、ラブホテル、マ クドナルド、パチンコ、サティアン、 ピーナスフォート
13	講義再読 古代から近世	世界観、宇宙観、自然観。
14	講義再読 近代から現代	建築と都市の象徴性とは。排除の構 造。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 古代から近現代の都市と建築の歴史について興味を持つ。
 2. 配布プリントの意味を再読する。
 3. 配布プリントの意味を再読する。
 4. 配布プリントの意味を再読する。
 5. 配布プリントの意味を再読する。
 6. 配布プリントの意味を再読する。
 7. 配布プリントの意味を再読する。
 8. これまでの配布プリントを再読する。
 9. 配布プリントの意味を再読する。
 10. 配布プリントの意味を再読する。
 11. 配布プリントの意味を再読する。
 12. 自分自身で都市と建築の歴史を再読する。
 13. 自分自身で都市と建築の歴史を再読する。
 14. 講義以外のテーマについて自分で解説してみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

高村雅彦編『アジアの都市住宅』（勉誠出版）、『清明上河図』を読む』（勉誠出版）

【成績評価の方法と基準】

期末記述試験60％。

【学生の意見等からの気づき】

板書を適宜おこなう。
ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

教員は毎回PCを使用するが、学生は用意する必要はない。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course students will understand the background behind Japan and Asia's modern cities and architecture. In addition, in regards to the sparse design history of modern architecture, examples such as Disneyland will be examined. Topics will be assigned according to each of these areas.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn the posture that is going to watch a city and the essence of the building.

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Criteria /Policy : Your overall grade in the class will be decided based on the following, to be passed in the above 60 points of examinations to describe in the term end.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives: 1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria / Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	○	◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学科建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives: (1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria / Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives: (1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria / Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives: (1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria / Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？

ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？

建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？

建築でも土木でもない新しい分野とは？

アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？

今日コミュニティはどのような意味をもっているか？

こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするとところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で7回となっているのは、各講演の時間が2時間分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)

8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%）と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

【Learning Objectives】

Acquire the ability to

- 1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

デザインフォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマを組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しの特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6-7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6-7回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成 (1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成 (2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成 (3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成 (4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成 (5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成 (6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマと講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
6-7回のレポート（講演メモ+講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90%）となる。質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価（10%）として加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6-7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

【Learning Objectives】

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

【Learning activities outside of classroom】

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

デザインフォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマを組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？

ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？

建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？

建築でも土木でもない新しい分野とは？

アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？

今日コミュニティはどのような意味をもっているか？

こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。

2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。

3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で7回となっているのは、各講演の時間が2時限分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成 (1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成 (2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成 (3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成 (4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成 (5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成 (6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。

フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。

授業への取り組み（20%）と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

[Learning Objectives]

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

MAN200ND（経営学 / Management 200）

アントレプレナーシップ

姜 理恵

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アントレプレナーシップ（起業家精神）の基礎理論を学んだのち、大学生に向けたアントレプレナーシップ教育プログラム案をグループで作成し、教育会社に向けてプレゼンし、フィードバックをもらうことを通じて、知識の定着と理解を深める。

ここでいうアントレプレナーシップ（起業家精神）とは、企業を自分で起こすことに限定しない。イノベーションを産むすべての活動に必要な精神を指す。これを学び、実践し、身につけることは、コロナ禍を経て不確実性を増す現代社会に対応できるようになることでもある。

いつか自分で会社を設立したい方、変化の速いスタートアップの世界で働きたい方、企業の中から行動を起こしたい方など、その立場を問わず歓迎する。この科目では機会を特定し、行動を起こすための方法を扱う。この科目は座学やディスカッション、プレゼンテーションだけにとどまらず、実際に自分が行動することを通して学んだり、チームと協力して深刻な問題を特定し、革新的なソリューションを開発することに挑戦する。

これを通して、科学としてのアントレプレナーシップに対する知識を高めると同時に、マインドセットの成長を目指す。この科目を通じて行動と内省を繰り返すことで、アントレプレナーシップが自分のキャリア形成にどのように影響するか、強い確信を得ることを期待する。

【到達目標】

社会に新しい価値をもたらすというアントレプレナーシップの本質を、現在の自分自身に照らし合わせて理解することを目的とする。「大学生向けの起業家精神教育プラン」を作成することで、自分ごととして、起業家精神を考えることができる。

それにより、今後のキャリアプランと併せて考えられるようになり、さまざまな企業の新規事業や起業家の活動を、起業家精神の視点から観察し、議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義、演習、実習、発表などを組み合わせて授業を進める。科目の特性上、通常の科目よりも更に積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ビジネスゲーム1	授業の進め方 商才とは何か いかに意思決定を行うか
2	ビジネスゲーム2 姜とゲームで対決する	ビジネスでのリスクをいかに取るかをゲーム上で再現する
3	起業家の特性、天才研究、創造性	起業家は天才か？ 後から起業家になれるのか？ 創造性は先天的か後天的か？
4	発想のプロセス 発想の元となるアイデアの源泉、その育て方	良い発想はどうやって生まれるのか？ アイデアを取捨選択する方法
5	発想ワークショップ	良いアイデアを生み出すワークを実践してみる

6	起業家マインド セット 何があっても折れない心 はがねのメンタル	起業家の強いメンタルはいかにして成立するか
7	起業家的になれない人々 リスクが取れない 安定を選ぶ心理	創造性も、強いメンタルも持てない人々は、どうしたらいいのか
8	起業家の弱点	起業家の弱みを探る それをいかに克服するか理論と事例
9	起業家精神を教える、学ぶ、教えながら自分も育つ	姜研究室が実践している子どもや女性に起業家精神やベンチャーを教えている事例を紹介 カリキュラムの構成を学ぶ
10	教育プログラムの開発1	大学生に向けた起業家精神伸長プログラムを開発する
11	教育プログラムの開発2	大学生に向けた起業家精神伸長プログラムを開発する
12	教育プログラムの発表	開発したプログラムを研修会社や大学教員などに発表 フィードバック
13	起業家精神を学んだ人々の成長 授業のまとめ	起業家精神を学んだことも、女性、学生の学びのプロセス、実体験を整理
14	期末試験	持ち込み可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前・事後の配布資料リーディング、課題などを授業内で指示。本授業の準備学習・課題への対応時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
Neck, H. M., Neck, C. P., & Murray, E. L. (2024). Entrepreneurship: The practice and mindset. Sage publications.
洋書なので英語が得意な人はチャレンジしてみてください

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（出席、コミットメント） 50%
2. 期末テスト（持ち込み可、理解と思考を問う） 50%

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックの機会を複数設け、授業の進め方や内容の参考にする。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC持参のこと

【Outline (in English)】

In this course, you will develop an entrepreneurial mindset through the creation of an entrepreneurial program for undergraduate students. You will learn, practice, and acquire entrepreneurial skills to create and discover solutions to an increasingly complex and uncertain post-Corona society. You will learn how to identify opportunities and take action, whether you want to start your own business one day, work in the fast-paced startup world, or work within a company. This course is not limited to classroom lectures, discussions, and presentations. It also includes learning by doing and the challenge of working with a team to identify a serious problem and develop an innovative solution. The goal is to increase the knowledge of entrepreneurship as a science and at the same time to grow in the mindset of entrepreneurship. Through repeated action and reflection, you are expected to develop a strong belief in how entrepreneurship can impact your career development. Students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%.

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

生態学概論

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学は「生物と環境との関係」を主に扱う学問である。両者は一体のシステム、つまり生態系として捉えられる。そのダイナミックな働きを巧く管理し利用することが今後の人の生活にとっても重要だという考え方が世界的な潮流になっている。しかしそれが何故必要なのか？ どう活用すればよいのか？ その本質的な問いに答え、今後の研究や実践に活かしていくには基礎生態学、保全生態学の知識が必要となる。本講義は、そのための基礎知識の習得を目指すものである。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得した上で、生態系がどう成立ち、今何がどう問題になっているか、どのような再生技術があるのか学ぶ。その際、一般化したモデルや分かりやすい数値で理解する。これは自身が今後説明する側になる際にも役に立つ。また、生態系を活用することが生物のみならず、減災や健康増進など人間の利益にもなるという視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力 60%
(D) 専門基礎学力 40%
(E) 専門知識の活用・応用能力
(F) 総合デザイン能力
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進めるが、毎回、計算や図の作成、意見の書き出しなどをする簡単な教材を利用して進める。各回授業時には上記の実習結果やリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ
2	自然選択による進化	適応の自然史、自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生活史におけるトレードオフ、生活史戦略のシンドローム
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスクと多様性
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例

10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	ディスカッション	グループディスカッション（受講人数等により具体的な方法は開講後に検討します）
14	プレゼンテーション	グループディスカッションの内容のプレゼンと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。
その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷲谷いづみ, (2016). 生態学-基礎から保全へ. (税込 3,025 円) をベースに講義を進める。手元にあれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。(必要箇所は資料配布する)

【参考書】

鷲谷いづみ, (2017). 大学1年生の なっとく!生態学 (税込 2,420 円)

【成績評価の方法と基準】

小テスト40%、期末レポート60%
上記2項目の合計点で評価し、60点以上を合格とする。
小テスト：学期の半ば（2024年度は12月に実施）に理解度を確認するテストの点数で評価する。
期末最終レポート：内容・形式の面から評価する。
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。ノートパソコンがあった方が便利（授業中にも学習支援システムを活用した資料取得や提出ができるため）。

【その他の重要事項】

建設コンサルタントの環境部署にて生態系再生や管理計画の実務に携わった経験を活かして講義する。
特に昨今、ネイチャーポジティブ、グリーンインフラ等に係る動きや、ビッグデータを活用した生物情報の解析も活発であるため、随時最新の潮流も紹介して、学生の今後の研究に活かしてもらおう。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

Course outline:
Ecology is a study that focuses on the relationship between organisms and the environment. The two are considered as an integrated system, or ecosystem, and the idea that the management of their dynamic functioning is important for our sustainable human life has become a global trend. But why is this so? How should it be applied? Knowledge of fundamental ecology and conservation ecology is necessary to answer these essential questions and for your future research and practice. This lecture aims to provide students with the fundamental knowledge for this purpose.
Learning Objectives:
In this course, students will acquire knowledges of fundamental ecology and conservation ecology and apply it to infrastructure development, urban planning, disaster prevention and mitigation measures, etc.
Learning activities outside of classroom: No
Your required study time: at least one hour for each class.
Grading Criteria /Policies:

成績優秀者の他学部公開科目履修制度対象科目 発行日：2025/5/1

Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term examination: 40%, Term-end report: 60%.

CST100NC (土木工学 / Civil engineering 100)

バイオ・ケミカルエンジニアリング (2019～2022年度入学生)

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学は「生物と環境との関係」を主に扱う学問である。両者は一体のシステム、つまり生態系として捉えられる。そのダイナミックな働きを巧く管理し利用することが今後の人の生活にとっても重要だという考え方が世界的な潮流になっている。

しかしそれが何故必要なのか？ どう活用すればよいのか？ その本質的な問いに答え、今後の研究や実践に活かしていくには基礎生態学、保全生態学の知識が必要となる。本講義は、そのための基礎知識の習得を目指すものである。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得した上で、生態系がどう成立ち、今何がどう問題になっているか、どのような再生技術があるのか学ぶ。その際、一般化したモデルや分かりやすい数値で理解する。これは自身が今後説明する側になる際にも役に立つ。また、生態系を活用することが生物のみならず、減災や健康増進など人間の利益にもなるという視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進めるが、毎回、計算や図の作成、意見の書き出しなどをする簡単な教材を利用して進める。各回授業時には上記の実習結果やアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学という学問のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ等の基本概念
2	自然選択による進化	現在の生物多様性を創り出した自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生存のための戦略
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスク
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	演習	具体的な内容は開講後に伝達
14	演習	具体的な内容は開講後に伝達

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。

その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷲谷いづみ. (2016). 生態学-基礎から保全へ. (税込 3,025 円) をベースに講義を進める。手元にあれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。(必要箇所は資料配布する)

【参考書】

鷲谷いづみ. (2017). 大学1年生の なっとく! 生態学 (税込 2,420 円)

【成績評価の方法と基準】

小テスト 40 %、期末レポート 60 %

上記2項目の合計点で評価し、60点以上を合格とする。

小テスト：学期の半ば（2024年度は12月に実施）に理解度を確認するテストの点数で評価する。

期末最終レポート：内容・形式の面から評価する。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。またノートパソコンがあった方が便利（授業中にも Hoppii の資料取得や提出ができるため）。

【その他の重要事項】

建設コンサルタントの環境部署にて生態系再生や管理計画の実務に携わった経験を活かして講義する。

特に昨今、ネイチャーポジティブ、グリーンインフラ等に係る動きや、ビッグデータを活用した生物情報の解析も活発であるため、随時最新の潮流も紹介して、学生の今後の研究に活かしてもらう。

【Outline (in English)】

Course outline:

Ecology is a study that focuses on the relationship between organisms and the environment. The two are considered as an integrated system, or ecosystem, and the idea that the management of their dynamic functioning is important for our sustainable human life has become a global trend. But why is this so? How should it be applied? Knowledge of fundamental ecology and conservation ecology is necessary to answer these essential questions and for your future research and practice. This lecture aims to provide students with the fundamental knowledge for this purpose.

Learning Objectives:

In this course, students will acquire knowledges of fundamental ecology and conservation ecology and apply it to infrastructure development, urban planning, disaster prevention and mitigation measures, etc.

Learning activities outside of classroom: No

Your required study time: at least one hour for each class.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term examination: 40%, Term-end report: 60%.

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

生態学概論

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学は「生物と環境との関係」を主に扱う学問である。両者は一体のシステム、つまり生態系として捉えられる。そのダイナミックな働きを巧く管理し利用することが今後の人の生活にとっても重要だという考え方が世界的な潮流になっている。しかしそれが何故必要なのか？ どう活用すればよいのか？ その本質的な問いに答え、今後の研究や実践に活かしていくには基礎生態学、保全生態学の知識が必要となる。本講義は、そのための基礎知識の習得を目指すものである。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得した上で、生態系がどう成立ち、今何がどう問題になっているか、どのような再生技術があるのか学ぶ。その際、一般化したモデルや分かりやすい数値で理解する。これは自身が今後説明する側になる際にも役に立つ。また、生態系を活用することが生物のみならず、減災や健康増進など人間の利益にもなるという視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進めるが、毎回、計算や図の作成、意見の書き出しなどをする簡単な教材を利用して進める。各回授業時には上記の実習結果やアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ
2	自然選択による進化	適応の自然史、自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生活史におけるトレードオフ、生活史戦略のシンドローム
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスク
6	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	演習	具体的な内容は開講後に伝達
14	演習	具体的な内容は開講後に伝達

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。
その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷲谷いづみ. (2016). 生態学-基礎から保全へ. (税込 3,025 円) をベースに講義を進める。手元にあれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。(必要箇所は資料配布する)

【参考書】

鷲谷いづみ. (2017). 大学1年生の なっとく!生態学 (税込 2,420 円)

【成績評価の方法と基準】

小テスト40%、期末レポート60%
上記2項目の合計点で評価し、60点以上を合格とする。
小テスト：学期の半ば（2024年度は12月に実施）に理解度を確認するテストの点数で評価する。
期末最終レポート：内容・形式の面から評価する。
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。ノートパソコンがあった方が便利（授業中にもHoppiiの資料取得や提出ができるため）。

【その他の重要事項】

建設コンサルタントの環境部署にて生態系再生や管理計画の実務に携わった経験を活かして講義する。
特に昨今、ネイチャーポジティブ、グリーンインフラ等に係る動きや、ビッグデータを活用した生物情報の解析も活発であるため、随時最新の潮流も紹介して、学生の今後の研究に活かしてもらう。

【Outline (in English)】

Course outline:
Ecology is a study that focuses on the relationship between organisms and the environment. The two are considered as an integrated system, or ecosystem, and the idea that the management of their dynamic functioning is important for our sustainable human life has become a global trend. But why is this so? How should it be applied? Knowledge of fundamental ecology and conservation ecology is necessary to answer these essential questions and for your future research and practice. This lecture aims to provide students with the fundamental knowledge for this purpose.
Learning Objectives:
In this course, students will acquire knowledges of fundamental ecology and conservation ecology and apply it to infrastructure development, urban planning, disaster prevention and mitigation measures, etc.
Learning activities outside of classroom: No
Your required study time: at least one hour for each class.
Grading Criteria /Policies:
Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term examination: 40%, Term-end report: 60%.

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

生態学概論

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学は「生物と環境との関係」を主に扱う学問である。両者は一体のシステム、つまり生態系として捉えられる。そのダイナミックな働きを巧く管理し利用することが今後の人の生活にとっても重要だという考え方が世界的な潮流になっている。

しかしそれが何故必要なのか？ どう活用すればよいのか？ その本質的な問いに答え、今後の研究や実践に活かしていくには基礎生態学、保全生態学の知識が必要となる。本講義は、そのための基礎知識の習得を目指すものである。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得した上で、生態系がどう成立ち、今何がどう問題になっているか、どのような再生技術があるのか学ぶ。その際、一般化したモデルや分かりやすい数値で理解する。これは自身が今後説明する側になる際にも役に立つ。また、生態系を活用することが生物のみならず、減災や健康増進など人間の利益にもなるという視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進めるが、毎回、計算や図の作成、意見の書き出しなどをする簡単な教材を利用して進める。各回授業時には上記の実習結果やアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学という学問のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ等の基本概念
2	自然選択による進化	現在の生物多様性を創り出した自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生存のための戦略
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスク
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	演習	具体的な内容は開講後に伝達
14	演習	具体的な内容は開講後に伝達

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。

その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷲谷いづみ. (2016). 生態学-基礎から保全へ. (税込 3,025 円) をベースに講義を進める。手元にあれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。(必要箇所は資料配布する)

【参考書】

鷲谷いづみ. (2017). 大学1年生の なっとく! 生態学 (税込 2,420 円)

【成績評価の方法と基準】

小テスト 40 %、期末レポート 60 %

上記2項目の合計点で評価し、60点以上を合格とする。

小テスト：学期の半ば（2024年度は12月に実施）に理解度を確認するテストの点数で評価する。

期末最終レポート：内容・形式の面から評価する。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。またノートパソコンがあった方が便利（授業中にも Hoppii の資料取得や提出ができるため）。

【その他の重要事項】

建設コンサルタントの環境部署にて生態系再生や管理計画の実務に携わった経験を活かして講義する。

特に昨今、ネイチャーポジティブ、グリーンインフラ等に係る動きや、ビッグデータを活用した生物情報の解析も活発であるため、随時最新の潮流も紹介して、学生の今後の研究に活かしてもらう。

【Outline (in English)】

Course outline:

Ecology is a study that focuses on the relationship between organisms and the environment. The two are considered as an integrated system, or ecosystem, and the idea that the management of their dynamic functioning is important for our sustainable human life has become a global trend. But why is this so? How should it be applied? Knowledge of fundamental ecology and conservation ecology is necessary to answer these essential questions and for your future research and practice. This lecture aims to provide students with the fundamental knowledge for this purpose.

Learning Objectives:

In this course, students will acquire knowledges of fundamental ecology and conservation ecology and apply it to infrastructure development, urban planning, disaster prevention and mitigation measures, etc.

Learning activities outside of classroom: No

Your required study time: at least one hour for each class.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term examination: 40%, Term-end report: 60%.

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019～2022年度入学生）

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学は「生物と環境との関係」を主に扱う学問である。両者は一体のシステム、つまり生態系として捉えられる。そのダイナミックな働きを巧く管理し利用することが今後の人の生活にとっても重要だという考え方が世界的な潮流になっている。しかしそれが何故必要なのか？ どう活用すればいいのか？ その本質的な問いに答え、今後の研究や実践に活かしていくには基礎生態学、保全生態学の知識が必要となる。本講義は、そのための基礎知識の習得を目指すものである。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得した上で、生態系がどう成立し、今何がどう問題になっているか、どのような再生技術があるのか学ぶ。その際、一般化したモデルや分かりやすい数値で理解する。これは自身が今後説明する側になる際にも役に立つ。また、生態系を活用することが生物のみならず、減災や健康増進など人間の利益にもなるという視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進めるが、毎回、計算や図の作成、意見の書き出しなどをする簡単な教材を利用して進める。各回授業時には上記の実習結果やアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ
2	自然選択による進化	適応の自然史、自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生活史におけるトレードオフ、生活史戦略のシンドローム
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスク
6	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	演習	具体的な内容は開講後に伝達
14	演習	具体的な内容は開講後に伝達

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。
その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷲谷いづみ. (2016). 生態学-基礎から保全へ. (税込 3,025 円) をベースに講義を進める。手元にあれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。(必要箇所は資料配布する)

【参考書】

鷲谷いづみ. (2017). 大学1年生の なっとく! 生態学 (税込 2,420 円)

【成績評価の方法と基準】

小テスト 40 %、期末レポート 60 %
上記2項目の合計点で評価し、60 点以上を合格とする。
小テスト：学期の半ば（2024年度は12月に実施）に理解度を確認するテストの点数で評価する。
期末最終レポート：内容・形式の面から評価する。
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。ノートパソコンがあった方が便利（授業中にも Hoppii の資料取得や提出ができるため）。

【その他の重要事項】

建設コンサルタントの環境部署にて生態系再生や管理計画の実務に携わった経験を活かして講義する。
特に昨今、ネイチャーポジティブ、グリーンインフラ等に係る動きや、ビッグデータを活用した生物情報の解析も活発であるため、随時最新の潮流も紹介して、学生の今後の研究に活かしてもらう。

【Outline (in English)】

Course outline:
Ecology is a study that focuses on the relationship between organisms and the environment. The two are considered as an integrated system, or ecosystem, and the idea that the management of their dynamic functioning is important for our sustainable human life has become a global trend. But why is this so? How should it be applied? Knowledge of fundamental ecology and conservation ecology is necessary to answer these essential questions and for your future research and practice. This lecture aims to provide students with the fundamental knowledge for this purpose.
Learning Objectives:
In this course, students will acquire knowledges of fundamental ecology and conservation ecology and apply it to infrastructure development, urban planning, disaster prevention and mitigation measures, etc.
Learning activities outside of classroom: No
Your required study time: at least one hour for each class.
Grading Criteria / Policies:
Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term examination: 40%, Term-end report: 60%.

MEC200ND (機械工学 / Mechanical engineering 200)

メカトロニクス

伊藤 文臣

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メカトロニクスとは、機械工学(メカニズム)と電気電子工学(エレクトロニクス)の合成語であり、これらの学問の融合により、高い柔軟性と信頼性を有する機器を作る技術やその技術により作製された機器を指す。メカトロニクスを修学するにあたり、機械工学、電気電子工学に加え、ソフトウェアによる制御やシステム全体の設計、運用などの幅広い知識が要求される。そこで、本授業では、メカトロニクスの各位要素技術に関する概念を理解し、学問分野全体の基礎的な知識を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

授業終了時点において、以下に列挙する事項に関する理解を目標とする。

- 1) メカトロニクスシステムの構成と各要素。
- 2) アクチュエータとセンサの原理、種類、用途。
- 3) 機械要素の原理、種類、用途。
- 4) 電気電子回路部品の原理、種類、用途。
- 5) コンピュータ上での信号処理と計算。
- 6) 制御工学の基礎。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面式・オンラインのどちらかで実施する。

【対面式の場合】授業はスライドを使ったプレゼンテーション、板書および口述によって進められる。授業の内容が理解できているかを確認するため、各回で小テストの実施もしくは課題の出題がある。

【オンラインの場合】授業はオンラインツールを用いてプレゼンテーション（スライド）によって進められる。授業内容の理解度の確認のため、各回で課題が出される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	メカトロニクスの概要	メカトロニクスの基本概念とその意義を、実例を交えながら解説し、メカトロニクスを支える基本技術とその体系について説明する。
第2回	メカトロニクスで必要となる数学・物理	メカトロニクスにおける各要素の理解に必要な数学や物理（力学・電磁気学）について説明する。
第3回	アクチュエータの概要	メカトロニクスシステムにおけるアクチュエータの概要と分類を説明する。
第4回	アクチュエータの原理	電磁アクチュエータ、空気圧アクチュエータを代表として、これらアクチュエータの基本的な動作原理について説明する。
第5回	センサの概要	メカトロニクスシステムにおけるセンサの概要と分類を説明する。
第6回	センサの原理	複数の代表的なセンサについて、基本的な計測原理を説明する。
第7回	アナログ電子回路—受動素子	アナログ電子回路を設計する上で必要となる知識・技術を説明する。主に受動素子を用いた直流および交流回路を対象とする。
第8回	アナログ電子回路—能動素子	能動素子を用いた、特定の機能を持った回路について解説する。各種能動素子がどのような原理で機能を発現しているかを含めて説明する。

第9回	デジタル回路とコンピュータ	デジタル回路とコンピュータの基本的な構成と仕組みについて解説する。また、デジタル信号の通信方法を説明する。
第10回	アナログ信号とデジタル信号の相互変換	センサ・アクチュエータで使われるアナログ信号と、コンピュータが扱うデジタル信号がどのように変換されるかについて説明する。
第11回	機構の基礎	機構を構成する機械部品について、その種類と仕組み、用途について説明する。
第12回	機械の設計	機械部品の組み合わせにより、機械的なシステムを構築する手法について説明する。
第13回	制御工学の基礎	制御の基本概念、フィードバック制御の意味、古典制御理論と現代制御理論の違いと特徴を説明する。
第14回	システム設計と開発の事例 まとめ	各種メカトロニクスシステムの応用事例・最先端の研究例などを紹介する。また総まとめとして、学習範囲の要点を再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校レベルの物理学（特に、力学、電磁気学分野）を復習して初回授業に臨むとより深い理解が可能となる。

本授業では、予習・復習にそれぞれ2時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

- ・渋谷恒司「メカトロニクスの基礎」森北出版
- ・初澤毅「メカトロニクス入門」培風館
- ・見崎正行／小峯龍男「よくわかるメカトロニクス」東京電機大学出版局
- ・百目鬼英雄、坪井和男「小形モータ入門」オーム社

【成績評価の方法と基準】

平常点および授業中の小テストもしくは課題の評価を40%、期末試験もしくは最終課題の評価を60%として総合評価点を算出して評価する。総合評価点を100点満点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義の進行（板書等）が早いために理解が追いつけなくなることが無いよう、説明などの時間を多く取るとともに、講義外の時間でも質問を受け付けることができるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

筆記具とノート
パソコン

【その他の重要事項】

メカトロニクスに関する研究に従事している教員が、実際にメカトロニクスシステムを構築するために必要な技術を紹介しながら講義を進める。オフィスアワーとして、授業終了後に教室で質問を受け付ける、または随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Mechatronics, a term synthesized from mechanics and electronics, signifies the technology employed in the creation of devices distinguished by their exceptional flexibility and reliability, realized through the integration of these fields. It requires expertise in both the techniques for producing such devices and the resulting products. Proficiency in mechatronics demands a comprehensive knowledge spectrum, encompassing mechanics, electronics, and an in-depth understanding of software-oriented control, comprehensive system design, and functional principles. As a result, this course is structured to enhance understanding of the basic concepts that underpin each component technology within mechatronics and to nurture an elementary comprehension of the wider academic discipline.

[Learning Objectives]

By the end of the class, students should understand the following topics:

- A) The components and elements of mechatronic systems.
- B) Principles, types, and applications of actuators and sensors.
- C) Principles, types, and applications of mechanical elements.
- D) Principles, types, and applications of electrical and electronic circuit components.
- E) Signal processing and computation on computers.
- F) Fundamentals of control engineering.

[Learning activities outside of classroom]

Students are encouraged to review high school level physics, particularly in mechanics and electromagnetism, before the first class to facilitate a deeper understanding. It is necessary to dedicate 2 hours for both preparation and review per class.

[Grading Criteria /Policy]

The overall evaluation will be calculated as follows: 40%for regular assessment points and short exams or assignments during the class, and 60%for the final exam or the last assignment. The total evaluation score will be out of 100 points, with a passing grade set at 60 points or above.

ELC300ND（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300）

システム工学

森 健一郎

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システム工学は、システムを成功裏に実現するための複数の分野にまたがるアプローチおよび手段である。1つのシステムは様々な要素と要素間の関係によって構成され、異なる工学分野の集合体といえる。現代では、情報通信、生産、流通、電力、ガス、水道、航空、宇宙、鉄道、金融、会社組織などの大規模システムなしでは、私達は到底生きていくことができない。

これらのシステムを実際に設計・構築するためには、要求定義に始まり、ハードウェア設計、ソフトウェア設計、構築、検証などのステップを踏んでいき、ようやくシステム運用の段階となる。いくつかのステップをシステマチックに進めていくためには、そのシステムのモデルを作成し、科学的手法を活用できる高度な能力が求められる。学術・産業界の両方で求められているのは、日本のSociety5.0, ドイツのIndustrie4.0, Digital Transformation, Digital Twins, Cyber Physical SystemsなどのSystem of Systemsを、一から設計し構築できる柔軟な能力である。これからの社会的要求に応え、それらの課題の解決のために、システム工学の習得は必須のアイテムと言える。

本授業では、システムを設計構築するための手順を理解し、いくつかの手法を体験することで、実社会においてシステム工学を活用するための基本を習得することを目的とする。

【到達目標】

- A. システムを設計、構築、実施・検証するための基礎的な手法を理解している。
- B. ダイナミックシステムや確率システムの数理モデルが説明できる。
- C. 図やモデリングの手法を使って、システムの構造、機能、性能などを把握できる。
- D. 実社会で使われるシステム構築のための基本的な考え方ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で実施するが、授業時間内に演習も行う。システム工学の理論は、数学や物理学を応用・展開することが多い。そこで、理解を深めるため、できるだけ具体的なシステム事例を紹介する。基礎的な手法については、演習課題を与え、簡易な実際のモデル化を体験する。演習課題を通じて、理論と実際の両面からシステムの本質をつかみ、システムを考える力を養うことができる。

システム工学では、問題を発見し、課題を設定し解決するスキルが重要である。しかし、問題に対する「正解」がないこともある。具体的な境界条件や制約条件を明らかにして、代替案を考え出し「最適解」を求めていくような基本的な演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	システム工学とは何か	複雑な人工システムを最適に設計し、構築するためには、問題を発見、課題を設定し、解決するプロセスが必要となる。それらのプロセスは、イノベーションの基本となる。なぜ、システムの視点や考え方が重要なのかを理解しよう。

2	システムの計画と評価	システム設計・構築を行うための手順、ライフサイクルマネジメントについて概要を理解する。プロジェクト計画とシステムの評価の各手法について学ぶ。 < 課題演習 (1) >
3	システムの要求定義	利害関係者の要求からシステム要求を作成し、システムの機能を分析する。システム要求では、システムが提供すべき機能と、システムが備えるべき性能、コストなどを定めることを事例で理解する。
4	システムアーキテクチャの構築	システムの機能・構造の考え方を学ぶ。目的に応じて、システムの図的な表現によってモデルを作成する。挙動については、状態遷移図を作成することにより理解を深める。 < 課題演習 (2) >
5	システムの安定性	システムを安定にする制御の基本となる考え方がフィードバック制御である。システム制御を表現するためにブロック線図とシステムの伝達関数を導入し、フィードバック制御によるシステムの安定性を解析する。 < 課題演習 (3) >
6	システム制御のモデリング	フィードバック制御器の1つとしてPIDコントローラのモデルを学ぶ。実際の倒立振り装置のシステム制御をモデリングしてみる。
7	システムの安全性	システムの安全性の概念の1つであるフェールセーフについて理解し、これを論理的・物理的なシーケンス制御システムとして設計・実装する。
8	システムの最適化	システム設計・構築において、プロジェクトリーダーは、常に問題解決を迫られる。その合理的な意思決定を支援するのが数理最適化である。その手法として連続最適化と離散最適化の計算モデルの初歩を学ぶ。 < 課題演習 (4) >
9	確率システム	様々な事象に対して、確率的なルールを定義することでモデリングする手法を学ぶ。正規分布、ポアソン分布、指数分布など各種分布の特徴や確率過程の基本について理解する。
10	統計的データ解析	Internet of Thingsによるデータ解析では、統計解析モデルが使われる。相関関係と因果関係の違いなどの基本的な考え方を学ぶ。機械学習による異常検知のモデルを事例で理解する。 < 課題演習 (5) >

11	システムの信頼性	信頼度や故障率を確率モデルで表現し、評価することを学ぶ。部品やサブシステムの構成により、信頼性を向上させる方法を理解する。
12	信頼性解析	システムの故障の原因やその影響を、システマチックに追及する方法として、FMEA、FTA、およびリスク分析の手法を理解する。 < 課題演習 (6) >
13	ネットワークの性質	ネットワークとは、ノードとリンクによって構成されるシステムのモデルである。大規模なネットワークの特徴量を抽出することで、システム全体に現れる性質が把握できる。
14	ネットワークの構造	ネットワークの局所的な性質に着目し、構造がどのように構成されているかを学ぶ。ネットワークの様々なモデルについて概観し、実社会のネットワークがどのような特徴を持つかについて理解する。 < 課題演習 (7) >

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中でいくつかの課題演習が出されるので、自分の手で書き、自分の頭で考えることで、簡単なモデルを設計したり計算してみること。授業時間内では完成しないので、提出期日までの宿題とする。（次週の授業開始時に提出。期日厳守。）

将来、皆さんが社会人となったときに、手と頭を使って考えたことは、簡単に思い出すことができるので、とても役立つ。提出された課題レポートは講師が採点評価し、フィードバックを行うことで学習をさらに深めることができる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。授業に必要な資料は配布する。

【参考書】

木村英紀著「現代システム科学概論」(2021年) 東京大学出版会
橋本、石井、小林、大山共著「Scilabで学ぶシステム制御の基礎」(2007年) オーム社
室津、大場、米澤、藤井、小木曾共著「システム工学 第2版」(2006年) 森北出版
大橋、鳥海、白山共著「システム理論Ⅱ」(2016年) 丸善出版

【成績評価の方法と基準】

1. 授業に対する意欲・態度などの平常点を重視する。平常点は、授業への取り組み姿勢や質問票の提出を反映する。
2. どのくらい理解できたのか、課題演習の得点を総合評価する。（期末試験は無し）
3. 課題は授業で配布する用紙に記入し、決められた提出日に必ず提出すること。
4. 成績評価は100点満点とし、平常点と課題演習の得点は各50%の配点とする。

【学生の意見等からの気づき】

モデリングのために数式を使うこともあるが、丁寧に、かつ、できるだけ学生にとってわかりやすいように講義をすすめていく。

【学生が準備すべき機器他】

1. パソコンでExcelやシミュレーションソフトを使うので、授業に持参すること。
2. 講義に使用するプレゼンテーション資料は、授業支援システムからダウンロードすること。

【その他の重要事項】

メーカーの研究開発・商品開発部門に、39年を超える勤務経験のある教員が、多数のシステム設計およびプロジェクトリーダーの経験に基づき講義を行う。オフィス・アワーについては、この授業の期間のみ、電子メールによる質問を受付ける。

【Outline (in English)】

Systems engineering is a multi-disciplinary approach towards the successful creation of systems. A system consists of various related elements and combines different engineering fields. In modern society, we cannot survive without large-scale systems such as information communication, production, distribution, electricity, gas, water supply, aviation, space, railroad, finance, corporate organization, etc.

In order to actually design and construct these systems, we start with the requirement definition and follow the stages of hardware design, software design, construction, verification, etc. before finally arriving at system operation. In order to systematically advance through multiple stages, it is necessary to have advanced abilities at developing a model of the system and utilizing scientific methods. Both academia and industry need flexible capabilities to design and build a system of systems such as Society5.0 in Japan, Industrie4.0 in Germany, Digital Transformation, Digital Twins and Cyber Physical Systems from scratch. Now, it can be said that the acquisition of system engineering is an indispensable item in order to meet the social demands of the future and solve those problems.

In this course, we aim to understand the procedure for designing and constructing the systems, and learn basic techniques to utilize systems engineering in the real world by practicing various methods.

The goals of this course are to A,B,C and D:

- A. Students understand the basic methods for designing, building, implementing and validating systems.
- B. Students can explain mathematical models of dynamic systems and stochastic systems.
- C. Students can use diagrams and modeling techniques to understand the structure, function and performance of the system.
- D. Students will be able to develop basic ideas for building systems used in the real world.

Final grade will be calculated according to the following process: Assignments or short reports (50%) and in class contribution (50%).

素材と機能

堀井 辰衛

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活において視界に入るモノ、実際に身体に触れあうモノを構成する材料として高分子材料は多くの割合を占め、我々の生活と切り離せない素材の一つです。広い視点で見れば私たちの身体を構成するタンパク質や、植物を構成する多糖類も高分子ですし、繊維や飲料水ボトルに使われるポリエチレンテレフタレート（PET）や蓋などのパッキンに使われるゴムも高分子です。たんぱく質や多糖から成る高分子は天然高分子の一種であり、PETやゴム（天然ゴムを除く）は合成高分子の一種です。このように、一口に「高分子」と言っても様々な種類があり、それぞれに個性があります。本講義では、高分子材料の分類と基礎的な物性について概説します。次に、様々な高分子材料（主に合成高分子）の、「実際に身の回りに使われている（実用例）」側面と、「工夫次第で使えるかもしれない（研究例）」側面について解説する予定です。

【到達目標】

素材を活用するための基礎となる工学的な知識を身につけます。どのような高分子材料が存在し、どのような物性を持ち、どのように利用されているのかを理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に座学で高分子材料に関する知識を深める。さらにR7年度より、学生同士のグループディスカッションを含むアクティブラーニングも取り入れることで、学生の自発的な高分子材料の特徴とその利用についての理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	高分子と社会との繋がり・高分子の分類と構造	高分子の簡単な歴史をひも解き、高分子の基本的な分類と構造について解説します。
2	どんな高分子があるか？	身の回りで頻繁に用いられている「汎用プラスチック、エンジニアリングプラスチック」について紹介し、それぞれの特徴について解説します。
3	高分子ってどんなもの？	熱的、力学的、光学的な性質、またどのように作られているかについて解説します。
4	高分子ってどんなもの？	熱的、力学的、光学的な性質、またどのように作られているかについて解説します。
5	機能性高分子～電気を流す高分子～	機能性高分子の一種である導電性高分子、半導体高分子について解説します。
6	機能性高分子～電気を流す高分子～	導電性高分子、半導体高分子がどのように使われるか、使われようとしているかについて解説します。
7	機能性高分子～刺激に反応する高分子～	光や熱、pHなどに反応して形を変える高分子について解説します。

8	高分子ゲル	高分子ゲルの特徴と、その実応用例、研究例について解説します。
9	生化学・医療へ貢献する高分子	生体適合性を有する高分子材料について、実応用例や研究例と共に解説します。
10	環境にやさしい高分子・関連技術	生分解性高分子など、環境保全に貢献する高分子やそれらにかかわる技術について解説します。
11	フレキシブルエレクトロニクス、関連技術、研究に関する文献調査の仕方等	本授業で紹介してきた高分子材料を用いた次世代のエレクトロニクスや関連技術に関して、主に最近の研究例について解説します。 また、このような研究を調査するための方法について少し解説します。12回以降の授業にてグループごとにスライドを用いて発表をしていただく予定ですが、スライドの基本的な作り方（ストーリー、引用の仕方など）について簡単に解説します。
12	グループワーク～テーマ策定、グループ内討論～	履修者全員を10グループに分けて各グループ内にて討議していただきます。（実際の履修者数を鑑みて人数を割り当てます。） 本授業で得た知見を活かして、各グループには高分子材料の特徴を生かした自由なテーマ設定を自発的に行ってもらい、グループ内で討論していただきます。
13	グループワーク発表会（前半）	12回目の授業で各グループで討議していただいた内容についてスライドにまとめていただき、各グループそれぞれ10分程度の発表、5分程度の質疑応答をしていただきます。（グループ1～4）
14	グループワーク発表会（後半）	12回目の授業で各グループで討議していただいた内容についてスライドにまとめていただき、各グループそれぞれ10分程度の発表、5分程度の質疑応答をしていただきます。（グループ5～7）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題や12～14回目授業のグループワークに向けた復習が必須。

【テキスト（教科書）】

教科書は基本的には授業用のスライドを用います。また、グループワークでは履修者各自でJ-Stageや査読付き科学雑誌を調査してもらうことも考えています。

【参考書】

松浦和夫、尾崎邦弘、「高分子材料が一番わかる」、技術評論社、2011。
井上和人、清水秀信、岡部勝、「基礎からわかる高分子材料」、森北出版株式会社、2015。
東信行、松本章一、西野孝、「高分子科学 合成から物性まで」、講談社、2016。

【成績評価の方法と基準】

1. グループ討議・発表 50%

13, 14 回目授業でグループワークの内容の発表を各グループに行ってもらいます。(発表10分、質疑応答5分)

発表の内容、ロジックについて評価する予定です。また、他グループの発表への質問の内容と積極性についても考慮する予定です。

2. 各講義での課題 20%

本授業は毎週2回の授業を行います。毎週課題を出しますので翌週の授業日(水曜日)までにPDF形式ファイルにて提出していただきます。(合計7課題)

3. 授業参加への貢献度 30%

【学生の意見等からの気づき】

有機化学や物理学の履修経験がなくても理解できるように、有機高分子の基礎や実応用例について取り上げる。自発的に高分子材料を理解できるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

現在のところ予定していません。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける、または随時、電子メールで質問を受け付ける。

また、担当講師は、導電性高分子インクの合成と高導電化に関する内容で学位を取得後、電気化学、人工筋肉(ポリマーアクチュエータ、アシストウェア開発)、フレキシブルセンサなどの分野で研究を進めてまいりました。そのため、高分子材料の基礎に偏った内容となります。

【Outline (in English)】

Among the materials used in various ways when handling products and services, we will learn about smart materials, which change their properties in response to external physical stimuli. Students will also learn how to use the physical properties of materials in combination with microcomputers and how to design interactions using these materials.

Students will acquire the basics to present products and services attractively using materials as a designer through practical training.

The goals of this course are to acquire basic engineering knowledge for utilizing materials, learn tools for understanding the functions of materials, learn the basics of interaction using physical properties, and learn the basics of prototyping and presentation skill.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process, Mid-term reports (20%), term-end report (80%).

MAN200ND（経営学/Management 200）

コストマネジメント

北山 一真

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業において、コストは重要な存在です。しかし、多くの人はコストに対して苦手意識があり、専門分野のため自分には関係ないと思い、思考停止に陥っています。

本講義では、難しい専門用語や専門的な計算手法の習得ではなく、いかにコストを活用し良い製品開発を行うか、よいマネジメントを行うかについて学びます。

様々な企業改革を担当している現役コンサルタントの立場から、「理論」だけでなく、実際の企業での活用方法や悩みを交えた「現実」の両側面を解説し、社会で活かすことができる実践的な学びができます。

また、コストを理解することは、ものづくりプロセスやテクノロジーについて理解することにもなり、「現場 × 経営」「プロセス × テクノロジー」「データ × マネジメント」の総合的な理解を深めることにも繋がります。

・人はなぜコストを嫌うのか？

・コストは、イノベーションを阻害するのか？

・なぜ理論どおりに活用できないのか？

・専門家の難しい言葉に言いくるめられないために必要最低限な知識とは？

製造業、IT、コンサル、起業家など、どのような立場になったとしても必要なコストの知識を、理論と現実の両方の側面から総合的に習得することを目的とします

【到達目標】

< 基礎知識 >

・コストの基本用語・基礎理論を説明できる

・コストを理解する前提となる、ものづくりプロセスとテクノロジーについて説明できる

・コスト分析に必要な基礎的な統計理論を説明できる

< 応用技能 >

・コストの視点で企業を分析し、基本的な課題抽出と対応仮説を整理することができる

・コストマネジメント手法と、ビジネス実務における阻害要因を説明できる

・コストに対して苦手意識を持たず、コストについて自ら調べることができ、コストの専門家と最低限の会話ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

学生はビジネス実務の経験はないですが、コストを意識しイメージできることは身近に存在します。それらを例題にしながら、講義で得た知識の定着を促し、今後社会に出た際に、知識や問題解決能力を活かすことができるように進めます。

授業は、各回テーマを決め、講義とグループディスカッションで構成します。毎回簡単な課題を出し、学生の理解度を確認します。

< 講義構成 >

全14回の講義の構成は、以下の3部で構成されます。

①基礎：ものづくりとコストの概要（第1回～5回）

コストとは何か？ものづくりのプロセスは？どんなコストが発生しているか？演習やグループ討議を通じて、基礎的な部分の学習を進めます。

また、ものづくり企業のIT/テクノロジーの実態や、ものづくりDXについても学びます

②基本：コストマネジメントの基本（第6回～9回）

原価計算の基本的な知識を学びます。また、ケーススタディを通じて、コストマネジメントの基本的な考え方や活用方法について理解を深めます。

③実践：コストマネジメントの実践（第11回～14回）

人はなぜコストを嫌うのか？

なぜ理論どおりに実務では活用されていないのか？

コストの活用として重要な、「予算」と「原価企画」について、ケーススタディを通じて、コスト活用方法とその難しさと学びます

（補足）「コストと財務分析」（第10回）

補足講義として、コストから少し大きな概念となりますが、Appleのキャッシュフロー戦略などを例題にし、関連する「財務分析」の基礎的な部分も学びます。

< キーワード解説 >

実務ではほとんど使わないが、知っておいたほうが良い理論も学び、概念だけは理解できるようにします。

・品質原価計算

・環境コストマネジメント

・ライフサイクル・コストニング

・MFCA

・ABC/ABM

・埋没費用/機会原価

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎1： コストの基礎	本講義の目的やコストを学ぶ意味意義を確認します。またコストにおける全般的な基礎知識を理解します ・コストはなぜ嫌われるのか ・コストは、イノベーションを阻害するのか ・コストはなぜ重要か ・コストは組織の行動を変えてしまう ・専門家以外でも、身につけるべきコストの知識とは コストを理解することは、ものづくり企業活動（バリューチェーン）を理解する必要があります。 スマホや自動車のような一般消費者向け商品を提供する企業（BtoC、MTS、企画量産型企業）を例にとり、ものづくりの活動の全体を理解します < 授業課題 > ・マーケティング・企画～開発～生産準備～調達～製造～検査～販売・出荷などのバリューチェーンを考える ・開発プロセスの特徴を考える ・生産プロセスの特徴を考える < キーワード解説 1 > ・品質原価計算
2	基礎2： ものづくりの形態 (企画量産型のバリューチェーン)	バリューチェーン解説の2回目は、一般消費者には馴染みのない、半導体製造装置や造船などの企業（BtoB、ETO、個別受注企業）を例にとりものづくりの活動の全体を理解します。個別受注企業は一般には馴染みがないですが、世の中の多くはこの個別受注企業となります。 < 授業課題 > ・引合・見積～仕様確定～設計～調達～製造～検査～立会～出荷～据付～試運転などのバリューチェーンを考える ・設計プロセスの特徴を考える ・生産プロセスの特徴を考える < キーワード解説 2 > ・環境コストマネジメント
3	基礎3： ものづくりの形態 (個別受注型のバリューチェーン)	第2回、第3回で学んだバリューチェーンに対して、どのようなコストが発生するかを理解します。 < 授業課題 > ・各プロセスで発生するコストを考える ・企画量産型と個別受注型で、コスト発生の違いを考える < キーワード解説 3 > ・ライフサイクル・コストニング
4	基礎4： バリューチェーンとコスト	ものづくりで使われているITを理解します。ITの理解は、問題点の把握や今後の生産性の向上を考える上で必要な知識です。 ものづくり企業における一般的なシステムの基礎を理解します。 ・ものづくりとDX ・CRM-PLM-ERP ・CAD/BOM/PDM
5	基礎5： ものづくりとDX (テクノロジーを知る)	

6	実践1： 原価計算の基本	コストを考える上で、「原価計算」の方法の理解が必要です。ただし、詳細な計算は、専門家(経理部や原価管理部など)に任せればよいです。そのため、基本的な用語の理解と、ざっくりとどんな計算をしているのかの概念の理解が重要となります。用語と概念を知っておけば、問題点の把握と専門家とある程度会話をすることが出来ます。 <授業課題> ・総合原価計算を理解する(家電のような大量生産品) ・等級別総合原価計算を理解する(食品のような大量生産品) ・個別原価計算を理解する(造船・大型構造物の一品生産) <キーワード解説4> ・MFCA	12	応用2： 原価企画 (概要とプロセス)	製品開発段階で、コストをコントロールする手法として重要な「原価企画」について触れます。実際にものを作る前にコストを計算の難しさや、製品競争力を高めるために必要な手法を理解します。 ・原価企画のプロセスと運用の難しさ ・原価企画に必要なデータや手法 ・原価企画と採算判断 <グループワーク> 新商品開発を題材にし、原価企画のプロセスを考える
7	実践2： コストマネジメント (原価維持・改善)	コストを用いて組織やプロジェクトをマネジメントしていく必要性を理解します。 企画量産型は、生産前のマネジメント(原価企画)と、生産後のマネジメント(原価維持/改善)の2つに分けられます。それらの特徴やマネジメントの概要を理解します <授業課題> ・コストマネジメントの3つの基本プロセスを考える ・生産後のコストマネジメント(原価維持/改善活動)を考える <キーワード解説5> ・ABC/ABM	13	応用3： 原価企画 (コストテーブル)	原価企画の中でも重要なデータの1つである「コストテーブル」について解説します。重回帰分析などを用いたコストテーブルの作成方法や活用方法を理解します。 ・コストテーブルとは何か? ・重回帰分析を用いたコストテーブルの概要 <グループワーク> 重回帰分析に基づいたコストテーブルを考える
8	実践3： コストマネジメント (原価企画)	前回に続き、コストマネジメントの理解を深めます。 <授業課題> ・生産前のコストマネジメント(原価企画活動)を考える <キーワード解説6> ・埋没費用/機会原価	14	応用4： 開発におけるコストマネジメントと意思決定	これまで学習した「予算」「原価企画」「コストテーブル」「標準原価」「CVP」「ライフサイクルコスト」などの内容を加味しながら、開発におけるコストマネジメントの全体を理解する <グループワーク> 新商品開発を題材にし、コストシミュレーション・コストマネジメント・意思決定のを考える
9	実践4： ライフサイクルコスト (期間損益とプロダクト損益)	コストも、開発・生産など製品だけで考える時代ではなく、ライフサイクルでのトータルコストを考える時代になっています。 製品出荷後の保守・サービスで儲ける時代において、ライフサイクルコストを理解します ・ライフサイクルコスト ・固定費マネジメント <授業課題> ・身近な家庭用プリンタを例にとり、ライフサイクルコストを考える			【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】 基礎的な部分から学習を進めるため、コストに関しての予備知識は不要です。講義が、「基礎→基本→実践」と、学習内容が積み重なっていきます。復習は必ず行ってください。また、次の授業につながる簡単な復習課題を出します。準備学習(復習課題)は、2時間を標準とします。 【テキスト(教科書)】 毎回の講義資料を授業支援システムを通じて事前配布します 【参考書】 必要に応じて参考図書を指定します 【成績評価の方法と基準】 授業への積極的な参加(授業課題・グループワーク課題含む) 40 % 授業の復習課題 20 % 中間テスト 20 % 最終テスト 20 % 【学生の意見等からの気づき】 特になし 【学生が準備すべき機器他】 講義テキストのダウンロード、Google クラウド、Google クラウド、Google スプレッドシートでのグループワークを実施しますので、パソコンを持参してください。 【その他の重要事項】 随時、電子メールで質問を受け付けます 【Outline (in English)】 Cost management is important for businesses. In this lecture, you will learn how to use costs effectively for good product development. You can learn basic terminology and basic theory about cost. You will also learn various cost management methods such as target-costing and lifecycle cost management. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution.(40%), Group Work Reports(20%), Mid-term examination (20%), and final examinations(20%).
10	補足： コストと財務分析 (企業のコスト構造)	補足的な講義として、コストが最終的にどのような財務に影響するのか? コストが最終的にどのような企業収益や財務に影響を及ぼすか企業全体の視点を持てるように理解を深めます。 ・なぜ黒字倒産が起きるのか? ・債務超過とは? ・安全性・収益性とは? <授業課題> Appleのキャッシュフロー戦略を参考にした財務分析を行う			
11	応用1： 予算と採算判断	予算は、それを達成できるか/できないかで、自分の評価に直結するため、非常に重要な仕事の1つとなります。予算の算出方法、納得性の高い予算のあり方などについて理解します。 ・期間別の予算と、製品開発段階で考える予算 ・予算の計算ロジックからくる歪み ・予算と標準原価 ・CVP分析と直接原価計算 ・製品別予算と開発の意思決定 <グループワーク> トヨタ自動車の予算(目標原価割付)を参考にした、平等感をもった予算のあり方を考える			

MEC300NA（機械工学 / Mechanical engineering 300）

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力

○

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。

品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（１）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（２）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。

12	品質管理の考え方（１）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（２）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山翼子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点：40%、演習レポート：60%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

MEC300NA（機械工学 / Mechanical engineering 300）

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのものの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。

品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。

課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山禊子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。

（平常点：40%、演習レポート：60%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

- ・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
- ・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management. [Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

MEC300NA（機械工学 / Mechanical engineering 300）

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのものの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。

品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。

課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山禎子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。

（平常点：40%、演習レポート：60%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

- ・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
- ・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management. [Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

SSS300ND（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

プロジェクトマネジメント（SD）

川村 武也

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簡易な機械電気システムをチームで作りに上げていく過程を想定して、演習も行うことにより、学生がプロジェクトマネジメントおよびシステム工学の大まかな枠組みと主要な技法とを理解し、大学院進学後の研究開発活動や就職後の実務でも役立てられるようになることを目指す。

【到達目標】

学生が、デザイン工学におけるプロジェクトマネジメントの必要性和プロジェクトマネジメントの枠組みとを理解できるようになり、大学での学びや就職後の実務においてプロジェクトに積極的に参画あるいはリードしていけるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

この講座は2コマ/回 x7回=計14コマで構成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	システム工学とプロジェクトマネジメントとの関係	ある目的を達するために必要な人員、物資、資金などをかき集め、一定の期間内に成果や価値を生み出していくことが、プロジェクトマネジメントです。また、集めたヒト、モノ、カネの流れなどをモデル化してコンピュータ分析やシミュレーション等を行うことをシステム工学と言います。初回は、こうしたプロジェクトマネジメントとシステム工学との密接な関係を解説します。 第1回の後半
2	システム工学とプロジェクトマネジメントとの関係	
3	ワークブレイクダウンストラクチャー(WBS)	プロジェクトマネジメントとシステム工学をつなぐ基本的なツールと技法として、ワークブレイクダウンストラクチャー（WBS：作業分解構成）があります。第2回では、身近な機械電気製品を一から作るというケースを想定しながら、WBSを構築していく考え方、手順および検討課題を解説します。 第2回の後半
4	ワークブレイクダウンストラクチャー(WBS)	
5	プロジェクトの立上げと要求事項収集	プロジェクトを始める第一歩は目的意識を共有するメンバーを募ってチームを編成することです。第3回では、プロジェクト立上げの際に不可欠な「プロジェクトチャーター」とチャーターの中に盛り込むべき要求事項の収集方法などについて解説します。 第3回の後半
6	プロジェクトの立上げと要求事項収集	
7	プロジェクトの進捗管理とコミュニケーション管理	プロジェクトがいったん始まったら、各メンバーが極力自由に活動を進められるようにしつつ、チーム全体としての進捗を管理し、日々更新される情報を共有することが重要です。第4回は、第2回で解説したWBSを進捗管理にどう活用していくか、クラウドサービスなどを情報共有にどう活用していくかを簡単な演習も交えて解説します。 第4回の後半
8	プロジェクトの進捗管理とコミュニケーション管理	

9	プロジェクトのリスク管理	始めた時に予測しない不具合などが頻繁に起こるのもプロジェクトの特徴です。第5回は第2回で解説したWBSおよび第3回で解説したプロジェクトチャーターとをリスク管理にどう活用していくかを簡単な演習も交えて解説します。 第5回の後半
10	プロジェクトのリスク管理	
11	グループ演習	身近な機械電気製品を一から作るというプロジェクトを立ち上げて、実行し、成果発表するまでを3ないし5名程度のグループに分かれて演習して頂きます。 第6回の後半
12	グループ演習	
13	グループ演習発表	第6回で演習した結果をグループごとに発表し、他のグループからの講評を聴いて頂きます 第7回の後半
14	グループ演習発表	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当章を事前に通読して、講義中にわからない点を質問できるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

プロジェクトの概念 第2版、日本プロジェクトマネジメント協会編 神沼靖子監修、2018年、近代科学社(税込み2,750円)
講義資料はPDFで授業支援システムに事前にアップします。

【参考書】

- 1) 世界を動かすプロジェクトマネジメントの教科書、佐藤知一著、2015年、技術評論社（税込み1,958円）
- 2) NASAを築いた人と技術、佐藤靖著、2007年、東京大学出版会(税込み4,620円)
- 3) PMI Lexicon of Project Management Terms（英語29ページ） <https://www.pmi.org/standards/lexicon> よりダウンロード

【成績評価の方法と基準】

1. 授業課題の学習と理解（60%）
各授業での積極的な参加を成績評価の対象とします。
2. グループ演習の発表(40%)
グループ演習の積極的な推進、貢献および発表内容を成績評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義への積極的な参加と講義内容への質問・意見により、理解を深め、「考える力」を成長させることを目標にしています。授業内容をきっかけに、自分の意見を持つようにしてください。
授業の初めに、前回の授業で受講生から提出されたリアクションペーパーの質問や意見を取り上げ、フィードバックします。

【学生が準備すべき機器他】

WBSの演習ではエクセルファイルの使用を、進捗管理の演習ではクラウドサービスの利用を行います。これらが操作できるノートパソコンあるいはタブレット端末を各自準備して下さい。

【その他の重要事項】

種々の機械システム開発を経験したエンジニアが、基本知識の説明と自身の経験に基づいた解説や演習を行います。
授業終了後に教室で質問を受け付けます。随時、電子メールで質問も受け付けます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the general understanding of the framework, fundamental tool and techniques of the Project Management in relationship with the System Engineering which are useful for future career as a researcher and/or a practitioner.

MTL200NA（材料工学 / Material engineering 200）

マテリアルサイエンス概論

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいため、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身近にある製品に使用されている材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に着け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	30%
(D) 専門基礎学力	5%
(E) 専門知識の活用・応用能力	25%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	10%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブレ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
9	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
10	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から3Dプリンターまで
11	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
12	モビリティーに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。

13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり6～7名で10グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前にWEBを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第1回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

WEB掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】

第1回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）

13, 14回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50%

2. レポート 50%

グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティーに使われるマテリアル」の講演を聞く。講義内容で不明な点は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

1. Presentation 50%

Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes. Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.

2. Report 50%

MTL200NA（材料工学 / Material engineering 200）

マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身近にある製品に使用されている材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	銅・鋳鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
9	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
10	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から3Dプリンターまで
11	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
12	モビリティに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり6～7名で10グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前に学習支援システムの授業のページを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第1回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

学習支援システムの授業のページ掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】

第1回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）
13, 14回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50 %
グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティに使われるマテリアル」の講演を聞く。
講義内容で不明な点は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

1. Presentation 50%

Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes, Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.

2. Report 50%

MTL200NA（材料工学 / Material engineering 200）

マテリアルサイエンス概論

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身近にある製品に使用されている材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に着け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
		○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
9	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
10	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から3Dプリンターまで
11	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
12	モビリティに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり6～7名で10グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前にWEBを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第1回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

WEB掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】

第1回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）

13, 14回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50 %

2. レポート 50 %

グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティに使われるマテリアル」の講演を聞く。
講義内容で不明な点は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

1. Presentation 50%

Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes, Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.

2. Report 50%

MTL200NA（材料工学 / Material engineering 200）

マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身近にある製品に使用されている材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（**right Material for the right place.**）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	銅・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
9	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
10	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から3Dプリンターまで
11	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
12	モビリティに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり6～7名で10グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前に学習支援システムの授業のページを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第1回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

学習支援システムの授業のページ掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】

第1回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）
13, 14回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50 %
グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティに使われるマテリアル」の講演を聞く。
講義内容で不明な点は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

1. Presentation 50%

Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes, Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.

2. Report 50%

MTL200NA（材料工学 / Material engineering 200）

マテリアルサイエンス概論

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身近にある製品に使用されている材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	銅・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
9	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
10	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から3Dプリンターまで
11	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
12	モビリティに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり6～7名で10グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前にWEBを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第1回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

WEB掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】

第1回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）

13, 14回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50%

2. レポート 50%

グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティに使われるマテリアル」の講演を聞く。
講義内容で不明な点は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

1. Presentation 50%

Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes, Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.

2. Report 50%

MTL200NA（材料工学 / Material engineering 200）

マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身近にある製品に使用されている材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	銅・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
9	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
10	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から3Dプリンターまで
11	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
12	モビリティに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり6～7名で10グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前に学習支援システムの授業のページを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第1回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

学習支援システムの授業のページ掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】

第1回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）
13, 14回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50 %
グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティに使われるマテリアル」の講演を聞く。
講義内容で不明な点は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

1. Presentation 50%

Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes, Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.

2. Report 50%

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

医療福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『認知脳科学』（コロナ社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末のレポート課題（50%）で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:
In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

医療福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電氣的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電氣的現象について講義する。
4	生体計測3：電氣的計測	生体から電氣的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。

- 14 福祉・医療機器のこれから 福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイborg：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『認知脳科学』（コロナ社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

医療福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『認知脳科学』（コロナ社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末のレポート課題（50%）で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:
In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

MTL300ND（材料工学 / Material engineering 300）

素材と機能のデザイン

堀井 辰衛

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活において視界に入るモノ、実際に身体に触れあうモノを構成する材料として高分子材料は多くの割合を占め、我々の生活と切り離せない素材の一つです。広い視点で見れば私たちの身体を構成するタンパク質や、植物を構成する多糖類も高分子ですし、繊維や飲料水ボトルに使われるポリエチレンテレフタレート（PET）や蓋などのパッキンに使われるゴムも高分子です。たんぱく質や多糖から成る高分子は天然高分子の一種であり、PETやゴム（天然ゴムを除く）は合成高分子の一種です。このように、一口に「高分子」と言っても様々な種類があり、それぞれに個性があります。本講義では、高分子材料の分類と基礎的な物性について概説します。次に、様々な高分子材料（主に合成高分子）の、「実際に身の回りに使われている（実用例）」側面と、「工夫次第で使えるかもしれない（研究例）」側面について解説する予定です。

【到達目標】

素材を活用するための基礎となる工学的な知識を身につけます。どのような高分子材料が存在し、どのような物性を持ち、どのように利用されているのかを理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に座学で高分子材料に関する知識を深める。さらにR7年度より、学生同士のグループディスカッションを含むアクティブラーニングも取り入れることで、学生の自発的な高分子材料の特徴とその利用についての理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	高分子と社会との繋がり・高分子の分類と構造	高分子の簡単な歴史をひも解き、高分子の基本的な分類と構造について解説します。
2	どんな高分子があるか？	身の回りで頻繁に用いられている「汎用プラスチック、エンジニアリングプラスチック」について紹介し、それぞれの特徴について解説します。
3	高分子ってどんなもの？	熱的、力学的、光学的な性質、またどのように作られているかについて解説します。
4	高分子ってどんなもの？	熱的、力学的、光学的な性質、またどのように作られているかについて解説します。
5	機能性高分子～電気を流す高分子～	機能性高分子の一種である導電性高分子、半導体高分子について解説します。
6	機能性高分子～電気を流す高分子～	導電性高分子、半導体高分子がどのように使われるか、使われようとしているかについて解説します。
7	機能性高分子～刺激に反応する高分子～	光や熱、pHなどに反応して形を変える高分子について解説します。

8	高分子ゲル	高分子ゲルの特徴と、その実応用例、研究例について解説します。
9	生化学・医療へ貢献する高分子	生体適合性を有する高分子材料について、実応用例や研究例と共に解説します。
10	環境にやさしい高分子・関連技術	生分解性高分子など、環境保全に貢献する高分子やそれらにかかわる技術について解説します。
11	フレキシブルエレクトロニクス、関連技術、研究に関する文献調査の仕方等	本授業で紹介してきた高分子材料を用いた次世代のエレクトロニクスや関連技術に関して、主に最近の研究例について解説します。 また、このような研究を調査するための方法について少し解説します。12回以降の授業にてグループごとにスライドを用いて発表をしていただく予定ですが、スライドの基本的な作り方（ストーリー、引用の仕方など）について簡単に解説します。
12	グループワーク～テーマ策定、グループ内討論～	履修者全員を10グループに分けて各グループ内にて討議していただきます。（実際の履修者数を鑑みて人数を割り当てます。） 本授業で得た知見を活かして、各グループには高分子材料の特徴を生かした自由なテーマ設定を自発的に行ってもらい、グループ内で討議していただきます。
13	グループワーク発表会（前半）	12回目の授業で各グループで討議していただいた内容についてスライドにまとめていただき、各グループそれぞれ10分程度の発表、5分程度の質疑応答をしていただきます。（グループ1～4）
14	グループワーク発表会（後半）	12回目の授業で各グループで討議していただいた内容についてスライドにまとめていただき、各グループそれぞれ10分程度の発表、5分程度の質疑応答をしていただきます。（グループ5～7）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題や12～14回目授業のグループワークに向けた復習が必須。

【テキスト（教科書）】

教科書は基本的には授業用のスライドを用います。また、グループワークでは履修者各自でJ-Stageや査読付き科学雑誌を調査してもらうことも考えています。

【参考書】

松浦和夫，尾崎邦弘，「高分子材料が一番わかる」，技術評論社，2011。
井上和人，清水秀信，岡部勝，「基礎からわかる高分子材料」，森北出版株式会社，2015。
東信行，松本章一，西野孝，「高分子科学 合成から物性まで」，講談社，2016。

【成績評価の方法と基準】**1. グループ討議・発表 50%**

13, 14 回目授業でグループワークの内容の発表を各グループに行ってもらいます。(発表10分、質疑応答5分)

発表の内容、ロジックについて評価する予定です。また、他グループの発表への質問の内容と積極性についても考慮する予定です。

2. 各講義での課題 20%

本授業は毎週2回の授業を行います。毎週課題を出しますので翌週の授業日(水曜日)までにPDF形式ファイルにて提出していただきます。(合計7課題)

3. 授業参加への貢献度 30%**【学生の意見等からの気づき】**

有機化学や物理学の履修経験がなくても理解できるように、有機高分子の基礎や実応用例について取り上げる。自発的に高分子材料を理解できるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

現在のところ予定していません。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける、または随時、電子メールで質問を受け付ける。

また、担当講師は、導電性高分子インクの合成と高導電化に関する内容で学位を取得後、電気化学、人工筋肉(ポリマーアクチュエータ、アシストウェア開発)、フレキシブルセンサなどの分野で研究を進めてまいりました。そのため、高分子材料の基礎に偏った内容となります。

【Outline (in English)】

Among the materials used in various ways when handling products and services, we will learn about smart materials, which change their properties in response to external physical stimuli. Students will also learn how to use the physical properties of materials in combination with microcomputers and how to design interactions using these materials.

Students will acquire the basics to present products and services attractively using materials as a designer through practical training.

The goals of this course are to acquire basic engineering knowledge for utilizing materials, learn tools for understanding the functions of materials, learn the basics of interaction using physical properties, and learn the basics of prototyping and presentation skill.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process, Mid-term reports (20%), term-end report (80%).

HUI200ND（人間情報学 / Human informatics 200）

Webアプリプログラミング演習

馬場 祐人

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SNSやニュースアプリ、スマホゲームなどWeb上で提供されるサービスやソフトウェアをWebアプリと呼ぶ。常時インターネットにつながった環境が当たり前となった今、PCやスマホといったクライアントと、サーバとでデータを通じて、様々な情報を随時やり取りすることが可能である。本授業では、Webアプリの開発に必要なフロントエンドとバックエンドの技術を習得してWebアプリを開発する方法を実際に制作しながら学ぶ。

【到達目標】

本授業では、Webアプリ開発環境「Next.js」を用いて、Webアプリケーションの応用的な開発手法を学ぶ。Webアプリ開発に必要なフロントエンド、バックエンドの技術、具体的にはJavaScript、HTML、CSS、データベースエンジンに関する構成を理解し、技術を習得して、実際にプログラミングしながら実装手法を理解する。そして各自のアイディアに基づいてオリジナルのWebアプリを制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Webプログラミングに関する幅広い領域の専門用語や技術構成を適宜解説する。講義時間内で、持参したノートPCを用いて、実際に様々な機能をプログラムとして実装しながら、Webアプリの開発手法を理解する。理解度を把握するため、演習作品を提出し、最終成果物として披露してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Webアプリとは	Webアプリとは何か。どのように構成されているかを学ぶ
第2回	開発環境(Next.js, Docker)の準備	Webアプリ開発環境(Next.js, Docker)をインストールする
第3回	フロントエンドとバックエンド	フロントエンドとバックエンドの違い、それぞれの役割について学ぶ
第4回	簡単なWebアプリの開発	単純なWebアプリを制作する
第5回	バックエンド開発	バックエンドのシステム開発について学ぶ
第6回	データベースの構成	バックエンドで用いるデータベースを構築する
第7回	フロントエンド開発	フロントエンドに必要なUIデザインについて学ぶ
第8回	クライアント側の設計	Webアプリの基本となる登録アプリのフロントエンドを設計する
第9回	WebアプリのUI制作	フロントエンドとなるUIをHTML、CSS、JavaScriptで制作する
第10回	サーバ側の設計	Webアプリの基本となる登録アプリのバックエンドを設計する
第11回	Webアプリのデータベース設計	Webアプリのバックエンドで情報を記録するデータベースを設計する
第12回	Webアプリのセキュリティ	Webアプリを作るにあたって考慮すべきセキュリティの基礎対策について学ぶ
第13回	Webアプリのテスト	制作したWebアプリをテストする
第14回	最終作品発表	これまで学んだことの集大成として最終作品を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講に当たりJavaScript、HTML、CSSそれぞれのプログラミングの基礎を理解しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点(出席、講義内演習等での貢献・取り組み態度)(30%)、各授業ごとの演習課題提出(30%)、最終作品と発表(40%)を基準として、総合的に判断し評価する。
最終作品についてはプレゼンテーション形式の発表を実施する。発表は試験に相当する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケートを踏まえて、円滑な授業進行と授業の内容の改善に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC(貸与PCもしくはWindowsパソコン使用を推奨)。各自のPCに、ソフトウェアをインストールして演習を行なう。PCにソフトウェアをインストールするためにSSD/HDDの空き容量を3GBほど確保しておくこと。資料配布、課題の提出などに、授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・本講義は秋学期開講の「コンテンツプログラミング演習」の応用的な内容となる。受講に当たっては「コンテンツプログラミング演習」の受講を推奨する。
- ・プログラミング言語処理系やWeb技術に関する実務経験を有する教員の観点から、Webアプリ開発の基礎的な概念や技術要素を解説する。
- ・授業終了後時間が許す範囲で、教室で質問を受け付ける。またHoppiiに記載したメールアドレスにて質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Services and software provided on the Web, such as SNS, news apps, and smartphone games, are called web applications. Web applications communicate various information and constantly exchange data between clients such as PCs and smartphones and servers. In this class, you will learn how to develop web applications by acquiring the front-end and back-end technologies necessary for developing web applications.

Assessment will be made as follows: In-class contributions 30%, in-class-hours practices 30%, final presentation 40%.

Before/after each class-hours, students will be expected to spend an hour to understand the course content.

MTL200ND（材料工学 / Material engineering 200）

材料と構造のデザイン

武居 秀樹

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、外力の作用が構造物や機械（および部品）などの実際の「もの」に対して、どのように影響するかを理解するための基礎的知識や解析方法を学ぶ。さらに、力やモーメントの作用によって構造物や機械（および部品）がどのように変形し、内部にどのような力が発生するかを学ぶ。

【到達目標】

講義と演習をとおして、力やモーメントの釣り合いに関する原理を応用することができる能力を開発し、現実の構造物や機械部品などをデザインするための力学的解析が行えるようになるとともに安全性を評価できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義2コマ続きで1つのテーマの学習を行う。はじめに、講義資料を用いて学ぶべき内容の解説を行い、その後、講義で学んだ知識をもとに演習を行う。演習時にはヒントを出すものの、自ら演習課題を解くことで、問題を解決するためのスキルを身につける。演習課題の解答は、授業中に解説したり授業支援システムに掲載する。また、レポートについては、添削の上返却する。なお、学生の理解度に応じて、次回講義の最初に追加説明を行うことがある。

授業中の演習は、授業中に解説する。また、宿題となった課題については、回目の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	空間の力（1）	①空間における力 ②空間における合力 ③力の水平、垂直成分
2	空間の力（2）	前回の講義内容についての演習
3	空間の力の釣り合い（1）	①モーメントと外積 ②偶モーメントの合力 ③力の縮約
4	空間の力の釣り合い（2）	前回の講義内容についての演習
5	断面の性質（1）	①図心 ②断面諸量 ③断面の主軸
6	断面の性質（2）	前回の講義内容についての演習
7	材料の力学的性質（1）	①応力とひずみ ②フックの法則 ③弾性係数とポアソン比
8	材料の力学的性質（2）	前回の講義内容についての演習
9	組み合わせ応力（1）	①応力の座標変換 ②主応力 ③モールの応力円
10	組み合わせ応力（2）	前回の講義内容についての演習
11	はりのデザイン（1）	①断面力 ②断面力図 ③はりの応力度 ④はりの変形
12	はりのデザイン（2）	前回の講義内容についての演習
13	柱のデザイン（1）	①柱の種類 ②短柱 ③長柱 ④トラス構造
14	柱のデザイン（2）	前回の講義内容についての演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを用いて講義資料を事前に配布するので、各自で事前にダウンロードし、予め目を通し、下記の参考書等を用いて予習を行っておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストをpdfファイルにしたものが学習支援システムに登録されているので必要に応じてダウンロード可能である。

【参考書】

R.C.Hibbeler：Statics and Mechanics of Materials, 5/e, Prentice Hall Intl. Edition

工業力学、材料力学、構造力学、応用力学などの参考書

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題（30%） 各テーマ毎に行う演習とその課題（レポート）をとおして、基礎的な理解度を評価する

理解度確認試験（50%） 全体を通して得た知識を活用して、応用問題を解決できる能力を評価する。

演習状況（20%） 決められた時間内に演習課題を処理する能力を評価する。

ただし、出席日数が全体の2/3に満たない学生は評価の対象外(E)とする。

なお、1時間目に30分以上遅れて入室した学生に関しては、特別な理由が無い限り、その日は欠席扱いとする。

【評価基準】

履修の手引きに記載されているS～Eまでの12段階評価基準に基づく。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は添削して返却するので、指摘事項を確認し、復習しておくこと。

【学生が準備すべき機器他】

演習時に、関数電卓を使用するので、毎回持参すること。なお、携帯電話や、事務用の電卓では、計算できない課題もあるため、必ず、関数電卓を用意すること。試験の際にも関数電卓を使用する（試験の際にスマートフォンを持ち込むのは禁止）。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this program, students acquire basic knowledge and analytical methods on structural and materials mechanics in order to understand the effects of external forces on structures and machine elements. In addition, students acquire knowledge about deformation and internal forces when a load acts on structures or machine elements. (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1)Application of principles regarding equilibrium of forces and moments

2)Mechanical analysis for designing structures and machine elements

3)Assessment of the safety of structures and machine elements

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on short reports (30%), term end examination (50%), and in class contribution (20%).

PRI200NA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 40%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 20%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。
※授業中およびメールや✓シートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本的性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。

10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
 - ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
 - ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいは✓シートにて連絡する。
 - ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勤めの本は以下の通りです。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010年）
- ★統計学基礎（統計検定3級・2級対応） 日本統計学会
- ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント
テスト2：40パーセント。
課題・レポート課題：20パーセント。
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。
授業終了後に教室で質問を受け付ける。また、各回のチェックシートおよび電子メールで質問を随時受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:
In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.
Learning Objectives:
At the end of the course, students are expected to A and B.
Learning activities outside of classroom:
Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria / Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination:40%, Term-end examination: 40%, Short reports and in class contribution: 20%.

統計処理法

吉田 一星

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、新聞、テレビ、インターネットなどを通してデータに日々接しています。これらの、大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることは決して容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方について学んでいきます。

また、自然言語処理技術の研究開発の実務に携わっている講師が、現在ブームとなっている生成AIに使われている確率統計の考え方を紹介したいと思います。

例えば、ChatGPT などのように人間と自然な対話ができるシステムの背後には、大規模言語モデル（Large Language Model; LLM）と呼ばれる機械学習の仕組みが動いており、LLMを理解するためには確率統計の知識が必須です。本授業では、LLMの中で使われている確率統計の考え方を学び、LLMにできることとそうでないことを理解します。

【到達目標】

- ・データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
- ・データを解釈する方法を身につける
- ・基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
- ・確率の計算方法を理解し、具体的な計算を実施できる
- ・確率分布の概念と、その実世界への応用の方法を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。統計を直感でなくデータに基づいて議論するための、最低限必要な確率の定義やその使い方を丁寧に解説します。その確率の言葉を使って、観測したい現象を数値データとして表現し分析するための統計的な道具を、多くの具体例に適用します。

数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。

授業は講義と演習から成ります。学んだ内容を具体的な問題に適用して解く計算の時間が、ほぼ毎回あります。授業の終わりには、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価の対象ではありませんが、次の回以降の授業は宿題の理解を前提として進めますので、次の回までに必ず自分で解いてみて下さい。

中間試験・期末試験とその他の課題のフィードバックは、主に学習支援システムを通して行います。また、みなさんからの質問・コメントに対する解説・補足を授業内で随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとデータの理解方法1	授業の進め方についての説明・数値データの可視化・度数分布表とヒストグラム
第2回	データの理解方法2	データの代表値とその性質
第3回	データの理解方法3	散布図と相関係数
第4回	データの理解方法4	回帰分析
第5回	確率1	確率の定義
第6回	確率2	確率の様々な計算方法
第7回	中間試験	中間試験
	確率3	条件つき確率
第8回	確率4	条件つき確率 ベイズの定理
第9回	確率分布1	確率変数と確率分布
第10回	確率分布2	期待値と分散
第11回	確率分布3	二項分布
第12回	確率分布4	連続型確率変数と正規分布
第13回	確率分布5	確率分布の応用
第14回	期末試験	期末試験
	AIへの確率分布の応用	大規模言語モデルの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。毎回の授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価には使用しませんが、本授業のそれぞれの回は前回までの宿題の内容の理解を前提として進めますので、自分の理解度に応じて必ず自習して下さい。また、わからない点をそのままにせず、自分で調べても不明な場合は教員に積極的に質問して下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しません。講師が作成した資料を使って授業を行います。

【参考書】

以下の参考書をお勧めします。
"経営・商学のための統計学入門 直感的な例題で学ぶ", 竹内広宜著, 講談社, 2021.

この他に参考となる資料は、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う中間試験と期末試験の結果を元に総合的に評価します。配点の目安としては、中間試験30%、期末試験70%となります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

その授業で学んだ内容に関連する現実世界のトピックを紹介する「コラム」が毎回好評ですので、到達目標のための学習時間を確保しながらできるだけコラムを継続したいと思います。

また、授業で扱う数式の練習量が従来の宿題では足りないというアンケートの声を受けて、今年は宿題の練習問題の量を増やします。ただし宿題は成績評価には使用しませんが、自分の理解度に応じて必要なものに取り組んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】

講義時間で演習を行います。電卓がないと計算できないような問題は演習内では扱いませんが、授業に電卓などの情報機器を持ち込んでも構いません。ただし試験（中間試験・期末試験）での情報機器の持ち込みは不可です。

【その他の重要事項】

担当教員は、情報科学技術、とくに人工知能（Artificial Intelligence; AI）の研究開発を行う企業に所属しており、自然言語処理・機械学習分野に関して新技術の開発や製品化の実務経験を有しています。

例えば、ChatGPT などのように人間と自然な対話ができるシステムの背後には、大規模言語モデル（Large Language Model; LLM）と呼ばれる機械学習の仕組みが動いており、LLMを理解するためには確率統計の知識が必須です。本授業では、LLMの中で使われている確率統計の考え方を学び、LLMにできることとそうでないことを理解します。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our daily life, we find a large amount of data available through the internet and social media. It is often difficult to extract only necessary information from the various kind of massive data and interpret the information. Statistics is a methodology for quantifying and objectively analyzing data.

[Learning Objectives]

Students should be able to do the followings at the end of this course:

- Master basics of data visualization (graphs)
- Understand some ways of interpreting results of data analytics
- Understand basic statistical values (mean, variance, correlation coefficient, etc.)
- Understand basic knowledge of combinatorics and probability, and apply it to concrete calculation
- Understand the notion of probability distribution and its application to real world problems

The lecturer has practical experience in research and development of generative AI, especially large language models (LLMs). He will introduce how probability and statistics are used in LLMs to generate natural language responses to queries by a human user.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to complete homework after each class meeting. A typical time for the homework and to understand the course content after a class meeting is two hours.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (30%) and Term-end examination (70%).

HUI200GA (人間情報学 / Human informatics 200)

システム論

甲 洋介

サブタイトル：人の営みと文化を捉える、システムという考え方
配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● あなたの身近な『システム』たち

コンピュータやSNSばかりがシステムではない。私たちの生活はたくさんの『システム』に囲まれている。電子マネーやオンラインショップがシステムという説明は頷けるとしても、家族や社会、国際食糧支援、チームスポーツ、コンビニもシステム、と云われたらどうだろうか。

● 『家族』もシステム？

暮らしや社会の意外な仕組みが、広い意味でのシステムとして、私たちの文化の中に様々な形態で組み込まれている。交通にしても、家族にしても、多国籍関係にしても、うまく機能している間は人々は気づかない。その仕組みがシステムとしてうまくはたらかなくなった時に問題は顕在化する。

● 「システムという考え方」を学ぶ

本講義を通じて、最初は複雑すぎて捉えられない事柄も、「システムという考え方」を用いて整理し、自分で系統立てて捉えることができるようになる。

システムとは何か。文化の中の様々な物事をシステムとして捉えることによって、考え方が変わる。

本講義では、暮らしの中の身近な例や、システムとして意識したことがない意外な例を取り上げながら、それがどのような意味でシステムなのか、解きはぐしていく。複雑な事柄も複数の構成要素が巧みに関係し合った現象として、理解が進む。対象の本質を浮かび上がらせ、改善策の考案へとつなげる。これを練習する。

● システムから世の中を見ると、いろいろな事が見えてくる

人が作ったモノだけでなく、『家族』や『社会』も一種のシステムである。たとえば『家族』とは何か、家族が家族でいようとする目的は何か、なぜ現在の形態になっているのか、一度は考えたことがあるかもしれない。あるいは、差別や階層など、他と区別するための概念が新たに生まれたり、消滅すると何が変わるのか。システムとして捉え直すと、それが社会の営みに対するquestionsを整理し、明確化することにもつながる。

社会にはさまざまな形でシステムが埋め込まれている。その様態は常に変化している。そして、そこにはシステムとしての役割の変化がある。それらが発見する作業は面白い。なぜならその変化は、人間が暮らし方を変革してきた足跡そのものだから。

【到達目標】

- ・まずシステムの基本的な考え方を学び、要点を理解できるようになる。
- ・次に、簡単な事例であれば、「システムの考え方」を用いて、問題を解きほぐしながら複数の視点から分析し、自分なりの答えを「系統立てて」導く方法を組み立てられるようになる。
- ・本講義を終える頃には、社会の、またはあなたが着目する一見複雑に見える問題に対し、その問題を捉えやすく整理し直し、システムの考え方を用いて、自分なりの答えを系統立てて考えられるようになる、ことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

概ねつぎの流れに沿って各回の授業を構成する。

- (1) 前回のコメントシートを踏まえた解説、ディスカッション（約15分）
 - (2) 講義形式で、題材を提示し、考え方・いくつかの視点を解説（65分）
 - (3) 小課題を演習し、質問応答、コメントシート作成（20分）
- 講義と小課題の演習を組み合わせる。授業冒頭(1)で前回をおさらいし、受講生のコメントシートを踏まえた解説で理解の深化を促し、各回の講義(2)につなぐ。各自の内容理解を小演習(3)で確認し、コメントシートとして提出する。この対話サイクルで授業を進める。

授業中の討議を通じて、他の意見を認めつつ自分のオリジナルな考えをまとめ、他者が理解できるよう論理的な説明を練習する。その成果を期末レポートで確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	システムは難しい。本講義の狙いと、進め方
第2回	システムは、あなたの身近にある	システムとはどのようなものか
第3回	暮らしの中のシステム	暮らしの中にある、様々なシステム

第4回	システム、という考え方	システム思考の基礎。複雑そうな事を、要素の間の関係性として捉え直してみる
第5回	大きな視野から、システムの要素を整理し、働きを分析する	システムの成果物、インプット・資源、環境条件、環境への副次的影響、の整理
第6回	人間の行為を、システムの視点から理解する	気まぐれに見える人間の行為も、システムから捉えると
第7回	システムの信頼性、可用性を高める	故障しないモノはない。しかしシステムのデザインを工夫すれば、信頼性、可用性を高められる
第8回	人と道具のシステム論 －文房具から宇宙旅行まで	人が何か目的をもって道具を使う、その状況をシステムとして捉えてみよう
第9回	社会というシステム ～個人から社会へ（パースンズの理論）	社会は複雑に見える。社会をシステムとしてどう捉えるか
第10回	社会のシステム論(1) －ルーマンの理論	オートポイエーシス概念を用いて、社会システム論を説明する
第11回	社会のシステム論(2) －コミュニケーションの連鎖	ルーマンは、社会の複雑さや『分化』をどのように捉えるか
第12回	社会や文化に埋め込まれたシステムたち	人の住まう都市、地域コミュニティの生活を、システムとして再検討する
第13回	システムダイナミクス	システムダイナミクスを用いて、複雑な社会現象を、多様な見方から捉える
第14回	まとめ：暮らしから社会へ、人間社会から環境へ	まとめ、課題について、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を兼ねて、小課題に取り組む。提出は主に学習支援システムを用いる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。社会システムの理解には、ニュースにある社会問題の背景について、自分で考える日頃の習慣が役に立つ。

【テキスト（教科書）】

講義資料を提示し、テキストは使用しません。

【参考書】

- ・知恵の樹 ― 生きている世界はどのようにして生まれるのか（マトゥラーナ著、ちくま学芸文庫）1998

【成績評価の方法と基準】

- ・レスポンスシートや、授業・討議における積極的な貢献度合い（60％）、
- ・期末レポートまたは期末試験（40％）

で総合的に評価します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。基本事項の理解、記述の明確さ、答えを導くまでの論理性、必要に応じて多角的な視点から考察すること、が重要です。

【学生の意見等からの気づき】

「込み入った話になると難しい」との意見がありました。例示を増やし、分かりやすく解きほぐすことを心がけようと思います。

【関連科目】

「道具のデザイン」「文化情報空間論」と直接的に関連しています。また国際社会、表象文化の専門科目の基礎としても役立つように工夫されています。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn basic principles of "System" theory.

By the end of the course, students should be able to practice basic principles of "Systems Thinking," and to re-examine some selected social issues by applying the methods of "Systems Thinking".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (40%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (60%).

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

デジタル情報学概論

重定 如彦

サブタイトル：デジタル社会を生き抜くための基礎知識

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ITを過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。

デジタル情報化社会、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとにITの本質を明確にし、わかりやすく述べる。

この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。

情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】

デジタルとは何かについて理解する。

デジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。

デジタル情報化社会及び、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解する。

現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するため、教科書である「デジタル情報学概論」の内容をもとにデジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。授業の前半ではデジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。

具体的にはまず「デジタルとは何か」から始まり、デジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、デジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。

次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうデジタル技術について解説する。

各回の講義はPowerPointと教科書を用いて行う。PowerPointの資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。

おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でてくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業の導入とデジタル	デジタルとは何か 情報の符号化
2回	情報の伝達	デジタルの利点と欠点 インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛星を使った通信
4回	安全な通信と暗号その1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要
5回	安全な通信と暗号その2	共通鍵暗号と公開鍵暗号 安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局
6回	デジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTMLとXML

7回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10回	デジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型デジタルコンテンツ 電子出版
11回	電子報道、電子図書館、デジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 デジタルアーカイブ
12回	3次元CG、デジタルマップとGIS	3次元GC デジタルマップとGIS
13回	サイバービジネス、ユビキタスコンピューティング	電子商取引 電子マネー・電子商取引のセキュリティ ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタスID
14回	人工知能、データサイエンス	人工知能、データサイエンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用するPowerPointの資料（学習支援システムで配布する）

【参考書】

奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/sigesada/>

いくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点10％、期末試験50％、レポート40％

「評価基準」

平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。

期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとうわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。

また、2013年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPointを使って資料を提示しながら授業を行う。

【その他の重要事項】

生成AIを補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用したレポート課題の提出は認めない。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.

Students are expected to download the materials in the learning support system and prepare for and review them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

Normal score: 10%, Final exam: 50%, Report: 40%.

Grading Criteria

Normal scores will be based on your active participation in class, including questions.

Reports are to be submitted by the deadline (the first class day after the winter break), as the theme will be explained in the class before the winter break.

The final exam will be a written exam. The scope of the exam will be the scope of the class. Students who achieve at least 60% of the objectives of this class based on this grading method will be considered to have passed the class.

FR1200GA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

文化情報学概論

森村 修

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：情報倫理学
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という学問の「入門（introduction）」にあたる科目です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出したり、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したりすることを目指します。

2025年度の本授業では、「〈ヴァーチャル社会〉の文化哲学」というテーマで、現在の情報社会を〈ヴァーチャル社会〉として位置づけ、そこで生ずるさまざまな文化事象について哲学的に考察することから「文化情報学」にアプローチしていきます。

本授業で取り上げる〈ヴァーチャル社会〉は、哲学者・大黒岳彦氏（明治大学教授、1961-）の著書によって主題化されており、ここでは「ヴァーチャリティ（Virtuality）」をめぐって具体的なテーマが取り上げられています。例えば、「モード」、VR（Virtual Reality）、監視社会、メタヴァース、生成AIなどです。本授業では、これらに加えて、メタヴァースの議論から派生した「VTuber学」や「VTuberの哲学」まで視野に入れて〈ヴァーチャル社会〉の文化哲学を考えていきます。

【授業の目的】

本科目では、「〈ヴァーチャル社会〉の文化哲学」に関する大黒氏のテキストを読むことを通じて、現在の情報社会で生じている文化事象について考えていきます。

【授業の意義】

本科目の意義は、「文化情報学」を構築するにあたって、私たちが、「いかにして〈ヴァーチャリティ社会〉を生き抜くか」という実践的な問いについて、各自が自らの生き方を反省的に考察することにあります。

【到達目標】

- (1) 本科目の到達目標は、現代社会を〈ヴァーチャル社会〉として捉えることによって、現代の情報文化の中で、私たちがどのように〈ヴァーチャリティ〉と関わっていくかを考えるを身につけることを目指します。
(2) 情報哲学のテキストを哲学的に読むことができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行います。

- (1) テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みます。
(2) 受講生各自の授業内容に関する理解を確認するために、リアクションペーパーを用います。
(3) リアクションペーパーの内容について、ディスカッションすることも考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意点 ・授業概要説明
第2回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(1)	0. はじめに a. 情報社会とは何か b. ヴァーチャル社会の変容

第3回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(2)	1. アマゾン・ロジスティクス革命と「物流」の終焉 a. アマゾンは何を変えたか b. 「流通」の社会哲学
第4回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(3)	2. 「モード」の終焉と記号の変容 a. モードの歴史的展開 b. モードから記号へ
第5回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(4)	3. 情報社会の〈こころ〉 a. 「引きこもり」から「コミュニケーション」へ b. 「社会幻想」と情報社会の〈こころ〉
第6回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(5)	4. 身体データとコントロール社会 a. 情報社会と監視 b. 身体と監視 c. 監視社会からコントロール社会へ
第7回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(6)	5. VR革命とリアリティの転換 a. VRの技術的次元 b. VRの社会的次元 c. VRの思想的次元
第8回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(1)	6. 〈情報的世界観〉とは何か
第9回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(2)	7. ウェーバー社会理論の深層構造と社会の〈自己記述〉 a. ウェーバー社会理論とは何か b. ウェーバーの社会構成プログラム
第10回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(3)	8. アクターネットワーク理論と社会システム論 ・ラトゥールのアクターネットワーク理論とは何か
第11回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(4)	9. メタヴァースと〈ヴァーチャル社会〉① a. メタヴァースとは何か b. 〈ヴァーチャル社会〉とは何か
第12回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(5)	10. メタヴァースとヴァーチャル社会② a. VTuber学とは何か b. VTuberの哲学
第13回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(6)	11. 生成AIによる〈情報的世界観〉の開示 a. 生成AIの社会的本質 b. 〈情報的世界観〉
第14回	まとめ	これまでの授業の総括——〈ヴァーチャル社会〉を生きるとはどういうことか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ① 大黒岳彦『ヴァーチャル社会の〈哲学〉——ビットコイン・VR・ポストトゥルース』、青土社、2018年
② 大黒岳彦『〈情報的世界観〉の哲学——量子コンピュータ・メタヴァース・生成AI』、青土社、2023年

【参考書】

- ① 金光秀和／吉永明弘編『3STEPシリーズ7 技術哲学』、昭和堂、2024年
② 岡本健 他編『VTuber学』、岩波書店、2024年
③ 山野弘樹『VTuberの哲学』、春秋社、2024年

【成績評価の方法と基準】

- (1) テキストの読解などを行うことで授業の理解度を確認する。
(2) 学期末に試験（レポート）を課すことで、授業における達成度を測る。
(3) リアクションペーパーによって、授業に対する姿勢を問う。
※ 両者の結果から総合的に判断する。
三者の配分は、下記の通り。
(1) 小テスト・リアクションペーパーによる平常点（30％）
(2) 期末試験（70％）
※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

コンピュータやタブレット（可能な限りスマートフォン）は、授業時間中に授業担当者が許可しない限り、原則として使用不可です。

・情報哲学を学ぶこと、情報機器を用いることは異なります。大学で学ぶために必要なのは五感と〈ひらめき〉（＝直感・直観）であり、情報機器は「道具」（紙と筆記用具）の延長に過ぎません。

【その他の重要事項】

【注意点】

(1)「文化情報学」とは、狭い意味での「情報学（informatics）」や「情報科学（information science）」ではありません。。

・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、「文化情報」の「学」を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。

(2) 私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思います。

【注意点】

・概論としては内容も含めて授業は極めて難しいです。それゆえ、大人数にはならないとは思いますが、今流行りのVtuberなどに言及するからと言って、興味本位だけの人は、なるべく参加をご遠慮ください。

・受講生数が多い場合は、教室のキャパシティとは無関係に初回に選抜テストを実施します。受講希望者は、初回の授業に必ず出席してください。

・議論は大いに推奨しますが、仲間同士の「私語」は厳禁です。居眠りは「受講拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course is an “introduction” to the study of “Informatics of culture” proposed by the Faculty of Intercultural communication. “Informatics of Culture” is the study of various cultural phenomena as cultural information.

In the 2025 academic year, under the theme of “Cultural Philosophy of Virtual Society,” we will position the current information society as a “virtual society” and approach “Informatics of Culture” by philosophically examining the various cultural phenomena that arise in this society.

The “virtual society” discussed in this class is the subject of a book written by philosopher Takehiko Daikoku (Professor at Meiji University, 1961-), in which he discusses specific themes related to “virtuality”. For example, “mode,” VR, surveillance society, metaverse, generative AI, and so on.

In this class, in addition to these, we will consider the cultural philosophy of “virtual society” with a view to “Theory of Vtubers” and “Philosophy of Vtuber,” which are derived from the discussion of metaverse.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to examine a theory of visual culture.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%

FRI200GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

情報産業論

今和泉 仁

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

現代生活において、情報産業やメディア産業は非常に重要な役割を担っている。また情報産業は、高度に技術革新することにより、常に変化し続けている。これらの構造や課題、将来を理解することは、消費者やビジネスマンとして、技術や市場トレンドの動向に対応して、より良い判断をするために重要である。本講座では、メディアを中心とする情報産業における産業構造、ビジネスモデル、問題点、未来の展望などを理解することを目指す。授業の中では、業界トレンド、テクノロジーの進化、市場動向、企業戦略などについて学習することができる。

【授業の目的（何を学ぶか）】

1. メディア産業の変遷と現状：過去から現在までのメディア産業の変遷を追う、現在のメディア産業の状況を理解する。
2. メディア技術の変革：情報技術の進歩によって、メディア産業にもたらされた影響と、それによって変革されたメディア技術、その光と影について理解する。
3. メディアビジネスモデル：新たなメディア技術に伴い、メディアビジネスモデルが変革していることを理解する。また、有料・無料・広告収入などのメディアビジネスモデルの種類と特徴について学ぶ。
4. メディア業界のグローバル化：メディア産業はグローバルな市場を持つようになっており、欧米におけるメディア産業の状況と、国内市場に与える影響、各国間でのメディアの共有・流通に関連する課題について理解する。

【到達目標】

下記の各項目についてデジタル技術がもたらしたメディア産業全体への変化を理解する

- 4K/8K、HDR、VoIP、クラウド・プロダクションなどの放送を変革する技術動向への理解
- CES、MWC、NAB、IBCなどの海外見本市からメディア関連産業がどのように変容しようとしているのかについての理解
- OTT、SVOD、AVOD、FAST、D2Cなどの新しいメディアビジネスモデルの理解
- NetflixやDisney+などの欧米のメジャープレイヤーとTVerやAbemaなど国内の事業者の現状への理解
- 生成AIがメディア産業にもたらす変化と社会への影響についての理解
- IoT、自動運転、Smart Cityなど、情報技術の革新がもたらす社会の変化についての理解
- インターネットによるメディア産業への負の影響としての違法配信とその対策についての理解
- 地球温暖化対策が求められる中でのメディア産業の対応の状況と将来の課題への理解
- 放送事業者にとってのdigital-firstとは何か、放送の将来像への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業については対面授業を基本とし、基本的に、コロナ禍対策（消毒およびソーシャルディスタンスの確保等）を講じた上で、プロジェクターを使用してPCでのスライドや動画を活用します。題材は、国内外の最新情報を元に、適宜、インターネットの外部サイトに接続して具体的な事例を紹介しします。ただし第1回講義は講師が米国ラスベガスで開催されるメディア関連見本市NAB2025参加のため対面授業ができないので、オンデマンド授業とします。講師はCES（米国ラスベガスで1月開催）、IES（スペイン・バルセロナで2月開催）Mobile World Congress（スペイン・バルセロナで3月開催）、NAB（米国ラスベガスで4月開催）、IBC（オランダ・アムステルダムで9月開催）、CEATEC（日本・幕張で10月開催）、InterBEE（日本・幕張で11月開催）などの国内外で開催されるメディア系見本市で取材した最新動向、海外のスタートアップ企業への取材結果など、他では得られない生の情報を紹介しします。一方的に情報を伝えるだけでなくできるだけアクティブな授業としたいので、毎回、授業後に感想や質問をメモで提出してもらい、それについて次の授業冒頭で答えていく形を基本とします。また、例年5月末に開催されているNHK放送技術研究所（世田谷区砧）の一般公開に各自参加してもらい、持ち出し授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	デジタル技術とメディアの変遷	自己紹介を兼ね、講師が担当した様々な放送・メディア関連事業からメディアの変遷やトレンドの全体像について触れ、講座全体を概観する（この回のみオンデマンド授業）
第2回	放送事業を変革する最新技術の理解	4K/8K、HDR、VoIP（Video over IP）、クラウド・プロダクション等、今日の放送事業に大きな影響を与えている技術動向を紹介
第3回	コンテンツ販売ビジネスについて知っておくべきこと	放送コンテンツの二次利用としてのコンテンツ販売における著作権処理、メディア素材の管理、デリバリー方法などについて知る
第4回	NetflixとVOD事業の構造	Netflix、Amazon Prime Video等のVOD事業の構造、変遷、トレンド、Netflixがメディア産業に与えたインパクトについて理解する
第5回	Connected TVとFASTチャンネル	Connected TVとは何か？ FASTとは何か？ メディア業界で始まっている新しいビジネスモデルと変わる広告マーケット
第6回	放送はこれからどう変わっていくのか	英国ではBBCなどの放送局が電波による伝送からネットオンリーの伝送へ移行しようとしている。放送事業はこれからどうなっていくのか
第7回	NHK技研公開持ち出し授業	5月下旬に開催されるNHK技研公開に各自参加し、そこで見たものについてレポートを提出
第8回	国内外のメディア関連見本市から①	最新エレクトロニクス展示のCES2025とモバイル技術展MWC2025、及びCEATEC2024から
第9回	IoTと自動運転、スマートシティ	モノのインターネット（IoT）技術や自動運転技術などで未来の都市はどう変わっていくのか
第10回	バーチャルプロダクションの世界	撮影時のCO ₂ 排出量削減に寄与するバーチャルプロダクションとは？ その背景技術とトレンドを紹介。
第11回	国内外のメディア関連見本市から②	欧州の放送機器展（IBC2024）と米国の放送機器展（NAB2025）およびInterBEE2024から
第12回	メディアビジネスとAI	ChatGPTやBard、DALL-EなどのAIがメディアビジネスに与える影響
第13回	メディア産業のネットゼロ対策	コンテンツ制作時における温暖化ガス排出量削減を図るための諸外国の取り組みと日本の現状について紹介
第14回	ストリーミングによる負の影響・違法配信の実態と対策	日本の放送が海外でも視聴できてしまう・著作権を無視した違法配信の実態と、それに対する対策について紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、ネット情報などに常に興味を持ち、直接触れることと合わせ、国内の各メディア・サービスの状況について、実際に利用し、日常的に理解を深めておく事。授業内で答えた質問や配布する資料について復習を通して理解を深めておく事。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。毎回パワーポイントのスライドや動画を活用します。

【参考書】

テレビ番組、新聞、雑誌、書籍、インターネット上に流れている情報。TVer、Abema TVなど国内で提供されているメディア関連サービスを実際に体験しておくこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70％）、期末のレポート（30％）によって成績を評価します。レポート提出は必須です。期末レポートを提出しない場合は出席点があっても合格としません。期末レポート内容については、授業を通して得られた知識や情報をどのように理解し自分の考えにまとめているかと共に、なぜ、そのような結果になったかが分かりやすく伝わるように整理されて記載されているかを見て評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成したと判断した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

毎回講義終了後に、掲示板に授業の感想と質問を投稿してもらいます。講義から1週間以内に投稿があった場合、出席とみなします。感想や質問については、基本的に次の授業冒頭に取り上げ、質問内容に答えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、NetflixやAmazon Prime Videoなどの有料サービスに体験加入して見ることをオススメします。

【その他の重要事項】

実務家教員による授業

NHK及びNHK関連会社で放送・インターネット等のメディア業界で長年勤務してきた教員が実際に担当した業務や経験・知見からメディア産業の現状について解説する

パワーポイントのスライドや動画を多用し、出来るだけ分かり易くビジュアル化した授業とする予定

【Outline (in English)】

【Course outline】

The information and media industries play a very important role in modern life. In addition, the information industry is constantly changing due to high levels of technological innovation. Understanding their structure, challenges and future is important for making better decisions as consumers and business people in response to technological and market trends. This course aims to provide students with an understanding of the industrial structure, business models, issues and future prospects in the media and other information industries. During the course, students will learn about industry trends, technology evolution, market trends and corporate strategies.

Objectives of the class (what you will learn).

- 1.The evolution and current state of the media industry: to follow the evolution of the media industry from the past to the present and to understand the current state of the media industry.
- 2.Understanding the impact of advances in information technology on the media industry, and the ways in which media technology has been transformed by these advances, its lights and shadows.
- 3.Media business models: understand how media business models are being transformed by new media technologies. Also, learn about the types and characteristics of media business models such as paid, free and advertising revenue.
- 4.Globalisation of the media industry: the media industry has become a global marketplace, and students will understand the state of the media industry in Europe and the US, its impact on domestic markets, and issues related to the sharing and distribution of media between countries.

【Learning activities outside the classroom】.

To deepen your understanding of the current development of media services on a daily basis by always being interested in newspaper, television and internet news sites. To deepen your understanding by revising the questions answered in class and the materials distributed. The standard study and revision time for each lesson is 2 hours.

【Grading Criteria /Guidelines】

Grades are determined by class attendance (40%), number of questions submitted per class session (10%), a short report on the NHK Science & Technology Lab Open House (10%), and an end-of-term report (40%).

FRI200GA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

ネット文化論

神戸 雅一

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットがスマートフォン等のデバイスとともに発展し、我々の生活スタイルは大きく変化しています。このような社会を「ネット社会」と呼びます。ネット社会の特性とその本質を理解することは、現代社会の動向に対して主体的に活動するために重要です。本講義では通信ネットワークやコンピュータスマートフォンを基盤とするインターネットの仕組みや歴史、その特性について扱います。また、ネット社会における、価値観、経済活動、合意形成、それを支える情報システムの重要性、知的財産権、プライバシー、倫理、技術について講義します。こうした内容を理解し、ネット社会を構築する文化についての多面的な思考を深めていきたいと思います。

本講義が対象とする領域は、極めて変化が激しいものです。社会的・技術的な課題も日々発生します。こうした課題に対する正解は必ずしも存在するわけではありません。したがって本講義は単なる知識の獲得のみを目的としません。社会で生じている事象の本質を捉え、自らの視点で解釈し、日常活動に対する思慮を深めることを主な目的とします。

【到達目標】

日々変化をするネット社会のなかで合理的な行動を行うために、自らにとって重要な情報の選択基準を持続的に構築する考え方の習得を目標とします。また、講義で扱われるネット社会の事例に対し、受講者自らの意見を論理的に説明することや課題を設定し解決案を検討することも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、対面で実施します。感染症の拡大などあった場合にはリアルタイムオンライン講義を実施することもあります。ネット文化に関する話題をプレゼンテーション形式で紹介します。プレゼンテーション形式での実施ですが、講義で紹介した話題に対し、受講者が問題意識を持って主体的に考えることを期待します。受講者からの質問については、随時受け付けます。また各回の講義の最後にも時間を設けますので疑問点や詳細に知りたい事項があれば、積極的に質問してください。

毎回の講義の開始時に、講義の内容に関連するミニレポートの題目を提示しますので、講義終了後に提出してください。講義の初めに、前回のミニレポートの内容を取りまとめ、受講者の方にフィードバックします。

期末に、ネット文化に関し自らの意見を論じるレポートの提出を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ネットワークと文化の概要	ネットワークの基礎、ネットワーク構造と組織構造等の社会事象や文化の関係について講義します。

2	インターネットとパーソナルコンピュータの歴史	現代の情報化社会を支えるインターネット技術と応用の歴史とパーソナルコンピュータの歴史について講義します。
3	無線通信とコンピュータの歴史	情報化社会の新たな発展の契機となった携帯電話を中心とした無線通信とその応用例について講義します。
4	ネットワークによる社会的価値の変化	携帯電話の普及によるネットワークの拡大のメカニズムとそれに伴う社会的価値の変化について講義します。
5	ネットワークと経済活動	インターネットの普及による経済活動の変化について、ECなどのビジネスの事例を中心に講義します。
6	ネットワーク時代の情報サービス	ネットワーク化し高度化する情報サービスの概念とその効果や課題について多面的な事例を扱い講義します。
7	ネットワークとグローバル化	ネットワークの普及がもたらすグローバル化という変化について講義します。
8	ネットワークによるグローバル化の影響	グローバル化した社会およびグローバル化後の社会における人工知能等の技術の進展の影響について講義します。
9	ネットワークによる合意形成	ネットワークによる合意形成とイノベーションについて、政策決定や、企業内の合意形成の事例を交え講義します。
10	ネットワーク時代の知的財産権	特許、実用新案等の産業財産権ならびに著作権の概要とネットワークとの関係について日常生活における事例を交え講義します。
11	ネットワークとプライバシー	プライバシー保護の制度や運用事例を紹介し、ネットワークの普及に伴い新たに生じるプライバシー問題、対策について講義します。
12	ネットワークと情報倫理	ネット社会の情報倫理の概念と、制度、技術、運用による社会秩序について、身近な事例を提示し講義します。
13	ネット文化論のまとめ	12回までの講義のエッセンスをまとめて補足説明します。
14	ネットワーク時代の金融サービス	ネットワークやAIが金融サービスに与えた影響について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回講義の際に本講義が対象とする領域および各回の講義テーマを紹介しします。各回の講義テーマに関連する事象に日常的に関心を持ち、準備・復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。ネット文化に関係するニュースやWebサイト等を日頃から関心を持って読み・聞き、そして考え、各回の講義終了時に提出するミニレポート、期末の課題に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。各回の講義に対して資料を配布します。

【参考書】

講義で紹介した内容についてさらに理解を深めたいという受講者のために各回の講義ごとに参考図書を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

期末レポートの提出を単位取得の条件とします。成績の評価基準は下記の比率に基づいて行います。

1. 期末レポート：70%
講義を通じてネット文化論に関するテーマについて、自らの意見を論理的に記述してください。
2. 平常点：15%

講義への関心、参加度を評価し平常点とします。

3. ミニレポート 15%

毎回の講義内容を理解し、講義内容に即した設問に対して、自分の意見をミニレポートに記述し提出してください。

この成績評価をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義後に提出いただくミニレポートの内容を、次回の講義の冒頭に受講者の方にフィードバックします。これにより講師と受講者のインタラクションを図るようにしています。これ以外にも講義時に質問など議論したいことがあれば可能な限り応じます。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面講義としますが、感染症の拡大などによりリアルタイムオンライン講義で実施する場合があります。そのためZoom等で講義を視聴できる受講環境をご用意ください。

【その他の重要事項】

本講義は原則として対面で実施します。対面での参加ができない場合には各回の講義で使用するプレゼンテーション資料の大半をPDFで配布しますので、それをもとに講義の内容を学習してください。

【Outline (in English)】

-Course outline

This course introduces a way of thinking to make appropriate decisions dealing with ever changing world. The goal of this course is to explain effects, problems and solutions for these problems of “information network society.”

-Learning Objectives

In order to act rationally in the ever-changing Internet society, the goal of this course is to acquire the way of thinking to continuously construct criteria for selecting information that is important to oneself. The course also aims to enable students to logically explain their own opinions on the cases of the Internet society dealt with in the lecture, and to set up issues and consider solutions.

-Learning activities outside of classroom

In the first lecture, I will introduce the areas covered in this course and the lecture themes for each session. Students are expected to pay attention to events related to each lecture theme on a daily basis, and to prepare and review for the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Please read, listen to, and think about news and websites related to Internet culture with interest on a daily basis, and reflect them in the mini-report to be submitted at the end of each lecture and in the final assignment.

-Grading Criteria /Policy

Submission of a final report is a condition for obtaining credits. The grading criteria will be based on the following ratios.

1. Final report: 70%

Please logically write your opinion on the topic of Internet culture theory throughout the lectures.

2. Ordinary points: 15%.

Students will be evaluated on their interest and participation in the lecture.

3. Mini-report: 15%.

Students are expected to understand the content of each lecture, and submit a mini-report describing their opinions on questions related to the lecture content.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class will be graded on the basis of this grading system.

ART200GA (芸術学 / Art studies 200)

表象文化概論

稲垣 立男、島田 雅彦、森村 修、LETIZIA GUARINI

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「表象文化」とは人間が様々なメディアや方法によって創造する行為、またその行為を通じて生み出されたものを指します。各講義では、演劇、音楽、非言語的コミュニケーション、建築などの領域を扱いますが、特定の分野にとらわれず芸術や文化、社会について横断的に検証していきます。それらの表現手法、歴史的変遷などを辿りながら、内包している意味、欲望、人々に与える影響などを解き明かしてゆくことを目指すのが「表象文化概論」です。

4人の教員による4分野の表象を扱いつつ、表象文化論の基本について学ぶことを目的とします。

【到達目標】

この講義は、入門科目「国際文化情報学入門・表象文化コース」からつながる学びのプロセスとなります。この講義を通じて表象文化に関する多様な考え方を理解し、各専門科目でさらに踏み込んだ研究を継続することが望ましいと考えます。各講義を通じて各自の関心のある領域で今後の専門研究が進められるように導きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回は、四名の担当教員が各自の講義について詳しく解説します。第2回～第13回までは、各担当教員が3回ずつ講義を行います。課題は各教員から出され、フィードバックも各教員から行います。第14回は応用編として、四名の担当教員がそれぞれの研究分野について紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 担当：全員	「表象文化概論」の4名の担当者全員がそれぞれの授業計画の概略と履修上の諸注意について説明します。
第2回	形式論 担当：島田雅彦	音楽、文学、哲学における形式について 起承転結、ソナタ形式と弁証法
第3回	空間論 担当：島田雅彦	想像上の空間についての考察 あの世、パラレルワールド ニッチ論
第4回	時間論 担当：島田雅彦	時制、多元宇宙論 1日はいつから始まるか？ 時間は存在しない？
第5回	食の表象（1） 担当：レティツィ ア・グアリーニ (Letizia GUARINI)	表象文化における家族の食卓 作る人/食べる人の関係性
第6回	食の表象（2） 担当：レティツィ ア・グアリーニ (Letizia GUARINI)	食と多様性 食からジェンダー・セクシュアリティやエスニシティーについて考える

第7回	食の表象（3） 担当：レティツィ ア・グアリーニ (Letizia GUARINI)	食べる/食べない 社会の眼差しと身体の表象
第8回	カメラを持って旅に出よう。 担当：稲垣立男	カメラやスマートフォンで記録。記録としての写真について、多様なテーマを通じて体験的に学びます。
第9回	スケッチブックに記録しよう。 担当：稲垣立男	スケッチブックの使い方について。スケッチブックに、様々な現象や感情などを記録をしています。
第10回	音や動きを拾うことから。 担当：稲垣立男	音や動きを追いかけることをきっかけとして、何かを始めてみます。お互いの行為や作品についてディスカッションしてみます。
第11回	現代視覚文化論①	・写真メディアの登場——視覚の変容
第12回	現代視覚文化論②	・「写真でみる」ことの様式 ・美術館という制度
第13回	現代視覚文化論③	・文化社会学からのアプローチ 1.「視覚論の転回」 2. デジタル写真の登場
第14回	表象文化概論発展編 担当：全員	四人の教員が、それぞれの研究分野について紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各担当教員が指示します。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業全体を通して用いるテキストはありません。
各担当教員が初回の講義時に指示します。

【参考書】

参考書については各担当教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

各担当者が担当回の成績を25点満点で示し、合計で100点満点で成績をつける。
平常点、課題、試験の割合や評価方法については、各教員が授業開始前までに伝える。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

担当者交代のため、該当しません。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

・初回のガイダンスにかならず出席してください。初回の授業の課題提出が選抜試験を兼ねるので、受講希望者の初回授業の出席は必須です（受講者数上限は今年度授業実施教室の収容可能人数と同数）。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: This is an introductory course of the studies of culture and representation, structured around four major units taught by four different instructors: theater, music, nonverbal communication, and architecture. It thus aims at fostering students' awareness of the wide range of the field, as well as introducing some of the basic concepts and approaches in the discipline.

・ Learning Objectives: On the basis of the skills and perspectives acquired in the 'Introduction to Intercultural Communication', students will be expected to understand various ideas of representational culture to use for further study in the advanced courses. Four instructors will help students find interesting subjects they can explore in a more specific field.

・ Learning activities outside of the classroom: Follow the instructions provided by each instructor.

・ Grading Criteria/Policy: Four instructors will give students marks in their own way, and the sum of the marks will be the final. For a detailed scoring policy, ask each instructor.

DES200GA (デザイン学/Design science 200)

メディアと情報

君塚 洋一

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】

以下3点を目標とする。

- 1) 身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
- 2) 環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性和問題性の両面を学習する。
- 3) メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（PR＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この科目は、各テーマにおいて、対面授業による説明や解説、質疑、受講生のコメント紹介、映像の鑑賞、簡易なグループワークなどを行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小課題）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定で。す。

＊

メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、SNSなどの具体的な題材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。

また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。

テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第2回	メディアとは何か	メディアとは何か？／何がメディアになるのか？／メディアの種類（タイプ）
第3回	コミュニケーションとは何か-1	「コミュニケーション」のさまざまなモデル、その規定要因（1）：物理的環境／社会的制御など
第4回	コミュニケーションとは何か-2	「コミュニケーション」のさまざまなモデル、その規定要因（2）：多層性・文脈／交話など

第5回	情報（ニュース）	情報とは何か？／どんな要件を満たせばニュースになるのか？／社会におけるニュースの役割・機能／マス・メディアの報道
第6回	パブリック・メディア-1	プロパガンダ（宣伝）と広報（PR）／近年の推奨コミュニケーションの問題
第7回	パブリック・メディア-2	環境の監視とジャーナリズム
第8回	ふりかえりレポート-1	第1回～第7回のふりかえりレポート
第9回	ソーシャル・メディア	ソーシャル・メディアのはたらきと問題
第10回	観光とメディア	メディアが観光の対象をつくる／「聖地巡礼」／大衆と対象物
第11回	メディアと感情	メディアとしての芸術作品と「ノスタルジー」
第12回	メディア・リテラシー-1	共感をシェアするコミュニケーションとは？
第13回	メディア・リテラシー-2	社会をより適切に理解するコミュニケーションとは？・ポスト真実／フェイクニュースの拡散と影響など
第14回	まとめ ふりかえりレポート-2	情報源＝メディアの識別利用／ファクトチェック／メディアと感情／メディアのはたらきへの補論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) インターネット、マスメディア、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につける。
- 2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手(媒体社、広告会社等)の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。
- 3) 前半の1回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースをピックアップして提出し、授業の題材とする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用しない。

【参考書】

- ・稲増一憲『マスメディアとは何か 影響力の正体』中公新書、中央公論社、2022年
- ・法政大学大学院メディア環境設計研究所編『アフターソーシャルメディア 多すぎる情報といかに付き合うか』日経BP、2020年
- ・ダニエル・ブーニュー『コミュニケーション学講義——メディア・テクノロジーから情報社会へ』書籍工房早山、2010年
- ・竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論1』北樹出版、2005年
- ・笠原和俊『フェイクニュースを科学する——拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』化学同人、2018年
- ・カリン・ウォール＝ヨルゲンセン『メディアと感情の政治学』勁草書房、2020年
- ・立岩陽一郎、揚井人文『ファクトチェックとは何か』岩波ブックレットNo.982、岩波書店、2018年

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出（約40％）、ふりかえりレポート（2回：約60％）を課す。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。ただし、7～8割以上の小課題の提出、2回のふりかえりレポートの提出を単位要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないことや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。

毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。

また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

さまざまなメディアやコンテンツに興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】

本科目は、対面授業、授業内課題、ふりかえりレポートの3つで成り立つ。テーマについて高い関心をもち、積極的なレスポンスと活動を行う意欲のある受講者を求める。

【Outline (in English)】

Students are advised to understand the characteristics and functions of media and information that make communication in modern society through consideration of various fields. And also they should learn the attitude towards media and the basis of their use as consumers, as future professionals engaged in broad dissemination to society and markets.

*

Learning Objectives

(1) To become aware of the mechanisms of communication through the media that occur in our daily lives and the functions of the media.

(2) Learn about both the necessity and problems of media communication, which is used for various purposes in society, such as monitoring the environment, managing businesses and institutions, and sharing culture.

(3) Students need to acquire the perspective of media literacy and be able to objectively evaluate the phenomena brought about by media and information. At the same time, students need to be able to take the perspective of public relations (PR) to gain the understanding and support of others, which is essential for all social activities.

*

Learning activities outside of classroom

(1) Acquire the habit of thinking about the aims and effects of various media expressions on television, the Internet, and in urban spaces.

(2) Students will try to change their perspective and ideas about a certain media expression from the standpoint of both the audience and the sender/producer (media company, advertising company, etc.).

(3) In the first half of the class, students will be asked to pick up news about mass media that they have paid attention to, or that they have talked about with others, and submit them to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

*

Grading Criteria/Policy

Students will be required to submit small assignments each time (approx. 40%) and to write a review report (twice: approx. 60%). Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals of this class will pass the class. However, students are required to submit at least 70-80% of the small assignments and two retrospective reports for credit.

ART200GA (芸術学 / Art studies 200)

社会と美術

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、普段接する機会の少ない、先進的な表現領域に対する理解を深めるための入門的な授業です。この講義では、特に21世紀以降に関心を集めている社会と芸術との関係に焦点を当て、パフォーマンス・アーツ、音楽、建築などの表象の世界の様々な事例を参照し、社会と芸術の接点や関係性について探求します。本授業は、「近現代美術の歴史と理論」と「現代社会の課題と美術」という2つのテーマで構成されており、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

第一部 「近現代の芸術史と理論」では、18世紀以降から21世紀までの美術史と理論を包括的に学び、芸術表現の変遷とその背後にある思想や理論を探求します。

第二部 「現代社会の課題と美術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】

近現代の美術史と現代社会と美術に関する課題の事例を紹介していきます。近現代美術史の基本を理解すること、各時代の社会的課題と芸術との関連を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により授業を行います。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおく回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Forms で課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom のチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
第2回	近代美術の誕生 古典主義、ロマン派、 写実主義、印象派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進화가、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派などの芸術運動は、単なる美的表現にとどまらず、社会の変動や文化の転換を反映し、近代というコンセプトを徐々に体现していきます。授業では、これらの芸術運動を通して、近代社会の多様性や複雑性に迫り、芸術が社会と相互の作用について学んでいきます。印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。フォービズムは色彩や筆触を強調し、視覚的な効果を追求しました。表現主義は主観的な感情の表現に力点を置きました。また、キュビズムは立体的視点から物体を捉える手法についての実験をしました。ポスト印象派と呼ばれる画家のゴッガン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降のこれらの20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与え、新しい視点やアプローチを提示しました。授業ではこれらの芸術運動に関する理解を深め、背後に潜むアイディアや文化的な文脈にも焦点を当てて学んでいきます。
第3回	アバンギャルドの時代Ⅰ フォービズム、表現主義、キュビズム	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。フォービズムは色彩や筆触を強調し、視覚的な効果を追求しました。表現主義は主観的な感情の表現に力点を置きました。また、キュビズムは立体的視点から物体を捉える手法についての実験をしました。ポスト印象派と呼ばれる画家のゴッガン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降のこれらの20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与え、新しい視点やアプローチを提示しました。授業ではこれらの芸術運動に関する理解を深め、背後に潜むアイディアや文化的な文脈にも焦点を当てて学んでいきます。
第4回	アバンギャルドの時代Ⅱ 未来派、ダダイズム シュルレアリズム、ロシア構成主義、バウハウス	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて、またロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて学びます。この時代登場した芸術運動は、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような新しいアイディアが登場します。
第5回	ワークショップ1 単元の復習とワークショップ	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代Ⅰ、アバンギャルドの時代Ⅱの復習及びワークショップを行います。

第6回	第二次世界大戦と戦後アメリカ美術 抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート	第二次世界大戦により、ヨーロッパ各地は大きなダメージを受け、芸術の中心地としての地位をアメリカに譲ることとなりました。アメリカではその経済力を背景に、現代芸術の躍動的な拠点となり、さまざまな芸術運動が登場します。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ボーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。	第11回	ジェンダーとアート	社会的・文化的な性区別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会的な枠組みを拡大し、偏見や差別に対抗するための意識を喚起する役割を担い、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。
第7回	1960年代の市民運動と新しい動向 フルクサス、パブリッシング、ビデオアートミニマリズム、コンセプチュアルアート、ランド・アート、アルテ・ボーヴェラ	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。1960年代の芸術シーンでは、伝統的な絵画や彫刻に留まらず、さまざまな新しい表現手法が登場しました。物質生よりも思想や概念に焦点を当てたミニマルアートやコンセプチュアルアート、ハプニングやパフォーマンスアートは身体や行為を介して会への関与をするなど、新しい芸術の動向が登場します。	第12回	環境とアート	私たちは古くから自然を観察し、芸術作品の主題としてきました。自然が提供する様々な風景や生態系は、画家や彫刻家などのアーティストにとって永遠のインスピレーション源となっています。また、19世紀の自然主義の考え方や、近年のランドアートの試みなど、自然は芸術において重要な役割を果たしてきました。しかし、近年では地球規模での環境問題が深刻化し、私たちは自然との関係性を再評価せざるを得なくなっています。地球の温暖化、生態系の破壊、資源の枯渇など、環境問題は私たちの生活に直接関わるものとして認識されるようになりました。地球温暖化と関連するエネルギー問題は、世界の大きな課題となっており、日本においては東日本大震災をきっかけとした自然災害と原発問題が今でも続いています。アートの世界では環境問題への関心を高め、作品を通じて社会に対話を呼びかけます。アートを通じた環境問題へのアプローチは、単なる美的な観点だけでなく、社会的な意識を喚起し、持続可能な社会を喚起します。
第8回	多文化の時代 ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート	1989年にベルリンの壁が崩壊して東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、1980年代以降アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマースアリズムにより生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント、ヤング・ブリティッシュ・アーティスト」(YBA) とリレーショナルアートについての理解を深めます。21世紀に入り、芸術はますます社会に関与する方向へと進化しています。ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスといった社会に関与する芸術運動が盛んになっています。	第13回	感染症の時代	2020年以降、私たちは新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の状況に直面しました。現在では、私たちにとってパンデミックはすでに少し以前にあった出来事のように感じています。過去にも天然痘、ペスト、スペイン風邪、エイズなどが世界中に大きな打撃を与えました。感染症が引き起こす社会的課題は、その時代背景や科学技術の進歩によって異なる側面を持ちます。アートはその時代の複雑な感情や社会的な変化を反映してきました。感染症の起こす社会的課題と各時代のアートが感染症をどのように表してきたのかを関連づけて学びます。
第9回	ワークショップ2 ・単元の復習とワークショップ	戦後アメリカ美術、1960年代／市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。	第14回	ワークショップ3 単元の復習、ワークショップ	14回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。
第10回	政治とアート 退廃芸術展と大ドイツ展、戦争画、東日本大震災とアート、表現の不自由展	第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることになります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争、文化政策の変化など、政治とアートについてプロパガンダ、社会主義リアリズム、ヨーゼフ・ボイスの社会彫刻、表現の不自由展などの具体的な事例を通じて、アートが政治的な状況にどのように対応し、影響を与えてきたのかについて理解します。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。 【テキスト（教科書）】 Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。		

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認しておいてください。

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.

1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.
2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.

Learning Objectives

Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

身体表象論

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：定員60名。それを超えたら選抜
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
視覚芸術・文化に表現された身体を手がかりに、身体を見る／見せるとはどのようなことかについて学ぶ。身体と社会の境界が歴史的・文化的に規定されていることを確認し、人間の身体を社会的にどのように位置付けられよいか、受講生が自分なりの考えを構築できるようにする。

【到達目標】
・芸術、文化における身体運動の表象形式を理解することができる。
・身体表象の特徴を、歴史的、社会的に位置付けることができる。
・作品に表現された身体に関する自分なりの見方を構築し、作品を批評・分析・記述することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・資料を元に講義する。受講生は授業時間の最後ないし授業後に、リアクション・ペーパーを執筆して提出する。
・興味深いリアクション・ペーパーを取り上げて授業内で紹介することにより、全員にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス 絵画における身体（1）	基本概念・用語の説明。参考文献の紹介。遠近法、聖母子像について考える。ジョット、ラファエロなど。
2	絵画における身体（2）	ヴィーナスの表象について考える：ボッティチェリ、ティツィアーノ、ジョルジョーネ、マネなど。
3	彫刻における身体（1）	ルネサンス期から近代までの彫刻の身体表現について考える。ミケランジェロ、ベルニーニなど。
4	彫刻における身体（2）	日本における仏像の歴史と特徴的な姿勢について紹介する。
5	演劇における身体（1）	俳優という存在のあり方について考える。スタニスラフスキー・システム、鈴木メソッドなど。
6	演劇における身体（2）	パフォーマンスにおける身体と性のあり方について考える。シェイクスピア、宝塚、ダムタイプなど。
7	写真における身体（1）	肖像写真における顔、表情と「自己」について考える。アウグスト・ザンダー、ダイアン・アーバス、シンディ・シャーマンなど。
8	写真における身体（2）	写真における身体の位置と構図との関係について考える。アンリ＝カルティエ・ブレッソン、ロバート・フランクなど。
9	映像における身体（1）	映画における身体表象を鑑賞するのに必要な知識として、ショットとアングル、光と音の効果について確認する。
10	映像における身体（2）	日本人の身体を映像化することについて具体例を用いながら考える。小津安二郎、溝口健二など。
11	舞踊における身体（1）	クラシック・バレエの歴史を概観したあと、モダンバレエ、モダンダンスがその伝統からどう変化したかを考察する。マヤ・デレン、ピナ・バウシュなど。
12	舞踊における身体（2）	近代日本における舞踊の表象について、いくつかの映画作品をもとに考える。『ダンシング・チャップリン』など。
13	服飾における身体（1）	西洋における服飾の歴史的変遷を概観する。

14 服飾における身体（2） 日本における服飾の歴史的変遷を概観する。授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記【参考書】に記載の資料を出来るだけ読むように努める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
小林康夫『表象文化論講義 絵画の冒険』（東京大学出版会）
諸川春樹他『彫刻の解剖学―ドナテッロからカノーヴァへ』（ありな書房）
清水真澄『仏像の顔』（岩波新書）
飯沢耕太郎『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書）
西村清和『視線の物語 写真の哲学』（講談社メチエ）
森村泰昌『美術の解剖学講義』（ちくま学芸文庫）
ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』（晃洋書房）
蓮實重彦『監督 小津安二郎 〔増補決定版〕』（ちくま学芸文庫）
ジル・ドゥルーズ『シネマ』（1・2）（法政大学出版局）
矢田部英正『たたずまいの美学』（中公文庫）
スーザン・ソントグ『反解釈』（ちくま学芸文庫）
鷗田清一『モードの迷宮』（ちくま学芸文庫）
ジョン・バージャー『イメージ』（PARCO出版）
ダムタイプ『メモランダム 古橋悌二』（リトルモア）

【成績評価の方法と基準】
平常点50%: 当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
学期末レポート50%：身体表象に関するトピックについて分析的に考察し、考察の結果を丁寧に記述することができているかを評価。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
授業の進行状況により、扱うテーマや作品を変更することがあります。

【Outline (in English)】
・ Course Outline: Through examining a form of body representation in visual art and culture, this course aims to introduce students to the way of viewing or showing the human body. With the idea of a historically or culturally defined boundary between the body and society, students will develop their own way of viewing the human body from a social perspective.
・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to understand the various styles in body representation seen in the field of art and culture and connect such styles with historical and social background. As a result, they will be able to provide a critical insight into the bodies in the work of art.
・ Learning activities outside of the classroom: read the recommended books in the 'References'.
・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

LIT200GA（文学 / Literature 200）

比較文化

岩下 弘史

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ポストコロニアリズム、オリエンリズム、ジェンダー論、構造主義、文化人類学などの「理論」にも目くばせをしながら、比較文学・比較文化に必要な基礎を学ぶとともに、それらの理論を文学や映像作品など実際の芸術作品の比較分析に応用していきます。

【到達目標】
文化を比較するにあたって、単なる相違の指摘に留まらず、より深い社会的・文化的な背景の考察へと思考を深めていくときに役にたつのが、様々な「理論」です。この授業では、文化について考えるにあたって我々を助けてくれるいくつかの理論をとりあげ、具体的な作品分析への応用を通じてその理解を深めます。
授業での学びを通じて、学生は、ジャンル・時代・言語等を異にする文化の作品間の比較文化的な分析ができるようになるとともに、様々な「理論」を理解し、作品分析に応用できるようになることを目指します。
また「理論」は必ずしも文化を理解するのに万能ではありません。「理論」の限界とそれ以外の文化研究の手法についても学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業資料を元に講義をおこないます。事前に課題図書を読む必要がある回もあります。また講義の残り10分ほどで、講義についての課題を提出することにもなります。
フィードバックとして、学習支援システムに提出された課題に直接回答します。また授業冒頭では皆さんが提出した回答のなかで重要な論点につながるものをとりあげて、復習もします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	初回説明	授業の概要を説明する。
2	比較文学・比較文化研究の歴史・概要	比較文学・比較文化研究の歴史・概要について理解する
3	比較文学研究と関わる「理論」について①	比較文学研究と関わる「理論」、主にポストコロニアリズムについて学ぶ
4	比較文学研究と関わる「理論」について②	比較文学研究と関わる「理論」、主にフェミニズムについて学ぶ
5	文学と思想のかかわり①——夏目漱石の『こころ』と心霊研究との関わり	夏目漱石の『こころ』と心霊研究との関わりについて学ぶ
6	文学と思想のかかわり②——夏目漱石の『三四郎』とフェミニズムとの関わり	夏目漱石の『三四郎』と同時代思想ならびにフェミニズムとの関わりについて学ぶ
7	国境を越える芸術作品——翻訳研究①（谷崎潤一郎『痴人の愛』、吉本ばなな『キッチン』などについて）	翻訳研究の実践から学ぶ
8	国境を越える芸術作品——翻訳研究②（川端康成『雪国』の場合）	翻訳研究の実践から学ぶ
9	国境を越える芸術作品——翻訳研究②（『雪国』フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』と村上春樹らによる翻訳の検討）	翻訳研究の実践から学ぶ
10	アダプテーション研究——ジャンルを越境する文化①（『グレート・ギャツビー』の映画化についての背景）	アダプテーション研究や理論の概要を学ぶ

11	アダプテーション研究——ジャンルを越境する文化②（『グレート・ギャツビー』原作と映画の比較）	アダプテーション研究の実際の例を見て学ぶ
12	アダプテーション研究——ジャンルを越境する文化③（英米テレビドラマの比較）	アダプテーション研究の実際の例を見て学ぶ
13	比較文化研究の紹介——比較文化研究の実践に学ぶ	比較文化研究の実際の例を見て学ぶ
14	まとめ	授業のまとめをおこないつつ、期末レポートの書き方を指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義内容に関する毎週の課題を Hoppii に提出する。
・4回以上課題を出さなかった場合、単位修得の権利を失います。
・本授業の準備・復習時間は、約4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にないですが、各回に用いる資料は Hoppii を通じて配布します。

【参考書】
松村昌家編『比較文学を学ぶ人のために』（世界思想社、1995）、佐々木英昭編『異文化への視線——新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996）、Ben Hutchinson, *Comparative Literature: A Very Short Introduction* (Oxford UP, 2018) など。その他適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・毎週の課題ならびに授業への参加（平常点）：50%
・期末レポート：50%
・100点満点で60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
もう少しコメントを書く時間をとりたい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回授業内に Hoppii にて課題を提出してもらうので、スマートフォン、タブレット、パソコンなどを持参してください。

【その他の重要事項】
受講者の人数や進度によって扱う題材に若干の変更があるかもしれません。あらかじめご了承ください。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
In this course, students will learn the basics of the comparative literature and culture and finally how to analyze literary works and movies.
【Learning Objectives】
Students will learn how to compare and analyze literary works and movies in various viewpoints.
【Learning Activities outside of Classroom】
Students are expected to submit their answers to weekly study questions by due date.
【Grading Criteria/Policy】
Assignments and active participation in class discussion: 40%
Term paper: 60%

LIT200GA（文学 / Literature 200）

言語文化概論

衣笠 正晃

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20世紀以降さまざまな領域で展開された、言語（ことば）を手がかりとして文化や社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直そうとした学問的営み（理論・概念）について学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つめ、向き合うかを考えます。

【到達目標】

- 1) テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
- 2) 言語（ことば）と文化・社会との密接なかかわりについて「意味」「身体」「権力」「テクノロジー」などといった観点から検討し、理解を深める。
- 3) 学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をはぐくみ、自らのことばで表現・伝達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回とも、出席者がテキストおよび事前配付資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。

授業形式は講義が中心となります。皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、原則として毎回予習確認のためのクイズ（小テスト）を実施するとともに、リアクションペーパーのかたちで、感想や質問を提出してもらいます。リアクションペーパーのコメントや質問については次回授業で取り上げてフィードバックをおこないます。また復習を兼ねたミニレポートを提出してもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／イントロダクション	授業計画の説明＋4つの「ポスト状況」と現代思想の問い（テキスト第1章）（リアルタイムオンラインで実施）
2	19世紀から20世紀への思想的転回	実証主義・歴史主義からの転換とその社会背景
3	言語学の再定義	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第2章）
4	ことば・無意識・主体	フロイトと精神分析（テキスト第4章）
5	ことばとしての文化	構造主義革命と一般記号学（テキスト第5章）
6	ことば・権力・規律	フーコーの「知の考古学」（テキスト第7章）
7	象徴支配と階級	ブルデューの文化社会学（テキスト第8章）
8	メディア・テクノロジーと文化産業(1)	マクラーハンと「ゲーテンベルク革命」（テキスト第9章）
9	メディア・テクノロジーと文化産業(2)	想像力の産業化と「象徴的貧困」（テキスト第10章）
10	国語とナショナリズム	国民国家と伝統の発明（テキスト第13章）
11	アイデンティティと世界の変革	ジェンダー、エスニシティ、差異と同一性（テキスト第14章）

12	「人文知」のあり方の転換(1)	20世紀思想の問題圏（テキスト第15章）
13	「人文知」のあり方の転換(2)	ポスト・ヒューマニズムをめぐる
14	学期授業の総括	学期末試験・振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも教員の指示に従ってテキストや事前配付資料を授業までに精読し、質問ポイントを考えておくこと（授業のなかで小テストなどによって予習状況を確認します）。また課題としてミニレポートが課された場合は、期日までに作成し提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・石田英敬『現代思想の教科書——世界を考える知の地平 15章』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2010年）

※上記テキスト以外にも随時プリントを配付・使用します。

【参考書】

・岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』（中央公論新社〈中公新書〉、2015年）

・石田英敬『記号論講義——日常生活批判のためのレッスン』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2020年）

※その他、授業で随時指示します。なお上記テキスト（教科書）末尾の「読書案内」も参照してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％：リアクションペーパー、小テストなどの提出物を含む）と学期末試験（50％）をあわせて評価します。評価にあたっては以下の4点の達成度にもとづいて判断します。

- 1) テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
- 2) 思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
- 3) 授業にもとづき現代の文化・社会について自らの問題意識を具体的にもてているか。
- 4) 授業をつうじて学び・考えたことを、主体的・説得的に表現できているか。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

履修者による自発的・主体的な問題発見や取り組みをさらに促すように努めたい。またクラス規模を考慮したうえで、出席者による議論や意見交換の機会を取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料の配付や提出物の回収、授業に関する連絡など、学期を通じて学習支援システムを利用します。小テスト等で利用することがありますので、指示があった場合は授業にデバイス端末（PCやタブレットなど）を持参してください。

【その他の重要事項】

・初回授業はリアルタイムオンラインで実施します（詳細は秋学期開始時に学習支援システムに掲示します）。万一受講者数が教室定員を超過する場合は、初回授業の課題にもとづき選抜をおこないます。

・履修者数などに応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。

【Outline (in English)】

This course outlines the development of cultural and social theories since the beginning of the 20th century, paying particular attention to the impact of the so-called "linguistic turn" on the humanities. The goals of this course are to obtain basic knowledge of 20th-century cultural and social theories and theorists, to understand the inextricable relationship between language and culture, and to have a critical awareness toward the issues of the contemporary world. Students are expected to come to class well prepared by completing the required assignments; the required study time is more than four hours per class. The overall grade will be decided based on class participation (50%) and the final examination (50%).

PHL200GA (哲学 / Philosophy 200)

現代思想

森村 修

サブタイトル：「生まれてこない方がよかった」とはどういうことか？——反出生主義入門
配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本授業は「現代思想（contemporary thought）」という科目名がついているが、ただ単に「現代の流行の思想」を学ぶだけが目的ではない。私たちが生きている「同時代（contemporary）」で起こる出来事や物事の、「起源」や「本質」について「哲学的に考えること（philosophical thinking）」が「現代思想」という科目の目的である。

2025年度は、デイヴィッド・ベネター（1966-）の『生まれてこないほうが良かった——存在してしまうことの害悪』（2006/邦訳新訂版2024）を通じて、世界中にさまざまな影響を与えた思想としての「反出生主義」について哲学的に考察する。その際に、ベネターのテキストを十分に理解するために、ベネターのテキストを翻訳した小島和男氏（学習院大学教授）の『反出生主義入門——「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか」（2024）を用いて授業を進める。

【到達目標】

- (1) 「哲学的に考えること（philosophical thinking）」ができるようになる。
(2) 本当の「哲学の問い」を探り、その問いに答える努力のなかで、生き方をもう一度捉え直し、自分が何をすべきかを、ひとり一人考える力を身につけていくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的には講義形式で授業を行いながら、必要に応じて、学生との議論を行う。その際にテキストを読みながら、テキストの理解を深める。また、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー	・授業の概要説明 ・デイヴィッド・ベネターとは誰か？
2	『反出生主義入門』①	Ⅰ. 反出生主義にふみ込む前に① 1. なぜ倫理の問題を考えなければならぬのか？ 2. 中絶は不道徳か否か？
3	『反出生主義入門』②	Ⅰ. 反出生主義にふみ込む前に② 3. 未来への責任はあるか？
4	『反出生主義入門』③	Ⅱ. 「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ① 1. 『生まれてこないほうが良かった』全体の構成 2. 可能的存在についての価値判断
5	『反出生主義入門』④	Ⅱ. 「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ② 3. 基本的非対称性とその説明力
6	『反出生主義入門』⑤	Ⅱ. 「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ③ 4. 快が苦を打ち消せば良いのではないかという反論
7	『反出生主義入門』⑥	Ⅱ. 「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ④ 5. 人生の質の評価と世界における苦痛
8	『反出生主義入門』⑦	Ⅱ. 「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ⑤ 6. 子どもを作る権利について 7. 妊娠中絶賛成派

9	『反出生主義入門』⑧	Ⅱ. 「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ⑥ 8. 段階的絶滅 9. 子どもを持たないことへの偏見とベネターの思い
10	『反出生主義入門』⑨	Ⅲ. 反出生主義について考えるうえで重要なこと① 1. 『生まれてこないほうが良かった』がミソジニーである理由
11	『反出生主義入門』⑩	Ⅲ. 反出生主義について考えるうえで重要なこと② 2. 自殺について
12	『反出生主義入門』⑪	Ⅲ. 反出生主義について考えるうえで重要なこと③ 3. 親を責めても良いのか？
13	『反出生主義入門』⑫	Ⅲ. 反出生主義について考えるうえで重要なこと④ 4. 子どもを作っては絶対にいけないのか？ 5. 「始める価値」と「続ける価値」の違いをベネターが強調しない理由
14	反出生主義とは何だったのか——総括	Ⅲ. 反出生主義について考えるうえで重要なこと⑤ 6. パズル解きか実存的な自分の問題か？ 7. 反出生主義と教育、それと養子について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業前に、基本的なテキストを必ず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- (1) デイヴィッド・ベネター『生まれてこないほうが良かった——存在してしまうことの害悪』、すずさわ書店、2024年
(2) 小島和男『反出生主義入門——「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか』、青土社、2024年

【参考書】

- (1) David Benatar, *Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence*, Harvard University Press, 2006.
(2)

※ テキスト以外の参考書については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験・レポート（30％）、授業内レポート・レジュメ（30％）、平常点（40％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

※ 成績評価の方法と基準については、あくまで対面式授業の場合であり、リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法ならびに基準が変更されるので注意が必要。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

※ リアルタイム・オンライン授業に際しては、インターネット環境が整っていること、そのための機材が用意されていることが必須である。

【その他の重要事項】

1. 本科目は、「基幹科目」として、表象文化コースに配置されているが、コースの分類に関わらず興味のある学生に積極的に参加してもらいたい。
2. テキストが比較的高価であったり、テキストが英語を含む外国語を用いる場合、授業に参加する学生が激減する傾向にある。何が自分にとって必要かつ重要であるか、根本的に問い直してもらいたい。
3. テキストの選定や興味については学生の要望に応えることもありうるので、第1回目の授業には必ず参加すること。

【Outline (in English)】

The purpose of the subject "modern thought" is to acquire the philosophical thinking about origin and essence of events and things occurring in the contemporary society where we live in. Therefore, although this class has the subject name "contemporary thought", it does not have the only purpose of learning the thought of modern trends. The purpose of this class is to philosophically examine "anti-natalism" through David Benatar's (1966-) "Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence" (2006/New Revised Japanese Edition 2024).
【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to think philosophically.
【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

GDR200GA (ジェンダー / Gender 200)

ジェンダー論

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】

1. ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
2. 言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【重要なお知らせ】初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月9日（水）までに学習支援システムでこの授業を登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月9日（水）に学習支援システムでアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月11日（金）の午前10時です。4月12日（土）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●ジェンダー研究において重要な諸概念（母性・身体・家族・セクシュアリティ・恋愛・マスキュリティなど）を、歴史的な視点と現代日本の日常生活における視点の双方から検討していきます。

●一次資料の簡単な分析を行ってもらいます。そこから、概念・方法論の理解と実践方法を学んでいきます。

●毎回の授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形で提出してもらいます。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル（role model）」として考察する。 ②1980年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①＜男らしさ＞を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトウルギーならびにイブ・セジュイックのホモソーシャルティ）の概念から考察する。 ②ホモソーシャルティ（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。

4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。
7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ポルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係性について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティ	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった3つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996年）。

伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2025年）。

千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）。

江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006年）。

高橋幸、永田夏来『恋愛社会学：多様化する親密な関係に接近する』（ナカニシヤ出版、2024年）。

木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）。

伊藤 公雄、樹村 みのり、國信 潤子『女性学・男性学 - ジェンダー論入門』（有斐閣、2019年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40 %

期末試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。

●受講を希望する人は4月9日（水）までに学習支援システムでこの授業を登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月9日（水）に学習支援システムでアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月11日（金）の午前10時です。4月12日（土）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。

●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】

The course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It introduces various issues related to gender and sexuality so that students become better able to analyze their own culture as well as other cultures in a multifaceted way from the standpoint of gender.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts in gender studies, and 2) acquire basic methods of discourse analysis and conduct basic discourse analysis on various gender-related issues.

Students will be expected to 1) check the basic concepts related to the next class lecture, and 2) review the content of the class and work on the assignments.

The final grade will be decided by the reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

LIN200GA (言語学 / Linguistics 200)

異文化間コミュニケーション

副島 健作

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化背景の異なる個人同士が出会い、互いに理解しあえる関係を築くというのは、人や情報の往来が加速度的に増す今日、もはや特別なことではない。

異文化者が出会ったとき、それぞれの背景の文化が異なることが原因でどうことが起こってくるのか。最悪のコミュニケーション・ブレイクに陥らないためには、どのような知識や心構えが必要だろうか。事例に基づくケーススタディを通して、この問いをコミュニケーションの観点から考えていく。

【到達目標】

1. コミュニケーション分野の主要な理論や概念を学び、文化が私たちのコミュニケーションに及ぼす影響について理解を深める
2. 実際の異文化接触場面で活用していけるような知識を修得する。
3. 多角的な視点を獲得し、「相手」とのインターアクションを通じて関係を改善する能力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

日本人と外国人がコミュニケーションをする上で、また、性別や年齢、地域性や社会的役割などの文化差が起因となる諸問題について、ケーススタディに取り組んでいく。学期末には、授業のまとめの活動として受講生自身で身近な異文化摩擦や誤解のケースを収集し、討論や考察をすすめていく。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について解説する 「文化とコミュニケーション」について
2	判断保留・多面的思考の重要性について	現代社会を概観し、文化、コミュニケーション、異文化コミュニケーションの概念を整理する
3	事例研究① 海外旅行に関するケース	海外旅行で起きるすれ違いや摩擦
4	事例研究② 海外留学に関するケース	海外留学で起きるすれ違いや摩擦
5	事例研究③ 海外赴任に関するケース	海外赴任で起きるすれ違いや摩擦
6	事例研究④ 帰国日本人に関するケース	帰国日本人が経験する摩擦
7	事例研究⑤ 日本在住外国人に関するケース	日本在住外国人が経験する摩擦
8	事例研究⑥ 共文化に関するケース	共文化の違いによって起きるさまざまな問題
9	事例研究⑦ 国際協力に関するケース	国際協力における交流の諸相

10	事例研究⑧ 国際交渉に関するケース	国際交流における交流の諸相
11	事例研究⑨ マスメディアの影響に関するケース	メディア報道における交流の諸相
12	受講生による事例報告①：受講生のうち半分が発表	文化の体現者であるということ、異文化を理解するという点における問題点を考えながら報告するー受講生を半分に分け、前半グループが報告する
13	受講生による事例報告②：残りの半分が発表	文化の体現者であるということ、異文化を理解するという点における問題点を考えながら報告するー受講生を半分に分け、後半グループが報告する
14	討論・議論（授業内での期末試験実施の可能性あり）	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず教材の該当箇所を読んだ上で授業に参加し、その内容に関する疑問点や関連して討論してほしい内容、コメント等を用意すること。また、設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披露できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

石井敏・久米昭元 (他) (2013) 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション-多文化共生と平和構築に向けて』 有斐閣選書
久米昭元・長谷川典子 (2007) 『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』 有斐閣選書
八代京子 ほか (2001) 『異文化コミュニケーション・ワークブック』 三修社

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %

提出物 20 %

事例報告 20 %

期末試験またはレポート 30 % で評価します。

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は「コミュニケーション」の授業なので、学生への質問も活発に行い、グループワークも適宜取り入れます。コミュニケーションが苦手な学生でも積極的に参加しようとする姿勢を評価します。一方、コミュニケーションを最初から拒否する姿勢が少しでも見られれば、その受講生は教室内に存在していないとみなします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In today's world, where the traffic of people and information is increasing at an accelerating pace, it is no longer unusual for individuals with different cultural backgrounds to meet and build mutually understandable relationships.

When people from different cultures meet, what happens because of the different cultures in their backgrounds? What kind of knowledge and preparation is necessary to avoid the worst communication break? Through case studies based on actual examples, we will consider these questions from the perspective of communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To learn the major theories and concepts in the field of communication and gain an understanding of how culture affects our communication
2. To acquire knowledge that can be applied in actual cross-cultural contact situations

3. To gain multiple perspectives and develop the ability to improve relationships through inter-action with the "others".

【Learning activities outside of classroom】

Be sure to read the relevant parts of the study materials before participating in the class, and be prepared to raise questions about the content, discuss related topics, and make comments. In addition, students are expected to collect information so that they can express their own opinions on the set topics.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 30%, Case study report: 20%, Assignments: 20, in class contribution: 30%

SOS200GA (その他の社会科学 / Social science 200)

国際関係学概論 I

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

その他属性：〈優〉〈S〉〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global、Transnational、International などの表現もあります。これらの違いは何でしょうか。「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた/いるかを学び、現代世界に対する理解や諸課題へのアプローチを習得することで国際関係学を理解し、国際文化情報学の学びにつなげます。

対象時期は近代国際関係の成立から第一次世界大戦までとし、「国際関係学概論Ⅱ」の前提となる内容となります。

【到達目標】

1. 国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつことができる。
2. 現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、しかし複雑だと等閑視するのではなく、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点。学際的な捉え方）から分析できる。
3. 上記を踏まえ、国際関係学及び国際関係に関する諸情報の収集や批判的考察の仕方を習得し、今日生起する事象、問題について自身の意見、解決への手がかりや手立てを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 初回授業はオンラインライブで実施する予定である。受講を希望する学生には、初回授業（欠席する場合は、配布資料を読んで）のリアクションペーパーを定められた方法と期限（初回授業時及び Hoppii で通知）までに提出してもらう。受講者数を調整する必要が生じた場合は、初回授業のリアクションペーパー提出者から抽選する。
2. 授業計画はテキストの目次通りの構成ではないが、授業で言及する関連箇所、それ以外の部分も読んでいることを前提に進める。
3. 授業ではレジュメや資料を配布することを原則とする。
4. 毎回リアクションペーパーを提出してもらう。授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
5. 提出物に注目すべき意見や質問があれば紹介、フィードバックし、受講生のさらなる学びにつなげる。学生の関心、理解度、国際情勢の変化に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。
2	「国際関係」とは	近代国際関係の成立、Western State System の特徴を理解し、現代国際関係との異同を学ぶ。

3	市民革命、国民国家の登場と国際関係①	国民国家（nation state）の成立をもたらした市民革命、「市民」、「階級」の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。
4	市民革命、国民国家の登場と国際関係②	国民国家（nation state）及び nation という actor の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。ヨーロッパの資本主義発展を原動力とする世界分割、植民地支配、人の移動がもたらした世界の一体化の特徴を学ぶ。
5	帝国主義と国際関係①	「つながる/つなげられる」
6	帝国主義と国際関係②	「へだてる/へだてられる」
7	帝国主義と国際関係③	国際関係研究への視座
8	帝国主義と「民族」- 実態と概念①	主権国家形成との関わりから「民族」の実態と概念を学ぶ。
9	帝国主義と「民族」- 実態と概念②	帝国主義時代を基点とする国際関係の変化のなかで「民族」の実態と概念を学ぶ。
10	帝国主義と「民族」- 実態と概念③	現代世界の「民族」をめぐる諸問題を踏まえて、実態と概念を整理する。
11	第一次世界大戦と国際関係①	近代国際関係の再編
12	第一次世界大戦と国際関係②	国際組織と安全保障
13	第一次世界大戦と国際関係③	植民地支配体制の再編
14	春学期の授業の総括	授業の要点と国際関係学の視点と方法の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布するレジュメや資料を読み、テキストや参考文献で予習、復習を行うこと。
2. 関心があることを1つ持って授業に準備をする（SA先や卒業研究に関連すること、ゼミの専門分野など）。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
 梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍㈱、2003年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末の試験50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
2. 提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに出された質問、その時々国際情勢を反映させた授業が好評であったため、これを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】

1. テキストは常に手元に置き、予習・復習以外にも読み進めること。
2. 授業の2回目以後は対面授業を行うが、予告したうえでオンライン授業の回を設ける可能性もある。
3. Hoppiiの授業情報、通知などを随時、確認すること。教員と連絡をとる場合はTAを通じて行う。
4. リアクションペーパーを含む提出物において、他人や生成系AIが作成した文章をあたかも自分が作成したかのようにみせかけたり、あるいは、前後関係や語句を若干変更して用いたりすることは認めない。

【Outline (in English)】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Study has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from the Peace of Westphalia to World War I.

It is strongly recommended that this course be taken before taking "Introduction to International Study II".

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
2. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

SOS200GA (その他の社会科学 / Social science 200)

国際関係学概論Ⅱ

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global、Transnational、International などの表現もあります。これらの違いは何でしょうか。「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた/いるかを学び、現代世界に対する理解や諸課題へのアプローチを習得することで国際関係学を理解し、国際文化情報学の学びにつなげます。

対象時期は第二次世界大戦から現在までとし、「国際関係学概論Ⅰ」の内容を前提に進めます。

【到達目標】

1. 国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつことができる。
2. 現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、しかし複雑だと等閑視するのではなく、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点、学際的な捉え方）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点。学際的な捉え方）から分析できる。
3. 上記を踏まえ、国際関係学及び国際関係に関する諸情報の収集や批判的考察の仕方を習得し、今日生起する事象、問題について自身の意見、解決への手がかりや手立てを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 授業計画はテキストの目次通りの構成ではないが、授業で言及する関連箇所、それ以外の部分も読んでおくことを前提に進める。
3. 授業ではレジュメや資料を配布することを原則とする。
4. 毎回リアクションペーパーを提出してもらう。授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
5. 提出物に注目すべき意見や質問があれば紹介、フィードバックし、受講生のさらなる学びにつなげる。学生の関心、理解度、国際情勢の変化に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。「国際関係学概論Ⅰ」との関連を説明。
2	第二次世界大戦と国際関係	ヴェルサイユ・ワシントン体制の崩壊から第二次世界大戦に至る過程、第二次世界大戦の特徴を学ぶ。
3	第二次世界大戦の終結と国際関係①	国際連合、人権を重視する諸政策、戦争責任をめぐる国際法の変化を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。

4	第二次世界大戦の終結と国際関係②	信託統治制度の創設、新植民地主義につながる国際関係の特徴を学ぶ。
5	冷戦と国際関係①—冷戦の始まり	冷戦の定義、IMF・GATT体制、冷戦的思考など冷戦体制の特徴、これらを対象とする戦後国際関係研究の特徴を学ぶ。
6	冷戦と国際関係②—核開発と管理	核管理をめぐる東西両陣営の対応、核抑止力を機能させた核実験の実態を学び、現在に続く核と「平和」の関係を考える。
7	冷戦と国際関係③—植民地独立への介入と「熱戦」	中華人民共和国の成立、植民地独立の動きに米ソが介入した「熱戦」を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
8	冷戦体制の浸蝕と国際関係①—第三世界の台頭と南北問題	A・A会議、非同盟運動、新国際経済秩序など第三世界の動き、南北問題をめぐる「開発」と「発展」の問い直しを中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
9	冷戦体制の浸蝕と国際関係②—南北問題の“解決”をめぐって	「南」から提起された「開発」、「発展」の問い直しと「平和」概念の変化を学び、現代国際関係にて多用されるようになった「グローバルサウス」概念との関係を学ぶ。
10	冷戦体制の浸蝕と国際関係③—米ソ関係及び東西両陣営内の変化	キューバ危機を契機とする核軍縮への動き、東西両陣営内の亀裂を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
11	冷戦体制の崩壊と国際関係	新冷戦から冷戦体制の崩壊過程を崩壊後に持ち越された問題を中心に学ぶ。
12	ポスト冷戦体制とグローバルバージョン	ポスト冷戦体制の国際関係を、新自由主義に基づく市場経済の拡大、世界各地で激化したかにみえる「紛争」、「9.11」と以後続くいくつもの「戦争」、安全保障体制の変化を事例に、現代国際関係の特徴を学ぶ。
13	受講生の関心に基づくトピックス	受講生の関心に基づくトピックスを取り上げ現代国際関係への理解を深める。
14	秋学期の授業の総括	授業の要点と国際関係学の視点と方法の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布するレジュメや資料を読み込み、テキストや参考文献で予習、復習を行うこと。
2. 関心があることを1つ持って授業に臨む（SA先や卒業研究に関連すること、ゼミの専門分野など）。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
 梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍(株)、2003年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末の試験50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
2. 提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに出された質問、その時々国際情勢を反映させた授業が好評であったため、これを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】

1. テキストは常に手元に置き、予習・復習以外にも読み進めること。
2. 予告したうえでオンライン授業の回を設ける可能性もある。
3. Hoppiiの授業情報、通知などを随時、確認すること。教員と連絡をとる場合はTAを通じて行う。
4. リアクションペーパーを含む提出物において、他人や生成系AIが作成した文章をあたかも自分が作成したかのようにみせかけたり、あるいは、前後関係や語句を若干変更して用いたりすることは認めない。
5. 「国際関係学概論Ⅰ」未受講者も受講可能であるが、「国際関係学概論Ⅰ」既習を前提に進める。未受講者はⅠのシラバスを参照し、テキストや参考書の関係箇所を読んで受講することを強く推奨する。

【Outline (in English)】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Studies has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from World War II to today. "Introduction to International Studies I" is highly recommended for those who take this course.

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
2. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

SOC200GA (社会学 / Sociology 200)

国家と民族

石森 大知

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人（あるいはご自身のルーツを踏まえて考えてみてください）とは何だろうか。今日、私たちはそれほど意識することなく、国家や民族の枠組みを受け入れているかもしれない。とはいえ、これらは近代西洋で発明された後、「普遍的」な枠組みとしてグローバルに浸透ないし強要されたものでもある。本授業では、日本を含むアジア太平洋地域の事例に基づき、主に国家と民族の枠組みが人びとの自己意識や社会関係をどのように変化させてきたのか考察する。

【到達目標】

- ・人種、民族や国民、エスニシティ、ナショナリズムなどの概念内容およびそれらが歴史的に構築されてきた過程を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる自己／他者の理解に関する洞察力を身に付ける。
- ・アジア太平洋地域における脱植民地化過程を学ぶとともに、現代のナショナリズムの動向を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	人種と民族	近代における「人種」の生成
第3回	民族・エスニシティ・国家	その基本的な理論と概念を学ぶ
第4回	近代日本の国家形成	天皇主権と国家神道
第5回	国家のなかの家族	日本型「近代家族」の変遷
第6回	先住民としての権利	アジア太平洋の先住民運動
第7回	民族紛争を読み解く	ポスト植民地国家の新たな戦争
第8回	多文化主義と「多文化共生」	多文化主義の比較検討
第9回	王、チーフ、ビッグマン	多様なリーダーシップのあり方
第10回	植民地からの独立	太平洋の脱植民地化
第11回	国家から逃避する人びと	ゾミア（東南アジア山間地帯）への視点
第12回	観光・国家・先住民	ハワイにおける「楽園」の創造
第13回	開発・国家・先住民	グローバル化のなかの森林資源
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や地域研究の関連文献を読み、授業内容の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。

篠田謙一『日本人になった祖先たち—DNAが解明する多元主義』NHK出版、2021年。

丹羽典生・石森大知編『現代オセアニアの〈紛争〉—脱植民地期以降のフィールドから』昭和堂、2013年。

ジェームズ・C・スコット『ゾミア—脱国家の世界史』佐藤仁監訳、みすず書房、2013年。

ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや訳、書籍工房早山、2007年。

小熊英二『単一民族神話の起源—「日本人」の自画像の系譜』新曜社、1995年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムや動画閲覧サービス等を利用します。

【その他の重要事項】

- ・本授業では授業コメント（リアクションペーパー）や学期末レポートの提出を課しますが、生成AIツールは使用しないでください。
- ・学期末レポートにおいては、出典の明示を徹底してください（詳細についてはレポート作成要領において説明しますが、出典が明示されていない場合は評価対象外となることがあります）。
- ・本学では成績評価におけるSの割合を受講者の20%以内を目安とすることを定めており（ただし少人数授業等を除く）、本授業でもこれに従って評価を行います。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
- ・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、国家と民族について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces the basic concepts and theories of nation, ethnicity and nationalism from the perspective of cultural anthropology. We will examine the theoretical perspectives with abundant empirical studies from Asia-Pacific regions, including Japan.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to understand how nation is defined and how people use this concept for nation-building, economic development and welfare policy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

HUM200GA（その他の人文学 / humanities 200）

国際文化協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】

- (1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
- (2) 国際協力和文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
- (3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できる。
- (4) 基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施するが、学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー 国際文化協力とはー	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力と想像力一期 末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後課題は、法政大学の図書館HPのデータベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標4に関係している。各自入手すること。
松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力ーイメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】

毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業後課題への回答などの平常点50%、期末レポート50%
- ・授業後課題は設問に200字～800字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褄が合わない）
- ・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

- ・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
- ・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
- ・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けている。
- ・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
- ・毎回グループ討議と発表を取り入れ、教員がフィードバックをする。学生から学びが大きいと好評。

【学生が準備すべき機器他】

- ・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】

NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to;

- 1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
- 2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
- 3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
- 4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

SOC200GA (社会学 / Sociology 200)

宗教と社会

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：150名 (超えた場合は、選抜の可能性あり)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈G〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】

1. 宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようになる。
2. 宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【重要なお知らせ】初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月10日(木)までに学習支援システムに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月10日(木)に学習支援システムからアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月12日(土)の午前10時です。4月13日(日)に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●歴史学・人類学・社会学・政治学において、宗教がどのように分析されてきたかを概観するとともに、具体的な諸事例から、宗教と社会の関係性とその多元性について議論していきます。

●毎回、授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形にまとめて提出してもらいます。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。

4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連しているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教のもつ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・紛争の問題を、宗教儀礼(供犠)、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル(霊的なもの)と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。
なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

- 井上順孝『宗教社会学を学ぶ人のために』(ミネルヴァ書房、2016年)。
- 伊藤雅之『現代スピリチュアリティ文化論：ヨーガ、マインドフルネスからポジティブ心理学まで』(明石書店、2021年)。
- 櫻井義秀、三木英『よくわかる宗教社会学』(ミネルヴァ書房、2007年)。
- ロバート・D. パットナム、デイヴィッド・E. キャンベル『アメリカの恩寵—宗教はいかに社会を分かち、むすびつけるか』(柏書房、2019年)。
- 石井研士『メディアと宗教』(弘文堂、2024年)。

- 望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009年）。
- 諸岡了介『世俗化論の生成：宗教という問いのゆくえ』（ミネルヴァ書房、2023年）。
- 棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）。
- 島蘭進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）。
- 田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）。
- タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006年）。
- ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007年）。
- ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009年）。
- 中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）。
- 磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代のカテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）。
- 『岩波講座 宗教（全10巻）』（岩波書店、2004年）。
- 『諸宗教の倫理学（全5巻）』（九州大学出版会、1992～2006年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40 %

期末試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコンなどの情報通信機器。

【その他の重要事項】

●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。

●受講を希望する人は4月10日（木）までに学習支援システムに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月10日（木）に学習支援システムからアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月12日（土）の午前10時です。4月13日（日）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。

●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】

The course explores the relationship between religion and society by taking up issues ranging from gender, nationalism, nation-states, consumer culture, to war and conflicts. It will discuss the possibilities of mutual understanding and coexistence of different religious values and practices in an era of global competition and interdependence.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important to examine the relationship between religion and society, and 2) use analytical concepts and theories to analyze case studies of the relationship between religion and society.

Students will be expected to review each class and explore the problems and questions that they wrote in their reaction papers.

The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

SOC200GA (社会学 / Sociology 200)

Religion and Society

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：25人程度。希望者多数の場合には、入学
 時以降のTOEFLやTOEICなど標準的なテストの結果と初回授業
 へのコメントを総合的に評価して選考します。

備考(履修条件等)：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力
 基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level 1 500-539、TOEFL
 ITP Level 2500、TOEIC675-819、IELTS 6.0、英検準1級程
 度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、
 担当教員に相談すること。

Courses in Intercultural Communication need the higher English
 proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP
 Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819,
 IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score
 mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

This course is designed to provide students with a comprehensive exploration of the complex intersections between society and religion in the context of a globalizing world. As globalization continues to shape and redefine human interactions, this course seeks to critically analyze the multifaceted roles that religion plays in influencing and responding to global dynamics. Students will explore issues such as immigration, nationalism, conflict, gender, sexuality, tourism, consumerism, and citizenship, all within the broader context of contemporary global society.

【到達目標】

By the end of this course,

- ① Students will have gained a nuanced understanding of the intricate connections between society and religion in the age of globalization, enabling them to critically engage with the complex issues that arise in our increasingly interconnected world.
- ② Through a multidisciplinary approach, students will be equipped with the knowledge and analytical tools to address the challenges and opportunities presented by the dynamic interplay of society, religion, and globalization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」
 に関連。

【授業の進め方と方法】

The first part of class focuses on providing students with a broad understanding of the background of the topic covered in the assigned readings. The class then engages in a discussion that allows students to share their insights and interpretations of the reading assignment. In the second half of the class, the focus shifts to a broader examination of the issues raised in the reading assignment. The class expands its scope to explore the implications, connections, and applications of the issues in a broader context.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	The outline of the course
2	Religion and Tourism	Modern Pilgrimage in Japan
3	Religion and Sport	Affinities in Religion and Sport
4	Religion and Gender	Anti-Hijab Protests in Iran
5	Religion and Diplomacy	Russian Orthodox Church and Soft Power
6	Religion and Sexuality	LGBTQ and Post-Colonialism in Africa
7	Religion and Nationalism	Yoga and Indian National Identity
8	Religion and Globalization	Mid-term examination
9	Religion and Global Capitalism	Consumer Jihad in Turkey
10	Religion and Immigration	Anti-Muslim Sentiments in Europe
11	Presentation ①	Oral presentation of final papers (Group 1 students)
12	Presentation ②	Oral presentation of final papers (Group 2 students)
13	Presentation ③	Oral presentation of final papers (Group 3 students)
14	Presentation ④	Oral presentation of final papers (Group 4 students)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

Students are required to read the assignments and be ready for class discussions. Students are expected to spend about 4 hours a week on coursework outside the class.

【テキスト(教科書)】

There is no textbook for this course. All course materials are available online through the course web site.

【参考書】

Jayeel Cornelio, François Gauthier, Tuomas Martikainen and Linda Woodhead, eds., Routledge International Handbook of Religion in Global Society (Routledge, 2022).

【成績評価の方法と基準】

- ① Class participation 20%
- ② Mid-term examination (approximately one page in length) 20%
- ③ Final paper presentation 20%
- ④ Final paper (2-3 pages in length) 40%

Based on the grading criteria set by the instructor, students who successfully achieve 60% or more of the course goals will earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

LIN300GA（言語学 / Linguistics 300）		
世界の言語Ⅰ		
興石 哲哉		
配当年度／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：隔年開講 ｜ 開講セメスター：春学期授業/Spring		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 世界の数多くの言語のうち、この授業では、インド・ヨーロッパ語族（印欧語族）の言語について考察していきます。この語族の言語は世界中に広がっていて、今では全ての大陸で話されています。この語族がどのようにしてできたのか、どのようにこの語族の言語が変化してきたのか、特徴はどのようなものか、世界の言語の中でどのような位置にあるのかについて知ることが、本科目のテーマです。		
【到達目標】 具体的には、以下の5つです。 1）インド・ヨーロッパ語族の言語について、その全体像を把握すること。 2）インド・ヨーロッパ語族について、その歴史を知ること。 3）インド・ヨーロッパ語族の言語の研究の方法や背景について知ること。 4）他の語族とインド・ヨーロッパ語族の関係について知ること。 5）一般的に、言語の歴史・構造について、知識を得ること。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。		
【授業の進め方と方法】 ・授業は、基本的にシラバスに基づき、対面の講義形式で進めていきます。履修者数、履修者の知識等により、内容には修正を加えることがあることを予めご了解ください。 ・授業は全て事前に用意したスライドを用いたプレゼン形式で行います。同スライドは予めダウンロード可能です。さらに、背景が白いものを事前に用意しそれを事前にプリントアウトした上で授業に持参して書き込みを作れば、自分だけのノートとしての機能をもたせることも可能です。 ・「学習支援システム」を多用し、事前、事後の学習も可能な限り支援していきます。 ・課題等に対するフィードバックは、基本的に「学習支援システム」を用いますが、状況に応じて、個人メール等で行うこともあります。 ・各回に可能な限り前回のフィードバックを行い、さらに最終回では、それまでの授業のまとめ、復習を行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	・はじめに ・ヨーロッパとは？ ・最近のヨーロッパの傾向	授業のやり方について、概略を説明し、ヨーロッパについて学び、比較することの意味について学びます。
2	・比較の視点 ・地球単位で言語を考える ・英語で-aで終わる語 ・ある童話から ・欧米と日本	地球単位で言語を考えることを実際の例をいくつか見ながら考えます。
3	・Parallel textの意味	言語を比較する際の材料として、parallel textと呼ばれるものを使用することがあります。様々な例を使い、実際に言語の比較を行っていきます。
4	・印欧学の発達 ・印欧祖語 ・歴史的な背景	印欧学という学問がどのように発達してきたか、歴史的な背景を見ながら考えていきます。
5	・言語間の類似 ・音対応 ・貨幣と切手 ・個々の語派	言語観の類似をどのように説明するか考えていきます。印欧語族の語派について見ていきます。初回は、Indo-Iranian, Armenian, Albanianについてお話します。
6	・個々の語派（続き）	印欧語族の個々の語派について、引き続き見ていきます。今回は、Baltic, Slavic, Hittite, Tocharian, Hellenic, Italicの各語派についてお話しします。
7	・英語へのラテン語の影響 ・個々の語派（続き） ・非印欧諸語 ・Grimm's Law	最初、英語へのラテン語の影響を見た後、語派の話を続けます。今回はCeltic, Germanicについて見ます。さらに、印欧語族でない言語についても学びます。その後、Grimm's Lawについて話し始めます。
8	・Grimm's Law（続き） ・Verner's Law ・Centum vs. Satem ・音対応と言語再建	Grimm's LawとVerner's Lawについて学び、さらに印欧語族を2分すると言われるCentum-Satem Splitについてお話しします。それから音対応と言語再建について学びます。
9	・言語の語彙 ・歯擦音化 ・The letter C in English	言語の語彙の成り立ちについて見た後、自然な音変化の例として歯擦音化について考察します。英語のCという文字の歴史の例に取り、歯擦音化を例証します。
10	・ヨーロッパの地勢 ・印欧祖語はいつ話されていたか？	印欧語族の発達に、ヨーロッパの地勢が及ぼした影響について考察し、その後、印欧祖語の「いつ」問題について考察します。
11	・印欧祖語はどこで話されていたか？	印欧祖語の「どこ」問題について、最新の印欧学の成果を解説しながら考察します。
12	・印欧祖語はどこで話されていたか？（続き） ・印欧祖語の史的発達	前回に引き続き、印欧祖語の「どこ」問題について、最新の印欧学の成果を解説しながら考察しますその後、印欧祖語の発達の経緯を見ていきます。
13	・印欧祖語の史的発達（続き） ヨーロッパ早わかり 現在の欧州言語事情 ・まとめ	印欧祖語がどのように発達を遂げたか、引き続きお話しします。ヨーロッパの言語文化事情をまとめ、最後に現在の欧州言語事情に触れます。最新の業績について少しだけ触れ、これまでの授業を総括します。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 毎回、前回の内容を復習しながら、新しい内容に進みます。基本的な用語を習得し、方法論を理解しながら、参考文献等を読んで授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布、提供いたします。		
【参考書】 授業中、随時指定いたしますが、とりあえず以下のものを挙げておきます。泉井久之助(1968).『ヨーロッパの言語』。東京：岩波書店。[古いですがよい本です。基本的にこの本の内容は、かなり本科目の内容と重なります。] 風間喜代三(1978).『言語学の誕生』。東京：岩波書店。 マルティネ、アンドレ、神山孝夫訳(2003).『「印欧人」のことは誌—比較言語学概説—』。東京：ひつじ書房。 Chapters 1 &2 from Denning, K, B. Kessler, and William R. Leben (2007). <i>English Vocabulary Elements</i> . Oxford: Oxford University Press. Chapters 2 &3 from Stockwell, Robert &Donka Minkova (2001). <i>English Words: History and Structure</i> . Cambridge: Cambridge University Press. Diamond, Jared (1997). <i>Guns, Germs and Steel</i> . London: Caggo & Windus.		
【成績評価の方法と基準】 試験の結果(100%)に基づき成績を出します。人数が多すぎる場合、授業への参加度を見ることは現実的ではないため、現段階では平常点は設定していませんが、人数を見て場合によっては平常点を加味します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。		
【学生の意見等からの気づき】 隔年開講のため、特にありません。		
【学生が準備すべき機器他】 パソコン、スクリーン等を用います。		
【その他の重要事項】 高校の時に用いた、いわゆる学習者用英和辞書ではなく、語源欄が充実している英語の辞書を用意して、関連の語などについて調べるようにしてください。授業でもお話ししますが、英語は西欧の諸言語を知る上で、非常に重要な言語ですので、何かと授業でも話す機会が多くなります。		
【カリキュラム上の位置づけ】 本科目は、学部専門教育科目の（4）言語科目に属し、ことばを成り立たせているさまざまな要素について学ぶものです。「世界の言語Ⅱ」と交替で隔年開講され、2年生以上が履修できます。		
【Outline (in English)】 【Course Outline】 【Learning Objectives】 The objective of this course is to get a general idea of Indo-European languages. Specifically, by the end of the course, you should: - become acquainted with the European languages in general, - have enough knowledge about the their historical background, - become acquainted with the basic knowledge about Indo-European studies and the backdrops of its development. - have general knowledge about the relationship between Indo-European languages and other language families. - begin to develop a general knowledge of linguistic history and structure. 【Learning Activities Outside of Classroom】		

Each class session starts by reviewing the previous class session before new contents are introduced. Try to understand the basic facts and concepts before coming to the class session.

[Grading Criteria /Policy]

Grades are given according to the result of the one big final exam.

LIN300GA（言語学 / Linguistics 300）		
世界の言語Ⅱ		
内山 政春		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：隔年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
・この授業は「世界の言語Ⅰ」と交替で隔年開講されています（ただし今年度は両者を同時に開講します）。「世界の言語Ⅰ」がヨーロッパ諸言語に関する内容であるのに対して、この授業ではアジアの言語、特に東アジア漢字文化圏各国（日本、南北朝鮮、中国、台湾、ベトナム）の言語を中心に取り上げたいと思います。しかしそれに限らず、言語をとりまくさまざまな現象に関して言及しながら、みなさんの学習言語が何語であれ、その学習に少しでも役立つような話をしたいと思っています。人工言語として知られるエスペラントについても取り上げる予定です。		
【到達目標】		
・言語について公平な視点をもてるようになること（一例をあげれば「日本語は非論理的、英語は論理的」のような俗説に惑わされないようになること）。そして学習言語と日本語をさまざまな側面から対照できる力をつけること、以上のことを目標にして履修してください。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。		
【授業の進め方と方法】		
・基本的には講義形式で行ないますが、SA先の言語に関して言及するときは、該当する学生に質問することもあるでしょう。毎回のみなさんの感想や質問は、次の授業で言及する予定です。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	言語と方言—ひとつの「ことば」とは—	・世界の国家数と言語数 ・言語と方言 ・日本の言語
2	言語の分類—やさしい言語と難しい言語—	・やさしい言語と難しい言語 ・系統論による分類 ・類型論による分類 ・外国語の難しさと文法
3	音声と音素—同じ「音」と異なる「音」—	・日本語のローマ字表記 ・音声と音素 ・ローマ字表記と音素 ・外国語学習と音
4	言語と文字—文字は「音」をあらわすものか—	・言語数と文字数 ・文字の系統と分類 ・ローマ字の広がり ・文字の目的
5	漢字と漢字文化圏	・言語としての漢字文化圏 ・中国語と漢字 ・漢字の伝播 ・表音文字の発達 ・漢字のしくみ ・形を失った漢字 ・漢字圏での固有名詞の読み方
6	中国語とその周辺 1	・「中国語」とは？ ・「中国語」の表記
7	中国語とその周辺 2	・「中国語」の用いられる地域 ・「中国語」は存在するか？
8	中国語とその周辺 3	・中国語を用いる2つの国家
9	台湾の言語 1	・台湾の中国語
10	台湾の言語 2	・「多言語国家」としての台湾
11	朝鮮語とその周辺 1	・朝鮮語の使用領域 ・言語と文字の名称 ・歴史と系統 ・朝鮮語の表記
12	朝鮮語とその周辺 2	・ハングルの出現 ・近代の朝鮮語 ・戦後の朝鮮語 ・ハングルの海外「進出」 ・南北の朝鮮語のちがひ ・語彙と文法
13	ヨーロッパの諸言語と文法カテゴリー	・ヨーロッパ諸言語の系統 ・ヨーロッパ諸言語の話者数 ・ヨーロッパ主要言語の語彙 ・語彙の借用 ・文法カテゴリー
14	エスペラント	・人工言語の試みとエスペラント
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
・SA先の言語はもちろん、その他の外国語にも、そして日本語にも、ことばと名のつくものに広く関心を持ってください。関連する本を積極的に読んでください。 ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
・特にありません。		
【参考書】		
・特に指定はしませんが、各項目に関して興味のある人は『言語学大辞典』（三省堂）を参照してください。		
【成績評価の方法と基準】		
・従来の対面授業では、毎回の授業の終わりに講義に関する感想や質問を書いてもらっていましたが、今回は授業では出席確認のみにし、感想や質問はHoppiiで提出してもらうことにしようと思います。その方が時間の余裕をもってまとまったことを書けると思うからです。リアクションペーパーの内容は最低字数を定め（200字）、毎回の内容を総合して評価します（100%）。100点満点で60点以上を合格とします。 ・あまりにも出席が少ない場合、リアクションペーパーの内容があまりにもいまいけない場合には、毎回の提出評価の対象から外すこともあります。		
【学生の意見等からの気づき】		
・授業が始まっているのに遅刻者が教室にゾロゾロ入ってくると、他の学生の迷惑にもなり、授業の進行も遅れがちになります。授業開始の時点で学生が着席しているのは「あたりまえ」のことです。それが守れない人、また私語をする人は、他の学生に迷惑となりますので、受講しないでください。		
【学生が準備すべき機器他】		
・教員が準備した映像資料を見てもらいながら話を進めます。		
【その他の重要事項】		
・順序と内容に若干の変更がある可能性があります。		
【Outline (in English)】		
< Course outline >		
The aim of this course is to help students acquire general knowledge about languages in Asia, especially East Asia, including Japan, Korea, China, Taiwan and Vietnam.		
This course will also deals with so-called constructed language "Esperanto".		
< Learning Objectives >		
The goal of this course is to acquire a fair perspective on language.		
< Learning activities outside of classroom >		
Students will be expected to submit a reaction paper after class.		
< Grading Criteria/Policy >		
Your overall grade in the class will be decided based on your reaction papers.		

LIN300GA（言語学 / Linguistics 300）

世界の英語

小中原 麻友

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：選抜
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化社会の現在、「英語」ほど広範に使用されている言語はありません。しかし、その「英語」とは一体どのようなものなのでしょうか。World EnglishesやEnglish as a lingua francaという言葉聞いたことがありますか。

英語の国際的普及は、地域の社会的要因に関連して多様化した様々な英語変種を生み出しました。英・米・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの各英語だけでなく、インド、シンガポール、フィリピン、マレーシア等のアジア諸国でも多様な「英語変種」が存在し、これらはWorld Englishes（世界の諸英語）と複数形で呼ばれています。また、グローバル化の進展は、ビジネスや教育上の国際交流・協力の急速な拡大をもたらし、そのような国際的な場において英語は、言語・文化の異なる者同士のコミュニケーションにおいて「共通語（a lingua franca）」として幅広く使用されています。本講義では、World EnglishesとEnglish as a lingua francaという2つの視点から、一見自明とも思われる「世界の英語」の実態について迫っていきます。

【学期前半】社会・人・言語へのグローバル化の影響や英語の国際的普及の過程を概観した後、特に、英米などの英語を母語とする国々やアジア諸国の多様化した英語変種の言語的特徴について、その歴史・社会・文化的背景にも触れながら学んでいきます。

【学期中盤】標準英語イデオロギー・英語母語話者信仰、英語帝国主義論、言語差別などの概念や現象について学習し、「英語」を取り巻く問題について理解を深めます。

【学期後半】ヨーロッパやアジア諸国での実際のコミュニケーションの事例を紹介しながら、ビジネスや高等教育等の国際的な場において言語文化を異にする者同士が、英語を共通語として使用してどのようにコミュニケーションを図っているのかについて、特にコミュニケーション・ストラテジーの使用を中心にその特徴を学んでいきます。

最終的には、学習内容に基づき、グローバル化社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察できるようにすることを目指します。

【到達目標】

1. 国際的普及によって多様化した英語変種の地域的特徴（音声の仕組み、および文法等）とその歴史・社会文化的背景について、具体的に説明することができる。
2. 国際共通語としての英語でのコミュニケーションの実態や特徴について、具体的に説明することができる。
3. 標準語イデオロギーや英語母語話者信仰などの「英語」を取り巻く問題や重要性を批判的に考察し、説明することができる。
4. 上記1-3を踏まえた上で、グローバル化社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察し、自分の意見を具体的かつ論理的に述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・授業は、PPTとオンライン上で配布するワークシートを使用した講義の他、グループ・ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、リーディング、リスニング等の活動も取り入れて進めます。
・授業毎に提出するリアクションペーパーに、個別にフィードバックを行います。また良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

・本講義では、課題の提示や提出、フィードバックなどに、Google Classroomを使用します。法政大学のGmailアカウントで利用が可能です。アクセスコードは、初回授業までに学習支援システムよりお知らせしますので、事前に登録をしておください（一度登録しても、後から登録を取り消すことが可能です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の紹介・履修条件、導入（選抜）アンケート
第2回	講義・ディスカッション（1）	The influence of globalization: Linguistic diversity and English users (グローバル化の影響：言語的多様性と英語使用者)
第3回	講義・ディスカッション（2）	The global spread of English (英語の地球規模の普及)
第4回	講義・ディスカッション（3）	Diversification of English and preparation for group presentations (英語の多様化、グループプレゼン準備)
第5回	グループ・プレゼンテーション（1）	Varieties of English (1): Englishes in the UK, the US, and Canada (英語変種（1）：イギリス、アメリカ、カナダの英語)
第6回	グループ・プレゼンテーション（2）	Varieties of English (2): Englishes in Australia, New Zealand, India, and Thailand (英語変種（2）：オーストラリア、ニュージーランド、インド、タイの英語)
第7回	グループ・プレゼンテーション（3）	Varieties of English (3): Englishes in Vietnam, Malaysia, Singapore, and Indonesia (英語変種（3）：ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシアの英語)
第8回	講義・ディスカッション（4）	The legacy of colonialism, native speakerism and standard language ideology (植民地化の遺産、英語母語話者信仰、標準語イデオロギー)
第9回	講義・ディスカッション（5）	Native-speakerism and language attitudes (英語母語話者信仰と言語意識)
第10回	講義・ディスカッション（6）	English as a lingua franca (ELF) communication (1): Introduction (共通語としての英語（ELF）でのコミュニケーション（1）：導入)
第11回	講義・ディスカッション（7）	ELF communication (2): Communication strategies (CS) for supporting meaning-making (ELFでのコミュニケーション（2）：話し手の発話を支援するコミュニケーション方略)
第12回	講義・ディスカッション（8）	ELF communication (3): CS for coping with communication problems (ELFでのコミュニケーション（3）：コミュニケーション上の問題に対処する方略)
第13回	講義・ディスカッション（9）	ELF communication (4): CS for facilitating communication (ELFでのコミュニケーション（4）：コミュニケーション上を促進する方略)
第14回	期末試験（あるいは期末レポート）、および総括	期末試験の実施（あるいは期末レポートの提出）とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間/1回）を標準とします。

<準備学習>

1. リーディング課題（第3回、9回授業開始時まで；全2回予定）：指定の資料を読み内容を把握し、まとめる。
2. フィールドワーク（第2回、9回、12回授業開始時まで；全3回予定）：授業前までにインストラクションに沿って簡単なデータ収集・分析を行い、それに基づき考察を書く。
3. グループ・プレゼンテーション準備（第5～7回授業開始時まで）：グループごとのプレゼンテーションの準備を行う。プレゼンの準備には、原則、学術的な図書や論文、あるいはウェブサイトを使用し、学術的根拠に基づいていない個人の作成したウェブサイトやブログ等は使用しないこと。

<復習>

1. 授業毎のリアクションペーパー（第2～14回；全13回予定）：第2回以降、授業毎に学習内容を振り返るコメントを書き、次回授業開始前日までにGoogle Classroomの指定のフォームから提出する。
2. その他、期末試験、あるいは期末レポートに向け、適宜、復習する。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書指定なし。ただし、以下の新書の一部を第2回のリーディング課題として使用予定。図書館にも所蔵はありますが、図書館へのアクセスが難しい学生については購入することを推奨します。
- 久保田竜子, 2018. 『英語教育幻想』. 筑摩書房, 東京. (参考: アマゾンにて新書902円、Kindle 770円)
- ・その他、テーマごとに参考文献を紹介します。配布資料やスライドは、原則英語です。
- ・授業のPPTは、授業終了後に、オンライン上で公開します。

【参考書】

< World Englishes と English as a lingua franca についての背景知識 >

1. Crystal, D. (2003). English as a global language (2nd ed.). Cambridge: Cambridge University Press.
2. Galloway, N., & Rose, H. (2015). Introducing global Englishes. London; New York, NY: Routledge.
3. Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students (3rd ed.). London; New York: Routledge. (Companion website: <http://www.routledge.com/textbooks/9780415638449/default.php>)
4. Jenkins, J., Cogo, A., & Dewey, M. (2011). Review of developments in research into English as a lingua franca. Language Teaching, 44(03), 281-315.
5. Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes paperback with audio CD: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge, UK; New York: Cambridge University Press.
6. Murata, K. (2015). Exploring ELF in Japanese academic and business contexts: Conceptualisation, research and pedagogic implications: Routledge.
7. Murata, K., & Jenkins, J. (2009). Global Englishes in Asian contexts: Current and future debates. Houndmills ; New York: Palgrave Macmillan.
8. Seidlhofer, B. (2011). Understanding English as a lingua franca. Oxford: Oxford University Press.
9. Trudgill, P. & Hannah, J. (2002). International English: A Guide to the Varieties of Standard English (4th ed.). London: Arnold.
10. 唐澤一友. (2016). 『世界の英語ができるまで』. 東京: 亜紀書房.
11. 末延孝生. (2010). 『ニホン英語は世界で通じる』. 東京: 平凡社.
12. 田中春美, 田中幸子 (2012). 『World Englishes - 世界の英語への招待』. 京都: 昭和堂.
13. 鳥飼玖美子 (2011). 『国際共通語としての英語』. 東京: 講談社.
14. 本名信行 (2002). 『事典アジアの最新英語事情』. 東京: 大修館.
15. 本名信行 (2003). 『世界の英語を歩く』. 東京: 集英社新書.

<リスニング教材>

1. 榎本園鉄也 (2012). 『インド英語のリスニング』. 東京: 研究社.
2. 榎本園鉄也. (2016). 『インド英語のツボ: 必ず聞き取れる5つのコツ』. 東京: アルク.
3. 柴田真一. (2016). 『アジアの英語』. 東京: コスモビア.
4. ジョセフ・コールマン著、渡辺順子訳 (2008). 『いろいろな英語をリスニング』 東京: 研究社.
5. 鶴田知佳子、柴田真一 (2008). 『ダボス会議で聞く世界の英語』. 東京: コスモビア.
6. 平本照磨 (2010). 『究極の英語リスニング Worldwide』. 東京: アルク.
7. 里井久輝 (2019). 『世界の英語リスニング』. 東京: アルク

<参考ウェブサイト>

1. ACE. (2013). The Asian Corpus of English. Retrieved 23rd September 2014 <http://corpus.ied.edu.hk/ace/index.html>
2. IDEA (2017). International Dialects of English Archive. Accessed 20th September 2017 from <http://www.dialectsarchive.com/dialects-accents>
3. Sekiya, Yasushi, Kawaguchi, Yuji, Saito, Hiroko, Yoshitomi, Asako, Yazu, Norie, & Marphey, Phillip. (2006). World Englishes: English modules dialog based on research into sociolinguistic variation [Shakai gengogakuteki heni kenkyuu ni motoduita eigo mojururu] Retrieved 16th August 2016, from <http://labo.kuis.ac.jp/module/index.html>
4. VOICE. (2013). The Vienna-Oxford International Corpus of English (version 2.0 Online). Retrieved 23rd January 2013 from <https://www.univie.ac.at/voice/>

【成績評価の方法と基準】

<平常点：5%>

- ・「平常点」とは、出席率でなく授業内活動や質疑応答などへの積極的な貢献度を意味します。ディスカッションに積極的に貢献して下さい。
- ・授業毎のリアクションペーパーの提出率も平常点に含みます。
- ・遅刻2回（ただし、電車遅延は除く）で、欠席1回とみなします。

<試験：50%>

学期末（第14週）に試験を行うか、期末レポートを提出し、学習内容の理解度や考察・意見内容を総合的に判断します。（補足：試験 or レポートの実施は履修者数によって決定しますが、参考までに、これまではレポートとなるケースが多かったです。）

<その他授業内外課題：45%>

- ・授業毎のリアクションペーパーの内容に加え、リーディング課題、フィールドワーク、グループ・プレゼンテーションでの学習内容の理解度と考察内容を総合的に評価します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

音声データ、録画データ等を使用して、多様な英語変種やそのような英語での実際のコミュニケーションを聞く機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

PCやタブレット端末を持参してください。

【その他の重要事項】

重要：初回授業について

受講希望者数が、例年より多くなった場合は、初回授業で選抜を実施します。よって、受講を希望する学生は、必ず初回授業に参加し、導入/選抜アンケートを提出してください。選抜を実施した場合、その結果は初回授業終了後、速やかに、各学生にメール等で通知します。

授業中は、適宜ノートを取って下さい。ただし、ノートをとることよりも講義の内容に集中して、そのテーマについて自ら考えるようにしてください。「覚える」のではなく、「考える」ことが重要です。皆さんの意見を聞いて回りたいと思います。答えに正解・不正解はありませんので、積極的に意見交換することを期待します。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In today's globalized world, English is one of the dominant tools for intercultural communication. But what exactly is this "English"? Have you heard terms like "World Englishes" and "English as a lingua franca"? The global spread of English has given rise to diverse English varieties shaped by local sociocultural factors. These include not only the Englishes of so-called "English-speaking countries" such as the United States, the United Kingdom, Canada, Australia, and New Zealand but also English varieties spoken in Asian countries such as India, Singapore, the Philippines, and Malaysia. Collectively, these varieties are referred to in the plural form as "World Englishes". Moreover, globalization has significantly expanded international exchange and cooperation in business and education, leading to the widespread use of "English as a lingua franca" - a common language among people from different linguistic and cultural backgrounds. This course aims to explore the reality of "English", which may initially seem straightforward, through the lenses of "World Englishes" and "English as a lingua franca". By the end of the course, students will critically examine the role of English and the communication competences required in the globalized world, building the knowledge gained throughout the semester.

[Learning Objectives]

1. Students can explain in detail the phonological and grammatical features of English varieties that have emerged through its global spread, as well as their historical, social, and cultural backgrounds.
2. They can describe in detail the realities and characteristic features of communication in English as a lingua franca.
3. They can critically analyze and explain issues surrounding English, such as standard language ideology and native-speakerism, and their significance.
4. Building on their understanding of the above points, they can critically examine the role of "English" and communication competences in English required in the globalized world, articulating their opinions in a specific and logical manner.

[Learning Activities outside of Classroom]

The standard preparation and review time for this course is set at two hours each (a total of four hours per session).

< Preparation >

1. Reading Assignment (by the beginning of Sessions 3 & 9): Read the assigned reading materials.
2. Fieldwork and Report (by the beginning of Sessions 2, 9 & 12): Carry out fieldwork three times.
3. Preparation for a Group Presentation (by the beginning of Session 5/6/7): Prepare presentation slides for your group presentation about varieties of English.

< Review >

1. Weekly comments (Sessions 2-14): Reflect on what you've learned in each session, and write comments in a designated form on Google Classroom. Submit the comment one day before the next session each week.
2. Preparation for final exam (or a term paper): Prepare for the final exam (or a term paper) by reviewing what you've learned in each of the sessions.

[Grading Criteria /Policy]

1. Class contribution (5%): Active contribution to class will be evaluated. Students are expected to contribute to discussion actively. The submission rate of weekly comments is counted here.
2. Final exam/term-end paper (50%): Exam answers (or term-end paper) will be evaluated in their contents.
3. Other tasks (45%): Weekly comments, reading assignment, fieldwork reports, group presentations will be evaluated in their contents.

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)	
メディア表現法	
大嶋 良明	
配当年度／単位：2～4年／2単位	
旧科目名：	
旧科目との重複履修：	
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall	
人数制限・選抜・抽選：特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。	
備考(履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい	
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉	

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Photoshopの応用テクニックをいろいろ学ぼう

PCを使つてのマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshopを基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつかの課題制作に取り組む。見やすい作品づくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Webやパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】

Photoshopの応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、デジタルマルチメディアの特性を活かした中級以上の作品制作ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

情報実習室において講義と実習を行う。

●作品制作の理論と技法(講義と実習)

- ・デザインの基礎とPhotoshopの応用技法
- ・画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用
- ・レイヤー、マスク、フィルタの技法
- ・コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realisticな作品作りに必要な写真理論
- ・DTPに向けてのスキャナ、プリンタの利用法

●クリティーク (合評) と制作メモの提出

各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言葉を学ぶ。

●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

- ・デジタル写真のリタッチ
- ・ポスター作り (Photoshop + 大判プリンタ・Web)
- ・写真表現の作品化 (アルバム・Web)
- ・自由なテーマによる最終課題 (Photoshop + 大判プリンタ・Web)

●大事にしたいこと

- ・誰もが自分だけの something を持っている。みんなで学ぼう。
 - ・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。
 - ・「コンピュータに簡単に取り込めない世界」を大事にしよう。
 - ・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。
- なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性 (音声、音響、文書・画像・映像)、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ。
2	デザインの基本原則	CRAPの原理(近接、反復、整列、コントラスト)を学ぶ。
3	デザインの基本原則の応用	前2回の講義内容と既存のPhotoshopの基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク (合評) をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。

5	メディア処理ソフトウェアの実際－画像レタッチソフト (Adobe Photoshop CC)	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Webのためのデジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Webアルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	イメージの取り込みと調整	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。
8	レイヤーの技法	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング (前編)	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング (後編)	第9回に引き続き、制作実習の後半。
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ。
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	RGB、HSB、CMYKなどカラー表色系の関係、セピア系、シアン系などのモノクローム調色、スポットカラー、DuoToneなどの表現技法を学ぶ。
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較。
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディアPCを活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでデジタルカメラやスマートフォンを携帯し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

制作テキスト (必要部分の和訳プリント配布) : Adobe Photoshop5.5 and Illustrator8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X
制作テキスト (必要部分のみをプリント配布) : Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499

制作テキスト (CMYK変換、色域外警告について参照) : Adobe Photoshop Classroom in a Book (2022 release): ISBN-13: 978-0137621101

デザイン論テキスト (初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布) : R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ (1998)、ISBN 4895630072

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「第三版 入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8を挙げておく。撮影技法については、キット タケナガ (著) 東京写真学園 (監修)、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社 (2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加の積極性,30%)、クリティーク(課題作品の相互批評,15%)、課題ならびにマルチメディア作品制作(35%)、ePortfolio(個人の作品集づくり,20%)を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。2023年度は印刷出力に関し色域外警告の取り扱いとCMYKへの変換について説明内容を増補充実させた。また2022年度より継続的にPC実習機の問題解消に努めている。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。
素材撮影のためにデジタルカメラが必要、光学性能では遜色ないスマートフォンの使用も認めるが、できれば絞り、シャッター速度、露出補正など撮影条件を細かく設定できるデジタルカメラによる撮影を心掛けて欲しい。

制作のためのフォトプリント用紙など課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。
提出作品はePortfolioにて保存公開する。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。

写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshopの応用技法については本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」など。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野の研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Critique and review: 15%

Homework and in-class assignment: 35%

Individual e-Portfolio: 20%

You must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）		
プログラミング言語基礎		
和泉 順子		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring		
人数制限・選抜・抽選：人数制限あり		
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい		
その他属性：〈優〉〈S〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
情報システムを構築する上で必要なプログラミングには様々な言語が用いられている。本講義ではオンライン併用環境であることを考慮し、使用言語をJavaScriptとする。ただし、基本的なプログラミング言語とも云えるC言語についても、データ型の概念、配列、関数、ポインタ、ファイル操作などのプログラミングに関する基本事項を学ぶために適宜補足として取り入れる。JavaScriptやC言語を実際に使いながら基礎的な概念を学び、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。		
【到達目標】		
プログラミングの基本構成として記述/実行方法や基本的な文法を理解し、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。 具体的には、プログラミングで用いる用語や概念を理解し、独力でプログラミングに関する本を読んで理解できるようになること、かつ簡単なアルゴリズムを学習することで簡単なプログラムを実装できることを目指す。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。		
【授業の進め方と方法】		
授業では、(1)プログラミング言語仕様や構造の理解、(2)具体的な文法の学習、(3)プログラムの実装とデバッグ、というプログラミングの段階的な学習を行う。すべて計算機を使用した実習形式で行い、課題作成をとおして学習結果を確認する。		
情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれともなう各回の授業計画の修正については、学習支援システム（Hoppii）でその都度提示する。履修予定者は、抽選の可能性があるので必ず初回授業前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加すること。		
課題等の提出・フィードバックは、授業内および学習支援システムを通じて行う。		
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業の進め方、目的などを確認する
2	JavaScript概説	JavaScriptのプログラム（ソースコード）を記述するための環境（実装環境）および実行環境を確認する
3	変数、データ型	使用できる変数の使い方、使用できるデータの型、宣言の仕方について学習する
4	演算子と式	代入式、算術演算子、インクリメント/デクリメント演算子、代入演算子、関係演算子の用法を学ぶ
5	文とブロック	文とブロック、局所変数と大域変数の用法を理解して、使用する
6	条件分岐	if文用法を学習し、具体的問題を作成してみる
7	繰り返し	for文、while文の構造を学習し、問題に適用する
8	基本的なアルゴリズム（1）	並べ替えを例に、同じ問題であっても対応するアルゴリズムが複数あることを学ぶ
9	基本的なアルゴリズム（2）	アルゴリズムを学んだ上で、それをコードとしてどう表現するのかを学習し、試す
10	アルゴリズムの実装	データの並べ替えを行う簡単なプログラムを実装する
11	関数（1）	関数の概念と文法（形式）を学ぶ
12	関数（2）	実際に自分で関数を作ったり、すでに用意されている関数を使ったりして、目的を達成するコード作成を目指す
13	正規表現	正規表現の概念を学習し、パスワード強度チェックなど実際のサンプルコードを使ってを試行する
14	テストと授業のまとめ	授業での学習内容について、理解度を確認するためのテストを行う。また、テストの解説を行うことで授業をまとめる
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
授業内容を復習し、課題を提出する。 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
必要に応じて講義内で適宜連絡する。		
【参考書】		
必要に応じて講義内で適宜連絡する。		
【成績評価の方法と基準】		
成績評価は、平常点（授業に対する貢献など）20%、課題 30%、期末テスト 50%、で行う。 この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。 対面での期末テストの実施が困難であればオンライン試験を代替として行う。この場合は、期末テストの配分を下げ、小テスト・課題・レポート、授業内掲示板のコメントや情報共有を平常点を相対的に上げる予定である。詳細は初回授業時に説明する。		
【学生の意見等からの気づき】		
理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。		
【学生が準備すべき機器他】		
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、テキストエディタを用いることを前提としている。 オンライン併用の場合は、実習の質問対応も含めて適宜Zoomを用いる可能性がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。 授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。		
【その他の重要事項】		
初回授業に必ず出席し、資料等を閲覧・確認すること。 情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。 受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。履修予定者は、必ず初回授業日の前日までに学習支援システムで本科目を仮登録してから、初回授業に参加すること。		
【前提科目】		
情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。		
【Outline (in English)】		
(Course outline)		
We will focus on the programming language specification and syntax of JavaScript and C language, which is one of the most famous programming languages, and learn the basics concepts related to programming.		
(Learning Objectives)		
To understand how to write and execute basic programming constructs and basic grammar, and to acquire the ability to create simple programs.		
(Learning activities outside of classroom)		
You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.		
(Grading Criteria /Policy)		
Grading will be decided based on Assignments and mid-term reports (30%), in-class contribution(20%), and term-end report (50%).		

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

仮想世界研究

甲 洋介

サブタイトル：仮想世界とAIが拓く世界 ― 本当に君はヒトなの？と問う時代
配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会の重要なテーマとして「仮想世界」を取り上げる。仮想世界が人工知能と融合して新たな世界観が生まれつつある、と感じている人もいだろう。本講義は「仮想世界」の問題に対して、受講生が具体的、かつ主体的に検討できるよう工夫されている。

● 手ごたえのない「現実」 vs. リアルな「仮想世界」

ヒトは仮想世界を作り出した。気がつくと、現実と仮想の境界はますます曖昧になってきたと感じる。しかし、この2つの世界がスムーズに接続された理想的な状態にはない。AR/XRやメタバースなど、これらを繋ぐさまざまな接合法が生み出されているが、試行段階とみるのが適切であろう。

一方で、私たちの生活のさまざまな場面で、“手ごたえ”＝リアリティ（現実感）が薄れつつある、とも指摘される。私たちの日常生活は、仮想世界が浸透することによって何が「変化」し、どのように「拡張」されたのか。そして、それは問題なのか。

● つながっているフリは寂しい？ でも親密なのはもっと怖い

「情報」を軸とする変革の波は、社会だけでなく私たちの考え方に対して、深く影響を与え続けている。しかし、私たちはこの変化の意味を十分に把握しているとは言えない。仮想世界がもたらす意味を問い直す。仮想世界の問題は、物語ではない。私たちの生活に現実にかけている現象である。本講義を通じて受講生は、『ヒトは原初から巧みに仮想（バーチャル）な世界を作り出し、つぎつぎに自分の限界を超えてきた動物である』ことに気づく。この現象の論点を見究め、洞察することを目指している。

【到達目標】

本科目の履修を終えると、次の基本主題とそれに対する考えを具体的な視点と駆使して説明できるようになる

- a. 人間は仮想（バーチャル）な世界を早くから作り出し、自らを巧みに拡張させてきた動物であること
- b. 仮想世界における「私」、それは「私」なのか、それとももう一つの「私」なのか
- c. 「仮想現実感」(VR)の基本要素とその根底をなす考え方
- d. 仮想世界の社会のさまざまな側面への浸透と影響

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の各回では、具体的なトピックが取り上げられ、自分たちの身の回りに起きている現象を例に取りながら、仮想世界の問題を捉える具体的な視点と提示される。

- 現実世界のリアリティが薄れたと指摘される一方で、仮想世界のリアリティは増しているように思われる。現実世界の生きにくさが実感される中、なぜか仮想世界は“生きやすい”。仮想世界の構築はあなた自身の欲望が関与する、とされる。私たちは仮想世界に何を求め、私たちの何を変化させ、仮想世界と共にこれからをどう生きようとしているのか。いま問い直す必要がある。
- 各回の冒頭で前回のおさらいと受講生のコメントを踏まえた解説を加え、その日のトピックにつなぐ。後半は、受講生の討議を促しながら、問題に切り込む論点を提示し、受講生が問題意識を育てる工夫をする。その成果をまとめ、最終レポートまたは期末試験において、総合的に仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	仮想世界は、不思議と生きやすい ― それはなぜだろう
2	仮想世界への誘い	ネットでつながり、戸惑う ― なぜか寂しい
3	仮想世界における「私」	仮想世界の私、それは仮面の私。それともホントの私？
4	仮想世界における「こころ」	現実より、仮想世界のほうに手ごたえを感じるパラドックス

5	仮想世界における「こころ」 ― ところで、君は本当にヒトなの？ と問う時代	戸惑いから受容へ ― ヴァーチャルで恋した相手、それは〇〇だった
6	【グループ討議】仮想世界と付き合う	『没入』と、仮想世界とのアイロニカルな距離感について
7	仮想空間とAIが拓く世界	仮想世界にAIが入り込むと何が起ころうか
8	仮想現実とは何か	バーチャルリアリティ（VR）の基本概念
9	仮想現実とは何か：その根底をなす理論	仮想現実（VR）の構成要素、その根底をなす基本理論
10	仮想現実とは何か	仮想現実（VR/XR）技術の様々な分野への応用
11	仮想現実の応用：方向性	仮想現実（VR/XR）の様々な分野への応用
12	仮想現実の応用：社会が変わる	手ごたえのない経済、手ごたえのない戦争
13	【グループ討議】ヒトの欲望と仮想世界	ヒトの欲望を吸収し、膨張しつつける仮想世界
14	まとめ、総括討議、多層化する世界	リアルへの回帰か、それとも世界は『多層化』に向かうのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コメントシートも含め、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・Kinoue, Y.: "Mutual Harmony and Temporal Continuity: Perspective from Japanese Garden." ACM SIGCHI Bulletin."https://dl.acm.org/doi/pdf/10.1145/157203.157204"
- ・「接続された心」"Life on the Screen" (S. タークル、早川書房)
- ・国際会議ACM SIGGRAPH DVD (Association for Computing Machinery)
- ・「2001年宇宙の旅」(A.C. クラーク, S. キューブリック脚本, ワーナー社配給) 他、M・ミンスキーのインタビュー記録など、講義で適宜指示をする。

【参考書】

- ・アニメ：「攻殻機動隊～GHOST IN THE SHELL」
- ・映画：「惑星ソラリス」(アンドレイ・タルコフスキー)
- ・"Alone Together" (S.Turkle, Basic Books 出版)
- 担当教員の研究プロジェクトや国際学会の資料など、タイムリーなトピックを紹介することがある。 他は、開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポートまたは試験 (50%)
- ・授業・討議における積極的な貢献度合い (発表、コメントシートを含む) (50%)
- を総合して評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「仮想世界におけるこころ」の問題に、受講生の関心が高いことが分かった。その主題を始め、受講生どうしの討議の時間を十分に取れるように図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
本講義では、討議に積極的に参画し、参加者の協同作業を通じて自らの問題意識を育てる姿勢が重要になる。

【履修条件】

「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

- ・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
- ・「メディア情報基礎」を履修済みであることが望ましいが必須ではない。

【Outline (in English)】

This class addresses the enlargement of "Virtual World," as one of the essential issues of our modern society. By the end of the course, students understand and should be able to explain a set of its key concepts: (1) the virtuality vs. the reality," (2) the issue of "self and identity" within cyber spaces, and (3) how to cultivate this society which integrates real world and virtual worlds. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

FR1200GA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

社会とデータサイエンス

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
その他属性：〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがデジタル化されインターネットに接続されつつある。この授業ではIoT（Internet of Things）やビッグデータ等に関連するデータサイエンスというキーワードから、パソコンで作成するデータだけでなくセンサや人の行動、公的機関からの公開情報等から得られるデータがどこでどのように利活用されているのかを学ぶ。また、データサイエンティストとはどんな人材なのかを議論しながら、様々なデータの性質や扱い方、可視化等を統計学等の観点から学び、実践する。

【到達目標】
ビッグデータ、IoT、オープンデータ、といった言葉で表現される膨大なデータの利活用としてデータサイエンスのいくつかの事例と、そこから作られる情報や価値について学ぶ。個々のデータの具体的な内容ではなく、異なる内容や形式を持ったデータに共通する性質や、データを正しく扱うために情報科学だけでなく社会科学分野にも重要な統計学などを学ぶ。また、同じデータでも可視化の方法によって伝わり方が違う事を学び、実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義はPCを使用した実習形式で行い、授業内のプレゼンテーション、課題・小テストおよびレポートにより学習結果を確認する。
情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれともなう各回の授業計画の修正については、学習支援システム（Hoppii）でその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日の前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加すること。
課題等の提出・フィードバックは、授業内および学習支援システムを通じて行う。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明、社会におけるデータサイエンスの重要性について
2	IoTとビッグデータ	IoT（Internet of Things）とは何か、ビッグデータの利活用事例を学ぶ
3	オープンデータの活用	公開されているオープンデータがどのように活用されているかを学び、自ら調べる
4	仮想空間のプライバシー	デジタルな空間、あるいはインターネット上におけるプライバシー確保に必要な技法の一部を学ぶ
5	統計処理の意味	データを抽出して価値を創出するために、どのような統計手法があるのかを学ぶ
6	統計分析の意味	統計処理したデータの分析から何が分かるのか、それが何に役立つのかを学ぶ
7	データの種類と尺度	4つの尺度と利用可能な測定値、および相関について学ぶ
8	統計の基本と実践（1）	平均値と中央値、正規分布、分散、標準偏差の意味について学ぶ
9	統計の基本と実践（2）	正規分布と確率について学ぶ
10	統計の基本と実践（3）	標本調査における無作為抽出と標本誤差について学ぶ
11	データの可視化	同じデータでも可視化の違いによって印象や伝わり方が異なることを学ぶ。また、データを説明するために適切なグラフは何かを学ぶ
12	データサイエンスの実践	自分の興味のあるオープンデータから適切な統計手法を用いてデータを読み取り表現する

13	プレゼンテーション	自分が調べ、読み取り、表現したことを授業内で発表する
14	議論と考察、授業のまとめ	授業内で扱ったデータについて質問を通して改善の余地を議論・考察する。 また授業のまとめを行い、授業内に簡単なレポートを作成、提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計学をはじめ数学の知識を多少使うため、各自の理解度に応じて適宜予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指定する。

【参考書】
授業内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点20%、小テスト20%、プレゼンテーション30%、レポート30%で総合的に行う。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、Excelでデータ分析ができる環境を前提としている。
最終課題となるプレゼンテーションは対面授業であってもZoomを用いることを想定している。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
受講者数が定員を超過する場合は抽選を行う。
初回授業はZoomを用いたオンライン授業となるが、受講者数把握のため、受講希望者は初回授業日の前日までに学習支援システムに仮登録した上で初回授業に出席すること。
詳細は学習支援システムを参照し、授業資料や「お知らせ」を必ず確認すること。

授業内容は、「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進みます。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this class, you will learn how data, which may be obtained not only from data created by computers, but also from various sensors, human behavior, and information released by public institutions as "open data", is used in social activities. The keywords are "data science", "Internet of Things (IoT)", "open data" and "big data". Students will learn and practice the handling and visualisation of various types of data.
(Learning Objectives)

- Learn about some examples of data science as a way to make use of the vast amounts of data described by terms such as Big Data, IoT and Open Data.
- We will learn about the common properties of data with different contents and formats, and statistics.
- Learn and practice how the same data can be communicated in different ways depending on how it is visualised.
(Learning activities outside of classroom)

You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the mid-term exam (20%), in-class contribution(20%), and the term-end presentaiton (30%) and report (30%).

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

道具による感覚・体験のデザイン

甲 洋介

サブタイトル：カラダの『体験』から空間をデザインする

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「体験」という個人的な出来事を、受講生がアタマとカラダを使って「体験し直す」ことを目指す科目である。

● 日常の体験こそ奥が深い

体験という言葉からあなたが思い浮かべるのは、忘れられない出来事、驚いたこと、可笑しい体験、つらかったことなど、ほとんどが『非日常的な』体験ではないだろうか。しかし体験の本質に迫りたいなら、むしろ、日常の体験の豊かさにこそ目を向けるべきである。本講義によって受講生は、一見些細に思える日常の体験においてさえ、身体のだよさまざまな感覚は研ぎ澄まされ、わずかな世界の変化を感じ取り、豊かに感情が湧き起こり、体験が生み出されていくさまを理解できるようになる。

● 「体験」から、空間をデザインする

今年度は、「空間の体験」を取り上げる。本講義を通じて受講生は、人間は他人との間にある距離・空間を絶妙にコントロールしながら、互いに巧みな空間行動をしていることを理解できるようになる。たとえばキャンパス、マーケット、カフェ、広場、駅ナカなど、多くの人々が行き交う場は、人間の空間行動の特性を観察し、解析するには格好の空間である。

身体は空間を感じ、体験を生み出す。空間のデザインによって、そこでの体験はどのように変化するか。この理解をベースにし、日常の空間をデザインし直すことに取り組む。たとえばもっと快適に安らげるように、あるいはもっと自然な集中ができるように。

● 体験をデザインする、ということ

「経験」「体験」(experience) が今ほど注目される時代はない。一方で「経験の危機」も指摘される。仮想世界の浸透も手伝って、私たちの「体験」は急速に変化し、どこまでが想像で、どこからが本当の体験なのか、その境界は曖昧になりつつある。例えば、自分の身体と感覚を使って実際に体験していない出来事であっても、“あたかも体験したかのように”受け入れていることに気づく。本講義を通じて、この現象を、デザインの視点から批判的に問い直すことになる。

【到達目標】

受講生はつぎの3つについて、基本用語を使って簡潔な説明ができるようになる。

- 1) 体験するとはどのようなことか
 - 2) 人間は、どのように空間を身体で感じ、感情を働かせながら、人との距離や空間を互いに調節し、巧みな空間行動をしているか
 - 3) 空間の体験は、その空間のデザインによってどのように変化するか。
- そして、これらの知識を用いて具体的対象に対して基本を実践できるようにする。これを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義と、実際に手を動かすデザイン・ワークショップを組み合わせで展開させる。講義で取り上げる3つのテーマ、およびワークショップの概要は次の通りである。各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回内容のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。

● 【講義の3つのテーマ】

- (a) 身体と感覚、体験すること
- (b) 空間を体験する。道具によって空間の体験を作る
- (c) 身体の観点から、感覚・体験装置を再考する

● 【デザインワークショップ】

さらに上記テーマのうち(b)空間体験に焦点を絞って、街角のカフェ、店、学校、オフィス空間、住宅内のリビングルームなど具体的な空間を例にとり、デザインワークショップによる実践を通じて理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の狙い、構成、進め方のガイダンス
第2回	【A】身体、感覚、体験	体験と身体。自然との境界としての身体・感覚

第3回	感覚と体験	感覚を体験する。直接体験と間接体験
第4回	感情の科学：感情をとまなう体験	感情を体験する。感情を伴う体験のメカニズム
第5回	【B】人間の空間行動と空間体験のデザイン	カラダで空間を感じる（視・聴・多感覚）
第6回	人間の空間行動	観察しよう。人間が見せる面白い空間行動
第7回	人間の空間行動～パーソナルスペース	空間行動は、文化の中に組み込まれている
第8回	デザインワークショップ1	からだが『空間を体験する』
第9回	【C】身体から、感覚・体験装置を問い直す	体験experienceから、空間をデザインする
第10回	空間の体験～道具によって空間の体験を作る	学校という空間、カフェという場所。空間体験から考え直す
第11回	身体からみた『日本庭園』～日本庭園のふしぎ	身体を覚醒させる装置としての日本庭園。時間的な連続性
第12回	デザインワークショップ2	カフェ、オフィス、学校、『場所』のデザイン、発表と討議
第13回	空間体験の仮想化	現実と仮想体験の融合。スヌーズレン。仮想現実VR、拡張現実AR、ミックスリアリティMR、代替現実SR
第14回	まとめ：身体、感覚、体験-revisit-	生きられた空間。経験としての芸術。経験の危機

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・デザイン課題、発表のための資料づくりがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に指示をする。

【参考書】

- ・「経験としての芸術」(J. デューイ) 講談社学術文庫, 2004
- ・「かくれた次元」(E.T. ホール) みすず書房, 1970
- ・「空間の経験—身体から都市へ」(Y.F. トゥアン) ちくま学芸文庫, 1993

【成績評価の方法と基準】

- ・レポート、作品制作 (50%)
 - ・コメントシート、発表、討議への積極的な参画、平常点 (50%)
- この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

履修者からの要望が多い、建築空間での事例研究を増やそうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システムを利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

講義を言葉で理解するだけではなく、日常のあらゆる機会をとらえて、身体と感性を駆使して理解しよう。面白い建築を訪ねたり、街の人々の空間行動を新しい視点からウォッチングしたり、日本庭園に仕掛けられた身体体験を批評的に味わったり、闇の中で海辺の波音にじっと耳をすます体験が役に立つ。教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

【重要な関連科目】

「道具のデザイン学」「こころの科学」「仮想世界研究」と組合せ受講することが望ましい。それらで学んだ知識を用いて、この講義および実習をより深い理解に基づいて進めることができるようになる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

PCおよび、DVD、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義形式とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn (a) the basic concepts of experience, emotion, feeling and embodiment, and (b) the “design of experience”. This year, we will focus on human spatial experience and the design of spatial experience.

By the end of the course, students should be able to (a) explain the relationship between experience, emotion, feeling and embodiment, and (b) practice basic principles of “experience-based design” based on the understanding of the above basic concepts.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/work product (50%) and (2) short reports and the quality of the student’s in-class contribution (50%).

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)	
メディアアートの世界	
大嶋 良明	
配当年次／単位：2～4年／2単位	
旧科目名：	
旧科目との重複履修：	
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring	
人数制限・選抜・抽選：	
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉	

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう

本講義では芸術表現のためのプログラミング言語Processingのプログラム(スケッチ)基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつあるp5.js環境でのProcessing流プログラムのWeb環境での実装についても学ぶ。

【到達目標】

メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。Processingの制作環境での描画や対話機能を身に付け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。

IoTやMakerムーブメントなどWebと現実世界が交差する今日的な環境、身の回りにある生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

情報実習室において講義と実習を行う。

●講義と実習 (マルチメディア対応の情報実習室)

Processingプログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物を自分のスマートフォンなどでも動かしてみよう。

●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：Processing入門	Processingとは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processingの基礎 (1)：簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題からProcessingプログラミングの基礎を習得する。
3	Processingの基礎 (2)：基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processingの基礎 (3)：変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインターフェース【制作課題1】	マウス追従、キーボード入力などユーザのGUI操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。 【課題1】 習得した技法を総合して写真コンテンツのWebを制作する。
6	描画の操作：移動、回転、拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用法を学ぶ。
8	アニメーション：動きの演出【制作課題2：学習成果のまとめとWeb化の検討】	動画のトゥイーン技法、ランダム化、時間構造の処理、周期的運動など動画演出の技法を学ぶ。 【課題】 学習成果を活用してProcessing作品を制作する。p5.jsによるWeb化を試みる。
9	関数	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。

10	オブジェクト【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。 【課題】 学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適用などスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON形式の外部データ、API経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。 【課題】 制作物の実装方法の構想発表。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、Arduinoマイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
14	まとめ：最終課題の発表と相互批評	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を乗り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるため、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアをProcessing作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Casey Reas (著)、Ben Fry (著)、船田 巧 (翻訳)、「Processingをはじめよう 第2版 (Make: PROJECTS)」, オライリー・ジャパン (2016)、ISBN-13: 978-4873117737

【参考書】

【Processing】

Daniel Shiffman (著)、尼岡 利崇 (翻訳)、「初めてのProcessing」、オライリー・ジャパン (2018)、ISBN-13: 978-4873118611

【p5.js プログラミング】

Benedikt Gross (著)、Hartmut Bohnacker (著)、Julia Laub (著)、深津貴之 (監修)「Generative Design with p5.js—ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2018)、ISBN-13: 978-4802510974

【メディアアートのためのプログラミング】

Hartmut Bohnacker (著)、Benedikt Gross (著)、Julia Laub (著) 他、「Generative Design — Processingで切り拓く、デザインの新たな地平」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2016)、ISBN:978-4802510134

【ジェネラティブ・アート】

マット・ピアソン (著)、Matt Pearson (著)、久保田 晃弘 (監修)、沖 啓介 (翻訳)、「[普及版]ジェネラティブ・アート—Processingによる実践ガイド」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2014)、ISBN-13: 978-4861009631

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加の積極性,20%)、中間課題(30%)、最終課題(40%)、相互批評(10%)を目安にすべてを総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

プログラミング初心者にも活用できるよう演習課題を設定しProcessingの可能性を理解してもらえるよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できるPCとWeb環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。メディアアートの動向にも触れる機会としたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室において授業を行う。各自のPCや携帯端末を実習の検証に活用する。

ePortfolio(HOPS)に学習成果を蓄積する。

【その他の重要事項】

自分ですさまざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いこなそう。

情報系教員によるクラス授業であり、Webを基盤とするICTの活用実習、ならびに発見型学習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を履修していることを前提とする。

関連科目：「デジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

【実務経験のある教員による授業】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with introduction to creative coding with Processing programming language. In addition, p5.js is practiced to extend presentation and interaction in contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 20%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 40%

Critique: 10%

Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションⅥ

ラスカイル L.ハウザー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Though Canada is the second largest country geographically in the world, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. In the Canadian Life course, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal Peoples, Canadian Arts, Multiculturalism and English/French Culture.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Canadian Life course explores Canadian culture and lifestyle and Canada's development as a nation. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic, (b) Canadian fact sheet questions and answers, (c) a guided topical conversation, and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Though Canada is the second largest country in the world geographically, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. During the course of the semester, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic, (b) Canadian fact sheet questions and answers, (c) a guided topical conversation, and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Canadian Geography	Conversation: 'I'm good at Canadian facts!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #1 Discussion Topic and Presentation
Week 3	Regions of Canada - The Maritimes Slideshow	Conversation: 'I'm a new immigrant to Canada!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #2 Discussion Topic and Presentation
Week 4	Regions of Canada - Quebec/Ontario Slideshow	Conversation: 'The Polar Bear Dip' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #3 Discussion Topic and Presentation
Week 5	Regions of Canada - The Prairies Slideshow	Conversation: 'Canoeing the Nahanni!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #4 Discussion Topic and Presentation

Week 6	Regions of Canada - Western Canada Slideshow	Conversation: 'This weather is amazing!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #5 Discussion Topic and Presentation
Week 7	Canadian Art - The Group of Seven	Conversation: 'Canada's National Sport?' Canada Fact Sheet: Week #6 Discussion Topic and Presentation
Week 8	Canadian Art - Norval Morrisseau	Conversation: 'What's your favourite Canadian city?' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #7 Discussion Topic and Presentation
Week 9	Canadian Music - Celtic Music	Conversation: 'Nova Scotia Bound!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #8 Discussion Topic and Presentation
Week 10	Canadian Music - Leonard Cohen, Buffy Saint-Marie	Conversation: 'Trudeaumania!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #9 Discussion Topic and Presentation
Week 11	First Nations People	Conversation: 'Canadian exports: I need some help!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #10 Discussion Topic and Presentation
Week 12	First Nations People	Skiing Mt. Whistler' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #11 Discussion Topic and Presentation
Week 13	Multiculturalism	Conversation: 'Quebec City Winter Carnival!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #12 Discussion Topic and Presentation
Week 14	Quebec	Conversation: 'Toronto has really changed!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #13 Discussion Topic and Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation topics are to be researched outside class. A visual component is required for all presentations. Weekly conversations and Fact Sheet questions and answers are to be studied and practiced before class for fluency. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor prior to research.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

Students will be graded on their
 1. Bi-weekly Presentations - 70%
 2. Weekly Quizzes - 30%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションⅧ

DANIEL G DUSZA

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse using a variety of communication methods related to presentations and discussions of both Japanese and foreign cultural topics. Students will discuss and present from a selection of topics provided in each class. Following each presentation, there will be a brief lecture and Q&A session. Students will then write a reflection, which will be submitted as homework.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this course is to discuss, research, present, and report cultural topics of interest at a level for academic writing or presentation. Students will have opportunities to practice and improve these skills in each class. Cultural issues will be drawn predominantly from news and advertising media.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
第2回	Presentation Introduction: How to format and deliver an academic presentation	Introduction to key vocabulary in presentations: cohesive devices, transition statements, and signposting.
第3回	Traditional Themes: Cultures, Lifestyles, and Kind Acts of Humanity	Presentation on a News Article. Note-taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment.
第4回	Contemporary Themes: Cultures, Lifestyles, and Kind acts of Humanity	Presentation on a News Article. Note-taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment.
第5回	Future Themes: Cultures, Lifestyles, and Kind Acts of Humanity	Presentation on a News Article. Note-taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment.
第6回	Present Theme of Choice	Student skills will be assessed by delivering two presentation summaries in class. The first will be chosen from one of their previous works, and the second will be from a unique set of themes.

第7回	National Festivals and Events (Descriptive)	Students prepare a descriptive presentation of a chosen national event, depending on their nationality, present it to the group, and fill out a reflection of what they have learned from their peers.
第8回	International Festivals and Events (Comparative)	Students prepare a comparative presentation of a favorite national event, depending on their nationality, present it to the group, and fill out a reflection of what they have learned from their peers. This presentation has a research component.
第9回	National and International Customs (Process)	Students prepare a presentation or essay explaining two kinds of processes (i.e., directional and informational). At the end of the class, students reflect and summarize what they learned from their peers.
第10回	Introduction to Debating and Arguing: Traditional Cultural Themes	Students learn a framework for preparing a single-sided argument. A debate topic will be chosen from a list and will prepare their single-sided argument manuscript or presentation.
第11回	Practicing Debate and Argument: Contemporary Cultural Themes	Students use the single-sided argument framework to present or write about a contemporary issue of their choice.
第12回	Introduction to Presenting a Two-sided Argument: Contemporary Global Themes	Students learn a framework for preparing a two-sided argument on a topic related to "Making a Better Future for Humanity." Students will choose their topic (e.g., cultural, economic, political, and environmental) and provide a summary of what they would like to discuss. Students will then develop support for their two-sided argument essay/presentation/speech/poster presentation.
第13回	Delivering a Two-sided Argument	Students will continue developing their two-sided argument by adding opposing evidence from interviews, web searches, AI interactions, and research. Referencing, cohesive devices, and formatting will be discussed. Students will then have one week to complete their artifact for final assessment.
第14回	Comments/ Summaries/ Conclusions	Students will receive detailed feedback and comments regarding their achievements and how to continue to improve their academic communication skills in the future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading and research on assigned topics.

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Material will be sourced online or provided in class.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

Weinschenk, S. (2012). 100 things every presenter needs to know about people. New Riders.

【成績評価の方法と基準】

30%Class Participation (Miscellaneous)

30%Written Assignments (Summaries)

40%Presentation(s) (Speech, Presentation, Poster, Essay)

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60%or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable.

LANd300GA（ドイツ語 / German language education 300）		
ドイツ語アプリケーション		
林 志津江		
配当年次／単位：3～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring		
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
SAプログラムや派遣留学などを通じて獲得したドイツ語運用能力を維持し、さらに向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わってください。		
【到達目標】		
1) A2 B1 レベルのドイツ語テキストを独和辞典を用いて読解し、その表現を用いて自らもドイツ語で説明することができる。		
2) ドイツ語で読んだテキストに関連付け、ドイツ語圏の生活、文化、社会など各種トピックについての理解を深めることができる。		
3) 特定のテーマについてドイツ語で意見を述べたり聞き取ったり、平易なレベルの議論を行うことができる。		
4) まとまった分量の作文をドイツ語で書くことができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。		
【授業の進め方と方法】		
・各回のテーマはドイツ語圏それぞれに共通する話題、異なる話題のバリエーションです。各参加者のドイツ語学習経験、ドイツ語圏滞在体験に配慮しつつ、テキストの理解を深めていきます。		
・各回、指定されたドイツ語テキストを前もって読んでおきます（予習）		
・授業は各回、前半はテキストの文の構造分析が中心です。テキストの内容と重要概念（語彙）を確認した後、後半部分で読解で確認した構文を使った作文練習をします。		
・ペアワーク、グループワークと並行して、学期中に各参加者は1回のプレゼンテーションを行います。		
・プレゼンテーション課題の詳細と担当割り振りは授業第1回目に説明・確認します。		
・LMSとして、Google Classroomを使用します。連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。		
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物等のフィードバックは適宜、全体と個別に向けて行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などを確認します。
2	Moderne Geschichte: Vom Reich zur Republik	ドイツ近代の歴史：ドイツ帝国の成立－激動の19世紀、そして第1次世界大戦
3	Der Anfang vom Ende - Die Weimarer Republik	ヴァイマル共和国－黄金の20年代・終わりの始まり
4	Terror und Vernichtung - Der Dritte Reich	第3帝国下のドイツ－恐怖政治と絶滅政策
5	Politik und Parteien /プレゼンテーション（1）	選挙には行きますか？
6	Krisen und Konflikte (I)	ドイツにはどんな社会問題が？？！
7	Krisen und Konflikte (II) プレゼンテーション（2）	ドイツにはどんな社会問題が？？！
8	Beginn der Moderne: Vom Mittelalter zur Romantik	近代の始まり－中世からロマン派の時代
9	Bildung als Lebenssinn / プレゼンテーション（3）	人生の意義としての教養・ウィーンと音楽
10	Das Paradigma der Moderne - Bis heute	学問と表現の自由－科学の発展と表現主義、バウハウス
11	Kunst und Wissenschaft (I) プレゼンテーション（4）	「芸術」の様式とは？！
12	Kunst und Wissenschaft (II)	「芸術」の様式とは？！
13	Im Nordwesten von Deutschland(I) プレゼンテーション（5）	ドイツ北西部とはどんなところ？
14	Im Nordwesten von Deutschland(II)	リューネブルクってどんなところ？
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
・本授業の準備学習・復習時間は各1時間以上を標準とします。		
・授業ごと所定の予習・復習課題を行い提出します。授業時間外の課題（プレゼンテーションの分担）については別途指示します。		
・インターネットやSNS等も使ってドイツ語圏のメディアに積極的にアクセスしてみましょう。新聞（日刊紙）などのニュース記事にチャレンジできればなお良しです。		
【テキスト（教科書）】		
„ Dreimal Deutsch“（Klett）（2024年度「ドイツ語7」使用教科書） ISBN: 978-3-12-675237-4		
【参考書】		
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）その他は適宜、授業内で提示します。		
【成績評価の方法と基準】		
授業への積極的な参加と貢献：50%、プレゼンテーションおよび提出課題：50%を合わせ、総合的に判断します。		
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。		
【学生の意見等からの気づき】		
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。		
【学生が準備すべき機器他】		
・独和辞典および1～2年次で使用したドイツ語文法の教科書は必携です。		
【その他の重要事項】		
・この授業はドイツ語圏滞在経験者や、ドイツ語圏の留学・SA参加予定学生、滞在予定者、派遣留学を目指す学生を対象とします。目安としては4セメスター以上のドイツ語学習経験があることです。		
・授業内容（テーマ）と順序等はクラスの状況によって変更されることがあります。		
・受講者には「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）」の受検を推奨します。以上の受験結果については、2025年7月25日（予定）までに担当者へ通知されたもののみ、上記「成績評価の方法と基準」の「平常点」に加算します。		
・質問・相談などは担当者宛にメールで、あるいは授業の前後にも受け付けます。		

【Outline (in English)】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German: Target groups are previous participants of the SA-Program of Faculty of Intercultural Communication as well as the Hosei University Study Abroad Program or students with experiences in any German speaking societies. In the course, we combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

【Learning Objectives】

- ・ To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
- ・ To be able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
- ・ To be able to write texts of a certain length in German.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・ The standard preparation and revision time for this course is at least one hour each.
- ・ There are prescribed preparation and review tasks.
- ・ Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
- ・ In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of some ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of the others (presentations, submitted assignments).

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd300GA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語アプリケーション

小川 敦

配当年次／単位：3～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Gymnasium等、ドイツ語圏の中等教育（中学校・高校）で用いられる地理や歴史、公民の教科書を、辞書や文法書を用いながらじっくり読むことでこれまでに身につけたドイツ語力をさらに高めます。

【到達目標】

語彙や文法の複雑なドイツ語テキストにじっくり向き合うことでレベルの高いドイツ語を読めるようになる。ドイツ語圏に生きる人々の意識を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

グループまたは個人で一文ずつ文を解析し、内容を吟味しながらテキストを読
んでいきます。また、学生と教員、学生同士で解釈に違いが出た場合はじっくり議論し解決していきます。
試験の返却の際に間違いやすいポイントを解説します。
受講生の関心や授業の進度に応じて、内容のある程度柔軟に修正・変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	教材や授業の進め方の確認
2	ドイツ語圏の教科書を読む・その1	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。関係代名詞に注意して読みます。
3	ドイツ語圏の教科書を読む・その2	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続き関係代名詞に注意して読みます。
4	ドイツ語圏の教科書を読む・その3	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。書き言葉としての受動態に注意して読みます。
5	ドイツ語圏の教科書を読む・その4	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続き書き言葉としての受動態に注意して読みます。
6	ドイツ語圏の教科書を読む・その5	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。zu不定詞句の使い方に注意して読みます。
7	ドイツ語圏の教科書を読む・その6	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続きzu不定詞句の使い方に注意して読みます。

8	中間のまとめ、および読解の続き	前半で扱ってきたことのまとめを行います。
9	ドイツ語圏の教科書を読む・その7	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。属格に注意して読みます。
10	ドイツ語圏の教科書を読む・その8	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に続いて属格に注意して読みます。
11	ドイツ語圏の教科書を読む・その9	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。英語にはない修飾語句に注意して読みます。
12	ドイツ語圏の教科書を読む・その10	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続いて英語にはない修飾語句に注意して読みます。
13	ドイツ語圏の教科書を読む・その11	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。ざっと読んで内容を把握する練習をします。
14	授業の最終的なまとめ	学期後半で学んだことを中心に、授業で扱ったまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の教材や資料は、学習支援システムで配布します。適宜予習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使いません。地理、歴史、政治をテーマとした教材をこちらで用意します。
辞書（独和辞典）は必須です。紙媒体でもアプリ（有料のものに限る）でも構いません。

【参考書】

・1回生で用いたドイツ語文法を扱った教科書
・中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三『ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加40%、中間試験30%、期末試験30%とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が自ら発言しやすい授業運営とするように努めています。

【学生が準備すべき機器他】

教材は基本的に電子データでの配布となります。授業にはスマートフォンではなくタブレットまたはPCを持参してください。

【その他の重要事項】

内容は決して難しいものではありませんし、扱うテキストの性格上、機械翻訳を用いればほとんどの日本語訳はできてしまうでしょうが、授業ではドイツ語の文そのものを文法的に解析する力や多様な語彙力を身につけるようにしてください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Students further develop their German language skills through close reading of geography and history textbooks used in secondary education in German-speaking countries, using dictionaries and grammar books.

【到達目標（Learning Objectives）】

Students learn to read German texts with complex vocabulary and grammar at a high level. Students will also gain an insight into the attitudes of people living in German-speaking countries.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Active participation 40%
Midterm examination 30%
Final examination 30%

LANd300GA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語アプリケーション

Schmidt Ute

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Alltagskultur im deutschen Sprachraum

ドイツ語圏の日常文化:日本と比較してみましょう。

この授業では身近なテーマから時事問題までドイツ語圏のいろいろなトピックにスポットを当てたいと思います。受講者はそれを理解し、自分または日本の実情と比較し、各テーマについて意見交換をします。簡単なディスカッションも試みたいと思います。批判的に問題を扱う姿勢、自己の生活文化を見つめ直す姿勢を育てます。Goethe-Institut等のドイツ語検定試験の準備として役に立つと思います。

【到達目標】

- 1) 中級以上のテキストを理解できる。
- 2) 様々な領域の語彙を習得する。
- 3) 基本的な文法事項を復習し、中級以上の文法事項を習得する。
- 4) 幅広いテーマについて、明確に意見を述べ、時事的な問題への見解を表明し、
長所、短所を挙げることができる。
- 5) 簡単なコメントやショートエッセイが書ける。
- 6) 簡単なプレゼンテーションを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

中級レベルの教科書のテキスト、新聞や雑誌の記事、音楽、テレビなどを通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。課題等の提出・フィードバックは授業中または「学習支援システム」を通じて行う予定です。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	Einstufung
	自己紹介	Selbstvorstellung
第2回	Stadt oder Land	Vorteile und Nachteile vergleichen und vorstellen
第3回	Männer und Frauen	Über Klischees sprechen Statistiken und Grafiken beschreiben
第4回	Hast du Netz?	Mediensprache
第5回	Tiere	Die Tierliebe der Deutschen Adjektive Wiederholung
第6回	Reparieren und Selbermachen	Etwas reklamieren Passiv Wiederholung
第7回	Musik	Festivalsommer Deutschsprachige Hits Liedtexte verstehen

第8回	Filme	Mein Lieblingsfilm Filme vorstellen
第9回	Regional - global	Eine Region vorstellen
第10回	Lebensträume	Glück als Schulfach
第11回	Klima und Umwelt	Nachrichten verstehen Widersprüche, Bedingungen und Konsequenzen ausdrücken
第12回	Ein Blick in die Zukunft	Prognosen
第13回	Wie peinlich!	Knigge interkulturell
第14回	Präsentation	Vortrag und Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

予習はテキストを事前に読むと、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】

教材は学習支援システムで配布します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業での発言 (30 %)、宿題提出 (30 %)、プレゼンテーション (40 %))

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this class we will focus on different cultural or social topics in German speaking countries. The students will have to learn the related vocabulary to describe the situation in their own country and compare with the situation in Japan. They will learn how to express their own point of view in German and to take part in small discussions.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (30 %), homework (30 %) and presentation (40%)

LANd300GA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語アプリケーション

小川 敦

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語で書かれた言語社会学（広く言語と社会、教育と社会、多言語主義等）に関する大学生向けのテキストを読みます。ドイツ語のテキストを通じて当該分野の理論的背景を学びます。

【到達目標】

語彙や文法の複雑なドイツ語テキストにじっくり向き合うことでレベルの高いドイツ語を読めるようになる。高等教育レベルの学術的な文を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、に関連。

【授業の進め方と方法】

グループまたは個人で一文ずつ文を解析し、内容を吟味しながらテキストを読んでいます。また、学生と教員、学生同士で解釈に違いが出た場合はじっくり議論し解決していきます。

試験の返却の際に間違えやすいポイントを解説します。

受講生の関心や授業の進捗に応じて、内容のある程度柔軟に修正・変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	教材や授業の進め方の確認
2	多言語主義・その1	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
3	多言語主義・その2	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
4	多言語主義・その3	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
5	教育と格差・その1	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
6	教育と格差・その2	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
7	教育と格差・その3	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
8	中間のまとめ、および読解の続き	前半で扱ってきたことのまとめを行います。
9	言語教育・その1	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
10	言語教育・その2	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
11	移民社会と言語・その1	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
12	移民社会と言語・その2	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
13	移民社会と言語・その3	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。
14	授業の最終的なまとめ	学期後半で学んだことを中心に、授業で扱ったまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の教材や資料は、学習支援システムで配布します。適宜予習してください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使いません。当該テーマの教材をこちらで用意します。

辞書（独和辞典）は必須です。紙媒体でもアプリでも構いません。オンラインの無料のものはまだ使い物になりませんので有料のものを用意してください。

【参考書】

・1回生で用いたドイツ語文法を扱った教科書

・中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三『ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加40％、中間試験30％、期末試験30％とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が自ら発言しやすい授業運営とするように努めています。

【学生が準備すべき機器他】

教材は基本的に電子データでの配布となります。授業にはスマートフォンではなくタブレットまたはPCを持参してください。

【その他の重要事項】

扱うテキストの性格上、機械翻訳を用いればほとんどの日本語訳はできてしまうと思いますが、授業ではドイツ語の文そのものを文法的に解析する力や多様な語彙力を身につけ、表面的な翻訳にとどまらず、内容を理解することに力を注いでください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Through close reading of German-language texts on the sociology of language, students not only refine their German proficiency but also gain a deeper understanding of the field's theories and their background through the German language.

【到達目標（Learning Objectives）】

Close reading of German texts with complex vocabulary and grammar enables students to comprehend academic texts at the higher education level.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Active participation 40%

Midterm examination 30%

Final examination 30%

LANf300GA (フランス語 / French language education 300)

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野 ブレンダン

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que le concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.

Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.

この授業では、作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので、そのつもりで参加して下さい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation des participants Organisation et calendrier des activités
2	La beauté pour tous	Une nouvelle référence de beauté?
3	DELF B1	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°1)
4	Vidéo ①	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
5	Lecture extensive ①	Présentation du premier livre lu
6	Vidéo ②	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
7	Description physique et caractère	Un discours Choisir un collaborateur

8	DELF B1	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°2)
9	Lecture extensive ②	Présentation du 2e livre lu
10	Vidéo ③	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ③
11	Caricatures ①	"Le Canard enchaîné" ①
12	DELF B1	Entraînement: compréhension orale
13	Lecture extensive ③	Présentation du 3e livre lu
14	Caricatures ②	"Le Canard enchaîné" ②: présentations des étudiants

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).

予習・復習は当然ながら必須。この授業は2単位科目なので、法政大学学則(「1回の授業につき4時間以上」)に従い、本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur LMS ou Google Classroom.

【参考書】

Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.
 Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】

・宿題、ミニ発表、クラス内業務、その他の小テスト:約 35 %

・リーディングマラソン(フランス語多読):約 25 %

・作文:約 25 %

・出席点:約 15%。尚、出席点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、特に工夫する必要のある点がないように思いました。改善を全くしない、という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).

En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication. Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・Homework, short tests and presentations: app.35 %

・"Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %

・Essays: app.25 %

・Attendance: app.15%。

LANf300GA (フランス語 / French language education 300)

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野 ブレンダン

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que du concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.

Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.

この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので、そのつもりで参加して下さい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Présentation du cours Auto-évaluation des étudiants	Organisation et calendrier de la classe TCF en ligne
2	Tourisme et voyages	Tourisme créatif Organiser un voyage
3	DELF B1 (ou B2)	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°1)
4	Projet	Réaliser une carte postale sonore
5	Lecture extensive ①	Présentation du premier livre lu
6	Environnement ①	Les distributeurs de boissons au Japon
7	Vidéo ①	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
8	DELF B1 (ou B2)	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°2)
9	Lecture extensive ②	Présentation du 2e livre lu
10	Vie de famille	Les liens de famille Le plus-que-parfait
11	Vidéo ②	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
12	DELF B2	Entraînement: compréhension orale (urbanisation)
13	Lecture extensive ③	Présentation du 3e livre lu
14	CBC/Radio Canada	Compréhension orale

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).

予習・復習は当然ながら必須。この授業は2単位科目なので、法政大学学則 (「1回の授業につき4時間以上」) に従い、本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur LMS ou Google Classroom.

【参考書】

Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.

Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】

・宿題, ミニ発表, クラス内業務, その他の小テスト:約 35 %

・リーディングマラソン (フランス語多読):約 25 %

・作文:約 25 %

・平常点 (授業への参加状況):約 15%。尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特にはないように思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).

En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication.

Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・Homework, short tests and presentations: app.35 %

・"Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %

・Essays: app.25 %

・Class participation: app.15%

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

カレンス フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年間学んだフランス語の知識（語彙や文法など）を生かして、フランス語のコミュニケーション能力を高める授業です。日常の場面に応じて、フランス語で様々な練習問題を行い、フランス語を話す力を強めます。文法を復習しながら、新しい語彙や表現を覚えながら、フランスとフランスの文化についてももっと詳しく学びます。

【到達目標】

授業の目標はコミュニケーションの力を上げることです。

次の三つのポイントに重点を置きます。

- 1. フランス語の日常会話をもっと聞き取れるようにする。
- 2. フランス語の文法の知識を高め、色々な練習に通じて強化する。
- 3. フランス語の語彙や言い方を増やして、使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は基本的には対面で進めることを想定していますが、状況に応じてオンライン授業へと移行することがあったら、お知らせします。学生からの質問には授業時間内、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。

授業の内容に関しては、まず、テキストを見ずに対話を聞き、理解し、少しずつ繰り返し音読します。その後、テキストを見ながら再び音読します。さらに、内容と関連がある練習問題を行います。最後に学んだものをもう一度使い、ロールプレーをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications du programme L1 p10 Chez le traiteur la quantité encore/ne ...plus) pronom “en”	自己紹介 プログラムの説明 1課 素材屋で 部分冠詞 量の表現 “en”代名詞
②	L2 p14,15 Commander un repas souhait conditionnel	2 課 食事の注文 願う
③	L3 p18 A la boutique de bijoux pronoms démonstratifs	3 課 宝石のブチックで 指示代名詞
④	L5 p22 Modifier une réservation (table ou chambre) verbe conjugués +verbe infinitif	5 課 予約の変更 レストラン／ホテル 動詞＋不定詞
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom: ”de”	6 課 銀行で 名詞補語 ”de”
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	7 課 交換する 返済してもらう 時間の表現＋複合過去
⑦	Révisions Test de mi-trimestre	復習 中間テスト

⑧	L9 p32 Faire des comparaisons verbes construits sur des adjectifs, comparatif superlatif	9 課 比較する 比較法 最上級
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte	10 課 問い合わせする 間接法
⑩	L11 p40 Localiser prépositions/ adverbes de lieu	11 課 位置、 場所を突き止める 場所の前置詞と副詞
⑪	L12 p44 A l’agence immobilière Subjonctif/indicatif	12 課 不動産屋で 接続法か直接法
⑫	L13 p50 Résilier un contrat Comparaison Expression du futur	13 課 賃貸契約を取り消す 未来形
⑬	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive	15 課 窃盗の被害届 受動態 される
⑭	Révisions Test final	復習 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題（宿題）を出すので、よく復習してください。

本授業の宿題・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication Progressive du Francais - A2 B1 Intermédiaire 2eme Edition: Livre de l’élève + Cd-audio, Editions Clé International, Claire MIQUEL (ISBN 978-209-038447-5)

【参考書】

辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくとし便利です。授業の予習・復習にぜひ活用してください。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 中間テスト・期末試験:60 %
- 2. 課題:30%
- 3. 積極性:5 %
- 4. 平常点:5 %

【学生の意見等からの気づき】

より実践的に使えるフランス語を身につけさせる。

さらに、フランスの暮らしや文化についても取り入れていきたい。

【その他の重要事項】

On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant <http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c63635313336363536383834343935.pdf>

【Outline (in English)】

The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panels of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture. Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided on the following: Mid-term and Term end examination: 60 %, Assignments: 30 %, and in class contribution 10 %.

LANf300GA (フランス語 / French language education 300)

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野 ブレンダン

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire (B1/B2). A travers différents types d'activités, les étudiants pourront développer et renforcer leurs compétences de compréhension et de production à l'oral ainsi qu'à l'écrit. Ils pourront aussi, à travers les thèmes étudiés, compléter et élargir leurs connaissances sur les cultures francophones, et réfléchir à certains problèmes environnementaux.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage: enrichissement du vocabulaire, développement des capacités d'écoute et d'expression orale et écrite. En lien avec les autres cours de フランス語アプリケーション, il permet la préparation des examens du DELF (niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Les étudiants réaliseront diverses activités à partir d'extraits de trois bandes dessinées francophones récentes traitant de divers problèmes environnementaux. Ces activités leur permettront de travailler à la fois la compréhension orale, l'expression orale, mais aussi l'expression écrite.

Il s'agit d'un cours de type "Contents based learning".

En fonction du nombre d'étudiants, nous réfléchirons à la possibilité de participer à la "Journée de découverte de la Francophonie" organisée en décembre par la SJDF et l'Institut français, afin d'y présenter un travail oral sur la francophonie au Japon.

Le programme proposé ci-dessous est donc susceptible d'être modifié en fonction de la situation.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Introduction	Présentation du cours (programme, activités...) et des participants
②	Comment les riches ravagent la planète (2024)	Présentation de la BD
③	Comment les riches ravagent la planète	Partie 1: Jour de fête, jours de chauffe
④	Comment les riches ravagent la planète	Partie 2: Qui cause la catastrophe? Comment l'ostentation ravage la planète
⑤	Comment les riches ravagent la planète	Présentations des étudiants
⑥	Ressources : Un défi pour l'humanité (2024)	Présentation de la BD

⑦	Ressources : Un défi pour l'humanité	Partie 1: Les Cornucopiens, L'exponentielle, Les ressources
⑧	Ressources : Un défi pour l'humanité	Partie 2: De Gaïa à Thanatia, Le recyclage, Une civilisation techniquement soutenable
⑨	Ressources : Un défi pour l'humanité	Présentations des étudiants
⑩	Le Monde Sans Fin (2021)	Présentation de la BD
⑪	Le Monde Sans Fin	Partie 1: L'énergie
⑫	Le Monde Sans Fin	Partie 2: Le climat
⑬	Le Monde Sans Fin	Présentations des étudiants
⑭	Discussion finale	Que retenir de ces trois BD?

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, en cours ou pour le cours suivant (lire les pages suivantes, réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).

予習・復習は当然ながら必須。この授業は2単位科目なので、法政大学学則(「1回の授業につき4時間以上」)に従い、本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Documents préparés et distribués en cours ou sur le LMS par l'enseignant.

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé, et au minimum un dictionnaire français-japonais /japonais-français. (Pas de FAUX dictionnaire en ligne!!!)

【成績評価の方法と基準】

・宿題、ミニ発表、その他の小テストや課題:約 40 %

・リーディングマラソン (フランス語多読):約 20 %

・作文:約 20 %

・平常点 (授業への参加状況):約 20%。尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2回につき欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。10分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特になくないように思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【Prerequisite】

Avoir fait deux ans de français, ou justifier d'un bon niveau A2 au minimum.

【Outline (in English)】

The purpose of this course is the development of communication skills (oral and written) in French for intermediate level (B1/B2). Through different kinds of activities mainly based on comic books (ask and answer questions, reading, writing, etc.), students will strengthen their comprehension and production capacities in order to develop both oral and writing expression.

Through the selected themes (mainly environmental problems), students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・Homework, short tests and presentations: app.40 %

・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %

・Essays: app.20 %

・Class participation: app.20%。

LANr300GA (ロシア語 / Russian language education 300)

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで培ってきたロシア語の運用能力をさらに伸ばし、維持することを第一の目的とします。ロシア語の動画を視聴してロシアやエストニアの文化や社会に触れ、ロシア語の文法力とリスニングの力を高めると同時に慣用表現、決まった口語表現を覚えて使えるようにします。

【到達目標】

ロシア語能力検定試験3級程度、またロシア語検定試験（ТРКИ）基礎レベル（A2）から第1レベル（B1）のロシア語運用能力（聴解と文法）を身につけること、その能力の維持を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ロシア語の動画を視聴して質疑応答に答えたり、穴埋め問題を解いたりしながら、文法とリスニングの力がつくように進めます。映像や説明文を通して、ロシアやエストニアの文化や慣習を楽しみながら知ることも可能となります。小テストのフィードバックは翌週の教場で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。 使用教材、視聴覚資料の確認。
第2回	Легенды Старого Таллина 1	タリン旧市街のシンボルにまつわる伝説について。リスニングと質疑応答。
第3回	Легенды Старого Таллина 2	タリン旧市街の建築物にまつわる伝説について。リスニングと質疑応答。
第4回	Легенды Старого Таллина 3	タリン旧市街の防壁にまつわる伝説について。リスニングと質疑応答。
第5回	Таллинн, Эстония. Старый город. 1	ロシア語ガイドによるタリンの名所案内。リスニングと質疑応答。
第6回	Таллинн, Эстония. Старый город. 2	ロシア語ガイドによるタリンの名所案内。穴埋め問題と文法概説。
第7回	Таллинн, Эстония. Старый город. 3	テキスト全体の確認と重要フレーズの暗記。
第8回	Таллинн, Эстония. Старый город. 4	ロシア語ガイドによるタリンの歴史概説。リスニングと質疑応答。

第9回	Таллинн, Эстония. Старый город. 5	ロシア語ガイドによるタリンの歴史概説。穴埋め問題と文法概説。
第10回	Таллинн, Эстония. Старый город. 6	テキスト全体の確認と重要フレーズの暗記。
第11回	Таллинн, Эстония. Старый город. 7	タリンの現況について。リスニングと質疑応答。
第12回	Таллинн, Эстония. Старый город. 8	タリンの現況について。穴埋め問題と文法概説。
第13回	Таллинн, Эстония. Старый город. 9	テキスト全体の確認と重要フレーズの暗記。
第14回	これまでのまとめと試験	これまで培ってきたロシア語の表現を確認する試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で視聴した動画内容の習得のために、1回につき1.5時間程度の復習が必要となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場で配付もしくはは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

教場、もしくはは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点80%、小テスト20%とし、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

みなさん一人ひとりのロシア語運用能力に合わせたテキスト選びを心がけます。

【Outline (in English)】

●Course outline

The aim of this course is to maintain and improve Russian grammar and listening skills. We would like to share the pleasure of learning about the culture and customs of Russia and Estonia through the short movies in Russian.

●Learning Objectives

The purpose is to further develop and maintain the Russian language proficiency that has been cultivated so far(A2 to B1 in the CEFR).

●Learning activities outside of classroom

It takes about 1.5 hours for class review.

●Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(80%) and quizzes(20%). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr300GA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア映画を3編とりあげ、それぞれの作品に関する解説文をロシア語で読み、これを確認するかたちで映画作品を部分的に鑑賞します。ロシア語の読解力と聴解力を身につけること、維持することが目的となります。読解についてはT P K II第1レベル程度の力をつけることが可能となり、ロシアの日常や慣習、世相について知識を得ることができるでしょう。

【到達目標】

読解力を向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めるために、ロシア映画の解説文・作品論をロシア語で読み、これを確認するかたちでロシア映画の珠玉に触れます。そうすることで、T P K II第1レベルの読解力、文法力を身につけると同時に、ロシアの文化や世相に関する知識を獲得できるでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ロシア映画の3つの作品に関する資料を講読します。みなさんの予習に基づいて進め、文法事項や文章の構造の説明をおこないます。作品に関する情報を把握した後、これを確認するために実際の映画作品を部分的に鑑賞します。課題は授業で確認と解説を行うかたちでフィードバックします。ロシア映画『サリュート7号』は、冷戦末期、ソ連の宇宙ステーション事故をめぐる人間ドラマの珠玉。『エレナの惑い』（2011）は現代ロシアの世相を浮き彫りにした心理ドラマ。『夏の終止符』（2010）はソ連時代を象徴する上司と新生ロシアを象徴する実習生の青年、ただ二人によって展開される驚くべき心理劇です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。 資料配付。
第2回	映画 С а л ю т -7 について1	С а л ю т -7 の内容について読解。映画の一部を鑑賞。
第3回	映画 С а л ю т -7 について2	С а л ю т -7 の内容と反響について読解。映画の続きを鑑賞。
第4回	映画 С а л ю т -7 について3	С а л ю т -7 の内容と反響について読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第5回	映画 С а л ю т -7 について4	С а л ю т -7 の反響について読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第6回	映画 Е л е н а について1	Е л е н а の内容、鑑賞ポイントについて読解。映画の一部を鑑賞。
第7回	映画 Е л е н а について2	Е л е н а の内容、鑑賞ポイントについて読解の続き。映画の続きを鑑賞。

第8回	映画 Е л е н а について3	Е л е н а の反響について読解。映画の続きを鑑賞。
第9回	映画 Е л е н а について4	Е л е н а の反響について読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第10回	映画 К а к я п р о в ё л э т и м л е т о м . について1	К а к я п р о в ё л э т и м л е т o m . の内容について読解。映画の一部を鑑賞。
第11回	映画 К а к я п р о в ё л э т и м л е т o m . について2	К а к я п р o в ё л э т и м л e t o m . の内容、鑑賞ポイントについて読解。映画の続きを鑑賞。
第12回	映画 К а к я п р o в ё л э т и м л e t o m . について3	К а к я п р o в ё л э т и м l e t o m . の鑑賞ポイントと反響について読解。映画の続きを鑑賞。
第13回	映画 К а к я п р o в ё л э т и м л e t o m . について4	К а к я п р o в ё л э т и м l e t o m . の反響について読解。映画の続きを鑑賞。
第14回	テストとまとめ	テストと解説（フィードバック）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア映画の作品に関するテキスト読解の予習に、1回につき2時間程度が必要となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場で配付、もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点80%、小テスト20%とし、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語の読解力向上とロシア映画鑑賞、双方への希望があったので、これに応じるような授業を組みました。

【Outline (in English)】

● Course outline

We will pick up some Russian film works, read the texts about them in Russian, and watch some scenes from the films while checking the texts. You will acquire reading comprehension and listening comprehension skills. You will be able to gain knowledge about Russian daily life, customs and social conditions.

● Learning Objectives

Students will acquire the level of CEFR B1 of reading comprehension and grammar, as well as knowledge of Russian culture and social conditions.

● Learning activities outside of classroom

It takes about 1.5 hours to prepare for reading comprehension of texts about the Russian movies.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(80%) and quizzes(20%). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr300GA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語アプリケーション

エレナ 三神

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで培ってきたロシア語の運用能力をさらに伸ばし維持することを第一の目的とします。ロシア語ネイティブ講師との会話、リスニング練習、簡単な作文課題によりロシア語のコミュニケーション力を楽しくのびましょう。以前ロシア語短期語学研修に参加した学生は、培ったロシア語運用能力の維持のため履修を勧めます。

【到達目標】

ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ТРКИ）の基本レベル（CERF A2）又は第1レベル（CEFR B1）のロシア語運用能力（聴解と会話）を身につけるべく頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。教材データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、提出した課題に関するコメントなどの方法で行います。教員のフィードバックは課題内容によって授業時または学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自己紹介（復習）	インテラクティブな教材を使って初めて会った学生同士のスモールトークを練習する。
第2回	友達を作る	挨拶や簡単なフレーズを使って相手と自分について話す。使える表現幅を拡大する。
第3回	大学での勉強	学習を表す動詞を使い分けて勉強などについて話す。聴解、会話練習。
第4回	移動動詞の復習	移動を表す動詞を使って行ったや行きたいところについて話す。聴解、会話練習。
第5回	会話のエチケット	ロシア語の会話エチケットについて学ぶ。読解、会話練習。
第6回	海外旅行－1	移動の動詞を使って旅行のルートについて話す。聴解、会話練習。
第7回	海外旅行－2	移動の動詞を使い分けて移動手段について話す。聴解、会話練習。
第8回	海外旅行－3	接頭辞のある移動の動詞を使って細かく移動を説明する。聴解、会話練習。

第9回	交通案内	接頭辞のある移動動詞を使って交通機関の使い方などについて話す。聴解、会話練習。
第10回	海外から来たお客の出迎え	位置と行き方について話す。聴解、会話練習。
第11回	待ち合わせ	時間表現を使い分けて「時間」と「期間」について話す。聴解、会話練習。
第12回	友達のところで－1	所有表現を使って友達との会話をすすめる。聴解、会話練習。
第13回	友達のところで－2	お客としてロシアの家を訪ねる。聴解、会話練習。
第14回	これまでのまとめと試験	これまで培ってきた会話表現を確認する試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に扱った単語の復習、作文又は聴解宿題があります。授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）（2018/2019年度版）と（2020/2021年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ありません。

【成績評価の方法と基準】

宿題30%、授業への取り組み30%、期末試験40%とし、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

初めて担当する科目であるため、フィードバックできません。

【Outline (in English)】

●Course outline

The aim of this course is to further develop and maintain the Russian language skills. Through conversation and listening practice with a native Russian-speaking instructor, students will enjoy improving their Russian communication skills. Students who participated in a Russian language program abroad are encouraged to take this course to improve their Russian language skills.

●Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test ТРКИ A2-B1.

●Learning activities outside of classroom

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for some lessons to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

●Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination 40%, in class contribution 30% homework 30%

To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANc300GA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語アプリケーションⅠ

張 玉萍

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。本授業では特に「読む」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は、これまで積み上げてきた中国語能力を基礎に、長文の読解力を身につけ、それを翻訳力にまで高めることをめざしている。具体的には、中国の報道記事や評論文を辞書やネットを使用しながら十分に読めるレベルを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

新華社のニュースサイトや中央電視台ニュースアプリなど各種サイトが提供する報道記事を熟読し、和訳することによって中国語の読解力、翻訳力を高めるとともに、中国の政治、経済、社会、文化、歴史について理解を深める。
課題等へのフィードバックはHoppiiの掲示板や授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、 論説文の基礎①	授業の進め方の説明、教材配布。 『論説体中国語読解力養成講座』 第Ⅱ部論説体解析講座の第1課
第2回	論説文の基礎②	『論説体中国語読解力養成講座』 第Ⅱ部論説体解析講座の第2課、 第3課
第3回	論説文の基礎③	『論説体中国語読解力養成講座』 第Ⅱ部論説体解析講座の第4課、 第5課
第4回	論説文の基礎④	『論説体中国語読解力養成講座』 第Ⅱ部論説体解析講座の第6課、 第7課
第5回	プリント1①	政治・経済関係の記事を読み、 日本語に訳す。
第6回	プリント1②	翻訳と講読を続ける。
第7回	プリント1③	翻訳と講読を完成させ、全体を 振り返る。
第8回	プリント2①	社会関係の記事を読み、日本語 に訳す。
第9回	プリント2②	翻訳と講読を続ける。
第10回	プリント2③	翻訳と講読を完成させ、全体を 振り返る。
第11回	プリント3①	文化関係の記事を読み、日本語 に訳す。
第12回	プリント3②	翻訳と講読を続ける。

第13回	プリント3③	翻訳と講読を完成させ、全体を 振り返る。
第14回	読解力テストと講評	読解力テストの実施とテスト後 の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

三瀧正道『論説体中国語読解力養成講座』の第Ⅱ部論説体解析講座の練習問題を各自で翻訳し、第2回から第4回までの授業に備える、また、プリント教材（報道記事など）を読み、翻訳し、第5回から第13回までの授業に備えておく。本授業の準備・復習時間は、各1～2時間程度。

【テキスト（教科書）】

プリント教材。

【参考書】

三瀧正道『論説体中国語読解力養成講座－新聞・雑誌からインターネットまで』東方書店2010年

【成績評価の方法と基準】

第Ⅱ部論説体解析講座の練習問題の翻訳（20％）と学期末に実施する読解力テスト（80％）で達成度を判定する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

中国語そのものだけでなく、記事内容の背景についても十分に説明するよう心がけたい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Chinese Application I～IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I～IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the reading skill.

We will mainly read the news or critique in Chinese newspapers or magazines.

【Learning Objectives】

At the end of the course, participants should be able to efficiently read news articles and critiques using dictionaries and the Internet.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, participants will be expected to translate exercises for reading comprehension (in the 2nd to 4th classes), to read and translate specified news articles (in the 5th to 13th classes). Your study time will be one or two hours.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: Translation of basic exercises (20%) and reading comprehension test conducted at the end of the semester (80%).

LANc300GA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語アプリケーションⅣ

鈴木 靖

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。

中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主にe-Learningを利用した「聞く」力と「読む」力を重点的に育成する。

【到達目標】

HSK4・5級の高スコア取得に必要な「聴力」(リスニング力)と「閲読」(リーディング力)を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はe-Learningや過去問による事前学習と教室での発音練習や解説を組み合わせて行う。

授業の具体的な進め方は、次のとおり。

【授業前の事前学習】

授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSKの「聴力」問題の指定範囲のディクテーションと「閲読」問題の予習を行う

【授業の進め方と方法】

①「聴力」問題の発音練習と解説

②「閲読」問題の解答と解説

【課題等に対するフィードバックの方法】

課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加するLINEのグループを用意し、これを通じて全員または個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明した後、事前学習に使用するe-Learning教材の利用方法を解説する
第2回	HSK4級対策①	・聴力問題第一部分
第3回	HSK4級対策②	・閲読問題第一部分 ・聴力問題第二部分（上）
第4回	HSK4級対策③	・閲読問題第二部分 ・聴力問題第二部分（下）
第5回	HSK4級対策④	・閲読問題第三部分（上） ・聴力問題第三部分（上）
第6回	HSK4級対策⑤	・閲読問題第三部分（中） ・聴力問題第三部分（下）
第7回	HSK4級模擬試験	・閲読問題第三部分（下） HSK4級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う
第8回	HSK5級対策①	・聴力問題第一部分（上）
第9回	HSK5級対策②	・閲読問題第一部分 ・聴力問題第二部分（下）
第10回	HSK5級対策③	・閲読問題第二部分（上） ・聴力問題第二部分（上）
第11回	HSK5級対策④	・閲読問題第二部分（下） ・聴力問題第二部分（中）
第12回	HSK5級対策⑤	・閲読問題第三部分（上） 4 ・聴力問題第二部分（下）
第13回	HSK5級対策⑥	・閲読問題第三部分（中） ・書写
第14回	HSK5級模擬試験	・閲読問題第三部分（下） HSK5級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に下記の事前学習を行うこと。

①教材ページ上に用意されたe-Learning教材を使い、HSKの「聴力」問題の中から毎回指定された範囲のディクテーションを行う

②教材ページ上に用意された問題冊子を使い、HSKの「閲読」問題の中から毎回指定された範囲の予習を行う

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、教材用ページに用意したe-Learning教材やHSKの問題冊子などを利用する。教材用ページのURLと利用方法については、第一回のガイダンス時に説明する

【参考書】

・劉月華『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）

・中国教育部中外語言交流合作中心著・株式会社スプリックス編『中国語検定HSK公式過去問集4級 2021年度版』（スプリックス、2021年）

・中国教育部中外語言交流合作中心著・株式会社スプリックス編『中国語検定HSK公式過去問集5級 2021年度版』（スプリックス、2021年）

【成績評価の方法と基準】

①事前学習（ディクテーション・リーディング）の実施状況（60％）

③HSK模擬試験の成績（40％）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

HSKの必修単語を覚えるのが難しいという声が多く寄せられたので、単語やフレーズを復習するe-Learningを用意した。

【学生が準備すべき機器他】

e-Learningによる事前学習にはパソコンが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Chinese Application I～IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I～IV is to maintain and improve Chinese communication skills which were acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four language skills, of listening, speaking, reading and writing.

This course will focus mainly upon improving listening and reading skills through the use of e-Learning and past exams.

Chinese Application IV is a Chinese course designed specifically for the students who want to prepare for the HSK, Chinese proficiency test, level 4 and 5. This course will focus upon expanding vocabulary and improving listening and reading skills through the use of e-Learning and past exams. Students will also do mock examinations of the HSK through the use of a test simulator to help students prepare for the HSK tests.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to develop the students' ability to understand and use Chinese language at a level required of the HSK6.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments before each class. These assignments are expected to require four or more hours for students to complete.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on assignments(80%) and mock examinations(20%).

LANc300GA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語アプリケーションⅢ

周 重雷

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベル中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞くと、話す」という四技能をバランス良く育成することが必要であるが、本授業では主に「話す」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである：

- 1、正確な発音で中国語を話す。
- 2、日常会話を流暢に話す。
- 3、留学や就職などのために高度の会話能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 1、テーマを決めて、基本パターンをチェックする。
 - 2、テーマに沿って、様々な会話パターンを作る。
 - 3、受講者がそれぞれのパターンを使って授業内発表をする。
 - 4、総括する。
- 課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1、シラバスの配布 2、中国語による自己紹介
第2回	文章の読解・日常用語（1）	1、短い文章を読み、文法の基本を確認する 2、簡単な日常会話を練習する
第3回	文章の読解・日常用語（2）	1、会話文を朗読し、発音をチェックする 2、言い回しを使って日常会話を練習する
第4回	文章の読解・日常会話（3）	1、文章を読み、文法の基本を確認する 2、簡単な日常会話を練習する
第5回	授業内発表（1）	教師と一対一で会話する、もしくはグループでシミュレーションをする
第6回	文章の読解・日常用語（4）	1、文章を朗読し、発音をチェックする 2、日常会話を練習する
第7回	授業内発表（2）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで発表する
第8回	実力テスト	HSK問題を解く
第9回	解説	HSK問題の解説を行う
第10回	文章の読解・日常会話（5）	1、文章の読解をする 2、日常会話の練習をする
第11回	授業内発表（3）	先生と一対一で面接のシミュレーションをする

第12回	文章の読解・日常会話（6）	1、長文を読む 2、日常会話をする
第13回	授業内発表（4）	スピーチの個人発表をする
第14回	試験・まとめ	試験および各会話パターンの復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマをよく確認し、流暢に発表できるように準備する。本授業の準備時間は2時間を標準とします。
 また作文の課題も2回ほど課される。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布

【参考書】

劉月華 他『実用現代漢語語法（増訂版）』北京・商務印書館
 日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60%

発表：40%

【学生の意見等からの気づき】

要望に応じて会話パターンの変更も可能。

基本は対面授業。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

HSKや中国語検定の受験を推奨される。

留学生の受講を歓迎する。

【Outline (in English)】

Chinese Application I～IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA(Study Abroad) program.the aim of Chinese Application is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program.To achieve this aim,it is important to develop the four skills of listening,speaking,reading and writing. In the course, we will mainly improve to speaking skill.

We should achieve to these levels:

Talk by accurate pronunciation.

Talk the daily conversation well.

Achieve to the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

We should prepare and review about two hours a week.

We maybe do the task of writing about two times.

Term-end test:60%

presentation:40%

LANc300GA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語アプリケーションⅡ

張 勝蘭

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「書く」能力を重点的に育成する。具体的には、作文や翻訳を行う際に注意すべきことをルール化して編纂されたテキストを用い、そこに提示されたルールを講師が解説し、そのルールを応用した各種の練習問題に取り組むことで作文力の育成を図る。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) テキストに提示されている説明を精読し、中国語文法の特徴を深く理解する。
- (2) 日文中訳や並べ替え問題等の練習を通じて、難易度の高い中国語文を適切に作ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。練習問題へのフィードバック（解説・コメント等）や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバス及び授業概要の確認（本授業の意義と目的、授業概要、授業計画、成績評価方法など）
2	第1課、第2課	中国語作文をする際に必要となる基本的文法事項の確認
3	第3課、第4課	所在・存在の表現、程度副詞“很”の機能、“吗”の使用条件、日中両言語の勧誘表現、「何か／どこか／だれか」の訳し方
4	第5課、第6課	疑問詞＋名詞の用法、疑問詞呼応構文、動詞の省略可能性、適切な動詞を補う必要性
5	第7課、第8課	多用される“来”と“去”、“動目”構造の語の特徴、「思う」を表す語の種類、動詞の重ね型
6	第9課、第10課	文脈に隠れた代名詞、“这么／那么”が必要な場合、副詞“就”の用法、副詞“才”の用法
7	第11課、第12課	副詞“都”の用法、副詞“只”の用法、副詞“也”の用法、副詞“再／又／还”の用法、副詞“再”の用法
8	第13課、第14課	「…から」と“从…”の対応関係、「…まで」と“…到”の対応関係、動詞後の“…到”、日中両言語のコピュラ文、“是…的”構文
9	第15課、第16課	「で／に／から／と／まで」を表す中国語の介詞、介詞句を含む文の否定、「…について」の表し方、「ちょっと・少し」の表し方、形容詞の動詞化および命令化
10	第17課、第18課	量詞の出現情況、数量の位置、形容詞を用いた過去事態の表現法、結果状態を表す“了”、過去の習慣的動作と“了”

11	第19課、第20課	補語の使用における動詞の重要性、日本語の観点からは訳出しにくい補語、“要”の使用条件、可能性を表す“会”、可能を表す“能”“会”“可以”
12	第21課、第22課	“被”構文の諸特徴、日本語の受身表現と“被”構文の対応関係、日本語の自動詞受身文の中国語での表現法、“把”構文の使用条件、“把”構文の使用制限
13	第23課、第24課	授受表現の特徴、目的表現の後置、未然表現、主体表現としての“人”、道具・手段や原因を表す「で」、否定と肯定の入れ替え、逆転の発想
14	全体のまとめ	試験とその解説、学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業開始後は、テキストの復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

相原茂（著）2006『作文ルール 66 日中翻訳技法』朝日出版社（2,300円＋税）

【参考書】

- ・劉月華（他）2019『实用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
- ・木村英樹2017『中国語ははじめの一步（新版）』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
- ・三宅登之2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点を50%、期末試験を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

- ・本授業は、原則として日本語母語話者向けの授業である。そのため、中国語母語話者（留学生等）の受講は推奨しない。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。
- ・適宜、補足資料を配付することもあるが、指定したテキストは必ず購入の上、毎回持参すること。
- ・授業の進み具合により、授業内容を調整することがありますが、必ず事前に周知する。

【Outline (in English)】

【Outline】

Chinese Application I～IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I～IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, students will mainly improve their writing skills. We use the textbook which shows various Japanese-Chinese translation rules and do a lot of composition exercises.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To understand the Chinese grammar through reading explanations shown in the textbook.
- (2) To be able to appropriately compose complicated Chinese sentences through exercises such as Japanese-Chinese translation, word order, etc.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・After every class, students are required to review the textbook.
- ・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

- ・Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end test (50%).

LANs300GA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to raise the level of the Spanish language of each student, through reading and analysis of written and oral texts, etc.

【到達目標】

Improve your communication skills through the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Planteamiento del curso. Exposición sobre la experiencia con el español.
2	Aplicación	Lectura y discusión: La migración. Por fin estoy en España
3	Aplicación	Lectura y discusión: Países muy diferentes. Estoy en Japón.
4	Aplicación	Lectura y discusión: primeras experiencias en España (I)
5	Aplicación	Lectura y discusión: primeras experiencias en España (II)
6	Aplicación	Lectura y discusión: En Madrid (I)
7	Aplicación	Lectura y discusión: En Madrid (II)
8	Aplicación	Lectura y discusión: En Salamanca(I)
9	Aplicación	Lectura y discusión: En Salamanca(II)
10	Aplicación	Cuentos tradicionales de terror del mundo hispano.
11	Aplicación	Proyección de una película del mundo hispano (I)
12	Aplicación	Proyección de una película del mundo hispano (II)
13	Aplicación	Movimientos revolucionarios en Sudamérica.
14	Aplicación	Examen final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to maintain and raise the level of the Spanish language that students have reached during their learning either in Japan or in a Spanish-speaking country. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as far as possible: oral and written comprehension, grammar, and vocabulary. At the end of this course, students will be able to communicate in Spanish, both written and orally, in specific and daily life situations.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this course, students will be able to write narrative texts applying their previous and new knowledge.

【到達目標】

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Además, al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Presentación del curso	Presentación del curso y la explicación de método de evaluación. Exposición de los estudiantes sobre su experiencia con el idioma español.
2	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto. Lectura y análisis del cuento
3	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto. Hablar del club al que integra.
4	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto Redacción de cuando era estudiante de instituto
5	Aplicación "Mis galletas"	Pretérito indefinido Lectura y análisis del cuento
6	Aplicación "Mis galletas"	Hablar sobre lo que se hizo la semana pasada. Escribir un texto usando el pretérito indefinido.
7	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Pretérito perfecto y pluscuamperfecto. Lectura y análisis del cuento
8	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Hablar de lo que se hizo esta semana.
9	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Redacción de un usando el pretérito pluscuamperfecto.
10	Aplicación "El último trabajo"	Lectura y análisis del cuento. Pretéritos de indicativo
11	Aplicación "El último trabajo"	El relativo "que" y "que"
12	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Lectura y análisis del cuento.El reflexivo "se"
13	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Hablar de la comida favorita. Escribir una receta
14	Examen final	Examen (Presentación de un cuento del mundo hispano)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト (教科書)】

CUÉNTAME 8 cuentos para disfrutar aprendiendo español.

Nivel intermedio

Editorial Asahi

【参考書】

SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

This course is aimed at those students who have sufficiently acquired basic Spanish grammar and conversation skills. Applying their previous and new knowledge they will be able to write narrative texts. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as much as possible are below: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this course, students will be able to write narrative texts applying their previous and new knowledge.

【到達目標】

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Además, al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Presentación del curso y la explicación de método de evaluación. Exposición de los estudiantes sobre su experiencia con el idioma español.
2	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Lectura y análisis del cuento. El reflexivo "se"
3	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Hablar sobre la comida favorita. Receta de cocina
4	Aplicación "La morcilla"	Lectura y análisis de cuento Introducción al presente del subjuntivo
5	Aplicación "La morcilla"	Hablar sobre deseos y anhelos.
6	Aplicación "La morcilla"	Opiniones sobre diversos temas de la actualidad
7	Aplicación "La morcilla"	Escribir una carta a un amigo.
8	Aplicación "El pintor Nocha"	Lectura y análisis del cuento Futuro/condicional
9	Aplicación "El pintor Nocha"	Hablar sobre su futuro
10	Aplicación "El pintor Nocha"	Hacer suposiciones del futuro.
11	Aplicación "El rabino"	Lectura y análisis del cuento
12	Aplicación "El rabino"	Pretéritos imperfecto y pluscuamperfecto de subjuntivo.
13	Aplicación "El rabino"	Hablar sobre lo que harán con el español aprendido
14	Aplicación	Examen final (Presentación del cuento redactado por los mismos alumnos)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト (教科書)】

CUENTAME 8 cuentos para disfrutar aprendiendo español.

Nivel intermedio

Editorial Asahi

【参考書】

SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

This course is aimed at those students who have sufficiently acquired basic Spanish grammar and conversation skills. Applying their previous and new knowledge they will be able to write narrative texts. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as much as possible are below: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to raise the level of the Spanish language of each student, through reading and analysis of written and oral texts, etc.

【到達目標】

Improve your communication skills through the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Planteamiento del curso y método de evaluación. LA primavera. El "HANAMI"
2	Aplicación	Dudas más frecuentes del español
3	Aplicación	Gestos hispánicos de uso frecuente
4	Aplicación	Lectura: El español en el mundo (I) Análisis del texto
5	Aplicación	El español en el mundo (II) Exposición: español de Cuba, Bolivia, Guinea Ecuatorial, España, etc.
6	Aplicación	Lectura: EL lago Titicaca. Análisis del texto
7	Aplicación	Proyección audiovisual: EL lago Titicaca
8	Aplicación	Lectura: Nazca. Análisis del texto.
9	Aplicación	Proyección audiovisual: Nazca
10	Aplicación	Lectura: La coca no es cocaína (I). Análisis del texto.
11	Aplicación	Exposición sobre el Té verde
12	Aplicación	Lectura: Alimentos andinos - El Chuño
13	Aplicación	Lectura: Alimentos andinos - El Cuy
14	Aplicación	Examen final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to maintain and raise the level of the Spanish language that students have reached during their learning either in Japan or in a Spanish-speaking country. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as far as possible: oral and written comprehension, grammar, and vocabulary. At the end of this course, students will be able to communicate in Spanish, both written and orally, in specific and daily life situations.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

文化情報のデザインワークショップ

甲 洋介、松田 美奈子

サブタイトル：ユーザの体験を考え、デザインする実践ワークショップ

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：情報コミュニケーションI

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：受講状況により選抜することがあります

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユーザーの体験をデザインする「面白さ」と「奥深さ」を、実践的に学ぶ科目 私たちの日常生活はたくさんの道具であふれている。日常生活で出会う道具には文房具のような小さなモノからミュージメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。

このワークショップでは、「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」という2つのテーマに取り組む。道具をデザインするという一見難しく思える課題を、手法の習得と実践の両方をバランスよく配置して、実践的に学べる科目である。

● ユーザー調査を行い、特性を理解し、道具を使いやすくデザインする 講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。

私たちの日常を様々な側面で支えてくれる道具たちを、使いやすく魅力あるのにはどうすればよいのか？ その鍵は、ユーザの特性と、ユーザに起こっている出来事の的確な理解にある。道具のデザインを改良する具体的な方法論を、実習を通じて学ぶ。

● 新しい、近未来の道具をデザインする

講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。

まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいのか？ その手掛かりはユーザーの潜在的なニーズの把握にある。利用者の生活が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするための方法論を、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

「道具をもっと使いやすくデザインすること」と「新しい近未来の道具をデザインすること」、この2つをテーマとして、デザイン手法を実践的に学ぶ。

● 2つのテーマは学習内容が異なる。各テーマの基礎となる基本的な考え方、理論、調査計画の立て方、評価方法、データ収集方法、分析方法を学び、実践できるようにする。

● グループワークの進め方、結果のまとめ方、成果発表の工夫を学び、実践できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」、この2つのテーマについて、具体的なデザイン手法の基礎を学び、実践する。授業は、講義とワークショップを組み合わせる。また受講者の学習状況や実践力をコメントシート等によって把握し、進め方に反映する。

● 前半では、身近で気になる道具を1つ取り上げ、利用者にとってより使いやすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工学的方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。

● 後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体的な道具を1つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループワークを通じて行う。

● 各テーマごとに、受講生またはグループによる成果発表の機会を設ける。グループワークや成果発表では、受講生どうしの討議を促すとともに解説を行い、さらに改良アイデアを深められるように工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン
2	道具の使いやすさ（理論編）	道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ
3	道具の使いやすさ評価（実験計画編）	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価（準備編）	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備

5	道具の使いやすさ評価（実験編）	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する
6	道具の使いやすさ改良（分析・考察編）	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ改良（提言編）	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすくする改良事例を互いに学ぶ
9	「未来のモノのデザイン」の考え方	未来に向けたデザインとHCD（人間中心設計）プロセス
10	新しい近未来の道具（ブレインストーミング）	ある具体的な人物の、具体的な生活場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン（分析編）	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン（アイデア編）	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン（提言編）	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】

・「人間計測ハンドブック」第3章（認知心理過程の計測）（朝倉書店、産業技術総合研究所編）2013.

・ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）

【参考書】

・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017

・「デザイン思考が世界を変える〔アップデート版〕」（ティム・ブラウン著、早川書房）2019

・「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する」（JIDA編、ワークスコーポレーション）2014.

他については適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・レスポンスシート、討議、発表、グループワークにおける貢献度合い（50％）

・課題レポート、プロトタイプなど制作物（50％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。課題レポートの未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義と実習を効果的に組み合わせ、理解がより深まるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にはアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【文化情報学の実践】科目群【共通のテーマ】

「文化情報学の実践」科目群では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告などを実践的に学ぶ。

実務経験のある教員による授業

教員は一般企業で製品/サービスのデザインに関わる業務に20年以上従事。ビジネスの現場でも幅広く活用できる実践的なデザインアプローチを学ぶ。

【前提科目と関連科目】

・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。

・「文化情報学の実践」科目群の姉妹科目と合わせて履修する事で多面的な学習効果が得られるよう工夫されている。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

情報実習室で開講する場合は、P Cおよび、DVDデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を使用する。

【Outline (in English)】

This class provides you with a unique "Design Workshop". This class allows you to actively learn: (1) how to re-design everyday artifacts by the "User Experience (UX) Design" methodology, and (2) how to create ideas of conceptual designs of a near-future artifact.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

文化情報のためのネットワーク技法

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：情報コミュニケーションⅡ
旧科目との重複履修：毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：実習設備の許容人数を超えた場合に行う備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化研究と成果発表の方法を身に着ける（旧科目：情報コミュニケーションⅡ）
【旧科目：情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ共通テーマ】
文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法論的訓練を行う。
【本科目の学習の目的】
本講義の前半において、Study Abroad環境すなわち在外環境におけるネットワークの実践的スキルと、研究倫理・データ倫理に基づいた問題解決の方法を学ぶ。本講義の後半では、文化情報編集のツールを取り上げる。GAS (Google Apps Script) を使ったGoogle Workspaceの統合・自動化の実習を例に、SA等の在外環境も含めた総合的な情報発信の有効性を学び、Web環境での有機的な情報共有を体験することを目的とする。

【到達目標】

SAや卒業研究などのフィールドワークにおける異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の方法論を身に着ける。インターネット環境を十全に活用し、学習成果を公開し蓄積する。現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムに共有することでネット社会にフィードバックできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半に在外環境におけるインターネットの実践スキル、調査研究の方法論を学び、その上で情報機器を用いた文化研究成果の発信と共有を試すことになる。全体を通してSA等で収集したデータや研究成果の取りまとめを念頭に、何を文化研究するかを考え続けるクラスとして機能させることを目指す。在外環境での活動を想定した課題実習や協働学習を取り入れる。
課題等の提出・フィードバックは、授業内および学習支援システムを通じて行う。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれにもなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日の前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（全体） インターネットの仕組み	科目内容のガイダンス（全体） インターネットの仕組みを復習し、現状の使われ方（IPアドレス枯渇とその対応技術、無線LANの利欠点等）を学ぶ。
2	ネット社会の情報構造	IPアドレスの種類やドメイン名との関係、名前解決の仕組みを理解し、ドメイン情報を実習により確認する。
3	情報活用のための実践知識（1）	インターネットに接続できない状態になった場合の対応を考える。また大学VPN環境を確認する。
4	情報活用のための実践知識（2）	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、問題点を整理・理解する。
5	フィールドワーク入門	現地での文化研究とは何か、在外環境での調査法について理解を深める。研究計画の立て方を学ぶ。
6	文化研究にむけての準備	質的研究と量的研究の違いを学び、取り組みたい研究課題とその手法の計画を立てる。
7	研究倫理・データ倫理	大学の研究倫理規定を参照し、研究倫理やデータ倫理の意味や目的、あるいはその手続きを確認する。

8	研究課題の計画	各々の研究課題に沿った調査計画とその中間報告を行う。
9	研究調査成果の蓄積・共有方法の検討	Google フォームやGoogle ドライブを用い、研究調査や情報共有を確認・実践する。
10	蓄積した情報の統合・自動化	GAS (Google Apps Script) を用いてGoogle フォームやメールなどの統合・自動化を学ぶ。
11	情報公開の手法	調査研究の結果の公開対象や手法を検討し、準備する。
12	情報活用の応用と具体的な制作	具体的な成果物（研究成果の公開）制作に取り組む。進捗と問題点を報告する。
13	研究計画の確認と成果の公開	調査研究成果をGoogle サイトを用いて限定公開し、互いに議論する準備を行う。
14	全体のまとめ	学習成果の発表。事前の研究計画を基に研究の進め方や問題を振り返り、SA研究計画との接続を図る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実験実習科目」として、いずれの担当においても教室外での課題活動が含まれる。具体的には以下のような課題を通して、適宜学習することが求められる。
1. (SA準備として)個人研究テーマの構想着手、在外インターネット環境の事前調査
2. 学外、学内でのインターネット接続、Web アクセス
3. 各種トラブルシューティング、レポート作成
4. 個人研究テーマの検討
5. 学外からの学内サービス（図書館の文献検索を含む）の確認
6. 学外における調査研究データの蓄積・管理・共有の確認、研究課題検討ミーティングの続行と報告書作成、検討結果にもとづく事前調査
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

佐藤郁哉、「フィールドワーク―書を持って街へ出よう」、新曜社; 増訂版 (2006/12/20) ISBN 978-4788510302
水谷正大、「インターネット時代のコンピュータリテラシー」共立出版 (1996)、ISBN4-320-02842-2

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業参加（20%）、コンテンツ作成（40%）、実習課題（30%）、発表（10%）を目安とする。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

情報機器やネットワーク環境など、実際の在外学習環境は年々変化する。これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、学習支援システムで公開する資料等を教室PCあるいは持ち込みPCで確認しながら使用して進める。
オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、PCを用いて大学のGoogle Workspaceを利用して作業することを前提とする。
最終課題となる発表や授業の補足はZoomあるいはWebexを用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
したがって、授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

SAをはじめ、フィールドワークとしての研究課題は文化情報の実践的研究の場であり、本講義はその有効な事前準備としても役立つものです。
Webを基盤とする高度なICTの活用実習ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて、本科目では学生の就業力育成を支援します。

【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。
SA環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を前提、あるいは並行履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)
The first half of the course reviews practical techniques of digital network communication, research and data ethics.
In the second half, students learn how to use GAS and other tools for editing cultural information.
(Learning Objectives)
- To acquire a methodology for research and study of cultural information.
- To make full use of the internet environment to publish and accumulate the results of their studies.
(Learning activities outside of classroom)
You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on the practical assignments (20%), in-class contribution(30%), and term-end presentation (10%) and content creation(40%).

FRI300GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300）

情報アプリケーション I

重定 如彦

配当年次／単位：3～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットの発達により、ウェブページを取り巻く技術は近年ますます発展しており、その重要性も増している。近年では、どのような職業であれ、ウェブページの技術と無縁の職業はありえないといっても過言ではないだろう。ウェブページを記述するHTMLは近年新しいバージョンが作られ、その表現力が増している。本授業では最新のHTMLをベースに、CSSやJavaScriptなどを用いて表現力の高いウェブページを作るための技法について学ぶ。
JavaScriptやCSSの技術を使えば、アニメーションを表示することも簡単にできるようになっている。最終的にはHTML5を使って簡単な3Dグラフィックスを表現する方法を学び、迷路のウェブページを構築できることをめざす（完成例としては<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/sigesada/software/maze/maze.html>を参照のこと）。

【到達目標】
ウェブページを記述する言語であるHTMLについて理解し、自分でウェブページを作成できるようになる。
CSSを使って表現力の高いウェブページを作成できるようになる。
JavaScriptを使って動きのあるウェブページを作成できるようになる。
Three.jsを使って3Dグラフィックスを使ったウェブページを作成できるようになる。
インターネット環境で応用力のある豊かな情報発信能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業の前半でHTMLなどに関する説明の講義を行い、授業の後半でテキストエディタとウェブブラウザを用いて実際にウェブページを作成する実習を行う。
学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	HTML5	HTML5とはどういうものかについて学ぶ HTMLの基礎知識について学ぶ
2	タグその1	見出し、段落、箇条書きなどのHTMLの基本的なタグについて学ぶ
3	タグその2	その他のHTMLの代表的なタグについて学ぶ
4	CSS	スタイルシートについて学ぶ
5	Javascript	Javascriptの基礎について学ぶ
6	Javascriptを使ったグラフィックス	HTMLのCanvasタグとJavascriptを使ったグラフィックスについて学ぶ
7	Three.js	Javascriptの3DグラフィックスのライブラリであるThree.jsについて学ぶ
8	3Dグラフィックスの基礎	3Dグラフィックスの基礎について学ぶ
9	3Dグラフィックスアニメーション	3Dグラフィックスのアニメーションについて学ぶ
10	迷路の表現方法	コンピューターで迷路をどのように表現するかについて学ぶ
11	迷路の2Dグラフィックス	コンピューターで表現した迷路を2Dグラフィックスで表現する方法について学ぶ
12	迷路の3Dグラフィックス	コンピューターで表現した迷路を3Dグラフィックスで表現する方法について学ぶ
13	迷路の自動生成	ランダムな迷路をコンピューターに自動生成させる方法について学ぶ

14 迷路の中を動き回る コンピューターが作成した迷路内を動き回る方法について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業が終わった後に復習を行うこと。
また、課題として自分のオリジナルのウェブページと迷路のページを作成する課題を課すので、各自締切までに制作を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示する。

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 10%課題 90%（ウェブページの課題 50%、迷路の課題 40%）
課題は授業内で適宜指示する。
2つの課題をもって定期試験の代わりとするので、試験は行わない。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自1台のコンピューターを使って授業を行う。

【その他の重要事項】
プログラミングやウェブページ関連の授業を受講していることが望ましいが、やる気があればプログラミングの経験が無くても歓迎する。
課題で生成AIを補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用した課題の提出は認めない。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to acquire skills and knowledge about web technology such as HTML, CSS and Javascript.
At first, this class learns about HTML and CSS, and create simple web page. Next, this class learns about javascript and create a interactive web page of 2D maze game. Finally, this class learns about webgl technology and create web page of 3D maze game.
Each student is required to review his or her work after the class.
In addition, you are required to create your own original maze page as a final project. Please do so by the deadline (one week after the last class).
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Ordinary points 10%, Assignments web page 50%, maze 40%.
Assignments will be given in class as needed.
The final assignment will be used as a substitute for the regular exam, so no exam will be given. Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class based on this grading method are considered to have passed the class.

COT300GA（計算基盤 / Computing technologies 300）

情報アプリケーションⅡ

大嶋 良明

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

誰でも参加できる自由なモノづくりの世界的潮流、**Maker**ムーブメントについて親しむ。実習形式でオリジナル電子楽器の製作を学ぶ。光、温度、圧力などの変化を検知してスピーカー、ディスプレイ、モーターなどの反応を制御する方法（意外と簡単！）やマイコン上のAI技術の活用法、スマホ、インターネットと連携したIoTの構築などを学び、自分のアイデアを作品として実現させる。

【到達目標】

Makerムーブメントの背景と現状について理解する。
楽器音の基本的理解にもとづく電子楽器の構成法を知る。
Arduinoマイコンによるセンサー入力の処理方法が理解できる。オーディオ信号を中心とした出力の制御方法が理解できる。
課題実習と作品制作を通じて、アイデアを成果物に実現する方法を構想できる。作りながら考える、考えながら作る自由闊達なモノづくりの精神を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した講義および実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法で進めます。実習の内容はPBLの考え方にもとづき、ワークショップ形式でのモノづくりを体験します。作りながら考える、考えながら作るをモットーにワークショップを運営します。マイコン、配線材など必要な実習機材は用意します。ほかに各自の作品構想に必要となる部品は、既製品を分解する、100均で手に入れる、自作する…などの方法でクリエイティブな試行錯誤を楽しみながら調達しましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： Arduino入門	授業内容の説明と導入、 Maker ムーブメントとは何か、モノづくりの実例に学ぶ。 開発環境 Arduino IDE の使い方と Tinkercad を併用した学習環境を学ぶ。
2	初歩の実習：LEDの点滅実験（Lチカ）	Arduino を用いたLEDの点滅実験（Lチカ）をする。ブレッドボードでの配線を学ぶ。
3	光らせてみよう：LEDの点滅、明暗、色の表現	スイッチ、抵抗、可変抵抗、LEDの回路構成と配線方法を学美、 Arduino での制御方法を学ぶ。
4	ディスプレイを作ろう：表示の高機能化、文字やグラフィックスの電光表示	LCD、LED、OLEDディスプレイの活用と Arduino での実現方法を学ぶ。
5	いろいろ測ってみよう：各種センサーの活用	温度センサー、圧電センサー、距離センサー、人感センサー、加速度センサーなど外界の状態を入力する方法を学ぶ。
6	音を出してみよう、メロディを演奏しよう：ブザー音や音階の出力	圧電ブザーやスピーカーから音階を出力する方法、メロディの演奏を Arduino での実現する方法を学ぶ。
7	演奏を自動化しよう：シークエンサーの製作	自動演奏の仕組みを理解する。インターフェースを追加し演奏機能を拡張する。自動演奏の実行を視覚化する方法を学ぶ。楽器として完成させる。
8	人間の動作を取り込もう：ゲームパッド、ジョイスティックの利用	タッチスイッチ、ゲームパッド、ジョイスティックなどインタラクティブな操作情報を利用する方法を学ぶ。
9	IoTを実現しよう（1）：センサー情報の取得	IoT マイコンを使って各種センサー情報を取得、蓄積し送信する。

10	IoTを実現しよう（2）	IoT マイコンを使って送信したセンサー情報をスマホ、インターネットと連携させる。
11	身近なAI（1）：顔認識による人物検出	AI マイコン上でニューラルネットワークを使った顔認識による人物検出を稼働させる。
12	身近なAI（2）：音声認識によるコマンド	AI マイコンで登録済み音声による起動ワード認識を稼働させる。
13	身近なAI（3）：手指のジェスチャー認識	AI マイコンのセンサーでジグザグ、円環、斜線など簡単な空間描画を認識させる。
14	ハード、ソフトの相互接続：MIDIとOSC	MIDI や OSC によるコンピュータ、楽器、電子装置の相互接続と制御の仕組みを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【手を動かすことを大事にしよう】

Arduinoマイコンの開発環境はフリーソフトでWindows、Mac、Linuxいずれの環境でも利用可能です。また実習で使う**Arduino**は互換機であれば安価に入手できます。興味のある人はどんどん使って応用力を身につけてください。

【感性を磨こう】

「**Make:**」の関連書籍は図書館にも整備されつつあります。また作品発表の多くはオンラインでも閲覧可能なので、授業内でも折に触れてご紹介しします。ぜひそれらの作品にふれることでアタマを柔らかくしてモノづくりの豊かな楽しさを感じ取ってください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義中に紹介します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。**Maker**ムーブメント（モノづくりの世界）を楽しく学べる2冊と電子楽器の自作やプロトタイピングについての参考書を以下に紹介します。ぜひチェックしてください。

【何か作りたい！でも何を作ろう…？】

Karen Wilkinson(著)、Mike Petrich(著)、金井哲夫(訳)、「ティンカリングをはじめようーアート、サイエンス、テクノロジーの交差点で作って遊ぶ」、オライリージャパン(2015)、ISBN:978-4873117263

【**Arduino**＋音楽】

中西宜人、[**Arduino**ではじめる手作り電子楽器]、工学社(2015)、ISBN: ISBN978-4-7775-1916-3

【モノづくり＋デバイスアート】

青木直史(著)、「**Arduino**と**Processing**ではじめるプロトタイピング入門」、講談社(2017)、ISBN: 978-4061565692

小林茂(著)、「**Prototyping Lab** 第2版ー「作りながら考える」ための**Arduino**実践レシピ」、オライリージャパン(2017)、ISBN:978-4873117898

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、課題(30%)、学期末に提出する作品発表(30%)、合評(10%)により評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生に興味を持ってもらえるよう、単元や実習内容にいろいろ工夫を盛り込みました。受講者のスキルやモノづくりへの好みの違いをお互いの刺激として各自が成長できるよう、課題演習や理解度チェックのバリエーションを用意しました。2020年度からは実機の**Arduino**とクラウド上のシミュレータ**Tinkercad**を併用することで自宅での学習環境も整備されています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用し、実習に必要なPC、**Arduino**など共通の電子部品と配線材は用意します。

課題作成時および提出時には貸与PCまたは個人PCが必要になります。

【その他の重要事項】

情報アプリケーション科目は情報学の総合力を育む科目であり、本科目ではモノづくりのための発想、知識、スキルの全てを身につけることを目指して欲しい。

受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with the creative development of original digital gadgets such as electronic percussion and sensory lights, gesture detection, wake word speech recognition, IoT applications by using various sensor devices, interactive human interface devices and display devices enabled by **Arduino** and RP2040-based micro-controllers. Students will become well familiar with the **Arduino IDE** (Integrated Development Environment) in a small classroom workshop environment.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 30%

Critique: 10%

Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

こころの科学

岡本 郁子

サブタイトル：こころが生み出す「体験のリアリティ」
配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● 感動の思い出は、なぜかスローモーション

あなたが日々体験している「まさに今、私のこころがはたらいている」という実感を手掛かりにして、「こころ」という不思議なはたらきと、その面白さを様々な角度から理解することを目指す科目である。

● 「こころ」がはたらいている、と実感するのはどんな時？

「こころ」とはいったい何だろう。「こころ」についてよく知っているつもりなのに、いざ説明しようとするとうまく説明できない。なぜなら、自分の「こころがはたらいている」ことをあまりに当然に考えているから。

しかし、「こころ」がうまくはたらかない時や、あなたにとって初めての事、思いもよらない事に会った時、その”存在”に気づくのである。実際に、あなたの「こころ」にとって想定外の現象は多く発生している。

● 「こころ」とはいったい何だろう

「こころ」のしくみを理解する上で基本となる「気づく」「覚える」「わかる」「誤る」「問題を解く」「感情がわく」に着目し、解説を加える。学術的な説明の前に、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することから出発しよう。大切なのは、こころがうまく機能している状態だけでなく、「こころが上手くはたらかない」現象にも光をあてることである。

ロボットや人工知能の分野では「こころを作ってみる」試みが急速に進む。一方で、「こころ」の探求は、単一の学問領域だけで本質に迫るのは難しい。心理学に加え、脳科学、人類学や言語学など様々な角度からアプローチが試みられ成果を上げている。「こころの科学」では、関連領域の知見を踏まえ、学際的な視点から「こころの科学」の基礎を学ぶ。

【到達目標】

・気づく、覚える、わかる、誤る、問題を解く、感情がわく等、「こころ」のしくみを理解する上で基本となる事柄について、その要点を説明できるようになる
・感情の役割、アフォーダンス概念など、講義で解説される基本主題について、それらが「こころの理解」にどのような新たな視点を与えるのか、その意義を簡潔に述べるができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

「こころ」のはたらきとして、気づく、覚える、わかる、誤る、問題を解く、感情がわくに着目し、関連分野の知見を整理して一つ一つ解説を加える。学術的な説明だけでなく、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することにも力点を置く。

こころがうまく機能している状態だけでなく、こころが上手くはたらかない現象にも着目する。たとえば、「記憶する」だけでなく「忘れる」重要性、「わかる」だけでなく「間違える」プロセスにも着目する。それによって「こころ」の理解は面白くなるし、奥深さを学べる。

各講義の最初に、受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説を行い、また後半はできる限り受講生どうしの討議の機会を設け、受講生の理解がさらに深まるように工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義のアウトラインと進め方
2	こころについて、どのような理解を目指すのか	「こころのはたらき」を理解するための枠組みを、準備する
3	気づく、対象を捉える、気づいてないのに分かっている	感覚から知覚、知覚から認知へ、意識、潜在認知
4	覚える、忘れる、わたしが「私」であり続ける不思議	記憶のしくみ、誤って覚える、忘却する
5	わかる、知らない、わからない	概念の形成、知識獲得と学習、言語の役割
6	間違える、「間違え」から分かるこころ	誤りの心理学

7	考える、問題を解く	『問題』とは何か、問題解決する、推論する
8	感情が生まれる、感情をはたらかせる ～感情の役割の発見へ	感情の彩り、人類に共通する感情、感情を生み出す仕組み
9	感情に促される、影響される、感情に対する気づき	感情の果たす役割、感情の障害
10	脳からみた、こころ	ニューラルネットワークと、人工知能人工物ではたらく、こころ
11	人間と環境との相互作用を基本視点とする生態学的アプローチ	生態学的視覚論（ギブソン）の基本的考え方、アフォーダンス
12	社会・文化に埋め込まれた、こころ ～個人から社会の視点へ	状況に埋め込まれた学習、正統的周辺参加、社会的実践としての学習
13	自分への理解を深める	自分を客観視する、自己理解を深める
14	「こころ」について再考する	総合討議と、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コメントシート作成を含め、準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

・日常と非日常からみる こころと脳の科学（宮崎真ほか著、コロナ社）2018

【成績評価の方法と基準】

・コメントシート、討議への参画、小レポートを含む平常点 50%

・課題レポートまたは期末試験 50%

を総合的に評価し、評定を決める。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実際の現象を理解しやすいように、できる限り実験例や具体例の提示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

コメントシート、課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後に確認すること。

【関連科目】

・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」「文化情報のデザインワークショップ」と組み合わせると、理解が多角的になり面白くなる仕組みになっている。

・「こころとからだの現象学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn basics of science of the mind. It also aims to provide you with a new perspective of the mind by re-examining your real-world experiences in your "mind".

By the end of the course, students should be able to explain overview of fundamental elements of science of the mind including attention, emotion, concept learning, problem solving, mistake, and affordance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

FR1300GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300）

ゲーム構築論

重定 如彦

配当年次／単位：3～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、情報学を適用したモノづくりの面白さと難しさをコンピュータゲームのモノづくりを通して学ぶ。コンピュータにはワープロ、メールソフト、ウェブブラウザ、ゲームなどありとあらゆるソフトウェアがあり、我々は日々それらの他人が作成したソフトウェアを利用しているが、これらのソフトウェアが実際にどのようにして作られているかについて知っている人はあまりいないのが現状である。そのためコンピュータで何かを行う場合、他人の作成したソフトウェアを探して利用する必要があるが、そのようなソフトウェアが見つからなければあきらめるしかない。

実際にはプログラミングを学ぶことで、簡単なソフトウェアであれば必要に応じて自分で作ることができるようになる。つまり、コンピュータのソフトウェアの消費者から、コンピュータのソフトウェアの生産者になることができるようになる。

日常にあふれるコンピュータのソフトウェアはどのようにして作られているのか？ 本授業ではソフトウェアの中でも親しみやすいコンピュータゲームのプログラミングの観点から具体的な方法論を、実験実習を通じて学ぶ。

コンピュータゲームの題材としては主に、古いや数当てゲームなどの初歩的なものからはじめ、最終的にはマインスイーパーやテトリスなどの知名度の高いゲームを扱う予定である。

【到達目標】

コンピュータゲームのモノづくりを通じてコンピュータのソフトウェアがどのようにして動いているかを理解し、自分の力で簡単なソフトウェアを作り出すことができるような実践的な能力を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業ではコンピュータプログラミングの入門用語として Javascript を用いたソフトウェア制作の実習を行う。様々なソフトウェアの制作を通じてプログラミングの基本となる考え方、課題、解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。

前半では、「古い」、「数当てゲーム」といった簡単なゲームを扱うことによってプログラミングの基礎を学ぶ。

後半では「マインスイーパー」や誰もが知っている「テトリス」などといった複雑なゲームを扱うことでコンピュータのソフトがどのような考え方によって作られているかについて学ぶ。

実際に取り上げるゲームの題材は学生の興味と理解に合わせて臨機応変に取り上げる予定であり、学生の要望によっては他の題材を取り上げる可能性もある。下記の授業計画は上記の題材を取り上げた場合の計画である。

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法をとる。学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	プログラミングとはどういうものかについて学ぶ。 Javascript の基礎について学ぶ
2	古い	変数、乱数、条件分岐について学び、古いのゲームを作成する
3	数当てゲームその 1	変数を使って回数を数える方法について学び、数当てゲームを作成する
4	数当てゲームその 2	数当てゲームを完成させる
5	マインスイーパーその 1	配列変数について学び、マインスイーパーの盤面をどのように表現するかについて学ぶ
6	マインスイーパーその 2	グラフィックスについて学び、マインスイーパーの画面の表示方法について学ぶ

7	マインスイーパーその 3	マウスイベントについて学び、画面上をクリックすることによってマインスイーパーのマスを開く方法について学ぶ
8	マインスイーパーその 4	マスを開いた際の処理、旗の処理、ゲームのクリアの判定方法について学ぶ
9	マインスイーパーその 5	マインスイーパーを完成させる
10	テトリスその 1	テトリスの盤面を表現する方法、様々な種類のブロックをどのように表現するかについて学ぶ
11	テトリスその 2	ブロックの移動、回転の方法について学ぶ
12	テトリスその 3	ブロックがくっついた時の処理、ブロックを消す方法について学ぶ
13	テトリスその 4	ブロックを時間経過によって移動させるというアニメーションの手法を学ぶ
14	テトリスその 5	その他、点数、ゲームオーバーなどテトリスに必要な機能を実現する方法について学び、ゲームを完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を予習復習し、各自制作の実習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学生のための JavaScript 重定 如彦 著 東京電機大学出版局
授業で使用するので、受講する場合は必ず各自で入手する事

【参考書】

必要に応じて授業内で説明する

【成績評価の方法と基準】

平常点 10%課題 90%

課題は授業内で適宜指示する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

進め方が早すぎてわからなくなることがあったという意見があったので、早くなりすぎないように注意したい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストを使用し、各種ソフトウェア等を用いて進める。

【その他の重要事項】

熱意があればプログラミングの未経験者でもテトリスを完成させることが可能です。プログラミングやコンピューターゲームに興味がある方はぜひ受講してみてください。

マインスイーパーやテトリスの完成版を見たい方は、<https://web.tdupress.jp/downloadservice/ISBN978-4-501-55770-6/>からウェブ教材をダウンロードし、下記の操作を行ってください。なお、このウェブ教材はフリーソフトにしましたので、教科書を購入せずにダウンロードしても OK です。

マインスイーパー

- ・上部の 11 章をクリックする
- ・左の項目の一番下にある解答例 (J) をクリックする

テトリス

- ・上部の 15 章をクリックする
- ・左の項目の一番下にある解答例 (J) をクリックする

なお、この解答例では 2 色のブロックしか落ちてきませんが、少しプログラムを記述するだけでブロックの種類を増やすことができます。その他の章も同様に解答例をクリックすることで、各章の章末問題の解答例を実際に見ることができます。生成 AI を補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用した課題の提出は認めない。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn the enjoyment and difficulty of creating computer software by applying informatics.

The theme of computer software is entertainment. Starting from simple fortune telling software, this class deals with number guessing game, minesweeper, and tetris.

Students will prepare and review the textbook and practice their own work. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Ordinary points 10%, Assignments 90%.

Assignments will be given in class as appropriate. Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class will be graded on the basis of this grading system.

PHL300GA（哲学 / Philosophy 300）

こころとからだの現象学

森村 修

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

こころとからだの関係を考える

あなたたちには「こころ」が「あります」か？多くの人が「こころがある」と答えると思います。それでは、次の質問です。「それでは、あなたが言うように「こころがある」ならば、それは「どこにあります」か？」。ほとんどの人が「頭にある」、より正確には「脳にある」と答えるかもしれませんが。それでは、「こころが頭（脳）にある」ならば、こころと脳とは、どのように関係していますか？。「こころがある」と答えた人に質問します。それでは、「こころは見えたり触れたり、知覚できたりしますか？」。もしも「こころ」が見えたり触れたりできないのに、あなたはどのようにして「ある」と言えるのでしょうか？あなたは「自分で体験しているから」と答えるかもしれません。それでは、「自分で体験するから」「こころはある」のですか？それでは尋ねますが、「あなたの体験は、あなたの「どこで」するのでしょうか？こころで体験するのですか？からだで体験するのですか？

私たちは、「こころがからだにある」とか「こころを持っている」と日常生活の中で疑問を持たずに漠然と信じています。ただ、哲学はこうした常識を徹底的に疑います。何も前提にしないこと、それが哲学的立場としての「現象学」のモットーです。そこで「こころとからだの現象学」という本科目は、「こころとからだ」を考え、それらがどのように結びついているのか（結びついていないのか）について徹底的に追求していきます。

現代において、〈こころ〉とは何か？

2025年度は、〈こころの哲学史〉を学ぶことを通して、古今東西で「こころとは何か」あるいは「こころとからだの関係はどうなっているのか」という問いを哲学的に考察します。21世紀を生きる私たちにとって、古くて新しい問題としての〈こころ〉という謎を哲学的に考えていきます。

【到達目標】

・〈こころの哲学史〉を学ぶことによって、哲学的に「こころ」とは何かを考察することができる。そうすることで、「こころ」を研究テーマとする心理学や脳科学などの周辺諸科学との差異を認識することができるようになる。
・「こころとは何か」を問うことによって、自分にとって自明であることにも、何もわかっていなかったことがあることを気づくことができる。つまり、哲学的に問い直すことによって、「無知の知」（ソクラテス）に気づくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

本科目は、原則的には講義形式で行いますが、人数が多くない場合は演習形式も取り入れていきます。必要に応じて受講生たちから積極的に意見を聞くなどして、受講生1人ひとりが自分の「こころとは何か」と自覚的になるように、授業を進めます。というのも、現象学という哲学の立場は、主観的体験を重視し、自らの体験に基づいて哲学的な問いを立てていく哲学の立場だからです。【授業の方法】

授業は、基本的には、『心の哲学史』を参照しながら授業する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義の概略と進め方
2	『心の哲学史』解説①	第一章 心の哲学史の始まり① 1. ヴント 2. プレンターノ 3. フッサール
3	『心の哲学史』解説②	第一章 心の哲学史の始まり② 3. エーレンフェルスからゲシュタルト心理学へ 4. 意志と行為の構造化
4	『心の哲学史』解説③	第二章 心の科学・心の哲学・身体 の現象学① 1. 内観主義 2. 行動主義・同一説・機能主義

5	『心の哲学史』解説④	第二章 心の科学・心の哲学・身体 の現象学② 3. 現象学と認知科学 4. 方法としての内観あるいは一人称 報告
6	『心の哲学史』解説⑤	第三章 認知システムと発達の理論 展開① 1. 視線・羞恥・超越性・対他存在 2. 対象としての他者という誤り 3. ミラーシステムと身体化されたシ ミュレーション
7	『心の哲学史』解説⑥	第三章 認知システムと発達の理論 展開② 4. 「視線」の発達心理学 5. 発達理論としてのアフォーダンス 6. 心の理論パラダイムと発達研究
8	『心の哲学史』解説⑦	第四章 心理学の哲学の基礎づけ① 1. 心理学と現象学の認識論的解釈 2. 質的心理学 3. 現象学と現象学的心理学
9	『心の哲学史』解説⑧	第四章 心理学の哲学の基礎づけ② 4. 心理学は自然科学へ解消するか 5. 心の科学の過去・現在・未来 6 現象学的精神医学の興隆と衰退
10	『心の哲学史』解説⑨	第五章 認知神経科学と現象学① 1. 脳と身体関係をどう考えるか— 現象学と心身問題 2. 道具を使って身体は拡張する— 現象学的身体論入門
11	『心の哲学史』解説⑩	第五章 認知神経科学と現象学② 3. 脳と機械を結ぶ—主体感の現 象学 4. 「私の身体」を操作する—所有感 の現象学
12	『心の哲学史』解説⑪	第五章 認知神経科学と現象学③ 5. 「身体化された自己」の現象学
13	『心の哲学史』解説⑫	第六章 心理的なものを越えた心 理学① 1. デカルトの心理学の道とアニマ シー心理学の道 2. 身体性認知科学への転回 3. アニマシー心理学の構想
14	・『心の哲学史』解説⑬ ・まとめ	4. 無神経な生物たちの心のはたらき 第六章 心理的なものを越えた心 理学② 5. 歩く・座る・つかむ・投げる・食 べる・眠るの心理学 ・〈こころの哲学史〉の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・資料として提示しているテキストを事前に読んでください。
・レジュメの形式などについての諸注意は、最初の回にアナウンスします。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

村田純一・渡辺恒夫編『心の哲学史』、講談社、2024年

★ 本書は大部で高価なため、必要に応じてこちらでコピーを配布する場合があります。

【参考書】

参考文献については、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・討議への参加（30%）・期末課題レポート（70%）。
以上を総合的に評価し、評定を決める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
※リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準に変更がある。

【学生の意見等からの気づき】

「こころとからだ」の関係について考えることは、簡単なようでとても難しいので、なるべく具体的な経験をともに議論を進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパー、課題提出等に授業支援システムを利用することがある。授業前後に確認すること。

【関連科目】

・甲先生の「こころの科学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。履修については、どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる。
・授業担当者（森村）の他の授業「文化情報概論」や「文化情報の哲学」などと基本的なモチーフは共有しているので、これらとともに受講することが望ましいです。「概論」では、情報社会における〈こころ〉の問題とコミュニケーションの関係を上げる予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 What is the "mind"?

In 2025, we will philosophically consider the questions ‘What is the mind?’ and ‘What is the relationship between the mind and the body?’ through studying the ‘History of the Philosophy of the Mind’.

Through the study of the history of philosophy of mind, we will philosophically consider the mind as an old and new problem for those of us living in the 21st century.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%

HUI200GA (人間情報学 / Human informatics 200)

道具のデザイン学

甲 洋介

サブタイトル: 魅力的な体験をデザインする、という考え方

配当年次／単位: 2～4年／2単位

旧科目名: ヒューマンインターフェイス論

旧科目目の重複履修: ×

毎年・隔年: 毎年開講 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選: 初回の授業に出席すること

備考 (履修条件等): 情報関連科目を履修済みであることが望ましい
旧: ヒューマンインターフェイス論の修得者は履修不可

その他属性: 〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

● デザイナーだけではなく、利用者の視点がデザインに役立つ！

日常生活はたくさんの道具やサービスであふれている。日常生活で出会う道具にはコンタクトレンズのような小さなモノから建築物やアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。

利用者としてのあなたの体験に目を向けよう。お気に入りの道具を楽しむこともあれば、面倒な操作で不快になった体験もあるだろう。

● デザインすると、暮らしはもっと快適になる

暮らしの道具やサービスを使いやすく魅力的にデザインすることは、その道具の利用者の生活をもっと豊かで快適なものにすることに直結している。道具のデザインは重要である。そのデザインに、ユーザからの視点が非常に役立つことが分かってきた。

● ユーザの体験 (エクスペリエンス) をデザインする、という考え方

ではどうデザインするか。本講義では、利用者にとって使いやすく、魅力的なものをデザインすることを目指す方法論「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本から、デザイン手順までを実践的に学べる。それは、デザインする際の主役である「ユーザ」について深く理解し、特性を分析する作業から始まる。

「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参画を期待する。

文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではない。ロボットを始め、人が造った人工物と人間も、材質や見かけだけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物と人間の間でも様々な摩擦が生じる。このことを学ぶことは、これからの社会に重要な、人と人工物が共生する社会について考える際の基礎となる。

【到達目標】

UXデザインの基礎が身につく

・使いやすく魅力的な道具やサービスをデザインするための方法論、「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方を説明できるようになる。
・デザインの基本原則から、ユーザ特性の分析方法、デザイン手順まで、実践的に説明できるようになる。

・最終課題に取り組むことで、道具・商品・サービスのデザイン案を、利用者のエクスペリエンス (experience=体験) の観点からデザインし、企画を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

日常生活を豊かで暮らしやすくする「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」を、基本から実践までを体系的に学ぶことができる。

● 各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。受講生どうしの討議・意見交換の機会を適宜促すとともに解説を行う。改良アイデアがさらに得られるように工夫する。

● 「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の手法を学び、実践する
特に後半では、具体的なデザイン方法論の基本から実践手順までを学ぶ。講義での説明に基づいて、各自が練習課題に取り組む。その成果を蓄積していくとレポートが仕上がるように工夫されている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『暮らし』をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く
2	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい
3	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
4	ユーザの心理学	ユーザの認知過程: 道具の「使いにくさ」を科学的に解析する

5	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えない動物である
6	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザビリティの国際規格
7	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」① <i>User Experience (UX) Design</i>	ユーザの特性を理解し、体験 (<i>experience</i>) をデザインする、という考え方
8	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」②理論	<i>UX Design</i> の考え方の基礎と基本原則を学ぶ
9	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」③手順	デザインの流れと、具体的な手順
10	道具のデザイン実習① 商品の企画	魅力ある商品の企画書を作るために
11	道具のデザイン実習② ユーザー分析	ユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習③ デザインプロセス	ユーザの快適な体験 (<i>experience</i>) をデザインする
13	道具のデザイン実習④ 評価技法の例	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の復習を兼ねて、課題練習を少しずつ積み重ねる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

・「誰のためのデザイン」(D.A. ノーマン、新曜社) 2015

・「人間計測ハンドブック」(甲ほか、朝川書店) 2013

他については適宜指示する。

【参考書】

・「ユーザーインタビューをはじめよう」(ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社) 2017

・「ユーザビリティエンジニアリング」(樽本徹也、オーム社) 2014

・「UX デザインの教科書」(安藤昌也著、丸善出版) 2016

・NPO 人間中心設計推進機構: <http://www.hcdnet.org/>

【成績評価の方法と基準】

・レスポンスシート、授業・討議における積極的な貢献度合い (50%)

・発表とレポート (50%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による互いのデザイン企画案の発表会が、大いに刺激になる、との感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

【履修条件】

・国際文化学部生は「情報リテラシー I・II」を単位取得済みであること。
・他学部生 (国際文化学部生以外) は初回の授業に出席し必ず先生に履修の許可について相談すること。

【関連科目】

・姉妹科目の「文化情報のデザインワークショップ」は、ユーザーエクスペリエンス・デザイン手法の実践ワークショップになっている。これと併行履修することで知識と実践の相乗効果が得られる。

・「こころの科学」「道具による感覚・体験のデザイン」「システム論」と組み合わせると、知識が関連し合って面白くなる仕組みになっている。
・本科目の主題は、「文化情報空間論」においてさらに発展される。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

P C、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn the "User Experience (UX) Design". By the end of the course, student understands the basic principles of the "UX Design" and should be able to understand how to apply some basic methods.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

情報セキュリティとプライバシー

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PCや携帯電話などのようにネットワーク接続する情報機器を使用する際、ウィルスなど意図しないプログラムを引き込んで、被害にあうことがある。情報技術が社会基盤となり、広く一般に利活用される一方で、セキュリティや個人情報保護等の問題も広く認識されるようになってきた。この授業では、身近に利用している情報サービスに対するリスクや脅威を学習し、情報セキュリティやプライバシー、および匿名性に関する議論を行い、有効にネットワークを使用するため、ネットワークユーザー個人として、あるいは組織のネットワーク管理者としての基本的な知識と情報管理技術を身につけることを目標とする。ネットワーク上のウィルス等の脅威から身を守るためには、ファイアウォールやアンチウィルスソフト等に代表される情報システムの手法と、ルールや法律によりそれを抑止する手法がある。両者を解説する。

【到達目標】
・PC等、個人用情報機器を利用する上で、必要な情報セキュリティ知識を身につける。
・より高いセキュリティを実現する方策を立案できる。
・セキュリティを守るためにどのような社会制度があるかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれにとまなう各回の授業計画の修正については、学習支援システム（Hoppii）でその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日の前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加すること。講義中心に進めるが、一部で実習の授業がある。課題等の提出・フィードバックは、授業内および学習支援システムを通じて行う。授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の構成と進め方、および学習環境について説明し、スケジュール、テキスト等の紹介する。
2	自分のPCを守る	アンチウィルスソフト、ファイアウォール、アップデート。
3	アタックのパターン(1)	個人PCを狙う攻撃。「強い」パスワードとは。コンピューターウィルスやパスワードクラッキング。
4	アタックのパターン(2)	WEBを使う攻撃。クロスサイト・スク립ティング、DNSキャッシュポイズニング。
5	仮想世界の「名前」とアクセス制限	情報サービス上で用いている「名前」とプライバシー、匿名性について。また、データアクセスの制限の必要性とその手法。
6	インテリジェンス、OSINT	インテリジェンスとは。またその中で特にインターネットに親和性の高いOSINT（Open Source Intelligence）について。
7	暗号とは(1)	暗号の歴史と基礎理論。ハッシュ、電子署名などその応用。
8	暗号とは(2)	共通鍵暗号法の原理と実践（実習）。
9	暗号とは(3)	公開鍵暗号法の原理と実践（実習）。
10	電子署名と認証	電子署名とは。SSHによるネットショッピング。
11	組織としてのセキュリティ対策(1)	情報漏洩の事例紹介。
12	組織としてのセキュリティ対策(2)	CSIRTの必要性和その適応範囲。
13	法制度による情報安全対策	国際的なサイバー犯罪に関する法規・法律。

14 期末試験、授業のまとめ 授業内容の理解度を確認するための試験を実施。情報セキュリティの考えかたの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会生活を送る上で、情報セキュリティとしてどんなリスクや脅威があり、そのためにどんな対策があるのか意識する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に必要としない。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20%）と課題（またはレポート）（30%）、期末テストの成績（50%）を併用した評価を行う。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
対面での期末テスト実施が困難な場合は、オンライン試験に切り替えた上で、小テスト・課題・レポートの配点を若干上げる可能性がある、また掲示板などでのコメントや情報共有を平常点として加点する。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の習熟度に応じて、授業の進度や課題の難易度は適宜調整しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習を伴う授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。
基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、CUIコマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種shellが利用できる環境）を前提としている。
毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
受講者数が定員を超過する場合は初回授業の課題をもとに選抜を行う。
初回授業はZoomを用いたオンライン授業となるが、受講者数把握のため、受講希望者は初回授業日の前日までに学習支援システムに仮登録すること。詳細は学習支援システムを参照し、授業資料や「お知らせ」を必ず確認すること。
授業は「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進めます。また、授業内容に関連するので「ネットワーク基礎」の履修、あるいは並行履修を推奨します。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this class, we learn the risks and threats to the information services that we are using closely. We will also discuss information security, privacy, and anonymity, with the goal of acquiring basic knowledge and skills for information management.
(Learning Objectives)
- To acquire the necessary information security knowledge for the use of personal information devices such as PCs.
- To be able to plan measures to achieve higher security.
- Understand what social systems are in place to protect security.ks and related information technologies.
(Learning activities outside of classroom)
You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on Assignments and mid-term reports (30%), in-class contribution(20%), and term-end exam (50%).

BIO200GA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

文化と生物

島野 智之、川上 裕司、黒沼 真由美、松崎 素道、鈴木 忠、富川 光

サブタイトル：生活にいかす生物との関わり

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：バイオインフォマティクス

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：旧：バイオインフォマティクスの修得者は履修不可

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化という視点からみた生命の実像を学ぶ。
内容は大きく2つに分けて、(I-II)「ヒトを取り巻く文化と生物」と、(III-V)「生物それ自体とその進化」について講義を行う。分野は衛生学、美術、生物学、農業にわたり、生物情報をどのようにヒトが利用しているのかを学ぶ。

【到達目標】

ヒトの生活と生物にまつわる歴史、文化そして、現代的な問題を解決する方法について、考え理解する。生物の多様性や進化について、考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生命活動における情報（主に遺伝情報）の特徴とその役割について、現代生物学の手法を体験し、現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
講義はやわらかく、文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う。講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます。11回までは、講義が中心ですが、特に、5-8回は、討議なども入れたアクティブラーニングの手法もちいます。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します。最後の実習（12回以降）は、実際にパソコンのソフトを用いて、外部の生物学専門機関が公開している種々のサービスを利用して行います。
メールの添付などの方法で課題等に対するフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) ヒトの生活環境と生物 (1) 食文化と微生物 担当教員：川上	講義内容のあらすじ ①善玉菌と悪玉菌とは何か（細菌・真菌・ウイルスの違い）、②食中毒とは何か、③発酵食品に利用される微生物と食文化の発展について
2	(I) ヒトの生活環境と生物 (2) 健康的な食生活と微生物 担当教員：川上	①プロバイオティクスとは何か、②医食同源は健康的な食生活の基本、③人間の食糧難を引き起こす昆虫と救う昆虫（農業・食品害虫と昆虫食）について
3	(I) ヒトの生活環境と生物 (3) 住まいと害虫 担当教員：川上	①主な衛生害虫・衣類害虫・家屋害虫とその生態、②ダニ・昆虫アレルギーについて、③殺虫剤と害虫対策法
4	(I) ヒトの生活環境と生物 (4) 住まいと微生物 担当教員：川上	①病原体としての細菌・真菌（カビ）、②真菌アレルギーについて、③殺菌剤とIPM（総合的有害生物管理）による対策法
5	(I) ヒトの生活環境と生物 (5) 文化財を害虫やカビから守るためには 担当教員：川上	①文化財の保存科学現状と問題点、②カビ被害の実際と対策、③害虫被害の実際と対策
6	(I) ヒトの生活環境と生物 (6) 地球環境と微生物～歴史を作る影の立役者～ 担当教員：川上	①感染症と人類の歴史、②ハンセン病と日本の歴史、③地球環境と農業分野への活用

7	(II) 生物の進化と塩基配列情報 (1) 塩基配列情報によって進化を推定する。 担当教員：島野	生物の進化を推定する。生物の遺伝子DNAの塩基配列情報から作成された系統樹から何がわかるのか。
8	(III) 動物とは？ (1) 死と復活 担当教員：鈴木	自然発生論争と蘇生論争
9	(III) 動物とは？ (2) 未発見の生物を発見するために、冒険に出よう。 担当教員：鈴木	生物と名前。なぜ生物に名前があるのか。どのように名前を付けるか。
10	(II) 生物と生態系 (1) 生物と環境の共進化 担当教員：松崎	生命の起源、共生による生物進化、地球環境の改変と適応
11	(II) 生物と生態系 (2) 生態系と寄生生物 担当教員：松崎	寄生生物が生態系で占める位置と役割（生態系改変や宿主操作）
12	(II) 生物と生態系 (3) 食文化と寄生生物 担当教員：松崎	寄生生物と食文化との関わり
13	(IV) 生物の分類と命名 (1) 人間生活と生物の分類 担当教員：富川	生物を分類し、名前を付けることの意味について、人間生活と関連付けて考える。
14	(V) 無脊椎動物解剖学 (1) 無脊椎動物の体の仕組み 担当教員：黒沼	地球上で繁栄している無脊椎動物である節足動物の定義をおさらいし、様々な形態や筋肉のつき方、動きを比較する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義テーマに合致する市販のテキストはない。個人的に作成した講義資料を使用する。

【参考書】

講義資料の最後に参考書のリストが掲げている。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート(60%)だが、この他に講義内で提出してもらう様々な文書(ビデオ等の感想、小テストなど)(40%)も加え、総合的に評価する。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度、カリキュラムを大幅に改訂し、国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善につとめている途中である。
受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用します。パソコンにインストールされているソフトを元に、実習します。遺伝子データベース <http://www.ddbj.nig.ac.jp/searches-j.html> を使います。

【その他の重要事項】

情報実習室で行うことに注意してください。

【Outline (in English)】

In this course, students will be introduced to how humans use biological information for culture through hygiene, art, biology, agriculture, etc., and the real image of life from the perspective of culture.
The content is divided into two major sections: (I-II) "Culture and organisms surrounding humans" and (III-V) "Organisms themselves and their evolution. The fields of study include hygiene, art, biology, and agriculture, and we will learn how humans use biological information. Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively. Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO200GA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

文化と環境情報

島野 智之、佐々木 美貴、中西 由季子、忽那 賢志、塚田 訓久、島田 瑞穂、吉川 翠、長谷川 真紀子

サブタイトル：人間社会や文化が、生態系とどのように関わっているのか

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物は、それぞれの生活環境に適した結果、多様性に富んだ進化の道を進んできている。多様な環境条件下で生活しているヒトは、環境に適応するためにさまざまな技術や思考を創造してきた。人間の活動と環境の相互作用によって構築される文化に着目し、自然科学及び人文社会科学の多面的な視点から、ヒトを取り巻く環境から得られる情報と文化の成り立ちや持続可能な社会について学ぶ。

【到達目標】

人間社会や文化が、生態系とどのように関わっているのかについて考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生態系、地球環境と、人間生活、食文化、病気などについて、現代生物学、栄養学、医学、保全生態学の観点から現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義はやわらかく、文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う。講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらう。講義が中心だが、討議なども入れたアクティブラーニングの手法ももちいる。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介する。メールの添付などの方法ももちいて課題等に対するフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) 生物多様性と持続可能性 (1) 生物多様性はなぜ必要なのか 担当教員：島野	講義内容のあらすじ ①生物多様性条約 ②食文化（乳製品）と生物多様性 ③分類学と生物多様性
2	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (1) SDG s de 地方創生ワークショップ 担当教員：中西	「SDGs de 地方創生」を通じて、SDGsを「まちづくり」や「地方創生」の身近な“プロジェクト”に引き寄せながら“自分事として体感”する。地域で暮らす市民、事業者、NPO、自治体など地域の様々なステークスホルダーが、持続可能なまちづくり【地方創生×SDGs】の目標実現に向けたプロセスを疑似体験する。 ①「SDGs de 地方創生」②まちづくり③地方創生④人口減少
3	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (2) Change for the blue（海洋プラスチック課題）ワークショップ 担当教員：中西	「Change for the blue」を通して、海洋プラスチック削減のために、企業・組織の一員としてできること、一市民としてできることについて考え、市民意識、技術、経済状況等も踏まえて、ごみ削減を体感する。 ①Change for the blue ②海洋プラスチック③ごみ削減
4	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (3) レゴ(R)・シリアスプレイ(R)のMethodと教材を活用したワークショップ（ありたい未来の世界を考える） 担当教員：中西	レゴ(R)・シリアスプレイ(R)のメソッドと教材を活用し、ありたい未来の世界の姿についてコンストラクショニズムに基づき、作品を作成し、内省し、対話を行う。①レゴブロック②コンストラクショニズム③対話

5	(III) 感染症と日本社会 (1) 野生動物とヒトの間の感染症 担当教員：島田	日本の原風景である里山では、人々の生活様式の変化に伴う荒廃が進み、野生動物が増加している。イノシシやシカを用いたジビエ料理の文化も交え、野生動物とヒトの間を行き来する人獣共通感染症について考える。
6	(III) 感染症と日本社会 (2) 新興感染症 担当教員：忽那	①新型コロナウイルス感染症とは？ ②新型コロナウイルス感染症とリスクコミュニケーション ③新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響 人間活動の影響によりおこる、化学物質や薬品、畜産などによる土壌汚染問題について学ぶ。また、汚染土壌中に棲む土壌動物の特徴について理解する。
7	(IV) 生態系と持続可能な人間活動 (1) 土壌汚染 担当教員：長谷川	①人間活動の問題点 ②土壌汚染の具体例 ③汚染物質の土壌動物への影響 江戸時代の暮らしや環境について学び、現代日本の社会生活の特徴について理解する。
8	(IV) 生態系と持続可能な人間活動 (2) 近代以前の日本と現代の日本 担当教員：長谷川	①江戸時代の暮らし ②循環型社会 ③江戸時代の農業
9	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (4) 1日の生活様式と食生活を振り返る（生活活動調査&食事バランスガイド） 担当教員：中西	生活活動調査と食事バランスガイドの調査用紙に回答し、一日の身体活動量を算定、エネルギー必要量や必要な食事バランスを知るとともに、各自の一日の食事を振り返り、どのような栄養バランスの食事をしているのか知り、改善点を考える。①身体活動量 ②推奨エネルギー摂取量 ③食事バランスガイド
10	(III) 感染症と日本社会 (3) エイズと社会 担当教員：塚田 ※この回は、オンラインに変更する可能性があります。事前にお知らせしますので注意してください	①「エイズ」ってなんだろう ②「エイズ」と向き合うことでみえてくるもの
11	(I) 生物多様性と持続可能性 (2) 霊長類の生物多様性 担当教員：吉川	霊長類の社会：ヒトは霊長類の1種であるという視点から、ヒトを含めた霊長類の社会や行動の違い、共通点を学ぶ。また、環境への適応について、ヒトの進化の隣人といわれるアフリカのチンパンジー等の行動生態の研究事例を学び、理解を深める。 ①ヒトと、ヒト以外の霊長類について ②霊長類の行動と生態
12	(V) 自然環境と文化 (1) 保全・再生 担当教員：佐々木	水辺の環境である湿地とその保全や利活用を推進するラムサール条約について学ぶ。 さらに、新潟市佐潟の「潟普請」、習志野市谷津干潟の「アオサ対策」などの事例に即して、湿地の保全や再生にかかわる文化について考える。
13	(V) 自然環境と文化 (2) wise use（ワイズユース） 担当教員：佐々木	ラムサール条約が推進するワイズユース（賢明な利用）について学ぶ。さらに、大崎市の「ふゆみずたんぼ米」、檜枝岐村の尾瀬や温泉による観光、豊岡市の「環境経済戦略」などの事例に即して、ワイズユースにかかわる文化を考える。
14	(V) 自然環境と文化 (3) CEPA 担当教員：佐々木	ラムサール条約が進めるCEPA（コミュニケーション、力量形成、学習・教育、普及活動）について学ぶ。さらに、高島市の「ふるさと絵屏風」、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議の「学習・交流会」、日本湿地学会の活動などの事例に即して、CEPAにかかわる文化を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義テーマに合致する市販のテキストはない。作成した講義資料を使用する。

【参考書】

講義資料の最後に参考書の一覧が掲げられている。

【成績評価の方法と基準】

基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート(60%)だが、この他に講義内で提出してもらう様々な文書(ビデオ等の感想、小テストなど)(40%)も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善に努めている。
受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコンやタブレット）などを準備して下さい。

【その他の重要事項】

※講義10回目、塚田先生ご担当回 オンラインに変更する可能性があります。事前にお知らせしますので注意してください。

【Outline (in English)】

In this course, students will be introduced that living organisms have evolved in biological diversity as a result of their suitability to their respective living environments. Humans, living under diverse environmental conditions, have created a variety of technologies and thoughts to adapt to their environment.

The goal of this course is to understand the origins of culture and sustainable society with information obtained from the environment surrounding humans from multiple perspectives in the natural sciences and humanities and social sciences, with a particular focus on culture constructed through the interaction between human activities and the environment.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

COT300GA (計算基盤 / Computing technologies 300)

コンピュータ音楽と音声情報処理

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PCでシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語であるPure Data(Pd)を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時にMIDIやOSCによる他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoTなど現代的な利用のあり方を学ぶ。

【到達目標】

コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようになる。Pure Data(Pd)に習熟しビジュアルプログラミングの考え方とコンピュータ音楽への応用が身につく。オープンソースソフトウェアとしてのPdの利点を認識し、Windows、MacなどOSや機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようになる。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ビジュアルプログラミング言語Pdを使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスターに数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pdによる音響モデリングの先端的な実現例をAndy Farnellのサンプルプログラムから学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびPure Data(Pd)の概要	【講義と実習】 PureData(Pd)とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。 【音響モデリング】 DTMF トーン（プッシュホン）や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。
2	Pdの基礎	【講義と実習】 パッチ（Pdのプログラム）を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。 【音響モデリング】 ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。
3	音を出す	【講義と実習】 音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。 【音響モデリング】 雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。
4	メトロノームを作る	【講義と実習】 音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。 【音響モデリング】 時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。
5	サンプラー機能を作る	【講義と実習】 オーディオサンプルの再生や録音した音をPdで使う方法を学ぶ。 【音響モデリングの世界】 ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。
6	リズムマシン (1)	【講義と実習】 サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。 【音響モデリング】 ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。

7	リズムマシン (2)	【講義と実習】 リズムマシン基本形を発展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。 【音響モデリング】 人間の歌声のモデル化を学ぶ。
8	シンセサイザーとMIDI(1)	【講義と実習】 波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDIによる電子楽器の制御方法を理解する。 【音響モデリング】 ロボット（スターウォーズ R2D2）の応答のモデル化を学ぶ。
9	シンセサイザーとMIDI(2)	【講義と実習】 シンセサイザーの出力音にボルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。 MIDI信号による制御を付加する。
10	音響効果の実装：リバーブ、ディレイ、フランジャー	【講義と実習】 デイレイ音と直接音からなる音声再生と聴感上の効果の関係理解し、空間系エフェクトの実装に組み込む。 【課題制作】 課題のガイダンス。最終課題を構想する。
11	インタラクティブ・アート：音と映像の連携	【講義と実習】 音に映像を連携させる手法を学ぶ。 Webカメラから信号をPdで加工する方法やPdで映像を制御する方法を学ぶ。 【課題制作】 進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
12	ネットワーク環境への拡張	【講義と実習】 OSC プロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数のPdパッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。 【課題制作】 進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
13	フィジカル・コンピューティングとの連携	【講義と実習】 Arduino、Raspberry Pi、Kinect、Leap Motionなどフィジカル・コンピューティングと関連デバイスを学ぶ。PduinoによるPdとArduinoの連携方法を学ぶ。
14	まとめ	学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

情報リテラシー、メディア情報基礎、デジタル情報学概論等の関連科目を前提知識として挙げておく。PdはオープンソースのソフトウェアでありWindowsでもMacでもフリーで配布されており、情報カフェテリアのPCにもインストールされている。スマホ用にもPdの実行環境は提供されている。授業時間外でのPdの実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習内容を記したプリントを配布する。

【参考書】

参考書・参考資料等

【Pure Data】

美山千香士、『Pure Data チュートリアル&リファレンス』、ワークスコーポレーション (2013) ISBN: 978-4862671424

松村 誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Dataではじめるサウンドプログラミング』、ビー・エヌ・エヌ新社 (2012) ISBN: 978-4861007804

中村隆之、『「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』、工学社 (2015) ISBN: 978-4777518821

【音響モデリング】

Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press(2010), ISBN:978-0262014410

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、課題（30％）、最終課題の評点（40％）で成績を評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけではなく、課題の発展的応用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人のPCを利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。またWeb公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にして欲しい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。期中アンケートにおいて音楽知識に関する意見を貰ったので改めて明記するが、普通科での音楽の知識や簡単なボビュラー音楽用語のみで受講には十分であり、高度な楽典知識は前提としていない。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のデスクトップPCを使用する。Pdはフリーにダウンロードできるので個人PC（Mac版、Linux版もある）にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

実務経験のある教員による授業：

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理（特にデジタル音響、音声合成、統計モデルによる音声認識）、マルチメディア処理（音楽音響、電子透かし）分野の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with electronic music and audio design and implementation by use of Pure Data, a visual programming language in a workshop-type classroom environment. The typical in-semester projects include drum machines, sequencers, studio audio effects, and music synthesizers. Advanced learners are encouraged to pursue MIDI /OSC enabled applications in collaborative environments, integration with sensor-enabled control interface, and small Arduino projects for interactivity.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 40%

Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

FRI300GA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300)

コネクション・デザイン

川村 たつる

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：ハイパーテキスト論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員35名 定員を超えた場合は選抜を行いますので、初回授業には必ず出席してください。

備考（履修条件等）：旧：ハイパーテキスト論の修得者は履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現代の家族関係や公共施設の在り方、シェアリング・エコノミー、ソーシャルネットワーク等の事例を見ていながら、1989年にアメリカの社会学者によって提唱された「第三の居場所（サード・プレイス）」のような機能は、現代においてはどのように形を変え、どのような役割を持つことができるのかを考察し、これからの人と人の繋がり方を考えていきます。

【到達目標】

これからの“第三の居場所（サード・プレイス）”を考えていくことで、現代社会における人と人、人と社会の繋がり方を受講者それぞれが再考察できることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■人数制限・選抜

本授業は、受講者により提出された課題の講評会を授業内で行う関係上、定員を35名とします。

※定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講を希望される方は、必ず初回授業に出席してください。

■授業の進め方

①授業は、対面を基本としており、講義形式と2回のグループワーク、2回の講評会で構成されます。

②課題として、中間と最終の計2回のレポートを作成し、それぞれ2回の講評会で発表を行います。

③授業ごとに授業内容に関する授業リアクションの提出を必須とします。※提出されたリアクションは、全員分の内容を提出者の名前を外して配布し、受講者全員で共有できるようにします。

※オンライン受講、オンデマンド受講について
本授業は対面を基本としていますが、特別な事情で対面で授業が受けられない場合は、オンライン受講、もしくは授業録画を視聴するオンデマンド受講が可能です。

オンライン受講、オンデマンド受講を希望される場合は、必ず事務に相談の上、必要書類を提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代における人と人の繋がりを考える
第2回	考察1「サード・プレイス」	「サード・プレイス」とは何か？
第3回	考察2「家族の在り方」	日本の住宅の変遷から「家族の在り方」を考える
第4回	考察3「パブリックスペース」	パブリックスペースの事例から考える
第5回	考察4「共有する時代」	シェアリングエコノミーの事例から共有する時代を考える
第6回	グループワーク①	中間レポートのためのグループワーク
第7回	中間レポート講評会	他の受講生の中間レポートを読み、意見交換
第8回	考察6「ネットワーク」	ネットワークをあらためて考える
第9回	考察7「ソーシャルネットワーク」	ソーシャルネットワークを心理学視点から考える
第10回	考察8「人と人との繋がり方」	人の繋がりを発達心理学の視点から考える
第11回	考察9「ダイアログとモノログ」	ダイアログとモノログを考える
第12回	グループワーク②	最終レポートのためのグループワーク
第13回	最終レポート講評会	他の受講生の最終レポートを読み、意見交換

第14回 まとめ

これからの「サード・プレイス」とは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業リアクションの提出は、授業内容を振り返り、授業後に授業支援システムで提出を行うこととします。

●課題は、各自が授業外で行うこととします。

●映像資料（20～30分）がある場合は、授業時間外に各自でオンライン視聴してもらいます。

●本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

※上記以外に準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

『サードプレイス—コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』レイ・オルデンバーグ著（みすず書房/2013年）、『新ネットワーク思考』アルパート＝ラズロ・バラバシ著（NHK出版/2002年）、『複雑な世界、単純な法則』マーク・ブキャナン著（草思社/2005年）、『インターネットの心理学』パトリシア・ウォレス（NTT出版/2018年）、『つながっているのに孤独』シェリー・タークル著（ダイヤモンド社/2018年）、『オープンダイアログとは何か』斎藤 環著＋訳（医学書院/2015年）等。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、出席率と各授業毎に提出される「授業に対するリアクション」の内容から、授業の理解度を平常点として評価（70%）。

また、課題（中間・最終レポート）に対して受講者自身がどのようににアプローチができたかを評価（30%）。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

※成績評価を行うためには、すべての課題提出を必須とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者各自がテーマを自身に引き寄せて考察できるように、扱う事例の選択や授業の進め方を工夫していきたい。

【Outline (in English)】

In this class, we will examine how people are connecting with each other, which is changing in various ways in the modern age, and consider what form and role a "third place" will take in the future, which is needed by people apart from home and work. The goal of the class is to examine the "third place" in today's world.

The goal of the class is to enable students to reconsider how to connect people with each other and with society, while considering the "third place" in the modern age.

Reactions to the class content will be submitted online after class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on 70%regular marks and 30%assignments.

DES300GA (デザイン学/Design science 300)

情報の編集論

川村 たつる

配当年次／単位：3～4年／2単位
旧科目名：情報編集論
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：定員40名 定員を超えた場合は選抜を行います。定員40名 定員を超えた場合は選抜を行いますので、初回授業には必ず出席してください。
備考（履修条件等）：旧：情報編集論の修得者は履修不可
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、解決をしたい目的のために“情報”を収集・分析し、効果的な表現を行う“デザイン”という方法論を手掛かりに、普段何気なく見ている広告（ポスターや新聞、雑誌等の広告）やテレビコマーシャル（映像広告）、商品パッケージなどをあらためて考察していきます。また、近年散見される「広告」の炎上例を取り上げ、どのように炎上が起こったのか、何が炎上を引き起こしているのかも考察していきます。これらを題材に、「情報の意味」を考え、「情報の編集」を学んでいきます。
【到達目標】
受講者それぞれが、普段何気なく見ているものの中に「情報」が編集され存在していることを認識し、自らその意味を考察できるようになることを目標とする。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■人数制限・選抜
本授業は、受講者により提出された課題の発表を授業内で行う関係上、定員を35名とします。
※定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講を希望される方は、必ず初回授業に出席してください。

■授業の進め方
①授業は、対面での講義形式で行います。
②広告、映像広告、商品パッケージをテーマにした3回の課題設定し、提出された課題は発表を行い、受講者全員で共有します。
③授業ごとに授業内容に関する授業リアクションの提出を必須とします。
※提出されたリアクションは、全員分の内容を提出者の名前を外して配布し、受講者全員で共有できるようにします。

※オンライン受講、オンデマンド受講について
本授業は対面を基本としていますが、特別な事情で対面で授業が受けられない場合は、オンライン受講、もしくは授業録画を視聴するオンデマンド受講が可能です。
オンライン受講、オンデマンド受講を希望される場合は、必ず事務に相談の上、必要書類を提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「情報」とは何か？
第2回	デザイン	「デザイン」とは何か？
第3回	情報の編集	「情報の編集」を考える
第4回	広告と情報1	最近気になる「広告」を持ち寄って考えてみる
第5回	広告と情報2	「広告」とは何か？
第6回	広告と情報3	「広告」の中の情報
第7回	映像広告と情報1	最近気になる「テレビコマーシャル」を持ち寄って考えてみる
第8回	映像広告と情報2	「テレビコマーシャル」とは何か？
第9回	映像広告と情報3	「テレビコマーシャル」の中の情報
第10回	広告の中の情報1	「広告」の炎上（前編）
第11回	広告の中の情報2	「広告」の炎上（後編）
第12回	商品パッケージと情報1	最近気になる「商品パッケージ」を持ち寄って考えてみる
第13回	商品パッケージと情報2	「商品パッケージ」とは何か？
第14回	芸術と情報	「芸術作品」の中に隠れている情報

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●授業リアクションの提出は、授業内容を振り返り、授業後に授業支援システムで提出を行うこととします。
●課題は、各自が授業外で行うこととします。

●本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
※上記以外に準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。
【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
「知の編集工学」松岡正剛著（朝日文庫/2001年）、「Design Rule Indexーデザイン、新・100の法則」ウィリアム・リドウエル/クリスティーナ・ホールデン/ジル・バトラー共著（BNN/2004年）、「デザイン思考が世界を変える」ティム・ブラウン著（早川書房/2010年）等。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、出席率と各授業毎に提出される「授業内容に対するリアクション」から、授業の理解度を平常点として評価（70%）。また、課題に対して受講者自身がどのようにアプローチができたかを評価（30%）。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

※成績評価を行うためには、すべての課題提出を必須とします。

【学生の意見等からの気づき】
新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で応用できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
工業デザイン、インテリアデザイン、グラフィックデザイン、Webデザインなどを手掛けてきた現役デザイナーが、それぞれ専門分野における経験から講義を行います。

【Outline (in English)】
In this class, students will study "information editing" by examining advertisements and product packages that they usually see without thinking, using the methodology of design to collect, analyze, and express "information" as a clue.
The goal of the class is for students to be able to recognize that information is edited and exists in the things they casually see, and to be able to think about the meaning of such information.
As learning outside of class, students are required to submit their reactions to the class content online after class.
Assignments are to be done outside of class by each student.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading will be based on 70%regular marks and 30%assignments.

FR1200GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

文化情報の哲学

森村 修

サブタイトル：
配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問を哲学的に基礎づけるための科目です。そもそも「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問として新しく構築するために考案された学問です。この学問では、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出し、「文化情報」として編集しなおして解釈し、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したり、さらにそれらの〈意味〉や〈価値〉を付加して新しく発信することを目指します。

そこで、本授業では、テクノロジーの進歩が私たちの生活のみならず社会構造を大きく変えていく現状を、「テクノロジーの哲学」の観点から考察していきます。特に、私たちの社会とテクノロジーとの関係を中心に、哲学理論研究から実際のテクノロジーの進歩がどのように社会を変えてきているか、また私たちの意識や心までも変化させているかを哲学的に考えていきます。

【授業の目的】

そこで、本授業では、マーク・クーケルバーク（Mark Coeckelbargh, 1975-）の「テクノロジーの哲学」を取り上げ、テクノロジーの進歩と社会との関係、さらには私たちの心や意識の問題から道徳や倫理、社会制度の問題にまで、テクノロジーが関わっていることを考察します。クーケルバークは、日本語翻訳が次々と出版されており、「テクノロジーの哲学」研究の分野では大いに議論されているベルギーの哲学者です。

【到達目標】

- (1) 21世紀を生きる私たちにとって、テクノロジーを「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。
(2) 哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

講義形式で行う。その際に、必要に応じてテキストの読解を行う。また、テキストについて教員による解説を行ない、受講生と討議していく。また、リアクションペーパーなどを使用することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ・「テクノロジーの哲学」 講義①	・本科目の意図の説明など 第Ⅰ部「テクノロジーの哲学」とは何か？ 第1章「テクノロジーを考える」とは？
2	「テクノロジーの哲学」 講義②	第2章「テクノロジーの哲学」の歴史と背景 1. テクノロジーの哲学の成り立ち 2. テクノロジーの哲学の背景
3	「テクノロジーの哲学」 講義③	第Ⅱ部 理論からテクノロジーを考える 第3章 現象学と解釈学 1. ハイデガーの「テクノロジーへの問い」 2. マクルーハンのメディア論 2. テクノロジーの現象学
4	「テクノロジーの哲学」 講義④	第4章 ポスト現象学・物質的解釈学・媒介理論 1. ドン・アイディのポスト現象学 2. フェルバークのポスト現象学 3. 物質的道徳性

5	「テクノロジーの哲学」 講義⑤	第5章 批判理論とフェミニズム 1. マルクスとテクノロジー 2. テクノロジーをめぐるフェミニズムの思考 3. フェミニズムの「テクノロジーの哲学」
6	「テクノロジーの哲学」 講義⑥	第6章 プラグマティズム、分析的アプローチ、異文化間・文化横断的な「テクノロジーの哲学」 1. プラグマティズム 2. 間文化的な「テクノロジーの哲学」
7	「テクノロジーの哲学」 講義⑦	第Ⅲ部 具体的な技術から考える 第7章 情報テクノロジーから哲学、そして情報倫理へ 1. フロリディの情報哲学・情報倫理 2. フェイクニュースとインターネット
8	「テクノロジーの哲学」 講義⑧	第8章 ロボット工学とAIから道徳的地位と人間関係をめぐる考察 1. モラル・マシーン 2. 道徳的被行為者性 3. セックスロボットと人間関係
9	「テクノロジーの哲学」 講義⑨	第9章 遺伝子工学とサイボーグからトランスヒューマニズムとポストヒューマニズム 1. トランスヒューマニズムとヒューマン・エンハンスメント 2. ポストヒューマニズムとサイボーグ
10	「テクノロジーの哲学」 講義⑩	第10章 気候変動とジオエンジニアリングから「自然」への問いと「人新世」の考察 1. 「自然」の問題 2. 人新世——哲学からの応答
11	「テクノロジーの哲学」 講義⑪	第11章 テクノロジーの哲学を超えてテクノロジーを考える 1. ソーシャルメディアと道徳哲学 2. 哲学的人間学 3. 言語の考察とテクノロジーの考察
12	「テクノロジーの哲学」 講義⑫	第12章 テクノロジーの哲学とその他の学問 1. ロボット工学 2. 社会科学 3. 人文科学
13	「テクノロジーの哲学」 講義⑬	第13章 テクノロジーの哲学とアカデミア外の実践 1. イノベーション、政策 2. 芸術 ・「テクノロジーの哲学」研究の未来と教育への応用
14	「テクノロジーの哲学」 講義——総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・必要に応じて配布された資料に基づいて、レジュメを作成する。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

M・クーケルバーク『技術哲学講義』直江清隆・久木田水生監訳、丸善出版、2023

【参考書】

- ① M・クーケルバーク『AIの倫理学』直江清隆他訳、丸善出版、2020年
② M・クーケルバーク『AIの政治哲学』直江清隆他訳、丸善出版、2023年
③ M・クーケルバーク『デジタルテクノロジーと時間の哲学』直江清隆他訳、丸善出版、2024年
④ M・クーケルバーク『ロボット倫理学——ソーシャルロボットから軍事ドローンまで』田畑暁生訳、青土社、2024年

【成績評価の方法と基準】

・期末テスト（70％）、授業内（30％）
※ この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする
※要注意【変更】
リアルタイム・オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・テクノロジーを哲学的に考察するためには、皆さんの頭脳と身体があれば十分です。したがって、授業担当者が

【その他の重要事項】

・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩ですので、考えることを実践してみましょう。
・授業担当者（森村）の他の科目との関連が極めて強いので、他の科目も併せて受講することをお勧めします。

1. 「文化情報学概論」は、科目名からも近いように、「文化情報学」の基礎を学ぶ科目です。そこでは、テクノロジーが情報社会と密接に関わっている点を、〈ヴァーチャル社会〉という観点から哲学的に捉えていきます。
2. 「ところとからだの現象学」では、私たちの「ところ」がどのように、私たちの〈外〉にある〈ヴァーチャル社会〉から影響されているかを哲学的に考えていきます。

3.「現代思想」では、「生まれてこないほうがよかった」という反出生主義を哲学的に考えていきます。そこでは、人工妊娠中絶などテクノロジーが関わる医療問題を取り上げていきます。

4.ILAC科目「倫理学」では、ロボットを使用する際の倫理問題や、テクノロジーによる自動運転の行為者責任などについて、倫理学・道徳哲学からアプローチするための、基礎的な倫理学的思考を学びます。

5.ILAC科目「倫理学L」では、「ケアの倫理学」という観点から、テクノロジー機器による介護・看護の問題から、「ケアする」側は、なぜ「人間」でなければならないのか、また介護ロボットの倫理的問題などについても考察していきます。

【哲学することの姿勢について】

・本授業は、テキストを一文一文読解していく原書講読のスタイルをとる哲学の授業である。

・哲学の鍛錬で最も重要なことは、第一にテキストを正確に読めること、第二に、正確なテキスト理解の上に、自らの解釈を組み立てること、第三に、自らの解釈が何を根拠にしているかを明らかにできること、である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture".

In this class, based on the perspective of "philosophy of technology," we will examine the current situation in which technological progress is drastically changing not only our lives but also the social structure.

In particular, we will focus on the relationship between our society and technology, and philosophically consider how actual technological advances are changing our society and even our consciousness and minds.

【Objective of the class】

This class will therefore focus on Mark Coeckelbargh's (1975-) "Philosophy of Technology" to examine the relationship between technological progress and society, and how technology is involved in issues ranging from our minds and consciousness to morality, ethics, and social institutions. Coeckelbargh is a Belgian philosopher whose work has been published in a series of Japanese translations and is much discussed in Philosophy of Technology.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. to learn how important it is for us to philosophize.

-B. to learn to think philosophically.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

ART300GA (芸術学 / Art studies 300)

パフォーマンスの美学

森村 修

サブタイトル：＜からだ＞＜音＞＜色彩＞—身体表現の可能性

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：パフォーマンス・スタディーズ

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり・選抜試験

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目「パフォーマンスの美学」では、いわゆる「身体表現」だけでなく、思考を表現した作品・対象（=オブジェ, objet）も、何らかの「実演＝パフォーマンス」として捉え、そこに内在する学（aesthetics）を考察することを目的とする。それゆえ、いわゆる芸術表現としての「パフォーマンス・アート」には一般的には属さない「ファイン・アート」や、デザイン、詩などの文藝作品も、何らかの実演された表現として捉え、そこに見出せる「美」や「美意識」について哲学的に考察する。また、いわゆる「前衛芸術」や「実験芸術」など、政治的・イデオロギー的・宗教的な理由などで従来の学校教育では取り上げることがないアート運動や表現活動も「パフォーマンス」として含めて考察する。

2025年度は、ニューヨーク大学シェクナー教授で有名になった「パフォーマンス・スタディーズ（Performance Studies）」に基づいて、日本の前衛芸術家・劇作家の寺山修司（1935-83）の活動を取り上げる。

【授業の意義】

「パフォーマンス・スタディーズ」の手法を用いて、寺山修司の文学作品、映画作品、演劇作品を通じて、彼の思想とその表現を分析する。その際に、「パフォーマンスの美学」という観点から、現代の美意識や美の価値観ではなかなか捉えにくい寺山ワールドのもつ、パフォーマンスの可能性を探ることが、本授業の意義である。

【到達目標】

- (1) 既存の価値観・マスメディアの流す価値観に対する、批判的視点を身につけることができる。
- (2) 自らの価値観を問い直し、新たに刷新するための表現手段を具体的に説明することができる。
- (3) 高校までの芸術教育や制度的なアート認識を新たに問い直し、自らの視点でアートについての鑑賞方法や参加方法について、説明できる。
- (4) アートの領域の内部で生じた、20世紀以降のさまざまな変遷を辿ることで、「前衛芸術」のあり方について、現在のアートのあり方を予測することができる。
- (5) 「パフォーマンス・スタディーズ」の基本について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

寺山修司は前衛演劇集団「天井桟敷」の主宰者として、日本国内だけでなく、海外でも高い評価を受けている。また最近では「国際寺山修司学会」も設立され、寺山の特異で多方面の活動を再考する機会も増えてきた。青森県三沢市には「三沢市寺山修司記念館」も建設され、地域の観光名所にもなっていることも、現在における寺山の重要性の証左となっている。

本講義では、「パフォーマンスの美学」の観点から、寺山の活動を捉え直すと同時に、21世紀初頭という現在の状況の中で、寺山の前衛演劇の思想を再考することで、新しい「アート」概念と表現手段について受講生とともに考えていくことがめざされている。

【授業の方法】

- ①基本的には、授業は「講義形式」で行うが、受講生との積極的な対話や討議を行う。特に文学（俳句・短歌・詩）作品については、教員による解釈を提示しながら、受講生の感想・解釈を積極的に取り入れていく。
- ②代表的な映像作品（実験映像・映画・演劇の記録など）を上映する。そこで、諸作品について、さまざまな解釈をしながら、授業参加者と討議していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・寺山修司の略歴紹介 ・講義の目的と概要についての解説を行う。
2	パフォーマンス・スタディーズの基礎①	・パフォーマンス・スタディーズの歴史について概観する。
3	パフォーマンス・スタディーズの基礎②	・パフォーマンス・スタディーズの概念について概観する。
4	パフォーマンス・スタディーズの応用——寺山修司の演劇的解釈①	・寺山の批評を行う評論家・高取英の演劇作品を上映し、寺山の自伝的背景を検証する。
5	パフォーマンス・スタディーズの応用——寺山修司の演劇的解釈②	・高取英の作品から、前衛演劇の可能性について、説明する。
6	寺山修司の映像作品分析①	・寺山の自伝的作品とも考えられる映画『田園に死す』を上映し、彼の思想の背景について解説する。
7	寺山修司の映像作品分析②	・寺山の『田園に死す』を通じて、同時代の寺山の他の作品との関係について、解説する。
8	寺山修司の映像作品分析③	・『田園に死す』の持つ映像技術や描写の技法を分析し、後の寺山作品との関連性を説明する。
9	寺山修司の映像作品分析④	・寺山の遺作『さらば箱舟』を上映する。そのなかで、寺山の映画作品における表現の変化を分析的に説明する。
10	寺山修司の映像作品分析⑤	・『さらば箱舟』に描かれているさまざまな文化的意匠を分析し、寺山作品の背景と時代性・地域性について考察する。
11	寺山修司の映像作品分析⑥	・『田園に死す』と『さらば箱舟』との時代的变化、表現技法の変化について、比較研究を行う。
12	寺山修司の映像作品分析⑦	・寺山の作品の基調をなす「エロス」の表現について、異色作『上海異人館チャイナドール』を上映し、「エロス」的表現の思想を考察する。
13	寺山修司の映像作品分析⑧	・『上海異人館チャイナドール』における「エロティシズム」と他の「ボルノグラフィ」作品とを比較し、寺山の「エロス」の映像化の試みを検証する。
14	寺山修司の映像作品分析⑨	・泉鏡花原作の翻案である映画『草迷宮』から、いわゆる異色の「寺山ワールド」と呼ばれる演劇空間の創出について、説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 寺山修司の作品を事前に文庫等で読んでおくことが望ましい。彼の作品は容易に文庫本で入手できる。また、『寺山修司著作集』全五巻も刊行されているので、主要著作や作品を読むことができる。さらに、映像作品や映画や演劇作品も、授業で取り上げるもの以外にもいくつかDVDになっている。授業外に、これらの作品を読んだり観賞したりすることで、「寺山ワールド」を体験することが望ましい。

残念ながら、寺山修司が亡くなって30年近く経ってしまい、彼の演劇作品をナマで体験することはできない。演劇はその場で観客として、体験者として体験することによってこそ、演劇特有の感動がある。ただ、彼の作品はさまざまな演出家や劇団によって再解釈され、再演されている。それゆえ、受講生たちも、そうした機会を利用して、前衛演劇を体験してもらいたい。そうすることで、パフォーマンス・スタディーズの実際に体験することで、自らの文化的偏見の打破を目指してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

寺山修司の作品については、教員から資料を配布するので、テキストは特に使用しない。

【参考書】

【寺山修司の概説】

・高取英『寺山修司——過激なる失踪』（平凡社新書、2006年）

・田中未知『寺山修司と生きて』（新書館、2007年）

【成績評価の方法と基準】

【成績評価】

①授業内での積極的な議論参加、発言・質問など（30％）

②期末レポート（70％）

【評価基準】

- ①作品を読んだり、見たりする際に、積極的に自らの意見を表明すること。表現することが、本講義にとって重要な評価基準になっている。
- ②期末レポートは、あくまで「批評（critique）」が求められている。単なる感想・意見では評価できない。「批評文」には、一定の「規準（criterion）」が前提されている必要がある。寺山修司の生き方や作品について「批評文」を書くためには、次の4点が明確に意識されていることが、本科目の「成績の評価基準」になっている。
- （1）寺山作品について、自分自身の「評価規準」が明確であること。
- （2）自らの「評価規準」に照らして、自分の意見・主張が明確に述べられていること
- （3）自分の意見・主張を読み手に説得的に表現できていること
- （4）自分の表現が自分勝手な思い込みによる羅列ではなく、きちんと論理的に組立てられて述べられていること

【学生の意見等からの気づき】

2024年度は授業担当者がサバティカル（国内研究員）だったために、記すことができない。

【学生が準備すべき機器他】

映像作品の上映があるので、各自がPCやタブレットを持参する必要がある。逆に、それらを使用することによって、授業に集中できない可能性もあるため、持参しなくてもいい。

【その他の重要事項】

・本講義がめざしているのは、受講生の美意識や価値観の問い直しである。そこで、参加者全員に、既存の価値観やマスメディアが大量に流す情報に対する批判的な姿勢が求められている。それゆえ、本講義では、自らの価値観を積極的に打ち破る勇気をもつ学生の参加を望む。インターネットやマスメディアに毒された価値観をいったん破壊して、新しい美意識や価値観を構築するきっかけを掴むことが本講義の真の目的である。

・本科目は「表象文化」の科目群に位置づけられているが、本科目が重視する「現前性（presentation）」は「表象（representation）」概念の批判を含んでいることに注意すべきだろう。「現前性」にとって重要なのは、「現場性」「直接性」「現在性」に特化した「パフォーマンス性（performativity）」であり、「いま・ここ」を最大限重視するアート作品に積極的に関与し、参加する態度であることを明記しておきたい。

・「表象文化概論」（特に、森村担当「現代視覚文化論」）も合わせて受講することで、「パフォーマンス・スタディーズ」や「パフォーマンスの美学」という考えが、いわゆる視覚重視の「表象文化」を批判する視座をもつことを確認してもらいたい。

【お知らせ】

・「パフォーマンスの美学」という科目は、授業担当者（森村）の他の科目との関連が強いように思われるかもしれませんが、しかし、実は深いところで、他の科目と関わっているため、他の科目と併せて受講することをお勧めします。

- 1.「文化情報学概論」は、科目名からも近いように、「文化情報学」の基礎を学ぶ科目です。そこでは、テクノロジーが情報社会と密接に関わっている点を、〈ヴァーチャル社会〉という観点から哲学的に捉えていきます。〈ヴァーチャリティ〉と〈リアリティ〉の関係が深く関わっており、身体を媒介する「パフォーマンス」と2Dの世界観がどのように関わるか学ぶことができます。
- 2.「こころとからだの現象学」では、私たちの「こころ」と「からだ」に着目することによって、私たちの〈外〉にある〈ヴァーチャル社会〉と身体とその表現の問題を哲学的に考えていきます。
- 3.「現代思想」では、「生まれてこないほうがよかった」という反出生主義を哲学的に考えていきます。そこでは、誕生や死について身体を含めて取り上げていきます。
- 4.ILAC科目「倫理学」では、身体によるパフォーマンスや言葉によるパフォーマンスが「暴力」として発現する可能性があることを倫理学・道徳哲学からアプローチします。
- 5.ILAC科目「倫理学Ⅱ」では、「ケアの倫理学」という観点から、さまざまなパフォーマンスが「ケア」として倫理的問題を引き起こすことなどについても考察していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline

The purpose of this course, "Aesthetics of Performance," is to consider all forms of expression as a kind of "performance" and to philosophically examine the "beauty" inherent in it. Therefore, by expanding the concept of "performance", not only "physical expression", but also works of art and objects (objet) that express thoughts will be considered as a kind of "performance" or "result of performance".

Therefore, "fine art," design, poetry, and other works of literature and art that do not generally belong to the so-called "performance art" as artistic expressions are also regarded as a kind of performed expression, and the "beauty" and "aesthetics" found in them are philosophically discussed.

In addition, art movements and expressive activities such as the so-called "avant-garde art" and "experimental art", which are not covered in conventional school education for political, ideological, or religious reasons, will also be considered as "performance".

In the 2025 academic year, the activities of the Japanese avant-garde artist and playwright Shuji Terayama (1935-83) will be taken up on the basis of the "performance studies" made famous by Professor Schechner at New York University.

Meaning of the class

Using the method of "Performance Studies," we will analyze Shuji Terayama's thought and its expression through his literary, cinematic, and theatrical works. The significance of this class is to explore the possibilities of performance in Terayama's world from the perspective of the "aesthetics of performance," which is difficult to grasp from the perspective of contemporary aesthetics and values of beauty.

ART400GA（芸術学 / Art studies 400）

サブカルチャー論

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超過した場合は選抜

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブカルチャーは新興の文化流行として、大衆文化や通俗趣味に分類されるが、表現者たちにより洗練が加えられ、いつしかメインカルチャーとなってゆく。文学、美術、音楽、漫画、映画、旅行、衣食文化、政治、科学あらゆるジャンルを横断し、文化流行全般の考察を通じ、コミュニケーション能力の土台にもなる雑多な教養を身につける。とりわけ、技術論に焦点を当て、文化の様態の変容を時代ごとに考察する。

【到達目標】

イデオロギーや哲学の代わりにキャラクターやコピーがものをいう現代、政治も文化も素人が担い手になってゆく風潮を踏まえ、柔軟な批評精神を獲得し、サブカル全般に関する教養の底上げを図ると同時に、先人の斬新な発想の秘密に迫る。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進めるが、質疑応答や議論にも時間を割き、履修者のコメントや発表も取り入れながら、対話的に行いたい。文化流行全般に興味のある学生、「オタク」や「マニア」の参加も歓迎する。豊富な画像、映像をサンプルとして、見せつつ、歴史的な背景を踏まえることで、各ジャンルの未来に対する提言を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	サブカルチャーの定義	概論 モダニズムの定義。テクノロジーとの関わり。モダニズム時代の芸術運動の展開とその検証。
2	複製技術	黎明期の映画と産業としての発展の歴史。複製技術の進化とオーラの消滅
3	贋金作り	交換と消費。価値形態論 貨幣論
4	江戸町人文化	日本のサブカルチャーの原点としての江戸。好色一代男に見る江戸風俗。
5	アマチュアリズム	素人の手習い。趣味とサブカル。日曜画家。若者バカ者よそ者の力。素人の乱。
6	エロ・グロ・ナンセンス	コミックス、ヤクザ、風俗産業の揺籃としての戦後の焼跡闇市。
7	カウンターカルチャー	1960年代のアメリカのカウンターカルチャーの研究。ヒッピー、サイケデリック、ゲイ・レボリューションなど。
8	漫画史	漫画独特の表現について。コミック進化論、多様性獲得に向けて。
9	徘徊・巡礼・観光	遊歩の思想。物見遊山の哲学。もてなしの文化。接待の流儀。テーマパークとしての都市、京都、ヴェネチア。
10	都市空間と仮想空間	住まいの変容。空間論。パラレルワールド。生息域（ニッチ）研究。
11	食文化の多様性	グルメという思想。越境する胃袋。
12	科学と迷信	マッドサイエンス。自然科学のサブカル化。スピリチュアル。文化流行。都市伝説。不老不死。AI。
13	メディアと政治	ポピュリズム 政党政治、代表制のゆくえ。デマ、陰謀説。ナショナリズム まとめと全テーマに基づく質疑応答
14	授業内試験	学習支援システムを使った選択式試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での議論に参加すべく、質問を用意したり、得意分野での鑑賞を個人的に熱心に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教室で指示する。

【参考書】

教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間に予告して、筆記試験を行うが、議論への積極的参加も評価される。評価基準は平常点20%、選択式試験の結果80%とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答、議論への積極的参加を促す。

【Outline (in English)】

Subculture is classified as popular culture and popular hobby as an emerging culture epidemic, but it becomes somewhat mainstream culture as sophistication is added by expressers. Crossing all genres across literature, art, music, cartoons, movies, travel, fashion and food culture, politics, and science, we acquire miscellaneous culture that will also serve as the foundation of communication skills through consideration of cultural epidemics in general. Especially focusing on technology theory, we consider the transformation of the form of culture by the age. The goals of this course are to acquire new awareness of subcultures, comprehensive understanding of subculture genres, and knowledge of historical background. A written test will be given but active participation in the discussion will also be appreciated. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting. The evaluation criteria are 20% for normal points and 80% for multiple-choice test. Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

現代美術論

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術の分野（美術、建築、音楽、パフォーマンスアート、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。この講義では、現代美術の多様性に焦点を当て、理論と実践の両面から探求します。現代美術のコンテキストを社会学、人類学や科学など他の領域かと対比しながら分析し、その中で多文化主義・関係性・コミュニケーションなどのテーマを読み解いていきます。こうしたアプローチを通じて、現代美術がどのように社会的、文化的な変化と相互作用しているかを深く理解するための基盤について学びます。学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】

講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイデアについての理解を深めます。みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義映像や資料などの授業コンテンツを Google sites 全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. Google Classroom に授業に関連した小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくで回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業計画について	講義内容について 授業の進め方と方法について 評価方法と基準
第2回	メディアとアート 絵画・彫刻・ドローイング・写真・映像・インスタレーション	美術における様々な技法やメディアの探究について、その発展と変遷を詳細に考察します。この授業ではメディアの歴史の変遷と共に、アバンギャルドの時代から現代までの現代美術について学んでいきます。美術の歴史的なコンテキストの中で、異なる技法やメディアがどのように位置付けられ、進化してきたのかについて、探究していきます。
第3回	20世紀の美術 未来派・ダダ、シュルレアリスム、アクション、ハプニング、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリスムについて学びます。第二次世界大戦で壊滅的なダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。60年代以降には、概念的なアートや、ハプニング、ランドアートのような従来の絵画や彫刻にとらわれない表現様式が多く登場します。これらの表現は、芸術の領域に現代的な多様性をもたらしました。
第4回	21世紀の美術 新表現主義、YBA、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート	1980年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメント、「新表現主義」について学びます。新表現主義は、表現主義的なスタイルを追求し、絵画における感情的な表現と物質的な豊かさを再評価しました。また、ミレニアム前夜には、イギリスやフランスを中心に、二つの重要な芸術運動が登場しました。「ヤング・ブリティッシュ・アーティスト（YBA）」と呼ばれる運動で、若手アーティストの作品が国際的な注目を集めました。「リレーショナル・アート」は観客との関係性や環境との対話を重視することで、芸術の社会的な役割を再考しました。2010年代には「ソーシャリー・エンゲージド・アート」と「ソーシャル・プラクティス」という、社会的な関与をテーマにした芸術運動が注目を集めています。これらは芸術を社会問題に関与させ、社会的な変化を促すことに焦点を当てています。
第5回	ワークショップ1 単元のまとめ・ワークショップ	メディアとアート、20世紀の美術、21世紀の美術の講義内容の確認をします。

第6回	現代アートとパフォーマンス1 パフォーマンス・アートの始まり／アクション、ハプニング、インスタレーション	パフォーマンス・アートは身体を用いて時間的な経過と共に行われる表現行為です。1960年代にアラン・カブローが「ハプニング」、また前衛音楽家のジョン・ケージは「イベント」という言葉を使って芸術の常識を破ろうとしました。70年代からは主にパフォーマンスアートと呼ばれるようになります。ソーシャリー・エンゲージド・アートのような社会に対する直接的なアプローチのみならず、どのような時代の芸術作品もその作品が作られた社会と深く結びついています。各時代の社会と関わるアートに関する事例について学んでいきます。
第7回	現代アートとパフォーマンス2 社会と関わるアート／ビデオパフォーマンス、エンデュランスアート、テクノロジーとパフォーマンス、芸術と社会、委託されたパフォーマンス	パフォーマンス・アーツは視覚芸術であるファインアーツに対して演劇やダンスなどの舞台芸術、行為・アクションによって成立する芸術という意味で使われています。バレエに始まる近代ダンスの変遷、また現代演劇についても触れます。
第8回	身体とパフォーマンス パフォーマンス・アーツ、バレエ、モダンバレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンス、舞踏	シェンベルクに始まり、ミュージック・コンクレート、ジョン・ケージの偶然性の音楽、ミニマルミュージックを経て現代に至る現代音楽の流れを美術の世界と比較しながら学んでいきます。
第9回	音とパフォーマンス 現代音楽 ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック	シュルレアリスムやコンセプチュアルアートなどのテキストによる美術表現や言葉を使ったパフォーマンスアートと、ポエトリーリーディング/スポークンワードなどの現代詩の世界を比較します。
第10回	言葉とパフォーマンス ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ・ミュージック	現代美術とパフォーマンス1、現代美術とパフォーマンス2、身体とパフォーマンス、音とパフォーマンス、言葉とパフォーマンスの講義内容の確認をします。
第11回	ワークショップ2 単元のまとめ・ワークショップ	ワークショップ・パフォーマンス
第12回	アートのある場所 美術館、国際展、アーティスト・イン・レジデンス、アート（アーティスト）・コレクティブ、オルタナティブスペース	アートの生まれる場所について、美術館・国際展のような公的な場所、そしてアーティスト・イン・レジデンス、アーティスト・コレクティブやオルタナティブスペースなどの場所とそれに関わる人々について学びます。
第13回	批評/キュレーション 批評、モダンアートとコンテンポラリーアート、キュレーション	キュレーターは学術的な専門知識によって美術資料の収集や保管、展覧会の企画や構成、運営などを担当します。また、作品の理解や価値判断に関する美術批評のあり方について学びます。
第14回	ワークショップ3 単元のまとめ・ワークショップ	美術館のある場所、批評/キュレーションの授業内容の確認をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sites で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sites を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年

デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020

小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018年

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年

『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年

『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をお願いいたします。

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

This course is about contemporary art theory and practice.

Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.

The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.

Learning Objectives

The lecture will also deal with art fields related to contemporary art, and by examining and taking a bird's-eye view of experimental approaches in various art fields, we will deepen our understanding of those ideas.

It seems unfamiliar to everyone, so check the introductory art history and art theory knowledge. In addition, we will hold workshops (learning sensuously and experientially) between lectures to deepen understanding.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

マルチメディア表現法

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数制限あり（15名）。希望者多数の場合は選抜します。初回授業に出席すること。

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習です。わかりやすく統合的に提示する手法を少人数ワークショップで学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について学ぶ。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Webマルチメディア、DTPなどの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品やDTP作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作する。

【到達目標】

写真表現、ポスター作り、DTP、レーザー加工、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

少人数での演習設備を備えた教室においてワークショップ形式で講義と実習を行う。

●作品制作の理論と技法（講義と実習）

- ・デザインの基礎
- ・ポスター作り（Photoshop・Web）
- ・多様な出力形態（大判ポスター、アクリル板彫刻）
- ・写真技法：ライティング、構図、光の読み方
- ・写真表現の作品化（アルバム・Web・アクリルパネル）
- ・映像制作技法：Jingle、絵コンテ、ショートフィルム

●クリティーク

各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

- ・ポスター作り（Photoshop＋大判プリンタ・Web）
- ・レーザーカッターによるアクリル板彫刻
- ・写真表現の作品化（アルバム・Web）
- ・Jingle（短い15秒程度のCM的映像）
- ・最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。

●大事にしたいこと

- ・コンピュータ上でのメディアデータの特性とtangibleなモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。
- ・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込めない世界」があることがわかる。
- ・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAPの原則を学ぶ。 【写真課題：line、pattern、texture】
2	メディアコンテンツのデザイン	マルチメディアデータの性質を理解する。 クリティーク：line、pattern、texture 各自の写真作品を合評する。 【写真課題：モノクロ、ライティング】

3	コミュニケーションデザインの手法－視覚・サウンド 実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。 クリティーク：モノクロ、ライティング 【写真課題：人物ポートレート、ライティング】
4	コミュニケーションデザインの手法－Web	Webの特性とデザインについて理解する。 【写真課題（承前）：人物ポートレート、ライティング】
5	情報デザインとコンテンツ制作－パッケージメディア	パッケージメディア（CD、DVDなど）の構成法を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 実習：Premiereによる短いビデオ 【課題：Premiere オンライン教材の学習】 【学期末課題：ショートムービー】
6	情報デザインとコンテンツ制作－サイバースペース	情報デザインの基本原則を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 実習：Preziによるオンライン・プレゼンテーション 【課題：Web 写真アルバム】
7	タイポグラフィの基礎	タイポグラフィの基礎を学ぶ。 クリティーク：各自のWebポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。 【課題：紙の写真アルバム】
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。 クリティーク：Web アルバム 【課題：ポスターのデザイン】 【学期末課題：企画書・絵コンテ提出】
9	多様な出力形態 (1): DTP	印刷についての知識を学、DTP作業のワークフローを理解する。 クリティーク：ポスター 【課題：広告のデザイン】
10	モノづくりとマルチメディア	Makerムーブメントを題材とするモノづくりとマルチメディアの関係を学ぶ。 クリティーク：広告 【学期末課題：予告編ジングル仮提出】
11	多様な出力形態 (2): レーザー加工	レーザー加工機による 【実習】 簡単な版下の作成とレーザーカッターによるアクリル板加工 【課題】 アクリル板切り出しと表面彫刻のためのレーザーカッター版下の作成
12	コンテンツプラットフォームとしてのインターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。 【実習】 各自デザインによるアクリル板のレーザー加工
13	コンテンツの流通、管理、知的所有権とメディア表現	コンテンツの流通、管理の仕組みとクリエイティブ・コモンズの考え方を学び、オンラインメディアの知的所有権の扱いを理解する。
14	まとめ：学期末課題のクリティーク	学習内容を総括する。各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力やWeb上での公開を求めており、単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するにはDTPやWeb制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展の開催を目指す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

【マルチメディア全般】

参考書 (1) CG-ARTS協会、「第三版 入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8

参考書 (2) CG-ARTS協会、「実践マルチメディア」、ISBN 978-4-903474-44-1

※上記2冊は資格取得を目指す人にも最適の参考書である。

【デザイン技法】

Robin Williams (著), 吉川 典秀 (翻訳)、「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ (1998)、ISBN-13: 978-4895630078

【写真技法】

キット タケナガ (著) 東京写真学園 (監修)、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社 (2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3

【ショートムービー制作】

ヒルマン・カーティス、「ウェブ時代のショート・ムービー」、フィルムアート社 (2006)、ISBN:978-4845906956

【DTP、印刷】

松田 哲夫 (著)、内澤 旬子 (イラスト)、「印刷に恋して」、晶文社 (2002)、ISBN: 978-4794965011

【オンライン・プレゼンテーション】

吉藤 智広 (著)、「あなたのプレゼンが劇的に変わる！ Prezi デザインブック」、日経BP (2018)、ISBN-13: 978-4822254520

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加の積極性を含む、30%)、クリティークなど授業参加による平常点(20%)、中間課題(30%)ならびに最終課題(20%)を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

2011年度までは3～4年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を採り入れ、また教学上の配慮も含め、2012年度より2年次より履修可能とした。2017年度は他学部生が参加したことで作品制作も合評もこれまで以上に刺激的な学びとなった。作品制作のテクニックの重要性のみならず作品性の追求や批評のための言語化の作業の重要性を気づいてもらえるよう努める。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

本科目は国際文化学部・情報セミナー室 (BT#0704) にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PCを必要とする。長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびにePortfolioに提出作品を保存公開する。

【その他の重要事項】

学生へのメッセージ：Premiere、Photoshopなどを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PCやソフトの操作を教える授業ではないので、作品作りを通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため20名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、高度なICTの活用実習、ならびに作品制作を通じて本科目では学生の就業力育成を支援します。受講希望者は初回授業に出席すること。少人数ワークショップなので受講希望者が受入可能な上限人数を超える場合には抽選を実施することがある。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目(「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」)
Photoshopの応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。写真の技法については、本科目にて扱う。
関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

【教員の実務経験】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course is a multimedia workshop for any advanced students with creative minds. The class is typically organized for 10-15 students so that everyone can work comfortably on weekly or biweekly assignments as well as on mutual critique starting from fundamentals in photography, large-format poster design, advertisement flyer design, laser engraving, web portfolio, to short film movie. All the creative efforts should eventually take the forms of individual artist portfolios to be presented at the public end-of-semester exhibition on campus.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Critique: 20%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 20%

You must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

ART300GA (芸術学 / Art studies 300)

クリエイティブ・ライティング

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：メディア表現ワークショップ2

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

書くことと読むことは表裏一体だが、書く技術の研究を通じ、読み巧者になる手もある。実例を挙げつつ、実作者の立場から小説、エッセイ等の書き方ABCを伝授する。メールから企画書、報告書、論文、創作、これら全ては特定のセオリーに基づいているので、これらを踏まえつつ、説得力や感動を与える手法に触れ、実作を通じて、文章表現の向上を図る。

【到達目標】

半期の授業を通じ、受講生は表現意欲や批評意識を刺激されるだろう。自己を語るコトバ、他者とのコミュニケーション能力を磨き上げるには、創作を実践することがショートカットになる。創作のエクササイズを重ねれば、説得力のある企画書の書き方、他者の関心を誘うプレゼンテーションの仕方も自ずと身につけられる。学生はそのスキルの獲得を目指し、課題をこなすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式を取るが、折々の課題に対する講評を交え、履修者との対話形式も随時とる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	執筆のエンジン	人はなぜ書かずにはいられないのか？
2	日記の書き方	日常の研究
3	物語の構成	起承転結のマジック
4	キャラクター作り	無個性 奇怪な普通人、気弱な英雄
5	メント・モリ	死のデザイン 人はいかに死を受け入れ、解釈してきたか？
6	旅と文学	ロード・ノベル 放蕩息子の帰還
7	時間の処理	文学における独自の時間軸について
8	語り手は誰か？	私、吾輩、彼、伯爵夫人？
9	お金の話	信用制度、借金、フィクションとしての通貨
10	メタファーの戦略	模倣、置換、象徴、スイートハート
11	小説のトポロジー	現代小説の8割は東京が舞台
12	恋するものの普遍性	求愛のもっとも洗練された手段としての詩
13	素材の考察	想像力の源泉としてのマテリアル
14	まとめ、質疑応答、レポート提出	学んだことの集大成としての創作の完成指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時、テーマに沿った短文を書き、その講評を受ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『小説作法ABC』 島田雅彦 新潮選書2009

『小説作法XYZ』 島田雅彦 新潮選書 2022

【参考書】

『深読み日本文学』 島田雅彦 集英社インターナショナル新書2018

【成績評価の方法と基準】

折々のレポートと期末の創作70%、平常点30%この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップにふさわしい実践的指導に呼応する履修者の積極参加。より活発な対話を心がける。

【Outline (in English)】

Writing and reading are inseparable, but there are also people who become good readers through training of writing skills. Touching several examples, Students can acquire the ABC of how to write novels, essays etc, from the real author's standpoint. Based on a specific theory which is common to all of the projects, reports, papers, creative writings and e-mails, we will touch on effective methods that give persuasive power and sympathy, and improve the expression of sentences through actual work. The goals of this course are to learn the basic theory of creation, the mechanism of speech, how to approach various themes of creation, etc. Evaluate active participation in the workshop and each report submission. The evaluation criteria are 20% for normal points and 80% for reports. Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

ART300GA (芸術学 / Art studies 300)

五感共生論

川村 たつる

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：定員35名 定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚という人間の五感の機能と役割を見ていきながら、それらが相互にどのように関係をしているのかを考察し、人は世界をどのように認識しているのかを学んでいきます。

【到達目標】

受講者それぞれが、講義と課題制作を通して、自身の感覚を再認識できることを目指している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■人数制限・選抜

本授業は、受講者により提出された課題の発表を授業内で行う関係上、定員を35名とします。

※定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講を希望される方は、必ず初回授業に出席してください。

■授業の進め方

①授業は、対面の講義形式で行います。

②課題は、「視覚」「聴覚」「触覚」を中心に、それぞれの感覚にかかわる講義や簡単な実験等を通して、受講生各自がその感覚の再確認を行い、用意されたテーマで課題制作を行い、発表をするという流れで行います。
 ※課題は、身近な材料を使った簡単な工作のようなものをイメージしてください。

※課題制作に関しては、表現技術の出来・不出来を評価するものではなく、設定されたテーマをどのように理解し、考え、表現しようとしたのかに重点を置いて評価します。

③授業ごとに授業内容に関する授業リアクションの提出を必須とします。
 ※提出されたリアクションは、全員分の内容を提出者の名前を外して配布し、受講者全員で共有できるようにします。

※オンライン受講、オンデマンド受講について

本授業は対面を基本としていますが、特別な事情で対面で授業が受けられない場合は、オンライン受講、もしくは授業録画を視聴するオンデマンド受講が可能です。

オンライン受講、オンデマンド受講を希望される場合は、必ず事務に相談の上、必要書類を提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	感覚の特性
第2回	視覚1	視覚とは？
第3回	視覚2	視覚に関する事例から考察する
第4回	視覚3	「みる・みえる」を考える
第5回	作品発表会1	課題1で提出された作品の発表と意見交換
第6回	聴覚1	聴覚とは？
第7回	聴覚2	聴覚に関する事例から考察する
第8回	聴覚3	「きく・きこえる」を考える
第9回	作品発表会2	課題2で提出された作品の発表と意見交換
第10回	触覚1	触覚に関する事例から考察する

第11回	触覚2	「さわる・ふれる・ふれている」を考える
第12回	作品発表会3	課題3で提出された作品の発表と意見交換
第13回	嗅覚	嗅覚に関する事例から考察する
第14回	味覚	味覚に関する事例から考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業リアクションの提出は、授業内容を振り返り、授業後に授業支援システムで提出を行うこととします。

●課題は、各自が授業外で行うこととします。

●本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

※上記以外に準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

『錯覚の世界』ジャック・ニニオ著（新曜社/2004年）、『顔を科学する』山口直美・柿本隆介編（東京大学出版会/2013年）、『聴覚心理学概論』B.C.J. ムーア著（誠信書房/1994年）、『触覚の世界：実験現象学の地平』ゲーヴィット・カッツ著（新曜社/2003年）、『神経心理学コレクション：タッチ』岩村吉晃著（医学書院/2001年）、『体と手がつくる知覚世界』東山篤規著（勁草書房/2012年）、『味臭覚の科学』斉藤幸子・小早川達著（朝倉書店/2018年）、『「おいしさ」の錯覚』チャールズ・スペンス著（角川垂書店/2018年）等

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、出席率と各授業毎に提出される「授業内容に対するリアクション」から、授業の理解度を平常点として評価（70%）。

また、課題に対して受講者自身がどのようにアプローチができたかを評価（30%）。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

※成績評価を行うためには、すべての課題提出を必須とします。

【学生の意見等からの気づき】

新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で再考察できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

視覚障害者が関わるNPO法人で実務経験のある教員が、その経験から感覚について講義を行う。

【Outline (in English)】

The course will consider how people perceive things/things by examining the interrelationships among the five senses.

The goal of the class is to enable each participant to reacquire himself/herself with his/her own senses.

As learning outside of class hours, reactions to the class content will be submitted online after class.

Each student is expected to watch the video materials and complete assignments outside of class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on 70%regular marks and 30%assignments.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

映像文化論

岡村 民夫

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：定員60名。それを超えたら選抜

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高畑勲・宮崎駿の作品を、欧米や日本のアニメ映画と比較しながら、主に彼らの作品のスタイルや映画史・アニメーション史上の位置を学習します。

【到達目標】

1950年代～1990年代前半の日本のアニメの映画的・アニメ的特徴や制作体制について学び、現代のアニメ状況がどのように生まれたのかを知ることができます。またアニメや映画のスタイルを分析できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達します。

毎週、アニメの制作体制、表現技術、スタッフ、制作体制などについての講義と、実作の抜粋の鑑賞を行います。そして鑑賞した映画について気づいたことを、学習支援システムを通じて書いてもらいます。それらのフィードバックは授業およびhoppiiを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび選抜	授業の内容、進め方について説明後、アニメを15分ほど鑑賞してもらい映像的分析を提出し、それをもとに受講資格者を選抜する。
第2回	古典的アニメーション映画と高畑勲の初監督映画の差異	『ピノキオ』『雪の女王』『太陽の王子ホルスの大冒険』
第3回	日常生活と心象の表現 海外ロケーション	『アルプスの少女ハイジ』『赤毛のアン』
第4回	宮崎駿の独立	『未来少年コナン』『ルパン三世 カリオストロの城』
第5回	高畑勲・宮崎駿に影響を与えた外国のアニメーションと実写映画	『王と鳥』『市民ケーン』
第6回	高畑勲・宮崎駿の日本回帰	『じゃりン子チエ』『さらば愛しきルパンよ』
第7回	スタジオジブリの誕生	『風の谷のナウシカ』『天空の城ラピュタ』
第8回	東京西郊外	『となりのトトロ』『平成狸合戦ぽんぽこ』
第9回	聖地巡礼とロケハンアニメ	『耳をすませば』『パトレイバー the Movie』
第10回	メタモルフォーゼ	『崖の上のポニョ』『ハウルの動く城』

第11回	戦争・災害の表現	『火垂るの墓』『風立ちぬ』
第12回	高畑勲の影響	『マイマイ新子と千年の魔法』『この世界の片隅に』
第13回	宮崎駿の影響	『時をかける少女』『天気の子』
第14回	まとめ	レポート提出 レポートについての総評 補習：その他関連作品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
授業で部分的に観た映画を、できるかぎり自主的に鑑賞することを望みます。

【テキスト（教科書）】

随時、プリントを配布します。

【参考書】

高畑勲『映画を作りながら考えたこと』岩波文庫
宮崎駿『出発点』徳間書店
叶精二『宮崎駿全書』フィルムアート社
ステファヌ・ルルー（岡村訳）『シネアスト宮崎駿 奇異なもののボエジー』みすず書房
ステファヌ・ルルー（岡村訳）『シネアスト高畑勲 アニメの現代性』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）とレポート（50％）。
平常点は出席だけでなく、コメントを通して評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。
なおコメントシートのフィードバックは、授業支援システムや授業を通じて行います。

【学生の意見等からの気づき】

授業時に積極的に意見を求める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

初回に選抜テストを実施するので、必ず出席し試験を受けること。
講義の重点は映像の形式面にある。

【旧科目との重複履修】

なし。

【Outline (in English)】

In this class, we study Isao Takahata and Hayao Miyazaki's work, through their style and their position in the history of animation and movie.

【Learning Objectives】At the end of course, students are expected to understand the history and style of the Japanese animation from the 50's to 90's.

【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】Term-end report : 50%, in class contribution: 50%

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

写真論

丹羽 晴美

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、デジタルが主体となった写真について19世紀中頃の発明前後の歴史的背景から見直し、人間の知覚を拡張したメディアとして検証する。具体的に作品や作家論にも触れ、写真表現の可能性を考察すると共に、あたりまえになっている「見る」という行為を再考する。

【到達目標】

写真について、メディアと技術の両側面から基礎的な論点を把握し、歴史や他分野との関係について考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

主にプロジェクションによる講義を実施。19世紀から現在まで、発達する写真メディアと他分野へ与えた影響などを個々の状況をみながら考える。実際に展覧会を予習・鑑賞して、レポートを提出する回も設ける。課題に対するフィードバックは講義内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	写真というメディア：写真メディアを見直す	今、あまりにも身近になっている「写真」というメディアを再考する。
第2回	写真誕生前夜：19世紀の状況を見直す	様々なメディアが発明された19世紀を再考し、写真が発明される前の知覚を考える。
第3回	写真誕生：写真発明によって何が変わったか	19世紀半ば、写真発明に伴い何が起り、社会状況にどのような影響があったかを考察する。
第4回	作家論1：現在と異なる写真技法を使った作家について	19世紀半ば、当時の最先端メディアを使った作品、作家は何を工夫し、何を獲得したか。
第5回	写真メディア史1：写真発達史とその背景	写真の発展に伴い、情報伝達にどのような影響があったか。
第6回	写真メディア史2：写真技術史とその影響	写真技術が発達するとは、社会的にどのようなことなのか。現代への影響も考える。
第7回	写真と絵画：表現としての写真	写真の登場は美術史に多大な影響を与えた。その様子写真表現を考察する。
第8回	作家論2：写真独自の表現とは何か	表現として独立した写真は何を目指したか、具体的な作品を観て考える。
第9回	ドキュメンタリー1：ドキュメンタリーの中で果たした役割	写真の大きな特性である記録性は歴史の中で大きな役割を果たした。その変遷の考察。
第10回	ドキュメンタリー2：ドキュメンタリー写真の反省点と可能性	撮る者と観る者の意識によっては、写真は功罪となる。その反省点と今後の可能性。
第11回	作家論3：記録と表現の狭間	記録することと、自分の意思を表すことの狭間で作家達が何を表現しているかを考察。
第12回	現代の写真：写真でしかできない表現を目指す現代の写真	写真の特性を生かした様々な表現は、時に特異に見える。その中に隠された意図とは何か。
第13回	見えないもの：『見えるものと見えないもの』	メルロ＝ポンティの視覚論を引用しながら、写真がもたらした知覚を考察。
第14回	写真がもたらした知覚	全講義のまとめ。写真論、作家論、作品論などから様々な視覚効果を考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「作家論」講義には、実際に展覧会を観てレポートをまとめる回が含まれている。講義内に課題展覧会の予習を行い、レポート提出までは約2～3週間の猶予を設ける。「作家論」講義時期は現時点での予定。詳細は講義内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義内に指示

【成績評価の方法と基準】

レポート提出2割、期末試験8割この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実際に行われている展覧会やイベントなどの情報照会が好評であったため、積極的に講義内で紹介していく予定。

【その他の重要事項】

講義の進行状況により、内容変更あり。

【Outline (in English)】

This course studies how photography widened human perception while rethinking the history of development of the media from the mid-19th century. As we see various photographic works, we examine the way of seeing.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）		
映像と文学		
林 志津江		
配当年次／単位：3～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
大好きな小説やマンガが映画化・ドラマ化されたので、観てみたら「納得いかない！私の知ってるアレとは全然違うんですけど！」と感じた経験はありますか。この授業では「映像化された文学作品」を例に、文学作品（文字テキスト）から映画（映像）へというメディア・ジャンル変換の過程を分析しながら、芸術とメディアの関わりや、文学と映画のそれぞれが表現しうるものについて、自ら考えを深めていきます。あなたのガッカリした気持ち、あるいは「まあまあ期待以上」という気持ちの正体に、いつもとは違う視点から迫ってみませんか。		
【到達目標】		
・さまざまな文学作品や映画に触れることで、文学と映画それぞれの形式的特徴や両者の関連、差異について理解を深めること。		
・「映画制作において参照された原典がある」現象の分析を通じ、受容美学やアダプテーションの理論の基本を学ぶこと。この点は読む人、観る人としての自分を反省的に捉える訓練にもなります。		
・美的な形式（表象文化）の分析を通じ、古典的なメディア論のテーゼの真意を理解すること。		
・「オリジナリティー」「模倣」「引用」「暗示」などの基本的な美学概念に触れ、芸術の社会的構築物としての側面を理解し、批判的思考の術を磨くこと。		
・この授業の経験を、どんな分野であれ自分のゼミでの勉強や卒論執筆、その他のさまざまな場面に役立てられる自分になること。		
その上でこの授業が、皆さんのお気に入りの一作品が見つかる機会になれば嬉しく思います。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。		
【授業の進め方と方法】		
・授業形式として、初回（授業第1回目）のみ対面授業、2～14回目はオンデマンド型オンライン授業で実施します。		
・授業ごと、文学作品とその映像化（映画）、あるいは文学作品とそれに触発されて作られた翻案映画作品のいくつかの組み合わせを扱います。それぞれ特徴的な箇所・シーンを取り上げ、対照的に検討する作業を繰り返し行いながら、必要に応じて重要な理論・概念を参照し、文学・映像作品のそれぞれの形式や読み取れるものについて考察します。		
・毎授業後に、所定の課題に関する小レポート（日本語）を書いて提出します。		
・LMSとして、lms2025 および Google Classroom を使用します（予定）。		
・提出物のフィードバックは、適宜全体に向けて行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	メディアと技術革新が可能にしたもの、文学（物語テキスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入
2	J. K. ローリング／C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説1995年、映画2001年）	ファンタジー小説V.S.映像テクノロジー、「空を飛ぶ人／魔法使い」の描写
3	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説1967年、映画1983年）その1	時間芸術と「タイムトラベル」、身体感覚の記憶の表現、人物と背景を構成するためのメディア（1）
4	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説1967年、映画1983年）その2	学校という大切なもの、「ラブシーン」の成立条件、科学と私たちの未来
5	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説2006年、映画2009年）その1	「ステレオタイプ」の使い方、青春群像劇と教養小説（Bildungsroman）というエンターテインメント
6	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説2006年、映画2009年）その2	友情と恋愛と学校の関係、コンピュータゲームは世界と私たちの視覚／知覚をどう変えたのか
7	S. フィッツジェラルド／J. クレイトン『グレート・ギャツビー』（小説1925年、映画1974年）その1	キラキラコンテンツとしての「悩める若者たち」、人物と背景を構成するためのメディア（2）
8	S. フィッツジェラルド／B. ラーマン『グレート・ギャツビー』（小説1925年、映画2013年）その2	「時代を超えた真実」V.S.「現代風にアレンジ」、作品解釈の歴史が映画化に与える影響
9	堀辰雄『風立ちぬ』（1937年）『菜穂子』（1941年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013年）その1	「私の想像した自然」を描く、人物と背景を構成するためのメディア（3）
10	堀辰雄『風立ちぬ』（1937年）『菜穂子』（1941年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013年）その2	「ない」ものをどうやって視覚で表現するか、個人の運命と戦争に翻弄される人間
11	L.v.d. ポスト『獄の影にて』／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説1954/1968年、映画1983年）その1	「私」の記憶と真実の複数性、「西洋V.S.東洋」という二項対立
12	L.v.d. ポスト『獄の影にて』／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説1954/1968年、映画1983年）その2	「もう一人の私」を受け止める、敵/他者を理解したいと思う気持ちの正体
13	W. ヘルンドルフ／F. アキン『14歳、僕らの疾走／50年後のボクたちは』（小説2010年、映画2016年）その1	ミレニアル世代のリアリティ、人物と背景を構成するためのメディア（4）
14	W. ヘルンドルフ／F. アキン『14歳、僕らの疾走／50年後のボクたちは』（小説2010年、映画2016年）その2	ロードムービーの快感、読者・観者に「語りかける」物語
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
・授業で扱う文学作品、映像作品をあらかじめ視聴し、授業資料をダウンロードしてください。		

・授業資料を手元に置いた状態で、オンデマンド型授業（動画）を視聴してください。
・毎授業終了後、小レポートを作成し提出します。形式は初回授業に周知します。

【テキスト（教科書）】

・授業ごと、担当者から授業資料（1点）と授業動画を配布します。
・授業で扱う文学作品（2～10回授業）のテキスト、映像作品の映像ソフト（民間各社ビデオレンタル／ストリーミングサービスへのアクセス）は、ご自分で用意していただきます。
・映像作品のうち、9、10回授業作品は国内各社ストリーミングにて未抜により、授業開催時限（木3限）に授業教室で視聴できるようにする予定です。

【参考書】

・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995年/1996年所収）
・M・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987年
・F・キットラー（石光泰夫・石光輝子訳）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房）1999年
・J・ヘーリッシュ（川島建太郎・津崎正行・林志津江訳）『メディアの歴史 — ビッグバンからインターネットまで』（法政大学出版局）2017年
・A・バザン（野崎敏ほか訳）『映画とは何か（上）（下）』（岩波文庫）2015年
・R・バルト（蓮實重彦ほか訳）『映像の修辞学』（ちくま学芸文庫）2005年
・蓮實重彦『映画 誘惑のエクリチュール』（ちくま学芸文庫）1990年
・杉野健太郎編著『[映画学叢書] 映画のなかの社会／社会のなかの映画』（ミネルヴァ書房）2011年
・杉野健太郎編著『[映画学叢書] 交錯する映画 — アニメ・映画・文学』（ミネルヴァ書房）2013年
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

・毎授業提出する課題（「小レポート」／平常点）合計100%を成績評価の対象とします。
以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

・詳細は授業支援システム上で、秋学期開始前に周知します。
・オンデマンド型オンライン授業で、かつ映画作品を複数扱うので、履修には安定的なインターネット通信環境とPCの準備が不可欠です。また授業で扱う日本語文学作品・翻訳5点（全て文庫で刊行）と映画ソフト8点（レンタルで可／映像サブスクリプションサービスの使用／レンタル）を各自でご準備いただきます。
（以上の条件のクリアが難しい方は履修前に担当者にご相談ください。）

【その他の重要事項】

・扱う作品と上記の順序は変更されることがあります。
・理由なく提出期限（目安は初回授業時に提示）を大幅に過ぎた授業課題や、所定のルート以外の方法で送信されている課題は、原則として受理しません。欠席の代替措置（未提出課題の埋め合わせ）等も特に用意しません。
・部活動の公欠届や、就職活動を理由にした欠席届等の類の提出や通知は不要です。
・第1回目の授業は「対面」で実施予定です。詳細は全てすべて学期開始前（第1回目授業より前）に授業支援システムで通知します。
・授業の進め方や課題に関する詳細は、第1回目の授業で説明します。質問や疑問のある方はできるだけ第1回目の授業に参加してください。

【Outline (in English)】

Why are we sometimes disappointed in movies that are made from literature or would feel disappointed about film adaptation or film as derivative work? This course introduces the fundamentals of reception theory/reader response literary theory as well as the very basis of film studies. It includes theories of derivative work as a film-making concept. For that purposes, the course deals with several combinations of literary works and its filming examples that are made from original literary works.

【Learning Objectives】

・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
・To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above, especially about literature, films and its adaptation.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
・There are prescribed review tasks.

【Grading criteria】

The course will be judged on 100%of ordinary marks (submitted assignments /report) as a result of active participation. On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60%of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

演劇論

竹内 晶子

配当年次／単位：3～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミュージカルも、テレビドラマも、映画も、オペラも、人形劇も、能も、歌舞伎も、宝塚も、演劇の一つです。音楽・美術・文学・舞踏を含む総合メディアである演劇は、古今東西の人間達の娯楽の中心に常にありました。
この授業では日本の古典演劇と近代西洋演劇との比較を軸に、演劇を構成する様々な要素、演劇を取り巻く様々な問題について考察します。その中で世界の演劇の多様なあり方や、基本的な演劇理論の応用を学ぶことにもなるでしょう。「なぜ我々／自分は演劇を見るのか」。様々な切り口から演劇を分析しながら、学生の一人一人がこの問への答えを探っていくことになります。

【到達目標】
・近代西洋演劇と対比した、日本古典演劇の特徴を理解する。
・基本的な演劇理論を理解し、実作品の分析に応用できるようになる。
・時代や文化、ジャンルを異にする多様な演劇作品の比較分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
(a)様々な演劇形態の説明、(b)基本的演劇理論の解説、(c)台本読解やDVD鑑賞とその分析、を交互に行っていきます。自分の頭で分析しながら観る・読む・聞く態度が、受講者には求められますので、毎週の課題(SQ)を期日までに提出することが必須です。単にDVDを漫然と観て講義を聞くだけの授業ではありません。
授業では皆さんの課題への回答を紹介し、様々な視点を共有していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業説明
第二回	演出が可能にすることⅠ	鑑賞と分析
	：	
	ゼッフィレリ版、映画版演の「蝶々夫人」	
第三回	演出が可能にすることⅡ	鑑賞
	：映画版、浅利圭太版の「蝶々夫人」	
第四回	演出が可能にすることⅢ：映画版、浅利圭太版の「蝶々夫人」	議論、分析
第五回	演出が可能にすることⅣ：モンテイ版、ウィルソン版の「蝶々夫人」	鑑賞、議論、分析
第六回	日本の古典演劇Ⅰ	文楽、歌舞伎の歴史、
第七回	日本の古典演劇Ⅱ	能の歴史、二層のコミュニケーション
第八回	日本の古典演劇Ⅲ	能、文楽、歌舞伎の「所作」
第九回	日本の古典演劇とモダンイズム	イエイツ、プレヒト
第十回	異性装Ⅰ	シェークスピア他、西洋演劇史における異性装
第十一回	異性装Ⅱ	歌舞伎など、日本芸能史にみる異性装
第十二回	異性装Ⅲ	宝塚の「男役」が可能にするもの
第十三回	古典演劇と現代の舞台	『王女メディア』『ク・ナウカで夢幻能なオセロー』他
第十四回	学生発表	新作能・新作歌舞伎・新作宝塚

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週のSQ（Study Questions）への回答を、期限内に提出すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料を用いる。

【参考書】
毛利三彌『演劇の詩学 劇上演の構造分析』相田書房、2007年。

【成績評価の方法と基準】
・課題（SQ）：50%。締切厳守。
・積極的な授業参加：20%

・期末試験 30%
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・4回以上欠席した場合は、単位修得の権利を失います。

【学生の意見等からの気づき】
学生の課題への回答を授業で紹介します。

【その他の重要事項】
・必ず初回授業に参加すること。履修を希望する学生が極端に多い場合には、選抜を実施します。

【Outline (in English)】
【Course Outline and Learning Objectives】 Students will learn some basic theater theories and analyze Japanese traditional theater in comparison with modern Western theater. 【Learning Activities Outside of Classroom】 Students are required to submit weekly assignments. 【Grading Criteria/Policy】 weekly assignment (50%), active participation in class discussion (20%), final exam (30%)

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）
空間デザイン論
前田 尚武
配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：選抜 定員 20 名
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「空間」は、都市、建築、アート、グラフィック、映像などさまざまなデザイン手法が駆使されたメディアである。各々の領域で論じられている「空間」を講義と体験を通して多角的に理解し、空間デザインを表現・伝達する理論的かつ実践的な方法論を学ぶ。

【到達目標】
本講座は、デザインの制作技術を習得するのではなく、空間デザインを操るリテラシーを高めるとともに、空間が背負う社会的・文化的背景や文脈を理解する力を養うことが目標である。講義を通して理論を学び、フィールドワークでは講師とともに建築を巡り、空間を読み解き、その魅力を感じ取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講座は、一級建築士であり学芸員である講師がこれまで企画、設計、デザインを手がけた都市開発、建築、展覧会等を主たる題材に、舞台裏での経験と実例を基に空間デザインの理論と実務を講義する。また、講義に連動してフィールドワークを積極的に実施。訪問先との調整を行った上で下記各講座を再編し、日時、場所を決定し事前に周知する。講義の進行状況、登録人数等により、講義内容、フィールドワーク先、日程等は変更になる可能性があり、オンラインで実施することもある。授業の初めに、前回授業で提出されたリアクションペーパーからのコメントを紹介し、受講者に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
第1回	講義	講義全体のガイダンス。テーマ、目標、スケジュールなど。
	ガイダンス	
第2回	講義 アートと空間：美術館・博物館空間論	いま、美術館に求められる空間とは何か。企画、展示、運営など多角的な視点から美術館・博物館を考察するとともに、現代美術における空間表現：インスタレーション作品の制作過程から様々な展覧会での空間構成や照明デザインまで舞台裏を解説。
第3回	フィールドワーク アート・都市・空間：六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	講師が設計を担当した六本木ヒルズを巡り、都市の成り立ちや空間構成、都市とアートの関係を学ぶ。
第4回	フィールドワーク アート・都市・空間：六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	第2回で学んだ美術館の展示空間を美術館で観察し、現代美術の展示手法、展示空間のデザインなどの理解を深める。
第5回	講義 都市と空間：都市デザインの萌芽から未来へ	戦後復興都市計画から、建築運動メタボリズム、70年大阪万博、六本木ヒルズなど現代日本の都市デザインの実験的試みを俯瞰し、都市空間の将来像を考える。
第6回	講義 アートと空間：エリアマネジメントとアート	近現代における環境芸術としてのアートが都市において果たしてきた役割といま求められているものは何かを解説。
第7回	講義&フィールドワーク アートと空間：京都市京セラ美術館	国内最古の美術館建築で、2020年にリニューアル開館した京都市京セラ美術館。改修から現在まで携わっている講師が対面とオンラインのハイブリッドでその革新的なりノベーションについて解説。

第8回	講義&フィールドワーク アートと空間：京都市京セラ美術館	京都市京セラ美術館の空間を対面とオンラインのハイブリッドでツアーを実施し、第2回で学んだ理論を実践しているアートのための空間を観察する。
第9回	フィールドワーク 建築鑑賞：上野公園	重要文化財や世界遺産など明治から現代に至る数多くの大規模建築が集積する上野公園を講師の解説で巡り、日本の近現代建築史を実空間で体感し、理解を深める。
第10回	フィールドワーク 建築鑑賞：新橋・銀座	戦前のモダン建築からメタボリズム建築、ハイブランドの現代建築まで世界的建築家が競演する新橋・銀座エリアの建築を講師の解説で巡り、日本の近現代建築史を実空間で体感し、理解を深める。
第11回	講義 伝統と空間：日本建築の発見	日本建築の魅力を再発見し、国際的に伝えようとした明治の建築家・建築史家の軌跡を紹介し、伝統継承の問題を考える。
第12回	講義 伝統と空間：日本建築のグローバリズムと多様性	日本建築の影響がみられる国内外の近現代の建築作品の数々を読み解き、木組の構成美、民家、茶室まで多様な日本建築の特質を継承している現代建築を紹介し、空間デザインの未来を考える。
第13回	フィールドワーク 建築鑑賞：江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。
第14回	フィールドワーク 建築鑑賞：江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としてフィールドワークの訪問先について、事前に公式HP等で十分に理解しておくこと。また、復習として各回コメントシートを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
・『モダン建築の京都100』石田潤一郎・前田尚武編著 発行：Echelle-1 2021年
・その他必要に応じて授業時に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加、コメント・シートの記述内容）と、レポートの合計。講義期間中の講義およびフィールドワークを通してテーマを設定し、レポートを提出する。評価基準は平常点50%、レポート50%とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
フィールドワーク先の美術館、博物館等の入館料が必要。

【その他の重要事項】
●講義日程
土曜日3-4限2コマ連続開講（原則隔週）を予定。詳細日程は、2025年夏に、学習支援システムで周知する。
●講師略歴
前田尚武（まえだ なおたけ）
一級建築士／学芸員。1994年、早稲田大学大学院修了。2003年から15年間、森美術館に在籍し、「メタボリズムの未来年展」（2011年）、「建築の日本展」（2018年）など建築展を企画。現在、京都市京セラ美術館企画推進ディレクター、「モダン建築の京都」（2021年）を企画。国内外の美術館・博物館の建築設計、展示企画やデザインに携わっている。一連の建築展企画で2019年度日本建築学会文化賞ほか受賞多数。2022年より建築公開イベント「京都モダン建築祭」実行委員を務める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
“Space” is a media in which various design methods such as city, architecture, art, graphic, image etc. are utilized.
Understand the meaning of “Space” discussed diversely in each area through lectures and experiences and learn the theoretical and practical methodology of how to present and transmit space design.
【Learning Objectives】
The goal of this course is not to master design production techniques, but to enhance literacy in manipulating spatial design and to develop the ability to understand the social and cultural background and context that a space bears. Students will learn theory through lectures, and in fieldwork, they will tour architecture with the instructor to acquire the ability to read spaces and sense their appeal.
【Learning activities outside of classroom】

As preparatory study, students are required to fully understand the fieldwork destinations in advance through official websites, etc. In addition, students are required to submit a comment sheet for each session as a review. The standard preparation and review time for this class is about 1 hour each.

【Grading Criteria /Policy】

The sum of regular marks (active participation in class, written comments and sheets) and reports. Students will be required to submit a report on a theme developed through lectures and fieldwork during the lecture period. Evaluation will be based on 50%of regular points and 50%of reports. Based on this grading system, students who have achieved at least 60%of the achievement objectives of this class will be considered to have passed the course.

GDR400GA (ジェンダー / Gender 400)

Gender and Japanese Culture

LETIZIA GUARINI

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level 1 500-539、TOEFL ITP Level 2500、TOEIC675-819、IELTS 6.0、英検準1級程度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、担当教員に相談すること。

Courses in Intercultural Communication need the higher English proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819, IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, we will analyze how gender and sexuality issues manifest throughout culture in Japan. Why do we need to discuss gender and sexuality in relation to Japanese contemporary culture? Who do we talk about when we discuss such issues? We will approach these questions from different perspectives and disciplines, such as history, literature, media, etc. While the main focus of this course is the representation of gender and sexuality in contemporary Japanese society, we will also address these issues in a global context.

【到達目標】

1. To become familiar with historical sources and social and political elements in regard to the construction of gender within contemporary Japanese society.
2. To develop critical thinking strategies and apply them in order to understand how gender and sexuality are represented within contemporary Japanese media.
3. To incorporate a gender perspective while participating in academic discussions, presenting on a selected topic, and writing analytical papers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

I will lecture to situate our readings and discussions or to clarify concepts, but in general, students should come prepared to contribute seriously to the learning community by actively joining the discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Introduction to the course, syllabus, and course expectations
第2回	Introduction to gender studies	Lecture on the basic concepts in gender studies
第3回	Japanese femininities	Lecture on femininities in contemporary Japan
第4回	Gender, media, and misogyny in Japan	Lecture on the #MeToo Movement in Japan
第5回	Masculinity studies	Lecture on masculinities in contemporary Japan
第6回	Gender and the family	Lecture on marriage and work-life balance in contemporary Japan
第7回	Idol culture	Lecture on the reproduction and subversion of gender models within the idol culture
第8回	Midterm exam	Summary of the first half of the course and in-class midterm exam to assess students' understanding of the topics discussed.
第9回	LGBTQ+ issues in contemporary Japan	Lecture on the progress of LGBTQ+ rights in Japan

第10回	Heteronormativity in contemporary Japan	Lecture on the reproduction of heteronormative models in Japanese society and the media
第11回	Food, gender, and family	Lecture on the representation of food, gender, and family in contemporary culture
第12回	Asexuality in Japan	Lecture on asexuality/aromanticism and its representation in contemporary culture
第13回	Final exam	Summary of the second half of the course and in-class final exam to assess students' understanding of the topics discussed.
第14回	Queer Japan	Screening: "Queer Japan" (directed by Graham Kolbeins, 2019)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to read the reference material (in English) by the next session, submit comment sheets, and work on their midterm exam, final exam, and final paper (one to three hours for every session).

【テキスト（教科書）】

Photocopies of readings will be distributed by the instructor.

【参考書】

Coates, Jennifer, Fraser Lucy, and Pendleton Mark (eds.), The Routledge Companion to Gender and Japanese Culture, Routledge, 2020
Kazuyoshi Kawasaka, Stefan Würrer (eds.), Beyond Diversity Queer Politics, Activism, and Representation in Contemporary Japan, Dusseldorf University Press, 2024.
Steger, Brigitte, Koch, Angelika (eds.), Manga Girl Seeks Herbivore Boy. Studying Japanese Gender at Cambridge, LIT Verlag, 2013
Steger, Brigitte, Koch, Angelika (eds.), Cool Japanese Men. Studying New Masculinities at Cambridge, LIT Verlag, 2017
Steger, Brigitte, Koch, Angelika, Tso, Christopher (eds.), Beyond Hawaii: Studying Japanese Femininities at Cambridge, LIT Verlag, 2021

【成績評価の方法と基準】

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%

Active participation in class is required. Submit your comments via Hosei University Learning Management System at the end of each session.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes. Students who are more than 15 minutes late will be marked as absent.

Mid-term exam: 30%

Final exam: 30%

Final report: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Group discussions help students to deepen their understanding of the course topics.

This course readings and classroom discussions will often focus on difficult and potentially challenging topics. Since readings and discussions might trigger strong feelings, content warnings will be given so that students will be prepared in advance.

【学生が準備すべき機器他】

Laptop to take the in-class exams and write the final essay.

【Outline (in English)】

In this course, we will analyze how gender and sexuality issues manifest throughout culture in Japan. Why do we need to discuss gender and sexuality in relation to Japanese contemporary culture? Who do we talk about when we discuss such issues? We will approach these questions from different perspectives and disciplines, such as anthropology, history, literature, media, etc. While the main focus of this course is the representation of gender and sexuality in contemporary Japanese society, we will also address these issues in a global context.

Learning goals

1. To become familiar with historical sources and social and political elements in regard to the construction of gender within contemporary Japanese society.
2. To develop critical thinking strategies and apply them in order to understand how gender and sexuality are represented within contemporary Japanese media.
3. To incorporate a gender perspective while participating in academic discussions, presenting on a selected topic, and writing analytical papers.

Grading policy

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%

Active participation in class is required. Submit your comments via Hosei University Learning Management System at the end of each session.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes. Students who are more than 15 minutes late will be marked as absent.

Mid-term exam: 30%

Final exam: 30%
Final report: 20%

LIT300GA（文学 / Literature 300）

世界の中の日本文学

LETIZIA GUARINI

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、一つの国、一つの言語、一つの文化に限定されない国境を越えた文学について学びます。さまざまな作家・作品を読みながら、日本文学における世界/世界文学における日本について考えます。また、現代小説を分析しながら世界における日本文学の位置付けについて考え、現代社会を考察するための視座を身につけます。

【到達目標】
1）現代日本文学についての基礎的な知識を身につける。
2）日本文学のテキストを分析できるようにする。
3）文学と社会の関連性について学び、世界から見た日本/日本から見た世界について自分の考えをまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。
フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。
第2回	移動する文学	バイリンガルな文学について考える。
第3回	バイリンガルな文学：多和田葉子	多和田葉子の作品を取り上げる。
第4回	バイリンガルな文学：水村美苗	水村美苗の作品を取り上げる。
第5回	移動する女性作家たち	須賀敦子や李良枝の作品を取り上げる。
第6回	温又柔を読む	温又柔の作品を読んで、ディスカッションを行う。
第7回	文学における震災	震災文学論について考える。
第8回	多和田葉子と川上弘美の震災文学	多和田葉子、川上弘美の作品を取り上げる。
第9回	川上未映子の震災文学	川上未映子の作品を読んで、ディスカッションを行う。
第10回	中間試験	第9回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第11回	世界における日本文学（1）：村上春樹と川上未映子	村上春樹と川上未映子の小説の翻訳やその受容について考える。
第12回	世界における日本文学（2）：村田沙耶香	『コンビニ人間』をはじめとして、村田沙耶香の小説の翻訳やその受容について考える。
第13回	世界における日本文学（3）：松田青子	『おばちゃんたちのいるところ』をはじめとして松田青子の小説の翻訳やその受容について考える。
第14回	総括	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読む、授業内で示される課題（リアクション・ペーパー）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてPDFでテキストを配布します。

【参考書】
郭南燕（編）『バイリンガルな日本語文学—多言語多文化のあいだ』（三元社、2013年）
山出裕子『移動する女性たちの文学—多文化時代のジェンダーとエスニシティ』（御茶の水書房、2010年）
木村朗子『震災後文学論—あたらしい日本文学のために』（青土社、2013年）
木村朗子『その後の震災後文学論』（青土社、2018年）
木村朗子、アンヌ・バヤール＝坂井（編）『世界文学としての〈震災後文学〉』（明石書店、2021年）
新・フェミニズム批評の会（編）『現代女性文学論』（翰林書房、2024年）

高橋源一郎、斎藤美奈子『この30年の小説、ぜんぶ一読んでしゃべって社会が見えた』（河出新書、2021年）

【成績評価の方法と基準】
グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパー：20%
中間試験：40%
期末レポート（具体的な文学テキストを取り上げたレポート）：40%
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容の理解を深めるためにグループディスカッションが効果的だという意見が多かったため、引き続きグループで作品分析の時間を確保したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レポート作成のためのパソコン。

【その他の重要事項】
基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。

【Outline (in English)】
This course is designed to enhance students' understanding of contemporary society through literature. In this class, we will learn about literature that transcends national borders and is not limited to one country, one language, or one culture. While reading various authors and their works, we will consider the world in Japanese literature and Japanese literature in the world.

Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to do the following:
a) Have basic knowledge of contemporary Japanese literature.
b) Analyze texts of Japanese literature.
c) Understand the relationship between literature and society.

Learning activities outside of the classroom:
Students are required to read the reference material by the next session and submit comments sheets (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:
The final grade will be decided based on the following:
Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%

Active participation in class is required. Submit your comments via Hosei University Learning Management System at the end of each session.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

Midterm exam: 40%
Final paper (2000-3000 words): 40%

LANj300GA（日本語 / Japanese language education 300）

世界の中の日本語

大野 ロベルト

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：受講は先着500名までとする。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語を学んだつもりがど忘れし、海外の文化に触れたつもりですっば抜ける。現代社会でおなじみのこの悲喜劇の一因は、そもそも日本語と日本文化に対する理解の浅さに起因するのではないか。言葉や文化はどのように出来上がり、どのように相関するのか。この授業では幕末から二十世紀末までの日本語を、近代文学を素材として、主に海外との応答関係のなかで見つめてみたい。原典のみならず英訳されたテキストにも目を向け、必要に応じて外国文学との比較にも供してみる。また、古典文学との比較などを行いながら、日本の近代性についても検討する。講義は春学期に開講される「日英翻訳論」と響き合う内容となっている。

【到達目標】

比較的な視点に立つことで、自国の言語や文化を海外のそれと横並びに眺めたいと、客観的な評価を加え、それを言語化できるようになる。文学作品を深く読み解く技術が身につく、英語のテキストに触れることで、語学的な運用能力も向上する。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、随時リアクションペーパー提出を奨励している。これらについては学習支援システムを通じてフィードバックを行い、必要に応じて講義内でも紹介する。成績判断の主な材料としては、中間レポートと期末レポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、日本語の特徴について考える（日本語はどのような言語なのか）。
2	日本語らしさ	「月がきれいですね」を出発点に、日本語にまつわる神話を解体する（日本語は愛せない言語である）。
3	外国語と日本語 1	夏目漱石の活動を中心にとりあげ、明治時代の日本語を考える（日本語は借りものの言語である）。
4	外国語と日本語 2	中原中也を中心にとりあげ、近代日本の詩歌について考える（日本語は創造的な言語である）。
5	日本語を書く	永井荷風を中心にとりあげ、日本語における書記行為を考える（日本語は組み合わせ自由な言語である）。

6	日本語を聞く	泉鏡花を中心にとりあげ、日本語における「声」について考える（日本語は多声的な言語である）。
7	日本語と影	谷崎潤一郎を中心にとりあげ、日本語の美意識について考える（日本語は光と影のある言語である）。
8	日本語と音	宮沢賢治を中心に、擬態語や擬声語について考える（日本語は音楽的な言語である）。
9	日本語と私	太宰治を中心に、私小説の問題をとりあげる（日本語は私を語る言語である）。
10	世界と日本語 1	川端康成を中心に、日本語における伝統への意識を考える（日本語は美しい言語である）。
11	世界と日本語 2	三島由紀夫を中心に、世界文学としての日本文学のあり方を考える（日本語は世界的な言語である）。
12	世界と日本語 3	大江健三郎を中心に、「個人的」なものとしての日本文学を考える（日本語はいまいな言語である）。
13	日本語の消失	野口米次郎、牧野信一などをとりあげ、言葉の「息苦しさ」を考える（日本語は寂しい言語である）。
14	まとめ	今学期の内容をふりかえりつつ、「未来の日本語」について想像してみる（日本語はしみな言語である）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のテーマとなるテキストについては事前に丁寧に読み込み、時代背景なども調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】

授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。
小森陽一『〈ゆらぎ〉の日本文学』NHKブックス、1998

【成績評価の方法と基準】

平常点10％、中間レポート40％、期末レポート50％
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義で取り扱う作品やテーマが多岐にわたるので、情報過多にならぬよう、無駄を削ぎ落とすことを心がけたい。

【Outline (in English)】

One cannot fathom the qualities of foreign language and culture without the set of skills nurtured through learning one's native language and culture. In this course, students will read works of literature produced from the late 19th century to the late 20th century while paying attention to how they contribute to the overall uniqueness of the Japanese language. To survey different works spanning across decades of modern Japan, and to demonstrate the findings in forms of written assignments and final paper, will be the objective of this course. The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting. The grading criteria is as follows: 10%participation, 40%mid-term paper, and 50%final paper. Students that successfully achieve 60%or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

ARSx200GA（地域研究（その他） / Area studies(Others) 200）		
世界とつながる地域の歴史と文化		
高柳 俊男		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring		
人数制限・選抜・抽選：選抜		
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
この授業は、2012年度から夏休みに長野県南部の飯田・下伊那地域で実施している「S J 国内研修」（S J = Study Japan）に参加する留学生・ボランティア補助員および希望する一般学生を主対象に、その事前学習用として開講されるものである（留学生必修）。		
「S J 国内研修」とは、一般学生のS Aに相当するもので、地方の中山間地域で見聞・交流・発表等の諸活動を経験することで、留学生にとってのS Aとも言えるこの日本を、東京からの発想とは別に、地方の視点でも考えうる目を養うことを趣旨としている。		
したがって、この授業の目標も、飯田・下伊那地域の歴史・社会・文化・民俗・自然などについて、一通りの前提知識を身につけることで、8泊9日程度の「S J 国内研修」を有意義に送れるようにすることにある。国際文化学部の研修であることに鑑み、とりわけこの地域における国際化や異民族との関係、および文化に重点を置きながらみていく。		
【到達目標】		
授業の進展につれ、南信州の中山間地域である飯田・下伊那にも、東京とはまた異なる歴史・文化・自然があり、固有の国際関係があることが理解できるであろう。最終的には、「S J 国内研修」に際して探求すべき自分なりのテーマをみつけ、夏休み中の自己学習を経て、研修本番につなげられるようにすることが目標である。		
「S J 国内研修」に参加せず、単なる一授業として受講することも可能だが、そうした受講者にとっては、飯田・下伊那を例に、日本のなかに存在する多様性や多文化を考える視点を得ることが到達目標となる。そこで得られた視点やアプローチは、日本の他地域を考える際にも有効に機能するであろう。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。		
【授業の進め方と方法】		
教員による講義が中心だが、受講生に随時発問しながら進める。関連する映像の上映も、適宜織り交ぜる。		
特定の地域の細かな事実にとことんこだわるが、それは「個別を極めることを通して普遍に至る」こと、すなわちこの授業のタイトルのように、「飯田・下伊那から日本がみえる、世界とつながる」ことを具体的に知るためである。そのためには最低限、理解すべき事項は理解し、覚えるべき固有名詞（地名、人名など）は覚えていただく。		
毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などをリアクションペーパーに書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、双方向的な授業になるよう心がけたい。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	導入	本授業と「S J 国内研修」の概要を説明する。受講希望者数によっては、選抜を実施することもあるので、初回の授業に必ず出席すること。
第2回	飯田・下伊那の概況①	飯田・下伊那地域にある1市3町10村について、行政区分、地形、気候、交通、物産などの概況をみていく。天竜川の果たした役割や、愛知県東部・静岡県西部との県境を越えたネットワーク（三遠南信）についても考える。
第3回	飯田・下伊那の概況②	前回に続いて、飯田市の成り立ちを考える。1937年に成立した当初の市域に、1950年代以降、周辺の15の自治体が合併していまの飯田市が形成されていることの意味、言い換えれば飯田市の統一性と多様性を具体的に考察する。
第4回	飯田・下伊那の歴史	飯田・下伊那地域が経てきた歴史の概要を、古代から現代まで通史的に学ぶ。中心的に扱う戦後史部分では、飯田市のアイデンティティの根幹にも関わる飯田大火、りんご並木、三六災害について知る。
第5回	飯田線建設史①	現在のJ R 飯田線、とくに旧三信鉄道の建設史を、アイヌの測量士カネトや朝鮮人労働者に焦点を当ててみていく。飯田駅前に記念碑が建つ伊原五郎兵衛についても知る。
第6回	飯田線建設史②	前回学んだカネトについて、近年、住民自身により飯田線沿線各地で上演されている合唱劇『カネト』の映像を鑑賞しながら、再度考える。
第7回	満州移民の歴史①	1930年代以降、この地域から多数渡って行った満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍について、その史実と背景を学ぶ。
第8回	満州移民の歴史②	前回学んだ満蒙開拓青少年義勇軍について、そのテーマでつくられたアニメ『蒼い記憶』を鑑賞しながら、再度考える。
第9回	満州移民の歴史③	現在、この地域の人々が、満州移民の歴史やその結果として生まれたいわゆる中国残留孤児/残留婦人・中国帰国者のことを、どう後世に伝えようとしているかを、阿智村に開設した満蒙開拓平和記念館などを例に探る。また、「残留孤児の父」と称される阿智村の長岳寺住職、山本慈昭についても知る。
第10回	飯田・下伊那の多民族共生の現在	外国人が増え、市として外国人集住都市会議に参加している飯田市における外国人の実態や、国際化・多文化共生の取り組みについて考察する。平岡ダム建設における外国人強制労働の歴史を、後世に正しく伝えようと努める天龍村の姿勢についても、あわせて考察する。
第11回	飯田・下伊那の文化①	人形浄瑠璃や歌舞伎など、この地域に残る各種の伝統民俗芸能や、それをもとにした現在の文化イベントについて知る。とりわけ、飯田市内で活動する黒田人形・今田人形をはじめとする伊那谷4座について、映像で確認する。
第12回	飯田・下伊那の文化②	この地域の特色ある文化活動として、通巻1000号超の歴史を誇る郷土雑誌『伊那』の刊行や、活発な公民館活動について知る。あわせて、写真や童画で庶民の生活を記録してきた阿智村の熊谷元一についてもみていく。
第13回	飯田・下伊那の文化③	この地域ゆかりの文化人のうち、法政大学で学んだり教えたりした経験をもつ椋鳩十・西尾実・森田草平の3人について、自校教育の観点も含めて取り上げる。
第14回	まちづくりや自然との共生	早くからグリーンツーリズム、エコツーリズム、都市農村交流などを唱え、実践してきた飯田市の取り組みについて知る。山村留学がこの地域に果たしている役割や、1970年に廃村となった大平宿の保存活用運動についても探る。地域おこし協力隊など、若者による地域活性化の活動にも触れる。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
毎回配付するプリントに、「自習課題」を載せる。同じ内容は、ネット上の学習支援システムにも掲載する。これは自習であって、必ずしも提出義務はないが、提出すれば、就職活動などによる欠席を補う参考資料として加味する。可能な限りチャレンジして、学んだことをより深く考察し、定着させることを推奨する（提出期限：ネットへのアップから2週間後）。		
従来は授業期間中に、この授業と関連した学部イベントを実施してきたが、コロナ期に中断して今に至っている。今年度は、状況を見ながら実施可否を判断したい。		
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
特定のテキストは使用せず、学習内容に即したプリントを毎回、A 3 で表裏1枚程度配付する。各回のプリントはファイルないし合冊にしておいて、実際の研修の場にも持参して活用すること。		
かつては留学生の自習用として、しんきん南信州地域研究所『いいだ・南信州大好き』（2010年）を当方で用意して各人に差し上げていたが、絶版で入手が難しくなっている。資料室に複数冊あるので、そちらで適宜利用してほしい。		

【参考書】

授業の中で適宜指示する。それらの大半は、B T 20階の国際文化学部資料室および書庫に配架された「飯田・下伊那文庫」(書籍2,000冊以上、映像DVD約350点所蔵)に収められている。飯田以外ではこれだけ揃った場所は無いともいわれるこれら関連資料を、ぜひ大いに活用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢40%、途中での中間課題20%、学期末のレポート40%を目安とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

とくにS J 国内研修に参加せず、1つの授業として受ける人には、「一地域のことをなんでこんなに細かく学ぶのか?」という疑問があるかもしれない。ただし、特定の一地域へのアプローチの仕方や、「個別を極めることを通して普遍に至る」という学び方は、他の分野にも幅広く応用が利くと思われる。

また、自国のことを知り、外国人にも伝えられることは、真の国際人にとって重要な要素であろう。

【学生が準備すべき機器他】

上述のように、学習支援システムをもう一つの教室として活用する。新型コロナウイルス感染症の感染状況等により、対面授業が難しい場合はzoomを使用する。

【その他の重要事項】

「S J 国内研修」に参加する人は、どのような形であれ、この事前学習授業の履修が前提条件になる。研修の参加経費や単位の有無は、参加資格によって異なるので、詳細は「履修の手引き」の該当頁を参照のこと。

S J の実施時期は9月の上～中旬で、例年7月初旬にボランティア補助員や一般参加者も含めた募集を開始する。

【選抜の有無】

留学生、およびS J 参加への強い意欲を有する一般学生を優先し、教室の収容人員を超えた場合は初回授業で選抜を行なうことがある。

【Outline (in English)】

This course is primarily designed for students who participate in the SJ(Study Japan) program in summer session. Therefore this class aims to gain a basic understanding of history, culture, and ethnic issues of South Nagano, where the SJ program is implemented.

Students who will not participate in the SJ program are also able to take this class. For those students, the goal is to develop an eye for perceiving Japan from multiple perspectives.

Self-study assignments will be given in the handouts distributed in each class. Please try each time if possible to deepen what you have learned. Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, mid-semester report 20%, and term-end report 40%.

ARSe200GA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200)				
中国の文化 I（現代中国社会）				
張 勝蘭				
配当年次／単位：1～4年／2単位				
旧科目名：				
旧科目との重複履修：				
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring				
人数制限・選抜・抽選：				
その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉				
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】				
本講義は、現代中国社会に関する基礎知識を習得し、歴史・政治・経済・民族・文化などの側面から現代中国を総合的に理解することを目的とする。現代中国の社会と文化の多様性、日本を中心とする東アジアとの繋がりについて、多角的視点から思考を深めることを重視する。具体的には社会の各側面・文化に焦点を当てながら、その背景となる歴史・政治・経済・日中関係について説明する。トピックを重視し、等身大の中国について紹介する。				
【到達目標】				
①現代中国社会に関する基礎知識を習得する。				
②現代中国社会に関する重要な事柄について、多角的視点から根拠に基づき自らの見解を論理的に説明することができるようになる。				
③等身大の中国を知り、中国に関するマスメディアの情報を客観的・多角的に捉えるようになる。				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。				
【授業の進め方と方法】				
この講義では歴史・政治・民族・経済・社会構造・教育・環境・文化・日本と中国の順で、現代中国社会の現状と変化を概観する。一般民衆の暮らしの次元から社会の変容、価値観の変化を考察する。質問の受付や課題へのフィードバックは授業内、学習支援システム及びメールにて行う。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】				
なし /No				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】				
なし /No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容	第4回	民族①： マジョリティーの漢族について－少数民族社会との関わりから
第1回	導入	現代中国社会のアウトラインを説明し、行政区分・地域区分とその特徴、多民族の状況などの予備知識を紹介する。授業の進め方、シラバスの使い方、成績評価についても説明する。	第5回	民族②： 漢族の伝統文化と多様な地域性
第2回	歴史： 中華人民共和国の成立とその後の道のり	現代中国社会を理解するために、まず中国とは何か、その歴史的背景に触れた上で、中華人民共和国成立の経緯、及び成立後から現在に至るまでの歴史を概観する。	第6回	経済： 改革開放と経済格差
第3回	政治： 多民族国家—中国	多民族国家である中国の社会を理解するために、国家統合においてきわめて重要な民族問題について知っておく必要がある。「民族識別」工作、「民族区域自治」制度から、「優遇政策」から見る民族間関係について説明する。	第7回	社会構造： 拡大する「中間層」の実態
			第8回	教育： 超学歴社会と教育格差
			第9回	環境： ：南・北の違いと「南水北調」
			第10回	文化①：「80後」・「90後」・「00後」の「新人類」文化から見る日中交流
			第11回	文化②：中国の言語文化
			第12回	日本と中国①： 近代の日中関係
			第13回	日本と中国② 戦争から国交正常化・日中協力へ
				現代中国社会を理解するには、まず中国全人口の九割以上を占める漢族を理解する必要がある。中国社会における漢族とは何かについて説明する。漢族のサブグループとされる客家人を事例に、少数民族社会との関わりも検討する。 漢族の主な伝統文化、衣食住から見る多様な地域性について講義する。 中国経済の大転換である改革開放政策の実施、それに伴う内陸部・沿岸部、都市部・農村部の経済格差の拡大について講義する。三農問題・出稼ぎ者・留守儿童・ポイント制度などにフォーカスして考察する。 経済発展と共に形成されてきた「中間層」（中等収入者）の実態、そして、彼らは海外との接触などにより、人権意識をはじめとする社会的政治的意識の変化について講義する。 現代中国は熾烈な学歴社会となり、教育の格差が拡大しつつある状況にある。進学をめぐる競争、若者の就職難などの問題を通してその背景と実態について講義する。 多様な風土から中国社会を考え、経済発展と共に喫緊の課題となった「水問題」について、「南水北調」プロジェクトを通して考察する。 80年代、90年代、00年代生まれのいわゆる「新人類」の文化に注目し、特にアニメ・コスプレなどのサブカルチャーを通して見た中国と日本の新たな交流について講義する。 漢語から少数民族の言語まで中国における多様な言語文化を概観する。また現代の世相を反映する「新語」などについて講義する。 「開国」した日本は「和魂洋才」を目指し、和製漢語で西洋文化を吸収していった。「開港」した中国は「中体西用」を基本方針とし、西洋文化と距離を置いた。西洋をめぐる新たな国際環境の中で日本と中国の間に様々な対立が生じたが、多くの協力もあった。中国社会の近代化における日本の影響を考察する。 日中戦争を経て、日中関係が凍結したが、1972年に国交正常化した。1978年から中国経済の大転換である「改革開放」が実施され、日本の全面的支援を受けた。戦争の記憶を含め、この時期の日中関係が中国社会に与えた影響を講義する。

現代中国社会を理解するには、まず中国全人口の九割以上を占める漢族を理解する必要がある。中国社会における漢族とは何かについて説明する。漢族のサブグループとされる客家人を事例に、少数民族社会との関わりも検討する。

漢族の主な伝統文化、衣食住から見る多様な地域性について講義する。

中国経済の大転換である改革開放政策の実施、それに伴う内陸部・沿岸部、都市部・農村部の経済格差の拡大について講義する。三農問題・出稼ぎ者・留守児童・ポイント制度などにフォーカスして考察する。

経済発展と共に形成されてきた「中間層」（中等収入者）の実態、そして、彼らは海外との接触などにより、人権意識をはじめとする社会的政治的意識の変化について講義する。

現代中国は熾烈な学歴社会となり、教育の格差が拡大しつつある状況にある。進学をめぐる競争、若者の就職難などの問題を通してその背景と実態について講義する。多様な風土から中国社会を考え、経済発展と共に喫緊の課題となった「水問題」について、「南水北調」プロジェクトを通して考察する。

80年代、90年代、00年代生まれのいわゆる「新人類」の文化に注目し、特にアニメ・コスプレなどのサブカルチャーを通して見た中国と日本の新たな交流について講義する。

漢語から少数民族の言語まで中国における多様な言語文化を概観する。また現代の世相を反映する「新語」などについて講義する。

「開国」した日本は「和魂洋才」を目指し、和製漢語で西洋文化を吸収していった。「開港」した中国は「中体西用」を基本方針とし、西洋文化と距離を置いた。西洋をめぐる新たな国際環境の中で日本と中国の間に様々な対立が生じたが、多くの協力もあった。中国社会の近代化における日本の影響を考察する。

日中戦争を経て、日中関係が凍結したが、1972年に国交正常化した。1978年から中国経済の大転換である「改革開放」が実施され、日本の全面的支援を受けた。戦争の記憶を含め、この時期の日中関係が中国社会に与えた影響を講義する。

第14回	日本と中国③ 戦略的互恵関係	改革開放を経て、世界第二の経済大国に成長した中国は、日本の最大貿易相手国となった。また日本も中国にとって大変重要な貿易相手国である。両国は様々な問題を抱えながらも戦略的互恵関係を模索している。民間交流に注目し、現在における日中関係と中国社会について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppiiにアップロードされた講義資料を参考に、シラバスに記載された参考書及び毎回の追加参考文献の関連部分を読み、授業内容への理解を深める。受講者は各2時間を使い、事前・事後に関連知識の予習、授業の振り返りを行い、理解を深めることに努める。疑問点を整理し、まとめる。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。毎回、事前に講義資料をHoppiiにアップロードする。

【参考書】

中国研究所編『中国年鑑』（2019年版）明石書店、2019年
 エズラ・F・ヴォーゲル/益尾知佐子訳『日中関係史—1500年の交流から読むアジアの未来』、2019年
 藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
 富坂聡『中国の論点』角川oneテーマ21、2014年
 毛里和子/園田茂人編『中国問題—キーワードで読み解く』東京大学出版社、2012年
 家近亮子・唐亮・松田康博編著『5分野から読み解く現代中国—歴史・政治・経済・社会・外交』（改訂版）晃洋書店、2009年
 興梠一郎『中国激流—13億のゆくえ』岩波書店、2005年
 また授業時に各テーマについての参考文献を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①現代中国社会に関する基礎知識が習得できている。
 ②授業で扱った重要な現代中国社会の問題、文化事象を理解し、根拠に基づき論理的に説明できる。
 以上の2点に着目し、期末レポート（60%）、リアクションペーパー（20%）、受講態度（授業中の発言・質問）（20%）を用いてその到達度を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の理解度を高めるために、音声・映像などのコンテンツを活用する。私語などを注意し、授業に集中しやすい環境づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces the changing values and lifestyle of Chinese people from viewpoints of politics, nation, economy, social structure, education, environment, culture, Japan-China relations to students taking this course.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to comprehensively understand the real China.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, participants will be expected to read the relevant chapter(s) from the text and write the reaction paper. Your required study time is two hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: term-end report (60%), reaction paper (20%), and in-class contribution (20%).

LANc300GA（中国語 / Chinese language education 300）			13	その他の重要表現・構文 2	「助動詞」、「複文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
中国の文化Ⅳ（中国語の構造）			14	まとめ	授業内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。
永江 貴子			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 ・授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。 ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。		
配当年次／単位：2～4年／2単位			【テキスト（教科書）】 特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。		
旧科目名：			【参考書】 ・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級〔改訂版〕』東京：東方書店 ・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同友社 ・木村英樹 2017『中国語ははじめの一步〔新版〕』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房 ・三宅登之 2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社 ・守屋宏則 他 2019『やさしく ぐわしい 中国語文法の基礎〔改訂新版〕』東京：東方書店 ・劉月華 他 2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館 ・朱德熙(著)、杉村博文・木村英樹(訳) 1995『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』、東京：白帝社		
旧科目との重複履修：			【成績評価の方法と基準】 ・期末レポートを50%、平常点（練習問題への取り組み状況等）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。 ・本授業では期末試験は実施しない。		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall			【学生の意見等からの気づき】 様々な背景を持つ受講生（SA中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）があり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。		
人数制限・選抜・抽選：			【学生が準備すべき機器他】 PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。		
その他属性：〈他〉〈優〉			【その他の重要事項】 ・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。 ・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。 ・本授業は、中国語という言語を文法の観点から分析・考察しつつ、中級レベルの文法力の育成を行う授業である。そのため、会話等を学ぶいわゆる「語学の授業」とは性質が異なる。 ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応をとること。		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 初級中国語の学習を終えて、学ぶべき文法項目は一通り学んだにも関わらず、中国語文法の全体像や細かい点が明確に把握できていないと感じている人は多いだろう。本授業では、初級中国語の文法事項を復習しつつ、より発展的な内容を学び、中国語文法の体系的知識を身につけることを目標とする。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。			【Outline (in English)】 【Outline】 In this course, we will acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar through reviewing the basic grammar and studying the advanced grammatical rules. 【Goal】 The goals of this course are as follows: (1) To review grammatical items learned in Chinese course for beginners. (2) To learn advanced grammatical items and systematically understand Chinese grammar. (3) To be able to properly understand and express difficult Chinese sentences. 【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】 ・After every class, students are required to review the materials. ・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading criteria】 ・Grading will be decided based on term-end report (50%) and in-class contribution (50%). ・No final exam will be held in this course.		
【到達目標】 本授業の到達目標は以下の通りである。 (1) 初級中国語で学んだ文法項目を確実に定着させる。 (2) 応用的・発展的な文法項目を学び、中国語文法を体系的に理解する。 (3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。			【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり /Yes		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。			【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		
【授業の進め方と方法】 ・授業は講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が練習問題の解答や自分の考えを発表する機会も設ける。 ・練習問題へのフィードバック（解説・コメント等）や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。			【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回			テーマ	内容	
1			ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。	
2			中国語の基本文型	「中国語の基本文型」に関する概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。	
3			アスペクト表現 1	「完了相」、「変化相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。	
4			アスペクト表現 2	「経験相」、「将来相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。	
5			アスペクト表現 3	「進行相」、「持続相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。	
6			補語 1	「程度補語」、「数量補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。	
7			補語 2	「結果補語」、「方向補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。	
8			補語 3	「方向補語の派生用法」、「可能補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。	
9			“把”構文と“被”構文	「“把”構文（処置文）」、「“被”構文（受身文）」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。	
10			使役文（兼語文）と連動文	「使役文（兼語文）」、「連動文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。	
11			比較文	「比較文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。	
12			その他の重要表現・構文 1	「存現文」、「“是…的”構文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。	

HIS200GA（史学 / History 200）

朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）

神谷 丹路

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮半島は、日本の隣国、隣人であり、地理的にも歴史的にも、日本と密接な関係のある地域です。この授業では、朝鮮半島の文化や歴史、社会についての基礎事項を学びます。近年、朝鮮半島は、アジアへ、また世界への影響力を増しています。長い歴史の中で、朝鮮半島は、中国の影響を受けつつも、独自の文化・歴史を形成し、さらには日本へも大きな影響を与えてきました。朝鮮半島についての基本的な知識を身につけ、あるべきパートナーシップとは何かを探求することを目的とします。

【到達目標】

朝鮮半島独特の文化や歴史に関する基礎知識を身につけることによって、日本など周辺国との類似性や差異性についての考察ができるようになり、また東アジア全体を見渡すことができる広い視野を獲得します。さらに興味のある分野について、自分から引き続き勉強を続けるような力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的な流れは、以下の通りである。
朝鮮半島の地理、文化、歴史を概観し、基礎的な知識を確認する。その上で、朝鮮半島と日本とのあいだの文化的相互作用、共通点などに着目するとともに、一つの事象であっても、日本と朝鮮半島では、とらえかたが相違することもあり、それらを俯瞰的な視点から学ぶ。視覚資料を多く取り入れた授業資料を用い、幅広い、朝鮮半島の文化、歴史、社会の知識を吸収する。小テストを随時実施し、間違いの多かった問題などについては、次の授業時に解説する。なお、この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち、もっとも入門的なものの一つである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入／朝鮮・韓国とは	・朝鮮半島の2つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・国のシンボル、言語、祝日 ・建国神話、昔話
2	民俗文化・伝統文化	・ユネスコ無形文化遺産 ・アリラン、パンソリ、ナムサダン、網渡り、カンガンスルレ ・綱引き、農楽 ・キムチ
3	伝統行事と儒教文化	・正月、秋夕 ・葬送儀礼 ・儒教祭祀 ・現代社会と儒教 ・その他の宗教
4	古代から中世へ	・伽耶と倭 ・百濟・高句麗と日本 ・新羅と日本 ・高麗と日本
5	中世から近世へ	・朝鮮王朝時代と日本 ・ハングル創製 ・科学、学問の発達 ・国難：豊臣秀吉、李舜臣 ・善隣友好外交、朝鮮通信使の訪日
6	朝鮮王宮と近代	・景福宮（王宮の再建から王妃殺害事件まで） ・徳寿宮（大韓帝国の近代） ・昌徳宮（最後の国王、植物園、動物園）
7	日本の植民地時代	・韓国統監伊藤博文 ・在朝日本人 ・「土地調査事業」 ・三一独立運動 ・食糧「増産」と農民 ・戦時労務動員

8	解放から1950年代	・38度線と東西冷戦 ・朝鮮戦争 ・南北分断の固定化 ・離散家族 ・海外出稼ぎ ・日韓国交正常化 ・ベトナム戦争と韓国 ・財閥の形成 ・社会の葛藤と民主化 ・民主化宣言 ・88年オリンピック ・労働運動 ・済州島四三事件の真相究明（歴史の再評価）
9	1960年代、70年代	・朝鮮の漁業 ・20世紀前半日本漁民の朝鮮出漁 ・李ラインと日本漁船 ・日韓漁業協定 ・領土問題 ・済州島の海女 ・日本の戦争責任問題 ・日韓の摩擦 ・市民の文化交流 ・サブカルチャー ・韓国の日本語学習、日本の韓国・朝鮮語学習
10	1980年代、90年代、2000年代	・外国人労働者 ・多文化家庭 ・海外留学 ・在外コリアン ・期末試験
11	朝鮮沿岸漁業の百年	
12	歴史の和解とは	
13	世界のコリアン・韓国の外国人	
14	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

朝鮮語の知識は必要ありません。朝鮮・韓国に関する報道に関心を持ち、関連する本を積極的に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業資料を配布します。

【参考書】

参考文献はその都度指示します。
『新訂増補 韓国朝鮮を知る事典』（平凡社）2014年
『日韓でいっしょに読みたい韓国史』（明石書店）2014年
『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史 前近代編下』（青木書店）2006年
『学び、つながる日本と韓国の近現代史』（明石書店）2013年

【成績評価の方法と基準】

授業の理解度を確認するために、随時、課題、小テストを行う。学期末には、学習のまとめとして期末試験を行う。課題および小テスト（30%）、期末試験（70%）で評価する方針である。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

現在進行形の日本と朝鮮半島問題についても、随時、授業と関連付けて提示する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

S A韓国2年生はかならず受講してください。他学部の学生の受講も歓迎します。なお順序と内容に若干の変更がある場合があります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, the students will learn the basics of culture, history, and society on the Korean Peninsula.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to help to acquire historical and cultural basic understanding of the Korean Peninsula. Since the Korean Peninsula is the nearest neighbor region for Japan, it is very important to firmly understand the Korean Peninsula for peaceful stability in East Asia.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70%, Assignments & little exams : 30%.

ARsb300GA（地域研究（ロシア・スラブ地域） / Area studies(Russia/Slab) 300）

ロシア・中央アジアの文化

佐藤 大雅

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・「ロシア・中央アジアの文化」は、主にロシア・中央アジア・南コーカサスと呼ばれる地域を対象に、旧ソヴィエト連邦構成国の文化を広く取り上げる入門的な授業です。本授業ではソ連時代を中心に、ロシア帝国から現代に至るまでの文化とその背景について学んでいきます。

・ロシアとその「周辺」地域（中央アジア、南コーカサス等）は、歴史・政治・経済的な繋がりを背景に、相互浸透的にその文化を構築してきました。この地域の文化の特殊性は、ある文化的事象をひとつ切り取るだけでは理解することが難しく、常に近隣諸国との関係の中で捉える、広い視座を必要とします。

・この授業では、それぞれの国の政治・経済等の特徴に加え、文学／美術／建築／音楽／映画／思想などの分野における重要な人物や事柄に触れる機会を提供したいと思います。皆さんの興味の引き出しを増やしつつ、文化についての見方や考える力を深めてほしいと思います。

【到達目標】

- (1) ロシア・中央アジア・南コーカサスの文化について、その背景と共に理解できるようになる。
- (2) ロシア・中央アジア・南コーカサスの文化の重要な事項について、簡単な説明ができるようになる。
- (3) 文化の考え方・論じ方について知見を深め、批判的思考ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・基本的には講義形式で授業を行います。加えて、適宜学生との議論や、グループディスカッションの時間を設けることもあります。

・授業毎にコメントシートを作成・提出してもらいます（成績評価の要件）。

・前回授業時のコメントシートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法についてのガイダンスを行う。
第2回	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現在：①ロシア	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現状について、政治・経済・地理・文化の概要を理解する。①では、この授業で扱う地域の総合的な把握を行うと共に、ロシアの現在の概況について学習する。
第3回	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現在：②中央アジア	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現状について、政治・経済・地理・文化の概要を理解する。②では、中央アジア5か国（ウズベキスタン、カザフスタン、クルグズスタン、タジキスタン、トルクメニスタン）の現在の概況について学習する。

第4回	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現在：③南コーカサス	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現状について、政治・経済・地理・文化の概要を理解する。③では、南コーカサス3か国（アゼルバイジャン、ジョージア、アルメニア）の現在の概況について学習する。
第5回	国家・民族とは何か	ロシアとその「周辺」地域を理解する上で必要な、国家・民族の概念について学習する。
第6回	帝政期の文化	ロシア帝国時代の文化の展開を幅広く学習する。
第7回	ロシア革命とソヴィエト政権の樹立：ロシア・アヴァンギャルドの時代	ロシア・アヴァンギャルド芸術の展開について学習する。
第8回	スターリン時代：社会主義リアリズムの誕生	スターリン期のソヴィエト文化について学習する。
第9回	「雪どけ」期の文化①：雪どけ期の文化とは何か？	ソ連における「雪どけ」期の文化状況を学習する。
第10回	「雪どけ」期の文化②：ソ連でロック／ジャズは可能だったのか？	「雪どけ」以降の文化の一例として、ソ連の大衆音楽（ロック・ジャズ）の展開について学習する。
第11回	「雪どけ」期の文化③：社会主義リアリズムは芸術の発展を妨げたのか？	「雪どけ」以降の「公式芸術」の展開を見ることで、社会主義リアリズムがソ連の芸術に与えた影響について学習する。
第12回	ソ連の「非公式芸術」	ソ連の「非公式芸術」を学習することで、ソ連における「公式」と「非公式」の間の対立を考える。
第13回	「民族文化」の現在	ソ連崩壊後、それぞれの「民族文化」がどのように展開してきたかについて学習する。
第14回	まとめ・振り返り	本授業で学習した内容を振り返ると共に、文化研究への取り組み方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で提示した参考文献等をもとに、自分なりに興味を抱いた内容について図書館等での文献調査や読書をしてほしいと思います（この作業は、期末レポートの題材選定や執筆の準備を兼ねています）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。授業で使用する資料は、適宜紙媒体または学習支援システム等で配布します。

【参考書】

参考文献は適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、①平常点（授業への取り組み姿勢、および授業後のコメントシート提出）：50％、②期末レポート：50％、に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし（本年度授業担当者変更のため）。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出のために学習支援システム等を利用します。なお、授業時のPC持参は不要です。

【その他の重要事項】

生成AIツール（ChatGPT等）に関する注意事項：本授業では、成績評価対象となる期末レポートの作成に使用することは禁止とします。期末レポートの要件については、別途授業内で詳細に指示しますが、正確な引用注の記載や参考文献の表示等、内容の正確性を検証可能な条件を付けて出題することとします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces students to the cultural history of Russia, Central Asia, and the South Caucasus, especially in the Soviet period.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- (1) Have a basic knowledge of the cultural history of Russia, Central Asia, and the South Caucasus.

(2) Briefly explain the important cultural phenomena of these regions.

(3) Think critically about cultural phenomena.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Class Participation /Reaction Paper: 50%
- ・ Final Essay: 50%

AR5b300GA（地域研究（ロシア・スラブ地域） / Area studies(Russia/Slab) 300)

ロシア・東欧の文化

佐藤 千登勢

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアといわゆる東欧諸国は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方がEU加盟を果たした東欧諸国。しかしそのなかで経済的には「優等生」と位置付けられてきたハンガリーが政治的にはEUのなかで足並みを揃えない傾向にあります。

なぜでしょうか。

この講義では、ロシアと東欧諸国（おもに、ハンガリー、ポーランド、チェコ）と今では北欧に分類されるエストニアのそれぞれの民族的差異や特殊性を、主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を概観すると同時にナショナリズムの問題を提起していきます。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の民族が共生するとはどういうことかをみなさんに考えてほしいと思います。

本講義は、SAロシアの事前学習科目なのでSAエストニア（SAロシア代替）の2年生は必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、適切な文章でこれらをまとめる力をコメントシートを通して養うことを目的としています。学生のみなさんは、つねに問題意識をもちながら授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義で扱う「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及）。さらに、北欧に属するエストニアについても講義を行います。これらの国々の歴史や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、美術）、社会情勢を視聴覚資料を通して概観しながら東欧諸国とロシア（ソ連）との関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや現代の社会問題を提起していきます。私たちにとてもアクチュアルな問題として考えていくようにしましょう。毎回、コメントシートに見解をまとめてもらいますが、そのなかで興味深いコメントを選択し、翌週の授業にてフィードバックしつつ、みなさんと共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ロシアと東欧諸国の言語・宗教／日本とポーランドの関係の一面について。
第2回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、ヨーロッパ・ピクニック事件など。
第3回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉文化について映像をまじえて解説。

第4回	ハンガリー：音楽と映画をめぐって	ロマ楽団からリストやバルトークの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、サボー・イシュトヴァーン、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ベアラらの独特な作風の映画を紹介。地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容所について。伝統音楽からショパンの作品を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。アンジェイ・ワイダ作品の一部を鑑賞しながら史実を後世に伝える映画の力について考える。
第5回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	
第6回	ポーランド：街並みと風土、そして歴史からみる音楽と映画	
第7回	ポーランド：社会を反映する映画	ボランスキー、キェシロフスキ、スコリモフスキ、シュモフスカ、バヴリコフスキらの映画を一部鑑賞しつつ、そこに描かれる社会情勢を汲みとる。被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『ブラハ！』に描かれるチェコ事件について。ブラハ、チェスキー・クルムロフ、テルチ、ホラショヴィツェの歴史地区の歴史と佇まいについて。
第8回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	
第9回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	
第10回	チェコ：文学と映画をめぐって	ブラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなざく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コーリヤ、愛のブラハ』を紹介。チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのバベットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品について。
第11回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	
第12回	エストニアの歴史外観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧の歴史からe-Estoniaの社会に至るまでの軌跡。
第13回	エストニア：街並みと風土	首都タリンの旧市街、カドリオルグ宮殿、「歌と踊りの祭典」、世界遺産について。
第14回	エストニア：文学と映画、音楽をめぐって	キヴィラフク、クロス、ヘインサーの文学、映画『ノベンバー』（サルネット監督）／アルボ・ペルトの音楽を通してエストニアの精霊信仰や死生観について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品のDVDソフトは大学のAVライブラリコーナー、もしくは国際文化学部資料室にある場合が多く、文学作品は図書館で借りることができます。予習・復習を行う時間には毎回4時間以上、期末レポートの作成には、1週間以上かけてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。毎授業にて、教員が作成した資料を教場もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

特定の参考書はありませんが、適宜、参考文献を教場もしくは学習支援システムにて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50％、コメントシート30％、期末レポート20％に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

静かな環境で講義を進められるよう、配慮しますが、何よりも、皆さんの協力を期待します。

【Outline (in English)】**●Course outline**

The course covers the history, culture and art of Russia and Eastern Europe (Hungary, Poland and the Czech Republic), as well as Estonia. In the process, students will understand and appreciate the domination and nationalism of the satellite countries.

●Learning Objectives

While watching videos about Russia, Eastern Europe and Estonia, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

●Learning activities outside of classroom

Students should have the opportunity to re-watch the films, literary works, and music introduced in class. DVD software for movie works can be found in the AV library of the university or in the library of the Faculty of Intercultural Communication, and literary works can be borrowed at the library. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Please take about a week to create the term-end report.

●Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(50％), Short reports(30％) and term-end reports(20％). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ARSa300GA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 300）

ドイツ語圏の文化Ⅱ

林 志津江

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語圏の社会と人々の生活ぶりを、おもに18～20世紀に成立した文学テクストや評論、文化現象をひも解きながら、歴史的に概観します。18～20世紀のドイツ語圏の人々のライフスタイルや価値観から、21世紀の日本に住む私たちがどのような示唆に与ることができるのでしょうか。キーワードは①愛国的ナショナリズム ②ジェンダー規範 ③住まいと身体／病 ④音楽とスポーツの4点です。

- 【到達目標】
- 1) 近代ドイツ語圏／ヨーロッパ諸国と日本との歴史的なつながりを理解するとともに、当該地域の歴史的・文化的事象を批判的に読解・検討することができる。
 - 2) 他者の声に耳を傾け、自身の思考を他者に伝える意思を持ち、適切な言説・文章（日本語）で表現することができる。
 - 3) 自らの外にある国・地域に関する考察の意義を知的に理解し、その営みを、自身の背負う文化の反省へと繋げることができる。
 - 4) 近代ヨーロッパに関する知識と理解が、近代の文明社会を問い直す方法、異文化間コミュニケーションの可能性の考察に繋がっていることを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

- 【授業の進め方と方法】
- ・時系列に沿って、特定の文化現象・文学／評論テクスト、芸術作品等を軸に、授業ごとのテーマに沿って考察と議論を行います。
 - ・授業各回は、資料をスクリーンで投影しながらテーマと内容を確認します。芸術作品（音楽、画像、動画など）は授業中に、テクストの考察も授業内でみなさんと確認しながら進めます。
 - ・授業終了後には小レポートを書き、自分の考えを言語化してまとめ提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス・前史	この授業について、「ドイツ語圏」ってどこ？ 何で「ドイツ」って言うの？
2	「女がコーヒーを飲むとはけしからん！」？	公共圏の生成と「コーヒーハウス」(W. A. モーツァルト『トルコ行進曲』／J. S. バッハ『コーヒーカンタータ』)
3	「音楽が流れる素敵な家庭」？	革命と国歌のための学校、音楽ってお金になるの？ 楽器とジェンダーの関係
4	「普通」「一般」「人間」って誰？	大学の建立・「若者」の夢見る世界(カント『啓蒙とは何か』など)
5	「体育」って何のため？	ポストナポレオン時代の軍隊制度・「カッコイイ兵士」と産む性の関係(ヤーン『ドイツ体操術』など)
6	私って「ドイツ人」だったの？	「母語」と「母国語」って違うの？(A. ドーデー『最後の授業』)
7	観光業と出稼ぎ（する女）の関係？	日光浴とサナトリウムと業食主義者たちの世界(J. シュビリ『アルプスの少女ハイジ』など)
8	「清潔な水」？	大都市の発展と工業化の影で(森鴎外『舞姫』『独逸日記』・フォンターネ『迷説あれば』)
9	「音楽で一体感」？	レコードとラジオの時代・「ヴァンダーフォーゲル」で発散させる反抗期
10	「第一次世界大戦でガラガラボン」？	「拡大路線」の終焉・第一次世界大戦下の食糧計画と「カブラの冬」
11	「OL」の誕生？	タイプライターと電話が変えたものの・「女子のための」商業教育コース(M. カレコ「月曜日にはちっぽけな勤め人」など)

12	「アメリカ」よりアメリカらしい？	ハイパーインフレと大不況、食品工業の興隆とエンターテインメント化するレストラン (I. コイン『人工シルクの女の子』その1)
13	法の庇護・「女の子」の真実？	性の解放と純愛の理想 (I. コイン『人工シルクの女の子』その2／V. バウム『ホテルの人々』)
14	コーヒーの記憶ふたたび？	寒さと飢えとコーヒーの記憶・農芸化学産業の果てに (E. ケストナー『戦争日記』／H. ファラダ『ベルリンに一人死す』／I. コイン『この夜を超えて』)

- 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
・毎授業ごと、自分の考えをまとめた小レポートを作成・提出します（提出課題）。
・授業内に配布されたプリント資料に再度目を通す。
・資料に記載の参考文献を読み、次授業に備え準備する。

【テキスト（教科書）】
・授業ごと、担当者から資料を配布します。

- 【参考書】
・臼井隆一郎『コーヒーが巡り世界史が巡る 近代市民社会の黒い血液』（中央公論新社）1992年
・木村靖二（編著）『ドイツ史（新版 世界各国史）』（山川出版社）2001年
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
・F. ホフマン（阪井葉子、玉川裕子訳）『楽器と身体 ― 市民社会における女性の音楽活動』（春秋社）2004年
・川越修・辻英史（編）『社会国家を生きる：20世紀ドイツにおける国家・共同性・個人』（法政大学出版局）2008年
・渡辺裕『歌う国民 ― 唱歌・校歌・うたごえ』（中央公論新社）2010年
・美留町義雄『鴉外のベルリン ― 交通・衛生・メディア』（水声社）2010年
・藤原辰史『ナチスのキッチン「食べる」ことの環境史』（水声社）2012年
・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研）2017年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
・弓削尚子『はじめての西洋ジェンダー史 家庭史からグローバルヒストリーまで』（山川出版社）2021年
・D. ランゲヴィーシェ（飯田芳弘訳）『統一国家なき国民 ― もう一つのドイツ史』（みすず書房）2023年
その他、適宜授業内に指示します。

- 【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な参加と貢献（議論）・小レポート（提出課題）（70%）
・学期末レポート（30%）
以上の合計で総合的に判断します。

- 【学生の意見等からの気づき】
・学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・筆記用具およびWiFiの受信可能なデジタルガジェット

- 【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテクストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces cultural phenomena of german-speaking world, especially Germany in 19. and 20. century. The course deals with some cultural scene exclusively life and culture in modern German-speaking area and countries, especially Prussia with focusing on the way of living and Gender norms - for examples health care and body consciousness, infection and biomedicine, modern western music and sports and that all related with in the era of modernism. Students would understand meaning and points of topics and analyze handled issues through discussions, as thinking about its impact on our present-day society.

- 【Learning Objectives】
To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed review tasks.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 70%of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 30%of submitted assignments as prescribed review tasks.

PHL200GA (哲学 / Philosophy 200)

フランス語圏の文化Ⅰ (思想)

大中 一彌

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈G〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【授業の目的】この授業では、17世紀を中心とするフランスの思想や文化をめぐり、いくつかの作品を概観します。この時代は、その後、グローバルに広がっていく近代社会の基本的な枠組が—よくも悪くも—西ヨーロッパにおいて形づくられた時代です。この時代についての知識を得て、考えを深めることは、受講者自身がさまざまな文化に関して抱いている価値観を、より奥行きのある、洗練されたものにしていくのに役立ちます。

【授業の概要】

※世界史を大学受験のさいに選ばなかった人を念頭に置きつつ、基礎知識を補う意味で、やや長めに「授業の概要」を以下に記述します。
●デュビィ&マンドルー『フランス文化史』Ⅱによれば、17世紀前半のフランスは、ひとりの人間にたとえるなら「青春時代」のような状態にあった。ジャック・カルティエが「カナダ」と呼び、16世紀に探検した北アメリカの土地へは、17世紀に入ると交易やフランスからの入植が進められた。

●同じ頃、活版印刷と結びついて西ヨーロッパに広がった宗教改革は、伝統的なカトリック教国のフランスにも、プロテスタントの信仰を浸透させた。この浸透の結果もたらされた悲慘な宗教戦争を、ナントの勅令(1598年)により収拾したのはブルボン朝の創始者アンリ4世である。これに続く17世紀前半は、若々しさを連想させる経済社会の成長を基調としながらも、成長ゆえにカトリック教会を含む従来の秩序がゆらいだ時代でもあった。

●同時代の哲学者ルネ・デカルトは、迷信や思い込みに囚われた人間の意識のあり方を疑い、知識の確実な基礎を、数学や自然科学を支える合理精神のなかに、むしろ見いだした。

●同じく17世紀の哲学者パスカルの「人間は一本の草に過ぎない、だがそれは考える草である」という言葉は、環境に左右されやすく傷つきやすい肉体の弱さと、無限の宇宙をも分析しうる知性をもつ尊厳のあいだで、揺れ動く人間の姿をよく特徴づけている。

●17世紀から18世紀前半にまたがるルイ14世の治世は、フランス史において「偉大な世紀」と呼ばれる。政治面においてはいわゆる絶対王政、文化面においてはいわゆる古典主義をつうじて、それぞれの領域における秩序の完成が目指された。

●ナントの勅令の廃止(1685年)によりカトリック教国としての純化を図り、宗教的寛容で知られた当時随一の商業大国ネーデルラント(オランダ)を屈服させようとしたルイ14世の力の基盤となっていたのは、フランスの人口の多さ(約2000万人)にくわえ、国内における強力な徴兵・徴税制度といった、リシュリューやマザラン、コルベールら、王権に仕えた実務家たちが積みあげた成果のうえにできた、集権的な世俗の国家であった。

●また、文化面における古典主義は、こうした国家から庇護を受け、ルイ14世という君主の栄光を讃美する(現代でいう)プロパガンダの面を確かにもっていたが、ヨーロッパの多くの宮廷が模倣するような対外的影響力も実際に有していた。

●イギリスやオランダとともに、いわゆる啓蒙思想の震源地であったこの時代のフランスの哲学者たちは、国境を越えた「文芸の共和国」のなかで活動しており、ルイ14世により確立された集権的な専制政治や、宗教における純化志向がもたらしがちな狂信に対して、しばしば批判的であった。

【到達目標】

1. 人が学び、成長し、より洗練された文化がかたちづくられていく際に、「古典」が果たしうる役割について、大学生にふさわしい建設的な意見を述べるができる。

2. 「オリエンタリズム」や「ヨーロッパ中心主義」のような、基本的にはヨーロッパの外側からする定型的な批判にとどまることなく、異文化としての17世紀フランスを、ある程度内側から見る、個別の作品に即した理解をもったうえで、みずからの考えをまとめることができる。

3. ヨーロッパの近世芸術におけるギリシア・ローマの神々のモチーフの重要性や、モンテーニュやデカルトに見られる、旅行を通じ、みずから生まれ育った文化(「自文化」)を相対化する視点に着目しながら、17世紀フランスにおける、さまざまな宗教や宗教批判のあり方について、「一神教は不寛容」「多神教は寛容」といったステレオタイプに陥らずに、論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この授業は基本的に「対面」です。

・学生からの書き込み等に対するフィードバックは、基本的に授業時間内に行いますが、学習支援システムやGoogle Classroomを利用する場合があります。

・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱い切れなかった内容を補足する動画を、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	シラバスと毎回進行表の説明	この授業での学び：古典と「古典主義」。チャールズ英国王のフランス語スピーチ
第2回	フランスにおけるルネサンス	16世紀：お手本としてのイタリアの芸術
第3回	国民性としての「古典主義」というストーリー	「フランス精神」の理想は、明晰(めいせき)・判明なデカルト的合理主義、と伝統的に主張されてきた。古典主義と合理主義の結びつきに関するフーコーとデリダの対比
第4回	デカルトと「悪しき霊」	私や世界は実在すると、ほんとうに言えるのか？ あなたは悪しき霊(an evil genius)にだまされて、夢やまぼろしを現実と取り違えているだけではないのか？
第5回	遠近法と劇のなかの劇	デカルトは『屈折光学』で動物実験から網膜には我々が見る対象と似た「絵」(画像)が観察されると確認していた。フランス式の庭園とは、「光学とだまし絵の新しい法則」が活かされる、スペクタクルの空間である。
第6回	コルネイユ『舞台は夢』	原題はイリュージョン・コミック。全ては幻影なのか、それともむしろ、フィクションこそが人生の学校なのか？
第7回	絵画における古典主義	ワインと血、ダンスにあふれる若きブッサンの絵画。晩年のブッサンの作品《春》で神はどちらを向いていたか？
第8回	《王は踊る》	沼地に囲まれた小さな城館に過ぎなかったヴェルサイユが、ダンス好きの君主ルイ14世により、権力と芸術のための一大装置と化しました。

第9回	宮廷社会の成立	日本にも「すまじきものは宮仕え」という表現がありますが、王様の恩顧を得ようと競うフランスの宮廷社会でも、洗練された貴族の作法を身につけていないと生き残れなかったようです。
第10回	ヴァニタスと神の恩寵	シャンパーニュの絵画《ヴァニテ、あるいは人生の寓意》では、生命を象徴する赤い花のところに頭蓋骨と砂時計が置かれます。その意味とは？
第11回	モラリストと仮面	モラリストの「寓話」や「箴言（しんげん）」はしばしば挫折の経験を昇華したもの。子ども向けの寓話だからと、あなどるなかれ。
第12回	幾何学的な無限と「考える葦」	デカルトと並び、17世紀フランスを代表する思想家のパスカル。今でもヘクトパスカル（hPa）などの物理分野の単位に名を残しています。
第13回	パスカルの賭け	「私たちには、神が何であるかも、果たして存在するかどうか、知ることができない…だが賭けなければならない」。あなたなら、神の存在、神の不在、どちらに賭けますか？
第14回	サン・テグジュペリ『人間の大地』（1939年）	「1人の瘦せたパスカルを生み出すことは、金回りの良い月並みな人間を数名誕生させることよりよほど大きなことだ。」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（ア）毎回、授業にたいするコメントの執筆をお願いいたします。
（イ）（ア）以外で、希望する受講者が授業内容にかんする話題提供を行った場合、積極的な参加態度として加点いたします。指定するLMS（学習支援システム-Hoppiiの掲示板かGoogle Classroomのストリーム>コメント）に、文章やリンクを貼り付けてください。
（ウ）この授業の準備や復習に必要な学習時間は、提示された資料や映像を検討したり、上記（ア）（イ）を行ったりするのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みした場合、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

・教科書を買う必要はありません。
・シラバスの【授業計画】に示されている内容にかんする資料を毎回配布します。
・なお【授業計画】のより詳しい説明を、次のリンク先に置いてあります（Excelファイル）<https://x.gd/nmWv1>

【参考書】

参考となる映像作品：
バトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994年。
ジェラルド・コルビオ監督『王は踊る』2000年。
エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969年。
ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973年。
参考となる音楽作品：
夜の王のコンサート（夜の王のバレエに基づく）※原題"Le Ballet Royal de la Nuit"で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

（ア）期末試験：実施しない（0%）
（イ）期末レポート：実施しない（0%）
（ウ）コメントシートの提出の有無および質（80%）
※各回10点満点、学習支援システム>テスト/アンケート機能から同じ週の土曜日午前09時00分00秒までに提出
（エ）平常点（20%）
※授業参加者数によるが、座席表に記入してもらおうといった形を想定している。
（オ）その他（学生による話題提供、授業運営への協力、講師のミスの指摘を想定）

※（ウ）と（エ）の合計100%の枠外で5～20%の加点を行う。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

・過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・問い合わせ先や、この授業で扱う範囲（17世紀のヨーロッパ）に関係する画像たちを、次のリンク先に置いておきましたので、ぜひご覧ください（Wordファイル）<https://x.gd/cnNQC>

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布や学生側からの情報の提示など、さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii等）で行ないます。そのため、スマートフォンやタブレット、できればノートパソコンのような、情報端末が必要です。

【その他の重要事項】

※国際文化学部をはじめとする法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。
※千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
※この「フランス語圏の文化Ⅰ（思想）」における使用言語は日本語ですが、文化や社会にかんする内容を扱い、かつ、フランス語の学習を主な目的とする科目に「時事フランス語Ⅰ」（<https://x.gd/pdJmh>）「時事フランス語Ⅱ」（<https://x.gd/Eqqfz>）があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。
※現代のヨーロッパ、特にその移民社会としての側面に、興味・関心のある方は、サマーセッションで開講される「教養ゼミⅠ『移民社会』入門～見える国境と見えない国境～（8月上旬）」（<https://x.gd/bp4JW>）やオータムセッションで開講される「教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～（9月中旬）」（<https://x.gd/benIb>）をぜひ履修しましょう。人物や映像作品を軸に、各学部・学科の専門課程で学ぶのとは異なる視点から、いわゆる社会人の教養として求められる、現代の政治・社会・文化にかんする学びを、初学者が体験できるコースになっています。

※国際文化学部の学生で、ヨーロッパの文化的な側面に関心がある方は、大学院国際文化研究科で水2限に開講されている「多言語社会論A」（<https://x.gd/RI11D>）「多言語社会論B」（<https://x.gd/IYbfj>）を履修できます。2025年度は「青の政治学」がテーマです。「青」という色を導きの糸として、言語だけでなく、美術やファッションをふくめた、ヨーロッパ地域における文化と社会のかかわりについて見ていきます。

【Outline (in English)】
【Course outline】

This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral participations in Japanese will be required.

[Learning Objectives]

1. Gain an overview of representative works of French thought and culture of the 16th and 17th centuries through the reading of the texts in each session.
2. Foster the ability to identify, without stereotyping, the themes contained in the characters and works of each text.
3. Develop each student's own ideas about the relationship between power and justice, and between religious fanaticism and violence.

[Learning activities outside of classroom]

- (a) No preparation is required.
- (b) Students may be asked to write comments on the class.
- (c) Students who wish to contribute topics related to the class content other than (b) will receive points for their active participation. Please paste the text or link to the designated LMS (Learning Support System-Hoppii's Discussion Board or Google Classroom's Stream > Comments).
- (d) The study time required for preparation and review of this class will be the time needed to study the materials and videos presented and to do (b) and (c) above. Since this is a class for diverse students with different proficiency levels in Japanese and other languages, a uniform length of time will not be specified, but in accordance with the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each 2 credit lecture and seminar should be at least 4 hours per session.

[Grading Criteria]

- (a) Final Examination: Not conducted (0%)
- (b) Final Report: Not conducted (0%)
- (c) Submission and Quality of Comment Sheets (80%)

Each submission is graded on a 10-point scale per session. Comment sheets must be submitted via the Learning Support System > Test/Survey function by 9:00 a.m. on the Saturday of the same week.

- (d) Class Participation (20%)

The evaluation method may vary depending on the number of participants. For example, students may be asked to fill in a seating chart.

- (e) Others (e.g., student-led topic presentations, cooperation in class management, pointing out instructor's errors)

An additional 5 - 20% may be awarded beyond the combined total of (c) and (d), which accounts for 100% of the base grade.

ARSa300GA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 300）

スペイン語圏の文化Ⅰ

久木 正雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：スペイン語圏の文化Ⅰ（多言語国家スペイン）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数枠を30名とし、それを超えた場合は抽選とする

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スペインの歴史と、そこに生きる人々が織り成す社会、そして彼らが生み出した有形・無形の文化遺産について学ぶ。とりわけ、スペインを構成する諸地域および言語・民族の多様性と、それらの歴史的重層性への理解を得ることを目的とする。また、バルセロナ大学へのSAに参加する2年生は、バルセロナとカタルーニャへの理解と関心を、空間的にも時間的にも広い視野の中で深めてもらいたい。

【到達目標】

スペインの歴史・文化・社会が放つ多彩な魅力と、そこに付随する諸問題への理解と関心を深め、各自の考えをプレゼンテーション、ディスカッション、学期末レポートにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションとディスカッションを中心に行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	「多様」で「異質」なスペイン文化	しばしば他のヨーロッパ諸国の文化と比して「多様」で「異質」なものとして語られるスペイン文化について、その諸要素と言説形成の過程を批判的に考察する。
3	スペイン文化総論：19世紀末～20世紀前半	王政復古体制期、第二共和政期、内戦期のスペイン史に関する理解を得ながら、近現代のスペイン文化を概観する。
4	スペイン文化総論：20世紀後半	フランコ体制期から民主化への移行期までのスペイン史に関する理解を得ながら、現代のスペイン文化を概観する。
5	スペインの諸言語	スペインで用いられている諸言語と、それらの歴史的・政治的位置への理解を深める。
6	宗教と人々	カトリック教会と国家、社会、そして人々との関係について、近現代を中心に考察する。

7	祝祭	いわゆる三大祭りを題材として、地域ごとに趣を異にするスペインの祝祭への理解を深める。
8	伝統芸能	フラメンコと闘牛を題材として、それらの地域性と「国民的」な伝統芸能としての側面について考える。
9	都市と建築	バルセロナに焦点を当てて、都市計画とアントニ・ガウディの建築に代表される文化とその背景への理解を深める。
10	内戦と芸術	内戦とその記憶の問題について、文学、絵画、映画といった芸術作品との関係の中で考える。
11	サッカー	スペインの国民的スポーツと言えるサッカーの、娯楽としての側面と政治的な側面について考える。
12	ジェンダーと文化	スペインにおけるジェンダーと文化との関係について、主に女性史の観点から考察する。
13	世界の中のスペイン	ヨーロッパの一国としての、そしてスペイン語圏の一国としての、現在のスペインの姿について考える。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に指示したテキストの範囲または配布した資料を熟読しておくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高編著『概説 近代スペイン文化史—18世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2015年、ISBN9784623066759、本体価格3,200円。

【参考書】

- 田澤耕『カタルーニャを知る事典』平凡社新書、2013年、ISBN9784582856743、本体価格860円。
 - 田澤耕『物語 カタルーニャの歴史—知られざる地中海帝国の興亡 増補版』中公新書、2019年、ISBN9784121915641、本体価格920円。
 - 立石博高『スペインにおける国家と地域—ナショナリズムの相克』国際書院、2002年、ISBN9784877911140、本体価格3,200円。
 - 立石博高『歴史のなかのカタルーニャ—史実化していく「神話」の背景』山川出版社、2020年、ISBN9784634151628、本体価格2,750円。
 - 立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための50章』明石書店、2016年、ISBN9784750344157、本体価格2,000円。
 - エドゥアルド・メンドサ（立石博高訳）『カタルーニャでいま起きていること—古くて新しい、独立をめぐる葛藤』明石書店、2018年、ISBN9784750347578、本体価格1,600円。
- その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30%、ディスカッションへの参加度：30%、学期末レポート：40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでプロジェクターを使用する場合には、接続用のPC（本体）は各自が用意すること。ケーブルやアダプターといった周辺機器は教員が用意する。

【その他の重要事項】

- 履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨と選抜方法を前日のうちに同システムで通知する。

- この授業は春学期で完結し、秋学期開講の「スペイン語圏の文化Ⅱ」（授業コード：C0946、担当教員：佐々木直美）との直接の連続性はない。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide students with a basic understanding of various aspects of Spain and its regions: histories, societies and cultures.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of histories, societies and cultures of Spain and its regions, and the ability of express your ideas accurately in presentation, discussion and term-end report.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Assigned presentation (30%), in-class contribution (30%), and term-end report (40%).

ARSd300GA (地域研究 (中・南アメリカ) / Area studies(Middle and South America) 300)

スペイン語圏の文化Ⅱ

佐々木 直美

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）
旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：人数枠を30名とし、それを越えた場合は抽選とする

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、南北アメリカ大陸とカリブ海におけるスペイン語圏諸国・諸地域（アメリカ合衆国を含む）の、歴史・文化・社会の諸相について学ぶ。ラテンアメリカと総称されるこれらの地域は、極めて広大かつ多様性（あるいは不均衡）に満ちている。本授業では、特にインカ帝国が栄えたペルーの歴史や文化を中心的なテーマに据えながらも、個々の地域またはトピックへの理解と関心を深めることを通じて、可能な限りの全体像を掴むことを目的とする。

【到達目標】

ラテンアメリカの歴史・文化・社会に関する基本的な理解を得る。
各自の問題関心を深め、それらをプレゼンテーションやレポートに言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講生の中から予め定めた担当者が各回のテーマに関するプレゼンテーションを行う。担当以外の受講生もあらかじめ指定された図書や資料に目を通し、授業内でおこなわれたプレゼンテーションの内容を踏まえて、議論に参加する。
また、授業に関係する映画や展覧会、講演などの文化イベントへの積極的な参加を促す。

受講生は毎回リアクションペーパーを提出し、それに対する教員からのフィードバックは授業内もしくは学習支援システムを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有し、プレゼンテーションの担当を決定する。
2	ペルーの伝統芸能	教員の研究テーマであるペルーの「ハサミ踊り」について取りあげ、その解釈と芸能の伝承について考察する。
3	ペルーの歴史 先スペイン期	インカについてその文明や歴史について、最新の研究成果を踏まえて学ぶ。
4	メキシコの歴史 先スペイン期	マヤ・アステカについてその文明や歴史、そして最新の研究成果も踏まえてまなぶ。
5	ラテンアメリカの女性たち (1) フリーダ・カーロ	映画「フリーダ」を資料に用いつつ、フリーダ・カーロを切り口に、歴史と社会的背景について学ぶ。
6	ラテンアメリカの女性たち (2) リゴベルタ・メンチュウ	リゴベルタ・メンチュウの歴史について学ぶ。
7	ラテンアメリカの女性たち (3) エバ・ペロン	エバ・ペロンとアルゼンチンの歴史について学ぶ。
8	ラテンアメリカの芸術	ラテンアメリカの画家とその作品を通して歴史と文化を学ぶ。
9	南米の食文化	ペルーやその他の南米の食文化について知る。
10	中米・カリブ地域の食文化	食の歴史をたどりながら、中米やカリブ海地域の多様性について学ぶ。
11	ラテンアメリカの音楽	ラテンアメリカの音楽について、音源や映像を活用しながら学ぶ。
12	日本とラテンアメリカ	日系移民と南米からの日本への移民について、その社会的背景と歴史を学ぶ。
13	ラテンアメリカに関する映画	映画を題材に、ラテンアメリカの人々や社会的背景について学ぶ。

14 ペルーの世界遺産 ナスカの地上絵やそのほかのペルーに登録されている世界遺産について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に指示する資料を読んだり鑑賞したりすること。
また、自分がプレゼンを担当する内容については、最低5冊以上の参考文献をもとにプレゼン資料を準備すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

購入が必要な教科書はありません。課題図書や映像資料は授業内で適宜指示するので、図書館や大学のAVライブラリーなどを上手に活用すること。

【参考書】

- 寺尾隆吉『ラテンアメリカ文学入門 - ボルヘス、ガルシア・マルケスから新世代の旗手まで』中公新書、2016年。
- 高橋均、網野徹哉『ラテンアメリカ文明の興亡』（世界の歴史、18）、中公文庫、2009年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題：60％、授業への貢献とプレゼンテーション：40％。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション担当の回は、発表者がPCを準備すること。

【その他の重要事項】

受講生と相談しながら、授業計画にあるプレゼンのテーマや内容の順番を入れ替える可能性もある。
この授業は定員を設けているため、定員以上の受講希望者がいる場合は1回目授業に選抜を行う。したがって受講を強く希望する人は必ず1回目から参加すること。
受講者はスペイン語既修者に限らない。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with a basic understanding of several aspects of Latin America and the Caribbean: histories, societies and cultures.

< Learning Objectives >

By the end of this course, students are expected to gain a basic understanding of Latin American history, culture and society.

You will be able to deepen your interest in problems and translate them into presentations and reports.

< Learning activities >

Your study time will be more than two hours for a class.

< Grading Criteria/Policy >

Short reports : 60%, in class contribution: 40%.

LANs300GA (スペイン語 / Spanish language education 300)

カタルーニャの文化Ⅰ (言語A)

DANIEL FORTEA MUNOZ

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「バルセロナ」「ガウディ」「ダリ」「バルサ」「人間の塔」……。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインにではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

その魅力はカタルーニャ語なしでは本格的に味わえないことは言うまでもなく、カタルーニャ文化・社会の大部分に触れることもできません。そこで、この授業はカタルーニャ語の基礎をしっかり身につけることはもとより、カタルーニャの世界に関心を持つ機会をつくることも目的とします。

最後に、この授業の続きとして「カタルーニャの文化Ⅱ (言語B)」もあるので、関心を持った学生はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャ語はその政治的かつ社会的な状況を知ることが特に欠かせない言語であるため、並行して「カタルーニャの文化Ⅲ (歴史・社会A)」および「カタルーニャの文化Ⅳ (歴史・社会B)」を履修することを強く推奨します。

【到達目標】

- ① 基礎カタルーニャ語の能力を確実に習得すること (ヨーロッパ言語共通参照枠A1レベル相当)。
- ② カタルーニャ語とカタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ① 小テスト：定期的に行う15分程度の筆記・リスニングのテストです。
- ② 態度：授業の内容を理解したり深めたりすること、授業に貢献すること、カタルーニャ語圏の社会・文化に触れようとする等を示す態度です。
- ③ 自己紹介の発表：自己紹介の短い個人発表を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、挨拶などの日常表現	—Com anem? —Molt bé, gràcies. I tu?
2	アルファベット、発音、二重母音、強勢の位置、主格人称代名詞、人称冠詞、動詞ser、疑問文、否定文	—Ets de Barcelona, oi? —No, jo soc de Girona.
3	名詞と形容詞の性数冠詞、動詞estar、動詞tenir、疑問詞	—Com és en Pol? —Té 20 anys i és molt simpàtic.
4	位置と存在の動詞	El Museu Picasso és al centre de Barcelona. A Barcelona hi ha molts museus!
5	指示詞、所有詞	Aquests són els meus pares i aquest és el meu gos.

6	動詞ser, estar, haver-hi, tenirの比較、位置の表現	L'Anna és molt activa, però ara està força cansada i té son.
7	現在の規則動詞・不規則動詞、時間の表現	Jo visc a Mallorca, estudio a la universitat i treballo en un restaurant italià.
8	動詞conèixer, saber, poderの比較、前置詞、つなぎ言葉	La Laia vol venir amb nosaltres a la platja, però avui no pot.
9	直接・間接目的格弱勢代名詞	Vull aquest videojoc, però els pares no me'l compren pas.
10	動詞agradarと同型の動詞、動詞句と他の便利な表現	A mi m'agrada molt el cafè, però avui m'estimo més un te.
11	量詞、不定語	—Vols veure alguna pel·lícula? —No, no en vull veure cap.
12	再帰代名詞を使う動詞	Nosaltres normalment ens aixequem a les set.
13	自己紹介の発表	自己紹介の短い個人発表を行います。
14	映画鑑賞&ディスカッション	カタルーニャの映画を観てから、グループでディスカッションを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に大事です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト (教科書)】

配布資料 (文法・練習・語彙を含みます)。

【参考書】

教場では細かい参考書リストを提供します。

田澤耕 (2002) 『カタルーニャ語辞典』 大学書林。

—— (2007) 『日本語カタルーニャ語辞典』 大学書林。

—— (2013) 『カタルーニャ語小辞典』 大学書林。

—— (2013) 『カタルーニャを知る事典』 平凡社。

Dols, Nicolau, and Richard Mansell, 2017, *Catalan: An Essential Grammar*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

- ① 小テスト [50%]
- ② 態度 [30%]
- ③ 自己紹介の発表 [20%]

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは授業の進捗状況や受講生の関心などに合わせて、適宜変更される可能性があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院 (Institut Ramon Llull) の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

“Barcelona”, “Gaudi”, “Dali”, “Barça”, “human towers” … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.

Obviously, one cannot really appreciate Catalonia's fascinating world without its own language, Catalan. But not only that, since approaching its culture and society also requires it most of the times. Because of this, the main goals of this class are to acquire a basic knowledge of Catalan, and also to create opportunities to enhance interest in Catalonia's world.

Finally, this class is followed by “Catalan Culture II (Language B)”, so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, Catalan is a language that particularly cannot be isolated from its political and social circumstances, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture III (History and Society A)” and “Catalan Culture IV (History and Society B)” as well.

【Learning Objectives】

1. Acquire a basic knowledge of Catalan language (CEFR A1 level).
2. Find motivation so as to continue having interest in Catalan and Catalonia’s history, culture and society.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria /Policy】

1. Minitests (50%)
2. Attitude (30%)
3. Self-presentation speech (20%)

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

LANs300GA (スペイン語 / Spanish language education 300)

カタルーニャの文化Ⅱ (言語B)

DANIEL FORTEA MUNOZ

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「バルセロナ」、「ガウディ」、「ダリ」、「バルサ」、「人間の塔」…。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインだけではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

その魅力はカタルーニャ語なしでは本格的に味わえないことは言うまでもなく、カタルーニャ文化・社会の大部分に触れることもできません。そこで、この授業はカタルーニャ語の初中級をしっかりと身につけることはもとより、カタルーニャの世界に関心を持つ機会をつくることも目的とします。

最後に、カタルーニャ語はその政治的かつ社会的な状況を知ることが特に欠かせない言語であるため、並行して「カタルーニャの文化Ⅲ (歴史・社会A)」および「カタルーニャの文化Ⅳ (歴史・社会B)」を履修することを強く推奨します。

【到達目標】

- ① 初中級カタルーニャ語の能力を確実に習得すること (ヨーロッパ言語共通参照枠 A2～B1 レベル相当)。
- ② カタルーニャ語とカタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ① 小テスト：定期的に行う 15 分程度の筆記・リスニングのテストです。
- ② 態度：授業の内容を理解したり深めたりすること、授業に貢献すること、カタルーニャ語圏の社会・文化に触れようとするなど等を示す態度です。
- ③ 映画分析の発表：映画分析の個人発表とディスカッションを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、総復習	Quant de temps!
2	比較級、最上級	El Mont Fuji és més alt que la Pica d'Estats.
3	点過去、現在完了、線過去	Aquest matí quan m'he aixecat tenia molta gana.
4	過去完了、過去時制の使い分け	Quan vaig arribar a l'estadi, el partit ja havia començat.
5	未来、命令	Vine a la festa, que t'ho passaràs molt bé!
6	現在分詞	En Miquel sempre està fent bromes als seus amics.
7	間接話法	El meu fill diu que vol ser astronauta.
8	無人称性を表す構文	Es pot visitar la Casa Milà a la nit?

9	過去未来	Et convindria no menjar tants dolços.
10	関係詞節	Tinc un amic que parla set llengües.
11	接続法	Espero que guanyeu el partit!
12	〈続〉接続法	Necessito un llibre que expliqui bé el subjuntiu.
13	映画分析の発表	映画分析の個人発表とディスカッションを行います。
14	映画分析の発表	映画分析の個人発表とディスカッションを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

少なくとも 60 分の予習と 180 分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に大事です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト (教科書)】

配布資料 (文法・練習・語彙を含みます)。

【参考書】

教場では細かい参考書リストを提供予定です。

田澤耕 (2002) 『カタルーニャ語辞典』大学書林。

—— (2007) 『日本語カタルーニャ語辞典』大学書林。

—— (2013) 『カタルーニャ語小辞典』大学書林。

—— (2013) 『カタルーニャを知る事典』平凡社。

Dols, Nicolau, and Richard Mansell, 2017, *Catalan: An Essential Grammar*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

① 小テスト [50%]

② 態度 [30%]

③ 映画分析の発表 [20%]

成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院 (Institut Ramon Llull) の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

“Barcelona”, “Gaudí”, “Dalí”, “Barça”, “human towers” … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.

Obviously, one cannot really appreciate Catalonia's fascinating world without its own language, Catalan. But not only that, since approaching its culture and society also requires it most of the times. Because of this, the main goals of this class are to acquire an elementary knowledge of Catalan, and also to create opportunities to enhance interest in Catalonia's world. Finally, Catalan is a language that particularly cannot be isolated from its political and social circumstances, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture III (History and Society A)” and “Catalan Culture IV (History and Society B)” as well.

【Learning Objectives】

1. Acquire a pre-intermediate knowledge of Catalan language (CEFR A2-B1 level).

2. Find motivation so as to continue having interest in Catalan and Catalonia's history, culture and society.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria /Policy】

1. Minitests (50%)
2. Attitude (30%)
3. Film analysis speech (20%)

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

HIS300GA (史学 / History 300)

カタルーニャの文化Ⅲ (歴史・社会A)

DANIEL FORTEA MUNOZ

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「バルセロナ」、「ガウディ」、「ダリ」、「バルサ」、「人間の塔」…。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインだけではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

この授業は、カタルーニャの歴史・文化・社会を知るための入門であると同時に、批判的な視点を培いつつ、世界の事情とのつながりを探求することも目的とします。スペインにありながらスペインではないという曖昧な状況を体現するカタルーニャには、例のない独特な文化のみならず、今日のグローバル化社会を理解するための矛盾=ヒントも多く見出されます。

最後に、この授業の続きとして「カタルーニャの文化Ⅳ (歴史・社会B)」もあるので、関心を持った人はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャの世界に本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化Ⅰ (言語A)」および「カタルーニャの文化Ⅱ (言語B)」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

- ① カタルーニャの歴史・文化・社会に関する一般的な知識を身につけること。
- ② カタルーニャと世界とのつながりを先鋭に研究・論述・議論を行うこと。
- ③ カタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ① アクティブラーニング：学生が選んだ、日本居住のカタルーニャ人と交流し、その経験をレポートで紹介する。
- ② 授業態度：授業の内容を理解したり深めたりすること、授業に貢献すること、カタルーニャ語圏の社会・文化に触れようとする態度を示す態度です。
- ③ 自習ファイル：カタルーニャの歴史・文化・社会に関する自主的な活動を証明するファイルの提出です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方の説明。
2.	先史・古代史	10世紀まで。
3.	中世史	10～15世紀。
4.	近代史	16～19世紀。
5.	現代史	19世紀～現在。
6.	バルセロナの都市空間史	都市空間を分析する妥当性、歴史的な変貌、大型イベント、現代のジェントリフィケーションなど。

7.	言語	カタルーニャ語の形成過程、各地域の特徴、スペイン語との共存、現状など。
8.	民俗文化	行事、祝日、祭りや習俗、民俗芸能など。
9.	芸術	ロマネスク、ガウディ、ピカソ、ミロ、ダリなど。
10.	音楽	クラシック音楽、ノバ・カンソ、現代音楽など。
11.	食文化	伝統的な料理や行事食、現代の超創作料理など。
12.	スポーツ	巡検運動、人民オリンピック、バルセロナオリンピック、FCバルセロナの特性、スポーツと政治の関係など。
13.	映画鑑賞&ディスカッション	カタルーニャの映画を観てから、グループでディスカッションを行います。
14.	アクティブラーニングの成果共有	自らのカタルーニャ人との交流を簡単に紹介します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」也非常に重要です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

教場では細かい参考書リストを提供します。

田澤耕 (2013)『カタルーニャを知る事典』平凡社。

—— (2019)『物語 カタルーニャの歴史——知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。

立石博高／奥野良知編 (2013)『カタルーニャを知るための50章』明石書店。

Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, Boydell & Brewer.

Dowling, Andrew, 2022, *Catalonia: A New History*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

① アクティブラーニング (50%)

② 授業態度 (30%)

③ 自習ファイル (20%)

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院 (Institut Ramon Llull) の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

“Barcelona”, “Gaudí”, “Dali”, “Barça”, “human towers” … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.

This class is not only meant as an introduction to Catalonia’s history, culture and society, but also aims to cultivate critical thinking and search connections to world affairs. Being in Spain, but at the same time not being Spain proper, Catalonia incarnates an ambivalent situation. However, it is precisely within this complexity that one can find not only the uniqueness of its culture, but also numerous contradictions which become hints for understanding today’s global society.

Finally, this class is followed by “Catalan Culture IV (History and Society B)”, so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture I (Language A)” and “Catalan Culture II (Language B)” as well.

【Learning Objectives】

1. Acquire a general knowledge about Catalonia's history, culture and society.
2. Research, communicate and discuss critically on Catalonia and its linkage to the world.
3. Find motivation so as to continue having interest in Catalonia's history, culture and society.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria /Policy】

1. Active learning: cultural exchange with a Catalan resident in Japan and written presentation of the experience (50%)
2. Class attitude (30%)
3. Self-study file (20%)

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

HIS300GA（史学 / History 300）

カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）

DANIEL FORTEA MUNOZ

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「バルセロナ」、「ガウディ」、「ダリ」、「バルサ」、「人間の塔」…。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインだけではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

この授業は、カタルーニャの歴史・文化・社会を知るための入門であると同時に、批判的な視点を培いつつ、世界の事情とのつながりを探求することも目的とします。スペインにありながらスペインではないという曖昧な状況を体現するカタルーニャには、例のない独特な文化のみならず、今日のグローバル化社会を理解するための矛盾＝ヒントも多く見出されます。

最後に、カタルーニャの世界を本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）」および「カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

- ① カタルーニャの歴史・文化・社会に関する一般的な知識を身につけること。
- ② カタルーニャと世界とのつながりを先鋭に研究・論述・議論を行うこと。
- ③ カタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ① アクティブラーニング：学生が選んだカタルーニャに関するテーマの個人的な発表です。
- ② 授業態度：授業の内容を理解したり深めたりすること、授業に貢献すること、カタルーニャ語圏の社会・文化に触れようとするこゝ等を示す態度です。
- ③ 自習ファイル：カタルーニャの歴史・文化・社会に関する自主的な活動を証明するファイルの提出です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方の説明。
2.	産業革命に対する社会的闘争	19世紀から20世紀当初まで。
3.	独裁制に対する社会的闘争	1930年代から1970年代まで。
4.	グローバル化社会に対する社会的闘争	1970年代から現在まで。
5.	政治	自治復活、カタルーニャ自治憲章、現代の諸政党など。
6.	独立運動	独立運動の歴史、現在の独立運動の特徴、各社会行為者による立場と理由づけ、今後の独立実現の可能性など。

7.	経済	カタルーニャ独自の産業革命の特徴、内戦中のアナキスト革命による経済、スペイン国家内の自治州としてのカタルーニャの経済など。
8.	移民とアイデンティティ	移民の動向、移民受け入れ政策の変遷、カタルーニャ人性の定義、多文化共生の諸相など。
9.	カタルーニャ語の現在と未来	カタルーニャ語の使用の動向、公教育をめぐる論争、グローバル化社会に伴う諸挑戦など。
10.	ジェンダー	フェミニズムとLGBTI+の運動と制度の歴史、法律の詳細、現代の論争など。
11.	映画	バルセロナ映画派、クリエイティブ・ドキュメンタリー、近年の国際化など。
12.	学生の発表	アクティブラーニング
13.	〔続〕学生の発表	アクティブラーニング
14.	映画鑑賞&ディスカッション	カタルーニャの映画を観てから、グループでディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に大事です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】

配布資料。

【参考書】

教場では細かい参考書リストを提供します。

田澤耕（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。

——（2019）『物語 カタルーニャの歴史——知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。

立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための50章』明石書店。

Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, Boydell & Brewer.

Dowling, Andrew, 2022, *Catalonia: A New History*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

① アクティブラーニング〔50%〕

② 授業態度〔30%〕

③ 自習ファイル〔20%〕

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院（Institut Ramon Llull）の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

“Barcelona”, “Gaudí”, “Dalí”, “Barça”, “human towers” … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.

This class is not only meant as an introduction to Catalonia’s history, culture and society, but also aims to cultivate critical thinking and search connections to world affairs. Being in Spain, but at the same time not being Spain proper, Catalonia incarnates an ambivalent situation. However, it is precisely within this complexity that one can find not only the uniqueness of its culture, but also numerous contradictions which become hints for understanding today’s global society.

Finally, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture I (Language A)” and “Catalan Culture II (Language B)” as well.

【Learning Objectives】

1. Acquire a general knowledge about Catalonia’s history, culture and society.
2. Research, communicate and discuss critically on Catalonia and its linkage to the world.
3. Find motivation so as to continue having interest in Catalonia’s history, culture and society.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria /Policy】

1. Active learning (50%)
2. Class participation (30%)
3. Self-study file (20%)

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

ARSk300GA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)

英語圏の文化Ⅲ（現代事情）

栗飯原 文子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：教室定員以上の受講希望者がいる場合には抽選します

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語圏世界とは、むしろイギリスや北米だけではなく、世界中に広がるイギリスの統治地域や植民地（そしてアメリカの領土なども）を多く含みこむ。したがって、英語圏世界について学ぶことは、多くの場合、旧植民地地域について学ぶことでもある。そのためにもこの授業では、かつて「第三世界」あるいは「南」と呼ばれた旧植民地地域の歴史的な軌跡を概観して、「世界史」を異なる視座から学び、ひいては「英語圏」という枠組を再考することを目的とする。

【到達目標】

・旧植民地地域について学び、現代の国際状況の理解につなげる。
・旧植民地地域の歴史を振り返り、その主体性を重んじながら、西洋の視点から語られる「世界史」に対する別様の視点を身につける。またそこから、多様な文化的背景をもつ人々および国々の相互交流とその意義や課題について複数の角度から理解する。
・東西の対立という観点から説明され、理解されがちな冷戦を、旧植民地地域の経験から再考する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・授業は学習支援システムを通じたオンライン（オンデマンド方式）での開講となる。毎週金曜日に「お知らせ」を配信するので確認すること。
・毎回視聴覚資料を配信する。各自で学習して、期限までに課題を提出すること。
・リアクションペーパーにおけるコメントの紹介、質問に対する応答を通じて、さらなる議論に活かしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と進め方、成績評価の基準などについて説明。まず、「英語圏の文化」とはなにか考える。
第2回	英語圏とはなにか	英語圏、英語使用地域の歴史的な背景と現在の状況について考える。
第3回	第一次世界大戦後の世界一民族自決	第一次世界大戦のとらえ方、1919年の「民族自決」の世界的な動向について学ぶ。
第4回	反帝国主義連盟	植民地地域から多数の代表が集まった1927年のブリュッセル会議、その意義について学ぶ。
第5回	第二次世界大戦後の世界一独立への道	第二次世界大戦前後の植民地地域の独立への動きを考える。
第6回	アジア・アフリカ会議	1955年のアジア・アフリカ会議（バンドン会議）の重要性を再考する。
第7回	アフリカ諸国独立	1957年のガーナ独立からアフリカ諸国独立の時代を振り返り、また、独立後の困難について考える。
第8回	非同盟諸国運動	1961年にベオグラードで誕生した非同盟諸国運動というまとまりについて学ぶ。
第9回	キューバ革命と三大大陸人民会議	1959年のキューバ革命の衝撃、革命後のキューバを中心にして発展した連帯運動、この時代を覆うアメリカの影について学ぶ。
第10回	第三世界から見る冷戦①	旧植民地において冷戦とは、決して「冷戦」などではなく、その影響下で激しい戦争が起こっていた。また、多くの場ではアメリカによる軍事介入を受けた。旧植民地地域における「冷戦」とはなんであったか、二度にわけて学ぶ。

第11回	第三世界から見る冷戦②	前回の続き。いくつかの地域と国の事例をもとに、旧植民地地域の「冷戦」の経験を学ぶ。
第12回	構造調整の時代—第三世界の弱体化	旧植民地地域はどのようにして苦境に陥っていったのか。その背景をたどり、現在の文脈につなげて考える。
第13回	現代の諸問題	現在の英語圏および旧植民地地域について概観する。
第14回	期末課題の説明とまとめ	全体の復習をおこない、期末課題について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。
また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は次の通り。
・各回の課題（リアクションペーパーなど）の提出（60％）
・期末課題（40％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の思考をうながし、積極的に参加できるような講義を行うよう努力したい。

【その他の重要事項】

・初回の授業資料は4月11日（金）13時にアップロードします。
受講希望者は必ず、この時間までに登録を行ってください。
・受講希望者が多い場合、抽選をおこないます。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course is designed to provide students with new insights into concepts and contours of the "English-speaking world" by focussing on the experiences of formerly colonised peoples and countries. [Learning objectives] Students will be expected to gain a comprehensive understanding of the historical trajectories of the "Third World" and thus a different perspective on World History. [Learning activities outside of classroom] Students will be expected to review the audio-visual materials and the handouts. The required study time is at least four hours for each class session. [Grading policy] Final grade will be decided based on the following: short reports 60%and term-end examination 40%.

LIT300GA（文学 / Literature 300）		
英語圏の文化Ⅳ（文学と社会A）		
須藤 祐二		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。		
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 アメリカ文学をアメリカの社会や文化のさまざまな諸相と関連づけて考察する。各時代の文学作品に明示的に示されている問題意識を考察するだけでなく、なにげない描写から読み取れるアメリカの社会や時代の特異性を検討する。また、文学作品が、時には時代を超えながら、絵画、映画、音楽などどのような影響を相互に及ぼしているのかを考えることで、アメリカ文学だけでなくアメリカ文化の奥深さを味わってもらいたい。		
【到達目標】 受講生は、アメリカ文学についての基礎的な知識を身につける。また、代表的な作品の内容を知るとともに、そこで描かれているアメリカの社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。		
【授業の進め方と方法】 講義形式で行う。 第1回授業で、いくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマから、アメリカの文学が文化や社会環境とどのように関連づけられるのかを解説する。そのため、ある時代を切り取ってそれを考察するというプロセスが繰り返されるだろう。時間的な制約から、時系列に沿ったアメリカ史全体の説明はできない。受講生はアメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。 最終授業でそれまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、それまでに回答した質問等についてもフィードバックとしてもう一度解説をする。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	テーマの設定	全体のテーマを設定する。
第2回	アメリカの神話創造	植民地建設時や独立戦争時の理念がアメリカ社会を支える神話としてどのように受け継がれているかを考える。
第3回	怖いものはなにか	アメリカのゴシック小説の特徴をヨーロッパのゴシック小説と比較して、前者における恐怖の描き方から「アメリカ的な素材」をめぐるアメリカ人作家のジレンマを検討する。
第4回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説を紹介したうえで、この「アメリカ的な風景」がその後の絵画や映画などでどのように利用されてきたかを歴史的に考察する。
第5回	東や西へ	アメリカがフロンティア消滅以後の東部と西部にどのような価値が与え、19世紀から20世紀の文学がその価値をどのように活用してきたかを考察する。
第6回	海とアメリカ文学	アメリカを超えて海を舞台にしたアメリカ文学作品を紹介する。これらの作品が当時のアメリカの拡大志向やエスニシティへの意識をどのように反映しているのかを考察する。
第7回	時間、都市、産業化	19世紀後半以降のアメリカの都市化や産業化の進展、そして、社会における時間表象や都市表象がどのように変化したのかを紹介し、それらがモダニズムの文学作品にどのように反映されているのかを考察する。
第8回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様な移民が混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのように変容してきたのかを確認し、アメリカ文学でこの「白さ」がどのように表象されているのかを考察する。
第9回	「黒人」というステレオタイプ	白人作家によるアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。また、映画においてそうしたイメージがどの程度踏襲されているのか、また反対にどのように変容しているのかを、文学作品との比較から考える。
第10回	観念としての「黒人」は誰のものか	20世紀前半のハーレム・ルネッサンスやそれ以降のアフリカ系アメリカ人の文学作品が自分たちの文化をどのように位置づけようと苦闘してきたかを考察する。時代背景の理解のため、ジャズがたどった受容の歴史の解説を加える。
第11回	メディアと消費文化の拡張	アメリカ文学が消費文化をどのように表現してきたかを紹介する。時代背景の理解のため、消費文化とメディアの関係の変容についての説明を加える。
第12回	アフリカ系アメリカ人の文学と音楽、スペクタクル	第11回で考察した消費文化の考察をアフリカ系アメリカ人に絞る。音楽を中心に「黒人」文化と消費文化の関係を考察し、その後、消費文化における「黒人」イメージから取り残された現実を、現代の黒人作家がどのように描いているかを検討する。
第13回	ジェンダー観の変容	アメリカにおける女性の権利拡大運動の推移を解説する。ジェンダー観の変化のなかで、20世紀の女性作家が何を描き、何を描けなかったのかを考察する、併せて、彼女たちの作品と20世紀以降の映画などにおける女性表象を比較検討する。
第14回	まとめ	講義内容のまとめ
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業で資料を配布するため、授業後に復習としても読み込むこと。 また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。復習が重要である。		
【テキスト（教科書）】 授業で使用する資料は配布する。		
【参考書】 有賀夏紀（編）油井大三郎（編）『アメリカの歴史——テーマで読む多文化社会の夢と現実』有斐閣アルマ、2003年 亀井俊介（編）『アメリカ文化入門——植民地時代から現代まで』昭和堂、2006年 板橋好枝、高田賢一『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房、1991年 鈴木透『実験国家アメリカの履歴書——社会・文化・歴史にみる統合と多元性の軌跡（第2版）』慶應義塾大学出版会、2016年		
【成績評価の方法と基準】 学期末レポートを70％、中間レポートを30％とする。 両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。		
【学生の意見等からの気づき】 例年、視覚資料が理解に役立ったという感想があるため、今年度も積極的に使用するつもりである。		
【Outline (in English)】 【Course Outline】 This course is designed to introduce students to the history of American literature and, through it, provide insight into various aspects of American culture and society. Students will not only explore the critical perspectives of authors as expressed in their works but also examine how American society during different historical periods is reflected in the underlying themes of these writings. Additionally, the course aims to deepen students' appreciation of American literature by examining its influence on visual arts, film, and music across different eras. 【Learning Objectives】 By the end of this course, students should be able to explain key characteristics of American literature and its cultural significance. 【Learning Activities Outside the Classroom】 Students are expected to spend approximately two hours before or after each class reviewing and engaging with the course materials to fully grasp the content. 【Grading Criteria】 First Report: 30%, Second Report: 70%		

LIT300GA (文学 / Literature 300)

英語圏の文化Ⅴ (文学と社会Ⅴ)

宇治谷 義英

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語圏（イギリスとアメリカ）の文学作品への様々なアプローチの仕方、読み方（方法論）を学ぶことで、実際にイギリスとアメリカの文学作品に触れ、文学のみならず社会を多角的に見られるようになります。

【到達目標】

具体的な到達目標は、いくつかの文学批評の理論を通して、英語圏（イギリスとアメリカ）の文学作品を読み方、文学作品以外の事象についての捉え方を身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

Peter Barryの*Beginning Theory*を教材として、解説されている批評理論について最初は講義形式、途中から受講生のグループに割り当てて発表をしてもらいます。毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次の回でそれについてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ「理論」 以前の理論	授業説明、文学批評の歴史、 Poeの'The Oval Portrait'の例
第2回	構造主義 (Structuralism)	構造主義(Structuralism)の概 要を学ぶ
第3回	構造主義 (Structuralism) (実 践)	構造主義(Structuralism)を実 際に文学作品に適用してみる
第4回	ポスト構造主義と脱 構築 (Post- structuralism and deconstruction)	ポスト構造主義と脱構築 (Post-structuralism and deconstruction)の概要を学ぶ
第5回	ポスト構造主義と脱 構築 (Post- structuralism and deconstruction) (実 践)	ポスト構造主義と脱構築 (Post-structuralism and deconstruction)を実際に文学 作品に適用してみる
第6回	精神分析批評 (Psychoanalytic criticism)	精神分析批評(Psychoanalytic criticism)の概要を学ぶ
第7回	精神分析批評 (Psychoanalytic criticism) (実践)	精神分析批評(Psychoanalytic criticism)を実際に文学作品に 適用してみる
第8回	フェミニズム (Feminist criticism)	フェミニズム(Feminist criticism)の概要を学ぶ
第9回	フェミニズム (Feminist criticism) (実践)	フェミニズム(Feminist criticism)を実際に文学作品に 適用してみる
第10回	マルクス主義批評 (Marxist criticism)	マルクス主義批評(Marxist criticism)の概要を学ぶ

第11回	マルクス主義批評 (Marxist criticism) (実践)	マルクス主義批評(Marxist criticism)を実際に文学作品に 適用してみる
第12回	新歴史主義と文化唯 物論(New historicism and cultural materialism)	新歴史主義と文化唯物論(New historicism and cultural materialism)の概要を学ぶ
第13回	新歴史主義と文化唯 物論(New historicism and cultural materialism) (実践)	新歴史主義と文化唯物論(New historicism and cultural materialism)を実際に文学作品 に適用してみる
第14回	まとめ及び授業内試 験	授業内試験によって、これまで の内容の確認をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示された文学作品はあらかじめ目を通してください。発表に当たった者は事前に割り当てられた箇所をまとめて準備しておいてください。

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Peter Barry, *Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural Theory*, 4th edition (Manchester University Press, 2017).

【参考書】

John Storey, *Cultural Theory and Popular Culture: An Introduction*, 5th edition (Harlow: Pearson Education Limited, 2009).

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー等課題の提出や発表(20%)、試験(80%)。なお、教員による講義中および受講生による発表中の私語、やむを得ない場合を除く教室の出入りは厳禁です。再度注意を受けた場合はそれ以後授業に参加することはできません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students see multidimensionally not just American or British literary works but society itself by studying various ways of approach to literature. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (80%), and in-class contribution (20%).

LIT300GA（文学 / Literature 300）

英語圏の文化Ⅵ（文学と社会C）

中和 彩子

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

名誉革命後の18世紀イギリスで発展した小説という文学ジャンルは、進歩と科学の世紀でもあった19世紀、とりわけヴィクトリア時代(1837-1901)の間に作品も媒体も、そして読者も多様化し、影響力のある一大文化産業となる。この授業では、19世紀末のイギリス小説に焦点を当て、さまざまな不安——ダーウィニズムが生み出した先祖返りの不安、退化幻想、そして植民地から本国、野蛮から文明への逆侵略の恐怖——を描いた代表的な作品を読むことを通じて、イギリス文学・文化・歴史への理解を深める。

【到達目標】

イギリス小説の代表的な作品を読み、テキスト（構造と細部）とその背景（文化・歴史）を理解する。
作品と作者の文学史における位置づけを理解する。
イギリス小説を原語でも読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者が、小説の指定箇所や資料を読み、ワークシートに沿って準備学習をしていることを前提として授業を進める。グループ・ディスカッションを行ったあと、講師がディスカッションの結果を整理し解説を加えるというのが授業の基本的な進め方であるが、講義を中心とする回もある。
各授業の終わりには、理解の確認のためのリフレクションペーパーを課す。
提出されたワークシートやリフレクションペーパーへのフィードバックは、翌週の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス イントロダクション(1) イギリス文学・文化概説	授業に関する説明。受講希望者多数の場合は選抜。 18～20世紀の小説を中心としたイギリス文学、およびその文化・社会的背景についての概説
2	イントロダクション (2) 19世紀後半のイギリス文学・文化	授業で扱う作品、作家、その背景についての概説
3	ロバート・ルイス・スティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』（1886年）小説前半	演習（小説前半の分析）
4	『ジキル博士とハイド氏』（1886年）小説後半	演習（小説後半の分析）
5	『ジキル博士とハイド氏』（1886年）全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
6	アーサー・コナン・ドイル『四つの署名』（1890年）小説前半	演習（小説前半の分析）
7	『四つの署名』小説後半	演習（小説後半の分析）
8	『四つの署名』全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
9	H.G. ウェルズ『タイム・マシン』（1895年）	演習（原文抜粋の分析）・講義
10	H.G. ウェルズ『モロー博士の島』（1896年）	演習（原文抜粋の分析）・講義
11	ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』（1902年）小説前半	演習（小説前半の分析）
12	『闇の奥』小説後半	演習（小説後半の分析）
13	『闇の奥』全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
14	まとめ	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の準備学習として、小説の指定箇所や資料を読み、ワークシートの問題に解答し、提出すること。
本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とする。なるべく準備学習に重点を置くことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

(1) 3作品については、次の邦訳を使用する。受講許可を受けたあと、授業の予習に間に合うように大学生協等で購入すること。
①ステューヴンソン、村上博基訳『ジキル博士とハイド氏』 光文社古典新訳文庫、2009。
②アーサー・コナン・ドイル、日暮雅通訳『四つの署名』 新訳シャーロック・ホームズ全集、光文社文庫、2007。
③コンラッド、黒原敏行訳『闇の奥』 光文社古典新訳文庫、2009。
(2) その他の作品については抜粋を配布する。

【参考書】

石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』三修社、2014。
※そのほか随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ワークシート50%、リフレクションペーパー10%）と、試験の成績（40%）の総合評価。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

・互いのワークシートの内容を共有することで、より多角的にテキストを理解できるので、グループワークの時間を長めにとる。

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の授業内で、学習支援システムを利用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC等の端末（デバイス）を持参してください。

【その他の重要事項】

・授業に関する連絡は、学習支援システムを通じておこないます。
・初回授業について
受講希望者多数の場合、授業の最後に作成・提出してもらうペーパーをもとに、選抜をおこないます。初回授業をやむを得ず欠席した受講希望者（仮登録者）は、当日中に学習支援システムを通じて仮登録者宛に出される「メッセージ」の指示にしたがってください。

【Outline (in English)】

Course Outline: “Culture and Society of the English Speaking World VI (Literature and Society C)” aims to introduce students to British literature in the context of British culture, society and history. Students will analytically and critically read some representative British literary works, published around the turn of the 20th century, that are obsessed with Victorian fin-de-siècle anxieties, and be introduced to their social and cultural contexts.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following: 1) understand the details of each novella/novel, and its cultural and historical context. 2) understand these works and their authors in the context of British literary history. 3) read and understand parts of each work, in English.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to come to each class meeting well prepared by reading the assigned part of the text and doing the worksheet, given online, in advance. The required study time is about 4 hours per class.

Grading Policies: Grading will be decided based on worksheets (50%), reflection papers (10%), and the end-term examination (40%)

LANe300GA（英語 / English language education 300）

英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）

興石 哲哉

配当年次／単位：3～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、学生が現代英語の構造について、様々な面から考察するを目標にするものです。良きにつけ悪しきにつけ国際語になっている英語は、どのような言語であるのか、学生は、担当者とともに、授業を通じて考察していきます。

【到達目標】

1. 学生が英語の音声面、文法面等の構造について、知識を得られること。
 2. 学生が英語の構造についての研究の仕方について、ある程度の知識を得られること。
 3. 学生が英語という言語に関しての様々な問に対して、答えるべき道筋をつけられること。
 4. 併せて、学生が英語・英語文化圏についての知識を深めること。
- なお、上記の1、2で述べた知識ですが、ヤマとなる点は以下の通りです。
- a) 音声器官、発音記号。
 - b) 音素の考え方（構造主義）。
 - c) 言語の知識を構成する各部門の考え方。
 - d) 記述上のさまざまな単位。
 - e) 統語範疇（品詞論）。
 - f) 直接構成要素分析、句構造。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。現時点で考えていることは以下の2点です。

1. 当面の間は学習支援システムを用いて学習に必要な資料を配布していきますが、質問、コメント等を受け付けることによって可能な限り履修者との双方向的な授業を目指したいと思います。
2. 何をトピックにするか明確にし、履修者が問題意識を持って授業に臨めるようにしたいと思います。

課題等のフィードバックについては、「学習支援システム」や、個人メール等により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語の学び方	これから半期にわたる授業のやり方、教材について説明します。後半は、英語という言語について、どこでどのように話されているかなどを見た上で、英語史について簡単に触れます。
2	英語の音声について（1）	英語の音声について、その特徴を学んでいきます。言語音声に関する初回になりますので、音声研究において必要な調音器官などの用語、発声の原理について学びます。
3	英語の音声について（2）	英語の音声について、その特徴を学んでいきます。今回は、英語を離れ、一般的に単音の記述について見た後、子音・母音の分類原理について学習します。
4	英語の音声について（3）	英語の音声について学ぶ3回目です。英語の母音について、その分類を学んだ後、各母音について見ていきます。
5	英語の音声について（4）	英語の音声について学ぶ4回目です。二重母音、弱母音等について触れ、その後、フォニックスについて学習します。
6	英語の音声について（5）	英語の音声について学ぶ5回目です。母音についてまとめ、英語の子音を見ていきます。

7	英語の音声について（6）	英語の音声について学ぶ6回目です。子音についてまとめた後、音節、音結合について触れます。最後に、かぶせ音素（アクセント、リズム、イントネーション等）について解説します。
8	英語の文法について（1）	英語の文法について学ぶ1回目です。初回ですので、文法という用語の伝統的な意味と、新しい意味、生成文法の考え方等について学びます。
9	英語の文法について（2）	英語の文法について学ぶ2回目です。日英の語順の相違について概観した後、形態素、語、語彙素といった基本的な用語について学びます。
10	英語の文法について（3）	英語の文法について学ぶ3回目です。統語範疇という概念について概観します。具体的に、形容詞を例にとって、いかに統語範疇が規定されるか、検討します。
11	英語の文法について（4）	英語の文法について学ぶ4回目です。形容詞についての話をまとめ、他の統語範疇と形容詞の関係について学びます。英語の辞書の記述についても、検討します。
12	英語の文法について（5）	英語の文法について学ぶ5回目です。構成素という概念（おおまかな説明：語がどのような原理に基づいてグルーピングしていくのか）について学びます。そして、不連続構成素をどのように扱うかについての話をします。
13	英語の文法について（6）	英語の文法について学ぶ最後の回です。この回は、SVO+不定詞という構文を例にとり、それがどのように分析されるか、検討します。
14	まとめ～今後につなげて	これまでの授業を総括し、その上で今後の英語学習にどのようにつなげていくか、授業で学んでいきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、前回の内容を復習しながら、新しい内容に進みますので、学生は、基本的な用語を習得し、方法論を理解しながら、参考文献等を読んで授業に臨んでください。重要なのは、授業において、何らかの「引っ掛かり」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布、提供いたします。

【参考書】

授業中、随時指定いたしますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。

- ・加島祥造 (1976). 『英語の辞書の話』。東京：講談社[のちに講談社学術文庫に収載。]
- ・加島祥造 (1983). 『新・英語の辞書の話』。東京：講談社[のちに講談社学術文庫に収載。]
- ・竹林滋・斉藤弘子 (1998). 『改訂新版 英語音声学入門』。東京：大修館書店。
- ・中島文雄 (1991). 『英語学とは何か』。東京：講談社[講談社学術文庫]。
- ・田中菊雄 (1992). 『英語研究者のために』。東京：講談社[講談社学術文庫]。
- ・竹林滋 (1991). 『英語発音に強くなる』。東京：岩波書店[岩波ジュニア新書]。

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。（やむを得ない場合に限り、欠席3で-10%（大体のところ評価にして1段階下がる）、5で失格、というのを一応の目安とします。）

基本的に、最終試験で評価をいたします。その他のプロジェクト等を課す際には事前に周知します。）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利ですし、発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「授業支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。

【その他の重要事項】

1. 具体的なことは履修者の数、知識のレベルなどを加味して決めます。
 2. 本科目はグローバル・オープン科目のStructure of Englishと内容が同一ですので、重複履修はできません。
 3. 初回授業に必ず参加してください。
 4. かなり速いペースで進みますので、真面目な態度で出席しないと履修は困難です。
- 授業形態については、「対面」となっていますが、可能であれば周知の上、「オンライン」も採り入れていきたいと思っています。したがって、その点を考慮の上、履修をお願いします。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です。(科目の性質上、SA英語圏の履修者が多いことが予想されます。)英語の構造をひと通り駆け足で学び、言語文化演習(あるいは卒業研究)へ結びつける科目です。半期ですので、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の構造について、基本的な知識は網羅するように心がけます。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language. Towards the end of the course, students will be able to:

1. To get a general idea about how English sounds and grammatical phenomena are described.
2. To obtain a certain level of knowledge about how various structural aspects of modern English should be described.
3. To obtain enough knowledge about modern English so as to answer various questions about the alleged 'mysteries' of the English language.
4. To study English in its general sense. (You see, you all finished your SA programmes, so you should keep that level of English until graduation.)

【到達目標 (Learning Objectives)】

The following is the list of important notions (among others) to be covered in this course:

- a) articulatory organs and phonetic symbols,
- b) the notion of phoneme (introduction to structural linguistics),
- c) modular approach to linguistics,
- d) various units in linguistic description,
- e) syntactic categories (parts of speech),
- f) immediate constituent analysis, phrase structural analysis.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (about 200 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:

- download and print out the slides and skim over them;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the LMS site, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned on the LMS site for further comprehension.

Should you have any trouble in taking realtime online class session, you can get access to the recorded educational material. Please check the LMS site for details.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.

Any modification to the above shall be known to you by using LMS
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語圏の文化Ⅷ (英語の歴史)

興石 哲哉

配当年次／単位：3～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語の歴史は、ゲルマンの民族がブリテン島に侵入してから始まります。本授業では、担当者とともに、学生は、本来は大陸のゲルマンの部族の言語であった言語がブリテン島に入り英語になってから、どのような変化を遂げて、21世紀の今のような国際的な言語となっていったか学んでいきます。

【到達目標】

1. 学生が英語の歴史について、ひと通りの知識を得ること。
2. 学生が英語の歴史に興味を持ち、現代英語の様々な事象について、歴史的な説明を試みること。
3. 学生が言語の歴史研究について、その大まかな方法論を知ること。
4. 学生が英語の運用力をつけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
本授業では、担当者が授業用に用意したスライドを用いて講義型の授業をします。受講生は、講義に出席しつつ、併せて教材(以下の教科書)を各自読みすすめてください。読みやすい教材ですので、基本的な事柄の把握に重点をおきつつ読んでいってください。

各授業のフィードバックについては、「学習支援システム」にて詳細に行いますので、そちらを読んで内容の把握に努めてください。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし /No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語以前の歴史	- 授業の進め方等の解説。 - 現代英語の状況、話者数、分布等。 - 英語史上の時代区分。
2	EARLY HISTORY 1	- IE studies & comparative linguistics - Proto-Indo-European
3	EARLY HISTORY 2	- Proto-Indo-European (cont'd) - Celts - Romans
4	OLD ENGLISH 1	- Latin influence on English - Anglo-Saxon invasion - Germanic languages sub-divisions
5	OLD ENGLISH 2	- Place name studies - <i>Angli vs wealas</i> - Christianisation - Viking raids - King Alfred's reign - OE runic inscriptions - Undley Bracteate and Franks Casket - OE pronunciation - 'Back to front' movements of OE pronunciation
6	OLD ENGLISH 3	- OE documents and poems (Law of Æthelberht, Gospels, <i>Beowulf</i>) - Oral tradition, alliteration, and OE compounding
7	OLD ENGLISH 4	- OE poems and alliteration - Norman Conquest - Social bilingualism in England
8	OLD ENGLISH 5	- ME: social bilingualism - English started to be spoken! - ME grammar, lexis - OE and ME dialects - Word order

9	MIDDLE ENGLISH 1	- ME documents (<i>Sumer Is Icumen In</i> , <i>The Canterbury Tales</i> , <i>Piers Plowman</i>) - Social changes - Great Vowel Shift
10	MIDDLE ENGLISH 2	- Great Vowel Shift (cont'd) - English becoming commoner! - Borrowed words - Shakespeare and the King James Bible
11	MIDDLE ENGLISH 3	- Biblical parallel text for comparison of OE, ME, and ModE - Shakespeare in original pronunciation - Spelling innovations
12	MODERN ENGLISH 1	- The first dictionaries (<i>A Table Alphabeticall</i> , Johnson's dictionary) - Linguistic prescriptivism - New words - <i>The Oxford English Dictionary</i>
13	MODERN ENGLISH 2	The Oxford English Dictionary (cont'd) - Received pronunciation and General American - Regional varieties - Regional varieties (cont'd)
14	MODERN ENGLISH 3	- Jargon and slang - The future of English

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

学生は、まず、テキストを読んでくることから始めてください。この際、批判的に読むこと(書かれていることに疑問はないか、曖昧な記述はないか等問題意識を持って読むこと)、出てくる用語等を資料、ネット等を用いて調べること、を意識的に行うことが重要です。授業後、復習をして固めれば、理解力が高まります。重要なのは、授業において、何らかの「引っ掛かり」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Viney, Brigit (2008). *The History of the English Language*. Oxford University Press.

【参考書】

- 授業中、随時指定しますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。
- ・北村達三(1980).『英語を学ぶ人のための英語史』。東京：桐原書店。(内容として一番標準的ですが、最近の英語についての記述が少々足りません。)
 - ・寺沢盾(2008).『英語の歴史 過去から未来への物語』。東京：中央公論新社[中公新書]。
 - ・中尾俊夫、寺島廸子(1988).『図説 英語史入門』。東京：大修館書店。
 - ・ブラッドリ、H.寺澤芳男訳(1982).『英語発達小史』。東京：岩波書店[岩波文庫]。

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。(やむを得ない場合に限り、欠席3で-10%(大体のところ評価にして1段階下がる)、5で失格、というのを一応の目安とします。)

基本的に、最終試験で評価をいたします。その他のプロジェクト等を課す際には事前に周知します。)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度休講のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利です。発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「授業支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。

【その他の重要事項】

1. 具体的なことは履修者の数、知識のレベルなどを加味して決めます。
2. 本科目はグローバル・オープン科目のHistory of Englishと内容が同一ですので、重複履修はできません。
3. 今年度はテキストを読んでいくことを中心にした授業構成に変えました。
4. 「英語史」と「英国史」とは異なります。ことばに焦点を当てる授業です。
5. 初回授業に必ず参加してください。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です。(科目の性質上、SA英語圏の履修者が多いことが予想されます。)英語の歴史をひと通り駆け足で学び、言語文化演習(あるいは卒業研究)へ結びつける科目です。半期のため、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の歴史の基本的な知識は網羅できると思います。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

Towards the end of this course, students will be able to:

1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and

2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.

【到達目標 (Learning Objectives)】

The following are the concrete goals of this course:

1. To get a general idea how the English language has evolved,
2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,
3. To begin to develop a general theory of linguistic change,
4. To study English in its general sense.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students are expected to visit the relevant LMS site and get as much information as needed.

Admittedly, this is not an easy course with all those unfamiliar terms and concepts. So, it is strongly recommended to read the relevant materials suggested on the LMS site posted immediately after each class session by the instructor. Approximately two hours of preparation and reviewing are necessary for this course.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.

- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.

Any modification to the above shall be known to you by using LMS

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

ART200GA (芸術学 / Art studies 200)

比較表象文化論

竹内 晶子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、オリエンタリズムとジェンダー論、それぞれについて基本的な枠組みを学んだあと、オペラ、バレエ、映画、舞台などの具体的な作品に対して、理論を応用した分析を試みていきます。

【到達目標】

・作品分析のツールとして理論を使いこなす力をつけるとともに、様々な表象文化作品の比較分析に必要な、基本的な能力を身に着ける。
・作品をとりまく時代・社会・文化が作品にどのように反映されているのか、また、伝達手段（メディア）が作品の表現にどのような影響を与えているのか、という表象文化分析に必須の問題意識を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、比較の手法を取り入れた表象文化分析を、理論の勉強と応用を通じて学びます。具体的には学期前半でオリエンタリズムを、後半でジェンダー論をとりあげ、これらの理論を用いて、オペラ、バレエ、映画、舞台などの作品群（同一テーマを扱いつつも、時代・メディアを異にする作品群）を比較分析していきます。

毎回、課題テキストや前回の授業で鑑賞した作品を考察し、SQ（Study Questions）への答えを提出してから授業に出席することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、「理論」を自分のツールとして使いこなすことが可能になり、具体的な作品を分析していく力が身につくはずだからです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	オリエンタリズムⅠ	オペラ『蝶々夫人』台本分析
3	オリエンタリズムⅡ	オペラ『蝶々夫人』演出分析
4	オリエンタリズムⅢ	映画『ラスト・サムライ』鑑賞
5	オリエンタリズムⅣ	映画『ラスト・サムライ』分析
6	オリエンタリズムⅤ	映画『バイマックス』鑑賞
7	オリエンタリズムⅥ	映画『バイマックス』分析
8	ジェンダー論Ⅰ	「シンデレラ」コンプレックス
9	ジェンダー論Ⅱ	アニメ『シンデレラ』鑑賞
10	ジェンダー論Ⅲ	アニメ『シンデレラ』分析
11	ジェンダー論Ⅳ	映画『エバーアフター』鑑賞
12	ジェンダー論Ⅴ	映画『エバーアフター』分析
13	ジェンダー論Ⅵ	バレエ「シンデレラ」分析
14	総論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、定められた期限までに学習支援システムに課題(SQ)へのレスポンスを提出すること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・課題(Study Question): 50%

・積極的な授業参加（ディスカッション）：20%

・期末レポート：30%

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

・4回以上欠席した場合は、単位修得の権利を失います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の回答を授業内で多く紹介します。

【その他の重要事項】

履修希望者の数によっては初回の課題をもとに選抜を行いますので、必ず初回授業後、定められた締切日までに課題を提出してください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Students will learn the basic theoretical frameworks of Orientalism and gender studies, and then apply them to the analysis of actual art works of various genres (ex. opera, ballet, film, theater).

【Learning Objectives】

Students will learn how to compare and analyze films and theatrical performances while taking into consideration their sociohistorical contexts.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are expected to submit their answers to weekly study questions by due date.

【Grading Criteria/Policy】

Assignments: 50%

Active Participation in class discussion: 20%

term paper: 30%

PSY200GA（心理学 / Psychology 200）		
異文化適応論		
浅川 希洋志		
配当年度／単位：1～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
国際社会で生きるとき、われわれは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化間理解ということを考えるとき、われわれは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであると考ええる傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。本講義では、文化心理学における比較文化的実証研究を取り上げながら、心の働きと文化の関連性について学んでいくとともに、世界という視点で捉えたとき、われわれが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能がいかに特殊な文化に根ざしたものであるかを学んでいく。また、講義で扱う様々なトピックを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを併せて考えていく。		
【到達目標】		
しつけや教育の仕方、あるいは教育システムといったものが、いかにその社会で適応的に生きる人々、つまりその社会にあった行動パターンや感情の働き方を身につけた人々を育てるために作り上げられてきたものであるかを、授業で扱う様々なテーマを通して理解する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。		
【授業の進め方と方法】		
本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じてZoom等によるオンライン授業や課題提示によるオンデマンド授業を実施する可能性もある。また教室定員（コロナ定員）200人を超えた場合は、受講者選抜を実施する。選抜を実施する場合は、第1回授業においてその方法等を指示する。		
授業は講義を中心に行う。また、心と文化の関係を描き出すようなビデオ、DVD等があれば適宜紹介する。		
期末試験や課題等のフィードバックは、ポイントをまとめた文書を作成し、学習支援システムを用いて受講生に配布する。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を説明する。
第2回	文化心理学とは何か	文化心理学という分野がどのような理由から展開されるに至ったのかを、研究者の文化的盲点という観点から解説していく。
第3回	文化による自己認識の違い	文化による自己の捉え方の違いが、人々の認知や思考、行動にどのような影響をもたらすかを解説していく。
第4回	意欲構造の文化的差異	意欲の構造が文化によってどのように異なるかを、日米の実証的研究を紹介しながら解説していく。
第5回	日本人の努力帰属傾向	日本人が努力に価値をおく傾向が強いことを、日米の実証研究を概観しながら解説していく。また、その理由を考察する。
第6回	いい子アイデンティティの早期形成と自己規制のメカニズム	日本人の子どもが早期にいい子アイデンティティを形成し、それによって、いかに社会生活で自己規制を働かせるのかを解説していく。
第7回	日本のいい子、米国のいい子	日米のいい子像がそれぞれの社会で求められる人間像を反映するものであり、学校教育がいかにそれらを促進していくかを、解説していく。
第8回	日本人の気持ち主義	日本人がいかに人の気持ちを重視し、気持ちを知らう、読もうとする傾向が強いのか、またなぜ日本人がそういった傾向を身につけてきたのかを、解説していく。
第9回	気持ち志向のしつけ	気持ち志向を促進する日本のしつけの方法を、欧米のしつけの方法と比較しながら、解説していく。
第10回	日本人の道徳意識と道徳的判断	日本人の道徳意識と道徳判断が、欧米人のそれに比べ、人間関係的、感情的なところに強く影響されることを、実証研究をもとに解説していく。
第11回	道徳判断に必要とされる情報の日米比較	道徳判断において、日本人は人間関係的、感情的情報を求め、米国人に比べ、善悪の判断が厳しくない傾向にあるが、その理由について、実証研究を交えながら考察していく。
第12回	大きなピクチャーを捉えるために	さまざまな事件の原因推測に関する実証研究を紹介しながら、そこに、文化による自己観の違いが、いかに鮮明に反映されているかを確認していく。
第13回	生息環境から認知にいたる流れ	人々の生きる環境が、人々の行動や思考のパターン、そして認知のプロセスにどのように影響してきたのかを、歴史という大きな流れの中で捉え、ひとつのモデルとしてそれを解説していく。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。		
【参考書】		
東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994年）、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998年）、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992年）、箕浦康子著『文化のなかの子ども』（東京大学出版会、1990年）、リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004年）、増田貴彦著『ボスだけを見る欧米人みんなの顔を見る日本人』（講談社＋α新書、2010年）等。また、必要に応じて適宜紹介する。		
【成績評価の方法と基準】		
期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。		
【学生の意見等からの気づき】		
できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。		
【学生が準備すべき機器他】		
授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。		
【Outline (in English)】		
(1) Course outline		
This is an introductory course in cultural psychology. By being introduced to the theories and empirical findings in the field, students learn how culture shapes psychological processes of people.		
(2) Learning Objectives		
By the end of the course, students are expected to understand (a) how cultural settings shape people's emotion, cognition, motivation, and relationships, and (b) what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies.		
(3) Learning activities outside of classroom		
Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.		
(4) Grading Criteria/Policy		
Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).		

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

異文化と身体表現

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講希望者数が教室の収容人数を超えたら選抜
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いくつかの舞踊の発生経緯、発展プロセス、文化的意義について学ぶ。身体運動の表現技法を細かく分析するのではなく、宗教、性、習俗、観光化といった身体にまつわる社会的な問題を、舞踊を通して、異文化という視点から理解する。

【到達目標】
・舞踊の歴史的・文化的背景を叙述することができる。
・諸地域ごとの舞踊の知識を踏まえ、日本の伝統的な舞台芸術の特徴を日本文化を知らない人に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・資料を元に講義する。受講者は毎回、授業の最後（ないし授業後）に、リアクションペーパーを提出する。
・興味深いリアクションペーパーを次の授業で紹介し、全員へのフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考図書等の紹介。
2	ポリネシア（ハワイ）	ハワイのフラを取り上げる。王国の歴史・自然観・宗教観との関わり、フラ・カヒコとフラ・アウアナの違いなど。
3	アメリカ（1）南米（アルゼンチン）	アルゼンチン・タンゴを取り上げる。発生経緯、コンチネンタル・タンゴへの展開など。
4	アメリカ（2）北米（アメリカ合衆国）	ジャズ・ダンス、タップ・ダンスを取り上げる。音楽としてのジャズの歴史、ミンストレル・ショー、アイリッシュ・ダンスとの関わりなど。
5	映画にみるダンス（1）	『サンライズ』、『フットルース』、『ダーティ・ダンシング』、『ダンシング・ハバナ』などの映像クリップを鑑賞し、各作品の背後にある社会・文化的特徴を考える。
6	ヨーロッパ（1）スペイン	フラメンコを取り上げる。ロマの踊りからの発展とフランコ体制における観光化など。
7	ヨーロッパ（2）ドイツ、オーストリア	ワルツを取り上げる。民俗舞踊（レントラー）、宮廷舞踊（メヌエット）との関わり、19世紀における発展経緯など。
8	ヨーロッパ（3）フランス、ロシア	バレエを取り上げる。バレエ・ダクシオンからロマンティック・バレエ、クラシック・バレエ、バレエ・リュスまでの歴史的展開など。
9	映画にみるダンス（2）	『赤い靴』、『ホフマン物語』の映像クリップを鑑賞し、職業としてのダンサーとプロデューサーとの力関係について考える。
10	アジア（1）インド	インドの伝統舞踊を取り上げる。宗教観との関わりや性の問題など。
11	アジア（2）中国	京劇を取り上げる。時の権力者からの庇護・排除により、時代の変遷のなかでどう扱われたかなど。
12	アジア（3）日本	能を取り上げる。能の歴史の変遷、W・B・イエイツによる評価など。

13	映画にみるダンス（3）	『RRR』、『八月十五日の茶屋』などの映像クリップを鑑賞し、身体表象に関する西洋から東洋への影響関係を考える。
14	ケーススタディ／授業のまとめ	授業のまとめを兼ねたトピックを選定して講ずる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記【参考書】に記載の書籍を読むように努める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
ジェラルド・ジョナス『世界のダンスー民族の踊り、その歴史と文化』（大修館書店）
邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）
渡辺保『日本の舞踊』（岩波新書）
渡辺保『身体は幻』（幻戯書房）
三隅治雄『踊りの宇宙ー日本の民族芸能』（吉川弘文館）
舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）
矢口祐人『ハワイとフラの歴史物語』（イカロス出版）
生明俊雄『タンゴと日本人』（集英社新書）
有本紀明『フラメンコのすべて』（講談社）
加藤雅彦『ウィンナ・ワルツーハプスブルグ帝国の遺産』（NHKブックス）
宮尾慈良『舞踊の民族誌ーアジア・ダンスノート』（彩流社）
宮尾慈良『これだけは知っておきたい 世界の民族舞踊』（新書館）
皆川厚一『インドネシア芸能への招待ー音楽・舞踊・演劇の世界』（東京堂出版）
魯大鳴『京劇入門』（音楽之友社）
白洲正子『能の物語』（講談社文芸文庫）
『野村萬斎 What is 狂言?』（槍書店）
Patricial Leigh Beam, World Dance Cultures: From Ritual to Spectacle. Routledge.

【成績評価の方法と基準】
平常点50％：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
学期末レポート50％：異文化と舞踊に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
授業の進行状況により、扱うテーマや作品を変更することがあります。

【Outline (in English)】
・ Course outline: A survey course that studies a wide range of dance across cultures and time periods. We will explore the process of its development and the cultural values. Instead of analyzing the details of body mechanics, this course will focus on the social dimensions of dance in terms of religion, sex, habits, tourism and try to elicit its intercultural aspects.
・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to understand and describe dance history and culture. They will also be able to explain about traditional Japanese performances to those who do not know them.
・ Learning activities outside of the classroom: read the recommended books in the 'References'.
・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

LIT300GA（文学 / Literature 300）

日英翻訳論

大野 ロベルト

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講は先着500名までとする。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英訳を通して日本語に触れることは、ときに日本語のみを媒介とするよりも明瞭に、日本語の実像を描き出してくれる。その果てに見えてくるのは日本語に特有のもの、すなわち日本語のエッセンスであるから、実はこの授業のタイトルは「日英翻訳不可能論」とすべきである。この授業では、とくに「裸」の状態に近い日本語に触れるために、古典の英訳を中心にとりあげる。講義は秋学期に開講される「世界の中の日本語」と響き合う内容となっている。

【到達目標】

英語の運用能力が向上すると共に、受験勉強の「負の遺産」をなげうち、自由なアプローチで古典本来の味わいを楽しめるようになる。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、随時リアクションペーパー提出を奨励している。これらについては学習支援システムを通じてフィードバックを行い、必要に応じて講義内でも紹介する。成績判断の主な材料としては、中間レポートと期末レポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、翻訳とは何かについて考える。
2	日本的なるもの	「もののあはれ」の概念を素材に、前回に引き続き翻訳について考える。
3	詩歌を翻訳する 1	俳句の翻訳について考える。
4	詩歌を翻訳する 2	和歌の翻訳について考える。
5	日本語の淵源 1	『古今和歌集』の序文を参考に、日本における詩歌の位置について考える。
6	日本語の淵源 2	『万葉集』などを材料に、日本語の「成立」について考える。
7	物語の誕生 1	『伊勢物語』をとりあげ、物語と文化の関係について考える。
8	物語の誕生 2	『土佐日記』をとりあげ、母国語と外国語の関係について考える。
9	私を書く 1	『枕草子』を素材に、言語と自我の関係について考える。
10	私を書く 2	『徒然草』を素材に、自己と他者の関係について考える。
11	社会を描く 1	『方丈記』をとりあげ、現実とフィクションの問題について考える。
12	社会を描く 2	『無名草子』をとりあげ、言語とジェンダーについて考える。

13	日本語的なるもの	古典と向き合った翻訳者たちの姿から、彼らの見た「日本像」を探る。
14	まとめ	今学期の内容をふりかえりつつ、近現代の日本語に起こった変化について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のテーマとなるテキストについては、日本語の原典と英訳を事前に丁寧に読み比べ、単語の意味などについては事前に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】

授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。
クリステワ『心づくしの日本語』ちくま新書、2011

【成績評価の方法と基準】

平常点10%、中間レポート40%、期末レポート50%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド授業の特性を活かしつつ、対面と比較して遜色のない、臨場感ある講義を心がけたい。

【Outline (in English)】

This course invites the students to survey the essence of the Japanese language by reading classical texts translated into English. In order to truly discover Japan, it is essential to look for things that are left untranslated.

To appreciate various works spanning across centuries of Japanese classical period, and to demonstrate the findings in forms of written assignments and final paper, will be the objective of this course.

The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting.

The grading criteria is as follows: 10% participation, 40% mid-term paper, and 50% final paper. Students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LIN200GA（言語学 / Linguistics 200）

言葉と社会

小川 敦

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言葉と社会」「多言語社会」「言語政策」をテーマに、言語と社会がどのように関わっているのか、社会において言語はどのような役割を果たしているのかなどについて考えていきます。「言語と方言」「二言語併存」などの基本的な概念について解説し考察した上で、歴史的な経緯でいくつもの言語が用いられる社会、移民が多く住む社会での言語問題について多く取り上げます。

【到達目標】

- ・社会的なコンテキストで言語がどのような役割を担っているかを理解する。
- ・それぞれの社会において言語の持つ役割や重要性が異なっていることを理解する。
- ・言語に対する価値観は人によって異なることを理解し、相対化して考えるべきことを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式ですが、できるだけ授業中にも学生同士で話し合うようにします。授業の最後にならずリアクションペーパーを書いてもらいます。授業の最初にリアクションペーパーに対してこちらからコメントをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：言語と国家	言語についている名前と国家の名前が必ずしも一致しないことや、「〇〇人なら〇〇語を話す（べき）」といった言説が自明ではないことを理解し、これからの授業につなげていきます。
第2回	言語と変種（標準語と方言）	日常的に「標準語」「方言」と呼んでいるものの実態について扱い、さらに社会集団語などのさまざまな言語変種について扱います。
第3回	国家と言語、標準語と方言の関係	前回に引き続き、何が変種を「方言」「言語」たらしめるのかについて、社会や国家との関係から考えます。
第4回	方言のイメージ	地域変種（「方言」）に対して抱くイメージがどのように形成されてきたのかを考えます。また、「方言コスプレ」と呼ばれる現象について、「役割語」の視点も踏まえて見ていきます。
第5回	言語とジェンダー	これまでのテーマと関連付けて、言語をジェンダーの視点から考えます。

第6回	危機言語	アイヌ語や琉球諸語から、危機に瀕する言語について考えます。
第7回	少数言語・言語権	少数言語の定義を見た上で、言語に対する権利や法律上の位置づけなどについて考えます。
第8回	移民社会としての日本と言語	日本では移民背景を持つ人がますます増えています。日本社会の対等な一員とするための言語的な配慮や権利について考えます。「やさしい日本語」についても扱います。
第9回	言語景観と言語サービス	前回の授業を踏まえて、多民族化・多言語化する日本社会における「言語景観」について考えます。何気なく通り過ぎていた標示について、この授業を機に気をつけるようにしてください。
第10回	ケーススタディ：フランス・アルザスの言語教育とアイデンティティ	フランスの東部、ドイツに接するアルザス地方の言語の歴史を見た上で、今日のフランス語とドイツ語の二言語教育、そしてアルザス人の言語アイデンティティについて考えます。
第11回	ケーススタディ：イタリア・南チロルの言語問題	イタリアの最北端に位置する南チロル地方（アルト・アディジェ）ではドイツ語系住民とイタリア語系住民が長年対立と和解を繰り返してきました。複数の言語集団の共存について、言語教育の点から考えます。
第12回	ケーススタディ：「方言」から「言語」を創り出した国家、ルクセンブルク	フランス語、ドイツ語、民衆の言語であるルクセンブルク語を公用語とする、多言語社会であるルクセンブルクを扱います。複数の言語を使えることを標榜しながら、アイデンティティの象徴として独自の言語を創り出してきた歴史を見ていきます。
第13回	ケーススタディ：「移民国家」としてのルクセンブルク	前回に続いてルクセンブルクを扱います。ルクセンブルクは人口の半数近くが外国籍であり、言語教育の面で課題に向き合っています。最近の事例を紹介しながら、ルクセンブルクでの課題と日本社会への示唆について考えます。
第14回	本講義のまとめ	講義でこれまでに扱ってきたテーマについて、総括します。また、本講義で扱えなかった社会言語学のテーマについていくつかピックアップし、今後の学習につなげます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の書籍を購入する必要はありません。こちらに紹介した文献や授業中に紹介した文献について、できるだけ図書館やインターネットで探して勉強してください。配布資料はLMS等でダウンロードして参照できるようにします。

【参考書】

平高・木村（編）『多言語主義社会に向けて』くろしお出版
真田信治（編）『社会言語学の展望』くろしお出版
田中・木村・宮里（編）『移民時代の言語教育—言語政策のフロンティア(1)』ココ出版
言語権研究会（編）『ことばへの権利』三元社
そのほか、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート60%、コメントペーパーを含めた授業への参加40%とします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が自ら発言しやすい授業運営とするように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンだけでなくPCやタブレット端末を準備すると受講しやすいです。

【その他の重要事項】

受講生の関心にあわせて、授業内容を柔軟に変更・修正することもありますので、ご承知おください。

教員の専門の関係もあり、事例紹介ではヨーロッパ、とりわけドイツ語圏の話題が多くなりがちですが、受講生は必ずしも英語以外にドイツ語や他のヨーロッパ語を学んでいる必要はありません。言語と社会の関係に関心がある人、多言語社会や言語政策に関心がある人を歓迎します。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In this course, we will explore the relationship between language and society. After introducing key concepts, we will examine language-related issues in multilingual societies shaped by historical circumstances, as well as in societies with large immigrant populations.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Students will gain an understanding of the role of language in social contexts. They will also recognize that people hold diverse values regarding language and develop the ability to think critically and comparatively.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Active participation 40%

Final report 60%

HIS300GA（史学 / History 300）

宗教社会論Ⅱ

佐々木 一恵

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業を通じて、学生は19世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、どのように近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）を捉えたのか、また新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもっていったのかを、社会思想史・社会運動史の立場から分析し議論していきます。

【到達目標】

1. 近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
2. 宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
3. キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。
- 各回ごとに、関連する一次史料の分析を、リアクション・ペーパーにまとめて提出してもらいます。
- 提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	信仰復興運動と奴隷制廃止運動	19世紀初頭の信仰復興（リバイバル）運動が、どのように奴隷制廃止運動および女性解放運動と関連していたかを議論する。
4	海外宣教運動と帝国主義	キリスト教の海外宣教の歴史を概観するとともに、19世紀半ばから20世紀初頭にかけてのキリスト教海外宣教運動と、欧米帝国主義との関係を、社会進化論や文化帝国主義の議論を交えながら検討する。

5	世界キリスト教婦人矯風会の理念と活動	アルコール中毒を、家庭と社会を滅ぼす罪惡とみなし、活動を展開したキリスト教婦人矯風会の運動を、キリスト教思想と当時の「家庭の領域」の議論を踏まえながら議論する。
6	社会的福音運動とリベラル神学	19世紀末から20世紀の初頭にかけて、スラム街などにおける貧困・労働・公衆衛生・教育などの問題に取り組んだ、社会的 Gospel 運動の理念と活動とその影響について考える。また、1920年代におけるリベラル神学と根本主義（ファンダメンタリズム）の対立についても議論する。
7	日本におけるキリスト教の思想と運動	明治・大正期における日本におけるキリスト教の展開とその神学的特徴を概観する。また、救世軍運動や日本キリスト教婦人矯風会の活動や、日本におけるキリスト教社会主義の運動の展開について議論する。
8	アジアにおけるエキュメニカル運動	エキュメニカル運動が出てきた歴史的背景とアジアにおける展開を概観する。また、それぞれの地域における民衆神学の展開について議論する。
9	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシヤア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
10	ラテン・アメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
11	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
12	キリスト教とジェンダー	キリスト教思想における女性観を概観するとともに、現代社会における性・ジェンダー問題とキリスト教の関係について議論する。
13	キリスト教とセクシュアリティ	キリスト教とセクシュアリティの関係を歴史的に概したのち、昨今のクィア神学の取り組みについて議論する。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をしっかりと行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- 岩井淳『千年王国を夢見た革命』講談社、1995年。
- 田村秀夫『千年王国論—イギリス革命思想の源流』研究社、2000年。
- 森本あんり『アメリカ・キリスト教史：理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006年。
- 小檜山ルイ『帝国の福音—ルーシー・ピーボディとアメリカの海外伝道』東京大学出版会、2019年。
- グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、2000年。
- 土肥昭夫『日本プロテスタント教史』新教出版社、2004年。

○アリスター・E・マクダラス『プロテスタント思想文化史』新教出版社、2009年。

○Motoe Sasaki, *Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century* (Cornell University Press, 2016).

○ミラ・ゾンターク『＜グローバル・ヒストリー＞の中のキリスト教—近代アジアの出版メディアとネットワーク形成』新教出版社、2019年。

○パトリック・S・チェン（工藤万里江訳）『ラディカル・ラブークイア神学入門』新教出版社、2014年。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー（30％）

2. 期末試験（70％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【Outline (in English)】

The course provides historical background on the relationship between religion and social movements by paying special attention to the Christian religion. It explores the ways that Christianity, along with the other modern ideas and practices such as the Enlightenment, romanticism, social Darwinism, utopianism, socialism, and nationalism, influenced the development of abolitionism, feminism, colonialism/imperialism, labor movements, decolonization movements, and civil rights movements.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important in examining the relationship between social movements and Christianity, 2) analyze the relationship between religion and social movements from the perspective of historical consciousness, and 3) conduct a basic historical analysis of social movements based on the ideas of Christianity.

Students will be expected to review each class to: 1) understand the important concepts, theories, and characteristics of social movements, and 2) be able to use the concepts and theories as tools for analysis. In each reaction paper, students may be required to analyze the connection between the movements and the theories that were covered in previous classes.

Students are expected to spend 4 hours per week working on homework, revision, and assignments.

The final grade will be decided by reaction paper (30%) and the final assignment (70%).

POL200GA (政治学 / Politics 200)

国際関係研究 I

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究 I (アクターに着目した理論の捉え方)

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：×

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業ではアクター (行為の主体) に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にNGOや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】

- (1) 授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
- (2) 「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
- (3) 関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係で、オンデマンドを使用することもある。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業内討論：毎回グループ討議・発表を行い、教員がフィードバックする。また、数回は演習型の授業を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム (アプローチ) であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ4つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	NGOとは何か	NGOの定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としてのNGO	国際社会におけるNGOの役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	NGOは国家を補完しているのか、国家を「脱している」(trans) のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバメンタリティ	国家に操られずにNGOが国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中のNGO活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。
14	まとめ (プライベートレジャー)	「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

【期末レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編 (2013) 『NGOから見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざま—』 ミネルヴァ書房。

【参考書】

毛利聡子 (2011) 『NGO から見る国際関係：グローバル市民社会への視座』 法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業内討論への参加度、授業後課題) 50%、期末レポート 50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・特になし。なお、2021～22年度は学部長職にあったため兼任講師に代講をお願いしていたので、その頃に履修した先輩の助言はあまり参考にならないので注意して欲しい。

【その他の重要事項】

・長年NGOとして国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づくNGOの現状を交えて講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the influences exerted by non-state actors in "international relations".
- 2) explaining the incidents or problems relevant to "international relations" from theoretical viewpoints.
- 3) being able to read the relevant literatures critically and analytically.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

ARSf200GA（地域研究（東南アジア） / Area studies(Southeast Asia) 200）

国際関係研究Ⅱ

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では東南アジア半島部のメコン地域／メコン河流域国／大メコン圏という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を多角的に見る視点を養う。

【到達目標】

- （1）「地域研究」の視点からメコン河流域の自然環境やそれに依拠する社会について学び、日本とは異なる生活様式や社会への理解を深める。
- （2）メコン河流域の環境・社会問題と日本との関係について学ぶ。
- （3）演習型（ゼミ形式）の反転学習を通して、「地域」を分析するための多角的な視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。

■発表とグループ討議：演習スタイルで授業を運営する。履修者は必ず1回発表を担当する。第3回授業以降は、課題文献を読んできていることを前提にした発表とグループ討議及び教員の補足授業という構成で行う。分析的な文献講読、討議、発表といったアカデミックスキルを高めることを目的としている。詳細は第1回授業で説明する。

■発表担当者：履修人数にもよるが1人もしくは複数の履修者で毎回担当する。事前にレジュメを準備し共同で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方を説明する。グループと発表者を決める。
2	「地域」とは何か（メコン全体）	メコン地域、メコン河流域国、大メコン圏などの用語をもとに、国際文化学部で学ぶ「地域」の射程について考える。
3	越境環境問題（中国、ラオス、タイ）	国を越える環境問題をどう考えるのか、因果関係やレジューム論などを参照軸に議論する。
4	小さな村から見えるもの（ラオス、タイ）	ラオスの小さな村の30年間の歩みから「開発と環境」を捉えるマクロな視点とミクロな視点について議論する。
5	森林「減少」と森林「破壊」（メコン全体）	環境問題が抱える広義の政治性について、ポリティカルエコロジーの視点を参照軸に議論する。
6	影響予測の人文科学（タイ、ラオス）	開発の社会・環境影響を調査すればいいという問題解決策について、国際文化や地域研究の視点から議論する。
7	資金から見た人権・環境問題（ミャンマー）	環境破壊や人権侵害につながりやすい開発を進める資金源について議論する。
8	財と資源（カンボジア）	カンボジアのトンレサップ湖の漁業を事例に、財として見た魚について議論する。
9	洪水と水害（カンボジア、ベトナム）	メコンデルタの洪水を事例に、「水が溢れる」という現象について、国際文化の視点から議論する。
10	人身取引（タイ、ミャンマー）	不法滞在者への人権侵害を通じて、法律では解決できない問題を国際文化の視点から議論する。
11	境界（メコン全体）	メコン地域の呼び方は、政治的な背景によって異なる。何かに境界線を引くことの意味と危うさを議論する。

12	重複の機能（メコン全体）	メコン地域を含む国際協力の枠組みは複数存在し、一見すると重複している。そこから重複することの働きについて国際文化の視点から議論する。
13	歴史から考えるメコン開発（メコン全体）	系譜学、考古学の視点から振り返り、歴史「から」ではなく歴史「を」学ぶ意義について議論する。
14	開発と責任（メコン全体）	開発が環境破壊や人権侵害に繋がる時、その「責任」を問いたくなるが、責任とは何だろうか。この授業全体を「責任」から問い直し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当にあたっていない場合でも、必ず事前課題を行ってこよう。反転学習なのでそうでないと授業についていけない。本授業の準備学習・復習時間は各1-2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、発表20%、グループ討議への貢献度20%、期末レポート40%。期末レポートでは、授業で取り上げた概念、理論、事象を繋げて論理的な文章を書くことを求める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。なお、2021～22年度は学部長職に就いていたため、兼任講師に代講を依頼していたので、その頃に受講した先輩の助言は参考にならない点に注意して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

課題文献や授業後課題があるので、授業コードを使って必ず学習支援システム（Hoppii）に自己登録すること。

【その他の重要事項】

■第1回授業授業後に発表担当者とグループを決めるので、履修を検討している学生は必ず第1回授業に出席すること。どうしても出席できない場合は、事前に履修の意思を担当教員にメールで連絡すること（smatsumoto[at]hosei.ac.jp）。

■学部や学年を超えて演習スタイルの授業を行うので、通常の授業だけでなく、演習（ゼミ）とも異なる学びがある。

■メコン河流域国で30年以上にわたってNGO活動に従事してきた実務家教員が、その活動経験を事例に組み込みながら授業を運営する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on "Mekong region" or "Mekong basin countries" or "Greater Mekong Subregion" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking reflective views of area studies, in particular implications of society-natural environment nexus in the Mekong region.
- 2) explaining the relations between the social environmental issues in the Mekong region and Japan.
- 3) understanding multi-disciplinary approach for analyzing "area" through flipped classroom method.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation: 10%, group discussion: 20%, in-class contribution: 30%, term-end report : 40%.

ARSk300GA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)

人の移動と国際関係Ⅰ

張 勝蘭

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：人の移動と国際関係Ⅰ（華僑・華人社会）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人々の頻繁な越境の大移動がグローバル化の象徴と言える。現在、四大移民集団の一つである中国系移民の人口は6000万人余りで、198か国・地域に分布していると言われている。これらの中国系移民が現地社会やエスニックコミュニティにどのような影響をもたらしているのか。本講義では、中国系移民（華僑：中国国籍保有者、華人：現地国籍保有者）について、移住と定着の歴史、チャイナタウン、経済、社会・教育、生活・文化などの側面から概観する。特に日本における華僑・華人の歴史と社会の特徴を理解し、日本社会との関わり及びそこから見える多様性について考えを深めることを目的とする。

【到達目標】

中国系移民に関する基礎知識を習得し、「人の国際移動」を理解する。華僑・華人問題を通して日本や国際社会における多文化共生について考える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半の講義では、世界に広がる華僑・華人の歴史と現状について概観する。後半の講義では、日本における華僑・華人にフォーカスしてその歴史と社会の特徴を具体的に紹介し、考察する。質問の受付や課題へのフィードバックは授業内、学習支援システム及びメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	人の移動と国際関係Ⅰのアウトラインを説明し、中国系移民（華僑・華人）の予備知識を紹介する。授業の進め方、シラバスの使い方、成績評価についても説明する。
第2回	華僑・華人の歴史	中国人の海外移住と定着の歴史について、西欧の植民地化以前から中華人民共和国成立後まで概観する。
第3回	チャイナタウン	チャイナタウンの形成と変貌について、主に東南アジア、アメリカを事例に講義する。
第4回	華僑・華人の経済	華僑・華人経済の伝統的特色、華人財閥、華人企業の戦略などについて説明する。
第5回	華僑・華人の社会・教育	華僑・華人社会の伝統的組織、華字報、華文教育などについて講義する。
第6回	華僑・華人の生活・文化	食文化をはじめとする華僑・華人の生活を紹介します、宗教にも触れる。

第7回	日本の華僑・華人の歴史と社会①	長崎、唐人貿易、唐人屋敷、唐通事をキーワードに、江戸時代の華僑・華人を見ていく。
第8回	日本の華僑・華人の歴史と社会②	三把刀、中華会館を中心に、明治から昭和までの華僑・華人について説明する。
第9回	日本の華僑・華人の歴史と社会③	戦前から戦後、そして現在に至るまでの華僑・華人社会について、華僑総会、新移民に焦点を当てて考察する。
第10回	日本の華僑・華人の生活空間	「横浜中華街」、「池袋中華街」を中心に日本の華僑・華人の重要な生活空間－中華街の実像を考察する。
第11回	日本の華僑・華人の教育	「僑校」（中華学校）は華僑の「三宝」の一つである。日本「僑校」の特徴や学校を取り巻く環境について講義する。
第12回	日本の華僑・華人の信仰と習俗	先祖供養である普度勝会と冠婚葬祭から日本の華僑・華人の信仰と風習を説明する。
第13回	日本の華僑・華人の文化創生	春節やランタン祭りを中心に日本の華僑・華人の文化を理解し、その変遷から地元との共生について考察する。
第14回	新華僑について	1980年代、中国の改革開放に伴い、来日した中国人「就学生」・「留学生」たちが急増し、いわゆる「新華僑」になっていく。この「新華僑」について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップロードされた講義資料を参考に、シラバスに記載された参考書及び毎回の追加参考文献の関連部分を読み、授業内容への理解を深める。受講者は各2時間を使い、事前・事後に関連知識の予習、授業の振り返りを行い、理解を深めることに努める。疑問点を整理し、まとめる。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。毎回、事前に講義資料を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

山下清海編『華僑・華人社会を知るための52章』明石書店、2023年
曾士才・王維編『日本華僑社会の歴史と文化―地域の視点から』明石書店、2020年
華僑華人の事典編集委員会編『華僑華人の事典』丸善出版、2017年
山下清海編著『華人社会をわかる本―中国から世界へ広がるネットワークの歴史、社会、文化』明石書店、2005年
可児弘明・斯波義信・游仲勲編『華僑・華人事典』弘文堂、2002年
また授業時に各テーマについての参考文献を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①中国系移民（華僑・華人）に関する基礎知識が習得できている。
②中国系移民を通して「人の国際移動」を理解し、特に日本の華僑・華人の諸問題について根拠に基づき論理的に説明できる。
以上の2点に着目し、期末レポート（60%）、リアクションペーパー（20%）、受講態度（授業中の発言・質問）（20%）を用いてその到達度を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の理解度を高めるために、音声・映像などのコンテンツを活用する。私語などを注意し、授業に集中しやすい環境づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with the migration and settlement, Chinatowns, economy, social structure, education, custom and lifestyle of overseas Chinese in the world, especially focusing on overseas Chinese in Japan. At the end of the course, participants are expected to obtain basic knowledge about overseas Chinese, and also to be able to evaluate ethnic diversities in Japan.

Your required study time is two hours for each class meeting.

ARSk300GA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)

人の移動と国際関係Ⅲ

水谷 明子

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：人の移動と国際関係Ⅲ（アジア・太平洋）
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：旧：移民研究Ⅲ（アジア・太平洋）の修得者は履修不可
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代以降の国際関係は、地域・国家における政治・経済・社会の変動から、人・モノ・情報の交換範囲を拡大し、国境を超えた移動・相互関係を増大させてきた。植民地支配や近代資本主義における労働市場の拡大、戦争などの歴史的経緯や政策によって、個人や集団同士が「他者」への認識および「他者」との関係を構築・再構築し、現在に至るまで様々な影響を与えている。本講義では、国際関係における人々の移動の歴史、近代以降の移動を引き起こした要因・政策について、日本を中心に確認した上で、戦後から現在までの日本・アジアの「人の移動」を検討する。特にジェンダーの視点から、近現代アジアにおける女性・家族の移動の特徴を考えたい。また、グローバル化と同時に多文化化が進行する中で、「他者」の理解や歴史・文化の接触による衝突と交流の可能性を、「自分ごと」として考えられるよう議論を行いたい。それによって、今後、現実「他者」との摩擦に直面した際に、実態と歴史認識に鍛えられた批判精神を保てる能力を養うことを目的とする。

【到達目標】

1) 近現代国際関係における人々の移動の背景・要因についての理論を確認し、2) それらが近現代日本とその周辺地域においてどのような歴史・政策を辿ってきたのか、具体的に検討する。更に、3) 実態的な移動がどのように生じ、地域や移動する人々の特徴として現れているのか、4) 近年の国際移動で注目される「女性の移動」の特徴とはどのようなものか、5) 現在そして今後の日本の政策の課題を検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・本年度は教室で対面型の授業を行う。
・事前に授業資料を掲示し、授業内で予習・復習の課題を課す。
・資料を読み、特に現代日本の事例について受講生の関心に基づいてグループワーク、ディスカッションを行い、それについて発表の時間を設ける。
・講義の感想や質問事項をコメントシートに記入し、次回にそれについても議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	国際関係学における人々の移動についての議論を確認する。
2	東アジアにおける近代国際関係と人々の移動(1)	東アジアにおける近代国際関係の歴史を人々の移動から捉え直し、政治・経済・社会の変動と移民、出稼ぎの関係を検討する。近現代東アジア国際関係史を人々の移動から捉える研究史を整理する。
3	東アジアにおける近代国際関係と人々の移動(2)	日本近代の経済発展と植民地支配を人々の移動から検討する。グループワークのテーマを検討する。
4	東アジアにおける近代国際関係と人々の移動(3)	第二次世界大戦期の軍事を伴う人々の移動について検討する。
5	冷戦期東アジアと人々の移動(1)	太平洋戦争後、および冷戦初期の体制が人々の移動とどのように関わっていたか、朝鮮半島・中国・台湾の戦後を事例として検討する。
6	冷戦期東アジアと人々の移動(2)	太平洋戦争後、および冷戦初期の体制が人々の移動とどのように関わっていたか、日本・沖縄の戦後を事例として検討する。
7	現代日本における国際関係と人々の移動(1)	第二次世界大戦後の復興・経済成長後の日本における人々の移動の経験および「他者」意識について、「難民条約」締結と人権の視点から検討する。

8	現代日本における国際関係と人々の移動(2)	バブル崩壊やリーマンショックなど、1990年代以降の日本の断続的な経済不況とそれの中の労働力不足に伴う外国人労働者導入の議論から、人々の移動を検討する。
9	現代日本における国際関係と人々の移動(3)	戦前・戦後における女性の移動および「移動の女性化」と言われる現象について、ジェンダーの視点から考える。
10	現代日本における国際関係と人々の移動(4)	移動後の家族、および子どもたち、または家族離散など、家族の視点から人々の移動を考える。
11	グループ発表(1)	授業に関するテーマの中から、受講生が関心のあるものを選び、チームで調査・ディスカッションした上でグループワークの発表を行う。
12	グループ発表(2)	授業に関するテーマの中から、受講生が関心のあるものを選び、チームで調査・ディスカッションした上でグループワークの発表を行う。
13	グループ発表(3)	授業に関するテーマの中から、受講生が関心のあるものを選び、チームで調査・ディスカッションした上でグループワークの発表を行う。
14	振り返りとまとめ	振り返りと全体を通して人の移動から考える国際関係についてディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配布資料などを参考に予習・復習し、受講コメントを提出する(30分)。
・授業の展開に応じて、指定された文献や参考書を読み、問題点や疑問点を事前にまとめる。
・予定では第11回目以降、グループごとにリサーチ発表を行う。発表に向けてグループで資料を検討し、発表用資料（スライド）の作成・事前練習などに取り組む。
・学期末レポートの準備をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、各回に資料を指示する。

【参考書】

カースルズ&ミラー『国際移民の時代 第4版』関根政美ほか訳、名古屋大学出版会、2011年。
蘭信三『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』不二出版、2008年。
清水陸美ほか『日本社会の移民第二世代』明石書店、2021年。
田中宏『在日外国人——法の壁、心の溝 第三版』岩波新書、2013年。
サスキア・サッセン『グローバル・シティ：ニューヨーク・ロンドン・東京から世界を読む』筑摩書房（ちくま学芸文庫）、2018年。

【成績評価の方法と基準】

・毎回のコメントシート提出30％。
・グループワーク35％
・学期末レポート35％

この成績評価の方法とともに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

動画・映像などを取り入れる。
グループ発表の準備時間を取る。
グループ発表の日程・グループの決め方は、学生の主体性を尊重して調整する。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of immigration from/toward Japan and discusses political, economic, social, cultural effects. The goal of this course is to understand and communicate with “others” based on the historical perspective. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. Grading will be decided according to the following process short-comment-sheet every after class (30 %), group work and presentation(35 %), and term-end report (35 %).

ARSa400GA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 400）
地域協力・統合
大中 一彌
配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。授業を紹介するショート動画をご覧ください <https://youtube.com/shorts/iaK97j-Q6ss> 学内には他にもヨーロッパ関連の科目がありますが、これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足を置きつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほり上げていきます。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・この科目「地域協力・統合」は、前年度までの一部学生の要望を受け、2025年度は全面オンラインで実施します。
- ・授業時間（100分）の前半80分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（50-60分）にあてています。
- ・授業時間（100分）の後半20分程度を、グループディスカッションにあてています。
- ・毎回の授業資料はGoogle Classroomや学習支援システム-Hoppiiをつうじて事前に配布しています。
- ・学習支援システム-Hoppiiを利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
- ・基本的にリアルタイム・オンラインですが、授業内容の録画を、受講者の個人情報保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ

6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世の秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀・17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲慘を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲慘」。クリュセ、コメニウス、ベンらに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 小テストが宿題として出されます（ネット上で受験）
2. 本学学習基準によると、講義や演習で2単位を得るのに必要な予習・復習の時間は1回につき4時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】

教科書を買う必要はありません。学習支援システム-Hoppii や Google Classroom上でPDFファイル等のかたちで資料を配布します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 期末テストは行いません 0%
 - 2. 出席はとりません 0%
 - 3. 小テストの受験【インターネット上において授業時間外に受験するため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます（※1）】 61%
 - 4. グループ・ディスカッションと学生間の共働【グループ・ディスカッションへの参加や、提出する文章の内容のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等（※2）】 25%
 - 5. この科目を履修している学生や履修を検討している学生に対する、この科目の授業内容に関連した動画の提供やプレゼンテーション【あくまで希望者のみ提出です】 14%
 - 6. 運営への協力【協力してくれた方に加点しています；たとえば配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。授業参加者間の連絡や情報共有に積極的に取り組んでくれたといった形の運営協力が加点の対象】（※3）
- （※1）小テストは授業の復習であり、授業で配るスライドやプリントをみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
- （※2）グループ・ディスカッションは、参加者数によりますが、このシラバスを執筆している時点では、Zoomを用いておこなうことを想定しています。Zoomに接続し、他の学生と共に議論に参加していたことがグループが提出した成果物に記載されていれば、確実に加点されます。小テストの得点に上乘せしたい、単位がどうしても必要という学生さんは、ぜひグループ・ディスカッションに継続的に参加しましょう。
- （※3）6. は、1. ～5. の合計100%には含めず、その外枠で5%程度まで加算する。

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。

※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
- ・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであつたほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。

- ・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
- ・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください (Word ファイル) <https://x.gd/vqmNu>

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
- 2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
- 3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
- 4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
- 5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
- 6) Arguing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
- 7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

- 1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).

1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

SOS200GA (その他の社会科学 / Social science 200)

実践国際協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考えられる。1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】

- (1) 国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
- (2) 国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
- (3) 実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。

■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース(事例)をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回事前課題の宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。

■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに短く書く。授業後3日以内に学習支援システムに投稿。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。履修者人数の確認。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1 保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2 少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3 参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース4 緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。

13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13回の授業をもとにした授業内試験を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

全員、授業前にケース(事例)文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。通学電車の中でざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

山口しのぶ・毛利勝彦編(2011)『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】

W.エレット(2010)『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。
その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後課題20%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度40%、授業内試験40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。なお、授業内試験は紙媒体のものは全て持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】

■100分では討議と発表が終わらないという声が多いので、初めのうちは、1つのケースに授業2回分を充てる。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システム(Hoppii)を使う。

【その他の重要事項】

■国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。

■グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、必ず出席すること。

■グループは第3回授業から事前に固定して作る。グループ替えは3回行う。第1回授業に出席できないものの履修を希望する学生は、必ず第2回授業日前日までに履修の意思を担当教員までメールで連絡すること(smatsumoto[at]hosei.ac.jp)。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Understanding the key concepts and the technical terms relevant to international development cooperation.

2) Turning abstract the lessons learned from the case method discussion and applying it for other cases.

3) Understanding benefits and usefulness of the group discussion in practical learning.

【Learning activities outside of classroom】

-Students will be expected to have read and analyze the assigned case documents based on the instruction before each class meeting.

-Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

-Totally, your study time will be at least four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, assignments after a class meeting: 20%, in-class contribution: 40%.

SOC300GA (社会学 / Sociology 300)

実践社会調査法

松本 悟

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的社会調査の実践と量的社会調査のリテラシーを学ぶことで、卒業研究などで活かせるような研究方法を身に付けることを目指す。なお、量的社会調査についてはリテラシーを学ぶに留め実践は行わない。

【到達目標】

- (1) 統計的な社会調査データの読み取りができる。
- (2) 質的調査（ドキュメント調査、ライフストーリーインタビュー調査）を実践できる。
- (3) 卒業研究などに必要な、問いの構想、妥当な調査、収集したデータを適切に使った論文を執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。

■フィードバック：発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業の方法：①事前課題をもとに議論と講義を行う反転授業、②学生が提出した原稿などを全員で事前に読んできてコメントし合う方法、③教員が用意した課題をもとにしたグループ討議・発表などアクティブラーニングをフルに導入する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと課題	本授業の内容を説明し、履修希望者が40人を超える場合は選抜のための課題に取り組む。
2	社会調査とは何か？	事前課題文献を読んだ上で、今まで思っていた社会調査との違いを議論する。
3	問いについて考える	社会調査はただ何かを調べることではない。必ず問いが必要である。調査をする際のよい問いとは何かを議論する。
4	ライフストーリーインタビュー調査の問いと構想	ライフストーリーインタビュー調査で明らかにする問いの発表とグループ討議。ライフストーリーインタビュー調査の方法と研究倫理に関する講義。
5	ドキュメント調査の問いと構想	ドキュメント調査で明らかにする問いの発表とグループ討議。ドキュメント調査の方法に関する講義。
6	プレゼンテーション	調査結果をどのように発表すると効果的かを演習形式で考える。
7	ライフストーリーインタビュー調査結果の口頭発表	ライフストーリーインタビュー調査の結果を口頭発表し議論する。
8	ドキュメント調査結果の口頭発表	ドキュメント調査の結果を口頭発表し議論する。
9	論文作法	これから執筆する論文の技法について講義と実習を行う。
10	執筆	ライフストーリーインタビュー調査もしくはドキュメント調査の結果を論文にする。
11	ライフストーリーインタビュー調査論文初稿	ライフストーリーインタビュー調査を選択した履修者の論文を事前に読んできて、グループでコメントし合う。
12	ドキュメント調査論文初稿	ドキュメント調査を選択した履修者の論文を事前に読んできて、グループでコメントし合う。

13	量的調査のリテラシー	数量化された量的調査の読み取り方を演習形式で学ぶ。
14	国際文化学部生にとっての社会調査法	授業で学んだことをKJ法を用いて整理する。論文の最終稿提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題は多いが、その分まちがいがなく実践の能力が身につく。履修人数によって時間配分はシラバスと異なる可能性がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

大谷他（2005）『社会調査へのアプローチ—論理と方法〔第2版〕』ミネルヴァ書房。

鹿島茂（2003）『勝つための論文の書き方』文春新書。

その他適宜授業で提示する。

【成績評価の方法と基準】

ライフストーリーインタビュー調査論文もしくはドキュメント調査論文の最終稿が50%、口頭発表が30%、平常点が20%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文を書く意思のある2～4年生を主な対象とした授業であり、履修者は確実にその力がついている。一方で学生の負担が大きいため、2025年度は、口頭発表まではライフストーリーインタビュー調査とドキュメント調査の両方を習得するが、執筆するのはライフストーリーインタビュー調査論文かドキュメント調査論文のどちらか1本とする。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。発表の際にはレジュメを人数分用意し事前に配布すること。

【その他の重要事項】

1. 調査のハウツーを学ぶ授業ではない。論文を目的とした調査法の授業である。
2. 履修の意思があるものの初回授業に出席できない場合は、必ず初回授業より前に担当教員にその旨を伝えること（smatsumoto[at]hosei.ac.jp）。
3. 事前に統計の知識がなくても履修に問題はない。
4. 課題は比較的多いが、その分学びも大きい。
5. 遅刻は授業の進行の大きな妨げとなるので始業時には教室に入っていること。
6. 担当教員は社会調査士の資格を持ち、海外での質的社会調査を実践してきた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course contains lecture /practice of qualitative research, and literacy of quantitative research, but not includes practice of quantitative research. It enable students to apply the qualitative research methodologies such as life-story interview and document analysis and to use quantitative data for their graduation dissertations in proper manners.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) develop their literacy skills to understand the quantitative data.
- 2) practice the qualitative research (life-story interview and/or document analysis).
- 3) acquire the academic skills to develop a research question, an appropriate research method and write a short paper in academic manner.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the assigned book chapter, to write a draft paper or to have completed the required assignments and so on.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following one research paper: 60%, oral presentation on the other research: 40%

HIS300GA (史学 / History 300)

Approaches to Transnational History

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level 1 500-539、TOEFL ITP Level 2500、TOEIC675-819、IELTS 6.0、英検準1級程度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、担当教員に相談すること。

Courses in Intercultural Communication need the higher English proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819, IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course takes up current social, economic, and political issues related to "the Global South," such as climate change, immigration, tourism, pandemics, repatriation of art and cultural artifacts, and Black Lives Matter, from a transnational and cross-cultural perspective, incorporating the historical past.

By discussing various topics associated with the Global South, students will gain knowledge of important contemporary phenomena, acquire concepts and theories for analyzing these phenomena, and be able to research issues related to the Global South.

【到達目標】

At the end of this course, students will be able to:

- ・ Understand the issues surrounding the Global South and their historical background.
- ・ Analyze issues related to the Global South using concepts and theories from the framework of global and transnational history.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

The first part of the class focuses on providing students with a broad understanding of the background of the topic covered in the assigned readings and important concepts and theories related to the topic. The class then engages in a discussion that allows students to share their insights and interpretations of the reading assignment. In the second half of the class, the focus shifts to a broader examination of the issues raised in the reading assignment. The class expands its scope to explore the implications, connections, and applications of the issues in a broader context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	An overview of the course.

Week2	Climate Change	Explores the impact of climate change on the Global South and discusses the conflict between the Global South and developed countries over environmental issues.
Week3	Tourism	Traces the images of Africa as a tourist destination created by the West in the past and discusses how such images are currently being renovated and/or reframed.
Week4	Pandemics	Explores the pandemics that have historically plagued Latin America and discusses the problems caused by Covid-19.
Week5	Representation	Analyzes exotic advertising using Edward Said's notion of Orientalism and discusses how such images are now being appropriated by the Global South.
Week6	The midterm	The Practice of Analyzing Primary Sources and a Quiz
Week7	Immigration and Citizenship	Takes up the case of past migrants from India to East Africa and discusses their current situation as citizens in African countries.
Week8	Repatriation of Cultural Heritage	Using the case of museums in Germany that own artifacts confiscated from colonies, discusses the repatriation of cultural heritage.
Week9	Black Lives Matter Movement	Explores the current controversy over public history and monuments in the wake of the Black Lives Matter movement.
Week10	Final Paper Presentation 1	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week11	Final Paper Presentation 2	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week12	Final Paper Presentation 3	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week13	Final Paper Presentation 4	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Class14	Wrap up	Summary of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to read all the assignments and be ready for class discussions, and also write a paper analyzing assigned primary sources.

Students are expected to spend about 4 hours a week on coursework outside the class.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. All course materials are available online through the course site.

【参考書】

- Akira Iyrie, Global and Transnational History: The Past, Present, and Future(Basingstoke, UK: Palgrave Macmillan, 2013).
- Pierre-Yves Saunier, Transnational History (Basingstoke, U.K.: Palgrave Macmillan, 2013).
- Carina Schmitt, eds. From Colonialism to International Aid External Actors and Social Protection in the Global South (Palgrave Macmillan, 2020).

【成績評価の方法と基準】

- ① Class participation 30%
- ② Primary document analysis quiz 20%
- ③ Presentation 20%
- ④ Final Paper 30%

Based on the grading criteria, students who successfully achieve 60%or more of course goals will earn a passing grade.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

ICT devices such as laptops and tablets.

ARSi200GA（地域研究（アフリカ） / Area studies(Africa) 200）

国際関係研究Ⅲ

栗飯原 文子

サブタイトル：アフリカから見る世界

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究Ⅵ

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サハラ以南アフリカについて、主に歴史、社会、政治、国際関係というカテゴリーから学び、アフリカ研究の導入となる知識を身につける。それによって、変わりゆくアフリカ地域の「いま」を考え、アフリカを多面的に理解することを目指す。

【到達目標】

- ・アフリカを学ぶための基礎知識を身につける。
- ・アフリカの多様性を理解し、アフリカ研究への関心を高める。
- ・世界史のなかのアフリカ地域をとらえ直す。国際関係におけるアフリカの位置について考える。
- ・アフリカについて学び、アフリカから「世界」を見ることで、欧米中心的な視点や思考を乗り越える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・授業は学習支援システムを通じたオンライン（オンデマンド方式）での開講となる。毎週金曜日に「お知らせ」を配信するので確認すること。
- ・毎回視聴覚資料を配信する。各自で学習して、期限までに課題を提出すること。
- ・リアクションペーパーにおけるコメントの紹介、質問に対する応答を通じて、さらなる議論につなげたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションー アフリカを学ぶために	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。アフリカについて学ぶにあたり、いくつかの前提を共有する。
第2回	イメージとしてのアフリカ	長いあいだイメージとして構築されてきた「アフリカ」について、その歴史を批判的に振り返る。
第3回	アフリカ史の視点①	「アフリカ史」の視点をもつことの意味はなにか考える。王国・帝国の歴史を見ていく。
第4回	アフリカ史の視点②	引き続き、アフリカ史の視点から歴史を語り直すとはどういうことかを考え、いくつかの事例を見ていく。スワヒリ文明、奴隷貿易、抵抗の歴史など。
第5回	アフリカの宗教①	大陸の信仰・宗教について概観する。
第6回	アフリカの宗教②	アフリカに広がった、イスラームとキリスト教について学ぶ。
第7回	アフリカと移動①	アフリカ大陸の「移動」の歴史を概観する。
第8回	アフリカと移動②	現代の大陸内外に広がる人びとの移動を考察する。
第9回	アフリカ近現代史を振り返る①	アフリカの現在への考察を深めるために、近現代史を振り返る。植民地時代を詳しく見ていく。
第10回	アフリカ近現代史を振り返る②	アフリカ諸国独立に至るプロセス、独立後の難題について概観する。
第11回	アフリカと紛争①	ポスト冷戦期のアフリカにおける武力紛争について、いくつかの文脈に位置づけて考える。
第12回	アフリカと紛争②	アフリカにおける紛争解決について学ぶ。
第13回	アフリカと国際関係	アフリカの国際関係について、アフリカ諸国間関係、新興国との関係を中心に考える。
第14回	全体のまとめと復習	全体の復習をおこない、期末課題について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。
また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は次の通り。
・各回の課題（リアクションペーパーなど）の提出（60％）
・期末課題（40％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・アフリカについてまったく学んだことのない学生にも理解してもらえるよう、十分な説明を心掛けたい。
- ・リアクションペーパーに対するコメントが興味深いという声が多かったので、より積極的におこなっていきたい。

【その他の重要事項】

- ・初回の授業資料は9月19日（金）13時にアップロードします。
受講希望者は必ず、この時間までに登録を行ってください。
- ・受講希望者が多い場合、抽選をおこないます。

【Outline (in English)】

[Course outline] The purpose of this course is to introduce students to key concepts and debates in the field of African Studies. [Learning objectives] Over the course of the semester, students will learn important topics in 1) history, 2) society, 3) politics and 4) international relations, and gain a comprehensive understanding of Africa's diversities and its roles and relations in the contemporary world. [Learning activities outside of classroom] Students will be expected to review the audio-visual materials and the handouts. The required study time is at least four hours for each class session. [Grading policy] Final grade will be decided based on the following: short reports 60%and term-end examination 40%.

CUA200GA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

国際関係研究Ⅳ**石森 大知**

サブタイトル：家族と結婚の人類学

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究Ⅳ

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、誕生から死ぬまでの間、つねに他者との関係を持ち続ける。あるいは、誕生前の生殖過程および死後の世界においても、人間は人びとを結ぶ関係の網の目に生きているといっても過言ではない。本授業では、とくに家族と結婚をキーワードとして、このような人と人をつなぎ合わせる社会関係およびそれを支える制度や組織について文化人類学的に考察する。

【到達目標】

- ・文化人類学、とくに家族と結婚に関する基本的な理論や概念を習得する。
- ・ものごとを幅広い視野から捉えることによって得られる他者理解の洞察力に身に付ける。
- ・世界の多様な人間の在り方を学び、結婚・親子・家族とは何かについて相対的な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	家族と親族①	核家族普遍説を問う
第3回	家族と親族②	キンドレッドと出自集団
第4回	家族と親族③	母系社会の暮らし
第5回	親子と結婚①	現代における結婚の諸相
第6回	親子と結婚②	親子の絆とは何か
第7回	生殖医療①	生殖技術と現代社会
第8回	生殖医療②	新しい家族の行方
第9回	結婚と社会関係①	インセスタブーの解釈
第10回	結婚と社会関係②	『親族の基本構造』を学ぶ
第11回	ライフサイクル①	子どもから大人へ
第12回	ライフサイクル②	老いることの意味
第13回	ライフサイクル③	この世からあの世へ
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や社会人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。

松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。
梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスンフィールドからの出発』学陽書房、2017年。
波平恵美子編『文化人類学－カレッジ版（第3版）』医学書院、2011年。
クロード・レヴィ＝ストロース『親族の基本構造』福井和美訳、青弓社、2000年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムや動画閲覧サービス等を利用します。

【その他の重要事項】

- ・本授業では授業コメント（リアクションペーパー）や学期末レポートの提出を課しますが、生成AIツールは使用しないでください。
- ・学期末レポートにおいては、出典の明示を徹底してください（詳細についてはレポート作成要領において説明しますが、出典が明示されていない場合は評価対象外となることがあります）。
- ・本学では成績評価におけるSの割合を受講者の20%以内を目安とすることを定めており（ただし少人数授業等を除く）、本授業でもこれに従って評価を行います。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
- ・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、国家と民族について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline (in English)】**[Course Outline]**

This course covers the basics of social and cultural anthropology, which seeks to understand cultural and social diversity in the world. We especially focus on the parent-child relations, kinship and marriage to understand social relations which connect people in everyday life.

[Learning Objectives]

The goals of this course are to understand the contemporary meaning of kinship and social relations from anthropological perspective.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

OTR200GA (その他 / Others 200)

インターンシップ事前学習

岩下 弘史

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生が「国際文化学部で親和性のある企業・団体の第一人者によるプロフェッショナルな仕事」を理解し、今後の就職活動などに活かすことにあります。複数の外部講師が登壇する「オムニバス授業」です。

本学部学生の中には、卒業後どのような仕事に就くのか、就けるのかという点について不安に思っている学生もいるかもしれません。本授業を通じて、学生はいくつかの業界は国際文化学部との親和性が高いものであることを理解するでしょう。

またそうした業界の第一線で働く経験豊富な講師による授業を見聞きすることで、学生はそれぞれの業界・企業・団体の仕事の内容と将来の展望を知ることができます。

【到達目標】

- 1) 国際文化学部に関連する企業・団体の第一線で活躍される外部講師らによる講義を通じて、学生は各職種の特徴・問題などを学ぶことができる。
- 2) 実社会で生きるとはどういうことかを、最新のデータや体験談を交えて学ぶことができる。
- 3) 国際文化学部と親和性の高い企業・機関に関する生の情報を収集することで、「インターンシップ」という就業体験や就職活動などの準備にも活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は、初回を除いて外部講師によるオムニバス授業となります。各回ではパワーポイントなどを用いながら、各企業・機関・団体の活動やインターンシップ制度などについて講演して頂きます。毎回、授業時間内にコメントシートに記載してもらいます。
- ・各授業の最後に質疑応答時間を設け、履修者からの質問を受け付けます。その場で外部講師の方にフィードバックをして頂きます。
- ・もし質疑応答時間後に質問が生じた場合（あるいは時間の都合で質疑応答時間中に質問できなかった場合）は本授業担当教員までメールで連絡ください。できる限り外部講師の方にご回答いただき、履修者にフィードバックするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・本授業の目的・方法の説明 ・成績評価の詳細
第2回	榎本裕洋氏（株式会社丸紅経済研究所、研究主幹）	総合総社とはなにか
第3回	山崎はづむ氏（株式会社Poetics、代表取締役）	スタートアップという選択肢： 生成AIと音声解析AIによるPoeticsの挑戦
第4回	ひきたよしあき氏（株式会社SmileWords、代表取締役）	広告を学んで、言葉の力を強くする

第5回	松江陽一郎氏（株式会社テレビ朝日、お客様フロント部、部長）	テレビは、オールドメディアか？
第6回	武田伸也氏（アムネスティ・インターナショナル日本、キャンペーン部門マネージャー）	ストリートバスケットから国際人権NGOに——シビックスペースを守る活動
第7回	藤下超氏（NHK、メディア総局、特別主幹、解説委員）	テレビ報道の未来
第8回	市川明代氏（毎日新聞社、人事本部、採用研修担当部長）	SNS時代のメディア
第9回	畑中晴雄氏（花王株式会社、ESG部門ESG戦略部 ESG戦略スペシャリスト）	花王のESG戦略と具体的な取組
第10回	水野義弘氏（ANA総合研究所、産学連携部、主席研究員）	新しいエアラインビジネス
第11回	松山匡延氏（M-wing 合同会社、代表）	国際協力：教育分野での活動
第12回	梅野太輝氏（株式会社朝日広告社、マーケティングプロデュース部）	広告について
第13回	深澤孝之氏（株式会社明石書店、編集部長）	ナラティブから読み解く出版ビジネス入門
第14回	片貝悠氏（株式会社インターネットイニシアティブ、ITサービスインテグレーション本部 兼 広報部リードエンジニア）	ネット社会を支えるネットワークエンジニアのお話

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の配布資料については、しっかりと再読すること。
- ・興味のある講師のテーマや職種については、図書館などで関連する文献を調べ、できるだけ視野を広げること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書はとくにありません。授業内において関連資料を配布します。

【参考書】

- ・随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・「平常点（出席＆コメントシート）60％」と「期末レポート40％」による総合評価。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。
- ・第14回目授業後に期末レポートの提出。締切期日・分量・提出方法など詳細については初回授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・例年、各授業の最後には質疑応答の時間をとっている。しかし、必ずしも毎回意見や質問が出るわけではない。そのため、もしも質問が出ない場合には、改めて補足説明をお願いしたり、適宜学生に当てたりするなど、今後も授業運営を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出・質疑応答等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・「インターンシップ事前学習」という授業名称ではありますが、本授業は各業界におけるインターンシップに直結したものではありません。
- ・本授業は「実務経験のある教員による授業」となります。企業・団体が勤務実績があり、第一線で活躍されている外部講師らが業界分析・企業研究などを行います。

【Outline (in English)】

This course aims to introduce professional works which have affinity with educations and researches in the Faculty of Intercultural Communication. In this course, each lecture will be given in omnibus format, mainly by lecturers who work in some Japanese company or international organization. The goals of this course are to understand the difference of activities in each company or international organization. In doing so, they will know what and how to prepare for participating to internship programs or job hunting in the future. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

LAW200HA (法学 / law 200)
民事法 I
中川 義宏
配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring 曜日・時限：木5/Thu.5
備考（履修条件等）：環ア：経、口
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に契約法と不法行為法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争を解決する際の拠り所となる民法について、主に契約法と不法行為法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では毎回リアクションペーパーを提出してもらう。提出後の授業または学習支援システムにおいて提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第2回	民法入門	民法の全体構造を概観し、民法の体系的な理解を図る。
第3回	民法総則(1)	民法の総則規定である、権利の主体（自然人・法人）、物、意思表示による権利変動について学習する。
第4回	民法総則(2)	民法の総則規定である、意思表示の瑕疵（心裡留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫）、契約の不当性について学習する。
第5回	民法総則(3)	民法の総則規定である、無効と取消し、代理、時効について学習する。
第6回	物権	民法の「物権法」と呼ばれる領域に関し、物権の意義と種類、物権変動、占有権・所有権について学習する。
第7回	担保物権	民法の「担保物権法」と呼ばれる領域に関し、担保物権の意義と種類、抵当権について学習する。
第8回	債権総論	民法の「債権法」と呼ばれる領域に関し、債権関係とその内容、債務の不履行、弁済、相殺、債権譲渡、保証債務について学習する。

第9回	契約(1)	民法を理解するうえで大切な「契約法」と呼ばれる領域に関し、契約の意義と種類、契約の成立、契約の解除について学習する。
第10回	契約(2)	民法に規定された「典型契約」のうち、贈与、売買、消費貸借、使用貸借、質貸借、雇用について学習する。
第11回	事務管理・不当利得	民法の「事務管理」、「不当利得」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨について学習する。
第12回	不法行為(1)	民法の「不法行為法」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨、要件について学習するとともに、プライバシー侵害、名誉棄損に関する裁判例を概観する。
第13回	不法行為(2)	民法の「不法行為」の一類型である、使用者責任、工作物責任、製造物責任について学習する。
第14回	試験及び解説	試験を実施し、その解説をしながら、民事法 I の総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間外の準備学習として、授業内で取り上げる裁判例を事前に読んで検討してもらうことがあります。また、民法に関する記事や裁判は新聞で取り上げられることが多いので、普段から新聞に目を通すようにしてください。

【テキスト（教科書）】

民法（全）【第3版】（著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600円＋税）。
鳥瞰民法（全）（著者：河上正二、発行所：信山社、定価：1700円＋税）。

【参考書】

六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第14回目に期末試験を行い、成績評価はこの期末試験と平常点（中間レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験50点、平常点50点の100点満点のうち60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces civil code(mainly contract law and tort law) to students taking this course.

The goals of this course are to get the legal mindset.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process mid term report and in class contribution (50%), term end examination (50%).

LAW200HA (法学 / law 200)

民法法Ⅱ**中川 義宏**

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に親族法と相続法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争・家事紛争を解決する際の拠り所となる民法の中の親族法と相続法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業または学習支援システムにおいて提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。授業内では適宜質問して答えてもらうなど双方向の参加型授業を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第2回	民法・家族法入門	民法の全体構造を概観し、その中の家族法（親族法と相続法）の基礎を学習する。
第3回	親族・戸籍と氏	民法の「親族法」と呼ばれる領域に関し、その基本的概念となる親族、戸籍と氏の考え方について学習する。
第4回	婚姻(1)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の意義、婚姻の成立要件、婚姻の効果について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第5回	婚姻(2)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の無効と取消し、夫婦財産制について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第6回	離婚、内縁・事実婚	民法が規定する親族法のうち、離婚の方法（協議離婚、調停離婚等）、内縁・事実婚の意義について学習するとともに、離婚に関する裁判例を概観する。
第7回	親子（実親子関係）(1)	民法が規定する親族法のうち、実親子関係（母子関係、父子関係）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。

第8回	親子（実親子関係）(2)	民法が規定する親族法のうち、嫡出子、婚外子（非嫡出子）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。
第9回	養子	民法が規定する親族法のうち、養子の種類（普通養子、特別養子）、養子縁組の要件と効果、離縁について学習する。
第10回	親権、後見・保佐・補助、扶養	民法が規定する親族法のうち、親権の内容、制限行為能力（未成年・後見・保佐・補助）の制度、扶養について学習する。
第11回	相続の開始と相続人、相続の効力	民法が規定する相続法のうち、相続の開始と相続人、相続の効力（相続財産の包括承継、遺産共有、相続分、遺産分割）について学習する。
第12回	遺言、遺贈	民法が規定する相続法のうち、遺言制度と遺言の方式（自筆証書遺言、公正証書遺言、秘密証書遺言）、遺言の執行、遺贈について学習するとともに、遺言に関する裁判例を概観する。
第13回	配偶者居住権、遺留分	民法が規定する相続法のうち、配偶者居住権、遺留分の意義について学習するとともに、遺留分に関する裁判例を概観する。
第14回	試験及び解説	試験を実施し、その解説をしながら、民法Ⅱの総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間外の準備学習として、授業内で取り上げる裁判例を事前に読んで検討してもらうことがあります。また、家族法に関する記事は新聞で取り上げられることが多いですので、普段から新聞に目を通すようにしてください。

【テキスト（教科書）】

民法（全）【第3版】（著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600円＋税）。
鳥瞰民法（全）（著者：河上正二、発行所：信山社、定価：1700円＋税）。

【参考書】

六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第14回目に期末試験を行い、成績評価はこの期末試験と平常点（中間レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験50点、平常点50点の100点満点のうち60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces civil code(mainly family law and inheritance law) to students taking this course.

The goals of this course are to get the legal mindset.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process
mid term report and in class contribution (50%), term end examination (50%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際法 I**岡松 暁子**

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環コ：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、この国家間の合意の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに 国際法の構造	本講義の対象範囲 国際法の内容、近代国際法の特徴
第2回	法源	条約、国際慣習法、法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第3回	条約法	締結手続、留保、効力、無効、改正と終了
第4回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第5回	国家・国家機関（1）	国家承認、政府承認
第6回	国家・国家機関（2）	国家承継、国家機関
第7回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第8回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第9回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第10回	国家領域（1）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第11回	国家領域（2）	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第12回	国家責任法（1）	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第13回	国家責任法（2）	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法〔第2版〕』東京大学出版会、2023年。4,840円。

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2025年。（旧版でも可）

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選〔第3版〕』有斐閣、2021年。

繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部 瑠・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

特にコメントはありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society.

By the end of this course, students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper(100%).

LAW200HA (法学 / law 200)

国際法Ⅱ**岡松 暁子**

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環コ：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、主としてその各論部分を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底
第4回	南極、空域、宇宙	国際化地域、国際航空法、宇宙空間
第5回	個人	国籍、外国人の地位、難民
第6回	国際人権法（1）	人権保障の歴史、条約による人権保障
第7回	国際人権法（2）	国際組織による人権保障、履行確保、人道的介入
第8回	国際刑事法	国際犯罪、国際刑事裁判所
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続、裁判的手続
第11回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第12回	国際人道法（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第13回	国際人道法（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法〔第2版〕東京大学出版会、2022年。

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2025年。（旧版も可）

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選〔第3版〕』有斐閣、2021年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper (100%).

LAW200HA (法学 / law 200)

刑法の基礎

渡辺 靖明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考（履修条件等）：環コ：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「刑法」とは、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律（公的ルール）のことです。それでは、どのような行為が「犯罪」として処罰の対象となるのでしょうか。また、その前提となる刑法の原則とはどのようなものなのでしょうか。この授業では、これらについて具体的な事例を通じて、私たちの社会における刑法の意義と役割とを学びます。

現在、犯罪の加害者と、その被害者（遺族含む。）及び被害者に同情・共感する多くの人々との間で、深刻な「対立」・「分断」が生じているように思えます。加害者は、法や社会のルールに反し、被害者を生み出した以上、ともかく、重く厳しく罰するべきだ。それにもかかわらず、法では、加害者を裁けなかったり、軽い処罰しかされなかったりするときがある。法は加害者に甘すぎる！このように考える人も少なくないのではないのでしょうか。

犯罪の被害者に同情・共感することは、もちろん大切です。しかし、だからといって、その加害者を「敵」として、とにかく重く厳しく罰しさえすれば、社会は安心・安全になるのでしょうか。加害者の立場・境遇にも思いをはせ、その言い分にも耳を傾けることも必要なのではないのでしょうか。また、法が加害者に「甘い」ように見えるとしても、それはなぜなのでしょう。そして、それは本当に不当な「甘さ」なのでしょうか。

これらのことを冷静に考えるためには、刑法の意義・役割、またその原則の下で、どのような場合に「犯罪」が成立し、また「刑罰」が科されるのか。このことをきちんと理解する必要があります。その理解をせずに、ともかく加害者を徹底的に攻撃して社会から排除し、また加害者に「甘い」法には「不備」があるとして、犯罪の重罰・厳罰化を一方的に求めるのは、単なる「思考停止」です。それでは、犯罪の根本的な原因を考えてこれを解消することもできず、犯罪による被害を真に防ぐことも難しくなるのではないのでしょうか。

この意味で、刑法の概要を学ぶことは、様々な「対立」と「分断」を乗り越え、私たちの誰もが他の人と仲良く共存しながら、自由に幸せに生きていける安心・安全な社会を築くためのヒントになるかもしれません。

【到達目標】

法と倫理・道徳との異同、刑法の意義・役割・限界、刑罰の目的や刑法と他の法律との関係を踏まえて、刑法の一般原則及び犯罪の一般的・個別的な成立要件等や、さらにこれに関する判例（裁判所の判断）及び学説（研究者の見解）を理解し、これらの基礎知識を修得することが、この授業の到達目標です。

レジュメには、〔確認問題〕・〔検討問題〕を適宜設けます。基礎知識修得の目安は、その各問題の解答と理由とを理解し、それを文章（言語）できちんと説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメ中の具体的事例を検討しながら、各回のテーマごとの理解をはかります。適宜授業内で、学習支援システムを通じて意見などを提出してもらうこともあります。

小テスト（4回予定）については、回答期限後の授業ないし学習支援システムを通じて、簡易な解説を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「刑法」とは何か。	法（律）の意義、法の体系及び「刑法」の意義と刑罰の限界を学ぶ。
第2回	殺人罪（1） －犯罪の一般的成立要件	犯罪の一般的成立要件及び刑法における人の「生」と「死」をめぐる議論などを学ぶ。
第3回	殺人罪（2） －犯罪の故意・過失	刑法の故意犯処罰の原則や犯罪の故意と過失の成立要件などについて学ぶ。
第4回	殺人罪（3） －胎児性致死傷	胎児性致死傷と罪刑法定主義との関係などを学ぶ。
第5回	傷害罪	傷害の意義及び傷害と傷害致死との関係（刑法の因果関係）などを学ぶ。
第6回	自殺関与・同意殺人罪	刑法における被害者の同意の意義及び同意の有効性などを学ぶ。
第7回	安楽死・尊厳死	終末期医療における安楽死・尊厳死と刑法との関係などを学ぶ。
第8回	刑罰論	刑法の刑罰と民法の損害賠償・行政法の行政処分との違いや、国家が市民に刑罰を科すことの正当化根拠をめぐる議論などについて学ぶ（学習支援システムでアップする録音を聴いてもらう予定）。
第9回	脅迫罪・強要罪・監禁罪	意思決定の自由の罪の基礎を学ぶ。
第10回	不同意（強制）わいせつ罪・不同意（強制）性交等罪	性的自由に対する罪の基礎を学ぶ。
第11回	住居侵入罪	住居権・住居の平穩に対する罪の基礎を学ぶ。
第12回	名誉毀損罪・侮辱罪 真実性の証明による免責	名誉に対する罪の基礎及び刑法における名誉の保護と表現の自由の保障との関係を学ぶ。
第13回	財産に対する罪	財産に対する罪の共通原則及び個別の犯罪の基礎を学ぶ。
第14回	賄賂罪	汚職の罪（国家の作用に対する罪）の基礎を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメや刑法の参考書等で予習・復習をしてください。特に復習時には配布レジュメ中の各事例や〔確認問題〕・〔検討問題〕を中心に理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

【参考書】

特に指定はしません。お勤めの参考書は、開講時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業で扱った基礎知識を問う定期試験80%、学習支援システム上での小テスト20%の総合評価で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、教材も含めわかりやすく学べ、社会で役立つ知識が身に着いた、など好意的な意見を多くもらうことができました。これを本年度も維持できるよう努めます。特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけます。

一方で、授業でどこを扱っているのか、わからないときがあり、スクリーンを使ってほしかったなどの要望もありました。状況に応じて改善したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

コロナウィルスの感染予防及び省資源の観点から、レジュメを印刷して直接配布することはありません。学習支援システムで事前にレジュメをアップするので、自身でプリントアウトをして持参するか、または電子機器で閲覧、書き込み等ができるように準備をしてください。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、他の法律系科目もあわせて履修しておく、この授業の理解が一層深まるでしょう。また、「環境刑法」を扱う秋学期開講の「環境法Ⅳ」は、私が担当しますが、「刑法の基礎」を履修しておけば、同授業の理解が容易になるかと思います。

なお、刑法に限らず、法学は、自分のこれまでの断片的な知識・思い込みによる私見だけを一方的に主張しても、修得したことにはなりません。条文、判例、学説を十分に理解することが必要です。受講にあたり、また小テスト・定期試験受験時には、このことをよく理解しておいてもらいたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 What kind of action is subject to punishment as a crime? What is the basic principle of criminal law to consider crime and punishment? We will learn it through concrete examples. And we will think the meaning and role of criminal law in society.

Learning criminal law may be a hint to overcome various divisions and build a society where everyone can live happily while coexisting with others.

【Learning Objectives】 Acquiring basic knowledge of criminal law is the goal of this class. [Confirmation question] and [Examination question] are described in the resume. At the end of this course, students are expected to understand answer and its reason for each question and to be able to explain them correctly in sentences.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Termed examination:80%, mini exam:20%

LAW300HA (法学 / law 300)

環境法Ⅳ**渡辺 靖明**

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考（履修条件等）：環コア：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では「環境刑法」、すなわち「環境」の保全について、刑法がどのような役割を果たし、またそこにどのような限界があるのかを学びます。

刑法は、「犯罪」と「刑罰」を定める法律（公的ルール）です。環境保全のためにも、刑法上様々な行為が犯罪とされ、刑罰（罰則）の対象とされています。しかし、環境を著しく汚染、破壊した人を犯罪者として重く罰しても、失われた環境は回復しません。それにもかかわらず、環境保全のために刑法（罰則）を用いることが常に必要かつ有用なののでしょうか。さらに言えば、「環境」は、身近なゴミのポイ捨てによっても、生成AIの利用増加によっても、また攻撃（防衛）の兵器を用いた戦争によっても害されます。刑法を含めた「法」だけがこうした多様な環境破壊を防ぐための「最適解」なのでしょうか。

これらのことを考えるためには、刑法自体の目的・役割・機能と限界や刑法以外の民法や行政法による環境保全の規制との関係を正しく理解する必要があります。さらに、現在の環境保全のための刑法（罰則）ひいては法の制度全体あるいは社会の在り方自体を広い視野で見ること欠かせません。それは、（生成AIは決して教えてくれないであろう）「環境」を「なぜ」、「どのように」保全すべきなのかについて、深く考えることにきつとつながるでしょう。

この授業では、刑法の基礎知識を身に付けつつ、刑法そして法による環境保全の在り方と限界を理解して、私たち一人ひとりが環境保全のために何をすべきかを多角的な観点から考えられるようになることを目指します。

【到達目標】

法の保全の対象となる「環境」の意義や、環境保全をめぐる「刑法」（罰則）の体系、関連する基本的な判例（裁判所の法的判断）や学説（研究者の見解）を正しく理解して、環境保全への実践的な法の基礎知識を修得することが、この授業の到達目標です。

基礎知識修得の目安は、各回の教科書やその補充・追加のレジュメの内容を理解し、基本的な用語や概念の意味、具体的な事例や問題について、文章（言語）できちんと説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書とその補充・追加のレジュメをもとに、各回のテーマごとの理解をはかります。適宜授業内で、学習支援システムを通じて意見などを提出してもらうこともあります。

小テスト（4回予定）については、回答期限後の授業ないし学習支援システムを通じて、簡易な解説を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「刑法」の意義と限界	法（律）の意義、法の体系及び「刑法」の意義と限界を学ぶ。
第2回	「公害罪法」の挫折	「公害罪法」の意義と問題点を具体的な刑事裁判例を通じて学ぶ。

第3回	環境保全と刑法 （1）－「環境」の意義	「環境」の意義をめぐる「生態系中心」と「人間中心」との対立や、「現在世代」と「未来世代」との対立などを学ぶ。
第4回	環境保全と刑法 （2）－罰則の基礎	環境保全のための罰則の基礎として、刑罰と行政上の制裁との区別、両罰規定、直接罰と間接罰、侵害犯と危険犯さらに累積危険犯などの基礎を学ぶ。
第5回	環境保全と刑法 （3）－自然生態系の保護	自然生態系（大気・水・土）の保護に関する法律と罰則の基礎を学ぶ。
第6回	環境保全と刑法 （4）－動物愛護	人と動物をめぐる法の体系と罰則を通じて、「動物愛護」の意義を学ぶ（学習支援システムでアップする録音を聴いてもらう予定）。
第7回	廃棄物処理法の罰則 （1）－廃棄物の処理体系と罰則	廃棄物処理法の廃棄物の処理体系及びこれに関する罰則の基礎を学ぶ。
第8回	廃棄物処理法の罰則 （2）－「廃棄物」	廃棄物処理法上の「廃棄物」の意義を刑事裁判例を通じて学ぶ。
第9回	廃棄物処理法の罰則 （3）－廃棄物の「再生・循環利用」	廃棄物の「再生・循環利用」の法体系と関連する刑事裁判例を学ぶ。
第10回	廃棄物処理法の罰則 （4）－不法投棄罪	廃棄物の不法投棄罪の基礎と特に「捨てる」の意義に関する刑事判例及び学説を学ぶ。
第11回	廃棄物処理法の罰則 （5）－不法焼却罪と業法違反の罪	廃棄物の不法焼却罪及び業法違反の罪の基礎と関連する刑事裁判例を学ぶ
第12回	リサイクル法・省エネ法の罰則	各種リサイクル法と省エネ法の体系と罰則を学ぶ。
第13回	刑事手続の概要	環境法上の犯罪を素材として、捜査・起訴・公判の刑事手続の基礎を学ぶ。
第14回	まとめにかえて一環境保全と民主政治・社会倫理	環境保全を支える民主政治の機能と社会倫理とは何かを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、配布レジュメで予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

長井圓編著、渡辺靖明ほか『未来世代の環境刑法1 Textbook 基礎編』（信山社、2019年）4,620円（税込）。

※下記参考書の『2』と間違えないように注意してください。

【参考書】

長井圓『未来世代の環境刑法2 Principles 原理編』（信山社、2019年）4,180円（税込）。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業で扱った基礎知識を問う定期試験80%、学習支援システム上での小テスト20%の総合評価で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、法律学を初めて面白いと感じることができた、教材がわかりやすく理解しやすかった、など好意的な意見をもらうことができました。これを本年度も維持できるよう努めます。特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけます。

一方で、授業でどこを扱っているのか、わからないときがあり、スクリーンを使ってほしかった、集中力を維持するために周りの人と話合うなどの時間があればなおよかった、などの要望や指摘もありました。状況に応じて改善したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

コロナウイルスの感染予防及び省資源の観点から、レジュメを印刷して直接配布することはしません。学習支援システムで事前にレジュメをアップするので、自身でプリントアウトをして持参するか、または電子機器で閲覧、書き込み等ができるように準備をしてください。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、「環境法」等の他の法律系科目もあわせて履修しておく、この授業の理解が一層深まるでしょう。特に私が担当する春学期開講の「刑法の基礎」を履修しておけば、この授業の理解が容易になるかと思います。

なお、刑法に限らず、法学は、自分のこれまでの断片的な知識・思い込みによる私見だけを一方的に主張しても、修得したことにはなりません。条文、判例、学説を十分に理解することが必要です。受講にあたり、また小テスト・定期試験受験時には、このことをよく理解しておいてもらいたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 We will study about “environmental criminal law”.

We will learn about the various meaning's environment and purposes of environmental conservation through law. And we will think the relationship and differences between criminal law and other laws, and especially the roles and limit of criminal law in environmental conservation.

【Learning Objective】 Our goal is able to consider from a broader perspective about why and how the environment should be conserved, taking into account the roles and limit of environmental conservation (criminal-) laws.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Termed examination:80%, mini exam:20%.

LAW200HA（法学 / law 200）

国際環境法**岡松 暁子**

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環ア：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と 接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ、 共通に有しているが差異ある責任、 人類共通の関心事
第8回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第9回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第10回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、 情報交換、事前の情報に基づく同意、 環境影響評価、モニタリング
第11回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第12回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第13回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2025年。（旧版も可）

その他、授業内に指示する。

【参考書】

繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。2,800円。

その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper (100%).

LAW300HA（法学 / law 300）

労働環境法

櫻井 洋介

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：環コア：経
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、労働者として自律的なキャリアを形成していく上で必要な労働法の基礎知識の習得を目指します。労働法の役割は、使用者と比べて相対的に立場の弱い労働者を保護し、労使対等の理念を実現することであり、全ての労働者が知っておくべき法律であるといえます。社会に出る前に労働法の基礎知識を習得しておくことは、将来的に自身の身を守ることにもつながります。

【到達目標】

労働法の基礎知識の習得を通じて、身近な労働に関する諸問題について、法的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は基本的に講義形式となります。授業ごとに小テストを課すことを予定しています。小テストの内容は、講義の中で解説をします。また、最終講義では論述試験を行います。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境法の全体像	労働関連法令の構成や全体像、役割等について学ぶ
第2回	労働者、使用者の概念と労働条件の決定	労働法のアクターである労働者や使用者の概念を学ぶとともに、労働条件の決定に関するプロセスを理解する。
第3回	募集・採用と様々な雇用形態	募集・採用時のルールや、採用内定および試用期間の法的性格、有期労働契約の特徴等について学ぶ。
第4回	賃金と労働時間・休憩・休日（1）	労働時間・休日・休憩に関する基本的な法的ルールを学ぶ。
第5回	賃金と労働時間・休憩・休日（2）	賃金の支払いに関する規制や割増賃金の考え方等を学ぶ。
第6回	様々な働き方と労働時間制度	フレックスタイム制や裁量労働制等といった労働時間管理の諸制度の構造について学ぶ。
第7回	配置転換・労働条件の変更	配置転換や出向・転籍等の命令権に関する法律上の考え方を理解するとともに、労働条件を変更する際の手続について学ぶ。
第8回	安全衛生と労災補償	使用者の安全配慮義務や労災補償制度の概要を学ぶ。
第9回	労働組合の役割	労働組合の加入や脱退、権利の概要を学ぶとともに、団体交渉の意義や労働協約の法的効力等について学ぶ。
第10回	労働契約の終了：解雇規制と定年退職	解雇に関する法的な規制や定年退職および定年後の再雇用等に関するルールについて学ぶ。

第11回	労働者の人権保障とハラスメント規制	労働者の人権や労働契約上の権利義務、ハラスメントに関する法的規制の現況等について学ぶ。
第12回	平等原則と差別の禁止（女性、障害者、年齢、国籍等）	男女雇用機会均等法および障害者雇用促進法の制定や改正を中心として、労働法上の平等原則や均等待遇、差別禁止に関連する法令の全体像や概要を学ぶ。
第13回	新しい働き方と労働法の現代的課題	非典型雇用の他、フリーランス、ギグワーカー等といった新しい働き方を取り巻く労働環境や法の適用状況等について学ぶ。
第14回	期末テスト	授業内でテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義の終わりに、次回講義に向けた予習内容を指示しますので、指示に従って該当箇所を熟読してから講義に臨むようにしてください。予習内容は、次週の講義内で紹介する判例を読み込んでもらうことを予定しています。また、復習を行う場合は、レジュメや教科書に目を通すだけでなく、講義内で紹介した判例の内容をしっかりと理解するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中窪裕也・野田進『労働法の世界（第13版）』（有斐閣、2019年）

【参考書】

初学者向けの参考書として、①浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法第9版』（有斐閣アルマ、2023年）、判例を確認する際の参考書として、②『労働判例百選（第10版）』（有斐閣、2022年）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに行われる小テスト（基本的な法規制や重要判例についての理解を確認するための選択・穴埋め式問題）を50%、期末試験を50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、法律科目の初学者向けに、必要に応じて期末テスト前に法律科目の試験答案の書き方等に関する説明を行う予定です。

【その他の重要事項】

本講義は、労働環境論Ⅰ、Ⅱと関係しています。本講義は主に「法律」に焦点を当てますが、労働環境論Ⅰ、Ⅱの講義を通じて、法律の背景にある労働環境の現状や変遷について学んでおくと、より理解が深まると思います。

また、本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているため、企業の実務や実態に即した講義を実施させていただきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to provide students with the basic knowledge of labor law necessary to develop an autonomous career. The role of labor law is to protect workers who are in a relatively weaker position compared to employers and to realize the principle of equality between workers and employers, and it is a law that all workers should know. It is important for all workers to have a basic knowledge of labor law before starting their careers, so that they can protect themselves.

【Learning Objectives】

Students will be able to legally explain various labor-related issues in their daily lives through acquiring a basic knowledge of labor law.

【Learning activities outside of classroom】

At the end of each lecture, students will be given instructions on how to prepare for the next lecture (e.g., the relevant pages in the textbook). Please follow the instructions and read the relevant sections carefully before attending the lecture.

When students review the lectures, they should not only read through the resumes and textbooks, but also make sure that they fully understand the content of the precedents introduced in the lectures.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The quiz given in each class (multiple choice/fill-in-the-blank type questions to check understanding of basic laws and regulations and important judicial precedents) will be 50%, and the final exam will be 50%.

POL300HA（政治学 / Politics 300）

自治体環境政策論Ⅰ

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策学の視点で、都市空間における緑や水辺などの自然環境の保全、都市農業政策、ヒートアイランド対策、下水道政策、都市公園政策など、自治体環境政策に関する多様なテーマについて検討する。さらに地域の未来を考えるために、第2次大戦後から現代までの自治体環境政策史について検討する。トピックとして、公害規制、廃棄物処理、都市の開発コントロール、景観政策、アーバンデザインなどを取り上げる予定である。この授業の目的は、学生が自治体環境政策の基礎知識や政策型思考について学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・自治体による地域環境政策に関する知識を習得する。
- ・地域課題に関する政策思考を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイント、映像等に基づく講義を中心として、適宜、授業内において発言を求めながら、リアクションペーパーや学生からの情報提供なども活用することで、双方向のコミュニケーションを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション～そもそも「政策」とは何だろうか？	イントロダクションとして、自治体環境政策が公共政策であることをふまえて、「政策」の概念とその基本構造を確認する。
第2回	自治体政策の風景	環境政策を含む自治体政策を風景に喩えて、体系的と総合性という視点から構図を確認する。
第3回	都市の緑を守る	都市空間における緑地保全について、里山、宗教空間などの地域資源と政策対応について検討する。
第4回	都市の緑を活かす	都市農業・農地の多面的機能の視点から、生産緑地や農地の市民の利用などについて検討する。
第5回	都市の緑を創る	都市空間における公共施設や民間施設の緑化について検討した後、現代都市の緑戦略の方向性について総括する。
第6回	水と緑の総合政策と自治体の役割	水辺環境の保全、水と緑を一体的にとらえる総合的な都市環境政策と自治体の役割について検討する。また斜面緑地の保全の意義とともに、「遅れたきた公害」ともいわれる、かつて開発した住宅地の崩壊リスクにも言及する。

第7回	自治体政策のドラマと問題構造	自治体政策をドラマに喩えて、政策過程のモデルと、政策が対象とする公共問題の構造について確認する。
第8回	ヒートアイランドの問題構造と都市環境政策	21世紀の都市環境問題であるヒートアイランドの問題構造と、グリーン・インフラストラクチャーの導入をはじめとする総合政策による都市構造の転換について検討する。
第9回	自治体環境政策と社会資本整備～下水道	自治体環境政策における社会資本整備として、下水道の今日的課題と地域資源としての可能性などについて検討する。
第10回	自治体環境政策と社会資本整備～都市公園	自治体環境政策における社会資本整備として、都市公園の多面的機能や政策課題、パークマネジメントなどについて検討する。
第11回	第1世代の自治体環境政策～高度経済成長期の政策革新	高度経済成長期において都市の「生活環境の防衛」を目的として登場した公害対策や宅地開発の規制など、第1世代の自治体環境政策について、当時の社会情勢とともに検討する。
第12回	地域の「環境再生」への挑戦	環境破壊の世紀であった20世紀に対して、21世紀の課題である地域の「環境再生」政策について検討する。
第13回	第2世代の自治体環境政策～歴史的町並み保全政策から現代の景観政策へ	1960年代後半から80年代において、地域空間の質の高めるために登場した第2世代の自治体環境政策の現代までの軌跡について、歴史的町並み保全や景観法を中心として検討する。
第14回	アーバンデザインから考える都市の未来	第2世代の自治体環境政策の時代から始まったアーバンデザインについて、横浜の政策実践を回顧しながら、都市の未来について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、中間レポートなどの課題に取り組む必要がある（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（65％）＋積極的な参加姿勢（15％）＋中間レポート（20％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・最新の地域社会の動きや自治体の政策情報の提供を通して、現代社会を理解する機会になることを期待しています。
- ・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントなどの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていきたいと思います。
- ・学習支援システムを活用し、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思います。

【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを強く推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで履修する学生にとっても、地域社会に関連するテーマや「持続可能な地域社会」を理解するためには、自治体政策に関する基礎知識は必須です。
- ・「自治体環境政策論Ⅰ」と「自治体環境政策論Ⅱ」は連続しており、両方を受講することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

In this class, from the viewpoint of public policy studies, we will examine the various themes about the environmental policy of local government, such as preservation of the natural environment in urban space, urban agriculture policy, control of “Heat island”, sewer policy, city park policy. Furthermore, in order to consider the future of the community, we will explore the history of local environmental policy from after the Second World War to the present age. The topic to take up will be pollution regulatory, waste administration, control of urban development, local scene preservation policy, urban design, etc. The purpose of this class is for students to learn about the basic knowledge of regional environmental policy and the method of policy thinking.

The goals of this course are to acquire knowledge about regional environmental policy of local government, and to gain the ability of think about regional policy issues.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Term-end examination:65%, Active class participation:15%, Mid-term reports:20%

POL300HA（政治学 / Politics 300）

自治体環境政策論Ⅱ

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な地域社会」に向けた自治体政策について総合的に検討する。特にグローバルな政策や再生可能エネルギー政策、環境政策統合、SDGs、交通政策、都市の持続可能性リスク、縮小都市やコンパクトシティ、都市と過疎地域の政策連携など、近年の重要なテーマに焦点を合わせる。この授業の目的は、学生が、「持続可能な地域社会」の創造への自治体の役割や政策型思考などについて学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・持続可能な自治体政策に関する知識を習得する。
- ・持続可能な地域社会の創造に向けた政策価値、政策規範、政策論理、地域課題に関する政策型思考を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において発言を求めながら、リアクションペーパーや学生からの情報提供なども活用することで、双方向のコミュニケーションを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション～「持続可能な地域社会」とは？	イントロダクションとして「持続可能性・持続可能な発展」という概念を確認しながら、「持続可能な地域社会」という政策理念について検討する。
第2回	「持続可能な地域社会」の多様性～都市の「変容」と過疎地域の「存続」	「持続可能な地域社会」の社会像の多様性を確認しながら、「変容」と「存続」という2つの方向性を提示する。
第3回	「グローバル」言説を再考する	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考しながら、政策規範として再構成する。
第4回	第3世代の自治体環境政策～地球温暖化の「緩和策」	グローバルな時代における第3世代の自治体環境政策として、地球温暖化の「緩和策」について検討する。
第5回	第3世代の自治体環境政策～地球温暖化への「適応策」	グローバルな時代における第3世代の自治体環境政策として、地球温暖化への「適応策」について検討する。
第6回	再生可能エネルギー革命と自治体政策	自治体の再生可能エネルギー政策の動向と課題・展望について検討する。

第7回	責任共有の政策論理とローカル・ガバナンス	「環境ガバナンス」にかかわる多元的な主体（自治体、市民、企業、NPOなど）による責任共有とマルチステークホルダー・プロセス、地域間の責任共有と自治体間の政策協調・政策連携について検討する。
第8回	持続可能性の多面的構成・包括性・統合性と自治体政策のイメージ	持続可能性の環境的側面、経済的側面、社会的側面などの多面的構成やそれらの包括性・統合性を確認しながら、自治体政策のイメージを描く。
第9回	「環境政策統合」と自治体政策のイノベーション	「持続可能な地域社会」に向けて多様な政策領域を視野に入れる「環境政策統合」の考え方と、具体的な政策実践について検討する。
第10回	ローカルSDGsと自治体政策	SDGsの自治体政策における意義・動向・課題について検討し、地域循環共生圏についても言及する。
第11回	「持続可能な地域社会」への統合的アプローチ～地域交通政策の動向	SDGsが掲げる統合的アプローチについて、地域交通政策の動向を中心に検討する。
第12回	21世紀における都市の持続可能性リスク	災害や感染症などの発作的危機、人口減少社会や地球温暖化などの長期的なリスクを、21世紀の都市が直面する脆弱性＝都市の持続可能性リスクととらえ、その回避やレジリエンスについて検討する。
第13回	縮小都市時代の自治体政策	人口減少社会における「縮小都市」問題を確立し、空き家・空き地対策やコンパクトシティ政策などについて検討する。
第14回	都市と農山漁村の地域間連帯への政策的展望	過疎地域の持続可能性問題を再確認し、都市－農山漁村の地域間連帯の動向とともに、生態系サービスや地域間の相互依存関係をふまえて、今後の政策のありかたについて展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、中間レポートなどの課題に取り組む必要がある（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

この科目において取り上げる政策価値、政策規範、政策論理などの理論的なアプローチについては、以下の文献でおおよそ説明しているので、受講とあわせて一読し理解を深めてほしい。
小島聡「グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と政策構想」（小島・西城戸・辻編著『フィールドから考える地域環境持続可能な地域社会をめざして 第2版』ミネルヴァ書房、2021年。その他の参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（65％）＋積極的な参加姿勢（15％）＋中間レポート（20％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・各地の事例について、地方紙の記事をまとめて配布し紹介していますが、最新動向を理解するためにも可能なかぎり政策情報を提供します。
- ・日々の情勢を知るだけではなく、現在を読み解き未来を展望するために、政策価値や政策規範、政策論理など、理論的思考を身につけることも重視します。
- ・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていききたいと思います。

・学習支援システムを活用し、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思います。

【その他の重要事項】

・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。

・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。

・ローカル・サステイナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで学ぶ学生にとっても、地域社会に関するテーマや「持続可能な地域社会」について理解するためには、自治体政策に関する知識は必須です。

・「自治体環境政策論Ⅰ」と「自治体環境政策論Ⅱ」は連続しており、両方を受講することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

In this class, we will examine public policy of local government comprehensively towards “Sustainable community”. Especially, we will focus on some important themes in recent years, such as “Glocal policy”, renewable energy policy, environmental policy integration, “SDGs”, traffic policy, urban sustainability risk, shrinking city and compact city, cooperation policy between urban and rural areas, etc. The purpose of this class is for students to learn about the role of local government for creating “Sustainable community, and the method of policy thinking.

The goals of this course are to acquire knowledge about sustainable policy of local government, and to gain the ability to think about policy value, policy norms, policy logic, regional policy issues for creating “Sustainable community”.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Term-end examination:65%, Active class participation:15%, Mid-term reports:20%

POL300HA（政治学 / Politics 300）

地球環境政治論

横田 匡紀

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：環コ：グサ
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要
パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？地球環境問題への解決やSDGsに向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。
この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、パリ協定、気候変動問題、SDGs、トランプ政権などの事例をとりあげるとともに、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みを理解していくことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員としてSDGsや持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

- ・パリ協定、気候変動問題、SDGsなどを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
- ・トランプ政権やバイデン政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障、コロナ禍やウクライナ情勢の影響といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題やSDGsなど）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。また講義の各論点とSDGsとの関連についても言及し、SDGsに対する理解を深めることができるように配慮する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。小課題などに対するフィードバックは授業支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜ地球環境政治論を学ぶのか：人類世、地球の限界
第2回	地球環境ガバナンスの展開	地球環境政治の歴史的展開：国連人間環境会議からSDGsまで

第3回	気候変動ガバナンス（1）	パリ協定などの気候変動ガバナンスの概要
第4回	気候変動ガバナンス（2）	気候変動ガバナンスの新たな展開：気候正義、気候安全保障、ダイベストメント
第5回	地球環境ガバナンスの課題（1）：生物多様性と化学物質管理の問題をめぐるグローバル・ガバナンス	名古屋議定書などの生物多様性や水俣条約などの化学物質管理をめぐるグローバル・ガバナンスの概要
第6回	地球環境ガバナンスの課題（2）：SDGs、プラスチック	SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を学ぶ
第7回	欧州の環境ガバナンス	先進的な環境政策をとる欧州での環境ガバナンスの展開：規範パワー、排出量取引、再生可能エネルギー、REACH
第8回	アジアの環境ガバナンス	アジア地域の環境ガバナンスの動向：黄砂、酸性雨、PM2.5、煙霧(Haze)
第9回	地球環境ガバナンスにおけるアメリカ	アメリカの地球環境外交：オバマ政権、トランプ政権、バイデン政権、エネルギー政策、環境正義
第10回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス（1）	NGOや企業などの非国家アクターの役割：地球環境条約に関わる活動
第11回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス（2）	NGOや企業などの非国家アクターの活動の新たな展開：CSR、FSC、MSC、ESG投資など
第12回	地球環境ガバナンスにおける日本の役割	日本の地球環境外交：持続可能な発展、地球サミット、京都議定書、名古屋議定書、水俣条約
第13回	地球環境政治の見方（1）	リアリズムとリベラリズム
第14回	地球環境政治の見方（2）	コンストラクティヴィズム、グローバル・ガバナンス論、パワートランジション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の各項目について理解できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄・山本直編『国際関係論（第4版）』弘文堂、2025年

【参考書】
環境社会学会編『環境社会学事典』丸善出版、2023年
高橋洋『エネルギー転換の国際政治経済学』日本評論社、2021年
宮永健太郎『持続可能な発展の話』岩波書店、2023年
東京大学 気候と社会連携研究機構編『気候変動と社会』東京大学出版会、2024年
服部崇『気候変動規範と国際エネルギーレジーム』文真堂、2021年
渡邊智明『有害廃棄物に関するグローバル・ガヴァナンスの研究』ミネルヴァ書房、2022年
舩方周一郎『つながりと選択の環境政治学』晃洋書房、2022年
宇治梓紗『環境条約交渉の政治学』有斐閣、2019年
白井さゆり『環境とビジネス』岩波新書、2024年
蟹江憲史『SDGs(持続可能な開発目標)』中公新書、2020年
鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017年
村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 3版』有斐閣、2023年
前田幸男『「人新世」の惑星政治学』青土社、2023年
多湖淳『国際関係論』勁草書房、2024年
大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016年
西谷真規子・山田高敬編『新時代のグローバル・ガバナンス論』ミネルヴァ書房、2021年。
山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年
草野大希ほか編『国際関係論入門』ミネルヴァ書房、2023年
関山健『気候安全保障の論理』日経BP、2023年

小田桐確編『安全保障化の国際政治』有信堂、2023年
藤原帰一編『気候変動は社会を不安定化させるか』日本評論社、2022年
西村智朗『気候変動問題と国際法』信山社、2024年

【成績評価の方法と基準】

課題類の提出を前提として、期末試験90%、平常点10%で評価する。期末試験についてはレポートテストになる。平常点については、毎回の小課題の提出とその内容について判断する。小課題のフィードバックについては、学生からのリクエストに応じて授業サイト上で行う。

毎回の小課題の提出が不十分だと成績評価の対象となりませんので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

学生のペースに配慮すること。

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いていきます。

進度により講義内容を変更することがあります。

課題提出と資料配布は学習支援システムを通じて行う。

感染症対策には十分な配慮をします。

半数以上の授業回を対面で実施します。前半を対面、後半以降はオンラインとする予定です。授業回の半数以上での対面受講を求めます。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

For better understandings of sustainable world society, this course aim to provide a wide range of knowledge about global environmental politics from viewpoints of discipline of the International Relations

Course topics.

- ・ History of global environmental governance.
- ・ Global climate governance(The Kyoto Protocol, The Paris Agreements).
- ・ Global biodiversity governance.
- ・ Global chemical governance.
- ・ Global environmental governance of SDGs and Plastic issue
- ・ Environmental governance of the European Union.
- ・ Environmental governance in Asia
- ・ Environmental policy in the U.S.
- ・ Transnational environmental governance (Non-state actors, NGOs, Business and local actors).
- ・ Japan's global environmental diplomacy.
- ・ Theories of global governance (Realism, Liberalism, Constructivism and Global governance)

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Students will be able to understand the mechanisms of consensus building on global environmental issues from the perspective of international relations, using the Paris Agreement, climate change issues, and SDGs as examples.
- ・ To be able to understand the activities of various actors such as international organizations, environmental NGOs, and corporations in relation to global environmental issues.
- ・ To be able to understand recent global environmental governance issues such as SDGs and plastic pollution.
- ・ Understand the global environmental diplomacy of Japan and the United States
- ・ To be able to understand the current status of various environmental governance systems at the regional level in Europe and Asia.
- ・ To be able to understand the perspectives of international relations theory, such as global governance and global environmental governance.
- ・ Students will be able to understand the impact of the Trump and Biden administrations on global environmental policy.
- ・ To be able to understand the mechanism of consensus building on complex issues such as trade and environment, environment and security.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Students should be able to understand each item in the lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Assessments will be made on the basis of a final exam (90%) and a normal score (10%). The final exam will be a report test. Ordinary points will be based on the submission of small assignments and their contents. Feedback on small assignments will be provided on the class website upon request from students.

MAN200HA（経営学 / Management 200）

現代企業論

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コ7：経

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGsやパリ協定の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。企業はSDGsを達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果たすべき役割はこれまで以上に拡がりをみせています。この授業では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球温暖化問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、サステナビリティ社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社に関する基礎的な知識を習得します。さらに、SDGsやカーボンニュートラルという事業環境の変化に立ち向かう企業の経営戦略を理解し、持続可能な社会における企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（気候変動、SDGs、脱炭素等）に関する基本理論の説明と様々な業種の企業事例をケーススタディとして取り上げます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業経営は何か	講義の目的・進め方 株式会社の基本機能
第2回	製品・サービスの提供 ケーススタディ①サントリー	市場における優位性の獲得 ケーススタディ：スポーツドリンクの開発
第3回	株式会社の仕組みと課題 ケーススタディ②本田技研工業]	株式会社は誰のものか ケーススタディ：ステーションワゴンの開発
第4回	大企業の機能と専門経営者の誕生 ケーススタディ③キヤノン	所有と経営の分離 ケーススタディ：デジタルカメラの開発
第5回	企業規模の拡大と組織 ケーススタディ④スズキ	規模の利益と経営の効率化 ケーススタディ：原付自転車の開発
第6回	日本的経営の構造 ケーススタディ⑤黒川温泉（熊本県）	日本的経営の成果と課題 ケーススタディ：温泉リゾートの再生

第7回	経営戦略の基本 ケーススタディ⑥ミツカン	長期的な企業価値向上戦略とは ケーススタディ：納豆食品のマーケティング
第8回	企業による特別講義	企業担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲載します）
第9回	デジタル・トランスフォーメーション（DX）と企業経営 ケーススタディ⑦日清食品	AI・IoTの活用と経営変革 ケーススタディ：カップ麺の開発
第10回	競争戦略とマネジメント ケーススタディ⑧ユニクロ	市場競争力の本質 ケーススタディ：ファストファッションの成功要因
第11回	株式市場と企業価値 ケーススタディ⑨ジブリ	企業価値の源泉とは何か ケーススタディ：創造力の源泉とは
第12回	製品開発戦略 ケーススタディ⑩ビール業界の企業間競争	製品開発のコンセプトとプロセス：アサヒが業界トップになった要因
第13回	シェアリングエコノミー	消費志向の変化「所有から使用へ」
第14回	SDGsと企業経営 日経ストックリーグへの挑戦	学生が選ぶサステナビリティ企業とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して必ず復習をして下さい。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけて、どのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂，2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂，2021年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂，2016年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：70％
特別講義レポート：10％
平常点：20％（リアクションペーパー）
期末レポートは講義内容に関する理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の初学者を対象にケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【担当教員の専門領域】

<専門領域>
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスストーリー

＜研究テーマ＞

取締役会の実効性分析

企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.

Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.

In this lecture, I will explain how corporate management should be in the 21st century, taking into account the changes in the external environment: the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the shift to a sustainable society.

This class aims to provide students with basic knowledge of international policy trends in sustainability and the ability to understand sustainability management in Japanese companies.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the special lecture report (15%) and the final report (85%).

MAN200HA（経営学 / Management 200）

経営学入門

金藤 正直

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業経営における理論的な内容だけではなく、実践的取り組みにも触れながら、企業が実際にどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動の基礎基本（本質）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面で実施する。
- ・毎回講義は配布資料をもとに進めていくが、各講義の内容に関連する映像資料や新聞・雑誌記事も活用し、その中で取り上げられている企業のビジネスモデルの特徴や課題について、履修者と一緒に検討していくとともに、その解説も行う。
- ・授業または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の内容・進め方とともに、企業と経営－経営学とは何か－経営学を学ぶことの意義を説明する。
第2回	企業の種類－企業と何か－	企業の種類とその種類を説明する。
第3回	経営戦略－概念と特徴－	経営戦略の概念や特徴を説明する。
第4回	経営戦略－種類と策定方法－	経営戦略の種類とその策定方法を説明する。
第5回	経営戦略－新たな企業戦略の意義と内容－	現在企業に求められている新たな経営戦略（環境戦略、サステナビリティ戦略、地域戦略）を説明する。
第6回	経営組織－概念と種類－	経営組織の概念とその種類（形態）を説明する。
第7回	経営組織－形態と特徴－	経営戦略の形態（基本と応用）とその特徴を説明する。
第8回	経営組織－新たな組織の展開－	第5回の経営戦略を実現していくための新たな経営組織（サプライチェーン、産業クラスター、コラボレーション）を説明する。
第9回	経営管理－機能と仕組み－	経営管理の2つの機能（経営機能と管理機能）とともに、企業経営の管理技法を説明する。

第10回	経営管理－経営資源の管理①－	企業の人的資源である「ヒト」、材料や仕掛品などの「モノ」の管理方法を説明する。
第11回	経営管理－経営資源の管理②－	企業経営をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計（「カネ」）や「情報」の管理方法を説明する。
第12回	経営管理－新たな経営管理の方法－	第5回と第8回の講義内容も踏まえ、新たな経営管理の方法（環境マネジメント、マネジメン・コントロール）を説明する。
第13回	ケーススタディ	第12回までの講義内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（例えば、ゼミナール活動）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
- ②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、授業に關する内容や質問について口頭またはグーグルフォームで説明（回答）してもらう場合があります。

【その他の重要事項】

- ①配付資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ②必要に応じて新聞・雑誌記事などのコピーも配布します。
- ③質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method in companies.

② Learning Objectives

Though this lecture, students are able to logically understand the basis of business management system.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this lecture are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN200HA（経営学 / Management 200）

環境経営と会計

金藤 正直

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、企業などの組織が行った経済活動の状況を定量的に測定し、この結果を企業内外のステークホルダーに伝達するための情報システムである。その領域は、ミクロ会計（家計、企業、政府を対象とした会計）、メゾ会計（地域を対象とした会計）、マクロ会計（国を対象とした会計）の3つに分類される。そこで本講義では、ミクロ会計のうち、企業（主に大企業または中小企業）を対象とした会計とともに、それをもとにした環境会計やサステナビリティ会計の基礎基本（本質）について学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業会計の基礎的なフレームワークを学習した後、環境経営やサステナビリティ経営の財務的・非財務的内容を理解し、分析できる実践力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面で実施する。
- ・本講義では、企業会計（財務諸表の仕組み、経営分析の技法、原価計算の基礎）、環境会計やサステナビリティ会計の機能や構造を、環境省やGRI（Global Reporting Initiative）などで公表されているガイドラインや、有価証券報告書、環境報告書、サステナビリティ報告書、統合報告書を利用しながら理解することを目指す。また、必要に応じて関連する新聞や雑誌記事などを配布し、会計の仕組みをより詳細に理解していく。
- ・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の内容・進め方とともに、企業経営と会計－会計学とは何か－を説明する。
第2回	会計の基礎概念と基本的技法	会計の基礎概念と基本的技法を説明する。
第3回	会計の仕組み①－貸借対照表の特徴と仕組み－	貸借対照表の特徴と構成要素（資産、負債、純資産）を説明する。
第4回	会計の仕組み②－損益計算書の特徴と仕組み－	損益計算書の特徴と構成要素（収益、費用）を説明する。
第5回	経営分析の方法①	経営分析の必要性と、実数分析の方法を説明する。
第6回	経営分析の方法②	経営分析における比率分析の方法を説明する。
第7回	原価計算の基礎	製品の製造原価（材料費、労務費、経費）とその計算方法を説明する。
第8回	環境経営と環境会計	環境会計の概念と基本的機能、また、第7回までの講義内容との関係を説明する。

第9回	環境会計情報①	環境保全コストの定義、内容、測定方法を説明する。
第10回	環境会計情報②	環境保全効果と経済効果の定義、内容、測定方法を説明する。
第11回	環境経営分析①	環境会計情報を活用した経営分析のうち、実数分析の方法を説明する。
第12回	環境経営分析②	環境会計情報を活用した経営分析のうち、比率分析の方法を説明する。
第13回	環境会計情報の開示方法	環境会計の情報開示の意義とその方法（開示媒体）を説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、配布資料を用いて、会計学の専門的で難解な用語、概念、技法を平易に説明し、解説していきます。また、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきますので、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけでなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。こうした講義を通じて、受講者には、今後の活動（ゼミナール活動や資格獲得など）で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
- ②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特になしですが、授業に関する内容や質問について口頭またはGoogleフォームで説明（回答）してもらう場合があります。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】**① Course Outline**

The purpose of this lecture is to learn environmental accounting and sustainability accounting based on the framework of corporate accounting.

② Learning Objectives

Through this lecture, students are able to logically understand the basis of corporate accounting, environmental accounting, and sustainability accounting.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria / Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN300HA（経営学 / Management 300）

環境経営論Ⅰ

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業や自治体などの組織は、地球環境の保全、地域の経済環境の変革、組織内の労働環境改善のための戦略あるいは政策を策定し、また、それを実現するための組織を編成し、管理していく経営を行っている。このような経営を「環境経営」と定義づけ、本講義では、企業の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業の環境経営における理論的な内容だけでなく、実践的取り組みにも触れながら、企業が環境問題や社会課題の解決を通じて持続的に経済的価値を維持・向上させていく方針（戦略）をどのように立て、それを実現するためにどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動の基礎基本（本質）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本講義は対面、参加型（双方向型）で実施する。

・本講義では、企業で実践されている環境経営のための戦略、組織、管理の特徴について、著書や論文、また企業の環境報告書やサステナビリティ報告書を活用しながら理解することを目指す。さらに、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事や映像資料なども多用しながら、両経営の実践的取り組みへの理解をさらに深める。

・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 環境経営とは何か	講義の内容・進め方と、企業における環境経営の目的や意義を説明する。
第2回	環境経営の現状	海外や国内の企業で行われている環境経営の現状を説明する。
第3回	環境経営の全体像	海外や国内の企業の実践例をもとに、環境経営の全体像を説明する。
第4回	経営戦略①	企業の経営戦略やその実践例をもとに、環境経営のための戦略の理論的特徴を説明する。
第5回	経営戦略②	CSRやSDGsなどへの関心の高まりにより、企業が今後策定すべき環境経営戦略を説明する。
第6回	経営組織①	企業の経営組織やその実践例をもとに、第4回で触れた経営戦略を実現していく経営組織の理論的特徴を説明する。

第7回	経営組織②	第5回で触れた経営戦略を実現していくために編成すべき経営組織（企業間関係や組織間関係）を説明する。
第8回	経営管理①	企業の経営管理の基礎構造を説明し、その後環境に関する国際規格（ISO14001）などを用いたマネジメントシステムを取り上げる。
第9回	経営管理②	社会的責任に関する国際規格（ISO26000）や国連グローバルコンパクトなどを用いたマネジメントシステム（サプライチェーン・マネジメント（SCM））を説明する。
第10回	環境経営とマーケティング	環境経営におけるマーケティングの理論と実践例について説明する。
第11回	環境経営と会計	環境経営を支援する会計システムを説明する。
第12回	ケーススタディ	企業の実践的取組みを取り上げ、これまでの講義内容をもとに検討する。またこの検討内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第13回	新たな環境経営	現在注目されている新たな環境経営（例えば、再生可能エネルギー、フードロス、サステナブルファッション、健康経営、地域循環共生圏、地域再生、ソーシャル・ビジネスなど）を説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、印刷物（配布資料）を用いて、企業経営や環境経営の内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。こうした講義を通じて、企業経営や環境経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動や企業分析など）で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
- ②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらふ機器は特にありませんが、授業に関する内容や質問について口頭またはグーグルフォームで説明（回答）してもらふ場合があります。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method for solving environmental and social issues in companies.

② Learning Objectives

Through this lecture, students are able to logically understand the basis of environmental and social management system in companies.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN300HA（経営学 / Management 300）

環境経営論Ⅱ

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境経営論Ⅰの内容を踏まえて、国内の企業や地域で注目されている新たな環境経営の取組事例（地域循環共生圏、地方創生、地域経営、再生可能エネルギー、フードロス、サステナブルファッション、健康経営、人的資本経営、ソーシャル・ビジネスなど）を取り上げ、その考察をもとに新たなビジネスモデルを検討していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業や地域で実践されている、あるいは求められている新たな環境経営における方針（政策、施策、事業計画または戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的また実践的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本講義は対面、参加型（双方向型）で実施する。
 ・本講義では、講義内容に関連する著書や論文、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、企業や地域で実践されている、あるいは求められている新たな環境経営のための政策・施策・事業計画または戦略、組織体制、マネジメントの特徴を理解することを目指す。
 ・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 新たな環境経営の視点	講義の内容・進め方と、海外や国内の企業や地域で実践されている新たな環境経営の取組事例を分析するための視点を説明する。
第2回	新たな環境経営と意義と方法①	企業の社会的責任（CSR）、共有価値（CSV）、包括的成長（IG）、持続可能な開発目標（SDGs）の概念を整理するとともに、これらの概念に基づいて、新たな環境経営の意味と意義を説明する。
第3回	新たな環境経営と意義と方法②	第2回で説明した各種概念に基づいて、企業間の環境経営の実現方法（アライアンス、サプライチェーン・マネジメント（SCM））を説明する。
第4回	フードロス・マネジメント	農林水産省、消費者庁、環境省で公表されているフードロス対策の現状を紹介しつつ、国内のフードロス削減への実践例（フードドライブ、バイオマス利用、サルベージ・パーティ、3010運動など）とその特徴を説明する。

第5回	サステナブルファッション	環境省の政策的特徴とともに、企業の調査結果や実践例をもとに、サステナブルファッションの実態を説明する。
第6回	新たな環境経営と意義と方法③	第3回で説明した各種概念に基づいて、組織間の環境経営の実現方法（産業クラスター・マネジメント（ICM）、エコシステム）を説明する。
第7回	再生可能エネルギー事業	経済産業省または資源エネルギー庁によるカーボンニュートラルなどの関連政策や事業計画をもとに、再生可能エネルギーの現状と事業化の意義を説明する。また、第5回や第6回の講義内容も加味しながら、海外や国内の企業や地域で実施されている先進事例とその特徴を説明する。
第8回	地域循環共生圏-地方創生も考慮に入れて-	内閣府・内閣官房の地方創生の取り組みを紹介しつつ、地域循環共生圏との関係も説明する。
第9回	地域経営	第7回と第8回の講義内容を加味しながら、地域の特徴的な事業とその評価方法を説明する。
第10回	ソーシャル・ビジネス	途上国で展開されているソーシャル・ビジネス（例えば、ボーダレスジャパンの取り組み）やBOP（Base of the Pyramid）の実践例やその課題を説明する。
第11回	健康経営	経済産業省や厚生労働省の政策的取り組みや現状調査の結果、また、企業の調査結果をもとに、健康経営の取組状況や意義を説明する。
第12回	人的資本経営	健康経営とともに、日本企業（大企業、中小企業）の動向や、先進事例とその特徴も説明する。
第13回	企業/地域の持続的成長のためのビジネスデザイン	第12回までの講義をもとに、企業や地域が持続可能性を高めるための新たなビジネスモデルを説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、印刷物（配布資料）を用いて、企業経営や環境経営の内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。こうした講義を通じて、企業経営や環境経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動や企業分析など）で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
- ②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらおう機器は特にありませんが、授業に関する内容や質問について口頭またはグーグルフォームで説明（回答）してもらった場合があります。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to learn new methods for improving environmental and social values in companies and regions.

② Learning Objectives

Through this lecture, students are able to logically understand a new environmental and social management system in companies and regions.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環コア：経、グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。またそれらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた各種課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、ア）途上国経済の分析枠組み、特徴、イ）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：開発途上国とは。 途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第2回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第3回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。

第5回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げたNIESの代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と1997年のIMF危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げたNIESの一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジアNIESの一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第11回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員としてNIESに続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第12回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第13回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第14回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の克服を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすることができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）
大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくならないのか（第2版）正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で学生の発言を促す工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%

.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環コ：経、ゲ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。それらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、ウ）南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：途上国経済を見る 目	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観。
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：中国（1） 社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、計画経済から市場経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：中国（2） 持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。

第6回	途上国社会・経済の概況（3）：インドー 目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（5）：タイー 東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでもNIESに続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（6）：ベトナムー 戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済国の一角として名乗りを上げる過程を概観する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（7）：ブラジルー 南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第11回	主要国／地域の社会と経済（8）：南アフリカー アパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第12回	主要国／地域の社会と経済（9）：ボツワナー 資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。
第13回	国際経済の中の域内協力	ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
第14回	まとめ：途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）
大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

MAN300HA（経営学 / Management 300）

環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金1/Fri.1

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題と経済との関わりを考える題材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギー、省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

【到達目標】

環境ビジネスの視点から多様な企業活動を観察することで、環境問題に関する総合的な理解を深めるとともに、企業のビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れつつ、汎用性の高いツールとしてファイナンスや経営学の基本的な視点を学ぶことで、「企業を見る目」を養い、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、市場規模や構成、雇用などを巨視的な視点から理解すると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、自然資本保全など主要なテーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。併せて、ファイナンスの基本的な考え方、基礎的な分析ツールを知ることにより、汎用性のある知識の習得を目指す。また、個別企業分析とプレゼンを担当することで、実際の企業を素材に環境ビジネスの実像に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論／	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第3回	環境と金融①	近時注目を集めるESG金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。
第4回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRRなどの考え方、キャッシュフロー表の構成などの基本を理解する。

第5回	環境と金融③／プレゼンチーム分けと事前ミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第6回	ケース1：再生可能エネルギービジネス	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第7回	ケース2：省エネビジネス	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCOなどを通じて、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第8回	ケース3 3Rビジネス1／企業分析プレゼン①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、3Rからサーキュラーエコノミーに至るビジネス環境の変化を学ぶ。なお、今回から講義の後半に企業分析・プレゼンを実施する予定。
第9回	ケース3 3Rビジネス2／企業分析プレゼン②	前回の続きとして、容器包装リサイクル、食品リサイクル、金属リサイクル等の各論を観察する。
第10回	ケース4：環境リスク管理ビジネス／企業分析プレゼン③	法規制導入を機に拡大が期待されながら、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。
第11回	ケース5：水ビジネス／企業分析プレゼン④	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
第12回	ケース6：自然資本・生物多様性保全ビジネス／企業分析プレゼン⑤	自然資本／生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、関連ビジネスについて考える。
第13回	ケース7：ESG投資と環境ビジネス1／企業分析プレゼン⑥	欧米の長期投資家を嚆矢に、現在我が国でも影響力を強めているESG投資など「環境金融」の機能について考える。
第14回	まとめ	前回の続きと全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ファイナンスを含めて予備知識は一切不要です。復習による定着を重視して下さい。自分が関心を持つ業界／企業が環境問題にどう関わっているか、という問題意識をもって講義に臨めば得るものが多いでしょう。

講義が大企業等を素材にすることが多い分、毎回ベンチャー企業等を素材とするミニレポートを課題として課します（翌週までに提出）。また、チーム又は個人で企業分析・プレゼンしてもらいます。質疑、講師や他の受講生からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用だったと振り返っています。毎回の準備学習・復習と宿題対応で4時間程度を標準としますが、これとは別にプレゼン準備には相応の時間が必要です。こうした分析・プレゼン資料作成作りへの積極的な参加が必要です。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システム等を通じて配布します。講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずに持参するようにして下さい。また、毎回課す課題は、当日教室で配布します。

【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト

http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html

このほか、講義において適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

この講義では、一方通行の座学ではなく、ディスカッション等を通じて知識の定着を重視しており、授業に出席することが評価の大前提となります。そのうえで、企業分析・プレゼンテーション（50%）、毎回課すベンチャー企業などの環境ビジネスを素材とする課題（30%）、講義でのディスカッションへの貢献度（20%）などに基づき、総合的に判断します。なお、プレゼンテーション等に関して個別に指導を行う関係上、受講希望者が多い場合には人数調整を行うことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼン後の振り返りなど、ディスカッションや対話の時間をより充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出には原則として授業支援システムを利用する。プレゼンテーション作成にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

講義の性格上、対面式を原則とします。個別の事情がある場合には別途相談して下さい。分析・プレゼンの件数や対象は受講生数に応じて増減します。受講者が多い年はチームを編成して、最大6～7件程度になり、少ない場合は、受講者一人ですべてを担当してもらいます。

教員は銀行員として、環境ビジネスの調査企画、ESG評価等に長く従事した実務経験に加え、数多くの政府委員会に委員として参加しています。本講義は、こうした経験を基に構成されたプログラムです。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The purpose of this course is to consider the relationship between environmental issues and the economy from the aspect of "environmental business." By rethinking environmental issues through analysis of corporate activities conducted in various fields such as renewable energy, energy saving, resource management, environmental risk management, etc., we aim to provide a multi-faceted view of the relationship between the environment and the economy.

【Learning Objectives】

By observing environmental businesses, you will be able to deepen a comprehensive understanding of environmental issues, analyze a company's business model, and discuss its growth potential and risks in detail. Develop corporate analysis skills by experiencing various corporate activities and learning the basic perspectives of finance and business administration. Improve presentation ability through company analysis and presentation.

【Methods】

First, understand the overall picture of the environmental business, such as market size, composition, and employment. Next, you will learn through case studies on themes such as energy, resource recycling, risk management, water, and natural capital conservation. At the same time, learn the basic idea of finance and basic analysis tools. In addition, by being in charge of individual company analysis and presentations, you will be able to experience the real image of environmental business using actual companies as materials, and to develop his presentation ability through feedback from faculty members.

【Learning Activities Outside of Classroom】

No prior knowledge is required, including finance. Emphasis is placed on fixing by review. There are many things you can get by attending a lecture with an awareness of how the industry/company you are interested in is involved in environmental issues.

Since lectures are often made from large companies, we will impose a mini-report on venture companies as an issue every time (submit by the next week). In addition, we will ask you to analyze and present the company as a team or as an individual. Many past students recall that this experience was useful, including questions and feedback from teachers and other students. The standard for each preparatory study /review and homework is about 1 hour, but apart from this, it takes a considerable amount of time to prepare for the presentation. It is necessary to actively participate in the creation of such analysis and presentation materials.

【Grading Criteria/Policy】

This lecture emphasizes the establishment of knowledge through discussions, etc., rather than one-way classroom lectures, and attending classes is a major premise for evaluation. After that, make a comprehensive judgment based on company analysis /presentation (50%), issues related to environmental businesses such as venture companies imposed each time (30%), and contribution to discussions in lectures (20%). increase. Due to individual guidance regarding presentations, etc., the number of participants may be adjusted if there are many applicants.

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

NPO・ボランティア論

新田 英理子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がより良くありたいと願うように、社会をより良くしたいと願うときに、ボランティア、NPO（Nonprofit Organization）について、多面的、多角的に理解していることで、社会との向き合い方の幅を広げることができます。

日本において、NPOが一般的になってきたのは、ここ20年ほどです。ボランティアは、「奉仕」を越えて、現代社会におけます重要性を増しています。また、NPO・ボランティアと親和性の近い言葉として、市民社会・市民という言葉があります。

この授業では、NPOやボランティアを多角的、多様に理解すると同時に、SDGs達成に向けて活動する、NPOの実践者、ボランティアの実践者からの情報提供も受けます。それらを通じて、ひとりひとりが、市民として、社会とどのように向き合い、関わっていくのか、理解を深め、考える機会とします。

【到達目標】

・NPOの意味、役割、これまでの歴史、運営や財源、行政や企業との関係などについて理解を深めます。

・ボランティアの意味、役割、これまでの歴史、NPOとの関係について理解するとともに、SDGsとボランティア、SDGsと市民について、考えます。

・日本社会においては、1990年代からNPO・ボランティアが取り組んできた社会課題解決への理解を通して、現代の社会の変化やなぜ社会の持続可能性やSDGsへの貢献が重要なのかについて、問題意識が持てるようになります。

・今後のより良い社会のあり様を、どのように考えていけばよいのか。市民一人ひとりが、社会とどのように向き合い、関わるべきか、学生自身も含めて考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います。

・毎回、ランダムな小グループで話し合い、グループの意見をグループスプレッドシートに書き、授業中にディスカッションする時間を設けます。

・出欠を兼ねたリアクションペーパー（感想・質問・意見）を毎回提出してもらいます。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

・NPO・ボランティア活動の実践を聞く機会として、ゲスト講師をお呼びします。事前に質問を集めます。

・リアクションペーパーの意見等をもとに、学生からも意見を出してもらい、学生間で様々な視点や考えを学びあいます。

・毎回の授業で、ノートパソコン、タブレットなどを使って記入していただく時間がありますので、準備して参加してください。

・授業の資料は教材にあげますが、プリントアウトしませんので、必要な方は、自身でプリントアウトしてください。

・履修人数によって、12回、13回、14回の授業の持ち方は変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ボランティア、 NPO、SDGsに関する基礎知識	・授業の目標、内容、進め方についての説明 ・私たちの生活と、持続可能性
第2回	NPOの基礎知識～ NPOとは何か	・NPO歴史的背景 ・NPOの意味と意義 ・日本社会におけるNPO種類（NPO、NGO、CSOなど）
第3回	SDGsの基礎知識～ SDGsとは何か	・SDGsの歴史的背景 ・SDGsの意味と異議 ・SDGsの担い手としてのNPO、ボランティアの意味
第4回	ボランティア・ボランティア活動とは何か？	・ボランティアの歴史的背景 ・ボランティアの意味と意義 ・個人、組織や法人格とは
第5回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して①	差別/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例を通して、持続可能性について考える
第6回	課題設定	5回の授業を通して、グループもしくは自身が解決したい、社会課題を設定します。
第7回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して②	環境問題（プラスチックごみ問題）と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例（クリーンアップ等）を通して、持続可能性について考える
第8回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して③	生物多様性と向き合うNPO・ボランティアの実践事例（希少種保全等）を通して、持続可能性について考える
第9回	市民社会とは何か	・市民社会とは ・行政組織や企業組織との違い ・連携について
第10回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して④	外国にルーツをもつ人たちが抱える問題と向き合うNPO・ボランティアの実践事例（学習支援等）を通して、持続可能性について考える
第11回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して⑤	貧困/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例を通して、持続可能性について考える
第12回	授業の振り返りと発表①と補足	・半期を通じて、調べてきたNPO・ボランティア活動の発表①
第13回	授業の振り返りと発表②	・半期を通じて、調べてきたNPO・ボランティア活動の発表②
第14回	パートナーシップ	・パートナーシップによって課題を解決するとは ・NPO・ボランティアにとってのパートナーシップの概念を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします

・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

・各回のレジュメ（パワーポイント資料）配布するので、授業後、各自授業内容を振り返り内容をよく理解し、自分なりの考えを整理してみる。疑問点等があれば、次回授業のリアクションペーパーで提出してください。

・欠席した場合も授業支援システムからレジュメをダウンロードして授業内容を把握しておくこと。

・参考書等で授業内容と関連する内容を読み、考察を深めること。
・各自で、関心のある分野のNPOの事例をインターネット等で調べたり、NPO支援センターなどで情報収集したり、実際にボランティア参加してみることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

「基本解説。そうだったのかSDGs」SDGs市民社会ネットワーク発行 1000円

「知っておきたいNPOのこと基本編」日本NPOセンター発行 500円

その他、授業内でも紹介します。授業で聞くだけでなく、参考書のいずれかを購入するか、各自でNPOに関する本や小冊子入手し、授業とあわせて理解や考察を深めるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発言、リアクションペーパーの提出、参加姿勢、グループワークへの参加など）：40%

テスト・レポート：60%

なお、原則として、自分都合で4回以上欠席した者は、成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の時間、ゲスト講師からのインプットには高評価が得られている

【学生が準備すべき機器他】

授業中に、学習支援システムからアンケートを実施したり、ゲージルスプレッドシートに記入したりするため、ノートパソコンやタブレットなどを持参して授業を受講してほしい。

【その他の重要事項】

- ・現在もSDGsを達成するために活動しているCSOのネットワーク組織で活動をしています。
- ・また、20年間、NPOとしてNPOを支援し、活動を行ってきた経験をもとに、具体的な事例や体験談を交えて授業を行います。
- ・学生による発表を随時取り入れたいと思いますので、授業計画を一部変更することもあります。
- ・履修人数により、グループワークや発表方法などを変更します。

【Outline (in English)】

In this class, we will receive reports from NPO/volunteer practitioners, who understand NPOs and volunteer work from multiple points of view. Through such experiences, students in this class will have opportunities to deepen their understanding of such work and consider how they want to engage with society as citizens.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The lecturers are required to prepare for and review the lectures by using the materials introduced in the lectures.

After the class, each student should review the lecture content, understand the content well, and organize his/her own ideas. If you have any questions, please submit them in the reaction paper for the next class.

If you are absent from class, download the resumes from the class support system to grasp the contents of the class.

Students are expected to deepen their understanding of the contents of the class by reading the related contents in reference books, etc.

It is recommended that you research NPOs in your field of interest on the Internet, gather information at NPO support centers, etc., and actually participate in volunteer activities.

Grading criteria

Ordinary points (in-class comments, submission of reaction papers, participation attitude, etc.): 40

Tests and reports: 60

As a general rule, students who are absent four or more times will not be graded.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

地域福祉論

宮脇 文恵

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：環コ7：口、文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 地域には、様々な人が存在していることを知り、お互いにその存在を認め合い、共存するあり方について、主に福祉的な観点から学ぶ。
2. 自分が暮らそうと思う地域を、だれもが自分らしく「暮らしたい場所」とするために、どうすればよいか。福祉的な観点から学ぶ。
3. 地域において、誰もが仲間はずれにされないためにどうすればよいか、その技法について学ぶ。

【到達目標】

人は誰もが、幸せでありたいと漠然と願っている。それは、自分が暮らしたい場所で、豊かな人間関係に囲まれ、他者から必要とされ、充実した毎日を送り、「生きていてよかった」と思えるようになることであろう。その一方で、「幸せになれなくても仕方がない」とされるマイノリティが存在する。

地域福祉は、地域に暮らす一人一人が「幸せだ」「生きていてよかった」と思えることであり、そのためには、住民自身が「我が町を、住んで都にする」という意識を持ち、自分ができることを働きかけていくことが求められる。

本講義では、そのための基礎的な知識として、福祉的なニーズを抱える人々に対する理解と、地域に存在する社会資源、助け合う方法などについて理解を深めていく。そのことをもって、自らが地域社会に働きかけていく意識を醸成し、実践していく力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域福祉とは、「地域に暮らす一人一人が幸せになることであり、そのためのしくみをつくり、お互いに働きかけ合っていくこと」である。では、どんな人が大変な思いをしているのか、どうすれば自分らしく暮らしていくことができるのか。子ども・障害のある人・高齢者・貧困など生活困窮者・制度のはざまにあってサービスを使えない人（ゴミ屋敷、ひきこもり、LGBT、外国人移住者など）などへの理解を深め、地域で支え合うための技法と、地域社会を変革していく福祉教育実践や地域福祉計画について学ぶ。授業はすべて講義形式で行い、毎回リアクションペーパーの提出を伴う。リアクションペーパーに記述された学生の問題意識をもとにして、授業内容を再構成して実施したり、課題を再設定する回もあるため、積極的な記述をしてほしい。代表的な問題意識や感想などは、授業の冒頭で教員から受講生に共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方「地域福祉」とは～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認 地域福祉の理念を学び、国際生活機能分類(ICF)に基づいて、「本人と他者(地域社会)との関わり」を考える。
第2回	優生思想・差別・偏見と私たち	ナチスによる障害者虐殺、日本におけるハンセン病患者隔離政策などから、地域における差別の歴史を学ぶ。

第3回	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン	「どんな人でも社会から仲間はずれにしないで、社会の方を変えていく」というノーマライゼーションと、お互いを地域社会の中で認め合って共存していく「ソーシャルインクルージョン」についてまなぶ。
第4回	障害のある人たちと地域福祉①	これまで差別されてきた障害のある人について、身体障害・知的障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第5回	障害のある人たちと地域社会②	これまで差別されてきた障害のある人について、精神障害（各種依存症を含む）・発達障害を中心に地域社会との関わりを考える。野宿生活者などを含めた生活困窮者の現状と社会の偏見、地域における支援の取り組みについて学ぶ。
第6回	社会的孤立・生活困窮者と地域福祉	日本に暮らす外国にルーツを持つ人の置かれている現状と、私たちが地域で共に生きるあり方について学ぶ。
第7回	外国にルーツを持つ人と地域福祉	認知症高齢者、若年性認知症当事者の事例から、認知症への理解と地域社会の関わりを考える。
第8回	認知症と地域福祉	高齢者の気持ち、置かれている社会的な状況などから、制度や政策、さらに地域におけるインフォーマルサポートなど、地域社会の関わりのあり方を考える。
第9回	高齢者と地域福祉	児童虐待・子どもの愛着形成を中心としてとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第10回	子ども・家庭と地域福祉①	社会的養護とそのアフターフォロー、子ども・家庭の貧困をとりあげ、地域社会との関わりを考える。
第11回	子ども・家庭と地域福祉②	13人に1人と言われるLGBTについて知り、地域社会で共に幸せに暮らすための方策を探る。
第12回	多様性と地域福祉	住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成、福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点
第13回	地域福祉の推進主体）～社会福祉協議会、社会福祉法人、NPO、民生委員・児童委員、保護司	地域福祉を推進する中心となる団体について、学ぶ地域福祉を推進するNPO、地域の期待される人材について学ぶ地域福祉の主体形成、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ。
第14回	地域福祉推進における住民参画～福祉教育、地域福祉計画、ソーシャルサポートネットワーク	住民参画の方法として、福祉教育と地域福祉計画をとりあげ、住民の福祉意識の醸成と、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ留意点を学ぶ。また、地域住民の身近な支え合いとして、ソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

授業時間内、また、課題において視聴覚教材を多用します。

高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。メディアの中の話題もチェックしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜資料を紹介していく。

【参考書】

くさかり樹『ヘルプマン！』1～27巻(講談社)、『ヘルプマン！！』1～10巻(朝日新聞)
さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』(青泉社)
柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活』(小学館) 他
随時、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(毎回、授業のリフレクションを短くまとめる課題)が50%、学期末レポート50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

【学生が準備すべき機器他】

配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、必ず日付を明記して綴じてください(あとからいただく「いつ配布されたか教えてほしい」という声には答えられません)。

授業のリフレクションの小レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

1. 授業についてのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。
2. 授業は、①授業で得た学びを短くまとめ、合わせて②復習または翌週までの予習として映像を視聴し、そこから得た学びを小レポートにまとめる、という双方について学習支援システムに期限内に提出することをもって、授業1回ごとの出席とします。
3. 授業の記録は原則的に手書きとします。ノートPCもしくはタブレット、携帯電話の持ち込みはご遠慮ください。(事情がある方には対応しますので、ご相談ください)

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about people who need some kind of help and people who need help but are unable to receive services due to the gap between systems, and learn about how they can live in their own way in the community.

Classes are conducted in a lecture format, and students have the opportunity to present what they have learned as necessary. Study using many audiovisual materials, and submit a small report each time about your impressions. At the end of each class, submit a reaction paper. Based on the student's problem awareness written in the reaction paper, there are times when the class content is reorganized and implemented, and the assignment is set again, so I would like you to write positively. At the beginning of the class, teachers share their thoughts and impressions about typical problems with students.

【Learning Objectives】

Learn about people with various attributes, deepen your understanding of "social inclusion" in which people live while accepting and including each other in society, think about what you can do, and put it into practice become able to.

【Learning activities outside of classroom】

Please collect information about welfare, such as newspapers and news, and attend classes with more interest. In addition, we will give you a pre-work assignment, so please work on it.

【Grading Criteria /Policy】

40%for regular grades (watching class videos and assignments), 10%for short reports (mainly about videos), and 50% for term papers.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

地域コモンズ論

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・

時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：環コ：口、文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「草原・森林・牧草地・漁場などの資源を共同で利用・管理する仕組み」または「共同で利用・管理する資源そのもの」は「コモンズ」と呼ばれる。この授業では具体的な事例から、このような資源がどのように利用・管理されてきたのか、そして現在どのような利用・管理状況にあるのかを説明する。そのうえで今後の地域社会における自然環境や資源の共同利用・共同管理のあり方について考える。

【到達目標】

まずコモンズ研究がどのような背景で成立し、どのように発展してきたのかを理解する。次に、様々な地域資源やそれに関する実践活動から資源の持続可能な利用や地域社会の持続可能性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。毎回授業後には、授業内容を踏まえた課題を課し、そのレポートを次回の授業までに提出してもらう。次回の授業、または学習支援システムにおいて課題への解答からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コモンズとは何か？（1）	コモンズの定義について説明する。
第2回	コモンズとは何か？（2）	コモンズ研究がどのような実践的課題を背景に進められてきたのかを説明する。
第3回	地域社会と資源	日本の農山村と地域資源との関係性について説明する。
第4回	日本のコモンズ（1）入会地	入会地の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第5回	日本のコモンズ（2）農業用水	農業用水の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第6回	日本のコモンズ（3）棚田	棚田の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第7回	日本のコモンズ（4）里山	里山の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第8回	人と野生動物（1）マタギ	狩猟を生業とするマタギの自然観を踏まえ、人間と自然のかかわりについて説明する。
第9回	人と野生動物（2）獣害と狩猟	野生動物による農業被害問題を踏まえ、狩猟による動物資源の利用・管理について説明する。
第10回	限界集落と集落維持	「他出子」という人的資源も「コモンズ」に位置づけたうえで、その資源による農山村維持の可能性について説明する。

第11回	グローバルなコモンズとその利用・管理（1）	グローバリゼーションによる食料の不平等分配を踏まえ、食料の生産・消費について説明する。
第12回	グローバルなコモンズとその利用・管理（2）	資源枯渇が危惧されるウナギ・マグロ・クジラなどの現状を踏まえ、漁業資源の利用・管理について説明する。
第13回	コモンズ研究の整理	今後のコモンズ研究の可能性と課題について説明する。
第14回	「コモンズ論」のまとめと振り返り	これまでの授業内容を振り返り、それを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで授業において紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に課す課題レポートの内容を80%として評価する。さらに学期末に課すレポート（4千字以上）の内容を20%として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加と授業理解を促すために、毎回授業終了後にリアクションペーパーを課したい。

【その他の重要事項】

開講は、9月11日（木）～14日（日）の予定。

【Outline (in English)】

This class engages with studies on “local commons.” The goal of the lesson is to understand the content of the local commons and their sustainable use. As learning outside of class hours, I would like to review the class and read the literature introduced in the class. The standard time for preparation and review of classes is two hours each. Regarding the method and criteria for grade evaluation, the content of the report submitted at the end of the semester will be evaluated as 20%, and the content of the reaction paper imposed after class will be evaluated as 80%.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論 I

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の環境問題・環境政策の歴史を概観しながら、環境社会学の理論を紹介する。環境社会学では、「地域住民や市民がどう環境問題の解決にかかわるか」ということが、重要な論点の一つとなってきた。この論点に着目しつつ、本授業では、環境社会学の理論からみた環境問題の特徴と、解決のために必要な行動について学ぶ。

【到達目標】

日本の環境問題・環境政策の歴史を説明できるようになる。環境社会学の理論にもとづき、環境問題の特徴を指摘できるようになる。解決のために必要な行動を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、日本の環境問題・環境政策の歴史を、産業公害期（～1970年代）、都市・生活型公害期（1970年代～1980年代）、地球環境問題期（1990年代～）に区分したうえで、関連する環境社会学の理論を事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、環境問題の定義とタイプ、環境社会学のアプローチ、住民・市民のかかわりについて学ぶ。
第2回	産業公害期①	戦後から1970年代までの産業公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	産業公害期②	水俣病問題を事例に、被害・加害構造論について学ぶ。
第4回	産業公害期③	新幹線公害問題を事例に、受益圏・受苦圏論について学ぶ。
第5回	都市・生活型公害期①	1970年代から80年代までの都市・生活型公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第6回	都市・生活型公害期②	自動車排気ガス規制と技術革新を事例に、生産の踏み車論とエコロジーの近代化論について学ぶ。
第7回	都市・生活型公害期③	自然資源管理を事例に、コモングの悲劇、社会的ジレンマについて学ぶ。
第8回	都市・生活型公害期④	森は海の恋人運動を事例に、集合行為、環境運動について学ぶ。
第9回	地球環境問題期①	1990年代以降の地球環境問題について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。

第10回	地球環境問題期②	市民風車の取組みを事例に、環境NGO・NPOの役割と課題を学ぶ。
第11回	地球環境問題期③	外来種問題を事例に、環境問題の構築主義について学ぶ。
第12回	地球環境問題期④	長良川河口堰問題を事例に、河川政策の展開について学ぶ。
第13回	地球環境問題期⑤	河川法改正を事例に、住民参加の意義、ローカルな知の役割について学ぶ。
第14回	地球環境問題期⑥／まとめ	自然再生事業を事例に、順応的ガバナンスについて学ぶ。環境問題解決への住民・市民のかかわりという観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。

平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class will introduce the theories of environmental sociology, reviewing the history of environmental problems and policies in Japan. This class will focus on how residents and citizens are engaged in the process of environmental problems, which is one of the most important topics in environmental sociology. Students will learn the characteristics of environmental problems and actions for solving them based on the theories of environmental sociology.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain the history of environmental problems and policies in Japan.
 - To point out the characteristics of environmental problems based on the theories of environmental sociology.
 - To propose actions for solving environmental problems.
- (Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers and assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論Ⅱ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コ7：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境NGO・NPOやボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動、協同組合、NPOに関する理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

【到達目標】

現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、協同組合、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようにになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、サードセクターの議論を環境運動、協同組合、NGO・NPOに大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの主体と環境問題とのかわりについて学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	サードセクターの主体のかわりという観点から、戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史を学ぶ。
第3回	環境運動①	社会運動論の前提となる古典的理論、集合行為論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	環境運動②	住民投票運動を事例に、資源動員論、フレーム分析について学ぶ。
第5回	環境運動③	政治的機会構造論と、小樽運河保存運動を事例に歴史的環境保全について学ぶ。
第6回	協同組合①	協同組合の概要と、生活協同組合（生協）の歴史について学ぶ。
第7回	協同組合②	農業協同組合（農協）の概要と歴史、産直と新規就農支援について学ぶ。
第8回	NGO・NPO①	NGO・NPOの概要と、市場の失敗、政府の失敗について学ぶ。
第9回	NGO・NPO②	NGO・NPOの法人格と、新自由主義の流れについて学ぶ。

第10回	NGO・NPO③	ボランティア、寄付の理論と実態、フォーコーの権力論について学ぶ。
第11回	NGO・NPO④	行政の下請け化と、環境NGO・NPOの制度化、日本の環境NGO・NPOの課題を学ぶ。
第12回	NGO・NPO⑤	NGO・NPOのアドボカシーについて、政府への財政的依存との関係と国際会議における活動を学ぶ。
第13回	NGO・NPO⑥	生物多様性条約COP10を事例に、環境NGO・NPOのアドボカシーの課題について学ぶ。
第14回	NGO・NPO⑦／まとめ	環境NPOへの参加を事例に、ソーシャル・キャピタル概念と効果について学ぶ。 環境問題解決におけるサードセクターの役割と課題という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学、NPO論の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。
坂本治也編、2017、『市民社会論』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）を想定。

平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The third sector, including environmental NGOs and volunteers, which is not the government nor business sector is essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements, cooperatives, and non-profit organizations and their role in solving environmental problems. Students will learn how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens. (Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain the role of the third sector, including environmental NGOs and volunteers in solving environmental problems in contemporary society.

- To propose how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers and assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

N G O 活動論

小野 行雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環コア：グ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のアクターとしてのN G Oの立ち位置を確認した上で、N G Oの方法と目指すものについて理解する。日本のN G Oおよび世界のN G Oの歴史と現状について学び、社会におけるN G Oの役割、さらには市民としての自分自身の役割について考える。

【到達目標】

- 1 世界の人々が直面している問題とそれら相互のつながりについて体験的に理解する
- 2 N G Oと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
- 3 N G O活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。自ら学び、自ら主体的に関わり、自ら進み行を決める「参加」があらゆる場面での大きな柱となる。毎回積極的に体験し、意見を交換し、調査し発表する姿勢が求められるため、受動的な意識態度では受講できない。映像資料も多用する。毎回授業後は学習システムを利用してふりかえりレポートを提出することを必須とする。次の授業では、それをめぐる意見交換を行いながら先に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	グループづくりワークショップ
	N G Oの基礎	N G OとN P Oについて講義
第2回	市民社会1	社会における市民社会の位置と役割に関するワークショップと講義
第3回	N G Oの支援方法	インド山岳民族支援をめぐるワークショップ「ドンゴリアコンドの人々」
第4回	開発と近代	インド山岳民族支援をめぐる介入と近代化についてグループ討議
第5回	N G Oケーススタディ1	児童労働とフェアトレードに関わるN G Oの取り組みに関するワークショップ「ミッション・チョコレート」
第6回	N G Oケーススタディ2	児童労働とフェアトレードに関わるN G Oの取り組みに関するグループ討議
第7回	N G Oの資金	フィリピン支援事例についてシミュレーションワークショップとグループ討議
第8回	市民社会2	ボランティアと寄付について講義とグループ討議
第9回	日本のN G O1	日本N G O史について講義と日本のN G Oについてのグループ調査

第10回 日本のN G O2

日本N G Oについてグループ調査発表と講義

第11回 世界のN G O1

世界N G O史について講義と世界のN G Oについてのグループ調査

第12回 世界のN G O2

世界のN G Oについてのグループ調査発表と講義

第13回 ゲスト講義

N G Oで活動してきた方をゲストに迎えて講義と討論

第14回 N G Oの役割

N G Oの社会的役割および社会との関わりについて講義とグループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。ふりかえりシートを重視するので、自身のそれまでの知識・経験を学んだことと結びつけたていねいなふりかえりを時間をかけて行い学習システムにて提出すること
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加度および毎時間のレポートを重視する。ふりかえりシートによるレポート80%、期末レポート20%

【学生の意見等からの気づき】

ふりかえりシート作成にあたり毎回ポイントを提示する

【学生が準備すべき機器他】

授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートホン持参が必須となる。

【その他の重要事項】

グループワークを中心とするので、主体的学習意欲があること、積極的にコミュニケーションをとる意志があることが必須条件である。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 Understanding the position of NGOs as social actors and the methods and objectives of NGOs. Studying the history and current status of NGOs in Japan and in other countries, Thinking of roles of NGOs and our own in the civil society, considering the role of NGOs in society, and reflecting on your own roles as citizens.

【到達目標（Learning Objectives）】

- 1 To understand modern issues of the world and the their relations.
- 2 To understand the past and present of the NGOs and civil society and acquire broad view of the world citizens.
- 3 To acquire a strong sense of citizenship and positive attitude to get involved in the society.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours each to understand the course content.

Prepare the class by skimming through the materials provided. After the class, take time to write a reflection paper. Try relating what you learned in the class to your previous knowledge and experiences.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】

Active participation to the class and thoughtful reflection is important.

Reflection report after every class 80%

Term-end report 20%

SSS300HA（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

災害政策論

中川 和之

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5
備考（履修条件等）：環コア：口
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、法制度以前の自然環境を利用するための約束事や、災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。
そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸に暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】

①災害とは何かを、事例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展の経緯、残る課題を理解する。③非日常を前提には生きていない人々の暮らしと、今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出し、今後の社会での実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回短いレポートとしてWebClassで提出する。次の授業の冒頭にレポート内容を振り返り、問題意識を共有して進める。1回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。課題提出後の授業、またはWebClassで提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？ 災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の実体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。

第2回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科1	地球の46億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去に自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを、具体的な地震の事例などを元に押さえる。授業中に、学生の出身地や身近な場所についての簡単なワークシートに記入する。
第3回	身近な景観と災害＝理科2	前回の授業課題で作成したワークシートを元に、学生同士で相互プレゼンを行い、グループで語りあうことから始める。授業では、さまざまなWebGISの地図から、どのようなことが読み解けるかを知る。GW期間中に取り組む、地元の土地の成り立ちを知るレポートの課題についての説明も行う。この課題は、最後のレポートにも必須となる。
第4回	3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災前まで	歴史時代以前からの人類と災害の付き合いから、江戸時代、明治時代、大正昭和と日本列島の災害史とともに、対策について振り返る。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と1995年の阪神大震災の直前までを取り上げる。
第5回	3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災とその後	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。
第6回	3つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災	東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。
第7回	東日本大震災後の災害政策の今＝これからの備え＝「己」がどこまで分かった政策なのかを考える	南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何か、災害を想定した私権制限はどこまで許容されるのかなどを考える。

第8回	近年の火山噴火災害から、課題を考える	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	第12回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。
第9回	近年の地震災害から、課題を考える	2024年能登半島地震、令和4年福島県沖の地震、2019年山形県沖地震、2018年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016年熊本地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2度の震度7に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	第13回	災害と恵み・防災教育・ジオパーク	自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ること、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第10回	近年の風水害から、課題を考える	地震の後の豪雨という複合災害となった奥能登、令和4年台風第8号、令和2年7月豪雨、2020年7月豪雨や台風10号、2019年台風15号や19号(東日本台風)、2018年西日本豪雨や台風21号、2017年九州北部豪雨や2016年台風10号、2015年9月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	第14回	試験レポート	「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験(レポート)を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホやPC、何でも持ち込んでOK。
第11回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNSなどの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。最終講義での試験に必要な「地域防災計画の課題発見」レポートについても説明を行う。			【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】 毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。期間中にあった災害についても授業内で取り上げていく。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートを、WebClassも活用して提出が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。課題レポートでは学生自身でのフィールドワークも推奨される。
					【テキスト(教科書)】 授業で使うプレゼン資料は、毎回の授業前、WebClassに掲載する。
					【参考書】 授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画(その地域で地区防災計画があればそれも)は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。
					【成績評価の方法と基準】 平常評価(WebClassでのテスト・アンケートを使った小レポートで授業内容の理解を評価)40%、授業中の課題ワークシート・レポート評価20%、期末試験(試験レポート)評価40%。
					【学生の意見等からの気づき】 災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施するほか、学生同士でのディスカッションの時間を持ちたい。また毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。
					【学生が準備すべき機器他】 WebClassの利用は必須。講義室でPCやスマホを使って、その場でWebClassからの小レポートの提出を求める。試験課題などもWebClassを利用する。

【その他の重要事項】

試験レポートの作成時には、時間内であればどのような資料を参考に書いても良い。

【実務経験のある教員による授業】

通信社記者として、1984年の長野県西部地震や1995年の阪神大震災などを取材。2005年から2011年まで主に自治体の防災施策を支援するメディアの「防災リスクマネジメントWeb」編集長。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与した以降、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組む。現在は内閣府の「TEAM防災ジャパン」のアドバイザー。子どもたちと地震や火山を学ぶワークキャンプを、地震学会として20世紀から実践。災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を10年以上担当。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

- 1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster.
- 2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree.
- 3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.

【Learning Objectives】

1. Understand what a disaster is by learning from actual examples.
2. Understand the background and development of current policies and the remaining issues.
To think about the ideal form of national and local disaster policies in the future.
4. To discover how to apply their own expertise as a party in Japan, a disaster-prone country, and put it into practice in society in the future.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review the materials introduced in each lecture and prepare for the next week's topic using the Internet and related materials. As you take this class, I would like you to be interested in information and news related to disasters on a daily basis. Disasters that occurred during this period will also be discussed in class. Outside of class time, students will be asked to submit worksheets and reports related to disasters in their respective regions using the learning support system. The estimated time for preparation and review for this class is 2 hours each. In addition, it is recommended that students conduct their own fieldwork for the assigned reports.

【Grading Criteria /Policy】

Normal evaluation (evaluation of understanding of class content through tests and reaction papers on the learning support system): 40%, worksheets and reports for in-class assignments: 20%, final exam (exam report): 40%.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

社会開発論

新村 恵美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環コア：グ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。開発、国際協力分野における社会的側面の重要性はSDGsの随所に見られる。しかし、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。本科目では、SDGsを意識しつつ、世界の現状、社会開発の枠組みを学び、先進国の私たちの役割を考察する。

【到達目標】

下記の3点を到達目標とする。

- 1、SDGsに関連づけながら、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得する。
- 2、途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解することを目指す。
- 3、想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを、実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

大きく3セクションに分ける。第1に、社会開発の概要として、様々な理論や国連・政府の枠組みから社会開発を概観する。第2に、社会開発で取り上げられる課題を分野別に理解し、最後に社会開発とそれによる社会変容の事例を取り上げて検討する。第3に、学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループで共有し、全体発表なども行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで知らせる。

各回で、SDGsの関連する目標に照らし合わせ、それぞれの指標も確認する。授業計画の内容欄に、該当するSDGsの目標番号【 】で記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入 社会開発の概要 1 定義と背景	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。【SDGs 全体】
第2回	社会開発の概要 2 国連と SDGs	国連のSDGsの枠組み、内容と指標を概観する。【SDGs 全体】
第3回	社会開発の概要 3 国連と人間開発	国連の「人間開発」の概念を学び、人間開発指数(HDI)、ジェンダー開発指数(GDI)などの主な国際指標を理解する。【SDGs 目標 1, 2, 3, 4 & 5】
第4回	社会開発の概要 4 日本政府による社会開発	社会開発を行う主体としての、国際機関、各国政府の活動について概観する。【SDGs 目標 17】

第5回 社会開発の概要 5
市民、NGO

第6回 社会開発の分野 1
途上国の貧困

第7回 社会開発の分野 2
日本の貧困

第8回 社会開発の分野 3
格差を体験する

第9回 社会開発の分野 4
フェアトレード

第10回 社会開発の分野 5
人口問題と国際協力

第11回 社会開発と社会変容 1
教育・識字の役割

第12回 【グループ発表】
課題レポートの発表

第13回 社会開発と社会変容 2
ネパールの債務労働者

第14回 期末のまとめ

NGOの活動について、その種類・形態・財政・人材などを検討する。【SDGs 目標 16】

バングラデシュのストリートチルドレンの「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGOの取り組みから社会開発の役割を検討する。【SDGs 目標 1 & 11】
日本を含めて先進国における貧困について、OECDやILOのデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。【SDGs 目標 1】

なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差を体験し、考察する。【SDGs 目標 10】
「不正な」貿易は途上国において何をもたらしているのか。ファストファッションを題材に考える。【SDGs 目標 8 & 10】
高齢社会においても途上国においてもそれぞれ喫緊の課題である人口問題の概観し検討する。【SDGs 目標 3 & 5】

貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることの意味を確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。【SDGs 目標 4】

課題で取り組んだ内容について、グループに別れて話し合い、発表する。

ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動とNGO等による社会開発の役割について考える。【SDGs 目標 8】

全体の内容のまとめを行い、授業内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：授業計画に記載された語句などをあらかじめ調べておく。
復習・宿題：授業で配布する資料で復習し、随時課題レポートの準備を進める。
各回の配布資料に、テーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解と理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布する。
授業内容が依拠する参考文献は、各回で配布する資料にリスト化する。

【参考書】

新村恵美（2023）「SDGsとは何か：起源と概要、達成状況」、佐藤龍三郎・松浦司編『SDGsの人口学』人口学ライブラリー No.23、第2章。
佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者
高柳彰夫・大橋正明編（2018）「SDGsを学ぶ-国際開発・国際協力入門」法律文化社
南博・稲場雅紀（2020）「SDGs-危機の時代の羅針盤」、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：30%
期末試験：40%
毎回の授業での記述:30%

【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当しています。SDGsに関連付けたことが、学びやすさにつながった、提出したレポートを互いに発表し合いコメントし合う機会が学びにつながったとのコメントがみられました。今後も履修学生との対話をととして、授業を作ってゆきたいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】

レポート提出などでパソコンを使用し、学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course is to learn the theory and practice of social development.

It is structured as follows:

1. Students will review the definition and the history of social development, the theories that influenced social development, as well as the actors of social development such as government, international agencies, NGOs, etc.
2. Specific issues on social development are examined according to the Sustainable Development Goals (SDGs).
3. Several case studies are introduced so that students can discuss the practice of social development.

Students are expected to be cooperative and active during group discussions and presentations.

【Learning Objectives】

1. To acquire basic knowledge of the concept of social development;
2. To understand "poverty" not in terms of dichotomies, such as developing countries and developed countries, people concerned and supporters, and without othering people who are in different positions from oneself; and
3. Use your imagination to realize that social development is something that brings about human change.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on

1. Mid-term report(30%),
2. Final exam(40%), and
3. submission of feedback paper in each class(30%).

SHS300HA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 300）

科学技術社会論Ⅰ

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術と社会は相互に複雑に作用し、その相互作用からさまざまな社会問題が生じています。本講義では、そうした問題が生じる背景や原因について、具体例を取り上げながら、専門家と市民の両方の観点から考察できるようになることを目指します。それを通して、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方の基礎づくりを行います。

なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。

【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】

①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン

【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】

①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義＋ディスカッション

【到達目標】

本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。

・科学技術がもたらす社会問題について、具体例を挙げながら説明できる。

・科学技術がもたらす社会問題について、専門家および市民の立場から考察できる。

・科学技術がもたらしうる社会問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッション（ケースメソッド学習）を行うなど、対話を意識した運営を行います。また、毎回実施するミニ・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。ミニ・ペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	ケースメソッド授業①	事例を通して、専門家としての意思決定を疑似体験し、そのあり方を考察します。
第3回	巨大技術システムがもたらす問題	スペースシャトル・チャレンジャー号事故を取り上げて、巨大技術システムがもたらす問題について説明します。
第4回	ケースメソッド学習②	事例を通して、先端技術がもたらす可能性のある問題について考察します。
第5回	ケースメソッド学習③	先端技術がもたらす可能性のある問題について、専門家の立場から考察します。

第6回	ケースメソッド学習④	先端技術がもたらす可能性のある問題について、市民の立場から考察します。
第7回	科学技術社会における専門家の役割	専門家のあり方について、具体例を取り上げながら考察します。
第8回	科学技術とリスク	具体例を取り上げながら、科学技術とリスクの問題について説明します。
第9回	科学技術社会における市民の役割	科学技術の発展と市民の役割について、具体例を取り上げながら考察します。
第10回	ケースメソッド学習⑤	事例を通して、企業が直面する可能性のある問題について考察します。
第11回	ケースメソッド学習⑥	企業が直面する可能性のある問題について、専門家の立場から考察します。
第12回	ケースメソッド学習⑦	企業が直面する可能性のある問題について、市民の立場から考察します。
第13回	これからの科学技術と私たち	これからの科学技術について専門家と市民の協働の観点から考察します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

金沢工業大学・科学技術応用倫理研究所編『科学技術者倫理：本質から考え行動する』白桃書房、2017年

札野順編著『新しい時代の技術者倫理』放送大学教育振興会、2015年
小林傳司『誰が科学技術について考えるのか：コンセンサス会議という実験』名古屋大学出版会、2004年

金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、講義・対話への参加度合や毎回実施するミニ・ペーパーの提出によって平常点を評価します（60％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（20％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【その他の重要事項】

本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology and society interact with each other in a complex manner, and various social issues arise from this interaction. The aim of this course is to enable students to consider the background and causes of such issues from the perspectives of both experts and citizens, taking up specific examples. By doing so, students will build a foundation for thinking about how to deal with future social issues related to technology.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social issues brought about by technology, giving specific examples.
- Examine social issues brought about by technology from the perspective of experts and citizens.
- Think critically about the social issues that technology can bring about.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class report (20%), in class exam (20%), and in class contribution (60%).

SHS300HA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 300）

科学技術社会論Ⅱ

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を生きる上で科学技術は不可欠の存在です。しかし、科学技術は常に新しい事態をもたらし、時にそれを振興すべきか規制すべきかといった意思決定を迫ります。本授業では、科学技術をめぐる社会的決定に参加する一市民あるいは専門家として、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方、態度、行動について具体例を通して学びます。

なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。

【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】

①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン

【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】

①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義＋ディスカッション

【到達目標】

本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。

・科学技術がもたらす光と影について、具体例を挙げながら説明できる。

・科学技術がもたらす新しい事態について、批判的に思考できる。

・本授業で扱う事例について、自らの意思決定を他者に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、毎回実施するミニ・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。ミニ・ペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	科学技術と社会をめぐる諸理論	パラダイム論、社会構成主義、モード論などについて説明します。
第3回	「公害」から学ぶ	公害を取り上げながら、科学および科学者の役割などを考察します。
第4回	「遺伝子組み換え作物」から学ぶ	遺伝子組み換え作物を取り上げながら、フレーミングの問題などを考察します。
第5回	「BSE問題」から学ぶ	BSE問題を取り上げながら、専門家と市民の協働などを考察します。
第6回	「Winny事件」から学ぶ	Winny事件を取り上げながら、最先端技術と法の関係について考察します。

第7回	「地球温暖化」から学ぶ	地球温暖化を取り上げながら、通訳不可能性や合理性などについて考察します。
第8回	「動物実験」から学ぶ	動物実験を取り上げながら、二重基準や自然さからの議論などについて考察します。
第9回	「チャレンジャー号事故」から学ぶ	チャレンジャー号事故を取り上げながら、巨大技術システムの問題を考察します。
第10回	「モーゼスの橋」から学ぶ	モーゼスの橋の事例を取り上げながら、技術の政治性の問題を考察します。
第11回	事例分析に向けて	各自で実施する事例分析について、方法論やアプローチの仕方を説明します。
第12回	プレゼンテーション「事例分析」	各自で実施した事例分析について、クラス内で発表・議論します。
第13回	これからの科学技術と私たち	これからの科学技術にどのようなかわるのかについて考察します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』東京大学出版会、2005年
伊勢田哲治[ほか]編『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013年
藤垣裕子責任編集『科学技術社会論とは何か』（科学技術社会論の挑戦1）東京大学出版会、2020年
平川秀幸『科学は誰のものか：社会の側から問い直す』（生活人新書）日本放送出版協会、2010年
金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、講義・対話への参加度合や毎回実施するミニ・ペーパーの提出によって平常点を評価します（60％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（20％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【その他の重要事項】

本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology is an essential part of living in modern society. However, technology always bring new situations and sometimes force us to make decisions about whether to promote or regulate them. In this course, we will learn how to deal with future social problems related to science and technology as a citizen or an expert who participates in social decisions about science and technology through specific examples.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the light and shade brought about by technology, giving specific examples.
- Think critically about new situations brought about by technology.
- Explain your own decision-making to others regarding the cases covered in this course.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class report (20%), in class exam (20%), and in class contribution (60%).

LIT200HA（文学 / Literature 200）		
日本詩歌の伝統		
日原 傳		
配当年次／単位：1～4年／2単位		
開講セメスター：春学期授業/Spring 曜日・時限：金3/Fri.3		
備考（履修条件等）：環コア：文		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」「川柳」などの実作を体験する機会も設ける予定である。実作の手助けになるように、多くの先人の作品を紹介し、鑑賞したい。		
【到達目標】		
・ 定型詩（俳句・短歌・漢詩など）の規則を理解する。 ・ 定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。 ・ 「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。 ・ 日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連		
【授業の進め方と方法】		
講義形式。毎回テーマを設けて、日本の詩歌作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者には毎回俳句の実作を提出してもらう。提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。 ※第1回目から対面授業をする予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。 ※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	俳句の三要素	俳句の約束事～定型・季語・切れ 俳句の片言性
第2回	季語の重層性	俳句のみなもと（和歌・連歌・俳諧）、俳諧の発句、季題と季語、歳時記の世界／実作（俳句）
第3回	切れについて	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」／実作（俳句）
第4回	座の文学Ⅰ	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第5回	座の文学Ⅱ	正岡子規の場合／実作（俳句）
第6回	子規の俳句革新	子規の生涯、子規山脈、「写生」について、吟行という作句法／実作（俳句）
第7回	短歌と俳句／子規の後継者Ⅰ	短歌と俳句の違い／虚子とその弟子たち／実作（短歌・俳句）
第8回	俳句と川柳／子規の後継者Ⅱ	俳句と川柳の違い／碧梧桐の新傾向俳句・自由律／実作（俳句・川柳）
第9回	漢詩（近体詩）の規則	子規が初めて作った漢詩の紹介／漢詩（近体詩）の格律／実作（漢詩・俳句）
第10回	俳句の技法Ⅰ／近代の俳句①	比喩（直喩・隠喩）、擬人法／鑑賞（伝統俳句）／実作（俳句）
第11回	俳句の技法Ⅱ／近代の俳句②	字余り・字足らず・句またがり／鑑賞（新興俳句・前衛俳句）／実作（俳句）
第12回	海外俳句／国際俳句／俳句を読むということ	芭蕉「古池や・・・」の翻訳／『台湾歳時記』の紹介／漢俳／実作（俳句）
第13回	現代俳句／青春俳句／文人俳句／子規と漱石	観賞（現代俳句・青春俳句・俳句甲子園）／子規と漱石の交流／実作（俳句）
第14回	授業の総まとめと期末試験	筆記試験、まとめと解説
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
・ 講義で紹介された資料を導きに自分の好きな作家を見つけ、その作品を読む。 ・ 自作の俳句（毎回2～3句ほど）を作って提出する。 ・ 本授業の準備・復習時間は、前後2時間ずつを標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
担当者が作成した資料を配布する。		
【参考書】		
小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書） 山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書） 『合本 俳句歳時記 第五版』（角川書店） 平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫） 藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房） 片山由美子ほか『俳句教養講座』第1～3巻（角川学芸出版） 日原傳『365日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂） 岸本尚毅『文豪と俳句』（集英社新書） 佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー） Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill） 馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社） 岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）		
【成績評価の方法と基準】		
平常点（授業への参加姿勢・提出作品）40％ 自信作10句（春学期に作った自作10句）10％ 期末試験またはそれに代わる最終レポート 50％		
【学生の意見等からの気づき】		
提出された実作について解説する時間を多くとりたい。		
【Outline (in English)】		
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write haiku poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination (or Term-end report) : 50%、Short reports: 10%、in class contribution: 40%		

ART200HA（芸術学 / Art studies 200）

比較演劇論 I

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環ア：文／定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、とても密度の濃い講義形式となります。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能です。毎回の講義後、学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、志望理由を簡潔に書いていただきます。それにより選抜を行う可能性もあります。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演（1）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第3回	歌舞伎海外公演（2）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第4回	何もない空間	能やギリシャ悲劇を対象に、観客の想像力について考えます。
第5回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、など、歌舞伎舞台の仕掛けを学びます。
第6回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考えます。
第7回	歌舞伎のせりふ	聞かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学びます。
第8回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能について、演技の型、舞台構造、衣裳vs.装束、化粧vs.面などの観点から、対照的に考察します。
第9回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性vs.感性という観点から、東西の伝統演劇を考察します。
第10回	日本人の主情性 一家 庭悲劇のドラマツルギー（1）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。『平家物語』の原話「敦盛最期」から歌舞伎『熊谷陣屋』へ。

第11回	日本人の主情性 一家 庭悲劇のドラマツルギー（2）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。「敦盛最期」から能『敦盛』へ。最終的に、同じ原話から生まれた歌舞伎と能のそれぞれの作品を比較考察します。
第12回	歌舞伎と文楽	歌舞伎と文楽の『熊谷陣屋』を比較考察します。
第13回	総括	春学期の学習内容の復習をします。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第14回	期末試験（記述式）と復習	13回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URLおよび関連動画については、

必ず予習・復習をしてください。

日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。そのための個別の質問も歓迎します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBSブリタニカ

野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50%

参加態度（授業に関係のない私語や行動には厳しく対応します。）
ジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて、学習支援システムに提出していただきます。）

【期末試験】50%

記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業はBT0309教室にて実施します。新学習支援システムを利用します。

Zoom講義でも頻繁に動画共有を行うので、使用機器（PC利用のこと）とネットワークの安定性を事前にご確認ください。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも演劇情報を提供します。
・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favor or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures. You can learn basic knowledge about each genre of mainly traditional performing arts. Before/after each class, you are expected to spend four hours to understand the lecture. Grading will be decided based on participations, journal writing and final exam: participations & journals(50%) and final exam(50%).

ART300HA（芸術学 / Art studies 300）

比較演劇論Ⅱ

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コ：文／定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

春学期講義「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品・関連芸術への鑑賞眼を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演劇各ジャンル・関連芸術の代表的な作品について鑑賞・解説し、受講者の鑑賞眼を養います。各回の講義後、学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明します。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演（3）	平成中村座海外公演について考察します。
第3回	劇場とは何か	芸能の「場」と観客の想像力について考察します。
第4回	ギリシャ悲劇：ソフォクレス作『オイディプス王』	オイディプス王の物語とギリシャ悲劇の特色を学びます。
第5回	ジャンル横断的考察（1）	歌舞伎と落語：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第6回	ジャンル横断的考察（2）	歌舞伎と映画：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第7回	ジャンル横断的考察（3）	能と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第8回	ジャンル横断的考察（4）	文楽と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第9回	翻案劇とは何か？	日本におけるシェイクスピア受容を中心に、ジャンルとしての翻案劇のあり方を考察します。
第10回	東西の流血シーン	ヨーロッパの演劇と比較して、歌舞伎の「殺し場」の特徴を考えます。
第11回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を軸として、演劇におけるリアリズムと様式表現について考えます。

第12回 演劇の季節感

第13回 伝統とは何か

第14回 復習と期末試験

歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品を考察します。東西の伝統演劇の比較考察をまとめます。期末試験の勉強のしかたについても説明します。13回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度・鑑賞力を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URLおよび関連動画については、必ず予習・復習をしてください。日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。そのための個別の質問も歓迎します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 一日本人の美意識一』 TBSブリタニカ
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50%

参加態度（授業に関係のない私語や行動には厳しく対応します。）
3回分のジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて、学習支援システムに提出していただきます。）

【期末試験】50%

記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的には好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業はBT0309教室にて実施します。学習支援システムを利用します。

Zoom講義でも頻繁に動画共有を行うので、使用機器（PC利用のこと）とネットワークの安定性を事前にご確認ください。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも演劇情報を提供します。
・ただし、能や歌舞伎など伝統芸能の基礎知識を前提に授業を進めるので、春学期の「比較演劇論Ⅰ」と併せて履修することを強く勧めます。

【Outline (in English)】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favor or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures. You are encouraged to enhance your insight into performing arts. Before/after each class, you are expected to spend four hours to understand the lecture. Grading will be decided based on participations, journal writing and final exam: participations & journals(50%) and final exam(50%).

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

環境倫理学 I**竹中 真也**

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学は1970年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では1990年代に始まった若い分野である。本講義では環境倫理学の全体像とともに、各分野を概観する。受講者はそれを通して倫理的なアプローチの特色を学ぶことになる。

【到達目標】

環境倫理学の多様な主題、具体的中身を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面	人新世と環境倫理学	現在の時代状況とともに、環境倫理学を概観する。
対面	功利主義	功利主義の基本的な用語、発想をおさえる。
対面	義務論	義務論の基本的な用語と、発想をおさえる
対面	徳倫理	徳倫理の基本的な用語と発想を押さえる
対面	世代間倫理	世代間倫理がいかなるものかを知り、問題を考える。
対面	環境正義	環境正義の由来、その意味を理解し、現実の問題に取り組む。
対面	気候正義	気候正義の問題から、温暖化の問題について考える。
対面	人口と環境	人口増大から生じる、経済格差と平等の問題を考える。
対面	風景	空間でなく、場所がもつ意味、風土とのかかわりを概観する。
対面	食農倫理	食農において何が問題になっているかを押さえ、その取り組みを知る。
対面	土地倫理	土地倫理がいかなるもので、その由来がどこにあるかを知る。
対面	都市の環境倫理	都市と自然の関係を再考する。
対面	エコツーリズムと環境倫理	観光と自然環境と文化の関係について考察する。
対面	全体の総括	これまでの議論を整理し、総合的な視点でとらえかえす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学 3STEPシリーズ』昭和堂、2020年

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年
その他の参考書は、そのつど授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の課題）30％と、学期末の課題70％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォンなど情報電子機器。

【その他の重要事項】

ディスカッションの時間を設けるので、積極的に議論に参加してください。

【Outline (in English)】

This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, Usual performance score: 30%, term-end examination:70%.

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

環境倫理学Ⅱ

加藤 壮一郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環Ⅱ：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「都市の環境倫理」について学ぶ。特に、近代から現代にかけての都市環境づくりに注目して都市論、場所論、まちづくり論などを学ぶ。あわせて、SDG s de 地方創生カードゲームの実施や、アメニティマップの作成などを通じて、各人が自分にとって良好な都市や環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い都市・環境とは何か」について自分なりの答えが見つけられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市・環境・まちづくり・倫理学	本講義のテーマとなる都市環境問題に注目した思想・まちづくりへのアプローチについて説明する。
2	都市論① 産業社会における都市問題と都市思想	ヨーロッパを中心とした産業革命後の都市問題、都市思想について紹介する。
3	都市論② 近代都市計画の思想	ル・コルビジェを中心とした近代都市計画思想を紹介する。
4	都市論③ 現代都市計画の思想	ジェーン・ジェイコブスを中心とした現代都市計画思想を紹介する。
5	場所論 場所の感覚	古代の都市の誕生から現代の地球環境問題にいたる人々の「場所の感覚（センス・オブ・プレイス）」について考察する。
6	SDG s ① SDG s とは	国連が掲げる「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」について学ぶ。
7	SDG s ② SDG s de 地方創生 カードゲーム	SDG s de 地方創生 カードゲームを通して、持続可能な地域づくりを疑似体験する。
8	SDG s ③ カードゲーム 講評 中間レポート 講評	カードゲームの講評を通して連関する社会課題の全体像について理解し、議論する。中間レポートの講評。
9	アメニティマップについて	過去のアメニティマップを紹介しながら、作り方を説明する。
10	まちづくり論① 北欧都市の挑戦	デンマークの都市環境づくりを通して、現代における先進的取組を紹介する。

11	まちづくり論② 日本	日本のまちづくりの事例について紹介し、その特性について議論する。
12	アメニティマップの発表（1）	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
13	アメニティマップの発表（2）	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
14	アメニティマップ講評とまとめ	アメニティマップについての講評と本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日端康雄『都市計画の世界史』講談社現代新書、2008年

【参考書】

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

S・E・ラスムッセン（横山正訳）『都市と建築』東京大学出版会、1993年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（中間レポート・最終レポート）（50％）とマップ作成（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けます。

【Outline (in English)】

We learn about "urban environmental ethics." In particular, we will study urban theory, place theory, and town development theory, focusing on urban environment creation from modern times to the present. In addition, we will play the Card Game "SDGs de Regional Revitalization" and make an amenity map, with the goal of deepening each person's understanding of what a good city or environment is for us.

CUA200HA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

環境人類学Ⅰ

高橋 五月

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金1/Fri.1

備考（履修条件等）：環コア：G,文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅰは、人間と環境の関係についての文化的側面を探究する学問である環境人類学の基礎を学ぶ講義科目です。文化人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景をもとに多様に存在する人間と環境の関係について学びます。本授業の目的は、文化人類学的な視点を用いて身近な環境問題における文化的側面についての理解を深めることです。

【到達目標】

本授業では、文化人類学的な視点について基礎的な知識を身につけること、また身近な環境問題について文化人類学的アプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係の文化的側面についての知識とクリティカルシンキングを養うことを目的にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は映像資料を随時活用しながらオンデマンド形式で行います。また、クリティカルシンキングを育てることを目的とし、ディスカッションコメントを課題とします。この課題では、講義内で出題する講義内容に関連する「お題」に対して、学生が各自ディスカッションコメントとして回答を授業支援システムにて提出します。この課題を通して学生は「お題」に対する自らの考えを言語化するスキルを向上するだけでなく、他学生の回答を通して多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的や進め方、課題、成績評価の方法について説明します。
第2回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介します。
第3回	文化生態学とは？	環境人類学の「父」であるジュリアン・スチュワードの研究を紹介します。
第4回	民族生態学とは？	人間と環境の関係を民族学的に考察する研究を紹介します。
第5回	生態人類学とは？	ロイ・ラバポートによる宗教儀式と生態との関係についての研究を紹介します。
第6回	狩猟採集文化	狩猟や採集という文化を通して人間と環境の関係について講義します。
第7回	複合社会	文化的変容が人間と環境の关系到与える影響について講義します。
第8回	中間試験	試験・まとめと解説
第9回	地下環境	鉱物採取（石炭、ウラン、石油、ダイヤモンド）と環境問題との接点を講義します。
第10回	地球温暖化	気候変動が人間と環境に与える影響について講義します。

第11回	人口と環境	人口の増減が人間と環境の关系到与える影響について講義します。
第12回	生物の多様性	生物多様性が人間と環境の关系到与える影響について講義します。
第13回	消費者文化	大量消費社会が生み出す環境問題について講義します。
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献がある場合は授業前までに読んでおきましょう。

（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に紹介します

【参考書】

バトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションコメント（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

文化人類学は初めて聞く学問で難しそうだったという学生も少なくないですが、履修したら異文化だけでなく自分の身の回りの「当たり前」について考えることができて面白かったというコメントも多いです。

講義で使用するスライドを「ハンドアウト」として授業支援システムにて公開しています。ただ、これは講義の要点が書かれているだけのものですので、学生各自で授業メモを取り、自分なりの授業ノートを完成させてください。

映像資料も利用しながらの授業が好評だったので、今後も同様のスタイルで授業を進めたいと思います。

ディスカッションコメントの回答例紹介コーナーは他学生や教員の意見を知ることができるので楽しく、より深く考える機会になるという意見をたくさんいただいたので、今後も続けていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学Ⅰでは、資料配布、お知らせ配信、ディスカッションコメントの提出は全て授業支援システムを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

"Environmental Anthropology I" is an introductory course to learn about environmental anthropology and related discussions on human-environment relations. The main goal of this course is to help students obtain basic knowledge of environmental anthropology and develop critical thinking skills by asking questions that require them to apply course materials and lectures for their thoughts on human-environment relations and logically explain them to others.

Students will be expected to take two exams and post discussion commentaries on Hoppii. A study time for a class, on average, is four hours. A final grade will be based on mid-term and final exams (70%) and discussion commentaries (30%).

CUA300HA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

環境人類学Ⅱ

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：環コア、古文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅱは、「サステイナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在どのような課題が生じているのか、事例と文化人類学的アプローチをもとに講義し、議論します。本授業の目的は、講義で紹介する文化人類学的アプローチを参考にしながら、学生たちが自ら「サステイナビリティ」とは何かという問いに向き合い、理解を深めることです。

【到達目標】

本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライスメイトと議論しながら、学生が自分なりに「サステイナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

関連文献と映像資料を随時活用しながら講義を行います。また、講義では毎回講義内容に関連した「お題」を通して学生にクリティカルシンキングの機会を与えます。具体的には、学生は「お題」に対する自らの考えを述べるだけでなく、次回講義で紹介される回答例を通して他学生の多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。課題提出後の授業、または授業支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明します。
第2回	サステイナビリティとは？（1）	サステイナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義します。
第3回	サステイナビリティとは？（2）	持続可能な社会とは何か？ これまで実行された方策とその課題について講義します。
第4回	コモンズ（1）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論します。
第5回	コモンズ（2）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論します。
第6回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論します。
第7回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇や海洋汚染などの問題と持続的な水産業について講義・議論します。
第8回	中間試験	中間試験と前半の振り返り。

第9回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論します。
第10回	里山・里海	里山・里海が目指すサステイナビリティの意味やあり方について講義・議論します。
第11回	災害	災害とサステイナビリティの関係について講義・議論します。
第12回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステイナビリティの意味やあり方について講義・議論します。
第13回	アンソロボシオン	アンソロボシオンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について探求する最新の人類学的研究について講義・議論します。
第14回	期末試験	期末試験と後半の振り返りをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。

（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配付します

【参考書】

授業中に提示します

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30％）、中間・期末筆記試験（70％）。

【学生の意見等からの気づき】

大教室の授業なのですが、リアクションペーパーなどを活用して学生同士の意見交換ができるように工夫しています。自分の考えをまとめたり、他学生の意見を知ることを楽しんでくれた学生が多かったのは嬉しいです。今後もできるだけ意見交換ができる時間を授業中に設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学Ⅱでは、資料配布、お知らせ配信、リアクションペーパー提出は全て授業支援システムを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This lecture course is designed to introduce a variety of cases that people are intended to promote sustainability, and provide opportunities for students to think critically about socio-cultural dimensions of "sustainability." The main goal of this course is to help students to obtain basic knowledge of environmental anthropology and also to develop critical thinking skills by asking questions which require them to apply course materials and lectures for their own thoughts on sustainability and logically explain them to others. Students will be expected to take two exams in addition to submit weekly commentaries by the deadline. A study time for a class on average is four hours. A final grade will be based on mid-term and final exams (70%) and weekly commentaries (30%).

TRS200HA（観光学 / Tourism Studies 200）

環境表象論 I

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環コア：口、文

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にとど捉えるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。

「文化的景観」は、地域の特色ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために1992年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も2005年に新文化財として文化財保護法に採り入れています。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適応して形成された伝統的な生活・生業（農林水産業や鉱工業）を表わす景観の持続可能性を尊びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特色ある生活文化資産を今後にどのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であるといえます。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

【到達目標】

・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できる。
・「景観」は見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながる人が多いということに気付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることにメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「景観」とは何か 導入的説明
第2回	ユネスコの「世界遺産」事業概説（「文化的景観」導入の経緯）	併せて国内の世界遺産を紹介
第3回	ユネスコの「世界遺産」概説 その2	前回の補充（授業テーマに関連する海外の世界遺産紹介など）
第4回	文化財保護法の既存の文化財との比較（1）	日本の文化財の種類、内容

第5回	文化財保護法の既存の文化財との比較（2）	「環境」、持続可能性重視の潮流のなかで
第6回	文化的景観の多面的効用（1）	国土の自然環境保全、食料自給率の改善、生態系保全等
第7回	文化的景観の多面的効用（2）	エコツーリズム、グリーンツーリズム、エコミュージアムの素材／「原風景」
第8回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（1）	重要文化的景観第1号のまちの市民活動の歴史、特色
第9回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（2）	六次産業創出ほか、新たなとりくみと「有機的に進化する景観」
第10回	精神文化と一体の景観（1）	熊野三山（世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」）
第11回	精神文化と一体の景観（2）	沖縄の御嶽、富士山
第12回	精神文化と一体の景観（3）	童話・映画・アニメの名作の舞台：「フィルムツーリズム」との関連
第13回	精神文化と一体の景観（4）	古典文芸が創った名所の例として、松島・鞆の浦
第14回	総集編	初回～13回の授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載する毎回のスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『「文化的景観」の特質と可能性』（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』（第2版）第I部第6章、ミネルヴァ書房、2021）ほか、授業のなかで紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

学期末筆記試験60％、毎回の小テスト40％。小テストを1回も受けていないと、期末試験を受けても満点でない限りは単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習することへの評価や、画像や動画が豊富で親しみやすく、興味を惹かれる（実際に行ってみたくなる）といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・日本の伝統文化をサスティナビリティの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

【関連の深いコース】

人間・文化コース、ローカル・サスティナビリティコースと深く関連します。履修の手引きの「コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

This lecture will introduce an example of the environmental symbiosis type of regional initiatives and human character building, from "cultural" viewpoint. "Representation" is an image that is tied in the mind. It would be good to think that environmental representation is how humans grasp the environment surrounding them in their minds. In the lesson, I will take up the idea of "cultural landscape" as its own theme, introduce concrete examples mainly in Japan, and consider the rich possibilities.

Goal

・ This lecture aims to help students to understand that "cultural landscape" is a new concept suitable for the century of "environment", which is different from the conventional way of thinking of cultural properties.

・ This lecture also aims to help students to realize that "landscape" is not just about appearance, and that things that seem to have little to do with "environment" often lead to ecological issues.

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

Final exam 60%, each quiz 40%

TRS300HA（観光学 / Tourism Studies 300）

環境表象論Ⅱ

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環コア、口、文

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「生きて変化する文化財」／「五感」が形づくる表象・風景：

「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、まずその最大の特徴ともいえる「有機的に進化する景観」の意味を、具体例とともに考察します。続いて、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】

- ・「有機的に進化する景観」の意味を理解できる
- ・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できる。
- ・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であること）を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみるのがメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「環境表象論Ⅰ」の概要／循環する自然に即した生活文化の遺産
第2回	文化的景観	文化的景観
第3回	有機的に進化する景観（1）	ユネスコの定義の意味／、「観光文化」／四万十川の事例
第4回	有機的に進化する景観（2）—うづみの島・竹富島（前編）	景観の有形部分の真正性
第5回	有機的に進化する景観（3）—うづみの島・竹富島（後編1）	景観の有形部分を支える無形文化の厚み（伝統祭事等）
第6回	有機的に進化する景観（4）—うづみの島・竹富島（後編2）	鳥の子供からみる文化継承、持続可能な「観光」のとりくみと課題
第7回	伝統継承の階層的発想、無形文化尊重の潮流	「文化財」概念の進化に関する日本人の好適性
第8回	「五感」のエコロジーと文化的景観（前）	「五感」の視点の概説、視覚・聴覚・嗅覚の事例
第9回	「五感」のエコロジーと文化的景観（後）	触覚、味覚の事例

第9回	光と影・闇（前）	「光環境」という視点、夜の灯りに関するとりくみ事例
第10回	光と影・闇（後）	伝統文化における「闇・影」、星空、エコの視点からの重要性
第11回	音風景とは何か	サウンドスケープの概念、日本人の「風景を聴く」伝統
第12回	「残したい日本の音風景100選」から（1）	「自然・生き物」の音風景と伝統文化
第13回	「残したい日本の音風景100選」から（2）	伝統的な生業に関わる音風景その他
第14回	総括一人間の「身体性」（内なる環境）重視と感覚環境のまちづくり	環境表象論Ⅰのポイントも含めまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに毎回アップするスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『『文化的景観』の特質と可能性』（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』（第2版）第Ⅰ部第6章、ミネルヴァ書房、2021）ほか、授業のなかで紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（教室筆記）60％、毎回の小テスト40％。小テストを1回も受けていない場合は、学期末試験を受けても単位取得できません。

【学生の意見等からの気づき】

環境表象論Ⅰとはほぼ同様で、オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習できることへの評価や、画像や動画が豊富で親しみやすく、紹介された場所に実際に行ってみたくなる、といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】

環境表象論Ⅰと同様、人間・文化コースおよびローカル・サステイナビリティコースに深く関連します。

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural assets that live and change" / Representations and landscapes formed by the "five senses" For the purpose of supplementing the "cultural landscape" theory of "environmental representation theory I", we will first consider the meaning of "organically evolving landscape", which can be said to be its greatest feature, with concrete examples. Next, various aspects of the collective representation of the region beyond the individual (= the image connected in the heart), which is mainly formed by the fusion of the "five senses", and the human formation and regional formation of the environmental symbiosis type. We will consider the possibility of contributing to.

Goal

- ・ This lecture aims to help students to understand the meaning of "organically evolving landscape"
- ・ This lecture also aims to help students to understand that it is effective not to distinguish the "five senses" separately, but to regard them as a sense of fusion of interactions (in other words, the importance of actual experience in the field in a "visually-oriented society").
- ・ It is understandable that "rich senses" does not mean only comfortable things (comfortable and inconvenient elements are also quite important).

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

mid-term exam & final exam 65%, each quiz 35%

BSC200HA (基礎化学 / Basic chemistry 200)

サイエンスカフェⅠ

石井 利典

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように、高校の「化学基礎」と「化学」の復習にまず取り組みます。さらに、よりクオリティーの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学についてもできるだけ理解を深めていきます。

【到達目標】

高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を履修するときに必要とする、基礎化学理論を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

2025年度の授業は、すべて対面での開講を予定しています。各回の授業では、化学の基本的な理論、必要な数値計算法、知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。提出された課題（確認テストなど）からいくつかのポイントを取り上げ、課題提出後の授業、または学習支援システム、Google Classroomにおいて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1章 原子の構造と性質	原子の構造、放射線、化学結合と分子間力
第2回	第2章 化学変化と量的関係	物質質量、化学反応式
第3回	第3章 酸と塩基	溶液pH値、酸と塩基の反応、中和滴定
第4回	第4章 酸化と還元（1）	酸化剤と還元剤の反応、酸化還元滴定
第5回	第4章 酸化と還元（2）	COD(化学的酸素要求量)値およびDO(溶存酸素量)値の測定原理
第6回	第5章 有機化学の基礎（1）	有機化合物の命名法、異性体、有機化合物の構造と性質
第7回	第5章 有機化学の基礎（2）	炭化水素の反応、アルコールの反応、エステル・アミドの構造
第8回	第6章 身近な有機化合物（1）	脂肪酸の種類、脂肪と脂肪油
第9回	第6章 身近な有機化合物（2）	単糖類、二糖類、多糖類の構造と性質
第10回	第6章 身近な有機化合物（3）	アミノ酸、タンパク質の種類と立体構造
第11回	第6章 身近な有機化合物（4）	合成繊維、合成樹脂、合成ゴム
第12回	第7章 酵素	酵素、補酵素、補欠分子族のはたらき
第13回	第8章 核酸	DNAとRNAの構造、遺伝子発現のしくみ
第14回	期末テスト（60分間）、まとめ・解説	第1回講義～第13回講義の内容に関する筆記テスト、およびまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回の授業で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。授業終了後に10分間程度で解答できる確認テストを実施します。提出は必須ではありませんが、提出されたものについては採点し、成績評価時に加点します。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを使用します。授業で取り扱うすべてのプリント類は、学習支援システムまたはGoogle Classroomから各自ダウンロードしてください。

【参考書】

高等学校で使用している『化学基礎』と『化学』の教科書（出版社は問わない）を入手することが望ましい。

入手先は、<http://www.text-kyoukyuu.or.jp>を参照

【成績評価の方法と基準】

講義内で実施する確認テスト（10分間程度で解答×13回）：20％、期末テスト（60分間で解答×1回）：60％、課題レポート（800字程度×2）：20％の合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境科学に関連するテーマとともに、日常生活で体験する身近な科学に関するテーマもさらに多く取り扱ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムとGoogle Classroomとにアクセスできる情報機器と通信環境が必要です。

受講予定者は、Google Classroomのメンバーへの登録が必須になりますので、第1回講義がスタートする前にメンバー登録をお願いします。メンバー登録方法・登録可能期間は学習支援システムで予告します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course provides an interdisciplinary introduction to environmental science in a chemical perspective. Central theme is the interaction between life and the environment. The course is suitable for students who plan further study in this field, also suitable for students without basic knowledge of environmental chemistry.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to understand basic theory of chemistry and biochemistry for "Environmental chemistry I", "Environmental chemistry II" and "Environmental chemistry III".

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:60%, Short reports:20%, in class contribution:20%

BLS200HA (生物科学 / Biological science 200)

サイエンスカフェⅡ

宮川 路子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生は高校の生物学の知識を基本として、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

対面講義とオンデマンド講義により授業を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。 細胞の分化と分裂、組織。 ビデオ鑑賞
第3回	血液について	血液の働き 免疫について ビデオ鑑賞
第4回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。 呼吸器の病気。
第5回	循環器	循環器系の構造と働き。 心臓について。 血管について。 循環器系の病気。
第6回	消化器（1）	消化器を構成する器官。 口腔、食道、胃、腸 消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞
第7回	消化器（2）	肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について ビデオ鑑賞
第9回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について ビデオ鑑賞
第10回	生殖	生殖の仕組み ビデオ鑑賞

第11回	神経	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気 ビデオ鑑賞
第12回	感覚・知覚	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚 ビデオ鑑賞
第13回	発達	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 ビデオ鑑賞・
第14回	まとめ（授業内試験またはレポート提出）	講義のまとめ、授業内試験またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。関連の話題についての知識を収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終講義における授業内試験、または学期末に提出を求めるレポートにより評価を行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

This course is designed to help students acquire extensive knowledge of histology, anatomy, and physiology by learning the morphology and mechanisms of the human body and applying the foundation of high school-level biology.

This course provides students with the knowledge required to comprehend the mechanisms and function of their own bodies and to enhance their health.

Learning Objectives

Students will acquire a broad knowledge of histology and physiology necessary to understand the structure and mechanisms of their own bodies and to nurture good health.

The ultimate goal is to maintain and improve health and prevent diseases, which are important for students to live in the future.

Learning activities outside of classroom

Be curious about and observe your own body on a daily basis.

Collect knowledge on related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the semester (100%).

BAB200HA（基礎生物学 / Basic biology 200）

サイエンスカフェⅢ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みと、地球における生物の進化と適応、生物多様性について、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けます。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①野生生物の生活と生存戦略
- ②生物の進化と適応
- ③生物多様性の意義

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、生態学と生物多様性に関する基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第2回	鳥類の生態1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第3回	鳥類の生態2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第4回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第5回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第6回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第7回	生物の進化1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第8回	生物の進化2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第9回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第10回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第11回	海洋と沿岸の生物1	クジラとイルカの生態
第12回	海洋と沿岸の生物2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁

第13回	生物多様性1	3つの生物多様性、レジリエンスとは
第14回	生物多様性2	日本が世界の生物多様性ホットスポットとなっている理由

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで見にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will explore the sustainable relationship between humans and nature through learning the basic ecology such as wildlife and ecosystems in Japan, biological evolution, biodiversity.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

PLN200HA（地球惑星科学 / Earth and planetary science 200）

気候変動論 I

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：G,サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。

春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことがらを深く学ぶ。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体的には（１）気候変動科学のこれまでの経緯、（２）温室効果、太陽放射、アルベド等の気候システムの基礎、（３）温暖化予測の概要、（４）大気と海洋の循環と熱収支、（５）炭素循環、（６）簡単な温室効果モデルについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。スライドを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。またビデオ教材を用いる。この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。毎回実施するミニテストからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	地球温暖化の概要（１）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第3回	地球温暖化の概要（２）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第4回	地球温暖化の概要（３）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第5回	地球温暖化の概要（４）	将来取り得る選択肢についての議論
第6回	大気の構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第7回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第8回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第9回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第10回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。

第11回	温室効果	温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。
第12回	放射平衡	大気が多層モデルによって温室効果の理解を深める。
第13回	炭素循環	二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。
第14回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中やHoppiiを用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about climate change. In the spring semester, we focus on the introduction of climate change and the basic knowledge of the climate system.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

DES300HA (デザイン学 / Design science 300)

自然環境政策論 I**高田 雅之**

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コ7：口,サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
- ②人間による影響を減らすために取り組まれている主な自然環境保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第2回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第3回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第4回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第5回	島嶼をめぐる諸課題	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第6回	自然環境をめぐる難題：貴重種1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第7回	自然環境をめぐる難題：貴重種2	種の保存法に関する事例、種の再導入など
第8回	自然環境をめぐる難題：外来種1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第9回	自然環境をめぐる難題：外来種2	最近の動向、根絶事例、淡水における外来種問題など
第10回	日本の自然環境保全政策1	ワイルドライフマネジメント

第11回	日本の自然環境保全政策2	自然公園、自然環境保全地域など
第12回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、自然再生事業など
第13回	里山	里山の特徴と変貌
第14回	生物多様性	生物多様性とは、生態系サービス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will understand the current conditions of the natural environment and learn issues of biodiversity such as endangered species and alien species, and basic nature conservation policy in Japan.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学 I

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環ア：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染（ばいじん、硫酸酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
- ・土壌汚染（原因、対策技術）
- ・廃棄物（法律上の定義と現状）
- ・リサイクル（意義と現状）
- ・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）
- ・環境アセスメント（法制度、具体例）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいのか、環境科学の役割
第2回	大気汚染・その1（第1章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第3回	大気汚染・その2（第1章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第4回	上水道（第2章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第5回	下水道と浄化槽（第2章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第6回	水質汚濁（第3章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第7回	工場排水と土壌汚染（第3章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第8回	悪臭（第4章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第9回	騒音（第4章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第10回	廃棄物・その1（第5章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第11回	廃棄物・その2（第5章）	産業廃棄物

第12回	リサイクル・（第5章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第13回	有害物質とリスク、基準の決め方（第6章）	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第14回	環境アセスメント（第12章）	法制度、手続き、事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンバクト

【参考書】

藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？ 人間環境論集，第16巻，第1号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】

毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30%、授業の最終回に行う期末試験70%です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this lecture, students will acquire the basic engineering knowledge of mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances (this is learning objectives). Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken upon submission of the quiz. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅱ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：環Ⅱ：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればいいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会と政策
- ・プラスチックごみ対策
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国際環境政策の難しさ、条約と議定書
第2回	人口	人口増加のメカニズム、都市人口
第3回	オゾン層・1（第7章）	紫外線、フロンガス
第4回	オゾン層・2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第5回	気候変動・1（第8章）	I P C C、気候変動の科学
第6回	気候変動・2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第7回	気候変動・3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第8回	気候変動・4（第8章）	エネルギー資源
第9回	気候変動・5（第8章）	緩和策
第10回	気候変動・6（第8章）	適応策
第11回	気候変動・7（第8章）	気候安全保障
第12回	プラスチックごみ問題	プラスチックの性質、日本の政策
第13回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業後の小テストによる出席(30%)と授業内に実施する期末試験(70%)で行います。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壤汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this course, students will learn the basic science behind the mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone depletion, and acid rain. Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time and attendance will be taken after the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅲ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：環Ⅱ：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・金属資源

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第9回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第12回	遺伝資源	食料、医薬品
第13回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回Hoppiiで配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】

毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30%、授業内に実施する期末試験70%です。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関わりました。その経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

This course includes an explanation of the importance of resources, freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, base metals and rare earths. Students will acquire basic knowledge about the importance of resources, the scientific nature of resources, and the prospects for their use. Major topics include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals. Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken when the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

SOM300HA (社会医学 / Society medicine 300)

衛生・公衆衛生学Ⅰ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術の探究である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座において学生は、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

【到達目標】

学生は、各種の健康問題の実情を学び、必要とされる健康行動について考えていく。
たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、アルコール摂取により体に何が起こるのかを知り、飲酒に関わる問題を引き起こさないためにどのような健康行動を身に着けていくべきかについて具体的にその方法を考えることができるようになる。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。授業において感想文などの提出を求めた場合には授業内でコメントをするなどのフィードバックを適宜行う。

対面とオンライン（オンデマンド）を組み合わせて講義を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え、予防医学の基本的概念予防医学の基礎について
第2回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第3回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患、生活習慣病の予防について
第4回	ライフスタイルと生活習慣病③	活性酸素と水素 生活習慣病各論
第5回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第6回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み
第7回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病、禁煙について
第8回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について

第9回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について
第10回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会の健康問題
第11回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題、高齢者虐待
第12回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第13回	感染症	性感染症・食中毒
第14回	まとめ	まとめ、レポート提出、または授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜学習支援システムにアップする。

【参考書】

人生100年の健康づくりに医師がすすめる最強の水素術 宮川路子

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポート、または授業内試験で行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

Public health is the science and art of preventing disease and promoting human health. The history of public health began with the prevention of infectious diseases and developed into the prevention of lifestyle-related diseases, and establishing the relationship between causation and one's living environment. Moreover, the science of public health has extended into the epidemiology of health, and studies to establish the policies that encourage health maintenance and improvement. In this course, students will learn the basic concepts of preventive medicine and will acquire the knowledge on various health-related issues that are latent in modern society. The aim of the course is to raise health awareness and to acquire the skills necessary for individuals to manage their own health.

Learning Objectives

Students will learn about the realities of various health problems and think about the health behaviors required from younger age. For example, students will learn what happens to their bodies when they consume alcohol, which is often a problem in their daily lives, and will be able to think about specific ways to develop healthy behaviors to prevent problems related to drinking. By accumulating these lessons, students will be able to prevent future diseases and extend their healthy life expectancy.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA (社会医学 / Society medicine 300)

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。本講義で学生は、健康に生きていくための公衆衛生についての重要な知識を身に着けることが可能となる。

学生は疫学の知識を身に着けることにより、ヘルスリテラシーを高める。また、生命倫理について深く学び、いかに健康に生きるかということを考えることを目標とする。

【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。また、学生は日本の医療の現状について学び、患者としての適切な受療行動を考える。さらに学生は生命倫理の諸問題について学び、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。特に終末期医療についての知識を身につけることによって、将来家族や自分が終末期を迎えたときにどのような医療を受け、いかに死を迎えるかを話し合い、決定する機会を持ち、実施することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について学習する。さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。映画の視聴に際し、感想文の提出を求めた際には講義の中でコメントを行う。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。対面と、オンライン（オンデマンド）を組み合わせる講義を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生・公衆衛生学概論	衛生・公衆衛生学Ⅱで学ぶ内容を紹介し、学ぶ意義について考える。
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康

第9回	社会保障	日本の医療制度について
第10回	生命倫理①	医の倫理 医療崩壊 患者と医師の権利と義務 安楽死・尊厳死
第11回	生命倫理②	医療訴訟 遺伝子関連問題 遺伝病、色覚異常
第12回	生命倫理③	終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第13回	生命倫理④	講義のまとめ、授業内試験、またはレポート提出
第14回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

必要な場合には開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポート、または授業内試験で行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of public health is health promotion and disease prevention by fully developing the physical and mental abilities of people to protect them from diseases. This is sociology developed from medicine. Health, medical care, and welfare are the three pillars of public health. Practical activities of public health require continuous education and organizational community efforts. In this lecture, students will have the opportunity to learn important knowledge on public health to live a healthy life.

Learning Objectives

In this course, students will learn the process of using epidemiology, health statistical methods, and sociological methods to investigate and raise issues, as well as to take further action. This will enable students to evaluate and discard health information that they come into contact with in their daily lives, and to take appropriate health actions.

In addition, students will learn about the current state of medical care in Japan and consider appropriate treatment behavior as a patient. Students will also learn about bioethical issues and consider how to live and how to die.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA (社会医学 / Society medicine 300)

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。

現在、我が国においては、年間の自殺者数が1998年から14年間連続して3万人を超えていた。その後減少傾向となり、2019年には2万人を切ったが、2020年には再び上昇した。いまだ若者の自殺は横ばい傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では産業保健の現場におけるメンタルヘルス事例および心療内科のクリニックでの症例について紹介しながら講義を行う。学生は精神疾患について学び、自分のメンタルヘルスケアを適切に行えるようになることを目的とする。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。ものの考え方を变えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。

栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンライン、オンデマンドによる講義を行う。必要な資料は学習支援システムにアップする。課題を課した場合には、講義の中でコメントをするなどのフィードバックを行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健 メンタルヘルスケア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策
第3回	メンタルヘルスケア②	自殺について 産業保健におけるメンタルヘルスケア 職場におけるメンタルヘルス事例について紹介。過重労働、過労自殺、過労死
第4回	メンタルヘルスケア③	ストレスについて 快適職場について 実際の就労現場の取り組みと課題について
第5回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと

第6回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害
第7回	精神障害③	新型うつ病について 職域において増加している回避性うつについて学ぶ
第8回	精神障害④	摂食障害について
第9回	精神障害⑤	不安障害
第10回	精神障害⑥	統合失調症
第11回	精神障害⑦	発達障害と就労問題
第12回	精神障害の栄養療法①	精神障害に対する栄養療法の実際について（有効な疾患）
第13回	精神障害の栄養療法②	精神障害に対する栄養療法の実際について（サプリメント）
第14回	まとめ、レポート提出	講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートまたは授業内試験で行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【実務経験のある教員による授業】

産業医として就労者の健康管理、特にメンタルヘルスケアに力を入れて職場の環境管理に携わる一方、クリニックで栄養療法を中心とした統合医療の診療を行っている。

【Outline (in English)】

The purpose of public health is to protect people from disease, to preserve and promote health, and to enable people to develop fully and to reach their full physical and mental health status. In this course, students will learn about mental illness and be able to take appropriate care of their own mental health.

Learning Objectives: Students will learn about mental illnesses so that they can maintain their own mental stability and be sensitive to the condition of not only themselves but also those around them, such as family, colleagues, and friends. Through learning about the symptoms, students will be able to recognize mental illnesses at an early stage.

Students will learn how to change their mindset in order to maintain mental health.

Students will gain knowledge on how to prevent and improve mental illness through nutritional therapy.

Through the lectures, students will aim to prevent mental illness (prevention, early detection and treatment, and reintegration into society), as well as to remove prejudices prevalent in Japanese society.

Learning activities outside of classroom: Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy: Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

GEO200HA（地理学 / Geography 200）

自然災害論

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害をもたらす可能性のある自然現象は繰り返して発生しており、将来も発生すると考えられる。防災力の高い持続可能な地域社会の構築に向け、多角的なアプローチが求められる。「どこで」「いつ」「何が」起こり得てその地がどうなるのか。人間社会は「その時」にどのように備えるか。自然災害のリスクとその低減に向けた取り組みを見つめなおす。

【到達目標】

自然災害リスクを決定づける要因を説明できる。

災害リスクを低減させる取り組みについて自然・社会の両面から具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。前半は主に自然界のもたらすハザードについて理解を深め、後半はそれを踏まえて人間社会の取り組みについて検討する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然災害と防災	自然災害とは、自然災害リスク、防災とは
第2回	土地条件評価	地形、表層地盤、活断層
第3回	地震発生予測	地震とは、地震の起こる場所、地震発生繰り返しモデル、長期評価
第4回	地震災害の諸相（1）	地殻変動、地震動、液状化
第5回	地震災害の諸相（2）	地震火災、津波、津波火災
第6回	火山災害の諸相	活火山の分布、火山噴火とは、火砕流、山体崩壊、溶岩流、噴石、火山灰
第7回	気象災害の諸相	降水量とその季節性・地域性、豪雨と積乱雲、台風、高潮、大雪
第8回	土砂災害の諸相	斜面崩壊（表層崩壊・深層崩壊）、地すべり、土石流
第9回	土地利用と社会基盤（1）	災害危険区域、津波災害警戒区域、防潮堤、かさ上げ、高台移転、流域治水
第10回	土地利用と社会基盤（2）	耐震基準、活断層と土地利用
第11回	防災気象情報	災害種と予測可能性、伝達手段、特別警報、気象警報・注意報、緊急地震速報、津波警報・注意報、噴火警報・注意報
第12回	避難	避難情報、避難場所、避難所、警戒レベル
第13回	災害の歴史・災害経験の継承	記録と記憶、災害史、碑、災害遺構、活断層の保存
第14回	ハザードマップと防災教育	ハザードマップ、災害図上訓練（DIG）、津波と避難、学校、地域

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】

Natural phenomena that cause disasters have occurred repeatedly, and will also occur in the future. We have to improve our approaches in all aspects for building resilient and sustainable society. We examine sciences of natural disasters caused by earthquakes, tsunamis, volcanic eruption, heavy rain, and slope failures, and then discuss land use, social infrastructures, use of disaster information, evacuation, hazard map, and education, for reducing natural-disaster risk. Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain what determine the risk of natural disasters, and (2) to explain efforts to mitigate natural-disaster risk from the perspective of the natural environment and human society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final exam (70%).

DES300HA (デザイン学 / Design science 300)

自然環境論Ⅳ

佐々木 美貴

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コア：グサ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探究するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、私たちの身近な自然環境である「湿地（Wetlands）」とそこに生息・生育する動植物への理解、ラムサール条約や生物多様性条約などで議論されている世界的な動き、生態系サービスと湿地とのかかわり、湿地と人間活動との共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①世界及び日本の湿地タイプ別の生態系と野生生物の特徴
- ②世界的な湿地の現況と課題
- ③生態系サービスと湿地
- ④湿地と人間活動との共生の可能性

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス、序論	授業の内容、ねらい、進め方、成績評価基準など、湿地の概要
第2回	湿地タイプ別の生態系及び野生生物の特徴①	世界の湿地及び野生生物の特徴
第3回	湿地タイプ別の生態系及び野生生物の特徴②	日本の湿地及び野生生物の特徴
第4回	ラムサール条約と生物多様性条約	ラムサール条約と生物多様性条約の特徴と自然環境
第5回	世界的な湿地の現状と課題①	世界的な湿地の現状と傾向
第6回	世界的な湿地の現状と課題②	湿地の変化の要因
第7回	世界的な湿地の現状と課題③	湿地の変化への対応策と課題
第8回	生態系サービスと湿地①	湿地にかかわる供給サービス及び調整サービスと人間活動
第9回	生態系サービスと湿地②	湿地にかかわる文化的サービス、基盤サービスと人間活動
第10回	湿地と人間活動との共生の可能性（保全・再生）	湿地と人間活動との共生について、保全・再生の視点から考える
第11回	湿地と人間活動との共生の可能性（ワイズユース1）	湿地と人間活動との共生について、農業・漁業の視点から考える

第12回	湿地と人間活動との共生の可能性（ワイズユース2）	湿地と人間活動との共生について、観光業の視点から考える
第13回	湿地と人間活動との共生の可能性（CEPA）	湿地と人間活動との共生について、CEPA（交流・力量形成・教育・参加・気づき）の視点から考える
第14回	まとめ	今後の人と自然との望ましい関係について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは授業内か学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーでの質問などについて、次回以降の授業等で伝えるようします。具体的な事例や映像を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【実務経験のある教員による授業】

担当する講師は、湿地の調査や保全にかかわるNPO法人に勤務しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to seek a sustainable harmony between the natural environment and human activities, it is essential to understand the natural environment from a wide-ranging perspective, from the global scale to our immediate surroundings. In this course, you will learn about wetlands, a natural environment that is close to us, and the flora and fauna that live there, the global trends being discussed in the Ramsar Convention and the Convention on Biological Diversity, the relationship between ecosystem services and wetlands, and the possibility of coexistence between wetlands and human activities.

【Learning Objectives】

The goal is to deepen knowledge and understanding of the following four points and be able to explain the key points.

1. Characteristics of ecosystems and wildlife by wetland type in the world and Japan
2. Current status and issues of wetlands worldwide
3. Ecosystem services and wetlands
4. Possibility of coexistence between wetlands and human activities

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to prepare and review the materials introduced in each lecture. Students will prepare for each lecture by studying basic knowledge related to the theme of each lecture, and will resolve any questions they may have during the lecture through self-study after each lecture. Students will also strive to pay attention to topics related to the natural environment in the media they come into contact with on a daily basis, and to the creatures they see around them. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria / Policy】

The evaluation will be based on the reaction paper (50%) and the final exam (50%) that you will submit every time. Details will be provided in class or on the learning support system.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論 I

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考（履修条件等）：環コ：経、サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、PFAS（ペルフルオロアルキル化合物）に代表される残留性有機化合物やマイクロプラスチックによる水質汚染が国際的に注目されている。気候変動による豪雨や淡水の枯渇により利用できる水が減少しており、水危機の時代ともいわれている。人間は水が無いと生きていけないが、我々が日々安全で安心な水を利用するためには水源である河川や地下水を汚染しないことが重要である。日本は1960年代に水俣病に代表されるような甚大な産業公害を経験し、現在は水質保全のための法律が整備され、工場による法順守が徹底されることで公害防止が行われている。本講座では水質保全のために企業が行うべき水環境管理について学ぶ。具体的には、水質汚濁防止に関する法律、水質汚染の現状と発生源、水質汚染機構と健康影響、水の浄化技術と水質測定について学ぶ。

【到達目標】

水質汚濁防止に関連する法律や工場内における公害防止管理者の役割について理解する。工場から排出される汚染物質の種類とその処理方法について理解する。具体的には水質を管理するための指標となるBOD、COD、SS等の専門用語、凝集沈殿処理、活性汚泥法等の水処理の基本的技術の概要を理解する。実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルを養う。公害防止管理者国家試験の問題を解く訓練を行い、授業終段階では、水質概論及び汚水処理特論の問題を6割程度正解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

公害防止管理者試験水質1種及び2種に出題される問題が解けるレベルの水質概論、汚水処理技術及び水質測定の知識を効率的に取得するため、毎回、講師の作成したパワーポイントを用いて要点を絞った講義を行う。講義内で公害防止管理者国家試験の過去問題に挑戦することで、出題傾向を知り、解答テクニックを取得する。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	公害の歴史と公害防止管理者の役割	日本の環境問題の変遷と公害防止管理者法について学ぶ。
2	水質汚濁の発生源、汚濁機構、環境影響	水質汚濁の発生源と富栄養化、赤潮発生、生物濃縮、地下水汚染等の環境影響について学ぶ。
3	水質汚濁に関連する法律	環境基本法及び水質汚濁防止法について学ぶ。
4	演習1 公害防止管理者試験の演習	公害防止管理者試験の過去問題（水質概論の範囲）の演習を行う。出題傾向と対策について講義する。
5	汚水処理を学ぶための基礎知識	BOD、COD等の用語定義を学び、溶解度、酸とアルカリ、酸化還元、化学反応、錯体とキレート等の化学の基礎を復習する。
6	汚水処理1 排水処理計画、沈降分離	工場における水利用の考え方について学ぶ、排水の基本処理である沈降分離にすいて理解する。

7	汚水処理2 凝集分離と浮上分離	凝集分離及び浮上分離の原理と装置構成を学ぶ。
8	汚水処理3 ろ過分離、化学処理	砂ろ過の機構、中和、酸化還元、活性炭吸着等の各種物理・化学処理について学ぶ。
9	汚水処理4 生物処理法（活性汚泥法）	生物処理法の概要、活性汚泥法の原理や装置について学ぶ。
10	汚水処理5 生物処理法（嫌気処理法）	嫌気処理法の原理や装置について学ぶ。
11	汚水処理6 窒素及びりん処理、汚泥の脱水	生物処理による脱硝脱窒方法およびりん除去技術、汚泥の脱水技術について学ぶ。
12	演習2 公害防止管理者試験の演習	公害防止管理者試験の過去問題（汚水処理技術の範囲）の演習を行う。出題傾向と対策について講義する。
13	水質測定	公害防止管理者試験に出題される、BOD及びCOD等の水質測定項目に的を絞り学ぶ。
14	期末テスト	本講座で学んだ、法律および排水処理、水質測定に関連する問題に関する理解度を確認するテストを行う。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義で配布するパワーポイントを講義前に学習支援システムにアップするので、ダウンロードして予習する。「新・公害防止技術と法規（水質編）」のテキストで講義に関連する箇所を予習、復習する。授業の予習は1時間、復習も2時間程度行うこと。

【テキスト（教科書）】

基本的に講義毎にパワーポイントの資料を配布する。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（水質編） （一社）産業環境管理協会 出版

【成績評価の方法と基準】

2回の演習の講義で小テストを行う。その点数を各20点満点とする。期末テストは60点満点とする。課題と期末テストの合計（100点満点）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

排水処理技術は化学式や計算が多く出てくるため、ゼロベースの学生にも分かりやすく、基礎から教えるよう心掛ける。講義内で化学の基礎知識についても適宜、復習する。文系の学生にも興味を持ってもらえるよう、近年の水質汚染が社会に与える影響なども交えて講義を行う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

講師は中国及びタイ、カンボジア、ミャンマー、カンボジア等の東南アジアにおいて、公害防止管理者制度及び公害防止技術の移転事業に18年携わっており、さらに、水質測定の日本産業標準規格（JIS）及びISO（国際標準化機構）において水質測定関連の規格開発を長年行っている。これらの経験を活かし、学生には、国内だけでなく、国際的視点で水質汚濁問題をとらえるような講義を行う。関連資格は公害防止管理者資格（水質）、関連する科目は環境法規、環境ビジネスなどである。

【Outline (in English)】

In recent years, water pollution by persistent organic compounds represented such as PFAS (perfluoroalkyl compounds) and microplastics has attracted international attention. Heavy rainfall and the depletion of fresh water due to climate change have reduced the amount of available water, and we are said to be in an era of water crisis. Humans cannot live without water, but in order for us to use safe and secure water on a daily basis, it is important not to pollute rivers and groundwater, which are the sources of water. Japan experienced enormous industrial pollution in the 1960s, as exemplified by Minamata disease, and now laws have been established to protect water quality, and pollution is being prevented through thorough compliance with the law by factories. In this course, students learn about water environment management that companies should implement to protect water quality. Specifically, students learn about laws related to water pollution control, the current status and sources of water pollution, water pollution mechanisms and health effects, water purification techniques, and water quality measurement.

The evaluation for this course is as follows: Students should perform 2 kinds of report assignments. Submission of the assignment can be worth a maximum of 20 points per assignment. If they submit the assignment reports twice, they will be worth a maximum of 40 points. The final exam is worth a maximum of 60 points. The grade will be based on the sum of the assignments and the final exam. You should spend about one hour preparing for class and two hours reviewing.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：経、サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境管理論Ⅱでは、企業の生産活動により排出される大気汚染物質を抑制、管理するための関連法令や技術について学びます。国際的に脱炭素社会への変換が進む中、企業のESG（環境、社会、ガバナンス）への取組が益々重要視されてきています。企業は大気、水質、土壌の汚染防止、騒音振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。

本講義では、大気汚染問題の原因や課題について、地球温暖化問題からPM2.5汚染まで幅広い内容を学びます。大気関連の法律体系や行政施策及び、硫酸酸化物質やばいじん等の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄等、企業における環境管理の基礎的知識を学びます。

公害防止管理者国家資格（大気）の取得を目指す学生にとっても基礎となる知識を取得することができます。

【到達目標】

近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物質を発生する各種生産活動、大気汚染物質の処理方法及び測定方法について理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、シラバスに記載されているテーマに関する資料を配布し、講義を行う。2回程度課題を出すので、数名のグループでディスカッションを行い、レポートにまとめ、授業内で発表する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史について学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第2回	近年の大気環境問題（その1）	気候変動への国際的な取組やその他の大気環境問題について学ぶ。
第3回	近年の大気環境問題（その2）	国内の大気の状態について、環境基準の達成率やPM2.5及び光化学オキシダント生成、水銀排出等の問題について学ぶ。
第4回	大気保全のための各種法律	大気に関する各種法律の概要（環境基準、排出基準等）を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。
第5回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズム。

第6回	アクティブラーニング 課題1	各業種における大気環境保全のための活動を調査し、その特徴をまとめる。SDGsの17のゴールとの関連についても考察する。
第7回	燃焼管理技術	カーボンニュートラル達成のための新技術について触れながら、日本のエネルギー事情について学ぶ。また、燃料の種類や効率的な燃焼管理及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第8回	硫酸酸化物質の処理技術	排ガス中の硫酸酸化物質の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第9回	窒素酸化物質の処理技術	排ガス中の窒素酸化物質及びその他の有害物質の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第10回	集じん技術	排ガス中のばいじんや粉じんの除去技術について学ぶ。
第11回	アクティブラーニング 課題2	企業の環境管理に関連する課題を出すので、それについて調査し、考察する。
第12回	大気のモニタリング技術と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリングの方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。
第13回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第14回	期末テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習は事前に配布された資料を読み、分からない用語等は事前に調べ勉強する。復習は講義で勉強した内容を講義資料を中心に復習し、分からなかった部分については、インターネットや関連文献を調査し、理解するようにする。さらに、興味をもったテーマについて、自分なりに調べ、より深く理解するように努める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

新・公害防止の技術と法規（大気編）の講義に関連するところを読んで学習する。授業の準備学習・復習時間は各2時間とする。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（大気編） 発行所 （一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

レポート2回の評価 各20(%)×2 期末テスト60(%)

【学生の意見等からの気づき】

化学式や数式が出てくると、難しく感じるとの意見が多いので、排ガス処理技術等の説明では、なるべく数式を使用せず、図を多用して視覚的、直観的に原理が理解できるよう、工夫することとする。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で配布した資料

【その他の重要事項】

担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法制度支援を10年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

Course outline：

Environmental Management II, students learn about the relevant laws and regulations and technologies to manage the air pollutants emitted by corporate production activities. The transformation to a decarbonized society is accelerating. In this situation, ESG (Environmental, Social and Governance) initiatives of corporation are becoming more and more important. In addition to conventional pollution prevention measures such as air, water, and soil pollution control, noise and vibration control, and waste management, companies are now faced with the need to take various measures to reduce emissions of carbon dioxide and other global warming substances.

In this lecture, we will learn about the causes and issues of air pollution problems, ranging from global warming to PM2.5 pollution. In addition, students learn about the legal system and administrative measures related to air quality, as well as the sources of sulfur oxides and soot and dust, and scientific matters related to their treatment technologies and measurement methods.

Students aiming to obtain the national qualification for pollution Control manager (Air) can acquire basic knowledge.

Learning Objectives :

- To understand the causes, countermeasures, and issues regarding recent air pollution problems in Japan and abroad.
- To understand the Basic Environment Law, Air Pollution Control Law, and other air-related regulations and national policies.
- To understand the various production activities that generate air pollutants, and the treatment and measurement methods of air pollutants.
- To investigate the environmental management activities of companies and to think about the issues and measures in each industry.

Learning activities outside of classroom :

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy :

Each Report : 20(%) × 2 times

Term-end examination: 60 (%)

SEE300HA（科学教育・（教育工学） / Science education/ Educational technology 300)

環境教育論

野田 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育) について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なのか、自分自身の考えを深めていきましょう。

今年度は特に「気候変動」「子どもの権利」がテーマです。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。

また、環境教育実践へつながる関心や意欲をはぐくみ、自分なりにプログラムや教材を考える視点や基礎を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。授業形態は、講義のほか参加型（グループワークなど）を行う。詳細は、授業支援システムで連絡する。

リアクションペーパーや提出された課題に対しては、代表的なものをいくつか授業内で取り上げコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と自分の環境教育の経験を振り返る。
第2回	環境教育とは？（講義）	環境教育について、講義形式で概説します。
第3回	環境教育とは？（具体例）	地球温暖化・気候変動を考える教材を使ってグループワークを行い環境教育とは何か、さらに考えます。
第4回	なぜ環境教育を学ぶのか？（ワークショップ形式）	ファッションをテーマにしたワークショップを通じて、環境教育の役割など発展的な内容を理解します。
第5回	環境教育の歴史	主に日本の環境教育の歴史について講義します。環境教育の歴史と自分史を重ねて考えや理解を深めます。
第6回	持続可能な開発と環境教育：ESD, SDGs	持続可能な開発とは何か、SDGsとESDについて理解する
第7回	環境教育・ESDのキー概念：人権	環境教育・ESDにおいて重要な概念をテーマにした講義とワークで理解を深めます。
第8回	ゲストスピーク	地域での環境問題に取り組む実践事例を取り上げます

第9回	環境教育とソーシャルアクション	環境問題を解決する様々なアクションについて考えます。気候訴訟についても触れます。
第10回	自然とかかわる環境教育	自然保護教育、自然体験やもりの幼稚園など自然とかかわる多様な環境教育について扱います。
第11回	地域に根差した環境教育の実践事例	地域に根差した環境教育の意義や可能性を学びます。ゲ
第12回	環境教育と子どもの権利	環境問題が子どもの健康被害や生活に被害を及ぼしてきたことを学び、今日的な課題について理解を深めます
第13回	環境教育と子どもの参画	参加・参画をテーマに、様々な環境教育の実践についてさらに理解を深めます。
第14回	まとめ	これまでの学習をふりかえり、まとめにかえます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。

環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『子ども白書2024』、日本子どもを守る会編、かがわ出版

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版

『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編

『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版

『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協

『知る・わかる・伝えるSDGs I』、阿部治・野田恵編著、学文社

『知る・わかる・伝えるSDGs II』阿部治、二ノ宮リムさち編著、学文社

【成績評価の方法と基準】

詳細はガイダンスおよび授業内で指示します。

・平常点：授業参加度、学習状況、授業内小テスト（50％）

・レポート：複数回、テキストや授業内容に基づくレポートを提出（50％）

【学生の意見等からの気づき】

環境教育の歴史や事例を学ぶだけではなく、学生同士のディスカッションが理解を深めることにつながった、という意見から、授業内での意見交換やアウトプットの機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。

資料やお知らせは、WebClass経由で配布します。授業時間中にアクセスできるようにパソコンやスマホ・タブレットなども機器を準備してください。

【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the Environmental Education, and Education for Sustainable Development(ESD). you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to explain the role and examples of Environmental Education and ESD.

【Learning activities outside of classroom Before/after】 each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Policies】 Final grade will be calculated according to the following report (30%),Final test (30%), and in-class contribution and quizzes(30%).

CAR200HA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリア入門

櫻井 洋介

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、これから社会に出て自身のキャリアを形成していく学生が、自らの意思で自律的なキャリアを構築できるように、キャリアに関する必要な理論や基礎知識の習得を目指します。また、講義の後半には、自分自身のキャリアを考えてもらう機会を提供します。

【到達目標】

自らの意思で自律的にキャリアを形成していくため、キャリア論や労働環境に関する基礎知識を習得すること。自身のキャリア展望について、理論をもとに考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は講義形式で進めます。受講人数にもよりますが、後半は個人ワークやグループワーク等を通じて、自身のキャリアについて考えていただき、個人発表またはグループ発表を行ってもらいます。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方等に関して説明を行う。
第2回	キャリアとは何か	キャリア概念の定義や特徴、キャリア研究のアプローチ方法等について学ぶ。
第3回	ライフサイクルと組織内キャリア形成	ライフサイクルの進展に合わせたキャリアの発達について学ぶ。
第4回	就職活動とインターンシップ	近年の就職活動の動向や求職市場にインターンシップ制度の役割等について学ぶ。
第5回	日本の雇用慣行と組織制度	日本の雇用慣行や変遷、組織制度について学ぶ。
第6回	伝統的キャリアから現代的キャリアへ	バウンダレス・キャリア、プロティアン・キャリアといったような現代的なキャリア観を学ぶ。
第7回	ワークライフバランスとメンタルヘルス	ワークライフバランスに関する近年の動向や労働者の価値観、企業の取り組み等について学ぶとともに、メンタルヘルスの重要性についても取り上げる。
第8回	キャリアの発達と自己実現	自身のキャリア発達が成功であると感じる要素は何か、先行研究等をもとに考える。
第9回	労働関連法規と労働者の権利	自律的にキャリアを構築していく上でおさえておくべき労働関連法規の基礎や、労働者としての権利（キャリア権等）について学ぶ。
第10回	持続可能なキャリア（サステナブルキャリア）とは	近年、注目を集めるサステナブルキャリアの概念について考える。

第11回	人と組織に関する現代的課題	人的資本経営の推進や最新技術の導入による働き方の変化、それによる労働者への影響等、人と組織を取り巻く現代的課題について考える。
第12回	自身のキャリアについて考える①（個人ワーク、グループディスカッション）	これまで学んできたことをもとに、自己理解のための個人ワークやグループディスカッションを通じて、自身のキャリアを考える。
第13回	自身のキャリアについて考える②（個人発表またはグループ発表）	個人あるいはグループで発表を行い、ディスカッションを実施する。
第14回	自身のキャリアについて考える③（個人発表またはグループ発表）	自身のキャリアについて考える③（個人発表またはグループ発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料や参考書等をもとに予習・復習をお願いします。毎回の講義の後に、予習箇所は指示します。また、個人発表やグループ発表に向けて、授業時間外にも準備をしていただくことになります。講義の最後に、ワークや発表の成果をレポートの形でまとめてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】

柏木仁『キャリア論研究 補訂版』（文眞堂, 2020）

【成績評価の方法と基準】

平常点（講義やディスカッションへの参加、貢献）を20%、個人ワークやグループワーク等の成果発表を30%、レポート課題を50%とします（レポートは、個人ワークやグループワークの成果発表の内容をまとめて頂くことを想定しています）。

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて、プレゼンテーション発表の前に「プレゼンテーションの方法」に関する解説講義を行うこととします。

【その他の重要事項】

本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元させていただくとともに、企業の実務や実態に即した講義を実施させていただきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture aims to provide students who are going to develop their own careers with the necessary theories and basic knowledge so that they can build autonomous careers on their own initiative. The lectures also provide students with an opportunity to consider their own careers.

【Learning Objectives】

To acquire basic knowledge of career theory and the working conditions in order to develop their own career autonomously on their own initiative.

To be able to consider their own career prospects based on the theory.

【Learning activities outside of classroom】

Please prepare and review based on the handouts and reference books. Preparation materials will be given after each lecture. In addition, students are expected to prepare for individual and group presentations outside of class time. At the end of the lecture, students will be required to write a report on the results of their work and presentations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

20% will be given for usual performance score (participation and contribution to lectures and discussions), 30% for presentation of individual and group work, and 50% for reports (the summary of the results of individual and group work).

ASS300HA（社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 300）

食と農の環境学 I

西川 邦夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考（履修条件等）：環境：経, 口, グ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生が現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学・農政学の立場から理解することを目的とする。理論・実態・国際比較の視点から、多面的に日本農業・農政を理解することを試みる。経済発展段階が先進国段階に到達するとともに、メガFTAの締結等による貿易自由化が進む中で、農業という産業が国民・地域経済にどのような意義を持つのか、学生は学修する。

【到達目標】

学生が、①農業経済学・農政学の基本的な知識を身につけるとともに、②日本農業が抱える問題点や今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、③論理的に表現することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

対面形式による講義を実施する。不定期にリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ：農業問題と農業政策	経済発展が先進国段階に到達するとともに、貿易自由化が進む中で、日本農業が直面している問題と取るべき政策について理論的に解説する。
第2回	国際農産物貿易交渉の展開過程	1980年代のGATTウルグアイ・ラウンドから近年のFTAに至る過程を、世界経済の構造転換に注目しながら解説する。
第3回	TPP・日米貿易協定と日本農業	日本も参加したTPP及び日米貿易協定の交渉過程において、国内・国際的にどのような政治経済学的特質が見られたのか検証する。
第4回	アメリカ農業の歴史と現状①	日本にとって政治的・経済的につながりが強いアメリカの農業について、歴史と現状を多面的に概説する。
第5回	アメリカ及びカリフォルニアの稲作	日本の稲作にとって潜在的な競争相手であるカリフォルニア州の稲作の実態と課題について、水問題への対応に注意を払いながら検討する。
第6回	アメリカ農業の歴史と現状②	アメリカの食料・農業問題を扱ったDVDを鑑賞し、第4～5回授業の理解を深める。
第7回	国際農産物市場と日本の食料安全保障	国際農産物市場の現局面と日本の農産物貿易の状況を開設するとともに、食料自給率と食料自給力に示される食料安全保障のあり方について考察する。

第8回	日本経済の動向と食料消費	日本経済の構造転換、及び家族関係の変化の影響を受けた家計と食料消費の関係を、主食であるコメを中心に考察する。
第9回	日本農業の構造変動と多様な担い手	農業構造変動の到達点と新たに登場してきた集落営農組織、農外企業の企業参入等の農業の担い手について、地域的多様性や農地制度改革に注目して検討する。
第10回	農業労働力の脆弱化と確保の課題	農業労働力が昭和・一桁世代や団塊世代の高齢化・引退によって枯渇していること、新規就農者や外国人労働者等によって確保が試みられていることを説明する。
第11回	農業の多面的機能と生態系サービス	農業が発揮する経済的機能以外の様々な機能やサービスを、環境経済学の理論的フレームワークや実例を用いて解説する。
第12回	条件不利地域農業と農山村政策	農業の多面的機能を多く担いながらも、衰退と再生の動きが交錯する日本の農山村再生のために求められる政策について、近年の田園回帰の動向に注意を払いながら検討する。
第13回	グループワークの報告会	グループワークの希望者は授業までに課題を実施し、授業中にその成果を報告する。
第14回	エビローグ：現代日本の農業政策	これまでの講義の内容を総括するとともに、求められる政策について展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。学生は、授業の前にポータルシステムにアップされる講義資料を予め読んでおく、また授業後に見返しておく。また、授業中に紹介される参考書を読むことも推奨される。興味関心を養うために、学生は新聞で農業関係の記事があったら読んでおくことも望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料を事前にポータルシステムにアップするので、各自プリントアウト等をして授業に臨むこと。授業内では配布しない。

【参考書】

- ①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012年（本体2,600円＋税）。
- ②速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002年（4,200円＋税）。
- ④農林水産省『食料・農業・農村白書』（各年版）（www.maff.go.jp/j/wpaper/）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：100%（実施方法は授業内で指示する）

【学生の意見等からの気づき】

履修者のうち希望する者に対してはグループワークを導入することで、農業・農村に対する理解を深めることを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

資料や連絡事項をポータルシステムにアップするので、定期的にチェックをすること。また、公開期限を過ぎた資料は再度アップしないので注意されたい。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This class aims that students become to understand the agriculture and agricultural policy of contemporary Japan which has arrived at the stage of developed countries from the perspectives of agricultural economics and agricultural politics. This class tries to understand various aspects of the agriculture and agricultural policy in terms of theory, history, current status and international comparison. Students can finally understand significances agriculture have as an industry under the stage of developed country and the progress of trade liberalization caused by mega FTAs.

[Learning objectives]

Students will be expected to 1) have basic knowledge of agricultural economics and politics, 2) have thoughts about issues and future directions of Japan's agriculture, and 3) be able to express them logically.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to study for two hours outside of classroom through reading class materials uploaded on the Hoppii.

[Grading criteria/policy]

Grading will be given based on term-end examination (100%).

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

現代思想と人間 I

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コ7：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代社会哲学・思想（個人の自由と反差別）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期は、「個人の自由と反差別」をテーマに20世紀の思想を扱います。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想の営みの系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなうが、リアクションペーパー提出による質疑＋次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がけます。

単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	個人の自由と反植民地主義（1）	実存と自由の問題——ジャン＝ポール・サルトル『存在と無』を中心に（1） ジャン＝ポール・サルトルの思想（2）—— 『弁証法的理性批判』を中心に
第3回	個人の自由と反植民地主義（2）	実存と人種差別・植民地主義の問題（1）——ジャン＝ポール・サルトル『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に（1）
第4回	個人の自由と反植民地主義（3）	実存と人種差別・植民地主義の問題（2）——ジャン＝ポール・サルトル『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に（2）
第5回	個人の自由と反植民地主義（4）	ライシテとフランス現代社会

第6回	個人の自由と反植民地主義（5）	実存と人種差別・植民地主義の問題（3）——フランツ・ファノン『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に（2）
第7回	実存とフェミニズム	シモーヌ・ド・ボーヴォワール『第二の性』
第8回	実存と老いの問題	シモーヌ・ド・ボーヴォワール『おだやかな死』、『老い』
第9回	全体主義批判と人間性の問題（1）	フランク・パヴロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』を中心に
第10回	全体主義批判と人間性の問題（3）	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』を中心に
第11回	全体主義批判と人間性の問題（3）	・ハンナ・アーレント『全体主義の起源』 ・クロード・ランズマン・『ショア』 を中心に
第12回	全体主義批判と人間性の問題（4）	・ハンナ・アーレント『エルサレムのアイヒマン』 ・ロニー・ブローマン／エイアル・シヴァン『スペシャリスト』 を中心に
第13回	全体主義批判と人間性の問題（5）	ハンナ・アーレント『人間の条件』、『革命について』を中心に
第14回	春学期のまとめ	春学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつと時間をかけて格闘すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史I）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70 %

Short reports : 30 %

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

現代思想と人間Ⅱ

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：近現代社会哲学・思想（個人の自由・所有・権力・社会の関係）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期は、近現代ヨーロッパ社会哲学・思想を紐解きながら、個人の自由・所有・権力・社会について考えます。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑＋次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにいたします。

思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	自由・所有・契約（1）	社会契約論者たちの考えた自由（1）
第3回	自由・所有・契約（2）	社会契約論者たちの考えた自由（2）
第4回	功利主義の罟	功利主義者たちの考える「効用」
第6回	古典派経済学の誕生	アダム・スミスの道徳感情論と労働価値説
第7回	産業社会の夢	初期社会主義者と「産業社会」
第7回	労働と疎外（1）	カール・マルクス『ドイツ・イデオロギー』、『共産主義者宣言』、『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』など
第8回	労働と疎外（2）	カール・マルクス『資本論』
第9回	勤勉さと資本主義	マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』

第10回	権力と規律社会（1）	ミシェル・フーコー『狂気の歴史』、『監視と処罰』、『性の歴史』を中心に
第11回	権力と規律社会（2）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に
第12回	可視化されない労働	イヴァン・イリイチ『シャドウ・ワーク』
第13回	境界の内と外	エティエンヌ・バリバルの市民権論
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

進捗と学生の理解度、双方を勘案して、シラバスの授業計画通りに進められるようにする。

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70 %

Short reports : 30 %

PSY100MA (心理学 / Psychology 100)

キャリアと心理学

熊谷 智博

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の基礎的概念や理論を解説し、それが様々な日常場面に与える影響を説明する。特に人間の心理的メカニズムが日常の認識や人間関係、将来展望などに与える影響について理解することで、将来のキャリアデザインに活用できる知識の獲得を目指す。
* 2024年度以前の入学者には「生涯発達心理学Ⅱ」の読み替え科目となる。内容が異なるため、履修の際には授業内容をよく確認しておくこと。

【到達目標】

受講者が自分や他人のキャリアデザインを行う際に、心理メカニズムの影響を考慮に入れて検討し、それを活用出来るようになる事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内課題はHoppiiやGoogle Formを利用して提出するという形式で行う予定。尚、課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 及び基礎知識の解説	授業のスケジュール、内容、形式、評価方法及び心理学を学ぶ意義について説明する。
第2回	心理学とはなにか	心理学研究の視点と研究法について説明する。
第3回	知覚	人間の知覚のメカニズムについて説明する。
第4回	認知	表象、言語、注意、思考に関する心理メカニズムについて説明する。
第5回	記憶	記憶に関する代表的研究と社会とのつながりについて説明する。
第6回	知能	知能の定義および測定法、発達について説明する。
第7回	発達	発達に伴う知的能力の変化に関する理論を解説する。
第8回	人格	自己概念とパーソナリティに関する理論を説明する。
第9回	動機づけ	動機概念と影響を与える要因についての研究を説明する。
第10回	感情	感情の定義、機能、影響について説明する。
第11回	臨床心理学	臨床心理学の対象、研究法、職域などについて説明する。
第12回	社会心理学（1）	援助行動、社会的促進など他者存在の影響に関する研究を説明する。
第13回	社会心理学（2）	集団を形成することによる心理的变化について説明する
第14回	まとめと総括	講義内容についての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

授業開始時点では特定の参考書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には授業内および授業外課題40%、学期末試験（授業内に実施予定であるが、受講者数などによっては試験期間に実施の可能性もある。突発的な事態の場合はレポート課題への変更もありえる）60%の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に説明する。なお、授業内課題には授業内で取り上げられた実証研究がどのような方法で行われたかを理解することを目的とした、アンケート調査への回答や実験への参加も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題はwindows P Cを利用する場合があるので、利用環境を整えておくこと。また授業中にアンケートを取る際に、Google formを利用することもあるので、スマートフォンなども利用可能である事が望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員が出張等の場合、Google classroomを利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内やHoppii等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

【Outline (in English)】

Students will learn theories of Psychology. Especially, it is focused on basic findings concerning perception, cognition, emotion, attitude, behaviour.

Goals of this course are when students try to design their own career, they are able to think about psychological mechanism and use it for better designing.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 40%, Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

LAW200MA（法学 / law 200）

キャリアと労働法

砂押 以久子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、雇用をめぐるさまざまな問題を法制度の観点から考察し、社会で働く上で必要な法律の知識を習得することを目的とします。

【到達目標】

現在、就労をめぐる問題が山積しています。中でも、長時間労働に関しては、近年、過労によるうつ病自殺の事件が大きく報道されるに至り、長時間労働が社会的問題として広く認識されるようになりました。このような状況下において、「働き方改革」が断行されたわけですが、この「働き方改革」をめぐっては、新たにいくつかの問題が提起されており、議論の必要性が指摘されています。

また、正社員と非正規社員の労働条件の格差が問題とされてきましたが、非正規雇用の問題に関しては、さまざまな法規制がなされ、現在、改善が図られてつつあるといえます。これに対し、近時、問題とされているのが、非雇用型の就労形態です。非雇用型の就労形態では、労働者とされないで、置かれている立場が弱いものであるにもかかわらず、労働法の保護を受けることができません。そういう立場の人の就労環境を改善すべく新法ができたりしていますが、十分とはいえません。

このほか、雇用におけるジェンダーギャップの問題も完全に解決されたわけではありません。

また、わが国の生産性が国際的にどんどん低下する中、雇用の流動性なども図られるべきではないか等の議論もなされています。

この授業では、労働法が労働者保護の観点からどのような制度を用意しているのかについて学び、上記のような雇用をめぐる現代的問題をも検討しつつ、実施の就労の現場で、働く者として不利益を被らないために必要となる知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態としては、講義形式を用います。授業の具体的内容については、授業計画に示します。

教科書を用い、教科書の内容に沿って授業を進めていきます。

テーマによっては、授業内にリアクションペーパーの提出を求めます。提出してもらったリアクションペーパーに関しては、次の授業において可能な限りすべて取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらに議論を深めることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス 労働法とは？	授業をどのように行うかについての詳細を示します。 雇用に関するルールの概要を学びます。
2	採用から入社まで	採用内定取消しなどの問題を取り上げ、採用内定等の法的性質を学びます。
3	賃金	賃金保障がどのようになされているか学びます。
4	労働時間	労働時間規制がどのようになされているかについて学びます。

5	長時間労働問題	長時間労働をめぐるどのような問題が生じているかを指摘します。
6	労働時間規制に対する例外	残業代の不払など労基法の労働時間規制を免れるための脱法行為をいかに防ぐかについて、検討します。
7	働き方改革の問題・年次有給休暇	働き方改革の問題点を検討します。お給料をもらいながら休める年次有給休暇制度について学びます。
8	人事制度	人事制度をめぐるさまざまなルールを学びます。
9	懲戒制度と内部告発	懲戒制度に関し具体的な問題を取り上げ、学びます。なかでも、最近問題になっている内部告発（公益通報）について検討します。
10	家庭と仕事の両立	少子化対策で様々な法制度ができていますが、実際にはどのような問題が起きているのか学びます。
11	雇用差別	雇用におけるさまざまな差別問題を取り上げ、検討します。
12	雇用の終了	雇用の終了の仕方には、解雇・合意解約・退職があります。それぞれの問題について学びます。
13	非正規雇用・非雇用型	正社員と有非正規社員の違い及びその問題について、また、ワーバーイーツのような非雇用型の働き方の問題について考えます。
14	試験・まとめと解説	授業の内容が理解できたかについて確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを現実の問題として受け止め、雇用社会はいかにあるべきか常に考えることを心掛けてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

砂押以久子『教えて！働くなら知っておきたい法律の知識 労働法講義』自由国民社（2024年）1800円

【参考書】

菅野和夫『労働法〔第13版〕』弘文堂

荒木尚志『労働法〔第6版〕』有斐閣

浅倉むつ子・島田陽一・盛誠吾『労働法[第6版]』有斐閣アルマ別冊ジュリスト『労働判例百選〔第10版〕』有斐閣

『労働法の争点』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

学期末に授業内試験を実施します。

平常点（リアクション・ペーパーなど）（20％）と試験の点数（80％）によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

取り上げるテーマに関して、具体的に生じている問題を指摘したうえで、法的に何が問題なのか、どのように解決が図られるべきかについて検討します。受講生からの質問・意見を受け付け、フィードバックを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じDVD・ビデオ教材を用います。

【その他の重要事項】

授業の進行状況により取り上げるテーマの順序が多少前後したり、その時々雇用情勢により取り上げるテーマが変更になる場合があること、それに伴い、オンディマンド授業・対面授業も変更になることを予め承いただいた上で、受講するようお願いいたします。なお、変更がある場合は、できるだけ早い段階で、事前にお知らせします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire getting the fundamental legal knowledges - especially labor law related mattes.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire the correct legal knowledge of labor law to avoid suffering disadvantage as a worker in real business world.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 80%, Short reports : 20%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

ファシリテーション論 基幹科目

徳田 太郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を上げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

- ・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
- ・第2回～第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
- ・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
- ・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
- ・第14回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。
- ＊第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。
- ＊大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）

6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約	アイデアの発散～集約の技術を学ぶ（講義・演習）
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ（講義・演習）
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
13	ファシリテーション実践	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
14	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。（予習・復習各120分程度）
・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。（予習・復習各120分程度）
・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法（改訂版）』（2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

- ・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』（岩波書店、2009年）
- ・堀公俊『ファシリテーション・ベーシック：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題（各回の振り返りシート）の質と量（約60%）、レポート課題（授業内試験）（約20%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約20%）から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください（第1回授業はオンラインで実施します）。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

CAR100MA (キャリア教育 / Career education 100)

若者と自立支援

大山 宏

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土2/Sat.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子ども・若者の貧困への注目や、若者の就労支援の社会的課題としての位置づけ等、近年は若者支援に対する社会的関心が高まっている。その背景には現代日本の社会構造により引き起こされる若者の困難状況があり、そうした状況下にある若者がどのように社会と関わっていくことを想定するかが問われている。しかし一方で、自立した若者のあるべき姿については、個人の努力で達成すべきものとみなされがちでもあるが、若者支援の実践では若者に対しては経済的な観点のみにとどまらない、包括的な支援が求められているといえる。

この講座では、若者が陥っている困難状況について具体的な事例等を用いながら知り、若者が社会とどのように関わっていくべきかを考えることを通し、若者に対してどのような支援が必要なのか検討する。

【到達目標】

1. 若者の社会的な困難状況の実態と、その社会構造的背景について理解する。
2. 若者支援のあり方に対する、同時代を生きる若者としての自らの視点を獲得する。
3. 若者支援の具体的なプログラムを試作することを通して、若者支援の実践について知り、その現状と課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態については基本的に対面の講義形式で行う。

ただし授業の進行度に応じてアクティブラーニング（ディスカッション等）を実施する可能性がある。

また、授業の最後に毎回リアクションペーパーの課題を出すこととする。

提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、次の授業のはじめに全体に対してフィードバックを行う。

この他、授業の進め方については適宜変更を行う場合がある。

その場合、授業内での告知の他、学習支援システム等を活用して周知するので、連絡はこまめに確認をしておくことを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の内容や進め方について
第2回	若者支援の目的	若者支援の目的と各種政策・実践のキーワード
第3回	「就業」と生きづらさ	「就業」を基盤とした自立についての検討
第4回	若者の生きづらさ	日本型青年期・関係性の貧困・居場所
第5回	支援対象の設定	支援の対象をどのように設定するか
第6回	支援の双方向性	支援という行為の構造について
第7回	重層的な支援の構造	互いに支援し合える構造の重要性について
第8回	若者との対話	支援時の具体的な諸相
第9回	若者と社会	「社会」の検討と若者支援との関係性
第10回	社会への参画	若者と社会の関係性について

第11回	若者と社会をつなぐ取り組み	若者と社会の関係性を取り持つ支援のあり方について
第12回	若者支援の範囲	若者支援の領域で対応すべき課題の多様さについて
第13回	支援の構想	具体的な支援手法の検討
第14回	総括	自立の要件
	若者の自立支援とは	若者支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の経験に照らし合わせながら、若者に必要な支援について考える。参考書としてあげた文献を読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『〈学校から仕事へ〉変容と若者たち』乾彰夫・青木書店

『二極化する若者と自立支援』宮本みち子・小杉礼子編著・明石書店

『若者の居場所と参加』田中治彦・荻原建次郎編著・東洋館出版社

『子ども・若者の参画』子どもの参画情報センター編・萌文社

『若者と社会変容』アンディ・ファーロン/フレッド・カートメル・大月書店

など。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー・オンライン授業での様子）：40％
レポート：60％

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例について触れることが、理解度の向上につながるという意見が多数寄せられており、今年度もできるだけ具体的に現場の様子等が伝えられるように授業を行っていく。

また、前年度は毎回の授業で提出してもらったリアクションペーパーに対する返しを重点的に行い、授業のやる気につながったという声が多く寄せられたため、今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメは授業前に学習支援システムにアップロードするので、それを見られるようにすること。

また、レポート提出等にも学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

The difficult situation of young people is at the core of a social issue "young people's independence".

In this lecture, you can study about the difficult situation of young people from specific case, and can consider the method of youth support.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand why young people face socially difficult situations, and understand how to create a program to support young people.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

reports : 60%, in class contribution: 40%

CAR100MA (キャリア教育 / Career education 100)

労働市場と職業選択

上西 充子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から、また労働市場の動向との関連において理解し検討できるようにすることを目指します。

なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか、企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのかを理解し、近年の変化にも目を向けます。

さらに、アルバイトのトラブルを手がかりに、労働法への理解を促し、職場の労務管理や労働条件に注目することの必要性を理解します。

【到達目標】

個人のキャリアにおける大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意味と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。

大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを計6回、授業内外で書きます。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックし、多面的なものの見方を促すと共に理解を深めます。加えて中間と期末、2回の授業内試験（論述試験）を実施します。

初回の授業はオンライン（Zoom）で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介（Zoomで実施）
2	大卒労働市場を考える	卒業生の進路状況と早期離職状況、社会情勢との関係
3	企業は採用選考で何を評価しているのか	採用プロセスと選抜
4	新卒採用と中途採用／ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	ジョブ型雇用・メンバーシップ型雇用の特徴と日本の現状
5	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力、企業の人材育成方針
6	アルバイトから考える労働問題	アルバイト就労の現状と問題
7	アルバイトと労働法	アルバイトのトラブルに即して労働法を理解する
8	職場の問題への向き合い方	「嫌ならやめればいい」のか、を考える
9	中間試験	中間試験実施
10	「まともな職場」とは	労働組合の役割、長時間労働と職場内規制
11	就職プロセスと労働条件	就職プロセスと就職支援会社の役割、労働条件への着目の重要性

12	労働条件・職場実態に関する客観情報の活用	「就職四季報」「女性の活躍推進企業データベース」などの活用
13	内定・就職をめぐるトラブル	労働契約としての就職／内定・就職をめぐるトラブルと関係法令、対処法
14	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。

中間試験・期末試験に向けて、授業内容を振り返り、理解を深めておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

- ・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
- ・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
- ・厚生労働省「知って役立つ労働法」WEB公開
- ・石田真・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就職トラブルQ&A』旬報社
- ・東洋経済新報社編『就職四季報 総合版』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で計6回実施するミニ・レポート（配点50点）と中間試験（配点20点）、期末試験（配点30点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が0～2回の学生や、ミニ・レポートまたは中間試験・期末試験において代筆・剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与しない（E評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直さきっかけとなった、といった感想がみられる。ミニ・レポートの執筆とフィードバックに加え、アクティブラーニングの機会を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメの配布を行う。

オンラインの授業はZoomで行う。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず確認すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。ZoomのURLは学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to provide students with a basic understanding of the transition from school to work. The main topics include characteristics of the transition from school to work in Japan, career decisions, labor issues, and labor laws.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand various issues related to employment and early careers, and apply them to their own employment.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, Mid-term examination: 20%, Term-end examination: 30%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

ジェンダーと労働

上西 充子

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木1/Thu.1 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、男女の働き方の現状と課題を歴史的な経緯を踏まえて考えます。ワーク・ライフ・バランスへの配慮や雇用形態の多様化は、評価しうるものなのか、どこに課題があるのか、理解を深めることを通して、現実的なキャリア選択をみずから考えられるようになること、さらに、働き方の改善に社会人としてみずからかわっていけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

男女の働き方の現状と課題を歴史的な経緯を踏まえて理解する。雇用形態の多様化が若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。まともな働き方を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを計6回、授業内外で書きます。雇用と労働をめぐる歴史的推移と現状を理解した上での考察であることを重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。加えて中間と期末、2回の授業内試験（論述試験）を実施します。

初回の授業はオンライン（Zoom）で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介（Zoomで実施）
2	女性の働き方をめぐる法制度の変遷	男女雇用機会均等法と育児・介護休業法
3	コース別雇用管理	統計的差別／コース別雇用管理の実態
4	コース別雇用管理の変容と企業による女性活用の現在	正社員女性の戦力化の現状
5	派遣労働を考える	派遣労働の歴史的推移と問題点
6	雇用ポートフォリオと非正規労働	雇用ポートフォリオ／企業と労働者の双方から見た非正規雇用
7	中間試験	中間試験実施
8	非正規雇用の処遇改善／雇用によらない働き方	無期転換と同一労働・同一賃金／雇用によらない働き方の特徴と課題
9	男女の働き方とワークライフバランス	ケアレスマン・モデルと夫婦の生活時間・仕事時間
10	長時間労働とワーク・ライフ・バランス	残業の法的根拠と長時間労働の実態
11	長時間労働の規制と労働時間管理	働き方改革と勤務間インターバル規制
12	女性の管理職登用	女性の管理職登用とクリティカル・マス、男女の賃金格差の是正
13	転勤を考える	転勤をめぐる課題と企業の対応
14	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。

中間試験・期末試験に向けて、授業内容を振り返り、理解を深めておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

- ・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
- ・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
- ・濱口桂一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書
- ・川人博（2014）『過労自殺 第二版』岩波新書
- ・メアリー・C・プリントン（2022）『縛られる日本人』中公新書
- ・厚生労働省「知って役立つ労働法」
- ・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブルQ&A』旬報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で計6回実施するミニ・レポート（配点50点）と中間試験（配点20点）、期末試験（配点30点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が0～2回の学生や、ミニ・レポートまたは中間試験・期末試験において代筆・剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与しない（E評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

働き方をめぐる歴史的変化と今日的な働き方との関係を、より理解できるように、努めていきたい。

ミニ・レポートのフィードバックに加え、アクティブラーニングの機会を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメの配布を行う。
オンラインの授業はZoomで行う。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず出席すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。ZoomのURLは学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。春学期の「労働市場と職業選択」（「職業選択論Ⅰ」）を受講した上での受講が望まれる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to provide students with a basic understanding of changes in the labor market and working styles. The main themes include diversification of employment patterns, long working hours, work-life balance, and gender equality.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand issues related to changing labor market and work styles, and to apply the knowledge to realize decent work.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, Mid-term report: 20%, Term-end report: 30%

CAR100MA (キャリア教育 / Career education 100)

ライフコース論 基幹科目

百瀬 由璃絵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個々人が人生の各段階でどのような課題を担っているのか、個々人の人生の様々な段階における経験や選択が、その後のキャリアや生活にどのように影響するのかを理解するための基礎的な知識を獲得します。特に、出生から高齢期にいたるまでの重要なライフイベントに注目し、その時代的な変化、国際比較等によるライフコースの多様性についての思考力を深めます。それとともに、ライフコースに関わる様々なデータの見方や解釈の仕方についても学ぶことで、実証的なアプローチ方法についても理解し、活用できるようにします。これにより、経営戦略論やキャリア開発論などのほかの理論の基盤となる知識を学んでいきます。個々人がどのようにして職業上のスキルや知識を習得し、キャリアを構築していくのかといったキャリア開発を考えるうえで、個々のライフステージやキャリアを考慮することが可能となります。また、従業員が人生の各段階で異なるニーズや価値観を持つことを理解することは、企業にとって、従業員のライフステージに応じた働き方や人材の最適な配置などの経営戦略を考えるうえでも重要です。

【到達目標】

この授業は、個人と社会の相互作用の中で生じるキャリアのパターンの多様性を理解し、個人の生き方や社会システムを検討することを目的とします。ライフコースの時代的な変化とその背景、国際比較を通じた社会構造とライフコースの関係性について理解を深め、少子化、雇用不安、格差問題といった現代社会の問題が、どのような社会的状況から生じているのか、その解決のために今何が求められているのか、といった課題設定を行い、それに「ライフコース」の視点からアプローチができるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義を中心に進めますが、グループディスカッションや発表、適宜ミニレポート等を書くことにより、出席を確認することもあります。フィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：ライフコースとは何か？	授業のオリエンテーション、ライフコースの概念
第2回	なぜ今ライフコース・アプローチなのか？	ライフサイクルとライフコースの違い、ライフコースの考え方の背景
第3回	ライフコース論の基礎	ライフコース論をとらえる視点、ライフコースへのアプローチの方法
第4回	児童期から青年期へ	児童期の変化、国際比較、ポスト青年期の登場
第5回	青年期から成人期へ	学校から職業への移行期の変化
第6回	社会変動とライフコース	社会変動がライフコースに及ぼす影響
第7回	ジェンダーとライフコース	ジェンダー概念、ジェンダーによるライフコースの特徴
第8回	成人期・家族形成	家族の形成(結婚)、結婚をめぐる変化、国際比較

第9回	成人期：出産、子育て	出産行動の変化とその背景、課題、少子化について
第10回	働き方	雇用システムの特徴、働き方との関わり、働き方の課題
第11回	女性のライフコース	女性のライフコースをめぐる変化、現状、課題
第12回	男性のライフコース	男性のライフコースをめぐる変化、現状、課題
第13回	高齢期	就業から引退へ、高齢期の就業、引退後の生活構造
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使う資料は適宜配布する予定ですが、授業前に文献講読（英語を含む）などを求めることもあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業で適宜紹介します。

【参考書】

グレン・H・エルダー, Jr., ジャネット・Z・ジール編著・登張真穂ほか訳(2013)『ライフコース研究の技法－多様でダイナミックな人生を捉えるために』明石書店。

武石恵美子(2023)『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う(第2版)』中央経済社。

Buchmann, M. (1989). The script of life in modern society. Entry into adulthood in a changing world. Chicago, Ill.: University of Chicago Press.

その他、授業の中でテーマに沿った参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、試験結果と授業出席内容で行います。試験を重視し、出席内容(ミニレポート形式、内容も重視する)を加味して評価します。期末試験60%、平常点40%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students acquire the knowledge about the theme that an individual faces at each life stage, the understanding about the resource included the social system. Conventionally, the life has been caught by the word "life cycle", but the life is unique individually, and the same pattern is not repeated. Students will be able to understand the background where "life course" came to attract attention of and understand the basics about the concept of "life course". In addition, they will learn about the way of a viewpoint and the interpretation of various data about life course.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to understand the diversity of career patterns that arise in the interaction between individuals and society, and to examine individual lifestyles and social systems.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process

Term-end examination (60%) and in-class contribution(40%)

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

生活設計論

高尾 真紀子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの人生を考える上で将来の社会構造とリスクを理解し、リスクに備える必要があります。日本の人口減少と少子高齢化、それに伴う社会保障費の増加は日本社会にとって最大の課題となっています。本講義では、日本の少子高齢化、人口減少の経済・社会への影響について理解し、子育て支援、年金、医療、介護・福祉などの社会保障制度について必要な知識と多角的な考え方を学びます。知識や多角的な視点を心得、自分自身の生活設計に活かすとともに、どのような制度が望ましいのか等について議論し、考えを深めます。

【到達目標】

日本の人口構造の変化等の基本的な課題について理解し、社会保障の基本的な考え方と子育て支援、年金、医療、介護・福祉等の現状と制度について基礎的な知識を習得します。さらに社会保障制度について自分なりの考え方をもち、自分の生活設計に活用できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式を中心としますが、講義の内容を踏まえてグループディスカッション等を行います。リアクションペーパーのコメントや質問については適宜全体にフィードバックして議論を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要や授業の進め方について説明する
第2回	人口減少と少子高齢化	日本及び地域別の人口構造の変化と将来展望について講義し、その社会・経済的影響について議論する。
第3回	未婚化・少子化の背景と影響	少子化の経済・社会的背景とその影響及び子育て支援策について議論する。
第4回	少子化対策と子育て支援策	少子化対策と子育て支援策の現状について議論する
第5回	社会保障の基本的な考え方とウェルビーイング	社会保障の基本的な考え方とウェルビーイングについて議論する
第6回	格差と貧困	格差と貧困の連鎖の問題について議論し、生活保護等の制度を理解する
第7回	年金制度①現状と背景	日本の年金制度の現状と制度創設・制度改革の背景について理解する
第8回	年金制度②世界各国の制度と制度改革	各国の年金制度の比較等を通じて、どのような年金制度が望ましいのか、議論する。
第9回	医療制度①特徴と課題	日本の医療の特徴とその背景、医療保険制度の課題について理解する。
第10回	医療制度②制度改革の方向性	各国の医療政策を比較し、どのような医療政策が望ましいのか議論する。

第11回	介護保険制度①創設の背景と現状	公的介護保険創設の背景と介護の現状について理解する
第12回	介護保険制度②課題と改革の方向性	公的介護保険制度の課題について理解し、どのような介護政策が望ましいか議論する。
第13回	障害者福祉と就労支援	障害者の福祉や就労支援について理解し、誰もが地域で暮らせる共生社会について議論する。
第14回	授業内試験	各回の内容を踏まえた論述形式の試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会保障は身近な問題であり、ニュース等で取り上げられることも多いため、日頃から新聞、ニュース報道に接し、問題意識をもっておくことが望ましい。自分の関心のあるテーマについては参考図書に挙げた書籍を読んでおくに役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。毎回レジュメや参考資料を配布します。

【参考書】

エスピン＝アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』2001年、ミネルヴァ書房
 阿部彩『子どもの貧困』2008年、岩波新書 『子どもの貧困Ⅱ』2014年、岩波新書
 池上直己『日本の医療と介護』2017年、日本経済新聞社
 大竹文雄・平井啓(編著)『医療現場の行動経済学 すれちがう医者とは患者』2018年、東洋経済新報社
 香取照幸『教養としての社会保障』2017年、東洋経済新報社
 酒井正『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保障』2020年、慶應義塾大学出版会
 柴田悠『子育て支援が日本を救う』2016年、勁草書房
 筒井淳也『仕事と家族 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』2015年、中公新書
 筒井淳也『未婚と少子化 この国で子どもを産みにくい理由』2023年、PHP新書
 中室牧子『「学力」の経済学』2015年、ディスカヴァー・トゥエンティワン
 広井良典『日本の社会保障』1999年、岩波新書
 広井良典『創造的福祉社会ー「成長」語の社会構想と人間・地域・価値』2011年、ちくま新書
 山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』2019年、光文社新書
 山口 慎太郎『子育て支援の経済学』2021年、日本評論社
 山崎史郎『人口減少と社会保障ー孤立と縮小を乗り越える』2017年、中公新書
 その他、授業の中でテーマごとに参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献(20%) 各回の課題(30%) 期末試験(50%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更（新規科目）につきフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will understand the economic and social impact of Japan's declining birthrate and aging population, and learn the necessary knowledge and multifaceted perspectives on social security systems, including childcare support, pensions, medical care, and long-term care and welfare. Students will gain knowledge and multifaceted perspectives to apply to their own life planning, as well as to discuss and deepen their ideas about what kind of systems are desirable.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students will be able to understand basic issues such as changes in Japan's population structure, and acquire basic knowledge of the current situation and systems of social security, childcare support, pensions, medical care, and long-term care and welfare. Furthermore, students are expected to have their own ideas about the social security system and apply them to their own life planning.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. It is advisable to have an awareness of social security issues through daily contact with newspapers and news reports. It is also helpful to read the books listed in the reference list on topics of interest to you.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports :30%、in class contribution: 20%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアモデル・ケーススタディ 基幹科目

なかむら アサミ

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分のキャリアをデザインするにあたって、さまざまな生き方、働き方の事例を学び、そこから自分のモデルを作ることには有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々に教壇にお呼びして、仕事経験（キャリアヒストリー）を聞く。具体的な仕事の経験から、学生がどのようなキャリアを選び、そのためにどのような努力を行うべきかを学ぶ。

【到達目標】

ビジネスなど様々な分野で活躍する社会人と対話することで、社会人経験を間接的に理解する。また、そのような社会人の経験を引き出す話の聴き方やインタビュー術について理解を深め、以後の学部での学びに活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に、この授業を受ける上で必要なヒアリング術とインタビュー術を講義する。インタビュー術を使ってゲスト講師のキャリア経験を聞き出していきます。課題等の配布・提出は「学習支援システム」で行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。振り返りでは業界や職業知識の解説を適宜行い、理解の深耕、ゲストの仕事観の違いなどを説明します。ゲスト講師の回以外の授業では参加受講者同士で、簡単なワークを行うと認識しておいてください。授業は、対面を中心としながら、オンラインで講義する日もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第2回	聴く力とは？	キャリアの語りを聴き出すには聴く力と共感する力が必要である。その必要性を理論的に説明し、体験する。
第3回	下調べの方法	キャリアに関する下調べのしかたを説明する。自伝、伝記、オーラルヒストリーなどの文献資料を紹介する。
第4回	インタビュー術	インタビュー時における身体的スキルを説明する。インタビュー映像も見る。
第5回	聴く力、下調べ、インタビュー術の実践	これまでの学びを、デモ講義を通して実践し、次回以降のゲスト講師授業準備等に活かす
第6回	ゲスト講師①	NPO分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第7回	ゲスト講師②	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第8回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。特に組織論の観点から検討を行う。
第9回	ゲスト講師③	プロフェッショナル職種のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。

第10回	ゲスト講師④	官庁分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う
第11回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。民間企業以外のキャリアを議論する。 またこれまでのキャリアトークの解釈を前提に、キャリアモデルレポートを作成する方法を講義する。
第12回	ゲスト講師⑤	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第13回	ゲスト講師⑥	起業家のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第14回	ゲスト講師⑤⑥の振り返りとまとめ	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。これまでの多様なゲスト講師も振り返りながら、キャリアの多様性を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ→インタビュー→解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。授業での投影資料は終了後に配布します。

【参考書】

特になし。必要な場合は適宜知らせる。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（50%）と最終講義日に提出するレポート（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のリアクションペーパーを通じてみなさんの要望を反映します。昨年は質疑応答の仕方を工夫したことで議論が活発になりました。「意見を伝える」習慣を授業でも身につけていただきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。PCの持ち込みは可能です。

【その他の重要事項】

履修希望者はなるべく初回から出席すること。特に2回～4回目までは授業の基本的な進め方について説明及び実習を行うので、2回～4回までに欠席した場合は、単位の取得は不利となる

【Outline (in English)】

To designing our career, we learn examples of how to live and work for model people.

Making an image of your career is an effective way to career design.

In this lecture, we invite people who actually work in various workplaces to the teacher and listen to work experience (career history).

From specific work experience, students learn what kind of career to choose and what kind of effort can be done for that.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

外書講読A【2025年度以降入学
者用】

長岡 智寿子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5037
科目名：外書講読A
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7153
科目名：外書講読B（発達・教育）
※入学年度によって授業コード・科目名が異なります
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、今日の国際教育開発の現状と課題について、私たち人間の生涯に渡る学びの様相を把握することを念頭に、社会学的な視点から検討するものである。具体的には、本授業の内容に即した英文資料の他、関連する文献資料、映像資料なども活用しながら、理解を深めていく。

【到達目標】

本授業では、英文資料を中心に、広く国際社会における教育活動の動向を把握するとともに、子どもからおとなまであらゆる人々を対象とする生涯学習活動について、その今日の課題を問い直すことを目的とする。とりわけ、成人期の学習の必要性について、開発途上諸国の事例をもとにジェンダーの視点から事例検討を行う。
授業の到達目標としては、下記のとおり。
・生涯学習の理念について、国際的な観点から説明することができるようになること。
・成人期の学びの必要性を説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介するとともに、さらなる議論に活かします。
・授業内で求めた課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要説明をオンラインにて行います。
第2回	Background：data and development	生涯学習に関する歴史的経緯の把握、内容理解
第3回	Literacy is the human rights	人権の観点から理解する
第4回	Literacy learning & development	読み書きの学びの重要性を社会学的視点から理解
第5回	Stories of imagination (1) Social participation	Raising voices; peaking up for participation
第6回	Stories of imagination (2) Life skill	Literacy and Life s kills
第7回	Stories of imagination (3) human rights	About employment rights with literacy for poor women

第8回	Stories of imagination (4) Minority	Women and Literacy in post-conflict
第9回	Stories of imagination (5) Knowledge for safe	Children’s nutrition and literacy learning
第10回	Stories of imagination (6) Learning for life	Literacy and learning for young women
第11回	Stories of imagination (7) Learning for health	Learning reading, writing and health
第12回	Stories of imagination (8) Social empowerment	Community Empowerment
第13回	Challenges and solutions	Share and discussion for future
第14回	まとめ（試験、解説）	本講義全体を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業で使用する英文資料について、事前に準備学習として必要な箇所に目を通しておくことを求めます。また、授業後は、内容の整理、把握を行うことを求めます。各2時間を標準としますが、詳細は各回にて説明いたします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストは無し。

【参考書】

本授業で使用する英文資料は、下記のとおりです。
・『Literacy and Women’s Empowerment: Stories of Success and Inspiration』, UNESCO Institute for Lifelong Learning,2013
・『Quality Assurance Toolkit for Open and Distance Non-formal Education』, Commonwealth of Learning, 2012
初回のオリエンテーションの際に説明します。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績評価は、授業態度や平常点（40％）、期末レポート（60％）により、総合的に評価します。
積極的に授業に参画されることを求めます。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の際に、質問、意見等を記載してもらい、フィードバックを行える体制を整えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】

積極的に理解を深めていけるように、質問や意見等を望みます。

【Outline (in English)】

In this lecture, we aim at grasping the issue of lifelong learning from a sociological point of view, taking as examples the current situation and problems of international education development today. Specifically, we will deepen our understanding by utilizing related literature materials as well as English textbooks that conform to the contents of this lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process report (60%) and in-class contribution(40%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

キャリアコミュニケーション
(英語)

福田 紀子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化(開発)に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準／Sphere Standards）のテキストやHuman Rights Based Developmentの研修素材を通して、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した人権尊重の基本的な概念を理解し、どのように伝えようとしているのかをテキストとアクティビティからとらえます。そして、自分たちの社会にある人権問題への理解と関与につなぐ力をつけることを目指します。

【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材から、ジェンダーをはじめとする脆弱性の理解、パワーの所在、気付きにくい差別、参加とエンパワーメントなど市民社会と人権に関わるに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、社会の公正な運営方法に必要な思考と行動のスキルを自分と社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワーメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、授業内で配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。

授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。毎回提出いただくフィードバックシートのコメントの中からも、考えを深めたり、関連情報について取り上げていきます。その中でのディスカッション、フィードバックは基本的に日本語で行いますが、参加者の希望によっては一部英語でのセッションも可能です。

課題提示・提出はメール、学習支援システムを使用します。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Sphere Handbook as Humanitarian Standards and background	〈この授業の進め方〉 この授業の進め方、評価について。人道支援の国際基準から「人権」に基づく考え方、その背景を概説します。
2	Humanitarian Response with Rights Base Approach ～ a case of the Shelter for affected people on Disaster	人道支援の趣味レーションとして日本の避難所の場面から人権に基づく課題と対応を考えます

3	Humanitarian Response with Rights Base Approach～Core Humanitarian Standards/CHS flower & reality	CHS（人道支援の必須基準）の構成と内容
4	Humanitarian Response with Rights Base Approach～ Real Stuation on NOTO Hanto Earthquake	現実の災害時の状況とスフィアについて (facilitation 準備)
5	From Poverty To Dignity-a learning manual on human rights based development, introduction	From Poverty To Dignityの概説、構成 (facilitation 準備)
6	From Poverty To Dignity Module2: Understanding Human Rights	ファシリテーション実践 ／人権とその理解に必要な概念に触れます
7	From Poverty To Dignity Module3: Understanding Development	ファシリテーション実践 ／開発・発展とは何かについて考えます
8	From Poverty To Dignity Module-Human Rights Based Approaches- Module4: Links to Human Rights Standards	ファシリテーション実践 ／人権関連の国際合意について理解します
9	From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches- Module6: Accountability & Redress	ファシリテーション実践 ／Accountability と刷新のための現代的なキーワード「暴力」「同意」他について考えます
10	From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches- Module7: Non-discrimination &Attention to Vulnerable Group	ファシリテーション実践 ／脆弱性の理解に必要なパワーとエンパワーメント,Intersctionality,などについても考えます
11	From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches- Module8: Participation	ファシリテーション実践 ／参加、Citizenship、Advocacy等について考えます
12	From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches- Module9: empowerment	ファシリテーション実践 ／empowermentについて考えます
13	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ①	市民社会を活性化するために必要な知識・スキル・姿勢と参加を阻害する要因について考えます

14	Conflict Management/Resolution in Japanese Context	日本における参加を阻害する文化価値観を超えるため変化の要因やアドボカシーについて考えます

②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ／パートナーとの発表の準備が必要となります。

国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】

The Sphere Handbook

Sphere-Handbook-2018-EN.pdf

(参考) Sphere-Handbook-2018-Japanese.pdf

<https://wunrn.com/2009/01/poverty-to-dignity-learning-manual-on-human-rights-based-development/>

Microaggressions in Everyday Life /

Derald Wing Sue, Lisa Beth Spanierman

Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)

Participation Handbook for Humanitarian Field Workers;

[http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/](http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf)

ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf

『2030 年未来への選択』（西川潤）

『ワールドスタディーズ教え方学び方ハンドブック』『参加型で考

える12のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）

『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、各回授業のふりかえりシート 50 %

翻訳課題、発表、成果（対面授業の場合模造紙作業、オンラインの場合の記録など） 25 %

最終レポート 25 %

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じる時もあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いつける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。

【その他の重要事項】

国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準には人権感覚の基本とも言える考え方と現実の対応が示されています。慣れないコンセプトもあるかもしれませんが、身近なコミュニティでも、国際的な合意の文脈を理解する為にも必要かつ応用可能なものとして学んでいきましょう。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。全体に分担したテキストのプレゼンテーションやフィードバックなど授業への関与を重視します。授業の進行によって分担の発表日を変更することもあります。

なお、担当教員は人道支援団体、参加型人権教育ファシリテーター、複数の自治体の男女共同参画センターを経て、現在スフィアトレーナーとして、また大阪西成区釜ヶ崎の支援団体の職員として活動するものです。様々な課題を抱える現場に共通して求められる「人権」「人権尊重」の実践力につながる学びについて取り組んでいます。

【Outline (in English)】

The objective of this class would be getting the Basic Concepts for understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach for Social Justice with International Standard, Agreements and Methods.

Students are expected to

read the materials/assignments to translate/summary/analyze/apply into your own situation.

Main text would be the Sphere Standards- Chapter of WHAT'S SPHERE & CORE HUMANITARIAN STANDARD, and FROM POVERTY TO DIGNITY, as a training manual. Students are required to read the distribution documents in the classroom, and prepare the group facilitation.

Grading Criteria:

Participation in class, the feedback sheet for each class 50%

Assigned Translation & Group Presentation/Facilitation 25%

Final Report 25%

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

生涯発達心理学

廣川 進

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は誕生から死に至るまで生涯にわたり、どのように発達し変化するのか、それぞれの発達段階に沿っての発達課題とその発達特性を心理学的な視点から研究する。またキャリア発達の観点から、生涯を通してどのように変化し発達するかについても研究する。学生自身が自己、家族、他者との関係を発達の軸から振り返り、課題を明らかにすることでさらなる成長発達をすることができる。

【到達目標】

学生がその青年期から死にいたるまでの生涯発達、その特性を深く理解し、自分の今後のライフキャリアを展望するための気づきを得ることができる。
生涯発達心理学で使われるキーワードとその概念、具体例についての知識理解ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期と秋学期の通年を通して、人間発達の道筋とそれぞれの発達ステージにおける発達特性と発達課題について理解する。
毎回、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発達段階と発達課題について考える	各発達段階の発達特性とその発達課題について概論的に学ぶ
第2回	遺伝と環境	人間の発達を左右する遺伝的な要因と環境的な要因について学ぶ
第3回	新生児・乳児期	誕生から約1歳半までの乳幼児の発達特性について学ぶ
第4回	幼児期	2歳から5歳の子どもの発達特性について学ぶ
第5回	児童期	小学生の発達特性について学ぶ
第6回	アイデンティティとは	エリクソンのライフサイクル（心理社会的発達）理論やモラトリアムについて、具体例とともに学ぶ
第7回	思春期・青年期の課題	フロイトの精神分析、心の構造論、フロイトの分離個体化などを学ぶ
第8回	中年期危機と発達課題	小説『最後の家族』（村上龍）から中年危機が家族全員にあたえる影響、崩壊から再生について考える
第9回	男性の発達、父性の観点	「スターウォーズ」「エヴァンゲリオン」「鬼滅の刃」から父性について考える
第10回	女性の発達、母性の観点	アイデンティティの2つの軸、個としての達成／関係性における他者のケア、自己実現の援助を学ぶ

第11回	「語り」と発達	自己の人生を語る「自己物語」がアイデンティティをつくり、傷つきからの回復を支えることを事例から学ぶ
第12回	中年、老年期の発達とキャリア発達 生涯キャリア発達	中年期のキャリアの転機、危機、役職定年、定年と生涯キャリアについて考える
第13回	老年期の発達課題	「老年的超越」について学ぶ
第14回	ストレスマネジメント	発達段階ごとの課題とストレスを理解し、適切に対処する方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連図書の予習、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。参考文献はその都度紹介します。

【参考書】

・発達心理学入門Ⅰ（乳児・幼児・児童）無藤隆編 東京大学出版会
・発達心理学入門Ⅱ（青年・成人・老人）無藤隆編 東京大学出版会
・アニメに学ぶ心理学「千と千尋の神隠し」を読む（愛甲修子）言視舎
・父滅の刃 消えた父親はどこへ アニメ・映画の心理分析（樺沢紫苑）みらいパブリッシング
・エヴァンゲリオン心理学（樺沢紫苑）
・〈ほんとうの自分〉のつくり方（榎本博明）講談社現代新書
・私とは何か 個人から分人へ（平野啓一郎）講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

毎回の感想レポート（60％）

期末レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】

臨床的な具体例の紹介や映画、ドラマ、物語などを適宜使って、生涯発達心理学の概念が理解しやすくなるように工夫する

【学生が準備すべき機器他】

オンライン利用の場合は、ZOOM形式の授業を受講できる環境、端末

【Outline (in English)】

This course will study how humans develop and change over the course of their lives, from birth to death, and the developmental tasks and characteristics of each stage of development from a psychological perspective. It will also study how people change and develop throughout their lives from the perspective of career development. Students will be able to reflect on their own, family and other relationships from a developmental perspective, identify issues and achieve further growth and development.

Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）		
キャリアカウンセリングⅠ 展開科目		
廣川 進		
単位数：2単位 開講セメスター：春学期授業/Spring 曜日・時限：月2/Mon.2 配当年次：2～4年 備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞ 授業コード：C5040 科目名：キャリアカウンセリングⅠ ＜2024年度以前入学者＞ 授業コード：C5040 科目名：キャリアカウンセリングⅠ ※入学年度によらず同一授業コード・科目名称 その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 キャリアカウンセリングはキャリア開発、キャリア形成において、問題を抱える人達を支援する大切なカウンセリングです。キャリアカウンセリングは、カウンセリングの中でも、「育てる、開発するカウンセリング」として位置づけられます。キャリア教育の中での生徒、学生達の相談、未就業者の相談、再就職の支援、組織・企業内でのキャリア形成の相談など、多様な場面で求められている大切なカウンセリングです。この授業を受講することによって、学生はまず、キャリアカウンセリングとは何かを理解し、そのためには、どのような支援を行うか、キャリアカウンセリングの進めかたの具体的なステップ、傾聴技法などについて理解することを授業の到達目標とします。		
【到達目標】 学生はキャリアカウンセリングとは何かを理解し、その歴史、キャリアの理論、キャリアカウンセリングの担当者に求められる要件などに対する理解ができるようになることを達成目標とする。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連		
【授業の進め方と方法】 授業は基本的に教室でリアル対面で行います。 毎回、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。 キャリアに関する問題解決を効果的に支援するためには、その背景となるキャリア理論、カウンセリング理論などを理解した上で、相談者のキャリア開発やキャリア形成の支援のために情報提供、助言指導などが必要になります。相談者がどのようなキャリア上の問題を抱えているのか、傾聴しながら、相談者を理解し、支援することが欠かせません。そのためには、キャリアカウンセリングは、具体的にどのように展開をしたらよいのか、そのステップはどのような過程をたどるのか、事例を取り上げて研究し、具体的な支援の方法を理解します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス キャリアと転職	コロナ禍という変化の時代において、キャリア発達とは何か、キャリア支援とは何か、キャリアサポートはなぜ必要なのかについて学ぶ
第2回	今なぜ、キャリアカウンセリングか	ワークシートに記入しながら見つけた自分のキーワードを仕事につなぐ考え方を取り入れる
第3回	キャリア理論1	パーソンズとスーパーの紹介
第4回	キャリア理論2	ホランド、ブリッジス、ハンセン、シュロスバークの紹介
第5回	来談者中心療法	ロジャースの来談者中心療法、傾聴、受容共感、無条件の肯定的配慮などについて
第6回	キャリア理論3	クランボルトの紹介、危機・転機、変化対応力について
第7回	キャリアカウンセリングのプロセス	キャリアカウンセリングのプロセスを逐語録により具体的に検討する
第8回	ゲスト講師	ハローワークでの経験からの事例紹介
第9回	自律型キャリア、嫌われる勇気、同調圧力	日本において自律型キャリアを根付かせていくために必要なマインドとスキルと行動について考える
第10回	キャリア理論4	サビカスのナラティブ・アプローチの紹介
第11回	ソーシャル・ジャスティスとキャリア	社会的公平さの視点とキャリアカウンセリングについて
第12回	ゲスト講師	大学のキャリアセンターの事例紹介
第13回	キャリア転機とストレスマネジメント	転機にはストレスが掛かりやすいのでうまく対処する方法を解説する
第14回	まとめ	期末レポートの課題のポイントの説明
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 参考文献を紹介する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 教科書は使用しません。		
【参考書】 宮城まり子著「心理学を学ぶ人のためのキャリアデザイン」2007、東京図書 木村周著「キャリアカウンセリング」1997、雇用問題研究会 平野光俊「キャリア・ディベロップメント」1994、文真堂		
【成績評価の方法と基準】 毎回のレポート（60％） 期末レポート（40％）		
【学生の意見等からの気づき】 授業の展開、スピードを学生理解に合わせて調整する。 前回のコメントシートに書かれた学生からの感想や質問を授業の冒頭に紹介しながら、双方向型の授業を心がける。		
【学生が準備すべき機器他】 オンライン利用の場合はZOOMが利用できる環境と端末		
【その他の重要事項】 なし		
【Outline (in English)】 After taking this course, you will be able to understand career counseling and development theories,including the following: ・interrelationships among and between work, family, and other life roles and factors, ・career counseling processes, techniques, and resources ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. ・ Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books. ・ Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).		

EDU200MA (教育学 / Education 200)

臨床教育学

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生の初期の大部分を学校で過ごす、という現代社会を生きる以上、キャリア形成に対する学校生活の影響力は非常に大きい。学校教育の意味と課題もそこには含まれている。そこで本授業では、本講義は「学校に行くこと／行かないこと」がキャリア形成に及ぼす影響を、一般論だけではなく、個々の生徒一人ひとりの具体的なエピソードを分析するなかで考える。また、教育を「学問」として探求するための手法として、データをつなぎ合わせ、教育問題が具体的に人間のキャリア形成に及ぼす影響について考えることを目指す。

【到達目標】

学校生活のキャリア形成に関する文科省、厚労省の示すデータを読み取れるようになることを目指す。

それらのデータが学術的な先行研究においてどのように位置づいているのかを理解すると共に、諸外国や日本国内の学校状況に関する知識を習得する。

実際の学校生活に関する事例を読み、自分の意見を表現できるようになることを目指す。

以上の目標を実現することで、学校教育および学校生活がキャリア形成においてどのような影響を与えているのかを多様な観点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義科目であり、オンラインと対面との組み合わせで進める。オンラインでは、知識習得を目的とし、映像学習に加えて自身の調べ学習が含まれる。

対面時は、毎回グループワークがある。グループワークに参加することを単位履修の必須要件とする。またグループワークのために事前に課題を課すことがある。

オンラインと対面にかかわらず、毎回授業後に提出課題がある。課題等については、授業内で一部の意見を取り上げて紹介するほか、寄せられた質問やコメントについては授業資料に回答を明記して配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 授業実施の方法	授業の概要と進め方についての説明 「学校の機能」に関する検討
2	学校内の人間関係 (事例検討)	共通の場所にいるように見えて学校という空間およびその人間関係の見え方は立場によって大きな違いがある。映像資料をもとに立場ごとに学校経験にどのような違いがあるのかを考える。
3	若者の人間関係形成の力学とその変化 (講義)	「スクールカースト」「キャラ化」などの「若者論」の展開について学び、世代ごとの「若者」がその後どのようなキャリアに向かっていくのかを歴史的に追っていく。

4	教室空間と感覚過敏 (事例検討)	不登校の原因の一つとして、視線恐怖などの社交不安障害や、感覚過敏などの発達障害がある。当事者の空間感覚を映像や文章から読み取る。
5	認知特性と空間環境 が不登校等の学校適 応に及ぼす影響（講 義）	認知特性の構造や影響を理解し、学校適応の条件を捉える。また、不登校に関する近年の傾向をデータから読み取る。
6	ヤング・ケアラー (事例検討)	経済的な貧困に加え家族のケアを子どもながら担う人はどのような人生観を抱くのかをインタビューデータから読み取る。
7	貧困と社会関係資本 (講義科目)	家計が学力に与える影響と、その後のキャリアに与える影響とを、様々なデータから読み取る。
8	過保護がキャリアに 与える影響（事例検 討）	過保護な環境で育つことの功罪についてインタビュー調査から読み取る。
9	文化資本と教育虐待 (講義)	教育に正の影響を与えるとみなされやすい文化資本の高さがキャリアに与える影響と教育虐待との関係についてデータから読み取る。
10	受験がキャリアに及 ぼす影響（事例検討）	思春期に大きな影響を及ぼす「受験」に関する事例を検討する。
11	地方・複線系学校シ ステム・カリキュラ ム（講義）	都市部と地方における受験の違いや、進学校と進路多様校のカリキュラムの違いから、受験がキャリアに与える影響を捉える。
12	学歴がキャリアに及 ぼす影響（事例検討）	学歴に翻弄された人生の事例を検討する
13	日本と海外における 学歴の意味の違い (講義)	学歴がキャリアに与える影響を国際比較して捉える。
14	総括・ふりかえり	本講義全体を通して学校がキャリアに与える影響を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークで読む事例は事前に課題とともに指示しますので、必ず予習をして臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

特にありません。必要に応じて講義内で配布します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の事後課題39%、対面授業におけるグループワークの成果18%、期末テスト43%

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク時には学生間の意見交換が深まるようにプログラムを組みます。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業時は、パソコン（タブレット可）を持参してください。大学のGoogleアカウントにサインインできるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

受講生の興味関心に応じて授業のテーマは変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

Course outline : As we spend most of our early life at school, the influence of school life on our career development is very great. The significance and problems of school education are included therein. Therefore, in this class, in this classes we think about the influence of "going to school /not going" on career formation not only in the general theory but also in analyzing each concrete episode of each individual student. As a method to explore education as "academics", we aim to think about the influence of educational problems on human career formation concretely by joining data.

Learning Objectives : Students are required to get skill to read the culture, sports, science and technology data regarding career development in school life. presented by the Ministry of Education and the Ministry of Health, Labor, and Welfare. They are also required to understand how these data are positioned in academic precedent research and to acquire knowledge about school conditions in other countries and Japan. These requires are for students to be able to express their own opinions by reading case studies related to actual school life. By realizing the above goals, we aim to understand from various perspectives how school education and school life affect career development.

Learning activities outside of classroom :

You will be instructed in advance about the examples to be read in the group work along with the assignments, so please be sure to prepare for the lessons. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy :

Group work results in class: 36%, post-work assignments: 26%, final exam: 48%.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

キャリア教育

児美川 孝一郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本におけるキャリア教育の現状と課題

【到達目標】

- ① キャリア教育とはなにか、その教育方法はいかにあるべきか、なぜキャリア教育が必要なのか等について、基本的な概念や考え方を理解する。
- ② 日本におけるキャリア教育の登場と展開の経緯について、基本的な事実、データ、社会的背景等を知るとともに、現状における問題点や課題を適切に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

※ 2021年度の本授業は、学習支援システムを活用した資料配信を軸にしながら、Zoomによるリアルタイム・オンライン授業を補助的に組み合わせて実施する。

講義形式の授業であるが、可能な範囲で、受講者からの質疑や意見を求めたり、小課題の提出を求めたりする。

諸外国におけるキャリア教育の展開について、比較研究的な視点を持つことは重要であるが、本授業の対象は、主要には日本の学校教育におけるキャリア教育である。諸外国の事例については、日本との対比において参考になる点を示唆するととどめる。

本授業の守備範囲は、日本におけるキャリア教育の歴史、理論、政策、学校レベルにおける施策である。

提出されたリアクションペーパーや課題等へのフィードバックは、今回の授業の最初にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画について概説するとともに、基本概念である「キャリア教育」について、本講義における共通理解の前提を確かめる。
2	職業教育からキャリア教育へ	内外のキャリア教育の成立史を概説し、職業教育とキャリア教育との異動について解説する。
3	権利としてのキャリア教育	いま、なぜキャリア教育が必要なのかという点とかかわって、権利としてのキャリア教育について解説する。
4	日本における職業指導と進路指導	戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史について概説し、それぞれの時期における特徴や問題点について考察する。
5	進路指導改革としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のひととして、1990年代前半の進路指導改革の動きについて概説する。
6	若年就労支援策としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のもうひとつとして、政府レベルでの若年就労支援策の展開について概説する。

7	日本のキャリア教育の現状と課題	キャリア教育の登場以降の学校現場における取り組みを概観し、その特徴と問題点について考察する。
8	職場体験・インターンシップ	キャリア教育への取り組みとしての職場体験・インターンシップについて、現状と課題を考察する。
9	進路指導としてのキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての進路指導について、現状と課題を考察する。
10	教科教育を通じたキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての教科を通じたキャリア教育について、現状と課題を考察する。
11	キャリア教育を志向した教育課程づくり	キャリア教育を志向した教育課程づくりについて、学校の事例等も示しつつ、考察する。
12	キャリア教育の担い手と組織体制	キャリア教育の担い手と学校内の組織体制のあり方について、現状と課題を考察する。
13	外部との連携	キャリア教育をすすめていくうえで不可欠な外部との連携について、いくつかの事例を踏まえて、考察する。
14	これからのキャリア教育	諸外国におけるキャリア教育への取り組みを紹介しつつ、日本のキャリア教育の現時点での到達点を確認し、今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業内容については、前回授業時に予告されるので、自分なりの問題関心を深め、事前に資料・データ等を調べたうえで、授業にのぞむこと。

それぞれの授業時に紹介される参考文献については、自主的に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店

児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』日本図書センター

児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書

児美川孝一郎『夢があふれる社会に未来はあるか』ベスト新書

児美川孝一郎『キャリア教育がわかる』誠信書房

授業時にも、随時、紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）

レポート提出（60％）

【学生の意見等からの気づき】

受講者に対するフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】

この授業は、情報の読解・分析力、課題発見・解決力の養成につながる諸課題を、授業運営の中に組み込んでおり、広い意味での受講生の就業力育成に資する。

【Outline (in English)】

This course introduces the current condition and issues of career education in Japan.

The goal of this course is to understand the theory and practice of career education.

Students will be expected to work on the indicated task after each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (40%) and term-end report (60%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

メディアリテラシーA

村上 郷子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、ユネスコの「メディア情報リテラシー」のカリキュラムに基づく理論的枠組みを学び、その背景にあるシティズンシップやデジタル・シティズンシップなどの概念を理化する。その方法論として、広告や新聞、SNSなどのメディア分析を行う。具体的には、授業前半で、メディア情報リテラシー教育の重要な概念（シチズンシップ、デジタル・シティズンシップ、リプレゼンテーションなど）に関する理論的背景を学ぶ。授業後半では、グループで特定テーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでグループのプレゼンを行うことにより、メディア情報リテラシーの知識やスキルを包括的に習得する。

【到達目標】

多様なメディアの分析を通じて、メディア情報リテラシー教育における4つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につけることができる。

グループ活動では、プレゼン資料やおしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

シティズンシップ、メディア倫理、メディア・情報のリプレゼンテーションなど、メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景を、演習を通じて学ぶ。授業の後半では、グループでテーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでプレゼンテーションを行う。なお、グループとテーマについては、履修者が確定した時点でアンケート調査・調整を行い、決定する。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、私のメディア史
2	メディア情報リテラシー（MIL）研究の理論的枠組み	メディア情報リテラシー教育（MILE）の基本概念と分析モデル
3	MILEとシティズンシップ①	メディアとシティズンシップに関する歴史的、文化的、社会的、政治的論点と課題
4	MILEとシティズンシップ②	グローバルシティズンシップにおけるデジタル・シティズンシップとMIL
5	世界のMIL	ヨーロッパ、とくにイギリス及び北米（アメリカ・カナダ）のMILの現状

6	日本のMIL	日本におけるMILの歴史、現状と課題について
7	メディア・情報のリプレゼンテーション①	ニュース報道とイメージの力（ジェンダー視点から見たビジュアルの力）、特に広告の分析
8	メディア・情報のリプレゼンテーション②（中間報告の提出）	多様性とリプレゼンテーションにおけるメディア・コード、特に新聞コンテンツの分析
9	課題 グループ活動①	グループごとに、各自がテーマについてメディア別に分析した内容をつきあわせる作業を行う。
10	グループ活動②	グループごとに多様性、シティズンシップ、プロパガンダについて、ディベートの内容を整理し、パワポにおおざっぱにまとめる。
11	グループ活動③	グループごとに、プレゼンテーションに関する最終打ち合わせをする。プレゼン資料、おしゃべり原稿の確認など。
12	研究発表① 多様性	平等・公正・正義に関するテーマのメディア分析 グループ発表(1)、全体討論、振り返り
13	研究発表② 若者とシチズンシップ	若者とシティズンシップに関するテーマのメディア分析 グループ発表(2)、全体討論、振り返り
14	研究発表③ プロパガンダ	プロパガンダに関するテーマのメディア分析 グループ発表(3)、全体討論、振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

状況によって、グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。授業のレジメ、参考文献等は、その都度授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人の課題（分析）や中間報告などの提出物（30%）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業の出席・参加貢献度（20%）、個人レポート（50%）によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ学習でのコミュニケーションツールとして、Hoppiiのグループウェアを用意したが、気軽には使えないとのこと。簡単なコミュニケーションには、LINEの活用も推奨する。

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコンスキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

本授業を受講する際は、「メディア教育論Ⅱ（メディアと教育Ⅱ）」をセットで履修することが望ましい。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室Hを使用している。定員は26名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生でなおかつ出席が8割以上できる学生から受講者を確定する。出席8割が難しい学生や下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業2回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline (in English)】

(Course outline) : In class, we will study the theoretical framework based on the UNESCO “Media and Information Literacy” curriculum, and understand the concepts of citizenship and digital citizenship that lie behind it. As a methodology, we will analyze media such as advertisements, newspapers, and social networking services. Specifically, in the first half of the class, we will learn the theoretical background of important concepts in media and information literacy education (such as citizenship, digital citizenship, and representation). In the second half of the class, we will acquire comprehensive knowledge and skills in media and information literacy by analyzing media related to a specific theme in groups and presenting the results of our group debates.

(Learning Objectives) : Through analysis of diverse media, students can develop the following four competencies of media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.

(Learning activities outside of classroom) : Students should be aware that group activities outside of class may be required depending on the situation. Active participation in class and group activities is expected.

(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be based on individual assignment (analysis) (30%), group work and presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class attendance and participation contribution (20%), and individual reports (50%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

市民社会における学びと実践

池田 佳代

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火2/Tue.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の社会的事業（社会課題を積極的に解決しようとする取り組み）の担い手は、行政・企業そして市民という3つのセクターに分類でき、各セクターは単独で事業を行うだけでなく、協働・助成・委託といった枠組みによってつながり合うことで、より丁寧に社会のニーズに応えようとする実態がある。それは市民的権利に基づく相互扶助の実践であり、共生社会の実現を目指す営みでもある。そこで本授業では環境・平和・地域福祉の分野で活動する市民セクターの実践に基づきその意義や可能性について検討する。

関連するキーワード：コミュニティ、社会運動、非営利活動、市民社会

【到達目標】

1, 「働くこと」や市民セクターにかかわる用語の意味や概念、活動形態や内容・メンバーシップ・社会問題への取り組みについて理解する。それにより多様なアクター・組織・イデオロギーのもとで社会が動いていることを洞察する力を育む。

2, 与えられた情報をもとに調べ・話し合い・発表し合うことにより学びを発展させる力（アカデミック・スキル）をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

レジメや映像資料等を示しながら講義を行うほかグループワーク等の主体的な学びの方法（アクティブ・ラーニング）を取り入れる。学生はそれらの成果物としてレポートや発表資料を提出する。フィードバックは主に授業の中で講評及び包括的なコメントを述べるなどして行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ～働くとは	1, 授業計画 2, 「働くこと」に関わる言葉の意味や概念から考える
第2回	市民セクターの種類・ 制度・活動形態～	1, 自主事業・行政や企業との協働・助成・委託など多様な実践から考える 2, グループワークの進め方／アイスブレイク
第3回	環境分野の市民セクター（1）	未来へのアジェンダ～地域NPOが担う環境行政関連事業＜国内事例＞
第4回	環境分野の市民セクター（2）	大学生が始めた炭炭素運動／鉱山開発による生活の破壊をデータで指摘する＜国際環境NGOの事例＞
第5回	環境分野の市民セクター（3）	気候問題とSDGs～スタートアップ企業が取り組むグローバルな人権問題
第6回	ワークショップ	気候正義に向けて私たちにできること～討論及び発表
第7回	平和分野の市民セクター（1）	米軍基地と住民そして日本政府～生活者の視点が果たす平和を維持する重要な役割

第8回	平和分野の市民セクター（2）	核兵器禁止条約と地域安全保障の枠組み～NGOの国際的な連携が生み出した変化
第9回	平和分野の市民セクター（3）	遠い話ではなかったパレスチナ問題～紛争地域で／と働く人びと＜日本企業・NGO・住民＞
第10回	ワークショップ	平和な未来をどう創る？ 市民セクターの課題と可能性：討論及び発表
第11回	地域福祉分野の市民セクター（1）	移住労働者の権利を意識し始めた日本企業～労働者の権利を守る条約（ILO）から考える
第12回	地域福祉分野の市民セクター（2）	住まいがない！～不動産業界とNPOの協働による居住支援活動
第13回	地域福祉分野の市民セクター（3）	ワークショップ：子どもの話を聴く活動～子どもの権利どう守る？
第14回	グループワーク（最終）	地域福祉分野の市民セクター調べ（自主・助成・委託・連携・協業の実践）に関する討論及び発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間には各2時間を標準とします。文献を読む、調べる、レポートを書くなど個人及びグループでの学習活動を要します。

【テキスト（教科書）】

本科目全体を網羅した教科書はないが、参考書欄に示した文献を使用する各回の内容に合わせて使用する予定である。必要に応じてプリント資料も配布する。

【参考書】

1, アクティブラーニングについて：ハード・ガブリエレ著 2016年『環境メディア・リテラシー—持続可能な社会に向かって』関西学院大学出版会（授業では特にp.48-70を参照します）

2, 環境分野：平田仁子/豊田陽介/ギャッチ・エバン/三谷優衣子著

2023年『気候変動を学ぼう—変化の担い手になるために』合同出版

3, 平和分野：サラ・ロイ著/岡真理・小田切拓・早尾貴紀編訳 2004年『なぜガザなのか—パレスチナの分断、孤立化、反開発』

4, 地域福祉分野：川崎あや著 2020年『NPOは何を変えてきたか—市民社会への道のり』有信堂

ほか授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と運営への貢献、レポート等の提出：70％
最終レポート：30％

【学生の意見等からの気づき】

「働くことの意味について、言葉を理解するワークを通じてより深く理解することができた」「スタートアップ企業の中に環境や人権に注目している事例が増えていると知って自分の将来をより幅広く展望することにつながった」などの意見がありました。グループワークを取り入れたことにより、自分一人の調査ではたどり着けなかった情報を得ること、話し合いを通じてさまざまな視点や意見に接することにより理解力が増したというコメントがありました。必要に応じてゲスト講師を招くなどして市民社会の実際に触れながら学ぶことを重視して授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】

授業計画等の変更等に関する連絡は授業中もしくは学習支援システムの「お知らせ」から行いますが、それ以外の重要な内容は授業中に告知します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class will focus on the civil society sector, which is active in community welfare, the environment, and peace-building. Learn how the three sectors of government, business and citizens complement each other in order to meet the needs of society. Furthermore, understand that these activities lead to mutual assistance and joint growth in civil society.

(Goal)

1. Understanding of the meaning of terms, and develop the ability to gain insight into how society operates under the influence of diverse actors, organizations, and ideologies.

2. Students develop their learning ability (academic skills) by investigating, discussing and presenting based on the information provided.

(Learning activities outside of classroom)

Lecture :Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than two hours to understand the course content or to read, research, write.

(Grading Criteria /Policy)

Active participation and contribution, submission of reports:
70%

Final Report: 30%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

ダイバーシティと学校

松尾 知明

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ダイバーシティと学校をテーマに、児童生徒の多様なニーズに対応して、学校ではさまざまな特色ある学びの経験が提供されていることについて考察する。前半では、自分自身の学校での学びの体験を振り返るとともに、他の受講生の体験と比較することを通して、学校での学びの経験は人それぞれに異なっていることを知る。後半は、自らの学校経験を踏まえ、国内外のさまざまな特色ある学校について学びながら、自分にとっての理想の学校の企画書を作成する。

【到達目標】

- ・自分自身の学校体験を振り返り、他者の体験と比較することで、学校での学びの経験は人それぞれに異なっていることに気づくことができる。
- ・自分自身の学校体験を踏まえ、多様な特色ある学校のビジョンや特徴を学ぶとともに、自分にとっての理想の学校の企画書を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、グループワークを中心に進めていく。グループで、課題を発表し合ったり、文献や動画をもとに意見交換をしたりする。また、自分自身の学校体験についてのスライド、理想の学校についての企画書を作成し、発表する。なお、対面で授業を実施し、授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。また、学習支援システムを活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	学びとは何か	学びの場としての学校
3	ライフコースと学校	就学前の学校・施設での学びとは
4	ライフコースと学校	小学校での学びとは
5	ライフコースと学校	中学校での学びとは
6	ライフコースと学校	高等学校での学びとは
7	学校と私	学びの履歴
8	理想の学校を構想する	枠組みと構想
9	特別なニーズと学校	多様なニーズと夜間学校
10	特別なニーズと学校	グローバル化と学校
11	特別なニーズと学校	不登校とフリースクール
12	特別なニーズと学校	問題行動と学校
13	理想の学校を提案する	発表と質疑
14	授業のまとめ	授業の振り返りとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。また、テーマについて調べ、課題に答えたり、パワーポイントスライドを作成したりする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

文献、資料などは指定または配布する。

【参考書】

文部科学省「学習指導要領」。

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加の姿勢（30％）、課題（50％）、テスト（20％）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの問いや進め方について工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This lesson examines the theme of diversity and schools and how schools offer a variety of distinctive learning experiences in response to the diverse needs of pupils. In the first half of the course, students will reflect on their own school learning experiences and, through comparison with the experiences of other students in the course, learn that school learning is different for everyone. In the second half, the students learn about various distinctive schools at home and abroad, drawing on their own school experiences, and prepare a proposal for an ideal school for themselves.

【到達目標（Learning Objectives）】

- By reflecting on their own school experiences and comparing them with the experiences of others, they are able to realise that learning in schools is different for everyone.
- Based on their own school experiences, they can effectively prepare an ideal school proposal for themselves, referring to the visions and characteristics of a diverse range of distinctive schools.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to read materials, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation. The standard preparation and review time is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be decided based on in class contribution (30%), assignments and presentations (50%) and term-end examination (20%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

教育社会学【2025年度以降入学者用】

筒井 美紀

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5057
科目名：教育社会学
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7197
科目名：教育社会学Ⅰ
※入学年度により授業コード・科目名が異なります
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校教育は社会のなかでどのような機能を果たしてきたのでしょうか。「社会で求められる態度や価値観を生徒に伝えてきた」「社会の高度化にともない、それに必要な能力とスキルを生徒に教えてきた」。このようなありきたりの見方こそ、学校教育が教え込んできたのです。しかし、学校教育は決して価値中立的ではありません。だから学校教育を裏返してよく見てみる必要があります。この相対化こそ、AIに使われるだけの人間にならないためのトレーニングです。一緒に「教育社会学」しましょう。

【到達目標】

・「教育のべき論」に飛びつかない——社会的現実を質的／量的データで捉える「ディテール力」の基礎を磨きます。
・「社会」のパーツを掘り下げる——「社会」という"big word"だけで考えていても理解は深まらない。家族、友人関係、バイト先、大学、将来の職場・職業・産業、家族・世帯・地域、AI化・・・社会的な知識と理解を徐々に習得し、教育と結びつけて考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

第1,8,14回をのぞき、対面授業を行ないます。

この授業は反転授業方式です。指定テキストを読み、この予習レジュメのQuestionを毎回こなして「授業に参加」のこと。授業は、指定テキストに書かれていることをなぞるのではなく、それを発展させ深めます。授業で提出されるリアクションペーパーについては、その次の回の冒頭でいくつか取り上げてリプライをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「森全体」を見渡す
第2回	中学校長「二人以上産む 最も大切」—どう思う？	社会科学の表現作法（テキスト第1章）、学校の諸機能
第3回	愛嬌たっぷり先生ロボットは有能か？	社会化とAIのインパクト（テキスト第6章）
第4回	大人が言う「失敗を恐れるな」を信じられる？	社会化、自己愛、ゆるし（テキスト第3章）
第5回	どうしても働かないきゃダメ？	社会統制と「労働の道徳化」（テキスト第5章）
第6回	大学と大学生、どのように増えてきた？	グラフの作成・記述・考察
第7回	大学と大学生、なぜこんなに増えてきた？	機能主義、アクター理論

第8回	男女別学高校、なぜ・どのように減ってきた？	第6,7回で得たスキルと知識の応用エクササイズ
第9回	経済と労働と教育、どう変わってきた？	近過去に関する基礎知識習得（テキスト第1,4章）
第10回	大学生の進路、なぜ・どのように変わってきた？	「能力」の構築主義的理解
第11回	やっぱり男性のほうが女性より仕事ができる？	統計的差別、ジェンダー化された能力、葛藤理論
第12回	給料2割減、週20時間労働を選ぶ？	ライフコース展望の男女差とその変化（テキスト第4章）
第13回	扶けてくれる人はどこにいる？	社会関係資本の脆弱化・偏在と包括支援政策（テキスト第7章）
第14回	まとめ	基礎概念の再確認、期末試験に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私の授業は反転授業方式です。予習レジュメのQuestionををこなして授業参加のこと。本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀（2016）『自分の殻を突き破るキャリアデザイン——就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【参考書】

筒井美紀（2014）『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマニスト社

【成績評価の方法と基準】

中間レポートが30％、期末試験が70％

【学生の意見等からの気づき】

みなさん、授業を一緒に楽しみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレットを持ってきてください。授業のプリント等上での配布はしません(すべてオンラインで掲載)。グラフ作成なども授業中にやります。

【Outline (in English)】

What role has school education played in society? "Schools have taught students the attitudes and values that society expects," "As society becomes more advanced, schools have taught students the abilities and skills that are necessary." These are the commonplace views that school education has instilled in you. However, school education is by no means value-neutral. That's why we need to look at school education from the inside out. This relativization is the very training that will keep you from becoming someone who is merely used by AI. Let's do "the sociology of education" together. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your total study time will be four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term paper 30%and final exam 70%.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

教育経済学

展開科目

荒木 宏子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済学の基礎的な考え方や分析手法を用いて、教育に係る諸問題、とりわけ、皆さんにとって身近な学校や大学での教育の役割や効果について考察を深めることを目的とします。皆さんはなぜ大学へ進学したのでしょうか？なぜ政府は学校や教育政策を運営し、皆さんの学費補助に税金を用いるのでしょうか？皆さん自身や、さらに次の世代の学びに係るこれらの問いに対し、論理的な考察を深めるための道具として、経済学の基礎的な概念や手法を学びましょう。

【到達目標】

本講義の主な到達目標は2つあります。ひとつは、皆さんにとって身近な学校教育や大学教育に係る諸問題に対する考察を深めることで、自分の大学生活をとらえなおすきっかけを得ること。もうひとつは、経済学的なものの見方や分析方法を身につけ、教育を含めた社会問題を論理的に考察し、分析を読み解き、選択する力を身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

座学（インプット）に限らず、皆さんからのコメント発表などを、受講人数に応じて取り入れます。座学形式の講義の回も、演習問題やリアクションペーパーなどの課題があります。講義への積極的な参加が求められることを念頭に、履修を決断してください。また、講義期間における、新型コロナウイルス感染症にかかる様々な状況等を踏まえ、オンラインでの講義実施（講義時間リアルタイムでのzoom配信など）が行われる可能性があります。講義形式については、都度、学習支援システムや講義内にてご説明をします。課題等に対するフィードバック方法：受講人数にもよりますが、レポート等の課題の回収やフィードバックは、講義時間に教室で直接行うほか、学習支援システムを通じて行う場合もあります。受講人数が多くなった場合などには、希望に応じて、オフィス・アワーを設けるなどして、適宜、課題等に関する講評や解説をまとめて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「経済学」を用いて教育を捉えるとは。本講義全般のテーマや問題意識の紹介。受講希望理由書の提出。
第2回	教育投資の基礎理論（1）	なぜ人は教育を受けるのか？なぜあなたは大学へ進学したのか？教育の効果、需要の目的を経済学的に考える（「消費」と「投資」）。人的資本理論の紹介。
第3回	教育投資の基礎理論（2）	人的資本理論をベースに教育があなたや社会にもたらす効果を考える。教育投資の収益率の計測方法を学ぶ。
第4回	教育投資の基礎理論（3）	学歴による賃金格差を説明するその他の理論・考え方の紹介。
第5回	教育投資の基礎理論（4）	教育投資の基礎理論のまとめ。講義内レポートについての説明。

第6回	教育の効果に係る経済学的実証分析	世界・国内における教育経済学実証研究の系譜と紹介。
第7回	教育政策の経済学的評価（1）	二つの評価基準：効率性と公平性。教育効果を定量的に「測る」という考え方。教育生産関数。
第8回	教育政策の経済学的評価（2）	教育生産関数。政策評価手法の基礎、相関分析の紹介。
第9回	教育政策の経済学的評価（3）	教育の効果、学力の伸びをどのように測るのか？実験的手法等の紹介。
第10回	教育政策の経済学的評価（4）	日本、世界における教育経済学実証研究における政策評価手法。費用対効果分析の基本的な考え方。
第11回	教育政策の選択	これまで学んだ経済学的理論や分析手法を用いて、一つのエデュケーション政策を選ぶことの、総合的な経済学的効果を考察する方法について考える。
第12回	中間レポートに係る発表、討論会	中間レポートの内容について、代表者の発表と、それに対する討論を行う。
第13回	補足及び復習、質疑応答など	12回までの講義内容の復習、時間内に説明できなかった論点の補足、質問の多かった論点の解説など。期末テストに係る質問時間を設ける。
第14回	期末テスト	第14回講義時間において、期末試験を実施する。（人数によっては、定期試験期間に実施の可能性があります）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講人数に応じ講義の形式が変わるため、あくまで想定ですが、下記のような予習、復習を求める可能性があります。
・講義で取り上げた内容に関わる論文、調査、学術雑誌などでの論考を探し、筆者の主張をまとめた上で、講義で身につけた観点から自身の考察を述べるレポートの作成。
・講義内容に係る演習問題の回答や、自身の考察をまとめたレポートの提出。
・講義内で上記の発表を行う可能性もあります。
・自主的に課題に取り組む姿勢が求められます。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いません。

【参考書】

授業の中で、適宜紹介し、必要に応じて参考資料を作成し配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：40％程度（中間レポートや講義内での演習問題・リアクションペーパーへの回答。講義での意見などの積極的な参加。）
期末テスト：60％程度

【学生の意見等からの気づき】

中間レポート、講義内課題の出題時期、分量、質問への対応の仕方については、前年度以前の学生の皆さんからの感想や意見を取り入れつつ、講義内での学習成果をより公平に評価できるよう、変更を加えさせて頂いています。
また、感染症の流行状況なども踏まえて、今年度も、適宜オンライン講義を実施いたします。基本的には受講生の皆さんが、授業日時に講義に参加できる環境をご自身で整えて頂くことが、受講の前提となります。しかし、ご自身の責任ではない問題が生じる場合もありますので、皆さんからの状況を伺いつつ、適切な対処と公正な評価への配慮をすべく、その都度、意見を交換させて頂きます。

【学生が準備すべき機器他】

講義時間リアルタイムにオンライン（zoom）での講義を行う回があります。講義中は、質問にチャットまたは音声での回答を求めていることがあるため、講義参加が可能なネットワーク環境を整えてください。不明なこと、心配なことがある場合には、受講前に荒木までメールで（hiroko.araki.45@hosei.ac.jp）問い合わせいただくか、あるいは初回の講義で質問をしてください。

【その他の重要事項】

この講義では、経済学の基礎的な概念や分析手法を学習しますが、高校数学以上を用いた解説などを行う予定はありません。よって、予備的な数学の学習などは特に必要ありません。受講人数や参加者の希望により講義内容や形式を一部変更する可能性があります。このため、履修希望者は、必ず第1回の講義に出席し、ガイダンスを聴くとともに、受講希望理由書（200～400字）を提出していただきます。提出方法は、講義開始の一週間ほど前に学習支援システムよりアナウンスいたします。第1回の講義に出席できない方で履修を希望する方は、事前にメール（hiroko.araki.45@hosei.ac.jp）にて連絡をください。

また、期末には、最終講義時間（第14回）にテストを実施する予定です。受講人数によって、定期試験期間での実施の可能性もあるため、講義内での説明、学習支援システムのお知らせなどを見逃さないように注意してください。

【Outline (in English)】

In this course we'll learn to employ basic methods in Economics to analyze several subjects on education, with a special focus on topics that are familiar to everyone, such as the role of education and its impact on society and the individual. Why did you decide to enter the University? Why does the government fund the management of school and educational programs with tax? And why does the government subsidize your school fees?

Economics provides a set of tools for answering to these and many other related questions in a logical way, so let's learn about them.

Learning Objectives:

There are two main goals of this lecture. The first is to deepen the capability to consider various issues related to school education and university education, and to gain an opportunity to reconsider one's own university life. The other is to acquire an economic way of looking at and analyzing things, and to acquire the ability to logically consider not only education but also a wide range of social issues.

Learning activities outside of classroom:

The following preparation and review may be required.

- ・ Find articles and other materials related to the issues discussed in the lecture, summarize the author's arguments, and write a report in which you express your own thoughts.
- ・ Submit reports summarizing your own opinions and answers to the exercises related to the lecture content.
- ・ There is a possibility that you will make a presentation of the above in the lecture.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria:

Usual performance points: about 45%(mid-term report, answers to exercises and reaction papers in the lecture. Active participation such as opinions in lectures.)

Final report: about 55%.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

教育政策

展開科目

村上 純一

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月1/Mon.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「教育」と「政策」とを結びつけて考える機会は、日常ではあまり多くないかもしれません。しかし、実際にはほとんどの教育活動は「政策」として策定され、それに則って実施されています。この授業では、教育に関する今日の「政策」を俯瞰し、そこに込められた目的や実施上の課題、今後の政策展望などを考えていきます。人のライフキャリアの視点も踏まえ、保育・就学前教育に関する政策から生涯学習政策までの段階に沿いながら今日の教育政策を考察したのち、今日における教育に関する諸問題をそれに関連する政策の観点から考え、理解を深めていきます。

【到達目標】

以下の各点について、当事者の視点で考え、理解できるようになることが目標です。

- 1) 今日の教育政策における課題・問題点
- 2) 公教育をめぐる諸政策の望ましい在り方
- 3) 個々人のライフキャリアにおける各教育段階の意義・役割

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は主に対面での講義形式で実施します。講義形式中心ではありませんが、授業時間中の質疑応答も随時取り入れ、教員の講話一辺倒ではなく双方向のやり取りもある授業となるように努めていきます。また映像資料等も適宜ご紹介し、視聴覚教材を通した理解の深化も図っていきます。各回、授業の最後にはリアクションペーパーの提出を求めます。いただいたリアクションペーパーは翌週の授業でご紹介することでフィードバックし、受講生間でも共有して更なる理解の深化に繋げていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「政策とは何か」を、教育と関連づけて考える。
第2回	国と地方の教育行政のしくみ	教育政策の実施主体としての教育行政について、国レベルおよび地方自治体レベルそれぞれの構造および政府間関係を、近年の改革動向も含めて理解する。
第3回	保育・就学前教育政策	幼保一元化等の近年の政策動向とも絡めて、保育・就学前教育をめぐる政策を理解する。
第4回	初等中等教育政策	初等中等教育（小中高）段階における政策を、教育課程・教員・財政などの視点から理解する。
第5回	高等教育政策	大学入試改革など近年の諸改革も含め、高等教育をめぐる政策の変遷を理解する。
第6回	社会教育・生涯学習政策	学校外での学び、大人の学びをめぐる政策の動向を理解する。
第7回	教育課程・カリキュラム政策	最新の学習指導要領改訂、ICT教育や外国語教育の拡充など、教育課程・カリキュラムに関する最新の政策動向を理解する。

第8回	学力テスト政策	国際学力調査や全国学力・学習状況調査など、国内外の学力テスト政策の動向をカリキュラム政策との関連も踏まえ理解する。
第9回	学校の「安心・安全」に関する政策	教育現場の「安心・安全」を守るための政策上の工夫や課題を考える。
第10回	「開かれた学校づくり」に関する政策	学校と地域社会との連携・協働に関する政策の変遷や現状、課題について理解する。
第11回	いじめ・不登校・「子どもの貧困」に関する政策	いじめ問題をめぐる政策の動向や、不登校対策、「子どもの貧困」対策として策定・実施されている諸政策を、関連する法制度も踏まえ理解する。
第12回	学校の「働き方改革」	今日の学校教員の勤務実態と、その改善方策として考案されている政策について理解する。
第13回	少子化に関する教育政策	学校統廃合など、少子化に関連する教育政策について理解する。
第14回	授業のまとめ	授業全体をふりかえり、今日の教育政策のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、次の回の内容に関する予習課題を提示します。それに取り組んだ上で授業に参加するようにしてください。また各回の資料の末尾には関連する参考文献リストを添付します。1冊以上は必ず目を通すようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。各回、資料を配布します。

【参考書】

資料の末尾に、各回の内容に即した参考文献リストを添付します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業各回のリアクションペーパーと学期末レポートを総合して行います。比率はリアクションペーパーの合計40%、期末レポート60%です。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業では、特に映像資料の活用が理解を深める上で有意義であったというお声を沢山頂戴しました。これを踏まえ、頼り過ぎないように注意しつつ、2025年度も映像資料の積極的な活用を図っていききたいと思います。一方、受講される方的人数に拠る部分もありますが、受講生同士での対話の機会をもっと欲しかった、もっと多くの学生の意見を紹介して欲しかったというご意見もいただきましたので、2025年度はそうしたご要望にも可能な限りお応えできるように工夫してまいりたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

It seems to be unusual to think about education as a content of public policies. However, almost all of the educational activities are planned as 'policy', and are implemented as such. In this lesson, we overview the educational policies of contemporary Japan and think of their purposes and issues. First, we treat the policy about nursing and pre-school education. Second, we treat the policy about school education. And, at last, we treat the policy about lifelong education. From the viewpoint of life stages, we consider the public policies of Japanese education.

【Learning Objectives】

Understanding three points below.

- i) Issues of today's education policy
- ii) Ideals of education policy
- iii) The importance and roles of each school stages

【Learning Activities outside of Classroom】

It takes two hours to make a preparation of one lesson, and it also takes two hours to review one lesson.

【Grading Criteria / Policy】

Comments of each lessons (40%) & Terminal Report (60%)

EDU200MA（教育学 / Education 200）

市民社会と教育改革

仲田 康一

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公教育は、人々の教育を受ける権利を積極的に保障していくために全国的に標準的な仕組みを整えています。近年では、地域社会の自然・文化・産業を教育活動に取り入れたり、保護者・住民・地域の組織や諸機関と連携し、特色ある実践を進める動きも広がっています。

本講義では、以上に説明したような市民社会に根ざした独自の取り組みが公教育制度の中で進展することの意義と課題について、教育学のみならず、社会学・行政学・政治学等の社会科学的な観点からも考察を行うことで、教育に関して一段深い意見を持てるようになる手がかりを獲得してもらうことを目的とします。

【到達目標】

受講者には、授業終了までに次の3つの目標を達成できることを期待します。

- 1) 地域社会と連携して行われる教育実践や学校経営が、子ども・学校・地域・自治体・保護者等にとってどのような意義と課題を有するか、具体的な実践例を挙げながら説明できる
- 2) 学校と地域社会の連携を進めるための具体的な政策や制度について説明することができる
- 3) 学校と地域社会の連携について、教育学、あるいは社会学・行政学・政治学等の社会科学的な概念・視座により分析することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業ですが、受講者からの質疑や意見を求めたり、グループ形式での意見交換や、学生によるプレゼンテーションを組み込みます。オンラインでリアクションペーパーを提出してもらい、次の回の授業の最初にまとめてフィードバックを行います（必要に応じて個別にもフィードバックします）。

天候等の理由により、臨時にオンラインに変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について説明・合意する
第2回	公教育の成り立ちと地域社会	公教育制度の歴史的な成り立ちと地域社会にとっての意味付けについて説明する
第3回	戦後の学校制度と公教育の課題	戦後の学校制度に焦点を当てて、公教育の課題を説明する
第4回	母校研究（1）	母校についてのケース・スタディ（地域的特色を含む）を交流し、学びのキャリアを振り返る
第5回	母校研究（2）	母校研究について代表者の発表を共有する
第6回	学校-地域連携政策（1）	臨教審以降の「開かれた学校」政策と、「生きる力」の理念について説明する
第7回	学校-地域連携政策（2）	学校運営参加制度の導入・深化・普及（・迷走）について説明する

第8回	学校-地域連携政策（3）	学校支援活動の普及と関連する諸政策の導入について説明する
第9回	学校-地域連携の意義と課題（1）	教育課程、学習方法等の視点から学校-地域連携の教育学的な意義と課題について説明する
第10回	学校-地域連携の意義と課題（2）	地域づくり・地域経済・社会関係資本等の視点から学校-地域連携の行政的・社会的な意義と課題について説明する
第11回	地域における教育連携の発展動向（1）	地域における福祉組織との教育連携について事例をもとに解説する
第12回	地域における教育連携の発展動向（2）	NPO等による実践展開の可能性について事例をもとに解説する
第13回	レポートの授業内吟味	レポートの第1次提出を行い、受講生による相互吟味・批評を行う
第14回	まとめと内省	授業全体を振り返り、レポートの講評と最終提出までの指示を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下のような課題を所定の期日までに実施してもらいます。

- ・レジメの再読、まとめ（毎時）
- ・アテンダンスチェック課題の提出（毎時）
- ・母校研究の実施（所定締切日まで）
- ・最終レポートの作成（所定締切日まで）

これらを通じた準備学習・復習時間は各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

『コミュニティと教育』（仲田康一・大木真徳編著／放送大学教育振興会／2024年）

『地域教育経営論』（荻野亮吾・丹間康仁編著／大学教育出版／2022年）

『コミュニティ・スクールのポリティクス』（仲田康一著／勁草書房／2015年）

【成績評価の方法と基準】

各回の参加度（主にアテンダンスチェック課題やディスカッションへの参加状況にて把握）を40%、母校研究の成果を20%、最終レポートを40%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の意見発表の機会を大切にし、また、適切なフィードバックを心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット

【その他の重要事項】

①ピンポイントなテーマではありますが、現代の教育についての基礎知識をなるべくカバーし、今後の専門的学習に役立つように心がけます。

②教育研究の幅広さを知るとともに、教育改革を研究するための資料やデータの在り処を探すスキルと、それらを分析する視点を手にできるよう意識します。

③教員をどれだけ活用するかが大学での学びの質を大きく左右します。教員への質問・相談は学生の権利であり、教員にとってもやりがいの源泉ですので、どうぞお気軽に。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

While public schooling has established a nationwide standard system to ensure people's right to education, there has been increasing diversity by collaborating with local communities (parents, residents, local organisations, and institutions). This lecture will explore how region-specific initiatives within the public education system is enacted, examining their consequences from the perspectives of educational studies and other social sciences.

【到達目標（Learning Objectives）】

Students are expected to be able to achieve the following three objectives by the end of the course.

At the end of this class, students are expected to be able to

1) explain the significance and challenges of educational practices carried out in collaboration with local communities for children, schools; local authorities and parents, citing specific examples of such practices.

2) explain specific educational policies to promote cooperation between schools and local communities; and

3) analyse the relationships between schools and local communities using concepts and perspectives from educational studies and other social sciences.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before and/or after each class, students are required to have completed the required assignments such as

- Rereading and summarising the material handed out in class

- Submitting Attendance Check Assignment.

- Conducting case study

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Overall grade in the class will be decided based on the following:

Attendance Check: 40%, Case study report: 20%, End of semester report: 40%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

学習の社会史A

展開科目

山口 真里

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、歴史的にどのような「学び」を経験してきたのでしょうか。また、現在の「教育」や「学習」のありかたは、どのような経緯で形作られてきたのでしょうか。

この授業では、おもに西洋における「学び」の展開を時代背景や地域的な事情に照らしながら辿り、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し発展してきたのかを検討します。また、現代の「教育」や「学校」が直面する多くの問題が、それらの歴史とどのように関わっているのかを掘り下げて考えていきます。そうした考察を重ねることにより、各自が現在の教育を多角的にとらえ、これからの学びを構想する視点を獲得することを目指します。

【到達目標】

- ・西洋における学びや教育の変遷を、背景にある歴史事象と共に理解する。
- ・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の教育問題を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業が中心ですが、必要に応じてオンラインで授業を行います。
- ・授業資料を提示しながら授業を進めます。
- ・授業内容の理解を深めるため、リアクションペーパーを実施します。提出されたリアクションペーパーは、次の授業で適宜コメントし、フィードバックします。
- ・講義中心ですが、授業に関わるテーマをグループでディスカッションし、他の受講生がどのように考察したのかを共有する機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第2回	近代以前の子育てと徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第3回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第4回	近代における子どもの発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざしの変化
第5回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第6回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第7回	家庭、主婦の誕生と子どもの教育	家庭における女性の位置づけと教育の変容
第8回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第9回	近代学校の成立と子どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第10回	民衆学校の進展と義務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立

第11回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救済事業 権利主体としての子どもと「子どもの権利条約」
第12回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第13回	現代の子どもの学びと諸問題	多様化する家族と学校 子どもの学習における諸問題
第14回	振り返りとまとめ	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・提示資料を用いて授業を復習し、知識の定着を図ります。
- ・リアクションペーパーを通して授業内容の理解と発展的な考察を深めます。
- ・本授業の学習準備・復習時間は各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜、授業資料を提示します。

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題60%、リアクションペーパー30%、授業への意欲・貢献・平常点10%を基準に総合的に評価します。
なお、総授業回数の2/3以上の出席を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からのフィードバックを重視し、引き続き授業運営を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・リアルタイム型のオンライン授業（Zoom使用）を受講するためのパソコン等、情報機器を準備してください。
- ・オンラインの授業およびグループ・ディスカッションは、カメラおよびマイクをONにできる環境で受講してください。
- ・授業についてのお知らせや資料配布・課題提出等に、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

In this course, we will trace the development of "learning" mainly in the West in the light of historical backgrounds and regional circumstances, and examine how schools as institutions for children's learning were established and developed.

In addition, we will delve into the many issues facing "education" and "schools" today and consider how these issues relate to history.

And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

After each class, students will be expected to have completed the reaction paper. Your study time will be about four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Reports: 60%, Reaction papers: 30%, in class contribution: 10%

EDU200MA (教育学 / Education 200)		
学習の社会史B		展開科目
寺崎 里水		
単位数：2単位 開講セメスター：春学期授業/Spring 曜日・時限：水2/Wed.2 配当年次：2～4年		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっているのかを考察する。		
【到達目標】 授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。日本史の基礎的な知識をベースとし、現代の教育問題と関連付けて考えることができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連		
【授業の進め方と方法】 スライドで資料を提示し、それ以外は板書する形で授業を行う。必要な資料は事前に学習支援システムで配布するが、板書内容やスライドファイルの配布は行わない。履修者は筆記用具を用意し、適宜ノートをとること。 授業内で課題提出を課すことがある。また、知識の定着を促すため、中間まとめの小テストを二度、課す。 課題提出は授業支援システムを通じて行う。課題や小テストに対するフィードバックは授業内に行う。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。（オンデマンド）
第2回	教育制度と学歴	近・現代社会における教育の役割について、教育制度と学歴という観点から考える。 古代、中世、近世における諸制度と教育機関について振り返る。
第3回	学歴主義の誕生	立身出世主義、受験生をキーワードに、近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第4回	教育制度の成立過程と学校間格差	学校間の威信の格差について、学校教育制度の成立過程から考える。
第5回	中間まとめ①教育制度と学歴主義	小テストを実施し、その後、教育生徒と学歴主義に関する内容を復習する。
第6回	学校という場の権力性	学校が持つ規律訓練の力について考える。
第7回	試験と競争	学力や学歴をめぐる競争の仕組みの誕生について、試験制度を切り口に学ぶ。
第8回	学校の教育と村の教育	学校の教育と村の教育は何が異なっていたのか、考える。
第9回	中間まとめ②学校と試験	小テストを実施し、その後、学校と試験に関する内容を復習する。
第10回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第11回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第12回	女性にとっての成功	女性が学歴をめぐる競争にいかに関与されていったのかについて学ぶ。
第13回	女子の身体観をめぐる教育の葛藤	女子の制服と運動用制服の成立過程を通して、女子の身体観をめぐる学校教育の役割について考える。
第14回	まとめと試験	制度の成立は我々の学ぶという行為にどのような影響を及ぼしたのか、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 指定文献や配布資料の精読を必須とする。日本史の知識が必須なので、各自高校までの内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 とくに指定しない。必要に応じて指示する。		
【参考書】 必要に応じて指示する。		
【成績評価の方法と基準】 授業内の課題、小テスト40％、課題10％、試験50％		
【学生の意見等からの気づき】 学生の反応を大切にしながら授業を進める。		
【Outline (in English)】 Course Outline: This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, learning, examination, and family. Learning Objectives: To be able to explain historical events using the concepts and theories learned in the class. Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each. Grading Criteria: In-class review mini-test and assignment submission 50%, final report 50%.		

MAN200MA (経営学 / Management 200)

外書講読B【2025年度以降入学者用】

林 洋一郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5063

科目名：外書講読B

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C7253

科目名：外書講読B（ビジネス）

※入学年度によって授業コード・科目名が異なります

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文やレポートを執筆するにあたって、はいろいろな専門文献を読むことが推奨されます。その際、日本語だけでなく、英語で書かれた学術論文まで参考に出来ると、私たちが獲得できる知識の範囲は格段に広がります。この授業は、産業・組織心理学や組織行動の領域に関する論文を読んでいきたいと思います。具体的には、Annual review of organizational psychology and organizational behavior というジャーナルに所収されている展望論文を教材として読み進めていきます。取り上げる論文は、Riggio and Newstead (2023)、Podsakoff et al. (2023)、Heilman et al. (2024)の3本です。詳細な書誌情報は、テキストの箇所をご確認ください。本ジャーナルは、新しい理論を提起する先鋭的な理論論文というよりも、特定の理論やテーマを整理して、全体像を理解できることを目指した内容になっていると思われます。よって、英語がネイティブでない読者も想定しながら、初学者にも分かりやすい内容や英語になっていると思われます。英語で書かれた国際ジャーナルは、厳しい審査を経て掲載に至ったものです。したがって、英語の論文に触れることは、自分自身が論文を書く際に論理展開など様々な面で参考になると思われます。

【到達目標】

英語で書かれた専門的な文献を、独力で読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、受講者が英語文献を翻訳して、記述されている内容を他の受講生にも説明しながら（プレゼンテーションを行いながら）進めていきます。参考文献にある3本の論文を受講生の皆で分担しながら読み進めていきます。各人が、だいたい2パラグラフくらいを順に訳してもらいます。科目の性格上、履修可能者数を30名に制限します。当該制限数を超過した場合には選抜を行うので、履修を希望する人は必ず第1回目の授業に必ず出席してください。担当教員は、受講者の発表についてコメントします。それらのフィードバックを通じて専門知識や研究力スキルの獲得を目指していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業スタイルや進め方の説明
第2回	Riggio and Newstead (2023) ①	Riggio and Newstead (2023) の1回目です。
第3回	Riggio and Newstead (2023) ②	Riggio and Newstead (2023) の2回目です
第4回	Riggio and Newstead (2023) ③	Riggio and Newstead (2023) の3回目です
第5回	Riggio and Newstead (2023) ④	Riggio and Newstead (2023) の4回目です

第6回	Podsakoff et al. (2023) ①	Podsakoff et al. (2023) の1回目です。
第7回	Podsakoff et al. (2023) ②	Podsakoff et al. (2023) の2回目です。
第8回	Podsakoff et al. (2023) ③	Podsakoff et al. (2023) の3回目です。
第9回	Podsakoff et al. (2023) ④	Podsakoff et al. (2023) の4回目です。
第10回	Heilman et al. (2024) ①	Heilman et al. (2024) の1回目です。
第11回	Heilman et al. (2024) ②	Heilman et al. (2024) の2回目です。
第12回	Heilman et al. (2024) ③	Heilman et al. (2024) の3回目です。
第13回	Heilman et al. (2024) ④	Heilman et al. (2024) の4回目です。
第14回	総括	振り返りと展望論文と実証論文の読み方レビュー。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語に親しむ機会を増やしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。例えば、NHKの現代英語というコンテンツは英語に慣れるためにはよい教材になると思われます。

【テキスト（教科書）】

Riggio, R. E., &Newstead, T. (2023). Crisis leadership. Annual Review of Organizational Psychology and Organizational Behavior, 10(1), 201-224.

Podsakoff, N. P., Freiburger, K. J., Podsakoff, P. M., &Rosen, C. C. (2023). Laying the foundation for the challenge- hindrance stressor framework 2.0. Annual review of organizational psychology and organizational behavior, 10(1), 165-199.

Heilman, M. E., Caleo, S., &Manzi, F. (2024). Women at work: pathways from gender stereotypes to gender bias and discrimination. Annual Review of Organizational Psychology and Organizational Behavior, 11(1), 165-192.

【参考書】

講義中に適宜、提示します。

【成績評価の方法と基準】

①授業における発言、提出物：80%

②期末レポート：20%

①については、事前準備の到達度や説明の明快さを中心に評価します。②については論理性、正確性、自分の問題意識との関連性を中心に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

・英語の学術文献を読んでいく授業ですので、準備学習が必須です。
・日本語は、世界ではローカルな言語です。英語は、事実上の世界標準語です。英語の文献にアクセスできると、情報収集の力が格段に向上します。

【Outline (in English)】

< course outline > When writing papers and reports, it is recommended that we read various specialized literature. By referring not only to Japanese but also to academic papers written in English, the range of knowledge we can acquire expands significantly. In this course, we will read papers related to the fields of industrial and organizational psychology and organizational behavior. Specifically, we will proceed with reading review articles published in the journal "Annual Review of Organizational Psychology and Organizational Behavior." The papers we will cover include Riggio and Newstead (2023), Podsakoff et al. (2023), and Heilman et al. (2024). For detailed bibliographic information, please refer to the relevant section of the text. This journal is not so much about proposing new theories but rather about organizing specific theories and themes to provide an overall understanding. Therefore, it is likely written in a way that is easy to understand for beginners, considering non-native English readers as well. < Learning objects > International journals written in English have undergone rigorous review processes before being published. Therefore, being exposed to English papers can be beneficial in various aspects, such as logical development, when writing our own papers. After all, this attempt to develop students' research skills via reading studies in English. < Learning activities outside of classroom > This course primarily focuses on reading and discussing assigned texts. If you are responsible for presenting, please prepare for at least 2 hours. If you are not presenting, a minimum of 30 minutes of preparation is required. < Grading Criteria /Policy > Grading criteria is as follows. Grading Criteria:

Class Participation and Assignments: 80%

Final Report: 20%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

人材育成論 I

展開科目

佐藤 厚

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材育成論 I では、ヒトが企業社会の中で多様なキャリア形成を通じて多様な職業能力を獲得することの意義と方法、課題などについて学びます。現代産業社会では、組織は人的資源の活用と育成抜きには活動が成り立ちません。他方大半の現代人は組織に関わって働くことで生計を維持しています。そこで重要となるのは、ヒトが人材として育成され、また成長していく環境です。その環境の中で人材がキャリア形成を通じて職業能力を形成する現状と課題を学ぶのがこの授業の到達目標及びテーマとなります。

【到達目標】

この授業の学習目標は以下のようです。

- (1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。
- (2) 日本の組織における職業教育訓練の方法とその特徴について説明することができるようになる。
- (3) 職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解し、あわせて労働市場とキャリア形成が多様化している現状及び政策課題についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

人材育成論 I は、ビジネス領域での人材育成の基本パターンを、長期の職業キャリアの中で、OJT（仕事を通じた訓練）、Off-JT（研修など仕事を離れた訓練）、自己啓発（自学、自習など個人の主体的な学び）をベースに、職業能力の開発をはかることと捉えます。その上でこの人材育成の基本パターンが、技術革新の中でどう変化しているのか、働く者の性別や年齢、職業、勤務先の規模、業種などによりどのような違いがあるのか、についてその現状と課題を学習します。

授業内での発表はとくに求めませんが、毎回授業終了時に、①その日の授業についての感想、コメント、質問をリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。また②学習支援システムに授業内容の理解度を問う課題を課します。次回授業の冒頭にリアクションペーパーへのリプライ及び学習支援システムの課題の解答例を解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ人材育成について学ぶか。講義の進め方。参考文献の指示など
第2回	日本の人材育成システムの特徴——国際比較の視点から	1 日本の人材育成システムの特徴：職業教育訓練への公的関与が低く、初期職業教育訓練への企業の関与が高い 2 学校教育システムの特徴：入学試験難、進級・卒業容易、職業教育より一般教育重視 3 教育システムと雇用システムの補完性

第3回	能力開発とキャリア——これからのキャリア形成	1 これまでの雇用慣行と能力開発の基本パターン：新卒採用、異動・昇進というキャリア形成 2 能力開発の方法：OJT、Off-JT、自己啓発 3 企業主導型能力開発と個人のキャリア形成との関係
第4回	技術革新と技能の変化	1 学説：高度化説と単純化説；技術決定論と社会決定論 2 戦後日本の技術革新と仕事・職場の変化：オートメーション化、ME化段階、IT化段階、AI段階 3 情報技術の進展とホワイトカラーの仕事・職場の変化 4 情報技術の進展と新しい働き方——テレワーク
第5回	女性の職域とキャリア形成	1 性別職域分離とその理論：統計的差別理論 2 国際比較でみた性別分離：水平分離と垂直分離 3 職域統合へ向けて：M字型就労カーブ、男女雇用機会均等法、ポジティブアクション
第6回	失業・転職とキャリア形成	1 失業について：失業者の定義 2 失業とセーフティネットのしくみ：失業のダメージ緩和のための雇用保険 3 転職について：入職経路としてのソーシャルネットワーク、「友人・知人」の重要さ
第7回	若者のキャリア形成——学校から職場へ	1 「就社」社会とその得失 2 初期キャリア問題の諸レベル：早期離職問題；正社員への移行困難問題；就業形態間の賃金格差問題；学校から職場への移行困難な者の階層格差問題 3 若者のキャリア形成問題への対応の方向性
第8回	非典型労働者のキャリア形成	1 非典型雇用の様々な働き方 2 企業の視点からみた非典型雇用：賃金節約；仕事の繁閑への対応 3 働く側からみた非典型雇用：家計の補助；都合のよい時間に働ける 4 問題への対応の方向性：非正規雇用に関わる法的規制と正社員への転換
第9回	高齢化とキャリア形成	1 高齢化と仕事からの引退過程：日本の特徴 2 定年制とライフスタイルの変化；就労・非就労の規定要因 3 安定した高齢期生活を支える政策課題：高齢者雇用安定法の改正
第10回	事務系ホワイトカラーのキャリア形成	1 「ホワイトカラー」とは：職業大分類の4つの職種の総称 2 企業内キャリアをみる視点：キャリアのタテ（昇進）とヨコ（異動） 3 国際比較からみた日本の特質：「遅い」昇進選抜と「幅広い」異動 4 人材育成からみたポイントと課題

第11回	技術系ホワイトカラーのキャリア形成	1 専門的・技術的職業従事者の増加 2 技術系ホワイトカラーの初期キャリア管理の重要性 3 研究・開発技術者のキャリア形成面での国際比較：日本の特徴 4 日本の技術者のキャリア形成上の特徴と課題
第12回	中小企業労働者のキャリア形成	1 中小企業の労働市場の特徴 2 中小企業の人事管理、人材育成の取組みの特徴 3 中小企業従業員の就業意識：組織との関係認識、職場の雰囲気 4 事業主からみた望ましい能力開発の方法、職業キャリア及び職業資格
第13回	ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成	1 いまなぜワーク・ライフ・バランス（WLB）か 2 仕事と生活が両立しにくい現実 3 WLBを支える制度及び現状と目標 4 WLB施策実現にむけての課題——仕事の進め方の効率化と長時間労働の抑制
第14回	講義のまとめと試験について	1 講義全体の振り返りとまとめを行う 2 定期試験の傾向と対策 3 受講生との質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義内容のかなりの部分は、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣（2014年）に準拠しているので、各自購入の上、受講と合わせて読むことが望ましいです。

【参考書】

佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂（2011年）、佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016年）を購入し、併読することが望ましいです。

【成績評価の方法と基準】

・現時点での成績評価の方法と基準は以下のようです。

毎回授業終了時に提出するリアクションペーパー及び学習支援システムの課題への回答をもって平常点とします（30点）。中間レポートを7回目の授業時に中間レポートを課します（20点）。期末に定期試験を実施します（50点）。

【学生の意見等からの気づき】

前回の講義の質問や感想について紹介し、簡単な振り返りを行う。毎回の講義のねらいを授業開始時に明示する。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

人材育成論Ⅰと人材育成論Ⅱをあわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students can learn the importance and the way how employees work with firm develop their vocational skills and abilities in each organisations. In industrial society in modern society, human resource development may be indispensable for business activities of firms, on the other hand, working employees also depend on firms that employ them. Main purpose of this class is to learn about environment in which firm train employees and employees develop their skill.

【Learning Objectives】

(1) Understand the mechanism and characteristics of human resource development in Japan and their advantages and disadvantages.

(2) Be able to explain the methods and characteristics of vocational education and training in Japanese organizations.

(3) Understand the impact of vocational education and training on skill formation and career development, and deepen awareness of the current situation and policy issues in which the labor market and career development are diversifying.

【Learning activities outside classroom】

Make an effort to read the references instructed during class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1 Submit of Reaction paper and problem of Hoppii in each class. The standard is 30 points.

2 An interim report will be imposed at the end of the first half of the class. The purpose is to look back on the first half of the class. The standard is 20 points.

We conduct a regular test at the end of the term, The aim is to ask the degree of understanding of the content taken up in the class. The standard is 50 points.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

人材育成論Ⅱ

展開科目

佐藤 厚

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材育成論Ⅱでは、人々が企業社会の中で職業能力を形成することの意義と方法、課題などについて学びます。講義の前半では、日本企業の人材育成とキャリア形成の方法と課題についての基礎を学びます。また講義の後半では、国際比較を通じて、日本の人材育成とキャリア形成の特徴を学びます。

【到達目標】

この授業の学習目標は以下のようです。

- (1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。(2) 日本組織における職業教育訓練の方法とその特徴について説明することができるようになる。
- (3) 職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解する。
- (4) あわせて人材が育成されていくプロセスであるキャリア形成過程と労働市場が多様化している現状について、国際比較を通じた日本の特徴についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

人材育成論Ⅱでは、日本の人材育成とキャリア形成について概論及び特徴を学びます。講義の前半では、日本企業の人材育成とキャリア形成の概論について学びます。

講義の後半では、日本の人材育成とキャリア形成の特徴について国際比較を通じて理解することに努めます。

授業内での発表はとくに求めませんが、毎回授業終了時に、①その日の授業についての感想、コメント、質問をリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。また②学習支援システムに授業内容の理解度を問う課題を課します。次回授業の冒頭にリアクションペーパーへのリプライ及び学習支援システムの課題の解答例を解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション——人材育成論Ⅱの進め方	講義の進め方、概要、成績評価の仕方などを説明します。 なお、この講義の前半とは、第1回から第6回までを、また後半とは第7回から第13回までを指します。
2	組織のなかで人を育てるということ	第2回では、以下のことを学びます。 1 組織内人材育成の要点。人材育成に関連する用語 2 人材育成を考えるための枠組み 3 人材開発の実践モデル 4 人材開発の二つの視点 5 企業の実践事例にみる実践モデルと二つの視点 6 日本の人材育成研究の蓄積にみる二つの視点の意義と課題

3	日本企業の人材育成の特徴とは——OJT、Off-JTと人事制度の関係	第3回では以下のことを学びます。 1 職業能力開発システムの国際比較と日本の特徴 2 日本の企業内能力開発のしくみ：OJT、Off-JTの意義と課題 3 企業主導型キャリア管理と個人主導型キャリア開発 4 マネージャーやリーダーの育成（プレイングマネージャー） 第4回では以下のことを学びます。 1 人事制度と教育訓練体系の事例 2 教育訓練体系の概要：フォーマルなOJTとインフォーマルなOJT 3 インフォーマルなOJTとしての職場学習：仕事管理のPDCAサイクル 4 インフォーマルなOJTとしてのキャリア：大企業部長のキャリア事例 第5回では以下のことを学びます。 1 インフォーマルなOJTとしてのキャリアを見る意義及び成長・発達・学習する側の視点 3 インタビュー調査の対象と調査項目 4 マネージャーの育成に必要なもの 第6回では、これまでの人材育成の課題としてのタレントマネジメントとリーダー人材育成に学ぶ。第7回から第13回までが後半となります。国際比較による日本の人材育成とキャリア形成の特徴を様々な角度から学びます。第7回は以下のことを学びます。 1 スキル形成、雇用制度の国際比較研究 2 職業教育訓練（VET）の国際比較研究 3 日本の位置と特徴 第8回では以下のことを学びます。 1 企業コミュニティと個人のキャリア 2 内部労働市場の生成と衰退 3 キャリア形成と人材育成を考える三つの視点 4 企業コミュニティの変化と初期キャリア 5 企業コミュニティの変化と中期キャリア 6 企業コミュニティの変化と後期キャリア 7 「新しい」コミュニティとキャリア形成
4	大企業の人材育成の事例	
5	大企業マネージャーのキャリア形成	
6	タレントマネジメントとリーダー人材育成——これまでの人材育成の課題	
7	雇用制度と職業教育訓練制度の国際比較——日本の位置と特徴	
8	企業コミュニティの変化とキャリア形成・キャリア自律	

- 9 企業コミュニティと人事方針及び人材育成——実証データによる英独日比較
- 第9回では以下のことを学びます。
- 1 労働者の意識についての国際比較研究（一覧）
 - 2 人事管理の方針・個人と組織の関係認識・職場の雰囲気についての英独日比較
 - 3 「人事管理による勤労意欲引き出し」仮説はイギリスやドイツでもあてはまるか？
 - 4 人事管理方針や人材育成の取組は勤労意欲（会社の発展のために自身の最善を尽くしたい）に影響を及ぼすか？ —英独日比較
 - 5 考察とまとめ——日本と英独との差異の背景にあるものは何か？
- 10 ホワイトカラーのキャリア形成とキャリア自律に関する英独日比較——大企業管理職を中心に
- 第10回では以下のことを学びます。
- 1 ホワイトカラーのキャリア形成の国際比較研究
 - 2 ホワイトカラー及び大企業管理職の組織内キャリア
 - 3 リーダーシップの特定と開発——
 - 4 イギリス、ドイツ、日本のホワイトカラーのキャリア観
 - 5 望ましいキャリアコース
- 11 職業資格の日本の特質——独英との比較を中心に
- 第11回では以下のことを学びます。
- 1 日本の職業資格制度の理念と概要
 - 2 職業資格制度と教育制度及び労働市場との関連——ドイツの特徴と日本の特徴
 - 3 職業資格制度と労働市場との関係についての研究
 - 4 教育制度と職業資格との関連——日独比較、日英比較の視点から
 - 5 まとめ——教育システムと雇用システムの補完性の意義。雇用システムと職業資格の共振可能性
- 12 職業教育訓練と労働市場との関係の最近の変化——ドイツとの比較を中心に
- 第12回では以下のことを学びます。
- 1 今回のフレームワーク——ドイツと日本の職業教育訓練システムと労働市場システム
 - 2 ドイツにおける職業教育訓練システムと労働市場システムの変化
 - 3 日本における職業教育訓練システムと労働市場システムの変化
 - 4 まとめ
- 13 日本の特徴と歴史的背景。生涯学習（リカレント教育）に対する含意
- 第13回では以下のことを学びます。
- 1 後半の講義（日本の特徴）の主な事実発見
 - 2 日本の特徴の意味するもの——生涯学習（リカレント教育）に対する含意
 - 3 日本の特徴の歴史的背景——徒弟制の歴史にみる英独日の差異
 - 4 最後に——日本の課題

- 14 人材育成論Ⅱのまとめ
- 講義全体の振り返りとまとめを行います。
定期試験（もしくは最終レポートの課題）について説明します。
学生との質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義前半のテキストとして佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016年）を使用する。また講義後半のテキストとして佐藤厚『日本の人材育成とキャリア形成：英独日比較』中央経済社、2022年を使用する。なお、毎回、講義の骨子および統計データや調査結果を要約したpptレジメを配布（配信）する。また人材育成論Ⅰの内容を知りたい方には、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣2004年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂2011年を併読をお勧めする。

【参考書】

人材育成論Ⅰの内容を知りたい方には、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣2004年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂2011年を併読をお勧めする。

【成績評価の方法と基準】

1 毎回の授業時のリアクションペーパー提出及び学習支援システムの課題への回答をもって出欠を確認し平常点とします。基準は30点です。

2 授業の前半が終わるころに中間レポートを課します。授業前半の振り返りが目的です。基準は20点です。

3 期末に定期試験を実施する。授業で取り上げた内容の理解度を問うのがねらいです。基準は50点です。

【学生の意見等からの気づき】

各論について出来る限り調査データや海外の事例等を織り交ぜて解説します。

【授業中に求められる学習活動】

C,D

【Outline (in English)】

【Course outline】

In Human Resources Development Theory II, you will learn the significance, methods, and challenges of people forming vocational abilities in corporate society. In the first half of the lecture, you will learn the basics of human resource development and career development methods and issues for Japanese companies. In the latter half of the lecture, we will learn the characteristics of human resource development and career development in Japan through international comparison.

【Learning Objectives】

The learning goals of this class are as follows.

(1) Understand the mechanism and characteristics of human resource development in Japan and their advantages and disadvantages. (2) Be able to explain the methods and characteristics of vocational education and training in Japanese organizations.

(3) Understand the effects of vocational education and training on skill development and career development.

(4) To deepen awareness of the characteristics of Japan through international comparisons regarding the career development process, which is the process of developing human resources, and the current situation of the diversified labor market.

【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to read the references instructed during class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1 Submit of Reaction paper and problem of Hoppii in each class. The standard is 30 points.

2 An interim report will be imposed at the end of the first half of the class. The purpose is to look back on the first half of the class. The standard is 20 points.

We conduct a regular test at the end of the term. The aim is to ask the degree of understanding of the content taken up in the class. The standard is 50 points.

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

産業・組織心理学 I

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学は、人が働くことを通じて経験する現象についての心理学的視点から明らかにしようとするものです。本授業では、講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解すること、理解を通じて働く人々や自らのキャリアをより良いものとする視点を獲得することを目的とします。

【到達目標】

本授業の到達目的は以下の2点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要概念について理解し、日常の現象についてそれらの概念を用いて説明できるようになること。
- (2) 産業・組織心理学の知見を用いて、自らのキャリアについて展望を持てるようになること。
- (3) 産業・組織心理学の視点から、職場のマネジメントの問題点とその改善策を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。各回のテーマに則したテーマに関するリアクションペーパーの提出が求められることがあります。また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要や進め方、ならびに履修上の注意事項について説明します。
第2回	モチベーション①	モチベーションの内容理論：何がモチベーションを高めるのか
第3回	モチベーション②	モチベーションの過程理論：
第4回	リーダーシップ①	古典的リーダーシップ理論
第5回	リーダーシップ②	今日的なリーダーシップ理論：
第6回	公平性	個別的な関係性の重視 公平性の諸理論：人が「公平さ」を感じる仕組み
第7回	職場のコミュニケーション①	コミュニケーション・職場とは何か
第8回	職場のコミュニケーション②	職場のコミュニケーションがもたらす功罪
第9回	個人と組織の関係性①組織社会化	組織への適応としての組織社会化
第10回	個人と組織の関係性②組織コミットメント	個人の組織に対する関与：人が組織にとどまる理由
第11回	個人と組織の関係性③組織エンゲージメント	組織と個人双方が高めあう関係
第12回	個人と組織の関係性④心理的契約	組織と個人の間の暗黙の関係
第13回	個人差を理解する	違いをもたらす要因としてのパーソナリティ
第14回	働きがいと働きやすさ	働きがい・働きやすさを高める仕組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌記事に目を通し、働く人々にとって現在どのようなことが問題になっているかについて知識を獲得するようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

山口裕幸・金井篤子編

『よくわかる産業・組織心理学』 2007年、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 80%

授業内で実施するリアクションペーパー 20%

【学生の意見等からの気づき】

前回の授業についての学生からの感想・質問を参照して、テーマについての補足ならびに解説を追加する。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる資料を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

授業計画は予定となります。1-2回外部講師による講演が入る可能性ならびに進捗状況による変更の可能性があります。

【Outline (in English)】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, that studies human behavior in the workplace, specifically focusing on managing, supporting employees and aligning employee efforts with business needs.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Students are expected to gather information on issues arising in the current Japanese corporate workplace through reading newspapers and other sources. Self-study time will be two hours per class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%、Short reports :20%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

組織行動論 I

古田 克利

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要

戦略経営論の基礎として経営戦略、組織戦略、市場戦略等の理論を学ぶ

授業の目的・意義

戦略経営に関する基礎的な概念、理論を正確に説明し、それらにもとづき組織を分析し課題を抽出できるようになることを目指す

【到達目標】

- ・戦略経営に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる
- ・戦略経営に関する基礎的な概念、理論にもとづき組織を分析できる
- ・戦略経営に関する基礎的な概念、理論にもとづき組織の課題を抽出できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義および講義内容に基づく個人演習とグループ討議を行います。授業内での発表や質問等に対するフィードバックは原則当日の授業内に行います。

リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第2回	組織戦略（1）	リーダーシップの視点から組織を分析する
第3回	組織戦略（2）	マネジャーの役割の視点から組織を分析する
第4回	自組織の分析	レポート発表とディスカッションを行う
第5回	戦略経営の実践（1）	実際の戦略経営についてディスカッションする
第6回	市場戦略（1）	製品・サービスの視点から市場を分析する
第7回	市場戦略（2）	STPの視点から市場を分析する
第8回	戦略経営の実践（2）	実際の戦略経営についてディスカッションする
第9回	経営戦略（1）	成長戦略の視点から経営を分析する
第10回	経営戦略（2）	デジタル戦略の視点から経営を分析する
第11回	戦略経営の実践（3）	実際の戦略経営についてディスカッションする
第12回	課題解決演習（1）	自組織の課題について分析する
第13回	課題解決演習（2）	自組織の課題解決について検討する
第14回	課題解決演習（3）	自組織の課題解決結果を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前資料による事前学習
- ・講義内容の復習

・各回の授業の準備学習・復習時間は各2時間、計4時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

適宜、学習支援システム上にて配付します

【参考書】

適宜、学習支援システム上で紹介します

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（配点50％）

期末レポート（配点50％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参してください

【Outline (in English)】

Course outline

This course covers basic constructs and theories of corporate strategy and business strategy, focusing on strategy formation.

Learning objectives

Can explain basic constructs and theories of corporate and business strategy.

Can analyze an organization based on the constructs and theories of corporate and business strategy.

Can identify organizational issues based on the constructs and theories of corporate and business strategy.

Learning activities outside of classroom

Summarize the key issues in the lectures.

Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria

In-class Assignment: 50%

Final report: 50%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

簿記 I

児玉 麻衣子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「黒字決算」「売上」「利益」などの用語を聞いたことがあるでしょうか。これらは、就職活動の際に企業の業績・現状を調べたり、あるいは、企業で働く際には必須の知識です。ビジネスキャリアを企業で積んでいく人たちにとっては、これらは一生付き合っていく知識です。この授業では、こうした企業会計の基礎知識を、広く学んでいきます。

【到達目標】

この授業の目標は、企業会計の全領域について、広く浅く学ぶことです。企業会計は、①財務会計（企業の成績を外部に報告すること）、②管理会計（社内で従業員の業績を測ったり、経営戦略を練ったりするために会計を用いること）、③監査（企業の不正を防ぐこと）、④税務会計（企業が法人税を支払うしくみ）および⑤財務分析（企業の成績表を分析し経営戦略に用いること）等に分けられます。これらのすべての領域を学ぶことによって、この授業が終了するときには、企業の活動がはっきりと理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

最新の事例を盛り込みながら、主に講義形式で行っていきます。まずは各章のウォーミングアップで講義内容の概略を示し、本文およびパワーポイント資料で基本的会計用語・時事問題などを学びます。その際は各自で事前に会計用語や日本経済新聞などのデータを調べることも必要となります。次に各章のクールダウンで総括を行い、各講義の最後に行う授業内ミニテストを解いて講義内容の確認と応用力を養ってもらいます。その際に出題される内容は、就職の際にも威力を発揮する現実的な役立ちを意識した問題も含みます。なおこの講義は、対面で実施します。また授業内ミニテストの総評等については、適宜授業内で紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス (オンデマンド授業)	本講義の主題と到達目標を説明します。資料をポータルサイトの教材に添付しておきますので確認してください。
第2回	会計の守備範囲	企業会計の対象と簿記一巡について学びます。
第3回	損益計算書(1)	損益計算書の表示方法について学びます。
第4回	損益計算書(2)	収益、費用の測定方法について学びます。
第5回	貸借対照表(1)	貸借対照表の表示方法について学びます。
第6回	貸借対照表(2)	資産、負債、純資産の評価方法について学びます。
第7回	中間試験・解説 会計を取り巻くルール	中間試験を実施し、解説します。金融商品取引法、会社法および法人税について学びます。
第8回	会計の開国	会計基準について学びます。
第9回	会社で生じるコスト	原価計算の基礎を学びます。
第10回	経営者を助ける会計	予算管理や意思決定をはじめ、管理会計の基礎を学びます。

第11回	不正防止と会計	公認会計士による監査などについて学びます。
第12回	会社の支払う税金	法人税の計算について学びます。
第13回	期末試験・解説および本講義のまとめ	期末試験を実施し、解説します。また本講義の学習内容について要約・整理します。
第14回	就職活動を意識した企業分析	就職活動を意識した企業分析について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として各章のウォーミングアップを読んでください。わからない用語は各自で調べてください。復習・宿題等として授業内ミニテストの見直し等を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とします。また、日本経済新聞をはじめ、企業の決算に関する記事に注目すると、企業会計に対する理解が進展しますので、授業の進行に合わせて各自が興味のある企業について調べてください。

【テキスト（教科書）】

鈴木一道『会計学ははじめの一步』第2版 中央経済社 2,000円
その他、必要に応じて講義プリントなどを配付します。

【参考書】

黒川保美『会計学を面白く学ぶ』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

授業内に実施する中間・期末試験70%（中間・期末試験各35%）、ミニテスト（またはレポート）30%により評価します。授業をしつかり聞くとともに、積極的に授業参加することが必要です。なお各自に論じてもらうような設問の場合、他の人とほぼ同じ答案とみなされる場合やテキスト・ネットなどの丸写しは不正行為などとみなし得点を与えませんので、自分で調べたものを自分の言葉で書きましょう。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな会計を学習するため、項目によっては初めて聞く言葉も多いとの意見がありました。そのため、よりわかりやすく身近な事例を取り上げるよう心がけます。

【Outline (in English)】

Basic knowledge of business accounting of the sales and the benefit will be learned at this session. This tuition's purpose is to learn about the reach of the financial accounting and all of wide business accounting as well as a management accounting. It'll be also useful in case of job hunting.

The aim of this course is to help students acquire knowledge of corporate accounting.

This goals of this course is to understanding of various accounting.

Before/after each class meeting, students will be to spend two hours to understand to the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Grades will be assessed based on 70% middle and final exams (35% each), and 30% mini-tests (or reports).

MAN200MA (経営学 / Management 200)

簿記Ⅱ

青木 成樹

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんが大学を卒業し、働くことには大きく2つの意味があると思います。一つは、自分の労働力を供給し、その対価としての賃金・給与を得て、生活の手段とすることです。もう一つは、自分の労働力が企業などの活動を通して社会に新たな価値を創出することです。働くことは、個人にとって、企業にとって、そして社会にとって意味のあることです。

本授業では、皆さんの労働力が新たな価値を生み出す土俵である日本の産業について、①産業構造の全体像と変化、②主要産業の特徴・変化や③主要企業の特徴等、多様な観点から学びます。

【到達目標】

本授業を通して、以下の5点について理解を高めることを目標とする。
①国や地域における産業構造の変化について定量的に理解できる。
②国や地域における産業構造に大きな影響を与える要因が理解できる。
③「主要産業」について産業全体の動向と主要企業の動向というマクロとミクロの視点からの理解ができる。
④世界的な産業分析ツールである『産業連関表』について理解できる。
⑤イノベーションの意味と意義が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

産業論は、マクロ経済（一国や地域全体の経済動向）とミクロ経済（企業や消費者の経済行動）の中間に位置する学問領域である。授業については、毎回のテーマに沿って、パワーポイント資料で説明する。全14回の講義内容は大きく4つに分けて行う。最初の3回（第1回～第3回）では、戦後の我が国及び地域の産業構造の変遷や今後の産業構造に影響を与えるソーシャルトレンドについて学ぶ。次の3回（第4回～第6回）では、世界的な産業分析ルーツである「産業連関表」を用いて日本及び地域の産業構造を定量的に把握・分析する。次の4回（第7回～第10回）では、我が国の主要な産業分野について、当該分野の動向や主要企業の動向について学ぶ。次の3回（第11回～第13回）は、イノベーションについて学ぶ。そして最後の第14回は全体のまとめとする。

なお、学生からの質問に対しては、授業各回の最後に時間を設けQ&Aに充てる(対面型の場合)、また授業時間以外でもメール等により質問を受け入れる形とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、我が国の産業構造の特徴	ガイダンスとして、本講義の全体像をまず説明する。次に、我が国の産業の見方について学ぶ。また、戦後の我が国の産業の変化について概観する。 なお、第1回の授業はオンラインで実施する。
2	少子高齢化	我が国の産業に影響を与える諸要因のうち、人口構造（少子高齢化）を取り上げる。少子化、高齢化の意味と実態、及び我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。

3	グローバル化・情報化	我が国の産業に影響を与える他の大きな要因のうち、グローバル化と情報化を取り上げ、その意味と実態、我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
4	産業連関分析の概要	産業構造に関する世界共通の分析ツールである産業連関表 (Input-Output Tables) について、その見方を学ぶ。
5	産業連関表から地域の特徴ある産業の抽出	令和6年に公表された「令和2年産業連関表」や都道府県産業連関表を用いて、我が国及び地域経済の産業構造の特徴を定量的に見る方法を学ぶ。
6	経済波及効果の分析	産業連関表の応用として最も代表的な「経済波及効果」について、理論と実践、及び具体例を学ぶ。
7	主要産業の動向（農業）	グローバル化の進展の中で、再び脚光を浴びている農業について、戦後の推移と最近の動向（農業の6次産業化、等）や農業が有する公益的機能について学ぶ。
8	主要産業の動向（自動車産業）	戦後のリーディング産業である自動車製造業について、国際事業展開の動向、環境問題への取組、EV化の動きや競争力向上に向けた取り組み等を学ぶ。
9	主要産業の動向（電気機械産業）	自動車産業とともに戦後の我が国産業社会をけん引してきた電器産業について、20世紀末からの低迷と最近の復活の動向、さらには半導体産業の動きについて学ぶ。
10	主要産業の動向（商業）	生活に密着した産業として商業、とりわけコンビニ業界の成長・発展と最近の動向について学ぶ。
11	イノベーションの概要	研究開発の成果やノウハウを製品化・商品化し、社会的課題の解決や生活の利便性を向上するという意味でのイノベーションの考え方や類型について学ぶ。
12	イノベーションの担い手としての中堅・中小・ベンチャー企業	イノベーションの担い手として、特徴ある中小企業群（製品開発型企業、コレクトハブ企業、グローバルニッチトップ型企業、ローカルゼブラ企業、等）やベンチャー企業を取り上げ、具体的な事例を学ぶ。
13	身近にあるイノベーション	健康・環境・観光分野を対象に我々の身の回りにあるイノベーションの代表的な事例を取り上げ、多様な観点からその特徴を学ぶ。
14	まとめ	第1回から13回の各回における皆さんからの意見等も踏まえ、各テーマのポイントについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を効果的に学ぶためには、経済の仕組みについて関心をもって頂くとう理解が早いと思います。また、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメ（PPT）を前日までに配布致します。

【参考書】

以下、順不同(五十音順)

- ①岩尾俊兵『日本企業はなぜ「強み」を捨てるのか』 光文社新書 (2023年)
- ②入山章榮『世界標準の経営理論』 ダイヤモンド社 (2019年)
- ③岩井克人『経済学の宇宙』 日本経済新聞社 (2015年)

- ④宇沢弘文『社会共通資本』岩波新書（2000年）
- ⑤環境省編『環境白書』各年版
- ⑥経済産業省中小企業庁編『中小企業白書』各年版
- ⑦経済産業省・厚生労働省・文部科学省編『ものづくり白書』各年版
- ⑧経済産業省編『通商白書』各年版
- ⑨坂本光司&坂本光司研究室『小さくてもいちばんの会社』講談社（2012年）
- ⑩人口戦略会議編著『地方消滅2』中公新書（2024年）
- ⑪中村良平『まちづくり構造改革Ⅰ、Ⅱ』日本加除出版（2014年、2019年）
- ⑫西山圭太『DXの思考法』文芸春秋（2021年）
- ⑬日本経済新聞社編『日経業界地図』（毎年8月発行）
- ⑭原文人『「公益」資本主義』文春新書（2017年）
- ⑮広野彩子編『世界最高峰の経営学教室』日経ビジネス文庫（2023年）
- ⑯藤波匠『なぜ少子化は止められないのか』日経プレミアシリーズ（2023年）
- ⑰前野隆司・前野マドカ『ウェルビーイング』日経文庫（2022年）
- ⑱宮川努『生産性とは何かー日本経済の活力を問いなおす』ちくま新書（2018年）
- ⑲宮沢健一、編『産業連関分析入門』日本経済新聞社（1979年）
- ⑳山口栄一『イノベーションはなぜ途絶えたか』ちくま新書（2016年）
- ㉑吉川洋、『いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ』ダイヤモンド社（2009年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、産業レポート30%、定期試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

今年で本講義は14年目である。最近2年間の授業改善アンケート（有効回答は2024年度12人（13人）、以下（ ）内は2023年度の結果）において「この授業を履修してよかったと思いますか」に対する評価（5段階）の平均は3.92（4.62）であり、学部の全科目の平均4.27（4.33）を下回る（上回る）。授業内容の理解は3.58（4.23）と学部平均4.13（4.13）を若干下回る（上回る）。また、授業の工夫についての評価も4.08（4.31）であり学部平均の4.23（4.30）を下回る（ほぼ同じである）。

自由回答においても「パワポ資料が少しだけ見づらく感じました」（2023年度）や「たまにうるさくする学生がいて、それを注意してくれたらいいなと思った」（2023年度）、「スライドの文字が小さいので、もう少し余白があるとありがたい」（2024年度）、「声が聞き取りにくいのでもう少しゆっくり話してほしいかった」（2024年度）等の意見を頂いており、このような点を中心に改善を図っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

私は1985年に長銀経営研究所（現在は日本政策投資銀行Gの価値総合研究所）に入社して以降、民間のシンクタンクで約40年に渡り国や地方の産業政策の調査に係ってきております。その体験をベースにアドバイスすることがあるとすれば以下です。

- ①「論点」を把握することの重要性。本講義では、社会における現象をやさしく説明するとともに、現象の背景にある問題の構造を多様な視点から捉える事が出来るような講義にしていきたいと考えています。
- ②産業社会の現象を見る際、常に「需要(demand)」と「供給(supply)」の観点から見る癖を身に付けていただきたい。
- ③本講義でも難しい用語や概念が多く出てくると思います。その際、是非、「自分の」言葉で友人に話しかけて（議論して）下さい。やさしいことをやさしく説明するのは簡単です。難しいことを難しい言葉で説明することも、それほど難しくありません。しかし、難しいことをやさしい言葉で説明することは、非常に難しく、かつ重要なことだと思います。
- ④与えられた問題を解くことは、もちろん重要であるが、みなさんが社会人になってより求められるのは、問題を自分なりに設定・設計する能力、いわゆる企画設計力＝デザイン力だと思います。
- ⑤議論において、Yes の反対はNo ではなく、「無視」・「無関心」である。大いに議論して下さい。

【Outline (in English)】

< Course outline >

I believe there are two main meanings to your graduation from university and starting work. The first is to supply your labor, receive a wage or salary in return, and use it as a means of livelihood. The second is to use your labor to create new value in society through the activities of a company or other organization. Working is meaningful for individuals, companies, and society.

In this class, you will learn about Japanese industry, the arena in which your labor will create new value, from a variety of perspectives, including 1) the overall picture and changes in industrial structure, 2) the characteristics and changes of major industries, and 3) the characteristics of major companies.

< Learning Objectives >

Through this class, we aim to improve understanding of the following five points.

- ① Quantitative understanding of changes in Japan's industrial structure
- ② Understand the factors that have a great impact on Japan's industrial structure
- ③ Understand "major industries" from macro and micro perspectives, such as trends in the entire industry and trends in major companies.
- ④ Understand the "input-output table" which is a worldwide industrial analysis tool.
- ⑤ Understand the meaning and significance of innovation

< Learning activities outside of classroom >

In order to study this lecture effectively, I think it will be quick to understand if you are interested in the mechanism of the economy. In addition, the standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Normal point 30%, Industry report 30%, Term-end examination 40%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

経営統計

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、大量の経営・企業データを、パソコンを用いて、整理、集約および分析する方法を学びます。Excelの基本操作から開始し、最終的には、統計学における基本的な検定方法および回帰分析まで学びます。使用するデータは、主に利益および売上等の経済・企業データですが、本演習で獲得できる分析方法は、分野に拘わらず、広く役立ちます。

【到達目標】

統計学の基礎知識を身に付けるとともに、統計を用いた専門的論文を読めるように指導します。高度な統計学は扱いません。あくまで統計分析の基礎を、実践で使えるようになることを目標に置きます。また、経済・経営のデータに精通できるように指導します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

情報実習室にて、演習形式にて行います。パソコンを用いた分析ですので、統計分析の楽しさを経験しながら、自然に分析手法が身についていくと思います。また、経済・経営のデータに精通できるようになります。また、レポートの提出を求めていきますが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	エクセルの基本操作	企業データの処理の基礎として、MS-Excel、統計ソフトRの基本操作について学びます。
3	記述統計(1)	中心的尺度（平均、中位数、最頻値）について、企業データを用いて学びます。
4	記述統計(2)	ちらばりの尺度（レンジ、分散、標準偏差）について企業データを用いて学びます。
5	記述統計(3)	標準化（Z値）について学びます。企業データの大小を相対的に理解できるようになります。
6	記述統計(4)	2変量の相関について学びます。企業データの関連性について理解できるようになります。
7	回帰分析(1)	単回帰について学びます。企業データを一次関数により理解できるようになります。
8	回帰分析(2)	重回帰について学びます。目的変数と複数の独立変数との関連性について理解できるようになります。
9	回帰分析(3)	ダミー変数、交互作用項について学びます。企業データの決定要因をより詳しく理解できるようになります。

10	回帰分析(4)	回帰診断について学びます。企業データの回帰結果を正しく診断できるようになります。
11	回帰分析(5)	回帰分析を用いた、研究論文を読みます。企業データを用いた論文を正確に読めるようになります。
12	各種検定(1)	平均値、平均差の検定等について学びます。企業データが有意に異なるかどうかについて理解できるようになります。
13	各種検定(2)	分散比の検定、カイ二乗検定等について学びます。企業データの分散や比率が異なるかどうかについて理解できるようになります。
14	各種検定(3)	回帰係数の検定について学びます。企業データの回帰の検定について理解できるようになります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまな授業で統計データが取り扱われることが多いと思いますので、それらに関心をもちつつ本講義を受けると、一層効果が高まるでしょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

①授業における発言、取り組み: 25%

②授業内レポート: 45%

③授業内テスト: 30%

【学生の意見等からの気づき】

統計学を理解できてよかったという意見が多いので、引き続き受講者に有用な授業を行っていきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行い、パソコンを用いた演習を行いながら分析手法を身につけていきます。

【その他の重要事項】

・本講義は、「キャリア研究調査法（量的調査）」の実践編という位置づけにあります。新しい上級の知識を獲得するというよりは、基礎を十分に復習し、実践を積んで実際に自分で分析できるようになることが目的です。

・統計の基礎からはじめていくので、「キャリア研究調査法（量的調査）」を履修していない人でも大丈夫です。

・なお、本講義は情報実習室で行うため、履修人数に制限があります。初回の講義には必ず出席してください。履修制限を超えた場合には抽選を行います。

【Outline (in English)】

*Course outline

The aim of this course is to master the basics of statistics. No prior basic knowledge is required.

*Learning Objectives

The goal of this class is to enable students to analyze and interpret large quantitative data on their own. This class will cover descriptive statistics, statistical tests and regression analysis.

*Learning activities outside of classroom

If you are interested in how statistical data is used in the media, it will be useful for your studies. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

in class contribution: 25%. in class Reports: 45%, in class a test: 30%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

経営分析Ⅰ

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）の情報を適切に収集および分析するための基本的な考え方や計算手法を習得することを目的とします。この授業では、財務諸表分析における収益性、安全性、効率性および成長性などに関する伝統的な分析方法を中心に学びます。また、設例や実際のデータを用いて演習を行います。

【到達目標】

具体的な到達目標は以下である。

- ①基本的な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)を読むことができる。
- ②財務数値の意味を理解する。
- ③企業の財務数値を用いて、受講者自身が分析を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

財務諸表分析等の説明を行った上で、各自、実際に分析を行い、実習により理解していくことを基本とします。授業内レポートのフィードバックは、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	財務諸表分析の基礎	・財務諸表分析の意義 ・財務諸表分析の方法
3	財務諸表の見方	・連結財務諸表について ・連結財務諸表の相互関係
4	貸借対照表データによる安全性分析	・貸借対照表データによる基本分析 ・短期財務安全性の分析 ・長期財務安全性の分析 ・有利子負債の分析
5	損益計算書データによる収益性分析	・損益計算書データによる基本分析 ・段階別売上高利益率の算定 ・プロフォーマ利益 ・セグメント情報の分析
6	相互関係比分析による収益性分析(1)	・相互関係比と収益性分析について
7	相互関係比分析による収益性分析(2)	・投下資本利益率の算定 ・投下資本利益率の分解 ・ROAとROEの関係
8	中間レビュー	第7回までの学習内容についてレビューを行います。
9	効率性分析(1)	・使用総資本回転率 ・回転期間の分析
10	効率性分析(2)	・増加運転資本
11	キャッシュ・フロー・データによる分析(1)	・キャッシュ・フローと会計利益 ・活動区分別キャッシュ・フロー
12	キャッシュ・フロー・データによる分析(2)	・キャッシュ・フロー・データによる分析

13 キャッシュ・フロー・フリー・キャッシュ・フローデータによる分析(3) の算定

14 本講義のレビュー 本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・復習をこまめに行うことが知識の定着に有効です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

乙政正太 著『財務諸表分析(第4版)』同文館出版、2024年。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次のとおりです。

①平常点30%（授業内のQuiz、レポートの得点）

②定期試験70%

【学生の意見等からの気づき】

・抽象度の高い概念について、具体的な事例を用いた説明をすることを心がけます。

・また、事例を多く取り上げ、受講者が主体的に取り組めるように工夫します。

【その他の重要事項】

・「企業会計論」を学ぶと、本講義の内容を一層よく理解できます。

・本講義は、経営分析Ⅱの基礎となります。会計学は専門性が高いですが、一度身に着けると、ずっと使うことができるやりがいのある勉強です。

【Outline (in English)】

*Course outline

The aim of this course is to help students acquire Business Analysis. The goals of this course is to use financial statement information to understand the business conditions of companies based on management indicators and other information.

*Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to review the class on a regular basis. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Quiz and short reports: 30%, Term-end examination: 70%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

経営分析Ⅱ

平井 裕久

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）から得られる情報を利用し、そこから算定される経営指標などによって、企業の経営状態の実像や課題を観察する眼を養うことを目標とする。

財務諸表分析における、企業の収益性、安全性、効率性、成長性などに関する伝統的な分析方法を中心とし、また近年話題のテーマである企業価値評価についても、設例や上場企業のデータを用いて講義していく。

【到達目標】

具体的な到達目標は以下である。

- ①基本的な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)を読むことができる。
- ②財務数値の意味を理解する。
- ③企業の財務数値を用いて分析を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、プレゼンテーションソフトを用いて説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。また数回のリアクションペーパー提出を行って頂き、進捗スピードや内容の理解度について確認をおこなっていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方や、経営分析を学ぶ意義について説明する。
第2回	第8章 損益分岐点分析	・損益分岐点分析の意味 ・限界利益と損益分岐点 ・利益図表
第3回	第8章 損益分岐点分析	・営業レバレッジ ・変動費と固定費
第4回	第9章 成長性分析	・業績の推移 ・業績予想との比較 ・上場企業の成長性
第5回	第10章 付加価値分析	・付加価値の意味 ・労働生産性の分析 ・労働分配率 ・経済的付加価値
第6回	第13章 利益マネジメントと財務諸表分析	・会計利益の操作性 ・利益マネジメントの方法
第7回	第13章 利益マネジメントと財務諸表分析	・利益マネジメントの行使パターン ・利益マネジメント行動の検出
第8回	中間テスト	中間テストの実施および解説
第9回	補章 貨幣の時間的価値と割引計算	・貨幣の時間的価値 ・年金の現在価値 ・年金型投資商品の現在価値
第10回	第11章 倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・ファンダメンタル分析 ・企業価値評価の間便法

第11回	第11章 倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・配当割引モデル ・割引キャッシュ・フローモデルと企業価値評価
第12回	第12章 会計利益に基づく価値評価	・会計利益と株式価値評価 ・残余利益と株式価値評価モデル
第13回	第12章 会計利益に基づく価値評価	・価値関連性分析 ・株価説明力に影響を及ぼす要因
第14回	試験・まとめと解説	まとめと試験実施および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

乙政正太 著『財務諸表分析(第4版)』同文館出版、2024

【参考書】

青木茂男『要説 経営分析（三訂版）』森山書店、2008

桜井久勝『財務諸表分析（第5版）』中央経済社、2012

佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本（第5版）』日本経済新聞出版社、2012

森田松太郎『経営分析入門（第4版）』日本経済新聞出版社、2009
バレー他、斉藤静樹監訳、筒井知彦他訳『企業分析入門（第2版）』東京大学出版会、2001

平松一夫他『事例でわかる企業分析』東京経済情報出版、2009
ペンマン、杉本徳栄他訳『財務諸表分析と証券評価』白桃書房、2005

【成績評価の方法と基準】

定期試験(60%)・中間テスト(30%)・平常点(10%)による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

前年度は担当していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】

受講に際して、簿記の基礎的な知識(日商簿記3級程度)はあることが望ましい。
授業および試験においては、“電卓”を準備すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire Business Analysis.

The goals of this course is to use financial statement information to understand the business conditions of companies based on management indicators and other information.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、Short reports : 30%、in class contribution: 10%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

経営組織論 I

展開科目

梅木 眞

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月1/Mon.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の生活は企業を中心としたさまざまな組織に支えられている。また、我々自身も組織の一員として働き、キャリアを形成している。春学期はミクロな視点＝組織の中の個人及び小集団に焦点を当てて学んでいく。

【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。将来企業組織などの一員として、働く人々の生産性を高めるために必要な知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書及び参考図書に基づき、通常の講義形式で行う。授業内に行う小課題などに関しては、講義の際に随時対面にてフィードバックを行う。期末試験の講評に関しては授業支援システムにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	個人行動の基礎	企業で働く人々の価値観や態度についての理解を深める
3	個人行動	従業員のものの見方（認知システム）や学習について理解を深める
4	働く人のパーソナリティ	パーソナリティの類型化と人間の感情
5	働く人の感情	パーソナリティや感情を、職務との関連で理解する
6	動機付けの基礎	初期の動機付け理論
7	動機付け理論（1）	現代の動機付け理論/マクレランド理論他
8	動機付け理論（2）	現代の動機付け理論/職務設計理論他
9	動機付けの実践（1）	動機付けの実践/MBO（目標による管理）他
10	動機付けの実践（2）	動機付けの実践/職務設計理論他
11	個人の意思決定（1）	意思決定のメカニズム：合理的意思決定と現実の意思決定
12	個人の意思決定（2）	意思決定の改善のためのツール：どうすれば生産性の高い意思決定を行うことができるか
13	集団行動（1）	集団に関する基礎、グループ・ダイナミクス
14	集団行動（2）	集団による意思決定のメカニズム、どうすれば組織的に良い意思決定を行うことができるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。

皆さんが所属している集団や、これから就職するであろう組織をイメージしながら受講すると、理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スティーブンP.ロビンズ（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】

Robbins and Judge(2021) Essentials of Organizational Behaviour, Global Edition. Pearson Education Limited.

(講義で用いるテキストのglobal versionです)

それ以外は必要に応じて講義中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験で90%評価します。期末試験は対面あるいはオンラインのいずれかでを行います（決定次第、授業支援システムで告知します）。また、授業中の小課題で10%の加点を行います。成績評価基準は以下の通りです。

A+

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる

A-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる

B-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。

C以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。

D以下

組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例などを取り上げつつ、できるだけわかりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて参考資料を配布する場合がありますので、指示に従ってください。

【Outline (in English)】

Our lives are supported by various organizations. We work as a member of the organization and form a career. In spring term, we focus on individuals within the organization.

Learning objectives are to systematically understand the basics, applications, and practices of organizational theory. As a member of a corporate organization, acquire the knowledge necessary to increase the productivity of working people.

Outside of classroom, deepen your understanding if you take the course while imagining the group to which you belong and the organization that you will find employment in the future. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Lecture will proceed according to the textbook, so read the instructed part in advance.

90% will be evaluated in the final exam. The final exam will be held either face-to-face or online (as soon as it is decided, it will be announced on the class support system). Additionally, 10% points will be added for small assignments during class.

Report assignments will be assigned twice and will be evaluated. The grade evaluation criteria are as follows.

A+

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory sufficiently theoretically using examples.

A-below

Be able to theoretically explain the basics, applications, and practices of organizational theory using examples.

B-or higher

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately, theoretically.

C or above

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately.

D or less

It is not possible to accurately explain the basics, applications, and practices of organizational theory.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

経営組織論Ⅱ

展開科目

梅木 眞

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月1/Mon.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトを動かし、組織を動かし、成果を出していくためにはどうすれば良いか。機能不全に陥った組織をどうすれば良いか。秋学期は集団、組織、組織間レベルの分析に焦点を当てていきます。

【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書及び参考図書に基づき、通常の講義形式で行う。授業内に行う小課題などについては、講義の際に対面にて随時フィードバックを行う。期末試験の講評については授業支援システム内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	チーム	チームを理解する
3	コミュニケーション（1）	コミュニケーションのメカニズム
4	コミュニケーション（2）	コミュニケーションの阻害要因と改善メカニズム
5	リーダーシップ（1）	初期のリーダーシップ理論
6	リーダーシップ（2）	現代のリーダーシップ理論
7	パワーと組織内政治	組織内で行使される力
8	コンフリクト	コンフリクトの定義・分類・活用
9	交渉	組織内外における交渉のメカニズム
10	組織構造	組織構造の基礎と組織デザイン
11	組織文化	組織文化の類型化・文化の形成と業績との関連
12	人材管理	採用・育成・業績評価
13	組織変革と組織開発（1）	組織変革の基本
14	組織変革と組織開発（2）	変革のマネジメントと組織開発の具体的手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。自分だったらどのように考え、行動するか、常に自身に置き換えて考えながら講義に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ステーブンP.ロビンズ（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】

Robbins and Judge(2021) Essentials of Organizational Behaviour, Global Edition. Pearson Education Limited.

(講義で用いるテキストの global version です)

それ以外は必要に応じて講義中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験で90%評価します。期末試験は対面あるいはオンラインのいずれかで行います（決定次第、授業支援システムで告知します）。また、授業中の小課題で10%評価します。

成績評価基準は以下の通りです。成績評価基準は以下の通りである。

A+

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる

A-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる

B-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。

C以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。

D以下

組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ具体的な事例、手法などを示すことによってわかりやすい授業を心がけていきます。

【学生が準備すべき機器他】

参考資料を学習支援システムを用いて配布する場合があります。指示に従ってください。

【Outline (in English)】

In this lecture, we study how to influence people, manage organization, and achieve its goal. We focus on group, and organizational, and inter-organizational level.

Learning objectives are to systematically understand the basics, applications, and practices of organizational theory.

The lecture will proceed according to the text, so read the instructed part in advance. Please attend the lecture while always thinking about how to think and act if you are yourself. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

90% will be evaluated in the final exam. The final exam will be held either face-to-face or online (as soon as it is decided, it will be announced on the class support system). Additionally, 10% points will be added for small assignments during class.

Report assignments will be assigned twice and will be evaluated. The grade evaluation criteria are as follows.

A+

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory sufficiently theoretically using examples.

A-below

Be able to theoretically explain the basics, applications, and practices of organizational theory using examples.

B-or higher

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately, theoretically.

C or above

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately.

D or less

It is not possible to accurately explain the basics, applications, and practices of organizational theory.

MAN200MA (経営学 / Management 200)		
マーケティング論		展開科目
小川 浩孝		
単位数：2単位 開講セメスター：春学期授業/Spring		
曜日・時限：月4/Mon.4 配当年次：2～4年		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 「マーケティング」という概念は1900年代初頭にアメリカで生まれ、1950年代から順次体系化・学習され実務に利用されてきた。日本でも60年代ごろから徐々に浸透を始め、今では企業や組織で働く人たちにとって必須の知識・ツールと理解されるようになってきた。しかしながら、「マーケティングとは何か?」「どんな要素が含まれているのか?」と聞かれても明確に答えられる人は意外と少ない。販売や広告活動、あるいは経営陣が決定する（一社員である自分とは無関係な）企業戦略だと混同している人たちも多い。また、マーケティングは営利企業が「儲ける」ための概念・ツールであって、非営利組織や政府機関には関係ないと思っている人たちも多い。大学卒業後に皆さんが進む道は様々だろうが、この授業が、誰にとっても必須の知識・ツールとしての「マーケティング」への入口となり、変化の激しい社会にあっても活かせる原理として習得されることを目指す。さらに、秋学期に実施される「マーケティング・リサーチ/流通・マーケティング戦略論」と有機的にコネクトすることで、SDGs活動やITと深く関わる現代マーケティングの先端領域までカバーすることを目指す。 【到達目標】 1. マーケティングに関する基本的な用語を理解し説明できるようになる 2. マーケティングに関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解する 3. 社会のなかで実践されているマーケティング活動を理論と結びつけながら理解する 4. 最先端のマーケティング分野（SDGs、ソーシャルマーケティング、ITを用いたマーケティング、DIYマーケティングなど）の一旦に触れる。 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連 【授業の進め方と方法】 授業は、テキストを用いた講義、グループディスカッション、グループワーク、個人による課題への提出、グループワークによる課題提出を併用する。 個人による課題提出はA41枚程度にまとめた課題に対するペーパーの提出（授業2回に1回程度の頻度）となる。またグループワークの結果による課題提出はプレゼンテーションの作成と授業内での発表による。これらに対するフィードバックは都度授業の中において行うか、もしくは個別にコメントなどを付けて返送する。 講義にあたってはできる限り事例を用いてわかりやすく説明する。事例には、実務家による講演や実務家の登場するビデオの鑑賞などを予定する。 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes 【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
第2回	セグメンテーションとターゲティング	マーケティングにおける基本的概念であるSTPのうち、セグメンテーション(市場細分化)とターゲティングの重要性について考察する。セグメンテーションという考え方、有効なセグメンテーションとは何かを理解する。
第3回	ポジショニング	STPのうち、競争していくにあたって自分の立ち位置を決めるプロセスであるポジショニングを理解する。マーケティング戦略の基本となる差別化を決定づけるポジショニングの重要性を理解する。
第4回	マーケティング・ミックス	マッカーシーの4Pといわれる近代マーケティングを支える概念を理解する。マーケティング・ミックスとそれらを統合的にマネジメントしていくことが求められる現代の経営について理解する。
第5回	プロダクト	製品コンセプトや顧客のベネフィットについて理解する。またアイディア発想のグループワークを行う。ブレインライティング、デザイン思考、オズボーンのチェックリストなどのアイデア発想のメソッドも取り入れながらグループに分かれて取り組む。
第6回	コミュニケーション（プロモーション）	企業のプロモーション、広告について理解する。営業などのセールスも含め幅広くプロモーションについて理解する。
第7回	プライシング	いろいろな価格決定のアプローチを理解する。消費者視点、企業視点、競争視点などから価格決定プロセスを理解する。
第8回	チャネル(プレイス)	チャネルの種類、どのような製品であればどのような店舗で売ったらいいのか、どのようなチャネルが有効なのか等の概要を理解する。チャネルの構成など詳細は秋学期の流通・マーケティング戦略論にてさらに深く理解する。
第9回	消費者心理と消費者行動	消費者行動理論とマーケティングとの関わりについて理解する。多属性態度モデル、刺激反応モデルなどの代表的な消費者モデルを取り上げて消費者がどのように購買行動をおこなうかの理論を理解する。
第10回	顧客リレーションシップ	顧客満足と顧客価値はどう違うのか、顧客満足の向上はなぜ大切なのかを理解する。
第11回	マーケティング・リサーチの実際とブランドマネジメント	マーケティングリサーチの基礎概念・種類や特徴について理解する。また、ブランド、信頼がいかに関与しているかを事例をもとに理解する。
第12回	マーケティングと会計	売上・原価・粗利・営業利益、資産と負債などマーケティング戦略の計画決定と成果を測る上で不可欠な会計の基礎的知識を理解する。

第13回	今日のマーケティング	ソーシャルマーケティング、SDGsに関わるマーケティング、SNSやAIを用いたマーケティング、DIY マーケティングなど、マーケティングの先端領域に触れる。
第14回	まとめと解説・筆記試験	ここまでの話を総括し、これからのマーケティングを展望する。筆記試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書を読み質問等をまとめておいてください。日頃から新聞やニュースに目を通し、日々の社会・経済の動きに注意を払ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。2回に1回程度、A4で1ページほどの簡単な提出物があります。また、グループに分かれて課題に関するディスカッションを行い、協力して提出物にまとめてもらう場合もあります。毎回授業開始の直前に授業で使用するスライドのPDFをHoppiiに掲載します。ダウンロードしてメモを取るなどに利用してください。

【テキスト（教科書）】

恩蔵直人『マーケティング第2版』日本経済新聞出版、2019/2/1 990 円

【参考書】

和田充夫他『マーケティング戦略第6版(有斐閣アルマ)』2022、有斐閣。

Kotler, P., Armstrong, G., Opresnik, M.O., Principles of MARKETING 18e GLOBAL EDITION, Pearson Education, 2020

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、

1. マーケティングに関する一般的知識を習得したか
2. マーケティング理論を十分理解し、説明することができるか
3. 社会におけるマーケティングの役割を理解し、実際のマーケティング活動を理論に関連付けて説明することができるか
4. 最先端のマーケティング分野を理解したかの4点を試験によって評価する方法で行います。成績評価は、平常点60%、最終試験40%の割合で行います。平常点は出席率、授業参加態度(Class Participation)、課題提出率、課題提出内容で判断します。グループ課題の場合は課題そのものの評価と、グループメンバー相互の評価をミックスして行います。成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

教員からの一方的な説明だけでなく、グループワークやグループディスカッション、地方の農家や海外ブランドのマーケティング上の具体的な事例が刺激となり、学びが深まったという意見が見られました。出来るだけこのような要素を取り入れた授業構成をします。また、授業に双方向なコミュニケーションを取り入れるようにします。受講生の多い授業ですが、出来るだけこのような形での授業運営をしたいと思いますので、バラバラに教室の後方に着席するのではなく、参加しやすいように教室の前の方に固まって着席するようご協力をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システムHoppii、googleclassroomを使用します。スマートフォン、タブレット、PCなど、インターネットにアクセスできる環境を各自確保してください。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

The concept of "marketing" was born in the United States in the early 1900s, and was gradually systematized, studied, and used in practice from the 1950s. It began to gradually spread in Japan from around the 1960s, and is now understood as essential knowledge and tools for people working in companies and organizations. However, when asked "What is marketing?" and "What elements does it include?", surprisingly few people can clearly answer. Many people confuse it with sales and advertising activities, or corporate strategies decided by management (which have nothing to do with me, an employee). Also, many people think that marketing is a concept and tool that profit-making companies use to "make money," and has nothing to do with non-profit organizations or government agencies. Although you may take different paths after graduating from university, this class will be an entrance to "marketing" as essential knowledge and tools for everyone, and aims to help you acquire the principles that can be used even in a rapidly changing society. Furthermore, by organically connecting with the "Marketing Research/Distribution and Marketing Strategy" course held in the fall semester, the course aims to cover cutting-edge areas of modern marketing that are deeply connected to SDGs activities and IT.

< Learning Objectives >

1. Be able to understand and explain basic marketing terminology
2. Acquire general knowledge about marketing and understand its role and basic theory
3. Understand marketing activities practiced in society while linking them to theory
4. Get exposure to cutting-edge marketing fields (SDGs, social marketing, marketing using IT, DIY marketing, etc.).

< Learning Activities Outside of Classroom >

Please read the textbook and prepare any questions you have in advance. Please read the newspaper and the news regularly, and pay attention to daily social and economic trends. The standard preparation and review time for this class is two hours for each class. A simple A4 page assignment will be required once every two classes. Students may also be divided into groups to discuss the assignment and work together to compile an assignment and present in the class. A PDF of the slides used in class will be posted on Hoppii just before the start of each class. Please download it and use it to take notes, etc.

< Grading Criteria /Policy >

The grades will be assessed by exams on the following four points:

1. Acquired general knowledge about marketing
2. Fully understood and explained or marketing theory?
3. Understood the role of marketing in society and could explain actual marketing activities in relation to theory
4. Understood the cutting-edge field of marketing?

Grades will be based on 60% of the regular grades and 40% of the final exam. Regular grades will be determined by attendance rate, class participation, assignment submission rate, and assignment submission content. For group assignments, the grades will be a mix of the grade of the assignment itself and the grades of the group members. Grades will be based on a total of 100 points, with a score of 60 or more being a pass.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

マーケティング・リサーチ

小川 浩孝

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで、グローバリゼーション、IT 革命、働き方改革、多様性、社会持続性への注目などが、流通・販売・マーケティングのあり方に大きな変化をもたらしてきた。さらにインフレーション、パンデミック、ウクライナ侵攻、地政学的リスク、近年の自然災害多発などは、全ての個人・企業・組織にそれまでとは全く異なる次元の変化をもたらし、存在や活動のあり方を根本的に見直すべき状況を作り出している。そして、それらの変化のうねりはさらに加速しているように見える。そのような状況の中、どのような業種・業態・職業・地位であっても必須となるITネイティブな考え方を軸とし、新しい流通・販売・マーケティングを共に考えることによって、変化を先取り変化とともに前に進める視点や考え方を身につける。さらに、将来実務で成果を出すのに役立つ流通やチャネルマネジメントに関連した基本概念と知識・経験を習得する。春学期に開講する「マーケティング論」での学習知識をさらに深め、ソーシャルマーケティングやIT・AIを用いたマーケティング、DIY マーケティング、スタートアップ/SME組織でのマーケティングなど新分野への視野を広げることも目的とする。

さらに、今年度からはマーケティング・リサーチの基礎概念の理解と、流通・マーケティング分野での適用を実践的利用を通じて学ぶことを取り入れる。

【到達目標】

- 1 国内外の流通・販売業の成り立ち、付随する流通戦略、B2B/B2C マーケティングの基本概念・進化の歴史を理解する。
- 2 流通業・販売業(あるいは企業経営)に起きている劇的な変化を、消費者としてのこれまでの経験や社会人として目指す方向と照らし理解し、将来を見通す視点と考え方を獲得する。
- 3 起業家、流通サービスやそれに付随するマーケティングの経験豊富な実務者を登壇者として招いたり、ビデオを鑑賞することで、実務の世界で役立つ知識や事例に触れ、将来の実務家・起業家として理解しておくべき基礎的な知識と経験を身につける。また、理論と関連付けた理解が十分にできるよう、都度質問に答える。
- 4 流通・マーケティング分野でのマーケティング・リサーチ手法の適用を実践的に学ぶことでマーケティング・リサーチの基礎概念を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストや資料を用いた講義と、実務家・起業家の講演・質疑応答、ビデオを鑑賞し、グループに分かれて討議・発表するなどの授業を交互に行なう。またグループごとに店舗を訪問し、観察を行うなどのプロジェクトも計画する。なお、実務家の招聘予定等に変更される場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	流通・販売チャネルとは	国内外における流通・販売チャネルの進化過程を歴史に沿って概観する。
第2回	流通戦略とマーケティング（1）	流通戦略と流通におけるマーケティング活動を理解する。
第3回	流通戦略とマーケティング（2）	B2B と B2C マーケティングの共通点と相違点を理解する。

第4回	流通・販売における国内・海外の成長業態・企業と、衰退業態・企業（1）	同じ業界にあっても、成長している業態・企業と、衰退している業態・企業はどこかを幅広い業種の中から取り出し、分類する。
第5回	流通・販売における国内・海外の成長業態・企業と、衰退業態・企業（2）	成長企業と衰退企業の流通戦略やマーケティング戦略における共通点と相違点を見出す。
第6回	流通・マーケティングにおけるマーケティング・リサーチ（1）	マーケティング・リサーチの様々な手法を実例を元に理解する。
第7回	流通・マーケティングにおけるマーケティング・リサーチ（2）	マーケティング・リサーチの様々な手法を実例を元に理解する。
第8回	グループワーク（1）	マーケティング・リサーチの実際の流通分野への適用をグループワークを通じて理解を深める。
第9回	流通やマーケティングと会計	売上、原価、粗利、販売管理費、一般管理費、営業利益、資産と負債など、計画立案に不可欠な基礎的会計知識と用語を学ぶ。
第10回	流通とマーケティングの新潮流	SDGs、SNS、AIを使用したマーケティング、DIY マーケティングなど、流通・マーケティングで起こっている新潮流を確認し、社会に対してどのような影響があるか理解する。必要に応じて実務家に登壇してもらう。
第11回	流通運営における人事評価やチームづくり	テキストを基に、効果的で生産性の高いチームづくりについて理解する。
第12回	グループワーク（2）店舗見学	マーケティング・リサーチの観点から店舗を見学し、グループ発表に備える。
第13回	グループ発表（1）	店舗見学の成果をグループごとに発表する。
第14回	グループ発表（2）	店舗見学の成果をグループごとに発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習と課題提出（各2時間）、グループディスカッションやグループワークに重点を置いた学習になります。A4で1ページくらいの短い提出物が2回に1回ほどあります。また、グループに分かれて課題に関するディスカッションを行い、協力して提出物にまとめたり、発表してもらう場合もあります。前回の授業の資料を確認し、次の授業に備えます。時間外に店舗見学を行う外出があります。数名のグループに分かれ指定された店舗の見学に出かけ、レポートにして発表・提出を行います。毎回授業開始の直前に授業で使用するスライドのPDFをHoppiiに掲載します。ダウンロードしてメモを取るなどに利用してください。

【テキスト（教科書）】

なし None

【参考書】

Levy, M., Weitz, B.A., Grewal, D., Retailing Management 9th Ed., McGraw-Hill Higher Education, 2014『流通チャネルの転換戦略』V. カストゥーリ・ランガン著、小川孔輔監訳、小川浩孝訳、ダイヤモンド社、2011
『1からのリテール・マネジメント』清水信年、坂田隆文、碩学舎、2012
『マーケティング・リサーチ入門』星野崇宏、上田 雅夫 有斐閣、2018

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点60%、課題40%の割合で行います。平常点は出席率、授業参加態度(Class Participation)、課題提出率、課題提出内容で判断します。グループ課題の場合は課題そのものの評価と、グループメンバー相互の評価をミックスして行います。

【学生の意見等からの気づき】

教員からの一方的な説明だけでなく、グループワークやグループディスカッションが刺激となり、学びが深まったという意見が見られました。出来るだけこのような要素を取り入れた授業構成をします。また、授業に双方向なコミュニケーションを取り入れるようにします。受講生の多い授業ですが、出来るだけこのような形での授業運営をしたいと思いますので、バラバラに教室の後方に着席するのではなく、参加しやすいように教室の前の方に固まって着席するように協力をお願いします。またグループに分かれて課題を行う場合は、一部の学生だけに負荷がかからないよう配慮したグループ分けを行います。また、学生同士相互に連絡が取りやすいよう連絡網の共有などを行います。

また、発表に時間がかかることが見られたため、タイムマネジメントに配慮した授業運営を行います。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システムHoppii、googleclassroomを使用します。スマートフォン、タブレット、PCなどで、インターネットにアクセスできる環境を各自確保してください。

【その他の重要事項】

東京周辺の店舗に見学に行くグループ課題があります。交通費等は自己負担となります。また、訪問日程などは、店舗側やグループメンバーと調整し決定することになります。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

Globalization, IT revolution, work style reform, diversity, and attention to social sustainability have brought about major changes in distribution, sales, and marketing. In addition, inflation, pandemics, the invasion of Ukraine, geopolitical risks, and the frequent occurrence of natural disasters in recent years have brought about changes of a completely different dimension to all individuals, companies, and organizations, creating a situation in which we must fundamentally reconsider our existence and activities. And these waves of change seem to be accelerating even further. In such a situation, by thinking about new distribution, sales, and marketing together, centered on IT-native thinking, which is essential for any industry, business type, occupation, or position, students will acquire a perspective and way of thinking that can anticipate change and move forward with it. In addition, students will acquire basic concepts, knowledge, and experience related to distribution and channel management that will be useful in achieving results in the future. The aim is to further deepen the knowledge learned in the "Marketing Theory" course offered in the spring semester and broaden their horizons to new fields such as social marketing, marketing using IT and AI, DIY marketing, and marketing in startups/SME organizations. In addition, starting this year, students will learn to understand the basic concepts of marketing research and how to apply them in the distribution and marketing fields through practical application.

< Learning Objectives >

1 Understand the origins of the domestic and international distribution and sales industries, the associated distribution strategies, and the basic concepts and evolutionary history of B2B/B2C marketing.

2 Understand the dramatic changes occurring in the distribution and sales industries (or corporate management) in light of past experiences as consumers and the direction you aim for as a member of society, and acquire a perspective and way of thinking that foresees the future.

3 By inviting experienced entrepreneurs and practitioners of distribution services and associated marketing as speakers and watching videos, you will come into contact with knowledge and cases that will be useful in the practical world, and acquire the basic knowledge and experience that you will need as a future practitioner and entrepreneur. In addition, questions will be answered each time to ensure a thorough understanding in relation to theory.

4 Understand the basic concepts of marketing research through practical learning about the application of marketing research methods in the distribution and marketing fields.

< Learning Activities Outside Of Classroom >

The learning will focus on review and assignment submission (2 hours each), as well as group discussion and group work. A short submission of about one page on A4 paper will be required about once every two lessons. Students will also be divided into groups to discuss the assignment, and may be asked to work together to compile and present their submission. Students will review materials from the previous lesson and prepare for the next lesson. There will be an outing outside of class to tour a store. Students will be divided into groups of several people and go on a tour of a designated store, and will write a report to present and submit. A PDF of the slides used in class will be posted on Hoppii just before the start of each lesson. Please download it and use it for taking notes, etc.

< Grading Criteria >

Class participation 60%, Assignment submission and contents 40%. If team assignment, team members evaluate other members' contribution and cooperations each other.

< Others >

There will be a group assignment to visit stores around Tokyo. Travel expenses will be borne by the group members. In addition, the visit date will be decided in coordination with the store and group members.

ECN200MA（経済学 / Economics 200）

仕事の経済学

佐藤 一磨

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分を取り巻く社会環境、特に労働市場の状況を理解することは、キャリアを形成する上で非常に重要となります。そこで、この講義では、現在の日本の労働市場の状況を理論と現実の双方から学んでいきます。なお、授業の中ではキャリア形成を研究するうえで有効な統計データの内容や扱い方についても学習し、理解を深めていきます。

【到達目標】

労働経済に関する基礎的な理論を理解できるようになることを目標とします。また、労働市場に関する代表的なデータの内容やその利用方法を理解し、今後のキャリア形成を行っていく上でそれらの情報を応用できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、テキストに基づいた授業資料(PPT)を用い、毎回一つのトピックスに関する理論とデータを紹介します。経済学理論では数式を使わずにその内容を直感的に説明します。また、データでは政府統計等を用い、現実の労働市場の現状をさまざまな視点から説明していきます。なお、本授業では毎回の授業で小テストを実施し、次の授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	履修内容について全体解説。経済学を学ぶ意味について説明。
第2回	働く者を取り巻く環境の変化	近年の労働市場の変化をさまざまな側面から説明。
第3回	労働サービスの特性	他の財とは異なる労働の特徴について説明。
第4回	労働供給①	所得・余暇平面、無差別曲線、所得制約線を説明。
第5回	労働供給②	理論モデルを用い、労働者の就業の意思決定を説明。
第6回	労働需要①	資本・労働平面、等量曲線、等費用線を説明。
第7回	労働需要②	企業の最適労働需要モデルを説明。
第8回	失業	失業の種類、実際に動向、失業の経験法則について説明。
第9回	雇用調整	雇用調整係数について説明。
第10回	労働市場における情報の役割	情報探索コストが労働市場に及ぼす影響や雇用主が労働者を監視する上で発生するコストについて説明。
第11回	経済の構造変化と雇用制度	人口構造・競争構造・意識の変化について説明。
第12回	賃金と労働時間の経済分析	日本の賃金と労働時間がどのように変化してきたのかを理論とデータの側面から説明。
第13回	女性労働力	結婚・出産前後の女性就業の変化を中心にその実態を説明。

第14回 高齢者雇用の経済分析 高齢者雇用の実態とその直面する課題を説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、次回授業の教科書の章を読み、内容を把握するようにしましょう。復習として、もう一度授業で扱った章を読み、インターネット等で関連する内容を調べてみましょう。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

本授業では講師の作成したパワーポイントの資料を使用するため、教科書はありません。

【参考書】

清家篤・風神佐知子(2020)『労働経済』, 東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト(40%)と学期末のテスト(60%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の経験から、毎回の授業で実施する小テストの中でも、計算問題についてはその次の回の授業で丁寧に回答を解説したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントの資料を閲覧できるPC等の機器をご準備ください。

【その他の重要事項】

質問や欠席に関する連絡はkazuma.sato.87@hosei.ac.jpまでご連絡ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Understanding the social environment surrounding you, especially the labor market situation, is extremely important in forming your career. Therefore, in this course, we will learn about the current situation of the Japanese labor market from both a theoretical and practical perspective. In addition, in the classes, we will also learn about the contents and handling of statistical data that is useful in researching career formation, deepening our understanding.

【Learning Objectives】 This course aims to understand the fundamental theories of labor economics. It also seeks to understand the content of representative data on the labor market and how to use it, as well as to apply that information in their future career development.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Grades will be assessed by in-class quizzes (40%) and end-of-term exams (60%).

MAN200MA (経営学 / Management 200)

ブランド創造論

展開科目

石原 篤

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物や情報が溢れる時代に、人は何を基準に買い物をしたり、情報を取捨選択していくか。ブランドは人の気持ちを動かしたり、行動を生み出していく上で大きな役割を果たしています。

かつてブランド創造は、対象となるブランドに対する良質なイメージをつくること、表面を装うことだと誤解されていました。例えば、ブランドロゴやビジュアルづくりだけがブランド創造だとされていたのもその現れです。一方で、いま皆さんがブランドに触れる時にどこに目を向けるか。おそらくブランドの態度や行動ではないでしょうか。ブランドの表面だけではなく内面に目が向けられているわけです。このようにブランド創造の形はここ数十年で大きく変化し、現在も進化を続けています。

この講義では、ブランドとは何か、ブランドをどうつくるか、などを論理的な観点だけでなく、ブランドづくりの現場の実態や実情なども踏まえながら学んでいきます。

また、企業のマーケティング活動におけるブランドのあり方・つくり方を理解するだけでなく、受講生が一人の人間として自分自身のブランドをどのようにつくり上げていくかを学ぶことも目的とします。

【到達目標】

- (1) ブランドとは何かを理解し、説明できる。
- (2) ブランド創造のアプローチを理解し、実践する。
- (3) ブランド創造に必要な合意形成ツール「企画書」の作成方法を、身につける。
- (4) 正解のない多様性の時代の中で、セルフブランディングの重要性を理解し、実践してみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義は、博報堂出身で現在もクリエイティブディレクターとして活動する教員が勤めます。
- ・前半の授業は、論理と事例紹介を行う講義を中心に進めますが、理解を深めるためのアンケートや授業内課題を併用します。
- ・中盤から後半の授業は、リアリティのあるブランドづくりを学ぶために、広告業界・エンタメ業界・飲食業界でブランド創造に従事する方や、クリエイター・アーティストとして活動される方をゲストに招き、お話を伺います。（ゲストは変更になる可能性があります）
- ・後半の授業では、授業全体の振り返りを兼ねて「演習課題」を出題し取り組んでいただきます。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
- ・授業後には適宜アンケートの回答をお願いします。アンケートでいただいたコメントは次回以降の授業内で紹介し、講義内容の品質向上に役立てます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介、講義の狙いと授業計画の説明、講義に期待するアンケートの回答
第2回	ブランド創造概論	ブランディング、マーケティング、コミュニケーションなどのキーワードの実践的な分類と関係性

第3回	ブランド創造史	1980年から2020年まで40年間にわたる日本のブランディングの変遷
第4回	ブランド創造とアートディレクション 【ゲスト講義】	ブランドづくりににおけるアートディレクションという方法論 ※ゲストとしてアートディレクター/デザイナーの方にお越しいただきます
第5回	ブランド創造とコピーライティング 【ゲスト講義】	言葉を起点にブランドをつくり出す方法論 ※ゲストとしてコピーライターの方にお越しいただきます
第6回	ブランド創造の新しい潮流①	地球環境・社会環境の変化に伴うサステナブルなブランド創造
第7回	ブランド創造の新しい潮流②	WEB3.0時代におけるリアルとデジタルの境界線のないブランド創造
第8回	社会と接続するブランド創造【ゲスト講義】	ブランドづくりににおけるPR（パブリックリレーションズ）という方法論 ※ゲストとしてクリエイティブディレクター/PRディレクターの方にお越しいただきます
第9回	ブランド戦略とアイデアのつくり方	ブランドづくりをしていくための戦略構築とアイデアのつくり方 「ブランド創造実習」課題発表 わたしが欲しい！を、みんなが欲しい！に昇華させるブランドづくり ※ゲストとしてD2Cブランドのブランドディレクターの方にお越しいただきます
第10回	商品とブランド創造 【ゲスト講義】	店舗を起点にしたniko and ...のブランド創造 ※ゲストとしてライフスタイルブランドのブランドディレクターの方にお越しいただきます
第11回	社会とブランド創造 【ゲスト講義】	社会課題を解決し実現したい世界をつくるためのブランドづくり ※ゲストとして社会起業家の方にお越しいただきます
第12回	ブランド創造実習講評	実習課題で提出された企画書を紹介しながら講評
第13回	セルフブランディングのススメ	ブランド創造に関わる働き方と受講生自身のセルフブランディングの方法論 ゲスト）株式会社電通 ビジネスプロデュース局所属 桑原卓也氏（法政大学経済学部卒業生）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 通常講義では適宜事前課題の出題、授業前後のアンケートを行います。
- (2) また、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
- (3) 実習においては、授業時間外の個人ワークとして、リサーチ、アイデア出し、企画書制作などを行なっていただきます。
- (4) 実習に際して「アイデアの出し方」「企画書の書き方」などの補講を行う予定です。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

- ・これからの「売れるしくみ」のつくり方 石原篤
- ・手書きの戦略論 「人を動かす」7つのコミュニケーション戦略 磯部光毅
- ・私とは何か 「個人」から「分人」へ 平野啓一郎
- ・なめらかなお金がめぐる社会。あるいは、なぜあなたは小さな経済圏で生きるべきなのか、ということ。 家入一真

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%

実習課題の提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

演習課題にかける時間がもう少し欲しかったという意見をいただきましたので、22年度よりも課題発表を前倒しした授業スケジュールに変更しています。

【Outline (in English)】**■ Course outline**

In this age of overflowing goods and information, what do people base their shopping and information choices on? Brands play a big role in moving people's minds and creating behavior. There used to be a misconception that brand creation was about creating a good image of the target brand, that is, creating a surface. For example, the fact that only brand logos and visuals were considered brand creation is a manifestation of this. On the other hand, where do you pay attention when you look at brands today? Perhaps it is the attitude and behavior of the brand to which you direct your attention? In other words, you are looking inside the brand, not just on the surface. Thus, the nature of brand creation has changed dramatically in recent decades and continues to evolve.

In this course, students will learn what a brand is and how to create a brand, not only from a logical point of view, but also by taking into account the actual situation and realities in the field of brand creation.

In addition to understanding how brands work in corporate marketing and how to create them, this course also aims to help students learn how to build their own brand as a person.

■ Learning Objectives

- (1) To be able to understand and explain what a brand is.
- (2) Understand and practice the brand creation approach.
- (3) Learn how to create a "project proposal," a consensus-building tool needed to create a brand.
- (4) In an age of diversity without a right answer, understand the importance of self-branding and practice it.

■ Learning activities outside of classroom

- (1) In regular lectures, assignments will be made in advance and questionnaires will be given before and after each class, as appropriate.
- (2) The standard preparation and review time for the class is two hours each.
- (3) During the practical training, students will be asked to conduct research, come up with ideas, and create project proposals as individual work outside of school hours.
- (4) In connection with the practical training, there will be supplementary lectures on "how to come up with ideas" and "how to write a project proposal."

■ Grading Criteria /Policy

Regular marks: 50%

Submissions for practical training assignments: 50%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

国際経営論

展開科目

森 直子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の受講生は、ダイナミックにグローバル展開されている国際経営とは何かを理解するための背景と基礎知識を得ることが出来ます。

また、代表的な経営分析モデル・手法を学びます。

こうした基本的な知識の理解度は、短い授業のまとめの提出を通して評価されます。

さらに授業で学んだ知識をもとに、国際的な企業経営が持つ意味を理解するための視角、考え方を学ぶことができます。

最終的には、グローバル時代の現代社会そのものを広い視野で捉える訓練をします。

【到達目標】

企業活動のグローバル化の基本的な歴史や現状、捉え方を理解するとともに、国際ビジネスを形成する多様で複雑な要素、背景を知ること、国際人としての視野・視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に対面授業形式で進める予定です。

全授業を通して決まったテキストを使わず、毎回の授業で教材レジュメを配布し、その回のテーマについて、事例をなるべく多く使った説明をします。そのうち1回は国際人材についての特別講義をおこなう予定です。この回で、簡単なグループディスカッションをしたいと思います。また、毎回の授業で簡単な課題（クイズ）を出します。さらに月に1回程度はクイズの代わりに短い授業のまとめの提出を課します。さらに学期末レポートを課す予定です。学期末レポートの提出は授業時間内に行う予定です。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論を学ぶということ ―グローバル社会に生きるために―	授業の概要説明
第2回	国際経営論の基礎知識	多国籍企業論から始まった国際経営論を学ぶ
第3回	企業活動の国際化の歴史	貿易と海外直接投資、製造業からサービス産業の国際展開へ、IT化社会以降のグローバルな企業活動
第4回	生産システムの国際展開	プロダクトサイクル理論、生産クラスター、国際分業
第5回	国際マーケティング	競争優位の考え方、市場のグローバル化と現地市場への適応化
第6回	国際人的資源管理	グローバル展開する組織構造、人材・制度の多様性・異文化経営
第7回	国際M&A	「時間を買う」国際戦略提携、国際的な企業買収の動向と課題
第8回	研究開発と国際経営	R&Dと立地問題、国際標準化戦略、知的財産権の国際管理

第9回	日本企業による国際経営の展開	世界のなかでの日本企業、日本的経営・生産システムの海外移転、グローバルネットワークと中小企業
第10回	ベンチャーと国際ビジネス	情報ネットワーク時代の「最初から世界を狙う」起業
第11回	国際協力と国際ビジネス	ODA事業と国際ビジネスの関係、BOPビジネス、ソーシャルビジネス
第12回	アジアと国際ビジネス	新興国における国際ビジネスの変遷、地域経済統合の影響
第13回	【特別講義】「国際人」とは何か	“使える”人材に留まらない、真に国際社会で活躍する人になるために
第14回	激動の時代のグローバルビジネスを考える	視野を広げるためのさらなるヒント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

月1回程度の提出が要求される授業のまとめの準備をするため、復習は必須です。また、企業活動のグローバル化に関する知識を高めるため、参考文献について図書館等を活用して読んだり、新聞・雑誌（オンライン配信含む）等で国際ビジネスのニュースに目を通してください。可能であれば、関連の学術論文にも目を通すことが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にちいず、担当教員が作成した教材レジュメを配布する。

【参考書】

吉原英樹（2021）『国際経営〔第5版〕』有斐閣アルマ
大石芳裕（2017）『実践的グローバル・マーケティング』シリーズ・ケースで読み解く経営学2、ミネルバ書房
吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和編（2013）『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業への積極的な貢献 60 %
(2) 学期末レポート 40 %
※学期末レポートだけでは、単位はもらえません。
※(1)の内訳：
各回の授業で出すクイズへの回答提出 19 %
計4回提出する「授業のまとめ」 32 %
授業への積極的なフィードバックなど貢献点 9 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、事例を挙げて授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

事前に経済学や経営学の知識がない学生でも履行できるような内容です。しかし、授業で得た情報を元に、自分で知識を深める努力が必要です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn the background of global business unfolding worldwide in the rapidly and dynamically transforming business environment. Students will also learn major business analysis models and methods.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the basic history, current status, and way of perceiving the global corporate activities, and to acquire a perspective and viewpoint as an international person.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40% and Active contribution to the class: 60% (quizzes in each class (19%), class summaries (32%), in class contribution (9%))

MAN200MA (経営学 / Management 200)

サービスビジネス論

村田 茂

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットの急速な普及により、世界のビジネスは大きなパラダイムシフトを迎えることになりましたが、今も日々激しく変容を遂げています。このインターネットを軸としたデジタルシフト（DX化）の影響で、新しく生まれた産業もあれば、滅びゆく産業もあります。本講義では、デジタルシフトの影響を受けたサービス産業の中で、メディア産業と流通産業を重点的に取り上げ、変遷の経緯を学び、これからのビジネスを考察していきます。

【到達目標】

本講の目的は、「ビジネスの過去と現在を本質的に理解することで、未来を予見する力を養うこと」です。そのために必要な基礎的な戦略と様々なアイデア（ビジネスモデル）の事例を学び、ビジネス感覚を高めることを到達目標とします。

①サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか

②サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか

③サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が展開する講義資料に基づき授業を実施します。毎回ではありませんが、リアクションペーパー、アンケートを実施します。実施方法は基本的にはネット、システムを活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	サービスビジネス研究の進め方	流通・サービスビジネスについて、研究課題の進め方を解説します。①情報収集・整理力 ②本質を見抜く力 ③問題意識を持つ力 ④未来を予想する力
第2回	サービスビジネス業界研究①	第1回目は、出版業界（雑誌、コミック、電子書籍）
第3回	サービスビジネス業界研究②	第2回目は、新聞業界。
第4回	サービスビジネス業界研究③	第3回目は、放送業界（テレビ、ラジオ）。
第5回	web1.0、web2.0、web3.0の理解	サービスビジネスを大きく変容させている最大要因であるインターネットの普及について理解を深めます。そのはじまりからNFT、メタバースなど次世代ビジネスの可能性まで。
第6回	クリエイターエコノミー＝個人発信（SNS）	SNSの普及による個人発信の時代が到来。UGCサイトの隆盛、クリエイターの誕生、推し活などを解説。
第7回	サービスビジネス業界研究④	第4回目は、eコマース業界。
第8回	サービスビジネス業界研究⑤	第5回目は、インターネット広告業界。

第9回	新しいビジネスモデルの発明（ゲストスピーカー）	ZOZO、メルカリなど成功の秘密は？ ゲストスピーカーとともに、サービス企業のビジネスモデルについて探求します。
第10回	デジタルマーケティング	デジタル技術が発展していく中で、新しい機能や仕組みが生まれます。ビジネスのトレンドを「ビジネス用語」を使って、理解していきます。その中で、すべてのデジタルビジネスに不可欠なデジタルマーケティングの理解を深めます。
第11回	業界研究のまとめ	これまでの学習について総括します。
第12回	知の探究①…ビジネス環境変化、ビジネストレンド	グローバルで激変するビジネス環境、AIなどのトレンドを理解し、俯瞰で考える力を学修します。
第13回	知の探究②…ビジネス論、ビジネス用語	ビジネス論（古典から現代まで）の基礎と、重要なビジネス用語（定番からトレンドまで）から、ビジネス構造を理解する力を学修します。
第14回	試験・課題レポート	試験と課題レポートを実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から情報メディア（ビジネスニュースサイトや新聞、雑誌）に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。そして、問題意識を持ってください。サービスビジネスの多くは身近に利用しているものばかりです。自分はなぜ、このアプリを活用しているのか？ このビジネスはどのように成り立っているのか？ を考えてみてください。特に、新しいネットサービスなどは実際に試してみるのが良いでしょう。準備時間、復習時間ともに2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

毎回、参考資料を用意します。

【参考書】

毎回、参考資料を用意します。

さらに探求したい場合の参考書は授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の3点を評価します。

①サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか

②サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか

③サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができるか

授業でおこなう小課題 30%

授業でおこなう中課題 20%

課題（レポート） 50%

成績評価は100点満点とし60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生が明確に興味を持っている事象については、重点的に解説すべく授業内容をアップデートしています。また、ゲスト会については、事前に「興味のある業界」「就職先候補の業界」についてアンケートを取り、招聘。授業内容と連動するかたちでリアルな現場の声を聞きます。

【学生が準備すべき機器他】

主に対面の授業になりますが、リモート授業も開催します。

資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムを使用します。スマートフォン、タブレット、PCなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】

<実務経験のある教員による授業>

出版・放送メディアや出版・音楽・映像制作などのエンタテインメントビジネスと、eコマース、UGC、アプリシステム開発などのデジタルビジネスに関して、現場からマネジメントまで、また、大企業とベンチャー企業の両方を経験してきた現役のビジネスマンによる授業になります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The rapid spread of the Internet has brought about a major paradigm shift in business around the world, and even today, the world is undergoing dramatic changes every day. Due to the influence of this digital shift (DX) centered on the Internet, there are new industries that have been born, and there are industries that will perish. In this lecture, among the industries affected by the digital shift, through the media industry and the distribution industry, we will learn the background of the transition and consider the future business.

【Learning Objectives】

The purpose of this course is to develop the ability to foresee the future by fundamentally understanding the past and present of business. The goal is to improve business sense by learning the basic strategies and examples of various ideas (business models) necessary for that purpose.

- ① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
- ② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
- ③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?

【Learning activities outside of classroom】

Please read the information media (business news sites, newspapers, magazines) on a daily basis and pay attention to daily social movements. And be aware of the issues. Many of the distribution and service businesses are all about familiar things. Why am I using this app? "How does this business work?" "Please think about it." In particular, it is a good idea to actually try new Internet services. Standard time for both preparation and review is 2 hours.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on the following three points.

- ① Can you explain general knowledge and basic terms related to the service business
- ② Can you understand and explain the structure of the service business?
- ③ Do you have creative ideas to solve the problems of the service business?

Small assignments in class 10%

Test 40%

Issue 50%

The grade evaluation is based on 100 points, and 60 points or more is considered passing.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

外書講読C【2025年度以降入学
者用】

荒川 裕子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5083

科目名：外書講読C

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C7302

科目名：外書講読A（ライフ）

※入学年度によって授業コード・科目名が異なります

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のグローバル化が一段と進むなか、世界のさまざまな情報をキャッチしたり多様な人々とのコミュニケーションを図るうえで、英語の使用はもはや不可欠のものとなっています。この授業では、アイデンティティ、文化、コミュニティ、まちづくり等、「ライフキャリア」の領域に関わるキーワードにそって、さまざまなトピックスのもとに英語で情報を検索する・文献を読んで理解する・自己を表現する、といったスキルを身につけます。

【到達目標】

初年次の終わりにまでに修得した英語力をもとに、学生各自が自らの関心事や専門性にそって、更なる英語の読解力・表現力を身につけていきます。「ライフキャリア」に関連した英語文献（新聞・雑誌記事、統計資料、論文、ウェブページなど）に数多く触れることによって、速読の訓練を積むとともに、この分野でよく用いられるさまざまな単語や表現にも慣れていきます。英語というツールを実践的に用いることによって、各自のキャリア形成における可能性を広げていくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、受講生自身の問題意識に即して英文の文献を探す、それを読み込む、自分の考えを英語で表現する、といったプロセスを通して、外国語をより身近なものにしていきます。外国語の習得には自己の強い関心と積極的な参加が必要です。受講生は、特に優れた語学力は必要としませんが、授業への積極的な参加と、予復習におけるたゆまぬ学習の積み重ねが求められます。なお、参加型の授業の性質上、必要に応じて受講者数に制限（30名程度）を設ける場合がありますので、初回の対面授業には必ず出席してください。各回の授業のフィードバックは、原則として次の回に行うこととします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンス	授業の進め方、必要な機材等について説明する。
2	英語による自己紹介	自身が関心のある領域やテーマについて英語で紹介する。
3	情報検索①「文化」をテーマに	文化に関わるテーマで英文のWebページやデータベースの活用方法を学ぶ。
4	情報検索②「コミュニティ」をテーマに	コミュニティに関わるテーマで英文のWebページやデータベースの活用方法を学ぶ。
5	文献講読①アイデンティティをテーマに	アイデンティティをテーマに指定した文献の講読・ディスカッションを行う。

6	文献講読②文化をテーマに	文化をテーマに指定した文献の講読・ディスカッションを行う。
7	文献講読③コミュニティをテーマに	コミュニティをテーマに指定した文献の講読・ディスカッションを行う。
8	文献講読④まちづくりをテーマに	まちづくりをテーマに指定した文献の講読・ディスカッションを行う。
9	テーマの設定①アウトラインの作成	自分が抱えている問題意識を英文で表現・説明するためのアウトラインを作る。
10	テーマの設定②文章の構成	自分が抱えている問題意識を英文で表現・説明するために文章の構成を考える。
11	英語によるスピーチ①文化・アイデンティティをテーマに	文化・アイデンティティをテーマに各自がスピーチを行うとともに質疑応答の機会を設ける。
12	英語によるスピーチ②コミュニティをテーマに	コミュニティをテーマに各自がスピーチを行うとともに質疑応答の機会を設ける。
13	英語によるスピーチ③まちづくり・地域活性化をテーマに	まちづくり・地域活性化をテーマに各自がスピーチを行うとともに質疑応答の機会を設ける。
14	まとめと試験	半期の授業で身につけた能力を英文読解と英作文を通して検証する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学の学習は時間を要します。授業外においても、課題文献の講読の予習や短い英文エッセイの執筆などの課題が適宜出されます。本授業の準備・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めませんが、適宜プリントを配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（課題の成果、ディスカッションなど）：50%

学期末の記述試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

これまでは主として文献講読と英作文（および添削）に時間を費やしてきましたが、今後はさらにスピーチやプレゼンテーションの機会もより多く設けたいと考えています。

【授業中に求められる学習活動】

C, D, G

【Outline (in English)】

Students will further develop their English reading comprehension and expression skills according to their own interests and specialties. Students will be exposed to a large number of English documents (newspaper and magazine articles, statistical materials, website, etc.) related to “Life Career” to practice reading quickly and to become familiar with various words and expressions commonly used in this field. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

コミュニティ社会論Ⅰ

展開科目

青木 淳弘

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通しました異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】

(1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。

(2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業（Zoom）を行う可能性もあります。オンライン授業の場合、Zoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。提出されたリアクションペーパーから全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／生計をとる者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第2回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなざしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第3回	性別役割分業の歴史的変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第4回	宗教から見た西欧の歴史的変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第5回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第6回	19世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する

第7回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第8回	官僚制の歴史的変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第9回	地理的世界の拡大とネットワークングの変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第10回	時代の変化と少年犯罪のまなざし方の変化	第3回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する
第11回	歴史と社会を見る目(1)	コミュニティの健全性に関するデュルケームの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
第12回	歴史と社会を見る目(2)	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
第13回	歴史と社会を見る目(3)	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第14回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、平常点（30%）。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、小レポート、受講態度の状況を基準とします。欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。なお、欠席時間数については、自己管理をお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思っています。

【Outline (in English)】

People have always formed communities and lived together, no matter what the era or region. How do the everyday human relationships and social phenomena of people living in the modern era differ from those of other eras and regions? In this lecture, after learning the basic perspectives and ideas of sociology, we will deepen our understanding of each theme through historical and regional comparisons using the methods of comparative sociology.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

若者文化論

展開科目

玉川 博章

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在社会において、エンタテインメントメディアは政治、経済的な側面を持ちながら、多くの人に受容され若者文化を創り上げてきました。本講義では、メディアの送り手の産業的側面（産業構造やビジネスモデル）と、その受容者の消費の両面に焦点を当てます。日本の1960年代以後の若者文化を、雑誌やテレビなどのマスメディアと、そこにかかわる広告や消費なども視野に入れ、分析していく。その際には、ポストフォーディズムやリキッドモダニティなど社会学にて議論されている現代社会の変化を前提に、我々を取り巻く日本の音楽・出版、映画などのエンタテインメント、キャラクター、アイドルを事例としたメディアの消費社会論から若者文化を考えます。

【到達目標】

日本の1960年代以後の若者文化を中心に、その特徴と背後で深く関係するメディアと政治、経済、文化の関係性を理解し、社会学や社会批評、文化批評などの学説を身につけることで、作品そのものやメディア産業のみにとらわれない社会に対する批判的思考ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業のため（初回など一部授業回を除く）、基本的に講義形式となり、資料配付をした上で、視聴覚資料も織り交ぜながら、事例や学術的な分析・理論などを紹介していく。なお、オンラインの場合は、動画視聴と配付資料によるオンデマンド方式を前提とします。なお、簡単なレポート、感想などの課題を適宜実施したい。提出課題については、いくつか代表的な内容等を次回・次々回に紹介しコメント等も付加してフィードバックとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション メディアと若者文化 (サブカルチャー)	授業概要説明と若者文化・サブカルチャーとは何なのかを先行研究も踏まえ紹介
第2回	文化と消費×消費社会論の基礎	若者文化分析の基盤となる文化と消費の関係性についての顕示的消費や文化資本の概念を紹介
第3回	物語消費論	大塚英志による1980年代若者文化を分析した物語消費論を紹介
第4回	80年代のバブル・消費文化	1970～80年代の若者文化の象徴的事例である「新人類」などバブル文化と雑誌やメディアとの関係性
第5回	80年代における「オタク」と消費文化	1980年代における「新人類」と「オタク」という対照的サブカルチャーの対比的分析と島宇宙化・若者文化の細分化について消費社会論とこれまでの事例分析を踏まえて、ブランドや権利ビジネスとメディアや文化との関係を考察
第6回	現代社会における文化とブランド、キャラクタービジネス	

第7回	後期近代の概論 ポストフォーディズム、リキッドモダニティ	現代社会の変化を捉える学説であるポストフォーディズムやリキッドモダニティの議論について学ぶ
第8回	メディアミックス① 手塚など	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1960年代の子供向けアニメと広告・消費、文化との関係を分析
第9回	メディアミックス② 角川商法（映画と出版）	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1970-80年代の映画と出版、音楽との関係を分析
第10回	メディアミックス③ 角川（アニメ・ゲーム・コミック）とネットによる参加型モデル	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1980年代～2000年代のアニメ・マンガについて
第11回	アイドルとメディア	アイドル文化が戦後～現在の社会状況においてどのように考えられるのかを分析
第12回	アイドルと「消費者」（オタク）	アイドル文化が趣味集団、そして消費とどう関係しているのかを分析
第13回	コミュニケーションと消費：ブランド、ネット文化、アイドル	モノから体験、コミュニケーションへと変化する消費と若者文化について
第14回	まとめ サブカルチャーと後期近代	これまでの授業内容の整理と発展的議論ならびに授業の理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に配付資料や受講時にとったメモ・ノート等を利用して復習し、授業で紹介した視聴覚資料や事例などについてインターネットなどで調べ確認、視聴すること。また、授業で取り上げた映像作品を鑑賞してみるとよいと思います。本授業の準備・復習時間は、各2時間(計4時間)を標準とします。また、指示をした場合には予習として事前に資料等を閲覧・視聴する、課題の指示をした場合には自宅で作業し提出すること。

【テキスト（教科書）】

なし。原則的に資料を配布する予定。

【参考書】

大塚英志『物語消費論』、マーク・スタインバーグ『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』、北田暁大・解体研編著『社会にとって趣味とは何か』、宮台真司『制服少女たちの選択』、貞包英之『サブカルチャーを消費する』、中西新太郎『「問題」としての青少年』、大澤真幸『電子メディア論』、中川佑介『角川映画 1976-1986』など。他にも講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加・提出物（小テストや感想、小レポート等提出課題）50%＋試験（または期末レポート）50%
試験・期末レポートは授業で説明した社会学や文化研究の概念を理解した上で若者文化を分析できるかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

大人数講義が予想されるが、一方通行とならないように、複数回の課題のフィードバックや授業時のアンケートなどでインタラクションを取るようにし、受講生の動向や意見も参考にしつつ授業を進行したい。また、初めに注意もしているが私語などは厳禁でお願いしたい。

なお、各自で複数の資料や論文を読むことにより理解が深まる内容の場合はオンデマンドのオンライン授業として、対面と組み合わせるので注意して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用

【Outline (in English)】

Entertainment media and youth culture has a political and economic side, and has been accepted by many people. This lecture will focus on both the industrial side (industrial structure and business model) and the consumption of its audience. We will analyze Japanese youth culture since the 1960s, including mass media industry such as magazines and television, as well as advertising and consumption.

In this lecture, referring to modern society theories such as Post-Fordism and liquid modernity, we think about youth culture and entertainment such as movies, anime characters, and idols from the theory of consumer society.

Students will be expected to search and watch websites and audiovisual materials introduced in class, after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Exams(or reports) assess your ability to analyze youth culture with an understanding of the theory of sociology and cultural studies.

Grading will be decided based on Term-end exams(or term-end reports)50%and in class contribution(Quizzes or comment tasks) 50%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

身体表現論

展開科目

叶 雄大

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演劇的手法を使ったエクササイズを通して、自己の感性を磨き、自己の表現を再発見する。様々な表現方法を体験することで、自分の表現に自信を持ち、他者とのより良いコミュニケーションについて考える。

【到達目標】

自己の感覚力や表現方法を再発見する。感性を磨き自分なりの表現方法を獲得する。自己と他者を共に尊重しながらコミュニケーションをとる力を深める。
(自己肯定・自己表現・想像・他者理解・コミュニケーション)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書内にある身体を動かすエクササイズの中で、感覚や身体に集中し自分自身の能力を再確認する「自己発見」を第一期として、想像の活動を通じて他者との表現の違いや考え方を知る「他者理解」を第二期。グループディスカッションやインプロヴィゼーションの活動からのグループ創作から「共感・共有・伝え合う」事と「コミュニケーション」について考える第三期。第四期ではそれらのまとめとして、「多様性」や「生きる力」について考え、テーマを定めた「創作創造」を体験する。フィードバック方法として、毎回の授業後に、フィードバックペーパーを作成し提出する。また、最終日にまとめのレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と全体の概要を説明。アンケート。
第2回	コンディショニングづくり	表現をするための身体と心を整えるためのエクササイズを体験・考察。
第3回	身体・感覚1	身体を使ったエクササイズを体験・考察。
第4回	身体・感覚2	感覚の一つを遮断する事で、他の感覚に集中するエクササイズを体験・考察。
第5回	身体・感覚3	リズムや音・音楽を使ったエクササイズを体験し、グループでの創作を行う。
第6回	表現力を高める為に	感覚・感性を磨き表現力を高めるエクササイズの概要と考え方の講義。
第7回	コミュニケーション	コミュニケーションのエクササイズを体験・考察。
第8回	声・距離	他者との違いを楽しみながら、自分の特性を知るエクササイズを体験・考察。
第9回	インプロヴィゼーション1基礎	創作創造活動の基本をインプロヴィゼーションのエクササイズを通して体験・考察。
第10回	インプロヴィゼーション2言語	言語表現と劇作法の基礎のエクササイズと講義

第11回	インプロヴィゼーション3非言語	言語を使わない表現を体験し、グループでの創作創造活動を行う。
第12回	グループ創作	グループで創作テーマを話し合い、短いパフォーマンスを創作する
第13回	グループ創作と発表	創作したパフォーマンスを見せ合い、話し合う。
第14回	まとめと試験	全体のまとめと試験課題(30分程で課題に対して自由筆記のレポート)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業内にミニレポートを提出。ミニレポートの返却は行わないので、提出前に写真を撮るなど記録を残しておく事。本授業の復習・予習時間は、各2時間を標準とする。授業の記録を元に、復習として2時間、授業で学んだ事を普段の生活に応用し、身体や感覚を意識して生活する事。また、予習として2時間、次の授業のテーマについて、現時点での自身の考えや自身の表現方法の傾向を考えて、まとめておく事。その経験を含めたレポートを最終回の課題をふまえて作成・提出。また学期の途中で授業に関連した課題からレポートを提出。

【テキスト（教科書）】

アイデアとバリエーションで広がる表現活動プログラムレシピBOOK 太宰久夫(監修)大塚恵美子・叶雄大・下川涼子・中根久寧(共著)アートインライフ刊 2023年11月12日初版 3600円(送料込み)

<http://www.artinlife.jp/books.html>

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

実技中心の授業のため、原則として1/5以上欠席すると単位取得は不可とする。平常点として授業への参加姿勢70%レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

マスクの着用に関しては個人の判断とする。感染症対策（換気・消毒など）も昨年と同様に行う。昨年度好評だったエクササイズは今年も同様に行う。その他のエクササイズは差し替える可能性あり。体験を重視はするが、理論についてのガイダンスも適宜入れ、体験した事の理解を深めるため、教科書を使った予習・復習のアナウンスを充実する。本年度は初回ガイダンス時に表現に関する簡単なアンケートを取ります。

【学生が準備すべき機器他】

教科書。筆記用具。水分補給用の飲み物など

【その他の重要事項】

教室のサイズにより、受講者数を制限(選抜)することがあります。履修希望者は初回のオンラインガイダンスに必ず出席してアンケートを提出してください。動きやすい服装(体操着・レオタード等の着用の必要はない)で参加する事。授業後にミニレポートがあるため筆記具を持参してください。体験を通して気がついた事、感じた事、考えた事を元に、自分自身の表現方法を発見していきましょう。

【Outline (in English)】

【Course outline】Drama In Education :beginner's class.Classes will be held in a workshop style. 【Learning Objectives】Improving communication skills from consideration of self and others' expressions 【Learning activities outside of classroom】Find out what you did in the 2-hour class in real life. Use 2 hours to summarize your thoughts on the subject of the lesson 【Grading Criteria/Policy】Class attitude and attendance 70%.In-class report and Last day free writing report 30%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）		
地域文化論		展開科目
八田 益之		
単位数：2単位 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
曜日・時限：水5/Wed.5 配当年次：2～4年		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
「地域文化」とは、ここでは「その地域らしさ活かしながら、地域課題を解決してゆくこと」と広くとらえます。日本の地方創生・町おこしなどには多くの課題があります（木下 2021）。しかも近い将来、地域社会は厳しい働き手不足に陥ると予想されます（古屋 2024）。一方でインバウンド観光など新しい可能性もみられます（谷頭,2025）。この講義では、①こうした現場最前線からゲストをお呼びし、②受講者が主体となってゲストから現状や課題を探り、③「2040年の地域での生活」を具体的に想像し、行政・地域企業の観点から、いま打てる手を探っていきます。		
【到達目標】		
「日本社会の地域課題を解決する仕組みを、主に人づくり、という視点から考えること」を目指します。選んだ地域における人材政策を起点に、その地域ならではの人材育成・人材活用の可能性を整理し、地方の現場で提言・実践できるような構想力をトレーニングします。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連		
【授業の進め方と方法】		
※おことわり：当講義はゲスト中心に組み立てる予定で、このシラバス内容も、人選などに従い、講義開始までに変更予定です。そこで、開始1週間前を目処に学習支援システム（HOPPI）に最新版シラバスを掲載予定です。受講前までにご確認ください。		
講義パターン（予定）①さまざまな地域の現場からゲストを招く（オンラインも想定）。②受講生はそのゲストの仕事の状況について事前に調査し、仮説を設定し、質問を考える。③ゲストの話を聞き、対話しながら理解を深める。④ゲストからのフィードバック。最終的に、自身が選んだ地域について、グループワークを通じてレポートをまとめます。「生成AIが答えるような一般論」に留まらない、今後の地域社会・地域文化のリアルを反映させた思考が求められます。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり/Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし/No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	【初回のみオンライン】 最新版シラバスの説明、講義内容など
第2回	地域文化におけるひとづくりの歴史（ゲスト人選などにより変更予定、以下同じ）	日本各地における多様なひとづくりの歴史を確認、その変化を整理
第3回	なぜ地域で「ひとづくり」が論点となっているか（前編）	労働需給シミュレーションなどの結果から、各地域の生活がどう変化するかシーン別に想像
第4回	地域課題の現実①（地域のひとづくり）	地方で若者・女性活躍支援や人材育成等に取り組む当事者など（※実際のテーマは後日決定、以下同じ）の話を聞き、課題を理解
第5回	地域課題の現実②（地方創生・地域の魅力）	地方自治体の地方創生、地域文化発信等を担当する当事者など（※例）の話を聞き、課題を理解
第6回	地域課題の現実③（産業・企業）	地域ごとの産業構造の差異や、地域の中小企業が抱える課題を理解
第7回	なぜ地域で「ひとづくり」が論点となっているか（後編）	若年労働市場、若手社会人の働き方・キャリア形成の変化を理解し、地域ひとづくりを考える
第8回	人づくりのボトルネックを知る	財源、法制度など、地域での人づくりの前提・ボトルネックになっている諸要素を学ぶ
第9回	地域の未来の芽①	地域文化の振興を行うために人材育成を行っている企業事例など（※例）を開く
第10回	地域の未来の芽②	地域文化に根差した新たな若者づくりの実践事例など（※例）を開く
第11回	地域課題の小括	本講義のインプットを受けて、各自、地域のひとづくりに向けて課題を整理し、最終課題で取り組む地域を選定
第12回	ワークショップ①	各自選定した地域ごとに、その地域の現状と課題を整理し、「その地域ならではの」の強みと最も解決すべき課題を特定
第13回	ワークショップ②	各自が選定した地域に対して、解決策案の検討・ディスカッション
第14回	期末・まとめ	対象とした地域のひとづくりについて提言をレポート提出、発表
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
自分が選んだ都道府県・市区町村の施策やデータを調べ・整理することを前提とした最終課題を課します。そのため、特に講義後半のワークショップの回以降は講義外で一定の作業時間が発生します。各回とも、それまでの講義内容やゲスト講師のインプットをふまえた質問提出などを求め、その提出を出席点として扱います。以上、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
必要に応じ資料配布		
【参考書】		
『まちづくり幻想 地域再生はなぜこれほど失敗するのか』（木下 齊,SB 新書,2021,990 円）		
『「働き手不足 1100 万人」の衝撃』（古屋 星斗+リクルートワークス研究所,プレジデント社,2024,1870 円）		
『ニセコ化するニッポン』（谷頭 和希, KADOKAWA, 2025, 1650 円）		
【成績評価の方法と基準】		
講義への貢献および最終課題とワークショップ提出物の内容で評価します。最終課題は、①対象となる地域の分析精度・②課題設定の妥当性・③解決策の構想力・④解決策の実現可能性、について評価を行います。		
・出席点（貢献点）：40％（ゲスト講師回での事前質問・当日質問等、講義への貢献度合いを評価）		
・ワークショップ：20％		
・期末試験：40％（期末試験はなく、プレゼンテーション形式の最終課題提出を予定）		
【学生の意見等からの気づき】		
（初年度のため、なし）		
【学生が準備すべき機器他】		
スマホ（またはQRコードからネット接続できる情報機器）は毎回使用予定		
【その他の重要事項】		
①講師は、2023 年度「ライフキャリア入門 A」を担当しました。ゲスト中心の点は共通ですが、当講義では、地域社会という 1 テーマを軸に、ゲスト数を絞り、各回の学びの質を深めていく予定です。自身は、大人の趣味スポーツの視点から、地方経済・文化を考察してきました。マラソンやトライアスロンなどの大会は、地域特有の課題を解決するために開催されています。リアル空間の文化的活動とは、地域社会と一体不可分なのです。		
②生成 AI の活用は自由です。「AI が出しそうな情報」の価値は急減し、「現実社会を生きる人の中から引き出した情報」の価値が上がる、それらを活かし行動する人の価値はさらに上がってゆくでしょう。そんな新時代の実践知のあり方を、ともにつくりあげていきましょう。		
【Outline (in English)】		
In this lecture, "regional culture" refers to the uniqueness of the region. We will invite guests from the forefront of these fields, have students explore the current situation and challenges, and imagine "life in the region in 2040" to explore possible measures from local governments and regional companies' perspectives.		

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

アート・マネジメント論

展開科目

荒川 裕子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のシステムや価値観が大きく変化していきつつある現在、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアートの要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートの持つ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的にアプローチし、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにし、キャリアデザインに活かす方法を探ります。

【到達目標】

わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「生み出す人」（アーティスト）と、アートを「享受する人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域社会や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探り、アートがわたしたちのキャリアデザインにいかに関与するのかを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら、アートとはなにか、わたしたちの生活や仕事にどのように活かしていくことができるのか、といったことを探ります。受け身の講義に終始せず、学生自身のアイデアや体験に基づくプレゼンテーションの機会を設け、ディスカッションを通じて理解と考察を深めていきます。ほぼ毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の際にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明する。
第2回	学問領域としてのアート	アートに関する専門的な研究領域について概説する。
第3回	「美」とは何か①	古来、人々が「美」をめぐるどのような探究を行ってきたのかを概観する。
第4回	「美」とは何か②	近代以降の「美」の概念の変化について論じる。
第5回	「アート」の誕生	西洋近代にアート（芸術）という領域が成立した背景を探る。
第6回	「アート」の制度化	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第7回	「アート」の伝播	明治以降の日本にアートという概念が導入された経緯をたどる。
第8回	「アート」の変容①	1960年代頃を境にアートの表現が大きく変化していった経緯をたどる。

第9回	「アート」の変容②	20世紀の末以来、アートという領域が著しく拡大した背景を探る。
第10回	生活のなかのアート	わたしたちの暮らしにアートがどのように関わっているのかを考える。
第11回	地域とアート	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第12回	企業とアート	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第13回	アートを支える多様な人材	社会とアートを結びつけるつなぎ手について考える。
第14回	まとめと試験	現代社会におけるアートの役割について、半期の授業を通して得られた知見を振り返り、考察を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場に実際に足を運び、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりプレゼンテーションを行うことが求められます（フィールド活動の際に、入場料などの費用が若干かかる可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布したり読むべきリンク先を指示したりします。

【参考書】

徳丸吉彦・利光功『芸術文化政策Ⅰ 社会における人間と芸術』日本放送出版協会

川崎賢一・佐々木雅幸・河島伸子『アーツ・マネジメント』日本放送出版協会

※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（課題の成果、ディスカッションへの参加など）：

45%

期末レポート：55%

【学生の意見等からの気づき】

学生によるプレゼンテーション／ディスカッションの時間を十分確保するよう心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

As social systems and values are undergoing major changes, there is a growing demand for creativity in the way we live, think, and work. Under these circumstances, art, or artistic elements produced based on free ideas and expression, are attracting more attention than ever before. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will take a multifaceted approach to its social and economic value, which has been emphasized in recent years, to clarify the position and significance of art in contemporary society and explore ways to apply it to "Career Design".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report: 55%, in class contribution: 45%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）		
メディア文化論		展開科目
堤 信子		
単位数：2単位 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
曜日・時限：水2/Wed.2 配当年次：2～4年		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 本講義では、テレビ、ラジオ、雑誌などによるメディア文化の歴史と現状について各メディアの具体的な事例をもとに紐解いていく。今日、メディアは、作り手と受け手の相互コミュニケーションを大事にしていこう傾向にあり、メディアの受け手もメディア文化形成の一端を担っているといえる。また、ソーシャルメディアの隆盛により、メディアを創り出し、様々な日常を発信していくことができる。そこで本講義では、メディア文化の展開を学ぶだけでなく、アナウンサーなどの表現者としての技術や、多種多様なメディアを創り出していく手法も実践的に学んでいく。		
【到達目標】 各種メディアの中身を理解することにより、今後ますます多種多様になっていく各種メディアとの関わり方を学ぶことができる。また、プロのアナウンサーの指導により、各自の表現力、コミュニケーション力の向上をも目指す。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連		
【授業の進め方と方法】 対面授業を予定しています。表現力を磨くための演習をも取り入れます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：メディア文化とは？	われわれのまわりに存在する主要メディアに着目し、メディア文化を捉える視座を確立する。全講義内容の解説や、アンケートの実施も。
第2回	メディア文化の源流：雑誌、ラジオ、テレビ	雑誌、ラジオ、テレビの主要メディアの歴史的経緯を理解する。
第3回	雑誌メディアの文化論	週刊誌、月刊誌何例かを取り上げ、雑誌の成り立ちや紙面構成などを分析していくことで、雑誌によるメディア文化形成を読み解く。
第4回	ラジオメディアの文化論	ラジオ番組の何例かを取り上げ、その歴史的経緯を分析し、またラジオに関するDVD視聴などを通して、ラジオによるメディア文化形成を読み解く。
第5回	テレビメディアの文化論	朝のレギュラー番組を取り上げ、番組に携わるスタッフ、出演者などの役割、生放送の仕組み、そして視聴率の裏側を知ること、メディアにおけるテレビの立場を紐解く。
第6回	テレビメディアの文化論②	テレビ局勤務のゲストを迎えて、局員としての仕事や、テレビ局の今後の役割と、番組フォーマット販売の裏側などについて紐解く
第7回	書籍メディアの文化論	書籍の成り立ちや歴史、出版本の制作秘話を交え、取材や執筆のルール、出版までの流れを知ることを通し、書籍メディアを理解する。
第8回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談1	大手出版社で働くプロをゲストにお迎えし、出版社の現状や様々な仕事の内容などについて理解する。
第9回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談2	通信社の現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第10回	ウェブメディアの文化論	ウェブメディアの特徴や今後の可能性を洞察し個人の関わり方を考える。統計の専門家やウェブメディア編集長をゲストに迎えることも。
第11回	アナウンサー対談	現役アナウンサーをゲストに迎え、その仕事の裏側、心構えなどについて、同じくアナウンサーである講師と対談する。
第12回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談3	テレビ番組の制作に携わる放送作家などをゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。
第13回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談4	ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場、音声メディアの今後などについて理解する。
第14回	アナウンサーに学ぶ情報の伝え方	アナウンサーなどのメディアにおける出演者が身につける技術の一つ、発声やプレゼン方法などの基礎を学ぶことで、表現力を身につける。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 時々、レポート提出もあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 教科書は、「発信する人のためのメディアリテラシー」晶文社を時々使用 パワーポイント中心です。		
【参考書】 堤信子著「100人中99人に好かれるありがとう上手の習慣」デイスカヴァー21 堤信子著「旅鞆いっぱい京都・奈良」エイ出版社 「旅鞆いっぱいのパリふたたび」実業之日本社 「旅鞆いっぱいの京都ふたたび」実業之日本社 「東京文具雑貨散歩～旅鞆いっぱいの東京」辰巳出版 「暮らしの図鑑～手紙の楽しみ」翔泳社		
【成績評価の方法と基準】 平常点（授業のコメントカードや授業態度）50%と 最終課題レポート50%		
【学生の意見等からの気づき】 学生とのやりとりを重視した授業にしていきたいと思っています。メディア各方面から多彩なゲストをお迎えする対談を通し、キャリア形成に役立つ知識や考え方を学ぶ内容が、毎年好評ですので、2025年度も引き続きそのような内容についても充実させていく予定です。		
【学生が準備すべき機器他】 パワーポイントやDVD映像などを見せたりするので、スクリーンを使用します。		

【Outline (in English)】

In this lecture, we will understand the history and current status of media culture by television, radio, magazines etc. based on concrete examples of each media. Today, the media tends to cherish mutual communication between creators and recipients, and it can be said that media recipients also play a part in media culture formation. Also, with the rise of social media, it is possible to create media and transmit various daily life. Therefore, in this lecture, in addition to learning the development of media culture, we will also practice the techniques as an announcer and other expressors, as well as the methods to create a wide variety of media.

- ・ By understanding the contents of various media, you can learn how to interact with various media, which will become more diverse in the future.

In addition, we aim to improve each person's expressiveness and communication skills through the guidance of professional announcers .

- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

- ・ Grading will be decided based on term-end report (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab & lab reports (50%).

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

文化マーケティング論

展開科目

横石 崇

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「文化志向のマーケティング」について学ぶ。近年、社会情勢の変化に伴い、消費者の価値観やライフスタイルが急速に変化している。そのような状況の中、「文化」と「産業」が交わる領域の重要性はますます高まっている。企業が消費者との良好な関係を築くためには、製品やサービスを文化的な視点から捉え、社会的意義やストーリーを創出することが求められている。

現代のマーケティングにおいては、戦略策定や製品開発などの具体的なアプローチだけでなく、「なぜそのプロジェクトを立ち上げるのか」「そのプロダクトは社会にどのような貢献を果たすのか」といった根本的な意義を深く考え、コンセプトを開発する能力が非常に重要である。

そこで本授業では、現代社会の背景を踏まえつつ、「なぜ文化志向のプロダクトやプロジェクトが必要とされるのか」を理解する力、ならびにそれを実際に形にする力を身につけることを目的とする。授業を通じて培った視点やスキルは、今後のマーケティング活動に限らず、多様化するビジネスシーンにおいても大いに活用できるであろう。授業を通して、文化と産業の交わる領域における新たな価値創造を共に探究したいと考えている。

【到達目標】

キャリアデザインとコミュニケーションデザインの視点から文化志向のマーケティングを考察し、近い将来にこの分野で活動するうえで有意義な考え方と方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、マーケティングと文化を包括的かつ動的に捉え、それらの相互結合を図る。マーケティングの基礎知識を身につけるとともに、講師による事例紹介や、文化とマーケティングが交わる領域で活躍する実践者をゲストとして迎え、講義およびディスカッションを行う。授業ごとに授業内レポートや課題の提出を指示し、特に優れたコメントや内容については授業内で紹介し、さらなる議論の発展に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業全体の説明（第1回のみオンライン授業）
第2回	文化マーケティングとは	文化マーケティングが重視される背景と基礎概論
第3回	文化マーケティング基礎の理解①	マーケティングの考え方（ポジショニング戦略）
第4回	文化マーケティング基礎の理解②	マーケティングの考え方（ブランディング戦略）
第5回	文化マーケティング基礎の理解③	マーケティングの考え方（エンゲージメント戦略）
第6回	文化マーケティング事例紹介①	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（コミュニティ領域）
第7回	文化マーケティング事例紹介②	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（広告・メディア領域）

第8回	文化マーケティング事例紹介③	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（アート・エンタテインメント領域）
第9回	職業・仕事としての文化マーケティング①	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（コミュニティ領域）
第10回	職業・仕事としての文化マーケティング②	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（広告・メディア領域）
第11回	職業・仕事としての文化マーケティング③	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（アート・エンタテインメント領域）
第12回	文化マーケティングを実践するためのキャリアプランニング	企業や地域との関わり方や就労方法について
第13回	振り返り、授業内レポートの事前解説	授業内レポートのポイント解説、解答事例の紹介
第14回	授業内レポートの実施及び解説	授業内レポートの解説、実施（参考資料持ち込み可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した事例について実際の展開を調べ、可能な範囲でフィールド調査を行う。授業内で紹介した参考文献を読む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加70%、授業内レポートの提出30%）

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義形式に限らず、実際に記述作業を行いながら双方向性を重視し、文化マーケティング論の習得を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット

【Outline (in English)】

① 【Course outline】

In today's world where consumer values and consumption trends are rapidly changing due to social changes, the area where culture and industry overlap is to be emphasized more and more in the future as companies build good relationships with consumers. Is predicted. In the field of marketing, which will become even more complex in the future, it is important to consider business approaches, concrete approaches such as strategy formulation and product development, but of course the ability of concept development to deeply consider social significance etc. Is required.

In this class, why is it based on the modern social background? For what? for whom? I would like the class to have the power to think whether culture oriented marketing is needed in the world.

② 【Learning Objectives】

The goals of this course are Learning about culture-oriented marketing thinking and methods.

③ 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

④ 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 30%, in class contribution: 70%

HUG200MA (人文地理学 / Human geography 200)

進歩と平和

熊谷 智博

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常生活、そして人生において「余暇」とはどのような意味や機能があるのかについて、単なる個人的経験としてだけでは無く、社会的活動としての側面も交えて解説する。更には余暇に対する心理学的研究法を紹介し、心理的メカニズムからの理解を深め、特に観光旅行に焦点をあて、余暇研究の具体的な応用方法について解説する。

*他学部受講者には新カリキュラムの科目名となるため、内容が大きく異なる。履修の際には授業内容をよく確認しておくこと。

【到達目標】

人生における「余暇」について、日本における活動の現状、考え方の変遷について学ぶ。更には日常生活における余暇活動の理論と方法について解説し、将来における余暇活動の発展に利用可能な知識の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内課題はHoppiiを利用して提出するという形式で行う予定。尚、課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義全体の内容や到達目標について説明する。
第2回	余暇とはなにか	余暇の種類と現状について解説する。
第3回	余暇と社会	人々の社会生活における余暇の意義について解説する。
第4回	産業としての余暇	余暇が与える経済的影響について、統計データを用いて解説する。
第5回	日常生活における余暇の心理：動機について	余暇に関する心理のうち、動機に関する知見を解説する。
第6回	日常生活における余暇の心理：心理的報酬について	余暇活動が持つ心理的報酬としての側面と、その逆機能について解説する。
第7回	日常生活における余暇の心理：欲求と満足	余暇活動に対する満足度の測定方法について解説する。
第8回	日常生活における余暇の心理：発達と社会化	発達過程における余暇活動の影響について解説する。
第9回	日常生活における余暇の心理：損と得	余暇活動に伴う、損失と利得の計算の心理を解説する。
第10回	余暇活動としての観光旅行	余暇活動のうち、観光旅行に焦点をあて、どのように研究可能であるかを解説する。
第11回	観光旅行の動機	観光旅行を行う人は、どのような動機を持っているのか、研究結果に基づいて解説する。

第12回	観光旅行の意思決定	観光旅行の計画・実施の際にはどのような意思決定が行われているのか、研究結果に基づいて解説する。
第13回	観光旅行での活動と経験	観光旅行ではどのような活動が行われ、それが人々に同様な経験して記憶されるのか、研究結果に基づいて解説する。
第14回	まとめ	講義内容についての振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むように。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

授業開始時点では特定の参考書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題＋質問で40%、学期末試験（授業内試験を予定しているが、受講者数などによっては試験期間での実施へ変更することもある。また突発的な事態が生じた場合はレポート課題にて代替する可能性もある）60%の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題はインターネットへの接続が必要となるので、利用できる環境を整えておくように。

【その他の重要事項】

担当教員が出張等の場合、Google classroomを利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内やHoppii等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

【Outline (in English)】

Students will learn theories concerning "leisure" from social psychology and sociology perspective. Especially, it is focused on theories, history, and methods of the leisure study.

Goals of this course are that students understand leisure activity in Japan theoretically, and learn how to use those knowledge for their future career.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 40%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

多文化社会論A

小田 昌教

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金4/Fri.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「多文化社会論／授業概要紹介動画」

<https://youtu.be/4W2OmbxcTso?si=54N6FV8EmTvCnBPd>

「多文化社会論／バベルの塔～多文化世界のはじまり」

https://youtu.be/sssSNcQmjuc?si=s-QiCUIY3LANvws3_

「多文化社会論／人類の単一起原と多様化の旅」

<https://youtu.be/sssSNcQmjuc?si=fW7rONExjmuDqhVK>

いわゆる「グローバル人材」について書かれた本をみると、「異文化理解」は、グローバル人材に求められる「グローバル・マインドセット」であり、かつまた、グローバル人材に欠かすことのできない「ビジネススキル」といわれ、その重要性が指摘されています。なぜなら、2020年代の現在でもなお、多くの国と地域では、異文化に対するさまざまな偏見や差別があり、そうした文化の摩擦や衝突が、しばしば紛争やテロリズム、ヘイトスピーチを生み出し、人種差別や排外主義などの問題をひきおこしているからです。とりわけ複数の異文化が混在する「多文化社会」では、それが顕著にみられます。しかし、それはなにも外国だけの話ではありません。多文化社会化が進んでいる日本も決して例外ではなく、いまや異文化理解は、誰にとっても必要なマインドセットであり、現代を生きるために欠かすことのできないスキルです。

【到達目標】

この授業では「異文化理解」だけでなく、多文化社会で生きてゆく上で知っておきたい教養として、「ステレオタイプ」「ゼノフォビア」「レイシズム」「ヘイトスピーチ」「ヘイトクライム」「内集団バイアス」「文化表象」「レイシズム」「オリエンタリズム」「文化相対主義」「多文化共生」「マイクロ・アグレッション」といったことばの意味とその実例を、さまざまな映画や映像を通して学び、それを通して、多文化コミュニケーションのできる能力とリテラシーを身につけることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

今学期の授業は、Zoomを使ったオンラインのリアルタイム授業をおこないます。URLとパスコードは以下のとおりです。

【Zoom】

<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226>

556628

この授業の目的は、次の5つです。①オーセンティック・ラーニング ②クロスカルチャラル・ラーニング ③アンチバイアス・ラーニング ④メディア・コンピテンシー・ラーニング ⑤エビデンス・ベースド・ラーニング

この授業の内容は4つのパートに分かれています。

【A：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇】

最初のパートでは「異文化理解」のむずかしさを、それとは逆の「異文化誤解」の実例をみることで学びます。具体的には、みなさんにとってなじみのある日本文化が、二〇世紀から現在までの映画や、様々なメディアの中でどのように表象されてきたかを見てゆき、文化がいかに誤解されやすいものであるかを学びます。

【B：さまざまな視点からみた日本の文化】

このパートでは、日本の作家や表現者たちをはじめ、インバウンドや日本在住の外国人など、さまざまな視点からの日本文化の表象のされ方、語られ方を学びます。また近年、日本政府が海外にむけて展開している「国策としてのクールジャパン」についても考えます。

【C：レイシズムの過去と現在】

異文化に対する偏見や差別の多くは、レイシズムやエスノセントリズム、ステレオタイプや排外意識などから生まれます。このパートでは、多文化社会アメリカにおけるレイシズムの過去と現在、そして、日本におけるヘイトスピーチを通して、それらにどのように向かいあえばよいのかを学びます。

【D：「文化相対主義」と「多文化共生」～多文化社会のいまと未来】

多文化社会のリテラシーとして最も重要なものに、「文化相対主義」と「多文化共生」という概念があります。高校の教科書では「文化相対主義」は「文化の多様性や異質性、価値観の相対性を前提とすること」と説明され、「多文化共生」は「たがいをあるがままに受け入れ、違いを認め、人間として尊重しあいがらともに生きてゆくこと」と説明されています(第一学習社「高等学校 倫理」)。これを記号学者のツヴェタン・トドロフは「平等のもとで差異を生きたこと」ということばで表現し、また、詩人の金子みすずの「みんなちがって、みんないい。」にもその考えをみてとることができます。このパートでは、文化相対主義を概念ではなく、現実として生きている人たちの存在を知るとともに、すでにさまざまなメディアやジャンルではじまっている多文化共生の具体的なとりくみと未来のヴィジョンを学びます。

授業で使用する教材は「学習支援システム lms2025」で配布します。授業の最後にリアクションペーパーでコメントを提出してもらいます。

授業内容に関する質問は、教育支援アプリ Padletで随時受け付け、授業中に質問にこたえるかたちでフィードバックを行います。

【Padlet】

<https://padlet.com/illcommonzoo/2024-xmvqbjms2eluqcl7>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	【ガイダンス】 多文化リテラシーチェックとアクティヴ・ラーニング	・Airbnb事件(2017年) ・全日空「羽田国際線大増便CM」(2014年) ・浦和レッズサポーター・ヘイトスピーチ横断幕事件(2014年) ・ユナイテッド航空事件(2017年) ・ザイン制作「ラマダーン月のほんとうの意味 2017年」 ・映画「チート」(1917年) ・映画「ティファニーで朝食を」(1961年) ・映画「007は二度死ぬ」(1961年) ・映画「東京画」(1985年) ・映画「ブラックレイン」(1989年) ・映画「ミスターベースボール」(1992年) ・映画「ロスト・イン・トランスレーション」(2003年) ・映画「キルビル」(2003年)
2	A-1：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇1 映画のなかのニッポン文化	海外のTVCMやMVに見るニッポン文化 サムライ、ニンジャ、ゲイシャ、キモノ、ヤクザ、寿司、蕎麦、相撲、ネオン、カワイイ、カタカナ
3	A-2：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇2	

4	A-3：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇3	プロパガンダアニメとSF映画に見るニッポン文化 ・ダン・ゴードン「ボバイ～ばかなジャップ」(1942年) ・レオン・シュレジンガー「ルーニー・チューンズ～トキオ、ジョキオ」(1943年) ・NHK「憎しみはこうして激化した～戦争とプロパガンダ」(2015年) ・エレクトリック・アーツ社「コマンド&コンカー レッドアラート3」(2008年) ・ジェームズ・マンガールド「ウルヴァリン SAMURAI」(2013年) ・マシオカ「HEROES」(2006年) ・小島淳二「日本の形」(2006年) ・田中健一「ジャパン ストレンジャー国」(2010年) ・村上春樹「カタルーニヤ文学賞受賞記念スピーチ」(2011年) ・ジョージ・タケイ「GAMAN」(2011年) ・国土交通省「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(2003年) ・日本オリンピック委員会「IOC総会プレゼンテーション」(2013年) ・きやりーばみゅばみゅ「にんじゃりばんばん」(2013年) ・日清食品「SAMURAI」(2014年) ・「ゴースト・イン・ザ・シェル」(2017年) ・地味「外国人が日本に来て撮ったwktk動画集」(2008年) ・sknb「スーベニアオブジャパン」(2012年) ・マカロン・チャンネル「外国人の視点で捉えた日本映像が秀逸すぎる」(2014年) ・アダム・マイヤー「ステンレス」(2013年) ・ベトリ・ストロベリ「ア・ライフ・イン・ジャパン」(2010年) ・ロコハマ「在日黒人男性から日本人へのオープンレター」(2015年) ・カメル・アメット「ゴッド・イン・ニューヨーク」(2007年) ・マイケル・ブラウン射殺事件(2014年) ・フレディ・グレイ死亡事件(2015年) ・チャールストン米黒人教会銃乱射事件(2015年) ・大統領候補ドナルド・トランプ問題発言(2015年)	10	C-2：人種差別の起源とその歴史	・ユネスコ「人種の本質と人種の違いに関する声明」(1951年) ・山口敏「『人種』は虚構か」 ・ベルトラン・ジョルダン『人種は存在しない』(2013年) ・世界人権宣言ボルトガル事務局「世界人権宣言50周年記念CM」 ・アンジェリカ・ダス「ヒューマン」(2008年) ・映画「アミスタッド」(1997年) ・映画「ホテル・ルワンダ」(2004年) ・映画「リンカーン」(2012年) ・映画「ジャンゴ 繋がれざる者」(2012年) ・映画「マンデラ 自由への長い道」(2013年) ・映画「グローリー 明日への行進」(2014年) ・日本テレビ「21世紀への伝言 キング牧師」(2000年) ・PBS制作「分断されたクラス」(1985年) ・ABC制作「あなたならどうする～人種差別の実験」(2003年-) ・NYタイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012年) ・映画「スワロウテイル」(1996年) ・映画「サウダーズ」(2011年) ・ブラッド・ブラッドフォード「ハーフじゃないんだ」(2012年) ・kanadajin3「WHITE JAPANESE PEOPLE - 白人系日本人」(2013年) ・リング三世「愛犬アンソニー」(2013年) ・ボンジュノ「シェイキング東京」(2008年) ・映画「HAFU」(2013年) ・西倉めぐみ「私は「半分日本人」ではなく「半分外国人」とみなされる」 ・ヒリス&ブル研究所「生命の樹」(2005年) ・NYタイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012年) ・モ・モンド社「The DNA Journey」(2016年) ・アシュラ・K・ルグイン「ゲド戦記を観て」 ・マックルモア&ライアン・ルイス「セイムラヴ」(2013年) ・アド・カウンスル「Love Has No Labels」(2015年-2017年) ・アップル社「プライド」(2014年) ・ハインケン社「Worlds Apart OpenYour World」(2017年)
5	B-1：日本人が海外に向けて語る日本文化の形と謎とその精神		11	C-3：いま・そこにあるレイシズムと向かいあう	
6	B-2：「クールジャパン」と「セルフ・オリエンタリズム」「テクノオリエンタリズム」		12	D-1：同時代のメディア表現にみる日本のリアルと多文化状況	
7	B-3：インバウンドの視点から見た日本の文化		13	D-2：映画「HAFU」の視点から見た日本の多文化状況とその未来	
8	B-4：日本で暮らす「ガイジン」の視点から見た日本の文化		14	D-3：平等のなかで差異を生きること、多文化社会と民主主義の精神	
9	C-1：多文化社会アメリカにおける人種差別とヘイトクライム				

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定したPDFや動画を授業時間外にみてください。予習と復習はそれぞれ2時間程度です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。授業に必要なPDFは「学習支援システム（Webclass）」に保管しています。PDFはいつでも閲覧可能です。

【参考書】

参考書は使いません。授業に必要なPDFは「学習支援システム（Webclass）」に保管しています。PDFはいつでも閲覧可能です。

【成績評価の方法と基準】

成績は、学期末に実施する「アクティヴ・ラーニング方式」のテスト課題で評価します(100%)。リアクションペーパーへのフィードバックは、授業内におこないます。テストの方法については授業内で詳しく説明します。

評価の基準は次の5つです。

- ①オーセンティック・ラーニング
- ②クロスカルチュラル・ラーニング
- ③アンチバイアス・ラーニング
- ④メディア・コンピテンシーラーニング
- ⑤エビデンス・ベースド・ラーニング

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートで「とてもわかりやすい」と好評だった映像資料や映像教材をさらに充実させます。授業は、シラバスのスケジュールに沿って進めますが、開講中、この授業と関係する事件や出来事が起きた場合などには、それに対応して、リアルタイムのニュースやトピックをとりあげながら、臨機応変に授業を進めてゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン、WIFI ルーター、ネット回線（WEBカメラとマイクは不要です）

【その他の重要事項】

この授業では、教材として、たくさんの映画や映像作品を紹介しますが、授業時間の制約があるため、作品を全編通して見ることはありません。したがって、授業で紹介した映像のなかで興味を持った作品があれば、Amazon、YouTubeなどを積極的に活用して、各自で全編を通して見るように心がけてください。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to acquire multicultural literacy skills. In this class, you will learn the meanings of words such as "Micro aggression", "Stereotype," "Hate speech," "Hate crime," "Cultural representation," "Racism," "Orientalism," "Cultural relativism," and "Multicultural conviviality,".

outline movie

<https://youtu.be/4W2OmbxcTso?si=54N6FV8EmTvCnBPd>

1.Course outline

This semester, we will have an "interactive, real-time online class" using Zoom.The URL and passcode are as follows

<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226556628>

2.Learning Objectives

The goal of this course is to acquire the ability and literacy to communicate multiculturally as an education that one should know in order to live in a multicultural society.

3.Learning activities outside of classroom

Use the PDF files uploaded to Hoppi as learning materials according to your own interests and concerns.A total of 4 hours of preparation and review time is required for each session.

4.Grading Criteria /Policy

Evaluated by a final exam using an active learning method.The following five points are to be evaluated.

a.Authentic Learning

b.Cross-Cultural Learning

c.Anti-Bias Learning

d.Media Competency Learning

e.Evidence-Based Learning

In-class questions will be answered via Padlet.

<https://padlet.com/illcommonzoo/f5dfkcupo0vhc8jn>

*This class will cover current issues, so the content of the class may be subject to change.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

多文化社会論B

挽地 康彦

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、19世紀後半以降の植民地統治期から第二次大戦後の高度成長期までの期間を対象にして、近代日本における民族関係を歴史的に考察する。人口移動の観点からみると、帝国日本の内地では、海外諸国や旧植民地へ「日本人」が移出し、旧植民地からは植民地支配を受けた「朝鮮人」や「台湾人」が移入するなど、国際移動と多文化状況が一般的であった。他方、帝国が崩壊する第二次大戦後では、外地からの引揚げ、内地から帰国、開拓移民、海外移民、出稼ぎ労働など、戦前とは異なる人口移動をとまなないながら、戦後日本社会の内部に社会的弱者と民族的マイノリティを生み出していった。授業では、近代日本における政治的情勢の変化と多様な人口移動を視野に入れつつ、帝国日本の「内地」や「外地」で、そして戦後日本社会の内部でどのような民族関係が編み出されたのかを検証し、その特徴と現代的意味を考えることを目的とする。

【到達目標】

近代日本の移民史に依拠しながら、異民族間に生じた諸問題を植民地支配、戦争、開拓、労働、入管、ナショナリズムなどの観点から検討することで、単一民族国家の神話に囚われない歴史観の習得をめざす。具体的には、「日本人」とは誰か、「移民」とはどういう存在だったのか？ 近代日本における異民族間の社会関係はいかなるものだったか？ 戦後における民族的マイノリティの位置づけと外国人労働者の受け入れにはどのような関係にあったのか？ といった問いを追究することで、現代日本の移民問題を考えるうえでの基礎的な力を養っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面授業を基本とし、半期のうち7回までの授業を同時双方向型のオンライン授業（Zoom）で行う。各回の授業資料は、データ（PDF）で配信しながら進める（受講者が多いため、紙資料の配布は行わない）。

ZoomのURLとパスコードは、以下のとおりです。

https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/83655784521?pwd=MeSn5BN0K5FbkxU8eR96ONXubpJc.1

ミーティングID：836 5578 4521

パスコード：215228

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	過去という〈外国〉への旅
第2回	近代日本における移民の動態	近代初頭の日本において「移民」とは誰を指していたのか。当時の認識枠組みを踏まえ、移民動向を数的な規模から確認する。
第3回	戦前日本の民族関係①：朝鮮	帝国日本の「内地」と、その「外地」であった朝鮮。その2つの社会空間における異文化接触と民族関係を多角的に考察する。
第4回	戦前日本の民族関係②：満州	1920年代以降の移民送出の社会的背景を概観しながら、戦前の満州移民事業と戦後の中国残留邦人の歴史について学ぶ。

第5回	「帝国」外部への移住	「帝国」外部への移住が示していた〈過去〉とはどのようなものか。中南米出身の日系人の〈現在〉から、その歴史を振り返る。
第6回	敗戦と引揚げ	日本敗戦にともなう膨大な人口移動と社会的混乱を「引揚げ」の観点から捉え、占領期の絡み合った民族関係に着目する。
第7回	帝国崩壊と帰国	帝国日本の崩壊による旧植民地出身者の「帰国」にフォーカスしながら、おもに在日朝鮮人の「解放」の意味を問う。
第8回	ポストコロニアル・キャンプ	占領初期の入管政策を貫いた「内なる敵」のポリシングという問題を、管理・収容・送還の諸側面から批判的に検討する。
第9回	玄界灘における民族関係史	朝鮮戦争下の北九州を舞台に繰り広げられた帝国主義と軍事史のレイシズムを、虐げられた者たちの文化実践から読み解く。
第10回	開拓と移民	戦後日本の開拓史と移民史の交点に見出される出郷者たちの姿に焦点をあてて、戦後復興の裏面史を描いていく。
第11回	戦後日本の海外移民	戦後復興と成長の陰で再開された、知られざる中南米への海外移住の歴史について当時の国際関係と文芸作品から掘り起こす。
第12回	経済成長と民族的マイノリティ	戦後日本の経済成長期において外国人労働者を代替したのは誰だったのか？ 当時の底辺労働者の供給メカニズムを説明する。
第13回	アメラジアンとは誰か？	沖縄に特有の民族関係の問題を考えるために、「アメラジアン」と呼ばれる人びとの置かれた状況を複眼的に解説していく。
第14回	まとめ／帝国の逆襲	厳格化の一途をたどる現代の入管政策やヘイトが蔓延する社会状況と結びつけながら、これまでの授業内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を理解するために、各授業回のテーマに関する情報収集などの準備学習に2時間、授業後に関連文献の読解など復習時間に2時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業回に応じてレジュメや資料を配信する。

【参考書】

参考・参照すべき文献は複数に上るため、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内容の理解度を測るために学期半ばで行う小テスト（30%）と、学期末に提出する課題レポートの内容で評価する（70%）。学期末レポートの課題は、提出期限の約1カ月前に指示する。レポート評価の基準は、以下の3つに設定する（①授業内容を踏まえているか、②習得した知見について正しく理解しているか、③独善的な論理展開でなく他者理解の観点から論述されているか）。なお、小テストや学期末レポートの課題は、授業に出席しないと作成困難な内容となる。配信する授業レジュメのパッチワークでは単位取得の基準をクリアできない。とりわけ、期末レポートでは課題を正確に理解したうえで、受講者自身が主体的に調べ考察した内容が展開されてはじめて基準をクリアできる。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解に不安を覚える学生がいることから、学期半ばに小テストを実施して理解度を確認する。また、学習効果の高さの理由の他に、体調の優れない受講者が授業参加を希望するケースが少なくないことから、7回分の授業をオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業（Zoom）の場合
・パソコン（カメラ付き）
・インターネット接続が可能な環境

・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンにzoomのアプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】

- ・本科目では、初回授業を含めた7回分の授業をZoomを用いたオンライン形式で行う。
- ・初回の授業は、4月8日（火）3限（13:10～14:50）にオンラインで行う。
- ・各授業のなかで質疑応答の時間を設ける予定である。

【Outline (in English)】

Course outline :

This course will historically examine ethnic relations in modern Japan, covering the period from the colonial rule after the late 19th century to the period of rapid economic growth after World War II. From the perspective of population movement, international migration and multicultural conditions were common in the main islands of imperial Japan, with “Japanese” moving out to overseas countries and former colonies, and “Koreans” and “Taiwanese” moving in from the former colonies under colonial rule. On the other hand, after World War II, when the empire collapsed, the population movements differed from those of the prewar period, such as repatriation from the overseas territories, returnees from the main islands of Japan, pioneer immigrants, overseas immigrants, and migrant labor, creating socially vulnerable groups and ethnic minorities within postwar Japanese society. The purpose of this class is to examine what kind of ethnic relations were developed in the “inner” and “outer” regions of imperial Japan and within postwar Japanese society, and to consider their characteristics and contemporary significance, while taking into account the changing political situation and diverse population movements in modern Japan.

Learning Objectives :

By relying on the history of immigration in modern Japan and examining various issues that arose among different ethnic groups from the perspectives of colonial rule, war, settlement, labor, immigration, and nationalism, the course aims to develop a historical perspective that is not limited by the myth of a racially homogeneous nation. Specifically, the following questions will be pursued in order to cultivate basic skills for thinking about immigration issues in contemporary Japan. Who are “Japanese”? What kind of people were “immigrants”? What were the social relations between different ethnic groups in modern Japan? What was the relationship between the position of ethnic minorities and the acceptance of foreign workers in postwar Japan?

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies :

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term examination(30%) and term-end report(70%).

The term-end report assignment will be given approximately one month before the due date. The following three criteria will be used in the evaluation of the report (1) whether it is based on the contents of the class, (2) whether the student has a correct understanding of the knowledge acquired, and (3) whether the report is written from the perspective of understanding others, rather than from a self-righteous logical perspective.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

多文化社会論C

挽地 康彦

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、かつて多民族・多文化社会の指針として位置づけられた「多文化主義」(multiculturalism)について批判的に検討し、その後に提起された「間文化主義」や「多自然主義」などの新たな知見を吟味することを目的とする。文化の多様性と価値の平等を認め、互いのアイデンティティの尊重を唱える多文化主義は、民主主義国家における統合政策の精神であったが、西洋社会では他者への不寛容と排斥が蔓延し、多文化主義は失敗したと認識された。多文化主義はなぜ行き詰まったのか。多文化主義による社会統合を後退させた要因は何だったのか。そして多文化主義を乗り越えるために、今日どのような考え方が提起されているのか。授業では、上記の観点をめぐって議論しながら、日本版多文化主義でもある「多文化共生」についても、あわせて考察する。

【到達目標】

多文化主義の盛衰をめぐる歴史的・社会的な背景を踏まえながら、まずは、①多文化主義とそれに関連する諸概念との関係性を理解し、つぎに②多民族・多文化社会において多文化主義が失速するに至ったメカニズムと要因を多角的に捉えられるようになることが求められる。そのうえで、③ポスト多文化主義の思想的潮流についての知見を習得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面授業を基本とし、半期のうち7回までの授業を同時双方向型のオンライン授業（Zoom）で行う。各回の授業資料は、データ（PDF）で配信しながら進める（受講者が多いため、紙資料の配布は行わない）。

ZoomのURLとパスコードは、以下のとおりです。

<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/81206968315?pwd=ozHIwjlle0ljNDaCJsGj2q452ziqvW.1>

ミーティングID：812 0696 8315

パスコード：245348

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業方針の確認と問題提起
第2回	欧州移民政策の変遷①	20世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第3回	欧州移民政策の変遷②	20世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第4回	エスニック・リバイバル①	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。
第5回	エスニック・リバイバル②	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。

第6回	多文化主義の盛衰	多文化主義の諸特徴と意義、その台頭から後退までの経緯について共有する。
第7回	多文化社会の構成原理	同化主義、文化多元主義、文化相対主義などの諸概念を多文化社会の構成原理として分類しながら、多文化主義との関係を整理する。
第8回	多文化主義論争①	多文化主義に内在する困難性を、文化的固有性と普遍的価値の間のジレンマ（多文化主義と普遍主義の対立）の観点から概説する。
第9回	多文化主義論争②	多文化主義に内在する困難性を、文化的差異と分離・分裂の間のジレンマ（多文化主義と分離主義の対立）の観点から概説する。
第10回	多文化主義論争③	多文化主義に内在する困難性を、文化的共同体と個人の自由の間のジレンマ（多文化主義と個人主義の対立）の観点から概説する。
第11回	日本における多文化共生①	日本が移民国家へ転換するなかで、いかなる目的で「多文化共生」が唱導されたのかを、欧米社会の多文化主義と比較しながら確認する。
第12回	日本における多文化共生②	日本の多文化共生が空虚なスローガンで終始している問題点を、90年代以降の入管行政や日本型排外主義との関係から考察する。
第13回	ポスト多文化主義	多文化主義を批判的に乗り越えるための契機として、間文化主義、ノマディズム、コスモポリタニズム、多自然主義などの思潮を検討する。
第14回	まとめ	「要塞化」するホスト社会と「破局」に直面する難民との間にあ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を理解するために、各授業回のテーマに関する情報収集などの準備学習に2時間、授業後に関連文献の読解など復習時間に2時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業回に応じてレジュメや資料を配信する。

【参考書】

参考・参照すべき文献は複数に上るため、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内容の理解度を測るために学期半ばで行う小テスト（30%）と、学期末に提出する課題レポートの内容で評価する（70%）。学期末レポートの課題は、提出期限の約1カ月前に指示する。レポート評価の基準は、以下の3つに設定する（①授業内容を踏まえているか、②習得した知見について正しく理解しているか、③独善的な論理展開でなく他者理解の観点から論述されているか）。なお、小テストや学期末レポートの課題は、授業に出席しないと作成困難な内容となる。配信する授業レジュメのパッチワークでは単位取得の基準をクリアできない。とりわけ、期末レポートでは課題を正確に理解したうえで、受講者自身が主体的に調べ考察した内容が展開されてはじめて基準をクリアできる。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解に不安を覚える学生がいることから、学期半ばに小テストを実施して理解度を確認する。また、学習効果の高さの理由の他に、体調の優れない受講者が授業参加を希望するケースが少なくないことから、7回分の授業をオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業（Zoom）の場合

・パソコン（カメラ付き）

・インターネット接続が可能な環境

・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンにzoomのアプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】

- ・本科目では、初回授業を含めた7回分の授業をZoomを用いたオンライン形式で行う。
- ・初回の授業は、9月23日（火）3限（13:10～14:50）にオンラインで行う。
- ・各授業のなかで質疑応答の時間を設ける予定である。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to critically examine multiculturalism, which was once positioned as a guideline for a multiethnic and multicultural society, and to examine new findings such as "interculturalism" and "multinaturalism" that have been raised since then. Multiculturalism, which recognizes cultural diversity and equality of values, and advocates respect for each other's identity, was the spirit of integration policies in democratic countries, but intolerance and exclusion of others became widespread in Western society, and multiculturalism was recognized as a failure. Why has multiculturalism stalled? What were the factors that led to the regression of social integration through multiculturalism? And what ideas are being proposed today to overcome multiculturalism? In this course, we will discuss the above perspectives, and also consider "multicultural conviviality," which is the Japanese version of multiculturalism.

Learning Objectives :

Based on the historical and social background of the rise and fall of multiculturalism, students will first understand the relationship between (1) multiculturalism and related concepts, and then (2) the mechanisms and factors that led to the failure of multiculturalism in multi-ethnic and multicultural societies from multiple perspectives. In addition, the course aims to provide students with an understanding of (3) the ideological trends of post-multiculturalism.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies :

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term examination(30%) and term-end report(70%).

The term-end report assignment will be given approximately one month before the due date. The following three criteria will be used in the evaluation of the report (1) whether it is based on the contents of the class, (2) whether the student has a correct understanding of the knowledge acquired, and (3) whether the report is written from the perspective of understanding others, rather than from a self-righteous logical perspective.

ARS200MA

アジア社会論Ⅰ

展開科目

日下部 尚徳

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金4/Fri.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、南アジア地域の社会構造と経済動向に関する理解を深めることを通じて、文化の根底にある価値観の多様性を学びます。南アジアは、アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカの8つの国家群によって構成される地域を指します。南アジアの人口は15億人を超えており、世界人口の5分の1以上がこの地域で暮らしています。講義では、南アジア地域がかかえる貧困や紛争などの社会的課題とともに、今後日本との関係が深まっていくことが予想される同地域に住む人びとが置かれている社会的状況について学びます。講義は、講義形式の授業を通じて南アジア社会経済への理解を深めると同時に、南アジア社会と我々の社会の関連性を自ら考える力を養うことを目的としています。

【到達目標】

1. 南アジア地域の社会構造と経済動向に関する理解を深める
2. 南アジアにおける貧困や紛争などの社会的課題を構造的に理解する
3. 南アジア社会と日本社会の関わりを自らの言葉で具体的に論じられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンデマンド方式を活用した反転授業を併用する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンデマンド型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する。フィードバックは対面および学習支援システム上で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	南アジア社会の学び方	異文化理解とは何か：異なる社会の学び方
第2回	世界の中の南アジア	日本と世界と南アジア
第3回	南アジアの社会構造	宗教・民族の視点から
第4回	南アジアの経済事情	インド・バングラデシュの経済状況
第5回	南アジアの政治構造	インド・バングラデシュの選挙制度
第6回	映像から考える南アジア①宗教	映像にみる南アジアの宗教
第7回	映像から考える南アジア②貧困・紛争	映像にみる南アジアの貧困・紛争
第8回	南アジアの紛争課題	バングラデシュの民族紛争から考える平和構築
第9回	グローバリゼーションのなかの南アジア	船舶解体産業を事例に
第10回	南アジア社会各論①歴史と文化	バングラデシュの歴史と文化
第11回	南アジア社会各論②経済発展	バングラデシュの経済発展
第12回	南アジア社会各論③貧困	南アジアの農村事例から考える貧困
第13回	南アジアと開発援助	南アジア社会とわたしたちのつながり

第14回 まとめと授業内レポート解説 まとめとレポート解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業内で指示した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
2. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
3. 授業終了時に示す課題についてリアクションペーパーを作成すること
4. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

①大橋正明・村山真弓・日下部尚徳・安達淳哉編『バングラデシュを知るための66章』（明石書店、2017年）

【参考書】

①白田雅之・佐藤宏・谷口晋吉（編）『もっと知りたいバングラデシュ』（弘文堂、1993年）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー／Reaction paper/in-class assignments (56%)

レポート課題／Report assignments, mid-term/final paper (44%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The course aims to deepen students' comprehensive understanding of the politics, economy, diplomacy, and culture of South Asia. On this basis, students will learn about social situations faced by people in South Asia, mainly social challenges such as poverty, conflicts, and environmental issues. Learning Objectives

1. To be able to understand basic words relating to the politics, economy, diplomacy, and culture of South Asia.
2. To understand the modern history of South Asia.
3. To be able to discuss social issues in South Asia.

Learning activities outside of classroom

Participants are requested to read the text before each class.

1. To read the literature and audiovisual references instructed in the class in advance.
2. To make clippings of newspaper articles relevant to the course.
3. To submit reports on the topics shown at the end of each class.

Grading Criteria /Policy

Reaction paper/in-class assignments (56%)

Report assignments, mid-term/final paper (44%)

ARS200MA

アジア社会論Ⅱ

展開科目

日下部 尚徳

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金5/Fri.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南アジアの国々の事例を通じて、日本も含めたアジアの貧困問題や災害被害、紛争問題に関する理解を深めます。同時に、それぞれの問題に対して、どのような対策がとられているのかについても学びます。本年度は特に災害としての新型コロナウイルスがアジアの国々の社会問題にあたえた影響についても議論を深めます。

【到達目標】

1. 南アジアの国々における社会的課題を具体的に論じられるようになる
2. アジアの社会的課題に対して自身がどのようにかわるべきかを考えられるようになる
3. 南アジアの社会、文化に対する理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンデマンド方式を活用した反転授業を併用する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンデマンド型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する。フィードバックは対面および学習支援システム上で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	南アジア地域の特徴と学び方
第2回	南アジアの地域概要	政治と経済（インド・バングラデシュを中心に）
第3回	南アジアと新型コロナウイルス：インドを中心に	インドの新型コロナウイルス対応
第4回	南アジアと新型コロナウイルス：バングラデシュを中心に	バングラデシュの新型コロナウイルス対応
第5回	南アジアの貧困とその背景	貧困課題と児童労働
第6回	南アジアの貧困とその対策	女子児童労働の課題
第7回	南アジアの貧困と世界の貧困	南アジアと世界の児童労働
第8回	南アジアの災害とその背景	サイクロン災害を事例に
第9回	南アジアの災害とその対策	バングラデシュにおけるサイクロン対策を事例に
第10回	南アジアの紛争とその背景	チッタゴン丘陵問題を事例に
第11回	南アジアの難民問題とその背景	ロヒンギャ難民問題を事例に、難民問題がおきる背景を学びます。
第12回	南アジアの難民問題への対応	ロヒンギャ難民問題を事例に、難民対応の現状と課題を学びます。
第13回	南アジアの難民問題のこれから	ロヒンギャ難民問題を事例に、今後われわれがアジアの難民問題とどう向き合っていくべきか、議論を深めます。

第14回1/15 南アジアの社会問題のまとめとレポート解説 アジアの社会的課題に対して自身がどのようにかわるべきかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業内で指示した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
 2. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
 3. 授業終了時に示す課題についてリアクションペーパーを作成すること
 4. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

- ①日下部尚徳『わたし8歳、職業、家事使用人。——世界の児童労働者1億5200万人の1人』（合同出版、2018年）
- ②日下部尚徳『自分ゴトとして考える難民問題——SDGs時代の向き合い方』（岩波書店、2025年）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー／Reaction paper/in-class assignments (56%)
レポート／Report assignments, mid-term/final paper (44%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course aims to deepen understanding of issues affecting the world, including Japan, such as poverty, disaster damage, and conflict through the cases of those in South Asia. It also looks at what kinds of countermeasures are taken to tackle each problem.

Learning Objectives

- 1 To be able to concretely discuss social issues of so-called developing countries in South Asia.
- 2 To be able to consider how to get involved with social issues of so-called developing countries in South Asia.

Learning activities outside of classroom

Participants are requested to read the text before each class.

1. To read the literature and audiovisual references instructed in the class in advance.
2. To make clippings of newspaper articles relevant to the course.
3. To submit reports on the topics shown at the end of each class.

Grading Criteria /Policy

Reaction paper/in-class assignments (56%)
Report assignments, mid-term/final paper (44%)

ARS200MA

国際関係論 I

展開科目

塩田 潤

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：水5/Wed.5 (※4/2修正) | 配当年次：2～4年
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダー/フェミニズムの視座から国際関係・国際政治を学ぶ。とりわけ、本授業では女性たちの様々な経験を出発点として、戦争、(戦時) 性暴力、軍事化と安全保障などを考察し、国際関係を語る際にこぼれ落ちがちであるミクロな視座からマクロな事象を理解することを目指す。受講者には授業内で行われるディスカッションへの積極的な参加、授業外での課題文献の購読やレポートの提出が求められる。原則として、4回以上欠席した者は単位を認めない。

【到達目標】

- ・国際関係論におけるフェミニスト・アプローチの基礎を理解する。
- ・国際政治および国際社会の動向をフェミニズムの視座から捉える。
- ・ジェンダーの観点をふまえて、より公正なグローバル社会を考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・受講者には毎回の授業後、hoppiiを通してコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーにおいて出された質問等へのフィードバックは次回授業時に行う。また、授業内ではグループディスカッションなども行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方を説明する。
第2回	ジェンダー/フェミニズムと国際関係論	ジェンダー/フェミニズムの視点を持って国際関係論を見る。
第3回	戦争と女性	太平洋戦争中の女性たちの経験を知る。
第4回	〈銃後〉をひもとく	〈銃後〉とは何かを考える。受講者でディスカッションも行う。
第5回	沖縄戦と女性たち	沖縄戦における女性たちの経験を知る。
第6回	前線の女性たち	国家と戦争について考える。受講者でディスカッションも行う。
第7回	戦争と性暴力	戦時性暴力についての概念と議論を学ぶ。
第8回	戦時性暴力をめぐる「政治的」議論	戦時性暴力はいかに政治化され、語られてきたのかを知る。
第9回	性暴力と国際関係	(戦時) 性暴力と国際関係について改めて考える。受講者でディスカッションも行う。
第10回	「安全保障」とは何か	伝統的安全保障論を知る。
第11回	軍事基地と女性	軍事基地のある地域の女性たちの経験を知る。受講者でディスカッションも行う。
第12回	「安全保障」と軍事基地	軍事基地と女性という視点から「安全保障」を再検討する。受講者でディスカッションも行う。
第13回	「戦争」と「生」	参加者間で、「戦争」と「生」についてのディスカッションを行う。
第14回	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

準備学習：日頃から新聞の国際面などを通して、国際政治や国際社会の動きに関心を持ってください。海外メディアのチェックなども役立ちます。

復習：授業の内容や授業中に示された問いについて自身で再考し、コメントをhoppiiを通して毎回提出してもらいます。また、授業内でわからなかった用語を自身で調べたり、授業中に紹介する文献に目を通したりするとより理解が深まります。

宿題など：適宜、指示を出します。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

【参考書】

- ・岡野八代『戦争に抗する一ケアの倫理と平和の構想』岩波書店、2015年。
- ・加納実紀代『新装版 女たちの〈銃後〉 増補新版』インパクト出版、2020年。
- ・シンシア・エンロー『バナナ・ビーチ・軍事基地: 国際政治をジェンダーで読み解く』望月愛果訳、人文書院、2020年。
- ・J. アン・ティックナー『国際関係論とジェンダー』進藤久美子・進藤栄一訳、岩波書店、2005年。

その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

20%・・・平常点（毎回のコメント・ペーパーおよび授業内でのグループディスカッション）
 30%・・・中間レポート
 50%・・・最終レポート

※コメントペーパーは授業内容をふまえた自身の問いや考えといった記述内容で評価する。単純な授業のまとめや感想文などは評価しない。

※原則4回以上欠席した受講者は単位を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

- ・スライドの見やすさ、レジュメの情報など、情報保障をより向上させる。
- ・アクティブラーニングの手法を実施する。
- ・授業内でディスカッションの時間をとる。

【その他の重要事項】

- ・質問などに関しては、授業の前後、コメントペーパーまたはメールで対応します。初回の授業時に連絡先を伝えます。
- ・シラバスで記載している授業計画は時間の都合などで若干変更される可能性があります。
- ・グループディスカッションなども行うため、授業への積極的な参加姿勢が求められる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces feminist works in International Relations (IR) and explores global issues with gender perspective. In particular, the course examines the issues such as war, (wartime) sexual violence, militarization and national security, using women's diverse experiences as a starting point. The course aims to understand macro-level phenomena through micro-level perspectives that are often overlooked in discussions of international relations. Students are required to actively participate in discussion held in class, as well as to read the assigned materials and submit reports outside of class. Students who are absent four or more times will not get the course credit.

【Learning Objectives】

- ・ Understand the basics of feminist approach to IR
- ・ Acquire feminist perspective on international politics and social trends
- ・ Develop ability to think about more just global society with gender perspective

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation - Students are encouraged to keep abreast of international politics and society through the international pages of domestic newspaper. It is also useful to check the international media.

Review - Students are encouraged to look up terms they didn't understand in class and to refer to the literature introduced in class to deepen their understanding.

Others - Instructions will be given as appropriate.

【Grading Criteria /Policy】

Overall grade in the class will be decided based on the following

20%- Short reports for each session, group discussion in classroom

30%- interim report

50%- Final report

ARS200MA

国際関係論Ⅱ

展開科目

塩田 潤

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバルな視野で女性の政治参加と民主主義について学ぶ。授業前半では、映像資料を用いながら世界中でいかに女性の政治参加が進展し、また困難に直面してきたのかを検討する。授業後半では、具体的に女性の政治参加の障壁を見定めるとともに、どのようにそれらを乗り越えていくことができるのかを考える。受講者には授業内で行われるディスカッションへの積極的な参加、授業外での課題文献の購読やレポートの提出が求められる。原則として、4回以上欠席した者は単位を認めない。

【到達目標】

- ・女性の政治参加についての基礎的な歴史と情報を理解する
- ・ジェンダー政治に関する学術的知識と議論を理解する。
- ・政治社会の動向をフェミニズムの視座から捉える。
- ・ジェンダーの観点をふまえて、より公正なグローバル社会を考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業は原則対面・講義形式で行うが、都合によりオンラインに切り替える場合もある。
- ・授業内ではグループディスカッションなども行う。
- ・受講者には毎回の授業後、ミニレポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の説明
第2回	ジェンダー/フェミニズム	ジェンダー概念およびフェミニズム
第3回	女性と「民主主義」	「民主主義」の歴史をジェンダー視点で概観する
第4回	サフラジェット	女性参政権運動などについて
第5回	19世紀末から20世紀初頭	第一波フェミニズムなどについて
第6回	「女性の休日」	女性ストライキなどについて
第7回	20世紀半ば	経済構造の変化と女性の政治参加などについて
第8回	女性と選挙	女性と選挙などについて
第9回	現代	ジェンダー、人種、階級などの交差性などについて
第10回	女性の政治参加の壁	女性の政治参加を阻む壁などについて
第11回	女性と/の政党	政党内の女性及び女性政党などについて
第12回	ポジティブ・アクション	ジェンダー・クォータ制度などについて
第13回	実質的代表	ケアと政治などについて
第14回	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

受講者には以下の学習が求められます。

- ・事前に指定された課題文献を読み、ディスカッションへの準備を行うこと。
- ・毎回の授業後、コメント・ペーパーを提出すること。

・その他、日頃から国際政治や国際社会の動きに関心を払うこと、授業内でわからなかった用語を自身で調べたり、授業中に紹介する文献に目を通したりすること。

準備学習：日頃から新聞の国際面などを通して、国際政治や国際社会の動きに関心を払っておいてください。海外メディアのチェックなども役立ちます。

復習：授業の内容や授業中に示された問いについて自身で再考し、コメントをhoppiiを通して毎回提出してもらいます。また、授業内でわからなかった用語を自身で調べたり、授業中に紹介する文献に目を通したりするとより理解が深まります。

宿題など：適宜、指示を出します。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

【参考書】

適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

20％・・・平常点（毎回のコメント・ペーパーおよび授業内でのグループディスカッション）

30％・・・中間レポート

50％・・・最終レポート

※コメントペーパーは授業内容をふまえた自身の問いや考えといった記述内容で評価する。単純な授業のまとめや感想文などは評価しない。

※原則4回以上欠席した受講者は単位を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

- ・スライドの見やすさ、レジュメの情報など、情報保障をより向上させる。
- ・アクティブラーニングの手法を実施する。
- ・授業内でディスカッションの時間をとる。

【その他の重要事項】

- ・質問などに関しては、授業の前後、コメントペーパーまたはメールで対応します。初回の授業時に連絡先を伝えます。
- ・シラバスで記載している内容は都合により適宜変更される可能性があります。
- ・グループディスカッションなども行うため、授業への積極的な参加姿勢が求められます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course explores women's political participation and democracy with various global cases. In the first half of the course, using visual materials, we will examine how women's political participation has progressed worldwide and the challenges they have faced. In the second half, we will identify the specific barriers to women's political participation and discuss strategies to overcome these obstacles. Students are required to actively participate in discussion held in class, as well as to read the assigned materials and submit reports outside of class. Students who are absent four or more times will not get the course credit.

【Learning Objectives】

- ・Understanding the basics information and history of women's political participation.
- ・Understanding academic knowledge and argument about gender politics.
- ・Acquiring feminist perspective on politics and social trends.
- ・Developing ability to think about more just global society with gender perspective.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are required:

- ・Reading the assigned materials before the class
- ・Submitting short report after the class
- ・Also, students are encouraged to keep abreast of international politics and society through the international media and to look up terms they didn't understand in class and to refer to the literature introduced in class to deepen their understanding.

Preparation - Students are encouraged to keep abreast of international politics and society through the international pages of domestic newspaper. It is also useful to check the international media.

Review - Students are encouraged to look up terms they didn't understand in class and to refer to the literature introduced in class to deepen their understanding.

Others - Instructions will be given as appropriate.

【Grading Criteria /Policy】

Overall grade in the class will be decided based on the following

20%- Short reports for each session, group discussion in classroom

30%- interim report

50%- Final report

ARS200MA		
国際地域研究 I		
展開科目		
浅川 聖		
単位数：2単位 開講セメスター：春学期授業/Spring		
曜日・時限：火5/Tue.5 配当年次：2～4年		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
本コースでは、グレートブリテン島およびアイルランド島を題材に「地域」という概念を検討しながら、両島の成立過程とその特徴を学ぶ。グレートブリテン島の成立過程では、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドをそれぞれ取り上げる。英国と特別な関係を有するアイルランドについては、対英独立過程に着目しながら、同国の政治と経済の特徴について学ぶ。また、両国は、日本に生きる我々と無関係な国・地域ではないため対日関係についても概観する。		
【到達目標】		
・「地域」や「国家」という概念の理解を深める。 ・一国内にも地域毎に多様性に富んでいることを理解する。 ・グレートブリテン島とアイルランド島がこれまで直面してきた／直面する諸課題について理解を深める。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連		
【授業の進め方と方法】		
（学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。 /If the Method(s) is changed, we will announce the details of any changes.）		
授業は対面を基本としますが、オンラインで実施する回も検討しています。オンラインで実施の場合は事前にアナウンスします。対面授業の際には、映像などの視覚資料も用いて、考察対象がより具体的にイメージできるように進めます。授業後にはリアクションペーパー等の提出をしてもらう予定です。良いコメントや質問（論点）は授業内で紹介し、考察対象をより深く理解するために活用します。なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する場合があります。変更がある場合は、授業内で連絡をします。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（授業方針の説明）	地域研究とは何か？ 授業方針と各回の内容を説明する。日本に住む私たちにとって、他の国・地域を学ぶ重要性について考える。
第2回	地域とヨーロッパ	ヨーロッパを題材に、地域・国家・超国家的組織、という多層性について理解を深めつつ、それぞれの層に期待されている役割や協力的重要性について考える。
第3回	英国を構成する諸地域	「地域」という概念を念頭に、英国における諸地域（イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランド）の特徴について考える。諸地域につき私たちが持つイメージが何に起因しているかを考える。
第4回	イングランド社会・文化①	英国内の「地域」の独自性・独立性について検討する。規模、影響力ともに最も大きいイングランドについて学ぶ。

第5回	イングランド社会・文化②	グレートブリテン島の他の諸地域およびアイルランド島の地域などとの関係からイングランド問題を考える。
第6回	ウェールズ社会・文化	ウェールズ社会・文化は、他の諸地域と比較して、私たちの意識の中でその存在感がやや薄いかもしれない。その理由を歴史背景をふまえて考える。また、言語に注目し、ウェールズ社会と文化について考察する。
第7回	スコットランド社会・文化①	スコットランド社会や産業について学ぶ。特にイングランドとの関係性から検討する。
第8回	スコットランド社会・文化②	近年の独立機運の高まりやEUとの関係性について考える。
第9回	英国のまとめ	地域という観点から、イギリス社会が抱える課題を考える。また対外関係（特に対日関係）について概観する。
第10回	アイルランド政治・経済①	なぜアイルランド島に二つの国があるのかを理解する。北アイルランド紛争の火種となった1920年代前後のアイルランド独立に向けた動きを学ぶ。
第11回	アイルランド政治・経済②	アイルランド政治の特徴をヨーロッパとの比較の中から考える。
第12回	アイルランド政治・経済③	グローバリゼーションの功罪をアイルランド経済を通して考える。
第13回	アイルランドのまとめ	アイルランド社会が抱える課題を考える。また対外関係（特に対日関係）について概観する。
第14回	まとめ・試験	まとめ・試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布した資料、関連文献を読む。
授業後にはリアクションペーパーの提出をする。また、2回程度ミニレポート（変更がある場合は授業でお知らせします。）の提出があるので、授業内容の復習を行い、自分の言葉で説明できるようにすること。課題レポート執筆に向けては、関連文献を読み、適切な準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義に関連した資料を配布するため、テキストは指定しない。

【参考書】
佐久間康夫、中野葉子、太田雅孝編『概説イギリス文化史』ミルネヴァ書房、2002年。
北野充『アイルランド現代史-独立と紛争、そしてリベラルな富裕国』、中央公論新社、2022年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（ミニレポート・リアクションペーパーの内容、授業への積極的参加）：40％
期末試験（論述式）：60％
＊欠席が授業時間数の3分の1を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
身近な例を使って授業の理解度を促す
リアクションペーパーのコメントを適宜紹介して双方向的な対話を促進させる

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
＊受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。
＊初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修を検討している人は必ず参加すること。

【Outline (in English)】

This course will examine the formation and characteristics of the two countries, the UK and Ireland, through the concept of “region”. In analysing the formation of the UK, it will discuss England, Scotland, Wales, and Northern Ireland separately to draw out their features. On Ireland, it will provide both political and social characteristics, paying particular attention to its relationship with the UK at the time of independence. It will also outline the bilateral relationship with Japan.

ARS200MA

国際地域研究Ⅱ

展開科目

浅川 聖

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本コースでは、英国とアイルランドという二つの国を題材に、両国が直面してきた／直面する様々な政治的・社会的諸課題を通史的に理解する。具体的な進め方としては、西欧政治における対立軸の変化を意識しながら、両国が時代毎に政治・社会課題にどのように対処してきたかを学ぶ。また、多様性（LGBT＋やジェンダー平等など）や移民・難民課題といった、ヨーロッパに共通して見られる争点課題を両国を事例に検討する。

【到達目標】

・英国とアイルランドの現代史（特に政治、社会）につき理解を深める。

・英国とアイルランドが抱える政治的、社会的課題の現状と課題をヨーロッパとの比較から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

（学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。 /If the Method(s) is changed, we will announce the details of any changes.）

授業は対面を基本としますが、オンラインで実施する回も検討しています。オンラインの場合は授業中に事前にアナウンスをします。授業は、パワーポイントと配布資料による講義を中心としますが、双方向的な授業とするため、グループワークや質疑応答の時間を設けます。また、リアクションペーパーの提出をしてもらう予定です。リアクションペーパー等における良いコメントや質問（論点）は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する場合があります。変更がある場合は、授業内で連絡をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（授業方針の説明）	授業のねらいと具体的な進め方、評価方法・また対象地域の概要について説明する。
第2回	ヨーロッパにおける争点課題	英国とアイルランドが位置する西欧政治を政党と社会集団の関係から概観する。20世紀以降を射程に西欧諸国における政治的、社会的課題の対立軸の変化を説明する。
第3回	リベラル・デモクラシーとは何か？	英国とアイルランドに共通する基本的価値観である「リベラル・デモクラシー（自由民主主義）」について説明する。
第4回	アイルランド①：独立期	1920年代の対英独立期の史的展開を概観する。
第5回	アイルランド②：代議制民主主義の発端と展開	1930年代から第二次世界対戦までの史的展開を概観する。
第6回	アイルランド③：停滞期	1980年代までの経済停滞とその原因について説明する。

第7回	アイルランド④：高度経済成長から経済危機	1990年代以降の高度経済成長期（ケルティックタイガー経済）と未曾有の経済危機について説明する。
第8回	英国①：福祉国家の誕生	第二次世界大戦後の英国を福祉国家の誕生という観点から説明する。
第9回	英国②：英国病とサッチャリズム	福祉国家の限界とサッチャリズム／ネオリベラリズムの台頭について説明する。
第10回	英国③：ブレア政権から2010年代	ブレア労働党政権の「第三の道」から2010年代の英国政治・経済をグローバリゼーションの観点から検討する。
第11回	政治・社会課題①：移民、難民課題	英国とアイルランドにおける移民・難民課題の諸相につき説明する。両国の通史を学んだ上で、多民族国家という観点から捉え直す。
第12回	政治・社会課題②：多様性	英国とアイルランドにおけるジェンダー平等やLGBT＋課題の諸相につき概観する。
第13回	政治・社会課題③：ポピュリズム	ポピュリズムとは何か？ 英国とアイルランドを事例に、リベラル・デモクラシーとの関係からポピュリズムを検討する。
第14回	まとめ	まとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料、関連文献を読む。

授業後には毎回リアクションペーパーの提出をする。また、ミニレポートの提出がある場合は、授業内容を復習し、自分の言葉で説明できるようにすること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業ではほぼ毎回プリント資料を配布します。

授業回に関係する参考書（以下）の該当箇所や関連資料（論文、映像資料、動画等）などについては必要に応じて適宜案内をします。

【参考書】

網谷龍介、伊藤武、成廣孝編『ヨーロッパのデモクラシー（改訂版第2版）』ナカニシヤ出版、2018年。

長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017年。

北野充『アイルランド現代史-独立と紛争、そしてリベラルな富裕国』中央公論社、2022年。

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ミニレポート・リアクションペーパーの内容、授業への積極的参加）：40%

期末試験（論述式）：60%

*なお、原則として欠席数が授業時間数の3分の1を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からの質問は歓迎しますので、積極的に質問してください。人数にもよりますが、受講者が主体的に参加できるような質疑や受講者間の意見交換の機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

*受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。

*初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず当日確認すること。

*本コースは、春学期とは別の独立した科目だが、春学期の授業内容と関連するため、国際地域研究Ⅰを受講しているより理解が深まる。

【Outline (in English)】

This course will examine the political and social challenges facing the UK and Ireland. In particular, it will provide you with the context for how the UK and Ireland have tackled these challenges in each historical period within the background of social conflict which divided political positions in Western Europe. In addition, it will also look at how the UK and Ireland address pressing challenges facing Europe more broadly, including diversity and inclusion (LGBT+, gender equality), and migration/refugees.

PSY300MA (心理学 / Psychology 300)

**キャリアカウンセリングⅡ
(ケーススタディ)【2025年度
以降入学者用】**

宮脇 優子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：3～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5105

科目名：キャリアカウンセリングⅡ（ケーススタディ）

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C7160

科目名：キャリアカウンセリングⅢ（ケーススタディ）

※入学年度により授業コード・科目名が異なります

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングの様々な事例（ケース）を学習することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。

まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項－その独自性や起源・発展の経緯、社会においてキャリアカウンセリングが求められてきた背景、また現在のニーズを学ぶ。次に、キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。それらを踏まえた上で、様々なケースについて考察・学習し、実践への理解を深めることとする。

【到達目標】

- ・キャリアカウンセリングの基礎的な事項（その独自性、起源と発展の経緯、社会から求められる理由）について理解できている。
- ・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して
- ①現代の産業組織において働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへのニーズを理解できている。
- ②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助のあり方・援助方法への理解ができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・前半（第1回～第5回）のキャリアカウンセリングの基礎的な事項については講義を中心として進める。第6回以降のケーススタディ（事例検討）は、講義に加え、個人ワークとグループでの意見交換及びグループ発表をおり交ぜて行う。
- ・授業終了後にリアクション・ペーパーの提出を求め、次週の授業の中で前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、全体共有・質問に対するフィードバックを行う。
- ・第10回の講義内容（心理アセスメント）に関連して、アセスメントツール（キャリア・インサイト）をキャリア情報ルームにて体験していただく（希望者）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、キャリアカウンセリングとは何か	授業の目的と進め方、成績評価について説明。 カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義と独自性（特徴）について学ぶ。
第2回	カウンセリングの起源と発展	アメリカにおけるカウンセリング誕生の背景、発展の経緯、日本の産業組織におけるカウンセリングの発達史を学ぶ。

第3回	働く人を取り巻く社会経済・雇用環境の変化とキャリアカウンセリングの役割①	社会経済・雇用環境の変化、現在に至る経緯を知り、産業組織におけるキャリアカウンセリングの果たせる役割を理解する。
第4回	働く人のメンタルヘルスの現状とキャリアカウンセリングの役割②	働く人のメンタルヘルスの現状を理解し、産業組織におけるキャリアカウンセリングの果たせる役割を理解する。
第5回	キャリアカウンセラーに必要とされる能力	キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）、要件を学ぶ。
第6回	キャリアカウンセリングの具体的展開とケーススタディ①	キャリアカウンセリングの具体的な進め方（プロセス）を学ぶ。ケースを読み、ケースの読み取り方・見立て方を学ぶ。
第7回	キャリアカウンセリングのケーススタディ②	C.R. ロジャーズの理論を学ぶ。若者への就職支援のケースを検討する。
第8回	キャリアカウンセリングのケーススタディ③	転職に纏わる支援のケース、職場の人間関係問題への支援のケースを検討。心理学理論を応用したアプローチを学ぶ。
第9回	子育てしながら働く女性へのキャリア支援④	子育てしながら働く女性のキャリアの現状及びキャリア支援のあり方について学ぶ。
第10回	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメント/ケーススタディ⑤	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの意義、心理検査の活用方法、職業選択理論を学ぶ。心理検査を用いたケースを検討し、キャリアカウンセリングにおける効果的な心理検査の活用を学ぶ。
第11回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑥	職業性ストレスモデルを学び、職場不適応のケースを検討する。
第12回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑦	ストレス、ストレス・コーピングについて学び、職場不適応のケース（管理職編）を検討する。
第13回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑧	職場のメンタルヘルス問題への対応、キャリアカウンセリングの組織開発への活用について、ケースを通して学ぶ。
第14回	まとめと振り返り	これまでの授業の振り返りと総括のフィードバックを行う。 また、期末レポート作成にあたっての復習ポイントを解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義資料の復習、各回の講義に該当するテキスト部分の予習・復習等、本授業の準備・復習時間は、各回計4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「働く人へのキャリア支援－働く人の悩みに応える27のヒント」
宮脇優子編著 金剛出版 2015

【参考書】

「入門キャリアカウンセリングとメンタルヘルス－基礎知識と実践」
宮脇優子・廣 尚典著 金子書房 2021

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業へ参加度及び取り組み姿勢）50％
期末レポート課題 50％

【学生の意見等からの気づき】

産業組織、心理学領域における専門用語については理解度を確認しながら進め、ケーススタディはグループワークでの意見交換・発表も取り入れ、授業内容へのより深い理解を目指した授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

第1回の授業はオンデマンド授業となります。オリエンテーション・講義資料（パワーポイントPDF）は学習支援システムへの掲載となるため、資料の読み取りのためのデバイス（パソコン、スマートフォン等）が必要になります。

【その他の重要事項】

担当教員は、人材採用広報・人事コンサルティング関連を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動をしている。キャリアカウンセラーとしての23年の経験で支援してきた人は5,000人を超える。

上記の実務経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人々の様々な心理的問題に焦点を当て、それらに対するキャリアカウンセラー（キャリアコンサルタント）の援助の実際について授業の中で紹介しながら進めていきます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn about career counseling practices and understand the significance and methods of career counseling by studying various cases of career counseling.

The first phase is to understand the basics of career counseling.

The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field. Lastly, you will examine its practical usage by looking into various cases.

By the end of the course, students should be able to do followings:

– Understand the basics of career counseling, i.e.its origin, development history, uniqueness of career counseling and the reason why career counseling is required in today's society.

– Through case studies of career counseling,

① Understand aspects of modern industrial organizations , especially the psychological problems of working people and the social needs for career counselling.

② Understand and learn how to examine of career counseling cases and help working people.

Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting, Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Learning state in class and in-class contribution:50%,Term-end examination:50%

EDU300MA (教育学 / Education 300)

メディアリテラシーB

村上 郷子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マルチメディアを活用したグループによる協働活動を通じて、様々なメディア文化の様式を理解し、メディアの読み解きや映像制作に関する基礎的なスキルを学ぶ。特に、デジタルストーリーテリングの動画制作を通じてメディアの批判的分析と創造を目指す。

【到達目標】

デジタルストーリーテリングの制作を通じて、メディア情報リテラシー教育における4つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景及び実際に学びながら、グループで決定したテーマについて各自がメディア制作（デジタルストーリーング等の動画）を行い、プレゼンを行う。毎回講義とグループワークを組み合わせる。テーマについては、2・3回目の授業でアンケート調査を行う。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、メディア情報リテラシー教育（MILE）とは何か
2	メディア情報言語①	多様なメディア情動的テキストのなかのコードときまり
3	メディア情報言語②	海外の動画、HP、ポスターで使われるコードの分析と評価
4	広告①	広告規制の分析と適用、収益モデルとしての広告
5	広告② グループ分けを決める	パブリック・サービス・アナウンスメント（PSA）とはなにか（分析と企画）
6	新旧のメディア①	メディアの歴史、新旧メディアの違い、グループ活動（絵コンテ、ストーリー展開）
7	新旧のメディア②	民主主義社会におけるニュー・メディアの可能性と弊害、グループワーク（ストーリー展開）
8	課題制作①	グループによる素材集め（ビデオ・写真撮影等）
9	課題制作②	グループによるプレゼン資料（パワポ）の作成および動画やデジスト等の制作
10	課題制作③	グループ発表の最終確認（パワポ・動画やデジスト等の最終確認）

11	課題発表①（くじで発表初回となった班の発表）	課題のグループ発表(1)、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする）、グループ発表の評価
12	課題発表②（くじで発表二回目となった班の発表）	課題のグループ発表(2)、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする）、グループ発表の評価
13	課題発表③（くじで発表3回目となった班の発表）	課題のグループ発表(3)、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする）、グループ発表の評価
14	メディアと教育に関する総まとめ	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし、適時参考資料・レジメを授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人による課題制作物（個人のデジスト・動画作品、他授業での課題）（30%）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業への参加・出席（30%）、個人レポート（40%）によって総合的に評価する。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視され、出席は80%を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14回中4回以上の欠席）のものは、「グループによる課題制作物、プレゼン、授業への参加・出席（30%）」の部分は0とする。正当な理由があるため4回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで5回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として0とする。本授業は「必修」ではないため、欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア（Hoppii）上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコン・動画作成スキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

・授業では授業用グループウェアを教員及び学生同士（海外の学生も含む）のコミュニケーションツールとして活用する。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室Hを使用している。定員は26名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業2回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline (in English)】

(Course outline) : Students will analyze media and information contents and create digital-story telling (DST) videos.

(Learning Objectives) : Through the production of digital storytelling, students will acquire four skills in media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.

(Learning activities outside of classroom) : Students should be aware that group activities outside of class will be included. In addition, active participation in class and group activities is expected.

(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be made based on individual project work (individual digital and video works, assignments) (30%), group project work, presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class participation (30%), and individual reports (40%).

EDU300MA (教育学 / Education 300)

リスク社会における包括支援と教育

筒井 美紀

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、労働・福祉・生活・教育などさまざまな領域で歪み・軋みが続いています（リスク社会）。では、どのように再創造していけばよいのでしょうか。自治体や地域が現在、就労困難者・生活困窮者に対してどのような包括支援や教育訓練を展開しているのかを、社会学的な視点から具体的に学ぶなかで、より善い社会ををデザインしてゆきます。

【到達目標】

就労困難者・生活困窮者への包括支援や教育訓練という、「どう接したら／教えたらよいか」という対人関係の次元が浮かぶことが多いでしょう。これと同時に理解すべきなのは、人・モノ・カネ・情報といった諸資源の組織化のありよう、教育の意義や機能や形態の変化、実現されるべき諸価値、といった点です。このクラスでは、ミクロな次元から、自治体やビジネス、NPOや地域社会、組織や制度へと社会学的な視野を広げます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

第10回と第14回をのぞき対面で実施します。

毎回、最初の1/5が前回リアペへのリプライ・導入解説、真ん中の2/5が班での議論、最後の2/5がミニ発表と授業者の発展的解説、というスタイルです。毎回、ミニ予習課題があり、それをやったうえで身体を教室に運ぶこと。すると班での議論のレベルが上がって盛り上がり、充実感が得られ、実力がつきます。

レポートはコメントを入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「リスク社会」がもたらしたものと社会の反応・対応
2	自治体による就労・生活支援とは何か	自治体の新たな役割と求められる支援の包括性（テキスト序章）
3	国の福祉政策・労働政策はなぜ・どう変わってきたか	労働市場と福祉供給の劣化とそれへの対応（テキスト第2章）
4	シングルマザーを支援する飲食店	ビジネスは福祉を代替するか？（テキスト第9章）
5	横浜市の生活保護受給者への就労支援	行政セクターにおける就労支援の展開と課題（テキスト3章第3節）
6	社会調査と分析のコツ	調査で得たデータがどのように分析・加工され論文となるか（レポート作成のコツ）
7	就労・生活支援の営利組織への委託	行政と民間の「パートナーシップ」が孕む課題（テキスト第4章）
8	支援と銘打たない支援	スモールステップを踏んだ支援と教育訓練、自治体の福祉・労働部門の連携（テキスト第8章）
9	就労・生活支援の「出口」をどう創るか	中小企業支援の福祉的性質（テキスト第7章）
10	地域のニーズを掘り起こす	雇用創出と就労につなげるには（テキスト第11章）

11	高齢者と生きづらい若者をつなぐ	協同労働の可能性と課題（テキスト第5章）
12	中間的就労／社会的就労、半福祉・半就労とは何か	より善い社会（とくに労働と福祉と教育の領域）に向けた諸価値（テキスト序章）
13	誰もが働き、生きていける社会とは	より善い社会をデザインする（テキスト終章）
14	期末試験に向けて	基礎概念などの総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私の授業は反転授業方式です。テキストを毎回1章読み、予習レジメの「問い」を解くという準備をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著（2014）『就労支援を問い直す——自治体と地域の取り組み——』勁草書房。

【参考書】

授業中適宜指示

【成績評価の方法と基準】

中間レポート30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

毎年この授業の履修者は、将来、就労や学習の支援に関わる仕事に就きたい人、自治体職員を目指す人、教師になりたい人、企業の社会的責任(CSR)に関心がある人、どんな社会で生きてゆきたいか自分なりのビジョンを確立したい人——などが多いです。

【Outline (in English)】

The Japanese society has been dysfunctioning in the various areas such as education, welfare, labour and life(risk society). Then, how should we recreate it? The students are to learn how to design better societies through reading and discussing the efforts by some municipalities and local organizations for comprehensive support of the people with difficulties in work and life. The goal is to widen your sociological perspective and to design a better society. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your study time will four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term paper 30%and term paper 70%.

EDU300MA (教育学 / Education 300)

現代の教育思想

岩本 俊一

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における教育的諸問題ならびに諸課題を教育の論理に即して分析し、これを通じて教育的なものの見方・考え方ができる力を培うことができるようになることを本講義の概要・目的とする。

【到達目標】

一億総教育評論家と言われるほどに現代社会に流布する常識的な教育論から脱し、現代社会が抱える教育的諸問題を教育の論理に即して理解する手がかりを得ること、そしてさらにそうした諸問題を教育独自の視点の下に考えることができるようになることを到達目標とする。

The goal is to understand the problems of education in modern society according to the logic of education.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式によって行うことを基本とするが、質疑応答の機会を適宜設ける。課題等を課した場合には、その提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに – 本講義の概要とねらい	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第2回	序論 – 教育的なものの見方と考え方について	教育的なものの見方・考え方とはどのようなことか、またその基礎となる教育の論理とはどのようなことかについて論じる。
第3回	教育の思想と教育学	人権思想の発展と教育学の成立について
第4回	現代社会における教育の諸問題(1) – 「ゆとり教育」と「学力」の問題	あるべき「ゆとり教育」について論じる。
第5回	現代社会における教育の諸問題(2) – 公教育における道徳教育の問題	近代公教育における世俗性（ライシテ）の原則と道徳教育の可能性について論じる。
第6回	現代社会における教育の諸問題(3) – 「特別の教科 道徳」の問題	上記5を踏まえ、「特別の教科 道徳」（「道徳」の教科化）の問題について論じる。
第7回	現代社会における教育の諸問題(4) – 教員養成の問題	教師の「資質」向上をめぐる問題 – 日本における教員養成政策の変質について論じる。
第8回	教育におけるヒューマニズムの探究(1) – 近代教育思想の展開	近代教育思想の本質とその史的発展について論じる。
第9回	教育におけるヒューマニズムの探究(2) – 子どもの発見	ルソーにおける「子どもの発見」の意味について論じる。

第10回	教育におけるヒューマニズムの探究(3) – ルソーの教育思想の継承と課題	ルソーの教育思想の現代的継承の在り方について論じる。
第11回	教育における体罰の問題(1) 体罰肯定の思想の問題	体罰肯定論—体罰は教育的情熱の発露である—の本質的問題点について論じる。
第12回	教育における体罰の問題(2) 体罰克服の論理	体罰批判の思想を手がかりにして体罰克服の論理を論じる。
第13回	本講義を振り返って（質疑応答）	本講義の内容などについて質疑応答を適宜交えてまとめをする。
第14回	まとめと試験	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。

【参考書】

参考文献については必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験100%で評価する。

平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。
ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline (in English)】

Outline:

In this class we will examine the issues and challenges surrounding education in present-day society using a pedagogical framework.

The purpose of this examination will be to cultivate the students' ability to conceptualize and think from a pedagogical standpoint.

Goal:

The goal is to understand the problems of education in modern society according to the logic of education.

Learning activities outside of classroom:

After the lecture, try to understand the contents.

Grading Criteria /Policy:

Grade only in the final exam.

Emphasis is placed on whether the lecture content is understood accurately.

PSY300MA (心理学 / Psychology 300)

産業・組織心理学Ⅱ

展開科目

今城 志保

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：金1/Fri.1 | 配当年次：2025年度以降入学者：3～4
 2024年度以前入学者：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を考えられるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で、学んだ概念を用いることができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。授業の中で、オンラインのアンケートフォームを用いて、概念の確認や自分の考えを深めるために、数項目の質問に回答していただきます。回答内容については、適宜次の授業の中で、フィードバックを行います。また、アンケートフォームでは任意の質問を記入できますので、そこに質問が記入された場合は、翌授業回の冒頭に、全体に対して回答を行います。7回目か8回目の授業で、グループ課題をお知らせします。グループ課題は、原則授業外の時間を使って進めていただきます。最終日に、グループ課題をまとめたレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	キャリアに関する主な理論を学びます
第3回	キャリアを理解する②	日本企業のホワイトカラーのこれまでの典型的なキャリアと今後の可能性について考えます
第4回	組織風土を理解する①	組織風土と組織文化について紹介します
第5回	組織風土を理解する②	昨今関心が高まる心理的安全性について紹介します
第6回	ダイバーシティ①	ダイバーシティに関する理論や研究知見を紹介します
第7回	ダイバーシティ②	比較文化心理学の知見を用いて、文化の異なる人とともに働くことについて考えます
第8回	ダイバーシティ③	女性のキャリアについて考えます
第9回	ダイバーシティ④	高齢者就労について考えます
第10回	職場の学習・職場以外の学習①	大人の学びについて考えます

第11回	職場の学習・職場以外の学習②	企業における研修や能力開発について、紹介します
第12回	職場の学習・職場以外の学習③	経験学習について考えます
第13回	予備	上記の授業での積み残しや遅れを回収するための時間にあてます
第14回	グループ課題の発表	各グループから口頭で、グループ課題について、報告していただきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002年 PHP新書
 守島基博 人材マネジメント入門 2004年 日経文庫
 外島 裕・田中 堅一郎 産業・組織心理学エッセンシャルズ 2019
 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業中のアンケートで60％、グループ課題で作成したレポートとその発表の評価を40％とします。なお、グループ課題については、自身と他のメンバーの課題への貢献度合いを申告してもらい、それを加味したうえで、グループ課題の評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】

Students will study major topics in industrial/organizational psychology. Psychology II will focus specifically on career-related areas and human resource management.

The three objectives of this class are as follows.

- (1) To understand the main concepts of industrial/organizational psychology and to be able to think about various organizational problems using these concepts.
- (2) To be able to understand the impact of various HR practices on employees.
- (3) To be able to use the concepts learned in considering one's own career.

Take an interest in the environment surrounding our careers. Read widely newspaper and magazine articles on careers, "working," and "human resource management." Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The evaluation will be based on a questionnaire given in each class (60%) and a report and presentation on a group assignment (40%). For group assignments, I will ask each student to report the degree of their own and other members' contribution to the assignment, which will be taken into account in the evaluation of the group assignment.

MAN300MA (経営学 / Management 300)

キャリア開発論

展開科目

武石 恵美子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2025年度以降入学者：3
～42024年度以前入学者：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。

今、社会は大きく変化しています。「人生100年時代」というように長寿化によりキャリアを考える期間は長期化し、同時に、人口構造の変化、デジタル化など社会の変動は大きく予測が難しくなっており、ビジネスキャリアのあり方も変化しています。個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえ直す必然性が高まっているといえます。

本授業では、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】

本授業では、①ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識の習得と、②キャリア開発が経済社会および企業の人事管理と関連し変化することの理解を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。

適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認します。このミニレポートの内容は、次の授業において、全体に対してフィードバックを行います。

この授業で使用する資料等は、「学習支援システム」において事前に提供します。授業に出席する際には、この資料を準備して出席することが必須要件です。また、欠席した場合などは、必ず資料を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する。
4	経営環境とキャリア開発の変化	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	キャリア自律	キャリア自律の考え方とキャリア政策の概要
6	ダイバーシティ経営	キャリア開発を取り巻く重要な経営動向であるダイバーシティ・マネジメント
7	正社員の多文化とキャリア開発	正社員の働き方の現状、多文化の動向、勤務地政策の現状

8	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題
9	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
10	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
11	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立、育児との違い、病気治療との両立も含めて議論
12	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題
13	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処のあり方
14	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、テキストに加えて、パワーポイント資料を使います。資料は学習支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ず準備して出席してください。そうしないと授業のスピードについてこれません。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（第2版）』（中央経済社）です。テキストを参照しながら授業を進めます。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果60％と、平常点（授業への参加、ミニレポートの提出やその内容）40％で行います。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の人数にもよりますが、受講者が主体的に参加できるように討議等の時間を取りたいと思います。また、受講者からの質問は歓迎しますので、積極的に質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to acquire basic theories and knowledge about business career development, and to understand how career development changes in relation to economic society and corporate personnel management.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process

Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

MAN300MA (経営学 / Management 300)

組織行動論Ⅱ

古田 克利

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：

戦略経営論の基礎として経営戦略、組織戦略、市場戦略等の理論を学ぶ

授業の目的・意義：

戦略経営に関する基礎的な概念、理論を正確に説明し、それらにもとづき組織を分析し変革を提案できるようになることを目指す

【到達目標】

- ・戦略経営に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる
- ・戦略経営に関する基礎的な概念、理論にもとづき組織を分析できる
- ・戦略経営に関する基礎的な概念、理論にもとづき変革を提案できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義および講義内容に基づく個人演習とグループ討議を行います。授業内での発表や質問等に対するフィードバックは原則当日の授業内に行います。

リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第2回	市場戦略（1）	STPの視点からビジネスを分析する
第3回	市場戦略（2）	PESTLEの視点からビジネスを分析する
第4回	ビジネスの分析	レポート発表とディスカッションを行う
第5回	戦略経営の実践（1）	実際の戦略経営についてディスカッションする
第6回	市場戦略（3）	顧客経験の視点からビジネスを分析する
第7回	全社戦略（1）	ビジネスモデルの視点からビジネス分析する
第8回	戦略経営の実践（2）	実際の戦略経営についてディスカッションする
第9回	全社戦略（2）	成長戦略の視点からビジネスをブラッシュアップする
第10回	新規事業の検討	分析を踏まえ新規事業を検討する
第11回	戦略経営の実践（3）	実際の戦略経営についてディスカッションする
第12回	新規事業の提案（1）	分析を踏まえ新規事業を提案する
第13回	新規事業の提案（2）	新規事業についてディスカッションする
第14回	新規事業の提案（3）	新規事業をプレゼンテーションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前資料による事前学習
- ・講義内容の復習

・各回の授業の準備学習・復習時間は各2時間、計4時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

適宜、学習支援システム上にて配付します

【参考書】

適宜、学習支援システム上で紹介します

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（配点50％）

期末レポート（配点50％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参してください

【Outline (in English)】

Course outline

This course covers basic constructs and theories of corporate strategy and business strategy, focusing on strategy formation.

Learning objectives

Can explain basic constructs and theories of corporate and business strategy.

Can analyze an organization based on the constructs and theories of corporate and business strategy.

Can propose transformations based on fundamental concepts and theories of strategic management.

Learning activities outside of classroom

Summarize the key issues in the lectures.

Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria

In-class Assignment: 50%

Final report: 50%

SOS300MA (その他の社会科学 / Social science 300)

職業キャリア政策論

岩月 真也

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、職業に関する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解した上で、個別の職業に関する国際比較を含む情報収集や意見交換を通じて、今後の職業キャリアについて考えることです。

【到達目標】

以下を到達目標とします。

- ①「職業」に関する基礎的な知識や考え方を理解すること
- ②「職業」と社会・労働市場・企業・個人との関係を理解すること
- ③個別の「職業」や「職業キャリア」に関する検討や国際比較の観点を通じて、今後の職業キャリアに向けての気付きや示唆を得ること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①初回はオンライン型、それ以外は原則として対面方式の授業を予定しています。
- ②毎回学習支援システムに授業の資料（PDFファイル）を、授業の週の月曜日にアップします。資料をご覧いただきながら授業を受講してください（資料は投影しますが、紙では配布しませんので、ご自身で打ち出していただくか、当日ノートパソコン上でご覧いただけるようにご準備ください）。
- ③オンライン型の回については、ZoomのURLを学習支援システムでご案内しますので、事前にご確認ください。当日は授業時間の5分前に接続可能な状況としますので、時間までにオンラインでご入室ください。
- ④原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーもしくは課題レポートの提出を求めます。課題レポートは3回程度の提出を予定しています。
- ⑤確認テスト・リアクションペーパーや課題レポートに対して、授業の中でフィードバックを行います。
- ⑥受講の状況などによって、授業計画を一部変更することがあります。学習支援システムで告知しますので、ご確認いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①授業のオリエンテーション (同時双方向型) ②職業についてのイントロダクション
第2回	社会環境変化と職業	①社会環境変化が職業キャリアに与える影響 ②社会環境変化と職業キャリアについて考える ③課題レポート1の説明
第3回	デジタル革新と職業	①デジタル革新の動向 ②デジタル革新が職業に与える影響について考える
第4回	AI活用と職業	①影響を受ける職業 ②AI導入後の変化 ③国際比較
第5回	職業と組織・倫理	①組織の意義や役割 ②組織の中で働くことと職業倫理について考える

第6回	日本的雇用システムと職業	①日本的雇用システムの現状と課題 ②新卒採用と職業 ③課題レポート2の説明
第7回	賃金制度と職業	①賃金制度の仕組み ②国際比較
第8回	仕事の仕組みと職業	①仕事の仕組み ②国際比較
第9回	職業人の講話	職業人の講話と意見交換
第10回	ジェンダーと職業	①職業選択におけるジェンダーの影響 ②女性のキャリアについて考える ③課題レポート3の説明
第11回	公共的な仕事～公務員を事例として	①公務員の職業観 ②公務員の仕事とキャリア
第12回	職業の国際比較①～米国教員を事例として	①米国教員の報酬制度 ②米国教員の労使関係
第13回	職業の国際比較②～日本教員を事例として	①日本教員の報酬制度 ②日本教員の労使関係
第14回	授業の振り返り	①課題レポートに関するフィードバック ②これまでの授業の補足とポイントの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーもしくは課題レポート（3回提出を想定、各1000～1500字程度）を求めます。課題レポートについては、授業時間外で作成いただくことになります。

本授業の準備・復習時間は、参考文献等の購読も含めれば4時間程度となります。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業の資料は授業の週の月曜日に学習支援システムにアップします。

【参考書】

授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（60%）、確認テスト・リアクションペーパー及び質問・意見交換（40%）で評価します。

課題レポートに関しては、分析・考察の深さ、論理的な説明力、理解の正しさ、着眼点等のオリジナリティ、を評価します。参考文献などから引用いただく場合は、引用部分と自身の考えについて記述した部分が、峻別できるように記述してください（それができているかどうか評価対象とします）。

課題レポートは必ず期限までにご提出頂きますようよろしくお願い申し上げます（アクセス集中などの危険がありますので、リスクマネジメントとして、遅くとも締切前日までにはご提出ください）。また、課題レポートは配点60点の範囲で評価・採点しますので、課題レポートの提出のみでは不可になる可能性が高いことにご留意ください。確認テスト・リアクションペーパー及び質問・意見交換に積極的にご参加いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【学生の意見等からの気づき】

職業の内容が体系的に理解できるように、授業の構成を検討したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, students learn about the relationship between jobs and society, the labor market, companies, and individuals.

< Learning Objectives >

The goal is to have a basic knowledge of the profession and to be able to think about your future career.

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on reports (60%), and verification tests and reaction papers (40%).

SOC300MA (社会学 / Sociology 300)

コミュニティ社会論Ⅱ

展開科目

青木 淳弘

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2025年度以降入学者：3
～42024年度以前入学者：2～4年

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしています。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業（Zoom）を行う可能性もあります。オンライン授業の場合、Zoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。提出されたリアクションペーパーから全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは〇〇が問題だ」というまなざし方（社会病理的見方）の歴史を把握する
第2回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第3回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第4回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第5回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第4回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する

第6回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第7回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第6回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第8回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第9回	社会史的視点（1）	19世紀末から20世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第10回	社会史的視点（2）	20世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第11回	社会史的視点（3）	戦後の流行歌を取り上げ、大衆的生活の様相について理解する
第12回	社会史的視点（4）	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる
第13回	歴史と社会の再生産	第12回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第5回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する
第14回	まとめ・総括	比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、平常点（30%）。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、小レポート、受講態度の状況を基準とします。欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。なお、欠席時間数については、自己管理をお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】

interact with the survival and history of society? In this lecture, continuing on from Community and Society I, we will use comparative sociology methods to conduct historical and regional comparisons on each theme, deepening our understanding of communities and human daily life. In Community and Society I, we looked at the larger historical trends, but in this lecture, we will use more recent times as a mirror.

SOC300MA (社会学 / Sociology 300)

家族論

展開科目

齋藤 嘉孝

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2025年度以降入学者：3
 ～42024年度以前入学者：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本における家族を扱い、その中でもキーワードを『多様性／多様化』とする。また『多様性／多様化』の是非について考え、個人と社会にとっての家族のあり方について考える。

【到達目標】

本講義の目標は、2つである。①家族という問題を、常識や自らの経験の中での理解を超え、家族社会学を基盤として、統計的実態・事例・政策／制度・研究知見などを題材に『多様性／多様化』の内実を理解する。②家族とは個人のキャリアが発展するフィールドであり、家族を知ることは自らのキャリアをデザインすることに役立つと思われるため、職場や地域コミュニティとの関係も視野に入れつつ、受講者が自らのキャリアをデザインするためのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、就労・結婚・出産・子育て・離婚・介護などの典型的なライフイベントに注目し、受講者自身がこれまでの家族生活を整理したり、今後の家族生活をデザインしたりするための題材を提供する。また応用的論点として、男女の差異や平等性をめぐるジェンダー、家族を取り巻く地域コミュニティ、欧米や発展途上国あるいは前近代社会との比較、家族の機能不全としての虐待や諸問題に対応する政策・制度や支援職に言及する。必要に応じて、視聴覚資料・DVD・ビデオ教材などを使用する。他の学生のコメントや考えも、授業内で紹介する予定である。

初回から学習支援システムを確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	親子関係①	児童虐待の現状
3	親子関係②	文化的再生産、子どもへの親の影響
4	親子関係③	今どきの親の抱える問題
5	男女と結婚生活①	パートナーの選定、結婚事情
6	男女と結婚生活②	家事・育児、就労、専業主婦
7	男女と結婚生活③	夫婦関係
8	“ふつうの人生”から外れること①	未婚・晩婚
9	“ふつうの人生”から外れること②	無子夫婦、不妊
10	離婚や一人親家庭①	離婚の現状・社会的背景、その影響
11	離婚や一人親家庭②	一人親家庭の現状、関連諸制度
12	高齢者と家族	独居・同居、介護、虐待
13	国際比較	他社会や歴史性、現代日本の客観視
14	まとめ	家族生活のキャリアデザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、指定された課題を遂行すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『親になれない親たち』（斎藤嘉孝、2009年、新曜社）

【参考書】

・『よくわかる現代家族』（神原文子・杉井潤子・竹田美和編著、2009年、ミネルヴァ書房）
 ・『論点ハンドブック 家族社会学』（野々山久也編、2009年、世界思想社）
 ・他は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度(40%)・小レポート(10%)・期末試験(50%)と総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

【その他の重要事項】

受講者の希望等によって、上記の予定が若干変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

This course deals with contemporary families in Japan, especially, in terms of such keywords as "diversity." We think of how the families work for individuals and the society. Learning objectives of this course are to understand variation of contemporary family issues and to get ideas about career design of students themselves. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 40%, reports 10% and final exam 50%.

SOC300MA (社会学 / Sociology 300)

プログラム評価論

安田 節之

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ライフキャリア課題の解決を目的とした対人・コミュニティ援助のあり方について学び、プログラム評価(program evaluation)のスキルを習得する。※2027年度までの科目移行期間(旧：世代間交流論→新：プログラム評価論)については、世代間交流論の内容を踏まえた講義とする。

【到達目標】

①地域や社会の課題と連動したライフキャリアの捉え方や課題解決の方法が分かる。

②対人援助やコミュニティ援助を目的としたプログラムの開発と評価方法が分かる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教育機関や企業組織として地域コミュニティには、人材育成・組織開発・地域活性化などを目的とした多種多様な実践活動が存在します。そして対人援助やコミュニティ援助という形で実践されるこれらの活動について、説明責任（アカウンタビリティ）や科学的根拠（エビデンス）が求められる時代となっています。この講義では、主にライフキャリア課題の解決を目的とするプログラムを客観的に捉え、その成果や効果を評価し、実践の質向上につなげるための方法論を学びます。プログラムの価値や意義は、経済的指標などで捉えることが困難な個人や集団に対する教育的・心理的効果として現れることが多いため、社会調査・実験心理学・心理測定といった方法論との親和性が高くなります。この授業では、プログラムを客観化・可視化する手順をまず習得したうえで、具体例を通してグループワークを実証的に評価するための方法を学びます。演習としてグループワークを頻繁に行うため、他の学生との積極的なコミュニケーションが必要となります。またリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、授業のディスカッションに活かします。

※2027年度までの科目移行期間(旧：世代間交流論→新：プログラム評価論)については、世代間交流論の内容を踏まえた講義とする。よって各回で扱うライフキャリア課題や支援プログラムの例は世代間交流の内容を含むものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など。
第2回	理論的背景①	学際的視点からライフキャリア課題について学ぶ①（事例：駄菓子屋）。
第3回	理論的背景②	学際的視点からライフキャリア課題について学ぶ②（課題学習文献：プログラム評価の学び）。
第4回	理論的背景③	ライフキャリア課題におけるソーシャルキャピタルの役割を検討する。
第5回	理論的背景④	アイデンティティとライフキャリア課題（事例：シェアハウス）。
第6回	理論的背景⑤	超高齢社会におけるライフキャリア課題（事例：高齢者施設）。

第7回	実践的課題	プログラム開発に向けたライフキャリア課題を検討する（演習：問題分析ワーク）。
第8回	プログラムの開発①	プログラムの実施背景と活動方針の検討（演習：ゴール設定）。
第9回	プログラムの開発②	ロジックモデルの枠組みからプログラムを捉える（演習：ロジックモデル開発①）。
第10回	プログラムの開発③	ロジックモデルを完成し運営方法を検討する（演習：ロジックモデル開発②）。
第11回	プログラムの評価①	プログラムのプロセスと成果・効果を検討する（演習：アウトカムとデータ収集計画の計画）。
第12回	プログラムの開発②	効果検証を行うための評価クエスチョンおよび評価デザインを考案する（演習：評価クエスチョンの設定）。
第13回	プログラム評価計画の発表	プログラムの開発および評価計画についての発表を行う。
第14回	まとめ	授業全体を振り返り、各課題を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料等を使用する。

【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)」(安田節之, 2011, 新曜社)

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート(50%), グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）(30%), 授業への積極的な貢献(20%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

大教室における授業でも、コメント票作成などを通して学生の能動的参加を促すようにする。グループワークではより効率的な運営を行う。

【その他の重要事項】

※2027年度までの科目移行期間(旧：世代間交流論→新：プログラム評価論)については、世代間交流論の内容を踏まえた講義とする。

【Outline (in English)】

Theories and applications of program evaluation (PE) will be covered in this class, where students are expected to learn how problems and targeted issues are addressed, goals and programs are defined and developed, and appropriate methods of PE are applied in evaluating programs.

PSY300MA (心理学 / Psychology 300)

社会心理学

熊谷 智博

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるアイデンティティの考え方を中心に、それが様々な社会的場面に影響を与えるかを理解する事が本講義の目的である。特に集団間の知覚、認知、感情、態度、行動に与える影響について先行研究および最近の実証研究結果を示しつつ、そのメカニズムを理解することで、将来のキャリアデザインに活用できる知識の獲得を目指す。

【到達目標】

受講者が自分や他人のキャリアデザインを行う際に、アイデンティティの影響を考慮に入れて検討し、それを活用出来るようになる事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内課題はHoppiiやGoogle Formを利用して提出するという形式で行う予定。尚、課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 及び基礎知識の解説	授業のスケジュール、内容、形式、評価方法及びアイデンティティについて学ぶ事の意義について説明する。
第2回	集団の知覚	集団を知覚することにアイデンティティがどのように関連するかを説明する。
第3回	集団間の感情	集団に対する感情とアイデンティティの関係について説明する。
第4回	集団に対する認知	ステレオタイプに代表される集団の認知過程について説明する。
第5回	集団に対する態度：先行研究	集団に対する態度とアイデンティティの関係について説明する。
第6回	集団に対する態度：最近の実証研究（理論）	集団間態度に関する最近の実証研究について理論面を説明する。
第7回	集団に対する態度：実証研究の結果	集団間態度に関する実証研究結果について解説する。
第8回	集団意思決定	集団での意思決定場面におけるアイデンティティの影響について説明する。
第9回	集団意思決定の実証研究	集団意思決定に関する実証研究結果について解説する。
第10回	集団間差異化	集団間差異化に対するアイデンティティの影響を説明する。
第11回	集団同一化とプロトタイプ	集団同一化およびプロトタイプについての理論を説明する。
第12回	集団間感情と攻撃行動	集団同一化による集団間感情の変化が、攻撃行動に与える影響について説明する。

第13回 集団間攻撃行動の実証研究

集団間攻撃行動に対してアイデンティティが与える影響の実証研究について解説する。

第14回 まとめと総括

講義内容についての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

脇本竜太郎編著/熊谷智博・竹橋洋毅・下田俊介共著『基礎からまなぶ社会心理学』サイエンス社 2014

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には授業内および授業外課題40%、学期末試験（授業内に実施予定であるが、受講者数などによっては試験期間に実施の可能性もある。突発的な事態の場合はレポート課題への変更もありえる）60%の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に説明する。なお、授業内課題には授業内で取り上げられた実証研究がどのような方法で行われたかを理解することを目的とした、アンケート調査への回答や実験への参加も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題はwindows PCを利用する場合があるので、利用環境を整えておくこと。また授業中にアンケートを取る際に、Google formを利用することもあるので、スマートフォンなども利用可能である事が望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員が出張等の場合、Google classroomを利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内やHoppii等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

【Outline (in English)】

Students will learn theories concerning "identity" from social psychology perspective. Especially, it is focused on social identity theory and group dynamics.

Goals of this course are when students try to design their own career, they are able to think about the effects of identity and use it for better designing.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 40%, Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

SOC300MA (社会学 / Sociology 300)

文化経営論

展開科目

荒川 裕子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2025年度以降入学者：3
 ～42024年度以前入学者：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀の成熟社会においては、「文化」が重要なファクターとなっています。ここで言う文化には、美術や音楽や演劇といった芸術文化はもとより、日常生活文化や伝統文化、映画やアニメ、ファッションなどの若者文化やポピュラー文化、さらには街並みや景観まで含まれます。それらを文化的「資源」ととらえ、まちづくりやひとづくり、あるいは文化産業をはじめとするビジネスなどに活用していくための「マネジメント」のあり方を考えます。

【到達目標】

文化のしくみを知り、文化に働きかけ、新しい文化を創生していくために、「文化をマネジメント（経営）する」という視点を養います。より具体的には、以下のふたつの面からアプローチします。まず、日本の文化政策、自治体の文化行政、文化予算やファンドレイジングなど、文化を取り巻くさまざまな制度について理解します。続いて、文化産業、企業メセナ、文化関連のNPOなど、文化を推進したり支援している多様な実践的活動について、その現状と課題、今後の可能性などを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら授業を進めます。一方的な講義に終始することなく、学生自身が実際に文化の現場に出かけ、そのマネジメントのあり方を分析してプレゼンテーションをしたり、文化に関わるイベント等の企画立案を試みたりします。ほぼ毎回リアクションペーパーの提出を求め、次の授業でそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明する。
第2回	日本の文化政策①	明治から昭和初期までの日本における文化政策の歩みをたどる。
第3回	日本の文化政策②	第二次世界大戦から戦後の文化政策の転換までを概観する。
第4回	日本の文化政策③	高度経済成長期の文化政策の特徴を探索する。
第5回	日本の文化政策④	今日の文化政策の動向を概観する。
第6回	文化と法	「文化芸術基本法」をはじめ、文化の振興を支える法的基盤について学ぶ。
第7回	文化と経済①	文化を支える予算やファンドレイジングについて理解する。
第8回	文化と経済②	文化産業／創造産業について事例をもとに考察する。
第9回	企業による文化支援	企業メセナを中心に企業と文化の関係を探る。
第10回	市民社会と文化①	「創造都市」という考えを中心に文化と社会の関わりを考える。
第11回	市民社会と文化②	まちづくり・地域活性化の観点から文化にアプローチする。

第12回	文化経営の可能性①	学生によるプレゼンテーションと質疑応答（前半）
第13回	文化経営の可能性②	学生によるプレゼンテーションとディスカッション（後半）
第14回	まとめと振り返り	授業を通じて学んだことをもとに、文化をマネジメントするための方法や今後の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館、劇場などの文化施設、まちづくりのための各種プロジェクト、企業や自治体が開催するイベントなど、文化に関わる現場に実際に足を運び、そのマネジメントについてフィールド調査を行うことが求められます（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、文化関連の企画立案や、そのプレゼンテーションのための準備の時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中に文献を配布したり必要なリンク先を提示します。

【参考書】

授業中に適宜、参考図書および参考ウェブサイトを示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（課題の成果、プレゼンテーション／ディスカッションへの参加など）：50 %
 期末レポート：50 %

【学生の意見等からの気づき】

受け身の講義に終始するのではなく、学生の積極的な参画を促すべく、プレゼンテーションやディスカッションの機会を適宜設けていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

春学期開講の「アート・マネジメント論」も併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

In the mature society of the 21st century, “culture” has become an important factor. Culture here includes not only artistic culture such as art, music, and theater, but also daily life culture, traditional culture, youth culture and popular culture such as movies, animation, and fashion, as well as cityscapes and landscapes. We consider them as cultural “resources” and think about how to “manage” them so that they can be utilized for town development, people development, and business, including cultural industries.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 50 %, in class contribution: 50 %

LANe100MA (英語 / English language education 100)

**国際コミュニケーション語学
(英語 I)**

Robert Durham

単位数：1単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The goal of this class is to assist students to communicate Internationally (and smoothly), in English, to improve their career opportunities.

英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう (詳細は以下の英文の記載を読んでください)。

【到達目標】

The goal of this Spring course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English. Some grammar-correction of assignments/submissions might be necessary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged with a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Pair English-speaking activities will often be used, for practice.

Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	[All SCHEDULE items are tentative...&might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]	Introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第2回	Introducing yourself, in smoothly, natural, friendly English.	Speaking pairwork, using introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第3回	Introducing yourself, part 2...using fictional identities & occupations.	Speaking pairwork: explaining plans for Golden Week, using polite English.
第4回	"What are your plans for Golden Week?" [Future tense practice, in polite 'EQ' English.]	
第5回	"How was your Golden Week?"	Many adjectives will be introduced & practiced in pairs, to describe vacations/ events/etc.

第5回	"How are you?"/ "How are you doing?"	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?"
第6回	Further practice, re: "How goes it?"	More spoken English pairwork practice, re: "How are you doing?"
第7回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to express opinions in English, about a video Current Affairs topic.
第8回	"How often do you ____?"	Pair practice in spoken English, to explain FREQUENCY of doing things such as eating some kinds of food; buying certain items; exercising; and so on.
第9回	Asking & giving street directions, in spoken English.	Pair practice about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第10回	Further practice, re: asking for/ giving street directions.	Pair practice, part 2: how to ask/tell about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第11回	Video/News activity, with questions about that video clip. "What are your hobbies?"	Students will watch a News or documentary video clip...and will be asked to discuss (&give opinions about) that video, in smooth, spoken English. /Students will write down, and then pair-practice, culturally-acceptable answers about their hobbies, in smooth spoken English.
第12回	Review & practice of all topics studied and practiced during the semester.	Review & practice for the Spring Speaking Exam.
第13回	Speaking EXAM about all of the topics we studied during the semester.	Speaking EXAM, re: all of the topics studied during the semester.
第14回	"What are your plans for the Summer Break?"	Pairwork, to ask & answer about students' plans, re: Summer Break.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke"]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students.

【参考書】

—

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...&ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.

【学生の意見等からの気づき】

—

【学生が準備すべき機器他】

Please make sure to bring a binder &binder paper, every class; pens; &a black marker pen.

{+ Up to 7 out of 14 classes MIGHT be conducted online, depending on Health Issues &Virus problems. Therefore, Students MIGHT need 'Online Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype &Zoom; computer microphone; AND headphones/earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.]

So, please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headphones/microphone/FREE Skype account/FREE Zoom account/FREE 'Romaji' gmail account; &please test them WELL, long before we meet.

Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.]

Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at TonyDur2020@gmail.com.}

【その他の重要事項】

If you're sick/have a fever/coughing/sneezing: please STAY HOME &recover. (Please DON'T bring Cold/Influenza/Covid viruses to class.)

Manners: whenever anyone coughs/sneezes: that person should fully cover nose/mouth, to protect other people from virus spread.

Up to 7 out of 14 classes MIGHT be conducted online, depending on Health Issues &Virus problems. Therefore, please prepare EARLY: a fully-working computer AND microphone; fast Wi-Fi; and a fully-working microphone.

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk' &good 'EQ' ['kokoro no chinoshisu'].

If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...&ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN COURSE CREDIT.*

【キャリアデザイン学部より】

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】

This SPRING course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.

LANe100MA (英語 / English language education 100)

**国際コミュニケーション語学
(英語Ⅱ)**

Robert Durham

単位数：1単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this class is to assist students to communicate Internationally (and smoothly), in English, to improve their career opportunities.

英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

【到達目標】

The goal of this course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English. Some grammar-correction of assignments/submissions will be necessary. Assignment-revising will also be necessary, during Online Learning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks). Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor.

Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes; and sometimes via e-mail. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	*[All SCHEDULE items are tentative...&might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]* "How was your Summer Break?"	Pair-practice, re: a range of adjectives about students' five Summer Break activities/Past Tense, in smooth, spoken English.

第2回	Introducing yourself, in spoken English. Pricing items in English; & answering questions about prices in English. PLUS: "Students will introduce themselves to each other in modern English, via Online video/audio 'chat'.	Students will be asked about prices of common items, in English; and will be asked to verbally answer such questions in spoken English.
第3回	Asking & answering about subway/train directions, in English.	Students will learn and practice how to reply to requests for subway/train directions, in spoken English.
第4回	Hallowe'en, part 1: what are Hallowe'en customs; and in what countries has Hallowe'en traditionally been celebrated?	Students will be asked to investigate, write down, and discuss Hallowe'en traditions, in English.
第5回	Hallowe'en, part 2: Using 'would' & 'will'.	Students will pair-practice correct use of 'would' + past tense, & 'will' + future tense, to describe possible Hallowe'en costumes & activities.
第6回	"The Seven W's": (Who...?/What...?/When...?/Where...?/Why...?/Which...?/How...?)	Students will learn how to verbally ask others, and to reply in smooth English, to questions about "the 7 W's".
第7回	"What would you do, if _____?"	Students will learn how to reply verbally to questions about what they would do, in a variety of situations, in spoken English.
第8回	"What time is it?", & "Could you please tell me what time it is...?"	Students will practice how to verbally use polite ways of asking, in English; AND about telling time(s).
第9回	Thanksgiving customs (& discussion in English), re: Thanksgiving customs in the U.S. /Canada.	Students will be asked to suss out traditional Thanksgiving customs...&to explain them in spoken English.
第10回	"What are five things that YOU are thankful for?"	Students will be asked to write down, and then to pair-practice in spoken English, five things that they are thankful for.
第11回	Christmas customs & video/listening exercises, in English.	Students will watch/listen to an English video/song about Christmas; and will be asked to answer questions in written/spoken English.
第12回	"What are your plans for Christmas/ OhShoGatsu?"	Pair practice: students will be asked to write down & then practice verbally (in English) their Future plans for Christmas/OhShoGatsu.

- 第13回 Speaking EXAM, re: all topics that students learned and practiced during the Fall semester.
- 第14回 "How was your Christmas/ OhShoGatsu Break?"
- Speaking EXAM: students will be asked to reply, in detail (& in smooth, spoken English) about a variety of topics which were learned in the Fall semester.
- Students will be asked to write down (and practice with classmates) adjectives and explanations about their five OhShoGatsu/Christmas activities.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke"]; please learn to wake up early, and to arrive in [ONLINE] class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students' levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students. In addition, some News videos & TED Talks may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions about those videos).

【参考書】

—

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.

【学生の意見等からの気づき】

—

【学生が準備すべき機器他】

Please make sure to bring a binder & binder paper, every class; pens; & a black marker pen.

{+ Up to 7 out of 14 classes MIGHT be conducted online, depending on Health Issues & Virus problems. Therefore, Students MIGHT need 'Online Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.]

So, please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headphones/microphone/FREE Skype account/FREE Zoom account/FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.]

Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at TonyDur2020@gmail.com.}

【その他の重要事項】

If you're sick/have a fever/coughing/sneezing: please STAY HOME & recover. (Please DON'T bring Cold/Influenza/Covid viruses to class.)

Manners: whenever anyone coughs/sneezes: that person should fully cover nose/mouth, to protect other people from virus spread.

Up to 7 out of 14 classes MIGHT be conducted online, depending on Health Issues & Virus problems. Therefore, please prepare EARLY: a fully-working computer AND microphone; fast Wi-Fi; and a fully-working microphone.

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk' & good 'EQ' ['kokoro no chinoshisu'].

If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN COURSE CREDIT.*

【キャリアデザイン学部より】

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】

This Fall course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.

LANe100MA (英語 / English language education 100)

**国際コミュニケーション語学
(英語Ⅲ)**

Kregg Johnston

単位数：1単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なトピックについて、短いながらも、効果的・説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目指します。スピーチの方法を基礎から学び、自信をもってプレゼンテーションを行うことができるようにしましょう（詳細は以下の英文の記載を読んでもください）。

To learn how to deliver short, effective speeches in English on a variety of topics.

【到達目標】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. The goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

The students will learn about the 3 messages involved in making effective speeches & presentations: The physical message, the visual message, and the story message. The students will view and discuss model speeches and make their own speeches based on the demonstrations. The students will develop confidence in delivering effective speeches and presentations.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Extemporaneous speeches	Ice breakers Course objectives Vocabulary management
Week 2	The Physical Message Unit 1 Posture & Eye contact	Having good posture Making eye contact Model presentation 1 Prepare to give informative speech Prepare quadrant
Week 3	The Physical Message Unit 2 Gestures Unit 1 quiz Give informative speech	Using gestures in speech Model presentation 2 Prepare layout speech grid Prepare to give layout speech
Week 4	The Physical Message Unit 3 Voice Inflection Unit 2 quiz Give layout speech	Using voice inflection Model presentation 3 Prepare storyboard & visuals

Week 5	The Visual Message Unit 4 Effective Visuals Unit 3 quiz Give demonstration speech	Preparing visuals for speech Model presentation 4 Prepare 2-country comparison charts
Week 6	The Visual Message Unit 5 Explaining Visuals Unit 4 quiz Explain 2-country comparison charts	Using visuals during presentation Model presentation 5 Prepare explanations & visual aids for 2-country speech
Week 7	Unit 5 quiz Give 2-country comparison speech & Peer Review	Review Units 1-5 Compare/contrast 2 countries
Week 8	The Story Message Organization of a speech	Presentation organization Components of presentation script
Week 9	The Story Message Introduction Unit 6 quiz	Effective presentation introductions Model introductions: Episode 6 Prepare storyboard for 2 product presentation
Week 10	The Story Message The Body: evidence & transitions Unit 7 quiz Explain introduction for product speech	Body of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Prepare storyboard and charts for product speech
Week 11	The Story Message The Conclusion Unit 8 quiz Explain body of product speech	Conclusion of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Model presentation body Prepare conclusion for product speech
Week 12	Watch full Presentation & Peer Review Unit 9-10 quiz	Review presentation components Prepare for final presentations
Week 13	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)
Week 14	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes) Course review & wrap up	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete weekly assignments, review for regular quizzes, and prepare presentations to give in class. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech: Premium Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2021, Harrington, LeBeau
ISBN 9784863123854

【参考書】

Speaking of Speech: Premium Edition, Basic Presentation Skills for Beginners

New edition 2021, Harrington, LeBeau

ISBN 9784863123854

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-20%

Homework-15%,

Participation 20%

Presentations 45%

*In principle, no more than three absences per term are allowed

【学生の意見等からの気づき】

Added emphasis on eye contact and use of transitions in presentations.

【学生が準備すべき機器他】

OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a listening and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】

Learn how to organize and deliver effective speeches and presentations, Listen to and take notes on other students' speeches and model speeches, Evaluate and offer peer feedback on classmates' speeches,

LANe100MA (英語 / English language education 100)

**国際コミュニケーション語学
(英語Ⅳ)**

Kregg Johnston

単位数：1単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカデミック・スキルズ（講義などのディスカッションの仕方、聞き方、ノートの取り方、賛否・意見の述べ方など）を学び、伸ばします。また、語彙力の向上にも役立ちます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

Discussion skills, listening & note-taking, presenting, building vocabulary

【到達目標】

In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered, develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.

Feedback on speeches, homework assignments, and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Vocabulary assessment	Ice Breakers Introduce course & assess vocabulary level Introduction to note-taking strategies Preview unit 1
Week 2	Unit 1: Happiness Introduction of topic & Preview of key AVL vocabulary	Introduction of topic & Preview of key AVL vocabulary Signal phrases for intro Unit 1 lecture preview
Week 3	Unit 1: Happiness Review lecture contents & discussion	Review lecture notes Comprehension check questions Discussion: state opinion, agree, disagree
Week 4	Unit 1 Quiz Unit 2: Learning styles Preview key AVL vocabulary & lecture structure	Unit 1 quiz Unit 2 introduction of topic & AVL Vocabulary Lecture: Rhetorical questions

Week 5	Unit 2: Learning styles Lecture notes & comprehension	Review lecture notes Check comprehension questions Discussion: asking for opinions
Week 6	Unit 2 Quiz Unit 3 Sleep Preview key AVL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 2 Unit 3: Introduction of topic & AVL vocabulary Lecture: Signal phrases for details
Week 7	Unit 3: Sleep Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: State opinion & paraphrasing
Week 8	Unit 3 quiz Unit 4: Negotiating Preview key AVL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 3 Unit 4: Introduction of topic & AVL vocabulary Lecture: Listing of ideas
Week 9	Unit 4: Negotiating Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Clarifying & Confirming
Week 10	Unit 4 quiz Unit 5: Modern Art Preview key AVL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 4 Unit 5: Introduction of topic & AVL vocabulary Lecture: Defining terms
Week 11	Unit 5: Modern Art Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Disagreement
Week 12	Unit 5 quiz Unit 6: Robots Preview key AVL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 5 Unit 6: Introduction of topic & AVL vocabulary Lecture: Intonation of numbers
Week 13	Unit 6: Robots Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Offering examples/facts
Week 14	Unit 6 quiz Vocabulary quiz U 1-6	Unit 6 quiz Course Review & wrap-up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost
ISBN: 9780134400648

【参考書】

Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost
ISBN: 9780134400648

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-60%
Homework-20%,
Participation 10%
Presentations/Discussion activities 10%

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on discussion in small groups of issues brought up in the lectures and vocabulary development

【学生が準備すべき機器他】

【教室必要備品】 OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】

This class is suitable for students having a TOEIC score between 480 and 660

【キャリアデザイン学部より】

2014年度～2016年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】

In this course, students learn and practice note taking strategies by listening to lectures. They also will discuss the topics introduced in each lecture and conduct further research on the topics to present in class.

LANe100MA (英語 / English language education 100)

**国際コミュニケーション語学
(英語V)**

Kregg Johnston

単位数：1単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学んだ英語と文法の知識を定着させながら、自分の伝えたいことをより正確に表現し、相手に伝わる英文を書けるようになることを目指します。伝わる書き方にはコツがあるので、そのコツも学んでいきます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

The objective of the course is to consolidate the knowledge of English language and grammar learned in secondary school and develop their ability to express themselves more freely in writing

【到達目標】

After taking this course, the students should have learned the following:

1. the concept of the paragraph with reference to its unity, coherence, and structure, including topic sentences, various types of supporting sentences, and concluding sentences
2. the mechanics of typing and formatting a composition
3. how to edit one's own and others' compositions
4. how to effectively complete a timed writing task

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Students in this course will work individually on writing preparation activities and actually writing their own descriptive and persuasive paragraphs.

Student will also collaborate with students in pairs or groups to compare ideas and peer review each other's writing in terms of grammar, unity and cohesion of writing.

Students will also be tested on the material taught in the course, including two timed writing exams.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Sentences & Paragraphs	Components of sentences and paragraphs
第2回	Topic sentences Descriptive paragraphs	Preparation to write a descriptive paragraph
第3回	Concluding sentences Adjectives Conjunctions	Components of effective concluding sentences Using adjectives and conjunctions in sentences
第4回	Feedback on 1st draft of descriptive paragraph	Review and recommendations on 1st draft Preparation for peer review
第5回	Homework test 1 Using "although" Submit 2nd draft of descriptive paragraph	Test on homework exercises How to use "although" in sentence

第6回	Writing test Feedback on 2nd draft	In-class timed writing test
第7回	Test feedback Paragraph development Persuasive paragraphs	Pre-writing for 3rd writing assignment How to develop paragraphs
第8回	Benefits and consequences Outlines	Including benefits, consequences, and results in paragraphs Using outlines to organize ideas
第9回	Cause & effect	Including causes and effects in paragraphs Prepare outline for 3rd writing assignment
第10回	Paraphrasing Supporting sentences outside sources	Practice paraphrasing Including outside sources in writing Citing sources correctly in paragraphs
第11回	3rd writing assignment Using conditional sentences Making comments	Submit 3rd writing assignment Practice using conditionals as support Commenting on ideas in writing
第12回	Homework test 2 Thesis statements Introductions	Structure of thesis statements Structure of introductory paragraphs Peer review of 3rd writing assignment
第13回	Review and feedback writing 3	Review and feedback on 3rd writing assignment Prepare for final writing assignment
第14回	Final In-Class writing test	Timed writing: 2 Persuasive paragraphs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework exercises contained in the course digital handouts
Assigned writing drafts (typed, correctly formatted, and printed out for submission in class) 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading material will be provided by the lecturer and will be distributed through Google Classroom for this course

【参考書】

<http://my.vocabularysize.com/>

<http://quizlet.com>

www.englishgrammar.org

Google Classroom: Registration details will be provided on the Hosei LMS and at the first class meeting

【成績評価の方法と基準】

Participation in class: 10%

Two in-class quizzes on the homework: 20%

Three submitted writing assignments: 50%

Final in-class writing test: 20%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased work on paragraph cohesion and correct use of outside sources as evidence.

【学生が準備すべき機器他】

Submitted writing assignments must be typed, formatted correctly, and submitted through the Google Classroom page for the course. All students taking the class will need to join the Google Classroom page, for which details will be provided in the first week of class.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a writing and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】

Develop the skills necessary to write and correctly format effective paragraphs and to write multi-paragraph essays within a set time frame

MAN200MA（経営学 / Management 200）

就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

武石 恵美子、佐藤 厚

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオン（労働組合）リーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどうのような困難を抱え、労働組合はどうのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を開けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。
企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第1回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第1回目授業を必ず受講してください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認し、資料を準備して授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から授業の導入を行い、「労働組合とは何か」を理解する労働組合とは何か

2	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起①】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらおう。 【課題提起①】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学び、労働組合がめざす社会のイメージを掴んでもらう。 (2024年度ゲストは教育文化協会)
3	【ケーススタディ①】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く者が健康で安心して暮らすために、労働組合はどのように取り組んでいるのか。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例を聴き、理解してもらおう。近年導入の進んでいるテレワークに関する事例にも触れてもらおう。(2024年度ゲストは生保労連)
4	【ケーススタディ②】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた公務労組の取り組み事例を聴き、理解してもらおう。(2024年度ゲストは自治労)
5	【ケーススタディ③】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。企業組織再編や倒産時などにおける中小企業労組の取り組み事例、ものづくり産業における熟練技能継承支援の取り組み事例、外国人労働者を取り巻く実情等を聴き、理解してもらおう。(2024年度ゲストはJAM。若手職員含めたグループディスカッションを実施)
6	【ケーススタディ④】 非正規雇用労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規雇用労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。企業別労組における非正規雇用労働者の労働組合加入および正規雇用労働者との処遇格差是正に向けた取り組み事例を聴き、考えてもらおう。(2024年度ゲストは伊藤ハム労働組合)
7	【ケーススタディ⑤】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに活き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらおう。(2024年度ゲストはJP労組)
8	【ケーススタディ⑥】 デジタル化の進展に伴う課題と労働組合の役割	AI技術やDXの進展に伴う働き者への影響と、それに対して労働組合ではどのような対応が行われているのかを聞き、デジタル化が進展する中で働くということについて考えてもらおう。(2024年度ゲストはKDDI労働組合)。

- 9 【課題への対応①】 顧客からの悪質なクレーム（カスタマー・ハラスメントへの労働組合の対応）
- 10 【課題への対応②】 いま働く現場で何が起きているのか～労働相談からみた若者雇用の現状～
- 11 【課題への対応③】 労働諸条件の維持・向上に向けた取り組み
- 12 【課題への対応④】 労働者保護ルールの堅持・強化に向けた取り組み
- 13 【修了講義】 連合運動の現在と未来～これから社会へ出る皆さんへ～
- 14 【論点整理】 「働くということ」と労働組合

顧客からの悪質なクレーム（カスタマー・ハラスメント）が社会課題化する中で、現場の実態と、労働組合の対応について、法制化に向けた流れも含めた取り組みを聴き、理解してもらう。（2024年度ゲストはUAゼンセン）

若者に関わる労働相談事例等からいま職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割とワークルールの重要性について理解してもらう。（2024年度ゲストは中央労働相談センター）

労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。（2024年度ゲストは連合（労働条件・中小地域対策局））

働く者を守るために、労働組合は法改正や制度改正にどのように関わっているのか。働く者の健康確保や安全確保の強化や、雇用形態に関わらずすべての働く者の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みを聴き、理解してもらう。（2024年度ゲストは連合（労働法制局））

すべての働く者が安心して働くことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考えてもらう。（2024年度ゲストは連合事務局）

担当教員が、ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association. Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples. Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace. In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.

【Learning Objectives】

Students are expected to understand deeply the changes in the workplace and the issues involved in working in a safe and secure environment.

They are also expected to acquire practical knowledge of companies and industries, labor laws, and social support.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on companies, industries, and trade unions. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

In-class contributions (including comments): 50%

Term-end report: 50%.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全14回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（コメント内容含む）が50％、レポートが50％。
毎回の授業への積極的な参加を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【その他の重要事項】

授業の予定はゲスト講師との調整により、テーマ内容の変更や順番の入れ替え等が発生する可能性があります。大きな変更は予定していませんが、最初の授業で詳細な予定を提示しますのでご了承ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を確認し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の理解・修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。

つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき7つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
⇒組織を効率よく運営参画するスキル
⇒社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
⇒データの収集（質問票調査）を行う定量調査スキル
⇒フィールドワークによる定性調査スキル
⇒定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
⇒共感・質問・提言する個別対人スキル
⇒カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
⇒社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
⇒チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化するリーダーシップ
⇒モチベーション・マネジメント
⇒4つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
⇒キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
⇒自分自身の20代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
⇒暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
⇒メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。

PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数によりですが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（レポート&プレゼンテーション）を行います。

公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。

＊受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とパラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレインストーミング
3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
5	ビジネス事例研究－1 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力
6	ビジネス事例研究－2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
7	社会人ケーススタディー－1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用するBtoB技術 知られざる世界の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノづくりの魅力 企業提案ワーク ショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディー－2 20代のキャリア形成 副業・兼業・越境学習 コンサルティング業界とは	新しい就労形態 ・パラレルキャリア ・進路の意志決定 ・大学生生活とビジネスの接続
12	プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力

13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
14	プロジェクトベース ラーニング（P B L）－ 3 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
 ・統計学や社会調査の素養があると有効です。
 ＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。
 但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

・受講態度（発言数・発言内容）	⇒ 30点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）	⇒ 30点
・授業期間中レポート	⇒ 20点
・期末レポート	⇒ 20点

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、学習支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。

PCは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。

＊ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。

＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks /content of remarks /contribution in group work) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Report during class period ⇒ 20 points

・ Term-end report ⇒ 20 points

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA (キャリア教育 / Career education 300)

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組めます。

未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。

アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。

つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取材力（但、百聞一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。

PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数によりですが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。

公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。

＊受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具 体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデ ミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 共感・質問・提案	応談スキル ・カウンセリング ・コーチング ・コンサルティング

3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとは どういう意味か？ 組織を動かすには (ビデオ教材使用)	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル 研究－1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	21世紀の生き方へ ライフスタイル 研究－2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析 理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
7	課題レポート&プレゼンテーション－1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル 研究－3 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力 (ビデオ教材)	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	人生の3つのカーブ 文献・統計・フィールドワークのデータ	世代別の課題 ・J字カーブ（20代） ・M字カーブ（30代） ・X字カーブ（40代）
13	課題レポート&プレゼンテーション－2 法政大学の実践知とは	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評
14	授業総括 課題発表ふりかえり	アカデミックスキル確認 ・受講生講評・プレゼンテーション力 ・課題確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。

＊春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、

事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。

但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容）⇒30点
- ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒30点
- ・グループワークでの貢献度⇒20点
- ・期末レポート⇒20点

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、学習支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。

大学用意のPCを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。

*ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks /content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 20 points

・ Term-end report ⇒ 20 points

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

MAT200XE (数学 / Mathematics 200)

数論

安田 幹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんが将来、科学者・技術者・理系教員などの仕事に就いてから、それぞれの道におけるプロフェッショナルとして活躍するための素養を、整数の初等的性質を学びながら身につけることが本科目の目的です。

■ 素養(1) 問題解決力

実社会の案件を方程式に落とし込み、一般の1次方程式および簡単な2次方程式の整数解を効率的かつ網羅的に求めることによって、問題を解決できるようになる

■ 素養(2) 他科目と併せた有機的理解および総合力

整数論の対象を幾何的に解釈したり線形代数で捉え直したりして理解を深め、さらには整数論のアルゴリズムを実際にプログラム実装して効率的に計算できるようにする

■ 素養(3) 社会課題への応用に関する教養

整数論の道具や技法が、方程式を解く以外の形でも幅広く役立っていることを知り、選挙方式・暗号技術・建築音響工学での例を通して整数論との間の関係性を具体的に学ぶ

■ 素養(4) 初等整数論の体系的学識

初等整数論で使われる道具・技法・概念を、方程式を解くのにどう有効なのかという観点に基づいて順序立てて纏め上げ、繋がりを持った一連の学問的知識として身につける

■ 素養(5) 固定観念に囚われない柔軟性

最大公約数と素因数分解について、今まで当たり前と考えていたことが実はそうではないと気づき、自分の中で確立している既成概念に固執せず新しい変化を受け入れる

【到達目標】

一般の1次方程式および一部の（簡単な）2次方程式の全ての整数解を効率的に求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

全週の授業を対面で行います。講義スライドは電子的に配布します。100分の授業を前半と後半に分け、50分前後の中間点でリアクションペーパーの時間を取ります。前半の内容と後半の内容の間には区切りがあり、それぞれ教科書では別々の章に対応します。

■ 基本

多くの章ではスライドによる講義を中心とします。これらの章の講義スライドは事前に共有します。

■ 例外

章によっては例題を解いてみる時間があります。演習ではありません。今まで解いたことのないような問題を、まずは自分で考えてみる時間です。場合によってはグループで共有する時間を設けます。このような章の講義スライドは事後に共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概要・ガイダンス／2元1次不定方程式を解く基本戦略	シラバスについて補足説明を行います。2元1次不定方程式を解く基本戦略を立てます。
2	整除と最大公約数／倍数集合と最小公倍数	方程式を解くのに必要となる最大公約数について概念変化を経験します。また割り算の原理について考え直します。

3	イデアルの概念と最大公約数の存在／選挙方式への応用	強力な道具であるイデアルの概念を使って最大公約数の存在を示します。また割り算の原理の応用例として選挙方式について学びます。
4	ユークリッド互除法／ユニモジュラ行列	最大公約数を効率的に求めるユークリッド互除法のアルゴリズムについて線形代数やプログラミングと絡めて理解します。
5	ベズー係数と拡張ユークリッド互除法／2元1次不定方程式の一般的解法	2元1次不定方程式の全ての整数解を効率的に求められるようにします。
6	合同記号と1次合同式／1次合同式の解法と他との比較	2元1次不定方程式を合同式を使ってより自然に解きます。
7	連立1次合同式と中国剰余定理／既約剰余類ならびにオイラーの定理	2連1次合同式を解きます。また、1次合同式の解の公式について考察します。
8	冪乗剰余の計算／オイラーφ関数の計算	解の公式に現れる冪乗剰余を効率的に計算します。同じく解の公式に現れるオイラーφ関数を効率的に計算できないか検討します。
9	既約元と既約因数分解／素数と素因数分解	オイラーφ関数の効率的な計算に必要な素数や素因数分解について概念変化を経験します。
10	暗号技術への応用／2元1次不定方程式の正（非負）整数解	オイラーφ関数の応用例として公開鍵暗号について学びます。また2元1次不定方程式の正（非負）整数解を求めます。
11	3元以上の1次不定方程式／3連以上の1次合同式	3元以上の1次不定方程式を解きます。また3連以上の1次合同式を解きます。
12	2次合同式／平方剰余と平方非剰余	2次合同式の解法について考えます。そこで現れる平方剰余と平方非剰余について考察します。
13	建築音響工学への応用／平方根の求め方	平方剰余の応用例としてコンサートホールの設計について学びます。また合同式における平方根を効率的に求めます。
14	ヘンゼル持上げ／放物線の整数解	係数の素因数分解が出来ている前提で、一般の2次合同式を解きます。これを用いて一般の放物線の全ての整数解を効率的に求めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

■ 予習

0時間。事前学習は不要です。

■ 復習

4時間が標準。ただし休憩等を考慮して45～50分を1時間と看做します。復習は次の三つからなります。

[1] 教科書（講義スライドとは異なります）の読解 1時間が標準

[2] 事後学習（宿題）の実施 1時間が標準（週によっては2時間）

[3] 自己調整学習 残りの時間

自己調整学習は、その内容が自分に最も適したものになるよう、皆さん自身で組み立てるものです。その多くの部品（選択肢）について、初週のガイダンスで十分に説明します。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。担当教員が作成した教材を電子的に配布します。他に整数論の参考書が無くても、配布テキストだけで十分に理解できるようにします。

【参考書】

参考書は特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

■ 基本

- 50点 提出物（事後学習）

- 50点 期末試験

合計点＝提出物の得点＋期末試験の得点で成績を評価します。これは飽くまで基本であって、教育実習等やむを得ず事後学習が提出できない場合は措置を講じますので心配無用です。また病気等で成績評価が不安になるような状況に陥った場合は、躊躇せず速やかに相談してください。最大限の配慮をします。

■ 到達目標との対応

到達目標ができるようになる（1次方程式や2次方程式の整数解を求められる）ことの目安は60点です。

■ 事後学習50点の詳細

- 27点 練習問題・演習問題（3点×9週）

- 8点 プログラミング（8点×1週）

- 15点 調べ学習（5点×3週）

事後学習の履行点（基準点）は次のとおり30点です。本科目での履行点とは、事後学習を指示どおり実施して提出した場合に、答案の正誤や完璧さに関係なく付与されるものです。白紙答案や明らかに時間不足と考えられる答案には付与しません。

- 18点 練習問題・演習問題（2点×9週）

- 3点 プログラミング（3点×1週）

- 9点 調べ学習（3点×3週）

■ 期末試験50点の詳細

- 30点 必須問題

- 20点 選択問題（問題を選択できるという意味であって、解答が選択式という意味ではないので注意）

必須問題と選択問題いずれも答案記述式です。必須問題30点は1次方程式や2次方程式の整数解を求めるだけの単純な内容です。選択問題20点は素養(2)(3)(4)(5)に関する内容です。

【学生の意見等からの気づき】

■ 次の流れに陥らないよう注意します

- 公理 → 定義 → 定理 → 補題 → 証明 → 系

むしろ次の流れになるよう心掛けます

- 問題・目標 → 考察 → 定義・定理 → 応用・次の狙い

■ 社会との繋がりを強く意識し、複数の応用例を紹介します（選挙方式・暗号技術・建築音響工学）

■ 自己調整学習を推し進めるのを助けるため期末試験にインセンティブを設けます（詳しくはガイダンスで説明します）

■ 授業を前半と後半に分け、それぞれの内容の間に明確な区切りができるようにします

■ 提出物（事後学習）の明確な配点と基準を予め周知します

【学生が準備すべき機器他】

■ 授業に持参すべきもの

- 講義スライドを閲覧するための端末（ノート型パソコン・タブレット端末・スマホなど）

- リアクションペーパーを提出するための機器（同上、ネットワーク接続が不可の場合は紙でも提出可、その場合は筆記具を持参）

- 例題を解くための紙ノートおよび筆記具（タブレット端末とタッチペンでも可）

- 計算機（関数電卓・ノート型パソコン・スマホなど）

■ 事後学習の際に準備すべきもの

- 教科書を閲覧するための端末

- 事後学習を提出するためのネットワーク接続機器

- プログラミングをするためのパソコンもしくは関数電卓

- 調べ学習をするためのインターネット端末

【その他の重要事項】

■ 前提条件

履修条件は設けませんが以下を前提とします。

- 前提〈1〉基礎的な数学知識・スキル

・ 数式、図形、集合、論理の扱い

・ 1次関数および2次関数のグラフ描画および読取り

- 前提〈2〉線形代数（大学初年次で習う内容の初歩）

・ ベクトル・行列・行列式の基本的な計算

・ 多変数の1次式および1次方程式の行列表現

- 前提〈3〉プログラミング（大学初年次で習う内容の初歩）

・ 簡単なプログラムの作成および実行（言語の種類は自由）

・ 条件分岐・繰り返し処理・関数定義の組合せ

※ なお互除法や合同式など整数の性質に関する事前知識・スキルは不要です。本科目で一から学びます。

■ 担当教員の実務経験

担当教員は暗号の研究者です。企業において20年以上、暗号の研究開発や国際標準化に携わっています。

■ 生成AIの取り扱い

事後学習の際の生成AIの利活用は自由です。

■ オフィスアワー

授業のある日（木曜日）の15～17時（講師室）あるいは授業後18:40～（教室内）です。事前アポは無くても構いません。その他の時間帯の連絡はEメールでお願い致します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to enable you to acquire the skills necessary to be a scientist, engineer, teacher, or other professional in your future career by learning about the elementary properties of integers.

【Learning objective】

The minimum goal is to become able to find efficiently all integer solutions to general linear equations and to some simple quadratic equations.

【Learning activities outside of classroom】 In principle, students are expected to spend four hours studying after each class.

【Grading criteria /policy】

Homework 50%

Final exam 50%

COT200XE (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング言語 J A V A

山口 大輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、Webアプリケーションから組み込みアプリケーションまで幅広く使用されている、オブジェクト指向プログラミング言語であるJava言語について学習する。

今日用いられているプログラミング言語のほとんどがオブジェクト指向プログラミングをサポートする。したがって、本講義から得られた知識は、多くのプログラミング言語の学習や、プログラムの理解に活用できる。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向に基づいた基礎的なJavaアプリケーションのソースコードを理解・修正できる
- ・オブジェクト指向に基づいた基礎的なJavaアプリケーションの設計および実装ができる
- ・新たなJavaアプリケーションを独力で設計およびソースコードを記述できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、大きく、前半と後半の二つに分かれる。

前半では、プログラムの作成に必要なオブジェクト指向の概念、および文字列処理などのJava言語固有の内容 (JavaSE API) を学ぶ。Javaの言語仕様を、教科書に沿ったいくつかのテーマに分けて学ぶ。その上でテーマを踏まえた演習プログラムの完成を目指すことにより、理解を深める。

後半では、オブジェクト指向に基づいたプログラムの設計・実装の方法を学ぶ。また、プログラムの検証やテストの方法について学ぶ。講義内の演習や課題を通じてJavaアプリケーションの設計、実装、テストを実践することで、理解を深める。

各講義の終わりには復習のための宿題を課す。次の講義までに提出すること。

フィードバックは学習支援システムなどを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概説・開発環境の準備・システムの利用ガイド	授業内容の説明、各自PCの開発環境の整備、学習支援システムの使い方、簡単な演習を実施
第2回	基本的な書き方	Javaの基本的な記法、および、クラスとメソッドの概要を理解するとともに、その書き方を習得
第3回	型	型として、プリミティブ型と参照型があることを理解する。クラスの作り方と、クラスの性質を理解することで、その使い方を習得
第4回	配列とコレクション	複数のデータを扱う方法として、配列、List、Map等を理解することで、その使い方を習得
第5回	ストリーム処理	大量データを逐次処理するストリーム処理を効率的に記述する方法について、理解を深める

第6回	例外	例外として、検査例外、実行時例外、エラーがあることを理解することで、try-catch構文を理解し適切に補足する方法を習得
第7回	文字列	文字列の操作方法と文字コードの概要を理解する
第8回	日付処理	日付処理の方法を習得
第9回	ファイル操作とデータ形式	ディスクにあるテキストファイルの読み込み方を理解する。また、テキストファイルのデータ形式について理解する
第10回	多相性とソフトウェア設計	Javaの多相性について理解し、プログラムの大枠をインターフェースや抽象クラスで表現することで実装を見通しよく進める方法を習得
第11回	デザインパターン	デザインパターンを用いたソフトウェアの設計、実装の方法を習得
第12回	ソフトウェア検証・テスト	ソフトウェアの検証およびテストについて理解する。また、JUnitを使用した単体テストの方法を習得
第13回	これまでの復習	ここまで学習した内容の復習
第14回	さまざまなプログラミング言語	構文・意味論・型システムに着目し、特徴的なプログラミング言語のいくつかを紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回の授業で課される宿題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

「Java本格入門」 谷本心、阪本雄一郎、岡田拓也、秋葉誠、村田賢一郎 著、Acroquest Technology株式会社 監修 技術評論社 発行 2980円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施できる場合

- ・授業の内容を理解していることを確認するための期末試験(50%)
- ・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題(50%)

期末試験を実施できない場合

- ・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題(100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義および演習では、Eclipseという統合開発環境を用いて、プログラムを作成する。大学から貸与されているノートPCを必ず毎回各自持参すること。なお、他学科からの履修などの理由で、PCにEclipseがインストールされていない場合がある。第一回の授業でフォローする予定であるが、授業開始までにEclipseをインストールしておくことをすすめる。

<https://mergedoc.osdn.jp/>

<https://www.eclipse.org/>

Eclipseが動くPCであれば、大学から貸与されたノートPCでなくてもよい。また、この場合にはWindowsでなくてもよい。演習と宿題の提出には授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義では、C言語などで手続き型言語を学んだことがあり、C++言語などでオブジェクト指向の概要を理解していることを前提する。企業におけるソフトウェア開発業務の支援に取り組む研究者が、開発現場で用いられているJava言語の基礎について講義するとともに、簡単なプログラミングを行う。講義の終盤では、近年よく用いられている他の言語について、概要を講義する予定である。オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認することを心がけること。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In this class, you learn about the Java language, an object-oriented programming language that is widely used from Web applications to embedded applications.

Most programming languages today support object-oriented programming. Therefore, the knowledge gained from this lecture can be applied to learning other programming languages.

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Understand and modify the source code of basic Java applications based on object-oriented.
- ・ Design and implement basic Java applications based on object-oriented.
- ・ You can design new Java applications and write source code by yourself.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

You must submit the homework required for each class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

When taking a final exam

- ・ Final exam to confirm that you understand the lesson. (50%)
- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself. (50%)

If we do not or cannot take the final exam

- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself. (100%)

COT200XE (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング言語 J A V A

山口 大輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、Webアプリケーションから組み込みアプリケーションまで幅広く使用されている、オブジェクト指向プログラミング言語であるJava言語について学習する。

今日用いられているプログラミング言語のほとんどがオブジェクト指向プログラミングをサポートする。したがって、本講義から得られた知識は、多くのプログラミング言語の学習や、プログラムの理解に活用できる。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向に基づいた基礎的なJavaアプリケーションのソースコードを理解・修正できる
- ・オブジェクト指向に基づいた基礎的なJavaアプリケーションの設計および実装ができる
- ・新たなJavaアプリケーションを独力で設計およびソースコードを記述できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、大きく、前半と後半の二つに分かれる。

前半では、プログラムの作成に必要なオブジェクト指向の概念、および文字列処理などのJava言語固有の内容 (JavaSE API) を学ぶ。Javaの言語仕様を、教科書に沿ったいくつかのテーマに分けて学ぶ。その上でテーマを踏まえた演習プログラムの完成を目指すことにより、理解を深める。

後半では、オブジェクト指向に基づいたプログラムの設計・実装の方法を学ぶ。また、プログラムの検証やテストの方法について学ぶ。講義内の演習や課題を通じてJavaアプリケーションの設計、実装、テストを実践することで、理解を深める。

各講義の終わりには復習のための宿題を課す。次の講義までに提出すること。

フィードバックは学習支援システムなどを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概説・開発環境の準備・システムの利用ガイド	授業内容の説明、各自PCの開発環境の整備、学習支援システムの使い方、簡単な演習を実施
第2回	基本的な書き方	Javaの基本的な記法、および、クラスとメソッドの概要を理解するとともに、その書き方を習得
第3回	型	型として、プリミティブ型と参照型があることを理解する。クラスの作り方と、クラスの性質を理解することで、その使い方を習得
第4回	配列とコレクション	複数のデータを扱う方法として、配列、List、Map等を理解することで、その使い方を習得
第5回	ストリーム処理	大量データを逐次処理するストリーム処理を効率的に記述する方法について、理解を深める

第6回	例外	例外として、検査例外、実行時例外、エラーがあることを理解することで、try-catch構文を理解し適切に補足する方法を習得
第7回	文字列	文字列の操作方法と文字コードの概要を理解する
第8回	日付処理	また、日付処理の方法を習得
第9回	ファイル操作とデータ形式	ディスクにあるテキストファイルの読み込み方を理解する。また、テキストファイルのデータ形式について理解する
第10回	多相性とソフトウェア設計	Javaの多相性について理解し、プログラムの大枠をインターフェースや抽象クラスで表現することで実装を見通しよく進める方法を習得
第11回	デザインパターン	デザインパターンを用いたソフトウェアの設計、実装の方法を習得
第12回	ソフトウェア検証・テスト	ソフトウェアの検証およびテストについて理解する。また、JUnitを使用した単体テストの方法を習得
第13回	これまでの復習	ここまで学習した内容の復習
第14回	さまざまなプログラミング言語	構文・意味論・型システムに着目し、特徴的なプログラミング言語のいくつかを紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回の授業で課される宿題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

「Java 本格入門」 谷本心、阪本雄一郎、岡田拓也、秋葉誠、村田賢一郎 著、Acroquest Technology株式会社 監修 技術評論社 発行 2980円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施できる場合

- ・授業の内容を理解していることを確認するための期末試験(50%)
- ・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題(50%)

期末試験を実施できない場合

- ・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題(100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義および演習では、Eclipseという統合開発環境を用いて、プログラムを作成する。大学から貸与されているノートPCを必ず毎回各自持参すること。なお、他学科からの履修などの理由で、PCにEclipseがインストールされていない場合がある。第一回の授業でフォローする予定であるが、授業開始までにEclipseをインストールしておくことをすすめる。

<https://mergedoc.osdn.jp/>

<https://www.eclipse.org/>

Eclipseが動くPCであれば、大学から貸与されたノートPCでなくてもよい。また、この場合にはWindowsでなくてもよい。演習と宿題の提出には授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義では、C言語などで手続き型言語を学んだことがあり、C++言語などでオブジェクト指向の概要を理解していることを前提する。企業におけるソフトウェア開発業務の支援に取り組む研究者が、開発現場で用いられているJava言語の基礎について講義するとともに、簡単なプログラミングを行う。講義の終盤では、近年よく用いられている他の言語について、概要を講義する予定である。オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認することを心がけること。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In this class, you learn about the Java language, an object-oriented programming language that is widely used from Web applications to embedded applications.

Most programming languages today support object-oriented programming. Therefore, the knowledge gained from this lecture can be applied to learning other programming languages.

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Understand and modify the source code of basic Java applications based on object-oriented.
- ・ Design and implement basic Java applications based on object-oriented.
- ・ You can design new Java applications and write source code by yourself.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

You must submit the homework required for each class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

When taking a final exam

- ・ Final exam to confirm that you understand the lesson. (50%)
- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself. (50%)

If we do not or cannot take the final exam

- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself. (100%)

MAT200XG (数学 / Mathematics 200)

複素関数論

西村 滋人

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

微積分で学んだ実変数の三角関数、指数関数等を複素変数に拡張するところから始めて、複素関数の微分や積分について学ぶ。とくに応用上大切な有理形関数の積分について、負幂を許して冪級数に展開し、閉曲線に沿って項別積分することによって、積分の計算が留数の計算に帰着されることを示す。

【到達目標】

- (1) 複素初等関数の取り扱いに習熟する。
- (2) 留数を計算して複素関数の積分を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	複素数の定義と四則演算	複素数の取り扱いについての簡単な復習。
2	複素指数関数	指数関数の複素変数への拡張。
3	複素三角関数	三角関数の複素変数への拡張。
4	対数関数と無理関数	対数関数の複素変数への拡張。
5	Cauchy-Riemannの方程式	複素微分可能性が複素関数の実部と虚部に課す制約の説明。
6	複素積分	複素関数の積分が複素平面上の線積分として導入されることの説明。
7	コーシーの積分定理	閉曲線に沿った積分が零になるための条件の考察。
8	コーシーの積分表示	積分定理から導かれる正則関数およびその導関数の積分表示式の説明。
9	整級数展開	正則関数のテイラー級数展開、ならびに負幂を許したローラン級数の導入。
10	一致の定理	整級数展開についての補足。関数関係不変の原理。
11	特異点	ローラン級数の主要部の考察。除去可能特異点、極、真性特異点の特徴づけ。
12	留数定理	留数の求め方と複素積分の計算。
13	複素積分の応用	有理関数の無限積分など実積分の計算への応用。
14	期末試験・まとめと解説	講義内容の理解の評価。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
計算練習は十分な量を各自でこなしておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

学力試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course we will learn differentiation and integration of functions in one complex variable.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) to be capable of performing basic operations on complex functions, and
- (2) to master the method of residues.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Term-end examination:100%.

MAT200XB (数学 / Mathematics 200)

応用数学 (機械)

寺田 至

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

理工学で基本的な常微分方程式を解くときに必要になる変数分離・変数変換・ラプラス変換・ヘビサイドの演算子法・ミクシンスキーの演算子法などによる方法の導出・計算を、例題を使って講義する。授業内小テストをおこない、学生に解の計算、並びに、解法の導出をさせて、自らの解の計算力、解法の導出力を吟味させることによって、習得の程度を把握させて、常微分方程式に関する解法のテクニックを習得させる。

【到達目標】

学生が、理工学で基本的な微分方程式を解くための計算を容易にできるようにする。学生が理工学で基本的な微分方程式の解法の導出をできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

理工学で基本的な微分方程式の解法の導出並びに計算方法を例題を使って講義する。基本的な微分方程式の計算問題、解法の導出問題を授業内小テストとして解かせて提出させる。適時、提出された課題に対してフィードバックを行う。適時、学習等の実施内容に対してフィードバックを行う。適時、質疑によって受講生の疑問にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	微分方程式とその解	微分方程式の解の分類と与えられた関数の満たす常微分方程式を求めることについて講義する
第2回	変数分離形・同次形	変数分離形・同次形の微分方程式の求積解法について講義する
第3回	完全微分方程式	微分形式の微分方程式が完全である条件と求積解法について講義する
第4回	1階線形微分方程式	ベルヌイの微分方程式の求積解法リッカチの微分方程式の求積解法について講義する
第5回	1階線形微分方程式	グランベールの微分方程式の求積解法クレローの微分方程式の求積解法について講義する
第6回	2階線形微分方程式	同次形の求積解法について講義する
第7回	2階線形微分方程式	非同次形の求積解法について講義する
第8回	ラプラス変換の計算 法則・ラプラス変換 の線形性、相似性、 移動法則	ラプラス変換の線形性、相似性、移動法則について、講義する
第9回	ラプラス変換の計算 法則・ラプラス変換 に関する微分法則、 積分法則	ラプラス変換に関する微分法則、積分法則について講義する
第10回	ラプラス変換の計算 法則・合成積、不連続関数のラプラス変換	合成積、不連続関数のラプラス変換について講義する

第11回 ラプラス変換の計算
法則・逆ラプラス変換並びに部分分数

逆ラプラス変換並びに部分分数について講義する

第12回 ラプラス変換の計算
法則・ヘビサイドの展開

ヘビサイドの展開について講義する

第13回 ヘビサイドの演算子

ヘビサイドの演算子の算術について講義する

第14回 ヘビサイドの演算子
法の微分方程式への
応用

ヘビサイドの演算子法の微分方程式への応用について講義する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業、テキスト、配布したプリントの内容で、わからないことがあったならば、紹介した参考書・その他も援用して、次週の授業までに質問事項などとしてまとめておくこと。

【テキスト (教科書)】

・応用微分方程式 平松豊一・長坂建二 共著 日新出版 (2000年)
本体 2600円

【参考書】

・常微分方程式とラプラス変換 齋藤誠慈著 裳華房 (2006年)

【成績評価の方法と基準】

期末テスト80%、レポート20%で評価する。
本科目において設定した到達目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での演習時間を十分とりたい。

【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。
その他の重要事項は適宜、指示します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of our course is to help students acquire the necessary knowledge and skills to solve ordinary differential equations, by the methods of separation of variables, changing of variables, power series and so on. In our course, we give participants the mathematical exercises to calculate the solutions by hand. And our course also deal with the ordinary differential equations in the introduction to mathematical physics.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to deduce the general solution formula of ordinary differential equations and to be able to solve exercises of ordinary differential equation problems easily.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. And, before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class

decided based on the following

Term-end examination: 80%, Short reports 20%.

MAT200XB (数学 / Mathematics 200)

応用解析 (機械)

坂田 繁洋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

理工学で基本的な偏微分方程式の境界値・初期値問題の解法を数学サイドから講義する。解くために必要になる数学的な方法の導出、例題を使つての問題の解の算出法について講義する。特にフーリエ級数による解法を重点的に扱う。授業内小テストをおこない、学生に自分の解の計算力、解法の導出力を自ら吟味させることによって、習得の程度を把握させて、理工学における基本的な偏微分方程式の境界値・初期値問題に関する解法のテクニックを習得させる。

【到達目標】

学生が、自ら、フーリエ級数に関する計算力・応用力を向上させることができるようにする。学生が、理工学にあらわれる基本的な偏微分方程式の境界値・初期値問題を容易に解くことができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

フーリエ級数に関する方法の導出、例題を使つた計算方法等を講義する。学生にフーリエ級数についての計算、応用、解法の導出についての問題を授業内小テストで解かせて提出させる。適時、提出された課題に対してフィードバックを行う。適時、学習等の実施内容に対してフィードバックを行う。適時、質疑によって受講生の疑問にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	周期関数	区分的に滑らかな周期 2π の関数のなす内積空間について講義する。
第2回	フーリエ係数	フーリエ係数の定義・計算、奇関数、偶関数の場合のフーリエ係数の計算について講義する。
第3回	フーリエ級数	フーリエ級数の定義、性質について講義する。
第4回	有限三角級数、ベッセルの不等式、パーセヴァルの等式	フーリエ級数の有限和の性質、ベッセルの不等式、パーセヴァルの等式について講義する。
第5回	フーリエ級数の収束	フーリエ級数の基本定理について講義する。
第6回	関数項関数	フーリエ級数などの関数項関数の一般的性質について講義する。
第7回	フーリエ級数と項別微分、項別積分	フーリエ級数の項別微分、項別積分について講義する。
第8回	一般の周期関数のフーリエ展開	一般の周期関数に関するフーリエ級数について講義する。
第9回	フーリエ余弦級数、フーリエ正弦級数	フーリエ余弦級数、フーリエ正弦級数について講義する。
第10回	波動方程式の混合問題	波動方程式の混合問題について講義する。
第11回	波動方程式の解法	波動方程式を変数分離法ならびにフーリエ級数で解くことについて講義する。

第12回	熱方程式の混合問題	熱方程式の混合問題について講義する。
第13回	熱方程式の解法	熱方程式を変数分離法ならびにフーリエ級数で解くことについて講義する。
第14回	ラプラス方程式	ラプラス方程式を変数分離法ならびにフーリエ級数で解くことについて講義する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業、テキスト、配布したプリントの内容で、わからないことがあったならば、紹介した参考書・その他で、次週の授業までに質問事項等としてまとめておくこと。

【テキスト (教科書)】

・応用微分方程式 平松豊一・長坂建二 共著 日新出版 (2000年)
本体 2600円

【参考書】

・初等応用解析 安藤四郎・長坂建二・平野鉄太郎 共著 日新出版 (1991年)

【成績評価の方法と基準】

期末テスト80%、授業演習20%で評価する。
本科目において設定した到達目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での演習時間を十分とりたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of our course is to help students acquire the necessary knowledge and skills to solve the partial differential equations with the significance in the introduction to the elementary mathematical physics. In our course, we give participants the mathematical exercises to calculate the solutions by hand. Our course mainly deal with Fourier series with the applications in the introduction to mathematical physics.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to deduce the general solution formula of partial differential equations and to be able to solve exercises of partial differential equation problems easily.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. And, before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class decided based on the following
Term-end examination: 80%, Short reports 20%.

MAT200XD (数学 / Mathematics 200)

複素関数論 (電気)

岩城 敏

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

変数の範囲を複素数に拡張した関数を扱う複素関数論の初歩を学ぶ。これにより、2年次後期に履修する、フーリエ解析・ラプラス変換等を理解するための基礎数学の習得、さらには将来の高度な電気電子系専門技術を理解するための基礎知識を身に着ける。

【到達目標】

複素数の性質、複素関数、複素積分、複素微分、コーシーの積分定理と積分公式、留数定理等を基本からしっかりと理解し、基本的な問題を確実に解くための力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を交互に行うと共に、理解度チェックのため小テストも適宜行う。受講者は実際に手を動かし練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画説明・概論・勉強の動機付け・1年次の基礎数学知識の確認
第2回	複素数の四則演算とドモアブルの定理	複素数に関する初歩的知識として、四則演算とドモアブルの定理の確認
第3回	オイラーの公式と三角関数との関係	指数関数・三角関数の級数展開を複素数に拡張しオイラーの関係式を導く
第4回	様々な複素関数	指数関数・三角関数・対数関数・べき乗関数を学ぶ
第5回	複素微分とコーシーリーマンの定理	複素微分の定義を示し、微分可能性に関する重要なコーシーリーマンの定理を学ぶ
第6回	線積分とグリーンの定理	複素積分を理解するための準備として、線積分と面積分との関係を表すグリーンの定理を学ぶ
第7回	複素積分	複素積分の定義を理解し、線積分による計算法を学ぶ
第8回	コーシーの積分定理	グリーンの定理とコーシーリーマンの定理から、コーシーの積分定理を導出する
第9回	コーシーの積分公式 (積分表示)	コーシーの積分定理を基に、コーシーの積分公式を導出する
第10回	テイラー展開	実数のテイラー展開を複素数に拡張する
第11回	ローラン展開と特異点	テイラー展開を特異点周辺に拡張するローラン展開を導出し、特異点との関係を理解する
第12回	留数定理	留数の定義を示し、複数の孤立特異点を内在する閉領域における積分値を計算するための留数定理を学ぶ
第13回	留数定理を用いた実定積分計算	留数定理を用いて、実定積分を計算する手法を学ぶ

第14回 総合演習

講義の要点の復習と演習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

理解度チェックのためのレポート課題を適宜与える。準備・復習時間は1回につき4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

矢野・石原
解析学概論
裳華房

【参考書】

第1回の講義で指定する。

【成績評価の方法と基準】

複素数の性質、複素関数、複素微分、複素積分、コーシーの積分定理と積分公式、留数定理に関して、本質を理解し基本的な問題を確実に解けるかどうかを期末試験で判断する。成績は期末試験得点が80%、小テスト・レポートその他平常点20%を目安に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

情報通信系民間企業で研究を経験した教員が、研究活動の基盤として複素関数論が重要であることを、具体的な研究テーマを基に紹介する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the basics of the complex function theory.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the differentiation and integration of complex functions
- 2) Understanding (complex) exponential, triangular, and logarithmic functions and their calculation
- 3) Understanding Cauchy integral formula and residue theorem, and their applications

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four

hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination 100%.

MAT200XD (数学 / Mathematics 200)

応用数学 (電気)

鳥飼 弘幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

理工系の多くの分野の基礎となる微分方程式の解法を学ぶとともに、簡単な物理現象を微分方程式を使って解析する方法について学ぶ。

【到達目標】

1. 典型的な1階微分方程式の解法を理解し、物理現象の解析への応用を理解する。
2. 定数係数線形微分方程式の解法を理解し、具体的な問題を解くことができる。
3. ラプラス変換を用いて微分方程式を解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は座学形式で実施され、講義中に演習にも取り組む。レポートの提出も複数回ある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	微分方程式とは何か	微分方程式の導出の例や微分方程式からわかることの例を知る
第2回	1階線形微分方程式 (1)	変数分離形微分方程式の解法を理解するとともにその応用を知る
第3回	1階線形微分方程式 (2)	1階線形微分方程式の解の公式を導く
第4回	1階線形微分方程式 (3)	完全微分方程式の解法を理解するとともにその応用を知る
第5回	定数係数2階線形微分方程式 (1)	同次方程式と非同次方程式、定数係数2階線形微分方程式の解空間の構造を理解し解法の一般論を知る
第6回	定数係数2階線形微分方程式 (2)	定数係数線形同次微分方程式の解法を理解する
第7回	定数係数2階線形微分方程式 (3)	消去法を用いて定数係数2階微分方程式の解法を理解する
第8回	定数係数2階線形微分方程式 (4)	定数変化法による定数係数2階微分方程式の解法を理解する
第9回	線形微分方程式の応用	線形微分方程式の応用を知る
第10回	ラプラス変換 (1)	ラプラス変換の定義および基本性質を知る
第11回	ラプラス変換 (2)	基本的な関数のラプラス変換の求め方を理解する
第12回	ラプラス変換の応用	ラプラス変換を応用した初期値問題の解法を理解する
第13回	定数係数連立線形微分方程式	定数係数連立線形微分方程式の解法に触れる
第14回	微分方程式の応用	様々な微分方程式の応用を知る

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業中に小テストを行う場合がある。その準備として事前に解いておくべき問題を指定するので解いておくこと。

【テキスト (教科書)】

矢野・石原共著、新装版 解析学概論、裳華房

(黄色い表紙の古い版の「矢野・石原共著、解析学概論 (新版)、裳華房」も内容は同一なので使用可能)

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(80%)と、講義中に出题されるレポート(20%)で評価を行う。単位の取得のためには、全てのレポートを提出する必要がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Differential equations are used in various fields of science and engineering. The aim of this course is to help students acquire an understanding of solving methods of differential equations and analysis methods of simple physical systems by differential equations.

(Learning objectives)

By the end of the course, students are expected to acquire following skills

- Understanding of solutions of ordinary differential equation

- Understanding of Laplace transform and its inverse

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Moreover, additional work is expected in case the report is assigned as homework.

(Grading Criteria)

Term-end examination: 60%, In class contributions including mini exams: 40%

MAT200XD (数学 / Mathematics 200)

確率統計 (電気)

齊藤 利通

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

電気電子工学における各種データ処理やその理解のために、確率統計の基礎力を養成する。

【到達目標】

講義、例題、演習。

対面授業の場合は、各自の演習問題や例題への直接コメントします。オンライン授業の場合は、各自が提出した演習問題へのコメント(フィードバック)を学習支援システム(Hoppii)を通じて行います。詳細はHoppiiの記載事項を熟読してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本事項の講義、基礎問題の演習、質疑応答、節目での復習、総復習等を、学生の理解のレベルに応じて適用する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	確率関数	イントロ、ヒストグラム、基本統計量
2	確率関数	二項分布
3	確率関数	ポアソン分布
4	情報理論入門	エントロピー、ハフマンコード
5	確率密度関数	平均、分散、累積分布関数
6	確率密度関数	正規分布、中心極限定理
7	推定-検定	母集団比率、標準正規分布
8	推定-検定	母分散、 χ^2 二乗分布
9	推定-検定	母平均、t分布
10	ニューロンモデル	相関学習
11	相関	相関係数
12	相関	回帰直線
13	相関	主成分分析
14	総復習	重要事項のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書の復習

【テキスト(教科書)】

和達、十河：キーポイント確率統計、岩波書店、ISBN4-00-007866-6

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

定期試験

【学生の意見等からの気づき】

重要な基礎事項は、学力不足の学生にも理解できるように説明する。

【Outline (in English)】

Course outline: In order to understand data processing technique and feature extracting technique in electrical and electronica engineering, this lecture studies basic concepts of probability and statistics.

Learning Objectives: Mastering basic concepts in probability and statistics.

Learning activities outside of classroom: Consideration of key concepts in probability and statistics.

Grading Criteria /Policy: Academic/technical skills evaluated in term examination.

PHY200XD (物理学 / Physics 200)

応用物理学

加来 滋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量子物理学について学び、それがどのように電子・光デバイスに应用されているのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・量子物理学に基づく電子状態の考え方を理解する。
- ・量子物理学に基づいて、物質中の電子の性質(電子物性)を理解する。
- ・半導体や最先端の低次元マテリアルを中心に、機能的応用材料の動作を電子物性の視点で理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。内容の理解を助けるため必要に応じて演習問題を実施するとともにレポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	量子力学の導入	量子力学への歴史的経緯
2	シュレディンガー方程式	時間に依存しないシュレディンガー方程式
3	波動関数とエネルギー固有値の計算	量子井戸 トンネル効果
4	シュレディンガー方程式の3次元への拡張	極座標表示への変換 球面調和関数
5	水素原子1	原子の電子軌道
6	水素原子2、中間まとめ	原子の電子軌道 授業の中間まとめ
7	量子力学の固体電子論への適用	原子から分子、結晶への拡張 水素分子の電子状態
8	周期ポテンシャル中の電子状態	ブロッホ関数 クローニッヒ・ペニーモデル
9	固体電子論の基礎	バンド構造 フェルミ球 電子状態密度 固体中の輸送現象
10	半導体における電子物性	半導体のバンド図 p型、n型半導体 エピタキシャル結晶成長とヘテロ構造
11	半導体の界面	pn接合 ショットキー接合 接合界面と電流-電圧特性
12	半導体の応用	LED、太陽電池、トランジスタ
13	低次元物質の応用	Graphene等の2次元材料とその応用
14	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習などの授業時間外学習は、4時間を標準とする】
多くの数式を用いるので、物理的な概念と数式との関係が理解できるよう、事前に予習するとともに、よく復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】

量子力学 裳華房 小形正男 著
基礎からの量子力学 裳華房 上村洸・山本貴博 共著
よくわかる量子力学 東京図書 前野昌弘 著
固体電子論 裳華房 金持徹 著
基礎から学ぶ強相関電子系 内田老鶴圃 勝藤拓郎 著

【成績評価の方法と基準】

評価方法：期末試験(80%)、平常点・レポート (20%)

評価基準：設定された目標に対して、60%以上達成している場合に合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

予習の助けになるよう、可能な限り事前に資料を授業支援システムで共有する。

【Outline (in English)】

This course introduces quantum physics and teaches how it is applied to electronic and photonic devices.

MAT200XE (数学 / Mathematics 200)

応用数学 (情報)

陸名 雄一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自然科学や社会科学における多くの現象が微分方程式によって表現されており、微分方程式に関する知識・解法の修得は現代科学を学ぶ者にとって欠かせないものになっている。当科目では、基本的な常微分方程式の解法を修得する。

【到達目標】

1. 常微分方程式の基本的な解法を身に付ける。
2. その実行に必要な計算力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	常微分方程式	常微分方程式を定義し、その意義について解説する。
第2回	常微分方程式の解	常微分方程式の解の存在定理について解説する。
第3回	変数分離形	変数分離形の解法について解説する。
第4回	同次形	同次形の解法について解説する。
第5回	一階線形	一階線形の解法について解説する。
第6回	完全微分形	完全微分形の解法について解説する。
第7回	一階微分方程式のまとめと演習	第1回から第6回までのまとめを行い、演習を実施する。
第8回	関数の一次独立性、線形微分方程式	関数の一次独立性について復習し、線形微分方程式を定義する。
第9回	定数係数斉次形の解法、線形微分方程式の解空間	定数係数斉次形の解法を解説する。線形写像のファイバーの構造定理について復習し、線形常微分方程式の解空間の構造について解説する。
第10回	微分演算子	微分演算子を導入し、線形微分方程式への応用について解説する。
第11回	逆演算子	逆演算子を導入し、線形微分方程式への応用について解説する。
第12回	定数変化法	定数変化法による線形常微分方程式の解法について解説する。
第13回	連立微分方程式・高階微分方程式・級数解法	これまでに学んだ解法を連立微分方程式や高階の微分方程式へ応用する。微分方程式の級数解法を紹介する。
第14回	線形微分方程式のまとめと演習	第8回から第13回までのまとめを行い、演習を実施する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。】一度聞いただけで数学の知識が定着することはない。講義後は復習し、さらには講義中に指示された演習問題を解く等して、計算の技術を身に付けて貰いたい。

【テキスト (教科書)】

資料を提供する。

【参考書】

相談に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

常微分方程式の基本的解法の理解度・実践力を期末試験の成績 (100%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習の習慣化が不十分である。履修内容の理解・定着に必要な学習方法・分量について真剣に考えてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」へのアクセスが可能な情報機器 (対面講義中の使用は想定していない)。

【その他の重要事項】

通知・資料提供等の手段として「学習支援システム」を使用し、これらの定期的確認を受講者の義務とする。確認を怠ったことによって生じる不利益については、それがどんなに深刻なものであったとしても、一切関知しない。担当教員への連絡方法を含め、授業運営の詳細については初回授業にて通知する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Many phenomena in the natural and social sciences are expressed by differential equations. The acquisition of knowledge related to them is indispensable for those who study modern science.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Understanding the fundamental concepts of ordinary differential equations

2) Solving basic ordinary differential equations, such as variables separable, homogeneous, exact, and linear ones.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four

hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%. Those with a low attendance or report-submission rate cannot take the exam.

MAT200XE (数学 / Mathematics 200)

応用解析 (情報)

陸名 雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ラプラス変換・フーリエ級数・フーリエ変換の基礎事項を概説する。基本理論の理解と併せて、微分方程式・積分方程式への応用に必要な計算力を修得する。

【到達目標】

1. ラプラス変換の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
2. フーリエ級数の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
3. フーリエ変換の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
4. これらの微分方程式・積分方程式への応用について理解し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ラプラス変換の定義と性質	ラプラス変換の定義と性質について解説し、基本的な関数のラプラス変換を計算する。
第2回	ラプラス変換の計算	階段関数・デルタ関数・周期関数のラプラス変換を計算する。
第3回	ラプラス逆変換の定義と性質	ラプラス逆変換の定義と性質について解説し、基本的な関数のラプラス変換を計算する。
第4回	ラプラス逆変換の計算	有理関数のラプラス逆変換を計算する。
第5回	ラプラス変換の応用	微分方程式・積分方程式のラプラス変換による解法を解説する。
第6回	ラプラス変換のまとめ	第1回から第5回の内容についてまとめ、演習を実施する。
第7回	正規直交系	線形空間の正規直交基底について解説する。
第8回	フーリエ級数の定義	フーリエ係数・フーリエ級数を定義し、基本的な関数のフーリエ級数を計算する。
第9回	フーリエ正弦・余弦級数、複素フーリエ級数	奇関数・偶関数のフーリエ級数を計算する。複素フーリエ級数を定義し、基本的な関数のフーリエ級数を計算する。
第10回	フーリエ級数の収束定理・パーセバルの等式とその応用	フーリエ級数の収束とパーセバルの等式について解説し、無限級数の計算に応用する。
第11回	フーリエ変換の定義	フーリエ積分・フーリエ変換を定義し、基本的な関数のフーリエ変換を計算する。
第12回	フーリエ変換の性質	フーリエ変換の性質について解説し、計算へ応用する。

第13回	フーリエ変換の収束定理・プランシュレルの等式とその応用	フーリエ級数の収束とパーセバルの等式について解説し、積分計算に応用する。フーリエ変換による偏微分方程式の解法を解説する。
第14回	フーリエ級数・フーリエ変換のまとめと演習	第7回から第13回の内容についてまとめ、演習を実施する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。】一度聞いただけで数学の知識が定着することはない。講義後は復習し、さらには講義中に指示された演習問題を解く等して、計算の技術を身に付けて貰いたい。

【テキスト (教科書)】

資料を提供する。

【参考書】

相談に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ラプラス変換・フーリエ級数・フーリエ変換の理解度・計算力・応用力を期末試験の成績 (100%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習の習慣化が不十分である。履修内容の理解・定着に必要な学習方法・分量について真剣に考えてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」へのアクセスが可能な情報機器 (対面講義中の使用は想定していない)。

【その他の重要事項】

通知・資料提供等の手段として「学習支援システム」を使用し、これらの定期的確認を受講者の義務とする。確認を怠ったことによって生じる不利益については、それがどんなに深刻なものであったとしても、一切関知しない。担当教員への連絡方法を含め、授業運営の詳細については初回授業にて通知する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the basic concepts of Laplace transformations, Fourier series, and Fourier transformations.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understanding the fundamental concepts of Laplace transformations, Fourier series, and Fourier transformations.
- 2) Calculating Laplace transformations, Fourier series, and Fourier transformations for basic functions.
- 3) Applying those techniques to solve differential or integral equations.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%. Those with a low attendance or report-submission rate cannot take the exam.

MAT200XF (数学 / Mathematics 200)

数値解析 (経営)**土屋 卓也**

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代においてコンピュータシミュレーションは、自然科学や工学、社会科学から医療に至るまで様々な分野で用いられ、我々の生活を基礎から支えている。授業では、コンピュータシミュレーションを行う際、現象を記述する方程式をどのようにして計算機上で計算すればよいのか、また、元の問題の解と計算機で計算した解にはどのような関係があるのか等、数値計算にまつわる諸問題について説明する。一つの単元が終わるごとに演習を行い、実際にコンピュータプログラムを作成する。

【到達目標】

さまざまな方程式の数値解法を理解し、さらに実際に計算機上でプログラムを組み、数値計算結果を得ることができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とプログラミングの演習を交互に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	数値解析の概要、計算環境などの紹介
第2回	連立一次方程式 1	行列とベクトル、連立一次方程式の復習、ガウスの消去法の原理の概要
第3回	連立一次方程式 2	行列やベクトルのノルム、共役勾配法の収束について
第4回	プログラミング演習 1	連立一次方程式に関する数値計算演習
第5回	非線形方程式	二分法、ニュートン法の原理
第6回	プログラミング演習 2	非線形方程式に関する数値計算演習
第7回	数値積分	中点則、台形則、シンプソン則の誤差評価、周期関数に対する台形則
第8回	プログラミング演習 3	数値積分に関する数値計算演習
第9回	常微分方程式 1	常微分方程式の解説
第10回	常微分方程式 2	オイラー法、修正オイラー法、ルンゲクッタ法の紹介、オイラー法の収束証明
第11回	プログラミング演習 4	常微分方程式に関する数値計算演習
第12回	偏微分方程式 1	熱方程式の紹介
第13回	偏微分方程式 2	熱方程式に対する陽解法、陰解法、クランク・ニコルソン法
第14回	プログラミング演習 5	偏微分方程式に関する数値計算演習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
線形代数、微積分、微分方程式、プログラミングなど、いずれも大学初年度程度の知識を仮定する。

【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定せず、講義資料を電子媒体で配布する。

【参考書】

数値解析について詳しく知りたい場合は以下を参考にすること
森正武「数値解析」(共立出版)
山本哲朗「数値解析入門」(サイエンス社)
齊藤宣一「数値解析入門」(東京大学出版会)
皆本晃弥「C言語による数値計算入門」(サイエンス社)

【成績評価の方法と基準】

(1) 4～5回程度のレポート課題 (50%)
(2) 期末試験 (50%)
を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって理解が難しい箇所は資料を改善したり等の対処を行った。

【学生が準備すべき機器他】

自己のPCや大学の共同設備などプログラミング (C言語, python等) をできる環境の準備。

【その他の重要事項】

授業における演習ではプログラミング言語としてpythonを用いるが、レポート課題については好きな言語を用いてよい。ただし、あまりに特殊な言語では評価できない場合があるので、特殊な言語を使いたい場合は、あらかじめ相談してください。

【Outline (in English)】

(1) Course outline: This course introduces Numerical Analysis to students.
(2) Learning objectives: The goal of this course is to learn the computational and theoretical methods to solve mathematical problems in natural sciences, engineering, social sciences.
(3) Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text, understood the content, and completed the required assignments.
(4) Grading criteria/policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 50% , Reports (5 to 7 times): 50%

MAT200XF (数学 / Mathematics 200)

常微分方程式

磯島 伸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

常微分方程式とは、1変数の未知関数とその導関数が満たす方程式であり、理工学の様々な場面で登場する。この授業では、基本的な常微分方程式の解法を学ぶ。

【到達目標】

基本的な常微分方程式の解法を理解し、その実行に必要な計算力を身につける。

具体的には次の通りである。

- 1) 種々の1階常微分方程式を解けるようになる。
- 2) 定数係数2階線形微分方程式を解けるようになる。
- 3) 定数係数連立微分方程式を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な常微分方程式の解法を講義形式で解説する。講義内容に対応する演習課題をほぼ毎回出題してその理解と定着を図る。

課題の出題やそのフィードバックは、学習支援システムを通して行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	微分方程式の基礎用語
2	1階微分方程式(1)	変数分離形および同次形方程式の解法
3	1階微分方程式(2)	1階線形方程式およびベルヌーイの方程式の解法
4	1階微分方程式(3)	全微分方程式の解法
5	2階線形斉次方程式(1)	線形方程式の基礎事項、特性解が相異なる2実数の場合の解法
6	2階線形斉次方程式(2)	複素数、特性解が共役な複素数の場合の解法
7	2階線形斉次方程式(3)	特性解が実2重解の場合の解法、 n 階方程式
8	線形方程式の一般論	解空間の線形性、解の重ね合わせ
9	2階線形非斉次方程式(1)	未定係数法による解法(非同次項が基本解でない場合)
10	2階線形非斉次方程式(2)	未定係数法による解法(非同次項が基本解の場合)
11	連立微分方程式(1)	対角化による解法（固有値が相異なる実数の場合）
12	連立微分方程式(2)	対角化による解法（固有値が複素数・重複する実数の場合）
13	連立微分方程式(3)	行列の指数関数による解法
14	総括	授業内容の補足、総合演習、課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題に取り組む。

必要に応じて微分積分学・線形代数学の復習を行う。

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

磯島伸、村田実貴生、安田和弘 共著『常微分・偏微分方程式の基礎』（培風館）2020年、2420円。

【参考書】

泉英明 著『コア・テキスト 微分方程式』（サイエンス社）

バージェス、ボリー 共著『微分方程式で数学モデルを作ろう』（日本評論社）

寺田、坂田、曾布川 共著『演習と応用 微分方程式』（サイエンス社）

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の成果30%、期末試験70%の割合を基本とし、種々の常微分方程式の解法を習得したか評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・ 授業資料の配布
- ・ 課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【Outline (in English)】

(Course outline)

An ordinary differential equation is an equation that one unknown function of a single variable and its derivatives satisfy, and appears in various science and engineering scenes. In this lesson, you learn the solution of basic ordinary differential equations.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to solve the following differential equations:

- 1) Various 1st order ordinary equations
- 2) 2nd order linear equations with constant coefficients
- 3) Systems of linear differential equations with constant coefficients

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to work on the assignments.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Short report (30%), Term-end examination (70%).

MAT200XF (数学 / Mathematics 200)

複素関数 (経営)

勝島 義史

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

複素関数とは、複素数を変数とし、複素数値を返す関数のことである。複素関数に対しては極限を用いて微分可能性が定義されるが、特に各点で微分可能である複素関数を正則関数と呼ぶ。正則性は「各点で微分可能である」というだけの性質であるが、実数の場合と異なり実はとても強い条件であり、例えば、正則関数は各点でべき級数に展開できたり、領域の一点の近くの関数の値だけで、全体での振る舞いが決まってしまう。関数の定義域を複素数の世界にまで広げることにより、実数の世界でだけ考えていたときよりも関数の特性が明確になることも多い。例えば、煩雑であったり技巧的であったりした実関数の定積分の積分も、複素領域における特異点の情報を利用することにより、驚くほど簡単に計算できたりする。この講義では、上に述べた性質を含む複素関数の基本的かつ重要な性質を学び、複素数の一変数関数の微分積分を理解し計算できるようになりたい。

【到達目標】

- (1) 複素数の表し方と計算規則を理解する。
- (2) 有理関数、三角関数、指数関数をはじめ、基本的な複素関数の値や極限を計算できる。
- (3) 正則性、複素解析性、複素線積分、孤立特異点、留数など、基本的な用語の定義を理解する。
- (4) 講義で扱う、正則性と関係する重要な性質（コーシー・リーマンの関係式、コーシーの積分定理、コーシーの積分公式、留数定理など）を理解し、具体的な設定のもとで利用できる。
- (5) 留数定理の利用により、実関数の積分を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

複素数の性質、複素関数、複素関数の微分（指数関数、三角関数、対数関数）、コーシーの積分定理と積分公式、整級数展開（テーラー展開）、ローラン展開、留数定理とその応用を主に講義する。授業は講義と演習を組み合わせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	複素数のおさらい	高校で学んだ複素数についての復習，および，関数論の基礎を学ぶ。
第2回	複素数の極形式、複素数における極限	複素数の極形式，偏角の性質，ド・モアブルの定理を説明する。また，複素数における極限概念を導入する。
第3回	複素関数の導入、複素微分と正則性	複素関数の微分を定義し，コーシー・リーマンの関係式を導く。
第4回	基本的な正則関数とオイラーの公式	複素関数としての指数関数や三角関数を定義し，それらを含むいくつかの複素関数について，コーシー・リーマンの関係式を用いてその正則性を調べる。
第5回	複素関数の積分	線積分，複素関数の積分を定義しその計算を行う。次の回のコーシーの積分定理についての導入も行う。

第6回	コーシーの積分定理	正則関数の複素積分が積分路に依らないことを説明し，その応用についても説明する。
第7回	コーシーの積分公式	コーシーの積分公式を学び，積分路変形の原理を用いて様々な複素積分を計算できるようになったことを学ぶ。
第8回	べき級数と複素解析関数	べき級数の収束半径について説明し，収束円板における正則性と項別微分定理を導く。
第9回	複素解析関数の性質	複素解析関数について学ぶ。応用例として，簡単な常微分方程式の解析関数解を求める。
第10回	ローラン展開	孤立特異点をもつ複素関数のローラン展開を述べ，その計算例を与える。
第11回	留数定理	留数定理について学ぶ。
第12回	留数定理の応用例（簡単な適用、有理関数の積分）	留数定理の適用例を考察する。その中で，有理関数の広義積分を扱う。
第13回	留数定理の応用例	有理関数に限らないいくつかの実関数の広義積分を学ぶ。
第14回	まとめ	これまでに学んだ複素関数論の全体像を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。大学ですでに学んだ微分積分学を復習しておく。

特に、マクローリン展開は、関数が与えられたときにスムーズに行えることが望ましい。 $e^x, \sin x, 1/(1-x)$ のマクローリン展開は（何度が自身で導いた結果として）覚えていることが望ましい。

各回の復習は、以下の要領で行う。

- (1) 講義で学んだ用語の定義を説明できるようにする。
- (2) 講義で扱った命題・定理の主張を説明できるようにする。定理の利用例を挙げてみる。
- (3) 講義資料に記載の演習問題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

川平友規「入門複素関数」(裳華房)

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%を基本に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

A complex function is a function that takes a complex number as a variable and returns a complex number. Differentiability is also defined for complex functions using limits, and in particular, complex functions that are differentiable at each point are called regular functions. For example, a regular function can be expanded into a power series at each point, and the behavior of the function as a whole can be determined by the value of the function near a point in the domain.

By extending the domain of a function to the world of complex numbers, the properties of the function often become clearer than if it were considered only in the world of real numbers. For example, the integrals of definite integrals of real functions, which used to be complicated and technical, can be calculated surprisingly easily by using the information of singularities in the complex domain.

In this lecture, we would like to learn the basic and important properties of complex functions, including the properties mentioned above, and to be able to understand and calculate the differential and integral of complex univariate functions.

(Learning Objectives)

- (1) Understand the representation and calculation rules of complex numbers.
- (2) To be able to calculate the values and limits of basic complex functions including rational, trigonometric, and exponential functions.
- (3) Understand the definitions of basic terms such as regularity, complex analyticity, complex line integral, isolated singularity, and residue.
- (4) Understand important properties related to regularity (Cauchy-Riemann relation, Cauchy's integral theorem, Cauchy's integral formula, residue theorem, etc.) and be able to use them in specific settings.
- (5) To be able to integrate real functions by using the residue theorem.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four

hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the

exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

APC100YC（複合化学 / Applied chemistry 100）

グリーンケミストリ

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グリーンケミストリとは“環境にやさしいものづくりを目指す化学”である。現在の経済発展による豊かさを追求する社会経済システムには限界があり、今後は持続可能な循環型社会経済システムへ変革していく必要がある。資源・エネルギーは可能な限り循環させ、環境負荷をできる限り小さくすることが望まれている。ものづくりにおいては、優れた材料特性を持つとともに、低環境負荷な設計や合成プロセス、廃棄物の再資源化などが求められている。本授業ではグリーンケミストリの12箇条の概念を具体的な例を挙げて解説するとともに、過去と現在の環境問題、省エネを含めた定量的な取り扱い、廃水の再生法、廃棄物の再資源化方法、個々の環境物質の測定法、及びエコマテリアルについて解説する。

【到達目標】

この授業では、グリーンケミストリの概念を理解するとともに、これまでの環境汚染や公害問題の歴史、汚染化学物質の性質について学ぶ。さらに省エネルギー、省資源を含め再生可能なシステム、メカニズムを理解することで、身近な具体的な環境問題について化学的知見に基づき応用可能な能力を身に付けることを目標としている。

以下に達成目標を記す。

1. グリーンケミストリの概念について例を挙げて説明できる。
2. これまでの環境汚染および公害の歴史を説明できる。
3. 環境の現状と対策について説明できる。
4. 環境汚染物質の種類やそれらの特性および省エネを含めた定量的な取り扱いができる。
5. 廃水の再生法、廃棄物の再資源化方法について説明できる。
6. 個々の環境物質の測定法を説明できる。
7. エコマテリアルについて例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、5回以上のアクティブラーニング（演習または発表）を実施する。アクティブラーニングで実施した演習問題を含む聴講ノートを提出してもらう。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	本講義の全体的な説明、グリーンケミストリとは	本講義の全体的な説明とグリーンケミストリの概念（12箇条）について説明する。
2	環境問題の歴史	これまでの環境問題および公害の歴史について4大公害病を中心に説明する。
3	環境保全に関する法律	環境基準について説明する（アクティブラーニング（演習））。
4	環境における化学物質の挙動（1）	大気圏における化学物質の挙動について説明する。
5	環境における化学物質の挙動（2）	土壌圏、水圏における化学物質の挙動について説明する。（アクティブラーニング（演習））
6	環境の現状と対策について（1）	大気環境の現状と対策について説明する。
7	環境の現状と対策について（2）	水環境と土壌環境の現状と対策について説明する。（アクティブラーニング（演習））
8	廃棄物の再資源化	都市資源としての廃乾電池などやバイオマスについて、それらの再資源化について説明する。
9	環境汚染物質の測定法－大気、水質、土壌中の汚染物質の測定法	主な環境測定法について説明する（アクティブラーニング（演習））。
10	グリーンケミストリの12箇条について例を挙げて解説（1）－1～6条	グリーンケミストリの12箇条の中の1～6条に関係するものについて例を挙げて解説する。（アクティブラーニング（発表））

11	グリーンケミストリの12箇条について例を挙げて解説（2）－7～12条	グリーンケミストリの12箇条の中の7～12条に関係するものについて例を挙げて解説する。（アクティブラーニング（発表））
12	環境とエネルギー－省エネも含めた定量的な取り扱い	原子力エネルギー、新エネルギー（太陽光、太陽熱、風力、バイオマス、地熱）、燃料電池について説明する。
13	エコマテリアル－環境負荷の少ない機能性材料について	エコマテリアルについて、光分解性、生分解性プラスチック、多孔質材料について説明する。（アクティブラーニング（演習））。
14	まとめ	本講義全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】環境を化学の視点から捉えることから、化学の基礎を十分理解しておく必要がある。そのためには、基礎となる高校の化学の習得および大学1年での化学を並行して学習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

J. E. Andrews et al.“An Introduction to Environmental Chemistry”Blackwell Pub., “環境化学概論”田中稔ら、丸善, “環境と化学 グリーンケミストリー入門”荻野和子ら、東京化学同人, “陸水環境化学”藤永薫ら、共立出版, “環境白書”環境省編。

【成績評価の方法と基準】

演習問題を含む聴講ノートの提出（10％）、小テスト（20％）、レポート（20％）、期末テスト（50％）で評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Green chemistry is the study of chemical products and processes that reduce or eliminate the generation of substances hazardous to humans, animals, plants, and the environment. This course covers basic fundamentals of green chemistry, through the 12 design principles of green chemistry, and explores relevant examples of their practical use in commercial applications.

The goals of this course are to

- (1) be able to explain the 12 design principles of green chemistry,
- (2) be able to explain relevant examples of their practical use in commercial applications.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Quiz: 20%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

BOA100YD（境界農学 / Boundary agriculture 100）

環境と人間

植田 央

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会で問題となっている環境がもたらすヒト生体への影響について学ぶ。現在、人類をとりまく生活環境、社会環境の変化が著しい。そこで、様々な環境の変化のうち特に運動・身体活動の観点から考察し、生体への影響をマクロ・ミクロ的視点から学習する。

【到達目標】

様々な環境やその変化がヒト生体に及ぼす影響について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、生体に関する基礎的な内容を解説する一方で、環境と人間との関係の具体例を概説する。最新時事の話題を取り上げる場合があるため、講義内容の一部変更があり得る。但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン・オンデマンド型授業となる場合は、詳細について「学習支援システム」にて周知する。また、授業中に出された質問等に対するフィードバックは、次回授業の冒頭に解説することで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに、講義の概要	環境と人間との関連性を概観する
2	環境が人間に及ぼす影響 1	休養・睡眠
3	環境が人間に及ぼす影響 2	食生活と運動習慣による肥満と痩せへの影響
4	環境が人間に及ぼす影響 3	現代の生活環境と身体活動の変化
5	運動・身体活動と環境 1	筋の構造と機能
6	運動・身体活動と環境 2	運動と骨格筋の適応
7	運動・身体活動と環境 3	運動時におけるエネルギー供給機構
8	運動・身体活動と環境 4	運動と呼吸調節
9	運動・身体活動と環境 5	運動と循環調節
10	環境が人間に及ぼす影響 4	生活環境と骨粗鬆症・サルコペニア
11	環境が人間に及ぼす影響 5	運動がもたらす疾患への効果 1
12	環境が人間に及ぼす影響 6	運動がもたらす疾患への効果 2
13	環境が人間に及ぼす影響 7	低酸素環境と運動
14	環境が人間に及ぼす影響 8	暑熱環境と運動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義内容に関連する参考書などを読み、関連事項の概要の把握に努める。また、講義中に紹介される参考図書は、関心の深い図書を選択して、内容の理解に努める。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて学習支援システム、または授業中に資料を配付する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

1) 平常点および授業後に実施されるクイズなど: 60%

2) 学期末レポート: 40%

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

資料調査やプレゼンなど自主的な学習を重視する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン授業時には貸与パソコンを持参すること。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce the relationship between human body and environmental condition to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should be able to explain physical response to different environmental situations.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based in class contribution (50%), and the quality of the students' term end examination (50%).

PPE100YA（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物薬理学

鈴木 聡

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食料増産に貢献している植物薬理剤（農薬）について、その開発の歴史、農薬の種類、作用機構、製剤技術、法的規制、農薬の安全性評価、環境評価と規制等について学び、農薬に関する幅広い専門知識を学ぶ。

【到達目標】

農薬に関する専門知識を学び、環境に対する影響、食の安全に関する項目を学習して、植物保護における農薬の必要性和役割を理解する。実現場で正しく農薬を使用できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

初回講義で、農薬の役割、安全性、規制法の概要を解説する。各論として、農薬の種類と作用機構、製剤の種類についての講義を行う。また、農薬の使用による薬剤抵抗性・耐性菌の出現とその対応策についての講義を行う。更に、環境影響や生態毒性に関する概論を説明して、環境と調和した使用方法について講義する。フィードバックとして、授業の初めに前回の授業内容の再確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	農薬の必要性	農薬の歴史、役割、種類、使用方法
第2回	農薬の法制度および安全性評価	農薬取締法等の解説、農薬登録の仕組みおよび食品農薬残留に係わる農薬の安全性評価と法規制
第3回	生物農薬の開発	タロラマイセスフラバス水和剤の開発経緯
第4回	法政大学オリジナル新規防除剤の開発	ミョウバン、ラウリン酸カリウムによる病害防除
第5回	殺菌剤の種類	殺菌剤の作用機構、分類
第6回	殺虫剤の種類	殺虫剤の作用機構、分類
第7回	除草剤の種類	除草剤の作用機構、分類
第8回	植物生育調節剤の種類	植物生育調節剤の作用機構、分類
第9回	農薬の製剤および農薬抵抗性害虫・耐性菌	農薬製剤の種類、使用方法および農薬使用に伴う抵抗性害虫・耐性菌の発生
第10回	植物保護の新技術	物理的防除、生物的防除、天敵利用による防除、有機農法
第11回	農薬と組換え植物	遺伝子組換え植物と農薬の役割
第12回	農薬の環境動態	農薬の土壌、大気、水系における挙動と規制
第13回	農薬の生態影響	農薬の生態に対する影響と規制
第14回	新規農薬の開発	探索研究、開発手順、知的財産権

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回、授業開始までにアップロードされた資料を一読する。授業終了後に講義内容の復習を行い、理解を深める。本授業の復習時間は4時間とする。

【テキスト（教科書）】

配布する資料を用いて授業を行うので、教科書は特に指定しない。

【参考書】

難波成任監修「植物医科学」（養賢堂）
梅津憲治著 「農薬と食の安全・信頼」（日本植物防疫協会）
佐藤仁彦、宮本徹編「農薬学」（朝倉書店）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（70％）および平常点（30％）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が理解しやすいように、配布する資料の記載を工夫する。講義で使った専門用語を平易に解説して、講義全体の理解が深まるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

第3回、第4回の授業は外部講師（石川成寿：元法政大学生命科学部教授）が担当する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In the Plant Pharmacology class, students will learn a wide range of basic knowledge about pesticides that contribute to food production. Students will learn about the following aspects related to pesticides. History of pesticide development, types of pesticides, and mechanisms of action of pesticides, formulation technology, laws and regulations, safety assessment, environmental assessment, etc.

【Learning Objectives】

In the Plant Pharmacology class, students will learn the expertise of pesticides and aim to reach a level where they can play an active role in the field of agriculture.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria /policy】

Your overall grade in the class will be decided based on report assignment (70%) and learning attitude (30%)

APC100YB（複合化学 / Applied chemistry 100）

グリーンケミストリ

利谷 翔平

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グリーンケミストリは「環境にやさしいものづくりの化学」であり、グリーン・サステイナブル・ケミストリとも呼ばれている。地球は誕生から46億年かけて生命が快適に住めるような自然環境を築いてきた。人類は約6,500万年前に誕生したと考えられているが、人間は産業革命以後わずか250年で地球環境を大きく変化させた。またそこには化学反応が大きく関わっている。目的物質だけに目がいて、その結果放出された副生成物は環境汚染物質として公害の原因物質となった。グリーンケミストリでは、化学の観点から環境を捉え、人体や生態系に対するリスクの低減と環境負荷の少ない化学反応の開発やエネルギー問題などについて学ぶ。それを理解するためには、地球がどのように誕生したかを知ることは重要であり、現在地球を取り巻いている様々な環境問題について十分理解することが必要である。

【到達目標】

過去の公害問題を知り、現代の環境問題についてそのメカニズムを科学的に説明でき、解決するための知識を習得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

日常的に何らかの環境問題が話題となっていることから、見聞きする機会が多い事項である。個々人がもっている環境に対する基礎知識をより深め、化学の観点から環境問題が理解できるように学習する。毎回講義資料をプリントにして配布する。また自学自習が行えるように適宜演習問題や課題を与え、初回の講義で前回の問題の解説や課題についてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境問題の歴史	公害とは、何故起こったのか、過去・現代の環境問題について解説
第2回	グリーンケミストリ	グリーンケミストリとは、グリーンケミストリにおける12原則について解説
第3回	大気汚染	大気汚染物質とは、それに関係する環境問題について解説
第4回	酸性雨	酸性雨のメカニズム、その影響と現状について解説
第5回	オゾン層の破壊	発生のメカニズム、光化学反応、生体に及ぼす紫外線の影響について解説
第6回	地球温暖化	地球温暖化のメカニズム、温室効果ガス、地球温暖化の影響について解説
第7回	森林の減少・砂漠化	森林減少および砂漠化の原因、人間生活への影響について解説
第8回	有害化学物質	POPs（残留性有機汚染物質）とは何か、汚染の現状と生物への影響について解説
第9回	放射線	放射線とは、放射線被爆、半減期について解説
第10回	水環境	水について知る、水質汚濁の現状と対策、環境基準と排水基準について解説
第11回	環境問題における微生物の役割	環境問題に関わる微生物やそれらが担う反応について解説
第12回	エネルギー問題	エネルギー問題を理解し、現状と未来のエネルギーについて解説
第13回	資源問題	鉱物資源や廃棄物のリサイクルについて解説
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】毎回の授業内容の理解度を確保するために、授業内容に則した演習問題を解く。また理解が不十分であったところは、復習として配布資料を見直し、再度演習問題を解くようにする。

【テキスト（教科書）】

講義内容が一冊の教科書で対応できないため教科書は使用しない。毎回講義に則した資料を配布するので、各自必要に応じて参考書を参照する。

【参考書】

- ①「グリーンケミストリー 社会と化学の良い関係のために」共立出版、日本化学会編、御園生 誠著
- ②「環境化学（エキスパート応用化学テキストシリーズ）」講談社サイエンティフィック、坂田昌弘 編著

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%
期末テスト 40%
レポート 30%
上記に授業平常点 10%を考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【Outline (in English)】
(Course outline)

The aim of this course is to learn the global environmental problems and to consider how to establish the sustainable environment and energy from the standpoint of chemistry.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to learn past pollution problems, explain chemically the mechanisms of modern environmental problems, and acquire the fundamental knowledge to solve those problems.

(Learning activities)

In order to confirm how well you understand the course content, you should try to solve the practice problems given in the handouts. If some problems are difficult to solve, you should review the handouts so that you can get correct answers for all the problems. You are expected to spend four hours for a class.

(Grading Criteria)

Final grade will be decided based on midterm examination (20%), term-end examination (40%), reports (30%), and in-class contribution (10%).

BOA100YB（境界農学 / Boundary agriculture 100）

環境と人間

吉川 圭子、長谷川 敬洋

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題は、遠い世界で起きていること、自分が扱うには大きすぎる問題であり誰かによって解決されるべきものと思いがちです。しかし、私たち一人一人の行動が世界中の環境問題に大きな影響を与えます。

この講義では、主要な環境問題を知識として学ぶことはもちろん、科学的・論理的な思考過程を経て自らの考えをまとめられるようになることを目指します。また、自分たちの目が届く範囲のみならず、他国や将来世代の影響を想像できるようになることを目指します。

【到達目標】

本講義では、次の3つの目標を達成することを目指します。

1. 主要な環境問題について学ぶこと。
2. 課題に直面した時に、科学的知見に基づき是非を判断し、解決策を多角的に模索し、説明できるようになること
3. 自分とは異なる集団（年代、国、過去・将来世代）の立場を想像できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

・最初と2回目の講義は、講義全体の概説と環境問題全般について説明します。これらの講義は履修登録前ですので、成績評価には反映しません。

・その後は、6つの環境問題を取り上げます。原則として、それぞれのテーマについて、(a)そのテーマに関する知識を講義により学び、(b)数名の学生でグループを作り、そのテーマに沿った課題を題材に議論と発表を行います（グループワーク）。

・オンライン（zoom）と対面の併用により授業を行います。

・課題やレポート等の提出は、原則としてメールで行います（メールアドレスは、別途、学習支援システムを通じてお知らせします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義の概要や進め方を紹介する。
2	環境問題の俯瞰	過去から現在に至るまでの環境問題について俯瞰する。
3	問題の解決方法	問題解決に活用可能な思考過程や議論の進め方（グループワークの進め方）について学ぶ。
4	テーマ別課題1：公害	日本が経験した激甚な公害について学ぶ。
5	テーマ別課題1：公害（グループワーク）	グループワークを通じて、公害問題について考える。
6	テーマ別課題2：廃棄物・リサイクル	我々自身が出すごみが、どのような問題を生じさせているか学ぶ
7	テーマ別課題2：廃棄物・リサイクル（グループワーク）	グループワークを通じて、廃棄物・リサイクル問題を考える。
8	テーマ別課題3：気候変動	気候変動問題について、科学的知見などを学ぶ。

9	テーマ別課題3：気候変動（グループワーク）	グループワークを通じて、気候変動門について考える。
10	テーマ別課題4：原発事故	福島原発事故の影響について学ぶ。
11	テーマ別課題5：生物多様性	生物多様性の保全について学ぶ。
12	テーマ別課題6：持続可能な開発	持続可能な開発に関する国内外の取組を学ぶ。
13	テーマ別課題6：持続可能な開発（グループワーク）	グループワークを通じて、持続可能な開発に向けた取組を考える。
14	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各4時間を標準とします。

・課題図書については、あらかじめ、購読してください（電子書籍可）。

・グループワークは、前週の講義内容を基に行いますので、講義資料を手元に用意してください。

【テキスト（教科書）】

書名：FACTFULNESS(ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣

著者名：ハンス・ロスリング他

出版社：日経BP

出版年：2019年

【参考書】

指定しません（必要に応じて、講義において示します）

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績評価は、①講義への貢献50%、②グループワークへの貢献20%、③レポート30%の割合で評価します。

①講義への貢献：講義やグループワークの発表時などにおいて、クラス全体に大きな貢献をする発言（新たな問題を提起するもの、視点を転換するもの、交通整理をするもの、意見集約するものなど）を評価します。なお、オンライン講義における「チャット機能」による発言は、「講義への貢献」になりえることは少ないため、基本的には評価対象外です。

②グループワークへの貢献：グループワーク作業において、グループワーク内での議論への貢献を評価します。

③レポート：レポート課題に対する内容を評価します。

※この他、ボーナスポイントとして、レジュメ発表者には1回につき10ポイントを加点します（レジュメに対する質問等は、上記①「講義への貢献」の一環として評価します。

※なお、最初の2講義は履修登録前ですので、それらの講義の内容は成績評価には反映しません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度までの講義アンケート結果を踏まえて、引き続き、グループワークを重要視するとともに、課題図書を設定してより充実した学習効果を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

Thanks to past efforts, the environment around us has improved considerably. For this reason, you may feel that environmental problems occur somewhere far away and are solved by someone other than yourself because the problems are too big to deal with. But we need to recognise that each of our actions has a significant impact on the environment around the world. With this recognition, we also have the imagination to care not only for the environment around us, but also for other countries and future generations.

In this lecture, you will not only learn about various environmental issues, but also acquire the ability to summarise your ideas with logical thinking and scientific knowledge, and improve your imagination, which is important in dealing with environmental issues.

[Learning activities outside the classroom]

Before and/or after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading criteria]

Your overall grade in the course will be based on the following: Contribution to lectures 50%, Contribution to group work 20%, Report assignment 30%.

In addition, students may receive 10 points per presentation summarising a chapter of the textbook if they present it at the beginning of each lecture.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

高分子化学

渡辺 敏行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高分子の特徴を理解し、その利用方法を学習する。
様々な高分子の合成法について学ぶ。

【到達目標】

高分子の定義を理解しているか。
高分子の原料と化学構造の関係を理解しているか。
立体規則性を理解しているか。
平均分子量を理解しているか。
重縮合を理解しているか。
重付加、付加縮合を理解しているか。
ラジカル重合を理解しているか。
ラジカル共重合を理解しているか。
イオン重合を理解しているか。
開環重合を理解しているか。
生体高分子の特徴を理解しているか。
立体規則性重合を理解しているか。
生体高分子の特徴を理解しているか。
新しいラジカル重合法を理解しているか。
導電性高分子の電気伝導の原理を理解しているか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

教科書および授業支援システムの資料をベースにすすめる。授業中ではレ
ポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	高分子の利用方法	高分子がどのように世の中で活用さ れているかを解説する。
2	高分子とは	高分子（ポリマー）とは何か？ そ の特徴を学ぶ。高分子の定義、高分 子の化学構造と高分子の用途を知る。
3	高分子化学の歴史	高分子の歴史を伝え、学問としての 確立過程と有機材料として日常生活 との関りを広く理解する。高分子の 原料と化学構造を学ぶ。
4	立体特異性	五大汎用高分子、エンジニアリング プラスチックについて学ぶ。立体配 置、立体配座とは、高分子特有の立 体規則性（iso,syndio,atact）を実例 に基づき説明する。
5	高分子の特性・分子量	高分子の特性と平均分子量(Mn,Mw) の考え方を説明し、高分子の分子量 測定法を示す。
6	結晶性と結晶構造	結晶、非晶、液晶の違いについて解 説する。高分子の結晶構造がどのよ うにして決まるかを解説する。高分 子の密度を結晶構造から求める。
7	熱的性質	高分子のガラス転移温度、融解現象 について解説する。耐熱性高分子の 分子設計法を熱力学的に理解する。
8	まとめ1	前半の授業のまとめを行う。
9	重縮合、重付加、付加縮 合	反応度と分子量の関係、化学平衡、 重縮合の速度論、分子量分布、重縮 合高分子の具体例について学習する。 重付加および付加縮合について学習 する。
10	ラジカル重合	付加重合（連鎖重合）について学習す る。ラジカル重合の素反応、速度論、 重合度と連鎖移動について学習する。
11	イオン重合	アニオン重合、カチオン重合、イオン 重合の速度論について学習する。
12	遷移金属触媒重合、開環 重合	チーグラー・ナッタ重合、開環重合 の特徴、開環重合性、について学習 する。

13	ラジカル共重合	ラジカル共重合の速度論的取り扱い、 共重合組成式とQ-eスキームについ て学習する。 共重合によって得られる構造につい ても学習する。
14	生体高分子&新しいラ ジカル重合法&導電性 高分子	生体高分子の化学構造と特徴を学習 する。新しいラジカル重合法の原理 および導電性高分子の電気伝導の原 理を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業中に
指定された課題を次の授業までにレポートとして提出すること。

【テキスト（教科書）】

基本高分子化学
柴田充弘著 三共出版 2012年刊
ISBN-13. 978-4782706749

【参考書】

高分子化学 合成編 中條善樹、中健介 著
丸善株式会社 ISBN978-4-621-08259-1
液晶・高分子入門 竹添秀男、渡辺順次著、裳華房(2004)

【成績評価の方法と基準】

試験とテストおよびレポートと授業中の小テストの合計点より総合的に判断
する。
(中間試験+期末試験) 80点満点、(レポート) 10点満点、(小テスト) 10点
満点

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて演習問題を課す。

【その他の重要事項】

ビデオ教材、Power point、講義実験などにより、理解を深める。

【Outline (in English)】

Understand the characteristics of polymers and learn how to use them.
Learn about synthetic methods of various polymers.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

環境安全化学

大波 英幸、福島 由美子

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模で直面している様々な環境問題の原因と影響を把握すると共に、環境汚染と化学物質との関わりを理解してもらう。また、身近に存在する化学物質等のヒトの健康や環境に及ぼすリスクやその評価手法を理解することにより、環境汚染問題の解決・防止のための基礎的知識を得ようとするものである。さらに、菌や黴などが関係する環境衛生学の基礎知識を習得することを目指す。

【到達目標】

環境問題の現状と課題を把握するとともに、環境衛生について考える知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

2人の教員で授業は行う。また、1～5回の5週は環境衛生学で微生物による水汚染対策について学習し、その期末試験がB評価以上で、且つ全体の成績評価がC以上の場合、「水利用設備環境衛生士」の資格取得優待となる。6～14回の9週は、様々な環境問題の原因と影響を把握すると共に、環境汚染と化学物質との関わりを学習する。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境衛生序論	微生物が起因する諸問題について解説
第2回	環境微生物（1）	生活環境で問題になる菌について解説
第3回	環境微生物（2）	生活環境で問題になる菌について解説
第4回	設備	設備の具体的な汚染と対策について解説
第5回	まとめ	その汚染と対策
第6回	環境安全化学の関連法令など	授業の概要と進め方、および環境安全化学の関連法令等について
第7回	環境汚染（公害問題）と化学物質	日本の公害問題の歴史（原因と影響など）
第8回	地球温暖化（ヒートアイランド）とオゾン層破壊	・地球温暖化などの気温上昇に関連する環境問題の原因と影響 ・オゾン層破壊の原因と影響
第9回	様々な大気汚染	PM2.5、NOx、SOx、酸性雨などの大気汚染の原因と影響
第10回	土壌環境汚染	土壌汚染の原因と影響
第11回	水環境問題	水質汚染・汚濁の原因と影響
第12回	廃棄物問題	廃棄物と残留性有機汚染物質の原因と影響
第13回	エネルギー資源	エネルギー資源と環境問題について
第14回	まとめ	6～13回の講義のまとめなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
化学と環境について現在各自が問題意識としている点を考えておくこと。

【テキスト（教科書）】

パワーポイント資料等を必要に応じて電子媒体などで配布する。
またテキストに準ずるものについては、授業中に適宜紹介する。

【参考書】

参考となる書籍等は授業中に適宜紹介する。

・環境社会検定試験（eco検定）の公式テキスト：環境に係る問題等が網羅的に示されており入門書としておすすめ。

【成績評価の方法と基準】

1～5回（5週）については、毎回の理解度確認テストと中間レポート等を総合して全体の1/3で成績評価する。

6-14回（9週）については、出席と毎回の演習問題等を総合して全体の2/3で成績評価する。

最終的に両評価を合計して成績判定を行う。

【学生の意見等からの気づき】

膨大な内容をできるだけ分かり易く解説したい。

【その他の重要事項】

講義全体の内容は変わらないが、進行状況によっては講義内容の順番などを変更する可能性がある。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Understand the cause and effect of various environmental problems occurring on a global scale.

【Learning Objectives】

Understand the relationship between environmental pollution and chemical substances. Obtain basic knowledge for solving and preventing environmental pollution problems. In addition, acquire the basic knowledge of water environment hygiene related to bacteria and fungus.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

First half(1-5th class) examination: 34 %, Second half(6-14th class) examination : 66 %

MAC200YB（材料化学 / Materials chemistry 200）

環境安全化学

吉原 利一

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて「公害」と呼ばれた様々な環境問題があった。「公害」の特徴は、原因と結果のつながり、および被害者と加害者が明かなことである。しかし、現在我々が直面する温室効果ガスやPM2.5、マイクロプラスチックなどの問題では、一人一人が被害者であると共に問題を生じさせる加害者となっている。また、これらは国境を越えて広がるため、従来とは異なるアプローチが求められている。このため、これらの問題は単一の因果論としての自然科学ではなく、エネルギー論から地球物理学や遺伝学を含めた総合的な自然科学、そして経済・政治から個人のライフスタイルといった社会科学の知見との統合によってようやく解決できるものとなっている。

そこで、「環境科学」という学問がある。本講義では、まず人類の発展と共に変遷してきた環境問題を題材に基礎を学ぶ。そして環境を安全に保つこととは何か、我々が現在直面している、あるいは子孫が将来直面するかもしれない環境問題について解決・回避のために何が必要なのかなどについて考える。一方、近年SDGsと呼ばれる国際的な取り組みの一環として様々な分野において環境保全への関心が高まっている。あるいはESGとして国や企業、個人の活動の正当性、継続性を担保するために必須の取り組みとなっている。本講義では、このような近年の環境問題を取り巻く変化に対応しながら、また最近進歩の著しいChatGPTなどのAIを活用しながら、関連した「情報」の収集と分析、および発信のための基礎を習得することを目指す。

【到達目標】

1. 種々の環境問題に関する基礎的な知識を身につける、2. 社会的、科学的視点の双方から問題の本質を理解する、3. 他人の考えとのギャップを知ることにより、独善を排して問題解決のための方向性を見出す術を身につける、以上を総合することによって自らの社会的価値を高めるとともに、リーダーとしての滞標を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

・授業形態

講義（第1～11回） 本シラバスに示した内容に沿って進めていく。予・復習のために、グループディスカッションを除く第11回までの講義内容の概要を記した資料を、学習支援システムにアップロードする。

グループディスカッション（第12～14回） 数人の小グループに分かれて、与えるテーマについて学生同士意見を交わしてもらい、情報の収集・分析・発信の方法を身につける。また、テーマに関して収集した情報の違いや、同じ情報に接したときでも他我のとらえ方の違いなどを知る。さらに、グループごとに結論をまとめて発表を行う。基本的に対面での講義を行う。

・レポート

受講生は、課題についてレポートを提出して成績評価を受ける（成績評価の項を参照）。講義回ごとに迅速に評価し、個別にフィードバックを行う。なお、質問は4月1日以降、メール（宛先：toshihiro.yoshihara.65@hosei.ac.jp）にて随時受け付ける。なお、従来のレポート作成に代えて、ChatGPTなどのAIを活用したレポートの作成を課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと概要	授業の概要と進め方、成績評価などについて概説する。また、環境とは何かについて考える。
2	環境を形作るもの	元素、化合物、計量単位、化学の基礎などについて今後の授業において必要な知識を思い出す。特に近年話題となっているレアアースについて、環境への懸念と政治的な思惑（資源ナショナリズム）の中で製造されていることについて考える。
3	環境と生態系Ⅰ	生態系とは何かについて学ぶ。特に、土地の生産性とは何かを地理的な気候区分や具体的な農業生産の例などを通して考える。

4 環境と生態系Ⅱ

なぜ多様性が生じたのか、多様性を守る価値とは何か、種の進化と絶滅はなぜ生じるのかなどを学ぶ。特に多様性を守る価値については経済的な視点などを交えた多面的な考察を試みる。また、近年環境を語るキーワードとしてよく目にする“SDGs”と“ESG”、およびこれに関連した“LCA”について概説する。

大気の大気構造、構成要素と循環、公害と呼ばれたかつての大気汚染について学ぶ。

5 大気の大気汚染Ⅰ

6 大気の大気汚染Ⅱ

オゾン層の破壊、および温室効果ガスと地球温暖化についてそのメカニズムを学び、種々の情報の真偽を考える。また、エネルギー問題、食糧問題（フードマイレージ）など我々の暮らしとの関わりを知る。

水の物理・化学的性質と生命の発生について学ぶ。また、大気を介した水の循環、水質とは何か、および水の利用にかかわる問題（水利権、仮想水）について考える。

水の汚染や水質を守るための取り組みについて学ぶ。特に富栄養化、生物濃縮、環境ホルモンなど、これまで問題となった個々の事例について身近な浄水場や浄化槽の仕組みなどを通じて理解を深める。

7 水の汚染Ⅰ

8 水の汚染Ⅱ

9 水の汚染Ⅲ

生物濃縮の問題について、かつて大問題となり現在でも尾を引く水俣病やイタイイタイ病、および原発事故で拡散した放射性セシウムの事例をもとに学ぶ。また、酸性雨の問題について、森林の役割、衰退と環境への影響について学ぶ。

10 土の汚染Ⅰ

土とは何か、土の構成成分と構造・機能、土の汚染について学ぶ。特に農業による汚染について、および近年深刻化している砂漠化、土壌劣化、塩類集積などの問題について知見を深める。

11 土の汚染Ⅱ

植物における養分の吸収・蓄積とカドミウム・セシウム等の有害元素の吸収と蓄積・耐性について、およびこれらに関する分子機構について学ぶ。また、植物を使って土をきれいにする方法＝ファイトレメディエーションについて知る。

グループディスカッションへの導入（ディスカッション手法＝KJ法についての説明、例示など）、ディスカッションの開始。

ディスカッションの継続、発展（新たな視点の追加と活性化）。

グループごとのディスカッションのまとめと要旨の発表、④成績の基礎となるレポートについての説明。

12 グループディスカッションⅠ

13 グループディスカッションⅡ

14 グループディスカッションⅢ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

毎回のテーマについて、予習としてWEBでキーワード検索を行ったり、講義資料や参考書を読んだりする。また、復習としてレポートを書いて提出する。さらに、講義で得られた知識の確認・深化のために参考書・参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】

講義において常時使用する教材としてのテキストは指定しない。

【参考書】

吉原利一編 地球環境テキストブック 環境科学 オーム社¥3300に準拠した形で講義を進める（講義はこの情報を更新する形で進める）。また、各回講義資料に加えて参考となる様々な文献をPDFなどとして配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、講義回ごとに課すものと学期の終わりに課すものの2種類のレポートの提出によって行う。期末の試験は実施しない。講義回（第1回～第10回）ごとに課すレポートは講義資料末尾の演習問題として示すテーマから一つ選択し、指定された内容・字数を守って記述する。学期の終わりに課すものは、グループディスカッションの内容の要約、テーマに関するグループ員同士の意見の違い、総合的な考察などを基本骨格として記述する。字数は問わない。いずれも期限内に提出されないものは受け付けない。レポートの採点においては、①正確な情報と分析に基づくこと（主な出典の明記等）、②テーマに回答した論旨の明確さ・一貫性・新奇性、③文章の読みやすさ（誤字脱字等がないこと、表現力）、の3項目をそれぞれ5段階で評価し、レポート別にその点数を合計する（最大15点）。科目としての成績評価では、講義回ごとのレポートの平均点と学期末のレポートの点数を50：50として総合する。

【学生の意見等からの気づき】

実例をもとに詳述するスタイルの講義と丁寧なレポートの個別フィードバック、およびグループディスカッションを実施した過年度講義は全体的に好評だった。今期も同様に進める。一方、ChatGPTなどのAIの活用は未だ手探りの状態であるが、今期も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器。資料配布等に学習支援システムを使用。グループディスカッションの発表ではパワポファイルを作成してもらう。

【その他の重要事項】

本講義を担当する教員は、電力中央研究所等において30年以上にわたり研究業務に携わっているほか、樹木医としての活動を行っている。これらの経験を活かし、東京電力福島原子力発電所事故における帰還困難区域でのフィールドワークや天然記念物の保護活動など、研究者や樹木医を目指す学生の参考となる事例を随所で取り上げる。また、投稿論文等に掲載された「自らが得たデータ」を多く引用する。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

Even in developed countries, they had once caused many environmental problems so called “pollutions” in their economically/idealistically immature eras. These experiences are now commonly utilized not only to keep their domestic environments, but also to solve similar problems in developing countries. A common issue of such “pollutions” is understandable as a clear relationship between the cause and the result and/or between the perpetrator and the victim. However, such a clear relationship would be disappeared, and at the present time, all humankind is simultaneously a perpetrator and a victim when we face to newly happening environmental problems, such as greenhouse gas problems, PM2.5, and micro-plastics. Thus, we are still seeking for the way to solve them, which may stand on a different approach than ever. Studying the environmental sciences could lead us to the answer. It is not a sole but a total natural science, and sometimes, it includes social sciences like economy, politics, and cultural anthropology. Here, this lecture provides you a basis of “the environmental sciences” (e.g., history of pollutions and how mankind solve the problems). In addition, the lecture may promote you to deepen your mind, what is the safety in environment and how to solve environmental problems at the present time and/or in future we will face in a mean of SDGs.

The learning schedule is showing below. The numbers are showing each lecture session.

1. Guidance and Introduction - What is the Environment?
2. What makes the environment - In relation to so-called “resource protectionism”
- 3-4. The Environment and the Ecosystem - What is the productivity of the land? Is it anything with the value to protect variety, How the variety occurred?
- 5-6. Pollutions of the air - Atmospheric structure, Component and circulation, Former air pollution, Depletion of the ozone layer, and the Mechanism of the greenhouse gas effect and global warming
- 7-9. Pollutions of the water - Outbreak of physics, chemical property and the life of the water, Pollutions of the water and Approach to keep the quality of the water, Biological concentration
- 10-11. Pollutions of the soil - What is pollutions of the soil, Components, structure, and functions of the soil, Absorption and accumulation of nutrients and tolerance of toxic elements in plants in relation to our foods and health
- 12-14. Group Discussion (or debate)

[Learning Objectives]

1. To have basic knowledge for the past and the present problems
2. To understand the nature of the problems from the social and the scientific background
3. To know methodology to solve the problems without self-righteousness

[Grading Criteria /Policy]

The grading is based on reports after each lecture session and group discussion. The semester test will not be conducted. The reports are graded by following three points of views; 1. Analyzed with a correct data/information (indicate the reference), 2. Written in clear, consistent, and original sentences in response to the theme, 3. Easy to read without wrong character. It is notable that utilization of Chat GPT-like AI will be acceptable/forced by case.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

分析化学

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「分析化学」とは化学的な現象や物理的な現象を利用して、物質の組成や状態を探索する方法を学ぶ科目である。それらの現象がどのように分析に生かされているかを勉強してもらいたい。授業では、大学で学ぶ必要のある範囲の基礎分析化学を中心に講義・演習を行い、高級技術者、研究者としての基礎的な分析化学の知識を習得する事を目標とする。さらに環境分析に必要な重要な機器の一部を取り上げて機器分析化学の基礎を習得することも目標とする。

【到達目標】

1. 酸塩基反応と中和滴定について理解し計算することができる。
2. 沈殿形成について、溶解度積の観点から理解でき、計算することができる。
3. 錯形成反応を酸塩基反応として理解でき、滴定の計算をすることができる。
4. 酸化還元反応と滴定について、化学反応を理解し計算することができる。
5. 環境分析に用いる機器の原理と特徴を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、5回以上のアクティブラーニング（演習または発表）を実施する。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。授業中に実施する演習や発表について、学習支援システムを用いてフィードバックすると共に教員が学生に問いかけを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	この科目の授業概要	授業の進め方、予習と復習、評価方法について解説する。 化学における分析化学の役割（化学分析は、社会で何に役立っているかを考える。）について解説する。
2	測定値の精度および正確度、化学式量とモル、溶液と濃度、電解質の溶液とイオンの活量	化学分析における測定値の正しい取り扱い方（精度、正確度、標準偏差など）、分析化学で用いる単位、イオンと活量について学ぶ。
3	酸塩基反応と酸塩基滴定（1）	酸塩基の定義とその内容、電離平衡について学ぶ。
4	酸塩基反応と酸塩基滴定（2）	強塩基と弱酸の中和滴定および強酸と弱塩基の中和滴定曲線について学ぶ。
5	酸塩基反応と酸塩基滴定（3）	塩の加水分解、電解質溶液のpH計算法、指示薬の働きについて学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
6	第1回小テスト 沈殿と重量分析（1）	第1回小テストを実施する。 沈殿の生成機構、溶解度積について学ぶ。
7	沈殿と重量分析（2）	水酸化物の沈殿と硫化物の沈殿生成をpHの面から考える。アクティブラーニング（演習）を実施する。
8	錯化合物とキレート滴定（1）	配位結合を酸塩基反応ととらえる。キレートの種類を学ぶ。
9	錯化合物とキレート滴定（2）	EDTAのキレート滴定の条件および金属指示薬の働きについて学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
10	第2回小テスト 酸化還元反応と酸化還元滴定（1）	第2回小テストを実施する。電極電位とネルンストの式、酸化還元滴定の条件について学ぶ。
11	酸化還元反応と酸化還元滴定（2）	酸化還元電位（大小）の理解とその活用について学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
12	機器分析（1）	クロマトグラフィーの原理と特徴について学ぶ。アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。

13 機器分析（2）

紫外可視分光光度法、原子吸光分析法及び発光分光分析法の原理と特徴について学ぶ。検量線による濃度計算を行う。アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。
本授業を振り返り、まとめを行う。

14 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】分析化学は基礎学問であり、無機化学、有機化学、物理化学の基礎知識が必要となるので高校化学の知識をしっかりと身につけておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】

分析化学の基礎 木村優、中島理一郎 共著、裳華房

【参考書】

クリスチャン分析化学Ⅰ 基礎編

【成績評価の方法と基準】

講義記録（10%）、レポート（20%）、小テスト（30%）、定期試験（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【Outline (in English)】

Analytical chemistry is the study of methods of separation, identification and quantification of the chemical composition and structure of materials through chemical and physical phenomena. This course covers the basis of fundamental analytical chemistry, through the study of treatment of experimental error, acid-base equilibria, solubility equilibria, complexation equilibria, and oxidation-reduction equilibria. It also enhances the development of students' skill in carrying out an analytical chemical experiment. Other topics addressed include the basis of fundamental instrumental analytical chemistry, the basic principles of UV visible spectroscopy and different kinds of chromatography.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, Quiz: 30%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

APC200YC（複合化学 / Applied chemistry 200）

バイオエンジニアリング

稲本 進

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオプロセスに関する基礎知識を習得し、定量的な解析および設計を行うための基礎能力を養うとともに、実例を通じてバイオ技術の現状を学習する。特に、食品や医薬品の製造に関連したプロセスを生物化学工学的立場から論ずる。

【到達目標】

- 1) 酵素や微生物など生体触媒の特徴について理解する
- 2) 生体触媒の応用について具体例を知る
- 3) 生体触媒を利用する反応の速度論の基礎を理解する
- 4) 生体触媒を利用するための反応器および操作法の基礎を理解する
- 5) 生体触媒を改良するためのバイオ技術について習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

酵素や微生物など生体触媒の特徴や応用例、反応速度論、反応器の形式や操作論、生体触媒の改良に用いられるバイオ技術など、バイオプロセスに関する基礎知識を講述する。講義は基本的に対面で行い、毎回課題を出します。課題の提出は「学習支援システム」を通じて行い、その答え合わせは今回の講義の中で行う予定です。なお、感染状況が悪化すればオンライン授業を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論／食品や医薬品の製造に見るバイオプロセス	食品や医薬品の製造に関わるバイオプロセスを紹介する
2	バイオサイエンスの化学的基礎（１）	生体を構成する主な物質群、特に糖、アミノ酸、タンパク質、脂質などについて講述する
3	バイオサイエンスの化学的基礎（２）	生体を構成する主な物質、特にDNAやRNAの性質、それらからタンパク質が合成される過程について講述する
4	生体触媒の特徴（１）酵素	生体触媒としての酵素の特徴について講述する
5	生体触媒の特徴（２）微生物、動物細胞、植物細胞、ウイルス	生体触媒としての微生物と動物細胞と植物細胞とウイルスの特徴について講述する
6	酵素・微生物を利用するバイオプロセス：エネルギー関連のプロセスを例として	酵素を利用するバイオプロセスの具体例として、バイオエタノール製造、藻類バイオ燃料、バイオ電池について紹介する
7	酵素反応速度論（１）ミカエリス・メンテンの式	ミカエリス・メンテンの式を中心として、酵素反応速度論の基礎を講述する
8	酵素反応速度論（２）酵素反応の阻害	酵素反応の阻害について、各種の様式とその速度論を講述する
9	細胞が関連する生化学反応速度論	微生物の増殖速度とその影響因子について講述する

10	バイオリアクターの形式と操作設計	（１）酵素反応リアクターの各種形式とその特徴、形式別の操作設計の基礎および、（２）生体触媒の固定化法について講述する
11	生体触媒の制御と改良技術（１）代謝制御発酵	バイオインダストリーで重要な代謝制御発酵とそこで用いられる育種技術について講述する
12	生体触媒の制御と改良技術（２）遺伝子組換え技術	生体触媒の改良に使われる遺伝子組換え技術の基礎を講述する
13	生体触媒の制御と改良技術（３）ゲノム科学の進歩	ゲノム編集や次世代DNAシーケンサーなど最新のゲノム科学で用いられる技術の基礎を講述する
14	まとめ	今までの講義内容の補足と復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】準備学習は必須ではないが、復習は必ず行うこと。各回の授業内容に応じて、別途課題を与える。本授業の復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業前に授業支援システムに講義資料をアップするのでダウンロードしてください。

【参考書】

Essential細胞生物学 原書第5版（中村桂子/松原謙一/榎佳之/水島昇・監訳）南江堂
 新版生物化学工学（海野肇／中西一弘／白神直弘／丹治保典・著）講談社サイエンティフィク
 生物反応工学（山根恒夫・著）産業図書
 新生物化学工学 第3版（岸本通雅／堀内淳一／藤原伸介／熊田陽一・著）三共出版

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の課題（約18%）とレポート課題（約12%）および期末試験（約70%）を総合して評価する。但し、出席が半分以下の場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題の答え合わせをもう少し時間をかけてやることにする。声が聞き取りにくいと言う人もいたので、前の方に座るようにアナウンスする。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the basic knowledge about bioprocesses. To this end, students will learn examples of various bioprocesses as well as methods for their quantitative analysis. The course focuses especially on processes for the production of food and medicine from the aspect of biochemical industry.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

物質構造化学

緒方 啓典

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、物質の様々な性質を理解するうえで必要とされる結晶構造学の基礎を理解し、結晶構造を記述する上で必要な事項について学ぶとともに、X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析方法について学ぶ。

【到達目標】

授業の到達目標

- 1) 結晶構造を理解する上で必要な事項、用語を理解し、それらを用いて結晶構造を記述することができる。
- 2) 結晶中に存在する対称性および対称操作について理解し、32結晶点群の対称性を分別する。また、空間群を理解し、結晶構造の表記法について学ぶとともに、結晶学パラメータに基づいて回折強度を計算する方法を学ぶ。
- 3) X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析に応用できる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

物質の結晶構造は、物質のさまざまな性質と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、自ら合成した物質の結晶構造を解析する能力が必要とされる。本講義では結晶構造の基礎を系統的に学び、X線回折法に代表されるいくつかの構造解析法の基礎理論および応用例について学ぶ。

具体的な授業の実施方法については、学習支援システムを通して適宜提示します。

本講義は環境応用化学科の主要専門科目および「物質創成化学コース」の推奨科目です。（本講義の内容を理解するためには、有機化学、無機化学、物理化学に関する講義を受講しているか、それらの内容を理解していることが必要です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要説明、結晶構造解析の重要性について述べる。
2	結晶学の歴史	結晶学の歴史、有理指数の法則、晶帯則、対称性の発見、X線結晶学の歴史について学ぶ。
3	結晶格子と単位格子	結晶の要素、対称性と対称操作、対称要素、単純格子と複合格子、晶系、ブラベ格子、結晶の面指数および方向指数について学ぶ。
4	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-01	結晶中で許される対称操作と表記方法、非対称単位、対称操作の組み合わせと点群、空間群について学ぶ。
5	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-02	対称操作の組み合わせと点群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
6	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-03	対称操作の組み合わせと空間群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
7	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-04	分率座標、占有率、Z値について学び、具体的な物質について結晶構造の表記方法について学ぶ。
8	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-05	International Tables for Crystallographyの見方について学ぶ。
9	回折現象を理解するための数学	ベクトルの内積、外積、三重積、フーリエ級数とフーリエ変換、関数の畳み込み等について学ぶ。
10	X線の散乱と回折-01	原子によるX線の散乱、原子散乱因子、結晶によるX線の回折、結晶構造因子について学ぶ。
11	X線の散乱と回折-02	ブラッグの条件、逆格子の概念とエwald球の関係について学ぶ。
12	X線回折法による結晶構造解析の原理-01	回折強度と結晶構造因子の関係、消滅則、熱振動の表し方（温度因子）等について学ぶ。

13	X線回折法による結晶構造解析の原理-02	位相問題、フーリエ合成、構造精密化等、実際の結晶構造解析の手順に沿った基礎事項について学ぶ。
14	X線回折法による結晶構造解析の実際	単結晶試料および粉末試料について実際の結晶構造解析の流れの実例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で使用する資料(ppt)は事前に授業支援システムを通じて受講者に配布を行う。受講者は事前にそのファイルをダウンロードし、目を通すとともに、参考書の関連ページを読んでおくこと。授業には資料をプリントアウトして持参すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

【参考書】

- ・「X線構造解析」、早稲田嘉夫・松原英一郎著、内田老鶴圃
- ・「X線結晶構造解析」大橋裕二著、裳華房
- ・「結晶化学」基礎から最先端まで 大橋裕二著 裳華房
- など

【成績評価の方法と基準】

授業内に対面で実施する小テスト(40%)および期末試験の結果(60%)を元に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。理解できないことは放置せず、こまめに質問に来ること。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる資料は事前に授業支援システムを通じて配布する。関数電卓は準備すること。

【その他の重要事項】

講義のキーワード：結晶構造、対称性、単位格子、ブラベ格子、点群、空間群、X線、回折、実格子、逆格子、構造因子、フーリエ変換、電子密度分布
自然科学分野の国立研究機関で勤務経験を持つ教員が、その経験を生かして結晶化学の基礎的知識について講義を行う。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to present the basic concepts needed to understand the crystal structure of materials. Fundamental concepts including lattices, symmetries, point groups, and space groups will be discussed and the relationship between crystal symmetries and physical properties will be addressed. The theory of X-ray diffraction by crystalline matter along with the experimental x-ray methods used to determine the crystal structure of materials will be covered.

・ Achievement goal of class

1) To be able to understand the matters and terms necessary for understanding the crystal structure and to describe the crystal structure using them.

2) Understand the symmetries and symmetry operations that exist in crystals and discriminate the symmetries of the 32 crystal point group. You will also understand space groups, learn notations for crystal structures, and learn how to calculate diffraction intensities based on crystallographic parameters.

3) Understand the measurement methods and principles of crystal structure analysis by X-ray diffraction, and acquire knowledge that can be applied to actual measurements and analyses.

・ Learning outside of class

Materials (ppt) used in class will be distributed to students in advance through the class support system. Participants should download the file in advance, read through it, and read the relevant pages of the reference book. Print out the materials and bring them with you to class.

・ Class evaluation methods and standards

Comprehensive judgment will be made based on the results of quizzes and final exams conducted face-to-face in class.

APC200YC（複合化学 / Applied chemistry 200）

機器分析学

橋本 伸哉

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機器分析学は分析化学の一部であり、分析機器を用いて試料中の化学種や元素の状態や濃度を把握することを目的とします。この授業では、機器を用いる分離分析法の原理、適用範囲、機器分析の基礎について学びます。この授業の主な目的は、ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー、質量分析、反応速度論、酵素反応などの基礎を学び、それらを理解し、説明できるようになることです。

【到達目標】

機器を用いる分離分析法の原理、適用範囲、機器分析の基礎について学び、試料を分析する場合の分析方法の選択などについて自分で組み立てられるようになること。分析者として機器分析における用語について誤解のないように誰にでも説明できること。分析装置の原理、構成をなぜ知る必要があるのかを説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

プロジェクターと黒板を使う講義形式をとる。毎回、短い小テストを授業内で行う。小テストについては、基本的に次の授業の最初に解説を行い、また質問についても受け付ける時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クロマトグラフィーの原理と理論（クロマトグラフィーの歴史・分離の原理・カラム効率）	分離分析で用いるクロマトグラフィーについて、その歴史・分離の原理・カラム効率等について講義する。
2	クロマトグラフィーの原理と理論（速度論的理論・有効段数・分離度）	クロマトグラフィーにおける速度論的理論・有効段数・分離度等について講義する。
3	ガスクロマトグラフィー（分離・カラム）	機器分析で使用する基本装置のうちガスクロマトグラフィーに関して、分離・カラム等について講義する。
4	ガスクロマトグラフィー（検出器・定量法）	ガスクロマトグラフィーに関して、検出器・定量法等について講義する。
5	ガスクロマトグラフィー（試料の導入方法・微小内径カラム・キラル化合物の分離）	ガスクロマトグラフィーに関して、試料の導入方法・微小内径カラム・キラル化合物の分離等について講義する。
6	ガスクロマトグラフィー（二次元ガスクロマトグラフィー）・中間テスト	二次元ガスクロマトグラフィーについて講義する。その後、これまでの範囲を対象に中間テストを実施する。

7	中間テストの解説、液体クロマトグラフィー（高速液体クロマトグラフィー・固定相）	中間テストの解説を行い、その後、機器分析で使用する基本装置のうち液体クロマトグラフィーに関して、高速液体クロマトグラフィー・固定相等について講義する。
8	液体クロマトグラフィー（送液システム・カラム・検出器）	液体クロマトグラフィーに関して、送液システム・カラム・検出器等について講義する。
9	液体クロマトグラフィー（ポストカラム反応）、電気泳動法	液体クロマトグラフィーに関してポストカラム反応、電気泳動法等について講義する。
10	質量分析法（原理・分解能・ガスクロマトグラフィー質量分析法・液体クロマトグラフィー質量分析法）	質量分析法に関して、原理・分解能・ガスクロマトグラフィー質量分析法・液体クロマトグラフィー質量分析法等について講義する。
11	質量分析法（誘導結合プラズマ質量分析法・四重極質量分析装置・飛行時間型質量分析装置・タンデム質量分析）	質量分析法に関して、誘導結合プラズマ質量分析法・四重極質量分析装置・飛行時間型質量分析装置・タンデム質量分析等について講義する。
12	反応速度分析（一次反応・酵素反応・ミカエリス定数・臨床化学で定量される酵素・基質）	反応速度分析に関して、一次反応・酵素反応・ミカエリス定数・臨床化学で定量される酵素・基質等について講義する。
13	測定の自動化（自動化設備・プロセス制御・連続分析・ディスクリット式分析・フローインジェクション分析）	測定の自動化に関して、自動化設備・プロセス制御・連続分析・ディスクリット式分析・フローインジェクション分析等について講義する。
14	期末テスト・解説	これまでの範囲を基に期末テストを行い、その解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業内で毎回小テストを行うので、各自それぞれについて復習すること。授業に使用するファイルを事前に提示するので目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

クリスチャン 分析化学Ⅱ機器分析編 丸善出版 など

【成績評価の方法と基準】

毎回小テスト、中間テスト、期末テストを行う。中間テスト、期末テストでは、自筆のノートのみ持ち込み可とする。覚えているかより、内容を理解して考えているかを重点的にみる。誤字脱字、意味不明の文章などは減点対象とする。授業参画度：出席点および毎回の小テストに対する解答を授業参画度としても評価する（30％）。中間テスト（各30％）。期末テスト（40％）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テスト回答提出時に、授業に対する意見などを記してもらう。随時、質疑応答の時間を設ける予定でいる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

Instrumental analysis is a part of analytical chemistry and involves the use of analytical instruments to determine the state and concentration of chemical species and elements in a sample. The main objective of this course is to understand the fundamentals of gas chromatography, liquid chromatography, mass spectrometry, reaction kinetics, and enzymatic reactions. At the end of this course, students are expected to be able to understand and explain them. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant PDF document. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term examination: 30%, term-end examination: 40%, and in class contribution: 30%.

APC200YB（複合化学 / Applied chemistry 200）

機器分析学**猿渡 茂、野口 恵一、加藤 敏代**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義では、核磁気共鳴分光法（NMR）、X線結晶構造解析、電子顕微鏡観察などの計測法及びそれら生体高分子への応用について解説する。

【到達目標】

機器分析法の原理と生物試料への応用の基本的な考えを理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書を使用する。パワーポイントファイルを配布し、説明をする。説明に基づいてメモを取ることが期待されている。質問は、授業中及び授業後に受け付ける。オムニバス形式。授業時間の最後に小テストを行い、次の授業のはじめに解説や授業の補足説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	蛋白質構造の基礎と計測法	アミノ酸、2次構造、3次構造など（野口）
第2回	核磁気共鳴(NMR)の基本	歴史、原理、装置の構成、試料の調製（加藤）
第3回	NMRスペクトル	NMRスペクトルから読み取る情報（加藤）
第4回	NMRスペクトル解析	低分子有機化合物の構造解析演習（加藤）
第5回	NMRの応用例	定量分析、混合物分析、固体NMRなど（加藤）
第6回	蛋白質への応用	2次元NMR（加藤）
第7回	X線結晶構造解析の基本原理（1）	X線の発生、結晶によるX線の回折（野口）
第8回	X線結晶構造解析の基本原理（2）	X線結晶構造解析の基礎（野口）
第9回	X線結晶構造解析の実際（1）	X線回折測定の流れ（野口）
第10回	X線結晶構造解析の実際（2）	結晶構造解析の方法（野口）
第11回	X線結晶構造解析の応用	蛋白質の構造解析の実例紹介（野口）
第12回	透過電子顕微鏡の基礎	電子顕微鏡の原理と試料調製（野口）
第13回	透過電子顕微鏡の応用	電子顕微鏡観察の実例紹介（野口）
第14回	最近の研究課題から及び後半テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業支援システムで配布したプリント資料を受講後に復習する。宿題・レポートの提出は成績評価に使用する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

- 1) 「いきなりはじめる構造生物学」(神田大輔著、学研メディカル秀潤社)
- 2) 「分析化学実技シリーズ 機器分析編3 NMR」(田代充・加藤敏代 著、共立出版)

【成績評価の方法と基準】

出席点（25%）、小テストとレポート及び宿題（25%）、前半と後半のテスト（50%、再試験なし）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The objectives of this class are to learn the basic principles of structure determination of biomacromolecules by NMR spectroscopy, X-ray diffraction method and electron microscopy. It is important for all students to have an understanding of the basis, strengths, precision and limitations of these technique. After class, please review the materials distributed through the class support system. Attendance (25%), quizzes and reports (25%), first and second half tests (50%, no retests)

APC200YB（複合化学 / Applied chemistry 200）

バイオエンジニアリング

松田 寛子

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオプロセスに関する基礎知識を習得し、定量的な解析および設計を行うための基礎能力を養うとともに、事例を通じてバイオ技術の現状を学習する。特に、食品や医薬品の製造に関連したプロセスを生物化学工学的立場から理解する。

【到達目標】

- 1) 酵素や微生物など生体触媒の特徴について理解する
- 2) 生体触媒の応用について具体例を知る
- 3) 生体触媒を利用する反応の速度論の基礎を理解する
- 4) 生体触媒を利用するための反応器および操作法の基礎を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

酵素や微生物など生体触媒の特徴や応用例、反応速度論、反応器の形式や操作論など、バイオプロセスに関する基礎知識を講述する。毎回の授業の最後に小テスト（クイズ）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論／身近な食品や医薬品の製造に見るバイオプロセス	食品や医薬品の製造に関わるバイオプロセスを紹介する
2	バイオサイエンスの化学的基礎	生体を構成する物質の化学的性質について講述する
3	生体触媒の特性（1）酵素	生体触媒としての酵素の特徴について講述する
4	生体触媒の特性（2）微生物・動植物細胞	生体触媒としての微生物や動植物細胞の特徴について講述する
5	酵素を利用するバイオプロセス。異性化糖の製造を例として	酵素を利用するバイオプロセスの具体例として異性化糖の製造を紹介する
6	固定化酵素（固定化生体触媒）	固定化酵素について講術する
7	酵素反応速度論（1）物質収支&ミカエリス-メンテンの式	酵素反応を定量的に考えるうえで重要となる物質収支の概念と、ミカエリス-メンテンの式について講術する。
8	酵素反応速度論（2）阻害反応	ミカエリス-メンテンの式に基づき、酵素反応の阻害の形式とその特徴を講述する。酵素反応阻害にその重要性についても述べる。
9	酵素反応速度論（3）エクセルによる酵素反応速度論解析の実践	酵素反応速度論の理解向上を目指して、エクセルを使用して、酵素反応速度論的な解析を行う。
10	非水系における酵素反応&細胞が関連する生化学反応速度	非水溶媒系の酵素反応の特徴と実例、および微生物の増殖速度とその影響因子、基質と生産物の変化速度の基本的考え方について講述する
11	バイオリアクターの形式と反応操作設計の基礎	酵素反応リアクターの各種形式とその特徴について講述する。
12	微生物を利用するバイオリアクターの設計と操作	微生物を利用するリアクターの形式と操作について、特に廃水処理に利用される活性汚泥法を例として、連続培養法の基礎を講述する
13	バイオセンサー	バイオセンサーの原理・特徴とその具体例について講述する
14	バイオエンジニアリングとコンピュータサイエンスの関わり（シミュレーション、人工知能）	バイオエンジニアリングにおける、コンピュータサイエンス（シミュレーション技術、人工知能(AI)）の応用例を紹介し、バイオエンジニアリングの将来展望を講述する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】準備学習は必須ではないが、復習は必ず行うこと。特に、授業時に実施した小テストの内容については十分に理解しておくことが、単位取得のためには必要である。各回の授業内容に応じて、別途課題を与えることがある。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを介した、配布資料を主に使用する。

【参考書】

- ・新版生物化学工学（海野肇／中西一弘／白神直弘／丹治保典・著）講談社サイエンティフィク
- ・生物反応工学（山根恒夫・著）産業図書
- ・他、授業（配布資料）内で紹介した動画

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）と小テスト（20%）を総合して評価する。30分を超える遅刻をした授業日の小テストの点は評価に加えない。
期末試験を受験するためには3分の2以上の出席が必要である。3分の2以上の出席が認められない場合は、仮に期末試験を受験しても、不可とする。出席の確認は、カードリーダー（出席管理システム）と小テストへの回答の両方で行う。両方で出席が確認できた場合のみ、出席したものと判定する。

【学生の意見等からの気づき】

小テストに加えて課題を出す、動画を積極的に使用することにより、理解をより深化できるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン（学習支援システムを介して、資料を配布したり課題提出を求める）

【その他の重要事項】

- ・交通機関の遅延等で授業の出席が遅れた場合は、交通機関の発行する遅延証明書を授業終了時に必ず提出すること。
- ・体調不良で欠席した場合は、所属学部窓口にご相談へ行き、頂戴した指示に従って対応すること。
- ※学校保健安全法に定める感染症に該当するか否かが判断される。
- ・3分の2以上の出席が認められない場合は、仮に期末試験を受験しても、不可とする。
- ・「学生証を忘れたのでカードリーダーでのチェックができません。」「カートリーダーと小テストの両方での出席確認が必要だということは知りませんでした。」「小テストへの回答だけで大丈夫だと思っていました。」「出席管理システムのチェックだけで大丈夫だと思っていました。」等の言い訳は一切考慮しない。
- ・その他、一生懸命に講義を聞いている学生への迷惑行為に当たる行動は、減点し評価へ反映させる。

【Outline (in English)】

The aims of this class are:

- (1)To learn the fundamentals of bioprocess for quantitative analys and design of the process.
- (2)To understand the current status of biotechnology application for practical production.
- (3)To understand the bioprocess in food and pharmaceutical industries from the view point of biochemical engineering

MAC200YB (材料化学 / Materials chemistry 200)

分析化学

宮村 一夫

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命物質や環境物質を正しく評価するために必要な分析化学の基礎を学習する。

【到達目標】

各分析手順について、その原理や要点をマスターすることを目指す。具体的には、実験計画法、試料採取法、試料調製法、分離、検出と計測、データ処理法、化学診断法に関する系統的な知識の習得を到達目標とする。特に、データの取り扱い方、化学平衡、抽出分離など、生命科学研究に用いる分析手法の原理を学び、将来的に研究を遂行していくために必要な知識の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

- (1) 生命科学や環境科学をはじめ、様々な分野の基礎となる分析化学の基礎を学習する。
- (2) 必要に応じてプリントを配布するとともに、スライドによる講義を行う。
- (3) 課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方解説
第2回	データ処理	平均値、標準偏差、誤差とガウス関数、有効数字
第3回	化学診断	真度と精度、過誤、リスク管理、バリデーション
第4回	試料採取と試料調製	均一試料と不均一試料、溶液と化学平衡
第5回	電解質溶液	化学ポテンシャル、イオン強度、
第6回	有機物試料の試料調製	酸と塩基、酸塩基平衡、pH、緩衝溶液、
第7回	錯イオン平衡	金属イオンと配位子、錯形成反応、安定度定数
第8回	沈殿分離	溶解度曲線と沈殿曲線、溶解度積、金属イオンの分属、重量分析
第9回	電解分離	電気化学、電子の移動と酸化還元、標準酸化還元電位
第10回	抽出分離	分配平衡、キレート抽出、マスキング、協同効果
第11回	クロマトグラフィー	スラブ型とカラム型、移動相と固定相による分類、
第12回	電気泳動法	ゾーン電気泳動、キャピラリー電気泳動、等速電気泳動
第13回	分光法の基礎	光子エネルギーと物質への作用、ランバートベールの法則
第14回	分光法	X線分析、原子分光、ほか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 各回テーマが変わるので、授業後の復習により知識を確実にすることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

分析化学 黒田六郎ほか 裳華房
分析化学II 北森武彦ほか 丸善

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (80%)、平常点 (20%)、試験ではA 5判のメモ1枚持ち込み可。(対面式による期末試験を行わない場合、レポート課題により成績評価を行う。)

【学生の意見等からの気づき】

プリントを必要に応じて配る。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

生命機能学科および応用植物学科および環境応用化学科を対象とする。

【Outline (in English)】

This class is learned about a basis of analytical chemistry, for understanding about bioscience and applied chemistry.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

物質機能化学

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質の持つ様々な物性や機能は、物質の電子状態、結晶構造、凝集状態等と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、それらの機能がどのようなメカニズムで生じているか基礎的な知識が必要とされる。本講義では物質を構成する原子・分子・電子の状態、エネルギーの観点から物質の持つ様々な機能の発現メカニズムと具体的な機能性物質への応用例について学ぶ。本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目です。本講義の内容を理解するためには、物理化学、有機化学、無機化学等、化学の専門科目を受講しているか、それらの内容に関する基礎知識を持っていることが必要です。

【到達目標】

物質のもつ様々な性質（物性）について理解する。
物質の電子状態について理解する。
物質の構造、電子状態と物性の関係を理解する。
新規機能性物質開発の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業の進め方については、学習支援システムを通して適宜提示します。授業の資料は各自ダウンロードし、印刷したものを見て自習してください。さらに、参考書等を用いて自分で調べたことなど適宜書き込みを行い、自分のノートを作成してください。授業内容について不明な点がありましたら、いつでもメールで質問を受け付けています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス-講義概要	ガイダンスにて講義概要の説明を行う。
2	物質の階層性と機能性-電子-原子-結合-凝縮状態が生み出す機能性	電子-原子-結合-分子間相互作用の観点から、凝縮状態が生み出す機能性について学ぶ。
3	機能性から見た物質-物質の力学的性質-01-	物質の硬度の起源、力学的性質の表記方法、弾性変形と塑性変形について学ぶ。
4	機能性から見た物質-物質の力学的性質-02-	弾性変形および塑性変形の微視的メカニズム、マルテンサイト変態と超弾性について学ぶ。
5	機能性から見た物質-物質の熱的性質-01-	ミクロから見た熱と温度、固体の熱的性質を支配する因子、固体の熱容量と熱伝導率の微視的機構について学ぶ。
6	機能性から見た物質-物質の熱的性質-02-	固体の熱膨張と融点の関係、低熱膨張合金等、応用例について学ぶ。
7	機能性から見た物質-物質の電気的性質-01-	物質の電気的性質とバンド構造について学ぶ。
8	機能性から見た物質-物質の電気的性質-02-	金属および超伝導体の性質およびメカニズムについて学ぶ。
9	機能性から見た物質-物質の電気的性質-03-	半導体の電子的性質について学ぶ。
10	機能性から見た物質-物質の電気的性質-04-	半導体の応用例について学ぶ。
11	機能性から見た物質-物質の光学的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
12	機能性から見た物質-物質の光学的性質-02-	ミクロな観点から見た光学的特性のメカニズムについて学ぶ。
13	機能性から見た物質-物質の磁气的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
14	機能性から見た物質-物質の磁气的性質-02-	前回に引き続き、ミクロな観点から見た磁性的メカニズムと磁氣的相互作用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】事前に学習支援システムを通して配布されるプリントおよび下記参考書等を用いて準備学習および復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

【参考書】

「物性化学」：松永義夫著 裳華房
「固体の電子状態と化学」：P.A.COX 著（魚崎浩平他訳） 技報堂出版
「分子結晶」：J.D.Wright 著 化学同人
「物性論入門」：石井晃著 共立出版
「現代物性化学の基礎 -化学結合論によるアプローチ-」：小島憲道編 講談社
「化学者のための電気伝導入門」：小林浩一著 裳華房
「実験化学講座第5版 27巻 機能性物質」
「固体有機化学」小林啓二、林直人著 化学同人
「基礎量子化学・Hartree-Fock 編」中井浩巳著 丸善出版
「格子振動と構造相転移」石橋善弘著 森北出版

【成績評価の方法と基準】

授業内に対面で実施する小テスト(40%)および期末試験の結果(60%)を元に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

講義に必要な資料は全て学習支援システムを利用して配布を行う。

【その他の重要事項】

本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目となっています。将来、新物質の開発や材料化学に関する研究開発に興味がある学生は履修することをお勧めします。

【Outline (in English)】

This course is designated in the order of firstly studying important fundamental theories for understanding materials. This course offers a description of how the mechanical, thermal, electronic, optical and magnetic properties of materials originate from their electronic and molecular structure and how these properties can be designed for particular applications.

・ Attainment target

- 1) Understand various properties (physical properties) of materials.
- 2) Understand the electronic states of materials.
- 3) Understand the relationship between the structure of materials, electronic state, and physical properties.
- 4) Understand the basics of developing new functional substances.

・ Learning outside of class

Use the handouts distributed in advance through the learning support system and the following reference books to prepare for and review.

・ Grading methods and standards

Comprehensive judgment will be made based on the results of quizzes and final exams.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

物質変換化学

奥村 和

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のような物質文明に生きる私たちにとって、化学反応を利用した物質変換技術は必要不可欠な技術である。地球温暖化抑制や資源枯渇対策が急務となっている現代社会にとって、効率的に化学物質を製造する技術こそ、地球環境保全に必要なさまざまな化学物質の効率的な製造技術として重要な位置を占めてきた。一方、環境に悪影響を及ぼす化学物質を分解除去する目的にも大いに用いられている。本講義では、実用化されているものから将来の実用化が期待されているものまで、いくつかの化学工業や環境浄化に用いられる触媒技術を取り上げながら解説し、現在社会における触媒を用いた物質変換技術の重要性やその内容を学生が理解することを目的とする。

【到達目標】

触媒を用いた反応プロセスを例に挙げ、触媒の性能（活性、選択性、寿命）や反応機構に関する知識や考え方を学生が習得する。触媒の定義、種類、理論、役割、評価法など触媒に関する基礎的な知識や考え方を学生が習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業計画に従い、教室における講義を主体として進行する。授業時間内にレポート等の課題を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたレポートからいくつかの解答例を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	触媒の種類と歴史	触媒の分類および歴史に関する解説
2	不均一系触媒の概要と解説	アンモニア合成を例にした不均一系触媒の概要と特徴に関する解説
3	触媒反応の方法	触媒反応の方法と触媒活性の評価方法に関する解説
4	吸着 1	吸着のメカニズム、物理吸着と化学吸着の違いと特徴に関する解説
5	吸着 2	吸着等温式、吸着熱、比表面積の計算に関する解説
6	反応速度	速度定数、反応次数、活性化エネルギーなどの求め方に関する解説
7	触媒調製	触媒の調製方法に関する解説
8	キャラクターゼーション技術	触媒の組成や構造などを決定する方法に関する解説
9	石油精製	原油から化学品にいたる石油の分離および反応プロセスに関する解説
10	接触分解と脱硫	石油の接触分解と脱硫における反応、触媒、機構に関する解説
11	金属触媒	金属触媒の特徴と触媒作用に関する解説
12	酸化物触媒	酸化物触媒の活性、生成熱と触媒活性に関する解説
13	環境触媒	環境触媒の種類と触媒作用に関する解説
14	均一系触媒	均一系触媒の代表例と反応メカニズムに関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生が参考書や講義ノートを利用した予習・復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『新しい触媒化学＜新版＞』、菊地英一ら著、三共出版、3,080円

【参考書】

『触媒化学（化学マスター講座）』、江口浩一ら著、丸善出版、3,740円

『触媒化学 ―基礎から応用まで』（エキスパート応用化学テキストシリーズ）田中庸裕ら著、講談社、3,300円

【成績評価の方法と基準】

試験の結果(70%)を主とし、これに平常点(30%)を加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容の理解を深めるための復習の機会を充実する。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【Outline (in English)】

Course outline:

For us living in substance civilization like present, material conversion technology using chemical reaction is indispensable technology. For modern society in which global warming prevention and resource depletion countermeasures are an urgent task, technologies for efficiently manufacturing chemical substances are indispensable technologies for protecting the global environment. Most of the chemical reactions that have been put to practical use are catalytic reactions. The catalyst has a function of efficiently promoting only a specific reaction of interest through acceleration /deceleration of the reaction rate. Therefore, catalyst technology has occupied an important position as an efficient manufacturing technology of various chemical substances necessary for human life. On the other hand, it is also used for the purpose of decomposing and removing chemical substances which adversely affect the environment. In this lecture, we will explain from practical use to what is expected to be put to practical use in the future, taking up some chemical industry and catalyst technology used for environmental purification, Understand the importance of conversion technology and its contents.

Learning Objectives:

Taking the reaction process using a catalyst as an example, students will acquire knowledge and ideas about catalyst performance (activity, selectivity) and reaction mechanism. Students acquire basic knowledge and ideas about catalysts such as catalyst definitions, types, theories, roles, and evaluation methods.

Learning activities outside of classroom:

Students will prepare and review using reference books and lecture notes. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Grading Criteria /Policy:

The test results (70%) are the main factors, and the normal score (30%) is added to the evaluation.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

物質循環化学

明石 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球上においては様々な物質が変質を起しながら循環をしている。本授業では、主に鉱物資源循環の観点から、物質循環学を学ぶ。本授業で得られる知識が、環境に配慮した循環型社会の理解や構築に役立つことを望む。

【到達目標】

無機工業化学と化学工学を軸に、地球上における鉱物資源の物質循環を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書を中心として、板書とスライドを用いた講義を行う。基本的に毎回の授業中に演習を行い、授業内容の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論（地球と人類、経済）、放射性炭素年代測定法	地球と人類との関わりについて講義する。環境経済学に関しても触れる。また、放射性炭素年代測定法を理解する。
2	地球の放射年代測定（アイソクロン法）	地球の年代測定のためのアイソクロン法を学ぶ。
3	固体地球の構成	固体地球の構成とともに、どのようにしてその構成を明らかにしたかを紹介する。
4	鉱物の分類、対称性	鉱物の種類と鉱物結晶の対称性について学ぶ。
5	火成岩	火成岩とその生成機構について学ぶ。
6	変成岩、堆積岩	変成岩と堆積岩とそれらの生成機構について学ぶ。
7	地球の変動(1)	地球の変動、主にプレートテクトニクスについて学ぶ。
8	地球の変動(1)	地球の変動、主にプレートテクトニクスについて学ぶ。
9	地球の誕生と進化	地球の誕生と進化について学ぶ。
10	生命の誕生と進化	生命の誕生と進化および大量絶滅事変について学ぶ。
11	鉱物・エネルギー資源	地球における鉱物・エネルギー資源の生成過程について学ぶ。
12	地球内部での鉱物循環	地球内部での鉱物循環について学ぶ。
13	流体シミュレーション（1次元）の基礎	1次元の流体シミュレーションを行う。
14	流体シミュレーション（2次元）への導入	2次元の流体シミュレーションの導入を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
前回までの講義内容を復習して、理解を深めておくこと。また、授業の進捗状況に合わせて、次の演習で出題される範囲を予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「地球・環境・資源―地球と人類の共生をめざして― 第2版」

内田 悦生・高木 秀雄編 高木 秀雄・山崎 淳司・円城寺 守・小笠原 義秀・太田 亨・守屋 和佳・内田 悦生・大河内 博・香村 一夫著、ISBN:978-4-320-04734-1

【参考書】

現代地球科学入門シリーズ9巻「地球のテクトニクスⅠ 堆積学・変動地質学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ11巻「結晶学・鉱物学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ12巻「地球化学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ15巻「地球と生命―地球環境と生物圏進化―」共立出版

現代地球科学入門シリーズ16巻「岩石学」共立出版

「地球46億年 物質大循環 地球は巨大な熱機関である」月村勝広著、ブルーバックス、ISBN:978-4-06-534672-3

【成績評価の方法と基準】

試験(80%)と演習問題(20%)と授業へ取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、対面授業と演習を基本的に毎回実施する。

演習課題の解答例は、次々回の授業後にHoppiiにアップロードすることとする。

熱力学と流体力学と物性の話を含めていたが、物質循環化学との関連を伝えることの難しさを感じた。これらの内容を省き、地球内部での鉱物循環の内容を加えることとした。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【その他の重要事項】

無機工業化学と化学工学を軸にした物質循環化学の講義を行っている。また、鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、資源や化学工学の観点からの講義も行う。

【Outline (in English)】

(Course outline) During various materials are circulating on the earth, the character of the materials, such as shape, microstructure, phases, and crystal structure, are changing. This class mainly focuses on the circulation of mineral resources on the earth. The knowledge will help us to understand and create recycling-oriented and sustainable society.

(Learning Objectives) Students are expected to understand the chemical reaction and mechanical changes on the earth, and fundamental of introduction of computational fluid dynamics.

(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (20%), term-end examination (80%), and in-class contribution.

APC300YA（複合化学 / Applied chemistry 300）

バイオマテリアル

張 民芳

開講時期：秋学期集中/Intensive(Fall)

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオマテリアルは材料科学と生物学の融合領域を扱うため、材料と細胞や組織との相互作用などを理解することが重要である。この授業では、バイオマテリアルの化学・物理、バイオマテリアルに対する生体応答、さらに実用化の現状に関して広く学ぶことによりバイオマテリアル研究開発に役立つ知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

バイオマテリアルサイエンスでは、人工心臓などのようなマクロサイズなものから、薬剤送達システムといったミクロサイズのものまでを対象として研究・開発が進められている。そこで使われている材料は、金属などの無機物、高分子などの有機物、細胞など多種類に及んでいる。本授業では、こうした現状を理解すること、バイオマテリアルに関する基礎知識を獲得すること、それにより医療の発展に貢献できる能力を獲得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義は主にパワーポイントを使って行い、内容は教科書に沿って進める。リアクションペーパーあるいは課題解答を提出してもらい、それらのフィードバックを次回授業または学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、生体の仕組み	バイオマテリアルサイエンスの概観：分子から細胞、組織、臓器まで。
第2回	バイオマテリアル	金属・セラミックス・炭素材料（物理化学的基礎、生体応用に適した特徴）
第3回	バイオマテリアル	高分子材料（合成と構造、生体応用に適した高分子）
第4回	生体由来バイオマテリアル	細胞外マトリックス、機能性タンパク質からみた細胞と組織の機能
第5回	バイオマテリアルの性質	バイオマテリアルの物理的特性（力学、熱、表面）と生体応答
第6回	バイオマテリアル形状	バイオマテリアルの成型加工や微粒子作製と生体適合性。
第7回	生体応答	生体適合性、炎症反応、免疫応答。
第8回	医療機器	人工臓器、医療機器と材料
第9回	ドラッグデリバリーシステム	薬物送達システム（DDS）の必要性、DDS作製、体内動態、薬剤徐放、ターゲティング
第10回	再生医療	再生医療の現状
第11回	免疫系	免疫細胞の種類と役割。（参考書「図解 免疫学入門」）
第12回	バイオマテリアルに必要な解析技術	生物学的解析技術
第13回	診断とバイオマテリアル	生化学検査とイメージング
第14回	期末試験	授業全般の内容に関して試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする。バイオマテリアルと生体の相互作用では免疫応答がカギとなるので「図解 免疫学入門」にも目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「バイオマテリアルサイエンス 基礎から臨床まで 第2版」東京化学同人（山岡哲二、他、2018年、価格2600円＋税）をテキストとして使用し、このテキストにそって授業を行う。

【参考書】

「図解 免疫学入門」東京化学同人（David Male 著、山本和夫訳）、2018年、価格2300円＋税）

【成績評価の方法と基準】

主に記述式の試験によって成績評価する。小テスト2回と期末試験を1回行う予定である。点数配分は、小テストと期末試験(80%)、平常点(20%)の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

授業はテキストに沿って行うが、免疫系については適宜解説を追加する。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関連した補助プリントがある場合には、授業支援システムを通じて事前あるいは事後に配布する。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Since bio-material deals with the interdisciplinary area of material science and biology, it is important to understand the interaction between materials and cells or tissues. In this class, students will learn chemistry and physics of bio-materials, response of biological systems to the bio-materials, and recent advances of bio-materials application to medical science. The knowledge obtained from these learning will be useful to develop the research and application of new bio-materials.

MAC300YB (材料化学 / Materials chemistry 300)

分子エレクトロニクス

見附 孝一郎

開講時期：春学期集中/Intensive(Spring)

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分子エレクトロニクスデバイスの基礎に関する授業である。有機分子や金属錯体分子などの基本を学び、有機機能物質を概観し、具体的なデバイス例をとおして、構造化技術、有機・無機ナノデバイスの基礎と応用を修得する。金属、半導体、分子性固体の多様な物性を認識し、機能性物質としての応用や有機分子デバイスの開発の背景までの広範囲の知識を得る。とくに有機高分子エレクトロニクスの近年の活況に関する講説を受ける。

【到達目標】

ヒュッケル近似を核とする量子論、及び固体電子論等の基礎を復習するとともに、それらが分子エレクトロニクスという実応用においてどのように役立つかを考究する。多様な物質の電子構造に基づく光物性・導電性・磁性を考察する。対象となる物質は、有機化合物、遷移金属錯体、無機化合物、ナノ粒子などである。分子エレクトロニクスデバイス実装例から、「材料としての機能性分子開発」と「デバイスとしての機能発現」、そして「デバイスを実現するための技術開発」を総合的に理解し、背景にある物理学と化学を把握することを目指す。機能性固体の利用例として、有機EL、半導体レーザー、有機太陽電池などのクリーンエネルギー技術についても学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

8月上旬の連続した3日間の集中講義形式で授業を行う。
・学生の学修支援のため、WebClassを利用する。
・初日の午前と午後、2日目の午前と午後、3日目の午前に演習問題が課される（時間は30分程度）。学生はそれら5回の演習問題に解答し答案を提出する。第1回から第4回までは、採点された答案を学生が受け取ることでフィードバックが実施される。各人の解答に教員のコメントや提案が付けられることもある。第5回の演習問題に限っては、解答例のみ配布する。
・最終日の3日目の午後に、「ヒュッケル近似と光学遷移の選択則を題材にした試験」を行う（60分程度）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入ガイダンス、序論	物性とは何か。対象物質、光物性、導電性、磁性に関し特徴的な例を挙げる
2	物質の電子構造	分子軌道論、変分法やハートリーフォック近似
3	ヒュッケル近似に基づいた軌道安定化	クーロン積分、共鳴積分、重なり積分。永年方程式を解き、軌道間相互作用を学習する
4	共役ポリエンのヒュッケル近似	鎖状 π 共役ポリエンの固有エネルギーと固有関数。エチレンとブタジエンを例にとる
5	環状 π 共役ポリエンの電子構造、ヒュッケル則	ドナー・アクセプター分子の設計指針。共役ポリエンの光物性。ベンゼンやシクロブタジエンを例に取る。

6	遷移金属錯体の電子構造と物性	結晶場理論と配位子場理論。遷移金属錯体の磁性。スピントロニクスオーバー
7	有機物の光物性	HOMO→LUMO 遷移の遷移双極子モーメント。光学遷移の選択則。ブタジエンやヘキサトリエン
8	光誘起や脱励起の物性現象	エキシマーまたは励起子の形成。光励起電子移動。ヤブロンスキークー図を理解する
9	金属や半導体の電気伝導	固体物性の基礎。バンド構造、フェルミ準位、仕事関数や真空準位の説明
10	ポリエンの電気伝導度と電子移動度	ポリチオフェンのパルス電解生成。電気化学測定の実例
11	半導体の基本理論、PN接合	PN接合の平衡状態。空乏層、順方向バイアス、電子と正孔
12	有機半導体と金属の界面のエネルギー構造	ショットキーモデル。界面近傍のバンド曲がり
13	発光・受光素子、有機EL、半導体レーザー	発光素子の動作原理。分子間エネルギー移動、電子と正孔の再結合、有機ELの発光機構
14	色素増感太陽電池、有機薄膜太陽電池、ペロブスカイト太陽電池	太陽電池の作製法と評価法。励起子の輸送と電荷分離

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業前に、これまでに履修している科目の復習をしておいて欲しい。特に量子力学（水素分子、エチレンなど）、指定した参考書、または配位子場理論、固体物理等の入門書などに目を通しておくと、授業内容が頭に入りやすい。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に定めない。

【参考書】

キッテル固体物理学入門 第8版（上・下）C. キッテル著 宇野、他訳（丸善）
現代物性化学の基礎 第3版 小川・小島編（講談社）
分子エレクトロニクスの基礎 森健彦（化学同人）
有機半導体のデバイス物性 安達編（講談社）
物性化学 菅原正著（裳華房）
自然科学ヒストリア、16章、見附著（瀬谷出版） ISBN978-4-902381-44-3

【成績評価の方法と基準】

講義中に例題や演習を適宜行って、以下の項目に基づいて評価する。
（1）授業中の質問に対する学生の応答 20％
（2）5回の演習問題に対する解答内容から理解度を測る 50％
（3）3日目午後の「ヒュッケル近似等を題材にした試験」 30％

【学生の意見等からの気づき】

授業担当前任者からの申し送りとして、学生の理解を深めるために確認問題や演習問題の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

講義形式で授業を進める。主にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

授業中の質問は随時可能。質問はメールや WebClass でも受け付ける。5回の演習においては周りの受講生と議論しても構わないが、まずは自分でしっかり考えてみるのが望ましい。3日目午後の試験では、独力で問題に取り組まなければならない。

【Outline (in English)】

This is a class on the fundamentals of organic and inorganic electronics.

Students will learn the basics of organic molecules and transient metal complex molecules, take an overview of organic functional materials, and through specific device examples, study the fundamentals and applications of structuring technology and organic and inorganic nano-devices.

Students will recognize various physical properties of metals, semiconductors, and molecular solids. They will gain a wide range of knowledge, from their applications as functional materials to the context of the development of organic molecular devices. In particular, students will receive lectures on recent topics in electrical and electronic properties of polymer and organics.

BLS300YB (生物科学 / Biological science 300)

蛋白工学

常重 アントニオ

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to give students a succinct, yet solid knowledge of protein structure, and the many techniques to produce and alter them. Special emphasis will be given to theoretical basis for the design of protein structures from scratch (de novo). The course will also emphasize on the various techniques applied, ranging from chemical modification in already known proteins to the design and creation of new protein motifs.

【到達目標】

The enrolled student will learn first the basic physico-chemical properties and functions of proteins, starting from those of amino acids and peptides. Later, the student will learn the different goals of protein engineering, more specifically, protein design and its basic techniques and applications, using recent technologies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

Classes will be conducted in the form of presentational lectures. Handouts will be available in electronic format through the Hoppii system. The use of a personal computer is greatly advised.

Direct assessment of understanding will be conducted continuously.

As assessment of learning, quizzes and homework will be assigned periodically, and their solutions with commentaries will be explained in following sessions. Most importantly, the active participation by students during class is positively encouraged.

Submission of reports will be requested and used as feedback.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction.	Proteins. Scope of this course.
2	Structure of proteins (I).	From amino acids, to peptides, proteins, and protein macro-complexes. Basic concepts in protein structure.
3	Structure of proteins (II).	Physicochemical properties of proteins. Stabilization forces of protein structures. The hydrophobic collapse.
4	Structural analysis of proteins. Chemical modifications of proteins.	Learning from nature. Use of databases. Visualization of protein structures. Use of chemical labels.
5	Protein purification. Basic techniques.	Qualitative and quantitative techniques employed in protein purification and characterization
6	The core of this course: Protein Design	How to design and create proteins <i>de novo</i> (from scratch). Taming the destabilizing forces in protein constructs. Analyzing examples from nature.
7	<i>De novo</i> Design of Proteins (I).	The alpha helix. How to use the helical wheel. Alternative devices.
8	<i>De novo</i> Design of Proteins (II).	Design of tertiary structures in proteins.
9	<i>De novo</i> Design of Proteins (III).	The Merrifield method of protein synthesis. Protein production without the use of organisms.
10	The traditional technique to produce proteins	Cloning of a gene in bacteria. Vectors. Restriction enzymes.
11	Protein Denaturation.	Thermodynamic aspects of protein denaturation. Agglutination and agents to prevent it.

12 Protein Folding.

How the 3D-structure of proteins is determined? Was the protein folding prediction solved?

13 Monoclonal

Basic immunology. How this technique lead to a Nobel Prize.

14 Antibodies.

Introduction of engineered proteins with applications in Medicine.

Proteins in Bio-Medicine.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

Prior classes, handouts and references will be distributed through the Hoppii system. The enrolled student is encouraged to read the provided material before classes.

Quizzes and problems to be solved as homework will be distributed periodically, and their responses scored accordingly. Solution to these will be given in following classes.

【テキスト（教科書）】

The textbook shown below can be used as a textbook, although this does not cover all the topics presented in class.

改訂「酵素－科学と工学」虎屋哲夫等，講談社 （2012）

【参考書】

Handouts and references will be available in digital form from the system Hoppii.

【成績評価の方法と基準】

Final exam (or equivalent): 60%; assignments and reports: 20%; active participation in class: 20%.

【学生の意見等からの気づき】

The syllabus for the current year has been updated to focus on selected points that required more emphasis.

【学生が準備すべき機器他】

Personal computer to access the Hoppii systems. All references will be made available in digital format.

【その他の重要事項】

None.

APC300YA（複合化学 / Applied chemistry 300）

生物有機化学

芝 清隆

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、「生命」をその構成要素である「有機化合物」と、それらの相互作用によって形成される「システム」の両面から理解することを目指します。前半では、細胞を構成する物質である「有機化合物」（タンパク質、脂質、糖など）について基礎的理解を深めます。後半では、遺伝情報の複製・転写・翻訳、エネルギー獲得システム、生体膜の役割について、教科書に沿って学習を進めます。さらに、生命システムが持つ「強靱性」「階層性」「創発性」といった特性に着目し、生物の進化や疾患をこれらの観点から理解する能力を養います。授業では、宇宙誕生からの138億年、生命誕生からの40億年、人類文化の誕生からの数千年、近代科学誕生からの数百年といった多様な時間スケールを意識しながら解説を行います。また、生命科学の最先端に触れるため、がんゲノムや代謝経路などの公共データベース、AlphaFoldなどのAIツールを用いた実践的な演習を実施します。これにより、生命科学の基礎知識（タンパク質、脂質、糖、遺伝情報伝達、生体膜、代謝、酵素反応など）に加え、教科書には掲載されていない最新の知見についても学びます。なお、学習支援システムを活用し、受講者からのフィードバックを随時授業に反映させていきます。

【到達目標】

本講義は、これまでの教育課程で修得した生物学の知識を土台としつつ、「生命を新たな枠組みで捉える視点」の獲得を目標とします。単なる既習内容の復習で終わるのではなく、受講者が「生命に対する新たな見方が身についた」と実感できる学びを目指します。そのために、受講者一人ひとりが知的好奇心を持って主体的に学習に取り組める環境づくりに重点を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は教科書に沿って進めますが、各回の該当箇所について予習していることを前提とします。講義では教科書の内容に加え、関連するトピックスの紹介など、多角的な視点からの解説を行うことで理解の深化を図ります。毎回の授業の冒頭では、前回の課題の解説や受講者から寄せられた質問への回答の時間を設け、学習状況に応じたフィードバックを行います。授業では学習支援ネットワークを用いた小テストを実施するほか、後半では各種生物系データベースを活用した実習を行います。そのため、通信機器の持参が必要となります。スマートフォンでも対応可能ですが、公共データベースの操作性を考慮すると、PCの使用を推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	修道院	前半では、本授業の目的、達成目標、進め方、特徴、および評価方法（配点と合否判定）について詳しく説明します。 後半では、教科書第1章に基づき、「すべての細胞は細胞から」という生物学の基本原則について学びます。生物の構成単位としての細胞について、既習内容を確認しながら、その発見と認識の過程を科学的観点からたどります。これにより、細胞に対する新たな視座の獲得を目指します。また、学習支援ネットワークを用いた小テストを実施します。初回はシステム操作の習熟を目的とするため、評価には含めません。

2 混沌

本講では、「分ける」と「分かる」という科学的アプローチの本質について学びます。地球上には無数の細胞が存在し、その形態と機能は極めて多様です。しかし、視点を変えると、これらの細胞は驚くほど類似した基本構造を共有していることが分かります。この「多様性」と「同一性」という一見相反する特徴を、時間軸に沿って理解していきます。
さらに、科学における「分類」と「統合」の重要性について考察します。様々な事象を適切に「分ける」ことで個々の特徴を明らかにし、そこから共通性を見出して「まとめる」という科学的思考法の意義を学びます。これを通じて、「分かる」という理解の過程が、まず「分ける」ことから始まることを認識します。
本講では、「シンプルなのに複雑」という生命の本質的な特徴について考察します。細胞は多種多様な有機化合物から構成される精密な構造体であり、それぞれの有機化合物が固有の形態と機能を持っています。しかし、この複雑な有機化合物群も、水素、炭素、窒素、酸素、リン、硫黄という僅か6種類の元素から形成されているという驚くべき単純さを持っています。
この「多様性」と「単純性」の関係性について、宇宙誕生から現在に至る時間軸に沿って考察を深めます。これにより、全宇宙システムに共通する「階層性」と「創発性」の原理について理解を深めます。
本講では、「電子の偏りが生命の力」という視点から、生体有機化合物の本質に迫ります。前回学んだように、生体分子は少数の元素から構成されています。しかし、これらの基本単位（ブロック）が様々な形で組み合わせることで、驚くべき多様性を持つ分子が生み出されます。
生体有機化合物は、その多様な名称ゆえに理解が困難と思われがちです。しかし本講では、「電子の偏り」という統一的な視点を導入し、さらに各化合物の発見の歴史を紐解きながら、その多様性の本質について理解を深めます。
本講では、「演繹と帰納」という科学的思考法を軸に、生命の起源と本質について考察します。僅か6種類の元素（水素、炭素、窒素、酸素、リン、硫黄）から多様な有機化合物が形成され、それらが集合して細胞という高次の構造体を作り上げる過程は、中世の錬金術師たちを「ホムンクルス」（試験管内での人工生命の創造）という着想へと導きました。この歴史的な問いかけを出発点として、古代哲学から近代科学に至る「生命の誕生と連続性」についての考察の変遷を辿ります。これは次回以降で学ぶ「生命情報」の概念を理解するための重要な基盤となります。同時に、真理の探究における演繹的アプローチと帰納的アプローチの意義と限界について理解を深めます。

3 HORTA

4 Moby Dick

5 ホムンクルス

6	1953	物理学における「万有引力の法則」や「相対性理論」に匹敵する生物学上の大発見は何か？の問いに対する答えの1つに「1953年のDNAの二重らせん構造の発見」があるかもしれない。この場合、美しい数式で法則を記述するのではなく、「DNAの分子構造」の中から、いろいろなことが読み解けるといったことが物理の法則とは異なる点である。1953年のDNA構造の解明の感動を追体験できれば、現代生物学の半分から三分の一は理解できてしまうのではと思えるほどの重要な発見といえる。授業では、20世紀前半の物理、化学、生物学の動きが、どう分子生物学へと結晶していくかを時間軸と共に紹介し、1953年当時の「二重らせん構造の発見」の驚きの追体験をめざす。教科書の第3章相当部分。	10	負のエントロピーを食す	本講では、「生命と宇宙」という視点から、シュレーディンガーの「生命は負のエントロピーを食べている」という洞察を手がかりに、生命現象のエネルギー論的理解を目指します。核酸中心の生命観とは異なる、エネルギーの流れを軸とした生命システムの解釈について考察します。講義では、細胞のエネルギー代謝システムを復習しながら、生命活動における電子の役割の重要性について理解を深めます。さらに、分子生物学の標準的データベースであるGenBankの実習を通じて、現代の生命科学研究における情報活用の実際を学びます。
7	DNA教	本講では、「美は真実？」という問いかけを通じて、1953年のDNA二重らせん構造の発見以降、急速に発展した分子生物学の基本原則について学びます。DNAの構造美が示唆する生命の真理について考察しながら、遺伝情報の「複製」「転写」「翻訳」という中心的な概念について理解を深めます。	11	エレクトロンパレード	本講では、「生もの」と金属」という視点から、生命現象の根底にある電子の役割について考察します。素粒子の一つであるエレクトロン（電子）は、宇宙の成り立ちから生命活動に至るまで、あらゆる現象の基盤となっています。
8	ユカちゃん	これらの既習内容を、新たな視点から捉え直すとともに、小テストを通じて実践的な理解を確認します。20世紀後半の分子生物学の進展が明らかにした、生命システムの精緻な仕組みについて学びます。	12	たった2万数千遺伝子	講義では、生体内で行われる様々な化学反応を、電子の分布や移動という観点から理解することを試みます。これにより、生命現象をより根源的なレベルで捉え直し、物理学的視点と生物学的視点を統合した新たな理解を目指します。
9	SPR	本講では、「ゲノム操作とSacrosanct（神聖な領域）」という視点から、生命システムの本質に迫ります。1953年のDNA二重らせん構造の発見は、時としてDNA至上主義的な解釈を生みましたが、生命の起源における核酸分子の役割については、現在も活発な議論が続いています。	13	北京の蝶	本講では、「冬虫夏草」という視点から、ゲノム生物学が明らかにした驚くべき事実について学びます。大腸菌の約4,000個の遺伝子に対し、ヒトは約23,000個の遺伝子しか持っていないという意外な事実や、ヒトゲノムの98.5%がタンパク質をコードしていないという発見は、生命の複雑さに対する私たちの理解を大きく変えました。
		前半では、核酸分子を「包む」脂質膜の基本構造について学び、生命における「区切る」という機能の重要性について考察します。後半では、脂質分子データベースを用いた実習を行いながら、現代のゲノム操作技術とその倫理的な課題について議論を深めます。これらを通じて、生命の「神聖な領域」という概念について考える機会を提供します。			さらに、ヒトゲノムの大部分がウイルスなどの外来DNAの痕跡を含むという事実は、生物進化における種間相互作用の重要性を示唆しています。本講では、21世紀初頭から急速に発展したゲノム生物学の成果を辿りながら、生物の進化と多様性についてゲノムレベルでの理解を深めます。
		教科書の第4章に相当する内容を扱いますが、最新のゲノム編集技術や生命倫理の観点からも検討を加えます。本講では、「遺伝と変化」という観点から、生命の起源と進化について考察します。「すべての細胞は細胞から生じる」という生物学の基本原則を踏まえつつ、約40億年前に最初の細胞や核酸分子が誕生した過程について探究します。			実習では、各種ゲノム公共データベースを実際に使用し、現代のゲノム生物学研究の最前線を体験します。本講では、「因果と相関」という二つの視点から、生命現象の理解方法について考察します。人間は本質的に因果関係的な思考に親和性を持っていますが、わずか2万数千の遺伝子が織りなす無限とも言える相互作用を理解するには、新たなアプローチが必要となっています。
		この生命誕生という現象を、138億年に及ぶ宇宙の歴史の文脈の中で考察します。それが偶然的な産物なのか、あるいは宇宙の進化における必然的な帰結なのかという問いについて、科学的な視点から検討を加えます。			データサイエンスの発展により、「因果」に加えて「相関」を重視する研究手法が台頭してきました。特に医療分野などの実学領域では、相関関係の把握が極めて重要な意味を持ちます。本講では、基礎科学と実学それぞれのアプローチの特徴を比較しながら、現代の疾患研究や治療法開発の最新動向について理解を深めます。
		また、進化の理解において重要な「ダーウィンの進化論」について、一般的な誤解を解きながら、その本質的な意味を正確に理解することを目指します。			実習では、疾患関連データベースの活用を通じて、データに基づく医学研究の実際を体験します。

14 サイバネティクス

本講では、「物質→情報→マインド」という壮大な視座から、生命システムの理解に向けた学問の歴史と未来を展望します。1950年代の「マーシー会議」を起点として、「サイバネティクス」「複雑性科学」「システムバイオロジー」「ゲノム生物学」と発展してきた生命システム研究の流れを辿ります。

宇宙誕生から現在に至る138億年の歴史において、素粒子から生命、そして意識の誕生までを統合的に理解しようとする学問の挑戦を概観します。さらに、AI研究の進展により、マーシー会議の参加者たちが夢見た「物質→情報→マインド」の連続的理解が実現される可能性について考察します。

本講の最後には、これまでの学習内容を総括する「まとめテスト」を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】受講者はあらかじめ、教科書の相当する章を、十分に予習していることを前提に授業をおこなう。

【テキスト（教科書）】

入門 生化学（裳華房）著者 佐藤健
 プリント版：2,640円
 電子版：2,587円
 (2025 調べ)

【参考書】

細胞の分子生物学（ニュートンプレス）（翻訳版）
 ただし、高価なものなので特に買わなくてもよい。図書室などで必要部分を読めばよい。また、各回の授業に関連した図書・サイトの情報をその都度紹介するので、視野を深めたい学生は参考にするとよい。

【成績評価の方法と基準】

毎授業（第2回から第13回）に、ネット環境を利用して小テストをおこなう。授業の最後にはまとめテストをおこない。小テストとまとめテストの合計で成績の判定をおこなう。小テストとまとめテストの配分はそれぞれ70%、30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業中におこなう小テストの結果をふまえながら、学生の理解度を把握し、その後の授業内容に反映させる。また、学生からの「これが知りたい」といったリクエストに可能な限り対応して、興味のある事項を紹介していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用した授業中での小テストをおこなうので、必ず学習支援システムが利用できる環境で出席してください。

【その他の重要事項】

●昨年度本授業を履修した学生さんたちの感想

- *生物を履修したところある人のほうが理解しやすいと思う。未履修でも大丈夫ですよ
- *今までの大学の講義で扱われなかった進化や生物学の歴史について学べて良かったです
- *生命とは何か、また生命に関する歴史を学びたい人に向いている授業かもしれません
- *期末テスト以外でもポイントがもらえるので、テスト期間中に少し楽しみたい人におすすめです
- *環境応用化学科など生物を専門等の授業で取り扱わない学科にいるが生物について知りたい、学びたい人におすすめです
- *高校生物を広い視点で考え、学びを深めたい人に向いていると思います
- *生物の深いところをもっと知りたい方にお勧めです。ただ、私は環境応用化学科の学生であり、話についていくことは容易ではなかったので、生命機能学科の友達がいる方は一緒に履修することをすすめる。
- *生物、化学分野に不安がある人も各授業で小テストがあり先生が解説してくれるため理解しやすいです
- *先生がユニークで、授業に聞き飽きることがありませんでした。楽しい授業なので、本当におすすめです

【Outline (in English)】

This course explores life through its fundamental building blocks — organic compounds — and the complex systems they create through their interactions. Starting with the basics, we'll examine the core components of cells: proteins, lipids, and carbohydrates. We'll then delve into genetic processes (replication, transcription, and translation), energy systems, and the crucial role of biological membranes. We'll approach living systems through three key lenses: resilience, hierarchical organization, and emergence. This framework will help us better understand biological evolution and disease mechanisms. Throughout the course, we'll consider multiple timescales — from the 13.8-billion-year cosmic history to the 4-billion-year story of life, from humanity's cultural evolution to the rapid advancement of modern science. To connect theory with current research, students will gain hands-on experience with cutting-edge tools including cancer genome databases, metabolic pathway resources, and AI applications like AlphaFold. This practical component will complement our textbook-based study of fundamental concepts while exposing students to the latest developments in life science research. The course structure will be dynamic, incorporating student feedback through our learning management system to ensure an optimal learning experience.

AGC300YA（農芸化学 / Agricultural chemistry 300）

食品科学

三浦 豊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が生きていくうえで不可欠である食品について、化学的・生物学的側面から学習することで、生命にとって食品とは如何なるものであるかを理解する。また講義で得られた知識をもとに学生諸君の食生活を見直し、健康な生活を送るための指針とすることを目標とする。さらに食品を取り巻く法的、社会的、産業的な動向についても理解を深めることを目標とする。

【到達目標】

日常摂取している食品がどのような成分から構成されており、我々の健康維持とどのように関わっているか、という点に関して理解し、考える機会を持つようになることが目標である。具体的には、我々は何のために食品を摂取するのか、食品はどのような成分から構成されているのか、食品成分はどのような化学的性質を有しているのか、食品成分が生体にどのような影響を及ぼすのか、を理解し、食品と生体とのかわりを総合的に理解することも目標とする。また最終的には講義で学習した内容を日々の食生活に生かしていけるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義の前半では食品に含まれる成分について、その分類、化学構造、生物機能を順次学習する。食品中には栄養素と非栄養素が含まれているため、5大栄養素と非栄養素について順次解説を行う。中間テストを挟み、講義後半では、食品と健康との関わりについて学習する。具体的には食品と病気（メタボリックシンドローム、糖尿病、癌）との関連を学習する。講義は配布するプリントに基づき実施する。課題等の提出やそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。さらに最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説を行い、最終試験に向けた学習の指針も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を解説し、食品と生命の関わりについてオーバービューすると同時に最新のトピックスを紹介する。
第2回	食品成分の化学1	食品成分中の糖質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第3回	食品成分の化学2	食品成分中のアミノ酸、ペプチド、タンパク質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第4回	食品成分の化学3	食品成分中の脂質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第5回	食品成分の化学4	食品成分中のミネラルと水溶性ビタミンについて化学的な側面と生物機能を講義する。
第6回	食品成分の化学5	食品成分中の脂溶性ビタミンと非栄養素について化学的な側面と生物機能を講義する。
第7回	食品成分の生物学1	食品成分の消化・吸収について講義する。
第8回	食品成分の生物学2	食品成分の代謝とその調節機構について講義する。
第9回	中間テスト	前半の講義内容に関して中間テストを行う。
第10回	食情報について	食品と健康の関係を食品が含有する食情報という観点から講義する。
第11回	食品とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームと食品の関わりについて講義する。
第12回	食品と糖尿病	糖尿病と食品の関わりについて講義する。
第13回	食品と癌	癌と食品の関わりを講義する。
第14回	これからの食品科学	個人の体質に合った食習慣や食品を利用した先制医療など食品科学の将来を論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習を行う必要はないが、講義で学習したことの復習を行い、質問等があれば、翌週の講義時に聞くこと。また食品という日常生活に関連するものを対象とする講義であるため、毎日の食生活に学習した内容をフィードバックすることを常に意識してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントを用いて行うが、講義資料は学習支援システムを介して配布する。

【参考書】

「食品の科学」上野川修一、田之倉優編、東京化学同人
「健康栄養学」－健康科学としての栄養生理化学－ 小田裕昭、加藤久典、関泰一郎編、共立出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、中間テスト（30%）、期末テスト（60%）とする。中間テスト、期末テストともに講義内容の理解度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多岐にわたり、情報量が多くなる傾向があるため、大事な個所には時間を十分に掛けるなど、講義のメリハリをよりはっきりとつけるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

目標にも記載しましたが、食品は毎日摂取する身近なものであると同時に皆の生命を支える根幹です。講義内容をよく理解し、自らの食生活を見直すきっかけとなることを期待します。

【Outline (in English)】

Food is well known to be important for our life. In this lecture, the chemical and biological properties of foods are lectured. From this lecture, students will be able to get some knowledge for living better and healthy. The legal, social and industrial aspects of food development and food industry will be also lectured.

For this lecture, a work outside of class is not needed particularly, but the content of the lecture may be familiar for you and your daily life. So, the knowledge you will get in the lecture may be anticipated to be applicable for your healthy life.

For grading, your attitude in the class (10%), midterm test (30%), and final test (60%) will be evaluated. Both the midterm test and the final test will assess the level of understanding of the lecture content.

BLS300YA（生物科学 / Biological science 300）

遺伝子工学

佐藤 勉

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物を応用する技術である遺伝子工学は、医療、福祉、食糧生産などの発展に大きく貢献している。生命分野を目指す学生にとって、これらの技術の理解は欠かせない。遺伝子操作技術の基礎はもちろん、最新の技術まで理解し、応用する能力を養う。

【到達目標】

本講義は、分子生物学を基軸とする基礎から最先端までの遺伝子工学の幅広い理解を目指す。また、この講義で学んだ知識を日々の研究活動で実践するに至るまで深化させることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

遺伝子工学の基礎となる分子生物学が十分に理解されていることを前提に講義を行う。従って、分子生物学または関連する講義を既に履修していることが望ましい。パワーポイントを用いて説明する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	授業の進め方・概要
第2回	歴史	遺伝子工学発展の歴史
第3回	DNA取扱いの基本	制限酵素・リガーゼ・電気泳動
第4回	プラスミド	プラスミドの構造
第5回	遺伝子のクローニング	プラスミドベクター
第6回	新しいクローニング法	PCRを使ったシームレスクローニング
第7回	PCRの応用と真核生物へのクローニング	PCRを用いたDNA定量方法、酵母へのクローニング
第8回	中間試験と解説	前半の学習内容の試験と解説
第9回	相同組換え	相同組換えによるゲノムへの遺伝子導入
第10回	塩基配列決定法	サンガー法、次世代シーケンシング
第11回	ハイブリダイゼーション	サザン・ノーザンハイブリダイゼーション、マイクロアレイ
第12回	ライブラリーの利用	ライブラリーを用いたクローニング法
第13回	タンパク質発現系	異種タンパク質発現に用いる宿主・ベクター
第14回	医療への応用	医療への応用、レポーターアッセイ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】テーマ・内容のキーワードをもとに予め概要を理解して授業に臨むこと。体系的に講義を進めるため、復習は大事である。遺伝子工学の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。

【参考書】

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。

バイオ実験の原理（羊土社）

遺伝子工学（講談社）

遺伝子工学の原理（三共出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点(20%)、中間(40%)及び期末(40%)試験の結果を成績として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のノートを取るスピードに配慮して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いて講義を行う。

【Outline (in English)】

This course introduces genetic engineering to students taking this course. The overall goal of this lecture is to make students understand the basic and latest techniques of gene recombination. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution.

BLS300YB (生物科学 / Biological science 300)

生体超分子

曾和 義幸

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

酵素反応・エネルギー変換・情報伝達などの多くの機能を内包する生体分子モーターに着目し、生体内で機能するタンパク質複合体について学ぶ。また、生体分子モーターの研究とともに発展した1分子計測技術の基本を学ぶ。

【到達目標】

細胞内における分子の動きに着目し、その動きを捉えるために必要な知識を得る。近年発展している生物学とナノテクノロジーの融合分野について知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

板書とスライドを併用した講義とする。講義内では演習問題を解いてもらうことで、定量的に生命現象を理解することを目指す。レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する。生体超分子について概説する。
2	生体を構成する分子の特徴とスケール	生物にみられる階層性とそのスケールについて概説する。
3	生体分子モーターの基本	生体分子モーターの種類・エネルギー源・構造などの基本情報を概説する。
4	細胞内における分子のブラウン運動(1)	分子の動きについて流体力学的観点から概説する。
5	細胞内における分子のブラウン運動(2)	分子の動きについて理解するために、1次元ランダムウォークを導入する。
6	細胞内における分子のブラウン運動(3)	演習をおこなう。表計算ソフトを利用して、1次元ランダムウォークを発生させる。その計算結果を検討し、分子運動への理解を深める。
7	細胞内における分子のブラウン運動(4)	細胞内でランダムウォークする分子の具体例をあげて、その動きを計算する。
8	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする。
9	生体分子モーターの計測手法	生体分子モーターの動きを計測する手法について概説する。
10	蛍光観察法	蛍光観察法の利点・生物学への応用例について解説する。
11	分子イメージング	1分子の蛍光分子を見る手法について解説する。超解像顕微鏡について概説する。
12	分子操作・ナノ計測	分子を操作する技術、分子の動きをナノメートルの精度で計測する技術の解説をおこなう。
13	生体分子モーターの研究	生体分子モーターの機能解析の歴史について概説する。

14 総括

講義全体を通じて、理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義では、物理的な視点で生体分子の動きをとらえるために、簡単な計算を演習問題として紹介する。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるをえない場合があるので、各講義の終了後に各自で計算をおこなう。また、各講義で取り扱うトピックに関連して紹介した論文を読む。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では視覚的教材やプリントを利用する。

【参考書】

大沢文夫「講座：生物物理学」丸善
石渡信一編「生体分子モーターの仕組み」共立出版
など

【成績評価の方法と基準】

中間試験(50%)・期末試験(50%)の合計点数によって評価する。ただし、試験を実施できない事情があった場合、適宜課す予定のレポート・演習で評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

講義でおこなう演習の例数を増やし、できる限り丁寧に紹介したい。また、PCを使った演習も引き続きおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

演習で貸与PCを用いる。

【その他の重要事項】

元学術調査官（文科省）で科研費・新学術領域を担当した経験から、生物学と物理学の異分野融合に重点をおいた講義をおこなう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of single molecule biology. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination (50%) and term-end examination (50%).

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

基礎有機化学 I

河内 敦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎有機化学 I および II を通して有機化学の基本事項について学ぶ。

2022年度から新しい教科書になりました。それにともない講義の方法も変えました。

これまで、教科書の要点を資料（パワーポイント）にまとめてそれを講義で説明するという方式をとってきました。パワーポイントはあくまで要点をまとめたもので、受講生は講義後に教科書の該当箇所を読んで復習することを前提としていました。しかしいつのまにか、パワーポイントに書いてあることだけを勉強すればいいのだという風潮が出てきました。ことあるごとに教科書を読むようにと訴えてきましたがあまり通じなかったようです。そこで2022年度から、基本的には資料（パワーポイント）を用いずに、教科書をもとに講義を進めていきます。教科書をスクリーンに投影しての授業になりますので、教科書を持っていることが前提になります。受講生には「教科書をよく読む」という姿勢を身につけてもらいたいです。それにより有機化学の体系化を目指します。

【到達目標】

- (1) 有機化合物の種類と性質について基本的な事項を理解する。
- (2) 有機化合物の構造、反応および合成についての基本事項を学ぶ。個々の事項を暗記するのではなく、有機化学全体を貫く考え方を身につけることを目標にしたい。そのために、教科書を繰り返し読んで、有機化学の論理体系（考え方の筋道）を身につけてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「スクリーンへ教科書を投影する」及び「黒板へ板書する」ことを中心に、適宜、補助プリントの配布をおこなう。状況によってはオンライン、動画配信なども活用する。授業の理解度をチェックするために「演習シート」（紙媒体）を用いて基本事項の確認を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	有機化学の歴史
第2回	1章 化学結合と混成軌道(1)	原子と原子軌道，電子配置
第3回	1章 化学結合と混成軌道(2)	化学結合と原子価，分子の極性，Lewis 構造式
第4回	1章 化学結合と混成軌道(3)	分子の形と軌道（混成軌道）
第5回	2章 有機化学に関する基礎知識	表記法，構造異性体，酸化数，共鳴，有機化学反応の基礎
第6回	3章 酸と塩基	酸と塩基の定義，強さの尺度，酸性度，塩基性度，pKa
第7回	4章 アルカンとシクロアルカン(1)	アルカンの命名法，立体配座
第8回	4章 アルカンとシクロアルカン(2)	シクロアルカンの形，立体配座，置換シクロアルカンの異性体
第9回	4章 アルカンとシクロアルカン(3)	シクロアルカンの形，立体配座，置換シクロアルカンの異性体
第10回	5章 有機立体化学(1)	キラリティー，CIP 順位則，エナンチオマー，Fischer 投影式
第11回	5章 有機立体化学(2)	キラリティー，CIP 順位則，エナンチオマー，Fischer 投影式
第12回	8章 有機ハロゲン化合物(1)	構造，命名法，合成
第13回	8章 有機ハロゲン化合物(2)：置換反応	二分子求核置換反応，単分子求核置換反応
第14回	8章 有機ハロゲン化合物(3)：置換反応	二分子求核置換反応，単分子求核置換反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

教科書，板書ノート，配布プリントを復習する。特に教科書は繰り返し読んで，自分の中に有機化学の一本の筋道を作ること。

【テキスト（教科書）】

・松島芳隆，渡邊総一郎，古荘義雄著「基礎講座 有機化学」化学同人

【参考書】

サブテキストとして：

・赤染元浩，河内敦，松本祥治，三野孝著「スパイラル有機化学」筑波出版会

【成績評価の方法と基準】

授業への出席および課題への取り組みは単位取得の前提条件である。出席率およびチェックテスト・課題提出率が6割に満たない場合は成績評価の対象としない。

成績評価の目安は以下の通り。状況に応じて適宜変更する。

期末試験(80%)＋確認テスト・課題シート(20%)

【学生の意見等からの気づき】

基本事項を確実に理解させることに努める。

【Outline (in English)】

(Course outline)

You learn basic organic chemistry through "Basic Organic Chemistry I"(spring term) and "Basic Organic Chemistry II"(fall term).

In"Basic Organic Chemistry I"(spring term) , you can learn the basic concepts of organic chemistry including bonding in organic molecules, nomenclature of organic compounds, stereochemistry, acids and bases, nature and reactions of alkanes, alkenes, and alkynes.

(Goal)

(1)Students will understand basic types and nature of organic compounds.

(2) Students will learn structures, reactions, and synthesis of organic compounds.

Students should read the textbook repeatedly to learn the concept of organic chemistry consistently.

(Work to be done outside of class)

Students should review the textbook, note, and printed matter.

(Grading criteria)

Students must attend the class (60%) and submit the assignment

Term-end examination: 80%; Assignments: 20%

(Schedule)

1. Introduction

2. Chemical Bonding and Hybrid Orbitals(1)

3. Chemical Bonding and Hybrid Orbitals(2)

4. Chemical Bonding and Hybrid Orbitals(3)

5. Basic Knowledge of Organic Compounds

6. Acids and Bases

7. Alkane and Cycloalkane(1)

8. Alkane and Cycloalkane(2)

9. Alkane and Cycloalkane(3)

10. Organic Stereochemistry(1)

11. Organic Stereochemistry(2)

12. Organohalides(1): Substitution Reactions

13. Organohalides(2): Substitution Reactions

14. Organohalides(2): Substitution Reactions

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

基礎有機化学 I

河内 敦

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎有機化学 I に続いて有機化学の基本事項について学びます。そのため、春学期の基礎有機化学 I を受講していることが前提になります（基礎有機化学 I 未受講者に対する特別な配慮はおこないません）。

2022 年度から新しい教科書になりました。それにともない講義の方法も変えました。これまで、教科書の要点を資料（パワーポイント）にまとめてそれを講義で説明するという方式をとってきました。パワーポイントはあくまで要点をまとめたもので、受講生は講義後に教科書の該当箇所を読んで復習することを前提としていました。しかしいつのまにか、パワーポイントに書いてあることだけを勉強すればいいのだという風潮が出てきました。ことあるごとに教科書を読むようにと訴えてきましたがあまり通じなかったようです。そこで 2022 年度から基本的には資料（パワーポイント）を用いずに、教科書をもとに講義を進めていきます。教科書をスクリーンに投影しての授業になりますので、教科書を持っていることが前提になります。受講生には「教科書をよく読む」という姿勢を身につけてもらいたいです。それにより有機化学の体系化を目指します。

【到達目標】

- (1) 有機化合物の種類と性質について基本的な事項を理解する。
- (2) 有機化合物の構造、反応および合成についての基本事項を学ぶ。個々の事項を暗記するのではなく、有機化学全体を貫く考え方を身につけることを目標にしたい。そのために、教科書を繰り返し読んで、有機化学の論理体系（考え方の筋道）を身につけてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

「スクリーンへ教科書を投影する」及び「黒板への板書する」ことを中心に、適宜、補助プリントの配布をおこなう。状況によってはオンライン、動画配信なども活用する。

授業の理解度をチェックするために「演習シート」（紙媒体）を用いて基本事項の確認を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	8章 有機ハロゲン化合物(1)	有機ハロゲン化合物の復習：置換反応
第2回	8章 有機ハロゲン化合物(2)	二分子脱離反応と単分子脱離反応
第3回	9章 アルコールとフェノール(1)	アルコールおよびフェノールの構造と命名法、物理的性質
第4回	9章 アルコールとフェノール(2)	アルコールおよびフェノールの合成と反応
第5回	10章 エーテルとエポキシド(1)	エーテルの構造と命名法、合成、反応
第6回	10章 エーテルとエポキシド(2)	エポキシドの構造と命名法、合成、反応
第7回	6章 アルケンとアルキン(1)	アルケンの命名法、立体配置、求電子付加反応
第8回	6章 アルケンとアルキン(2)	アルケンの反応と合成（求電子付加反応を中心に）
第9回	6章 アルケンとアルキン(3)	アルキンの反応と合成
第10回	7章 芳香族化合物(1)	ベンゼンとベンゼン環
第11回	7章 芳香族化合物(2)	芳香族求電子置換反応
第12回	7章 芳香族化合物(3)	芳香族求電子置換反応における置換基効果
第13回	15章 アミンとそれに関連した窒素化合物(1)	アミンの構造と命名法、性質
第14回	15章 アミンとそれに関連した窒素化合物(2)	アミンの塩基性と求核性、合成と反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
教科書、板書ノート、配布プリントを復習する。特に教科書は繰り返し読んで、自分の中に有機化学の一本の筋道を作ること。

【テキスト（教科書）】

・松島芳隆、渡邊総一郎、古荘義雄著「基礎講座 有機化学」

【参考書】

サブテキストとして：

・赤染元浩、河内敦、松本祥治、三野孝著「スパイラル有機化学」筑波出版会

【成績評価の方法と基準】

授業への出席および課題への取り組みは単位取得の前提条件である。出席率およびチェックテスト・課題提出率が 6 割に満たない場合は成績評価の対象としない。

成績評価の目安は以下の通り。状況に応じて適宜変更する。

期末試験 (80%) + 確認テスト・課題シート (20%)

【学生の意見等からの気づき】

基本事項の理解に努める。

【Outline (in English)】

(Course outline)

You learn basic organic chemistry through "Basic Organic Chemistry I"(spring term) and "Basic Organic Chemistry II"(fall term).

In "Basic Organic Chemistry II"(fall term), you can learn the basic concepts of organic chemistry including synthesis, reactions, structures, and natures of aromatic compounds, alcohols, ethers, epoxides, ketones, aldehydes, carboxylic acids, carboxylic acid derivatives, and amines.

(Goal)

(1) Students will understand basic types and nature of organic compounds.

(2) Students will learn structures, reactions, and synthesis of organic compounds.

Students should read the textbook repeatedly to learn the concept of organic chemistry consistently.

(Work to be done outside of class)

Students should review the textbook, note, and printed matter.

(Grading criteria)

Students must attend the class (60%) and submit the assignment

Term-end examination: 80%; Assignments: 20%

(Schedule)

1. Review of Organic Halides
2. Organic Halides: Elimination Reactions
3. Alcohols and Phenols(1)
4. Alcohols and Phenols(2)
5. Ethers and Epoxides(1)
6. Ethers and Epoxides(2)
7. Alkenes and Alkynes(1)
8. Alkenes and Alkynes(2)
9. Alkenes and Alkynes(3)
10. Aromatic Compounds(1)
11. Aromatic Compounds(2)
12. Aromatic Compounds(3)
13. Amines and Other Nitrogen Compounds(1)
14. Amines and Other Nitrogen Compounds(2)

APC200YC（複合化学 / Applied chemistry 200）

応用環境化学

渡邊 雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題で、汚染物質（化学物質）が環境中に放出された場合の汚染物質の挙動、正確な分析法や処理法について学ぶ。また汚染状況を事前に推定するために必要な汚染物質の定量的な取り扱いと、問題解決のためのモデルの立て方について学ぶ。

【到達目標】

環境中での汚染物質の挙動を理解できる。
汚染物質の正確な分析法と処理法を理解できる。
汚染物質の定量的な取り扱いができる。
環境問題解決のためのモデルの立て方とその解析法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、毎時間アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。授業中におこなう演習について、学習支援システム等を利用してフィードバックすると共に教員が学生に問いかけをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	序論	授業の概要、進め方について説明する。
2回	汚染物質の水環境中での挙動	汚染物質の水環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。
3回	汚染物質の大気環境中での挙動	汚染物質の大気環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。
4回	汚染物質の土壌環境中での挙動	汚染物質の土壌環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。（アクティブラーニング（演習））
5回	大気、水、土壌のサンプリング	大気、水、土壌のサンプリング手法について説明する。（アクティブラーニング（演習））
6回	水質分析①	BOD、COD、DO等の水質分析法について化学式を用いて説明する。
7回	水質分析②、大気分析、土壌分析	湖沼等の富栄養化の主因である窒素、リンの水質分析法、大気、土壌の分析法について化学式を用いて説明する。（アクティブラーニング（演習））
8回	水質汚染物質の基本的処理法①	凝集沈殿、ろ過、イオン交換について説明する。
9回	水質汚染物質の基本的処理法②	吸着、触媒、酸化還元、抽出について説明する。（アクティブラーニング（演習）：エクセルを用いた吸着等温式の作成）
10回	水質汚染物質の基本的処理法③	電解、蒸発、晶析、脱水（汚泥処理）について説明する。
11回	水質データの処理法	ヘキサダイアグラム等水質データの処理方法について学ぶ。（演習：エクセルを用いたヘキサダイアグラムの作成）
12回	排水モデル	都市や工場から排出された汚染物質の処理効率と河川・湖の汚染状況を解析する。
13回	地球環境モデル	地球を大気、水、生物、土壌相を含む地球環境モデルを想定し、それら環境中での汚染物質の濃度を、各種条件下で解析する。（アクティブラーニング（演習））
14回	まとめ	本授業を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】化学反応速度、吸着、物質移動係数などの化学的基礎を学習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。資料がある場合、適宜配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

講義記録（10％）、レポート（20％）、小テスト（20％）、定期試験（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Environmental chemistry is the study of chemical and biochemical phenomena that occur in natural places. Applied environmental chemistry is the study of how chemistry is applied to measuring, estimating and predicting chemical phenomena in air, soil, and water environments. This course covers basic applied environmental chemistry, through the study of, behaviors of pollutants, quantitative analytical methods of pollutants and environment evaluation models. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 50%, Quiz: 20%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

分子生物学 I

佐藤 勉

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の情報はゲノムに組み込まれている。全ての生物は、遺伝情報を利用してタンパク質を合成し、生命活動を営んでいる。この生命活動を理解するためには、遺伝情報に従った分子構築機構を学ぶ必要がある。本講義は、生命活動をゲノムを中心とした分子レベルで理解することを目的とする。

【到達目標】

分子生物学Iでは、遺伝情報伝達機構の全体をカバーするとともに、特にDNAの構造、複製の解説に力点を置き、遺伝情報伝達物質としてのDNAの理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

本講義は、分子生物学の概要を講義するとともに、DNA塩基配列情報の理解を深化させるために、講義中に遺伝情報伝達機構についての演習をおこなう。また、分子生物学関連の最新の話題についても解説・討論する。学生の自己学習を奨励する。パワーポイントを用いて説明する。良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。具体的な授業の進め方については、学習支援システムの「お知らせ」にて案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分子生物学の概要	分子生物学における生命の捉え方について解説する。
第2回	分子生物学の歴史	遺伝子の本体としてのDNAの発見と構造決定、遺伝情報の流れの解明についての歴史について解説する。
第3回	核酸の化学と構造	情報伝達分子であるDNAとRNAの化学構造について解説する。
第4回	遺伝情報の流れの基本	DNAの塩基配列からみた遺伝子の基本構造について解説する。
第5回	転写・翻訳機構	DNAの塩基配列からみた転写・翻訳の仕組みと装置について解説する。
第6回	遺伝子発現調節機構	DNAの塩基配列からみた遺伝子発現調節機構について解説する。
第7回	中間テスト・解説	分子生物学の歴史・核酸の分子構造・遺伝情報の流れについて理解度を確認し、解説する。
第8回	DNA複製（開始・伸長・終結）	DNA複製の全体の流れの理解とDNA複製を担う酵素の役割と構造について解説する。
第9回	DNA複製(開始の調節機構)	DNA複製開始点の構造と複製開始に関わるタンパク質について解説する。
第10回	突然変異と修復	DNAに生じる突然変異の要因と影響およびその修復機構について解説する。
第11回	プラスミドとトランスポゾン	プラスミドとトランスポゾンの構造と役割について解説する。
第12回	ウイルス	ウイルスの構造と増殖の仕組みについて解説する。
第13回	DNAを扱う技術	DNAを扱う上での基本操作と原理について解説する。
第14回	最新の分子生物学	これまでの講義のまとめと最新の分子生物学を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】テーマ・内容のキーワードをもとに予め概要を理解して授業に臨むこと。体系的に講義を進めるため、復習は大事である。分子生物学の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。

【参考書】

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。

細胞の分子生物学（ニュートンプレス）

分子生物学（講談社）

生命科学のコンセプト 分子生物学（化学同人）

分子生物学イラストレイテッド（羊土社）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%、平常点 20%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のノートを取るスピードに配慮して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いて講義を進める。資料は予め学習支援システムにアップロードする。

【Outline (in English)】

All living things have a secret code inside of them called genomic DNA. This course introduces molecular biology to students taking this course. The overall goal of this lecture is to make students understand basic information of molecular biology. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution.

BLS100YD (生物科学 / Biological science 100)

分子生物学 I

片山 映, 山中 幸

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の情報は全てゲノムに組み込まれている。生物は、ゲノムの遺伝情報を利用して蛋白質を合成し、蛋白質が多種多様な生体分子を合成することで、生命活動が営まれる。これら遺伝情報や生体分子の概要と、細胞機能との関連について解説する。

【到達目標】

遺伝子の構造と発現調節機能について、さらに生物を構成する基本物質の構造と機能について概説し、ゲノムから多種多様な生体分子が合成され細胞が構築される過程を統合的に理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

生体の分子構成の全体像を概観し、構成成分それぞれの構造と機能の特性を解説する。生体構成分子に関する授業内容に関連した自己学習を奨励する。また、分子生物学関連の最新の話題についても背景や原理、解析技術について解説・討論する。講義で実施する確認問題、演習、アンケートの内容に応じて、解説等のフィードバックを学習支援システムとオンライン講義にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命分子の原理	生命分子の起源と進化、細胞の構成成分
第2回	生体高分子	生体を構成する高分子の特性
第3回	核酸の分子生物学	DNA・RNAの構造と機能
第4回	蛋白質の分子生物学	蛋白質の構造と合成と機能
第5回	遺伝情報(1)	ゲノムの構造
第6回	遺伝情報(2)	ゲノムの機能
第7回	遺伝情報(3)	遺伝子発現の制御
第8回	糖質の分子生物学(1)	糖質の構造と機能
第9回	糖質の分子生物学(2)	糖質の代謝
第10回	脂質の分子生物学(1)	脂質の構造と機能
第11回	脂質の分子生物学(2)	脂質の代謝
第12回	細胞の構造と機能(1)	原核生物・古細菌
第13回	細胞の構造と機能(2)	真核生物
第14回	ゲノミクスとプロテオミクス、他	分子生物学的解析法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】本講義で扱う種々の分子の複雑な構造と機能は、いずれもその構成要素の科学的性質によってもたらされるものである。したがってそれらのはたらきを理解するために、生物学と化学の基本的な知識をもつことが必須である。一般教養の関連科目を習得しているレベルが必要である。

【テキスト（教科書）】

＜教科書＞特定の教科書は指定しない。

＜具体的教育方法＞ 視覚的教材を多用して理解を深める方策を導入する。生命現象の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【参考書】

＜参考書＞

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。可能な限り、英語教科書に慣れることを推奨する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞

講義後の演習問題(50%)と、期末試験(50%)の結果から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より基礎的な内容や関連した分野の説明も交えて、バックグラウンドから理解できるようにする。

【Outline (in English)】

The genome contains all biological information of an organisms. In life activities, diverse biochemical reactions are caused by synthesized proteins based on genetic information. This lecture will provide the outline of genetic information and biomolecules, and the relation with intracellular biochemical reaction. The final grade will be determined based on a comprehensive evaluation of post-lecture exercises (50%) and the final examination (50%).

BLS100YB (生物科学 / Biological science 100)

分子生物学 I

木口 悠也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物の設計図であるゲノムには生物の機能や表現型の違いを反映する遺伝情報が記述されている。本講義ではこれまでに解き明かされた遺伝情報の構造と機能の根拠となる科学的発見とそれに関連する手法論を紹介する。本講義の履修者はゲノムに関連する分子生物学の基礎知識を学び、最先端のゲノム科学を理解し発展させる素養を身につけることを目的とする。

【到達目標】

メンデル遺伝に端を発する「遺伝子の構造と機能」について、主要な科学的発見の背景と実証、用いられた技術および考察を通して、正確に理解する。これらを踏まえ、生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発現」のしくみを分子レベルで理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業の連絡や課題は学習支援システムを介して行う。授業は講義形式で行う。教員がアメリカ在住のため全てzoomによる遠隔授業とする（講義の前日までに講義のzoomリンクを送信する）。特定の教科書は用いない。授業は「学習支援システム」を活用する。各授業は、それぞれで配布する資料（スライド資料）を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	分子生物学の勃興	分子生物学の歴史
第2回	遺伝子の構造と機能（1）	メンデル遺伝
第3回	遺伝子の構造と機能（2）	染色体説
第4回	遺伝子の構造と機能（3）	二重らせん構造
第5回	遺伝情報の維持（1）	レプリコン説
第6回	遺伝情報の維持（2）	複製フォーク
第7回	遺伝情報の発現（1）	一遺伝子一酵素説
第8回	遺伝情報の発現（2）	ウイルス合成の調節
第9回	遺伝情報の発現（3）	オペロン説と転写反応
第10回	遺伝情報の発現（4）	リボソームとmRNA
第11回	遺伝情報の発現（5）	遺伝暗号とアダプター分子
第12回	遺伝情報の発現（6）	コドン
第13回	まとめ	「遺伝子の構造、機能、維持、発現」のまとめ
第14回	最新研究の紹介	分子生物学に関連する最新の研究事例を紹介する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各授業で提示する宿題により、それぞれの内容を復習する。また、本科目を受講するには、専門科目「分子生物学I」を修得し、事前にその内容を十分に理解していることが必要である。また、「生物化学I」、「細胞生物学I」、「生物物理学I」も修得し、本講義と関連する内容を理解していることを想定している。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「Essential 細胞生物学 原書第4版」（著者：B. アルバート等 監訳：中村桂子・松原謙一 南江堂）
「エッセンシャル 遺伝学」（著者：D.L. ハートル・E.W. ジョーンズ 監訳：布山喜章・石和貞男 培風館）
「第7版 ワトソン遺伝子の分子生物学」（著者：J.W. ワトソン等 監訳：中村桂子 東京電機大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

分子生物学に関する重要な発見の内容を理解した上で、「遺伝子の構造と機能」および生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発現」のしくみを正しく捉えることができるかを基準に、授業の取り組みや宿題を「取り組み度」（30%）、「達成度」（30%）、「理解度」（40%）としてまとめ、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システム活用に関して、「課題」機能は利用せず、「テスト／アンケート」機能のみを利用する。授業のグループワーク活用と宿題のラーニングサポーター活用を推進する。

【その他の重要事項】

最先端のゲノム解析技術（ハイスループットシーケンサー）を活用した細菌叢（マイクロバイオーム）解析を専門とする研究者としての経験と知識に基づき、技術論および最新の研究トピックスにも言及する授業を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline] The genome is the blueprint of living organisms and contains genetic information contributing to differences in biological functions and phenotypes. This course introduces the scientific discoveries related to the basic structure and functions of genetic information and the methodologies associated with these discoveries.

[Learning Objectives] The objective of this course is to learn basic knowledge of molecular biology related to genomics and train to understand not only state-of-the-art genomic science but also develop this field of science.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading criteria] Final grade will be calculated with your work (30%), achievement (30%), and understanding (40%) in class assignments.

BLS100YD (生物科学 / Biological science 100)

分子生物学 I

小見 美央

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物がみな共通の分子基盤を持っていることを理解し、そのことが可能にした様々な技術を知る。特に遺伝子編集技術に関して、その意義や是非について様々な視点から議論できるようになるために必要な知識の獲得を目指す。

【到達目標】

分子遺伝学/分子生物学の基礎事項について学び、自分の言葉で説明ができるまで理解を深める。学習事項をもとにして、身近な生命現象や昨今の生命技術について科学的な見地から解釈・判断・評価できるようになる。また、科学を正しく理解するためには英語で書かれた情報源を進んで探索し理解する力が不可欠であることから、プレゼン作成にあたって英語のリソースを読む機会を設ける。

生成AIが不可欠な存在になりつつある今日、AIによるアウトプットを批判的に評価するためには、正しい知識に基づく批判的思考力を養うことがこれまで以上に重要となるので、クイズやテストを通して知識の定着を目指す。プレゼンテーションを2回、エッセイを1回作成する機会を通して、学生がインプットした知識をアウトプットできるようになること、また問題解決のために必要な知識を自力で探索し見極められるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義を中心に進める。適宜、参考資料として動画や外部ウェブサイトを紹介しながら講義を進める。また、理解を深めるためのアクティビティをオンデマンド回、対面回どちらも実施予定。毎回、講義の最初に前回の内容に関するミニクイズを実施する。講義後にレスポンスペーパーを提出してもらい、翌週フィードバックする。2度のプレゼン発表では学生同士もフィードバックしあう。授業内に（小）テストを2回実施するが、評価の主体はプレゼンとエッセイ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	ガイダンス（オンデマンド）	コース・評価基準の説明 分子生物学の歴史
第2回	核酸の構造と特性（オンデマンド）	DNAとRNAの構造 ゲノムサイズの比較 ゲノムの内訳
第3回	複製と修復	DNA複製のプロセス、酵素の役割 メセルソンとスタール DNA修復機構 テロメア
第4回	転写	RNAポリメラーゼ 転写開始・伸長・終結 プロセッシング
第5回	翻訳	リボソーム RNAの役割 ニールンバーク タンパク質合成
第6回	遺伝子発現調節	転写因子 プロモーター オペロン モルフォゲン
第7回	プレゼン発表会1	プレゼン発表会1
第8回	復習&小テスト	第6回までの復習と小テスト
第9回	エビジュネティクス（オンデマンド）	X染色体 インプリンティング
第10回	遺伝学の基礎（オンデマンド）	メンデルの法則 パネツクスエア 遺伝子型と表現型
第11回	分子遺伝学、集団遺伝学（オンデマンド）	突然変異 遺伝子頻度 ハーディー・ワインバーク 遺伝的多様性
第12回	ゲノミクスと分子遺伝学の応用	NGS CRISPR-Cas9
第13回	プレゼン発表会	第2回プレゼン発表会
第14回	復習&テスト	総復習とテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】毎週のミニクイズおよびテストの準備のため、授業内容の復習が必須となる。また、授業で用いたスライドおよび授業内で紹介する参考動画、オンライン授業の場合は講義の動画をHoppiiにアップロードするので適宜必要に応じて利用する。セメスターを通してプレゼンやエッセイ作成のため様々なリソースを使い調査することが求められる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

- 1) ブルーバックス カラー図解 新・大学生生物学の教科書 第1～3巻（「Life: The Science of Biology Twelfth Edition」の抜粋和訳版）
- 2) Life: The Science of Biology
- 3) 理系総合のための生命科学第4版 東京大学生命科学教科書編集委員会／編
- 4) Biology: A Global Approach, Global Edition

【成績評価の方法と基準】

平常点（レスポンスペーパーおよびクラス内アクティビティの提出）（10%）、ミニクイズ（10%）、プレゼン課題（20%x2）、レポート課題（30%）、小テスト+テスト（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーション課題の相互フィードバックとエッセイ課題が好評だったので、引き続き今年度も実施します。

【学生が準備すべき機器他】

毎週のミニクイズはGoogle formを使って実施するのでスマートフォンまたはパソコンから回答する必要があります。資料配布や課題提出にはHoppiiを使用します。

【その他の重要事項】

第2回以降のオンデマンド回にも同期的に（朝10:00から）ミニクイズを実施します。詳しくは初回ガイダンスで説明します。
生物未選択・未履修の学生も歓迎します。
この授業は春学期水曜1限の細胞生物学Iと連動しており、春学期に細胞レベルの現象を理解し、秋学期にその分子機構を理解するというつながりがありますが、細胞生物学I未履修の学生も歓迎します。

【Outline (in English)】

This course presents some of the basic concepts of molecular biology, emphasizing the state-of-the-art technologies based on gene editing. Upon completing this course, students can explain the basic concepts of genetic inheritance, classical and molecular genetics, and recent advances in DNA technologies. We will also look at the arms race between viruses and us from the genetics point of view. Students will be able to develop hypotheses to interpret biological phenomena they encounter in real life and critically evaluate and appraise technological developments in this field. There is a weekly quiz about the contents covered in the previous session, so students must go over the past lectures regularly. In addition, students must read academic articles outside of class to prepare essays and presentations. Final grades are calculated based on presentations (40%), essays (30%), mini-quiz (10%), exams (10%), and participation (10%). Participation includes the completion of response sheets and assignments. The instructor is fluent in English, so students can communicate (e.g., ask questions) with the instructor in English.

BLS100YB (生物科学 / Biological science 100)

生物化学 I

廣野 雅文

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主要な生体物質であるタンパク質、糖、低分子有機酸などの構造と、それらの生体内における機能発現のしくみ、エネルギー代謝、物質代謝における役割について理解することを目的とする。エネルギーと物質の代謝については例として呼吸を取り上げ、エネルギー通貨産生のための共役反応、電子伝達系の概念について重点的に解説する。

【到達目標】

主な生体構成物質の構造と機能を学び、それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する。生物化学Iでは特にタンパク質の機能発現、エネルギー代謝と物質代謝の概念を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面で講義する。講義の前日までに資料（PDFファイル）を学習支援システムにアップロードするので、受講の際はそれをプリントアウトするかまたはPC等で参照できるようにしておくこと。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問を学習支援システムを通して提出する。クイズの回答およびすべての質問に対する回答一覧を学習支援システムに数日以内にアップロードする。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	生物化学とは、生体物質に見られる主な官能基
第2回	細胞の構造と主な構成物質	細胞説、生体膜、真核細胞の構造
第3回	タンパク質の構造と機能（1）	標準アミノ酸の構造とペプチド結合
第4回	タンパク質の構造と機能（2）	アミノ酸配列とフォールディング
第5回	タンパク質の構造と機能（3）	タンパク質の階層的な立体構造・タンパク質の解析法
第6回	中間試験	中間試験
第7回	酵素（1）	触媒機能の特性と調節
第8回	酵素（2）	反応速度論
第9回	単糖と多糖	単糖の構造と異性体、単糖の反応性、多糖の構造
第10回	呼吸（1）	代謝反応とエネルギー通貨
第11回	呼吸（2）	嫌気条件の糖代謝
第12回	呼吸（3）	好気条件の糖代謝
第13回	呼吸（4）	解糖系と糖新生
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義後に資料とノートを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義についての質問に対して回答の一覧を学習支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

講義内容に沿った資料を前日までに学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

Albert Lehninger：「レーニンジャーの生化学 第7版」（廣川書店）

成田 央, 山口 雄輝：「基礎からしっかり学ぶ生化学」（羊土社）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題10%、中間試験40%、期末試験50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業後の課題とともに質問を受け付け、数日以内にその回答をフィードバックしている。理解の助けになったという声も多いので、今後も継続する。学期の後半に質問数が減少する傾向があるが、ぜひ大いに利用してほしい。

授業で配布する資料が見やすいという評価を得ている。復習がしやすいようにさらに改良した。

【学生が準備すべき機器他】

資料をプリントアウトしたものを持参しない場合は、PDFファイルが見られるPC等を持参すること。

【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline (in English)】

Biochemistry is a study of chemical processes and macromolecules associated with various activities in living organisms. Topics covered in this course include structure and function of proteins, catalytic activity of enzymes, and glucose metabolism as an organized process for energy transduction. Students are expected to spend 4 hours outside of class time for preparation and review. After the lecture, students are expected to review the lecture materials and notes, read reference books, etc. A list of answers to questions about the lecture will be uploaded to Hoppii within a few days. Carefully read the questions and answers given by other students to deepen your understanding. The evaluation will be based on 10% of the assignments submitted for each class, 40% for the mid-term examination, and 50% for the final examination.

BLS100YD (生物科学 / Biological science 100)

生物化学 I

田島 寛隆

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物は膨大な数の化学反応の集合体である。生物が「生きている」状態を可能にする仕組みを、分子レベルの化学反応、および、細胞レベルの化学反応回路として理解し、生物に関する理解を深める。

【到達目標】

生命の物質的な成り立ちを理解し、生体構成分子の構造と機能から、細胞、組織、器官、個体の各階層で高次の生命機能が発現される仕組みを解析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

最初の数回でアミノ酸などの生体分子の基本的性質について学習する。その後、タンパク質の性質等、応用的な内容について学習する。学生側からの質問は講義中に随時受け付ける。また、指名して質問することもある。質問に対しては、その場でディスカッションするか、または関連事項を含めた解説を行うことによりフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	生命を構成する物質
2	生命と水	水分子の性質と生命現象での影響
3	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸とタンパク質の性質と働き
4	酸と塩基	pHとアミノ酸分子の荷電状態、等電点
5	脂質・糖	脂質および糖の生体での役割
6	核酸1	核酸の性質、DNA複製機構
7	核酸2	DNAの複製、転写、翻訳
8	反応速度論	ミカエリスメンテンの式
9	生体高分子の分析	タンパク質の精製、SDS-PAGE、PCR
10	細胞膜1	細胞膜の構造、電気化学的勾配と膜輸送
11	細胞膜2	膜タンパク質とシグナル伝達
12	呼吸1	解糖系とクエン酸回路
13	呼吸2	電子伝達系
14	光合成	光合成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は4時間程度を標準とする。配付資料と授業ノートをよく読み返し、内容を十分に理解すること。書籍等を読み、理解をより深めるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に学期末に行う試験で評価する。
授業の実施状況に伴い評価方法は変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

板書の内容について改善する。

【Outline (in English)】

【Outline】

Living organisms are aggregates of vast numbers of chemical reactions. In this course, students will understand the mechanisms that make living organisms possible as chemical reactions at the molecular level and chemical reaction circuits at the cellular level, and deepen their understanding of living organisms.

【Objectives】

To understand the material origin of life and the mechanisms by which higher life functions are expressed through the structure and function of the molecules that constitute life at the cellular, tissue, organ, and individual levels.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review for this class should take about several hours. Read the handouts and class notes carefully to fully understand the content. It is recommended to read to deepen your understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Basically, the evaluation is done by the examination at the end of the term. The evaluation method is subject to change depending on the status of the class.

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

蛋白質構造機能学 I

廣野 雅文

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象の担い手であるタンパク質について、構成アミノ酸の性質、タンパク質の立体構造と基本的な構造構築原理、およびタンパク質の機能発現機構について概要を理解する。

【到達目標】

以下の項目について学び、深く理解することを目標とする：アミノ酸の構造と性質、タンパク質の生化学的な解析法、一次構造と機能の相関、三次元構造の階層性、コンフォメーションに寄与する化学結合、二次構造の構造的特徴、繊維状タンパク質と球状タンパク質の三次元構造の特徴、タンパク質のフォールディング、抗体分子の構造と機能、酵素の構造と機能、アクトミオシンの構造と機能。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面で講義する。講義の前日までに資料（PDFファイル）を学習支援システムにアップロードするので、受講の際はそれをプリントアウトするかまたはPC等で参照できるようにしておくこと。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答を学習支援システムを通して提出する。講義内容への質問があれば同時に提出する。クイズの回答およびすべての質問に対する回答一覧を学習支援システムに数日以内にアップロードする。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	タンパク質とは、無細胞実験系
第2回	アミノ酸とペプチド	発見と研究の歴史、アミノ酸の化学構造、ペプチド結合、生理活性ペプチド
第3回	タンパク質の生化学的分析法	タンパク質の粗分画法、カラムクロマトグラフィー、電気泳動
第4回	タンパク質の一次構造	タンパク質の機能と一次構造、アミノ酸配列の決定法、細胞内局在と一次構造、系統解析
第5回	タンパク質の立体構造と化学結合	コンフォメーション、水素結合、疎水性相互作用、イオン性相互作用、ファンデルワールス力、ジスルフィド結合
第6回	タンパク質の二次構造-1	α ヘリックスの構造的特徴、アミノ酸配列と α ヘリックス
第7回	タンパク質の二次構造-2	β シート、 β バレル、 β ターンの構造的特徴
第8回	繊維状タンパク質の三次構造	コイルドコイル、セラチン、コラーゲン、絹フィブロイン
第9回	球状タンパク質の三次構造	構造モチーフ、ドメイン、構造に基づく球状タンパク質の分類
第10回	タンパク質の四次構造、天然変性タンパク質	サブユニット、天然変性領域
第11回	タンパク質のフォールディングと変性	アンフィンゼンのドグマ、フォールディングの速さと経路、シャペロン、ミスフォールディング
第12回	免疫グロブリン	免疫を担う細胞、免疫に働く分子の多様性、抗原-抗体結合、抗体の利用
第13回	酵素の触媒作用機構	発見と研究の歴史、活性化エネルギーと触媒作用、酵素-基質の結合エネルギー、誘導適合、脱溶媒和
第14回	アクトミオシン	ミオシン、アクチン、アクチンの重合、アクトミオシンの力発生機構、アクチン-ミオシン相互作用の調節

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義後に資料とノートを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義についての質問に対して回答の一覧を学習支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

講義内容に沿った資料を前日までに学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

「レーニンジャーの新生化学 第5版」（廣川書店）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題10%、中間試験40%、期末試験50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業後の課題とともに質問を受け付け、数日以内にその回答をフィードバックしている。理解の助けになったという声も多いので、今後も継続する。学期の後半に質問数が減少する傾向があるが、ぜひ大いに利用してほしい。

授業で配布する資料が見やすいという評価を得ている。復習がしやすいようにさらに改良した。

【学生が準備すべき機器他】

資料をプリントアウトしたものを持参しない場合は、PDFファイルが見られるPC等を持参すること。

【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to structure and function of proteins. Topics covered in this course include: structure and chemical properties of amino acids, relationships between primary structures and functions of proteins, chemical interactions for protein folding, hierarchical structure of proteins, globular proteins and fibrous proteins, structure and catalytic function of enzymes, and structure and function of antibodies. Students are expected to spend 4 hours outside of class time for preparation and review. After the lecture, students are expected to review the lecture materials and notes, read reference books, etc. A list of answers to questions about the lecture will be uploaded to Hoppii within a few days. Carefully read the questions and answers given by other students to deepen your understanding. The evaluation will be based on 10% of the assignments submitted for each class, 40% for the mid-term examination, and 50% for the final examination.

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

蛋白質構造機能学 I I

曾和 義幸

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

タンパク質は、生命機能を発現するために必要な構成要素である。個々のタンパク質は独自の立体構造を持ち、機能と密接に関連している。タンパク質の構造と機能の関係を、具体的な例を挙げつつ講義する。

【到達目標】

本講義全体を通して、タンパク質の特徴・構造・機能について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

板書とスライドを併用した講義とする。講義内では演習問題を解いてもらうことで、タンパク質の構造・機能について理解することを目指す。レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	タンパク質が様々な生命現象に関わる重要な生体高分子であることを紹介する。
2	タンパク質の基本	タンパク質を理解するための基本的な情報について概説する。
3	タンパク質の構造	タンパク質構造について概説する。
4	タンパク質構造の決定法	タンパク質構造解析について概説するとともに、構造予測についても触れる。
5	リガンド結合1	タンパク質のリガンド結合について概説する。
6	リガンド結合2	結合サイトが複数あるタンパク質-リガンド結合について概説する。
7	協同性	ヘモグロビンを例にとり、協同性について概説し、協同性のモデルについて議論する。
8	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする。
9	生体エネルギー論	ギブズ自由エネルギーについて概説する。
10	酵素	生化学反応を触媒する酵素について概説する。
11	速度論	化学反応の速度論の基本を概説する。
12	酵素反応	酵素反応速度論について概説する。
13	タンパク質機能の解析法	タンパク質機能を解析する手法について、基本的な原理を概説する。
14	総括	講義全体を通じて、理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】本講義では、講義内容の理解を助けるための簡単な計算を演習問題として紹介する。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるをえない場合があるので、各講義の終了後に各自で計算をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では視覚的教材やプリントを利用する。

【参考書】

一般的な生化学の教科書（レーニンジャーの新生化学など）

【成績評価の方法と基準】

中間試験(50%)・期末試験(50%)の合計点数によって評価する。ただし、テストを実施できない場合は、適宜課す予定のレポート・演習で評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説を丁寧におこなう。

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与PCを用いる。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental relationship between protein structure and function. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(50%) and term-end examination(50%).

PHA300YC（薬学 / Pharmacy 300）

分子薬理学

小藤 智史

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

薬理学とは薬が作用するメカニズムを解明する学問である。初めに、生理機能の概要を学ぶ。次に、これまでに学習してきた生物化学・分子生物学等の知識を基礎として、「薬」が私たちの体でどのように働き、生理機能の恒常性の維持に寄与するのかについて、分子レベルのミクロな視点と個体レベルのマクロな視点で学び、生命現象を総合的に理解することをめざす。

【到達目標】

体の仕組みおよび薬が作用するメカニズムを分子・個体レベルで正しく理解し、人に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、PC制御プロジェクターと配布資料を用いる。理解度を確認したり、わからなかった点、気づいた点などを記載するリアクションペーパーを提出してもらう。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	薬理学総論	薬理学とは何か、薬物と受容体との関係および濃度-反応曲線を学ぶ
2	自律神経・体性神経系に作用する薬	自律神経系の形態と機能について理解し、自律神経系と体性神経系に作用する薬物について学ぶ
3	中枢神経系に作用する薬（統合失調症、うつ）	中枢神経系に作用する薬物の基礎と統合失調症やうつ病に対する薬について学ぶ
4	中枢神経系に作用する薬（睡眠、てんかん、鎮痛）	中枢神経系に作用する薬物（睡眠、てんかん、鎮痛）について学ぶ
5	循環器系に作用する薬	循環器系に作用する薬物について学ぶ
6	消化器に作用する薬	消化器に作用する薬物について学ぶ
7	中間試験・まとめと解説	範囲:第1回から第6回。教科書・資料等の持ち込み不可
8	利尿薬と泌尿器・生殖器系に作用する薬	利尿薬と生殖器系に作用する薬物について学ぶ
9	呼吸器系・血液に作用する薬	呼吸器系と血液に作用する薬物について学ぶ
10	代謝性疾患とその治療の治療薬	糖尿病・脂質異常症治療薬の作用機序を学ぶ
11	抗炎症薬・抗リウマチ薬・抗アレルギー薬	抗炎症薬・抗リウマチ薬・抗アレルギー薬の作用機序を学ぶ
12	感覚器・感染症治療薬	感覚器に作用する薬物と感染症治療薬の作用機序を学ぶ
13	抗癌薬	抗癌薬の作用機序を学ぶ
14	期末試験	範囲:全講義の内容。教科書・資料等の持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 受講前にシラバスや教科書の該当する章を読み講義内容を把握しておいて下さい。受講後は講義時に配布された資料や自筆ノートを見直したり、教科書等を使用して復習して下さい。

【テキスト（教科書）】

はじめの一歩の薬理学 第2版 石井邦雄・坂本謙司著（羊土社, 2020年01月14日発行, 本体2,900円＋税）

【参考書】

薬の基本とはたらきがわかる薬理学 柳田俊彦／編（羊土社, 2023年10月30日発行, 本体3,000円＋税）

【成績評価の方法と基準】

中間試験（5月に実施。45点満点。）

期末試験（7月に実施。45点満点。）

平常点（リアクションペーパーの提出等。10点満点。）

で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ解説をしたところ、好評だったので、本年度も継続して行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

Pharmacology is the study to learn the mechanisms by which drugs work. First, we will overview the physiological functions. Next, students will learn how drugs work in our bodies and contribute to the maintenance of homeostasis of physiological functions based on the molecular level and the whole body level. In this class, we aim to understand the biological responses against drugs in our bodies by using basic knowledges of biochemistry, molecular biology and so on.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
mid-term examination: 45%、final examination: 45%、Short reports : 10%

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

構造生物学

金丸 周司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体高分子、特に蛋白質や核酸の高次立体構造の研究におけるX線結晶構造解析、NMR解析、クライオ電顕解析による構造解析法を中心に概説する。さらに立体構造情報に基づいた構造の推定や分子間相互作用などの応用研究、そして、これらの方法論に加えて、構造を解くことで何が分かるかを学ぶ。

【到達目標】

本講義全体を通して、生体高分子、特に蛋白質の高次構造から、特徴・機能・性状について学び、その構造解析法を理解する。それをふまえて、構造生物学から得られた知見をどのように解釈し利用していくかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

対面またはオンラインで講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードする。毎回、授業のはじめに前回の授業の課題の講評と解説を行う。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	蛋白質が様々な生命現象に関わる重要な生体高分子である事を紹介し、蛋白質研究の歴史を紹介する。
2	蛋白質の一次構造と二次構造	蛋白質を理解するための最も基本的な情報として、一次構造と二次構造の知識を得る。
3	蛋白質の二次構造のモデル作成	分子模型を用いて二次構造モデルを実際に作成し、二次構造の理解を深める。
4	蛋白質の高次構造	蛋白質の実体を理解するために不可欠となる高次構造について紹介する。
5	構造解析法1	X線結晶構造解析法による解析法について紹介する。
6	構造解析法2	NMR解析法について紹介する。
7	構造解析法3	電子顕微鏡による解析法やその他の構造解析法について紹介する。
8	核酸の構造	核酸（主にDNA）の構造とそれに結合する蛋白質について紹介する。
9	酵素	酵素の構造生物学的知見を紹介する。
10	膜蛋白質	膜蛋白質の構造生物学的知見を紹介する。
11	電子密度マップへの蛋白質モデル構築	各自のパソコンを用いて、結晶構造解析より得られた電子密度マップに原子モデルを構築する。
12	立体構造情報の利用	立体構造情報、主にPDBファイルの詳細を解説し立体構造の可視化方法（ソフトウェア）を紹介する。
13	立体構造予測	AlphaFoldなどの各種立体構造予測手法を紹介し体験する。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 指定した参考書などを参照し、毎回配布するプリントと小テストを復習してください。

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配布する

【参考書】

有坂文雄著「バイオサイエンスのための蛋白質科学入門」（裳華房, 2006）
神田大輔著「いきなりはじめる構造生物学」（秀潤社, 2011）
田中勲・三木邦夫訳 「構造生物学」（化学同人, 2012）

【成績評価の方法と基準】

生体高分子の立体構造とその構造解析法について理解し、構造生物学から得られる知見と生命現象とを結びつけて理解しているかを評価する。

【成績評価】 期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布するので、復習時に役立ててほしい

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン（第11回, 第13回で使用）

【Outline (in English)】

I will outline the structure determination methods by X-ray crystal structure analysis, NMR analysis and cryo-electron microscopic analysis in the analysis of higher order tertiary structures of biopolymers, especially proteins and nucleic acids.

Furthermore, you learn applied research such as structure prediction based on three-dimensional structure information and intermolecular interaction, and learn what you can understand by solving the structure with these methodologies.

【Learning activities outside of classroom】 The standard study period outside of class time for preparation, review, etc. for the class is about four hours. Review the handouts and quizzes distributed each time.

【Grading Criteria /Policy】 Final exam, 100%.

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物医科学概論

鍵和田 聡、津田 新哉、池田 健太郎、舟木 康郎、廣岡 裕吏

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物医科学の考え方や技術、食の安全や環境保全・社会経済との関わりを学び、植物保護の原点を探る。

【到達目標】

植物医科学という新しい学問分野の概要を把握し、植物医科学分野の専門科目を学ぶための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

植物病とその歴史、植物医科学の意義、植物病の種類、病気の診断技術、植物病害の治療・防除・予防技術などについて最新の成果も交えながら広く解説する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物医科学とその重要性	食料・環境問題と植物医科学、その重要性
第2回	植物の生育障害と症状の特徴	植物の生育障害の種類、原因、症状、病名
第3回	菌類病	微生物病の種類、菌類の分類、生活環、菌類病の種類と特徴
第4回	細菌病	細菌の分類、細菌病の種類と特徴、ファイトプラズマ病
第5回	ウイルス病、線虫害	ウイルスの分類、ウイルス病の種類と特徴、ウイロイド病、線虫害の種類と特徴
第6回	発生生態と被害解析	発病の条件、伝染方法、発病動態とその環境、被害解析
第7回	生理障害	生理障害の種類、肥料に関わる障害、薬害、環境条件、管理作業
第8回	害虫と雑草	害虫の種類、生態的特徴、被害とその解析、加害様式、雑草の種類、特徴、防除対策
第9回	診断の意義と工程	診断の意義と重要性、診断の工程、問診と診断の実際
第10回	分離と接種による診断	微生物の分離と維持、接種、微生物の同定技術
第11回	血清診断、遺伝子診断	血清診断の種類と各技術の特徴、遺伝子診断の種類と各技術の特徴
第12回	薬剤防除	農薬の種類、選択、製剤化、使用法、安全性評価、関連法令
第13回	IPM	植物の病虫害と防除法、総合的病虫害管理（IPM）
第14回	植物医科学の社会的役割	植物防疫に関わる法令、病虫害の発生予察、植物検疫、食の安全

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書に沿って講義を進める。講義内容に該当する部分をよく読むことにより予習、復習する。

【テキスト（教科書）】

植物医科学の世界（大誠社）

【参考書】

植物医科学（第2版）（養賢堂）
その他適宜講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（約30%）、試験（約70%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に沿って丁寧に説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う。

【その他の重要事項】

応用植物科学科必修科目。
樹木医補資格関係専門科目。

植物病診断・防除の現場の実務経験のある教員により、その経験を踏まえた技術の詳細を紹介する。
質問など不明点あれば、鍵和田まで問い合わせること。オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】

This course introduces the concepts and technologies of 'clinical plant science', and its relationship with food safety, environmental conservation and social economy. Participants understand the outline of a new discipline field, 'clinical plant science', and acquire the foundation for learning special subjects in the field of clinical plant science. It explains plant disease science and its history, significance of clinical plant science, kinds of plant diseases, diagnostic technology of diseases, treatment, control and prevention technology of plant diseases. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物病学概論

濱本 宏

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では主として微生物による植物病について、病原性のメカニズムや伝染様式、さらに、それら病原に対して植物の持つ病害抵抗性の機構等を学ぶ。

【到達目標】

ウイルス、細菌、菌類など植物病原微生物の分類とその特徴、それらが引き起こす病徴について基礎的な知識を得る。また、それら微生物がどのように植物に病気を起こすのか、それに対して植物はどのように抵抗性を示すのかを理解する。さらに、これらの知見を病害の診断や防除にどのように活かすのか考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて解説することを基本とする。トピック的に原著論文を紹介したりTEDなどのビデオをみることで、理解を深めたり最新の知見を得たりする。授業中に教員から質問することで理解度の把握に努め、授業進行に役立てる。授業内の最後に行う「課題」のフィードバックは翌週授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物病と微生物	植物病を引き起こす微生物と、基本的な用語について
第2回	ウイルス・ウイロイド病 (1)	ウイルス・ウイロイドの分類と進化
第3回	ウイルス・ウイロイド病 (2)	ウイルス・ウイロイド病の性状・病徴と伝染様式
第4回	細菌・ファイトプラズマ病 (1)	植物病原細菌・ファイトプラズマの分類とその性状
第5回	細菌・ファイトプラズマ病 (2)	植物細菌病・ファイトプラズマ病の病徴と伝染様式
第6回	菌類病 (1)	植物病原菌類の分類・命名とその性状
第7回	菌類病 (2)	植物菌類病の病徴と伝染様式
第8回	線虫病と生理病	植物寄生線虫の分類、性状と病徴、植物生理病の種類と病徴
第9回	中間まとめ	植物病を引き起こす病因について振り返り、質疑応答
第10回	植物感染生理 (1)：病原性	病原微生物の植物侵入の機構と病原性発現の機構
第11回	植物感染生理 (2)：抵抗性	病原微生物に対する宿主の抵抗性の種類とそれらの機構
第12回	植物感染生理 (3)：バイオテクノロジー	従来の育種後術とAI育種、遺伝子組み換え技術
第13回	植物病の診断と防除	植物病の診断、防除の技術、総合的病害虫管理 (IPM)
第14回	植物病学の最新トピックと総合まとめ	植物病学に関する最新のトピックの紹介・授業をふりかえり総合まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で強調する専門用語や病名について、他の授業・実習内容の復習や自習によって知識を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】

植物医科学（難波成任 監修），養賢堂，2022

【参考書】

植物病理学 第2版（眞山滋志、土佐幸雄 編），文永堂出版，2020。

植物病理学 第2版（大木理 著），東京科学同人，2019。

Plant Pathology, 5th edition (G.N. Agrios), Elsevier, 2005.

Essential Plant Pathology (G.L. Schumann, C.J. D'Arcy), APS Press, 2010

【成績評価の方法と基準】

期末試験：80%、平常点20%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特に、配布プリントを見やすくすることと、学習支援システムへのタイミング良いアップを心がける。クイズ形式のアンケートなどをできるだけ取り入れ、授業の進行に役立てる。

【その他の重要事項】

化学業界に勤務経験のある教員が、特に農薬の開発や使用に関して具体的な説明を加える。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we mainly learn the mechanisms of pathogenicity, the mode of transmission, and the mechanisms of disease resistance of plants against pathogenic diseases of microorganisms.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to obtain basic knowledge of the plant pathogens, how they cause plant disease and how the plants resist to the attack of the pathogens.

【Learning activities outside of classroom】

In this course, to know the scientific terms are important and review the meanings of the terms that you didn't know.

【Grading Criteria /Policy】

Final evaluation will be decided according to; term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物分子細胞生物学

鍵和田 聡

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物は光合成を行って二酸化炭素を固定するなど、動物など他の生物とは異なった生理機能をもって生活している。こうした植物の持つ様々な生理機能について、細胞レベル・分子レベルでのメカニズムを理解することによって、植物の健全な育成を行うための基礎的な考え方を習得する。現在、植物の生理的変化や、形態形成のメカニズム、さらには植物の環境応答のしくみを明らかにするための研究が進んでおり、本講義でもこれらの最先端の知見を紹介する。これらの内容は植物の生理的障害の分子機構、あるいは病原体に対する植物の防御応答のメカニズムなど、幅広い分野を理解するための基礎となる。

【到達目標】

植物を構成する細胞の役割や機能、また植物の代謝や環境応答などの生理について、基本的な分子レベル・細胞レベルから理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業計画に従い講義を行う。適宜ノートを取り、毎回振り返って復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。また内容について理解が進んでいるか、数回行う確認テストで検討すること。レポート課題、および講義を理解する上で前提となる内容の補習問題を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて、あるいは講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物の構造（1）	植物組織の特徴
第2回	植物の構造（2）	植物の細胞
第3回	植物の代謝経路（1）	光合成と物質移行
第4回	植物の代謝経路（2）	糖、脂質
第5回	植物の代謝経路（3）	窒素、リン酸の代謝と共生微生物
第6回	二次代謝産物	代謝経路と機能
第7回	遺伝子発現	核酸、タンパク質と遺伝子発現調節機構
第8回	シグナル伝達の分子機構	植物のシグナル伝達系、およびその制御の分子機構
第9回	植物の遺伝子組換え	植物の全能性、および遺伝子組換え植物の作成法
第10回	受精と初期発生	植物の受精と初期発生のメカニズム
第11回	形態形成の遺伝子	花器等の形態形成に関わる遺伝子と発現制御
第12回	植物ホルモン	植物ホルモンの作用
第13回	非生物ストレス	環境ストレスに対する応答機構
第14回	生物ストレス	抵抗性、過敏感反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回ノートを復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストで振り返ること。レポート課題（1題）、および講義を理解する上で前提となる内容の補習問題（1題）を行う。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて参考資料を配布する。

【参考書】

「植物生理学－分子から個体へ－」 幸田ら、三共出版
「植物生理学概論」 桜井ら、培風館
その他、適宜内容に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テストを含む平常点（約15%）、レポート課題と補習問題（約15%）、期末試験（約70%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な点から丁寧に説明する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】

Plants have physiological functions different from animals, such as carbon dioxide assimilation by photosynthesis. By understanding the mechanisms at the cellular level and molecular level of various physiological functions of plants, students learn the fundamental idea for growing healthy plants. The contents of this class form the basis for understanding physiological phenomenon of plants such as the molecular mechanism of physiological disorders of plants and the defense response of plants against pathogens. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (70%), reports (15%) and in-class contribution (15%).

COT100YB (計算基盤 / Computing technologies 100)

計算機科学概論 II

豊田 太郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、研究や学術活動において、コンピュータとインターネットは、情報の収集および処理の必須ツールです。秋期の計算機科学概論 II と合わせて、コンピュータとインターネットの仕組みから、主要なアプリ、プログラミング（Python 3）の扱い方まで理解し身に付けるのが当授業の大きな目的です。

【到達目標】

秋期の計算機科学概論 II と合わせて、コンピュータとインターネットに関する基礎知識および基本操作、プログラミングを学びます。受講者が、進学後に研究室配属されてこれらを自在に扱えるようになる準備を完了するのが目標です。本講義では、主要なアプリとプログラミング（Python3）を実際に使って身に付けることが主体となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

貸与ノートPCを用いた演習を主体とする授業です。キーボード操作によってコンピュータとインターネットを扱うことを体験します。基本操作、応用操作の組み合わせが授業の標準形態となり、その演習結果を提出します。

課題の提出・フィードバック等は学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	勉強と研究の違い、PCとは何か、貸与PCで何ができるのか
第2回	インターネットと情報ベース	学術資料と文献の調べ方、“論文”とは何か
第3回	主要アプリの使い方(1)	Word, Excel を使ってやりとりゲームをしよう
第4回	主要アプリの使い方(2)	Word, Excel を使ってやりとりゲームを予想しよう
第5回	主要アプリの使い方(3)	Word, Excel を使ってやりとりゲームを発展させよう
第6回	Python3の紹介と導入	Python3の説明、環境設定、簡単な使い方
第7回	Python3の簡単な使い方	エディタを用いた文字表示
第8回	Python3による計算	関数電卓としての使い方を説明する
第9回	Python3によるプログラムの基本	変数、順次、分岐、反復というプログラミングの基本を説明する
第10回	Python3でデータをまとめる	平均、標準偏差、直線回帰を説明する
第11回	Python3でグラフを表示する	グラフ表示のやり方を説明する
第12回	Python3で対話的プログラムをつくる	対話的プログラムの基本を説明する
第13回	Python3による演習(1)	Python3でアニメーション作成を行う
第14回	Python3による演習(2)	Python3でゲームプログラミングを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】学習順を考慮した内容が多い授業です。前回の授業を前提として次の学習(演習)があります。遅刻(授業途中からの参加)や欠席が不理解の原因となる場合があります。不明・不理解あるいは操作が追いつかないなどの場合は、助けを求めるなど、後回しにせずその時点で要求してください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業の教材として講義資料を毎回配布します。

【成績評価の方法と基準】

各授業における演習結果をレポートとして全ての回で提出してもらい、評価の対象とします。最終の総合試験は行いません。評価基準：演習レポート70%，平常点30%。

【学生の意見等からの気づき】

理解度の個人差が大きくなります。理解/操作不能となった場合には理解/操作不能のままにせず、自身で調査したり質問をしてください。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCまたは貸与PC相当のPC

【その他の重要事項】

演習が主体の講義ですので、実際に自身の手を動かして積極的に操作してください。

【Outline (in English)】

For utilizing computer and internet, students are expected to understand and learn them and used to them practically by softwares and programing training through this course. The goals of this course are to understand fundamentals of computer and internet, to practice major softwares of Microsoft windows, and to learn the elementary skills of programming using Python 3. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours or more for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports : 70%, in class contribution: 30%.

COT100YB（計算基盤 / Computing technologies 100）

計算機科学概論 I

豊田 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春期の計算機科学概論 I と合わせて、コンピュータを自在に扱って研究や学術活動を進めることができるようになる準備を完了するのが当授業の大きな目的です。特に、画像解析を中心にした簡単なプログラミングについて理解しプログラムを作成します。

【到達目標】

コンピュータとインターネットに関する基礎知識および基本操作を学びます。受講者が、進学後に研究室配属された際にこれらを自在に使えるようになる準備を完了するのが目標です。特に、画像解析の基本操作と、関連するプログラミングの基礎の習得が主体となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

貸与ノート PC を用いた演習が主体の授業です。生命科学部学生にとっての実用を目的とした基本的スキルの学習が中心となります。プログラミングによる画像データ処理を体験します。基本操作、応用操作の組み合わせが授業の標準形態となり、その演習結果を提出します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	コンピュータとインターネット、画像情報の基本、Fiji-Image J のインストール
第2回	Fiji-ImageJ の静止画解析 (1)	イメージ（静止画）の解析の手順を説明する。前処理のやり方を説明する
第3回	Fiji-ImageJ の静止画解析 (2)	イメージ（静止画）の解析としてマスク作成（二値化）を説明する
第4回	Fiji-ImageJ の静止画解析 (3)	イメージ（静止画）の解析として後処理を説明する
第5回	Fiji-ImageJ の静止画解析 (4)	スケールバーおよび粒子解析などを説明する
第6回	Fiji-ImageJ の動画解析	動画解析（トレース機能）を説明する
第7回	Python3 の導入と簡単な使い方	Python3 の導入、プログラミングの基本。
第8回	Python3 による静止画解析 (1)	イメージ（静止画）の解析として、前処理、マスク作成を説明する。
第9回	Python3 による静止画解析 (2)	イメージ（静止画）の解析として、後処理を説明する。
第10回	Python3 でグラフ表示する	グラフ表示および統計処理の基本を説明し、機械学習の基本についても扱う
第11回	中間演習	Fiji-ImageJ と Python3 を併用して静止画解析する
第12回	Python3 で関数をつくる	関数の定義について学ぶ

第13回 Python3 と生成 AI 生成 AI を通してプログラミングを学ぶ

第14回 学期末演習 Python3 による画像解析を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】春期授業を前提としていますが、講義の途中など必要な際に、春期の復習も行います。したがって春期の計算機科学概論 I を未受講の人でも、学習できるように配慮します。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業の教材として必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

各授業における演習結果をレポートとして全ての回で提出してもらい、評価の対象とします。最終の総合試験は行いません。評価基準：演習レポート 70%，平常点 30%。

【学生の意見等からの気づき】

理解度の個人差が大きくなりやすいです。理解/操作不能となった場合には講義中に挙手して、TA の支援も仰いでください。理解/操作不能のままにしておかないこと。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC または貸与 PC 相当の PC

【その他の重要事項】

(1) 演習が主体の講座ですので、遅刻による講義途中からの参加は学習の進行に大きな障害となる場合があります。

(2) 春学期の計算機科学概論 I を受講していなくとも、本講義内容を学ぶことができるように講義資料等が準備されています。

【Outline (in English)】

For utilizing computer, students are expected to perform image analysis through using Fiji-Image J and Python 3. The goals of this course are to understand fundamentals of digital data of images and to practice image analysis software, Fiji-Image J, and related programming skills by Python 3. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours or more for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports : 70%, in class contribution: 30%.

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

発生生物学

小林 麻己人、川岸 万紀子

開講時期：秋学期集中/Intensive(Fall)

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発生生物学は古代ギリシアにルーツをもち、古来から生物学者の興味を引いてきた学問分野である。しかし、20世紀末に分子生物学の導入により個体発生のメカニズムが分子レベルで明らかになるにつれ、その制御システムがヒトの疾患や作物の収穫などに密接に関連することがわかり、発生生物学は単なる学術的興味にとどまらず、医療や農業などの産業にも重要な情報を提供するものとなった。本授業では、発生生物学の概要を、分子レベルの切り口も含めて紹介し、再生・進化・医学・農学など他分野との関連にも言及する。

【到達目標】

近年における発生生物学の全容と発展、さらには他分野、特に医学と農学との関連性を理解することを目指す。具体的には、以下の4つの項目を到達目標とする。1) 受精から老化に至る発生生物学の全体像を理解し、イメージできる、2) 体軸形成・細胞分化・誘導シグナル・ゲノム遺伝子の発現などの重要性を学び、それぞれで活躍する代表的な遺伝子・タンパク質の名前を習得する、3) 発生工学的及び実験胚発生学的手法が、現在の生命科学の発展にどのように貢献してきたかを理解する、4) 医学・薬学・農学において、発生生物学に関連する知識や技術がいかに重要であるかを理解し、自身のキャリアに活かす。その上で、受講後も継続して自主学習する受講生がでてくることが期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

基本的な進行方針としては、発生の基本概念、分子レベルでの理解、他分野への応用、の順で授業を進めるが、厳密には区別せず、それぞれを組み合わせて説明する。授業方法としては、プリント配付とPCプロジェクター映写を組み合わせて使用するが、状況や内容に応じて、板書などの工夫も取り入れる。受講者との積極的なやりとりを期待する。授業の前半では、動物発生と医学との関連性を小林が担当し、後半では植物発生と農学との関連性を川岸が担当する。

各授業の進め方としては、最後に小テストを実施して学生の理解度を確認する。解答解説は、次の授業の開始時に行う。また、3日間の集中形式で行うが、各日の最終授業で中間試験を実施し、その日全体の理解度を確認する。解答解説は翌日の最初の授業で行う。中間試験時にはアクションペーパーも提出していただく予定である。解答解説時に関連する内容を合わせて紹介したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	動物の発生と体軸形成	ヒトの発生、ゼブラフィッシュの発生、体軸形成
第2回	体軸形成のしくみ	受精、βカテニン、Wnt経路、がん、Nodal、中胚葉誘導、ニューコープセンター、抗BMP4、オーガナイザー、神経誘導
第3回	細胞運命と遺伝子破壊	着床前診断、体外受精、細胞運命、原腸形成期、細胞分化、分化万能性、転写因子、ノックアウトマウス、ノックダウン
第4回	遺伝子機能とモデル動物	遺伝子機能、発生工学、ヒト突然変異、モデル動物、オルガノイド
第5回	中間試験1	前半の学習内容
第6回	トランスジェニック動物と遺伝子発現	トランスジェニック動物、過剰発現解析、異所的発現解析、診断、創薬、進化、レポーター動物、コンディショナルノックアウトマウス、イメージング
第7回	再生と老化と今後の医療	再生、再生医療、老化、カロリー制限、健康寿命、機能的食品、早老症、Nrf2経路
第8回	植物の発生と進化	植物の進化系譜、被子植物の特徴、植物の遺伝情報
第9回	植物の細胞と成長	被子植物の受精、胚発生、後胚発生、栄養成長と生殖成長
第10回	中間試験2	中盤の学習内容
第11回	植物遺伝子工学	緑の革命、植物の遺伝子組換えとゲノム編集、農作物の品種開発

第12回	植物の環境応答と農作物の改良	植物の環境応答、よりよい植物をつくる、品種の育成
第13回	まとめ	全体の学習内容の復習
第14回	最終試験	全体の学習内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に準備学習は必要としない。分子生物学や細胞生物学の基礎的理解があれば十分。授業では膨大な範囲からの抜粋になるため、全てを詳細に説明することはできない。したがって、興味をもった箇所に関しては、授業後の自主学習を期待する。

【テキスト（教科書）】

指定せず

【参考書】

モリス生物学（八杉・園池・和田訳）
東京化学同人社
ギルバート発生生物学第10版（阿形・高橋訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
ウォルパート発生生物学第4版（武田・田村訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
老化生物学（McDonald著・近藤訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
新・生命科学シリーズ 植物の成長（西谷著）
裳華房社

【成績評価の方法と基準】

最終試験の成績で評価する。加えて、小テスト、及び、中間試験、の結果も加味する。要素毎の配分は、最終テスト（80%）、小テスト（10回、1%ずつ）、中間テスト（2回、5%ずつ）である。各テストは「到達目標」に合わせ、発生生物学の基礎的事項に加え、他分野、特に医学と農学とのつながり、に関わる問題を授業で教えた内容から出題する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講師は筑波大学医学医療系の教員及び農業・食品産業技術総合研究機構の研究員であり、本科日は夏休み中（9月4日(木)-6日(土)）に集中講義として開講される。3日間連続5限(6日(土)は4限)の講義となるため、集中して学習できるメリットと逆にデメリットもある。その点を十分理解した上での履修及び受講を望む。

【Outline (in English)】

Developmental biology is an academic field that has intrigued biologists since ancient times. By the end of the 20th century, the mechanisms underlying developmental processes became clear at the molecular level, revealing close associations with human diseases, crop yields, and more. Therefore, the study of developmental biology provides valuable information for medical and agricultural applications. In this lecture, we offer an overview of developmental biology and examine its connections with other fields such as regeneration, evolution, medicine, and agriculture.

Outside classroom learning for this course, such as preparation and review, is set at a standard of 4 hours. No preparatory learning is required. A basic understanding of molecular biology and cellular biology is sufficient. Due to the vast scope covered in the class, it is not possible to explain everything in detail. Therefore, independent learning after class is expected, especially regarding areas of personal interest.

The evaluation will be based on the final exam results. Additionally, the scores from each quiz and the results of the two midterms will also be taken into consideration. The weightage for each component is as follows: final exam (80%), quizzes (10 quizzes, 1%each), midterms (2 exams, 5%each).

MAC200YB (材料化学 / Materials chemistry 200)

物理化学概論 I

見附 孝一郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な米国の教科書を用いて物理化学の初歩を学ぶ。一見、各論的な化学の背後には普遍的な原理や法則が存在することを知り、それらによって原子や分子の性質が合理的に説明されることを理解する。とくに、原子、単体、化合物中の電子の運動や安定性が、元素の周期律および化学結合の本質と深く関わっていることを納得する。一方で、あらゆる原理や法則は、定量的実験によってその真偽が確かめられてきたことにも注意する。また、物理化学に関する例題、とくに計算問題に対して、単位や有効数字を意識しながら解答に到達できるまで習熟することも大事な目標である。

【到達目標】

原子、分子、物質（モル）の概念に慣れ親しむ。元素の性質とその周期律が原子中の電子の運動に関わっていること（原子の電子構造）、とくに最外殻の原子価電子の配置が鍵となることを知る。化学結合にはイオン結合と共有結合があり、オクテット則に基づいたルイス構造を描くことで、精密な理論がなくても、結合の性質、共鳴、電子の偏りを議論できること、それらは物質の物理的性質にも密接に結びついていることをしっかりと把握する。さらに、電子対反発理論から分子やイオンの構造を予言でき、この理論が原子価結合理論での混成軌道による化学結合の説明と相補性を持つことを理解し、いくつかの実例でそのことを検証する。最後に、2原子分子と3原子分子を例に取って、分子軌道理論の基礎概念を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。ブラディ・ジェスパーセン 一般化学（上）を教科書として使用します。主にパワーポイントを使って説明を聴き、式変形の詳細などは黒板書きで説明を受けます。パワーポイントの全内容を4スライド分1ページにまとめた資料がWebClassの教材に掲示されます。人数にもよりますが、ときどき質問を投げかけられ、答えや解答方針を口頭で説明するよう指示を受けます。

2回に1回の割合で、授業終わりの20分間に演習問題を解いて教員に提出します。採点済答案と解答例は、次週以降に配布されます。アクティブラーニングを意識した授業進行が予定されています。
・問答法（演習問題の正解率と学習理解状況が参考とされます）
・学生の応答などのフィードバックが授業の構成要素に取り込まれます。

オンデマンド配信の6月5日第8回を除く残りの13回は通常の対面授業ですが、演習問題がない週は、ハイフレックス形式の授業にオンラインで参加できます。ただし、教室の設備状況または学部の授業方針によって、オンライン授業が不可となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業を始めるに当たり、測定と単位	1.4～1.6節、アンケート、教科書の説明、13回分の講義の紹介、SI単位系、SI接頭語、単位の変換、演習問題1
2	元素と周期表、分子と化学式、化学反応式	2.1～2.4節、周期表に基づいて元素を分類する、化学反応式の両辺で原子を釣り合わせる

3	モルと物質質量、実験式と分子式、化学反応での化学量論計算	3.1～3.7節、モルと物質質量の概念、分子量、化合物の組成を決める、限定物質を見定める、演習問題2
4	原子模型と原子スペクトル	7.1～7.3節、水素原子のスペクトルおよび光の波長と振動数、ボーアのモデルから遷移エネルギーを計算する
5	物質波、波動力学、量子数	7.4～7.5節、物質波の考え方と電子の波動性を理解する、離散的な電子エネルギー、電子の軌道を量子数で識別する、演習問題3
6	原子中の軌道、原子の電子配置、周期表	7.6～7.8節、電子スピンによって原子の磁性が生ずる、主殻と副殻に電子を詰めていく、周期表の周期と族、電子配置を予測する
7	電子の空間分布、化学結合、周期表と元素の特性	7.9～7.10節、原子軌道の密度分布、原子核の正電荷が内殻電子によって遮蔽される、イオン化エネルギーと電子親和力の定義、演習問題4
8	化学結合の種類、ルイス記号（6月5日は学会参加のためオンデマンド配信の予定）	8.1～8.4節、イオン結合と共有結合、価電子をルイス記号で表す、オクテット則とは？
9	共有結合とルイス構造	8.5, 8.7節、オクテット則に基づきルイス構造を描く、結合の性質と結合次数を関連付ける。演習問題5
10	極性分子、電気陰性度、共鳴	8.6, 8.8, 8.9節、原子が共有結合電子を引き付ける力、双極子モーメントの定義、ルイス構造による共鳴構造を図解する
11	共有結合と分子の形、VSEPR理論	9.1, 9.2節、分子の形を分類分けする、電子群の数と取りうる分子構造との関連性、VSEPR理論で分子やイオンの形を予言する。演習問題6
12	分子の極性、原子価結合法	9.3～9.5節、分子の極性を予言する、化学結合は原子軌道同士の重なりで形成される、軌道準位図
13	混成軌道、多重結合、共鳴	9.6節、混成軌道とVSEPR理論、 σ 結合と π 結合を区別する、多重結合を説明する、分子内の各原子が利用する混成軌道を判別する、演習問題7
14	分子軌道論、全講義の振り返り	9.7節、分子軌道論の概念を学ぶ、二原子分子の結合と軌道相互作用を説明する、後半全体のまとめ、演習問題8

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
WebClassにアップロードされている教材の該当箇所を読んで予習・復習をする。ほぼ2週に1回の割合で出される演習問題に関しては、後日、配布された解答例も参考にして、自力で正解に行き着けるまで繰り返し解いてみる。

【テキスト（教科書）】

「ブラディ・ジェスパーセン 一般化学（上）」、小島憲道 監訳、東京化学同人、税抜3200円 できるだけ早めに購入してください。購入方法は専任の先生方の方針や指示に準じます。

【参考書】

「P.Atkins・J.Paula 物理化学(上)」、千原・中村訳、第8版、東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、授業内の演習問題（30%）、授業中の質疑応答（20%）に基づいて成績を評価します。期末試験では電卓のみ持込み可能です。

【学生の意見等からの気づき】

2015年度後期に上記内容の講義を行ったところ、「もっと前に習いたかった」という意見が出たので、「物理化学概論Ⅰ」と「同Ⅱ」でお互いの内容を交換することとした。続いて、2016、2017年度は本質的な改善を求める意見は見当たらなかった。ブラディの教科書は概して好評であった。2018年度の途中で、期末試験での主評価だけでは試験範囲が広すぎて平均点が極めて低くなる恐れがあると懸念し、急遽、中間試験を「持ち込みなし」に変え、期末試験と中間試験の二つで成績を等配分で評価することとした。2019年度は特段の意見はなかった。2021年度と2022年度は好評だった（高校で学習した化合物について様々な観点で知ることができた。暗記していた事柄の理屈を知ることができ、興味をもって受講できた、質問しやすい雰囲気だし教員も丁寧に答えてくれた、など）。課題テストのフィードバックでは、正解であっても復習用に解説を付けて欲しいとの意見があったので、2023年度は、適宜ピックアップして受講者の希望に答えた。2024年度には2回に1回のペースで、演習問題を解いてもらい、採点済みの解答にコメントを付けて次の回の冒頭に返却した。学生の学習意欲と理解レベルが著しく向上したように感じる。

【学生が準備すべき機器他】

WebClassに登録し、メールでの「お知らせ」や新たな教材があった際には、それに対応してください。

【その他の重要事項】

第8週を除いた13回分は原則的にすべて対面授業です。第8週（6月5日）はオンデマンド授業なので、対面授業はありません。

授業で演習問題がない下記の日は（6回分）、zoomを用いてハイフレックス授業を設定し、学生がオンラインで参加できるよう配慮します。

第2週（4月17日）；第4週（5月8日）；第6週（5月22日）；第8週（オンデマンド、6月5日）；第10週（6月19日）；第12週（7月3日）

最終日の第14週（7月17日）は偶数回ですが、対面授業だけです。ハイフレックス授業の設定はしません。演習問題もあります。

【Outline (in English)】

Students will receive education about the basic fields of chemistry. You can develop not only study skills required in university-level science courses but critical thinking skills enabling them to solve chemistry problems with incorporating their accumulated knowledge. Topics to be covered in this course are the periodic table, stoichiometry, introductory quantum theory, atomic structure, and the basics of chemical bonding.

Students will be expected to have completed the required assignment tests in class meeting every two week. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 50 %; Required assignment tests 30 %; In-class contribution 20 %. You can confirm your scores you have acquired so far in the corresponding course at WebClass.

MAC200YB (材料化学 / Materials chemistry 200)

物理化学概論 I I

見附 孝一郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平衡状態の熱力学は化学の根本理論の一つであり、19世紀末、その基本概念については現代の姿にまでおよそ達していた。アボガドロ数に近い個数の粒子の集団が演ずる自然現象を、たった8個の状態関数だけで定量的に記述できるということが、平衡熱力学の特質であり、学ぶ者にとっての醍醐味であるとも言える。この授業では、内部エネルギー、エンタルピー、エントロピー、ギブズ自由エネルギーといった状態関数およびエネルギーの移動形態である仕事と熱に焦点を当てて、それら諸量の本質的意味と実用性（有用性）を認識し、付随した練習問題を通して相転移や化学平衡現象への応用能力を養う。

【到達目標】

(1) 熱力学の基本概念である系と外界を設定し、それらの間のエネルギー移動の形態を知る。(2) 熱力学第一法則と第二法則に慣れ親しみ、熱機関の発達や永久機関の不合理性と関連付ける。(3) 孤立系のエントロピー増加則と熱力学第二法則に関する数学的表現を、微分・積分の両方で使いこなせるよう習熟する。(4) 熱化学を様々な事例に応用できるよう、標準生成エンタルピー、絶対標準エントロピー、標準生成ギブズ自由エネルギーの運用手順を把握する。(5) 8つの状態関数とそれらの変化量が関わる数学的表現を学ぶ。(6) 化学反応や状態変化が関わる自然現象を追及するに当たり、ギブズ自由エネルギーの変化量を評価することの有用性を実感し、気相化学反応や相転移現象を例にして開放系の熱力学理論の初歩を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は対面型の講義です。毎回、授業の後半に演習問題を解いて教員に提出します。採点済答案と解答例は、次週以降に配布されます。

第1回を除いてハイフレックス形式なので、オンラインで授業に参加できます。しかし、教室にいる学生と同じように演習問題の答案を提出するため、自宅にプリンターがあるとか、タブレットでPDFに書き込めるとか、そういった対応ができる環境が必要です。

主にパワーポイントを使って説明を聴き、式変形の詳細などは黒板書きで説明を受けます。パワーポイントの全内容を、4スライド分1ページにまとめた資料がWebClass上に掲示されます。学生はときどき質問を投げかけられ、答えや解答方針を口頭で説明するよう指示を受けます。

アクティブラーニングを意識した授業進行が予定されています。
・問答法（演習問題の正解率と学習理解状況が参考とされます）
・学生の応答などのフィードバックが授業の構成要素に取り込まれます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の紹介、熱力学の歴史と必要性、その意義や恩恵	2回目以降の授業内容の紹介、熱力学を学ぶ理由、熱力学の系譜
2	熱力学の基本概念、系の種類と状態関数	系と外界、8つの状態関数、可逆過程と不可逆過程、相転移、等温変化、断熱変化

3	エネルギー保存則、熱力学第一法則	内部エネルギー、熱と仕事、体積の膨張と収縮、PV仕事の表現、状態関数の微小変化
4	化学反応とエンタルピー	標準生成エンタルピー、標準反応エンタルピー、定圧過程下のエンタルピー変化と熱、物性表の見方、熱測定、発熱と吸熱
5	温度とエントロピー、熱力学第二法則の分子論的説明	量子準位への粒子配分、ボルツマン分布、熱力学的宇宙のエントロピー増加、自由膨張
6	熱力学第二法則の基礎と応用	クラウジウスの記述、ケルビン卿の記述、循環過程と熱機関、熱容量の定義、定積熱容量と定圧熱容量
7	熱機関とカルノーサイクル	蒸気機関、ヒートポンプ、カルノーサイクルの4ステップ、断熱膨張
8	化学反応とエントロピー	化学反応のエントロピー変化と自発性、等温定圧過程でのギブズ自由エネルギー変化、熱力学の基本方程式
9	化学反応とギブズ自由エネルギー	自由エネルギーの圧力依存性と温度依存性（理想気体）、標準生成ギブズ自由エネルギー、PV仕事と有効仕事
10	化学反応に関する諸量、化学ポテンシャル	化学量論係数、反応進行度、反応エンタルピーと反応エントロピーと反応ギブズ自由エネルギー、化学ポテンシャル
11	相転移と化学ポテンシャル（1）	状態図、気液平衡線、クラペイロン・クラウジウスの法則
12	相転移と化学ポテンシャル（2）	1成分系の化学ポテンシャルの温度依存性、同じく圧力依存性、蒸気圧の計算
13	化学平衡の法則（1）	反応の自発性、理想溶液の定義、モル分率と反応商、化学平衡の法則、平衡定数、混合によるエントロピー増加
14	化学平衡の法則（2）	気相化学反応、圧平衡定数と標準反応ギブズ自由エネルギー、ドルトンの法則、アンモニアの合成反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】式変形や具体的計算に必要な高校生レベルの数学、とくに指数・対数関数と微分・積分を復習しておきます。前週のプリントの内容を授業前に見て、記憶を呼び覚ましておきます。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。熱化学や化学平衡の最終式や事例に関しては、高等学校の「化学」の教科書に載っていることが多いので、高校時代の教科書や問題集を見返すことには意義があります。

【参考書】

「ブラディ・ジェスパーセン 一般化学（上・下）」、小島 監訳、東京化学同人
「P. Atkins・J. Paula 物理化学(上)」、千原・中村訳、第8版、東京化学同人
「自然科学ヒストリア」第6章と第8章、見附孝一郎、瀬谷出版

【成績評価の方法と基準】

期末試験（40%）、毎回の授業内演習問題（40%）、授業中の質疑応答（20%）に基づいて成績を評価します。期末試験は大学内で通常どおりのやり方で実施し、電卓のみが持込み可能です。

【学生の意見等からの気づき】

2016年度には、「抽象的な法則の説明が多いのもっと実例をあげて欲しい」との意見が出された。試験答案をみると、繰り返し言及したことについても抜け落ちている学生が多いので、内容を少し平易にし、要点を集中的に学んでいただくのがよいと考えた。ここ数年は、そういった対策が実を結びつつあると感じている。

2017年度以降の3年間は特段のコメントはなかった。2021年度はハイフレックス授業になったが、総じて好評だった。コメント例は次の通り。

- ・内容は難しかったが、授業の録画が公開されているので、復習するときに何度も見直して勉強できてとても良かった。
- ・対面で授業を行っている数少ない講義の一つで、毎週水曜日がとても楽しかった。

2022年度はアンケート回答数こそ少なかったが、授業は十分に双方向的であり、90分間を通して学生からの活発な質問や意見が多く投げかけられた。2024年度には毎回、演習問題を解いてもらい、採点済みの解答にコメントを付けて次の回の冒頭に返却した。学生の学習意欲と理解レベルが著しく向上したように感じる。

【学生が準備すべき機器他】

WebClassに登録し、メールでの「お知らせ」や新たな教材があった際には、それらに対応してください。

【その他の重要事項】

関数電卓は必需品なので準備してください（期末試験時にはスマホなど通信機能がある機器は持ち込めません）。対数や指数関数が計算できればよいので、高価な電卓は不要です。

前期の物理化学概論Ⅰを履修していなくても問題ありません。

【Outline (in English)】

Equilibrium thermodynamics is the basic theory of chemistry, the fundamental concepts of which had reached their present form at the end of the 19th century. Any system containing the vast number of particles can be satisfactorily described by eight state functions alone. This aspect of thermodynamics has been fascinating many scientists for more than 150 years. A request will be made to pay particular attention to the state functions called internal energy, enthalpy, entropy, and free energies, as well as the energy transferred between the systems as heat and work. The main objective of this class is to acquire the knowledge of these quantities and learn the problem-solving skills on phase transitions and chemical equilibrium.

Students will be expected to have completed the required assignment test in each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 40 %; Required assignment tests 40 %; In-class contribution 20 %. You can confirm your scores you have acquired so far in the corresponding course at WebClass.

BAM200YB（基礎医学 / Basic medicine 200）

生理病理学

丸井 朱里

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生理学」とは、主に生体の機能や作用についての学問であり、さまざまな病理・病態を理解する上での基礎となる学問である。「生理学的」という言葉は、生体内での正常な過程を意味し、しばしば「病理学的」という言葉の対語として用いられる。本講義では、生理学の基礎的な内容について幅広く取り扱い、生理機能についての体系的な理解を目指す。また、生活習慣病などの、身近な疾病に関する病理・病態についても取り上げる。

【到達目標】

生理学の基礎的な内容について体系的に理解すること。また、生理機能の異常により生じるさまざまな疾患の病理・病態について理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

神経系、骨格系、循環・呼吸系、内分泌系などの生理機能について、基礎的な内容を解説する。それぞれの生理機能の異常により生じる疾患の病理・病態についても紹介していく。授業終盤に、講義の理解度を把握するために小テストもしくはミニレポートを各回実施する。また講義後には質問や感想を提出してもらい、学生の理解度を考慮しながら講義を進めていく。適宜、課題に対する講評や解説について全体にフィードバックをおこなう。なお、講師の学会出張等の関係で、一部の回をオンデマンド実施に変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	生理学、病理学の基礎	恒常性の維持
2	血液と体液	体液区分、血液細胞
3	循環系	心臓の循環調節
4	呼吸系	ガス交換と呼吸運動の調節
5	消化系	消化器の運動・吸収
6	神経系	神経系の基礎、自律神経系
7	脳	ヒトの脳、睡眠
8	尿の生成、排泄	腎機能、体液調節
9	代謝	基礎代謝、代謝測定
10	内分泌系	ホルモンの種類と作用
11	体温調節	熱収支、概日リズム、性周期
12	感覚系	視覚・聴覚などの感覚器
13	筋収縮	骨格筋、心筋、平滑筋
14	まとめ	これまでの講義内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各講義の内容は互いに関連しているので、しっかりと復習を行い、各講義の内容を理解しておくこと。各回の小テストやミニレポートは成績評価に用いません。内容理解・復習に役立ててください。

【テキスト（教科書）】

特になし。講義内容に関連する資料を適宜配布する。

【参考書】

やさしい生理学 彼末一之・能勢博 編 南江堂
はじめの一步のイラスト病理学 深山正久 編 羊土社

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30％）、期末レポート（60％）、平常点（10％）の成績により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容の量やスピードに注意する。オンライン形式のため、わかりやすい動画作成を心がける。

【Outline (in English)】

Physiology is an academic discipline for understanding of function of organisms, is a basis for understanding of various pathologies. The term “physiological” means a normal body condition, and is often used as a term opposite to the term “pathological”. In this lecture, we deal with fundamental contents of physiology broadly and aim at systematic understand of physiological functions. We will also cover the pathology related to familiar diseases. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (60%), and in-class contribution (10%).

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

細胞工学

廣野 雅文

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞構成分子の機能を解明する手段として使われる様々な細胞工学的技術について、それらの基盤となる細胞膜と細胞骨格の構造と性質を学び、技術的な原理を理解する。

【到達目標】

細胞膜と細胞骨格の物質的基盤、基本的構造と機能を理解する。その上で、細胞の構成分子の生理的機能を解析する手段として使われてきた、様々な細胞改変技術の具体例とそれらの基本原理について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面で講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードしてフィードバックする。また、講義内容の資料は、PDFファイルとして学習支援システムにアップロードする。各回の授業方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	工学と理学の違い、細胞質工学とは、細胞質工学に用いる技術
第2回	生体膜の重要な性質	選択的透過性、エネルギー変換、情報伝達、電気的興奮
第3回	生体膜の基本的な構造	リン脂質、脂質2分子層構造と解明の歴史、膜の流動性、流動モザイクモデル
第4回	膜の透過性	Fickの式、透過係数
第5回	膜の輸送-1	受動輸送と能動輸送、単純拡散、促進拡散、担体輸送、チャンネル輸送
第6回	膜の輸送-2	一次能動輸送、二次能動輸送、膜動輸送
第7回	膜電位	膜電位の発見、Nernst電位、静止膜電位、活動電位
第8回	微小管の構造と性質	チューブリンと微小管の構造、チューブリンの重合、微小管の動的不安定性
第9回	細胞内微小管	微小管結合タンパク質による微小管形成の調節、gamma-チューブリン環状複合体
第10回	微小管モータータンパク質	キネシンの分子構造と多様性、キネシンと微小管の相互作用、ダイニンの分子構造、ダイニン-微小管の相互作用
第11回	キネシン、ダイニンが担う細胞運動	色素細胞の色素胞輸送機構、軸索輸送機構、鞭毛内輸送機構
第12回	有糸分裂における微小管の機能	紡錘体、有糸分裂の過程、紡錘体の構造と形成機構、染色体の分離機構
第13回	中心体	中心体・中心子・PCM、中心子と繊毛、中心子の基本構造、中心子の複製と新規形成、複製回数制御
第14回	繊毛の構造と機能	運動性繊毛と非運動性繊毛、繊毛の機能、繊毛の構造、繊毛の運動機構

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義後にノートとプリントを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義内容へのすべての質問に対して回答の一覧を授業支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

講義資料（PDF）をHoppiiにアップロードする。

【参考書】

Bruce Alberts：「細胞の分子生物学」第5版、ニュートンプレス

Benjamin Lewin：「細胞生物学」東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題10%、中間試験40%、期末試験50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業後の課題とともに質問を受け付け、数日以内にその回答をフィードバックしている。理解の助けになったという声も多いので、今後も継続する。学期の後半に質問数が減少する傾向があるが、ぜひ大いに利用してほしい。

【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline (in English)】

This course provides an overview of cell technologies used in the field of cell biology, such as DNA introduction into cells, GFP-tagging of proteins, cell fusion, and cell manipulation. To understand the principles of these technologies, the course will cover topics of structures and functions of biomembrane and cytoskeleton. Students are expected to spend 4 hours outside of class time for preparation and review. After the lecture, students are expected to review the lecture materials and notes, read reference books, etc. A list of answers to questions about the lecture will be uploaded to Hoppii within a few days. Carefully read the questions and answers given by other students to deepen your understanding. The evaluation will be based on 10%of the assignments submitted for each class, 40%for the mid-term examination, and 50%for the final examination.

BLS300YB (生物科学 / Biological science 300)

細胞情報学

川岸 郁郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全ての細胞は、自らをとりまく環境や細胞内の環境変化を感知し、それに対して適切な応答を引き起こす「シグナル伝達」という能力を備えている。本講義では、細胞生物学I, II, 生物化学I, II, 分子生物学I, II, 生物物理学I, II, および細胞構造機能学I, II, 蛋白質構造機能学I, II, ゲノム構造機能学I, IIで学んだ内容を踏まえ、真核細胞・原核細胞における細胞外刺激受容と細胞内シグナル伝達の分子機構およびその研究方法について、具体例（とくに感覚応答系）とともに学ぶ。

【到達目標】

細胞内シグナル伝達の基礎的概念および基本的な研究方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

あらゆる細胞は細胞外からのシグナルを受け取りそれに応答する。その仕組みを理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、シグナル伝達の原理について概説し、真核細胞および原核細胞におけるシグナル伝達の分子機構について解説する。とくに感覚応答系については詳述する。

講義は対面で行う予定であるが、状況によってはオンライン（Zoomリアルタイム）、または対面とオンラインの併用となる可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、授業支援システムにて提示する。いずれの場合でも、スライドと板書（オンラインではスライドへの書き込み）を用いて進める。各回終了後にリアクションペーパーの提出を求め、適宜フィードバックを行うことで、双方向性を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	受容体と細胞内シグナル伝達系
第2回	受容体-序論	受容体の分類と構造・機能
第3回	受容体-1	イオンチャネル共役型受容体
第4回	受容体-2	Gタンパク質共役型受容体
第5回	受容体-3	酵素共役型受容体
第6回	中間テスト-1	ここまでの講義内容に関するテスト
第7回	受容体下流の経路-1	二次メッセンジャー
第8回	受容体下流の経路-2	蛋白質キナーゼカスケード
第9回	受容体下流の経路-3	アダプター、足場タンパク質など
第10回	中間テスト-2	ここまでの講義内容に関するテスト
第11回	真核細胞の感覚応答系-1	視覚
第12回	真核細胞の感覚応答系-2	嗅覚・味覚
第13回	真核細胞の感覚応答系-3	その他の感覚
第14回	原核細胞の環境応答系	二成分制御系等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
配付資料、標準的な教科書、小テストなどを通して、授業で扱った内容を復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

エッセンシャル 細胞生物学 原書第2版 B. Alberts 他著 南江堂

ストライヤー 生化学 第7版 東京化学同人

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞中間テスト(20%)・期末テスト(70%)の成績を総合し、平常点(10%)を加味して評価する。

＜評価基準＞細胞内シグナル伝達機構の基本概念を理解しているか。その知識を具体的な事例の解釈に適用できるか。

【学生の意見等からの気づき】

スライドと板書のバランスに留意する。適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

随時小テストを行い、理解度をモニタする。また、講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。授業の進め方は、理解度等をもとに調整する。

【Outline (in English)】

Signal transduction in a cell or between cells is essential for any biological phenomena. The aim of this lecture is to learn general mechanisms underlying cellular signal transduction, with considerable emphasis on animal and bacterial environmental sensory systems, and approaches to study them, based on the knowledge gained from the lectures, Cell Biology I, II, Biological Chemistry I, II, Molecular Biology I, II, Biophysics I, II as well as Cell Structure and Function I, II, Protein Structure and Function I, II, and Genome Structure and Function I, II.

Review and deepen understanding of the material covered in class through handouts, standard textbooks, quizzes, etc.

The evaluation will be based on the mid-term exam (20%) and the final exam (70%), with a 10% regular grade added.

The evaluation criteria are as follows: Does the candidate understand the basic concepts of intracellular signal transduction mechanisms? Can the student apply this knowledge to the interpretation of specific cases?

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

神経科学

高田 耕司

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

脊椎動物が有する中枢と末梢の神経系は、個体と外界をつなぐ情報処理システムです。神経系は、周囲の状況に応じた合目的な身体反応や活動をもたらす、個体の生存と種の存続に極めて重要な役割を果たします。人類の進化では、中枢神経系の著しい発達により、ヒトは認知・言語・記憶・学習等の高度な知的能力を獲得しました。授業では、まず、神経系の解剖学的構造と生理学的機能を学び、神経における興奮の“伝導と伝達”の分子機序を学習します。次にこれらの基礎知識に基づき、知覚と運動の機構、記憶のメカニズム、依存症・気分障害・神経変性疾患等の成り立ちを概観し、神経系が司る身体と精神の活動について考察を深めます。

【到達目標】

- 1：中枢・末梢神経系の成り立ちが説明できる。
- 2：神経系の細胞群の特徴と機能が説明できる。
- 3：神経の伝導と膜電位の関係を説明できる。
- 4：シナプスにおける神経伝達の分子機序が説明できる。
- 5：神経伝達物質とその受容体の種類と特性について説明できる。
- 6：感覚の情報処理と知覚の関係を説明できる。
- 7：運動の制御機構について説明できる。
- 8：記憶や学習のなりたちや機序について説明できる。
- 9：嗜癖や様々な依存症と報酬系の関係について説明できる。
- 10：うつ病や双極症と神経系の関係について説明できる。
- 11：神経変性疾患とプロテオスタシスの関係について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

特別な指示が無い限り、授業は登校で行います。授業は開始時に配付する資料に沿って進め、パワーポイントと板書で解説します。資料は、随時、学習支援システムにアップロードします。最後の10分間は課題の回答と質問をまとめる時間とし、グループディスカッションを推奨します。質問には必ず答え、要望にも可能な限り応えます。提出後の課題は評価後、期末試験前に返却し、解説等のフィードバックを行います。補講は動画と資料を使ったオンデマンド授業で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	神経系の基本 1	中枢神経系の構成と構造
2	神経系の基本 2	末梢神経系の構成と構造
3	神経系の基本 3	ニューロンとグリアの特質と機能、ニューロンが伝える電気シグナル
4	興奮の伝導 1	静止電位と等価回路、ニューロンの特性と電気シグナル
5	興奮の伝導 2	活動電位と電位依存性チャネルの多様性
6	シナプス伝達 1	神経伝達物質の全体像、シナプス伝達概論
7	シナプス伝達 2	シナプスの成り立ちとイオンチャネル型受容体
8	シナプス伝達 3	代謝調節型受容体と低分子量伝達物質の動態
9	知覚と運動 1	感覚と知覚の関係
10	知覚と運動 2	運動の制御機構
11	脳の高次機能 1	学習と記憶の成り立ち
12	脳の高次機能 2	学習と記憶のメカニズム
13	神経系の疾患 1	嗜癖と報酬回路、気分障害等
14	神経系の疾患 2	神経変性疾患とプロテオスタシス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外学習は、2時間を標準とします。授業時には次週に向けた予習および復習用の課題を発表します。受講者は自習によって解答を用意し、次回授業時のリアクションペーパーに記述して提出します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。参考書欄を参照ください。

【参考書】

資料の大半の図表は次の書籍からの引用です。同書は図書館に蔵書されており、予習・復習に有用です。カンデル神経科学 Sixth Edition 日本語版 第2版 宮下監修、メディカルサイエンスインターナショナル社

【成績評価の方法と基準】

期末試験に基づいて授業内容の理解度を測り、到達目標への達成度を評価します。平常点は、出席時に提出された課題の内容にもとづいて求めます。欠席時の課題を後日提出した場合、原則として評価の対象としません。成績は、定期試験 70%、平常点 30%で算定します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、資料・スライドの工夫や質問対応について概ね肯定的なコメントを受け取りましたが、内容を深く理解できたとの回答は、全体の約3割に留まりました。次年度は、過半数以上の受講者が深く理解できるように資料とスライドの表現を見直します。

【学生が準備すべき機器他】

ノート、筆記具に加え、資料を整理・保持するA4判ホルダーが必要です。オンデマンド授業では、学習支援システムとGoogle driveを利用するため、インターネット環境と資料印刷用のプリンターが必要です。

【Outline (in English)】

The central and peripheral nervous systems possessed by vertebrates are information processing systems that connect the organism with the external world. The nervous system enables purposeful physical responses and activities adapted to the surrounding environment, playing a crucial role in individual survival and species continuity. In human evolution, the remarkable development of the central nervous system has allowed humans to acquire advanced intellectual abilities such as cognition, language, memory, and learning. In this course, we will first study the anatomical structures and physiological functions of the nervous system, as well as the molecular mechanisms of “conduction and transmission” of neuronal excitation. Based on this foundational knowledge, we will provide an overview of the mechanisms of perception and movement, the processes of memory, as well as the origins of addiction, mood disorders, and neurodegenerative diseases, while deepening our understanding of how the nervous system governs both physical and mental activities.

BAM300YB（基礎医学 / Basic medicine 300）

分子免疫学

金山 剛士

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然免疫と獲得免疫について概要を学び、免疫系全体の仕組みと個別の分子機構を理解する。また、免疫細胞の種類とその役割、分化経路を学ぶ。免疫に関連する疾患の発症メカニズムと免疫系を標的とした治療法について学ぶと同時に、フローサイトメトリーやオミックス解析といった免疫研究の技術原理を基礎から最新のものまで幅広く学ぶことで、免疫学・血液学・医科学における一般的な素養を身につけることを本授業の目的とする。

【到達目標】

基本的な免疫系の機構と、個別の免疫細胞の役割や分化機構についておおまかに理解する。様々な疾患やその治療法における免疫の関わり、あるいは免疫系を解析するための技術原理について学ぶことで、免疫学や医科学における基礎的な素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイントで作成された資料および配布資料にて内容を説明する。授業中に行う10～20分程度の小テスト、あるいはA4用紙1枚程度のレポートを出題することで授業の理解を深める。中間試験及び、最後の授業で期末試験を行い、下記基準に沿って成績評価を行う。中間・期末試験：40%，小テスト/レポート：40%，出席・授業態度・発現内容など：20%。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	免疫学概説	免疫系の概要と免疫学の歴史
2	免疫系と造血系	獲得免疫と自然免疫の違い、免疫細胞の産生機構
3	自然免疫（1）	単球、マクロファージ、顆粒球
4	自然免疫（2）	NK細胞、自然リンパ球
5	自然免疫（3）	樹状細胞
6	中間試験	中間試験
7	獲得免疫（1）	T細胞、NKT細胞
8	獲得免疫（2）	B細胞、形質細胞
9	免疫関連疾患とその治療（1）	感染症とワクチン
10	免疫関連疾患とその治療（2）	炎症と生物製剤、アレルギーと抗アレルギー薬
11	免疫関連疾患とその治療（3）	癌・免疫不全と骨髄移植、癌とCAR-T細胞療法・免疫チェックポイント阻害薬
12	免疫学の基本的な研究手法（1）	文献検索、遺伝子改変マウス、動物モデル、抗体作製など
13	免疫学の基本的な研究手法（2）	フローサイトメトリー、オミックス解析技術など
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業に必要な準備・復習のための授業時間外学習は4時間程度を基本とする。A4用紙1枚程度で表現可能なレポート、あるいは前回授業内容に関する小テストを授業中に課す。作成するレポートは文献検索や、個人のアイデア創出が求められる内容となる。レポートは原則、出題された2週後の授業終了時までに提出。小テストやレポートの評価を通じて理解度の確認を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

免疫ペディア（羊土社）他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

理解度、表現力、発想力を重視し、レポート・小テスト（約40%）、中間・期末試験（約40%）、出席および授業中の発言・質問などの授業への貢献（20%）にて評価する。授業の進捗によっては中間試験を行わない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

授業スライドのハンドアウトの配布と、授業の要点を記したまとめページは好評でしたので継続します。また、質問や要望を常に募集し、授業へフィードバックしたところ、理解が容易になったなどの好意的な意見を多く頂きました（要望・質問は「授業への貢献」として成績に反映させました）。中間・期末テストや小テストは採点後に返却することで、学生の理解と意欲に繋がると感じました。

【学生が準備すべき機器他】

PC、スマートフォン等、Web検索及びオンライン時授業時に必要なデバイス。

【その他の重要事項】

期末テストはメールで希望者に返却します。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course aims to foster the fundamental knowledge of immunology. You will learn the molecular mechanisms of innate and adaptive immunity and the role and differentiation pathway of immune cells. You will also learn the pathogenesis of immune-related disorders, the mechanisms of therapies targeting immune system and basic principles of techniques for researches in immunology and medical science.

[Learning objectives]

The goals of this course are to learn history of immunology and to understand the molecular and cellular mechanisms of immune system and the relationship of immune system in diseases and therapies.

[Learning activities outside of classroom]

After each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

[Grading criteria/policies]

Your overall grade in the class will be decided as follows.

Term end examination: 40 %, Short test or reports: 40 %, in class contribution: 20 %

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

バイオイメーjing

笠井 倫志、矢島 潤一郎、藤原 敬宏、吉澤 亮

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物試料を拡大して詳しく調べるための顕微鏡技術は古くから存在しましたが、近年、生物学における基礎的な観察技術として大きく発展し、様々な展開を見せています。生物顕微鏡技術の基礎から最先端まで、原理と応用例を紹介します。

【到達目標】

生物学の広い分野において必須の研究機器となっている光学顕微鏡の原理と、最新の発展・応用例を学ぶことで、自身が顕微鏡を使うとき、あるいは顕微鏡を使った先端研究論文を読むときに、仕組みの理解に基づいた適切な判断ができるようになることを目指します。顕微鏡を用いた生物試料の観察における意義や、技術的な限界の理解を通じて、光学顕微鏡観察における"Seeing is believing."とは何か、を理解してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義

中間試験

期末試験

試験結果と通常点を総合的に考慮して成績をつけます。

講義に関する質問はメールで受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の概要と目的についての紹介と、光学顕微鏡技術の歴史などの概説。
第2回	光学の基礎	光学顕微鏡の基礎となる光学の基本知識を解説する。
第3回	光学顕微鏡の概説 1	位相差顕微鏡、微分干渉顕微鏡、蛍光顕微鏡など基本的な光学顕微鏡技術を紹介する。
第4回	光学顕微鏡の概説 2	最新の顕微鏡観察の基本となる蛍光顕微鏡に注目し、原理や関連する技術までを広く紹介する。
第5回	最先端の顕微鏡技術の概説 1	共焦点顕微鏡や多光子顕微鏡、蛍光 1 分子顕微鏡など、最先端の顕微鏡観察法を紹介する。
第6回	最先端の顕微鏡技術の概説 2	顕微鏡の分解能についての議論と、その限界を超える超解像観察法など、先進的な観察技術法を引き続き紹介する。
第7回	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする。
第8回	生細胞内での 1 分子バイオイメーjing I	細胞中の分子の動態を蛍光 1 分子観察することで、分子や細胞の働き方を理解する研究を紹介する。
第9回	生細胞内での 1 分子バイオイメーjing II	超高速での蛍光 1 分子観察技術と、それによる超解像観察法の紹介と、これらを用いた、分子の組織化機構を解明する研究を紹介する。
第10回	生細胞内での定量バイオイメーjing	共焦点顕微鏡観察による、細胞内分子の定量計測に基づいた研究を紹介し、バイオイメーjing技術を用いた生物学研究の一端を解説する。
第11回	モータータンパク質のバイオイメーjing	in vitroでの蛍光 1 分子観察による、モータータンパク質の動作原理を解明する研究を紹介する。
第12回	個体レベルのバイオイメーjing	バイオイメーjing技術を用いた、個体レベルでの運動計測を行う研究の紹介と、その可能性を紹介する研究を紹介する。
第13回	期末試験	講義の後半についての理解度をチェックする。
第14回	総括	光学顕微鏡を用いたバイオイメーjingを改めて解説し、講義全体を通じて、理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】もしも、自分の研究課題で顕微鏡を使うなら、どういう顕微鏡をどのように使うかを想像し、講義に望んでください。講義中や講義資料に設問があるときは、自分で考えてみてください。また、授業中には、実際の研究の現場でも参照される文献を、参考文献として紹介することがありますので、読んで理解してください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

none

【参考書】

- 光の教科書 黒田和男他 オプトロニクス社
- 改訂顕微鏡の使い方ノート 野島博編 羊土社
- Fundamentals of Light Microscopy and Electronic Imaging, second edition Douglas Murphy, Michael Davidson Wiley-Blackwell
- ビデオ顕微鏡 その基礎と活用法 /Shinya Inoue, Kenneth Spring, 寺川進他 共立出版
ほか

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、中間試験（40%）、期末試験（40%）の合計で判定します。

【学生の意見等からの気づき】

現場の研究者による丁寧な解説と、実際の実験の画像データを必要に応じて紹介することで、最先端のバイオイメーjingとは何かを学んでもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

大学生の教養初等レベルの分子生物学、細胞生物学、生化学などの基本知識、また、高校生レベルの光学、数学、顕微鏡の知識を前提にしています。

【Outline (in English)】

The technology of optical microscopy for observing tiny biological objects has a long history and continues to evolve with innovative ideas. This course introduces the fundamental principles of optics and microscopy, and various applications of biological optical microscopy, covering topics from the basics to the latest advancements. To enhance learning, leading-edge researchers will present the newest images of biological samples captured using advanced microscopy techniques. Students will be encouraged to explore how microscopy can be applied to their own research. Reference papers and books will be introduced during class, and students are expected to study them independently outside of class. Grades will be based on class participation (20%), the midterm exam (40%), and the final exam (40%).

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

生物化学 I I

西川正俊

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象の根幹をなす代謝の生物化学的理解を通じて、複雑な生命科学の専門的な内容を理解するための基礎知識を習得する。

【到達目標】

主な生体構成物質の構造と機能を学び、それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する。生物化学IIでは多種の酵素による反応過程が集積して実現される代謝経路について、制御機構と反応様式を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

板書を基本とする。講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる。用いたファイルは授業支援システムにアップロードし、履修者が閲覧できるようにする。講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	生物化学における基本概念の確認
2	基本概念1	代謝経路の反応が示す不可逆性と自発性について
3	基本概念2	代謝経路に現れる反応モチーフについて
4	生体のエネルギー変換機構	酸化的リン酸化とエネルギー変換
5	糖代謝1	解糖系について
6	糖代謝2	糖新生について
7	糖代謝3	解糖系と糖新生の制御機構について
8	TCA サイクル	TCA サイクルで生じる反応の不可逆性とその制御
9	まとめと演習	好気呼吸の制御と収支について
10	脂質代謝1	脂肪酸分解
11	脂質代謝2	脂質の合成
12	代謝制御	代謝経路のホルモン制御
13	光合成1	明反応
14	光合成2	暗反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 ノートや参考書を用いた復習をすること。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ストライヤー生化学, J. M. Berg 他

レーニンジャーの新生化学, David L. Nelson 他

【成績評価の方法と基準】

成績評価法：期末テスト（60%）、レポートや中間テスト：（40%）の結果をもとに総合的に評価する。

評価基準：細胞内で起こっている糖、脂質の代謝反応がどのように起こっているかの理解度

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生の質問を引き出せるような授業にする。

【その他の重要事項】

実務経験: 理化学研究所 発生・再生総合科学研究センター 研究員. この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to biochemistry of metabolism, with the aim of understanding how a cell establishes its living states through chemical reactions mediated by enzymes. Specifically, the goal of the course is to acquire chemical insights on reaction networks and their precise regulations on metabolic pathways. Participants are expected to spend four hours to summarize the contents provided in the classes. Grades will be determined based on the points of two exams (mid-term 40 %, term-end 60 %).

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

生物物理学 I

西川正俊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は生命システムの研究において必要となる物理の基礎を学ぶ。前半で力学について基本から解説し、巨視的なスケールのバイオメカニクスについて学ぶ。後半ではニューロンの生物物理について解説し、活動電位発生の物理を理解する。

【到達目標】

この授業では、さまざまな生命現象を物理学的な視点から理解するために必要な力学を基本から学ぶ。細胞内における分子の動きやエネルギー共役を定量的に議論する基盤を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

板書を基本とする。講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる。用いたファイルは授業支援システムにアップロードし、履修者が閲覧できるようにする。講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	生物物理学とは何か？ について解説する。
第2回	運動について	分子・細胞・個体のスケールで見ると運動の違いについて解説する。
第3回	力学1	単位系について解説する。
第4回	力学2	運動について解説する。
第5回	力学3	力と運動方程式について解説する。
第6回	力学4	運動量とエネルギーの保存法則について解説する。
第7回	力学5	過減衰系の運動について解説する。
第8回	まとめと演習1	バイオメカニクスについてのまとめと演習テストをおこなう。
第9回	ニューロンの生物物理1	細胞の電気的性質と電子回路の基礎について解説する。
第10回	ニューロンの生物物理2	ヘルンストの式を導出する。
第11回	ニューロンの生物物理3	膜電位について解説する。
第12回	ニューロンの生物物理4	イオンチャネルの物理について解説する。
第13回	ニューロンの生物物理5	活動電位について解説する。
第14回	まとめと演習2	ニューロンの生物物理についてのまとめと演習テストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】生物現象に見られる力学についての演習問題を講義の中で取り扱う。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるを得ないので、各自で確認をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

ゼロからの力学I, II, 岩波書店,
Essential細胞生物学 原書第2版, 南江堂

【成績評価の方法と基準】

レポートや中間テスト(40%)と期末試験(60%)の結果を元に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題を通じて具体的な理解をめざす。

【その他の重要事項】

実務経験: 理化学研究所 発生・再生総合科学研究センター 研究員。この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the physics of biological systems. We will establish an understanding of the basic concepts of mechanics at macroscopic scale and then will build the understanding of underlying physics of action potential. Specifically, the goal of the course is to acquire physical insights on molecular movement driven by chemical energies inside cell. Participants are expected to spend four hours to summarize the contents provided in the classes. Grades will be determined based on the points of two exams (mid-term 40 %, term-end 60 %).

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

生物物理学 I

曾和義幸

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物物理学は、物理学的な考え方や手法を用いて生命現象を理解しようとする学問である。講義の前半では、生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成や、タンパク質のエネルギー変換機構について概説する。後半では、生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために、生体エネルギー論を基本から解説する。

【到達目標】

この授業では、タンパク質の立体構造形成やエネルギー共役について知識を深めること、生体エネルギー論の基本を学び、生体内における化学反応について物理学的な視点から理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成について概説し、生体内で起こるエネルギー変換の例を紹介する。後半では、生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために、生体熱力学を基本から解説する。基本的な考え方や手法を解説するとともに、最先端の技術についてもトピックスとして紹介する。講義内では授業内またはレポートとして演習をおこなうが、提出後に解説をおこなってフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する。生体内の化学反応について概説する。
2	タンパク質の構造 1	アミノ酸の性質とタンパク質構造の階層性について復習する。
3	タンパク質の構造 2	タンパク質の構造についての基礎について復習する。
4	タンパク質の構造 3	タンパク質の構造解析について概説する。
5	生体熱力学の基礎 1	熱力学の法則について概説する。
6	生体熱力学の基礎 2	熱力学第一法則を概説する。
7	まとめと演習 1	タンパク質と生体熱力学の基礎のまとめと演習テストをおこなう。
8	生体熱力学の基礎 3	熱力学第二法則を概説する。
9	生体熱力学の基礎 4	ギブズの自由エネルギーについて概説する。
10	生体熱力学の基礎 5	化学ポテンシャルについて概説する。
11	生体熱力学の基礎 6	反応ギブズエネルギーについて概説する。
12	細胞内の代謝	細胞内の代謝について熱力学の観点から概説する。
13	細胞のエネルギー通貨	ATPの構造と加水分解エネルギーとほかの過程のエネルギー共役について解説する。
14	まとめと演習 2	生体熱力学のまとめと演習テストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】生体エネルギーについての演習問題を講義の中で取り扱う。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるを得ないので、各自で確認をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では、視覚的教材やプリントを使用する。

【参考書】

Essential細胞生物学 第2版、南江堂

細胞の分子生物学 第5版、ニュートンプレス

物理化学や化学熱力学の一般的な参考書

【成績評価の方法と基準】

中間試験(50%)・期末試験(50%)の合計点数によって評価する。ただし、オンライン授業になった場合は、適宜課す予定のレポート・演習で評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題について、計算を丁寧に解説する。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを利用することがある。

【Outline (in English)】

The course deals with the basis of biophysics, with fundamental thermodynamics in biology. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination (50%) and term-end examination (50%).

BLS100YB (生物科学 / Biological science 100)

細胞生物学 I

金子 智行

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

遺伝情報の収納庫としての「核」を中心とした細胞の構造と機能について学ぶ。

【到達目標】

生物の基礎単位である細胞の物質的基盤・分子構成と、細胞としての反応性や細胞単位での生命機能を論理的に理解し、その基盤である生命機能が発現する過程を統合的に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

生命体の最小基本単位である細胞を構成する小器官の構造と機能や生体反応の仕組みを学ぶことによって、生命機能発現の仕組みと制御機構の基礎を理解することを目指す。授業中に適宜課題を与えレポート提出を求め、2回の中間試験で理解到達度を測り、理解度を鑑みながら授業を進める。大学の行動方針レベルに応じてオンライン(Zoom)でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	細胞の進化	原始地球における生命の誕生から多細胞生物への進化の過程
2	核の構造と機能	核の基本構造と特徴
3	原核生物と真核生物	原核生物と真核生物の違い
4	真核生物の染色体	染色体の構造と機能
5	ミトコンドリア・葉緑体のDNA	細胞内小器官に独自に存在する遺伝情報
6	核輸送、小胞輸送	核膜を通じた核輸送やゴルジ・小胞体による輸送
7	細胞表層や核内の受容体	細胞表層や核内にある受容体の構造や機能
8	中間試験-1	ここまでの理解到達度確認と試験の解説および補足
9	細胞周期	細胞周期の分類や制御機構
10	細胞分裂や生殖と減数分裂	有糸分裂の機構や減数分裂の意義や仕組み
11	細胞間コミュニケーション	間接的、直接的な細胞間コミュニケーションの方法
12	細胞から個体へ	多細胞生物の成り立ちと細胞集合と識別
13	中間試験-2	中間試験-1以降の理解到達度確認と試験の解説および補足
14	まとめと解説	全体の理解度確認と解説および補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

1. 予習と復習
2. 授業中適宜与えられた課題についてのレポート作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

石崎・丸山 監訳・翻訳 「アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学」 講談社
エッセンシャル 細胞生物学 原書第5版 B. Alberts 他著 南江堂
他は授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験50％・中間試験(1と2)20％・レポート課題15％・平常点15％の成績を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

PowerPoint図の印刷体配布要望があったが、授業中に紹介した参考書を紐解けば見つかる図表が大部分であるので、自主的学習能力を充進させる為には望ましくないと判断しました。

【学生が準備すべき機器他】

レポート課題提出には学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

授業内での質問を随時受け付ける。
財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

【Outline (in English)】

This course deals with the structure and function of the cell mainly on "the nucleus" as the storage of the genetic information.

The goals of this course are to understand the process of expression of biological functions.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (50%), mid-term report (20%), short reports (15%), and in class contribution (15%).

BLS100YD (生物科学 / Biological science 100)

細胞生物学 I

小見 美央

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞とは何か、生命とは何か、全ての生物に共通しているものは何なのか。本授業では細胞の構造、機能、エネルギー代謝、細胞分裂、細胞死、細胞間（内）コミュニケーションといった基本事項を学ぶ。世界にインパクトを与えている様々な問題について細胞生物学の視点から理解することを試みる。

【到達目標】

細胞の構成を学び、生命が機能する仕組みを統合的に理解する。本講義では主に動物細胞を扱う。細胞の構造、機能、組織構造、細胞間のコミュニケーション、細胞分裂、細胞骨格など、細胞レベルの現象やトピックに触れる。生成AIが不可欠な存在になりつつある今日、AIによるアウトプットを批判的に評価するためには、正しい知識に基づく批判的思考力を養うことがこれまで以上に重要となるので、クイズやテストを通して知識の定着を目指す。プレゼンテーションを2回、エッセイを1回作成する機会を通して、学生がインプットした知識をアウトプットできるようになること、また問題解決のために必要な知識を自力で探索し見極められるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義を中心に行う。適宜、参考資料として動画や外部ウェブサイトを紹介しながら講義を進める。また、理解を深めるためのアクティビティをオンデマンド回、対面回どちらも実施予定。毎回、講義の最初に前回の内容に関するミニクイズを実施する。講義後にレスポンスペーパーを提出してもらい、翌週フィードバックする。2度のプレゼン発表では学生同士もフィードバックしあう。授業内に（小）テストを2回実施するが、評価の主体はプレゼンとエッセイ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・イントロダクション（オンデマンド）	コース・評価基準の説明 生物とは何か 細胞コンセプトマップ
第2回	細胞の基本構造と多様性（オンデマンド）	Cell Theory 原核細胞と真核細胞 各オルガネラの機能 細胞内共生説
第3回	細胞膜と物質輸送（オンデマンド）	脂質二重層 受動輸送、能動輸送、エンドサイトーシス、エキソサイトーシス
第4回	エネルギー産生	解糖系 クエン酸回路
第5回	エネルギー産生2	酸化的リン酸化 糖新生
第6回	細胞骨格 メンブレントラフィック	細胞骨格の種類 細胞間接着 モータータンパク質と積み荷 細胞運動
第7回	プレゼン発表会	第1回プレゼン発表会
第8回	復習&小テスト	第6回までの内容の復習と小テスト
第9回	シグナル伝達（オンデマンド）	受容体 細胞間シグナル伝達経路 細胞内シグナル伝達経路
第10回	細胞分裂	有糸分裂
第11回	細胞分化と発生（オンデマンド）	運命決定、分化メカニズム、初期発生、幹細胞
第12回	細胞死（オンデマンド）	アポトーシス がん細胞
第13回	プレゼン発表会	第2回プレゼン発表会
第14回	復習&テスト	総復習とテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎週のミニクイズおよびテストの準備のため、授業内容の復習が必須となる。また、授業で用いたスライドおよび授業内で紹介する参考動画、オンライン授業の場合は講義の動画をHoppiiにアップロードするので適宜必要に応じて利用する。セメスターを通してプレゼンやエッセイ作成のため様々なリソースを使い調査することが求められる。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

- 1) ブルーバックス カラー図解 新・大学生生物学の教科書 第1～3巻（『Life: The Science of Biology Twelfth Edition』の抜粋和訳版）
- 2) Life: The Science of Biology
- 3) 理系総合のための生命科学第4版 東京大学生命科学教科書編集委員会／編
- 4) Biology: A Global Approach, Global Edition

【成績評価の方法と基準】

平常点（レスポンスペーパーおよびクラス内アクティビティの提出）（10%）、ミニクイズ（10%）、プレゼン課題（20%x2）、レポート課題（30%）、小テスト+テスト（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼン課題とレポート課題（エッセイ）が好評なので今回も引き続き実施します。

【学生が準備すべき機器他】

毎週のミニクイズはGoogle formを使って実施するのでスマートフォンまたはパソコンから回答する必要があります。資料配布や課題提出にはHoppiiを使用します。

【その他の重要事項】

第2回以降のオンデマンド回にも同期的に（朝10:00から）ミニクイズを実施します。詳しくは初回ガイダンスで説明します。
高校までで生物未履修の人の履修も歓迎します。
この授業は秋学期木曜1限の分子生物学IIと連動しており、春学期に細胞レベルの現象を理解し、秋学期にその分子機構を理解するというつながりがありますが、どちらかだけの履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

This course provides a firm foundation in basic cellular biology, emphasizing eukaryotic cells. Topics include Cell Structure, Cell Function, Cellular Organization, Cellular Communication, Cell Division, and Cell Biology in Health and Disease. Students are evaluated based on two presentation assignments and two essays. Upon completing the cell biology course, students will gain a comprehensive understanding of cellular structures, functions, and interactions, equipping them with the knowledge and skills to analyze complex biological processes and apply this understanding to diverse fields such as medicine and biotechnology. There is a weekly quiz about the contents covered in the previous session, so students must go over the past lectures regularly. In addition, students must read academic articles outside of class to prepare essays and presentations. Final grades are calculated based on presentations (40%), essays (30%), participation (20%), and exams (10%). Participation includes the completion of response sheets and quiz results.

The instructor is fluent in English, so students can communicate with the instructor (e.g., ask questions) in English.

BLS100YB (生物科学 / Biological science 100)

細胞生物学 I I

川岸 郁朗

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物の基本単位である細胞の構造を理解する。とくに、生体膜と細胞骨格の構造と性質およびそれらが関与する細胞機能について理解する。

【到達目標】

生物の基礎単位である細胞の物質的基盤・分子構成、および細胞としての反応性や細胞単位での生命機能を論理的に理解し、その基盤である生命機能が発現する過程を統合的に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

細胞は生物の基本単位であり、その構造と機能を理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、おもに真核生物の細胞の構造について、とくに生体膜と細胞骨格に重点を置いて概説する。さらに、生体膜と細胞骨格が関与する代表的な細胞機能として、細胞のシグナル伝達や細胞運動のメカニズムについて概説する。

講義は対面で行う予定であるが、状況によってはオンライン（Zoomリアルタイム）、または対面とオンラインの併用となる可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、授業支援システムにて提示する。いずれの場合でも、スライドと板書（オンラインではスライドへの書き込み）を用いて進める。各回終了後にリアクションペーパーの提出を求め、適宜フィードバックを行うことで、双方向性を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	生命の階層性、細胞とは（大きさ、形）、細胞小器官の構造、細胞内区画化の意義
第2回	生体膜-1	脂質二重層
第3回	生体膜-2	脂質二重層の流動性
第4回	生体膜-3	膜蛋白質
第5回	これまでの復習-1	中間テスト
第6回	膜輸送-1	生体膜の透過性
第7回	膜輸送-2	受動輸送、イオンチャネル
第8回	膜輸送-3	能動輸送
第9回	細胞のシグナル伝達-1	受容体
第10回	細胞のシグナル伝達-2	細胞内シグナル伝達因子
第11回	これまでの復習-2	中間テスト
第12回	細胞骨格-1	微小管
第13回	細胞骨格-2	ミクロフィラメント、中間径フィラメント
第14回	細胞骨格-3	細胞骨格の動態、モータータンパク質

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
配付資料、標準的な教科書、小テストなどを通して、授業で扱った内容を復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

Essential細胞生物学 原書第3版 Bruce Alberts 他 南江堂
基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 和田勝 羊土社
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価基準＞中間テスト(20%)・期末テスト(70%)の成績を総合し、平常点(10%)を加味して評価する。

＜評価基準＞細胞の構造、とくに生体膜と細胞骨格の構造と機能について理解しているか。その知識を具体的な事例の解釈に適用できるか。よく分からない点について自ら積極的に調べ、考察できるか。

【学生の意見等からの気づき】

スライドと板書のバランスに留意する。適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

随時小テストを行い、理解度をモニタできるようにする。ただし、小テストの点数は成績評価には含めない。また、講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向性を確保する。授業の進め方は、理解度等をもとに調整する。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to understand basic structural features of the cell, a smallest unit of any organisms, with much emphasis on structures and functions of biomembrane and cytoskeleton.

Review and deepen understanding of the material covered in class through handouts, standard textbooks, quizzes, etc.

The evaluation will be based on the mid-term exam (20%) and the final exam (70%), with a 10% regular grade added.

The evaluation criteria are: 1) The student's understanding of the structure and function of cells, especially the biological membrane and cytoskeleton. 2) The student's ability to apply this knowledge to the interpretation of specific cases. 3) The student's ability to actively investigate and discuss unfamiliar points on his/her own.

PRI100YB (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

生物統計学

谷合 弘行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計的推測の基本的な考え方を理解し、データ分析における標準的な手法を習得します。

【到達目標】

まず、記述統計の手法を習得し、得られたデータの傾向などを読み取る操作ができるようになります。

そして、統計的推測の仕組みを理解することで、データを生成しているであろう構造についての推定や検定について考えられるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

統計学とは得られたデータへ我々が与える解釈に関する方法論のことで、統計的手法は多岐にわたります。本講義ではそれら手法を多く紹介して慣れることよりも、それらの基礎にある考え方の理解を目指します。

授業はスライドの提示とそのPDFファイルを配布して行います。試験は資料持ち込み可ですが、問題としては基本的なものを予定しています。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	準備としての確率論 (1)	確率の意味、積分
2	準備としての確率論 (2)	分布、期待値、分散
3	準備としての確率論 (3)	二項分布、正規分布
4	準備としての確率論 (4)	条件付き確率、共分散
5	準備としての確率論 (5)	正規分布の意味
6	統計モデルと統計量	母集団と標本、最小二乗法
7	統計的推定 (1)	推定量の良さ、最尤推定量
8	統計的推定 (2)	信頼区間、母平均の区間推定、標本数の決定
9	統計的推定 (3)	カイ二乗分布、t分布、母分散未知での推測
10	仮説検定 (1)	検定の考え方、検定の良さ
11	仮説検定 (2)	母平均に関する検定（母分散既知/未知）
12	回帰分析 (1)	線形回帰、重回帰
13	回帰分析 (2)	線形回帰の応用
14	その他の話題	その他の話題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義で話されたことで興味を持ったことがあれば、参考書などを参照して復習しながら理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

藤澤洋徳（2006）『確率と統計』、現代基礎数学 13、朝倉書店。

宮田庸一（2012）『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション。

Bruce et al. (2020) 『データサイエンスのための統計学入門 第2版』、オライリージャパン。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)。期末に行う筆記試験（資料持込可）の結果のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めてもらうための例題をさらに増やし、かつ時間も割いて丁寧に解いて見せるように改善する予定です。難易度も若干下げる予定です。**Excel**だけでなく、**Python**あるいは**R**によるデータの扱い方についても触れる予定です。

【Outline (in English)】

[Course outline]

We will learn the basic idea of statistical inferences and master standard methods in data analysis.

[Learning Objectives]

You will

* learn descriptive statistics techniques and be able to read trends in the obtained data;

* understand how statistical inference works;

* be able to draw reasonable conclusions about the data generating structures.

[Learning activities outside of classroom]

If you are interested in something that was discussed in the lecture, you can refer to the books or materials referred in this class.

[Grading Criteria /Policy]

Final exam (100%).

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

ゲノム構造機能学 I

佐藤 勉

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命情報はゲノムに刻み込まれている。生命活動を分子レベルで理解するためには、ゲノムを構成する遺伝子の働きとネットワークを理解することが不可欠である。本講義は、生命活動をゲノムの構造と機能の面から理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では生物がもつゲノムの遺伝子構成とそれぞれの機能についての包括的な理解を目指す。また、この講義で学んだ知識を日々の研究活動で実践するに至るまで深化させることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

本講義は、ゲノム構造と機能について、特にゲノムの構造に力点を置き、生物がもつゲノムの遺伝子構成から、細胞形成まで解説する。パワーポイントを用いて説明する。良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。具体的な授業の進め方については、学習支援システムの「お知らせ」にて案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゲノムの捉え方	ゲノム構造機能学Iの概要・授業の進め方について解説する。
第2回	原核生物の遺伝子構造	原核生物の遺伝子を構造という視点から解説する。
第3回	真核生物の遺伝子構造	真核生物の遺伝子を構造という視点から解説する。
第4回	オペロンの構造1（転写制御）	ラクトースオペロンの発現制御機構を中心に解説する。
第5回	オペロンの構造2（転写翻訳装置による制御）	トリプトファンオペロンの発現制御機構を中心に解説する。
第6回	遺伝子ネットワーク	ストレス応答機構を中心に遺伝子ネットワークについて解説する。
第7回	ウイルスの構造と増殖	主に溶菌性ファージの構造とその増殖メカニズムについて解説する。
第8回	中間テスト・解説	遺伝子・オペロンの構造、転写ネットワーク・ウイルスについての理解度の確認と解説。
第9回	宿主ゲノムとウイルスDNA	溶原性ファージの溶菌・溶原決定機構について解説する。
第10回	ファージの誘発と宿主の感染防御機構	プロファージの誘発機構と宿主のウイルス感染防御機構について解説する。
第11回	プラスミド	プラスミドの構造と機能について解説する。
第12回	レトロウイルス・トランスポゾン	レトロウイルスやトランスポゾンなど可動性遺伝子因子の機能について解説する。
第13回	DNA組換え機構	DNA組換え（相同組換えと部位特異的組換え）機構について解説する。
第14回	癌化・老化・寿命とゲノム	癌化・老化・寿命に関係する遺伝子について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
テーマ・内容のキーワードをもとに予め概要を理解して授業に臨むこと。体系的に講義を進めるため、復習は大事である。ゲノム構造と機能の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。

【参考書】

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。
細胞の分子生物学（ニュートンプレス）
生命科学のコンセプト 分子生物学（化学同人）
組換えDNAの分子生物学 遺伝子とゲノム（丸善）
分子生物学イラストレイテッド（羊土社）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%、平常点 20%、として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のノートを取るスピードに配慮して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いて講義を進める。資料は予め学習支援システムにアップロードする。

【Outline (in English)】

A genome is the complete set of genetic information in an organism. This course introduces genomic science to students taking this course. The overall goal of this lecture is to make students understand the function and structure of the genomes in organisms. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution.

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

ゲノム構造機能学 I

山中 幸

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象に関わる全ての遺伝情報はゲノムに搭載される。本講義では、ゲノムの構造と機能、および機能発現制御について解説します。分子生物学の基本概念に基づき、「ゲノムの構造機能」について「遺伝子の構造機能」とともに紹介します。さらに、全ゲノム情報から展開される「ポストゲノム」について展望していきます。

【到達目標】

ゲノムの構造について、染色体からゲノム上の塩基配列までを統合的に理解する。加えて、ゲノムの機能について、ゲノム複製とゲノム情報発現を分子レベルで理解する。これらのゲノムの知識から、ヒトを含めた多種生物ゲノムの全遺伝情報解説からゲノム構造解析、さらなるゲノム機能解析への変遷について正しく理解する。その上で、現在展開されている新しいゲノム生物学の学術的意義や応用的展望を正しく考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

基本的に資料配信型オンラインで授業を進めます。各回の授業資料の配布は「学習支援システム」でその都度提示します。また、毎回の授業に対して、小テストにより学習到達度を確認していきます。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、それぞれの課題で記述してもらうコメントや質問について、それらの主な解説を全体へフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ゲノム生物学の勃興	分子生物学からゲノム生物学へ
第2回	遺伝子の構造機能（1）	DNA複製
第3回	遺伝子の構造機能（2）	DNA情報発現
第4回	ゲノム情報（1）	分子生物学のゲノムへの挑戦
第5回	ゲノム情報（2）	DNA構造の解説
第6回	ゲノム情報（3）	ゲノム情報の解説
第7回	ゲノム情報（4）	ゲノムの全遺伝情報
第8回	ポストゲノム（1）	オミクス解析
第9回	ゲノムの構造機能（1）	機能的RNAとENCODE
第10回	ゲノムの構造機能（2）	エピジェネティックスの概要
第11回	ゲノムの構造機能（3）	真核生物染色体の階層構造
	ゲノムの構造機能（4）	原核生物の核様体
第12回	ゲノムの構造機能（5）	エピジェネティックスの分子機構
第13回	ポストゲノム（2）	ゲノム解説の超高速化
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業の学習は、小テストで確認します。また、本科目を受講するには、専門科目「ゲノム構造機能学 I」「生体分子分析学 I」を修得し、事前にその内容を十分に理解していることを想定しています。また、「細胞構造機能学 I」「蛋白質構造機能学 I」も修得し、本講義と関連する内容も理解していることを想定します。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「ゲノム4」（著者：T.A. ブラウン 監訳：石川冬木・中山潤一 メディカルサイエンスインターナショナル）
「細胞の分子生物学 第6版」（著者：B. アルバート・A. ジョンソン・J. レービン・D. モーガン・M. ラフ・K. ロバーツ・P. ウォルター 監訳：中村桂子・松原謙一 ニュートンプレス）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎の小テスト（65%）と期末テスト（35%）を基に総合的に行います。具体的な方法と基準は、始めの授業で提示します。なお、期末テストは一定期間を設けたWeb試験を予定しています。一定期間の受験機会があるため、再試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料のブラッシュアップ

【Outline (in English)】

[Course outline] Genome is defined as the complete sequence of nucleotides in an organism and includes both genes and the noncoding sequences. This course introduces the structure and function of genome and the regulation of genome expression, based on the basis for molecular biology. The latter looks at a view of epigenomics followed by genomics.

[Learning Objectives] The goals is to understand molecular mechanism of genomic replication and expression.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the short examinations after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading criteria] Final grade will be calculated with in-class contribution (65%) and term-end examination (35%).

BLS200YB (生物科学 / Biological science 200)

細胞構造機能学 I

川岸 郁朗

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞は生物の基本単位であり、タンパク質や脂質、糖など様々な物質が複雑に入り混じり維持されている。よって、細胞の構造と機能を学び、生命現象を理解することは生命科学に必須である。本講義では、細胞・細胞膜の構造（真核生物、細菌、ウイルス）、タンパク質による物質の輸送、タンパク質の選別とその輸送、細胞運動、細胞骨格、それらに関連した疾病・生命現象や生命科学の手法について学ぶ。

【到達目標】

生命の基本となる細胞の構造と機能、特に細胞膜と細胞における空間的な自己組織化について、タンパク質の選別と輸送、動態の面から理解する。具体的には下記に記す内容について理解を深める。

- 1) 細胞膜における脂質の性質と境界としての役割
 - 2) タンパク質による物質輸送が担う生体維持の仕組み
 - 3) 合成されたタンパク質の適切な輸送と局在、内部構造の配置・再編の仕組み
 - 4) これらに関連した疾病とその機序
 - 5) 様々な研究手法がどのように生命科学の発展に寄与したか
- また、知識の詰め込みのみにならないよう、授業で得た知識を元に様々な視点から科学的に考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

特定の教科書は用いず、毎回配布する資料を元に講義として授業を行う。各講義では理解度確認のために簡単な演習を行い、次の講義で解説する。

基本的には各回ごとに系統立てて講義を進めるが、完全には分けていない。特に関連疾病や研究手法などはまとめずに各講義回に織り交ぜ解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入：細胞の化学	細胞の内部構造と生体物質の化学に関する基礎
2	生体膜と生体エネルギー	細胞膜の構造とエネルギー代謝に関する概説、細胞の物理化学的解釈
3	タンパク質による物質輸送-1	境界としての細胞膜、膜を横断する物質の輸送、一次性・二次性能動輸送
4	タンパク質による物質輸送-2	物質の輸送体としてのタンパク質の役割、ポンプと細菌の薬剤耐性化
5	中間テスト-1	これまでの講義内容の理解度の確認
6	タンパク質の選別とその輸送-1	細胞のコンパートメント、タンパク質の選別シグナルと輸送の仕組み
7	タンパク質の選別とその輸送-2	ウイルスの膜構造、ミトコンドリアのタンパク質輸送と膜への挿入

8	タンパク質の選別とその輸送-3	分子シャペロンと品質管理機構、小胞体におけるタンパク質輸送、エンドサイトーシス
9	タンパク質の選別とその輸送-4	小胞輸送と膜融合、ゴルジ体におけるタンパク質輸送、糖鎖修飾、オートファジー
10	中間テスト-2	これまでの講義内容の理解度の確認
11	真核生物の細胞骨格と運動-1	細胞骨格と運動：アクチンフィラメント、微小管、中間径フィラメント
12	真核生物の細胞骨格と運動-2	分子モーター：ミオシン、キネシン、ダイニン、鞭毛と繊毛
13	タンパク質の動態とヒトの疾病	タンパク質輸送や細胞骨格・運動に関連した疾病とその機序
14	細胞研究手法	細胞生物学的、生物物理学的、生化学的、分子生物学的、疫学的な研究手法・アプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。

授業中に指示する内容について、参考書や原著論文等で復習し理解を深める。

【テキスト（教科書）】

教科書使用なし。

【参考書】

- ・THE CELL 細胞の分子生物学 第6版
- ・細胞の物理生物学 第3版
- ・リッピンコット イラストレイテッド生化学 第7版
- ・数でとらえる細胞生物学

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞

中間テスト(45%)、期末テスト(45%)、平常点(10%)を元に総合的に評価する。

＜評価基準＞

到達目標に記載した内容について理解し考えることができるか。また、答えのない科学的疑問について自ら積極的に学び、考察することができるか。

【学生の意見等からの気づき】

適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関係する連絡などに授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。授業の進め方は、理解度等を元に調整する。細胞構造機能学I、蛋白質構造機能学I、ゲノム構造機能学Iで学んだ内容を踏まえ、講義を進行する。大学、民間企業、国立研究所における研究経験を活かし、身近な生活やキャリアに役立つ講義を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The cell is the basic unit of living organisms and is maintained by a complex mixture of various substances such as proteins, lipids, and sugars. Therefore, learning the structure and function of cells is essential for life science research. In this lecture, students learn about the structure of cells and cell membranes (eukaryotes, bacteria, and viruses), transport of substances by proteins, sorting and transport of proteins, cell motility, cytoskeleton, diseases and life phenomena related to these structures and functions of the cell, and methods of life science research.

[Learning objectives]

The goals of this course is to understand the structure and function of the cell, which is the basis of life, especially the cell membrane and spatial self-organization in the cell, in terms of protein sorting, transport and dynamics. Specifically, students will deepen their understanding of the following topics.

- (1) The nature of lipids in cell membranes and their role as boundaries.
- (2) The mechanism of biological maintenance by the transport of substances by proteins.
- (3) Mechanism of proper transport and localization of synthesized proteins, and arrangement and reorganization of their internal structures.
- (4) Diseases related to the above and their mechanisms.
- (5) How various research methods have contributed to the development of life sciences.

In addition, students will acquire the ability to think scientifically about things from various perspectives based on the knowledge gained in the class, so that they do not just cram knowledge into their minds.

[Learning activities outside of classroom]

In this course, students are expected to study for 4 hours outside of class time in preparation.

Students are expected to review by lecture materials, reference books, original papers, etc. to deepen their understanding of the contents instructed in the class.

[Grading criteria /Policies]

< Evaluation method >

Overall evaluation based on mid-term test (45%), final test (45%), and in-class contribution (10%).

< Evaluation criteria >

Students have to understand and think about the contents described in the learning objectives.

In this class, we also emphasize the importance of being able to actively learn and think for oneself about scientific questions that have no answers.

BLS200YB (生物科学 / Biological science 200)

細胞構造機能学 I

金子 智行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞は生物の基本単位であり、その構造を理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、原核生物および真核生物の細胞の構造、構造を維持するための仕組み、細胞周期や幹細胞および細胞研究方法について学ぶ。その際、生物の階層構造に留意し、複合的な視点から生命現象を捉えることを目指す。さらに、ワークショップ型の授業形態を通して、プレゼンテーションや相手に理解してもらう能力を養う。

【到達目標】

生物の基本単位である細胞の構造や機能を理解する。とくに、細胞の構造を維持する仕組みや細胞の機能発現および細胞研究方法について理解する。さらに、ワークショップ型の授業形態を通して、自分の考えを他の人に理解してもらうためのスキルを養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

まず、ワークショップ型の授業の進め方について説明し、テーマに沿った意見交換を通して、その内容の理解を深める。テーマの内容は生命の起源、細胞内の核構造、細胞周期、細胞骨格、幹細胞、細胞研究法や光学顕微鏡について最新の知見をまじえて議論する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、試験やレポート等の詳細な講評はオフィス・アワーを活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ワークショップ型授業の進め方について	授業の進め方を解説した後、生命の起源について議論
2	核の構造と機能	真核細胞の核の構造や核膜、核輸送について議論
3	細胞周期-1	細胞周期のチェックポイントについて調べ議論
4	細胞周期-2	がん、アポトーシスについて調べ議論
5	細胞接着	細胞間接着因子や細胞外マトリックスについて調べ議論
6	細胞間シグナル伝達	細胞間にシグナルを伝達する仕組みについて調べ議論
7	中間テスト 1	前半の講義内容の復習
8	中間テスト 1 の復習	中間テストのポイントと重要点について解説
9	細胞骨格	微小管やアクチンの重合・脱重合のメカニズムについて調べ議論
10	幹細胞研究	幹細胞研究の応用や問題点について調べ議論
11	再生医療	最新の再生医療について調べ議論
12	超解像光学顕微鏡	光学顕微鏡の超解像技術について調べ議論
13	中間テスト 2	後半の講義内容の復習

14 まとめと解説 これまでの講義のポイントと重要点について解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業中に指示する内容について、参考書等で予習し、理解を深めるとともに、授業中にプレゼンテーションできるようにパワーポイント等にまとめておく。授業中に不定期に出される課題に対して、指定の期日までにまとめてレポートとして提出する。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

エッセンシャル 細胞生物学 原書第5版 B. Alberts 他著 南江堂
細胞の分子生物学 第6版 B. Alberts 他著 ニュートンプレス
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験30％・中間試験20％・レポート課題10％・平常点40％の成績を総合して評価する。

＜評価基準＞原核細胞と真核細胞の構造や細胞構造を維持するための機構や細胞研究法について理解しているか。よく分からない点について自ら積極的に調べ、考察できるか。自分の考えを他の人に説明できるか。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップ型の授業はモチベーションを保ちやすいが、参加するためのハードルが高いことが問題である。プレゼンテーションのみではなく、全員で調べて議論する回を増やす等の参加しやすい環境を整えていく。

【学生が準備すべき機器他】

レポート課題提出には学習支援システムを使用する。授業内で自分の意見をプレゼンテーションする場合に用いる貸与パソコン等の機器

【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

【Outline (in English)】

This course deals with the structure of a prokaryotic and eukaryotic cell, a cell cycle, a stem cell, and a method of a cell study.

The goals of this course are to understand the structure and function of the cell.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (30%), mid-term report (20%), short reports (10%), and in class contribution (40%).

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

生体分子分析学 I

豊岡 博子 (Hiroko KAWAI-TOYOOKA)

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体を構成する高分子のうち、核酸（DNA・RNA）を対象とした分析技術について、その背景、原理、手法および応用などを体系的に学び、核酸研究への理解を深める。

【到達目標】

それぞれの核酸分析法の特性や原理を理解し、基本的なものについては説明できる。各手法によって得られるデータを読み取り、その意味を理解できる。これらの技術が生命科学の発展にどのように役立ってきたのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面で講義を行う。講義前までに資料（PDF ファイル）を学習支援システムにアップロードするので、講義中はそれを参照して受講する。リアクションペーパーに授業内容に関する感想や質問等を記入し、提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	核酸の基本構造と機能、分析の重要性
第2回	核酸の抽出と定量	DNA・RNAの抽出、吸光度による濃度測定
第3回	DNAの切断と分離	制限酵素処理、アガロースゲル電気泳動、DNAの可視化
第4回	PCRの基礎	基本原理、ポリメラーゼの種類、プライマー設計、Tm値
第5回	PCRの応用	変異導入、逆転写PCR、リアルタイムPCR
第6回	DNAシーケンシング	サンガー法の原理、キャピラリー電気泳動、データ解析
第7回	分子クローニング	制限酵素を用いたクローニング、PCRクローニング、シームレスクローニング
第8回	中間テスト	ここまでの理解到達度の確認
第9回	次世代シーケンシング	ショートリード (Illumina) およびロングリード (PacBio / Nanopore) の原理
第10回	遺伝子発現解析	ノーザンハイブリダイゼーション、定量RT-PCR、マイクロアレイ、RNA-seq
第11回	変異体解析	変異導入、原因遺伝子の同定・機能解析
第12回	ゲノム編集技術	基本概念、CRISPR-Cas9の原理と応用
第13回	エピジェネティクス 1	基本概念、DNAメチル化の検出法
第14回	エピジェネティクス 2	ノンコーディングRNAの種類、発現・機能解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 各回の講義内容を復習し、それぞれの技術の原理や応用の理解を深める。また、疑問点を明確にした上で、次のリアクションペーパーで質問できるよう準備する。

【テキスト（教科書）】

講義内容に沿った資料（PDF ファイル）を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点10%、中間テスト40%、期末テスト50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーにより理解度を確認しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム上にアップロードされた講義資料（PDF ファイル）を閲覧できるPC等の端末を持参し、講義中に参照できるようにすること。

【その他の重要事項】

実務経験：基礎生物学研究所 特別研究員、理化学研究所 ユニット研究員、東京大学 特任研究員。各機関での研究経験をもとに、実際の実験例を挙げながら講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline

This course introduces fundamental techniques in nucleic acid analysis, including extraction, electrophoresis, PCR, and sequencing. It also helps students develop the ability to interpret experimental data and understand the significance of these techniques in life sciences.

Learning Objectives

The goals of this course are to:

- Understand the principles and applications of nucleic acid analysis techniques.
- Accurately interpret experimental data obtained from these techniques.
- Understand how these techniques have contributed to breakthroughs in life sciences.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content and identify any unclear points to ask questions in the next class.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in-class contribution (10%), mid-term examination (40%), and term-end examination (50%).

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

生体分子分析学 I

林 勇樹

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体高分子、特に蛋白質にフォーカスを当てた分析学を学ぶ。まずは蛋白質の構造、性質に関して基本的なことを学習する。それを踏まえて、蛋白質の分離精製、定量、電気泳動法など基本的分析法、そして蛋白質の構造解析、可視化、質量分析、蛋白質間相互作用解析など、最先端の装置を用いた分析法について学び、論文におけるデータ（図）を理解できるようにする。また、一連の講義を通じて、蛋白質研究の基礎力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

背景の生化学、物理化学、熱力学を理解し、蛋白質に関する基礎を身につけた上で、蛋白質を扱った実験の内容を理解できるようになる。また、論文中にある図（機器分析によるデータ）を理解できるようにする。そして、実際に実験をするときに、どのようにして実験を進めるか、自分で立案、計画でできることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義の形式は基本的にはすべて zoom で行う予定であるが、一部オンデマンドになる可能性もある。講義の形式に変更がある場合は連絡するので hoppii を毎週確認すること。

パワーポイントスライドなどのプレゼンテーションを行う。適宜、演習やレポート課題などを課す。講義情報を随時、学習支援システムで周知する。基本的には授業計画に則って授業を進行するが、学習状況、理解度、進捗状況に応じて、内容を変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要説明 蛋白質に関する基本的な用語、性質、特徴について概説する。
第2回	蛋白質の物理化学的な性質について	蛋白質を構成するアミノ酸残基間に働く相互作用について説明する。 続いて、蛋白質特有の性質である、フォールディングと変性について説明する。
第3回	蛋白質の電気泳動	蛋白質研究において基本的な実験手法である SDS-PAGE、Native-PAGE、Blue-Native PAGE、二次元電気泳動について説明する。
第4回	蛋白質の検出技術	代表的な蛋白質検出手法である Western blotting について説明する。
第5回	蛋白質の精製	さまざまな蛋白質の精製方法について説明する。
第6回	蛋白質の定量方法	さまざまな蛋白質の定量方法について説明する。
第7回	蛋白質間相互作用解析	Two-hybrid, SPR, FRET、ITC 等、蛋白質間相互作用解析法について述べる。
第8回	酵素反応速度論	触媒活性を持つ蛋白質「酵素」の活性測定方法について説明する。
第9回	蛋白質の構造解析その1	蛋白質の一次構造、二次構造の解析方法について説明する。
第10回	蛋白質の質量分析	蛋白質の質量を調べる方法について説明する。
第11回	蛋白質の立体構造解析	蛋白質の三次構造、四次構造を解析する方法について説明する。
第12回	脂質分析	生体を構成する脂質について概説する。 食品分野、医療分野における脂質分析の解説を行う。
第13回	糖鎖分析	「第3のバイオポリマー」である糖鎖について概説する。
第14回	まとめ	本講義をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】紹介するテキストや参考書による学習。講義で用いたプリントによる復習など。

【テキスト（教科書）】

特になし。プリントやプレゼンテーションスライドの簡易版を授業支援システムで配布する。または、授業中に適宜紹介する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中に行う練習問題や、各回の課題、課題の提出状況、学習状況、参加度）と、レポート課題などで総合的に評価する。

平常点【50点】+レポート点【50点】=合計【100点】として成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義中のディスカッション、小テスト、レポートなどで学生からの意見や要望を集める。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うスライド資料の簡易版を学習支援システムにアップロードする。印刷して持参したり、各自の端末（PC、タブレット、スマートフォン等）で閲覧するなど、利用して頂きたい。

【その他の重要事項】

研究論文の探し方、論文の読み方、最先端の蛋白質研究情報なども提供する。

【Outline (in English)】

This course will show you how to analyze biopolymers, especially proteins. This course covers protein properties and structure, protein purification, protein quantitative analysis, electrophoresis, protein structural analysis, mass spectrometry, protein-protein interaction analysis. The course aims to enable students to get a basic knowledge and understanding about protein research.

【Learning activities outside of classroom】

Learning outside of class hours = 4 hours, including preparation and review for this class.

This includes learning from textbooks and reference materials as well as reviewing lecture slides.

【Grading Criteria /Policy】

Grades are assessed comprehensively based on regular performance (including in-class exercises, assignments, submission status, learning progress, and participation), as well as report assignments.

The regular performance 【50 points】+the report assignments 【50 points】=a total of 【100 points】 for the overall evaluation of grades.

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

分子微生物学

山中 幸

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

微生物は生命科学の理解に大きな影響を及ぼしている。分子微生物学では、人類が「微生物を認知」し、発見された「微生物の多様な機能」に対する「遺伝的な分子構造機能」「生理的な分子構造機能」を通し、近年明らかとされている「ゲノム機能」を紹介する。それぞれを契機とした生命科学へのインパクトも具体的に紹介する。

【到達目標】

「コッホの原則」に基づいた微生物の認識から、「ドメイン説」「コアゲノム／パンゲノム」を介した現代生物学における微生物の位置付けを正確に認識する。さらに、講義中に紹介するウイルス、細菌、古細菌、真菌の多様な遺伝機能と生理機能について分子レベルで理解する。その上で、微生物間相互作用や環境ゲノムを正しく考察する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

基本的に資料配信型オンラインで授業を進めます。各回の授業資料の配布は「学習支援システム」でその都度提示します。また、毎回の授業に対して小テストにより学習到達度を確認していきます。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、それぞれの課題で記述してもらおうコメントや質問について、それらの主な解説を全体へフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	認知（1）	微生物の発見
第2回	認知（2）	微生物の分類
第3回	多様性（1）	多様な微生物
第4回	多様性（2）	元素循環
第5回	多様性（3）	抗生物質
第6回	遺伝機能（1）	ドメイン説
第7回	遺伝機能（2）	微生物の分子遺伝学
第8回	遺伝機能（3）	微生物の遺伝機能
第9回	生理機能（1）	微生物の環境応答
第10回	生理機能（2）	微生物の分子機能の応用
第11回	ゲノム機能（1）	微生物のゲノム全塩基配列の決定
第12回	ゲノム機能（2）	微生物の水平伝播
第13回	ゲノム機能（3）	環境ゲノム
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各授業の復習は、小テストで到達度を確認していきます。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】

「ブラック微生物学 第2版」(著者：J. G. ブラック 監訳：林英生・岩本愛吉・神谷茂・高橋秀実 丸善)
「微生物学 第5版」(著者：R.Y. スタニエ・J.L. イングラム・M.L. ウィーリス・P.R. バインター 共訳：高橋甫・斎藤日向・手塚泰彦・水島昭二・山口英世 培風館)
「微生物の地球化学」(著者：T. フェンチェル・G.M. キング・T.H. ブラック パーン 訳：太田寛行・難波謙二・諏訪裕一・片山葉子 東海大学出版部)
「培養できない微生物たち」(著者：R.R. コールウェル・D.J. グリメス 監訳：清水潮

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎の小テスト（65%）と期末テスト（35%）を基に総合的に行います。具体的な方法と基準は、始めの授業で提示します。なお、期末テストは一定期間を設けたWeb試験を予定しています。一定期間の受験機会があるため、再試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料の見直し

【Outline (in English)】

[Course outline] Microbe are major group in living organism on the earth. This course introduces you to the research findings and experiments, representing the discovery of diverse microbes, the molecular function of genetic and physiological mechanisms in microbes, and the structure and function of microbial genomes.

[Learning Objectives] The goals is to understand molecular mechanism of genetic and physiological functions in bacteria, archaea, fungi.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the short examinations after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading criteria] Final grade will be calculated with in-class contribution (65%) and term-end examination (35%).

BLS300YB (生物科学 / Biological science 300)

バイオインフォマティクス

豊岡 博子 (Hiroko KAWAI-TOYOOKA)

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の生命科学では、解析技術の急速な進歩により、多様で大規模な分子レベルの「情報」が蓄積している。これらの「情報」から生物学的な意味を引き出し、新たな知見を得るためには、バイオインフォマティクス（生命情報科学）の技術が必要である。本講義では、バイオインフォマティクスの基本的な方法論を実践的に学び、その有用性を深く理解することを目的とする。

【到達目標】

データ解析の基礎的な手法を習得し、それを通じてバイオインフォマティクスの基本的な考え方を理解する。また、バイオインフォマティクスの解析技術にはどのようなものがあり、それらがどのように生命科学研究に貢献しているかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面で講義を行う。講義前までに資料（PDF ファイル）を学習支援システムにアップロードするので、講義中はそれを参照しながら受講する。講義では、解説に加えて、各自のPCを使用した実践的な解析も行う。また、リアクションペーパーに授業内容に関する感想や質問等を記入して提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	バイオインフォマティクスとは何か？
2	塩基配列とアミノ酸配列	配列データの取得と取り扱いの基礎
3	配列の類似性検索	BLASTの基礎、BLAST2を用いた配列比較
4	データベース検索とマルチプルアライメント	BLAST検索、MUSCLE等によるアラインメント
5	分子系統解析の基礎	マルチプルアライメントからの系統樹の作成と解釈
6	タンパク質の機能ドメイン検索	InterProを用いたドメインの解析と機能の予測
7	翻訳後修飾と細胞内局在の予測	リン酸化、糖鎖修飾、シグナルペプチド、膜貫通ドメイン等の予測
8	中間テスト	ここまでの理解到達度の確認
9	ゲノム解析	ゲノム配列データの取得、遺伝子アノテーション、シンテニー解析
10	トランスクリプトーム解析	マイクロアレイ、RNA-Seqによる網羅的遺伝子発現解析
11	プロテオーム解析	質量分析（LC-MS/MS）によるタンパク質同定と網羅的解析
12	タンパク質相互作用解析	免疫沈降やBioIDによる相互作用タンパク質の検出
13	構造バイオインフォマティクス	AlphaFoldを用いたタンパク質立体構造の予測

14 バイオインフォマティクスの応用 分子進化学の基礎、医療・創薬への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各回の講義内容を復習し、疑問点を明確にした上で、次のリアクションペーパーで質問できるよう準備する。講義で取り上げる解析のうち、各自のPCで実行可能なものは、繰り返し行い、操作に慣れることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内容に沿った資料（PDF ファイル）を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点10%、中間テスト40%、期末テスト50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーにより理解度を確認しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCもしくは個人所有のPCを持参すること。

【その他の重要事項】

実務経験：基礎生物学研究所 特別研究員、理化学研究所 ユニット研究員、東京大学 特任研究員。これらの経験で実際に行ったバイオインフォマティクス解析に基づく知見を講義内で適宜紹介する。

【Outline (in English)】

Course outline

Recent advances in high-throughput technologies have led to the rapid accumulation of diverse molecular data in life sciences. To extract meaningful insights from this vast amount of data, bioinformatics has become an essential tool. The aim of this course is to help students understand the importance of bioinformatics and acquire fundamental skills through hands-on practice.

Learning Objectives

The goals of this course are to:

-Understand the fundamental concepts of bioinformatics and acquire basic technical skills.

-Acquire knowledge of various bioinformatics techniques and understand how they contribute to life science research.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content and identify any unclear points to ask questions in the next class. Students should also practice applicable analyses on their own computers to become familiar with the operations.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in-class contribution (10%), mid-term examination (40%), and term-end examination(50%).

BMS300YB (生体分子化学・ケミカルバイオロジー / Biomolecular science 300)

ケミカルバイオロジー

影近 弘之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ケミカルバイオロジーは、化学、特に人工的な化合物を用いた生命科学研究であり、化学、生物学、医学、薬学など他分野にまたがる学際研究分野である。本講義では、ケミカルバイオロジー分野の研究手法を理解するための有機化学、分光学の基礎を学んだ上で、ケミカルバイオロジーの研究手法やその応用分野である創薬を志向した医薬化学研究について学ぶ。

【到達目標】

ケミカルバイオロジー研究に必要な有機化学、分光学などの基礎的な知識を習得するとともに、ケミカルバイオロジー研究や創薬を志向した医薬化学研究の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、ケミカルバイオロジー研究に必要な有機化学（構造、反応、合成）、分光学（光物性）などの基礎知識を講義する。ついで、これらの化学的知識と技術が、生命科学研究にどのように生かされているか、また、その応用研究としての創薬を志向した医薬化学研究についても概説する。なお、講義中の演習などで理解度を確認し、それを勘案して授業計画を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	分子の構造と機能 1	授業説明と有機化合物の構造と性質
2	分子の構造と機能 2	有機化合物の異性体と機能、有機反応と生体内反応
3	光と物性	蛍光とその応用
4	蛍光ラベル化法 1	蛍光ラベル化法の先端研究の論文を読む
5	蛍光ラベル化法 2	蛍光ラベル化法概論
6	バイオイメーjing 1	蛍光センサーの基礎
7	バイオイメーjing 2	蛍光センサーの構造と機能
8	バイオイメーjing 3	Bioorthogonal な反応の基礎とその応用
9	中間試験	理解到達度判定
10	ケミカルバイオロジーと創薬 1	化合物ライブラリー
11	ケミカルバイオロジーと創薬 2	医薬品開発とメディシナルケミストリー
12	ケミカルバイオロジーと創薬 3	Activity-based protein profiling の基礎と応用
13	ケミカルバイオロジーと創薬 4	メディシナルケミストリーの基礎
14	ケミカルバイオロジーと創薬 5	生理活性物質の設計と合成・創薬最先端研究紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】与えた課題についてのレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

「入門ケミカルバイオロジー」(オーム社)
 蛋白質核酸酵素増刊「ケミカルバイオロジー」長野哲雄他編(共立出版)
 「ケミカルバイオロジー:成功事例から学ぶ研究戦略」長野哲雄・萩原正敏監訳(丸善出版)
 「創薬化学」野崎正勝、長瀬博(化学同人)
 「ライフサイエンスのための基礎化学」影近弘之、平野智也訳(東京化学同人)

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、レポート及び中間試験（20％）、期末試験（60％）を基準として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

化学の苦手な人にも理解できるように心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: The purpose of this course is to understand the basic and application about chemical biology field. Chemical biology is a new and significant field of bioscience. This field includes the research to solve the biological problems at the molecular level or to regulate the biological systems by using the techniques, knowledge and ideas of chemistry. This course deals with the overview of the chemical biology and medicinal chemistry including some topics of recent research.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have study the handouts to be available in advance. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report/examination (20%), term-end examination (60%), and in-class contribution (20%).

BLS300YB (生物科学 / Biological science 300)

バイオエナジェティクス

常重 アントニオ

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course attempts to answer several questions: What is "energy" within a living organism? How is energy conveyed, stored, and transformed within our bodies? Is it all about ATP? These interesting questions and many more will be addressed throughout this course. At the end, the student is expected to master the basic elements of biothermodynamics, and have a clear idea about the process of life. (本科目は、グローバル対応科目である)。

【到達目標】

The enrolled student should be able to understand how the process of energy capture, transformation, and its storage and conversion into active processes is carried out within living organisms. Basic concepts of thermodynamics will be explained.

This course is also offered to students who want to improve their English at academic level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

This course is delivered in the form of sequential lectures. Students are encouraged to participate actively in discussion. Inquiries and comments are welcomed at any time when concepts are not clear. Most part of the didactic materials will be made available through the support system Hoppii.

To assess the adequate understanding of classes, reports and responses to quizzes will be requested periodically, and scored appropriately. Solutions to quizzes will be discussed in following classes. Should any topic still remain unclear, appropriate discussions can be scheduled using office hours.

Although this course is offered in English, summary of the content of each session will be given in Japanese, and as often as necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	What is bioenergetics about? A rather new branch of science with concepts not so easy to understand.
2	Basic Thermodynamics (1).	Basic concepts in chemistry. Reaction rates. Systems in equilibrium. Why chemical reactions proceed.
3	Basic Thermodynamics (2).	The concepts of free energy, enthalpy, and entropy. The misconception of entropy.
4	Redox reactions (1)	The simplest case: carbon in all oxidation states. Reduction-oxidation (redox) potential.
5	Redox reactions (3)	Chemical reactions involving reduction and oxidation in biological systems. Spontaneity of chemical reactions. Enzyme reactions.
6	Mid-term recap. Thermodynamics and Spontaneity of Chemical Reactions.	Consolidation of concepts expressed in previous classes.
7	The "mysterious" ATP.	The pending question: Where in ATP is the energy "stored"? And how it is released. Other "energetic" compounds.
8	Bioenergetics (1)	Glycolysis. Why glucose? It is not only glucose.

9	Bioenergetics (2)	Krebs (TCA) cycle. Electron and proton transporters. This is the core of life sustenance at molecular level.
10	Bioenergetics (3)	Inside the mitochondrion. Electron transport chain. ATP production. Chemiosmotic theory.
11	Bioenergetics (4)	Photosynthesis. Similarities and differences with animal metabolism.
12	Bioenergetics (5)	How do we know the electron transport systems work? The use of inhibitors of the electron transport chain. The importance of P/O ratio.
13	Role of ATP. Recap of concepts of Lecture 7	Endergonic and exergonic reactions. Coupled reactions. Typical misconceptions about ATP (revisited).
14	Recapitulation of previous lectures. About spontaneity in bioprocesses	Bioenergetics and the sustenance of life. Closing remarks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 Periodically, quizzes and homework will be assigned to students, and these will be presented as reports. All will be solved and explained in following classes to consolidate learned concepts.

【テキスト（教科書）】

The textbooks mentioned below can be used partially, although its purchase is not necessary.

"Biological Thermodynamics", Donald T. Haynie, Cambridge, 2001.

「生体とエネルギーの物理－生命力のみなもと」, 日本物理学会 集 (2000) の一部を利用する。

【参考書】

Prior to classes, appropriate handouts or other materials will be made available electronically through the support system Hoppii.

【成績評価の方法と基準】

In principle, assistance to classes is required. Active participation will be graded accordingly (20%). Grading will be also based on periodic short tests, some of which will take the form of homework (20%). Final test or its equivalent (60%).

【学生の意見等からの気づき】

Quizzes and short test will be assigned and later discussed in class to consolidate learned concepts.

.

【学生が準備すべき機器他】

Laptops or personal computers with audiovisual capabilities and reliable internet connection are required to access the system Hoppii. Also this equipment will be necessary for the submission of electronic reports.

【その他の重要事項】

None.

BME300YB（人間医工学 / Biomedical engineering 300）

医用生体工学

林 真人

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体分子、細胞、組織の各レベルにおける実験的再構成法の基礎、及び医療応用の先端研究について学ぶ。

【到達目標】

生体分子、細胞、組織に関する生化学、分子細胞生物学、生物物理学の基礎を学ぶ。生体計測・バイオイメーjing技術の原理についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義はスライド映写を中心に行い、問題提示や対話形式での講義を行う。学生自ら各テーマについて調べ、授業内での発表を行う。大学の行動方針レベルにに応じてオンライン(Zoom)でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明・生命の再構成	講義の意義、評価方法について、分子から組織までの階層構造と再構成、生体計測の概論
第2回	顕微鏡と顕微操作	解像度や回折限界、超解像技術、暗視野顕微鏡の原理
第3回	脂質とリボソーム	脂質膜やリボソームの形成法、安定性
第4回	リボソームの応用技術	リボソームを使用した医療技術や最近のトピックス
第5回	細胞の再構築	リボソーム内タンパク質発現や機能性リボソーム
第6回	中間テスト-1	ここまでの理解到達度確認
第7回	中間テストの解説	中間テスト-1の解説と結果に基づいた補足
第8回	微細加工技術	光リソグラフィ、マイクロプリンティング、アガロース微細加工技術
第9回	ES細胞・iPS細胞	ES細胞やiPS細胞を中心とした幹細胞やMuse細胞などの最新のトピックス
第10回	創薬・薬剤スクリーニング	新薬をつくるプロセス、毒性検査技術
第11回	組織工学	細胞培養、細胞凍結、細胞配置、組織構築
第12回	再生医療	最新の再生医療技術について
第13回	中間テスト-2	中間テスト-1以降の理解到達度確認
第14回	中間テストの解説	中間テスト-2の解説と結果に基づいた補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
講義中の話題に対する予習・復習の必要がある。学生自ら発表する内容について調べパワーポイント等にまとめる必要がある。また、レポート課題に対して数週間以内にまとめて提出する必要がある。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験30％・中間試験(1と2)20％・発表点30％・平常点20％の成績を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業内での発表があるので、貸与パソコン等のプレゼンテーションが可能な機器。

【その他の重要事項】

学生との双方向的な授業のため、活発な発言や議論を行います。

【Outline (in English)】

This course deals with a basic research of reconstruction of a cell or tissue, and an advanced research of tissue engineering and regenerative medicine.

The goals of this course are to understand the basics of biochemistry, molecular cell biology, and biophysics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (30%), mid-term report (20%), short presentation (30%), and in class contribution (20%).

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

栽培植物学

佐野 俊夫

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

われわれの食料となる作物（穀物、野菜類、果実類）にはどのような種類があるのか、そしてそれぞれの作物の生育特性を学ぶ。また、これらの作物が世界と日本国内とでどのように栽培されているのかを知り、栽培上の問題点を学ぶ。

【到達目標】

食料・資源として利用されている栽培植物の栽培特性および食料・資源としての価値を理解する。そしてそれらの作物栽培にはどのような配慮が必要であり、どのような問題があり、今後どのような変化が予想されるかについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。
また、毎授業で課題を出します。その授業のポイントの復習に充てているので、課題解答を学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	栽培植物学とは	栽培植物学とはどのような学問か、主要栽培植物を紹介する
第2回	イネの来た道	日本で栽培されるイネの起源、世界のイネ、コメの性質、これからの稲作について説明する
第3回	コムギ、オオムギの栽培と利用	コムギ、オオムギの日本、世界での栽培、利用、性質を説明する
第4回	マメ科植物の栽培と利用	日本と世界のマメ科植物栽培、およびその加工利用方法について説明する
第5回	トウモロコシの栽培と利用	世界のトウモロコシ栽培、日本での利用、これからの栽培について説明する
第6回	いも類の栽培と利用	主にジャガイモ、サツマイモの栽培と利用について説明する
第7回	油料作物、嗜好料作物の栽培と利用	植物油に加工される油料作物、および、嗜好料作物として主にチャ、コーヒーについて説明する
第8回	世界で栽培されている野菜類	世界で栽培されている野菜類について説明する
第9回	アブラナ科野菜の栽培と利用	主要なアブラナ科野菜であるダイコン、キャベツ、カラシナの栽培と利用について説明する
第10回	ナス科野菜の栽培と利用	主要なナス科野菜である、トマト、ナス、ピーマンの栽培と利用について説明する
第11回	果実栽培と利用（1）	主要な果実である、リンゴ、かんきつ類、ブドウの栽培と利用について説明する
第12回	果実栽培と利用（2）	果樹の生育、果実の成熟と老化、その保存方法について説明する
第13回	花きの栽培と利用（1）	花きの園芸的分類、および主要な花きである、キク、カーネーションについて説明する
第14回	花きの栽培と利用（2）	球根類、花木類、ランの栽培と利用について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業毎に行われる課題内容はその回の重要事項であり、課題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける畑地、果樹園等には本講義で紹介する作物が栽培されていると思われ、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

・「作物学概論」第2版 朝倉書店
・「図説園芸学」第2版 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

期末試験 72%、毎回の講義時に課す課題 28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の課題解答を翌週に解説することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】

In this lecture, we learn the types of food crops (grains, vegetables, fruits) and the growth characteristics of each crop. Also, we learn about the cultivation styles and problems of these crops both in the world and in Japan.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72%、Assignments given during each lecture: 28%

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物病原菌類学

廣岡 裕吏

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病原菌類の基礎知識（形態、生態、生理的特徴や分類体系等）を修得する。「樹木医補」資格取得のメニュー科目でもある。

【到達目標】

植物病原菌の植物への寄生能力を知ることで、植物医科学の応用技術を修得できる。あわせて、樹木医補等の資格に適応する技術を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず、菌類とヒトや文化との関わり、菌類の働きを学び、次いで、植物医師（技術士、樹木医）の基礎となる植物病原菌類の分類・形態・生態等を学習する。また、本講義を植物医科学基礎実験・応用実験の内容に反映できるよう、様々な植物菌類病の症状や病原菌類の観察方法などについても理解を深める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要と授業の進め方
第2回	菌類とは(1)	菌類とヒトや文化とのかかわり
第3回	菌類とは(2)	自然界での菌類の働き（森林を例として）
第4回	菌類の分類	生物界の中での菌類の位置とその特徴
第5回	原生動物界の菌類	変形菌・根こぶ病菌の特徴とその病害
第6回	クロミスタ界の菌類	水を泳ぐ卵菌類の特徴とその病害
第7回	菌界の菌類(1)	ツボカビ・接合菌の特徴とその病害
第8回	菌界の菌類(2)	子囊菌類の特徴とその病害
第9回	菌界の菌類(3)	担子菌類の特徴とその病害
第10回	菌界の菌類(4)	不完全菌類（分生子果不完全菌類）の特徴とその病害
第11回	菌界の菌類(5)	不完全菌類（不完全糸状菌類）の特徴とその病害
第12回	菌類の多様性(1)	植物内生菌について
第13回	菌類の多様性(2)	培養法に基づいた菌類の解析
第14回	菌類の多様性(3)	非培養法に基づいた菌類の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義のポイントを提示するのでまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

菌類のふしぎ（東海大学出版会）、植物病原菌類の見分け方（大誠社）、植物医科学実験マニュアル（大誠社）、菌類の生物学（共立出版）など、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(約20%)、課題や試験(約80%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足、ほぼ満足するとの結果が大半を占める。菌類の形態的多様性に魅せられたとのアンケートも多く寄せられており、菌類の恩恵（利用場面）も含めて講義を広げる。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge for study of the plant pathogenic fungi. The goals are to obtain the basic knowledge of plant pathogenic fungi such as morphology, ecology, physiological characteristics, classification system, etc. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination and short reports: 80%, in class contribution: 20%.

PPE100YD (生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100)

植物病防除学

池田 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病を防除することの重要性を認識し、どのような手法で植物病が防除できるのかを知る。また、様々な防除技術の特徴や、植物病の病原菌や害虫の発生生態に基づいた防除対策の策定および社会的ニーズに基づいた防除技術開発とその事例を学ぶ。

【到達目標】

植物病の防除技術の種類と特徴を知り、植物病の発生生態を踏まえて、農業生産者のニーズを満たした防除方法を提案できる。また、植物病の防除技術開発に携わることのできる基礎的な知識を習得している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

生産現場で実際に発生した植物病の事例を紹介し、防除対策導入のポイントを解説する。その際に、これまでの研究成果などから推察される植物病の発生生態を踏まえ、どのような防除対策が有効かを考察する。授業を復習する課題・レポートの提出は「学習支援システム」を通して行い、質問などの回答やフィードバックは授業内で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	防除のはじまりと意義・重要性
第2回	防除技術の種類と選択・導入	病原菌の生活環を考慮した防除方法と対策の導入
第3回	化学的防除法1 (農業一般)	農業の一般知識、防除器具の種類、耐性菌の発生
第4回	化学的防除法2 (防除の実例)	化学農業を使った植物病の防除事例
第5回	耕種的防除法1	圃場衛生と抵抗性品種の活用
第6回	耕種的防除法2	輪作による植物病の防除
第7回	物理的防除法1	熱や光質を活用した植物病の防除
第8回	生物的防除法	微生物を活用した植物病の防除
第9回	持続的な防除技術	総合的病害虫・雑草管理 (IPM) と重要性と事例の紹介
第10回	防除のための情報の取得	防除技術を選択・導入する上で必要な情報の取得
第11回	植物病の伝染環と拡大様式	モノサイクリック病害とポリサイクリック病害の防除対策
第12回	防除に関わる最新技術	防除に関わるゲノム編集、バイオスティミュラント、スマート農業について
第13回	防除技術開発の実例	実用化された防除技術開発の経緯と社会への貢献について
第14回	防除技術開発のための研究計画とデータ解析	On-farm research と防除技術の評価に必要な解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
重要な専門用語について、複数のソース（書籍、事典、website など）を用いて復習する。また、実験実習科目とも関連付けて、本授業内容の理解に努めること。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する資料は学習支援システムに掲載する。

【参考書】

米山伸吾・根本久・上田康郎・都築司幸著『図説野菜の病気と害虫伝染環・生活環と防除法』（農山漁村文化協会）
Gail L. Schumann・Cleora J. D'Arcy [Hungry Planet: Stories of Plant Diseases] (APS PRESS)
難波成任監修『植物医科学』（養賢堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）、課題・レポート（30％）、平常点（20％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実際の農業生産現場で発生する植物病害を授業の対象として、植物病を防除するために植物医師として必要不可欠な知識や技術を習得できる授業となるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

【その他の重要事項】

国内外の農業生産現場で植物保護の研究・指導に携わった教員が、植物病の診断や防除対策の策定を行う上で、特に重要と考えられる知識・技術を講義する。

【Outline (in English)】

Students will recognize the importance of controlling plant diseases and learn what methods are used to control plant diseases. They will also learn the characteristics of various control techniques and the formulation of control measures based on the life cycle of plant disease pathogens and pests, as well as the development of control technologies for social needs. It is important to know the types and characteristics of plant disease control techniques and to propose control methods that meet the needs of farmers based on the life cycle of plant disease pathogens. In this course, cases of plant diseases that have occurred in agricultural production will be introduced and key points for the introduction of control measures will be explained. Students can learn what kind of control measures are effective, based on the life cycle of plant disease. Grades will be based on the final exam (50%), assignments and reports (30%), and regular marks (20%).

AGC100YD（農芸化学 / Agricultural chemistry 100）

土壌科学

亀和田 國彦

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土壌は、「地球の皮膚」とも称され、地球の陸域にごく薄く分布します。陸上の植物は、直接に、また、人類を含めて動物は、植物を介してその生命の維持に土壌中の養分に依存し、この点で、我々はミミズと同じく土壌の生き物と言えます。

植物の必須元素として17元素が知られ、炭素、水素および酸素以外の14元素は根を介して土壌から吸収されます。本科目では、土壌の基本的な構造と機能ならびに植物への養分供給能力や環境との関わりをとおして、土壌の役割を学びます。

【到達目標】

まず、土壌の構造と機能を学び、それら性質が、地理的分布と生成因子に関連づけられていることを理解します。つづいて、それら性質が、植物への養水分供給能力と植物の生育に大きく影響することを理解します。そのような植物と土壌との関わりをなかで、植物の健全な生育を支えるために、土壌の性質がどうあるべきかを学び、不良土壌の判断と改良対策を示すことができ、植物医科学分野に有効な知識を習得します。

さらに、土壌をケミカルリアクターまたはバイオリアクターとして捉え、植物の健全な生育を実現しながら、地域生態系と地球環境を長期的に維持するための土壌の役割と、それを実現するための管理手法のあり方を考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書による基本的な講義。

対面授業とオンデマンドを組み合わせる。

学習支援システムにより資料を提供する。

対面授業では、リアクションペーパーを、オンデマンドでは授業レポートの作成と提出を求める。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地球と土壌	土と土壌 土壌機能概観 土壌と文明
第2回	土壌の材料	一次鉱物と二次鉱物 風化と二次鉱物の生成 粒形組成 腐植の生成と性質
第3回	土壌の物理性	三相分布 土壌空気 水の保持と水分張力
第4回	土壌の化学性	化学性を構成する各種性質 pH 酸化と還元 イオン吸着
第5回	土壌の荷電特性	定荷電と変位荷電 リンの特異吸着 陽イオンの固定
第6回	土壌の生物性	土壌生物の種類と機能 土壌生物を介する物質循環 微生物バイオマス
第7回	土壌の生成と分類	風化と土壌生成 土壌の生成因子 土壌の種類 分類体系
第8回	水田土壌	酸化還元に伴う物質の形態変化 水田土壌の生成分類と特徴
第9回	森林土壌と畑地土壌	腐植の集積と分解 炭素循環 養分の流亡 畑地の層位分化 土壌類型区分と利用形態の違いによる特徴付け

第10回	土壌中養分の可給性	pHの変化に伴う各種養分の可給性の変化 リンの難溶化 窒素の無機化と有機化 土壌の緩衝能力
第11回	土壌診断	土壌分析 分析値の評価と対策 土壌溶液 容量因子と強度因子
第12回	土壌診断演習	土壌改良 改良資材の特徴と選択 事例と演習
第13回	物質循環	窒素の有機化と無機化 窒素循環 リンの循環 カリウムの循環 原始地球と石灰 環境容量
第14回	環境と土壌	我が国の農耕地土壌の実態と変化の趨勢 土壌調査 地球環境の変動が土壌に与える影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義ノートや参考書をもとに、講義内容を復習。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

土壌サイエンス入門 第2版 木村直人・南條正巳編、2018、文永堂出版

土壌学概論 犬伏和之編、2020年、朝倉書店

土壌学の基礎 松中照夫、2012年、農文協

【成績評価の方法と基準】

期末試験60％、リアクションペーパーおよび授業レポートによる平常点40％による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーで質問や提案を受け、できる限り次の授業で回答し反映する。

【その他の重要事項】

春学期開講の植物栄養学を併せて受講することにより、理解が深まる。

【Outline (in English)】

Soil, also known as the "skin of the Earth," exists as the surface of the planet. This thin veneer of living material is on average only 18 centimeters thick, but it has a critical influence on what happens on the Earth's surface. Soil is our life support system. It provides anchorage for roots; it holds enough water for the plant to use; and it holds nutrients, making them available to support life. Our lives are "soil animals" as well as "earthworms." There are myriads of microorganisms that perform a range of biochemical transformations, from fixing atmospheric nitrogen to decomposing organic matter, other organisms, and organic matter. Most biodiversity is found in the soil, not above ground. You will study a range of soil functions and capabilities. [Learning Objective]

First, you will learn about the structure and function of soil and understand that its properties are related to geographic distribution and growth factors.

Then you will understand that these properties have a major influence on the ability to provide nutrients and water to plants. In this soil-plant relationship, you will learn what soil properties are needed to support healthy plant growth. With this knowledge, you will be able to evaluate soil quality and how to improve it. This knowledge and judgment are effective skills in botanical science.

In addition, you will reflect on the role of soil in sustaining the regional ecosystem and the global environment in the long term while achieving healthy plant growth by considering soil as a chemical reactor or bioreactor and how it should be managed to achieve this.

[Out of Class Learning Activities]

Review the lecture content using the lecture notes and reference books. 4 hours is the standard for out-of-class learning such as preparation and review for this course.

[Grading Criteria/Guidelines]

Grading will be done by a comprehensive method based on 60% of the final exam and 40% of the normal grade including the reaction paper submitted each time.

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

診断技術論

大井田 寛、濱本 宏、水久保 隆之、廣岡 裕吏

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病（微生物病、害虫による被害、生理障害等）が発生したとき、あるいは発生前に予防手段を取る際に欠かせないのが植物病の正確な診断である。診断法には症状の目視のみならず、様々な方法が開発されてきており、実際の診断は迅速性、確実性などの必要に応じていくつかの方法を組み合わせることで診断することになる。それら様々な診断法と診断の流れを理解するとともに、植物病の診断法の今後について考察する。

【到達目標】

植物医科学の基礎としての植物病の病原（菌類、細菌、ウイルス、昆虫、ダニ、線虫など）の観察・同定法を修得する。あわせて、樹木医補、自然再生士補等の資格取得の基礎となる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP3

【授業の進め方と方法】

圃場診断、問診のあらましを学び、次いで、症状により原因の目安を付け、微生物病、害虫や線虫およびその被害の診断ポイントなど基本的な方法や手順を修得する。さらに、電子顕微鏡観察、化学的診断、血清学的診断や遺伝子診断など、より詳細な診断技術を学習する。また、伝統的診断技術と先端的診断技術の融合や今後の診断連携等を論議する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	植物医科学における診断の重要性と診断の流れ
第2回	診断の手順	問診、病原微生物の検査法
第3回	微生物病の診断	病気ごとの診断・コッホの原則
第4回	害虫の診断(1)	診断と同定、害虫診断法
第5回	害虫の診断(2)	画像による害虫診断法、診断・同定依頼法
第6回	主要害虫、植物ダニの診断	形態、分類、生態
第7回	植物被害等からの診断	害虫による植物被害等の特徴
第8回	線虫概論	分類・形態・生態等、検診技術（土壌・植物体の調査法）
第9回	主要な植物寄生性線虫(1)	主要線虫の形態、生態、作物被害等の特徴
第10回	主要な植物寄生性線虫(2)	主要線虫の形態、生態、作物被害等の特徴
第11回	顕微鏡の仕組みと観察	光学顕微鏡と電子顕微鏡による観察・診断
第12回	血清学的診断法	ELISA法など
第13回	遺伝子診断法	PCR法など
第14回	診断システムの概要	診断のシステム化、ネットワーク化、遠隔診断システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義のポイントをまとめておくこと。課題に関して自己学習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

植物医科学(第2版)(養賢堂)、植物医科学実験マニュアル(大誠社)等、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(約20%)、課題や試験(約80%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

植物医科学の基礎となる診断技術に特化した科目であり、詳細な技術を把握できるとの回答が多くある。今後は具体例などをさらに充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面を用いて講義を進める。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge for the diagnostic methods of the plant diseases. The goals are to receive the knowledge of the various diagnoses. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination and short reports: 80%, in class contribution: 20%

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物生理生態学

佐野 俊夫

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では植物の発生・成長・分化といった植物の基本的生理機能を理解し、そして、環境変化に対応して生育する植物の生態機能を学ぶ。これらの植物の正常な生理生態を理解して初めて植物の病害、生理障害等の植物の異常状況が理解できる。特に、移動することができない植物には、環境変化に対応して応答する機構が発達しており、その機構を理解するため、植物ホルモンの作用機構を中心に学ぶ。

【到達目標】

植物が様々な環境変化（水、光、接触、乾燥など）に対応して、どのような生理的变化を示すかを理解し、その変化の背景には植物ホルモンなどの働きがあることが理解する。また、これらの生理的变化をもたらし、環境刺激から植物成長に至る信号伝達の基本についても理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。
また、毎授業に課題を出し、その授業のポイントの復習に充てているので、課題解答を学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物細胞の特徴	植物細胞の特徴と細胞観察のための顕微鏡技術について説明する
第2回	植物細胞の成長と植物成長	植物細胞がどのように成長することで、植物個体が成長するのかを説明する
第3回	植物細胞の分裂	植物細胞分裂と分裂にかかわる細胞骨格、微小管の機能を説明する
第4回	組織、個体における物質輸送	水、イオン、生体高分子の細胞間の移動、および組織間の移動のしくみを説明する
第5回	光合成と地球環境	光合成しくみ、光合成様式の違いによる植物の生存戦略を説明する
第6回	植物ホルモン（1）、オーキシンの作用	植物ホルモンであるオーキシンの化学的性質、および植物での作用機作を説明する
第7回	植物ホルモン（2）、サイトカイニンの作用	サイトカイニンの生理作用と信号伝達経路を説明する
第8回	植物ホルモン（3）、ジベレリンの作用	ジベレリンの生理作用と信号伝達経路を説明する
第9回	植物ホルモン（4）、エチレンの作用	エチレンの生理作用と信号伝達経路を説明する。
第10回	植物ホルモン（5）、アブシシン酸の作用	アブシシン酸の生理作用と信号伝達経路を説明する。
第11回	花成とフロリゲン	花成をもたらし環境刺激とその植物内での信号伝達経路を説明する
第12回	形質転換と遺伝子組換え作物	植物の形質転換に用いられるTiプラスミドと、作出された遺伝子組換え作物について説明する
第13回	植物の環境応答	植物生育のストレスとなりうる環境要因とそれに対する植物の応答を説明する
第14回	植物の病害応答	植物病に応答するしくみを植物生理学知見から説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業毎に行われる課題の内容はその回の重要事項であり、課題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける道端、庭等に生育する植物は常に環境に対応しながら成長しているの、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回、講義資料を配布する。

【参考書】

- ・「植物の成長」裳華房
- ・「植物の生態－生理機能を中心に－」裳華房
- ・「植物生理学」第2版 三村徹郎 化学同人
- ・「テイツ ザイガー 植物生理学・発生学」培風館

【成績評価の方法と基準】

期末試験72%、毎回の講義時に課す課題28%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の課題はその日の授業のポイントがわかると好評であることから続けている。また、穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の課題解答を翌週に解説することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】

In this lecture, we first understand the basic physiological functions of plants such as development, growth and differentiation, and learn the ecological functions of plants that grow in response to environmental changes. In particular, as plants can not move, they have developed mechanisms that respond to environmental changes. In order to understand its mechanism, we learn about the action mechanism of phytohormones.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72 %, Assignments given during each lecture: 28%

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

雑草学

佐野 俊夫、村岡 哲郎

開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
雑草は作物生育を阻害したり、景観を損ねる植物の総称である。本講義ではまず、どのような植物が雑草と呼ばれ、どのような生育特性により、作物の生育に打ち勝ち、作物生育を阻害するかを学ぶ。そして、これらの雑草を防除するためにはどのような方法があるのか、機械的方法、化学的方法、生態学的方法について学ぶ。

【到達目標】
雑草学では雑草の生育特性を植物生態学的に理解し、そしてその特性を理解したうえで、雑草防除方法を生化学、分子生物学的に理解する。また、除草剤を使う際の安全性への配慮、環境への影響に対して配慮すべきことを学ぶ。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
雑草生育と除草剤作用機構の生理生態学的部分を佐野が、雑草防除の現状、具体的な防除例を村岡が説明します。
講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。
また、毎授業で課題を設定し、その授業のポイントの復習に充てているので、課題回答を学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	雑草とはなんだろう	雑草とはどのような植物なのか、また、雑草学とはどのような学問であるかを概説する
第2回	身近な雑草の生き方	身近に存在する雑草がどのような生存戦略をとっているのかを説明する
第3回	水田雑草の生理生態学	水田に生える雑草の特徴を植物生理生態学面から説明する
第4回	畑地雑草の生理生態学	畑地に生える雑草の特徴を植物生理生態学面から説明する
第5回	除草剤作用の生理学	一般的に用いられる除草剤の作用機構を説明する
第6回	形質転換と除草剤耐性作物	除草剤耐性作物の作出方法とその原理について説明する
第7回	雑草防除と有機農業	一般的な雑草防除法と除草剤を使わない有機農業法の違いを説明する
第8回	雑草防除の歴史	かつては人力で行われていた雑草防除の変遷を説明する
第9回	雑草になる植物（1）畑地	農地により雑草の種類は異なり、畑地での例を紹介する
第10回	雑草になる植物（2）水田	水田の雑草は他とは異なる特徴を有するのでその概要を説明する
第11回	雑草の防除手法	現在行われている雑草の除去の具体的方法を説明する
第12回	雑草の化学的防除法（1）	農薬として最初に使われた2,4-Dと、除草剤の変遷を説明する
第13回	雑草の化学的防除法（2）	前回の続きであるが、特に環境への配慮について触れる。
第14回	雑草の総合的防除法	環境に配慮した、生態的防除法とその工夫を説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中には本講義で紹介する雑草と呼ばれる植物が多く生育していると思われ、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。毎回講義資料を配布する。

【参考書】
松中昭一、さらわれものの草の話、岩波ジュニア新書
山口裕文、雑草学入門、講談社
浅井元朗、植調 雑草図鑑、全国農村教育協会

【成績評価の方法と基準】
期末試験72%、毎回の講義時に課す課題28%、で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】
Weeds are a generic term for plants that hamper crop growth and damage the landscape. In this lecture, we first learn what kind of plants is called weeds and what kind of its growth characteristics inhibit crop growth. Then, we will learn about methods to manage these weeds chemically and ecologically.
Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 72 %, Assignments given during each lecture: 28%

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物医科ビジネス論

宮内 陽介、川名 祥史、小倉 里江子

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、植物医科学に関連するビジネス概況の理解を目標とする。講義テーマは、主に農業、園芸、食品、環境に関するものとし、実際のビジネスの現場で活躍する人材を講師として呼び、今後の発展を議論する。

【到達目標】

植物医科学に関連するビジネス分野を知り、それぞれの事業分野の要諦を知る。講義終了時にはレポートをまとめ、学生ひとりひとりが将来の自分のキャリアについて考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

植物は食料生産のみならず、公園など屋外公共空間の景観形成や事業所ビル内外の装飾、あるいは家庭における園芸など現代社会のあらゆる場面で利用されている。その際、植物が健康に生育していることが必要であり、植物が利用されるあらゆるビジネスで植物医科学が必要とされる。植物医学が活用できる業界の具体的な動向や今後の戦略などを民間からの講師を交えて論じる。また、新たなビジネスの創造についても論議する。なお、課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	植物医科学に関連するビジネス全般を解説し、講師が行っている事業についても紹介する。
第2回	種苗ビジネス	種苗系ビジネスの概要を紹介し、キーとなる技術を解説する。
第3回	農業ビジネス	近年増加する農業法人による生産活動の概略を解説し、その中で植物医科学が果たす役割について学ぶ。
第4回	肥料ビジネス	健全な土壌を維持するために必要な技術を学び、実際のビジネス現場についても解説する。
第5回	農業ビジネス	農業ビジネスの実態を解説し、農業に関連する法規についても理解する。
第6回	アグリバンチャービジネス	アグリ系のバンチャーの取り組みについて学ぶ。
第7回	まとめ	これまでの学んだ内容を踏まえて10年後の農業についてグループディスカッションと発表を行う。
第8回	食品ビジネス	食品産業において原料としての植物の重要性を学び、ビジネスとして成立させるために重要なポイントを解説する。
第9回	農業機器ビジネス	農業におけるIoT、ICTを活用について解説する。
第10回	機能的食品ビジネス	植物由来の機能的食品ビジネスについて解説する。
第11回	植物工場ビジネス	植物工場の仕組みおよび活用について解説する。
第12回	バイオテクノロジービジネス	農業における遺伝子組み換え技術とその活用について解説する。
第13回	農業計測ビジネス	農業現場へのドローンやセンシングを活用した取り組みについて学ぶ。
第14回	まとめ	これまでの講義を通じて学んだ内容を踏まえて未来の農業についてグループディスカッションと発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習は必要としないが、日頃から新聞やインターネット等で植物に関連するビジネスについての情報に触れておくことを推奨する。

【テキスト（教科書）】

なし。適宜、資料を配布する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、質疑およびレポートにより総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義内での質問の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

全ての回でPCが必要である。また、カメラをオンにできる通信環境を整えて参加すること。

【その他の重要事項】

本講義の教員は全員植物医科ビジネスの実務経験を有する。実際のビジネスの現場について紹介するとともに、将来について受講者とディスカッションする。

【Outline (in English)】

In this lecture, we aim to understand business overview related to plant medicine science. Lecture themes mainly relate to agriculture, horticulture, food and environment, and we will talk about the company who conducts plant related business. Grading will be comprehensively decided based on the reports and in-class contribution (100%).

AGC200YD (農芸化学 / Agricultural chemistry 200)

フードセーフティ論

川本 伸一、八戸 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食品の安全性確保に重要な危害要因（化学物質、自然毒、微生物、放射能など）の特性とリスク低減対策の概要について学ぶ。また、対策の基本となるリスク分析の考え方を理解する。これらの知識をもとに、食品安全や食料安全保障についての理解を深める。

【到達目標】

食品安全は単に食品衛生上の技術問題の解決だけでは達成できないことを理解する。行政とフードチェーン（生産・加工・流通・販売・消費）に係わる全ての関係者（ステークホルダー）の意思疎通および連携・協力が食品安全問題の解決には必要不可欠であることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

農作物の残留農薬、カビ毒汚染問題や有害微生物による大規模食中毒事件の発生など食品安全問題は消費者の関心が高い。食品安全を確保するためには、従来の食品衛生上の品質管理手法に加え、国際的な取組としてのリスク分析導入によるリスク評価、リスク管理およびリスクコミュニケーションが重要である。政策上も重要な課題となっている食品安全について、その背景と現状、将来の方向性について論議する。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	食品安全総論（1）	食品安全に関する国際認識と国際機関、日本の食品安全行政（関連法令・関連省庁）
第2回	食品安全総論（2）	危害要因とリスク、リスク分析
第3回	食品安全各論（1）	食中毒の発生状況、微生物性食中毒（1）
第4回	食品安全各論（2）	微生物性食中毒（2）、寄生虫食中毒
第5回	食品安全各論（3）	食品の微生物制御と衛生管理
第6回	食品安全各論（4）	自然毒（植物性・動物性）、有害化学物質（かび毒、アクリルアミド等）
第7回	食品安全各論（5）	農薬
第8回	食品安全各論（6）	食品添加物、食物アレルギー、新開発食品（放射線照射・遺伝子組換え・ゲノム編集技術応用食品）
第9回	食品安全各論（7）	食品表示、JAS規格
第10回	食品安全各論（8）	放射能の基礎知識
第11回	食品安全各論（9）	食品の放射能汚染1（農業における汚染）
第12回	食品安全各論（10）	食品の放射能汚染2（加工食品の汚染）
第13回	食品安全各論（11）	原発事故後の農産物放射能汚染への緊急対応
第14回	食品安全各論（12）	食品安全行政とレギュラトリーサイエンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
マスコミに取り上げられる食品安全問題に関してはその内容、背景などの理解に努める。

【テキスト（教科書）】

その都度、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

生食のはなしーリスクを知って、おいしく食べるー

川本 伸一(編集代表)／朝倉 宏・稲津 康弘・畑江 敬子・山崎 浩司(編)

ISBNコード：978-4-254-43130-8 C3060

出版社：朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

受講姿勢（講義ごとの小テスト等20%、平常点40%）及び最終総合レポート（各教官からの複数課題に関するレポート作成、40%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces an overview of the measures and characteristics of hazards (chemical substances, natural poisons, microorganisms, radioactive materials etc.), and also the concept of risk analysis important for securing food safety. The aim of this course is to help students deepen the understanding of food safety and food security, based on this knowledge. Final grade will be calculated according to the following process; Each lecture's short report (20%), attendance rate for all lectures (40%) and a final comprehensive report (40%).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物バイオテクノロジー概論

川合 伸也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 植物バイオテクノロジーは、最先端の生命科学を基盤として、21世紀における人類の食料の確保、燃料や薬品などの有用物質の生産、木材や繊維の生産、地球環境の保全と改善などに幅広く役立つ画期的な生物工学技術である。本授業では、植物バイオテクノロジーの背景、基礎、応用についての専門基礎的な知識を広く身につける。		第5回	基礎編4 Basics 4	ゲノム編集(ZFNとCRISPR-Cas9)と遺伝子発現抑制法(遺伝子破壊法とRNAi)とCRES-T法による遺伝子発現抑制、T-DNA taggingとその利点 Principles and applications of reverse genetics and genome editing, and T-DNA tagging method.
【到達目標】 受講者は、この授業を受講することにより、 1 細胞融合・遺伝子組換え植物の作製法の原理を理解できる。 2 個別の遺伝子組換え作物が開発された背景、導入された遺伝子と新たな形質との関係を理解できる。 3 New Plant Biotechnologyとして、植物のゲノム編集、ウイルス・ベクターの利用の利点を理解できる。 4 食品の安心と安全の違いと科学的な安全性評価を理解できる。 Learners who successfully complete this course will be able to: ・Recognize breeding methods of transgenic plants and cell fusants ・Recognize down- and up-regulations of plant genes and gene disruption methods ・Recognize genome editing methods and application of virus vectors ・Recognize principles and mechanisms of genetically modified foods and phytoremediation		第6回	応用編1-1 Application 1-1	第一世代組換え食品：エチレン生合成制御による果実の成熟制御とBtなどによる害虫抵抗性 Control of fruit riping by down-regulation of ethylene synthesis, insect tolerance.
		第7回	応用編1-2 Appliction 1-2	第一世代組換え食品：除草剤耐性作物1・・・耐性化機構の分類とグリフォセート耐性、グルフォシネート耐性、・スルフォニルウレア系除草剤耐性と選択的遺伝子置換、プロモキシル耐性、2,4-D耐性、イソキサフルトール耐性 Herbicide tolerance (glyphosate, glufosinate, sulfonyleurea, 2,4-D).
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 DP2		第8回	応用編1-3 Application 1-3	第一世代組換え食品：ウイルス抵抗性及びディフェンシン生産作物、barstarとbarnaseを用いた雄性不稔作物 Pest tolerance (over-production of viral coat protein, RNA degradation by PTGS, R gene, chitinase, plant defensine) and Pest tolerance (over-production of viral coat protein, RNA degradation by PTGS
【授業の進め方と方法】 この授業は対面授業形式で行う。ただし、オンラインでライブ配信と録画のオンデマンド配信も予定している。 リアクションペーパー提出や課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う。		第9回	応用編1-4 Application 1-4	第二世代組換え食品：ゴールデンライス、ビタミンE強化ダイズ、油脂の改変、デンプンの改質、スギ花粉症緩和米、経口ワクチン含有作物 The second generation of genetically modified foods (Golden Rice, oleate rich soy bean, tryptophan rich rice, ferritin-containing rice, rice to repress choresterol, low allergen-containing rice, 花色と改変1・・・植物色素の種類と青色の発現機構とデルフィニジン生合成による花色改変 Alternation of flower color (pigments of flower, pH theory, metal chelete theory, copigment theory, anthocyanidin biosynthetic pathway, delphinidin, F3'5'H, blue carnation and rose).
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし /No		第10回	応用編2-1 Application 2-1	花色と花型の改変2・・・オーロン生合成による花色の改変と花のABCモデルと花型の改変、FTとTFLによる開花制御 Control of flowering (leafy, FT, TFL, and ALSV)and flower shapes(leafy, needly, ABC model, superman)
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		第11回	応用編2-2 Application 2-2	
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
第1回	導入編 Introduction	遺伝子組換え作物の栽培の現状と、遺伝子組換え作物と慣行栽培や有機栽培との比較 Statistics of genetically modified foods, comparison to non-genetically modified foods, and regulations.		
第2回	基礎編1 Basics 1	組織培養と細胞融合と遺伝子導入系(パーティクルガン法) Structure of plant cell, totipotency of plant cell, dedifferentiation and redifferntiation, tissue culture and plant hormones, cell fusion and cybrid, principles of plant genetic engineering, and particle gun.	第10回	応用編2-1 Application 2-1
第3回	基礎編2 Basics 2	遺伝子導入系（アグロバクテリウム法）と導入された遺伝子の選択系と複製系とカルスからの個体再生系 Transformation methods with binary vectors of Agrobacterium, including the selection and regeneration systems.	第11回	応用編2-2 Application 2-2
第4回	基礎編3 Basics 3	アグロバクテリウム法とパーティクルガン法の比較、マーカーフリー組換え体の作出法 comparison between Agrobacterium and Particle gun methods, and Selective marker-free transgenic plants.		

第12回	応用編3 Application 3	ストレス耐性植物（低温耐性）・・・ ホスファチジルグリセロールの改変 と脂肪酸の改変と適合溶質と活性酸 素除去、(乾燥・浸透圧耐性、重金属 耐性)・・・適合溶質と活性酸素除去、 鉄欠乏耐性、亜硫酸ガス耐性植物 Stress tolerance 1(cold, drought, freezing, salinity, high temperature, inhibition of photosynthesis, compatibe solute, GPAT, phosphatidyl glycerol, light
第13回	応用編4 Application 4	植物による環境浄化・・・水銀浄化と 重金属超蓄積植物、ファイトケラチ ン、ハロゲン置換炭化水素や芳香族 化合物浄化作物、排気ガス浄化作物 Air pollution tolerant plants, tolerance to iron-deficiency (mugineic acids) and Phytoremediation (phytochelatin, mercury tolerance, arsenic tolerance, heavy metal tolerance, volatile envir
第14回	総括 Conclusion	全体の復習と練習問題の解説 Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】参考書などによる予習および復習が必要である。授業のパワーポイント資料を学習支援システムにアップロードしておくので各自ダウンロードして予習するとともに、授業にはダウンロードしたPCを持参する。分子生物学や遺伝子工学の基礎を既に理解しているという前提で授業内容を組んでいるので、授業中に簡単には説明するが、それらの分野の知識が足りないと自覚したら、自習する。In addition to the class, students are recommended to prepare for the class using pre-distributed Power Point files.

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。パワーポイント資料が実質的な教科書である。パワーポイントのファイル自体を学習支援システムから各自ダウンロードして勉強する。なお、授業の終盤には、出題する可能性の高い問題をアップロードしておく。

None

【参考書】

*植物の生化学・分子生物学 (Buchanan, B.B. 編, 杉山 達夫 監修), 学会出版センター, 2005.

*Wikipedia 遺伝子組み換え作物 (川合が大部分を書き込み編集したので、授業内容の理解に役立つ。(http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%81%BA%E4%BC%9D%E5%AD%90%E7%B5%84%E3%81%BF%E6%8F%9B%E3%81%88%E4%BD%9C%E7%89%A9)

【成績評価の方法と基準】

試験100%。配布のプリント、参考書など、ノート、プリントアウト等の紙類及び通信機能のない電子辞書の持ち込み可。また、授業最終回には、試験の傾向と対策についての説明を行う。

test (100%). At the exam, you can bring and read books, printouts and notes.

【学生の意見等からの気づき】

- ・ゆっくり話すようにする。
- ・アンケートでは授業レベルはこのままで良いという意見と高度すぎるという意見に分かれているので、解説を増やすとともに授業内容の厳選を行う。
- ・量が多過ぎる(範囲が広すぎる)という批判があるが、この授業は概論であり、所々内容を深く講義することはあっても、広く浅く講義せざるを得ない。予習復習したり発展的に勉強したりする上で書籍をできるだけ購入しなくてもすむように関連情報も載せているし、リンク先もパワーポイントファイルに埋め込んである。
- ・特に重要なスライドについては、授業中に注意喚起する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業用のパワーポイント資料をアップロードしているので、パワーポイントまたは互換性のあるソフトウェアをインストールしてあるノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

講義内容は必要に応じて変更することがある。質問等は授業中や授業終了後に行うことが望ましいが、メール(skawai@cc.tuat.ac.jp)でも受け付ける。その際、用件と所属をタイトルに記入すること。

【Outline (in English)】

This course provides students with basics and applications of plant biotechnology and plant molecular biology. The topics covered are both principles of plant transformation and cell fusion methods and their applications. Students will learn to recognize the statistics of genetically modified foods in Japan and the world, stress tolerance, phytoremediation, and flower color alternation.

GNM300YD (ゲノム科学 / Genome science 300)

植物メディカルゲノム学**大島研郎、濱本宏**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、シーケンス技術の向上に伴い、植物や植物病原体のゲノム情報が急速に蓄積されつつある。本授業では、ゲノム解読・ポストゲノム解析の手法や、ゲノムデータベースの利用法を学ぶとともに、ゲノム情報が様々な分野に应用されていることを理解することを目的とする。

【到達目標】

ゲノム解読の手法やゲノムの構造的特徴を理解するとともに、ゲノムデータベース等を活用するためのスキルを身につける。また、トランスクリプトーム解析など、ゲノム情報を利用した網羅的解析の手法を理解する。植物病の防除・診断技術へゲノム情報を活用するための知識・技術の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面授業とZoomを併用した「ハイフレックス形式」で講義を行う。各回の授業の終わりに課題を掲示し、提出された解答で理解度を確認しながら進める。また、授業内に前回の課題について講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全体の説明
第2回	ゲノム配列の解析法 (1)	塩基配列決定の原理と手法
第3回	ゲノム配列の解析法 (2)	ショットガンシーケンス
第4回	ゲノム配列の解析法 (3)	次世代シーケンサー
第5回	ゲノム配列の解析法 (4)	ゲノムデータベース
第6回	ゲノム解析の実例 (1)	植物細菌のゲノム解析
第7回	ゲノム解析の実例 (2)	真核生物のゲノム解析
第8回	ポストゲノム解析 (1)	遺伝子発現解析 ～ マイクロアレイ
第9回	ポストゲノム解析 (2)	遺伝子発現解析 ～ プロテオーム
第10回	ポストゲノム解析 (3)	ゲノム進化・遺伝子診断
第11回	ゲノム情報の利用 (1)	後天的ゲノム修飾のメカニズム
第12回	ゲノム情報の利用 (2)	遺伝子組換え作物
第13回	ゲノム情報の利用 (3)	ゲノム編集技術
第14回	総括	講義内容の復習・確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業内で掲示された課題を解き、解答を提出する。また、講義資料、例題などを復習し、良く理解しておく。

【テキスト（教科書）】

毎回、資料を配布する。

【参考書】

植物医科学 第2版（養賢堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験(50%)、レポート課題(36%)、平常点(14%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

情報機器（貸与パソコン）を活用した演習を取り入れるとともに、講義資料を穴埋め式にするなど、効率的に学習できるように工夫している。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して、課題の掲示や講義資料の配布を行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the genomics associated to plants and plant pathogenic bacteria. This course deals with the principles of sequencing of genomes. It also enhances the development of students' skill in the applied biology by using genomic data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on short examinations after each class meeting (36%), term-end examination (50%), and in-class contribution (14%).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物細菌学

大島 研郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物を病気から守るためには、病原体が植物に感染するメカニズムを分子レベルで明らかにすることが重要である。本講義では、微生物の中でも特に細菌に焦点を当て、細菌が植物に感染するために進化させてきた巧みな寄生戦略を理解することを目的とする。

【到達目標】

植物に病気を引き起こす細菌や、植物と共生する細菌について、形態、分類、病徴、宿主範囲、検出診断法、防除法など、基本的な知識を身につける。また、細菌が植物に感染するために用いる分子装置や、植物が細菌から身を守るために進化させてきた免疫システムを学習することで、細菌と植物が繰りひろげる攻防を分子レベルで理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業とZoomを併用したハイフレックス形式で講義を行う（URLなど詳細については学習支援システム・植物細菌学のページを確認してください）。
- ・各回の終わりに穴埋め問題などの課題を提示し、学習支援システムを通して回答してもらう。
- ・授業の初めに前回の課題の答えを解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全体のガイダンス、細菌とはどのような生物か？
第2回	細菌の培養と代謝	細菌の培養法と、おもな代謝経路
第3回	細菌の分子生物学	細菌のDNA複製、転写・翻訳など遺伝子発現の特徴
第4回	細菌の分類、系統	細菌の分類法、細菌の分子進化学
第5回	植物細菌 1	野菜を溶かす微生物：ペクトバクテリウム属細菌
第6回	植物細菌 2	タンパク質を注射して植物に感染する微生物：シュードモナス属細菌
第7回	植物細菌 3	道管を詰まらせて植物を病気にする微生物：ラルストニア属細菌
第8回	共生細菌	植物と共生して生きる微生物：リゾビウム属細菌
第9回	難培養性の植物細菌 1	花を葉に変える微生物：ファイトプラズマ属細菌
第10回	難培養性の植物細菌 2	昆虫によって媒介される微生物：グリーニング病細菌
第11回	植物細菌の同定・診断	植物細菌の同定法、免疫学的診断法、遺伝子診断法
第12回	植物細菌病の予防技術	植物を病気から守るためのさまざまな予防技術
第13回	植物の防御システム	植物免疫：植物はどうやって病気から自らの身を守るのか？

第14回 細菌と植物の分子攻防 植物と病原細菌のはてしなき軍拡競争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。
- ・課題を解くことで授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

毎回、資料を配布する。

【参考書】

植物医科学 第2版（養賢堂）
植物医科学の世界（大誠社）
植物医科学実験マニュアル（大誠社）
植物病理学 第2版（文永堂出版）
植物たちの戦争 病原体との5億年サバイバルレース（講談社 ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

期末試験(50%)、課題(36%)、平常点(14%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料を穴埋め式にするなど、効率的に学習できるように工夫している。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the bacteriology associated to plant pathogenic bacteria. This course deals with the principles of culture method, classification, pathogenicity, diagnosis, and pest control. This course also enhances an understanding of the plant-microbe interaction at molecular level. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on short examinations after each class meeting (36%), term-end examination (50%), and in-class contribution (14%).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物ウイルス学

津田 新哉

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、植物病理学・植物医科学分野の中で、農作物の重要病原の一種である植物ウイルス等の歴史、分類、病気の種類、診断法、防除法さらに最新の分子生物学に至るまでの基礎・応用・実用研究の最前線を解説する。さらに、ウイルス等の生物学的特徴を説明するとともに、生命科学をリードするウイルス等研究の役割について講義する。

【到達目標】

植物ウイルス病研究の歴史、現在のウイルス等の分類、分子構造、生物学的特徴、発生生態、媒介様式、さらに防除方法等について理解する。さらに、ウイルス遺伝子とその産物であるタンパク質の機能、それら高分子と植物遺伝子等との相互作用を通じて生命現象の仕組みを学習する。また、ウイルス感染から発病に至るまでの経緯を連続的に捉え、ウイルス病防除の技術的課題の抽出と農作物の安定生産に向けた対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	植物ウイルス病とウイルス学の歴史	植物ウイルス病とウイルス等研究の歴史について概説する。
2	植物ウイルスの分類	植物ウイルス等の分類方法の変遷と分類基準についてグループディスカッションで理解を深める。
3	植物ウイルスの構造	ウイルス粒子の形態、ウイルス粒子の化学組成、ウイルスゲノムの遺伝子構造について解説する。
4	植物ウイルスの遺伝と変異	ゲノムの異なるウイルスの遺伝子発現様式、ゲノム上で起こる遺伝子変異について解説する。
5	植物ウイルスの精製と定量	植物ウイルスの精製方法と定量方法について具体的な実験事例を示しながら解説する。
6	植物ウイルスの感染と増殖（1）	植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
7	植物ウイルスの感染と増殖（2）	引き続き、植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
8	植物ウイルスの病徴	植物ウイルスが感染することによって表れる様々な病徴を理解し、その病徴発現の仕組みについてグループディスカッションで理解を深める。

9	植物ウイルスの伝染	植物ウイルスの自然界における伝染実態を紹介するとともに、異なる生き物により媒介されるその様式の多様性を説明する。
10	植物ウイルスの干渉	植物ウイルス間で起こる干渉作用を理解する。
11	植物の抵抗性と植物ウイルス病の疫学	植物遺伝子が引き起こす抵抗性反応を解説する。また、植物ウイルスの自然界における生活環と流行、さらに調査方法を解説する。
12	植物ウイルス病の診断と防除	植物ウイルスの病原体としての診断法と、その伝染環に基づく総合防除体系について説明する。
13	植物ウイルスの生物学	生命科学におけるウイルス学の果たすべき役割と生物工学研究での社会モラルについて解説する。
14	総括	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子や複製、翻訳などについては、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。また、授業後に配布する資料で復習すること。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回の授業終了後に時間内で提示した資料を学習支援システムで公開する。各自でダウンロードし復習に役立てる。

【参考書】

関係学術雑誌や専門書、実験技術マニュアルなどを参考にする。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、小テスト・レポートで30%、平常点20%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料の参考資料等については、学習支援システムを活用する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

民間企業、公設試、国立研究機関における植物ウイルス病の診断・防除に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

【Outline (in English)】

This course will provide a comparative overview of plant virus life cycles and strategies viruses use to infect and replicate in host plants. We will discuss virus structure and classification and the molecular basis of viral reproduction, evolution, assembly, virus-host interactions, epidemiology and protection of viral diseases. The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students do not need to prepare for the lecture, but they should review technical terms in reference books. In particular, students are expected to read books on biochemistry and molecular biology to gain a basic understanding of genes, replication, and translation. There will be time for questions at the end of each class, and students are expected to respond positively, including to questions from classes that have already been completed. Evaluation will be based on 50% on the final exam, 30% on quizzes and reports, and 20% on attendance. The final exam will test your comprehension of each lecture and your overall understanding of the course.

AGC200YD（農芸化学 / Agricultural chemistry 200）

微生物生態学

堀 知行

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土壌や水界などのあらゆる環境に多種多様な微生物が生息している。これらの微生物は主要元素の循環に重要な役割を担っており、地球環境の恒常性の維持に不可欠である。加えて、微生物は植物や動物の生存にさまざまな影響を及ぼしている。本授業では、微生物と地球環境との関係性、微生物と高等生物との相互作用を研究する微生物生態学について、微生物の性質と分類、微生物と高等生物との共生、極限環境での微生物の生存戦略、環境微生物解析手法、微生物利用の可能性を中心に講義し、SDGsへの貢献など今後の研究展開について考える。

【到達目標】

微生物の基礎的知識を得るとともに、自然・工学的環境に生息する多種多様な微生物の生理生態学的な特徴を理解する。環境微生物解析手法について理解を深めるとともに、地球環境の恒常性や保全に果たす微生物の役割について学び、今後の微生物利用の展開を考える力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

スライドを使った通常の講義（対話形式）とする。オンラインでの開講を基本とするが、詳細は開講前に学習支援システムを参照のこと。フィードバックは、授業時間内に実施する小テストの分析と解説、授業時間外に受ける質問への回答と解説を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	微生物生態学とは	微生物とは？ 生命の3ドメイン 栄養と代謝
第2回	微生物細胞の構造と機能	生体高分子 細胞膜と輸送 細胞壁の特徴
第3回	微生物の生息環境	水界、土壌、極限環境 バイオフィーム環境
第4回	微生物群集の構造と機能	微生物の系統学 培養できない微生物とその解析法
第5回	微生物の一次生産	一次生産と光栄養 植物プランクトンとブルーム
第6回	微生物の有機物分解	有機物分解と炭素循環 高分子有機化合物の分解
第7回	嫌気環境の微生物呼吸	いろいろな電子受容体 メタンと微生物
第8回	窒素循環と微生物	硝化と脱窒 アナモックス 窒素固定
第9回	硫黄循環と微生物	硫黄酸化と硫酸還元 海底堆積物の微生物
第10回	金属と微生物	鉄酸化と鉄還元 バクテリアリーチング
第11回	植物・動物と微生物の共生	菌根菌 根粒菌 微生物と動物・昆虫
第12回	微生物を用いた環境浄化	バイオレメディエーション 水処理・浄化
第13回	微生物利用の将来	地球環境と微生物活性 循環型社会に向けた微生物利用
第14回	理解度確認	授業内容の理解度確認 レポート課題説明または試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。専門用語などについて、配布する授業資料や参考書などを用いて復習する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

・Block 微生物学 Michael T. Madigan 他著 室伏きみ子他監訳 オーム社
2003年 18000円

・微生物の地球化学 元素循環をめぐる微生物学 T.Fenchel 他著 太田寛行
他訳 東海大学出版部 2015年 3200円
・授業の際に、それぞれの話題に則した学術論文などを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に実施する小テストによる平常点（40%）ならびにレポート課題（60%）をもとに、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックは、授業時間内に実施する小テストの分析と解説、授業時間外に受ける質問への回答と解説を通して行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するためのパソコンまたはタブレット等。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

A variety of microbes co-exist in natural environments, such as soil and water ecosystems. These microbes play important roles in the key element cycles in the environments, being indispensable to maintain the homeostasis of the earth. In addition, they have various influences on the existence of plants and animals. In this class, I lecture on microbial ecology, including the character and classification of microbes, the symbiosis of microbes with plants and animals, the microbial behavior in extreme environments, the microbial community analyses, the possible use of microbes for the global issues, e.g., SDGs. The learning objectives are (i) to gain the fundamental knowledge about microbes, (ii) to understand the distinctive characters of various microbes in natural and engineered environments, (iii) to expand an understanding of molecular tools in environmental microbiology and (iv) to learn the roles of microbes in the maintenance of the homeostasis and environment of the earth. The standard learning activities outside of classroom are assumed to be 4 hours of the preparation and review for one class. Reviewing important information, such as technical term, using the textbook and references is necessary. The grading criteria/policy is to comprehensively evaluate the achievements based on the quiz performed in each class (40%) and the term paper (60%).

BOA300YD（境界農学 / Boundary agriculture 300）

環境昆虫学

安田 耕司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昆虫は、原生自然から農地、都市環境などさまざまな環境に生息している。このように多様な環境で進化した昆虫がどのような形態的・生態的特徴をもち、どのような生活を送っているかその概要を学ぶ。多様な環境で進化した昆虫の形態や生態を知ること、私たち人間の生活にとっても健全な環境や生態系が不可欠であること、そして、昆虫もそのような環境を構成する重要な要素であることを理解する。

【到達目標】

さまざまな環境に生息する昆虫の種類や目（もく）レベルのおおまかな分類群を識別できるようになり、身近な昆虫にも親しみを持つようになる。また昆虫の特徴的な行動や生活史を知ること、生態系の中の昆虫の位置づけを理解し、人間にとって最も重要な環境について考える切っ掛けを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業は要点をまとめた資料を配布した上でパワーポイントを使って進めます。また数回の授業ごとに小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、授業計画、学生の昆虫に対するイメージの確認
第2回	昆虫の系統分類	昆虫の系統進化と各分類群の特徴について
第3回	身近な環境に生息する昆虫	庭や街路樹、家屋内など身近な環境にみられる昆虫や人間の生活に深く関わる昆虫について
第4回	農作物の害虫	作物や野菜、果樹等の主要害虫の種類と生態について
第5回	外来昆虫	海外から日本に侵入した昆虫や侵入が警戒される昆虫の種類と生態について
第6回	昆虫の発育・生理	発育速度や休眠など、昆虫の基本的な発育生理について
第7回	環境が昆虫の生態に及ぼす影響	特に昆虫の多型現象や相変異について
第8回	昆虫にみられる擬態	昆虫にみられる様々な擬態とその進化について
第9回	昆虫における遺伝と進化	昆虫にみられる進化や適応の遺伝的基礎について
第10回	地球温暖化と昆虫	地球温暖化が昆虫の分布や生態に及ぼす影響について
第11回	昆虫による生態系サービス	近年劣化が懸念されている生態系サービス（花粉媒介）について
第12回	外来生物が生態系に及ぼす影響	侵入昆虫をはじめとする外来生物が生態系に及ぼす影響について
第13回	農業生態系に生息する昆虫	農業生態系の特徴とそこに適応した昆虫の生態について
第14回	講義内容の補足と期末試験	講義内容についての補足説明、および講義内容の理解度を確認するための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】庭や街路樹、屋内など身近にいる昆虫に興味を持ち、それらの名前を図鑑やインターネット等を用いて調べる経験をもつ。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

1. 応用昆虫学の基礎、後藤哲雄・上遠野富士夫、農山漁村文化協会、2019
2. 外来種ハンドブック、日本生態学会編、地人書館、2002
3. 地球温暖化と昆虫、桐谷圭治・湯川淳一編、全国農村教育協会、2010
4. 「ただの虫」を無視しない農業、桐谷圭治、築地書館、2004

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）、小テスト（20％）、平常点（20％）

ただし今後、状況が変わった場合は変更の可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容を基本的なところで誤解している例も見受けられたことから、簡単な内容でも丁寧に説明するよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】

Insects inhabit a variety of environments, from natural habitats to agricultural land and urban areas. Students will learn about the morphological and ecological traits that insects have evolved in diverse environments and how they survive and thrive in these environments. By learning about the characteristics of insects, students will understand that healthy environments and ecosystems are essential both for insects and for human life, and that insects are an important component of such ecosystems. Final grade will be calculated as follows: Mid-term examination(20%), term-end examination(60%), in-class contribution(20%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

媒介システム学

津田 新哉

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、植物病原微生物が植物から植物へと自然界において媒介される実態を解説する。特に、植物病の主たる媒介者である昆虫の分類を事例として、媒介生物と植物病原微生物、さらに植物との三者間の伝染環に基づく相互作用を説明し、植物を病気から保護する技術的対策について論説する。

【到達目標】

植物病の主たる媒介生物である昆虫とそれに媒介される病原微生物の自然界における相互作用を理解し、それらの媒介に関連する生体高分子間の反応の実態を学習する。また、植物、病原微生物、媒介生物の三者間の連鎖により成立する伝染環を把握し、媒介様式に着目した病害制御対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	植物病害における伝染環研究の歴史	植物病害伝染環の研究史と病原微生物の伝播の基礎知識を概説する。
2	植物病原微生物の伝染様式	植物病原微生物の自然界における伝染様式についてグループディスカッションで理解を深める。
3	植物病原微生物の媒介様式	植物病原微生物の媒介生物による伝染経路を説明する。
4	植物病原微生物の媒介生物（1）	植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
5	植物病原微生物の媒介生物（2）	引き続き、植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
6	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（1）	媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
7	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（2）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
8	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（3）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
9	生物によるウイルス媒介の分子機構	媒介生物体内におけるウイルス等の局在、増殖、移動などについての分子機構を説明する。

10	植物病原体の種子伝染機構	植物種子により伝染する病害を解説するとともに、ウイルス等を事例にした種子伝染の分子機構を説明する。
11	媒介昆虫の生態と植物病害発生との相互関係	媒介昆虫の生活環の変転に伴う植物病害の発生の変化についてグループディスカッションで理解を深める。
12	植物病原体-媒介生物-宿主植物の相互作用の解析	三者間の相互作用により発生する植物体の生物反応について解説する。
13	植物病原体の薬剤耐性とその対処法	植物病原微生物の薬剤耐性能の発達とその対処法を説明する。
14	総括	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子、タンパク質などの生体高分子の機能については、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。また、授業後に配布する資料で復習すること。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回の授業終了後に時間内で提示した資料を学習支援システムで公開する。各自でダウンロードし復習に役立てる。

【参考書】

関係学術雑誌や専門書、実験技術マニュアルなどを参考にする。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、小テスト・レポートで30%、平常点20%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料の参考資料等については、学習支援システムを活用する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

民間企業、公設試、国立研究機関において植物病の伝染環制御に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

【Outline (in English)】

The primary objective of this course is to introduce the student to the subject of transmission for plant microorganisms occurring diseases. The course will emphasize an interaction between plant virus and insect vector as they apply to plants and discuss plant protection measures considering their ecological relationships to their physical environment and to other organisms, including other plants, microorganisms. The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students are not required to prepare for the lecture, but are required to review technical terms in reference books. In particular, students are expected to read books on biochemistry and molecular biology to gain a basic understanding of the functions of biological macromolecules such as genes and proteins. There will be time for questions at the end of each class, and students are expected to respond positively, including to questions from classes that have already been completed. Evaluation will be based on 50% on the final exam, 30% on quizzes and reports, and 20% on attendance. The final exam will test your comprehension of each lecture and your overall understanding of the course.

BOA300YD（境界農学 / Boundary agriculture 300）

植物メディカルシステム学

濱本 宏

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（ICT）の活用は、今後の農業の発展に不可欠である。農林水産省の食料・農業・農村白書にはロボット技術やICTを活用したスマート農業などが紹介されてきた。本授業では、農業の中でも植物医科学分野に関わるICT技術として、フィールドサーバーやドローンなど農業データの取得にかかわるハード面と、データ処理技術、機械学習、人工知能(AI)などデータの利用にかかわるソフト面とについて、これら農業に革命をもたらす技術の基礎を学ぶ。

【到達目標】

農業や植物医科学におけるICTの利用例をもとに実務的な知識を身につける。また、その基盤をなす情報科学の基礎知識を得る。特に、関連する情報の検索とその活用、ゲノム情報の活用、画像解析技術の活用について具体的な例を学びながら最新の知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

情報科学の基礎と、画像解析技術の応用、農業や植物医科学における情報取得とその活用、遺伝子情報の植物医科学への応用などを順次学ぶ。授業の内容によって、コンピュータを持参し実際の作業を行う回も設定する。さらに、情報科学を活用することで、どのようなことが実現可能なのか、何がメリットで何が問題点なのか、今後農業や植物医科学にどのように活用できるのかを考える。また、データ解析の手法について簡単な演習を交えて解説する。区切りごとに課題を設定し提出させ、次の授業冒頭に解説を加えることでフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の進め方、授業概要の解説など ガイダンス
第2回	現代社会と情報科学	現代社会・特に農業関係で使われている情報技術・情報通信技術の概説
第3回	情報技術の発達史	コンピュータの歴史やインターネットの普及など情報技術発達の歴史
第4回	農業とICT（１）：農業ICTに必要な情報の取得と利用	フィールドサーバー、ドローン、人工衛星などからデータを取得方法とその利用・生産環境制御
第5回	農業とICT（２）：農業ICTで実際に現場作業する技術	無人トラクター、ドローン、自動収穫機など
第6回	農業とICT（３）：そのほか農業/植物医科学関連ICT利用	経営・生産管理、流通管理（トレーサビリティ）など
第7回	農業とICT（４）：農業ICT/植物医科学で用いるデータベース	病名目録、農業登録情報、その他オープンデータ紹介
第8回	植物医科学に用いられる遺伝子情報	ゲノム関連データベースの利用、AI育種など
第9回	植物医科学で有用なwebsite等の紹介と活用	今昔の関連website/商品等紹介、簡単な実際の検索/解析演習
第10回	データ解析の手法（１）	データ解析の基礎のこと、平均と標準偏差、共分散と相関、近似
第11回	データ解析の手法（２）	有意差検定、分散分析、多重比較
第12回	データ解析の手法（３）	画像変換、画像解析、用いるソフトウェア
第13回	データ解析の手法（４）	実際にデータ取得して解析を行う。
第14回	植物医科学に関連するネットワーク・総合討論	ICTと植物医科学の接点に位置する最新Topicsの解説と総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業中に紹介したデータベースやシステム等を、復習の際に実際に使用し、利用するとともに、他の授業や実習の予習、復習等の際に利活用することを心がける。

【テキスト（教科書）】

資料配布を基本とする。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験とレポート課題：80%、平常点20%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解を深めるために、実際にPCを利用した実習を活用する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて指示するので、PCを持参する。

【その他の重要事項】

民間企業に勤務した教員が、開発された新技術に関してビジネス的な観点も取り入れいち早く説明する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students study the technologies for data acquisition (field server, multirotor, next-generation sequencer, etc) and data processing (including the utilization of AI).

【Learning Objectives】

To obtain the ICT skills that can be used in the research works of clinical plant science and the clinical applications for the agriculture.

【Learning activities outside of classroom】

Browse the websites introduced in the class, try to find appropriate website for further information, and analyze the data obtained from the database.

【Grading Criteria /Policy】

Final evaluation will be decided according to; term-end examination and reports (80%) and in-class contribution (20%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物臨床医科学

池田 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病の実践的な診断および防除の事例、最先端の防除技術を学び、植物医師として問題解決に必要な不可欠な知識と技術を修得する。

【到達目標】

農業生産の現場で発生する頻度の高い植物病の診断方法、およびその発生生態に関する知識を身につける。また適切な防除対策を策定し、生産者へ提案、実践する技術を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

生産現場で実際に発生した植物病の症例を写真で示し、診断のポイントを解説する。加えて、これまでの研究成果などから推察される発生生態を、図やイラストを用いて説明した後に、どのような防除対策が有効かを考察する。授業を復習する課題・レポートの提出は「学習支援システム」を通して行い、質問などの回答やフィードバックは授業内で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物臨床医科学とは？	診断・防除対策の提案に必要な知識と技術
第2回	植物病の診断	圃場診断・植物体診断、問診や情報の活用
第3回	葉に発生する植物病（菌類）	うどんこ病、べと病などの診断、防除対策
第4回	葉に発生する植物病（菌類2）	トマト葉かび病やキュウリ褐斑病などの診断、防除対策
第5回	葉や茎などに発生する植物病（菌類）	子囊殻、分生子殻を形成する植物病の診断、防除対策
第6回	葉に発生する植物病（細菌）	斑点性の細菌病、黒腐病の診断・防除対策
第7回	葉に発生する植物病（ウイルス）	葉に発生するウイルス病の診断・防除対策
第8回	導管閉塞を伴う植物病（菌類1）	Verticillium 属菌による土壌病害の診断・防除対策
第9回	導管閉塞を伴う植物病（菌類2）	Fusarium 属菌による土壌病害の診断・防除対策
第10回	導管閉塞を伴う植物病（細菌）	土壌伝染する病原細菌による植物病の診断・防除対策
第11回	菌核で伝染する植物病（菌類）	白絹病、菌核病などの診断・防除対策
第12回	根および地際部の植物病（菌類）	Rhizoctonia 属菌などによる植物病の診断、防除対策
第13回	根および地際部の植物病（その他）	Pythium 属菌やPhytophthora 属菌による植物病の診断、防除対策
第14回	地上部に発生する植物病（生理障害・薬害）	気象要因や施肥に起因する生理障害、薬害の診断・対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各講義の重要なポイントをまとめること。関連の課題に関して自己学習を行う。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を学習支援システムにアップする。

【参考書】

米山伸吾・根本久・上田康郎・都築司幸著『図説野菜の病気と害虫 伝染病・生活環と防除法』（農山漁村文化協会）
Gail L. Schumann・Cleora J. D'Arcy『Hungry Planet: Stories of Plant Diseases』（APS PRESS）
難波成任監修『植物医科学』（養賢堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）、課題・レポート（30％）、平常点（20％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実際の農業生産現場で発生する植物病を授業の対象として、「植物臨床医科学」が単なる学問に終わらず、社会で役立つ知識や技術を習得できる授業となるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

【その他の重要事項】

国内外の農業生産現場で植物保護の研究・指導に携わった教員が、植物病の診断や防除対策の策定を行う上で、特に重要と考えられる知識・技術を講義する。

【Outline (in English)】

Students will learn practical cases of diagnosis and control of plant diseases, and study skills essential for problem-solving as plant doctors. The goal of this course is to acquire diagnostic methods and knowledge of the life cycle of plant diseases that frequently occur in agricultural production. In addition, the objectives are to gain the ability to choose and determine the best disease control measures based on the life cycle of plant diseases and to acquire the skills to propose and implement such measures to growers. Grades will be based on the final exam (50%), assignments and reports (30%), and regular marks (20%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

生物制御化学

望月 文昭

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然選択の結果として現存する生き物たちは、実にさまざまな化学物質を巧みに利用して生きている。それは、自らが作り出す化学物質でもあり、ある場合は、他の生物が作り出す化学物質でもある。本授業では昆虫をおもな対象として、情報化学物質（セミオケミカル）が彼らの生態においてどのような役割を果たしているのかを理解するとともに、我々人間が害虫管理にそれを応用してきた経緯を知る。

【到達目標】

到達目標を以下の2点におく。①セミオケミカルの定義とその分類を正確に理解し、該当する研究論文の内容を理解する。②セミオケミカルを利用した害虫制御のメカニズムと現状を理解し、持続可能な農業に寄与していることを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

昆虫をおもな対象として、「到達目標」を達成できることを念頭においた講義を主体とする。

理解の助けとして、研究結果をわかりやすく要約したスライド画像を多く用いる。また、研究の実際をイメージできるように、授業に関連して教員自身が直接・間接に経験した研究事例を随時織り込んでわかりやすく紹介する。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	「生物制御化学」とは何か、および、情報化学物質（セミオケミカル）とは何かを説明する。
第2回	フェロモン研究の歴史	日本人研究者によるブレイクスルーを紹介し、ガ類の性フェロモンの基本構造を概説する。性フェロモンが一般的に複数成分の混合物で構成されていることを理解してもらう。
第3回	性フェロモンの同定方法と触角の役割	果樹害虫スモモヒメシクイを例に性フェロモンがどのような手順で同定されているか解説する。また、野菜害虫シロイチモジヨトウを例に、オス触角に存在する性フェロモンを専用に受容する感覚細胞の働きについて解説する。
第4回	同種の他個体に作用する情報化学物質（フェロモン）	階級分化フェロモン、性フェロモン、集合フェロモン、警報フェロモン、道しるべフェロモン、密度調整フェロモン、これらの具体例を示し、フェロモンの全体像が理解できるよう解説する。

第5回	異種間に作用する情報化学物質（カイロモン）	食物連鎖の上位にいる生物は、下位生物の匂いを餌探しに利用している。このような匂いをカイロモンという。講義では、植食性昆虫、捕食性昆虫、寄生蜂、これらカイロモンに関する研究論文を解説する。
第6回	異種間に作用する情報化学物質（シノモン）	植物―植食者―天敵、3つの栄養段階にまたがる生物相互作用系における植物の匂いHIPVs (Herbivore-Induced Plant Volatiles) に関する研究を説明する。 信号を発する植物、それを受け取る天敵の双方にとって利益をもたらすHIPVsはシノモンの一形態である。
第7回	中間テスト	第1回～第6回の講義の理解度をテストする。また、テスト終了後に復習を兼ねた問題の解説を行う
第8回	植物間のコミュニケーションとアレロパシー	植物が生産する化学物質が、他の植物体や捕食者に対しどのような影響を及ぼしているか実例を示し解説する。
第9回	害虫防除への利用	情報化学物質を有効成分とした害虫防除剤について概説する。そのなかで特に普及している性フェロモン剤について、①モニタリング、②大量誘殺、③アトラクト&キル、④交信かく乱を紹介する。
第10回	社会性昆虫の情報化学物質（炭化水素）	社会性を維持するためにハチやアリが利用している様々な情報化学物質について概説する。また、巣仲間認識に重要な役割をもつ体表に存在する炭化水素が、共生者や捕食者といった異種間にも特別な作用を持つことを紹介する。
第11回	侵略的外来アリの制御化学	わが国で問題のアルゼンチンアリ、ヒアリ、アシジロヒラフシアリの3種を取りあげ、生態とアリ用ベイト剤による防除、ならびにアルゼンチンアリにおける道しるべフェロモン剤によるユニークな交信かく乱防除の試みを紹介する。
第12回	異種間に作用する情報化学物質（アロモン）	情報化学物質を放出する側に利益があり、受け手に不利益があるアレロケミカルをアロモンという。毒 (Poison, Venom) ・忌避 (Refuge) ・ごまかし (Deception)、以上3つに大別した後在具体例を紹介する。
第13回	期末テスト	第8回～第12回講義の理解度をテストする。また、テスト終了後に復習を兼ねた問題の解説を行う。

- 第14回 交信かく乱剤に起こった問題
- 抵抗性： 性フェロモン剤（交信かく乱剤）は実用から40年経過し数多くの商品が販売されているが、抵抗性が確認されたのは1例だけである。この抵抗性に関する研究を概説する。
効くはずなのに効かない虫：果樹害虫トビハマキについてみつけた交信かく乱効果を阻害する物質を発見した経緯と実験結果を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

1. 受講前および受講期間中に教科書などで次の分野の基礎を学んでおく：「昆虫学」

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用：毎回の講義時に用いる資料は学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

1. 「化学生態学」中牟田潔編、朝倉書店、2024
2. 「香君」1-4 上橋菜穂子、文春文庫、2024
3. 「化学生態学への招待」古前恒監修、三共出版、1996
4. その他、講義において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間・期末テストによって「到達目標」に掲げた2つの項目ごとに基本的な事項の理解ができているかどうかを評価する。

要素ごとの配分と評価基準

- ・ 中間試験、期末試験(それぞれ35%):得点による
- ・ 平常点(30%): 授業に取組む姿勢とミニテスト

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【Outline (in English)】

The lectures for this course will encompass concepts of insect chemical ecology and their application for insect pest management. Students will understand “pheromones” which mediate intraspecific communication and “allelochemicals” mediating interspecific communication. Furthermore, students will understand the application of semiochemicals in insect pest management. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Mid-term examination (35%), term-end examination (35 %), and in-class contribution (30%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物医科学法論

福盛田 共義

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1 植物医科学、植物防疫の考え方を理解し、関連の法制度について知る。
- 2 植物医科学、植物防疫をめぐる国際的な動きを理解する。
- 3 病害虫および鳥獣による被害とその防除について知る。
- 4 農業に関する行政制度、安全性確保対策について知る。
- 5 植物検疫制度とその実施について知る。

【到達目標】

植物医科学、植物防疫に関する基本的な考え方及び知識を身につける。植物防疫制度、農業取締制度及びリスクアナリシスの基礎的な概念について理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義（対面授業）を中心とし、機会に応じDVDなど視聴覚機材を使用する。授業の中で2回的小レポート課題を実施する。講義資料及び小レポート課題は学習支援システムに掲載する。第14回目の授業において、まとめと試験を行う。なお、フィードバック方法として、第14回目の授業において、それまでの授業の中で行った小レポート課題に対する講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	植物医科学と植物防疫	植物医科学と植物防疫の基本的な考え方、植物防疫を支える組織、関係法令、国際条約。
2回目	植物医科学と関係法令	植物防疫法、農業取締法の概要。
3回目	植物医科学とリスクアナリシス	SPS協定、リスクアナリシスの概念、食品安全分野及び植物防疫分野への適用。
4回目	有害動植物の防除1（総合防除と発生予察）	防除を巡る現状と課題、総合防除（基本指針・計画）、指定有害動植物、発生予察情報の目的、種類と実際。
5回目	有害動植物の防除2	都道府県の防除（防除基準、防除暦、要防除水準）、最近の病害虫の発生動向、多様な防除手法。
6回目	有害動植物の防除3	総合的病害虫・雑草管理(IPM)、農林航空事業、薬剤抵抗性対策。
7回目	有害動植物の防除4及び小レポート課題①	マイナー作物向け防除対策、農産物輸出促進のための防除対策、野生鳥獣被害防除対策。あわせて、総合防除、発生予察等の防除に関するレポート課題①の提示。
8回目	農業	農業の歴史、農業の生産・開発の動向、農業取締制度の歴史、農業取締法の規定のポイント。
9回目	農業の安全性1	リスクアナリシスの農業安全性への適用、ポジティブリスト制度。
10回目	農業の安全性2	農業の登録審査、登録拒否の基準、表示制度、使用規制、適正使用に係る各種施策。
11回目	植物検疫1	植物検疫の歴史、輸入植物検疫。
12回目	植物検疫2及び小レポート課題②	輸出検疫、国内検疫（種苗の検査、移動規制、侵入調査）、緊急防除。あわせて、農業安全性及び検疫に関するレポート課題②の提示。
13回目	植物検疫3	輸出入木材梱包材の検査、船舶の検査、車両の検査等多様な植物検疫、植物検疫リスク管理情報の収集・分析。
14回目	植物医科学法論のまとめ、小レポート課題の解説及び期末試験	講義全体の総括、2回的小レポート課題の講評・解説、及び、期末試験の実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
次回講義のテーマに関連する農林水産省、厚生労働省、食品安全委員会等のホームページや、参考資料の該当部分をみておくこと。

また、毎回の授業後、教材を十分に復習しておくこと。関連する新聞報道等に注意を払って調べてみる。2回的小レポート課題に対応すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
毎回、教材を学習支援システムに掲載する。

【参考書】

農業概説2024（日本植物防疫協会）

【成績評価の方法と基準】

2回的小レポート課題で40%、試験で60%の評価配分とする。

【学生の意見等からの気づき】

「社会で生きる植物医科学」の観点から、適宜、病害虫防除、農業安全性確保及び植物検疫に関する現場での実例、国の政策の動き、国際的な動向等を紹介して、理解を深めてもらえるよう工夫する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the basis of Plant Protection Act, Agricultural Chemical Regulation Law, Food Sanitation Act and Food Safety Basic Law.

Also, this course introduces the concept of Risk Analysis about Food Safety and Pest Risk Analysis to students.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to be able to explain the system of Plant Protection, Agricultural Chemical Regulation and Risk Analysis.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected spend four hours to master the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be decided based on term-end examination (60%) and short reports (40%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

ポストハーベスト論

廣岡 裕吏、宮ノ下 明大

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

青果物の生理的品質劣化やカビ・害虫による被害について理解し、品質を維持するための流通、貯蔵、防除技術を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

青果物の生理的品質劣化やカビ・害虫による被害の現状を理解する。そして、その予防、防除に関する技術、方法を学ぶ。また、青果物の商品価値とそのコストとのバランス、穀物病害虫を中心にした植物検疫の現状を踏まえて理解し、食品安全に関わる考え方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は主に小テストやリアクションペーパー等を用いながら、パワーポイントを使って行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/青果物の品質と機能	青果物の品質と機能
第2回	ポストハーベストと害虫①	ポストハーベストと害虫：植物検疫の目的としくみ
第3回	ポストハーベスト害虫②	米の害虫と防除法
第4回	ポストハーベスト害虫③	貯蔵害虫の新しい殺虫技術：高圧炭酸ガス・低酸素殺虫法
第5回	ポストハーベスト害虫④	チョコレート・カップ麺製品の害虫と侵入防止法
第6回	ポストハーベスト害虫⑤	香辛料の害虫と侵入防止法
第7回	食品に対する異物混入⑥	粉体食品の害虫とアレルギー
第8回	植物検疫の現場と害虫問題	中国への精米輸出とカツオブシムシ、ペルー産マンゴウの輸入解禁
第9回	青果物の品質変化①	生理的な4つの要因
第10回	青果物の品質変化②	青果物の輸送・貯蔵方法
第11回	青果物の品質変化③	品質保持能力の高い青果物の作出と青果物の品質を保つ加工
第12回	ポストハーベストとカビ①	カビによる腐敗
第13回	ポストハーベストとカビ②	カビ毒
第14回	ポストハーベストとカビ③	カビとその診断・予防・防除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(約20%)、課題や試験(約80%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストはその日の授業のポイントがわかると好評である。また、授業の前に前回の復習の時間を確保することで、授業内容の理解が深まるとのコメントが多い。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge for the distribution, storage and control technique to maintain good quality of harvested fruits, vegetables and crops from physiological deterioration, fungi and pests. The goals are to receive the knowledge of these studies. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%、in class contribution: 20%

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物生理病学

佐野 俊夫、亀和田 國彦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物生理病（生理障害）の具体例とそれを引き起こす環境要因を学ぶ。そして、植物生理病の診断方法およびその対処方法に関する知識を習得する。植物病には菌類などの伝染性病原体による病気のほかに、不適切な生育環境（土壌、大気、水分、農業など）を原因とする生理障害（生理病）がある。本講義では、植物栄養学、肥料学の内容をベースに、過不足により生理障害の原因となる土壌無機栄養素の性質と植物体内での利用について主に佐野が、これらの障害を引き起こす環境要因（土壌汚染、水質汚染、大気汚染）について主に亀和田が解説する。

【到達目標】

各肥料要素の過不足による植物生理障害症状およびそれらの生理障害症状を引き起こす環境要因を理解する。また、各肥料要素が植物にどのように取り込まれ、利用されるかを学ぶことで、各要素の過不足がそれぞれの生理障害を引き起こすしくみを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。

また、授業終わりに課題を課し、その授業のポイントの復習に充てているので、課題回答を学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に課題の解説をします。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生体を構成する元素	必須元素と必須微量元素
第2回	生体膜の性質	膜輸送タンパク質の構造と機能
第3回	土壌無機栄養素（1）	窒素の吸収と代謝
第4回	土壌無機栄養素（2）	リンの吸収と代謝
第5回	土壌無機栄養素（3）	カリウムの吸収と利用
第6回	土壌無機栄養素（4）	カルシウムの吸収と利用
第7回	土壌無機栄養素（5）	マグネシウムの吸収と利用
第8回	植物生理障害を引き起こす環境要因（1）	土壌汚染と生理障害
第9回	植物生理障害を引き起こす環境要因（2）	水質汚染と生理障害
第10回	植物生理障害を引き起こす環境要因（3）	大気汚染と生理障害
第11回	土壌無機栄養素（6）	イオウ、鉄の吸収と利用
第12回	土壌無機栄養素（7）	微量元素の欠乏・過剰と生理障害
第13回	土壌無機栄養素（8）	ホウ素、ケイ素の利用とアクアポリン
第14回	土壌無機栄養素（9）	アルミニウムと塩ストレス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける畑等の作物には本講義で紹介する生理障害が生じている可能性があり、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

原色 野菜の要素欠乏・過剰症 渡邊和彦 農文協
植物生理学 第2版 三村徹郎 化学同人

【成績評価の方法と基準】

期末試験72%、毎回の講義時に課す課題28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の課題解答を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】

In this lecture, we first learn environmental factors causing plant physiological diseases (physiological disorders), and then, diagnostic methods for these disorders.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72 %.Assignments given during each class: 28%

ASS100YD (社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 100)

国際食料需給論

鶴岡 康夫

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食料は、生命維持のためだけでなく、健康的で文化的な生活を営むうえで欠かせない。世界の食料需給は不均衡状態にあり、栄養不足と飽食が併存している。この課題を解決するためには、深刻化する資源・環境制約の下で持続的な農業発展の方向を探索すると共に、食料の公正で効率的な分配を実現することが求められている。歴史的、政策的、社会的視点、あるいは増大する不確実性を踏まえながら、日本を含む世界の食料需給の動向、農業の生産性、農産物や食品の流通や貿易、今日の食料をめぐる課題について検討し、理解を深めていく。

【到達目標】

- ①関連文献や資料をもとに、日本および世界の食料問題について理解を深める。
- ②食料問題の現状について自ら考察し、課題等の指摘ができるようになる。
- ③食料需給とそれに影響を及ぼす要因の関係を論理的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

担当者による講義形式で進める。また、授業内で適宜質問を受け付けるほか、課題やレポートの解説・講評を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、イントロダクション、複合的食料危機
第2回	食料需要 ①世界の人口	人口の変化・予測と食料需要
第3回	食料需要 ②経済、社会	経済成長、消費構造の変化、南北問題と食料需要
第4回	食料供給 ①農地	農地面積の変化・予測と食料供給、農地の劣化、土地・土壌・水資源
第5回	食料供給 ②作物収量	技術革新、育種、緑の革命、気候変動と食料供給
第6回	世界の三大穀物	特徴、起源、主要な産地
第7回	食料と貿易	農産物貿易のグローバル化と食料安全保障、穀物の生産と資源の配分
第8回	不確実性と食料需給 ①気候変動、環境保全	気候変動の原因と影響、土壌・水資源システムの劣化、環境保全型農業の展開
第9回	不確実性と食料需給 ②世界情勢変動	世界情勢変動の影響
第10回	食料安全保障	食料安全保障、Food Security、食料政策
第11回	日本の食料需給 ①生産の変化	農業構造変化の過程と要因

第12回 日本の食料需給
②消費の変化 家計消費の変化、食の外部化、食の安全、食と環境、フードシステム

第13回 日本の食料需給
③農業・食料政策 農地政策、農業基本法、米価政策、土地改良、食料・農業・農村基本法

第14回 試験・まとめと解説 まとめと今後の論点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。予習に2時間、復習に2時間を目安とし、
1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し、基礎知識を理解する。
2. 新聞、ニュース、文献を参照し、現実の問題や社会の動向を理解する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

以下に一例を挙げる。

・高橋正郎・清水みゆき（2016）『食料経済（第5版）』オーム社
・業師寺哲郎・中川隆（2019）『フードシステム入門』健帛社
・時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博（2019）『フードシステムの経済学（第6版）』医歯薬出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）の習得を前提とする。その上で課題・レポート・授業時のプリント（30％）と、期末試験（50％）を総合し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイントで講義を進める。講義資料は「学習支援システム」によりPDFで配布するので、ノートPC等を持参し講義中に参照する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Food is essential not only to sustain life but also to allow us to have a healthy and cultural life. However, the supply and demand for food remain unbalanced, and food distribution is uneven. In this class, we will survey the trends in food supply and demand in different countries, including Japan. We will then examine food issues, especially focusing on food distribution and international trade in agricultural products. Students in this class will be graded based on the following sum: Usual performance score(20%) ,several mini-tests (30%) and a final exam (50%). To earn credits, students are required to read a newspaper or watch TV programs, have an interest in real issues and social trends about global food demand and supply before each meeting, and also to review contents of each class with the use of reference books to promote understanding basic knowledge after each class.

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物管理技術論**安達 俊輔、桂 圭佑**

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類の長い歴史の中で選抜されてきた作物は、我々が生きていくために必要な食料や工業原料を提供しています。本授業では、そのような各種作物の基本的な特徴や栽培手法を平易に解説します。学生のみなさんには、普段何気なく利用している作物を正しく理解し、農業という基幹産業に対する想像力を関心を持っていただくことを期待します。

【到達目標】

食用、飼料、工業目的で栽培される各種作物の起源、特徴、栽培技術、利用や関連する課題について学び、自ら説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式により授業を進める。質問があれば毎回の授業後に所定のリアクションペーパーに書き込む。成績評価は、すべて学期末テストにより行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび総論	授業構成の説明および作物の種類、作物の栽培化
2	イネ(1)	イネの起源、世界の生産状況、栽培方法
3	イネ(2)	イネの発達段階と形態
4	イネ(3)	イネ栽培をめぐる日本における課題
5	コムギ	コムギの種類、生理、形態と栽培
6	オオムギ、その他ムギ	オオムギやその他ムギの種類、生理、形態と栽培
7	トウモロコシ その他雑穀	トウモロコシやその他雑穀の種類、生理、形態と栽培
8	豆類	ダイズ、ラッカセイ、その他マメの生理、形態と栽培
9	イモ類	ジャガイモ、サツマイモ、サトイモの生理、形態と栽培
10	工芸作物(1)	油料作物、糖料作物の種類、生理、形態と栽培
11	工芸作物(2)	嗜好料作物、繊維料作物の種類、生理、形態と栽培
12	飼料作物	青刈飼料作物と牧草の種類、調製の方法
13	世界の作物	世界の過酷な環境で栽培される作物を紹介
14	授業のまとめならびに試験	筆記試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業と関連する知識の習得に努めること。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する。

【参考書】

農学基礎シリーズ 作物学の基礎Ⅰ 食用作物, 農文協

農学基礎シリーズ 作物学の基礎Ⅱ 資源作物、飼料作物, 農文協

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト100%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業ごとにコメント・質問をオンラインで受け付ける。

【Outline (in English)】

Crops, which have been selected over the long history of mankind, provide food and industrial raw materials to us. In this lecture, the basic characteristics and cultivation methods of various such crops will be explained. We hope that students will gain a deeper understanding of the crops, and develop an imaginative interest in agriculture.

BOA100YD（境界農学 / Boundary agriculture 100）

基礎植物害虫学**大井田 寛**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

農耕地に栽培される農作物や森林、都市空間などに植栽される樹木、草花に被害を引き起こす害虫の分類、生理、生態などについて学習し、植物医科学が目指す植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士に必要とされる、害虫に関する基礎的な知識を習得する。

【到達目標】

植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士としての活動する者に不可欠な、害虫に関する幅広い知識を身につける。診断の基礎となる害虫の形態や分類学的位置を理解できるほか、各種防除技術の根拠となっている害虫や天敵の生理・生態に関する基礎知識を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く提示しながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次の回の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび植物害虫の概説	科目の内容や進め方を紹介。また、植物害虫全般について概説
第2回	昆虫類の進化と繁栄	昆虫がどのように進化してきたか、今日の繁栄をもたらした原因
第3回	昆虫類の外部形態	分類の基礎となる昆虫の外部形態
第4回	昆虫類の内部形態	昆虫の生理等に関連する内部形態
第5回	昆虫類の分類	有害・有益動物（線虫、ハダニ等も含めた害虫の分類学的位置）
第6回	昆虫類の擬態、昆虫類の発育	昆虫の擬態、昆虫の発育（脱皮、変態）、呼吸、神経
第7回	昆虫類の生殖	昆虫の生殖様式、生殖戦略
第8回	昆虫類の食性	昆虫の植生の多様性、摂食、栄養
第9回	昆虫類の生理	昆虫の感覚、情報伝達物質（ホルモン、フェロモン）
第10回	昆虫類の生理	昆虫の環境適応、休眠
第11回	昆虫類の行動	昆虫の日周性、習性
第12回	昆虫類の個体群動態	昆虫の個体群密度の増殖、変動、密度効果
第13回	昆虫類の相互作用	生態系における昆虫群集、生物間相互作用（寄生、捕食、競争）
第14回	まとめ、試験	全体のまとめ、確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書やwebサイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

【テキスト（教科書）】

最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

石川幸男・野村昌史編 応用昆虫学（朝倉書店）
後藤哲雄・上遠野富士夫編 農学基礎シリーズ 応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、レポートなどで40%、平常点10%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】

写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

【その他の重要事項】

植物病の診断に携わる者は病気と害虫についての幅広い知識を習得しておくことが重要であるため、多くの学生が履修することを期待する。また、害虫防除について解説する応用植物害虫学を理解するために、履修することを推奨する。なお、自然再生士補の資格を得たい学生は、できるだけ履修されたい。

【Outline (in English)】

This course deals with classification, physiology and ecology of agricultural pests. It also enhances the development of students' skill in diagnosis of plant damages caused by pests as plant clinical scientists.

The goal of this course is to acquire knowledge about pests, which is essential for those who are involved in the diagnosis and control of plant diseases and those who work as engineers, arborists, and natural regeneration specialists. Through this class, students will understand the morphology and taxonomic position of pests, which are the basis for diagnosis, and acquire basic knowledge of the physiology and ecology of pests and natural enemies, which are the basis for various control techniques.

Students are not required to prepare for the class but are expected to review technical terms using reference books and handouts. For assignments, refer to the relevant books in the library and websites, and try to fully understand what you have learned in the class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination: 50%, Short reports: 40%, in class contribution: 10%

ASS100YD (社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 100)

グリーン経済学

鶴岡 康夫

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題は深刻さを増し、私たちの社会・経済・生活の様々な部分に影響を与えている。本講義は、環境経済学の視点から、その基礎理論を講義後、代表的な個別問題を取り上げ、原因・現状・施策等を概観していくことで、環境問題への理解を深める。また、食料生産は自然環境に影響を受ける部分、影響を与える部分が多く、環境への取り組みは喫緊の課題である。環境と食料・農業の課題についても言及する。

【到達目標】

1. 環境経済学の基礎理論を理解し、それをを用いて個別の問題が考察できるようにする。
2. 環境問題に関する最新情報や施策などを知り、自然科学および社会科学の両視点から考察し、自らの見解を述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

担当者による講義形式で進める。また、授業内で適宜質問を受け付けるほか、課題やレポートの解説・講評を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、グリーン経済
第2回	環境問題	世界の環境問題への取り組みの
第3回	①国際的な取り組み 環境問題	歴史的経過と動向 資源循環、地球温暖化問題、再生可能エネルギー
第4回	②気候変動の現状 環境問題	生物多様性、生態系サービス、生物多様性国家戦略
第5回	③生物多様性の現状 環境問題発生メカニズム	環境問題の図解
第6回	①経済と社会と環境 環境問題発生メカニズム	外部経済について、市場の失敗について
第7回	②外部経済と市場の失敗 環境問題の経済的手段	汚染者の責任、直接規制について、環境税について、補助金について、排出権取引制度について
第8回	外部経済の内部化 持続的な発展	企業のSDGs、社会的責任、ESG投資、CSV
第9回	②環境問題と企業 持続的な発展	ポーター仮説、政策と技術革新
第10回	③技術革新 持続的な発展	Covid-19パンデミック、グリーンリカバリー、欧州グリーン・ディール、様々な主体による行動、環境クズネッツ仮説
第11回	④グリーンリカバリー 環境問題と農業	農業の環境への影響、農業と土地・土壌・水資源システム、気候変動と作物収量、環境保全型農業施策

第12回	環境問題と農業	農業の多面的機能
	②農業の多面的機能	
第13回	環境問題と農業	フードシステム、フードロス、
	③食の方向転換	食生活
第14回	試験・まとめと解説	まとめと今後の論点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。予習に2時間、復習に2時間を目安とし、

1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し、基礎知識を理解する。
2. 新聞、ニュース、関連する文献を参照して、現実の問題や社会の動向を考える。

【テキスト（教科書）】

指定なし。

【参考書】

以下に一例を挙げる。

- ・三橋規宏（2013）『環境経済入門（第4版）』日本経済新聞出版
- ・日引聡・有村俊秀（2002）『入門 環境経済学』中公新書
- ・栗山浩一・馬奈木俊介（2020）『環境経済学をつかむ（第4版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）の取得を前提とする。その上で課題・レポート・授業時のプリント（30％）、及び期末試験（50％）を総合し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイントで講義を進める。講義資料は「学習支援システム」によりPDFで配布するので、パソコン等を持参し講義中に参照する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

We face today global environmental problems such as global warming that cannot be addressed by one country alone; international cooperation is necessary. The purpose of this course is to therefore survey the history of environmental issues and their current status and to understand the international measures to tackle them, with a focus on global conventions.

As such, students are required to read a newspaper or watch TV programs and have an interest in real issues and social trends about global food demand and supply before each meeting, and also to review contents of each class with the use of reference books to promote understanding basic knowledge after each class. In addition, Some of the material in this class will be explained using high school level mathematics, therefore students who are terrible at the subject should revise beforehand.

Finally, Students in this class will be graded based on the following sum: Usual performance score(20%),several mini-tests(30%)and a final exam(50%).

AGC100YD《農芸化学 / Agricultural chemistry 100》

植物栄養学

亀和田 國彦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類を含めて動物は、エネルギーの獲得およびその他の栄養素の多くを食料として植物に依存しています。植物が必要とする栄養素「植物栄養」は、植物の健全な生育を確保するため、最も基本的な環境要因です。植物の必須元素として17元素が知られ、炭素、水素および酸素以外の14元素は根を介して土壌から吸収されます。本科目では、それら元素の植物体内での機能や根による吸収過程について学びます。その上で、植物栄養面から植物生育を評価し、またはコントロールするため、植物生育と植物栄養との関わりと管理手法を学びます。

【到達目標】

植物が生育するために必要な17種の必須元素の機能を光合成や体内代謝の植物生理的現象と関連づけて学び、理解します。また、植物根による養水分吸収機作と各種養分の土壌中での動態を学び、植物生育のコントロールのための、養水分管理の考え方や方法を理解します。栄養成分の欠乏や過剰による植物生育の障害は植物病と同程度に重要です。それら障害の発生を土壌中での各養分の挙動に関連づけて理解し、植物医科学分野に必要な知識を習得します。さらに、植物を中心とした地域生態系での物質循環を学び、植物の生育と環境保全の両面を維持するための地力保全のあり方を考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書による基本的な講義。
対面授業とオンデマンド授業を組み合わせる。
学習支援システムにより、資料を提供する。
対面授業ではリアクションペーパー、オンデマンドでは授業レポートの提出を求める。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物と植物栄養	植物栄養学の発展 植物の構造の概観 無機栄養概観
第2回	植物による水の吸収	植物根の構造 根による水分吸収と体内での輸送 水と植物細胞 植物の水収支 土壌-植物-大気連続体
第3回	植物による養分吸収と物質輸送	根と土壌 根圏 受動的および能動的輸送 養分の膜を介したイオン輸送 篩部転流 ソースからシンクへの輸送様式 光合成産物の分配
第4回	窒素とイオウ	土壌および環境中の窒素 窒素の生理機能 硝酸とアンモニウムイオンの同化 タンパク質の分解と合成 共生窒素固定 硫酸イオンの吸収と同化 イオウの生理機能 窒素の過剰と欠乏 イオウの過剰と欠乏
第5回	リン	土壌中のリン リンの吸収と輸送 リンの同化と生理機能 体内代謝と移行 ミコリザ リンの過剰と欠乏
第6回	カリウムとナトリウム	カリウムの吸収と生理機能 カリウムの過剰と欠乏 ナトリウムの吸収と生理機能

第7回	カルシウムとマグネシウム	カルシウムの吸収と生理機能 カルシウムの過剰と欠乏 マグネシウムの吸収と生理機能 マグネシウムの過剰と欠乏
第8回	微量元素1	鉄の吸収と移行 鉄の生理機能 ホウ素の吸収と移行 ホウ素の生理機能 マンガン モリブデン
第9回	微量元素2	ニッケル 亜鉛 銅および塩素の吸収と生理的機能 微量元素の過剰と欠乏
第10回	有用元素	ケイ素の吸収と移行 ケイ素の生理機能 ケイ素集積 酸性土壌とアルミニウム毒性 植物のアルミニウム耐性
第11回	土壌溶液と養液栽培	土壌溶液イオン組成 溶液栽培のイオン組成 栄養診断 土壌診断
第12回	肥料	化学肥料の種類と性質 有機質肥料 肥料取締法
第13回	施肥	植物による養分吸収速度 施肥法
第14回	物質循環と環境	地域環境 農業環境 地球環境における植物栄養を中心とした物質循環(炭素、窒素、リン、カリウム) 塩類集積や重金属汚染に対する植物の反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義ノートや参考書をもとに、講義内容を復習。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

植物栄養学 第2版 間藤・馬・藤原編、文永堂出版、2011
新植物栄養・肥科学 米山・長谷川・関本・牧野・間藤・河合著、朝倉書店、2012
植物生理学・発生学 リンカーン・テイツ、エドゥアルド・ザイガー、イアン・M・モラー、ガス・マーフィー編集、講談社、2017

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、リアクションペーパーおよび授業レポートによる平常点40%による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出の小レポートで質問や提案を受け、できる限り次の授業までに回答し、次の授業に反映する。

【その他の重要事項】

秋学期開講の土壌科学を併せて受講するとより、理解が深まる

【Outline (in English)】

【Course outline】

Animals and humans depend on plants for energy and many other nutrients. The "plant food" required by plants is the most basic environmental factor for healthy plant growth.

There are 17 known essential elements of plant nutrition, and 14 elements other than carbon, hydrogen and oxygen are taken up from the soil by the roots.

through the roots.

You will understand the functions of the 17 essential elements required for plant growth in relation to plant physiological phenomena such as photosynthesis and metabolism in the body. You will learn the mechanism of nutrient uptake by plant roots and the dynamics of nutrients in the soil, and understand the concept and method of nutrient water management to control plant growth.

【Learning objectives】

Plant growth disorders due to nutrient deficiencies or excesses are as important as plant diseases. Understand the occurrence of these disorders in relation to the behavior of each nutrient in the soil and acquire the knowledge necessary for the field of botanical science.

You will also study the nutrient cycle in the regional ecosystem with plants at its center, and consider the ideal way to manage the soil to maintain both plant growth and the environment.

[Out of class learning activities]

Review the lecture content using the lecture notes and reference books. 4 hours is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this course.

[Grading criteria/policy]

Grading will be by a comprehensive method based on 60% of the final exam and 40% of the normal score including the reaction paper submitted each time.

BOA200YD (境界農学 / Boundary agriculture 200)

応用植物害虫学

大井田 寛

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物医科学として必要なのは、的確な診断と防除である。防除には農業や天敵など色々な手段が用いられるが、近年は、環境負荷の小さい方法として、複数の手段を合理的に組み合わせた総合的病害虫・雑草管理（IPM）、さらには生物多様性保全を含めた総合的生物多様性管理（IBM）の実践が多くの場合で求められる。本授業では、IPMやIBMを構築する各種の害虫防除法について体系的に学ぶ。

【到達目標】

植物医科学における基幹技術の一つである農林害虫および緑化植物害虫の防除に関する基本事項を習得する。各種防除法を的確に理解することにより、農業生産現場や緑化管理に関係する業務に携わる際に、実践的な指導を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く取り入れながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を学習支援システム等で配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、害虫とは	授業の主旨、進め方、害虫と益虫、植物保護と日本の環境
第2回	防除の歴史、被害と損害	害虫防除の歴史、被害と損害の関係
第3回	化学的防除1	薬剤の特性、作用機作など
第4回	化学的防除2	薬剤抵抗性、リサージェンス、残留毒性など
第5回	生物的防除1	生物的防除の原理と歴史、伝統的生物的防除
第6回	生物的防除2	放飼増強法（生物農薬の利用）
第7回	生物的防除3	保全的生物的防除（土着天敵の保護・強化）など
第8回	物理的防除1	遮断法、光などの手段による防除
第9回	物理的防除2	熱、音などの手段による防除
第10回	耕種的防除	被害回避、輪作、抵抗性品種の利用など
第11回	総合的病害虫・雑草管理（IPM）と総合的生物多様性管理（IBM）	IPM、IBMの概念と方法
第12回	グループ発表	IPMの実践について
第13回	発生子察	発生子察の方法と利用
第14回	まとめ、試験	授業の理解度をテストする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書やwebサイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

【テキスト（教科書）】

最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

石川幸男・野村昌史編 応用昆虫学（朝倉書店）
後藤哲雄・上遠野富士夫編 農学基礎シリーズ 応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）
仲井まどか・日本典秀編 バイオロジカル・コントロール 第2版（朝倉書店）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、レポートなどで40%、平常点10%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】

写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

【Outline (in English)】

A accurate diagnosis and control of crop pests is important for plant clinic. There are various pest control methods such as using pesticides, using natural enemy and so on. Recently, IPM (Integrated Pest Management) and IBM (Integrated Biodiversity Management) are focused as pest control methods in agriculture of environmental conservation type. The aim of this course is to help students acquire knowledges about various pest control methods consisted for IPM or IBM systematically.

The objective of the class is to acquire basic information on the control of agricultural and forestry pests and greening plant pests, which is one of the core technologies in plant clinical science. Through this course, students are expected to gain understanding of various pest control methods and will be able to provide practical guidance when working in agricultural production and greening management.

Students are not required to prepare for the class but are expected to review technical terms using reference books and handouts. For assignments, refer to the relevant books in the library and websites, and try to fully understand what you have learned in the class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination: 50%, Short reports: 40%, in class contribution: 10%

ASS200YD（社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 200）

食料・地域政策論**鶴岡 康夫**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食料生産を担う日本の農業は現在、農業者人口の減少や耕作放棄地の増加など、様々な困難に直面している。このままでは、人々が生活していくうえで必要とされる「衣・食・住」の「食」が危うい。そこで本授業では、主として農業経営学の観点から、農業・農村・食料に関わる諸問題、およびそれらに対する各種政策や取組み事例について概観する。そのことで、日本の農業が直面する様々な問題について理解を深める。

【到達目標】

- ①日本の農業・農村・食料が直面する種々の問題を理解し、問題の本質を説明できるようになる。
- ②農業経営学の基本的な概念や枠組みを用いて、問題を考察できるようになる。
- ③日本の農業農村が直面する様々な問題に対し、自らの見解を構築できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

担当者による講義形式で進める。また、授業内で適宜質問を受け付けるほか、課題やレポートの解説・講評を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的，食料・農業・農村の現状認識
第2回	農業・食料政策	日本の農業政策の歴史的経過，食料・農業・農村基本法，農業政策と課題
第3回	農業・農村問題	担い手問題，農業経営体・農業従事者の動向
第4回	①農業の担い手 農業・農村問題	農地の減少，耕作放棄地，基盤整備事業，土地利用の再編
第5回	②生産基盤 農業・農村問題	中山間地域農業の現状，政策の対応
第6回	③条件不利地域 農業・農村問題	都市農業の特徴
第7回	④都市農業 農業・農村と環境	農業の多面的機能
第8回	①多面的機能 農業・農村と環境	環境保全型農業技術，有機栽培
第9回	②環境と農業 新しい農業経営の担い手	規模拡大，複合化，多角化
第10回	①先進的な経営事例 新しい農業経営の担い手	生産基盤の整備，技術革新，雇用・人材の育成
第11回	②課題 農業技術の革新	農業改良助長法，スマート農業，情報通信技術，人工知能，ロボット技術，技術革新の過程
第12回	食料問題 ①安全保障と食料	食料需給，食料安全保障

第13回	食料問題 ②消費の変化	農業と食品産業，食の外部化と業務・加工需要，フードロス
第14回	試験・まとめと解説	講義内容の振り返り，今後の農業政策と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。予習に2時間，復習に2時間を目安とし、

1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し，基礎知識を拡充する。
2. 新聞や関連する文献を参照し，現実の問題や社会の動向に関心を持つ。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

以下に一例を挙げる。

- ・藤田・内藤・細野・岸上（2018）『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房
- ・荏開津典生・鈴木宣弘（2020）『農業経済学（第5版）』岩波書店
- ・檜原正澄・江尻彰（2006）『現代の食と農をむすぶ』大月書店

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）の習得を前提とする。その上で課題・レポート・授業時のプリント（30％）と，期末試験（50％）を総合し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイントで講義を進める。講義資料は「学習支援システム」によりPDFで配布するので、パソコン等を持参し講義中に参照する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Agriculture, essential to food production in Japan, currently faces difficulties such as a decrease in the number of farmers and an increase in abandoned arable land. Such a state will make it difficult to ensure that there is enough food to sustain human life. This course will give students an overview of the issues related to agriculture, rural areas, and agricultural policy in Japan, from the perspective of agricultural economics and agricultural policy.

Students in this class will be graded based on the following sum: Usual performance score(20%),several mini-tests(30%)and a final exam(50%). To earn credits, students are required to read a newspaper or watch TV programs, have an interest in real issues and social trends about global food demand and supply before each meeting, and also to review contents of each class with the use of reference books to promote understanding basic knowledge after each class.

BOA200YD（境界農学 / Boundary agriculture 200）

自然再生学概論

大井田 寛、安田 耕司、橋本 智美、鶴岡 康夫

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然は人間が生きていくために欠かせない存在である。しかし、開発などによって自然生態系が破壊されている。それゆえ、良好な自然を次世代へ継承するためには、自然環境の保全・再生・創出など、生態系を人為的に復元する必要がある。そこで本科目は、自然再生の背景や理念、自然環境の評価方法や再生技術など、自然再生士補として必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

自然再生の意義や理念を理解し、自然再生士合格に必要な最低限の知識や技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

各方面における専門分野の担当者によるオムニバス講義形式で進める。授業では、適宜資料を配布する。また、授業内で適宜、質問を受け付けるほか、課題やレポートの解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（鶴岡）	講義の内容や進め方、地球環境・生物多様性の危機、自然再生事業、自然再生士資格制度
第2回	生物多様性・自然再生と施策（鶴岡）	生物多様性条約、生物多様性基本法、生物多様性国家戦略、自然再生法
第3回	自然再生の取り組みと課題（鶴岡）	自然再生事業、環境創造型農業などでみる自然再生の取り組みと課題
第4回	生物多様性と生態系サービス、指標生物（大井田）	生物多様性と生態系サービスの関係、指標生物を用いた評価
第5回	環境・生態系に対する人間活動の影響（安田）	環境に対する人間活動の影響と二次的自然
第6回	農業生態系とその特徴（安田）	二次的自然としての農業生態系の成り立ち、特徴、変遷
第7回	農業生態系の保全（安田）	農業生態系の保全に向けた様々な取り組みや農法
第8回	自然再生技術（橋本）	自然再生における計画・設計、施行・管理
第9回	里山の恵みと災い（小林）	丘陵地二次林の再生と気候変動適応
第10回	生活環境の保全（柴田）	都市環境の現状から見た快適な暮らしの基盤の構築
第11回	人間の暮らしに及ぼす植物の癒し効果（柴田）	ガーデニング、寄植え等の作業や香り等の直接的な効果
第12回	企業による生態系サービス活用事例（綿田）	農地における在来植物や土着天敵の活用など

第13回 民間・NPO主導による自然再生の取り組み（北澤・鶴岡）

第14回 民間・NPO主導による自然再生の取り組み（北澤）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各回で配布される資料をもとに、講義のポイントをまとめておく（1時間）。図書館で関連図書を探したり、WEBサイトで関連情報を調べ、講義内容の更なる理解に努める（3時間）。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

最新の知識を伝えるために、必要に応じて資料を配布する。各回の参考書は各担当者が紹介する。参考までに、自然再生士に関する文献として以下を挙げる。

- ・亀山章・倉本宣・日置佳之（2013）『自然再生の手引き』一般財団法人日本緑化センター
- ・一般財団法人日本緑化センター（2013）『自然再生ガイドライン（改訂2版）』一般財団法人日本緑化センター
- ・一般財団法人日本緑化センター（2012）『自然再生副読本 自然再生事例集1』一般財団法人日本緑化センター

【成績評価の方法と基準】

「講義内容が理解できているか」「自然再生士補として必要とされる基礎知識を修得しているか」の2つの観点から、各担当者がレポートや小テストにより評価し、それらを総合して80%、授業態度など平常点20%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Nature is indispensable for human survival; yet natural ecosystems are being destroyed in the name of development. In order to regain ground and pass down a healthy ecosystem to future generations, we must actively conserve, regenerate, and create what is being depleted. In this course, students will study the background and philosophy of nature restoration and learn about assessment methods and the technology of nature restoration. They will gain knowledge indispensable to become nature restoration promoters.

Students are expected to summarize the contents of the lecture with the handout distributed in advance. Students are also needed to search for reference books at Hosei university library and to find out the related information about the lecture content on the WEB, into achieving further their understanding.

Each instructor will grade reports or short tests of students who take the course. Then final grade will be evaluated twofold: whether you can understand the contents of the lesson and whether you can obtain the essential knowledge for passing the examination of assistant nature restoration. Your overall grade in the class will be decided based on the following, Reports or short tests: 80%, in class contribution: 20%

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

ホーティカルチャー論

津田 新哉、鈴木 栄、彦坂 晶子、堀内 尚美

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

園芸作物である果樹、野菜、花きは、人々に健康や豊かな生活をもたらすものとして、古くから栽培・利用されてきた。これら園芸作物の生産と消費にとって重要な局面、特に育種・栽培・流通に関する研究と技術開発を行うのがホーティカルチャーサイエンス（園芸学）である。本授業では、園芸作物に特徴的な成長と発育の仕組みと、それに基づく栽培管理技術、さらに、収穫物の品質に関係する重要形質とその制御技術について、基礎的な知識を学ぶ。

【到達目標】

果樹、野菜、花きは、幅広い種から構成されており、品目ごとに様々な成長と発育の特性を持つ。そのため、栽培体系、育種技術も非常に多岐にわたっている。しかし、その背景には共通のいくつかの要素があり、それらの組み合わせで技術体系が成り立っていることを理解できるように努める。この理解により、園芸作物が示す多種多様な現象に対して応用できる基礎的な知識と考え方の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料等を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッション等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ホーティカルチャーの定義と野菜の分類	ホーティカルチャーおよび農業に関する基本的な定義と、利用部位による野菜の分類、成長ステージ別の特徴などを解説する。
2	品種開発から流通までのプロセスと要素技術	野菜の品種開発から流通に関する現状と、各要素技術などを解説する。
3	野菜生産1（施設栽培および養液栽培）	野菜の生産方法に関して、露地と施設の比較から、それらの目的と環境制御の特徴を解説する。
4	野菜生産2（植物工場）	究極の施設園芸である植物工場の特徴を解説し、野菜生産の現状と最新の研究開発のトピックを紹介する。
5	果樹栽培と生理特性1	果樹の種類や主産地などについて触れた後、果樹の年間の生育サイクルおよび休眠、開花、結実の生理特性について解説する。
6	果樹栽培と生理特性2	果実の肥大や成熟の生理特性や、果樹の光合成および同化産物の分配について解説する。
7	果樹生産と環境	気象条件や土壌条件が果樹生産に及ぼす影響について解説する。また、高品質な果実を生産するための栽培管理法について触れる。
8	果樹の育種	果樹における各樹種の出産地や育種の歴史について触れると共に、育種方法や繁殖方法について解説する。
9	花き園芸学序論	花きにはどのような種類があり、どのような歴史を経て発展してきたかについて解説する。
10	花きの生育と開花	花き類に特徴的な成長と発育の仕組みと、それに基づく、実際の品目の栽培体系について解説する。
11	花きの品質と観賞性1	花きの品質を構成する3大要素である形、色、香りがどのような仕組みで発現し、観賞性にどのように貢献するのかについて解説する。
12	花きの品質と観賞性2	前回の授業に引き続き、花きの品質の基礎について各品目ごとに解説する。
13	花きの品質と観賞性3	前回の授業に引き続き、花きの品質の基礎に加え、花き生産の将来についても解説する。
14	まとめ	これまでの授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業内容を適宜復習するとともに、興味を惹かれる内容に関しては、関連する文献を調べるなど積極的に理解を深める。もしも状況が許せば、果樹、野菜、花きのうち、どれかひとつでもよいので自分で栽培してみる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。教科書は使用しない。

【参考書】

作物の生育と環境（西尾道徳 著）農山漁村文化協会
施設園芸学 植物環境工学入門（後藤英司／編）朝倉書店
農学基礎シリーズ 果樹園芸学の基礎（伴野 潔，山田 寿，平 智編著），農文協，2013
農学基礎シリーズ 野菜園芸学の基礎（篠原温編著），農文協，2014
農学基礎シリーズ 花卉園芸学の基礎（腰岡政二編著），農文協，2014
このほか、より深く知りたい内容がある場合には、文献を紹介するので、お問い合わせください。

【成績評価の方法と基準】

定期テスト（各分野30点、計90点）と平常点10点の合計により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本授業で扱う園芸植物は、果樹、野菜、花きの非常に広い範囲にわたりますが、限られた授業時間の中で、これらの植物の生産の基礎が理解できるように努めたいと思います。

【その他の重要事項】

「授業計画」の開講順は変動することがある

【Outline (in English)】

Horticultural crops, i.e. fruit trees, vegetables and flowers, have been cultivated and used for a long time as they bring healthy and rich lives to people. Horticultural science is the research and technology development concerning important aspects of production and consumption of horticultural crops, especially breeding, cultivation, and distribution. The aim of this course is to help students acquire fundamental understandings about the mechanism of growth and development of horticultural crops, cultivation management technology, and control of important traits related to harvest quality. The standard preparation and study time for this class is 4 hours each. In addition to reviewing the contents of the class as necessary, students are expected to actively research related literature to deepen their understanding of the content of interest. If the situation permits, try to grow one of the fruit trees, vegetables, or flowering plants by yourself. Evaluation will be based on a total of 25 points for attendance and a regular test (25 points for each field, 75 points in total).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

実践植物遺伝学

坂井 真、黒羽 剛

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イネやコムギなどの作物は人類の農耕の始まりの過程で栽培化され、長い年月をかけて改良されてきました。農業生産の生産性を高め、安定化させるための基盤、あるいは食生活に豊かさをもたらす存在として各種作物の優良な品種は欠かせません。近代以降、遺伝学の発達とともに品種改良の手法は体系化され、また最近ではバイオテクノロジーの発達で品種改良の手法も大きな進歩を遂げています。一方で、気候変動や環境の変化により世界的に農業を取り巻く状況も大きく変化し、そうした事態に対応した新たな品種改良とその手法が求められています。

本講義では、農業技術を支える品種を改良する手法や事例、品種改良の社会への貢献について基礎的な知識と方法を学びます。前半（1～7回）は、作物の栽培化の過程や品種改良の発達史を含めた植物育種学の基礎を学びます。後半（8～14回）ではバイオテクノロジーの基本的な技術である、遺伝子解析手法や遺伝子組換え、ゲノム編集の基本的な手法とそれらを活用した品種改良の新しい手法について学びます。

【到達目標】

イネ、コムギ等の農作物の品種改良の基礎となる遺伝学の基礎的な理論、品種改良の実際の手法とその発達史について知る。品種改良の目的、品種改良の素材となる遺伝資源の重要性、育成された品種の活用や農業への貢献の実例について理解する。育種・遺伝の基礎となる遺伝子やゲノムの概念と構造、およびその解析法についてその発達史、基本原理、最近開発された手法について理解する。DNAマーカー、遺伝子組換え、ゲノム編集など新しい育種技術の基礎的な理論や手法、事例について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面授業またはオンライン授業を予定しており、授業では主に資料を配布または画面共有してそれに基づいて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	育種(品種改良)とは	品種改良＝育種の歴史、農作物の品種改良の意義、遺伝学の基礎、生物の遺伝子型と表現型について学習する。
第2回	育種における遺伝資源	遺伝資源の重要性と農作物の栽培化、組織的な品種改良が始まる前の作物の歴史について学習する。
第3回	育種組織と育種目標	公的機関(国・地方自治体)の組織的な品種改良の歴史と、そこで実施されてきた品種改良について学習する。農作物に求められる特性(収量性、耐病性、ストレス耐性、品質成分)の改良について学習する。

第4回	育種の基本的な操作・手法	品種改良の基本的な手法としての、人工交配、突然変異、遺伝子組換え等の遺伝変異作出方法について学習する。
第5回	圃場での選抜手法	品種改良の基本的な手法としての選抜手法のうち、圃場（水田や畑）で行う生産力検定試験、特性検定試験、地域適応性試験、現地試験について、試験の意味や必要性、試験を行う環境の重要性について学習する。
第6回	室内での選抜手法	品種改良の基本的な手法としての選抜手法のうち、実験室や解析施設で行う種子成分の分析、品質分析、加工試験、食味試験やDNAマーカーによる選抜の意味や必要性について学習する。
第7回	品種登録と品種の普及	品種を普及させ夜に広めてゆくための、品種登録の意義や制度、種苗の増殖、生産者や加工業者への普及、流通制度等について学習するとともに、前半のまとめを行い、品種改良の社会的意義について考える。
第8回	DNA、遺伝子、染色体、ゲノムの構造	育種・遺伝の基礎となる遺伝子やゲノムの概念と構造について学習する。
第9回	作物の遺伝子解析手法	DNAシーケンシング、ハイブリダイゼーション、PCRなど、分子生物学的解析法の歴史と原理について学習する。
第10回	DNAマーカー	連鎖解析に用いるDNAマーカーの歴史と原理、応用例について学習する。
第11回	遺伝子の機能解析	「突然変異型の遺伝解析から原因遺伝子を同定する手法（フォワードジェネティクス）」と「対象遺伝子の変異体を探索・作成し、その機能を同定する手法（リバースジェネティクス）」について学習する。また、研究対象となる遺伝子の機能解析手法についても紹介する。
第12回	遺伝子組換え作物およびゲノム編集技術	遺伝子組換え作物の作成手法について学習する。また、より新しいアプローチとして注目されているゲノム編集技術について学習する。
第13回	ゲノム解析の新技術	マイクロアレイや次世代シーケンサーを用いた新しいゲノム解析技術について学習する。
第14回	ゲノム研究における新発見	サイレンシング、クロマチン修飾等のエピジェネティクス、RNAやタンパク質の安定性制御など、ゲノム科学における新発見について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業と関連する知識の習得に努める。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（５０％）と期末試験（５０％）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、授業支援システムも活用しつつ、学生の理解を促進したい。
また、ポイントを把握できるように、専門用語をていねいに解説するとともに、板書の明確さやマイク音量、平易な言葉遣い等にも配慮する。

【その他の重要事項】

小テストを行い、重要なポイントの確認に役立てる。また講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付ける。

【Outline (in English)】

Excellent varieties of crops are essential for increasing and stabilizing agricultural production and for providing food diversity. In this class, we aim to study basic knowledge and methods in breeding (#1 - #7) and molecular genetics (#8 - #14) for crop improvement. Students will be expected to study the relevant knowledge of this class. Grading will be decided based on term-end examination (50%) and short reports (50%).

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

化学熱力学 I

森 隆昌

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学熱力学はあらゆる工学の基礎であるとともに、近年のエネルギー、環境、資源問題との関わりも深く、非常に重要な基礎科目である。しかし多くの学生にとって難解で取っつきにくい学問でもある。本講義では化学熱力学の基礎重要事項を集中して丁寧に講義し、さらに演習問題を数多くこなすことで、化学熱力学の重要概念を理解できるようにする。

【到達目標】

熱力学第1、第2、第3法則を理解する。
様々な熱力学量の定義、求め方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

化学熱力学を学ぶ上で最低限必要な基本事項について学習した後に、化学熱力学の基礎事項である熱力学第1、第2、第3法則、エンタルピー、エントロピーの基本概念について丁寧に解説する。授業毎に課題を設定し、演習問題に取り組むことで、化学熱力学に慣れ、重要概念を理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回目	イントロ、基本用語、単位換算	熱力学の概要、基本用語を学び、単位換算の演習を行う。
第2回目	熱力学第一法則と閉じた系のエネルギー収支	熱力学第一法則、閉じた系でのエネルギー収支式を学ぶ。
第3回目	流れ系のエネルギー収支	流れ系でのエネルギー収支式を学ぶ。
第4回目	機械的エネルギー収支式とベルヌーイの法則	機械的エネルギー収支式、ベルヌーイの法則を学ぶ。
第5回目	熱容量	熱容量とは何か、及び、定容熱容量、定圧熱容量の定義を学ぶ。
第6回目	顕熱、潜熱、反応熱	顕熱、潜熱、反応熱について学ぶ。
第7回目	反応プロセスのエネルギー収支	反応プロセスのエネルギー収支式について学ぶ。
第8回目	これまでのまとめ	これまでの授業のまとめと中間試験を行う。
第9回目	理想気体の法則	理想気体の法則について学ぶ。
第10回目	理想気体のエネルギー	理想気体の等温変化、断熱変化について学ぶ。
第11回目	実在気体	実在気体の圧力-体積-温度の関係、及び、フガシティーについて学ぶ。
第12回目	カルノーサイクルと熱機関の効率	カルノーサイクルと熱機関の効率について学ぶ。
第13回目	エントロピー	エントロピーについて学ぶ。
第14回目	熱力学第二法則	熱力学第二法則について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業では、入門的なことを丁寧に述べるため教科書の一部のみを講ずる。そのほかの部分についても学ぶこと。

【テキスト（教科書）】

「第2版 演習 化学工学熱力学」大竹伝雄、平田光穂共著、丸善出版

【参考書】

物理化学のテキスト（例えば アトキンス 物理化学（上） 東京化学同人）
化学熱力学のテキスト（例えば 原田義也 化学熱力学 裳華房）

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業の終わりには演習（計算問題）を行うため電卓を持参すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Chemical thermodynamics can be defined as the science of energy. This course will introduce students to the basics of chemical thermodynamics, such as the first law of thermodynamics, the second law of thermodynamics, and entropy.

(Learning Objectives) Students are expected to understand the following subjects; the first, the second, and the third laws of thermodynamics, and the definitions of various thermodynamic quantities.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Final grade will be calculated according to the following process; the mid-term examination (30%) and term-end examination (40%) and the required assignments (30%).

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

化学熱力学 I I

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①熱力学関数を用いて、熱力学的諸性質を記述する。
- ②理想的なサイクルを組み立てている熱力学的諸過程について学ぶ。
- ③化学平衡（反応平衡）を数学的に記述する方法を理解する。

【到達目標】

化学熱力学 I で学んだ3つの基本法則（第1、第2、第3）をベースに、熱力学をより理論的に取り扱うことができるようになること。種々の熱力学関数を導出し、熱力学の概念を一般化するとともに、現実的な課題を取り扱う方法を思考できるようになること。具体的には、化学プロセスおよび化学装置の設計や最適運転法について、その基礎となる考え方を提案できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

化学熱力学 I で学んだ「自由エネルギーが最小で平衡となる」という考え方を相分離、溶液の性質や、化学反応に適用し、実用的なレベルで計算を行う。無味乾燥な数式の羅列にならぬように、演習問題を抱負に取り入れながら、理論の具体的な活用法について学ぶ。

本講義は、教室での対面式での実施を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	化学熱力学 I の復習 (I)	教科書第1章：速度論と平衡論の違いを中心に、熱力学の存在意義を考える。
第2回	化学熱力学 I の復習 (II)	教科書第2、3章：例題を使って、熱力学の第1法則を復習する。
第3回	化学熱力学 I の復習 (III)	教科書第4、5章：P-V-T関係の例題を解く。
第4回	化学熱力学 I の復習 (IV)	教科書第6章：例題を使って、熱力学の第2法則を復習する。
第5回	エンタルピーとエントロピーの計算および自由エネルギーと内部エネルギーの計算	教科書第7章：エンタルピー、エントロピー、自由エネルギー、内部エネルギーについて、熱力学関数間の関係を明らかにする。
第6回	水蒸気表と熱力学線図	教科書第7章：水蒸気表と熱力学線図の利用法について、例題で学ぶ。
第7回	定圧比熱と定容比熱	教科書第7章：定圧比熱と定容比熱を含め、状態量の相互関係について学ぶ。
第8回	理想的なサイクルを組み立てている過程	教科書第8章：3つの過程（等温圧縮（膨張）、断熱圧縮（膨張）、等圧変化）の違いについて学ぶ。
第9回	サイクル	教科書第8章：理想的なサイクル、クリアランスのあるサイクル、多段圧縮（膨張）、Joule-Thomson膨張について学ぶ。

第10回	流れ過程	教科書第8章：流れ過程の圧縮膨張に続いて、ヒートポンプの計算を行う
第11回	相平衡の条件と相律	教科書第9章：相の概念と平衡の概念を理解し、相間に成り立つ関係式（相律）を学ぶ。
第12回	フガシティー、活量、活量係数	教科書第9章：実在気体の取り扱いについて学ぶ。
第13回	化学平衡と平衡定数	教科書第10章：化学反応系の平衡を平衡定数を導入して、定量的に取り扱う。
第14回	平衡組成の計算	教科書第10章：系が平衡に到達した後の組成を取り扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業中に課題を科す他、適宜、演習問題のレポートを科す。

【テキスト（教科書）】

化学熱力学 I で用いた

大竹伝雄、平田光穂共著：第2版演習 化学工学熱力学、丸善を教科書として用いる（第7章～第10章）。

【参考書】

1. アトキンス：物理化学（上）第10版、東京化学同人
2. 相良紘：化学工学のための熱力学、日刊工業新聞社
3. 原田義也：化学熱力学、裳華房

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施し、期末試験(50%)および課題レポート(50%)で評価する。加えて、講義中に実施する演習問題、活動・発言を加味して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容を振り返るために、不定期にレポートの提出を求める。このレポートに寄せられた意見を参考に、毎週の講義を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

演習問題を解くために、必ず毎回の講義に電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

熱力学では多くの抽象的な概念を定義するが、その理解のために行う問題の演習は、受講者にとって重要であり、講義には積極的に参加する必要がある。

【Outline (in English)】

1.Outline and objectives

- ①To state thermodynamic properties by using the thermodynamic functions.
- ②To learn various thermodynamic processes by constructing ideal thermodynamic cycles.
- ③To understand how to state chemical (reaction) equilibria mathematically.

2.Learning Objectives

Students are required to handle thermodynamic problems more theoretically using three basic principles (1-st, 2-nd, and 3-rd laws). Students are also requested to derive various thermodynamic functions to understand the basic concept, through which they can solve realistic engineering problems on chemical thermodynamics. Eventually, students must be able to design and operate chemical apparatus in chemical plants and factories.

3.Learning activities outside the classroom

All the students must submit their papers on homework problems given in class or through HOPPII system.

4. Grading Criteria /Policy

A grading rule is the following, i.e.,
Final exam 50%+ HW problems 50%.

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

河内 敦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、化学ツールの活用、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

- (1) 化学情報（文献）の取り方について学ぶ
- (2) 化学関連のソフトウェアの使い方を習得する。
- (3) プレゼンテーションの基礎技術を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、本授業の進め方
第2回	化学文献、情報検索、図書館（1）	化学に関する情報の集め方
第3回	化学文献、情報検索、図書館（2）	化学に関する情報の集め方
第4回	大学カウンセラーによる講演会	大学生活について
第5回	化学ツールを使いこなす（1）	化学構造式描画ソフト ChemDraw を使う (1)
第6回	化学ツールを使いこなす（1）	化学構造式描画ソフト ChemDraw を使う (2)
第7回	化学ツールを使いこなす（2）	PowerPoint によるビジュアルデザイン (1)
第8回	化学ツールを使いこなす（2）	PowerPoint によるビジュアルデザイン (2)
第9回	化学ツールを使いこなす（3）	テーマを決めて文献調査～資料作成～プレゼンテーション (1)
第10回	化学ツールを使いこなす（3）	テーマを決めて文献調査～資料作成～プレゼンテーション (2)
第11回	化学ツールを使いこなす（3）	テーマを決めて文献調査～資料作成～プレゼンテーション (3)
第12回	化学ツールを使いこなす（3）	テーマを決めて文献調査～資料作成～プレゼンテーション (4)
第13回	キャリア教育（1）	キャリア教育に関する講演 (1)
第14回	キャリア教育（2）	キャリア教育に関する講演 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】配布資料を事前に読む。課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

配付資料

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 (70 %)、課題・制作物 (30 %) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に授業へ参加できるための工夫をおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC（必要なときは持参することを事前に指示する）

【Outline (in English)】

(Outline)

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Goal)

Students will learn basic knowledge, ability for research, tools for chemistry, skills for presentation in higher education.

(Work to be done outside of class)

Students should learn printed matter.

MAC100YC（材料化学 / Materials chemistry 100）

応用化学基礎

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代化学は、基礎分野では生物学、物理学との境界・融合領域で著しい進展を達成しており、応用分野では環境、エネルギー問題の解決に欠くことの出来ない存在となっている。本講義では、少人数のセミナー形式で、応用化学の基礎になる学問の体系を理解し、応用化学に関する関心を深め、専門科目に対応できる基礎学力の準備を整えるための教育を行う。また、初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

この講義では、学生が少人数に分かれセミナー形式で現代化学に関連した文献の精読を行い、自ら参考文献を調べ、自分が理解した内容を powerpoint を用いたプレゼンテーションおよび討論を行うことにより、プレゼンテーション技術を習得するとともに、大学での学習の基本姿勢を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	単位制に関する説明。自己紹介。集合写真の撮影。授業の進め方に関するガイダンス。
第2回	化学研究成果の社会発信	化学研究成果の社会発信としての学術論文、特許、学会発表について学ぶ。
第3回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第4回	メンタルヘルスケア	学生相談室主任心理カウンセラーによる、メンタルヘルスケアに関する講義。
第5回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第6回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第7回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第8回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第9回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第10回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第11回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第12回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。

第13回 キャリア教育（1）

キャリア形成の意義について学ぶ。

第14回 キャリア教育（2）

キャリア形成の具体例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】指定したテキストおよび資料を十分精読し、関連した参考文献を調べて、その内容を理解し、理解した内容についての的確にプレゼンテーションを行うために powerpoint による資料作成を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指定する。

【参考書】

必要に応じ、授業支援システムを通じて補助資料の配布を行う。

【成績評価の方法と基準】

出席回数、プレゼンテーションの内容、質疑応答の内容を基準として評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表能力の養成を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に必要な補助資料は、授業支援システムを通して配布を行う。また、プレゼンテーションに当たっては貸与パソコンを用いて資料作成を行う。

【その他の重要事項】

本講義では、少人数のセミナー形式で、応用化学の基礎になる学問の体系を理解し、応用化学に関する関心を深め、専門科目に対応できる基礎学力の準備を整えるための教育を行います。

【Outline (in English)】

・ Course description

Modern chemistry has achieved remarkable progress in the boundary and fusion areas with biology and physics, and has become indispensable in solving environmental and energy problems in applied fields. In this lecture, in a seminar format with a small number of students, we will provide education to understand the academic system that forms the basis of applied chemistry, deepen interest in applied chemistry, and prepare basic academic skills for specialized subjects. In addition, as part of the first-year education, students acquire the active learning methods necessary for university students by repeating many practices such as how to write reports and give presentations.

・ Attainment target

Acquire basic knowledge, investigative research skills, and presentation skills necessary for learning higher education.

・ Learning outside of class

Read the specified text and materials carefully, research related references, understand the content, and create materials using powerpoint in order to give an accurate presentation on the content you have understood.

・ Grading methods and standards

Evaluation will be based on the number of times attended, the content of presentations, and the content of questions and answers.

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

新入生であることから、少人数グループによる共通のテーマに対して、共同作業によるグループプレゼンテーションを通じて学生間での信頼感を深めること。さらには、各自興味あるテーマについて個々にプレゼンテーションを行なうことで、大学では自らが積極的に自己啓発しなければならないことを学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	全体の概要と自己紹介
2	研究室紹介 1	研究室の見学および研究内容の紹介
3	研究室紹介 2	研究内容の紹介
4	キャリア教育 1	キャリア教育を行う。
5	研究室紹介 3	研究内容の紹介。
6	論文購読	化学系論文の購読を行う。
7	パワーポイント使用法 2	人前での発表手段のパワーポイントの使用方法を習得する。
8	パワーポイント使用法 2	人前での発表手段のパワーポイントの使用方法を習得する。
9	テーマ設定	グループ毎のテーマ設定を行う。
10	プレゼンテーション	グループのテーマについて発表を行う。
11	テーマ設定	各自興味あるテーマの設定を行う。
12	プレゼンテーション	各自興味あるテーマについて、パワーポイントで発表およびディスカッションを行う。
13	キャリア教育 2	キャリア教育を行う。
14	キャリア教育 3	キャリア教育を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 高校化学の基礎を十分理解する必要がある。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

2回のプレゼンテーション内容、および的確なディスカッション内容を総合して決める

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

藤井 孝太郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、化学に関する学習への取り組み方、図表作成のやり方、レポートの書き方、プレゼンテーションの基礎技術などを学び、実践を通して大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、化学ツールの活用、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

- (1) 化学実験・研究の進め方、まとめ方を学ぶ。
- (2) 化学関連のソフトウェアの使い方を習得する。
- (3) レポート作成、プレゼンテーションの基礎技術を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	担当教員の紹介、自己紹介、授業の進め方。
第2回	学術論文の読み方	学術論文を具体的に見て読み方を学ぶ、わかりやすい結果のまとめ方を知る。
第3回	文献の検索方法	与えられたキーワードをもとに考えたテーマに沿って文献を調べ、紹介する文献を決める。
第4回	大学カウンセラーによる講演	大学生活についての講演。
第5回	化学分野における表・グラフのまとめ方	Excelなどの使い方を学び、わかりやすい表やグラフの作成方法を学ぶ、誤差について学ぶ。
第6回	図のまとめ方	PowerPoint、分子・結晶構造描画ソフトなどの使い方と、わかりやすい図の作成方法を学ぶ。
第7回	プレゼンテーションの準備法	作成した図表を活用し、スライドとしてまとめる方法を学ぶ。
第8回	文章・スライドのまとめ方	作成した図表を活用し、文章としてまとめる方法を学ぶ、Wordの基礎的な使い方を学ぶ。
第9回	文献紹介 プレゼンテーション1	化学に関する学術論文を紹介し、その内容について議論する。
第10回	文献紹介 プレゼンテーション2	化学に関する学術論文を紹介し、その内容について議論する。
第11回	文献紹介 プレゼンテーション3	化学に関する学術論文を紹介し、その内容について議論する。
第12回	化学分野における学習・実験・研究に取り組むための心構え	事前学習・実験ノート、試料・データ・ファイルの管理方法、安全・倫理の重要性について学ぶ。
第13回	キャリア教育 (1)	キャリア教育に関する講演(1)
第14回	キャリア教育 (2)	キャリア教育に関する講演(2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】配布資料・講義内容で学んだことを具体的な課題を通して復習し、プレゼンテーション・レポートの準備をする。

【テキスト（教科書）】

授業中に配布する資料。

【参考書】

授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションおよびレポートの内容、質疑応答の内容を基準として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、Excel、PowerPoint、Wordなどを使用する。

【Outline (in English)】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation. The goals of this course are to acquire basic knowledge, research ability, and presentation skills necessary for learning university education.

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

明石 孝也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習方法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。少人数によるセミナー形式の授業を体験させることにより、高校までの受動的な学習方法から大学での能動的かつ自律的な学習方法へと意識を切り替えることを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

研究室所属後に行われる研究成果報告、英文教材輪読、英文雑誌紹介の準備として、実験データ解析・発表、英文化学教科書輪読、英字記事等紹介を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の進め方を説明し、化学に関する英文教材を指定する。
第2回	不純物添加によるセラミックスの着色(1) ：実験条件検討	セラミックスの着色のために添加する物質やその混合比を決める。
第3回	不純物添加によるセラミックスの着色(2) ：実験条件再検討、英字記事調査	セラミックスの着色のための条件を再検討する。また、科学技術に関する英文記事を選ぶ。
第4回	不純物添加によるセラミックスの着色(3) ：合成	セラミックスに酸化物を添加・混合し、成型する。
第5回	カウンセラー講習	カウンセラーによる講習を行う。
第6回	不純物添加によるセラミックスの着色(4) ：評価	焼成によって得られる着色セラミックスの評価を行う。
第7回	実験予備日または実験発表と英字記事調査発表の準備	実験予備日とする。または、実験発表のためのスライドと英文記事の和文要約を作成する
第8回	セラミックスの着色実験の発表(1)：前半	PowerPointのスライドを用いた口頭発表と討論を行う。
第9回	セラミックスの着色実験の発表(2)：後半	PowerPointのスライドを用いた口頭発表と討論を行う。
第10回	英字記事紹介(1)：前半	科学技術に関する英文記事の内容を口頭で発表し、討論を行う。
第11回	英字記事紹介(2)：後半	科学技術に関する英文記事の内容を口頭で発表し、討論を行う。
第12回	英文教材輪読	化学に関する英文教材の音読と和訳をローテーションを組んで行う。
第13回	キャリア教育(1)	キャリア教育を行う。
第14回	キャリア教育(2)	キャリア教育を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 環境問題に関する一般的な知識の習得、文献等の調査およびPowerPointのスライド作成は授業外に行う。また、英文教材中の不明な単語の発音と意味を調べておき、内容を理解し、授業内に音読と和訳をできるように準備しておく。英文新聞記事の内容理解・関連情報の調査・英文新聞記事の和文要約作成も授業外に行う。

【テキスト（教科書）】

化学に関する英文教材は第1回目の授業時に指定する。英文記事は法政大学図書館HP等からダウンロードする。

【参考書】

無機化学や物理化学に関する教科書、酸化物材料（またはセラミックス材料）の応用に関する文献。

【成績評価の方法と基準】

実験結果の発表と討論内容(40%)、英文記事の和文要約と発表と討論内容(40%)、英文教材の音読と和訳(20%)と授業へ取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

セラミックスの着色実験の時間に多くの時間を費やし、第7回を実験予備日とする可能性を想定して、第7回には「実験予備日または実験発表と英字記事調査発表の準備」を行うこととする。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（PowerPoint 使用）。

【その他の重要事項】

カウンセラー講習とキャリア教育の日程に関しては、変更の可能性あり。授業第1回目までにはスケジュールが確定する見込み。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to acquire active learning method in University.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to presentation and discussion of experimental results (40%), understanding of an article in Nature Chemistry (40%), and Japanese translation of a chemistry textbook written in English (20%) and in-class contribution.

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

高井 和之

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

学生が少人数に分かれセミナー形式で現代化学に関連したテキストの精読を行い、自ら参考文献を調べたりグループ調査などにより自分が理解した内容についてpowerpointを用いたプレゼンテーションにより発表すると同時に他の参加者を交えた討論を行う。授業の初めに、前回の授業の議論内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	単位制に関する説明、担当教員の紹介、自己紹介、授業の進め方に関するガイダンス。
第2回	プレゼンテーション演習（1）	履修学生が順次化学との関わりについての自己プレゼンテーションを行い他者との意見交換を行うことにより、プレゼンテーション技法について学ぶ
第3回	プレゼンテーション演習（2）	履修学生が順次化学との関わりについての自己プレゼンテーションを行い他者との意見交換を行うことにより、プレゼンテーション技法について学ぶ
第4回	総合的な学修指導	心身両面から健康的に学修を進めるための指導を専門家からのガイダンスも交えて行う。
第5回	文献検索演習	化学や周辺学問領域に関する学術情報検索方法としてオンラインデータベースなどへのアクセス方法などを専門家の講習なども交えながら学ぶ
第6回	現代化学に関するディスカッション(1)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第7回	現代化学に関するディスカッション(2)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第8回	現代化学に関するディスカッション(3)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第9回	現代化学に関するディスカッション(4)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第10回	現代化学に関するディスカッション(5)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第11回	現代化学に関するディスカッション(6)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第12回	現代化学に関するディスカッション(7)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。

第13回	キャリア教育(1)	化学を学んだことをベースにどのように自己のキャリア形成を考えていくかを専門家の講習も交えて学ぶ
第14回	キャリア教育(2)	化学を学んだことをベースにどのように自己のキャリア形成を考えていくかを専門家の講習も交えて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】指定したテキストを十分精読し、関連した参考文献を調べて、その内容を理解し、理解した内容についての確にプレゼンテーションを行うために配布印刷物、powerpointなどによる資料作成を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指定する。

【参考書】

必要に応じ、オンラインジャーナルの指定および学習支援システムを通じて補助資料の配布を行う。

【成績評価の方法と基準】

各授業回におけるプレゼンテーションの内容、質疑応答の内容を基準として評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

好評であったため、引き続き英語文献の内容理解に重点をおく

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによる資料の配布、課題の提出を行うため、履修者はシステムの利用に習熟しておく必要がある

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided by comprehensive evaluation based on Quality of discussions and presentations in each lesson.

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

森 隆昌

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

課題ごとに学生自身によるプレゼンテーション及びディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回目	イントロダクション	授業の進め方に関する説明。
第2回目	キャリア教育	キャリア教育を行う
第3回目	英文教材輪読1	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第4回目	英文教材輪読2	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第5回目	英文教材輪読3	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第6回目	英文教材輪読4	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第7回目	英文教材輪読5	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第8回目	英語文献調査・要約	与えられた課題に合致する英語文献を自ら調査し、その内容を要約する。
第9回目	文献紹介1	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第10回目	文献紹介2	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第11回目	文献紹介3	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第12回目	文献紹介4	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第13回目	キャリア教育2	キャリア教育を実施する。
第14回目	キャリア教育3	キャリア教育を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 輪読の準備・予習。

英語文献の要約・プレゼン資料の作成。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（資料の内容、発表の内容）50%、ディスカッション（質問の数、内容、回答の内容）40%、課題10%により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand fundamental knowledges for higher education and master basic skill for presentations.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have complete the required assignments and prepare the presentation. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the term-end presentation (50%), the in-class contribution (40%) and the assignments (10%).

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年次教育の一環として、レポートの書き方、文献検索の方法、プレゼンテーションの準備、など多くの実践を繰り返すことにより、大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

学生と信頼関係を築くために、できるだけ対話形式で講義を行う。学生に文献検索の方法を伝授するとともに、プレゼンテーションの技術を教授し、そのスキルを磨くように配慮する。

本講義は、教室での対面式での実施を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	科目登録と履修の方法 エンジニアの役割 研究倫理教育	入学後直ちに行う必要がある科目登録の重要性を議論する。また、資格取得、文系と理系の役割分担、起業などについて議論する。 技術者・研究者として備えるべき、倫理観について学ぶ。
第2回	化学英語。 最終報告課題の公表。	化学の基礎的な事項を、英語を通して理解する。また、第11～12週で行う最終プレゼンテーションの課題を公表する。
第3回	Nature Chemistry誌を用いた文献検索の演習、および報告課題の公表。	Nature Chemistry誌へのアクセス方法、文献の検索方法を教授する。最終プレゼンテーション用の課題を公表する。
第4回	化学基礎の演習（1）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第5回	化学基礎の演習（2）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第6回	化学基礎の演習（3）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第7回	Nature Chemistry誌掲載論文の紹介：学生による発表（1）	Nature Chemistry誌に掲載された論文の内容を、パワーポイントで紹介する。
第8回	Nature Chemistry誌掲載論文の紹介：学生による発表（2）	Nature Chemistry誌に掲載された論文の内容を、パワーポイントで紹介する。
第9回	単位の換算・次元解析（1）	工学的に重要な量である長さ、質量、力。エネルギーなどの単位の換算を確実にできるようにする。一般化された概念としての次元について考える。

第10回	単位の換算・次元解析（2）	工学的に重要な量である長さ、質量、力。エネルギーなどの単位の換算を確実にできるようにする。一般化された概念としての次元について考える。
第11回	課題報告（1）	与えられた課題について、調査した結果をパワーポイントで発表する。
第12回	課題報告（2）	与えられた課題について、調査した結果をパワーポイントで発表する。
第13回	キャリア教育（1）	学部外または学外から専門講師を招聘し、職業選択についての講義を行う。
第14回	キャリア教育（2）	学部外または学外から専門講師を招聘し、職業選択についての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
事前に配布する英語、計算問題などのプリントを学習しておくこと。
後半のプレゼンテーション課題では、パワーポイントの利用が必須なので、その利用方法について習熟しておくこと。1回目のプレゼンテーションでは、化学に関する最新の原著論文の紹介、2回目のプレゼンテーションでは選択課題の中から自由研究に基づく成果を報告する。
課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【テキスト（教科書）】

講義資料は配布する。

【参考書】

特に必要ない。

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組み態度（50%）と2回のプレゼンテーションを含む演習問題の成績（50%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この科目は少人数のゼミ形式の講義であり、今後の学生生活に確実に役に立つスキルが身につくように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

後半の講義では、ノート型パソコンを用いたプレゼンテーションが大きなウェイトを占めるので、パソコンの基本的な使用法の理解が前提となる。

【その他の重要事項】

受講者全員が、パワーポイントを使った発表を少なくとも2回経験するので、パワーポイントを含むソフトウェアに習熟していることが望ましい。

本講義は日米の大学および民間研究所での実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義する。その中で、日米の文化の違い、あるいは大学の違いなどを実感できるように配慮する。また、技術者・研究者として必要な倫理観についても、実例を交えて解説する。

【Outline (in English)】

1.Course outline

This course is a first-year education program, aiming to provide learning skills for students by training academic writings, searching technique of appropriate literatures and preparation of oral presentations.

2.Learning Objectives

Students learn basic skills in the university, including how to obtain necessary information, how to register classes, and how to make scientific presentations.

3.Learning activities outside the classroom

All the students must make two presentations, the one on a new article from Nature Chemistry and the one on his/her current interest. Students must prepare presentation files outside the class. Students are also required to answer many questions from the instructor in class.

4.Grading Criteria /Policy

Two presentations 50 %

Positiveness in class 50 %

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

杉山 賢次

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

化学論文の読解力を養うため、与えられた論文の内容を一人ずつ発表する。化学に関するテーマに沿って各自が調査研究を行い発表する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明・自己紹介
2	メンタルヘルスケア	心理カウンセラーによるメンタルヘルスケアの講義。
3	高分子化学入門	身近な高分子化合物について学ぶ。
4	実験	高分子化合物に関する基礎的な化学実験を体験する。
5	化学論文の読み方（1）	化学論文の構成について学ぶ。
6	化学論文の読み方（2）	化学論文で使われる専門用語や表現について学ぶ。
7	論文検索	学術論文の検索法について学ぶ。
8	プレゼンテーション資料の作成法	PowerPointの基本的な使用方法について学ぶ。
9	プレゼンテーション（1）	各自がまとめた調査研究の内容を発表する（第1組1回目）
10	プレゼンテーション（2）	各自がまとめた調査研究の内容を発表する（第2組1回目）
11	プレゼンテーション（3）	1回目の講評を踏まえ、改訂版を発表する（第1組2回目）
12	プレゼンテーション（4）	1回目の講評を踏まえ、改訂版を発表する（第2組2回目）
13	キャリア教育（1）	キャリア形成の意義について学ぶ。
14	キャリア教育（2）	キャリア形成の具体例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

配布資料を読み、与えられた課題を調べ、プレゼン資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

配布資料

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）に基づき、本学の定める基準に従い、S～Eの12段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料の充実

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPC

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand fundamental knowledges for higher education and master basic skill for presentations.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have complete the required assignments and prepare the presentation. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the term-end presentation (50%) and the in-class contribution (50%).

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

無機化学概論

明石 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子構造、電子配置、二原子分子、イオン性結晶に関する基本的な内容を深くに理解することを到達目標とする。

物質を構成する基本単位である原子の構造を理解し、各原子が持つ性質が原子核を取りまく電子の振る舞いによることを理解すると共に、それらの原子の組み合わせから成る様々な無機化合物の構造および性質について学ぶ。また、多様な化学結合様式（イオン結合、共有結合など）が物質の性質と密接に関係していることを理解する。

【到達目標】

原子構造、電子配置、二原子分子、イオン性結晶に関して基本的なことを十分に理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

量子化学を基礎として、原子の構造や電子軌道についての理論的な講義を行う。すなわち、ボーアの原子モデルに基づく電子軌道から、シュレーディンガーの方程式から導かれる電子軌道に発展するまでの過程を、板書とスライドを用いて時系列的に説明する。また、共有結合に関しては、オクテット則に基づく理解から、分子軌道法による解釈へと発展させる。イオン結合に関しては、結晶性固体中におけるイオン結合の理論について講義する。さらに、二原子分子の結合に関しては、分子軌道の模式図とエネルギー単位図に基づいて、定性的な講義を行う。

な

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論、原子（1）	原子の構造、原子核の崩壊
第2回	原子（2）	水素の発光スペクトル
第3回	原子（3）	ボーアの原子モデル
第4回	電子（1）	シュレーディンガーの波動方程式、一次元の箱の中の粒子（1回目）
第5回	電子（2）	一次元の箱の中の粒子（2回目）、複素数による波動の理解
第6回	原子軌道（1）	水素原子の中の電子、動径波動関数、球面調和関数
第7回	原子軌道（2）	電子の軌道（s軌道、p軌道、d軌道、f軌道）
第8回	原子軌道（3）	電子スピン、パウリの排他原理、構成原理、フントの規則
第9回	中間テスト	原子と電子と原子軌道に関する理解度を確認する。
第10回	イオン結合（1）	イオン化エネルギー、遮蔽、電子親和力、格子エネルギー
第11回	イオン結合（2）	ボルン-ハーバーサイクル、有効核電荷
第12回	電子配置	電子配置、構成原理
第13回	共有結合（1）	等核二原子分子
第14回	共有結合（2）	異核二原子分子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

前回までの講義内容を復習し、理解を深めておくこと。特に、講義中で解けなかった演習問題は、ノート・テキスト・参考書を参照して解けるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

基礎無機化学－構造と結合を理論から学ぶ、山田・秋津著、(株)化学同人、ISBN:9784759815306。

【参考書】

- ・無機化学－その現代的アプローチ：平尾一之、中平敦、田中勝久著、東京化学人。
- ・アトキンス物理化学第10版（上）：千原秀昭・中村亘男訳、東京化学同人。
- ・ヒューイ無機化学（上）：小玉剛二・中沢浩訳。

【成績評価の方法と基準】

中間試験(35%)、期末試験(60%)、演習問題(5%)、授業への取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に毎回行っている演習課題の解答例を、次々回の授業後にHoppiiにアップロードすることとする。球面調和関数の理解を深めるための実演を継続する（3年目）。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓使用。

【その他の重要事項】

鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、無機化学の基礎について講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline) The objective of this class is to understand the structure of atom, atomic orbitals, orbital interaction for the formation of diatomic molecules, and crystal structure of ionic compounds.

(Learning Objectives) Students are expected to understand atomic structure, electron configuration, diatomic molecules, and ionic crystals.

(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (5%), mid-term examination (35%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学入門

高井 和之

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境応用化学科の専門科目を理解する上で必要な数学と物理・物理化学・情報処理の基礎について焦点を絞り学ぶ。

【到達目標】

数学の式と物理・化学の式の関係、物理・化学における単位とその換算、物理量の次元、化学におけるグラフの描き方、微分考え方、座標変換、自然法則と微分方程式の関係を理解し、化学に現れる様々な現象を定量的に理解し、厳密に記述するための前提となる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

大学での化学の専門科目を学ぶために必要な物理・数学・物理化学、情報処理の基本的な事項をPC上での数値計算を中心とした実習形式で学ぶ。また演習問題を解き、学習支援システム上にレポートを提出する。さらに関連事項についての宿題も課す。授業の初めに、前回の授業で提示した課題へのレポート提出内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	科学的観点の文書作成	科学的文書の作成、情報機器、計算機器の使用法
2	数値の取り扱い	科学的な数値の取り扱い
3	化学における式	数学の式と物理・化学の式、物理量の単位と次元、単位換算の方法
4	化学における変数と関数	データおよび化学構造の視覚化、定量的な化学の問題の解き方
5	統計による考え方	基本統計量の計算
6	数値的微分法	速度・加速度・1次元における運動方程式、差分、二階微分
7	中間試験	前半の復習・総合演習
8	中間試験講評・科学的プレゼンテーションの技法	中間試験の結果を題材とした統計処理の復習に関する解説・スライド作成の解説と実習
9	関数の局所近似	テイラー展開と近似式
10	非線形方程式の解法	二分法、割線法、ニュートン法の原理
11	偏微分と化学への応用	熱力学な量の変化、偏微分を用いた表現法
12	相関係数と最小二乗法	相関係数、最小二乗法
13	非線形方程式への最適化	ゴールシーク、ソルバーの利用した非線形方程式への最適化、高度なデータ処理と既習の原理との関係
14	総合演習	全ての授業回の内容に関する復習と総合演習を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】前回の内容を復習する。

授業中に解説された例題の続きと宿題を解く。

【テキスト（教科書）】

オリジナルテキストを毎回、学習支援システムを通じて配布する

【参考書】

化学系学生のための Excel/VBA 入門 - Office 2007 対応 -, 寺坂宏一, コロナ社

アトキンス物理化学〈上〉P.W. Atkins, Julio de Paula(著), 千原秀昭, 中村亘男(訳), 東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容の達成度を測定するために課す授業内演習課題と宿題（60%）、中間試験と期末試験の成績（40%）を統合して判断する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回事前に配布するオリジナル教材による授業実施が好評であるため、引き続き実施する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、各学生が大学貸与のノートPCを使用して授業に参加する。学習支援システムで説明のファイルを事前配布し、レポートを学習支援システムに提出する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of selected topics about basic knowledge on Mathematics, Physics, Physical Chemistry, and Information Technology required for understanding other classes in the Department of Chemical Science and Technology.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided by comprehensive evaluation based on Exercise given in each lesson: 60%, Midterm and Final examinations: 40%.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

物理化学 I

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子や分子が関与する物理的/化学的性質および諸現象を理解するために必須の学問である量子物理化学の基本事項について解説する。まず、量子力学の基本原則がどのような考え方に基いているかを詳述し、波動方程式、波動関数の概念とその使い方を説明する。さらに量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、そのエネルギー状態について学ぶ。

【到達目標】

量子論の根幹をなす主要な概念を理解する。
量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、その状態を正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

基本的にアトキンスの教科書（物理化学（上）第10版）の内容に沿って行う。授業開始前に必ず教科書を入手しておくこと。1ヵ月に1回程度理解度を確認するための小テストを実施する。実際の授業の進め方については、学習支援システムを通して適宜アナウンスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	量子論:序論と原理1	古典物理学の復習から入り、古典物理学が破綻する実験事実について講義を行う。
第2回	量子論:序論と原理2	第1回に引き続き、古典物理学の破綻と量子論が生まれる過程について講義を行う。
第3回	量子論:序論と原理3	第2回に引き続き、量子論の必要性、古典論と量子論との定性的、定量的比較を行う。
第4回	量子論：原理1	波動および波動方程式についての復習、量子力学の基本方程式である Schrodinger 方程式の導出を行う。
第5回	量子論：原理2	波動関数の物理的意味、波動関数から具体的な物理量をいかにして導き出すことができるか等に関する講義を行う。
第6回	量子論：原理3	量子力学の原理（固有値、固有関数、演算子、不確定性原理）などについて講義を行う。
第7回	量子論：手法と応用（1-1）	自由空間および有限の空間に粒子が閉じ込められた際の粒子の並進運動の量子力学的取り扱いについて、Schrodinger 方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第8回	量子論：手法と応用（1-2）	粒子の量子力学的トンネル効果について、Schrodinger 方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第9回	量子論：手法と応用（1-3）	2次元および3次元空間における粒子の並進運動の問題における Schrodinger 方程式の解法および縮退について学ぶ。
第10回	量子論：手法と応用（2-1）	粒子の並進運動の問題における Schrodinger 方程式の解法およびトンネル現象について学ぶ。
第11回	量子論：手法と応用（2-2）	粒振動運動についての古典力学の復習および量子力学による取扱いの基礎について学ぶ。
第12回	量子論：手法と応用（2-3）	粒子の振動運動を Schrodinger 方程式に適用し、その解の波動関数、振動エネルギー、振動量子数の導出とその意味について学ぶ。
第13回	まとめおよび復習	これまでの授業での学習内容の復習および総括を行う。
第14回	まとめおよび質疑応答	これまでの授業内容に関する質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書アトキンス「物理化学（上）第10版」の練習問題を用いて各自予習および復習を行うこと。講義に関連した補助プリントを授業支援システムを通じて事前に配布を行うので各自、プリントアウトして事前に目を通し、講義に臨むこと。毎回の講義の最後に講義内容に関連した課題を出すので、提出期限までに学習支援システムを通じて提出すること。

【テキスト（教科書）】

＜教科書＞P. W. Atkins 著、(千原・中村 訳)「物理化学（上）」 第10版、東京化学同人。

【参考書】

＜参考書＞ 原田 義也著、「量子化学」 裳華房

【成績評価の方法と基準】

基本的概念を理解し、それに基づいて問題解決ができるかどうかを小テスト(40%)および期末試験(60%)の結果を元に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

物理化学Iの内容は、単に授業を受動的な立場で受講しているだけでは理解することは困難です。授業外での予習・復習は必要不可欠です。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関連した補助資料を学習支援システムを通じて事前に配布を行う。

【その他の重要事項】

＜具体的教育方法＞毎回の授業の理解度を確認するために課題を出し、理解度を確認しながら授業を進める。

＜継続的改善＞ 質問は随時電子メールで受け付ける。質問受付のメールアドレスは第1回目の講義資料に記載します。
物理化学Iの授業内容をよく理解するためには、関連した演習科目「物理化学演習」を履修することを推奨します。

【Outline (in English)】

This course will provide the fundamentals of quantum physics, which is an essential learning to understand the physical and chemical properties and phenomena involving atoms and molecules. First, you will learn in detail what the basic principle of quantum mechanics and the Schrodinger equation, the concept of wave function and its physical meaning. Furthermore, you will learn the application of quantum mechanics to translational motion, molecular vibration and rotational motion and learn about their energy states.

・ Attainment target

1)Understand the key concepts underlying quantum theory.

2)Applying quantum mechanics to the translational motion of particles, the vibrational and rotational motions of molecules, and gaining a proper understanding of their states.

・ Learning outside of class

Prepare and review on your own using exercises from the textbook Atkins "Physical Chemistry (Part 1) 10th Edition". Supplementary printouts related to the lecture will be distributed in advance through the class support system. At the end of each lecture, assignments related to the content of the lecture will be given, so please submit them through the learning support system by the submission deadline.

・ Grading methods and standards

Comprehensively evaluate whether students can understand the basic concepts and solve problems based on them based on the results of assignments, quizzes, and final exams.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

物理化学 I I

高井 和之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校における数学、物理、化学および物理化学 I など2年次春学期までの科目での既習事項にもとづいて、量子物理化学の応用事項の解説を行う。

【到達目標】

量子物理化学の基礎を理解し、水素原子の電子状態を定量的に記述できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書であるアトキンス物理化学に沿ってスライドおよび板書で基本事項を説明する。原則、各回の授業の終盤では、講義内容に対応した演習問題を課すが、学習内容を定着させるために、必要に応じて宿題も課す。また、授業の初めに、前回の授業で提示した課題についての解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	物理化学の復習	量子力学の基本原則および並進運動についての復習を行う。
第2回	量子論：手法と応用 (1)	振動運動に対する量子力学の適用を行う。
第3回	量子論：手法と応用 (2)	量子力学的振動子のエネルギー・波動関数などについての性質を学ぶ。
第4回	量子論：手法と応用 (3)	2次元の円周上の粒子の回転運動について古典的取扱いの復習と量子論的考察を行う。
第5回	量子論：手法と応用 (4)	量子力学的回転運動のエネルギー・角運動量について学ぶ。
第6回	量子論：手法と応用 (5)	3次元球面上の粒子の回転運動の量子力学的取り扱いおよび必要な数学的知識について学ぶ。
第7回	量子論：手法と応用 (6)	3次元の回転運動についての波動関数・エネルギーの性質について学ぶ。
第8回	量子論：手法と応用 (7)	粒子の回転運動に基づく角運動量について詳述し、スピン角運動量の概念について導入する。
第9回	原子構造と原子スペクトル (1)	原子スペクトルに観察に関する歴史的背景とボーア模型にもとづく水素型原子軌道の古典的な取り扱いについて学ぶ。
第10回	原子構造と原子スペクトル (2)	水素型原子の電子構造について波動方程式を解いて波動関数と固有エネルギーを導出する。
第11回	原子構造と原子スペクトル (3)	水素原子中の電子の波動関数エネルギーおよび原子スペクトルとの対応について説明する。
第12回	原子構造と原子スペクトル (4)	水素原子軌道における動径関数の性質を学ぶ。
第13回	原子構造と原子スペクトル (5)	原子オービタルの概念を導入し、s,p,d,f軌道の性質について紹介する。
第14回	原子構造と原子スペクトル (6)	多電子系の量子力学の初歩を導入するとともに多電子原子の性質について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各回4時間を標準とする】

- 教科書・配布資料を読んで予習する。
- 前回の範囲のノート・配布資料・教科書を読んで復習する。
- 宿題および中間課題を解いて締切までに学習支援システムに提出する。

【テキスト（教科書）】

P. W. Atkins, J. Paula, "Physical Chemistry"12th ed., Oxford University Press

【参考書】

アトキンス 物理化学 (上) 第10版 東京化学同人 P. W. Atkins, J. de Paula
著 中野元裕, 上田貴洋, 奥村光隆, 北河康隆 訳
物理化学演習 片岡・山田 三共出版

【成績評価の方法と基準】

演習・宿題・中間課題 (40%) および期末試験の結果 (60%) を総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

原理だけではなく、具体的な実験手法や現象との対応の紹介も取り入れた。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は学習支援システムで配布する。

【その他の重要事項】

予備知識と講義内容の理解度を確認するため日常的に演習問題あるいは宿題を出す。これらは自分で解けない時は教員や教務助手、TAに質問して、理解してから解答すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of principles of advanced issues on quantum physical chemistry based on the contents of Physical Chemistry I opened during the spring semester in the second grade year.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided by comprehensive evaluation based on Exercise in each lesson and Midterm homework: 40%, and Final examination: 60%.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

無機化学 I**藤井 孝太郎**

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質を構成する多彩な元素の成り立ちや性質を学び、それらがどのように作用し合って様々な無機物質の構造や性質につながるかを学ぶ。

【到達目標】

原子の成り立ち、化学結合、周期表に沿った元素の特性を理解し、溶液化学、酸・塩基、酸化・還元の方法を習得すると共に、配位化学の基礎的な内容を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義資料を使い教科書の内容に沿って講義を進める。重要な事柄に関して小テストやレポート課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論・原子の構造 1	無機化学分野と学習範囲の紹介、原子の成り立ち
第2回	原子の構造 2	原子軌道、電子配置
第3回	周期律	周期表、原子の基本的性質
第4回	化学結合 1	化学結合の種類、分子軌道
第5回	化学結合 2	分子の構造、イオン結合と格子エネルギー
第6回	元素の性質と化合物 1	原子の電子構造に基づく周期律表および元素特性の理解
第7回	元素の性質と化合物 2	原子の電子構造に基づく周期律表および元素特性の理解
第8回	元素の性質と化合物 3	原子の電子構造に基づく周期律表および元素特性の理解
第9回	溶液の化学	化学平衡、溶解度、理想溶液、非理想溶液、活量
第10回	酸と塩基	酸・塩基の定義、HSAB則
第11回	酸化・還元	標準電極電位、電池
第12回	配位化学 1	配位結合、結晶場理論
第13回	配位化学 2	配位子場理論、配位子置換反応
第14回	有機金属化合物	有機金属化合物の種類と機能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
事前に教科書の講義内容に該当する部分を予習し、講義後に復習することで学習内容の理解を深める。

【テキスト（教科書）】

「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人
講義資料を配付する

【参考書】

「演習で学ぶ無機化学」伊藤・石垣・佐々木・野田著、三共出版。
「アトキンス・無機化学 第6版(上)・(下)」田中他訳、東京化学同人。
「コットン・ウィルキンソン・ガウス基礎無機化学」中原訳、培風館。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、小問と適宜課するレポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the characters of each element and how they interact with each other to form the structures of inorganic materials and give them specific properties.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

無機化学 I I**藤井 孝太郎**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無機化学Iで学んだ「元素の成り立ちと特性」、「原子や分子の相互作用（化学結合）」などの知識を基に、無機固体物質の成り立ちや特性について学ぶ。先進的な材料（特に環境、エネルギーに関連するもの）の具体的な例を示し、学習した内容を無機材料分野で活用する方法を学ぶ。

【到達目標】

無機固体物質の成り立ちや捉え方を理解し、様々な特性が現れる要因を理解する。無機材料化学に関する研究へと展開していくための基礎知識と感覚を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義資料を使い教科書の内容に沿って講義を進める。重要な事柄に関して小テストやレポート課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論・固体の成り立ち	固体化学分野と学習範囲の紹介、固体における化学結合
第2回	結晶構造	周期的構造、結晶構造の記述方法
第3回	イオン結晶	代表的なイオン結晶の紹介、格子エネルギーとマードリング定数
第4回	結晶構造の不完全性	格子欠陥、固溶体、転位
第5回	固体物質の分類と一般的性質	結晶性固体と非晶質固体、格子振動と熱的性質
第6回	固体の電子構造と電気伝導1	自由電子、バンド構造
第7回	固体の電子構造と電気伝導2	半導体、イオン伝導体
第8回	誘電的性質と誘電体材料	電気双極子、分極、圧電体、焦電体、強誘電体
第9回	磁氣的性質と超伝導	磁性の考え方と分類、磁性材料の紹介、超伝導現象、超伝導体の紹介
第10回	光学的性質と光機能材料	物質と光の相互作用、発光、光学材料
第11回	生体に関連した無機化学	金属タンパク質、金属酵素、光合成
第12回	生体を構成する無機物質	アパタイト系材料、バイオマテリアル
第13回	環境と無機化学	光触媒、太陽電池、環境関連材料
第14回	無機材料の実際	有機無機ハイブリッド材料、ポリ酸、ゼオライト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
事前に教科書の講義内容に該当する部分を予習し、講義後に復習することで学習内容の理解を深める。

【テキスト（教科書）】

「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人
講義資料を配付する

【参考書】

「演習で学ぶ無機化学」伊藤・石垣・佐々木・野田著、三共出版。
「アトキンス・無機化学 第6版(上)・(下)」田中他訳、東京化学同人。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）、小問と適宜課するレポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about the structure and properties of solid inorganic materials, based on the knowledge learned in Inorganic Chemistry I. Through the examples of advanced materials (especially those related to the environment and energy), the direction to utilize learned contents in the field of inorganic materials will be shown.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

有機化学 I

杉山 賢次

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新規有機化合物の合成や新しい有機合成法開発の鍵となる有機化合物の物理的・化学的性質を理解する。

【到達目標】

- (1) 有機化合物を形成している化学結合について理解している。
- (2) 有機化合物の化学的性質を理解している。
- (3) 化学反応式を用いて様々な有機化合物の反応を記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「基礎有機化学I・II」が既習であることを前提とする。

テーマとする有機化合物の物理的性質や特徴的な化学反応（化学的性質）について学ぶ。特に、化学反応式を用いた記述が重要である。資料を学習支援システムの「教材」にアップロードするので、予習に役立てること。

確認問題（学習支援システムの「テスト／アンケート」機能を利用）を解き、授業内容の理解度を確認する。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	電子構造と結合	有機化合物の結合形成について学ぶ（1、2章）
2	アルケン（1）	アルケンの構造と性質、反応を学ぶ（5、6章）
3	アルケン（2）	アルケンの反応の詳細を学ぶ（6章）
4	アルキン	アルキンの構造と性質、反応を学ぶ（7章）
5	ハロゲン化アルキルの置換反応	S_N1 反応および S_N2 反応を学ぶ（9章）
6	ハロゲン化アルキルの脱離反応	$E1$ 反応および $E2$ 反応を学ぶ（10章）
7	試験・まとめと解説	授業内試験を実施する
8	アルコールとエーテル	アルコールとエーテルの構造と性質、反応を学ぶ（11章）
9	アミン	アミンの構造と性質、反応を学ぶ（11、20章）
10	芳香族化合物（1）	芳香族性および芳香族求電子置換反応の基礎を学ぶ（8、19章）
11	芳香族化合物（2）	芳香族求電子置換反応の詳細を学ぶ（19章）
12	芳香族化合物（3）	多置換ベンゼンの合成を学ぶ（19章）
13	有機金属化合物	有機リチウム試薬、有機マグネシウム試薬を用いた反応を学ぶ（12章）
14	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）教科書の対応ページを読む。授業支援システムに用意されている資料を参照すること。本文中の例題を解くことが望ましい。

（復習）講義ノート、参考資料を見ながら、教科書の重要ポイントにマークを入れる。教科書の章末問題を解くことが望ましい。

（宿題）確認問題（学習支援システムの「テスト／アンケート」機能を利用）を解き、期限までに提出する。

【テキスト（教科書）】

Paula Y. Bruice (著)、ブルース有機化学（第7版）〔上〕〔下〕、化学同人

【参考書】

・赤松元浩・河内敦・松本祥治・三野孝（著）、スパイラル有機化学、筑波出版会

・J. McMurry（著）、マクマリー有機化学 第9版、東京化学同人

・山口泰史（著）、大学生のための有機反応問題集、三共出版

・畔田博文・鈴木秋弘・高木幸治・川淵浩之（著）、これでわかる基礎有機化学演習、三共出版

【成績評価の方法と基準】

確認問題（20%）、中間・期末試験（80%）に基づき、本学の定める基準に従い、S～Eの12段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自宅学習課題の充実。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course provides students with the foundations for the Organic Chemistry. It will address the basic knowledges of organic chemistry and recent advances as well. Students will learn to recognize such organic reactions in relation to the chemical structures of the molecules.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand the chemical structure of organic compounds and describe the organic reactions.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Final grade will be calculated according to the following process; the mid-term examination and term-end examination (80%) and the required assignments (20%).

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

有機化学 I I

杉山 賢次

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新規有機化合物の合成や新しい有機合成法開発の鍵となる有機化合物の物理的・化学的性質を理解する。

【到達目標】

- (1) 有機化合物を形成している化学結合について理解している。
- (2) 有機化合物の化学的性質を理解している。
- (3) 化学反応式を用いて様々な有機化合物の反応を記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「基礎有機化学I・II」、「有機化学I」が既習であることを前提とする。テーマとする有機化合物の物理的性質や特徴的な化学反応（化学的性質）について学ぶ。特に、化学反応式を用いた記述が重要である。資料を学習支援システムの「教材」にアップロードするので、予習・復習に役立てること。確認問題（学習支援システムの「テスト／アンケート」機能を利用）を解き、授業内容の理解度を確かめる。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルデヒドとケトン (1)	アルデヒド・ケトンと求核試薬との反応を学ぶ (17章)
2	アルデヒドとケトン (2)	イミン、エナミン、アセタールの生成反応を学ぶ (17章)
3	アルデヒドとケトン (3)	アルデヒド・ケトンの様々な反応を学ぶ (17章)
4	カルボン酸とその誘導体 (1)	カルボン酸およびニトリルの反応を学ぶ (16章)
5	カルボン酸とその誘導体 (2)	酸ハロゲン化物および酸無水物の反応を学ぶ (16章)
6	カルボン酸とその誘導体 (3)	エステルおよびアミドの反応を学ぶ (16章)
7	試験・まとめと解説	授業内試験を行う
8	カルボニル化合物の α 炭素の反応 (1)	ケト・エノール互変異性、 α 炭素の修飾反応を学ぶ (18章)
9	カルボニル化合物の α 炭素の反応 (2)	カルボニル縮合反応を学ぶ (18章)
10	カルボニル化合物の α 炭素の反応 (3)	エノールを経由した種々の反応を学ぶ (18章)
11	合成高分子	重合反応を学ぶ (27章)
12	ベリ環状反応 (1)	分子軌道法の基礎と電子環状反応を学ぶ (28章)
13	ベリ環状反応 (2)	付加環化反応とシグマトロピー転位を学ぶ (28章)
14	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(準備学習)教科書の対応ページを読む。授業支援システムに用意されている資料を参照すること。本文中の例題を解くことが望ましい。
(復習)講義ノート、参考資料を見ながら、教科書の重要ポイントにマークを入れる。教科書の章末問題を解くことが望ましい。
(宿題)確認問題（学習支援システムの「テスト／アンケート」機能を利用）を解き、期限までに提出する。

【テキスト（教科書）】

Paula Y. Bruice (著)、ブルース有機化学 (第7版) [上] [下]、化学同人

【参考書】

・赤松元浩・河内敦・松本祥治・三野孝 (著)、スパイラル有機化学、筑波出版
・J. McMurry (著)、マクマリー有機化学 第9版、東京化学同人
・山口泰史 (著)、大学生のための有機反応問題集、三共出版
・畔田博文・鈴木秋弘・高木幸治・川淵浩之 (著)、これでわかる基礎有機化学演習、三共出版

【成績評価の方法と基準】

確認問題 (20%)、中間・期末試験 (80%) に基づき、本学の定める基準に従い、S～Eの12段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自宅学習課題の充実。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course provides students with the foundations for the Organic Chemistry. It will address the basic knowledges of organic chemistry and recent advances as well. Students will learn to recognize such organic reactions in relation to the chemical structures of the molecules.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand the chemical structure of organic compounds and describe the organic reactions.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Final grade will be calculated according to the following process; the mid-term examination and term-end examination (80%) and the required assignments (20%).

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

コンピュータ利用化学

小鍋 哲

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学を学び、研究する上で必要なコンピュータ技術を学ぶことを目的とする。
特に、コンピュータシミュレーションにより化学現象を理解する方法を学ぶ。

【到達目標】

・化学におけるコンピュータシミュレーションの重要性・有用性を理解する。
・コンピュータシミュレーションの基本的な方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

各自のPCを用いて、実習形式により授業を進める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	化学におけるコンピュータ利用の重要性について紹介する。
第2回	量子力学の基礎	量子力学の基礎を復習する。
第3回	分子軌道法の基礎	分子軌道法の基礎を復習する。
第4回	量子化学計算用アプリのインストール	シミュレーションに必要なアプリを各自のPCにインストールする。
第5回	分子のモデリング	様々な分子をコンピュータ上に作成する方法を学ぶ。
第6回	シミュレーション演習	分子のモデリングに関する演習。
第7回	分子の構造最適化	分子の自然な構造をシミュレーションにより求める方法を学ぶ。
第8回	シミュレーション演習	分子の構造最適化に関する演習。
第9回	分子振動	分子振動をシミュレーションする方法と結果の可視化について学ぶ。
第10回	シミュレーション演習	分子振動のシミュレーションに関する演習。
第11回	分子軌道のエネルギーと波動関数	分子のエネルギー準位と波動関数をシミュレーションにより求める方法を学ぶ。
第12回	シミュレーション演習	分子軌道のエネルギーと波動関数のシミュレーションに関する演習。
第13回	発展的内容	量子化学の発展的内容に関するシミュレーションについて学ぶ。
第14回	総合演習	授業内容に関する総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業後、その日のうちに授業内容を必ず復習する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

はじめの授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)とレポート課題や宿題(60%)により総合的に評価する。評価する際のポイントは

・学んだことをきちんと再現できる
・学んだことを応用することができる
である。

【学生の意見等からの気づき】

好評につき、これまで同様教員と一緒に実習形式で進める。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PC、あるいは同等のスペックを有するPC。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to learn the computer technology necessary for studying and researching chemistry. In particular, students will learn how to understand chemical phenomena through computer simulations. (Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the basics of computer simulations described above.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports : 60%, in class contribution: 40%.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

電気化学

片山 英樹

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電気化学は、電子移動反応を通じた化学エネルギーと電気エネルギーの相互変換や化学情報と電気信号の相互変換を扱う学問です。電気化学は様々な分野で重要な役割を担っており、酸化還元反応、電気分解、電池、センサーなどのほか、生体系では代謝、光合成、神経伝達などにも応用されている。これらを理解するためには電気化学的な考え方や方法論を身につけることが不可欠である。本講義では、電位が熱力学量（平衡論）、電流が反応速度（速度論）を表すパラメーターとなる電気化学の基礎を身につけることを狙いとする。

【到達目標】

電気化学における平衡論と速度論を十分に理解するとともに、電気化学測定に必要な基礎知識、電気化学の応用分野について理解を深めることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面での講義を基本とし、教科書に沿って進めます。内容の理解を深めるため、教科書に掲載されている演習問題を授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	電気化学の概要	講義を始めるに当たり、電気化学が用いられる分野を紹介する。
2回	電気化学系の姿 1	電気分解を例に挙げ、固体と液体の界面での挙動について概説する。
3回	電気化学系の姿 2	電気分解の進み方とそれに伴う固体と液体の界面での挙動の変化について説明する。
4回	物質のエネルギーと平衡 1	化学変化とエネルギーの関係について説明する。
5回	物質のエネルギーと平衡 2	化学平衡とエネルギーの関係について説明する。
6回	標準電極電位 1	電位と電位差の違い、標準電極電位を持つ意味を説明する。
7回	標準電極電位 2	ネルンストの式を導出するとともに、式の持つ意味を説明する。
8回	電解電流 1	電位によって決定される電流について説明する。
9回	電解電流 2	物質輸送によって変化する電流について説明する。
10回	電解液 1	物質や電解液の導電性について説明する。
11回	電解液 2	イオンの移動度と電解液の導電性の関係について説明する。
12回	電気化学測定	電気化学測定に必要な基礎知識について説明する。
13回	腐食電気化学 1	腐食科学における電気化学について概説する。
14回	まとめ・試験	電気化学の基礎知識に対する到達度試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
予習ではテキストを事前に読み、授業内で行う演習問題について復習することで授業内容を確認・理解する。

【テキスト（教科書）】

渡辺 正・金村聖志・益田秀樹・渡辺正義共著「電気化学」(丸善)および配布資料（web 添付）

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、レポート課題（10％）、期末試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】

教科書を中心に進めますが、重要な部分やわかりにくい部分はPPT資料での説明も行います。また、詳細な計算などについては必要に応じて板書も併用します。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に演習問題を解くため、計算機が必要です。

【Outline (in English)】

Electrochemistry deals with the interconversion of chemical and electrical energy through electron transfer reactions and the interconversion of chemical information and electrical signals. Electrochemistry, which plays an important role in various fields, is applied to redox reactions, electrolysis, batteries, and sensors, as well as metabolism, photosynthesis, and neurotransmission in biological systems. To understand these applications, it is essential to acquire electrochemical concepts and methodologies. The aim of this lecture is to learn the basics of electrochemistry, in which a potential is a parameter that represents thermodynamic quantities (equilibrium theory) and a current is a parameter that represents reaction rates (kinetics).

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

反応工学

小堀 深

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学は化学工業における装置設計やプロセス構築を行う学問である。そこには様々な単位操作が存在するが、なかでも反応装置は化学プロセスの中心に位置する、いわば化学プラントの心臓部に当たる重要な部分である。この反応装置を設計するための工学分野が「反応工学」である。受講生は化学工学の基礎（収支・平衡・速度）を十分理解し、装置設計に対して「数値データ」として明確に表現できなければならない。本講では反応装置を中心に述べるが、見方を変えれば同一手法で大気（地球）環境や生体科学分野等に発展させることが可能である。

【到達目標】

- (1) 反応装置に関する物質収支、熱収支が計算できる
- (2) 装置のスケールアップを理解し、その解析手法が理解できる。
- (3) 場面に則した反応装置の設計が出来る。
- (4) 反応工学手法を用いることで、大気環境、海洋環境あるいは地球環境等、いわゆるグリーンケミストリー分野への展開ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式とする。

- (1) 基本的な考え方や基礎方程式の誘導について授業中に行う
- (2) 適宜、簡単な練習問題を解く
- (3) 毎回講義の最後に理解度確認テスト（小テスト）を実施する
- (4) 授業の初めに、前回の小テストの結果からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	化学工学入門	化学工学の基本概念である収支・平衡・速度の初歩を実例を通して学ぶ。
第2回	流れ、バルヌーイの定理	身の回りや生体に見られる流れ現象を例として、流れについての基本的な原理や法則を理解する。
第3回	流れ、層流と乱流、摩擦損失	流れの状態を表す無次元数の導入と、摩擦によるエネルギー損失の計算を学ぶ。
第4回	熱の移動	熱移動は、伝導、対流、放射によるが、その物理的プロセスに関する基本を理解する。
第5回	熱交換器	熱の移動で得た知識を応用し、熱交換器の解析を数式を用いて定量的に理解する。
第6回	反応工学とは	反応工学の基礎概念を確認し、応用への基礎を固める。
第7回	反応速度の定義、温度依存性	反応速度の表現法を学び、定常状態と非定常状態、さらに反応速度の温度依存性について理解する。
第8回	反応速度の導出法	積分法や微分法など、反応速度を導出する方法を学ぶ。
第9回	反応器設計の基礎式	様々な反応器を設計する前提としての基礎式の導出と応用を理解する。
第10回	回分反応器の設計	回分反応器の物質収支から、設計方程式の導出を試みる。
第11回	連続槽型反応器の設計、管型反応器の設計	連続槽型反応器と管型反応器の物質収支から、設計方程式の導出を試みる。
第12回	複雑な反応器の取り扱い	反応器の多段化、リサイクル反応器などを定量的に理解する。
第13回	物質移動を伴う化学反応工学～拡散と反応が逐次的に起こる場合	発汗による体温調整と、化学反応で促進される物質移動について理解する。
第14回	物質移動を伴う化学反応工学～拡散と反応が同時に起こる場合	生体肺における酸素移動の解析を試みる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

第1回 予習:教科書の「化学工学入門」を通読 復習:テストの見直し

第2回 予習:教科書の「流れ」を通読 復習:テストの見直し

第3回 予習:教科書の「流れ」を通読 復習:テストの見直し

第4回 予習:教科書の「熱の移動」を通読 復習:テストの見直し

第5回 予習:教科書の「熱の移動」を通読 復習:テストの見直し

第6回 予習：教科書の「化学反応工学」を通読 復習：テストの見直し

第7回 予習：教科書の「化学反応工学」を通読 復習：テストの見直し

第8回 予習：教科書の「化学反応工学」を通読 復習：テストの見直し

第9回 予習：教科書の「化学反応工学」を通読 復習：テストの見直し

第10回 予習：教科書の「化学反応工学」を通読 復習：テストの見直し

第11回 予習：教科書の「化学反応工学」を通読 復習：テストの見直し

第12回 予習：教科書の「化学反応工学」を通読 復習：テストの見直し

第13回 予習：教科書の「物質移動を伴う化学反応工学」を通読 復習：テストの見直し

第14回 予習：教科書の「物質移動を伴う化学反応工学」を通読 復習：テストの見直し

【テキスト（教科書）】

化学工学、酒井清孝、朝倉書店、2005年、3600円＋税

【参考書】

反応工学、橋本健治、培風館、1993年、2900円＋税

【成績評価の方法と基準】

授業後理解度確認テスト(100)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓またはそれに類するもの

【Outline (in English)】

【Course outline】

Overall rate of chemical reactions is affected not only by individual reactions but also by mass and heat transfer. This lecture will cover reaction engineering, which are essential for the design of chemical processes and the determination of reaction rates.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to grasp the overall phenomena occurring in reactors, analyze individual processes quantitatively, select reactor type suitable for the target, and make simple design quantitatively.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

A comprehension test will be given at the end of each lecture, and the final grade will be calculated based on the total of these scores.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

量子化学

野口 真理子

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量子力学の原理を用いて、水素型原子および多電子原子の電子構造を記述し、それぞれの原子スペクトルを理解する。さらに、二原子分子、多原子分子の電子構造の量子力学的取り扱いについて演習を交えながら学習する。この講義により、学生は、これまでに学んだ量子力学の原理が、化学において原子や分子の構造や反応を理解するために重要な役割を果たしていることを学ぶ。

【到達目標】

量子力学の考え方をを用いて、原子および分子の電子構造を記述できる。関連する演習問題を正しく解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

教科書9章「原子の構造とスペクトル」と10章「分子構造」(第8版ではそれぞれ第10章, 11章)を取り扱う。対面での開講となる。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。開講方法は、以下の通りである。講義では、黒板での板書またはPowerPointで作成したスライド資料を用いて、量子化学について解説する。授業内容と関連した演習問題を講義内で解く時間を設け、解答してもらい、その場で解説を行う。必要に応じて、課題や内容についての質問は、授業時間内に随時受け付けるとともに、学習支援システムの掲示板を活用して質問できるようにする。当日または後日授業内で解説やさらなる質問の機会を設けることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、水素原子スペクトル（教科書9章）	この講義の進め方について説明する。水素の原子スペクトルとスペクトル系列について学ぶ。(教科書9章, 9A)
第2回	水素型原子の電子構造	水素型原子のシュレディンガー方程式の解法について学ぶ。(教科書9章, 9A・1)
第3回	原子軌道関数とそのエネルギー	水素型原子の波動関数（原子軌道関数）の特徴について学ぶ。(教科書9章, 9A・2)
第4回	ヘリウム原子の電子構造	最も単純な多電子原子であるヘリウム原子のシュレディンガー方程式とその近似的解法について学ぶ。(教科書9章, 9B・1)
第5回	多電子原子の電子構造	電子のスピン、パウリの原理、フントの規則について学び、多電子原子の電子配置について理解する。(教科書9章, 9B・1, 9B・2)
第6回	多電子原子の化学的性質の周期性	多電子原子の電子配置と、原子の化学的性質（イオン化エネルギーおよび電子親和力）の周期性の関係を理解する。(教科書9章, 9B・2, 9B・3)
第7回	原子のスペクトル	水素型原子および多電子原子のスペクトルと、原子の電子配置とエネルギーの関係を理解する。(教科書9章, 9C・1, 9C・2)
第8回	原子価結合法	原子価結合法の概要を二原子分子と多原子分子を例に理解する。(教科書10章, 10A・1, 10A・2)
第9回	分子軌道法の原理	電子を一つ含む最も単純な分子である水素分子イオンを例にとり、分子軌道法の原理について理解する。(教科書10章, 10B・1, 10B・2)
第10回	等核二原子分子の構造	多電子分子の中で最も単純な等核二原子分子を分子軌道法で取り扱い、その電子配置を理解する。(教科書10章, 10C・1)

第11回	異核二原子分子の構造	異核二原子分子としてHF分子を例に、極性結合を分子軌道法で記述し、分子軌道エネルギーの近似解を得る方法を理解する。(教科書10章, 10D・1, 10D・2)
第12回	多原子分子の構造	ヒュッケル近似を用いて、多原子分子の分子軌道のエネルギー準位図を求める手順を学ぶ。さらに、ヒュッケル法を応用すれば、共役ポリエンのいくつかの性質を説明できることを理解する。(教科書10章, 10E・1, 10E・2)
第13回	9章, 10章のまとめ	教科書9章「原子の構造とスペクトル」および教科書10章「分子構造」において重要な問題の解説を行う。教科書9章「原子の構造とスペクトル」および教科書10章「分子構造」において重要な問題の授業内テストを行う。
第14回	授業内テスト	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】事前に教科書を読み、掲載されている問題は可能な限り解いておく。

【テキスト（教科書）】

Peter Atkins・Julio de Paula 著、中野元裕・上田貴洋・奥村光隆・北河康隆訳、アトキンス物理化学（上）第10版、東京化学同人

【参考書】

D. A. McQuarrie・J. D. Simon 著、千原秀昭・江口太郎・齋藤一弥 訳、マッカーリ・サイモン物理化学 上 分子論的アプローチ、東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

講義での学習状況および参加度（30％）、授業内テスト（70％）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布および課題提出のために、学習支援システムを活用する場合がある。そのため、学習支援システムにアクセス可能な情報機器（パソコンまたはスマートフォンなど）を準備する必要がある。

【その他の重要事項】

質問は、学習支援システム上で随時受け付ける。

【Outline (in English)】

You will be able to understand about quantum mechanics for chemistry after you take all these lectures. I will explain about the hydrogen-like atom, multi-electron atoms, and their molecular structures.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

錯体化学

田所 誠

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

錯体化学は、分子を取り扱う無機化学の中で最先端の分野であり、有機金属化学・生物無機化学・錯体物性科学に分けられる。本講義では、「錯体がなぜきれいな色をしているの?」「磁石はなぜくっつくの?」など、皆さんの基礎的な疑問に基づいて、錯体化学の基礎を知ることができる。そのために、配位立体化学・配位子場理論・分子磁性・錯体分光についての考え方や理解を深めることを目標とする。また、トピックスとして錯体がどのように生体系と関係づけられるのか、応用面ではどのように用いられているのかなど、「生物無機化学」や「錯体物性科学」の最前線も紹介したい。

【到達目標】

錯体化学を学ぶことによって、化学分野ではなじみの薄い金属を含む固体物性科学の基礎や考え方を学ぶことができる。分子レベルの配位子場理論による考え方は、錯体による色の変化の起源、磁石としての相互作用のあり方、触媒反応のメカニズム、生体金属酵素の反応の基礎、場合によっては電子伝導性の基礎なども学ぶことができる。本授業ではこのような物性化学の詳細までの講義は行わないが、その考え方の基礎を錯体を通して学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は出席と講義にて行う。板書の量が多いのでノートを必ず用意しておくこと。また、より高学年における無機化学であることを念頭におき、できるだけ自発的な学習と、授業外での知識の吸収・興味の発展を期待する。授業中にできればトピックスとしてはじめの15分ぐらい最先端な話をしたいが、前回授業の復習問題なども踏まえて基礎的な授業にするつもりである。配布する資料のとおりに進んでいくので、授業を休んで資料がもらえなかったときは、友達に借りてコピーしてもらうこと。また、かならず出席はしておくこと。出席率に応じてテストの時に加点する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	錯体化学とは	・配位化学 ・分析化学と錯体 ・金属イオンの効果
2	Werner型錯体	・配位説 ・配化合物の異性体（溶媒異性・イオン化異性・配位異性・連結異性）
3	Werner型錯体	・配化合物の異性体（立体効果・共生理論・Pearsonの法則）
4	Werner型錯体	・連結異性の応用 ・立体異性（平面4角形・6配位8面体・鏡像異性体） ・光学分割
5	原子価結合モデル	・原子価結合法 ・混成と軌道の占有
6	結晶場理論	・結晶場の理論とスピン磁性 ・高スピンと低スピン ・磁化率とスピン軌道相互作用
7	結晶場理論	・配位子場安定化エネルギー（水和エンタルピー・イオン半径） ・分光化学系列 ・各種配位構造と結晶場の分裂
8	結晶場理論	・Jahn-Teller効果 ・配位子の π 結合性 ・分光化学系列の理論
9	配位子場理論	・分子軌道での取り扱い ・配位子場理論での π 結合
10	錯体の電子スペクトル	・配位子場遷移 ・項という考え方 ・スピン軌道相互作用とスペクトル
11	錯体の電子スペクトル	・微視的状态の分離 ・基底状態のエネルギー項
12	錯体の電子スペクトル	・Hundの規則の定量的な解釈 ・選択律 ・弱い場と強い場（相関図）
13	錯体の電子スペクトル	・分裂エネルギー準位図（Orgel図） ・田辺- 菅野の図

14 錯体の反応

・置換不活性
・トランス効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】通常、テストは自筆ノート持込可にしてあるので、授業中に黒板に書いてあることを、先生の説明をよく聞いて、口頭の内容もメモをすることを進める。復習を重点的に行い、ノートに書いてあることを中心に勉強し、さらに参考書などで知識を確認して、重要点をメモしておくことが望ましい。テストは必ず説明問題で答えさせるので、解答の文章を予めノートに自分で用意しておく時間に余裕ができる。通常、授業では演習問題も含めるため、配位子場理論までで終えることが多い。

【テキスト（教科書）】

主に、「現代無機化学」（裳華房）田所誠著 にて行う。

【参考書】

「基礎無機化学」F.A. コットン・G. ウィルキンソン・P.L. ガウス（培風館）
「無機化学（下）」シュライバー・アトキンス第4版（東京化学同人）「無機化学（下）」ダグラス・マクダニエル第3版（東京化学同人）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(60%)と平常点(40%)で評価する。授業中に行った小テストからも試験を出すので復習しておくこと。試験に出るポイントを指摘して、説明させる文章問題のみ出題する。必ず、最終回あるいは最終回前の講義には出席すること。テスト問題に関する重要なアドバイスを。解答は皆さんが同じような解答ばかりだと、暗記しただけと見なし、減点がある。自分のオリジナルな解答を書くこと。図だけであったり、ノートの丸写しは×必ず説明や理由について文章で書くこと。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートでは、錯体化学をこれまで習ってこなかったので、理解することが難しいという意見が多く聞かれた。そのため、より簡単に要点を絞って、皆さんに錯体とは何かを伝えていきたいと考えている。また、授業中に演習問題を行うことで、教えた知識を完全なものにすることを目指す。そのため、錯体スペクトルまでは進まないことが多いので、配位子場理論までしっかり勉強させることを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

通常、対面型で授業を行うが、オンライン授業の場合には、ipadを黒板代わりに授業を行う。

【その他の重要事項】

平常点だけで単位がもらえると考えてるようであるが、試験問題も解かないと落ちることがある。期末試験の1発勝負なので必ず、試験では解答を日本語文章で書けることが要求される。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces Coordination Chemistry to students taking this course.

Learning Objectives:

The goals of this course are to understand Coordination stereochemistry, Ligand field theory, Molecular magnet and Coordination spectroscopy.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to have completed the required assignments after the lecture. Your study time will be more than two hours for the lecture.

Grading Criteria/Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following in the class contribution 40%, and term-end examination 60%.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

化学統計力学

藤森 裕基

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質を構成する原子、分子、電子等の量子力学的エネルギー状態を基に、統計学的手法を用いて物質の熱力学的性質、巨視的物性をミクロな立場から説明する学問体系である統計力学の基礎について講義および演習を通じて学習する。

【到達目標】

ボルツマン分布と分配関数について理解する。
分配関数と各種熱力学関数の関係を理解する。
具体的な各種熱力学関数を自ら計算する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面授業で行うが、場合によってはzoom等を用いたオンライン授業やオンデマンド授業で行う場合もある。詳細は学習支援システムで連絡する。

演習や小テスト（またはアクションペーパー）に関しては、授業時間内または翌週の授業の際に取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・ボルツマン分布1	統計的ものの見方、配置と重み
2	ボルツマン分布2	ボルツマン分布の導出
3	分子分配関数1	分配関数の重要性
4	分子分配関数2	並進運動・回転運動からの寄与
5	分子分配関数3	振動・電子状態からの寄与
6	分子のエネルギー1	エネルギーの基本式
7	分子のエネルギー2	並進運動・回転運動からの寄与
8	分子のエネルギー3	振動・電子状態・スピンからの寄与
9	正準アンサンブル1	アンサンブルの概念
10	正準アンサンブル2	平均エネルギーの導出
11	内部エネルギー	内部エネルギーの計算と熱容量の導出
12	エントロピー	エントロピーと分配関数
13	熱力学関数	熱力学関数の導出
14	演習・テスト	演習およびテストによりこれまでの理解度の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。教科書および参考書を基に準備学習、復習等を行うこと。学習支援システムを通じて、小テスト等を行う場合もある。

【テキスト（教科書）】

<教科書> アトキンズ「物理化学（第10版）」下 東京化学同人

【参考書】

マッカーリ化学数学 Donald A. McQuarrie (著), 藤森裕基 (訳), 松澤秀則 (訳), 筑紫格 (訳) (丸善)

【成績評価の方法と基準】

到達度目標をクリアできているかどうかを演習や小テスト及び期末テスト（またはレポート）により確認する。成績は授業内の演習や小テスト（30%）及び期末テスト（またはレポート）（70%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習や小テスト（またはアクションペーパー）の解答を見ながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

統計力学は、量子力学とともに物質のマクロな性質および分光学の基礎を学ぶうえでも必要不可欠な学問分野である。質問は授業時随時受け付ける。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of statistical mechanics used in chemistry. It also enhances the development of students' skill in simple numerical method.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

物質設計化学

高井 和之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質設計を考えるうえで必要となる基本的な概念・知識を習得し、さまざまな物質の性質の発現原理についての理解を深める。

【到達目標】

物質の性質についての諸原理について、特に物質を構成する基本粒子間の相互作用に着目して、これまで必修の授業で学んだ内容との関連性を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書などに沿ってスライドおよび板書にて物質の性質に関する背景について解説する。宿題を解き提出する。授業の初めに、前回の授業での議論内容および提示した課題へのレポート提出内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物質設計化学の導入	これまで受講した基礎分野の必修科目との対応づけから物質設計の概念について学ぶ
2	物質の結合	原子間の結合の種類
3	金属結合	自由電子モデル、ドゥルーデモデル
4	金属の性質	電気伝導
5	金属の性質	フェルミ分布・状態密度
6	金属の性質	熱容量
7	金属の性質	熱伝導・熱電変換材料との対応
8	半導体の性質	光吸収・発光と電子デバイスとの対応
9	イオン結合	電気陰性度・イオン結合
10	分子間力	ファンデルワールス力、水素結合
11	多電子原子の電子状態	一般の原子の性質、周期律、可視紫外分光、変分法、摂動法、XPSとの対応
12	分子の電子状態	ボルンオッペンハイマー近似、分子の電子構造、赤外吸収・Raman分光との対応
13	共有結合	分子・高分子の電子状態と結合
14	物質と磁場	磁性の基礎・核磁気共鳴、電子スピン共鳴の原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】物理化学I,II、無機化学概論、無機化学I,II、化学熱力学I・II、有機化学I、IIの復習
中間課題への解答と学習支援システムを通じた締め切りまでのレポート提出

【テキスト（教科書）】

高井和之他 著、「ナノカーボン ― 炭素材料の基礎と応用」近代科学社
永田一清 著 「物性物理学」裳華房 (2009)

【参考書】

Kazuyuki TAKAI et al, "Graphene: Preparations, Properties, Applications, and Prospects", Elsevier (2019)

【成績評価の方法と基準】

中間課題の評価（66%）を中心に期末試験の採点結果(34%)にもとづき評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

3年春学期までの必修の授業内容の復習を中心に物質の性質との対応づけを行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、授業支援システムで資料を配布する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of basic concept and knowledge required for Material Design, including deep understanding of a principle of emerging various materials properties.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided by comprehensive evaluation based on Midterm homework: 66%, Final examination: 34%.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

エネルギー環境化学

打越 哲郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギー資源の供給や地球環境の破壊という課題に焦点を当てつつ、環境化学におけるエネルギー面の問題を広く議論する。また、これらの問題の背景や各種エネルギー資源の長所や短所を知り、現代社会におけるエネルギー・環境問題の重要性の理解を促す。さらに化学の知識に立脚した技術的対応法や社会システム上の検討課題についても学び、今後のエネルギー社会のあるべき姿を考える機会とする。

【到達目標】

地球環境問題やエネルギー資源問題の歴史的背景、自然界が人間圏に課す制約、そしてエネルギー利用に関わる様々な物理化学的技術の現状について理解を深めることにより、地球環境とエネルギー資源の諸問題への対応を、政治・経済の現状を踏まえた幅広い視点から考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義資料を配布しその内容に沿って講義を進める。学生からの疑問、質問は、翌週の授業で取り上げ解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週/ 100 分	人間活動と環境のか かわり	環境化学とは、人間の活動と環境変動、公害・環境問題の歴史
第 2 週/ 100 分	地球上の資源	各種エネルギー資源、鉱物資源、生物資源
第 3 週/ 100 分	資源エネルギー問題	資源・エネルギーと経済・産業の関係、日本の資源事情、世界の電力供給とエネルギー問題、省エネルギー
第 4 週/ 100 分	地球大気の変異	大気汚染、地球温暖化、異常気象
第 5 週/ 100 分	水質汚染と土壌汚濁	地球の水事情、河川や湖沼の汚染、海洋汚染、土壌汚染の要因、土壌汚染の対策及び浄化技術
第 6 週/ 100 分	飲料水と食品と環境	地球における水問題、食料供給の危機、バイオテクノロジーと食料問題、食品汚染
第 7 週/ 100 分	化学物質による汚染	重金属、農薬、界面活性剤、製品に使用されている化学物質
第 8 週/ 100 分	放射能汚染	原子力発電の仕組み、放射線が人体に及ぼす影響、原発事故
第 9 週/ 100 分	プラスチックの利用 と環境	世界のプラスチック生産量と廃棄量、海洋プラスチックごみ問題
第 10 週/ 100 分	ごみ・廃棄物問題と リサイクル	廃棄物の分類と処理、食品ロス、廃棄物の減量・再利用・リサイクル
第 11 週/ 100 分	汚染物質の毒性と生 体内での代謝	重金属の毒性、化学物質の免疫毒性、毒性評価法

第 12 週/ 内分泌攪乱物質
100 分

内分泌攪乱現象、内分泌攪乱物質問題に関する国内外の取り組み

第 13 週/ 経済と環境
100 分

経済活動による環境への負荷、法律の整備、環境修復と環境アセスメント、企業の取り組み

第 14 週/ 水素社会
100 分 全体のまとめ

水素社会の実現に向けた取り組み
地球環境とエネルギー資源問題の解決に寄与する化学の重要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とします。配布する資料を参考に講義の内容をよく復習し、分からなかった点を質問すること。

【テキスト（教科書）】

なし。関連資料を毎回配布(学習支援システムにアップロード)する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

理解度チェックを兼ねた毎週の簡単な課題テスト（30%）と期末試験（70%）の合計点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年もあらゆる質問に真摯に答えます。いい質問を期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

Energy issues in environmental chemistry will be widely discussed with a focus on issues such as the supply of energy resources and the destruction of the global environment. In addition, we will learn the background of these problems and the advantages and disadvantages of various energy resources, and deepen our understanding of the importance of energy in modern society. It will also be an opportunity to learn chemistry knowledge and technical measures based on issues to be considered in the social system, and to think about the ideal future energy society.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

触媒化学**藤井 孝太郎**

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

触媒は、化学反応を効率的に進めるために不可欠であり、物質生産や環境対策など幅広く利用されている。本講義では、触媒の特徴・機能、反応、調製法についての基礎知識を学ぶ。また、実社会で使われている触媒から環境対策などにも用いられる先進的な触媒の実例を紹介し、具体的な触媒の活用方法や研究・開発の方向性について学ぶ。

【到達目標】

触媒の必要性・成り立ち・捉え方を学び、様々な特性が現れる要因を理解する。触媒反応の基礎を習得する。先進的な触媒化学について知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義資料を使い教科書の内容に沿って講義を進める。重要な事柄に関して小テストやレポート課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論・触媒とはにか	触媒化学分野と学習範囲の紹介、触媒の重要性
2	触媒の歴史と役割	触媒の化学と技術、その発展の歴史
3	固体触媒の表面	固体触媒の形態、表面の構造
4	固体触媒表面の電子状態	バンド構造、表面におけるバンド構造
5	固体触媒反応の素過程：吸着	固体表面での素過程、吸着とその速度論
6	固体触媒反応の素過程：脱離	脱離とその速度論、吸脱着平衡
7	固体触媒反応の速度論	固体触媒反応における反応速度論、定常近似、律速過程
8	触媒反応機構	素反応の組み立て、反応機構決定法
9	触媒反応機構の実例	アンモニア合成、一酸化炭素の水素化反応、炭化水素の反応
10	触媒反応場の構造と物性	触媒機能を支配する要因、活性点
11	触媒の構造とキャラクター化	表面積、細孔構造、工業触媒の構造
12	触媒の調製	触媒調製法
13	触媒反応特性の評価	触媒の活性試験、選択性、寿命、試験装置
14	環境・エネルギーと触媒	自動車触媒、排ガス浄化触媒、光触媒、燃料電池、水素製造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
事前に教科書の講義内容に該当する部分を予習し、講義後に復習することで学習内容の理解を深める。

【テキスト（教科書）】

「触媒化学」（応用化学シリーズ6）上松、中村、内藤、三浦、工藤共著、朝倉書店（2004）

【参考書】

「新版 新しい触媒化学」菊地、射水、瀬川、多田、服部 共著、三共出版。

「触媒・光触媒の科学入門」山下、田中、三宅、西山、古南、窪田、玉置 共著、講談社。

「触媒化学」田中ら 共著、講談社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）、小問と適宜課するレポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Catalysts are essential for efficient chemical reactions and are widely used for material production and environmental protection. In this lecture, students will learn basic knowledge of the characteristics and functions of catalysts, reactions and preparation methods. Examples of practical catalysts and research trends will be introduced, and students will learn how to utilize specific catalysts and the direction of research and development.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

環境化学工学概論

森 隆昌

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学は工業製品を製造するために必要な基礎知識、理論を学ぶ学問である。本講義では化学工学の基本となる 1.物性、2.収支、3.流動、4.熱の考え方を理解し、各単位操作の基礎について学ぶことを目的とする。

【到達目標】

物質収支、エネルギー収支を理解する。

流動の基礎理論を理解する。

伝熱の基礎理論を理解する。

蒸留の基礎理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、物性、収支、流動、熱の基礎理論について講義するとともに、各単位操作の基礎について演習を交えて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回目	イントロ、化学工学を学ぶための基礎知識	化学工学とは 化学工学に必要な物理量と単位、単位換算
第2回目	物質収支	定常状態（物理プロセス）の物質収支
第3回目	物質収支	定常状態（反応プロセス）の物質収支
第4回目	物質収支	非定常状態の物質収支
第5回目	流体輸送	輸送機器、物質収支
第6回目	流体輸送	エネルギー収支、ベルヌーイの定理
第7回目	流体輸送	ハーゲン・ポアズイユの式
第8回目	これまでの授業のまとめ	習熟度・理解度のチェック、試験
第9回目	熱の移動	伝導伝熱
第10回目	熱の移動	対流伝熱
第11回目	熱の移動	熱交換器
第12回目	物質移動	単蒸留
第13回目	物質移動	連続精留
第14回目	物質移動	蒸留塔の設計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 レポート課題を解いて授業時に提出する。

【テキスト（教科書）】

ビギナーズ化学工学 林順一・堀河俊英著 化学同人

【参考書】

化学工学のテキスト

移動現象（輸送現象）に関する参考書

伝熱に関する参考書

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）、中間試験（35%）、期末試験（35%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業では計算問題を解くため電卓を持参すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Chemical engineering has to do with industrial processes in which raw materials are changed or separated into useful products. In this course students will learn the basic principles of chemical engineering, such as material balance, fluid flow, heat transfer, and mass transfer.

(Learning Objectives) Students are expected to formulate and solve material and energy balances on chemical process systems. Students are also expected to understand the basic theories for transport phenomena, heat conduction and distillation.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Final grade will be calculated according to the following process; the mid-term examination (35%) and term-end examination (35%) and the required assignments (30%).

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

環境化学工学応用

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学の基礎理論は、輸送現象論、反応工学、化学熱力学に集約される。この講義では、輸送現象論のうち特に、流動と伝熱について取り上げ、基礎理論から実装置の設計・解析の手法までを学ぶ。

【到達目標】

管内の流れを運動量輸送の観点で捉え、流れに層流、遷移流、乱流の区別があること、速度分布があること、を知ることを通じて流れの特性について理解する。また、伝熱に関しては、伝導、対流、輻射の3つのメカニズムの数学的な取り扱いを理解し、最終的には熱交換器など、実装置の設計ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

解析に必要な系は、図としてスクリーンに表示することで、まず全体像を明らかにする。板書による講義が主体となるが、数式の導出過程は極力丁寧に示すことで対応する。内容の理解のために、問題演習が大きなウェイトを占める。

本講義は対面式での実施を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	化学工学と輸送現象論	化学工学の基礎理論を概説し、その中で輸送現象論が果たす役割について述べる。
第2回	輸送現象論の中の流動および伝熱	
第2回	流動（1）：流れの分類、力と運動量	流動は運動量輸送、伝熱はエネルギー輸送として捉える。そのための基本法則について考える。
第3回	流動（2）：平板上の流れ	平板上の流れについて、速度分布を求め、最終的には体積流量を導出する。
第4回	流動（3）：円管内流動	円管内流動について、速度分布を求め、最終的には体積流量（ハーゲン・ポアズイユの法則）を導出する。
第5回	流動（4）：乱流、ベルヌーイの定理	。乱流を含む、やや複雑な流れ系について考える。ベルヌーイの定理を導出する。
第6回	流動（5）：ベルヌーイの定理（続き）	ベルヌーイの定理を用いる例題を解く。さらに、充填層の圧力計算について言及する。
第7回	流動（6）：運動量輸送方程式	運動量輸送方程式の一般形として、Navier-Stokesの方程式について概説する。
第8回	伝熱（1）：伝熱メカニズム	伝熱の3つのメカニズムについて、基本法則を復習する。
第9回	伝熱（2）：伝導伝熱	電流による発熱を伴う伝導伝熱について、温度分布を考える。
第10回	伝熱（3）：伝導伝熱の例題	伝導伝熱に関する複数の例題を学ぶ。
第11回	伝熱（4）：対流伝熱	対流伝熱のメカニズムおよび熱伝達係数の推算について学ぶ。

第12回 伝熱（5）：熱交換器 熱交換器の設計方程式を導出する。

第13回 伝熱（6）：輻射伝熱 輻射伝熱のメカニズムについて考える。対流と輻射の同時進行形について考える。
エネルギー方程式を用いて例題の別解を考える。

第14回 伝熱（7）：対流と輻射による伝熱 複合伝熱および複合伝熱係数について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

内容の理解には、レポート課題の遂行が必須である。したがって、履修者は全員、全課題について、解答の義務を負うものとする。

課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【テキスト（教科書）】

藤田重文著：化学工学演習、東京化学同人

【参考書】

Bird, Stewart, Lightfoot: Transport Phenomena 2-nd edition, Wiley

藤田重文著：化学工学I（第2版）、岩波全書（絶版）

相良 紘著：よくわかる 化学工学計算の基礎、日刊工業新聞社（絶版）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 50%

定期(期末)試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

科目の性格上、着目している系の数学的取り扱い避けられないが、無味乾燥な数式の導出にならぬよう、現実に近い系で、得られた数式の有用性を確認できるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンによる着目系の表示と、板書またはパワーポイントによる。

【その他の重要事項】

演習問題を遂行するために、関数電卓の携帯は必須である。

本講義は日米の民間研究所で実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義することで、基礎理論の応用例を身近に実感できるように配慮している。

【Outline (in English)】

1.Course outline

Basic principles in chemical engineering include transport phenomena, chemical reaction engineering, and chemical thermodynamics. This course teaches the fluid flow dynamics and heat transfer usually categorized in transport phenomena. Students will learn basic theories as well as designing and analyzing procedures of real industrial devices used in chemical plants and factories.

2.Learning Objectives

Students understand the behavior of the fluid from the viewpoint of momentum transport and understand also that there is a velocity distribution in the fluid for the first half period. About the energy transport in the second half, students must learn mathematical treatment of three mechanisms of heat transfer in order to design real chemical plant devices, including heat exchangers.

3.Learning activities outside of classroom

Students must solve all the homework problems outside the class and hand in their papers before the due.

4.Grading Criteria /Policy

A grading policy is the followings, i.e.,
Final exam 50%+ Homework 50%

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

無機素材反応化学

明石 孝也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無機素材を取り扱う技術者・研究者として必要な状態図と熱力学の基礎を学び、演習により理解を深める。

【到達目標】

状態図を駆使して無機素材のプロセッシングや評価を行える能力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

擬一元系状態図から擬三元系状態図までの演習を段階的に行い、状態図に関する理解を深める。解説の後に演習を行い、学生の解答状況に合わせて適宜解説を加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	相律	相の数え方、示強変数と示量変数の違い、Gibbsの相律、Gibbsの相律の使い方を、演習を通して学ぶ。
第2回	擬一元系状態図(1)：作図	ファンデルワールスの状態方程式を用いて、CO ₂ の $p(\text{圧力})$ - $V(\text{体積})$ 図を作成し、擬一元系状態図の読み方を、演習を通して学ぶ。
第3回	擬一元系状態図(2)：図の理解	CO ₂ の $p(\text{圧力})$ - $V(\text{体積})$ 図とCO ₂ の $T(\text{温度})$ - $p(\text{圧力})$ 図の関係を、演習問題を解くことで理解を深める。
第4回	二元系状態図(1)：正則溶液	二元系の正則溶液の混合ギブズエネルギー曲線を作図し、モル分率と温度の状態図を作製する。
第5回	二元系状態図(2)：酸化還元	金属の酸化反応のギブズエネルギー変化の計算し、自発的な反応が進む方向を決定する。
第6回	二元系状態図(3)：エリンガム図	金属と酸化物共存状態における平衡酸素分圧を計算するとともに、エリンガム図の使い方を演習する。
第7回	中間試験（前半のまとめ）	前半の演習の理解度をチェックする。
第8回	二元系状態図(4)：てこの原理	モル分率vs.温度の状態図を読み、温度が変化した際の状態変化を理解する。また、状態図のてこの原理も理解する。
第9回	二元系状態図(5)：昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率vs.温度の状態図を読み、温度が変化した際の状態変化を理解する。
第10回	二元系状態図(6)：昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率vs.温度の状態図を読み、温度が変化した際の状態変化に関する理解を深める。
第11回	擬三元系状態図：昇温および冷却過程における状態の変化	三角図の読み方を演習を通して学び、酸化物の擬三元系状態図の液相面を解説する。

第12回 熱力学計算の実際(1) 蒸気種の平衡蒸気圧を計算して、
：レアメタルの分離・回収

第13回 熱力学計算の実際(2) 水素－水蒸気混合雰囲気における平衡酸素分圧を計算し、酸素
：酸素濃淡電池 濃淡電池の起電力を計算する。
熱力学計算の実際(3) 固体微粒子の熱力学的安定性 固体微粒子の界面エネルギーを計算し、熱力学的安定性を考察する。

第14回 熱力学計算の実際(4) 非酸化物/酸化物界面における蒸
：非酸化物材料の高温酸化 気種の平衡蒸気圧を計算して、高温酸化挙動を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回の授業中に出題する演習問題による評価が大部分を占める。したがって、前回までの講義内容を復習して理解を深めておくこと、講義の進捗状況に合わせて次回に出題される範囲を予習しておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

・アトキンス 物理化学（上）第10版：中野元裕、上田貴洋、奥村光隆、北河康隆 訳、東京化学同人
・見方・考え方 合金状態図：三浦憲司・小野寺秀博・福富 洋志 著、オーム社
・プログラム学習 相平衡状態図の見方・使い方：山口明良 著、講談社サイエンティフィク

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業中に出題する演習問題(10%)、中間試験(40%)、期末試験(50%)、授業への取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、対面授業と演習を基本的に毎回実施する。
演習課題の解答例は、次々回の授業後にHoppiiにアップロードすることとする。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓。テスト以外ではノートパソコンを持ち込んでも良い。

【その他の重要事項】

鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、材料開発のために必要となる状態図の読み方や熱力学の基礎について講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline) The objective of this class is to learn thermodynamics and phase diagrams for engineer and researcher to fabricate and handle inorganic materials. For deep understanding, many exercises will be used.
(Learning Objectives) Students are expected to understand thermodynamics and phase diagrams,
(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.
(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (10%), mid-term examination (40%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

MAT200XG (数学 / Mathematics 200)

フーリエ変換

西村 滋人

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フーリエ解析とは、周期関数を三角関数を用いて表現する理論で、波動現象全般を解析する基本的な手法として多方面で活用される。この授業では、フーリエ級数、フーリエ変換、およびラプラス変換の基礎とその基本的な応用例を学ぶ。

【到達目標】

1. 周期関数をフーリエ級数に展開することができるようになる。
2. フーリエ変換の仕組みと工学的な意味を理解する。
3. ラプラス変換を計算して微分方程式を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

板書による講義。演習も適宜実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	周期関数	三角関数の周期についての復習
2	フーリエ級数	三角関数の直交性および周期関数の三角関数による表示
3	フーリエ級数の計算例	フーリエ係数の計算についての例題の解説
4	正弦展開と余弦展開	奇関数ないし偶関数のフーリエ展開
5	Gibbs現象	不連続点付近でのフーリエ級数の挙動についての注意
6	フーリエ級数の収束	Dirichlet積分核、パーセバルの等式など
7	演習1	講義前半のまとめ
8	複素フーリエ級数	周期関数の複素指数関数による冪級数表示
9	フーリエ変換	周期的でない関数の取り扱い
10	フーリエ変換の性質	フーリエ変換の様々な公式の紹介
11	ラプラス変換	定義および初等関数のラプラス変換の計算
12	逆ラプラス変換	原関数の復元と微分方程式への応用
13	演習2	講義後半のまとめ
14	期末試験・まとめと解説	講義内容の理解の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
フーリエ級数やフーリエ変換は関数を積分変換して自然現象を解析する手法で、微分積分学で学んだ事項が活用されます。必要に応じて各自復習すると同時に、定義や用語はきちんと確認して問題の要求を正しく把握し、関連のありそうな事項はまめに見直して、試行錯誤を厭わず問題解決の道筋を探る姿勢を身につけてください。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

大石進一「フーリエ解析」（理工系の数学入門コース新装版）（岩波書店）

国分雅敏「ラプラス変換」（数学のかんどころ13）（共立出版）

【成績評価の方法と基準】

学力試験80% レポート課題20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces Fourier series and Fourier transforms.
(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) to calculate Fourier series expansion of periodic functions,
- (2) to apply methods of Fourier transform in engineering, and
- (3) to solve ordinary differential equations by using Laplace transform.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Term-end examination:80%, Short reports:20%.

MAT200XG (数学 / Mathematics 200)

空間の幾何

福島 莊之介

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は数学教職科目「幾何」を念頭におく測地天文系の専門科目である。授業では立体の数学と測地を中心に、衛星測位や特殊相対論で使用する幾何数学を学ぶ。

【到達目標】

本授業が、空間の幾何学を通して現代科学で駆使される科学観測や物理学の理解への橋渡しとなることを目指す。修了後に速やかに様々な科学観測や衛星測位、特殊相対論などを学べるようになっていることを目指す。そのため、主に衛星測位の原理を理解すること、特殊相対論などを学ぶための幾何の基礎知識の獲得を到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では宇宙や地球観測の事例を幅広く紹介し、様々な分野において共通に使われる幾何の知識を有用な道具として学べるようにする。具体的には現代において地球や宇宙がどのように観測されているかを、測地と空間幾何の観点から学ぶ。

可能な限り基礎的な幾何の練習問題を用意し、これを確実に身に付けていくことで学習を進める。

毎回授業アンケートや感想を出席の確認に提出してもらっており、授業の進め方の希望や特に興味のある話題などを書いてもらい、授業に取り入れるようにしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地球・宇宙の数学的記述	地球や宇宙の観測において必要となる数学について概観する
第2回	三角関数とベクトル	測地で用いる三角関数とベクトルについての復習
第3回	三角測量と基準	三角測量における基準について学ぶ
第4回	三角形と多角形	測地における三角形や多角形の用い方を学ぶ
第5回	球面幾何と緯度経度	球面幾何による緯度経度の表し方を学ぶ
第6回	地球座標系と地球楕円体	地球上のある地点を表す様々な方法を学ぶ
第7回	幾何変換	様々な幾何変換とその方法を学ぶ
第8回	地図の投影	地図の投影方法について学ぶ
第9回	球面幾何と天球座標	天球座標の表し方について学ぶ
第10回	天体の位置決定と天文航法	宇宙空間での天体の位置決定の方法と天文航法について学ぶ
第11回	天体の距離決定	宇宙空間で天体の距離をどのように測定しているかについて学ぶ
第12回	衛星測位とGPS	衛星測位の考え方とGPSの原理について学ぶ
第13回	衛星測位とGPS	衛星測位の考え方とGPSの原理について学ぶ
第14回	まとめ	各回の課題から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】課題として幾何数学の前提となる基礎知識を確認してもらうことがある。準備としてこれまでに高校や一般教養科目で学んできた数学を、目的をもって復習することで、授業内容の理解が深まるように進めたい。

【テキスト（教科書）】

日本測地学会のテキストを中心とする

<http://www.geod.jp/web-text/index.html#gsc.tab=0>

【参考書】

必要に応じて講義で示す

【成績評価の方法と基準】

課題として出す練習問題を確実に解けるようになること。

まとめではこれから出題する。

評価基準は課題が40%期末試験が60%とし、期末試験の合格点は60点以上とする。

課題の提出、発表状況に応じて成績をプラス α する。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題を可能な限り提供したい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと計算用紙は必須

【その他の重要事項】

数学的な厳密さより、数学の実際的な使用方法を学ぶ。講義は時間に限りがあり、すべての重要事項を盛り込むことは難しい。授業内容は変更になることもある。

【Outline (in English)】

In this class, we learn space geometry by understanding the practical geodesy and elements of global navigation satellite system (GNSS).

This class aims to be a bridge to the understanding of scientific observation and physics used in modern science.

In the lecture, we will introduce a wide range of cases of space and earth observation so that we can learn the knowledge of geometry commonly used in various fields as a useful tool. Specifically, we will learn how the earth and the universe are observed in modern times from the viewpoint of geodesy and spatial geometry.

Being able to solve the exercises that are given as assignments, and questions will be asked from these in final exam.

The evaluation criteria are 40%for assignments and 60%for final exams, and the passing score for final exams is 60 points or higher.

MAT200XG (数学 / Mathematics 200)

対称性と構造

長谷 正司

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2016年度のノーベル物理学賞の受賞者の1人であるホールデンは、1次元格子の格子点に、電子（のスピン）を奇数個ずつ置く場合と偶数個ずつ置く場合で、性質が大きく異なることを示した（ホールデン予想）。多くの人が疑念を抱いたが、その後の研究の進展により、その予想が正しいことが証明された。実は、対称性を考慮すると、その予想が妥当であることが容易に理解できることも分かった。対称性は色々な分野で重要な概念である。対称性を理解するためには、群論という数学を理解することが重要である。本授業では、できるだけ例を挙げながら、群論に関して学ぶ。

【到達目標】

本授業を履修し理解することで、学生は、群の定義に始まり、どのような群が存在し、どのような性質を持つかを理解することができる。対称性の概念は、多くの人が特に意識せずに使っている。例えば、正三角形は重心まわりに120度回転させると元の正三角形と重なるなどである。群論を理解すれば、対称性を体系立てて理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心とする。原則的には対面授業である。課題等については翌週の授業の中で講評する。講義期間中に節目での小テストも行う。授業計画の変更等があれば、学習支援システム（Hoppii）でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	対称性が重要な役割を果たす物理について紹介する。また、正四面体などを例に挙げて、どのような対称性があるかを示して、対称性という概念に慣れてもらう。
2	群の公理、数の集合	群の公理を学ぶ。また、実数全体の集合などを使って、群の公理の理解を深める。
3	2面体群	2面体群について学ぶ。また、2面体群を用いて、可換ではない対称性の群について学ぶ。
4	部分群と生成元	ある群では、その部分集合も群（部分群）になることがある。部分群について学ぶ。また、部分群に関する幾つかの定理を学ぶ。
5	置換	置換の集合も群となることを学ぶ。また、偶置換と奇置換の概念について学ぶ。
6	同型写像	見た目では異なる2つの群も、群の性質としては同じであることがある（同型）。同型と同型写像について学ぶ。また、同型写像に関する幾つかの定理を学ぶ。
7	中間まとめ	今までに学んだことをまとめる。

8	プラトンの立体とケイリーの定理	5つの凸な正多面体（プラトンの立体）の回転対称性のなす群がどの群と同型かを学ぶ。また、関連する定理を学ぶ。
9	行列群	行列の集合も群になり得ること、どのような行列群が存在するかを学ぶ。
10	群の直積	群の直積の概念と関連する定理を学ぶ。
11	ラグランジュの定理	ラグランジュの定理と関連する定理を学ぶ。
12	分割	分割の概念と関連する定理を学ぶ。
13	コーシーの定理	小さな位数（8まで）の群は、どのような群と同型になるかを学ぶ。
14	まとめ	授業内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義内容の理解を深めるため、授業ノートと配布資料を勉強することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

対称性からの群論入門、M.A. アームストロング(著)、佐藤信哉(訳)、丸善出版。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験得点75%、講義期間中の小テストを含む平常点25%。

【学生の意見等からの気づき】

例を多用しながら、分かり易い授業になるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【Outline (in English)】

The concept of symmetry is important in various fields. It is important to study group theory in order to understand symmetry. In the lectures, I will explain group theory using various examples. The goals of this course are to understand group theory and symmetry. Students will be expected to study a lecture notebook and documents distributed in lectures. Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (75%) and mid-term examination (25%).

COT111KA-CS-100 (計算基盤 / Computing technologies 100)

情報科学入門

日高 宗一郎

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：AB クラス

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学における最も基本的な概念である、アルゴリズム、計算、モデル化について学ぶ。

【到達目標】

情報科学の分野でアルゴリズムおよび計算をどのように取り扱っているかを理解する。また、実世界の様々な問題をコンピュータで扱う上で不可欠となるモデル化の概念と方法論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

情報科学の分野において実世界の様々な問題を解くためには、情報科学特有の概念をまず初めに理解する必要がある。本講義は、情報科学の理論に初めて触れる学生を対象とし、今後、情報科学を学んでいくために不可欠となる、プログラミングの基礎であるアルゴリズムの記述法、情報科学における計算の取り扱い方、実世界を対象とした問題を情報科学で扱うためのモデル化の手法を初学者が身に付けられるように講義を進める。また、講義で示した手法を学生が実感できるよう、アルゴリズム、計算、モデル化のそれぞれにおいて演習を行う。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報科学とは	ガイダンス、講義に必要な環境整備を行う。
2	アルゴリズム基礎(1)	アルゴリズムとは何かを理解するとともに、簡単なアルゴリズムの例を学ぶ。
3	アルゴリズム基礎(2)	フローチャートによってアルゴリズムを記述する方法を理解する。
4	Scratchによるアルゴリズム学習	簡単なアルゴリズムをScratchでプログラミングする。
5	計算とは(1)	情報科学分野における計算の概念を学ぶとともにチューリングマシンの定義を学ぶ。
6	計算とは(2)	計算の理解に重要な再帰の概念と、チューリングマシンによる再帰の実現法について学ぶ。
7	チューリングマシンによるアルゴリズム記述の例	幾つかの具体的なアルゴリズムのチューリングマシンによる記述法を理解する。
8	チューリングマシンの記述演習	簡単なアルゴリズムをチューリングマシンで記述することにより、チューリングマシンに関する理解を深める。
9	チューリングマシンの限界の理解	チューリングマシンの停止性判定問題を通して、チューリングマシンの計算可能性の限界を理解する。
10	情報科学における問題の解き方	情報科学分野においてモデル化を行うことの重要性を理解する。

11	情報科学におけるモデル化の実例	物理現象のモデル化など、情報科学分野におけるモデル化の実例を学ぶ。
12	実世界の問題をモデル化する演習	簡単な実世界の現象のモデル化を通して、モデルの概念に関する理解を深める。
13	モデル化に関する演習課題の振り返り	第12回の講義で行った演習課題を振り返る。発表会を行う可能性もある。
14	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する現在の課題およびまとめ	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する最新のトピックを学ぶ。本講義で学んだ内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。

本授業の準備・学習時間は、各週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

L. ゴールドシュレーガー, A. リスター (著), 武市正人, 角田博保, 小川貴英 (訳), 計算機科学入門, 近代科学社, 2000. ISBN 4-7649-0284-2
川合慧 (編), 情報, 東京大学出版会, 2006. ISBN 978-4-13-062451-0
山口和紀 (編), 情報 第2版, 東京大学出版会, 2016. ISBN 978-4-13-062457-2

和達三樹, 物理のための数学 (物理入門コース 新装版), 岩波書店, 2017. ISBN 978-4000298704

デヴィッド・バージェス モラグ・ボリー (著), 垣田 高夫 (翻訳), 大町比佐栄 (翻訳), 微分方程式で数学モデルを作ろう, 日本評論社, 1990. ISBN 978-4535781733

阿部 彩芽 (著), 笠井 琢美 (著), チューリングの考えるキカイ, 技術評論社, 2018, ISBN 978-4-7741-9689-3

猪股 俊光 (著), 山田 敬三 (著), 計算モデルとプログラミング, 森北出版, 2019, ISBN 978-4627854710

John MacCormick (著), 松崎 公紀 (監修), 長尾高弘 (翻訳), 計算できるもの、計算できないもの, オライリージャパン, 2020, ISBN 978-4873119335

【成績評価の方法と基準】

期末試験を90%以上とし、レポート、授業中の参加の度合、貢献度を最大10%考慮して総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

高度な内容については適宜補足を加える。

学習支援システム上の課題受付締切設定についての説明を詳しく行う。

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノートPCを利用する。

【その他の重要事項】

本講義の内容は、担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのプログラミング言語設計に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

In this course the notions of algorithm, computation and modeling that are most fundamental to information sciences are covered.

The goal of this course is to understand

- how the notions of algorithm and computation are treated in the field of information science.

- notion and methodology of modeling that are indispensable to treat real-world problems in computers.

Besides attending the class, students are expected to review the content of the course, complete assignments and submit reports.

Students will be studying four hours for a class.

Final grade will be calculated based on, but not limited to, term-end exam (more than 90%), reports and in class contribution (up to 10%).

COT111KA-CS-100 (計算基盤 / Computing technologies 100)

情報科学入門

坂本 寛

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：CD クラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学における最も基本的な概念である、アルゴリズム、計算、モデル化について学ぶ。

【到達目標】

情報科学の分野でアルゴリズムおよび計算をどのように取り扱っているかを理解する。また、実世界の様々な問題をコンピュータで扱う上で不可欠となるモデル化の概念と方法論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

情報科学の分野において実世界の様々な問題を解くためには、情報科学特有の概念をまず初めに理解する必要がある。本講義は、情報科学の理論に初めて触れる学生を対象とし、今後、情報科学を学んでいくために不可欠となる、プログラミングの基礎であるアルゴリズムの記述法、情報科学における計算の取り扱い方、実世界を対象とした問題を情報科学で扱うためのモデル化の手法を初学者が身に付けられるように講義を進める。また、講義で示した手法を学生が実感できるよう、アルゴリズム、計算、モデル化のそれぞれにおいて演習を行う。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報科学とは	ガイダンス、講義に必要な環境整備を行う。
2	アルゴリズム基礎(1)	アルゴリズムとは何かを理解するとともに、簡単なアルゴリズムの例を学ぶ。
3	アルゴリズム基礎(2)	フローチャートによってアルゴリズムを記述する方法を理解する。
4	Scratchによるアルゴリズム学習	簡単なアルゴリズムをScratchでプログラミングする。
5	計算とは(1)	情報科学分野における計算の概念を学ぶとともにチューリングマシンの定義を学ぶ。
6	計算とは(2)	計算の理解に重要な再帰の概念と、チューリングマシンによる再帰の実現法について学ぶ。
7	チューリングマシンによるアルゴリズム記述の例	幾つかの具体的なアルゴリズムのチューリングマシンによる記述法を理解する。
8	チューリングマシンの記述演習	簡単なアルゴリズムをチューリングマシンで記述することにより、チューリングマシンに関する理解を深める。
9	チューリングマシンの限界の理解	チューリングマシンの停止性判定問題を通して、チューリングマシンの計算可能性の限界を理解する。
10	情報科学における問題の解き方	情報科学分野においてモデル化を行うことの重要性を理解する。

11	情報科学におけるモデル化の実例	物理現象のモデル化など、情報科学分野におけるモデル化の実例を学ぶ。
12	実世界の問題をモデル化する演習	簡単な実世界の現象のモデル化を通して、モデルの概念に関する理解を深める。
13	モデル化に関する演習課題の振り返り	第12回の講義で行った演習課題を振り返る。発表会を行う可能性もある。
14	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する現在の課題およびまとめ	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する最新のトピックを学ぶ。本講義で学んだ内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。

本授業の準備・学習時間は、各週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

L. ゴールドシュレーガー, A. リスター (著), 武市正人, 角田博保, 小川貴英 (訳), 計算機科学入門, 近代科学社, 2000. ISBN 4-7649-0284-2
川合慧 (編), 情報, 東京大学出版会, 2006. ISBN 978-4-13-062451-0
山口和紀 (編), 情報 第2版, 東京大学出版会, 2016. ISBN 978-4-13-062457-2

和達三樹, 物理のための数学 (物理入門コース 新装版), 岩波書店, 2017. ISBN 978-4000298704

デヴィッド・バージェス モラグ・ボリー (著), 垣田 高夫 (翻訳), 大町比佐栄 (翻訳), 微分方程式で数学モデルを作ろう, 日本評論社, 1990. ISBN 978-4535781733

阿部 彩芽 (著), 笠井 琢美 (著), チューリングの考えるキカイ, 技術評論社, 2018, ISBN 978-4-7741-9689-3

猪股 俊光 (著), 山田 敬三 (著), 計算モデルとプログラミング, 森北出版, 2019, ISBN 978-4627854710

John MacCormick (著), 松崎 公紀 (監修), 長尾高弘 (翻訳), 計算できるもの、計算できないもの, オライリージャパン, 2020, ISBN 978-4873119335

【成績評価の方法と基準】

期末試験を90%以上とし、レポート、授業中の参加の度合、貢献度を最大10%考慮して総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

高度な内容については適宜補足を加える。

学習支援システム上の課題受付締切設定についての説明を詳しく行う。

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

In this course the notions of algorithm, computation and modeling that are most fundamental to information sciences are covered.

The goal of this course is to understand

- how the notions of algorithm and computation are treated in the field of information science.

- notion and methodology of modeling that are indispensable to treat real-world problems in computers.

Besides attending the class, students are expected to review the content of the course, complete assignments and submit reports.

Students will be studying four hours for a class.

Final grade will be calculated based on, but not limited to, term-end exam (more than 90%), reports and in class contribution (up to 10%).

COT111KA-CS-102 (計算基盤 / Computing technologies 100)

コンピュータシステム入門1

高村 誠之

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学ぶに当たって技術的側面の入門を学ぶ。後続の科目全般の基盤となる最も基礎的な内容として、コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を養う。まず、全ての土台となるコンピュータのハードウェアについて、これまでの発展の歴史とその基本的な仕組みを学ぶ。また、現在の情報処理に欠かせない通信の概念や、コンピュータ上で様々な情報を表現するメディアデータの仕組みと構造を理解する。

【到達目標】

- ・コンピュータの基本的な仕組みを理解する
- ・コンピュータで計算ができる仕組みを理解する
- ・コンピュータにおける通信の基礎を理解する
- ・コンピュータ上の様々な情報の表現方法について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心として、演習や課題を交えながら進める。課題等の提出・フィードバックはhoppiiおよびその他教員が指定するツールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入：コンピュータと情報処理	コンピュータと情報処理分野の社会における位置づけなど一般的な概念を理解する。
2	コンピュータの歴史	現在に至るまでのコンピュータの歴史を概観し、現在の情報基盤を支えるコンピュータの発展を理解する。
3	コンピュータにおける計算の概念	コンピュータがなぜ計算ができるのかを学ぶ。
4	コンピュータのしくみ	コンピュータの仕組みを中心に、コンピュータの基本を学ぶ。
5	コンピュータの構成要素	コンピュータを構成する個々の装置について、構造や仕組みを学ぶ。
6	デジタル回路	コンピュータを構成する基本要素であるデジタル回路の基礎を概観する。
7	基本演算の仕組み1	コンピューターが行う基本演算とその実現法を学ぶ（加算・減算・2の補数表現）
8	基本演算の仕組み2	コンピューターが行う基本演算とその実現法を学ぶ（乗算・浮動小数点）
9	振り返り（前半）	演習問題を解くなどして本講義前半部分の理解度を確認する。
10	情報の表現：テキスト	文字コードやフォント、符号化等のテキスト処理について学ぶ。
11	情報の表現：音・音声	聴覚や音声処理、音声合成、音声認識といった音に関わるメディア処理について学ぶ。

12	情報の表現：画像・動画	視覚や色に関する基本知識、および、画像・動画のフォーマットについて学ぶ。
13	通信の仕組み	無線LANやEthernetなどの実際のネットワークに接続する際の基礎技術について学ぶ。
14	振り返り（後半）	演習問題を解くなどして本講義後半部分の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に課題が課された場合は、それを解くこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配付資料による

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点10%、課題10%、期末試験80%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与Note PCを使用する。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での映像情報処理に関する研究開発に関する知見を元に、実務に必要な情報科学技術に関する講義を行う。

【Outline (in English)】

This course provides an integrated introduction to computer systems. Our goal is for you to learn about the hierarchy of abstractions and implementations that comprise a modern computer system. This will provide a conceptual framework that you can then flesh out with courses such as compiler, operating systems, networks, and others.

Students will be expected to study the topic given in the class around four hours in each week. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 10%, mid-term reporting 10%, term-end examination: 80%.

COT111KA-CS-102 (計算基盤 / Computing technologies 100)

コンピュータシステム入門1

坂本 寛

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学ぶに当たって技術的側面の入門を学ぶ。後続の科目全般の基盤となる最も基礎的な内容として、コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を養う。まず、全ての土台となるコンピュータのハードウェアについて、これまでの発展の歴史とその基本的な仕組みを学ぶ。また、現在の情報処理に欠かせない通信の概念や、コンピュータ上で様々な情報を表現するメディアデータの仕組みと構造を理解する。

【到達目標】

- ・コンピュータの基本的な仕組みを理解する
- ・コンピュータで計算ができる仕組みを理解する
- ・コンピュータにおける通信の基礎を理解する
- ・コンピュータ上の様々な情報の表現方法について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心として、演習や課題を交えながら進める。課題等の提出・フィードバックはhoppiiおよびその他教員が指定するツールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入：コンピュータと情報処理	コンピュータと情報処理分野の社会における位置づけなど一般的な概念を理解する。
2	コンピュータの歴史	現在に至るまでのコンピュータの歴史を概観し、現在の情報基盤を支えるコンピュータの発展を理解する。
3	コンピュータにおける計算の概念	コンピュータがなぜ計算ができるのかを学ぶ。
4	コンピュータのしくみ	コンピュータの仕組みを中心に、コンピュータの基本を学ぶ。
5	コンピュータの構成要素	コンピュータを構成する個々の装置について、構造や仕組みを学ぶ。
6	デジタル回路	コンピュータを構成する基本要素であるデジタル回路の基礎を概観する。
7	基本演算の仕組み1	コンピューターが行う基本演算とその実現法を学ぶ（加算・減算・2の補数表現）
8	基本演算の仕組み2	コンピューターが行う基本演算とその実現法を学ぶ（乗算・浮動小数点）
9	振り返り（前半）	演習問題を解くなどして本講義前半部分の理解度を確認する。
10	情報の表現：テキスト	文字コードやフォント、符号化等のテキスト処理について学ぶ。
11	情報の表現：音・音声	聴覚や音声処理、音声合成、音声認識といった音に関わるメディア処理について学ぶ。

12	情報の表現：画像・動画	視覚や色に関する基本知識、および、画像・動画のフォーマットについて学ぶ。
13	通信の仕組み	無線LANやEthernetなどの実際のネットワークに接続する際の基礎技術について学ぶ。
14	振り返り（後半）	演習問題を解くなどして本講義後半部分の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に課題が課された場合は、それを解くこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配付資料による

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】

試験(90%)，講義における積極性などの参加度(10%)を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与Note PCを使用する。

【Outline (in English)】

This course provides an integrated introduction to computer systems. Our goal is for you to learn about the hierarchy of abstractions and implementations that comprise a modern computer system. This will provide a conceptual framework that you can then flesh out with courses such as compiler, operating systems, networks, and others.

Students will be expected to study the topic given in the class around four hours in each week. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 10%, mid-term reporting 10%, term-end examination: 80%.

COT111KA-CS-200 (計算基盤 / Computing technologies 100)

コンピュータシステム入門2

村上 健一郎

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

OSやインターネットを中心に現在の情報技術の基礎を理解するとともに、ウェブ、音声、画像といった身近な話題を通してコンピュータシステムの全体像の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、実際のOSの例を見ながら、OSの役割の概要を理解する。また、多くのOSが備えているファイルシステムなどの基本機能の理解を深める。さらに、インターネット、ウェブ、クラウド等、現在の情報通信技術の基盤となる仕組みを学ぶ。また、情報を人間が理解できる様々な形で表現し処理する技術であるマルチメディアを体系的に理解する。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・OSとは何か	この講義の全体像を説明するとともに、ユーザやプロセスといった基本的な概念を理解する。
2	OSの仮想化・抽象化	OSの主要な役割である仮想化・抽象化機能を理解する。
3	システムコール・ファイルシステム	OSによる機能提供の仕組みとファイルの管理を理解する。
4	OS演習	OSの使用に関する演習を行う。
5	データベース	情報保存のしくみとしてのデータベースを理解する。
6	データベース演習	データベースの作成と使用に関する演習を行う。
7	インターネットの基礎	インターネットの歴史とその基本的な仕組みを理解する。
8	ウェブ	ネットワーク越しに情報を管理・交換する仕組みを理解する。
9	ウェブにおける情報表現	ウェブにおける情報表現やデータの取り扱いを理解する。
10	セキュリティ	インターネットやウェブの通信セキュリティを理解する。
11	音声符号化	音をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
12	画像符号化	画像をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
13	クラウドコンピューティング	クラウドコンピューティングの概念と技術を理解する。
14	ユビキタスコンピューティング・IoT	ユビキタスコンピューティングやIoTの概念と技術を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

入門マルチメディア [第二版], CG-ARTS協会, 2023. ISBN978-4-903474-67-0

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、および、レポートや講義への貢献などの平常点（20%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

You will learn basic knowledge for making use of information technologies such as computer, the internet, etc.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on exercises (20%) and term-end examination (80%).

COT111KA-CS-200 (計算基盤 / Computing technologies 100)

コンピュータシステム入門2

小池 崇文

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：CD クラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

OSやインターネットを中心に現在の情報技術の基礎を理解するとともに、ウェブ、音声、画像といった身近な話題を通してコンピュータシステムの全体像の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、実際のOSの例を見ながら、OSの役割の概要を理解する。また、多くのOSが備えているファイルシステムなどの基本機能の理解を深める。さらに、インターネット、ウェブ、クラウド等、現在の情報通信技術の基盤となる仕組みを学ぶ。また、情報を人間が理解できる様々な形で表現し処理する技術であるマルチメディアを体系的に理解する。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・OSとは何か	この講義の全体像を説明するとともに、ユーザやプロセスといった基本的な概念を理解する。
2	OSの仮想化・抽象化	OSの主要な役割である仮想化・抽象化機能を理解する。
3	システムコール・ファイルシステム	OSによる機能提供の仕組みとファイルの管理を理解する。
4	OS演習	OSの使用に関する演習を行う。
5	データベース	情報保存のしくみとしてのデータベースを理解する。
6	データベース演習	データベースの作成と使用に関する演習を行う。
7	インターネットの基礎	インターネットの歴史とその基本的な仕組みを理解する。
8	ウェブ	ネットワーク越しに情報を管理・交換する仕組みを理解する。
9	ウェブにおける情報表現	ウェブにおける情報表現やデータの取り扱いを理解する。
10	セキュリティ	インターネットやウェブの通信セキュリティを理解する。
11	音声符号化	音をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
12	画像符号化	画像をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
13	クラウドコンピューティング	クラウドコンピューティングの概念と技術を理解する。
14	ユビキタスコンピューティング・IoT	ユビキタスコンピューティングやIoTの概念と技術を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

入門マルチメディア [第二版], CG-ARTS協会, 2023. ISBN978-4-903474-67-0

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、および、レポートや講義への貢献などの平常点（20%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

You will learn basic knowledge for making use of information technologies such as computer, the internet, etc.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on exercises (20%) and term-end examination (80%).

PRI110KA-CS-103 (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

離散構造 1

佐藤 裕二

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：AB クラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学び活用するために必要となる数学的な基礎として、集合、数え上げ、離散型確率を学ぶ。

【到達目標】

集合、数え上げ、離散型確率の基本を理解する。特に記号的、形式的な表現と考え方を習得する。さらに具体的な問題を数学的に捉えて解決する方法論を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に集合に関して、基礎概念、集合演算、関係、順序、関数を扱う。次に数え上げに関して、基礎概念、順列、組合せ、数列、漸化式等を扱う。最後に離散型確率に関して、基礎概念、ベイズの定理、離散型確率分布等を扱う。授業では予習課題、復習課題を課す。学期の途中に認定試験を行う。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	集合の基礎(1)	集合、要素、数の集合、外延の原理、抽象の原理、外延的定義、内包的定義
2	集合の基礎(2)	普遍集合、空集合、部分集合、真部分集合、部分集合の性質、ベン図、ベン図による論証
3	集合演算	和、共通部分、互いに素、差、補集合、集合演算の基本的性質、集合代数、双対原理、集合族、べき集合、分割
4	関係(1)	組、順序対、直積、n項関係、2項関係、同等関係、図式表現、逆、合成
5	関係(2)	反射的、対称的、反対称的、推移的、同値関係、同値類、閉包
6	順序	半順序、擬順序、比較可能、全順序、辞書式順序、直前、直後
7	関数	関数、定義域、値域、恒等関数、制限写像、グラフ、合成、合成関数の結合律、単射、全射、可逆、逆関数、全単射、単射・全射・逆関数に関する基本的定理
8	数え上げ(1)	有限集合、要素数、包除原理、樹形図、和の法則、積の法則、順列、組合せ、パスカルの3角形、2項定理
9	数え上げ(2)	等差数列、等比数列、漸化式、合同算術、鳩の巣原理
10	認定試験解説	認定試験の問題・解答の解説と要点の確認
11	離散型確率(1)	離散型確率空間、事象、確率の公理、確率測度

12	離散型確率(2)	条件付き確率、ベイズの定理、独立性、条件付き独立性
13	離散型確率(3)	離散型確率分布、期待値、分散
14	まとめ	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と講義資料の予習、復習を行い、課題に対するレポートの作成を行うこと。

授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

S. Lipschutz (著), 成嶋弘監(訳), 離散数学—コンピュータサイエンスの基礎数学, マグロウヒル大学演習, オーム社, 2022. ISBN 978-4-274-22820-9

【成績評価の方法と基準】

レポート課題20%, 試験(中間, 期末)60%, 平常点20%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間を十分に取る。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce mathematical foundations need to study and utilize computer and information sciences.

Learning Objectives: Students will learn sets, counting, and discrete probability

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading criteria: Short report: 20%, Final exam: 60%, Contribution to the class: 20%

PRI110KA-CS-103 (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

離散構造 1

小池 崇文

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：CD クラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学び活用するために必要となる数学的な基礎として、集合、数え上げ、離散型確率を学ぶ。

【到達目標】

集合、数え上げ、離散型確率の基本を理解する。特に記号的、形式的な表現と考え方を習得する。さらに具体的な問題を数学的に捉えて解決する方法論を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に集合に関して、基礎概念、集合演算、関係、順序、関数を扱う。次に数え上げに関して、基礎概念、順列、組合せ、数列、漸化式等を扱う。最後に離散型確率に関して、基礎概念、バイズの定理、離散型確率分布等を扱う。授業では予習課題、復習課題を課す。学期の途中に認定試験を行う。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	集合の基礎(1)	集合、要素、数の集合、外延の原理、抽象の原理、外延的定義、内包的定義
2	集合の基礎(2)	普遍集合、空集合、部分集合、真部分集合、部分集合の性質、ベン図、ベン図による論証
3	集合演算	和、共通部分、互いに素、差、補集合、集合演算の基本的性質、集合代数、双対原理、集合族、べき集合、分割
4	関係(1)	組、順序対、直積、n項関係、2項関係、同等関係、図式表現、逆、合成
5	関係(2)	反射的、対称的、反対称的、推移的、同値関係、同値類、閉包
6	順序	半順序、擬順序、比較可能、全順序、辞書式順序、直前、直後
7	関数	関数、定義域、値域、恒等関数、制限写像、グラフ、合成、合成関数の結合律、単射、全射、可逆、逆関数、全単射、単射・全射・逆関数に関する基本的定理
8	数え上げ(1)	有限集合、要素数、包除原理、樹形図、和の法則、積の法則、順列、組合せ、パスカルの3角形、2項定理
9	数え上げ(2)	等差数列、等比数列、漸化式、合同算術、鳩の巣原理
10	認定試験解説	認定試験の問題・解答の解説と要点の確認
11	離散型確率(1)	離散型確率空間、事象、確率の公理、確率測度

12	離散型確率(2)	条件付き確率、バイズの定理、独立性、条件付き独立性
13	離散型確率(3)	離散型確率分布、期待値、分散
14	まとめ	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と講義資料の予習、復習を行い、課題に対するレポートの作成を行うこと。

授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

S. Lipschutz (著), 成嶋弘監(訳), 離散数学—コンピュータサイエンスの基礎数学, マグロウヒル大学演習, オーム社, 2022. ISBN 978-4-274-22820-9

【成績評価の方法と基準】

レポート課題20%, 試験(中間, 期末)60%, 平常点20%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間を十分に取る。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での様々な情報科学技術に関する研究開発の知見を基に実務に必要なコンピュータシステムに関する講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce mathematical foundations need to study and utilize computer and information sciences.

Learning Objectives: Students will learn sets, counting, and discrete probability

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading criteria: Short report: 20%, Final exam: 60%, Contribution to the class: 20%

PRI110KA-CS-104 (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

離散構造2

佐々木 晃

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を裏打ちする離散的な構造のうち、特に重要な「グラフ」「論理学」の基本概念の理解を深める。

【到達目標】

グラフ、論理学の基本を理解する。特に記号、式、図表の扱いに慣れる。現実問題の抽象化・一般化という考え方を身につけるとともに、プログラミングとの関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

離散構造1の続きである。グラフの基礎概念、命題論理、述語論理、証明法など情報科学の数学的ツールの導入部について学ぶ。授業中に出現する例題、演習課題を通して、概念の理解を深める。課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	命題論理(1)	命題、命題論理、論理式、真理値、真理値表
第2回	命題論理(2)	恒真命題、恒真式、矛盾命題、矛盾式
第3回	命題論理(3)	含意、必要条件、十分条件
第4回	述語論理(1)	述語論理の構文論
第5回	述語論理(2)	述語論理の意味論、恒真、充足可能、充足不可能
第6回	証明法(1)	証明法、構成的証明、直接証明、反例、対偶法
第7回	証明法(2)	場合分け、背理法、数学的帰納法、鳩の巣原理
第8回	グラフ(1)	グラフの基礎概念
第9回	グラフ(2)	オイラー路、ハミルトン路、閉路
第10回	グラフ(3)	平面的グラフ
第11回	グラフ(4)	木グラフ
第12回	グラフ(5)	有向グラフ
第13回	グラフ(6)	有限状態機械
第14回	総括	論理学、グラフのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出題する演習課題に取り組むこと。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員が配布するオンライン資料

【参考書】

S. Lipschutz, M. Lipson 著, 渡邊均訳：マグローヒル大学演習「離散数学－コンピュータサイエンスの基礎数学－(改訂2版)」, オーム社, 2022年.

C. L. Liu 著, 成嶋弘／秋山仁共訳：「コンピュータサイエンスのための離散数学入門」, オーム社

【成績評価の方法と基準】

中間試験および定期試験による(100%)。ただし、平常授業における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

ノートをとる。

【Outline (in English)】

- ・ In this course, students will learn basic concepts of graph theory and logic.
- ・ At the end of the course, you are expected to understand basic concepts of graph theory and logic, and get accustomed to handle symbols, expressions and diagrams that are essential in those concepts.
- ・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
- ・ Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations (100%).

PRI110KA-CS-104 (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

離散構造2

首藤 裕一

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：CD クラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を裏打ちする離散的な構造のうち、特に重要な「グラフ」「論理学」の基本概念の理解を深める。

【到達目標】

グラフ、論理学の基本を理解する。特に記号、式、図表の扱いに慣れる。現実問題の抽象化・一般化という考え方を身につけるとともに、プログラミングとの関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

離散構造1の続きである。グラフの基礎概念、命題論理、述語論理、証明法など情報科学の数学的ツールの導入部について学ぶ。授業中に出現する例題、演習課題を通して、概念の理解を深める。課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	命題論理(1)	命題、命題論理、論理式、真理値、真理値表
第2回	命題論理(2)	恒真命題、恒真式、矛盾命題、矛盾式
第3回	命題論理(3)	含意、必要条件、十分条件
第4回	述語論理(1)	述語論理の構文論
第5回	述語論理(2)	述語論理の意味論、恒真、充足可能、充足不可能
第6回	証明法(1)	証明法、構成的証明、直接証明、反例、対偶法
第7回	証明法(2)	場合分け、背理法、数学的帰納法、鳩の巣原理
第8回	グラフ(1)	グラフの基礎概念
第9回	グラフ(2)	オイラー路、ハミルトン路、閉路
第10回	グラフ(3)	平面的グラフ
第11回	グラフ(4)	木グラフ
第12回	グラフ(5)	有向グラフ
第13回	グラフ(6)	有限状態機械
第14回	総括	論理学、グラフのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出題する演習課題に取り組むこと。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員が配布するオンライン資料

【参考書】

S. Lipschutz, M. Lipson 著, 渡邊均訳：マグローヒル大学演習「離散数学－コンピュータサイエンスの基礎数学－(改訂2版)」, オーム社, 2022年.

C. L. Liu 著, 成嶋弘／秋山仁共訳：「コンピュータサイエンスのための離散数学入門」, オーム社

【成績評価の方法と基準】

中間試験および定期試験による(100%)。ただし、平常授業における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

ノートをとる。

【Outline (in English)】

- ・ In this course, students will learn basic concepts of graph theory and logic.
- ・ At the end of the course, you are expected to understand basic concepts of graph theory and logic, and get accustomed to handle symbols, expressions and diagrams that are essential in those concepts.
- ・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
- ・ Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations (100%).

論理回路入門

李 亜民

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、組み合わせ回路と順序回路を含む論理回路の設計に必要な論理ゲートやブール代数、ド・モルガンの法則、カルノー図、フリップフロップ、有限状態機械（状態遷移図）などを用いた論理回路の設計方法を学びます。

【到達目標】

すべてのデジタルデバイス装置の基礎となる論理回路について学びます。また、組み合わせ回路と順序回路を含む論理回路の設計に必要なブール代数を理解します。さらに三つの論理ゲート（AND、OR、NOT）のみを用いて、全加算器、マルチプレクサ、デコーダ、エンコーダ、N進カウンタや交通信号機制御システムなど様々なデジタル回路を設計します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

全14回の内容は以下の通り：論理回路基礎5回、組み合わせ回路4回、順序回路4回、論理回路の総括1回。ANDゲートやORゲート、NOTゲート、ブール代数、全加算器、マルチプレクサ、デコーダ、エンコーダなどの簡単なデジタル回路設計から始まり、N進カウンタや交通信号機制御システムなどの複雑な回路設計も行います。また、論理回路の設計と動作検証の方法についても学びます。講義の冒頭で、前回の宿題の答えを説明・フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	論理回路基礎1：論理回路、論理演算と論理ゲート	0と1の表現、論理演算とAND、OR、NOTゲート、真理値表、論理式と論理回路
2	論理回路基礎2：論理ゲートのCMOSトランジスタ構成	NOT、NAND、NORのCMOS型構成、およびNANDのトランジスタ型とNMOS型構成
3	論理回路基礎3：ブール代数、完全系、NANDのみ回路	ブール代数の定理とド・モルガンの法則、完全系、NANDゲートのみで構成した回路
4	論理回路基礎4：論理式の積和標準形と和積標準形	最小項と最大項、論理式の積和形と和積形、積和形と和積形の変換
5	論理回路基礎5：カルノー図と論理式の簡単化	カルノー図、グレイコード、2進数、半加算器と全加算器の回路
6	組み合わせ回路1：マルチビット加算回路、CLA加算器	リップルキャリアーアダダーとキャリールックアヘッドアダダーの回路
7	組み合わせ回路2：加算器を利用した減算器と加減算回路	負の整数、2の補数で表現する方法、加算器を利用した減算と加減算回路
8	組み合わせ回路3：マルチプレクサ、バレル・シフタとALU	マルチプレクサ、バレル・シフタ、7セグメントLED点灯回路、ALUの回路
9	組み合わせ回路4：デコーダとエンコーダ	イネーブル付きデコーダとデマルチプレクサ、プライオリティエンコーダの回路

10	順序回路1：ラッチとフリップフロップ（FF）	記憶できるRSラッチ、Dラッチ、DFF、JKFF、TFFとレジスタ・ファイルの回路
11	順序回路2：Mealy型とMoore型順序回路	順序回路の構成、有限状態機械、状態遷移図、順序回路の例
12	順序回路3：交通信号機制御システムの回路	順序回路の設計と交通信号機制御システムの回路
13	順序回路4：N進カウンタと7セグメントLED	N進カウンタ、DFF、JKFF、TFFを用いた計数器と7セグメントLED点灯回路
14	論理回路の総括：まとめ	論理回路（組み合わせ回路と順序回路）のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各週につき4時間。講義資料を事前に目を通します。また、レポート（宿題）を完成します。

【テキスト（教科書）】

担当教員 Website に掲載。

【参考書】

デジタル回路設計とコンピュータアーキテクチャ 第2版 単行本（ソフトカバー 672ページ） 出版社：翔泳社（2017/9/11）

Sarah L. Harris (著), David Money Harris (著), 天野 英晴 (翻訳), 中條 拓伯 (翻訳), 鈴木 貢 (翻訳), 永松 礼夫 (翻訳)

ISBN-10: 4798147524

ISBN-13: 978-4798147529

【成績評価の方法と基準】

課題レポート成績 * 60 % + 期末試験成績 * 40 %（期末試験：参照不可）。

【学生の意見等からの気づき】

サンプルレポートを用意します。
乗算器とウォレスツリー乗算器を削除します。
順序回路を一回追加します。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCをクラスに持ち込みます。

【Outline (in English)】

1. Course outline:

We will teach the fundamentals of logic operations, Boolean Algebra, Gray Code, Karnaugh Map, logic gates, flip-flops, finite state machine, and their use in implementing digital circuits.

2. Learning Objectives:

Students will learn how to use AND gates, OR gates, and NOT gates to design combinational circuits and sequential circuits. The combinational circuits include the full adder, subtracter, carry-lookahead adder, multiplexer, demultiplexer, barrel shifter, ALU (Arithmetic Logic Unit), decoder, and priority encoder. The sequential circuits include latches, flip-flops, register files, counters, and a traffic light system.

3. Learning activities outside of the classroom:

Students will be expected to spend more than four hours studying each theme per week.

4. Grading Criteria/Policy:

Grades are calculated based on homework (60%) and the final exam (40%).

COT111KA-CS-101 (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門1

赤石 美奈

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

備考（履修条件等）：Aクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(前半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	第1回から3回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。

5	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。
7	講義の総括と試験	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。 授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなのPython 第3版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験(90%)、および、授業へ貢献度(10%)により、総合的に判断する。

また、本科目はP/F評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取組む課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101 (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門1

黒木 帝聡

必修区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

備考（履修条件等）：Bクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(前半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	第1回から3回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。

5	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。
7	講義の総括と試験	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。 授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなのPython 第3版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験(90%)、および、授業へ貢献度(10%)により、総合的に判断する。

また、本科目はP/F評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取組む課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101 (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門1

西田 圭吾

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

備考（履修条件等）：Cクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(前半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	第1回から3回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。

5	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。
7	講義の総括と試験	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。 授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなのPython 第3版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験(90%)、および、授業へ貢献度(10%)により、総合的に判断する。

また、本科目はP/F評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取組む課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101 (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門1

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

備考（履修条件等）：Dクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(前半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	第1回から3回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。

5	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。
7	講義の総括と試験	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。 授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなのPython 第3版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験(90%)、および、授業へ貢献度(10%)により、総合的に判断する。

また、本科目はP/F評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取組む課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on. At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing. Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises. Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門2

赤石 美奈

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

備考（履修条件等）：Aクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(後半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	第1回から2回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。

4	応用(1)―タートルグラフィックスで幾何学模様	幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
5	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
6	応用(2)―Tkを利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	総括―内容の復習と実際のプログラム作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなのPython 第3版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門2

黒木 帝聡

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

備考（履修条件等）：Bクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(後半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	第1回から2回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。

4	応用(1)―タートルグラフィックスで幾何学模様	幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
5	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
6	応用(2)―Tkを利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	総括―内容の復習と実際のプログラム作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなのPython 第3版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門2

西田 圭吾

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

備考（履修条件等）：Cクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(後半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	第1回から2回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。

4	応用(1)―タートルグラフィックスで幾何学模様	幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
5	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
6	応用(2)―Tkを利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	総括―内容の復習と実際のプログラム作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなのPython 第3版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門2

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

備考（履修条件等）：Dクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(後半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	第1回から2回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。

4	応用(1)―タートルグラフィックスで幾何学模様	幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
5	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
6	応用(2)―Tkを利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	総括―内容の復習と実際のプログラム作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなのPython 第3版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101b (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門3

佐々木 晃

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：Aクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門1,2で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AIのための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
- ・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・プログラミング言語としてPythonを用いて授業を進める。
 - ・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
 - ・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
 - ・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。
- 課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラミング入門1,2の復習を行う。とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向(1)(モデリング)	クラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。 クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向(2)(オブジェクトコンポジション/ポリモーフィズム)	オブジェクトを組み合わせて複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向(3)(継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
6	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
7	復習(1)	1～6の内容の復習を行う
8	データサイエンス基礎(1)	データサイエンスに有用なモジュールの紹介と、導入を行う
9	データサイエンス基礎(2)	オープンデータを利用したデータ分析の基礎を扱う
10	データサイエンス基礎(3)	データの可視化手法を学ぶ

11	データサイエンス基礎(4)	代表的な統計量の算出法について学ぶ
12	データサイエンス基礎(5)	基本的な仮説検定を扱う
13	データサイエンス基礎(6)	回帰分析の処理について学ぶ
14	復習(2)	8～13の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門1,2の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Pythonによるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570
たのしいプログラミング Pythonではじめよう！
Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する。
- 試験（中間、期末）60%
- 課題およびレポートの取り組み 40%
ただし、平常時における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを利用する

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

- ・ In this course, students will learn advanced mechanisms in modern programming languages, such as mechanisms for object orientation, and also will experience data science programming.
- ・ At the end of the course, students will understand basic usages for object orientation and other advanced language mechanisms in programming languages and also will experience programming required for data science and AI.
- ・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
- ・ Your overall grade will be decided based on the followings.
 - mid- and end-term examinations (60%)
 - assignments (40%)

COT111KA-CS-101b (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門3

小林 郁夫

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：Bクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門1,2で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AIのための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
- ・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・プログラミング言語としてPythonを用いて授業を進める。
 - ・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
 - ・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
 - ・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。
- 課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラミング入門1,2の復習を行う。とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向(1)(モデリング)	クラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。 クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向(2)(オブジェクトコンポジション/ポリモーフィズム)	オブジェクトを組み合わせて複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向(3)(継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
6	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
7	復習(1)	1～6の内容の復習を行う
8	データサイエンス基礎(1)	データサイエンスに有用なモジュールの紹介と、導入を行う
9	データサイエンス基礎(2)	オープンデータを利用したデータ分析の基礎を扱う
10	データサイエンス基礎(3)	データの可視化手法を学ぶ

11	データサイエンス基礎(4)	代表的な統計量の算出法について学ぶ
12	データサイエンス基礎(5)	基本的な仮説検定を扱う
13	データサイエンス基礎(6)	回帰分析の処理について学ぶ
14	復習(2)	8～13の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門1,2の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Pythonによるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570
たのしいプログラミング Pythonではじめよう！
Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する。
- 試験（中間、期末）60%
- 課題およびレポートの取り組み 40%
ただし、平常時における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを利用する

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

- ・ In this course, students will learn advanced mechanisms in modern programming languages, such as mechanisms for object orientation, and also will experience data science programming.
- ・ At the end of the course, students will understand basic usages for object orientation and other advanced language mechanisms in programming languages and also will experience programming required for data science and AI.
- ・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
- ・ Your overall grade will be decided based on the followings.
 - mid- and end-term examinations (60%)
 - assignments (40%)

COT111KA-CS-101b (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門3

馬 建華

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：Cクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門1,2で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AIのための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
- ・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・プログラミング言語としてPythonを用いて授業を進める。
 - ・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
 - ・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
 - ・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。
- 課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラミング入門1,2の復習を行う。とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向(1)(モデリング)	クラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。 クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向(2)(オブジェクトコンポジション/ポリモーフィズム)	オブジェクトを組み合わせて複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向(3)(継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
6	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
7	復習(1)	1～6の内容の復習を行う
8	データサイエンス基礎(1)	データサイエンスに有用なモジュールの紹介と、導入を行う
9	データサイエンス基礎(2)	オープンデータを利用したデータ分析の基礎を扱う
10	データサイエンス基礎(3)	データの可視化手法を学ぶ

11	データサイエンス基礎(4)	代表的な統計量の算出法について学ぶ
12	データサイエンス基礎(5)	基本的な仮説検定を扱う
13	データサイエンス基礎(6)	回帰分析の処理について学ぶ
14	復習(2)	8～13の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門1,2の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Pythonによるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570
たのしいプログラミング Pythonではじめよう！
Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する。
- 試験（中間、期末）60%
- 課題およびレポートの取り組み 40%
ただし、平常時における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを利用する

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

- ・ In this course, students will learn advanced mechanisms in modern programming languages, such as mechanisms for object orientation, and also will experience data science programming.
- ・ At the end of the course, students will understand basic usages for object orientation and other advanced language mechanisms in programming languages and also will experience programming required for data science and AI.
- ・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
- ・ Your overall grade will be decided based on the followings.
 - mid- and end-term examinations (60%)
 - assignments (40%)

COT111KA-CS-101b (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門3

高村 誠之

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：Dクラス

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門1,2で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AIのための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
- ・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・プログラミング言語としてPythonを用いて授業を進める。
 - ・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
 - ・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
 - ・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。
- 課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラミング入門1,2の復習を行う。とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向(1)(モデリング)	クラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。 クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向(2)(オブジェクトコンポジション/ポリモーフィズム)	オブジェクトを組み合わせて複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向(3)(継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
6	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
7	復習(1)	1～6の内容の復習を行う
8	データサイエンス基礎(1)	データサイエンスに有用なモジュールの紹介と、導入を行う
9	データサイエンス基礎(2)	オープンデータを利用したデータ分析の基礎を扱う
10	データサイエンス基礎(3)	データの可視化手法を学ぶ

11	データサイエンス基礎(4)	代表的な統計量の算出法について学ぶ
12	データサイエンス基礎(5)	基本的な仮説検定を扱う
13	データサイエンス基礎(6)	回帰分析の処理について学ぶ
14	復習(2)	8～13の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門1,2の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Pythonによるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570
たのしいプログラミング Pythonではじめよう！
Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する。
- 試験（中間、期末）60%
- 課題およびレポートの取り組み 40%
ただし、平常時における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを利用する

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

- ・ In this course, students will learn advanced mechanisms in modern programming languages, such as mechanisms for object orientation, and also will experience data science programming.
- ・ At the end of the course, students will understand basic usages for object orientation and other advanced language mechanisms in programming languages and also will experience programming required for data science and AI.
- ・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
- ・ Your overall grade will be decided based on the followings.
 - mid- and end-term examinations (60%)
 - assignments (40%)

PRI210KA-CS-161 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

データ構造とアルゴリズム1

首藤 裕一

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、情報科学の基礎・中核をなすデータ構造およびアルゴリズムの入門科目である。整列問題や最短路問題などの基本的かつ重要な問題を通して、効率的なアルゴリズムとはどのようなものであるか、また、その評価尺度である計算量について学ぶ。

【到達目標】

情報科学を学ぶ上で必要な「データ構造とアルゴリズムの基礎」を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる講義が主体の授業である。講義中、ときおりクイズ形式の問題を出すことで本質の理解を促す。また、アルゴリズムはプログラムとして実装することで理解が大きく促進されるので、いくつかのアルゴリズムについてはこれらの実装に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アルゴリズムとは何か、データ構造とは何かを理解する。
2	挿入ソートと実行時間評価	基本的なソートアルゴリズムである挿入ソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
3	漸近的表記	アルゴリズムの計算量解析に頻用される関数の漸近的表記（ランダウの記号）を学ぶ。
4	マージソート	マージソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
5	ヒープソート	ヒープソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
6	クイックソート	クイックソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
7	4種類のソートの実装	これまでに学んだ4種類の整列アルゴリズムを実装し、実行時間を比較する。
8	スタック・キュー	基本的なデータ構造であるスタック、キューを学ぶ。
9	優先度付きキュー・連結リスト	基本的なデータ構造である優先度付きキューと連結リストを学ぶ。
10	辞書1	重要なデータ構造のひとつである辞書の概念を理解する。
11	辞書2	辞書を実現する手法としてチェイン法およびオープンアドレス指定法を学ぶ。
12	グラフの表現	グラフを表現するための様々なデータ構造を理解する。
13	単一始点最短路問題	グラフに関する代表的アルゴリズムである単一最短路問題とベルマン・フォード法、ダイクストラ法について学ぶ。

14 ダイクストラ法のプログラミング ダイクストラ法の実装を通してグラフアルゴリズムへの理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムイントロダクション 第1巻 基礎・ソートと順序統計量・データ構造・数学的基礎 第4版

著者: Thomas H. Cormen 他

翻訳: 浅野他

出版社: 近代科学者

出版年: 令和5年

【参考書】

書名: アルゴリズムとデータ構造

著者: 大槻兼資・秋葉拓哉

出版社: 講談社

出版年: 令和2年

【成績評価の方法と基準】

定期試験(100%)。ただし、授業における平常点を一部加味する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

板書時には極力教室前方の電氣をつけるように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

This course is an introductory subject in data structures and algorithms, which form the foundation and core of computer science. Through fundamental problems such as sorting and shortest path problems, we will learn what constitutes an efficient algorithm and study computational complexity, the metric used to evaluate their performance.

Students will be expected to study the topic given in the class for around four hours each week. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

PRI210KA-CS-161 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

データ構造とアルゴリズム1

坂本 寛

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：CD クラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、情報科学の基礎・中核をなすデータ構造およびアルゴリズムの入門科目である。整列問題や最短路問題などの基本的かつ重要な問題を通して、効率的なアルゴリズムとはどのようなものであるか、また、その評価尺度である計算量について学ぶ。

【到達目標】

情報科学を学ぶ上で必要な「データ構造とアルゴリズムの基礎」を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる講義が主体の授業である。講義中、ときおりクイズ形式の問題を出すことで本質の理解を促す。また、アルゴリズムはプログラムとして実装することで理解が大きく促進されるので、いくつかのアルゴリズムについてはこれらの実装に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アルゴリズムとは何か、データ構造とは何かを理解する。
2	挿入ソートと実行時間評価	基本的なソートアルゴリズムである挿入ソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
3	漸近的表記	アルゴリズムの計算量解析に頻用される関数の漸近的表記（ランダウの記号）を学ぶ。
4	マージソート	マージソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
5	ヒープソート	ヒープソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
6	クイックソート	クイックソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
7	4種類のソートの実装	これまでに学んだ4種類の整列アルゴリズムを実装し、実行時間を比較する。
8	スタック・キュー	基本的なデータ構造であるスタック、キューを学ぶ。
9	優先度付きキュー・連結リスト	基本的なデータ構造である優先度付きキューと連結リストを学ぶ。
10	辞書1	重要なデータ構造のひとつである辞書概念を理解する。
11	辞書2	辞書を実現する手法としてチェイン法およびオープンアドレス指定法を学ぶ。
12	グラフの表現	グラフを表現するための様々なデータ構造を理解する。
13	単一始点最短路問題	グラフに関する代表的アルゴリズムである単一最短路問題とベルマン・フォード法、ダイクストラ法について学ぶ。

14 ダイクストラ法のプログラミング ダイクストラ法の実装を通してグラフアルゴリズムへの理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムイントロダクション 第1巻 基礎・ソートと順序統計量・データ構造・数学的基礎 第4版

著者: Thomas H. Cormen 他

翻訳: 浅野他

出版社: 近代科学者

出版年: 令和5年

【参考書】

書名: アルゴリズムとデータ構造

著者: 大槻兼資・秋葉拓哉

出版社: 講談社

出版年: 令和2年

【成績評価の方法と基準】

定期試験(100%)。ただし、授業における平常点を一部加味する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

板書時には極力教室前方の電気をつけるように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

This course is an introductory subject in data structures and algorithms, which form the foundation and core of computer science. Through fundamental problems such as sorting and shortest path problems, we will learn what constitutes an efficient algorithm and study computational complexity, the metric used to evaluate their performance.

Students will be expected to study the topic given in the class for around four hours each week. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

PRI210KA-CS-251 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

最適化

佐川 浩彦

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：AB クラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、情報科学のさまざまな場面で遭遇する最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について解説します。最適化問題の基本を理解し、さまざまな応用に役立てるための基礎力を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について学ぶことにより、より専門的な知識が必要とされるパターン認識や人工知能などの理解を容易にするための基礎的なスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に、最適化問題を扱うために必要となる数学的知識を学んだ後、制約の無い関数の最適化問題として勾配法とニュートン法を学びます。次に、制約がある場合の最適化問題としてラグランジュの未定乗数法を学び、さらに誤差のあるデータに関数を当てはめる手法である最小二乗法と最尤法を学びます。最後に一次式の最適化問題である線形計画法と複数の競合する目的関数を扱う多目的最適化を学びます。

授業は、理解を容易にするために例題を中心に解説を行い、講義に対応した演習を授業の最後で行います。また、次の講義の最初で解答例紹介を行うことで課題のフィードバックを学生に行い、理解が深められるようにしながら授業を進めています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	最適化問題とは	オリエンテーション
2	数学的準備	行列、固有ベクトル、偏微分、 曲線・曲面の方程式、接線と法線の解説
3	一次形式と二次形式	一次形式と二次形式、二次形式の微分、二次形式の標準化の解説
4	関数の極値	関数の勾配、停留点、関数の極値の解説
5	一次元最適化問題	三分割法、黄金分割法、ニュートン法、放物線補間の解説
6	勾配法	勾配法の解説
7	ニュートン法	ニュートン法の解説
8	ラグランジュの未定乗数法	ラグランジュの未定乗数法の解説
9	最適化の使い方	例題を使った最適化手法の使い方の解説
10	最小二乗法	最小二乗法、式の当てはめの解説
11	最尤法 1	最尤推定、直線当てはめの解説
12	最尤法 2	データの分類の解説
13	線形計画法	線形計画の標準形、可能領域、線形計画の基本定理、シンプレックス法

14 多目的最適化、まとめ 多目的最適化とは、パレート解、多目的最適化の解法、全体的なまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業の予習または復習を毎回必ず行うこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします
2. 授業中に理解できなかった例題や演習課題は必ず復習して理解すること

【テキスト（教科書）】

配布資料（学習支援システムに掲載）

【参考書】

金谷健一、「これなら分かる最適化数学」、共立出版、2005年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60%）＋演習課題（20%）＋授業への参加度（20%）で採点します。
参加度は授業中の態度（積極的に演習の解答例紹介を行うかなど）で計算します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、講義に対応した演習を授業の最後で行い、また、次の講義の最初で解答例紹介を行いながら授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員が企業で、（手話認識、AR技術などの）研究・開発業務に携わった経験を基に、実社会で有効となる最適化技術およびその数学的手法の基本に関する講義を行う

【Outline (in English)】

This lecture will explain the basic method for mathematically processing the optimization problem. It aims to understand the fundamentals of optimization problems and to acquire the fundamental power to use for various application problems. The standard for outside study such as preparation and review of this class is 4 hours per week. Grades will be judged comprehensively from the final exam (60%) + exercises (20%) + class participation attitude (20%).

PRI210KA-CS-251 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

最適化

佐藤 裕二

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：CD クラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、情報科学のさまざまな場面で遭遇する最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について解説します。最適化問題の基本を理解し、さまざまな応用に役立てるための基礎力を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について学ぶことにより、より専門的な知識が必要とされるパターン認識や人工知能などの理解を容易にするための基礎的なスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に、最適化問題を扱うために必要となる数学的知識を学んだ後、制約の無い関数の最適化問題として勾配法とニュートン法を学びます。次に、制約がある場合の最適化問題としてラグランジュの未定乗数法を学び、さらに誤差のあるデータに関数を当てはめる手法である最小二乗法と最尤法を学びます。最後に一次式の最適化問題である線形計画法と複数の競合する目的関数を扱う多目的最適化を学びます。

授業は、理解を容易にするために例題を中心に解説を行い、講義に対応した演習を授業の最後で行います。また、次の講義の最初で解答例紹介を行うことで課題のフィードバックを学生に行い、理解が深められるようにしながら授業を進めています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	最適化問題とは	オリエンテーション
2	数学的準備	行列、固有ベクトル、偏微分、曲線・曲面の方程式、接線と法線の解説
3	一次形式と二次形式	一次形式と二次形式、二次形式の微分、二次形式の標準化の解説
4	関数の極値	関数の勾配、停留点、関数の極値の解説
5	一次元最適化問題	三分割法、黄金分割法、ニュートン法、放物線補間の解説
6	勾配法	勾配法の解説
7	ニュートン法	ニュートン法の解説
8	ラグランジュの未定乗数法	ラグランジュの未定乗数法の解説
9	最適化の使い方	例題を使った最適化手法の使い方の解説
10	最小二乗法	最小二乗法、式の当てはめの解説
11	最尤法 1	最尤推定、直線当てはめの解説
12	最尤法 2	データの分類の解説
13	線形計画法	線形計画の標準形、可能領域、線形計画の基本定理、シンプレックス法

14 多目的最適化、まとめ 多目的最適化とは、パレート解、多目的最適化の解法、全体的なまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業の予習または復習を毎回必ず行うこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします
2. 授業中に理解できなかった例題や演習課題は必ず復習して理解すること

【テキスト（教科書）】

配布資料（学習支援システムに掲載）

【参考書】

金谷健一、「これなら分かる最適化数学」、共立出版、2005年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60%）＋演習課題（20%）＋授業への参加度（20%）で採点します。
参加度は授業中の態度（積極的に演習の解答例紹介を行うかなど）で計算します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、講義に対応した演習を授業の最後で行い、また、次の講義の最初で解答例紹介を行いながら授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員が企業で、(汎用型ニューロコンピュータ、生体情報を用いた個人認証システムなどの)研究・開発業務に携わった経験を基に、実社会で有効となる最適化技術およびその数学的手法の基本に関する講義を行う

【Outline (in English)】

This lecture will explain the basic method for mathematically processing the optimization problem. It aims to understand the fundamentals of optimization problems and to acquire the fundamental power to use for various application problems. The standard for outside study such as preparation and review of this class is 4 hours per week. Grades will be judged comprehensively from the final exam (60%) + exercises (20%) + class participation attitude (20%).

COT211KA-CS-201 (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング1(C/C++)

廣津 登志夫、佐藤 周平

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／4単位 | 開講時期：春学期集中/Intensive(Spring)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではプログラミング言語C/C++を学び、これらを用いて簡単なプログラム作成を行う。ここでは単にプログラムを書くことだけが目的ではなく、C/C++によるプログラミングで重要となるプログラム実行時にどのようにメモリが利用されているかを理解することを重視する。コンピュータの仕組みを考えながら、プログラムがどのように動作しているのかを考え、正しく動作するプログラムとは何かを判断できるようになることをめざす。

【到達目標】

- ・ インタープリタ言語とコンパイラ言語の違いを説明できる。
- ・ C/C++ のソースコードとコンパイルの関係を説明できる。
- ・ if文、for文を使った C/C++プログラムを作成することができる。
- ・ 関数を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 構造体を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 変数とポインタ、メモリアドレスの関係を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義はオンデマンド形式で実施する。週ごとに開示される講義映像を視聴し、その中で提示されている演習のプログラムを各自で動かして学習内容を理解する。そのうえで課題のプログラミングに取り組み、メ切までにそのプログラムを提出する。課題の提出・チェックや質問の方法については、CIS Moodle経由で指示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	C/C++言語の導入	コンパイラとインタープリタの違いを学ぶ C/C++の開発環境を理解する 最初のプログラムを作成し、実行させる
第2回	C/C++言語の基本形	インクルードファイルの書き方を学ぶ main 関数の書き方を学ぶ 変数宣言について学ぶ
第3回	標準入出力	C言語の出力方法である printf の使い方を学ぶ C++言語の標準入出力である cin, cout の使い方を学ぶ
第4回	算術演算子	C/C++における加減乗除の方法を学ぶ 演算子の優先順位について理解する
第5回	条件分岐	if else を用いた条件分岐のあるプログラムの書き方を学ぶ switch 文について学ぶ
第6回	繰り返し制御	for, while を使った繰り返し方法を学ぶ break, continueにより繰り返しの中断や継続を行う方法を学ぶ
第7回	文字列と配列	配列の宣言と利用方法を学ぶ 配列とメモリマップの関係について学ぶ 配列と文字列の関係を学ぶ

第8回 変数とメモリ

変数とメモリの関係について学ぶ
&演算子によりメモリアドレスを確認する方法を学ぶ
sizeof演算子により変数領域の大きさを求める方法を学ぶ

第9回 関数

関数定義と関数呼び出しの方法を学ぶ

第10回 変数のスコープ

プロトタイプ宣言について学ぶ
変数のスコープについて学ぶ
ローカル変数、グローバル変数について学ぶ
変数のメモリ割り当て方法の違いについて学ぶ

第11回 構造体

構造体の定義方法と参照方法を学ぶ

第12回 ポインタ

構造体とメモリの関係を学ぶ
ポインタとメモリアドレスの関係を学ぶ
ポインタ変数の使い方を学ぶ
ポインタと配列の関係を学ぶ
ポインタを使った構造体の参照方法を学ぶ

第13回 ポインタ演算

ポインタの加算について学ぶ
ポインタを引数にしたcall by reference による関数呼び出しの方法を学ぶ

第14回 ファイル入出力

ファイルのオープンとクローズ方法を学ぶ
ファイルへの値の書き出し方法を学ぶ
ファイルからの値の読み出し方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき8時間を標準とする。
映像資料で学習し演習プログラムを実行した上で、課題に取り組みメ切までに提出する。

【テキスト（教科書）】

講義テキストは CIS Moodle より配布するが、C++について網羅的に記載された書籍を持っておくことを強く推奨する（参考書に挙げた書籍以外でも好みに合ったもので構わない）

【参考書】

柴田望洋, “新 明解 C++ 入門”, ソフトバンククリエイティブ, 2017. ISBN: 978-4-7973-9463-4
柴田望洋, “新・明解C言語 入門編”, ソフトバンククリエイティブ, 2014. ISBN: 978-4-7973-7702-6

【成績評価の方法と基準】

講義映像の視聴と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。
期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、期末試験を70%、課題提出を30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報科学部貸与PCを利用してプログラミングを行う。
他学部から受講する場合は、各自のPC上に自身で実習環境を用意すること。

【その他の重要事項】

この講義内容は「プログラミング入門 1/2/3」を学び、Pythonによるプログラミングに関する知識を有していることを前提として構成されている。

なお、本講義はオンデマンドで実施されるが、質問対応については指定の講義時限に小金井キャンパス内（教室またはGBC）で対応する（遠隔対応はない）。

期末試験にも小金井キャンパスにおいて対面・PC利用で実施する（時間割は小金井の定期試験時間割で確認すること）

【Outline (in English)】**[Course outline]**

Students learn the basic skills for writing programs in Programming Language C/C++. They not only study the grammar of Programming Language C/C++, but also study the memory management and program execution architecture of current computer system.

[Learning Objectives]

Students expected to understand core concepts and functionality of C and C++. They also expected to build program using C-level core functionalities, such as control flow, function call, data structure and pointer.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend eight hours to pre/post study of the course including programming the homework and next week's pre-studying contents.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of mandatory exams are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; term-end examination (70%), and homework (30%).

COT211KA-CS-202 (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング2(C/C++)

相島 健助、廣津 登志夫

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／4単位 | 開講時期：秋学期集中/Intensive(Fall)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業はプログラミング1(C/C++)の後続科目として、C++を用いたオブジェクト指向プログラミングにより小規模のプログラムを作成できるようにすることを目的とする。学習においてはオブジェクト指向プログラミングの基本概念を意識し、コンピュータの仕組みと結びつけて、プログラムの動作を理解する視点を獲得することめざす。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向の基本的な考え方を説明できる。
- ・C++を用いて、オブジェクト指向に沿ったクラス設計を行うことができる。
- ・オブジェクトのポインタを用いたプログラムを作成・理解できる。
- ・オブジェクトの継承を理解し、プログラムを作成できる。
- ・カプセル化を意識したプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は本科目の前段科目であるプログラミング1(C/C++)と同様に、オンデマンド形式で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オブジェクト指向の基本	オブジェクト指向の考え方を理解し、メンバ変数、メンバ関数を持ったクラスを作成し、オブジェクトを生成する。
第2回	コンストラクタ	オブジェクトの初期化手順として、デフォルトコンストラクタ、コピーコンストラクタ、変換コンストラクタの作成方法を学ぶ。
第3回	カプセル化、演算子関数	クラスのカプセル化について public と private の使い分け、ヘッダファイルとソースファイルの分割について学ぶ。
第4回	静的メンバ、コンストラクタ初期化子	静的メンバと動的メンバの違いを理解する。代入演算子 (operator=)、入れ子のクラス構造とコンストラクタ初期化子について理解する。
第5回	定値オブジェクト、friend関数	定値オブジェクトを有効に扱うためのメンバ関数定義法を学ぶ。friend関数も紹介する。また、変換関数、演算子関数を学ぶ。
第6回	クラスの継承	派生クラスへの継承について学ぶ。継承の本質、継承の仕組み、および継承の表現し方などを理解する。
第7回	仮想関数とポリモーフィズム	virtual 関数を作成して、動的な型情報によるプログラミング手法を学ぶ。ポリモーフィズムを理解する。
第8回	抽象クラス	純粋仮想関数を理解し、抽象クラスの設計と使い方を学ぶ。

第9回	ヒープメモリとポインタ	ヒープメモリとポインタを使ったオブジェクト管理を学ぶ。new 演算子を使って生成されたオブジェクトはヒープメモリに管理する仕組みを理解し、メモリの解放方法も学ぶ。
第10回	例外処理	例外処理の書き方について学び、標準の例外クラスを使えるようになる。
第11回	クラステンプレート	クラステンプレートと関数テンプレートを活用したプログラミング手法を学ぶ。
第12回	ベクトルライブラリ	可変長配列などのベクトルライブラリの使い方を学ぶ。
第13回	ベクトル以外のコンテナ	リストやスタックマップなどデータ構造の設計と使い方を学ぶ。
第14回	関数ポインタ	関数ポインタによる関数の入れ替え手法を学ぶ。文字列クラスの使い方も学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき8時間を標準とする。
映像資料で学習し演習プログラムを実行した上で課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

講義テキストは CIS Moodle より配布するが、C++について網羅的に記載された書籍を持っておくことを強く推奨する（参考書に挙げた書籍以外でも好みに合ったもので構わない）

【参考書】

柴田望洋, "新・明解C++で学ぶオブジェクト指向プログラミング", ソフトバンククリエイティブ, 2018. ISBN : 978-4-7973-9716-1
柴田望洋, "新版 明解C++入門", ソフトバンククリエイティブ, 2017. ISBN : 978-4-7973-9463-4 (2年春に使用したもの)

【成績評価の方法と基準】

全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。
期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、期末試験を70%、課題提出を30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報科学部貸与PCを利用してプログラミングを行う。他学部から受講する場合は、各自のPC上に自身で実習環境を用意すること。

【その他の重要事項】

プログラミング1(C/C++)の講義内容を理解していることを前提とする。

なお、本講義はオンデマンドで実施されるが、質問対応については指定の講義時限に小金井キャンパス内（教室またはGBC）で対応する（遠隔対応はない）。
期末試験にも小金井キャンパスにおいて対面・PC利用で実施する（時間割は小金井の定期試験時間割で確認すること）

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course aims to learn general principle and techniques of object-oriented programming in C++, as the advanced course of Programming1(C/C++). In the lectures of the course, the computer structure and its relation to programming in C++ are also explained and discussed. The students are expected to learn the basic concepts and mechanisms of C++ and to gain sufficient ability to construct simple programs in C++. They are also expected to build up their ability for understanding the behaviors of programs in C++.

[Learning Objectives]

Students expected to understand the basic concepts and functionality of object-oriented programming using C and C++. They also expected to build program using object-oriented manner, such as class, inheritance and encapsulation.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend eight hours to pre/post study of the course including programming the homework and next week's pre-studying contents.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of mandatory exams are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; term-end examination (70%), and homework (30%).

COT311KA-CS-201e (計算基盤 / Computing technologies 300)

プログラミング演習(C/C++)

廣津 登志夫

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度規模の大きいプログラムを書くことを通じて、高度なソフトウェアをプログラミングすることに対する理解を深める。プログラミング言語の文法だけではなく、実行環境や開発環境を含めた汎用的なプログラミング環境に慣れ、実際のプログラミングを学ぶ。

【到達目標】

前段科目である「プログラミング2(C/C++)」で学んだプログラミング技術を用いて、目的に応じた中規模のソフトウェア（アプリケーション）が作成できるようになること。ソフトウェア開発の考え方や手順を理解ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、文書処理のプログラムを通じて、既に使用として定まったフォーマットのデータの処理方法を学ぶ。後半は前半で作成した文字列処理の機能を活用して、基本的な文書処理の手順についてのプログラミングを行うと共に、基本的なサーバプログラムを実装する。課題についての質問状況に応じて、内容の補足説明などのフィードバックを随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	開発環境とディレクトリ階層の理解
2	文字列処理 (1)	「人工無能」の基本インタラクショングループとマルチバイト文字の処理
3	文字列処理 (2)	UTF-8を対象とした構造データの読み込みと処理
4	文字列処理 (3)	UTF-8クラスの拡張とコマンドライン引数の処理
5	文字列処理 (4)	n-gramの実現
6	文字列処理 (5)	汎用アルゴリズムライブラリによるソートの実現
7	文書処理 (1)	マルコフ連鎖を用いた文生成 単純な管理構造の実現
8	文書処理 (2)	マルコフ連鎖を用いた文生成 複雑な管理構造の実現
9	文書処理 (3)	形態素解析を用いた文生成
10	文書処理 (4)	複数の実装による実効性能の理解
11	文書処理 (5)	人工無能サーバの基本通信機能の実現
12	文書処理 (6)	人工無能サーバのプロトコル処理の実現
13	文書処理 (7)	人工無能サーバの実装
14	まとめ	講義の演習全体の総括と質問への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

準備学習として、前段科目であるプログラミング2(C/C++)の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、講義中に完了しなかったプログラミング課題およびレポート作成に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

説明資料をオンライン配布する

【参考書】

柴田望洋, "新・明解C++入門", ソフトバンククリエイティブ, 2017. ISBN: 978-4-7973-9463-4. (1年秋科目教科書)

柴田望洋, "新・明解C++で学ぶオブジェクト指向プログラミング", ソフトバンククリエイティブ, 2018. ISBN: 978-4-7973-9716-1. (2年春科目教科書)

富永和人, 権藤克彦, "例解 UNIX/Linux プログラミング教室: システムコールを使いこなすための12講", オーム社, 2018. ISBN: 978-4-274-22210-8.

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。各回で出題するプログラム課題に対する取り組み(40%)、およびレポート課題(60%)から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを利用してプログラミングを行う。

対面・オンラインにかかわらず、質問対応には Zoom による画面共有を使用することがあるので、講義で指示があった場合には Zoom に接続すること。

【その他の重要事項】

プログラミング1(C/C++)、プログラミング2(C/C++)の講義内容を理解していることを前提とする。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This is an introductory course to understand C/C++ programming Language. With writing middle-scale software using actual development environment, students will deepen their understanding for the scheme and processes of the software development.

[Learning Objectives]

Students expected to build middle-scale program using object-oriented manner.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend four hours to program the exams.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of mandatory exams are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; final report (60%), and homework (40%).

PRI210KA-CS-151 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

形式言語とオートマトン

藤田 悟

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・オートマトンとは何かを理解する
- ・有限オートマトンと正規言語の関係を理解する
- ・文脈自由言語についてその特徴・性質を理解する
- ・プッシュダウンオートマトンとは何かを理解する
- ・チューリングマシンについて理解する

【到達目標】

オートマトン、形式言語の基本的な枠組みについて理解する。具体的には、

- 1) 有限状態オートマトン・プッシュダウンオートマトン・チューリングマシンの時点表示・構成ができること
- 2) 正規言語・文脈自由文法が生成する言語・文法を説明・構成できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は情報科学の様々な側面の基礎をなすオートマトンと形式言語について学ぶ。オートマトンはハードウェアからソフトウェアに至るまでの情報科学の全ての側面において、動作のモデルを定義・表現・設計するたために使われる非常に重要な概念である。講義の前半では、このオートマトンの理解を目標において講義を進める。講義の後半では、そのオートマトンの入力として与えられる形式言語について学ぶ。形式言語の知識はプログラミング言語やその処理系の理解のために必須のものである。

なお、毎回の講義では、説明のなかで30分程度を小テストに充てる。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	1. オートマトンとは計算機のモデル 2. 形式言語は言語のモデル 3. オートマトンと形式言語の関係 4. チョムスキー階層 5. オートマトンの応用
第2回	有限オートマトン(1)	1. オートマトンの状態遷移図表現 2. 集合 3. 五字組表現
第3回	有限オートマトン(2)	1. 有限オートマトンの例 2. 様相、受理・拒否
第4回	有限オートマトン(3)	1. 有限オートマトン演習
第5回	非決定性有限オートマトン(1)	1. 決定性オートマトンと非決定性オートマトン 2. 非決定性オートマトンの状態遷移図 3. 非決定性オートマトンの五字組表現

第6回	非決定性有限オートマトン(2)	1. 空動作を伴うオートマトン 2. 空動作を伴うオートマトンの状態遷移図 3. 空動作を伴うオートマトンの五字組表現 4. 決定性オートマトンと非決定性オートマトンの同等性 5. 正規表現から非決定性オートマトンに 6. 決定性オートマトンの最簡形有限オートマトンのまとめ 主にオートマトンの部分について試験を行う
第7回	中間試験	
第8回	プッシュダウンオートマトン	1. 決定性プッシュダウンオートマトン 2. 決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 3. 決定性プッシュダウンオートマトンの動作 4. 決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図 5. 非決定性プッシュダウンオートマトン 6. 非決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 7. 非決定性プッシュダウンオートマトンの動作 8. 非決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図
第9回	チューリングマシン(1)	1. 決定性チューリングマシン
第10回	チューリングマシン(2)	1. 非決定性チューリングマシン
第11回	文法(1)	1. 正規文法 2. 言語の生成装置としての形式文法 3. オートマトンと文法の対比・階層性 4. 文脈自由文法
第12回	文法(2)	1. 文法の種類 2. 文脈自由文法の例 3. 文脈自由文法と木構造 4. 2分木からチョムスキー標準形に 5. 文脈依存文法
第13回	文法(3)	1. 文法演習
第14回	オートマトンと形式言語の関係およびまとめ	正規文法と有限オートマトンの関係 1. 正規表現による正規言語の表現 2. 有限オートマトンで表現できない文脈自由文法・繰り返し定理 3. 閉包性 4. チョムスキー標準形 5. グライバッハ標準形 1～14回の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容をよく読んでおくこと。講義では、正しく理解しているかどうか確認を行うようにする。

本授業の準備・復習時間は、計週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米田、広瀬、大里、大川著「オートマトン・言語理論の基礎」近代科学社

【参考書】

J.ホップクロフト他著「オートマトン 言語理論 計算論Ⅰ」サイエンス社

富田、横森著「オートマトン・言語理論(第2版・新装版)」森北出版

【成績評価の方法と基準】

授業内諸テスト、課題で40%。期末試験で60%。

【学生の意見等からの気づき】

演習を豊富に実施する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのオートマトンを応用したグラフ変換に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

This course covers fundamental notions in formal language theory, including automata, relationship between finite automata and regular languages, characteristics and properties of context-free languages, pushdown automata and Turing machines.

The goal of this course is to understand fundamental notions in formal language theory. Namely, students will be able to

1. construct and show configurations of finite state automata, pushdown automata and Turing machines

2. explain and construct languages generated by regular and context-free grammars

Before each class, students will be expected to have read relevant chapter(s) from the text. During the class, students are expected to confirm their understandings.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (60%) and in class tests including mid-term exam (40%).

PRI210KA-CS-151 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

形式言語とオートマトン

日高 宗一郎

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：CD クラス

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・オートマトンとは何かを理解する
- ・有限オートマトンと正規言語の関係を理解する
- ・文脈自由言語についてその特徴・性質を理解する
- ・プッシュダウンオートマトンとは何かを理解する
- ・チューリングマシンについて理解する

【到達目標】

オートマトン、形式言語の基本的な枠組みについて理解する。具体的には、

- 1) 有限状態オートマトン・プッシュダウンオートマトン・チューリングマシンの時点表示・構成ができること
- 2) 正規言語・文脈自由文法が生成する言語・文法を説明・構成できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は情報科学の様々な側面の基礎をなすオートマトンと形式言語について学ぶ。オートマトンはハードウェアからソフトウェアに至るまでの情報科学の全ての側面において、動作のモデルを定義・表現・設計するたために使われる非常に重要な概念である。講義の前半では、このオートマトンの理解を目標において講義を進める。講義の後半では、そのオートマトンの入力として与えられる形式言語について学ぶ。形式言語の知識はプログラミング言語やその処理系の理解のために必須のものである。

なお、毎回の講義では、説明のなかで30分程度を小テストに充てる。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	1. オートマトンとは計算機のモデル 2. 形式言語は言語のモデル 3. オートマトンと形式言語の関係 4. チョムスキー階層 5. オートマトンの応用
第2回	有限オートマトン(1)	1. オートマトンの状態遷移図表現 2. 集合 3. 五字組表現
第3回	有限オートマトン(2)	1. 有限オートマトンの例 2. 様相、受理・拒否
第4回	有限オートマトン(3)	1. 有限オートマトン演習
第5回	非決定性有限オートマトン(1)	1. 決定性オートマトンと非決定性オートマトン 2. 非決定性オートマトンの状態遷移図 3. 非決定性オートマトンの五字組表現

第6回	非決定性有限オートマトン(2)	1. 空動作を伴うオートマトン 2. 空動作を伴うオートマトンの状態遷移図 3. 空動作を伴うオートマトンの五字組表現 4. 決定性オートマトンと非決定性オートマトンの同値性 5. 正規表現から非決定性オートマトンに 6. 決定性オートマトンの最簡形有限オートマトンのまとめ 主にオートマトンの部分について試験を行う
第7回	中間試験	
第8回	プッシュダウンオートマトン	1. 決定性プッシュダウンオートマトン 2. 決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 3. 決定性プッシュダウンオートマトンの動作 4. 決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図 5. 非決定性プッシュダウンオートマトン 6. 非決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 7. 非決定性プッシュダウンオートマトンの動作 8. 非決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図
第9回	チューリングマシン(1)	1. 決定性チューリングマシン
第10回	チューリングマシン(2)	1. 非決定性チューリングマシン
第11回	文法(1)	1. 正規文法 2. 言語の生成装置としての形式文法 3. オートマトンと文法の対比・階層性 4. 文脈自由文法
第12回	文法(2)	1. 文法の種類 2. 文脈自由文法の例 3. 文脈自由文法と木構造 4. 2分木からチョムスキー標準形に 5. 文脈依存文法
第13回	文法(3)	1. 文法演習
第14回	オートマトンと形式言語の関係およびまとめ	正規文法と有限オートマトンの関係 1. 正規表現による正規言語の表現 2. 有限オートマトンで表現できない文脈自由文法・繰り返し定理 3. 閉包性 4. チョムスキー標準形 5. グライバッハ標準形 1～14回の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容をよく読んでおくこと。講義では、正しく理解しているかどうか確認を行うようにする。

本授業の準備・復習時間は、計週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米田、広瀬、大里、大川著「オートマトン・言語理論の基礎」近代科学社

【参考書】

J.ホップクロフト他著「オートマトン 言語理論 計算論Ⅰ」サイエンス社

富田、横森著「オートマトン・言語理論」(第2版・新装版) 森北出版

【成績評価の方法と基準】

授業内諸テスト、課題で40%。期末試験で60%。

【学生の意見等からの気づき】

演習を豊富に実施する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのオートマトンを応用したグラフ変換に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

This course covers fundamental notions in formal language theory, including automata, relationship between finite automata and regular languages, characteristics and properties of context-free languages, pushdown automata and Turing machines.

The goal of this course is to understand fundamental notions in formal language theory. Namely, students will be able to

1. construct and show configurations of finite state automata, pushdown automata and Turing machines

2. explain and construct languages generated by regular and context-free grammars

Before each class, students will be expected to have read relevant chapter(s) from the text. During the class, students are expected to confirm their understandings.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (60%) and in class tests including mid-term exam (40%).

COT211KA-CS-211 (計算基盤 / Computing technologies 200)

コンピュータ構成と設計入門

八巻 隼人

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計算機の基本構成要素であるプロセッサ(CPU)、メモリ、入出力装置の機能と動作、またそれぞれの要素間の相互関係をソフトウェア、ハードウェアの両観点から理解する。特に、計算機がプログラムを実行する際の各要素の役割、プログラムの実行を高速化する技術について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、大きく分けて2つのテーマを扱う。まず、前半の授業では、計算機内部におけるデジタルデータの取り扱いについて学ぶ。これはすなわち、計算機が数値表現や数値同士の計算をどのように扱っているのか、"2進数"や"浮動小数点数"、"加算器"といったキーワードを基に学習し、計算機が扱うデータについて理解できるようになることを目標とする。次に、授業後半では、計算機の構成要素であるCPU、メモリ、入出力装置について計算機全体の中のそれぞれの役割を学ぶ。最終的には、これらの理解を併せ、我々が作成したプログラムが計算機でどのように実行されるのか、各自が説明できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料を基にした講義が主となる。特に前半の進数変換や数値の計算は、手を動かさなければ理解が進まないと思うので、適宜、演習問題の配布やレポート課題等も予定している。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、データの表現、位取り記数法	本講義の概要とその進め方、評価法、演習との関係など /2進数と10進数 /N進数への変換法
第2回	整数の計算機内部表現	符号絶対値表現 /補数表現 /嵩上げ表現
第3回	加減算器、論理演算、シフト	論理回路の復習 /符号付き整数の加減算 /演算のオーバーフロー /論理演算とシフト
第4回	算術論理演算回路 (ALU)	ALUの構成 /正負判定、0判定など
第5回	実数の計算機内部表現	浮動小数点表現 /表現出来る値とエラー検出
第6回	計算機の構成と動作原理	CPUの構造 /バスの構造 /命令サイクルとパイプライン
第7回	中間試験	中間試験実施予定
第8回	計算機の命令	具体的な計算機の機械語命令
第9回	基本命令セット 1	命令形式 /基本的な命令 /簡単なプログラム
第10回	基本命令セット 2	算術論理演算命令 /分岐命令 /アセンブリ言語
第11回	機械語命令形式と機械語の実行	アドレッシングモードの実現 /サブルーチンの実現
第12回	割り込み	割り込みの概念 /割り込み要因・動作 /OSの役割・機能 /割り込み用命令と割り込みベクトル

第13回	メモリ	メモリ階層 /キャッシュの動作 /キャッシュアルゴリズム
第14回	マルチコア/プロセッサとネットワーク	並列処理 /ネットワーク /キャッシュコヒーレンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容に疑問点を残さないよう復習をすること。授業の理解を深めるため、適宜、演習問題やレポート課題等の配布を行う。各回の講義は前回までの内容が理解できていないとついて行けなくなるので、疑問点を残さないよう努力すること。本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、毎回授業資料を Hoppii 上で配布する。

【参考書】

「コンピュータの構成と設計」、パターソン・ヘネシー著、日経 BP「コンピュータアーキテクチャ」、馬場敬信、オーム社、「プロセッサを支える技術」、Hisa Ando, 技術評論社など

【成績評価の方法と基準】

不定期な講義内レポート課題30%、中間試験30%、期末試験40%

【学生の意見等からの気づき】

質疑はいつでも受け付けますので気軽にメールしてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces the operation of CPUs, memories, and I/O devices and interrelationship among them from the viewpoints of the hardware and software.

[Learning Objectives]

The goals of this course are to help students acquire an understanding of the roles of each computer element when a program is executed and methods for accelerating program execution.

[Learning activities outside of classroom]

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policies]

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term examination (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution (30%).

COT311KA-CS-341 (計算基盤 / Computing technologies 300)

コンパイラ

佐々木 晃

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンパイラをはじめとする計算機言語処理系は、情報科学の分野でもっとも重要なソフトウェアの一つである。本講義では、コンパイラの基本概念について説明するとともに、コンパイラの各構成要素における理論と技法について説明する。また、簡単な言語に対するコンパイラの実現を例題として、コンパイラの全体像の理解を深める。

【到達目標】

- (1) コンパイラの基本概念を説明できる。
- (2) 与えられた字句定義および構文定義から、対応するプログラミング言語の構文を説明できる。
- (3) 字句、構文定義からそれぞれ字句解析および構文解析プログラムを作成できる。
- (4) プログラムの構文要素に対するコードの生成方法が理解できる。
- (5) 簡単な言語に対するコンパイラを実現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

コンパイル処理は、いくつかのフェーズ(Phase)と呼ばれるプロセスで構成される。各フェーズの実装方法は、オートマトンをはじめとする言語の理論によって裏付けられている。講義前半（第1～9回）では、各フェーズに対して、(1)フェーズを裏付ける理論の学習、(2)理論に対するプロセスの実装方法（アルゴリズム）の学習、というステップで理解を深めていく。講義後半では、前半で学んだそれぞれのフェーズを統合することで、一つのコンパイラを構成できることを学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「CIS moodle」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	コンパイラと計算機言語処理系の概要
2	言語と文法	文脈自由文法と解析木
3	字句解析	正規表現とオートマトンによる字句解析の定式化
4	字句解析器の実装	字句解析プログラムの導出
5	構文解析	下向き構文解析
6	構文解析器の実装	再帰降下構文解析器の導出
7	意味解析	名前の解決処理、型、静的意味検査
8	中間コード生成	中間コードの種類と生成の基礎
9	実行時環境	実行時記憶、活性レコード（関数フレーム）、手続き呼び出しのプロセス
10	通訳系（インタプリタ）	VM(Virtual Machine)
11	コンパイラの実装(1)	式のコンパイル
12	コンパイラの実装(2)	変数機能の実現
13	コンパイラの実装(3)	制御構造のコンパイルと関数機能の実現
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回では配布する資料を読み授業に備える。また、資料内の例題プログラムは事前に入力し実行すること。授業後は、課題のプログラミングおよびレポート作成に取り組む。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したオンラインテキストおよび配布する印刷物

【参考書】

中田育男、コンパイラの構成と最適化、(2版、2009)、朝倉書店
佐々政孝、プログラミング言語処理系、(1989)、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

試験(60%)、レポート課題(40%)により評価。一部、講義における積極性などを紙加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

レポート問題の解説時間を多めにとる

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPC、ネットワーク接続、学習支援システム利用

【Outline (in English)】

- ・ In this course, students will learn compilers and compilation process.
- ・ At the end of the course students will understand the overall structure of a compiler as a system through realizing a simple language,
- ・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework.
- ・ Grading will be decided based on mid- and term-examinations (60%), reports (30%), and in-class contribution(10%)

PRI210KA-CS-261 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

データ構造とアルゴリズム2

首藤 裕一

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データ構造とアルゴリズムの基礎を身につけることは計算機科学を深く理解するための必要条件である。本講では、春学期開講の「データ構造とアルゴリズム1」でアルゴリズムや計算量に関する基本的な概念を習得していることを前提として、アルゴリズムの基本的な設計技法や、計算機科学を学ぶ者なら誰もが知っておくべき著名なアルゴリズム群を学ぶ。

【到達目標】

計算機科学を学ぶ上で必須となるデータ構造とアルゴリズムの基礎を理解するとともに、典型的なアルゴリズム設計技法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる講義が主体の授業である。講義中、ときおりクイズ形式の問題を出すことで本質の理解を促す。また、アルゴリズムはプログラムとして実装することで理解が大きく促進されるので、いくつかのアルゴリズムについてはこれらの実装に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・振り返り	本授業のガイダンスを行うとともに、「データ構造とアルゴリズム1」の内容を振り返る。
2	二分探索	頻用技法である二分探索を学ぶ。
3	演習（二分探索）	例題を通して二分探索に慣れ親しむ。
4	動的計画法	頻用技法である動的計画法を学ぶ。
5	演習（動的計画法1）	例題を通して動的計画法に慣れ親しむ。
6	演習（動的計画法2）	例題を通して動的計画法に慣れ親しむ。
7	素集合データ構造	有用なデータ構造である素集合データ構造（Union-Find）を学ぶ。
8	演習（素集合データ構造）	例題を通して素集合データ構造の活用を学ぶ。
9	最小全域木構成	素集合データ構造の典型的な活用例として最小全域木構成アルゴリズムを学ぶ。
10	演習（最小全域木構成）	例題を通して最小全域木構成に慣れ親しむ。
11	平衡二分探索木（1）	有用なデータ構造である平衡二分探索木について学ぶ。
12	平衡二分探索木（2）	有用なデータ構造である平衡二分探索木について学ぶ。
13	最大流問題	最大流問題と関連する諸問題について学ぶ。
14	振り返り	本授業で学んだことを振り返り、アルゴリズムへの理解を定着させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習等の授業時間外学習は各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムとデータ構造

著者: 大槻兼資・秋葉拓哉

出版社: 講談社

出版年: 令和2年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

定期試験（90%）、および、課題の提出状況や講義への貢献などの平常点（10%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

板書時には極力教室前方の電気をつけるように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

Mastering the basics of data structures and algorithms is a prerequisite for a deep understanding of computer science. In this course, students will learn basic design techniques of algorithms and well-known algorithms that every student of computer science should know, assuming that they have already mastered the basic concepts of algorithms and computational complexity in "Data Structures and Algorithms 1," a course of the spring semester.

Students will be expected to study the topic given in the class for four hours each week. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 90%, short reports and in-class contribution: 10%

MAT247KA-CS-252 (数学 / Mathematics 200)

統計学2

高村 誠之

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：ABクラス（※上位科目。受講方法は履修ガイド参照。）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

確率・統計の基礎を復習した上で、統計的推測ないし統計的決定の考え方を確実に身につけることを目標とし、線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを理解しながら具体的技法を習得する。

【到達目標】

線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを説明できる。各技法をプログラミングにより実装して具体的に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、確率・統計の基礎として、様々な確率分布、多次元の確率分布、大数の法則と中心極限定理を復習する。次いで、統計的推測ないし統計的決定の手法として線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法を順に紹介する。その際、応用例としてパターン認識を取り上げ、具体的な適用法を学ぶ。確率・統計では数式が多く現れるが、数式の理解とともに各手法の振る舞いを数値的に理解することが重要である。このため、計算問題を解くことと合わせて、数値解析を目的としたプログラミング言語MATLABを用いてプログラミング課題に取り組み、計算処理結果を視覚的に表示して理解を深める。

提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目標、レベル、進め方およびMATLABの使い方の説明
第2回	確率分布	離散型および連続型のおもな確率分布の復習
第3回	多次元の確率分布	同時確率分布、条件付確率分布、無相関、独立の考え方
第4回	大数の法則と中心極限定理	理論の理解とコンピュータシミュレーション、中心極限定理の応用
第5回	線形モデルと最小二乗法(1)	直線、多項式、関数のあてはめによるデータの表現
第6回	線形モデルと最小二乗法(2)	関数の最小二乗近似、動径基底関数法
第7回	線形モデルと最小二乗法(3)	直交関数系、フーリエ級数展開
第8回	最尤推定法(1)	ガウスモデル、事後確率の計算
第9回	最尤推定法(2)	線形判別分析
第10回	線形判別分析の応用(1)	手書き数字の2カテゴリ分類
第11回	線形判別分析の応用(2)	手書き数字の多カテゴリ分類
第12回	ベイズ推定法	ベイズ推定法と最尤推定法の違い、最大事後確率推定法

第13回 ノンパラメトリック カーネル密度推定法と手書き数
な確率密度関数の推 字認識への応用
定法

第14回 まとめ 学習内容のまとめと重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列）の復習
- [3] オンラインマニュアルを用いたMATLABプログラミングの習得
- [4] 計算問題やMATLABプログラミングなどの課題への取り組み
- [5] 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内Webサイトに公開。

【参考書】

- [1] 東京大学教養学部統計学教室編：「統計学入門」，東京大学出版会，1991年。
- [2] 杉山将著：「統計的機械学習－生成モデルに基づくパターン認識」，オーム社，2009年。
- [3] 小西貞則著：「多変量解析入門－線形から非線形へ－」，岩波書店，2009年。
- [4] 上坂吉則著：「MATLABプログラミング入門」改訂版，牧野書店，2011年。

【成績評価の方法と基準】

平常点20％、レポート課題40％、期末試験40％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- [1] MATLABを使ったプログラミングの導入をより丁寧に行う。
- [2] 講義が一方通行にならぬように質問時間を十分に取る。
- [3] 課題の説明を丁寧に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内Webサイトへのアクセス等ネットワークを利用。MATLABプログラミングのための貸与パソコン。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of the statistics. By the end of the course, students should understand the following:

1. linear model and least squares method
2. maximum likelihood estimation method
3. Bayesian estimation

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 20%, mid-term reporting 40%, term-end examination: 40%.

MAT247KA-CS-252 (数学 / Mathematics 200)

統計学2

川畑 史郎

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：CDクラス（※上位科目。受講方法は履修ガイド参照。）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

確率・統計の基礎を復習した上で、統計的推測ないし統計的決定の考え方を確実に身につけることを目標とし、線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを理解しながら具体的技法を習得する。

【到達目標】

線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを説明できる。各技法をプログラミングにより実装して具体的に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、確率・統計の基礎として、様々な確率分布、多次元の確率分布、大数の法則と中心極限定理を復習する。次いで、統計的推測ないし統計的決定の手法として線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法を順に紹介する。その際、応用例としてパターン認識を取り上げ、具体的な適用法を学ぶ。確率・統計では数式が多く現れるが、数式の理解とともに各手法の振る舞いを数値的に理解することが重要である。このため、計算問題を解くことと合わせて、数値解析を目的としたプログラミング言語MATLABを用いてプログラミング課題に取り組み、計算処理結果を視覚的に表示して理解を深める。

提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目標、レベル、進め方およびMATLABの使い方の説明
第2回	確率分布	離散型および連続型のおもな確率分布の復習
第3回	多次元の確率分布	同時確率分布、条件付確率分布、無相関、独立の考え方
第4回	大数の法則と中心極限定理	理論の理解とコンピュータシミュレーション、中心極限定理の応用
第5回	線形モデルと最小二乗法(1)	直線、多項式、関数のあてはめによるデータの表現
第6回	線形モデルと最小二乗法(2)	関数の最小二乗近似、動径基底関数法
第7回	線形モデルと最小二乗法(3)	直交関数系、フーリエ級数展開
第8回	最尤推定法(1)	ガウスモデル、事後確率の計算
第9回	最尤推定法(2)	線形判別分析
第10回	線形判別分析の応用(1)	手書き数字の2カテゴリ分類
第11回	線形判別分析の応用(2)	手書き数字の多カテゴリ分類
第12回	ベイズ推定法	ベイズ推定法と最尤推定法の違い、最大事後確率推定法

第13回	ノンパラメトリックな確率密度関数の推定法	カーネル密度推定法と手書き数字認識への応用
第14回	まとめ	学習内容のまとめと重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列）の復習
- [3] オンラインマニュアルを用いたMATLABプログラミングの習得
- [4] 計算問題やMATLABプログラミングなどの課題への取り組み
- [5] 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内Webサイトに公開。

【参考書】

- [1] 東京大学教養学部統計学教室編：「統計学入門」，東京大学出版会，1991年。
- [2] 杉山将著：「統計的機械学習－生成モデルに基づくパターン認識」，オーム社，2009年。
- [3] 小西貞則著：「多変量解析入門－線形から非線形へ－」，岩波書店，2009年。
- [4] 上坂吉則著：「MATLABプログラミング入門」改訂版，牧野書店，2011年。

【成績評価の方法と基準】

平常点20％、レポート課題40％、期末試験40％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- [1] MATLABを使ったプログラミングの導入をより丁寧に行う。
- [2] 講義が一方通行にならぬように質問時間を十分に取る。
- [3] 課題の説明を丁寧に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内Webサイトへのアクセス等ネットワークを利用。MATLABプログラミングのための貸与パソコン。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of the statistics. By the end of the course, students should understand the following:

- 1. linear model and least squares method
- 2. maximum likelihood estimation method
- 3. Bayesian estimation

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 20%, mid-term reporting 40%, term-end examination: 40%.

PRI210KA-CS-207 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報基礎学A

尾花 賢

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、情報科学の基礎的な理論を理解するために必須となる計算の複雑さの理論を学ぶ。

【到達目標】

計算の複雑さの理論における基本的な概念である時間計算量、領域計算量、多項式時間帰着などを学ぶとともに、P, NP, PSPACE, EXPなどの重要な計算量のクラスを理解する。また、SATのNP完全性の証明などを通じてP vs NP問題に対する解決のアプローチの歴史を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義を通して、計算の複雑さの理論の基本を理解してもらう。重要なポイントでは演習を行い、講義で学習した内容を実感することで理解を深める。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この講義で学ぶことがらを説明する
2	計算とは何か	情報科学における計算の理論的扱いについて学び、チューリングマシン、万能チューリングマシンの概念を理解する。
3	計算可能性の理論と対角線論法	チューリングマシンの停止性判定問題を例に計算可能性の理論と対角線論法について学ぶ。
4	計算の複雑さ	計算の複雑さがチューリングマシンの実行ステップ数などによって定義されることを理解する。
5	計算の複雑さ演習	演習を通じて、具体的なアルゴリズムの計算の複雑さを評価する手法を学ぶ。
6	計算にまつわる諸概念	時間計算量、領域計算量など、計算の複雑さを理解する上で重要な概念について学ぶ。
7	階層定理	時間階層定理、領域階層定理の証明とその意味を理解する。
8	時間計算量のクラス、領域計算量のクラス	P, NP, EXP, NEXPなど時間計算量を理解する上で重要となるクラスについて学ぶ。
9	P対NP問題	P対NP問題と、関連の深い概念であるNP完全性、NP困難性について学ぶ。
10	多項式時間帰着	二つの問題を解く困難さを比較する指標となる多項式時間帰着について学ぶ。
11	多項式時間帰着に関する演習	具体的な問題の多項式時間帰着可能性を考えることにより、多項式時間帰着に対する理解を深める。

12	計算の複雑さに関する命題の証明手法	演習問題を例に計算の複雑さに関する命題を証明する手法を学ぶ。
13	Cook-Levinの定理とSATのNP完全性	論理式の充足可能性問題(SAT)がNP完全問題であることを理解する。
14	計算の複雑さと暗号理論	計算の複雑さの理論と公開鍵暗号の関係について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの学習内容を完全に把握しておくことは必須。また、講義期間中に複数回出す課題を提出すること。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムから配布する。

【参考書】

Michael Sipper 著, 太田 和夫, 田中 圭介, 阿部 正幸 訳, 計算理論の基礎 [原著第2版] 3. 複雑さの理論, 共立出版 ISBN 978-4-320-12209-3

【成績評価の方法と基準】

講義への貢献度、レポート20%、定期試験80%により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるため、計算の複雑さの理論における命題の証明法に関する回を追加した。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。また、チューリングマシンの演習等においては貸与PCを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は、担当教員の企業での暗号および情報セキュリティの研究開発に関する経験に基づき実施する計算量理論の基礎に関する講義である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic concept of complexity theory for understanding theoretical computer science.

Learning objectives: Students will learn time complexity, space complexity, complexity classes (such as P, NP, PSPACE, EXPTIME, etc.), polynomial-time reduction, etc.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading criteria: Short report & Contribution to the class: 20% , Final exam: 80%

PRI310KA-CS-208 (情報学基礎 / Principles of informatics 300)

情報基礎学B

川畑 史郎

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計算と論理の基礎、関数型及び論理型プログラミングの基礎を学ぶ。
また、量子コンピュータの基礎と量子プログラミングについても学ぶ。

【到達目標】

計算可能性、命題論理、関数型プログラミング、論理プログラミングなどの基本知識とプログラミング技術を習得する。また、量子コンピュータの基礎と量子プログラミング技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

計算と論理とはなにかを学ぶとともに、関数型プログラミング、論理型プログラミング、量子コンピュータの基礎について理解する。体系的な知識を具体例を挙げながら伝えるとともに、プログラミング実習を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の目指すもの、想定される受講者の興味・関心を明確にし、科目選択のための情報を提供する。
第2回	計算のモデルとチューリング機械	計算とチューリング機械の概念を知る。
第3回	計算可能性と計算量	計算可能性と計算量理論の基礎を知る。
第4回	命題論理	命題論理の基礎を学ぶ。
第5回	SAT	SAT (Satisfiability Problem、充足可能性問題) の基礎を学ぶ。
第6回	関数型プログラミングとラムダ計算	関数型プログラミングの基礎とラムダ計算を学ぶ。
第7回	ラムダ計算とLISP	ラムダ計算のプログラミングとLISPの基礎を学ぶ。
第8回	述語論理	述語論理の基礎を学ぶ。
第9回	論理型プログラミング	論理型プログラミングとPrologの基礎を学ぶ。Prologプログラミング実習を行う。
第10回	量子コンピュータの基礎(1)	量子コンピュータの基礎と最新動向について学ぶ。
第11回	量子コンピュータの基礎(2)	量子コンピュータを理解するための数学と物理の基礎について学ぶ。
第12回	量子ビットと量子論理回路	量子ビット、量子チューリング機械、量子論理回路の基礎について学ぶ。
第13回	量子アルゴリズムと量子プログラミング	量子アルゴリズムと量子プログラミングの基礎について学ぶ。
第14回	まとめ	期末試験で取り上げる題材を用いて、全トピックの復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。また、課題やレポートが出たものについては必ず、切までに提出すること。

【テキスト（教科書）】

オンライン教材を使用する。

【参考書】

「情報の数理 計算論理入門」田中尚夫 著 裳華房 2018 (ISBN 978-4-7853-0637-3)

「計算モデル論入門」井田哲雄・浜名誠著 サイエンス社 2006 (ISBN 978-4-7819-1135-9)

「はじめてのLISP関数型プログラミング」五味弘著 技術評論社 2016 (ISBN 978-4774180359)

「基礎から学ぶ 量子計算」西村治道著 オーム社 2022 (ISBN 978-4-274-22969-5)

「量子計算」西野哲朗・岡本龍明・三原孝志著 近代科学社 2015 (ISBN 978-4764904866)

「量子アルゴリズム」中山茂著 技報堂出版 2014 (ISBN 978-476533430)

【成績評価の方法と基準】

レポート課題と講義貢献度20%、定期試験80%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プログラミング実習を行うので、貸与ノートパソコンを持参すること。

【Outline (in English)】

In this lecture, we study basics of computation and logic. The series of lectures covers computational complexity, propositional logic, functional programming, and logic programming with Prolog.

In addition, basics of quantum computing and quantum programming is introduced. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Short reports : 20%.

COT211KA-CS-212 (計算基盤 / Computing technologies 200)

コンピュータ構成と設計

李 亜民

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では RISC-V 命令セットアーキテクチャ、アセンブリ言語プログラム、シングル・マルチサイクル CPU のデータバスと制御ユニット設計、パイプライン CPU のデータバスと制御ユニット設計（内部フォワーディングとパイプラインストール）、整数乗除回路、浮動小数点演算装置 FPU、メモリ、キャッシュ、仮想メモリ、TLB、入出力システム、コンピュータの性能評価と高性能コンピューティング（スーパーカラ、マルチスレッド、マルチコア、インターコネクションネットワーク、スーパーコンピュータ）について学びます。

【到達目標】

コンピュータの物理的な仕組みと設計方法の理解。ハードウェアレベルのプログラミング言語であるアセンブラプログラミングについても学び、プロセッサの基本動作を理解します。さらに、シングルサイクル CPU、マルチサイクル CPU、パイプライン CPU、FPU、キャッシュ、TLB、マルチスレッド CPU、マルチコア CPU などの設計方法を理解します。そして、現代のコンピュータにおいて高速化の鍵となっている記憶階層についての理解、外部記憶その他の周辺装置や高性能コンピュータ構成と設計についても理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

RISC-V シミュレータ Rivasim (<https://yamin.cis.k.hosei.ac.jp/rivasim/>) を使用して、命令の意味と使い方を理解します。コンピュータを構成するプロセッサ内部のデータの流れ（データバス）とその制御ユニットに関して、具体的な構成方法と設計の原理を理解します。さらに iverilog と gtkwave を使用してプロセッサを設計し動作検証シミュレーションを行います。講義の冒頭で、前回の課題について説明・フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	命令セットアーキテクチャ（1）	命令セットアーキテクチャとアセンブリ言語（算術、論理、シフト演算命令）及び Rivasim シミュレータの使い方
2	命令セットアーキテクチャ（2）	命令セットアーキテクチャとアセンブリ言語（関数の呼び出し、条件分岐、無条件ジャンプ、メモリ load、store 命令）
3	コンピュータの基本的な回路設計	回路図と Verilog HDL を用いた基本的な回路（パレシフタや ALU など）設計
4	シングルサイクル CPU 設計（1）	シングルサイクル CPU の構成とレジスタファイルの設計とシミュレーション
5	シングルサイクル CPU 設計（2）	シングルサイクル CPU のデータバスと制御ユニットの設計とシミュレーション
6	シングルサイクル CPU 設計（3）	シングルサイクル CPU + メモリ + テストプログラム、整数乗除/剰余回路
7	マルチサイクル CPU 設計（1）	マルチサイクル CPU のデータバスの設計とシミュレーション

8	マルチサイクル CPU 設計（2）	マルチサイクル CPU の制御構造とコンピュータの設計とシミュレーション
9	パイプライン CPU 設計	パイプライン CPU（内部フォワーディングとパイプラインストール）の設計とシミュレーション
10	浮動小数点数と FPU 設計	IEEE 754 浮動小数点数と FPU（浮動小数点数の加減乗除と平方根の回路）の設計とシミュレーション
11	メモリ階層とその管理	メモリ階層（SRAM、DRAM、キャッシュ、仮想記憶、MMU、TLB）の設計とシミュレーション
12	入出力システム	入出力システム（入出力割込み、キーボードと VGA のインターフェースコントローラ）の設計とシミュレーション
13	性能評価と高性能コンピューティング	性能評価と高性能コンピューティング（スーパーカラ、マルチスレッド、マルチコア、インターコネクションネットワーク、スーパーコンピュータ）
14	まとめとクイズ	まとめとクイズ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とします。講義資料を事前に目を通すこと。また、レポート（宿題）を完成させて提出すること。

【テキスト（教科書）】

担当教員 Website に掲載

【参考書】

1. コンピュータの構成と設計：ハードウェアとソフトウェアのインタフェース RISC-V版, Morgan Kaufmann. 2017.
2. Computer Principles and Design in Verilog HDL, Wiley, 2015.

【成績評価の方法と基準】

課題レポート70%＋クイズ30%

【学生の意見等からの気づき】

課題の難易度を調整します。
設計サンプルを追加します。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPCをクラスに持参してください。

【Outline (in English)】

The objective of this lecture is to understand the fundamentals of the computer system and its design method. The contents of the lecture contain RISC-V instruction set architecture, assembly language programming, datapath and control unit design of single-cycle and multiple-cycle CPUs, design of pipelined CPU with internal forwarding and pipeline stall mechanism, memory, caches, virtual memory management, TLB (Translation lookaside buffer), input/output interface controller, interrupt, computer performance evaluation, superscalar, multithreading, multicore, interconnection network, and supercomputers. The CPUs will be designed in Verilog HDL and simulated with iverilog and gtkwave. Students will be expected to spend more than four hours studying each theme per week. Grading will be decided based on the homework (80%) and a quiz (20%).

情報理論

尾花 賢

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の数学的定義および、エントロピーの概念、情報の圧縮の方法、通信路における誤り訂正の方法等を理解する。

【到達目標】

エントロピーの概念、および、情報理論における基本的な定理である情報源符号化定理、通信路符号化定理を理解するとともに、具体的な情報源符号化法や通信路符号化法(誤り訂正符号)の構成法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

情報とは何か、情報はどのように数学的に定義されるかを学ぶとともに、情報の符号化、情報通信の基礎理論を理解する。授業の理解を深めるため、講義の後半に適宜課題を解く時間を設ける。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報の概念とエントロピー	情報量の定式化、エントロピーの概念を理解する。
2	条件付きエントロピー・相互情報量	確率の基本的な性質の復習を行った後、条件付きエントロピー、相互情報量の概念を理解する。
3	エントロピー、条件付きエントロピー、相互情報量の復習	重要な概念である各種エントロピーに関して、演習問題を通して理解を深める。
4	クラフトの不等式	符号の瞬時復号可能性、一意復号可能性とクラフトの不等式について理解する。
5	情報源符号化定理	情報理論における最も重要な定理のひとつである情報源符号化定理を理解する。
6	情報源符号化法	具体的な情報源符号化法であるシャノン符号、ファノ符号、ハフマン符号を理解する。
7	ハフマン符号のコンパクト性、Elias符号	ハフマン符号のコンパクト性、および算術符号の一種であるElias符号を理解する。
8	符号構成法の復習	演習を通していくつかの重要な情報源符号化法に関する理解を深める。
9	通信路符号化のモデル	通信路符号化のモデルについて理解する。
10	通信路符号化定理	情報理論における最も重要な定理のひとつである通信路符号化定理を理解する。
11	誤り訂正符号の基礎	通信路符号化定理と関連の深い、誤り訂正符号の概念を理解する。
12	誤り訂正符号の例	ハミング符号、拡大ハミング符号の構成法と、その符号化法、復号法を理解する。

13	通信路符号化・誤り訂正符号の復讐	演習を通して、情報源符号化法と誤り訂正符号に関する理解を深める。
14	情報理論と暗号	暗号通信のモデルと、完全秘匿性を有する暗号方式について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの学習内容を完全に把握しておくこと。授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Webからの配布による。

【参考書】

情報理論 ―基礎から応用まで―、中川聖一著 (近代科学社)

【成績評価の方法と基準】

講義への貢献度、課題の出来20%、定期試験80%によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

講義中に演習問題を提示することで理解を高める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は、担当教員の企業での暗号および情報セキュリティの研究開発に関する経験に基づき実施する情報の基礎理論に関する講義である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce basic concepts of information theory.

Learning objectives: You will learn mathematical definitions of information, the concept of entropy, methods of data compression, and error correction etc.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading Criteria: Short report & contribution to the class: 20% , Final exam: 80%

COT311KA-CS-242 (計算基盤 / Computing technologies 300)

オペレーティングシステム

山田 浩史

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペレーティングシステム(OS)の基本概念と実装技術，およびその内部構造についての基礎知識を学ぶ。OSは，裸のままでは扱いにくいハードウェアを抽象化し，より扱いやすい仮想的なコンピュータをユーザに見せるソフトウェアである。LinuxやWindows 8がその代表格である。OSはハードウェアとアプリケーションを繋ぐ要のような役割を担っており，コンピュータが動作する仕組みを知るにはOSの理解が必須である。

【到達目標】

OSの概念，実装技術，および内部構造についての基礎知識を身につけることを目標とする。また，OSの理解を通じて，コンピュータの動作原理についての理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

OSの基本概念を講義していく。具体的には，プロセスやスレッド，スケジューリング，同期，仮想記憶，割り込み処理，ファイルシステムといった内容について講義を行う。また，進捗を見つつ，理解を深めるために適宜プログラミング演習を行ってレポートを課す。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ，授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	OSの基本概念について学ぶ。
2	I/O デバイスと割り込み	I/O デバイスや割り込みを OS がどのように制御するかについて学ぶ。
3	ファイルシステム(1)	OS のディスク管理方法について学ぶ。ファイルという考え方やファイルの管理方法について学ぶ。
4	ファイルシステム(2)	前回の続き。
5	システムコールと保護	システムコールの基本概念、OS によって達成される保護について学ぶ
6	プロセスとスレッド	プロセスとスレッドの基本概念、違いについて学ぶ。
7	演習(1)	これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。
8	スケジューリング	OS の CPU 管理方法について学ぶ。スケジューリングの基本概念について学ぶ。
9	相互排除と同期(1)	相互排除の基礎を学ぶ。クリティカルセクション、ロック等の考え方を学ぶ
10	相互排除と同期(2)	前回の続き。
11	演習(2)	これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。

12 仮想記憶(1)

OS のメモリ管理方法について学ぶ。仮想/物理アドレス，ページング，スワッピングについて学ぶ

13 仮想記憶(2)

前回の続き。

14 演習(3)

これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習時に課されたレポートを行う。本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

河野健二著，オペレーティングシステムの仕組み，朝倉書店
Abraham Silberschatz 著，Operating System Concepts 9th Edition.

詳解 Linuxカーネル 第3版，オライリージャパン

【成績評価の方法と基準】

レポート 50%，試験 50%，出席で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習課題の解説分量を増やすようにする。

【その他の重要事項】

C 言語を用いたプログラミングをこなせること，および計算機アーキテクチャの基礎知識を必須とする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces basics of operating systems, such as their concepts, designs, and implementation. The operating system is a fundamental software layer that controls applications and underlying hardware. It abstracts bare-metal hardware and provides intelligent interfaces to applications.

【Learning Objectives】

You will learn basics of 1). concept of the operating system, 2). its abstraction of the hardware such as CPU, memory, and storages, 3). its policies and mechanisms for assigning hardware resources to applications. See the Curriculum maps.

【Grading criteria/Policy】

Report (50%) and paper test(50%).

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to spend four hours to pre/post-study of the course including programming the homework and next week's pre-studying contents.

COT311KA-CS-243 (計算基盤 / Computing technologies 300)

型システムと関数型言語

日高 宗一郎

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

型システムと関数型プログラミングの諸概念を代表的な言語である Haskell を用いて学ぶ。Functor, Applicative, Monad, Monoid などの概念を多数の具体例の計算を通して理解する。

【到達目標】

学生は関数型言語の型システムとその上で実行される入出力や状態をもつ計算の仕組みを理解し、副作用のない純粋な関数型の計算から副作用を隔離する機構である Monad を適切に使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

Haskell によるプログラミング体験を通じて型システムの実際を知る。型推論の意義と問題点を理解する。授業中にプログラミングを行うため PC を持参する必要がある。授業中の議論に受講生の積極的な参加を求める。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と方法を説明する。履修すると判断した場合は次回までに Haskell の開発環境を構築しておく。教科書 chapter 1.
第2回	Believe the Type	Type variable, type class を学ぶ。
第3回	Syntax in Functions	Pattern matching, guards, where, let, case などの用法を学ぶ。
第4回	Hello Recursion!	Recursion に親しむ。Quick sort を例にとる。
第5回	Higher Order Functions	Curried function, lambda expression, fold, (\$) などについて学ぶ。
第6回	Modules	Module の扱いと作成方法を学ぶ。
第7回	Making Our Own Types and Type classes	新しい type や type class の作成方法を学ぶ。Functor という type class に触れる。型の型である Kind を理解する。
第8回	Input and Output	Pure な世界と副作用のある世界の分離を monad 機構で実現する。
第9回	More Input and More Output	乱数の扱いに触れる。簡単なゲームを作成する。
第10回	Functionally Solving Problems	逆ポーランド電卓、経路探索などへの簡単な応用。
第11回	Applicative Functors	Functor をさらに強化する機構について学ぶ。
第12回	Monoids	Monoid は様々な場面で登場する計算パターンであることを学ぶ。
第13回	A Fistful of Monads	Monad 則について学ぶ。

第14回 まとめ

期末試験で取り上げる題材をもとに全てのトピックのまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題への取り組み。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Learn You a Haskell for Great Good!,
Miran Lipovaca,
No Starch Press.
Kindle 版もある。PDF is freely available.

【参考書】

Simon Thompson, Haskell - the craft of functional programming (3rd edition),
Addison Wesley
その他、授業内で指示

【成績評価の方法と基準】

期内レポート(30%), 期末試験(70%)

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は授業担当者変更によりフィードバックできませんでした。また、アンケート結果では特に意見はありませんでしたが、講義後等に受けた質問を通じて理解度を確認し、授業に反映させます。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を授業中に使用する

【Outline (in English)】

We study a type system and functional programming with Haskell. The concepts of functor, applicative, monad, and monoid are treated with concrete examples. Students will be able to write their own functors and monads. They will also be able to trace recursive calls typical in the "fold" design pattern. All these abilities are checked by the term examination (50%) and the weekly assignments (50%), in each of which an average student spends four hours.

COT311KA-CS-244 (計算基盤 / Computing technologies 300)

ソフトウェア工学

栗田 太郎

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソフトウェア工学の基本概念とその重要性を理解した上で、ソフトウェア開発プロセス、アジャイル開発とスクラム、要求の獲得と分析、要求の仕様化、仕様書の記述、形式手法と形式仕様記述、検証と妥当性確認、プログラムの設計と実装、レビューとテスト、プロジェクトと品質のマネジメント等について学び、実践的なソフトウェア開発やシステム開発、他者と協働するチーム開発に向けた基礎的な力を養成する。

【到達目標】

本授業を受講すると、ソフトウェア工学の基本事項、様々な開発プロセス、開発の各工程における様々な技法、背景にある考え方等について理解し、その重要性も含めて他者に説明できるようになる。そして、受講後のソフトウェア開発において、様々な有機的な知識に基づいた、開発の特性に合わせた技法の組み合わせや開発計画の立案、実践等を行いはじめることができるようになる。さらに、ソフトウェア工学やシステム工学に関する発展的な事項に関する独習を行うことができるようになる。

また、本授業の受講により、基本情報技術者試験と応用情報技術者試験のシラバスの中でソフトウェア工学に関係する事項を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、ソフトウェア工学についての基本的な知識や発展的な事項、とくに複数人で行う実開発の理想と現実について学ぶ。さらに、授業時間や授業時間外における演習、演習課題、授業時間における受講生同士の議論・対話により、設計に関する知識への理解を有機的に深くしながら、様々な技法の実践、仕様書をはじめとする文書の品質、品質やプロジェクトのマネジメント、様々なトレードオフ等について考えていく。

また、受講生が課題やリアクションペーパーに書いた質問や意見を、講師が授業時間において受講生のプライバシーに配慮しつつ紹介・回答することで、疑問点を解消したり、クラス全体で学びを深めたりする。

授業は、基本的にはオンラインで行うが、第3回、第8回、第13回は対面で実施する予定である。対面授業の実施に関する最終的な決定は初回の授業までに行い、受講生に伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ソフトウェア工学の概要	オリエンテーションの後、ソフトウェア工学の概要と歴史、技術者と倫理、2回目以降で取り扱う事項の紹介を行う。
2	ソフトウェア開発プロセス 1	ソフトウェア開発プロセスの概要、その種類と特性について解説する。
3	ソフトウェア開発プロセス 2	プロセスの開発と改善に関する演習を行う。各自がデザインしたプロセスモデルを、グループでレビューし合ったり、議論したりする。
4	アジャイル開発プロセス 1	アジャイル開発とスクラムの基礎について解説する。

5	アジャイル開発プロセス 2	スクラムに関する演習を行う。振り返り等の関連事項についても紹介する。
6	要求工学 1	要求工学の概要を紹介するとともに、システムおよびソフトウェアの開発の全体像と要求工程との関係性について解説する。要求を抽出・分析するための様々な技法について説明する。関連して、人間中心設計についても紹介する。
7	要求工学 2	第7回までの講義内容に関する演習を行う。グループで討議し、要求獲得における課題を整理していく。
8	ワークショップ 1	要求の仕様化と仕様の記述・検証について解説する。検証と妥当性確認の違いについても述べる。
9	仕様書の記述と検証	厳密な仕様を記述するための形式手法、形式仕様記述言語等について事例を交えて解説する。ソフトウェアの実現とテストに関する技法や課題について説明する。レビューについても触れる。
10	形式手法と形式仕様記述	プロジェクトマネジメントとシステムの品質について説明する。セーフティーやセキュリティについても触れる。
11	ソフトウェアの設計、実現とテスト	第12回までの講義内容に関する演習を行う。グループワークを通して、コミュニケーションの課題を体験・考察する。
12	プロジェクトと品質のマネジメント	発展的な内容について紹介するとともに、授業全体の振り返りとまとめを行う。
13	ワークショップ 2	
14	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1回目開始以降、授業資料を用いて、授業後の復習、他受講生との議論・対話の内容の整理、授業前の準備学習、演習課題への取り組み等を行う。本授業の予習・復習等の時間は、1回につき、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。授業にて資料を提示する。

【参考書】

Ian Sommerville: Software Engineering (10th Edition), Pearson (2015).

玉井 哲雄: ソフトウェア工学の基礎 改訂新版, 岩波書店 (2022).

Roger S. Pressman, Bruce R. Maxim: 実践ソフトウェアエンジニアリング (第9版), オーム社 (2021).

中谷 多哉子, 中島 震: ソフトウェア工学, 放送大学教育振興会 (2019).

荒木 啓二郎, 張 漢明: プログラム仕様記述論, オーム社 (2002).

マイケル・ジャクソン: ソフトウェア要求と仕様 - 実践, 原理, 偏見の辞典 -, エスアイビー・アクセス (2014).

SQuBOK 策定部会: ソフトウェア品質知識体系ガイド (第3版) - SQuBOK Guide V3 -, 日科技連出版社 (2020).

【成績評価の方法と基準】

平常点: 30%

レポート課題: 30%, 最終課題: 40%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業、対面授業のいずれの場合においても閲覧しやすい、
また、授業の後に復習や参照がしやすい配付資料を作成する。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具およびノート PC 等

【その他の重要事項】

正しい知識と基礎的な実践力を身につけると同時に、正解がないことに関して、他受講生との対話を通して、考察を深めていくことが重要である。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces the basic concepts and various techniques for software engineering, including software development process, agile development and scrum, requirements elicitation and analysis, description of specification, formal method and formal specification, verification and validation, program design and implementation, review and testing, project management, and quality management. Students are expected to learn the basics of these issues and techniques, and to build up their ability to apply them in practice.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Explain what is written in the course outline.
2. Plan and use software engineering methods in small projects.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%

Short reports: 30%

In-class contribution: 30%

COT311KA-CS-311 (計算基盤 / Computing technologies 300)

並列分散処理

八巻 隼人

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、そして今後の情報基盤アーキテクチャの根幹を成す「並列処理」と「分散処理」についてその基礎から学ぶ。スマートフォンや携帯ゲーム機からパソコン・スーパーコンピュータに至るまで、現在使われている殆どの計算機システムは、複数の処理列を同時に実行させて処理を進める並列分散処理の構成になっている。本講義では、並列・分散システムの基盤技術を俯瞰することにより、ハードウェアからOS・アプリケーションに至るまでの様々なレイヤにおける並列・分散処理について学ぶ。

【到達目標】

本講義では、並列分散処理に関わるハードウェアやソフトウェアがいかにして並列化を実現しているか、またそれに伴う諸問題についても理解することを最終的な目標とする。その過程で、プロセス・スレッドレベルでの簡単な並列プログラミング手法についても修得する。学生は本講義を通じて、OSやプロセッサ、またよりスケールの大きいクラスタレベルの並列化技術について知識を得るだけでなく、プロセス・スレッドのプログラミング技術を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は主に配布資料を用いた講義形式により行う。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

進み具合に応じて数回の理解度チェック課題を課す。

また中間課題として課す演習においては、並列分散処理ライブラリ等を利用したプログラミングを行うことから、C/C++の基本的なプログラミング知識を有することを前提とする。

試験は期末のみを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	並列分散処理の目的と歴史的経緯	並列分散処理についてのイントロダクション。 それらの歴史的な技術の変遷を辿り技術領域を明らかにする。
第2回	OSレベルの並列化1（プロセス、スレッド、仮想メモリ）	OSが行う並列処理技術として、プロセス・スレッドを用いたマルチタスク実行が挙げられる。 まずプロセスとスレッドの概念について学ぶ。
第3回	OSレベルの並列化2（プロセス、スレッド、仮想メモリ）	第2回に引き続き、プロセスとスレッドを理解する上で欠かせない、OSの仮想メモリ技術について学ぶ。
第4回	OSレベルの並列化3（プロセス、スレッド、仮想メモリ）	プロセスとスレッドをユーザが生成するためのプログラミング技術について学ぶ。
第5回	命令レベルの並列化1（命令依存、スーパースカラ）	プログラム実行を高速化する技術として、CPUが命令レベルで実行を並列化するスーパースカラ等の技術がある。まず、命令の並列実行と命令依存の関係について学ぶ。

第6回	命令レベルの並列化2（命令依存、スーパースカラ）	スーパースカラやVLIWといった複数命令を同時実行する技術、またそれらを効率化するコンパイラ技術等について学ぶ。
第7回	プロセッサレベルの並列化1（メモリコンシステンシ、キャッシュコヒーレンシ）	複数のプロセッサを用いて並列処理するマルチプロセッサ環境における問題点として、メモリコンシステンシおよびキャッシュコヒーレンシの概念について学ぶ。
第8回	プロセッサレベルの並列化2（メモリコンシステンシ、キャッシュコヒーレンシ）	マルチプロセッサ環境における同時メモリアクセスの問題を解決する、同期やセマフォといった技術について学ぶ。
第9回	プロセッサレベルの並列化3（メモリコンシステンシ、キャッシュコヒーレンシ）	マルチプロセッサ環境における複数キャッシュのコヒーレンシ問題を解決するスヌープキャッシュ等の技術について学ぶ。
第10回	ネットワークと通信プロトコル1	分散システムで欠くことのできないネットワークとその通信プロトコルについて学ぶ。本回では主にネットワークのトポロジと、それによる性能差について学ぶ。
第11回	ネットワークと通信プロトコル2	分散システムで欠くことのできないネットワークとその通信プロトコルについて学ぶ。本回では主に通信プロトコルについて学ぶ。
第12回	高信頼化・高性能化技術（RAID）	よりスケールの大きい分散システムとしてストレージ機器の並列分散化であるRAIDを例に挙げ、システムの信頼性について学ぶ。
第13回	時刻同期（時計、スナップショット）	分散システムにおける時刻同期の難しさと、それによる問題、解決策について学ぶ。
第14回	まとめ	これまでの講義内容を振り返り、並列分散処理に関する様々な技術をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は講義前にWeb配布するので、必要に応じて予習しておくこと。

前述したように数回のレポート課題を課す予定なので、その場合にはしっかりとレポートを作成すること。本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキスト、参考書は指定しない。講義資料は講義前にHoppii上にアップロードする。

【参考書】

参考書は必要があれば講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを60%、中間レポート・出席レポートを含む平常の学習状態や授業への積極性を40%の配点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

質疑はいつでも受け付けるので 気軽にメールすること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In recent years, most computer systems, such as mobile phones, PCs, and supercomputers, use technique of parallel and distributed processing for high-speed and multi-task processing. This course introduces the basic techniques of "parallel processing" and "distributed processing" for various layers (from a hardware layer to an OS/application layer).

[Learning Objectives]

The goals of this course are to understand how parallel and distributed systems are realized and performed and to be able to point out problems in these systems.

[Learning activities outside of classroom]

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policies]

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and in-class contribution (40%), term-end examination (60%).

COT211KA-CS-206 (計算基盤 / Computing technologies 200)

情報・ネットワークセキュリティ入門

青木 慧、和田 紘帆、前田 智紀

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、情報システムやネットワークシステムおよびそれらを通じて提供される様々なサービスに存在する脆弱性やリスク、それらに対応するためのセキュリティ対策の基礎を解説する。情報システムやネットワークシステムの利用者および開発者として、情報セキュリティをどのように考慮すべきかを学ぶ。

【到達目標】

情報システムが私たちの日々の暮らしを支える社会基盤となった情報化社会で、安全で快適な生活をおくるための、また社会人として情報システムやネットワークシステムを安全にかつ効果的に駆使し活動できるための、基本的知識の習得と対策方法の理解を目標とする。更に、主要なマルウェアや攻撃手法などの特徴を説明でき、それらの被害にあわないための対策や留意点について説明できることを、目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

まずは、情報化時代に生きる学生、社会人として必要な情報セキュリティに関する知識、被害にあわないための情報セキュリティ対策の基本について、(独)情報処理推進機構がまとめたテキストをベースに説明する。

次に、情報セキュリティ対策を構成する主要な情報セキュリティ要素技術の基本的メカニズムを説明する。

最後に、実際の情報サービスを構成する、サーバー、ネットワーク、クライアントのそれぞれが、実際に直面する脅威の説明とその対策技術の概要について説明する。

授業中に課した課題等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報セキュリティリテラシー（1）	「ガイダンス」の説明 ・本授業の概要、目的、目標、進め方、レポート、試験の扱いなど 「今日のセキュリティリスク」の説明 ・Webサイト改ざん、フィッシング詐欺、ビジネスメール詐欺、ランサムウェア、闇バイト、テレワーク 「情報セキュリティの基礎」の説明 ・機密性、完全性、可用性 ・情報資産、脅威、脆弱性、インシデント、リスク

2	情報セキュリティリテラシー（2）	「見えない脅威とその対策」の説明 ・マルウェア ・共通のセキュリティ対策 ・標的型攻撃と誘導型攻撃への対策 ・フィッシング詐欺、ワンクリック請求、スマートフォン、無線LANへの対策
3	情報セキュリティリテラシー（3）	「組織の一員としての情報セキュリティ対策」の説明 ・情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS） ・PDCAサイクル ・情報セキュリティの心得
4	情報セキュリティリテラシー（4）	「もっと知りたいセキュリティ技術」の説明 ・アカウント、ID、パスワード ・攻撃手法 ・ファイアウォール ・暗号化とデジタル署名
5	情報セキュリティリテラシー（5）	「情報セキュリティ関連の法規と制度」の説明 ・国際標準ISO/IEC 27000シリーズ ・国際標準ISO/IEC 15408 ・刑法、不正アクセス禁止法、電子署名法、個人情報保護法、サイバーセキュリティ基本法 ・著作権法、不正競争防止法、迷惑メール関連法 「暗号技術体系、AESなどの共通鍵暗号、RSAなどの公開鍵暗号」の説明 ・暗号とは ・共通鍵暗号（ストリーム暗号、ブロック暗号） ・公開鍵暗号（RSA暗号） 「認証、改ざん検証」の説明 ・ハッシュ関数、メッセージ認証符号、デジタル署名
6	セキュリティ要素技術（1）	「公開鍵基盤（PKI）とその応用」の説明 ・公開鍵基盤（PKI）とは ・Online Certificate Status Protocol ・電子証明書
7	セキュリティ要素技術（2）	「バイオメトリクス認証技術」の説明 ・バイオメトリクス認証とは ・様々なバイオメトリクス認証（指紋認証、顔認証など）
8	セキュリティ要素技術（3）	「耐タンパー性、情報ハイディング技術」の説明 ・暗号技術における鍵管理 ・耐タンパー性とは ・秘密計算、秘密分散、マルチパーティ計算 ・電子透かし、ステガノグラフィ
9	セキュリティ要素技術（4）	

10	サーバーのセキュリティ (1)	「サーバー側の基本的な対策」の説明 ・セキュリティ対策の分類 ・サーバーの適切なアクセス制御 ・サーバーの情報漏えい防止 ・サーバーの情報の完全性保証 ・物理的アクセス制御 (入退室管理)
11	サーバーのセキュリティ (2)	「Webサーバーに関する脅威とその対策」の説明 ・Webサーバーとは ・Webアプリケーション開発とセキュア開発 (バッファオーバーフロー、クロスサイトスクリプティング対策) ・フィッシング詐欺、ファームウェア ・安全なWebサイトをつくるために
12	ネットワークのセキュリティ (1)	「TLS、VPNなどのネットワークセキュリティ技術」の説明 ・インターネットとは ・IPv4、IPv6 ・SSL (Secure Socket Layer)、TLS (Transport Layer Security) ・VPN (Virtual Private Network) ・無線LANセキュリティ
13	ネットワークのセキュリティ (2)	「不正アクセスとその対策」の説明 ・不正アクセスとは ・ファイアウォール、IDS (Intrusion Detection System) ・サービス妨害とその手法・対策
14	クライアントのセキュリティ	「クライアント側の基本的な対策」の説明 ・クライアントPCの課題 ・クライアントPC向けマルウェア ・クライアントPCにおける情報漏えい ・シンクライアント

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ①テキストに指定した「情報セキュリティ読本 六訂版 -IT時代の危機管理入門-」の内容は、社会人には必須の情報セキュリティの常識、是非熟読していただきたい。
- ②TV、新聞等で報道される情報セキュリティに関する事件・事故・課題などについても関心を持ち、現社会の状況を理解しておいていただきたい。
- ③本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

- ①「情報セキュリティ読本 六訂版 -IT時代の危機管理入門-」、(独)情報処理推進機構著、実教出版発行、ISBN 978-4-407-36117-9
- ②講義で使用する資料 (各回の講義前にネット経由配布)

【参考書】

- ①「情報セキュリティ教本 改訂版 -組織の情報セキュリティ対策実践の手引き-」、(独)情報処理推進機構著、実教出版発行、ISBN 978-4-407-31696-4
- ②「図解即戦力 暗号と認証のしくみと理論がこれ1冊でしっかりわかる教科書」、光成滋生著、技術評論社発行、ISBN 978-4-297-12307-9
- ③「デジタル署名と暗号技術 第2版: 安全な電子商取引のためのPKI(公開鍵基盤)、セキュリティシステム、法律基盤」、ウォーウィックフォード著、桐原書店発行、ISBN 978-4894715127
- ④「よくわかる生体認証」、日本自動認識システム協会著、オーム社発行、ISBN 978-4274507267

- ⑤「サイバーセキュリティにおける生体認証技術」、瀬戸 洋一著、共立出版発行、ISBN 978-4320120495

- ⑥「電子透かし技術 -デジタルコンテンツのセキュリティー」、画像電子学会著、東京電機大学出版局発行、ISBN 978-4501323202
- ⑦「情報ハイディングの基礎 ユビキタス社会の情報セキュリティ技術」、松井 甲子雄著、森北出版発行、ISBN 978-4627828315
- ⑧「安全なウェブサイトの作り方」、独立行政法人情報処理推進機構著、独立行政法人情報処理推進機構発行、<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/websecurity/about.html>

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験(100%)で評価する。ただし、合格基準に若干満たない場合 (10点まで) は、授業での学習状況や参加度を平常点として加味して評価しなおす (最大60点)。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生が授業に集中しやすい環境づくりを意識する
- ・配布資料はPDFファイルに統一する
- ・教科書をベースに授業方針や授業の位置づけ (教科書との対応や補完部分) を学生が理解しやすいよう工夫する
- ・授業理解向上のため、授業外の課題を用意し、復習しやすい仕組みを提供する
- ・授業での学習状況や課題などへの参加度合いを成績評価に考慮する

【学生が準備すべき機器他】

教育支援サーバー (CIS Moodle) 等を資料配布、課題、期末試験等に利用する。
授業内の演習や期末試験では、貸与パソコンを利用する。

【その他の重要事項】

本授業は、担当教員の企業での情報・ネットワークセキュリティの研究開発に関する経験に基づく実践的なセキュリティ技術に関する講義である。
実務経験

- ・制御システムセキュリティに関する研究開発
- ・脆弱性検査の実施及び研究開発
- ・ペネトレーションテストの実施及び研究開発
- ・社内外向けセキュリティ教育の作成・講師

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces the basics of security against vulnerabilities and risks that exist in information systems and network systems to students taking this course.

The aim of this course is to help students acquire security skills as users and developers of information systems and network systems.

Learning Objectives:

The goals of this course are to acquire basic knowledge of security as user and developer in IT society.

Furthermore, the goal is to be able to explain the characteristics of major malware, attack methods, and countermeasures.

Learning activities outside of classroom:

1. Students will be expected to read the textbook thoroughly, because it includes a common sense of information security and essences for working adults.
2. Students will be expected to take an interest in incidents, accidents, and issues related to information security reported on TV, newspapers, etc., and understand the current situation of society.
3. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

COT211KA-CS-203a (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング2(Java)

細部 博史

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／4単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システムの構築を目的として、プログラミング1 (Java)の発展的観点から、Java言語によるプログラミングを学ぶ。

【到達目標】

プログラミング1 (Java)の発展的観点から、Java言語によるプログラミングを理解する。特にJava言語の発展的機能とオブジェクト指向プログラミングの発展的知識を修得する。さらに具体的な情報システムを構築する発展的なプログラミング技術を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

Java言語の発展的機能、オブジェクト指向プログラミングの発展的知識として、型推論、レコード、ジェネリクス、ラムダ式、ストリーム、正規表現等を扱う。これらに並行して、データベース、人工知能、形式言語等に関連する情報システムを構築する課題を課す。授業で課した課題等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基礎再説	授業のガイダンス、Java言語の基礎の再説
2	型推論	型推論の利用
3	カプセル化	カプセル化の利用
4	復習(1)	復習と発展課題(1)
5	再帰(1)	再帰の利用(1)
6	再帰(2)	再帰の利用(2)
7	ジェネリクス(1)	ジェネリクスの利用(1)
8	復習(2)	復習と発展課題(2)
9	復習(2)(続き)	発展課題(2)の続き
10	ジェネリクス(2)	ジェネリクスの利用(2)
11	ラムダ式とストリーム	ラムダ式とストリームの利用
12	正規表現	正規表現の利用
13	復習(3)	復習と発展課題(3)
14	まとめ・成果発表	授業内容のまとめと発展課題の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習、復習を行い、課題のプログラムを作成すること。準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき8時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

川場隆, 新わかりやすいJava—オブジェクト指向徹底解説第2版, 秀和システム, 2022. ISBN 9784798065007 (電子版も可)
他にも必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題(30%)と試験(60%)に加え、平常点(10%)を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを使用する。

【その他の重要事項】

プログラミング1 (Java)の講義内容を理解していることを前提とする。

【Outline (in English)】

Students will learn programming in the Java language with the view of constructing information systems. The goal of this course as the successor of Programming 1 (Java) especially includes acquiring advanced knowledge of Java, advanced knowledge of object-oriented programming, and advanced technology for constructing concrete information systems. The students are expected to spend typically 8 hours for preparation, review, and assignments for each class meeting. Grading will be decided based on assignments (30%), the final examination (60%), and in-class contribution (10%).

HUI212KA-CS-231 (人間情報学 / Human informatics 200)

ヒューマンコンピュータインタラクション

細部 博史

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人とコンピュータの対話とその媒介手段についての理解を目的として、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)とユーザインタフェース(UI)を学ぶ。

【到達目標】

UIの設計・開発・評価に必要な考え方を身に付け、実際にグラフィカルユーザインタフェース(GUI)のプログラミングと評価ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

人とコンピュータの対話を意味するHCIとその媒介手段であるUIについて学ぶ。最初にHCIの基本として、その概要と歴史、人のインタフェース特性、人と人工物のインタフェースを学ぶ。次に具体的なUIに関して、現在一般的なUIのデバイスとハードウェア、代表的UIであるGUIの概要を学んだ後、イベント駆動とオブジェクト指向の考え方に基づくGUIのプログラミングに関する演習を行う。GUIのプログラミングにはPython言語を用いる。さらにUIの使いやすさの評価方法を学んだ後、先の演習で作成したGUIの評価に関する演習を行う。最後にGUIに限らないHCIの様々な手法と今後のHCIについて学ぶ。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HCIとは？	授業のガイダンス、HCIの概要と歴史
2	人のインタフェース特性	人の感覚、言語能力、記憶、情報処理
3	人と人工物のインタフェース	アフォーダンス、ユーザモデル、デザインモデル
4	UIのデバイス	キーボード、マウス、ディスプレイ等のデバイス
5	UIのハードウェア	1ビット・多ビットの入出力、シリアルフィン多フェース、ディスプレイドライバ、入出力サブシステム
6	GUI	GUIの画面、特徴、短所と対策
7	GUIプログラミング	イベント駆動とオブジェクト指向によるGUIのプログラミング
8	GUIプログラミング	GUIプログラミングの演習
9	UI評価	UIの使いやすさの評価方法
10	UI評価演習(1)	先の演習で作成したGUIの評価
11	UI評価演習(2)	先の演習で作成したGUIの評価(続き)
12	HCIの手法	GUIに限らないHCIの手法
13	次世代UI	GUIに限らない今後のHCI
14	まとめ・成果発表	授業内容のまとめと課題の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・講義資料の予習、復習を行い、課題のプログラムとレポートを作成すること。

準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

椎尾一郎, ヒューマンコンピュータインタラクション入門, サイエンス社, 2010. ISBN 9784781912608

他に担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題(30%)と試験(60%)に加え、平常点(10%)を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを使用する。

【Outline (in English)】

Students will learn human-computer interaction (HCI) and user interfaces (UIs) with the view of understanding how and by what means humans and computers interact. The goals of this course especially include acquiring the knowledge and skill of the design, development, and evaluation of UIs and becoming able to actually develop and evaluate graphical user interfaces (GUIs). The students are expected to spend typically 4 hours for preparation, review, and assignments for each class meeting. Grading will be decided based on assignments (30%), the final examination (60%), and in-class contribution (10%).

COT211KA-CS-241 (計算基盤 / Computing technologies 200)

データベース

日高 宗一郎

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

【到達目標】

現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。課題については締切後解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル -構造記述-	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル -意味記述-	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語SQLの問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関連モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論 -更新時異状と情報無損失分解-	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論 -関数従属性-	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論 -高次の正規化-	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと3層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。
14	ビッグデータとNoSQLおよびまとめ	ビッグデータとNoSQLについて学ぶ。 本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習。
課題が指示された場合は、課題レポート提出。
本授業の準備・復習時間は、計週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

データベース入門[第2版]
増永良文著
サイエンス社
(2021)

【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)
増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第3版, サイエンス社 (2017)
吉川 正俊, IT Text データベースの基礎 オーム社 (2019)
その他、適宜、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題レポートおよび授業内試験(30%)、定期試験(70%)

【学生の意見等からの気づき】

演習の機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.
By the end of this course, students should be able to design databases based on real world problems.
Besides attending this course, students are expected to read the relevant chapter(s) of the text.
After each class, students are expected to review the class referring to the relevant chapter(s) of the text, submit reports if assigned.
Students will be studying four hours for a class.
Grading will be decided based on term-end exam (70%), in class tests and assignments as well as in-class contributions (30%).

COT211KA-CS-241 (計算基盤 / Computing technologies 200)

データベース

坂本 寛

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

【到達目標】

現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。課題については締切後解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル -構造記述-	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル -意味記述-	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語SQLの問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関連モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論 -更新時異状と情報無損失分解-	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論 -関数従属性-	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論 -高次の正規化-	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと3層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。
14	ビッグデータとNoSQLおよびまとめ	ビッグデータとNoSQLについて学ぶ。 本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習。

課題が指示された場合は、課題レポート提出。

本授業の準備・復習時間は、計週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

データベース入門[第2版]

増永良文著

サイエンス社

(2021)

【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第3版, サイエンス社 (2017)

吉川 正俊, IT Text データベースの基礎 オーム社 (2019)

その他、適宜、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題レポートおよび授業内試験(30%)、定期試験(70%)

【学生の意見等からの気づき】

演習の機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.

By the end of this course, students should be able to design databases based on real world problems.

Besides attending this course, students are expected to read the relevant chapter(s) of the text.

After each class, students are expected to review the class referring to the relevant chapter(s) of the text, submit reports if assigned.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (70%), in class tests and assignments as well as in-class contributions (30%).

HUI213KA-CS-221 (人間情報学 / Human informatics 200)

人工知能

赤石 美奈

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能という学問分野について、基礎知識を修得します。

人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。

計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

【到達目標】

人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方と、古典的な実現手法を学びます。

例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に付けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでもらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。演習や課題の正解解答について、授業時間内に説明・フィードバックすることで、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人工知能とは何か/人工知能の歴史	本講義全体で学ぶ概要について説明します。 人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景、汎用AI・特化型AI等についての知識を学びます。
第2回	状態空間と探索	探索問題の基礎を学びます。深さ優先探索、幅優先探索などの探索手法の基本となるアルゴリズムを理解します。
第3回	探索プログラム	探索手法を実際のプログラムで実現し、オープンリストの大きさの変化を体験します。
第4回	最適探索手法	探索を効率化するための手法として、最適探索、最良解優先探索、A*アルゴリズムを学びます。
第5回	ゲームの理論	ゲーム理論の基本として、利得行列による戦略決定法を学びます。さらに、対戦ゲームの探索木に対する最良解を探索するミニマックス法や $\alpha\beta$ 枝刈り法などについて学びます。

第6回	確率とベイズの定理	確率について復習した後、条件付確率やベイズの定理を学びます。さらに、状態の確率的遷移もである確率システムについて学びます。
第7回	中間試験	本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。
第8回	強化学習	世界の状態を報酬の形で徐々に学習する強化学習という概念と、Q学習について学びます。また、教師あり/なし学習と強化学習の関係を学びます。
第9回	分類木	複数属性を持つものを、情報エントロピーによって効率的に分類する手法を学びます。
第10回	ニューラルネットワークの基礎	ニューラルネットワーク/深層学習の基本原則を学びます。順伝搬と逆伝搬による学習モデルを理解します。
第11回	ニューラルネットワークのプログラミング	ニューラルネットワークの簡単なプログラム構造を学び、人工知能システム構築の基礎を理解します。
第12回	自然言語処理	形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析などの自然言語処理の基本を学びます。
第13回	命題論理、述語論理	命題論理や述語論理に基づく論理的な推論手法について学びます。
第14回	まとめ、人工知能研究の展望	人工知能についての最近の話題や、倫理やプライバシー保護の問題も含めて、人工知能に関連する研究動向・社会動向を学びます。特に、社会での活用が広がる生成AIについては、基礎知識と今後の展望について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

教科書として指定したテキスト、Web上の資料を事前に学習します。課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だけでなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。課題の解答については、翌週の授業内で解説します。

【テキスト（教科書）】

イラストで学ぶ人工知能概論 改訂第2版
谷口忠大
講談社, 2020年

【参考書】

エージェントアプローチ 人工知能 第2版
Stuart Russel, Peter Norvig
共立出版、2008年

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績を40%、期末試験の成績を60%とし、成績評価する。演習の取組状況、課題の提出状況について、加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるために、演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器使用(任意項目)

ネットワークを利用

演習にはノートPCを利用

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students learn the basic knowledge of artificial intelligence.

Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thoughts by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence and take practices for using the technologies.

[Learning objective]

Artificial intelligence is one of the most attracting areas of computer science. This course present the knowledge of the artificial intelligence neccessary for students who learn science.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time at home will be more than four hours for a class.

[Grading criteria /policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

interim examination (40%)

final examination (60%)

We may give additional points for questions at class and homework.

HUI213KA-CS-221 (人間情報学 / Human informatics 200)

人工知能

藤田 悟

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：CD クラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能という学問分野について、基礎知識を修得します。
人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。
計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

【到達目標】

人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方と、古典的な実現手法を学びます。
例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に付けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでもらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。演習や課題の正解解答について、授業時間内に説明・フィードバックすることで、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人工知能とは何か/人工知能の歴史	本講義全体で学ぶ概要について説明します。 人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景、汎用AI・特化型AI等についての知識を学びます。
第2回	状態空間と探索	探索問題の基礎を学びます。深さ優先探索、幅優先探索などの探索手法の基本となるアルゴリズムを理解します。
第3回	探索プログラム	探索手法を実際のプログラムで実現し、オープンリストの大きさの変化を体験します。
第4回	最適探索手法	探索を効率化するための手法として、最適探索、最良解優先探索、A*アルゴリズムを学びます。
第5回	ゲームの理論	ゲーム理論の基本として、利得行列による戦略決定法を学びます。さらに、対戦ゲームの探索木に対する最良解を探索するミニマックス法や $\alpha\beta$ 枝刈り法などについて学びます。

第6回	確率とベイズの定理	確率について復習した後、条件付確率やベイズの定理を学びます。さらに、状態の確率的遷移もである確率システムについて学びます。
第7回	中間試験	本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。
第8回	強化学習	世界の状態を報酬の形で徐々に学習する強化学習という概念と、Q学習について学びます。また、教師あり/なし学習と強化学習の関係を学びます。
第9回	分類木	複数属性を持つものを、情報エントロピーによって効率的に分類する手法を学びます。
第10回	ニューラルネットワークの基礎	ニューラルネットワーク/深層学習の基本原理を学びます。順伝搬と逆伝搬による学習モデルを理解します。
第11回	ニューラルネットワークのプログラミング	ニューラルネットワークの簡単なプログラム構造を学び、人工知能システム構築の基礎を理解します。
第12回	自然言語処理	形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析などの自然言語処理の基本を学びます。
第13回	命題論理、述語論理	命題論理や述語論理に基づく論理的な推論手法について学びます。
第14回	まとめ、人工知能研究の展望	人工知能についての最近の話題や、倫理やプライバシー保護の問題も含めて、人工知能に関連する研究動向・社会動向を学びます。特に、社会での活用が広がる生成AIについては、基礎知識と今後の展望について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。
教科書として指定したテキストと、Web上の資料を事前に学習します。課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だけでなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。課題の解答については、翌週の授業内で解説します。

【テキスト（教科書）】

イラストで学ぶ人工知能概論 改訂第2版
谷口忠大
講談社, 2020年

【参考書】

エージェントアプローチ 人工知能 第2版
Stuart Russel, Peter Norvig
共立出版、2008年

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績を40%、期末試験の成績を60%とし、成績評価する。演習の取組状況、課題の提出状況について、加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるために、演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器使用(任意項目)

ネットワークを利用

演習にはノートPCを利用

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students learn the basic knowledge of artificial intelligence.

Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thoughts by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence and take practices for using the technologies.

[Learning objective]

Artificial intelligence is one of the most attracting areas of computer science. This course present the knowledge of the artificial intelligence neccessary for students who learn science.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time at home will be more than four hours for a class.

[Grading criteria /policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

interim examination (40%)

final examination (60%)

We may give additional points for questions at class and homework.

COT311KA-CS-204 (計算基盤 / Computing technologies 300)

プログラミング3(Java)

馬 建華

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／4単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To learn important programming techniques for making practical information systems using Java APIs of GUI, file operations, multi threads, socket-based communications, and Web server-client programming.

【到達目標】

Students should master basic knowledge and skills for practical GUI implementation, file I/O programming, file text programming, thread programming, typical animation control, basic server-client network programming, and typical Web programming techniques.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will start from GUI programming using Java Swing and JavaFX, then file I/O operations and network programming using sockets and threads, to Web programming using Java Servlet and JSP. When learning the associated programming knowledge, students will do related programming drills, and complete many programming exercises. In each class, students are requested to make practice of given programs and then complete assignments within a week. The performance and problems in students' assignments will be feedbacked to students in the next classes. Students are encouraged to ask questions and inform their problems encountered in doing programming drills in class, and send their questions after class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Basic Java programming review and course teaching guidance
2	GUI Basic	Simple GUI by Swing and AWT
3	GUI Event	Java event handling and graphic panels
4	GUI Component and Layout	Various Java Swing components and layouts
5	GUI by JavaFX (I)	JavaFX components and layouts
6	GUI by JavaFX (II)	JavaFX controls and events
7	GUI and Animation	GUI review, and GUI-based animation programs
8	File Operations	File I/O, streams, read and write
9	Multi-Thread Programming	Thread, multi threads, thread programming, and animations
10	Basic Network Programing	HTTP, Web server access APIs, and socket communications
11	Threaded Network Programming	Server-client sockets programed using threads

12	Web Programming - Servlet	HTML, HTTP, servlet APIs, session, and program
13	Web Programming - JSP	Java sever pages, JSP APIs, and JSP programming
14	General Review	Review of GUI, file, thread, and network programming

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will do preview before class and do review and assignment after class. Eight hours will be necessary to do the preview, review and assignment/homework in each week.

【テキスト（教科書）】

Lecture notes and programs made by this instructor.

【参考書】

高橋麻奈, やさしいJava 活用編 第5版, 2016.

【成績評価の方法と基準】

Overall evaluation (100%) will be based on
- learning performance (10%)
- programming assignments (40%)
- term exam (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Give more explanations and hints in doing homework.

【学生が準備すべき機器他】

Bring Note PC to the class.

【その他の重要事項】

Submit homework before the deadline.

Ask the teacher and TAs when having any questions in teaching content and programming.

【Outline (in English)】

In this course, students will learn programming knowledge and techniques covering GUI with Swing and JavaFX, basic animation programming, file operations, thread usage, socket programming for file transfer and group communications, and Web programming with servlet and JSP. In each class, this instructor will first teach necessary programming techniques together with related programs, and then students will do programming drills. Students will be requested to complete the program assignment after each class. At least eight hours must be spent each week according to university criterion policy. Overall evaluation (100%) will be based on learning performance, programming assignments and term exam.

COT211KA-CS-342 (計算基盤 / Computing technologies 200)

コンピュータネットワーク

廣津 登志夫

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を支える重要なインフラストラクチャの一つであるインターネットについて、その仕組みと構成を学ぶ。ネットワークは独立したシステムが相互に情報をやり取りすることから、ハードウェアからアプリケーションに至るまで様々なところで取り決め（プロトコル）がある。ここでは、その個々の機能を理解すると同時に、取り決めとなるプロトコルとの関係にも触れる。

【到達目標】

現在のインターネット社会を支えるTCP/IPを中心に、その仕組みとアプリケーションとの関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義ではInternetの仕組みについて、まず、アプリケーション側から理解をすすめ、socket APIなどのアプリケーションプログラミングの観点から見たネットワークを理解する。さらに、Ethernet, WiFi, 5Gといったネットワークを構成するハードウェアについても学び、特定のハードウェアに依存しない、インターネット層のIPやトランスポート層プロトコルの中心であるTCPへと学習を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ネットワークとは何か？	通信とその目的を考え、ネットワークの基本的な考え方を学ぶ
2	インターネットの概観	要素技術を理解する前提として、インターネット技術を概観する
3	アプリケーション層：WWW	アプリケーションの挙動の典型例としてWeb技術を学ぶ
4	アプリケーション層：DNS, Mail	DNSによる名前解消など通信の基本となるアプリケーションを知る。また他のアプリケーション通信についても触れる。
5	ネットワーク層プロトコル：IP	インターネットの通信の核をなすIPの基礎を学ぶ
6	ネットワーク層プロトコル：IPv6	現在移行が進みつつあるIPv6について学ぶ
7	トランスポート層プロトコル：TCP	端末間の通信環境を提供するトランスポートプロトコルの代表であるTCPについて学ぶ
8	トランスポート層プロトコル：UDP	様々な場面で活用されるUDPについて学ぶ
9	通信を支えるメディア	通信の基盤となるメタル線・ファイバ・電波などの通信メディアについて知る。
10	有線ネットワーク：Ethernet	広く使われている有線ネットワークであるEthernetについて学ぶ
11	無線ネットワーク：WiFi/5G	WiFiや5Gといった無線通信技術について学ぶ
12	Socket	プログラムからみたネットワークインタフェースであるSocketをの概念とそれを使ったプログラミングを学ぶ

13	Secure通信	インターネット上での安全な通信手法について学ぶ
14	まとめ	全体を概観してまとめの話をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。
課題を課した週についてはメ-cutまでに終わらせて提出すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は用いず、講義資料を投影する。
CIS Moodle から講義後に必要と考えられる部分は提供するが、基本的にノートを取って内容を把握すること。

【参考書】

講義中にも適宜紹介するが、必要と思う場合は以下のものを薦める。
・J.Kurose,K.Ross, "Computer Networking –Top-Down Approach-", Addison Wesley

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。
期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、期末試験を70%、課題提出を30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students learn about the Internet, one of the key infrastructures in the current society, its structure and configuration. Computer networks exchanges information between independent systems, thus there are some specific protocols in various layers of the system from hardware to applications. This lecture is designed to understand their individual functions and the relationship with the protocols for each.

[Learning Objectives]

Students expected to understand core concepts of Internet, its mechanism and relation ship between application and protocol layers.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend four hours to pre/post study of the course including programming the homework and next week's pre-studying contents.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of exams and reports are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; term-end examination (70%), and homework (30%).

COT311KA-CS-343 (計算基盤 / Computing technologies 300)

サービスコンピューティング

藤田 悟

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネット上に展開される様々なサービスと、それを支えるWebシステムについての各種の基本技術を学び、実サービス構築で求められるセキュリティ技術、脆弱性対策、セッション管理、データ表現方式について理解する。

手元のPC上で簡単なWebサイトを動作させながら個々のWeb技術の理解を深める。

さらに、最近のサービス事例を通じて、サービス改善やサービス創出の課題理解に役立つ、顧客体験の視点、社会的受容性、情報技術の考え方の基礎を身につける。

【到達目標】

Webシステムの基本技術について理解し、HTTP、HTML、CSSなどの役割を説明できる。

WebシステムにおけるブラウザとWebサーバの役割、サーバ構築方法、ブラウザ操作言語、Webセキュリティ等の主要な技術について説明できる。

Webシステムにおけるサービス構成方法について説明できる。クラウドコンピューティングに代表される最新のサービスコンピューティング技術について基本部分を説明できる。

様々なサービスの実情、課題、サービスモデルについて基本部分を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

Webシステムの仕組みを、HTMLやプログラミング言語を用いて実装を交えて説明する。また、実際にオープンソースのさまざまなツールを用いて簡易のWebシステムの動作確認による演習を行う。様々なサービス事例の紹介を通じて、その背景(課題等)と技術の関係を知ってもらう。

各自の理解度を知るために、授業内の小テスト等を活用する。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	サービスとは何か	サービス視点、顧客体験視点の重要性、およびサービス産業の動向やIT(情報技術)との関係について紹介する。
第2回	Webの基本技術 1	Webを支える基本技術として、WebサーバからWebブラウザに情報が表示されるまでの仕組みについて学ぶ。
第3回	Webの基本技術 2	Webサーバの基本的なアーキテクチャについて学ぶ。また、オープンソースのWebサーバを立ち上げる。
第4回	Webの基本技術 3	簡単なWebサイト構築と動作確認を行う。
第5回	Webセキュリティ 1	共通鍵・公開鍵方式等の暗号技術の基礎と、Webを支える暗号通信について学ぶ。

第6回	Webの状態管理	Cookie、Sessionを用いて状態を保持したWebシステムの構築手法を学ぶ。
第7回	データベースとWebサーバ	データベースとWebサーバを使って、動的なWebページを作成する技術について学ぶ。
第8回	Webセキュリティ 2	Web構築の際に考慮すべきセキュリティ事項を明らかにする。そのための対処法も学ぶ。
第9回	DOMとAJAX	Web文書のオブジェクトモデルと非同期通信を用いたWebページの更新方式としてAJAXを学ぶ。
第10回	データ表現	さまざまなデータ表現の方法を学ぶとともに、XMLの基礎と文書のスキーマ定義等について理解する。
第11回	サービスコンピューティング基盤技術	インタフェースの重要性、クラウドコンピューティングとNoSQL等の様々な最新技術について学ぶ。
第12回	サービスイノベーション 1	サービス事例(決済、物流、店舗、交通等)を通じて、サービスイノベーション、今後の方向性と課題、技術との関わりについて知る。
第13回	サービスイノベーション 2	サービス事例(続)、各種サービスモデル、サービスドミナントロジックに代表されるサービスサイエンスについて学ぶ。
第14回	総復習	全講義を通じて重要事項の総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内の小テスト等を利用して自己の理解度を把握すること。講義資料を活用して理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料を用いる。特定の教科書は使用しない。

【参考書】

講義内で紹介する（書籍、Webリンク他）。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 期末試験の成績 (80%程度)
- ・ 講義内小テスト他 (20%程度)

【学生の意見等からの気づき】

実際のWebサイトを使った動作確認により、理解を助ける工夫をする。

講義の冒頭で必要に応じて前週の復習と確認を行う。

講義中の小テスト等により、内容の理解度の確認を行う。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワークを利用
Webサイト使用には各自のノートPCを用いる

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での様々な情報科学技術に関する研究開発の知見を基に実務に必要なコンピュータシステムに関する講義を行う。

【Outline (in English)】

* Course outline

This course provides an overview of the basic technologies of various services on the Internet and the Web systems, as well as web security, vulnerability management, session management, and data representation methods expected in the building of actual services.

Students will also learn about Web technologies by running a simple website on their own PC.

Furthermore, through recent service trends and case studies, students will learn about the fundamentals of the user experience perspectives, social acceptability, and the information technology, useful for understanding issues in service improvement and service creation.

* Learning Objectives

Learn about the basic technologies of Web systems.

Acquire the knowledge to explain the roles of browsers and Web servers, server architecture, browser manipulation methods, Web security, and other major Web technologies.

Understand the basics of various service practices, issues, and service models.

* Learning activities outside of classroom

Use in-class tests to assess your comprehension level.

Use the lecture materials to improve your understanding. The standard preparation and review time is 4 hours every week.

* Grading Criteria /Policy

Examination scores (about 80%)

Report scores and in-class tests (about 20%)

COT310KA-CS-253 (計算基盤 / Computing technologies 300)

オペレーションズリサーチ

小西 克巳

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な意思決定問題に対する数理モデルの構築やその解決を扱うオペレーションズリサーチについて学ぶ。問題を定式化するための知識、および、それらを解くための最適化手法や機械学習手法について学び、意思決定問題の抽象化や既存の解法から適切なものを選び求解し、その妥当性を吟味することができることを目標とする。

【到達目標】

様々な意思決定問題の抽象化ができ、既存の解法から適切なものを選び求解し、その妥当性を吟味することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、必要に応じて演習も行う。

提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の構成と進め方に関するガイダンスおよびオペレーションズリサーチの概説
2	モデル化と数理計画問題	オペレーションズリサーチにおけるモデル化と数理計画問題の概要
3	線形計画法	線形計画法の概要、シンプレックス法の原理とシンプレックス法による線形計画問題の解法
4	整数計画法	双対問題、相補性条件
5	多変量解析	多変量解析の基礎と応用
6	主成分分析	主成分分析の基礎、教師なし学習としての主成分分析
7	クラスタリング	データのクラスタリング手法、教師なし学習とクラスタリング
8	これまでの復習と演習	第1回～7回までの復習と演習
9	ネットワーク最適化	最短経路問題などのネットワーク最適化問題と解法
10	ゲーム理論(1)	ゲーム理論の概要
11	ゲーム理論(2)	単純な問題とその解法、安定結婚問題
12	マルコフモデル	マルコフモデルの基礎
13	待ち行列理論(2)	待ち行列モデルの理論
14	総復習と演習	第1回～13回までの復習と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考資料の予習、復習、課題への取り組み。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義にて指示。

【成績評価の方法と基準】

到達目標への達成状況を確認する期末試験の成績を100%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン（適宜指示する）

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of operations research to students and aims to help students acquire an understanding of mathematical formulation of the problem and methods to solve these problems. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 100%

COT311KA-CS-301 (計算基盤 / Computing technologies 300)

オブジェクト指向プログラミング

藤田 悟

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オブジェクト指向開発におけるデザインパターンをJava言語を通じて学ぶ。

【到達目標】

GOFのパターンのうち特に多く使われているパターンに習熟し、オブジェクト指向開発でパターンを意識した設計やプログラミングができるようになる。デザインパターンの言葉を設計者・プログラマーの間のコミュニケーションツールとして使いこなせるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、1つか2つのパターンを取り上げ、解説する。適宜、適用例をめぐって討論を行う。毎回、授業外で行うべき課題が出される。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オブジェクト指向言語の復習	オブジェクト指向言語について復習し、簡単なクラス設計を行う。
第2回	オブジェクト指向パラダイム、デザインパターン、UML	デザインパターンの考え方についての考え方を学ぶ。UMLの基本的な記法を理解する。
第3回	デザインパターン、Facadeパターン	デザインパターンの考え方について基礎を学ぶ。その一例として、Facadeパターンについて理解する。
第4回	Bridgeパターン、Adapterパターン	BridgeパターンとAdapterパターンについて理解する。
第5回	リファクタリング	プログラムを見やすく書き換えるためのリファクタリングの概念と方法を学ぶ。
第6回	Strategyパターン	Strategyパターンについて、理解する。
第7回	Abstract Factoryパターン	Abstract Factoryパターンについて、理解する。
第8回	Decoratorパターン	Decoratorパターンについて、理解する。
第9回	Observerパターン	Observerパターンについて、理解する。
第10回	Template Methodパターン	Template Methodパターンについて、理解する。
第11回	SingletonとDouble Checked Locking、Object Poolパターン	SingletonとDouble Checked Locking、Object Poolパターンについて、理解する。
第12回	Factory Method、Iteratorパターン	FactoryMethodパターンについて、理解する。
第13回	Compositeパターン	Compositeパターンについて、理解する。
第14回	デザインパターンのまとめ	様々なデザインパターンの関係を復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題に取り組む。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オブジェクト指向のこころ

アラン・シャロウエイ, ジェームズ・R・トロット
丸善出版

【参考書】

増補改訂版 Java言語で学ぶデザインパターン入門,
結城浩,
SoftBank

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)

レポート課題(30%)

【学生の意見等からの気づき】

授業時間内で実例を交えて説明することを心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での様々な情報科学技術に関する研究開発の知見を基に実務に必要なコンピュータシステムに関する講義を行う。

【Outline (in English)】

* Course outline

We study design patterns in object oriented software developments using the Java language. We focus on famous design patterns mostly in GOF book.

* Learning Objectives

Students will be able to write OOP systems using the patterns. They will also be able to explain the effects of abstraction that are at the core of the patterns.

* Learning activities outside of classroom

Use in-class tests to assess your comprehension level.

Use the lecture materials to improve your understanding. The standard preparation and review time is 4 hours every week.

* Grading Criteria /Policy

All these abilities are checked by the term examination (70%) and the weekly assignments (30%), in each of which an average student spends four hours.

COT311KA-CS-262 (計算基盤 / Computing technologies 300)

情報検索

相島 健助

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報検索の基盤となるアルゴリズム、手法、評価方法を理解することを目標とする。情報検索とは、google などの検索サービスの根幹となる技術であり、現在の情報アプリケーションの中で最も重要な技術の一つである。この技術は、全文検索と呼ばれる技術を基盤とし、様々な技術を加えて進歩してきた。本講義では、それらのうち中心的な技術の数理的な意味を理解することを目標とする。また、リコメンデーションなどの応用的な話題も紹介する。

【到達目標】

単に google などのしくみを理解するだけでなく、大量のテキスト情報を扱うアプリケーションを扱うための基本スキルを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業研究などで実践的に役立つ技能の習得のために、取り上げる手法は、実際のデータが処理できる簡単なプログラミング例と関連付けて学びます。紹介する手法を簡単に実行するために、MATLABなどのプラットフォームや java のライブラリなどを利用します。演習課題を通して、処理手法の基礎を身に付けることを目標とします。課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法として、授業の初めに、前回の授業内で行った試験や小レポート等、課題からいくつか取り上げ、全体に対して講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この講義の意義とどのような内容をカバーするかを説明します。
2	情報検索概論	情報検索とは何かについて学びます。
3	検索キーワードと索引付け	情報検索に利用する検索キーワードの選定方法と、それを用いて、文書を索引付けする方法を学びます。
4	キーワードのスコア	検索キーワードのスコア付けの方法として TF/IDF 法などを学びます。
5	検索結果の改善法	検索結果の改善方法として、関連性フィードバックやクエリ拡張について学びます。
6	文書の信頼性尺度	文書の信頼性尺度として Pagerank について学びます。
7	検索結果の評価	検索結果の評価尺度や評価方法について学びます。
8	簡単な検索演習	これまでに学んだことを実際にプログラミングする演習を行います。
9	画像の特徴量について	検索において重要な画像の特徴量について学びます。
10	画像の検索	画像の特徴量により、画像間の類似度を定義し、検索する手法について学びます。

11	商品の類似性、利用者の類似性	利用者の嗜好情報、購買履歴などのデータから、商品の類似性、利用者の類似性を計算する方法を理解します。
12	リコメンデーション	商品や利用者の類似性に基づき、利用者にリコメンデーション商品を決する方法を学びます。
13	クラスタリング	大量の多次元のベクトルであらわされた利用者の嗜好情報から、似た嗜好をもつグループをクラスタ化する方法を学びます。
14	まとめ	課題の講評などを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関する課題を復習として出題する。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

書名: Introduction to Information Retrieval
著者名: Christopher D. Manning/Prabhakar Raghavan/Hinrich Schütze

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2008

備考: <http://nlp.stanford.edu/IR-book/information-retrieval-book.html> で内容を確認することができる。

日本語版は「情報検索の基礎」（共立出版）

書名: 集合知プログラミング

著者名: Toby Segaran

出版社: オライリー・ジャパン

出版年: 2008

【成績評価の方法と基準】

定期試験の点数（60%）と課題（40%）を総合して決定する。いずれかを行わなかったものは不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

難しい概念が多いため、説明のための具体例や演習の例題を多く示すことにする。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを用いて演習を行う。学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

「統計学1」、「線形代数の応用2」を履修しておくこと。

【Outline (in English)】

This course covers algorithms, techniques, and evaluation methods for information retrieval. The information retrieval is a fundamental technique to search engines such as google, which is one of the most important techniques in current information applications. Since this kind of technique is based on full-text search, it is now successfully applied to other content-based searching. The purpose of this course is to understand mathematical aspects of the information retrieval. In addition, this course covers more advanced contents such as recommender systems.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end examination (60%) and lab reports (40%).

HUI311KA-CS-322 (人間情報学 / Human informatics 300)

ユビキタスインテリジェンス

馬 建華

必修区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course covers ubiquitous computers, devices, networks, applications and key technologies in ubiquitous intelligent systems and services. Students are expected to learn a systematic knowledge on ubiquitous intelligence as well as various content-aware smart computing technologies.

【到達目標】

This course attempts to provide a unified overview of the broad field of ubiquitous intelligent computing. Students are expected to understand ubiquitous smart devices from RFID, sensors, wearables, various networks, as well as key intelligent technologies including context-awareness, smart u-things, IoT, security, privacy, social issues, and activity and emotion recognition, etc.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

This course will first give general introductions of ubiquitous computing, essential devices, important networks and representative services, and then check various ubiquitous intelligent devices including RFID, e-tag, sensors, handhelds, wearable devices, robots, IoT, etc. as well as their representative applications. The context as a special kind of information in ubiquitous intelligence will be described in details and related context-aware intelligent technologies, systems and application will be presented. Various key issues in ubiquitous computing smartness, intelligence, security, safety, trust and related social issues will be discussed. In each class, a student is requested to write a summary of main content learnt in the the class. Students are also requested to write four reports corresponding to the four parts of this course. Students are encouraged to ask questions in class and via email after class. The students' reports will be checked and feedbacked to students in next classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Ubiquitous Computing and Intelligence	History & features of ubiquitous computing (ubicomp), and ubiquitous intelligence
2	Intelligent Ubicomp Devices, Networks and Services	Various ubiquitous computing and intelligent devices, networks and services
3	RFID Technologies and Intelligent Applications	RFID categories, working mechanisms, standards, technologies, systems and intelligent applications
4	Ubiquitous Sensors and Sensing Networks	Various sensors, their features, interconnections and intelligent technologies

5	Intelligent Handhelds, Wearables and Robots	Handheld devices, wearable devices, and robots in ubicomp
6	Context and Context-Aware Computing and Intelligence	Context classifications, features and models, and context-aware intelligent computing
7	Context-Aware Technologies, Systems and Applications	Architectures of context-aware systems, and context-aware smart applications
8	Smart Things for Ubiquitous Intelligence	Classifications of smart things, and their intelligent techniques and applications
9	Smart Internet of Things (SIoT)	Characteristics of IoT, their system models, typical applications, and technical challenges
10	Security, Safety and Trust in Ubiquitous Systems	Features and technologies of ubiquitous security, safety and trust
11	Social Issues in Ubiquitous Intelligence	Privacy, green/eco, social issues and ethic problems in ubiquitous intelligent applications
12	Intelligent Activity Recognition	Activity categories of human and animal, data collection using ubiquitous devices, activity recognition algorithms and applications
13	Intelligent Emotion Recognition	Affective computing, sentiment analysis, vital sign sensors, emotion recognition
14	Emerging Ubiquitous Intelligent Technologies	New intelligent ubicomp technologies and applications

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read the corresponding lecture note before each class, review the content after each class, well prepare the requested report after class, and submit each report before its deadline. Students will be expected to spend at least four hours to preview the lecture notes, review the content learnt and complete assignments in each class according to the university grading policy.

【テキスト（教科書）】

Online course materials provided by this teacher.

【参考書】

・ Related materials on the Internet

【成績評価の方法と基準】

Overall evaluation (100%) will be based on
- class reports (15%)
- four technical reports (40%)
- term exam (45%)

【学生の意見等からの気づき】

Provide more representative ubiquitous intelligent research.

【学生が準備すべき機器他】

Bring a PC.

【Outline (in English)】

The course consists of four parts, ubiquitous smart devices, networks, technologies, and applications in IoT, physical objects and daily life assistance. The students are expected to have a comprehensive understanding on various aspects in ubiquitous intelligent computing. Students will be expected to spend four hours to preview the lecture notes and review the content learnt and complete assignment in each class according to grading policy. Overall evaluation (100%) will be based on class reports (15%), four technical reports about ubiquitous intelligent technologies (40%), and term exam (45%).

FRI1313KA-CS-232 (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300)

コンピュータグラフィックス

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータグラフィックス（CG）は、代表的なゲームや映画、テレビ番組などの身近なところから、建築物の設計や医療機器など幅広く必要とされるようになっている。このように様々な分野で利用されているCG技術について、その基礎技術と最新技術について理解を深めること、また基本的なアルゴリズムを実装出来るようになることを目標とする。

【到達目標】

CGの基本的な要素であるモデリング、レンダリング、アニメーションについて理解し、簡単なプログラムの作成を通して実際にCGを生成できるようになることを目標とする。本講義を通してCG技術の全体像を理解し、実際に実装もすることで、より深く理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とプログラミングの演習を行う。プログラミング言語として主にC/C++を用いる。レンダリングソフトウェアとしてMitsuba (Pythonを使用) およびPOV-Rayを用いる。必要に応じて他のCG関連言語・ツールを用いる。

課題の提出はMoodleで行い、質疑応答および提出された課題の解説・フィードバックは適宜授業内およびSlackで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、導入	CGの概要
2	2次元座標	2次元座標系、アフィン変換、同次座標
3	3次元座標	3次元座標系、同次座標
4	カメラモデル	透視投影、平行投影、射影変換
5	ビューイングパイプライン	モデリング変換、視野変換、投影変換、クリッピング
6	形状モデル	ワイヤーフレーム、サーフェス、ソリッドモデル
7	曲線・曲面	2次曲線、パラメトリック曲線／曲面、ポリゴン曲面
8	ボリウム表現	ボクセル、メタボール
9	隠面消去	スキャンライン法、Zバッファ法、レイトレーシング法
10	シェーディング、影付け	シェーディング、影付け
11	大域照明計算、マッピング	大域照明計算、テクスチャマッピング、バンプマッピング
12	アニメーション	キーフレーム、手続き型アニメーション
13	シミュレーション	剛体、弾性体、流体
14	研究事例の紹介	CGの研究事例の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや講義資料の復習と課題に取り組む必要がある。必要に応じてPCでのプログラミングも行う。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コンピュータグラフィックス 改訂新版, CG-ARTS協会, 2015, 税抜3,600円 (電子版あり)

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習・課題 (70%), 試験 (30%)

※CG-ARTSが実施するCGエンジニア検定 エキスパートを受験し合格した場合には、その証明の写しを提示することで試験評価を満点として免除する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを使用する。必要に応じて、関連ツールやソフトウェアのインストールを各自で行ってもらう。

【その他の重要事項】

事前に、CGのための幾何学を履修していることが望ましい。

また、C/C++の講義を受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Techniques of computer graphics (CG) are widely used in various fields, such as, Movies, Video games, CAD, medical devices, and so on. In this course, students will study basic knowledge and techniques of CG, and will acquire programming techniques for implementing basic algorithms.

【到達目標（Learning Objectives）】

Goals of this course are to understand three fundamental elements of CG (modeling, rendering, and animation), and to acquire programming techniques for implementing basic algorithms.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students should spend at least 4 hours preparing and reviewing this course.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Practices and Tasks (70%), Examinations (30%)

HUI312KA-CS-332 (人間情報学 / Human informatics 300)

機械学習

伊藤 克亘、佐藤 裕二

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータによるパターン認識の理解を目的として、機械学習の基礎、Deep Learningの考え方とその適用法、パターン認識の基礎および機械学習に基づくパターン認識を学ぶ。

【到達目標】

機械学習（教師付き学習、教師なし学習、強化学習）の基本的な要素技術、特にDeep Learningなどのニューラルネットワークを用いた機械学習の基本理論を理解する。
パターン認識の基礎を理解し、機械学習を用いた具体的実装法を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、機械学習の基礎を理解する。具体的には、機械学習と人工知能の関係、機械学習の分類（教師付き学習、教師なし学習、強化学習）を学び、機械学習技術をパターン認識や時系列予測問題に適用した事例紹介を行う。次に、パターン認識と最も関連性の高い、ニューラルネットワークを用いた教師付き学習を学ぶ。具体的には、単層パーセプトロン、多層パーセプトロンの紹介から始めて、Deep Learningの基本的な理論を学びながら、演習を通して理解を深める。授業後半では、機械学習の応用として、分類、回帰、生成を学ぶ。特に、様々なデータを対象とした深層学習による処理を学ぶ。MATLABやPythonを用いた機械学習の理解を深める。演習や実験を通して前半を含めた講義内容の理解を深める。
課題は、主要なものを発表させ、解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	機械学習とは	ガイダンス、人工知能と機械学習、機械学習の分類
第2回	教師なし学習	統計的最適化、代表的なクラスタリング技術
第3回	教師付き学習(1)	回帰分析、Support Vector Machine (SVM)
第4回	教師付き学習(2)	単層パーセプトロン、多層パーセプトロン
第5回	教師付き学習(3)	誤差逆伝播法
第6回	教師付き学習(4)	畳み込みニューラルネットワーク、リカレントニューラルネットワーク（概要、理論）
第7回	強化学習	Q-Learning、進化計算
第8回	分類	分類、パターン認識、特徴量
第9回	深層学習による分類	画像の分類、ハイパーパラメータ、全結合層、畳み込み層
第10回	系列データ・テキストデータの分類・回帰	回帰結合層
第11回	深層学習モデルの利用	事前学習済みモデル、転移学習
第12回	オートエンコーダ	エンコーダ、デコーダ
第13回	GAN	ジェネレータ、ディスクリミネータ
第14回	深層学習の実際	データセット、前処理、モデル選択、生成AI

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列の演算）の復習
- [3] プログラミング(Python, MATLAB)の復習
- [4] 統計学1、統計学2、最適化を履修していることが望ましい
- [5] 本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を hoppii や moodle など学内 Web サイトに公開する。
また、MATLAB の e ラーニングコースも活用する。

【参考書】

- [1] 石井健一郎・上田修功・前田英作・村瀬洋著：「わかりやすいパターン認識」、第2版、オーム社、2019年。
- [2] 斎藤康毅著：「ゼロから作るDeep Learning」、オライリー・ジャパン、2016年。
- [3] F. Chollet 著、巢籠悠捕監訳、「PythonとKerasによるディープラーニング」、マイナビ出版 2018年。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題20%、定期試験60%で総合評価する。さらに、受講態度も20%程度加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PC、電子メールや hoppii, moodle へのアクセス等ネットワークを利用する。

【Outline (in English)】

This course deals with pattern recognition and machine learning by computer. First, students learn two major approaches based on generative model and discriminative model, respectively, from the viewpoint of statistical pattern recognition. Second, the new and powerful concept of "Deep Learning" is introduced and explained in detail. Students learn how to apply deep learning techniques to practical pattern recognition problems by means of Python programming. The standard for outside study such as preparation and review of this class is 4 hours per week. Grades will be judged comprehensively from the final exam (60%) + exercises (20%) + class participation attitude (20%).

COT211KA-CS-205 (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング(MATLAB)

伊藤 克亘

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／4単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタルメディアの代表的データである画像や音声コンピュータで扱うための基本的な手法を知り、実際に各自が様々な処理をできるようにすることを目標とする。これらの手法は、数学的な理論に基づくものが大半である。本講義では、まず、数学的なアルゴリズムをプログラミングすることに慣れてもらうために、数学的な詳細には余り深入りせずに、個々の手法が、音声や画像のどのような特徴に関係するのか、など、具体的な応用を中心に学ぶ。これらの手法の理解は、「パターン認識と機械学習」「デジタル信号処理」「画像処理」「音声情報処理」などを履修するのに非常に役立つ。

【到達目標】

3年次や卒業研究で、デジタル信号処理が必要になったときに MATLAB で問題解決できる基礎を身に付ける。具体的には、MATLAB でデータを表示できる。fft や filter 関数を使って加工できるようにする。
数式やアルゴリズムを示されただけで、どのような結果になるか、想像できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

各授業の前半は、処理内容の説明、後半は、課題を解決するためのプログラミングを行う。どちらも必要に応じて受講生による発表を交えながら進める。
課題は、後半の授業で主要なものを発表させ、解説する。
最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。
また、最終課題のレポートに関しては、第1版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/ MATLAB 入門	授業の目的の説明、および MATLAB の紹介
2	簡単な音声処理(音声の時間領域処理)	音声データの入出力、重ね合わせ、連結、再生
3	簡単な画像処理	画像データの入出力と簡単な補正、加工
4	音声のフーリエ変換	FFT の使用方法和音声の周波数処理
5	フィルタ(音声の時間領域処理)	FIR フィルタ、IIR フィルタ
6	画像の周波数領域処理	FFT を用いたフィルタリング
7	画像の空間領域処理	畳み込みを用いたフィルタリング
8	音声データの相関	自己相関と信号の類似性
9	画像データの類似度	空間的な相関とそれを用いた複数画像の対応
10	複素信号	音声信号の複素数表現とそれを用いた周波数変調
11	画像の幾何学的処理	画像を空間的に変形させる手法
12	音声・画像の分類	教師つき分類

13	音声・画像処理の応用	これまで学んだことを応用してできる処理
14	まとめと最終課題の発表会	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき8時間を標準とする。
準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

書名: MATLAB で学ぶ実践画像・音声処理入門
著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘
出版社: コロナ社
出版年: 2019

【参考書】

書名: デジタル・サウンド処理入門
著者名: 青木直史
出版社: CQ 出版社
出版年: 2006
書名: Digital Signal Processing First, Global Edition
著者名: James H. McClellan, Ronald W. Schafer, Mark A. Yoder
出版社: Prentice Hall
出版年: 2016
書名: はじめての画像処理技術
著者名: 岡崎
出版社: 工業調査会
出版年: 2000

【成績評価の方法と基準】

定期試験(50%)および最終課題(50%)で評価する。ただし、最大20%程度、予習課題や演習課題の取り組み状況および授業での発表などの平常点を加味する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】

予習、宿題、教室での説明部分では、貸与ノートPCを利用することを前提とする。演習は貸与PCを利用することを想定する。資料配布や課題提出、定期試験に学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

FFT の知識が必要なので「微積分法の応用」を履修していることを前提とする。また本講義で学ぶ技術の応用分野として「統計学2」を並行して履修することを勧める。
また、受講希望者は、第1回の講義の前に、MATLAB をインストールすること。インストール方法は、情報センターの edu のページを参照すること。R2023b (もしくは R2024a) をインストールすること。
<http://software.k.hosei.ac.jp/others/>
https://software.k.hosei.ac.jp/MATLAB_manual.pdf
この授業に必要な Toolbox は、
Image Processing Toolbox
Signal Processing Toolbox
Statistics and Machine Learning Toolbox
である。
本講義の内容は担当教員の通商産業省工業技術員電子技術総合研究所での音声・知能情報処理に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

In this lecture, you will learn basic techniques for processing images and sounds, which are representative types of digital media. Also, we aim to be able to exercise various processes by ourselves. Most of these methods are based on mathematics. As an introduction, to getting used to programming using mathematical algorithms, this lecture is not too deeply into mathematical details, how individual methods relate to features of sound and images, and so on, focusing on practical exercises. Understanding these methods is useful for taking courses such as pattern recognition and machine learning, digital signal processing, image processing, and speech processing.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours.

Final grade will be calculated according to the following process: final project (50%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

COT211KA-CS-106 (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング演習1(python)

伊藤 克亘

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会の情報化が進んだことによって、様々なデータがファイルやデータベースなどのデジタル形式で入手できるようになってきた。デジタルデータでは、大規模な分析が容易である。そのような分析に使われる手法としては、最近では、機械学習(いわゆる AI)と呼ばれる手法が主流である。いわゆる AI を用いたシステム(chatGPTなど)を使って自動的に分析することも多くなってきている。それらを含めて、そのようなデータ分析の業務も、IT 系でないような分野にも広がってきている。

今回採用した教科書も文系向きというタイトルで、文系読者も想定して書かれており、実際に、経営学、経済学、社会学に関連した事例を取り上げ、と書かれている。それらの分野だけでなく、他の学部の卒業研究でも、ゼミ発表や卒業研究などで扱うデータ(たとえば、アンケートの回答データ、実験／観測などの記録データ、web やインターネット上のテキストデータ、様々な調査統計データ)の分析に、この授業で取り上げる手法が役に立つこともあるだろう。いわゆる AI を用いたシステム(chatGPTなど)を使って自動的な分析を有効に活用するためには、以下のような理解が不可欠である。

1) プログラムをつかって、どんなデータに対して、どんな分析ができるのか？

2) それらの分析手法を用いると、具体的なデータに対して、どのような結果が得られるようになるのか？

。本授業では、データの分析のためのプログラミングの基礎を、実際のデータを扱う実践的なプログラミングで習得することが目標である。具体的には、プログラミング言語のPythonを用いて、代表的な分析手法や、その結果の表示、それらに必要なデータの前処理などの加工方法、などを学ぶ。

データの収集、加工、分析などのデータサイエンスプログラミングを自分の目的に応じて利用することができると、必要な作業が効率的に進む。また将来、DX などの仕事の洗練化にも役立つ。

【到達目標】

1. 代表的なデータ分析手法についての知識を身につける
2. Python で、代表的なデータ分析手法を実行できるようになる
3. Python で、データ分析の前処理ができるようになる
4. Python で、分析結果のグラフが作成できるようになる
5. Python によるデータ分析の書籍が読むための基礎知識を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」、「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書の例題を予習として事前に動かし、簡単な読解課題を解く。授業では、それらの例題についての補足、および、発展的な演習を行う。

発展的な演習のうち、実践的な演習についてはグループワークで実施する。

最終課題に関しては、定期試験期間に、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/環境整備	授業の進め方と演習で利用する環境の確認、Python の基礎の確認。(教科書1章、2章の一部)
2	Python によるデータ分析の基礎	Python/pandas/polars/numpy の基礎(教科書2章)
3	統計の基礎	平均とヒストグラム(教科書3章)
4	相関と回帰	相関と回帰(教科書4章、5章の一部)
5	実践演習	実際のデータを用いて統計処理を行う(グループワーク)
6	クラスタリング	クラスタリング(教科書6章)
7	決定木	決定木(教科書7章、8,9章の一部)
8	テキスト処理	形態素解析(教科書14章)
9	実践演習	実際のデータの分析を行う(グループワーク)
10	ロジスティック回帰	ロジスティック分析/傾向スコアマッチング(教科書10章)
11	変化のシミュレーション	SIR モデル(教科書12章)
12	アンケートデータの分析	因子分析
13	最終演習	演習のテーマの決定(グループワーク)
14	最終演習	演習テーマのデータ分析(グループワーク)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書名: 文系のための Python データ分析

著者名: 友原章典

出版社: 有斐閣

出版年: 2024

価格: 2100円

オリジナルオンライン資料

【参考書】

資料名: データサイエンス・スクール 上級者向けテキスト

著者名: 総務省統計局

URL: <https://www.stat.go.jp/dss/getting/pdf/upper.pdf>

価格: 無料

そのほか必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

最終課題レポートで評価する(80%)。

通常の実験・演習に関しては、各回の予習確認テスト(10%)、発展課題(10%)の取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC(受講場所でインターネット接続ができるもの)が望ましいが、タブレットでも、次の条件を満たすものであれば構わない。授業では、ブラウザ上のクラウドサービスである google colab を使って演習を行うので、それが実行できる環境が必要。

【その他の重要事項】

教科書は、まえがきによると、「プログラミング経験がまったくないので、不安だ、もしくは Python の入門書を読み始めたけど挫折したという読者が対象です。」

と書かれています。

【Outline (in English)】

In seminars, students in every faculty need to deal with any data, such as survey responses, experimental data, text data, and statistical data. Utilizing data science programming accelerates your learning. Also, the skill helps sophisticate works, e.g., DX.

The objective of this class is to learn the basics of data science programming through exercises that use real-world data. It includes typical statistical or machine learning data analysis, visualization of results, and preprocessing.

MAT247KA-GMP-351 (数学 / Mathematics 200)

フーリエ級数と変換

秋野 喜彦

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声や画像の信号を振動数ごとに分解・再構築する手法の基本となるフーリエ級数やフーリエ変換を学びます。応用上で重要な離散フーリエ変換についても基本を理解します。

【到達目標】

フーリエ級数とフーリエ変換に親しみ、さらに離散フーリエ変換の特徴を理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

現象を数式を用いて扱う能力を養うため、講義だけでなく自ら問題を解くようにしてもらいます。さらに、毎回課題を解き・提出してもらいます。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。また課題や試験問題の中から、理解度や重要性に応じて適宜解説・フィードバックしていきます。

「微積分法の基礎」の単位取得が前提となります。数学の道具立てを使いこなせるようになるため、出される課題に正面から取り組むことが重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
No.1	【周期現象と三角関数】	周期現象を表すための基本である三角関数の性質を復習します。とくにサイン・コサインの直交性と呼ばれる関係が重要です。
No.2	【フーリエ三角級数の定義と基本的な性質】	サインとコサインの重ね合わせで表され周期関数のバラエティに注目します。逆に、周期関数をサインとコサインに展開するフーリエ三角級数を定義します。サインとコサインを使う意味を考えます。
No.3	【フーリエ三角級数の計算例】	フーリエ三角級数の具体例を見ます。振動数スペクトルについて理解します。
No.4	【複素指数関数と複素フーリエ級数の定義】	複素平面の使いかた、複素指数関数の定義と基本的な性質（直交性、微積分）、サイン・コサインとの関係を復習します。フーリエ三角級数と複素フーリエ級数の関係を理解します。
No.5	【複素フーリエ級数の例】	複素フーリエ級数の計算例を見していきます。
No.6	【複素フーリエ級数の性質】	パーセバルの等式、ギブス現象、一様収束と平均収束など。
No.7	【フーリエ変換の定義】	周期が無限大の極限でフーリエ係数がどのように変化するかを観察し、フーリエ変換と逆変換を定義します。フーリエ変換の意味を理解します。
No.8	【フーリエ変換の例】	サイン・コサイン、単一パルス、指数関数、ガウス関数のフーリエ変換を計算します。

No.9	【フーリエ変換の性質】	実部と虚部の意味、変数をシフトした影響、導関数のフーリエ変換など。δ関数や階段関数にも注意します。
No.10	【フーリエ変換の応用】	微分方程式の解法と畳み込み積分の計算を学びます。
No.11	【系の応答特性】	線形系と時不変系のインパルス応答と周波数応答
No.12	【離散フーリエ変換の定義】	波形のサンプリングとデータから復元できる波形について学びます。DFTの定義を導入します。
No.13	【離散フーリエ変換の性質】	周期、対称性、直交性など、実際に計算して理解します。
No.14	【離散フーリエ変換とフーリエ変換】	DFTをフーリエ変換によりシミュレートし、DFTについて理解を深めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題は、学習支援システムあるいは講義時間中に指示します。なお、本授業の準備・復習・課題等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

フーリエ解析（理工系の数学入門）大石進一著 岩波書店
また必要に応じて学習支援システムを通じて資料を配布します。

【参考書】

フーリエ解析に関する一般的な書籍であれば参考になります。入門書の例として以下を挙げておきます。
・ すぐわかるフーリエ解析 石村園子著 東京図書

【成績評価の方法と基準】

課題（15％）・授業内ミニテスト（15％）・中間試験（20％）、および期末試験（50％）の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

音声・画像処理など情報科学の応用を目指すときに基本となる内容を学びます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class, we will study Fourier series and Fourier transform, which are the basis of deconstructing and reconstructing the sounds and image signals. Basics of discrete Fourier transform, which is an important tool for real applications, will also be explained.

【Learning Objectives】

To be familiar with Fourier series, Fourier transform, and discrete Fourier transform, and to understand how to use those in real problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Four hours will be your standard study time for this class.

【Grading Criteria/Policies】

Overall grade in this class will be decided based on the followings;

Assignments: 15%, Quizzes in each class: 10%,

Mid-term examination: 25%, Final examination: 50%

HUI312KA-CS-331 (人間情報学 / Human informatics 300)

デジタル信号処理

高村 誠之

必修区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

信号処理は情報を数学的に取り扱う基盤技術である。ほとんどの情報がデジタル化する時代において、デジタル信号処理は最も重要な技術の一つであるといえる。授業では、数学的な基礎やデジタル信号処理における重要な概念を中心に講義を行う。

学生は、アナログ信号処理とデジタル信号処理の基本原則が理解できることを目標とし、信号を数学的に取り扱えるようになることを目指す。また、信号処理の簡単なプログラミングも学ぶ。

【到達目標】

フーリエ変換、ラプラス変換、 z 変換などの信号処理に必要な数学的基盤を理解し、実際に計算できるようになることを目標とする。また、サンプリング定理、伝達関数、フィルタについて理解し、数学的に取り扱えることを目標とする。さらに、デジタル信号処理の基本的な処理をPythonで実装できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を行う。必要に応じて、PythonやMATLABを用いたプログラミング演習を行う。提出された演習問題の解説・フィードバックを随時実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、信号処理とは	アナログ信号処理とデジタル信号処理
2	フーリエ級数とフーリエ変換	フーリエ級数、複素フーリエ級数、フーリエ変換、フーリエ変換の性質、フーリエ変換の例
3	ラプラス変換	ラプラス変換、ラプラス変換の性質
4	逆ラプラス変換・連続時間システム	逆ラプラス変換、連続時間システムの性質
5	z 変換	z 変換、逆 z 変換、 z 変換の性質
6	離散フーリエ変換	離散フーリエ変換、離散フーリエ変換の性質
7	演習	学習した様々な変換に関する演習を行う。
8	離散時間システム1	サンプリング定理、伝達関数、インパルス応答
9	離散時間システム2	畳み込み、周波数応答
10	高速フーリエ変換	時間分割法、窓関数
11	フィルタ	フィルタの種類、フィルタの設計、周波数変換
12	デジタルIIRフィルタ	インパルス不変
13	FIRフィルタ	FIRフィルタ、窓関数法
14	まとめ	本講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当単元を予習と復習を行う。教科書の例題や演習問題を行う。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義資料を配布するが、以下の教科書を講義で使用する。

萩原 将文, デジタル信号処理 第2版・新装版, 森北出版, 2020.

【参考書】

1. 渡部 英二 (監修), 基本からわかる信号処理講義ノート, オーム社, 2014.
 2. 金谷 健一, これならわかる応用数学教室, 共立出版, 2003. (主にフーリエ級数・変換に関して)
 3. 原島 博, 信号解析教科書-信号とシステム-, コロナ社, 2018.
- その他の参考書は、必要に応じて講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、課題(授業内演習含む)20%、期末試験60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より理解を深められるような演習、講義内容の実応用事例が想像できるような授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

授業内に演習を行うため、貸与ノートPCを必要とする。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での画像処理応用や画像符号化技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要な信号処理に関する講義を行う。プログラミング(MATLAB)、微積分法の応用:フーリエ級数と変換を履修中または、履修済みであることが望ましい。
また、積分法の基礎と応用、複素関数論1、2、交流回路と電磁波:周波数、過渡応答、ベクトル解析の履修も推奨する。

【Outline (in English)】

Signal processing is a fundamental technology to handle information mathematically. Digital signal processing is one of the most important technologies in the era when most information is digitized. In the class, I'll give a lecture focusing on mathematical foundations and important concepts in digital signal processing.

You aim to understand the basic principles of analog signal processing and digital signal processing and aim to be able to handle signals mathematically. Also you'll learn simple programming of signal processing.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 20%, mid-term reporting 20%, term-end examination: 60%.

HUI312KA-CS-333 (人間情報学 / Human informatics 300)

画像処理

花泉 弘

必修区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広範な画像処理関連技術を体系的に理解する。それぞれの処理手法の考え方や定式化を理解することで、卒業研究などで使えるように習熟する。

【到達目標】

画像に対する処理アルゴリズムがどのようなものであるのかを知るだけでなく、その底流をなす考え方を理解し、それらを組み合わせて各人に必要な処理を組み立てられるレベルを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

単に教科書の内容を説明するだけでなく、理解がより深まるように、なるべく多くの問題を解くような形式とする。必要に応じて授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。オフィス・アワーでも、課題に対して講評する。不明な点や興味を持ったところについては、遠慮なく質問してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション デジタル画像の取得1	講義内容の概略の説明と画像の取得システムおよび方法
2	デジタル画像の取得2	撮影パラメータの説明
3	画像の性質と色空間	人間の感覚に合わせた色の表現法
4	画素ごとの濃淡変換	明るさやコントラストの変換、マスク処理など
5	空間フィルタリング	先鋭化と平滑化の手法
6	周波数フィルタリング	画像のフーリエ変換と周波数空間でのフィルタリング、実空間フィルタリングとの関連など
7	画像の復元と生成	画像のボケやブレの記述法および復元法
8	画像の幾何学的変換	アフィン変換や射影変換
9	2値画像の処理	輪郭追跡や細線化の手法
10	領域処理	テクスチャと同時生起行列、および領域分割処理手法について
11	テンプレートマッチング	テンプレートマッチングの基礎と応用
12	パターン認識	特徴に基づく分類やクラスタリング処理、主成分分析法などについて
13	動画像処理	背景差分法とフレーム間差分法
14	まとめ	講義全体のまとめと展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、予習・復習と課題レポートの作成等で各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

奥富編：デジタル画像処理(改訂新版)、(財)画像情報教育振興協会、2015
ISBN 978-4-903474-50-2

【参考書】

教科書の巻末に参考図書・文献が載っている。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績(60%)とレポートの成績(40%)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業になるよう説明を工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

行列計算や統計的手法の知識が必要となるので、参考書などでよく予習して授業に臨むことが望ましい。教科書の説明は要点のみが書かれているので、興味を持った処理については、原著論文を読んでみることを勧める。

レポートは各人の言葉で表現し期日を守って提出すること。

本講義では担当教員の2次元センサーデータの処理法に関する情報通信研究機構との共同研究の成果の一部を含んでいる。

【Outline (in English)】

Students systematically understand a wide range of image processing related technology. By understanding principle and formulation of each processing method, students acquire mastery so that they can use it for graduation research.

Not only do we know what the processing algorithms for images are, but we also aim to understand the underlying ideas and combine them to build the processing required by each student. The standard for outside classroom learning such as preparation and review of this class is 4 hours per week. Student scores are measured based on the evaluation with reports (40%) and regular examination (60%).

HUI312KA-CS-334 (人間情報学 / Human informatics 300)

音声情報処理

藤村 浩司

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声コンピュータで扱う基礎的な能力を身に付けることを目標とします。
コンピュータを使うと、音声を生成したり、取り込んだ音声を加工できます。
これらを可能にする技術がデジタル信号処理です。
本講義では、まず音声の発声方法や聴覚特性に基づく音声のモデル化手法を紹介しします。
次に、その技法を用いて実現できる音声処理の技法のいくつかの例を取り上げます。
最後に、音声処理の応用技術として、音声関係の web/cloud API を紹介しします。

【到達目標】

MATLABを用いてデジタル音声処理の技法を活用できる。
音声関係の web/cloud API やツールを利用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

役立つ技能の習得のために、取り上げる技法はプログラミングと関連付けて紹介する。また、実際の音声データを扱う。
簡単にプログラミングするために MATLAB を利用する。
API は python で利用することを想定する。
課題は、授業で主要なものを発表させ、解説する。
最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。
また、最終課題のレポートは、第1版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、発表会を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要/基礎知識確認/MATLAB 復習/代表的な音声アプリケーション/音声とは
2	母音の生成	母音の音声波形の観察/母音の発声/母音発声の物理モデル/声道フィルタを用いた母音の合成
3	母音と子音の発声	母音の分類/子音の分類/ホルマントと調音位置
4	音声の聴取	人の聴覚系/蝸牛/聴覚尺度/メルスペクトル
5	音声の分解	音韻の分析/ケプストラム
6	音声の分析	聴覚末梢神経系における音声情報処理/プリエンファシス/時間方向の分解/対数変換/メル周波数スケール変換/スペクトルのピーク強調
7	母音の認識	ホルマントと母音/ホルマントの多様性/正規分布によるモデル化/多次元正規分布/GMM
8	音節の認識	日本語の子音の体系/MFCC による音韻の認識
9	音節の系列の認識	音声情報の時間スケール/調音結合とホルマント推移/デルタパラメータ

10	韻律の認識	日本語のイントネーションとアクセント/基本周波数検出/歌声の f0
11	長い発話の認識	長い発話が伝える情報/発話の単位/感情と態度/個性/声質とスピーチスタイル
12	簡単な音声合成	モデルベースの合成法/波形ベースの合成法
13	音声対話とさまざまなアプリケーション	音声の伝搬と知覚/音声区間検出
14	レポート発表会	最終レポートの発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。
準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

配布する資料に基づいて講義を進める。

【参考書】

書名：Theory and Applications of Digital Speech Processing
著者名：L. R. Rabiner, R. W. Schafer
出版社：Pearson
出版年：2011
書名：MATLAB で学ぶ実践画像・音声処理入門
著者名：伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘
出版社：コロナ社
出版年：2019
書名：Python で学ぶ実践画像・音声処理入門
著者名：伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘
出版社：コロナ社
出版年：2018

【成績評価の方法と基準】

最終課題(60%)、定期試験(40%)で評価する(受講人数が少ない場合は、定期試験を実施しない)。ただし、講義内の課題を授業で発表した場合には加点する。また、講義内の課題の取り組み状況を考慮する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、web ページ、ノート PC を利用する。

【その他の重要事項】

「プログラミング(MATLAB)」 「デジタル信号処理」 「統計学2」を履修していることを期待する。また、「音と光」「情報理論」「パターン認識と機械学習」「科学技術計算」「オペレーションリサーチ」を並行して履修することが望ましい。また、できれば、「画像処理」も並行して履修することが望ましい。
また、受講希望者は、第1回の講義の前に、MATLAB がインストールされているか確認しておくこと。R2022a かそれ以降が望ましい。
<http://software.k.hosei.ac.jp/others/>
https://software.k.hosei.ac.jp/matlab_manual/MATLAB_student.pdf (後者のファイルは、VPN を使わないとアクセスできない)
本講義は担当教員の企業研究所での音声に関する研究の経験を元に行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide students with the basic skills to handle speech on a computer. Computers can be used to generate speech and to process recorded speech. The technology that makes this possible is digital signal processing. In this lecture, we will first introduce speech modeling methods based on the mechanism of speech production and auditory characteristics. Students will try some examples of speech processing techniques. Finally, we introduce speech-related web/cloud APIs as applied technologies for speech processing. By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To utilize techniques of digital signal processing and speech processing
- To utilize speech-related web/cloud APIs and tools

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Students are required to select some of the assignments they were unable to solve during the exercise time and complete them as homework. Students are also required to write a report on their final assignment including outside the class.

Final grade will be calculated according to the following process
Final report (60%), Term-end examination (40%), and in-class contribution. (If the number of students is small, the term-end examination will not be held.)

COT311KA-CS-302 (計算基盤 / Computing technologies 300)

プログラミング演習2(MATLAB)

花泉 弘

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の研究を進めるにあたり、論文を読むのは必須であるが、その内容を理解して自分の研究に生かすためには、論文中の数式に従って追試を行うことが効果的である。この演習では、こうした論文中の数式に基づいてプログラムを作成して動作させ、著者のアイディアを深く理解することを目的とする。

【到達目標】

この科目の単位を取得した者は、論文を読む際にそこに書かれた数式に基づいてプログラムを作成し著者の示す結果を追試できるスキルを獲得しており、併せて、追試し易い論文（報告書）の書き方についても学んでいる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

4つの課題に対してMATLABを用いてプログラムを作成し、動作確認を行った上で報告書として提出、発表も行う。最初の3については、説明資料を配布するが、4つ目は最終課題としてそれまでの内容に劣らないテーマを各自で見つけて演習を行う。4つ目の課題については、最初の授業の際に各自のテーマについて紹介してもらう。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。オフィス・アワーでも、課題に対する講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方や課題の概略について説明する。 MATLAB開発環境の確認。
2	演習1-1	課題1の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。
3	演習1-2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。
4	演習1-3	各自がそこまで行った内容についての発表。
5	演習2-1	課題2の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。
6	演習2-2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。
7	演習2-3	各自が行った内容についての発表。
8	演習3-1	課題3の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。
9	演習3-2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。

10	演習3-3	各自が行った内容についての発表。
11	演習4-1	各自の選択したテーマの紹介。 終了後は各自プログラム作成等を行う。
12	演習4-2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する助言等も行う。
13	演習4-3	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する助言等も行う。
14	まとめ	最終課題の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間だけでは時間が不足するので、自宅でも課題に取り組むこと（本授業では、毎週4時間を標準としている）。わからないことについては、参考になる論文や本を探してみるのもよい訓練になる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

MATLABに付属する文書。
課題ごとにいくつか論文等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加態度(20%)、提出されたレポートの質(50%)、課題発表の質(30%)を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

とにかくプログラムを書くことが重要である。数式や説明文を見てプログラムを書くことに習熟してほしい。

【Outline (in English)】

Reading papers and understanding authors idea are very important in advancing students own researches. Actually, it is effective to follow-up the ideas according to mathematical expression in the paper. The aim of this exercise is to deeply understand the idea of the author by creating some programs based on mathematical expressions in these papers, by making it work, and by confirming action.

Students who have earned credits for this subject have acquired the skills to create a program based on the mathematical formulas written in the dissertation and to retest the results shown by the author. At the same time, they also acquire the skill to write a report with easiness to retest. Class hours alone are not enough, so students need to study at home. The standard for outside classroom work of this exercise is 4 hours per week. If you don't understand something, it's a good training to look for useful papers and books. Student scores are measured based on attitude in the class, the evaluation with reports (40%) and presentation for the final task (60%).

COT311KA-CS-352 (計算基盤 / Computing technologies 300)

科学技術計算

相島 健助

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年では材料開発や構造解析といった科学技術的課題の解決に計算機シミュレーションは必須である。そこで使われる計算技術の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ・科学技術計算の基礎である微分法、積分法、方程式の解法を理解する。
- ・数値計算手法をプログラムとしてコーディングできる。
- ・プログラムを実行し、結果を可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、実際に様々な課題について問題を解くことで必要な技術を身に付ける。それを通して、コンピュータ科学、ネットワーク等の様々な情報科学分野を専攻する者を対象に、最近の計算技術を活かした解析手法修得の基礎となる数値解析の考え方や方法について基礎知識を学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	科学技術計算の基礎	科学技術計算を学ぶ上での前提知識
2	差分化とその誤差	数値微分と数値計算における誤差の評価
3	数値積分法の比較（1）	台形公式、シンプソン法による数値積分
4	数値積分法の比較（2）	重み付き積分法による数値積分
5	代数方程式の解法（1）	二分法、Newton法による方程式の解法
6	代数方程式の解法（2）	連立1次方程式の解法
7	行列問題の解法	実対称行列の対角化
8	データ解析（1）	数値補間法
9	データ解析（2）	最小二乗法によるフィッティング
10	常微分方程式の解法（1）	オイラー法にて常微分方程式を解く
11	常微分方程式の解法（2）	ルンゲ・クッタ法にて常微分方程式を解く
12	常微分方程式の解法（3）	2階常微分方程式を解く
13	常微分方程式の解法の評価	常微分方程式の解法の応用とまとめ
14	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として、授業中に出了課題はできるようにする。
本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業で指示

【成績評価の方法と基準】

提出課題、レポート等の評点（40％）と期末試験（60％）の総点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい説明を心掛ける

【学生が準備すべき機器他】

貸与PC、学習支援システム

【Outline (in English)】

The computer simulation is important in solution of scientific problem. This courses introduces a basis of computational approach to students taking this course.

At the end of the course, students are expected to understand the numerical methods of differentiation, integration and equations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following.

Term-end examination: 60%, Problems and reports: 40%

MAT247KA-GMP-256 (数学 / Mathematics 200)

微積分法の応用2

秋野 喜彦

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

微積分法は現実世界の出来事の予測やシミュレーションに絶大な力を発揮し、情報科学を応用する様々な場面でも用いられます。また、専門科目に対する基礎となるためしっかりと理解することが重要です。これまで学んできた1変数関数の微積分法を、多変数関数（主に2変数および3変数）の実数関数について展開し、微分法（偏微分法）や積分（多重積分）を学びます。

【到達目標】

多変数関数の微積分法に親しみ違和感なく対応できるようになることを目標としています。あわせて「数学を使って考える技術」を身につけることも心がけます。本授業は、「微積分法の基礎」が前提科目となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

「微積分法の基礎」の内容をベースにして、本授業では多変数関数（主に2変数および3変数関数）の微積分法（偏微分法と多重積分など）の基礎およびその応用を学びます。教室では計算法とともに実践的な応用例を紹介し、計算力を養うために、課題（教科書の問題と、別途用意する問題・解説を自宅で学習）を提出してもらいます。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。また課題や試験問題の中から、理解度や重要性に応じて適宜解説・フィードバックします。この授業では予習・復習が非常に大切です。予習では「授業中にどのような質問をしようか」と考えましょう。そうすると、予習は「考える技術」の訓練の場となりますし、何に焦点をあわせて聞かかという心構えができるので、授業の時間を非常に有効に使えます。復習では、より多くの問題に取り組むようにしましょう。それにより数学力が身に付くようになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
No. 1	【2変数関数】 2変数関数の連続性 や極限	1変数関数の微分法および2変数関数の連続性や極限について復習します。
No. 2	【偏微分法】 偏微分法①：多変数関数の導関数と全微分	2変数関数のグラフと偏微分係数の関係を考察します。また、全微分の意味と取り扱いを学びます。
No. 3	【偏微分法】 偏微分法②：平均値の定理とテイラー展開	2変数関数における平均値の定理やテイラー展開の基礎を学びます。
No. 4	【偏微分法】 偏微分法③：テイラー展開の応用	関数の形を多項式で近似する方法とその意味について具体例を通じて学びます。
No. 5	【偏微分法】 偏微分法④：極値	偏微分係数を用いて、2変数関数の極値を求める方法を考察します。
No. 6	【偏微分法】 偏微分⑤：条件付き極値	条件付き極値問題を解く方法としてラグランジェの未定乗数法を学びます。
No. 7	【多重積分】 多重積分①	2変数関数の定積分を累次積分で表す方法を学びます。

No. 8 【多重積分】
多重積分②

多重積分の例を学びます。

No. 9 【多重積分】
多重積分③

極座標を用いた多重積分を学びます。

No.10 【多重積分】
多重積分④

物理における多重積分の応用例をいくつか学びます。

No.11 【ガウス積分】
ガウス積分①

確率論や統計力学で非常によく用いられるガウス積分について学びます。

No.12 【ガウス積分】
ガウス積分②

いろいろな例を通じてガウス積分に慣れ親しんでもらいます。

No.13 【線積分】
線積分の基礎

経路（積分路）に沿った積分である線積分について、そして物理との関連性を学びます。

No.14 【まとめ】

全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとの課題等は、学習支援システムに掲載、又は授業内に提示します。なお、本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

微分積分+微分方程式（理工系の数理） 裳華房

川野日朗・薩摩順吉・四ツ谷昌二 共著

授業中に配布するプリント

【参考書】

一般的な微分積分の書籍であれば参考になります。入門書の例として以下を挙げておきます。

解析入門1・2 ハーン著 丸善

解析教程 ハイラー/ワナー著 丸善

微分積分（理工系の数学入門コース1） 和達三樹著 岩波書店

【成績評価の方法と基準】

課題（15%）・授業内ミニテスト（15%）・中間試験（20%）、及び、期末試験（50%）の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

微分法や積分法は、物理学においてだけでなく、情報科学分野においても基礎となるものです。レポートやテストなど負担の多い科目ですが、しっかりと身に付けることが重要です。頑張りましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで課題配布等を行います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Calculus is an essential technique not only in the prediction of phenomena in real world and various simulations, but also in the applications of information science. In this class, we will study the basics and applications of calculus of real functions with two or more variables such as partial derivative, multiple integral, and Gaussian integral etc.

This class requires "Calculus - Basic Techniques and Applications".

【Learning Objectives】

To learn calculus of functions with multi-variables, especially two and three variables and to understand the usefulness of these techniques in real problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Four hours will be your standard study time for this class.

【Grading Criteria/Policies】

Overall grade in this class will be decided based on the followings;

Assingments: 15%, Quizes in each class: 10%,
Mid-term examination: 25%, Final examination: 50%

HUI312KA-CS-335 (人間情報学 / Human informatics 300)

生体情報論

小西 克巳

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体の数理モデルを扱う上で必要な微分方程式の基礎と応用を身につけることを目標とし、線形微分方程式、非線形微分方程式、および、これらの数値シミュレーション手法と、生体における微分方程式で記述可能な数理モデルを理解しながら具体的技法を習得する。

【到達目標】

線形微分方程式、非線形微分方程式、常微分方程式についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを説明できる。各技法をプログラミングにより実装して具体的に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的な微分方程式の解法につて復習する。次いで、常微分方程式、斉次線形微分方程式、非斉次線形微分方程式、連立線形微分方程式、および、非線形微分方程式の解法と、その性質について学ぶ。応用としてSIRモデル、Hodgkin-Huxleyモデルを学び、理解を深める。数式の理解とともに各手法の振る舞いを数値的に理解することが重要である。このため、計算問題を解くことと合わせて、数値解析を目的としたプログラミング言語MATLABを用いてプログラミング課題に取り組み、計算処理結果を視覚的に表示して理解を深める。提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目標、レベル、進め方およびMATLABの使い方の説明
第2回	基本的な微分方程式	基本的な微分方程式の復習
第3回	微分方程式とシミュレーション	微分方程式の数値解法、シミュレーション
第4回	斉次線形微分方程式	斉次線形微分方程式の解法
第5回	非斉次線形微分方程式	非斉次線形微分方程式の解法
第6回	連立線形微分方程式	連立線形微分方程式の解法
第7回	線形微分方程式と安定性	線形微分方程式の安定性解析方法
第8回	ARモデルとARXモデル	ARモデルとARXモデルの性質と数値シミュレーション
第9回	非線形微分方程式と安定性	非線形微分方程式と基本と安定性解析
第10回	McKendrickのSIRモデル	McKendrickのSIRモデルの性質と数値シミュレーション
第11回	Hodgkin-Huxleyモデル	Hodgkin-Huxleyモデルの性質と数値シミュレーション
第12回	ニューラルネットワーク	ニューラルネットワークの数理モデル
第13回	複雑系	複雑系、カオスの性質とシミュレーション
第14回	その他の生体における微分方程式	アトピー性皮膚炎などの複雑な微分方程式の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 微分方程式の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列）の復習
- [3] オンラインマニュアルを用いたMATLABプログラミングの習得

- [4] 計算問題やMATLABプログラミングなどの課題への取り組み
- [5] 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料

【参考書】

担当教員が作成した講義資料

【成績評価の方法と基準】

レポート課題40%，期末試験60％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

新規授業のためなし

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内Webサイトへのアクセス等ネットワークを利用。MATLABプログラミングのための貸与パソコン。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of the differential equations. By the end of the course, students should understand the following:

1. linear ordinary differential equations
2. nonlinear differential equations
3. simulation methods for differential equations
4. applications of differential equations

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、Short reports : 40%

COT211KA-CS-106 (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング演習1(python)

伊藤 克亘

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会の情報化が進んだことによって、様々なデータがファイルやデータベースなどのデジタル形式で入手できるようになってきた。デジタルデータでは、大規模な分析が容易である。そのような分析に使われる手法としては、最近では、機械学習(いわゆる AI)と呼ばれる手法が主流である。いわゆる AI を用いたシステム(chatGPTなど)を使って自動的に分析することも多くなってきている。それらを含めて、そのようなデータ分析の業務も、IT 系でないような分野にも広がってきている。

今回採用した教科書も文系向きというタイトルで、文系読者も想定して書かれており、実際に、経営学、経済学、社会学に関連した事例を取り上げ、と書かれている。それらの分野だけでなく、他の学部の卒業研究でも、ゼミ発表や卒業研究などで扱うデータ(たとえば、アンケートの回答データ、実験／観測などの記録データ、web やインターネット上のテキストデータ、様々な調査統計データ)の分析に、この授業で取り上げる手法が役に立つこともあるだろう。いわゆる AI を用いたシステム(chatGPTなど)を使って自動的な分析を有効に活用するためには、以下のような理解が不可欠である。

1) プログラムをつかって、どんなデータに対して、どんな分析ができるのか？

2) それらの分析手法を用いると、具体的なデータに対して、どのような結果が得られるようになるのか？

。本授業では、データの分析のためのプログラミングの基礎を、実際のデータを扱う実践的なプログラミングで習得することが目標である。具体的には、プログラミング言語のPythonを用いて、代表的な分析手法や、その結果の表示、それらに必要なデータの前処理などの加工方法、などを学ぶ。

データの収集、加工、分析などのデータサイエンスプログラミングを自分の目的に応じて利用することができると、必要な作業が効率的に進む。また将来、DX などの仕事の洗練化にも役立つ。

【到達目標】

1. 代表的なデータ分析手法についての知識を身につける
2. Python で、代表的なデータ分析手法を実行できるようになる
3. Python で、データ分析の前処理ができるようになる
4. Python で、分析結果のグラフが作成できるようになる
5. Python によるデータ分析の書籍が読むための基礎知識を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」、「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書の例題を予習として事前に動かし、簡単な読解課題を解く。授業では、それらの例題についての補足、および、発展的な演習を行う。

発展的な演習のうち、実践的な演習についてはグループワークで実施する。

最終課題に関しては、定期試験期間に、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/環境整備	授業の進め方と演習で利用する環境の確認、Python の基礎の確認。(教科書1章、2章の一部)
2	Python によるデータ分析の基礎	Python/pandas/polars/numpy の基礎(教科書2章)
3	統計の基礎	平均とヒストグラム(教科書3章)
4	相関と回帰	相関と回帰(教科書4章、5章の一部)
5	実践演習	実際のデータを用いて統計処理を行う(グループワーク)
6	クラスタリング	クラスタリング(教科書6章)
7	決定木	決定木(教科書7章、8,9章の一部)
8	テキスト処理	形態素解析(教科書14章)
9	実践演習	実際のデータの分析を行う(グループワーク)
10	ロジスティック回帰	ロジスティック分析/傾向スコアマッチング(教科書10章)
11	変化のシミュレーション	SIR モデル(教科書12章)
12	アンケートデータの分析	因子分析
13	最終演習	演習のテーマの決定(グループワーク)
14	最終演習	演習テーマのデータ分析(グループワーク)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書名: 文系のための Python データ分析

著者名: 友原章典

出版社: 有斐閣

出版年: 2024

価格: 2100円

オリジナルオンライン資料

【参考書】

資料名: データサイエンス・スクール 上級者向けテキスト

著者名: 総務省統計局

URL: <https://www.stat.go.jp/dss/getting/pdf/upper.pdf>

価格: 無料

そのほか必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

最終課題レポートで評価する(80%)。

通常の実践演習に関しては、各回の予習確認テスト(10%)、発展課題(10%)の取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC(受講場所でインターネット接続ができるもの)が望ましいが、タブレットでも、次の条件を満たすものであれば構わない。授業では、ブラウザ上のクラウドサービスである google colab を使って演習を行うので、それが実行できる環境が必要。

【その他の重要事項】

教科書は、まえがきによると、「プログラミング経験がまったくないので、不安だ、もしくは Python の入門書を読み始めたけど挫折したという読者が対象です。」

と書かれています。

【Outline (in English)】

In seminars, students in every faculty need to deal with any data, such as survey responses, experimental data, text data, and statistical data. Utilizing data science programming accelerates your learning. Also, the skill helps sophisticate works, e.g., DX.

The objective of this class is to learn the basics of data science programming through exercises that use real-world data. It includes typical statistical or machine learning data analysis, visualization of results, and preprocessing.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
日本経済論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第3回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	古典派モデル(1) 基本モデル
第4回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	古典派モデル(2) 拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第5回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	古典派モデル(3) 貨幣数量説、失業と労働市場
第6回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	ケインズ・モデル(1) 所得支出モデル
第7回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	ケインズ・モデル(2) IS-LMモデルと財政金融政策の効果
第8回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	ケインズ・モデル(3) IS-MPモデル、開放経済モデル
第9回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	消費関数・投資関数の理論
第10回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）

第11回 日本経済を理解するためのマクロ経済学 (10)

第12回 現在の日本が抱える課題(1) デフレ脱却、金融政策の効果と限界

第13回 現在の日本が抱える課題(2) 財政政策の効果と限界、成長戦略

第14回 期末試験と総括 試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣

麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房

配布資料

【参考書】

マンキュー『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』東洋経済新報社

マンキュー『マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』東洋経済新報社

内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社

山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社

その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of macroeconomics, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from a macroeconomics perspective. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
日本経済論 A
小崎 敏男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本経済」の変遷を人口・経済成長・金融・財政・労働を中心として講義する。

現在のわが国が置かれている位置を確認して欲しい。受講者は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本経済の現状と将来展望を理解し、新聞やニュースの経済記事を興味をもって読めるような基本的知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容に関し質問等がある場合は、学習支援システムの「掲示板」内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿して欲しい。課題等に対するフィードバックは、授業中解説し学習支援システムを通して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、わが国の人口減少（1）	わが国の総人口の動向について考察する。
2	わが国の人口減少（2）	わが国の人口を3区分して、その動向を考察する。
3	日本経済の歴史：1960～2018年	名目GDP、実質GDPの動向及び、成長率の概念、成長率と複利の計算
4	高度経済成長：理論（成長会計）	経済成長の理論；生産関数と成長会計に関して考察する。
5	日本経済の失われた30年	1991年のバブル崩壊から現在まで、5期に分けて考察する。
6	日本経済と国際経済との関係	国際収支と貿易構造、企業の海外進出、アジア経済の拡大と貿易パターンの変化
7	金融政策（1）	日本の金融の足取りの考察。
8	金融政策（2）	伝統的理論と非伝統的理論の考察。
9	財政政策（1）	財政の現状と社会保障に関して考察する。
10	財政政策（2）	MMT理論に関して考察する。
11	労働政策（1）	人口減少と労働政策に関して考察する。
12	労働政策（2）	解雇権・最低賃金に関して考察する。
13	地域政策	人口減少と地域政策
14	小括1	第1回から13回までの講義に関する質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回の講義内容は授業支援システム上にアップロードする。

【参考書】

- ①鶴・前田・村田（2019）『日本経済のマクロ分析』日本経済新聞社。
 - ②小崎・牧野・吉田（2022）『キャリアと労働の経済学』日本評論社。
 - ③内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）など。
- その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（100％）を課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グラフを読みやすく改善しました。

【その他の重要事項】

現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

【Outline (in English)】

Lectures on the transition of the "Japanese economy" focusing on population, economic growth, finance, finance, and labor.

I want you to confirm the current location of Japan. Students should be learning the basics of microeconomics and macroeconomics.

The goal is to understand the current state and future prospects of the Japanese economy, and to acquire basic knowledge to read economic articles in newspapers and news with interest.

Impose a report (100%) and evaluate accordingly.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
日本経済論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するための公共経済学(1)	市場の失敗と政府の役割
第3回	日本経済を理解するための公共経済学(2)	財政、国債市場
第4回	日本経済を理解するための公共経済学(3)	公共財
第5回	日本経済を理解するための公共経済学(4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第6回	日本経済を理解するための公共経済学(5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第7回	日本経済を理解するための公共経済学(6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第8回	日本経済を理解するための公共経済学(7)	租税の理論、物品税の帰着
第9回	日本経済を理解するための公共経済学(8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第10回	日本経済を理解するための公共経済学(9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第11回	日本経済を理解するための公共経済学(10)	公債の負担
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政赤字、世代間格差
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将寛『財政学15講』新世社
配布資料

【参考書】

スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of public economics, including various theories of public finance and tax, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from the perspective of public economics. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
日本経済論 B
小崎 敏男
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済論Bは、日本経済論Aをより深く経済学的に探究する。特に、人口減少と日本経済の関係を深掘する。それにより、現在、日本の置かれて位置関係が理解される。

学生は、この学びにより今、何が日本に求められているのか理解できることとなる。また、その成果として日本経済新聞などの経済記事や週刊誌を体系的に理解できることを目的としている。

【到達目標】

個別の分野ごとに日本経済の抱える問題、解決への手段を考察するための基本知識、そして当然のことながら、新聞の経済記事等が理解できるような基本知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容及び課題等に対するフィードバックは、学習支援システムの「掲示板」で返答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要とスケジュール
2	少子化に関する基礎理論（1）	結婚の経済理論、子どもの数の決定理論
3	少子化に関する基礎理論（2）	少子化対策の理論
4	既婚女性の働き方と子どもの数（1）	理論的考察
5	既婚女性の働き方と子どもの数（2）	既婚女性の働き方と出生数の実証的考察
6	超高齢社会への対応策（1）	高齢化のメカニズム、人口高齢化の問題点
7	超高齢社会への対応策（2）	高齢者就業対策
8	労働力不足の労働市場（1）	わが国労働市場の趨勢と現状
9	労働力不足の労働市場（2）	労働力人口の減少と失業率の低下
10	労働力不足と外国人労働（1）	外国人労働受入れの現状
11	労働力不足と外国人労働（2）	外国人労働者受入れの経済学的検討
12	労働力不足と日本的雇用慣行（1）	日本的雇用慣行の理論
13	労働力不足と日本的雇用慣行（2）	労働力不足と日本的雇用慣行
14	労働力不足と技術革新	第4次産業は仕事を奪うのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】

小崎敏男（2018）『労働力不足の経済学』日本評論社。

【参考書】

関係省庁の発行する白書類。

【成績評価の方法と基準】

レポート(100%)を課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答の時間を積極的に活用したい。

【Outline (in English)】

Japanese economic theory B explores Japanese economic theory A more deeply and economically. In particular, we will deepen the relationship between population decline and the Japanese economy. By doing so, the positional relationship of Japan is now understood.

Students will be able to understand what is required of Japan now through this learning. In addition, as a result, the purpose is to be able to systematically understand economic articles and weekly magazines such as the Nihon Keizai Shimbun.

The goal is to acquire the basic knowledge necessary to consider the problems faced by the Japanese economy in individual fields, the means to solve them, and, of course, the basic knowledge necessary to understand economic articles in newspapers.

Impose a report (100%) and evaluate accordingly.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
国際経済論 A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際経済学の基礎について学びます。特に国際貿易の諸問題について講義します。貿易利益・貿易政策の効果といったトピックを理解できることを目的とします。

【到達目標】

本講義は、受講者が国際貿易の基礎について理解できるようになることを目標とします。特に、貿易からの利益、貿易政策の効果といった基本概念について学習し、自ら貿易問題の分析が可能になることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、基本的な国際貿易の概念について学んでいきます。なぜ国々は貿易をするのか、輸出入の構造はどう決定されるのか、貿易政策の影響はどういったものがあるのかといった点について論理的に学び、自らそれらの分析ができるようにします。現実の貿易の諸問題を例にとり、貿易理論を応用しつつ理解を深めます。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際取引とは何か
2	Why do we trade? I(Gains from trade)	なぜ貿易をするのか：余剰分析の基礎
3	Why do we trade? II	余剰分析：消費者余剰、生産者余剰
4	Why do we trade? III	自給自足から自由貿易へ
5	Market Structure and gains from trade I	競争的市場と独占市場
6	Market Structure and gains from trade II	独占市場における貿易の利益
7	Trade Policy	貿易政策とは何か
8	Effects of tariffs and subsidies I	輸入関税の影響
9	Effects of tariffs and subsidies II	輸出補助金の影響
10	What do we trade? (Understanding international trade (trade pattern and trade volume))	比較優位
11	General equilibrium	一般均衡の考え方
12	Strategic Trade Policy	戦略的貿易政策とは何か
13	Strategic Trade Policy Analysis I	ゲーム理論の基礎
14	Strategic Trade Policy Analysis II	戦略的貿易政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前に授業支援システムのハンドアウトを読む必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武智、東田、黒田著、トピックで読み解く国際貿易論、ミネルヴァ書房

【参考書】

石川・菊池・棕著、国際経済学をつかむ、有斐閣
 ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、国際貿易・グローバル化と政策の経済分析、文真堂
 Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）および期末試験もしくはレポートの結果等(70%)により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することで内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline (in English)】

This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade. Our learning objective is to understand the basic concepts of international trade. Students are expected to solve problem sets assigned and study at least 4 hours for preparing for each class. The grade is determined by the performance of assignments (30%) and final exam (or term paper) (70%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
国際経済論 A
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T AやE P Aなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はオンラインで行いますが、期末試験は対面で試験を行う予定です。パワーポイントを用いて講義し、キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第2回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第3回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第4回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第5回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第6回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第7回	規模の外部経済	生産の国際立地
第8回	新しい貿易理論	グローバル経済の企業
第9回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第10回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第11回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第12回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第13回	地域貿易協定の効果	F T Aが与える影響
第14回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

Krugman, Obstfeld & Melitz, International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Global edition, Pearson Education, 2023 年
クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）上:貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣、2013 年
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題(12回を予定) (30%) と、期末試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. At the end of the course, students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Also, students comprehend the international trade framework with Free Trade Agreements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 12 quizzes(30%) and term-end examination (70%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
国際経済論 B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際金融（マクロ経済学）の基礎について学びます。国際収支、為替レートといった国際金融を理解する基礎概念について講義します。

【到達目標】

本講義により、受講者は国際取引のパターンとその影響、為替レートの決定、金融市場と外国為替市場の関係といったことについて理解できることを目標とします。また、様々な国際金融データの処理が可能になることも目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、まずマクロ経済学の復習を行なった後に、国際金融の基礎である国際収支と為替レートに焦点を当てて学びます。国際金融データを用いつつ、国際金融理論を現実に応用する形で理解を深めます。・課題等の提出やフィードバックについては「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際金融とは何か
2	Basic elements of international finance	国民経済計算、国際収支と為替レート
3	The link between national economy and international market	IS バランスと経常収支
4	Balance of Payments	国際収支とは何か
5	Current account	経常収支とその分析
6	The relationship between current account and financial account	経常収支と金融収支
7	More on exchange rate	為替レート：平価レート
8	Price and exchange rate	購買力平価
9	PPP violation	なぜ購買力平価は成立しないのか
10	Real exchange rate	実質為替レート
11	An asset approach	アセットアプローチ
12	Covered and Uncovered Interest Parity	利子平価とフォワードプレミアムパズル
13	Financial market and foreign exchange	外国為替と金融市場
14	Monetary policy and exchange rate	金融市場と為替レート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業支援システムのハンドアウトを読んでおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

成績は課題（30%）、期末試験もしくはレポート等（70%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することにより内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline (in English)】

This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics. Our learning objective is to understand the basic concepts of international finance. Students are expected to solve problem sets assigned and study at least 4 hours for preparing for each class. The grade is determined by the performance of assignments (30%) and final exam (or term paper) (70%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
国際経済論 B
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインで行いますが、期末試験は対面で行います。パワーポイントを用いて講義し、キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際収支表	国際収支表の項目
第2回	日本の国際収支	国際収支データの推移
第3回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第4回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第5回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第6回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第7回	金融政策と為替レート	オーバーシュートینگモデル
第8回	長期の為替レート決定	購買力平価
第9回	実質為替レート	購買力平価からの乖離
第10回	固定為替レート	外国為替市場介入
第11回	国際通貨制度	通貨トリレンマ
第12回	金融のグローバル化	リスクと銀行危機
第13回	最適通貨圏とユーロ	固定為替レートの範囲
第14回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

Krugman, Obstfeld & Melitz, International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Global edition, Pearson Education, 2023 年
 クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策』（原書第10版）下:金融編 丸善出版、2017 年
 清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
 高木信二著「入門国際金融（第4版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（12回を予定）（30％）と期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. At the end of the course, students will comprehend the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. Students also comprehend balance of payments and the relation between current account and domestic economy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 12 quizzes(30%) and term-end examination (70%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLMX組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、少子高齢化にともなう社会保障費の増大によって膨らんでしまった政府債務残高や低成長に対する経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定を迫られています。この講義ではこれらの現状について考えるために、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場へ介入がどのようなときに必要なのかについて学びます。後半では日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面している問題を理解します。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、自分自身で経済学の観点から考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接してください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学はどのような内容か
2	市場の役割(1)	価格メカニズムの働き
3	市場の役割(2)	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡
4	市場の役割(3)	厚生経済学の第1基本定理、パレート効率
5	財政の3つの機能(1)	資源配分機能（外部性、公共財）
6	財政の3つの機能(2)	所得再分配機能（生活保護、累進所得税）、ジニ係数
7	財政の3つの機能(3)	経済安定化機能（裁量的政策とビルトイン・スタビライザー）
8	政府の大きさ(1)	経済規模に占める政府の大きさ、一般政府歳出
9	政府の大きさ(2) 財政と予算(1)	国民負担率 一般会計、特別会計、政府関係機関の各予算
10	財政と予算(2)	一般会計歳入(租税と公債)
11	財政と予算(3)	一般会計歳出(社会保障関係費、国債費、地方交付税交付金等)、プライマリーバランス
12	財政投融资	財政投融资の仕組み、財政投融资改革と規模の推移
13	予算のしくみと編成(1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方
14	予算のしくみと編成(2)	予算編成と審議、執行、決算のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解しているとの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞なども使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将寛(2018)『財政学15講』新世社。

授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムを利用しますので、学生のみなさんは、学習支援システムに確実に登録して下さい。特に、履修変更した方は、自分で学習支援システム上の登録をよく確認して下さい。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話しますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

At present, Japanese government must manage the several issues of a huge government debt due to the huge social security costs caused by the aging and low birth rate and the economic policy against the low economic growth rate. In this course, students understand these issues that the Japanese government is facing and learn how to consider them from the viewpoint of economics.

Learning objective:

The goal of this course is to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 A
廣川 みどり
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、少子高齢化にともなう社会保障費の増大によって膨らんでしまった政府債務残高や低成長に対する経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定を迫られています。この講義ではこれらの現状について考えるために、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場へ介入がどのようなときに必要なのかについて学びます。後半では日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面している問題を理解します。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、自分自身で経済学の観点から考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接行ってください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第2回	市場の役割(1)	価格メカニズムの働き
第3回	市場の役割(2)	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡
第4回	市場の役割(3)	厚生経済学の第1基本定理、パレート効率
第5回	財政の3つの機能(1)	資源配分機能（外部性、公共財）
第6回	財政の3つの機能(2)	所得再分配機能（生活保護、累進所得税）、ジニ係数
第7回	財政の3つの機能(3)	経済安定化機能（裁量的政策とビルトイン・スタビライザー）
第8回	政府の大きさ(1)	経済規模に占める政府の大きさ、一般政府歳出
第9回	政府の大きさ(2)	国民負担率
第10回	財政と予算(1)	一般会計、特別会計、政府関係機関の各予算
第11回	財政と予算(2)	一般会計歳入（租税と公債）
第12回	財政と予算(3)	一般会計歳出（社会保障関係費、国債費、地方交付税交付金等）、プライマリーバランス
第13回	財政投融资	財政投融资の仕組み、財政投融资改革と規模の推移
第14回	予算のしくみと編成(1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方
第15回	予算のしくみと編成(2)	予算編成と審議、執行、決算のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方をを用いるため、1年次必修の経済学の授業を理解していると、この授業も理解しやすくなります。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞も使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間を、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。
財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚(2018)『財政学15講』新世社。
授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんからの質問や提出された課題の採点を通じて、みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムを利用しますので、学生のみなさんは、学習支援システムに確実に登録して下さい。特に、履修変更した方は、自分で学習支援システム上の登録をよく確認して下さい。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

At present, Japanese government must manage the several issues of a huge government debt due to the huge social security costs caused by the aging and low birth rate and the economic policy against the low economic growth rate. In this course, students understand these issues that the Japanese government is facing and learn how to consider them from the viewpoint of economics.

Learning objective:

The goal of this course is to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLMX組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学 A の内容（財政学の考え方と日本の財政の制度と現状）を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。この授業はもう 1 つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、実際に政府が実施する様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策は私たちの生活にどのような影響をあたえるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接してください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のふりかえり 国と地方との関係 (1)	財政学 A のふりかえり。 地方財政の役割と規模、地方自治体の財源、国から地方自治体への移転
2	国と地方との関係 (2) 租税の転嫁と帰着 (1)	国から地方自治体への移転のつづき。 税の転嫁と帰着、直接税と間接税。
3	租税の転嫁と帰着 (2)	課税の効果、間接税による影響。
4	租税の転嫁と帰着 (3)	税の帰着、課税の余剰分析。
5	所得税、一般消費税、個別消費税の比較 (1)	所得税と一般消費税の課税の効果。
6	所得税、一般消費税、個別消費税の比較 (2) 消費税のしくみと制度 (1)	所得税、一般消費税、個別消費税：3 つの税の比較。 日本の消費税の概略、付加価値税。
7	消費税のしくみと制度 (2)	日本の消費税の歴史。消費税に関わる制度。
8	有効需要の原理と国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理、消費関数。
9	有効需要の原理と国民所得決定の理論 (2)	政府支出増大と乗数効果。
10	有効需要の原理と国民所得決定の理論 (3)	比例所得税、均衡予算における政府支出増大の効果。
11	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡と投資関数。政府支出増大による IS のシフト。

12	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場における貨幣需要と貨幣供給、その均衡。貨幣供給増大による LM のシフト。
13	IS-LM 分析 (3)	IS と LM の交点。財政政策・金融政策の効果。
14	公債の負担	リカードの等価定理とバローの中立性命題。MMT の考え方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているところの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で 1 年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞なども使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将寛(2018)『財政学 15 講』新世社。

授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第 3 版』中央経済社。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第 3 版』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100% で評価をします。もう 1 つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、PC とインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムを利用しますので、学生のみなさんは、学習支援システムに確実に登録して下さい。特に、履修変更した方は、自分で学習支援システム上の登録をよく確認して下さい。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう 1 つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase in government expenditure.

Learning objective:

The goal of this course is to understand various policies implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 B
廣川 みどり
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUUVWYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学Aの内容（財政学の考え方や日本の財政の制度と現状）を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、実際に政府が実施する様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策は私たちの生活にどのような影響をあたえるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接行ってください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のふりかえり 国と地方との関係(1)	財政学Aのふりかえり 地方財政の役割と規模、地方自治体の財源、国から地方自治体への移転
2	国と地方との関係(2) 租税の転嫁と帰着(1)	国から地方自治体への移転のつづき 税の転嫁と帰着、直接税と間接税
3	租税の転嫁と帰着(2)	課税の効果、間接税による影響
4	租税の転嫁と帰着(3)	税の帰着、課税の余剰分析
5	所得税・一般消費税・個別消費税の比較(1)	所得税と一般消費税の課税の効果
6	所得税・一般消費税・個別消費税の比較(2)	所得税、一般消費税、個別消費税：3つの税の比較
	消費税のしくみと制度(1)	日本の消費税の概略、付加価値税
7	消費税のしくみと制度(2)	日本の消費税の歴史、消費税に関わる制度
8	有効需要の原理と国民所得決定の理論(1)	有効需要の原理、消費関数
9	有効需要の原理と国民所得決定の理論(2)	政府支出増大と乗数効果
10	有効需要の原理と国民所得決定の理論(3)	比例所得税、均衡予算における政府支出増大の効果
11	IS-LM 分析(1)	財市場の均衡と投資関数 政府支出増大によるISのシフト
12	IS-LM 分析(2)	貨幣市場における貨幣需要と貨幣供給、およびその均衡 貨幣供給増大によるLMのシフト

13	IS-LM 分析(3)	ISとLMの交点 財政政策・金融政策の効果
14	公債の負担	リカードの等価定理とバローの中立性命題 MMTの考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解しているとの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞なども使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚(2018)『財政学15講』新世社。

授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムを利用しますので、学生のみなさんは、学習支援システムに確実に登録して下さい。特に、履修変更した方は、自分で学習支援システム上の登録をよく確認して下さい。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase in government expenditure.

Learning objective:

The goal of this course is to understand various policies implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
金融論 A	
武田 浩一	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて金融を学ぶ人を対象として、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説することを通じて、まず金融に興味を持ってもらい、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の本講義は、原則として対面講義形式で行います。
この講義では、「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように、日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて、少し前にあたたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭に置いて、今動いている金融の実態に即したup-to-dateな金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように、金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには、それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。
講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第2回	イントロダクション	金融とは何か ：金融とは
第3回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第4回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味
第5回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第6回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について
第7回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について
第8回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第9回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第10回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第11回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第12回	貨幣供給と流動性のわな	貨幣供給について
第13回	マネーストック	マネーストックとは何か
第14回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

経済学入門や企業と経済・基礎、現代経済学入門などで学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。学期末試験は教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。
授業への参加状況や学習の進捗状況を平常点として成績評価に加味します（20%）。学習の進捗状況を確認するために、講義内容の理解度を確認する課題を学期中に出题します。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示、フィードバックなどに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
金融論 A
高橋 秀朋
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、金銭の貸借やそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】

本講義の目標は、金融システムにおける諸問題を経済学的観点から理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようになることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、オンデマンド形式で実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、後半の演習回では課題に回答、提出するという学習サイクルで実施する。また、EXCELを利用したセミナー形式の演習もあわせて行う。本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するための基本的なフレームワークを身につけてもらう。そのため、講義ではEXCELを利用し講義中に身につけた知識が実際に適用可能であることを示していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融取引	金融取引における経済主体
2	金融の役割	異時点間、異状態間の所得移転
3	貨幣の時間価値1	将来価値、現在価値
4	貨幣の時間価値2	株価、債券価格の計算への応用
5	貨幣の時間価値3	株価、債券価格の計算への応用
6	債券管理	金利リスク
7	リスク評価1	2状態モデルによるリスク評価
8	リスク評価2	複数状態モデルと分散化
9	リスク評価3	複製戦略によるオプション評価
10	リスク評価4	状態価格によるオプション評価
11	演習1	小テスト（将来のCFが確実な証券の価格評価）
12	演習2	小テスト（将来のCFが不確実な証券の価格評価）
13	演習3	EXCELの関数を利用した将来価値、現在価値の計算
14	演習4	リスク資産の収益率の記述統計量（EXCEL利用）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週2時間）。また、講義後に取り扱った計算例を復習するとともに、日本経済新聞、ロイター、F T等に掲載された市場の価格情報を通じて学習した内容がどのように活用されているのかを実感すること（週2時間）。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）

※当該テキストのPart 2が学習の対象

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験80%、4回の演習における課題の評価20%として行う。提出課題の基本点は各回5%相当であるが、特に優秀な課題に関しては追加で加点を行う。当該加点を含めて100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の復習を効率的に行うために、小テストや演習の解説はオンデマンド形式のコンテンツとしてアップロードしておく。

※昨年度は対面/オンラインのハイブリッド運用

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. This course also shows what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems in the real world from the academic perspective. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be evaluated according to the in-class assignments (20%) and term-end exam (80%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
金融論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、金融の基本的な仕組みを紹介し、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説します。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生に、まず金融の面白さに触れてもらい、さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の本講義は、原則として対面講義形式で行います。この講義では、金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容や方法の説明
第2回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第3回	金融市場	短期金融市場について
第4回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第5回	外国為替市場	外国為替市場について
第6回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第7回	資産証券化	資産証券化とは何か
第8回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第9回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第10回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルードレンス政策について
第11回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティーネットについて
第12回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第13回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第14回	企業金融	企業の資金調達について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。経済学入門や企業と経済・基礎、現代経済学入門などで学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。学期末試験は教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。授業への参加状況や学習の進捗状況を平常点として成績評価に加味します（20%）。学習の進捗状況を確認するために、講義内容の理解度を確認する課題を学期中に提出します。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示などに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
金融論 B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを一通り学習した者を対象として、金融システムの役割や現実の金融における諸問題を分析する力を身につけることにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを、金融論Aの知識を発展させ、情報の経済学を利用して分析する。

【到達目標】

本講義の目標は、金融論Aで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、金融取引における情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、オンデマンド形式で実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、後半の演習回に課題に回答、提出するという学習サイクルで実施する。また、EXCELを利用したセミナー形式の演習もあわせて行う。金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示していく。金融論Bではミクロ経済学に基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融論Aの復習	金融の機能
2	リスクと資産評価	債券、株式の評価
3	情報の非対称性1	逆選択問題
4	情報の非対称性2	モラルハザード
5	情報の非対称性3	自己選択、インセンティブメカニズム
6	契約の不完備性	不完備契約における諸問題
7	金融市場と仲介機関	金融市場概観
8	金融市場への応用1	証券の発行市場
9	金融市場への応用2	証券の流通市場
10	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
11	演習1	小テスト（2状態モデルとリスク）
12	演習2	小テスト（逆選択）
13	演習3	小テスト（モラルハザード）
14	演習4	小テスト（契約の不完備性）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週2時間）。また、情報の経済学に基づく金融論は、実際の経済における金融に関わる事象をモデルによって説明しようと試みているため、講義で学習する知識だけでなく、日本経済新聞、ロイター、F T等の経済情報に目を通してその内容を実感すること（週2時間）。

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰『新エコノミクス 金融論 第2版』（日本評論社、2016年）

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）

※当該テキストのPart 3 およびPart 4が対象。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験80%、4回の演習における課題の評価20%として行う。提出課題の基本点は各回5%相当であるが、特に優秀な課題に関しては追加で加点を行う。当該加点を含めて100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の復習を効率的に行うために、小テストや演習の解説はオンデマンド形式のコンテンツとしてアップロードしておく。

※昨年度は対面/オンラインのハイブリッド運用

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to introduce more sophisticated concepts and frameworks than those students learn in Monetary and Finance A (Kin-yuron A). Students are expected to acquire ability to analyze real financial activities with knowledge related to information economics. In this lecture, employing the information theory and fundamental knowledge of Finance, we apply the theories to analysis of the real world. The goal of this course is to obtain abilities to apply economic tools to the real world. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (20%) and term-end exam (80%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済の数理 A
篠原 隆介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済理論をベースとした理論的産業組織論について学習する。本講義の目的は、基本的なミクロ経済学およびゲーム理論を理解し、これらを応用して価格競争、製品差別化競争、垂直的な取引関係等、現実の企業行動を分析する上で必要となるトピックスを学習することである。本講義の重きは、ミクロ経済理論・ゲーム理論に基づく数理モデル分析に置かれるため、データを用いた実証分析については取り扱わない。ミクロ経済学理論・ゲーム理論を応用し、「企業間の競争(より一般的には相互依存関係)は、どのようなメリットとデメリットを持つのか」、「企業間競争により発生する問題は、どのような形で解決されるのか」について、学ぶ。

【到達目標】

ミクロ経済学・ゲーム理論を基礎ツールと位置づけ、これらを習得し、その応用を試みる。トピックスは、企業の戦略的行動と企業間の相互依存関係に限定されるが、「ミクロ経済学とゲーム理論は、どのように応用されるのか」を知り、「ミクロ経済学・ゲーム理論分析から得られた知見は、現実の経済とどのように関連するのか」について理解できるようになることが、到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義の序盤は、基本的なミクロ経済理論とゲーム理論を学習する。これらの知識に立脚し、産業組織の理論の基礎である独占企業の理論と寡占企業の理論を徹底的に理解する。これらの理論の基礎は、後に学習する「参入と退出に関する企業行動の分析」、「垂直的取引制限」、及び「製品差別化による企業競争の分析」にとって、非常に重要なものとなる。ミクロ経済学とゲーム理論は、数学的に厳密に構築された分析ツールであるため、本講義では、数学的な操作(数式の展開、命題の証明等)を行うとともに、現実経済との対応関係(事例の紹介等)についても解説する。担当教員が自作した講義ノートを、板書とスライドを用いて解説する。講義ノートは、学習支援システムにアップロードするので、各自、ダウンロードして講義に持参することが求められる。講義ノートとともに、練習問題のファイルを学習支援システムで配布する。講義に関するお知らせ、資料配布は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック(講義内容に関する質疑や練習問題の解説等)は、講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の学習内容について、様々な企業競争について
第2回	完全競争市場1	需要、消費者余剰、需要の価格弾力性
第3回	完全競争市場2	供給、生産者が意思決定を行う上での費用概念
第4回	完全競争市場3	生産者の利潤最大化、価格受容的行動と生産者
第5回	完全競争市場4	市場均衡と経済厚生(配分効率性)
第6回	完全競争市場5	自由参入と市場取引
第7回	独占企業の理論1	独占企業の利潤最大化と経済厚生

第8回	独占企業の理論2	支配企業の理論、独占的競争市場
第9回	独占企業の理論3	価格差別と経済厚生
第10回	ゲーム理論の基礎知識1	同時手番ゲームとナッシュ均衡
第11回	ゲーム理論の基礎知識2	逐次手番ゲームと後ろ向き帰納法
第12回	ゲーム理論の基礎知識3	部分ゲームと部分ゲーム完全均衡
第13回	寡占市場- 基礎	同質財の価格競争
第14回	講義総括	講義内容のおさらいと計算演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義はミクロ経済学とゲーム理論をベースとして行われるため、講義内容の理解を促進するためには、練習問題演習が有効である。講義資料の各章末に練習問題を設けるので、自主学習として解くことを勧める。微分、極大極小の導出について高校の文系数学程度の知識を復習して、講義に臨むこと。1回の授業につき、準備・復習それぞれ約2時間程度の学習が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。自作の講義資料に基づいて、講義を進める。

【参考書】

- [1] Luis M. B. Cabral (2017) Introduction to Industrial Organization, MIT Press. (ルイシュ・カブラル(著)、青木玲子・大橋弘(訳) (2023)『企業の経済学—産業組織論入門』日本評論社)
- [2] Oz Shy (1996) Industrial Organization, Oxford University Press
- [3] 梶井 厚志・松井 彰彦(2000)『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
- [4] 神取 道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社
- [5] 花園誠(2018)『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初担当のため、該当せず。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about theoretical industrial organization based on microeconomic theory. This course aims to understand basic microeconomic and game theory and apply these theories to analyze interdependent relationships among firms, such as price competition, product differentiation, and vertical relations. Applying microeconomic theory and game theory, students will learn the advantages and disadvantages of competition among firms and how problems caused by competition can be solved.

In the early part of the lecture, students will learn basic microeconomic theory and the theory of games. Based on this knowledge, students will learn the fundamentals of the industrial organization theory, such as the theory of monopolistic firms and oligopolistic firms. These theoretical foundations will be essential for analyzing vertical relations and competition through product differentiation, which students will study later in this class. Since microeconomics and game theory are built on mathematics, this lecture will provide students with mathematical operations (mathematical formulas, proofs of propositions, etc.). Furthermore, the lecturer will explain the correspondence between the theory and the real economy (case studies, etc.).

Students are recommended to prepare for and review each class for two hours each (in total, four hours).

Evaluation will be based on classroom examinations (100%).

Details will be announced in the lecture.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済の数理 B
篠原 隆介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済の数理Aと同様に、ミクロ経済理論をベースとした産業組織の理論分析について学習する。本講義の目的は、経済の数理Aで習得したミクロ経済理論およびゲーム理論に基づいて、寡占市場に関わるトピックス（価格・数量競争、製品差別化競争、垂直的な取引関係等）を学習する。本講義の重きは、「ミクロ経済理論・ゲーム理論分析」に置かれる。ミクロ経済理論とゲーム理論を応用し、「企業間の競争（より一般的には相互依存関係）は、どのようなメリットとデメリットを持つのか」、「企業間競争により発生する問題は、どのような形で解決されるのか」について、学ぶことが目的である。

【到達目標】

経済の数理Aで習得したツールに基づき、寡占市場の分析を行う。トピックスは、企業の戦略的行動と企業間の相互依存関係に限定されるが、「ミクロ経済学とゲーム理論は、どのように応用されるのか」を知り、「ミクロ経済学・ゲーム理論分析から得られた知見は、現実の経済とどのように関連するのか」について理解できるようになることが、到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済の数理Aでの学習内容に基づき、「寡占市場の理論」、「参入と退出に関する企業行動」、「垂直的な取引関係」、及び「製品差別化」について学習する。ミクロ経済学とゲーム理論は、数学的に緻密に構築された分析ツールであるため、本講義では、数学的な操作（数式の展開、命題の証明等）を行うとともに、現実経済との対応関係（事例の紹介等）についても解説する。

担当教員が自作した講義ノートを、板書とスライドを用いて解説する。講義ノートは、学習支援システムにアップロードするので、各自、ダウンロードして講義に持参することが求められる。講義ノートとともに、練習問題のファイルを学習支援システムで配布する。講義に関するお知らせ、資料配布は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（講義内容に関する質疑や練習問題の解説等）は、講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経済の数理Aの復習
第2回	寡占市場- 基礎1	同質財の価格競争と生産能力の制約
第3回	寡占市場- 基礎2	同質財の数量競争(1)ナッシュ均衡の導出(図解)
第4回	寡占市場- 基礎3	同質財の数量競争(2)ナッシュ均衡の導出(計算)
第5回	寡占市場- 基礎4	同質財の数量競争(3)比較静学
第6回	寡占市場- 応用1	激しい企業競争は、経済厚生を高めるか？ (1)
第7回	寡占市場- 応用2	激しい企業競争は、経済厚生を高めるか？ (2)
第8回	寡占市場- 応用3	寡占市場とカルテル
第9回	垂直的な取引関係1	二重限界化と経済厚生、二部料金制

第10回	垂直的な取引関係2	川下企業との競争、川上企業との競争、再販売価格維持の分析
第11回	製品差別化1	企業間の立地競争
第12回	製品差別化2	差別化された財の価格競争
第13回	参入と退出	企業の参入阻止行動
第14回	講義総括	講義内容のおさらいと計算演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義はミクロ経済学とゲーム理論をベースとして行われるため、講義内容の理解を促進するためには、練習問題演習が有効である。講義資料の各章末に練習問題を設けるので、自主学習として解くことを勧める。微分、極大極小の導出について高校の文系数学程度の知識を復習して、講義に臨むこと。1回の授業につき、準備・復習それぞれ約2時間程度の学習が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。自作の講義資料に基づいて、講義を進める。

【参考書】

[1] Luis M. B. Cabral (2017) Introduction to Industrial Organization, MIT Press. (ルイシュ・カブラル(著)、青木玲子・大橋弘(訳) (2023)『企業の経済学—産業組織論入門』日本評論社)

[2] Oz Shy (1996) Industrial Organization, Oxford University Press

[3] 梶井 厚志・松井 彰彦(2000)『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社

[4] 神取 道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社

[5] 花園誠(2018)『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初担当のため、該当せず。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about industrial organization based on microeconomic and game theories. This course aims to apply these theories to analyze interdependence among firms, such as price competition, product differentiation competition, and vertical relation. Students will learn the advantages and disadvantages of competition among firms and how problems caused by competition can be solved.

First, students will learn and apply the oligopoly theory, such as the Bertran competition and Cournot competition. Then, students will learn the theories of vertical relations between firms, competition through differentiated products, and entry and exit of firms. Since microeconomics and game theory are built on mathematics, this lecture will provide students with mathematical operations (mathematical formulas, proofs of propositions, etc.). Furthermore, the lecturer will also explain the correspondence between the theory and the real economy (case studies, etc.).

Students are recommended to prepare for and review each class for two hours each (in total, four hours).

Evaluation will be based on classroom examinations (100%).

Details will be announced in the lecture.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
計量経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、古典的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、EXCELをもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布
6	計量経済学のための確率論	2つ以上の事柄の確率変数 連続確率分布 計量経済学で使う代表的な確率分布
7	統計学による推論	統計的推論とは？ 標本平均の性質
8	統計学による推論	標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか？ 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か？
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散
14	重回帰分析の基本	回帰分析後の検定 大標本理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」 有斐閣

【参考書】

山本拓・竹内明香 (2013) 「入門計量経済学—Excelによる実証分析へのガイド (経済学叢書 Introductory)」 新生社

中室牧子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」 ダイアモンド社

伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」 光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this class, you are able to explain the theory of classical regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using EXCEL.

(Learning Objectives)

Classical regression analysis where the error term follows a normal distribution will be taught according to the text. Review of probability theory, review of statistics, and basics of simple and multiple regression models will be covered.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
計量経済学 B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、現代的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、R をもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがわない現代的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。重回帰モデルの復習、頑健な標準偏差、操作変数法、パネル分析などを講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか データの扱い方
2	計量経済学のための確率論	不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	ダミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差 誤差項が均一かどうか調べる
9	操作変数法	内生性の問題と対応 操作変数のモデル
10	操作変数法	誤った操作変数法を用いたら？ 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータ 差の差の推定量
12	パネルデータ分析	二期間パネルデータ 変量効果モデル
13	マッチング法	実験的手法の導入 傾向スコアマッチング
14	回帰不連続デザイン	「制度」の特徴を利用する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」 有斐閣

【参考書】

星野匡郎, 田中久稔 (2016) 「Rによる実証分析 ―回帰分析から因果分析へ―」 オーム社

中室牧子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」 ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」 光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている R を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this class, you are able to explain the theory of modern regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using R.

(Learning Objectives)

Modern regression analysis where the error term does not follow a normal distribution will be taught according to the text. Review of multiple regression models, robust standard error, instrumental variables regression, panel analysis, etc. will be covered.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CD（経済学 / Economics 200）
企業と経済・応用 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と経済基礎Aで均衡GDP（国民所得）の決定の説明（45°線分析）を学習した。その延長線上として、GDP（国民所得）と金利の水準を同時に決定する説明（IS-LM分析）さらに、GDP（国民所得）と物価水準を同時に決定する説明（総需要-総供給分析）を理解することが本講義の目的の一つである。これらの説明に基づき（応用問題として）、財政政策及び金融政策がGDP（国民所得）、金利および物価水準への効果を自分で予測できるようになることが第二の目的である。

【到達目標】

- ・IS-LM分析に基づくGDP（国民所得）および金利の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・総需要-総供給分析に基づくGDP（国民所得）および物価の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・財政政策及び金融政策が金利およびGDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（IS-LM分析の仕組みに基づき）
- ・財政政策及び金融政策が物価水準およびGDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（総需要-総供給分析の仕組みに基づき）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業により行う。秋学期中に、1回課題を出すので、1週間を目途に授業支援システムの「課題」にその解答をアップしてほしい。締め切り直後、授業内で正解の解説を行う。後半の5回分は、zoomによる授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学の理論に基づきGDP、金利、物価水準の動きを説明する理由
2	消費関数と貯蓄関数	消費関数の復習とその裏表の関係にある貯蓄関数の説明（限界貯蓄係数）
3	投資関数	投資関数の背後にある投資の水準の決定の考え方（機会費用）
4	IS曲線の導出－財市場の均衡－	貯蓄関数と投資関数を組み合わせ、財市場を均衡させる金利とGDP（国民所得）の組み合わせの導出
5	貨幣供給	中央銀行による貨幣供給の仕組み（マーシャルのkなど）
6	貨幣需要	IS-LM分析における貨幣需要の考え方および貨幣需要関数（取引的動機および投機的動機に基づく）
7	LM曲線の導出－貨幣市場の均衡－	貨幣市場を均衡させる金利とGDP（国民所得）の水準の導出
8	IS-LM分析に基づく均衡GDPおよび金利の水準の決定－財市場および貨幣市場の同時均衡－	IS-LM分析に基づく2つの市場を均衡させるGDP（国民所得）および金利の水準の導出
9	IS-LM分析に基づく財政政策・金融政策の効果	金融政策及び財政政策美変化が金利およびGDP（国民所得）の水準に与える効果の予測（IS-LM分析に基づき）
10	総需要曲線の導出	貨幣市場および財市場を同時に均衡させるGDP（国民所得）と物価水準の導出
11	生産関数および労働需要曲線	国全体の生産と生産要素需要の決定
12	労働市場を均衡させるGDP及び物価水準の関係－総供給曲線の導出－	総供給曲線の導出（労働市場を均衡させる物価水準とGDP（国民所得）の水準の導出
13	総需要-総供給分析に基づく物価水準とGDP（国民所得）の導出	財市場、貨幣市場および労働市場を同時に均衡させるGDP（国民所得）および物価水準の導出
14	総需要－総供給分析に基づく金融政策、財政政策の効果	金融政策および財政政策の変化がGDP（国民所得）および物価水準に与える効果の予測

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対面授業の回については、基本的に板書で説明を行う。その際は、授業を録画し、その録画ファイルのzoomでのリンクをお知らせする。オンラインの授業の回については、授業の説明に使った電子ノートのPDFファイルを授業支援システムにアップする。本授業は、主に図による説明により行う。そのため、複雑な図による説明や例題もあるので、録画ファイルまたはPDFファイルでの復習が2時間程度必要と思われる。

【テキスト（教科書）】

特に指示しない。参考書は、要望が多ければ、授業の際に紹介する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、基本的に、期末試験期間中の授業曜日、授業時限開始時に期末課題を授業支援システムの「課題」にアップします。解答作成し、「解答」を収めたファイルを、授業曜日、授業時限中に、「課題」にアップにより提出してもらいます。その課題解答の素点に関して85%、1回行う学期内での課題提出の状況（提出の有無）に関して15%のウェイトで評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義での板書は、ほぼ図解の説明によるため、図解の中で、書き込みの多いものについては、なるべく大きく示すよう心掛ける。

【Outline (in English)】

The objective to this course is to understand IS-LM model, and AD(Aggregate Demand)-AS(Aggregate Supply) model to determine the levels of interest rate, price level, and GDP in short run. Moreover, The effects of fiscal and monetary policy on GDP, price level and, interest rate could become to be determined, based on IS-LM model, and AD-AS model.

The learning objectives are for students to determine the levels of GDP, interest rate, and overall price, and predict the effects of fiscal/monetary policies on GDP, interest rate, and overall price level correctly, based on IS-LM model and, AS-AD model.

More than 2 hours are required to get the views of many graphical explanations, and follow the logic of these, after each classroom.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination: 90%, Mid-term report: 10%.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
現代ファイナンス入門 A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

株式会社について理解し、株式の理論価格を計算することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

春学期は、株式の理論価格を題材にして、リターンを中心に学びます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第3回	事業循環	材料仕入れ、製造、販売、決算
第4回	財務諸表・事業計画	損益計算書、貸借対照表、改善ポイント
第5回	財務諸表分析	有価証券報告書
第6回	収益性の分析	資本利益率
第7回	安定性の分析	株主資本比率
第8回	デュボン・システム	株価と財務比率
第9回	株価の分解	EPSとPER
第10回	配当利回り	株価とDPS
第11回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第12回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第13回	株主資本の増加と配当の成長	サステナブル成長率
第14回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介, 高橋文郎 (2001), 証券投資入門, 日本経済新聞社。
井手正介, 高橋文郎 (2005), 証券分析入門, 日本経済新聞社。
井出正介 (2008), 株式投資入門, 日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance.

It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
現代ファイナンス入門 B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

リターンとリスクについて理解し、両者を計算で求め、投資判断に用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

秋学期はリスクを扱います。リスク管理に必要な、リスク指標の計算方法や、リスク分散を学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第2回	インデックス運用	市場ポートフォリオ
第3回	アクティブ運用	成功の条件
第4回	複利	最初の数字の賭け、割引算距離
第5回	複利計算の頻度	半年複利、連続複利
第6回	確定利付証券	元本、クーポン
第7回	金利期間構造	期間構造仮説
第8回	リスク管理	金融工学の機能
第9回	分布	離散型と連続型
第10回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第11回	標準偏差と VaR	正規分布
第12回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第13回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第14回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
経済データ分析 A
明城 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスの一環として統計学・計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ。EXCELでの演習を通じて基本的なデータ処理の方法も学ぶ。

【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、PC上でEXCELを使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使ってExcelを用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いて宿題やレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excelと統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディア ン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の定量化 ・ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定(1)	・仮説検定と有意水準 ・1つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定(2)	・2つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較(1)	・分散分析 ・1元配置法
12	平均に関する群間比較(2)	・2元配置法 ・相互効果
13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワトソン統計量

- 14 重回帰分析
- ・重回帰分析
 - ・ダミー変数
 - ・その他の回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PCを使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準4時間）

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

計量経済学の参考書として以下をオススメします。

・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991

・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

宿題(30%)と課題レポート(70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室でPCを利用します。必要に応じてUSBメモリなどを準備して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Outline: This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in exercises using PC and statistical software (MS Excel).

Goal: To master basics of statistics and econometrics, and data-analysis skills using MS Excel.

Extracurricular exercise: weekly homework assignments need to be submitted through the online system (4 hours)

Grading: homework(30%) and final report(70%)

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
経済データ分析 B
明城 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスのスキルを身に着けるため、統計パッケージを利用したより高度な経済データの分析手法を学ぶ。

【到達目標】

この統計パッケージRを用いた演習を行います。Rの特徴はExcelよりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量経済学的手法を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学とRの操作方法について解説します。その後で実際に端末を利用して演習を行います。春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	Rの設定	・Rについて ・基本的な設定 ・基本コマンド ・統計量の計算
3	Rの操作とデータ管理(1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
4	Rの操作とデータ管理(2)	・基本統計量
5	Rの操作とデータ管理(3)	・行列の操作
6	Rの操作とデータ管理(4)	・行列演算
7	クロスセクションデータに対する線形回帰(1)	・クロスセクションデータ ・K変数線形回帰モデル ・一般化古典的仮定
8	クロスセクションデータに対する線形回帰(2)	・Rでの回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
9	クロスセクションデータに対する線形回帰(3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
10	演習(1)	・クロスセクションデータを用いた演習
11	パネルデータに対する線形回帰(1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	パネルデータに対する線形回帰(2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル ・Hausman検定
13	演習(2)	・パネルデータを用いた演習
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期の経済データ分析Aに加えて、統計学と計量経済学を復習しておいて下さい。

毎回の講義内容をしっかり復習して下さい（標準4時間）。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジメを配布します。

【参考書】

Rの操作やデータ分析については

・「Rによる統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店、2009

・「Rによる計量経済分析」福地純一郎、伊藤有希、朝倉書店、2011

計量経済学については

・山本拓「計量経済学」新世社、1995

・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991

・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

宿題(30%)と課題レポート(70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室でPCを使うので、必要に応じてUSBメモリ等を用意して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Oulline: Primary objective of this course is to master advanced econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.

Goal: To master advanced data-analysis skills for cross sectional and panel data using statistical software(R).

Extracurricular exercise: Review the contents covered in the class every week (4 hours).

Grading: homework assignment (30%), final report (70%)

ECN200CD（経済学 / Economics 200）
経済地理
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済地理学のアプローチについて立地論から概説する。産業ごとの立地の違いや現代経済における立地パターンなどを事例にあげて、立地の経済的論理を理解することを目的とする。

【到達目標】

産業立地の理論と実際を学ぶことによって、現代経済における多様な地理景観の形成を経済学のメカニズムから理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では経済立地や産業立地の基礎モデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	立地論の基礎	立地論の基礎概念と系譜
第3回	産業立地の基礎①	農業立地論の基礎と応用
第4回	産業立地の基礎②	工業立地論の基礎と応用
第5回	産業立地の基礎③	中心地理論の基礎と応用
第6回	都市と集積の立地論①	都市内部構造と都市システムの理論
第7回	都市と集積の立地論②	集積と空間経済の理論
第8回	立地論の応用①	現代工業の立地調整と組織的立地論
第9回	立地論の応用②	グローバリゼーションと立地
第10回	立地論の応用③	商業・流通と立地論
第11回	立地論の応用④	創造性と文化産業の立地
第12回	立地論と政策①	国土政策の歩み
第13回	立地論と政策②	都市地域政策の現状と問題点
第14回	まとめ・総括	立地論の課題と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
鈴木洋太郎（2009）『産業立地論』原書房
松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）となる。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を基本とするが、授業の進捗状況や履修者の学習状況をふまえ、一部の授業をオンライン形式で実施することがある。学期中は学習支援システムを用いて、授業内容のお知らせや課題の提示等を適宜行うので、授業のページを定期的に確認することを求める。

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture will provide an overview of the industrial location theory from the perspective of economic geography. The objective is to understand the economic logic of location, with examples of locational differences in industries and location patterns in the modern economy.

Learning Objectives:

By learning the theory and practice of industrial location, students will understand the formation of diverse geographic landscapes in the modern economy through the mechanisms of economics.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

ECN200CD（経済学 / Economics 200）
産業集積論
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、各産業の歴史と地理に焦点をあて、産業地域や産業集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、現代産業における地域経済への影響や集積の実態を概説する。

【到達目標】

現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の姿について集積論（地域論）の視点から多角的に論ずる。産業のみならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の中の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、上記の目的を達したい。授業は配布資料をもとに行い、課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第3回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第4回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第5回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第6回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第7回	織物からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第8回	工業から「ものづくり」へ	加工組立型製造業とものづくり基盤技術
第9回	自動車大国日本の行方①	製品アーキテクチャーと集積
第10回	自動車大国日本の行方②	日本的生産システムとグローバル戦略
第11回	電子立国興亡史①	日の丸家電・半導体の栄枯盛衰
第12回	電子立国興亡史②	産学連携とシリコンバレーモデル
第13回	知識経済化とグローバル・マーケティング時代	商品連鎖、クラスター、ネットワーク、イノベーション
第14回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣
伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社
橘川武郎ほか編（2014）『日本の産業と企業』有斐閣
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
松原 宏編（2018）『地域経済論入門（改訂版）』古今書院

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、各回的小テスト等の課題（40%）となる。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を基本とするが、授業の進捗状況や履修者の学習状況をふまえ、一部の授業をオンライン形式で実施することがある。学期中は学習支援システムを用いて、授業内容のお知らせや課題の提示等を適宜行うので、授業のページを定期的に確認することを求める。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

This lecture focuses on the history and geography of industry, and outlines the impact of the modern industry on regional economies, with the aim of cultivating concrete and practical thinking skills about the mechanisms of the rise and fall of industrial regions and industrial agglomerations.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

MAN200CA（経営学 / Management 200）
コーポレートガバナンス論A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、SDGsをテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論Aのテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使と企業のガバナンスの関連を理解する。

【到達目標】

株式会社は株主によって所有され、株主は株主総会で議決権行使することで経営の重要事項に自らの意見を反映させる。最近、海外ファンドなどの大株主が反対を表明したため、東芝が提案した会社の2分割計画が臨時株主総会で株主の反対多数で否決されたケースは、コーポレートガバナンスの一例である。コーポレート・ガバナンス論Aの学習目標は、株主総会と議決権行使との関連で、機関投資家などの大株主の議決権行使の個別開示などのスチュワードシップ・コード制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解することである。

学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。インターネットやオンラインデータベースなどを通じて、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてデータ資料を収集し、グループで議論し、課題解決型学習を行う、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	長期的に利益を生み出すためにコーポレート・ガバナンスは重要	コーポレート・ガバナンスの基礎概念と用語を解説する
第2回	所有と経営の分離	コーポレート・ガバナンスの原点
第3回	株主の権限	ビジュアル資料を用いてわかりやすく説明する
第4回	株主総会	ビジュアル教材を使って解説する
第5回	議決権行使	法律と実務を交えながら解説する
第6回	日本版スチュワードシップ・コード	英国との比較で日本の制度の変遷を説明する
第7回	機関投資家の議決権行使の個別開示	公表されたデータに基づいて機関投資家の議決権行使の実態を把握する

第8回	取締役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第9回	監査役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第10回	敵対的買収対策	事例を交えながら説明する
第11回	敵対的買収防衛策導入議案	なぜ海外機関投資家が反対票を投じるかを理解する
第12回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第13回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する
第14回	課題	今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、各自に収集した資料やデータに基づいて課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間課題レポート(50%)と学期レポート(50%)。なお、中間課題合格評価は成績評価に必須。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析
『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn voting rights, the general shareholders' meeting, the roles of the Japan Stewardship Code, and the market for control. The goals of this course are to understand how corporate governance systems mitigate the conflicts between shareholders and management. Before/after each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about four hours for each class meeting. Midterm assignment (50%) and term report (50%) are both required for grading. Please note that passing the midterm assignment is essential for grade evaluation.

MAN200CA (経営学 / Management 200)
コーポレートガバナンス論B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、SDGsをテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論Bのテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】

世間で上場企業の社長は偉いと思われているが、実際には社長などのトップ経営者は、株主総会の議決で選任される。社長やCEOは、会社法上の代表取締役や代表執行役である。株主の最も重要な権限は、取締役を選任することである。2021年6月25日、東芝の定時株主総会で計11人の取締役選任案のうち、取締役会議長ら2人の再任が反対多数で否決されたケースは、コーポレート・ガバナンスの一例である。また、経営者全体の報酬も株主総会の議決で決議されることが多い。この授業の学習目標は、取締役選任や取締役報酬との関連で、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、日本版コーポレート・ガバナンス・コード及びESGなどを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第2回	取締役会	規模、構成と独立性
第3回	監査役	監査役は目付役
第4回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第5回	指名委員会等設置会社	監督と執行の分離、独立社外取締役：米国の影響
第6回	取締役会の規模と執行役員制度	スマート＝効率？
第7回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第8回	監査等委員である取締役	監査等委員である取締役とその他の取締役の相違
第9回	代表取締役の選任と解任	誰が社長のくびをとるのか：監査役と取締役の違い
第10回	取締役の多様性	女性取締役と女性の活躍推進

第11回	業績連動報酬	ストックオプション、譲渡制限株式などの株価などの企業経営業績と連動する役員報酬
第12回	1億円以上役員報酬の開示	1億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第13回	日本版コーポレート・ガバナンス・コード	コンプライ・オア・エクスプレイン
第14回	学期課題	今までの勉強の理解を確かめるために、収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年
参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間課題レポート(50%)と学期課題レポート(50%)の合格評価はいずれも必須。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々
『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory B is to learn the board of directors and the roles of the Japan Corporate Governance Code. The goals of this course are to understand how the board of directors works to mitigate the conflicts between shareholders and management. Before each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about four hours for each class meeting. Passing midterm assignment (50%) and term report (50%) are both required for grading.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
リスク・マネジメント A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、リスク管理の考え方と手法を身につけ、実際に活用できることを目標とします。

【到達目標】

リスク測度について理解し、値を計算で求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

家計でもビジネスでも、リスクを全く取らなければリターンも低いままです。一方、過剰なリスクは破綻につながります。リスク管理は、負担可能なリスクの限度を見極めて、要求される利回りを実現することに役立ちます。

現代ファイナンス入門の講義で、現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に、講義します。

春学期は、現在価値、リスクを中心に扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンスとは何か	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	将来価値	複利計算の頻度と実効金利
第3回	現在価値	単利の発想と複利の発想
第4回	採択ルール	正味現在価値
第5回	アヌイティ	複数回のキャッシュフロー
第6回	資産価値評価	一物一価の法則と裁定
第7回	三角裁定	為替とクロスレート
第8回	リスク	リスク回避とリスク測度
第9回	リスク管理	リスク管理の基本テクニック
第10回	リスク移転	ヘッジと保険と分散
第11回	動機付け問題	モラル・ハザードと逆選択
第12回	確率分布	正規分布
第13回	リスク測度	期待収益率とボラティリティ
第14回	まとめ	ファイナンスの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

ボディ、マートン、クリートン（2011）、『現代ファイナンス論 原著第2版 意思決定のための理論と実践』、ピアソン桐原。
ルーエンバーガー（2015）、『金融工学入門第2版』、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
リスク・マネジメント B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、リスク管理の考え方と手法を身につけ、実際に活用できることを目標とします。

【到達目標】

金融派生商品について理解し、理論価格を計算で求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

家計でもビジネスでも、リスクを全く取らなければリターンも低いままです。一方、過剰なリスクは破綻につながります。リスク管理は、負担可能なリスクの限度を見極めて、要求される利回りを実現することに役立ちます。

現代ファイナンス入門の講義で、現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に、講義します。

秋学期は、ポートフォリオ理論、金融派生商品を扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ポートフォリオ選択	原則と戦略
第2回	前提条件	ホライズンとリスク許容度
第3回	トレードオフ	危険資産と無リスク資産
第4回	目標期待リターンの達成	ポートフォリオの効率性
第5回	リスク分散	二つの危険資産
第6回	ポートフォリオのリスク	最小分散ポートフォリオ
第7回	先渡し契約、先物契約	先渡し価格、債務不履行の防止
第8回	パリティ	裁定取引と先渡しの理論価格
第9回	金融先物	複製とインプライド配当
第10回	オプション	条件付き請求権
第11回	ペイオフ	本源的価値と時間的価値
第12回	オプション・プレミアム	株価モデル
第13回	動的複製戦略	ブラック・ショールズ式
第14回	まとめ	金融派生商品の利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

ボディ、マートン、クリートン（2011）、『現代ファイナンス論 原著第2版 意思決定のための理論と実践』、ピアソン桐原。
ルーエンバーガー（2015）、『金融工学入門第2版』、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
企業経営史 A
飯塚 陽介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、ビジネスの時代・地域における多様性を学ぶことで、ビジネスのあり方の多様性について、広い視野から比較・考察する力を身につけることにあります。Aでは、日米欧における「現代企業」の出現にいたる時期までを対象とします。

【到達目標】

- (1) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (2) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (3) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面式の回とオンライン実施の回があります（オンライン回を最大3回程度追加する可能性があります）。毎回の確認小テストと任意の企業・産業の歴史についての研究計画書と期末レポート（オンラインにて評価）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経営史学とは何か？	経営史学の歴史とその問題意識
2	「規模の経済」の発見と企業者活動	産業革命期の企業者活動
3	市場経済の中の企業	産業革命期の企業活動
4	在来産業における革新	産業革命期の在来産業における革新
5	産業革命と金融ビジネス	産業革命を支える金融ビジネス
6	大量生産体制への途	製造業における互換性生産
7	見えざる手から見える手へ	アメリカにおける大企業の出現
8	経営階層組織と専門経営者の出現	鉄道業における経営階層組織
9	経営者企業の成立	米国大企業の国際化・多角化
10	ヨーロッパにおける現代企業の登場	ヨーロッパにおける大企業の出現
11	ヨーロッパ大企業の組織と経営者	ヨーロッパ大企業の組織
12	日本における大企業の形成	後発性ゆえの大規模性
13	両大戦間期日本のビジネス	産業構造の変化、財閥のコンツェルン化など
14	前期の振り返り	13回目講義までに終えられなかった内容、前期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 学期末の期末レポートに向けての調査・研究（20時間）
- (2) 毎回の確認小テスト（各回2時間）。
- (3) 授業内で紹介した関連文献からの学習（8時間）

【テキスト（教科書）】

関連文献は毎回の講義にて紹介します。

【参考書】

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業後の確認小テスト（30％）（到達目標（1）・（2）と関連します）
- (2) 期末テスト及び研究計画書（70％）（到達目標（2）・（3）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】

特に意見などはなかった。問題なく運営できている。

【その他の重要事項】

企業経営に関する基礎的な知識があることが望ましい。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about business history in Japan, the United States, and Europe. The learning objectives of this lecture is to acquire basic knowledge of business history of these regions, and to acquire the ability to research the history of individual companies. Students will be required to review the course content and answer the quiz after each class meeting. This will take 2 hours for a class. In addition, students will be expected to conduct their own research on the history of individual companies or industries outside of class hours. This will take 20 hours. Grades will be based on quizzes (30%) and reports on the history of individual companies or industries (70%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
企業経営史 B
飯塚 陽介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、ビジネスの時代・地域における多様性を学ぶことで、ビジネスのあり方の多様性について、広い視野から比較・考察する力を身につけることにあります。Bでは、日米欧における大企業体制の形成以降の時期を対象とします。

【到達目標】

- (1) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (2) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (3) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面式の回とオンライン実施の回があります（オンライン回を最大7回程度追加する可能性があります）。毎回の確認小テストと任意の企業・産業の歴史についての研究計画書と期末レポート（オンラインにて評価）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	前期の振り返り	レポートの総括と前期の振り返り
2	アメリカの大企業体制	大企業体制の成立と「豊かな社会」の出現。
3	「豊かな社会」が生み出したもの	「豊かな社会」を背景としたビジネスシステム。
4	政府の関与が生み出したもの	政府の関与による新しい産業の出現。
5	ヨーロッパの大企業	戦後ヨーロッパにおける大企業の出現と「アメリカ化」の限界。
6	戦後改革とその影響	戦後改革の戦後企業システムへの影響。
7	日本のビジネス・システム	企業集団やメインバンク・システムについてのその形成と機能。
8	日本型雇用制度の生成	日本型雇用制度の「三種の神器」の生成。
9	消費の大衆化と企業の対応	大衆消費社会の形成と企業行動。
10	モノ離れの時代と企業行動	サービス業における企業行動。
11	戦後日本の政府・民間関係	戦後日本における産業政策。
12	戦後日本の大企業体制	日本企業の戦略・組織における特色と問題点。
13	大企業体制下の産業集積	大企業体制下の産業集積と金融センターの興亡
14	ポスト大企業体制の時代	経営者企業への進化は必然なのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 学期末の期末レポートに向けての調査・研究（20時間）
- (2) 毎回の確認小テスト（各回2時間）。
- (3) 授業内で紹介した関連文献からの学習（8時間）

【テキスト（教科書）】

関連文献は毎回の講義にて紹介します。

【参考書】

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業後の確認小テスト（30％）（到達目標（1）・（2）と関連します）
- (2) 期末テスト及び研究計画書（70％）（到達目標（2）・（3）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】

特に意見などはなかった。問題なく運営できている。

【その他の重要事項】

春学期の「企業経営史A」も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about business history in Japan, the United States, and Europe. The learning objectives of this lecture is to acquire basic knowledge of business history of these regions, and to acquire the ability to research the history of individual companies. Students will be required to review the course content and answer the quiz after each class meeting. This will take 2 hours for a class. In addition, students will be expected to conduct their own research on the history of individual companies or industries outside of class hours. This will take 20 hours. Grades will be based on quizzes (30%) and reports on the history of individual companies or industries (70%).

MAN300CA (経営学 / Management 300)
企業経営論 A
内田 彬浩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では企業経営を体系的に理解するために、経営学の各分野における基本的な考え方について学ぶ。またその経営学の基本的な考え方に沿って自らのビジネスアイデアを具体化してプレゼンテーションし、クラス全体で議論することを通じて、それらの考え方を実践的に活用できるようになることを目指す。

【到達目標】

- (1) 経営学の各分野における基本的な考え方を理解する
- (2) 経営学の各分野における基本的な考え方を実際の事例と結び付けて議論できるようになる
- (3) 議論・検討した内容を整理して効果的にプレゼンテーションできるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

以下の講義・演習・発表・討議のサイクルにより授業を進める。

- (1) 講義：経営学の基本的な考え方について解説する
- (2) 演習：グループに分かれてビジネスアイデアを立案し、経営学の基本的な考え方に沿って具体化するための検討を行う
- (3) 発表：各グループで検討した結果をプレゼンテーションする
- (4) 討議：各グループの発表内容についてクラス全体で質疑・議論する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要および進め方について説明する。また提示された課題に取り組む。
2	ビジネスモデル	前回の講義を踏まえて設定されたグループで課題に取り組む。
3	企業論・経営戦略論 1（講義・演習）	会社はどのようにして社会に役立ち、どのような方針で動いているのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
4	企業論・経営戦略論 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
5	企業形態論・経営組織論 1（講義・演習）	会社は誰がどんな仕組みで動かしているのか、他の会社とどのように協力しているのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
6	企業形態論・経営組織論 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
7	競争戦略論・マーケティング論 1（講義・演習）	会社はどのようにして商品を提供するのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
8	競争戦略論・マーケティング論 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。

9	国際経営論・会計制度 1（講義・演習）	会社は海外でどのように経営しているのか、会社の利益はどのように測定するのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
10	国際経営論・会計制度 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
11	人的資源管理論・生産管理論 1（講義・演習）	会社で働く社員と生産管理について学ぶ。また提示された課題に取り組む。
12	人的資源管理論・生産管理論 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
13	講義のまとめ・最終プレゼンテーション 準備	これまでの講義内容について整理し、最終プレゼンテーションにむけた準備を行う。
14	最終プレゼンテーション	講義全体を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「経験から学ぶ経営学入門（第3版）」2024年、有斐閣ブックス

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

各回の発表内容：60%

クラス全体での議論への貢献：40%

【学生の意見等からの気づき】

理解の促進のため、企業事例の紹介等をより重視する。

【学生が準備すべき機器他】

調査や発表の準備・実施に必要となるため、PCを準備すること。

【その他の重要事項】

履修にあたっては、本講義では筆記試験を行わず、グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッションが授業および成績評価の主な要素となることに留意してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this class, learn basic concepts of business administration to understand business management systematically. The goal is to enable students to put these concepts into practice by presenting and discussing business ideas aligned with basic concepts of business in class.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Understand the basic concepts of business administration
- (2) To be able to discuss practical cases in accordance with the basic concepts of business administration
- (3) To be able to organize and effectively present what has been discussed

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
The standard time to prepare and review for this class is four hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Presentations at each class: 60%

Contribution to the class discussion: 40%

MAN300CA (経営学 / Management 300)
企業経営論 B
内田 彬浩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では企業経営についてより深く理解するために、企業経営における重要な論点であるイノベーションに関する基本的な考え方について学ぶ。またそのイノベーションに関する基本的な考え方を踏まえて実際の企業について調査してプレゼンテーションし、クラス全体で議論することを通じて、それらの考え方を実践的に活用できるようにすることを目指す。

【到達目標】

- (1) イノベーションに関する基本的な考え方を理解する
- (2) イノベーションに関する基本的な考え方を実際の事例と結び付けて議論できるようになる
- (3) 議論・検討した内容を整理して効果的にプレゼンテーションできるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

以下の講義・演習・発表・討議のサイクルにより授業を進める。

- (1) 講義：イノベーションに関する基本的な考え方について解説する
- (2) 演習：グループに分かれてイノベーションの事例を調査し、イノベーションに関する基本的な考え方に沿って検討・整理する
- (3) 発表：各グループで検討した結果をプレゼンテーションする
- (4) 討議：各グループの発表内容についてクラス全体で質疑・議論する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要および進め方について説明する。また提示された課題に取り組む。
2	イノベーション事例の調査	前回の講義を踏まえて設定されたグループで課題に取り組む。
3	イノベーションの歴史・イノベーションと企業の栄枯盛衰1（講義・演習）	イノベーションの全体像について学ぶ。特にその歴史と企業の栄枯盛衰に焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
4	イノベーションの歴史・イノベーションと企業の栄枯盛衰2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
5	産業とイノベーション・イノベーションの測定1（講義・演習）	イノベーションの全体像について学ぶ。特にその産業との関係と測定方法に焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
6	産業とイノベーション・イノベーションの測定2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
7	アントレプレナーシップ・資源動員と知識創造・新製品開発1（講義・演習）	イノベーションの創出プロセスについて学ぶ。特にアントレプレナーシップ、資源動員と知識創造、新製品開発マネジメントに焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。

8	アントレプレナーシップ・資源動員と知識創造・新製品開発2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
9	イノベーションと企業戦略・イノベーションと企業間システム1（講義・演習）	イノベーションの創出プロセスについて学ぶ。特に企業戦略および企業間システムとの関係に焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
10	イノベーションと企業戦略・イノベーションと企業間システム2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
11	イノベーション創出のための知的財産権の制度とマネジメント1（講義・演習）	イノベーションと経済政策の関係について学ぶ。特に知的財産権の制度とマネジメントに焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
12	イノベーション創出のための知的財産権の制度とマネジメント2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
13	講義のまとめ・最終プレゼンテーション準備	これまでの講義内容について整理し、最終プレゼンテーションにむけた準備を行う。
14	最終プレゼンテーション	講義全体を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「マネジメント・テキスト イノベーション・マネジメント入門（新装版）」2022年、日本経済新聞出版

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

各回の発表内容：60%

クラス全体での議論への貢献：40%

【学生の意見等からの気づき】

理解の促進のため、企業事例の紹介等をより重視する。

【学生が準備すべき機器他】

調査や発表の準備・実施に必要となるため、PCを準備すること。

【その他の重要事項】

履修にあたっては、本講義では筆記試験を行わず、グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッションが授業および成績評価の主要要素となることに留意してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this class, learn basic concepts of innovation, an important topic in business management, to better understand business management. The goal is to enable students to put these concepts into practice by researching, presenting, and discussing real companies based on the basic concepts of innovation in class.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Understand the basic concepts of innovation
- (2) To be able to discuss practical cases in accordance with the basic concepts of innovation
- (3) To be able to organize and effectively present what has been discussed

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

The standard time to prepare and review for this class is four hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Presentations at each class: 60%

Contribution to the class discussion: 40%

CAR200CA（キャリア教育 / Career education 200）
企業実務研究 A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のさまざまな地域の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらふ。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ8人の商社マン等を予定している。各講師がそれぞれのビジネス体験に基づいてビジネスの現場の話を交えながら講義していく。

講師の話をもとに自らのキャリアプランを描けるようになることが目的である。

本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。

そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

【到達目標】

本講義では、実務現場での実践に関する臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外を含む文化・社会的多様性を伴う環境の下でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようになり、受講者がそれぞれの卒業後の実社会での自己の将来像を具体化してその実現に向けて主体的に取り組むべき目標や課題を自覚するための手がかりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として教室での対面講義形式で開講する。

第1回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。学習支援システムで教材としてガイダンス資料を配布する。この講義の履修を検討する学生は、講義に出席してガイダンス資料をよく読んだ上で、履修するかどうかを検討されたい。

第2回以降の講義は、原則として教室での対面講義形式で実施する予定である。教室での講義では、講師と受講生によるクロストークの時間を設け、リアルタイムで教員がフィードバックを行うので、積極的に発言することが求められる。

実務研究という科目の性格上、ビジネスの現場を意識して能動的・積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、ディスカッションやグループワーク等では設定された状況を認識して達成すべき課題をよく理解するよう努め、教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められる。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、教室またはオンラインのリアルタイム形式の講義の回には毎回の授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には授業内掲示板を通じて行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	企業実務研究A・Bの概要とサマーインターンシップ実習について
第2回	ブラジルのビジネス事情	ブラジルの物流ビジネス事情

第3回	インドのビジネス事情	インドの経済社会とビジネス事業
第4回	ヨーロッパのビジネス事情	欧州通貨統合と金融市場
第5回	アメリカのビジネス事情	アメリカ航空宇宙産業のビジネス事情
第6回	中東のビジネス事情	中東ビジネスの特異性
第7回	ロシアのビジネス事情	ロシアの経済とビジネス事情
第8回	中国のビジネス事情	中国の経済発展とビジネス事情

第9回	アセアンのビジネス事情	アセアンにおける事業投資
第10回	その他のビジネス事情	中央省庁の仕事（例）
第11回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第12回	キャリア形成に関する外部講師による指導（1）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第13回	キャリア形成に関する外部講師による指導（2）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第14回	キャリア形成に関する外部講師による指導（3）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師が用意した資料を「学習支援システム」上でアップロードするので、学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各講師が用意するレジュメ

【参考書】

各講師のレジュメが講義の中心になるので、特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（80%）ほか、教室授業では、授業内評価（20%）を加味する。教室授業における授業内評価では、講義への参加姿勢の積極性を評価する。

教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められ、私語するなど授業態度の悪い学生は不可となる。

※企業実務研究A、Bは必ず同年度に登録すること。2単位だけの登録は認められない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究B」を履修できる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第1回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。

多数の外部講師を招いての講義となる。講師の方々へ敬意を持って受講すること。

【Outline (in English)】

This course provides students with the knowledge and skills to understand the global business environment within which Japanese multinational firms operate. It also enhances the development of students' skill in reflecting this understanding in their future career.

The purpose of this course is to be able to draw up one's own career plan based on the lecturer's talks.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

CAR200CA（キャリア教育 / Career education 200）
企業実務研究 B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間中に企業（官公庁、NPO等を含む）でインターンシップ実習に参加し、通常の講義だけでは得られない就業体験を通じて現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。

インターンシップの経験や実習報告会での議論を通じて、企業や団体で働くときに求められる仕事への取り組み姿勢やコミュニケーション方法、ビジネスマナーなどの、将来の進路選択を主体的に行うために役に立つ実践的な知識への理解を深めることができる。

講義を通じて自らのキャリアデザインを行えるようになることが目的である。

【到達目標】

インターンシップの経験をより具体的にわかりやすくプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討論することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は実習形式で行われ、原則として、本年度の経済学部のサマーインターンシップに参加した者しか単位を修得できないので、履修を検討する際には注意されたい。

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定である。講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性がある。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を随時通知する。

第1回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムで本科目に仮登録して、学習支援システム上で通知される講義に関するお知らせを講義前に確認し、第1回講義に出席した上で、履修するかどうかを検討されたい。第1回講義では、履修予定者の希望をきいて各履修者の実習報告の日程などを調整するので、履修者は第1回講義に必ず出席すること。

第2回以降の講義では、サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討論する。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、毎回の授業の中で行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要説明・実習報告スケジュールの説明と調整
第2回	実習報告会の説明と準備	実習報告会の説明と準備および実習報告スケジュールの最終確認
第3回	受講者による報告、討論①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①
第4回	受講者による報告、討論②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②

第5回	受講者による報告、討論③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③
第6回	受講者による報告、討論④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第7回	受講者による報告、討論⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第8回	受講者による報告、討論⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第9回	受講者による報告、討論⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第10回	受講者による報告、討論⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第11回	受講者による報告、討論⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第12回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第13回	グループ・ディスカッションの説明と準備	仕事に関するグループ・ディスカッションの説明と準備
第14回	グループ・ディスカッションと講義の総括	サマーインターンシップを踏まえた仕事に関するグループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- ①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
- ②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000字、A4）（25%）
- ③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
- ④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない）（25%）

派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。

サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可となる。

※企業実務研究A、Bは必ず同年度に履修登録すること。2単位だけの登録は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1回目の講義に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This course provides students with the summer internship opportunities to gain knowledge and skills from work experiences not available in the classroom setting. It also enhances the development of students' skill in planning and delivering effective presentation on career design development. The purpose of this course is to enable students to design their own careers through lectures.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on workplace competencies evaluated by work-site supervisors (25%), internship report (25%), presentation (25%), and in-class contribution (25%).

MAN300CA (経営学 / Management 300)
国際会計制度A
田中 優希
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。

会計情報は企業を知るうえで最も有用な情報の1つであり、それゆえに「事業の言語」と呼ばれる。企業が国境を越えて活動する昨今、会計制度も国家の枠を越えて変容を遂げている。

まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。

英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

【到達目標】

国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

Students learn about differences between international accounting systems, understand the impact of such differences on the preparation of accounting information, and aim to be able to analyze domestic and foreign companies based on the differences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義前半は財務諸表の基礎について解説する。こうした解説は講義の後半でも適宜実施する。講義後半では、基準間の差異に留意しながら、国内外企業の財務分析を行う。分析対象企業は自身で選び、関心の近い者同士でグループを組む（1人でも可）。

講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的と計画説明。受講生の関心の確認。
第2回	会計のフレームワーク	会計制度の論理と体系、企業会計の機能など。
第3回	損益計算書	損益計算書の構造と役割を確認。
第4回	貸借対照表（資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
第5回	貸借対照表（負債・純資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
第6回	財務分析の概要	会計情報を用いた分析手法（ファンダメンタル分析）の概要。
第7回	実践・財務分析①	自身が選んだ企業について財務分析を行う
第8回	実践・財務分析②	フィードバックをもとに分析を改善する（中間レポート）
第9回	IFRSの基礎概念①	原則主義、経済的実質優先主義。
第10回	IFRSの基礎概念②	資産負債観、公正価値、親会社概念とエンティティ概念。

第11回	収益認識基準	収益、工事契約、外貨為替レート変動の影響。
第12回	包括利益の表示	その他包括利益計算書項目。
第13回	実践・財務分析③	9～12回を踏まえて、財務分析を改善する
第14回	授業のまとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。事前の予習・復習時間は、毎週各2時間を標準とする。

Students are encouraged to take an interest in economic news on a daily basis and subscribe to various media such as Japan Keizai Shimbun, Nikkei Business, The Economist, and Toyo Keizai.

The standard preparation and review time required is 2 hours each week.

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】

『新・現代会計入門 第2版』伊藤邦雄 日本経済新聞出版社 2016年
『IFRS国際会計基準の基礎 第4版』平松一夫 中央経済社 2015年
『エッセンシャルIFRS（第5版）』秋葉賢一 中央経済社 2016年
『国際会計論』森川八洲男 白桃書房 2015年ほか

【成績評価の方法と基準】

講義に対する貢献度・平常点（20%）

中間レポート（30%）

期末テスト（50%）

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution and usual performance score:20%

Short reports :30%

Term-end examination:50%

【学生の意見等からの気づき】

講義の冒頭に前回の復習を実施するため、理解の助けとして欲しい。

【その他の重要事項】

国際会計制度Bと合わせて受講すること。

【Outline (in English)】

This course deals with the comparison of accounting standards of each country and the financial analysis of foreign and Japanese companies.

In particular

① Differences between accounting systems

② Understand the impact of ① on accounting information.

③ Corporate financial analysis

MAN300CA (経営学 / Management 300)
国際会計制度B
田中 優希
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際会計制度Aに引き続き、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。
まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。
英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

【到達目標】

国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

Students learn about differences between international accounting systems, understand the impact of such differences on the preparation of accounting information, and aim to be able to analyze domestic and foreign companies based on the differences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の内容を踏まえ、国際会計制度が会計数値の作成に与える影響と、それらを踏まえた分析手法を学ぶ。国際会計制度Aと合わせた履修を強く推奨する。

有形固定資産、金融商品、引当金、リース会計、退職給付会計、株式報酬取引、外貨換算会計、企業結合、連結会計、セグメント情報、農業会計などを取り上げる。

春学期同様、国内外の企業の分析も行う。

講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的、受講生の関心の確認。
第2回	引当金会計	引当金の認識・測定、偶発債権・偶発債務の認識・測定、環境修復引当金と資産除去債務。
第3回	リース会計	オペレーティング・リース、ファイナンス・リースの認識と測定、航空会社の分析例。
第4回	従業員給付に関する会計	退職給付会計、株式報酬取引。
第5回	外貨換算会計	外貨建取引の会計処理、外貨表示財務諸表の換算方法。
第6回	無形資産の会計	のれんの会計処理、研究開発費の会計処理。
第7回	連結会計	持分法、共同契約、他の事業体に対する持分の表示。
第8回	セグメント情報、継続事業と非継続事業の表示	セグメント情報の開示基準、売却目的で保有する固定資産および廃止事業の開示。
第9回	IFRS財務諸表分析のポイント	営業利益と当期純利益の数値変化

第9回	IFRS財務諸表分析（1）	自身が選んだ企業について財務分析。グループワーク。
第10回	IFRS財務諸表分析（2）	第9回の続き
第11回	IFRS財務諸表分析（3）	第10回の続き
第12回	IFRS財務諸表分析（4）	第11回の続き（プレゼン資料提出）
第13回	各国の会計制度（1）	欧州圏の会計制度 期末レポート課題提示
第14回	各国の会計制度（2）	アジア圏の会計制度 最新トピック紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。事前の予習・復習時間は、毎週各2時間を標準とする。

Students are encouraged to take an interest in economic news on a daily basis and subscribe to various media such as Japan Keizai Shimbun, Nikkei Business, The Economist, and Toyo Keizai.

The standard preparation and review time required is 2 hours each week.

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】

国際会計制度Aを参照

【成績評価の方法と基準】

講義に対する貢献度・平常点（20%）

中間レポート（30%）

期末テスト（50%）

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution and usual performance score:20%

Short reports :30%

Term-end examination:50%

【学生の意見等からの気づき】

講義の冒頭に前回の復習を行う。

【その他の重要事項】

国際会計制度Aと合わせて受講すること。

【Outline (in English)】

Continuing from the International Accounting System A course, this course deals with comparison of accounting standards of each country and financial analysis of foreign companies and Japanese companies.

This course deals with the comparison of accounting standards of each country and the financial analysis of foreign and Japanese companies.

In particular

① Differences between accounting systems

② Understand the impact of ① on accounting information.

③ Corporate financial analysis

【Learning Objectives】 To understand the differences in accounting systems in each country and to be able to analyze companies around the world

【Learning activities outside of classroom】 We will assign assignments for about 1 hour each time. Approximately 2 hours of study time is required for preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】 Students will be evaluated in their end-of-semester reports.

ECN300CD（経済学 / Economics 300）
金融ビジネス論 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能していて、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定です。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中であらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	金融知識とその活用	金融リテラシーについて
第3回	金融取引と不確実性①	金融におけるリスクの概念について

第4回	金融取引と不確実性②	リスクの測定手法について
第5回	金融取引と不確実性③	リスクとして把握できない不確実性について
第6回	金融取引と不確実性④	不確実性下での意思決定方法について
第7回	企業の投資と資金調達①	新古典派投資理論と企業の設備資金需要について
第8回	企業の投資と資金調達②	企業の有限責任とリスクについて
第9回	企業の投資と資金調達③	日本の企業グループと株式持ち合いについて
第10回	金融技術革新と金融サービスの新潮流①	ブロックチェーンを使った決済について
第11回	金融技術革新と金融サービスの新潮流②	フィンテックとプラットフォーム事業者について
第12回	金融技術革新と金融サービスの新潮流③	中小企業金融とクラウドファンディングについて
第13回	過剰債務問題①	過剰債務問題とその対応策について
第14回	過剰債務問題②	追い貸し問題とその対応策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内容の理解度を確認する学期末試験によって主に成績を評価します（85％）。

出席状況調査を兼ねたアンケートを実施するなどの方法により、講義への参加度を平常点として加算します（15％）。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings in financial markets; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomena in financial markets, from the standpoint of economics.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (90%) and in-class contribution (10%).

ECN300CD（経済学 / Economics 300）
金融ビジネス論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定です。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中であらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の一般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定理論の基本的枠組みの説明

第3回	資産価格と金融危機②	資産価格の合理的バブルについて
第4回	資産価格と金融危機③	資産価格の急落とそのメカニズムについて
第5回	資産価格と金融危機④	金融危機の発生要因と経済的影響について
第6回	資産価格と金融危機⑤	金融危機の波及メカニズムについて
第7回	金融市場と投資家行動①	期待効用理論について
第8回	金融市場と投資家行動②	投資家心理について
第9回	金融市場と投資家行動③	記述的意思決定理論について
第10回	金融市場と投資家行動④	プロスペクト理論について
第11回	資産価値評価①	基本的な資産価値の評価手法について
第12回	資産価値評価②	さまざまな資産価値の評価手法について
第13回	金融と人的資本投資	人的資本投資と人材育成の経済的機能について
第14回	資産価値評価③	代替的な資産価値の評価手法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内容の理解度を確認する学期末試験によって主に成績を評価します（85%）。出席状況調査を兼ねたアンケートを実施する方法により、講義への参加度を平常点として加算します（15%）。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings in financial markets; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomena in financial markets, from the standpoint of economics.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (90%) and in-class contribution (10%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
開発経済論 A
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

途上国貧困家計の栄養、健康、教育、出産という人的資本への投資選択を学びます。

さらに、その選択を理解するのに有用な時間非整合性などの理論モデル、ランダム化比較試験、差の差の分析などの実証分析手法を並行して学びます。

【到達目標】

なぜ、我が国を含む先進国では少子化が問題になっているのに、サブサハラアフリカの国々では急激な人口増加が問題になっているのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2024年度の受講者数に基づいて、教室を割り当てられている、対面授業の科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出します。担当教員が採点し、Google Classroom を通して返却します。

授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	貧困の罍	資産動学、S字曲線
第2回	栄養1、ランダム化比較試験1	カロリー不足による貧困の罍、相関と因果、確率
第3回	栄養2、ランダム化比較試験2	栄養への投資、ルービンの因果モデル、平均トリートメント効果
第4回	健康1、ランダム化比較試験3	マラリアによる貧困の罍、病気予防への投資、セレクション・バイアス
第5回	栄養2、回帰分析2	治療の質、価格
第6回	回帰分析1	最小2乗法、一貫性、外生性、内生性
第7回	復習および中間試験	第1回から第6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	教育1、回帰分析2	就学決定モデル、回帰分析とランダム化比較試験
第9回	教育2、回帰分析3	就学条件付き補助金、重回帰、欠落変数
第10回	教育3、回帰分析4	教育の再設計、変数選択
第11回	時間非整合性	指数割引モデル、準双曲割引モデル、コミットメント、あと押し
第12回	出産、差の差の分析1	金融資産としての子供、パネルデータ、並行トレンドの仮定

第13回 固定効果、差の差の分析2 差の差の分析と回帰分析

第14回 復習および期末試験 第8回から13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

池田新介(2012)「第3章 不本意な選択のメカニズム」『自滅する選択』東洋経済新報社

大垣昌夫、田中沙織(2018)「第6章 時間を通じた行動」『行動経済学新版』有斐閣

ディーン・カーラン、ジェイコブ・アベル(2013)『善意で貧困はなくなるのか？ 貧乏人の行動経済学』みすず書房

高野久紀(2014,2015)「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014年6/7月号-2015年8/9号

アビジット・バナジー、エステル・デュフロ(2012)『貧乏人の経済学』みすず書房

森田果(2014)「第18章 DD」『実証分析入門』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

- Course outline

We will study human capital investment decision such as nutrition, health, schooling, birth decision for households in developing countries. We will also study theoretical models of time inconsistency and empirical methods such as randomized controlled trial, difference in difference method, which are useful for studying the decision.

- Learning Objectives

Why does rapid population growth have been a problem in countries in Sub-Saharan Africa while low birth rate has been a problem in developed countries including Japan? The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

- Learning activities outside of classroom

Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.

Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
開発経済論 B
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門A、B、開発経済論Aでは、開発途上国の貧困家計が直面するリスク、不完全情報が捨象されていました。開発経済論Bでは、リスクおよび不完全情報に関する理論モデルをまず学びます。そして、その理論モデルに基づいて、保険市場、信用市場、労働市場における家計の選択を学びます。

【到達目標】

なぜ、開発途上国では、個人貸付ではなくグループ貸付が採用されるのでしょうか？
経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2024年度の受講者数に基づいて、教室を割り当てられている、対面授業の科目です。
各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。
受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出します。担当教員が採点し、Google Classroomを通して返却します。
授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リスク1、リスクと保険の理論1	期待値、期待効用、確実性同値額、リスクプレミアム
第2回	リスク2、リスクと保険の理論2	リスク対処戦略、リスク分散戦略
第3回	リスクと保険の理論3	状態空間分析、保険会社の等期待利潤線
第4回	リスクと保険の理論4	独占的な保険会社
第5回	リスクと保険の理論5、モラル・ハザード1	完全競争保険市場、株主と経営者
第6回	モラル・ハザード2	リスク分担とインセンティブ
第7回	復習および中間試験	第1回から第6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	アドバース・セクション1	中古車市場、情報レント、保険市場、完全情報の場合
第9回	アドバース・セクション2、信用1	不完全情報・片方のタイプのみが加入する保険の場合、インフォーマル金融
第10回	アドバース・セクション3、信用2	不完全情報・両方のタイプが加入する保険の場合、信用市場におけるアドバース・セクション、担保がない場合

第11回	信用3	保がある場合、グループ貸付、モラル・ハザード、投資選択
第12回	信用4	努力選択、返済行動、実証研究、2段階ランダム化比較試験
第13回	シグナリング	労働市場、労働者の教育年数の選択
第14回	復習および期末試験	第8回から第13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

石田潤一郎・玉田康成(2020)『情報とインセンティブの経済学』有斐閣
デューン・カーラン、ジェイコブ・アベル(2013)『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社
神戸伸輔(2004)『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
高野久紀(2014, 2015)「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014年6/7月号-2015年8/9号
アビジット・バナジー、エステル・デュフロ(2012)『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

- Course outline

In Introductory Development Economics A, B, and Development Economics A, we omit risk and asymmetric information poor households in developing countries face. In Development Economics B, we will study theoretical model of risk and asymmetric information first. Then, based on the theoretical model, we will study insurance, credit, and labor markets.

- Learning Objectives

Why do individuals in developing countries choose sharecropping instead of fixed rent? Why do they choose group lending instead of individual lending?

The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

- Learning activities outside of classroom

Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.

Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

POL200CA（政治学 / Politics 200）
国際関係論 A
富永 靖敬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンデマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際関係論の射程	本授業の狙い、授業の概要
第2回	国際システムの構造	主権国家とは、主権国家システム
第3回	伝統的国際関係論の視点 I	リアリズム:国家のパワーゲーム、古典的リアリズム、ネオリアリズム
第4回	伝統的国際関係論の視点 II	勢力均衡と同盟論
第5回	伝統的国際関係論の視点 III	リベラリズム:協力と平和の可能性、国際制度と国際協調
第6回	伝統的国際関係論の視点 IV	構成主義：社会的な意味とアイデンティティ
第7回	理論間の対立	「イズム」の限界
第8回	交渉理論に基づく戦争論	戦争はなぜ起こるのか？、事例：イラク戦争
第9回	交渉理論 I	情報の非対称性
第10回	交渉理論 II	コミットメント問題
第11回	国内政治と戦争	なぜ国内要因が重要なのか
第12回	リーダーと戦争	評判(reputation)と信頼(credibility)、リーダーの個人的性質、結集効果
第13回	今学期のまとめ	春学期の振り返り
第14回	期末試験（オンライン）	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多湖淳(2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社（中央公論新書 2574）。定価880円（本体 800円） ISBN978-4-12-102574-6。

【参考書】

【特に推薦するのは以下の三冊】

1. Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.
2. クリストファー・ブラットマン（神月謙一訳）(2023)『戦争と交渉の経済学—人はなぜ戦うのか—』草思社。定価 3,740 円（本体 3,400 円）ISBN978-4-7942-2662-4
3. Spaniel, William (2023). Formal Models of Crisis Bargaining: Applications in the Politics of Conflict. Cambridge: Cambridge University Press.

【その他】

草野大希・小川裕子・藤田泰昌（編）(2023)『国際関係論入門』ミネルヴァ書房。定価 3,520 円（本体 3,200 円）ISBN978-4-623-09577-3
砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5
浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価 2,860 円（本体 2,600 円）ISBN978-4-641-14928-1
村田晃嗣・塚塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】

本授業の評価は、小テスト（30%）と期末試験（70%）で行う。小テスト、期末試験ともに「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中のテストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよびテストの実施のために、デバイス（PC など）とオンライン環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

以下に生成 AI 使用のルールを明示します。

【ルールの目的】

本授業では、学生の皆さんが自らの思考力・分析力・表現力を養うことを重要な学習目的としています。生成 AI（ChatGPT など）の技術をリサーチや情報探索の一助として活用すること自体は否定しませんが、論述やレポートの文章自体を AI 任せにしまうと、本来の学習効果が損なわれるおそれがあります。そこで、生成 AI の利用に関しては、以下のルールを設けます。

【生成 AI はあくまでリサーチの補助】

- ・許容される行為例
 - ・キーワード・用語の検索
 - ・史実や統計データの有無を確認（※出典元が明確である場合に限り）
 - ・参考文献のヒント探し（※実際には一次情報・正式な文献を自分で確認すること）
- ・禁止される行為例
 - ・AI に要約や文章を生成させ、そのまま引用・転用すること
 - ・AI から得た引用元不明の「事実」を裏付け確認せずに用いること
 - ・「文章構成への直接的寄与」となるような内容（段落まとめ、序論や結論のドラフトなど）の作成を AI に委ねること

【AI が作成した文章の使用禁止】

- ・論述・レポート
 - ・AI が作成した文章を、一部でもそのままあるいは表面的な改変（接続語の入れ替えや文末の書き換え程度）をして使用することは禁止します。
 - ・これはコピーに準ずる行為とみなし、学問的誠実性に反する行為と判断します。
 - ・引用・参考資料
 - ・AI を「著者」として引用することは認めません。AI は二次的・三次的情報を推測的に生成する仕組みであり、正確性や一次性を保証しません。
 - ・AI が提示した文献・統計を活用したい場合は、必ず元の一次資料を学生自身で確認し、その一次資料を引用してください。
- 【チェッカーによる検証と不正行為の判断】
- ・AI チェッカーの活用

- ・提出された論述・レポートに対し、複数のAI生成検知ツールを用いてチェックを行います。
- ・AI生成の可能性が高いと検知された場合、さらに内容の精査や学生へのヒアリングを行う場合があります。
- ・不正が疑われる場合
 - ・学生本人に口頭での追加説明や質疑応答を求めることがあります。そこでも十分な説明が得られない場合、剽窃・不正行為と見なされる可能性があります。
 - ・不正行為と認定された場合は、大学の規定に基づき成績評価の取消や該当授業の単位不認定などの処分が下されることがあります。

【適切なAI利用のすすめ】

- ・AIはあくまで“補助”です
 - ・上記のようなルールを設けても、「AIを一切使うな」という意味ではありません。実際には、キーワード検索や概要把握、論点の整理など、学習者が合理的にAIを使う方法があります。ただし、最終的な文章構成・論理展開・結論は必ず自分自身で組み立てることを徹底してください。
- ・情報の真偽は自分で確認する
 - ・国際関係論・国際政治の分野は情勢が流動的かつ複雑で、AIの提示する情報が誤りや不十分である場合も少なくありません。どのようなツールを使うにせよ、最終的な情報の検証責任は学習者自身にあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is an introductory course that intends to provide students with basic knowledge which is essential to understand the nature of current international relations. This course pays particular attention to security issues exploring causes and consequences of war.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of theoretical conceptions of international politics
2. To acquire the ability to explain current issues of international politics logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read the assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Quizzes (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Term-end exam (70%)

POL200CA（政治学 / Politics 200）
国際関係論 B
富永 靖敬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障問題について幅広く学習する。国際関係論Aでは、主権国家システム、国内・国際制度、リーダーの性質など、国際政治現象一般を分析する際に必要となる諸モデルを紹介したが、国際関係論Bでは、国家間戦争、内戦やテロリズムといった国家間・国内で発生する戦争、あるいは越境的な国際犯罪を対象とする。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際問題を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンディマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（またGoogle Driveでのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答はZoomを用いて行う。講義動画は1本60分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入	前学期の復習、本授業の概要
第2回	核兵器と軍備管理・抑止論	国際危機外交、安全保障のジレンマ、シグナリング、評判、抑止論とその効果
第3回	テロリズム・非国家主体の暴力	テロリズムの定義、原因、対策
第4回	内戦・国内紛争の国際化	内戦の原因論（民族、貪欲と不満）、交渉モデル
第5回	紛争解決：平和への道筋	交渉、仲介、調停など紛争解決の理論と実践
第6回	事例分析	スリランカ内戦・コロンビア内戦・ミャンマー内戦など
第7回	制度と規範：国際社会の秩序形成	国際制度と国際規範が国家の行動をどのように制約し、協力を促進するのか
第8回	国際規範と人権	国際人権規範の発展と課題
第9回	気候変動と国際協力（地球規模の課題への対応）	気候変動が国際社会に与える影響を分析し、気候変動問題への国際的な取り組みを検討する
第10回	サイバーセキュリティと国際関係	新たな脅威の出現、サイバー空間における国家間の競争と協力
第11回	貧困と開発	資源の呪い、国連の持続可能な開発
第12回	貧困と開発の制度的説明	富の独占と政治体制、selectorate theory
第13回	学期のまとめ	秋学期の振り返り

第14回 期末試験（オンライン） まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多湖淳 (2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社。定価880円（本体800円）ISBN978-4-12-102574-6

【参考書】

Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.

草野大希・小川裕子・藤田泰昌（編）(2023)『国際関係論入門』ミネルヴァ書房。定価3,520円（本体3,200円）ISBN978-4-623-09577-3

クリストファー・プラットマン（神月謙一訳）(2023)『戦争と交渉の経済学—人はなぜ戦うのか—』草思社。定価3,740円（本体3,400円）ISBN978-4-7942-2662-4

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価2,052円（本体1,900円）ISBN978-4-641-15025-6

鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価2,808円（本体2,600円）ISBN978-4-641-14904-5

浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価2,860円（本体2,600円）ISBN978-4-641-14928-1

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価2,376円（本体2,200円）ISBN978-4-641-17722-2

山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価3,024円（本体2,800円）ISBN978-4-8188-1720-3

東大作（2020）『内戦と和平 現代戦争をどう終わらせるか』中央公論新社。定価968円（本体880円）ISBN978-4-12-102576-0

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】本授業の評価は、小テスト（30%）と期末テスト（70%）で行う。テストは、「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中のテストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよびテストの実施のために、デバイス（PCなど）とオンライン環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

以下に生成AI使用のルールを明示します。

【ルールの目的】

本授業では、学生の皆さんが自らの思考力・分析力・表現力を養うことを重要な学習目的としています。生成AI（ChatGPTなど）の技術を利用し、サーチや情報探索の一助として活用すること自体は否定しませんが、論述やレポートの文章自体をAI任せにしまうと、本来の学習効果が損なわれるおそれがあります。そこで、生成AIの利用に関しては、以下のルールを設けます。

【生成AIはあくまでリサーチの補助】

- ・許容される行為例
 - ・キーワード・用語の検索
 - ・史実や統計データの有無を確認（※出典元が明確である場合に限り）
 - ・参考文献のヒント探し（※実際には一次情報・正式な文献を自分で確認すること）
- ・禁止される行為例
 - ・AIに要約や文章を生成させ、そのまま引用・転用すること
 - ・AIから得た引用元不明の「事実」を裏付け確認せずに用いること
 - ・「文章構成への直接的寄与」となるような内容（段落まとめ、序論や結論のドラフトなど）の作成をAIに委ねること

【AIが作成した文章の使用禁止】

- ・論述・レポート
 - ・AIが作成した文章を、一部でもそのままあるいは表面的な改変（接続語の入れ替えや文末の書き換え程度）をして使用することは禁止します。
 - ・これはコピーに準ずる行為とみなし、学問的誠実性に反する行為と判断します。
- ・引用・参考資料
 - ・AIを「著者」として引用することは認めません。AIは二次的・三次的情報を推測的に生成する仕組みであり、正確性や一次性を保証しません。
 - ・AIが提示した文献・統計を活用したい場合は、必ず元の一次資料を学生自身で確認し、その一次資料を引用してください。

【チェッカーによる検証と不正行為の判断】

・AIチェッカーの活用

・提出された論述・レポートに対し、複数のAI生成検知ツールを用いてチェックを行います。

・AI生成の可能性が高いと検知された場合、さらに内容の精査や学生へのヒアリングを行う場合があります。

・不正が疑われる場合

・学生本人に口頭での追加説明や質疑応答を求めることがあります。そこでも十分な説明が得られない場合、剽窃・不正行為と見なされる可能性があります。

・不正行為と認定された場合は、大学の規定に基づき成績評価の取消や該当授業の単位不認定などの処分が下されることがあります。

【適切なAI利用のすすめ】

・AIはあくまで“補助”です

・上記のようなルールを設けても、「AIを一切使うな」という意味ではありません。実際には、キーワード検索や概要把握、論点の整理など、学習者が合理的にAIを使う方法があります。ただし、最終的な文章構成・論理展開・結論は必ず自分自身で組み立てることを徹底してください。

・情報の真偽は自分で確認する

・国際関係論・国際政治の分野は情勢が流動的かつ複雑で、AIの提示する情報が誤りや不十分である場合も少なくありません。どのようなツールを使うにせよ、最終的な情報の検証責任は学習者自身にあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course intends to provide students with essential knowledge to understand international relations. This course focuses on not just traditional security issues such as nuclear deterrence and balance of power but also non-traditional security issues such as civil war and terrorism.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of the essential conceptions of international relations
2. To acquire the ability to explain the phenomenon of international relations logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read the assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Quizzes (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Term-end exam (70%)

CUA200CA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）
経済人類学 A
友松 夕香
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わたしたち人間は、日々じつに多様な経済活動を営んでいます。この経済活動には、かならずしも貨幣が介在しているとはかぎりません。また、「市場経済」をこえた交換、贈与、再分配をおこなっています。経済人類学Aでは、「経済」をより広い視野で捉え、人類学の理論・概念を用いて考察します。また、グローバル化とデジタル化が引き起こしてきた矛盾や新たな社会現象にも注目し、経済的やりとりがわたしたちをどのように結びつけているのかを分析します。経済を文化的・社会的な観点から再考し、新たな視点を得ることが授業の目的です。

【到達目標】

・経済をめぐる社会現象について、解釈と意味づけから分析できるようになる
・統計やビッグデータ分析だけではわからない因果関係を複合的に探究できるようになる。
・経済問題を人類学的思考で分析し、解決策を考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッション形式。授業では基本的に資料配布をいたしません。自分でノートを取ってください。授業の最後では、みなさんが自分で授業内容を整理し考察する短いエッセイを作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済とは何か	形質主義と実質主義
第2回	経済の3形態	互酬性、再分配、市場交換
第3回	贈与	3つの義務
第4回	再分配	共同体の謎
第5回	道德と情	非市場経済と社会関係の網
第6回	物々交換	非貨幣経済とデータエコノミー
第7回	宗教と経済	イスラーム金融とハラール食
第8回	市場と商品化	お金で買えるもの、買えないもの
第9回	消費主義①	ポスト産業社会とは何か
第10回	消費主義②	動物の福祉、環境配慮と倫理的ジレンマ
第11回	文化の盗用	商品化と創造性をめぐる軋轢
第12回	経済界の儀礼と神話	金融危機はなぜ起きたのか
第13回	仕事	労働の価値と尊厳
第14回	経済人類学の現代的意義	文化的価値と社会関係の探求

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で作成するエッセイが時間内に終わらない場合や作業時間が足りない場合、宿題になります。

【テキスト（教科書）】

なし。授業に集中し、ノートを取り、エッセイを記述して復習すれば、知識と思考法が身に付きます。

【参考書】

授業内で、参考になる書籍をご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容を整理・考察するエッセイ15点（100%）。毎回の授業後、ならびに学期末に各500～600字で指定した項目を記述。授業の理解度と考察の質で評価します。500字に満たないエッセイについては未提出とみなします。4回の未提出で自動的にB-以下になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

手書きで素早くノートを取れない場合は、パソコンやスマホの使用を推奨します。授業の最後では、ワードファイルにエッセイを書き、提出していただきます。パソコン等の使用する機器を充分充電し、Wi-Fiに接続しておいてください。許可した場合を除き、スライドの写真撮影はご遠慮ください。

【Outline (in English)】

Humans engage in a wide range of economic activities daily, many of which extend beyond the use of currency. Economic Anthropology A explores the concept of "economy" from an anthropological perspective, employing theories and concepts to examine economic practices in diverse cultural contexts. This course also investigates the contradictions and emerging social phenomena that characterize our globalized and digitalized era. Through this exploration, students will develop a deeper understanding of how economic exchanges create connections between individuals and societies. Grades will be based on fifteen one-paragraph essays written in or after class (100%).

CUA200CA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）
経済人類学 B
友松 タ香
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には、農畜産業や漁業、販売業を自ら営み、日々の暮らしを築いている人びとが大勢います。これらの人びとの経済実践を理解するうえで、近代経済学が用いる数式や最適化、効率性、生産性といった概念では十分に捉えきれない側面がしばしば課題となります。そのかわり、人びとが築く社会関係に目を向けることで、従来の経済学では測れない経済の仕組みが浮かび上がってきます。経済人類学Bでは、日本を含む世界各地で見られる人びとの生業に焦点を当て、経済的営みの多様性、グローバルなつながり、その変化を探索します。また、政策介入や異文化理解に関する問題にも注目し、現地社会の価値観や現代的な変容を明らかにします。この授業を通じて、経済活動を社会的・文化的な文脈の中で捉える新しい視点を得ることを目指します。

【到達目標】

- ・統計では捉えられない人びとの間の経済的なやり取りの過程、構造、意味を分析できるようになる。
- ・ミクロレベルでの観察、解釈と意味づけから理論を導き出す方法を習得する。
- ・世界の経済と社会関係の多様性を読み解くうえで、フィールドワークの有効性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッション形式。授業では基本的に資料配布をいたしません。自分でノートを取ってください。授業の最後では、みなさんが自分で授業内容を整理し考察する短いエッセイを作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人間の経済	多様性、接続、変容
第2回	狩猟・採集	食物分配と平等主義
第3回	牧畜	家畜の文化的価値
第4回	農耕	社会構造、宗教、環境
第5回	土地	重層的な所有関係の現代的変容
第6回	市場①	農作物の売買交渉と騙し合いの技法
第7回	市場②	魚の売買交渉・規範と共同体
第8回	ジェンダー	性別役割・分業、労働とその変容
第9回	開発	援助と貧困の創造
第10回	グローバリゼーション①	革なめし労働者の営み
第11回	グローバリゼーション②	コーヒー生産者の営み
第12回	グローバリゼーション③	産業廃棄物集積場の営み
第13回	グローバリゼーション④	国際詐欺師の営み
第14回	まとめ	社会に埋め込まれた経済の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で作成するエッセイが時間内に終わらない場合や作業時間が足りない場合、宿題になります。

【テキスト（教科書）】

なし。授業に集中し、ノートを取り、エッセイを記述して復習すれば、知識と思考法が身に付きます。

【参考書】

授業内で、参考になる書籍をご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容を整理・考察するエッセイ14点（100%）。毎回の授業後、ならびに学期末に各500～600字で指定した項目を記述。授業の理解度と考察の質で評価します。500字に満たないエッセイについては未提出とみなします。4回の未提出で自動的にB-以下になります。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

手書きで素早くノートを取れない場合は、パソコンやスマホの使用を推奨します。授業の最後では、ワードファイルにエッセイを書き、提出していただきます。パソコン等の使用する機器を十分充電し、Wi-Fiに接続しておいてください。許可した場合を除き、スライドの写真撮影はご遠慮ください。

【Outline (in English)】

Around the world, people earn their livelihoods through activities like farming, raising livestock, fishing, and running small businesses. These practices cannot always be fully explained by the mathematical models or concepts such as efficiency, optimization, and productivity commonly used in modern economics. Instead, by looking at the social relationships people form, we can understand economic systems that traditional economics often overlooks.

Economic Anthropology B explores how people around the world, including in Japan, sustain their livelihoods. It examines the diversity of their economic activities, their global connections, and how these practices are changing. The course also looks at issues like policy interventions and cross-cultural understanding, shedding light on the values and changes shaping local communities today. Grades will be based on fifteen one-paragraph essays written in or after class (100%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？ 環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房、2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境が経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？ 環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房、2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクルⅠ- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類, 「ごみ」の定義, 経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクルⅡ- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ, 廃棄物経済学の整備に向けて, 最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクルⅢ- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生, 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策Ⅰ- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等, 個別リサイクル法, 3Rの優先順位, 2つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策Ⅱ- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化, 埋立税・産業廃棄物税, 有害物質への税・課徴金, 特定製品への税・課徴金, デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策Ⅲ- 自治体の清掃行政-	3R + 適正処理の優先順位に即した政策展開, 短期的政策, 中長期的政策の位置づけ, 地域特性に即したきめ細かい政策, 環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業Ⅰ- 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済, 経済成長と動脈部門・静脈部門, 静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業Ⅱ- ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想, 逆工場の考え方, 「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業Ⅲ- システム, 規制の効果-	市場リサイクルの条件, 動脈と静脈の相互関係, 規制と公共関与, 企業のイニシャティブ
第10回	費用支払いと費用負担Ⅰ- PPPと汚染者負担原則-	汚染者支払い原則PPP, 汚染者負担原則, ビグー税と負担の帰着

第11回	費用支払いと費用負担Ⅱ- PPPとEPR-	廃棄物管理費用の支払いと負担, EPRの物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済, 不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法とEPRⅠ- 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法: 再論, 容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法とEPRⅡ- E-Wasteのリサイクル-	家電リサイクル法, PCリサイクル・システム, 携帯電話リサイクル・システム, 小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論Aを既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第2版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論の発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクルⅠ- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類, 「ごみ」の定義, 経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクルⅡ- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ, 廃棄物経済学の整備に向けて, 最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクルⅢ- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生, 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策Ⅰ- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等, 個別リサイクル法, 3Rの優先順位, 2つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策Ⅱ- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化, 埋立税・産業廃棄物税, 有害物質への税・課徴金, 特定製品への税・課徴金, デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策Ⅲ- 自治体の清掃行政-	3R + 適正処理の優先順位に即した政策展開, 短期的政策, 中長期的政策の位置づけ, 地域特性に即したきめ細かい政策, 環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業Ⅰ- 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済, 経済成長と動脈部門・静脈部門, 静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業Ⅱ- ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想, 逆工場の考え方, 「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業Ⅲ- システム, 規制の効果-	市場リサイクルの条件, 動脈と静脈の相互関係, 規制と公共関与, 企業のイニシャティブ
第10回	費用支払いと費用負担Ⅰ- PPPと汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP, 汚染者負担原則, ビグー税と負担の帰着

第11回	費用支払いと費用負担Ⅱ- PPPとEPR-	廃棄物管理費用の支払いと負担, EPRの物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済, 不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法とEPRⅠ- 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法: 再論, 容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法とEPRⅡ- E-Wasteのリサイクル-	家電リサイクル法, PCリサイクル・システム, 携帯電話リサイクル・システム, 小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論Aを既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グズとバズの経済学 第2版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CD (経済学 / Economics 200)
経済地理 A
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、人口構造と経済成長、産業の立地論、経済の空間構造（都市経済）、国土政策と地域経済、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要とスケジュール、学習のポイント
第2回	人口と地域格差①	人口構造と人口転換
第3回	人口と地域格差②	人口動態と人口問題
第4回	人口と地域格差③	人口と経済成長
第5回	産業の立地①	立地論の基礎
第6回	産業の立地②	工業立地論と事例
第7回	産業の立地③	組織論的立地論と事例
第8回	経済の空間構造①	都市化と都市構造
第9回	経済の空間構造②	都市発展と都市システム
第10回	経済の空間構造③	都市の理論・モデルと実際
第11回	国土政策と地域経済①	日本の地域構造と地域間格差
第12回	国土政策と地域経済②	国土政策と地域政策の系譜と現状
第13回	都市・地域開発と政策	都市・地域問題の現状と新たな政策
第14回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野 稔 (2000) 『世界の人口（第2版）』 東京大学出版会
 デイヴィッド・N・ワイル (2010) 『経済成長（第2版）』 ビアソン 桐原
 松原宏編著 (2002) 『立地論入門』 古今書院
 山田浩之・徳岡一幸編 (2018) 『地域経済学入門（第3版）』 有斐閣
 竹内淳彦・小田宏信編著 (2014) 『日本経済地理読本（第9版）』 東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。

詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

From the perspective of economic geography, this lecture will cover various issues such as economic growth and population, urban and regional economies, industrial location theory, spatial structure of the economy, national land planning, and regional policy.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
 Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

ECN200CD（経済学 / Economics 200）
経済地理 B
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	オンデマンド(以下、OD)①	集積論の系譜① A.WeberとA.Marshallの集積論
第3回	OD 集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
第4回	集積論の系譜③	現代経済における集積の意義
第5回	OD 現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
第6回	OD 現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
第7回	現代の集積論③	空間経済学と集積
第8回	OD ⑤ 日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
第9回	OD ⑥ 日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
第10回	⑥ 産業集積のダイナミズム	産業のグローカル化
第11回	OD ⑦ 自動車産業の集積①	系列、近接性、JIT生産システム
第12回	OD ⑧ 自動車産業の集積②	日本的生産システムの海外展開
第13回	OD ⑨ ハイテク産業の集積	シリコンバレーモデルと産学連携
第14回	講義の小括・まとめ	経済学における集積論の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
山本健児（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

The purpose of this lecture is to explain the achievements and meaning of agglomeration theories in economics, focusing on the geographical economic activities related to productivity and creativity, and to develop concrete and practical thinking skills regarding the rise and fall mechanisms of industrial and urban agglomerations.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
ヨーロッパ経済論 A
進藤 理香子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は現在のEUにつながる欧州経済統合の礎となる1945年から80年代半ばまでのヨーロッパの社会経済的発展を東西ドイツの軌跡及び冷戦期の国際関係から考察することを目的とする。

【到達目標】

冷戦体制の国際関係と欧州経済統合の歴史的プロセスを理解する。また今日のEUに受け継がれる西ドイツ社会的市場経済概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン講義。学習支援システム上に講義資料を掲載、指定授業時間にZoomによる講義を行う。授業時間外での閲覧も可能とする。パワーポイント、図表や画像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	春学期の導入	欧州の社会経済的発展をドイツの軌跡を中心に学ぶ意義について。
第2回	第一次大戦後の欧米とドイツ	ヴェルサイユ体制、戦間期の欧米社会と経済について見る。
第3回	第二次大戦と欧州	ドイツによる欧州諸国侵略、占領、戦争経済について見る。
第4回	第二次大戦の終わりとはドイツ敗戦	連合国によるドイツ分割統治と占領政策について学ぶ。
第5回	マーシャルプランと西欧の経済復興	アメリカ主導の欧州復興支援、東西陣営の形成について見る。
第6回	ドイツ連邦共和国（西ドイツ）の建国	東西ドイツ問題、通貨改革について学ぶ。
第7回	西ドイツ社会的市場経済	社会的市場経済の理論と政策的実践について学ぶ。
第8回	西ドイツ経済の奇跡	戦後復興から高度経済成長の過程、大衆消費社会と生活水準向上について。
第9回	西欧の協調と市場統合の模索	欧州石炭鉄鋼共同体の形成について見る。
第10回	ドイツ民主共和国（東ドイツ）とベルリンの壁	ソ連占領政策、東ドイツ建国と社会主義の建設について見る。
第11回	西ドイツ・ブランド首相の東方政策とデタント	東西緊張の緩和と全欧安全保障協力会議について見る。
第12回	ヨーロッパ福祉国家の諸モデル	イギリス、スウェーデン、西ドイツの福祉政策について学ぶ。
第13回	ブレトン・ウッズ体制の崩壊とオイルショック	70年代世界経済の停滞、高度経済成長の終焉について学ぶ。
第14回	ケインズ主義から新自由主義へ	80年代の欧米新自由主義的政策について見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の準備・復習時間は一回あたり各2時間の合計4時間を標準とする。また学期中に合計2回のレポート提出が必須となる。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を指示。

【参考書】

猪木武徳『戦後世界経済史:自由と平等の視点から』中央公論新社 2009年
トニー・ジャット『ヨーロッパ戦後史：上巻1945－1971；下巻1971－2005』みすず書房 2008年
藤澤利治/工藤章（編）『ドイツ経済:EU経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019年
古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会 2007

【成績評価の方法と基準】

評価方法は学期中に中間レポートを1回、学期末レポート1回の合計2回の課題を完了した場合にのみ単位評価の対象とする。配点は中間課題50%、学期末課題50%。提出時期については学習支援システムの指示に従うこと。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット接続とコンピュータ。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to study the socio-economic and political developments in Europe from 1945 to the mid-1980s, mainly during the Cold War period, in an historical perspective. Particular interest will be paid to the development of Germany which was divided into two states, in the West and in the East, after the country's defeat in World War II. Learning Objective: The goal of this course is to understand the socio-economic development of Europe since 1945.

Lecture (two-credits): Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: a mid-term report (50%) and a term-end report (50%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
ヨーロッパ経済論 B
進藤 理香子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では1980年代後半から現在に至るヨーロッパの社会経済的発展について学ぶ。冷戦の終結、東欧平和革命、ドイツ再統一、ソ連崩壊、欧州連合EUの成立といった流れを把握しつつ、現在に至るEUの発展と諸政策について学ぶ。

【到達目標】

冷戦終結からEU成立、東方拡大への国際政治の流れを理解する。また欧州単一市場形成と通貨統合などEU独自のガバナンス及び域内・域外に対するEUの役割を理解する。さらに直面する現代の危機（英国EU離脱、コロナ危機、ロシアのウクライナ侵攻、移民難民問題）へのEUの対応を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン講義。学習支援システム上に講義資料を掲載、指定授業時間にZoomによる講義を行う。授業時間外での閲覧も可能とする。パワーポイント、図表や画像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	秋学期の導入	現代ヨーロッパの社会経済を学ぶ意義について。
第2回	ソ連社会主義体制の停滞と改革の限界	ペレストロイカ、グラスノスチ、チェルノブイリ原発事故について見る。
第3回	東欧平和革命とベルリンの壁崩壊	民主化運動と社会主義政権の崩壊について見る。
第4回	ドイツ再統一とソ連崩壊	ドイツ最終規定条約、統一の負担、ソ連崩壊の帰結などについて学ぶ。
第5回	欧州共同体から欧州連合EUへ	マーストリヒト条約単一市場問題について学ぶ。
第6回	経済通貨統合と欧州中央銀行	欧州通貨統合、単一通貨ユーロ導入について学ぶ。
第7回	EUの機構と運営	EUの諸組織とEU独自のガバナンスを学ぶ。
第8回	EU東方拡大とEU諸国の経済・社会構造	EU東方拡大、EU加盟国間の諸特徴と不均衡について見る。
第9回	EUの通商と農業	共通通商政策と共通農業政策について学ぶ。
第10回	欧州と環境問題	環境問題への様々な取り組みについてドイツの事例を見る。
第11回	欧州と移民・難民問題	難民問題へのEUの対応についてドイツの事例を中心にみる。
第12回	イギリスのEU離脱	英国EU離脱の過程と影響について見る。
第13回	ロシアによるウクライナ侵攻と欧州	EUのウクライナ支援、エネルギー危機、安全保障問題などについて見る。
第14回	秋学期のまとめ	今学期の授業の要点を復習し期末レポート対策を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中2回のレポート提出必須。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間の合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示。

【参考書】

井上淳『はじめて学ぶEU：歴史・制度・政策』法律文化社 2020年
川越修・河合信晴(編)『歴史としての社会主義』ナカニシヤ出版 2016年
工藤章・藤澤利治『ドイツ経済：EU経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019年
田中素香・長部重康ほか『現代ヨーロッパ経済』第6版 有斐閣 2022年
羽場久美子小森田秋夫・田中素香『ヨーロッパの東方拡大』岩波書店 2006年

【成績評価の方法と基準】

評価方法は学期中に中間レポートを1回、学期末レポート1回の合計2回の課題を完了した場合にのみ単位評価の対象とする。配点は中間課題50%、学期末課題50%。提出時期については学習支援システムの指示に従うこと。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course focuses on the socio-economic and political developments in Europe from the end of the Cold War period until today's European Union. Special consideration will be given to the historical events like the collapse of the Soviet Union, the peaceful revolution of 1989 in Eastern Europe, the reunification of the two German states, and the establishment of the European Union and its enlargement to the east. Learning Objective: The goal of this course is to understand the development of the EU.

Lecture (two-credits): Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: a mid-term report (50%) and a term-end report (50%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
現代アジア経済論 A
馬場 敏幸
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジアNIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。この講義受講の意義として、単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学んでほしい。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジアNIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。第一に各国・地域の置かれた地理・経済・政治・歴史の経緯などの諸条件を講義することで、それぞれの国・地域の基礎的理解を目指す。第二に、第二次世界大戦後から現在における各地域・国の経済・産業の発展経路について講義を行うことで、アジアの発展の大きな流れの俯瞰的把握を目指す。第三に、電気電子産業・自動車産業を軸とした工業化とその諸条件、輸出、投資について講義を行うことで、アジアの経済発展の原動力の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半では対象となる対象国・地域の現状について、オンラインデータベースの紹介と実際の使用方法を学習しつつ進めていく。中盤では経済発展のエンジンとなる産業や貿易などの育成とグローバル化に焦点を置く。後半は第二次世界大戦後の経済発展史を学ぶ。授業進展に伴い、理解力などを実施し、適宜フィードバックや講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	アジアNIEsの俯瞰	GDP、一人当たりGDPの理解と所得基準
3	アジア経済の底流 1	貧困の悪循環を抜け出せ！
4	アジア経済の底流 2	工業化戦略、投資、貿易
5	アジア経済の底流 3	為替レートがもたらす構造変化とアジアの発展
6	アジアNIEs1	初期の発展の共通点
7	アジアNIEs2	経済発展モデルと各国の実際
8	アジアの工業技術獲得 1	OEM・ODMとスマイルカーブ
9	アジアの工業技術獲得 2	OEM・ODMで発展した現地資本メーカー
10	アジアの工業技術獲得 3	技術導入経路と学習パターン
11	シンガポール	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
12	韓国	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
13	台湾・香港	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
14	総括	まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。配布資料や教科書、参考データベースによる学習など。本授業の予習1時間半・復習時間2時間半を目安とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

馬場敏幸(2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料とURLはURL詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で理解力テストを課し、点数を100点に案分し評価を行う（100%）。なお、状況に応じて授業への取り組み、発言など平常点で点数の加減を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義スライドの事前配布を望む声があった。本講義ではまず授業時間内にしっかりと講義を聞いてもらい、講義後に配布するスライドを復習として用いてもらう方針なので、なにとぞご理解願いたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義はZoom（受講人数が300人を超える場合はWebex）で行い、理解力テストはHoppiiで行う。そのため、インターネット環境は必須であり、良好なWifi環境を強く推奨する。講義はスマホやタブレットなどでも受講可能であるが、データベース検索などはPCの方が行いやすい。PC利用での受講を強く薦める。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B双方での履修を望む。

Zoom（Webex）による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。またZoom（Webex）講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。本講義は受講人数の関係でWebexを用いる可能性がある。WebexについてはHoppiiからのリンクで説明が行われているので事前にご参照願いたい。アドレスが変わっていなければ、Webexマニュアル（<https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-enkaku-Webex.html>）。

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and geography of ASIAN NIEs; South Korea, Singapore, Taiwan and Hong Kong, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries and area in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries and area. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
現代アジア経済論 B
馬場 敏幸
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ASEANについてASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史的内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後にアジアNIEsに次いで高度経済成長を果たしたASEAN諸国についてASEAN4を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

Zoom（受講人数によってWebex）によるリアルタイムオンラインで講義を行う。授業ではまずASEAN全体について概観したのち、各国ごとに国の地理、特徴、第二次世界大戦後の発展史などについて学ぶ。授業進展に伴い、理解力テストを実施し、適宜フィードバックや講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	ASEAN 1	ASEANの成立とその経緯、加盟国情報、歴史など
3	ASEAN 2	経済指標での概観、国の発展戦略
4	タイ 1	独立を保てた理由、初期の発展、産業政策、自動車産業、コメ産業など
5	タイ 2	軍人政治・文民政治、赤シャツと黄シャツなど
6	タイ 3	経済成長、貿易、アジア経済通貨危機、大洪水など
7	マレーシア 1	英国からの独立、マハティール、ブミプトラ、ルックイーストなど
8	マレーシア 2	貿易、産業政策、自動車産業、ICT産業など
9	インドネシア 1	世界最大のイスラム国家、資源大国、オランダからの独立、スカルノ、スハルトなど
10	インドネシア 2	貿易、自動車産業、プリブミ、汚職撲滅など
11	フィリピン 1	米国からの独立、マルコス、アセアンの優等生から落第生など
12	フィリピン 2	ピープルパワー革命、OFW、テロ、スラムなど
13	まとめ	講義で行ったことを総括する
14	総括	まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。本授業の予習1時間・復習時間3時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸(2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料とURL詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で理解力テストを課し、点数を100点に案分し評価を行う（100%）。なお、状況に応じて授業への取り組み、発言など平常点で点数の加減を行う。

【学生の意見等からの気づき】

Webex については Hoppii からのリンクで説明が行われているので事前にご参照願いたい。アドレスが変わっていなければ、Webex マニュアル (<https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-enkaku-Webex.html>)。

【学生が準備すべき機器他】

講義はZoom（Webex）で行い、理解力テストはHoppiiで行う。そのため、インターネット環境は必須であり、良好なWifi環境を強く推奨する。講義はスマホやタブレットなどでも受講可能であるが、データベース検索などはPCの方が行いやすい。PC利用での受講を強く薦める。

【その他の重要事項】

その他重要事項

本講義とともに現代アジア経済論B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B双方での履修を望む。

Zoom（Webex）による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。またZoom（Webex）講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and geography of ASEAN4; Thailand, Malaysia, Indonesia and Philippines, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
中国経済論 A
馬 欣欣
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では歴史的・マクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介し、中国経済成長の要因を様々な側面（歴史、制度・政策、経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済の位置づけおよび中国経済成長の特徴を明確にする。

【到達目標】

中国経済に関しては、マクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび様々な調査データを活用し、中国経済成長のマクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

The goal is to comprehend the situations and issues in the Chinese economy from a macroeconomic perspective and to develop the academic capability to elucidate the features of the Chinese economy using economic theories and data from the Chinese government's statistical sources, as well as various academic surveys.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。対面実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと世界経済からみた中国経済	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。また、世界経済の現状を紹介し、中国経済の位置づけを理解する
第2回	歴史的視点からみた経済の成長	科学技術発展史からみた経済発展の謎（ニューダム仮説）とマディソンの長期GDP推計データからみた経済成長の軌跡を理解する
第3回	社会主義時代の経済	旧ソ連計画経済モデルと中国社会主義モデルの比較、国営企業と農村人民公社の実態と問題点について理解する
第4回	経済改革：社会主義市場経済とは何か	社会主義市場経済の概念、2つの移行パターン、体制移行における政府の役割について理解する
第5回	国家資本主義と開発独裁モデル：中国における政府と市場の関係	国家資本主義、開発独裁モデルについて理解する
第6回	人口変動と労働力(1)	経済発展と人口転換の国際比較、人口ボーナスと経済成長、一人っ子政策の背景と問題点について理解する

第7回	人口変動と労働力(2)	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点について理解する
第8回	対外貿易と外需依存型成長からの転換	輸出主導型経済成長、外資の役割、外資導入の国際比較について理解する
第9回	経済成長と格差問題(1)	農村部と都市部の格差、東部・中部と西部の格差の実態および形成要因について理解する
第10回	経済成長と格差問題(2)	所得格差、貧困の実態、貧困削減政策およびその効果について理解する
第11回	財政政策と経済成長	地方分権と財政政策、「分税制」の概要と評価、地方財政の実態について理解する
第12回	地域振興政策とその影響	地域開発・振興政策実施の背景、政策変遷、およびその効果について理解する
第13回	経済成長と環境問題	環境問題の実態、中国環境政策の変遷、地球温暖化問題と国際協定について理解する
第14回	マクロレベル：中国経済の展望と問題点	中国経済の展望と問題点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間(合計4時間)を標準とする。

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each (total 4 hours).

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著(2016)『中国経済入門 第4版』日本評論社。
 2. 加藤弘之(2016)『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著(2018)『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著(2013)『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫(2013)『21世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点および宿題 (70%)
2. 期末試験 (30%)

両者の組み合わせ：100%

1. Regular performance and homework (70%)

2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【専門分野】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 所得格差と貧困
2. 少子高齢化社会と社会保障

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," Journal of Asian Economics, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
- 6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" China Economic Review, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

【Outline (in English)】

[Course outline]

The lecture introduces the trajectory of China's economic growth from historical and macroeconomic perspectives, the pattern of the transition from a planned economy to a socialist market economy, and the facts and problems of the modern Chinese economy. We will explore the factors behind China's economic growth from multiple perspectives, including history, economic development, and institutional transitions. Additionally, we will clarify the position of the Chinese economy and the features of Chinese economic growth in comparison with developed countries such as Japan, the United States, and European countries.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy from macroeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the features of Chinese economy based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data source and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each (total 4 hours).

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
中国経済論 B
馬 欣欣
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はミクロ経済の視点から中国の経済発展の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業生産とイノベーション、産業集積と産業構造転換、格差問題（例えば、都市と農村間の所得格差と社会保障格差）などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。

【到達目標】

中国経済に関しては、ミクロレベルの視点から、経済発展の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび様々な調査データを活用し、中国経済発展のミクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy development from a microeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic development based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。対面実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：ミクロ視点からみた中国経済	ミクロ視点から見た中国経済の内容および研究方法を紹介する
第2回	国有企業改革(1)	計画経済期の国営企業の特徴、国有企業の改革とその問題点について理解する
第3回	国有企業改革(2)	国有企業の内部統治と企業業績、国有企業改革の結果とその問題点について理解する
第4回	世界の工場—中国	対中直接投資の原因と構造変化、FDIと中国経済発展について理解する
第5回	産業構造の転換	産業政策の改革、産業構造の転換と「中国製造2025」、深センの産業発展を紹介し、産業構造の転換の原因について理解する
第6回	農村改革(1)	農村の土地改革、「家庭生産請負制度」、土地流動化について理解する
第7回	農村改革(2)	農村貧困実態と地域間の差異、農村貧困の原因、および農村貧困対策について理解する

第8回	出稼ぎ就業と農民工	経済発展と出稼ぎ就業、中国経済の謎—農民工不足現象、と農民工の就業と生活の実態について理解する
第9回	国有銀行と金融改革	金融改革の歴史、現代における金融システムと金融政策、株式市場と国有企業、国有銀行の改革について理解する
第10回	住宅市場と不動産	土地政策と住宅政策の変遷、住宅制度と住宅金融制度の改革、住宅と不動産市場の実態と問題点について理解する
第11回	経済発展と教育	教育制度と改革、人的資本理論と格差問題、「大学統一試験」(「高考」)の変遷、高等教育拡大政策、大学生就職難問題の原因について理解する
第12回	社会保障政策の改革	人口高齢化と社会保障制度の改革、都市部と農村部の社会保障の格差、社会保障と労働市場について理解する
第13回	労働雇用・賃金政策の改革	計画経済期の雇用・賃金政策の特徴、市場経済期の雇用・賃金政策の変遷、賃金格差の実態について理解する
第14回	ミクロレベル：中国経済の展望と問題点	ミクロ経済の視点からみた経済成長のメカニズム及び問題点について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、ミクロ経済学、労働経済学、産業組織論、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とする。

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, microeconomics, industrial organization economics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each (total 4 hours).

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

- 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門 第4版』日本評論社。
 - 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 - 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 - 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 - 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫（2013）『21世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
 - 馬欣欣（2015）『中国の公的医療保険制度の改革』、京都大学学術出版会。
 - 馬欣欣（2011）『中国女性の就業行動—「市場化」と都市労働市場の変容』、慶應義塾大学出版会。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

- 平常点および宿題（70％）
 - 定期試験（30％）
- 両者の組み合わせ：100％
- Regular performance and homework (70%)
 - Final examination (30%)
- Combination of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【専門分野】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 所得格差と貧困
2. 少子高齢化と社会保障

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," Journal of Asian Economics, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
- 6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" China Economic Review, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

【Outline (in English)】

[Course outline]

This lecture introduces the determinants of the economic development in China from a microeconomic perspective, using many kinds of data (i.e., government official statistical data, academic survey data etc.). The topics' targets focus on individuals, households, firms, and industry sectors. We will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, enterprise innovation, industrial structural transformation, inequality issues such as income and social security inequality between rural and urban residents and understand the facts, issues and mechanisms in Chinese economy from a microeconomic perspective.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy development from a microeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic development based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, microeconomics, industrial organization economics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each (total 4 hours).

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

LANd200CA (ドイツ語 / German language education 200)
ドイツ語セミナー A
北岡 幸代
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級レベルのドイツ語を学習しながら、ドイツ語圏の暮らし、文化、社会背景、人々の考え方を学びます。発音や文法なども受講者の理解度に応じて、確認・復習しながら進めていきます。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語表現を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語文を読んで、内容が理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

特定の具体的な場面で使われる、定型的表現・語彙・文脈に沿った表現・文法などを学びます。提出された課題については、添削や授業内でのフィードバック、「学習支援システム」を通じてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と進め方、勉強方法について
第2回	住まいについて(1)	住まいのつくり
第3回	住まいについて(2)	感想や評価の表現
第4回	住まいについて(3)	賃貸住宅の広告を読む
第5回	お気に入りの街角(1)	街の景色
第6回	お気に入りの街角(2)	私の街の紹介
第7回	お気に入りの街角(3)	好みを伝える表現
第8回	ホテルでのトラブル(1)	ホテルの設備
第9回	ホテルでのトラブル(2)	助けを求める表現
第10回	ホテルでのトラブル(3)	予定を伺うメール 言い訳と謝罪の表現
第11回	夢と計画(1)	将来の夢を語る
第12回	夢と計画(2)	どこで何を学んでいるの？
第13回	夢と計画(3)	創造的に書いてみよう
第14回	授業内試験とまとめ	口頭試験あるいはプレゼンテーションと筆記試験 今学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Menschen Kursbuch A1.2』（Hueber）

【参考書】

参考書等は授業中に適宜紹介し、補助教材・動画教材等は「学習支援システム」の教材コーナーに随時アップします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30％）、授業内筆記テスト（35％）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35％）を目安に総合的に判断し、全体の60％以上で合格とします。

正当な理由のない欠席が全体の4分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

例年少人数編成である利点を生かし、受講者の皆さんの特に学びたいことを授業に反映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】

ドイツ語を1年以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。ドイツ語の学習内容やドイツ語圏に関する受講者の興味関心にできるだけ寄り添い、映画や動画教材も積極的に利用します。したがって、シラバスに提示してあるテーマも若干変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, students will learn about life, culture, social background and the way people think in German-speaking countries while studying German at the beginner level. Pronunciation and grammar will be checked and reviewed according to the student's level.

【Learning Objectives】 The goals of the course are to

1. understand the culture of German-speaking countries
2. listen to and understand simple German expressions
3. read and understand simple German sentences
4. be able to express simple matters in German.

【Learning activities outside of classroom】 The standard amount of time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (30%), an in-class written test (35%), and an in-class oral examination and presentation (35%), with 60% or more of the total passing grade.

If the number of absences without justifiable reason exceeds one-fourth of the total number of absences, the student will be excluded from the grading system.

LANd200CA (ドイツ語 / German language education 200)
ドイツ語セミナー B
北岡 幸代
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級レベルのドイツ語を学習しながら、ドイツ語圏の暮らし、文化、社会背景、人々の考え方を学びます。発音や文法なども受講者の理解度に応じて、確認・復習しながら進めていきます。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語表現を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語文を読んで、内容が理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

特定の具体的な場面で使われる、定型的表现・語彙・文脈に沿った表現・文法などを学びます。提出された課題については、添削や授業内でのフィードバック、「学習支援システム」を通じてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と進め方、勉強方法について
第2回	身体と健康(1)	体調不良をめぐる表現
第3回	身体と健康(2)	命令形の表現
第4回	身体と健康(3)	身体部位と体調をめぐる表現
第5回	人物評(1)	人物の外見について 過去形の表現
第6回	人物評(2)	人物像について 非分離動詞の使い方
第7回	人物評(3)	驚きの表現
第8回	家事とシェアハウス(1)	日記を読む 命令形
第9回	家事とシェアハウス(2)	家事をめぐる表現
第10回	家事とシェアハウス(3)	シェアハウスについて
第11回	服装について(1)	服装に関する表現
第12回	服装について(2)	評価・感想の表現 比較の表現
第13回	服装について(3)	強調する表現
第14回	授業内試験とまとめ	口頭試験あるいはプレゼンテーションと、ヒヤリング・筆記試験 今学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Menschen Kursbuch A1.2 (Hueber)

【参考書】

参考書等は授業中に適宜紹介し、補助教材・動画教材は「学習支援システム」の教材コーナーに随時アップします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30 %）、授業内筆記テスト（35 %）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。正当な理由のない欠席が全体の4分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

例年少人数編成である利点を生かし、受講者の皆さんの特に学びたいことを授業に反映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】

ドイツ語を1年以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。ドイツ語学習内容やドイツ語圏に関する受講者の興味関心ができるだけ寄り添い、映画や動画教材も積極的に利用します。したがって、シラバスに提示してあるテーマも若干変更する場合もあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, students will learn about life, culture, social background and the way people think in German-speaking countries while studying German at the beginner level. Pronunciation and grammar will be checked and reviewed according to the student's level.

【Learning Objectives】 The goals of the course are to

1. understand the culture of German-speaking countries
2. listen to and understand simple German expressions
3. read and understand simple German sentences
4. be able to express simple matters in German.

【Learning activities outside of classroom】 The standard amount of time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (30%), an in-class written test (35%), and an in-class oral examination and presentation (35%), with 60% or more of the total passing grade.

If the number of absences without justifiable reason exceeds one-fourth of the total number of absences, the student will be excluded from the grading system.

LANf200CA (フランス語 / French language education 200)
フランス語セミナー B
橋本 到
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音し、自ら発信する練習を行う。以上を一サイクルとして学習を進める。対面授業を想定しているが、クラスの状況等を見ながら、Zoomを使用することがある。対面であるなしに関係なく、課題の受け渡し等にGoogle・クラスルームを利用する。急遽、やむを得ず、授業形式などを変更する場合、学習支援システム等を通じて連絡する。授業中に習熟度の確認のため、家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	郵便局の利用、道順-1	郵便に関する語彙、関連する文法の整理（ジェロンディフ）、～に立ち寄る、ロケーション。
第2回	郵便局の利用、道順-2	前回の復習、ジェロンディフの練習、切手を買う
第3回	郵便局の利用、道順-3	前回の復習、荷物を送る、手紙の書き方
第4回	生活と環境（ごみ捨てなど）-1	小テスト、ゴミの種類に小テスト、関する語彙、関連する文法の整理（比較級、受動態）、部屋の説明、アナウンス
第5回	生活と環境（ごみ捨てなど）-2	前回の復習、交通と環境問題、ヴェリブ・オートリブ
第6回	生活と環境（ごみ捨てなど）-3	前回の復習、原子力発電、ゴミの分別、受動態の練習
第7回	家族の形-1	小テスト、家族形態の語彙、関連する文法の整理（指示代名詞、関係代名詞、強調構文）
第8回	家族の形-2	前回の復習、家族の紹介、関係代名詞・強調構文の練習、出生率の変遷-1
第9回	家族の形-3	前回の復習、出生率の変遷-2、パックス
第10回	週末の過ごし方-1	小テスト、関連する文法の整理（疑問代名詞、関係代名詞où, dont）、靴の買い方
第11回	週末の過ごし方-2	前回の復習、服を買う、外出の相談

第12回	週末の過ごし方-3	前回の復習、聴解、読解、レジャーの提案（作文）
第13回	全体のまとめ、進度の調整	小テスト、ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
第14回	映像資料視聴	まとめの講評、フランスの文化（ジャポニスム）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にける準備・復習の時間は合計4時間を標準とする。

テキストの会話部分は前もって目を通しておく。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】

高橋百代他、『場面で学ぶフランス語2（改訂版）』、三修社

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

三回の小テストの合計65%、レポート5%、平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

例年、履修者は少数ながら、ほとんどが意欲的に学習しています。

【学生が準備すべき機器他】

Googleクラスルームの利用はスマホでも可能だが、画面が小さいので、パソコンやタブレットも活用できることが望ましい。

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

(Learning Objectives)

After taking this course, you will be able to:

- Understand French elementary expressions.
- Understand French daily habits and customs and cultural background.

(Learning activities outside of classroom)

preparation:

- Listen to the CD attached to the textbook and pronounce example sentences (30 minutes).
- Do homework exercises (2 hours).

Review:

- Check the pronunciation rules and repeat the example sentences and exercise sentences (30 minutes).
- Check the answer examples of the exercises, and if there are any wrong questions, review the contents (1 hour).

(Grading criteria)

Your final grade will be calculated according to the following process:

- Usual performance score 30%
- Written examination : 65%
- Report: 5%

LANf200CA（フランス語 / French language education 200）
フランス語セミナー A
橋本 到
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話の私たちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音し、自ら発信する練習を行う。以上を一サイクルとして学習を進める。対面授業を想定しているが、クラスの状況等を見ながら、Zoomを使用することがある。対面であるなしに関係なく、課題の受け渡し等にグーグル・クラスルームを利用する。急遽、やむを得ず、授業形式などを変更する場合、学習支援システム等を通じて連絡する。授業中に習熟度の確認のため、家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	レストランでの会話-1	郷土料理、関連する文法の整理（複合過去の否定、目的補語人称代名詞）オーダー、味の説明、料理名
第2回	レストランでの会話-2	前回の復習、テーブルでの会話（衣服、プレゼントの選択、その理由）
第3回	レストランでの会話-3	前回の復習、テーブルでの会話（招待）、支払いと若干の表現。
第4回	交通機関と旅行-1	小テスト、若干の地理、関連する文法の整理（中性代名詞）乗車券の購入、旅程、所要時間の説明
第5回	交通機関と旅行-2	前回の復習、掲示板（乗車券、発着ホームなど）、聴解練習
第6回	交通機関と旅行-3	前回の復習、ホテルの予約、読解（自動改札機について）
第7回	体と健康-1	小テスト、語彙（体の部位、症状、医療関係）、関連する文法の整理（代名動詞の複合過去、単純未来）、健康に関する表現
第8回	体と健康-2	前回の復習、薬局での会話、体の不調を訴える。
第9回	体と健康-3	前回の復習、体の不調（聴解）、体の部位（語彙・復習）

第10回	ヴァカンス-1	小テスト、語彙（遠出、スポーツ）、関連する文法の整理（半過去、大過去）、過去の継続中の行為
第11回	ヴァカンス-2	前回の復習、自分のヴァカンスの説明、過去の習慣の言い方。
第12回	ヴァカンス-3	前回の復習、事前の情報取得。
第13回	全体のまとめ、進度の調整	小テスト、ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
第14回	映像資料視聴	まとめの講評とフランスの社会（移民系住民関連）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかけられる準備・復習の時間は合計4時間が標準となります。

テキストの会話部分は前もって目を通しておいください。授業でやった練習問題は後でもう一度見直し、不明な点があれば次週授業で質問してください。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】

高橋百代他、『場面で学ぶフランス語2（改訂版）』、三修社

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

三回の小テストの合計65%、レポート5%、平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

例年、履修者は少数ながら、ほとんどが意欲的に学習しています。

【学生が準備すべき機器他】

グーグルクラスルームの利用はスマホでも可能だが、画面が小さいので、パソコンやタブレットも活用できることが望ましい。

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

(Learning Objectives)

After taking this course, you will be able to:

- Understand French elementary expressions.
- Understand French daily habits and customs and cultural background.

(Learning activities outside of classroom)

preparation:

- Listen to the CD attached to the textbook and pronounce example sentences (30 minutes).
- Do homework exercises (2 hours).

Review:

- Check the pronunciation rules and repeat the example sentences and exercise sentences (30 minutes).
- Check the answer examples of the exercises, and if there are any wrong questions, review the contents (1 hour).

(Grading criteria)

Your final grade will be calculated according to the following process:

- Usual performance score 30%
- Written examination : 65%
- Report: 5%

LANr200CB（ロシア語 / Russian language education 200）	
ロシア語セミナー A	
松澤 暢子	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位
※経済学科生のみ履修できます。初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。	

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を終え、中級以上を目指す学生のための授業です。基礎文法の習得を完成し、中級文法を学びながら、「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語能力を伸ばしていきます。ロシア語圏で通用するロシア語能力の基礎を身につけること、そして、様々なジャンルのテキストや視聴覚教材を通じ、言語だけでなくロシアの生活、文化、歴史への知識を深めることを目的とします。

【到達目標】

1. 基礎文法、基本的な語彙に加え、主に以下の4点を習得することで、ロシア語能力検定試験4級、3級の合格、または同程度のロシア語能力を身につけることを目指す。
 - ・辞書を使わずに短いテキストを読解、和訳できる。
 - ・ゆっくりとしたテンポで読まれたテキスト、簡単な日常会話を聞きとることができる。
 - ・発音、アクセント、イントネーションを意識した、滑らかな音読、会話（挨拶や簡単な日常会話）ができる。
 - ・基本的な語彙を使い、挨拶や自己紹介などを書くことができる。
2. 中級文法を学習し、辞書を使いながら文学作品を含む様々なジャンルのテキストを読み解く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で行います。基礎文法を総復習し、5月、10月のロシア語能力検定試験（4級、3級）の受験を視野に、文法、露文和訳、和文露訳等の対策問題を解いていきます。基礎文法の復習後は、中級文法を学習し、辞書を使って文学作品を含む幅広いジャンルのテキストの読解にも挑戦します。また、生きたロシア語に触れるため、朗読、映画等の視聴覚教材を使用したリスニングの練習を毎回行います。同様に、発音、アクセント、イントネーションを意識した音読または会話の練習も毎回行います。そのほか、随時、小テストを実施し、課題を出します。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、基礎文法の復習	オリエンテーション（自己紹介）、既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	ロシア語能力検定試験対策（4級-1）	発音、アクセント、イントネーション、名詞の性別と人称代名詞
第3回	ロシア語能力検定試験対策（4級-2）	名詞の複数形、アクセントのついた文章の朗読
第4回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-1）	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、完了体と完了体）
第5回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-2）	副詞、無人称文、疑問詞と返答、命令形
第6回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-3）	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第7回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-4）	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）1

第8回	ロシア語能力検定試験対策（3級-1）	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）2
第9回	ロシア語能力検定試験対策（3級-2）	関係代名詞1
第10回	ロシア語能力検定試験対策（3級-3）とテキスト読解	関係代名詞2 テキスト読解（ロシアの市民生活など）
第11回	ロシア語能力検定試験対策（3級-4）とテキスト読解	数詞（数詞と名詞の変化） テキスト読解（ロシアの市民生活など）
第12回	テキスト読解と朗読1	テキスト読解と音読、朗読練習（ロシアの歴史など）
第13回	テキスト読解と朗読2	テキスト読解と音読、朗読練習（ロシアの歴史など）
第14回	テキスト読解と朗読3	テキスト読解と朗読（学生の要望を反映）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨み、課題は期限までに必ず提出してください。予習・復習を合わせた授業外の学習時間は、毎回4時間程度が目安です。そのほか、NHKラジオ『まいにちロシア語』やインターネットなどを通じて、日頃からロシア語に触れ、知識と興味を深めていきましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。
露和辞典（『博友社ロシア語辞典（改訂新版）』[1995年]が望ましい）

【参考書】

『初級ロシア語20課』桑野隆著、白水社、2012年
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年
『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年
『研究社露和辞典』、研究社、1988年
『研究社和露辞典＜改訂版＞』、研究社、2011年

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50%、小テスト・課題の評価（小テストや課題）50%で評価します。課題は、文法の練習問題、露文和訳、和文露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などを行い、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムで確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見や希望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的であり望ましいです。ロシア語能力検定試験4級、3級の合格を目指す学生も受験を予定していない学生も歓迎します。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。授業形態については対面が基本ですが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

This course is designed for students who have taken beginner Russian and wish to advance to the intermediate level. While completing the acquisition of basic grammar and learning intermediate grammar, students will develop their Russian language skills from the four directions of "reading, listening, speaking, and writing". The objective is for students to acquire a foundation of Russian language skills that can be used in Russian-speaking countries, and to deepen their knowledge not only of the language but also of Russian life, culture, and history through a variety of texts and audiovisual materials of different genres. Aim to pass Level 4 and Level 3 of the Russian Language Proficiency Test or acquire the same level of Russian language proficiency. Four hours of self-study per week is required to prepare for class. Grades are evaluated by attendance scores (50%) and scores on tests and homework (50%).

LANr200CB（ロシア語 / Russian language education 200）
ロシア語セミナー B
松澤 暢子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生のみ履修できます。初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を終え、中級以上を目指す学生のための授業です。基礎文法の習得を完成し、中級文法を学びながら、「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語能力を伸ばしていきます。ロシア語圏で通用するロシア語能力の基礎を身につけること、そして、様々なジャンルのテキストや視聴覚教材を通じ、言語だけでなくロシアの生活、文化、歴史への知識を深めることを目的とします。

【到達目標】

1. 基礎文法、基本的な語彙に加え、主に以下の4点を習得することで、ロシア語能力検定試験4級、3級の合格、または同程度のロシア語能力を身につけることを目指す。
 - ・辞書を使わずに短いテキストを読解、和訳できる。
 - ・ゆっくりとしたテンポで読まれたテキスト、簡単な日常会話を聞きとることができる。
 - ・発音、アクセント、イントネーションを意識した、滑らかな音読、会話（挨拶や簡単な日常会話）ができる。
 - ・基本的な語彙を使い、挨拶や自己紹介などを書くことができる。
2. 中級文法を学習し、辞書を使いながら文学作品を含む様々なジャンルのテキストを読み解く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で行います。基礎文法を総復習し、5月、10月のロシア語能力検定試験（4級、3級）の受験を視野に、文法、露文和訳、和文露訳等の対策問題を解いていきます。基礎文法の復習後は、中級文法を学習し、辞書を使って文学作品を含む幅広いジャンルのテキストの読解にも挑戦します。また、生きたロシア語に触れるため、朗読、映画等の視聴覚教材を使用したリスニングの練習を毎回行います。同様に、発音、アクセント、イントネーションを意識した音読または会話の練習も毎回行います。そのほか、随時、小テストを実施し、課題を出します。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文法の復習と検定試験対策 1	動詞の体と時制、命令形格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第2回	文法の復習と検定試験対策 2	形容詞・副詞の比較級
第3回	文法の復習と検定試験対策 3	否定生格
第4回	中級文法の学習と検定試験対策 4	副動詞 1
第5回	中級文法の学習とテキスト読解	副動詞 2 テキスト読解（ロシアの文化など）
第6回	中級文法の学習とテキスト読解	能動形動詞 1 テキスト読解（ロシアの文化など）

第7回	中級文法の学習とテキスト読解	能動形動詞 2 テキスト読解（ロシアの民話など）
第8回	中級文法の学習とテキスト読解	被動形動詞 1 テキスト読解（ロシアの民話など）
第9回	中級文法の学習とテキスト読解	被動形動詞 2 テキスト読解（文学作品）
第10回	テキスト読解と朗読 1	テキスト読解（文学作品）と音読、朗読練習
第11回	テキスト読解と朗読 2	テキスト読解（文学作品）と音読、朗読練習
第12回	テキスト読解と朗読 3	テキスト読解（文学作品）と音読、朗読練習
第13回	テキスト読解と朗読 4	テキスト読解（文学作品）と音読、朗読練習
第14回	テキスト読解と朗読 5	テキスト読解と朗読（学生の要望を反映）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨み、課題は期限までに必ず提出してください。予習・復習を合わせた授業外の学習時間は、毎回4時間程度が目安です。そのほか、NHKラジオ『まいにちロシア語』やインターネットなどを通じて、日頃からロシア語に触れ、知識と興味を深めていきましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。
露和辞典『博友社ロシア語辞典（改訂新版）』[1995年]が望ましい。

【参考書】

『初級ロシア語20課』桑野隆著、白水社、2012年
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年
『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年
『研究社露和辞典』、研究社、1988年
『研究社和露辞典＜改訂版＞』、研究社、2011年

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50%、小テスト・課題の評価（小テストや課題）50%で評価します。課題は、文法の練習問題、露文和訳、和文露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などを行い、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムで確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見や希望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的であり望ましいです。ロシア語能力検定試験4級、3級の合格を目指す学生も受験を予定していない学生も歓迎します。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。授業形態については対面が基本ですが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

This course is designed for students who have taken beginner Russian and wish to advance to the intermediate level. While completing the acquisition of basic grammar and learning intermediate grammar, students will develop their Russian language skills from the four directions of "reading, listening, speaking, and writing". The objective is for students to acquire a foundation of Russian language skills that can be used in Russian-speaking countries, and to deepen their knowledge not only of the language but also of Russian life, culture, and history through a variety of texts and audiovisual materials of different genres. Aim to pass Level 4 and Level 3 of the Russian Language Proficiency Test or acquire the same level of Russian language proficiency. Four hours of self-study per week is required to prepare for class. Grades are evaluated by attendance scores (50%) and scores on tests and homework (50%).

LANC200CA
中国語セミナー A
石 碩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。

授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。

中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。

また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方
第2回	第1課	読解 (もはや山は高くなく、海は遠くない)
第3回	第2課	読解 (旅のお目当ては博物館)
第4回	1、2課のまとめ、発表	発表
第5回	第3課	読解 (私の青春は私のもの)
第6回	第4課	読解 (東北三省はお笑いの総本山)
第7回	3、4課のまとめ、発表	発表
第8回	第5課	読解 (結婚式はシンプルが一番！)
第9回	第6課	読解 (スーパーやコンビニが農村にオープン)
第10回	5、6課のまとめ、発表	発表
第11回	第7課	読解 (ネット新語との付き合い方)
第12回	第8課	読解 (中国人が日本で「爆買い」から「爆入学」へ)
第13回	7、8課のまとめ、発表	発表
第14回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。

また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は4時間程度です。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2025年度版』朝日出版社、2025年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、試験70%

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい。

【その他の重要事項】

2年間中国語を学習した人を対象とします。

ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業時に面談を行います。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to improve Chinese language proficiency and cross-cultural understanding. Students are expected to translate the textbook into Japanese and research related current affairs. Preparation and review time will be approximately 4 hours. Evaluation will be based on 30% regular marks and 70% examinations.

LANC200CA
中国語セミナー B
石 碩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。
また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。
学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	前期のまとめ
第2回	第9課	読解 (ローテク、ハイテク、どちらも大事)
第3回	第10課	読解 (中国の麺の都は山西省か、陝西省か)
第4回	9、10課のまとめ、発表	発表
第5回	第11課	読解 (定年後のトレーニングに「年齢制限」)
第6回	第12課	読解 (新技術が切り拓く新世界)
第7回	11、12課のまとめ、発表	読解
第8回	第13課	読解 (消費財の買い替えを国が推進)
第9回	第14課	読解 (福建と台湾、今昔往来物語)
第10回	第15課	読解 (東京の中国人書店)
第11回	13、14、15課のまとめ、発表	発表
第12回	補助教材	読解、発表
第13回	補助教材	読解、発表
第14回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。
また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は4時間程度です。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2025年度版』朝日出版社、2025年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、試験70%

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2年間中国語を学習した人を対象とします。
ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業に面談を行います。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to improve Chinese language proficiency and cross-cultural understanding. Students are expected to translate the textbook into Japanese and research related current affairs. Preparation and review time will be approximately 4 hours. Evaluation will be based on 30%regular marks and 70%examinations.

LANs200CA（スペイン語 / Spanish language education 200）
スペイン語セミナー A
芝田 幸一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代文明、天然資源、三十数年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、調べ、（可能ならスペイン語で）発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】

1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週Hoppiiを確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第2回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第3回	復習②と基礎的知識①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。 ラテンアメリカとペルーの概説講義①
第4回	基礎的知識②	ラテンアメリカとペルーの概説講義②
第5回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第6回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第7回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第8回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第9回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第10回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第11回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第12回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第13回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第14回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで1～2頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成等）。準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための66章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru(2000)／ペルー国家統計情報局（<https://www.inei.gob.pe/>）

【成績評価の方法と基準】

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90％＋口頭試験10％で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。キャンパス探検会話実習は好評だったため状況次第で実施したい。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布はHoppii上で行う。

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学1年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもある）。スペイン語辞書必携。

【Outline (in English)】

[Course Outline] This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America. [Learning Objectives] At the end of the course, participants are expected to 1)explain the principal characteristics of Peru and its cultural, social and historical backgrounds; and 2)read local newspapers with the aid of Spanish dictionary. [Learning Activities outside of Classroom] 1)Read assigned part of the Spanish text and translate it into Japanese, and 2)prepare oral presentation about relevant topics. Your study time will be four hours for a class. [Grading Criteria /Policy] Grading will be decided based on Term-end oral examination (10%), and in-class contribution including above mentioned translation and oral presentation (90%).

LANs200CA（スペイン語 / Spanish language education 200）
スペイン語セミナー B
芝田 幸一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代文明、天然資源、三十数年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、調べ、（可能ならスペイン語で）発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】

- 1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
- 2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間制通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週Hoppiiを確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第2回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第3回	復習②と基礎的知識	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。 ラテンアメリカとペルーの概説講義
第4回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第5回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第6回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第7回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第8回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第9回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第10回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第11回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第12回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第13回	復習③	口頭試験の準備
第14回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで1～2頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成、スペイン語作文等）。準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための66章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru（2000）／ペルー国家統計情報局（<https://www.inei.gob.pe/>）／エル・コメルシオ紙（<http://elcomercio.pe/>）

【成績評価の方法と基準】

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90％＋口頭試験10％で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布はHoppii上で行う。

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学1年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもある）。スペイン語辞書必携。

【Outline (in English)】

[Course Outline] This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America. [Learning Objectives] At the end of the course, participants are expected to 1)explain the principal characteristics of Peru and its cultural, social and historical backgrounds; and 2)read local newspapers with the aid of Spanish dictionary. [Learning Activities outside of Classroom] 1)Read assigned part of the Spanish text and translate it into Japanese, and 2)prepare oral presentation about relevant topics. Your study time will be four hours for a class. [Grading Criteria /Policy] Grading will be decided based on Term-end oral examination (10%), and in-class contribution including above mentioned translation and oral presentation (90%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
現代社会と情報 A
坂本 憲昭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システム・ITは社会の隅々まで深く浸透し、どのようなビジネスにおいても、それらを活用することが必須であり、ITと経営全般に関する総合的知識が不可欠です。そのために経営戦略、マーケティング、情報セキュリティ、知的財産権などの基礎（またはツール）を学びます。具体的には、これらの職業人としての知識を集約した「情報処理の促進に関する法律」に基づく国家試験ITパスポートの内容に準拠し、そしてシステムやアプリケーションソフトを発注する立場として受け入れテストに関するソフトウェアテストやその技法の基礎を活用します。

【到達目標】

職業人としての社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力の取得、現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を習得し、情報が現代社会に及ぼす影響を理解します。具体的に、(1)情報システムを業務に活用し、情報システムの投資対効果などを理解します。(2)企業における問題発見・問題解決のために、業務の把握、データ収集・分析・解析、解決策の策定などに寄与するITツールの知識を習得します。(3)情報システムを安全に利用するためのセキュリティなどの知識、情報倫理などを習得します。(4)ソフトウェアの受け入れテストに関する基礎知識の一部を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内容は3本柱になります。それぞれにおいて「講義と演習問題」試験のサイクルで授業を進めます。下記の授業計画は概要で流れを示したものです。試験は3回あります。提出課題はありません。各試験結果のフィードバックは「学習支援システム」で公開します。「学習支援システム」を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび現代社会における情報システム	情報化社会において求められる職業人としての知識について
第2回	ストラテジ系前半（企業活動）	企業活動、企業の組織、最高情報責任者CIO、コンプライアンス、ORやIEなど
第3回	ストラテジ系前半（業務把握ツール）	問題発見のための業務把握のためのICTツール、情報ツールなど
第4回	ストラテジ系前半（業務分析ツール）	問題解決のための業務解析、業務分析のためのツールと活用事例等
第5回	ストラテジ系前半試験	ストラテジ系前半の確認となる試験と復習など
第6回	ストラテジ系後半（経営戦略策定ツール）	経営戦略策定のためのデータ収集手法など
第7回	ストラテジ系後半（分析手法）	ビジネス戦略策定のためのデータ分析手法など
第8回	ストラテジ系後半（情報システム）	情報システム戦略の策定と事例紹介、アローダイアグラムなど
第9回	ストラテジ系後半（ビジネスインダストリ技術）	規格、標準化、電子商取引社会などの情報システム、ビジネスインダストリなど
第10回	ビジネスインダストリ事例	情報社会におけるビジネスインダストリに関する事例紹介等とマネジメント系の一部
第11回	ストラテジ系後半試験	ストラテジ系後半の確認となる試験と復習など、マネジメント系を一部含む
第12回	ITスキル及びモラルと計算問題	計算問題（PARTⅡ、物の流れと比率SPIなど）演習
第13回	ITスキル及びモラルと受入テスト	情報倫理・情報セキュリティ、To/CC/BCC、など
第14回	ITスキル及びモラル範囲試験	ITスキル及びモラルとこれまでの計算問題試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習に取り組む時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、教員による解説資料と演習問題を学習支援システムに掲載します。

【参考書】

情報処理技術者試験「ITパスポート」の参考書および問題集が参考書になります。タイトルに「ソフトウェアテスト」の単語が含まれる書籍が参考書になります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムのテスト機能を使い3回試験をします。試験結果点数の換算方法などの詳細についてガイダンスファイルを必ず参照してください。成績評価は100点満点に換算して60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムに掲載されるガイダンスファイルを参照しない方がいらっしやいます。必ず参照してください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講する機器を各自で準備する必要があります。ご自分のパソコン、安定したインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

- ・学習支援システムに掲載する最新の「ガイダンスファイル」を参照してください。成績や公欠についての質問があった際は、最初にまず「ガイダンスファイル」を参照してください。
- ・「実務経験のある教員による授業」に該当し、システム部での業務経験に基づく事例紹介をします。
- ・受講する場合は、ガイダンスファイルに記載した内容を「理解/納得/了承」してから、本登録してください。
- ・情報処理技術者試験「ITパスポート」とは、情報処理の促進に関する法律（昭和45年法律第90号）に基づき、経済産業大臣が実施する情報処理に関する業務を行う者の技術の向上に資するため、情報処理に関して必要な知識及び技能を問う、日本の国家試験です。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire knowledge in information technology and management.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to can answer questions about strategy and management on the IT Passport exam of the Japan Information-Technology Engineers Examination.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Your overall grade in the class will be decided according to the three examination (100%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
現代社会と情報 B
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術の発展は、情報・知識の自由な創造・流通・共有化を可能にし、それは経済・社会に大きな変革をもたらした。一方、個人に関する大量の情報が集積・利用されたことに伴い、個人情報保護についての不安も顕在化した。個人情報を保護しつつ、マイクロデータ（個体情報が記録されたデータ）をいかに社会全体の利益のために活用すべきかを論じる。

【到達目標】

個人情報保護の重要性を十分に認識した上で、マイクロデータ活用の有効性を理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

理解を深めるために講義中にワークシートを授業支援システムを通じて配布し、学生はそれに解答する。ワークシートの提出期限後に正解がフィードバックされる。授業翌日以降に提出すると減点される。締切直前に提出しようとして提出できない学生がいるかもしれないが、提出期間は6日間あるので、締切後の提出は認められない。また公的マイクロデータ（一般用マイクロデータ）を用いた分析手法（多変量解析）を学習し、実際にそれを用いた分析を行い、レポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	情報化社会を予測した人々	梅棹忠夫『情報産業論』、林雄二郎『情報化社会』、ダニエル・ペル『脱工業社会の到来』、ドォロネ、ギャドレ『サービス産業学説史』
2	米国対抗文化とパーソナルコンピュータの登場	メインフレームによる支配、マクナマラ、デビッド・ハルバースタム『ベスト&ブライテスト』、アップル、DVD『ステイプ・ジョブズ：ラスト・メッセージ』 視聴
3	シリコン・バレーのベンチャー企業によるマイクロプロセッサの開発	スタンフォード大学、ベンチャー企業、マイクロプロセッサ、DVD『シリコン・バレーの百年』 視聴
4	ネット社会の到来と検索エンジン	検索エンジンとターゲット広告、村井純『インターネットの基礎』、佐々木俊尚『グーグル Google 既存のビジネスを破壊する』、エリック・シュミット、ジャレッド・コーエン『第五の権力』、DVD『グーグル革命』 視聴、西垣通『IT革命—ネット社会のゆくえ』、西垣通『ウェブ社会をどう生きるか』

5	ビッグデータと人工知能	ビクター・マイヤー＝ショーンベルガー、ケネス・クキエ『ビッグデータの正体』、西垣通『ビッグデータと人工知能』、涌井良幸、涌井貞美『Excelでわかるディープラーニング超入門』、新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』
6	デジタル経済の把握	『GDP推計の新たな展開』（2025年夏刊行予定）
7	ジョージ・オーウェルの『1984』と監視社会	DVD『1984』 視聴、デイヴィッド・ライアン『監視社会』
8	個人情報保護とパーソナルデータの利活用	住民基本台帳ネットワーク、個人情報保護法、堀部政男『プライバシーと高度情報化社会』、年金記録問題、マイナンバー、個人情報保護とデータの利活用、オープンデータ、オプアウト、「内定辞退予測」の問題
9	公的マイクロデータの利活用（1）一般用マイクロデータとは何か	統計法、匿名データ、匿名化の技法、一般用マイクロデータ、基本統計量の計算
10	公的マイクロデータの利活用（2）相関と回帰	相関と回帰、クロス集計表
11	公的マイクロデータの利活用（3）主成分分析と因子分析	固有値と固有ベクトル、主成分分析、因子分析
12	公的マイクロデータの利活用（4）クラスター分析、判別分析	クラスター分析、判別分析
13	公的マイクロデータの利活用（5）レポート作成	公的マイクロデータ（一般用マイクロデータ）を用いた分析レポート作成
14	レポート講評	レポート講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。授業で用いたPowerpointのファイルをpdf形式で授業支援システムを通じて配布する。

【参考書】

各回の内容の欄に参照する文献を示した。

【成績評価の方法と基準】

毎回のワークシート 40%

公的マイクロデータ（一般用マイクロデータ）を用いた分析レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

ワークシートの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

【Outline (in English)】

Course outline: The development of information and communication technology has enabled the free creation, distribution, and sharing of information and knowledge, which has brought about major changes in the economy and society. On the other hand, with the accumulation and use of a large amount of personal information, anxiety about personal information protection has become apparent. Discuss how micro data (data on which individual information is recorded) should be used for the benefit of society as a whole while protecting personal information.

Learning Objectives: Be able to understand the effectiveness of micro data utilization after fully recognizing the importance of personal information protection.

Learning activities outside of classroom: The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Worksheet at each class 40%. Analytical report using official micro data (micro data for general use) 60%

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
経済統計論 A
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世帯統計を取り上げる。個人・世帯の行政記録情報から出発して、国勢調査、家計調査、消費者物価指数、消費動向指数という流れを説明する。

【到達目標】

経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

理解を深めるために講義中にワークシートを授業支援システムを通じて配布し、学生はそれに解答する。ワークシートの提出期限後に正解がフィードバックされる。授業翌日以降に提出すると減点される。締切直前に提出しようとして提出できない学生がいるかもしれないが、提出期間は6日間あるので、締切後の提出は認められない。また家計簿アプリを用いて学生の消費支出調査を実施し、それに基づいて分析を行い、レポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	個人・世帯についての行政記録情報	世帯統計の流れ、住民基本台帳、戸籍法による届出、出入国管理記録
2	国勢調査（1）民主主義の基盤、調査方法	国勢調査の必要性、選挙区の区割り、標本調査のサンプリングフレーム、調査方法、調査員調査
3	国勢調査（2）人口の基本的属性	人口の基本的属性、人口ピラミッド、団塊の世代、人口の高齢化、標準世帯、単身世帯の増加、首都圏への人口集中
4	国勢調査（3）人口の経済的属性	人口の経済的属性、就業状態、産業と職業、ベティ＝クラークの法則
5	人口推計と人口予測	人口学的方程式、中間年人口の推計、人口の将来予測、出生率、死亡率、純移動率、コーホート変化率
6	標本抽出法	単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出、層化多段抽出、標本誤差
7	家計調査（1）家計簿、調査方法	家計簿、調査方法、家計簿アプリ、「学生の個人消費支出調査」
8	家計調査（2）エンゲルの法則	エンゲル係数、エンゲルの法則、需要の所得弾力性
9	家計調査（3）不平等度を測る	ローレンツ曲線、ジニ係数、相対的貧困率、全国消費実態調査
10	消費者物価指数（1）	インフレとは、指数算式、フィッシャーのテスト、速報性
11	消費者物価指数（2）	理論的生計費指数、パーシェ・チェック、基準改定、CPIショック、連鎖指数、実質化、要因分解

12	消費動向指数	実質化、1か月の日数の影響、世帯人員の影響、世帯主の年齢の影響、高額消費、家計消費状況調査、単身モニター調査、傾向スコア
13	レポート作成	「学生の個人消費支出調査」を分析したレポート作成
14	レポート講評	レポート講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。授業で用いたPowerpointのファイルをpdf形式で授業支援システムを通じて配布する。

【参考書】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館 3850円（※過去の教科書。内容が旧くなっているので今年度は参考書とした。）
福井武弘『標本調査の理論と実際』日本統計協会 1650円

【成績評価の方法と基準】

毎回のワークシート40％
「学生の個人消費支出調査の分析」レポート 60％

【学生の意見等からの気づき】

ワークシートの正解をなるべく早く授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

(Course outline) Economic statistics B deals with household statistics. Starting from the administrative record of individuals and households, I will explain the flow of census, household survey, and consumer price index.
(Learning Objectives) The objective is to acquire the ability to read economic and social statistics deeply, rather than superficially, by understanding the system based on which statistics that describe the economy and society are created.
(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy) Worksheet at each class 40%. Analytical report on a survey of student consumer spending using a household budgeting application. 60%.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
経済統計論 B
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内総生産（Gross Domestic Product, GDP）は物価指数や失業率と並んで、おそらく最もよく知られている経済指標の一つであろう。とても有名なので「GDPとは何ですか？」と聞かれれば、「国内で一定期間内に生産された財・サービスの付加価値の合計額」と答えられる人は少なくないであろう。けれども「どうやって推計しているか知っていますか？」と聞かれて答えられる人は多くはいないであろう。経済統計論Bでは国民経済計算（System of National Accounts, SNA）の推計方法を供給・使用表（Supply Use Tables, SUT）を通じて説明する。なおSUTとはSNAを推計する基礎となる統計表である。

【到達目標】

国民経済計算がどのように推計されているかを理解することによって、GDP統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

理解を深めるために講義中にワークシートを授業支援システムを通じて配布し、学生はそれに解答する。ワークシートの提出期限後に正解がフィードバックされる。授業翌日以降に提出すると減点される。締切直前に提出しようとして提出できない学生がいるかもしれないが、提出期間は6日間あるので、締切後の提出は認められない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	SUTとは何か	産業連関表と供給・使用表のちがい、簡単な架空のパンの例、実際の産業・生産物3部門の例
2	国民経済計算のSUT	SNAの統合経済勘定、財・サービス勘定と海外勘定、SUTへの拡張
3	SUTの歴史	国連が勧告したSNA体系、1968SNA、1993SNA、2008SNA
4	海外のSUT	GDPの生産・支出・所得、GDP三面推計の関係、主要国SUTの設計、速報性と正確性
5	SUTのバランシング	「統計上の不突合」とは何か、バランシングのイメージ、手順、具体的な計算例
6	SUT体系移行の背景	SUT体系移行、移行検討の経緯、令和2年表の公表とその後の進展
7	産業連関表とSUTの違い	「商品×商品表」のメリット、産業連関分析とは、実際の産業連関分析の計算例
8	SUTにおける産業分類と生産物分類の適用	SUTにおける産業分類と生産物分類の必要性、日本の産業分類・生産物分類
9	SUTと産業統計(1)	産業統計のしくみ、経済センサス-活動調査
10	SUTと産業統計(2)	経済センサス-活動調査、産業連関構造調査、経済構造実態調査

11	SUTの作成方法	SUT推計精度の向上、統計単位・部門、供給表の部門概念と基礎統計の関係
12	SUTから産業連関表への変換	副次的生産、SUTから産業連関表への変換、各仮定に基づく変換過程
13	SUTと国際貿易	国際産業連関表の概要、各国データを用いた国際産業連関表の作成、付加価値貿易指標
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『GDP推計の新たな展開』日本評論社（2025年夏刊行予定）

*パワーポイントは配布しない。

【参考書】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館 3850円

【成績評価の方法と基準】

毎回のワークシート40%

期末試験（対面、教科書・ノート持ち込み可）60%

【学生の意見等からの気づき】

ワークシートの正解をなるべく早く授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

(Course outline) Gross Domestic Product (GDP) is probably one of the most well-known economic indicators, along with the price index and the unemployment rate. So well known is it that if you were to ask, “What is GDP?” many people would be able to answer, “It is the total value added of goods and services produced in Japan during a certain period of time. However, not many people can answer the question, “Do you know how it is estimated? However, not many people would be able to answer the question, “Do you know how it is estimated? In Economic Statistics B, the estimation method of the System of National Accounts (SNA) is explained through Supply Use Tables (SUT). The SUT is a statistical table that serves as the basis for estimating the SNA.

(Learning Objectives): To develop the ability to understand GDP statistics in depth rather than superficially.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) Worksheet at each class 40%

Final exam (face-to-face, students may bring in textbooks and notes) 60%

PHL300CA (哲学 / Philosophy 300)
日本文化論
黒田 俊太郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「定番教材」を読み直す。
高校の国語教科書で夏目漱石の「こころ」という小説に接したという人は少なくないだろう。教科書で老若男女に読まれてきたそうした「定番教材」はしかし、いつの時代も同じ読まれ方がなされてきたわけではない。「定番教材」はこれまで様々な読まれ方がなされてきたのであり、それらは時代を映す鏡でもあるはずである。
この授業ではいくつかの「定番教材」を扱うが、それらの物語のこれまでの読まれ方を参照しながら、物語世界内で展開される対話、あるいは提示される課題について、改めて私たちの「教室」で議論してみたい。私たちが作品を読むことで対峙することになる解決困難な「問い」は、現代的な課題として私たちに残されたものでもあるだろう。

この授業では、そうした「問い」に対しあくまでも分析的に迫るためのいくつかの方法論（注釈・作品研究史の調査・文学理論など）についても紹介したい。

【到達目標】

・「定番教材」に内在していた「問い」を再発見し、現代的な課題として問い直そうとする。（態度目標 [本単元で育成したい学習者の態度]）
・「定番教材」に内在する「問い」についての学習者同士や教師との対話を通して、私たちが人生において向き合ねばならない本質的問題について知る。（価値目標 [本単元で考えさせたい内容や価値観]）
・小説を分析的に読むための基本的な研究方法・調査方法を学び、小説を分析することができる。（技能目標 [本単元で習得させたい知識や言語能力]）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指示された「定番教材」や先行研究を読んでくること。授業では、「定番教材」や研究方法・調査方法に関する講義を行うが、それに関連する課題にも必ず取り組んでもらう。また課題についてグループで話し合ったり、グループ内の意見を全体に対しプレゼンしたりしてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的
第2回	作品・テキスト・語り手	研究史
第3回	森鷗外の文学/「高瀬舟」	視点・視点人物
第4回	森鷗外の文学/「高瀬舟」	焦点化
第5回	森鷗外の文学/「高瀬舟」	語りの構造
第6回	佐多稲子の文学/「キャラメル工場から」	注釈
第7回	佐多稲子の文学/「キャラメル工場から」	プロレタリア文学とマルクス主義

第8回	佐多稲子の文学/「キャラメル工場から」	都市論
第9回	太宰治の文学/「富嶽百景」	私小説
第10回	太宰治の文学/「富嶽百景」	〈私〉の再生
第11回	太宰治の文学/「富嶽百景」	書き込まれた〈ウソ〉
第12回	向田邦子の文学/「字のない葉書」	防空法
第13回	向田邦子の文学/「字のない葉書」	「父」の〈決断〉
第14回	まとめ	半期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習者には、事前課題や復習課題に取り組んでもらうことがある。また、課題の有無に関わらず、準備学習・復習はそれぞれ2時間を目安に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。適宜資料を配布する。

【参考書】

佐藤泉『国語教科書の戦後史』勁草書房、2006
石原千秋『国語教科書の中の「日本」』筑摩書房、2009
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・受講態度(10%)・レポート(50%)・ワークシート(40%)。提出物は必ず出すこと。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品が製作された歴史的背景・理論の解説が、学習者の作品理解に確実に繋がっていることがアンケートなどからわかります。今後そうした作品理解に連続する背景知識や理論の紹介に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンかタブレットを必ず持参すること。授業中は、それらのデバイスを積極的に用いて情報収集を行いながら、課題等に取り組んでください。

【Outline (in English)】

This course will deal with the novels that have been repeatedly published in Japanese language textbooks for schools at all three levels.

Many people, young and old, might have encountered Natsume Soseki's novel "Kokoro" in high school as this novel has been picked up in high school Japanese textbooks many times over decades. This kind of "regular" novels in textbooks, however, have not always been read in the same way. Its interpretation has varied depending on time and this course will consider the social or historical backgrounds these different interpretations could reflect.

In this course, students will read a different "regular" novel for each class time while referring to how these novels have been read so far. Students will also discuss the dialogues and the issues presented in the texts as intractable issues in such novels continue to be contemporary issues.

In order to analytically approach such issues, this course will also introduce students to some methodologies such as literary theory.

Students are expected to spend about two hours for preparation and review of each class, respectively.

Grading Policy: A comprehensive evaluation will be made based on each student's attitude(10%), reports(50%), and worksheets(40%).

POL300CA (政治学 / Politics 300)
政治過程論
岡崎 加奈子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、政治の果たす役割は重要である。しかしながら、私たちは、政治的調整・決定の過程の実態についてどれほど理解し、思考しているだろうか。本講義では、政治過程論についての基礎的概念を身につけ、現代日本の政治過程についての幅広い知識と理解を深め、今日の政治課題について深く考察することを目的とする。

【到達目標】

本講義では以下の点を到達目標とする。
 学生が現代社会の政治をめぐる制度や政治過程について、幅広い知識と理解を得られること。
 学生が政治的な事象について自ら考察し、社会と自分との関係性について幅広く思考する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、現代日本における政治制度・政治過程について、授業で配布するレジュメ・資料をもとに講義をすすめていく。その際、国会、政党、市民など現代の政治を構成する要素について理解するとともに、これらが政治過程の中でどのような位置にあるかを考察していく。

学生は、毎授業後に質問・意見・感想等を提出する。次回授業においては、質問にたいする回答や意見・感想の紹介などの共有をおこなう。授業内では、そのほかレポート課題などをおこなう場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	政治過程論とは何か
第2回	現代社会と政策	現代社会の特徴と政策について
第3回	権力とは何か	権力と政治について
第4回	代表制	民主主義と代表制について
第5回	国会審議制度	議会の発達と国会のしくみ
第6回	立法過程	閣法・議員立法の審議過程
第7回	官僚・利益団体	政治過程における官僚・利益団体
第8回	政党制	政党の発達と政党制
第9回	戦後政党政治	戦後日本の政党政治の変遷
第10回	自治体のしくみ	自治体の政治過程と地方分権改革
第11回	自治体の財政・政策	自治体の財政・政策とその課題
第12回	世論・メディア	世論の形成とメディアの影響
第13回	市民とは何か	現代社会における市民の政治意識と政治参加
第14回	まとめ	これまでの振り返りと講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業内容と毎回配布される資料をもとにノートを作成し復習すること。また本講義は、時事的な政治事象と関連づけた講義内容となることから、学生は、日ごろから新聞などをよく読むこと、さらに、講義の中で紹介する参考文献等について読むことが望ましい。本授業の復習および関連学習の時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業内で適宜、参考文献を紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験(60%)および平常点(40%)により評価する。平常点は毎回の授業への取り組みや、レポート等課題の提出及びその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

社会で日々生じる政治的な事象について、講義の内容を通じてより深く思考できる力を養うことを意識し、講義をおこなっていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of political process. This course deals with the basic concepts and principles of the party system, the bureaucracy and the Diet in Japan.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

At the end of the course, participants are expected to understand the basic political science and key challenges related to the political process in the modern society.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

POL300CA (政治学 / Politics 300)
国際政治論
曹 海石
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学の基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

この講義では、国際政治をめぐる様々な概念と理論を紹介すると同時に、「国際政治を見る目」を養うトレーニングを行う。受講生には、毎回授業の最後に質問を出してもらう。そこで、学生諸君は、東アジア及び欧米などの政治情勢を一定程度理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、社会科学という視点と歴史的な観点から、国際政治における主要な概念と理論を分析しながら、現代の世界を考えていく。また、中国・朝鮮半島及び東南アジア諸国の開発・近代化、政治体制とその移行、民主化とナショナリズムを、日本の戦後史と関連付けながら相互関係を考察する。なお、授業形態は、講義に加えて、授業内での課題発表や個別課題等に対するフィードバック方法などを取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際連合と国際政治とは何か	第二次世界大戦、国際連合、米ソ関係、多極化、イデオロギー
第2回	冷戦と朝鮮戦争	冷戦、国連軍、中国志願軍、サンフランシスコ講和会議、日米同盟
第3回	現代中国の政治と外交	毛沢東、文化大革命、鄧小平、一人っ子政策、改革開放政策
第4回	戦後の日中関係史	民間貿易協定、国交正常化、天皇陛下訪中、ODA、尖閣諸島問題
第5回	台湾問題と米中関係	金門砲撃、一国二制度、米国の台湾関係法、台湾ナショナリズム、三つのノー
第6回	中国の少数民族問題	民族政策、民族教育、チベット、新疆ウイグル自治区、ダライラマ
第7回	韓国の政治と外交	李承晩ライン、軍事独裁、民主化運動、保守と革新、太陽政策
第8回	日韓関係	日韓基本条約、金大中事件、日本文化の開放、韓流ブーム、知られざる条約内容秘話
第9回	北朝鮮の政治と外交	金日成、先軍政治、核戦略、世襲体制、同距離外交
第10回	南北朝鮮関係	離散家族、経済支援、首脳会談、開城工業団地
第11回	日朝関係	朝鮮人帰国事業、拉致問題、万景峰号旅客船、日朝平壤宣言
第12回	知られざる中朝関係	相互援助協力条約、古朝鮮と領土問題、東北歴史工程、高句麗問題
第13回	日本と東南アジア諸国	ODA、アセアン・プラス3、FTA、南シナ海問題、RCEP
第14回	復習と試験	今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be required to use the Internet to research topics in preparation for the classroom sessions. Writing tasks will also be set for homework. 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

- 1、古畑康雄編『習近平時代のネット社会』勉誠出版社、2016年。
- 2、下斗米編『アジア冷戦史』中央公論新社、2004年。
- 3、天児慧編『膨張する中国の対外関係』勁草書房、2010年。
- 4、鐸木昌之『北朝鮮』東京大学出版会、1992年。
- 5、鈴木佑司『東南アジアの危機の構造』勁草書房、1988年。
- 6、国分良成など『日中関係史』有斐閣、2013年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度「平常点」30%、レポート課題10%、期末テスト60%

【学生の意見等からの気づき】

日本のテレビや新聞雑誌では報道されていない内容、二国間、ないし三国間の政治関連の裏話などをもっと追加すること。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

In this course, we will consider Realism, Liberalism and Constructivism, which are the basic theoretical frameworks that understand international relations. Then, by applying them to the explanation of specific events after World War II, clarifying the range and the limit of the theory.

Students will be required to use the Internet to research topics in preparation for the classroom sessions. Writing tasks will also be set for homework.

Grades will be calculated in the following way :

30 % class participation

10 % Report

60 % Test

PHL300CA (哲学 / Philosophy 300)
日本思想史
古澤 直人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本思想の基層にある伝統思想を検討する。政治思想としての忠誠と反逆の思想は詳細に検討する。思想史に関する如上のテーマを論述する活動を通じて、事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【到達目標】

日本の伝統思想と政治思想を学ぶ。具体的には、中華思想、小中華思想、神仏習合思想、公権授受思想、合議の思想、徳治主義などの理解を深める。日本思想史の大きなテーマである忠誠と反逆の思想については歴史的人物に即して深い知見を得る。関連史料を読み解き、歴史的思考力の獲得をめざす。毎回ショートペーパーを提出し到達度を評価されるものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップした各回の講義資料（ワードPDF）を事前に読み、課題回答の要点をメモ書きしておく。パワーポイントにそって授業を進め、章ごとに設定された課題の回答をそれぞれ考える。課題のうち一つを授業中に毎回学習支援システムに提出してもらう。課題は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際環境としての中華思想	礼、天下、王道理論、徳治主義、東アジアの国際秩序
2	小中華思想	中国文化と国粋主義、辺土小国思想、罪と穢れと災い、ケガレ意識
3	神仏習合思想	日本の宗教思想、神と仏の関係、神宮寺建立、本地垂迹説、御霊信仰
4	歴史思想	『源氏物語』と『平家物語』、読者層の違い、歴史観への影響
5	武士の思想①：平清盛前半生を通じて	清盛をめぐる伝承、海洋国家思想、平家一門の繁栄、清盛の思想変貌
6	武士の思想②：平清盛後半生を通じて	忠と孝、忠誠と反逆、天皇の信義、海洋国家思想
7	武士の思想③：源頼朝を通じて	冷酷と温情、頼朝の政治思想、京都派と東国派
8	武士の思想④：木曾義仲を通じて	京都の義仲、異質な存在としての武士、主従思想
9	武士の思想⑤：源義経を通じて	判官最良、伝説、合戦のルール、反逆と没落
10	幕府成立をめぐる思想的対立	公権授受思想、朝廷権威か第2の主権か、形式と実体
11	執権政治と合議制の思想	將軍専制、権力と権威、日本的政治システム
12	承久の乱と徳治思想	朝廷の権威、政子の演説、天皇権威の失墜
13	御成敗式目の思想	強きものと弱きもの、北条泰時の思想、道理の思想
14	まとめとテスト	まとめ、テスト、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップした講義資料（ワードPDF）を事前に読み、課題の回答をメモ書きしておく。講義後学習支援システムに挙げた「課題の解説と回答例」をみて復習する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材を学習支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】

家永三郎『日本道德思想史』（岩波書店、1977年改版）。

【成績評価の方法と基準】

提出課題に関する評価の相加重平均（90％）。期末試験（20％）。これに平常点（授業への積極的な貢献度）を考慮して（10％）、総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

回によって内容が多すぎるという指摘があるので厳選したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、PCまたはタブレット。授業中に課題を提出するため必須となる。

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で『高校日本史教科書』（とくに古代中世の部分）を自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

Consider the traditional thought that is the basis of Japanese thought. For example, the Chinese thought, and Shinbutsu-shugo thought, loyalty and rebellion as samurai ideas. At the end of the course, students are expected to acquire historical recognition method. Students must submit a short paper for each assignment. Final grade will be calculated by the arithmetic mean of each test (90%), and in-class contribution (10%). Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
開発経済入門A
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済成長の理論と実証分析、伝統的な農業から工業への経済発展のプロセスを学びます。また、これらの開発経済学のトピックを学ぶ準備として、かつ、経済学部1年生向けの経済学入門の補足として、労働需要、所得分配、回帰分析を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国の経済は大きく、成長が緩やかなのに、サブサハラアフリカの国々の経済は小さく、成長が急激なのでしょうか？ 経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2024年度の履修者数に基づいて、教室を割り当てられていない、オンライン授業が確定している科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	高校地歴の教育における本授業の意味、労働需要1	生産関数、等利潤線
第2回	労働需要2	利潤最大化（図による導出）、微分
第3回	労働需要3	利潤最大化（数式による導出）
第4回	労働需要4	労働と資本、所得分配
第5回	経済成長1	対数、成長率、対数、成長率、相関、人口、貧困、国民総生産、購買力平価
第6回	経済成長2	経済成長の記述統計
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	経済成長3	ソロー・モデル
第9回	経済成長4	一人あたり資本の成長率、技術進歩
第10回	経済成長5	因果、疑似相関、回帰
第11回	経済成長6、構造転換1	貯蓄率、労働成長率の変化、条件付き収束
第12回	構造転換2	成長会計、構造転換の記述統計 ルイス・モデル

第13回	構造転換3	ハリス＝トドロ・モデル、トドロの逆説
第14回	まとめと解説、期末試験	第8回から13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。オンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社
ジェトロ・アジア経済研究所他編（2015）『テキストブック開発経済学 第3版』有斐閣
戸堂康之(2021)『開発経済学入門 第2版』新世社

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。
学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

- Course outline

We will study growth theory and its empirical studies and review economic development from traditional agriculture to industrialization.

Before studying these topics in Development Economics, we will study labor demand, income allocation, and regression analysis, which are not covered by introductory Economics for 1st year undergraduate students.

- Learning Objectives

Why are the economies of Sub-Saharan African countries small and growing rapidly while Japan's economy is large and growing slowly?

The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

- Learning activities outside of classroom

Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.

Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
開発経済入門B
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門Aでは、経済成長、産業構造転換という経済発展の過程を学びました。開発経済入門Bでは、経済発展の潜在的な要因として、貿易、金融、起業を取り上げます。貿易、金融の利益を示す経済学の理論モデル、実証分析を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国を含む東アジアの国々では、経済に占める貿易の比率が大きく、金融の深化も進んでいるのに、サブサハラアフリカの国々ではまだそれほど進んでいないのでしょうか？
経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2024年度の履修者数に基づいて、教室を割り当てられていない、オンライン授業となることが確定している科目です。
各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。
各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。
受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。
授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	貿易1	比較優位、絶対優位
第2回	貿易2	2財1時点モデル
第3回	貿易3	国際価格比と比較優位、貿易政策下の予算制約線
第4回	貿易4、金融1	輸入代替工業化、実証分析、異時点間予算制約線
第5回	金融2	割引現在価値、消費者の異時点間効用最大化
第6回	金融3	企業の利潤最大化、資本制約
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	金融4	1財2期間モデル（消費者かつ生産者）
第9回	金融5	マクドゥーガル＝ケンプ・モデル
第10回	金融6、起業1	実証分析、職業選択
第11回	起業2	信用制約
第12回	起業3	貧困の罠、ランダム化比較試験
第13回	起業4	実証分析
第14回	まとめと解説、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。
各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。
授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

澤田康幸（2003）『基礎コース 国際経済学』新世社
高橋基樹、福井清一編（2008）『経済開発論：研究と実践のフロンティア』勁草書房
戸堂康之（2021）『開発経済学入門 第2版』新世社
バ・ナジール、デューフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。
学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を

【Outline (in English)】

- Course outline
In Introductory Development Economics A, we studied economic development as a process.
In Introductory Development Economics B, we will study trade, finance, and entrepreneurship as factors of economic development.
We will review economics models showing benefits of trade and finance and empirical studies.
- Learning Objectives
Why do East Asian countries have large proportions of trade and financial sectors, while Sub-Saharan Africa have smaller proportions?
The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.
- Learning activities outside of classroom
Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.
Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
- Grading Criteria, Policies
Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

SES200CA (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200)
環境科学 A
岡部 雅史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、環境とはなにか？ 私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は初回のガイダンスからスタートします。

講義概要としては、1－環境を構成する要因、2－環境の変動、3－テクノロジーの進歩と環境に対する影響、4－環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と、その将来。以上の4つのサブテーマから構成され、前半では環境の概念の理解、後半では環境調査・保全・改変などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進行いたします。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。

履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。

試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境2	上水道と下水道
4	水と環境3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス2	ESCO事業・ISOビジネス・環境報告・環境会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100点満点）及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100%となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

Learning objectives:

The goals of this course are to obtain correct knowledges on modern environmental science.

Learning activities outside of classroom:

Should be keep knowledges on environmental science by regularly reading major newspapers (ca.4hrs./week).

Grading criteria:

There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60% or more of the total score. The total score will be 100% of the evaluation criteria allocation.

SES200CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）
環境科学 B
岡部 雅史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？ そのメカニズムと、現在の環境汚染の現状、さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようにすることを目的としています。

【到達目標】

主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義全体としては、1－自然環境を構成する因子、2－環境汚染の変遷、3－現在の環境汚染、4－環境負荷低減テクノロジーの展開と、その将来等 以上の4つのサブテーマから構成され、前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解、後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し、環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。

試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第3回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第4回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックペレット汚染・防止策
第5回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第6回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第7回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第8回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染
第9回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第10回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第11回	環境・エコビジネスA：	ESCO事業1（概念・経済規模）
第12回	環境・エコビジネスB：	ESCO事業2（適用実例）
第13回	環境・エコビジネスC：	エコファンド・土地関連ビジネス
第14回	海外の環境ビジネス：	米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100点満点）及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う。 総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100%となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

Learning objectives:

The goals of this course are to obtain correct knowledges on modern environmental science.

Learning activities outside of classroom:

Should be keep knowledges on environmental science by regularly reading major newspapers (ca.4hrs./week).

Grading criteria:

There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60%or more of the total score. The total score will be 100%of the evaluation criteria allocation.

HIS300CA（史学/History 300）
日本文化史
古澤 直人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の生活文化の形成について理解を深める。応仁の乱後の分裂の時代を経て、地域ごとの小国家ともいえる戦国大名領国が作られ、生活・文化の地域的特色が形成される。さらに織豊統一政権によって日本は再統合され、統一した文化が形成される。以上の過程について深い知見を得る。関連史料を読み解きつつ史料に対する批判的な見方を養い、解釈の多様性を学ぶなど歴史的思考力の獲得をめざす。

【到達目標】

今日「日本的」とされる生活文化の多くは室町時代に成立している。また郷土の英雄や県民意識（お国ぶり）の源流も室町時代後期を起点とする。北山文化・東山文化が生まれた後、郷土に根ざした生活文化が形成される室町時代中期から、統一した文化が形成される織豊期・近世初頭の時期に焦点をあてて学ぶ。文化史にかんするいくつかのテーマを論述する活動を通じて、事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学習支援システムからダウンロードした教材（ワードPDF資料）を事前に予習し、課題の回答のあらすじをメモしておく。授業は章ごとに設定された課題を考えながらパワーポイントにそって進める。課題の内1つの回答（500字～700字程度）を完成（文章化）させ毎回授業中に提出してもらう予定である。授業後採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	武家統一政権の形成	日本史の教育における本授業の意味、室町邸の造営、将軍絶対化
2	武家統一政権と北山文化	北山邸造営の意義、対明貿易の開始、義満の「法皇」化
3	東国下剋上の開始	鎌倉公方と関東管領、上杉禅秀の乱、永享の乱、幕府と鎌倉公方
4	西国下剋上の開始	守護連合、足利義教の恐怖政治、将軍専制、嘉吉の乱
5	日本文化史上の応仁の乱	内藤湖南の指摘、父の意向と家臣の支持、京都焼亡
6	応仁の乱と山城国一揆	足輕の活躍、東西幕府、山城国一揆、日野富子、東山文化
7	東国戦国の開始――北条早雲を中心――	小田原城奪取、相模支配、早雲寺殿21箇条の思想
8	西国の戦国開始と文化	大内と尼子、国人から戦国大名へ、大内氏の文化
9	戦国大名毛利氏の領国支配と文化	石見銀山をめぐって、中国制覇、元就の思想
10	戦国大名武田氏とその文化	甲斐国の特徴、法典と家訓、治水、甲州金、信玄堤
11	戦国大名上杉謙信とその思想	北信と関東、謙信の2面作戦、謙信の筋目
12	織田氏の領国支配と新政策	信秀の活動、岐阜での新政策、加納楽市令
13	信長の統一事業と文化	都市の直轄、叡山焼討、安土城と文化、天下人

14 まとめとテスト まとめ、テスト、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップした一回あたり4～8頁ほどの講義資料（ワードPDF）を事前に読み、課題に対する自分なりの回答の要旨をメモ書きしておく。講義後、課題の解説と回答例を学習支援システムに挙げる。また課題回答は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックするので、これらを復習しておく。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業プリントを学習支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】

永原慶二『戦国時代』上・下（小学館ライブラリー）。このほか授業で逐次提示する。

【成績評価の方法と基準】

提出課題の評価の相加平均（70％）。期末試験（20％）。および積極的な授業への貢献度（10％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

内容が多すぎる回があるという指摘があり厳選したい。

【学生が準備すべき機器他】

PCまたはタブレット。学習支援システム。授業中に課題を提出するために必須となる。

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で『高校日本史教科書』（とくに中世・近世の部分）を自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is deepen understanding of the formation of Japanese life culture. It is formed from the Muromachi period to the early modern period. This course deals with these period. Through activities that discuss several themes related to cultural history, students will be expected to have historical recognition methods that make sense based on facts. Students must submit a short paper for each assignment. Final grade will be calculated by the arithmetic mean of each test (90 %) ,and in-class contribution(10%). Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済学史 A
平瀬 友樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済学の歴史について解説を行うものである。この経済学史Aにおいては、ゲーム理論や数理経済学など1930年代以降に誕生した経済理論について講義を行う。なお、経済史ではなく、経済学＝理論の歴史を扱う科目であることに注意されたい。

【到達目標】

本講義では、数理経済学やゲーム理論がどのような時代背景のもとで生み出されたか、そして発展してきたのかについて詳細に解説を行う。これらについて学ぶことは、単なる専門知識の習得にとどまらず、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義であるものと思われる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には対面形式で行うが、第2回を含む最大7回まで支援システムからの動画配信によるオンライン形式にすることがある。講義内のアナウンスおよび支援システムのお知らせ欄の指示にしたがうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学史研究の意義	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第2回	数学的準備①	高校数学の復習
第3回	数学的準備	大学で学ぶ数学
第4回	経済学の歴史	価格理論が確立されるまで
第5回	ゲーム理論の歴史①	すべては1930年代にはじまった
第6回	ゲーム理論の歴史②	フォン・ノイマンとモルゲンシュテルンによる新しい試み
第7回	ゲーム理論の歴史③	ゼロサムゲームとミニマックス定理
第8回	ゲーム理論の歴史④	ナッシュと非協力ゲーム
第9回	ゲーム理論の歴史⑤	1950年代のゲームの発展
第10回	ゲーム理論の歴史⑥	1960年代力ゲーム展開
第11回	数理経済学の歴史①	ゲーム理論の発展と一般均衡の存在証明
第12回	数理経済学の歴史②	1960年代の数理経済学
第13回	数理経済学の歴史③	1970年代の数理経済学
第14回	総復習	授業内試験の実施およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目は経済史ではなく、経済学＝理論の歴史である。そのため、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学についてある程度の予備知識があることが望ましいが、毎年これらを未履修の学生も多く参加するので必須ではない。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義内で指示をする。

【参考書】

必要に応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト50%：レポート50%とする。なお、成績評価に際して個別の事情は一切考慮しないので陳情や嘆願などは禁止とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの場合には授業支援システムより動画配信で行う。

【その他の重要事項】

すべてのアナウンスは教育支援システムのお知らせ欄で行うため、必ず確認をお願いします。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of economic thought after 1930s to students taking this course. In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand economic theory, especially mathematical economics and game theory. Grading Criteria is following; Final Examination 50% and Report Assignment 50%. In addition, Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済学史 B
平瀬 友樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済学の歴史について解説を行うものである。この経済学史Aにおいては、計量経済学など1930年代以降に誕生した定量的な経済分析について講義を行う。なお、経済史ではなく、経済学＝理論の歴史を扱う科目であることに注意されたい。

【到達目標】

本講義では、特に計量経済学がどのような時代背景のもとで生み出されたか、そして発展してきたのかについて詳細に解説を行う。これらについて学ぶことは、単なる専門知識の習得にとどまらず、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義であるものと思われる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には対面形式で行うが、第2回を含む最大7回まで支援システムからの動画配信によるオンライン形式にすることがある。講義内のアナウンスおよび支援システムのお知らせ欄の指示にしたがうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学史研究の意義	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第2回	数学的準備①	大学で学ぶ数学について
第3回	数学的準備②	回帰分析の復習
第4回	数学的準備③	因果推論の復習
第5回	計量経済学の歴史①	一般均衡理論と景気循環分析
第6回	計量経済学の歴史②	景気循環分析と定量分析
第7回	計量経済学の歴史③	フリッシュ以前の定量分析
第8回	計量経済学の歴史④	フリッシュによる定量分析
第9回	計量経済学の歴史⑤	ハーヴェルモによる計量経済学の確立
第10回	計量経済学の歴史⑥	ルーカス批判とマクロ計量分析
第11回	新しい計量経済分析①	ミクロ計量分析と因果推論
第12回	新しい計量経済分析②	機械学習と定量分析
第13回	新しい計量経済分析③	計量経済学の展開
第14回	総復習	授業内試験の実施およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目は経済史ではなく、経済学＝理論の歴史である。そのため、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学についてある程度の予備知識があることが望ましいが、毎年これらを未履修の学生も多く参加するので必須ではない。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義内で指示する。

【参考書】

必要に応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト50%：レポート50%とする。なお、成績評価に際して個別の事情は一切考慮しないので陳情や嘆願などは禁止とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの場合には授業支援システムより動画配信で行う。

【その他の重要事項】

すべてのアナウンスは教育支援システムのお知らせ欄で行うため、必ず確認をお願いします。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of economic thought after 1930s to students taking this course. In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand economic theory, especially econometrics. Grading Criteria is following; Final Examination 50% and Report Assignment 50%. In addition, Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
公共経済論 A
篠原 隆介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、完全競争市場、外部性、自然独占の理論を通して、市場経済がもたらす利点と欠点について学習する。まず、市場の需要供給分析について復習し、完全競争市場は、経済厚生観点から望ましい取引を実現することを理解する。次に、外部性や自然独占が存在する場合には、望ましい市場取引は実現せず、政府は、問題解決のための経済政策・経済制度の設計が求められることを学ぶ。

【到達目標】

本講義の目標は、ミクロ経済学に基づき、市場の利点と欠点を整理できるようにすること、そして、現代社会における、市場と政府の望まれるべき関係を客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義内容に関連する、標準的な計算問題を解き、経済分析力を養うことも、到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員が自作した講義ノートを、板書とスライドを用いて解説する。講義ノートは、学習支援システムにアップロードするので、各自、ダウンロードして講義に持参することが求められる。講義ノートとともに、練習問題のファイルを学習支援システムで配布する。講義に関するお知らせ、資料配布は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック(講義内容に関する質疑や練習問題の解説等)は、講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション & 数学復習	公共経済学とは何か。1次関数の微分復習
2	(続)数学復習	1次関数の最大値の導出、凹関数、凸関数
3	需要	支払意思と需要、需要関数と逆需要関数、消費者余剰
4	供給	生産者が直面する費用概念、利潤最大化と供給、生産者余剰
5	総余剰	総余剰、配分効率性
6	完全競争市場	市場均衡と価格調整、価格規制政策と市場均衡、市場の失敗
7	負の外部性	外部性とは、負の外部性と市場取引
8	正の外部性	正の外部性と市場取引
9	コースの定理	負の外部性と自発的な交渉
10	政府の外部性への対応策	ピグー税、汚染排出量の取引
11	自然独占	自然独占とは、独占企業の利潤最大化
12	独占市場と経済厚生	独占市場における総余剰
13	自然独占と政府の規制	限界費用価格規制、平均費用価格規制
14	講義総括と問題演習	春学期の学習内容を総括し、問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間(計4時間)を標準とします。講義の準備として、ミクロ経済学AB(2年次配当)の復習をすること、学習支援システムで配布される講義資料に目を通すことは必ず行うこと。講義の復習として、練習問題演習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。担当教員作成の資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

- ① 板谷淳一、佐野博之『コアテキスト公共経済学』新世社、2013年
- ② 佐藤主光『公共経済学15講』新世社、2017年
- ③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015年
- ④ 土居丈朗『入門公共経済学(第2版)』日本評論社、2018年

【成績評価の方法と基準】

教室における試験(100%)により評価を行う。詳細は、講義にて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題や数値例を多用して、できるだけ分かりやすく講義することを心がける。

【その他の重要事項】

① 本講義を受ける上で、「ミクロ経済学AB」で使うような数学の知識は必要です。「ミクロ経済学AB」の復習は、各自で行うことを強く推奨します。

② 本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。

③ 本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

④ 授業に関する連絡は、すべて学習支援システムを通して行う。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will study the advantages and disadvantages of a market economy through the theory of perfect competition, externalities, and a natural monopoly. First, we will explore the theory of perfect competition, which brings us a foundation to consider the merits of a market economy. Students will learn that market equilibrium, which examines the consequences of market transactions, achieves desirable transactions from the perspective of economic welfare. Second, students will study the theories of externalities and the natural monopoly and understand the cases in which the market transaction does not achieve desirable outcomes in terms of economic welfare. In that case, the government policy can complement the role of the market.

This course aims to understand the advantages and disadvantages of a market economy based on microeconomics and consider the desired relationship between markets and government in modern society. This lecture will focus on the perfectly competitive market, externalities, and natural monopoly.

Students are required to prepare and review this class for at least four hours per week. Students are also required to review Microeconomics AB (2nd year) and the lecture materials distributed by the class support system (Hoppii) to prepare for the lecture. Be sure to do the practice exercises as a review of the lecture. Evaluation will be based on classroom examinations (100%). Details will be announced in the lecture.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
公共経済論 B
篠原 隆介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、消費者行動の理論を通して分析可能な「消費課税の最適性」、「市場取引における効率性と公平性のトレードオフ」、「公共財の市場取引の失敗」について学習する。まず基本的な消費者行動の理論を復習した後に、経済厚生上望ましい消費課税のあり方について、学習する。次に、消費者行動の理論を応用した複数財の取引市場の理論を学習する。その後、市場取引における効率性と公平性の関係性について明らかにする。最後に、消費者理論とゲーム理論に立脚し、公共財の市場取引について分析する。公共財の市場取引は、経済厚生観点から非効率な取引しか実現しないことを学ぶ。

【到達目標】

本講義の目標は、ミクロ経済学に基づき、市場の利点と欠点を整理できるようになること、そして、現代社会における、市場と政府の望まれるべき関係を客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義内容に関連する、標準的な計算問題を解き、経済分析力を養うことも、到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員が自作した講義ノートと、板書とスライドを用いて解説する。講義ノートは、学習支援システムにアップロードするので、各自、ダウンロードして講義に持参することが求められる。講義ノートとともに、練習問題のファイルを学習支援システムで配布する。講義に関するお知らせ、資料配布は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック(講義内容に関する質疑や練習問題の解説等)は、講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	公共経済論Aのおさらいと公共経済論Bの学習内容について
2	消費者行動(1)	消費者の効用最大化問題
3	消費者行動(2)	所得効果と代替効果
4	消費者行動(3)	消費者行動の理論を応用した、最適な消費課税に関する考察
5	複数財の取引市場(1)	一般均衡 vs 部分均衡、複数財の取引における消費者行動
6	複数財の取引市場(2)	厚生経済学の第一、第二定理、本定理を通じた市場と政府の望ましい関係性に関する考察
7	複数財の取引市場(3)	複数財市場取引における効率性 vs 公平性
8	ゲーム理論の基礎(1)	戦略形ゲームにおけるナッシュ均衡の導出
9	ゲーム理論の基礎(2)	より複雑なゲームにおけるナッシュ均衡の導出
10	公共財(1)	公共財、準公共財、私的財の定義
11	公共財(2)	公共財の取引市場におけるパレート効率性(サミュエルソン条件)
12	公共財(3)	公共財の自発的な市場取引(ゲーム理論分析)
13	公共財(4)	公共財供給における政府の役割について

14 授業総括 これまでのおさらいと練習問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間(計4時間)を標準とする。講義の準備として、ミクロ経済学AB(2年次配当)の復習をすること、授業支援システムで配布される講義資料に目を通すことは必ず行うこと。講義の復習として、練習問題演習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。担当教員作成の資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

公共経済論Aシラバスで挙げた参考書①～④に加えて、次の文献は、本講義と関連する。

⑤アラン・M. フェルドマン, ロベルト・セラノ (2009)『厚生経済学と社会選択論; 第2版』(飯島大邦, 川島康男, 福住多一訳) シーエーピー出版

【成績評価の方法と基準】

教室における試験(100%)により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

単なる理論学習だけでなく、応用の仕方についても話をしながら、講義を進めます。

【その他の重要事項】

①本講義を受ける上で、「ミクロ経済学AB」で使うような数学の知識は必要です。「ミクロ経済学AB」の復習は、各自で行うことを強く推奨します。

②本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。

③本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

④講義に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will study three essential topics in public economics as applications of the consumer behavior theory. First, students will learn the properties of the desirable consumption tax from the viewpoint of economic welfare. Second, combined with consumer behavior theory and the market exchange theory, students will learn whether a tradeoff exists between efficiency and equity in market transactions. Finally, combined with consumer behavior and game theory, students will learn that a voluntary market transaction does not achieve a desirable outcome with public goods. This course aims to understand these three topics from the unified view of applied consumer behavior theory. This class aims to help students understand how the knowledge attained through the analysis is related to the real-world economy. Students are required to prepare and review this class for at least four hours per week. Students are also required to review Microeconomics AB (2nd year) and the lecture materials distributed by the class support system (Hoppii) to prepare for the lecture. Evaluation will be based on classroom examinations (100%). Details will be announced in the lecture.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
環境政策論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】

環境税や排出取引をはじめとする環境政策の諸手段の働きを、グラフを用いて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

なお、経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論Aまたは公共経済論A・Bを履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス&環境問題を考える
第2回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から20世紀末まで
第3回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第4回	地球温暖化対策①	エネルギー政策、カーボンプライシング
第5回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第6回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第7回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第8回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第9回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第10回	環境税	ピグー税、汚染者負担原則
第11回	排出取引	税との比較、EUの制度
第12回	補助金・デポジット	長期効率性、税と補助金の組合せ
第13回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第14回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

栗山・馬奈木(2024)『環境経済学をつかむ 第5版』有斐閣
一方井誠治(2018)『コア・テキスト環境経済学』新世社
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と各回の課題(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course outlines environmental policies from the viewpoint of economic theory.

The goals of this course are to graphically comprehend the economic mechanism of environmental conservation measures. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assignments (30%) from each class.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
環境政策論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策論Aにつづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】

- ①日本の環境政策の実態について理解する。
- ②環境政策の形成過程を理解する。
- ③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

環境政策論Aを履修済みであることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境政策の諸原則	6つの原則
第2回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第3回	大気保全政策	大気汚染防止法、アスベスト問題
第4回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第5回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法
第6回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第7回	生物多様性	生態系サービス
第8回	生物多様性の保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第9回	自然保護地域の保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第10回	廃棄物対策	循環型社会形成推進基本法
第11回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第12回	環境政策の政策過程②	政策ネットワーク
第13回	企業と環境問題①	環境マネジメント
第14回	企業と環境問題②	サステナブルファイナンス、ESG投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】

竹本和彦編(2020)『環境政策論講義』東京大学出版会
 西尾哲茂(2019)『わか～る 環境法 増補改訂版』信山社
 神山智美(2024)『自然環境法を学ぶ 第2版』文真堂
 その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と各回の課題(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course overviews current environmental law, politics, and policy in Japan.

At the end of the course, students are expected to understand environmental policies and their policy process in Japan and to discuss the future direction of environmental policies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assignments (30%) from each class.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
日本経済史 A
萬代 悠
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業（日本経済史A）では、日本の経済社会化が進展した16世紀末から、日本が明治維新を迎える直前の19世紀中頃までを対象とし、市場経済の発展に強く影響を与えた制度に着目しながら、各時代を特徴づけた政策・市場・社会構造を解説する（日本経済史Bでは明治維新後を扱う）。本授業の目的は、日本の経済発展の歴史を「用語」の羅列として理解するのではなく、日本の経済が発展した「要因」を制度・技術・担い手などの諸側面から理解することにある。

【到達目標】

過去の人びとが現代の私たちよりも合理的でなかったなどという先入観を捨て、それぞれの時代の制度（法や規則、慣習）に制約を受けながら、市場と向き合った人びとの試行錯誤の歴史を学ぶ。決められた制度のなかでどのような行動選択が経済成長にとって合理的であったか、あるいは、より経済を発展させるにはどのような制度の設計が必要であったかを考え、私たちが制度と市場に対してよりよい選択をするための素地を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

偶数回は講義方式、初回を除く奇数回は受講生からの質問やコメントをふまえた解説・応答・協働授業方式でおこなう。偶数回のあと72時間以内に課題に応じた質問やコメントを提出し、それへの解説・応答授業である奇数回の授業中には理解度テストをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	経済史を語るにあたって、なぜ制度に着目するのかを解説する。
第2回	外延的経済成長の時代：17世紀の人口増加と新田開発	17世紀を中心として、豊臣政権と江戸幕府が推進した所有権の保護、および新田の拡大と社会資本の整備を説明し、なぜ17世紀に人口が大きく増大したかを説明する。
第3回	解説・応答授業	第2回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第4回	綱吉と吉宗の時代：江戸幕府の法と改革（1）	17世紀末から18世紀中頃を中心として、江戸幕府が講じた貨幣改鑄や年貢増徴、特定の債権保護を説明し、これらの政策が市場経済に与えた影響を説明する。
第5回	解説・応答授業	第4回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第6回	内的成長の時代：18世紀の「勤勉革命」	18世紀を中心として、畿内からはじまった農業技術の進歩と労働節約の追求を説明し、なぜ18世紀に農業生産性が高まったのかを説明する。
第7回	解説・応答授業	第6回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。

第8回	田沼意次と松平定信の時代：江戸幕府の法と改革（2）	18世紀中頃から18世紀末を中心として、江戸幕府が講じた税収改革や新貨幣の鑄造、特定の財産権保護、備荒貯蓄を説明し、これらの政策が市場経済に与えた影響を説明する。
第9回	解説・応答授業	第8回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第10回	領主金融と投資の時代：19世紀前半のインフレ的経済成長	9世紀前半を中心として、江戸幕府の公金貸付、あるいは諸藩や二宮尊徳、豪農・豪商らが講じた資金運用を説明し、なぜ19世紀前半に金融取引が拡大したかを説明する。
第11回	解説・応答授業	第10回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第12回	開国前夜の時代：江戸幕府の法と改革（3）	19世紀中頃を中心として、江戸幕府が講じた物価統制や株仲間解散令、株仲間再興令を説明し、これらの政策が市場経済に与えた影響を説明する。
第13回	解説・応答授業	第12回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第14回	まとめ	授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、参考書を用いて予習する（作業2時間程度）。授業のあとには、授業の内容を復習したり、授業で提示した参考文献から理解を深める（作業2時間程度）。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

アブナー・グライフ、岡崎哲二・神取道宏監訳（2021）『比較歴史制度分析 上下（ちくま学芸文庫版）』筑摩書房。
沢井実・谷本雅之（2015）『日本経済史 近世から現代まで』有斐閣。
中西聡編（2023）『日本経済の歴史 列島経済史入門 第2版』名古屋大学出版会。
深尾京司・中村尚史・中林真幸編（2017）『岩波講座日本経済の歴史 第1巻 中世 11世紀から16世紀後半』岩波書店。
深尾京司・中村尚史・中林真幸編（2017）『岩波講座日本経済の歴史 第2巻 近世 16世紀末から19世紀前半』岩波書店。

【成績評価の方法と基準】

偶数回の授業のあとに提出する質問・コメント（30％）
初回を除く奇数回の授業でおこなう理解度テスト（20％）
最終試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメのレイアウトや授業の進行速度の改善。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

原則、対面形式でおこなうが、仮に受講生が教室収容人数を超えた場合には、ハイブリッド形式でおこなうことを検討する。

【Outline (in English)】

授業の概要（Course outline）
This course introduces cover the early modern period through the opening of the country, and will introduce students to the market and social structure.
到達目標（Learning Objectives）
The goals of this course are to cultivate the groundwork for us to make better choices about institutions and markets.
授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）
Before class, students should prepare for the class using reference books (about 2 hours of work). After class, review the class content and deepen understanding from the references presented in class (about 2 hours of work).
成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, Mid-term examination :20%, Term-end examination: 50%.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）	
日本経済史 B	
萬代 悠	
開講時期：秋学期授業/Fall	単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業（日本経済史B）では、日本が近代化を歩みはじめた明治維新から、日本が高度経済成長を経験した20世紀中頃までを対象とし、市場経済の発展に強く影響を与えた制度に着目しながら、各時代を特徴づけた政策・市場・社会構造を解説する（日本経済史Aでは明治維新直前まで）。本授業の目的は、日本の経済発展の歴史を「用語」の羅列として理解するのではなく、日本の経済が発展した「要因」を制度・技術・担い手などの諸側面から理解することにある。

【到達目標】

過去の人びとが現代の私たちよりも合理的でなかったなどという先入観を捨て、それぞれの時代の制度（法や規則、慣習）に制約を受けながら、市場と向き合った人びとの試行錯誤の歴史を学ぶ。決められた制度のなかでどのような行動選択が経済成長にとって合理的であったか、あるいは、より経済を発展させるにはどのような制度の設計が必要であったかを考え、私たちが制度と市場に対してよりよい選択をするための素地を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

偶数回は講義方式、初回を除く奇数回は受講生からの質問やコメントをふまえた解説・応答・協働授業方式でおこなう。偶数回のあと72時間以内に課題に応じた質問やコメントを提出し、それへの解説・応答授業である奇数回の授業中には理解度テストをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	日本経済史Aの内容を振り返る。
第2回	近代化の時代：対外貿易・地租改正・近代法	19世紀中頃から19世紀後半を中心として、列強に対する江戸幕府の対応、あるいは明治新政府の税収改革と法整備を説明し、どのように近代化が進められたかを説明する。
第3回	解説・応答授業	第2回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第4回	殖産興業の時代：官業払い下げと近代産業技術	19世紀後半を中心として、明治新政府が推進した民間工業の奨励、海外技術の導入、産業基盤の整備を説明し、これらの政策が市場経済に与えた影響を説明する。
第5回	解説・応答授業	第4回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第6回	地主制の時代：地主小作関係と松方デフレ期	19世紀後半を中心として、農業生産性の向上や養蚕業の展開、松方デフレによる地主制の拡大を説明し、近代日本の農業発展を支えた地主制の特徴を説明する。
第7回	解説・応答授業	第6回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。

第8回	産業革命の時代：製糸業、紡績業、織物業、鉱山業の成長	19世紀末から20世紀初頭を中心として、近代部門の企業の製品の差別化、労働の管理、設備投資の拡大を説明し、なぜ日本が資本主義的な成長を果たせたのかを説明する。
第9回	解説・応答授業	第8回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第10回	経済動員と戦後復興の時代：経済統制から戦後経済改革へ	20世紀中頃を中心として、経済統制と戦時動員、敗戦後の労働改革や税制改革、農地改革を説明し、戦後復興の素地を形作った要因を説明する。
第11回	解説・応答授業	第10回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第12回	高度経済成長の時代：国際競争力の向上	20世紀後半を中心として、高度経済成長を支えた国際的条件や技術導入、社会資本を説明し、日本が国際競争力を向上させた要因を説明する。
第13回	解説・応答授業	第12回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第14回	まとめと	講義内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、参考書を用いて予習する（作業2時間程度）。授業のあとには、授業の内容を復習したり、授業で提示した参考文献から理解を深めたる（作業2時間程度）。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
アブナー・グライフ、岡崎哲二・神取道宏監訳（2021）『比較歴史制度分析 上下（ちくま学芸文庫版）』筑摩書房。
沢井実・谷本雅之（2015）『日本経済史 近世から現代まで』有斐閣。
中西聡編（2023）『日本経済の歴史 列島経済史入門 第2版』名古屋大学出版会。
深尾京司・中村尚史・中林真幸編（2017）『岩波講座日本経済の歴史 第3巻 近代1 19世紀後半から第一次世界大戦前（1913）』岩波書店。
深尾京司・中村尚史・中林真幸編（2017）『岩波講座日本経済の歴史 第4巻 近代2 第一次世界大戦前期から日中戦争前（1914-1936）』岩波書店。
深尾京司・中村尚史・中林真幸編（2018）『岩波講座日本経済の歴史 第5巻 現代1 日中戦争期から高度成長期（1937-1972）』岩波書店。

【成績評価の方法と基準】
偶数回の授業のあとに提出する質問・コメント（30％）
初回を除く奇数回の授業でおこなう理解度テスト（20％）
最終試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】
レジュメのレイアウトや授業の進行速度の改善。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
原則、対面形式でおこなうが、仮に受講生が教室収容人数を超えた場合には、ハイブリッド形式でおこなうことを検討する。

【Outline (in English)】
授業の概要（Course outline）
This course introduces, markets, and social structure, covering the period from the Meiji Restoration to high economic growth to students taking this course.
到達目標（Learning Objectives）
The goals of this course are to cultivate the groundwork for us to make better choices about institutions and markets.
授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）

Before class, students should prepare for the class using reference books (about 2 hours of work). After class, review the class content and deepen understanding from the references presented in class (about 2 hours of work).

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, Mid-term examination :20%, Term-end examination: 50%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
社会経済思想史 A	
後藤 浩子	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパにおける重商主義の形成」

本講義では、まず諸理論家の背景となる歴史的状况を押さえ、そこからどのような思想が生み出されたのかを見ていきます。17世紀にイングランドは、ステュアート朝三王国体制、ピューリタン革命と共和政、王政復古、そして名誉革命といったように内政の激動を経験し、他方フランスは、マザランやコルベールの財政政策に支えられたルイ14世の絶対王政を築いていました。両国は、商業的覇権を求めて経済的・軍事的な競争を展開することになります。このような時代背景の下、「国力とは何か」「商業的繁栄をもたらしうる国家体制はどのようなものか」といった問いが探究され、政治経済学の諸言説が生み出されることになりました。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17世紀イングランドとフランスの政治・経済状況の中から、どのようにして経済学的なものの見方が生成してきたのか、その過程を理解し、ヨーロッパの地域的特色と認識を深め、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面での講義を基本とし、必要に応じてZoomでのオンライン併用で行います。

毎回の授業で1200～1400字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次の授業開始時に教員からのコメントとして提示します、またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に学習支援システムを通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資本主義の誕生とヨーロッパ(1)	ヨーロッパはどのように原初の資本を蓄積したか。資本蓄積システムのプロトタイプと第1サイクル。以降14回までの本学期の講義内容は、高校世界史A／Bにおける「ヨーロッパの拡大と大西洋世界：16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特徴とアメリカ・アフリカとの関係」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第2回	資本主義の誕生とヨーロッパ(2)	重商主義の実相
第3回	資本蓄積システムの第2サイクル	重商主義システムの雛形としてのオランダ
第4回	ポスト・オランダをめぐる競争:フランス対イングランド(1)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ①フランスの税制・国家収入・軍備
第5回	ポスト・オランダをめぐる競争:フランス対イングランド(2)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ②イングランドの税制・国家収入・軍備
第6回	政治算術の登場	フランシス・ベーコンの思想とベティへの影響
第7回	W・ベティ(1)	経歴とアイルランド測量
第8回	W・ベティ(2)	『租税貢納論』
第9回	W・ベティ(3)	『政治算術』
第10回	J・ロック	『政府二論』における労働と所有、植民地論
第11回	J・チャイルド	『新交易論』におけるオランダの国力の分析
第12回	C・ダヴナント	英国ウィッグ党の経済政策批判
第13回	D・デフォー	分業の密度と国力、『ロビンソン・クルーソー漂流記』の経済思想
第14回	資本蓄積システムの第3サイクル	大ブリテンを中核として形成された資本蓄積システムの特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、学習支援システムの「課題」欄に提示してある問いに答える形で講義の内容をまとめたレポートを作成し、6日以内にそれを提出します。これに必要な学習時間は最低4時間です。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として10点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009年）

ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009年）

米田昇平『欲求と秩序：18世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005年）※さらに詳しく学びたい人のための文献ですので、事前に購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40％）と春学期末の授業内試験の成績（60％）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状况と彼らの思想史的重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

"The formation of mercantilism in Europe"

To begin with, this lecture gives students basic knowledge about the economic development of sixteenth- and seventeenth-century Europe as historical context. Then, it introduces major theorists of social and economic thought of that time.

In the seventeenth century England underwent internal and external upheavals such as the Union of the Crowns, the Wars of the Three Kingdoms (the Puritan Revolution), the Restoration and the Glorious Revolution. On the other hand, France established an absolute monarchy under the reign of Louis XIV with the help of Mazarin and Colbert. These two kingdoms were to get into economic and military contest for commercial

supremacy. Against this backdrop, intellectuals discussed questions such as “what is the strength of nation?” and “what regime brings economic prosperity?”. In replying to them, mercantilism was to be formed.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the historical formation of economic perspectives in the political and economic situations of the seventeenth-century England and France and regional characteristics of Europe.

【Learning activities outside of classroom】

After each lecture, students will be expected to make a summary of a lecture in 1200 to 1400 characters on a reaction paper. Your study time will be more than 4 hours.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination; 60%, Short reports (Summaries of the lectures):40%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
社会経済思想史 B	
後藤 浩子	
開講時期：秋学期授業/Fall	単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「重商主義批判の流れと経済学の形成」

戦費調達のために迫られ、17世紀末イングランドでは公信用の制度的革新が生じました。しかし、フランスでは、17世紀末の Colbert 的工業重視政策と戦費増大で国家債務が膨らみ、絶対王政は自己破産の危機に瀕します。これに対処すべく、18世紀初頭には、フランス王立銀行が設立され、銀行券が発行されましたが、このいわゆる「ローのシステム」は1720年に破綻します。同時期にブリテンもまた「南海泡沫事件」で投資ブームとその破綻を経験します。このような歴史的状況の中で、まずはフランスで、そしてブリテンで、様々な処方箋が提出され、スミスによるそれらの批判的検討は『国富論』に結実します。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17世紀末「イングランド財政・金融革命」による公信用制度の普及と膨張する国家財政を背景に、18世紀に続々登場する重商主義政策批判の言説を介して、法学を補完する「立法者の科学」として経済学が誕生する過程を理解し、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面での講義を基本とし、必要に応じて Zoom でのオンライン併用で行います。

毎回の授業で1200～1400字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次の授業開始時に教員からのコメントとして提示します。またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に「学習支援システム」を通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	重商主義批判の流れ	フランスとスコットランドにおける脱オランダ・モデルの探究。以降14回までの本学期的講義内容は、高校世界史A／Bにおける「産業社会と国民国家の形成：フランス革命と18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第2回	ジョン・ロー	国家債務処理システムのプランとその破綻
第3回	ボワギルベール(1)	欲求と富
第4回	ボワギルベール(2)	自然的自由の体制の希求
第5回	J・F・ムロン(1)	商業のための立法原理の探究：貿易と産業の連関
第6回	J・F・ムロン(2)	貨幣と信用
第7回	R・カンティロン(1)	商業の一般法則の分析
第8回	R・カンティロン(2)	市場価格と貨幣流通
第9回	F・ケネー(1)	「経済表」：国富の循環の分析
第10回	F・ケネー(2)	フィジオクラシーと合法的専制主義
第11回	A・スミス(1)	スミスによる基本概念の整理：資本・分業・交換
第12回	A・スミス(2)	「重商主義体系」批判
第13回	A・スミス(3)	経済発達の自然的過程と制度の影響
第14回	A・スミス(4)	公債批判と国家財政論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、学習支援システムの「課題」欄に提示してある問いに答える形で講義の内容をまとめたレポートを作成し、6日以内にそれを提出します。これに必要な学習時間は最低4時間です。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として10点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009年）

ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009年）

米田昇平『欲求と秩序：18世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005年）
ジャン＝フランソワ・ムロン著、米田昇平・後藤浩子訳『商業についての政治的試論』（京都大学学術出版会、2015年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40％）と秋学期末の授業内試験の成績（60％）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Criticism of mercantilism and formation of political economy"

In need of procurement of war expenditure, institutional innovation of public credit occurred in England in the end of the seventeenth century. However, in France, the national debt had expanded due to Colbert's manufacture-oriented policy and increase of financial burden of war since the seventeenth century and absolute monarchy was on the verge of self-bankruptcy. To cope with this quagmire, the Banque royale was established in the beginning of the 18th century, and bank notes were issued, but this so-called "Law system" failed in 1720. At the same time, Britain also experienced the investment boom and its collapse, namely the South Sea Bubble. Amid such historical circumstances, various prescriptions for the ailing economies are made up first in France and then in Britain. Adam Smith examined thoroughly those critical reviews of mercantile policy and gave birth to The Wealth of Nations.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the formation of the public credit system called the "Financial Revolution", the criticisms of mercantilism and the birth of physiocracy and political economy.

【Learning activities outside of classroom】

After each lecture, students will be expected to make a summary of a lecture in 1200 to 1400 characters on a reaction paper. Your study time will be more than 4 hours.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination; 60%, Short reports (Summaries of the lectures):40%

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
経済政策論 A
小原 拓也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

完全競争市場という理想的な取引環境においては、資源配分の効率性と公平性が実現される。しかし、現実的には市場で解決できない問題（市場の失敗）が存在するため、政府の市場への介入が必要となる。本講義では、様々な市場の失敗に対して政府はどのように政策介入すべきなのかを考察する。また、関連する現実の経済問題を紹介することで理解を深める。

【到達目標】

本講義では、歳出（政府の支出）の観点における経済政策の内容を習得することで、政府がどのような目的で現実の経済問題に対処しているのか経済的に理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、自作のパワーポイント資料（PDF ファイル）を用意し、授業の前日までに学習支援システム（Hoppii）にアップロードするので、各自で印刷しないしPCを持参して講義に出席すること。また毎回ではないが、講義内容を復習するための確認問題を講義資料に掲載する。フィードバック（解答解説等）は講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済政策の目的
2	市場と政府(1)	政府の活動、余剰分析
3	市場と政府(2)	完全競争市場とパレート効率性
4	市場と政府(3)	公平性(機会の平等と結果の平等)
5	公共財理論(1)	公共財の定義と分類
6	公共財理論(2)	公共財の最適供給
7	外部性(1)	外部性の定義、金銭的外部性と技術的外部性、外部性における余剰分析
8	外部性(2)	外部性の公的解決と私的解決
9	独占	供給独占、独占における余剰分析
10	自然独占	費用逓減産業、自然独占における余剰分析、価格規制とインセンティブ規制
11	社会保障制度(1)	社会保障制度の概観、年金制度
12	社会保障制度(2)	医療制度、介護制度、生活保護制度、子育て支援策
13	講義総括	春学期の学習内容を総括する
14	試験と解説	春学期の学習内容について期末試験および解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の準備としては、ミクロ経済学AB(2年次配当)の復習を行うこと。
1回の授業につき、準備・復習それぞれ約2時間程度の学習が望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。自作のパワーポイント資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

- ① 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚著『財政学15講』新世社、2018年
- ② 佐藤主光『公共経済学15講』新世社、2017年
- ③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015年
- ④ 土居丈朗『入門公共経済学 第2版』日本評論社、2018年

【成績評価の方法と基準】

評価は、教室内で実施する試験（100%）によって行う。試験では、経済政策論Aで扱うテーマに関する基本的な計算問題または記述問題を出題し、授業内容の理解度を測る。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【Outline (in English)】

Course Outline

In the ideal trading environment of a perfectly competitive market, efficiency and fairness in resource allocation are achieved. In reality, however, there are problems that cannot be solved by the market (market failures) and require government intervention in the market. In this lecture, we will examine how the government should intervene in response to market failures. It will also deepen understanding by introducing related real-world economic problems.

For lecture preparation, it is important to review Microeconomics AB (allocated for the second year).

For each class, approximately two hours of preparation and two hours of review are recommended.

Evaluation will be conducted through an in-class examination (100%). The exam will include fundamental calculation problems or written questions related to the topics covered in Economic Policy A to assess students' understanding of the course content.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
経済政策論 B
小原 拓也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では経済政策論Aで学習した内容を踏まえて、課税に関して「財源調達手段」としての役割よりも「政策手段」としての役割に焦点を当てて学習する。また、経済の安定化を図るための財政・金融政策についても学習する。

【到達目標】

本講義の目標は、歳入（政府の収入）の一つである租税に注目し、租税には政策上の目的を達成するための政策手段としての側面があることを理解することである。また、経済政策の基本的な内容を知得することで、現実の経済の動きに応じた望ましい財政・金融政策を提示できるようになることも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を知得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、自作のパワーポイント資料（PDFファイル）を用意し、授業の前日までに学習支援システム（Hoppii）にアップロードするので、各自で印刷しないしはPCを持参して講義に出席すること。また毎回ではないが、講義内容を復習するための確認問題を講義資料に掲載する。フィードバック（解答解説等）は講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	我が国の政策目標
2	消費者理論(1)	効用関数、予算制約、効用最大化問題、需要関数
3	消費者理論(2)	代替効果と所得効果
4	税制(1)	税制の設計、税の帰着と転嫁
5	税制(2)	消費税（従量税と従価税）、軽減税率と逆弾力性ルール
6	税制(3)	資本所得税（課税の正当性：アリとギリギリを例に、異時点間の消費選択への影響）
7	税制(4)	法人税（会計上の利益と税務上の利益の違い、実効税率と名目税率の違い、投資への影響）
8	税制(5)	国際的な資本・労働移動の下での課税
9	税制(6)	所得再分配の根拠と効果、所得の不平等度（ジニ係数とローレンツ曲線）
10	税制(7)	労働所得税（個人課税、世帯課税）、負の所得税、勤労税額控除
11	経済政策(1)	財市場と貨幣市場、IS-LM分析
12	経済政策(2)	裁量的財政政策と問題点
13	講義総括	秋学期の学習内容を総括する
14	試験と解説	秋学期の学習内容について期末試験および解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の準備としては、ミクロ経済学AB(2年次配当)の復習を行うこと。1回の授業につき、準備・復習それぞれ約2時間程度の学習が望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。自作のパワーポイント資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

- ① 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚著『財政学15講』新世社、2018年
- ② 佐藤主光『公共経済学15講』新世社、2017年
- ③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015年
- ④ 土居丈朗『入門公共経済学 第2版』日本評論社、2018年

【成績評価の方法と基準】

評価は、教室内で実施する試験（100%）によって行う。試験では、経済政策論Bで扱うテーマに関する基本的な計算問題または記述問題を出題し、授業内容の理解度を測る。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【Outline (in English)】

Course Outline

Building on the content learned in Economic Policy Theory A, this course focuses on the role of the tax system as a “policy instrument” rather than as a “means of raising financial resources. Students will also learn about fiscal and monetary policies to stabilize the economy.

For lecture preparation, review of Microeconomics AB (assigned for the second year) should be conducted.

For each class, approximately two hours of preparation and two hours of review are recommended.

Evaluation will be conducted through an in-class examination (100%). The exam will include fundamental calculation problems or written questions related to the topics covered in Economic Policy B to assess students' understanding of the course content.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
農業経済論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の農業は、農家の減少や遊休農地の増加、食料の安定供給の確保などのさまざまな課題に直面している。こうした農業の問題は、私たちの生活や経済全体に密接に関係している。この授業では、経済学的手法を用いつつ、日本の農業の分析と考察を行う。

【到達目標】

- ①日本農業の現状を理解する。
- ②食料・農業問題の経済学的な分析手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。経済政策論Aまたは公共経済論Aを履修済みか、同時履修が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業ガイダンスと日本農業の現在
第2回	食生活の変遷	エンゲルの法則、食の外部化
第3回	食料の需要・供給	フードシステム、弾力性
第4回	日本農業の展開過程①	江戸時代から農地改革まで
第5回	日本農業の展開過程②	農地改革以降
第6回	食料自給率からみる日本農業	食料自給率と食料自給力
第7回	農業の生産組織と土地	農業経営体、法人化、集落営農
第8回	農業生産の技術	BC技術とM技術
第9回	コメの生産と流通	食糧管理制度、経営所得安定対策
第10回	畜産物の生産と流通	トレーサビリティ、アニマルウェルフェア
第11回	世界の食料問題	フード・セキュリティ
第12回	価格政策と貿易政策	価格支持政策、GATT、WTO
第13回	アメリカ・ヨーロッパの農業と農業政策	アメリカ農業法、EUの共通農業政策
第14回	まとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。資料を配布する。

【参考書】

荏開津典生・鈴木宣弘(2020)『農業経済学 第5版』岩波書店
 生源寺眞一(2013)『農業と人間』岩波書店
 その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と各回の課題(30%)で評価する。ただし、受講者が少なければ、試験に代えて授業内の発表を求める可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course outlines food and agriculture in Japan.

The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on food and agriculture and to comprehend Japanese agriculture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assignments (30%) from each class.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
農業経済論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、農業・農村を資源・環境および社会との関連でとらえ、現在の課題を把握する。これに関連して、森林・林業および水産業の現状を、経済学的手法を用いて理解する。

【到達目標】

- ①日本の農山村に関わる問題について理解する。
- ②日本の森林・林業と水産業の現状を理解する。
- ③資源の管理に関わる経済学的手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

農業経済論Aを履修済みであることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際貿易の理論	貿易の利益、比較生産費説
第2回	農業と環境	多面的機能、野生鳥獣害
第3回	世界の農業類型	保水/除草農業、休閒/中耕農業
第4回	農山村の変遷と現状	中山間地域、地方創生
第5回	農村資源とエネルギー	再生可能エネルギー
第6回	農村問題の理論と対策	地域づくり
第7回	日本の森林と林業	生産、価格、経営体などの動向
第8回	森林整備と多面的機能	持続可能な森林経営
第9回	森林と林政の展開	江戸時代から現在まで
第10回	森林管理の課題	間伐や販売のありかた
第11回	日本の水産業の現状	生産、価格、経営体などの動向
第12回	水産業の展開過程	各種の漁法、明治から現在まで
第13回	日本の水産政策	漁業権、量的規制
第14回	水産資源の管理	新たな資源管理システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

『食料・農業・農村白書』『森林・林業白書』『水産白書』の各年版。
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と各回の課題(30%)で評価する。ただし、受講者が少なければ、試験に代えて授業内の発表を求める可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course overviews rural areas as well as forestry and fisheries in Japan.

The goals of this course are to comprehend forestry and fisheries in Japan and to acquire methods of economic analysis on resource management.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assignments (30%) from each class.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
社会政策論 A
菅原 琢磨
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国が直面する社会政策上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、制度の概要、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への制度的対応への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ・社会保障政策で扱われる対象を理解し、その歴史的経緯の概要を説明できる。
- ・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の労働政策、雇用政策の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の社会福祉制度、生活保護制度の現状と課題の概要を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンド配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。】

社会政策が包摂し対象とする領域は非常に広範である。人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、リスクに備え、暮らしの安寧と生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策の総体が社会政策である。本講義では、社会政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生じた社会的背景、原因についても概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か－定義と歴史的展開－	社会保障の目的と機能
2	わが国の社会保障の歴史的展開 少子高齢化社会の動向と社会保障	社会保障政策の歴史的経過と今後の社会変化
3	公的年金制度の仕組み	年金制度の負担と給付
4	老齢年金制度の概要 障害年金・遺族年金の概要	様々なリスクに対する年金の概要と年金にかかる問題
5	公的年金制度の沿革と改正過程	公的年金制度の歴史的過程と年金改革の概要
6	わが国の医療保険制度	保険診療と診療報酬制度
7	診療報酬制度とその課題	診療報酬制度の課題
8	わが国の医療提供体制 これからの医療と地域政策の展開	医療提供体制の概要 地域の変貌とこれからの医療
9	雇用保険制度の概要と役割	雇用保険制度の意義と体系
10	雇用保険事業の沿革・課題 労働者災害補償保険の概要と課題	雇用保険二事業の概要 労働者災害補償保険の意義と体系
11	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要と役割
12	介護保険の沿革と制度改正	制度発足の歴史的経緯と理念、制度改正による課題対応
13	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
14	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でも様々な社会（保障）政策、制度の目的や沿革、背景などを解説するが、講義内容に該当する部分の参考書に予め目を通しておくこと。日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障をめぐる時事的トピックスについて自発的に関心をもって目を通すことが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しない。独自の講義スライド資料を利用する。

【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第21版）』有斐閣、2024年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と学期末試験により実施する。

「実施される確認テストの受験状況（25％）と点数（25％）」を併せて平常点（50％）として換算し、「学期末試験の点数」を50％として全体で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

担当者にとって2年ぶりの開講となるため特になし。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員等で社会保障政策の論議に深く関わる担当者が、理論と合わせて当該分野の現状や課題について解説する。

授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】The purpose of this lecture is to provide an overview of the social policy issues facing Japan (labor and employment, medical care, pensions, long-term care, public assistance, and welfare for the elderly and children) and their backgrounds, and to provide an overview of the system, basic knowledge of policy trends, and a deeper understanding of institutional responses to these issues.

【Learning activities outside of classroom】

The objectives, history, and background of various social policies and systems will be explained in the lectures, but students are encouraged to read reference books on the topics relevant to the lecture content in advance. It is desirable that students voluntarily take an interest in current topics related to social security that they are exposed to in newspapers, magazines, etc. on a daily basis.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be based on the student's regular score and the end-of-term examination.

The “Attempted status (25%) and score (25%) of the confirmation test” will be converted together as the regular score (50%), and the “score of the end-of-term examination” will be 50% for the overall evaluation.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
社会政策論 B
菅原 琢磨
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会政策論A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。現実の社会保障上の問題を「材料」として受講者自身で検討、思考する能力の涵養を促すことを講義の目的とする。

【到達目標】

わが国が直面する主要な社会保障政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれを実現するための適切な政策、施策について、自らの見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンドで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。】

厳しい財政事情、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会保障政策上の問題が山積している。深刻な人手不足やワークライフバランスの実現、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉え考えるべきものである。本講義では特に高齢化に対する対応が進む医療制度改革やその政策対応にも触れつつ、進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か 社会保障を巡る今日的状況	社会保障の定義、我が国の現状と将来
2	新型コロナウイルスのパンデミック発生時の政策対応と評価	新型コロナに対する政策対応と今後の課題の検討
3	医療財政と医療政策 「医療保険制度の課題と将来」	給付と負担の見直しに向けた今後の展望
4	高額薬剤など新たなイノベーションに対する対応	高額薬剤の現状と画期的イノベーションを創発する制度設計
5	地域医療連携政策とその理論（Ⅰ）	地域医療連携を進める意義とその理論的背景
6	地域医療連携政策とその理論（Ⅱ）	地域医療連携を進めるうえでの政策的な留意点
7	社会保障政策の政策評価（Ⅰ）	行政評価制度の概要
8	社会保障政策の政策評価（Ⅱ）	政策評価手法：費用便益分析の概要
9	社会保障政策の政策評価（Ⅲ）	政策評価（費用・便益分析）の実際的適用例
10	保健医療福祉政策の視座と国際比較	保健医療福祉政策の目標と各国のアプローチ
11	医療費の増加要因 欧米先進国の医療制度	医療費増加要因、欧州、米国等の医療制度
12	アジア・環太平洋地域の医療制度 主要国における医療制度改革の潮流	オーストラリア、シンガポールの医療制度 各国のこれまでの医療制度改革の鳥瞰
13	国際比較を通じた日本医療の特徴	OECD Health Statistics にもとづく、我が国の医療の特徴
14	社会保障制度に対する対応の世界的潮流	これからの社会保障制度と課題対応の考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。各回の講義項目の関連学習時間については、講義前に参考図書を用いて2時間、講義後に講義資料を参考に2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。独自の講義スライドを利用する。
講義で必要な資料がある場合は、適宜、学習支援システム上で配布する。

【参考書】

鳥崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011年
小黒一正・菅原琢磨『薬価の経済学』日本経済新聞出版社、2018年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と学期末試験により実施する。
「実施される確認テストの受験状況（25％）と点数（25％）」を併せて平常点（50％）として換算し、「学期末試験の点数」を50％として全体で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

担当者にとって2年ぶりの開講となるため特になし。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員などを兼務する担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】Based on the overview of “Social Policy A,” the course will take up noteworthy themes from among actual policy trends and social problems, and provide in-depth discussions and explanations. The purpose of the lecture is to encourage students to develop the ability to examine and think about real-life social security issues on their own as materials.

【Learning activities outside of classroom】

Students should voluntarily take an interest in and read up on current topics related to social security policy that are mentioned in newspapers and magazines on a daily basis. The standard study time for each lecture item is 2 hours before the lecture using reference books and 2 hours after the lecture using the lecture materials as reference.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be based on the student’s regular score and the end-of-term examination.

The “Attempted status (25%) and score (25%) of the confirmation test” will be converted together as the regular score (50%), and the “score of the end-of-term examination” will be 50% for the overall evaluation.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
労働経済論 A
酒井 正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く。具体的には、「人手不足」、「外国人労働力」、「教育の経済学」といったトピックについて取り上げる。また、「少人数制は生徒の学力を上げるのか？」といったことに関しても、実証分析を基に議論する。

【到達目標】

この労働経済論Aでは、まず基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する。更に、統計分析の考え方を学んだうえで、働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

対面（教室）での授業を基本とする。
数回の小テストをオンラインでおこなう予定である。
受講者が関心のある労働問題にも触れたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学とは
2	労働市場の概観	データで見る日本の労働市場
3	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
6	労働需要行動（2）	調整費用モデル 等
7	労働市場均衡	競争均衡、買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスとその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル、シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊の訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題を中心に復習をおこなう必要がある。本授業の準備・復習に必要な時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

阿部正浩『基本講義 労働経済学』（新世社、2021年）
清家篤・風神佐知子『労働経済』（東洋経済新報社、2020年）

【成績評価の方法と基準】

2回程度の小テスト（10%）＋期末テスト（90%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・受講者が関心のある労働問題のトピックにも触れるように心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

諸般の事情から、一部の講義をオンラインで実施する場合がある。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn how to analyze various phenomenon in labor market by applying micro-economic theory with the data. This course covers topics such as labor scarcity, foreign workers and economics of education. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on mid-term exam (10%) and term-end exam (90%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
労働経済論 B
酒井 正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論Aで学んだことを踏まえ、労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する。特に、労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する。（取り上げるトピックの例：「人事の経済学」、「介護離職」、「両立支援策」等）また、労働市場のセーフティネットについても議論を多く割く予定である。

【到達目標】

働き方を巡る「論点」を知り、それを経済学的に考えることを通じて、労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

対面（教室）での授業を基本とする。
小テストはオンラインを通じておこなう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	失業（1）	日本の失業の概観
5	失業（2）	失業を説明する理論
6	失業保険	失業保険に関する実証分析
7	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
8	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因、仕事の二極化
9	若年就業	若年就業の現状と「烙印効果」
10	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因、介護離職問題、高齢者の労災
11	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
12	両立支援策	女性の就業と保育サービス
13	労働市場における差別	差別の経済理論、男女間賃金格差
14	社会保険料事業主負担の帰着問題、その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題をよく復習する必要がある。
また、指示された文献（新聞記事や雑誌記事等）についても目を通すことが望ましい。本授業の準備・復習に必要な学習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

酒井正『日本のセーフティネット格差 労働市場の変容と社会保障』（慶應義塾大学出版会、2020年）
川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】

2回程度の小テスト（10%）＋期末テスト（90%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・授業で扱うトピックに関して受講者の考えを聞くように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・「労働経済論A」の履修は必須ではないが、講義は「労働経済論A」の内容を前提として進める。「労働経済論A」を受講しておらず、講義内容を理解できない場合は、各自でその内容を学習する必要がある。
・進捗状況等に応じて、講義で取り上げるトピックの内容や順番を変更することがある。
・諸般の事情から、一部の講義をオンラインで実施する場合がある。

【Outline (in English)】

Based on what students learned in labor economics A, the goal of this course is to analyze more specific topics, especially topics on labor market policy and social policy. Safetynets for workers are also discussed. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on mid-term exam (10%) and term-end exam (90%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
金融各論 I A
高橋 秀朋
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融もしくはファイナンスの基本的な知識であるマネー（貨幣）の時間価値の概念、一物一価の法則と裁定、リスクに関する知識を解説し、その知識を応用して、債権の価格評価、債券のポートフォリオ管理、リスク分散化など実際の資産運用で実践されている知識を解説する。また、銀行のアセット・ライアビリティ・マネジメントや投資信託の資産運用でそれらがどのように利用されているかも実例やデータを交えて詳しく解説していく。

【到達目標】

本講義の目標は、資産運用方法および投資戦略の意義を理解し、銀行や保険会社が預金者から預かったお金が実際にどのように運用されているのか、それらの行動が経済に対してどのようなインパクトを与えるかを考察できる力を身につけることにある。また、株価データをはじめとした統計データを分析し、客観的な証拠を提示できるような力も身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は原則として対面による講義形式で行う。講義では演習が中心になるため、学生は事前にオンデマンド形式でアップロードされるコンテンツを視聴していただくことが求められる。受講者はシステムにアップロードされた講義資料を各自で学習したのち、講義に参加することが求められる。本講義では、数学や統計的な知識を利用して、ファンドがどのような方法で資産を運用しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義はExcelを多用する。演習回では、アサインメント（クイズ）が毎回課され、それは講義中に提出してもらう。当該アサインメントの解説は講義内で行い、フィードバックする。その解説を聞いても不明瞭な点がある場合は講義終了後、もしくは、オフィスアワーに教員に直接し質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	統計知識の復習	期待値と標準偏差
2	マネーの時間価値	将来価値、現在価値、IRR
3	債券価格と裁定理論	債券価格の計算
4	債券のデュレーション	イミュニゼーション
5	リスク資産評価1	2項モデル
6	リスク資産評価2	分散化
7	分離定理	効率的フロンティア
8	資本市場モデル	CAPMとパフォーマンス評価
9	債券価格の計算	債券の現在価値を計算する
10	債券運用	債券価格の感応度分析
11	株式収益率1	記述統計量の計算
12	株式収益率2	シミュレーション、記述統計量
13	投資分析	資本市場線の記述
14	レポート提出	債券・投資分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。演習回の場合はそれが特に求められる。また、講義ではEXCELを利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCELを利用できる環境下にあることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

S. Benninga『Financial Modeling 5th ed.』（The MIT Press, 2022）

【参考書】

手嶋宣之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011年）
ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一郎（翻訳）『現代ファイナンス論 第2版』（ピアソン・エドゥケーション、2011年）
Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus『Essentials of Investments 10th ed.』（McGraw-Hill, 2016）

【成績評価の方法と基準】

講義後に課されるアサインメントと期末課題レポートで評価する。アサインメント30%、期末課題レポート70%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

EXCELの演習回は原則としてオンラインのコンテンツを視聴していることが前提であるが、理解が難しい学習範囲に関しては丁寧に説明していく。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではExcelを利用した演習を中心に進めるので、受講生はMS ExcelがインストールされているPCを準備して講義に臨むこと。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis such as present value, yield to maturity, arbitrage, risk, and risk diversification. This course also introduces how the theories and methods in investment are utilized into the practical world. We focus on asset/liability management by banks and evaluation of investment performance. To explain practical uses of the theories and the methods in investment analysis more easily, data and simulation-based analyses are employed. The goal of this course is to acquire basic skills concerning risk management. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (30%) and term-end report (70%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
金融各論 I B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ファイナンスのリスク資産評価に関する知識がある程度身につけている者を対象として、デリバティブを利用したリスクの移転方法およびその応用に関して学習していく。具体的には、2項モデル・BSモデルによるオプション評価、ポートフォリオ・インシュアランス、リアル・オプションによる投資評価である。それらの概念は数式などを通じて学習していくだけでは理解が難しいので、シミュレーションの方法も同時に学習し、数値例を用いてより理解を深めていく。

【到達目標】

本講義の目標は、確率・統計に関する基本的な知識を前提として、オプションを利用したリスク・インシュアランスの方法、オプションの価格評価、オプションが企業の投資意思決定に与える影響を理解し、実際に存在する投資ファンドや企業がどのような基準で投資判断を行っているのか、企業に関連するニュース（特に、M&A）の背後にはどのような経済的事情が存在するのかを考察できる力を身につけることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は原則として対面による講義形式で行う。講義では演習が中心になるため、学生は事前にオンデマンド形式でアップロードされるコンテンツを視聴してくることが求められる。本講義では、数学や統計的な知識を利用して、企業や投資ファンドがどのような方法で資産や企業を評価しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義はExcelを多用する。演習回では、アサインメント（クイズ）が毎回課され、それは講義中に提出してもらう。当該アサインメントの解説は講義内で行い、フィードバックする。その解説を聞いても不明瞭な点がある場合は講義終了後、もしくは、オフィスアワーに教員に直接し質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	統計知識の復習	平均・標準偏差
2	オプションの基本1	オプションのペイオフ、利益
3	オプション戦略	複数オプションの組合せ
4	オプション評価1	2項モデル
5	オプション評価2	ブラックショールズモデル
6	オプション複製	デルタヘッジング
7	シミュレーション1	ポートフォリオインシュアランス
8	シミュレーション応用1	モンテカルロ法によるオプション価格導出
9	オプションの基本2	株式と債券によるオプション複製
10	オプション評価3	2項モデルのBSモデルへの近似
11	シミュレーション2	バタフライスプレッドの複製
12	シミュレーション応用2	アジアンオプションの価格導出
13	リアル・オプション	撤退・拡張オプション
14	レポート提出	オプション価格の計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。演習回の場合はそれが特に求められる。また、講義ではEXCELを利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCELを利用できる環境下にあることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

S. Benninga『Financial Modeling 5th ed.』（The MIT Press, 2022）

【参考書】

ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第2版』（ピアソン・エドゥケーション、2011年 Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus『Essentials of Investments 10th ed.』（McGraw-Hill, 2016）

【成績評価の方法と基準】

セミナー形式の講義後に課されるアサインメントと期末課題レポートで評価する。アサインメント30%、期末課題レポート70%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

EXCELの演習回は原則としてオンラインのコンテンツを視聴していることが前提であるが、理解が難しい学習範囲に関しては丁寧の説明していく。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではExcelを利用した演習を中心に進めるので、受講生はMS ExcelがインストールされているPCを準備して講義に臨むこと。

【Outline (in English)】

This course provides lectures to understand and value the basic derivatives and their applications in the financial risk management and investment. Concretely, we focus on the theories and the methods in option pricing (binomial and Black-Sholes model), portfolio insurance, and real option. To understand practical application of the theories and the methods in derivatives more easily, numerical examples and simulation-based analyses are employed. The goal of this course is to acquire basic skills concerning risk management using options. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (30%) and term-end report (70%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
情報経済論 A
鈴木 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ゲーム理論」は、経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われているほか、企業組織や多くのビジネスシーンでも基礎理論として用いられている。本講義では、「ゲーム理論とその応用」について、基礎からやや高度な内容まで体系的に理解し、その応用の仕方とも学ぶ。

【到達目標】

経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われている「ゲーム理論・契約理論」の方法論（考え方や分析の仕方）を体系的に学ぶことを通じて、現代社会を主体的に考察し、問題解決に向けて公正な判断を下す能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』に沿って授業を進める。本講義では、過年度に「Zoomによる動画配信」方式も好評だったことから、その経験や素材も活かしつつ、丁寧に進める予定である。受講生は、リアクションペーパーや課題提出の積み重ねが、最終試験の準備としても重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは「教室」と「学習支援システム」を組み合わせで行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、適切に「Zoom動画」などの資産も有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゲーム理論とは	ゲーム理論の導的説明およびゲーム理論で使う数学について
第2回	静学ゲーム①	ゲームの基礎と同時手番ゲーム。支配戦略均衡とナッシュ均衡。
第3回	静学ゲーム②	ナッシュ均衡の解釈。色々なゲームの例。クールノー競争。
第4回	静学ゲーム③	混合戦略均衡とその解釈
第5回	時間を通じたゲーム①	基礎理論：後ろ向き帰納法と部分ゲーム完全均衡
第6回	時間を通じたゲーム②	応用例①「参入阻止」と「意味のある脅し」
第7回	時間を通じたゲーム③	応用例② 経済政策ゲーム：ルールか裁量か
第8回	くり返しゲーム①	基礎理論 協調均衡達成のメカニズム
第9回	くり返しゲーム②	応用例① 共有資源の管理における協調行動
第10回	くり返しゲーム③	応用例② グローバルガバナンスと国際協調
第11回	交渉理論①	最後通牒ゲーム：理論予測と実験結果 公正さの考慮
第12回	交渉理論②	最後通牒ゲームと行動ゲーム理論
第13回	オークション①	ゲームの解概念：弱支配戦略、劣位戦略、劣位戦略のくりかえし削除

第14回 オークション② ファーストプライスおよびセカンドプライス・オークションの比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房2021および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート2回）も提示される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房2021

【参考書】

- ① 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
- ② 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
- ③ 梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社 2000
- ④ マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）（有斐閣）
- ⑤ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010年
- ⑥ 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社 2020年

【成績評価の方法と基準】

2回の課題レポート（練習問題への解答）、リアクションペーパーの内容、および最終試験（教科書参照可）の合計点で評価する。評価ウェイトは、課題提出（練習問題）の合計点（45%）、リアクションペーパーの合計点（5%）、最終試験（50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を用いた、分かり易く丁寧な説明を心がける。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。「教科書」の内容に沿った授業を行うよう留意し、特に「教科書」を超える数学的な手法は、極力用いないようにする。

【Outline (in English)】

"Game theory" is used as a powerful analytical tool in many fields of economics, and is also applied as a basic theory in corporate organizations and many business scenes. In the spring lecture A, students will systematically learn "Game Theory and its application" from the basics to a more advanced content, thereby will acquire the ability to proactively examine modern society and make fair decisions to solve problem. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content. Grading is based on Two Assignments (Problem Sets as Home work)(45%), Submission of Reaction Papers (5%), and Final Examination (Textbook-reference available) (50%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
情報経済論 B
鈴木 豊
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「契約理論（Contract Theory）」について体系的に学ぶ。
 (I) 不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎
 (II) プリンシパル＝エージェントの理論：モラルハザード
 (III) プリンシパル＝エージェントの理論：アドバース・セクション
 (IV) 不完備契約の理論

【到達目標】

春学期の「ゲーム理論」に続き、その応用分野と位置付けられる「契約理論」の方法論を系統的・体系的に学ぶことによって、現代社会を主体的に考察し、課題解決に向けて公正な判断を下す能力をさらに向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』に沿って授業を進める。本講義では、過年度に「Zoomによる動画配信」方式も好評だったことから、その経験や素材も活かしつつ、丁寧に進める予定である。受講生は、リアクションペーパーや課題提出の積み重ねが、最終試験の準備としても重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせて行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、適切に「Zoom動画」などの資産も有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	不確実性と情報の経済学①	不確実性とくじ、期待効用最大化仮説、リスク態度
第2回	不確実性と情報の経済学②	期待効用最大化とその使い方、リスクプレミアム
第3回	プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード①	固定給とモラルハザード
第4回	モラルハザード②	歩合給とインセンティブ効果、簡単なエージェンシーモデルの解
第5回	モラルハザード③	インセンティブ契約の数学モデル（リスク回避のエージェント）
第6回	モラルハザード④：複数エージェントの理論	チーム生産におけるフリーライダー問題とその解決（ペナルティースキーム）
第7回	プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セクション①	逆選択の例
第8回	アドバース・セクション②	逆選択を解決する仕組みとしての自己選択メカニズム
第9回	アドバース・セクション③	自己選択メカニズムの最適解の導出、図解、含意
第10回	不完備契約①	関係特殊的投資とホールドアップ問題：概念と基本モデル
第11回	不完備契約②	関係特殊的投資とホールドアップ問題：一般化と外部機会の存在

第12回	不完備契約③	「資産所有(財産権)」アプローチ ①基本モデル 残余コントロール権
第13回	不完備契約④	「資産所有（財産権）」アプローチ ②企業の境界の決定
第14回	不完備契約⑤	組織における権限配分、権限委譲について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房2021および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート2回）も提示される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房2021

【参考書】

- ① 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣2014
- ② 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣2000
- ③ マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣
- ④ ミルグロム＋ロバーツ『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT出版
- ⑤ オリバー・ハート『企業 契約 金融構造』（鳥居訳）慶応大学出版会2010
- ⑥ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局2010年
- ⑦ 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社2020年

【成績評価の方法と基準】

2回の課題レポート（練習問題への解答）、リアクションペーパーの内容、および最終試験（教科書参照可）の合計点で評価する。評価ウェイトは、課題提出（練習問題）の合計点（45%）、リアクションペーパーの合計点（5%）、最終試験（50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を用いた、分かり易く丁寧な説明を心がける。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。「教科書」の内容に沿った授業を行うよう留意し、特に「教科書」を超える数学的な手法は、極力用いないようにする。

【Outline (in English)】

Students will systematically study Contract Theory.

(I) Uncertainty and Economics of Information

(II) Principal = Agent Theory: Moral Hazard

(III) Principal = Agent Theory: Adverse Selection

(IV) Theory of Incomplete Contracts

Students will further improve their ability to independently examine contemporary society and make fair judgments to solve problems. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the content. Grading is based on Two Assignments (Problem Sets as Homework)(45%), Submission of Reaction Papers (5%), and Final Examination (Textbook-reference available) (50%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
地方財政論 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の地方財政制度とその問題について解説します。日本では、少子高齢化によって社会保障関係費が膨らんだことで多額の政府債務が積み上がっています。国からさまざまな補助金をもらっている地方自治体も財政支出の効率化が必須です。この授業の履修者はこうした問題を経済学の観点からどのようにとらえたら良いかについてを学びます。

【到達目標】

この講義では、地方財政の問題を経済学の考え方を基礎に論理的に考えられるようになることが目標です。そのために、財政や地方財政のいくつかの理論の基礎を理解することと、地方財政データの入手のしかたとその見方を身につけます。現在起きている問題は何か、それをどのようにとらえたら良いかを考えられるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業はオンラインで実施します。学習支援システム経由で講義ノートと資料と解説をした音声か動画を配信します。講義ノートと資料を見ながら音声を聞いて学習をしてください。学習支援システムのテスト/アンケート機能を使って課題をほぼ毎回出します。採点の際、全員向けと必要に応じて個別にコメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は学習支援システムの掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。以上の形で進める予定ですが、25年度より学習支援システムが変更となるので、機能に合わせて授業の進め方が大きく変わる場合があります。その場合、学習支援システムを通じてお知らせします。なお対面で期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明。
第2回	財政と政府 政府の役割について	財政と狭義の政府、広義の政府。 狭義と広義の市場の失敗、バレー効率。政府が抱える問題。
第3回	公共財とは	公共財、準公共財、クラブ財、私的財。公共財の最適供給。
第4回	公共財供給の応用	公共財の自主供給とナッシュ均衡。
第5回	地方財政データ(1)	目的別歳出と性質別歳出。歳入の分類。
第6回	地方財政データ(2)	決算カードの入手方法とその見方。
第7回	地方財政データ(3)	財政指標の見方。財政力指数と経常収支比率。
第8回	地方自治体の会計制度	一般会計と特別会計。普通会計と地方公営事業会計。自治体の破綻。
第9回	国と地方の機能分担(1)	地方分権と、国と自治体の役割分担。所得再分配機能は国と地方でどちらが担うべきか。
第10回	国と地方の機能分担(2)	経済安定化機能は国と地方でどちらが担うべきか。

第11回	国と地方の機能分担(3)	資源配分機能は国と地方とでどちらが担うべきか。オーツの地方分権化定理とは。
第12回	地方分権化定理	オーツの地方分権化定理。
第13回	コースの定理	地方公共財の便益のスピルオーバーとコースの定理。
第14回	投票の理論	中位投票者の定理について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解しているこの授業にも取り組みやすくなります。不安のある場合は、授業で扱う概念について、1年次の講義ノートをその都度、復習をして下さい。加えてこの授業の基礎となる財政学A/Bの履修を強く推奨します。日経新聞を紹介しながら日本の財政のニュースも扱うので、日頃、新聞を見ることも薦めます。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義ノートと資料を配付します。

【参考書】

理論面では、ミクロ経済学や公共経済学の本が参考になります。地方財政の考え方を自分で学びたい場合、

林宜嗣(2021)『新・地方財政』有斐閣

林宏昭・橋本恭之(2014)『入門地方財政』第3版中央経済社

佐藤主光(2009)『地方財政論入門』新世社

が適当です（2番目は品切れのようです）。また、地方財政の統計を見たい場合は

総務省編『地方財政白書』各年度版

が適当です。必要な統計資料などを配布しながら講義します。

【成績評価の方法と基準】

対面で筆記の期末試験を実施します。おそらく期末試験期間中に実施しますが詳細は授業内でお話しします。授業の内容に関する課題を学習支援システムのテスト/アンケート機能を使って締切が5回となるように出します。期末試験で半分、5回の課題で半分の合計100%の評価をします。ただし25年度より学習支援システムが変更となるので、その機能やみなさんと私のシステムへの習熟に合わせて課題の出し方や評価の仕方が変わるかもしれません。その場合、学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が住んでいる市町村や都道府県に興味をもってもらえるようにお話するようにします。また、公務員(都道府県・市町村などの職員)を志望している方もいると思いますので、仕事をしていく中で役に立つ考え方もお話したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PCとインターネット環境が必要です。学習支援システムを利用できる環境は必須です。学習支援システムなどで講義ノートと資料、音声を配信する予定です。新学習支援システムの機能によって、予定が変わる可能性があります。その場合、学習支援システムでお知らせします。

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて、講義ノートと資料の配付、課題の提出と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認をして下さい。特に、履修変更をした方は、自分で学習支援システムにこの授業を登録をして下さい。授業についての変更や追加の情報は学習支援システムの「お知らせ」で掲示しますので、お知らせを見るようにして下さい。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this lecture, I explain Japanese local government system and its issues. In Japan, we have a vast amount of governments' debt due to increases in social-security expenditures. We must make our governments' expenditures efficient. Students learn how to consider those issues from the standpoint of economics.

Learning objective:

Students should be able to consider the issues on local public finance logically on their own. Students should also understand several theories of public finance and local public finance and learn how to obtain and evaluate municipal data.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by term-end exam 50%+ five homework 50%= 100%.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
地方財政論 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、地方財政Aの講義内容を基礎に、日本の地方財政制度を中心に解説します。地方税や地方債、国から地方自治体へ配付される補助金のしくみと、平成の大合併を経済学からとらえた場合にどのように評価できるのかについてを学びます。

【到達目標】

地方財政Aで学んだ考え方を元に、地方税が日常生活の中でどのように課税されているのかを理解することが第1目標です。さらに財政データの数字を見ながら、地方債、国から自治体への補助金について、その特徴と近年の傾向とそれらが抱える問題について理解するのが次の目標です。平成の大合併についても理解します。履修者自身が経済学の立場でこれらについて論理的に考えられるようになることが最終目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業はオンラインで実施します。学習支援システム経由で講義ノートと資料と解説をした音声か動画を配信します。講義ノートと資料を見ながら音声を聞いて学習をしてください。学習支援システムのテスト/アンケート機能を使って課題をほぼ毎回出します。採点の際、全員向けと必要に応じて個別にコメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は学習支援システムの掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。以上で進める予定ですが、25年度より学習支援システムが変更となるので、機能に合わせて授業の進め方が変わる場合があります。その場合、学習支援システムを通じてお知らせします。なお対面で期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地方税	税の分類方法、地方税法、地方税の分類と税率。
第2回	望ましい税とは(1)	租税競争と租税輸出。公平、簡素。
第3回	望ましい税とは(2)	中立。消費税のとらえ方。
第4回	地方税が満たすべき条件。住民税(1)	地方税固有の原則。住民税のしくみ。
第5回	住民税(2)	均等割と所得割。給与所得控除と所得控除、税率、法人住民税。
第6回	法人事業税	法人事業税のしくみ。法人課税の経済学での考え方。外形標準課税、税率。
第7回	固定資産税	固定資産税と都市計画税。公示地価、路線価、固定資産税評価額、市場価格。
第8回	地方債(1)	地方債のしくみ。経済学上の意義と問題点。
第9回	地方債(2)	地方債のデータ。臨時財政対策債と他の地方債との違い。
第10回	補助金(1)	国庫支出金のしくみとデータ。国庫支出金と便益のスピルオーバーの関係。

第11回	補助金(2)	地方交付税のしくみとデータ。財政調整と財源保障、ソフトな予算制約の問題。
第12回	市町村合併	最適財政規模に関する研究と平成の大合併。道州制。広域連携制度。
第13回	再考：公共財(1)	公共財の費用負担の問題とリンダール均衡。
第14回	再考：公共財(2)	宿題で出したリンダール均衡の問題の解き方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業にも取り組みやすくなります。不安のある場合は、授業で扱う概念について、1年次の講義ノートをその都度、復習をして下さい。加えてこの授業の基礎となる地方財政Aと財政学A/Bの履修を強く推奨します。日経新聞を紹介しながら日本の財政のニュースも扱うので、日頃、新聞を見ることも薦めます。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

理論面では、ミクロ経済学や公共経済学の本が参考になります。地方財政の考え方を学びたい場合、

林宜嗣(2021)『新・地方財政』有斐閣

林宏昭・橋本恭之(2014)『入門地方財政』第3版中央経済社

佐藤主光(2009)『地方財政論入門』新世社

が適当です（2番目は品切れのようです）。また、地方財政の統計を見たい場合は

総務省編『地方財政白書』各年度版

が適当です。必要な統計資料などを配布しながら講義します。

【成績評価の方法と基準】

対面で筆記の期末試験を実施します。おそらく期末試験期間中に実施しますが詳細は授業内でお話しします。授業の内容に関する課題を学習支援システムのテスト/アンケート機能を使って締切が5回となるように出します。期末試験で半分、5回の課題で半分の合計100%の評価をします。ただし25年度より学習支援システムが変更となるので、その機能やみなさんと私のシステムへの習熟に合わせて課題の出し方や評価の仕方が変わるかもしれません。その場合、学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が住んでいる市町村や都道府県に興味をもってもらえるようにお話するようにします。また、公務員(都道府県・市町村などの職員)を志望している方もいると思いますので、仕事をしていく中で役に立つ考え方もお話ししたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PCとインターネット環境が必要です。学習支援システムを利用できる環境は必須です。学習支援システムなどで講義ノートと資料、音声を配信する予定です。新学習支援システムの機能によって、予定が変わる可能性があります。その場合、学習支援システムでお知らせします。

【その他の重要事項】

Hoppiiの学習支援システムを通じて、講義ノートと資料の配付、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認をして下さい。特に、履修変更をした方は、自分で学習支援システムにこの授業を登録をして下さい。授業についての変更や追加の情報は学習支援システムの「お知らせ」で掲示しますので、お知らせを見るようにして下さい。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this lecture, I explain Japanese local finance system based on the lecture of Local Government Finance A. Students learn taxes and bonds of local governments and subsidies and grants from the central government to local governments. Students also learn how to evaluate them from the standpoint of economics.

Learning objective:

The goals of this course are to understand how local taxes are imposed in our life and to understand the characteristics of local bonds, subsidies, and grants from the central government to local governments on the basis of these statistics. Students should be able to consider the issues lying on these systems of local public finance from standpoint of economics.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by term-end exam 50%+ five homework 50%= 100%.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
社会保障論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】

社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第3回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDPと社会保障給付費、財源
第4回	年金制度 1	年金制度の仕組み
第5回	年金制度 2	年金制度の問題点
第6回	年金制度 3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第7回	医療保険制度 1	医療保険制度の仕組み
第8回	医療保険制度 2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第9回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第10回	生活保護制度 1	生活保護制度の仕組みと問題点
第11回	生活保護制度 2	諸外国の公的扶助制度
第12回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第13回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩 隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社

【参考書】

厚生労働省『厚生労働白書』各年版

鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社

西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社

西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社

麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学15講』新世社

山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

With the declining birthrate and aging population, Japan's social security system is facing a major turning point. Reconsidering the role of the social security system and comparing Japan's system with that of other countries, the goals of this course are to understand the current situation and issues of the Japanese social security system. Your required study time is at least 4 hours for a class. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
社会保障論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障論A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論Bでは、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第3回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第4回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第5回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第6回	所得再分配	所得格差の指標
第7回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第8回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第9回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第10回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第11回	世代間格差	世代会計
第12回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第13回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学15講』新世社
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】

阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社
川口洋行『医療の経済学（第2版）』日本評論社
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
『図説 日本の財政』各年度版 東洋経済新報社
『図説 日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

To deepen the understanding of “social security theory A” (the Japanese social security system), in this course (social security theory B) we will employ economic analysis to study the fiscal system that supports the social security system. The goals of this course are to understand the roles of the social security system from an economics perspective. Students are expected to learn the basics of microeconomics and public economics. Your required study time is at least 4 hours for a class. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
産業組織論 A
河村 真
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、完全競争モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。産業組織論Bも併せて履修していただければなおよい。

【到達目標】

完全競争下での企業の生産量の決定、供給曲線の導出および均衡価格、数量の決定までの説明の流れをを理解できるようにする。同時に、この説明を具体的な市場に当てはめ、解釈できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に、対面による授業を行う。春学期に1回程度、練習問題集を授業支援システムの「課題」にアップし、各自行ってもらい、「課題」に提出をお願いする。練習問題の正解は、講義内で解説する。9回目以降、zoomによるオンライン授業とする。電子ノートに手書きで図などによる説明を行う。電子ノートに書き込んだ説明及び図をpdfファイルに保存し、授業支援システムの教材にアップするので、復習に利用してほしい

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	産業組織論の枠組み	完全競争の条件と不完全競争
第2回	産業組織論の現実への応用例	産業組織論のトピックとしての不完全競争の具体例の例示
第3回	企業の生産技術	生産関数の説明
第4回	企業の生産技術	生産関数から費用関数の導出
第5回	企業の生産技術	費用関数から限界費用関数と平均費用関数の導出
第6回	企業の生産技術	生産関数、費用関数、平均・限界費用関数の対応関係
第7回	完全競争下の企業の生産量の決定	収入関数と費用関数を用いた利潤最大化生産量の図解
第8回	完全競争下の企業の生産量の決定	限界収入関数と限界費用関数を用いた生産量決定の図解
第9回	個別供給曲線の導出	財の市場価格の変化が企業が選ぶ利潤最大化生産量をどう変化させるかを知るための個別供給曲線
第10回	個別供給曲線のシフトの要因	個別供給曲線が完全競争モデルの下で、どのような要因によりシフトするかの説明
第11回	企業の個別供給曲線から市場供給曲線の導出	各企業の個別供給曲線を足し合わせることで求められる企業全体の生産量の合計と市場価格との関係
第12回	市場需要曲線の説明（簡単な消費者理論の説明を含む）	消費者の理論にある予算制約化の効用最大化行動の結果として導かれる市場需要曲線（簡単に復習）
第13回	完全競争モデルでの市場均衡	市場需要曲線と市場供給曲線の交点における均衡価格と均衡数量の決定（ワルラス的調整過程を用いて説明）

第14回 比較静学による完全競争モデルの現実への応用例 完全競争が想定しやすい具体的な産業をイメージし、技術革新が生じた場合、完全競争モデルを用いて、価格、数量の変化の結果を予測する過程を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が板書から作成したノートおよびzoom授業時に説明に用いた講師作成の電子ノートのファイル閲覧を通じて説明の筋道をフォローして、復習を行ってほしい。多くの受講者には理解可能と思われる。理解が難しい場合は、入門用のミクロ経済学の教科書等を用いて行ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定しない。

【参考書】

学生諸君から要請があれば、講義冒頭に紹介。

【成績評価の方法と基準】

完全競争モデルの理解の程度を基準に評価する。評価方法は、定期試験期間中において行う試験の点数が9割、1回の練習問題解答の提出状況に1割のウェイトで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメにおいて図解に書き込みの多いものについてはなるべく大きく目にするように対応したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire theoretical understandings of competitive market model. Competitive market model is often used as a benchmark model, for evaluating competitive policy or regulatory policy to specific industries. For this sake, microeconomic theoretical understandings for competitive market are inevitable.

At the end of the course, students should be able to do the followings:

to get the whole picture of the competitive market model proposed by microeconomic theory.

to apply the competitive market model to predict the price and quantity changes with conditions changes out of market for certain commodity/service.

Then, after each class meeting, students will be expected to spend more than 2 hours to get understandings for many graphical explanations for competitive market theory in the class.

Your overall grade in the class will be decided based on following.

Term-end examination:90%, Mid-term report:10%.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
産業組織論 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独占モデルおよびクールノ複占モデルの解説、さらに、完全競争均衡、独占均衡およびクールノ複占均衡を比較し、それぞれの均衡の評価についても説明を加える。

【到達目標】

産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、独占モデルおよびクールノ複占モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科はは「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面による授業を行う。基本的に、対面による授業を行う。秋学期中に1回程度、練習問題を授業支援システムの「課題」にアップし、各自行ってもらい、「課題」に提出をお願いする。練習問題の正解は、講義内で解説する。12回目以降、zoomによるオンライン授業とする。電子ノートに手書きで図などによる説明を行う。電子ノートに書き込んだ説明及び図をpdfファイルに保存し、授業支援システムの教材にアップするので、復習に利用してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	独占モデル	独占下の企業と完全競争下の企業の想定の違い
第2回	独占モデル	独占企業が直面する収入関数の説明
第3回	独占モデル	限界収入関数の説明
第4回	独占モデル	占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（収入関数と費用関数を用いて）
第5回	独占モデル	独占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（限界収入と限界費用関数を用いて）
第6回	独占モデルの応用例	自然独占下における公益事業の価格規制に関する議論
第7回	完全競争モデル及び均衡の導出（修正版）	独占モデルで用いたのと同じな費用関数および需要関数の想定の下での完全競争均衡の導出
第8回	クールノ複占モデル	企業2社からなる複占モデルにおける想定の違いとクールノ均衡の特徴
第9回	クールノ複占モデル	残余需要曲線の導出と各企業の利潤最大化生産量の導出
第10回	クールノ複占モデル	各企業の反応関数の導出と各社生産量と均衡価格の決定
第11回	独占、寡占および完全競争均衡の比較および独占の死荷重	独占、クールノ複占および完全競争下で予想される均衡数量、均衡価格の比較とその評価
第12回	クールノ複占モデル（応用例Ⅰ）	ネットワーク外部性を許した規格（技術仕様）の標準化（一規格への収斂）の評価（クールノ複占モデルを用いた）

第13回	クールノ複占モデル（応用例Ⅱ）	垂直統合の合理性の根拠をクールノ複占モデルを用いて明らかにする。
第14回	産業組織論Bの復習	産業組織論Bの復習および質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が板書から作成したノートおよびzoom授業時に説明に用いた講師作成の電子ノートのファイル閲覧を通じて説明の筋道をフォローして、復習を行ってほしい。多くの受講者には理解可能と思われる。理解が難しい場合は、入門用のミクロ経済学の教科書等を用いて行ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しない。

【参考書】

学生から要請あれば、本講義冒頭で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

完全競争モデル、独占モデルおよびクールノモデルおよびそれらの応用例の理解の程度を基準に評価する。評価方法は、期末課題を期末試験期間中、授業曜日、授業時間内に、解答して授業支援システムに解答を記入したファイルをアップしてもらい採点する。この採点結果が主な評価基準となる。（この課題の解答に90%、授業期間内に出す練習問題の解答（1回）の提出状況に10%のウェイトを付け評価する。）

【学生の意見等からの気づき】

板書による図解は、なるべく大きく表示するように努める。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to understanding a seller monopoly model and Cournot duopoly model. These models are often used for evaluating the effects of competitive policy or regulatory policy on market performance of specific industry. Microeconomic theoretical understandings for two models (as basic models) are required to describing market performance of real industry.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) to get the whole picture of the monopoly model at microeconomic theory.
- 2) to get the whole picture of the Cournot duopoly model at microeconomic theory.
- 3) to evaluate market performances among competitive, monopoly and, duopoly markets quantitatively.

After each class meeting, students will be expected to spend more than 2 hours to follow many graphical explanations, presented at the class, for monopoly model/Cournot duopoly model.

Your overall grade in the class will be decided, based on the following:

Term-end examination:90%Mid-term report:10%

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
金融各論Ⅱ A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定です。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中であらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	金融知識とその活用	金融リテラシーについて
第3回	金融取引と不確実性①	金融におけるリスクの概念について

第4回	金融取引と不確実性②	リスクの測定手法について
第5回	金融取引と不確実性③	リスクとして把握できない不確実性について
第6回	金融取引と不確実性④	不確実性下での意思決定方法について
第7回	企業の投資と資金調達①	新古典派投資理論と企業の設備資金需要について
第8回	企業の投資と資金調達②	企業の有限責任とリスクについて
第9回	企業の投資と資金調達③	日本の企業グループと株式持ち合いについて
第10回	金融技術革新と金融サービスの新潮流①	ブロックチェーンを使った決済について
第11回	金融技術革新と金融サービスの新潮流②	フィンテックとプラットフォーム事業者について
第12回	金融技術革新と金融サービスの新潮流③	中小企業金融とクラウドファンディングについて
第13回	過剰債務問題①	過剰債務問題とその対応策について
第14回	過剰債務問題②	追い貸し問題とその対応策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内容の理解度を確認する学期末試験によって主に成績を評価します（85％）。出席状況調査を兼ねたアンケートを実施するなどの方法により、講義への参加度を平常点として加算します（15％）。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings in financial markets; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomena in financial markets, from the standpoint of economics.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (90%) and in-class contribution (10%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
金融各論Ⅱ B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能していて、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定です。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中であらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の一般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定理論の基本的枠組みの説明

第3回	資産価格と金融危機②	資産価格の合理的バブルについて
第4回	資産価格と金融危機③	資産価格の急落とそのメカニズムについて
第5回	資産価格と金融危機④	金融危機の発生要因と経済的影響について
第6回	資産価格と金融危機⑤	金融危機の波及メカニズムについて
第7回	金融市場と投資家行動①	期待効用理論について
第8回	金融市場と投資家行動②	投資家心理について
第9回	金融市場と投資家行動③	記述的意思決定理論について
第10回	金融市場と投資家行動④	プロスペクト理論について
第11回	資産価値評価①	基本的な資産価値の評価手法について
第12回	資産価値評価②	さまざまな資産価値の評価手法について
第13回	金融と人的資本投資	人的資本投資と人材育成の経済的機能について
第14回	資産価値評価③	代替的な資産価値の評価手法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内容の理解度を確認する学期末試験によって主に成績を評価します（85%）。出席状況調査を兼ねたアンケートを実施する方法により、講義への参加度を平常点として加算します（15%）。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings in financial markets; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomena in financial markets, from the standpoint of economics.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (90%) and in-class contribution (10%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
企業金融論 A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒト、モノ、カネ、情報は、会社経営に欠かせない資源である。この講義では、カネと情報、すなわち、会社財務との関連で、キャッシュ・フローと現在価値を中心に、国内海外の負債による資金調達制度と実務および、デット・ファイナンスに関連する基礎理論のうち重要なものを学ぶ。日本では、80年代後半以降の社債市場の規制緩和により、デット・ファイナンスが大きく変化してきた。また、90年代末にゼロ金利政策などの非伝統的金融政策が日本、米国と欧州で実施されてきた。この講義では、こうした金融政策の変遷も理解する。

【到達目標】

ヒト、モノ、カネ、情報は、会社経営に欠かせない資源である。この講義では、カネと情報、すなわち、会社財務との関連で、銀行借入や社債などの負債による資金調達の企業金融問題を客観的かつ論理的に考える力を身につけることが目標である。負債に関連する割引現在価値、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスク（格付）の諸概念を理解し、上場企業の財務諸表などの統計資料を見ながら、主体的に考察し、公正に判断できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

エクセルで財務関数を中心に割引現在価値を応用して銀行借入と社債の返済償還、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスクの関係をわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業金融とは	企業の財務諸表からみた負債と資金調達について勉強する
第2回	将来価値	定期預金の満期残高を例に将来価値について勉強する
第3回	時は金なり	金利、現在価値と将来価値の計算について勉強する
第4回	銀行借入の返済方法	一括返済、元金均等返済、元利均等返済について
第5回	金利と銀行借入	金利と銀行借入の返済額
第6回	銀行と流動性	コミットメントラインなどについて説明する
第7回	利付債券	債券の基本概念を学ぶ
第8回	金利と債券価格	金利変化によって債券価額が変動する仕組み
第9回	銀行借入と社債	直接金融と金融仲介の相違
第10回	金利リスク	金利に対する債券価格の感応度と債券のリスク
第11回	格付と信用リスク	格付と社債のプレミアム
第12回	負債の資本コスト	銀行借入、社債などの資本コストについて勉強する
第13回	銀行借入と社債の選択	倒産費用、エージェンシーコストと資産選択について勉強する

第14回 課題作成

今までの内容を確認するために、課題としてデータをダウンロードしてレポートを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するため、エクセルの演算・財務関数などの使い方をマスターし、必要なデータや資料をダウンロードする。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹編著）

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間課題レポート(50%)と学期課題レポート(50%)の合格評価はいずれも必須。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆくり話そうように。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

教職、FPなどの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this lecture, we learn theories and practices of debt finance. The goal of this course is to understand cash flow and present value as well as the roles of various debt instruments in corporate finance. Students are expected to draw yield curve, to calculate credit risk premiums of corporate bonds. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about four hours for each class meeting. Passing midterm assignment (50%) and term report (50%) are both required for grading.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
企業金融論 B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒト、モノ、カネ、情報は、会社経営に欠かせない資源である。Bでは、カネと情報、すなわち、会社財務との関連で、期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関などを中心に学ぶ。続いて、分散投資の基本的な考え方を理解する。その上で、危険資産からなる有効ポートフォリオと安全資産の投資組み合わせを勉強し、資本市場線と証券市場線の考え方をを用いて株式のリスクとリターンの関係を。理論だけでなく、株価等の統計資料を用いて株式のリスクの計測方法もマスターする。

【到達目標】

ヒト、モノ、カネ、情報は、会社経営に欠かせない資源である。Bでは、カネと情報、すなわち、会社財務との関連で、Aの中で扱った負債による資金調達に続いて、株式と資金調達について理解することが目標である。特に株式のリスクに関する理論（capital asset pricing model, CAPM）を把握することが目標である。さらに統計や資料などを自分で収集して、簡単な統計手法を用いて配当異動、新株発行と自己株式取得等の株価に及ぼす効果をCAPMに基づいて計測し、結果を主体的に考察し、公正に判断できるようになることが目標の2つ目である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

エクセルで期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関、 β および異常収益率などをわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	配当割引モデル	成熟企業 v s 成長企業
第2回	株式投資のリターン	期待投資収益率を計算する
第3回	株式投資のリスク	投資収益率の偏差、分散と標準偏差を計算する
第4回	株式同士の相性	共分散、相関とポートフォリオのリスクについて
第5回	分散投資	すべての卵を同じかごに入れるな
第6回	有効ポートフォリオ	リスクとリターンのトレードオフ
第7回	CAPM	資本市場線、証券市場線とベータ
第8回	異常収益率	個別株式投資収益率と市場収益率を用いてベータと異常収益率を計測する
第9回	エクイティファイナンス	公募増資、株主割当及び第三者割当のエクイティファイナンスの事例について学ぶ
第10回	新規上場	新規上場とエクイティファイナンスの仕組みについて学ぶ
第11回	配当政策の統計資料	増減配と株価

第12回	自己株式取得	みなし配当とする自社株買いの仕組みと効果について学ぶ
第13回	バイアウト	上場株式を取得して非上場への仕組みについて学ぶ
第14回	課題	データをダウンロードし、効果を計測する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するために、エクセルの統計関数などをマスターし、割り当てられたデータや資料をダウンロードする。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

中央経済社『資本調達・バイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹編著）
『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間課題レポート(50%)と学期課題レポート(50%)の合格評価はいずれも必須。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり話すこと。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

教職、FPなどの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々
『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In course B, we first learn theories and practice of equity finance. The goal of this course is to understand the risk of equity investment as well as the impacts of equity financing on the stock price. Students are expected to calculate abnormal return around equity finance. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about four hours for each class meeting. Passing midterm assignment (50%) and term report (50%) are both required for grading.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
数理統計学 A
阿部 俊弘
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「数理統計学A」では、統計学の基礎となる統計的分布論を学び、「統計学B」の数理的な部分を補っていきます。「数学A・数学B」と「統計学A・統計学B」の履修をしていることが望ましいです。

【到達目標】

1. 確率分布にどのようなものがあるのか知っている。
2. 確率分布の性質を理解している。
3. 分布の生成について理解している。
4. 様々な確率変数に対する変換を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面講義を行う予定ですが、状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合があります。

確率論を基礎から勉強し、ExcelやPythonを用いた実習を通じて理解を深めていきます。Excelがインストールされたパソコンを使用します（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）。実習等のフィードバックは、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	統計学と数理統計学	数理的準備
第2回	離散の確率変数	様々な離散確率分布
第3回	連続の確率変数	様々な連続確率分布
第4回	多次元の確率変数と分布（1）	重要な離散多変量分布
第5回	多次元の確率変数と分布（2）	重要な連続多変量分布
第6回	独立性	確率変数の独立
第7回	期待値と分散（1）	離散確率変数の期待値と分散
第8回	期待値と分散（2）	連続確率変数の期待値と分散
第9回	期待値と分散に関する話題	チェビシェフの不等式とその応用
第10回	変数変換と和の分布（1）	離散確率変数の和の分布
第11回	変数変換と和の分布（2）	連続確率変数の和の分布
第12回	変数変換と和の分布（3）	連続確率変数の変数変換
第13回	積率と積率母関数（1）	離散確率変数の積率母関数
第14回	積率と積率母関数（2）	連続確率変数の積率母関数

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1時間

PCを用いた実習・・・2時間

授業の復習・・・1時間

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

国沢清典(1996)『確率統計演習 1 確率』、培風館

宮田庸一(2012)『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション

篠崎 信雄, 竹内 秀一(2009)『統計解析入門 (MSライブラリ)』、サイエンス社

田中勝人(2010)『基礎コース統計学 第2版』、新世社

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）と課題レポート（80％）

【学生の意見等からの気づき】

PCを用いた実習を交えながら、内容が難解になりすぎないように、基本的な考え方を解説します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・Excelがインストールされたパソコン
- ・学習支援システム

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn distribution theory in statistics, and will complement the mathematical part of “Statistics B.”

It is desirable for students to have taken “Mathematics A and Mathematics B” and “Statistics A and Statistics B.”

【Learning Objectives】

The goal of this class is to understand the basic idea of probability theory through practical training using statistical software.

【Learning activities outside of classroom】

Text preparation — 1 hour

Practical training including Excel — 2 hours

Class review — 1 hour

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (20%)

Report (80%)

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
数理統計学 B
阿部 俊弘
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理統計学Bでは、「数理統計学A」の知識を前提として統計的推測（推定・検定）の基礎的な手法を学びます

【到達目標】

1. 様々な確率分布の推定法を理解している
2. 確率分布の性質を理解している。
3. 実データに対する区間推定ができる。
4. 実データに対する統計的検定ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面講義を行う予定ですが、状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合があります。

確率論を基礎から勉強し、ExcelやPythonを用いた実習を通じて理解を深めていきます。Excelがインストールされたパソコンを使用します（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）。実習等のフィードバックは、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大数の法則	大数の弱法則
第2回	中心極限定理	正規分布による近似
第3回	大数の法則	大数の強法則
第4回	点推定法（1）	最適性とその概要
第5回	点推定法（2）	様々な推定手法
第6回	推定手法の例（1）	離散型確率変数の推定
第7回	推定手法の例（2）	連続型確率変数の推定
第8回	区間推定法（1）	区間推定の基本
第9回	区間推定法（2）	様々な区間推定
第10回	統計的検定の概要	仮説検定と二つの誤り
第11回	統計的検定の例	様々な問題に対する検定手法
第12回	検定方式の作り方（1）	第2種の誤りと検出力
第13回	検定方式の作り方（2）	尤度比検定と例
第14回	計数値に関する検定	比率に関する検定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・・・・1時間

PCを用いた実習・・・・・・2時間

授業の復習・・・・・・1時間

【テキスト（教科書）】

国沢清典(1996)『確率統計演習 1 確率』、培風館

国沢清典(1996)『確率統計演習 2 統計』、培風館

【参考書】

宮田庸一(2012)『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション
篠崎 信雄, 竹内 秀一(2009)『統計解析入門 (MS ライブラリ)』、サイエンス社

田中勝人(2010)『基礎コース統計学 第2版』、新世社

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）と課題レポート（80％）

【学生の意見等からの気づき】

PCを用いた実習を交えながら、内容が難解になりすぎないように、基本的な考え方を解説します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ Excelがインストールされたパソコン
- ・ 学習支援システム

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, the basic method of statistical inference (estimation /hypothesis testing) will be studied based on the knowledge of "Mathematical Statistics A".

【Learning Objectives】

The goal is to understand the basic idea of statistics through practical training in Excel.

【Learning activities outside of classroom】

Text preparation — 1 hour

Practical training including Excel — 2 hours

Class review — 1 hour

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (20%)

Report (80%)

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
国際金融論 A
ブー トウン カイ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。「国際金融論A/B」の講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。春学期の講義では、経済全体の中の対外取引の位置づけ、対外取引の意義やその内容と統計データ、為替市場の仕組み・取引内容、為替レートと金利や物価との関係、短期と長期における為替レート決定の理論などについて学ぶ。

【到達目標】

対外取引の意義や内容、その統計データの活用、為替市場の仕組みと為替取引、為替レートと金利や物価との関係、為替レート決定などを理解でき、さらにこれらの内容に関する現実の様々な問題に関心を持ち、経済学の手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論という分野、経済学の基本的な考え方
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支勘定
5	貨幣とは	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	為替レートとは	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論（1）	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論（2）	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル

13	現実における購買力平価	購買力平価からの乖離、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果
14	為替レート決定の実証分析	為替レート決定の理論を整理し、データを用いて検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回は学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コア・テキスト国際金融論』第3版、藤井英次（著）、新世社 2024年。

【参考書】

- 『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019年。
- 『入門国際金融』第4版、高木信二（著）、日本評論社 2011年。
- “International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第12版（2022年）（英語）ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題：30%、中間試験：30%、学期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline (in English)】

Course outline: International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

Learning objectives: Through the course, students are expected to be able to understand the significance and content of external transactions, the structure of the foreign exchange market, exchange rate determination, the relations between the exchange rate, the interest rate, the price level, and the real economy, and the way by which macroeconomic policies are conducted and their effects in an open economy. In addition, students are expected to learn about and be interested in various issues in international finance, including international capital markets, exchange intervention, currency crises, the euro as a common currency, international finance in developing countries, and global current account imbalances.

Learning activities outside of classroom: To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and newspaper/journal articles) after each lecture. Also, homework is assigned frequently. It is expected that at least 4 hours of study time will be required for study outside of class time.

Grading criteria: Grading is based on the students' homework and midterm & final report performance with weights being 30%, 30% and 40%, respectively.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
国際金融論 B
ブー トウン カイ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。「国際金融論A/B」の講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。秋学期の講義では、春学期の講義内容を踏まえ、為替レートと実物経済財との関係、開放マクロ経済学モデルを用いる国内外経済の繋がりと経済政策の効果の分析、そして国際金融論の発展・応用的なトピック（為替介入、為替制度、通貨危機、国際金融市場の役割、国際金融協力）などについて学ぶ。

【到達目標】

為替レートと実物経済財との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果などを理解でき、さらに為替介入や為替制度選択、共通通貨としてのユーロ、国際金融市場、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題に関心を持ち、経済学的手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	為替レートと実体経済 (1)	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
2	為替レートと実体経済 (2)	為替レートと経常収支
3	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LMモデルの復習
4	開放経済分析の理論的枠組み	マンデル・フレミングモデル
5	開放マクロ経済政策	変動相場制・固定相場制における金融・財政政策の仕組みと効果
6	為替介入	介入の仕組み、胎化と不胎化、リスク・プレミアムとポートフォリオ・バランス効果
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	トリレンマと為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、及び為替制度の選択
9	通貨危機	通貨危機の歴史や発生メカニズムに関する理論、予防策
10	国際資本市場	国際資本市場の仕組みや役割、実態、問題点
11	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策

12	共通通貨	ユーロという共通通貨と最適通貨圏の理論
13	東アジアの経済統合と地域的通貨協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、そして地域的通貨協力について学ぶ。
14	グローバルインバランス	世界的な経常収支不均衡問題の現状、要因、政策的対応を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コア・テキスト国際金融論』第3版、藤井英次、新世社 2024年。

【参考書】

- 『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019年。
- 『入門国際金融』第4版、高木信二（著）、日本評論社 2011年。
- “International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第12版 (2022年) (英語) ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。

小テスト・宿題：30%、中間試験：30%、学期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline (in English)】

Course outline: International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

Learning objectives: Through the course, students are expected to be able to understand the significance and content of external transactions, the structure of the foreign exchange market, exchange rate determination, the relations between the exchange rate, the interest rate, the price level, and the real economy, and the way by which macroeconomic policies are conducted and their effects in an open economy. In addition, students are expected to learn about and be interested in various issues in international finance, including international capital markets, exchange intervention, currency crises, the euro as a common currency, international finance in developing countries, and global current account imbalances.

Learning activities outside of classroom: To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and newspaper/journal articles) after each lecture. Also, homework is assigned frequently. It is expected that at least 4 hours of study time will be required for study outside of class time.

Grading criteria: Grading is based on the students' homework and midterm & final report performance with weights being 30%, 30% and 40%, respectively.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
企業経済論 A
砂田 充
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に、ミクロ経済学分析の基礎概念、独占企業の行動及びマーケティング戦略としての様々な価格差別の態様について学習する。また、企業行動と政府規制の関係についても学習し、資本主義経済における企業と政府の役割や企業の経営戦略が消費者に与える影響を学ぶ。

【到達目標】

企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また、企業が日々の活動で行っている様々なマーケティング戦略の仕組みと効果、独占企業と政府規制の関係について経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	企業経済学の課題と歴史	SCPパラダイム
3	経済学のための数学基礎	関数・連立方程式・微分・最適化
4	ミクロ経済学の基礎概念①	消費者行動と需要の価格弾力性
5	ミクロ経済学の基礎概念②	企業の費用構造
6	ミクロ経済学の基礎概念③	機会費用とサンクコスト
7	ミクロ経済学の基礎概念④	市場均衡と経済厚生
8	独占	独占企業の価格設定と非効率性
9	価格差別①	価格差別の手段と効果
10	価格差別②	市場分割
11	価格差別③	バンドル
12	価格差別④	二部料金
13	価格差別⑤	抱き合わせ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎および経済数学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣、2008年）。小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第2版）』（日本評論社、2013年）。

丸山雅祥『経営の経済学〔第3版〕』（有斐閣、2017）。

Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%、平常点含む）による（ふたつの要素の合計が100%）。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。2025年度に学習支援システムのリプレースメントが予定されているため、実際の運用は変更になる可能性がある。

【Outline (in English)】

We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the following topics: demand and supply, monopoly, price discrimination. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept.

The goal of this course is understanding the mechanism and effects of various marketing practices, and the role of public policy on monopoly market, based on the economic theory.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through the LMS (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through the LMS within a week (about two hours required).

Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
企業経済論 B
砂田 充
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に、ゲーム理論の基礎、寡占市場、市場構造指標と市場支配力、カルテル、合併及び垂直的取引関係について学習し、わが国の様々な産業・市場で典型的な寡占市場における企業間競争の仕組みと社会・経済への影響を学習し、政府規制の役割についても学ぶ。

【到達目標】

企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また、企業間競争と様々な経営戦略（協調行為・垂直的取引制限等）の仕組みと効果を経済学的に理解し、企業と政府規制の関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	ゲーム理論の基礎	企業行動とゲーム理論
3	寡占市場①	クールノー競争とベルトラン競争
4	寡占市場②	寡占の市場行動
5	製品差別化①	垂直的差別化
6	製品差別化②	水平的差別化
7	カルテル①	カルテルの経済分析
8	カルテル②	カルテル規制
9	市場構造分析①	市場支配力
10	垂直的取引①	垂直的取引と企業間関係
11	垂直的取引②	垂直的取引制限の競争効果
12	垂直的取引③	垂直的統合による効率性と排除
13	その他のトピック	より進んだテーマ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎および経済数学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣、2008年）。
小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。
長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第2版）』（日本評論社、2013年）。
丸山雅祥『経営の経済学（第3版）』（有斐閣、2017）。

Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%、平常点含む）による（ふたつの要素の合計が100%）。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。2025年度に学習支援システムのリプレースメントが予定されているため、実際の運用は変更になる可能性がある。

【Outline (in English)】

We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: oligopoly, vertical and horizontal product differentiation, cartel, market power, vertical integration and restraint. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept.

The goal of this course is understanding the mechanism and effects of various management strategy (eg. collusive behavior, vertical restraints, and so on) in oligopolistic competition, and the role of public policy on such strategies.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through the LMS (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through the LMS within a week (about two hours required).

Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

ARS200xCA
世界の文化と思想 A
芝田 幸一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アンデス文明とその遺産 - 古代から現代への継承 1」

日本を含む一部のアジア諸国では、いまだに「四大文明」などという誤解を招く文明観がみられることがある。そこに含まれない南米のアンデス文明については、高校までの学校教育では、ほとんど扱われない。そのため、一部のメディアがふりまく過度に神秘的なイメージを抱く者も少なくない。

本講義では、主に考古学・人類学研究の成果としての基礎知識によって、まず学問的根拠のあるアンデス文明像の定着を図り、旧来の文明観を払拭する。次に、スペインによる征服がもたらした諸問題を学習し、異文化による長期的な支配を受けることの作用について考察する。その後は、古代アンデスの自然災害、戦争、食文化などのテーマ別学習に入る。

教員自身が長年ペルーで実施してきた発掘調査や研究についても若干紹介する予定である。

【到達目標】

1. 古代アンデス文明（および植民地時代）に関する基礎知識を得て、2. これに関連した現代ペルーの社会・文化・諸問題への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う（主にパワーポイントを使用し、必要に応じて板書を併用）。アンケートやリアクションペーパー等の提出を求める回がある。学期中に3回小テストを実施し（事前にHoppiiで周知）、その結果に関して次回の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 1	授業内容の紹介。アンケート。アンデスの多様な自然環境と都市、様々な時代の主要遺跡などについて、世界遺産を中心に紹介（主に海岸地帯）。
第2回	イントロダクション 2	アンデスの多様な自然環境と都市、様々な時代の主要遺跡などについて、世界遺産を中心に紹介（主に山岳地帯）。
第3回	最初の「アメリカ人」	いつ頃、どんな人たちが、どのように、無人の南北アメリカ大陸に足を踏み入れたのか
第4回	文明形成期 1	農耕の発達を待たずして登場した最初の神殿（先土器時代）
第5回	文明形成期 2	巨大神殿群の興亡と世界遺産チャビン・デ・ワントル（教員の研究成果紹介を含む）
第6回	文明の様々な展開 1	最初の王国モチェ
第7回	文明の様々な展開 2	巡礼と地上絵のナスカ
第8回	高原の大国	ティティカカ湖のほとりに栄えたティワナク、北の覇者ワリ
第9回	インカ統一前夜 1	黄金伝説のシカンとチムー
第10回	インカ統一前夜 2	北海岸の大国チムー
第11回	インカ 1	インカの基本的特徴
第12回	インカ 2 帝国の興亡	なぜ、どのように急激拡張し、そして滅びたのか
第13回	インカ 3 日々暮らし	年中行事、生まれてから死ぬまで、職業、食と酒など
第14回	スペイン対インカ	スペインによる征服期の人物・出来事など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の配布資料で予習・復習し、そこに示された参考文献で更に理解を深める。参考書欄の冒頭に挙げた2つの文献（松本 2025 または細谷編 2012）で講義各回に対応する章に目を通すことも勧める。これらを総合すると約4時間の予習復習時間が見込まれる。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。Hoppiiで資料を適宜配布する。

【参考書】

・松本雄一『アンデス文明ガイドブック』新泉社（2025）：春学期講義内容のほぼ全域をカバーしており、最前線の研究者による最新かつ正確な内容となっている。オススメ。

- ・細谷広美（編）『ペルーを知るための66章』明石書店（2012）：春学期講義内容の全域をカバーしており、かつ最も簡潔で易しい。オススメ。
- ・関雄二『アンデスの考古学（新版）』同成社（2021）：春学期の大半を詳細にカバーする。日本語で読めるアンデス考古学の概説書としては最も詳細。
- ・大貫良夫、加藤泰建、関雄二（編）『古代アンデス - 神殿から始まる文明』朝日新聞出版（2010）：日本の調査団による研究成果のまとめ。
- ・ビース、F・増田義郎『図説インカ帝国』小学館（1988）：豊富な写真が素晴らしいインカ入門の良書。
- ・ラテンアメリカ文化事典編集委員会（編）『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）：各項目が見開き2頁にまとめられており読みやすい。
- ・古代アメリカ学会 <https://americaantigua.org/>
- ・その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期中にHoppii上でオンライン小テスト（全て持ち込み可）を3回実施し、点数が高い方から2回分（90%）を基本評価対象とする（何らかの事情で1回欠試しても不利にならない）が、平常点（提出物等含む）（10%）も加味して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価方法を変更した

【学生が準備すべき機器他】

当科目は教室での対面授業であるが、小テストはHoppii上で行うためPC・タブレット・スマートフォン等の情報機器を持参する必要がある（物理キーボードの使用が望ましい）。連絡事項や資料配布もHoppii上で行う。詳しくは初回授業で説明する。

【その他の重要事項】

毎回Hoppiiで配布する資料は、①各自がプリントアウトして教室に持参するか、②ノートPCやタブレットを持参して資料ファイルに直接書き込みができるようにすること。

【Outline (in English)】

"Andean Civilization and its legacy to the present-day I"

[Course Outline] This course deals with the overview of the Andean civilizations including the issues of Spanish conquest and its relations to the contemporary Peruvian society and culture. [Learning Objectives] The goals of this course are to 1)obtain basic knowledge about the nature and the historical process of Andean Civilization, and 2)understand the short and long term consequences of the Spanish conquest. [Learning Activities outside of Classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. [Grading Criteria /Policy] Grading will be based on 3 short exams (90%) and in-class contribution (10%).

ARS200xCA
世界の文化と思想 B
芝田 幸一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アンデス文明とその遺産 - 古代から現代への継承 2」

日本を含む一部のアジア諸国では、いまだに「四大文明」などという誤解を招く文明観がみられることがある。そこに含まれない南米のアンデス文明については、高校までの学校教育では、ほとんど扱われない。そのため、一部のメディアがふりまく過度に神秘的なイメージを抱く者も少なくない。

本講義では、主に考古学・人類学研究の成果としての基礎知識によって、まず学問的根拠のあるアンデス文明像の定着を図り、旧来の文明観を払拭する。次に、スペインによる征服がもたらした諸問題を学習し、異文化による長期的な支配を受けることの作用について考察する。その後は、古代アンデスの自然災害、戦争、食文化などのテーマ別学習に入る。

教員自身が長年ベルーで実施してきた発掘調査や研究についても若干紹介する予定である。

【到達目標】

1. 古代アンデス文明（および植民地時代）に関する基礎知識を得て、2. これに関連した現代ベルーの社会・文化・諸問題への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う（主にパワーポイントを使用し、必要に応じて板書を併用）。アンケートやリアクションペーパー等の提出を求める回がある。学期中に3回小テストを実施し（事前にHoppiiで周知）、その結果に関して翌週の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の紹介（春学期授業のまとめ含む）。アンケート。
第2回	スペインによる征服 1	征服期
第3回	スペインによる征服 2	植民地時代
第4回	現代のベルーと古代の遺産 1（盗掘編）	盗掘をめぐる諸問題
第5回	現代のベルーと古代の遺産 2（博物館編）	博物館をめぐる諸問題
第6回	日本の研究者とベルー社会 1（1960-80年代）	フィールドワークをめぐる諸問題 1（様々なエピソード）
第7回	日本の研究者とベルー社会 2（1990年代）	フィールドワークをめぐる諸問題 2（博物館建設のエピソード）
第8回	日本の研究者とベルー社会 2（2000年代）	フィールドワークをめぐる諸問題 2（教員の事例紹介等）
第9回	古代アンデスの食文化 1（紀元後）	様々な時代・地域の食文化
第10回	古代アンデスの食文化 2（紀元前）	教員の研究成果紹介
第11回	自然災害とアンデス文明	古代のエル・ニーニョ現象の被害と対応策
第12回	古代アンデスの戦争	様々な時代・地域の戦い方、武器などについて
第13回	古代アンデスの巡礼	スペイン人征服者の見た巡礼、考古学者の思い出した巡礼
第14回	古代アンデスの世界観	教員の研究紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期「世界の文化と思想A」の初回配布資料（秋学期のHoppii教材にもアップロードしておく）に目を通し、少なくともUNESCO世界遺産に登録されているベルー国内の遺跡の地図上・年表上の位置を頭に入れておく。各回の配布資料で予習・復習し、そこに示された参考文献で更に理解を深める。これらを総合すると約4時間の予習復習時間が見込まれる。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。Hoppiiで資料を適宜配布する。

【参考書】

【参考書】

・大貫良夫『アンデスの黄金 - クントゥル・ワシの神殿発掘記』中公新書（2000）：秋学期前半に予定されている講義内容の参考となり、読み物としても面白い。
・関雄二『アンデスの文化遺産を活かす - 考古学者と盗掘者の対話』臨川書店（2014）：秋学期前半に予定されている講義内容の参考となり、読み物としても面白い。

・高野潤『インカの食卓 - 古代から続く大地の恵み』平凡社（2011）：秋学期後半の参考となる。著者は写真家であり、貴重な写真が満載。そして学者顔負けの内容。
・ラテンアメリカ文化事典編集委員会（編）『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）：各項目が見開き2頁にまとめられており読みやすい。
・レンフルー&バーン『考古学 - 理論・方法・実践』東洋書林（2007年）：アンデスに限らない考古学の概説書。
その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

【関連一般書】

・大城道則、芝田幸一郎、角道亮介『考古学者が発掘調査をしていたら、怖い目にあった話』ポプラ社（2023）：実際の海外フィールドワークに関する学術エンタメ本。2025年1月時点で法政市ヶ谷図書館の「人気図書」扱い。第三章「ベルーの発掘調査」は若干ながら第6～9回に関する内容を含むが、参考書ではなくブルーに興味・関心を持ってもらうためのエッセイ集。

【成績評価の方法と基準】

秋学期中にHoppii上でオンライン小テスト（全て持ち込み可）を3回実施し、点数が高い方から2回分（90%）を基本評価対象とする（何らかの事情で1回欠試しても不利になりにくい）が、平常点（提出物等含む）（10%）も加味して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教材としてのドキュメンタリー番組をバランス良く使用する。成績評価方法を変更した。

【学生が準備すべき機器他】

当科目は教室での対面授業であるが、小テストはHoppii上で行うためPC・タブレット・スマートフォン等の情報機器を持参する必要がある（物理キーボードの使用が望ましい）。連絡事項や資料配布もHoppii上で行う。詳しくは初回授業で説明する。

【その他の重要事項】

春学期「世界の文化と思想A」から継続する内容であるため、これを履修済みであることが望ましい（応相談）。毎回Hoppiiで配布する資料は、①各自がプリントアウトして教室に持参するか、②ノートPCやタブレットを持参して資料ファイルに直接書き込みができるようにすること。

【Outline (in English)】

"Andean Civilization and its legacy to the present-day II"

[Course Outline] This course deals with the overview of the Andean civilizations including the issues of Spanish conquest and its relations to the contemporary Peruvian society and culture. [Learning Objectives] The goals of this course are to 1)obtain basic knowledge about the nature and the historical process of Andean Civilization, and 2)understand the short and long term consequences of the Spanish conquest. [Learning Activities outside of Classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. [Grading Criteria /Policy] Grading will be based on 3 short exams (90%) and in-class contribution (10%).

SES300CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）
地球環境論A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解するために、身の回りの自然環境から、地球または宇宙規模での環境について学びます。様々な人間の経済活動と地球環境との相互関係について理解を深めるため、環境保全、資源、エネルギー、生物多様性など多面的な学習を展開します。

【到達目標】

諸資料を活用し、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。さらに、自発的に地球規模での問題に気づき、的確な情報によって批判できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR鑑賞や演習（クイズ）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に復習課題を課し、授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	これまでの復習のための演習	参考となるビデオ観察、グラフや計算を用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTRなどによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性と意義
14	授業内試験	これまでの学習の理解度を筆記試験でチェックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や課題は学習支援システムで配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1 『地球環境学入門 第3版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800円

【参考書】

1 『環境・エネルギー・健康 20講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

試験（60%）、提出課題と授業への取組の総合点（40%）とし、合計の60%以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】

学生は授業中にPC、スマートフォン、タブレットを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員はSRI Internationalにて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないように配慮します。

【Outline (in English)】

In order to understand the mechanisms of the global environment, you will learn diversity, interrelationships and rules of the environment on our planet. Based on the natural history of the formation of the Earth, you will learn how human activities work for the environment.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading criteria is Assignments(60%), Class Contribution(20%), and

Report or Quiz contribution(20%).

SES300CA (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300)
地球環境論B
山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。様々なエネルギー問題、廃棄物問題、環境保全などについて、正しい情報とともに課題と解決策を見出す力を養う。

【到達目標】

自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、地球規模の広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・地球の人口	講義内容、計画、評価方法の紹介。環境とは何か、エコとは何か。地球が直面する課題を知る。
2	地球上の資源	化石燃料、非化石燃料、鉱物資源などの特徴を知る
3	資源とエネルギー	発電技術、資源・エネルギーに関する諸問題を議論する
4	原子力の利用と問題点	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
5	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
6	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
7	地球大気の変異	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
8	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
9	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
10	食品と環境	食品汚染、食品ロス、農業問題、毒とは何か
11	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
12	廃棄物・廃プラスチックと環境	地球規模での廃棄物問題、海洋プラスチック問題
13	環境と経済	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。
14	授業内試験	理解度を筆記試験で評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1)『地球環境学入門 第3版』 山崎友紀 （講談社サイエンティフィク）2800円

【参考書】

1)『環境・エネルギー・健康 20講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2)『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott &Matthew Laposata , Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

試験（60%）、提出課題と授業への貢献度（40%）とし、合計の60%以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

理系科目の苦手な学生も理解できるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業の予習復習の際に学習支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】

学生は授業中にPC、タブレット、スマートフォンを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員はSRI Internationalにて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

【Outline (in English)】

The current situation of environmental problems are already very complicated. You will learn the relationship between human activities and environmental problems. The main theme of this semester is to discuss how we can conquer problems, such as climate change, disasters, exhaustion of resources, and so on.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading criteria is Assignments(60%), Class Contribution(20%), and

Report or Quiz contribution(20%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
国際貿易論A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易論Aでは国際貿易論の基本概念を学習する。余剰分析を通じて貿易利益の確認を行い、貿易政策の影響について明らかにする。国際貿易の理論を現実の現象に応用して説明を試みる。

【到達目標】

国際貿易論を学び、貿易の利益の源泉、貿易政策の効果について分析出来る事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

まず国際取引の基本問題である、貿易からの利益を考える。さまざまな理由で貿易が行われるが、その動機について理論的に解説する。また、貿易を阻害する要因である貿易政策についてもその影響を分析する。定期的に課題を課し提出する事で理解を進める。質問・フィードバック等も学習支援システムを利用して行い、学習の助けとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際取引とは何か？ なぜ我々は貿易を行うのか？	国際取引の基礎、貿易からの利益
第2回	貿易の影響	交易条件効果
第3回	余剰分析の基礎：消費者行動から	消費者の効用、需要、消費者余剰
第4回	余剰分析の基礎：企業行動から	生産者余剰
第5回	市場の役割、貿易利益	市場均衡、社会的余剰、自給自足時と自由貿易時の社会的余剰の比較
第6回	貿易政策の効果	自由貿易時と輸入関税下の余剰
第7回	国内独占市場の分析	国内独占の場合の余剰と貿易の効果
第8回	差別化財と貿易利益	差別化財、独占的競争、貿易費用
第9回	貿易と経済成長	貿易は経済を成長させるのか
第10回	グラビティモデル	貿易量の説明
第11回	貿易と環境	貿易は環境を悪化させるのか
第12回	一般均衡分析の基礎	リカードモデル
第13回	一般均衡における生産	一般均衡における相互依存関係
第14回	一般均衡における貿易利益	リカードモデルにおける貿易均衡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を講義中にも解説するが、各自でも経済学の入門について自習しておくこと。講義では経済学の考え方について主に紹介するが、各自で具体例に基づいた計算なども可能になっておく事が望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

武智、東田、黒田著、トピックで読み解く国際貿易論、ミネルヴァ書房

【参考書】

石井他著、入門・国際経済学、有斐閣

石川・菊池・棕著、国際経済学をつかむ、有斐閣

Krugman and Obstfeld, International Economics, Addison Wesley

【成績評価の方法と基準】

課題（50%）、レポート試験(50%)で評価する。講義内容を踏まえ、自ら計算・グラフの作成（解釈）が出来る事を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course is intended to introduce students to basic concepts of international trade. Our learning objective is to understand the standard theories in international trade and apply these theories to real world examples. Students are expected to study four hours to prepare for the class. Grading will be determined by the performance of exercises (50%) and final report (50%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
国際貿易論B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、貿易政策と、国際貿易ルールをつかさどる国際機関である世界貿易機関(World Trade Organization, WTO)の歴史、役割について紹介します。

【到達目標】

世界の貿易ルールをつかさどる国際機関であるWTO。その歴史と、様々な貿易紛争を例にWTOの機能と役割について理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

スライドを用いてWTOの下での貿易紛争を経済学的な観点から分析します。定期的に課題を課し提出する事で理解を進めます。質問・フィードバック等も学習支援システムを利用して行い、学習の助けとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	GATT,WTOとは何か
2)	貿易政策の効果	関税等の影響の分析
3)	自由貿易協定	自由貿易協定の効果
4)	戦略的貿易政策の基礎	ゲーム理論の考え方
5)	戦略的貿易政策の影響	戦略的貿易政策とその有効性
6)	戦略的貿易政策の意味	展開系ゲームと戦略的貿易政策の意味
7)	国内独占、外国独占と貿易政策	独占市場での貿易政策とルールと裁量
8)	大国の貿易政策	近隣窮乏化政策
9)	WTOの存在意義	関税戦争と囚人のジレンマ
10)	WTOの原則	WTOの原則とルール
11)	WTOルールの分析	日本の酒税
12)	WTOの紛争処理	WTOの紛争処理メカニズムとアンチダンピング税
13)	WTOと知的財産権保護	知財保護と貿易、TRIPS
14)	貿易政策の政治経済学	中位者投票理論とロビー活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を元に学習を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

武智、東田、黒田著、トピックで読み解く国際貿易論、ミネルヴァ書房

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

課題（50%）および期末レポートの結果（50%）により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the various aspects of trade policy and the role of the international organization (World Trade Organization (WTO)), which governs the rule of international trade. Our learning objective is to understand the role of WTO in international trade. Students are expected to study four hours to prepare for the class. Grading will be determined by the performance of exercises (50%) and final report (50%).

MAN300CA (経営学 / Management 300)
監査論 A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

監査の基本的な枠組みと、金融商品取引法に基づく公認会計士監査及び会社法に基づく監査役等による監査制度について講義する。監査とは何を目的とするものか、またいかなる行為であるのかについて理解するとともに、監査制度と経済社会とのかかわりについて理解することを目的とする。

【到達目標】

皆さんは「監査」ということばを聞くとどのようなものをイメージしますか。たとえば、公認会計士や企業の監査役など、職業のひとつとして聞いたことがあるかも知れません。また、部活やサークルなどで監事を設けていたり、実際に経験した人もいるかも知れません。この講義では、こうしたイメージの中の監査から一歩踏み出して、経済社会で行われている監査の仕組みを理解し、どのような役割を果たしているのかについて知見を得ることを到達目標とします。具体的には、監査という行為の本質と、法制度によって行われている監査の社会的意義について理解し、どのような問題点があるのか、またどのような改善策がありえるのかについて考察する能力を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメ（スライド）を配付する。講義ごとに「講義内レポート」の提出を求める。講義内レポートは採点した上で翌講義の冒頭に学習支援システムを通じて得点を通知し、解答と解説を行う。講義の構成は、①前回の講義内レポートの解説（10分）、②当回の講義（70分）、③当回の講義内レポートの作成（20分）を目安とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	監査の基本的な考え方と二つの系列の監査	監査に対する一般的なイメージと、経済社会において展開される監査との異同点について学習する。
第2回	企業不正と監査	企業不正の具体的なケースと監査とのかかわりについて学習し、二つの系列の監査との関係について理解する。
第3回	二つの系列の監査と監査の種類	会計監査と業務監査、外部監査と内部監査、法定監査と任意監査のそれぞれの特質について学習する。
第4回	近代監査の発展過程	経済社会の時代的変遷と監査の変容過程について、特に19世紀（英国）以降の監査形態の変化について理解する。
第5回	日本の監査制度の成立と発展	旧商法に基づく監査役制度、旧証券取引法に基づく公認会計士監査の成立と時代的背景について学習する。
第6回	旧商法に基づく監査役監査制度の成立と展開	監査役の意義と八久和厘について、時代的背景と変遷過程、および現代的意義と課題について理解する。

第7回	旧商法特例法に基づく会計監査人監査の意義	会計監査人監査が必要となった背景について、旧商法と旧証券取引法に基づく監査との関連から理解する。
第8回	会社法監査の成立と展開	監査役、会計監査人、および委員会設置会社における監査委員の意義について、特にそれぞれの権限と責任の観点から理解する。
第9回	旧証券取引法に基づく公認会計士監査制度の成立と展開	旧証券取引法に基づく公認会計士監査制度の成立と展開過程について学習する。
第10回	金融商品取引法に基づく企業内容開示制度と財務諸表監査の意義	現在の金融商品取引法の意義を理解した上で、財務諸表監査の役割について学習する。
第11回	公認会計士法における公認会計士監査制度の意義と課題	公認会計士法の概要と、公認会計士の業務について学習する。特に、「1項業務」と「2項業務」の関係について理解する。
第12回	公認会計士法における監査法人制度の意義と課題	監査法人制度の概要と現代的課題について、特に社員の権限と責任、指定社員、特定社員、ネットワーク・ファームの現状について学習する。
第13回	監査基準における監査人の人的要件	監査人の資格要件である適格性、独立性、および正当な注意のそれぞれの意義について理解する。
第14回	監査人の法的責任と免責要件	監査人に課せられる法的責任について、刑事、民事、行政の各責任の観点から学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎講義の冒頭で得点通知および解説を行う前回の講義内レポートについて復習し、翌講義の内容についてテキスト等を参考に準備学習を行う。それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長吉真一、岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版）、中央経済社。

【参考書】

石田三郎、林隆敏、岸牧人『監査論の基礎』、東京経済情報出版。

【成績評価の方法と基準】

講義内レポートは各5点満点で14回実施し、計70点満点とする。42点（60%）以上を合格とする。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では、専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

【その他の重要事項】

初回の講義において、講義の進め方、成績評価および単位の認定方法に関する詳細について説明するので必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is for students to understand the basic concepts of audit made pursuant to the Securities Law and Company's Act in Japan. At the end of the course, students are expected to identify the institutional significance and problems to be solved on auditing performed by independent public accountants. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Students have to submit the report in each class, 5 points for each, 14 times, 70 points in total, and 60% of them (42 points) is the passing grade of the class.

MAN300CA (経営学 / Management 300)
監査論 B
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務諸表監査の基礎理論とプロセスについて理解するとともに、証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて考察するための知見を得る。

【到達目標】

「期末商品（原価1,000）の時価が800であったので評価替えを行う」、「期末売掛金残高に対して2%の貸倒引当金を設定する」－簿記の問題でよく見るこれらの取引は、簿記の基本を理解している人であれば瞬時に仕訳することができるであろう。これは「会計アタマ」である。対して、「期末商品の評価額は本当に800なのか?」、「貸倒引当金の設定率は2%でいいのか?」－こうした考え方は「監査アタマ」でないとできない。この講義では、「監査アタマ」で企業会計上の取引を考えることによって、財務諸表の信頼性（適正性）を確かめるためには何が必要で、その結果をどのように利用者に伝達するのかを考える。その上で、実際の証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて、論理立てて考察するための知見を得ることを本講義の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメ（スライド）を配付する。また、講義ごとに「講義内レポート」の提出を求める。講義内レポートは採点した上で翌講義の冒頭に学習支援システムを通じて得点を通知し、解答と解説を行う。講義の構成は、①前回の講義内レポートの解説（10分）、②当回の講義（70分）、③当回の講義内レポートの作成（20分）を目安とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「会計アタマ」から「監査アタマ」へ	監査の概念的枠組みを、「会計アタマ」と「監査アタマ」という視点から提示する。
第2回	「監査アタマ」で考えるアサーションと監査要点、監査証拠	財務諸表監査のプロセスにおけるアサーションと監査要点、及び監査手続と監査証拠の基本的関係について学習する。
第3回	企業の内部統制と財務諸表監査(1)	財務諸表監査における被監査会社の内部統制の評価の必要性について学習する。
第4回	企業の内部統制と財務諸表監査(2)	内部統制概念の変遷について学習し、内部統制の評価が財務諸表監査においてどのように位置づけられるかについて学習する。
第5回	リスク・アプローチの基本的な考え方	リスク・アプローチの必要性和意義について、監査の有効性と効率性の観点から学習する。
第6回	事業上のリスク等を重視したリスク・アプローチの展開(1)	リスク評価手続とリスク対応手続の目的と役割について理解する。
第7回	事業上のリスク等を重視したリスク・アプローチの展開(2)	監査手続全体の体系における実証手続の位置づけと機能について理解する。

第8回	監査上の重要性概念	監査上の重要性概念と監査リスク、監査の有効性と効率性、監査意見の性質との関係について理解する。
第9回	監査結果の報告	監査報告書の基礎的な機能と限界、および監査報告書の改革について学習する。
第10回	除外事項と監査意見、追記情報の種類と意義	除外事項の種類と発生原因、及び除外事項付意見との関係、および追記情報について学習する。
第11回	継続企業の前提に関する監査人の検討(1)	いわゆる「GC注記」の制度導入の経緯と背景、および枠組みについて理解する。
第12回	継続企業の前提に関する監査人の検討(2)	継続企業の前提に関する監査人の検討が財務諸表監査のプロセスにどのように位置づけられるのか、またそのことによる課題について考察する。
第13回	内部統制報告書の監査(1)	内部統制報告書の監査について、制度導入の経緯と背景、およびその枠組みについて理解する。
第14回	内部統制報告書の監査(2)	内部統制の評価基準及び監査基準、実例について理解し、現代的課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の冒頭で、前回の講義内レポートについて復習し、翌講義の内容についてテキスト等を参考に準備学習を行う。それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長吉真一、岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版）、中央経済社。

【参考書】

石田三郎、林隆敏、岸牧人『監査論の基礎』（第3版）、東京経済情報出版。

【成績評価の方法と基準】

講義内レポートは各5点満点で14回実施し、計70点満点とする。42点（60%）以上を合格とする。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では、専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

【その他の重要事項】

初回の講義において、講義の進め方、成績評価および単位の認定方法に関する詳細について説明する。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is for students to understand the audit procedures performed and audit report for financial statements by independent auditors. Basically, they will made pursuant to the International Standards on Auditing, issued by International Federation of Accountants (IFAC). At the end of the course, students are expected to identify the institutional significance and problems to be solved on auditing performed by independent public accountants. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Students have to submit the report in each class, 5 points for each, 14 times, 70 points in total, and 60% of them (42 points) is the passing grade of the class.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基礎知識を講義する

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。
- ・簡単な公務員試験問題が解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	マクロ経済学とは（1）	マクロ経済学の登場人物
3	マクロ経済学とは（2）	市場均衡
4	マクロ経済を観察する（1）	国内総生産
5	マクロ経済を観察する（2）	名目と実質
6	マクロ経済を観察する（3）	消費者物価指数
7	マクロ経済を観察する（4）	労働に関する統計
8	マクロ経済学を支える金融市場（1）	金融市場の実際
9	マクロ経済学を支える金融市場（2）	金利（利子率）
10	貨幣の機能と中央銀行の役割（1）	貨幣の機能
11	貨幣の機能と中央銀行の役割（2）	中央銀行の役割
12	財政の仕組みと機能（1）	財政の仕組み
13	財政の仕組みと機能（2）	税制と国債
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学 第3版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2023年

【参考書】

「マクロ経済学・入門 第6版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2023年

「マクロ経済学への招待（ライブラリ経済学への招待 3）」郡司 大志、新世社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学B」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

To understand how a country's economy grows and fluctuates, t his class lectures on basic knowledge of macroeconomics.

(Learning Objectives)

When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基本モデルを講義する

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。
- ・簡単な公務員試験問題が解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	GDPと金利の決まり方（1）	45度分析
3	GDPと金利の決まり方（2）	ISLMモデル
4	総需要・総供給分析（1）	物価とGDPの同時決定
5	総需要・総供給分析（2）	経済政策の限界
6	インフレとデフレ（1）	実質金利と名目金利
7	インフレとデフレ（2）	インフレと失業
8	国際収支・為替レートとマクロ経済（1）	海外との取引を測る
9	国際収支・為替レートとマクロ経済（2）	金利平価
10	経済が成長するメカニズム（1）	ソローモデル
11	経済が成長するメカニズム（2）	経済成長の要因分解
12	資産価格の決まり方（1）	資産価格の決まり方
13	資産価格の決まり方（2）	資産価格バブル
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学 第3版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2023年

【参考書】

「マクロ経済学・入門 第6版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2023年

「マクロ経済学への招待（ライブラリ経済学への招待 3）」郡司 大志、新世社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学B」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

To understand how a country's economy grows and fluctuates, this class lectures on basic macroeconomic models.

(Learning Objectives)

When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
ミクロ経済学 A
平井 俊行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学 A では特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分を中心に学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学のより専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・ミクロ経済学の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則的には初回のみオンデマンド方式、残りは対面講義の形式でおこなう。資料を学習支援システム上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション・数学準備	講義内容の概説と講義の進め方、数学準備
2	部分均衡分析(1)	需要曲線・供給曲線と市場均衡
3	部分均衡分析(2)	需要・供給の価格弾力性、比較静学
4	部分均衡分析(3)	余剰分析
5	部分均衡分析(4)	課税の帰着
6	消費者行動(1)	選好と効用およびそれらの無差別曲線による表現、予算制約
7	消費者行動(2)	限界代替率と需要の導出
8	消費者行動(3)	代替財、補完財、標準財、下級財、準線形選好。
9	生産者行動(1)	生産関数・費用最小化と費用関数
10	生産者行動(2)	完全競争市場における供給関数の導出
11	生産者行動(3)	独占市場における生産者の行動。
12	一般均衡分析(1)	契約曲線・パレート効率性・コア
13	一般均衡分析(2)	厚生経済学の基本定理
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド(穴埋め式)を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。(各2時間が標準)

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 林貴志「ミクロ経済学 増補版」2013年、ミネルヴァ書房、4500円+税
- ② 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014年、日本評論社、3200円+税
- ③ レヴィット, S., ゲールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐[監訳]、高遠裕子[訳]「レヴィット ミクロ経済学 基礎編」2017年、東洋経済新報社、3200円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験80%、平常点20%

【学生の意見等からの気づき】

スライド送りが早くなりすぎないように気を付けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」や「数学」を履修済み・履修することを推奨する。
講義の進め方および平常点の内容については新年度から新しく導入される学習支援システムの機能によって変更の可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially focusing on the price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and become able to explain them; B) become able to think the real-life economic phenomenon by using the idea of microeconomics; C) become able to analyze simple microeconomic models.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy) Final exam 80%; Class participation 20%.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
ミクロ経済学B
平井 俊行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Bではゲーム理論およびそのミクロ経済学への応用を中心的に学ぶ。現在では、ゲーム理論は多くの分野でミクロ経済的な分析をおこなうための必須ツールになっているので、基礎を確実に身に着ける。

【到達目標】

- ・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象を、そうすることが適切な場合に、ゲーム理論と関連づけて捉えることができる。
- ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回のみオンデマンド方式、残りは対面講義の形式でおこなう。資料を授業支援システム上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション	講義内容の概説・講義の進め方、数学準備
2	戦略形ゲーム(1)	戦略形ゲーム、双行列表現
3	戦略形ゲーム(2)	最適反応戦略とナッシュ均衡
4	戦略形ゲーム(3)	(弱)支配戦略、第二価格オークション
5	戦略形ゲーム(4)	混合戦略ナッシュ均衡
6	展開形ゲーム(1)	展開形ゲーム、ゲームの木
7	展開形ゲーム(2)	部分ゲーム完全均衡、後向き帰納法
8	展開形ゲーム(3)	繰返しゲーム
9	不完全競争市場(1)	数量競争市場
10	不完全競争市場(2)	価格競争市場
11	不完全競争市場(3)	カルテルとしての独占の発生
12	公共財供給(1)	公共財供給問題
13	公共財供給(2)	VCGメカニズム
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド(穴埋め式)を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。(各2時間が標準)

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

① 渡辺隆裕「一歩ずつ学ぶ ゲーム理論 -数理で導く戦略的意思決定」2021年、裳華房、3300円+税

② レヴィット, S.、グールズビー, A.、サイヴァーソン, C. [著]、安田洋祐[監訳]、高遠裕子[訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017年、東洋経済新報社、3600円+税

③ 岡田章「ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために- 新版」2014年、有斐閣アルマ、1900円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験80%、平常点20%

【学生の意見等からの気づき】

スライド送りが早くなりすぎないように気を付けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」、「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

講義の進め方および平常点の内容については新年度から新しく導入される学習支援システムの機能によって変更の可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces elementary game theory and its microeconomic applications.

Learning objective: By the end of the course, students are expected to: A) understand basic concepts of game theory and become able to explain them; B) become able to capture real-life economic phenomenon by utilizing the game theory when applicable; C) become able to analyze simple games.

Learning activities outside of the classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final exam 80%; Class participation 20%.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
現代経済学応用 A
八木橋 毅司
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマクロ経済学の基礎講座で学んだ知見を足がかりに、中・上級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについて論理的に説明できる
- ・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる
- ・動学モデルの基本的な解法を理解し、基本的な動学モデルを解くことができる。
- ・卒論執筆の際に有用なマクロ経済モデルの基礎を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書や配布資料の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システムを通じて行われます。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション
第2回	経済成長1	労働に関する復習、ソローモデルの概要
第3回	経済成長1	トピック講義
第4回	経済成長2	人口成長など
第5回	経済成長2	トピック講義
第6回	経済成長3	技術進歩など
第7回	経済成長3	トピック講義
第8回	政府負債と財政赤字	財政問題の概要
第9回	クラス内課題	クラス内課題
第10回	政府負債と財政赤字	トピック講義
第11回	経済変動の動学モデル	IS-LM, AS-AD モデルの復習
第12回	経済変動の動学モデル	動学モデルの概要
第13回	経済変動の動学モデル	トピック講義
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するよう心がけてください。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学2：応用編』東洋経済新報社、2024年、3800円+税

【参考書】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学1：入門編』東洋経済新報社、2024年、4000円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験30%、クラス内課題30%、宿題25%、クラス参加15%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

Students learn the basic methods of advanced-level macroeconomics. We use both diagrams and calculus as the tool for generating predictions about aggregate output, prices, and market interest rates. At the end of this course, students are expected to understand the basic solution of the dynamic macroeconomic model. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours preview/four hours review per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 30%, In-class Assignment: 30%, Homeworks: 25%, Class Participation: 15%

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
現代経済学応用 B
八木橋 毅司
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマクロ経済学の基礎講座で学んだ知見を足がかりに、中・上級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについて論理的に説明できる
- ・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる
- ・動学モデルの基本的な解法を理解し、基本的な動学モデルを解くことができる。
- ・卒論執筆の際に有用なマクロ経済モデルの基礎を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書や配布資料の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システムを通じて行われます。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション
第2回	消費1	ケインズ型消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、ランダムウォーク仮説
第3回	消費1	トピック講義
第4回	消費2	オイラー方程式、リスク資産
第5回	消費2	トピック講義
第6回	リアル・ビジネス・サイクルモデル1	景気循環の基礎知識、ベルマン方程式
第7回	リアル・ビジネス・サイクルモデル1	トピック講義
第8回	リアル・ビジネス・サイクルモデル2	生産・労働の導入
第9回	クラス内課題	クラス内課題
第10回	リアル・ビジネス・サイクルモデル2	トピック講義
第11回	リアル・ビジネス・サイクルモデル3	RBCモデルの含意
第12回	リアル・ビジネス・サイクルモデル4	RBCモデルの評価

第13回 リアル・ビジネス・トピック講義
サイクルモデル3・4

第14回 期末試験 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

D. ローマー（著）『上級マクロ経済学（原著第3版）』日本評論社、2010年、6600円+税

【参考書】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅱ：応用編』東洋経済新報社、2024年、3800円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験30%、クラス内課題30%、宿題25%、クラス参加15%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

Students learn the basic methods of advanced-level macroeconomics. We use both diagrams and calculus as the tool for generating predictions about aggregate output, prices, and market interest rates. At the end of this course, students are expected to understand the basic solution of the dynamic macroeconomic model. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours preview/four hours review per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 30%, In-class Assignment: 30%, Homeworks: 25%, Class Participation: 15%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学A
八木橋 毅司
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLM組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では経済学の入門講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、小テスト、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システムを通じて行われます。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。また授業形態につきましては対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、科学としてのマクロ経済学	オリエンテーション、マクロ経済学概説
第2回	マクロ経済学のデータ	国内総生産、消費者物価指数、失業率
第3回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	生産
第4回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	所得分配
第5回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	支出、財市場の均衡、金融市場の均衡
第6回	開放経済	開放経済モデル
第7回	開放経済	為替レート：名目対実質、為替レートの決定要因
第8回	貨幣システム	定義、銀行の役割、マネーサプライ

第9回	インフレ	貨幣数量説、貨幣発行収入、インフレと利子率、名目利子率と貨幣需要、社会的コスト、ハイパーインフレ
第10回	失業と労働市場	失業率に関するデータ、長期均衡
第11回	失業と労働市場	労働市場と賃金決定メカニズム
第12回	景気変動へのイントロダクション	景気変動に関するデータ、時間的視野（タイム・ホライズン）、総需要
第13回	景気変動へのイントロダクション	総供給、総需要・総供給モデルを使った短期と長期の分析
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学1：入門編』東洋経済新報社、2024年、4000円+税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、小テスト25%、宿題25%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 50%, Quiz: 25%, Homeworks: 25%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学B
八木橋 毅司
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLM組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では経済学の入門講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、小テスト、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システムを通じて行われます。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。また授業形態につきましては対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、 総需要1：I S - L Mモデルの構築	オリエンテーション、財市場とIS曲線
第2回	総需要1：I S - L Mモデルの構築	貨幣市場とLM曲線、均衡
第3回	総需要2：I S - L Mモデルの応用	財政、金融政策
第4回	総需要2：I S - L Mモデルの応用	総需要・総供給モデルの短長期分析
第5回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	総供給曲線
第6回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	フィリップス曲線と自然失業率
第7回	経済変動の動学モデル	モデルの要素および解
第8回	経済変動の動学モデル	動学モデルを使った政策分析

第9回	政府負債と財政赤字	政府負債と財政赤字
第10回	経済成長	資本の蓄積、定常均衡
第11回	経済成長	貯蓄、資本の黄金律水準
第12回	経済成長	人口成長、経済ショック、技術進歩
第13回	経済成長	実証分析・政策
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅰ：入門編』東洋経済新報社、2024年、4000円+税

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅱ：応用編』東洋経済新報社、2024年、3800円+税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、小テスト25%、宿題25%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 50%, Quiz: 20%, Homeworks: 20%, Class Participation: 10%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
ミクロ経済学 A
西村 健
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLM組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済理論分析の基礎であるミクロ経済学について学ぶ。議論の中心となるのは「完全競争市場」である。その市場では、消費者や企業が数多く存在し、各経済主体はモノ・サービスの価格に決定力を持たない。市場において、消費者や企業はどのように行動するか、その結果として資源配分がどのように決まるか、結果的な資源配分は社会的観点からどのような性質を持つかといった点について、数理的に解き明かす。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学における重要な用語および概念を理解し、説明できるようになる。
- ・ミクロ経済学の標準的手法を用いて、消費や生産などの経済活動がどのようになされるかについて、数理的に分析できるようになる。
- ・ミクロ経済学的な観点から、現実の経済データについて考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には対面形式で行うが、最大7回（1回目と6回目を含む）まで、動画配信によるオンライン形式にする場合がある。この点については、講義における指示にしたがうこと。
- ・システム上で講義スライドを配布する。事前にダウンロードまたは印刷して、講義に持参してもらいたい。
- ・システム上で講義終了後に小テストを出題する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、講義のルール
2	完全競争市場（1）	需要と供給、消費者の需要曲線、市場の需要曲線
3	完全競争市場（2）	企業の供給曲線、市場の供給曲線
4	完全競争市場（3）	市場の均衡、需要曲線と供給曲線のシフト
5	完全競争市場（4）	消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰、効率性
6	経済数学の準備	関数、連立方程式、微分
7	消費者理論（1）	効用関数、無差別曲線、限界代替率
8	消費者理論（2）	予算制約、効用最大化問題、需要関数
9	消費者理論（3）	所得変化による需要の変化、価格変化による需要の変化
10	消費者理論（4）	代替効果と所得効果、需要の交差価格弾力性
11	生産者理論（1）	企業、短期費用関数、短期供給曲線
12	生産者理論（2）	長期生産関数、長期費用関数、長期供給曲線
13	競争均衡	交換経済、競争均衡
14	総復習	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・システム上で事前に講義スライドを配布するので、事前に予習しておくこと。
 - ・講義後、講義の復習および小テストに解答すること。
- （予習と復習、各2時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義スライドを配布する。

【参考書】

- ・伊藤秀史 著、『ひたすら読むエコノミクス』、有斐閣
- ・伊藤元重 著、『ミクロ経済学』、日本評論社
- ・神取道宏 著、『ミクロ経済学の力』、日本評論社
- ・柳川隆、町野和夫、吉野一郎 著、『ミクロ経済学・入門—ビジネスと政策を讀みとく』、有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験80%、小テスト20%とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からのフィードバックおよび授業改善アンケート結果を踏まえて、授業方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

システムを頻繁に利用するため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】

数学を頻繁に用いるため、「ビジネス数学入門」や「数学」の履修を推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through prices in competitive markets. Students should surely acquire the contents of this course because microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and become able to explain them; B) become able to analyze simple microeconomic models.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final exam 80%; Online assignments 20%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
ミクロ経済学B
西村 健
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLM組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の基礎を踏まえ、その発展的内容について学ぶ。具体的には、ゲーム理論、産業組織論、情報の非対称性、マーケットデザインの問題が分析対象となる。競争が不完全なときに企業はどのように振る舞うか、経済主体間で情報の非対称性があるときにどのような非効率性が生じるか、制度設計者は市場をどのように設計すべきかといった点について、数理的に解き明かす。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学とゲーム理論における重要な用語および概念を理解し、説明できるようになる。
- ・ミクロ経済学とゲーム理論の標準的手法を用いて、産業組織論、情報の非対称性、マーケットデザインの各種の問題を分析できるようになる。
- ・ミクロ経済学的な観点から、現実の経済データについて考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には対面形式で行うが、最大7回（1回目と13回目を含む）まで、動画配信によるオンライン形式にする場合がある。この点については、講義における指示にしたがうこと。
- ・システム上で講義スライドを配布する。事前にダウンロードまたは印刷して、講義に持参してもらいたい。
- ・システム上で講義終了後に小テストを出題する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、前期の復習、講義のルール
2	ゲーム理論（1）	囚人のジレンマ、支配戦略
3	ゲーム理論（2）	合理的なブタ、ナッシュ均衡
4	ゲーム理論（3）	参入ゲーム、部分ゲーム完全均衡
5	産業組織論（1）	独占市場、独占価格、死荷重
6	産業組織論（2）	寡占市場、ベルトラン価格競争
7	産業組織論（3）	寡占市場、クールノー数量競争
8	情報の非対称性（1）	リスクと不確実性、リスク態度
9	情報の非対称性（2）	モラルハザード、アドバースセレクト
10	情報の非対称性（3）	シグナリング理論、完全ペイジアン均衡
11	マーケットデザイン（1）	オークション理論
12	マーケットデザイン（2）	マッチング理論
13	小テスト解説	小テスト解説
14	総復習	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・システム上で事前に講義スライドを配布するので、事前に予習しておくこと。
 - ・講義後、講義の復習および小テストに解答すること。
- （予習と復習、各2時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義スライドを配布する。

【参考書】

- ・伊藤秀史 著、『ひたすら読むエコノミクス』、有斐閣
- ・伊藤元重 著、『ミクロ経済学』、日本評論社
- ・岡田章 著、『ゲーム理論・入門 新版』、有斐閣
- ・神取道宏 著、『ミクロ経済学の力』、日本評論社
- ・坂井豊貴 著、『マーケットデザイン：最先端の実用的な経済学』、ちくま新書
- ・柳川隆、町野和夫、吉野一郎 著、『ミクロ経済学・入門—ビジネスと政策を読みとく』、有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験80％、小テスト20％とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からのフィードバックおよび授業改善アンケート結果を踏まえて、授業方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

システムを頻繁に利用するため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】

数学を頻繁に用いるため、「ビジネス数学入門」や「数学」の履修を推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially industrial organization, asymmetric information, and market design. This course also introduces game theory, which is essential for analyzing these problems.

Learning objective: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and game theory and become able to explain them; B) become able to analyze simple games.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final exam 80%; Online assignment 20%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 A (市ヶ谷開講)
島澤 諭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
	財政学の歴史	財政学の歴史
第2回	外部性（1）	外部性の本質
第3回	外部性（2）	ピグー税・補助金
第4回	外部性（3）	コースの定理
第5回	公共財（1）	公共財、準公共財
第6回	公共財（2）	公共財の最適供給
第7回	公共選択（1）	リンダールメカニズム、ただ乗り
第8回	公共選択（2）	アローの不可能性定理、直接民主制
第9回	公共選択（3）	間接民主制、ログローリング
第10回	税の帰着（1）	租税原則
第11回	税の帰着（2）	税の帰着
第12回	最適課税（1）	超過負担
第13回	最適課税（2）	最適物品税
第14回	最適課税（3）	最適所得税

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智祝『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学15講』新世社

(5) 林宜嗣等『財政学（第4版）』新世社

(6) Gruber Public Finance and Public Policy Worth Publishers Inc.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

官庁エコノミスト（経済企画庁（現内閣府））として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

To understand the concept of the role of government in a market-based economy. Also, understand the issues surrounding Japan's public finances and finance. Students will then acquire the logical thinking and analytical skills to be able to form their own opinions on the role of the government and how Japan's finances should be and will be in the future.

At present, we plan to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

The plan is to evaluate the students on the basis of their in-class assignments (40%) and a final exam (60%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
財政学 B (市ヶ谷開講)
島澤 諭
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 財政学の歴史	ガイダンス 財政学の歴史
第2回	日本の財政の歴史	日本の財政史
第3回	予算制度	財政と法律、予算制度
第4回	政府の大きさ	経済活動と政府、財政の役割、 大きな政府と小さな政府
第5回	財政金融政策の効果 (1)	景気循環、GDPギャップ
第6回	財政金融政策の効果 (2)	国民所得の決定、乗数、ビルト インスタビライザー
第7回	財政金融政策の効果 (3)	IS-LM分析、財政・金融政策の 効果
第8回	所得再分配	ベンサム、ロールズ、ジニ係数
第9回	国債の負担 (1)	国債の種類、新正統派
第10回	国債の負担 (2)	新古典派
第11回	国債の負担 (3)	リカード＝バローの等価定理
第12回	財政の持続可能性 (1)	日本の財政再建の歴史
第13回	財政の持続可能性 (2)	ドーマーの条件、ドーマーの命 題
第14回	財政の持続可能性 (3)	ボンジスキーム、プライマリー バランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

(1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社

(2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣

(3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社

(4) 小黒一正等『財政学15講』新世社

(5) 小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論

(6) 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

The goal of this course is to acquire basic knowledge to understand the current status and issues of Japanese public finances, finance, and social security systems and financial resources, and to examine the effects of fiscal and social security systems and monetary policies from an economics perspective.

At present, it is planned to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

The plan is to evaluate the students on the basis of their in-class assignments (40%) and a final exam (60%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済政策論 A (市ヶ谷開講)
森脇 大輔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済政策に関する基本的な知識とその応用について学びます。公共サービスの提供と配分、厚生とその最大化、政策設計と効果検証など、現代社会で直面する課題を理論的かつ実践的に探求します。また、メカニズムデザインや行動経済学の観点から、政策立案とその実効性を高める方法について考察します。これらを通じて、経済政策の全体像を理解し、実践的な政策立案能力の向上を目指します。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、メカニズムデザインや行動経済学の考え方に基づき、外部性の問題や望ましい公共サービスの供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や授業後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済政策とは何か 政策に関する情報を獲得する方法
2	公共サービス	公共サービスの種類 日本における公共サービスの現状
3	公共サービスの配分	公共サービスの配分はどのような場合に問題になるか メカニズムデザインの基礎
4	厚生	厚生とは何か 厚生の測定方法
5	厚生最大化	厚生最大化のための制度設計
6	政策	政策ツールの種類と特徴
7	情報介入	情報介入による行動変容 限定合理性
8	外部性	外部性の概念 負の外部性の具体例
9	ナッジ	ナッジの概念 ナッジの応用例
10	補助金	受取意思額 補助金の具体例
11	政策の副作用	無償化や低すぎる自己負担が引き起こす問題
12	効果検証 1	効果検証の意義、意思決定
13	効果検証 2	ランダム化比較実験
14	効果検証 3	差分の差法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドを復習すること、また講義中に示した参考書・関連資料を読むこと（所要：1時間ずつ）。また、講義において出題した復習問題を解くこと（所要：2時間）。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

マッチング理論とマーケットデザイン(2024)小島 武仁(著),河田 陽向(著)
分析者のための行動経済学入門 プロスペクト理論からナッジまで、人間行動を深く網羅的に解明する(2024)黒川博文
Pythonで学ぶ効果検証入門(2024)伊藤寛武、安井翔太、金子雄祐

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）によって評価する。

期末試験は各講義において示した基礎的な公共政策や経済学の知識（50%）と計算問題（50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を課したりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】

講師は中央省庁やテック企業における実務経験を有しており、実践的観点からの講義を行う。

【Outline (in English)】

This course provides an in-depth exploration of economic policies, focusing on their theoretical foundations, practical applications, and evaluation methods. Topics include the provision and allocation of public services, welfare maximization, policy design, and evidence-based evaluations. Students will also learn about mechanism design, behavioral economics, and simulation techniques to analyze and propose effective solutions to contemporary policy challenges. Through lectures, case studies, and interactive discussions, the course equips students with the knowledge and skills necessary to engage with real-world economic policy issues.

Students are expected to:

Review lecture materials (1 hours/week): Access and study lecture slides and reading materials uploaded.

Read assigned references (1 hours/week): Engage with recommended texts as well as additional materials provided.

Complete exercises and assignments (2 hours/week): Solve calculation problems and case studies to deepen understanding of course concepts.

Grading Criteria /Policy

Grades will be determined based on the final exam:

Basic knowledge (50%): Understanding of the core concepts covered in lectures.

Calculation problems (50%): Evaluated through problem-solving exercises.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済政策論 B (市ヶ谷開講)
前田 佐恵子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マクロ経済政策を検討するにあたって、政策当局者は様々な統計や分析を参照します。本授業では、さまざまなマ、クロ経済統計のデータの動きを確認し、IS-LM分析などの基本的なフレームワークについても触れ過去の経済の状況や政策について考察します。

【到達目標】

現実の経済政策を評価する力を身に着けるため、マクロ統計データの種類を知り、その動きから経済の状態を説明・考察できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

各種統計の概念を図表などを用いて説明し、経済政策に関するトピックを紹介するなど講義形式で進めます。授業の途中、あるいは、授業後に分析課題等を考える機会を設け、その解答の提出を求めます。翌授業の際に課題の解説等を行い、関連資料をアップロードします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済統計と政策分析について
2	マクロ政策分析のフレームワーク 1	GDP、マクロ経済政策とは何か。
3	経済政策とマクロ経済統計 1	統計の特徴と見方、生産と企業行動
4	経済政策とマクロ経済統計 2	労働と賃金
5	経済政策とマクロ経済統計 3	所得と家計消費
6	経済政策とマクロ経済統計 4	物価、実質と名目
7	経済政策とマクロ経済統計 5	財政と公共財・サービス
8	経済政策とマクロ経済統計 6	貨幣と金融
9	経済政策とマクロ経済統計 6	景気循環
10	マクロ政策分析のフレームワーク 2	総需要総供給分析、乗数理論等
11	経済政策 1	景気対策と効果
12	経済政策 2	財政政策と金融政策
13	経済政策 3	短期的政策対応と長期計画
14	期末試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習時間は、各1～2時間を目安とします。課題では統計データをパソコンを用いて分析する内容を出題することがあります。

【テキスト（教科書）】

N・グレゴリー・マンキュー、2024、『マクロ経済学I（第5版）』東洋経済新報社

（あるいは、N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学I（第4版）』東洋経済新報社）

【参考書】

福田慎一・照山博司、2023、『マクロ経済学・入門（第6版）』有斐閣
鶴光太郎・前田佐恵子・村田啓子、2019、『日本経済のマクロ分析』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（約60％）、課題提出（約40％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で授業中に質問に答えていただくことがあります。また、課題（復習問題）では、授業内容に即したデータを加工し、データの動きを確認してもらう内容を含む予定です。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業中は必ずしも必要ありませんが、オンラインでの授業や課題のため、パソコンの利用が必要となります。

【Outline (in English)】

Course Outline

Policy makers consider economic and financial policies based on a variety of statistics and analysis. In this class, we will look back on past policies and macroeconomic conditions through actual data and basic frameworks such as IS-LM model.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%, Review questions after each class: 40%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
国際経済論 A (市ヶ谷開講)
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T AやE P Aなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はオンラインで行いますが、期末試験は対面で試験を行う予定です。パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第2回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第3回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第4回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第5回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第6回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第7回	規模の外部経済	生産の国際立地
第8回	新しい貿易理論	グローバル経済の企業
第9回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第10回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第11回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第12回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第13回	地域貿易協定の効果	F T Aが与える影響
第14回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

Krugman, Obstfeld & Melitz, International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Global edition, Pearson Education, 2023 年
クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）上:貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣、2013 年
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（12回を予定）（30％）と、授業内に行う期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. At the end of the course, students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Also, students comprehend the international trade framework with Free Trade Agreements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 12 quizzes(30%) and term-end examination (70%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
国際経済論 B (市ヶ谷開講)
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際収支表	国際収支表の項目
第2回	日本の国際収支	国際収支データの推移
第3回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第4回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第5回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第6回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第7回	金融政策と為替レート	オーバーシュートモデル
第8回	長期の為替レート決定	購買力平価
第9回	実質為替レート	購買力平価からの乖離
第10回	固定為替レート	外国為替市場介入
第11回	国際通貨制度	通貨トリレンマ
第12回	金融のグローバル化	リスクと銀行危機
第13回	最適通貨圏とユーロ	固定為替レートの範囲
第14回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

Krugman, Obstfeld & Melitz, International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Global edition, Pearson Education, 2023 年
 クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）下:金融編』丸善出版、2017 年
 清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
 高木信二著「入門国際金融（第4版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（12回を予定）（30％）と、授業内に行う期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. At the end of the course, students will comprehend the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. Students also comprehend balance of payments and the relation between current account and domestic economy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 13 quizzes(30%) and term-end examination (70%)

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
特別講義 (寄付講座 証券市場論)
大和証券 (株)
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の3点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。

- ①金融商品市場の機能と役割を理解する。
 - ②金融商品市場での主な商品 (株式・債券・投資信託) を学ぶ。
 - ③M & A など、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
- 講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】

株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べる事が出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

At the end of the course, the students are expected to be able to explain the social significance of direct financing using securities such as stocks and bonds, and to explain the characteristics and risks of price movements of these securities under various economic environments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

進め方としては、資料を熟読し、15～20分程度の小テストをして頂く予定です。フィードバックについては、小テストの結果概要を次週講義時に公表し、理解度の低いところを認識してもらい再度重点的に勉強してもらえよう指導いたします。

As a way to proceed, we plan to read the materials carefully and take a small test of about 15 to 20 minutes. As for feedback, we will announce the summary of the quiz results during the next week's lecture, and we will instruct you to recognize the areas where your understanding is low and to focus on studying again.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第2回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第3回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第4回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第5回	株式市場①	株式の種類
第6回	株式市場②	株価の形成要因
第7回	債券市場①	債券のキーワード
第8回	債券市場②	債券の利回り
第9回	投資信託	投資信託の特徴
第10回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第11回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第12回	M & A	最近の事例紹介
第13回	証券関連規制と証券会社 総括	証券関連規制の枠組み
第14回	試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前の準備学習については特になし。復習時間として4時間程度。
Nothing in particular about preparatory study. Approximately 4 hours of study time.

【テキスト (教科書)】

各回講義用のレジュメを配布する。
Distribute resumes for each lecture.

【参考書】

必要に応じて参考文献を指示する。
Indicate references where necessary.

【成績評価の方法と基準】

毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施 (50%)
期末試験 (50%)
Implementation of a quiz after each lecture to measure the degree of understanding of the lecture content (50%)
Final exam (50%)

【学生の意見等からの気づき】

アンケート実施なし

【その他の重要事項】

現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline (in English)】

This lecture is an introduction to financial instruments in general. We will examine the future role of financial instruments markets based on the following three points.

- 1) Understand the functions and roles of financial instruments markets.
- (2) Learn about the main products in the financial instruments market (stocks, bonds, and investment trusts)
- (3) Learn about recent market trends and new trends, such as mergers and acquisitions

The lecturers will be practitioners, and based on a basic understanding of financial markets, the course will go beyond theory to touch on topics that are faced in reality.

LANj300CA（日本語 / Japanese language education 300）
特別講義（ビジネス日本語A）
大石 有香
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

留学生が日本で就職活動を行う上で必要になる知識と日本語力を身につけることを目的とする。日本における就職活動の仕組みや、就職活動の様々なプロセスにおいて必要になる「聞く」「話す」「読む」「書く」能力に関する理解を深め、将来の就職活動に備える。

This course aims to equip international students with the necessary knowledge and Japanese language skills for job hunting in Japan. By understanding the structure of the Japanese job-hunting process and enhancing their listening, speaking, reading, and writing skills required at various stages, students will be better prepared for their future job search.

【到達目標】

次の3つである。

1. 日本における就職活動の仕組みとプロセスを理解し、計画的に準備できる。
2. 効果的な方法を理解し、適切な表現を用いて自己表現ができる。
3. 様々なコミュニケーションの場面にに応じて、適切な表現を使い分けることができる。

This course has three goals.

- 1.Understand the structure and process of job hunting endeavors in Japan and be able to prepare systematically.
- 2.Understand effective methods and be able to express oneself using appropriate forms.
- 3.Be able to use expressions appropriately in different communication situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義と実践的演習からなる。実践的演習にはエントリーシートの作成、Eメールの作成、模擬面接などが含まれる。必要に応じてリアクションペーパーの提出が求められる。課題等の提出はGoogle Classroomを通じて、課題のフィードバックは次回授業で行う。

The course consists of lectures and practical exercises. Practical exercises include writing entry sheets, composing emails, and participating in mock interviews. Students may be required to submit reaction papers as needed. Assignments must be submitted via Google Classroom, and feedback on assignments will be provided in the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、日本での就職活動 Guidance, Job Search Process in Japan	授業運営に関する説明、日本における就職活動の特徴とそのプロセス Course Administration, Characteristics and Process of Job Search Process in Japan
2	自己分析 Self-Analysis	自己分析の意味と方法 Significance and Methods of Self-Analysis
3	業界・企業研究 Industry and Company Research	業界・企業研究の方法と実践 Methods and Practice of Industry and Company Research
4	学生時代に力を入れたこと Activities You Were Committed to During Your Student Years	効果的な書き方と内容の検討 Effective Writing Techniques and Content Consideration
5	自己PR Self-Promotion (Self-PR)	効果的な書き方と内容の検討 Effective Writing Techniques and Content Consideration
6	志望動機 Motivation for Applying	効果的な書き方と内容の検討 Effective Writing Techniques and Content Consideration
7	エントリーシート Entry Sheet (ES)	エントリーシートの作成と相互検討 Entry Sheet Writing and Peer Review
8	履歴書 Resume (Rirekisho)	履歴書の作成と相互検討 Resume Writing and Peer Review

9	敬語 Keigo (Honorific Language)	敬語の種類と性質 Types and Characteristics of Keigo (Honorific Language)
10	Eメール Email	Eメールの書き方 How to Write an Email
11	面接 Interview	面接選考の種類と仕組み Types and Structure of Interview Selection
12	模擬面接 Mock Interview	模擬面接の実施・相互評価 Conducting Mock Interviews and Peer Evaluation
13	模擬面接 Mock Interview	模擬面接の実施・相互評価 Conducting Mock Interviews and Peer Evaluation
14	まとめと解説 Summary and Explanation	提出物の再検討 Review of Submitted Materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間である。

予習：事前課題の実施

復習：講義内容や活動の振り返り、課題の作成および提出準備

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Preparation: pre-assignment

Review: review of lecture content and activities, preparation of assignments and submissions

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する。

Distributed as needed.

【参考書】

『外国人留学生のための就活ガイド2026』日本学生支援機構

Job Hunting Guide for International Students

(https://www.jasso.go.jp/ryugaku/after_study_/job/guide.html)

【成績評価の方法と基準】

平常点: 30%

課題: 50%（ワークシート、振り返りシート、エントリーシート等）

模擬面接: 20%

Ordinary marks: 30%.

Assignments: 50%(e.g. worksheets, reflection sheets, entry sheets)

Mock interviews: 20%.

【学生の意見等からの気づき】

就職活動時において必要な日本語運用力も養成できたことはよかったとの声が聞かれたため、就職活動に必要な基本的な知識を学ぶとともに日本語運用力を向上させる課題を取り入れる。

There was the feedback that the course helped develop the Japanese language skills necessary for job hunting. Therefore, tasks aimed at improving Japanese proficiency will be incorporated alongside learning the fundamental knowledge required for job hunting.

【学生が準備すべき機器他】

なし

Not applicable

【その他の重要事項】

本科目は日本語非母語話者を対象とする。

This course is designed for non-native speakers of Japanese.

LANj300CA（日本語 / Japanese language education 300）
特別講義（ビジネス日本語B）
大石 有香
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、留学生が日本の企業で働く上で必要となる日本語の知識と、基礎的なコミュニケーション・スキルを身につけることを目的とする。敬語に関する講義や、仕事場面を想定した実践的な演習を通して、職場での様々な課題に適切に対応できる力を養うことを目指す。

This course aims to equip international students with the necessary Japanese language knowledge and fundamental communication skills for working in Japanese companies. Through lectures on keigo (honorific language) and practical exercises simulating workplace situations, students will develop the ability to respond appropriately to various challenges in a professional environment.

【到達目標】

次の2つである。

1. 敬語の性質と使い方を正しく理解し、状況や場面に応じて適切に使用できる。
2. 人の紹介、電話応対、Eメールの作成などを含め、日本語で適切にコミュニケーションを取ることができる。

This course has two goals.

1. Understand the nature and use of honorific expressions accurately and be able to use them appropriately according to the occasion and situation.
2. Be able to communicate appropriately in Japanese, including introducing people, answering the telephone and composing emails.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、講師による講義、課題やテーマをめぐる学生同士の話し合い、クラス全体での共有という流れで進める。課題等の提出はGoogle Classroomを通じて、フィードバックは次回授業内で行う。

Each class will follow a structure consisting of a lecture, discussions among students on assigned topics, and a class-wide sharing session. Assignments must be submitted via Google Classroom, and feedback will be provided in the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、尊敬語 Guidance, Sonkeigo (Respectful Language)	授業運営に関する説明、尊敬語の性質と使い方 Course Administration, Characteristics and Usage of Sonkeigo (Respectful Language)
2	謙譲語 Kenjōgo (Humble Language)	謙譲語の性質と使い方 Characteristics and Usage of Kenjōgo (Humble Language)
3	その他の敬語 Other Types of Keigo (Honorific Language)	丁寧語・美化語、うちそとと敬語の使い分け Teineigo and Bikago (Polite and Beautifying Language), and Distinguishing Keigo Usage Based on "Uchi" and "Soto"
4	言語表現の丁寧さ Politeness in Language Expressions	「丁寧さの原理」と表現の使い分け Principle of Politeness and Differentiation in Language Usage
5	敬語のまとめ Summary of Keigo (Honorific Language)	復習、使い分けの練習 Review and Practice of Usage Distinctions
6	敬語テスト、あいさつと 紹介 Keigo Test, Greetings and Introductions	復習テストの実施、 表現の検討とロールプレイ Review Test, Expression Analysis and Role-Playing
7	電話を受ける Receiving Phone Calls	表現の検討、ロールプレイ Expression Analysis and Role-Playing
8	電話をかける Making Phone Calls	表現の検討、ロールプレイ Expression Analysis and Role-Playing

9	訪問 Business Visits	表現の検討、ロールプレイ Expression Analysis and Role-Playing
10	ビジネスメール Business Emails	表現の検討、Eメールの作成 Expression Analysis and Email Writing
11	職場でのコミュニケーションのまとめ Summary of Workplace Communication	ロールプレイテストとフィードバック Role-Play Test and Feedback
12	プレゼンテーションの準備 Presentation Preparation	資料と原稿の作成 Preparation of Materials and Script
13	プレゼンテーション Presentation	プレゼンテーションの実施 Conducting the Presentation
14	まとめ Summary	授業全体の振り返りとフィードバック Overall Course Review and Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間である。

予習: 事前課題の実施

復習: 講義内容や活動の振り返り、課題の作成および提出準備

The standard preparation and review time for this lesson is 2 hours each.

Preparation: e.g. preparation of worksheets for the next activity.

Review: e.g. preparation of assignments, quizzes and tests.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料配布する。

Materials will be distributed as needed.

【参考書】

『伸ばす！就職能力・ビジネス日本語力：日本で働くための「4つの能力」養成ワークブック』植木香・木下由紀子・小島美智子著、国書刊行会、2018年、1,980円（税込）ISBN 978-4-336-06222-2

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション: 20%

課題: 50%（状況や場面に応じた日本語運用課題）

平常点: 30%

Presentations: 20%,

Assignments: 50%(Japanese language operational tasks appropriate to the situation/occasion),

Ordinary marks: 30%.

【学生の意見等からの気づき】

特に敬語を学びたいとの声があった。令和7年度も不得手な分野を克服できるように進める。

There were requests to focus on learning honorific expressions. In the Reiwa7 academic year, the course will continue to help students overcome their weaker areas.

【学生が準備すべき機器他】

なし

Not applicable

【その他の重要事項】

本科日は日本語非母語話者を対象とする。

This course is designed for non-native speakers of Japanese.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Business Communication I A
ROBERT A FORD
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills necessary to develop a better understanding of International Business. Students will actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by watching videos, doing listening exercises, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities which will help them feel comfortable and confident using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given orally and/or on Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction.	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this course.
2	Unit 1-Career Choices.	Students will learn and use vocabulary related to skills and personal qualities. They will learn a range of phrases for giving advice and making suggestions.
3	Unit 1-Career Choices	Students will learn about making good first impressions and building and maintaining rapport. They will learn and use a range of expressions to start, close and show interest in conversations.

4	Unit 2-Business Sectors.	Students will learn and use vocabulary related to different business sectors and industries. They will practise using the Past Simple and Past Continuous to describe past events.
5	Unit 2-Business Sectors.	Students will learn about ways to take turns in meetings and study a range of expressions to both interrupt and manage interruptions in meetings.
6	Unit 3-Projects.	Students will learn and use vocabulary related to project management. They will learn how to and practise making comparisons.
7	Unit 3-Projects.	Students will learn and practise a range of phrases for giving and responding to instructions.
8	Unit 4-Global Markets.	Students will learn and use vocabulary related to global markets. Students will practise the past and present passive forms in speaking and writing.
9	Unit 4-Global Markets.	Students will examine different approaches of managing conversations and will learn and use a range of expressions to signal and respond to a change in topic. They will learn how to build consensus in a discussion.
10	Unit 4-Global Markets.	Project: Students will invent or adapt a product for a new market.
11	Presentations 1.	Students will form presentation groups, decide on a topic and begin research.
12	Presentations 2.	Students will continue with research and practise their presentations.
13	Presentations 3.	Students will have the opportunity to practise their presentations and then will give them.
14	Semester review and group discussions.	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

Business Partner B1, O'Keefe, M., Lansford, L., Wright, R., Frendo, E. & Wright, L. Publisher: Pearson. ISBN: 9781292233543

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%
Coursework : 30%
Presentations : 30%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

An online dictionary and thesaurus such as Collins is recommended.

【その他の重要事項】

Please join our Google Classroom page at: <https://classroom.google.com/c/NzQ0ODA3NTIwNDY1?cjc=7tko4y4>

When you join please set your username in Romaji. This is very important as it is difficult to change later.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Business Communication I B
ROBERT A FORD
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills necessary to develop a better understanding of International Business. Students will actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by watching videos, doing listening exercises, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities which will help them feel comfortable and confident using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given orally and/or on Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Semester introduction.	Semester introduction to topics and expectations of contributions students will be expected to make to this course.
2	Unit 5-Design and Innovation.	Students will learn and use vocabulary related to innovative product design. They will practise using the Present Perfect with 'just', 'already' and 'yet'.

3	Unit 5-Design and Innovation.	Students will learn about different approaches to giving information and will practise using a range of questions to ask for different kinds of information. They will practise using a range of expressions to describe the features and benefits of a product and write a review of it.
4	Unit 6-Safety and Security.	Students will learn and use vocabulary related to health and safety at work. They will practise a range of modal verbs to talk about prohibition, obligation and no obligation in the past and present.
5	Unit 6-Safety and Security.	Students will learn how to deal with disagreements and conflicts. They will learn a range of expressions to discuss rules and requirements and learn how to suggest resolutions to conflicts.
6	Unit 7-Customer Service.	Students will learn and use vocabulary related to customer service and examine a range of complaints.
7	Unit 7-Customer Service.	Students will learn how to and practise responding to customer concerns. They will learn a range of expressions to manage customer relationships and support colleagues.
8	Unit 8-Communication.	Students will learn and use vocabulary related to office communication. They will learn and practise first and second conditionals to talk about likely and unlikely situations.
9	Unit 8-Communication.	Learners will examine ways to close a deal in a simple negotiation. They will learn and use a range of expressions to set and discuss priorities.
10	Unit 8-Communication.	Communication Survey. Students will carry out a survey on communication and report their findings.
11	Presentations 1.	Students will form presentation groups, decide on a topic and begin research.
12	Presentations 2.	Students will continue with research and practise their presentations.
13	Presentations 3.	Students will have the opportunity to practise their presentations and then will give them.

14	Semester review and group discussions.	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

Business Partner B1, O'Keefe, M., Lansford, L., Wright, R., Frendo, E. & Wright, L. Publisher: Pearson. ISBN: 9781292233543

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Coursework : 30%

Presentations : 30%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

An online dictionary and thesaurus such as Collins is recommended.

【その他の重要事項】

Please join our Google Classroom page at: <https://classroom.google.com/c/NzQ0ODA3NTIwNDY1?cjc=7tko4y4>

When you join please set your username in Romaji. This is very important as it is difficult to change later.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Business Communication I A
MARK W CRAIG
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening, reading, writing, and discussing topics related to business within a classroom environment. Students will be given homework and assignments. Students are required to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course may be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Class instructions, individual tasks, pair work, group work, listening exercises and presentations. Feedback for class assignments and tests will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Introductions. Course overview and explanation of syllabus, course goals, guidelines and grading.
2	Unit 1 - Getting Started Lesson A	Students will complete various exercises for each Unit, in grammar, vocabulary, work skills, and functions. Talking about companies.
3	Unit 1 - Lesson B	Talking about your job.
4	Unit 2 - Celebrations Lesson A	Jobs; business emails.
5	Unit 2 - Lesson B	Schedules and arrangements.
6	Unit 3 - Travelling to Work Lesson A	Talking about travel.

7	Mid-Term Presentations	Students will give a short group or individual presentation to the class, regarding an interesting business/economics/international relations topic of their choice. A Q&A and brief discussion will follow.
8	Unit 3 - Lesson B	Asking for and giving advice.
9	Unit 4 - Objects and Designs Lesson A	Describing people and objects.
10	Unit 4 - Lesson B	Asking for and giving opinions.
11	Unit 5 - Resources Lesson A	Quantities. staging and signposting.
12	Unit 5 - Lesson B	Requests; eating out.
13	Student individual presentations 1	Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting business/economics/international relations topic of their choice. A Q&A and brief discussion will follow.
14	Student individual presentations 2	Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting business/economics/international relations topic of their choice. A Q&A and brief discussion will follow.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for revision of class materials and preparation for presentations is a minimum of 4 hours per week required.

Students should regularly access English-language news websites such as NHK World to practice their English skills, and gain knowledge of current affairs to support their class discussions.

【テキスト（教科書）】

International Express: Pre-Intermediate (Third Edition), Keith Harding and Rachel Appleby, Oxford University Press, ISBN 978-0-19441825-3

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 30%
Class Assignments: 40%
Presentations: 30%

【学生の意見等からの気づき】

Changes will be incorporated based on responses in the end of semester student survey.

【学生が準備すべき機器他】

Have access to a good English Learners' dictionary.

【その他の重要事項】

Expectations of students:

1. Actively participate in every class
2. Finish the homework on time
3. Contribute to a positive and supportive class environment

4. Be awake during class
5. Use only English in class
6. Be on time for class
7. Listen to the teacher's instructions.
8. Bring the textbook to EVERY class - students may have Participation points deducted if they do not bring their textbook to class.
9. Do not copy work from other students (copying will NOT be tolerated).
10. Students need to inform the instructor and provide appropriate documentation if they cannot attend class due to medical reasons, or for official job-hunting or Hosei team sport requirements. Students can contact the instructor if required outside of class hours at the following email address: mark.craig.85@hosei.ac.jp

LAnE200CA (英語 / English language education 200)
Business Communication I B
MARK W CRAIG
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business within a classroom environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Classroom instruction, individual tasks, pair work, group work, listening exercises and presentations. Feedback for class assignments and presentations will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 6 - Street life Lesson A	Students will complete various exercises for each Unit, in grammar, vocabulary, work skills, and functions. Talking about cities.
2	Unit 6 - Lesson B	Answering the Phone.
3	Unit 7 - The sound of music Lesson A	Talking about changes and trends.
4	Mid-term Presentation 1	Students will give a short group or individual presentation to the class, regarding an interesting business/economics/international relations topic of their choice. A Q&A and brief discussion will follow,
5	Unit 7 - Lesson B	Job interviews

6	Unit 8 - Doing the right thing Lesson A	Career paths
7	Unit 8 - Lesson B	Meetings; Invitations and offers.
8	Mid-term Presentation 2	Students will give a short group or individual presentation to the class, regarding an interesting business/economics/international relations topic of their choice. A Q&A and brief discussion will follow,
9	Unit 9 - Start-ups - Lesson A	Staying in and going out.
10	Unit 9 - Lesson B	Problems & solutions; making suggestions.
11	Unit 10 - What next? Lesson A	Checking details.
12	Unit 10 - Lesson B	Asking for information; farewells.
13	Final Presentations 1	Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting business/economics/international relations topic of their choice. A Q&A and brief discussion will follow,
14	Final Presentations 2	Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting business/economics/international relations topic of their choice. A Q&A and brief discussion will follow,

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

International Express: Pre-Intermediate (Third Edition), Keith Harding and Rachel Appleby, Oxford University Press. ISBN: 978-0-19441826-3

【参考書】

A good English Language Learners' Dictionary.

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 30%
Class assignments: 30%
Presentations : 40%
TOTAL: 100%

Students who did not take the TOEIC test in December will have their grade lowered by one level (e.g. A+ → A, C- → D)

【学生の意見等からの気づき】

Changes will be taken into consideration following student feedback at the end of semester.

【学生が準備すべき機器他】

Students need access to a PC or laptop to prepare Powerpoint presentations.

【その他の重要事項】

Expectations of students:

1. Actively participate in every class

2. Finish the homework on time
3. Contribute to a positive and supportive class environment
4. Be awake during class
5. Use only English in class
6. Be on time for class
7. Listen to the teacher's instructions.
8. Bring the textbook to EVERY class - students may have Participation points deducted if they do not bring their textbook to class.
9. Do not copy work from other students (copying will NOT be tolerated).
10. Students need to inform the instructor and provide appropriate documentation if they cannot attend class due to medical reasons, or for official job-hunting or Hosei team sport requirements. Students can contact the instructor if required outside of class hours at the following email address: mark.craig.85@hosei.ac.jp

LANe300CA (英語 / English language education 300)

Business Communication II A

YONGUE JULIA SALLE

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：月3/Mon.3 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to help IGESS students gain a deeper understanding of the connections between the global economy and the environment through the study of one specific industry, fashion. Over the course of the semester, students analyze the environmental and social impacts of this industry and consider what is being done (or not being done) to make it more sustainable.

【到達目標】

By the end of the course, IGESS students acquire a broad understanding of some of the major economic and social issues facing the global fashion industry and the environmental implications of its business model.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students receive short lectures, make presentations, and engage in group discussions relating to the course themes. One special feature of the course is its 'active learning' component, whereby students are asked to do a fieldwork project and present their findings in class.

*Feedback on assignments will be given in class and/or during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course explanation, expectations, self-introductions, etc.
2	What is globalization?	Globalization and its impact on the apparel industry
3	Fashion and sustainability	From scarcity to abundance: considering the history of clothing
4	What is fast fashion?	Case study of Zara
5	The business model of the fast fashion industry	Cost-cutting strategies: Case study of UNIQLO
6	Global supply chains	The global garment industry and its "long race to the bottom"
7	Midterm progress reports	Planning and discussing fieldwork projects
8	Sustainable luxury	Alternative fabrics and zero waste design: Case study of Stella McCartney
9	The changing lifecycle of fashion	The true cost: global impact of the used clothing business and fashion waste

10	What is slow fashion?	Alternate paradigms to the fast fashion model
11	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)
12	Business and sustainability	Presentations on fieldwork projects and discussion
13	Business and sustainability	Presentations on fieldwork projects and discussion
14	Business and sustainability	Final wrap up and review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) Taking business courses offered at Hosei
- (2) Reading recent business news
- (3) Preparing for class activities

Since the spring semester focuses on the global fashion industry and its impact on the environment and society, having an interest in these themes is preferable.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be provided via Hoppii.

【参考書】

Selected references:

- (1) Pietra Rivoli, The travels of a t-shirt in the global economy: an economist examines the markets, power, and politics of world trade, Wiley, 2014.
- (2) Connie Ulasewicz and Janet Hethorn, Sustainable fashion take action, Bloomsbury, 2023.
- (3) Mark K Brewer, Slow fashion in a fast fashion world: promoting sustainability and responsibility, New Frontiers of Fashion Law, 9 Oct 2019.

【成績評価の方法と基準】

- (1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
- (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course.

【学生の意見等からの気づき】

None. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

PC

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS. Due to the small class size, students should notify the instructor before the start of class if they are unable to attend. This course is designed for IGESS students who are earning their BA degree in English. Japanese language degree students in the economics department or others may enroll with permission from the instructor. The course meets face-to-face. However, if the majority of students wish to take some of the classes online, the format could be modified.

LAnE300CA (英語 / English language education 300)
Business Communication II A
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to help IGESS students gain a deeper understanding of the connections between the global economy and the environment through the study of one specific industry, fashion. Over the course of the semester, students analyze the environmental and social impacts of this industry and consider what is being done (or not being done) to make it more sustainable.

【到達目標】

By the end of the course, IGESS students acquire a broad understanding of some of the major economic and social issues facing the global fashion industry and the environmental implications of its business model.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students receive short lectures, make presentations, and engage in group discussions relating to the course themes. One special feature of the course is its 'active learning' component, whereby students are asked to do a fieldwork project and present their findings in class.

*Feedback on assignments will be given in class and/or during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course explanation, expectations, self-introductions, etc.
2	What is globalization?	Globalization and its impact on the apparel industry
3	Fashion and sustainability	From scarcity to abundance: considering the history of clothing
4	What is fast fashion?	Case study of Zara
5	The business model of the fast fashion industry	Cost-cutting strategies: Case study of UNIQLO
6	Global supply chains	The global garment industry and its "long race to the bottom"
7	Midterm progress reports	Planning and discussing fieldwork projects
8	Sustainable luxury	Alternative fabrics and zero waste design: Case study of Stella McCartney
9	The changing lifecycle of fashion	The true cost: global impact of the used clothing business and fashion waste
10	What is slow fashion?	Alternate paradigms to the fast fashion model

11	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)
12	Business and sustainability	Presentations on fieldwork projects and discussion
13	Business and sustainability	Presentations on fieldwork projects and discussion
14	Business and sustainability	Final wrap up and review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei

(2) Reading recent business news

(3) Preparing for class activities

Since the spring semester focuses on the global fashion industry and its impact on the environment and society, having an interest in these themes is preferable.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be provided via Hoppii.

【参考書】

Selected references:

(1) Pietra Rivoli, The travels of a t-shirt in the global economy: an economist examines the markets, power, and politics of world trade, Wiley, 2014.

(2) Connie Ulasewicz and Janet Hethorn, Sustainable fashion take action, Bloomsbury, 2023.

(3) Mark K Brewer, Slow fashion in a fast fashion world: promoting sustainability and responsibility, New Frontiers of Fashion Law, 9 Oct 2019.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.

(2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course.

【学生の意見等からの気づき】

None. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

PC

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.

Due to the small class size, students should notify the instructor before the start of class if they are unable to attend.

This course is designed for IGESS students who are earning their BA degree in English. Japanese language degree students in the economics department or others may enroll with permission from the instructor.

The course meets face-to-face. However, if the majority of students wish to take some of the classes online, the format could be modified.

LANe300CA (英語 / English language education 300)

Business Communication II B

YONGUE JULIA SALLE

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：月3/Mon.3 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to help IGESS students learn about the changing workplace environment in Japan. In this course, they consider why the workplace environment has been evolving in recent years and how the changes are affecting business behavior and social norms.

【到達目標】

By taking this course, IGESS students can become familiar with some of the major issues affecting Japan's business environment and how they are impacting society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students receive short lectures, make presentations, and engage in group discussions. One special feature of the course is its 'active learning' component, whereby students will be asked to design a fieldwork project related to Japan's changing workplace environment and make a presentation on their findings.

*Feedback on assignments will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations and explanations; self-introductions
2	Why do we work?	'Ikigai' and the meaning of work
3	Japan's workplace culture	Defining Japan's workplace culture; global comparisons
4	Japan's workplace environment	Non-regular employment; social inequalities
5	Japan's workplace environment	Japan's labor shortage; immigration
6	Japan's workplace environment	Japan's poverty problem
7	Midterm presentations	Discussing and planning a fieldwork project
8	Assessment 1	Midterm presentations on fieldwork projects
9	Japan's workplace environment	International comparisons: overwork in the Chinese workplace
10	Japan's workplace environment	Japan's aging population problem
11	Japan's workplace environment	Japan's gender gap
12	Assessment 2	Wrap-up and in-class writing assignment

13	Issues in Japanese business	Student presentations and discussion
14	Issues in Japanese business: final wrap up and review	Student presentations and discussion/wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei
 (2) Reading recent business news
 (3) Preparing for class activities
 Since the main theme of the fall semester is the Japanese working environment, students who are interested in working for a Japanese company after graduation would benefit from taking this course.
 Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be available on Hoppii.

【参考書】

(1) Articles from the Asian-Pacific Journal/Japan Focus will be used in this course.
 (2) Other references:
 Pierre-Yves Donzé and Julia S. Yongue (2024) Japanese Capitalism and Entrepreneurship: a history of business from the Tokugawa era to the present, Oxford University Press, 2024.
 Erin Meyer (2015) Culture Map: Decoding how people think, lead, and get things done, Public Affairs.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
 (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

PC

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.
 Due to the small class size, students should always notify the instructor before the start of class if they are unable to attend. This course is designed for IGESS students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economics department or others may enroll with permission from the instructor.
 This course meets face-to-face. However, if the majority of students wish to take some of the classes online, the format could be modified.

LAnE300CA (英語 / English language education 300)
Business Communication II B
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to help IGESS students learn about the changing workplace environment in Japan. In this course, they consider why the workplace environment has been evolving in recent years and how the changes are affecting business behavior and social norms.

【到達目標】

By taking this course, IGESS students can become familiar with some of the major issues affecting Japan's business environment and how they are impacting society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students receive short lectures, make presentations, and engage in group discussions. One special feature of the course is its 'active learning' component, whereby students will be asked to design a fieldwork project related to Japan's changing workplace environment and make a presentation on their findings.

*Feedback on assignments will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations and explanations; self-introductions
2	Why do we work?	'Ikigai' and the meaning of work
3	Japan's workplace culture	Defining Japan's workplace culture; global comparisons
4	Japan's workplace environment	Non-regular employment; social inequalities
5	Japan's workplace environment	Japan's labor shortage; immigration
6	Japan's workplace environment	Japan's poverty problem
7	Midterm presentations	Discussing and planning a fieldwork project
8	Assessment 1	Midterm presentations on fieldwork projects
9	Japan's workplace environment	International comparisons: overwork in the Chinese workplace
10	Japan's workplace environment	Japan's aging population problem
11	Japan's workplace environment	Japan's gender gap
12	Assessment 2	Wrap-up and in-class writing assignment
13	Issues in Japanese business	Student presentations and discussion

14 Issues in Japanese business: final wrap up and review Student presentations and discussion/wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei

(2) Reading recent business news

(3) Preparing for class activities

Since the main theme of the fall semester is the Japanese working environment, students who are interested in working for a Japanese company after graduation would benefit from taking this course.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be available on Hoppii.

【参考書】

(1) Articles from the Asian-Pacific Journal/Japan Focus will be used in this course.

(2) Other references:

Pierre-Yves Donzé and Julia S. Yongue (2024) Japanese Capitalism and Entrepreneurship: a history of business from the Tokugawa era to the present, Oxford University Press, 2024.

Erin Meyer (2015) Culture Map: Decoding how people think, lead, and get things done, Public Affairs.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.

(2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

PC

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.

Due to the small class size, students should always notify the instructor before the start of class if they are unable to attend. This course is designed for IGESS students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economics department or others may enroll with permission from the instructor.

This course meets face-to-face. However, if the majority of students wish to take some of the classes online, the format could be modified.

LANe300CA (英語 / English language education 300)
Business Communication II A
MARK OSELAND
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn basic business language. Students will practice various English communication skills used in everyday business tasks, meetings and presentations. The course will use a proven pre-career Business English textbook, supplementary worksheets and suitable business news articles.

【到達目標】

The goal of this course is for students to improve their business English communication skills by practicing authentic business activities. Students will learn how to interact with international business people using spoken and written English (email).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will role play basic Business English scenarios, listen to authentic business conversations and complete pairwork, small group and whole class communication activities. The primary tasks are: learning how to introduce company colleagues, make small talk, make a company orientation presentation and how to write business email. The teacher will provide guidance and structure for English vocabulary learning and how to complete these tasks. Students will submit homework exercises and assignments in class and on Google Classroom. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Outline and Introductions	Class Expectations Explaining Daily Tasks Self-Introductions
2	Welcome to the company I.	Small talk. Making Introductions.
3	Welcome to the company II.	Breaking the Ice. Participating in an ice-breaking session.
4	An Important Visitor I.	Presenting information. Guiding a visitor.
5	An Important Visitor II.	Talking about stereotypes. Practising an orientation for foreign students.
6	What's on the agenda? I.	Running meetings. Practising opening a meeting.
7	What's on the agenda? II	Practising decision making. Completing an office re-design activity.
8	That's a great idea! I	Discussing ideas. Role playing agreeing and disagreeing.

9	That's a great idea II	Talking about meeting styles. Planning shops and restaurants to include in a hypermarket.
10	I'll you back. I	Leaving telephone messages. Role playing leaving and taking messages.
11	I'll call you back II	Preparing for a teleconference. Taking part in a small meeting and delegating tasks.
12	Can I get there on foot? I	Checking into hotels and asking for directions role plays.
13	Can I get there on foot? II	Non-verbal communication and body language activities. Using gestures.
14	In class presentation on a job you would like to do or a company you would like to join	Final Presentations in class using a PC and PPT or Google Slides.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly homework will include completing short writing tasks on Google Classroom, preparing short speeches on business topics and preparing to make a final presentation at the end of the semester.

【テキスト（教科書）】

Get Ready for International Business (English for the Workplace With extra practice for the TOEIC Exam) Students Book 2 by Andrew Vaughan and Dorothy E. Zemach ISBN: 9780230447912

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation 60%

Homework 20%

Final presentation 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook and pens/pencils to class and a computer (Chromebook is fine also) when preparing for the final presentation.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be serious about increasing their professional communication skills. The level is CEFR B1 which is intermediate.

[English Language Skill Required: Intermediate level] - This course is designed for intermediate English learners who wish to improve their communication skill and gain some business knowledge.

[Business knowledge Required: None] - Students do not need any prior business knowledge or experience to join this course. The basic business knowledge needed to complete tasks will be covered in the course. However, students should have a strong interest in international communication..

LANe300CA (英語 / English language education 300)
Business Communication II B
MARK OSELAND
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn basic business language. Students will practice various English communication skills used in everyday business tasks, meetings and presentations. The course will use a proven pre-career Business English textbook, supplementary worksheets and suitable business news articles.

【到達目標】

The goal of this course is for students to improve their business English communication skills by practicing authentic business activities. Students will learn how to interact with international business people using spoken and written English (email).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will role play basic Business English scenarios, listen to authentic business conversations and complete pair-work, small group and whole class communication activities. The primary tasks are: learning how to introduce company colleagues, make small talk, make a company orientation presentation and how to write business email. The teacher will provide guidance and structure for English vocabulary learning and how to complete these tasks. Students will submit homework exercises and assignments in class and on Google Classroom. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Outline and Introductions	Class Expectations Explaining Daily Tasks Self-Introductions
2	Best Wishes, Thomas Kale. I	Understanding emails. Writing emails.
3	Best Wishes, Thomas Kale. II.	Listening to a conversation about business email. Practising clarification expressions.
4	That's a good question! I.	Listening to simple business presentations and giving feedback.
5	That's a good question II.	Giving a simple presentation. Individual short speeches coaching and practice.
6	What was his major? I.	Discussing job applications. Talking about jobs. Completing a worksheet.
7	What was his major? II	Reading and writing a CV/ Resume.
8	Tell me about yourself. I.	Preparing to be interviewed. Talking about yourself.

9	Tell me about yourself. II	Completing an in-class job interview. (Small group work).
10	They're too expensive. I.	Discussing and selecting suitable business gifts. Listening to an office discussion.
11	They're too expensive II.	How to avoid making cultural mistakes in business. Explaining mistakes/Making apologies.
12	I need to work harder. I.	Preparing for a performance review. Talking about your strengths and weaknesses.
13	I need to work harder II.	Role-playing a performance review and responding to positive and negative feedback.
14	A final presentation on a job you would like to do or a company you would like to work for.	Final Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly homework will include completing short writing tasks on Google Classroom, preparing short speeches on business topics and preparing to make a final presentation at the end of the semester.

【テキスト（教科書）】

Get Ready for International Business (English for the Workplace With extra practice for the TOEIC Exam) Students Book 2 by Andrew Vaughan and Dorothy E. Zemach ISBN: 9780230447912

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation 60%
Homework 20%
Final presentation 20%

【学生の意見等からの気づき】
Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook and pens/pencils to class and a computer (Chromebook is fine also) when preparing for the final presentation.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be serious about increasing their professional communication skills. The level is CEFR B1 which is intermediate.

[English Language Skill Required: Intermediate level] - This course is designed for intermediate English learners who wish to improve their communication skill and gain some business knowledge.

[Business knowledge Required: None] - Students do not need any prior business knowledge or experience to join this course. The basic business knowledge needed to complete tasks will be covered in the course. However, students should have a strong interest in international communication.

LAW200CA（法学 / law 200）
日本国憲法A
村元 宏行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんは本学で経済学を学んでいる。経済学にせよ、社会福祉を学ぶにせよ、またその他の分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められている。いうまでもなく憲法は国の最高法規であるから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。

また、主専攻との関係を意識するでもなく、現実には生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要なことである。

この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、春期科目として人権を主にとりあげ（秋期科目で統治機構を扱う）、それらの歴史的、社会的背景もとりあげることにする。

【到達目標】

憲法が存在する意義について理解できる。
日本国憲法の構造（人権）について理解できる。
現実には生起している憲法上の争点について整理し、自分なりの見解をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行う。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講に際しての諸注意など。
第2回	憲法とは何か	立憲主義について学ぶ。
第3回	日本国憲法の誕生	憲法の制定過程について学ぶ。
第4回	国民主権と象徴天皇制	国民主権の意義や象徴天皇制の概要を学ぶ。
第5回	憲法9条と平和主義（その1）	憲法9条制定の背景等を学ぶ。
第6回	憲法9条と平和主義（その2）	憲法9条をめぐる裁判等について学ぶ。
第7回	基本的人権（基本的人権とは）	憲法で基本的人権が保障されている意義について学ぶ。
第8回	基本的人権（基本的人権の類型と人権保障の限界）	自由権や社会権などの人権分類と、公共の福祉などの人権制約の概念を学ぶ。
第9回	基本的人権（包括的基本人権）	憲法13条の幸福追求権について学ぶ。
第10回	基本的人権（自由権 その1）	精神的自由権について学ぶ。
第11回	基本的人権（自由権 その2）	人身の自由と経済的自由権について学ぶ。
第12回	基本的人権（社会権 その1）	生存権について学ぶ。
第13回	基本的人権（社会権 その2）	教育を受ける権利、勤労の権利について学ぶ。
第14回	基本的人権（参政権）、国民の義務	選挙権などの参政権と、国民の義務について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時限毎にわからない事柄について自宅学習を行うことはもちろんのこと、新聞等で憲法をめぐる時事問題について把握しておき、どのような意見対立があるのかといった点について把握しておくことが求められます。予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。
ただし、授業に六法の持参を求めるが、詳しくは初回授業で指示する。

【参考書】

授業において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50％）：授業内容を踏まえて憲法の基本的概念について説明し、自分の見解をまとめることができるかどうかを評価する。

小レポート（50％）：授業の感想や意見、質問を書く（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場合がある。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the fundamental principle of constitutionalism.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200CA（法学 / law 200）
日本国憲法B
村元 宏行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんは本学で経済学を学んでいる。経済学にせよ、社会福祉を学ぶにせよ、またその他の分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められている。いうまでもなく憲法は国の最高法規であるから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。

また、主専攻との関係を意識するでもなく、現実には生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要なことである。

この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、秋学期授業として統治機構を主にとりあげ（人権は春学期に取り上げる）、それらの歴史的、社会的背景もとりあげることとする。

【到達目標】

憲法が存在する意義について理解できる。
日本国憲法の構造（統治機構）について理解できる。
現実には生起している憲法上の争点について整理し、自分なりの見解をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行う。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、統治制度と権力分立制	権力分立制の意義について学ぶ。
第2回	立法権（その1）	立法権について概要を学ぶ。
第3回	立法権（その2）	立法権を担う国会の諸問題について学ぶ。
第4回	行政権（その1）	行政権についてその範囲と概要を学ぶ。
第5回	行政権（その2）	行政権を担う内閣や、行政機関をめぐる諸問題について学ぶ。
第6回	司法権（その1）	司法権の独立など、司法権の概要を学ぶ。
第7回	司法権（その2）	司法権を担う裁判所をめぐる諸問題を学ぶ。
第8回	地方自治	地方自治の本旨や、地方自治をめぐる諸問題を学ぶ。
第9回	財政	財政民主主義など、財政規定の概要を学ぶ。
第10回	憲法改正（その1）	憲法改正について、議論の変遷を学ぶ。
第11回	憲法改正（その2）	憲法改正をめぐる現代的争点を学ぶ。
第12回	憲法をめぐる現代的課題（その1）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題を取り上げて学ぶ。
第13回	憲法をめぐる現代的課題（その2）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題をもう一つ取り上げて学ぶ。
第14回	授業のまとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時限毎にわからない事柄について自宅学習を行うことはもちろんのこと、新聞等で憲法をめぐる時事問題について把握しておき、どのような意見対立があるのかといった点について把握しておくことが求められます。予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。
ただし、授業に六法の持参を求めるが、詳しくは初回授業で指示する。

【参考書】

授業において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50％）：授業内容を踏まえて憲法の基本的概念について説明し、自己の見解をまとめることができるかどうかを評価する。

小レポート（50％）：授業の感想や意見、質問を書く（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場合がある。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the separation of powers.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200CA（法学 / law 200）
民法一部A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、市場におけるあらゆる経済取引に共通する「総則」を中心に学ぶ。また、売買や賃貸借といった契約の効果（所有権や占有権の移転）に関わる「物権」法との関連性に意識が向けられる。

【到達目標】

民法総則(民法典第1編)について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

民法総則について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、講義の中で説明が行われる。受講生は毎回の授業の終了後、再び自らの力で解答を行いながら知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	民法概論	民法とは何か
第2回	総則①	契約の成立
第3回	総則②	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第4回	総則③	意思表示（2）錯誤
第5回	総則④	意思表示（3）詐欺、強迫
第6回	総則⑤	権利の主体：権利能力、意思能力、行為能力
第7回	総則⑥	代理（1）代理権、代理行為、代理の効果
第8回	総則⑦	代理（2）無権代理
第9回	総則⑧	代理（3）表見代理
第10回	総則⑨	法人制度概論
第11回	総則⑩	法人
第12回	総則⑪	契約の一般的有効要件
第13回	総合①	物権法導入
第14回	総合②	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）
山野日章夫・野澤正充『ケースではじめる民法』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布されるレジュメの穴埋め課題（平常点）（15％）と学期末に課される「春学期最終課題」（レポート又は試験）による評価（85％）

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用（図解）に心掛ける。

【Outline (in English)】

The core of the course involves an understanding of contract law, and examination of personal property law in the context of commercial transactions. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be conducted in a lecture format using handouts that can be downloaded on Hoppii in advance. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 15%, Final report or examination: 85%)

LAW200CA（法学 / law 200）
民法一部B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、物権法（担保物権を除く）を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】

物権（第2編第1，2，3章）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

物権法について、あらかじめ配信されたレジュメの流れに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、講義の中で説明が行われる。受講生は毎回の授業の終了後、再び自らの力で解答を行い、知識の定着を確実に図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総則1	契約の効力発生時期
第2回	総則2	時効（1）時効制度概論
第3回	総則3	時効（2）効果、援用権者、法律行為論
第4回	物権①	物権制度概論
第5回	物権②	所有権の内容、所有権の効力（1）
第6回	物権③	所有権の効力（2）物権的請求権
第7回	物権④	所有権の取得
第8回	物権⑤	共同所有関係
第9回	物権⑥	占有権（1）
第10回	物権⑦	占有権（2）
第11回	物権⑧	物権変動（1）契約による不動産の物権変動
第12回	物権⑨	物権変動（2）対抗要件主義
第13回	物権⑩	物権変動（3）動産物権変動、公信の原則
第14回	総合	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、毎回、学習支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論【第2版】』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第2版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布されるレジュメの穴埋め課題（平常点）（15％）と学期末に課される「秋学期最終課題」（レポートまたは試験）による評価（85％）

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に心掛ける。

【Outline (in English)】

The core of the course involves an examination of property law in the context of commercial transactions. The expected outcomes will be understanding of how property law interrelates with contract law, and understanding of basic concepts of the general civilian idea of 'contract' and of the civilian contract of sale in particular. Classes will be conducted in a lecture format using handouts that can be downloaded on Hoppii in advance. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 15%, Final report or examination: 85%)

(2024 年度以前入学生) LAW300CA / (2025 年度以降入学生) LAW200CA
民法二部A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、取引に直接関係する債権法（①契約法総論、②契約法各論）と、契約関係にないにもかかわらず義務を負う場合として不当利得法、不法行為法について学ぶ。

【到達目標】

①取引を行うにあたって、トラブル発生に備えて、また、トラブルが発生した場合の解決方法として、契約法を修得する。
②契約関係にない場合であっても義務を負う例外として、不当利得法や不法行為法について、基本的な知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生は期限内であれば比較的ゆとりをもって自分のスケジュールに合わせて視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	契約法総論①	契約法とは何か
第2回	契約法総論②	契約法序説、契約の成立
第3回	契約法総論③	契約の効力
第4回	契約法総論④	契約の解除
第5回	契約法各論①	贈与・売買
第6回	契約法各論②	売主の契約不適合責任
第7回	契約法各論③	買戻し、交換、消費貸借
第8回	契約法各論④	使用貸借、質貸借
第9回	契約法各論⑤	賃貸人と賃借人の権利義務関係
第10回	契約法各論⑥	雇用、請負、委任、寄託その他
第11回	法定債権①	事務管理、不当利得
第12回	法定債権②	特殊不当利得、不法原因給付
第13回	法定債権③	不法行為の意義、成立要件
第14回	法定債権④	不法行為の効果、特殊な不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）

池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社）

内田貴『民法Ⅱ』、『民法Ⅲ』（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

春学期最後に出される課題の成績(70%)と、毎回の復習課題の提出状況及び内容(30%)による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのPDFファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoom が視聴できる通信環境。

【その他の重要事項】

「法学B」または「民法1部」を履修済みか、履修中であることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on legal obligation which mainly emerges from contracts. Students also learn about law of obligation which involves tort and unjust enrichment in the absence of any contractual relationships. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Homework assignments should be done regularly soon after each session.

Grading Criteria (Homework: 30%, Final report: 70%)

(2024 年度以前入学生) LAW300CA / (2025 年度以降入学生) LAW200CA
民法二部B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権総論、保証制度、担保物権制度など、民法の中でも、資金調達や金融に関わる分野について広く学ぶ。

【到達目標】

事業拡大のための融資・借入れの仕組み、そのための担保制度の仕組みを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生は期限内であれば比較的ゆとりをもって自分のスケジュールに合わせて視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説がHoppii上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	債権総論①	債権総論序説、債権の目的
第2回	債権総論②	債権の効力（1）強制履行・債務不履行
第3回	債権総論③	債権の効力（2）損害賠償
第4回	債権総論④	受領遅滞、弁済
第5回	債権総論⑤	責任財産の保全（1）債権者代位権
第6回	債権総論⑥	責任財産の保全（2）詐害行為取消権
第7回	債権総論⑦	多数当事者の債権関係（1）分割債務・不可分債務
第8回	債権総論⑧	多数当事者の債権関係（2）連帯債務
第9回	債権総論⑨	多数当事者の債権関係（3）保証債務・連帯保証債務
第10回	債権総論⑩	債権譲渡
第11回	債権総論⑪	債務の移転、契約譲渡、相殺
第12回	担保物権①	抵当権
第13回	担保物権②	法定地上権
第14回	担保物権③	譲渡担保、留置権、先取特権

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書(いずれの出版社のものでもよい)

【参考書】

道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門』（日本経済新聞社）

池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社）

内田貴『民法Ⅱ』、『民法Ⅲ』（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

秋学期の最後に出される課題の成績(70%)と、毎回の復習課題の提出状況及び内容(30%)による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説がHoppii上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのPDFファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoomが視聴できる通信環境。

【Outline (in English)】

This course focuses on legal obligation which mainly emerges from contracts of financial services. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be recorded and made available online for students to learn on demand. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 30%, Final report: 70%)

(2024 年度以前入学生) LAW200CA ／ (2025 年度以降入学生) LAW300CA	
商法一部A	
笹久保 徹	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、総論	ガイダンス、用語の解説
第2回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第3回	株主総会1	株主総会の権限等の解説
第4回	株主総会2	株主総会の議事等の解説
第5回	株主総会3	株主総会の決議等の解説
第6回	取締役1	取締役の権限等の解説
第7回	取締役2	取締役会の決議等の解説
第8回	取締役3	代表取締役の解説
第9回	取締役4	取締役の義務の解説
第10回	取締役5	取締役の会社に対する責任の解説
第11回	取締役6	責任追及の方法の解説
第12回	取締役7	取締役の第三者に対する責任に関する解説
第13回	監査役・会計監査人	監査役等の解説
第14回	指名委員会等設置会社等	指名委員会等設置会社等に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』（日本経済新聞出版社、2021）
・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
・長谷部由起子ほか編『デイリー六法2025 令和7年版』（三省堂、2024）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）及び平常点（20％）による。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

(2024 年度以前入学生) LAW200CA ／ (2025 年度以降入学生) LAW300CA
商法一部B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 会社法 総論	ガイダンス、前提知識・用語等の解説、春学期の復習
第2回	株式会社の設立1	設立の概要に関する解説
第3回	株式会社の設立2	設立手続きの解説
第4回	株式会社の設立3	設立の瑕疵に関する解説
第5回	株式会社の設立4	設立の論点に関する解説
第6回	株式1	株式の概要、株主の権利等に関する解説
第7回	株式2	株式の内容・種類の解説
第8回	株式3	株主名簿・株券の解説
第9回	株式4	株式譲渡の解説
第10回	株式5	株式併合・分割等の解説
第11回	募集株式1	募集株式の概要の解説
第12回	募集株式2	募集株式の発行等の手続きに関する解説
第13回	募集株式3	募集株式の発行等の瑕疵等の解説
第14回	新株予約権	新株予約権の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』（日本経済新聞出版社、2014）
・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
・長谷部由起子ほか編『デイリー六法 2025 令和7年版』（三省堂、2024）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）及び平常点（20％）による。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

LAW300CA（法学 / law 300）
商法二部A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

- ・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
- ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
- ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと概要	ガイダンス、法律学一般の解説。
第2回	商法の意義と法源	商法の意義と法源を解説する。
第3回	商人と商行為1	商人について解説する。
第4回	商人と商行為2	商行為を解説する。
第5回	商号1	商号の意義を解説する。
第6回	商号2	商号を解説する。
第7回	商業登記	商業登記を解説する。
第8回	商業使用人1	支配人を解説する。
第9回	商業使用人2	支配人以外の商業使用人を解説する。
第10回	代理商	代理商を解説する。
第11回	営業1	営業の概要を解説する。
第12回	営業2	営業譲渡を解説する。
第13回	商業帳簿	商業帳簿を解説する。
第14回	商法総則 事例研究	重要判例を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『商法総則・商行為法』（三省堂テミス）（三省堂、2024）

【参考書】

- ・神作裕之＝藤田友敬編「商法判例百選」（別冊ジュリストNo.243）（有斐閣、2019年）
- ・長谷部由起子ほか編『デイリー六法2025 令和7年版』（三省堂、2024）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）及び平常点（20％）による。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

なお、本授業は「商法一部（会社法）」の履修済み前提としていないため、両授業を並行して履修してもかまわない。

【Outline (in English)】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

LAW300CA（法学 / law 300）
商法二部B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

- ・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
- ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
- ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。本授業の受講生は、春学期の「商法二部A」を受講していることが望ましいが、本授業から受講してもかまわない。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、春学期の復習	ガイダンスおよび春学期の復習。
第2回	商行為法 総則 1	商行為法の概論の解説。
第3回	商行為法 総則 2	商行為の代理等の解説。
第4回	商事売買 1	商事売買の概論の解説。
第5回	商事売買 2	買主の義務等の解説。
第6回	匿名組合	匿名組合の解説。
第7回	運送営業 1	物品運送の解説。
第8回	運送営業 2	旅客運送の解説。
第9回	寄託	寄託の解説。
第10回	仲立営業	仲立営業等の解説。
第11回	運送取扱営業	運送取扱営業の解説。
第12回	倉庫営業	倉庫営業の解説。
第13回	交互計算	交互計算の解説。
第14回	商行為法 事例研究	重要判例の解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『商法総則・商行為法』（三省堂テミス）（三省堂、2024）

【参考書】

- ・神作裕之＝藤田友敬編「商法判例百選」（別冊ジュリスト No.243）（有斐閣、2019年）
- ・長谷部由起子ほか編『デイリー六法 2025 令和7年版』（三省堂、2024）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）及び平常点（20％）による。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は、最新の六法を持参すること。六法、テキスト、及び、参考書は、新しい版が出版される可能性もあるため、講師の説明を受けてから購入した方がよい。

本授業は「商法一部（会社法）」の履行済みを前提としていないため、両授業を並行して履行してもかまわない。

【Outline (in English)】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

LAW300CA (法学 / law 300)
経済法A
杉崎 弘
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法、特にその中核をなす独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれ、事業活動の全般に適用される基本的なルールを定めたものとなっています。そのため、講義は独占禁止法の解説（解釈論）を中心に行います。ただし、同法の背景にある市場経済のシステムとその問題点を理解するうえで、会社法をはじめとする他の企業法の知識も欠かせません。講義では、企業法に広く目配りをし、経済社会の主要な法制度を俯瞰的に把握できるようになることを目指します。

【到達目標】

独占禁止法とは、「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」を指します。この講義では、この名称が示す「私的独占」の規制を出発点として、「不当な取引制限」、企業結合の各規制に関する根拠条文の解釈と運用について学びます（事業者団体の規制には適宜触れます）。これらの規制により、独占禁止法が誰にどのような義務を課し、何を禁止しているのかを知り、同法に違反した場合に誰がどのような措置をとるのか（あるいはとることができるのか）を知ることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメを配布し、それをもとに講義を行います。みなさんの主体的な「学び」を後押しできるよう、適宜、自習教材を紹介します。講義後は、皆さんからの質問・意見を受け付け、学習支援システムや次回授業時においてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	講義の進め方
2)	経済社会と国家	自由経済と資本主義 自由国家の変容
3)	独占禁止法の目的と手段	「公正且つ自由な競争」 エンフォースメントの基本的な仕組み
4)	独占禁止法の概要	独占禁止法の歴史と構造 義務の内容
5)	「私的独占」の規制（１）	基本的な考え方 成立要件の解釈
6)	「私的独占」の規制（２）	事例の紹介と問題演習①
7)	「私的独占」の規制（３）	事例の紹介と問題演習②
8)	「不当な取引制限」の規制（１）	基本的な考え方 成立要件の解釈
9)	「不当な取引制限」の規制（２）	事例の紹介と問題演習①
10)	「不当な取引制限」の規制（３）	事例の紹介と問題演習②
11)	企業結合規制（１）	企業結合規制の仕組み 成立要件の解釈
12)	企業結合規制（２）	事例の紹介と問題演習①
13)	企業結合規制（３）	事例の紹介と問題演習②
14)	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・幅広い分野に関心をもって書籍、雑誌、ネット等に触れ、あるいは実体験を通じて、経済社会と法に関する知見・知識を得る。
・参考書の関連部分、課題・質問事項に係るフィードバック内容を適宜読み、興味・関心をひく内容について自分なりに考えてみる。
・上記の授業時間外の学習時間は、大学設置基準に鑑み、毎回４時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

- ①土田和博ほか『条文から学ぶ 独占禁止法〔第3版〕』（有斐閣、2024年）
 - ②河谷清文ほか『経済法』（有斐閣、2023年）
 - ③白石忠志『独禁法講義〔第10版〕』（有斐閣、2023年）
 - ④川濱昇ほか『ベーシック経済法——独占禁止法入門〔第5版〕』（有斐閣、2020年）
 - ⑤金井貴嗣ほか『独占禁止法〔第6版〕』（弘文堂、2018年）
- ※補遺により部分的にアップデートされています。補遺はウェブ上にて無料で入手できます（→<https://www.koubundou.co.jp/files/35751.pdf>）。
- ⑥根岸哲＝舟田正之『独占禁止法概説〔第5版〕』（有斐閣、2015年）
- ※⑤と同様に補遺（追補）があります（→http://www.yuhikaku.co.jp/static_files/web_supplement_14482.pdf）。
- ⑦川濱昇ほか編『経済法判例・審決百選〔第3版〕』（有斐閣、2024年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加状況）（20点）及び期末レポート（80点）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

事例の紹介に加えて問題演習を通じたスムーズな理解と知識の定着をはかります。

【Outline (in English)】

- ・ This course introduces overview of Antimonopoly Act to students taking this course.
- ・ The goals of this course are to acquire knowledge about the basic contents of Antimonopoly Act, such as the purpose of the law, prohibited acts, and the contents of measures.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spent four hours to understand the course content.
- ・ Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (80%) and in-class contribution (20%).

LAW300CA (法学 / law 300)
経済法B
杉崎 弘
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法、特にその中核をなす独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれ、事業活動の全般に適用される基本的なルールを定めたものとなっています。そのため、講義は独占禁止法の解説（解釈論）を中心に行います。ただし、同法の背景にある市場経済のシステムとその問題点を理解するうえで、会社法をはじめとする他の企業法の知識も欠かせません。講義では、企業法に広く目配りをし、経済社会の主要な法制度を俯瞰的に把握できるようになることを目指します。

【到達目標】

・経済法A（春学期）に学んだ、「私的独占」・「不当な取引制限」・企業結合の各規制と並んで独占禁止法の主要な規制である、「不正な取引方法」の規制に関する根拠条文的解釈と運用について学びます（下請法と景表法には適宜触れます）。この規制により、独占禁止法が誰にどのような義務を課し、何を禁止しているのかを知り、同法に違反した場合に誰がどのような措置をとるのか（あるいはとることができるのか）を知ることを目指します。
・「不正な取引方法」の規制は、経済社会の変化に対応した規制を行えるように、禁止行為を行政機関（公正取引委員会）が指定できる仕組みが取り入れられています。本講義では、「不正な取引方法」として規制されている禁止行為のうち、主要なものを中心に学んでいくこととします。
・独占禁止法を取り巻く各種業法、国際経済法の概要も学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメを配布し、それをもとに講義を行います。みなさんの主体的な「学び」を後押しできるよう、適宜、自習教材を紹介します。講義後は、皆さんからの質問・意見を受け付け、学習支援システムや次回授業時においてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	講義の進め方
2)	独占禁止法の概要	春学期のおさらい
3)	「不正な取引方法」の規制（総論）	「不正な取引方法」の概要
4)	不当な差別的取扱い（1）	不当な取引拒絶
5)	不当な差別的取扱い（2）	不当な差別的取扱い（不当な取引拒絶を除く）
6)	不当対価取引	不当廉売を中心に
7)	不当な顧客誘引・取引強制	ぎまんの顧客誘引 不当な利益による顧客誘引 抱き合わせ販売
8)	事業活動の不当拘束（1）	再販売価格の拘束、排他条件付取引、その他の拘束条件付取引 ①
9)	事業活動の不当拘束（2）	再販売価格の拘束、排他条件付取引、その他の拘束条件付取引 ②
10)	取引上の地位の不当利用	優越的地位の濫用
11)	不当な取引妨害・内部干渉	不当な取引妨害を中心に

12)	業法による規制	規制緩和と独占禁止法 各種業法の概要
13)	国際的な規制	独占禁止法の域外適用 GATT・WTO体制
14)	まとめ	秋学期のまとめ 春学期・秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・幅広い分野に関心をもって書籍、雑誌、ネット等に触れ、あるいは実体験を通じて、経済社会と法に関する知見・知識を得る。
・参考書の関連部分、課題・質問事項に係るフィードバック内容を適宜読み、興味・関心をひく内容について自分なりに考えてみる。
・上記の授業時間外の学習時間は、大学設置基準に鑑み、毎回4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- ①土田和博ほか『条文から学ぶ 独占禁止法〔第3版〕』（有斐閣、2024年）
- ②河谷清文ほか『経済法』（有斐閣、2023年）
- ③白石忠志『独禁法講義〔第10版〕』（有斐閣、2023年）
- ④川濱昇ほか『ベーシック経済法——独占禁止法入門〔第5版〕』（有斐閣、2020年）
- ⑤金井貴嗣ほか『独占禁止法〔第6版〕』（弘文堂、2018年）
※補遺により部分的にアップデートされています。補遺はウェブ上で無料で入手できます（→<https://www.koubundou.co.jp/files/35751.pdf>）。
- ⑥根岸哲＝舟田正之『独占禁止法概説〔第5版〕』（有斐閣、2015年）
※⑤と同様に補遺（追補）があります（→http://www.yuhikaku.co.jp/static_files/web_supplement_14482.pdf）。
- ⑦川濱昇ほか編『経済法判例・審決百選〔第3版〕』（有斐閣、2024年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加状況）（20点）及び期末レポート（80点）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

事例の紹介と問題演習を通じてスムーズな理解と知識の定着をはかります。

【Outline (in English)】

- ・ This course introduces overview of Antimonopoly Act to students taking this course.
- ・ The goals of this course are to acquire knowledge about the basic contents of Antimonopoly Act, such as the purpose of the law, prohibited acts, and the contents of measures.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spent four hours to understand the course content.
- ・ Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (80%) and in-class contribution (20%).

LAW300CA (法学 / law 300)
労働法A
山本 圭子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働基準法、労働契約法、労働組合法等の意義と内容を理解することを目的とする。労働基準法、労働契約法、労働組合法などの労働法の基礎を理解し、法令、判例、学説に沿った問題解決ができることを到達目標とする。

【到達目標】

学生が、労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解し、労働法上の基本的な問題に、法令、判例、学説を踏まえて、文章で論理的に説明できることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義形式で授業を行う。学習支援システムでの小テスト（自動採点）を課す。小テストについては、次の授業時に講評と解説によりフィードバック行う。レポートについては、締め切り後に全体講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・労働法概論	・講義内容や評価方法の説明。 ・労働法の全体像について学習する。
第2回	労働基準法概論	労基法の概要と労働憲章を学ぶ
第3回	就職活動と法	募集、採用に係る法理を学ぶ
第4回	労働契約	労働契約、就業規則、労働協約の関係を学ぶ
第5回	就業規則	就業規則の作成、変更法理を学ぶ
第6回	賃金	賃金決定、賃金支払原則を学ぶ
第7回	賞与・退職金	賞与、退職金を学ぶ
第8回	労働時間①法定労働時間	労働時間規制の変遷と休憩を学ぶ
第9回	労働時間②変形制等	変形労働時間制を学ぶ
第10回	休日、時間外労働	休日付与と時間外・休日労働を学ぶ
第11回	年次有給休暇	年次有給休暇について学ぶ
第12回	雇用平等	雇用平等について学ぶ
第13回	育児介護休業	育児介護休業法について学ぶ
第14回	ワークライフバランス	次世代育成支援対策推進法について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムで事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良『ファーストステップ労働法』エイデル研究所、2020年、2,530円

【参考書】

労働判例百選〔第10版〕別冊ジュリスト257号、村中孝史・荒木尚志編、2022、2,640円

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに学習支援システムで実施する小テスト（30％）、期末の最終レポート（70％）の合計で評価する。これらにより、到達目標の達成度を評価する。

期末の最終レポートは、労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解し、労働法上の基本的な問題に、法令、判例、学説を踏まえて、文章で論理的に説明できるという到達目標を達成しているか否かで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

出席率が低いことから、改善のため、今年度から授業時に学習支援システムを利用して小テストを実施することにした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで小テスト・レポートを実施するので、パソコンや通信環境を整えておくこと。レポート提出はワードファイルとする。

【その他の重要事項】

関連科目：「労働法B」

【オフィスアワー】

講義の後及び学習支援システムの掲示板で質問をうける

【授業計画について】

授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

"Labor Standard Law, Labor Contracts Law, Laobr Union Law"

The goal of this lecture is to understand the significance of the Labor Standards Law, the Labor Contract Law, and the Trade Union Law, and to be able to solve problems in accordance with laws, ordinances, and theories.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (45%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (55%).

LAW300CA (法学 / law 300)
労働法B
山本 圭子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働基準法、労働契約法、労働組合法等の意義と内容を理解することを目的とする。労働基準法、労働契約法、労働組合法などの労働法の基礎を理解し、法令、判例、学説に沿った問題解決ができることを到達目標とする。

【到達目標】

学生が、労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解し、労働法上の基本的な問題に、法令、判例、学説を踏まえて、文章で論理的に説明できることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義形式で授業を行う。学習支援システムでの小テスト（自動採点）を課す。小テストについては、次の授業時に講評と解説によりフィードバック行う。夏期レポートについては、締め切り後に授業の中で全体講評と解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・労働法概論	・講義内容や評価方法の説明。 ・労働法の全体像について学習する。
第2回	人事異動	配転、出向、転籍を学ぶ
第3回	懲戒処分	服務規律と懲戒処分を学ぶ
第4回	労働契約の終了①	解雇を学ぶ
第5回	労働契約の終了②	雇止め、退職、定年を学ぶ
第6回	労働基本権	労働組合法の意義を学ぶ
第7回	不当労働行為	不当労働行為制度の意義と救済を学ぶ
第8回	労働協約・労働争議	労働協約と争議行為を学ぶ
第9回	安全衛生と労災保険	安衛法と労災保険法を学ぶ
第10回	労働者の人格権保障	ハラスメント・プライバシーを学ぶ
第11回	パート有期法	パート有期法を学ぶ
第12回	労働者派遣法	労働者派遣法を学ぶ
第13回	労働市場法	労働市場法の変遷を学ぶ
第14回	法改正の検討・まとめ	法改正情報、まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムで事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良『ファーストステップ労働法』エイデル研究所、2020年、2,530円

【参考書】

労働判例百選〔第10版〕別冊ジュリスト257号、村中孝史・荒木尚志編、2022、2,640円

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに学習支援システムで実施する小テスト（30％）、期末の最終レポート（70％）の合計で評価する。これらにより、到達目標の達成度を評価する。

夏休みの課題及び期末の最終レポートは、労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解し、労働法上の基本的な問題に、法令、判例、学説を踏まえて、文章で論理的に説明できるという到達目標を達成しているか否かで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

出席率が低いことから、今年度より、授業内で小テストを実施することとした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで小テスト・レポートを実施するので、パソコンや通信環境を整え対応機器を持参すること。レポート提出はワードファイルとする。

【その他の重要事項】

関連科目：「労働法B」

【オフィスアワー】

学習支援システムの掲示板で質問をうける

【授業計画について】

授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

"Labor Standard Law, Labor Contracts Law, Laobr Union Law"

The goal of this lecture is to understand the significance of the Labor Standards Law, the Labor Contract Law, and the Trade Union Law, and to be able to solve problems in accordance with laws, ordinances, and theories.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (30%) conducted by the learning support system, summer vacation assignments (20%), and final report at the end of the term (50%).

MAN300CA (経営学 / Management 300)
経営学A
砂田 充
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の基礎的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。

【到達目標】

事業戦略の基礎（外部要因・内部要因の分析）及び競争優位の基本戦略（コスト優位・差別化優位）について、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「経営学」と「経済学」
2	経営戦略とは	経営戦略とゼネラル・マネジメント
3	経営戦略の成立と種類	事業戦略と企業戦略
4	経営学のための経済学基礎①	需要の特性
5	経営学のための経済学基礎②	費用構造
6	事業戦略の考え方	価値創造とSWOTの分析
7	外部要因の分析①	業界構造分析
8	外部要因の分析②	業界構造分析の事例研究
9	外部要因の分析③	価値相関図
10	内部要因の分析	企業活動と経営資源
11	競争優位と基本戦略	競争優位のタイプと基本戦略
12	コスト優位	コスト・ドライバー
13	差別化優位	差別化ドライバー
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004年）。
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010年）。
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011年）

小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。
丸山雅祥『経営の経済学〔第3版〕』（有斐閣、2017年）。
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. *Economics of Strategy*, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.
他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%、平常点含む）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。2025年度に学習支援システムのリプレースメントが予定されているため、実際の運用は変更になる可能性がある。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: cost structure of the firm, value creation, competitor and competition, industry analysis: five-force analysis, competitive advantage, cost and benefit advantage, sustaining competitive advantage. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic.

The goal of this course is understanding the conceptual framework of business strategy, competitive advantage, and its sustainability, based on the economic theory.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through the LMS (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through the LMS within a week (about two hours required).

Students are also expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

MAN300CA (経営学 / Management 300)
経営学B
砂田 充
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の発展的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。

【到達目標】

企業戦略の基礎（垂直統合・多角化）に加えて経営戦略のゲーム理論的アプローチについて、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	企業戦略と戦略的行動
2	企業戦略の考え方	企業優位とシナジー
3	垂直統合	取引費用と「Make or Buy」の意思決定
4	多角化①	多角化の内的・外的要因
5	多角化②	製品ポートフォリオ・マネジメント
6	国際化	国際企業戦略とOLIフレームワーク
7	参入	内部成長、M&A、提携
8	経営学のためのゲーム理論	戦略型ゲームと展開型ゲーム
9	寡占の企業間競争①	同質財市場
10	寡占の企業間競争②	製品差別化
11	戦略的行動①	相互依存関係と戦略的行動
12	戦略的行動②	略奪価格と柔道エコノミクス
13	その他のトピック	より進んだテーマ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004年）。
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010年）。
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011年）

小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。
丸山雅祥『経営の経済学〔第3版〕』（有斐閣、2017年）。
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.
他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%、平常点含む）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。2025年度に学習支援システムのリブレイスメントが予定されているため、実際の運用は変更になる可能性がある。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: vertical integration: vertical boundaries of the firm, horizontal boundaries of the firm: diversification, globalization, entry and exit, competitive strategy. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic.

The goal of this course is understanding the logic behind various corporate strategy (eg. vertical integration, diversification, internationalization, and so on) and the game theoretic analysis of competitive strategy.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through the LMS (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through the LMS within a week (about two hours required).

Students are also expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
Principles of Economics A
JESS DIAMOND
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson のミクロ経済学とマクロ経済学の基本をカバーする理論 Chapter5、Chapter6、Chapter8、Chapter9を取り上げます。講義は英語で行われる。

In this class we use an English textbook to study core ideas in microeconomics and macroeconomics. In particular, we cover chapters 5, 6, 8 and 9 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。

The goal of this course is to introduce students to the foundations of microeconomics. In particular, we cover consumer theory, producer theory, trade and externalities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Consumers and Incentives	The Buyer's Problem
3	Consumers and Incentives	The Demand Curve and Consumer Surplus
4	Consumers and Incentives	Demand Elasticities
5	Sellers and Incentives	The Seller's Problem
6	Sellers and Incentives	The Supply Curve and Producer Surplus
7	Sellers and Incentives	From The Short Run To The Long Run
8	Trade	The Production Possibilities Curve And The Basis for Trade
9	Trade	Trade Between Prefectures and Countries
10	Trade	Arguments Against Free Trade
11	Externalities and Public Goods	Externalities
12	Externalities and Public Goods	Private Solutions to Externalities
13	Externalities and Public Goods	Government Solutions to Externalities and Public Goods

14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN100CA (経済学 / Economics 100)

Principles of Economics A

JESS DIAMOND

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩/Tama

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：※ Category【Enrollment 2025～】I. Introduction to Economics

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson のミクロ経済学とマクロ経済学の基本をカバーする理論 Chapter5、Chapter6、Chapter8、Chapter9を取り上げます。講義は英語で行われる。

In this class we use an English textbook to study core ideas in microeconomics and macroeconomics. In particular, we cover chapters 5, 6, 8 and 9 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。

The goal of this course is to introduce students to the foundations of microeconomics. In particular, we cover consumer theory, producer theory, trade and externalities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Consumers and Incentives	The Buyer's Problem
3	Consumers and Incentives	The Demand Curve and Consumer Surplus
4	Consumers and Incentives	Demand Elasticities
5	Sellers and Incentives	The Seller's Problem
6	Sellers and Incentives	The Supply Curve and Producer Surplus
7	Sellers and Incentives	From The Short Run To The Long Run
8	Trade	The Production Possibilities Curve And The Basis for Trade
9	Trade	Trade Between Prefectures and Countries
10	Trade	Arguments Against Free Trade
11	Externalities and Public Goods	Externalities

12	Externalities and Public Goods	Private Solutions to Externalities
13	Externalities and Public Goods	Government Solutions to Externalities and Public Goods
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN100CA (経済学 / Economics 100)

Principles of Economics B

JESS DIAMOND

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩/Tama

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：※ Category【Enrollment 2025～】I. Introduction to Economics

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson のマクロ経済学の基本をカバーする Chapter23, Chapter24, Chapter25, Chapter26を取り上げます。講義を英語で行われる。

In this class we use an English textbook to continue our study of core ideas in macroeconomics. In particular, we cover chapters 23, 24, 25 and 26 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

マクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。

The goal of this course is to study the foundations of macroeconomics. In particular, we cover the labor market, credit markets, the monetary system and business cycle theory.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
3	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
4	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
5	Employment and Unemployment	Cyclical Unemployment and the Natural Rate of Unemployment
6	Credit Markets	What Is the Credit Market?
7	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
8	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
9	The Monetary System	Money and Inflation
10	The Monetary System	The Central Bank
11	The Monetary System	The Central Bank

12	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
13	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題:30%

期末試験:70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
Principles of Economics B
JESS DIAMOND
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の マクロ経済学の基本をカバーする Chapter23, Chapter24, Chapter25, Chapter26を取り上げます。講義を英語で行われる。

In this class we use an English textbook to continue our study of core ideas in macroeconomics. In particular, we cover chapters 23, 24, 25, and 26 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

マクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。

The goal of this course is to study the foundations of macroeconomics. In particular, we cover the labor market, credit markets, the monetary system and business cycle theory.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
3	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
4	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
5	Employment and Unemployment	Cyclical Unemployment and the Natural Rate of Unemployment
6	Credit Markets	What Is the Credit Market?
7	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
8	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
9	The Monetary System	Money and Inflation
10	The Monetary System	The Central Bank
11	The Monetary System	The Central Bank
12	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
13	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題:30%

期末試験:70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
International Economics A
倪 彬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

【到達目標】

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to international economics; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

This will be an online course. Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回目	Introduction	What's international economics?
2回目	The basics of international trade	Some basic terms and what should be learned in international trade
3回目	The analytical framework	Partial equilibrium and surplus analysis
4回目	Ricardo model	Comparative advantage and Ricardian model
5回目	HO model	Factor endowment and HO model
6回目	Scale of economy	Types of trade and the theory of scale of economy
7回目	Trade policy (1)	Tariff
8回目	Trade policy (2)	Export subsidy, quota
9回目	Trade policy (3)	FTA and NTM
10回目	Multinational firms and FDI	The basics of FDI
11回目	Inward FDI	The determinants of inward FDI and the case of China
12回目	Outward FDI	Japanese firms' overseas expansion and the hollowing out
13回目	Offshoring	The economic integration and offshoring
14回目	Sharing economy	The mechanism of sharing economy and its prospect

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised版, 2014.

【参考書】

石川城太・棕寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第2版、有斐閣、2013年、ISBN=9784641177192
阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

ECN300CA (経済学 / Economics 300)

International Economics A

倪 彬

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：水3/Wed.3 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

【到達目標】

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to international economics; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This will be an online course. Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回目	Introduction	What's international economics?
2回目	The basics of international trade	Some basic terms and what should be learned in international trade
3回目	The analytical framework	Partial equilibrium and surplus analysis
4回目	Ricardo model	Comparative advantage and Ricardian model
5回目	HO model	Factor endowment and HO model
6回目	Scale of economy	Types of trade and the theory of scale of economy
7回目	Trade policy (1)	Tariff
8回目	Trade policy (2)	Export subsidy, quota
9回目	Trade policy (3)	FTA and NTM
10回目	Multinational firms and FDI	The basics of FDI
11回目	Inward FDI	The determinants of inward FDI and the case of China
12回目	Outward FDI	Japanese firms' overseas expansion and the hollowing out

13回目	Offshoring	The economic integration and offshoring
14回目	Sharing economy	The mechanism of sharing economy and its prospect

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第2版、有斐閣、2013年、ISBN=9784641177192
 阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

- (1)Homework: 50%
 (2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

ECN300CA (経済学 / Economics 300)

International Economics B

倪 彬

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：水3/Wed.3 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces undergraduate students to the theory of International Finance and its application to the real world. To be specific: 1. To help students understand the determinants and behavior of real variables and financial variables, and the interaction between them.
 2. To help students study the interaction among countries through international flows of goods and financial assets.

【到達目標】

Upon completion of this course students will be able to achieve, but are not limited to the following:

- * To understand the balance of payment;
- * To understand how a foreign exchange market operates
- * To compare the exchange rate regimes and international monetary standards
- * To explain financial crises in emerging economies, their causes and solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This will be an online course. Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回目	Introduction	What is international finance?
2回目	The basics of international finance	The Balance of Payment, capital flow
3回目	The foreign exchange market	The basics of foreign exchange market
4回目	National accounts	The system of national accounts
5回目	Exchange rate (1)	The concept of PPP
6回目	Exchange rate (2)	Interest rate parity
7回目	Exchange rate (3)	The foreign exchange rate
8回目	Intervention in the foreign exchange market	Why is the intervention necessary?
9回目	Fiscal policy	Governmental spending
10回目	Monetary policy	Interest rate and investment
11回目	Financial crisis	The history of financial crisis and the reasons
12回目	International monetary system	The US dollar and the globalization of RMB

13回目	Monetary union	The birth of euro, and other possibility
14回目	Review	To review the contents of the whole semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised版, 2014.

【参考書】

高木信二 著、『入門国際金融』第4版、日本評論社2011年。

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

- (1)Homework: 50%
- (2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
International Economics B
倪 彬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces undergraduate students to the theory of International Finance and its application to the real world. To be specific: 1. To help students understand the determinants and behavior of real variables and financial variables, and the interaction between them.

2. To help students study the interaction among countries through international flows of goods and financial assets.

【到達目標】

Upon completion of this course students will be able to achieve, but are not limited to the following:

- * To understand the balance of payment;
- * To understand how a foreign exchange market operates
- * To compare the exchange rate regimes and international monetary standards
- * To explain financial crises in emerging economies, their causes and solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

This will be an online course. Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回目	Introduction	What is international finance?
2回目	The basics of international finance	The Balance of Payment, capital flow
3回目	The foreign exchange market	The basics of foreign exchange market
4回目	National accounts	The system of national accounts
5回目	Exchange rate (1)	The concept of PPP
6回目	Exchange rate (2)	Interest rate parity
7回目	Exchange rate (3)	The foreign exchange rate
8回目	Intervention in the foreign exchange market	Why is the intervention necessary?
9回目	Fiscal policy	Governmental spending
10回目	Monetary policy	Interest rate and investment
11回目	Financial crisis	The history of financial crisis and the reasons
12回目	International monetary system	The US dollar and the globalization of RMB
13回目	Monetary union	The birth of euro, and other possibility

14回目 Review

To review the contents of the whole semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

高木信二 著、『入門国際金融』第4版、日本評論社2011年。

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

ECN300CA (経済学 / Economics 300)

Area Studies A

馬 欣欣

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：月1/Mon.1 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries. We will learn the economic theories and models to understand the situations and issues in economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of economic growth, regional disparity, and income inequality.

【到達目標】

1. Understand the different features of economic transition pattern between China and other countries
2. Understand the determinants of economic growth in China and other countries
3. Explain the situations and issues of economic growth and sustainable development in China and other countries from a macroeconomic perspective

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The lecture consists of the lecture by teacher (ten times) based on the learning materials and the presentation by students (two times). The active discussions are held two times. At least one real-time online lecture.

The lecture is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on homework will be given at the beginning of the lecture, and feedback will be given through the learning support system (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chinese Economy and World Economy	The contents and method of area studies; the current state of the global economy; the position of the Chinese economy in the world
2	Economy in the Socialist Era	Comparison of the planned economy model between the former Soviet Union and China; the states and problems of state-owned enterprises (SOEs) and rural people's communes in China
3	Economic Reform: What is a Socialist Market Economy	The concept of a socialist market economy; two kinds of transition patterns; the role of government in transition countries
4	State Capitalism and the Development Dictatorship Model	The functions of government and market mechanism in transition countries
5.	Active Discussion	Issue1: What is a Socialist Market Economy? Issue2: What should a government do under the economic transition or economic development period?

6	Economic Growth and Population: An International Comparison (1)	International comparisons of economic development and population transformation; the background and problems of the One-Child policy in China
7	Economic Growth and Population: An International Comparison (2)	The Lewis' Dualism Model and the economic turning point; unemployment and surplus labor in China and Japan
8	International Trade and Transformation from Export-Driven Economic Growth Pattern	Export-driven economic growth pattern; the role of foreign capital; international comparisons of FDI
9	Active Discussion	Issue1: Economic significance and policy implications of economy turning point for China and other developing countries? Issue2: The influences of FDI on economic growth for China and other developing countries
10	Economic Growth and Inequality (1)	Kuznets' curve; the states of inequality between rural areas and urban areas; the reasons of regional disparities in China
11	Economic Growth and Inequality (2)	Income inequality; the poverty in China; poverty reduction policies and their effects in China and developing countries
12	Fiscal Policy and Economic Growth	The process of the decentralization and fiscal policy; the tax institution reform and its influence on Chinese economy
13	Regional Development Policies and Sustainable Economy Development	The background of regional development and promotion policy implementation and their effects on economic growth in China
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	sumamry of the issues of Chinese economy development and growth from Macroeconomcis perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., development economics, macroeconomics, international economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students should download the learning materials through the learning support system (Hoppii). The standard preparation and review hours for the lecture is more than 2 hours each (total 4 hours).

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download the learning materials through the learning support system and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
5. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

1. Homework and presentation in active discussion 70%
 2. Final examination 30%
- The combination points of the two parts are 100.

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better learning materials with consideration of the students' academic levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【専門分野】

Chinese Economy, Labor Economics, Development Economics

【研究テーマ】

1. Income inequality and poverty
2. Social security policy reform and its influence on labor market

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," Journal of Asian Economics, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
- 6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" China Economic Review, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
Area Studies A
馬 欣欣
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries. We will learn the economic theories and models to understand the situations and issues in economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of economic growth, regional disparity, and income inequality.

【到達目標】

1. Understand the different features of economic transition pattern between China and other countries
2. Understand the determinants of economic growth in China and other countries
3. Explain the situations and issues of economic growth and sustainable development in China and other countries from a macroeconomic perspective

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The lecture consists of the lecture by teacher (ten times) based on the learning materials and the presentation by students (two times). The active discussions are held two times. At least one real-time online lecture.

The lecture is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on homework will be given at the beginning of the lecture, and feedback will be given through the learning support system (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chinese Economy and World Economy	The contents and method of area studies; the current state of the global economy; the position of the Chinese economy in the world
2	Economy in the Socialist Era	Comparison of the planned economy model between the former Soviet Union and China; the states and problems of state-owned enterprises (SOEs) and rural people's communes in China
3	Economic Reform: What is a Socialist Market Economy	The concept of a socialist market economy; two kinds of transition patterns; the role of government in transition countries
4	State Capitalism and the Development Dictatorship Model	The functions of government and market mechanism in transition countries
5.	Active Discussion	Issue1: What is a Socialist Market Economy? Issue2: What should a government do under the economic transition or economic development period?
6	Economic Growth and Population: An International Comparison (1)	International comparisons of economic development and population transformation; the background and problems of the One-Child policy in China

7	Economic Growth and Population: An International Comparison (2)	The Lewis' Dualism Model and the economic turning point; unemployment and surplus labor in China and Japan
8	International Trade and Transformation from Export-Driven Economic Growth Pattern	Export-driven economic growth pattern; the role of foreign capital; international comparisons of FDI
9	Active Discussion	Issue1: Economic significance and policy implications of economy turning point for China and other developing countries? Issue2: The influences of FDI on economic growth for China and other developing countries
10	Economic Growth and Inequality (1)	Kuznets' curve; the states of inequality between rural areas and urban areas; the reasons of regional disparities in China
11	Economic Growth and Inequality (2)	Income inequality; the poverty in China; poverty reduction policies and their effects in China and developing countries
12	Fiscal Policy and Economic Growth	The process of the decentralization and fiscal policy; the tax institution reform and its influence on Chinese economy
13	Regional Development Policies and Sustainable Economy Development	The background of regional development and promotion policy implementation and their effects on economic growth in China
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	sumamry of the issues of Chinese economy development and growth from Macroeconomcis perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., development economics, macroeconomics, international economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students should download the learning materials through the learning support system (Hoppii). The standard preparation and review hours for the lecture is more than 2 hours each (total 4 hours).

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download the learning materials through the learning support system and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
5. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

1. Homework and presentation in active discussion 70%
 2. Final examination 30%
- The combination points of the two parts are 100.

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better learning materials with consideration of the students' academic levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【専門分野】

Chinese Economy, Labor Economics, Development Economics

【研究テーマ】

1. Income inequality and poverty
2. Social security policy reform and its influence on labor market

【主要研究業績】

1. Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
2. Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
3. Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-16-0553-6

- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," *Review of Development Economics*. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," *Journal of Asian Economics*, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
- 6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" *China Economic Review*, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
Area Studies B
馬 欣欣
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, market segmentation in China and understand the facts, issues, and mechanism of economy transitions in emerging market economies from a microeconomic perspective.

【到達目標】

1. Understand and explain the issues of economic transition and economic development in China and other emerging market economies from microeconomic perspective
2. Understand the mechanisms and factors which influence the behaviors of individuals and firms in China and other emerging market economies under transition period
3. Understand the differences in economy transition patterns and performances between China and other emerging market economies

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The lecture consists of the lecture by teacher (ten times) based on the learning materials and the presentation by students (two times). The active discussions are held two times. At least one real-time online lecture.

The lecture is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth in China and other emerging market economies
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from a microeconomic perspective
5. Feedback on homework will be given at the beginning of the lecture, and feedback will be given through the learning support system (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Area Studies from Microeconomic Perspective	Introduction of the contents and analyze methods of area studies from microeconomic perspective
2	State-Owned Enterprises Reform in China (1)	The features of state-owned enterprises during the planned economy; the reforms of state-owned enterprises and their problems
3	State-Owned Enterprises Reform in China (2)	Corporate governance and performance of state-owned enterprises; problems of state-owned enterprise reform in China
4	Active Discussion	Issue1: What are the determinants of the development of non-state sector in China? Issue2: What are the main problems of state-owned enterprises?
5	Transformation of Industrial Structure	The industry upgrade policy reform; "China Manufacturing 2025" and innovation; a case study of industrial upgrade in Shenzhen city of Guangdong province in China
6	Reforms in Rural China (1)	The land reform and collapse of the people's commune; Household Production Responsibility System and land right transfer in China

7	Reforms in Rural China (2)	The states of poverty and the causes of poverty in rural China; the regional disparities of poverty and the reduce poverty policies in rural China
8	Migration within China	The mechanism of migration from the rural areas to urban areas within China; the mystery in Chinese Economy-the migrant shortage phenomenon; the migrants' living and work in urban China
9	Active Discussion	Issue1: Please evaluate the implementation of Household Production Responsibility system in rural China Issue2: Why there existed a migrant shortage phenomenon in China?
10	Bank Reform in China	The reform of state-owned bank; the establishment of stork market; the problem in financial market in China
11	Economic Development and Education in China	Education system and reform in China; changes in the "National College Entrance Examination" ("Gaokao"); Higher Education Expansion Policy; causes of the problem of unemployment of college graduates in China
12	Social Security Policy in China	The social security policy reform with economic transition; the inequality of social security between rural areas and urban areas in China
13	Labor Market Reform in China	The transformation of employment and wage determinate institutions; the determinate mechanism of employment and wage based on neoclassic economics
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	Summary of the issues of Chinese economy development and growth from Microeconomics perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., development economics, microeconomics, international economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students should download the learning materials through the learning support system (Hoppii). The standard preparation and review hours for the lecture is more than 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download the learning materials through the learning support system (Hoppii) and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China, Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN 978-981-13-1986-0
5. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
6. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

1. Homework and presentation in active discussion 70%
 2. Final examination 30%
- The combination points of the two parts are 100.

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better learning materials with consideration of the students' academic levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【専門分野】

Chinese Economy, Labor Economics, Development Economics

【研究テーマ】

1. Income inequality and poverty
2. Social security policy reform and its influence on labor market

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," Journal of Asian Economics, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
- 6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" China Economic Review, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

ECN300CA (経済学 / Economics 300)

Area Studies B

馬 欣欣

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：月1/Mon.1 | キャンパス：多摩 /Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, market segmentation in China and understand the facts, issues, and mechanism of economy transitions in emerging market economies from a microeconomic perspective.

【到達目標】

- 1.Understand and explain the issues of economic transition and economic development in China and other emerging market economies from microeconomic perspective
- 2.Understand the mechanisms and factors which influence the behaviors of individuals and firms in China and other emerging market economies under transition period
- 3.Understand the differences in economy transition patterns and performances between China and other emerging market economies

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The lecture consists of the lecture by teacher (ten times) based on the learning materials and the presentation by students (two times). The active discussions are held two times. At least one real-time online lecture.

The lecture is designed to be:

- 1.Interactive: With a strong emphasis on student participation.
- 2.Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
- 3.Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth in China and other emerging market economies
- 4.Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from a microeconomic perspective
- 5.Feedback on homework will be given at the beginning of the lecture, and feedback will be given through the learning support system (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Area Studies from Microeconomic Perspective	Introduction of the contents and analyze methods of area studies from microeconomic perspective
2	State-Owned Enterprises Reform in China (1)	The features of state-owned enterprises during the planned economy; the reforms of state-owned enterprises and their problems
3	State-Owned Enterprises Reform in China (2)	Corporate governance and performance of state-owned enterprises; problems of state-owned enterprise reform in China
4	Active Discussion	Issue1: What are the determinants of the development of non-state sector in China? Issue2: What are the main problems of state-owned enterprises?
5	Transformation of Industrial Structure	The industry upgrade policy reform; "China Manufacturing 2025" and innovation; a case study of industrial upgrade in Shenzhen city of Guangdong province in China

6	Reforms in Rural China (1)	The land reform and collapse of the people's commune; Household Production Responsibility System and land right transfer in China
7	Reforms in Rural China (2)	The states of poverty and the causes of poverty in rural China; the regional disparities of poverty and the reduce poverty policies in rural China
8	Migration within China	The mechanism of migration from the rural areas to urban areas within China; the mystery in Chinese Economy-the migrant shortage phenomenon; the migrants' living and work in urban China
9	Active Discussion	Issue1: Please evaluate the implementation of Household Production Responsibility system in rural China Issue2: Why there existed a migrant shortage phenomenon in China?
10	Bank Reform in China	The reform of state-owned bank; the establishment of stock market; the problem in financial market in China
11	Economic Development and Education in China	Education system and reform in China; changes in the "National College Entrance Examination" ("Gaokao"); Higher Education Expansion Policy; causes of the problem of unemployment of college graduates in China
12	Social Security Policy in China	The social security policy reform with economic transition; the inequality of social security between rural areas and urban areas in China
13	Labor Market Reform in China	The transformation of employment and wage determinate institutions; the determinate mechanism of employment and wage based on neoclassic economics
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	Summary of the issues of Chinese economy development and growth from Microeconomics perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., development economics, microeconomics, international economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students should download the learning materials through the learning support system (Hoppii). The standard preparation and review hours for the lecture is more than 2 hours each (total 4 hours).

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download the learning materials through the learning support system (Hoppii) and review them.

【参考書】

- 1.Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
- 2.Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
- 3.Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
- 4.Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China, Singapore: Palgrave Macmillan.ISBN 978-981-13-1986-0
- 5.Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
- 6.Brandt,L., and Rawski, T. G. (2008) China' Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

- 1.Homework and presentation in active discussion 70%
 - 2.Final examination 30%
- The combination points of the two parts are 100.

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better learning materials with consideration of the students' academic levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【専門分野】

Chinese Economy, Labor Economics, Development Economics

【研究テーマ】

1. Income inequality and poverty
2. Social security policy reform and its influence on labor market

【主要研究業績】

1. Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
2. Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
3. Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-16-0553-6
4. Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
5. Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," Journal of Asian Economics, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
6. Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" China Economic Review, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

LANe200CA (英語 / English language education 200)

Business Research Seminar A

山本 ミッシェール

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：木3/Thu.3 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants will learn English through authentic business cases focusing on global leaders. They will also learn English presentation skills and public speaking to demonstrate their understanding of business studies.

【到達目標】

Students should achieve an understanding of current important business issues. They will improve their negotiation skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their negotiation skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Marketing Mix in Emerging Countries	Shiseido Thailand
2	Innovative Marketing Approaches	Kao USA
3	Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value	MUJI: Ryohinkeikaku
4	Confectionery Marketing in Overseas Business	Morinaga U.S.A
5	Guerrilla Marketing Strategies	Coca-Cola Laos
6	Counter Innovators' Dilemma	Toshiba Vietnam
7	Enhancing Internal Communication of Global Company	Honda Motor

8	Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry	Hatchando Vietnam
9	World Standard Hospitality	Imperial Hotel
10	Creating a Japanese Luxury Brand	Toyota Lexus
11	Japanese Art and Technology	Toshiro Alloy Inc
12	Clean Water Supply System for BOP Business	Yamaha Motor Indonesia and Africa
13	Connecting People With What's Happening	Twitter Japan
14	Uniting the World for a Better Tomorrow	IC Net Limited

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lessons preparation and review exercises
 Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Business Case Studies of Global Leaders. By Y. Nakatani & R. Smithers.
 Seibido

【参考書】

Dynamic Presentations, by M. Hood. Kinseido

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%
 Class presentations 40%
 Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Through active communication and workshop-style classes, students have improved both writing skills as well as presentation and communication.

【学生が準備すべき機器他】

computer, Internet connection

【その他の重要事項】

The schedules and content may change depending on the advancement of the class.
 Some classes may be switched to Zoom. But it will be announced beforehand.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Business Research Seminar A
山本 ミッシェール
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japanese contexts focusing on global leaders. They also learn English presentation skills to demonstrate their understanding of business studies.

【到達目標】

Students can demonstrate their understanding of current important business issues. They can improve their negotiation skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their negotiation skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Marketing Mix in Emerging Countries	Shiseido Thailand
2	Innovative Marketing Approaches	Kao USA
3	Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value	MUJI: Ryohinkeikaku
4	Confectionery Marketing in Overseas Business	Morinaga U.S.A
5	Guerrilla Marketing Strategies	Coca-Cola Laos
6	Counter Innovators' Dilemma	Toshiba Vietnam
7	Enhancing Internal Communication of Global Company	Honda Motor

8	Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry	Hatchando Vietnam
9	World Standard Hospitality	Imperial Hotel
10	Creating a Japanese Luxury Brand	Toyota Lexus
11	Japanese Art and Technology	Toshiro Alloy Inc
12	Clean Water Supply System for BOP Business	Yamaha Motor Indonesia and Africa
13	Connecting People With What's Happening	Twitter Japan
14	Uniting the World for a Better Tomorrow	IC Net Limited

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lessons preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Business Case Studies of Global Leaders. By Y. Nakatani & R. Smithers.
Seibido

【参考書】

Dynamic Presentations, by M. Hood. Kinseido

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%
Class presentations 40%
Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Through active communication and workshop-style classes, students have improved both writing skills as well as presentation and communication.

【学生が準備すべき機器他】

Computer, DVD, Internet connection

【その他の重要事項】

The schedules and content may change depending on the advancement of the class.
Some classes may be switched to Zoom. But it will be announced beforehand.

LANe200CA (英語 / English language education 200)

Business Research Seminar B**山本 ミッシェール**

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：木3/Thu.3 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants will learn English through authentic business cases focusing on global leaders. They will also learn English presentation skills and public speaking to demonstrate their understanding of business studies.

【到達目標】

Students should achieve an understanding of current important business issues. They will improve their negotiation skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students will learn important skills for effective negotiations in English. This course will also help develop an awareness of the importance of clear and engaging English speech and discourse.

We will also share participant feedback and discuss the issues to deepen the understanding of the materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Intel Japan
2	Creating Value and Making a Difference	Coca-Cola
3	Luxury Business	Chanel & CD
4	MOT	Sapporo Breweries
5	Reviving a Leading Brand	MUJI
6	Negotiation with Headquarters	Intel Japan
7	Making a Challenging Business Profitable	JRK
8	Omotenashi	Shiseido China
9	Emerging Market	Toshiba Vietnam
10	De-centralizing Marketing Strategies	Intel Japan Promotions
11	Confectionary Business	Meigetsudo
12	Global MUJI	MUJI
13	Enhancing Global Brand Communication	Global Shiseido
14	Global Business Model	Konica Minolta

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises
 Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
 Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%
 Class presentations 40%
 Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Through active communication and workshop-style classes, students have improved both writing skills as well as presentation and communication.

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【その他の重要事項】

The schedules and content may change depending on the advancement of the class.
 Some classes may be switched to Zoom. But it will be announced beforehand.

LAnE200CA (英語 / English language education 200)
Business Research Seminar B
山本 ミッシェール
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japanese contexts focusing on global leaders. They also learn English negotiation skills to demonstrate their understanding of business studies at an advanced level.

【到達目標】

Students can demonstrate their understanding of current important business issues. They can improve their negotiation skills at an advanced level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students learn the essential skills for effective negotiations in English. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract an audience.

We will share feedback from participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Intel Japan
2	Creating Value and Making a Difference	Coca-Cola
3	Luxury Business	Chanel &CD
4	MOT	Sapporo Breweries
5	Reviving a Leading Brand	MUJI
6	Negotiation with Headquarters	Intel Japan
7	Making a Challenging Business Profitable	JRK
8	Omotenashi	Shiseido China
9	Emerging Market	Toshiba Vietnam
10	De-centralizing Marketing Strategies	Intel Japan Promotions
11	Confectionary Business	Meigetsudo
12	Global MUJI	MUJI
13	Enhancing Global Brand Communication	Global Shiseido
14	Global Business Model	Konica Minolta

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presentations 40%

Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Through active communication and workshop-style classes, students have improved both writing skills as well as presentation and communication.

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【その他の重要事項】

Class schedules and content may change depending on the advancement of the students.

Some classes may be switched to Zoom. But it will be announced beforehand.

MAN200CA (経営学 / Management 200)
簿記Ⅱ A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記ⅠA,Bの内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理について学習する。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とする。

- (1)非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
- (2)株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
- (3)上記の(1)、(2)を前提とした決算書の作成について学習する。
- (4)全体を通じて日商2級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組む。演習問題、中間試験、および期末試験の解答と解説はHoppiiにアップする。講義は対面8回、オンデマンド6回で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／商品売買取引	講義計画／分記法、売上原価対立法、三分法による会計処理と決算整理、
第2回	商品の期末評価	棚卸減耗損、商品評価損の会計処理方法と損益計算書における表示方法
第3回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法、銀行勘定調整表の作成方法
第4回	債権・債務	手形の不渡りと更改、クレジット売掛金、電子記録債権債務、債務の保証
第5回	有価証券の種類と取得原価	有価証券の意義と種類、移動平均法、総平均法による購入時の会計処理
第6回	有価証券の売却処理と期末評価	有価証券の売却時の会計処理、期末評価方法
第7回	中間試験および解説	第1回～第6回までの内容に関する中間試験および解説
第8回	有形固定資産の取得、減価償却、売却	有形固定資産の取得、減価償却、売却に関する会計処理
第9回	その他の有形固定資産取引	有形固定資産の割賦購入、建設仮勘定、改良と修繕、除却と廃棄、買い換えに関する会計処理
第10回	リース取引	ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引の会計処理
第11回	無形固定資産取引と研究開発費、引当金	特許権、商標権、研究開発費の会計処理、評価性引当金および負債性引当金の会計処理
第12回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算、外貨建取引および為替予約の会計処理
第13回	課税所得の算定と税効果会計	企業会計上の利益と課税所得の相違、永久差異と一時差異、税効果会計の処理方法

第14回 期末試験および解説 第8回から第13回までの内容を中心に期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

TAC出版『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

簿記Ⅰと比較して学習内容が質・量ともに多くなるので、ペース配分に留意して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁を推奨）、プリントを綴じるための2穴のファイル

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.

At the end of the course, students are expected to be able to convert

corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a)mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

MAN200CA (経営学 / Management 200)
簿記ⅡB
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記ⅠA,Bおよび簿記ⅡAの内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理および決算書の作成過程、作成方法について学習する。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とする。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
- (3) 上記の(1)、(2)を前提とした決算書の作成について学習する。
- (4) 全体を通じて日商2級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組む。プリントの演習問題、および中間試験、期末試験の解答と解説はHoppiiにアップする。講義は対面9回、オンデマンド5回で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、株式の発行	講義計画／株式会社の純資産構成、株式発行時の会計処理
第2回	剰余金の配当と処分	利益剰余金の配当と処分の会計処理、株主資本等変動計算書の作成方法
第3回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上、サービス業における役務収益と役務原価の計上
第4回	本支店会計の基礎	本支店会計の意義、本支店間取引、本支店会計における決算手続、合併財務諸表の作成方法
第5回	本支店会計演習	未達事項の処理、本支店会計における決算手続、および合併財務諸表作成の反復演習
第6回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併、パーチェス法による合併の会計処理、事業譲渡の会計処理
第7回	中間試験および解説	第1回～第6回までの内容に関する中間試験および解答・解説
第8回	連結会計(1) 連結会計の基礎	連結財務諸表の意義、親会社説と経済的単一体説、子会社取得時の投資と資本の相殺消去、部分所有の場合の資本連結
第9回	連結会計(2) 連結1年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結1年度における資本連結と期中仕訳、連結財務諸表の作成
第10回	連結会計(3) 連結2年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結2年度における開始仕訳と期中仕訳、連結財務諸表の作成

第11回	連結会計(4) 成果連結① 会社間取引と債権債務の相殺消去	内部取引の相殺消去、貸倒引当金の連結修正処理、アップストリームとダウンストリーム
第12回	連結会計(5) 成果連結② 未実現利益の消去	期末商品、期首商品に含まれる未実現利益の消去方法、その他の会社間取引によって生じる未実現利益の消去方法
第13回	連結会計(6) 連結会計総合演習	連結会計に関する集中的な問題演習
第14回	期末試験および解説	第13回までの内容に関する期末試験および解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC出版『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

検定試験の出題範囲の拡大により本講義の内容も増加したため、ペース配分に留意して講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁）、プリントを閉じるための2穴のファイル

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.

At the end of the course, students are expected to be able to convert

corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a)mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
地域経済論A
川邊 安彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Covid-19前後におけるグローバル情勢は大きく変化しました。現在、グローバルな視点で各国の活動を評価してみると継続力のある国々が伸びていると評価ができます。中国ではめざましい経済発展が鈍化し、アセアンにおける経済成長は一時的に悪化しました。しかし、タイやアセアンの国々も新しい活動を試みています。では、日本はどのような現状でしょうか？本講義では、春学期にタイを中心としたアセアンの現状から今後の変化を読み取る講義を行います。秋学期は、メキシコを中心とした中南米圏について経済状況やその背景を学ぶ内容の講義を実施します。また、本授業の準備学習・復習時間は、各4時間以上を目安とします。

【到達目標】

経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在重要な要素になってきています。この講義では、日本と関係が近いアセアンにおけるタイは、とても日本と深い関係にあります。大きなアセアンの経済の動きを理解し、グローバルな観点からの経済動向を学ぶ力を養うものとします。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで他人の意見を聴きながら、意見をまとめる能力をつけられる形式の講義内で試みます。（また、ファシリテーション手法の理解と実践を講義の中で進めたいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義で質疑を行いますので理解を深めてください。
- ③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を適宜行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第2回	2024年のタイ経済の状況、可能な範囲で2025年の経済方針をタイ政府関係者に確認した内容をご説明できれば考えています	アセアンの多地域との差の認識。アセアン以外の類似国との差異確認。
第3回	タイの強みと弱みの分析(1)	産業構造から見た強みと弱み
第4回	タイの強みと弱みの分析(2)	人口や教育・衛生・医療から見た強みと弱み
第5回	タイのバンコクの強み	地勢的な地域特性からの課題
第6回	タイの交通網について	アセアンの他の地域との比較

第7回	確認試験と討議①	前回までの講義内容の理解確認を行う試験と意見交換の討議を行う
第8回	サンプル1：クラビ県の魅力	世界を代表する観光地の悩みや現状から見える将来性
第9回	クラビ県の温泉リゾート経営者（タイ温泉協会会長）からの最新情報から学ぶ	事実を学生が確認できるチャンスの設定
第10回	サンプル2：プーケットの魅力と将来性	何故、発展したのか？ データ整理と分析
第11回	サンプル3：ラノー県の魅力と将来性	今後、発展するための施策とは？
第12回	クラビ県、プーケット、ラノー県の比較	分析から見出せるものは何か？
第13回	確認討議②	前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
第14回	最終試験	確認試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中では、タイのアセアンにおける位置付けを理解します。学生が学ぶポイントは、自動車産業・電気電子産業・観光など視点は自由設定とします。講義内で終了するように事前にシラバスを確認し、学生各自のテーマに沿った事前情報の整理が必要と考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

当日、プリントを配布しますので活用ください。

【参考書】

興味のある学生は、タイ政府公式HPを参考にしてください。分野によっては、日本語での紹介情報もあります。

【成績評価の方法と基準】

成績は、第7回と第14回の講義時間に正誤テストを行います。この2回の試験により成績評価（各回配分50%、合計100%）を行います。必ず出席ください。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの講義に対する意見は、個別にメールで教員へ送付ください。内容については、次回の講義へ反映できる前提でフィードバックをお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器を必要とします。

【Outline (in English)】

The global situation has changed significantly before and after COVID-19.

If we evaluate the activities of each country from a global perspective, we can evaluate that the number of countries with sustainable capacity is growing.

In China, remarkable economic development slowed, and economic growth in ASEAN temporarily deteriorated. However, Thailand and ASEAN countries are also trying new activities. So, what is the current situation in Japan?

In this lecture, we will give a lecture in the spring semester to read future changes from the current situation in ASEAN, especially Thailand. In the fall semester, lectures will be held to learn about the economic situation and background of the Latin American region, mainly Mexico.

Learning Objectives:

1.In this lecture, you will learn about Thailand and Mexico, which are closely related to Japan, to understand the economic movements of ASEAN and Latin America, and to develop the ability to learn economic trends from a global perspective.

2.In addition, by always maintaining the opportunity for individual students to learn the ability to listen and organize by exchanging opinions with each team, we will give lectures in a format that gives the ability to summarize the content and derive directions while listening to the opinions of others.

3.Specifically, it is also a lecture to learn facilitation.

Learning activities outside of classroom:

1.If possible, check on the net for yourself based on the theme and content as preparation.

2.For review, check the public information and find out how to proceed in general.

Preparation and review for each session is at least 4 hours each.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
地域経済論B
川邊 安彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Covid-19 前後におけるグローバル情勢は大きく変化しました。現在、グローバルな視点で各国の活動を評価してみると継続力のある国々が伸びていると評価ができます。中国ではめざましい経済発展が鈍化しロシア・ウクライナ情勢では完全に東西を分断する状況になっています。また、日本でも経済成長の伸びは停滞しています。この講義では、秋学期にメキシコを中心とした中南米の過去・現在から今後の未来の変化を読み取る講義を行ないます。また、本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間以上を目安とします。

【到達目標】

経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在重要な要素になってきています。この講義では、日本と関係が良好で中南米の中で日本と最も深い関係にあるメキシコを知ることによりメキシコを軸とした中南米の経済の動きを理解し、グローバルな観点からの経済動向を学ぶ力を養うものとします。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで他人の意見を聞きながら、意見をまとめる能力を身につける形式の講義を試みます。（また、ファシリテーション手法の理解と実践を講義の中で進めたいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義で質疑を行いますので理解を深めてください。
- ③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を適宜行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第2回	現在のメキシコ経済と新政権ブラジル経済との比較から見える中南米の将来性を学ぶ	中南米の多地域との差の認識。中南米以外の類似国との差異確認。
第3回	メキシコの強みと弱みの分析(1)	産業構造から見た強みと弱み
第4回	メキシコの強みと弱みの分析(2)	人口や教育・衛生・医療から見た強みと弱み
第5回	首都メキシコシティと地方都市との差異	距離からの構造的な課題、地政学的な視点からの優れた点や課題
第6回	メキシコの交通網について	中南米の他の地域との比較、平均年収との差からの分析
第7回	確認試験と討議①	前回までの講義内容の理解確認を行う試験と意見交換の討議を行う

第8回	最新のメキシコ政府公開情報から見える現状の理解	海外政府情報の理解と情報解析能力を高める手法を学ぶ
第9回	サンプル1：首都メキシコDFの魅力と将来性	世界を代表するビジネス構造の悩みや現状から見える将来性
第10回	サンプル2：ゴールドライアングルの魅力（経済性視点での効果ポイントと将来性）	何故、発展したのか？他国では存在しない輸出入での税務上ルールや地政学的な経済発展の進め方の実態と効果
第11回	サンプル3：他の地域との産業構造的な差と将来性	今後、発展するための施策の考え方は？
第12回	メキシコとブラジルや他の中南米諸国との比較	分析結果から見出せるものは何か？
第13回	確認討議②	前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
第14回	最終試験	確認試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中でメキシコの中南米での位置付けや地政学的な経済発展手法の実例紹介を行い島国である日本ではできない経済効果への政策等を理解します。自動車産業、電気産業、観光、農業、地下資源など視点は自由設定とします。各視点内容全てについて講義内で学習するように講義資料へ反映しますので各講義のシラバスと事前配布の講義資料を確認した上で、事前情報の確認・整理が各自学生にて必要と考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて教材以外に当日プリントを配信しますのでご活用ください。

【参考書】

興味のある学生は、メキシコ政府公式HPを参考にすること。

【成績評価の方法と基準】

成績は、第7回と第14回の講義時間に正誤テストを行います。この2回の試験により成績評価（各回配分 50 %、合計 100 %）を行います。必ず出席ください。

【学生の意見等からの気づき】

学生側の講義に対する意見は、個別にメールで送付ください。次回以降の講義に反映する前提です。

【学生が準備すべき機器他】

スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器を必要とします。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional Economics

Today, China's remarkable economic development has begun to slow, and in Latin America, the Mexican government has changed after the change in the Brazilian government.

In ASEAN, new challenges are being seen in each country.

Also, From a global perspective, the growth of economic growth due to COVID-19 is stagnant.

In this lecture, we will give a lecture to read the future global trends from the changes in ASEAN centered on Thailand in the spring semester and the current situation in Central and South America centered on Mexico in the fall semester.

Understanding other regional economies abroad is an important point of evaluation analysis.

Learning Objectives:

1.In this lecture, you will learn about Thailand and Mexico, which are closely related to Japan, to understand the economic movements of ASEAN and Latin America, and to develop the ability to learn economic trends from a global perspective.

2.In addition, by always maintaining the opportunity for individual students to learn the ability to listen and organize by exchanging opinions with each team, we will give lectures in a format that gives the ability to summarize the content and derive directions while listening to the opinions of others.

3. Specifically, it is also a lecture to learn facilitation.

Learning activities outside of classroom:

1. If possible, check on the net for yourself based on the theme and content as preparation.

2. For review, check the public information and find out how to proceed in general.

Grading Criteria /Policy:

1. Grades will be tested using a mark sheet method at the end of the final lecture. 70%

2. If necessary, a confirmation test will be conducted in each lecture. 30%

3. Please be sure to participate in this exam as it will be a confirmation of attendance.

Preparatory study and review time for this class is over 4 hours each.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar A
飯野 厚
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的または質的リサーチ型英語論文を書くためのノウハウを学ぶ。まず論文の作りを理解する。そして、テーマ設定、先行研究の選び方とまとめ、リサーチクエスチョンの立て方、データ収集の方法、考察の仕方、まとめ方など一通り理解する。そのうえで、リサーチプロポーザルを提出し、Introduction, Literature review, Methodまでを執筆する。

【到達目標】

The students will be able to write a research paper in English principally in the field of English language teaching (learning) or cross-cultural communication, learning how to write a paper. 受講者は、英語論文の書き方を学びながら、英語教育（学習）、異文化間コミュニケーションなどをテーマとした研究論文を英語で執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

This course is based on explanations and practices of writing a research paper with individual consultation. Individual feedback will be provided.

- (1) Choose a research theme, search the related literature and create research questions.
- (2) Learn the organization of a research paper and write a research proposal
- (3) Collect data, and summarize them for analysis

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	What is research?	Overview of the works done by former students
2	How to write comprehensible English 1	IMRAD construction, Start searching the topic of your research
3	Briefing of research proposal and finding previous research	Hosei Library Guidance, Making review sheet in Excel as a review format
4	How to write comprehensible English 2+Create research questions	Compile the previous research: list up the findings of studies and categorize them
5	How to write comprehensible English 3+ Write a research proposal in Japanese	Background, What is to be known, Expected results and tentative conclusion
6	How to write comprehensible English 4 +Make a title and write an abstract	Make sure if the proposed plan works

7	How to write a paragraph+ Write Introduction	Explanation of topical issue and your motivation
8	Write Introduction 1	Definition of the terminology and brief introduction of previous research
9	Write Introduction 2	Research issue and the goal of your research
10	Write Literature review	Introducing primary literature and critique
11	Write Research Questions and hypotheses	Squeeze the questions and hypotheses based on literature review
12	Write Method	Participants, materials, and procedure
13	Write hypothetical Results	How to summarize the collected information How to make tables and figures, appendices
14	Write hypothetical Discussion	How to write discussion part, referring the previous research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on reading and writing: 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Reading Packetを配布する

【参考書】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社
『英語科学論文の書き方—IMRaDでわかる科学論文の構造』中山書店
『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房(2012)
『APA論文作成マニュアル 第2版』医学書院（2011）[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

50%In-class participation in activities
50%Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses.

【その他の重要事項】

Students should know what is "paragraph writing" and have experience in practicing paragraph writing.

【Outline (in English)】

The students will learn how to write quantitative and qualitative research papers. They will understand the structure of a research paper and then learn how to decide one's theme, to review literature, to create their research questions, to collect data and summarize it. Once research proposal is accepted, they will write introduction, literature review and method parts.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar B
飯野 厚
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期中に作成した研究提案と収集したデータにもとづいて、本格的に英語論文を執筆する。Introduction, Literature review, Method に続けて Results (Analysis), Discussion, Conclusion, References (APA style) までを執筆し完成する。

【到達目標】

Through the course, the students will be able to write a research paper based on the collected data in the previous semester.

本コースを通して受講者は春学期に分析したデータに基づいて、考察や結論を加え研究論文を英語で執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) Briefing the organization of a paper
- (2) Write each section of a paper particularly Results and Discussion parts
- (3) Give feedback individually and share common mistakes in class

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organization of a research paper: IMRAD
2	Introduction	Specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Revising Introduction	Briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Revising Review of literature	How to cite previous studies
5	Revising Organized review of literature	How to connect with research questions
6	Revising Method 1	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Revising Method 2	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary: How to make Tables and Figures, Utilizing simple statistics
9	Results 2:	Qualitative data summary: categorization, excerpts, appendices
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and the results, limitation, further research
12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and data tables

14 Oral presentation of finalized work Feedback provided to individual students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on writing：本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Reading Packetを配布する

【参考書】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社

『英語科学論文の書き方—IMRaDでわかる科学論文の構造』中山書店

『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房(2012)

『APA論文作成マニュアル 第2版』医学書院（2011）[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

20%In-class activities

80%Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【その他の重要事項】

秋学期から履修する人は、日本語による完成に近い研究論文（分野、課題自由）または前期シラバスの最終段階（Method まで）に匹敵する英語論文のを2週目までに準備できることが条件です。

【Outline (in English)】

Following the research proposal, the students will compile the data they collected and continue writing their paper. Concretely following the part of introduction and method, results (analysis), discussion, and conclusion parts will be completed with references organized by APA style.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar A
伊藤 健彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文の読み方、調査・実験・分析の方法、そして論文の書き方までを一通り学ぶ。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、他の受講生と積極的にコミュニケーションを取ることで、自分の考えを発信する力をつける。

【到達目標】

- 1) 論文の構造（序論・方法・結果・考察）が理解出来るようになる。
- 2) 調査・実験・分析の方法が理解出来るようになる。
- 3) 論文の書き方が理解出来るようになる。
- 4) 他の学生と交流し、自分の考えを発信できる力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習をしておく。
- 2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
- 3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Structure of Research Paper	研究論文の構成に関する説明
3	How to Write a Paragraph	パラグラフの書き方の説明と実践
4	How to Write Multiple Paragraphs	複数のパラグラフの書き方の説明と実践
5	How to Read a Research Paper	文献の読み方の説明と実践
6	How to Quote a Research Paper	文献の引用方法の説明と実践
7	How to Write Introduction 1	研究テーマの設定に関する説明と実践
8	How to Write Introduction 2	序論の書き方の説明と実践
9	Literature Review & Summary of Introduction	先行研究のレビューと序論に関するまとめ
10	How to Write Method 1	研究方法の書き方の説明と実践
11	How to Write Method 2	データ分析の方法の説明と実践
12	Making an Outline	受講生によるアウトラインの作成
13	Discussion	受講生が考えた論文内容に関する議論
14	Presentation	受講生が考えた論文内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを最低2時間予習する。

授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低2時間かける。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中谷安男 中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方—IMRaDでわかる科学論文の構造』 片山晶子他 中山書店

『APA論文作成マニュアル 第2版』 アメリカ心理学会 医学書院

『Writing Scientific Research Articles Second Edition』

Margaret Cargill 他 Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 40%

宿題 30%

レポート課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【その他の重要事項】

英語セミナーBと関連する授業内容のため、英語セミナーBも履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

This course aims to prepare students to understand how to read a research paper, the methods of survey, experiment, and analysis, as well as how to write a research paper. Through discussion and presentation, students are expected to communicate effectively with classmates and develop the skills to present their ideas. Students are expected to study for at least two hours before each class and do homework for at least two hours after class. The grading criteria are based on classroom tasks (40%), homework (30%), and writing reports (30%).

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar B
伊藤 健彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語セミナーAに引き続き、論文の読み方、調査・実験・分析の方法、そして論文の書き方までを一通り学ぶ。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、他の受講生と積極的にコミュニケーションを取ること、自分の考えを発信する力をつける。

【到達目標】

- 1) 論文の構造（序論・方法・結果・考察）が理解出来るようになる。
- 2) 調査・実験・分析の方法が理解出来るようになる。
- 3) 論文の書き方が理解出来るようになる。
- 4) 他の学生と交流し、自分の考えを発信できる力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習をしておく。
- 2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
- 3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Review of Structure of Research Paper	研究論文の構成のおさらい
3	Review of Reading & Quoting a Research Paper	文献の読み方と引用方法のおさらい
4	Review of Writing Introduction	序論の書き方のおさらい
5	Review of Writing Method	研究方法の書き方のおさらい
6	How to Write Result 1	統計データの書き方の説明と実践
7	How to Write Result 2	図や表の書き方の説明と実践
8	How to Write Discussion 1	仮説検証の書き方の説明と実践
9	How to Write Discussion 2	貢献や今後の課題の書き方の説明と実践
10	How to Write Conclusion	結論の書き方の説明と実践
11	How to Write Abstract	要約の書き方の説明と実践
12	Making a Research Paper	受講生による研究論文の作成
13	Discussion	受講生の研究論文に関する議論
14	Presentation	受講生が作成した研究論文の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを最低2時間予習する。

授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低2時間かける。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中谷安男 中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方—IMRaDでわかる科学論文の構造』 片山晶子 他 中山書店

『APA論文作成マニュアル 第2版』 アメリカ心理学会 医学書院
『Writing Scientific Research Articles Second Edition』 Margaret Cargill 他 Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 40%

宿題 30%

レポート課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【その他の重要事項】

英語セミナーAと関連する授業内容のため、英語セミナーAも履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course aims to prepare students to understand how to read a research paper, the methods of survey, experiment, and analysis, as well as how to write a research paper. Through discussion and presentation, students are expected to communicate effectively with classmates and develop the skills to present their ideas. Students are expected to study for at least two hours before each class and do homework for at least two hours after class. The grading criteria are based on classroom tasks (40%), homework (30%), and writing reports (30%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
世界経済史 A
進藤 理香子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、19世紀から現代に至る東アジアとヨーロッパの政治・経済的關係について日独関係を軸に学習することにある。東アジアの近代化過程に日独関係はどのような意味をもったのか、講義と学生による報告を通して明らかとすることを旨とする。

【到達目標】

・文献や史料を解説し、自ら考え理解し、論証する力を養う。
・日本とドイツ間の問題に限定せず、東アジア・ヨーロッパ間というより大きな枠組と比較しながら、近代化と工業化の過程、そして現代世界における東アジア諸国の役割を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員による講義、および可能な範囲で、授業内に学生による報告と討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の導入	講義計画に関する説明。
第2回	19世紀後半の日本とヨーロッパ（1）	日本・プロイセン修好通商条約についてみる。
第3回	19世紀後半の日本とヨーロッパ（2）	岩倉遣欧使節団、技術移転、殖産興業、富国強兵についてみる。
第4回	19世紀後半の日本とヨーロッパ（3）	日本とドイツの憲法制定、社会制度についてみる。
第5回	帝国主義と植民地進出（1）	欧州列強のアジア進出についてみる。
第6回	帝国主義と植民地進出（2）	19世紀末からの日本による東アジア進出、第一次大戦での日独間の対立についてみる。
第7回	戦間期から第二次世界大戦	1930年代後半の日独間の接近と中国をめぐる諸問題についてみる。
第8回	春学期前半の復習	今学期前半の復習と学生のディスカッションを予定。
第9回	敗戦と連合国占領政策	日本とドイツの敗戦、連合国の占領政策を比較する。
第10回	冷戦下の東西陣営	東西ドイツ分断のアジア地域（朝鮮半島、中国、台湾、インドシナ）への影響についてみる。
第11回	経済大国としての日本とドイツ	世界経済における日本とドイツの位置づけ、国際社会での役割についてみる。
第12回	東アジアとEU（1）	日本とEUの相互関係についてみる。
第13回	東アジアとEU（2）	中国などアジア諸国とEUの関係についてみる。
第14回	春学期のまとめ	今学期後半の復習と学生のディスカッションを予定。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。教材は必要に応じて指示・配布。

【参考書】

工藤章・田嶋信雄 編『日独関係史：一八九〇-一九四五』（第1巻：総説東アジアにおける邂逅；第2巻：枢軸形成の多元的力学；第3巻：体制変動の社会的衝撃）、東京大学出版会、2008年。
工藤章・田嶋信雄 編『戦後日独関係史』東京大学出版会、2014年。
熊野直樹・田嶋信雄・工藤章編『ドイツ=東アジア関係史一八九〇-一九四五：財・人間・情報』九州大学出版会、2021年。
藤澤利治/工藤章（編）『ドイツ経済:EU経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019年。
日独交流史編集委員会『日独交流150年の軌跡』丸善雄松堂、2013年

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）、平常点（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット接続とコンピュータ。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to examine the political and economic relations between East Asia and Europe from the 19th century to the present, with a focus on Japan-Germany relations.

(Learning Objectives)

Through lectures and student presentations, we will aim to explore the significance of Japan-Germany relations in the modernisation process of East Asia.

(Learning activities outside of classroom)

Lecture (two-credits): Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (20%) and a term-end report (80%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
世界経済史B
進藤 理香子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、企業と戦争の関わりについて学習する。20世紀の二つの総力戦の過程で、企業は国家の戦争経済に取り込まれ、軍需生産への転換や、占領地での徴用、外国人強制労働などの問題を引き起こした。政治と経済の癒着という問題について、欧米と日本の事例から考察する。

【到達目標】

- ・文献や史料を解読し、自ら考え理解し、論証する力を養う。
- ・戦時における政治と経済の癒着という歴史的事実について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義を中心に行うが、必要に応じて課題を出し、可能な範囲で学生による報告と討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期の導入	講義計画に関する説明。
第2回	戦争のなかの企業	20世紀の二度の世界大戦をめぐる企業の役割について研究史整理を行う。
第3回	第一次世界大戦と企業活動（1）	ドイツの事例、とりわけ化学工業と毒ガス生産について見る。
第4回	第一次世界大戦と企業活動（2）	フランスの事例を見る。製鉄業と軍需。
第5回	第一次世界大戦と企業活動（3）	イギリスの事例を見る。戦争と金融。
第6回	戦間期のアメリカ企業（1）	アメリカ企業における技術開発と大量生産システム
第7回	戦間期のアメリカ企業（2）	アメリカ自動車産業の躍進
第8回	第一次世界大戦から1920年代の終わりまでのまとめ	今学期前半の復習とディスカッションを予定。
第9回	1930年代のドイツ	ナチスドイツにおける国家と私企業の関係
第10回	第二次世界大戦とドイツ企業（1）	ドイツの軍需産業
第11回	第二次世界大戦とドイツ企業（2）	占領地での徴用と強制労働問題
第12回	富国強兵と殖産興業	日本の近代化における国家の役割についてみる。
第13回	日本の軍国主義と経済	植民地進出、徴用と強制労働問題について見る。
第14回	秋学期のまとめ	今学期後半の復習とディスカッションを予定。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。教材は必要に応じて指示。

【参考書】

工藤章『現代ドイツ化学企業史: IG ファルベンの成立・展開・解体』ミネルヴァ書房、1999年。

西牟田祐二『ナチズムとドイツ自動車工業』有斐閣、1999年。

西牟田祐二『語られざるGM社—多国籍企業と戦争の試練—』日本経済評論社、2020年。

高田馨里（編著）『航空の二〇世紀：航空熱・世界大戦・冷戦』日本経済評論社、2020年

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80％）。平常点（20％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット接続環境とコンピュータ。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this lecture, students will explore the links between business and war: in the course of the two total wars of the 20th century, business was integrated into the war economy of the state, leading to problems such as conversion to munitions production, recruitment in occupied territories and forced labour of foreign workers. The issue of collusion between politics and business is examined in the cases of Europe, the United States and Japan.

(Learning Objectives)

The aim of this course is to understand the issue of collusion between politics and business during the First and Second World Wars.

(Learning activities outside of classroom)

Lecture (two-credits): Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy)

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (20%) and a term-end report (80%).

MAN300CA（経営学 / Management 300）
財務諸表論A
竹口 圭輔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計に関する応用的・実践的な知識を提供していきます。具体的には、財務会計を巡る基本的な概念や制度について復習しつつ、連結グループ会計、金融商品会計、退職給付会計、企業結合会計など会計基準の国際対応を受けて近年整備されてきた会計基準を取り上げていきます。また、それら会計基準を通じてアウトプットされる情報をいかに読みこなしていくかを学んでいきます。

【到達目標】

財務諸表論Aでは、財務会計論の応用論点に関する理解だけでなく、国際的な文脈の中で会計情報を読みこなすスキルの獲得も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業会計の本質とフレームワーク	企業会計と企業行動のリンケージ
3	会計制度の論理と体系	会計公準と企業会計原則
4	企業のディスクロージャー	ディスクロージャーの必要性和制度開示
5	売上とは何か	収益認識会計
6	連結グループの会計(1)	連結財務諸表と企業行動
7	連結グループの会計(2)	セグメント情報の開示
8	金融商品の会計	有価証券の会計、リース取引の会計、デリバティブ・ヘッジ会計
9	従業員給付の会計(1)	退職給付会計
10	従業員給付の会計(2)	株式報酬の会計
11	会計基準の国際化	国際会計基準（IFRS）や環境問題への対応
12	企業結合・事業分離の会計	M&Aの会計
13	グローバリゼーションの会計	外貨建取引の会計と在外子会社の換算
14	まとめと振り返り	本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に学習支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

伊藤邦雄『新・現代会計入門< 第6版>』日本経済新聞社、2024年

【成績評価の方法と基準】

毎講義時の小テスト（50％）と期末レポート（50％）により総合的に評価する。

※小テストを半数回以上未受験の場合は無条件に不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録（科目コード：K6745）を済ませてください。

【その他の重要事項】

本講義は、カリキュラム・ツリー上の位置づけから、簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。「簿記Ⅰ」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Financial accounting is the language of business, which helps us better understand how companies behave. Businesses cannot be understood without an understanding of financial accounting. This course aims to provide students with practical skills and knowledge about financial accounting. Students learn how companies communicate with their stakeholders through financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to understand of the applied issues of financial accounting theory and to read and analysis accounting information in an international context.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%

In-class contribution: 50%

MAN300CA (経営学 / Management 300)
財務諸表論B
竹口 圭輔
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計論の応用的・実践的な知識を提供していきます。この授業では、実際の財務諸表を用いて、現実の企業活動を読みこなしていくことに注力し、自らの手でファンダメンタル分析、会計戦略分析、企業価値評価などを行っていきます。

【到達目標】

財務諸表論Bでは、ファンダメンタル分析ならびに企業価値評価に関するスキルの獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業価値評価のフレームワーク	企業の価値創造プロセスと企業価値評価の全体像
3	財務諸表から読む企業活動(1)	「企業活動を映し出す鏡」としての会計
4	財務諸表から読む企業活動(2)	企業のディスクロージャー制度と会計情報の限界
5	戦略的ファンダメンタル分析(1)	企業価値とファンダメンタル分析
6	戦略的ファンダメンタル分析(2)	グループ経営分析
7	経営戦略分析	経営戦略分析のためのフレームワーク
8	会計戦略分析	会計利益の特性と会計政策
9	ケーススタディー(1)	特定業界のファンダメンタル分析
10	企業価値とバリュエーション(1)	企業価値評価の手法
11	企業価値とバリュエーション(2)	資本コストの概念と株主資本コストの推定
12	企業価値とバリュエーション(3)	会計利益による企業評価モデル
13	会計・財務数値と市場評価	株式市場と企業のファンダメンタルズ
14	ケーススタディー(2)	特定企業のバリュエーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に学習支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

伊藤邦雄『企業価値経営＜第2版＞』日本経済新聞社、2023年

【成績評価の方法と基準】

毎講義時の小テスト（60％）と期末試験・レポート（40％）により総合的に評価する。

※小テストを半数回以上未受験の場合は無条件に不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録（科目コード：K6746）を済ませてください。

【その他の重要事項】

本講義は、カリキュラム・ツリー上の位置づけから、簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。基本的な内容については授業内でフォローしないので、「簿記Ⅰ」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course starts with a review of financial reporting and then focuses on various modules of fundamental analysis, including performance evaluation, earnings quality, strategic analysis and valuation. The goal of this lesson is to practice corporate valuation.

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to acquire skills in fundamental analysis and corporate valuation.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%

In-class contribution: 50%

ECN200CA (経済学 / Economics 200)

Demography A

菅 幹雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：木3/Thu.3 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, starting from the basics of elementary statistics, and based on that, teaching basic concepts and measures, how demographers measure mortality, fertility, and concept of Lexis diagram.

【到達目標】

- 1.Understand elementary statistics
- 2.Understand basic concepts and measures
- 3.Understand mortality rates
- 4.Understand fertility rates
- 5.Understand Lexis diagram

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Worksheets will be delivered by using the Lecture Supporting System for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbacked.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Elementary statistics(1)	Guidance, Frequency Distributions and Their Graphs
2	Elementary statistics(2)	Measures of Central Tendency
3	Elementary statistics(3)	Measures of Variation
4	Elementary statistics(4)	Measures of Position
5	Elementary statistics(5)	Correlation
6	Elementary statistics(6)	Regression
7	Basic Concepts and Measures(1)	Meaning of "Population", Population Statistics, Demographic statistics, The Balancing Equation of Population Change
8	Basic Concepts and Measures(2)	Demographic rates, Period Rates and Person-years, Principal Period Rates in Demography, Estimating Period Person-years, The Concept of a Cohort, Probabilities of Occurrence of Events
9	Mortality Rates(1)	Period Age-specific Mortality Rates
10	Mortality Rates(2)	Age-standardization

11	Fertility Rates(1)	Period Fertility Rates
12	Fertility Rates(2)	Cohort Fertility, Reproduction Measure
13	Lexis Diagram (1)	Lexis Diagram
14	Lexis Diagram (2)	Age-specific Probabilities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages of related demographic statistics. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

This class does not use a textbook. Provide the Powerpoint files used in class as pdf files.

【参考書】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 5417 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets (exams) in online 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
DemographyA
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, starting from the basics of elementary statistics, and based on that, teaching basic concepts and measures, how demographers measure mortality, fertility, and concept of Lexis diagram.

【到達目標】

- 1.Understand elementary statistics
- 2.Understand basic concepts and measures
- 3.Understand mortality rates
- 4.Understand fertility rates
- 5.Understand Lexis diagram

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Worksheets will be delivered by using the Lecture Supporting System for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbacked.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Elementary statistics(1)	Guidance, Frequency Distributions and Their Graphs
2	Elementary statistics(2)	Measures of Central Tendency
3	Elementary statistics(3)	Measures of Variation
4	Elementary statistics(4)	Measures of Position
5	Elementary statistics(5)	Correlation
6	Elementary statistics(6)	Regression
7	Basic Concepts and Measures(1)	Meaning of "Population", Population Statistics, Demographic statistics, The Balancing Equation of Population Change
8	Basic Concepts and Measures(2)	Demographic rates, Period Rates and Person-years, Principal Period Rates in Demography, Estimating Period Person-years, The Concept of a Cohort, Probabilities of Occurrence of Events
9	Mortality Rates(1)	Period Age-specific Mortality Rates
10	Mortality Rates(2)	Age-standardization
11	Fertility Rates(1)	Period Fertility Rates

12	Fertility Rates(2)	Cohort Fertility, Reproduction Measure
13	Lexis Diagram (1)	Lexis Diagram
14	Lexis Diagram (2)	Age-specific Probabilities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages of related demographic statistics. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

This class does not use a textbook. Provide the Powerpoint files used in class as pdf files.

【参考書】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 5417 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets (exams) in online 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

ECN200CA (経済学 / Economics 200)

Demography B

菅 幹雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：木3/Thu.3 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching Life table, population projection and the stable population model.

【到達目標】

1. Understand the life table
2. Understand and be able to conduct population projection
3. Understand stable population model

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Worksheets (exams) are delivered in the lecture for better understanding and students should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet(exam), the correct answer will be feedbacked. Points will be deducted if submitted after the next day of class. Some students tried to submit it just before the deadline and could not submit it, but since there is a one-week submission period, submission after the deadline is not allowed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	The Life Table and Single Decrement Processes(1)	The Life Table for a Real Cohort
2	The Life Table and Single Decrement Processes(2)	The Life Table for Periods, National Level
3	The Life Table and Single Decrement Processes(3)	The Life Table for Periods, Regional Level
4	The Life Table and Single Decrement Processes(4)	Interpreting the Life Table
5	The Life Table and Single Decrement Processes(5)	The Life Table Conceived as a Stationary Population
6	Multiple Decrement Processes(1)	Multiple Decrement Tables for a Real Cohort
7	Multiple Decrement Processes(2)	Multiple Decrement Tables for Periods
8	Population Projection (1)	Population Projection without Immigration, National Level
9	Population Projection (2)	Population Projection without Immigration, Regional Level
10	Population Projection (3)	Population Projection with Immigration, National Level
11	Population Projection (4)	Population Projection with Immigration, Regional Level

12	Mean Annualized Growth Rate	Mean Annualized Growth Rate
13	The Stable Population Model(1)	A Simplified Example of a Stable Population
14	The Stable Population Model(2)	Lotka's Demonstration of Conditions Producing a Stable Population, Intrinsic Growth Rate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages related to demographic statistics
 Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

This class does not use a textbook. Provide the Powerpoint files used in class as pdf files.

【参考書】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 5417 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets (exams) in online 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
DemographyB
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching Life table, population projection and the stable population model.

【到達目標】

- 1.Understand the life table
- 2.Understand and be able to conduct population projection
- 3.Understand stable population model

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Worksheets (exams) are delivered in the lecture for better understanding and students should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet(exam), the correct answer will be feedbacked. Points will be deducted if submitted after the next day of class. Some students tried to submit it just before the deadline and could not submit it, but since there is a one-week submission period, submission after the deadline is not allowed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	The Life Table and Single Decrement Processes(1)	The Life Table for a Real Cohort
2	The Life Table and Single Decrement Processes(2)	The Life Table for Periods, National Level
3	The Life Table and Single Decrement Processes(3)	The Life Table for Periods, Regional Level
4	The Life Table and Single Decrement Processes(4)	Interpreting the Life Table
5	The Life Table and Single Decrement Processes(5)	The Life Table Conceived as a Stationary Population
6	Multiple Decrement Processes(1)	Multiple Decrement Tables for a Real Cohort
7	Multiple Decrement Processes(2)	Multiple Decrement Tables for Periods
8	Population Projection (1)	Population Projection without Immigration, National Level
9	Population Projection (2)	Population Projection without Immigration, Regional Level
10	Population Projection (3)	Population Projection with Immigration, National Level
11	Population Projection (4)	Population Projection with Immigration, Regional Level
12	Mean Annualized Growth Rate	Mean Annualized Growth Rate

13	The Stable Population Model(1)	A Simplified Example of a Stable Population
14	The Stable Population Model(2)	Lotka's Demonstration of Conditions Producing a Stable Population, Intrinsic Growth Rate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages related to demographic statistics
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

This class does not use a textbook. Provide the Powerpoint files used in class as pdf files.

【参考書】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 5417 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets (exams) in online 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

MAN200CA（経営学 / Management 200）
原価計算 A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第2回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第3回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第4回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第5回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第6回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第7回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第8回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第9回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第10回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第11回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第12回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第13回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第14回	製造間接費の配賦②	伝統的・原価計算と活動基準原価計算の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト10%、期末試験90%

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA（経営学 / Management 200）
原価計算 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1.原価の諸概念を理解する、2.原価計算システムの理論構造を理解する、3.各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第2回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第3回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第4回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第5回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第6回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第7回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第8回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第9回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第10回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価
第11回	標準原価計算①	標準原価計算の目的、標準原価の種類
第12回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第13回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第14回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト10％、期末試験90％

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA (経営学 / Management 200)
会計学入門A
古賀 裕也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計は、企業活動を理解するための有用な情報源を提供してまします。そのため、事業の言語とも呼ばれます。会計の中でも投資家を中心とする外部の利害関係者に財務情報を報告することを目的とした会計を財務会計といいます。この科目では外部報告目的の財務会計の基礎を包括的に学習します。

【到達目標】

この科目の到達目標は次の通りです。

- (1)財務会計の語彙（専門用語）を説明できる
- (2)会計処理の理論的背景を説明できる
- (3)財務諸表の基礎的な分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

対面実施時

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます。
- ③講義終了後に小テストに回答してもらいます（google classroomで実施）。

※講義資料はgoogle classroomで講義開始前に配布します。

オンライン実施時：

授業の方法：Google classroomに講義動画および講義資料をアップします。

授業の進め方：①講義動画70分、②問題演習等25分、③アンケート5分

※時間配分目安であり講義内容によって変わります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代の企業会計①	企業会計とは
2	現代の企業会計②	近年の企業会計を巡る動向
3	企業会計の本質とフレームワーク	企業会計の目的、タイプ、機能
4	会計制度の論理と体系①	基礎概念、制度会計
5	会計制度の論理と体系②	企業会計原則と一般原則
6	企業のディスクロージャー制度	ディスクロージャー制度、インサイダー取引
7	損益計算書の会計①	損益計算書の構造と5つの利益
8	損益計算書の会計②	収益認識、費用収益対応の原則、収益認識基準
9	損益計算書の会計③	収益認識基準、損益計算書の分析
10	損益計算書の分析（反転講義）	損益計算書の分析に関する事前課題のディスカッション
11	キャッシュ・フロー計算書	キャッシュ・フロー計算書
12	貸借対照表の構造	貸借対照表の構成要素
13	キャッシュ・フロー計算書の分析（反転講義）	キャッシュ・フロー計算書の分析に関する事前課題のディスカッション
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計4時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。講義資料はgoogle classroomで配布します。

【参考書】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2024年4月現在の最新版。

・桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2024年4月現在の最新版。そのほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%

反転講義の事前課題提出とディスカッションへの参加：20%

小テストの提出：30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁表示のものが望ましい）を用意すること。期末試験では電卓を使用を認めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Financial accounting provides a useful source of information for understanding corporate activities. For this reason, it is also called the language of business. Within accounting, financial accounting refers to accounting that aims to report financial information to external stakeholders, particularly investors. In this subject, you will learn the basics of financial accounting for external reporting purposes in a comprehensive manner.

【Learning Objectives】

The learning objectives for this course are as follows.

- (1) Explain the vocabulary (technical terms) of financial accounting
- (2) Explain the theoretical background of accounting procedures
- (3) Perform basic analysis of financial statements

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to understand the content of previous lectures and are expected to prepare for and review each lecture. (At least 4 hours total each time)

【Grading Criteria/Policies】

Final exam: 50

Submission of pre-class assignments and participation in discussions: 20

Submission of quizzes: 30

MAN200CA (経営学 / Management 200)
会計学入門 B
古賀 裕也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計は、企業活動を理解するための有用な情報源を提供します。そのため、事業の言語とも呼ばれます。会計の中でも投資家を中心とする外部の利害関係者に財務情報を報告することを目的とした会計を財務会計といいます。この科目では外部報告目的の財務会計の基礎を包括的に学習します。

【到達目標】

この科目の到達目標は次の通りです。

- (1)財務会計の語彙（専門用語）を説明できる
- (2)会計処理の理論的背景を説明できる
- (3)財務諸表の基礎的な分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

対面実施時

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます。
- ③講義終了後に小テストに回答してもらいます（google classroomで実施）。

※講義資料はgoogle classroomで講義開始前に配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	資産の会計①流動資産の会計	流動資産
2	資産の会計②有形固定資産の会計	有形固定資産の会計
3	資産の会計③無形固定資産の会計	無形固定資産の会計
4	資産の会計④投資・その他の資産、繰延資産の会計	投資・その他の資産、繰延資産の会計
5	減損会計	減損とは
6	負債の会計	流動資産と固定負債
7	純資産の会計	純資産
8	貸借対照表の分析（反転講義）	事前課題についてのディスカッション
9	連結財務諸表①	連結会計の目的、連結範囲の決定、連結財務諸表の基本フォーマット
10	連結財務諸表②	連結貸借対照表の作成、連結損益計算書の作成、包括利益
11	ファンダメンタルズ分析①	財務諸表分析の目的、構成比率法、安全性分析
12	ファンダメンタルズ分析②	収益性分析と効率性分析
13	ファンダメンタルズ分析の実践（反転講義）	事前課題のディスカッション
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計4時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。講義資料は google classroomで配布します。

【参考書】

- ・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2024年4月現在の最新版。
- ・桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2024年4月現在の最新版。そのほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%

反転講義の事前課題提出とディスカッションへの参加：20%

小テストの提出：30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁表示のものが望ましい）を用意すること。期末試験では電卓を使用を認めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Financial accounting provides a useful source of information for understanding corporate activities. For this reason, it is also called the language of business. Within accounting, financial accounting refers to accounting that aims to report financial information to external stakeholders, particularly investors. In this subject, you will learn the basics of financial accounting for external reporting purposes in a comprehensive manner.

【Learning Objectives】

The learning objectives for this course are as follows.

- (1) Explain the vocabulary (technical terms) of financial accounting
- (2) Explain the theoretical background of accounting procedures
- (3) Perform basic analysis of financial statements

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to understand the content of previous lectures and are expected to prepare for and review each lecture. (At least 4 hours total each time)

【Grading Criteria/Policies】

Final exam: 50

Submission of pre-class assignments and participation in discussions: 20

Submission of quizzes: 30

MAN300CA (経営学 / Management 300)
管理会計A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営において経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者等が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義では、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、意思決定を支援するための管理会計の理論と技法について学習していきます。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的手法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経営活動と会計情報	経営管理と会計情報、経営管理プロセス、経営者の役割
第2回	管理会計の基礎①	財務会計情報と管理会計情報の相違
第3回	管理会計の基礎②	管理会計の体系、業績管理会計と意思決定会計
第4回	管理会計の基礎③	制度的原価概念、管理会計上の原価概念
第5回	短期利益計画	利益管理、コスト・ビヘイビア、大綱的利益計画
第6回	CVP分析①	損益分岐点図表、利益図表、損益分岐点の算出
第7回	CVP分析②	経営リスク、経営レバレッジ、安全余裕率
第8回	感度分析	損益分岐点の引き下げ、利益改善のためのアプローチ
第9回	多品種製品のCVP分析	線形計画法、制約条件、セールス・ミックス
第10回	原価分解	実績データ基準法と工学的的方法
第11回	全部原価計算方式によるCVP分析	CVP分析の仮定、全部原価計算による損益分岐点の算定
第12回	ABC／ABM	原価構造の変化、ABCの計算構造、アクティビティ分析
第13回	品質コストマネジメント	予防コスト、評価コスト、失敗コスト
第14回	復習	春学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武協誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト10%、期末試験90%

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the basic concepts of management accounting which are used to make and support decisions.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire knowledge and techniques of management accounting.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN300CA (経営学 / Management 300)
管理会計B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営において経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者等が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義では、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、意思決定を支援するための管理会計の理論と技法について学習していきます。

【到達目標】

1.管理会計の基礎理論を理解する、2.管理会計の具体的方法を習得する、3.様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	予算管理①	予算管理の機能、予算編成方針、予算の体系
第2回	予算管理②	予算編成プロセス、予算スラック、予算ゲーム
第3回	予算管理③	変動予算・固定予算、予算統制、ゼロベース予算
第4回	事業部制会計①	職能別組織と事業部制組織、責任会計、責任中心点
第5回	事業部制会計②	事業部長と事業部自体の業績評価
第6回	事業部制会計③	R O I と残余利益、社内資本金制度、振替価格
第7回	意思決定会計	経営意思決定の種類、意思決定プロセス
第8回	業務的意思決定①	特別注文、追加加工か販売か
第9回	業務的意思決定②	自製か購入か、既存製品の生産と販売
第10回	設備投資意思決定①	キャッシュ・フローの予測、貨幣の時間価値、資本コスト
第11回	設備投資意思決定②	会計的利益率法、回収期間法、正味現在価値法、内部利益率法
第12回	設備投資意思決定③	N P V 法と I R R 法の比較、再投資の仮定
第13回	B S C、原価企画	バランスト・スコアカード、原価企画・原価維持・原価改善
第14回	復習	秋学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武協誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト10%、期末試験90%

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the basic concepts of management accounting which are used to make and support decisions.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire knowledge and techniques of management accounting.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

HSS300CA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)	
スポーツ経済論	
杉本 龍勇	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるスポーツの多様な意義、役割などを踏まえ、スポーツの経済効果に関する基礎知識を獲得する。

【到達目標】

社会的側面、経済的側面からスポーツが果たす役割とその仕組みを理解することを目指す。具体的には、「スポーツの社会的役割」「スポーツの経済的役割」「スポーツビジネスの構造」について、基本的な概要を理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な参考事例を取り上げ、スポーツの社会的、経済的な側面について多面的に説明をする。特に、様々なスポーツの経済効果に対する今後の可能性を踏まえながら、経済学や経営学の基礎と照らし合わせて講義を進めていく。

レポートやリアクションペーパーによって学習成果を確認する予定。これについては学習支援システムを使用し提出ならびにフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツと経済の関連性	マクロ経済およびミクロ経済におけるスポーツの経済効果かんする概要について
第2回	現代社会におけるスポーツの役割	スポーツの社会的役割について（経済的視点から）
第3回	スポーツ関連政策の概要	日本のスポーツ政策について
第4回	高齢化社会におけるスポーツ	高齢化社会におけるスポーツの経済的役割について
第5回	子どもとスポーツ	現在の子どもに対するスポーツの経済的役割について
第6回	スポーツのビジネス化のプロセス	スポーツのビジネス化のプロセスと今後の予測について
第7回	スポーツイベントの経済効果	オリンピックを中心に、スポーツイベントによって派生する経済効果について
第8回	スポーツ産業の構造	スポーツ産業全般の仕組みについて
第9回	スポーツのマーケティングの基礎	スポーツに関するマーケティング戦略の基本概念について
第10回	スポーツ産業の概要	スポーツ産業に属する各業種の概要について
第11回	スポーツの需要(1)	スポーツの需要（消費者行動）に関する時間配分や費用の影響について
第12回	スポーツの需要(2)	スポーツの需要（消費者行動）と他の財との関連について
第13回	スポーツビジネスにおけるブランディング戦略	スポーツビジネスにおけるブランディングの意義および戦略について
第14回	まとめ	これまでの講義内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ関連の時事問題をテレビ、雑誌、新聞、Webなどを使用して調べる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「Sports Economics theory, evidence and policy」 Paul Downward, Alistair Dawson, Trudo Dejonghe 著 Routledge
「The Economics of Sport」 Robert Sandy, Peter J.Sloane, Mark S.Rosentraub 著 Palgrave macmillan
「スポーツ経済学」 里麻克彦著 北海道大学出版会
「スポーツの経済学」 マイケル・A・リーズ、ペーター・フォン・アルメン著 大坪正則監訳 佐々木勉訳 中央経済社
「スポーツマーケティング交換課程の経営」 スポーツマネジメント研究会 編訳

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

試験（記述式）：50%

【学生の意見等からの気づき】

スライド作成において、講義内容の聴講とノート作成のバランスが適切になるように工夫をする。また、イメージがしやすい具体例を挙げながら説明をする。
またオンラインでの授業形式の場合、講義時間の最中に簡単なレポート作成を行うなどして、講義内容の理解度を向上させるような工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションツールならびにプロジェクターを使用して講義を行う。またオンラインミーティングアプリを使用し、ハイブリッドによるライブ講義にする予定。就職活動や病気によるやむを得ない欠席の場合は、ハイブリッドによる参加も事前申請があれば認める。また講義で使用する資料は学習支援システムを用いて配布する。講義前にプリントアウトして持参すること。

【その他の重要事項】

資料だけでなく、講義内容を書き留め、自身の復習に役立つノートの作成を薦める。
学習支援システムを使用し、授業に関する情報、資料を定期的にチェックすること。
またオンライン講義の前には、メールや学習支援システムによってミーティングに関する情報を通知するので、確認すること。

【Outline (in English)】

The purpose is to acquire basic knowledge about economic impact of sports, in particular, health care promotion by sports activities, structure of sports business (ex.professional sports, sports event and more)and consumer behavior.

Your required study time without lecture is at least four hour to collect and understand news and information about sports economics and business.

Grading will be decided based on score of examination (50%) and participation on lectures (50%).

LANe200CA (英語 / English language education 200)

Business Communication I A

JOHN THOMAS LACEY

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：金3/Fri.3 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they complete (100%). It is important that you attend class to receive assignment information.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Weekly assignments will be required to complete. Feedback will be given immediately after assignments have been submitted or presented in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Student introductions	Essay (1)
Week 2	Course introduction	Read assigned documents
Week 3	Introduction Letters	Formal letters
Week 4	Resume Development	Reusme
Week 5	Mock Job Interviews	Preparation for interview
Week 6	Businesses	Presentation 1
Week 7	Research	Presentation 1
Week 8	Presentation Day Product Development	Product Development
Week 9	CM Script	CM Script
Week 10	Commercial Day	Summary Response
Week 11	Business etiquette (1)	Article
Week 12	Business etiquette (2)	Writing Assignment
Week 13	Review as necessary (1)	Peer Review (1)
Week 14	Review as necessary (2)	Final Class Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by completing outside class study. Following the lesson, students will have home preparation for student presentations or writing assignments. required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Business Communication IA
JOHN THOMAS LACEY
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Weekly assignments will be required to complete. Feedback will be given immediately after assignments have been submitted or presented in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Student introductions	Essay (1)
Week 2	Course introduction	Read assigned documents
Week 3	Introduction Letters	Formal letters
Week 4	Resume Development	Reusme
Week 5	Mock Job Interviews	Preparation for interview
Week 6	Businesses	Presentation 1
Week 7	Research	Presentation 1
Week 8	Presentation Day Product Development	Product Development
Week 9	CM Script	CM Script
Week 10	Commercial Day	Summary Response
Week 11	Business etiquette (1)	Article
Week 12	Business etiquette (2)	Writing Assignment
Week 13	Review as necessary (1)	Peer Review (1)
Week 14	Review as necessary (2)	Final Class Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by completing outside class study. Following the lesson, students will have home preparation for student presentations or writing assignments. required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they complete (100%). It is important that you attend class to receive assignment information.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Business Communication IB
JOHN THOMAS LACEY
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will learn about cross-cultural differences in international business and related issues and give presentations and formal speeches.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of topics and then be required to do a presentation. Emphasis will be on public speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Read assigned documents
Week 2	General Speech Non-verbal Communication.	Business Research
Week 3	Presentation Day 1	A difficult moment
Week 4	Speech 2 Intonation	Intonation Speech Preparation
Week 5	Famous Speakers	Research
Week 6	Famous Speakers Day 1	Research
Week 7	Final Speech Intro Famous Speaker Day 2	Research Topic
Week 8	Dialogue Development Hook and Issue	Research Final Speech first draft work.
Week 9	Dialogue Preparation with partner Final Speech Statistics and Quotes	Research Final Speech First Draft
Week 10	Dialogue Day Final Speech Deadline First Draft	Rewrite First Draft
Week 11	Peer Support	Final Speech Prep
Week 12	Peer Support Day 2 Impromptu Speaking Exercise	Final Speech Prep
Week 13	Final Speech Day	Summary Response
Week 14	Final summary	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by completing outside class study. Following the lesson, students will have home preparation for student presentations or writing assignments. required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they complete (100%). It is important that you attend class to receive assignment information.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA (英語 / English language education 200)

Business Communication I B

JOHN THOMAS LACEY

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：金3/Fri.3 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will learn about cross-cultural differences in international business and related issues and give presentations and formal speeches.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of topics and then be required to do a presentation. Emphasis will be on public speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Read assigned documents
Week 2	General Speech Non-verbal Communication.	Business Research
Week 3	Presentation Day 1	A difficult moment
Week 4	Speech 2 Intonation	Intonation Speech Preparation
Week 5	Famous Speakers	Research
Week 6	Famous Speakers Day 1 Final Speech Intro	Research
Week 7	Famous Speaker Day 2 Final Speech intro continued	Research Topic
Week 8	Dialogue Development Hook and Issue	Research Final Speech first draft work.
Week 9	Dialogue Preparation with partner Final Speech Statistics and Quotes	Research Final Speech First Draft
Week 10	Dialogue Day Final Speech Deadline First Draft	Rewrite First Draft
Week 11	Peer Support	Final Speech Prep
Week 12	Peer Support Day 2 Impromptu Speaking Exercise	Final Speech Prep
Week 13	Final Speech Day	Summary Response
Week 14	Final summary	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by completing outside class study. Following the lesson, students will have home preparation for student presentations or writing assignments. required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they complete (100%). It is important that you attend class to receive assignment information.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

ECN200CA (経済学 / Economics 200)

Japan and ASEAN Economy A

MANISH SHARMA

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：水1/Wed.1 | キャンパス：多摩 /Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover in-depth the economic model and the remarkable patterns of development in Japan and South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in ASEAN.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

Learning Outcomes for the Students:

1. Understanding the historical economic perspective about ASEAN
2. Learning the macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	FLYING GEESE PARADIGM	East Asian Miracle; Critique of Akamatsu paradigm
3	STATE CAPITALISM	Definition; Theoretical framework; Historical precedents
4	THEORIES OF GOVERNANCE	Authoritarian developmentalism (Watanabe)
5	Introduction to ASEAN	Mechanism, Economic cooperation; Trade and investment patterns
6	MODERNIZING JAPAN 1	Pre and post war economic policies; Zaibatsu to Keiretsu
7	MODERNIZING JAPAN 2	Role of MITI and other institutions; The Main Bank System
8	BRIEF HISTORY OF ASEAN	Colonial and cultural legacy
9	ECONOMIC POLICIES IN ASEAN	Monetary and fiscal policy
10	FINANCIAL SYSTEMS IN ASEAN	Institutional perspective
11	JAPAN IN ASEAN	Investment, trade and aid
12	ECONOMIC INTEGRATION	Prospects of convergence
13	ECONOMIC DEVELOPMENT PATTERNS IN ASEAN	Economic and social indicators

14 JAPAN-ASEAN ECONOMIC TIES Future bound perspective; Impact of trade war

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list will be shared on the weekly basis, on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40%(In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40%(Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20%(An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite

2.The changes/updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
Japan and ASEAN Economy A
MANISH SHARMA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in Japan and ASEAN.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

Learning Outcomes for the Students:

1. Understanding the historical economic perspective about ASEAN
2. Learning the macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.

4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	FLYING GEESE	East Asian Miracle; Critique of
3	PARADIGM	Akamatsu paradigm
4	STATE CAPITALISM	Definition; Theoretical framework; Historical precedents
5	THEORIES OF GOVERNANCE	Authoritarian developmentalism (Watanabe)
6	Introduction to ASEAN	Mechanism, Economic cooperation; Trade and investment patterns
7	MODERNIZING JAPAN 1	Pre and post war economic policies; Zaibatsu to Keiretsu
8	MODERNIZING JAPAN 2	Role of MITI and other institutions; The Main Bank System
9	BRIEF HISTORY OF ASEAN	Colonial and cultural legacy
10	ECONOMIC POLICIES IN ASEAN	Monetary and fiscal policy
11	FINANCIAL SYSTEMS IN ASEAN	Institutional perspective
12	JAPAN IN ASEAN	Investment, trade and aid
13	ECONOMIC INTEGRATION	Prospects of convergence
14	ECONOMIC DEVELOPMENT PATTERNS IN ASEAN	Economic and social indicators
15	JAPAN-ASEAN ECONOMIC TIES	Future bound perspective; Impact of trade war

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

The reading material (reports/research papers) will be shared on the weekly basis, on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40%(In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40%(Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20%(An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA (経済学 / Economics 200)

Japan and ASEAN Economy B

MANISH SHARMA

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水1/Wed.1 | キャンパス：多摩/Tama
毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
備考（履修条件等）：
その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, ASEAN countries have followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover in-depth the economic model and the remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in notable ASEAN Countries. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

Learning Outcomes for the Students:

1. Understanding the historical economic perspective about ASEAN
2. Learning the macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region
3. Developing an in-depth understanding of individual ASEAN countries

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.

4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course Things we covered in the Spring
2	ECONOMIC UPDATES	Current economic situation in ASEAN and JAPAN GDP; Interest Rates; Inflation; Unemployment
3	THE INDICATORS OF ECONOMIC STRENGTHS	Comparative Advantages; GDP Growth Rate; Exchange Rate
4	SHIFT IN ECONOMIC DISCOURSE (AKA Why textbooks are useless?)	WFH Economy; Shared Economy; Platform Economy; Surveillance Capitalism
5	SUSTAINABILITY	Circular Economy (Indonesian Case); Millennial Economics; GreenWashing
6	AGRICULTURE IN ASIA	Economic Productivity; Case Study of Agricultural Productivity;
7	TRADE IN ASEAN	Characteristics; Balance of Payments; Historical Milestones; Impact of COVID US-China Trade War; A case study of iPhone.

8	SINGAPORE	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
9	VIETNAM	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
10	MALAYSIA	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
11	INDONESIA	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
12	THAILAND	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
13	PHILIPPINES	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
14	EPILOGUE	Future bound perspective; Japan-ASEAN relations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list to be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40%(In-class participation)
2. FORUM: Weekly posts and discussions - 40%(Peer interactions on Hoppii)
3. Written Assignment - 20%(An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
Japan and ASEAN Economy B
MANISH SHARMA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, ASEAN countries have followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover in-depth the economic model and the remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in notable ASEAN Countries. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

Learning Outcomes for the Students:

1. Understanding the historical economic perspective about ASEAN
2. Learning the macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region
3. Developing an in-depth understanding of individual ASEAN countries

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
 2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
 3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
 4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.
- Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	ECONOMIC UPDATES	Things we covered in the Spring Current economic situation in ASEAN and JAPAN GDP; Interest Rates; Inflation; Unemployment
3	THE INDICATORS OF ECONOMIC STRENGTHS	Comparative Advantages; GDP Growth Rate; Exchange Rate
4	SHIFT IN ECONOMIC DISCOURSE (AKA Why textbooks are useless?)	WFH Economy; Shared Economy; Platform Economy; Surveillance Capitalism
5	SUSTAINABILITY	Circular Economy (Indonesian Case); Millennial Economics; GreenWashing
6	AGRICULTURE IN ASIA	Economic Productivity; Case Study of Agricultural Productivity;
7	TRADE IN ASEAN	Characteristics; Balance of Payments; Historical Milestones; Impact of COVID
8	SINGAPORE	US-China Trade War; A case study of iPhone. Country Summary; Presentations; Digging in the Data

9	VIETNAM	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
10	MALAYSIA	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
11	INDONESIA	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
12	THAILAND	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
13	PHILIPPINES	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
14	EPILOGUE	Future bound perspective; Japan-ASEAN relations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list to be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40%(In-class participation)
2. FORUM: Weekly posts and discussions - 40%(Peer interactions on Hoppii)
3. Written Assignment - 20%(An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
岸 牧人
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7101」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計の基礎概念、基礎理論、会計制度の枠組みを理解する。その上で、以下の視点から各自の研究テーマを選定し、卒業論文の作成を行う。

1. 企業内容の開示情報と経済社会
2. 内部会計情報とマネジメント
3. 公認会計士監査に関する現代的課題

【到達目標】

企業財務や公認会計士監査に関する現代的課題に対して、理論的・論理的に考察するスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. テキストの内容について輪番でプレゼンを行う。
2. マネジメント・ゲーム（日本総合研究所開発）をチーム対抗形式で行う。
3. アカウンティング・チャレンジをチーム対抗形式で行う。
4. 各自の研究テーマについてプレゼンを行う。
5. 簿記リーグをチーム対抗形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	スケジュール（年間、春学期）の決定、役職の決定、各チームメンバーの決定、研究テーマの探索
第2回	マネジメント・ゲーム#1	マネジメント・ゲーム（会社設立、第1期、第2期）、テキスト第1章のプレゼン
第3回	アカウンティング・チャレンジ#1	アカウンティング・チャレンジ1回戦、各自の研究テーマの発表
第4回	個人研究プレゼン#1	
第4回	マネジメント・ゲーム#2	マネジメント・ゲーム（第3期、第4期）、テキスト第2章のプレゼン
第5回	テキスト#2	
第5回	アカウンティング・チャレンジ#2	アカウンティング・チャレンジ2回戦、チーム研究の研究テーマの発表
第6回	チーム研究プレゼン#1	
第6回	マネジメント・ゲーム#3	マネジメント・ゲーム（第5期、第6期）、テキスト第3章のプレゼン
第7回	テキスト#3	
第7回	アカウンティング・チャレンジ#3	アカウンティング・チャレンジ3回戦、チーム研究のプレゼン
第8回	チーム研究プレゼン#2	
第8回	簿記リーグ#1	簿記リーグ春学期1回戦、テキスト第4章のプレゼン
	テキスト#4	

第9回	マネジメント・ゲーム#4	マネジメント・ゲーム（第7期、第8期）、チーム研究のプレゼン
	チーム研究プレゼン#3	
第10回	アカウンティング・チャレンジ#4	アカウンティング・チャレンジ4回戦、テキスト第5章のプレゼン
	テキスト#5	
第11回	マネジメント・ゲーム#5	マネジメント・ゲーム（第9期、第10期）、チーム研究のプレゼン
	チーム研究プレゼン#4	
第12回	アカウンティング・チャレンジ#5	アカウンティング・チャレンジ5回戦、テキスト第6章のプレゼン
	テキスト#6	
第13回	マネジメント・ゲーム#6	マネジメント・ゲーム（総括と分析）、チーム研究のプレゼン
	チーム研究プレゼン#5	
第14回	簿記リーグ#2	簿記リーグ春学期2回戦、テキスト第7章のプレゼン
	テキスト#7	
第15回	秋学期イントロダクション	秋学期スケジュールの決定、各チームメンバーの決定、夏合宿でのプレゼンのレビュー
	夏合宿の成果発表	
第16回	4年生卒業論文プレゼン#1	4年生による卒業論文のプレゼン（テーマと問題意識、研究方法）
第17回	アカウンティング・チャレンジ#1	アカウンティング・チャレンジ1回戦、テキスト第8章のプレゼン
	テキスト#8	
第18回	マネジメント・ゲーム#1	マネジメント・ゲーム（会社設立、第1期、第2期）
	チーム研究プレゼン#6	チーム研究のプレゼン
第19回	簿記リーグ#1	簿記リーグ秋学期1回戦、テキスト第9章のプレゼン
	テキスト#9	
第20回	アカウンティング・チャレンジ#2	アカウンティング・チャレンジ2回戦、4年生による卒業論文のプレゼン
	4年生卒論プレゼン#2	
第21回	マネジメント・ゲーム#2	マネジメント・ゲーム（第3期、第4期）
	チーム研究プレゼン#7	チーム研究のプレゼン
第22回	簿記リーグ#2	簿記リーグ秋学期2回戦、テキスト第10章のプレゼン
	テキスト#10	
第23回	アカウンティング・チャレンジ#3	アカウンティング・チャレンジ3回戦、4年生による卒業論文のプレゼン
	4年生卒論プレゼン#3	
第24回	マネジメント・ゲーム#3	マネジメント・ゲーム（第5期、第6期）、チーム研究のプレゼン
	チーム研究プレゼン#8	
第25回	アカウンティング・チャレンジ#4	アカウンティング・チャレンジ4回戦、2年生による個人研究プレゼン（前半）
	2年生個人研究プレゼン#1	
第26回	マネジメント・ゲーム#4	マネジメント・ゲーム（第7期、第8期）、4年生による卒業論文のプレゼン
	4年生卒論プレゼン#4	
第27回	簿記リーグ#3	簿記リーグ秋学期3回戦、2年生による個人研究プレゼン（後半）
	2年生個人研究プレゼン#2	
第28回	マネジメント・ゲーム#5	マネジメント・ゲーム（総括と分析）、ゼミ活動全般に関する振り返りと新年度の方針決定
	年間の方針決定	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーションの準備に関する資料収集、分担決め、打ち合わせ等本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新井清光, 川村義則『新版現代会計学』（第2版）, 中央経済社, 2018年。

【参考書】

『会計法規集』（開講時の最新版）

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動への参加状況30%, アカウンティング・チャレンジの成績15%, ビジネス・ゲームの総括と分析の内容10%, 個人研究プレゼンの内容15%, チーム研究プレゼンの内容15%, 簿記リーグの個人成績15%

【学生の意見等からの気づき】

演習科目につき実施していない。

【Outline (in English)】

This seminar introduces corporate financial accounting, managerial accounting, and auditing. Each member of this seminar should have their own research question, and write a graduation thesis.

Students have to advance research related to their own theme. 3 hours/day will be estimated to complete it.

Overall grade in this seminar will be decided based on the result of management games, book-keeping competitions, ACCOUNTING CHALLENGEs, and evaluation of research.

At the end of the course, students are expected to be able to analyze the

corporate financial situation, performance, and predict for the future. Students' overall grade in the seminar will be decided based on following: (a)situation of participation for activities of the seminar : 30%(b)score of ACCOUNTING CHALLENGE (c)evaluation of individual presentations : 15%(d)evaluation of team's presentations 15%(d)scores of individual book-keeping competitions 15%.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
小黒 一正
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7102」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは日本経済が直面する課題とし、少子高齢化、政治システム、世代間格差、財政・社会保障、金融政策、労働市場等を巡る問題を考える上で参考になる日本語・英語のテキストを輪読しつつ、その解決策を討論する。

【到達目標】

経済学の視点から、日本経済が直面する課題の現状と問題を分析し、その解決の方向性について議論するための基礎的な知識や方法論を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半は、経済学の概念・理論の理解を深める観点から、テキストを輪読する。後半は調査分析を行う共通テーマを設定し、ゼミ生からの報告と質疑を中心に授業を進める。また、ゼミ生はISFJ日本政策学生会議に参加し、政策提言の報告を目指すこととする。課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期ガバナンス	演習の狙い、春学期スケジュールの説明、輪読テキストの決定
第2回	輪読(1)	担当学生による発表と質疑
第3回	輪読(2)	担当学生による発表と質疑
第4回	輪読(3)	担当学生による発表と質疑
第5回	輪読(4)	担当学生による発表と質疑
第6回	輪読(5)	担当学生による発表と質疑
第7回	輪読(6)	担当学生による発表と質疑
第8回	輪読(7)	担当学生による発表と質疑
第9回	輪読(8)	担当学生による発表と質疑
第10回	輪読(9)	担当学生による発表と質疑
第11回	輪読(10)	担当学生による発表と質疑
第12回	輪読(11)	担当学生による発表と質疑
第13回	輪読(12)	担当学生による発表と質疑
第14回	総括	サブゼミ等
第15回	後期ガバナンス	春学期の復習、秋学期スケジュールの確認
第16回	調査分析(1)	共通テーマ候補の提案とプレゼン
第17回	調査分析(2)	共通テーマの決定、関連文献の検討
第18回	調査分析(3)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第19回	調査分析(4)	担当学生による関連文献の報告と質疑

第20回	調査分析(5)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第21回	調査分析(6)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第22回	調査分析(7)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第23回	調査分析(8)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第24回	調査分析(9)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第25回	調査分析(10)	共通テーマ全体の総括と討論
第26回	その他(1)	次年度ISFJ参加テーマ候補の提案とプレゼン、卒論報告
第27回	その他(2)	次年度ISFJ参加テーマ候補の提案とプレゼン、卒論報告
第28回	総括	サブゼミ等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決定する。

【参考書】

参考書は適宜指示するが、自らの興味に応じて以下の書籍も読んでほしい。

フリードマン『資本主義と自由』日経BP社
中田真佐男『基礎から学ぶ動学マクロ経済学に必要な数学』日本評論社
二神孝一『動学マクロ経済学 成長理論の発展』日本評論社
麻生良文『公共経済学』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学15講』新世社
加藤久和『世代間格差』ちくま新書
田中秀明『財政規律と予算制度改革』日本評論社
野口悠紀雄『消費増税では財政再建できない』ダイヤモンド社
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
小黒一正『財政危機の深層—増税・年金・赤字国債を問う』NHK出版
小黒一正『アベノミクスでも消費税は25%を超える』PHP研究所
小黒一正『2020年、日本が破綻する日』日経プレミアシリーズ
小黒一正・小林慶一郎『日本破綻を防ぐ2つのプラン』日本経済新聞出版社
ラインハート・ロゴフ『国家は破綻する——金融危機の800年』日経BP社
日本再建イニシアティブ編『人口蒸発「5000万人国家」日本の衝撃——人口問題民間臨調 調査・報告書』新潮社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社
山重慎二『家族と社会の経済分析：日本社会の変容と政策的対応』東京大学出版会
小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社
鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社
田近栄治・佐藤主光『医療と介護の世代間格差』東洋経済新報社
鈴木亘・八代尚宏『成長産業としての医療と介護』日本経済新聞出版社
池尾和人『現代の金融入門（新版）』ちくま新書
池尾和人『連続講義：デフレと経済政策 アベノミクスの経済分析』日経BP社
白川方明『現代の金融政策—理論と実際』日本経済新聞出版社
翁邦雄『ポスト・マネタリズムの金融政策』日本経済新聞出版社
小宮隆太郎・日本経済研究センター『金融政策論議の争点』日本経済新聞出版社
吉川洋『デフレーション—“日本の慢性病”の全貌を解明する』日本経済新聞出版社
岩田一政『デフレとの闘い』日本経済新聞出版社
佐藤主光『地方税改革の経済学』日本経済新聞出版社
太田 聡一『若年者就業の経済学』日本経済新聞出版社
大内伸哉・川口大司『法と経済で読みとく雇用の世界』有斐閣
深尾京司『「失われた20年」と日本経済』日本経済新聞出版社
井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社

ブキャナン・ワグナー『赤字の民主主義 ケインズが遺したもの』日経BP社

飯塚信夫・加藤久和『EViewsによる経済予測とシミュレーション入門』日本評論社

Jones, *Macroeconomics*, 2011, W. W. Norton & Company.

Wooldridge, *Introductory Econometrics: A Modern Approach*, 2008, South-Western.

Kotlikoff, Leibfritz, and Auerbach, *Generational Accounting Around the World*, 1999, Univ of Chicago Press.

Keen, Bodin, and Summers, *The Modern Vat*, 2002, International Monetary Fund.

Persson and Tabellini, *Political Economics*, 2002, MIT Press.

【成績評価の方法と基準】

評価は、授業内評価（例：全体への議論の参加）70%および報告・発表の評価30%によって総合的に判断する。無断欠席は禁止する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The objective of this course is to consider the problems facing the Japanese economy. Specifically, based on our readings from the textbooks, we will formulate and discuss potential solutions to such problems as the declining birthrate, aging population, political system, intergenerational disparity, public finance, social security system, monetary policy, and the labor market.

【Learning Objectives】

We aim to improve the basic skills for business (reading, writing, presentations, etc.) as well as analytical abilities.

【Learning activities outside of classroom】

Read the economic texts in advance. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Seminar students will be divided into three groups. Each group will analyze and write an economic article. Overall evaluation of seminar activities (100%)

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
平井 俊行
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7103」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文献の輪読を通じてゲーム理論の基礎概念・考え方・使い方(使われ方)を学習します。また、プレゼンテーションの技術の向上も目指します。

【到達目標】

ゲーム理論についての基礎的な知識の習得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

ゼミは原則として対面でおこないます。

輪読を中心に進めます。適宜、最終報告書の準備についても報告してもらいます。詳細は第1回の講義で連絡します。履修者による報告が講義の中心になりますので、フィードバックは当然その場でおこなわれます。履修者相互のフィードバックを歓迎します。

報告は完璧である必要はありませんが、自分が理解したこととできなかったことを区別して報告するよう心掛けてください。質問者についても同様で、自分がどこまで理解してどの部分がなぜわからなかったかをきちんと伝えるよう努めてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
打合せ	春学期のゼミの進行について	自己紹介・グループ分け・担当箇所決め
個人発表①	輪読①	「教科書」の報告と質疑応答①
輪読①	輪読②	「教科書」の報告と質疑応答②
輪読②	輪読③	「教科書」の報告と質疑応答③
輪読③	輪読④	「教科書」の報告と質疑応答④
輪読④	最終報告書の準備①	実際のゲーム的状況についての報告①
輪読⑤	輪読⑤	「教科書」の報告と質疑応答⑤
輪読⑥	輪読⑥	「教科書」の報告と質疑応答⑥
輪読⑦	輪読⑦	「教科書」の報告と質疑応答⑦
輪読⑧	輪読⑧	「教科書」の報告と質疑応答⑧
輪読⑨	輪読⑨	「教科書」の報告と質疑応答⑨
輪読⑩	輪読⑩	「教科書」の報告と質疑応答⑩
個人発表②	最終報告書の準備②	実際のゲーム的状況についての報告②
総括	春学期のまとめ	春学期の内容の総括
打合せ	秋学期のゼミの進行について	テキストの選定・グループ分け・担当箇所決め
個人発表③	最終報告書の準備③	実際のゲーム的状況についての報告③
輪読⑪	輪読⑪	「教科書」の報告と質疑応答⑪
輪読⑫	輪読⑫	「教科書」の報告と質疑応答⑫
輪読⑬	輪読⑬	「教科書」の報告と質疑応答⑬
輪読⑭	輪読⑭	実際のゲーム的状況についての報告④
輪読⑮	輪読⑮	「教科書」の報告と質疑応答⑭
輪読⑯	輪読⑯	「教科書」の報告と質疑応答⑮
輪読⑰	輪読⑰	「教科書」の報告と質疑応答⑯
輪読⑱	最終報告書の報告①	実際のゲーム的状況についての最終報告①

輪読⑱	最終報告書の報告②	実際のゲーム的状況についての最終報告②
輪読⑳	最終報告書の報告③	実際のゲーム的状況についての最終報告③
個人発表④	最終報告書の報告④	実際のゲーム的状況についての最終報告④
総括	秋学期まとめ	1年間の内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の準備をしてください。自分の担当箇所でもなくても予習をして議論ができるように準備をしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第1回講義で指示する。

【参考書】

講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) The purpose of this seminar is to learn the basic concepts, ideas, and techniques of game theory through reading textbooks. Students are expected to acquire basic knowledge and ideas of game theory and techniques to think and present logically. (Learning Objectives) By the end of the academic year, students are expected to:

A) acquire basic knowledge and techniques of game theory;

B) become able to give a presentation clearly.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class, students are expected to spend eight hours for preparation/reviewing.

(Grading policy) Class participation (including the performance at presentations) 100%.

(

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
岡部 雅史
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7104」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1-株式投資能力の向上を目指す。
- 2-プレゼンソフトを用いた発表能力の向上を目指す。
- 3-学内外のコンテストに参加し実力を試す。

【到達目標】

- 1-株式投資を約10ヶ月行い、収益を上げることを目指す。
- 2-株式投資戦略・結果をプレゼンテーションすることを目指す（各人2回・通年）。
- 3-学内外のコンテストに参加し、入賞以上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

投資スキル向上のための株式投資シミュレーション訓練（毎年10ヶ月）
プレゼンスキル向上のため、各人6回の投資結果発表を行う（パワポ使用）

論文提出者がいる場合、卒業論文作成の指導

フィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 投資チーム編成	ゼミの進め方の説明 成績評価詳細の説明 チーム編成の決定 投資口座ID作成
2	春学期シミュレーション投資スタート	一般銘柄：1人・チーム ETF限定投資：1人・チーム
3	春学期第1週投資結果分析	発表1
4	春学期第2週投資結果分析	発表2
5	春学期第3週投資結果分析	発表3
6	春学期第4週投資結果分析	発表4
7	春学期第5週投資結果分析	発表5
8	春学期第6週投資結果分析	発表6
9	春学期第7週投資結果分析	発表7
10	春学期第8週投資結果分析	発表8
11	春学期第9週投資結果分析	発表9
12	春学期第10週投資結果分析	発表10
13	春学期第11週投資結果分析	発表11
14	春学期投資結果まとめ	一般銘柄、ETF限定銘柄の投資結果についてのまとめ

15	秋学期投資方針考察 秋学期シミュレーション投資スタート	春学期の投資結果振り返り
16	秋学期第1週投資結果分析	発表12
17	秋学期第2週投資結果分析	発表13
18	秋学期第3週投資結果分析	発表14
19	秋学期第4週投資結果分析	発表15
20	秋学期第5週投資結果分析	発表16
21	秋学期第6週投資結果分析	発表18
22	秋学期第7週投資結果分析	発表18
23	秋学期第8週投資結果分析	発表19
24	秋学期第9週投資結果分析	発表20
25	秋学期第10週投資結果分析 卒論指導1	一般銘柄投資結果まとめ 卒論テーマの決め方
26	秋学期第11週投資結果分析 卒論指導2	ETF限定投資結果まとめ 論文のゴール設定
27	投資コンテスト結果分析 卒論指導3	コンテスト結果の分析を行う 説得力を増すためのデータ取扱
28	秋学期投資結果まとめ	年度最終ゼミ 今年度通期のまとめ ゼミ内最優秀トレーダーの表彰

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ニュース、新聞など報道資料に目を通しておくこと（特に金融・環境・医療・食品・国際紛争などの分野）。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜ゼミにて通達する。

【参考書】

適宜ゼミにて通達する。

【成績評価の方法と基準】

各人2回の投資結果プレゼン発表 および株式投資収益を基準に総合的に評価を行う。総合評価の詳細については初回ガイダンスの際に説明する（70％）。
学内外コンテスト（ディベート大会、プレゼン大会、株式投資コンテストなど）に参加し、顕著な功績があれば該当チーム員全員に加点し評価する（30％）。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ運営 および 成績評価基準について、希望があれば逐次見直しを図ります。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

コロナ・インフル・麻疹など各種感染症の発生状況によってはzoom講義になる場合があります。その場合はお知らせに掲示します。

【Outline (in English)】

The aim of this class is improvement of the ability for, 1-Japanese stock investment, &2-announcement, using various kinds of media.

A comprehensive evaluation will be made based on each person's presentation of investment results twice and stock investment income. Details of the comprehensive evaluation will be explained during the initial guidance.

Learning Objectives:

The goals of this course are to obtain correct knowledges on modern FinTech.

Learning activities outside of classroom:

Should be keep knowledges on FinTech by regularly reading major newspapers (ca.4hrs./week).

Grading criteria:

There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60%or more of the total score. The total score will be 100%of the evaluation criteria allocation.

At the events (debate competitions, presentation competitions, stock investment contests, etc.), and if there are outstanding achievements, add points to all team members and evaluate them.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
奥山 利幸
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7105」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の様々な分野に活用されているミクロ経済学を、理論の単なる学習、吸収に留めず、現実の様々な経済活動への応用力を培うことも目標にして学んでいきます。2年次、3年次には、先行研究をサーベイした進級論文を、4年次にはそうしたサーベイによって発見した新たな論題に取り組んだ卒業論文を執筆します。

【到達目標】

プレゼン力、ディスカッション能力、経済学の問題・理論の理解、現実へのその応用力、文献知識、論文作成力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回、テーマに即して教科書や参考書から発表して行きます。レジュメの作成、プレゼンやディスカッションの練習、そして、進級論文や卒論にむけた論題探しに役立てて行きます。

進級論文の指導は、6月より開始し、取り扱う先行研究を春学期中に確定させます。秋学期には、先行研究のレジュメ、共通理解や相違点、今後の課題について整理していきます。

例年、学生研究報告大会に3名のゼミ生が発表しています。大会の出場については、独自の分析が必須になります。大会出場者には、そのためのアドバイスを行います。

ゼミにおけるパフォーマンスについては、論文指導時、また、学期途中に中間評価を示し、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゼミ・ガイダンス	ゼミスケジュール、課題、論文
2	経済学の基本用語と問題意識	基本用語、産業連関表、ミクロ経済学、マクロ経済学
3	競争市場	需要曲線、供給曲線、厚生経済学の基本定理群、政策の効果
4	外部性、公共財	外部性、コースの定理、ピグー税、公共財、サミュエルソン条件、リンダール均衡
5	情報	逆選択、モラル・ハザード
6	非凸性、ゲーム理論(1)	費用逓減、独占均衡、自然独占、ゲーム理論、ナッシュ均衡
7	ゲーム理論(2)	展開形ゲーム、不完備情報、ベイジアンゲーム、完全ベイジアン均衡
8	寡占	クールノー均衡、シュタッケルベルグ均衡、共謀、カルテル
9	差別化	価格差別化、商品差別化、独占的競争、ホテリングの定理、サロップ理論
10	メカニズム・デザイン入門	社会的選択関数、メッセージ、メカニズム、ナッシュ遂行
11	社会的選択	社会的厚生関数、アローの不可能性定理
12	消費者(1)	無差別曲線、限界代替率、予算制約、最適消費計画
13	消費者(2)	所得消費曲線、価格消費曲線
14	消費者(3)	代替効果、所得効果、ギッフェン財
15	生産者(1)	生産関数、限界生産性、平均生産性、等量曲線
16	生産者(2)	費用関数、限界費用、平均費用
17	生産者(3)	短期 vs. 長期、損益分岐点、操業中止点、供給曲線
18	均衡(1)	マーシャル分析、ワルラス分析(1)純粋交換経済
19	均衡(2)	ワルラス分析(2)生産経済
20	均衡(3)	エッジワース分析(コア)
21	厚生(1)	厚生経済学の第1基本定理
22	厚生(2)	厚生経済学の第2基本定理
23	不確実性	くじ、期待効用、保険、条件付商品、総量リスク

24	遂行(1)	支配戦略遂行、ナッシュ遂行、マスキン単調性
25	遂行(2)	クラークメカニズム、ハーヴィッツ定理
26	進級論文発表(1)	発表(2年生)
27	進級論文発表(2)	発表(3年生)
28	卒論発表	発表(4年生)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンの用意、教科書の予習・復習、論文論題関係先行研究のサーベイ、論文作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

奥山利幸『ミクロ経済学 新装改訂版』学術図書出版社

【参考書】

岡田章『ゲーム理論』有斐閣

ステイグリッツ『ミクロ経済学』東洋経済

武隈慎一『ミクロ経済学』新世社

チャン『現代経済学の数学的方法』シーエーピー出版

【成績評価の方法と基準】

平常点(60%)、進級論文(40%)

【学生の意見等からの気づき】

ゼミを益々活性化させるために、一緒に精力的に活動して行きましょう。

【その他の重要事項】

2年次より中級レベル以上のミクロ経済学を学ぶことで、学力が飛躍的に向上します。2年生の多くは、最初の数ヶ月間、かなり苦労しますが、秋学期に発表する進級論文は、相当、質の高いものになる2年生が少なくありません。その飛躍たるもの、指導している教員自身が驚く程です。難しくても「ついて行く」姿勢を持つている限り、毎年、毎年、1年を振り返ったときに自らの成長を感じるはずです。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course deals with intermediate microeconomics. It also enhances the development of students' skill in microeconomic applications and communication/presentation.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to write and present a term paper. By the end of the course, students should be able to analyze and explain actual economic phenomena.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Furthermore, before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading Criteria/Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term paper:40%, in class contribution:60%

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
杉浦 未樹、海野 浩三
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7107」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミは、商品流通をめぐる日本と経済が抱える問題を学び、商品開発にかかる経験・実践的スキルを調査・発表・産学共同事業を通じて修得する事を目的とします。商品開発について基礎理論と歴史を理解し、実践的な学習手法から議論に耐えうる知見・経験を身に付けます。加えて、実践的な学びを通じて、情報収集・チームワーキング・プレゼン力など、実社会での課題解決にも有用なスキルを習得します

現在、われわれを取り巻く経済・ビジネス環境は、非常に速いスピードで変化しており、そのような中、自ら自主的に考え行動していく人材が求められています。ゼミを通じて自ら問題を解決するスキル・姿勢を身につけていきます。また、商品開発全般を通じて、また、実務では必須となるプロジェクトマネジメントスキルを習得していきます。

授業では外部講師講演や、現役のコンサル・実務家・スタートアップ役員などからの講義からも講義を頂く予定で、商品・事業上げの実態を肌で感じる機会を作っていきます。（B2C、B2B、B2Gそれぞれの異なる視点からレクチャー）

【到達目標】

以下の能力を身に付けます

- 1) 日本企業に対し、商品開発の分野で、具体的・実現可能性のある提案を行う。
- 2) 資料収集・情報整理を効率的に行い、アウトプット（企画書・プレゼンテーション）を出せる。
- 3) 自分のアイディアを体系的に発表することができる。
- 4) 異なる意見のある中で、積極的かつ協調的なディスカッション・提案を行う。
- 5) 通年の企画・運営を通じたプロジェクトマネジメント力を身に付ける
- 6) 意見発表や、企業とのコミュニケーションを通じ、社会人マナーを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員からのレクチャーも行いますが、全般的にアクションラーニング的に行います。内容は若干、高度なものが含まれますが、適宜教員から説明します。

年前半の回では商品開発をテキスト中心に、年後半では実際に商品開発のプロセスをチームを編成して行います。

毎回授業では、前半で、テキスト・資料についてのレジュメ（内容のまとめ）発表、あるいは、職員によるレクチャーを行います。後半では、前半の内容につき、ディスカッション・実習（自ら作業）を行います。

具体的内容としては、年後半では、3、2年生それぞれ実践的な提案のためのグループ作業を行います。3年生は全国約15大学の30ゼミが参加する商品開発コンペ『Sカレ』に参加します。2年生では個人/グループでの商品開発コンセプトの策定プログラム、及び、特定の日本企業様に対する商品企画ワークショップを行います。フィールドバックは、以上の課題の中で、授業中または個人・グループ指導として都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの内容・進め方、および、通年でのスケジュールの説明。教員・学生の自己紹介。
第2回	商品開発を学ぶ①	テキスト第1章「商品企画プロセス」、第2章「インタビュー法」を学ぶ。グループで事前作成のレジュメに沿って輪読。マーケティングリサーチ等について説明、発表準備
第3回	商品開発を学ぶ②	テキスト第3章「観察法」第4章「リードユーザー法」を学ぶ。3年生「自分のマーケティングアプローチ発表」 ① B2C業界のマーケティングをレクチャー（KURASHI.COM。無印良品の予定）
第4回	商品開発を学ぶ③	テキスト第5章「アイデア創出」第6章「コンセプト開発」を学ぶ。 3年生自分のマーケティングアプローチ発表 ② B2B業界のマーケティングをレクチャー（DreamOnの予定）、2年生個人orグループ検討課題
第5回	商品開発を学ぶ④	テキスト第7章「プロトタイプング」を学ぶ。 ③ B2B業界のマーケティングをレクチャー（バイオメガベンチャーの予定） 「自分のマーケティングアプローチ発表」、3年生はSカレのテーマ決め。 2年生はマーケティング論文文献輪読
第6回	商品開発を学ぶ⑤	テキスト第8章「市場規模の確認」第9章「競合・技術の確認」を学ぶ。 2年生 マーケティング論文文献輪読。3年生、Sカレのテーマ決め。
第7回	商品開発を学ぶ⑥	テキスト第10章「顧客ニーズの確認」第11章「販促提案」を学ぶ。 2年生、企業向け提案・検討状況発表。3年生、Sカレ基礎インタビュー、調査計画
第8回	商品開発を学ぶ⑦	テキスト第12章「価格提案」第13章「チャネル提案」を学ぶ。 2年生、企業向け提案・検討状況発表。3年生、Sカレ基礎インタビュー、調査計画発表
第9回	商品開発を学ぶ⑧	テキスト第14章「企画書作成」、第15章「プレゼンテーション」を学ぶ。 2年生、企業向発表。3年生Sカレ基礎インタビュー、調査計画発表
第10回	企業に対する商品提案のための調査計画と、業界調査計画①	教科書で学んだ知見についてまとめ（主に前半部）を行う。 B2G業界のマーケティング、オープンイノベーションをレクチャー（多摩地区の取組） および、3年生はSカレ進行状況発表、2年生はグループ調査計画

第11回	企業に対する商品提案のための調査計画と、業界調査計画②	教科書で学んだ知見についてまとめ（主に後半部分）を行う。引き続き、3年生はSカレ、2年生はグループ調査計画
第12回	企業に対する商品提案のための調査と、業界調査②	3年生、2年生それぞれのSカレ、マーケティング調査発表グループに対する、教員からの個別指導
第13回	半期のまとめのグループ発表①	3年生Sカレ提案発表、2年生コンペプレゼン参加準備
第14回	半期のまとめのグループ発表①	3年生Sカレ提案発表、2年生コンペプレゼン参加準備
第15回	Sカレ 事前演習	3年生はSカレのため、他ゼミ・他大学との合同の事前演習を行います。2年生も学習、3年生支援のために参加します
第16回	商品開発の実践①（情報収集・調査）	3年生はSカレの準備、2年生は個人の商品コンセプトプログラムと、商品開発ワークショップの準備を進めます。主に、情報収集・調査を行います。
第17回	商品開発の実践②（情報収集・調査）	同上。ただし、基礎的な情報収集から、より商品に直結した調査に進みます。
第18回	商品開発の実践③（コンセプト設定）	ここまで集めた情報・分析結果をもとに、提案する商品コンセプトを決定します。（3年生はSカレ向け、2年生はワークショップ向け）
第19回	商品開発の実践④（コンセプト検証）	前回決定したコンセプトにつき、ディスカッション、各種実査（技術・コスト実現性）などを行います。（3、2年生の目的は同上）
第20回	商品開発の実践⑤（プレゼン資料作成とプレゼン準備）	ここまで調査・分析した内容をプレゼン資料にまとめていきます。（3、2年生の目的は同上）
第21回	商品開発の実践⑥（プレゼン練習の実施）	作成したプレゼン資料を、実際にプレゼン。相互にフィードバックを行います。（3、2年生の目的は同上）
第22回	Sカレ準備（3年生）、および、商品開発ワークショップの企業提案（2年生）①	3年生は、引き続きSカレに向けた準備を行います。2年生は、順次ワークショップの成果を企業様にプレゼンします。
第23回	Sカレ準備（3年生）、および、商品開発ワークショップの企業提案（2年生）②	同上
第24回	Sカレ 事前演習	Sカレ・冬カン（冬に行う最終大会）に向けた準備。 3年生が中心となり、企画書・プレゼンの練習を行う。 4年生、2年生を含み、相互にフィードバックを行う。
第25回	Sカレ 振り返り	よび、全体の進め方について、振り返る。良かった点、反省点、要修正点を発表する。2年生を含めフィードバックを行います。
第26回	2年生の商品コンセプト発表①	2年生から、個人の商品コンセプトプログラムについて、個別にプレゼンを行います
第27回	2年生の商品コンセプト発表②	2年生から、個人の商品コンセプトプログラムについて、個別にプレゼンを行います。
第28回	全体としての振り返り	1年間のゼミを振り返り、各自の発表・コメントを行う。 4年生の卒論発表、就活体験会、3年生から、2年生へのアドバイスをを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、事前にレジュメをワード／パワーポイントで作成し、授業において自ら説明・発表します。
自ら理解するだけでなく、他人に分かりやすいまとめ方・発表の仕方を習得することも目的とします。
商品開発では、授業外でインカレの大会に参加します。
その準備にも一部、授業外の時間が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西川英彦・廣田章光「1からの商品開発」碩学舎 2012年

【参考書】

調査・分析の仮定で、企業の状況、競合商品の状況、その他各種情報収集のため、ネットの検索を高い頻度で行います。（生成AI（ChatGPT, Gemini など）も積極的に活用予定）
2年生のマーケティング論文として
廣田章光、『デザイン思考 マインドセット＋スキルセット』、日本経済新聞社、2022年
野中郁次郎、勝見明『共感経営「物語り戦略」で輝く現場』、日本経済新聞社、2020年

【成績評価の方法と基準】

ゼミの活動の参加、グループワークへの貢献60%、各種発表での充実度40%（3年生はSカレ、2年生は個人の商品コンセプト策定プログラム、チームでの商品開発ワークショップ）

【学生の意見等からの気づき】

去年に引き続き、レクチャー（座学）もありますが、基本的に各回・通年で、アクションラーニング的に、チームでのディスカッション・作業・発表を多く行います。
また、レクチャーにおいても、皆さんの意見を多くきくため、双方向での授業を心掛けます。
3年生が参加するSカレについては、高い積極性が求められます。苦勞する分、充実感も大きいと思います。
2年生の企業向けの商品開発ワークショップでは、実際の企業の方々と相手にするため、社会人としての振る舞いが求められます。厳しい面もありますが、自ら能動的に動く楽しみを見つけてもらえればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で実習を行いますので、基本的に毎回PC（／タブレット＋キーボード）を、各自持参してください。また、マイクロソフト社オフィス（特にワード・パワーポイント）が使用できるようにしてください。（互換ソフトも可能ですが、他人とのファイルやり取りもあるので、できるだけ純正のオフィスでお願いします。）
ただし、機種の性能的には、高いものでなくても構いません。

【Outline (in English)】

The aims of this seminar are 1. to have systematic understanding of the basic theory and history of product development, 2. to acquire pragmatic skills for presenting product management, 3. to make a product development proposals through groupwork. The third-year students of this seminar are expected to join the Inter-university product development competition 'Student innovation college'. Students are expected to spend 6-8hrs per week to prepare for assignments and presentation. Students are assessed their grade through weekly assignments and participation to the class (60%), and contribution for the groupwork (40%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
小沢 和浩
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7108」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済データの様々な分析手法を習得することを目的とする。演習ではExcelのマクロプログラムやVBなどを利用することもある。また、統計解析手法や地理情報システム(GIS)を用いる。また、プレゼンテーション技術の向上も目的とする。

基本的なデータ解析法を身に付けながら、各自身近な研究テーマを持つ。各自の研究成果は年に数回の発表を行う。

【到達目標】

- ・データの特徴をつかむ基本理論と手法の理解
- ・データマイニングなどの手法を用いたデータ解析手法の習得
- ・データ解析に必要なプログラミング技法の習得
- ・プレゼンテーション技術の習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は対面での演習を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。前もって「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。また毎週の課題のほかに各自の研究テーマに関する発表会を年に数回実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	GISの紹介	GISソフトの紹介をする
第2回	GISソフトの利用法Ⅰ	GISソフトの利用Ⅰ
第3回	GISソフトの利用法Ⅱ	GISソフトの利用Ⅱ
第4回	GISと統計情報Ⅰ	GISと統計情報の利用
第5回	GISと統計情報Ⅱ	GISと統計情報の利用
第6回	GISと統計情報Ⅲ	GISと統計情報の利用
第7回	GISを用いた空間情報の分析Ⅰ	GISを用いた空間情報の分析
第8回	GISを用いた空間情報の分析Ⅱ	GISを用いた空間情報の分析
第9回	GISを用いた空間情報の分析Ⅲ	GISを用いた空間情報の分析
第10回	GISを用いた空間情報の分析Ⅳ	GISを用いた空間情報の分析
第11回	GISを用いた空間情報の分析Ⅴ	GISを用いた空間情報の分析
第12回	GISを用いた空間情報の分析Ⅵ	GISを用いた空間情報の分析
第13回	GISを用いた空間情報の分析Ⅶ	GISを用いた空間情報の分析
第14回	GISを用いた空間情報の分析Ⅷ	GISを用いた空間情報の分析
第15回	経済統計の作成過程	経済統計の種類と分類を理解する
第16回	経済統計の作成過程	統計の作成過程を理解する

第17回	人口統計	人口統計からの将来予測
第18回	家計	家計に関する統計調査を理解する
第19回	食料統計	食料統計の種類と入手法を学ぶ
第20回	物価・地価の統計	物価指標や地価統計の種類と入手法
第21回	労働統計	日本の労働統計諸事情
第22回	産業統計	変わる産業構造。主要な産業統計を理解する
第23回	企業統計	企業統計と経営状態の把握
第24回	国民経済	経済循環と国民経済計算の諸勘定
第25回	産業連関	産業連関表を理解する
第26回	景気	景気循環と景気統計
第27回	財政	財政の仕組みと統計
第28回	金融	デフレ不況と金融政策
	国際収支	国際収支と関連統計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習復習。

課題は毎週課されるので必ず提出すること。

また各自研究テーマを持ち、年に数回の成果発表をする。

本授業の準備・復習時間は、1回につき16時間以上が必要です。

【テキスト（教科書）】

講義の初めに紹介する。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎週の課題を必ず提出することが必要(70%)

演習への参加度、発表会のプレゼンなど (30%)

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

Windows8以上のOSを搭載し、Office2013以降のものがインストールされているPCを用意してください。

【Outline (in English)】

This course aims at learning various analysis methods for economic data. In the exercises, Excel macro programs and VB may be used. It also uses statistical analysis methods and geographic information systems (GIS). It also aims to improve presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on lab reports (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (50%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
黒田 俊太郎
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7111」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代以降の日本の文学・文化・歴史、文学理論などについて研究する。文学には、詩・小説・戯曲・随筆・文芸評論から、アニメ・漫画・映画などが含まれる。

【到達目標】

・文学作品に内在していた「問い」を再発見し、現代的な課題として問い直そうとする。（態度目標 [本単元で育成したい学習者の態度]）
・文学作品に内在する「問い」についての学習者同士や教師との対話を通して、私たちが人生において向き合わねばならない本質的問題について知る。（価値目標 [本単元で考えさせたい内容や価値観]）
・文学作品を分析的に読むための基本的な研究方法・調査方法・文学理論を学び、文学作品を分析することができる。（技能目標 [本単元で習得させたい知識や言語能力]）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者による発表・報告を中心に進めていく。年間を通して、文学作品や文学理論に関する文献の輪読と、卒論をゴールとした個人研究とを並行して進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション①	年間計画・発表順の決定
第2回	イントロダクション②	研究方法・調査方法
第3回	春学期ゼミ活動①	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第4回	春学期ゼミ活動②	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第5回	春学期ゼミ活動③	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第6回	春学期ゼミ活動④	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第7回	春学期ゼミ活動⑤	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第8回	春学期ゼミ活動⑥	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第9回	春学期ゼミ活動⑦	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第10回	春学期ゼミ活動⑧	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第11回	春学期ゼミ活動⑨	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第12回	春学期ゼミ活動⑩	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第13回	春学期ゼミ活動⑪	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第14回	春学期ゼミ活動⑫	4限：文献輪読、5限：個人研究発表

第15回	秋学期ゼミ活動①	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第16回	秋学期ゼミ活動②	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第17回	秋学期ゼミ活動③	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第18回	秋学期ゼミ活動④	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第19回	秋学期ゼミ活動⑤	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第20回	秋学期ゼミ活動⑥	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第21回	秋学期ゼミ活動⑦	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第22回	秋学期ゼミ活動⑧	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第23回	秋学期ゼミ活動⑨	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第24回	秋学期ゼミ活動⑩	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第25回	秋学期ゼミ活動⑪	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第26回	秋学期ゼミ活動⑫	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第27回	秋学期ゼミ活動⑬	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第28回	秋学期ゼミ活動⑭	4限：文献輪読、5限：個人研究発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：文献・作品の下読み、発表準備（2時間）

事後学習：授業中に疑問に思ったことや新たに発見した問題について追跡調査・分析を行い、レポートや卒論執筆に活かす。（2時間）

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（50%）、レポート評価（30%）、平常点（20%）、などで総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

In this class, students will study modern Japanese literature, culture, history, and literary theory. Literature includes poetry, novels, plays, essays, and literary criticism, as well as anime, manga, and film.

Pre-class activities: two hours.

Post-class activities: two hours.

Grades will be based on the student's contribution to the class (50%), report evaluation (30%), and in-class performance (20%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
河村 真
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7112」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、ミクロ経済学の消費者の理論に関する理解を深める。自分で消費者の理論に基づき政策の効果を予測できるようになることを目標とする。秋学期は、統計学の入門レベルの教科書の練習問題をエクセルを用いて解き、具体的にデータが与えられた際に自分で仮説検定の結論を導けること、回帰分析の推定結果を評価できるようになることを目標とする。

【到達目標】

春学期には、具体的な消費者への課税または補助の例を探し、消費者の理論に基づき、これら政策の各商品またはサービスの消費量への効果を正しく予測できるようになることを目標とする。秋学期については、平均、標準偏差などの解釈を相対頻度分布の作成を通じて直感的に理解してもらう。正規分布、カイ二乗分布、 t -分布を乱数発生させて再現することにより分布を理解する。 T 分布、 F 分布を用いた仮説検定および回帰分析の推定結果の評価を自分で行えるようにすることなどが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に、対面授業で行うことを考えている。春学期は各回の教材を用意し、講義したい。感染状況が対面を許さない場合、**zoom**による講義で代替する。各回の講義の質問等は、授業または、**zoom**による授業の際に回答または対応する。春学期第10回終了後に、消費者理論の復習のため、課題を出し、1週間を期限として授業支援システムの課題にアップする。次の講義で回答の解説を行う。**(zoom)**を通じての場合もある。春学期の最後にも各自探した例による課題の解答を授業支援システムを通じて提出してもらう。秋学期最初の授業で、幾人かの解答を紹介し、課題の解答のポイントを解説する。秋学期は、すべての時限で実習授業である。**(zoom)**による授業の場合もある。この場合、教員が作業を**zoom**で流し、各自作業の再現をしてもらう。リアルタイムで教員が各自の作業を確認する。質問等はその場で回答する。再現結果を求めたエクセルファイルを各自、授業支援システムを通じて提出をお願いする。当日完了しない学生のために、**zoom**で作業の動画ファイルを保存し **googledrive** にアップしておく。秋学期の最後の授業で行う回帰分析のレポートは、その時間内に質問等対応する。レポートの提出期間は2週間前後を考えている。最終授業終了後レポート提出までの質問等には、個別にメールでやり取りするかまたは**zoom**を使って対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	市場機構と需要・供給(1)	例を用いた需要－供給分析の復習
第2回	市場機構と需要・供給(2)	例を用いた需要－供給分析の復習
第3回	効用関数と無差別曲線	消費者の嗜好－効用関数と無差別曲線
第4回	効用関数と無差別曲線（特殊なケース）	消費者の嗜好－効用関数と無差別曲線（特殊なケース）
第5回	予算制約集合	課税または補助金による予算制約集合の変化の予測（実例を用いて）
第6回	消費者の主体的均衡	消費者の主体的均衡の導出
第7回	消費者行動と需要曲線(1)	消費者の主体的均衡に基づく（個人または世帯の）ある財またはサービスの需要曲線の導出
第8回	消費者行動と需要曲線(2)	所得が変化した際の消費者の主体的均衡の変化を通じて予測される需要曲線の変化（所得効果）
第9回	物品税の税率変更の効果の予測と市場均衡の変化の予測（1）	物品税の税率変化が消費者の主体的均衡および個人の需要曲線の変化の予測。それに伴う市場均衡の変化の予測。
第10回	所得税の税率変更の効果の予測と市場均衡の変化の予測（2）	所得税の税率変化が消費者の主体的均衡および個人の需要曲線の変化の予測。それに伴う市場均衡の変化の予測。

第11回	消費者理論の応用Ⅰ	消費者理論の応用例である労働供給（余暇と消費の選択）モデルとそれに基づき求められる個人（世帯）の労働供給曲線
第12回	消費者理論の応用Ⅱ	労働供給モデルを用いて、所得税税率の労働供給に与える効果の予測。
第13回	各自探してきた具体例による課題の作成(1)	財、サービスの需要量（需要曲線）または労働供給量（労働供給曲線）に影響を与える租税、補助金の変化の具体例を各自で探す。
第14回	各自探してきた具体例による課題の作成(2)	各自探して来た租税または補助金の変更が消費者理論または労働供給モデルに基づき消費量の変化または労働供給の変化を予測し、課題として提出
第15回	記述統計Ⅰ（平均、標準偏差）	エクセルを用いて、数値例で平均、中央値、標準偏差などを各自で求める
第16回	記述統計Ⅱ（ヒストグラム、累積頻度分布、標準化）	前回の数値例でヒストグラムの作成および累積頻度分布の作成および標準化した相対頻度分布の作成
第17回	大数の法則（シミュレーションによる確認）	VBA を用い、乱数を発生させ、相対頻度分布を作成。サンプル数が大きくなれば、真の値に近いサンプル数の比率が相対的に大きくなるような分布になることを確認する。
第18回	シミュレーションによる正規分布の再現	VBA を用いて乱数を発生させ、正規分布を再現させる。
第19回	シミュレーションによるカイ二乗分布および t -分布の再現	VBA を用いて乱数を発生させ、カイ二乗分布および t -分布の再現。正規分布、カイ二乗分布、 t -分布の関係を著明に理解する。
第20回	他の分布（ポアソン分布）	VBA を用いてポアソン分布を再現する。
第21回	検定の簡単な理論、正規分布を用いた検定の例	正規分布を用いた検定の練習問題を解く。
第22回	カイ二乗分布および t -分布を用いた検定の例	カイ二乗分布および t -分布を用いた検定の練習問題を解く。(例えば、平均値の有意差検定など)
第23回	F -分布を用いた検定の例	F 検定を用いた検定の練習問題を解く。
第24回	2変量の関係-散布図と相関係数-	数値例（データの例）を用いてエクセルを使い、散布図の作成と相関係数を求める。さらに、その読み方。
第25回	回帰分析-単回帰-	回帰分析の説明。相関関係と因果関係
第26回	回帰分析-単回帰-	回帰分析の係数および標準誤差の導出の説明、数値例（データ）とエクセルを用いて、係数の推定値、標準誤差、 t -値を求めてみる。
第27回	回帰分析-重回帰-	重回帰モデルの推定を、数値例（データ）とエクセルの回帰分析のツールを用いて、係数の推定値、標準誤差および t -値を求めてみる。他の検定も紹介する。
第28回	回帰分析の課題の作成	各自、回帰分析に必要な相関が強そうな複数のデータを収集し、回帰分析を行い、推定結果の解釈をレポートとして作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期に関しては、教員の講義の内容を次の週までに復習をしておいてもらえればよい。春学期の課題の作成に充てる最後の2回は、講義時間内で完了できないかもしれないので時間外にさらに2-3時間が必要と思う。秋学期は、毎回、実習で、教員が行った結果を再現させる作業は、時間内で完了可能と思われる。ただし、最後の回帰分析のレポートは、データの収集や回帰分析の結果の解釈の説明を理解するために、授業時間外に多めの時間が必要かもしれない。個人により違いがあるが3-4時間必要と思われる。

【テキスト（教科書）】特に指定しない。

【参考書】なし。

【成績評価の方法と基準】

春学期の中間の課題20%、春学期期末の課題30%、秋学期の授業時間内の実習状況の評価30%、秋学期末回帰分析のレポート20%で評価を付ける。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答があまり出ないので、質疑応答が活発になるように工夫が必要と思われる。

【その他の重要事項】

カリキュラム・ポリシー、カリキュラムの目的やねらいに基づき第三者チェックを行いました。以下の点についてご確認ください。到達目標の記述が、〈「授業の概要と目的（何を学ぶか）」に記載した授業の目的・意義をいくつかの事項に具体化した、現実的な学習目標を記載します。〉というガイドラインからすると抽象的に過ぎるように思われます。より具体性をもたせて記述してください。

【Outline (in English)】

In spring semester, basic understandings for consumer theory in microeconomics could be acquired by lecture and solving several practices.

In autumn semester, understanding for basic statistics has been acquired by solving problems, textbook have offered, using excel or VBA. This course introduces basic consumer theory in micro economics, and relationships among distributions, have been often used in statistics.

The goal of this course is to predict consumptions changes and individual demand curve changes correctly by policy change ;tax rate change, and subsidy change based on consumer theory. Another aim is for students to confirm retrieving several distributions(normal distribution, chi-squared distribution, t-distribution, and etc.) from generating random variable from unique distribution, and making some transformation of it, by VBA programing.

In the spring semester, before/after each classroom meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course contents.

In the autumn semester, before/after each classroom meeting, students will be expected to spend 4 hours to complete programing, and acquire the basic image of generating a certain distribution.

In the spring semester, your overall grade in the class will be decided based on the following, Mid-term report:40%, Term end report:40%, and in-class contributions:20%.

In the autumn semester, your overall grade in the class will be decided based on the following, 1st report:20%, 2nd report:20%, 3rd report: 20% , term end report: 20%, and in-class contributions:20%.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
阿部 俊弘
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7113」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

統計学を基礎として、理論的な研究とデータ分析のための手法を身に付けていく。また、英語論文も活用し、様々な研究手法を学んでいく。

*各回の授業形態で未定としているものについての詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【授業の目的・意義】

- ・卒業論文のための基礎学力・発表の仕方を身に着ける。
- ・論文を書くための研究リテラシーを高める。

【到達目標】

- ①統計学・計量経済学の基礎を身に付ける。
- ②身の回りのデータについて仮説検証等の分析を行う。
- ③自分の意見や分析結果のプレゼンテーションをする。
- ④他人の発表にコメント・質問・議論をする。
- ⑤グループまたは個人で研究を行い、思考能力および専門知識を身につける。
- ⑥英語の論文を読んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・統計学・計量経済学について、輪読を通じて理解を深める。
- ・身の回りのニュース・経済現象等について発表・議論し理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	ゼミの内容、進め方、今年度のスケジュールの決定	R/Pythonを用いて統計学を学んでいく
データの要約・可視化	基本統計量の計算・可視化	平均・分散・相関・ヒストグラム・散布図
確率密度関数の表示	確率密度関数	ソフトウェアによる関数の図示
乱数発生1	乱数発生について	正規分布の乱数発生・図示
乱数発生2	様々な分布の乱数発生	t分布等の乱数発生・図示
信頼区間	信頼区間についての復習	分布を用いた信頼区間
統計的仮説検定	統計的仮説検定についての復習	分布を用いた仮説検定
パラメータ推定	分布のパラメータ推定	モーメント法・最尤法
回帰分析の概要	回帰分析の基本	単回帰分析モデルについて

単回帰モデルの推定	最小二乗法による単回帰モデルのパラメータ推定	単回帰分析モデルのパラメータ推定
単回帰パラメータの信頼区間	パラメータの信頼区間	単回帰分析モデルのパラメータの信頼区間
単回帰パラメータの検定	単回帰モデルの仮設検定	帰無仮説と対立仮説を用いる
単回帰モデルの評価	単回帰モデルを評価する	様々な評価法を学ぶ
単回帰分析の応用	データを用いた回帰分析の応用	実データを用いて分析を行う
重回帰モデルの概要	単回帰モデルの拡張	重回帰モデルが必要な例について
重回帰モデルのパラメータ推定	回帰係数の信頼区間と仮設検定	単回帰と同様にして行えることを確認していく
最尤法を用いたパラメータ推定1	最小二乗法と最尤法	最小二乗法と最尤法による推定の比較を行う
最尤法を用いたパラメータ推定2	推定パラメータの従う分布	推定したパラメータがどのような分布に従うのか学ぶ
論文の輪読1	論文の構成	研究論文はどのように書くのかを学ぶ
論文の輪読2	データの紹介	論文のデータについてどのようなものであるのか調べる
論文の輪読3	データ解析のための理論	論文で使われている理論を紹介する
論文の輪読4	データ解析1	データチェックを行う
論文の輪読5	データ解析2	理論で学んだ手法を用いてデータ解析をreviewする
論文の輪読6	論文のまとめ	全体としてどのようなことを行ったかまとめる
データの取得1	多変量データ	多変量データの取得を行う
データの取得2	時系列データ	時系列データの取得を行う
データ解析	データ解析の実践	これまで得たデータを用いてデータ解析を行う
まとめ	これまでの内容についてまとめる	まとめとして、発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習・復習を行う
- ・身の回りの現象・データについて統計的な視点を持つ
- ・本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ2時間を目安とする

【テキスト（教科書）】

学生と相談して決める

【参考書】

確率統計演習1 確率、国沢 清典
確率統計演習2 統計、国沢 清典

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況・発表内容・議論への参加(100%)による。

【学生の意見等からの気づき】

実データを意識した実践的な内容にしていきます

【学生が準備すべき機器他】

PythonやRを使用するのでPCが必要となります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We learn statistical methodology for theoretical research and data analysis. We also make use of research publications to learn various statistical methods.

*Details for each session will be announced through the learning support system.

【Learning Objectives】

- (1) Learn the basics of statistics and econometrics.
- (2) Conduct analyses such as hypothesis testing on real data.
- (3) Present one's own opinions and results of analysis.
- (4) Give comments, questions, and discussions to other people's presentations.
- (5) Conduct research in groups or individually, and acquire the ability to think and specialized knowledge.
- (6) Read articles in English.

【Learning activities outside of classroom】

- ・ Preparation and review for the class
- ・ To have a statistical viewpoint on the phenomena and real data.
- ・ The standard preparation and review time for this class is needed for two hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The grade is made based on results of assigned exercises, content of presentations, and participation in discussions (100%).

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
JESS DIAMOND
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7116」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ファイナンス、投資に関するテキストの輪読を通じて、現実の投資を行う能力を身につける。さらに、輪読や研究報告を通じて、自分の考えをわかりやすく他人に伝えられるようなプレゼンテーション能力を培っていく。

In this seminar we learn the critical skills of investing. We begin by following a textbook treatment of finance, followed by group and individual projects. We also learn how to effectively communicate ideas through presentations.

【到達目標】

リスクとリターンの関係や企業の価値創造について、正しく理解し、他人に説明できるようになる。他人の考えを理解し、それに対し自分の考えを伝える能力を身につける。

The goal of the seminar is to understand the relationship between risk and return as well as the process of value creation by firms. We also use the seminar to learn how to communicate our ideas clearly to others.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

学生が主体となって、テキストの輪読、研究発表を行う。通常の講義とは異なり、教員から進んで授業を行っていくようなスタイルではない。フィードバックはプレゼンテーション後、またはプロジェクト提出後先生と会って個人的に行う。原則として、すべてのレッスンは対面式です。

The seminar focuses on the presentations and projects of students, with limited instruction from the professor. Regular feedback will be given after presentations and projects on an individual basis. In principle, all the lessons are face to face.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Explanation of schedule and requirements.
2	Introduction	The Corporation
3	Introduction	Introduction to Financial Statement Analysis
4	Introduction	Financial Decision Making and the Law of One Price
5	Time, Money and Interest Rates	The Time Value of Money
6	Time, Money and Interest Rates	Interest Rates
7	Time, Money and Interest Rates	Valuing Bonds
8	Valuing Projects and Firms	Investment Decision Rules
9	Valuing Projects and Firms	Fundamentals of Capital Budgeting

10	Valuing Projects and Firms	Valuing Stocks
11	Risk and Return	Capital Markets and the Pricing of Risk
12	Risk and Return	Optimal Portfolio Choice and the Capital Asset Pricing Model
13	Risk and Return	Estimating the Cost of Capital
14	Final Exam	Test Covering All Material
15	Introduction to Value Investing	The Basics of Business and Finance
16	Introduction to Value Investing	The Basics of Value Investing
17	Introduction to Value Investing	The Basics of Financial Statements
18	Value Investing Tools	Using the Balance Sheet
19	Value Investing Tools	Reproduction Costs
20	Value Investing Tools	EPV
21	Zemi Interviews	Interviews
22	Case Studies	WD-40 and Intel
23	Student Presentations	Final Project
24	Student Presentations	Final Project
25	Zemi Interviews	Interviews
26	Student Presentations	Final Project
27	Student Presentations	Final Project
28	Summary	Annual Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to spend 4 hours reviewing per lesson reviewing class material.

【テキスト（教科書）】

Berk, J. and DeMarzo, P., 2019. Corporate Finance, Global Edition: Pearson Education.

【参考書】

Thorndike, W.N., 2012. The Outsiders: Harvard Business Review Press

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、プレゼンテーションに基づいて、成績評価を行う。Grading will be based on the degree of student participation and quality of presentations and group work.

Participation: 30%

Tests, Presentations and Group Work: 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

【その他の重要事項】

高校レベルの数学の知識を有していると輪読するテキストの内容の理解がよりスムーズにできると思われる。

英語を読むこと（話せなくても）を苦にしない学生であることが望ましい。

A proficiency in high-school-level mathematics will be an advantage. The seminar is conducted in English, so language proficiency is requirement.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
武田 浩一
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7118」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎文献の輪読で経済に関する基本的な見方を学習しながら、グループあるいは個人で研究を行い研究成果のプレゼンテーションを行い、株式投資シミュレーションを通じて経済やビジネスの動向に関する洞察力を養います。希望があれば、参加者の自主的な企画の下で、合宿や経済を学ぶのに有益な施設の見学などを行う場合があります。演習において積極的な発言が求められますので、有意義な議論を行うためにもミクロ経済学などの演習の基礎となる科目を並行して受講することを勧めます。失敗を恐れずに難しい課題にもチャレンジしてその経験から真摯に学ぶことによってスキルが大きく伸びていくことをよく認識した上で、未経験の課題にも果敢に粘り強く取り組んでください。

【到達目標】

この演習では、経済についての深い理解と、大学卒業後に社会人になった時に役に立つ思考力、表現力、実行力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定です。もし講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、講義ガイダンスの回となります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布するので、この講義を履修する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上で資料をよく読んでください。経済のテキストの輪読、個人・グループ研究のレポート・論文の作成、プレゼンテーション、投資の計画策定・シミュレーション実行・成果レビュー、ディスカッションなどを行います。個人・グループ研究に本格的にとりかかる前に、経済に関する研究の進め方や論文の書き方などについて基本事項を確認します。

それぞれの課題に取り組む際には、専門知識が全くない初学者がいきなり何となく我流で取り組むと、課題への本質的な理解が浅いレベルで取り組みが停滞しやすく、大学生として十分に有意義な成果があがる前に壁に当たって行き詰まってしまうおそれがあります。各課題への取り組みから単なる自己満足にとどまらない成果を上げるためには、各課題において自分の力で筋道立てて考えることや考えたことを他人に分かるように表現することを可能にする最低限の基礎力を身につけることに地道に取り組みながら、学んだ基礎知識を応用して自分の興味や関心があることに粘り強く段階を踏んで取り組む姿勢をきちんと身につけるように努めることが非常に重要になります。

各課題のフィードバックは毎回の演習講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学習ガイダンス	ゼミナールでの基本的な学習方法の説明1
第2回	学習ガイダンス	ゼミナールでの基本的な学習方法の説明2

第3回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第1回
第4回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第2回
第5回	個人・グループ研究計画発表	個人・グループ研究計画の報告 第1回
第6回	個人・グループ研究計画発表	個人・グループ研究計画の報告 第2回
第7回	投資シミュレーション	投資の基本構想と計画の発表
第8回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第3回
第9回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第4回
第10回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第5回
第11回	投資シミュレーション	チームの投資状況と投資計画の報告 第1回
第12回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第1回
第13回	個人・グループ研究発表	個人・グループ研究の報告 第1回
第14回	個人・グループ研究発表	個人・グループ研究の報告 第2回
第15回	投資シミュレーション	チームの投資状況と投資計画の報告 第2回
第16回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 第1回
第17回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 第2回
第18回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 3回
第19回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第2回
第20回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 第4回
第21回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 第5回
第22回	投資シミュレーション	チームの投資状況と投資計画の報告 第3回
第23回	個人・グループ研究最終発表	個人・グループ研究の最終報告 第1回
第24回	個人・グループ研究最終発表	個人・グループ研究の最終報告 第2回
第25回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第3回
第26回	個人・グループ研究最終発表	個人・グループ研究の最終報告 第3回
第27回	投資シミュレーション	チームの投資結果のレビューと投資成果の報告
第28回	個人・グループ研究最終発表	個人・グループ研究の最終報告 第4回

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読する文献には事前に目を通し、もし分からないところがある場合には、自分で調べたり輪読の時間やその前後に質問したりして、分からないままに残さないことが重要です。

個人・グループ研究や投資シミュレーションにおいては、ゼミの時間外に各自でテーマの設定、研究計画の策定、調査の実施、調査結果の分析や考察、論文の執筆、シミュレーション投資の実行、プレゼンテーションの準備などを着実に進める自律的な研究姿勢が求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読テキストは、ゼミ生と相談の上で最終的に決めます。

【参考書】

・小野善康,福田慎一,中山幹夫,本多佑三編『現代経済学の潮流 2023』東洋経済新報社、2023年
その他は講義の中で個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3年生の評価は、授業内評価70%と、論文・レポート評価30%からなります。4年生の評価は、研究発表と論文の総合評価100%からなります。

授業内評価では、平常点、輪読の報告内容の充実度、演習で学習した内容の理解度、および毎回の発言回数とその内容が評価の重要な要素となります。

論文やレポートの評価では、調査の綿密さ、説明の分かりやすさ・丁寧さ、主張の独創性・論理性・説得性、が評価の重要な要素となります。

高い評価を受けるためには、ゼミの課題に積極的に取り組み、設定された学習目標への到達度を高めることが求められます。

無断での授業の欠席は厳禁です。欠席および20分程度以上の遅刻早退は、事前に事由を教員に説明することが求められます。

【学生の意見等からの気づき】

論文やレポートの作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどの基本的なスキルの強化を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行ないます。

【Outline (in English)】

This course will help the students prepare for the thesis. The course aims to show the way to conduct economic research and construct a proposal which follows what you have learned.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (75%), and reports and the thesis (25%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
後藤 浩子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7119」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「高齢者の自立支援のための介護政策の研究」
「ケア」という概念のもとに、育児と介護の質の違いが看過され、さらには介護と社会福祉が混同されるようになってきています。この結果、高齢者は依存者・従属者と見なされがちです。今年度のゼミナールでは、個々人の自立・自律を支える理想的介護政策について考え、ロボットの応用という技術的支援の可能性を考察します。

【到達目標】

基本文献として、池田省三『介護保険論：福祉の解体と再生』（中央法規出版、2011年）を精読することによって、日本の介護政策の当初の理念と形成された制度を理解します。そして、これを土台にして、ジョアン・C・トロント『ケアリング・デモクラシー：市場、平等、正義』（勁草書房、2024年）を批判的に検討します。同時に、高齢者の自立支援ロボットを開発・製造・応用している様々な事業所を訪問して情報を集め、技術的支援の可能性を検討します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習2時限中1時限は、共通テキストである『介護保険論：福祉の解体と再生』『ケアリング・デモクラシー：市場、平等、正義』を精読します。残りの1時限では、(1) グループに分かれて学生研究報告大会用共同研究の準備 (2) 各人が興味をもったテーマについて研究し個人研究論文を執筆するための中間発表と論文指導を行ないます。

テキスト講読のフィードバックは授業中に教員から直接口頭で伝え、個人研究のフィードバックは、提出された各人の草稿ファイルを教員が添削し返送するという形で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介・テキスト精読の方法とゼミ論文への取り組み方の説明
第2回	テキスト精読／前年度個人研究報告	池田省三『介護保険論：福祉の解体と再生』序章、第1章「介護保険の思想」
第3回	テキスト精読／前年度個人研究報告	池田省三『介護保険論：福祉の解体と再生』第2章「介護保険のめざすシステム構築」1,2
第4回	テキスト精読／前年度個人研究報告	池田省三『介護保険論：福祉の解体と再生』第2章「介護保険のめざすシステム構築」3,4
第5回	テキスト精読／前年度個人研究報告	池田省三『介護保険論：福祉の解体と再生』第3章「介護保険の10年と現在」
第6回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	池田省三『介護保険論：福祉の解体と再生』第4章「介護保険の改革方策」1,2

第7回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	池田省三『介護保険論：福祉の解体と再生』第4章「介護保険の改革方策」3,4
第8回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	池田省三『介護保険論：福祉の解体と再生』第4章「介護保険の改革方策」5,6
第9回	テキスト精読／個人研究計画報告	池田省三『介護保険論：福祉の解体と再生』補章「介護保険制度創設と2000年施行の過程」
第10回	共同研究発表準備	高齢者自立支援ロボット関連事業所訪問計画とインタビュー準備
第11回	共同研究発表準備	高齢者自立支援ロボット関連事業所訪問計画とインタビュー準備
第12回	共同研究発表準備	高齢者自立支援ロボット関連事業所訪問計画とインタビュー準備
第13回	共同研究発表準備	高齢者自立支援ロボット関連事業所訪問計画とインタビュー準備
第14回	共同研究発表準備	高齢者自立支援ロボット関連事業所訪問のまとめ
第15回	共同研究発表準備	高齢者自立支援ロボットの可能性の分析
第16回	共同研究発表準備	高齢者自立支援ロボットの可能性の分析
第17回	共同研究発表準備	高齢者自立支援ロボットの可能性の分析
第18回	共同研究発表準備	高齢者自立支援ロボットの可能性の分析
第19回	テキスト精読／個人研究中間報告	『ケアリング・デモクラシー：市場、平等、正義』第1章「民主主義の再定義」
第20回	テキスト精読／個人研究中間報告	『ケアリング・デモクラシー：市場、平等、正義』第2章「なぜ自己責任は民主主義にとって不十分なのか」
第21回	テキスト精読／個人研究中間報告	『ケアリング・デモクラシー：市場、平等、正義』第3章「タフな男はケアしないのか」
第22回	テキスト精読／個人研究中間報告	『ケアリング・デモクラシー：市場、平等、正義』第4章「私事化されたケアの悪循環」
第23回	テキスト精読／個人研究中間報告	『ケアリング・デモクラシー：市場、平等、正義』第5章「市場はケアすることができるのか」
第24回	テキスト精読／個人研究中間報告	『ケアリング・デモクラシー：市場、平等、正義』第6章「民主的にケアすること」
第25回	今年度のゼミ研究のまとめ	『ケアリング・デモクラシー：市場、平等、正義』第7章「ケアリング・デモクラシー」
第26回	個人研究論文の完成	添削指導の下での個人研究論文の推敲
第27回	個人研究論文の完成	添削指導の下での個人研究論文の推敲
第28回	個人研究論文の完成	添削指導の下での個人研究論文の推敲4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回でのテキスト読解に必要な、関連する事項や史実を調べるため、そして個人研究論文執筆のためなど、本演習の準備・復習時間は各8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョアン・C・トロント『ケアリング・デモクラシー：市場、平等、正義』（勁草書房、2024年）

【参考書】

池田省三『介護保険論：福祉の解体と再生』（中央法規出版、2011年）

【成績評価の方法と基準】

学生が毎回提出する講読テキストの要旨に反映される内容理解度（60%）とゼミ論に示された問題探究能力と達成度（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキスト読解に不可欠な歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

"Research on assistance policies to support the independence of the elderly"

Under the concept of "care," the difference in quality between childcare and elderly nursing care is overlooked, and nursing care and social welfare are becoming confused. As a result, the elderly people are often viewed as dependent and subservient. In this year's seminar, we will think of ideal assistance policies to support the independence and autonomy of individuals and consider the possibility of technological support through the application of robots.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the needs of the elderly for their independent lives and to devise a plan to assist them.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each seminar, students will be expected to spend eight hours for preparation of text reading and individual research.

【Grading Criteria /Policies】

Final grade will be calculated according to the following: the degree of understanding of the course content reflected in the abstracts of the text reading submitted after each seminar (60%) and the degree of research ability and achievement (40%) shown in term papers.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
小林 克也
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7120」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、他の講義で学んだ経済学の知識を基礎に、経済学の初級から中級程度の知識と応用力を身につけるために教科書の輪読をします。**Financial Times**の記事の輪読もします。経済記事に慣れることと、記事の内容について考えることが目的です。さらにゼミ生が自分でテーマを選んで報告をしてもらいます。

【到達目標】

経済学の知識と応用力を身につけることが目標です。2・3年生は論理的な思考力やレポートの書き方も身につけます。4年生は研究テーマを自分で見つけて分析し、その結果を卒業論文としてまとめます。また英字新聞(**Financial Times**)の経済記事で使われる英語に慣れることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

すべて対面で実施します。経済学の教科書の輪読をします。自分で選んだテーマについての考察を報告し、ゼミ生どうして議論をします。4年生は卒業研究について複数回、中間報告をします。**Financial Times**の中から記事を選んで輪読をします。報告や課題に対する指導、みなさんからの質問への回答は教室で直接私が伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	輪読と報告(1)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第2回	輪読と報告(2)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第3回	輪読と報告(3)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第4回	輪読と報告(4)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第5回	輪読と報告(5)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第6回	輪読と報告(6)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。

第7回	輪読と報告(7)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第8回	輪読と報告(8)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第9回	輪読と報告(9)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第10回	輪読と報告(10)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第11回	輪読と報告(11)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第12回	輪読と報告(12)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第13回	輪読と報告(13)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第14回	輪読と報告(14)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。夏休みの共同課題の説明。
第15回	輪読と報告(15)	共同課題の報告1回目。テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第16回	輪読と卒業研究報告(1)	共同課題の修正版の報告。テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第17回	輪読と卒業研究報告(2)	共同課題の再修正の報告。テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第18回	輪読と卒業研究報告(3)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第19回	輪読と卒業研究報告(4)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第20回	輪読と卒業研究報告(5)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第21回	輪読と卒業研究報告(6)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生は Financial Times の記事や選んだテーマについての報告と議論をする。

第22回	輪読と卒業研究報告 (7)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2、3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第23回	輪読と卒業研究報告 (8)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2、3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第24回	輪読と卒業研究報告 (9)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2、3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第25回	輪読と卒業研究報告 (10)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2、3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第26回	輪読と卒業研究報告 (11)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2、3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第27回	輪読と卒業研究報告 (12)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2、3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第28回	輪読と卒業研究報告 (13)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2、3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の報告者予定の方はあらかじめ報告準備をすることが必要です。Financial Timesの記事は毎回全員に訳してもらい、内容についてどの都度私が質問をします。報告当番でないときも、予め教科書や記事に目を通しておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

履修予定者に教科書の希望分野のアンケートをとります。初回の授業で、アンケート結果に基づき候補となる本を複数私から示します。その中から輪読するテキストを皆さんと相談して決めます。毎週、Financial Timesから私が記事を選んで配付しますので、その記事もテキストとなります。

【参考書】

経済学で用いる基本的な計算スキルも必要です。数学のテキストとして以下をあげておきます。
三土修平『初歩からの経済数学』日本評論社。
鈴木孝弘『高校数学からはじめるやさしい経済数学テキスト』オーム社
高校生や大学生が利用する英和辞書（英文記事はネット上で訳させるのではなく、自分で辞書を引きながら意味を取ることが必要です）授業の最初で選んだ輪読のテキストに関連する参考書は、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2、3年生は平常点25%とレポート25%、共同課題25%、報告内容25%、計100%。4年生は卒業論文(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんが論理的思考ができるようになるように私から質問をしながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。PCやインターネットが必要です。2025年度から学習支援システムが変更となりますので、習熟してください。

【Outline (in English)】

Course outline:

The aim of this seminar is to acquire the knowledge and application skills of economics by reading a textbook in turn. Students also read articles of Financial Times in turn. In addition, each student makes a presentation about a topic which they are interested in.

Learning objective:

Students should acquire the skills of economic knowledge and its application. Sophomores and juniors learn how to write academic reports and how to make a presentation. Seniors find a research theme, analyze it, and write a graduation theses. All students should get use to English economic words in Financial Times.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade of sophomores and juniors will be calculated by in-class contribution 25%, a report 25%, assignments 25%, and presentations 25%. The total is 100%. That of seniors will be calculated by a graduate theses 100%.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
近藤 章夫
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7121」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、都市・地域における産業・企業の立地を対象にしながら、文献輪読、統計分析・資料分析、現地調査（フィールドワーク）を軸に研究の多様なアプローチを学習する。

【到達目標】

上記のテーマを通じて、経済地理学、都市・地域経済学の思考方法を学び、自らの問題関心に沿って研究を遂行する能力を養うことが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者の発表や討論が中心となる。また、自らが問題を設定し、積極的かつ自主的に現地調査や個人研究を企画・実施していくことが望ましい。受講者の関心や希望をふまえつつ、①重要文献の輪読、②現地調査の実習（夏期地域調査）、③個人・グループ自由研究の発表、を軸に進めていく。特に、現代経済・ビジネスと都市地域経済に関わる幅広い教養と有益なアプローチの習得に主眼をおく。課題やリアクションペーパーなどを授業内で適宜紹介し、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション、年間計画
第2回	① イントロダクション	文献・資料の探し方、役割分担
第3回	② 春学期ゼミ活動①	4限：文献輪読、5限：分析実習
第4回	春学期ゼミ活動②	4限：文献輪読、5限：分析実習
第5回	春学期ゼミ活動③	4限：文献輪読、5限：分析実習
第6回	春学期ゼミ活動④	4限：文献輪読、5限：分析実習
第7回	春学期ゼミ活動⑤	4限：文献輪読、5限：分析実習
第8回	春学期ゼミ活動⑥	4限：文献輪読、5限：分析実習
第9回	春学期ゼミ活動⑦	4限：文献輪読、5限：分析実習
第10回	春学期ゼミ活動⑧	4限：文献輪読、5限：分析実習
第11回	春学期ゼミ活動⑨	4限：文献輪読、5限：分析実習
第12回	春学期ゼミ活動⑩	4限：文献輪読、5限：分析実習
第13回	春学期ゼミ活動⑪	4限：文献輪読、5限：分析実習
第14回	春学期ゼミ活動⑫	4限：文献輪読のまとめ、5限：春学期の総括
第15回	イントロダクション	秋学期計画、夏期調査の中間報告
第16回	秋学期ゼミ活動①	4限：文献輪読、5限：調査報告
第17回	秋学期ゼミ活動②	4限：文献輪読、5限：調査報告
第18回	秋学期ゼミ活動③	4限：文献輪読、5限：分析実習
第19回	秋学期ゼミ活動④	4限：文献輪読、5限：分析実習
第20回	秋学期ゼミ活動⑤	4限：文献輪読、5限：分析実習
第21回	秋学期ゼミ活動⑥	4限：文献輪読、5限：分析実習
第22回	秋学期ゼミ活動⑦	4限：文献輪読、5限：研究発表
第23回	秋学期ゼミ活動⑧	4限：文献輪読、5限：研究発表
第24回	秋学期ゼミ活動⑨	4限：文献輪読、5限：研究発表

第25回	秋学期ゼミ活動⑩	4限：文献輪読、5限：研究発表
第26回	秋学期ゼミ活動⑪	4限：文献輪読、5限：研究発表
第27回	秋学期ゼミ活動⑫	4限：文献輪読、5限：研究発表
第28回	秋学期ゼミ活動⑬	4限：文献輪読のまとめ、5限：春学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習、事後の復習・課題への積極的な取り組み、ゼミ正規時間以外の課外活動への積極的関与等が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、授業への貢献度（発表・課外活動等含む）評価（30%）、レポート評価（30%）などで総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

個人の研究関心や問題意識に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【その他の重要事項】

この演習は対面で行うが、状況によっては一部をオンラインで実施することもある。学期中は学習支援システムなどを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and Learning Objectives:

In this seminar, students will learn various approaches to research based on literature review, data analysis, and fieldwork, while focusing on the location of industries and companies in cities and regions.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
The students' participation in class: 40%, in class contribution: 30%, Term-end reports: 30%

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
坂本 憲昭
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7123」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ITを中心とした情報システムを理解する。具体的には、現代社会で必須な情報システムおよびITシステムの概要や案画時の注意点などの基礎知識を習得する。

【到達目標】

実社会において、簡単な情報システムを新規導入する際の案画ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

システム設計における上流工程である要求定義の実践（プレゼンテーションスキルの向上を含む）「よのなか」に不可欠となった情報システムについて学ぶ。具体的な問題設定に対して、どのような機能や処理をもたせたシステム構成とするかを演習する。提案書を作成し、プレゼン用ソフトウェアを用いて提案を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ツアー計画課題および目的を決定する
第2回	ツアー計画課題	グループ討議に取り組み、スライドを作成する
第3回	プレゼンテーション講義	プレゼンの講評を受け修正する
第4回	バーコード講義	バーコードに関する講義と事例紹介をおこなう
第5回	QRコード講義	QRコードに関する講義と事例紹介をおこなう
第6回	バーコード課題演習	グループごとにバーコード課題に取り組み
第7回	スライド作成	グループ討議に取り組み、スライドを作成する
第8回	プレゼン実習	グループごとにプレゼンし講評を受け修正する
第9回	Excel基礎演習（絶対参照ほか）	Excel実習（絶対参照ほか）
第10回	Excel演習（乱数、時系列処理ほか）	Excel実習（乱数、時系列処理ほか）
第11回	Excel実習	Excel課題に取り組み
第12回	待ち行列講義	待ち行列の基礎を学ぶ
第13回	Excelによる待ち行列演習	Excelで待ち行列をシミュレーションする
第14回	パークに関するExcelによる待ち行列課題	グループごとに課題に取り組み
第15回	知的財産権	知的財産権の講義をおこなう
第16回	商標権、著作権	商標権、著作権を中心に講義をおこなう
第17回	知的財産権に関する報道例の紹介	グループごとに事例調査をおこなう
第18回	知的財産権に関する課題	課題に取り組みグループごとに事例調査とスライドを作成する
第19回	プレゼンテーション実習	グループごとにプレゼンし講評を受け修正する
第20回	特許権講義	特許権の講義をおこなう
第21回	特許事例紹介	グループごとに事例調査をおこなう
第22回	パークに関する特許事例調査	グループごとに事例調査とスライドを作成する
第23回	プレゼンテーション実習	グループごとにプレゼンし講評を受け修正する
第24回	特許アイデア発想課題	グループごとに特許アイデア発想の課題をおこなう
第25回	特許アイデアの文書化	グループごとに成果物のとりまとめとスライドを作成する
第26回	パークに関するテーマ調査	グループごとに調査テーマを決定して調査をおこなう
第27回	調査結果の集約とスライド作成	グループごとにスライドを作成する

第28回 プレゼンテーション実習 グループごとにプレゼンし講評を受け修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループごとに課題の取り組みをします。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、担当教員による自作資料を使います。

【参考書】

- ・ずっと受けたかった ソフトウェアエンジニアリングの授業1,2(増補改訂版), 翔泳社
- ・社内プレゼンの資料作成術, ダイアモンド社
- ・社外プレゼンの資料作成術, ダイアモンド社

【成績評価の方法と基準】

課題の成果物とプレゼンテーション内容の合計点を100点満点とし、60点以上で合格になります。

【学生の意見等からの気づき】

他グループの発表時に、その内容を参考にして自分たちのプレゼン内容をより良いものに改善できるような時間の使い方を取り入れます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire knowledge in information technology and management.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to understand IT-centric information systems. Specifically, students will acquire basic knowledge such as an overview of information systems and IT systems that are essential in modern society and points to note when drafting.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated according to the reports (100%) and in-class contribution.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
馬 欣欣
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7125」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学部で学んでいくために必要な知識を身につけることが目的です。学術資料の探し方、レポートの書き方のほか、グループディスカッションや研究発表などを通じて、面白いテーマを見つけ（問題発見能力）、自分の考えを持って、理論的・実証的検証し（問題解決能力）、そして他人に伝えるスキル（コミュニケーション能力）を育成します。

【到達目標】

経済現象に関する様々なことに疑問を持ち（問題発見）、自ら調べ、自分の答えを見つけ（問題解決）、伝える能力（コミュニケーション）の能力を身に付けることが到達目標です。書籍・雑誌・新聞・インターネットなど様々な情報がある中で、多様な情報収集の方法を活用でき、発表・討論する能力を身に付けることを目的とします。

The goal is to acquire the ability to question various economic phenomena (problem finding), investigate by oneself, find one's own answer (problem solving), and communicate (communication). The purpose is to acquire the ability to make presentations and discuss by utilizing various information collecting methods in the presence of various information such as books, journal, magazines, newspapers, and the Internet.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP12」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読し、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する。または、実証分析の習得のための実習などを行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で対面で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容と進め方の説明、教員と学生の自己紹介
第2回	文献サーベイの方法①	図書館を利用し、学術論文を検索
第3回	文献サーベイの方法②	学術論文引用と文献リストのまとめ方
第4回	学術情報収集の演習	学術情報収集の演習
第5回	グループ研究（1）	学術論文を学習
第6回	グループ研究（2）	研究論文に関するプレゼンテーション
第7回	グループ研究（3）	学術論文を学習
第8回	グループ研究（4）	研究論文に関するプレゼンテーションおよびディスカッション
第9回	グループ研究（5）	学術論文を学習
第10回	グループ研究（6）	研究論文に関するプレゼンテーションおよびディスカッション
第11回	グループ研究（7）	学術論文を学習
第12回	グループ研究（8）	研究論文に関するプレゼンテーションおよびディスカッション
第13回	個人研究	卒論に関する研究課題の探し

第14回	交流会	学んだことの整理と今後の課題研究レポートの作成
第15回	学術研究の演習①	研究課題に関するプレゼンテーション
第16回	学術研究の演習②	研究課題に関するプレゼンテーション
第17回	学術研究の演習③	先行文献と情報収集（文献輪読）
第18回	学術研究の演習④	先行文献と情報収集（文献輪読）
第19回	学術研究の演習⑤	調査実施
第20回	学術研究の演習⑥	調査実施
第21回	学術研究の演習⑦	データの分析
第22回	学術研究の演習⑧	データの分析
第23回	グループ学術研究の演習①	共同研究
第24回	グループ学術研究の演習②	共同研究
第25回	グループ学術研究の演習③	研究論文を作成
第26回	グループ学術研究の演習④	研究論文を作成
第27回	グループ学術研究の演習⑤	グループ研究発表
第28回	共同研究交流会	学んだことの整理と今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットなどから、経済の動向や関心のある経済問題の動向を理解しておくことは必要です。また、ディベート、研究発表に向けた資料収集などが適宜、必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とし、毎回4時間以上です。

It is necessary to understand economic trends and trends in economic issues in the journals, books, newspapers, television, and the Internet. The study and collection of materials for debates and research presentations will be required. The standard total preparation and review time is more than 2 hours each (total 4 hours).

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。発表とその準備の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

Normal evaluation100%. Comprehensive evaluation of presentations and preparation (appropriateness of literature survey, understanding of previous research, ability to apply analysis methods in the relevant field, finding a new issue and appropriateness of analysis methods).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート調査を行い、学生の意見に関するフィードバックを行い、また改善要望に対応し、講義内容を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【担当教員の専門分野等】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国所得格差と貧困の実証分析
2. 中国社会保障の経済分析
3. 中国労働雇用・賃金、家計消費に関する実証研究

【主要研究業績】

1. Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer Nature.
2. Ma, X. (2021) Female Employment and Gender Gap in China. Springer Nature.
3. Ma, X. and Li, S. (2022) "Self-employment in Urban China: Entrepreneurship or Disguised Unemployment?" China & World Economy, 30(1), 166-195.
4. Ma, X. (ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan.

5.Ma, X. (2018)“Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China” China Economic Review, 47, 96-115

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to develop the basic skill necessary for students studying in the Faculty of Economics. In addition to learn how to search for academic materials and write reports, students will learn how to find interesting themes (problem finding skills), how to verify them theoretically and empirically (problem solving skills), and how to communicate them to others (communication skills) through group discussions and research presentations. In particular, this course aims to cultivate the "logical thinking skills" and individual /joint research skills to conduct "theoretical and empirical research on Economics issues" by student themselves.

【Learning Objectives】

The goal is to acquire the ability to question various economic phenomena (problem finding), investigate by oneself, find one's own answer (problem solving), and communicate (communication). The purpose is to acquire the ability to make presentations and discuss by utilizing various information collecting methods in the presence of various information such as books, journal, magazines, newspapers, and the Internet.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary to understand economic trends and trends in economic issues in the journals, books, newspapers, television, and the Internet. The study and collection of materials for debates and research presentations will be required. The standard total preparation and review time is 4 hours or more each time.

【Grading Criteria /Policy】

Normal evaluation100%. Comprehensive evaluation of presentations and preparation (appropriateness of literature survey, understanding of previous research, ability to apply analysis methods in the relevant field, finding a new issue and appropriateness of analysis methods).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
酒井 正
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7126」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、以下の3つを課題として掲げる。

- 1) 専門性の高い文献を読み込む経験をする。
- 2) その論点と内容を整理して人にわかりやすく伝える。
- 3) 整理された論点に基づいて議論を行う。

講読する文献のトピックとしては、労働経済学における実証分析を中心に応用経済学全般を取り上げる予定である。

データを統計的に分析する方法を学ぶことも本演習の目的である。

【到達目標】

学生が、未知の内容に直面した際に、専門的な文献に当たり、そのことについて、学術的な研究においては何かわかっているのか（何がわかっていないのか）把握できることを到達目標とする。どのような専門文献に当たるべきかを理解し、「専門的な論文を読んだ」と言えるようになることが最終的な目標である。議論を展開する際のデータの「示し方」を習得することも副次的な到達目標として挙げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

与えられた文献について、各自で（もしくはグループごとに）その内容をまとめ、報告を行う。その後に全員で議論を行う。特に、データに基づいて議論することを心掛ける。秋学期は、グループごとにトピックを選んで分析を行うことが中心となる。

11月～12月頃に開催されるインターゼミを年間目標の一つとして活動する。

課題等に関するフィードバックは、基本的に授業内で口頭あるいは面談の形でおこないたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの進め方
2	演習（1）	講義：プレゼンの仕方等 文献講読：担当学生による報告1
3	演習（2）	文献講読：担当学生による報告2
4	演習（3）	文献講読：担当学生による報告3
5	演習（4）	文献講読：担当学生による報告4
6	演習（5）	文献講読：担当学生による報告5
7	演習（6）	指定されたトピックについて ディベートを行う
8	演習（7）	他のゼミと研究交流
9	演習（8）	分析テーマの選定
10	演習（9）	文献講読：担当学生による報告6
11	演習（10）	ゲスト・スピーカーによる報告等
12	演習（11）	文献講読：担当学生による報告7
13	講義（1）	文献講読が特に遅れていなければ、統計資料の扱い方等に関して講義する。
14	演習（12）	分析の進捗状況を報告
15	演習（13）	春学期学習内容の補足
16	演習（14）	分析の中間報告1

17	演習（15）	分析の中間報告2
18	演習（16）	文献講読：担当学生による報告8
19	演習（17）	文献講読：担当学生による報告9
20	演習（18）	文献講読：担当学生による報告10
21	演習（19）	文献講読：担当学生による報告11
22	演習（20）	文献講読：担当学生による報告12
23	演習（21）	分析の中間報告3
24	演習（22）	他のゼミとの研究交流
25	演習（23）	文献講読：担当学生による報告13
26	講義（2）	文献講読：担当学生による報告14
27	演習（24）	文献講読：担当学生による報告15（もしくは他のゼミとの研究交流）
28	講義（3）	文献講読が特に遅れていなければ、社会政策等に関するトピックについて講義する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習は、グループによる課題取組等が中心となり、毎回の準備・復習に標準で4時間程度を要するものとする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

畑農鋭矢・水落正明『データ分析をマスターする12のレッスン（新版）』（有斐閣、2022年）

*その他、演習の各回において必要となる参考資料については、適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

[平常点：70%、報告及びレポートの内容：30%]を目安として評価する。ゼミ活動への貢献（質問・発言、グループワークへの積極的な関与・協力等）を特に重視する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者の履修履歴がまちまちであることを鑑み、経済学の基礎知識の復習も適宜行う。また、資料の探し方や分析結果の示し方といったことについても初歩的な段階から指導する。
- ・授業外で時間調整をすることが難しいとの意見があることから、授業内でも最低限のグループ作業をする時間を確保したい。
- ・時事的なトピックについても、授業内で知識補給を行うことを心がける。

【Outline (in English)】

The objectives of this seminar are to 1) learn how to read academic papers, 2) investigate and discuss a variety of issues mainly by relying on statistics, and 3) report properly analyzed topics. Topics this seminar covers include such as, but not limited to, labor economics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on in-class contribution (70%), and presentations and assignments (30%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
胥 鵬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7127」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは企業金融・コーポレート・ガバナンス、あるいは興味のあるトピックス。楽しく課題に取り組み、笑顔でプレゼンを行い、グループで論文を仕上げる。

【到達目標】

企業金融・コーポレート・ガバナンスの理論と実務を勉強し、データの収集分析に挑み、分析結果にものを語らせるようグループ論文を仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

グループあるいは個別に、2年生は3年次予定の課題の仮説、仮説検定のためのデータおよび手法に関するエッセイ作成し、3年生は課題に取り組み論文を作成する。4年生は卒論を作成する。ゼミ勉強の合間には様々な親睦活動やゼミ合宿を実施する。ゼミ課題の関連知識として、コーポレートガバナンス論A/Bと企業金融論A/Bを履修することが望ましい。

原則として対面授業を実施する。ゼミ生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、諸君が提示した具体例を取り上げつつ、ゼミ生参加によるゼミ生のためのゼミを進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	理論	企業金融とコーポレート・ガバナンスの理論を学ぶ
第2回	実務	企業金融とコーポレート・ガバナンスの実務を学ぶ
第3回	データ	理論や実務の証拠となりうるデータの収集方法について学ぶ
第4回	データから証拠へ	研究とはデータを加工・処理して証拠として提示することについて学ぶ
第5回	論＝仮説	経済学の研究とは、自分が主張しようとする「論＝仮説」を裏付ける証拠を提示するプロセスについて学ぶ
第6回	企業金融「論」	企業金融に関するさまざまな「論」と証拠について学ぶ
第7回	コーポレート・ガバナンス「論」	コーポレート・ガバナンスに関するさまざまな「論」と証拠について学ぶ
第8回	グループ分け	グループ分けし、グループでonly oneの花を咲かせるゼミ研究を目指す。
第9回	グループ討論	only oneになるテーマを目指してグループ内で討論

第10回	グループ間討論	only oneになるテーマを目指してグループ間で討論
第11回	研究テーマ決定	グループ内とグループ間の討論を経てonly oneのグループ研究テーマを決定
第12回	研究計画	論文計画を作成
第13回	論文計画プレゼン	各自の研究テーマについて、オンリー・ワンを強調しつつ研究目的などの計画について、プレゼンを行なう
第14回	コメント	ゼミ同士・教員がコメントする。
第15回	文献収集	研究計画に沿って詳細な文献を収集
第16回	文献閲読	収集した文献を精読する
第17回	データ検討	研究計画に沿って研究の証拠となるデータについて検討する。
第18回	データ収集	学内のデータベースを活用して、必要なデータを収集する
第20回	手法検討	データをどのように加工・処理して証拠として提示することができるかについて、分析手法を検討する。
第21回	データ分析	検討した手法で収集したデータを分析する
第22回	中間論文執筆	分析結果をまとめ中間論文を完成する
第23回	中間論文プレゼン	中間論文をプレゼンする
第24回	中間論文コメント	ゼミ生同士・教員が中間論文に対してコメントする
第25回	論文改訂	コメントを参考に論文を書き直す
第26回	切磋琢磨	切磋琢磨で互いに学びあい、よい論文を目指す
第27回	再度コメント	教員などが再度コメントする
第27回	論文完成	再度コメントを参考に論文を仕上げる
第28回	完成論文プレゼン	グレードアップした論文をプレゼンし、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するために、エクセルの統計関数などをマスターすること。ゼミ課題の関連知識として、コーポレートガバナンス論A/Bと企業金融論A/Bを履修することが望ましい。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

論文資料を随時配布する

【参考書】

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年
必要なデータや資料は自分で調べる

【成績評価の方法と基準】

発表の内容やゼミ中の質問・意見・議論等の積極参加、練習や課題レポートの結果などから総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

一緒に楽しく勉強しよう！

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々
『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions:
Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng
Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

We learn theories and practices of corporate governance and corporate finance. Students are expected to write project papers with group collaborations. Have fun when we challenge tasks and smile when you make presentation. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about four hours for each class meeting. Short reports (40%) and term report (60%) are both required for grading.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
営 富美枝
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7128」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、法律学の学習、法理論の習得、法的議論の実践を通して、多様性を重んじ、公正と正義にかなった思考方法を身につける。

【到達目標】

・広く現代社会を見渡し、多角的に分析し、発見された問題の解決に向けて、十分な文献・資料調査を通して、考え抜く姿勢と力の習得を目指す。

・法的知識、法的思考様式、法的論理構成力の習得を目標とする。
・民法の枠を超えた、法学一般、刑法、憲法についても学び、法学検定試験や公務員試験受験に備える。
・二年生は法学検定試験ベーシック＜基礎＞、三年生は法学検定試験スタンダード＜中級＞に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

・毎回、3部構成をとる。

①知識習得：

教科書、実際の判例、学術論文を使用し、民法を中心とした法律学の基礎理論、基礎知識を習得する。

②読解分析、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベート：

担当者（グループまたは個人）によってプレゼンテーション、及び、問題提起を行う。それを受けて、全員参加によってディスカッションを行う。終了後、各発表者は、ゼミ内での議論を踏まえ、要約文を作成・提出する。

③法学検定試験問題練習：

ゼミ生が毎回順番に教師役となり、解答、解説を行う。

※春学期の最終回、秋学期の最終回には、振り返りレポートを提出し、各自の成長度に関するフィードバックに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・本演習の概要、年間スケジュール、諸課題、問題意識、目標の共有 ・ディベート練習
第2回	ディスカッション	ゲスト講演（「公正」とは何か：日英比較法文化論）
第3回	①民法演習【108】 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①契約の成立 ②市場と「公正」 ③刑法11～20番
第4回	①民法演習【109】 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①契約締結交渉の破棄 ②役務提供契約（サービス）における「規格」の意義 ③刑法21～30番
第5回	①民法演習【110】 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①契約締結過程における説明義務 ②消費者脆弱性と市場 ③刑法31～40番

第6回	①民法演習【111】 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①手付、同時履行の抗弁権 ②最高裁判決分析①事案の概要、第一審判決 ③刑法41～50番
第7回	①民法演習【113】 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①危険負担、事情変更の法理 ②最高裁判決分析②控訴審判決 ③刑法51～60番
第8回	①民法演習【115】 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①解除の要件、効果 ②最高裁判決分析③最高判決の評釈 ③刑法61～70番
第9回	①民法演習【119】 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①定型約款と消費者法 ②若年成人が直面する消費者問題 ③刑法71～80番
第10回	①民法演習【122】 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①売買契約の目的物の不適合 ②製品の販売とサービス提供～契約内容の画定 ③刑法81～90番
第11回	①民法演習【123】 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①消費貸借契約の利息、期限 ②消費者金融 ③刑法91番～100番
第12回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①賃貸借契約① ②ゼミ生選択課題 ③刑法101番～110番
第13回	①民法演習 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①賃貸借契約② ②グループワーク、又は、個人報告の中間発表（1）「正しい」広告を考える ③刑法111番～120番
第14回	①民法総合 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①前期総復習 ②グループワーク、又は、個人報告の中間発表（2）「正しい」広告を作成する ③刑法121番～130番
第15回	卒業論文指導	4年生による卒業論文中間発表
第16回	①民法演習 ②パネル作成 ③法学検定試験問題練習	①履行不能、債権制度 ②議論 ③憲法11～20番
第17回	①民法演習 ②パネル作成 ③法学検定試験問題練習	①損害賠償制度 ②議論 ③憲法21～30番
第18回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①債権者代位権 ②ゼミ生選定課題 ③憲法31～40番
第19回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①連帯債権 ②ゼミ生選定課題 ③憲法41～50番
第20回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①債権譲渡 ②ゼミ生選定課題 ③憲法51～60番
第21回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①有価証券 ②ゼミ生選定課題 ③憲法61～70番
第22回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①弁済の提供、受領遅滞 ②ゼミ生選定課題 ③憲法71～80番

第23回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①弁済 ②ゼミ生選定課題 ③憲法81～90番
第24回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①相殺 ②ゼミ生選定課題 ③憲法91番～最後
第25回	①民法演習 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①契約各論総合 ②ゼミ生選定課題 ③民法総復習
第26回	①民法演習 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①債権総論総合 ②ゼミ生選定課題 ③刑法総復習
第27回	映画を用いた法的議論	社会における「障害」について：合理的配慮を考える
第28回	①ディベート ②ディベート	①ゼミ生選定課題 ②ゼミ内ディベート大会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業①については、毎回必ず、各自、資料（授業支援システムを使ってアップロードする）を事前に予習してから参加すること。自分がわからないところを認識（自覚）してから授業に臨むこと。
 ・授業②については、各自、毎日の生活の中で、深く考察すべきと考える法的問題、社会的問題の発見に努めること。発見された問題の分析のため、必要な情報を収集すること（裁判例データベースの利用：法情報学）。丹念に準備を整えた上で、報告を行うこと。
 ・授業③については、各自、予習してきてからゼミに臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沖野眞巳・窪田充見・佐久間毅編『民法演習サブノート210問〔第2版〕』（弘文堂）
 法学検定試験委員会編『2025年法学検定試験問題集スタンダード＜中級＞コース』（商事法務）
 六法全書（どちらの出版社でも可）

【参考書】

池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）
 池田真朗『スタートライン債権総論』（日本評論社）
 池田真朗編『民法Visual Materials』（有斐閣）
 大村敦志『基本民法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（有斐閣）
 大村敦志『もうひとつの基本民法Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣）
 山田卓生『私事と自己決定』（日本評論社）
 道垣内弘人『リーガルベイス民法入門〔第4版〕』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

I. 2年生、3年生について

成績評価は以下の三点を要素として行う。

- A 民法演習の担当箇所に関する報告内容の充実度（まとめ方、報告態度、文献検索、判例検索等）。
 B ディベートあるいはプレゼンテーションに係る議論への参加度・意欲・貢献度（質問、議論整理、議論展開）。
 C 論文等の提出課題の内容によって行う。
 それぞれの要素について、評価の配分はA：50％、B：25％、C：25％とする。

なお、毎回の出席、及び、課題提出の期間厳守は、単位取得のための必要最小限の要件である。

II. 4年生について

成績評価は、卒業論文の中間報告における内容と提出された卒業論文によって行う。評価の配分は、中間報告を30％、卒業論文を70％とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年同様、学生の積極的参加を促し、責任感を育む。

【その他の重要事項】

1年次配当科目「法学A・B」を、履修済み、又は、履修中であること。
 2年次配当科目「民法一部」を、履修済み、若しくは、履修中、又は、履修予定であること。

3年次配当科目「民法二部」を、履修済み、若しくは、履修中、又は、履修予定であること。

【Outline (in English)】

Students are required to make active participation in the legal reasoning and discussion. By the end of this course students are expected to be able to acquire a balanced sense of fairness and justice. The purpose of the spring semester is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code and also the property law, paying close attention to their functions in the Market. The aim of the autumn semester is to introduce you to obligation law. Classes will be conducted in a seminar format. Homework assignments should be done regularly before each session.

Grading for the second and third year students will be based on reports on civil law (25%), presentations (25%), debates and participations (25%) and the submission of papers (25%); for the fourth year students, it will be based on the mid-term report of their graduation thesis (30%) and the content of that submitted thesis (70%).

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
鈴木 豊
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7129」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ゲーム理論とその応用。
2. 企業と組織の経済学。契約理論。
3. 応用ミクロ経済学。

について、2年次、3年次を通して、系統的に学習する。

それを、学生研究報告大会での研究発表や、卒論執筆などに反映させる。

【到達目標】

ゲーム理論、契約理論、組織の経済学の「基礎的な原理」を学び、その本質的なアイデアや視点を理解し、それを使って現実の諸問題を自分なりに考察・分析し、説明出来るようになることが主たる目標である。4年次には、卒論を書くことが強く望まれる。（この場合のテーマや分析方法の選択などは、各人の自由である。ゲーム理論的手法を使った卒論に限らなくても良い。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

昨年は、ほぼ対面でゼミを行った。2回程度のオンラインでは、担当者が授業教材に関するPPTを作成し、Zoomで画面共有の上、プレゼンしてもらい、質疑応答や、教員による解説を行った。報告のためのPPT作成⇒対面かZoomによるリアルタイムゼミが基本の流れとなる。今年も基本、対面授業とするが、状況によっては、Zoomも有効活用しながら、柔軟に進めていく予定である。なお、夏合宿も今年度から再開する予定である。また、フィードバックの際、電子メールを頻繁に用いるので、各自、環境を整えておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	打ち合わせ（以下、年間計画の一例） I1章 I:『ひたすら読むエコノミクス』	打ち合わせ＋導入
第2回	I2,3章＋a	一人の意思決定＋ゲーム理論入門
第3回	I4章＋a	市場の成功と失敗
第4回	I5章＋a	不確実性と情報＋補足
第5回	I6章＋a	モラルハザードとインセンティブ設計＋補足
第6回	I7章＋a	逆淘汰とインセンティブ設計＋補足
第7回	I8章＋a	マーケットデザイン＋補足
第8回	I9章＋a	組織のデザイン＋補足
第9回	H3,4章（I4章） H:『現代政策分析』	第1～8回で把握した「全体像」をもとに理解の掘り下げ：カルド・ア・ヒックス基準、市場の成功と失敗
第10回	H4章（I4章）	市場の成功と失敗（続き） （理論モデルによる安全競争市場の全体像の把握）

第11回	オークション入門 (I8章前版補充)	オークションの理論と実際
第12回	N6章＋a（I8章後半補充） N:『ゲーム理論で解く』	「恋愛・就職・結婚」をゲーム理論で解く、マッチング・アルゴリズム
第13回	評判（名声）の担い手としての企業（I9章補充）	「コミットメント問題」と評判、実際の企業の例
第14回	行動ゲーム理論入門	最後通牒型交渉ゲーム：理論と実際ほか。
第15回	K4章（行動ゲーム理論続き） K:『行動ゲーム理論』	利他性、不平等回避、互惠性の理論、罪回避の理論。
第16回	打ち合わせ M1章 M:『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』	打ち合わせとイントロダクション
第17回	M2章	戦略と均衡
第18回	M3章	展開形表現
第19回	M4章	交渉ゲーム
第20回	M5章	情報とゲーム
第21回	M6章	オークション
第22回	M7章	公共財
第23回	M8章	市場取引
第24回	M11章	金融とリスク管理
第25回	M13章	契約と誘因
第26回	M15章	進化ゲーム、知識の階層
第27回	E1章 E:『実験経済学への招待』	実験経済学入門
第28回	E2章	報恩と報復、行動ゲーム理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者は十分に時間をかけてレジュメ作成の準備をし、責任を持って報告できるようにする。それ以外の人も、ゼミ内で積極的に発言できるように予習・復習を行う。学生研究報告大会での論文作成に向けて、関連する文献を各自で読み込む。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

通年

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021年春学期

I:伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣

H:林敏彦『現代政策分析』放送大学テキスト

N:中山・武藤・船木（編）『ゲーム理論で解く』有斐閣

K:川越敏司『行動ゲーム理論』NTT出版

秋学期

M:梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社

E:西條辰義（編著）『実験経済学への招待』NTT出版

【参考書】

ミクロ経済学：

1. アセモグル＋レイブソン＋リスト『ALL ミクロ経済学』（岩本訳）東洋経済

組織の経済学：

2. ミルグロム＋ロバーツ『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT出版

3. マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣

ゲーム理論：

4. 武藤滋夫『ゲーム理論入門』日経文庫

5. 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣

学際的テキスト：

6. 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010年

7. 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社 2020年

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の発表の出来(70%)、普段のゼミへの積極的な参加の程度(発言内容、回数)(20%)、その他円滑なゼミ運営への貢献など(10%)を総合的に判断する。学生研究報告大会での論文発表等は、大きな加点対象となる。4年生については、卒論の執筆を個別に指導(アドバイス)していく。2022年度は、5人が提出した。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミについては、現在のやり方を維持・継続して行くことが基本となる。そのうえで、今後は、学生研究報告大会での論文発表、プレゼン技術の練磨、討論機会の増加、個々の学生の進路への対応など、さらに改善可能な点については、努力して行きたい。

【Outline (in English)】

1. Game theory and its application.
2. Economics of Firms and Organizations, and Contract Theory.
3. Applied Microeconomics.

Students will systematically learn these topics through the second and third years, and reflect it in research presentations and graduation thesis writing. Grading will be based on the quality of the presentation (70%), the degree of active participation in the seminar (content and frequency of comments) (20%), and other contributions to the smooth operation of the seminar (10%). For 4th year students, individual guidance (advice) on writing thesis will be provided. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
砂田 充
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7130」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「産業組織論」および「企業経済学」の学習とミクロ経済学と統計学に基づく実証的研究

【到達目標】

本演習の目標は大きく分けて3つあります。まず、受講生によるテキスト（産業組織論，企業経済学，統計学および計量経済学等）の輪読をとおして，応用ミクロ経済学の基本的な実証分析の方法を学ぶことです。次に，学習した分析ツールを応用し，各自の関心のある具体的な市場・産業，経済制度，政府規制，あるいはその他の社会・経済問題（広く（ミクロ）経済学に関することであれば可）に関するデータに基づく実証的研究を行うことです。最後に，分析結果を論文にまとめるとともに効果的なプレゼンテーションを行うための準備，書き方，話し方及び態度を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち，経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習の前半は，受講生によるテキストの輪読を行い，個別・グループ研究のテーマ決定および研究の実施に必要な知識を身につけます。演習の後半は，個別・グループ研究を実施するための時間です。具体的には，研究の進め方について担当教員と打ち合わせをしたり，実際に研究作業を進めます。また，研究成果を発表する場として，学内・学外のゼミとのインゼミを実施します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」等を通じて行う予定。各回の授業形態については対面を基本とするが，授業内容や進捗状況を踏まえて，オンライン授業となる場合がある（春・秋それぞれ最大7回，必ず7回オンラインになるわけではありません）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	自己紹介 春学期の進め方確認 輪読テキスト決定
2	データ分析の基礎①	記述統計（講義・演習）
3	データ分析の基礎②	仮説検定（講義・演習）
4	データ分析の基礎③	回帰分析①（講義・演習）
5	データ分析の基礎④	回帰分析②（講義・演習）
6	輪読と個別・グループ研究の実施①	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
7	輪読と個別・グループ研究の実施②	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
8	輪読と個別・グループ研究の実施③	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
9	輪読と個別・グループ研究の実施④	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析

10	輪読と個別・グループ研究の実施⑤	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
11	輪読と個別・グループ研究の実施⑥	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
12	輪読と個別・グループ研究の実施⑦	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
13	輪読と個別・グループ研究の実施⑧	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
14	春学期まとめ	半年間の総復習
15	輪読と個別・グループ研究の実施⑨	秋学期の進め方確認 輪読テキスト決定
16	輪読と個別・グループ研究の実施⑩	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
17	輪読と個別・グループ研究の実施⑪	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
18	輪読と個別・グループ研究の実施⑫	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
19	輪読と個別・グループ研究の実施⑬	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
20	輪読と個別・グループ研究の実施⑭	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
21	輪読と個別・グループ研究の実施⑮	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
22	輪読と個別・グループ研究の実施⑯	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
23	輪読と個別・グループ研究の実施⑰	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
24	輪読と個別・グループ研究の実施⑱	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
25	輪読と個別・グループ研究の実施⑲	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
26	輪読と個別・グループ研究の実施⑳	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
27	輪読と個別・グループ研究の実施㉑	テキストの輪読 研究成果最終報告
28	秋学期まとめ	1年間の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（輪読）学生は各講義前に教科書の該当箇所の精読，演習問題がある場合は，問題の解答を準備する必要がある（2時間程度）。（研究）学生はグループ研究・個人研究の完成に向けて，分析手法の学習と練習・参考文献の収集と精読・分析用データの整備・分析の実施・分析結果の取りまとめ・プレゼンテーションの準備と練習を計画的に行う必要がある（2時間程度）。

【テキスト（教科書）】

第1回目の演習で決定します。

【参考書】

伊藤公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』（光文社，2017年）。
小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社，2010年）。
加藤久和『やさしい計量経済学 プログラミングなしで身につける実証分析』（オーム社，2019年）。
田中隆一『計量経済学の第一歩—実証分析のススメ』（有斐閣，2015年）。
中室牧子・津川友介『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』（ダイヤモンド社，2017年）。
丸山雅祥『経営の経済学 [第3版]』（有斐閣，2017年）。

他

【成績評価の方法と基準】

平常点、輪読や研究報告の準備と内容、課題の提出、期末レポート（3回生）およびインゼミ等のイベントへの参加（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例研究を通じて、仮説の設定、データの収集、分析手法の選定、仮説の検証、結果の解釈という一連の流れを体験しながら、経済学の実証的研究の方法論を学べるように努めたい。さらに、PCスキルを向上できるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回ノートPCを持参することが必要です。

【その他の重要事項】

与えられた課題を指示に従って適切に提出しない場合、単位を認定しない可能性があります。受講者の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得ます。2025年度に学習支援システムのリプレイスメントが予定されているため、実際の運用は変更になる可能性がある。

【Outline (in English)】

This seminar focuses on applied microeconomics and microeconometrics.

The three goals of this seminar are as follows. First, students understand empirical tools of applied microeconomics through lectures, discussions, and exercises, with textbooks. Then, using the toolkits, students conduct empirical studies based on their own research interests. Finally, students complete research papers based on the empirical results and acquire effective presentation skills.

Before each class meeting of reading circle session, students will be expected to have thoroughly read relevant chapter(s) from textbooks, and to solve the problem sets in exercise sections (about two hours required). For research project, students will be expected to learn empirical methods, survey related works, prepare datasets, conduct analysis, and complete thesis, systematically (about two hours required).

The grade will be based on report, homework, in-class presentation, and in-class contribution (100%).

Students should bring their laptops to every session.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
竹口 圭輔
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7131」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、企業の様々な行動に焦点をあて、財務諸表分析や企業価値評価、戦略分析など種々のアプローチを用いて、企業行動あるいは企業と資本市場との関係を分析・考察していくことである。その際、財務・統計データだけでなく、新聞・雑誌等の資料や学術論文・研究書、さらにはインタビューなど多様な方法による調査研究を通じて、データ収集・分析・考察の手法を総合的に学んでいく。

【到達目標】

ゼミ活動の大半はグループワークを中心とするため、作業の分担、意見のすり合わせ、報告、ディスカッション等を通じて個々のコミュニケーション・スキルやリーダーシップ、さらにはプレゼンテーション・スキルの向上も目指す。ただし、チーム作業だけでなく論文の執筆等を通じて、物事を深く考える力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的にグループワークで活動を行う。具体的な分析テーマや方法については、種々の事情を考慮して個別に相談して決めていく。課題や成果物についてのフィードバックは基本的に授業中に行うが、授業外の時間帯においても適宜、質問や相談等に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	年間スケジュールの確認と方針決定
2	春学期プロジェクト(1)	テーマ設定
3	春学期プロジェクト(2)	プレゼン・討議
4	春学期プロジェクト(3)	プレゼン・討議
5	春学期プロジェクト(4)	プレゼン・討議
6	春学期プロジェクト(5)	プレゼン・討議
7	春学期プロジェクト(6)	プレゼン・討議
8	春学期プロジェクト(7)	プレゼン・討議
9	春学期プロジェクト(8)	プレゼン・討議
10	春学期プロジェクト(9)	プレゼン・討議
11	夏プロジェクト(1)	テーマ設定
12	夏プロジェクト(2)	プレゼン・討議
13	夏プロジェクト(3)	プレゼン・討議
14	夏プロジェクト(4)	夏合宿に向けての準備
15	秋学期プロジェクト(1)	テーマ設定

16	秋学期プロジェクト(2)	プレゼン・討議
17	秋学期プロジェクト(3)	プレゼン・討議
18	秋学期プロジェクト(4)	プレゼン・討議
19	秋学期プロジェクト(5)	プレゼン・討議
20	秋学期プロジェクト(6)	プレゼン・討議
21	秋学期プロジェクト(7)	プレゼン・討議
22	秋学期プロジェクト(8)	プレゼン・討議
23	秋学期プロジェクト(9)	プレゼン・討議
24	秋学期プロジェクト(10)	プレゼン・討議
25	秋学期プロジェクト(11)	プレゼン・討議
26	秋学期プロジェクト(12)	プレゼン・討議
27	卒論報告会(1)	プレゼン・討議
28	卒論報告会(2)	プレゼン・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ授業時間中における研究報告や討議に向けての調査・分析・すりあわせ・資料作成など、準備学習・復習時間は各4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤邦雄『新・現代会計入門<第6版>』日本経済新聞社、2024年

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・各プロジェクトの成果物（論文・プレゼン等） 50%
・報告・討論、ゼミ運営、各種ゼミ活動へのコミットの程度 50%
を基準に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This seminar is designed to analyze and examine corporate behavior and the relationship between firms and capital markets using various approaches such as financial statement analysis, corporate valuation, and strategic analysis. By doing so, students will learn comprehensive methods of data collection, data analysis, and consideration through research, incorporating not only financial and statistical data, but also newspaper and magazine articles, research papers, academic papers, and interviews.

【Learning Objectives】

This seminar aims to improve individual communication and leadership skills, as well as presentation skills, through role-sharing, coordination of opinions, reporting, discussion, etc. Each student is expected to be able to think deeply through not only group work, but also through writing papers and other activities.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each seminar class tim, students will be expected to spend four hours to understand the course content, including research, analysis, and preparation of materials for research reports and discussions.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Outcomes of each project: 50%

Contribution to seminar activities: 50%

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
八木橋 毅司
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7132」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、1) 経済学の全般的な知識の習得、2) エビデンスに基づいた議論を通じて各々の将来のキャリアにも役に立つ学術スキルを身につけることです。

(for English translation, see the 【Outline (in English)】 at the very end)

【到達目標】

レポート/論文の書き方、ディスカッション、プレゼンテーション、英語文献の精読等を通じて、さまざまな学術スキルを身につけることを目的とします。

4年生は学術的に質の高い卒業論文を書くことを目指します。

(for English translation, see the 【Outline (in English)】 at the very end)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP13」に関連。

【授業の進め方と方法】

少人数演習形式で学生による発表を中心に進めます（春学期：3年生主体、秋学期：2年生主体）。発表に関してはゼミ員からの積極的なフィードバックのもとで授業をすすめます。また講義時間の一部を使って学生主導のグループワーク（以下「サブゼミ」）も随時行います。

授業形態につきましては、通常は対面を基本としますが、事前に申出のあった場合にズームを用いたオンライン参加も可能とします。完全オンライン方式は一学期につき最大7回まで採用する可能性があります。各講義回の形態については講義中のアナウンスや一斉メールなどを通じて事前に通知します。

4年次は卒論執筆を希望する人のみの履修となります。その場合3年の講義最終日までに研究計画書を教員に提出してください。卒論トピックは経済学関連であれば自由です。

4年生は卒論（日本語・英語いずれも可）を必ず仕上げることを前提に履修してください。原則毎週のゼミへの出席は求めませんが、秋学期のサブゼミにオブザーバーとして参加していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンス、文献報告	オリエン、自己紹介、文献報告、春季サブゼミ計画の立案
2	文献報告	文献報告、フィールドワーク準備、サブゼミ
3	文献報告	文献報告、フィールドワーク準備、ディベート準備サブゼミ
4	フィールドワーク	フィールドワーク
5	文献報告	文献報告、フィールドワーク報告準備、ディベート準備、サブゼミ
6	文献報告	文献報告、プレゼン、ディベート準備、フィールドワーク報告、サブゼミ
7	文献報告	文献報告、プレゼン、ディベート準備、サブゼミ

8	文献報告	文献報告、サブゼミ中間報告、ディベート準備、サブゼミ
9	文献報告	文献報告、プレゼン、ディベート準備、サブゼミ
10	文献報告、ディベート	文献報告、ディベート
11	文献報告	文献報告、特別講演、プレゼン、サブゼミ
12	研究セミナー	研究セミナー、サブゼミ
13	研究報告会	研究報告会・サブゼミ活動報告
14	面談	面談
15	授業のガイダンス、研究報告	オリエン、自己紹介、研究報告
16	輪読	図書の輪読、研究報告、インゼミの準備、サブゼミ
17	輪読	図書の輪読、研究報告、インゼミの準備、サブゼミ
18	学生研究報告大会への準備	学生研究報告大会への準備
19	輪読	図書の輪読、研究報告、インゼミの準備、サブゼミ
20	輪読	図書の輪読、研究報告、インゼミの準備、サブゼミ
21	輪読	図書の輪読、研究報告、インゼミの準備、サブゼミ
22	インゼミ	インゼミ
23	研究セミナー	研究セミナー
24	輪読	図書の輪読、研究報告、プレゼン、サブゼミ
25	輪読	図書の輪読、研究報告、インゼミの準備、サブゼミ
26	プレゼン大会への準備	プレゼン大会への準備
27	サブゼミ活動報告	サブゼミ活動報告
28	面談	面談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するように心がけてください。

ゼミ時間外の親睦活動として新入生歓迎会（例年2～3月、2・3年生対象）、ゼミOB/OG会（11～12月、全学年対象）、謝恩会（3月、3・4年生対象）があります。

外部スピーカーによる講演回やクラスターを使ったオンライン講義回については講義時間が時間割から若干ずれる可能性があります。

(for English translation, see the 【Outline (in English)】 at the very end)

【テキスト（教科書）】

春学期分は第1回目の講義前に教員が発表します。

秋学期分は春学期中にゼミ員の投票によって決定します。

なお以下の書籍は過去に輪読（秋学期）に採択されたものです

・中室・津川『「原因と結果」の経済学』、ダイヤモンド社、2017年
・カーネマン『ファスト&スロー（上）』、ハヤカワ文庫NF、2014年
・レヴィット・ダブナー『ヤバい経済学（増補改訂版）』、東洋経済新報社、2007年

【参考書】

・小笠原喜康『最新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2018年
・経済セミナー編集部『経済論文の読み方』日本評論社（e-Bookのみ）、2022年
・経済セミナー編集部『経済論文の書き方』日本評論社、2022年

【成績評価の方法と基準】

2・3年生：課題内容（60%）、質疑応答等による貢献（40%）の合算により決定します。無断欠席は禁止です。評価Cで単位認定の場合は、翌年のゼミ履修は許可しません。

4年生：卒業論文内容（60%）および教員へのズームによる経過報告（40%）の合算により決定します。

(for English translation, see the 【Outline (in English)】 at the very end)

【学生の意見等からの気づき】

- ・合宿は参加者が主体的に計画し教員に具体的な提案があった場合に正式なゼミイベントとして実施します。
- ・学生相互のディスカッションを重視するため、教員の発言は総時間の10%以内に収まるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

ズームによる講義を行う場合、カメラは基本的にオンのままとしていただきますので、自宅や外出先から受講される方は安定したインターネット接続環境をあらかじめ整えておいてください。

【その他の重要事項】

私のゼミでは好奇心が強く他の人からいろいろな刺激を受ける柔軟性を持ち合わせつつ、いずれは自分独自のキャリアを築いていきたいと思うタイプの人を歓迎します。卒業する頃には勉強は楽しいと思えるように一緒に活動していきましょう！

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Nov. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Estimating Taylor Rules in a Credit Channel Environment," Dec. 2011, North American Journal of Economics and Finance, 22(3), 344-364.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The objective of this class is to 1) gain deep understanding of Economics and 2) be able to discuss Economic topics based on evidence. The goal is to acquire academic skills that would help students in developing their future career.

【Learning Objectives】

Students learn how to write academic papers, discuss research, conduct presentation and empirical analysis, and reading materials in both Japanese and in English

【Learning Activities Outside of Classroom】

The standard time for preparation and review for this course is set at two hours each. In addition, please make an effort to stay informed about current economic news through various media sources.

As extracurricular social activities, there will be a Welcome Party for New Seminar Members (typically held in February – March, for 2nd- and 3rd-year students), a Seminar Alumni Gathering (usually in November – December, open to all year levels), and a Graduation Celebration Party (March, for 3rd- and 4th-year students).

For special lectures by external speakers or online classes conducted via Cluster, class times may slightly differ from the regular schedule.

【Grading Criteria/Policy】

Grades will be determined based on the combination of assignment content (60%) and contributions through Q&A and other activities (40%). Unexcused absences are prohibited. Students who receive a grade of C and earn credits will not be allowed to enroll in the seminar the following academic year. For senior students, grades will be determined based on the combination of the graduation thesis content (60%) and progress reports to the instructor via Zoom (40%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
武智 一貴
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7133」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、グループごとにプレゼンテーションとディスカッションを行う。プレゼンテーションとディスカッションの際に重要なのは、テーマを十分に理解し自分の言葉でわかりやすくまとめることである。この技術は、ゼミでの発表に留まらず、レポートや卒業論文の作成、就職活動、就職後の仕事の場面で必要となる。また人前で話す技術は、ある程度経験を積まなければ高められない。この授業では、プレゼンテーションとディスカッションを数多く実践することにより、他者に対して自分の考えを効果的に伝える技術を習得する。

【到達目標】

- ・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
- ・グループで課題に取り組むことができ、その結果を発表できる。
- ・求められたとき、いつでも自分の考えを述べるができる。
- ・4年生は学術的な基盤を持った卒業論文を書くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・グループごとにパワーポイントを使用したプレゼンテーションを行う。
- ・プレゼンテーションの内容に関連したディスカッションを行う。
- ・課題の提出・フィードバックなどは学習支援システムにより行う。
- ・卒業論文については、テーマの選択・先行研究の調査・論理の構築について適宜議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
2	自己紹介	自己紹介のプレゼンを行う。
3	プレゼンテーション とディスカッション1	WTOの歴史について教科書の プレゼン及びディスカッション を行う。
4	プレゼンテーション とディスカッション2	WTOの制度について教科書の プレゼン及びディスカッション を行う。
5	プレゼンテーション とディスカッション3	WTOの条文の構成について教 科書のプレゼン及びディスカッ ションを行う。
6	プレゼンテーション とディスカッション4	WTOの基本政策について教科 書のプレゼン及びディスカッ ションを行う。
7	プレゼンテーション とディスカッション5	WTOの原則と例外について教 科書のプレゼン及びディスカッ ションを行う。
8	プレゼンテーション とディスカッション6	WTOの附属書について教科書 のプレゼン及びディスカッショ ンを行う。

9	プレゼンテーション とディスカッション7	WTO紛争処理について教科書の プレゼン及びディスカッショ ンを行う。
10	プレゼンテーション とディスカッション8	内国民待遇違反について教科書の プレゼン及びディスカッショ ンを行う。
11	プレゼンテーション とディスカッション9	内国民待遇違反の日本の例につ いて教科書のプレゼン及びディ スカッションを行う。
12	プレゼンテーション とディスカッション 10	セーフガードについて教科書の プレゼン及びディスカッション を行う。
13	プレゼンテーション とディスカッション 11	日本のセーフガードについて教 科書のプレゼン及びディスカッ ションを行う。
14	プレゼンテーション とディスカッション 12	アンチダンピングについて教科 書のプレゼン及びディスカッ ションを行う。
15	プレゼンテーション とディスカッション 13	日本のアンチダンピングについ て教科書のプレゼン及びディス カッションを行う。
16	プレゼンテーション とディスカッション 14	補助金相殺関税について教科書の プレゼン及びディスカッショ ンを行う。
17	プレゼンテーション とディスカッション 15	日本の補助金相殺関税について 教科書のプレゼン及びディス カッションを行う。
18	プレゼンテーション とディスカッション 16	教科書のプレゼン及びディス カッションを行う。
19	プレゼンテーション とディスカッション 17	SPS協定について教科書のプレ ゼン及びディスカッションを行 う。
20	プレゼンテーション とディスカッション 18	日本が関係するSPS協定につ いて教科書のプレゼン及びディ スカッションを行う。
21	プレゼンテーション とディスカッション 19	一般例外について教科書のプレ ゼン及びディスカッションを行 う。
22	プレゼンテーション とディスカッション 20	貿易と環境に関するWTO紛争 について教科書のプレゼン及び ディスカッションを行う。
23	プレゼンテーション とディスカッション 21	安全保障の例外について教科書 のプレゼン及びディスカッショ ンを行う。
24	プレゼンテーション とディスカッション 22	知的財産権保護について教科書 のプレゼン及びディスカッショ ンを行う。
25	プレゼンテーション とディスカッション 23	TRIPSについて教科書のプレゼ ン及びディスカッションを行う。
26	プレゼンテーション とディスカッション 24	WTO紛争処理システムの限界 について教科書のプレゼン及び ディスカッションを行う。
27	プレゼンテーション とディスカッション 25	サービス貿易について教科書の プレゼン及びディスカッション を行う。
28	プレゼンテーション とディスカッション 26	GATSについて教科書のプレゼ ン及びディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の準備・復習時間は事前の資料チェック・スライドチェック、報告のまとめなど目安として4時間です。

【テキスト（教科書）】

トピックで読み解く国際貿易論、武智・東田・黒田著、ミネルヴァ書房

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション内容・形式及びディスカッション内容 100 %

【学生の意見等からの気づき】

報告内容のみならず報告の仕方についても学習の対象とします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to introduce basic presentation and discussion skills to student. The goal of this course is to talk about economic idea in students' own words. Students are required to study for each class at least four hours. The grade is determined by in-class performance (100%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
田村 晶子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7134」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済学の理論をテキストでしっかり理解し、海外の経済データソースも使った実証分析を行えるようにします。興味のあるテーマをグループで深く勉強し、プレゼンテーションする能力を養います。さらに、勉強の成果を卒業論文にまとめます。

【到達目標】

国際経済学の理論をしっかり理解し、経済データを使って確認することが出来る。興味がある内容につき、グループで協調しつつ、説明を行うとともに意見を発表できる。他の学生の報告を聞き、コメントし、討論することが出来る。自分の興味に従い、研究を論文にまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

国際経済学のテキストの輪読を行い、内容について練習問題を解き、授業内で解答について議論します。年4回のグループプレゼンを行い、ゼミ生全員でプレゼンを評価し、次回授業で改善点を検討します。2／3年生は進級論文、4年生は卒業論文を執筆します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方の確認
第2回	文献やデータの使い方	データベースの使い方を学ぶ
第3回	第1回テーマ決定	
第3回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論／
第3回	第1回アウトライン	プレゼンアウトライン報告
第4回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論を
第4回	英文文献の輪読・討論	行う
第5回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論を
第5回	英文文献の輪読・討論	行う
第6回	第1回グループプレゼン	第1回プレゼンを各自コメント
第7回	第1回プレゼンの評価	プレゼンの反省と次回のテーマ決定
第7回	第2回テーマの決定	
第8回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論、
第8回	第2回アウトライン	アウトライン報告
第9回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論、
第9回	卒業論文テーマ報告	卒論テーマ報告を行う
第10回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論を
第10回	英文文献の輪読・討論	行う
第11回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論を
第11回	英文文献の輪読・討論	行う
第12回	第2回グループプレゼン	第2回プレゼンを各自コメント
第13回	第2回プレゼンの評価	文献の輪読・練習問題を解き討論を
第13回	英文文献の輪読・討論	行う
第14回	夏合宿準備	夏合宿での勉強内容の決定
第15回	秋学期の予定の確認	予定確認とプレゼンテーマ決定
第15回	第3回テーマ決定	
第16回	卒業論文のテーマ報告	卒論テーマとプレゼンアウトライン
第16回	第3回アウトライン	報告を行う
第17回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論を
第17回	英文文献の輪読・討論	行う
第18回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論を
第18回	英文文献の輪読・討論	行う
第19回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論を
第19回	英文文献の輪読・討論	行う
第20回	第3回グループプレゼン	第3回プレゼンを各自コメント
第21回	第3回プレゼンの評価、	新ゼミ生選抜面接を合わせて行う
第21回	第4回テーマ決定	
第22回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論を
第22回	第4回アウトライン	行う
第23回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論を
第23回	英文文献の輪読・討論	行う
第24回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論を
第24回	英文文献の輪読・討論	行う
第25回	第4回グループプレゼン	第4回プレゼンを各自コメント

第26回	第3回プレゼンの評価	文献の輪読・練習問題を解き討論を
第26回	英文文献の輪読・討論	行う
第27回	卒業論文報告	4年生の卒論報告を各自コメント
第28回	ゼミのまとめ	1年間のゼミを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国際経済学テキスト輪読では、毎回、必ず全員が事前にテキストを予習し練習問題を提出してから、ゼミに出席する。グループプレゼンは、各グループで授業外でサブゼミを行って準備する。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

4時限用の国際経済学のテキスト、5時限用の国際経済に関する報告書や論文等を、4月のゼミの始まる前までに決定します。

【参考書】

4回行うグループのプレゼンなどで、必読参考文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】

2. 3年生は、毎回の授業(合宿を含む)への積極的な参加 (30%)、テキストなどの輪読報告 (30%)、グループプレゼンでの報告と他グループへのコメント (20%)、進級論文 (20%) により評価します。
4年生は、卒業論文の報告 (40%) と卒業論文内容 (60%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

輪読では報告者と教員との一方通行の授業にならないように、ゼミ生全員の参加を促す工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付を学習支援システムを使って行いますので、できるだけノートパソコンを持参して出席してください。

【Outline (in English)】

Students will be able to fully understand the theory of international economics using textbooks and perform empirical analysis using overseas economic data sources. Students develop the ability to present themes of your interest in groups. Students summarize the results of their studies in a thesis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content.

Sophomore/Junior students: Final grade will be calculated according to in-class contribution (30%), report/presentation of the textbook(30%), group presentation and comments (20%), and Sophomore/Junior thesis (20%).

Senior students: Final grade will be calculated according to report/presentation of graduation thesis (40%), graduation thesis (60%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
田中 優希
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7135」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは企業行動分析です。新聞やテレビで目にする企業のことを、皆さんはどれだけ知っているでしょうか。就職活動をする時に、どの会社が「良い会社」なのかをどうやって調べますか。企業には戦略があります。ゼミではそうした戦略と企業のパフォーマンスとのつながりを、皆さんの力で明らかにしてください。分析手段のひとつとして財務情報を用いますが、戦略分析、資本市場分析、企業評価手法、マクロ経済分析、コーポレート・ガバナンス、企業の社会的責任など、企業行動の理解のためには財務会計以外の領域も扱います。

【到達目標】

新たな知識の獲得だけでなく、その知識を応用する力を実践しながら身につけていきましょう。共同作業やプレゼンテーションを通じて、社会で活躍するスキルの向上と、生涯を通じて信頼できる仲間を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

グループワークを中心に行います。

メンバーの知識水準に応じて、ゼミの前半では財務会計や基本的な戦略フレームワークの学習を行い、徐々に実際の企業の分析に移ります。自身の関心を積極的に知らせてください。ゼミ中の質問や提出された課題には、直接またはメール等でフィードバックを行います。

4年生は卒業論文の執筆に向けて定期的に教員と面談することとし、提出後の論文に対して評価を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	自己紹介、ゼミ生の関心確認
2	分析手法の基礎（1）	財務分析 メンバーの知識レベルに応じて複数回実施する可能性があります。
3	財務分析の実践	プレゼン発表
4	分析手法の基礎（2）	戦略分析、マクロ経済分析 メンバーの知識レベルに応じて複数回実施する可能性があります。
5	戦略分析の実践	プレゼン発表
6	テーマ設定	春学期のテーマ設定
7	グループワーク	プレゼン発表1
8	グループワーク	プレゼン発表2
9	グループワーク	プレゼン発表3
10	グループワーク	プレゼン発表4
11	グループワーク	プレゼン発表5
12	グループワーク	プレゼン発表6
13	グループワーク	プレゼン発表7
14	グループワーク	プレゼン発表8
15	テーマ設定	秋学期のテーマ案

16	グループワーク	プレゼン発表9
17	グループワーク	プレゼン発表10
18	グループワーク	プレゼン発表11
19	グループワーク	プレゼン発表12
20	グループワーク	プレゼン発表13
21	グループワーク	プレゼン発表14
22	グループワーク	プレゼン発表15
23	グループワーク	プレゼン発表16
24	グループワーク	プレゼン発表17
25	グループワーク	プレゼン発表18
26	グループワーク	プレゼン発表19
27	グループワーク	プレゼン発表20
28	グループワーク	プレゼン発表21

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持つこと。例えば日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種新聞・雑誌の購読を推奨する。

本講義の予習時間は各回2時間、復習時間は2時間を標準とする。こうした個別の学習時間に加えて、グループワークがあり、おおむね4時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ゼミの中で適宜指示する。

【参考書】

ゼミの中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回の発表（50%）やインゼミなど各種ゼミ活動への参加（50%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

メンバーの関心に沿ったテーマ設定、適切な参考文献や講演会等の案内を行います。

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is corporate behavior analysis. How much do you know about the companies you see in newspapers and television? How do you find out which company is a "good company" when you are looking for a job?

Companies have a strategy. In this seminar, please clarify for yourself the connection between strategy and corporate performance.

We use financial information as one of the means of analysis. In addition, we also deal with areas other than financial accounting for understanding corporate behavior, such as strategic analysis, capital market analysis, corporate valuation methods, macroeconomic analysis, corporate governance, and corporate social responsibility.

Learning Objectives:

Not only capturing the knowledge but applying it to practical situations through group work and joint presentation, students should improve their skills and be connected to reliable lifelong partners.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

The standard preparation time for this lecture is 2 hours for each lecture, and the review time is 2 hours.

In addition to these individual study hours, there is also group work, which is about 4 hours as standard.

Grading Policies:

Your overall grade will be decided based on the quality of your presentations in the class (50%), and your class participation including inter-college activities (50%).

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
山崎 友紀
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7136」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミにおいて、学生たちは一年間をかけて基本的には一人が一つの研究テーマに取り組む。「地球環境問題」、「こどもの理科教育」、「新しい材料（電池を含む）」に関する実験研究、「地域の環境問題」などに絡んだ研究を実施する。テーマの詳細は教員と相談して決定する。

【到達目標】

「自分で問題を発見し、その解決法を見だし、実際にその効果を確認する」ためのスキルや方法について学ぶことを目標とする。プレゼンテーション能力、マネジメント能力、アカデミックライティングのスキルを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

出席必須で、指導教員との研究打ち合わせを密に持ちながら、自分の力で研究を遂行する。研究のスケジュールは、研究テーマによって異なるので、研究の進展にあわせて適宜動的に見直される。研究の進捗については毎回の授業でチェックを行う。質問には個別に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「ガイダンス」	ゼミの方針、予定の説明。メールの書き方やエクセルの基本的な使い方を紹介する。
2	「安全教育」と「テーマ探索」	ゼミにおける安全教育
3	「文献調査方法、論文やレポートの書き方」	論文作成の方法論について解説
4	「文献調査方法、論文やレポートの書き方」	資料リファレンスの方法について解説
5	「研究テーマ、研究方針の決定」	テーマについて熟考
6	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動1
7	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動2
8	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動3
9	「報告とディスカッション」	これまでの研究中間報告1
10	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動4
11	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動5
12	「調査」または「実験」	各自のテーマに沿った研究活動6
13	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動7
14	「報告」・「議論」・「まとめ」	これまでの研究中間報告2
15	「課題報告」	夏休みの研究の成果報告
16	「調査」または「実験」	秋学期の計画と研究はじめ
17	フィールドワーク	「わくわくほうせい！」等の取組1
18	フィールドワーク	「わくわくほうせい！」等の取組2

19	フィールドワーク	「わくわくほうせい！」等の取組3
20	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動8
21	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動9
22	「調査」または「実験」	各自テーマに沿った研究活動10
23	「調査」または「実験」	各自テーマに沿った研究活動11
24	「調査」または「実験」	各自テーマに沿った研究活動12
25	ゼミ中間発表会	ゼミ研究発表、全員参加
26	「調査」・「実験」	各自テーマに沿った研究活動13
27	「調査」・「実験」	各自テーマに沿った研究活動14
28	年間の総まとめ、発表	各自プレゼンおよびレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミとして環境問題や科学教育に関する知識を付けるため、「化学A/B」および「地球環境論A/B」の履修を強く推奨する。フィールドワーク（わくわくほうせい！ および湧水調査）への参加を必須とする。準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『地球環境学入門 第3版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800円
『みつけよう化学ーヒトと地球の12章ー』山崎友紀（裳華房）2200円

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

平常点としてゼミへの（フィールドワークや共同作業への）貢献度を50%、さらに研究計画成果のレポートのクオリティを50%として評価し、合計点が60点を超えて合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションの機会をより多く設ける。

【Outline (in English)】

Each student basically works on one research theme over the course of a year. The goal is to have knowledge how to learn in the university. Students will be expected to research related to "science education" "local environmental issues" and so on and prepare reporting for the next.

Participation in fieldwork as a seminar is mandatory.

The standard preparation and review time is 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on in class contribution 50% and qualities of reports.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
芝田 幸一郎
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7137」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語圏ラテンアメリカの文化・社会・歴史などを広く学び大まかな全体像を得る。その上で、各自が関心を持った特定の地域・時代・事柄等について、主体的に問題を見つながら深く掘り下げる。これらの過程で、自らにインプットしたものを、目的に沿う形で効果的にアウトプットする技術を学ぶ。必要に応じてスペイン語スキルを向上させる。

【到達目標】

ラテンアメリカについての基礎的教養を身につける。自ら課題を掘り出し、各種資料（必要に応じて外国語文献も）を入手・分析した上で、論文形式でまとめ、わかりやすく口頭発表できるようにする。伝えたい事柄によって、文・写真・概念図・地図・グラフ・表などを、効果的に使い分けられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面が基本だが、必要に応じてハイフレックス型授業となることがある。基本的に学年暦・時間割通りに実施する。毎週Hoppiiを確認すること。
春学期：2年次は主にテキスト輪読による要約発表。3年次は主に研究発表。若干の講義、論文要約発表、映像視聴等を含むことがある。
秋学期：2年次はテキスト輪読による要約発表、論文等の検索（若干の講義と実習あり）、各自の研究テーマ絞り込み、研究の構想・中間発表など。3年次は主に研究発表。若干の講義、論文要約発表、映像視聴等を含むことがある。
4年次に履修継続する者は、春・秋学期を通して基本的に担当教員による個別指導下で卒業論文の作成を進め、ゼミ内で中間発表等を行う。
全ての口頭発表に対して講評という形でフィードバックがある。3年次の課題レポートの中には、講評に基づいて修正と再提出が求められるものもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ運営等について。
第2回	プレゼンテーション	自己紹介。第4回以降の発表担当者と発表順などを決定。
第3回	ラテンアメリカ概説	教員による講義
第4回	2年：読解と要約（ラテンアメリカ地域の特徴等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第5回	2年：読解と要約（ラテンアメリカの歴史等）。3年：研究	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第6回	2年：読解と要約（ラテンアメリカの政治等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第7回	2年：読解と要約（ラテンアメリカの経済等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第8回	2年：読解と要約（ラテンアメリカの社会等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第9回	2年：読解と要約（ラテンアメリカの文化等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第10回	2年：読解と要約（メキシコ等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第11回	2年：読解と要約（中米地域等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第12回	2年：読解と要約（カリブ海地域等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第13回	2年：読解と要約（アンデス諸国等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第14回	春学期のまとめ	発表、講評、夏季休暇中の課題説明等。
第15回	ガイダンス	秋学期の運営について、発表担当者と発表順などを決定。

第16回	2年：読解と要約（ラブラタ地域等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第17回	2年：読解と要約（ブラジル等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第18回	2年：読解と要約（ラテンアメリカと日本）。3年：研究。※このあたりで図書館ガイダンスを実施する可能性あり。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第19回	2年：読解と要約（その他）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第20回	2年：読解と要約（その他）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第21回	研究テーマの検討、文献検索等。	講義と実習
第22回	2年：研究テーマ、構成、文献リスト。3年：研究。	発表、講評等。
第23回	2年：研究テーマ、構成、文献リスト。3年：研究。	発表、講評等。
第24回	4年生による特別セミナー	発表、質疑応答等。
第25回	入ゼミ面接、その他	面接、発表、講評等。
第26回	2年：研究テーマ、構成、文献リスト。3年：研究。	発表、講評等。
第27回	2年：研究テーマ、構成、文献リスト。3年：研究。	発表、講評など。
第28回	秋学期のまとめ	発表、講評、春季休暇中の課題説明等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：2年次は主にテキストの精読と要約作成。図書館およびインターネットでの文献検索。3年次は春の課題レポートの要約作成、論文の精読と要約、研究テーマに応じた各種資料の収集と分析。4年次は卒業論文の作成と必要に応じて中間発表。全学年に共通してプレゼンの準備（パワーポイント資料作成含む）。
夏休みの課題：2年次は感想文またはレポート。3年次はレポート。
秋学期：2年次は今後執筆するレポートの仮テーマ・章立て・文献リスト等を作成と講評に沿った修正。3年次は夏の課題レポートの要約作成とプレゼンの準備、最終課題レポートの作成。2・3年次ともに論文の精読と要約、研究テーマに応じた各種資料の収集と分析。4年次は卒業論文の作成とその発表。
春休みの課題：レポート（2年次のみ）。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（発表内容によっては更なる準備時間が必要）。

【テキスト（教科書）】

ゼミ内で相談のうえ決める。

【参考書】

『地図で見るラテンアメリカハンドブック』ダベヌス、O.、F.ルオー、原書房、2017年（ISBN978-4-562-05428-2）、2800円＋税
『ラテンアメリカ世界のことばと文化』畑恵子・山崎真次編著、成文堂、2009年（ISBN978-4-7923-7084-8）、3000円＋税
『ラテンアメリカ研究への招待（改訂新版）』国本伊代・中川文雄編著、新評論、2005年（ISBN4-7948-0679-5）、3200円＋税
『新版 ラテンアメリカを知る事典』大貫良夫他監修、平凡社、2013年（ISBN 9784582126464）、7000円＋税
『ラテンアメリカ文化事典』ラテンアメリカ文化事典編集委員会編、丸善出版、2021年（ISBN978-4-621-30585-0）
その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2・3年：発表と提出物（80%）＋平常点（20%）
4年：卒業論文（90%）＋平常点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

4月に自己紹介プレゼンテーションを行うことで、ゼミ生間やゼミ生と教員間の相互理解を深め、かつプレゼン能力向上を促す。春学期に小テストを実施し基礎知識定着の一助とする。レポート作成の機会を増やす。希望者に対しては更なるスペイン語学習の機会を用意する。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布はHoppii上で行う。

【その他の重要事項】

スペイン語スキルを上げたい学生は、「スペイン語セミナーA・B（23-24年度臨時休講だったが25年度から再開）」等の科目も併せて履修すると良いだろう。南米の先スペイン期および植民地期に関心がある学生は、「世界の文化と思想A・B（直近では22と25年度のみアンデス文明概説の講義）」も併せて履修すると良いだろう。
4年次にゼミ履修を継続する学生は、単位付与のために卒業論文の提出が必要である。早めに（3年次の年度末～4年次の4月前半）ゼミ担当教員に連絡をとり、4月末を目途に「卒業論文作成計画書」を提出すること。

【Outline (in English)】

[Course outline] This seminar course explores the culture, society and history of Latin America and introduces academic writing and the fundamentals of academic research. [Learning Objectives] Through the seminar, participants are expected to A)explain the socio-cultural characteristics of Latin America and its historical background, and B)make academic papers and oral presentations on their own research topic. [Learning Activities outside of Classroom] Before/after each class meeting, participants will spend four hours to understand the course content. [Grading Criteria /Policy] Grading will be based on submitted papers and oral presentations (80%), and in-class contribution (20%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
ブー トウン カイ
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7138」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、国際金融論の基礎的な知識と経済分析手法を身に付けた後、文献の調査を通じて現実における金融や国際金融の現状や問題を知り、研究テーマを設定し、経済学の手法やデータを用いて分析し、解決策を検討する。

【到達目標】

金融論や国際金融論の基礎的な知識及び経済学の手法を修得し、それらを用いて現実の金融や国際金融の様々な問題を特定し、分析できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

前期では経済学と金融論のテキストの輪読を中心にゼミを進める。後期では、国際金融論のテキストを輪読しながらグループに分けて国際金融論の文献を調査し、研究テーマの検討・決定をする。そして決定したテーマに沿ってデータや資料を収集し、分析を行い、答えを探る。毎回はゼミ生による報告と討論を中心に進める。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミメンバーの紹介、前期のスケジュールの確認、ゼミの運営方針などの説明
第2回	輪読（1）	ゼミ生による報告と討論
第3回	輪読（2）	ゼミ生による報告と討論
第4回	輪読（3）	ゼミ生による報告と討論
第5回	輪読（4）	ゼミ生による報告と討論
第6回	輪読（5）	ゼミ生による報告と討論
第7回	輪読（6）	ゼミ生による報告と討論
第8回	輪読（7）	ゼミ生による報告と討論
第9回	輪読（8）	ゼミ生による報告と討論
第10回	輪読（9）	ゼミ生による報告と討論
第11回	輪読（10）	ゼミ生による報告と討論
第12回	輪読（11）	ゼミ生による報告と討論
第13回	輪読（12）	ゼミ生による報告と討論
第14回	輪読（13）	ゼミ生による報告と討論
第15回	前期の総括	これまでの流れを振り返り、今後の予定を確認する。
第16回	イントロダクション	前期のゼミ内容を振り返り、後期のスケジュールの確認、ゼミの運営方針などの説明
第17回	研究テーマ設定（1）	国際金融に関する研究テーマ候補の検討
第18回	研究テーマ設定（2）	研究テーマの決定、研究計画の作成
第19回	調査分析（1）	各グループにより先行文献調査結果の報告と討論

第20回	調査分析（2）	各グループによる先行文献調査結果の報告と討論
第21回	調査分析（3）	各グループによる先行文献調査結果の報告と討論
第22回	調査分析（4）	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第23回	調査分析（5）	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第24回	調査分析（6）	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第25回	他大学との合同研究発表会の準備（1）	合同研究発表会の論文作成（1）
第26回	他大学との合同研究発表会の準備（2）	合同研究発表会のスライド作成・予行練習
第27回	他大学との合同研究発表会	合同研究発表会の実施（自らの研究発表および相手側の研究討論）
第28回	研究成果の取りまとめ	研究成果である論文完成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回学んだことをきちんと復習し、理解できるように努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019年。
- 『独習！ ビジネス統計』、松浦寿幸（著）、東京図書 2012年。

【参考書】

- 『コア・テキスト国際金融論』第3版、藤井英次（著）、新世社 2024年。
- 『新しい国際金融論－理論・歴史・現実』、勝悦子（著）、有斐閣 2011年。
- “International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第12版（2022年）（英語）ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

出席（35%）、プレゼンテーション・ゼミへの貢献（意見や討論）（35%）、学期末課題（30%）の結果に基づいて成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生の意見を聞きながら楽しく有意義なゼミを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

報告資料の作成やデータ分析などのためにコンピュータを頻繁に使用するので、大学のコンピュータを利用するのによいが、ゼミ生が自らパソコンをもつと便利になる。

【Outline (in English)】

Course outline & Learning objectives: In this course we will learn the basics of international finance and methods for economic analysis. The students will acquire necessary knowledge and skills through a process of reading and understanding textbooks, practicing by solving problems, handling data in Excel, and doing research.

The students are assigned to several groups and every week some of the groups are required to make presentations on given topics in the textbooks. The students are thus expected to prepare for presentations, when assigned, before the class.

Grading criteria: Grading is based on the students' presentations, discussion, and final report performance, with weights being 40%, 20% and 40%, respectively.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
池上 宗信
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7141」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究として、受講者各自が興味のある開発経済学の間を選び、研究成果を発表し、論文にまとめる。
キャパシティビルディングとして、開発経済学、論文の書き方、プレゼンテーション、データ分析を学ぶ。
データ分析では、経済学の各分野で頻出する、回帰分析、ランダム化比較試験、操作変数法などの実証分析の手法を学ぶ。
各手法の概要を理解し、各手法を用いてデータを分析することで、論文のアイデア探しに活用する。

【到達目標】

本講義の目標は、各自が目標をたて、文献を読み、データを分析し、学んだことをスライド、ノート、論文にまとめ、口頭発表でできるようになること。
データ分析における 1 つ目の目標は、各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになること。
2 つ目の目標は、各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の間、アイデアを探ることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

研究として、各自が興味のある開発経済学のトピックを選択し、中間発表をしつつ、論文を作成、発表、提出する。
研究の過程において、論文計画書、論文中間報告書、論文草稿を提出し、担当教員、他のゼミ生からのフィードバックとして質問・コメントをもらう。また、他の学生の文書について質問・コメントを提出する。
また、キャパシティビルディングとして開発経済学、論文の書き方、プレゼンテーション、データ分析について、輪読、演習しながら学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データの扱い方	R の使い方、データの読み込み、加工
2	統計の基礎知識	母集団と標本、無作為抽出
3	確率論の基礎	確率変数、期待値、条件付き期待値、中心極限定理
4	回帰分析の基礎	最小二乗法
5	推測統計の基礎	仮説検定、信頼区間
6	相関関係と因果関係	疑似相関、偶然の相関、同時性
7	中間発表1	論文計画書の提出、論文テーマの中間発表1
8	外生変数と内生変数	欠落変数、測定誤差、同時性
9	ランダム化比較試験	セレクション・バイアス
10	操作変数法	2段階最小二乗法
11	固定効果	パネルデータ
12	差の差の分析	並行トレンドの仮定
13	マッチング	条件付独立性、オーバーラップ条件

14	中間発表2	論文中間報告書の提出、論文テーマの中間発表2
15	Regression Discontinuity Design	連続性条件
16	Synthetic Control Methods	手法、R パッケージ、応用例の概説
17	貧困と不平等、零細自営業者や小農の経済学	不平等の貧困に与える影響
18	貧困の罍、貯蓄	信用制約
19	金銭供与、マイクロクレジット	仕組みと貧困削減効果
20	共同体、マイクロ保険	理論と実証研究の結果
21	中間発表3	論文草稿の提出、論文テーマの中間発表3
22	投資産供与、術供与、卒業プログラム	金銭供与との比較
23	起業	実証分析
24	栄養	カロリー不足による貧困の罍、栄養への投資
25	健康	マラリアによる貧困の罍、病気予防への投資、治療の質、価格
26	教育	就学決定モデル、成績別クラス分けの学力への効果
27	出産	ソープオペラの出生率への効果
28	最終発表	論文の提出、論文テーマの最終発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キャパシティビルディングのための輪読・演習では、発表・演習担当者だけでなく、受講者全員が、予習として事前に内容を読み、質問、議論したいことを事前にまとめてから授業に参加する。
授業時間内に各自の研究を発表し、他の学生、教員からコメントをもらう。
授業時間外にも各自の研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は事前に指定しませんが、星野、田中、北川（2023）の予定です。

【参考書】

- アビジット・V・バナジー、エステル・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房
- 今井耕介（2018）『社会科学のためのデータ分析入門 上・下』岩波書店
- 田中隆一（2015）『計量経済学の第一歩: 実証分析のススメ』有斐閣
- 原泰史（2021）『Python による経済・経営分析のためのデータサイエンス』東京図書
- 星野匡郎、田中久稔（2016）『R による実証分析 回帰分析から因果分析へ』オーム社
- 星野匡郎、田中久稔、北川梨津（2023）『R による実証分析 回帰分析から因果分析へ 第2版』オーム社

【成績評価の方法と基準】

キャパシティビルディングのための発表、演習、討論 50%。各自の研究論文、発表 50%。

【学生の意見等からの気づき】

2018-2023 年度において、キャパシティビルディングの多くの時間をデータ分析に使いました。
教科書、参考書は、今井(2018)、星野・田中(2016)、田中(2015)、原(2021)でした。

【Outline (in English)】

* Course outline
Each of us will study and write a research paper on a question in Development Economics.
We will study Development Economics, how to write a research paper, make a presentation, analyze data as our capacity development.

We will study econometrics methods such as regression, randomized controlled trial, and instrument variable method, which appear frequently in each field of Applied Microeconomics.

We will aim to understand each method roughly and apply each method to data so that we will become able to look for paper ideas with keeping each empirical method in our mind.

* Learning Objectives

Each of us will become able to set a goal, read papers, analyze data, make slides, notes, and a paper, and present the paper based on what we learn.

We will learn methods of data analysis so that we can understand previous studies using the methods and we can look for a research idea and research question keeping the methods in our mind.

* Learning activities outside of classroom

We will read a document in advance.

One of us will make slides in advance so that we can discuss contents of the document and slides in class.

The standard time for preparation and review for this class is 4 hours each.

* Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on presentation, problem sets, discussion for capacity building (50%) and presentation, paper, discussion for research (50%).

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
ROBERT D STROUD
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7142」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of the seminar is to improve the presentation, leadership, management, problem-solving, and critical thinking skills of students through group projects to become effective leaders, managers, and team members in society.

【到達目標】

Students will analyze project management and leadership skills, as well as apply those skills to their own communication and actions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

For 2nd and 3rd year students:

Students will discuss and practice different methods of leading and managing teams of their own, and report on discoveries about themselves. This will then be applied to real team projects within the course, with self and peer-reflection activities to follow. Feedback on course assignments will primarily be given through classroom discussions in-person and on Google Classroom.

For 4th year students:

A graduation thesis will be written in English across the spring and fall semesters. Students will undertake homework assignments related to research and writing the thesis and meet online/face-to-face with the teacher 5-7 times during each semester to present their work and get feedback on their progress via Google Classroom. 4th year students are not required to attend seminar classes with 2nd and 3rd year students if they do not wish to.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Seminar introductions /semester outline (subject to change)	- Self-Introductions/Ice Breakers - Seminar outline
2	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Introduction to class projects - Classroom discussion/debates on various topics
3	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: team forming and topic discussions - Classroom discussion/debates on various topics
4	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: team role settings - Classroom discussion/debates on various topics
5	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: brainstorming topics - Classroom discussion/debates on various topics
6	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: decide on topic and individual research - Classroom discussion/debates on various topics
7	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: share research - Classroom discussion/debates on various topics
8	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: outline of final presentation - Classroom discussion/debates on various topics
9	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: organize ideas for presentation/distribute speaker sections - Classroom discussion/debates on various topics

10	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: practice presentation - Classroom discussion/debates on various topics
11	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: practice presentation/feedback - Classroom discussion/debates on various topics
12	Final presentations	- Students give their final presentations
13	Final presentations	- Students give their final presentations - Student discussions on final presentations
14	Zemi meeting and discussions	- Students' self-reflection - Students discuss how to improve the zemi in a formal meeting
15	Seminar introductions /layout	- Students are introduced to the coming semester
16	SDG projects /Debates	- Introduction to class projects - Classroom discussion/debates on various topics
17	SDG projects /Debates	- Group projects: team forming and topic discussions - Classroom discussion/debates on various topics
18	SDG projects /Debates	- Group projects: team role settings - Classroom discussion/debates on various topics
19	SDG projects /Debates	- Group projects: brainstorming topics - Classroom discussion/debates on various topics
20	SDG projects /Debates	- Group projects: decide on topic and individual research - Classroom discussion/debates on various topics
21	SDG projects /Debates	- Group projects: share research - Classroom discussion/debates on various topics
22	SDG projects /Debates	- Group projects: outline of final presentation - Classroom discussion/debates on various topics
23	Presentation contest preparation	- Group projects: organize ideas for presentation/distribute speaker sections - Classroom discussion/debates on various topics
24	Presentation contest preparation	- Group projects: practice presentation - Classroom discussion/debates on various topics
25	Presentation contest preparation	- Group projects: practice presentation/feedback - Classroom discussion/debates on various topics
26	Presentation Contest	- Students give their final presentations
27	Final presentations	- Students give their final presentations - Student discussions on final presentation
28	Final meeting and changes for next year	- Students' self-reflection - Students discuss how to improve the zemi in a formal meeting

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A total of 4 hours of homework reviewing classwork, preparing for classroom discussions and animation video quizzes. 授業の復習、教室でのディスカッションやアニメーションビデオのクイズの準備をする合計 4 時間の宿題です。

【テキスト（教科書）】

No textbooks - all materials will be provided.

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

For 2nd and 3rd year students:

Project work preparation, classroom participation, and seminar events - 50%

Project homework assignments - 50%

For 4th year students:

Graduation thesis (written in English) - 100%

(not required, but available for 3rd year students who apply and are successful)

【学生の意見等からの気づき】

Surveys given to the students will be used to make adjustments for the course in the future.

【学生が準備すべき機器他】

- Notebook and pens

- Laptop computer/tablet (if available)

If the course is conducted online, a laptop computer or tablet is highly recommended. Although the course is entirely accessible via smartphone, students may find difficulties accessing multiple platforms during online class if joining the class with a smartphone.

【その他の重要事項】

none

【Outline (in English)】

Students will undertake various projects in teams to improve their collaboration skills and ability to plan projects.

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
西澤 栄一郎
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7143」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フィールドワークを柱とする環境問題の調査とその解決策の提案

【到達目標】

- ①現地調査の方法を身につける。
- ②地域の人々に対して貢献する。
- ③活動内容を報告書にまとめ、現地で報告する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

このゼミは、8月にフィールドワーク（現地調査）を行うことを特徴としています。ある地域を選び、その地域のまちづくりと環境に関わることを調べ、提言をまとめます。調査を通して参加者がその地域について理解を深めるだけでなく、その地域の人々に対して貢献することを目指しています。経済学部のゼミなので、調査にあたっては、環境問題の経済的な側面や、環境と経済との関わりについて重視できればと考えています。

なお、課題等の提出・フィードバックは主として授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	対象地とテーマの検討	各自の提案について議論する
2	対象地とテーマの決定	提案の中から一つに絞る
3	関連文献の収集	テーマに関する文献を調べる
4	関連文献の講読①	テーマに関する文献を全員で読む
5	関連文献の講読②	内容について議論する
6	関連文献の講読③	対象地域に関する文献を読む
7	関連文献の講読④	対象地域に関する理解を深める
8	現地調査の課題設定	具体的な調査課題を決める
9	現地調査内容の検討	訪問先と調査内容を決める
10	現地日程の検討	具体的なスケジュールを決める
11	現地調査の仮説設定	文献などから仮説を立てる
12	事前調査のまとめ	理解したことを文章にまとめる
13	調査項目の確定	調査票を作成する
14	報告書の構成の検討	事前学習の知見も盛り込む
15	報告書案の検討①	原稿を持ち寄って議論する
16	報告書案の検討②	修正したものをさらに検討する
17	報告書の結論の検討	結論について議論する
18	発表会準備①	パワーポイントを作成する
19	発表会準備②	発表の練習をする
20	報告書の最終調整①	書式を統一する
21	報告書の最終調整②	原稿を完成させる
22	今年の現地調査の反省	反省点を来年の調査に活かす
23	卒業論文の中間報告	4年生の報告について議論する
24	環境問題の文献講読	幅広い知識を得る
25	来年の方針の検討	来年の調査に向けて準備する
26	調査方法の文献講読	アンケートの方法を学ぶ

27 論文の書き方講座 図書館でガイダンスを受ける

28 卒業論文の報告 4年生の最終報告を議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地調査の準備や報告書の作成はさまざまな作業を伴います。これらの作業は適宜行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは適宜決めて読んでいきます。

【参考書】

現地調査の基本文献として、2冊挙げます。

①轟亮・杉野勇編(2021)『入門・社会調査法〔第4版〕』法律文化社

②滋賀県立大学環境フィールドワーク研究会編(2015)『フィールドワーク心得帖[新版]』サンライズ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と課題（50％）で評価します。4年生は卒業論文を主に評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの回答がなかったため、該当なし

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students conduct fieldwork and make a proposal on the environmental and resource issues. The goals of this course are to acquire methods of field work, to make a report and a presentation on their activities, and to contribute the community where they visit for the fieldwork. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to conduct assignment and make reports. Grading will be based on Term-end thesis(50%) and in-class contribution(50%).

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
新田 誠吾
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7144」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、二つのテーマがあります。一つは、小説、劇、マンガ、アニメ、映画といった作品を分析、考察します。もう一つは、社会で起きている現象を分析することで、私たちが生きる世界への理解を深めます。演習と並行して、各自が設定したテーマについて、論文にまとめ、発表を行います。

【到達目標】

1. 物語について理解し、分析できる。
2. 現代日本の社会現象、課題について考察できる。
3. ファシリテーターとして、有益な議論を導くことができる。
4. 自分の考えを論理的にまとめることができる。
5. 自分の考えを表現でき、他人に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則、対面で授業を行います。専門書の講読、資料検索、グループ研究、発表、ディベート、論文作成を行います。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。必要な情報はメンバー全員で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自分のことをゼミのメンバーに伝える	演習の進め方とゼミ生の自己紹介（春休み課題）
2	私たちの世界は物語で溢れている。	小説を読む
3	何がドラマになるのか	小説を分析する
4	200字作文(1) マンガの技法(1)	登場人物の設定
5	200字作文(2) マンガの技法(2)	作品の世界観とは
6	200字作文(3) ファシリテーションとは何か	みんなの意見を引き出すファシリテーターとは？
7	第1回コンテンツ報告会	
8	論文の書き方(1) 論文の書き方(2) 図書館ガイダンス	テーマとは「問い」である。 資料検索 図書館ガイダンスは、日程が前後することあり。
9	200字作文(4)	パラグラフ・ライティング
10	論文の書き方(3)	引用の仕方
11	論文の書き方(4)	注、参考文献の書き方
12	論文の書き方(5) 第2回コンテンツ報告会	
13	グループ論文中間報告	2,3年生による報告
14	進級論文中間報告	

13	グループ論文中間報告	2,3年生による報告
14	進級論文中間報告 グループ論文中間報告	2,3年生による報告
15	作品鑑賞 第3回コンテンツ報告会	映像作品を観る
16	グループ研究発表(1)	2年生の発表
17	グループ研究発表(2)	2年生の発表
18	物語の技法(1)	小説の輪読
19	3年生の研究発表 物語の技法(2)	小説の輪読
20	3年生の研究発表 物語の技法(3)	小説の輪読
21	3年生の研究発表 卒業論文指導 物語の技法(4)	小説の輪読
22	3年生の研究発表	
23	新ゼミ生の選考 3年生の研究発表(1)	選考面接 発表と質疑応答
24	卒業論文指導 3年生の研究発表(2)	発表と質疑応答
25	第4回コンテンツ報告会 3年生の研究発表(3)	発表と質疑応答
26	卒業論文指導 3年生の研究発表(4)	発表と質疑応答
27	卒業論文指導 3年生の研究発表(5)	発表と質疑応答
28	ふりかえり	ゼミの総括と来年度に向けた企画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題、発表、論文作成にきちんとした準備が必要です。そのため週に4時間程度が必要です。

【テキスト（教科書）】

新田誠吾(2019). はじめてでも、ふたたびでも、これならできる！ レポート・論文のまとめ方. すばる舎.

【参考書】

参考書については、授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

2,3年生は、平常点40%、論文40%、発表20%で、合計60%以上で単位を認定します。ただし翌年度のゼミ履修には70%以上必要です。なお、正当な理由なくゼミを30%以上欠席した場合は、評価の対象にしません。

4年生は卒業論文について、①テーマ選定、②資料検索とアウトライン作成、③第1次原稿、④完成稿のそれぞれで卒論指導を受ける必要があります。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、学生から高い評価を受けました。今後も論文指導や発表に力を入れていきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 There are two themes in this exercise. One is to analyze and discuss works such as novels, plays, cartoons, animations, and movies. The second is to deepen our understanding of the world in which we live by analyzing events occurring in society. In parallel with the exercises, each student will write a paper on a theme of his/her own choice and present it.

【Learning Objectives】 The goals of the course are to

1. be able to understand and analyze stories
2. be able to consider social phenomena and issues in contemporary Japan
3. be able to lead useful discussions as a facilitator
4. be able to summarize one's thoughts logically
5. be able to express one's thoughts and communicate them to others.

【Learning activities outside of classroom】 Four hours per week are required for assignments, presentations, and thesis work.

【Grading Criteria /Policy】

For 2nd and 3rd year students, credit will be granted for a total of 60% or more, consisting of 40% for regular marks, 40% for papers, and 20% for presentations. However, a minimum of 70% is required to enroll in the seminar in the following year. If the number of absences without justifiable reason exceeds 30% of the total number of absences, the student will be excluded from the grading.

Fourth-year students are required to take the following graduation thesis instructions: (1) theme selection, (2) material search and outline preparation, (3) first draft, and (4) completed draft.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
明城 聡
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7145」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場調査と統計学を利用した経済データ分析

【到達目標】

本演習では、受講生それぞれが独自に選んだ課題テーマについて調査するとともに客観的な視点で経済分析することを目標とします。各自が関心のある特定の財市場や経済制度、あるいは経済政策などを研究テーマに選び、それについて調査をすすめるとともに、ミクロ経済学や統計学の知識を応用してデータ分析をします。また、学術論文の執筆を通じて理論的な文章を書けるようになることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

2年生は主に統計学と計量経済学のテキストを使って勉強を行います。これは個別の課題テーマを調べる際に必要な知識を身につけるための演習です。

3年生は個別のテーマについて調査分析を行って論文を執筆します。調査方法や分析手法などについて担当教員と相談したり、他の受講生と協力して作業を進めるための作業が主な内容になります。そして秋の懸賞論文や研究報告大会などで研究成果を発表します。4年生は卒論を書きたい人のみ履修となります。必要に応じて論文指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・シラバスの配布 ・演習概要の説明 ・その他、連絡事項
2	課題テーマの抽出(1)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
3	課題テーマの抽出(2)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
4	課題テーマの抽出(3)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
5	課題テーマの抽出(4)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
6	課題テーマの調査と分析(1)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
7	課題テーマの調査と分析(2)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
8	課題テーマの調査と分析(3)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析

9	課題テーマの調査と分析(4)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
10	課題テーマの調査と分析(5)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
11	課題テーマの調査と分析(6)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
12	課題テーマの調査と分析(7)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
13	課題テーマの調査と分析(8)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
14	課題テーマの調査と分析(9)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
15	課題テーマの調査と分析(10)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
16	課題テーマの調査と分析(11)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
17	課題テーマの調査と分析(12)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
18	課題テーマの調査と分析(13)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
19	課題テーマの調査と分析(14)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
20	課題テーマの調査と分析(15)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
21	課題テーマの調査と分析(16)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
22	課題テーマの調査と分析(17)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
23	課題テーマの調査と分析(18)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
24	課題テーマの調査と分析(19)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
25	課題テーマの調査と分析(20)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
26	課題テーマの調査と分析(21)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
27	課題テーマの調査結果の報告(1)	・調査結果の報告
28	課題テーマの調査結果の報告(2)	・調査結果の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が関心のあるテーマを選ぶように日頃から新聞やニュース等に目をとおすようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習の第1回の時点で連絡します。

【参考書】

演習の第1回の時点で連絡します。

【成績評価の方法と基準】

2・3年生は

- ・学習時間における準備や発言(30%)
- ・グループ研究、論文執筆、プレゼン(70%)

などに応じて成績をつけます。

4年生は卒論の評価で成績をつけます(100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

データ分析にPCが必要なので、各自ノートPCを利用できるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Outline: In this seminar, students are required to investigate a specific market, economic system and/or economic policy, and then study it by conducting a statistical data analysis.

Learning activities: It is necessary to write a research thesis based on the economic data analysis in 3rd year. Extra-curriculum activities for homework assignment and/or research studies require at least 2-4 hours every week.

Grading: 2nd, 3rd year student: attendance/learning attitude/(30%), group work, academic paper, presentation(70%); 4th year student: academic paper(100%)

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
朴 宗玄
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7146」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、地理学の視点から「地域」「社会」「経済活動」「（地域）文化」を捉える方法を学ぶ。本演習では、先行研究の検索とその読みとり、統計をはじめとする資料分析を軸に、現地調査（フィールドワーク）を見据えた地域調査の方法を学習する。

【到達目標】

経済地理学をベースとした調査研究方法を習得することと、個人もしくはグループで自ら研究テーマを設定し、適切な方法を用いて当該テーマについて調査分析する力を養うことを目標とする。報告書の完成を本年度のゴールとし、本演習を通して一定期間内に自分のすべきことを完遂するためのセルフマネジメント力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

調査研究に必要なステップごとに、担当者による説明、受講者の演習、結果報告とそれを受けての議論、を基本の流れとする。受講者が自らテーマを設定し、積極的・自主的に調査研究をすすめることを期待する。年間を通じては、受講者の研究関心に基づくテーマでの文献検索、調査の計画と実施、調査結果のまとめと分析、報告書の執筆、とすすめていく。フィールドワークについては、受講者の関心や実施可能性をみて可能であれば集団で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本演習のすすめ方についての担当者からの説明と、受講者の興味関心について情報交換を行う。
2	文献検索について	地理学関連の先行研究とくに学術論文の調べ方と、文献リストの作成について学習する。
3	文献紹介、文献検索②	集めた文献の読み方と、さらに文献研究を深める方法について学習する。
4	文献紹介②、先行研究レビューについて	複数の文献を読み、問題提起につなげていく方法を学習する。
5	論文の構造	論文には一定の構造と構成があることを学習する。
6	研究のテーマと対象地域①	研究テーマと調査対象地を設定する方法を学習する。
7	研究のテーマと対象地域②	前回に続き各受講者の研究テーマと調査対象地を検討し、決定する。
8	資（史）料と統計を集める①	テーマと対象地についての概観を把握するための調査について学習する。
9	資（史）料と統計を集める②	政府等による統計の集め方とデータの読みとり方を学習する。
10	集めたデータを分析する①	集めた統計を用いて図表を作成する方法を学習する。

11	集めたデータを分析する②	統計や資料からわかったことをまとめ、議論する。
12	調査仮説と調査方法	調査のための仮説の設定方法と調査方法を学び、実際に調査計画を立てる。
13	報告書の構成について	先行研究を参考に、各受講者が論文の目次を作成してみる。
14	春学期総括	各受講者のこれまでの成果を発表し、議論する。
15	秋学期のすすめ方についての確認	後期のスケジュールを確認し、中間報告の準備を行う。
16	中間報告（進捗と今後の計画等について）①	進捗と今後の研究計画を共有し、建設的に議論する。
17	中間報告（進捗と今後の計画等について）②	前回の議論をもとに計画や報告書の構成を修正する。
18	調査結果の整理と分析①	調査結果をまとめ、データ化する方法を学ぶ。
19	調査結果の整理と分析②	データの読みとりを議論につなげることにについて学ぶ。
20	分析と議論①	得られた結果を踏まえて、議論をすすめる。また、主題図など地図や模式図の作成について学習する。
21	分析と議論②	受講者間で進捗報告を行い、建設的な質問やコメントをすることを学ぶ。
22	報告書の執筆①	報告書の執筆を開始し、文献の示し方などを学ぶ。
23	報告書の執筆②	適切に結論に結びつけるために、先行研究を追加したり図表を工夫する方法を学ぶ。
24	報告書の執筆③	受講者間で執筆中の報告書を読み、建設的な議論をおこなう。
25	プレゼンテーション	発表会の流れについて学習し、その準備を行う。
26	成果報告①	直前の準備を行ったのち、発表会を実施する。
27	成果報告②	発表会を実施し、報告書を仕上げる。
28	まとめ	報告書を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の事前準備・議論後のフォローと、各自の課題への主体的な取り組みを求める。毎回の準備とフォローに要する時間は、4時間程度を必要とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。

【参考書】

授業中に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

報告書等の成果物（30%）、授業での報告内容・議論への参加（30%）、各自のテーマへの取り組み（40%）を基本に総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人の研究関心や問題意識を中心に据えた演習を展開し、柔軟に授業計画に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

本演習は対面実施であるが、状況によっては一部をオンラインで実施する可能性がある。受講者の関心や進捗状況によって、授業計画を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

The goal of this seminar is to acquire how to survey areas, societies, economic activities and local culture on the viewpoint of human geography. Students study how to conduct literature studies, analyze statistic data and fieldworks.

Each student writes a short research paper in a year, therefore additional work about four hours in a week is expected.

Grading will be decided according to the following weights:

Term-end research paper and other submissions: 30%

Presentations and Discussion in the class: 30%

Attitude towards each research: 40%

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
橋本 到
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7147」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1) 自主的な学習によって、フランスの現代やその礎となる文明・文化について理解を深め、物事を深く考える力を養う。
- 2) 「日本」や身の回りの問題を見直し、提言を発信する能力を身につける。

【到達目標】

- 1) 文化的・学術的な議論ができるようになる。
 - 2) 情報検索・収集・整理を持続的・効率性に行えるようになる。
 - 3) 物事を幅広く柔軟に考え、適切に分析・洞察できるようになる。
- それらを発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

輪読発表、グループ研究、個人研究、レクチャーを組み合わせます。輪読発表、グループ発表とも年度初頭の計画に基づき行うが、その準備が各自の課題になる。それぞれの発表はその場で相互評価の方法も取り入れ、改善点など指摘し、あわせて、授業外でも個人研究を進められるよう面談を行い一人一人の捗状況に合わせた指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの場を作る。ゼミの進め方の確認など。	自己紹介、ガイダンス、グループ決め、輪読アナウンス1班、毎回報告1
第2回	興味を広げる、フランスについて知る。グループ内で発想を出し合う。	輪読（アナウンス2班+発表1班）、レクチャー1、毎回報告2、グループ研究1
第3回	興味を広げる、。論文の書かれ方について知る。グループで作業分担などを決める。	輪読（アナウンス3班+発表2班）、論文講読1、毎回報告3、グループ研究2
第4回	興味を広げる。グループでリサーチする（1）。	輪読（アナウンス4班+発表3班）、グループ研究3、毎回報告4
第5回	興味を広げる。プレゼンについて考える。グループでリサーチする（2）。	輪読（アナウンス5班+発表4班）、毎回報告5、グループ研究4
第6回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス6班+発表5班）、論文講読2、毎回報告6
第7回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス1班+発表6班）、レクチャー2、毎回報告7
第8回	興味を広げる、フランスについて知る。グループでリサーチする（3）	輪読（アナウンス2班+発表1班）、毎回報告8、グループ研究5
第9回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス3班+発表2班）、レクチャー3、毎回報告9
第10回	フランスについて知る。グループでリサーチする（4）	輪読（アナウンス4班+発表3班）、レクチャー4、グループ研究6
第11回	探求した内容を発表する（1）	輪読（発表5班）、3年次発表1

第12回	探求した内容を発表する（2）	3年次発表2、4年次発表1
第13回	興味を広げる、探求した内容を発表する（3）	4年次発表2、毎回報告10
第14回	興味を広げる、グループ研究の途中経過を完成に近づける（1）	毎回報告11、グループ研究・第1回プレゼン・リハーサル
第15回	フランスについて知る、グループ研究を完成させる1	ガイダンス、レクチャー5、輪読（アナウンス1班）、グループ研究発表（1班～5班）
第16回	フランスについて知る、卒論にむけた準備（4年）1	輪読（アナウンス2班+発表1班）、毎回報告12、4年次卒論中間発表1
第17回	グループ研究を完成させる2	輪読（アナウンス3班+発表2班）、毎回報告13、グループ研究7
第18回	卒論にむけた準備（4年）2、グループ研究を完成させる3	輪読（アナウンス4班+発表3班）、4年次卒論中間発表2、毎回報告14、グループ研究8
第19回	卒論にむけた準備（4年）3、グループ研究を完成させる3	輪読（アナウンス5班+発表4班）毎回報告19、4年次卒論中間発表3
第20回	興味を広げる、フランスについて知る、グループ研究を完成させる4	輪読（アナウンス1班+発表5班）、レクチャー6、毎回報告16、グループ研究9（発表先発組・オープンゼミ）
第21回	学年末に向けたまとめの準備1、グループ研究を完成させる5	輪読（アナウンス2班+発表1班）、毎回報告17、グループ研究10（発表後発組・オープンゼミ）、1次応募選考
第22回	学年末に向けたまとめの準備2	輪読（アナウンス3班+発表2班）、3年次発表1、毎回報告18
第23回	学年末に向けたまとめの準備3	輪読（アナウンス4班+発表3班）、3年次発表2、毎回報告19
第24回	興味を広げる、フランスについて知る。学年末に向けたまとめの準備4	輪読（アナウンス5班+発表4班）、3年次発表4、毎回報告20
第25回	面接の举措などの学び——次年度の入ゼミ生を面接する	2018年度、2次応募者選考作業
第26回	集めた情報を論文として構成する（2年）1。	輪読（発表5）、レクチャー7、毎回発表21、2年次発表1。
第27回	集めた情報を論文としてまとめる（2年）2	2年次発表2
第28回	映像を通してフランスを知る。	毎回報告22、フランス映画視聴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

親睦行事、グループ作成における自主的なサブゼミ、合宿などが、必要に応じて行われます。また、卒業論文作成のための継続的な作業を行います。授業時間外の準備には標準的に4時間をかけてください。

【テキスト（教科書）】

授業で指示します。輪読で使うテキストは、ゼミ生が班ごとに選書し、教員の了承を得たものとします。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 一) 個人研究の第二回発表と進級（学年末）論文 65 %
 - 二) 平常点 35 %（毎回報告・輪読など各種発表 20 % ゼミにおける討論への参加度・コメント執筆 10 % ゼミへの貢献 5 %）
- ※4年生については、卒論100 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

輪読ディスカッション後に課題となっているコメントですが、まとめ書きするゼミ生が見受けられました。書かないよりはよいのですが、なるべく授業の印象が残っているうちに書いてください。他の方の発表を他人事と思わず、そこから自分の学習に役立つものを探してください。

【学生が準備すべき機器他】

個人でパソコンやタブレット端末が持ち込める人は、ゼミの時間内に活用してもらいたい。

【その他の重要事項】

ゼミの場が活性化されるかどうかは、ゼミ生の自発的な活動にかかっています。ゼミという場を考えて、適切に行動し、ゼミを盛り上げてもらいたいと思います。ゼミ内の連絡事項は、グループウェアである**LINEBAND**を通じて行います。また、ゼミからの連絡には目を通し、必要に応じて適宜返事をしてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to deepen the understanding of modern France and to develop different capacities (discussion, suggestions, dissemination) for different issues.

The objective of this class is to cultivate the ability to think and present ideas, and to submit a graduation thesis accordingly.

— Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about 4 hours for a class.

— Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Mid-term report+term-end report (65%), Usual performance score (35%) ※Grades of 4th grade are evaluated only by the graduation thesis (100%)

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
馬場 敏幸
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7148」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会では、課題に対し、自分で情報を集め、アイデアを生み出し、まとめ、表現する能力が必要となります。その際チーム行動を取れることも重要です。本ゼミでは、主体的にそれらを行えることを目指し、実践訓練を通じ学びます。

先生の研究テーマはアジア経済、開発経済論、科学技術論などですが、ゼミでは学生の自主性を尊び、様々なテーマを取り扱うことが可能です。

【到達目標】

各自が自らで考え、企画し、調べ、まとめ、発表する。そうした一連のプロジェクトの流れを体得し、リーダーとして引っ張っていきえるようになって欲しい。また、一歩踏み出す勇気を手にして欲しい。こうしたグループワーク、研究実行、発表までを各人が主体的に行うことができるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

基礎知識の習得では講義を行います。2-3年生は学んだ基礎知識や研究手法を活用してグループに別れ、それぞれ調査・研究を行います。各グループでは調査・研究結果をまとめ、プレゼンテーションを行います。研究成果はゼミ大会などで発表していきたいと考えています。4年生はそれまで学んだ経験・手法・知識を総動員して自主的に卒業論文作成に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎知識の習得 1	講義の前半では、話題書や学問書の輪読を通じて知識習得、まとめ、発表の基礎的能力を身につけます。得た知識を元に、シンポジウム、ディベートなども行います。2年生各1～2名に対し、3年生各1名をメンターとして指名し、調査・研究活動などのノウハウを伝授します。 習得を目指す能力：情報検索法、アイデア発想法、アイデア収束法、論理的思考法、レジュメ作成法、論文作成法、プレゼンテーション法など
2	基礎知識の習得 2	基礎知識習得
3	基礎知識の習得 3	基礎知識習得
4	研究活動初期 1	各グループが決めた内容をプレゼン準備・発表まで行う
5	研究活動初期 2	研究継続
6	研究活動初期 3	研究継続
7	研究活動初期 4	研究継続
8	研究活動初期 5	研究継続
9	研究活動初期 6	研究継続
10	研究活動初期 7	研究継続

11	研究活動初期 8	研究継続
12	研究活動初期 9	研究継続
13	研究活動初期 10	研究継続
14	前期総括	前期の総括と夏休みの課題
15	研究論文の執筆 1	夏休み終了まで研究した内容を論文にまとめます
16	研究論文の執筆 2	研究論文執筆継続
17	研究論文の執筆 3	研究論文執筆継続
18	研究発表準備 1	研究論文の内容に基づき発表資料を作成します
19	研究発表準備 2	研究論文の内容に基づき発表資料を作成します
20	研究発表準備 3	研究論文の内容に基づき発表資料を作成します
21	発表検討 1	各グループの発表を相互に検討しあいます
22	発表検討 2	各グループの発表を相互に検討しあいます
23	発表検討 3	各グループの発表を相互に検討しあいます
24	研究資料完成 1	発表資料を完成させます
25	研究資料完成 2	発表資料を完成させます
26	研究報告 1	研究報告を行います
27	研究報告 2	研究報告を行います
28	卒業論文報告会	卒業論文報告会を開催します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自主研究の推進。本授業の事前学習は5時間、事後学習5時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適時指示

【参考書】

適時指示

【成績評価の方法と基準】

受講態度、講義の中での発表、課題への取り組み態度や内容などを勘案して評価を行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

前期のグループ分けリサーチについて、昨年は前期は進行が遅滞がち、夏休みでの停滞、などもあった。今回は前期のリサーチペースをもう少し前倒ししたい。

【その他の重要事項】

4年次に卒論を書く気がない2～3年は受講しないでください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn how to research, do presentation in group work. As outside studies, I hope two hours before classroom and two hours after classroom. Grading is based on daily attitude (40%) and presentation tests (60%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
平瀬 友樹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7151」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、RやPythonを用いたデータ解析についてのスキルを身につけることにある。

【到達目標】

グループまたは個人での専門論文執筆を通して、思考能力および専門知識を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には対面形式で行うが、最大7回まで支援システムからの動画配信によるオンライン形式にすることがある。講義内のアナウンスおよび支援システムのお知らせ欄の指示にしたがうこと。なお、課題に対するフィードバックが必要な場合に支援システムの登録アドレスへ直接送るので、PCからのメールを受け取れるように準備しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	自己紹介およびグループ分け
2	グループ・ディスカッション	グループ・ディスカッションをやってみよう
3	ディベート	ディベートとグループ・ディスカッションの違いについて
4	プレゼン	プレゼンをしてみよう
5	文章講座	論文やレポートの書き方について
6	回帰分析とは何か	回帰分析の理論とPCの操作について
7	t検定について	t検定の考え方と応用
8	重回帰分析	重回帰分析をしてみよう
9	先行研究	重回帰分析を使った先行研究を読んでみよう
10	重回帰分析の応用	多重共線性など注意すべき問題について
11	その他の統計学的分析	因果関係の分析へ
12	演習	グループ別での執筆活動
13	夏休みの計画	後期の懸賞論文に向けて・計画作り
14	総復習	前期の振り返り
15	はじめに	後期の進め方について
16	プログラミングとは何か	Rを使ってみよう
17	Rによる分析の実際	Rを使って前期の復習
18	PCを使った統計分析	Pythonの操作方法を覚えよう
19	より高度な統計分析に向けて	RとPythonの違いを理解しよう
20	ロジスティック回帰分析とその応用	ダミー変数を被説明変数にした場合

21	傾向スコアを用いた分析	コードを実際にかいてみよう
22	マッチング、傾向スコア、そしてIPW推定	複雑なコードを読めるようになろう
23	パネルデータ分析	個別効果と変量効果
24	より高度な分析について	DiD分析、サバイバル分析、そして操作変数法
25	時系列データ分析の基礎	系列相関について
26	時系列データ分析の応用	VARモデルについて
27	研究テーマの決定	懸賞論文に向けての準備
28	総復習	振り返りと今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題について締め切りは厳守。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

追って指示する。

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(50%)および課題の成果(50%)によって評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特に指摘はない

【学生が準備すべき機器他】

各自でwindowsパソコンを準備すること。

【その他の重要事項】

長期休みには補習として二週間に1本程度の割合で動画配信を行っている。

【Outline (in English)】

The aim of this course introduces the fundamentals of data science to the students. In detail, this course is to help students acquire basic skills for data analysis with R or Python. Grading Criteria is following; Class Performance 50% and Report Assignment 50%. In addition, Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
廣川 みどり
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7152」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の考え方を習得する。どのような問題があるのか、どのようにそれを考えたらよいのか。輪読、議論を通し、理論をしっかり修得し、それを応用する能力を身につける。

【到達目標】

各自が自分で考えるべき問題を見つけ、その解決に対処できるようにする。経済学の考え方を身につけ、その視点から問題をながめ、既存の文献やデータに依拠しつつ、問題解決についての自分の結論を出せるようにする。4年の終わりに「経済学部を卒業しました」と明るく言える人材となることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

(i)テキストの輪読と、(ii)ゼミ論・卒論を目指し必要なツールの修得を行うと共に、(iii)効果的なプレゼンの技術やディベートの方法を学ぶ。基本的には対面の授業とするが、コロナ等の状況を勘案しつつ、適宜オンライン授業を組み込む。また、それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題については、授業時間中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学と自分との関わり、日経新聞の読み方
2	演習	今年度のテーマの選定、各人の研究テーマの見つけ方
3	演習	研究テーマを形にする方法、文献の取り扱い
4	演習	ミニ報告と輪読(1)
5	演習	ミニ報告と輪読(2)
6	演習	ミニ報告と輪読(3)
7	演習	ミニ報告と輪読(4)
8	演習	効果的なプレゼンを考える
9	演習	ミニ報告と輪読(5)
10	演習	ミニ報告と輪読(6)
11	演習	ミニ報告と輪読(7)
12	演習	ミニ報告と輪読(8)
13	演習	ミニ報告からレポート・論文へのつなげ方
14	春学期のまとめ	春学期の内容の総括と夏合宿の課題の選定
1	イントロダクション	春学期の内容の復習と秋学期の方向性の確認
2	演習	輪読およびレポート作成・報告(1)
3	演習	輪読およびレポート作成・報告(2)
4	演習	輪読およびレポート作成・報告(3)
5	演習	輪読およびレポート作成・報告(4)
6	演習	ゼミ論・卒論執筆中間報告(1)、研究テーマの軌道修正
7	演習	ディベートの方法、材料集め
8	演習	ディベートとその振り返り
9	演習	輪読およびレポート作成・報告(5)
10	演習	輪読およびレポート作成・報告(6)

11	演習	輪読およびレポート作成・報告(7)
12	演習	輪読およびレポート作成・報告(8)
13	演習	ゼミ論・卒論執筆中間報告(2)、および論文の仕上げ方について
14	年間内容のまとめ	年間内容の総括と春合宿の課題の選定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、一回につき各8時間を標準とする。

・春学期

第14回：(1) サブゼミ参加とその準備（1.5時間）、(2) ゼミ報告の準備（1.5時間）、(3) 日経新聞を読む、または経済の読み物に親しむ（3.5時間＝1日30分*7日）

ゼミ合宿参加：2泊3日（準備も含め21時間、各回換算で1.5時間）

・秋学期

第14回：(1) サブゼミ参加とその準備（1.5時間）、(2) ゼミ報告の準備、ゼミ論執筆（3時間）、(3) 日経新聞を読む、または経済の読み物に親しむ（2時間＝1日15分20分*7日）((2)と(3)の時間配分はゼミ論・卒論の進捗度合いによる)

ゼミ合宿参加：2泊3日（準備も含め21時間、各回換算で1.5時間）

【テキスト（教科書）】

開始時に指示する。

【参考書】

各人の知識、理解、興味に応じて適宜指示していく。また、新聞記事も適宜取り上げる。

【成績評価の方法と基準】

平常点。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

(1) 学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料の配布を行うため、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録を済ませること。課題の提出もこちらで受けつけることとなる。

(2) PDFの閲覧とWordを使えるように準備すること。また今後の課題の中には、グラフや図を紙に描いて写真に撮ってWordに貼り付けて提出という形も想定している。

(3) 状況によっては、zoomを通じてのリアルタイムのやりとりもありうるため、アプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】

演習の時間以外に、合宿、サブゼミへの参加も全て求められるため、注意してほしい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic idea of Economics and ability of their application. By the end of this course, students should be able to

- (1) understand the way of thinking in Economics,
- (2) develop academic skills, and
- (3) find his/her own theme and analyze further.

Before/after each class, students will be expected to spend eight hours for preparation and review. Final grade will be determined by class contribution(100%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
濱秋 純哉、青野 幸平
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7153」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の考え方やデータ分析の手法を身に付ける。

【到達目標】

- ①経済学、統計学、計量経済学の基礎的な知識を身に付ける。
- ②関心のある社会問題について、仮説検証型のデータ分析を行う。
- ③自分の意見や分析結果を分かりやすくプレゼンテーションする。
- ④他人の発表に建設的なコメントや質問を行ったり、議論したりする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」
「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」
「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・マイクロ経済学、及び経済データを分析する際に用いる統計学・計量経済学について、輪読を通じて理解を深める。
- ・他大学とのインゼミに向けた論文の作成や、各人の関心のあるトピックについて分析を行うことを通じて、データを用いた仮説検証の方法を学ぶ。
- ・各人が関心のあるニュースや新聞記事について、他のゼミ生の前で発表し、ディベート形式で議論し理解を深める。
- ・長期休暇中に課題が課され、休暇明けにその理解度を確認する。理解の確認時には、よくある間違いの例を示したりしてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの内容、進め方、今年度のスケジュールの決定
2	統計学とデータ分析	母集団と標本
3	統計学とデータ分析	統計的推論
4	統計学とデータ分析	相関係数と因果関係
5	統計学とデータ分析	「確率」とは
6	統計学とデータ分析	期待値と平均
7	統計学とデータ分析	分散と標準偏差
8	統計学とデータ分析	確率変数の独立性
9	統計学とデータ分析	正規分布、カイ二乗分布、t分布、F分布
10	統計学とデータ分析	大数の法則と中心極限定理
11	計量経済学とデータ分析①	単回帰分析
12	計量経済学とデータ分析②	最小二乗法
13	計量経済学とデータ分析③	重回帰分析

14	計量経済学とデータ分析④	重回帰分析の応用
15	計量経済学とデータ分析⑤	推測統計の基礎(1)
16	計量経済学とデータ分析⑥	推測統計の基礎(2)
17	計量経済学とデータ分析⑦	外生変数と内生変数
18	計量経済学とデータ分析⑧	応用的な計量分析(1)
19	計量経済学とデータ分析⑨	応用的な計量分析(2)
20	マイクロ経済学①	マイクロ経済学の基本解説
21	マイクロ経済学②	需要と供給の基本原理解
22	マイクロ経済学③	消費者行動
23	マイクロ経済学④	個別需要と市場需要
24	マイクロ経済学⑤	不確実性と消費者行動
25	マイクロ経済学⑥	生産・生産費用
26	マイクロ経済学⑦	利潤最大化と競争市場における供給
27	マイクロ経済学⑧	競争市場の分析
28	マイクロ経済学⑨	市場支配力を持つ企業の価格戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの輪読に際しては、予習と復習を欠かさずに行うこと。予習では疑問点を明確にし、ゼミでその点を質問できるように準備すること。
- ・新聞やニュースに関心を持ち、報道されている内容について経済学に基づいて考える習慣を付けること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・星野匡郎・田中久稔・北川梨津『Rによる実証分析〔第2版〕―重回帰分析から因果分析へ―』、オーム社。

【参考書】

- ・西森晃『これから経済学をまなぶ人のための数学基礎レッスン』、日本経済評論社。
- ・神取道宏『マイクロ経済学の力』、日本評論社。
- ・八田達夫『マイクロ経済学Ⅰ、Ⅱ』、東洋経済新報社。
- ・N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰマイクロ編（第4版）』、東洋経済新報社。
- ・ピンダイク&ルビンフェルド『マイクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』、中経出版。
- ・スティーブン・レヴィット他『レヴィット ミクロ経済学基礎編』、東洋経済新報社。
- ・ダロン・アセモグル、デヴィッド・レイブソン、ジョン・リスト『ALL ミクロ経済学』岩本康志（監訳）・岩本千晴（訳）、東洋経済新報社。
- ・N・グレゴリー・マンキュー『マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ（第3版）』、東洋経済新報社。
- ・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』、有斐閣。
- ・伊藤隆敏『公共政策入門 ミクロ経済学的アプローチ』、日本評論社。
- ・吉田耕作『直感的統計学』、日経BP社。
- ・東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』、東京大学出版会。
- ・田中隆一『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』、有斐閣。
- ・畑農鋭矢・水落正明『データ分析をマスターする12のレッスン』、有斐閣アルマ。
- ・浅野正彦・中村公亮『はじめてのRStudio－エラーメッセージなんかこわくない－』、オーム社。
- ・濱田悦生著・狩野裕編『データサイエンスの基礎』、講談社。

【成績評価の方法と基準】

長期休暇（春休み、夏休み、冬休み）に出される課題（30%）、平常点（課題の提出状況、発表内容、議論への参加、他大学とのインゼミや論文への貢献等）70%による。4年生は卒論の進捗状況の報告や論文の完成度による。

【学生の意見等からの気づき】

過去にゼミで輪読したテキストが難しいという意見があったので、テキストをより分かりやすいものへと変更し、基礎から応用まで段階を踏んで学習できるよう留意している。

【学生が準備すべき機器他】

テキストの輪読やデータ分析を行う際に、ノートパソコンが必要となる。

【その他の重要事項】

メール（メーリングリスト）で重要な連絡を行うことがあるので、メールチェックを欠かさないこと。

【Outline (in English)】

Course outline

Students will learn the concepts of economics and the methodology of a data analysis.

Learning objectives

- (i) Acquire basic knowledge of economics, statistics and econometrics,
- (ii) Conduct data analysis on any social and economic problems,
- (iii) Explain own opinions and the results from data analysis in a way that is easy to understand, and
- (iv) Make constructive comments and ask questions on other people's presentations.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria /policy

Final grade will be decided based on the following:

Examinations: 50%, Homework assignments and in-class contributions: 50%. For fourth-year students, the final grade is solely based on their thesis.

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
伊藤 健彦
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7154」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学の観点から調査や統計を通して各自の興味あるテーマを研究する。そして、英語コミュニケーションを通してグローバル社会で活躍するためのスキルを身につける。また、ゼミ関連イベントを通して企画力・実践力を養う。

【到達目標】

- 1) 調査や統計を通して社会心理学に関する論文を英語で書けるようになる。
- 2) 英語でプレゼンテーションやディスカッションが出来るようになる。
- 3) イベントの企画から実施までを自立して行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

2年生：社会心理学・英語・統計の基本をテキストを用いて身につける。進級テストあり。

3年生：研究計画を立て、調査を実施し、データを分析する。進級論文の作成あり。

4年生：各自興味のあるテーマについて英語で卒業論文を執筆する。授業では英語でのプレゼンテーション・ディスカッション・グループワークを適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容説明。
2	Social Psychology Basics	社会心理学の基本を学ぶ。
3	Survey Basics	調査の基本を学ぶ。
4	Statistics Basics	統計の基本を学ぶ。
5	Statistical Analysis (1)	与えられたデータをもとに統計分析を行う。
6	Statistical Analysis (2)	与えられたデータをもとに統計分析を行う。
7	Presentation Basics	英語でのプレゼンテーションの方法を学ぶ。
8	Discussion Basics	英語でのディスカッションの方法を学ぶ。
9	Presentation (1)	自ら分析したデータのプレゼンテーションを行う。
10	Presentation (2)	自ら分析したデータのプレゼンテーションを行う。
11	Writing Basics	英語での論文の書き方を学ぶ。
12	Writing an Outline	自らプレゼンテーションした内容の論文アウトラインを作成する。
13	Writing a Paper	自らプレゼンテーションした内容の英語論文を作成する。
14	Presenting a Paper	作成した論文を英語で発表する。
15	Summary of Basics	前期に学んだこととおさらいする。

16	Literature Review	各自興味のあるテーマについて文献を調査する。
17	Research Proposal	各自興味のあるテーマの研究計画を立てる。
18	Proposal Discussion (1)	各自の研究計画を発表し、英語でのディスカッションを行う。
19	Proposal Discussion (2)	各自の研究計画を発表し、英語でのディスカッションを行う。
20	Survey Preparation	研究調査の実施準備を行う。
21	Conducting Survey	研究調査を行う。
22	Data Analysis	調査データを分析する。
23	Data Discussion (1)	データ分析をもとに発表を行い、英語でのディスカッションを行う。
24	Data Discussion (2)	データ分析をもとに発表を行い、英語でのディスカッションを行う。
25	Writing an Outline	研究発表をもとに、論文のアウトラインを作成する。
26	Writing a Paper	アウトラインをもとに英語で論文を執筆する。
27	Presenting a Paper	作成した論文を英語で発表する。
28	Summary	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にアップロードされる授業資料の予習に最低2時間かける。

授業後に出された課題は最低2時間かける。

ゼミ合宿など、ゼミ関連のイベントは参加必須。

【テキスト（教科書）】

『グラフィック社会心理学 第3版』 池上知子・遠藤由美 サイエンス社 2024年

『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』 小宮あすか・布井雅人 講談社 2018年

【参考書】

『APA論文作成マニュアル 第2版』 アメリカ心理学会 医学書院

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンテーション・ディスカッション・グループワーク 40%
研究論文 30%

ゼミ関連イベント企画 30%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【その他の重要事項】

以下の資格について、常に受験準備をしておくこと：

・TOEIC公開テスト

・ビジネス統計スペシャリスト

【Outline (in English)】

The purpose of the course is for students to learn social psychological themes through surveys and statistical analysis. Students will develop the ability to communicate effectively in English, as well as acquire the skills needed to plan and execute events related to the seminars. The goal of the course is to bring students to a level where they are able to write a social psychology paper in English. This will involve incorporating survey and statistical analysis, presenting the finding and discussing it in English, and independently planning and conducting an event. Students are expected to spend at least two hours studying before each class and carry out their own research for an additional two hours after class. Attendance at all seminar-related events, such as seminar camps, is mandatory. The grading criteria are based on 40% presentation, discussion, and group work in the classroom; 30% research paper; and 30% seminar-related events.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
古澤 直人
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7155」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本史研究を学ぶ。方法としては、史料から事実を復元する訓練を繰り返す。そして、根拠に基づいた議論を展開できるようにする。さらに、アカデミックライティングを学ぶ。

【到達目標】

史料を読む学問的な手続きを学ぶ。研究史を理解する。①問題設定、②研究史整理、③論証、④結論という論の立て方を学ぶ。①～④の各プロセスでの日本史研究の力量を一定水準以上にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

はじめに基本的な学問の方法論を学ぶ。次に、各人のレポートの構想を吟味する。関係史料を持ち寄って精読する。それを報告という形に構成してプレゼンテーションをする。関連論文を読む。関連論文も同様の吟味を行う。さらに、関係史料を集め、その読みを訓練する。修正した報告を行う。使用史料を再吟味する。最終報告に仕上げる。提出課題についてはその都度採点のうえ必要に応じてコメントを付けてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	今年のゼミの紹介と研究法について	論文の書き方、歴史の調べ方
2	レポート構想報告1	研究史・問題関心・章立て1
3	レポート構想報告2	研究史・問題関心・章立て2
4	レポート構想報告3	研究史・問題関心・章立て3
5	レポート関係史料を読む1.1	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を1～2点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
6	レポート関係史料を読む1.2	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を1～2点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
7	レポート関係史料を読む1.3	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を1～2点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
8	レポート関係論文を読む1.1	自分の報告に関する代表的な論文を1点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
9	レポート関係論文を読む1.2	自分の報告に関する代表的な論文を1点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
10	レポート関係論文を読む1.3	自分の報告に関する代表的な論文を1点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
11	レポート中間報告1.1	レポート作成作業の提示と修正1
12	レポート中間報告1.2	レポート作成作業の提示と修正2
13	レポート中間報告1.3	レポート作成作業の提示と修正3
14	卒業論文中間報告	卒業論文中間報告
15	歴史学会の現状	春学期・夏休みまでの成果の提示
16	レポート第2回中間報告2.1	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示1
17	レポート第2回中間報告2.2	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示2

18	レポート第2回中間報告2.3	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示3
19	レポート関係史料を読む2.1	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を2～3点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
20	レポート関係史料を読む2.2	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を2～3点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
21	レポート関係史料を読む2.3	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を2～3点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
22	レポート関係論文を読む2.1	自分の報告に関する代表的な論文を1点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
23	レポート関係論文を読む2.2	自分の報告に関する代表的な論文を1点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
24	レポート関係論文を読む2.3	自分の報告に関する代表的な論文を1点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
25	レポート最終報告1	完成したレポートの報告1。
26	レポート最終報告2	完成したレポートの報告2
27	レポート最終報告3	完成したレポートの報告4
28	卒業論文報告	完成した卒業論文の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミメンバー全員があらかじめ報告者の史料に目を通す。授業の担当報告者のレジュメにそって授業で示された応答や論点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

【参考書】

小笠原喜康『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

日常的な報告や報告に対するコメント等の評価が80%で、最終報告および進級レポートを20%として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の議論が成立するように授業を構成したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、windowsパソコン（学生への貸与の制度もあります）

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で高校教科書を自習してほしい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn Japanese history research. The goal of this course is to develop evidence-based discussions, learn academic writing, and understand research history. Before/after each class meeting student will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(80%),term-end examination(20%).

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
JAY M TANAKA
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7156」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of the seminar is to improve students' critical thinking and English language skills through the analysis of social issues. In addition, students will gain skills and knowledge related to academic presentation, writing, and research methods.

【到達目標】

Students will analyze comments on social media to critically think about problems in society, utilizing their English and thinking skills to carry out and document the research process.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students will learn about the theories and principles of critical thinking, and basic concepts common in social issues. This knowledge will be used for researching comments on social media. Feedback on course assignments will primarily be given through classroom discussions in-person and on Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Self introductions group discussions Critical thinking principles
2	Applied critical thinking	Data analysis Group discussions Qualitative content analysis
3	Reflection on research process	Viewing sample presentations Reading sample paper
4	Project Topic 1 (decided in class)	Group discussions Data collection
5	Project Topic 1 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
6	Project Topic 1 (decided in class)	Group discussions Coding framework restructuring Dependability testing
7	Project Topic 1 (decided in class)	Presentations
8	Project Topic 2 (decided in class)	Group discussions Data collection
9	Project Topic 2 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
10	Project Topic 2 (decided in class)	Presentations

11	Project Topic 3 (decided in class)	Group discussions Data collection
12	Project Topic 3 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
13	Project Topic 3 (decided in class)	Presentations
14	Review of methods	Group discussions Reflection writing
15	Individual/Group Project introduction Review of Critical thinking principles	Group discussions Reflection writing
16	Review of Applied critical thinking Qualitative content analysis	Student Presentations Workshops
17	Workshop Project	Group discussions Slide writing
18	Workshop Project	Group discussions Presentation rehearsal
19	Project Topic 4 (decided in class)	Group discussions Data collection
20	Project Topic 4 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
21	Project Topic 4 (decided in class)	Presentations
22	Project Topic 5 (decided in class)	Group discussions Data collection
23	Project Topic 5 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
24	Project Topic 5 (decided in class)	Presentations
25	Project Topic 6 (decided in class)	Group discussions Data collection
26	Project Topic 6 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
27	Project Topic 6 (decided in class)	Presentations
28	Course Review	Group discussions Reflection writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly preparation and project work (2 hours).
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

All course materials will be given in class.

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Project work, possible field trips, and presentations - 50%
Classwork/Homework assignments - 25%
Participation - 25%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook computer to every class (Chromebook or device with keyboard is also fine).

【Outline (in English)】

The purpose of the seminar is to improve students' critical thinking and English language skills through the analysis of social issues. In addition, students will gain skills and knowledge related to academic presentation, writing, and research methods.

Students will engage in data collection and preparation for presentations and reports given at academic events outside of class. There will also be opportunities for studying sustainable development goals at outside universities.

Grading will be determined by the quality of written assignments, academic presentation performance, and the level of engagement and participation in learning activities.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
松波 淳也
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7158」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学についての基本的な知識を習得し、研究発表、卒業論文作成の準備を行う。

【到達目標】

環境経済学の基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法や研究発表の方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面講義で進める。主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストおよび研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する。フィードバックは、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第2回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第3回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第4回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第5回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第6回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第7回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第8回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第9回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第10回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第11回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第12回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第13回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	まとめ	まとめ
第15回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究に基づき、研究テーマを確認する
第16回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第17回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第18回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第19回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第20回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第21回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第22回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第23回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第24回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第25回	先行研究の輪読⑩	先行研究（応用研究）の輪読
第26回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第27回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第28回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含義）についてレジュメにする。自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

青木淳一・一ノ瀬大輔・小林宏充（2024）：『環境学入門—法学・経済学・自然科学から学ぶ』、慶應義塾大学出版会。

【参考書】

時政島・藪田雅弘・今泉博国・有吉範敏、『環境と資源の経済学』、勁草書房、2007年

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Acquire basic knowledge about environmental economics and prepare for research presentations and graduation thesis writing. Foster awareness of problems and acquire analytical techniques through reading and reporting on basic literature on environmental economics. Students will also learn how to search for papers, how to write papers, and how to present research.Face-to-face lectures (hybrid). Mainly practice method. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In order to acquire basic knowledge related to the research theme, read standard texts and representative research papers on the research theme. Feedback will be given online via Zoom, email, etc. Write a resume on the problem awareness, analytical methods, and results (discoveries and implications) of standard texts and basic literature. Create a research note about your own problem awareness and analysis method.Normal score 100%. Comprehensive evaluation of presentation and its preparation, term paper (if required) (appropriateness of literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, own awareness of problems and appropriateness of analytical methods) .The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
宮崎 憲治
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7159」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミの目的は、学生が経済学を用いて日常生活を説明し、社会人基礎力を身に付け、自分の適性にあった仕事をみつけれられるようになることである。

【到達目標】

企業が要求する基礎能力（読み・書き・プレゼン等）を向上させるだけでなく、就職活動中の面接で、経済学部生として経済学をしっかり勉強したと自信をもっていえるように訓育したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

そのために、経済学部生の学生がゼミナール活動で経済学の基本知識を獲得し、グループワークを通じてプレゼン能力、文章表現能力、ディベート能力を向上させるよう指導したい。具体的に、経済学の教科書をもちいて「学生」が順番に講義する。今年度、マクロ経済学の教科書を用いる。また、各グループが興味を持った課題について講義する。今年は、論文の書き方、コミュニケーション能力、疑似科学などである。文章力向上のため、2年生は個人のテーマについて進級論文を、3年生はグループ論文を、4年生は卒業論文を執筆する。他にも、2、3年生は、インゼミ大会ディベート部門およびプレゼンテーション部門に出場する。就職活動対策として、4年生が3年生に対して模擬面接を実施する。更に春休みと夏休みにゼミ合宿を実施する。フィードバックとして前期2回、後期2回の理解度テストを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ディベート技術	ディベート技術について講義する
第2回	ミクロ経済学（1）	ミクロ経済学について講義する。消費者の理論
第3回	ミクロ経済学（2）	ミクロ経済学について講義する。企業の理論
第4回	ミクロ経済学（3）	ミクロ経済学について講義する。部分均衡理論
第5回	ミクロ経済学（4）	ミクロ経済学について講義する。一般均衡理論
第6回	ミクロ経済学（5）	ミクロ経済学について講義する。情報の非対称性
第7回	ミクロ経済学（6）	ミクロ経済学について講義する。ゲーム理論
第8回	論文の書き方	論文の書き方について講義する
第9回	論文の書き方	論文の書き方について講義する
第10回	コミュニケーション能力（1）	コミュニケーション能力について講義する。話し方
第11回	コミュニケーション能力（2）	コミュニケーション能力について講義する。聞き方
第12回	グループ論文中間報告（1）	3年生の3分の1がグループ論文の中間報告をする

第13回	グループ論文中間報告（2）	3年生の次の3分の1がグループ論文の中間報告をする
第14回	グループ論文中間報告（3）	3年生の最後の3分の1がグループ論文の中間報告をする
第15回	卒論中間報告	4年生が卒論の中間報告をする
第16回	進級論文中間報告（1）	2年生の3分の1が進級論文の中間報告をする
第17回	進級論文中間報告（2）	次の2年生の3分の1が進級論文の中間報告をする。
第18回	進級論文中間報告（3）	最後の2年生が進級論文の中間報告をする
第19回	マクロ経済学（1）	マクロ経済学について講義する。消費関数
第20回	マクロ経済学（2）	マクロ経済学について講義する。投資関数
第21回	マクロ経済学（3）	マクロ経済学について講義する。45度分析
第22回	マクロ経済学（4）	マクロ経済学について講義する。ISLM分析
第23回	マクロ経済学（5）	マクロ経済学について講義する。ADAS分析
第24回	マクロ経済学（6）	マクロ経済学について講義する。成長理論
第25回	就職活動セミナー	OBOGを招いてセミナーを開く
第26回	インゼミ大会準備（1）	インゼミ大会に備えディベートの準備をする
第27回	インゼミ大会準備（2）	インゼミ大会に備え3年生の3分の1がプレゼンの準備をする
第28回	インゼミ大会準備（3）	インゼミ大会に備え3年生の次の3分の1がプレゼンの準備をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指定する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ生を3つのグループに分けて互いに競わせる。最も成績がよいグループをS評価に、次のグループをA評価に、最後のグループをB評価にする。ゼミ活動を総合的に評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this seminar is to enable students to use economics to explain their daily lives, to acquire basic social skills, and to find a job that suits their aptitude.

(Learning Objectives)

In addition to improving the basic skills required by companies (reading, writing, presentation, etc.), this seminar wants to train students to be able to say with confidence that they have studied economics well as economics students during job interviews.

(Learning activities outside of classroom)

Read the textbook in advance. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Divide the seminar students into three groups and have them compete against each other. The group with the highest grade will receive an S grade, the next group will receive an A grade, and the last group will receive a B grade. Overall evaluation of the seminar activities (100%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
石 碩
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7160」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の歴史・社会・文化・文学について幅広く学び、各自が関心を持ったテーマについて調査・発表を行う。

【到達目標】

以下の2点を到達目標とする。

- ①中国の歴史・社会・文化・文学について基礎的な知識を身につけること
- ②自身の関心のある事柄をテーマとした上で、日本語もしくは中国語の文献を調査し、小論文の作成および口頭での発表ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期は主として課題や図書を決めたくてグループごとにプレゼンを行う。これと並行して自身で選択したテーマについて的小論文の作成を進める（夏休み中に仕上げて秋学期の初回授業までに提出）。秋学期は主として受講者が決めたテーマによる研究発表を行う。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	面談	・履修希望者との面談
第2回	ガイダンス	・春学期の授業の進め方について ・発表の順番を決める
第3回	文献の調べ方 レジュメの作り方	・文献の調べ方について ・レジュメの作り方について
第4回	テキストの輪読・発表①	・輪読 ・研究発表
第5回	テキストの輪読・発表②	・輪読 ・研究発表
第6回	テキストの輪読・発表③	・輪読 ・研究発表
第7回	テキストの輪読・発表④	・輪読 ・研究発表
第8回	テキストの輪読・発表⑤	・輪読 ・研究発表
第9回	テキストの輪読・発表⑥	・輪読 ・研究発表
第10回	テキストの輪読・発表⑦	・輪読 ・研究発表
第11回	テキストの輪読・発表⑧	・輪読 ・研究発表
第12回	小論文の書き方①	・小論文の書き方について ・小論文の添削
第13回	小論文の書き方②	・小論文の書き方について ・小論文の添削
第14回	春学期のまとめ	・春学期のまとめ ・夏課題について

第15回	ガイダンス	・秋学期の授業の進め方について ・発表の順番を決める
第16回	夏課題の合評①	・夏課題の合評を行う
第17回	夏課題の合評②	・夏課題の合評を行う
第18回	研究テーマを決める①	・発表のテーマを決める
第19回	研究テーマを決める②	・発表のテーマを決める
第20回	研究発表①	・研究発表を行う
第21回	研究発表②	・研究発表を行う
第22回	研究発表③	・研究発表を行う
第23回	研究発表④	・研究発表を行う
第24回	研究発表⑤	・研究発表を行う
第25回	研究発表⑥	・研究発表を行う
第26回	研究発表⑦	・研究発表を行う
第27回	研究発表⑧	・研究発表を行う
第28回	秋学期のまとめ	・春学期のまとめ ・来年度のテーマについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、テキストを精読し、分からない語句などについて調べる。担当者は発表の準備（レジュメ・PPTなど）をして来る。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間、合計8時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

湯浅邦弘『テーマで読み解く中国の文化』ミネルヴァ書房

【参考書】

教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題・発表：60%（プレゼン・論文の完成度および質疑応答への対応、指摘された内容の修正状況などを総合的に評価）
平常点：40%（ゼミ生の発表に対する質疑応答、討論などへの参加度などを総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】

学年を越えたグループワークと個人発表をバランスよく行いたい。

【その他の重要事項】

本演習とあわせて、中国語・中国文化関連科目を履修することが望ましい。
ただし、中国語の履修経験は必須ではない。

【Outline (in English)】

Students will study a wide range of Chinese history, society, culture, and literature, and will research and present on topics of their own interest. The objectives of the course are (1) to acquire basic knowledge of Chinese history, society, culture, and literature, and (2) to be able to research, write an essay, and give an oral presentation on a topic of interest to each student. Preparation and review time before and after class will be approximately 4 hours each. Evaluation will be based on 60% for assignments and presentations, and 40% for regular marks.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
富永 靖敬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7164」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、政治学方法論、また実証的な国際関係論（主に安全保障に関するテーマ）を体系的に学ぶことを通し、国際関係論に関する独自の学術研究を完成させることを目的とする。春学期には基本文献、海外ジャーナルを中心に輪読を行い、秋学期の前半では各自で選択したテーマについての先行研究の調査（発表）、また後半では個々の研究成果の発表を行う。

【到達目標】

単に興味のあるテーマについて調査した内容を発表するのではなく、政治的な現象についてパズルを見つけ、独自の仮説を立てた上で、質的・量的データを用いて実証する過程を通して、論理的かつ説得的に議論を展開できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者各自（またはグループ）の発表を中心に授業を進める。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。また4年次で履修する学生には、卒業論文作成のため、個別指導を中心にを行い、さらに、授業内で発表の機会を複数回設けることにより他学生・教員からのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と発表の順番の決定。
2	基本文献の輪読（1）	報告と議論
3	基本文献の輪読（2）	報告と議論
4	基本文献の輪読（3）	報告と議論
5	基本文献の輪読（4）	報告と議論
6	基本文献の輪読（5）	報告と議論
7	基本文献の輪読（6）	報告と議論
8	研究論文の輪読とテーマの選定（1）	報告と議論
9	研究論文の輪読とテーマの選定（2）	報告と議論
10	研究論文の輪読とテーマの選定（3）	報告と議論
11	研究論文の輪読とテーマの選定（4）	報告と議論
12	研究論文の輪読とテーマの選定（5）	報告と議論
13	研究論文の輪読とテーマの選定（6）	報告と議論
14	研究論文の輪読とテーマの選定（7）	報告と議論
15	イントロダクション	授業の進め方の説明と発表の順番の決定。
16	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
17	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。

18	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
19	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
20	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
21	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
22	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
23	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
24	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
25	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
26	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
27	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
28	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文の作成は長時間の作業が必要となるため、授業外の時間を有意義に使うことを期待する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年。
G・キング、R・O・コヘイン、S・ヴァーバ（真淵勝監訳）『社会科学のリサーチ・デザイン 定性的研究における科学的推論』勁草書房、2004年。
Friden, Jeffrey A., Lake, David A., and Schultz, Kenneth A. 2016. World Politics: Interests, Interactions, Institutions, Third Edition, New York: W.W.Norton & Company.

【成績評価の方法と基準】

輪読発表や各個人の研究発表など授業内での発表を60%、最終レポートを40%として成績評価を行う。4年生は100%卒業論文にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生主導でゼミ運営を行う。

【その他の重要事項】

発表しない者でも、担当者の発表に対して積極的にコメントして議論すること。ただし、問題点を指摘する場合には、改善方法も提示するなど、建設的な議論になるよう心懸けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course is an intensive workshop that aims to provide students with a solid understanding of the study of international relations with a particular focus on international security issues. Distinct from a lecture-based course, this class requires students to actively engage in collaborative work, discussion, and presentation.

【Learning Objectives】

Through detailing the cases, students are expected to learn why and how a particular political phenomenon occurs and to bring that knowledge to create generalized arguments. During the course, students also learn how to test those arguments through data analysis.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be roughly four hours for a class

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- ・ In-class presentation and contribution: 60%
- ・ Term-end report: 40%

(For a forth-year student, a grade will be decided based on a term-end report (100%))

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
湯前 祥二
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7166」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目標は次の2つです。(1)生活の道具として、金融工学を修めること。(2)研究および論文作成の手法を身につけること。いずれも、実社会での活動に直結しています。

【到達目標】

金融工学について理解し、実際の金融商品の価値を評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

金融工学は実際の学問です。(a)こみいった金融商品に値段をつけたり、(b)リスクを管理したり、(c)最も良い投資配分を考えたりします。最近では個人向けに、一見、魅力的な金融商品が多く登場していますが、金融工学の知識があれば、その中身を冷静に調べて、よしあしを判断することができます。

一方、論理的に考え、レポートにまとめ、人を納得させる技術は、実社会の企画書、報告書の作成、およびプレゼンテーションといった場面で必須です。

輪読、研究発表、討論、問題演習、実地見学を行います。ただし、参加者の意見を反映させます。

並行して、年度を通して、新聞記事を使って時事問題を討論します。この他、参加者の意見を聞いて、モンテカルロ法実習（プログラミング）等を取り扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	輪読①	金融工学の基礎を身につけます。
第2回	輪読②	金融工学の基礎を身につけます。
第3回	輪読③	金融工学の基礎を身につけます。
第4回	輪読④	金融工学の基礎を身につけます。
第5回	輪読⑤	金融工学の基礎を身につけます。
第6回	輪読⑥	金融工学の基礎を身につけます。
第7回	輪読⑦	金融工学の基礎を身につけます。
第8回	輪読⑧	金融工学の基礎を身につけます。
第9回	輪読⑨	金融工学の基礎を身につけます。
第10回	輪読⑩	金融工学の基礎を身につけます。
第11回	輪読⑪	金融工学の基礎を身につけます。
第12回	輪読⑫	金融工学の基礎を身につけます。
第13回	輪読⑬	金融工学の基礎を身につけます。
第14回	輪読⑭	金融工学の基礎を身につけます。
第15回	輪読、研究発表、問題演習①	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第16回	輪読、研究発表、問題演習②	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第17回	輪読、研究発表、問題演習③	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第18回	輪読、研究発表、問題演習④	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

第19回	輪読、研究発表、問題演習⑤	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第20回	輪読、研究発表、問題演習⑥	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第21回	輪読、研究発表、問題演習⑦	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第22回	輪読、研究発表、問題演習⑧	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第23回	輪読、研究発表、問題演習⑨	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第24回	輪読、研究発表、問題演習⑩	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第25回	輪読、研究発表、問題演習⑪	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第26回	輪読、研究発表、問題演習⑫	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第27回	輪読、研究発表、問題演習⑬	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第28回	輪読、研究発表、問題演習⑭	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読では、発表担当者はもちろん、受講者全員が発表部分を熟読し、内容を理解しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。数式の展開も、実際に自分で手を動かして確認してください。発表担当者は、未解決の疑問点を残さないようにしてください。発表担当者以外は、質問を簡潔にまとめておいてください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金子誠一、佐井りさ（2012）、証券アナリストのための数学再入門、とさわ総合サービス。

【参考書】

藤林宏、矢野学、角谷大輔、袖山則宏（2009）、EXCELで学ぶファイナンス(2) 証券投資分析 第3版、金融財政事情研究会。
デービッド・G・ルーエンバーガー（2015）、金融工学入門第2版、日本経済新聞社。

【成績評価の方法と基準】

(1)論文およびレポート25%、(2)発表25%、(3)討論への参加状況25%、(4)運営・活動への参加状況25%、により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with specific issues concerning asset management and risk management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports: 25%,

Presentation: 25%,

Discussion: 25%,

in class contribution: 25%.

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7167」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this seminar is for students to learn about Japanese business and society. In the process, they will also improve their academic and practical workplace skills by preparing and making an academic presentation at the competition hosted by the faculty of economics (経済学部大会) as well as by interviewing corporate or government representatives.

【到達目標】

The goal of this seminar is for students to develop three types of skills: (1) critical thinking skills through in-class discussions of Japanese business and society, (2) academic skills through active learning in the form of empirical research projects, fieldwork, and presentations, and (3) leadership skills by directly engaging in seminar management. It is hoped that this seminar will stimulate students' intellectual curiosity and provide a space for them to build lasting friendships and new connections..

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

(1) To explore Japanese business and its impact on society through readings, discussions, and fieldwork.

(2) To complete a group research project and present the findings at the presentation competition hosted by the Faculty of Economics in December.

*Feedback will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	First semester introduction	Discussing the goals of the course and possible research topics
2	Introduction and academic skill building (1)	Learning how to prepare for this class; research/fieldwork topics discussion; videos
3	Academic skill building (2)	What is research? Learning about different types of sources; activity to build critical thinking skills; videos
4	Academic skill building (3); Library tour	Selecting a research topic; using library resources and databases; videos and discussion
5	Academic skill building (4)	Making effective use of statistical information in presentations; lecture and discussion on why we should study Japanese business history

6	Academic skill building (5); theme-focused, student-led discussion	Learning about research methodologies and approaches
7	Academic skill building (6); theme-focused, student-led discussion	Research, data analysis, and dissemination
8	Academic skill building (7); theme-focused, student-led discussion	Organizing your presentation; parts of an academic presentation; making an outline
9	Academic skill building (8); theme-focused, student-led discussion	Building non-verbal communication skills; bibliography and conclusion are due
10	Academic skill building (9); theme-focused, student-led discussion	Preparing for joint presentation event (tentative)
11	Academic skill building (10); theme-focused, student-led discussion	Preparing presentation and peer review
12	Joint presentation event	Responding to and giving feedback; group discussion
13	Final preparations	Incorporating feedback; student-led activity and group discussion
14	Wrap up and review	Submission of final assignments (slides and genko first draft); final discussion
15	Second semester introduction	Introduction; discussion of findings of summer fieldwork activities
16	Presentation preparation; Japanese business and society (case study 1)	Reading and discussion; Student-led activity (presentations and peer review)
17	Presentation preparation; Japanese business and society (case study 2)	Reading and discussion Student-led activity (presentations and peer review); submit second genko draft (1)
18	Debate preparation	Student-led activity (preparing for class debate on a topic related to Japanese business and society)
19	Debate	Class debate on a topic related to Japanese business and society
20	Japanese business and society(case study 3)	Reading and discussion; selecting criteria for new seminar student selection
21	New seminar student selection	Seminar student selection
22	Finalizing presentations, peer review	Presentation practice; students submit revised presentation genko draft due; writing resume for pamphlet

23	Finalizing presentations, peer review	Presentation practice; PPT and resume finalization; feedback on presentation genko
24	Finalizing presentations, peer review	Student presentation practice; student-led activity; practicing non-verbal presentation skills
25	Final preparation for 経済学部大会	Student presentation practice; peer review
26	Preparing for final class; converting presentations into mini movies	反省会; wrap up; movie making for new seminar students
27	Welcome party for new seminar students	Introducing the seminar: student presentations, mini movies, Q&A, etc.
28	Final evaluations; wrap up	Submission of final assignments and completed feedback forms

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（フィールドワークの準備を含め）本授業の準備学習・復習時間は、各 24 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) Pierre-Yves Donzé and Julia S. Yongue, Japanese capitalism and entrepreneurship: a history of business from the Tokugawa era to the present, Oxford University Press, 2024.

(2) 企業家に学ぶ日本経営史、テーマとケースでとらえよう、宇田川勝・生島淳（編）、有斐閣ブックス、2001.

(3) 戦後日本の企業家活動、法政大学インベーション・マネジメント研究センター、宇田川勝（編）、文眞堂、2004

(4) アカデミック・スキルズ、大学生のための指摘技術技法入門、慶應義塾大学出版会、2006

(5) アカデミック・スキルズ、データ収集・分析入門社会を効果的に読み解く技法、慶應義塾大学出版会、2013

【参考書】

Additional references will be provided via the course website and/or library databases.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on (1) participation in classroom activities, such as fieldwork and presentation preparation, (2) attitude (including being prepared for class), teamwork, seminar management, etc. (50%), and (3) taking part in the presentation competition (50%).

*All students are required to make a group presentation at the competition in December in order to pass this course. They must also organize and conduct fieldwork and submit their course feedback survey and PPT on the last day of class.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback is ALWAYS welcome! I try my best to incorporate your suggestions and am committed to improving this seminar.

【学生が準備すべき機器他】

Bring a PC to class.

【Outline (in English)】

Learning objectives: (1) to study about Japanese enterprises and their impact on the Japanese economy and society; (2) to improve academic and workplace skills through various learning activities, namely by preparing and making an academic presentation.

Learning activities outside of class: Students are expected to do their reading assignments, prepare their presentations, and conduct group fieldwork.

Grades will be based on (1) participation, (fieldwork outside of class and presentation preparation in the classroom), (2) attitude (including being prepared for class), teamwork, seminar management, etc. (50%), and (3) taking part in the presentation competition (50%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
山田 快、飯田 麻紗子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7168」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スポーツやそれに関連する事象に焦点を当て、心理学の観点からその多様な意味や役割、可能性などについて調べ・学び・考えていきます。

【到達目標】

主体的な取り組みを基礎に、スポーツに関わる諸問題を取り上げ、それについて調べ、理解し、考えることを経て、自分なりの見解（スポーツ観）を導き出していきます。また、自らの見解を発信して他者とディスカッションすることで、スポーツを人生や社会に活かすための知識と姿勢を学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

グループ／個人で研究テーマを設定し、そのことについて調べ、まとめていきます。まとめた内容を発表し、メンバーとディスカッションすることを通して、研究テーマに対する理解を深めていきます。また、オフィス・アワーで課題への取り組みに対するフィードバックを行ったり、良例を積極的に授業内で取り上げることで、議論や理解を深めることに役立てます。最終的に、以上の取り組みから得た知見を論文化し、総括します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、役割を分担する	年度の活動計画を確認し、役割を決定する。
2	スポーツ心理学を知る	研究動向をはじめ、スポーツ心理学の基礎を学ぶ。
3	研究テーマを洗い出す①	関心のあるテーマを出し合い、意見交換を行う。
4	研究テーマを洗い出す②	関心のあるテーマを出し合い、意見交換を行う。
5	研究テーマを決定する	多様なキーワードから共通点を見出し、研究テーマを設定する。
6	先行研究を概観し、発表する①	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめて発表する。
7	先行研究を概観し、発表する②	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめて発表する。
8	先行研究を概観し、発表する③	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめて発表する。
9	研究計画を立てる①	研究計画を立案し、検討を重ねる。
10	研究計画を立てる②	研究計画を立案し、検討を重ねる。
11	研究計画を発表し、再考する①	研究計画を資料にまとめて発表し、意見交換を行う。
12	研究計画を発表し、再考する②	研究計画を資料にまとめて発表し、意見交換を行う。
13	調査方法を学ぶ①	研究テーマに見合うデータの収集方法を学ぶ。
14	調査方法を学ぶ②	研究テーマに見合うデータの収集方法を学ぶ。
15	調査データを分析する①	収集したデータの分析方法を学び、実践する。
16	調査データを分析する②	収集したデータの分析方法を学び、実践する。
17	分析結果を考察する①	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
18	分析結果を考察する②	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
19	分析結果を考察する③	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
20	研究論文を執筆する①	一連の研究活動を論文にまとめる。
21	研究論文を執筆する②	一連の研究活動を論文にまとめる。
22	研究論文を執筆する③	一連の研究活動を論文にまとめる。
23	研究論文を執筆する④	一連の研究活動を論文にまとめる。
24	研究成果を発表する①	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。

25	研究成果を発表する②	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。
26	研究成果を発表する③	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。
27	研究成果を発表する④	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。
28	年度の活動を総括する	年度の活動を振り返り、次年度に活かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からスポーツに興味と関心をもってテレビや雑誌、インターネットなどの多様な情報媒体を活用しながら、知識の収集と修得に努めてください。また、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう、計画的に資料の準備を進めてください（1回の授業につき、4時間以上を標準として、準備・復習に取り組むこと）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて、資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の出席を前提に、授業への参画状況（50％）を主な基準とし、そこに発表（30％）と進級・卒業論文（20％）の出来を加えて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ活動の醍醐味である他者とのディスカッションをより活発にするため、チームビルディングなどを活用して、良好なメンバー同士の関係性と雰囲気、体制づくりに努めます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PCやAV機器などの準備をお願いします。

【その他の重要事項】

学生自身が主体的に授業を運営していくことがゼミの本分です。受身ではなく、積極的な姿勢で学習活動に励んでください。

【オフィス・アワー】

授業前後に随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course focuses on researching sport or health from the perspective of psychology.

【Learning Objectives】

The goal of this seminar is to deepen student's insights through discussions with another students.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on participation activeness (50%), presentations (30%), and the quality of thesis (20%) in the lab.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
梅津 亮子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7170」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、管理会計の専門知識およびマネジメント手法を習得することを目的とします。管理会計を学習する前提として経営学全般の知識も必要となりますので、まずは組織の仕組みや組織のマネジメントに関する基礎知識を吸収してもらいます。その上で、原価計算や管理会計の上級の学習内容を積み上げていきます。

【到達目標】

1.管理会計の専門的な知識を習得し、様々な経営課題に対してそれらの知識を応用展開することができる、2.進級論文や卒業論文の作成を通じて、論理的な思考力、表現力、発想力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

本演習では、管理会計、原価計算および経営学の領域について年間数冊のテキストを読みこんでいきます。テキストの担当箇所について各自レジュメを作成して、報告してもらいます。テキストの輪読・報告・議論を通じて、各自、卒業論文として取り組みたいテーマを見つけてください。レポート課題等については、演習の中で講評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	年間計画の説明
第2回	基礎知識の習得1	テキスト1 担当箇所の割り当て、輪読と解説、議論
第3回	基礎知識の習得2	輪読と解説、議論
第4回	基礎知識の習得3	輪読と解説、議論
第5回	基礎知識の習得4	輪読と解説、議論
第6回	基礎知識の習得5	輪読と解説、議論
第7回	資料検索・収集	資料検索、データベースの利用
第8回	原価計算の基礎1	テキスト2 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・議論
第9回	原価計算の基礎2	レジュメ作成・報告・議論
第10回	原価計算の基礎3	レジュメ作成・報告・議論
第11回	原価計算の基礎4	レジュメ作成・報告・議論
第12回	研究計画書の作成	研究テーマの設定、研究計画書の作成・報告
第13回	ゼミ合宿1	テキスト3 合宿の準備・実施
第14回	ゼミ合宿2	テキスト4 合宿の準備・実施
第15回	夏休みの研究報告1	レポートの提出と報告1
第16回	夏休みの研究報告2	レポートの提出と報告2
第17回	管理会計入門1	テキスト5 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・議論
第18回	管理会計入門2	レジュメ作成・報告・議論
第19回	管理会計入門3	レジュメ作成・報告・議論
第20回	管理会計入門4	レジュメ作成・報告・議論
第21回	管理会計入門5	レジュメ作成・報告・議論
第22回	中間報告会	進級論文の中間報告、卒業論文の中間報告
第23回	管理会計応用1	テキスト6 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・議論
第24回	管理会計応用2	レジュメ作成・報告・議論
第25回	管理会計応用3	レジュメ作成・報告・議論
第26回	管理会計応用4	レジュメ作成・報告・議論
第27回	管理会計応用5	レジュメ作成・報告・議論
第28回	論文報告会	進級論文の報告、卒業論文の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめテキストを読んでくること。専門用語などは調べておくこと。本演習の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に指示します。

【参考書】

必要に応じてそのつと紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習への貢献度40％、レポート30％、報告内容30％

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to discuss the strategic issues in management accounting.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire specialized knowledge in management accounting and write graduation theses.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria /Policy)Grading will be decided based on in-class contribution:40% ,reports:30%,presentation:30% .

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
杉本 龍勇
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7171」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツの経済的役割およびスポーツビジネスの状況を把握し、スポーツの経済効果やマーケティング戦略について専門的に理解する。

【到達目標】

多くの実例を題材にし、スポーツの多様な経済効果とスポーツビジネスの構造および現状について理解する。そしてスポーツの経済効果を高める考え方や方法について具体的に述べられるようにすること、またスポーツ商品に対する戦略的なマーケティング思考を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代社会におけるスポーツの環境、社会的役割、経済的役割に関する研究論文および資料を収集し研究を進める。そして研究に関するプレゼンテーションを行い、それらに対するディスカッションをする。またスポーツビジネスの現場見学などを行い、実践的な側面についても学ぶ。様々なスポーツの現状を理解した上で、スポーツの経済効果やスポーツビジネスについて検討・研究を進めていく。毎回の授業内で、レポートの添削やプレゼンテーションに対するアドバイスなどのフィードバックを行う。また授業以外でも、学習支援システム等を利用して、同様のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミの進め方について説明
第2回	スポーツの社会的意義	テーマについての講義
第3回	政策としてのスポーツ1	テーマについての講義
第4回	政策としてのスポーツ2	プレゼンテーションおよび討論
第5回	財政負担軽減策としてのスポーツ1	テーマについての講義
第6回	財政負担軽減策としてのスポーツ2	プレゼンテーションおよび討論
第7回	財政負担軽減策としてのスポーツ3	プレゼンテーションおよび討論
第8回	スポーツ産業の構造1	テーマについての講義
第9回	スポーツ産業の構造2	プレゼンテーションおよび討論
第10回	スポーツ産業の構造3	プレゼンテーションおよび討論
第11回	スポーツにおける消費者行動1	テーマについての講義
第12回	スポーツにおける消費者行動2	プレゼンテーションおよび討論
第13回	スポーツにおける消費者行動3	プレゼンテーションおよび討論
第14回	スポーツにおける消費者行動4	プレゼンテーションおよび討論
第15回	スポーツイベントの経済効果1	テーマについての講義
第16回	スポーツイベントの経済効果2	プレゼンテーションおよび討論

第17回	スポーツイベントの経済効果3	プレゼンテーションおよび討論
第18回	スポーツイベントの経済効果4	プレゼンテーションおよび討論
第19回	CRSとしてのスポーツ1	テーマについての講義
第20回	CRSとしてのスポーツ2	プレゼンテーションおよび討論
第21回	スポンサーシップ1	テーマについての講義
第22回	スポンサーシップ2	プレゼンテーションおよび討論
第23回	スポンサーシップ3	プレゼンテーションおよび討論
第24回	プロスポーツの経営1	テーマについての講義
第25回	プロスポーツの経営2	プレゼンテーションおよび討論
第26回	プロスポーツの経営3	プレゼンテーションおよび討論
第27回	スポーツ種目のマーケティング1	テーマについての講義
第28回	スポーツ種目のマーケティング2	プレゼンテーションおよび討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ全般に関する資料および文献、研究論文を収集する。スポーツの経済効果に関する具体的事例に関する資料および文献収集本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「Sports Economics theory, evidence and policy」 Paul Downward, Alistair Dawson, Trudo Dejonghe 著 Routledge
「The Economics of Sport」 Robert Sandy, Peter J.Sloane, Mark S.Rosentraub 著 Palgrave macmillan
「スポーツ経済学」 里麻克彦著 北海道大学出版会
「スポーツの経済学」 マイケル・A・リーズ、ベーター・フォン・アルメン著 大坪正則監訳 佐々木勉訳 中央経済社
「スポーツマーケティング交換課程の経営」

スポーツマネジメント研究会 編訳「スポーツマネジメント」ボニー・L・パークハウス編著 大修館書店
「スポーツ・マーケティングの基礎」 B.G. ビッツ・D.K ストットラー編著 白桃書房
「Sport in Consumer Culture」 John Horne 著 Palgrave macmillan

【成績評価の方法と基準】

平常点20%

レポートの内容40%

プレゼンテーションの内容40%

【学生の意見等からの気づき】

講義とプレゼンテーションのバランスを計りたい。また、研究のプレゼンテーションに対して活発なディスカッションを促すような工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPointやKeynoteなどのプレゼンテーションソフトを使用して発表してもらう。
病欠などにより、キャンパスへの登校に支障がある場合は、オンライン（ライブ形式）での授業参加も認める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Giving lecture about foundation of economic impact of sports and current sports marketing strategies and discussing in seminar member to understanding the structure of economic impact of sports and sports business.

【Learning Objectives】

The purpose is acquire knowledge about economic impact of sports and strategies of sports marketing to plan practical structure of economic impact of sports and marketing strategies for sports business and to suggest some measure for that.

【Learning activities outsides of classroom】

Ca.2 hours for collecting of research papers and Infos about economic impact and sports marketing, and discussion in own group.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on Quality of reports:40%
, Quality of presentation:40%and level of involvement in
seminar.

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
飯野 厚
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7173」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を運用する力の向上、異文化間コミュニケーションの体験と学習。SDG sに関連する国内・国際社会の諸問題について調べ、発表し、解決策を提案し、議論する。

【到達目標】

異文化間コミュニケーションを専門的に理解し、英語力の研鑽に努めながら、英語を使用して国内外のさまざまなシーンで異文化理解・国際協力が実践できる。

・英語でプレゼンテーション・ディスカッション・ディベートができる。

・英語を使った行動の実践（国内・国際ボランティア、インターンなど）

・CEFR B2レベルの英語力（TOEIC 2年終了時600点（B1）、3年700点、4年800点（B2）、TOEFL71点、英検準1級）

・進級論文：自分の英語の対話分析、4年生履修者は卒業論文必須。The course takers will become able to:

・practice cross-cultural communication with fluent English output proficiency as they enhance their proper attitudes to different cultures,

・give presentations and have active discussions and debates over domestic and international social issues related to SDGs,

・attend some projects of domestic and international volunteer activities and internships using English,

・attain the higher scores in TOEIC as they proceed the study,

・observe their English improvement and write a reserach paper in the final year (senior-year)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

・2・3年

ゼミ時間：さまざまな話題を用いたプレゼンテーション（グループ割当制）&ディスカッション&ディベート（討論→発表→討論）

・サブゼミ・オンライン対話：ゼミ時の討論の仕上げとしてオンライン対話を通して外国に住む英語話者と論じ合う。半期10回以上（2年・3年）

・ポイント制英語自主学習 (POint System Self-access English Study[POSSES])：毎月メニューから自分で選んで英語の勉強を実行し、30ptとなるように自己申告する。270pt/年(前年度2月から12月までの間)。自主学習として意欲的に取り入れてほしい。

4年

ゼミに年間10回以上参加する。卒論の執筆指導を行う。前期から月に1度以上の授業出席か個別指導を受た上で完成の認めをもらって提出する（1月第1週締切）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation, introduction of learning activities in POSSES	ゼミ進行方法、内容説明 各種英語力テスト (Speaking) ポイント制英語学習 POSSES ガイダンス、2年自己紹介プレゼン self-intro 3年春休み学習体験プレゼン
2	Online English Conversation Program Guidance, Brainstorming for Group presentaiton	オンライン英会話ガイダンス、グループプレゼンテーション打合せ
3	Topic 1 Which is better for a holiday, camping or staying at a hotel?(Unit 1)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
4	Topic 2 Which is better for your health, tea or coffee? (Unit 2)	Presentation, Discussion and Role-play 4年卒論プロポーザル提出 research proposal
5	Topic 3 Which is better for your health, tea or coffee? (Unit 3)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
6	Topic 4 Which do you prefer, buying clothes or renting them? (Unit 4)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
7	Topic 5 Should eSports be in the Olympic Games? (Unit 5)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
8	Topic 6 Should food companies abandon best-before dates? (Unit 6)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
9	Topic 7 SWhere do you like to watch movies, at a theater or at home? (Unit 7)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
10	Topic 8 Should homeowners install solar panels? (Unit 8)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
11	Topic 9 Should Japan ban the sale of pets? (Unit9)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
12	Topic 10 Should Japan introduce a four-day workweek?(Unit 10)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
13	Writing a speech progress report, Writing BBS	Examine the videoconferencing and find the progress in interaction
14	Compiling progress report	Progress report writing+ presentation videorecording
1	Individual Presentation+ Topic choice for presentation contest	夏休み中の英語学習活動報告 (個別プレゼン)

2	Re-introduction of learning activities in POSSES, Creating presentation slides for Presentation Contest: ABCDE Team	ポイント制英語学習POSES再ガイダンス、プレゼンコンテスト打合せ
3	Topic 11 Should children's video game time be limited by law? (Unit 11)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
4	Topic 12 Should cashless payment be promoted further in Japan? (Unit 12)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
5	Topic 13 Should social media companies censor their platforms?(Unit13)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
6	Topic 14 Should Japan invest more in space development? (Unit 14)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
7	Topic 15 Should public baths and hot springs accept people with tattoos?(Unit15)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
8	Topic 16 Original topic chosen by Group 1	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
9	Topic 17 Original chosen by Group 2	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
10	Topic 18 Original chosen by Group 3	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
11	Topic 19 Original chosen by Group 4	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
12	Topic 20 Original chosen by Group 5	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
13	Review of Interaction by transcribing	Examine the progress in speaking by reviewing VTR
14	Consolidating Point System of English Self-access Study[POSSES]	Individual interview

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・サブゼミのオンライン対話は授業と同じ扱いなので週1回（25分）は必ず実施。
- ・ポイント制英語学習を計画的に進める。成果は法政Gメール連動のGドライブにアップロードし、現物を保存し教室のフォルダに保存もする。
- ・プレゼンテーション準備は必ず事前に打ち合わせと練習をすること。1週間前にスライド完成が原則。
- ・ゼミ合宿やゼミの集まりなど行事参加は必須。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

The course takers must:

- ・attend sub-seminar activities (outside the class hours) among the course-takers in groups,
- ・be actively involved in point-system self-paced English learning, submitting the study records both in paper and PDF to Google Drive,

- ・prepare the assigned presentation slides in groups one week before the presentation date and receive feedback from the instructor, then practice presentation to raise the performance level,
- ・actively attend the designated events in the seminar,
- ・spend two hours for preparation and review of each class.

【テキスト（教科書）】

『Voice Your Opinion—ディスカッションで伸ばす 発信型英語演習』金星堂

【参考書】

『異文化間コミュニケーション入門』ちくま書房
『英語研究論文の書き方』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

1. 50% 授業内活動、プレゼンテーション（準備、スライド・発表の質）、Hoppi課題提出、授業前準備（Reading, 音声録音）、学年末プログレスレポート、
 2. 30%自主英語学習ポイント（月別フォルダと学習記録）、サブゼミ録画、オンライン会話実施etc
 3. 20% ワークシート提出、BBS作文
- 2または3の取り組みが極端に少ない場合は単位認定しません。
評価Cで単位認定の場合は、翌年のゼミ履修は許可しません。
1.50%Performances in class activities: presentations, Assignments in Hoppi,
Pre-class reading and sound files, Year-end report
2.30%Point-system self English study: Monthly folders, sub-semi recording videos, online English conversation
3.20%Worksheet and writing in BBS
*If the engagement in Category 2 and 3 is weak, no credit would be given,
*Those who received C are not allowed to take the seminar next year.

【学生の意見等からの気づき】

トピックの設定はある程度教員が指定するが、学生が自ら設定できる余地を作る。義務となっているサブゼミは50分程度の時間を要するので、通常ゼミ授業を若干早めに終了する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・サブゼミは各自のパソコンで実施するため、オンラインソフトの設定も含め事前に準備する

【その他の重要事項】

- ・授業出席に関してはガイダンスで説明。・提出物は100%実施が原則。
- ・4年生は卒論を書くことを前提に履修し、学期中の最低5回は授業に出席する。
- ・卒論はプロポーザル認定（5月）のあと、Hoppi課題を通して求められる部分を期日までに執筆し提出する。春学期はIntroduction、Method、想定Resultsまでを完成。夏休み中にデータ収集、秋学期にResults、Discussion、Conclusion、Referencesを完成する
- ・卒論執筆の詳細ガイダンスは、飯野の Academic Research SeminarABの履修を強く推奨する。

【Outline (in English)】

Students will enhance their communicative competence as they practice and learn about cross-cultural communication. They will also learn how to conduct research and how to practice presentation, discussion, and the proposal of solutions particularly on domestic and global social issues related to SDGs.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
進藤 理香子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7174」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ近現代史を学習するゼミである。政治・経済分野のみならず、文化・社会問題などに至るまで、参加者の関心にしたがって幅広くヨーロッパの歴史を探究することを目的とする。

【到達目標】

ヨーロッパ近現代史を政治・経済面からだけでなく、社会・生活・文化といった身近に共感できる領域からも考察できるようになることを目指す。とりわけ20世紀・21世紀の独裁体制、二度の世界大戦、冷戦、欧州統合、大衆消費社会、環境・エネルギー問題といった周知の重要なテーマについて、能動的に調べ自分の考えをまとめ、積極的に議論に参加し、他者の意見を踏まえて自身の仮説を論証していく力を養うことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業(Zoom)を行う。授業進行の詳細に関しては学習支援システムを通じ連絡する。ゼミでは各回、資料・文献の輪読、グループ研究発表を中心に進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の導入	ゼミの概要、参加者の自己紹介、グループわけなど
2	19世紀末ヨーロッパ	講義、文献講読、議論
3	第一次世界大戦	講義、文献講読、議論
4	戦間期	講義、文献講読、議論
5	ナチ体制	講義、文献講読、議論
6	学外見学会	博物館や資料館訪問など学外見学会を実施。
7	第二次世界大戦	講義、文献講読、議論
8	ドイツの敗戦	講義、文献講読、議論
9	冷戦体制	講義、文献講読、議論
10	西ヨーロッパの統合	講義、文献講読、議論
11	ソ連・東欧社会主義圏	講義、文献講読、議論
12	現代ヨーロッパの諸問題①	講義、文献講読、議論
13	現代ヨーロッパの諸問題②	講義、文献講読、議論
14	まとめ	講義、文献講読、議論
15	秋学期の導入	秋学期の方針、グループ分け、報告順などについて決める
16	研究報告①	学生のプレゼン、全体での議論①
17	研究報告②	学生のプレゼン、全体での議論②
18	学外見学会	博物館や資料館訪問などの学外見学会を実施する。
19	研究報告③	学生のプレゼン、全体での議論③
20	研究報告④	学生のプレゼン、全体での議論④
21	研究報告⑤	学生のプレゼン、全体での議論⑤
22	研究報告⑥	学生のプレゼン、全体での議論⑥
23	研究報告⑦	学生のプレゼン、全体での議論⑦
24	卒論経過報告①	卒論執筆者による作業経過報告、指導、全体議論①
25	卒論経過報告②	卒論執筆者による作業経過報告、指導、全体議論②
26	講演会①	ゲスト講演者を招きヨーロッパに関する講演開催①
27	講演会②	ゲスト講演者を招きヨーロッパに関する講演開催②
28	秋学期のまとめ	卒業予定者の報告と全学年参加の懇談会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ヨーロッパ近現代史の関連文献を自分で開拓、また新聞等を通じ日頃から時事問題への関心を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間の合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし。必要に応じて指示、配布する。

【参考書】

指定なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点70%、期末レポート30%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this seminar, we study European modern history in the 19th and 20th centuries. We will try to explore not only the economic and political developments, but also the cultural and the social movements in Europe. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following performances: in-class contribution (70%) and a term-end report (30%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
菅 幹雄
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7175」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計解析の基礎、統計ダッシュボード、ウェブスクレイピング、テキストマイニングTableau、R、QGISを学び、これらの技法を実際の統計へ応用する。

【到達目標】

- ①統計データを用いて実証分析の手法をマスターすること。
- ②実際に統計データを用いて実証分析を行うこと。
- ③実証分析結果について研究発表できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期は統計解析の基礎、統計ダッシュボード（国や民間企業等が提供している主要な統計データをグラフ等に加工して一覧表示し、視覚的に分かりやすく、簡単に利用できる形で提供するシステム）、ウェブスクレイピング（ウェブサイトから大量のデータを自動的に抽出する技術）、テキストマイニング（自然言語処理を使って解析を行い、テキストデータから利益につながる情報を抜き出すこと）を学んだ後、3年生と4年生が研究発表を行う。秋学期はTableau（専門家でなくてもデータを加工・レポート作成・分析を行うことができるのがビジネス・インテリジェンス・ツール）、R（統計解析に特化したプログラミング言語）、QGIS（地理空間情報データの閲覧、編集、分析機能を有するクロスプラットフォームのオープンソースソフトウェア）級を学んだ後、2年生、3年生が研究発表、4年生が卒業論文発表を行う。

学生の発表についてコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【4時限目】ガイダンス／【5時限目】統計ダッシュボード	ガイダンス／統計ダッシュボード（1）
2	【4時限目】統計解析の基礎／【5時限目】統計ダッシュボード	『データアナリティクス基礎』第1章 データの構造化とデータマネジメント／統計ダッシュボード（2）
3	統計解析の基礎／統計ダッシュボード	第2章 重点志向とパレート分析／統計ダッシュボード（3）
4	統計解析の基礎／ウェブスクレイピング	第3章 データ項目間の関連性とクロス集計分析／プログラミングのしくみ(1)
5	統計解析の基礎／ウェブスクレイピング	第4章 分析構造の把握と基本統計量／プログラミングのしくみ(2)
6	統計解析の基礎／ウェブスクレイピング	第5章 相関・予測と回帰分析／スクレイピングのしくみ(3)

7	統計解析の基礎／ウェブスクレイピング	第6章 確率に基づく判断／スクレイピングのしくみ(1)
8	統計解析の基礎／ウェブスクレイピング	第7章 統計的な推測／スクレイピングのしくみ(2)
9	統計解析の基礎／ウェブスクレイピング	第8章 時系列データの分析／スクレイピングのしくみ(3)
10	統計解析の基礎／テキストマイニング	第9章 テキストデータの分析／KHCoderを用いたテキストマイニング(1)
11	統計解析の基礎／テキストマイニング	第10章 シミュレーションと乱数／KHCoderを用いたテキストマイニング(2)
12	研究発表	研究発表
13	研究発表	研究発表
14	研究発表	研究発表
15	ガイダンス／RESAS	ガイダンス／RESASを用いた地域分析(1)
16	Tableau／RESAS	『Tableau データ分析 ～入門から実践まで～』第1章 Tableauとは／RESASを用いた地域分析(2)
17	Tableau／R	第2章 はじめてのTableau 分析ダッシュボード作成／『Rによるデータサイエンス』第3章データの演算、固有値、基本統計量
18	Tableau／R	第3章 データに接続してみる／第4章データの視覚化
19	Tableau／R	第4章 データソース画面の操作／第1章線形回帰分析
20	Tableau／R	第5章 ワークスペースの操作／第1章線形判別分析
21	Tableau／R	第6章 Tableauの基本機能（その1）／第5章主成分分析
22	Tableau／R	第7章 Tableauの基本機能（その2）／第9章クラスター分析
23	Tableau／QGIS	第8章 やみくもなデータ分析では失敗する／QGISによる鉄道路線別分析(1)
24	Tableau／QGIS	第9章 データ分析プロジェクトのプロセス(1)／QGISによる鉄道路線別分析(2)
25	Tableau／QGIS	第9章 データ分析プロジェクトのプロセス(2)／QGISによる鉄道路線別分析(3)
26	研究発表	研究発表
27	研究発表	研究発表
28	研究発表	研究発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大橋 洸太郎 (著), 塩澤 友樹 (著), 渡辺 美智子 (著)『データアナリティクス基礎』日本能率協会マネジメントセンター、2,640円
清水隆介 (著), 前田周輝 (著), 三好淳一 (著)『Tableau データ分析 ～入門から実践まで～』秀和システム、5,390円
金 明哲 (著)『Rによるデータサイエンス』森北出版、3,960円
末吉美喜 (著)『テキストマイニング入門: Excel と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社、2500円（税別）

【参考書】

清水雅彦、菅幹雄『経済統計』培風館、3630円

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習で出された課題に取り組み、提出することにより平常点をつける。
また3・4年生は春・秋学期それぞれ1回、2年生は秋学期1回の研究発表に内容で成績評価を行う。
成績配分は平常点40%、研究発表60%、合計100%である。

【学生の意見等からの気づき】

統計検定の過去問の学習を春学期に集中させていたのを、春学期に3級、秋学期に2級に分けた。

【Outline (in English)】

(Course outline) Learn the basics of statistical analysis, statistical dashboards, web scraping, text mining Tableau, R, QGIS, and apply these techniques to actual statistics.

(Learning Objectives) The goals of this course are to master statistics and apply them by using data.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies) Students will receive regular points by working on and submitting the assignments given in each seminar.

Third and fourth year students will be graded on the basis of their research presentations given once in each of the spring and fall semesters, and second year students will be graded on the basis of their research presentations given once in the fall semester.

Grades are allocated as follows: 40%for the regular grade, 60% for the research presentation, and 100%for the total.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
高橋 秀朋
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7176」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、ファイナンス・証券投資という担当教員の専門分野を通じて、データ分析能力および文章表現能力の向上を目指し、大学卒業後にできるだけ実践可能な能力を身につけることにある。

【到達目標】

本演習の目的は、証券投資や資産運用に応用可能な基本的なフレームワークを身につけて、それを実践可能なレベルに到達することである。また、グループワークによる論文（レポート、ショートペーパー等）執筆活動やプレゼンを通じて、文章力・表現力を向上させることも主要な目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習は2年生は基本的な知識の習得をメインとし、3年生はすでに学習した内容を発展させることを目的とした学習を行う。具体的には、2年生はアカウンティング、ファイナンスの基本を習得し、3年生はそれらの知識を実践すべく、Pythonなどのソフトウェアを利用して証券・企業分析、シミュレーションを行う予定である。

演習履修者は通読するテキストを事前に精読し、教員の進行に従い、適時質問に答える必要がある。最初の1時間目は3年生が主となる発展的知識の学習、2時間目は2年生が主となる基礎から入門レベルの学習となる。その他、2/3年生ともにグループワークでのプレゼンテーションを学期の中間および期末に行ってもらおう。

なお、卒業論文、レポート（外部への研究発表等）については、事前に提出の上、別途プレゼンテーションの機会を設けて講評、フィードバックを行うこととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の授業実施方針の説明	春学期の学習内容について
2	数学的基礎の学習1	数列、Pythonの基本
3	数学的基礎の学習2	微分、Pythonによるコーディング
4	数学的基礎の学習3	確率変数の基礎知識、Pythonによるアプリ作成
5	現在価値と将来価値	FV、PV関数を利用した演習
6	債券・株式評価	配当割引モデル
7	企業価値評価	フリーキャッシュフローと資本コスト
8	企業の投資意思決定	キャピタルバジェットティング
9	グループワーク発表1	財務分析
10	企業の資本構成と企業価値	モジリアーニ＝ミラーの命題
11	債券投資管理	デュレーションとイミューニゼーション
12	現代ポートフォリオ理論	分散投資
13	資本資産評価モデル	CAPMの導出
14	グループワーク発表2	最適ポートフォリオの算出

15	秋学期の授業実施方針の説明	秋学期の学習内容について
16	データ分析の基本1	確率と統計
17	データ分析の基本2	基本統計量
18	データ分析の基本3	2変数の関係、回帰分析
19	データ分析の基本4	証券分析
20	データ分析の基本5	シミュレーション
21	グループワーク発表3	リスク資産運用のシミュレーション
22	オプションの基本	オプションのペイオフ
23	オプションの無裁定理論	オプションの価格付けの基本
24	オプションの価格付け1	オプションの価格付け（二項モデル）
25	オプションの価格付け2	ブラックショールズモデル
26	オプションの価格付け3	モンテカルロ法を用いたオプション評価
27	グループワーク発表4	アナリストレポート報告
28	グループワーク最終報告	4年生の卒論報告など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の目的は、学習した内容を実践できることが求められる。指定したテキストは事前精読、実践してくること（週2時間）。また、演習内で扱う範囲の理解だけでは十分とは言えず、指定テキストの章末問題を利用して自ら知識の拡充をはかることが求められる（週1時間）。また、より現実的な課題をグループワークを通してこなしてもらうことで、自分の知識の再確認を行ってもらおう。それらの内容をまとめて提出するための時間も確保すること（平均して、週1時間）。

【テキスト（教科書）】

2年生（前半）：手嶋宣之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011年）

2年生（後半）：石野雄一『増補改訂版道具としてのファイナンス』（日本実業出版社、2022年）

3年生（通年）：中妻照雄『Pythonによるファイナンス入門』（朝倉書店、2018年）

【参考書】

三谷純『Pythonゼロからは始めるプログラミング』（翔泳社、2021年）
下山輝昌、松田雄馬、三木孝行『Python実践データ分析100本ノック』（秀和システム、2022年）

吉川大介『データ駆動型ファイナンス：基礎理論からPython機械学習による応用』（共立出版、2022年）

【成績評価の方法と基準】

グループワークによるプレゼン内容の評価30%、平常点70%で評価する。なお、無断欠席を1回でもした場合、平常点として減点対象とする。また、無断欠席を2回した場合は評価が自動的に「不可」となる。欠席は理由を明記して、ゼミ当日の14時半までに担当教員にメールなどの直接連絡が取れる手段で連絡すること。第三者から伝達および不明瞭な理由による欠席は、どのような理由があろうとも無断欠席と同じ扱いになる。理由を明記した上での欠席でも平常点（減点）として評価に反映される。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークによるプレゼンを行う回と教員主導によるテキストの内容を理解する回に分けるという試みが学生から好評のため、今年度も継続する。

【学生が準備すべき機器他】

各自がPCを持参して、演習中にPythonおよびEXCELを利用できる環境下にあることが求められる。

【Outline (in English)】

This seminar-styled course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis and corporate finance using data and simulation-based analyses. This course also provides opportunities to improve writing and PC skills to achieve the goal that students can write short academic reports or papers based on their acquired skills. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare the course content. Students are also required to spend one hour for reviewing the content after each class and another one hour for solving some problems useful to deepen their understanding. Final grade will be calculated according to the following process: group work reports (30%) and in-class presentations and discussions (70%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
藤田 貢崇
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7177」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、「科学ジャーナリズム」または科学に関連する諸課題に取り組み、自ら課題を見出し、課題を発表するためのスキルや表現手法を身につけます。各自の具体的なテーマや詳細は教員と相談して決定します。また、一般向けの科学解説記事の翻訳・執筆に取り組み、発表スキルの習得を行います。

【到達目標】

各自の設定した研究テーマについて、調査する手法、調査結果をまとめる方法を習得すること。また、自らの意見を明確にしながら、調査結果を発表する様々な手法（プレゼンテーション・文章による表現・音声による表現・映像による表現など）を習得すること。

また、英語の文章を理解し、伝わりやすい日本語に翻訳できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員との連絡を密に持ちながら、自らの力で研究を遂行します。各自の研究スケジュールは研究テーマによって異なるが、出席（オンラインによる課題の提出）は必須となります。

具体的な演習内容は、①科学ジャーナリズムの時事的な話題、②ジャーナリズムとは何か、③人に伝えるための文章の書き方、④文章以外に表現する方法（音声・映像）についてなどです。受講生が自ら調べ、表現することができるように指導していきます。

課題や質問等に対するフィードバックは、その都度、あるいは次の回の授業時に全体に対して回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の概要を説明する
2	ジャーナリズムとは何か	ジャーナリズムの社会における必要性を考える
3	記事を書いてみようⅠ	ジャーナリストの表現手法の基本である文章術を学ぶ
4	記事を書いてみようⅡ	前回の内容をもとに、実際に執筆してみる
5	自らのテーマを見つける	各自が知りたいこと、調べたいことを明確にする
6	情報検索や調査の方法	図書館の情報検索サービスなどの利用方法を身につける
7	翻訳手法の習得Ⅰ	読み手を意識した翻訳手法を学ぶ
8	いろいろな表現手法	文章以外の、いろいろな表現手法があることを学ぶ
9	音声による表現Ⅰ	音声表現について概要を理解する
10	音声による表現Ⅱ	必要なソフトウェアを理解する
11	音声による表現Ⅲ	各自のテーマに沿って、音声表現のシナリオを作成する
12	音声による表現Ⅳ	各自のテーマに沿って作成したシナリオに基づいて、音声収録を行う

13	海外のジャーナリズム	海外の科学ジャーナリズムについて学ぶ
14	翻訳手法の習得Ⅱ	よりわかりやすい翻訳文を作成するための手法を学ぶ
15	中間発表	表現手法を含めて、各自の課題の進捗状況を報告する
16	夏課題の報告会	各自の課題の進捗状況を報告し、問題点を明らかにする
17	ジャーナリズムをより深く知る	ジャーナリズムに関する論文・書籍を輪読する
18	翻訳手法の習得Ⅲ	翻訳文と原文を詳細に比較し、より適切な訳文を作成する手法を身につける
19	表現手法の工夫	映像を活用した表現手法を知る
20	音声による表現Ⅴ	各自の制作した音声コンテンツに改善を施す
21	調査・研究活動Ⅰ	各自のテーマに沿って、調査・研究の表現手法について決定し、その制作計画を立てる
22	調査・研究活動Ⅱ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の特性を生かした内容になっているか、計画を再検討する
23	調査・研究活動Ⅲ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
24	翻訳手法の習得Ⅳ	完成した翻訳文の校正を行い、適切な訳文を作成する
25	調査・研究活動Ⅳ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
26	調査・研究活動Ⅴ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
27	調査・研究活動Ⅵ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
28	成果報告会	1年間の研究課題を報告する（2・3年生）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原稿や訳文の作成に関して、時間外に作業を行うことが必要となる場合があります。本授業の準備学習および復習時間は、それぞれ4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1年間を通じて使用するテキストはありません。

【参考書】

『科学ジャーナリズムの手法』（化学同人）
他は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習で課される課題の提出状況（70％）、平常点（30％）として評価し、60%の得点率を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

個人で取り組む研究を充実させるように工夫します。

【その他の重要事項】

ジャーナリズムに関心を持ち、自ら情報発信をしてみたい学生の参加を望みます。偏った意見を取り上げるのではなく、公正・中立な立場で研究課題に取り組む姿勢が大切です。

止むを得ず演習に出席することができない場合には、必ず連絡すること。

【授業内の取り組み】

ジャーナリズムに大切なことは、多様な考え方です。演習では、事前に時事的な話題（例えば感染症政策、臓器移植、原子力問題など）を指定し、受講者それぞれの考え方を簡単に発表する場を設けます。

【Outline (in English)】

This course deals with the science journalism and science education. The goals of this course are to understand the importance of journalism. Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports of each class (70%) and the quality of the students' performance in class (30%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
篠原 隆介
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7178」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目的：ミクロ経済学・ゲーム理論を応用し、現代社会における諸問題や経済政策・制度の有効性に関して考察を行う。

概要：ミクロ経済学とゲーム理論を学習し分析活動の礎を築く。研究テーマを設定し、教科書から習得した知識に基づき研究活動を行う。研究成果の報告を、年2回(春学期末と年度末)行う。

【到達目標】

- (1) ミクロ経済学・ゲーム理論を問題演習などを通して理解すること。(2) 修得した学習内容を応用して、身近な問題に対する分析能力を養うこと。(3) 研究テーマを設定し、適切な分析ツールを用いて、研究活動を行うようにできること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

次の3段階のステップを踏む:①教科書に基づき理論の学習を行う。②その後、練習問題を解く。③そして、最終的には、ミクロ経済学・ゲーム理論を応用して研究活動を行う。課題等のフィードバック(課題の解答解説等)は講義内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の運営方法について
2	研究成果報告会のテーマ報告-Part 1	学生による研究成果報告のテーマについて説明(主に3年次学生による報告)
3	研究成果報告会のテーマ報告-Part 2	学生による研究成果報告のテーマについて説明(主に2年次学生による報告)
4	報告と議論	報告と質疑応答1
5	報告と議論	報告と質疑応答2
6	報告と議論	報告と質疑応答3
7	報告と議論	報告と質疑応答4
8	報告と議論	報告と質疑応答5
9	報告と議論	報告と質疑応答6
10	報告と議論	報告と質疑応答7
11	報告と議論	報告と質疑応答8
12	報告と議論	報告と質疑応答9
13	研究成果中間報告会-Part 1	学生による中間報告(主に3年次学生による報告)
14	研究成果中間報告会-Part 2	学生による中間報告(主に2年次学生による報告)
15	秋学期のゼミに関するミーティング	秋学期のゼミ運営方法について＋夏学期の学習内容に関するおさらい
16	報告と議論	報告と質疑応答10
17	報告と議論	報告と質疑応答11
18	報告と議論	報告と質疑応答12
19	報告と議論	報告と質疑応答13
20	報告と議論	報告と質疑応答14
21	報告と議論	報告と質疑応答15
22	報告と議論	報告と質疑応答16
23	報告と議論	報告と質疑応答17
24	報告と議論	報告と質疑応答18

25	報告と議論	報告と質疑応答19
26	報告と議論	報告と質疑応答20
27	研究成果最終報告会-Part 1	学生による中間報告(主に3年次学生による報告)
28	研究成果最終報告会-Part 2	学生による中間報告(主に2年次学生による報告)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のゼミ報告の準備、練習問題を解くことによる復習、春学期と秋学期に行われる研究報告のための準備。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第1回のゼミにてゼミ生と相談の上決定するが、特に異論がなければ、次の本を教科書として指定する。

・浅古 泰史, 図斎 大, 森谷文利(2023)『活かすゲーム理論』有斐閣(ISBN-13:978-4641200050)

【参考書】

・天谷研一(2011)『図解で学ぶゲーム理論入門』日本能率協会マネジメントセンター

・林正義, 小川光, 別所俊一郎(2010)『公共経済学』有斐閣

・板谷淳一, 佐野博之(2013)『コア・テキスト公共経済学』新世社

・伊藤隆敏(2017)『公共政策入門－ミクロ経済学的アプローチ』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

平常点(60%)とゼミでの報告・課題(40%)成績判定基準の詳細については、初回の講義で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

理論を学習した後に、その理論を使って分析することができる現実例を紹介し、分かり易く教えることを心がけます。

【その他の重要事項】

「ミクロ経済学AB」を未修のゼミ生は、履修することをお勧めします。より進んだ学習を望む場合には、「公共経済論AB」と「経済の数理AB」(ともに2025年度は篠原担当)の履修をお勧めします。

【Outline (in English)】

Students will study microeconomics and game theory and then apply them to analyze economic policies and institutions. This year, after learning the basics of microeconomics and game theory, we will consider several topics on public economics as examples of economic policies and institutions.

Each student will set a research theme, conduct research based on microeconomics and game theory, and report the results of their research once each in the spring and fall semesters. The most important goal is to understand microeconomics and game theory and then to acquire the ability to analyze problems in modern economic society. Students must prepare and review for this class for at least four hours per week. Grading will be based on ordinary points (60%) and reports and assignments in the seminar (40%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
菅原 琢磨
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7179」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会政策、社会保障政策を中心に、さまざまな社会問題、社会現象とその対応をテーマとして幅広くあつかう。ゼミの後半では医療経済学や社会保障論の標準的テキストを輪読することで、経済学部生としてあるべき専門知識を併せて修得する。

【到達目標】

大きく以下の3点を柱とし、各々の能力の獲得を目標とする。

- ①多様な社会問題に関する自由な報告・議論を通じて、社会常識・一般教養の拡充と、プレゼン・コミュニケーション能力強化を図る社会人基礎力の鍛錬
- ②専門領域の基本テキスト輪読、報告による専門知識の習得と深化
- ③ゼミ論文作成による分析・処理能力、思考力の強化

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習は概ね2部構成とする。

- ①受講者が関心を持った時事問題、社会問題について報告（毎回数名、ランダムに指名）、教員のファシリテートのもと参加者全員で議論。採り上げられたトピックスをもとに実践的な問題解決思考の訓練をおこなう。
 - ②専門分野の標準的テキストを輪読、各回担当者（グループまたは個人）は内容を報告、質疑をおこなう。
- 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期オリエンテーション	演習の目的と内容、進め方、春学期計画について
第2回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読①	テキスト序章 「消費者の健康を支える市場と規制」
第3回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読②	テキスト第1章 「健康に関する消費者の選択と制度」
第4回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読③	テキスト第2章 「健康経済学を学ぶための基礎」
第5回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読④	テキスト第3章 「経済学の実証分析：因果推論の基礎」
第6回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑤	テキスト第4章 「健康に対する需要」
第7回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 インゼミ準備	インゼミ論文のテーマ選定
第8回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑥	テキスト第5章 「保険とリスク」
第9回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑦	テキスト第6章 「消費者の需要に対する政府の介入」
第10回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑧	テキスト第7章 「健康サービス供給の特殊性」
第11回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑨	テキスト第8章 「保健・医療専門職の労働市場」
第12回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑩	テキスト第9章 「健康における製造業の役割：製薬・医療機器産業」
第13回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑪	テキスト第10章 「介護に関わる民間企業と介護保険制度」
第14回	春学期のまとめ	インゼミ論文の中間報告 春学期総括、質疑応答

第15回	秋学期オリエンテーション	秋学期の演習内容、進め方について
第16回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 インゼミ準備	インゼミ論文の進捗報告
第17回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑫	テキスト第11章 「政府の役割と診療報酬制度」
第18回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑬	テキスト第12章 「保健・医療の経済評価」
第19回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 インゼミ準備	インゼミ論文の報告準備
第20回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑭	テキスト第13章 「効率と公平」
第21回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑮	テキスト第14章 「医療経済学」
第22回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑯	テキスト第15章 「統計学」
第23回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑰	テキスト第16章 「政治学」
第24回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑱	テキスト第17章 「決断科学」
第25回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑲	テキスト第18章 「医療経営学」
第26回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑳	テキスト第19章 「医療倫理学」
第27回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読㉑	テキスト第20章 「医療社会学」
第28回	秋学期のまとめ	秋学期総括、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回のパートとも報告者のみならず全員が事前に目を通し、疑問点を整理しておくこと。
- ・秋（11月）に他大学とのインターゼミナールを実施する予定である。
- ・各回の報告やゼミ論文作成のために、サブ（自主）ゼミが必要となることもある。
- ・夏期休暇（9月）、春期休暇（3月）中の合宿実施については、学生と相談のうえ決定する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・後藤励／井深陽子『健康経済学－市場と規制の間で』有斐閣、2020年。（学生と相談のうえ、他のテキストを採用することもある）

【参考書】

- ・津川友介『世界一わかりやすい「医療政策」の教科書』医学書院、2020年など、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に評価する。特に担当報告の出来（50％）、参加意欲（発言や質問）（35％）、円滑なゼミ運営への貢献（インゼミへの参加などを含む）（15％）を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

在外研究から復帰して2年ぶりのゼミ担当となるため特記事項なし

【その他の重要事項】

演習の内容は受講生とも相談のうえ、適宜、変更する場合がある。演習に必要なテキスト等は各自、準備すること。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】 This seminar deals with a wide range of topics such as major social issues. By the end of the course, students are expected to have basic knowledge of health economics and social security policy.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be decided according to in-class presentation (50%) and other in-class contribution (50%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
松野 響
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7180」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の実験研究を自分自身で計画・実施し、実験心理学についてより深く学ぶ。これまでにこなされた心理学の実験研究についての情報収集をおこない、計画をたて、実際に実験をおこない、結果を解析・発表する、という一連の過程を体験することで、実験心理学の方法論を学習するとともに、たとえばささやかで小さなことであっても、世界でまだ誰も知らない新しい発見をすることを目指す。

【到達目標】

第一に、実習を通じて、文献の探索・読解能力、科学的・論理的な思考、心理実験をおこなうための基礎的な技法、データの解析法、プレゼンテーションの方法および論文（論理的な文章）の適切な書き方を身につけることを目指す。

第二に、新しい心理学の知見を自ら発見・検証するための方法論を身につけることで、人の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

個人の興味をもとにした研究テーマを中心に活動をおこなう。各自のテーマに関連する文献の発表とその議論を通じて実験方法や最新の心理学の知見について学ぶ。また、各自のテーマに沿った実験研究を自ら計画・実施し、論文としてまとめる。受講生の関心や余力によって、グループでの研究プロジェクトや課外での活動を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の進め方のガイダンス・発表スケジュールの決定・研究計画の立案
2	実験心理学の基礎・研究計画発表	実験研究および研究倫理についてのガイダンス・研究計画の発表
3	発表・分析実習(1)	文献発表、実験データ分析実習(データファイルの取り扱い)
4	発表・分析実習(2)	文献発表、実験データ分析実習(統計解析環境の導入)
5	発表・分析実習(3)	文献発表、実験データ分析(統計的仮説検定)
6	発表・実験実習(1)	文献発表、実験実習のテーマの確認
7	発表・実験実習(2)	文献発表、実験計画(関連研究の渉猟)
8	発表・実験実習(3)	文献発表、実験準備
9	発表・実験実習(4)	文献発表、実験準備と実験機器の設定
10	発表・実験実習(5)	文献発表、実験実施体験
11	発表・実験実習(6)	文献発表、実験データの集計
12	発表・実験実習(7)	文献発表、実験データの分析
13	研究発表	卒業研究の計画についての中間報告

14	春学期総論	春学期の研究総括・研究発表についての議論
15	秋学期研究計画	夏季の課題についての発表、秋学期の研究計画
16	発表・研究計画作成(1)	文献発表、個人研究計画の具体化
17	発表・研究計画作成(2)	文献発表、実験計画書の作成
18	発表・実験実施準備(1)	文献発表、実験準備の開始
19	発表・実験実施準備(2)	文献発表、実験準備
20	発表・実験実施準備(3)	文献発表、実験準備の完了
21	発表・予備実験	文献発表、実験実施(予備実験)
22	発表・実験実施(1)	文献発表、実験準備・実験実施
23	発表・実験実施(2)	文献発表、実験実施
24	発表・結果解析(1)	文献発表、実験結果の集計
25	発表・結果解析(2)	文献発表、研究結果の解析
26	研究結果発表準備	研究結果のまとめおよび研究発表準備
27	進級論文発表(1)	進級論文の研究報告および議論
28	進級論文発表(2)・卒業論文発表	進級論文・卒業論文の研究報告および議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とする。教員の助言にもとづき、自分自身の研究プロジェクトの計画及び実施、学術論文の精読と発表の準備、他者の研究プロジェクトへの実験参加をおこなう。

【テキスト（教科書）】

文献の探し方等については、教員の作成した資料を配布する。また、個々の研究テーマにあわせて個別に相談に応じる。

【参考書】

個々の研究テーマにあわせて個別に相談に応じる。

【成績評価の方法と基準】

発表およびディスカッションへの寄与(20%)、自身の個人研究プロジェクトへの取り組みや他の研究プロジェクトへの実験・調査参加協力と課題の提出(40%)、進級論文・卒業論文の内容(40%)を目安に、総合的に評価する。やむを得ない理由で授業を欠席する際は、その証明書類を提出し、欠席を補うための取り組みと課題の提出を必須とする（インターンシップや部活動等を理由とする欠席は認めない）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

データ解析や実習のためにPCを使用する。無料の統計解析アプリケーションR・R Studioや実験プログラムの開発環境がインストールできるWindows PCを用意すること(OSの違いによって生じる問題を自力で解決できる知識がある場合はMacも可)。詳細は第1回目の授業で説明する。学習支援システムやGoogle Classroomを用いて情報を共有する。

【その他の重要事項】

心理学の基礎的な知識を持つことを前提とするため、心理学A/Bの授業の単位取得もしくは本年度の聴講を必須とする。授業計画や内容は、学習の進捗状況によって適宜調整する。

【Outline (in English)】

In this course, students learn the research methods used in experimental psychology by reading research papers, summarizing and presenting their findings, and discussing them with other students. Furthermore, students experience the importance and interest of psychological experiments by planning and conducting their own original experiments and writing research papers. Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content. The overall grade in the class will be decided based on the following. In-class presentations and discussions (20%), Contribution and participation to their own and others' research projects (40%), Term end research papers (40%).

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
田村 理香
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7182」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言葉が構築する世界に身を置き、深く考え、それを自らの言葉で表現する。

【到達目標】

1. 文章を正確に読み、内容を正しく理解する。
2. 文化や歴史を理解し、人間の心の機微に触れる。
3. 作品に誠実に向き合い、知識や感性、想像力を働かせ、深く考える。
4. 考察したことを文章で的確に表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 英文記事の読解、それをもとにした英語プレゼンテーション・ディスカッション
2. 英語あるいは日本語で書かれた小説の精読およびディスカッション
3. 4年生は卒論指導を個別に行う

[授業や課題等に対するフィードバック方法]

毎回のコメントは授業時間に返却もしくは「学習支援システム」で返却

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、評価の説明。
2	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション①	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (1) 他
3	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション②	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (2) 他
4	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション③	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (3) 他
5	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション④	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (4) 他
6	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑤	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (5) 他

7	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑥	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (6) 他
8	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑦	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (7) 他
9	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑧	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (8) 他
10	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑨	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (9) 他
11	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑩	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (10) 他
12	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑪	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (11) 他
13	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑫	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (12) 他
14	まとめ	春学期のまとめ Essay とエッセイの書き方
15	イントロダクション2	授業の内容、進め方、評価の説明。
16	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑬	Bernard Malamud, The Fixer (1) 他
17	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑭	Bernard Malamud, The Fixer (2) 他
18	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑮	Bernard Malamud, The Fixer (3) 他
19	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑯	Bernard Malamud, The Fixer (4) 他
20	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑰	Bernard Malamud, The Fixer (5) 他
21	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑱	Bernard Malamud, The Fixer (6) 他

22	英文記事講読および プレゼンテーション、 英語で書かれた小説 の精読・ディスカッ ション ^⑩	Bernard Malamud, The Fixer (7) 他
23	英文記事講読および プレゼンテーション、 英語で書かれた小説 の精読・ディスカッ ション ^⑪	Bernard Malamud, The Fixer (8) 他
24	英文記事講読および プレゼンテーション、 英語で書かれた小説 の精読・ディスカッ ション ^⑫	Bernard Malamud, The Fixer (9) 他
25	英文記事講読および プレゼンテーション、 英語で書かれた小説 の精読・ディスカッ ション ^⑬	Bernard Malamud, The Fixer (10) 他
26	英文記事講読および プレゼンテーション、 英語で書かれた小説 の精読・ディスカッ ション ^⑭	Bernard Malamud, The Fixer (11) 他
27	英文記事講読および プレゼンテーション、 英語で書かれた小説 の精読・ディスカッ ション ^⑮	Bernard Malamud, The Fixer (12) 他
28	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 英文記事講読の予習：英語の意味がわからなかったり、あやふやだったりする箇所を明確にして授業に臨む。
 - 2) プレゼンテーションの準備：全員が意見を述べる準備をする。発表者以外の参加者は意見や感想や疑問などを英語で書いたものを提出。
 - 3) 小説を読み感想文を毎回提出。
- 本授業の準備学習・復習時間は8時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するほか、授業内で適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 60% （プレゼンテーション、提出物等を含む）
 2. 期末レポート 40%
- 4年生は卒業論文を成績評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

人と対話をしてその人を理解するように、テキストと対話をして何が書かれているのか、何が大切なのかを理解していきましょう。知的好奇心と読解力を高めていきましょう。無関心から脱すれば自分の人生の質が高まるだけでなく社会全体の活性化にもつながります。情けは人の為ならず。
日本（自分がいるところ）のことを知らずに他の地域のことや世界の動きを理解するのは至難の業です。今年度は教室を離れて自分たちが生きる社会を見学する機会も作れたらと考えています。

【その他の重要事項】

1. 参加者はかならず春学期、秋学期の初回授業に出席してください。この日に詳細な「シラバス」を配布し、そのシラバスに同意していただいたうえで授業は行われます。
2. 授業内容については参加者の状態に柔軟に対応します。意見や要望をいつでも遠慮なくお聞かせください。

【Outline (in English)】

[Course outline] Put yourself in the language in the text, think deeply, and express yourself in your own words.

【Course objectives】

1. Read texts correctly.
2. Understand history and culture as well as human feelings.

3. Use your knowledge, imagination and sensitivity, think deeply.

4. Describe your thought correctly.

[Learning activities outside of classroom]

For each class meeting, spend more than 8 hours to complete the below.

1. Read texts.
2. Write comments.
3. Prepare for presentation and discussion in English and Japanese.

[Grading criteria /policy]

Classroom activities 60%(including presentation, handouts, etc.), term papers 40%

For senior students, senior thesis 100%

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
張 欣
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7183」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国文学、中国文化を学び、中国の文化、歴史、社会への理解を深めます。

【到達目標】

勉強や研究を重ね、自らの中国認識を構築していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①中国文学、中国文化に関する共通テキストの輪読・ディスカッション
- ②中国文学、中国文化に関する調査・研究の経過報告および卒論製作のための報告
- ③授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の概要の説明、輪読の割り当て、自己紹介
第2回	輪読1	『中国＝文化と思想』輪読1
第3回	輪読2	『中国＝文化と思想』輪読2
第4回	輪読3	『中国＝文化と思想』輪読3
第5回	輪読4・発表1	『中国＝文化と思想』輪読4・学生による発表1
第6回	輪読5・発表2	『中国＝文化と思想』輪読5・学生による発表2
第7回	輪読6・発表3	『中国＝文化と思想』輪読6・学生による発表3
第8回	輪読7・発表4	『中国＝文化と思想』輪読7・学生による発表4
第9回	輪読8・発表5	『中国＝文化と思想』輪読8・学生による発表5
第10回	輪読9・発表6	『中国＝文化と思想』輪読9・学生による発表6
第11回	輪読10・発表7	『中国＝文化と思想』輪読10・学生による発表7
第12回	輪読11・発表8	『中国＝文化と思想』輪読11・学生による発表8
第13回	輪読12・発表9	『中国＝文化と思想』輪読12・学生による発表9
第14回	まとめ	春学期のまとめ
第15回	輪読13・発表10	『中国＝文化と思想』輪読13・学生による発表10
第16回	輪読14・発表11	『中国＝文化と思想』輪読14・学生による発表11
第17回	輪読15・発表12	『中国＝文化と思想』輪読15・学生による発表12
第18回	輪読16・発表13	『中国＝文化と思想』輪読16・学生による発表13
第19回	輪読17・発表14	『中国＝文化と思想』輪読17・学生による発表14

第20回 輪読18・発表15

第21回 輪読19・発表16

第22回 輪読20・発表17

第23回 輪読21・発表18

第24回 輪読22・発表19

第25回 輪読23・発表20

第26回 輪読24・発表21

第27回 輪読25・発表22

第28回 まとめ

『中国＝文化と思想』輪読18・学生による発表15

『中国＝文化と思想』輪読19・学生による発表16

『中国＝文化と思想』輪読20・学生による発表17

『中国＝文化と思想』輪読21・学生による発表18

『中国＝文化と思想』輪読22・学生による発表19

『中国＝文化と思想』輪読23・学生による発表20

『中国＝文化と思想』輪読24・学生による発表21

『中国＝文化と思想』輪読25・学生による発表22

全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を十分に調べます。本授業の準備学習・復習時間は、8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林語堂『中国＝文化と思想』、講談社1999年、1400円（税別）

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

2～3年次履修者：平常点60%、レポート等40%。

4年次履修者：卒業論文の評価が考慮され、卒業論文未提出者には単位は付与されません。

【学生の意見等からの気づき】

中国の文化・社会・歴史等に関する知識をより詳しく紹介します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire understanding of Chinese literature/culture/society. At the end of the course, students are expected to have their own perspective of Chinese culture and community. Students will be expected to complete the required assignments. The required study time will be more than eight hours for a class. The final grade will be decided based on the following: Term-end report 40%, in class contribution 60%.

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
中谷 安男、山本 ミッシェル
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7184」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスコミュニケーションとリーダーシップについて英語のテキストとディスカッションを通して深く学ぶ。グローバルマーケティングに関する知識を深め積極的に新たな事業提案に取り組む

【到達目標】

- ・英語力向上 TOEIC 2年730点（Bレベル）3年 860（Aレベル）
- ・国際ビジネスに関する書物の多読を通してクリティカル・シンキング能力を向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

クラス・ディスカッション
プレゼンテーション
フィールドワーク

4年生は定期的に卒論の中間発表を行い評価する。
卒論提出前に複数回のフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習 1	プレゼン 1 クラス討議 1
2	演習 2	プレゼン 2 クラス討議 2
3	演習 3	プレゼン 3 クラス討議 3
4	演習 4	プレゼン 4 クラス討議 4
5	演習 5	プレゼン 5 クラス討議 5
6	演習 6	プレゼン 6 クラス討議 6
7	演習 7	プレゼン 7 クラス討議 7
8	演習 8	プレゼン 8 クラス討議 8
9	演習 9	プレゼン 9 クラス討議 9
10	演習 10	プレゼン 10 クラス討議 10
11	演習 11	プレゼン 11 クラス討議 11
12	演習 12	プレゼン 12 クラス討議 12
13	演習 13	プレゼン 13 クラス討議 13
14	演習 14	プレゼン 14 クラス討議 14
15	演習 15	プレゼン クラス討議 15

16	演習 16	プレゼン クラス討議 16
17	演習 17	プレゼン クラス討議 17
18	演習 18	プレゼン クラス討議 18
19	演習 19	プレゼン クラス討議 19
20	演習 20	プレゼン クラス討議 20
21	演習 21	プレゼン クラス討議 21
22	演習 22	プレゼン クラス討議 22
23	演習 23	プレゼン クラス討議 23
24	演習 24	プレゼン クラス討議 24
25	演習 25	プレゼン クラス討議 25
26	演習 26	プレゼン クラス討議 26
27	演習 27	プレゼン クラス討議 27
28	演習 28	プレゼン クラス討議 28

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・『英語教育学の実証的研究法入門』寺内正典&中谷安男、研究社
- ・4年『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中谷安男 中央経済社
- ・『オックスフォード世界最強のリーダーシップ教室』中谷安男 中央経済社

【参考書】

『国際ビジネスコミュニケーション』丸善書店
Intelligent Business: Coursebook、By Johnson, C. Pearson Longman

【成績評価の方法と基準】

レポート 20 %
平常点 20 %
論文 40 %
研究発表 20 %

【学生の意見等からの気づき】

より討議を増やす

【学生が準備すべき機器他】

PC DVD

【その他の重要事項】

Class schedules and content may change depending on the advancement of the students.

Some classes may be switched to Zoom. But it will be announced beforehand.

【Outline (in English)】

- ・ We learn effective business communication for leaders and global marketing.
- ・ Learning Objectives:
English proficiency improvement: TOEIC A Level. Enhancing critical thinking skills through extensive reading of literature on international business.
- ・ Two hours for Lesson preparation and review exercises respectively.
- ・ Evaluation: Report 20 %, Class contribution, 20 %, Essay 40 %, Research presentation 20 %

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
倪 彬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7185」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済学の理論やエビデンスを英文テキストでしっかり理解し、また経済データソースも使った実証研究を行えるようにする。グループワークで深く勉強し、プレゼンテーションする能力を養う。

【到達目標】

国際経済学の資料を英語で読むことが出来る。自分の興味がある内容につき、グループで協調しつつ、他の学生に説明を行うとともに意見を発表できる。さらに、自らデータを用いて検証出来る事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者によるテキストの輪読、及び教員による解説、演習を行います。今年は対面（メイン）とオンラインのハイブリッドの形で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習 1：イントロ	演習の目的、各種割り当て(プレゼンの順番など)
2	演習 2	1: Introductory Trade Issues:
3	演習 3	2: The Ricardian Theory of Comparative Advantage
4	演習 4	3: The Heckscher-Ohlin (Factor Proportions) Model
5	演習 5	4: Economies of Scale and International Trade
6	演習 6	5: Trade Policy Effects with Perfectly Competitive Markets
7	演習 7	6: Trade Policies with Market Imperfections and Distortions
8	演習 8	7: Political Economy and International Trade
9	演習 9	8: Free Trade Agreement
10	演習 10	9: Introductory Finance Issues
11	演習 11	10: National Income and the Balance of Payments Accounts
12	演習 12	11: The Whole Truth about Trade Imbalances
13	演習 13	12: Interest Rate Parity
14	演習 14	13: Exchange Rate Regime
15	演習 15	データ分析 12のレッスンに関する紹介
16	演習 16	第1章 データから仮説を探る
17	演習 17	第2章 データに親しむ
18	演習 18	第3章 データを見る
19	演習 19	第4章 データを加工する

20	演習 20	第5章 関係性を読み解く
21	演習 21	第6章 1つの原因で結果にせまる:単回帰分析
22	演習 22	第7章 複数の原因で結果にせまる:重回帰分析
23	演習 23	第8章 ダミー変数を使いこなす
24	演習 24	第9章 パネルデータに親しむ
25	演習 25	第10章 個票データに親しむ
26	演習 26	第11章 個票データで回帰分析する
27	演習 27	第12章 質的な結果を回帰分析する
28	演習 28	最終総め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを事前に読んでおくこと。また、テキスト以外の資料も各自で図書館等で取得しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Krugman, Melitz, and Obstfeld, International Economics ; 柏木 吉基著『「それ、根拠あるの?」と言わせないデータ・統計分析ができる本』日本実業出版社 ; 畑農鋭矢,水落正明著「データ分析をマスターする12のレッスン」有斐閣アルマ Basic 星野匡郎,田中久稔著「Rによる実証分析一回帰分析から因果分析へ」オーム社

【参考書】

教科書以外、発表内容に関連するプリントを配ります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への参加、発言、輪読報告、グループプレゼン、また、合宿への参加などで総合的に評価します。三年生のみには他大学とのインゼミで発表してもらいます。具体的に：

(1)授業での発言、積極さ 50%

(2)プレゼン 50%

また、四年生に関して、履修するには卒論の提出が義務付けられています。卒論の執筆は個別指導を行います。最終成績は提出論文の質に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

英文輪読では報告者と教員との一方通行の授業にならないように、ゼミ生全員の参加を促す工夫します。

【Outline (in English)】

The object is to understand the theory and evidence in international economics. Using data analysis as well as group discussion, the students are expected to extract information from real data and cultivate the habit of thinking like an economist.

The grading criteria are as follows:

(1)Participation in the discussion 50%

(2)Presentation 50%

Learning activities outside of classroom: the students are expected to preview the course contents and prepare for the presentation. The time used is approximately 2 hours for review and preparation respectively.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
友松 夕香
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7186」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習（ゼミ）では、文化人類学のフィールドワークの方法を用いて研究をします。フィールドワークとは、調査地（フィールド）に足を運び、インタビューや雑談、参与観察をとおして社会現象を解明し、協働作業として課題の発見・解決に取り組むことです。フィールドの方々と一緒に共通認識を生み出し、データから仮説を導き出すこと、そして調査能力と課題解決能力を養うことが授業の目的です。

【到達目標】

- ・文章力・表現力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力を向上させる
- ・フィールドワークをとおして行動力をつける
- ・英語を運用できるようになる
- ・論理的に話を構成できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ゼミは研究発表とディスカッションの場になります。企業研究、自己研究、企業／社会人訪問、コミュニケーション研究、国内研究、英語圏／海外研究を順に進めていきます。ゼミ生はテーマと調査内容を各自で自由に設定し、各自でフィールドワークを実施します。国内研究では、夏休みから秋学期にかけて最低2度の調査を行い、12月に成果発表をします。英語圏／海外研究では、白馬やニセコなど国内の英語圏、もしくは留学や個人で海外に行く場合はその国をフィールドにして、3年次の夏休みまでに2週間の調査を実施してまとめ、成果発表をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介をする
2	業界・企業研究①	日経データベースの使い方を学ぶ
3	業界・企業研究②	発表する
4	業界・企業研究③	発表する
5	自己研究①	洞察力・文章力・表現力を上達させる
6	自己研究②	洞察力・文章力・表現力を上達させる
7	国内研究①	2年次：テーマと研究計画を発表する 3年次：論文を書く
8	国内研究②	2年次：テーマと研究計画を発表する 3年次：論文を書く
9	英語圏／海外研究①	2年次：調査旅行の計画を発表する 3年次：調査報告をする
10	英語圏／海外研究②	2年次：調査旅行の計画を発表する 3年次：調査報告をする
11	企業／社会人訪問①	実施報告をする
12	企業／社会人訪問②	実施報告をする
13	実施報告をする③	実施報告をする

14	中間総括	研究の進捗を整理し、秋学期の計画を立てる
15	コミュニケーション研究①	ゼミの魅力を伝える方法を考え、表現する
16	国内研究③	2年次：1回目の調査報告をする 3年次：論文を書く
17	国内研究④	2年次：1回目の調査報告をする 3年次：論文を書く
18	国内研究⑤	2年次：1回目の調査報告をする 3年次：論文を書く
19	国内研究⑥	2年次：2回目の調査報告をする 3年次：論文を書く
20	コミュニケーション研究②	面接を実施・分析する
21	国内研究⑦	2年次：2回目の調査報告をする 3年次：論文を書く
22	国内研究⑧	2年次：2回目の調査報告をする 3年次：論文を書く
23	国内研究の成果発表①	調査データから仮説と問いを導き出し、整理して発表する
24	国内研究の成果発表②	調査データから仮説と問いを導き出し、整理して発表する
25	英語圏／海外研究③	調査旅行の準備をする
26	英語圏／海外研究④	調査旅行の準備をする
27	英語圏／海外研究⑤	調査旅行の準備をする
28	英語圏／海外研究⑥	調査旅行を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：各自の研究を進めるうえで必要な情報収集をおこなう。発表資料を作成し、発表練習をする。
事後学習：各自の研究を進めるうえで必要な文献を読み、フィールドワークをおこなう。

【テキスト（教科書）】

授業内でご紹介いたします。

【参考書】

授業内でご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

出欠（遅刻・早退）、発表のパフォーマンス（質、回数）、役割分担、チームワーク、授業態度の総合評価を平常点（100％）とします。単位取得のためには、すべての課題を実施し、発表する必要があります（企業研究、企業／社会人訪問、自己研究、コミュニケーション研究、国内研究、英語圏／海外研究）。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業にパソコンを持参してください。

【その他の重要事項】

文化人類学の思考と研究方法を習得するために、文化人類学ABと経済人類学ABを履修してください。

【Outline (in English)】

In this seminar, students engage in fieldwork studies. Students collect data to elucidate social phenomena and discover issues in their fields by visiting various places and communicating with diverse people. The class aims to develop research and problem-solving skills while experiencing the joy of creating hypotheses from data. Participation and engagement (100%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
西村 健
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7187」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミで扱うテーマは「ゲーム理論」と「実験経済学」です。ゲーム理論は、戦略的相互依存関係（駆け引き）を分析するための、総合的な理論体系です。実験経済学は、ゲーム理論や経済学で提示された理論仮説を検証する分野です。このゼミでは、テキストの輪読とグループワークを通じて、これらの分野について専門的に学びます。

【到達目標】

- ・ゲーム理論や実験経済学について、その基本的な考え方や分析手法を体得します。
- ・プレゼンにおいて、自分の意見を根拠に基づいて伝え、生産的な討論をおこないます。
- ・グループワークにおいて、メンバーと協力・議論しながら成果を出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・テキストの輪読を通じて、ゲーム理論と実験経済学について基礎から着実に学びます。
- ・グループワークも実施します。理論的な仮説が現実になり立つかどうか、実験データを収集・整理して検証します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス①	ガイダンス①	春学期のゼミ計画
①	輪読とグループワーク①	テキストの輪読とグループワーク①
②	輪読とグループワーク②	テキストの輪読とグループワーク②
③	輪読とグループワーク③	テキストの輪読とグループワーク③
④	輪読とグループワーク④	テキストの輪読とグループワーク④
⑤	輪読とグループワーク⑤	テキストの輪読とグループワーク⑤
⑥	輪読とグループワーク⑥	テキストの輪読とグループワーク⑥
⑦	輪読とグループワーク⑦	テキストの輪読とグループワーク⑦
⑧	輪読とグループワーク⑧	テキストの輪読とグループワーク⑧
⑨	輪読とグループワーク⑨	テキストの輪読とグループワーク⑨
⑩	輪読とグループワーク⑩	テキストの輪読とグループワーク⑩
⑪	輪読とグループワーク⑪	テキストの輪読とグループワーク⑪
報告会①	グループワークの報告会①	各グループによる成果報告①

報告会②	グループワークの報告会②	各グループによる成果報告②
ガイダンス②	ガイダンス②	秋学期のゼミ計画
⑫	輪読とグループワーク⑫	テキストの輪読とグループワーク⑫
⑬	輪読とグループワーク⑬	テキストの輪読とグループワーク⑬
⑭	輪読とグループワーク⑭	テキストの輪読とグループワーク⑭
⑮	輪読とグループワーク⑮	テキストの輪読とグループワーク⑮
⑯	輪読とグループワーク⑯	テキストの輪読とグループワーク⑯
⑰	輪読とグループワーク⑰	テキストの輪読とグループワーク⑰
⑱	輪読とグループワーク⑱	テキストの輪読とグループワーク⑱
⑲	輪読とグループワーク⑲	テキストの輪読とグループワーク⑲
⑳	輪読とグループワーク㉔	テキストの輪読とグループワーク㉔
㉑	輪読とグループワーク㉑	テキストの輪読とグループワーク㉑
㉒	輪読とグループワーク㉒	テキストの輪読とグループワーク㉒
報告会③	グループワークの報告会③	各グループによる成果報告③
報告会④	グループワークの報告会④	各グループによる成果報告④

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・プレゼン担当の場合、必ず事前に入念な準備を進めてください。特に、プレゼン時にどのような質問が出るかをあらかじめ想定して準備しておく、当日の議論が活発になるでしょう。
- ・プレゼン担当でない場合も、テキストの該当箇所を読むなどして予習してください。
- ・グループワークで課題が出た場合、必ず授業時間外に取り組んでください。
- ・予習と復習、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回の授業でお伝えします。

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・プレゼン、グループワーク、出席回数などを総合的に勘案して評価します。
- ・プレゼンでは、報告者だけでなく全員に対して何かしらの発言が求められるので、積極的な態度で臨んでください。慣れないうちはどのような内容の発言でも構いません。報告者にとっては、出席者の反応に基づいて発表の内容や形式を修正できるというメリットがあります。議論・討論の進め方を経験することは、社会に出たときに必ず役立ちます。
- ・グループワークでは、チーム作業だということを意識して、メンバーと協力・議論しながら作業を進めてください。
- ・正当な理由のない遅刻・欠席は大きな減点対象になります。やむを得ず遅刻・欠席をした場合には、その後の報告や発言を通じてゼミに貢献することで、挽回するようにください。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からのフィードバックを踏まえて授業方法を改善していきます。

【学生が準備すべき機器他】

システムを頻繁に利用するため、パソコンなどの機器が必要となります。

【その他の重要事項】

「ミクロ経済学」、「計量経済学」、「ビジネス数学入門」の受講を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: In this seminar, students study game theory and experimental economics.

Learning objectives: By the end of the course, students are expected

to understand the concepts of game theory and experimental economics and become able to explain them.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend two hours to understand the class content.

Grading policy: In-class contribution 100%

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
萬代 悠
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7188」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《前近代の金融と法制度から契約の工夫を読み解く》
春学期については、三井大坂両替店の信用調査記録を読む。金融業を営む三井大坂両替店は、顧客である借入希望者の信用情報を綿密に調査し、当該者に融資してよいのかの審査をした。本授業では、授業担当者が三井大坂両替店の信用情報調査書にある記事を活字化して提示し、受講生が当該記事についての解釈と考察を報告する形をとる。本授業の目的は、借入希望者の家族構成や生業、担保物件、貸借・返済履歴を調査した三井大坂両替店の記録から、三井大坂両替店が顧客をどのように選別し、契約不履行を防ぐためにどう工夫したかについての理解を深めることにある。秋学期については、18世紀後半から19世紀中頃の畿内農村の未活字史料を読む。近世畿内では、支配領域や旧国郡を越えて金融取引が活発におこなわれていた。本授業では、授業担当者が未活字史料の金融契約書類を用意、提示し、受講生が当該契約書についての解釈と考察を報告する形をとる。本授業の目的は、金融取引が拡大し、契約不履行をある程度防ぐことができた要因を、個々の契約書から読み解くことにある。

【到達目標】

①史料を読み解く力を養う。②史料の解説を通して、当時の諸主体の要求や主張を整理できるようになる。③史料の内容から、自らの関心に沿った文献を提示できる力を養う。④解説し考察した内容をわかりやすく報告できる能力を高める。⑤受講生、授業担当者からの質問に対し、明瞭な回答ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講生は、信用調査の活字史料、あるいは契約書の未活字史料のなかから興味のある史料を選び、現代語で解釈したうえで、それに関する見解や疑問を報告する。アクティブ・ラーニング形式とし、報告者以外の受講生は、当該報告に対する評価と疑問をリアクションペーパーという形で提出する。割り当ては第1回、第15回におこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	春学期の授業の進め方を説明する。
第2回	論文講読（1）	三井の金融と幕府の法制度についての理解を深める。
第3回	論文講読（2）	三井の組織についての理解を深める。
第4回	論文講読（3）	三井の信用調査についての理解を深める。
第5回	信用調査書を読む（初級編）	活字史料を読み、文章の構成や言い回しに慣れる。
第6回	信用調査書を読む（中級編）	活字史料を読み、主語や述語を的確に把握する。
第7回	信用調査書を読む（上級編）	活字史料を読み、背景にある法制度を熟知する。
第8回	信用調査研究報告（1）	特定の顧客の信用調査記録を選び、研究報告をおこなう。
第9回	信用調査研究報告（2）	特定の顧客の信用調査記録を選び、研究報告をおこなう。

第10回	信用調査研究報告（3）	特定の顧客の信用調査記録を選び、研究報告をおこなう。
第11回	信用調査研究報告（4）	特定の顧客の信用調査記録を選び、研究報告をおこなう。
第12回	信用調査研究報告（5）	特定の顧客の信用調査記録を選び、研究報告をおこなう。
第13回	信用調査研究報告（6）	特定の顧客の信用調査記録を選び、研究報告をおこなう。
第14回	まとめ	春学期の授業を総括する。
第15回	ガイダンス	秋学期の授業の進め方を説明する。
第16回	論文講読（1）	農村の金融についての理解を深める。
第17回	論文講読（2）	農村の金融をめぐる法制度についての理解を深める。
第18回	古文書に慣れる（初級編）	古文書に触れてくずし字を学ぶ。
第19回	古文書に慣れる（中級編）	古文書に触れてくずし字を学ぶ。
第20回	古文書に慣れる（上級編）	古文書に触れてくずし字を学ぶ。
第21回	古文書読解（1）	金銭貸借証書の内容を読解する。
第22回	古文書読解（2）	金銭貸借証書の内容を読解する。
第23回	農村金融に関する研究報告（1）	特定の契約書を選び、研究報告をおこなう。
第24回	農村金融に関する研究報告（2）	特定の契約書を選び、研究報告をおこなう。
第25回	農村金融に関する研究報告（3）	特定の契約書を選び、研究報告をおこなう。
第26回	農村金融に関する研究報告（4）	特定の契約書を選び、研究報告をおこなう。
第27回	農村金融に関する研究報告（5）	特定の契約書を選び、研究報告をおこなう。
第28回	まとめ	秋学期の授業を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、参考書を用いて予習する（作業2時間程度）。授業のあとには、授業の内容を復習したり、授業で提示した参考文献から理解を深める（作業2時間程度）

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

発表の内容や授業中の質問・意見等の受講態度、リアクションペーパーや研究報告の内容などから総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

Wordを閲覧・編集できる情報機器。

【その他の重要事項】

近世日本の独特な文章を読み解く能力を養う必要がある。これまでまったく触れたことのない者でも問題はないが、意欲的に予習、復習をし、読解力を高める努力が求められる。

【Outline (in English)】

授業の概要（Course outline）

This course deals with the devising financial transactions in early modern Japan.

到達目標（Learning Objectives）

The goals of this course are to improvement of historical reading comprehension

授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）

Before class, students should prepare for the class using reference books (about 2 hours of work). After class, review the class content and deepen understanding from the references presented in class (about 2 hours of work).

成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）

A comprehensive evaluation will be made based on each student's attitude, in-class contribution, and assignments.
(100%)

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
大森 祥輔
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7189」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

輪講を行うことで複雑系科学で用いられる数学・数理モデルの基礎概念・考え方・使い方を学習します。また、プレゼンテーション技術の向上も目指します。

【到達目標】

複雑系科学に現れる数学（主に微分・差分方程式、離散数学）の基礎を習得することを目標とします。また、現象やデータを定量的に評価し判断する能力や計算力、プレゼンテーション能力を習得することも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習は教科書及び文献の輪読を中心に進めます。詳細は第1回の授業でお伝えします。各回、履修者1名若しくは数名が担当となり、学習報告を行います。報告に対しての質疑応答やフィードバックをその場でおこない、履修者全員が内容を理解したうえで次の担当者へ繋いでいきます。特に履修者同士のフィードバックや議論も奨励します。また、各学期に輪講の内容に関する課題を課し、履修者は学期末にその課題に関する発表を行います。

なお、報告は完璧である必要はありませんが、自分がどこまで正確に厳密に理解したのかを自身で把握するように心掛けてください。また、質疑応答や議論では自分の意見を正確に言語化して発言する練習も兼ねています。履修生の活発な議論や質疑応答を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期演習ガイダンス	演習の概要を説明します。また輪講や発表の方法について説明します。
2	輪読①	「教科書」の報告と質疑応答①
3	輪読②	「教科書」の報告と質疑応答②
4	輪読③	「教科書」の報告と質疑応答③
5	輪読④	「教科書」の報告と質疑応答④
6	輪読⑤	「教科書」の報告と質疑応答⑤
7	春学期末課題の準備①	春学期末課題に向けた準備やディベート、発表練習を行います。
8	輪読⑥	「教科書」の報告と質疑応答⑥
9	輪読⑦	「教科書」の報告と質疑応答⑦
10	輪読⑧	「教科書」の報告と質疑応答⑧
11	輪読⑨	「教科書」の報告と質疑応答⑨
12	輪読⑩	「教科書」の報告と質疑応答⑩
13	春学期末課題の準備②	春学期末課題に向けた準備やディベート、発表練習を行います。
14	春学期の総括	春学期末課題の発表、及び演習内容の総括を行います。
15	秋学期演習ガイダンス	秋学期の演習の概要を説明します。
16	輪読⑪	「教科書」の報告と質疑応答⑪
17	輪読⑫	「教科書」の報告と質疑応答⑫
18	輪読⑬	「教科書」の報告と質疑応答⑬

19	輪読⑭	「教科書」の報告と質疑応答⑭
20	秋学期末課題の準備①	秋学期末課題に向けた準備やディベート、発表練習を行います。
21	輪読⑮	「教科書」の報告と質疑応答⑮
22	輪読⑯	「教科書」の報告と質疑応答⑯
23	輪読⑰	「教科書」の報告と質疑応答⑰
24	輪読⑱	「教科書」の報告と質疑応答⑱
25	輪読⑲	「教科書」の報告と質疑応答⑲
26	輪読⑳	「教科書」の報告と質疑応答㉔
27	秋学期末課題の準備②	秋学期末課題に向けた準備やディベート、発表練習を行います。
28	秋学期の総括	秋学期末課題の発表、及び演習内容の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の準備をしてくること。また、自分の担当箇所だけでなく準備学習を行い議論ができるようにしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第1回授業で指示します。

【参考書】

演習中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

演習で出される課題（50％）、平常点（50％）として評価し、60％の得点率を合格とします。なお、演習は原則として対面でおこない、出席率も評価の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

止むを得ず演習に出席することができない場合には、事前に必ず連絡してください。
数学、数理科学的な思考に興味がある学生の履修が望まれます。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Through the journal club, students will learn about the fundamental concepts, ideas, and usage of mathematics and mathematical models related to the complexity found in nature and society. The course also aims to enhance their presentation skills.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Master the fundamentals of mathematics as they apply to complex systems.
- ・ Develop the ability to quantitatively evaluate and analyze several phenomena and data.
- ・ Enhance computational and presentation skills.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

The exercise will focus on reading textbooks and literature in a journal club format. In each session, one or more students will be assigned to present a study report, followed by a question-and-answer session and feedback. Additionally, an assignment related to the course material will be given each semester, and students will be required to present their work at the end of the term. Students are expected to prepare their study reports. For each session, pre-study of 4 hours and review for 4 hours are recommended for comprehension.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

The grade of the students in this class will be decided based on the assignments (50%) and the class contribution (50%). Please note that a score of 60% will be considered as a passing grade.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)

Multinational Enterprises A

MANISH SHARMA

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：水3/Wed.3 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this applied course the students will learn the basic framework and tools necessary to analyze a multi-national enterprise (MNE) and the business environment in which they operate. We would also understand the connection between global macro-economic indicators and corporate decision making. The course makes extensive use of real-world examples.

【到達目標】

Learning Outcomes

- 1.Understating the implications of operating beyond national borders
- 2.Grasping the interaction between international business operations and global/local macro-economy

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required. At the end of the course, students will be required to make a presentation involving an analysis of a real multi-national company that they have selected.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly reflection notes on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview &significance of the course; Defining MNE -Syllabus -Manual for project - Pre-Course Survey
2	THE STRUCTURE	Organizational approaches; OLI Framework -Small group case analysis -Trending news &research - Recap
3	BUSINESS STRATEGIES	Theory and Cases -Trending news -Case Seminar - Recap
4	MARKET ENTRY DECISIONS	Where/How/When; Cases -Small group case analysis -Trending news - Recap

5	FINANCIAL MANAGEMENT	Theory and Cases -Case seminar -Trending news - Recap
6	CONTROL MECHANISM	Global-local matrix; Cases -Small group Case analysis -Trending news - Recap
7	KNOWLEDGE MANAGEMENT	Cases Debate 1 -Trending news - Recap
8	MNEs FROM EMERGING COUNTRIES	Cases -Trending news -Case seminar - Recap
9	INTERNATIONAL BUSINESS ENVIRONMENT	Cases -Trending news -Case seminar - Recap
10	TRANSACTION COST ECONOMICS	Taxation and transfer pricing regulations -Trending news -Case seminar - Recap
11	IMPACT OF MNEs	On host and home countries Debate 2 -Trending news -Case seminar - Recap -Trending news
12	ADVANCED TOPICS	Monopoly concerns, Corruption, Corporate Social Responsibility -Trending news -Case seminar - Recap
13	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research
14	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion 15%
2. Final (Group) Report 30%
3. One Individual Presentation: 15%
4. Weekly Hoppii Forum Posts 30%
5. Two super short debates 10%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
Multinational Enterprises A
MANISH SHARMA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
過年度 Multinational Enterprises A を修得済みの場合は履修不可

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this applied course the students will learn the basic framework and tools necessary to analyze a multi-national enterprise (MNE) and the business environment in which they operate. We would also understand the connection between global macro-economic indicators and corporate decision making. The course makes extensive use of real-world examples.

【到達目標】

Learning Outcomes

- 1.Understanding the implications of operating beyond national borders
- 2.Grasping the interaction between international business operations and global/local macro-economy

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required. At the end of the course, students will be required to make a presentation involving an analysis of a real multi-national company that they have selected.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly reflection notes on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview &significance of the course; Defining MNE -Syllabus -Manual for project - Pre-Course Survey
2	THE STRUCTURE	Organizational approaches; OLI Framework -Small group case analysis -Trending news &research - Recap
3	BUSINESS STRATEGIES	Theory and Cases -Trending news -Case Seminar - Recap
4	MARKET ENTRY DECISIONS	Where/How/When; Cases -Small group case analysis -Trending news - Recap

5	FINANCIAL MANAGEMENT	Theory and Cases -Case seminar -Trending news - Recap
6	CONTROL MECHANISM	Global-local matrix; Cases -Small group Case analysis -Trending news - Recap
7	KNOWLEDGE MANAGEMENT	Cases Debate 1 -Trending news - Recap
8	MNEs FROM EMERGING COUNTRIES	Cases -Trending news -Case seminar - Recap
9	INTERNATIONAL BUSINESS ENVIRONMENT	Cases -Trending news -Case seminar - Recap
10	TRANSACTION COST ECONOMICS	Taxation and transfer pricing regulations -Trending news -Case seminar - Recap
11	IMPACT OF MNEs	On host and home countries Debate 2 -Trending news -Case seminar - Recap -Trending news
12	ADVANCED TOPICS	Monopoly concerns, Corruption, Corporate Social Responsibility -Trending news -Case seminar - Recap
13	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research
14	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion 15%
2. Final (Group) Report 30%
3. One Individual Presentation: 15%
4. Weekly Hoppii Forum Posts 30%
5. Two super short debates 10%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
Multinational Enterprises B
MANISH SHARMA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
過年度 Multinational Enterprises B を修得済みの場合は履修不可

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this applied course the students will learn the basic framework and tools necessary to analyze a multi-national enterprise (MNE) and the business environment in which they operate. We would also understand the connection between global macro-economic indicators and corporate decision making. The course makes extensive use of real-world examples.

【到達目標】

Learning Outcomes

- 1.Understanding the implications of operating beyond national borders
- 2.Grasping the interaction between international business operations and global/local macro-economy

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required. At the end of the course, students will be required to make a presentation involving an analysis of a real multi-national company that they have selected.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly reflection notes on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview &significance of the course; Things we covered in Spring -Syllabus -Manual for project
2	INTERNATIONAL BUSINESS ENVIRONMENT	New Paradigm; Geopolitical headwinds; COVID realities -Small group case analysis -Trending news &research - Recap
3	Re-DEFINING MNEs	Characteristics; New Shifts; Objective of a multinational business -Trending news -Case Seminar - Recap

4	CORPORATE GOVERNANCE	What/How/When; Cases The Significance of Three Sets of People -Small group case analysis -Trending news - Recap
5	GLOBAL TRADE	International Trade Flows; Framework; Key Factors -Case seminar -Trending news - Recap
6	OUTSOURCING	Global-local matrix; Non-Equity Mode of Investments; Case Study of iPhone. -Small group Case analysis - Trending news - Recap
7	OWNERSHIP	Who Owns an MNE? Location (Domicile) Legal Bases Cases (Logitech/Bud) -Trending News - Recap
8	SUSTAINABILITY	Friedman Paradigm; Close-Loop Supply Chain Cases (Nike; Ikea) -Trending news -Debate 1 - Recap
9	UNDERSTANDING THE COMPLEXITY	Cases (SONY &APPLE) -Trending news -Recap
10	GLOBAL MARKETING	4Ps; Dabate 2 - Trending news - Recap
11	STRUCTURE OF AN MNE	Functional; Divisional; Matrix; -Small group case analysis -Trending news - Recap
12	STRATEGY ANALYSIS	Porter's 5 Forces: BCG quadrant; -Trending News - Recap
13	MARKET ENTRY	Multi-Domestic; Globally-Integrated. Entry Strategies (Broadbrush; Beachhead) Cases (Dentsu; Denso; Walmart; McCormick) -Trending News - Recap
14	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research - Epilogue

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A detailed reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion 15%
2. Final (Group) Report 30%
3. One Individual Presentation: 15%
4. Weekly Hoppii Forum Posts 30%

5. Two super short debates 10%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN300CA (経済学 / Economics 300)

Multinational Enterprises B

MANISH SHARMA

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：水3/Wed.3 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this applied course the students will learn the basic framework and tools necessary to analyze a multi-national enterprise (MNE) and the business environment in which they operate. We would also understand the connection between global macro-economic indicators and corporate decision making. The course makes extensive use of real-world examples.

【到達目標】

Learning Outcomes

- 1.Understating the implications of operating beyond national borders
- 2.Grasping the interaction between international business operations and global/local macro-economy

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required. At the end of the course, students will be required to make a presentation involving an analysis of a real multi-national company that they have selected.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly reflection notes on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview &significance of the course; Things we covered in Spring -Syllabus -Manual for project
2	INTERNATIONAL BUSINESS ENVIRONMENT	New Paradigm; Geopolitical headwinds; COVID realities -Small group case analysis -Trending news &research - Recap
3	Re-DEFINING MNEs	Characteristics; New Shifts; Objective of a multinational business -Trending news -Case Seminar - Recap

4	CORPORATE GOVERNANCE	What/How/When; Cases The Significance of Three Sets of People -Small group case analysis -Trending news - Recap
5	GLOBAL TRADE	International Trade Flows; Framework; Key Factors -Case seminar -Trending news - Recap
6	OUTSOURCING	Global-local matrix; Non-Equity Mode of Investments; Case Study of iPhone. -Small group Case analysis - Trending news - Recap
7	OWNERSHIP	Who Owns an MNE? Location (Domicile) Legal Bases Cases (Logitech/Bud) -Trending News - Recap
8	SUSTAINABILITY	Friedman Paradigm; Close-Loop Supply Chain Cases (Nike; Ikea) -Trending news -Debate 1 - Recap
9	UNDERSTANDING THE COMPLEXITY	Cases (SONY &APPLE) -Trending news -Recap
10	GLOBAL MARKETING	4Ps; Dabate 2 - Trending news - Recap
11	STRUCTURE OF AN MNE	Functional; Divisional; Matrix; -Small group case analysis -Trending news - Recap
12	STRATEGY ANALYSIS	Porter's 5 Forces: BCG quadrant; -Trending News - Recap
13	MARKET ENTRY	Multi-Domestic; Globally-Integrated. Entry Strategies (Broadbrush; Beachhead) Cases (Dentsu; Denso; Walmart; McCormick) -Trending News - Recap
14	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research - Epilogue

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A detailed reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion 15%
2. Final (Group) Report 30%
3. One Individual Presentation: 15%
4. Weekly Hoppii Forum Posts 30%

5. Two super short debates 10%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA (経済学 / Economics 200)

Japanese Finance and Economy A

MANISH SHARMA

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing a deep dive into the Japanese economy and business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

Learning Outcomes:

1. Understand the Structure of Japan's Economy
Students will be able to explain the key sectors of Japan's economy, including manufacturing, technology, finance, and services, and their roles in global economic trends.
2. Analyze Japan's Economic History
Students will demonstrate an understanding of key historical events such as the Meiji Restoration, post-WWII economic growth, the "Lost Decade" of the 1990s, and their lasting effects on Japan's economic policies.
3. Examine Japan's Financial System
Students will analyze the roles and functions of Japan's financial institutions, including the Bank of Japan, private banks, and insurance companies, and understand how they influence both domestic and global markets.
4. Evaluate the Impact of Japanese Monetary Policy
Students will explore the tools and effects of Japan's monetary policy, particularly in the context of deflation, interest rates, and quantitative easing.
5. Assess Japan's International Trade Relations
Students will evaluate Japan's role in global trade, focusing on key trade partners, its role in regional economic organizations (like the Asia-Pacific Economic Cooperation), and the impact of trade agreements on its economy.
6. Investigate Corporate Governance and Business Practices in Japan
Students will explore the unique aspects of corporate culture and governance in Japan, including keiretsu (business groups), lifetime employment, and how they shape Japan's business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.

3. Critical and Analytical: questioning the basic assumptions used in the text

4. Accessible: Breaking down complex jargon in simple terms. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or a remedial explanation in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu
4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 206-235.
 Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience

Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, Japanese Economic Review 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in Corporate Financing and Governance in Japan, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, Japanese Economic Review, 55(3), 240-266,

McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), Dollar and Yen, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in Reviving Japan's Economy, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, American Sociological Review, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in Ageing and Pension Reform around the World.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40%(In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40%(Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20%(An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
Japanese Finance and Economy A
MANISH SHARMA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
過年度 Japanese Business and Economy A を修得済みの場合は履修不可

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing a deep dive into the Japanese economy and business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

Learning Outcomes:

1. Understand the Structure of Japan's Economy
Students will be able to explain the key sectors of Japan's economy, including manufacturing, technology, finance, and services, and their roles in global economic trends.
2. Analyze Japan's Economic History
Students will demonstrate an understanding of key historical events such as the Meiji Restoration, post-WWII economic growth, the "Lost Decade" of the 1990s, and their lasting effects on Japan's economic policies.
3. Examine Japan's Financial System
Students will analyze the roles and functions of Japan's financial institutions, including the Bank of Japan, private banks, and insurance companies, and understand how they influence both domestic and global markets.
4. Evaluate the Impact of Japanese Monetary Policy
Students will explore the tools and effects of Japan's monetary policy, particularly in the context of deflation, interest rates, and quantitative easing.
5. Assess Japan's International Trade Relations
Students will evaluate Japan's role in global trade, focusing on key trade partners, its role in regional economic organizations (like the Asia-Pacific Economic Cooperation), and the impact of trade agreements on its economy.
6. Investigate Corporate Governance and Business Practices in Japan
Students will explore the unique aspects of corporate culture and governance in Japan, including keiretsu (business groups), lifetime employment, and how they shape Japan's business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.

3. Critical and Analytical: questioning the basic assumptions used in the text

4. Accessible: Breaking down complex jargon in simple terms. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or a remedial explanation in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu
4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 206-235.
Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience

Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, Japanese Economic Review 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in Corporate Financing and Governance in Japan, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, Japanese Economic Review, 55(3), 240-266,

McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), Dollar and Yen, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in Reviving Japan's Economy, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, American Sociological Review, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in Ageing and Pension Reform around the World.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40%(In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40%(Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20%(An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA (経済学 / Economics 200)

Japanese Finance and Economy B

MANISH SHARMA

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：多摩 /Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing a deep dive into the Japanese economy and business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) a lecture and (2) student exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by a short class discussion to develop the takeaways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

Learning Outcomes:

1. Understand the Structure of Japan's Economy
Students will be able to explain the key sectors of Japan's economy, including manufacturing, technology, finance, and services, and their roles in global economic trends.
2. Analyze Japan's Economic History
Students will demonstrate an understanding of key historical events such as the Meiji Restoration, post-WWII economic growth, the "Lost Decade" of the 1990s, and their lasting effects on Japan's economic policies.
3. Examine Japan's Financial System
Students will analyze the roles and functions of Japan's financial institutions, including the Bank of Japan, private banks, and insurance companies, and understand how they influence both domestic and global markets.
4. Evaluate the Impact of Japanese Monetary Policy
Students will explore the tools and effects of Japan's monetary policy, particularly in the context of deflation, interest rates, and quantitative easing.
5. Assess Japan's International Trade Relations
Students will evaluate Japan's role in global trade, focusing on key trade partners, its role in regional economic organizations (like the Asia-Pacific Economic Cooperation), and the impact of trade agreements on its economy.
6. Investigate Corporate Governance and Business Practices in Japan
Students will explore the unique aspects of corporate culture and governance in Japan, including keiretsu (business groups), lifetime employment, and how they shape Japan's business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the Japanese Economy and Business

4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Assignments; Assessment Rubric
2	RECAP	From the last semester; The structure of the course
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; What drove the growth?
4	JAPANESE BUSINESS 1.0	First iteration of Japanese corporate. From Zaibatsu to Keiretsu. Keiretsu and cross-ownership; Management system
5	JAPANESE BUSINESS 2.0	Unique Characteristics; Theoretical framework; Role of New Economy
6	THE FUTURE OF JAPANESE CORPORATIONS	Trends Internationalization DX
7	CONTEMPORARY ECONOMIC POLICY	Sunrise Industries Key elements; Future challenges
8	POLITICAL ECONOMY OF REFORMS	Major Issues Public Opinion
9	CORPORATE GOVERNANCE IN JAPAN	Dichotomy Unique features
10	MARKETING IN JAPAN	Convergence Unique Features Continuity and change
11	CONSUMER IN JAPAN	Major Indicators; Critique
12	STRENGTHS OF JAPAN	Brand Japan; Soft Power; Startup scene; Precision Manufacturing; Global Image
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 206-235.
 Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience
Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, Japanese Economic Review 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in Corporate Financing and Governance in Japan, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, Japanese Economic Review, 55(3), 240-266,

McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), Dollar and Yen, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in Reviving Japan's Economy, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, American Sociological Review, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in Ageing and Pension Reform around the World.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40%(In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40%(Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20%(An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【Notes】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
Japanese Finance and Economy B
MANISH SHARMA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
過年度 Japanese Business and Economy B を修得済みの場合は履修不可

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing a deep dive into the Japanese economy and business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) a lecture and (2) student exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by a short class discussion to develop the takeaways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

Learning Outcomes:

1. Understand the Structure of Japan's Economy
Students will be able to explain the key sectors of Japan's economy, including manufacturing, technology, finance, and services, and their roles in global economic trends.
2. Analyze Japan's Economic History
Students will demonstrate an understanding of key historical events such as the Meiji Restoration, post-WWII economic growth, the "Lost Decade" of the 1990s, and their lasting effects on Japan's economic policies.
3. Examine Japan's Financial System
Students will analyze the roles and functions of Japan's financial institutions, including the Bank of Japan, private banks, and insurance companies, and understand how they influence both domestic and global markets.
4. Evaluate the Impact of Japanese Monetary Policy
Students will explore the tools and effects of Japan's monetary policy, particularly in the context of deflation, interest rates, and quantitative easing.
5. Assess Japan's International Trade Relations
Students will evaluate Japan's role in global trade, focusing on key trade partners, its role in regional economic organizations (like the Asia-Pacific Economic Cooperation), and the impact of trade agreements on its economy.
6. Investigate Corporate Governance and Business Practices in Japan
Students will explore the unique aspects of corporate culture and governance in Japan, including keiretsu (business groups), lifetime employment, and how they shape Japan's business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the Japanese Economy and Business

4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Assignments; Assessment Rubric
2	RECAP	From the last semester; The structure of the course
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; What drove the growth?
4	JAPANESE BUSINESS 1.0	First iteration of Japanese corporate. From Zaibatsu to Keiretsu. Keiretsu and cross-ownership; Management system
5	JAPANESE BUSINESS 2.0	Unique Characteristics; Theoretical framework; Role of New Economy
6	THE FUTURE OF JAPANESE CORPORATIONS	Trends Internationalization DX
7	CONTEMPORARY ECONOMIC POLICY	Sunrise Industries Key elements; Future challenges
8	POLITICAL ECONOMY OF REFORMS	Major Issues Public Opinion
9	CORPORATE GOVERNANCE IN JAPAN	Dichotomy Unique features
10	MARKETING IN JAPAN	Convergence Unique Features Continuity and change
11	CONSUMER IN JAPAN	Major Indicators; Critique
12	STRENGTHS OF JAPAN	Brand Japan; Soft Power; Startup scene; Precision Manufacturing; Global Image
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 206-235.
Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience
Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, Japanese Economic Review 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in Corporate Financing and Governance in Japan, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, Japanese Economic Review, 55(3), 240-266,

McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), Dollar and Yen, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in Reviving Japan's Economy, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, American Sociological Review, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in Ageing and Pension Reform around the World.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40%(In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40%(Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20%(An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【Notes】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

POL200EB, POL200EC (政治学 / Politics 200, 政治学 / Politics 200)

政治学理論 I

白鳥 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使った事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといっているが、現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必須な考え方をともに考える。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	政治学とは何か	導入
2)	政治学の基礎概念	基礎概念
3)	古代の政治理論 (1)	プラトンなど
4)	古代の政治理論 (2)	プラトンなど
5)	古代の政治理論 (3)	アリストテレスなど
6)	古代の政治理論 (4)	アリストテレスなど
7)	中世の政治理論 (1)	アキナスなど
8)	中世の政治理論 (2)	アキナスなど
9)	中世の政治理論 (3)	アウグスチヌスなど
10)	中世の政治理論 (4)	アウグスチヌスなど
11)	近代の政治理論 (1)	マキャベリなど
12)	近代の政治理論 (2)	マキャベリなど
13)	政治学理論と現代	最近の動向から
14)	過去の政治学理論の意義	今、古典を学ぶ意味とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト70%、レポート20%、講義科目への積極度10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination 70%, short reports 20%, and class contribution 10%.

POL200EB, POL200EC (政治学 / Politics 200, 政治学 / Politics 200)

政治学理論Ⅱ

白鳥 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使用した事例の理解に到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといつて良い。現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の選択を行う責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必須な考え方をともに考える。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	近代までの政治学
2)	近代とは何であったか	マキャベリ、ホブズ、ロックなど
3)	近代批判の政治理論 (1)	ルソーなど
4)	近代批判の政治理論 (2)	ルソーなど
5)	近代批判の政治理論 (3)	ヘーゲルなど
6)	近代批判の政治理論 (4)	マルクスなど
7)	現代の政治理論 (1)	ウェーバーなど
8)	現代の政治理論 (2)	制度論から過程論へ
9)	現代の政治理論 (3)	政治過程の理論
10)	現代の政治理論 (4)	国際化する政治
11)	最先端の政治理論 (1)	行動科学としての政治学
12)	最先端の政治理論 (2)	アメリカの研究
13)	国際政治の政治理論	ヨーロッパの研究、ロックンなど
14)	現代政治理論の展望	最近の動向から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト70%、レポート20%、講義科目への積極度10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination 70%, short reports 20%, and class contribution 10%.

ECN200EB (経済学 / Economics 200)

日本経済論

澁谷 朋樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、戦前から引き継がれた要素をみながら、戦後復興期、高度成長期、バブル期を経て、現代へとつながる日本経済の姿を学んでいく。日本経済の歩みを踏まえることで、財政赤字や少子高齢化、過疎化等、現代日本が抱える諸問題の理解にもつながる。最終的には、日本経済の現状を把握した上で、客観的なデータを用いつつ、今後どのように諸問題を解決していくかの方策を考える力を身につけることが目標となる。

【到達目標】

1. 戦前・戦後の日本における経済発展の仕組みを理解できる。
2. 日本経済の現状と課題についての基本的な知識を習得できる。
3. 各種データを活用しながら、日本経済の全体像を把握できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めていく。時事問題を織り込んでいく予定であるため、必ずしも以下の授業計画に沿って進めるとは限らない。また、前回の講義で提出されたリアクションペーパーで寄せられた質問・意見に回答する等を通じて、受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済学の基本	経済学の基本的な考え方
第2回	経済指標の読み方	基本的な経済指標の読み方
第3回	白書の読み方	『経済白書』・『経済財政白書』を読む
第4回	日本経済の全体像	長期統計を用いた日本経済の把握
第5回	戦前における日本経済	明治時代から戦時期までの日本経済
第6回	戦後日本の経済発展	戦後日本の経済復興
第7回	(1) 戦後日本の経済発展	高度成長時代から低成長時代へ
第8回	(2) 戦後日本の経済発展	戦後日本のエネルギー政策
第9回	(3) 戦後日本の経済発展	バブル景気とそのメカニズム
第10回	(4) 戦後日本の経済発展	バブル崩壊後の日本経済
第11回	(1) 日本の長期経済停滞	小泉構造改革における産業構造と雇用構造の変化
第12回	(2) 日本の長期経済停滞	平成時代の日本経済を振り返る
第13回	日本の農業政策	農業政策と農業構造問題
第14回	講義まとめ	講義全体を振り返り、日本経済の主要な課題を整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に資料を適宜配付する。

【参考書】

1. 小峰隆夫、村田啓子『最新日本経済入門 [第6版]』日本評論社、2020年。
2. N・グレッグリー・マンキュー／足立英之他訳『マンキュー 入門経済学 [第3版]』東洋経済新報社、2019年。
3. 宮崎勇、本庄真、田谷禎三『日本経済図説 (第5版)』岩波新書、2021年。
4. その他の参考文献は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (70%)、平常点 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

コメントペーパーで寄せられた受講生の意見を講義に反映させていく。

【その他の重要事項】

オンライン講義の時期や回数は変更となる場合がある。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of history and development of the Japanese economy. The goals of this course are to understanding Japan's economic structure. Grading will be decided based on Term-end report(70%), in class contribution(30%).

LAW200EB, LAW200ED (法学 / law 200 , 法学 / law 200)

憲法**天本 哲史**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、個人の基本的な人権や国の統治の仕組みを中心に、憲法の基礎を学ぶことを目的とします。この授業では、日本国憲法の条文解説だけでなく、現代社会の具体的な憲法の論点も扱います。

【到達目標】

- ・ 憲法の基礎的な知識を身につける。
- ・ 基本的な人権の統治機構を理解し、それを説明できる。
- ・ 憲法の知識を基礎にして、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 憲法総論① 憲法とは何か	授業の進め方を説明します。国家とは何か、憲法の意義等を学びます。
第2回	憲法総論② 憲法の歴史	憲法発展の歴史等を学びます。
第3回	憲法総論③ 国民民主権	国民民主権と象徴天皇制等を学びます。
第4回	憲法総論④ 平和主義	戦争放棄と自衛権等を学びます。
第5回	基本的人権① 人権とその限界	人権の意義と人権の限界等を学びます。
第6回	基本的人権② 幸福追求権と法の下での平等	幸福追求権(新しい人権を含む)と平等の意味等を学びます。
第7回	基本的人権③ 自由権・社会権	自由権と社会権を学びます。
第8回	基本的人権④ 参政権・国務請求権	参政権と国務請求権を学びます。
第9回	基本的人権⑤ 国民の義務	国民の義務を学びます。
第10回	統治機構① 三権分立・国会	三権分立の意義等を学びます。国会(立法権)を解学びます。
第11回	統治機構② 内閣	内閣(行政権)を学びます。
第12回	統治機構③ 裁判所	裁判所(司法権)を学びます。
第13回	統治機構④ 財政・地方自治	財政と地方自治を学びます。
第14回	憲法の改正・まとめ	憲法改正を学びます。授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介しますが、差し当たり芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法』(岩波書店、第8版、2023)を挙げます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（86%）、平常点（14%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が難しいという意見がありましたので、解説を多くすることにより平易な内容にしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【Outline (in English)】**【授業の概要（Course outline）】**

The aim of this lecturer is to learn the basics of the Constitution, focusing on basic human rights and governance mechanisms.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students acquire basic knowledge of the Constitution.
- ・ Students can understand and explain the basic human rights and the separation of powers.
- ・ Students can consider social issues based on their knowledge of the Constitution.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports : 86%, Usual performance score : 14%

LAW200EB（法学 / law 200）

民法（総則）

松田 佳久

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法を通じて私たちの生活する社会の基本的な法制度を理解する。内容は次のとおりである。売買契約の有効な成立、債務不履行、契約解除、代理、所有権の移転など。私たちの生活に欠くことのできない知識をこの講義で得ることができ、そのような知識を得ることを目的としている。

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2. 民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3. 社会に生起するさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この講座は対面では実施します。

学習支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、教材を印刷し、対面での授業に臨んでください。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメールアドレス：yoshi-hisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っているこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	民法典とその構成	民法典、民法典の構成、物権と債権、
2	売買契約の有効な成立1	契約の成立要件
3	売買契約の有効な成立2	契約の有効要件
4	売買契約の有効な成立3	無効原因 取消しと無効
5	売買契約の有効な成立4	代理
6	売買契約の有効な成立5	無権代理 条件と期限
7	売主の義務と買主の義務1	物の引渡し
8	売主の義務と買主の義務2	代金の支払い
9	売主の義務と買主の義務3	購入資金の借入れ
10	売主の義務と買主の義務4	債権関係の終了
11	売主の義務と買主の義務5	現実的履行の強制
12	売主の義務と買主の義務6	損害賠償請求 契約の解除

13 売買契約による所有 物権変動の基本原則
権の移転1

14 売買契約による所有 動産取引における公示の原則と
権の移転2 公信の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○教科書に事前に目を通してから授業を視聴すること

○視聴後に各自で内容を復習すること

○学習した内容を踏まえて社会を法的な視点から眺めてみる。

○本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『ワンステップ民法』（嵯峨野書院、第二版、2023年）

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ 総則・物権』（有斐閣、第9版、2023年）

2. 窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ 債権』（有斐閣、第9版、2023年）

【成績評価の方法と基準】

民法の全体的なイメージを把握するとともに基本的な制度を理解できたかどうかにつき定期試験の結果によって判断する。

定期試験結果が100%。

民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っているこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には14回の対面での授業をきちんと受ける必要があります。わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメールアドレス：yoshi-hisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしますので、参考図等を印刷でき、Webexでのオンタイム授業に臨むためのパソコン等が必要になります。

【その他の重要事項】

○秋学期の「民法（財産法）」を履修するためには、本科目を修得していることが望ましい。

○授業視聴には小六法を必ず準備すること。

○民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っているこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】

常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Understand the basic legal system of the society in which we live through civil law. The contents are as follows. Effective establishment of sales contract, default, contract cancellation, agency, transfer of ownership, etc. The knowledge that is indispensable to our lives can be obtained in this lecture, and the purpose is to obtain such knowledge.

【Goal】

1. Understanding the overall image of civil law (Level C)

2. Understanding the basic system of civil law (Level B)

3. Ability to think about various problems that arise in society from the perspective of civil law (Level A)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

○ Read the textbook in advance before watching the class

○ Review the content on your own after watching

○ Look at society from a legal point of view based on what you have learned.

○ The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Whether or not students have grasped the overall image of the Civil Code and understood the basic system will be determined based on the results of regular examinations.

Regular test result is 100%.

The Civil Code was significantly revised in April 2020. Along with that, the textbook has also been greatly revised and updated. Please be aware that even if you use an old textbook, you will not be able to understand the contents of this lecture, and you will not be able to cope with the final exam.

LAW200EB (法学 / law 200)

民法 (財産法)

松田 佳久

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「財産」に関する民法の基本的な制度を理解する。この講義の内容は次のとおりである。売買契約における所有権移転、債権の回収と債権の確保、連帯債務、保証債務、抵当権、賃貸借契約など。この講義では私たちが社会生活を送るうえで欠くことのできない知識を得ることができる。そしてこの講義はそのような知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる (レベルC)
2. 民法の基本的な制度を理解できる (レベルB)
3. 社会に生じるさまざまな問題を民法の視点から考えることができる (レベルA)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この講座は対面での受講となります。

授業支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、教材を印刷し、対面での授業に臨んでください。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問をしてください (担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp)。

民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	所有権と占有権 1	物権の客体、物権の本質、物権の効力、所有権の性質と効力
2	所有権と占有権 2	相隣関係、所有権の特別な取得原因、占有権の成立と態様、占有権の効力
3	債権の回収と債権の確保 1	債権回収の基本原則、責任財産の保全 (債権者代位権)
4	債権の回収と債権の確保 2	詐害行為取消権
5	責任財産の拡大による債権の担保	連帯債務、保証債務
6	優先弁済権による債権の担保 1	担保物権の基本原則、抵当権
7	優先弁済権による債権の担保 2	非典型担保
8	物の貸借契約 1	総説、賃貸借契約 (基本的な法律関係)
8	物の貸借契約 2	賃貸借関係 (賃貸借の効力、第三者との関係、当事者の変更、賃借権の譲渡・転貸、賃貸借契約の終了)
9	物の貸借契約 3	借地借家法 (借地関係、借家関係)

10	他人の労務を目的とする契約 1	総説、雇用契約、請負契約
11	他人の労務を目的とする契約 2	委任契約 総説、事務管理
12	法律の規定に基づいて生ずる債権 1	不当利得
13	法律の規定に基づいて生ずる債権 3	一般的不法行為
14	法律の規定に基づいて生ずる債権 4	特殊的不法行為

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

○教科書に事前に目を通してから授業ビデオを視聴し、授業後に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

宮本健蔵編著『ワンステップ民法』(嵯峨野書院、第二版、2023年)

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人『民法判例百選Ⅰ 総則・物権』(有斐閣、第9版、2023年)
2. 窪田充見＝森田宏樹『民法判例百選Ⅱ 債権』(有斐閣、第9版、2023年)

【成績評価の方法と基準】

民法の財産法 (物権法・債権法) に関する基本的な知識の修得ができ、関連する裁判例や法解釈について理解できたかにつき、定期試験の結果によって100%評価する。

定期試験は授業支援システムの「レポート」に問題を提示し、添付の解答用紙で所定の期間内に解答し、「レポート」に提出します。

民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には14回の対面での授業を受ける必要があります。わからないところがありましたら、いつでも担当教員のメールアドレスにメールで質問をしてください (担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp)。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、参考図等を印刷し、Webexでのオンタイムでの授業を受講できるパソコン等が必要です。

【その他の重要事項】

○本科目を履修するためには、春学期に「民法 (総則)」を履修しておくことが望ましい。

○授業ビデオの視聴にはあたっては小六法を準備しておくこと。
○民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】

常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Understand the basic system of the Civil Code relating to "property". The contents of this lecture are as follows. Transfer of ownership in sales contracts, collection of receivables and securing of receivables, joint debt, guarantee debt, mortgages, lease contracts, etc. This lecture will give us the knowledge that is indispensable for living a social life. And this lecture aims to acquire such knowledge.

【Goal】

1. Understand the overall image of civil law (Level C)
2. Understand the basic system of civil law (Level B)
3. Ability to think about various problems that arise in society from the perspective of civil law (Level A)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Read the textbook before class, watch the class video, and review after class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

A 100%evaluation will be made based on the results of regular examinations on whether students have acquired basic knowledge of property law (property law and law of obligations) in civil law, and whether they have understood relevant judicial precedents and legal interpretations.

For the regular exam, present the questions on the "Report" of the class support system, answer the attached answer sheet within the specified period, and submit it to the "Report".

The Civil Code was significantly revised in April 2020. Along with that, the textbook has also been greatly revised and updated. Please be aware that even if you use an old textbook, you will not be able to understand the contents of this lecture, and you will not be able to cope with the final exam.

SOS200EB, SOS200EC (その他の社会科学 / Social science 200, その他の社会科学 / Social science 200)

組織論**多田 和美**開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：月4/Mon.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論では、社会の基礎的構成要素である組織の存在、行動、変化および効率的な運営に関する原理・原則を考察します。授業では、組織論の基本理論とその実践的な活用方法を学びます。また、変化の激しい現代社会では組織はどのような取り組みが必要なのかといった、組織に関する諸問題を組織論の基本理論を通じて議論します。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1)組織論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、実践的に活用できる。
- 2)現代社会における企業や各機関の組織の役割や課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、オンライン形式、かつ講義資料にもとづく講義形式で実施します。詳しい授業方法は初回の授業時に説明する予定です。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。そのため、学習支援システムおよびメールを日常的に活用・確認する必要があります。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	組織とは何か	組織の定義
第2回	多様な組織観	組織の機械観と有機体観
第3回	組織デザイン①	分業と調整
第4回	組織デザイン②	組織構造
第5回	経営組織論①	企業組織の特徴と管理
第6回	経営組織論②	企業組織の事例研究
第7回	経営組織論③	組織文化
第8回	コンティンジェンシー理論①	環境と組織
第9回	コンティンジェンシー理論②	組織の対環境戦略
第10回	資源依存理論	依存とパワー
第11回	コンフリクトとパワー	コンフリクトの発生と解消
第12回	取引コスト理論	取引コストと企業の境界
第13回	新制度派組織論	同型化、正当性
第14回	公共組織論	公共性とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。

【参考書】

桑田耕太郎・田尾雅夫（2010）『組織論』有斐閣。
山田耕嗣・佐藤秀典（2014）『コア・テキスト マクロ組織論』新世社。

山田真茂留（2017）『集団と組織の社会学』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（小テスト）：30%，期末試験：70%で評価します。

- ・課題の提出は期限厳守です。
- ・授業内課題（小テスト）は、第2回～第13回まで計12回実施する予定です。
- ・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。
- ・期末試験は対面形式で実施する可能性があるため、留意してください。

対面試験の場合、定期試験期間中に実施する予定です（期間中の通常授業の実施曜日・時限に実施するとは限りません）。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、受講生の意見を把握し授業改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the basics of organizational theory. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Organization design,
- 2)Management of organizations,
- 3)Organizations in external environments.

Learning Objectives:

The goals of this course are the followings:

- 1)Understanding of basic theories of organizations,
- 2)Practical application of the above knowledge.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to

spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Quizzes (12 times):30%and final exam: 70%.

ECN300EB (経済学 / Economics 300)

財政学 I**森田 圭亮**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生が政府の必要性や政策が経済社会に与える影響を理解し、それらの知識を活かして今日の財政のあり方を自ら考える力を養うことを目的としている。

【到達目標】

学生が、財政の歳入や歳出に関する知識や財政政策が経済に与える影響を理解し、説明できることを到達目標とする。こうした到達目標を達成することで、学生が実際の財政状況や財政政策について自ら具体的に考えられる力を伸ばすことが期待できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方などについて説明するとともに、今日の財政に関する話題を取り上げる。
第2回	財政の基礎	財政の基礎知識について説明する。
第3回	政府の役割	政府の機能について説明する。
第4回	資源配分機能	公共財の特徴について説明する。
第5回	資源配分機能と政府の役割	公共財の特徴を踏まえた上で政府の役割を説明する。
第6回	資源配分の効率性	効率性の側面から見た政策のあり方について説明する。
第7回	所得再分配機能	効率性から見た社会的最適の限界と公平性に着目する意義を説明する。
第8回	所得再分配政策の課題	所得再分配政策の問題点について説明する。
第9回	景気安定化機能	景気動向に対する経済政策の意義について説明する。
第10回	大きな政府	乗数効果の概念をベースに財政政策のあり方を説明する。
第11回	小さな政府	クラウディングアウトの考え方をベースに財政政策のあり方を説明する。
第12回	財政政策と金融政策	乗数効果とクラウディングアウトを踏まえた上で景気をコントロールする方法について説明する。
第13回	国際管理政策	国債発行や国の累積債務に関して説明する。
第14回	試験・まとめと解説	講義のまとめをするとともに試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。事前に参考書を読むとともに、講義の復習を行ってください。また、講義においてミクロ経済学やマクロ経済学の知識を応用する場面があります。講義中これらの知識に関する説明も行いますが、適宜これらの内容について自主学習をすると、より講義内容への理解が高まります。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

兼子良夫「財政学」税務経理協会、2018年。
土居丈朗「入門財政学第2版」日本評論社、2021年。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

試験：80%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料や課題を提示することがあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to help students understand the necessity of government and the influence of their policies on the economy, and to get them the ability to consider the desirable public finances in these days.

ECN300EB（経済学 / Economics 300）

財政学Ⅱ**森田 圭亮**

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金1/Fri.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生が政府の経済活動のあり方を経済理論的な立場から理解し、そうした知識を活かして財政のあり方を考察できる力を養うことを目的としている。

【到達目標】

学生がミクロ経済学やマクロ経済学の基本的な知識を身につけつつ、それらを応用して財政のあり方について考察できる力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方などについて説明するとともに、今日の財政の状況を説明する。
第2回	市場と厚生	市場価格の決定や余剰の考え方について説明する。
第3回	消費税負担の帰着	消費税の負担の帰着先について説明する。
第4回	消費税の歪み	個別消費税を取り上げ、税がもたらす歪みについて説明する。
第5回	消費税の最適課税	個別消費税を取り上げ、ラムゼイールの逆弾力性の命題について説明する。
第6回	環境問題と外部性	環境汚染がもたらす負の外部性について説明する。
第7回	外部性の内部化	環境汚染を例に外部性の内部化について説明する。
第8回	地方分権と外部性	租税輸出を例に負の外部性がもたらす非効率性を説明する。
第9回	地方分権と租税競争	租税競争を例に地方分権の弊害について説明する。
第10回	少子高齢化と社会保障	社会保障政策の課題を少子高齢化と関連付けて説明する。
第11回	社会保障と財政	社会保障政策を税や国債発行と関連付けて説明する。
第12回	過疎化・過密化	過疎化や過密化の1つの要因を労働市場の特徴と結び付けて説明する。
第13回	人口流動と社会保障	過疎化や過密化の問題を社会保障政策と関連付けて説明する。
第14回	試験・まとめと解説	講義内容全体の解説や講義内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。事前に参考書などを用いてミクロ経済学の基礎や財政の基礎について予習するとともに、事後的に講義内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。

【参考書】

兼子良夫「財政学」税務経理協会、2018年。
土居丈朗「入門財政学第2版」日本評論社、2021年。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

試験：80%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料や課題を提示することがあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to help students understand the nature of government economic activities in terms of an economic theory, and to develop the ability to use their knowledge to consider about public policies.

POL300EB（政治学 / Politics 300）

行政学

谷本 有美子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政の活動は、私たちの生活に様々な場面で関わりを持つもので、民主主義国家における行政は、国民を代表する議会が決定した法律や予算に基づくことが原則とされます。しかし、複雑化した現代社会のしくみをすべて議会の決定に委ねることは困難で、行政には命令や規則などの一定の裁量権が認められており、その仕事は主に専門家集団としての官僚機構が担っています。行政の活動は、それ自体が自律的に運用される側面を有するため、その不作為や政策実施の不手際が人々の生活に影響を及ぼし、新たな社会課題を生じる可能性は少なくありません。

そうした観点から、この授業のテーマは「行政学から見た社会課題の発見」とします。私たちの暮らしと密接な関わりを有する行政について、制度やしくみとともに基本的な性質を学んだ上で、政治との関係で変化する制度や政策形成を検討し、主権者の立場から行政責任の問題等を考察していきます。

【到達目標】

- ・行政の基本的な制度やしくみ、性質を理解する
- ・行政における政策形成と政治との関係性を検討する
- ・現代行政の問題を主権者の立場で実践的に考察する思考力を身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントや、レジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り政治と行政の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、授業内でいくつか取り上げて全体に向けてフィードバックしていきます。前半は行政の制度や仕組みを中心に、後半は政策の形成過程を中心に解説します。終盤では、現代の行政活動事例について行政責任・行政統制の論点も踏まえながら検討し、行政課題と社会課題との関係性についても考察をすすめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	行政学－身近なところからのアプローチ	私たちの生活と行政との関係について概説し、授業で扱う行政の問題を俯瞰する
第2回	行政国家の成り立ちと行政学の展開	政府の役割が増大し、行政官僚制が形成されてきたプロセスを詳説した上で、その学問領域としての行政学の展開について概説する（テキスト第2-3章参照）
第3回	現代の政府体系	政府概念や政府体系の構造等、現代行政の枠組みを形成する基本的なしくみ・制度について概説する（テキスト第4章参照）
第4回	日本の内閣制度と国地方関係	日本の内閣制度と国地方関係について、行政改革や分権改革の動向を交えながら詳説する（テキスト第5章参照）

第5回	日本の行政組織と中央省庁改革	日本の行政組織とその政策立案システムについて概説した上で、橋本行革以降に変化した政策形成過程の実際を検討する（テキスト第8章参照）
第6回	公務員制度と人事・給与システム	行政を中心的に担う公務員に関する制度と人事・給与に関わるしくみについて詳説する（テキスト第9章参照）
第7回	行政活動と政策	行政活動のプログラムである政策の構造や政策体系に加え、その形成過程や理論モデルについて詳説する（テキスト第11章参照）
第8回	政策作成と決定－予算案の調整過程から	行政による政策案作成から政府案としての決定に至るプロセスを俯瞰した上で、予算案・法律案の調整過程を検討する（テキスト第8章及び第12章参照）
第9回	行政のIT活用と政策実施の体制	政策執行の基準や、実施体制・手法について、近年のIT・デジタル戦略の動向も踏まえ実践的に検討する（テキスト第10章及び第13章参照）
第10回	行政の活動－規制行政	行政による課題解決方法として、規制行政を取り上げ、その権力性についての理解を深める（テキスト第13章参照）
第11回	行政の活動－サービス提供活動	行政による公共財提供の側面を取り上げ、行政資源配分の選択肢について検討する
第12回	政策の評価	現代日本で導入されている政策評価の仕組みについて概説した上で、フィードバックの実際を検討する（テキスト第14章参照）
第13回	行政責任と民主的統制	行政活動に対する民主的統制のあり方を中心に検討する
第14回	行政学から見た社会課題の発見と政策作成	行政課題と社会課題とのつながりを認識した上で、実現可能性を踏まえた政策を考案する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

森田朗（2022）『新版 現代の行政〔第2版〕』（第一法規）

【参考書】

伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔『はじめての行政学』（有斐閣）
今村都南雄・武藤博己・沼田良・佐藤克廣・南島和久『ホーンブックス基礎行政学』（北樹出版）
金井利之『行政学講説』（放送大学教育振興会）
西尾勝『行政の活動』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（75％）に授業内のリアクションペーパー・小レポート提出状況等（25％）を加味し、総合的に評価します。なお、大学の授業実施方針に応じ、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や理解度に応じて、後日授業での補足説明や追加資料配布等を行います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ以外の資料配布は学習支援システムを通じて行います。

【Outline (in English)】

In principle, administration in a democratic state is based on laws and budgets determined by the parliament representing the people. As it is difficult to delegate all the complexities of modern society to the decisions of Congress, administration has discretionary powers. Because of being managed mainly by bureaucrats, administration activities have the aspect of being operated autonomously. Therefore, their omissions and negligence on implementing the public policy might cause new social issues.

From such a viewpoint, we'll set the purpose of this class "Discovering social issues from the viewpoint of public administration." After studying the basics, like system, mechanism, and characteristics of public administration, we will study the change by the political influence of administrative system and policy, then we will consider the issue of the administrative responsibility.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To understand the basic system, mechanism, and nature of public administration
- B. To examine the policy making process in public administration and the connection with politics
- C. To acquire the ability to think practically about the problems of modern administration from the standpoint of a sovereign.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Students will be expected to check the priority policies of the 2024 government budget and after class collect information such as searching for newspaper articles related to the content taken up in the class. In addition, read newspaper articles routinely that are thought to have an impact on our lives.

Your overall grade will be decided based on the following, Term-end essay exam (75%), short reports or in-class reaction papers (25%). The term-end exam may change to the report according to the university's class implementation policy. It will be informed by the learning support system of any changes.

LAW300EB（法学 / law 300）

行政法 I

天本 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や公共団体の行政活動は社会の中で生きる私たちの市民生活の隅々にまで影響を及ぼします。この授業では、このような行政活動に対する法的規律等を学習します。この授業を学習の前半とし、後半は「行政法Ⅱ」で学習します。

【到達目標】

- ・行政法の基本的な法理論を理解する。
- ・行政活動の種類と法的統制を理解し、説明できる。
- ・行政法の理論を用いて、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 行政と行政法	この授業の進め方を説明します。 行政と行政法の概念を解説します。
第2回	行政法の法源	行政法の法源とは何かとその種類を解説します。
第3回	法律による行政の原理	法律による行政の原理を解説します。
第4回	行政組織	行政主体と行政機関を解説します。
第5回	行政立法	行政立法の意義と法的統制を解説します。
第6回	行政行為①	行政行為の意義と法的統制を解説します。
第7回	行政行為②	行政裁量、附款の法的統制を解説します。
第8回	行政行為③	行政行為の瑕疵を解説します。
第9回	行政強制	義務履行強制、即時強制、行政調査の意義と法的統制を解説します。
第10回	行政上の制裁	行政罰その他の行政上の制裁の意義と法的統制を解説します。
第11回	行政指導①	行政指導の意義と法的統制を解説します。
第12回	行政指導②	行政指導の意義と法的統制を解説します。
第13回	行政計画	行政計画の意義と法的統制を解説します。
第14回	行政契約	行政契約の意義と法的統制を解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では教科書を指定せず、授業資料を配布します。

【参考書】

- ・教科書
- 宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（有斐閣、第8版、2023）
- ・その他
- 宇賀克也『判例で学ぶ行政法』（第一法規出版、2015）
- 大橋洋一ほか編『行政法判例集Ⅰ』（有斐閣、第2版、2019）
- 大橋洋一ほか編『行政法判例集Ⅱ』（有斐閣、第2版、2018）
- 斉藤誠＝山本隆司編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、第8版、2022）
- 芝池義一ほか編『判例行政法入門』（有斐閣、第6版、2017）
- 中原茂樹『基本行政法判例演習』（日本評論社、2023）
- 山本隆司『判例から探求する行政法』（有斐閣、2012）
- その他、授業内において適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（86％）、平常点（14％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が難しいという意見がありましたので、解説を多くすることにより平易な内容にしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

There are various administrative activities such as regulation and guidance. The aim of this lecturer is to learn the basic theory of administrative law. This lecturer is the first half of learning administrative law.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students understand the basic legal theory of administrative law.
- ・ Students can understand and explain the types of administrative activities and legal controls.
- ・ Students can consider social issues using the theory of administrative law.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports : 86%, Usual performance score : 14%

LAW300EB（法学 / law 300）

行政法Ⅱ

天本 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「行政法Ⅰ」の延長線上に位置し、行政活動をどのような手段(手続)とするのか、私人は行政活動からどのように救われるのかを学習します。また、行政法の法理論をより深く理解する上で学ぶべき行政情報管理や公務員等に関連する法分野も併せて広く学習します。なお、この授業を理解するためには春学期の行政法Ⅰの授業を履修することが望ましい。

【到達目標】

- ・行政活動の行政過程と司法的救済を理解する。
- ・行政活動からの救済とその複合的な組み合わせを理解し、説明できる。
- ・行政法の理論を用いて、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 行政手続法①	この授業の意義や進め方の説明をします。行政手続の意義と法的統制を解説します。
第2回	行政手続法②	行政手続法の内容を解説します。
第3回	行政不服審査法①	行政不服審査法の内容を解説します。
第4回	行政不服審査法②	行政不服審査法の内容を解説します。
第5回	行政事件訴訟法①	行政事件訴訟の内容を解説します。
第6回	行政事件訴訟法②	行政事件訴訟法上の抗告訴訟と仮の権利救済を解説します。
第7回	行政事件訴訟法③	行政事件訴訟法上の当事者訴訟等と客観訴訟を解説します。
第8回	国家補償法	国家賠償法と損失補償の内容を解説します。
第9回	情報公開法	行政機関の保有する情報の公開に関する法律等の内容を解説します。
第10回	個人情報保護法	個人情報の保護に関する法律の中で国の機関等に関する部分を解説します。
第11回	公文書管理法	公文書管理法の内容を解説します。
第12回	公務員法と公物法	公務員法と公物法の内容を解説します。
第13回	地方自治法①	地方自治の本旨等を解説します。
第14回	地方自治法②	地方公共団体の執行機関と地方議会等を解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では教科書を指定せず、授業資料を配布します。

【参考書】

・教科書

宇賀克也『行政法概説Ⅱ』（有斐閣、第7版、2021）

宇賀克也『行政法概説Ⅲ』（有斐閣、第5版、2019）

・その他

宇賀克也『判例で学ぶ行政法』（第一法規出版、2015）

大橋洋一ほか編『行政法判例集Ⅰ』（有斐閣、第2版、2019）

大橋洋一ほか編『行政法判例集Ⅱ』（有斐閣、第2版、2018）

齊藤誠＝山本隆司編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、第8版、2022）

芝池義一ほか編『判例行政法入門』（有斐閣、第6版、2017）

中原茂樹『基本行政法判例演習』（日本評論社、2023）

山本隆司『判例から探求する行政法』（有斐閣、2012）

その他、授業内において適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（86％）、平常点（14％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が難しいという意見がありましたので、解説を多くすることにより平易な内容にしようと思います。

【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

There are various administrative activities such as regulation and guidance. The aim of this lecturer is to learn the basic theory of administrative law. This lecturer is the second half of learning administrative law.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students understand the basic legal theory of administrative law.
- ・ Students can understand and explain the types of administrative activities and legal controls.
- ・ Students can consider social issues using the theory of administrative law.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports : 86%, Usual performance score : 14%

LAW300EB（法学 / law 300）

政策と制度

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、様々な社会的課題を解決する取り組みですが、その実現には制度を構築し、運用することによって行動を組織する必要があります。

政府・自治体において、また市民社会の中で、それぞれの問題や対象の特質に応じた政策と制度を立案する必要性が高まっています。そのため制度の構築・運用という課題に焦点を当てて、政策実施のための考え方と手法について学びます。

「入門」ではなく「出口」として、この学部で学んださまざまな社会科学を活かして（それらを前提として）、問題を政策的・制度的に解決する（学問を実際に使う）ことを目指します。

学科共通展開科目であり、「上級科目」と理解ください。

【到達目標】

政策を実現するためのツールについて理解し、活用する能力を身に着けること。政策に携わるうえで必要な基礎的能力を形成するとともに、制度のあり方について考察する能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

なるべく具体的な事例を素材として、法政策論および「法と経済学」を駆使した検討と解決を試みます。

皆さんからの質問やコメントなどには次の授業で答えます。

講義内で希望する参加者とのやり取りや意見交換も行う予定です。できればそれらに重点を置きたいと思っています。

履修要件とはしませんが、初歩的ないし基礎的な法律学の知識はある程度前提として講義しますので、ご注意ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、政策決定と制度運営、政策サイクル、政治学／経済学／法学の思考の違い
第2回	政策の決定方法（1）「全体の福利か、個人の権利か」	社会的意思決定、"fairness vs welfare"、パレートとカルドア・ヒックス基準、多数決／少数意見
第3回	政策の決定方法（2）「公共的討議か、利害の衝突か」	本音と建前、合議と熟議、共和主義と多元主義、代表制／半代表、政党の役割
第4回	政策問題の定位「プライベートか、パブリックか」	公法と私法、私人間効力、公私二分論・リベラリズム、市民社会論・新しい公共論、利己と利他
第5回	政策・制度と市場「公共財か、価値財・負財か」	権限（entitlement）の設定とコースの定理、社会的費用の最小化、最安価費用回避者
第6回	政策要求の宛先「投票箱（国会）か、裁判所か」	原告適格・訴えの利益、紛争志向型訴訟と政策志向型訴訟、クラスアクション、三権分立と正統性

第7回	政策と時間軸（1）「抜本改革か、漸進主義か」	法改正と新法制定、「世直し」と「立て直し」、増分主義、risk approach／population approach
第8回	政策と時間軸（2）「事前（pre）の予防か、事後（post）の救済か」	規制と給付、行政指導・監察、モニタリングコストと裁判コスト、政策評価（output／outcome）
第9回	政策と不確実性「効用最大化か、リスク回避か」	コスト・ベネフィット分析、功利主義、マキシミン戦略、限定合理性、ヒューリスティック
第10回	政策実現の手法（1）「インセンティブか、サンクションか」	民事賠償と刑事罰・行政罰、勧告・公表、補助金、優遇税制、テーパリング、努力義務・不完全義務
第11回	政策実現の手法（2）「ルールか、スタンダードか」	法律と政省令、通達行政、裁量と裁量権の逸脱、最低基準・推奨基準、プリンシパルとエージェント
第12回	政策実現の手法（3）「一律強制か、任意・選択か」	強行規定と任意規定、majority default／penalty default、スタンダードパッケージ、分離均衡
第13回	政策・制度の担い手「専門知か、市民参加か」	公務員・ストリートレベル官僚、審議会・委員会、第三者機関・オンブズマン、行政手続法
第14回	補説・まとめ	講義の補足・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

ただし基礎的な法律学の知識を有しない場合は、並行してそれら学習する必要があるでしょう。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『法政策論への招待』（信山社、2022年）（2000円+税）をテキストとして指定します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。

希望する参加者とのやり取り・意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点を勘案します。履修者人数によりますが、むしろそちらに重点を置きたいとは思っています。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【その他の重要事項】

中央官庁で政策立案・実施に携わった経験を踏まえて講義します。授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。

なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

基礎的な法律学（民法、憲法等）はある程度前提として講義しますのでご注意ください。

【Outline (in English)】

This course deals with policy and institution.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss policy and institution

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SOS300EB (その他の社会科学 / Social science 300)

人的資源論

恵羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人的資源管理の歴史的背景と基本的知識を理解した上で、「働かせる側」および「働く側」の両方の視点から、人的資源論をめぐる理念を再検討し、今日的な課題や日本社会の変容について考察する。

【到達目標】

人的資源管理の歴史的背景を理解し、基本的知識を身に付ける。それを通じて、将来のキャリア形成と問題解決に役立つ構造的・制度的・組織的背景への理解を深め、同時に批判的思考と社会学的発想力をもてるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトや配布資料等に基づき講義を行う。

課題等に対するフィードバックは、翌週以降の講義冒頭においてリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	人的資源管理の史的概観1	科学的管理、人間関係管理、行動科学的管理など
第3回	人的資源管理の史的概観2	人的資源管理論の生成
第4回	人的資源論の理念1	人的資源論をめぐる人間観・労働観
第5回	人的資源論の理念2	イデオロギーとしての人的資源管理
第6回	人的資源論の理念3	理念と現実的实践をめぐる諸課題
第7回	関連理論の検討1	労働過程論の再検討
第8回	関連理論の検討2	組織社会学および社会的文脈
第9回	関連理論の検討3	ジェンダー、ダイバーシティをめぐる議論
第10回	人的資源論と日本社会1	国家・企業・社会保障：人口問題、雇用と福祉制度の変容
第11回	人的資源論と日本社会2	労働市場における規制/規制緩和：リクルート・移動・退出
第12回	人的資源論と日本社会3	制度的観点：技能形成システムの変容と課題
第13回	人的資源論と日本社会4	グローバル化：越境的移動の拡大と社会統合の課題
第14回	まとめ	授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメや配布資料を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

岡田行正（2008）『新版 アメリカ人事管理・人的資源管理史』同文館出版、Alvesson, M. et al., 2011, The Oxford Handbook of Critical Management Studies, Oxford University Press.

その他、授業内で適宜参照する。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50％）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを適宜紹介しながら前回のフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセス可能なもの）

【その他の重要事項】

進行によって若干の内容変更の可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students acquire an understanding of basic ideas of human resources theory while taking account of the historical background of the development of the theories, alternative perspectives of recent critical studies, as well as changing employment relationships in Japan.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting. Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%、in class contribution: 50%

MAN200EB (経営学 / Management 200)

社会・イノベーション論Ⅰ

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、「イノベーション」は経済成長だけでなく、環境問題、地域活性化、貧困対策などの社会課題を解決する手段としても注目されています。イノベーションとは、単なる技術革新（テクノロジーの発展）だけではなく、新しい製品やサービスの創出、ビジネスモデルの変革、社会制度の改革を通じて、「社会に新たな価値をもたらすプロセス」を指します。例えば、スマートフォンは通信技術の進化だけでなく、人々のコミュニケーションのあり方そのものを変えたイノベーションの一例です。中でも、「社会イノベーション（ソーシャル・イノベーション）」は、社会的課題の解決を目的とした新しい仕組みや制度の構築を意味します。例えば、シェアリングエコノミー（UberやAirbnb）や、再生可能エネルギーを活用した地域電力システムなどは、社会イノベーションの代表例といえます。これらのイノベーションは、単なる企業の利益追求ではなく、社会全体の持続可能性や公平性の向上を目的としています。

本講義では、イノベーションの基本概念から、社会における実践的な事例、さらには企業がどのようにイノベーションを生み出し活用しているのかを学びます。講義の前半では、「イノベーションが生まれる社会的・経済的背景」を探り、後半では、「企業や組織がどのようにイノベーションを促進し、活用しているのか」を具体的に考察します。

本講義を通じて、学生はイノベーションを単なる技術革新や経済成長の手段として捉えるのではなく、社会課題解決の手段としても理解し、応用できる力を養います。社会イノベーションの重要性を学び、自らの視点で新たな価値創出の可能性を考える契機となることを期待しています。

【到達目標】

本講義を通じて、以下の能力を養うことを目標とします。

- ・イノベーションが生まれる社会的・経済的背景の理解
- ・企業におけるイノベーションのプロセスと戦略の把握
- ・競争環境におけるイノベーションの役割と影響の分析
- ・社会課題解決の手段としてのイノベーションの活用方法の考察
- ・論理的な思考力と実証的な分析能力の向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義は、パワーポイントを活用した講義形式を基本としながら、受講生が主体的に学べるよう、ディスカッションも適宜実施します。理論的な枠組みだけでなく、実際のビジネス事例や政策動向を交えながら、より実践的な視点でイノベーションを考察する機会を提供します。

また、最新の研究成果や社会動向を適宜取り入れ、企業の実際のイノベーション活動がどのように展開されているのかをリアルタイムで学ぶことを重視します。受講生には、積極的に議論に参加し、批判的かつ創造的な視点を持って学習を進めることが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イノベーションとは何か？	イノベーションの定義と本講義の概要

第2回	企業の目的と社会的責任	資本家の所有権概念から企業の目的を考察
第3回	資本主義と競争	資本主義の基本原則と競争のメカニズム
第4回	社会における分業と協業	生産活動を効率的に行うための分業と協業の役割
第5回	ソーシャルイノベーション	社会課題の解決を目的としたイノベーションの実践
第6回	ビジネスモデルの見取り図	価値創出の重要性和ビジネスモデルキャンバスの理解
第7回	競争戦略論	競争優位を獲得するための戦略の基礎
第8回	ブルーオーシャン戦略	価値革新を通じた競争の回避と市場創出
第9回	ビジネスエコシステム論	産業構造の変化と水平分業への転換
第10回	規制とイノベーション	競争環境を形成する強制的ルールとしての規制
第11回	標準とイノベーション	競争環境を形成する自発的ルールとしての標準
第12回	知的財産制度	知的財産の保護とイノベーション促進の関係
第13回	オープン&クローズ戦略	エコシステムの発展と競争優位の確保の両立
第14回	まとめ	前期の学習内容の総括とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げます。

【その他の重要事項】

本講義は、後期開講の「社会・イノベーション論Ⅱ」と連続する内容となっており、より高度な理解を深めるために、両方の履修を推奨します。受講生には、イノベーションに関する基礎的な知識を習得するとともに、実社会での応用を意識しながら学ぶ姿勢が求められます。

【Outline (in English)】

The course "Social Innovation Theory I" explores the role and mechanisms of innovation in society, emphasizing both theoretical foundations and real-world applications. Innovation is not only technological advancement but also the creation of new business models and social systems that generate value. This course examines how innovation emerges from social and economic contexts and how companies and organizations drive and implement innovation. Special attention is given to social innovation, which aims to address societal challenges such as sustainability, inequality, and community development. Through lectures and discussions, students will gain a comprehensive understanding of how innovation contributes to both economic growth and social progress.

By the end of this course, students will be able to understand the social and economic conditions that foster innovation, analyze the processes and strategies of innovation within organizations, evaluate the role of innovation in competitive environments, explore how innovation can be used as a tool for solving social issues, and develop logical thinking and analytical skills.

Students are expected to actively engage in class discussions and review relevant literature before each session. They should also spend approximately two hours per week preparing for lectures and reviewing course content in order to deepen their understanding and contribute meaningfully to class discussions.

Grading is based on a final examination, which accounts for one hundred percent of the overall evaluation. This assessment will measure students' understanding of key theories, their ability to apply concepts critically, and their capacity to articulate logical arguments using real-world examples.

MAN300EB (経営学 / Management 300)

社会・イノベーション論Ⅱ

糸久 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「新しい技術や制度がどのように社会に影響を与え、イノベーションを生み出しているのか」をテーマに、技術・政策・マネジメントの視点から社会イノベーションを深く学びます。前期の「社会・イノベーション論Ⅰ」で学んだイノベーションの基礎的な考え方や企業のイノベーション戦略を踏まえ、後期ではより具体的に「技術の社会実装」について考えていきます。

例えば、AIやロボット、IoT、シェアリングエコノミーといった新しい技術は、私たちの暮らしや働き方をどのように変えていくのか。また、環境問題の解決に向けたグリーンイノベーションや、モビリティの未来を形作る次世代エコシステムなど、社会を大きく変える技術と政策はどのように設計されているのか。こうした問いをもとに、各国のイノベーション政策の事例を分析し、企業がどのように技術革新と経営を両立させているのかを学びます。さらに、イノベーションを成功に導くには、単なる技術開発にとどまらず、企業のオペレーションマネジメント（業務プロセスの最適化）が不可欠です。どれほど優れた技術であっても、それを効率的かつ持続的に運用できなければ、社会に大きな影響を与えることはできません。製品やサービスの品質管理、コスト管理、納期管理といったオペレーションの視点を学びながら、技術革新と経営管理の両立についても考察します。

本講義では、理論だけでなく実際のビジネス事例を交えながら、技術・政策・マネジメントの視点を統合して社会イノベーションを考える力を養います。技術が社会にどのように組み込まれ、新しい価値を生み出すのかを深く理解し、持続可能なイノベーションを創出するための知識と視点を身につけることを目指します。

【到達目標】

本講義を通じて、以下の能力を養うことを目標とします。

- ・新興技術とイノベーションの関係を理解し、技術が社会に与える影響を分析する力
- ・イノベーション政策の役割を理解し、各国の政策事例をもとに政策が企業や社会に及ぼす影響の考察
- ・オペレーションマネジメントの基本概念を把握し、企業がイノベーションと業務効率化を両立させる手法の理解
- ・技術・政策・マネジメントの視点を統合し、持続可能な社会イノベーションの実現に向けた戦略の検討
- ・実践的な視点から社会イノベーションを分析し、論理的な思考力と実証的な分析能力の向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義は、パワーポイントを活用した講義を基本としつつ、各回のテーマに応じたディスカッションも取り入れます。受講生は、講義内での議論を通じて、自らの考えを深める機会を得るとともに、最新の事例を基に理論と実践の接続を図ります。

また、イノベーションの社会実装に関する理解を深めるため、各国の政策動向や企業の先進事例についても紹介し、単なる理論学習にとどまらない実践的な知識を身につけることを重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	技術とイノベーション	イノベーションを実現する技術の役割と関係性を概観
第2回	デザイン思考	創造的な問題解決手法としてのデザイン思考の意義と活用
第3回	シェアリングエコノミー	所有から使用へと変化する消費行動の実態とその社会的影響を考察
第4回	人工知能とロボット共生社会	AI・ロボット技術が人間社会に与える影響を多角的に分析
第5回	次世代モビリティエコシステム	モビリティ分野のイノベーションを探索
第6回	IoT社会のに向けたイノベーション政策	欧州を中心としたIoT社会実現のための政策事例を分析
第7回	グリーンイノベーション政策	カーボンニュートラル実現に向けた政策と技術革新の関係を理解
第8回	両利き経営	企業がイノベーションとオペレーション活動を両立させるための戦略
第9回	制約理論	組織のボトルネックを特定し、効率的に解消する方法
第10回	品質管理	イノベーションの実装過程における品質管理の重要性
第11回	コスト管理	コスト削減とイノベーション投資のバランスを考察
第12回	納期管理	競争優位を確立するための納期管理とサプライチェーンの最適化
第13回	フレキシビリティ	企業が品種と生産量の変動に対応するための柔軟性戦略
第14回	総括	社会イノベーション論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げるようにします。

【その他の重要事項】

本講義は、「社会・イノベーション論Ⅰ」で学んだ基礎知識を踏まえ、より実践的な視点から社会イノベーションを探索する内容となっています。そのため、「社会・イノベーション論Ⅰ」の履修は必須ではありませんが、本講義の理解を深める上で推奨されます。社会イノベーションは、技術・政策・経営の複合的な視点を必要とする分野であり、単なる知識の習得だけでなく、理論を実社会に応用する姿勢が求められます。本講義を通じて、受講生が自らの関心を社会と結びつけ、持続可能なイノベーションのあり方を主体的に考えることを期待します。

【Outline (in English)】

The course "Social Innovation Theory II" explores how new technologies, policies, and management strategies contribute to social innovation. Building on the foundational knowledge from "Social Innovation Theory I," this course focuses on the practical implementation of innovation in society. Students will examine emerging technologies such as AI, IoT, and mobility ecosystems, analyze innovation policies across different countries, and study how businesses integrate innovation with efficient operational management. Through case studies and discussions, the course aims to provide a comprehensive understanding of how innovation is effectively adopted and scaled within society.

By the end of this course, students will be able to analyze the relationship between emerging technologies and innovation, assess the role of innovation policies in shaping business and societal change, understand the fundamentals of operations management in the context of innovation, and integrate technological, policy, and management perspectives to develop sustainable innovation strategies.

Students are expected to actively engage in discussions, review case studies, and conduct independent research. A minimum of two hours per week should be allocated to class preparation and review to deepen understanding and contribute effectively to discussions.

Grading is based on a final examination (100%), which evaluates students' comprehension of key theories, analytical skills, and ability to apply learned concepts to real-world scenarios.

MAN200EB (経営学 / Management 200)

中小企業論

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「日本経済の根幹を支える中小企業の可能性と挑戦を学ぶ」ことをテーマに、理論と実践の両面から中小企業の経営戦略を探究します。中小企業は、大企業にはない柔軟性や地域との強い結びつきを活かし、新たな価値を生み出す力を持っています。一方で、限られた経営資源の中で生き残り、成長し続けるために独自の経営手法を採用してきました。

本講義では、従来の研究が提示してきた「資源制約により発展が妨げられる『問題型』の中小企業論」と「小さいからこそ持つ発展性や競争優位性に着目する『貢献型』の中小企業論」の両面を学びながら、中小企業の実態を深く理解していきます。特に、多摩地域で活躍する中小企業の経営者を毎回ゲストスピーカーとして迎え、計8回程度の講演を実施します。これにより、「リアルな経営の現場」に触れる機会を大幅に増やし、実践的な知識を得ることができます。ゲスト講演では、企業の成長戦略、新規事業の立ち上げ、地域との関わり方、経営者の決断など、教科書では学べない生の経営の知恵を直接聞くことができます。

本講義は、「経営戦略を学びながら、実際の経営者の話を聞ける、まさにビジネスの最前線を体感できる授業」です。中小企業の可能性や課題を深く理解し、将来のキャリアに活かしたい学生にとって、実りの多い学びの場となるでしょう。

【到達目標】

本講義を通じて、以下の能力を養うことを目標とします。

- ・中小企業が持つ「問題性」と「発展性・競争優位性」の両面を理解し、企業規模が経営に与える影響を考察する力の習得
- ・多摩地域の中小企業経営者の実体験を通じて、企業経営の現場に即した実践的な知識を獲得する力の向上
- ・ベンチャー企業や地域密着型企業の成長戦略を分析し、持続可能な経営モデルについて考える力の育成
- ・中小企業と地域社会の関係性を理解し、地域経済における中小企業の役割を考察する視点の強化
- ・講義で学んだ理論と実践を統合し、自らのキャリアやビジネスに応用するための思考力と判断力の向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義は、講義形式とゲストスピーカーによる講演を組み合わせた「アクティブ・ラーニング型授業」です。

前半（1～5回）では、中小企業の基本理論を学び、企業規模の特性や経営戦略の違いを理解します。

後半（6～13回）では、多摩地域で活躍する中小企業経営者をゲストに迎え、リアルな経営の現場について学びます。受講生は、事前にゲスト講演に関連する課題を調査し、講演後にディスカッションやリアクションペーパーを作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の目的・進め方の説明
第2回	中小企業とは？	中小企業の定義と、日本経済における役割を理解

第3回	複眼的視点からの中小企業論	資源制約の中で競争優位を確立する戦略
第4回	イノベーションと中小企業	独自の技術やビジネスモデルを生み出す中小企業を分析
第5回	産業集積と産業クラスター	産業クラスターを活用した中小企業の成長戦略
第6回	多摩地域の中小企業(1)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第7回	多摩地域の中小企業(2)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第8回	多摩地域の中小企業(3)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第9回	多摩地域の中小企業(4)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第10回	多摩地域の中小企業(5)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第11回	多摩地域の中小企業(6)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第12回	多摩地域の中小企業(7)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第13回	多摩地域の中小企業(8)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第14回	中小企業論のまとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー提出40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は、教室での学びに加えて、経営者のリアルな経験を直接聞くことができる貴重な機会を提供します。授業で得た知識を活かし、実際の経営者に質問することで、より深い学びにつなげることができます。

「将来、経営や起業に関心がある」「企業経営のリアルを知りたい」「中小企業の持つ魅力と可能性を学びたい」という学生にとって、大変有意義な講義です。

【Outline (in English)】

The course "Small and Medium-Sized Enterprise (SME) Management" explores the role, challenges, and growth strategies of SMEs, which are the backbone of the Japanese economy. While SMEs face resource constraints, they also possess unique competitive advantages such as flexibility, innovation, and strong regional ties. This course provides both theoretical insights and practical knowledge, incorporating guest lectures from successful SME entrepreneurs in the Tama region to offer firsthand perspectives on real-world management challenges and strategies. Through these interactions, students will gain a deeper understanding of how SMEs adapt, innovate, and contribute to regional economic development.

By the end of the course, students will be able to understand both the challenges and competitive strengths of SMEs, analyze business strategies for growth and sustainability, evaluate the role of SMEs in regional economies, and integrate theoretical and practical knowledge to formulate management insights applicable to real-world business situations.

Students are expected to actively engage in discussions and prepare for guest lectures by researching the industries and companies in advance. Additionally, they should allocate at least two hours per week for reviewing lecture content and completing assignments.

Grading will be based on reaction papers (40%), assessing students' reflections and questions on guest lectures, and a final exam (60%), evaluating their understanding of SME management theories and practical applications.

ECN200EB (経済学 / Economics 200)

地域産業論 I

加藤 寛之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：月4/Mon.4

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な地域産業の具体例を紹介しつつ、地域産業を考える上で必要な眼（概念・理論）を習得し、受講者各自が地域産業の活性化に関われるようになることをテーマとする。

- ・成績評価は次のように行います。
- ・毎回の課題の累計点80%。
- ・数回行われるグルディス・討議での貢献20%

【到達目標】

農業や製造業、サプライヤーシステムなど、現代の地域産業で生じている国内での現状と課題を認識し、一方で国境を越えて地域産業をとらえる視点を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回授業前日までに、授業支援システムに教材と簡単な課題をアップします。課題は授業支援システム上で提出し、締切を設けます。締切は授業日です。

最初の数回は授業のやり方に慣れるまでの移行期間とし、課題提出に遅延を認めます。締切後でも授業支援システムに提出できるように設定しておきます。

期末試験は実施せず、課題とレポートで評価します。

フィードバックは課題ごとにコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ランチェスター戦略 ・グルディス・討議	能力・資源で勝るもの勝つ方法 ・グルディス・討議
第2回	産業の立地	チューネンの農業立地論、 ウェーバー・アロンゾの工業立地モデル
第3回	ものづくりは設計情報の転写	プロセス分析
第4回	ランチェスター戦略2	様々な事例
第5回	映画スーパーの女	スーパー立て直しの実話
第6回	1.企業と市場との関係2.原価企画3.環境コストマネジメント4.ライフサイクル・コスト5.ベンチマーキング	1.企業と市場との関係2.原価企画3.環境コストマネジメント4.ライフサイクル・コスト5.ベンチマーキング
第7回	1.価格決定2.ABC/ABM 3.品質とコストの関係	1.価格決定2.ABC/ABM 3.品質とコストの関係
第8回	日本の農業の問題点 製造業化する農業 ・グルディス・討議	ベルグアース ・グルディス・討議
第9回	第三セクター アウガの失敗	第三セクター アウガの失敗
第10回	稼ぐまち	稼ぐまちになるには

第11回	縮小ニッポンの衝撃 夕張市	縮小ニッポンの衝撃 鈴木直道元夕張市長 関係人口
第12回	島根県の人口流出	
第13回	撤退戦の殿（しんがり） 1. 3割自治と地方交付税と国庫支出金（補助金）2. 財政再生団体となった夕張市が借金を返済できる仕組み3. 夕張市のように自主財源3割にも満たぬ自治体は実は数多い4. 福井県の事例5. 山口県の事例6. ソフトな予算制約7. 学んでおいの方が望ましいいくつかの概念8. ポンチ絵で因果関係を整理してみよう	撤退戦の殿（しんがり） 1. 3割自治と地方交付税と国庫支出金（補助金）2. 財政再生団体となった夕張市が借金を返済できる仕組み3. 夕張市のように自主財源3割にも満たぬ自治体は実は数多い4. 福井県の事例5. 山口県の事例6. ソフトな予算制約7. 学んでおいの方が望ましいいくつかの概念8. ポンチ絵で因果関係を整理してみよう
第14回	国境を越えるクラスター同士の連携 ・グルディス・討議	東アジアのハードディスクドラマ産業 ・グルディス・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

村上 英樹 (著), 高橋 望 (著), 加藤 一誠 (著), 榎原 胖夫 (著)『航空の経済学』ミネルヴァ書房

伊藤 正昭 (著)『新地域産業論—産業の地域化を求めて』学文社

中村剛治郎編(2008)『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

- ・成績評価は次のように行います。
- ・毎回の課題の累計点80%。
- ・数回行われるグルディス・討議での貢献20%

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。毎回課題を課しますが、復習になる（期末試験対策になる）という意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PCによるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【その他の重要事項】

授業開始は学年暦通りです。最初は授業の進め方に試行錯誤が続きますが、どうかお付き合いください。

授業前日までに毎回の教材と簡単な課題を授業支援システム上にアップロードします。課題には提出締切を設けます。最初の数回は試行錯誤が続きますので、提出遅延をしても提出できるように設定しておきます。

【Outline (in English)】

The theme of this course is to introduce specific examples of various regional industries and to enable each participant to acquire the eyes (concepts and theories) necessary to think about regional industries and to become involved in the revitalization of regional industries.

Grading will be as follows: ・ Total points for each assignment: 80

The cumulative total of all assignments will be 80%.

20% contribution to the gurdies and discussions held several times.

ECN300EB（経済学 / Economics 300）

地域産業論Ⅱ

加藤 寛之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特性の異なる地域を取り上げて、地域産業の具体的な実態や理論の検討を行い、地域産業を考える際に必要な概念・理論の習得を目指す。また、実際の地域産業の分析・議論において、それらをどのように活用していくべきかを考えることをテーマとする。なお、授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得る。

- ・成績評価は次のように行います。
- ・毎回の課題の累計点80%
- ・数回のグルディス・討議の貢献20%

【到達目標】

製造業、農業、流通業、観光業など、現代の地域産業の実態、理論や政策課題について、一定程度以上の理解を得てもらうことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

最新動向を踏まえつつ、地域産業の実態と理論について学ぶ。各回、章毎にテキストを扱う予定である。数回に一度課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	秋学期に登場すること
第2回	推し推される関係について	マーケティング戦略の分析概念を適用して『ももいろクローバーZ』現象を捉え直す。「メンバー」と「スタッフ」と「モノノウ」
第3回	まちおこしとあまちゃん、その前提・グルディス・討議	まちおこしとあまちゃん、そのぜんていとなるもの・グルディス・討議
第4回	顧客は何を買っているのか	便益の束 三層構造
第5回	まちおこしが描かれるあまちゃんの世界・グルディス・討議	まちおこしが描かれるあまちゃんの世界・グルディス・討議
第6回	マーケティングとまちづくり	マーケティングとまちづくり
第7回	マーケティングの事例とあまちゃん	マーケティングの事例とあまちゃん
第8回	絞れば広がる、広がるところに絞る	絞れば広がる、広がるところに絞る
第9回	東京1一極集中の背景・グルディス・討議	産業構造の変化と人口移動・グルディス・討議
第10回	日本の戦後の道のり 田中角栄の功罪	日本の戦後の道のり 田中角栄の功罪

第11回	産業構造の高度化と人口移動 集積の経済と混雑の不経済 ・グルディス・討議	産業構造の高度化と人口移動 集積の経済と混雑の不経済 ・グルディス・討議
第12回	「企業」を「群」として見る視点	ものづくりは設計情報の転写 分業と産業集積
第13回	あまちゃんに描かれるあいどるによるまちおこし	あまちゃんに描かれるあいどるによるまちおこし
第14回	草津温泉	草津温泉再生物語

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。参考書は適宜指定します。

【参考書】

参考資料は紹介します

【成績評価の方法と基準】

- ・成績評価は次のように行います。
- ・毎回の課題の累計点80%
- ・数回のグルディス・討議の貢献20%

【学生の意見等からの気づき】

情報量が多い、課題が多い、でも面白いという評価が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

PCないしタブレット、スマホでは厳しい

【その他の重要事項】

口頭での説明の消化、板書内容の消化等が課題を解く上で必要です。

【Outline (in English)】

By taking up regions with different characteristics and examining the specific realities and theories of regional industries, we aim to acquire the concepts and theories necessary when considering regional industries. The theme of this course is to consider how these concepts and theories should be utilized in the analysis and discussion of actual regional industries. The lesson plan is subject to change slightly depending on the development of the class.

Grading will be based on the following

Cumulative points for each assignment: 80

Contribution of several gurdis/discussions: 20%.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

産業社会学 I

恵羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化と急速な産業構造の変化の下、働きかたは多様化し、人びとの意識や社会的結合のあり方も変容している。「働くこと」とはどのようなことなのか、そこにはどのような課題があるのか。この授業では、産業・労働を捉える様々な見方について学び、産業社会学の学問としての成り立ちと基本的テーマを通じて、基礎的な知識を身に着ける。

【到達目標】

「働くこと」について、産業社会の発展の中で、どのような課題および問いが発生してきたのか、社会学的な観点から考察する方法について学ぶ。「働くこと」を取り巻く構造や制度、ならびに労働者の主体的関わりについて、社会学的な枠組みから理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトや配布資料等に基づき講義を行う。

課題等に対するフィードバックは、授業の冒頭や最終回でリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	産業と社会変動 1	仕事とは何か？（工業社会、産業・分業、社会学的視点から働くことを考える）
第3回	産業と社会変動 2	技術と近代（テイラーリズム、フォードイズム、ポストフォードイズムなど）
第4回	産業と社会変動 3	技術と未来（産業社会・情報社会、自動化と省力化、人工知能、雇用と失業）
第5回	社会関係・制度 1	職場組織と人間関係（人間関係論、ホワイトカラー、感情労働における感情の管理）
第6回	社会関係・制度 2	労使関係（労使関係論、福祉国家と1980年代以降、日本における労使関係）
第7回	社会関係・制度 3	労働組合・労働運動（雇用類似の働き方と労働運動、ドキュメンタリーを観て考える）
第8回	意識・文化 1	労働の意味、労働者であること（労働倫理、アイデンティティ、社会化、満足、疎外）
第9回	意識・文化 2	今日的な労働の諸側面（官僚制、フレキシビリティと労働者の意識、技能の意味）
第10回	再生産 1	労働者になること（労働者文化、社会階層の再生産、名著を読む）

第11回	再生産 2	日本における教育と職業（教育の職業的意義、キャリア教育、適応と抵抗）
第12回	持続可能性 1	身体と脆弱性（身体イメージ、社会学における身体と社会、仕事の社会学、労働災害）
第13回	持続可能性 2	グローバル化と相互依存（移動の拡大と労働移民、アジア、移動をめぐる諸理論）
第14回	まとめ	授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50％）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

資料講読や動画視聴などを取り入れつつ、能動的な授業参加を促す工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセス可能なもの）

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of sociology of work to students. It also enhances the understanding of current socioeconomic dynamics surrounding industrial relations and workers in the era of globalization. The issues student will learn in this course cover various topics including social division of labor, industrialization/development and its consequences, human relations in workplace, ideology and alienation related to work, labor movement, labor migration and so on.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting. Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%, in class contribution: 50%

SOC300EB, SOC300EC (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

産業社会学Ⅱ

恵羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会構造変動の下で、これまでの産業社会が前提としてきた雇用慣行や労働のあり方が問い直しを迫られている。雇用形態の変化、環境問題やリスクの拡大、グローバル化や多様性の包摂など、現在、社会が直面している問題について、身近なテーマや具体的な社会問題を通じて考える。

【到達目標】

産業と労働に関わる諸問題について、①その背景と実態を理解し、②自らに関連するものとして捉え、③問題解決のためにどのような対策・制度・政策が求められているのかについて、他者と議論し、考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・適宜、映像資料等を活用し、グループ・ディスカッションなどを取り入れながら、リアクションとフィードバックを重ねることで、参加者の問題意識の発展を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	雇用を問い直す1	雇用はどう変化しているのか？
第3回	雇用を問い直す2	働き方の曖昧化について考える
第4回	労働時間について1	産業社会と労働時間（『モモ』を読む、グループ・ディスカッション）
第5回	労働時間について2	産業社会と労働時間（『ブルシット・ジョブ』を読む、グループ・ディスカッション）
第6回	労働と環境について1	労災・公害問題を考える（ゲスト講師、アスベスト労災問題を考える）
第7回	労働と環境について2	エッセンシャルワークをめぐる労働環境と処遇について考える
第8回	労働と環境について3	地域における生業と公害問題を考える（『阿賀に生きる』を観る）
第9回	インフラと労働について1	開発主義と労働の戦後史について考える
第10回	インフラと労働について2	開発主義の現在について考える
第11回	越境的な移動について1	グローバルなサプライチェーンを考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第12回	越境的な移動について2	日本とアジア諸国における越境的労働市場について考える
第13回	越境的な移動について3	移動の拡大と社会統合について考える
第14回	まとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。事前に文献講読が必須なディスカッション回については、時間がかかっても必ず読んで来て参加すること。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50 %）

リアクション・ペーパー、授業内で出された提出課題など

②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション回はメンバーを固定せず引き続きランダムで座席表を指定することで、多様な意見に触れるようにする。全体討議では黒板を利用して、議論の流れや多様な論点を可視化する。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセスできるもの）

【その他の重要事項】

・秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。

・授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This course examines inequality in Japanese society related to work and employment. Students will learn various topics such as changing industrial relations, expanding unregular/precarious work, working environments and risks as well as social policy. Student will be expected to actively participate in group discussion on each issue.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to have knowledge and multiple perspectives on various labor issues and

to develop communication skills in discussion.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting.

Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%, in class contribution: 50%

ECN200EB (経済学 / Economics 200)

国際経営論 I**多田 和美**開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論 I では、国際経営論に関する基本的な考え方と概念を学びます。そのなかでは、国際社会の変化を踏まえて、社会とその一員である企業がともに成長するためにどのような取り組みが必要なのかといった課題も取り上げます。その結果、国際経営論に関する基本知識とその知識の実践的な活用方法を修得することを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、文章によって説明できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。日常的に学習支援システムを確認・利用する必要があります。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営とは何か	ガイダンス
第2回	国際経営と環境	CAGE フレームワーク
第3回	海外直接投資の理論①	優位性の命題、内部化理論
第4回	海外直接投資の理論②	OLI パラダイム
第5回	多国籍企業の国際競争の歴史	今日に至る歴史
第6回	多国籍企業の組織デザイン	国際経営の進展と組織構造
第7回	トランスナショナル経営①	グローバル統合とローカル適応
第8回	トランスナショナル経営②	国際経営の4タイプ
第9回	海外子会社の経営①	海外子会社の所有政策
第10回	海外子会社の経営②	海外子会社の役割と成長
第11回	国際戦略提携	国際戦略提携のメリットとデメリット
第12回	異文化経営	各国文化のとらえ方
第13回	国際経営とCSR	多国籍企業の社会的責任
第14回	総括・試験	授業のまとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

梶浦雅己（2020）『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス（第三版）』文真堂。
大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。
吉原英樹（2021）『国際経営（第5版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（小テスト）：30%、期末試験：70%で評価します。
・課題の提出は期限厳守です。
・授業内課題（小テスト）は、第2回～第13回まで計12回実施する予定です。
・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the basics of international business from the theoretical and practical points of view. The course is mainly composed of the followings:

- 1) Basic theories of international business,
- 2) Basic frameworks of international business,
- 3) Advantages/disadvantages of international business.
- 4) Social responsibility of multinational companies.

Learning Objectives:

The goals of this course are the followings:

- 1) Understanding of basic theories of International Business,
- 2) Practical application of the above knowledge.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Quizzes (12 times):30%and final exam: 70%.

ECN300EB (経済学 / Economics 300)

国際経営論Ⅱ**多田 和美**

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論Ⅱでは、実際の国際経営活動の多様な領域を学びます。そこでは、日本多国籍企業による各種国際経営活動の実際にも焦点を当て、その特徴や課題を議論します。後半では、その他の先進国および新興国にも焦点を当てます。その結果、国際経営論の基本知識とその実践的な活用方法に関する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1)国際経営論の基本知識をもとに、企業の国際経営の現象を論理的に分析できる。
- 2)国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。日常的に学習支援システムを確認・利用する必要があります。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論の基本視座	I-R フレームワーク
第2回	国際マーケティング①	国際マーケティングの特徴
第3回	国際マーケティング②	日本多国籍企業の事例
第4回	海外生産①	国際生産ネットワーク
第5回	海外生産②	日本多国籍企業の事例
第6回	国際研究開発①	HBE/HBA型
第7回	国際研究開発②	日本多国籍企業の事例
第8回	国際サプライチェーン・マネジメント	国際的な調達活動と製販統合
第9回	国際人的資源管理①	EPRG プロファイル
第10回	国際人的資源管理②	日本多国籍企業の事例
第11回	先進国と国際経営	先進国市場の特徴
第12回	新興国と国際経営①	新興国市場の特徴
第13回	新興国と国際経営②	新興国企業の特徴
第14回	総括・試験	授業内容の総括・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。
吉原英樹（2021）『国際経営（第5版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（小テスト）：30%、期末試験：70%で評価します。
・課題の提出は期限厳守です。
・授業内課題（小テスト）は、第2回～第13回まで計12回実施する予定です。
・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the various fields and activities of international business based on the basic knowledge acquired in International business 1 in Spring semester. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Marketing, Production, R&D and HRM by multinational companies,
- 2)The characteristics of multinational companies' behavior in developed and emerging countries.

Learning Objectives:

The goals of this course are the followings:

- 1)Understanding of basic theories of International Business,
- 2)Analyzing of international business theoretically and empirically,
- 3)Practical application of the above knowledge.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Quizzes (12 times):30%and final exam: 70%.

ECN200EB (経済学 / Economics 200)

経済政策論

北浦 康嗣

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論を前提として、経済政策のあり方について学びます。とくに（１）政府の市場への介入（２）経済成長理論を取り上げて、経済政策のあり方について学びます。

【到達目標】

（１）ミクロ経済政策の効果について、図を用いて説明することができる。
（２）経済成長理論のフレームワークに基づいて、政策効果について図を用いて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半はミクロ経済学の観点から政策効果について分析を行います。後半はマクロ経済学の経済成長理論の観点から政策効果について図解します。必ず、毎回、Hoppiiを確認するように心がけてください。授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、政府の役割	ガイダンスを行った後に、政府の役割について説明します。
2	ミクロ経済政策	市場の失敗を確認した後に、政府の介入について議論します。
3	公共財（１）	私的財と公共財の違いについて説明します。
4	公共財（２）	公共財について図解します。
5	情報の非対称性（１）	情報の非対称性について図解します。
6	情報の非対称性（２）	ゲーム理論との関連について説明します。
7	中間試験	計算問題を中心として試験を行います。
8	経済成長理論（１）	経済成長理論について解説します。
9	経済成長理論（２）	成長会計について解説します。
10	経済成長理論（３）	成長会計について議論します。
11	経済成長理論（４）	ソローモデルについて解説します。
12	経済成長理論（５）	ソローモデルについて議論します。
13	経済成長理論（６）	ソローモデルを用いて、政策効果について解説します。
14	経済成長理論（７）	経済成長理論における教育や公的資本の役割について議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

家森 信善, 小川 光 [2007] 「基礎からわかるミクロ経済学（第2版）」中央経済社

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験50％，期末試験50％，両方受験すること。）で評価します。それ以外では一切評価しません。試験に関してはHoppii上でお知らせします。必ず、毎回、Hoppiiを確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、板書中心の授業を行います。

【Outline (in English)】

The objective of the course is to earn about economic policy based on the basic theories of both microeconomics and macroeconomics. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) government intervention in the market;
- (2) stabilization policy.

This course is evaluated by only two exams: a midterm exam (50%) and a final exam (50%).

ECN200EB（経済学 / Economics 200）

金融システム論

松田 岳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融システム論は金融を初めて学ぶ学生に向けて、具体的な金融仕組みを金融理論と結びつけて学ぶ科目です。金融の仕組みと働きの基礎から学修し始め、最新の金融動向やリーマンショック、金融危機後の非伝統的金融政策、フィンテックの発展なども取り上げます。学生が金融に関する幅広い知識と理解を養い、金融システム、金融取引、金融政策、および金融システムの安定性に関する複雑な概念を総合的かつ深いレベルで理解し、説明できるようにすることが本科目の目的です。

【到達目標】

この科目の到達目標は第一に金融システム（資金循環、金融機関、金融市場、新しい金融の仕組み等）を、第二に金融取引（貨幣の時間価値、イールドカーブ、不確実性、情報の非対称性、情報の不完備性、銀行の経済的機能、取引所・格付の機能、公的部門の役割等）を、第三に金融政策と金融システムの安定（貨幣の機能、信用創造、貨幣と物価、金融政策、ブルーデンス政策）を理解し、説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「授業時間外の学修」で指定した方法で学生が準備学修・復習を行うことを前提として、授業は実施されます。授業は教科書のポイント解説を行う「講義」を中心とし、学生から質問が提出された場合は「質疑応答」の時間を設けます。また、教科書の内容の理解度を測定する確認問題を実施し、学生自らが到達目標がどれだけ近づいているかを確認する機会とします。授業の最後に振り返りの機会を設け、理解不足の点が無いか自問自答して頂きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	金融の仕組みと働き	金融システムと金融取引（意義、特徴、情報の非対称性、契約の不完備性）、金融システムの働き（資金移転と取引費用の軽減、流動性の付与、リスク移転、価格メカニズムと情報公示機能）、金融方式と資金の流れ（直接金融と間接金融、多様な資金の流れ）について学修する。

第2回 資金の流れ

最終的な貸し手と借り手の変遷（経済部門別の資金過不足、戦後日本の部門別資金過不足の推移、高度成長期、安定成長期の貸し手と借り手、バブル期・失われた10年の貸し手と借り手、資金の流れの変化と金融システム）、現代日本の資金循環（バランスシートと資金循環統計、資金循環の経路と形態、日本における資金の流れの特徴）、日本の金融機関（民間金融機関と公的金融機関、預金取扱金融機関、その他の金融機関、専門金融機関制度）について学修する。

第3回 銀行

銀行の制度、銀行の活動（銀行の業務、金融自由化と規制緩和）、銀行経営（銀行のバランスシート、銀行の収益構造、収益構造の現状）、主要な経営課題、新規参入銀行について学修する。日本の金融市場（金融市場の分類、金融市場の担い手）、短期金融市場（インターバンク市場、オープン市場）、株式市場（株式の特徴と種類、株式市場の現状、株式市場間競争と取引所再編）、債券市場（債券の特徴と種類、債券市場の現状、社債市場改革）について学修する。

第4回 金融市場

金融の流動化・証券化（流動化・証券化の仕組みと分類、現状、課題）、投資信託（投資信託の仕組みと分類、現状、課題）、フィンテック（定義、通貨決済、クラウドファンディング、家計資産管理、保険）、ブロックチェーン（貨幣発行自由化論、人工知能）について学修する。

第5回 金融取引と金利

貨幣の時間価値と金利（現在価値と将来価値、さまざまな金利の概念、金利の働き）、満期の長さとの関係：金利の期間構造（利回り曲線、長短金利の関係、金利裁定、金利の期間構造の理論、金融政策と金利の期間構造、イールドカーブ・コントロール）について学修する。

第6回 金融取引の特徴と課題

不確実性と金融取引（取引相手をみつける問題、不確実性とリスク負担の問題）、情報の非対称性と金融取引（モラルハザードの問題、逆選択の問題）、契約の不完備性と金融取引（契約の不完備性、契約の不完備性のモデル、中古車市場と保険市場における逆選択とモラルハザード）について学修する。

第7回 中間試験

授業の前半部分の内容（金融システム、金融取引）について理解し、説明できるようになっているかを測定するために中間試験を実施する。試験範囲は第1回目から第7回目の授業内容とし、選択、空欄補充、記述などの形式で出題する。

第9回	銀行の働き	銀行の経済的機能（資産変換機能、情報生産機能）、規模の経済性と範囲の経済性、銀行と企業の取引関係（契約の不完備性と再交渉、日本のメインバンク制、リレーションシップ・バンキング）について学修する。
第10回	金融取引と政府の役割	公的金融の仕組み（金融に政府介入が必要な理由、金融への介入手段、日本の公的金融、平時と危機時）、民間金融機関貸出の信用補完（公的信用保証の仕組み、信用保証制度の機能と弊害、信用保証制度の今後）、金融市場への政府の関与（インフラとしての金融市場、債権の証券化、ベンチャーキャピタル、ファンド）について学修する。
第11回	貨幣の働きとマクロ経済	貨幣の働き（3つの機能、現代の貨幣、マネーストック統計）、決済（決済の仕組み、決済システム）、信用創造（数値例、実際の信用創造、マネーストックと銀行貸出の増減）、貨幣と物価（貨幣数量説、最近の流通速度の働き、マネー・ビュー、クレジット・ビュー）について学修する。
第12回	日本銀行と金融政策	日本銀行と金融政策運営（日本銀行とは、金融政策の目標と手段、金融政策の運営）、金融政策手段と準備預金の需給、金融政策の効果、金融政策をめぐる近年の議論（量的緩和とその効果、金融政策の新しい試みと課題、マイナス金利政策、中央銀行の破綻）について学修する。
第13回	金融危機とブルーデンス政策	金融危機の背景（マクロ経済の環境、金融機関のリスク管理）、ブルーデンス政策の手段（事前措置と事後措置、中央銀行の最後の貸し手機能、公的資金の注入）、ブルーデンス政策の将来像について学修する。
第14回	授業内試験	全ての授業内容について理解し、説明できるようになっているかを測定するために試験を実施する。選択、空欄補充、記述などの形式で出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡村秀夫, 田中敦, 野間敏克, 播磨谷浩三, 藤原賢哉. 金融の仕組みと働き. (有斐閣ブックス ; 477). 有斐閣. 2017.9. ISBN 978-4-641-18437-4. 定価 2,420円(本体 2,200円).

【参考書】

参考書を指定しません。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 金融システムについて理解し、説明できるようになること。38.5%
- (2) 金融取引について理解し、説明できるようになること。38.5%
- (3) 金融政策と金融システムの安定について理解し、説明できるようになること。23%

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業進行を求める声がありました。この意見に応え、今年度からは授業内容に関する質問を学修支援システムを通じて収集し、翌週にフィードバックをお返しすることとします。

【学生が準備すべき機器他】

1)学修支援システム等を利用できる環境を整えてください。2)学修支援システムの情報を授業前に確認しておいてください。3)大学のメールアドレスとパスワード、QRコードを読み取るためのスマートフォン等を必ず携帯してください。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学、マクロ経済学の単位を事前に修得しておく、本科目の理解が深まると考えます。本科目と関連する科目としては、国際経済論Ⅰ、国際経済論Ⅱ、社会・イノベーション論Ⅱ、社会保障法Ⅰ、社会保障法Ⅱが挙げられます。

【Outline (in English)】**Course outline**

Financial System Theory is a course for students new to finance to learn about specific financial systems in the context of financial theory. Starting with the basics of how finance works and functions, the course also covers recent financial trends, the Lehman shock, non-traditional monetary policy after the financial crisis, and the development of FinTech. This course aims to help students develop a broad knowledge and understanding of finance so that they can understand and explain complex concepts related to the financial system, financial transactions, monetary policy, and financial stability at a comprehensive and in-depth level.

Learning Objectives

The objectives of this course are, first, to understand and explain the financial system (the flow of funds, financial institutions, financial markets, new financial structures, etc.), second, financial transactions (time value of money, yield curves, uncertainty, information asymmetry, information incompleteness, economic functions of banks, functions of exchanges and ratings, role of public sector, etc.), third, monetary policy and financial system stability (the function of money, credit creation, money and prices, monetary policy, prudential policy) should be understood and explained.

Learning activities outside of classroom

The required home study hours outside of class are 4 hours per week (6 hours per week if the student is absent). The required study hours may be longer if the student lacks academic ability or basic knowledge of economics and finance. In terms of preparation, please read through the relevant sections of the textbook three times and summarize the essential points of the textbook in your notebook. If you have any questions, please submit them before class. For post-lesson study, re-read your notes to consolidate your understanding of the class content. If you fail to answer correctly on the in-class confirmation test, review the corresponding section of the textbook. If possible, try the practice questions in the textbook.

Grading Criteria /Policy**Evaluation Percentage by Achievement Goals**

- (1) To be able to understand and explain the financial system. 38.5%
- (2) To be able to understand and explain financial transactions. 38.5%
- (3) To understand and be able to explain monetary policy and financial system stability. 23%.

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境経済学Ⅰ

明日香 壽川

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境に関わる問題、特にエネルギー問題や気候変動問題について、経済学の側面だけでなく、科学技術、政治、哲学の側面からも議論して、現状および今後の課題について深く理解してもらいます。

【到達目標】

気候変動問題の科学技術的な部分を最初の方で講義します。まずそれを理解してもらい、その上で、具体的な国内外での対策に関して、経済だけでなく、政治や哲学の側面から、何をなすべきか、何が難しいのか、なぜ難しいのか、などについて、世界と日本の両方に関して、講師（外部からのゲスト講師を含む）および学生同士の議論を通して理解してもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式ですが、映像ビデオなどは活用します。また、学生をグループ分けして、それぞれで議論するような仕組みも取り入れます。エネルギーや温暖化問題に実際に仕事として取り組んでいる人や団体の関係者を呼んで話を聞いたりもします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	INTRODUCTION	授業の進め方について述べたあとに、地球環境問題とは何かについて議論する
第2回	気候変動問題の重要性さと複雑さと面白さ	ビデオを鑑賞して、内容について議論する
第3回	気候変動問題の科学1	気候変動問題の仕組みを理解する
第4回	気候変動問題の科学2	気候変動問題に対する懐疑論およびそれに対する反論を理解する
第5回	気候変動対策としてのエネルギー問題	どのようなエネルギーミックスがオプションとしてあるかを理解する
第6回	再エネ・省エネ・原発の位置付け1	再エネ・省エネ・原発の現状と課題について理解する
第7回	再エネ・省エネ・原発の位置付け2	再エネ・省エネ・原発の現状と課題について理解する
第8回	日本のエネルギー温暖化政策1	公害問題との共通点を考えながら、日本のエネルギー政策を考える。
第9回	日本のエネルギー温暖化政策2	これまでの日本のエネルギー政策を振り返りつつ、現状と課題を明らかにする。
第10回	気候変動問題の国際交渉	気候変動枠組条約締約国会議（COP）などでの議論を理解する
第11回	気候変動アクティビストとは？	Fridays for Futureなどの活動に関わっている若者の話を聞く

第12回 エネルギーや気候変動問題に仕事として関わっている再エネ事業などで関わっている人の話を聞く
関わるとは？

第13回 まとめ1 グループ発表

第14回 まとめ2 グループ発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いません。参考文献はその都度指示します。

【参考書】

主な参考文献は

明日香壽川『グリーンニューディール：世界を変えるガバナンス・アジェンダ』（岩波新書、2021年）

【成績評価の方法と基準】

70%期末試験、グループ発表30%の合計で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生間および学生と教員との間のディスカッションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】

可能であればパソコンを持ってきてください。

【その他の重要事項】

。

【Outline (in English)】

Discussing issues related to the global environment, especially energy and climate change issues from scientific and technological as well as political, economic, and philosophical perspectives. The participants will gain an understanding of the current situation and future challenges.

SES300EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

環境経済学Ⅱ

明日香 壽川

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界および日本における気候変動問題およびエネルギー問題に関して、担当教員を含む専門家や関係者の話を聞きながら、グループ発表を通して現状や課題を知る。それによって、国レベル、地域レベル、企業レベル、個人レベルでの具体的な対策や必要とされるアクションについて理解を深める。

【到達目標】

気候変動およびエネルギー問題に関連した仕事やビジネスに直接的に関わっているさまざまな人の話を聞き、机上の議論ではなく、現場の生の声を知ることで、問題をより深く理解できるようになる。同時に、グループ毎に自分達で決めた課題に関するプレゼンテーションを行うことによって、プレゼン能力が高まると同時に、自分の言葉で気候変動やエネルギー問題を議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義（教員および外部講師）とグループごとのプレゼンテーションの二つが主になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ：気候変動問題とは	ビデオを鑑賞しつつ、授業の進め方について説明する。
2	気候変動NGO（特に気候正義）	気候変動の国際NGOに関わっている人を講師に呼んで、実際の活動や課題について理解する。
3	グループ発表	前の週の話を読み返してグループごとに発表する。
4	再エネ事業	日本で再エネ事業にビジネスとして関わっている人の話を聞く。
5	グループ発表	前の週の話を読み返してグループごとに発表する。
6	原発	日本で原発に関する市民団体に関わっている人の話を聞く。
7	グループ発表	前の週の話を読み返してグループごとに発表する。
8	国際協力	日本で気候変動分野の国際協力に関わっている人の話を聞く。
9	グループ発表	前の週の話を読み返してグループごとに発表する。
10	メディア	気候変動のメディアなどでの報道のされ方の課題について専門家の話を聞く。
11	グループ発表	前の週の話を読み返してグループごとに発表する。
12	グループ発表	2学期を通して学んだ様々な論点に関してグループごとに発表する。

13 グループ発表 2学期を通して学んだ様々な論点に関してグループごとに発表する。

14 まとめ まとめ及びディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

主な参考書は、明日香壽川著(2021)『グリーン・ニューディール』、岩波新書。

【成績評価の方法と基準】

50%期末の試験、グループ発表50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

映像や見たり、外部講師の話を聞いたりすることで、エネルギー・気候変動問題に強い興味をもってもらおう。

【学生が準備すべき機器他】

可能であればパソコンを持参してください。

【Outline (in English)】

Learn about the current situation and issues related to climate change and energy in Japan and around the world through group presentations and by listening to experts and other concerned parties, including faculty members in charge of the course. Through these presentations and discussions, participants will deepen their understanding of specific measures and actions needed at the national, regional, corporate, and individual levels.

EVN200EB（その他の環境学 / Others 200）

エネルギー論

鞠子 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類学的な視点から人とエネルギーの関係を論じ、エネルギー問題の本質とは何かを考えていく。エネルギー技術の発展と環境問題についても解説し、人類存続のために世界が進むべき方向について考える。

【到達目標】

人とエネルギーの関りをベースとした学びを通して、エネルギーに関わる諸問題を客観的に理解し、適応策を考え得る能力を身に付けることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

パワポと配布資料を使った講義。毎回課題を課し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・我々にとってエネルギーとは何か	授業の概要や進め方について説明し、エネルギーとは何かについて講義する
2	人とエネルギーのつながり～人類誕生から産業革命前夜～	人類や文明の発展を支えたエネルギーと何かかを考える
3	人とエネルギーのつながり～産業革命のころ～	18～19cの化石燃料を利用したエネルギー革命について解説する
4	人とエネルギーのつながり～20世紀～	マルサスの罠を回避したエネルギー革命について解説する
5	現代のエネルギー社会と地球環境の現状認識	現代社会における化石燃料消費と環境問題の関連性について最新のデータから議論する
6	再エネ技術の現状と将来①～太陽エネルギー～	太陽光発電、太陽熱発電、太陽熱温水器などの現状と将来
7	再エネ技術の現状と将来②～熱エネルギー～	地熱発電、雪氷熱、海洋温度差発電の現状と将来
8	再エネ技術の現状と将来③～運動エネルギー～	水力発電、風力発電、潮汐力発電の現状と将来
9	原子力発電の現在過去未来	原子力発電の問題点や核融合発電の現状について解説する
10	わが国のエネルギー社会構造の変遷	エネルギーの需給構造やIoE社会について解説する
11	グリーン社会の実現に向けたエネルギー政策	カーボンニュートラル社会の構築に向けたグリーン成長戦略について解説する
12	エネルギー自治の現状と課題	エネルギーの地産地消に関する現状と課題について講義する
13	理想的なエネルギーとは何だろうか	カーボンゼロを可能にするためのエネルギー技術とエネルギーシステムについて考える
14	試験・まとめと解説	授業全体のまとめをした後、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

〔評価配分〕 期末試験（70％）、平常点（30％）

【学生の意見等からの気づき】

十分な予習復習ができるように、配布資料はより充実した内容にする。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn energy generating technologies, using fossil/nuclear fuels and renewable energy, and consider sustainable energy policy. Students will be expected to spend 4 hours for preparation and review. Grading: final exam (70%) and in-class contribution (30%).

EVN200EB (その他の環境学 / Others 200)

気候変動論

川村 賢二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候の変化や変動は、人間社会の歴史にさまざまな要因の影響を与えてきた要因のひとつである。どんな気候の変化や変動が人間社会にどんな影響を与えたのかについて、事実をあきらかにしていく科学的営みを知り、事実相互の因果関係を理解するとともに、人間社会が直面する問題の解決にむけての動き考える素養を身につける。

【到達目標】

気候変動の歴史的経緯や現在の状況および将来起こりうる現象を読み解くにあたって、必要とされる自然科学的な基礎知識を獲得するとともに、変動する気候の中で人間社会が持続するためにとるべき予防策や適応策について、社会科学的視点から理解し実践できる素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態の変更がある場合は学習支援システムを通じて指示します。こまめに学習支援システムのおしらせをチェックするようにしてください。

気候変動が現代社会が直面する複雑かつ重要な問題の一つであることを示す事例や、それらの背景にある仕組み等について講義します。講義を通じて、自然科学的な理解なしには気候変動問題が抱える論点的確かな把握が難しいことを認識し、適切な予防策や適応策を構築しようとする実際の試みについて知り、さまざまなレベルでの社会的合意形成が求められていることを学びます。

毎回の授業でリアクションペーパーを提出してもらい、そこに記載された疑問や質問は次回以降の講義の中で代表的なものをまとめ、全体に回答します。授業進行に従い、全体の理解度に応じて、捕捉資料を提供したりWebコンテンツを追加で紹介したりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	気象と気候の違い、過去100年程度の気温変化
第2回	IPCCについて	IPCCと各報告書の紹介、地球温暖化の様々な証拠
第3回	温暖化懐疑論について	地球温暖化論争の紹介、気候変動のメカニズム
第4回	気候はどう決まるか	温室効果ガス、温室効果の原理、放射強制力、気候フィードバック、気候感度
第5回	地球史の中の気候変動1	過去に起こった気候の大変動（数千万年から100年の時間スケール）、過去の気候の復元方法
第6回	地球史の中の気候変動2	アイスコア・空気のカプセル、氷期-間氷期サイクル
第7回	地球史の中の気候変動3	氷期と退氷期の気候変動（急激な気候変動、気候の不安定性と南北半球のつながり）
第8回	間氷期の極域氷床	過去の間氷期における海面水位と気温、近年の氷床の変化とその原因

第9回	過去から見る将来の気候	自然変動と人為的变化、海面水位の長期的見直し、過去のCO2激増イベント
第10回	完新世におけるCO2と気候の変動・変化	過去100年から1万年の気温とCO2の変動、炭素循環、地球温暖化に伴う環境変化、ヒートアイランド
第11回	20世紀以降の気候変化と気候モデル	直接観測された世界と日本の気候変化、気候モデルとは何か
第12回	21世紀の気候予測と影響	様々な排出シナリオにおける将来気候のシミュレーション、気候システムの内部変動、気候変化の影響
第13回	温暖化の主要リスクと対応	異常気象、気候変化への緩和策と適応策、持続可能性、カーボンニュートラル
第14回	将来の気候を決めるのは	気候変化や対策に対する意識、各国のCO2排出量、エネルギーのコスト、選択と行動、社会転換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絵でわかる地球温暖化」渡部 雅浩（講談社KS絵でわかるシリーズ）、2018 を教科書として使いますので、事前に準備しておいてください。

<https://www.kspub.co.jp/book/detail/5119464.html>

【参考書】

・「現代気候変動入門 地球温暖化のメカニズムから政策まで」、アンドリュー・E・デスラー（著）、神沢博（監訳）、石本美智（訳）、名古屋大学出版会、2023。

<https://www.unp.or.jp/ISBN/ISBN978-4-8158-1130-3.html>

・「地球温暖化の予測は「正しい」か——不確かな未来に科学が挑む」、江守正多（著）、化学同人、2009。

<https://www.kagakudojin.co.jp/book/b50060.html>

・「温暖化の“発見”とは何か」スペンサー・ワート（著）、増田耕一・熊井ひろ美（翻訳）、みすず書房、2005。

<https://www.ms.zo.co.jp/book/detail/07134/>

・ココが知りたい地球温暖化（環境研究所によるQ&A集）

https://www.cger.nies.go.jp/ja/library/qa/qa_index-j.html

・IPCC第6次評価報告書の日本語解説PDF（環境省HPより）

第1作業部会（自然科学的根拠）

<https://www.env.go.jp/content/000116424.pdf>

第2作業部会（影響・適応・脆弱性）

<https://www.env.go.jp/content/000155003.pdf>

第3作業部会（気候変動緩和）

<https://www.env.go.jp/content/000155004.pdf>

統合報告書

<https://www.env.go.jp/content/000171954.pdf>

IPCCをより深く知りたい方へ：

・環境省による「気候変動の科学的知見」（リンク集）

<https://www.env.go.jp/earth/ipcc/6th/index.html>

・気象庁によるIPCC第6次評価報告書の日本語資料（リンク集）

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar6/index.html>

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出、その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価（50%）および定期試験による評価（50%）

【学生の意見等からの気づき】

高校以降で理系科目を学んだ学生には平易に感じられたり、まったく触れたことのない学生には難易に感じられたりするので、差異を埋めるように受講生の素養を見ながら進めます。リアクションペーパーの質問に次回授業でまとめて回答することで、理解が難しいトピックについては繰り返し学びます。講師が南極やグリーンランドで撮影した映像や写真なども適宜紹介し、研究の現場の様子を感じてもらい、興味を持って進められるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

コロナ感染対策でZoomによるリアルタイムネット配信授業となる場合もあります。それに備えて、Zoomを視聴しながらノートテイクもできるネット・PC環境を整えてください。

【Outline (in English)】

This course provides clear, concise and up-to-date information for the fundamentals of climate change.

The goal of this course are to understand about climate change, focusing on particular interest to explain the climate change science, the international climate change legal and policy framework.

Students will be expected to be interested in recent climate change and related social problems. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%

LAW200EB（法学 / law 200）

社会保障法 I

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っていると役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄をなるべく扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険、金融業界と保険会社
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	雇用保険①	失業したらどうするか
5	雇用保険②	育児休業や介護休業、再就職のための給付
6	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
7	労災保険②補説	過労死・過労自殺と労災認定
8	労働保険・補説	前半部分の補説、まとめ
9	医療保険①	病気になったらどうするか
10	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
11	医療保険③	どういう医療を受けられるのか、高齢者医療
12	介護保険①	（親が）寝たきりや認知症になったら
13	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
14	補説、まとめ	後半部分の補説、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

森戸英幸・長沼建一郎『ややわかりやすい社会保険（法）』（弘文堂）。

【参考書】

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。

希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。（一部を秋学期の社会保障法Ⅱに回すこともあり得ます。）
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。
なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

LAW300EB（法学 / law 300）

社会保障法Ⅱ

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているに役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄をなるべく扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、公的年金①	年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか——全国民共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか——サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	公的年金⑥補説	年金税制、前半部分の補足
7	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか（iDeCo等）
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	どういうときに支給されるのか、保護の補足性、稼働能力の要件
10	生活保護②	いくら支給されるのか、基準及び程度の原則
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、ひとり親家庭への手当
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

森戸英幸・長沼建一郎『ややわかりやすい社会保険（法）』（弘文堂）。

【参考書】

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。（春学期の社会保障法Ⅰの内容の一部を扱うこともあり得ます。）担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境政策論Ⅰ

高橋 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、環境問題の構図を理解し、それへの公的対処行動である環境政策を学ぶことにある。現代において環境問題は、景観など身近な問題から地球規模の気候変動問題まで多様であるが、政府による環境政策は一般に十分と言えない場合が多い。学際的な観点から、そのような政策課題にアプローチし、環境政策のあり方を考えていく。

環境政策論Ⅰで理論を中心に学び、環境政策論Ⅱでは個別の環境問題を検討するため、Ⅰの後にⅡを履修することを強くお勧めする。

【到達目標】

- 1：環境問題の構図や背景を理解する
- 2：環境問題に対する公共政策の基礎概念を習得する
- 3：環境問題への具体的な対処策を考察し、提案する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義を中心に進める。パワーポイントのPDFスライドを、授業の2日前までにWebClass上に掲載するので、一読の上、印刷するなどして授業に持参すること。その上にノートを取すことをお勧めする。

講師は授業中に様々な質問をする。いくつかの質問は講義スライドに明記してあるので、事前に予習してくる。受講生は積極的に発言することが求められ、こちらから指名することもある。授業で扱う様々な課題に関心を持ち、自主的に調べることも重要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	シラバスの説明、自由討論
第2回	環境問題の定義と分類	環境と環境問題の定義、環境問題の分類
第3回	環境問題の歴史的変遷	産業公害型環境問題、都市生活型環境問題、地球環境問題
第4回	公共政策の基礎概念	公共政策の定義、公共政策論の基礎概念、政策分析論と政策過程論
第5回	「市場の失敗」から考える環境問題	公共財・コモンプール財・自由財、負の外部性と外部費用
第6回	エコロジーと持続可能性の概念	エコロジー、定常経済論、持続可能性
第7回	環境政策の原則	未然防止原則と予防原則、汚染者負担原則と拡大生産者責任原則
第8回	環境政策の手法	規制的手法と経済的手法、合意的手法、情報的手法
第9回	環境政策の主体	環境省、経済産業省、環境NGO、地方自治体
第10回	環境法の体系と環境訴訟	環境基本法、環境権、国際環境法、環境訴訟

第11回	国際経済における環境問題	多国籍企業と汚染逃避仮説、公害輸出、自由貿易と環境保護
第12回	グループ討論	特定のテーマについてグループ単位で討論
第13回	環境政策の展望	21世紀の環境問題と環境政策
第14回	授業の総括	授業のまとめ、授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回参照する教科書は特になし。講義用スライドは、学習支援システム上に毎週授業2日前に掲載する。

【参考書】

- ・大塚直他『18歳からはじめる環境法 第2版』（法律文化社、2018年）
- ・環境経済・政策学会編『環境経済・政策学の基礎知識』（有斐閣、2006年）
- ・環境省編『環境・循環型社会・生物多様性白書』各年版
- ・倉阪秀史『環境政策論 第3版』（信山社、2015年）
- ・デイリー、H.『持続可能な発展の経済学』（みすず書房、2005年）
- ・松下和夫『環境政策学のすすめ』（丸善出版、2007年）
- ・森品寿他『環境政策論』（ミネルヴァ書房、2014年）

【成績評価の方法と基準】

以下の3つの要素から100点満点で評価する。

- 1：授業貢献点＝24点（授業での発言、質問等）
- 2：リアクションペーパー＝16点＝8点×2回（A4・1枚程度）
- 3：期末試験＝60点（自筆ノートのみ持ち込み可）

【学生の意見等からの気づき】

授業内で発言機会が多く、それに授業貢献点という誘因が与えられていること、リアクションペーパーがコメント付きの返信がなされることなどの評価が高く、これらは継続したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに事前にアクセスし、各回の授業の告知を閲覧し、関連資料をダウンロードする。

【その他の重要事項】

担当教員は、内閣官房での2年半の実務経験がある他、内閣府、経済産業省、外務省、農林水産省、大阪府・市などの審議会の委員として、気候変動政策・再生可能エネルギー政策の形成に関与してきた。本講義の中では、それら政策実務の知見を適宜紹介していく。

【Outline (in English)】

This course teaches basic understandings of environmental problems and environmental policies to solve them. You will be able to understand mechanism and background of environmental problems, master concepts of environmental policies, and propose concrete solutions. You will be graded by such criteria as class participation, two reaction papers, and the final exam. Your study time will be about two hours for each class.

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境政策論Ⅱ

高橋 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、環境政策論Ⅰを踏まえ、様々な環境問題の事例を取り上げ、それへの政策的対処策を考察することにある。高度経済成長時代の公害問題、廃棄物問題、気候変動問題などを取り上げ、それぞれの環境問題の構図を理解するとともに、その政策過程を踏まえ、対処策を実践的に議論していく。

環境政策論Ⅰで理論を中心に学び、それを前提に環境政策論Ⅱでは個別の環境問題を検討するため、Ⅱを履修する前にⅠを履修することを強く勧める。

【到達目標】

- 1：代表的な環境問題の事例について、理論を踏まえつつ実践的に理解する
- 2：気候変動問題などに対して、具体的な対処策を提案する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義を中心に進める。パワーポイントのPDFスライドを、授業の2日前までにWebClass上に掲載するので、一読の上、印刷するなどして授業に持参すること。その上にノートを取すことをお勧めする。

教員は授業中に様々な質問をする。多くの質問は講義スライドに明記してあるので、事前に予習してくる。受講生は積極的に発言することが求められ、こちらから指名することもある。第12回授業では、エネルギー・気候変動をテーマにしたグループ討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	シラバスの説明：授業の内容、進め方、評価方法
第2回	公害問題としての水俣病	公害の定義、水俣病の被害、水俣病訴訟
第3回	公害問題の構図と環境基準	環境基準、水質汚濁防止法、大気汚染防止法、経済調和条項
第4回	環境庁設置の政治過程	省際紛争と総合調整、革新自治体と公害防止条例、公害国会
第5回	自然環境保護と生物多様性	自然公園制度、自然の権利、生物多様性条約
第6回	廃棄物問題と循環型社会	産業廃棄物と一般廃棄物、循環型社会と3R、産廃処理事業と豊島事件
第7回	都市における環境問題	都市計画、都市緑化、交通環境政策、モータリシフト
第8回	気候変動問題と気候変動枠組み条約	気候変動の被害、温室効果ガスと化石燃料、パリ協定、気候変動訴訟
第9回	エネルギー転換と脱炭素	カーボンプライシング、グリーン成長、デカップリング、脱炭素宣言

第10回	原子力発電と東京電力福島第一原発事故	国策民営と立地交付金、放射能汚染と避難、事故責任と損害賠償
第11回	再生可能エネルギーと地域社会	再エネと地域経済、メガソーラーの景観破壊問題、営農型太陽光発電
第12回	グループ討論	エネルギー・気候変動問題に関するテーマを取り上げ、グループ別に討論
第13回	環境政策の展望	グループ討論のまとめ、21世紀の環境問題
第14回	授業の総括	授業のまとめ、授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回参照する教科書は特になし。講義用スライドは学習支援システム上に毎週授業2日前に掲載する。

【参考書】

- ・大沼あゆみ・岸本充生『汚染とリスクを制御する』（岩波書店、2015年）
- ・亀山康子『新・地球環境政策』（昭和堂、2010年）
- ・環境省編『環境白書』各年版
- ・倉阪秀史『環境政策論 第3版』（信山社、2015年）
- ・高橋洋『エネルギー政策論』（岩波書店、2017年）
- ・新澤秀則・高村ゆかり『気候変動政策のダイナミズム』（岩波書店、2015年）
- ・政野淳子『四大公害病』（中公新書、2013年）
- ・森品寿他『環境政策論』（ミネルヴァ書房、2014年）
- ・鷲田豊明・笹尾俊明編『循環型社会をつくる』（岩波書店、2015年）

【成績評価の方法と基準】

以下の3つの要素から100点満点で評価する。

- 1：授業貢献点＝26点（授業での発言、質問等）
- 2：リアクションペーパー＝16点＝8点×2件（A4・1枚程度）
- 3：期末試験＝56点（自筆ノートのみ持ち込み可）

【学生の意見等からの気づき】

授業内で発言機会が多く、それに授業貢献点という誘因が与えられていること、リアクションペーパーがコメント付きの返信がなされることなどの評価が高く、これらは継続したい。24年度は授業の最後に時間が足りなくなりがちな点を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに事前にアクセスし、各回の授業の告知を閲覧し、資料をダウンロードする。

【その他の重要事項】

担当教員は、内閣官房での2年半の実務経験がある他、内閣府、経産省、外務省、農林水産省、大阪府・市などの審議会の委員として、気候変動政策・再生可能エネルギー政策の形成に関与してきた。本講義の中では、それら政策実務の知見を適宜紹介していく。

【Outline (in English)】

This course discusses cases of environmental problems and related policies based on Environmental Policy 1. You will be able to understand mechanism and background of various cases of environmental problems, such as environmental pollutions and climate change, and propose concrete solutions to them practically. You will be graded by such criteria as class participation, two reaction papers, and the final exam. Your study time will be about two hours for each class.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

市民運動論

竹元 秀樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を主体的に形成する手段の1つである、市民による社会運動の実態と意味を、主に社会学の方法に基づいて理解する。

とくに、現在、市民社会組織が増加する理由の一つとして、新たなアイデンティティのよりどころを求めるようになったことが挙げられる。この視点に注目して市民運動を捉え、豊かな市民社会の実現へとつなげる理論と方法論を学ぶ。

本授業では、市民運動を政治的な抗議活動として限定的に捉えず、市民生活を豊かにする社会活動として広く柔軟に捉えて、授業を展開する。

【到達目標】

- ・現実の市民運動を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
- ・現実の市民運動に対する自らの立ち位置、考えを論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面による講義形式で実施する。

授業への学生の積極的参加と教員との双方向交流を促すため、リアクションペーパーを提出してもらう。

教材（講義資料）は学習支援システムで事前に配布する。

授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。

リアクションペーパーについては、次回の授業でいくつか取り上げ、講評を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	社会運動論の理解	資源動員論・新しい社会運動論・政治的機会構造論
3	非営利組織論の理解	非営利経営の管理と戦略
4	ソーシャル・キャピタル論の理解	信頼・互酬性の規範・ネットワークの重要性
5	ローカル・ガバナンスと市民社会	ガバナンスからみる市民社会・コミュニティ
6	グローバルな市民運動1	新自由主義と市民運動
7	グローバルな市民運動2	国際社会における市民社会組織
8	〈事例研究〉市民によるコミュニティ形成活動1	都市祝祭を通じてのローカリティの形成
9	〈事例研究〉市民によるコミュニティ形成活動2	都市祝祭を通じてのコミュニティ活動の意義と成果
10	〈事例研究〉NPOによる若者支援活動1	教育現場での若者育成の取組

11 〈事例研究〉 NPOによる若者支援活動2 若者支援活動の成果と問題

12 〈事例研究〉 グローバルな貧困問題の解決1 ソーシャル・ビジネスを通じての社会活動の取組

13 〈事例研究〉 グローバルな貧困問題の解決2 ソーシャル・ビジネスの成果と今後

14 総括 重要論点の復習と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。

【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパーが20%、論述式の定期試験が60%。授業参加についての総合的評価が20%。

【学生の意見等からの気づき】

現代社会における市民運動によって何が変わるのか、あるいは何を変えようとしているのか。

その意味と意義と効果を、より詳しく分かりやすく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。

ただ画面を眺めるだけでなく自分のノートを作ることが重要。

【その他の重要事項】

コースの専門的科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline (in English)】

(Course outline)This lecture aims to study contemporary social movements by sociological, historical and positive perspective.

(Learning Objectives)The goals of this lecture are sociological understanding of contemporary social movements for making activity and social policy.

(Learning activities outside of classroom)Reading some directed books and Writing a report.

(Grading Criteria/Policy)Positivity to lecture 20%,Short Report 20%,Final Exam:60%.

ECN200EB（経済学 / Economics 200）

地方財政論

早崎 成都

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方財政論とはその名の通り、「地方」政府の財政を検討する研究分野である。財政を考えるにあたって、中央政府だけを見ればよく、地方政府はさしたる重要性を持たないと考えるのは大きな誤りである。むしろ、我々の生活に必要なものの多くは、地方財政が提供していると言っても過言ではない。本講義では地方財政を理解する上で極めて重要な、以下の二つのテーマを設定する。第一のテーマは、中央政府の財政と地方政府の財政の関係、いわゆる政府間財政関係であり、第二のテーマは地方政府の財政そのもの、とりわけ、地域住民の選好や活動を踏まえた予算の決定のあり方である。歴史的に、中央政府と地方政府は様々な問題をめぐって対立してきた。これらの政府間にどのような対立があり、その対立はどのように克服されてきたのか。地方自治は「民主主義の学校」と称されることもあるが、住民との距離が近い地方政府における財政をめぐる意思決定は、どのような問題を抱えてきたのか。受講者はこれらの問題群を日本と諸外国の経験を踏まえながら考察することとなる。

なお、地方財政論は財政学のサブフィールドと位置付けられる学問分野であり、財政学自体が経済学上の思考とそれ以外の学問の思考（政治学、社会学、行政学など）の両方が求められる分野である。財政学の履修経験のない受講者が数多く存在するというこれまでの経験に鑑みて、本稿では、財政学（およびその前提となる経済学）の基本的な知識を確認したうえで、地方財政について考察していくというスタイルを取る。もちろん、経済学や財政学の履修経験がない学生の受講も歓迎する。

【到達目標】

- ①地方財政をめぐる問題について、学生が財政学の専門用語を用いて、正確な記述を書けるようになる。（授業では演習も行うことがある）
- ②複雑な社会現象を整理し、論理的に分析できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めるが、学生の質問は積極的に受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「地方」財政論とは
第2回	市場経済	市場経済の効率性について
第3回	市場の失敗と財政①	外部性
第4回	市場の失敗と財政②	保険としての財政
第5回	市場の失敗と財政③	公共財と私的財
第6回	地方分権の望ましさについて	オーツの地方分権化定理
第7回	地方財政と地域コミュニティ	コミュニティと財政の関係を考える
第8回	国と地方	一般政府の財政活動の概観
第9回	自治体の収入源	地方税への理解を深める
第10回	財政調整制度	地方交付税と国庫支出金
第11回	日本の政府間財政関係の歴史的展開	国と地方の対立
第12回	諸外国の事例	デンマークとアメリカ

第13回 地方財政の現代的課題 人口減少と財政難

第14回 本講義のまとめ 全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習として、事前に講義資料を読むこと、復習として演習問題に取り組むことを要求し、それぞれ各2時間をかけることを想定しています。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書（テキスト）は指定しない。ただし試験における文章の書き方など学ぶ上では、文献を読むことが有益です。下記の参考書などを参考にすることをお勧めします。

【参考書】

下記の本は初学者向けに書かれた優れた地方財政論のテキストである。

沼尾波子ほか『地方財政を学ぶ 新版』有斐閣、2023年。

菅原宏太ほか『地方財政の見取り図』有斐閣、2023年。

財政学そのものについて学びたいという人は

高橋正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020年。

神野直彦『財政学』有斐閣、2021年。

などを参考としてください。

なお、より深く学習したい人向けには授業内でその都度文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）、リアクションペーパー（10%）で評価する。なお、リアクションペーパーは第5回と第10回の際に行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

質問は積極的に受け付ける。重要な質問は授業でも取り上げることがある。

【Outline (in English)】

Local public finance, as the name suggests, is a field of study that discusses issues of local government tax and spending. Some may think that studying local public finance is not as important as studying central government's public finance. However, given that local governments play a crucial role in providing our various and fundamental needs, this recognition is completely wrong. This course sets the following two themes, which are central to understanding of local public finance. The first one is the relationship between a central government's budget and a local government's budget, so called "intergovernmental fiscal relations." The second one is how to determine a local government's budget given preference and activities of its residents. There have been many conflicts between central government and local governments over taxing and spending. What kind of conflicts are there and how have they resolved these conflicts? How is local government tax and spending policy determined in the political process? Students will investigate these questions by looking at Japan and other countries' historical experiences. Through this course, students will be able to analyze issues related to local public finance both theoretically and empirically. Perspectives you obtain in this course will help you analyze problems related to local public finance, be as a resident, employee, or a civil servant.

Local public finance is a subfield of Public Finance, which is a scholarly discipline that requires both viewpoints of economics and those of other academic areas(such as Political science, Sociology and Public administration). For students who do not take any courses on Public Finance and economics, the lecturer reviews the basic knowledge first and then moves on to the content of Local public finance.

Learning Activities Outside of the Classroom

Students are expected to read materials distributed by the lecturer before and after class. The materials will be given at the first lecture. Also, students are expected to review the content taught at each lecture by trying exercises attached to the lecture materials.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade is determined by the final exam (90%) and so-called "reaction papers" (10%). If you have any questions, please let me know via email.

POL200EB（政治学 / Politics 200）

地方自治論 I

谷本 有美子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2000年の地方分権改革や平成の大合併を経て、21世紀の地方自治では公共サービスの担い手が民へと拡大し、行政と民間の役割分担が大きく変化してきました。同時に少子高齢化の進行や人口減少が社会問題化する中で、政府が自治体に対し「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」の策定を求めるなど、自治体が将来を見通しながら地域をマネジメントする責任が問われてきています。

この授業では、受講生が自治体の主人公の「市民(Citizen)」として地方自治に関わる際の基礎知識を習得し、これからの地方自治のあり方について主体的に思考する力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ・地方自治の歴史や理論、制度に関する基本的な知識を身につける
- ・地方自治の最近の動きを市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、授業内でいくつか取り上げて全体に向けてフィードバックしていきます。

前半は、地方自治の成り立ちや歴史的変遷、欧米諸国との比較を通して日本の地方自治の特徴を学びます。その上で、基本的なしくみの解説と現場の運用事例の紹介をしながら、市民の視点で地方自治を実践的に検討していきます。

後半では、国地方を通じた事務処理体制や中央地方の府県間関係も取り上げ、分権型の地方自治のあり方を考察します。それらを踏まえて、市民の政府としての自治体に必要なシステムについて、見識を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー「地方自治」と「自治」の概念	「地方自治」と「共同体の自治」との含意を概説し、講義で扱う内容を俯瞰する
第2回	地方自治制度の比較（欧米諸国と日本）	日本の地方自治に影響を与えた欧米諸国の地方自治制度との比較の中から、日本の地方自治制度の特色を認識する
第3回	近代日本の地方自治制	明治維新以降の日本の地方制度を学びながら、近代日本における国家と地方自治との関係性を理解する
第4回	地方自治の保障と集権的な行財政制度	戦後憲法で保障された地方自治の意義を踏まえつつ、講和期からの中央集権的な制度改革で構築された行財政制度の特性を理解する

第5回	大都市自治体の特例と都市問題への対応	指定都市や中核市等の大都市制度と東京の都区制度を概説したうえで、人口が集中した大都市における自治体の役割や課題を検討する
第6回	二元代表制と長のリーダーシップ	二元代表で機関対立主義を採用する自治体統治機構について概説し、その特色である首長（執行機関）の優位性に着目して、自治体運営で発揮される長のリーダーシップを考察する
第7回	自治体議会と地域政治	住民の代表として行政監視機能を果たす議会の活動を概説し、二元代表制における議会の政治的役割という観点から、議会による政策形成の可能性と代表制のあり方を考察する
第8回	住民自治を支える参加のシステム	地方自治法に定めのある住民の直接請求権や自治体が独自に定める市民参加のしくみを取り上げ、市民が主人公となる地方自治の民主主義的機能について検討する
第9回	自治体財政と住民の税負担	全国的な財政調整・財源保障制度を基礎に成り立つ自治体財政の特色を踏まえつつ、住民が負担する税の側面に着目して、地方自治の受益と負担という関係性を検討する
第10回	21世紀の中央地方関係と自治体の自律性	2000年地方分権改革を経た対等な国地方関係のもとで、国と自治体との政策思考が対立した場合の調停のしくみを概説した上で、現実自治体が直面している課題について考察する
第11回	民に広がる公共サービス	公共サービスの担い手を民へと拡大するために導入された指定管理者制度・PFI、独立行政法人制度等の諸制度や、自治体レベルでNPOや地域住民組織とパートナーシップの名の下で展開する事業を学びつつ、公民の役割分担が大きく変化している現状について理解を深める
第12回	住民自治組織と地域コミュニティ	近年、各地で運用されている住民自治組織等の事例を取り上げながら、地域社会における住民の自治と地域コミュニティの問題を自治体政策の観点から検討する
第13回	人口減少時代の自治体の役割	平成の大合併を経て市町村数は3分の1に減少した。合併の功罪には今もさまざまな論議がある中、国は行政サービス維持の観点から、自治体間連携や公民連携の可能性を提示している。ここでは「住民自治」と「自治体の規模」の観点から、自治体の役割を検討する
第14回	「市民の政府」たる自治体のあり方	自治体を「市民の政府」として運用するにはどのようなシステムが必要か。自治基本条例や総合計画など自治体運営の基本的なルールの活用事例を参考にしながら、「市民」的な視点から今後の可能性を考えていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジюмеと資料を配付します。

【参考書】

・大森彌／大杉覚『これからの地方自治の教科書 改訂版』（第一法規）
・幸田雅治編著『地方自治論－変化と未来』（法律文化社）
その他の参考文献は授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（75％）に授業内のリアクションペーパー・小レポート提出状況等（25％）を加味し、総合的に評価します。大学の授業実施方針に応じ、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の質問や理解度に応じ、後日授業での補足説明や追加資料配布を行います。

【学生が準備すべき機器他】

レジюме以外の資料配布は、学習支援システムを通じて行います。

【Outline (in English)】

The role of public services in the local autonomy in the 21st century has expanded to the private sector, and the division of roles between the administration and the private sector has changed significantly in Japan. At the same time, with the declining birthrate and aging population and the declining population becoming a social issue, the local government take responsibility to keep the area sustainable while making predictions about the future.

In this class students will learn the basic knowledge of local government as a “ Citizen ”, the main character of a local government, and to acquire the ability to think independently about the future of local government.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To acquire basic knowledge about the history, theory, and system of local autonomy
- B. To acquire a citizenship literacy that allows you to understand the recent movements of local government and make decisions based on your own consideration.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Students will be expected to collect information such as searching for newspaper articles related to the content taken up in the class and check the situation of the municipality where you live. Read newspaper articles routinely that are considered be related to the local governments.

Your overall grade will be decided based on the following,

Term-end essay exam (75%), short reports or in-class reaction papers (25%). The term-end exam may change to the report according to the university's class implementation policy. It will be informed by the learning support system of any changes.

POL300EB（政治学 / Politics 300）

地方自治論Ⅱ

谷本 有美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀の行政サービスの供給体制は、「官から民へ」の規制緩和や国地方を通じた行財政改革の推進とともに大きく変容し、公務の担い手を民間へと拡大してきました。いわば「公民連携」型の公共サービスの提供は、民間特性を活かした良質なサービス供給が期待されている中で、行政とサービスの受け手となる住民との距離は広がっており、自治体の政策形成に「市民」の側から地域や現場のニーズをインプットする必要性が増しています。

この授業では、自治体が担う諸政策を取り上げながら、自治体の仕事についての理解を深めた上で、地域社会の公共的な活動との連携や、税金投入の意義等も含めながら、自治体が果たすべき役割や公共サービスのあり方について考察していきます。

【到達目標】

- ・自治体の政策過程に関わるしくみや諸制度の基本的知識を身につける
- ・自治体が果たすべき役割や公共サービスのあり方について、財源や徴税の視点も踏まえながら判断できるシティズン・リテラシーを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り自治体政策の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーは授業内でいくつか取り上げて、全体に向けてフィードバックします。

自治体政策をハード・ソフト含め個別分野ごとに取り上げますが、その一方で自治体の仕事を分野横断的・総合的に捉えるという基本的なスタンスに立脚しながら、政策課題や自治体の仕事を検討していきます。それらを踏まえて、自治体が限られた財源の中でも果たすべき役割や行政の責任領域について、納税者の視点を意識しながら考察します。

秋学期授業を理解するためには春学期の授業（地方自治論Ⅰ）で地方自治の基本的な事項を修得していることが前提となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自治体の行政と政策形成のしくみ ー総合計画を中心にー	行政に関わる国・都道府県・市町村の役割分担を概説した上で、主な行政サービスの実施主体とされる基礎自治体を中心に、総合計画を基軸とした政策体系と政策形成のしくみを理解する
第2回	自治体福祉政策とバリアフリーの地域づくり	「福祉」行政の歴史的な考え方と高齢者・障がい者という対象者ごと・縦割りの行政施策について概要を学び、「バリアフリー」のような縦割りを超えた観点からの共通対応を検討する

第3回	「人生100年時代」の高齢者施策	介護保険制度を含む高齢者福祉政策の課題を学んだ上で、近年、提唱される「人生100年時代構想」を踏まえて「生きがい」「働き方」の視点から超高齢社会の問題を考察する
第4回	地域福祉の視点と地域包括ケアシステムの展開	福祉施策の傾向として、「地域福祉」の観点から当事者に対し多様な主体を交えて総合的にサポートする「地域包括ケアシステム」へと転換しつつある現状を学び、行政と地域社会との連携のあり方を考察する
第5回	生活困窮者自立支援施策と就労支援の課題	憲法で保障された生活保護行政の現状を踏まえつつ、自治体がすすめる生活困窮者自立支援対策の中から明らかになった「就労支援」の現実的な課題を検討する
第6回	子ども・子育て支援政策と地域ニーズに応じた展開	子ども子育てに関わる切れ目のない施策の現状と自治体による先進的な取組みを学んだ上で、子どもの貧困や虐待対策等、地域ニーズに応じた政策展開の必要性を検討する
第7回	子どもの権利・参加と多様な学びの保障	2023年施行の「こども基本法」の政策理念と、教育機会確保法による「多様な学びの保障」についての理解を深めた上で、こどもの権利に即した自治体レベルでの政策展開を考える
第8回	環境政策をめぐる多様なパートナーシップ	自治体における環境政策を取り上げる中から、地域住民の協力や専門性を持ったNPO等との連携や、「地球規模で考え地域で行動する」視点の必要性等を学び、パートナーシップ型の政策展開のモデルとして考察する
第9回	公共施設・インフラの老朽化と自治体の対策	高度成長期に整備された公共施設や道路、橋梁、下水道等のインフラの老朽化が進行する中で、人口減少に伴い都市機能を縮小させる必要が生じてきている現状を学び、これからの都市機能のあり方を検討する
第10回	土地利用・都市計画のしくみとまちの将来ビジョン	住宅や商業施設の建築の基本に土地利用や都市計画に関わる法制度が存在していることを学び、まちづくりの将来を考える際に、自治体が条例等によりルールを定めていくことやそれを支える理念の重要性について理解を深める
第11回	人口減少・超高齢社会における住宅施策	近年深刻化し始めた空き家問題やマンションの空き室問題等について具体的な地域課題を取り上げ、自治体の対策が遅れている住宅関連の政策を、地域の空間管理やコミュニティ問題を視野に入れて考察していく
第12回	外国人住民の生活課題と多文化共生のとりくみ	政府が外国人労働者枠の拡大を進める中で、地域に居住する外国人に対し、自治体がこれまで予定してこなかった生活支援等の施策が求められるようになってきている。そうした取り組みを、多文化共生のまちづくりの必要性から検討する

第13回	市民社会から提起される政策課題	地域社会では自治体に政策課題と認識されていない公共的な課題に対しNPOや住民間の互助的な関係で対策が講じられているものがある。それらの取組みに関し「公共性」の観点から、自治体政策としてどう対応すべきかを考察する
第14回	自治体が果たすべきこと	災害対応のように地域住民の命や生活を守るという行政活動の本質を捉えながら、自治体は何を優先してその役割を果たしていくべきか、またその財政負担をどうするのかなど、今後の自治体のあり方を市民的視点から考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジюмеと資料を配付します。

【参考書】

磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治』（北樹出版）
今川晃・牛山久仁彦・村上順編『分権時代の地方自治』（三省堂）
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（75％）に授業内の小レポート提出状況（25％）を加味し、総合的に判断します。大学の授業実施方針に応じ、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や理解度に応じ、後日授業での補足説明や追加資料配付を行います。

【学生が準備すべき機器他】

レジюме以外の資料配布は、学習支援システムを通じて行います。

【Outline (in English)】

The supply system of administrative services in the 21st century has undergone a major transformation and has expanded the role of public affairs to the private sector in Japan. Although the provision of public services of the “public-private partnership” type is expected to provide high-quality services that make use of the characteristics of the private sector, the distance between the government and the people who will receive the services is expanding. So citizen's participation for public policy making process has become more important than before.

In this class, students will learn the public policy and the work of local governments, will consider the roll of the local government in the future and the way of keeping the public service at the view of the taxpayers.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. To acquire basic knowledge of mechanisms and systems related to the policy process of local governments.

-B. To acquire citizen literacy that can judge the role that local governments should play and the ideal way of public services from the viewpoint of financial resources and tax collection.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Students will be expected to collect information such as searching for newspaper articles related to the content taken up in the class and check the policies of the municipality where you live. Read newspaper articles routinely that are thought to have an impact on our lives.

Your overall grade will be decided based on the following,

Term-end essay exam (75%), short reports or in-class reaction papers (25%).The term-end exam may change to the report according to the university's class implementation policy. It will be informed by the learning support system of any changes.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

国際協力論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業日誌」を作成して、掲示板に書きこんでいく。「授業日誌」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみよう、を含むこと。授業前半ではZOOMのブレイクアウトセッションを用いて、少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の座長になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連SDGsの論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円＋税。

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円＋税。
 ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。
 岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、掲示板に書き込まれた授業日誌の各項目について、25%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内 正

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラム社会とは、イスラム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】

①イスラム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

中東・イスラム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」（テキストの該当部分について以下の4点を含むこと。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと。）を作成してくることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中東・イスラム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。テーマについて知りたいことに関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレントニア国家：レントニア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家＝社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容・イスラエルの国家安全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論

8	中東地域の女性と難民、およびロジャヴァ革命論	受講生報告と教員を交えた議論
9	トルコ新自由主義・親イスラーム政党・外交	受講生報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉	受講生報告と教員を交えた議論
11	イランのイスラーム統治体制の現状	受講生報告と教員を交えた議論
12	イラク「政治体制を巡る迷路」	受講生報告と教員を交えた議論
13	ヨルダン——紛争との共生	受講生報告と教員を交えた議論
14	中東・イスラーム研究の課題	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年、3800円＋税。
岡野内正「アラブの春は西クルディスタンで花開いたか？——シリア内戦におけるロジャヴァ革命研究のために」『アジア・アフリカ研究』61（2）2021年4月に所収。（岡野内正研究室HPの「中東研究」のページからダウンロードできる。）

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円＋税。
長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。
岡野内 正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、毎回の授業日誌の4項目について、25%ずつ、合計100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

ECN200EB（経済学 / Economics 200）

国際経済論Ⅰ

増田 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみなすだけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済の一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的にする。

国際経済論Ⅰでは、第二次世界大戦後の国際経済体制の変化をアメリカ経済を中心にして説明し、それとの対比と関連の中で、欧州経済と発展途上国の経済を説明する。秋学期の理論的な解説と合わせて世界経済の概観をもてるようにする。

【到達目標】

ボックスアメリカナと呼ばれた戦後の世界経済秩序の内容について理解できる。

その中でアメリカが果たしてきた役割とその変質、米中蜜月から米中対立への変化、トランプ政権誕生後のアメリカについて理解することができる。また、EUの成立と発展、グローバルサウスの現状と課題、それらを含んだグローバル経済の現状と不均衡について、相互関係の中で理解できる。

それらを身につけることで、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。

対面授業で行います。

この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。事前に、学習支援システムに、レジメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。

講義では、講義後に小課題を出す場合があります。その場合、課題の提出はHoppiiで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロダクション	国際経済秩序とグローバル経済	授業全体の進め方の解説、国際経済、世界経済との相違、国際経済秩序とグローバル経済
2回	アメリカってどんな国？	アメリカという国家の特徴とアメリカの国際経済秩序への関わり
3回	アメリカと国際経済秩序①	戦後構想とボックス・アメリカナ
4回	アメリカと国際経済秩序②	パックス・アメリカナの変容と変動相場体制
5回	アメリカと国際経済秩序③	レーガノミクスからニュー・エコノミーへ
6回	アメリカと国際経済秩序④	WTO体制の特徴とグローバル経済

7回	アメリカと国際経済秩序⑤	米中蜜月の終焉から米中新冷戦への転換
8回	EU①	EEC成立から欧州統合へ ECSC、EEC、EURATOM EC
9回	EU②	92年欧州統合とEU 停滞する欧州 マーストリヒト条約 共通通貨ユーロの導入
10回	EU③	EUの発展と動揺 加盟国の拡大と統合の深化 イギリスの離脱
11回	南北問題①	ウクライナ戦争と戦略変更 植民地体制の崩壊と工業化 輸入代替工業化 輸出志向工業化 UNCTAD
12回	南北問題②	NICsと累積債務問題 新興国の工業化 ユーロ市場の役割 累積債務問題
13回	南北問題③	新興市場諸国とグローバルサウス 東アジアの奇跡 中国の経済成長 アフリカ諸国の今
まとめ	今日のグローバル経済	気候変動危機下の米中の覇権競争 グローバルサウスというまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に、テキストを読み、配布されたプリント、レジメを読んでおくこと。

講義の後に、課題を提出するとともに、再度テキストを読み、自分のノートを整理すること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間、合計で4時間になります。

【テキスト（教科書）】

半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。

『21世紀のアメリカ資本主義：グローバル蓄積構造の変容』河音琢郎・豊福裕二・野口義直・平野健編著、大月書店、2023年。

『現代世界経済をとらえるVer5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010年。

明日香壽川『グリーン・ニューディール：世界を動かすガバナンス・アジェンダ』岩波書店、2021年。

【参考書】

教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は提出されたレポート課題と期末試験によって行います。

授業後に提出する小課題	30%
レポート	20%
定期テスト	50%

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイムでのオンライン授業を行ったとき、復習のために録画もしてほしいという要望があり、録画も行って公開してきた。ただし、経済学は積み上げ型の学問であり、毎週見て学び身につけていくということを目的にしているの、公開期間は限定することにした。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

春・秋学期を通じて、国際経済論Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。この授業は、歴史的な発展を追って説明する形になるが、その説明において、理論的部分は国際経済論Ⅱを履修してはじめて理解できることもあるので、国際経済論Ⅱを履修することが必要である。もちろん、テキストを事前に読み、理論的な学習をして講義に臨むというのが望ましいことはいうまでもない。

授業計画は現実の国際経済の展開によって、変更することもある。

【Outline (in English)】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study the changes in the international economic system after World War II, focusing on the US economy, and explain the European economy and the economies of developing countries in relation to the world economy.

ECN300EB（経済学 / Economics 300）

国際経済論Ⅱ

増田 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみなすだけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済を一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的にする。

国際経済論Ⅱでは、国際経済学の基本的な理論について学ぶとともに、非主流派の経済学についても勉強します。具体的には、貿易理論と外国為替論、国際通貨論、国際投資の理論、国際労働力移動についての基礎理論について学ぶ。

【到達目標】

国際経済の基礎理論を身につけることで、グローバル経済を理論的に理解できるようになる。

それと同時に、理論と現実との緊張関係を理解し、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。

対面授業で行います。オンラインで行う場合は、リアルタイムのオンライン授業の形式で行います。また、ズームで授業を録画し、公開するので、復習に活用してください。

この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。事前に、学習支援システムに、レジュメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロ	国際経済とグローバル経済	授業の目的、国際経済の理論を学ぶことの意義と目標の解説
2回	世界経済と自由貿易体制	自由貿易体制 GATT
3回	GATT、WTO	WTO
3回	国際貿易の理論①リカードと比較生産費説	リカードの比較生産費説の紹介、比較生産費説の解説
4回	国際貿易の理論②ミルと2国多数財モデル、HOSモデル	ミルによる比較生産費説、2国多数財モデル HOSモデルの紹介と説明
5回	国際貿易の理論③貿易の一般均衡論	貿易の一般均衡分析 貿易のパターン 貿易の利益 オフアーカーブ
6回	国際貿易の理論④主流派貿易理論への批判と不等価交換論	主流派貿易理論への批判と不等価交換論

7回	貿易理論の小テスト 外国為替論 外国為替取引と外国為替市場	貿易理論の小テスト 外国為替取引の仕組み 外国為替市場とは何か
8回	国際通貨論 国際通貨と国際通貨体制	世界貨幣、国際通貨とは何か 金本位制と国際通貨体制
9回	国際通貨システム論 「ドル本位制」と現代の外国為替市場	「ドル本位制」とはどんなものなのか 現代の外国為替市場の特徴
10回	国際投資の理論 資本輸出の諸形態と多国籍企業	資本輸出の諸形態 多国籍企業の定義、特徴、グローバル経済における多国籍企業の位置
11回	多国籍企業の諸理論	多国籍企業の諸理論の紹介と解説
12回	多国籍銀行とユーロ市場	多国籍銀行とは何か 多国籍銀行論の紹介 ユーロ市場の特徴、その発展の歴史
13回	グローバルマネーの運動と金融危機	資本移動の自由化と累積債務危機、通貨危機、金融危機 ドル体制とユーロ、人民元
まとめ	国際労働力移動の理論	国際労働力移動の理論ちお現状

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に、テキストを読み、配布されたプリント、レジュメを読んでおくこと。

講義の後に、再度テキストを読み、自分のノートを整理すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間、合計で4時間になります。

【テキスト（教科書）】

半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。

『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010年。

『現代国際金融論』（第4版）上川孝夫、藤田誠一編、有斐閣、2012年。

『国際経済政策論』新岡智、板木雅彦、増田正人編、有斐閣、2005年。

【参考書】

教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、小テスト、レポート課題、期末試験によって行います。

貿易理論の小テスト 20%

レポート課題 30%

定期テスト 50%

貿易理論の小テストは、第7回の授業の冒頭に行います。

【学生の意見等からの気づき】

復習等のために録画をして公開してほしいということでしたので、録画を公開することにしました。昨年は、公開期間を限定しない方がいいという意見が多かったので、授業期間中は常にみられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

春・秋学期を通じて、国際経済論Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。この授業は、前半の貿易理論の部分が抽象度が高く、理解するのが一番難しいので、しっかり復習すること。

授業計画は現実の世界経済の展開によって、変更することもある。

【Outline (in English)】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study both traditional international economics and non-traditional international economic theory, especially about trade and foreign exchange trading, international investment, and international labor migration.

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read textbooks. Students are encouraged to read textbooks according to the course schedule.

The final evaluation will be based on the following: midterm exam 20%, submitted report 30%and final exam 40%; total: 100%.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

社会学理論 A I

鈴木 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「相互作用秩序」の社会学。「相互作用論（interactionism）」の考え方に基づいて、日々の社会的現実の成り立ちを社会学的に記述・分析するための概念、視点、方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

私たちが日々を経験している社会生活の秩序は、私たちが他者の視点を取りこみつつ、相互的な関与を継続することによって成立している。この「相互作用秩序」の成り立ち方（成り立たせ方）を概念的に対象化する方法を身に付け、これを通じて、日常生活の秩序が破綻する場面（トラブル）の記述を可能にする。と同時に、社会秩序に対する「違和感・不安全感」の理由を言語化できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布する「レジュメ」を用いて講義を進める。

リアクションペーパーの提出は毎回求めるが、これは成績評価につながるものではない。リアクションペーパーから選別して、次週の講義資料において回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	相互作用論とは何か？
第2回	相互作用論の理論的基礎（1）	G.H. ミード『精神・自我・社会』から
第3回	相互作用論の理論的基礎（2）	対面的相互行為をめぐるE. ゴフマンの視点
第4回	相互作用論の理論的基礎（3）	「規範」と「秩序」をめぐる相互作用論的視点
第5回	相互作用論の理論的基礎（4）	「レリヴァンス」と「フレーム」
第6回	相互作用秩序とそのトラブル（1）	焦点の定まらない相互作用空間としての「社会空間」
第7回	相互作用秩序とそのトラブル（2）	電車の中で席を譲ることがどうしてこれほど難しいのか？
第8回	相互作用秩序とそのトラブル（3）	トラブルを報告する
第9回	相互作用秩序とそのトラブル（4）	「アラーム」の出現
第10回	「心」の相互作用秩序（1）	感情の社会的構成
第11回	「心」の相互作用秩序（2）	コミュニケーションの要素としての「動機」
第12回	「心」の相互作用秩序（3）	「モーティヴ・トーク」の社会学
第13回	「心」の相互作用秩序（4）	動機の語彙と「心の闇」
第14回	相互作用と心の秩序	春学期の講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

草柳千早 2015 『日常の最前線としての身体』世界思想社
中河伸俊・渡辺克典（編）2015 『触発するゴフマン』新曜社。
鈴木智之、2014 『「心の闇」と動機の語彙』青弓社。
など。他は授業の進行に合わせてその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の「試験」のみを評価の対象とします(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

講義そのものが、私とあなたとの相互作用の場面です。積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to understand the theoretical frames of interactionist sociology and to demonstrate knowledges and analysis of the everyday-life situations. At the end of the course, students are expected to be able to analyze sociologically the interactional order in social life.

After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end examination(100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

社会学理論 A II

鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ハビトゥス」と「ナラティヴ」という二つの概念を軸に、「社会的存在」としての「個人」の成り立ちについて考える。

【到達目標】

「私」という存在は、社会生活の累積の中で作られていく、複雑な社会的構成体である。「私」はなぜ今あるような「私」なのか。「私」が「私」であろうとすることが、どのような社会の成り立ちに結びついているのか。これを概念的に分析し、言語化できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布するレジュメを用いて講義を行う。

リアクションペーパーの提出を求めるが、これは成績評価につながるものではない。

リアクションペーパーからいくつかを選択し、次週の講義において回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「個人存在」の社会学という視点
第2回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（1）	デュルケム社会学における「個人」
第3回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（2）	G.H. ミードの「社会的自己」論
第4回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（3）	G. ジンメル「社交圏の分離」と「個人の自立」論
第5回	「ハビトゥス」の理論（1）	社会的なるものの身体化
第6回	「ハビトゥス」の理論（2）	身体化された文化と不平等の再生産
第7回	「ハビトゥス」の理論（3）	感覚の社会的依存性
第8回	「ハビトゥス」の理論（4）	複数のハビトゥス
第9回	物語としての自己（1）	認知と判断の形式としてのナラティヴ
第10回	物語としての自己（2）	再帰的な語りと自己の構築
第11回	物語としての自己（3）	病いの語り
第12回	物語としての自己（4）	自己物語の困難
第13回	ハビトゥスとナラティヴ（1）	ハビトゥスをめぐる語り
第14回	ハビトゥスとナラティヴ（2）	ナラティヴ・ハビトゥス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

B. ライール『複数の人間』法政大学出版局、2013年

A.W. フランク『傷ついた物語の語り手 身体・病い・倫理』ゆみる出版、2002年

他は随時指示する

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験によって評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

教室での受講が講義の理解度に大きく関わっているようです。積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義内容の構成は、学生のリアクションや、新しいテキストなどとの出会いによって、変更される場合があります。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to understand the theoretical frames of sociology of the self, and to demonstrate knowledges and analysis on concrete situations. At the end of the course, students are expected to be able to analyze the social constitution of individual being.

After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the term-end examination(100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

社会学理論 B I

佐藤 成基

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国家 (state)」という社会制度についてマックス・ヴェーバー、チャールズ・ティリー、ノルベルト・エリ阿斯、マイケル・マン、ピエール・ブルデュー、アントニー・ギデンズ、ミシェル・フーコーらの国家論をとりあげ、歴史社会的に把握し、分析する視点・方法について学ぶ。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちとが、どのような関係にあるのかについて、社会的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回質問・コメントを必ず提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の概要や目的について
2	国家とは何か： その能力と作用	一定の領域を統治する政治組織としての国家の固有な能力について
3	国家と暴力（1）： 正当な暴力行使の独占	「正当な暴力行使の独占」というヴェーバーの国家概念について
4	国家と暴力（2）： 国家と「文明化」	エリアスの「文明化」の過程について
5	国家と暴力（3）： 国家の暴力行使	ルーマンの権力論とアガンベンの「例外状態」論について
6	国家と官僚制（1）： ヴェーバーの官僚制論	ヴェーバーの官僚制概念について
7	国家と官僚制（2）： 官僚制の機能と逆機能	官僚制の機能と逆機能について
8	国家と戦争（1）： 国家形成における軍事・財政的要因	ティリーの国家論について
9	国家と戦争（2）： 間接統治から直接統治へ	ティリーの国家論について
10	国家と正当性（1）： 「象徴暴力」と「公共性」	ブルデューの「象徴暴力」概念について
11	国家と正当性（2）： 官僚制的公共性	ブルデューの国家形成論について
12	国家と社会（1）： 国家の民政化	国家の「民政化」について
13	国家と社会（2）： 社会の「国家帰属化」	マンのインフラストラクチャー的権力について

14 国家と情報管理： 公式統計と国勢調査の歴史について
国家と統計（学）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出される疑問・質問から、授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions by examining the arguments of Max Weber, Charles Tilly, Norbert Elias, Michael Mann, Pierre Bourdieu, Anthony Giddens, Michel Foulcaut, and so on. The purpose of this course is to understand the formation of the state and its roles from theoretical and historical perspectives. Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours to read the relevant parts of the text carefully and to submit a memorandum of comments and questions. The comments and questions will be discussed in the next class meeting. Grades will be based on the final examination (100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

社会学理論 B II

佐藤 成基

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀以降の国家の歴史を検討しながら、「国家（state）」という社会制度について歴史社会的に把握し、分析する視点・方法について学ぶ。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちとが、どのような関係にあるのかについて、社会的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回質問・コメントを必ず提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期のB Iでの講義の内容の復習。
2	国家とナショナリズム（1）： ナショナリズムの発生	近代主と反近代主義のアプローチについて
3	国家とナショナリズム（2）： 国家論的アプローチ	ナショナリズムに関する国家論的アプローチについて
4	国家とナショナリズム（3）： ナショナリズムの「民族化」	ナショナリズムの「民族化」について
5	国家と資本主義（1）： 国家と資本主義経済	国家と資本主義経済の発展に果たした役割について
6	国家と資本主義（2）： マルクス主義の国家論	マルクス主義の国家論について
7	国家と民主主義（1）： アメリカ政治学理論	第二次大戦後アメリカ政治学を代表するダール、イーストンの政治理論が国家をどう捉えていたのかを解説する。
8	国家と民主主義（2）： 民主主義にとっての国家	ティリーの民主主義論について
9	国家の社会福祉（1）： 福祉国家の発生	福祉国家の発生について
10	国家と社会福祉（2）： 福祉国家の発展と「危機」	現代福祉国家の「危機」について

11	国家のグローバル化： 世界社会と国民国家	メイヤーらの新制度主義について
12	国家の「崩壊」： アフリカからの視点	アフリカの新家産制国家論について
13	国民国家とグローバル化： 「衰退」か「復権」か	グローバル化と国民国家の変容について
14	国家の機能、再考： グローバル化する世界のなかで	現代における国家の状況についてその「機能」の観点から再考する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出される疑問・質問から、授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【その他の重要事項】

前期に開講される同一担当教員の社会学理論B Iを受講することを強く推奨する。社会学理論B IIはB Iの内容を前提にして進められる。

【Outline (in English)】

In this course, we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions by examining its history since the 20th century. The purpose of this course is to understand the formation of the state and its roles from theoretical and historical perspectives. Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours to read the relevant parts of the text carefully and to submit a memorandum of comments and questions. The comments and questions will be discussed in the next class meeting. Grades will be based on the final examination (100%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

理論社会学

鈴木 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の方法論争の歴史を振り返りながら、社会的現実を科学的に記述することの意味と、「社会」の存立構造を検討する。これを通じて、各自が自分自身の研究において「方法の選択」ができるようになることを目標とする。

【到達目標】

社会学は単一の安定的な方法論の上に成り立つ学問ではなく、複数の相対立する認識論の競合を通じて発展してきた。社会学の理論を学ぶということは、この「対立」の歴史を意味を理解し、そのなかで自分自身の認識論的な立場を模索していくということである。この講義では、社会学の方法論争史のいくつかの場面を振り返りつつ、各学生が自らの方法を探し当てる道筋を見いだすことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面の講義形式で行う。

毎回レジュメを配布する。

毎回アクションペーパーの提出を求め、そのなかからピックアップして次週の講義でリブライを示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「社会」についての「ロゴス」とは何か？
第2回	物と意味（1）	デュルケムにおける「社会の実在」
第3回	物と意味（2）	ウェーバーにおける「有意義な行為」
第4回	実証主義と理念主義（2）	社会システム論と機能主義
第5回	実証主義と理念主義（2）	意味学派の社会学（現象学的社会学を中心に）
第6回	「言語」という檻？（1）	構造主義言語学と言説分析
第7回	「言語」という檻？（2）	ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム論とエスノメソドロジー
第8回	構築主義の隘路？（1）	構築主義の社会学
第9回	構築主義の隘路？（2）	世界が皆構築主義者だったら
第10回	構築主義批判以後（1）	対話的分析という道
第11回	構築主義批判以後（2）	社会学における実在論的転回
第12回	語りと身体	身体が言葉を生み落とす
第13回	語りと他者	対話的物語分析の可能性
第14回	まとめ	社会学的方法論争の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は、授業内容の咀嚼と理解が重要なので、復習を中心に学習を進めること。各回で提示されたテキストを読んで、授業内容の理解を深めること。復習のために、各週2時間の学習時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない

【参考書】

各回の講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は学期末の試験によって行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

必ずしも平易な内容ではないようです。頑張ってキャッチアップしてください。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

各回の内容や順番は講義を進めていくなかで変更されることがある。

【Outline (in English)】

Through the revision of the history of sociology as methodological debates, we investigate the meaning of the scientific description of social reality, and the way of construction of "Society". The aim of this lecture is to make possible to choose a method in one's own research.

Students are expected to read the text presented in the class to deepen the understanding of the lecture.

Grade is decided on the term-end examination(100%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

社会学史 I

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに19世紀から20世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

- ①主要な古典的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解し、自分の文章で論述できるようになる。
- ②「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、諸理論の意義を自分の文章で説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面形式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。毎回の授業のリアクションを提出してもらい、疑問点を中心に各人および全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19世紀から20世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	コント	三段階の法則、実証主義
4	マルクス（1）	史的唯物論、階級構造と階級闘争
5	マルクス（2）	疎外、使用価値と交換価値
6	スペンサー	社会進化論、軍事型社会と産業型社会
7	テンニース	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト
8	ヴェーバー（1）	合理化、合理性の諸類型、資本主義の精神、鉄の檻
9	ヴェーバー（2）	支配の諸類型、官僚制
10	デュルケム（1）	分業、機械的連帯と有機的連帯
11	デュルケム（2）	自殺の諸類型、近代社会と自殺
12	ジンメル（1）	社会化の形式、社会圏
13	ジンメル（2）	支配と従属の諸類型
14	古典社会学の問題意識の総括	各回で扱った社会学者の理論に関連づけて総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未来社
 ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新睦人（編）『社会学の歩み』有斐閣
 奥村隆『社会学の歴史Ⅰ・Ⅱ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

評価の要件は、期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）とする。期末レポートは論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。学期を通した学修成果の評価という点で、到達目標①②に対応する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。各回の内容理解という点で、到達目標①に対応する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。またリアクション・ペーパーでの、積極的な質問やコメントを歓迎する。リアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの個別のリプライや掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the classic modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

社会学史Ⅱ

徳安 彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに20世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、
①主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解し、自分の文章で論述できるようになる。
②「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、諸理論の意義を自分の文章で説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。毎回の授業のリアクションを提出してもらい、疑問点を中心に各人および全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	ミード	シンボリック相互作用論、一般化された他者、Iとme
4	シュッツ	現象学的社会学、日常生活世界、間主観性、多元的現実
5	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、背後期待、違背実験
6	ゴッフマン	ドラマトウルギー、印象操作、役割距離
7	パーソンズ	行為理論、社会的機能、社会進化
8	ルーマン	システム理論、オートポイエーシス、社会分化
9	ハーバーマス	コミュニケーション的行為、公共性、生活世界
10	フーコー	規律化、主体、生権力
11	ブルデュー	文化資本、再生産、卓越性
12	ウォーラス・ステイン	世界システム、中心と周辺
13	ギデンズ／ベック	第二の近代、再帰性、リスク社会、個人化
14	後期近代の社会学の問題意識の総括	各回で扱った社会学者の理論に関連づけて総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
新睦人（編）『社会学のあゆみ パート2』有斐閣
新睦人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣
奥村隆『社会学の歴史Ⅰ・Ⅱ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

評価の要件は、期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）とする。期末レポートは論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。学期を通した学修成果の評価という点で、到達目標①②に対応する。

授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。各回の内容理解という点で、到達目標①に対応する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの個別のリプライや掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the late modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%); In-class contribution (30%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

歴史社会学 I

鈴木 智道

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史を通して考える」という全体を貫く主題のもと、いくつかのより身近なテーマを素材にしながら、日本社会の歴史的経験を、とりわけ明治以降に照準しつつ（必要に応じてその外側に広がる地理的空間をも視野に入れつつ）読み解いていくことで、われわれの今日の生活世界や社会生活のあり方を、その起源にまで遡って再認識していく。同時に、そうした作業を通して、より大きくは「近代」とは何か」という問題を相対的な視野のなかで捉え直していく。

【到達目標】

- ・社会学的な歴史研究の射程を理解しながら、そこから立ち上がる「歴史」からの問いに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
- ・あわせて、歴史的な視点が、〈いま・ここ〉を見据え、考える手段としてどのような可能性をもっているかということについて、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進めていく。

各トピック終了ごとに課題を提示し、レポートの形でその回答を求める（2本）。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	〈文明化〉する社会①	〈伝統〉から〈文明〉へ
3	〈文明化〉する社会②	社会秩序としての〈近代〉
4	〈文明化〉する社会③	社会秩序を支える「身体」
5	〈都市〉に暮らす①	近代都市の離陸と空間編制
6	〈都市〉に暮らす②	理想的な都市のあり方を求めて
7	〈都市〉に暮らす③	都市郊外の開発と都市型ライフスタイル
8	〈職〉に就く①	メリトクラシー社会としての近代社会
9	〈職〉に就く②	学校と職業の不幸な関係
10	〈職〉に就く③	「身分」から「職業」へ
11	〈家族〉をつくる①	〈家族〉の歴史性
12	〈家族〉をつくる②	「家庭」的な〈家族〉の誕生
13	〈家族〉をつくる③	家族意識のゆくえ
14	エピローグ	「歴史」からの問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（20%×2回）＋学期末試験（60%）により評価をおこなう。

なお、2本の課題レポートの提出は、学期末試験の受験のための必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

快適な教室環境を作り出すよう気を配る。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to rethink some topics on Japanese experiences of the period after the Meiji Restoration from the sociological perspective. Students are expected to be able to think about history as a tool for investigating the present-day society.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on two report (20%×2) and term-end examination (60%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

歴史社会学Ⅱ**鈴木 智道**

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史とは何かを考える」という全体を貫く主題のもと、近年、提起されている「歴史」なるものをめぐる理論的あるいは実践的な論点について、具体的な事例を織り交ぜつつ概観しながら、歴史と聞けば高校までの「日本史」や「世界史」を想起してしまう思考を超えたところで展開している〈歴史〉の姿に様々な角度から向き合っていく。同時に、そうした作業を通して、私たちがこれまでに作り上げてきた「歴史」を相対的な視野のなかで問い直していく。

【到達目標】

- ・“暗記科目としての「歴史」”を超えた地平に広がる、その奥行きと広がりに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
- ・あわせて、様々な形で提示される「歴史」への問いを前にして、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進めていく。

いくつかのトピックに関連した課題を提示し、レポートの形でその回答を求める（2本）。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	歴史を〈書く〉①	歴史が作られる“現場”を覗く
3	歴史を〈書く〉②	歴史はいかにして科学たりえるのか？
4	歴史を〈書く〉③	フィクションとノンフィクションの間
5	〈問題化される〉歴史①	書き換えられる歴史(1)
6	〈問題化される〉歴史②	書き換えられる歴史(2)
7	〈問題化される〉歴史③	歴史と責任～終わらない過去
8	歴史を〈学ぶ〉①	〈日本史〉的歴史の文法
9	歴史を〈学ぶ〉②	〈日本史〉的歴史の機能
10	歴史を〈記憶する〉①	人は誰もみな歴史家
11	歴史を〈記憶する〉②	過去をいかにして記憶するか
12	歴史を〈イメージする〉①	社会が〈近代化〉するとはどういうことか？
13	歴史を〈イメージする〉②	歴史的想像力のゆくえ
14	エピローグ	「歴史」への問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（20%×2回）＋学期末試験（60%）により評価をおこなう。

なお、2本の課題レポートの提出は、学期末試験の受験のための必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

快適な教室環境を作り出すよう気を配る。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to introduce students to some viewpoints on history as contemporary events. Students are expected to be able to think deeply about historical positivism, narrative theory on history, historical revisionism, collective memory, and the classical theory of social change.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on two reports (20%×2) and term-end examination (60%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

数理社会学 I

斎藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。そこでは、派閥ができるとそれを崩すのはなぜ難しいかなどの問いを可能な限りシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるならば、単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、主として社会関係や人間関係がつくる「構造」を扱ういくつかのモデルを紹介することで、社会現象を理論的に説明する方法を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探するという思考方法の基礎を習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。問題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	数理社会学と「モデル」について紹介する
2	「関係」の居心地とバランス(1)	関係のフォーマルな捉え方とハイドラーのバランス理論について説明する
3	「関係」の居心地とバランス(2)	バランス理論と均衡概念について説明する
4	派閥が維持されるとき(1)	グラフ理論の基礎概念を導入する
5	派閥が維持されるとき(2)	バランス理論のモデルを導入する
6	派閥が維持されるとき(3)	モデルの展開と含意について説明する
7	弱いつながりの強さ(1)	紐帯と社会の統合について論じる
8	弱いつながりの強さ(2)	グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ」理論を導入する。
9	弱いつながりの強さ(3)	「弱い紐帯」とネットワークの特徴のとらえ方について説明する
10	弱いつながりの強さ(4)	グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ」理論の検証について論じる
11	つながりの産物としての権力(1)	「支配関係」がネットワークでどのような形をとるかを考える
12	つながりの産物としての権力(2)	「支配関係」ネットワークに行列による表現を与える方法を学ぶ
13	つながりの産物としての権力(3)	権力（勢力）構造の表現について考える
14	構造をとらえるということ	授業のふり返しを通して「構造」について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会をくモデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。ただし、2025年度開始の授業支援システムに起因し変更の必要に迫られる可能性がある。変更する場合は授業初回に通知する。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline (in English)】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models of the "structure" emerging from our daily interactions.

The goal for you is to learn the basics of approaching broad range of social phenomena by seeking a common form or common mechanism among them. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

数理社会学Ⅱ

斎藤 友里子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。そこでは、人はどのように社会をイメージするのかなどの問いをシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるなら単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、制度の維持と社会過程を扱うモデルの紹介を通して、社会現象を理論的に説明する方法（とその多様性）を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探するという思考方法の適用例を学ぶこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。問題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	フォーマルセオリーの役割について紹介する
2	「世代交代」と制度の安定(1)	社会的分業と年齢階梯制について導入する
3	「世代交代」と制度の安定(2)	世代間の役割分担のシステムである「ガダ」のモデル化を説明する
4	「世代交代」と制度の安定(3)	ガダのモデルをもとに制度の安定について考える
5	きょうだいはなぜ結婚できないか(1)	インセスト・タブーへの理論的なアプローチについて紹介する
6	きょうだいはなぜ結婚できないか(2)	White (1963)のモデルについて解説する
7	きょうだいはなぜ結婚できないか(3)	親族システムによる秩序が維持されるための条件について考える
8	きょうだいはなぜ結婚できないか(4)	婚姻と出自をめぐるルールをどう表現するかを考える
9	きょうだいはなぜ結婚できないか(5)	White (1963)モデルの含意のいくつかを解説する
10	なぜ「中流」が多いのか(1)	社会のイメージに関する研究を紹介する
11	なぜ「中流」が多いのか(2)	人との出会いで社会イメージが形成されるというファラロのアイデアを紹介する
12	なぜ「中流」が多いのか(3)	ファラロ(1973)のモデルについて解説する
13	なぜ「中流」が多いのか(4)	社会イメージのパターンや格差の認識についてモデルから導出する

14 社会学と数理モデル 社会学と数理モデルの関係について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会をくモデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常リポートにより評価する（100%）。ただし、2025年度開始の授業支援システムに起因し変更の必要に迫られる可能性がある。変更する場合は授業初回に通知する。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline (in English)】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models for the maintenance of social institutions and its products.

The goal for you is to learn the basics of approaching broad range of social phenomena by seeking a common form or common mechanism among them. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

原典講読

佐藤 成基

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マックス・ヴェーバーの『社会学の根本概念』を精読しながら、行為の主観的意味理解を基礎としながら、社会的行為の過程と結果を因果的に説明することを目指すヴェーバーの社会学の方法論について学ぶ。それをふまえながら、2020年に出版された『行為論からみる社会学』からいくつかの章を講読しながら、行為の主観的意味理解による「理解社会学」の方法が、現代の社会学にとってどのような意義を持つのかについて検討する。

【到達目標】

- ・ヴェーバーの社会学の方法と諸概念について学ぶ
- ・行為論の意義についての理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・演習の方式で授業を進める
- ・参加者は全員、文献の該当箇所を読み、疑問点をメモに書いて事前に提出する
- ・毎回報告者を決め、報告者は該当箇所についての報告を行う
- ・報告の後全員でディスカッションを行う
- ・終了後、全員がその日の該当箇所についての概要をレポートにまとめて提出する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	文献紹介、授業の進め方
2	社会学の方法（1）	第1節 社会学と社会的行為、 1 方法的基礎（社会学における主観的意味理解の意義）
3	社会学の方法（2）	第1節 社会学と社会的行為、 1 方法的基礎 （理解社会学と因果帰属）
4	社会的行為と社会的関係	第1節 社会学と社会的行為 2 社会的行為の概念、第2節 社会的行為の種類、第3節 社会的関係 （社会的行為と社会的関係の概念）
5	習慣、慣習、正当なる秩序	第4節 社会的行為の諸類型、 第5節 正当なる秩序の概念 （社会の規則性と秩序）
6	正当なる秩序の妥当性	第6節 正当なる秩序の種類、 第7節 正当なる秩序 （正当なる秩序の妥当性根拠）
7	闘争と社会関係	第8節 闘争の概念、 第9節 共同社会関係と利益社会関係 （闘争と二つの社会関係）

8	開放的關係と閉鎖的關係、代表と帰責	第10節 開放的關係と閉鎖的關係、 第11節 代表権 （社会關係の開放と閉鎖、社会關係における代表と帰責）
9	団体（1）	第12節 団体の概念と種類、 第13節 団体の秩序、 第14節 行政秩序と規制秩序 （団体の概念について）
10	団体（2）	第15節 経営、経営団体、任意団体、強制団体 第16節 権力と支配 第17節 政治団体と宗教政治団体 （団体の様々な形態について）
11	行為論からみる社会学（1）	理解社会学の基礎構造
12	行為論からみる社会学（2）	行為の主観的意味の再考
13	行為論からみる社会学（3）	行為論からみる国家①
14	行為論からみる社会学（4）	行為論からみる国家②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2-3時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

マックス・ウェーバー『社会学の根本概念』（清水幾太郎訳、岩波文庫）
中村文哉／鈴木健之編著『行為論からみる社会学』（晃洋書房）
（必ず購入して、毎回授業に持参すること）

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内の報告（30％）
- ・事前提出のメモ（20％）
- ・授業後のレポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（zoomにて資料共有するため）

【Outline (in English)】

[Outline]

Through a close reading of Max Weber's *Basic Concepts in Sociology*, we will learn his methodology of sociology, which aims to causally explain the processes and consequences of social actions based on the "understanding (*verstehen*)" of the subjective meaning of actions. Furthermore, by reading a few chapters from *Sociology from the Perspective of Action Theory*, published in 2020, we will examine the significance of this action-centered "*verstehenden*" sociology in the context of the contemporary world.

[Requirements for the students]

- ・Read the assigned part of the text carefully and submit a "memorandum" on the questions before every class meeting
- ・Present a summary of the assigned part of the text in the class meeting (one or two times, dependent on the number of participants)
- ・Submit a paper which summarizes main points of the text after every class meeting.

(All students are expected to spend 2-3 hours to prepare for a "memorandum" and a paper before/after each class.)

[Grading criteria]

- ・Presentation in the class meeting (30%)
- ・"Memorandum" before the class meeting (20%)
- ・Paper after the class meeting (50%)

[Equipment students need to prepare]

Students need to bring their own personal computers to share materials via Zoom.

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

社会学総合特講 A

山田 唐波里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火4/Tue.4

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学に対して多大な影響を及ぼしてきたミシェル・フーコーの研究のなかでも、とくに集団／人口を対象とした権力メカニズムに着目した統治性論（生政治論）を中心にその理論的射程を検討します。また、フーコーの理論的側面に着目するだけでなく、日本の人口をめぐる諸実践の検討を通じて、統治性のメカニズムが日本社会でどのように展開してきたのかについて、具体的に理解することを目指します。

【到達目標】

ミシェル・フーコーの統治性論を、集団／人口を対象とした権力論であるところの、生政治論の延長線上で捉えることを目標とする。また、その権力メカニズムの日本における展開過程についても理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進める。ただし、統治性論を検討する前半部分では、実際にフーコーの著作（翻訳書）を講読する。受講人数によって、ディスカッションかコメント・ペーパーのいずれかによる受講生の授業への参加を求める（授業計画は授業の展開により、若干の変更があり得る）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	イントロダクション	フーコー思想の解説
第3回	統治性論(生政治論) ①	『性の歴史 I 知への意志』を読む
第4回	統治性論(生政治論) ②	『安全・領土・人口』を読む①
第5回	統治性論(生政治論) ③	『安全・領土・人口』を読む②
第6回	統治性論(生政治論) ④	『安全・領土・人口』を読む③
第7回	知を分析する方法	『知の考古学』の解説
第8回	権力を分析する方法	『言説の領界』と「ニーチェ、系譜学、歴史」の解説
第9回	人口の分析①	戦前日本の人口概念の検討
第10回	人口の分析②	人口政策としての「家族計画」の検討
第11回	人口の分析③	少子化問題の検討
第12回	人口の分析④	1980年代の人口問題の検討
第13回	人口の分析⑤	現代における人口概念の検討
第14回	統治性の現在	授業のまとめと期末課題の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず、各回に配布する文献資料を通読したうえで授業に臨むこと。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

M. フーコー 1976=1986, 『性の歴史 I 知への意志』新潮社。
———, 2004=2007, 『安全・領土・人口 コレージュ・ド・フランス講義 1977-1978年度』筑摩書房。
各回で講読する文献は、学習支援システムを通して配布するため、購入の必要はない。

【参考書】

M. フーコー 1969=2012, 『知の考古学』河出書房新社。
———, 1971=2014, 『言説の領界』河出書房新社。
———, [1971] 1994=1999, 「ニーチェ、系譜学、歴史」『ミシェル・フーコー思考集成Ⅳ 規範・社会』筑摩書房, 11-38。
その他の文献については、開講後に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加姿勢・貢献）40％、期末レポート60％の配分で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの資料配布は学習支援システムを通じて行う。

【Outline (in English)】

Among the studies of Michel Foucault, this class examines the theoretical range of his theories, particularly his theory of “governmentality (biopolitics),” which focuses on the power mechanisms of group/population. In addition to focusing on Foucault’s theoretical aspects, we will also analyse how the mechanism of governmentality has been developed in Japanese society by examining various practices related to population in Japan.

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

社会学総合特講B

堀川 三郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会的に分析する」とは、一体、何をすることなのか。このプロセスは、授業を受ければ、必ずと言ってよいほど耳にするが、その内実を理解することは実は簡単なことではない。この特講では、いくつかの優れた文献を読み解くなかで、「社会的に分析する」ことの内実を実感的に理解することを目的とする。対象とする文献は受講者と相談して決める予定ではあるが、候補として、B.アンダーソン『想像の共同体』（1983）、水村美苗『日本語が亡びるとき』（2015）、それに真木悠介『時間の比較社会学』（1981）を挙げておく。これらの文献の講読を通して、近代社会にとっての重大な問題のひとつであるナショナリズムについて学ぶというより、私たちはナショナリズムを「時間」という観点から眺めてみることになるだろう。そしてそのこと自体が、おそらくは、社会的分析のひとつのよい範型になるはずである。

【到達目標】

- ・課題図書の内容構造について理解を深める。
- ・「時間」という概念を導きの糸としながら、ナショナリズムという巨大な対象をいかに切り込んで分析するのか、その具体的な作法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

担当教員と受講者による議論によって授業を進める。ただし、授業計画は、授業の展開により若干の変更の可能性がある。

ハイレベルな議論を想定している。一定以上の準備をして授業に臨むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：社会的に分析するというものの内実とは？	概要の説明・スケジュール確認
第2回	イントロダクション	文献講読の前提の解説：課題文献を読む前に
第3回	文献の解説と議論(1)	『想像の共同体』を読む①
第4回	文献の解説と議論(2)	『想像の共同体』を読む②
第5回	文献の解説と議論(3)	『想像の共同体』を読む③
第6回	文献の解説と議論(4)	『想像の共同体』を読む④
第7回	文献の解説と議論(5)	『日本語が亡びるとき』を読む
第8回	文献の解説と議論(6)	『時間の比較社会学』を読む①
第9回	文献の解説と議論(7)	『時間の比較社会学』を読む②
第10回	文献の解説と議論(8)	『時間の比較社会学』を読む③

第11回	文献の解説と議論(9)	『時間の比較社会学』を読む④
第12回	文献の解説と議論(10)	『時間の比較社会学』を読む⑤
第13回	総合討論：ナショナリズムと時間	受講者全員での討論
第14回	エビログ：想像の共同体と社会的分析	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、課題文献（テキスト）の指定部分を読み、授業時間までにレポートを提出すること。それをもとに、授業当日、全員で討論する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1. ベネディクト・アンダーソン（著）白石隆・白石さや（訳）（1983＝2007）『定本 想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』書籍工房早山
 2. 水村美苗（〔2009〕2015）『増補 日本語が亡びるとき：英語の世紀の中で』（ちくま文庫み25-4）筑摩書房
 3. 真木悠介（〔1981〕2003）『時間の比較社会学』（岩波現代文庫G108）岩波書店
- なお、各回で講読する上記文献は各自が購入して読破すること。

【参考書】

開講後に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（50%）と最終レポートの水準（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、リアクション・ペーパーを記入してもらい、それをその後の授業に活かしていく。

【学生が準備すべき機器他】

各回で講読する文献（テキスト）は、各自が購入して読破すること。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students understand what “sociological analysis” really means, by reading some of the contemporary classics of sociology. Students are expected to read the following works:

[1] Anderson, Benedict (1983) *Imagined Communities*. London: Verso.

[2] Mizumura, Minae (2015) *Zoho Nihongo ga horobirutoki: Eigo no seki no nakade [The Fall of Language in the Age of English]*. Tokyo: Chikuma Shobo.

[3] Maki, Yusuke (1981) *Jikan no hikaku shakaigaku [Time: A Comparative Sociology]*. Tokyo: Iwanami Shoten.

At the end of the seminar, students should be able to understand how sociological analysis is carried out and how to apply sociological concepts to the real social issues of our time. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of final paper (50%).

SOC300EB, SOC300EC (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

統計調査法

斎藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的データ分析の基礎、社会調査から得られた量的データを分析する際に必要となる基本的な考え方と方法について学ぶ。これを通して、統計学の基礎知識を身につけ、初歩的な仮説検証の手法や考え方を理解することをめざす。

【到達目標】

社会調査から得られた量的データを分析するための基礎知識を習得する。データの分布をどのように把握するか、標本をもとに全体に関する情報をどのように推測するか、自らの仮説をどう検証すればよいかが「わかる」ようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4・DP6・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。問題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と目的について概説する
第2回	代表値と測度・分布の記述	データの測度がどのように分析と関連するかを概括する
第3回	確率の考え方	確率の概念を説明する
第4回	確率分布について	統計分布について説明する
第5回	統計的推測(1)：推測統計の基本	母集団と標本、そして統計的推定との関係について論じる
第6回	統計的推測(2)：統計的仮説検定の考え方と平均値の検定	平均値の検定の学習を通して統計的仮説検定の考え方と実際に学ぶ
第7回	「差がある」とはどういうことか	平均の差の検定・比率の差の検定について学ぶ
第8回	2つ以上の平均の差の検定	分散分析について説明する
第9回	クロス集計(1)：解釈のしかた	クロス表の「読みかた」を学ぶ
第10回	クロス集計(2)：検定と関連の指標	クロス表について、検定と関連の諸指標を概説する
第11回	変数のコントロール	変数のコントロールの考え方について説明する
第12回	相関係数と回帰係数	相関係数の性質と解釈、回帰係数との違いおよび関連について説明する
第13回	重回帰分析	重回帰分析について紹介する
第14回	まとめ	授業のふり返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

ボンシュテット&ノーキ『社会統計学』ハーベスト社、1990。
ほか授業中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常リポートにより評価する（100%）。ただし、2025年度開始の授業支援システムに起因し変更の必要に迫られる可能性がある。変更する場合は授業初回に通知する。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。受講生に数学の予備知識は必要ではないが、出された課題を着実にこなす努力は必要となる。

【Outline (in English)】

Students will learn the basics of quantitative analysis. In doing so, they should understand the logic and method for statistical hypothesis testing.

The goal of this course for you is to know how to grasp statistical distribution, how to make basic statistical inference on population, and how to construct and test a research hypothesis.

To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

EDU200EC（教育学 / Education 200）

発達・教育の理論 I

山下 大厚

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の歴史と思想、および人間発達の理論の形成と展開について学ぶと共に、現代日本の子ども・教育にかかわる諸問題を概観していく。

【到達目標】

主要な教育哲学、発達論の思潮のあらましをつかみ、教育実践における重要性が理解できる。近代の教育制度の特質を理解し、歴史の中で子どもたちの処遇はどう変化し、また今日の諸問題についても、どうあるべきか、考える手立てを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。授業のはじめに前回提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行なう。レポートやテストについての講評、解説は採点后、学習支援システムに掲載するが、個別の質問にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと受講上の注意	educationの語源と「発達」
第2回	子どもの権利について	子どもの権利条約／教育を受ける権利
第3回	前近代と近代の子ども（親）	ルソーの「子どもの発見」とアリエスの「子どもの誕生」
第4回	児童中心主義の展開	ルソー/ベスタロッチ/オーエン/フレーベル/エレン・ケイ
第5回	近代公教育の展開	国民国家と義務教育/ヘルバルト派と新教育運動/デューイ
第6回	近代日本の学校教育のはじまり	封建的身分制度の撤廃と学制…
第7回	戦中・戦後の教育と人間観	戦時下の教育/戦後教育改革/高度経済成長と人的能力開発
第8回	教育基本法改正と安倍「教育再生」	平成の教育「改革」がもたらしたもの
第9回	登校拒否から不登校へ	不登校問題の現在
第10回	「いじめ」を考える	いじめ問題の現在/中井久夫「いじめの政治学」
第11回	近代学校教育への批判	再生産/脱学校/フリースクールほか
第12回	発達障害と特別支援教育	特性の理解か、過剰診断か
第13回	令和の教育の諸問題	個別最適の教育の向かう先
第14回	神経科学時代の子どもと教育	ニューロ・ダイバーシティか、新たな選別か、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

その都度必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：中間レポート(40%)と期末テスト(40%)、平常点(20%)。評価の基準：レポートは、出題されたテーマを適切に理解し、調べたことだけでなく、生成AIによる文章ではない、自ら行なった考察・意見について評価する。テストは、学習内容の理解・修得度を確認する。平常点は参加度やリアクションペーパーの回数と内容で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

印刷配布した講義資料の文字が小さすぎるなどの声があるので、引き続き何らかの改善を考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には連絡の取れるメールアドレスを必ず登録すること。

【その他の重要事項】

質問などは講義の後やメールで受け付けます。なお、この科目は発達・教育の理論Ⅱと併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】**〔Course Outline〕**

This course introduces the modern/premodern history of education, philosophy of education, and various issues related to children and education in present-day Japan to students taking this course.

〔Learning Objectives〕

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ・ Understand the significance of educational and developmental theories in the practices,
- ・ Outline the trend of philosophy of education and developmental theories,
- ・ Compare and contrast the modern educational system and others.

〔Learning activities outside of classroom〕

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the course content with handouts, reference material, and reference books.

〔Grading Criteria〕

Your final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution (20%).

EDU300EC (教育学 / Education 300)

発達・教育の理論Ⅱ

山下 大厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間発達の理論の形成と展開について学ぶと共に、現代日本の子ども・教育にかかわる諸問題と公教育の再編の行方を概観していく。

【到達目標】

わが国の公教育の再編、子ども・学校・教員をめぐる今日的な諸問題について理解し、批判的に考えることができる。発達の理論の歴史的な流れ、主要な理論・概念について批判的に理解し、現実の子ども・若者の理解に役立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。授業のはじめに前回提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行なう。レポートやテストなどについての講評、解説は採点後、学習支援システムに掲載するが、個別の質問にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	公教育を取り巻く現代的課題と と受講上の注意
第2回	公教育再編が提起するもの	教育の市場化・私企業化
第3回	教育のデジタル化がもたらすもの	個別最適な学びか、画一化と監視か
第4回	新しい学力とは何か	PISA型/問題解決型/非認知能力
第5回	教員をめぐる諸問題	教職のジェンダー/教員の地位/メンタルヘルス
第6回	子どもの貧困と支援	貧困の問題化/学習支援
第7回	能力主義と特別支援教育	能力主義の否定か、徹底か
第8回	発達の諸理論（1）	子どもの発達の主題化/発達理論の系譜
第9回	発達の諸理論（2）	ダーウィン/ヘッケル/ゴルトン
第10回	発達の諸理論（3）	ビネーと知能検査/知能神話
第11回	発達の諸理論（4）	ゲゼル/ワトソン/バンデューラ
第12回	発達の諸理論（5）	ピアジェ/ヴィゴツキー/ブルーナー
第13回	発達の諸理論（6）	アイデンティティとライフサイクル/エリクソン/栗原彬
第14回	アタッチメント理論/まとめ「反発達論」	フロイト/クライン/ボールドウィン/「発達論」を問い直す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

その都度必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：中間レポート(40%)と期末テスト(40%)、平常点(20%)。評価の基準：レポートは、出題されたテーマを適切に理解し、調べたことだけでなく、生成AIによる文章ではない、自ら行なった考察・意見について評価する。テストは、学習内容の理解・修得度を確認する。平常点は参加度やリアクションペーパーの回数と内容で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

印刷配布した講義資料の文字が小さすぎるなどの声があるので、引き続き何らかの改善を考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には連絡の取れるメールアドレスを必ず登録すること。

【その他の重要事項】

質問などは講義の後やメールで受け付けます。この授業は、発達・教育の理論Ⅰと併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

〔Course Outline〕

This course introduces formation and development of the human developmental theories, various issues related to children and education in present-day Japan and destination for the reorganization of compulsory education to students taking this course.

〔Learning Objectives〕

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ・ Understand and explain the Right to Education of the Constitution of Japan and Basic Act on Education,
- ・ Outline the educational problem and reform trend in present-day Japan,
- ・ Discuss the problems of children and youth, and the role of adults and society.

〔Learning activities outside of classroom〕

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the course content with handouts, reference material, and reference books.

〔Grading Criteria〕

Your final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), term-end examination (40%), and a fraction of in-class contribution (20%).

SOC200EC (社会学 / Sociology 200)

家族社会学 I

菊澤 佐江子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、「家族の弱体化」等々の言葉で「家族が変わった」と指摘する声が聞かれるが、本当に家族は変わったのだろうか。そもそも家族とは何なのか。変わったとすれば、それは何故、またどのように変わったのか。今、家族はどのような状況にあり、これからどのように変わっていくのだろうか。本授業は、こうした疑問を糸口に、身近な「家族」について社会学的観点から考察を行うとともに、家族社会学に関する基礎的事項を学ぶ。

【到達目標】

家族社会学の基礎となる概念、視点、方法、研究動向等を学び、家族をめぐる諸現象について社会学的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義形式（対面）によるが、授業内課題等を通じて双方向の授業を目指す。課題については、可能な限り次の授業でフィードバックを行う。授業計画は適宜、変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	家族とは（1）	集団としての家族定義について概説する
3	家族とは（2）	近年の様々な家族定義について概説する
4	家族の類型と分類	家族の類型と分類について概説する
5	近代化と家族（1）	構造機能主義的視点からの考察
6	近代化と家族（2）	ジェンダー視点からの考察
7	近代化と家族（3）	歴史社会学的視点からの考察
8	現代家族をみる視点	現代家族をみる視点について概説する
9	配偶者選択と結婚	配偶者選択と結婚について近年の動向をとりあげ考察する
10	性別役割分業	性別役割分業について近年の動向をとりあげ考察する
11	離婚とその後	離婚と家族について近年の動向をとりあげ考察する
12	家族・貧困・福祉	家族・貧困・福祉について近年の動向をとりあげ考察する
13	家族の行く末	家族の行く末について考察する
14	まとめ	授業のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する（複数予定）

【参考書】

授業で指示する（複数予定）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（70%）、課題レポート（25%）、授業内課題（小テスト等）（5%）により、総合的に評価する。課題レポートの提出は期末テスト受験の必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

授業内課題が学習に役立っているとの意見が多かったため継続したい

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システム等を使用する。

【その他の重要事項】

この授業は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

授業の進め方や成績評価方法等の詳細は、初回授業で説明するので、履修予定者は、必ず初回を受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamentals of sociology of families. At the end of the course, students are expected to understand the basic concepts and findings in the field. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 70%, Reports: 25%, In-class assignments: 5%

SOC300EB, SOC300EC (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

家族社会学Ⅱ

菊澤 佐江子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

家族社会学において近年研究が蓄積されつつある家族とケアの諸問題をとりあげ、当該領域における現状や研究動向等を学ぶとともに、家族社会学的視点から考察を深める。

【到達目標】

家族とケアに関する現状や研究動向を理解し、家族社会学的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義形式（対面）によるが、授業内課題等を通じて双方の授業を目指す。課題については、可能な限り次の授業でフィードバックを行う。授業計画は適宜、変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	育児期の親子関係	育児期の親子関係の歴史の変遷について概説する
3	家族社会学における育児研究の変遷	家族社会学における育児研究の変遷について概説する
4	母親と育児	育児不安とネットワークを中心に考察する
5	父親と育児	父親の育児をめぐる実態と研究動向を概説する
6	日本における子育て支援	日本の状況について概説する
7	諸外国における子育て支援	諸外国の状況について概説する
8	高齢期の親子関係	高齢期の親子関係の歴史の変遷について概説する
9	高齢期の親子をめぐる研究の変遷	高齢期の親子をめぐる研究の変遷について概説する
10	高齢期と社会的ネットワーク	高齢期の社会的ネットワークについて考察する
11	高齢期の親子同居は望ましいか	高齢期の成人子との同居について考察する
12	介護保険制度下の高齢者と家族	介護保険制度下の高齢者と家族について概説する
13	諸外国の高齢者・家族支援	諸外国の状況について概説する
14	まとめ	授業のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する（複数予定）

【参考書】

授業で指示する（複数予定）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（70%）、課題レポート（25%）、授業内課題（小テスト等）（5%）により、総合的に評価する。課題レポートの提出は期末テスト受験の必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

授業内課題が学習に役立っているとの意見が多かったため継続したい

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システム等を使用する。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。秋学期のみの受講者は、学期序盤に指定文献を通読することが受講の前提となる。授業の進め方や成績評価方法等の詳細は、初回授業で説明するので、履修予定者は、必ず初回を受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the sociological research on family and care. At the end of the course, students are expected to understand the theoretical developments and findings in the field. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 70% , Reports: 25%, In-class assignments: 5%

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

臨床社会学 I

三井 さよ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な社会問題について、そこで苦しむ人たち／支援する人たちの葛藤や取り組みに学びつつ、何が問題でどのような解決の模索がありうるのか、社会学の立場に依拠しつつ探る。そこから、具体的な社会問題への取り組み方／向き合い方について学ぶ。

【到達目標】

具体的な社会問題について、一般的に言われる図式だけでなく、渦中にある人たちの葛藤や苦しみに目を向けるとともに、その問題の解決に向けて何がありうるのか、論理的に構想する力を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

具体的に取り上げるのは、災害支援や高齢者介護と呼ばれる現場についてである。どのような問題を取り上げる際にも、現場でどのような問題が起きているか、それについて公的な制度でどのような対処や対応が考えられてきたか、その限界はどこにあったのか、さらにどのような個別の取り組みが現場でなされたのか、という点を踏まえて論じていく。

必要に応じて、リアクションペーパーを提出してもらう予定である（内容は任意）。その中で回答が必要と思われるものは、次回以降に全体に向けて解説する。

なお、状況に応じて、障害当事者をはじめとして、支援や介護の現場にいる人たちの講演会を行なう。そのため、授業の予定は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	臨床の社会学とは何か	概要の解説
第2回	震災とボランティア	ボランティア論再考
第3回	「災害弱者」の存在	避難所での状況
第4回	復興から「取り残される」人々	仮設住宅での状況
第5回	支援活動の曲がり角	長期的支援段階
第6回	公的援助システムの限界と継続する支援活動	組織維持とミッションとの対立と共存
第7回	新たな連帯に向けて	コミュニティ経済
第8回	「高齢者」とは誰のことか	歴史的観点から
第9回	家族ゆえの困難	家族介護者への照準
第10回	認知症を生きる	当事者の視点から
第11回	介護の転換(1)	生活リハビリ
第12回	介護の転換(2)	宅老所運動
第13回	介護の転換(3)	共生ケア
第14回	生活モデルへの転換	新たなケアシステム構築に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書やテキストを各自で読みこなすことを要する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

三井さよ 2018『はじめてのケア論』有斐閣

三井さよ 2021『ケアと支援と「社会」の発見』生活書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）と論文試験（80％）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

当事者による講演から多くを学んだという学生が多いため、可能な限り講演の機会を作りたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of clinical sociology. At the end of the course, students are expected to be able to think about caring and supporting as social matters. Your study time will be more than two hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), and in-class contribution (20%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

臨床社会学Ⅱ

三井 さよ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な社会問題について、そこで苦しむ人たち／支援する人たちの葛藤や取り組みに学びつつ、何が問題でどのような解決の模索がありうるのか、社会学の立場に依拠しつつ探る。そこから、具体的な社会問題への取り組み方／向き合い方について学ぶ。具体的には、「病い」や「障害」を手がかりとする。

【到達目標】

「病い」「障害」を、「病者」「障害者」やその家族の側から捉え返し、その人々だけの問題としてきた社会のあり方を問い直すことを目標とする。「病い」「障害」というと、ある人に生じた医学的状态を指すと思われがちだが、「病い」も「障害」は実は社会との間で生まれるものである。車椅子ユーザーにとって移動が困難なのは、車椅子ユーザーを無視した設計になっているためでもある。このように社会との関係から問い直すことによって、人間観や社会規範を根底から見直すことがもたらす自由と創造性を知り、既存の社会構造について問い直す力を身につける。そこから、社会問題に取り組む臨牀的な社会学の姿勢を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

社会問題の解決を目指す人たちとともに考える臨牀社会学の姿勢に基づき、「病い」や「障害」を、一方ではマクロな社会状況と結びつけつつ、他方で個々の人の苦しみに根差しながら再考していく。学校教育、ジェンダーとセクシュアリティ、労働と雇用、犯罪と刑罰、社会保障、差別と包摂など、多くの社会的なテーマと結びつけて解説し、学生それぞれが考えを深められるように促す。

毎回、リアクションペーパーを提出してもらう予定である（内容は任意）。その中で回答が必要と思われるものは、次回以降に全体に向けて解説する。

なお、状況に応じて、障害当事者の講演会を行なう。そのため、授業の予定は変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	臨牀社会学についての解説と、病い・障害の再定義
第2回	障害者解放運動の歴史(1)	「青い芝の会」の問いかけ
第3回	障害者解放運動の歴史(2)	家族を問い直す
第4回	障害者解放運動の歴史(3)	福祉的配慮を問い直す
第5回	障害は誰にあるのか①	コミュニケーションを問い直す
第6回	障害は誰にあるのか②	個人化の過程
第7回	当事者研究の台頭	学問のありようを問い直す
第8回	就学運動から	学校／学ぶを問い直す
第9回	共に働く運動から	働くことを問い直す
第10回	生命倫理を考える	人間の定義について
第11回	アートと障害	アートを問い直す

- 第12回 当事者による講演 当事者の観点から
 第13回 加害／被害とは何か 触法障害者
 第14回 新たな地域社会へ 排除／包摂の向こうへ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献やテキストを各自で読みこなすことを要する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

横塚晃一2007『母よ！ 殺すな』生活書院
 安積純子・尾中文哉・立岩真也・岡原正幸2013『生の技法：家と施設を出て暮らす障害者の社会学』生活書院
 「支援」編集委員会編2011『支援vol.1』～2023『支援vol.12』生活書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）とレポート（80％）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

当事者による講演から学ぶことが多いという学生の声が多かったので、可能な限り機会を作りたいと思っています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of clinical sociology and disability studies. The topics of this course include work in disability history, theory, ethics, and the arts. At the end of the course, students will be able to focus on the lived experiences of individuals with disabilities in practical terms as well. Your study time will be more than two hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), and in-class contribution (20%).

SOC200EC (社会学 / Sociology 200)

社会心理学 I**渡邊 寛**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、人間の社会性について探求する学問である。本講義では社会心理学の多様なテーマのうち、主に自己と他者、コミュニケーション、関係性のあり方に関わるトピックを取り上げ、代表的な知見を紹介する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する。
- ・身近な事象を社会心理学の視点でとらえられるようになる。
- ・知見や事象を批判的に考え行動する素地を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・講義を中心に展開する。
- ・社会心理学に関連する調査や実験、映像資料を交えたり、(グループ)ワークを実施することがある。
- ・受講者からのコメントなどを授業内で紹介することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義契約・社会心理学とは
2	自己と他者①	人や社会をとらえる仕組み
3	自己と他者②	他者の印象・推論
4	自己と他者③	自己とは
5	自己と他者④	自己の社会性
6	態度とコミュニケーション①	態度・コミュニケーションとは
7	態度とコミュニケーション②	態度・コミュニケーションの変容
8	態度とコミュニケーション③	態度・コミュニケーションを問い直す
9	対人関係①	親密な関係の特徴
10	対人関係②	親密な関係の特徴
11	対人関係③	親密な関係を問い直す
12	攻撃と援助①	傷つける行動と助ける行動
13	攻撃と援助②	傷つける行動と助ける行動
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書はなし

【参考書】

・参考文献は適宜講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で実施する課題の評価を合計して成績を評価する（100%）。
- ・定期試験は実施しない(予定のため、日々の取り組みが重要となる）。
- ・授業の進め方や課題などの詳細は初回の授業で説明し、講義契約を結ぶので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

・(今年度代替教員のため)なし

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。
- ・秋学期の「社会心理学」はこの科目を前提に授業を進めるため、同科目を受講予定の場合は本授業の受講をすすめます。

【Outline (in English)】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in self and others, communication and relationship with others, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be based on the total of assignments in and out of class (100%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

社会心理学Ⅱ**渡邊 寛**

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、人間の社会性について探求する学問である。本講義では社会心理学の多様なテーマのうち、主に多数の人が集まった状態(集団や集合)に関わるトピックを取り上げ、代表的な知見を紹介する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する。
- ・身近な事象を社会心理学の視点でとらえられるようになる。
- ・知見や事象を批判的に考え行動する素地を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・講義を中心に展開する。
- ・社会心理学に関連する調査や実験、映像資料を交えたり、(グループ)ワークを実施することがある。
- ・受講者からのコメントなどを授業内で紹介することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義契約・社会心理学とは
2	集団①	集団のパフォーマンス
3	集団②	同調と服従
4	集団③	同調と服従
5	集団④	集団思考
6	集団⑤	集団の維持・変容
7	集団⑥	集団間関係
8	集合①	流行・世論
9	集合②	流行・世論
10	集合③	うわさ・排斥
11	集合④	うわさ・排斥
12	差別①	差別をとらえる
13	差別②	差別をなくすために
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書はなし。

【参考書】

- ・参考文献は適宜講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で実施する課題の評価を合計して成績を評価する（100%）。
- ・定期試験は実施しない(予定のため、日々の取り組みが重要となる。
- ・授業の進め方や課題などの詳細は初回の授業で説明し、講義契約を結ぶので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・(今年度代替教員のため)なし

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。
- ・春学期の「社会心理学」を前提に授業を進めるため、あわせて受講することをすすめます。

【Outline (in English)】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in group process and dynamics, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be based on the total of assignments in and out of class (100%).

SOC200EC (社会学 / Sociology 200)

エイジングの社会学

姫野 宏輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木5/Thu.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、現代社会における「エイジング（老い）」がもたらす社会問題に対して、どのような社会のあり方を目指すことが望ましいのか、高齢化の進んだ地域の実例から考えていく授業です。先んじて結論を述べてしまうと、「どんな地域もこうすればみんな幸せになれる」といった魔法の万能薬のような社会デザインは存在しません。ひとが老いていくとき、そのひとが暮らす場所では何が問題となるのか、それはなぜなのか、周囲のひとびとはどのような対策をとろうとしているのか、政府はどのような対策をとろうとしているのか、といったことを地道に調べて、できるだけ多くのひとが幸せを感じることができるように試行錯誤を繰り返す他はありません。

そのためこの授業では、「教えられたことを覚える」ことよりも、学生の皆さんが「自分で考えてみる」ことを重視します。授業はガイダンスを除いて2回を1セットにして、（前半）重要なキーワードを学ぶ→（後半）実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。後半の実例を見る授業回では映像作品も使用します。

今後さらに高齢化率が上昇していく社会を生きる皆さんが、エイジングのもたらす社会問題に直面したときに参考になるよう、たくさんの事例を見ていきますので、望ましい社会福祉のあり方について、一緒に考えていきましょう。

【到達目標】

次の2点を到達目標とする。

- (1) エイジングがもたらす社会問題について、基本的な知識や類型を身に付けて理解することができる。
- (2) 自分の身の回りで起こっているエイジングにまつわる社会問題について、その問題点を発見し、解決に向けての行動案を自分なりに考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。ガイダンスを除いて授業は2回を1セットにして、（前半）重要なキーワードを学ぶ→（後半）実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。1セット終了ごとに「自分ならこの社会問題に対してどう取り組むか」を考えたコメントカードを提出してもらいます。コメントカードで寄せられた意見や質問はいくつかを取り上げて次の授業の冒頭で解説し、フィードバックします。

正解のコメントといったものではありません。自由な発想で、自分の言葉を使って、自分ならどうするかを考えられているかどうかを確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとイントロダクション	・授業の内容、進め方、提出課題等について説明する。 ・ひとが「老いる」ということはどういうことか、多角的に考えてみる。
2	老いとディスアビリティ（1）	・ディスアビリティ概念について

3	老いとディスアビリティ（2）	・実例をもとに、自分がディスアビリティにまつわる社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
4	老いと家族・血縁（1）	・家族と親族によって支えられてきた日本の高齢者介護について
5	老いと家族・血縁（2）	・自分の家族・親族が老いに直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
6	老いと人間関係（1）	・老いと社会的孤立の相関関係について
7	老いと人間関係（2）	・老いた後にどのような人間関係を結ぶことが望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
8	老いと経済・年金（1）	・老いたあとの経済活動と日本の社会福祉政策について
9	老いと経済・年金（2）	・老いて経済活動に携わることが難しくなった人々に対して、どのような社会政策が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
10	老いと世代間格差（1）	・日本社会の少子化と労働力人口の減少について
11	老いと世代間格差（2）	・若年世代と高齢世代が対立しているという言説について、自分なりに社会の将来像を考えてみる。
12	エイジング社会のデザイン（1）	・アメリカ合衆国のような福祉社会のありかたについて
13	エイジング社会のデザイン（2）	・スウェーデンのような福祉社会のありかたについて
14	授業の総括	・授業中でとりあげたトピックを振り返り、自分ならどのようなエイジング社会のデザインが望ましいと思うか、考えてみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【参考書】

特になし。

毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

老いがもたらす社会問題について、自分自身の言葉で問題の要点を説明し、対策を考えることができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

得点の配分は、2回の授業ごとに課されるコメントカード提出を平常点として50%、期末レポートを到達度の確認として50%の配分で、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の授業では「世代間格差」について年金制度改革を取り上げ、期末課題の題材にもしましたが、年金制度の例だけでは社会福祉制度を身近に感じにくいというコメントを受けて、他の社会福祉制度の事例も盛り込むことで、より理解しやすくなるように2025年度の授業では工夫をしています。

【Outline (in English)】

This course introduces social problems concerning the aging society. The aim of this course is to help students get the skills and knowledge needed to live in the aging society. At the end of the course, you are expected to describe your ideal vision of the future society.

Grades will be evaluated with the submission of web comments assigned at each of the two class sessions (50%), and the final report (50%).

This course will be given by Japanese language.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

環境社会学 I

堀川 三郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年台頭してきた環境社会学について概説する。ここでは、環境社会学を便宜的に「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」という2つのサブカテゴリーに分類し、本講義では、前者を取り扱う。具体的には、足尾鉍毒事件と水俣病問題を取り上げて「公害・環境問題」の内実を理解する。こうした事例の検討を通じて、被害構造論等の諸理論を検討する。

【到達目標】

理系の学問ではなく、社会学で環境問題を分析可能なのだということを理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

先ず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実を理解した上で、そうした「環境問題」を学問的に分析しようとして産み出されてきた諸理論（被害構造論、受益圏・受苦圏論）を詳しく検討する。このように、事例研究の基盤の上に理論の検討がなされるという講義の構成は、問題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程をいわば「追体験」するものだ。未曾有の公害に直面した時、既存の知の枠組みが対応できずにいたのはなぜか、そこにどのような人と言葉（概念）が集まって新たな学問を創り上げてきたのか。講義ではこうした重要な問いを、受講生と一緒に考えてゆきたい。そのためにグループに分かれてディスカッションを行うこともある。毎回、「学生からのコメント」を提出してもらい、それらに対して翌週にコメントをすることによって学生へのフィードバックとする。必ず、秋学期の「環境社会学 II」とセットで履修すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学・再入門	環境社会学とはどのような社会学か
2	「3.11」の衝撃	今、問うべきは何か
3	公害・環境問題の考古学	問題史の概観
4	足尾鉍毒事件（1）	事件の概要
5	足尾鉍毒事件（2）	別紙銅山との比較
6	水俣病事件（1）	事件の概説
7	水俣病事件（2）	漁民の視点
8	水俣病事件（3）	支援者の視点
9	水俣病事件（4）	チッソの視点
10	水俣病事件（5）	行政の視点
11	水俣病事件（6）	認定制度の視点
12	環境問題の社会学における理論（1）	被害構造論
13	環境問題の社会学における理論（2）	受益圏・受苦圏論
14	期末テスト	春学期の理解内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

毎時間、リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は毎回の課題レポート（80%）と期末試験（20%）で評価する。初回授業時のガイダンスに必ず出席すること。

なお、レポート課題は、毎度が論文試験に相当するものであり、したがって不正行為は学則によって処分されるので十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、リアクション・ペーパーを提出してもらい、必要に応じてそれに担当教員が応答するスタイルをとっている。昨年度も好評だったので継続する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、教室にてプリント類を配布する。また、対面授業ではビデオ映像などを随時使用する予定である。

【その他の重要事項】

必ず、秋学期の「環境社会学 II」とセットで履修すること。

【Outline (in English)】

Social life never happens in a vacuum. What kind of changes are induced in communality by changes in the physical urban environment, and how does that in turn alter the urban environment? Those are basic questions this course addresses. To do this, we take a social and historical approach to understand contemporary environmental challenges. At the end of the course, students are expected to explain the essential concepts of environmental sociology, identify the policies and understand key challenges related to Japanese environmental policies. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on short reports (100%) when given online; short reports (80%) and the term-end examination (20%) when in-person.

SOC300EB, SOC300EC (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

環境社会学Ⅱ

堀川 三郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年台頭してきた環境社会学について概説する。ここでは、環境社会学を便宜的に「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」という2つのサブカテゴリーに分類し、本講義では、後者を取り扱う。具体的には、国内諸都市やアメリカの事例を取り上げて「環境共存」の内実を理解する。さらに、地球温暖化や福島原発事故も取り上げながら、「我々は原子力と共存できるのか」という愁眉の課題の考察を行ない、エコロジカル近代化論等の諸理論を検討する。

【到達目標】

理系の学問ではなく、社会学で環境問題を分析可能なのだということを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

先ず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実を理解した上で、そうした「環境問題」を学問的に分析しようとして産み出されてきた諸理論（生活環境主義、歴史的環境の社会学）を詳しく検討する。このように、事例研究の基盤の上に理論の検討がなされるという講義の構成は、問題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程をいわば「追体験」するものだ。そこにどのような人と言葉（概念）が集まって新たな学問を創り上げてきたのか。講義ではこうした重要な問いを、受講生と一緒に考えてゆきたい。そのためにグループに分かれてディスカッションを行うこともある。毎回、「学生からのコメント」を提出してもらい、それらに対して翌週にコメントをすることによって学生へのフィードバックとする。必ず、春学期の「環境社会学Ⅰ」とセットで履修すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ	秋学期への導入
2	環境問題の深化	視えない構造
3	「3.11」と温暖化	構造と政策
4	「共存」の社会学（1）	小樽（1）
5	「共存」の社会学（2）	小樽（2）
6	「共存」の社会学（3）	小樽（3）
7	「共存」の社会学（4）	竹富島
8	「共存」の社会学（5）	セントルイス（1）
9	「共存」の社会学（6）	セントルイス（2）
10	「共存」の社会学（7）	気候変動
11	「共存」の社会学（8）	福島原発事故
12	環境問題の社会学における理論（1）	生活環境主義
13	環境問題の社会学における理論（2）	エコロジカル近代化論
14	期末テスト	理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

毎時間、リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は毎回の課題レポート（80%）と期末試験（20%）で評価する。初回授業時のガイダンスに必ず出席すること。

なお、レポート課題は、毎度が論文試験に相当するものであり、したがって不正行為は学則によって処分されるので十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、提出してもらうリアクション・ペーパーに担当教員が応答することで授業内容を改善している。昨年度も好評であったため、継続する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、プリント類を配布する。また、対面授業ではビデオ映像などを随時使用する予定である。

【その他の重要事項】

必ず、春学期の「環境社会学Ⅰ」とセットで履修すること。

【Outline (in English)】

Social life never happens in a vacuum. What kind of changes are induced in communality by changes in the physical urban environment, and how does that in turn alter the urban environment? Those are basic questions this course addresses. To do this, we take a social and historical approach to understand contemporary environmental challenges. At the end of the course, students are expected to explain the essential concepts of environmental sociology, identify the policies and understand key challenges related to Japanese environmental policies. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on short reports (100%) when given online; short reports (80%) and the term-end examination (20%) when in-person.

SOC100EC (社会学 / Sociology 100)

文化社会学B

武田 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では伝統的な文化の変容や創造、(再)構築を手がかりとして、近現代における日本の地域社会やコミュニティについて論じる。そうした伝統文化を通じたまちづくりが地域住民や担い手、その当の文化そのものに対してどのような影響を与えるのかについて分析する。講義を通じて地域やコミュニティにおいて文化を継承することの意味と可能性について学生が考えることができるようになることを目的としている。

【到達目標】

人口減少や過疎高齢化が進む中で、伝統的な地域文化の継承をめぐる困難と共に、住民たちや担い手にとってなぜそれらがかけがえないものと感じられるのか、それらが観光やまちづくりに活用される中での矛盾、一方でそうした状況を逆手に取りながら文化を継承していく人々のしたたかさについて、社会的に分析・理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面での講義となる。ただしコロナへの感染など、個別に対応する必要がある学生については、学部からの指示に基づいて対応する。具体的には講義初回に通知する。概念や理論を、具体的な文化やその担い手が置かれた社会的状況に即して把握してもらうために視聴覚資料を用いる。また対面に参加できない学生に対しては、オンラインで閲覧できる映像・視聴覚資料について指示しつつ講義を行う。毎回提出してもらうリアクションペーパーのうち、代表的なものや興味深いものをピックアップして、フィードバックを行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的と進め方の説明
2	戦後地域政策・文化政策の中の「伝統」文化	戦前・戦後日本において「伝統」を通じた「まちづくり」がなぜ喚起されてきたのかを論じる
3	「伝統」が創られるとき	創造された伝統としての「民謡」
4	「伝統」としての和太鼓イメージ	戦後における「和太鼓」をめぐる表象の構築
5	真正性をめぐる揺らぎ (1)	伝統文化における「保存」と「観光」
6	真正性をめぐる揺らぎ (2)	担い手にとっての「本物」・専門家にとっての「本物」
7	「伝統」のダイナミズム (1)	変化し続ける「伝統」としての都市祭礼
8	「伝統」のダイナミズム (2)	祭礼における観光化・文化遺産化の流用
9	「伝統」のダイナミズム (3)	原発反対運動から見出された祝島の「伝統」
10	移動と混淆が生み出す「伝統」(1)	移民たちによる複数の「十九の春」の創造

11	移動と混淆が生み出す「伝統」(2)	アイヌ舞踊の継承と再創造
12	新たな継承の形	アーティストを介した民俗芸能の継承
13	個人化・流動化した祝祭	都市部を中心とした個人化・流動化したネットワークを基盤とした祝祭
14	まとめ	現代の地域社会において「伝統文化」が継承される意味と可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

俵木悟,2018,『文化財／文化遺産としての民俗芸能：無形文化遺産時代の研究と保護』勉誠出版。

牧野修也編,2021,『変貌する祭礼と担いのしくみ』学文社。

武田俊輔,2019,『コモンズとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社。

祐成保志・武田俊輔編,2023,『コミュニティの社会学』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容 (26%)、期末レポート (74%)。

【学生の意見等からの気づき】

前回のリアクションペーパーへの返答を通じて、学生の反応や直接のリアクションにより対応した形で、講義を進めていく。

【Outline (in English)】

This lecture discusses modern and contemporary local society and community focusing on the invention and (re)construction of traditional culture in Japan. It analyzes the impact of community development through traditional culture on the local residents, the bearers, and the culture itself.

The purpose of this lecture is to enable students to analyze and understand the following three points from a sociological perspective.

(1) What are the difficulties involved in passing on traditional culture in the face of declining populations and aging populations in regions and communities?

(2) Why do residents and bearers of traditional culture and performing arts feel that they are essential?

(3) What problems arise when traditional culture is used for tourism and community development, and what is the resilience of people who take advantage of such circumstances to pass on their culture?

The contents of each class are deeply interrelated, so please review the contents of the previous lecture before coming to class. Students will be expected to submit their short report via Hoppii after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 74%、Short reports : 26%

CUA200EC (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

文化人類学

謝 荔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の文化（生活様式）の多様性と普遍性について、諸民族の事例を取りあげ、世界諸地域の人びとの生活、信仰、文化変容を理解すると同時に、自文化を相対化する考え方も学んでいく。

【到達目標】

文化人類学の基礎的な知識、アプローチが理解できるようになる。フィールドワークに基づいて書き上げられた民族誌などの事例を通して世界の諸地域に暮らす人びとの文化の多様性を知り、異文化の理解を深め、視野を広げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げるテーマに関連する文化人類学の概念について説明し、映像を含む資料を用いながら世界の諸民族の文化の事例を取り上げる。講義内容のレジュメを配布し、パワーポイントを使用し進めていく。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	(1)文化人類学とは、隣接の研究分野との関連性、(2)授業のトピックス、進め方と評価方法
2.	通過儀礼	通過儀礼の構造、暦と年中行事(季節儀礼)
3.	通過儀礼	祝祭日の重層性
4.	通過儀礼	人生儀礼（誕生、成人式、婚姻儀礼）
5.	通過儀礼	人生儀礼（葬送儀礼の構造、現代社会の樹木葬）
6.	家族と親族	家族のかたちと住まい
7.	宗教と世界観	神話と聖なる山
8.	宗教と世界観	風水の環境認識および実践
9.	生業形態と文化	狩猟採集社会の文化の継承と変容
10.	生業形態と文化	牧畜社会の動物観、文化の継承と変容
11.	生業形態と文化	農業と「文化的景観」、「世界農業遺産」
12.	嗜好品文化	コーヒーの栽培、飲用、「伝統」の再考
13.	文化の展示、まとめ	人類学・民族学博物館と文化の展示、まとめ
14.	レポート	期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に毎回提出してもらうリアクションペーパーの内容30%（遅刻した場合は減点）と日本語で作成した期末レポート70%で成績を評価する。授業の具体的な内容に即していないものは評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

授業に画像や映像資料を多めに取り入れるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

学習支援システム上の連絡事項を確認すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding about various culture of the world from the viewpoint of cultural anthropology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on final paper (70%), and the quality of the students' reaction papers (30 %).

SOC200EC (社会学 / Sociology 200)

宗教社会学

永井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段、宗教とは無関係な生活をしているように思えても、実は私たちは多くの宗教的な意味とともに暮らしていることに気づく。宗教文化に関する基礎的な知識を習得した上で、宗教を見つめる視点を構築し、社会との関わりのなかに存在する宗教的現象を客観的に捉えなおそう。

【到達目標】

①主要な宗教伝統に関して、それぞれの歴史的経緯や特徴などの基礎的な知識を身につけることができる。②それらの知識をもとに、社会にみられる多様な宗教的な現象に気づくことができる。③自分を取り巻く環境における宗教的な現象を客観的に把握し理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面による講義形式です。①授業当日の資料教材は授業時に配布します（授業内容のレジュメではありません）。後日、学習支援システムにも掲げます。②授業内で、リアクションペーパーや課題ペーパーの提出があります。また、授業日当日中が提出期限の学習支援システムで提出する小テストがある場合もあります。③授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーをいくつか取り上げ補足説明したり、小テストの解答説明等のフィードバックを行ないます。④授業計画は授業の展開によって、若干の変更があることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「宗教」という言葉・宗教と社会との関わり
2	主要な宗教伝統 1	唯一神信仰の大きな流れ・はじまりとしてのユダヤ教
3	主要な宗教伝統 2	ユダヤ教における新宗教運動としてのキリスト教
4	主要な宗教伝統 3	イスラームにおける共同体の意味
5	主要な宗教伝統 4	唯一神信仰の大きな流れ・補足説明
6	アジアにおける仏教の展開と変容 1	インドにおける新宗教運動としての仏教
7	アジアにおける仏教の展開と変容 2	仏教の大きな二つの流れ
8	アジアにおける仏教の展開と変容 3	日本における仏教受容・神仏習合
9	近代以降の日本の宗教状況 1	近代宗教行政政策の余波
10	近代以降の日本の宗教状況 2	神道の「解体」とその後
11	近代以降の日本の宗教状況 3	新宗教運動の発生と展開
12	社会のなかの宗教 1	宗教意識の国際比較・日本とヨーロッパ

13 社会のなかの宗教 2 アメリカの宗教意識

14 社会のなかの宗教 3 補足説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り扱う宗教の基礎知識に関しては、日本史や世界史、倫理社会の参考書等で確認しておくといよいでしょう。新聞の中から宗教に関する記事を取り上げて読むことでさらに理解が深められます。授業時に配布される資料教材には目を通し、紹介された参考文献も関心を持って読んでみてください。授業内容に関する課題や小テストもありますので、授業中に提示されたら、忘れずに学習支援システム上に提出してください。提出期限は授業日当日中です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業時に配布する資料教材は後日学習支援システムにも掲げます。

【参考書】

世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版2012年
山田真茂留編『グローバル現代社会論』文真堂2018年（2600円＋税）
各テーマに係る参考文献は配布資料にて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験の結果を60%②授業内提出のリアクションペーパーまたは課題ペーパー（回数は随時）の内容を20%③授業日当日中に学習支援システム上に提出する小テスト（回数は随時）の結果を20%とする割合で総合的に判断・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

頂いたご意見を真摯に受け止め適宜改善に努めていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

課題を提出する際に学習支援システムが利用できる機器及び環境

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of religious studies from a sociological point of view while showing various religious cultures around the world.

At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge about various religious cultures and construct a perspective that enables students to grasp and understand the existence of religious culture that surrounds us objectively.

Before/after each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Final exam (60%), assignments end of some class (20%), and quizzes after some class (20%).

HSS200EC (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200)

スポーツ文化論

越部 清美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月1/Mon.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の社会においてスポーツは、一部の特権的な人々の所有物から大衆の文化として広く深く人々の生活に浸透している。本講義では、スポーツの歴史を学びながら、スポーツ文化を包括的に理解することを目的とし、その中でも特に現代に特徴的と思われる視点について考えていく。

【到達目標】

スポーツの歴史を学び、現代社会における文化としてのスポーツ活動の意義や機能を考え、理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回の講義の中でリアクションペーパー等の提出を求める。ゲスト講師を予定している。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ文化論とは	スポーツ文化論を学ぶ意義
第2回	スポーツの歴史	文化としてのスポーツの発生
第3回	スポーツの思想（1）	近代スポーツの思想
第4回	スポーツの思想（2）	現代スポーツの思想
第5回	メディアとスポーツ（1）	テレビとスポーツの関係を探る
第6回	メディアとスポーツ（2）	構造と機能
第7回	女性とスポーツ	歴史を振り返り問題点を問う
第8回	スポーツ競技者	アスリートと社会の関係を探る
第9回	スポーツファン	スポーツファンとは何か
第10回	オリンピックとパラリンピック	オリンピック・パラリンピックと政治・経済の関係
第11回	スポーツと環境問題	スポーツと環境の関係
第12回	障がいのある人とスポーツ	障がいのある人とスポーツの関係を探る
第13回	生涯スポーツ	生涯スポーツを考える
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示されたプリント類を事前に読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。

【参考書】

「よくわかるスポーツ文化論」井上俊・菊幸一編著ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、平常点50%

【学生の意見等からの気づき】

スポーツに思想があるのか、と驚く学生が結構多い。いろいろな事例を紹介しながら、さらに理解を深めてもらいたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire a comprehensive understanding of sports culture while learning about the history of sports. At the end of course, students are expected to get sports minds. Students will be expected to have completed the required assignments after each class.

Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Attitude:50%, Exam:50%

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

国際社会学 I

久保山 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 社会学は、伝統的に国民国家、国内社会における事象や問いを自明の対象としてきた。例えば大卒者の雇用を問題とすると、ある世代の集合的意識を問うとき、それはいずれも、暗黙のうちに「日本の社会における」という確固とした限定のもとにある。これに対して、1980年代以降の「グローバル化」と呼ばれる動きとともに、単なる国際比較だけでなく、人の移動、企業活動の展開、社会運動のネットワークキングなどにみられる国境を超える事象の教育・研究を、社会学の一分野として体系化しようとする試み・努力が進められてきた。国際関係論においても、政治や経済の分野と並んで、社会学分野を自立的にとらえる動きが出てきた。1990年代以降、日本では、これらを「国際社会学（英語圏および国外では：Global / Transnational Sociology）」と呼ぶようになり、大学でも授業や講座の設置が進められてきた。

(2) しかし、従来の国際社会学の教育やテキストでは、移住研究を中心としたケーススタディと、方法論の編成が多く、国際社会学としての基礎理論や体系的な枠組みはどちらかと言えば未発達であったことは否めない。

本講義は、英語圏や国外でのGlobal SociologyおよびInternational Political Sociologyを参考にしつつ、国際社会学の基礎（初歩・中級レベルの理論、ケーススタディで用いられる基本概念）と枠組みを習得することを目的とする。また従来の国際社会学で少なかった歴史的観点（たとえば、歴史的にどのように変わってきたか）も重視する。

国際社会学の土台を学ぶことで、今後の学生各自のケーススタディ（ゼミ報告や課題学習、卒論作成など）に役立ててもらいたい。 (3) 近代社会形成の重要な一局面として、個人・集団のローカル共同体の成員であることからの自由およびその制約からの解放・共同体の規範からの脱却（個人化）と国民国家領域内での標準化、関係の稠密化、距離感の縮小がある。これは、「遠くのできごとを身近に感じる」、「遠くのできごとが自分たちの生活に影響を及ぼしている」ということである。19世紀後半から始まる「グローバル化」と呼ばれる現象は、この社会的活動・視野・体験の拡大が、国民国家の領域と境界を越えてゆく動きでもあると解釈できる。

また、資本主義経済システムのグローバルな拡大は、私たちの雇用や仕事、生活にますます甚大な影響を及ぼすようになっている。さらに、国境を超えて移動する、つながることはもちろん、複数の国民国家の領域にまたがって生きる、活動すること（トランスナショナルリズムの例）も劇的に増えている。

これらの動きは、近代社会の行き詰まり（後期近代）とも軌を一にしている。これは例えば、次のような問題にみることができる。福祉供給（福祉国家）の制限的再構成、構造失業と不安定就労の増加、グローバル社会の格差の拡大、市場原理重視の「自由」主義的労働観/世界観、地球温暖化、安全性（セキュリティ）を過剰に求める私たちの意識、統治における民主主義の危機と権威主義の広がりなどがそれである。他方で、ジェンダーをめぐる問題への取り組み、多様性の尊重、レイシズムへの問題意識の広がり、コロナリズムの再考なども、後期近代への流れのなかに位置している。

(4) これらのことを踏まえて、本講義は以下の4つのクラスター（次元）に分けて、通年の構成（国際社会学Ⅰ・Ⅱ）で進める。おおむね①と②を国際社会学Ⅰ（春学期）、③と④は、国際社会学Ⅱ（秋学期）で講義する予定である。

- ①グローバル社会と近代・後期近代
- ②空間・領域と関係性：ローカル/ナショナル/リージョナル/トランスナショナル/グローバル
- ③グローバル社会の格差と分断
- ④ガヴァナンス（支配/統治）と暴力
- ①グローバル社会と近代・後期近代

・近代・後期近代とグローバル化の関係についてコンセプトと枠組みを学ぶ

②空間・領域と関係性：ローカル/ナショナル/リージョナル/トランスナショナル/グローバル

- ・人の移動と難民：歴史的観点をまじえて
- ・トランスナショナルリズム/トランスローカル

③グローバル社会の格差と分断

- ・（ポスト）コロナリズム・レイシズムと世界の分断
- ・グローバル資本主義と格差の構造

④ガヴァナンス（支配/統治）と暴力

- ・国民国家の統治、国民国家を超える統治
- ・暴力・戦争・主権概念

【到達目標】

- ①国際社会学の基礎と枠組みを学ぶ。
- ②国際社会学の土台となる素養を習得し、今後のケーススタディに役立てる。たとえば、トランスナショナルリズムの意味と例を、自分のことばで説明できるようにする。
- ③グローバル社会の歩みを理解する。俯瞰できるようになることが望ましい。

1. Students learn basic knowledge and concepts of global/transnational sociology, and frameworks for researching issues of global/transnational sociology.

2. By doing this, students can use what they learned in this course for their own case studies in future.

3. Students understand clearly the development of the global society as a whole.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ①ハンドアウトを配布しての講義。ハンドアウトは、レジュメ（要約）と違い、あくまでも講義の道筋を示し、講義を理解するための指針でしかありません。講義をよく聴いて、どんどんノートをとってください。ハンドアウトにもメモをしたり、マーカーをひいて、付記したりするとよいと思います。
- ②テキストは指定しますが、あくまでも講義理解・復習の助けとするものです。テキストに沿っての講義はしません。
- ③積極的な参加・学習を促すために（アクティブ・ラーニング）、講義内容に基づく、もしくは講義内容と関連する卒論等のテーマのプレゼンテーションの機会を設けます。これについての詳細は、授業で説明します。
- ④課題等へのフィードバック：課題についての講評を、次の回の授業の前半もしくは冒頭で行います。プレゼンテーションへのコメントおよび講評は、プレゼンテーション後もしくは、その授業回のなかで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	序論（1）	授業のガイダンス、国際社会学という分野はどのようなものか？
講義	序論（2）	国際社会学という分野はどのようなものか？（続き）：世界社会（world society）と世界システム論、グローバル・ヒストリー、国際社会学とグローバル社会学
講義	グローバル社会と近代・後期近代（1）	グローバル化についての概論
講義	グローバル社会と近代・後期近代（2）	近代社会形成（近代化）とグローバル化（16世紀～20世紀初頭）
講義	グローバル社会と近代・後期近代（3）	後期近代とグローバル化（1970年代後半以降）

講義	グローバル社会と近代・後期近代（４）	国際社会学における後期近代とグローバル化
講義・アクティブラーニングもしくは課題作成	グローバル社会と近代・後期近代（５）	クラスター①「グローバル社会と近代・後期近代」のまとめ
講義	空間・領域と関係性（１）	人の国際移動をめぐる基本概念・枠組み
講義	空間・領域と関係性（２）	初期近代～19世紀の移住労働：トランスローカルな移住労働、近代社会形成・グローバル資本主義・コロニアリズムにおける「不自由労働」
講義	空間・領域と関係性（３）	人の国際移動と国家（19世紀末～戦間期）
講義	空間・領域と関係性（４）	空間・領域と関係性（４）人の国際移動における合法性・正当性・違法性・不法性、その歴史的变化、人の国際移動と拘禁（収容）制度、戦争と外国籍者の収容
講義	空間・領域と関係性（５）	人の国際移動とジェンダー、移住労働はどのように変わってきたか、後期近代の社会・後期資本主義と人の移動
講義	空間・領域と関係性（６）	強制移動（難民の国際移動）と国境管理
講義・アクティブラーニングもしくは課題作成	空間・領域と関係性（７）	クラスター②「空間・領域と関係性」（「人の移動と難民」）のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：前回講義内容の復習（ノート、テキスト、参考書）および次回講義内容の予習（テキスト、参考書、授業最後の指示・アドバイスに従った予習）2時間

復習：前回講義内容の復習（ノート、テキスト、参考書）、図書館等での、授業内容について、自分の関心事項に沿って、発展学習（プレゼンテーション準備も兼ねる）2時間

【テキスト（教科書）】

・クリスティーネ・ハルツィヒ他「移民の歴史」（2023年、ちくま学芸文庫、筑摩書房）

（Christine Harzig, et.al."What is Migration History?", 2009, Polity Press.）

・ジグムント・バウマン「コミュニティ：安全と自由の戦場」（2017年、ちくま学芸文庫、筑摩書房）

（Zygmunt Bauman "Community: Seeking Safety in a Insecure World", 2001, Polity Press.）

【参考書】

授業理解・復習・発展学習のための参考文献は、下記以外にも多くあります。授業内でニーズに応じて、適宜紹介します。英語の書籍は、読みやすく書かれている教科書です。カッコ内の番号は、該当するクラスターの番号）

・ロビン・コーエン/ポール・ケネディ「グローバル・ソシオロジーⅠ・Ⅱ」（2003年、平凡社 版元品切れ）（Robin Cohen and Paul Kennedy, "Global Sociology, 3rd.edition" (Palgrave Macmillan.)（講義全体）

・宮島壽・佐藤成基ほか編著「国際社会学・改訂版」（2023年、有斐閣）（講義全体）

・アンソニー・ギデンズ「近代とはいかなる時代か：モダニティの帰結」（1993年、而立書房）（①）

・アンソニー・ギデンズ「再帰の近代化：近現代における政治・伝統・美的原理」（1997年、而立書房）（①）

・ウルリッヒ・ベック「危険社会」（1998年、法政大学出版局）（①・④）

・ベネディクト・アンダーソン「定本・想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行」（2007年、書籍工房早山）（①・④）

・佐藤成基「国家の社会学」（2014年、青弓社）（①・③・④）

・ロビン・コーエン「移民の世界史」（2020年、東京書籍）（②）

・Thomas Faist, et.al."Transnational Migration" (2013, Cambridge: Polity Press).（②・④）

・ジェシカ・ブルーダー「ノマドランド：漂流する高齢労働者たち」（2018年、春秋社）（②・④）

・ジョン・トービー「パスポートの発明：監視・シティズンシップ・国家」（2008年、法政大学出版局）（②・④）

・田嶋淳子「イタリアにおける中国系移住者家族の変遷」（「移民政策研究（移民政策学会）」13号、2021年、66-78頁、インターネットでダウンロード可能）（②）

・小井土彰宏編著「移民受入の国際社会学」（2018年、名古屋大学出版会）（②）

・梶田孝道ほか「顔の见えない定住化：日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク」（2005年、名古屋大学出版会、版元品切れ）（②）

・アレクサンダー・ベッツ/ポール・コリアー「難民：行き詰まる国際難民制度を超えて」（2023年、明石書店）（②）

・テッサ・モリス＝スズキ「自由を耐え忍ぶ」（2004年、岩波書店）（②・③・④）

・ローランド・ロバートソン「グローバリゼーション：地球文化の社会理論」（1997年、東京大学出版会）（①）

・ジグムント・バウマン「グローバリゼーション・人間への影響」（2010年、法政大学出版局・版元品切れ）（①）

・ジグムント・バウマン「廃棄された生：モダニティとその追放者」（2007年、昭和堂）（①・②・③・④）

・ジグムント・バウマン「ホロコーストと近代（ちくま学芸文庫）」（2024年、筑摩書房）（①・④）

・浜忠雄「ハイチ革命の世界史：奴隷たちがぎりひらいた近代（岩波新書）」（2023年、岩波書店）（②・③・④）

・木谷勤「世界史リブレット・帝国主義と世界の一体化」（1997年、山川出版社）（①・③）

・見田宗介「定本・見田宗介著作集Ⅰ・現代社会の理論」（2011年、岩波書店、版元品切れ）（①・③）

（※以下の新書もあるが、「定本・著作集Ⅰ」の方は、大幅に加筆・修正をしているので、なるべく「定本・著作集Ⅰ」を読むことをお勧めします。⇒見田宗介「現代社会の理論：情報化・消費化社会の現在と未来（岩波新書）」（1996年、岩波書店）

・モーリッツ・アルテンリート「AI・機会の手足となる労働者」（2024年、白揚社）（①・②・③）

・Saskia Sassen "A Sociology of Globalization" (2006, London/New York: W.W.Norton)（①・②・③）

・サスキア・サッセン「労働と資本の国際移動：世界都市の移民労働者」（1992年、岩波書店）（②・③・④）

・サスキア・サッセン「グローバリゼーションの時代：国家主権のゆくえ」（1999年、平凡社）（①・②・④）

・サスキア・サッセン「グローバル資本主義と〈放逐〉の論理：不可視化されゆく人々と空間」（2017年、明石書店）（①・②・③・④）

・アーリー・ラッセル・ホックシールド「壁の向こうの住人たち：アメリカの右派を覆う怒りと嘆き」（2018年、岩波書店）（①・④）

【成績評価の方法と基準】

期末試験：90％

授業内での課題作成およびプレゼンテーション：10％

期末試験は、授業内容に即した論述が求められるとともに、授業に集中し、自主的にテキスト・参考書を読むことも含めて、きちんと復習を行ったかをみる。さらに、到達目標①・②・③の到達度も測る。課題作成およびプレゼンテーションは、授業内容の復習を目的とする。さらに、到達目標②の自己の今後のケーススタディに生かせるだけの復習ができているかをみる。

Final Examination: 90%

Term Papers and Presentation: 10%

In final examination, students are required the writing of explanation and argument based on lectures. Final examination checks whether students have concentrated on lectures and reviewed sufficiently the contents of classes. Moreover, examination estimates how much they have attained the goals 1-3.

In addition to encourage students in reviewing sufficiently the contents of classes, term papers and presentation check whether, by reviewing the contents of classes, students have attained the goal 2 enough to use what they learned for their own case studies (for example, in writing reports and graduation thesis).

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。こちらから、受講生に適宜モニタリングして、授業改善に生かす。

【その他の重要事項】

授業の概要と目的で詳述したように、この授業は通年の構成で、計画している。国際社会学ⅠおよびⅡの両方を履修・参加することが望ましい。

【Outline (in English)】

1. Conventionally, we have taken it for granted that sociological studies concern events or questions within a nation-state society. For instance, if we take a sociological question regarding employment for university graduates or an collective awareness of a generation, this question addresses only a population group within Japan's society. By contrast, sociologists have attempted to institutionalize it as a sociological discipline to research and teach phenomena across borders observed in the cases of human mobility, corporate activities, and global networking among actors of social movements in line with the development that we have termed "globalization". The field of International Relations studies have undergone the emergence of perspectives that take sociological research as its sub-domain in addition to political and economic studies within it. Universities and colleges have created courses and research departments of transnational (global) sociology.

2. However, previous books and university courses of transnational sociology deal with case studies and methodological studies for the most part. Without doubt, these are short of basic theories and frameworks for studying and researching issues of transnational sociology. The aim of this course is to learn its theories for beginners and intermediates and its basic concepts for case studies in reference to the studies of "global sociology" and "international political sociology" that have been taught and researched in other countries, including English-speaking countries. By doing this, students use further the basic knowledge of transnational sociology in conducting their own case analysis in terms of seminar report, term paper, and graduation thesis.

3. Of significant concern in the development of modern society is the behavioural, normative, and epistemological emancipation of individuals from the restriction of indigenous and local communities as well as time-space compression, the commonization of issues and questions, and the interconnections and -dependencies of individuals' and groups' lives, activities, and movements within a territory of nation-state. In other words: "we understand events in distance as them close to home" and "what happens in distance impacts us". As has been argued by numbers of sociologists, this development has gone beyond borders and territories of nation-states, which is the important aspect of globalization process since the mid-19th century.

The global expansion of capitalist economies has been significantly influencing employments, daily lives, and economic activities. In addition to moving and interacting across borders, living and doing activities transnationally are no longer limited to a small number of cases.

These developments have evolved hand in hand with the emergence of late-modern phase of our world. This is observed in the growth of structurally unemployed and non-regular employments, increasing disparity in the global community, market-based views of world, global-warming, the securitization of our perspectives, and crisis in democratic systems while increase in authoritarian powers. Of course, this late-modern society marks also the widely established perspective of diversity, the growth in gender and racial equality, and the increasing critical attention to colonialist rule and its legacies. Therefore, this course is divided into four parts (These are called four CLUSTERS here).

In Global Sociology I (Spring Semester), Students learn Cluster 1 and Cluster 2 (excluding the topic of "transnationalism").

In Global Sociology II (Autumn Semester), Students work on Cluster 3 and Cluster 4.

Cluster 1. Global Community and Modern /Late-Modern Society

-Modern /Late-Modern Society and Globalization

Cluster 2. Space/Territory and Interactions and -connections: Local/National/Regional/Transnational/Global

-Human Migration and Refugee

-Transnationalism/Translocal and Local/Urban Citizenship

Cluster 3. Disparity and Division/Dividedness in Global Community

-(Post)Colonialism, Racism, and Division of World Population

-Global Capitalism and Structural Disparity

Cluster 4. Governance/Rule and Violence

- Governance in and beyond Nation-States

- Violence, War, and Concepts of Sovereignty

The Goal of this course:

1. Students learn basic knowledge and concepts of global/transnational sociology, and frameworks for researching issues of global/transnational sociology.

2. By doing this, students can use what they learned in this course for their own case studies in future.

3. Students understand clearly the development of the global society as a whole.

SOC300EB, SOC300EC (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

国際社会学Ⅱ

久保山 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 社会学は、伝統的に国民国家、国内社会における事象や問いを自明の対象としてきた。例えば大卒者の雇用を問題とすると、ある世代の集合的意識を問うとき、それはいずれも、暗黙のうちに「日本の社会における」という確固とした限定のもとにある。これに対して、1980年代以降の「グローバル化」と呼ばれる動きとともに、単なる国際比較だけでなく、人の移動、企業活動の展開、社会運動のネットワーク化などにみられる国境を超える事象の教育・研究を、社会学の一分野として体系化しようとする試み・努力が進められてきた。国際関係論においても、政治や経済の分野と並んで、社会学分野を自立的にとらえる動きが出てきた。1990年代以降、日本では、これらを「国際社会学（英語圏および国外では：Global / Transnational Sociology）」と呼ぶようになり、大学でも授業や講座の設置が進められてきた。

(2) しかし、従来の国際社会学の教育やテキストでは、移住研究を中心としたケーススタディと、方法論の編成が多く、国際社会学としての基礎理論や体系的な枠組みはどちらかと言えば未発達であったことは否めない。

本講義は、英語圏や国外でのGlobal SociologyおよびInternational Political Sociologyを参考にしつつ、国際社会学の基礎（初歩・中級レベルの理論、ケーススタディで用いられる基本概念）と枠組みを習得することを目的とする。また従来の国際社会学で少なかった歴史的観点（たとえば、歴史的にどのように変わってきたか）も重視する。

国際社会学の土台を学ぶことで、今後の学生各自のケーススタディ（ゼミ報告や課題学習、卒論作成など）に役立ててもらいたい。

(3) 近代社会形成の重要な一局面として、個人・集団のローカル共同体の成員であることからの自由およびその制約からの解放・共同体の規範からの脱却（個人化）と国民国家領域内での標準化、関係の稠密化、距離感の縮小がある。これは、「遠くのできごとを身近に感じる」、「遠くのできごとが自分たちの生活に影響を及ぼしている」ということである。19世紀後半から始まる「グローバル化」と呼ばれる現象は、この社会的活動・視野・体験の拡大が、国民国家の領域と境界を越えてゆく動きでもあると解釈できる。

また、資本主義経済システムのグローバルな拡大は、私たちの雇用や仕事、生活にますます甚大な影響を及ぼすようになっている。さらに、国境を超えて移動する、つながることはむしろ、複数の国民国家の領域にまたがって生きる、活動すること（トランスナショナルリズムの例）も劇的に増えている。

これらの動きは、近代社会の行き詰まり（後期近代）とも軌を一にしている。これは例えば、次のような問題にみることができる。福祉供給（福祉国家）の制限的再構成、構造失業と不安定就労の増加、グローバル社会の格差の拡大、市場原理重視の「自由」主義的労働観/世界観、地球温暖化、安全性（セキュリティ）を過剰に求める私たちの意識、統治における民主主義の危機と権威主義の広がりなどがそれである。他方で、ジェンダーをめぐる問題への取り組み、多様性の尊重、レイシズムへの問題意識の広がり、コロナリズムの再考なども、後期近代への流れのなかに位置している。

(4) これらのことを踏まえて、本講義は以下の4つのクラスター（次元）に分けて、通年の構成（国際社会学Ⅰ・Ⅱ）で進める。

おおむね①と②を国際社会学Ⅰ（春学期）、③と④は、国際社会学Ⅱ（秋学期）で講義する予定である。

①グローバル社会と近代・後期近代

②空間・領域と関係性：ローカル/ナショナル/リージョナル/トランスナショナル/グローバル

③グローバル社会の格差と分断

④ガヴァナンス（支配/統治）と暴力

①グローバル社会と近代・後期近代

・近代・後期近代とグローバル化の関係についてコンセプトと枠組みを学ぶ

②空間・領域と関係性：ローカル/ナショナル/リージョナル/トランスナショナル/グローバル

・人の移動と難民：歴史的観点をまじえて

・トランスナショナルリズム/トランスローカル

③グローバル社会の格差と分断

・（ポスト）コロナリズム・レイシズムと世界の分断

・グローバル資本主義と格差の構造

④ガヴァナンス（支配/統治）と暴力

・国民国家の統治、国民国家を超える統治

・暴力・戦争・主権概念

【到達目標】

①国際社会学の基礎と枠組みを学ぶ。

②国際社会学の土台となる素養を習得し、今後のケーススタディに役立てる。たとえば、トランスナショナルリズムの意味と例を、自分のことばで説明できるようにする。

③グローバル社会の歩みを理解する。俯瞰できるようになることが望ましい。

1. Students learn basic knowledge and concepts of global/transnational sociology, and frameworks for researching issues of global/transnational sociology.

2. By doing this, students can use what they learned in this course for their own case studies in future.

3. Students understand clearly the development of the global society as a whole.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

①ハンドアウトを配布しての講義。ハンドアウトは、レジュメ（要約）と違い、あくまでも講義の道筋を示し、講義を理解するための指針でしかありません。講義をよく聴いて、どんどんノートをとってください。ハンドアウトにもメモをしたり、マーカーをひいて、付記したりするとよいと思います。

②テキストは指定しますが、あくまでも講義理解・復習の助けとするものです。テキストに沿っての講義はしません。

③積極的な参加・学習を促すために（アクティブ・ラーニング）、講義内容に基づく、もしくは講義内容に関連するテーマ（卒論等）のプレゼンテーションの機会を設けます。これについての詳細は、授業で説明します。

④課題等へのフィードバック：課題についての講評を、次の回の授業の前半もしくは冒頭で行います。プレゼンテーションへのコメントおよび講評は、プレゼンテーション後もしくは、その授業回のみで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	序論	序論：授業のガイダンス、前期講義の概略（おさらい）
講義	空間・領域と関係性（8）	トランスナショナルリズム
講義	空間・領域と関係性（9）	トランスナショナルリズム（続き）、都市と移住者、ローカル/アーバン（都市）・シティズンシップ、グローバル・シティ
講義	グローバル社会の格差と分断（1）	グローバル社会の格差と分断（1）
		コロナリズムの展開、オリエンタリズム（文化帝国主義）、レイシズム、カーストシステム

講義	グローバル社会の格差と分断（2）	ポストコロナリズムと移住、ハイチの事例、東アジア/東南アジア-日本の事例
講義	グローバル社会の格差と分断（3）	コロナリズムとグローバル資本主義の展開、モラル・エコノミーと公共財
講義	グローバル社会の格差と分断（4）	グローバル化と福祉国家の変換、グローバル資本主義と「帝国型生活様式」、高度福祉国家と外部化社会、排外主義とグローバル社会の分断
講義・アクティブラーニングもしくは課題作成	グローバル社会の格差と分断（5）	クラスター③「グローバル社会の格差と分断」のまとめ
講義	ガヴァナンス（支配/統治）と暴力（1）	近代社会と国民国家システムの形成：世俗化とナショナリズム、シティズンシップ（国籍と市民権）、第一次世界大戦と総力戦体制、国民国家システムと国際連盟、パスポート・システム、後期近代と国民国家（社会）の分断
講義	ガヴァナンス（支配/統治）と暴力（2）	近代社会と国民国家システムの形成：「国際社会」はいかに誕生したか、主権概念の系譜と再検討、コロナリズムと「国際社会」、戦後の国際政治と国際レジーム、地域統合、グローバル・ガヴァナンス
講義	ガヴァナンス（支配/統治）と暴力（3）	国民国家の領域性とガヴァナンス：国民国家の領域性、グローバル化と国境管理の外部化、グローバル・タックス、グローバル・ガヴァナンスはどこまで可能か？
講義	ガヴァナンス（支配/統治）と暴力（4）	グローバル社会と暴力：コロナリズムと暴力、全体主義とホロコースト/ジェノサイド、ジェンダーと暴力、「構造的暴力」としての飢餓問題/経済封鎖（経済制裁）
講義	ガヴァナンス（支配/統治）と暴力（5）	グローバル社会と暴力：戦争とそれが私たちに及ぼす影響はどのように変わってきたか？
講義・アクティブラーニングもしくは課題作成	ガヴァナンス（支配/統治）と暴力（6）	クラスター④「ガヴァナンス（支配/統治）と暴力」のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：前回講義内容の復習（ノート、テキスト、参考書）および次回講義内容の予習（テキスト、参考書、授業最後の指示・アドバイスに従った予習）2時間

復習：前回講義内容の復習（ノート、テキスト、参考書）、図書館等での、授業内容について、自分の関心事項に沿って、発展学習（プレゼンテーション準備も兼ねる）2時間

【テキスト（教科書）】

ウルリッヒ・ブランド/マークス・ヴィッセン「地球を壊す暮らし方：帝国型生活様式と新たな搾取」（2021年、岩波書店）

(Ulrich Brand and Markus Wissen, "Imperial Mode of Living")

【参考書】

授業理解・復習・発展学習のための参考文献は、下記以外にも多くあります。授業内でニーズに応じて、適宜紹介します。英語の書籍は、読みやすく書かれている教科書です。カッコ内の番号は、該当するクラスターの番号）

・ロビン・コーエン/ポール・ケネディ「グローバル・ソシオロジー I・II」（2003年、平凡社 版元品切れ）(Robin Cohen and Paul Kennedy, "Global Sociology, 3rd.edition" (Palgrave Macmillan.) (講義全体)

・宮島壽・佐藤成基ほか編著「国際社会学・改訂版」（2023年、有斐閣）（講義全体）

・アンソニー・ギデンズ「近代とはいかなる時代か：モダニティの帰結」（1993年、而立書房）(①)

・アンソニー・ギデンズ 「再帰的近代化：近現代における政治・伝統・美的原理」（1997年、而立書房）(①)

・ウルリッヒ・ベック「危険社会」（1998年、法政大学出版局）(①・④)

・ベネディクト・アンダーソン「定本・想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行」（2007年、書籍工房早山）(①・④)

・佐藤成基「国家の社会学」（2014年、青弓社）(①・③・④)

・Thomas Faist, et.al."Transnational Migration" (2013, Cambridge: Polity Press). (②・④)

・ジュシカ・ブルーダー「ノマドランド：漂流する高齢労働者たち」（2018年、春秋社）(②・④)

・ジョン・トービー「パスポートの発明：監視・シティズンシップ・国家」（2008年、法政大学出版局）(②・④)

・ローランド・ロバートソン「グローバリゼーション：地球文化の社会理論」（1997年、東京大学出版会）(①)

・ジグムント・バウマン「グローバリゼーション・人間への影響」（2010年、法政大学出版局・版元品切れ）(①)

・ジグムント・バウマン「廃棄された生：モダニティとその追放者」（2007年、昭和堂）(①・②・③・④)

・ジグムント・バウマン「ホロコーストと近代（ちくま学芸文庫）」（2024年、筑摩書房）(①・④)

・宇沢弘文「社会的共通資本（岩波新書）」（2000年、岩波書店）(③・④)

・斎藤幸平「人新世の資本論（集英社新書）」（2020年、集英社）(③・④)

・ロバート・C・ヤング「ポストコロナリズム」（2005年、岩波書店、版元品切れ）(③)

・浜忠雄「ハイチ革命の世界史：奴隷たちがきりひらいた近代（岩波新書）」（2023年、岩波書店）(②・③・④)

・木谷勤「世界史リブレット・帝国主義と世界の一体化」（1997年、山川出版社）(①・③)

・エメ・セザール「帰郷ノート・新植民地主義論（平凡社文庫）」（2004年、平凡社）(③・④)

・中村隆之「野蠻の言説：差別と排除の精神史」（2020年、春陽堂）(③・④)

・テッサ・モーリス＝スズキ「自由を耐え忍ぶ」（2004年、岩波書店）(②・③・④)

・モーリッツ・アルテンリート「AI・機会の手足となる労働者」（2024年、白揚社）(①・②・③)

・見田宗介「定本・見田宗介著作集 I・現代社会の理論」（2011年、岩波書店、版元品切れ）(①・③)

(※以下の新書もあるが、「定本・著作集 I」の方は、大幅に加筆・修正をしているので、なるべく「定本・著作集 I」を読むことをお勧めします。⇒見田宗介「現代社会の理論：情報化・消費化社会の現在と未来（岩波新書）」（1996年、岩波書店）)

・Saskia Sassen "A Sociology of Globalization" (2006, London/New York: W.W.Norton) (①・②・③)

・サスキア・サッセン「労働と資本の国際移動：世界都市の移民労働者」（1992年、岩波書店）(②・③・④)

・サスキア・サッセン「グローバリゼーションの時代：国家主権のゆくえ」（1999年、平凡社）(①・②・④)

・サスキア・サッセン「グローバル資本主義と〈放逐〉の論理：不可視化されゆく人々と空間」（2017年、明石書店）(①・②・③・④)

・アーリー・ラッセル・ホックシールド「壁の向こうの住人たち：アメリカの右派を覆う怒りと嘆き」（2018年、岩波書店）(①・④)

・吉見俊哉「空爆論：メディアと戦争」（2022年、岩波書店）(③・④)

・リチャード・ベラミー「シティズンシップ：民主主義をいかに活用すべきか」（2024年、岩波書店）(④)

・中西正司/上野千鶴子「当事者主権・増補新版（岩波新書）」（2024年、岩波書店）(④)

・ダーチャ・マルイーニ「わたしの人生」（2024年、新潮社）(④)

・ロイック・ヴァカン「貧困という監獄：グローバル化と刑罰国家の到来」（2008年、新曜社）（④）
・メアリー・カルドー「新戦論：グローバル時代の組織的暴力」（2003年、岩波書店）（④）
・ジョセフ・S・ナイ/デヴィス・A・ウェルチ「国際紛争：理論と歴史 原書第10版」（2008年、有斐閣）（④）
・諸富徹「グローバル・タックス：国境を超える課税権力（岩波新書）」（2020年、岩波書店）（④）

【成績評価の方法と基準】

期末試験：90%

授業内での課題作成およびプレゼンテーション：10%

期末試験は、授業内容に即した論述が求められるとともに、授業に集中し、自主的にテキスト・参考書を読むことも含めて、きちんと復習を行ったかを見る。さらに、到達目標①・②・③の到達度も測る。課題作成およびプレゼンテーションは、授業内容の復習を目的とする。さらに、到達目標②の自己の今後のケーススタディに生かせるだけの復習ができてきているかを見る。

Final Examination: 90%

Term Papers and Presentation: 10%

In final examination, students are required the writing of explanation and argument based on lectures. Final examination checks whether students have concentrated on lectures and reviewed sufficiently the contents of classes. Moreover, examination estimates how much they have attained the goals 1-3.

In addition to encourage students in reviewing sufficiently the contents of classes, term papers and presentation check whether, by reviewing the contents of classes, students have attained the goal 2 enough to use what they learned for their own case studies (for example, in writing reports and graduation thesis).

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。こちらから、受講生に適宜モニタリングして、授業改善に生かす。

【その他の重要事項】

授業の概要と目的で詳述したように、この授業は通年の構成で、計画している。国際社会学ⅠおよびⅡの両方を履修・参加することが望ましい。

【Outline (in English)】

1. Conventionally, we have taken it as given (take it for granted) that sociological studies concern events or questions within a nation-state society. For instance, if we take a sociological question regarding employment for university graduates or an collective awareness of a generation, this question addresses only a population group within Japan's society. By contrast, sociologists have attempted to institutionalize it as a sociological discipline to research and teach phenomena across borders observed in the cases of human mobility, corporate activities, and global networking among actors of social movements in line with the development that we have termed "globalization". The field of International Relations studies have undergone the emergence of perspectives that take sociological research as its sub-domain in addition to political and economic studies within it. Universities and colleges have created courses and research departments of transnational (global) sociology.

2. However, previous books and university courses of transnational sociology deal with case studies and methodological studies for the most part. Without doubt, these are short of basic theories and frameworks for studying and researching issues of transnational sociology. The aim of this course is to learn its theories for beginners and intermediates and its basic concepts for case studies in reference to the studies of "global sociology" and "international political sociology" that have been taught and researched in other countries, including English-speaking countries. By doing this, students use further the basic knowledge of transnational sociology in conducting their own case analysis in terms of seminar report, term paper, and graduation thesis.

3. Of significant concern in the development of modern society is the behavioural, normative, and epistemological emancipation of individuals from the restriction of indigenous and local communities as well as time-space compression, the commonalization of issues and questions, and the interconnections and -dependencies of individuals' and groups' lives, activities, and movements within a territory of nation-state. In other words: "we understand events in distance as them close to home" and "what happens in distance impacts us". As has been argued by numbers of sociologists, this development has gone beyond borders and territories of nation-states, which is the important aspect of globalization process since the mid-19th century.

The global expansion of capitalist economies has been significantly influencing employments, daily lives, and economic activities. In addition to moving and interacting across borders, living and doing activities transnationally are no longer limited to a small number of cases.

These developments have evolved hand in hand with the emergence of late-modern phase of our world. This is observed in the growth of structurally unemployed and non-regular employments, increasing disparity in the global community, market-based views of world, global-warming, the securitization of our perspectives, and crisis in democratic systems while increase in authoritarian powers. Of course, this late-modern society marks also the widely established perspective of diversity, the growth in gender and racial equality, and the increasing critical attention to colonialist rule and its legacies. Therefore, this course is divided into four parts (These are called four CLUSTERs here).

In Global Sociology I (Summer Semester), Students learn Cluster 1 and Cluster 2 (excluding the topic of "transnationalism"). In Global Sociology II (Winter Semester), Students work on Cluster 3 and Cluster 4.

Cluster 1. Global Community and Modern /Late-Modern Society

-Modern /Late-Modern Society and Globalization

Cluster 2. Space/Territory and Interactions and -connections: Local/National/Regional/Transnational/Global

-Human Migration and Refugee

-Transnationalism and Local/Urban Citizenship

Cluster 3. Disparity and Division/Dividedness in Global Community

-(Post)Colonialism, Racism, and Division of World Population

-Global Capitalism and Structural Disparity

Cluster 4. Governance/Rule and Violence

-Governance in and beyond Nation-States

-Violence, War, and Concepts of Sovereignty

The Goal of this course:

1. Students learn basic knowledge and concepts of global/transnational sociology, and frameworks for researching issues of global/transnational sociology.

2. By doing this, students can use what they learned in this course for their own case studies in future.

3. Students understand clearly the development of the global society as a whole.

1. Global Community and Modern /Late-Modern Society

-Modern /Late-Modern Society and Globalization

2. Space/Territory and Interactions and -connections: Local/National/Regional/Transnational/Global

-Human Migration and Refugee

-Transnationalism and Local/Urban Citizenship

3. Disparity and Dividedness in Global Community

-(Post)Colonialism, Racism, and Division of World Population

-Global Capitalism and Structural Disparity

4. Governance/Rule and Violence

-Governance in and beyond Nation-States

-Violence, War, and Concepts of Sovereignty

The goal of this course:

1. Students learn basic knowledge and concepts of global/transnational sociology, and frameworks for researching issues of global/transnational sociology.
2. By doing this, students can use what they learned in this course for their own case studies in future.
3. Students understand clearly the development of the global society as a whole.

POL200EB, POL200EC (政治学 / Politics 200, 政治学 / Politics 200)

国際関係論 I

二村 まどか

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の国際情勢を考察するために必要な概念と分析枠組みについて学ぶ。国際問題を理解する上で重要な3つの理論をとりあげ、それらの基本的な主張を、各理論が生まれ発展する背景となった国際的な文脈に即して考察する。また国際組織、国際法、脱国家的主体にも焦点を当て、国際社会におけるそれぞれの役割と限界を3つの理論を通して考える。

【到達目標】

各理論の分析枠組みを通して、現代の国際情勢と問題を理論的、実証的、規範的に考察し、それぞれの理論が持つ利点と限界を認識・理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半で主要な国際関係学の理論を扱い、後半でそれらの理論を使いながら、国際社会における国際組織、国際法、脱国家的主体の役割を考える。また現在新たに浮上しているグローバリゼーションに伴う問題への視点を模索する。リアクションペーパーは講義の冒頭に提出し、教員がフィードバックを講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の予定、進め方、国際関係論の学び方について
2	「国際関係論」とは何か	国際情勢を見るためのさまざまな視点
3	国際関係における理想主義	第一次世界大戦と国際関係学の始まり
4	リベラリズムとリアリズム	第二次世界大戦とリアリズムの台頭
5	冷戦時代の国際関係①：ネオリアリズム	安全保障のジレンマ、「国家はなぜ協調できないのか」
6	冷戦時代の国際関係②：ネオリベラリズム	国際制度の構築、「国家はどのようなときに協調できるのか」
7	冷戦の終わりと国際関係における変化	冷戦の終わりは国際関係に何をもたらしたのか
8	コンストラクティヴィズムと国際規範	国際関係における、理念、文化、社会的側面の重要性
9	国際関係における法の役割	国際法の特徴と機能
10	国際連合	アナーキーな国際システムにおける国連の可能性と限界
11	脱国家的主体	脱国家的主体とは何か、国際関係においてどういう存在か
12	国際関係における人権問題	人権と国家主権の関係
13	国際政治からグローバル政治へ	グローバルな問題と国家の役割
14	まとめ	国際関係の現状について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・S. ナイ ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争- 理論と歴史 [第 10 版]』 (原書房、2017)

【参考書】

授業中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎講義におけるリアクションペーパー）：30 %

期末テスト：70 %

【学生の意見等からの気づき】

参考資料はできるだけアクセスしやすいものを選びたいと思います。

【Outline (in English)】

In this course, we learn the concepts and theories of international relations to understand ongoing global issues. The course especially focuses on Realism, Liberalism and Constructivism. It also examines the role and function of international law, international organizations, and non-state actors.

POL300EB, POL300EC (政治学 / Politics 300, 政治学 / Politics 300)

国際関係論Ⅱ

二村 まどか

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

冷戦後から現在に至るまで国家や国際組織がどのように「国際の平和と安全への脅威」に対応してきたかについて学ぶ。国際関係論Ⅰで学んだ理論や概念をふまえつつ、冷戦後の武力紛争や脅威がどのような問題突きつけてきたのか、そしてその問題に対して国際社会ではどのような行動がとられ、議論がなされてきたのかについて考察する。

【到達目標】

現代の国際情勢と問題、特に安全保障と武力行使にかかわる問題について、論理的、実証的、規範的に考察し、理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

冷戦後の国際安全保障に関する重要な出来事（湾岸戦争、ユーゴスラビア紛争、ルワンダの大虐殺、コンゴ紛争、9.11アメリカ同時多発テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争、リビア空爆）に焦点を当て、国際社会が直面した国際安全保障の問題を考える。

リアクションペーパーは講義の冒頭に提出し、教員がフィードバックを講義内で行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の予定、進め方、国際関係論の学び方について
2	冷戦の終結と国際安全保障の変化	冷戦後の国際の平和と安全をめぐる問題の特徴
3	湾岸戦争：「新世界秩序」	集団安全保障体制の復活と国連の役割
4	ユーゴスラビア紛争	国連平和維持活動(PKO)の発展と課題
5	ルワンダ大虐殺	民族紛争の構図と「アイデンティティ政治」
6	コンゴ紛争	人道的介入
7	戦争犯罪と国際刑事裁判所	国際社会における国際刑事裁判の試み
8	映像鑑賞	9/11後の世界について
9	9/11とテロリズム	国際テロとグローバリゼーションの関係
10	アフガニスタン空爆	「テロとの戦い」と空爆の是非
11	アフガニスタンの国家再建	脆弱国家と平和構築
12	イラク戦争	「テロとの戦い」と大量破壊兵器問題
13	リビア空爆	「保護する責任」をめぐる議論
14	「人間の安全保障」からのアプローチ	伝統的安全保障の限界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・S. ナイ ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争-理論と歴史[第10版]』（原書房、2017）
酒井啓子 『9.11後の現代史』講談社現代新書（2018）

【参考書】

講義中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎講義におけるリアクションペーパー）：30%

期末テスト（課題）：70%

【学生の意見等からの気づき】

参考資料はできるだけアクセスしやすいものを選びたいと思います。

【Outline (in English)】

The topic of this course is international peace and security, especially focusing on the use of force in the post-Cold War international relations. The course will pick up wars and armed conflicts in the 1990s onwards and critically examine international debates and practices.

SOC200EC (社会学 / Sociology 200)

国際社会と民族

佐藤 成基

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ナショナリズムに関する様々な理論的アプローチについて学び、ナショナリズムが歴史的にどう発生したのか、現代においてナショナリズムはどう作用しているのかについて検討する。

【到達目標】

ナショナリズムとは何であり、どのように発生し、どのような作用を果たしているのかについて、様々な理論的アプローチから考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

最初の12回は、主要なナショナリズム研究者ごとにそれぞれの理論的アプローチについて学び、最後の2回は現代のナショナリズムについて、具体的な事例を中心に考察する。受講者はあらかじめ指定されたテキストを読んでおくこと。講義はそれを前提にして進める。「学習支援システム」を通じて提出される質問、コメントに対して、次の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と進め方について
第2回	ネーション、ナショナリズム、国民国家：主要な概念を整理する（1）	ネーション、ナショナリズムの定義をめぐって
第3回	ネーション、ナショナリズム、国民国家：主要な概念を整理する（2）	ナショナリズムの類型化と国民国家の概念をめぐって
第4回	ナショナリズムのグローバル・ヒストリー（1）	ナショナリズムはいつ、どこで発生したのかについて概観する
第5回	ナショナリズムのグローバル・ヒストリー（2）	ナショナリズムはいかに波及したのかについて概観する
第6回	ナショナリズムの発生と波及に関する理論 ―近代主義アプローチ（1）近代国家形成とナショナリズム―	社会経済的近代化とナショナリズム（ゲルナーとアンダーソンのナショナリズム論）
第7回	ナショナリズムの発生と波及に関する理論 ―近代主義アプローチ（2）	近代国家の形成とナショナリズム（ティリー、ブルイリー、ホブズボームのナショナリズム論）
第8回	ナショナリズムの発生と波及に関する理論 ―近代主義アプローチ（3）	構築主義と道具主義、文化の変容と知識人の役割、イデオロギーの伝播

第9回	ナショナリズムの発生と波及に関する理論 ―反近代主義アプローチ（1）	ナショナリズムは近代以前に発生したとする議論（ヘイスティングス、ゴースキ）
第10回	ナショナリズムの発生と波及に関する理論 ―反近代主義的アプローチ（2）	ナショナリズムは人間社会の原初的属性であるとする議論（グロスビー、ガット）
第11回	ナショナリズムの発生と波及に関する理論 ―反近代種アプローチ（3）	近代以前のエスニックな基礎に注目する「エスノシンボリズム」の議論（スミス、ハッチンソン）
第12回	現代のナショナリズム論（1）：「長期持続」の観点から	ナショナリズムの歴史の「長期持続」過程に注目するマレシェヴィッチのナショナリズム論
第13回	現代のナショナリズム論（2）：「ネーション・ビルディング」と社会的交換理論	近代における「ネーション・ビルディング」を社会的交換理論から分析するウィマーのナショナリズム論
第14回	現代のナショナリズム論（3）：「認知的視座」	ネーションを社会的カテゴリーとみなし、その意味や使われ方に注目するブルーベーカーのナショナリズム論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業支援システムでテキストを配布する。

【参考書】

塩川伸明『民族とネーション ―ナショナリズムという難問』（岩波新書、2008年）
大澤真幸・姜尚中編『ナショナリズム論・入門』（有斐閣、2009年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn different theoretical approaches to nationalism. The purpose of this course is to understand how nationalism emerged from historical perspectives and how it works in the contemporary world. Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours to read the relevant parts of the text carefully and to submit a memorandum of comments and questions. The comments and questions will be discussed in the next class meeting. Grades will be based on the final examination (100%).

GDR200EC (ジェンダー / Gender 200)

開発とジェンダー

吉村 真子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、開発とジェンダーについて、開発途上国の開発や問題点、ジェンダーをめぐる議論など、多様な観点から議論します。

【到達目標】

開発とジェンダーについて学び、ジェンダーという視点を入れると問題がどう見えるか、具体的に考えていくこと、問題を構造的に議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

●本講義は、開発とジェンダーについて、様々な観点から議論、分析することを目的とします。

●開発とジェンダーについて構造的に考え、グループ・ディスカッションも含めて深く議論していきます。最終授業では13回までのまとめや復習に加え、授業内の小レポートや課題に対する講評や解説も行います。

●今年度は全ての授業を対面授業で実施します。COVID-19対応でオンライン（Zoomなど）利用のグループ・ディスカッションを行う回も入れる予定ですが、いずれにせよ、毎週の授業の出席とコメント提出、課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業のテーマと目的
第2回	開発と「女性」「男性」の視点	「女性」「男性」の視点から開発途上国の社会と開発を見直す
第3回	「農村の近代化」：「農民＝男性」か？	農村社会におけるジェンダーと開発プロジェクトを考える
第4回	貧困、ジェンダー、女性	開発途上国のケースから考える
第5回	開発途上国の女性の生活	教育や妊娠・出産などについて考える
第6回	開発途上国の伝統と少女	伝統的慣習や「女子割礼」
第7回	イスラームとジェンダー	イスラーム・コミュニティにおける女性や「ヴェール論争」
第8回	開発政策とジェンダー	国連などの開発政策におけるジェンダーの議論
第9回	グローバル経済とジェンダー	多国籍企業の途上国進出と女性労働者：「器用な指先」
第10回	ヒトの移動とジェンダー	移住（出稼ぎ）労働、ケア労働など
第11回	セックス産業と人身売買	人身売買とジェンダー
第12回	開発途上国の女性の身体	生理の貧困、リプロダクティブ・ヘルスなど
第13回	開発途上国のセクシュアリティ	開発途上国のセクシュアル・マイノリティ
第14回	人間の安全保障とジェンダー	開発・貧困・ジェンダー、女性のエンパワーメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考文献などは適宜、紹介します。

【参考書】

吉村真子「開発とジェンダー」『性と文化』法政大学出版局(2004); 宇田川妙子ほか編『ジェンダー人類学を読む』世界思想社(2007); 田中由美子『はじめてのジェンダーと開発：現場の実体験から』新水社(2017)など。

【成績評価の方法と基準】

●成績評価の基準は、①定期試験（60%）、②ミニ・レポートなどの課題（20%）、③毎週の授業のコメントやグループ・ディスカッションのコメント（20%）など、総合的に評価します。

●毎週の授業の出席・コメント提出や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

開発とジェンダー、国際社会問題など、授業以外の視点につながる議論にしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

●今年度はすべての授業は対面／教室で行います。ただし、COVID-19対策で、Zoom/オンラインでのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの回を設ける可能性もありますので、その準備もしておいてください。

●本授業の連絡や課題の提出などは、大学の学習支援システムHoppiiを使います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to study Gender and Development. The issues include discussion on gender issues in politics, education, UN programs, rural development, industrialization, reproduction health, sexuality, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in developing countries in globalization. Students are required to study gender issues in developing countries, to submit comment sheets each week, to write short papers, and to take a term-end examination.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to analyze and to discuss the gender issues with development.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to study before/after a class each week and for a term-end examination. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be according to (1) Term-end examination (60%), (2) Short reports (20%), and (3) In-class contribution (20%).

ARSa200EC（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）

地域研究（ヨーロッパ）

高橋 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多元性の上に成り立つヨーロッパに時間軸をたどりながらアプローチし、その形成の歴史的背景と過程を学ぶ。現代ヨーロッパの特徴と今日のEUが向き合っている問題を複眼的な視点で眺め、今後の可能性を検討、議論する。

【到達目標】

ヨーロッパは底流にある共通の文化とローカルな地域的多様性によって形成され、二度にわたる世界大戦の経験から未来への指針をいかに引き寄せるべきかを模索してきた。2020年における英国のEU離脱によって、ヨーロッパ統合の流れは初めて後退した。こうした歴史も踏まえて、ヨーロッパの諸地域を比較し、「多様性の中の統合」を掲げるEUの現状や今日の問題点を具体的に述べることができる。ウクライナ情勢などの現代における諸問題について調べ、自ら考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式で進め、授業の内容に関する受講生の質問等にも応じ、議論を深める。
- ・授業のはじめに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容と方法の説明、導入
第2回	ヨーロッパとは	地理的概念と文化をめぐる問題
第3回	ヨーロッパ世界の形成（1）	古代ギリシャ・ローマの遺産と精神的故郷
第4回	ヨーロッパ世界の形成（2）	ヨーロッパにおける宗教事情
第5回	ヨーロッパと世界大戦	第一次・第二次世界大戦
第6回	戦後ヨーロッパにおける記憶と対話	国際教科書改善運動、記憶の場
第7回	東西冷戦	東西冷戦とヨーロッパ分断、ヨーロッパピクニック計画
第8回	ヨーロッパ統合（1）	ヨーロッパ統合前史、統合への共通意思と理念
第9回	ヨーロッパ統合（2）	EU独自のガバナンス
第10回	ヨーロッパ統合（3）	EU拡大の歴史・特徴
第11回	ヨーロッパ統合（4）	EU統合による歪み（ユーロ危機、ポピュリズムの台頭など）
第12回	21世紀のヨーロッパ（1）	英国のEU離脱と影響、2024年欧州議会選挙、各国の政局
第13回	21世紀のヨーロッパ（2）	ウクライナ情勢
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度・リアクションペーパーによる平常点（50％）と学期末試験（50％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度もヨーロッパ情勢に関わる最新記事や映像教材を積極的に紹介したい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students deepen knowledge and understanding of Europe. Before/after each class meeting, students are required to spend two hours to understand the course content. Upon successful completion of the course, they will be able to comprehend

various histories and social issues related to Europe, as well as to analyze the current topics. Grading will be based on term-end examination (50%) and in-class contribution (50%).

ARSe200EC（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200）

地域研究（アジア）**吉村 真子**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、アジアにおける社会・経済・政治などの問題について、様々な観点から議論していくことを課題とします。対象地域は、東アジア（中国、朝鮮半島、台湾）、東南アジア、南アジアです。

【到達目標】

本講義で、アジア社会における様々な問題について学び、多角的な視点で議論、分析することを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

●本講義は、アジアの社会や経済・政治について、様々な観点から議論、分析することを目的とします。対象地域は、東アジア（中国、朝鮮半島、台湾）、東南アジア、南アジアです。

●アジア社会について構造的に考え、グループ・ディスカッションも含めて深く議論していきます。またミニ・レポートではアジアに関連してフィールド・ワーク(教室外でアジアに関連した講演・シンポ・映画・イベントなどに行き報告をまとめる)も求めます。最終授業では13回までのまとめや復習に加え、授業内の小レポートや課題に対する講評や解説も行います。

●今年度は全ての授業を対面授業で実施します。COVID-19対応でオンライン（Zoomなど）利用のグループ・ディスカッションを行う回も入れる予定ですが、いずれにせよ、毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業のテーマと目的
第2回	世界の中のアジア	アジアとは何か
第3回	植民地支配と独立後	アジアの植民地化と現地社会
第4回	日本と「アジア」	日本と近隣アジア諸国との関係
第5回	アジア社会の多様性	エスニック集団（民族）、宗教、言語
第6回	アジアの多民族社会	地域研究のケースから
第7回	アジアの政治問題	現代アジアの政治
第8回	農村社会の近代化	農村開発、農業、貧困
第9回	アジアにおける工業化	グローバル化と新しい国際分業
第10回	アジアの都市化	アジアにおける都市問題
第11回	経済援助	開発援助、ODA、NGOsなど
第12回	アジアの環境問題	環境の諸問題とサステナビリティ
第13回	グローバル化とアジア	いまアジアで何が起きているのか
第14回	アジアの開発と市民社会	アジア社会の視点から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考文献などは適宜、紹介します。

【参考書】

参考文献などは適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

●成績評価の基準は、①定期試験（60%）、②ミニ・レポートなどの課題（20%）、③毎週の授業のコメントやグループ・ディスカッションのコメント（20%）など、総合的に評価します。

●毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

アジア社会について深い分析と議論につながるようにしたいと思っています。

【その他の重要事項】

●今年度はすべての授業は対面／教室で行います。ただし、COVID-19対策で、Zoom/オンラインでのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの回を設ける可能性もありますので、その準備もしておいてください。

●本授業の連絡や課題の提出などは、大学の学習支援システムHoppiiを使います。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course is to study Asian societies and economies. The issues include discussion on history, politics, ethnicity, rural development, industrialization, urbanization, environment, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in the globalizing Asian societies. Students are required to study social problems in Asian countries, to submit short papers and to take a term-end examination.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to analyze and to discuss the social sciences issues on Asian studies.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to study before/after a class each week and for a term-end examination. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be according to (1) Term-end examination (60%), (2)Short reports (20%), and (3) In-class contribution (20%).

ARSe200EC（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 200）

地域研究（中国）

大崎 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古来、独自の文化的秩序観による一個の「世界」を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、グローバル化が進展する現代国際社会の中で、その特徴をさまざまな具体的事例で検証、分析、考察します。

【到達目標】

現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえる練習を重ね、現在の中国共産党と中華人民共和国の諸政策を的確に分析していく視座を形成します。

脅威論や仮想敵国論ばかりが跋扈するこの国のメディアの報道も分析対象とします。一緒に学んだ後、そうしたニュースについて、不足している観点や記者の不勉強や取材不足をきちんと指摘できる media literacy も身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は教員による概説と問題提起、グループ討論の形とします。後半はテーマ別に個人や小グループでの発表、議論など少し規模の大きなゼミのような形に展開できればと考えています。そのために学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時空としたいと思います。

コロナ前までは隔週でやりとりする「交換日記」を実施してきましたが、コロナ後は、ハイフレックス方式をとっていることもあり、学習支援システムを利用し、応答しています。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有します。

授業計画は、実際の展開によって若干の変更をすることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中国とは？	中国的（中華）世界秩序
2	近現代史(1)	屈辱の近代(1)
3	近現代史(2)	屈辱の近代(2)
4	近現代史(3)	中華人民共和国(1)
5	近現代史(4)	中華人民共和国(2)
6	近現代史(5)	「改革・開放」
7	近現代史(6)	香港、台湾
8	近現代史(7)	日・中関係
9	事例研究(1)	「課題1」の検討
10	事例研究(2)	内政(1)
11	事例研究(3)	内政(2)
12	事例研究(4)	外交(1)
13	事例研究(5)	外交(2)
14	事例研究(6)	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はありません。毎回プリントを配布します。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとにできるだけ多く紹介します。

【成績評価の方法と基準】

(1)「課題1」 関連する新聞記事を3本とりあげ、重要語句などに脚注をつけ、コメントをしてください。

(2)「課題2」 指定するいくつかのテーマの中から1つ選び、小論文を作成してください。

(3)参加 「交換日記」+ 授業内発表

(1) 35% + (2) 45% + (3) 20%で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時空としたいと思います。グループ討論による相互学習等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきます。「交換日記」等で意見や質問や連絡など、遠慮なくどうぞ。

【その他の重要事項】

北京駐在記者としての取材、報道の経験を踏まえ、現代中国に関する情報収集や分析の literacy を具体的に伝え、メディアの伝える「中国像」の歪みと実像とを比較考量したいと考えています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to contemporary China. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (30%), term-end report (40%), and in-class contribution (30%).

FRI300EC, FRI300ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300, 情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300)

メディアの思想

小林 直毅

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「思想」とはthought、つまり「思考されたこと」です。メディアについてどのような問題が、どのように思考され、今日のメディアをめぐるどのような思考が必要なのかを理解することがこの授業の目的です。

【到達目標】

メディアによって人びとが、どのようにして、どのような出来事を経験しているのかを理解できるようになることを第一の目標にします。その上で、今日のメディア環境の可能性と課題を実践的に考えることができるようになることを第二の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業で進めます。

5～6点の配布資料を学習支援システムで配信しますので、それらを使って受講を進めてもらいます。

配布資料は受講の事前、事後の学習のためのものです。受講者はこの配布資料を参照しながら、講義を聴いてノートを作成していきます。受講後さらに、配布資料や参考文献などを参照して、**学んだことを文章化した「講義ノート」を作成**します。受講者にはこれを毎週重ねてもらいます。

授業期間内で3～5回のリアクションペーパーの提出を求めます。それについて授業内で講評、解説します。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この講義の概要とねらい
2	環境世界という考え方	理論生物学の成果に学ぶ。
3	環境世界としてのメディア環境	メディアと身体と生活とのかかわりを考える。
4	小括「環境世界・身体・メディア」	リアクションペーパーへのリプライ（1）
5	記号とその意味の成り立ち	記号学の思想に学ぶ。
6	記号の意味の多様性	記号の可能性を考える。
7	映像記号と身体	「コードのないメッセージ」を考える。
8	小括「記号・身体・メディア」	リアクションペーパーへのリプライ（2）
9	読まれ、見られる出来事	メディア環境の可能性を考える。
10	語られ、描かれる出来事	メディア環境の秩序を考える。
11	意味としての出来事	メディア環境における出来事の実験を考える。
12	小括「メディアテクスト・メディア言説・メディア表象」	リアクションペーパーへのリプライ（3）

13 メディアと権力 メディア環境のポリティクスを考える。

14 メディアと主体 メディア環境におけるイデオロギーを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義の事前、事後の学習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しません。

【参考書】

毎回の配布資料や講義のなかで示しますが、そこで紹介された文献をできるだけ多く読んでください。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーがすべて提出されていて、いずれの内容も問題がない場合は、それをもって成績全体の60%の評価とします。さらに学期末試験を実施しますので、これを単位認定の必須要件とするとともに、その評価を成績全体の40%の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布します。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will understand how the media as a technique and institution that enables human recognition and existence is thought, and what kind of thought is needed about the media today.

Learning objectives:

The primary goal of this course is to understand how and what events they are experiencing through the media. The second goal is to be able to think practically about the possibilities and problems of today's media environment.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, Short reports: 60%

SOC300EC, SOC300ED (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

社会問題とメディア

大森 翔子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会における諸問題とメディアとの関係について、具体的な事例・研究例を挙げながら学び、社会学・社会心理学・政治学で検討される、メディア効果に関する諸理論について理解を深める。加えて、各回で取り上げるトピックに関する最新の知見を学ぶ。

【到達目標】

- ①社会問題とメディアの関係について、社会学・社会心理学・政治学的な視点から説明・考察できるようになる。
- ②社会問題とメディアに関連する最新の研究について、その研究動機・位置づけや結果を説明できるようになる。
- ③授業で取り上げた研究が、最新の社会情勢とメディア環境に照らして妥当かどうかを考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式によります。スライドには記載せず、調査・実験例などを紹介することがあります。また、毎回の授業時間内には、学習支援システムを利用して、講義内容に関する質問に回答してもらい、リアクションペーパーとして提出してもらいます。翌週授業の冒頭でリアクションペーパーの質問について解説を行います。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「社会問題とメディア」講義の射程
第2回	マスメディアの役割	マスメディアの役割・各国のメディアシステムについて学ぶ
第3回	報道内容とマスメディアの経営問題	マスメディアの経営状況と報道内容の関係について考える
第4回	メディア効果研究のアプローチ方法	メディア効果研究について代表的な方法を学ぶ
第5回	メディア効果論概史(1)	弾丸理論から限定効果論までの諸研究を概観する
第6回	メディア効果論概史(2)	新強力効果論の登場と学説を支える諸研究について学ぶ
第7回	メディア効果論概史(3)	近年有力である「最小効果論」を中心に学ぶ
第8回	社会問題とメディア各論(1)レイシズムとメディア	レイシズムとそれを伝えるメディアについて考える
第9回	社会問題とメディア各論(2)選挙とメディア	選挙とメディアの関係について考える
第10回	インターネット時代の社会問題とメディア(1)インターネットメディアを通じた意見表明	社会問題に対する意見表明が、メディアを通じてどのように行われているのか、またその利点と問題点は何かについて学ぶ

第11回	インターネット時代の社会問題とメディア(2)インターネットとフェイクニュース	インターネットを通じたフェイクニュースの伝播について、諸研究を概観しながら学ぶ
第12回	インターネット時代の社会問題とメディア(3)インターネットと選択的接触	インターネット空間における選択的接触が引き起こす問題を中心に学ぶ
第13回	インターネット時代の社会問題とメディア(4)複合的なメディア環境の分析	メディア環境の実相に合わせた研究がどう行われるべきかについて考える
第14回	期末試験	学期末試験を行い、理解内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。授業では教員作成の資料を配布、またトピックごとの参考文献を授業中に紹介します。

【参考書】

谷口将紀（2016）『政治とマスメディア』東京大学出版会。
田崎篤郎・児島和人（2003）『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版。
蒲島郁夫・竹下俊郎・芹川洋一（2007）『メディアと政治』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容にもとづく平常点(20%)、期末試験(80%)の合計をもって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業冒頭に実施するリアクションペーパーの紹介が好評のため、今年度も行います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業ではLMSシステムを通じてスライドを配布するので、ダウンロードをし、授業中に紙・電子媒体でアクセスできるようにしてください。

【その他の重要事項】

計量的な手法を用いた実証研究を多く取り上げます。授業内容を理解するために、基礎的な統計データ読解のスキルを有することが望ましいです。本講義の履修条件ではありませんが、「メディア研究法入門B」や「社会調査のリテラシー」、「統計学Ⅰ・Ⅱ」といった、基礎的な統計関連科目の先行・平行履修を強く推奨します。

【Outline (in English)】

In this course, students learn about the relationship between various problems in society and the media, using specific examples and research, and deepen their understanding of various theories on media effects examined in sociology, social psychology, and political science. The goal of the lecture is to enable students to explain and discuss the relationship between social issues and the media from sociological, social psychological, and political perspectives. Except for the first class, students are required to review the contents of the previous class by reading the distributed slides and notes taken by the students themselves. When instructed, students should read the literature in advance. The standard preparation and review time for this class is 2.5 hours each. Your overall grade in the class will be decided based on the content of the reaction paper(20%) and final exam(80%).

HUI300ED（人間情報学 / Human informatics 300）

認知科学**天野 陽一**開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知科学とは、人の心の働きや性質を情報処理の観点から解明しようとする学問である。普段はあまり意識することもないが、私たちの日常生活は知覚・記憶・推論・判断・創造性といったさまざまな心の働きに支えられている。本講義では、こうした認知機能の仕組みや特徴について、実証研究を紹介しながら解説する。認知科学の基礎的な知見について学び、私たちの日常生活と認知機能の関係を深く理解することを目指す。

【到達目標】

基礎的な認知の働きとメカニズムについて説明することができる。また、その働きを踏まえ、私たちの日常場面を対象として、人間の諸活動を分析的に理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回のテーマについて講義形式で学習する。授業資料の配付や課題の出題は Google Classroom を用いて行う。Google Classroom による質問への回答と全体へのフィードバックを適宜行う。なお、授業計画は授業の展開によって変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明，認知科学の概要について学ぶ
第 2 回	感覚・知覚・認知	外部からの情報の受け取り方について学ぶ
第 3 回	錯覚	錯覚を通して知覚の特徴について学ぶ
第 4 回	注意	注意の働きと選択的注意について学ぶ
第 5 回	記憶	記憶と忘却のメカニズムについて学ぶ
第 6 回	言語	言語習得と発話内容の理解について学ぶ
第 7 回	問題解決と推論	問題解決の方法と推論の過程について学ぶ
第 8 回	判断と意思決定	判断メカニズムと認知バイアスについて学ぶ
第 9 回	認知と感情	認知と感情の相互関係について学ぶ
第 10 回	態度	態度の形成と変容について学ぶ
第 11 回	他者に対する認知	対人認知と印象形成について学ぶ
第 12 回	集団における認知	集団状況での認知の特徴について学ぶ
第 13 回	創造とデザイン	デザインと認知科学の関係について学ぶ
第 14 回	まとめ・試験	これまでの学びを振り返り，試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業回ごとに予習のための資料や課題が提示されますので、必ず取り組むようにしてください。また、授業後には指定された課題に取り組むほか、授業内容を振り返り要点をまとめるなどの復習を各自で行ってください。詳しくは初回のガイダンスにて説明します。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いず、配付資料にもとづいて授業を進めます。

【参考書】

授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%，試験 50%として総合的に判断します。平常点には、授業内外で取り組む課題の提出状況と内容も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Google Classroom にアクセスできる環境を用意してください。授業資料の配布や課題の出題は Google Classroom を用いて行います。Google Classroom の登録方法は学習支援システムにて案内します。

【Outline (in English)】

This course introduces fundamental findings of cognitive science and aims to deepen students' understanding of the relationship between cognitive functions and everyday life. By the end of the course, students are expected to be able to explain basic cognitive functions and analyze human activities in daily contexts. Students should spend approximately two hours before and after each class for preparation and review. Grading will be based on a final exam (50%) and class participation, including assignment submissions (50%).

LAW200ED (法学 / law 200)

知的財産権法

白田 秀彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知的財産権法の入門講義である。
情報社会における財産として重要性を飛躍的に増した知的財産権法について、まず特許・商標・意匠および著作権といった全領域を概観しそれぞれの役割を理解したあと、文科系学生にとってもっとも身近で重要な著作権法について具体的に検討する。

【到達目標】

知的財産権制度全体の構造を理解し、とくに著作権について具体的な適切な取扱いができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション資料を用いながら講義する。課題解決型学習にも取り組みたい。

対面を原則とする。しかし、感染症その他の状況により、オンデマンドによる対面講義とほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。提出された課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

Google Classroom のクラスコードは 3rt6yu6 である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要および受講上の留意点。
2	創作概念	知的財産権の中核概念である「創作・発明」について検討する。
3	模倣概念	「創作・発明」と対になる概念である「模倣」について検討する。
4	権利と契約	知的財産権の保護に関して、法律の基本的な概念について説明する。
5	特許	特許・実用新案制度について解説する。
6	商標	商標制度について解説する。
7	意匠	意匠制度について解説する。
8	著作権・著作物	著作権の対象となる著作物について解説する。
9	著作権・派生著作物	二次的著作物、編集著作物等の派生的な著作物について解説する。
10	著作権・著作者	著作権の主体となる著作者について解説する。また、著作者人格権について解説する。
11	著作権・著作権の制限	著作権が制限される場合について解説する。
12	著作権・隣接権	メディア産業にかかわる隣接権について解説する。

13	著作権・特殊な規定	美術、音楽、レコード、映画、放送といった業界の特殊な事情を反映した規定をまとめて解説する。
14	事例検討	具体的な事例をいくつか取り上げながら、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、各セクションごとに適宜課す小論文の合算点と期末に行う対面での小試験によって行う(100%)。すなわち、各小論文を10段階評価し、期末にその小論文への評価を合算する。続いて最高得点をとった学生の素点を100点と換算し、以下全員の素点を換算する。また、期末の対面での小試験と、それまでの小論文の内容を比較し、あまりにも内容の差が大きい場合は、それ以前の小論文について大幅な減点を行う。

人工知能等により生成した小論文等を提出してはならない。生成文を使用したことか明らかな答案については0点として処理する。期末の対面での小試験はそれ以前の小論文が人工知能等によって生成されたものでないことを確認するためのもので、教室内で電子機器等を使用しない状態で答案を書くものとなる。

また、論文試験や小論文等において剽窃(コピー)を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意しよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関する連絡は、すべて Google Classroom 上で行う。

受講生は、下記の URL に必ず登録しておく必要がある。

<https://classroom.google.com/c/NzM2NTMwODM5MjEw?cjc=3rt6yu6>

【Outline (in English)】

This is an introductory lecture on intellectual property law. First, we will overview all areas of intellectual property law, such as patents, trademarks, designs, and copyrights, to understand their respective roles, and then specifically examine copyright law, which is the most familiar and important for liberal arts students.

LAW300ED (法学 / law 300)

メディア法

白田 秀彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：月1/Mon.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報が社会の様々な場面において重要になっている。この情報化は、今後もさらに進んでいくものと予測される。こうしたなか、これまで法学のテーマとしては直接的に取り扱われなかった「情報」に関する一定の法領域が形成されてきた。こうした「情報法」として括られる領域には、複数の法領域が少しずつ関係しており、範囲が広いものとなっている。また、論者によって対象としている領域に差があるのも事実である。このため本講義では、基本的な視点から「情報」と「法」のかかわりについて解説する。

【到達目標】

「法」が「情報」をどのように取り扱ってきたのかという歴史を理解すること。加えて情報社会の現状を把握し、現在から将来へ向かって「法」がどのように変化するか見通せることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目は春学期「メディア社会学基礎C」を履修したのちに履修することが望ましい。

対面を原則とする。しかし、対面講義とほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定されたGoogle Classroomにて行う。課題に対する講評は、Google Classroomのストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

Google Classroomのクラスコードはvv7ani2である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	名誉・信用棄損 1	メディアにおいて頻繁に問題となる名誉・信用棄損の概念について解説する。
2	名誉・信用棄損 2	名誉・信用棄損の実例について日本とアメリカの事例を挙げながら検討する。
3	放送規制 / 通信規制 1	放送事業や通信事業はどのような性質を理由として、法規制のもとにあるのか。
4	放送規制 / 通信規制 2	放送事業や通信事業はどのような歴史的経緯をたどりながら現在の形態になったのか。
5	放送規制 / 通信規制 3	情報社会においてどのように基礎条件が変化し、規制内容が変化するのだろうか。
6	プライバシー 1	プライバシーとは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
7	プライバシー 2	プライバシーとは、現在においてどのような概念なのか。
8	プライバシー 3	情報社会におけるプライバシー概念はどのように変化するのか。
9	個人情報保護 1	個人情報保護とは、その始まりにおいてどのような概念なのか。

10	個人情報保護 2	個人情報保護とは、また現在においてどのような概念なのか。
11	個人情報保護 3	情報社会における個人情報保護にはどのような課題があるのだろうか。
12	猥褻と社会と法 1	生命に必要な生殖がなぜ猥褻概念と結合したのか。なぜ抑制されるのか。
13	猥褻と社会と法 2	猥褻概念の歴史的発展について、イギリス・アメリカと日本での展開を開説する。
14	猥褻と社会と法 3	情報社会において私たちは何を抑圧すべき表現として認識するのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『情報法テキスト』 講義中の配布物や出席票をまとめたもの。入手方法はGoogle Classroomにて案内する。

【参考書】

Google Classroomのストリームにて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、各セクションごとに適宜課す小論文の合算点と期末に行う対面での小試験によって行う(100%)。すなわち、各小論文を10段階評価し、期末にその小論文への評価を合算する。続いて最高得点をとった学生の素点を100点と換算し、以下全員の素点を換算する。また、期末の対面での小試験と、それまでの小論文の内容を比較し、あまりにも内容の差が大きい場合は、それ以前の小論文について大幅な減点を行う。

人工知能等により生成した小論文等を提出してはならない。生成文を使用したことか明らかな答案については0点として処理する。期末の対面での小試験はそれ以前の小論文が人工知能等によって生成されたものでないことを確認するためのもので、教室内で電子機器等を使用しない状態で答案を書くものとなる。

また、論文試験や小論文等において剽窃(コピペ)を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義に関する連絡は、すべてGoogle Classroomにて行う。受講生は下記のURLから登録しておくことが必要である。
<https://classroom.google.com/c/NzM2NTMwOTQzMjY0?cjc=vv7ani2>

【Outline (in English)】

Information technologies has played an important role in our lives. They will continue to evolve. In such circumstance, an area of law that deals with information, which has long been ignored, has been formed in some degree. Such area so-called "information law" relates with multiple areas of law, therefore it has a wide spectrum. It is true that advocates of view differ from each others. For these reasons, this subject focuses on explaining relationship between information and law from basic perspective.

SOC300EC, SOC300ED (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

公共性と民主主義 I

鈴木 宗徳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性の思想史とその現代的意義を学ぶ

【到達目標】

歴史学・政治学・社会学における「公共性」をめぐる諸思想を理解することによって、参加民主主義のあるべき姿について考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

公共性（または公共圏, public sphere, Öffentlichkeit）は多様な意味をもつ言葉であるが、この講義で扱うのは「市民による開かれた政治的討議の空間」という意味のそれである。ドイツの政治哲学者ユルゲン・ハーバーマスは『公共性の構造転換』（1962）において、18世紀のヨーロッパで議会制民主主義や法治国家といった制度が生まれた背景には、「市民社会」という理念に加え、市民たちが「公共性」という討議の空間（コーヒーハウスや各種メディア）を生み出したという事実があったことを指摘する。

民主主義を実質的なものとするため、つまりそれが利益集団政治・ポピュリズム・大衆の無関心…といった事態に陥らないようにするためには、市民がつねに「公共性」を活性化させなければならない。これは、様々な社会運動や「熟議民主主義」といった現象にかかわる現代政治の課題である。

この講義では、18世紀に生まれた「市民社会」や「公共性」の理念と現実について説明し、それらを現代においてを再興する上で必要とされる要件について検討する。

授業終了後に提出してもらうリアクションペーパーは、翌週の授業で一部をとり上げてコメントを加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ハーバーマスと公共性
2	フランクフルト学派 第一世代の思想	アドルノと啓蒙的理性批判
3	18世紀市民社会とは 何だったのか	自由主義と議会制民主主義
4	市民的（ブルジョア 的）公共圏の成立	『公共性の…』前半の解説
5	18～19世紀市民社会 の実像	コーヒーハウスとドイツ教養市民層
6	19世紀末以降の公共 圏の衰退	『公共性の…』後半の解説
7	ハーバーマスと福祉 国家	グローバル化時代における再分配
8	フレイザーによる ハーバーマス批判	対抗的公共圏と社会運動の位置づけ
9	新しい社会運動とその 後の社会運動論	アソシエーションと中間集団をめぐって
10	ハーバーマスのコ ミュニケーション的 行為論	近代化による生活世界の合理化と植民地化

11	アーレントの公共性 論と複数性	全体主義と画一性への批判
12	闘技民主主義と熟議	ムフの思想とミニ・パブリックス
13	地域における社会運 動の実践	ゲスト講師による講演
14	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントで作成したレジュメを学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未来社）を出発点とし、この本をめぐって展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。その他、授業中にも参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（60％）と期末筆記試験（40％）。

リアクションペーパーは200～800字で、第2回の講義から毎回学習支援システム上に提出を求める。期末筆記試験は授業内容の理解度を問う論述式の問題で、問いは事前に予告しないので、必ず授業に出席し、試験前には授業で扱った内容全体を復習すること。代替レポート等による「救済措置」は一切行わない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

学習支援システムによるメール連絡（特にリアクションペーパーの提出方法）に気を付けておくこと。質問は担当教員にメールで連絡すること。

【Outline (in English)】**Course Outline and Objectives**

This course introduces the history of the idea of publicness and its contemporary significance.

Learning Activities outside of Classroom

Before each lecture, students will be expected to have read the resume and reference books. The required study time is at least four hours for each lecture.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on the weekly reaction paper(60%) and final exam(40%).

SOC300EC, SOC300ED (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

公共性と民主主義Ⅱ

鈴木 宗徳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性と社会問題の現実を学ぶ

【到達目標】

公共性や社会運動をめぐる実践的諸問題を理解し、理想的な市民社会を構想するための力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「公共性」とは、現実存在する空間や運動を表す概念であるとともに、存在すべき理想を表す規範的な理念でもある。しかし実際には、理想的な「公共性」の実現を妨げる問題が数多く存在する。春学期（Ⅰ）の授業が主として理想を扱うのに対し、秋学期（Ⅱ）では、公共性の実現がいかに困難であるか、その現実について検討する。

とりわけ外国人／移民の共生というテーマを通して、包括的な公共圏の形成を阻む「壁」がどこにあるのかについて考察する。さらに近年における国内外の政治運動をとり上げ、社会運動を組織する上での課題がどこにあるのかを明らかにする。

授業終了時に提出してもらうアクションペーパーは、翌週の授業で一部をとり上げてコメントを加える。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のまとめ・秋学期の課題	公共性論の理論的困難
2	科学技術と公共性	専門家支配を超える
3	フランクフルト学派の科学技術批判	マルクーゼとハーバーマス
4	フランスにおける移民労働者の排除	ドキュメンタリー視聴
5	フランスの「郊外」問題とスカーフ論争	排外主義の原因を探る
6	日系人労働者の生活と教育	定住外国人との共生
7	テイラーの思想と多文化主義政策の是非	マイノリティ文化の保護をめぐって
8	本質主義／アイデンティティという“壁”	ポストコロニアリズムを手がかりに
9	朝鮮学校と差別扇動	排外主義に抗する
10	インターネットと公共性	集団分極化とフェイクニュース
11	不服従と直接行動	“非暴力”的直接行動を理性化する
12	「沈黙」とジェンダー	トーン・ポリシングとマンスプレイニング
13	政治教育の可能性	教育における中立性とは
14	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントで作成したレジュメを学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未来社）を出発点とし、この本をめぐって展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。

【成績評価の方法と基準】

アクションペーパー（60％）と期末筆記試験（40％）。

アクションペーパーは200～800字で、第2回の講義から毎回学習支援システム上に提出を求める。期末筆記試験は授業内容の理解度を問う論述式の問題で、問いは事前に予告しないので、必ず授業に出席し、試験前には授業で扱った内容全体を復習すること。代替レポート等による「救済措置」は一切行わない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

学習支援システムによるメール連絡（特にアクションペーパーの提出方法）に気を付けておくこと。質問は担当教員にメールで連絡すること。

【Outline (in English)】

Course Outline and Objectives

This course introduces the reality of publicness and social issues.

Learning Activities outside of Classroom

Before each lecture, students will be expected to have read the resume and reference books. The required study time is at least four hours for each lecture.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on the weekly reaction paper(60%) and final exam(40%).

SOC300ED (社会学 / Sociology 300)

特講 (コミュニケーション・デザイン論)

石寺 修三、青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は広告会社である(株)博報堂との協力関係のもと、広告の現場で活躍する一線級の講師陣による授業で構成します。ただし、単なる事例紹介中心の広告表現論ではなく、広告制作における思考プロセスを辿りながら、コミュニケーションという行為の本質を掘り下げる「刺激と発見の場」を目指します。

【到達目標】

講義を通じて皆さんに学んでほしいことは、以下の通りです。

- ①コミュニケーションという行為において重要な“考えること”と“創りあげること”の難しさと楽しさに気づく。
- ②コミュニケーションのプロが持つ視点やスキルを体験することにより、個々人が自律的に創発しあう関係構築に関与ようになる。
- ③自分の考えを効果的に伝えることに関する基本的な知識とスキルを獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】**【講義の構成】**

本講座はあらかじめ設定した授業全体を貫くテーマのもと、以下の5つのステップに分け、いずれも簡単な演習を挟みながら進めます。

I. 基調講義 II. 発見するチカラ III. 考え抜くチカラ IV. 創りあげるチカラ V. 伝えるチカラ

【講義の形態】

対面授業を基本とし、毎回出席をとります。

【課題に対するフィードバック】

毎回入力してもらう「学びと気づき」を随時、講義内で引用するほか、個人／グループでの発表に対しても、その場で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	基調講義	講座の概要を共有すると共に、ブランドに関する基本的な知識を学びます。
2回	発見するチカラ (1)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。(生活者発想の視点から)
3回	発見するチカラ (2)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。(観察調査の視点から)
4回	発見するチカラ (3)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。(統計データの視点から)
5回	考え抜くチカラ (1)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。 (論理的とは何か)
6回	考え抜くチカラ (2)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。 (論理を組み立てる構造)

7回	考え抜くチカラ (3)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。 (ロジックチャートの作り方)
8回	創りあげるチカラ (1)	他者と創発しあい新しいアイディアを生むための手法を学びます。(ワークショップのやり方)
9回	創りあげるチカラ (2)	他者と創発しあい新しいアイディアを生むための手法を学びます。(ワークショップによるアイデア創造)
10回	創りあげるチカラ (3)	他者と創発しあい新しいアイディアを生むための手法を学びます。(ワークショップによる課題テーマ解決)
11回	伝えるチカラ (1)	伝えるチカラアイディアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。(コンセプトを創造する)
12回	伝えるチカラ (2)	伝えるチカラアイディアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。(キャッチコピーの書き方)
13回	伝えるチカラ (3)	伝えるチカラアイディアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。(広告表現の作り方)
14回	試験 (論文課題)	講座を通して学んだことなどについての論考と最終的な成果物(ポスター)の提出。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習については、回によって簡単な事前課題があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しませんが、講義に関連する参考書を推奨します。(参考書欄を参照のこと)

【参考書】

博報堂生活総合研究所『生活者発想塾』(日本経済新聞社,2010)
博報堂生活総合研究所『生活者の平成30年史』(日本経済新聞社,2019)
博報堂生活総合研究所『デジタルグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析』(宣伝会議,2021)

【成績評価の方法と基準】**【成績評価について】**

出席状況に基づく平常点 (80 %) と論文課題 (20 %) で評価を行います。

【出席確認について】

出席確認は、①対面での出席確認 と ②講義翌日の24時までに学習支援システム内の「課題」欄に入力する“学びと気づき” の2つが揃った者を「出席」と認めます。なお、講義開始後30分以降の入室と、講義終了30分以前の退室は「出席」とみなさないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義の翌日24時までに授業に関する“学びと気づき”を、学習支援システムの「課題」欄に入力することをルールとします。なお、記入された内容は、次回以降の授業に随時反映させていきます。加えて、学習支援システム内の「授業内掲示板」も活用して、インタラクティブなやりとりを進めたいと思います。学生諸君の積極的な書き込みを期待します。

【学生が準備すべき機器他】

特に必要な機器や事前準備はありません。当日配布するレジュメに書き込みながら受講する講義が中心となります。

【その他の重要事項】**【受講者への要望】**

本講義は基本的に各回ないし各ステップで完結しますが、同時に1つのテーマのもとで連続性を持った構成となっています。その効果は全カリキュラムを受講することで最大化するので、“全ての回”に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望します。

【Outline (in English)】

Under collaboration with Hakuhodo Inc., a major advertising company, this special lecture will be directed by forefront business people from the advertisement industry. However, the lecture is not just focused on studying advertisement expressions through case studies. Our aim is to provide “a platform of stimulation and discovery” where the students will explore the essence that lies in the act of communication by following the thinking process in advertisement production.

What I want you to learn from the lecture is the following:

1. Realize how difficult and fun it is to "think" and "create," which are important in the act of communication.
2. Experience the perspectives and skills of communication professionals to enable you to build autonomous and emergent relationships.
3. Acquire basic knowledge and skills by effectively communicating your ideas. In addition to creating posters to be used in the final presentation, simple preliminary assignments will be given in some lectures. The standard preparation and review time for this class is two hours. This lecture is structured so that students can gain a great deal of insight by practicing what they learn in class in their daily lives. I hope that students will apply what they have learnt here in their everyday seminar activities and in their papers and reports. Students will be evaluated on ordinary points (80%) which are based on their attendance and the paper assignment.

SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

メディア文化論

琴 仙姫

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「メディア文化論」の科目では、写真、映画、ビデオ、デジタルメディアなどがテクノロジーの発展普及により、どのような変遷を遂げてきたかを様々な映画、現代美術作品、ポピュラーカルチャーなどの例を概観しながら考察します。美術理論とメディア論、カルチュラル・スタディーズの基礎を学ぶことで、メディア文化と主流のマス・メディア、社会の間にある複雑な相関を紐解いていきます。国際社会の中でのメディア文化の社会的な実践を考察すると同時に、現代社会が直面している様々な問題の真因について歴史的な経緯をたどり、ポストコロニアル理論を通して少しずつ紐解くことを試みます。現代美術と映像分野における著名なアーティストの作品と一緒に鑑賞し、テキストを読みながら進行し、授業の終わりの方でグループディスカッションと全体ディスカッションの時間を設け、対話を行いながら進めます。学期末にはクリエイティブティーを表現する機会があります。（論文と選択可）

楽しみながら創造性を学ぶクラスです。

【到達目標】

理論的、美学的、実践的なアプローチをととして、現代社会におけるメディア文化がテクノロジーの発展とともにどのような変遷を遂げてきたのかを概観し、数々の触発的な作品を紹介しながら、メディア文化への多角的な考察を学生たちと共に試みる。表層的なものの見方から脱却し、リアリティーに即して実際にどのようなことがメディア文化を通して行われているかを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

プレゼン資料を用いながらの講義、作品の映像をととしての鑑賞、グループディスカッション、全体ディスカッションを交えながらの進行になります。

受講者は、ディスカッションに積極的に貢献することが推奨されます。毎回の授業のおわりに、リアクションペーパーで授業中に学んだことと感想を記述して提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要、学習計画、中間・期末課題の説明
2	メディアとテクノロジーの交点で	ヴァルター・ベンヤミンの『複製技術時代の芸術』を読み、電気・写真の発明からテクノロジーの発展とともにメディア文化がどのように変遷したかを学ぶ
3	メディア論とニュー・メディアアート I	マーシャル・マクルーハンの『メディア論—人間の拡張の諸相』を学び、マスメディア・映像・映画・アートでどのようにメディアが扱われてきたかを考察する

4	メディア論とニュー・メディアアート II	マクルーハンの熱いメディアと冷たいメディアについて学び、美術作品における内容とフォームとの関係性を学ぶ
5	ポストモダニズムとメディア文化 I	ジャン＝フランソワ・リオタールのポストモダニズムの文献を読みながらメディア文化におけるポストモダニズムを学ぶ
6	ポストモダニズムとメディア文化 II	フレドリック・ジェームソンの文献を読みながらメディア文化におけるポストモダニズムを学ぶ
7	シネマとスペクタクル I	ジョン・バージャーの『イメージ Ways of Seeing—視覚とメディア』の第3章「見ること」と「見られること」の章を読み、消費されるために作られる女性のイメージとその弊害について考察する
8	シネマとスペクタクル II	ギー・ドゥボールの『スペクタクルの社会』を読みつつ、ハルーン・ファロッキの映像作品を鑑賞し、社会におけるスペクタクルのメカニズムを学ぶ
9	シミュラクルとメディア文化 I	ジャン・ボードリヤールの『シミュラクルとシミュレーション』を読み、メディアの大衆社会への影響と、現代美術での実践を学ぶ
10	シミュラクルとメディア文化 II	リアリティーとハイパーリアル概念を学び、Yang Fudongなどの作品を鑑賞する
11	メディアにおけるポストコロニアル理論とカルチュラル・スタディーズ I	エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読み、ポストコロニアル理論とメディア文化の相関を学ぶ
12	メディアにおけるポストコロニアル理論とカルチュラル・スタディーズ II	エドワード・サイードの『文化と帝国主義』を読み、ポストコロニアル理論とメディア文化の相関を学ぶ
13	学生発表とディスカッション	クリエイティブ課題を選択した学生の発表及びQ&A、フィードバックのディスカッション
14	学生発表とディスカッション	クリエイティブ課題を選択した学生の発表及びQ&A、フィードバックのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に課題文献を読む必要はありません。その代わりに、授業後に紹介された文献を読み、次の授業での全体ディスカッションやグループディスカッションへの準備をすることが推奨されます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。リーディング用のPDFファイルをオンラインで提供する予定です。文献は毎回の授業で発表される予定です。

【参考書】

-『複製技術時代の芸術』ヴァルター・ベンヤミン著（晶文社）
 -『シミュラクルとシミュレーション』ジャン・ボードリヤール著（法政大学出版局）
 -『スペクタクルの社会』ギー・ドゥボール著（ちくま学芸文庫）
 -『メディア論—人間の拡張の諸相』マーシャル・マクルーハン著（みすず書房）
 -『ポストモダンの条件』ジャン＝フランソワ・リオタール著（水声社）
 -『Postmodernism or, the Cultural Logic of Late Capitalism』Fredric Jameson著（Duke University Press）
 -
 -『イメージ Ways of Seeing—視覚とメディア』ジョン・バージャー著（PARCO出版）
 -『Visual Pleasure and Narrative Cinema』Laura Mulvey 著
 -『オリエンタリズム』エドワード・W.サイード 著

-『文化と帝国主義』エドワード・W. サイド 著

-『地に呪われたる者』フランツ・ファノン 著

-『崩れゆく絆』チヌア・アチェベ 著（光文社）

参考文献は、諸般の事情により変更されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加を確認する毎授業の課題：70%

期末課題：30%

欠席4回以上から単位取得が不可になります。（欠席は3回まで）

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業でたくさんの美術作品の映像を鑑賞し、文献を読みながら進めます。

適時学生とのコミュニケーションをとることを大切にすることを心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

1年生から履修可能なメディア社会学基礎Bが秋学期に開講されます。授業の内容が繋がっておりますので、メディア文化論と履修することが推奨されます。

*講義のスケジュールは受講者のニーズや関心に合わせて調整することがあります。

【Outline (in English)】

In the "Media Culture Theory" course, we will explore how media culture has evolved with the development of technology through theoretical, aesthetic, and practical approaches. A number of inspiring artworks will be introduced. By learning the basics of art theory, media theory, and cultural studies, students will deepen their understanding of the complex correlations between media culture, mainstream mass media, and society. We will examine the social practices of media culture within the international community while tracing the historical background of the root causes of numerous social issues facing our contemporary society. We will view various works of prominent contemporary art and film artists together, and there will be a group discussion and class discussion time toward the end of the class. At the end of the semester, students will have an opportunity to express their creativity. It is a fun and creative class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

< Assessment >

Class participation (attendance): 70%

Final assignment: 30%

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

広告・消費文化論

青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において広告は、生活者のブランド選択やライフスタイルなどに様々な影響を与えている。またメディアを通じて発信される広義の広告情報は、コンテンツとして消費の対象となっている。この状況をふまえ、広告を幅広く消費文化との関連で捉えてその機能を論じ、高度大衆消費社会で広告が果たす役割を記号論等を用いて明らかにする。私たちの価値観や行動様式がいかに広告環境に組み込まれているかを認識し、自覚的・自律的なメディア情報把握、処理を実践する基礎能力を身につける。

【到達目標】

広告表現、消費文化表象の特徴や構造を学ぶことを通して、コンテンツ・広告分析に必要な知識を獲得し、広告の重層的な意味内容を把握できるようになることを目指す。また、消費文化として広告を捉えることで、広い意味での文化についての教養的な知識を習得することも意図する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10・DP11・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

音声パワーポイントを使用するオンデマンド授業である。広告を中心としながら、コンテンツ、デザイン、商品など関連消費文化の表象も取り上げ、領域横断的に記号表現としての構造的な同一性や変換構造、意味内容などを論じる。広告と消費の相互関係を、具体的な事例を通して説明する。授業に対して提出されたリアクションペーパーを次の授業でいくつか取り上げて、講評を行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第2回	現代社会における広告消費・文化	広告・消費文化は、現代社会の中でどのような役割を果たしているのか
第3回	広告の力とは何か	広告は、現代社会の中でどのような力を持っているのか
第4回	広告消費・文化の理論	米国の大量生産・大量消費を支えた広告とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフについて
第5回	<広告知>の発展	広告表現開発における<広告知>の発展とはどのようなものか
第6回	ブランドと広告(1)	ブランディングに効果的な広告とは
第7回	ブランドと広告(2)	ブランディングに効果的な広告とは
第8回	日本の消費文化と広告の起源	江戸期における消費文化とメディア、広告の発達
第9回	明治から昭和初期の広告と消費文化	日本の近代化に伴う広告と消費文化の転換
第10回	日本におけるアメリカ型広告の浸透	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの影響

第11回	高度成長期・バブル期の広告消費・文化	選択基準としての<私>の絶対化と日本的な広告表現の到達点
第12回	現代の日本と世界の広告	現代の広告表現の動向と課題
第13回	文化の力と広告	ソフトパワーの担い手としての広告、およびその文化との関係
第14回	試験・まとめ	講義全体のまとめと論述試験の代替となる特別な課題を出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版新書、2014年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70％）と試験（30％）で行う。授業内で提示された課題を学習支援システムに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回の課題は論述試験の代替として特別な課題を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、授業内容に関して学びのポイントを的確につかんでいるかを把握した上で、より学びが深まるようにフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回を受講し、課題を提出する意欲を持った学生の受講を希望する。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】

Advertisements in modern society influence consumers in many ways including their brand selection and lifestyle. In addition, broad-term advertisement information delivered by the media is a content subject to consumption. Taking this situation into account, we will look at advertising in the broadest sense of the word in relation to consumption culture, discuss its function and clarify the role played by advertisement in our advanced mass consumer society by using semiotics. Students will realize how our values and behavior styles are incorporated in the advertising environment. The class is designed to provide the basic skills to sort out and process subjective and self-directive media information.

Through studying the characteristics and structure of advertising expressions and consumer culture representations, students will be able to grasp the multilayered meanings of advertisements and acquire an educational knowledge of consumer culture in a broad sense.

They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%). Assignments presented in class are submitted to the learning support system. The number of submissions and their contents will be evaluated. In addition, a special assignment will be given in the final session as an alternative to the essay exam. The combined score of both assignments will be the final assessment.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

広告・消費文化論

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において広告は、生活者のブランド選択やライフスタイルなどに様々な影響を与えている。またメディアを通じて発信される広義の広告情報は、コンテンツとして消費の対象となっている。この状況をふまえ、広告を幅広く消費文化との関連で捉えてその機能を論じ、高度大衆消費社会で広告が果たす役割を記号論等を用いて明らかにする。私たちの価値観や行動様式がいかに広告環境に組み込まれているかを認識し、自覚的・自律的なメディア情報把握、処理を実践する基礎能力を身につける。

【到達目標】

広告表現、消費文化表象の特徴や構造を学ぶことを通して、コンテンツ・広告分析に必要な知識を獲得し、広告の重層的な意味内容を把握できるようになることを目指す。また、消費文化として広告を捉えることで、広い意味での文化についての教養的な知識を習得することも意図する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10・DP11・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

音声パワーポイントを使用するオンデマンド授業である。広告を中心としながら、コンテンツ、デザイン、商品など関連消費文化の表象も取り上げ、領域横断的に記号表現としての構造的な同一性や変換構造、意味内容などを論じる。広告と消費の相互関係を、具体的な事例を通して説明する。授業に対して提出されたリアクションペーパーを次の授業でいくつか取り上げて、講評を行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第2回	現代社会における広告消費・文化	広告・消費文化は、現代社会の中でどのような役割を果たしているのか
第3回	広告の力とは何か	広告は、現代社会の中でどのような力を持っているのか
第4回	広告消費・文化の理論	米国の大量生産・大量消費を支えた広告とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフについて
第5回	<広告知>の発展	広告表現開発における<広告知>の発展とはどのようなものか
第6回	ブランドと広告(1)	ブランディングに効果的な広告とは
第7回	ブランドと広告(2)	ブランディングに効果的な広告とは
第8回	日本の消費文化と広告の起源	江戸期における消費文化とメディア、広告の発達
第9回	明治から昭和初期の広告と消費文化	日本の近代化に伴う広告と消費文化の転換
第10回	日本におけるアメリカ型広告の浸透	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの影響

第11回	高度成長期・バブル期の広告消費・文化	選択基準としての<私>の絶対化と日本的な広告表現の到達点
第12回	現代の日本と世界の広告	現代の広告表現の動向と課題
第13回	文化の力と広告	ソフトパワーの担い手としての広告、およびその文化との関係
第14回	試験・まとめ	講義全体のまとめと論述試験の代替となる特別な課題を出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版新書、2014年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70％）と試験（30％）で行う。授業内で提示された課題を学習支援システムに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回の課題は論述試験の代替として特別な課題を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、授業内容に関して学びのポイントを的確につかんでいるかを把握した上で、より学びが深まるようにフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回を受講し、課題を提出する意欲を持った学生の受講を希望する。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】

Advertisements in modern society influence consumers in many ways including their brand selection and lifestyle. In addition, broad-term advertisement information delivered by the media is a content subject to consumption. Taking this situation into account, we will look at advertising in the broadest sense of the word in relation to consumption culture, discuss its function and clarify the role played by advertisement in our advanced mass consumer society by using semiotics. Students will realize how our values and behavior styles are incorporated in the advertising environment. The class is designed to provide the basic skills to sort out and process subjective and self-directive media information.

Through studying the characteristics and structure of advertising expressions and consumer culture representations, students will be able to grasp the multilayered meanings of advertisements and acquire an educational knowledge of consumer culture in a broad sense.

They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%). Assignments presented in class are submitted to the learning support system. The number of submissions and their contents will be evaluated. In addition, a special assignment will be given in the final session as an alternative to the essay exam. The combined score of both assignments will be the final assessment.

SOC200ED (社会学 / Sociology 200)

広告・PR論

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広告・PRを中心としたメディアが提供するコンテンツを消費文化の重要な表現として捉えて、その現代的な機能・役割を明らかにするとともに、そのことを念頭に置いた広告・PRプランニングの実践に関わる基礎的な知識を修得することを目的とする。また、広告・PR産業についての理解を深めることも意図する。

【到達目標】

広告・PR業界について産業論の視点からその特徴と構造を把握し、その上で基礎的な広告・PRの基本的なプランニングに有用な基礎知識を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コンテンツ、商品、デザイン、ファッションなどにも通じる、消費文化を形成するものとしての広告・PRの意味や、その企画立案の方法や要件などについて論じる。広告・PRとメディア産業の相互関係を念頭に、具体的な映像・画像やキャンペーンの事例をもとに説明を行なう。毎回課題を学習支援システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	広告ビジネスの概要	広告・PRとは何か、ビジネスの視点からの講義と全体のオリエンテーション
第2回	広告会社の組織（1）	広告会社の組織の全体像とその内容
第3回	広告会社の組織（2）	広告会社の組織における専門職とその内容
第4回	生活者インサイトの発見（1）	インサイト発見のための調査方法と効果的なインサイト事例についてディベート
第5回	生活者インサイトの発見（2）	インサイト発見のための調査方法とプランニングへの応用
第6回	広告計画の流れとアカウント・プランニング	広告のプランニング手法としてのアカウント・プランニング概説
第7回	生活者インサイト（1）	生活者インサイトとは何か、その理論的解説
第8回	生活者インサイト（2）	生活者インサイトの調査方法と古典的事例のケース詳解
第9回	生活者インサイト（3）	生活者インサイトを活用した広告・PRの事例分析
第10回	ブランド戦略と言語ゲーム（1）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論
第11回	ブランド戦略と言語ゲーム（2）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論のアメリカの事例詳解
第12回	クロス・メディア（1）	日本のクロス・メディアの優れた事例について

第13回	クロス・メディア（2）	海外のクロス・メディアの優れた事例について
第14回	広告の未来	広告・PRの未来と試験課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版、2014年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70％）と試験（30％）で行う。最終回は論述試験を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】

Advertisement and PR contents provided by the media are considered as an important expression of consumption culture. The class aims to clarify its contemporary functions and roles, and also provides basic knowledge related with the practice of PR planning. It is also intended to deepen the understanding of the advertising /PR industry.

This course aims to provide students with an understanding of the characteristics and structure of the advertising and PR industry from an industrial theory perspective, enabling them to acquire basic knowledge useful for rudimentary advertising and PR planning. They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%).

PRI200ED (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報科学とコミュニケーション

河合 政之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：受講にはプログラミング入門の修得が必要。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちはかつてないメディアと情報の時代に生きています。その流れにただ流されるのではなく、そうした状況と批判的に向き合い、情報やコミュニケーションの本質とは何かを考えることを学びます。そうすることで、この時代を自分らしく生きるにはどうすれば良いかを、ともに考えていきます。

【到達目標】

情報とコミュニケーション、この「わかっている」ようで「わからない」ものについて、ただ正面からだけアプローチするのではなく、多角的にとらえていきます。歴史的に重要な哲学的議論や社会的問題を踏まえながらも、そのたびごとにいろいろな場面・例を挙げて、情報、メディア、コミュニケーションとは何か、あるいはそれら「でないもの」と何か、そしてそれはなぜなのか、を考えていきたいと思えます。そうすることで、この「わからない」ものが、よりいっそう「わからない」ようになることで「わかる（?）」のが、この授業の目的です。

いわゆるマスメディアや商業的な情報・コミュニケーションにのみ興味のある人には、この授業は向かないかもしれません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

受講者数にもよりますが、可能な限り一方通行的な講義でなく、対話的な形式を取りたいと考えています。授業においては、前回までのリアクションペーパーをもとに、議論を進めていきます。セメスターの中間にレポート、最後には授業を踏まえた小論文を授業内で執筆・提出してもらいます。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	本授業のガイダンス	情報、メディア、コミュニケーションとは
第2回	情報について考える1	アナログとデジタルについて
第3回	情報について考える2	情報理論について
第4回	情報について考える3	サイバネティクスについて
第5回	情報について考える4	コンピュータについて
第6回	中間レポートの執筆	情報とは何か、何でないかについて
第7回	メディア、コミュニケーションについて考える1	ベンヤミンのメディア論について
第8回	メディア、コミュニケーションについて考える2	マクルーハンのメディア論について

第9回	メディア、コミュニケーションについて考える3	資本主義とメディア批判について
第10回	メディア、コミュニケーションについて考える4	情報化社会とメディア批判について
第11回	情報・コミュニケーションの応用的考察1	イルカとのコミュニケーションは可能か？
第12回	情報・コミュニケーションの応用的考察2	AIはラブレターを書くことができるか？
第13回	情報・コミュニケーションの応用的考察3	AIはアートを作出することができるか？
第14回	最終小論文の執筆	授業を元にしつつ、自分の関心に基づく小論文を授業内で執筆する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを毎回配布します。

【参考書】

REF lab 編『ぼくらはヴィジュアルで思考する:シームレス・メディアの時代と video art』(2013 年、現代企画室)

【成績評価の方法と基準】

平常点: 40%

小論文課題: 30%

ディスカッション、リアクションへの積極性: 20%

視点・活動の独自性: 10%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

基本的にノートを取ってください。講義・ディスカッション中のパソコン、スマホ、携帯電話の使用は、原則的に禁止します。

【その他の重要事項】

同日4限の同講師の授業と連続で履修することを推奨します。

講師は哲学・美学をバックグラウンドに持ち、アーティストとしてメディアや映像と関わりながら主に現代アートの分野で活動しています。したがって、いわゆるマスメディアや商業的な情報・コミュニケーションにだけ関心のある人は、カテゴリー・エラーになる可能性が高いと思われますので、気をつけてください。

【Outline (in English)】

We will learn to think about the nature of media, communication and information by considering them from a variety of perspectives and critically engaging with them. While taking into account historically important philosophical debates and social issues, we will consider what information, media and communication are, what they are not, and why, by looking at various examples and situations each time. In class, we will continue the discussion based on the reaction papers from the previous class. At the midpoint and end of the semester, students are asked to submit short essays based on the lessons. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. The lecturer has a background in philosophy and aesthetics, and is active in the field of contemporary art, mainly working with media and video as an artist. This class is not recommended for those with a strong interest in mass media or commercialism. The grading criteria are as follows.

Routine points: 40%

Essay assignment: 30%

Proactivity in discussions and reactions: 20%

Originality of viewpoint and activities: 10%

HUI200ED（人間情報学 / Human informatics 200）

認知映像論

河合 政之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：火4/Tue.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像に囲まれた時代であって、与えられる映像をただ受け取るのではなく、それらにどう批判的に向き合い、さらには新しい映像の可能性を見つけていくか。「映像とは何か」「映像は私たちに何をもたらすのか」を深く、多角的にとらえることを目指します。「わかりにくい」映像、「見づらい」映像を多く扱いますが、「わかりにくさ」「見づらさ」がなぜ生じるのかを考えてみてください。

【到達目標】

私たちはあらゆる種類の映像の囲まれて生活しています。しかし、「映像」とは一体何のことを言うのでしょうか？ 映画やTVや、ネット動画や、スマホの画面だけが映像なのでしょうか？ 歴史の中でさまざまなに現れてきた映像の例を参考にしながらも、映像への感受性をもっと大きく開き、従来の映像の見方にとらわれない意識と感覚を身につけていくことが、この授業の目的です。

いわゆるマスメディアや商業的な映像にのみ興味のある人には、この授業は向かないかもしれません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

受講者数にもよりますが、可能な限り一方通行的な講義でなく、対話的な形式を取りたいと考えています。授業においては、前回までのリアクションペーパーをもとに、議論を進めていきます。セメスターの中間と最後には授業を踏まえた小論文を提出してもらいます。通常時は授業開始15分後以降の教室への入室は禁じます。課題レポート・小論文時は、さらに短時間で入室を禁じます。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	本授業のガイダンス	本授業の内容と映像について
第2回	映像の多様性	映像にはどのようなものがあるか
第3回	映像の起源	映像はどこから始まったのか
第4回	映像の感性・思考1	リズム、抽象、ノイズ
第5回	映像の感性・思考2	夢、シュルレアリスム
第6回	映像の感性・思考3	カメラ・アイ
第7回	映像の感性・思考4	夜と霧
第8回	中間レポートの執筆	映像とは何かについて
第9回	映像の感性・思考5	アメリカ・アンダーグラウンド
第10回	映像の感性・思考6	ヨーロッパ・アヴァンギャルド
第11回	映像の感性・思考7	ビデオ／メディア・アート初期作品
第12回	映像の感性・思考8	ビデオ／メディア・アートその後の作品
第13回	映像の感性・思考9	ビデオ／メディア・アート現在の作品
第14回	最終小論文の執筆	授業を元にしつつ、自分の関心に基づく小論文を授業内で執筆する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

REF lab 編『ぼくらはヴィジュアルで思考する:シームレス・メディアの時代と video art』(2013 年、現代企画室)

【成績評価の方法と基準】

平常点: 40%

レポート、小論文課題: 30%

ディスカッション、リアクションへの積極性: 20%

視点・活動の独自性: 10%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にノートを取ってください。講義・ディスカッション中のパソコン、スマホ、携帯電話の使用は、原則的に禁止します。映像を見ることが多いため、開始15分後には教室を閉め切るの遅刻しないようにしてください。

【その他の重要事項】

同日3限の同講師の授業と連続で履修することを推奨します。

講師は哲学・美学をバックグラウンドに持ち、アーティストとしてメディアや映像と関わりながら主に現代アートの分野で活動しています。したがって、いわゆるマスメディアや商業的な映像にだけ関心のある人は、カテゴリー・エラーになる可能性が高いと思われるので、気をつけてください。

【Outline (in English)】

In an age surrounded by images, rather than just passively accepting the images we are given, how can we critically engage with them and discover new possibilities for images? This course aims to explore the question of “what is an image?” and “what do images bring to us?” from a deep and multifaceted perspective. In class, we will continue our discussions based on the reaction papers from the previous class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. At the midpoint and end of the semester, students are asked to submit short essays based on the lessons. The lecturer has a background in philosophy and aesthetics, and is active in the field of contemporary art, mainly working with media and video as an artist. This class is not recommended for those with a strong interest in mass media or commercialism. The grading criteria are as follows.

Regular attendance: 40%

Essay assignment: 30%

Active participation in discussions and reactions: 20%

Originality of viewpoint and activities: 10%

MAN200EB, MAN200ED (経営学 / Management 200, 経営学 / Management 200)

消費者行動論**木暮 美菜**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のマーケティング戦略において、消費者がどのように商品・サービス、或はブランドなどの情報に接し、それらの情報を利用して最終的な購買行動を起こすのかを把握することは効果的な戦略の構築のためにも重要なことである。

本講義では実際のマーケティング戦略の実例に触れながら消費者の認知や情報収集・態度形成・意思決定過程といった消費者行動のメカニズム、さらに、それらの処理に影響を与える外部環境要因について、社会心理学・認知心理学・経営学など学際的な視点に基づいて体系的に学習する。

【到達目標】

消費者がある製品・サービスに出会ってから実際の購買行動に至るまでの消費者の認知的・心理的特性について理解した上で、常に変化する市場や消費者動向に対応した効果的な消費者コミュニケーション戦略及びマーケティング戦略のあり方について考察・提案できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。授業内においてテーマに応じて随時ディスカッションを行ったり、リアクションペーパーの提出を求める。提出されたリアクションペーパーからいくつか良いものを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業概要
2.	消費者行動とマーケティング	マーケティング戦略における消費者心理・消費者行動の位置付け
3.	消費者の購買意思決定過程	情報入力から始まる各種意思決定モデルの紹介
4.	消費者の欲求と動機づけ	購買の動機について理解し、その調査方法について概観する
5.	消費者の知覚特性	心理学的な観点も取り入れ、消費者の知覚特性を理解
6.	消費者の情報探索と評価	消費者による商品・サービスに関する情報の探索と評価について
7.	消費者の記憶特性	広告等を通して与えられるブランド・商品情報に対する注意と記憶について
8.	消費者の態度形成と変容	消費者の評価と態度形成の過程およびその変容の仕組み
9.	消費者の関与	関与の概念の理解と、消費行動への影響について
10.	消費者行動の状況要因	状況依存的に変化する消費者の意思決定について事例を基に理解 ＜ゲスト講師登壇予定＞

11.	消費者の個人特性	消費者の統計学的・心理学的なセグメント分けと心理過程への影響
12.	マーケティング調査	消費者調査および市場調査の実際について
13.	対人関係と消費者行動	対人関係が消費者の情報探索行動や意思決定にもたらす影響について
14.	消費者の購買後行動	購買後行動と、ブランドロイヤリティの形成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

『新・消費者理解のための心理学』（杉本徹雄編著、福村出版）

【成績評価の方法と基準】

小レポート類(30%)と期末試験(70%)による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討議を多く（なるべく授業の冒頭で）取り入れることとした（対面授業時）。

【その他の重要事項】

ゲスト講師の登壇回については講師との話し合いにより前後する可能性があります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to obtain the basic concepts and principles of consumer psychology.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

FRI200EC, FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200, 情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

メディアの歴史

小林 直毅

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

どのようなメディアが、何を、どのように語り、描いてきたのかを考えながらメディアと人間と技術の歴史を理解し、「記録と記憶」としてのメディアの可能性と課題を考えることを目的とします。

【到達目標】

政治、経済、社会、文化の変容とメディアの変容との結びつきから、出来事の実験にメディアが不可欠であることを理解し、後半では、「戦後史としてのメディア史」をテーマにして、これを実践的に考えることができるようになるのがこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業で進めます。

5～6点の配布資料を配信しますので、それらを使って受講を進めてもらいます。

配布資料は受講の事前、事後の学習のためのものです。受講者はこの配布資料を参照しながら、講義を聴いてノートを作成していきます。受講後さらに、配布資料や参考文献などを参照して、**学んだことを文章化した「講義ノート」を作成**します。受講者にはこれを毎週重ねてもらいます。

授業期間内で3～5回のリアクションペーパーの提出を求めます。それについて授業内で講評、解説をします。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この講義の概要とねらい
第2回	メディアの歴史を読み解く視点	「記録と記憶」の考古学をめざして。
第3回	メディアと近代社会	何が、どのように印刷され、どのように読まれたのか。
第4回	「眼の隠喩」としての映像メディア	「見えないもの」を見る経験。
第5回	戦争とメディア	「動員」と「告発」、「記録」と「記憶」。
第6回	メディア表象としての近代	リアクションペーパーへのリプライ（1）
第7回	「玉音放送」と「終戦」の記憶	敗戦はどのように語られ、記憶されたのか。
第8回	原爆と原子力「平和利用」のメディア表象	「核」の記録と記憶に見る敗者の心性。
第9回	ナショナルメディアとしての放送とその技術	ラジオとテレビの連続性。
第10回	敗戦の記録と記憶	リアクションペーパーへのリプライ（2）
第11回	「テレビを見ること」で何が経験されたのか	高度経済成長とテレビの普及。

- 第12回 テレビが描いた「豊人びとは「皇太子ご成婚」に何かさ」と「平和」（そを見たのか。の1）
- 第13回 テレビが描いた「豊人びとは「東京オリンピック」何かさ」と「平和」（そに何を見たのかの2）
- 第14回 3.11後のメディア メディア・アーカイブの可能性と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義の事前、事後の学習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

毎回の配布資料や講義のなかで示しますが、そこで紹介された文献をできるだけ多く読んでください。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーがすべて提出されていて、いずれの内容も問題がない場合は、それをもって成績全体の60%の評価とします。さらに期末試験を実施しますので、これを単位認定の必須要件とするとともに、その評価を成績全体の40%の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布します。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will understand the history of media as a technique and institution that enables human recognition and existence and also consider media as "record and memory".

Learning objectives:

The goal of this course is to help students understand that the media associated with political, economic, social and cultural transformations are essential to the experience of the event.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, Short reports: 60%

SOC200ED (社会学 / Sociology 200)

メディアコンテンツ論

藤田 真文

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、プログラム言語Pythonによって自然言語分析を行なっていきます。Pythonの使用に慣れたあと、受講者自らが収集したテキストで自然言語分析を試みてもらいます。

【到達目標】

受講生が自然言語分析の方法を理解できている。Pythonを使い自然言語分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

最初にプログラム言語Pythonに慣れたあと、自然言語分析を行なっていきます。その後、受講者自らが収集したテキストで、自然言語分析を試みてもらいます。講義の途中で受講生に分析結果を2回報告してもらいます。最後に自然言語分析の課題に関するレポートを提出してもらいます。受講生の分析結果については、授業中にコメントをしてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進行・Pythonについて	授業内容の説明
第2回	Pythonを使ってみる	Pythonの基本操作を知る
第3回	Pythonと形態素解析①	Pythonによって形態素解析を試みる
第4回	Pythonと形態素解析②	Pythonによって形態素解析を試みる
第5回	中間課題テキストのスクレイピング	スクレイピングを試みる
第6回	極性辞書によるネガポジ分析	極性辞書によるネガポジ分析を試みる
第7回	マルコフ連鎖による文章生成	マルコフ連鎖による文章生成を試みる
第8回	講義前半の振り返り	講義前半のまとめを行う
第9回	Word2Vecによる機械学習	Word2Vecによる機械学習を試みる
第10回	Char2Vecによる機械学習	Char2Vecによる機械学習を試みる
第11回	形態素解析による語句抽出	形態素解析による語句抽出を試みる
第12回	最終課題テキストのスクレイピング	スクレイピングを試みる
第13回	形態素解析による対義語抽出	形態素解析による対義語抽出を試みる
第14回	最終課題の提示	最終課題について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

youwhT (2021)『キテレッツおもしろ自然言語処理』翔泳社、2,480円

【参考書】

松浦健一郎・司ゆき『Python[完全]入門』SBクリエイティブ株式会社、3,190円

【成績評価の方法と基準】

中間に2回各800字程度、学期末に1回2000字程度のメディアコンテンツを分析したレポートを提出してもらいます。ただし最終レポートの評価は、中間レポートを2回提出していることが要件となります。

①レポート（3回）＝70％ ②毎回の課題＝30％による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、「パソコンで未経験のシステムを利用するので、ある程度の難易度はあったが、教員が遅れている人も取り残さずサポートしてくれている印象があり、ついていくことができた」「質問するための時間を多く確保していて授業の内容を再把握することが可能になるので良かった」との評価をもらいました。技術的な質問などに対し、丁寧な対応を引き続き継続していきます。

【学生が準備すべき機器他】

自然言語分析のプログラミング言語Pythonを使います。できれば授業時間にはPCを教室に持ち込んで講義を聞いてください。

【その他の重要事項】

「マス・コミュニケーション論」を履修済みで、自然言語分析の概要を理解していることを前提に授業を進めていきます。

Pythonの詳細な設定や使用方法については授業時間内では消化しきれない可能性があります。必ずテキストを購入してください。また、毎回の授業内でPythonコードの取り扱い方法を確認するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will perform natural language analysis in the Python programming language, and after familiarizing themselves with Python, they will attempt to perform natural language analysis on texts they have collected themselves.

【Learning Objectives】

Students will be able to use Python to perform natural language analysis.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Students are required to submit two mid-term reports of approximately 800 characters each, and one report of approximately 2000 characters at the end of the semester analyzing media content. However, for the evaluation of the final report, students are required to have submitted two mid-term reports.

(1) Report (3 times)=70%(2) Assignments for each session=30% for overall evaluation

HUI200ED (人間情報学 / Human informatics 200)

空間メディア論 I

森 幹彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、多様な空間で起こる現象やその空間で行われる活動の情報メディアについて分析するために、情報科学について学ぶ。

【到達目標】

- (1) コンピュータが社会に与える影響について理解する。
- (2) 情報のデザインとシステム実装の方法を理解する。
- (3) 情報処理法と表現法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。内容に応じて学生と議論しながら理解を深める。不明点などは、授業中に積極的に質問することが必要である。意見・疑問をまとめることを主眼とする課題と、理解度を確認する課題を小レポートとして必要に応じて授業後に課す。小レポートで受け取った意見・疑問に対しては全体に向けてフィードバックする。理解度に応じて補足説明を加える。なお、授業計画は授業の展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方、コンピュータと社会の関係
第2回	数値表現	コンピュータが扱う数値の基礎を理解する。
第3回	メディアの情報表現	各種メディアフォーマットについて理解する。
第4回	論理回路	コンピュータを構成する論理回路の仕組みを理解する。
第5回	ハードウェアとソフトウェア	コンピュータの構成要素を学ぶ。
第6回	プログラム言語	コンピュータプログラムの基礎理論を学ぶ。
第7回	ソフトウェアの設計	ソフトウェアの設計法を学ぶ。
第8回	アルゴリズムとデータ構造	解を求める計算手順とそのためデータの与え方の基礎を理解する。
第9回	オペレーティングシステム(OS)	コンピュータの動作を支えるOSの仕組みを理解する。
第10回	データベース	データを格納する方法について学ぶ。
第11回	ネットワーク	コンピュータネットワークシステムについて学ぶ。
第12回	情報セキュリティ	情報セキュリティの考え方や技術について学ぶ。
第13回	情報システムの社会的影響の現在と未来	情報システムが社会に与える影響について考える。
第14回	振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、まとめの議論をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。準備学習として事前に紹介する資料をよく読んでおかなければならない。必要に応じて実際に試しておくことを勧める。復習時間には、適宜課したレポート課題を提出する。この他に、最終課題に向けた制作は授業時間外にも作業を進めなければならない。

【テキスト（教科書）】

田中琢真 (2024) 情報科学概論 第2版, 学術図書出版社.

【参考書】

魚田勝臣, 渥美幸雄, 植竹朋文, 大曾根匡, 森本祥一, 綿貫理明 (2023) コンピュータ概論: 情報システム入門 第9版, 共立出版.
寺嶋廣克, 朴鍾杰, 安岡広志 (2016) はじめて学ぶコンピュータ概論: ハードウェア・ソフトウェアの基本, コロナ社.
その他にも、授業内で参考資料をその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加(20%)と期末テスト(80%)により、到達目標への達成度を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗に合わせて授業進度や難易度の調整をする。

【学生が準備すべき機器他】

効率よく授業内活動を行うためにPCを用意しなければならない。普通教室の場合、各自の所有するPCか、貸し出し用PCを利用する。情報実習室の場合は、設置されたPC端末も利用できる。

【その他の重要事項】

「コンピュータ入門」と「プログラミング入門」の事前受講を強く推奨する。これらを既習として説明しない。
授業の性質から、高校教科の数学、物理、情報の知識を前提とした数理的な議論がある。適宜補足するが十分な復習または次週を前提とする。また、大学での教養的な数学や物理学を履修しているとなお深く理解できるだろう。
質問は原則授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段でも受け付ける。詳細は、初回授業で説明する。

【Outline (in English)】

In this course, students learn about the phenomena that occur in various spaces as media and the various aspects of activities in these spaces. In particular, this course aims to understand the communication between people from the viewpoint of information processing. For this purpose, students learn methods of acquiring and utilizing state of various spaces as information.

The goal of this course is as follows:

- (1) To understand communication in spaces from the viewpoint of information processing.
- (2) To understand methods of information design and system implementation.
- (3) To understand the relationship between the real world and the virtual world, and to understand information processing and representation methods.

The standard preparation and review time is two hours for each class. Students should read the materials provided in advance as part of their preparatory study. It is recommended that students actually try out the materials when possible. During review time, students are required to submit assigned reports as needed.

Students are assessed based on active class participation (20%) and the final exam (80%) to comprehensively evaluate their achievement of the course objectives.

HUI200ED (人間情報学 / Human informatics 200)

空間メディア論Ⅱ

森 幹彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、多様な空間で起こる現象やその空間で行われる活動の情報メディアについて、情報の観点から分析する技法の修得を目的とする。そのために、情報アーキテクチャについて学ぶ。

【到達目標】

- (1) 情報を取り巻く環境について理解する。
- (2) 情報アーキテクチャの構成要素について理解する。
- (3) 情報アーキテクチャの分析法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心とした形式で進める。内容に応じて学生と議論しながら理解を深める。不明点などは、授業中に積極的に質問することが必要である。意見・疑問をまとめることを主眼とする課題と、理解度を確認する課題を小レポートとして必要に応じて授業後に課す。小レポートで受け取った意見・疑問に対しては全体に向けてフィードバックする。理解度に応じて補足説明を加える。なお、授業計画は授業の展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方、情報アーキテクチャの概要
第2回	ユーザ行動(1)	情報アーキテクチャにおけるユーザ行動を理解する。
第3回	ユーザ行動(2)	情報アーキテクチャにおけるユーザ行動を理解する。
第4回	組織化システム	情報を構造化し組織化する方法を学ぶ。
第5回	ラベリングシステム	情報にラベル付けする方法を学ぶ。
第6回	ナビゲーションシステム	情報にたどり着けるようにする方法を学ぶ。
第7回	検索システム	情報検索のためのシステムについて学ぶ。
第8回	中間まとめ	ここまでの理解を確認する。
第9回	調査	情報アーキテクチャの開発プロセスにおける調査法について学ぶ。
第10回	設計	情報アーキテクチャの開発プロセスにおける設計について学ぶ。
第11回	文書化	文書作成法について学ぶ。
第12回	プロトタイピング	プロトタイピング技法について学ぶ。
第13回	情報アーキテクチャの最新動向	情報アーキテクチャに関係する最新動向について考える。
第14回	授業の振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、まとめの議論をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。準備学習として事前に紹介する資料をよく読んでおかなければならない。必要に応じて実際に試しておくことを勧める。復習時間には、適宜課したレポート課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

Rosenfeld, L., Morville, P., Arango, J., 篠原稔和 (2016) 情報アーキテクチャ 第4版 一見つけやすく理解しやすい情報設計. オライリージャパン.

【参考書】

授業内で参考資料をその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加およびレポート課題 (70%)、最終課題 (30%) として、到達目標への達成度を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗に合わせて授業進度や難易度の調整をする。

【学生が準備すべき機器他】

効率よく授業内活動を行うためにPCを用意しなければならない。普通教室の場合、各自の所有するPCか、貸し出し用PCを利用を利用する。情報実習室の場合は、設置されたPC端末も利用できる。

【その他の重要事項】

「コンピュータ入門」と「プログラミング入門」の事前受講を強く推奨する。これらを既習として説明しない。授業の性質から、高校教科の数学、物理、情報の知識を前提とした数理的な議論がある。適宜補足するが十分な復習または次週を前提とする。また、大学での教養的な数学や物理学を履修しているとなお深く理解できるだろう。質問は原則授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段でも受け付ける。詳細は、初回授業で説明する。

【Outline (in English)】

In this course, students learn about the phenomena that occur in various spaces as media related to activities conducted within those spaces, from the perspective of information. To achieve this, students study the fundamentals of information architecture.

The goals of this course are as follows:

- (1) To understand the environment surrounding information.
- (2) To understand the components of information architecture.
- (3) To understand methods for analyzing information architecture.

The standard preparation and review time is two hours for each class. Students should read the materials provided in advance as part of their preparatory study. It is recommended that students actually try out the materials when possible. During review time, students are required to submit assigned reports as needed. In addition, students are expected to work on their final projects outside of class hours.

Students are assessed based on their active participation in class and report assignments (70%), as well as a final report (30%), to comprehensively evaluate their achievement of the course objectives.

FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

メディアテクノロジーと社会

橋爪 絢子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーの発展と、それに伴う社会における課題について考えます。また、それらの諸課題を解決するための設計の基礎として、ユーザ中心設計の基本概念と考え方について学びます。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の基本概念と設計プロセスにおける各活動の理解
- (2) メディアテクノロジーの発展に伴う社会における諸課題の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

以下のテーマについて、主に講義形式で授業を行います。内容の理解を深めるために、適宜グループワーク等を入れたり、ゲストを招聘したりします。

前回までに提出されたリアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干変更する場合があります。状況に応じて、オンラインで実施する回が入る場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザとインタフェース1	ユーザの多様性
3	ユーザとインタフェース2	インタフェースにおけるインタラクション
4	生活の中のメディアテクノロジー	コンピュータの浸透と生活の変化
5	アンユーザブルなコンピュータ	ユーザビリティの概念の誕生
6	設計プロセス1	設計プロセスの基本
7	設計プロセス2	ユーザ中心設計の活動の進め方
8	インタフェースデザイン1	デザインと設計、デザインアプローチの基本
9	インタフェースデザイン2	人間工学、人間の身体・生理的特性を考慮したデザイン
10	インタフェースデザイン3	認知工学、人間の認知的特性を考慮したデザイン
11	テクノロジーとの共生1	記憶の支援、情報へのアクセス
12	テクノロジーとの共生2	人間の社会的側面を支援するテクノロジー
13	テクノロジーとの共生3	ソーシャルネットワークの構造とネット炎上
14	テクノロジーとの共生4	VRとAR、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

橋爪絢子・黒須正明著（2022）「現場の声から考える人間中心設計」共立出版（ISBN：978-4-320-07200-8）

【参考書】

黒須正明・橋爪絢子著（2021）「HCDライブラリー第5巻：人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社（ISBN：978-4-7649-0635-8）

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。

授業への参加の姿勢や貢献、提出物の提出状況と内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

We will consider the development of media technology and the resulting issues in society. We will also learn basic concepts and ideas of the User Centered Design (UCD) as a basis for the design so that we can solve related issues.

The final grade will be based on the final exam (50%) and the usual performance score (50%). The usual performance score includes contribution to the class, reaction papers, and small reports.

FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

メディアテクノロジーと社会分析

橋爪 絢子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーのユーザに着目しながら、ユーザ中心設計の設計プロセスで用いられる手法について学び、それらの技法を習得します。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の各活動で用いる手法の理解
- (2) メディアテクノロジーのユーザを理解するためのスキルの習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、講義と実践のための個人ワークもしくはグループワークで行います。分析に関する理解を深めるために、見学やゲストによる講義を行うことがあります。

前回までに提出されたリアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干変更する場合があります。状況に応じて、オンラインで実施する回が入る場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザ調査の流れ	ユーザ中心設計におけるユーザ調査、調査の準備
3	ユーザ調査で用いる手法1	UXグラフを用いたUX評価
4	ユーザ調査で用いる手法2	経験想起法の分析
5	ユーザ調査で用いる手法3	ダイアリー法の記録
6	ユーザ調査で用いる手法4	ユーザの特性やユーザの利用状況をより理解するための工夫
7	ユーザ調査の実施1	実施時の注意点の学習
8	ユーザ調査の実施2	RQの作成
9	ユーザ調査の実施3	調査の実施、音声の録音
10	ユーザ調査の実施4	書き起こしデータの作成、提出
11	結果の分析1	KJ法による分析
12	結果の分析2	SCATによる分析
13	結果の分析3	要求事項の明確化、ペルソナとシナリオの作成
14	分析のまとめ	分析の講評、その後の設計プロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

黒須正明・橋爪絢子著(2021)「HCDライブラリー第5巻：人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社 (ISBN：978-4-7649-0635-8)

【参考書】

橋爪絢子・黒須正明著 (2022)「現場の声から考える人間中心設計」共立出版 (ISBN：978-4-320-07200-8)

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。

授業への参加の姿勢や貢献、提出物の提出状況と内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとOffice系ソフトウェア (Word, Excel, PowerPoint)、学習支援システム、電子メール、Google Classroomなどを使用します。

【その他の重要事項】

本授業は、春学期の「メディアテクノロジーと社会」の受講を前提としています。また、前の回での課題をその後の回での課題で使用するため、全ての回への出席と課題の提出が求められます。

【Outline (in English)】

We will learn methods used in the User Centered Design (UCD), and acquire these skills by taking into account of the user of media technology.

In order to understand the content of the class, students are expected to spend a total of four hours before and after each class.

The final grade will be evaluated based on the usual performance score (100%), including the attitude of participation in the class, the contribution to the group, and the content of the submission.

FRI200EB, FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200, 情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

社会ネットワーク論 I

宇野 斉

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な社会状況を社会ネットワークとして捉え理解するプロセスを、社会ネットワークの体系的な見方とともに、学びます。

【到達目標】

1 社会現象のネットワーク的な見方の理解 2 企業や地域を社会ネットワークに捉える有効性の理解 3 スモールワールドの理解 4 社会の体系的な見方とネットワークの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として演習問題、実験、いくつかの課題によって進めます。

毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	授業内容を概観し、学生と教員で確認します。
02	社会におけるネットワーク現象(1)	社会現象のネットワーク的分析を紹介します。
03	社会におけるネットワーク現象(2)	社会現象を起こすネットワークの振る舞いを考察します。
04	ネットワーク、システム上の主体と関係	システム論的見方を提示し、ネットワークの主体の役割と相互関係を考察します。
05	企業のネットワーク(1)	企業内の制度におけるネットワークを考察します。
06	企業のネットワーク(2)	企業内の制度外のネットワークを考察します。
07	地域のネットワーク(1)	地域を成立させているネットワークを考察します。
08	地域のネットワーク(2)	ネットワーク現象による地域変化を考察します。
09	スモールワールドの理論	スモールワールドの理論分析モデルを学びます。
10	スモールワールドの実験	スモールワールドの分析を感じる実験を行います。
11	スモールワールドの実験と理論	実験結果を分析し理論との接合を考察します。
12	ネットワークの中に生じる認知組織	ネットワーク内に認知される組織を論じます。
13	社会、コミュニティ、組織、個人	社会における多段階のネットワーク関係を系統的に考察します。
14	まとめと質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等30%、レポート30%、期末試験40%（受験しないと評価対象になりません）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。大学付与メールアドレスを利用設定、メールチェックしてください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを授業内でも利用します。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に、実験が出来ない場合、関連する回に関して、削除または代替する内容に差し替えることがあります。

期末試験はレポートで代替する可能性があります。

なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Students will learn the process of viewing and understanding various social situations as social networks, along with the systemic view of social networks.

【Learning Objectives】

1 Understanding the network view of social phenomena

2 Understanding the validity of viewing companies and regions as social networks

3 Understanding the small world

4 Understanding the systemic view of society and networks

【Learning activities outside of classroom】

Presented in the class support system.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

30%of regular scores and exercises during lectures, 30%of report(s), and 40%of final exams(Students must take the exam to be eligible for evaluation).

FRI200EB, FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200, 情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

社会ネットワーク論Ⅱ

宇野 斉

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に組織内ネットワークの分析を、社会ネットワークの観点から分析できる理論と方法を学びます。

【到達目標】

- 1 ネットワーク分析が自分で出来る技法の習得
- 2 ネットワーク分析手法による組織分析方法の習得
- 3 組織の社会ネットワーク的な意味と振舞いの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として演習問題、実験、いくつかの課題によって進めます。

個人間関係を基礎としミクロなネットワークで、誰がどのような役割を果たすかを分析する理論と手法の理解について、実験を行います。組織内のネットワークをどのように捉え、どう行動すべきかを扱います。

毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション	概観内容を説明し、学生と教員間で確認します。
02	ネットワーク分析のための理論提示	この授業でのネットワーク分析の理論と背景を提示します。
03	ネットワークの理論的分析	実験モデル状況の理論分析を行います。
04	ネットワークの実験	グループを作り実験に参加し、観察し、データを得ます。
05	実験結果の分析	データを理論との対比で分析します。
06	ネットワーク分析の代表値	ネットワーク分析における一般的な指標を説明します。
07	組織内公式関係分析	分析方法とケースで公式的關係状況の分析を考察します。
08	組織内非公式関係分析	同ケースで非公式な關係状況の分析を考察します。
09	組織内関係総合的分析	同ケースで公式と非公式の關係の同時状況分析を考察します。
10	組織内リンク追加の効果1	モデルでの関係追加の組織全体への効果を考察します。
11	組織内リンク追加の効果2	モデルでの関係追加の個人への効果を考察します。
12	組織内リンク追加の効果3	モデルでの関係追加の個人と組織への効果の差異を考察します。
13	クラスター、ネットワーク、組織、個人	4つの段階の様相相互の関係を考察します。
14	まとめと、質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システム等で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等30%、レポート30%、期末試験40%（受験しないと評価対象になりません）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。大学付与メールアドレスを利用設定、メールチェックしてください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを授業内でも利用します。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に、実験が出来ない場合、関連する時間に関して、削除または代替する内容に差し替えることがあります。

対面開講でない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。

なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn theories and methods that allow them to analyze networks within an organization, primarily from the perspective of social networks.

【Learning Objectives】

- 1 Acquiring techniques to perform network analysis on one's own
- 2 Acquiring methods of analyzing an organization using network analysis methods
- 3 Understand the meaning and behavior of an organization's social network

【Learning activities outside of classroom】

Presented in the class support system.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

【Grading Criteria /Policy】

30%of regular scores and exercises during lectures, 30%of report(s), and 40%of final exams(Students must take the exam to be eligible for evaluation).

FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

デジタル情報環境論**土橋 臣吾**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のデジタルメディアは、私たちの生活全域を覆う情報環境になっています。その来歴・現状・将来を、流動化・個人化・再帰化という3つの論点から考え、これらを通じて、今日のデジタル情報環境に関する社会学的理解を獲得することが授業の目的です。

【到達目標】

今日のデジタル情報環境の特徴を具体的事例を通じて社会学的に理解することが第一の目標です。その上で、今後のデジタル情報環境がどうあるべきかについて一定の見解を獲得することが第二の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標を達成するために授業の全体を「流動化する情報環境」「個人化する情報環境」「情報環境の再帰的把握」の3セクションに分け、それぞれのセクションをいくつかの社会理論と関連付けながら、その理論的理解に基づいて各種事例の分析を行っていきます。
・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。
・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の概要
2	流動化する情報環境1	「流動化」とは何か？
3	流動化する情報環境2	ブロードキャストからネットワークへ
4	流動化する情報環境3	固定的なメディアから移動的なメディアへ
5	流動化する情報環境4	ソリッドなコンテンツからリキッドなコンテンツへ
6	個人化する情報環境1	「個人化」とは何か？
7	個人化する情報環境2	ソーシャルメディアと情報行動の変容
8	個人化する情報環境3	リコメンデーションとコンテンツ選択
9	個人化する情報環境4	個人化の中での「群」
10	情報環境の再帰的把握1	「再帰的把握」とは何か？
11	情報環境の再帰的把握2	加速する情報環境にどう向き合うか
12	情報環境の再帰的把握3	プラットフォーム資本主義にどう向き合うか
13	情報環境の再帰的把握4	スマートフォン依存にどう向き合うか
14	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

辻泉・南田勝也・土橋臣吾（2018）『メディア社会論』有斐閣
その他、授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）、リアクションペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの授業内フィードバックが好評なので続けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを使用し授業支援システムからのメールを受信できるようにしておいて下さい。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students acquire a sociological understanding of digital media technologies.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the characteristics of today's digital information environment sociologically and to form opinions about the future of digital media.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end report(80%), reaction paper(20%)

FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

デジタル情報環境分析

土橋 臣吾

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活におけるウェブやモバイルメディアの影響を具体的に分析する視点および調査の方法を学びます。具体的には、アーキテクチャ分析、人・モノ・空間の連関の分析などについて学び、さらにUXデザインの領域で活用される調査技法について学びます。

【到達目標】

身近なデジタルメディアや、自分たちの普段のメディア利用を分析的に捉える能力を身につけることが第一の目的です。その上で、ユーザー調査の技法についても学び、調査に基づいてメディアを設計する＝デザインする視点を獲得することが第二の目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目的を達成するために、授業の全体を「アーキテクチャの分析」「人・モノ・空間の連関の分析」「ユーザー調査の方法」に分け、それぞれのセクションで各種の理論や調査法を具体的事例と共に学んでいきます。

・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の目的、内容および受講上の注意
2	アーキテクチャの分析1	アーキテクチャとは何か
3	アーキテクチャの分析2	動画共有サイトのアーキテクチャ
4	アーキテクチャの分析3	SNSのアーキテクチャ
5	アーキテクチャの分析4	セクションのまとめ
6	人・モノ・空間の連関の分析1	アクターネットワークとは何か？
7	人・モノ・空間の連関の分析2	固定的なメディアをめぐる連関
8	人・モノ・空間の連関の分析3	移動的なメディアをめぐる連関
9	人・モノ・空間の連関の分析4	セクションのまとめ
10	ユーザー調査の方法1	行動観察・エスノグラフィ
11	ユーザー調査の方法2	カスタマージャーニーマップ・日記式調査
12	ユーザー調査の方法3	ペルソナシナリオ
13	ユーザー調査の方法4	セクションのまとめ
14	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）、リアクションペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの授業内フィードバックが好評なので続けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを使用し授業支援システムからのメールを受信できるようにしておいて下さい。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students acquire theoretical tools and research methods to study the user experience of digital media technology.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire analytical framework for studying the relation between digital media and its users and to learn the techniques of user research.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end report(80%), reaction paper(20%)

SOC200EB, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

ソーシャルメディア論

藤代 裕之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

誰もが発信できるソーシャルメディアの登場は、社会に大きな変化をもたらしています。この授業では、ソーシャルメディアに関連する歴史、技術、法という基本概念を踏まえ、ニュースや広告などに関する課題を学びながら、ソーシャルメディアが社会にもたらす可能性と課題を考えることを目的としています。

【到達目標】

ソーシャルメディアが社会にもたらす可能性と課題を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は教科書の予習・復習を前提に進めます。提出された課題に対するフィードバックを行うことで、授業の理解を深めます。現在進行形で起きているメディアと社会の問題を扱うため、ゲストの招聘、時事問題への対応などで、授業計画を変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	歴史を知る	ソーシャルメディアの歴史
第3回	歴史を知る	ソーシャルメディアの技術
第4回	歴史を知る	ソーシャルメディアの法
第5回	現在を知る	ソーシャルメディアとニュース
第6回	現在を知る	ソーシャルメディアと広告
第7回	現在を知る	ソーシャルメディアと政治
第8回	現在を知る	ソーシャルメディアとキャンペーン
第9回	現在を知る	ソーシャルメディアと都市
第10回	現在を知る	ソーシャルメディアとコンテンツ
第11回	現在を知る	ソーシャルメディアとモノ
第12回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（地域）
第13回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（共同規制）
第14回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（システム）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤代裕之編（2019年）『ソーシャルメディア論・改訂版：つながりを再設計する』青弓社

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験40%、平常点60%。平常点は、授業中の発言や質問、リアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習に対する授業内フィードバックが好評なので継続します。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ずガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。

【Outline (in English)】

This course will introduce the fundamental concepts, history, law, and technology of social media.

The goals of this course are to understanding social media.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

SOC200ED (社会学 / Sociology 200)

ソーシャルメディア分析

藤代 裕之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

誰もが発信できるソーシャルメディアの登場は、社会に大きな変化をもたらしています。中でもソーシャルリスニングと呼ばれる生活者の口コミ投稿の分析は、メディアに関わる企業だけでなく、メーカーやサービス業のマーケティング活動においても必要不可欠となっています。本授業は、ソーシャルリスニングにより生活者のインサイトを洞察する手法を学ぶことで、ジャーナリズムやマーケティングなどに生かすことができる能力を身につけることを目的としています。

【到達目標】

ソーシャルリスニングにより生活者のインサイトを洞察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は予習・復習を前提に進めます。講義形式とグループワークを組み合わせで行います。提出された課題に対するフィードバックを行うことで、授業の理解を深めます。企業見学の実施やゲストによる講義が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と目的
第2回	概論	ソーシャルメディアと消費行動
第3回	概論	社会記号の力
第4回	概論	ソーシャルメディアとキャンペーン
第5回	概論	炎上の構造
第6回	概論	ステルスマーケティング
第7回	概論	ソーシャルリスニング
第8回	分析	量的観察手法
第9回	分析	質的観察手法
第10回	分析	データの収集
第11回	分析	データの分析
第12回	分析	関連情報の検討
第13回	分析	インサイトの洞察
第14回	まとめ	分析結果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

嶋浩一郎・松井剛（2017）『欲望する「ことば」社会記号とマーケティング』集英社新書

【参考書】

嶋浩一郎（2024）『「あたりまえ」のつくり方——ビジネスパーソンのための新しいPRの教科書』NewsPicksパブリッシング
博報堂生活総合研究所（2021年）『デジノグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析』宣伝会議

【成績評価の方法と基準】

期末レポート40%、平常点60%。平常点は、提出課題の内容、グループワークやディスカッションへの貢献で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習に対する授業内フィードバックが好評なので継続します。

【学生が準備すべき機器他】

データの収集分析にパソコン、ソフトを使用します。

【その他の重要事項】

本授業は「ソーシャルメディア論」の受講を前提としています。受講希望者は必ずガイダンスに出席して授業方針を確認してください。連続性を持った構成となっているため、原則としてすべての回に出席する必要があります。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn methods about social media data analysis.

The goals of this course are to understanding social media data analysis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports: 40%, in class contribution: 60%

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツトレーニング論Ⅰ

木村 新

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1年次／2単位

曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トレーニング科学を理解する上で必要な基礎的知識（バイオメカニクス、運動生理学、神経科学等）を学び、適切なトレーニング計画をデザインするための基礎を習得する。

【到達目標】

・トレーニング科学を学ぶ上で必要な基礎的知識（バイオメカニクス、運動生理学、神経科学等）を理解する。
・各種トレーニング（レジスタンストレーニング、持久性トレーニング、プライオメトリクストレーニング等）の内容と方法および、トレーニング実践での留意点についての科学的知見を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントやVTR等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	トレーニング科学の対象、位置づけ、方法とは何かを説明した後に、今後の講義の流れについて確認する。
第2回	トレーニング指導者論	トレーニング指導者としての役割や実務、またトレーニングに関するデータの測定・分析・評価・活用の方法について概説する。
第3回	トレーニング方法の基礎	トレーニング方法の種類（レジスタンストレーニング、持久性トレーニング、プライオメトリクストレーニング等）を解説し、トレーニングを計画する際の注意点について確認する。加えて、トレーニング方法の種類に応じた負荷のかけ方や相互関係について説明する。
第4回	骨格筋の科学①	骨格筋の生理学的な側面について説明する。
第5回	骨格筋の科学②	骨格筋と腱の力学特性について説明する。
第6回	トレーニング動作のバイオメカニクス	トレーニング動作をバイオメカニクスの観点から評価できるようになることを目指す。
第7回	生体エネルギー論	運動様式に応じたエネルギー供給機構を説明する。
第8回	レジスタンストレーニング①	レジスタンストレーニングにおける頻度や強度の標準的な組み方を説明する。
第9回	レジスタンストレーニング②	レジスタンストレーニングの各種エクササイズを概説し、各種エクササイズをバイオメカニクスの観点から説明する。
第10回	持久性トレーニング①	持久性トレーニングに伴う身体内部の変化について説明する。
第11回	持久性トレーニング②	持久性トレーニングの標準的な組み方について説明する。
第12回	プライオメトリクストレーニング	プライオメトリクストレーニングとは何かを説明し、プライオメトリクストレーニングの各種エクササイズとそれらのバイオメカニクスについて概説する。
第13回	リカバリー方法	リカバリーの各種技法の紹介、効果のメカニズムを解説する。
第14回	期末試験	1～13回目までの内容について、修得状況を判定するテストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論・知見をあてはめる作業を望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（各授業回、資料を作成して学習支援システム「教材」にアップロードする）

【参考書】

講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。

【禁止事項】 授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

スポーツトレーニング論Ⅱの内容と合わせて理解するとトレーニングに関する見解が深まると思われるので、スポーツトレーニング論Ⅱの受講を勧める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

To learn the basic knowledge required to understand training science (biomechanics, physiology, neuroscience, etc.).

To learn the fundamentals for designing training plans.

【Learning Objectives】

Objectives are to understand findings in the training science and to use them in the application of training.

【Learning activities outside of classroom】

Students try to apply their understanding to sports fields. The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.

【Grading criteria/Policy】

Test: 100%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツリスクマネジメント

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：備考参照年次／2単位
曜日・時限：月1/Mon.1
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者は1年次から履修可能。
2023年度以前入学者は2年次から履修可能。
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、重大外傷、熱中症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。さらに発展させて、あらゆる危機管理の局面において論理的な分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、社会的危機に直面した時に、これを科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
- ③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
- ④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ⑤ 各回の授業ではkeyword, take-home message, summaryを適宜提示する。
- ⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	パンデミックから学ぶリスクマネジメント	新型コロナウイルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」—スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	「アスリートが命を落とすとき」—突然死の機序とスポーツ現場における実態—	人が死ぬときに何が起きているのか？なぜ運動中に命を落とすのか？若年アスリートスポーツ中の内因性突然死、中高年者の運動中の突然死について講義する。
4	心肺蘇生（成人と小児のBLS）—スポーツ現場でHands Only CPR—	成人の一次救命処置（BLS）と小児の救命処置（PBLS）の理論的基礎と適切に行うために必要な技術的ポイントについて学習する。またスポーツ現場におけるHands Only CPRの役割について学ぶ。

5	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
6	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
7	「なぜスポーツしてはいけないのか？」—競技スポーツ参加の可否判断—	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
8	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastrophic injury）、すなわち致死性の頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
9	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
10	環境とスポーツ—熱中症と落雷—	スポーツ現場における熱中症対策のビットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。またスポーツ現場における落雷対策について学ぶ。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。
14	スポーツイベントのリスクマネジメント—EAPとAED—	（mass gatheringとしての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。Emergency Action Plan (EAP) およびAED（自動体外式除細動器）の役割について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
- ④ 下記【参考書】欄に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

- 第1回：『感染症疫学』（ヨハン・ギセック、昭和堂、2020）※資料室収蔵
『感染症疫学のためのデータ分析入門』（西浦 博、金芳堂、2021）※多摩図書館収蔵・電子ブック利用可
『臨床雑誌 内科：特集：感染症2020：冬のインフルエンザ・夏のオリンピックに備える』（2020年125巻1号）（医書jpよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
- 第2回：『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）。(特に第1章～第6章)
『スポーツのリスクマネジメント』（小笠原 正、他（編）、ぎょうせい、2009）※資料室収蔵
『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（西澤真理子、エネルギーフォーラム、2018）※多摩図書館収蔵
- 第3回：『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号。（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
- 第4回：『BLSプロバイダーマニュアル AHA ガイドライン2020 準拠』（2022年、シナジー）※資料室収蔵
- 第5回：『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵
- 第6回：

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェックー心臓突然死を未然に防ぐためにー、pp.570-573）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェックーその有用性と限界ー、pp.153-162.）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第7回：
木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題、1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.
(<http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1999kiyo.pdf>)
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵
第8回：
『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013年改訂版）
『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015年第4版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。
『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）※資料室収蔵
第9回：
『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）※資料室収蔵
『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）※資料室収蔵
『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか、スポーツ頭部外傷：“頭部外傷10か条の提言”から考える』（2016年33巻7号）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第10回：
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症 review：Q&Aでわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
(<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html> より閲覧可能)
『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会 https://www.sayama-stm.ed.jp/h_tyuou/index/saigai/rakurai.pdf)
『サッカー活動中の落雷事故の防止対策についての指針』（日本サッカー協会 https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20060413_17_01.pdf)
『落雷事故の防止について』（文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm)
第11回：
木下訓光：スポーツ選手の減量ー米国アマチュアレスリングにおける事例ー、(1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. <http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1998kiyo.pdf> から参照)
木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害、臨床スポーツ医学、2014;31(9):858-867.
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第12回：
『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学、<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>)
『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省、2013）(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)
『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』
(<https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947>)
第13回：
日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>)、ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。
『マンガで学ぶスポーツ倫理』（林 芳紀ほか、化学同人）※資料室収蔵
『ランス・アームストロングツール・ド・フランス7冠の真実』[DVD]。資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には3部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなること予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）
『アンチ・ドーピング徹底解説! スポーツ医薬：服薬指導とその根拠』（鈴木秀典ほか編、中山書店、2020年）※多摩図書館収蔵
『ドーピングの歴史：なぜ終わらないのか、どうすればなくせるのか』（エイプリル・ヘニングほか、青土社、2023年）※多摩図書館収蔵
第14回：
『マラソン・ロードレース 救護・医療体制 整備指針：フルマラソンから小規模レースまでー安全に運営するために』（野口 宏（編）、山澤文裕（監修）、真興交医書出版部、2020年）※多摩図書館収蔵
『人を助ける心』（高木 修、サイエンス社、1998年）。(特に第1章、第2章、第4章) ※研究室収蔵

木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号（特に「BLSとAED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
その他に下記の書籍などを追加的に参考にするとよい。
・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies"(Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵
・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）※資料室収蔵
・入澤 充、『学校事故：知っておきたい! 養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）※資料室収蔵
【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
※授業回の多くで、事前にまたは授業内に小課題などを課す。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。
【禁止事項】
授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドを含め関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。
【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を閲覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise, and sports.
[Learning objectives] The substantial goal of the lecture is to understand what risk is entailed and what accident is incurred in relation to sports activity and to obtain the skill of logical assessment of the sports related risk and that of developing strategy for prevention of accidents on the basis of scientific and medical evidences. In addition, to understand the biological, medical, and epidemiological background of COVID-19 and how to cope with sports activities in the pandemic is another important scope of this lecture.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%, as a rule but please refer to the following). A quiz (mini test) will be provided in the classroom. The score of the quiz would be considered to determine the final score of the term-end examination. **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

ECN100IA（経済学 / Economics 100）

スポーツビジネス論Ⅰ

片上 千恵

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1年次／2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回授業内容をまとめたリアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツ産業の発展とスポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、文化の産業化
2	スポーツマーケティングの考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケットセグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーションシップマーケティング
4	マーケティング戦略の考え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満足
6	スポーツ・イベントのマネジメント（プロ・スポーツ）	Jリーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントのマネジメント（スポーツ消費者行動）	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントのマネジメント（ブランディング）	ブランディング
9	スポーツ・イベントのマネジメント（マーケティング戦略）	フランチャイズ、リーグマネジメント、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（市場動向）	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（コミュニケーション戦略）	スポーツブランドのコーポレートブランドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（CSRおよびソーシャルマーケティング）	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成(1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤眞・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017年

【参考書】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト(80%)および授業内レポートの評価(20%)から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

授業後にリアクションペーパーを配布し、授業の感想や気付き、質問を記入してもらい。その内容をもとに次の授業冒頭でフィードバックを行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. (Learning Objectives) This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. (Grading Criteria) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 80%、Short reports : 20%.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツコーチング論 A

刈部 俊二

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1年次／2単位

曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ競技者育成のためのスポーツコーチング、また生涯スポーツのためのコーチングについてその本質と理論を理解する。新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」である。これを実践するために、コーチングの理念・哲学、対自分力と対他者力、現場のマネジメントを学ぶ。

【到達目標】

効果的なスポーツコーチングに必要な専門的知識を習得し、応用する能力を養う。様々な競技スポーツやレクリエーションスポーツなどに関するコーチングの本質と理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、毎時限課題の提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方のガイダンス	モデルコアカリキュラムとの関連性 実践におけるコーチ役の使命と職務
第2回	スポーツの意義と価値	スポーツの文化的特性・スポーツ精神 スポーツ基本法とスポーツ基本計画
第3回	日本のコーチングの今	グッドコーチに向けた「7つの提言」 スポーツインテグリティ
第4回	多様なコーチング文脈	種類別コーチに求められるもの 参加型スポーツのコーチング パフォーマンススポーツのコーチング
第5回	コーチに求められるもの	コーチの主な機能（職務）
第6回	コーチの学び	コーチが学ぶための方法論 省察の流れ
第7回	コーチのセルフコントロール	自分の心理的、行動的な特徴 セルフコントロールの技法の理解
第8回	コーチのコミュニケーションスキル	コミュニケーション プレゼンテーション ファシリテーション
第9回	コーチングとリーダーシップ	集団、チーム リーダーシップ理論の流れ リーダーの成長を促す経験
第10回	多様な思考法に基づくコーチング	理論的思考法 分析的思考法 創造的思考法 判的思考法
第11回	発育発達と女性アスリートのコーチング	成長期の子どもコーチングの特徴 女性アスリートのコーチングの特徴
第12回	障がいのある人のコーチング	アダプテッドスポーツ インクルーシブスポーツ 障がいのある人のコーチングの特徴
第13回	リスクマネジメント	暴力的指導のリスクマネジメント スポーツ事故のリスクマネジメント
第14回	試験・まとめと解説	授業内試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に課題を与えることはしないが、参考書に目を通しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に設けない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「グッドコーチになるためのココロエ」平野裕一、土屋裕睦、荒井弘和共編、培風館

「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、Gakken

「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店

「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業状況（20％）および授業内に行う課題レポート（30％）、学期末試験（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進行が速かったので、丁寧に授業を進行するよう努力します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purposes of this class are to learn the philosophy, attitude and action on the sport coaching and to learn coaching skill.

【Learning Objectives】

Objectives are to understand the philosophy, attitude and action on the sport coaching.

【Learning activities outside of classroom】

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports(30%), Term-end examination(50%) and usual performance score (20%).

SOC100IA（社会学 / Sociology 100）

スポーツメディア論

片上 千恵

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4年次／2単位
曜日・時限：木3/Thu.3
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テレビの進化はスポーツ中継の進化と言われるほどスポーツはテレビ技術の発展とともに繁栄してきた。衛星放送が可能になったことで世界中のスポーツ競技がリアルタイムに視聴できるようになり、スポーツの高度化と大衆化に貢献してきた。一方で、テレビ視聴に適したルール変更が行われ、スポーツ競技自体がサウンドメディアを所有するなど、メディアとスポーツの関係は時代とともに変化し続けている。本講義では、スポーツとメディアの変遷を辿り、メディアがスポーツに与えた影響と今後の関係性を考察する。更にSNSの出現以降、アスリートはメディアを介さず、自らが情報発信できるようになった。スポーツの価値を高める情報発信をサポートするメディアトレーニングについても学ぶ。

【到達目標】

- ・スポーツとメディアの関係性を歴史的、社会的な視点から理解できる。
- ・スポーツにおけるメディアトレーニングの機能を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを活用した講義形式。毎授業の冒頭に、履修者からスポーツに関するトピックを提供してもらいディスカッションする時間を設ける。学期後半ではグループに分かれ、模擬記者会見を通してメディアトレーニングを実践的に学ぶ。中間テストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明。メディアスポーツとは何か？
2	活字メディア（雑誌・新聞）	メディアの成り立ちと宗教の関係。グーテンベルグによる印刷革命から新聞・雑誌メディアが誕生する過程でスポーツはどのように扱われてきたか。
3	ラジオ①	電波メディアの誕生。1920年アメリカのKDKAにおける世界最初のラジオ放送とスポーツ中継の始まり。ラジオが生んだ日本独自のスポーツ文化であるラジオ体操と高校野球について考える。
4	ラジオ②	ラジオが伝えたオリンピックについて。「実感放送」やオリンピックが生んだスポーツ実況スタイルを事例に時代ごとにメディア技術の発達とスポーツが社会に与えた影響について考える。
5	映画	1936年ナチス政権下で行われたベルリンオリンピックで製作された記録映画はプロパガンダの様相を帯びているとされる。その他にも社会の常識やルールに変革をもたらしたスポーツ映画を題材にスポーツの歴史を振り返る。
6	テレビ	戦後の経済発展とともにテレビはスポーツを大衆化した。「メディアスポーツ」の概念を理解し、「メディアイベント」としての箱根駅伝や高校野球を例にスポーツとメディアの関係性を考察する。
7	ニューメディア①	SNSをはじめとするインターネットメディアの出現により、情報発信の仕方が大きく変化した。スポーツ取材現場の変化とともにインターネットメディアの功罪を考える。

8	ニューメディア②	テクノロジーの進化に伴い、従来のメディア企業はビジネスモデルの変革時期に直面している。特にスポーツエンターテインメントの分野におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）がもたらす変化は目まぐるしい。スポーツ界におけるDX化事例から未来のスポーツとメディアの関係について考える。
9	放映権	放映権の高騰はスポーツのルールにまで影響を及ぼした。オリンピックとサッカーW杯を事例に放映権ビジネスについて学ぶ。
10	中間テスト	これまでの授業のまとめ
11	メディアトレーニング	スポーツにおけるメディアトレーニングとは何か？日本や世界における歴史と現状を把握し、その機能を理解する。
12	危機管理対応	スポーツを取り囲む様々なリスクを整理し、過去の様々な事例から、状況に応じたリスクマネジメントとメディア対応を考える。
13	模擬記者会見 ゲスト招聘（PRコンサルタント）	スポーツ組織における不祥事案件を想定した模擬記者会見を実施。グループに分かれて適切な対応を議論し、想定問答の作成から記者会見の対応までを体験する。
14	総括	模擬記者会見の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。日頃のスポーツニュースをチェックする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート（30%）、授業内発表（20%）、期末テスト(50%)の評価から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

好評だった模擬記者会見において、入念に事前準備ができるよう資料を充実させ、学生がリアリティを持ってより多くの学びを得られるような仕様にブラッシュアップさせる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will track the evolution of sports and media, examine the impact of media on sports, and consider future relationships. We will also learn about media training to support information dissemination that enhances the value of sports.

【Learning Objectives】

The goals of this course are:

- A) To understand the relationship between sports and media from historical and societal perspectives.
- B) To be able to explain the function of media training in sports.

【Learning activities outside of classroom】

Review what you have learned in each lecture. Checking sports news regularly. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Midterm exam (50%), in-class reports (20%), and in-class presentations (30%).

ECN2001A（経済学 / Economics 200）

スポーツビジネス論Ⅱ

望月 拓実

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2年次／2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツビジネスを推進していくうえで必要となる多様な領域のマネジメントを解説する。具体的には、新たに登場したIT分野に関連するマネジメントや施設運営・管理に関するマネジメント、行動経済学的視点から見たスポーツマネジメントや財務に関するマネジメントを理解する。

【到達目標】

- 1：スポーツビジネスを推進するうえで必要となる要素を説明できる
- 2：スポーツファシリティマネジメントの概要を説明し、課題と解決策を提示できる
- 3：行動経済学からみたスポーツビジネスの特徴を説明できる
- 4：スポーツファイナンスの概要を説明し、課題と解決策を提示できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では各回で設定された課題に対するグループワークを行い、自ら意見・アイデアを発信する。その後座学形式による講義を行ったうえで、その内容をふまえた問いに対する意見(リアクションペーパー)を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容、講義の流れ、グループワークの解説、成績評価の解説
第2回	ニュースポーツにおけるビジネス実態と課題	eスポーツ、エクストリームスポーツの特徴と課題
第3回	スポーツテクノロジーにおけるビジネス実態と課題	VAR, ホークアイがもたらすスポーツへの影響、VR観戦の可能性
第4回	スポーツファシリティマネジメント1	スポーツファシリティの歴史的発展、指定管理者制度
第5回	スポーツファシリティマネジメント2	スポーツファシリティとスポーツ政策、運営組織論
第6回	スポーツファシリティマネジメント3	スポーツファシリティの組織間連携、ホスピタリティマネジメント
第7回	スポーツファシリティマネジメント4	スポーツファシリティの建設プロジェクト、管理業務と事業計画
第8回	中間まとめと小テスト	これまでの学習内容をふりかえったうえで、その内容をふまえての穴埋め小テスト
第9回	行動経済学とスポーツ1	顧客ロイヤリティ、感情一致効果、フレーミング効果、ヒューリスティック
第10回	行動経済学とスポーツ2	マーケティングの落とし穴、マーケティングリサーチの実際、イノベーションのジレンマ
第11回	スポーツファイナンスの基礎	ファイナンスとは何か、スポーツファイナンスの特徴、固有性
第12回	クラブファイナンス1	法人格、財務諸表、資金繰り、スポーツ組織の「価値」構造について
第13回	クラブファイナンス2	資本金、株式上場、プロスポーツの企業価値計算、情報開示
第14回	学習の総括	学習の総括(第9回～第13回)とレポート課題の解説(テーマ設定、文字数、引用方法の種類と方法)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う内容に関連する参考書および関連文献を授業前に熟読し、授業時に発言。またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業資料等の配布は学習支援システムを使用する。

【参考書】

授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度(リアクションペーパー、グループワークへの参加、講義内での発言等)：30%

講義内小テスト：20%

最終レポート課題：50%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークメンバーの定期的な入れ替えを導入しました。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】

グループワークはオンラインツールを用いて行うため、原則パソコンを持参すること。所有していない場合はタブレットなど一定以上の画面サイズがある電子端末でも可とする。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will explain the various areas of management that are necessary to promote sports business. Specifically, students will understand management related to the newly emerging IT field, management related to facility operation and management, sports management from a behavioral economics perspective, and management related to finance.

【Learning Objectives】 1：To be able to explain the elements necessary to promote sports business 2：To be able to give an overview of sports facility management and present challenges and solutions 3：To be able to explain the characteristics of sports business from the perspective of behavioral economics 4：To be able to give an overview of sports finance and present issues and solutions

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read carefully the reference books and related literature related to the contents of the class before the class, and to be able to reflect them in their comments and reaction papers.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Class participation (reaction papers, participation in group work, speaking in class, etc.): 30%.

In-class quiz: 20%.

Final report assignment: 50%.

MAN300IA（経営学 / Management 300）

マーケティングリサーチ実習

山口 和真

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4年次／1単位

曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学び、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる。
- ・課題に対して、仮説を立てることができる。
- ・仮説を調査票にすることができる。
- ・回答しやすい調査票作成ができる。
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法を理解し、統計解析ソフトspssを利用することができる。
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、調査の事例についての解説や実際の調査を行うことによって理論的・技術的な理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点や調査をする上での心構えを学ぶ。
第2回	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ。
第3回	調査課題の立て方	調査課題とは何かを複数の例に基づいて考える。
第4回	調査課題を考える	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる。
第5回	調査課題の立て方に関するまとめ	第4回でまとめた調査課題について発表し、ブラッシュアップする。
第6回	調査の種類について	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ。
第7回	調査の種類を学ぶ	定量調査や定性調査の研究を学ぶ。
第8回	定量調査について	事例をもとに定量調査の調査票の構成について学ぶ。
第9回	定量調査の調査票作成	第5回でまとめた調査課題についての簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップを図る。
第10回	定性調査について	事例をもとに定性調査の調査票の構成を学ぶ。
第11回	定性調査の調査票作成	第5回と第9回の結果を踏まえて定性調査の調査票を作成する。
第12回	定量調査の実践	第9回の調査票について実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する。
第13回	定性調査の実践準備	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作成する。
第14回	定性調査の実践	インタビュー調査を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します。

【参考書】

授業内で必要があれば指定します。

【成績評価の方法と基準】

調査票(50%)、分析・レポート(50%)などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で利用する資料について、わかりやすく提示するよう心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】

履修者が上限(52名)を超えた場合には、受講者選抜を実施します。受講者は、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目の履修を条件とします。

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives)

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and use analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss.

(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is 2hours each.

(Grading Criteria /Policy)

The grade is comprehensively evaluated by questionnaires(50%), analysis /reports(50%).

MAN300IA（経営学 / Management 300）

マーケティングリサーチ演習

山口 和真

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4年次／2単位
曜日・時限：火3/Tue.3
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際にリサーチデザインを行い、定量調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる。
- ・課題に対して、仮説を立てることができる。
- ・仮説を調査票にすることができる。
- ・回答しやすい調査票作成ができる。
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法を理解し、統計解析ソフトspssを利用することができる。
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義の具体的な内容は、マーケティング・リサーチの実際の把握、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツに関する調査について学ぶ	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる。
第2回	スポーツに関する調査の概要	調査に関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える。
第3回	調査課題の設定	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する。
第4回	調査課題の仮説の設定	結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する。
第5回	事前調査の実施	事前調査を実施し、課題の妥当性や仮説の方向性をまとめる。
第6回	事前調査結果の発表	第5回で得られた結果を発表し、ブラッシュアップを図る。
第7回	定量調査の調査票設計	課題解決や仮説検証のための調査票設計を行う。
第8回	定量調査の調査票の妥当性の確認	定量調査票設計についての妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップを図る。
第9回	定量調査の事前確認	定量調査の実施に向けた、調査時の事前確認および調査方法のシミュレーションを行う。
第10回	定量調査の実施	定量調査を実施する。
第11回	定量調査のデータ分析	定量調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ。
第12回	調査の集計、分析、仮説検証	調査の分析を実施し、仮説を検証する。
第13回	調査の集計、分析結果の考察	第12回で行った仮説検証を踏まえて、考察と調査結果のまとめを行う。
第14回	総括	調査結果および分析内容についてプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します。

【参考書】

授業内で必要があれば指定します。

【成績評価の方法と基準】

調査票(50%)、分析・レポート(50%)などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で利用する資料について、わかりやすく提示するよう心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】

履修者が上限(52名)を超えた場合には、受講者選抜を実施します。受講者は、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目の履修を条件とします。

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives)

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and use analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss.

(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is 2hours each.

(Grading Criteria /Policy)

The grade is comprehensively evaluated by questionnaires(50%), analysis /reports(50%).

ARSk100JB,ARSk200JC（地域研究（地域間比較）/Area studies(Interregional comparison) 100,地域研究（地域間比較）/Area studies(Interregional comparison) 200)

地域問題入門

野田 岳仁

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域社会が抱えるさまざまな社会的な課題に対して、現場に暮らす人びとの立場からの解決を模索することを目的とする。地域づくり、観光、地域福祉、災害、環境問題をテーマにしたケーススタディを扱うなかで、人びとの創造性や地域社会の志向性を捉えながら、問題解決につながる政策論を構想していく。

【到達目標】

地域社会が抱える諸課題に対して、現場の人たちが考える問題の本質とはどのようなものであるのかを見極める力を養うこと。そのうえで、現場に暮らす人びとが納得し、満足できるような政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は知識を覚えることよりも、地域問題を理解する際の“考え方”を身につけることに重点をおいた実践的な講義である。受講生には、理想論や常識的な考え方にとらわれることなく、現場の人びとの立場に立って問題の本質を見極めることを求める。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域問題を捉える視座	現場に暮らす人びとの立場から
第2回	地域社会を理解する視点①	むらの暮らしと生活文化
第3回	地域社会を理解する視点②	むらの共同性と社会関係
第4回	地域社会が担ってきた教育と福祉	社会的親と平凡教育
第5回	地域問題としての環境汚染	水はなぜ汚れるのか？
第6回	水辺空間管理と地域づくり	コモンズと弱者生活権
第7回	地域社会の合意形成はいかにして可能か？	住民参加と地域づくり
第8回	コミュニティづくりはなぜうまくいかないのか？	地域コミュニティとNPO・NGO
第9回	自然災害と災害文化	なぜ人びとは雪崩が予測できると語るのか？
第10回	原発災害とコミュニティ	被災者にとっての“被害”とは？
第11回	魅力ある景観形成と地域づくり	町並み保全と地域づくり
第12回	環境と観光はどのように両立されるのか？	ローカル・ルールを守る観光まちづくり

第13回 地域問題の理論と実践 生活環境主義の立場から

第14回 講義のまとめと試験 本講義の知見と有効性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の振り返りは不可欠となる。毎回配布するレジュメには参考文献を記載しておくので必要に応じて参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメントやリアクションペーパー（10%）と期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動などの地域問題の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master the basic concepts of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of environmental sociology and sociology of local community, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

ARSx100JB（地域研究（その他） / Area studies(Others) 100)

コミュニティマネジメント入門

水野 雅男、図司 直也、土肥 将敦、野田 岳仁、杉浦 ちなみ

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6002 まちづくりの思想」を受講すること。

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】

日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教員5名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやDVD等を活用して紹介する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（図司）	「自分ごと」から地域を感じる
第2回	「地域／まち」をつくるとは？（図司）	地域づくりを実践する現場に触れる
第3回	若者は「地域」で何ができるのか？（図司）	地域づくりに動き出した仲間との姿に触れる
第4回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第5回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第6回	コミュニティの暮らしと創造性（野田）	生活文化の「価値」継承のしくみ
第7回	コミュニティ×企業（土肥）	地域固有の企業とステイクホルダー
第8回	コミュニティ×NPO（土肥）	社会的課題とNPO
第9回	コミュニティ×ソーシャルビジネス（土肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性
第10回	学びがつくる地域（杉浦）	学校外での学びの空間
第11回	地域で文化を学び伝える（杉浦）	暮らしの中にある豊かさ
第12回	アート&クラフトとまちづくり（水野）	アートの発掘
第13回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第14回	住民主体のまちづくり（水野）	NPOと行政のパートナーシップの必要性和実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した事例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】

授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーのコメント）100％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】

授業を担当する5名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire what community management is, its principles and measures, or how to understand agricultural and mountain villages, cities, regions, and communities through practical examples of civic activities and social business.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Understand the community management in Japan and overseas, the efforts for regional revitalization and their actual conditions, and broadly understand the meaning and modern significance of them.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 100%

SOW100JB,SOW200JC (社会福祉学 / Social Welfare 100, 社会福祉学 / Social Welfare 200)

社会問題論

高良 麻子

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本における社会問題を中心に、多様な視点から理解するとともに、問題解決に向けた様々な活動を学ぶ。

【到達目標】

- ・それぞれの社会問題の概要を説明できる。
- ・様々な社会問題は相互に関連していることを説明できる。
- ・社会問題の解決に向けた活動を考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、講義とともに、少人数でのディスカッション等を行う。また、映像やゲストスピーカーからの講義によって理解を深める。授業ごとにリアクションペーパーを提出してもらい、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第3回	社会問題とは何か②	活動からの理解
第4回	社会問題①	少子高齢化・人口減少
第5回	社会問題②	ヤングケアラー
第6回	社会問題③	ワーキングプア
第7回	社会問題④	子どもの貧困
第8回	社会問題⑤	ハラスメント
第9回	社会問題⑥	DV(家庭内暴力)
第10回	社会問題⑦	性暴力
第11回	社会問題⑧	難民
第12回	社会問題⑨	孤独・孤立
第13回	社会問題⑩	自殺
第14回	総括	社会問題の全体像 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要に応じて、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60%
- ・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の学生のフィードバックをもとに、今年度もゲストスピーカーからの講義を予定している。

【Outline (in English)】

This course is designed to explore contemporary social problems in Japan. The design of this course provides students with an opportunity to develop knowledge of current social problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in-class contribution (60%).

PSY100JB, PSY100JC (心理学 / Psychology 100, 心理学 / Psychology 100)

心理学（2020年度以前入学者）**服部 環**

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の研究対象と領域は多岐にわたります。この授業で実験心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学などの研究で得られた知見を学び、心理学や社会全般に対する視野を広げて欲しいと思っています。

この科目は教職科目にも指定されていますので、教育基本法に定める教育の目的を踏まえ、一人一人の「人格の完成」また「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質」を備えるために必要な学びを目指して欲しいと考えています。そのため、日常生活との接点を含む研究知見も取り上げます。

【到達目標】

心理学の研究知見や概念を説明できること、現代の社会について主体的に考察するために必要な心理学的な見方を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする対面授業を行います。資料の配付、課題等の提出、フィードバックなどは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、心理学の諸領域と授業で取り上げるテーマとの関係
第2回	感覚・知覚	感覚と知覚、形の知覚
第3回	知覚の恒常性	運動の知覚、知覚の恒常性
第4回	条件付け	古典的・オペラント条件付け
第5回	社会的学習	社会的学習、運動技能の学習
第6回	記憶	感覚・短期・長期記憶
第7回	思考と推論	問題解決学習と推論
第8回	知能	知能理論と知能検査、行動遺伝学
第9回	性格	性格理論と性格検査
第10回	動機づけ	外発的・内発的動機づけ
第11回	発達	心身の発達
第12回	集団の心理	同調、服従、傍観者効果
第13回	心理学の研究法	心理学研究法、心理統計の基礎
第14回	試験・まとめと解説	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げたトピックスについてさらに理解を深めて欲しいと思っています。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

主に学習支援システムを利用して、学習用の教材・資料を配付します。

【参考書】

福田由紀（編著） 心理学要論－こころの世界を探る（培風館）
他の参考書も授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

幅広く心理学の研究領域とその知見を紹介したいと思っています。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will introduce students to various topics of psychology, including perception, learning, personality, intelligence, social psychology, psychological assessment, and psychological research methods. The primary purpose of the course is to help students become familiar with subdisciplines of psychology.

【Learning Objectives】 The goal of this class is for you to be able to explain psychological research findings and concepts, and to acquire the psychological perspective necessary for independent reflection on contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100JB, PSY100JC (心理学 / Psychology 100, 心理学 / Psychology 100)

心理学（2021年度以降入学者）**服部 環**

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の研究対象と領域は多岐にわたります。この授業で実験心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学などの研究で得られた知見を学び、心理学や社会全般に対する視野を広げて欲しいと思っています。

この科目は教職科目にも指定されていますので、教育基本法に定める教育の目的を踏まえ、一人一人の「人格の完成」また「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質」を備えるために必要な学びを目指して欲しいと考えています。そのため、日常生活との接点を含む研究知見も取り上げます。

【到達目標】

心理学の研究知見や概念を説明できること、現代の社会について主体的に考察するために必要な心理学的な見方を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする対面授業を行います。資料の配付、課題等の提出、フィードバックなどは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、心理学の諸領域と授業で取り上げるテーマとの関係
第2回	感覚・知覚	感覚と知覚、形の知覚
第3回	知覚の恒常性	運動の知覚、知覚の恒常性
第4回	条件付け	古典的・オペラント条件付け
第5回	社会的学習	社会的学習、運動技能の学習
第6回	記憶	感覚・短期・長期記憶
第7回	思考と推論	問題解決学習と推論
第8回	知能	知能理論と知能検査、行動遺伝学
第9回	性格	性格理論と性格検査
第10回	動機づけ	外発的・内発的動機づけ
第11回	発達	心身の発達
第12回	集団の心理	同調、服従、傍観者効果
第13回	心理学の研究法	心理学研究法、心理統計の基礎
第14回	試験・まとめと解説	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げたトピックスについてさらに理解を深めて欲しいと思っています。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

主に学習支援システムを利用して、学習用の教材・資料を配付します。

【参考書】

福田由紀（編著） 心理学要論－こころの世界を探る（培風館）
他の参考書も授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

幅広く心理学の研究領域とその知見を紹介したいと思っています。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will introduce students to various topics of psychology, including perception, learning, personality, intelligence, social psychology, psychological assessment, and psychological research methods. The primary purpose of the course is to help students become familiar with subdisciplines of psychology.

【Learning Objectives】 The goal of this class is for you to be able to explain psychological research findings and concepts, and to acquire the psychological perspective necessary for independent reflection on contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100%).

SOW200JB (社会福祉学 / Social Welfare 200)

福祉国家論**渡辺 寛人**

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、資本主義システムのなかで福祉国家が成立していく歴史的過程に焦点を当てる。イギリス、アメリカ、スウェーデン、日本の歴史を取り上げ、福祉国家の現代的な意義と限界を検討する。

【到達目標】

- 1) 福祉国家が成立した歴史的背景を理解する
- 2) 福祉国家をめぐる基礎的な理論を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行なう。講義ごとにリアクションペーパーの提出を求め、毎回の講義のはじめにフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と、福祉国家についての概説
第2回	福祉国家の理論	商品化／脱商品化と社会政策
第3回	福祉国家の前史①救貧法体制	貧困問題の発生と救貧法の成立過程
第4回	福祉国家の前史②近代家族の形成	近代家族の形成プロセスについて
第5回	福祉国家の前史③チャリティー	COSおよびセツルメントの広がり
第6回	イギリスの福祉国家：貧困の発見	ブース、ラウントリーによる貧困の発見と絶対的貧困の歴史的背景
第7回	イギリスの福祉国家：ベヴァリッジ報告と「貧困の再発見」	福祉国家の設計図とされているベヴァリッジ報告の検討、相対的貧困概念の発明
第8回	アメリカの福祉国家：ニューディール政策	ニューディール政策の内容とその背景について
第9回	アメリカの福祉国家：福祉権運動	福祉権運動の展開と背景について
第10回	スウェーデンの福祉国家：優生思想	スウェーデンの福祉国家における優生思想について
第11回	日本の社会福祉（戦前）	明治維新以後の日本の貧困対策について
第12回	日本の社会福祉（戦後）	「日本型福祉社会」論について検討する
第13回	世界の福祉国家	世界の福祉国家を概観する
第14回	講義まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

参考資料、参考文献については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎講義のリアクションペーパーの提出（30%）と期末レポート（70%）によって評価します。期末レポートの内容については授業内で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布およびリアクションペーパー、レポートの提出については学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This lecture focuses on the historical process of the establishment of the welfare state within the capitalist system. The history of the UK, USA, Sweden and Japan will be discussed, and the contemporary significance and limitations of the welfare state will be examined.

【Learning Objectives】

- 1) Understand the historical background to the establishment of the welfare state
- 2) Understand the basic theories surrounding the welfare state.

【Learning activities outside of classroom】

A total of four hours of preparatory study and review time for this class is standard.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation is based on the submission of a reaction paper for each lecture (30%) and a final report (70%). The content of the final report will be given in class.

ENG200JB (その他の工学 / Engineering 200)

社会的包摂論

水野 雅男

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バリアフリーあるいは社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を多様な観点から把握することで、すべての人びとが健康で文化的な生活をおくる地域社会のあり方について理解を深める。特に、その実現に向けた各セクター（行政・民間・市民）の役割分担と連携について注目する。

【到達目標】

バリアフリーやユニバーサルデザイン、ソーシャル・インクルージョンが出現してきた社会的背景ならびにそれらの概念の違いを理解できるようにする。さらに、国内外の政策の変遷を辿り、市民セクターの地域づくり現場での関わり方や今後の在り方を理解し、自ら行動する意識付けを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	社会的包摂の概念の紹介
第2回	バリアフリー政策①	バリアフリー、国内の政策の変遷
第3回	バリアフリー政策②	日米のバリアフリー政策の相違
第4回	移動とUD①	国内の交通施設や公共交通機関
第5回	移動とUD②	欧州の交通政策とトラム
第6回	包摂的なまちづくり①	海外の交通計画・土地利用計画における社会的包摂
第7回	包摂的なまちづくり②	住まいにおける社会的包摂
第8回	障害者の能力①	エイブルアート
第9回	障害者の能力②	めだかの育成プログラムによる障害者の就労支援事業
第10回	障害者のシゴト①	障害者の実態と障害者差別解消法
第11回	障害者のシゴト②	我が国のホームレス政策とNPO活動
第12回	ホームレス支援①	国内外のホームレス政策の相違
第13回	ホームレス支援②	NPOによるホームレス支援アプローチ
第14回	試験・まとめと解説	レポートの授業内提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回翌週のテーマを提示するので、授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。

学習支援システムに当日の教材を掲載するので、十分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」川内美彦、学芸出版社、2007年
「インクルーシブデザイン 社会の課題を解決する参加型デザイン」ジュリア・カセム他編、学芸出版社、2014年
「人間都市クリチバ」服部圭郎、学芸出版社、2004年
「ストラスブールのまちづくり」ヴァンソン藤井由実、学芸出版社、2011年
「フライブルクのまちづくり」村上敦、学芸出版社、2007年
「英国発グラウンドワーク」渡辺豊博・松下重雄、春風社、2010年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70% ②レポート 30% ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケートは現在集計中、結果を活用していく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、バリアフリータウン計画を策定した経験に基づき、プランニングの視点を授業に導入する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire understanding of the community in which all people live a healthy and cultural life.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Understand the social background of barrier-free, universal design, and the emergence of social inclusion, as well as the differences in their concepts.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

① Normal score 70%② Report 30%Comprehensive evaluation of ① and ②.

ENG200JB (その他の工学 / Engineering 200)

地域計画論

杉浦 ちなみ

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域を計画するとはどういうことか。誰が、どのように計画するのか。これらの問いを地域の中で私たちが豊かに生きるためにはどうしたらよいか、という生活者の目線から、その歴史をたどりつつ深める。本講義は、地域計画の中でも地域の教育・文化に関わる計画にもとづいて展開する。

【到達目標】

地域・社会の抱える課題に対して地域計画に携わる主体がどのように向き合うことができるか、基本的な視点をもつ。また、私たち一人ひとりが生活者として、それぞれ暮らす地域をよくしていくことにどう関わっていくか、という当事者意識を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で進める。回によって、リアクションペーパーの作成を求めるほか、小レポートを課すこともある。それらのフィードバックは授業時間中に行い、授業内容に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概略および進め方を確認する。
第2回	私たちはどのような地域に生きているのか	地域をめぐる状況を俯瞰する
第3回	一人ひとりの学びが作る地域	個人の学びと地域づくりの関わりについて考える
第4回	生活の中の「計画」	私たち一人ひとりの問題としてどう考えるか
第5回	地域計画の歴史（1）1940年代後半（1）	地域社会の教育計画
第6回	地域計画の歴史（2）1940年代後半（2）	地域の拠点としての公民館
第7回	地域計画の歴史（3）1950年代	「村の古さ」をめぐる（1）
第8回	地域計画の歴史（4）1960年代	「村の古さ」をめぐる（2）
第9回	地域計画の歴史（5）1960～1970年代	住民運動と地域課題の学習
第10回	地域計画の歴史（6）1980～1990年代（1）	「豊かさとは何か」を問い直す（1）
第11回	地域計画の歴史（7）1980～1990年代（2）	「豊かさとは何か」を問い直す（2）
第12回	地域計画の歴史（8）2000年代～	コロナ禍を経た現在へ
第13回	地域計画をつくり支える仕事	自治体職員、民間、市民団体など
第14回	まとめ	講義全体をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業や各回のテーマについて、日頃から関心をもって国・自治体の情報や新聞・雑誌等に積極的に触れる。授業後には内容を振り返り、自ら応用的に情報を収集することを期待する。また、課題が示された際にはそれに取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

佐藤一子編『地域学習の創造—地域再生への学びを拓く』東京大学出版会、2015ほか授業時間中に適宜示す。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー、小レポートを含む平常点50%、最終レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【その他の重要事項】

上述の計画は若干変更する場合がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】What does it mean to plan a community? Who plans and how? In this course, we will consider these questions through an overview of the history of regional planning, especially as it relates to education and culture.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to have a basic perspective on how regional planners can be involved in regional issues. In addition, students will also gain a new perspective on how each of us, as a citizen, can be involved in improving the community in which we live.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

short report and in-class contribution (50%), term-end report (50%)

MAN200JB（経営学 / Management 200）

コミュニティビジネス論**土肥 将敦**

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における経済的・社会的問題の解決を求めて、革新的なアイデアを持つ社会的企業者が地域の資源を生かして活動する事業体＝コミュニティ・ビジネスが求められている。政府・行政の活動、大企業の活動からは漏れ落ちるような地域の多様で個別的なニーズや価値に柔軟に応えようとするコミュニティ・ビジネスは、コミュニティの再生という目的と事業活動をつなげていく社会的企業者たちによって担われるものであり、ソーシャル・ビジネスの一部分とみなすことができる。本講義では、こうしたコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスの意義や経営課題を、国内外の事例やゲストスピーカーとの対話を通して明らかにする。

【到達目標】

- ①コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの定義や要件を理解する。
- ②コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの意義や経営課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面授業による講義形式である。毎回講義内でのディスカッションやミニレポートの提出を求める。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、テキストの紹介、成績評価方法について。
第2回	コミュニティ・ビジネス / ソーシャル・ビジネス とは何か①	「コミュニティ・ビジネス」とは何かを理解する。
第3回	コミュニティ・ビジネス / ソーシャル・ビジネス とは何か②	「ソーシャル・ビジネス」とは何かを理解する。
第4回	事業型NPOによる取り組み①	病児保育の事例を通して理解する。
第5回	事業型NPOによる取り組み②	病児保育事業の取り組みを通して理解する。
第6回	事業型NPOによる取り組み③	貧困問題と健康問題の事例を通して理解する。
第7回	事業型NPOによる取り組み④	貧困問題と健康問題を解決する事業活動事例を通して理解する。
第8回	事業型NPOによる取り組み⑤	アメリカの事業型NPOの事例を通じて理解する。
第9回	株式会社による取り組み①	女性起業家の事例を通して理解する。
第10回	株式会社による取り組み②	女性起業家の事例を通して理解する。
第11回	株式会社による取り組み③	大企業とコミュニティの関係を理解する。
第12回	株式会社による取り組み④	大企業の具体的なコミュニティ/ソーシャル・ビジネスを通して理解する(1)。
第13回	株式会社による取り組み⑤	大企業の具体的なコミュニティ/ソーシャル・ビジネスを通して理解する(2)。
第14回	講義全体のまとめ	これまでの講義を通して得られた知見を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・雑誌・書籍などを通じて、コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスに関するニュースに積極的に触れることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

土肥将敦（2022）『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』千倉書房

谷本寛治編（2015）『ソーシャル・ビジネス・ケース：少子高齢化時代のソーシャル・イノベーション』中央経済社

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義内でのミニレポートとプレゼンテーション 70%、期末レポート 30%。具体的な講義方法と基準等は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くのゲストスピーカーをお招きし、彼らとの対話を通してダイナミックな講義を目指す。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop students' business skills and knowledge in problem solving, community business, social business and for-profit/non-profit organizations. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(70%), term-end report(30%).

ARSx200JB（地域研究（その他） / Area studies(Others) 200)

ローカルイノベーション論

野田 岳仁、水野 雅男、図司 直也、土肥 将敦

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6055 地域の歴史と文化」を受講すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

【到達目標】

ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教員4名（水野・図司・土肥・野田）が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。1 地域を2回の講義で構成し、1回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。2回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／イントロダクション（水野・図司・土肥・野田）	ローカルイノベーションとは何か
第2回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①（野田）	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第3回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第4回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①（野田）	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第5回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第6回	半島先端におけるローカルイノベーション①（水野）	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第7回	半島先端におけるローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第8回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①（水野）	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー
第9回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション

第10回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①（図司）	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第11回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第12回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①（図司）	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第13回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第14回	総括（水野・図司・土肥・野田）	6事例からの学びと提言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義内で資料を配布する。

【参考書】

講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーへのコメント）100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

講義を担当する4名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW200JB,SOW100JA (社会福祉学 / Social Welfare 200, 社会福祉学 / Social Welfare 100)

アジア地域開発論 (2021年度以降入学者)**小林 尚朗**

配当年次／単位数：福コミ：1～4・臨心：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次大戦後、開発途上国・地域のなかで「奇跡」的な経済成長を果たしてきた東アジアの開発過程を理解し、その特徴を捉える。

【到達目標】

世界でも最貧困地域であった東アジアが、なぜ世界の成長センターとなったのか、世界システム論的なアプローチと、東アジアに特有な経済・社会制度を学び、その要因を分析することで、残された世界各地の経済・社会開発への手がかりを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業が中心になります。初めてこの授業を担当するので、履修者の状況や人数がよくわからないのですが、適正規模の場合はディスカッションなども行います。毎時間とは限りませんが、リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーに書かれた意見や質問については、原則として次の時間に全体に対してフィードバックを行います。本講義の授業計画のお知らせや教材の提示は、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の概要、ポイントを紹介
第2回	世界の中のアジア	アジアの現状を紹介
第3回	韓国・台湾の開発政策	戦後開発途上国の経済開発と外向きの成長
第4回	ASEANの開発政策	その誕生と地域経済協力
第5回	中国の開発政策	改革開放と社会主義市場経済
第6回	東アジアの奇跡をめぐって	政府対国家とワシントン・コンセンサス
第7回	東アジアの地域経済協力	開かれた地域協力からRTAへ
第8回	東アジア共同体構想	地域経済協力の深化と確執
第9回	勃興する中国	貿易大国化と一帯一路構想
第10回	アジアのメガリージョナリズム	TPP、RCEP、FOIP
第11回	米中貿易摩擦とアジア	アジアが直面する国際問題
第12回	アジアに残された課題	成長の光と影
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で配布した資料等の復習。アジアや世界の政治経済の動向を新聞やニュースなどでチェックすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

小林尚朗・山本博史・矢野修一・春日尚雄『アジア経済論』（文眞堂、2022年）。

その他、必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（平常点）：50％、課題提出（発表も予定）：50％

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合があります。

【担当教員の専門分野】

世界経済論、アジア経済論、貿易政策論、フェアトレード。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 Good practices and important trends in community development in Asia, particularly East Asia, will be the main focus for a better understanding.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge of Asian regional development.

【Learning Activities Outside of Classroom】 Before and after each class, students are expected to spend 2 hours to understand the course contents.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be determined based on reaction papers (50%), reports, and presentations (50%).

SOW200JB,SOW100JA (社会福祉学 / Social Welfare 200, 社会福祉学 / Social Welfare 100)

アジア地域開発論 (2020年度以前入学者)**小林 尚朗**

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次大戦後、開発途上国・地域のなかで「奇跡」的な経済成長を果たしてきた東アジアの開発過程を理解し、その特徴を捉える。

【到達目標】

世界でも最貧困地域であった東アジアが、なぜ世界の成長センターとなったのか、世界システム論的なアプローチと、東アジアに特有な経済・社会制度を学び、その要因を分析することで、残された世界各地の経済・社会開発への手がかりを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業が中心になります。初めてこの授業を担当するので、履修者の状況や人数がよくわからないのですが、適正規模の場合はディスカッションなども行います。

毎時間とは限りませんが、リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーに書かれた意見や質問については、原則として次の時間に全体に対してフィードバックを行います。

本講義の授業計画のお知らせや教材の提示は、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の概要、ポイントを紹介
第2回	世界の中のアジア	アジアの現状を紹介
第3回	韓国・台湾の開発政策	戦後開発途上国の経済開発と外向きの成長
第4回	ASEANの開発政策	その誕生と地域経済協力
第5回	中国の開発政策	改革開放と社会主義市場経済
第6回	東アジアの奇跡をめぐって	政府対国家とワシントン・コンセンサス
第7回	東アジアの地域経済協力	開かれた地域協力からRTAへ
第8回	東アジア共同体構想	地域経済協力の深化と確執
第9回	勃興する中国	貿易大国化と一帯一路構想
第10回	アジアのメガリージョナリズム	TPP、RCEP、FOIP
第11回	米中貿易摩擦とアジア	アジアが直面する国際問題
第12回	アジアに残された課題	成長の光と影
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で配布した資料等の復習。アジアや世界の政治経済の動向を新聞やニュースなどでチェックすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

小林尚朗・山本博史・矢野修一・春日尚雄『アジア経済論』（文真堂、2022年）。

その他、必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（平常点）：50％、課題提出（発表も予定）：50％

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合があります。

【担当教員の専門分野】

世界経済論、アジア経済論、貿易政策論、フェアトレード。

【Outline (in English)】**【Course Outline】** Good practices and important trends in community development in Asia, particularly East Asia, will be the main focus for a better understanding.**【Learning Objectives】** By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge of Asian regional development.**【Learning Activities Outside of Classroom】** Before and after each class, students are expected to spend 2 hours to understand the course contents.**【Grading Criteria/Policy】** Grading will be determined based on reaction papers (50%), reports, and presentations (50%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

社会福祉原理

岩崎 晋也

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉の原理を考える

【到達目標】

社会福祉の専門職としての基本的な視点や論理を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

なるべく具体的な事例を題材にしながら、社会福祉専門職として、どのように問題をとらえるべきなのかを検討する。知識を身につけることよりも思考力や価値観を身につけることを重視する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会福祉の正当化問題	社会福祉原理の基本問題である正当化問題とは何かを理解する
第2回	人間はなぜ他者を援助するのか1	社会の変化に応じて、援助の位置づけが変化することを理解する。狩猟採集社会・氏族社会
第3回	人間はなぜ他者を援助するのか2	社会の変化に応じて、援助の位置づけが変化することを理解する。都市国家
第4回	人間はなぜ他者を援助するのか3	社会の変化に応じて、援助の位置づけが変化することを理解する。ローマ帝国とキリスト教
第5回	人間はなぜ他者を援助するのか4	キリスト教や仏教などの普遍宗教がもたらした影響を理解する
第6回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか1	社会契約説において、他者を援助することがどのように位置付けられたかを理解する
第7回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか2	フランス革命において公的救済がどのように位置付けられたかを理解する
第8回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか3	フランス第三共和制における社会連帯説の意義を理解する
第9回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか4	福祉国家の意義と、リスクの共有の現代的課題を理解する
第10回	社会福祉の原理1	社会保険などの文脈とは異なる福祉としての社会福祉の誕生
第11回	社会福祉の原理2	パターナリスティックな社会福祉の問題点
第12回	社会福祉の原理3	ノーマライゼーションとパーソナライゼーションからの批判
第13回	社会福祉の原理4	基本的ケーパビリティの平等と個人の尊厳としての人権
第14回	社会福祉の原理5	新しい社会福祉のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習をし、全体の論理の流れを理解する。下記に示した参考書や、授業で示した参考文献で興味を持ったものを読む。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

岩崎晋也（2018）『福祉原理－社会はなぜ他者を援助する仕組みを作ってきたのか』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

- ①試験方法 筆記試験（100%）
②採点基準 講義内容の理解度を評価する

【学生の意見等からの気づき】

考えるための素材を提供する

【Outline (in English)】

This course introduces the principles of social welfare. The goals of this course are understanding the basic perspectives and logic of social worker. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, Term-end examination: 100%.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

医療政策論

小磯 明

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2025年度の授業実施日は、9月11日（木）・12日（金）・16日（火）。
その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業での意見交換を通じて、学生が医療政策の重要性を認識する。

【到達目標】
医療政策とは何か、を学生が理解するとともに、日常生活の中で、医療政策・制度がどのような役割を果たしているか、を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面で実施する。学生の授業への積極的参加を促すために、
毎回の授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。リア
クションペーパーでの質問・意見については、翌週の授業の冒頭で
答えるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義のねらい、授業の進め方など
2	医療政策の定義と周辺学問	「医療政策とは何か」ということと周辺領域の学問について検討する
3	医療提供体制	現在の医療提供体制について設立主体や他国との違いを検討する
4	医療保険のしくみ	日本の医療保険制度のしくみについて理解するとともに他国との違いを検討する
5	診療報酬制度	日本の診療報酬制度について理解するとともに他国との違いを検討する
6	医療費の動向	日本の医療費について理解するとともに他国と比較検討する
7	医療の質	医療の質とは何かについて理解するとともに質向上の取り組みを検討する
8	保険者の役割	日本の保険者の役割について理解するとともに他国との違いを検討する
9	高齢者医療制度	高齢者医療制度の歴史と現在の仕組みを理解する
10	医療費の患者負担	医療費における患者負担について理解するとともに他国との違いを検討する
11	医療改革	日本の医療改革について理解する
12	医療の患者満足	医療の患者満足について理解する
13	国民皆保険制度	国民皆保険制度について理解するとともに、他国との違いを検討する
14	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
医療や社会保障に関する新聞報道等に注目してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。毎回、教材資料を配布する。

【参考書】
小磯明『医療機能分化と連携』御茶の水書房,2013年。
小磯明『高齢者医療と介護看護』御茶の水書房,2016年。
小磯明『イギリスの認知症国家戦略』同時代社,2017年。
小磯明『フランスの医療福祉改革』日本評論社,2019年。
小磯明『イギリスの医療制度改革』同時代社,2019年。

【成績評価の方法と基準】
授業平常点60％、レポート提出40％。レポートは1回とし、内容を総合的に判断する。履修者は必ず、レポートを提出すること。毎回の授業は対面授業のため、出席を重視することに注意のこと。

【学生の意見等からの気づき】
諸外国の医療制度や事例を紹介するとともに、日本の医療保険制度についての理解も深める。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】
受講生の関心に応じて、授業計画が若干変更される可能性がある。

【Outline (in English)】
Recognize the importance of health policy through exchange of ideas in class. The aim of this course is to help students acquire knowledge of medical policy.
At the end of the course, students are expected to knowledge of medical system and policy.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is a least two hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 40%, in class contribution: 60%.

ENG300JB（その他の工学 / Engineering 300）

都市住宅政策論

水野 雅男

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】

都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。

国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。

講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第2回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第3回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第4回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第5回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第6回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第7回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第8回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第9回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第10回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第11回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策とNPO
第12回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第13回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第14回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。

学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、十分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009年

「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009年

「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014年

「欧米の住宅政策—イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999年

「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009年

「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009年

「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK出版、2011年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70% ②レポート 30% ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、NPO法人金澤町家研究会、NPO法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire how housing policies have been tackled through domestic and international comparisons and examples of civic activities.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Recognizing how urban housing policies have changed in the social background and how they differ at home and abroad.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

① Normal score 70%② Report 30%Evaluate ① and ② comprehensively.

CUM300JB（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300）

地域文化政策論

杉浦 ちなみ

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：旧「地域文化政策」を修得した者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の文化をつくり、支える制度と人はどのようなものか。その歴史と現状について、日本の歴史やいくつかの地域に即して学んでいく。さらには地域の文化活動をどう支援するかについて、現代的課題と可能性についても考える。

【到達目標】

地域文化を支える教育・文化政策の歴史と現状についての基本的な理解を得る。また、地域文化の継承や創造に直接・間接的に関わるものの意味、具体的な職業などについても学ぶことで、日々の生活の中で文化を身近に感じ、自分自身もその作り手として意識し行動できるような関心を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式によるが、適宜ディスカッションを交えながら進める。可能であれば、ゲストスピーカーによる講義も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法など
第2回	地域文化の継承と創造(1)	鹿児島県奄美群島の島唄文化
第3回	地域文化の継承と創造(2)	東日本大震災後の東北地方での継承活動
第4回	地域文化とはなにか	私達の身の回りにある文化に目を向ける
第5回	地域文化を支える政策(1)	公教育の原理と理念
第6回	地域文化を支える政策(2)	社会教育・生涯学習
第7回	地域文化を支える政策(3)	文化行政(文化財保護を含む)
第8回	地域文化をつくる場所(1)	地域の中の学校、文化の中の学校
第9回	地域文化をつくる場所(2)	公民館・図書館・博物館・公共ホール
第10回	地域文化を支える人(1)	福祉と生涯学習の接点から
第11回	地域文化を支える人(2)	社会教育職員、文化行政職員
第12回	地域文化を学ぶ(1)	生涯学習の実践
第13回	地域文化を学ぶ(2)	暮らしのなかの表現空間
第14回	まとめ	授業全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献や小さな課題をその都度提示するので、授業計画に示されたテーマ・内容にもとづき予習・復習を行うこと。また、地域文化に関連する報道や博物館展示等に関心を持ち、身近な事例や展示などに積極的に足を運んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

山崎功・新藤浩伸・田所祐史・飯塚哲子編『地域文化の再創造—暮らしのなかの表現空間』水曜社、2024
佐藤一子『地域文化が若者を育てる—民俗・芸能・食文化のまちづくり』農山漁村文化協会、2016
ほか適宜示す。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー、小レポートを含む平常点50%、最終レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【その他の重要事項】

上述の計画は若干変更する場合がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course discusses the history and current state of Japan's policies related to regional culture. It also addresses contemporary challenges and prospects in supporting local cultural activities.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to gain a basic understanding of the history and current status of educational and cultural policies that support local culture.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to be interested in news reports and museum exhibitions related to local culture, and to actively visit there. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report and in-class contribution (50%), term-end report (50%)

ENV300JB（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境政策論

藤澤 浩子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取り組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取り組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】

学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取り組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけ高めていこうとする姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

環境政策はPDC Aサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史的経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。課題等の提出・フィードバックは、講義時または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 1	ガイダンス及び環境学習経験の確認、キャンパス周辺を歩き、講義の進め方等の確認とミニフィールドワーク（FW）
第2回	オリエンテーション 2	フィールドノート及び「人間をとりまく環境のイメージ」を共有する
第3回	SDGsについて	SDGs関連情報（国際的取り組み経過・現状、日本の環境政策における位置づけ等）の解説及び関心共有ワーク
第4回	環境・環境政策の理念	環境とは、環境政策とはどのようなものか、環境問題への取り組みの歴史的経緯等を踏まえて解説する
第5回	環境に関する基礎知識	地球規模の環境問題とその対策を知る上で必要な、地球に関する基礎知識と問題となっている諸テーマについて概説する
第6回	環境問題を知る 1	温暖化、エネルギー問題
第7回	環境問題を知る 2	生物多様性、地球環境問題
第8回	環境問題を知る 3	循環型社会、地域環境問題
第9回	環境問題を知る 4	化学物質、震災関連の問題等
第10回	環境政策の原則・手法	環境政策の原則・手法、環境学習、環境アセスメント等に関する概説

第11回	各主体の役割・活動 1	各主体の役割、参加・協働の手法、国際機関・政府セクターの取り組み、企業の取り組み
第12回	各主体の役割・活動 2	市民（個人、NPO等）の取り組み、身近な環境に関する市民の取り組み事例（DVD視聴等）
第13回	身近な環境保全の取り組み実践体験 全体ワーク 1	かるた制作（読み札づくり）
第14回	身近な環境保全の取り組み実践体験 全体ワーク 2	かるた制作（絵札づくり）と試用（場合によっては、読書レポート発表会）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。

関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

東京商工会議所（2023）『環境社会検定試験eco検定公式テキスト改訂9版』。

その他、必要に応じ講義時にプリントを配布します。

【参考書】

倉阪秀史(2014)『環境政策論（第3版）』信山社、竹本和彦編（2020）『環境政策論講義：SDGs達成に向けて』東京大学出版会、日本環境教育学会編（2013）『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著（2011）『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2. 試験方法：随時行う小テストと読書レポート
3. 採点基準：リアクションペーパー及び小テスト、かるた制作への参加等で把握する平常点70%、提出課題（フィールドノート、読書レポート）30%とします。

【学生の意見等からの気づき】

過去11年間、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループやクラス単位でのワークショップを行ってきました。全回オンライン形式となった2020年度以外、全体ワークで、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパスの周辺をあらためて見つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、対面でのアクティブラーニングが可能な状況であれば、受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出及び資料配布等のために学習支援システムを活用する予定です。

【その他の重要事項】

受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。質問等については、リアクションペーパーで受け付ける他、必要に応じ、授業終了後に教室で、または電子メールで受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces basic knowledge of the environment /environmental problem and policy to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the knowledge necessary for solving familiar environmental problems. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the importance of each citizen's efforts.
- understand the significance of actually touching and feeling the environment around us.
- get the right information, make wise decision, and tell others, listen and share with others.
- willing to do good activities for the familiar/global environment.

【Learning activities outside of classroom】

1.Find out about environmental issues of your interest.

2.Try participating in environmental activities, if possible.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

・ Normal point 70%: Preparations, reaction papers, approaches, contribution to group work

・ Report (Field-note, Mid-term, Final) 30%

ARSk300JB（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)

地方自治論

中嶋 学

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都道府県、市町村、特別区といった自治体が地域における行政を担っており、地域の課題・問題を解決するために、政策を作成し、実施しています。しかし、近年、自治体が対応を求められている高齢者福祉、子育て・教育、まちづくりなどの課題・問題の多くは、複雑な要因が絡み合い、既存の解決策が通用しない「厄介な問題（wicked problem）」であり、その解決のために、自治体は、企業、NPO、住民と連携・協働することが必要になります。この講義では、地域の課題・問題の解決に向けて、多様な組織や人が参加し、それぞれの専門性を活かして連携・協働するための仕組み、つまり、政策を形成・実施する体制を、どのようにデザインし、どのようにマネジメントするかについて学習します。

【到達目標】

- ・地方自治論の基礎的な知識を習得する。
- ・自治体が直面している問題を解決するための政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメントについて論理的に思考するための概念・枠組みを習得する。
- ・概念・枠組みを活用し、自治体が直面している問題を解決するための政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメントについて考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域の課題・問題の解決に向けて、多様な組織や人が参加して政策を形成・実施する体制のデザイン・マネジメントについての理解を深めるために、組織間関係論の説明を中心に授業を進めます。1回の授業で1つの理論をカバーし、各回の授業では、まず、その回で取り扱う理論の概要、重要概念、強み・弱みなどの説明を行い、次に、その理論を公的部門に応用した重要業績の説明を行います。授業に進展などに応じて内容の入れ替え、変更などもあります。また、履修人数によっては、双方向型の形態を用いることやアクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施も考慮します。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	シラバスの記載事項の確認および授業の進め方の説明。
第2回	「ガバメント」から「ガバナンス」へ	「ガバメント」から「ガバナンス」へという標語で表わされる地方自治の担い手の変化についての説明。
第3回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント①	ネットワーク理論についての説明。
第4回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント②	ソーシャル・キャピタル理論についての説明。
第5回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント③	ソーシャル・キャピタルの測定方法についての説明。

第6回	ケース・スタディ 1	1回目のケースについての説明。
第7回	グループ・ディスカッション 1	1回目のケースのグループ・ディスカッション。
第8回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント④	資源依存理論についての説明。
第9回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑤	制度理論についての説明。
第10回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑥	取引費用理論についての説明。
第11回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑦	エージェンシー理論についての説明。
第12回	ケース・スタディ 2	2回目のケースについての説明。
第13回	グループ・ディスカッション 2	2回目のケースのグループ・ディスカッション。
第14回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1時間程度かけて授業時に配布する資料を読んでください。該当箇所の学習に1時間程度割くことができれば、授業の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

授業中に資料を配布します。

【参考書】

- ・北村亘・青木栄一・平野淳一（2017）『地方自治論－2つの自律性のはざままで』有斐閣
- ・磯崎初仁・金井利之・伊藤正次（2020）『ホーンブック 地方自治 [新版]』北樹出版
- ・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山 俊哉（2020）『公共政策学の基礎 [第3版]』有斐閣
- ・渡辺深（2007）『組織社会学』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート 60 %
（データなどの客観的な事実に基づいた議論が展開されているか、論理的な思考が示されているか、独自の考察がみられるか、レポートの形式が適切かを評価します）
- ・中間レポート 20 %
（授業内容への理解が示されているか、自分なりの考察が記述されているかを評価します）
- ・コメントペーパー 20 %
（コメントの内容と提出回数に応じて評価します）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Local governments face complex problems (e.g., health and human services, economic development), which no single organization can adequately address. Thus, local governments need work with business and non-profit sectors to make and implement public policy; and, goal-directed inter-organizational networks, composed of three or more organizations to collectively achieve a common goal, have become a prevalent organizational arrangement. Such goal-directed inter-organizational networks address complex problems, by integrating resources, information, expertise, and perspectives possessed by differently-endowed organizations. In public policy and administration research, they are known as “purpose-oriented networks.” While the involvement of diverse organizations does enhance the capacity of purpose-oriented networks to address complex problems, it also brings about negative consequences — namely difficulties of cooperation and coordination resulting from the differing (sometimes, even conflicting) goals, strategies, perceptions, and ways of working among diverse network participants. Because of the cooperation and coordination challenges, it is recognized that network management is essential to produce satisfactory outputs and outcomes.

【到達目標 (Learning Objectives)】

This class is designed with an emphasis on two objectives: (1) understanding key concepts in inter-organizational theory and (2) applying the concepts for designing and managing collaborative networks.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course material.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be decided based on comment papers (20%), mid-term paper (20%) and final paper (60%)

ECN300JB（経済学 / Economics 300）

地域経済論

図司 直也

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、積極的に地域づくりを進める上で不可欠な視点である「地域経済」に焦点を当て、地域資源をもとにした産業基盤（とりわけ農山村地域の主要産業である第1次産業）への理解を深め、グローバル化に直面する中での地場産業の変化と課題、また対応する試みを学ぶ。

【到達目標】

講義を通して、まず、グローバル化に直面する地域経済の状況、また今日に至る地域経済の展開過程とそこで生じた諸問題についての基礎を理解できる。その上で、地域資源をもとにした産業形成として第1次産業である農林業を中心に、関連するテーマを通して、経済活動と地域との関係を捉えることができる。日本の地域経済や地場産業における歴史的背景を踏まえ、グローバル経済と密接な現状を理解し、地域を核とした経済循環のあり方を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、リアクションペーパーを通じて、受講生の捉え方を全体でも共有するとともに、質疑にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進捗やゲスト講師によって変更もあり得る。リアクションペーパー等のフィードバックは授業内で行き、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域問題を考える糸口としての地域経済を理解する。
第2回	地域経済の形成過程（戦後）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（戦後）を理解する。
第3回	地域経済の形成過程（高度経済成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（高度成長期）を理解する。
第4回	地域経済の形成過程（低成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（低成長期）を理解する。
第5回	地域経済の形成過程（バブル期以降）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（バブル期以降）を理解する。
第6回	農業・農村の現場から	第1次産業である農業と地域との関係を学ぶ。
第7回	林業・山村の現場から	第1次産業である林業と地域との関係を学ぶ。
第8回	経済のグローバル化と地域インパクト	1980年代以降の地域経済が直面するグローバル化の背景を学ぶ。
第9回	産業構造の転換と地域経済構造	1980年代以降の地域経済が直面する産業構造転換の背景を学ぶ。
第10回	地域再生の理論と農山漁村	地域間格差が生じる背景について学ぶ。
第11回	内発的発展の道筋を考える	農山漁村地域の自立に向けたプロセスを学ぶ。
第12回	コミュニティ政策の潮流	コミュニティ政策の展開を学ぶ。

第13回 コミュニティと地域 地域資源管理の担い手形成を考慮する。

第14回 まとめ 授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習には、各2時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後に、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点60%，期末レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

VTRなども交えて、時代や地域性の観点からも地域経済の実態が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will focus on the local economy, deepen our understanding of the industrial base that utilizes local resources, and learn about changes in local industries and new attempts in the face of globalization.

【Learning Objectives】 Understand the current situation closely related to the global economy, based on the historical background of Japan's regional economy and local industry, and understand the ideal economic cycle centered on the region.

【Learning activities outside of classroom】 Two hours will be secured for each preparation and review of this class. It is desirable to take an interest in various regional issues on a daily basis and review the lesson contents after the lecture.

【Grading Criteria /Policy】 60% of reaction papers every time, 40% of year-end reports.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

国際協力論**小林 尚朗**

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界経済の現状やグローバルな開発目標（持続可能な開発目標：SDGs）などを把握したうえで、国際協力の理論および実践を学ぶ。

【到達目標】

「自国第一」の風潮が強まるなかで、なぜ国際協力が必要なのか、またなぜ国際協力への反動が起こっているのか、地球市民として、また将来国際社会に関わろうとしている学生として、必要な基礎知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業が中心になります。初めてこの授業を担当するので、履修者の状況や人数がよくわからないのですが、適正規模の場合はディスカッションなども行います。毎時間とは限りませんが、リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーに書かれた意見や質問については、原則として次の時間に全体に対してフィードバックを行います。本講義の授業計画のお知らせや教材の提示は、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の概要、ポイントを紹介
第2回	世界の現状とグローバルサウス	世界の現状とグローバルサウスの概念について
第3回	SDGs時代の国際社会	国連でSDGsが採択された背景とその意義
第4回	トランプ政権の衝撃と国際協力	自国ファーストの世界を考えると国際協力
第5回	なぜ遠くの誰かを助けるのか？	国際協力の理念
第6回	国際機関と国際協力	国際機関と国際協力について
第7回	日本のODA	その変遷と意義
第8回	JICA海外協力隊	その現状と意義
第9回	プラント輸出と経済開発	インフラ整備と国際協力
第10回	移民・外国人労働者と国際協力	日本の外国人労働力政策の現状と国際協力
第11回	フェアトレードの可能性①	アンフェアトレードの持続可能性
第12回	フェアトレードの可能性②	エシカル消費を通じた国際協力
第13回	国際協力に関する課題	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

外務省『開発協力白書』。

妹尾裕彦・田中綾一・田島陽一『地球経済入門－人新世時代の世界をとらえる』（法律文化社、2021年）

長坂寿彦編著『フェアトレードビジネスモデルの新たな展開－SDGs時代に向けて 第2版』（明石書店、2023年）。

必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（平常点）：50％、課題提出（発表も予定）：50％

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合があります。

【担当教員の専門分野】

世界経済論、アジア経済論、貿易政策論、フェアトレード。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 The aim of this course is to help students acquire basic theories, practices, and important findings on international cooperation and development.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to gain a foundational understanding of international cooperation and development.

【Learning activities outside of classroom】 Before and after each class, students are expected to spend 2 hours each to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be determined based on reaction papers (50%) and report and presentation (50%).

MAN300JB（経営学 / Management 300）

地域経営論

遠藤 聖子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6151」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、人口減少に直面した我が国では、地域でその社会的課題に対し様々な手法で解決に取り組んでいます。本講義では、この取り組みを「地域経営＝地域のまちづくり」と捉え、誰が、何を、どのようにマネジメントして、持続可能な地域づくり・まちづくりを行っているか事例を中心に学びます。そして、地域で起きている課題を自分ごととして考え、地域のあり方、まちづくりにおける市民・行政・企業・大学などの役割と協働のあり方について考察します。

【到達目標】

次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とします。

- ・地域経営に関する基本的な枠組み、法制度及び諸制度、考え方
- ・地域経営に関する国と地方の関係、地方分権と自治
- ・地域経営に関する市民(住民)、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
- ・地域経営の手法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体、またはグループ討議等のミニワークショップ」により進めます。受講生が、地域経営、地域づくり、まちづくりについて具体的なイメージを持って思考できるよう事例紹介を中心に進めます。各回講義のに対するリアクションペーパーで示された問いやつぶやきを講義の中で紹介し、双方向のやりとりをしながら受講者全体の理解が深まるよう進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営とは	・講義ガイダンス ・「地域経営」の全体像とまちづくり ・視点の整理 ・各回講義の要点解説
第2回	地方分権と地方自治、その系譜	・「地方分権」「地方自治」の系譜 ・今日的課題
第3回	地域経営における行政の役割とは	・行政が取り組む事例の紹介
第4回	住民参加とまちづくり①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の役割 ・まちづくり条例の系譜 ・まちづくり協議会
第5回	住民参加とまちづくり②	・まちづくりセンター ・まちづくりにおける紛争とその歴史 ・住民参加の意義 ・地域経営における合意形成の方法とあり方の考察
第6回	官民産学連携のまちづくり	各地の ・エリアマネジメント ・アーバンデザインセンター等、果たす役割と取り組み

第7回	地域のストックを活かすまちづくり①	・風景づくり ・歴史、文化を活かす ・リノベーション等、まちづくりの取り組みと課題
第8回	地域のストックを活かすまちづくり②	・公共施設、公共空間の更新と魅力化 ・空き家、空き地の活用等、各地の取り組みと課題
第9回	商業地・中心市街地のまちづくり①	・商業地、中心市街地の現状と課題 ・まちなか再生の動き等、各地の取り組みと課題
第10回	商業地・中心市街地のまちづくり②	・まちづくり会社（TMO） ・まちなか観光（DMO）等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第11回	郊外住宅地のまちづくり	・戸建て住宅地の管理 ・ニュータウン、郊外住宅地の取り組み ・団地、マンション管理組合と自治会等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第12回	災害とまちづくり	・大規模災害、大規模震災にみる地域、まちづくりの課題と取り組みの系譜 ・これからの課題
第13回	講義の総括①	・レポートの課題の解説 ・個別相談
第14回	講義の総括②	・受講生の感想 ・講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・少子高齢化、人口減少社会における地域経営、地域づくり、まちづくりに関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦めます。本講義の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】

講義において適宜紹介しますが、次の書籍を参考図書として薦めます。

- ・「平成都市計画史―転換期の30年間が残したもの・受け継ぐもの」 饗庭 伸 著（共栄書房/2021年）
- ・「アーバンデザイン講座」前田 英寿 等 著（彰国社/2018年）

【成績評価の方法と基準】

①講義とその後の全体討議・ミニワークショップ等を踏まえたリアクションペーパー 50 %
②レポート 50 %（レポート課題は6月前半に提示）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Faced with a declining birthrate, an aging population, and a shrinking population, Japan's local communities are using a variety of methods to address social issues. In this lecture, this approach will be considered as "regional management = regional community development. You will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. The course will also consider local issues as if they were their own, and examine the roles of citizens, government, business, and universities in community development and how they should work together. In Japan, facing declining birthrates, an aging population, and a shrinking population, local communities are working to solve social issues using a variety of methods. In this lecture, we will consider these efforts as "regional management = regional community development. We will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. We will also consider issues that arise in the community as if they were our own, and discuss how the community should be, and the roles and collaboration of citizens, government, businesses, and universities in community development.

【Learning Objectives】

The objective of the course is to provide participants with a basic understanding of the following issues, and to raise their awareness of the issues and policies related to each theme.

- ・ Basic framework, legal system, and various systems and ideas related to regional management
- ・ Relationship between the national and local governments, decentralization, and self-governance related to regional management
- ・ Collaboration, cooperation, and sharing of responsibilities among citizens (residents), businesses, and governments related to regional management
- ・ Methods of regional management

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

- (1) Reaction paper based on the lecture and subsequent plenary discussions, mini-workshops, etc.: 50%
- (2) Report: 50%(report assignment will be presented in the first half of June)

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルイノベーション論

土肥 将敦

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが2000年代以降世界的に広まってきた。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれる。また近年では、従業員や地域社会、環境へ配慮した事業活動を行なっている企業に与えられる国際的なB Corp認証も増加してきている。本講義では、こうした事業やビジネスモデルがなぜ必要とされるのか、誰がどのように生み出したのか、そしてそれはどこが革新的でどのようなインパクトがもたらされるのかについて、国内外の事例をもとに検討する（なお、過去数年は、数多くの社会的企業者やB Corp認証企業の実務家にゲスト講師としてお越しいただいている）。また講義後半では、企業の社会的責任（CSR）についても概観し、CSRの枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】

本講義では、以下の3点を履修者の到達目標とする。

①グローバル・ローカルなソーシャル・ビジネスの動向を理解すること、②社会的企業者によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③企業のCSR活動の本質を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・ビジネスは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業者にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。今年度はB Corp認証を取得している国内外のゲストスピーカーも招聘する予定である。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第2回	ソーシャル・ビジネスとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、3つの要件、活動する事業領域を理解する。
第3回	ソーシャル・ビジネスとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、多様な組織形態を理解する。
第4回	ソーシャル・ビジネスとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第5回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタプライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第6回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第7回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第8回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第9回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の課題
第10回	大企業におけるCSR①	企業と社会の関係を理解する。
第11回	大企業におけるCSR②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第12回	B Corporationについて理解する①	各種事例を通してB Corpについて理解する（A事例）。
第13回	B Corporationについて理解する②	各種事例を通してB Corpについて理解する（B事例）。
第14回	B Corporationについて理解する③	各種事例を通してB Corpについて理解する（C事例）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトを目を通し、講義中のディスカッションや掲示板へのコメント記入に備えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。特に、毎回の講義後に掲示板などへのコメントの書き込みが必須となり、これが成績評価の基準となる予定ですので注意してください。

【テキスト（教科書）】

講義中に指示します。

【参考書】

土肥将敦（2022）「社会的企業者—CSIの推進プロセスにおける正統性」千倉書房

Marquis, C (2020) Better Business, Yale University Press（土肥将敦監訳・保科京子訳（2022）『ビジネスの新形態 B Corp入門』ニュートンプレス）
鈴木良隆編（2014）『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣
谷本・大室・大平・土肥・古村著（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT出版

【成績評価の方法と基準】

講義掲示板へのコメント入力課題及びショートプレゼンテーション課題（60％）、平常点（40％）を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義はオンラインで展開し、履修者とのコミュニケーションを大切に、講義がより良いものとなるように努める。市ヶ谷キャンパスや小金井キャンパスからの受講生は、キャンパスごとに時間割が異なっているため、各学部が定めるルールや時間割を必ず確認した上で履修するようにしてほしい。

【Outline (in English)】

This course goes far beyond the innovation theory and academic aspect of developing social businesses or social responsible business. The goal of this course is to understand the concept of SOCIAL INNOVATION, and the various aspects of Corporate Social Responsibilities in the MNC. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(60%), in class contribution(40%).

MAN300JB (経営学 / Management 300)

ソーシャルマネジメント論

樋口 邦史

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】

本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に講義を行う。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディやゲストによるセッションを取り入れる。事前課題に対する議論とグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。事前課題には講師が学生個別にフィードバックをし、講義での論点などの指摘や記述方法への指導を行う。対面での開講を前提とするが、ゲストセッションや、社会状況によってはオンラインでの双方向型講義となる場合もある。それにともなう各回の講義計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また、本講義の開始日や授業の方法なども、学習支援システムで随時提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要を紹介
2	CSR経営におけるSDGsの主流化	企業CSR経営を起点としたソーシャルマネジメントとSDGsの位置づけについて議論
3	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術①	企業組織におけるコミュニケーションとその活性化について議論
4	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術②	企業組織において「相手」に届くコミュニケーションとプレゼンテーションを实践
5	企業におけるプロジェクト活動	プロジェクト型マネジメントを知る
6	行政とコミュニティ組織	行政組織の特色とコミュニティの役割を知る
7	今年度の地域活性化プロジェクト先の選定とグルーピング	学生に身近な地域の選定とプロジェクトの進め方に関する議論
8	事例研究①官民連携	特定地域の官民連携事例について議論
9	事例研究②企業組織の光と陰	企業の不正（不正開示不正会計）はなぜ起きてしまうのかについて議論

10	演習①	ローカルなフィールドでのプロジェクトの進め方を議論
11	演習②	同フィールドでのマネジメントを進める
12	演習③	特定地域での活性化企画の立案
13	演習④	特定地域での活性化計画の設計
14	最終発表、まとめと展望	Final Presentation 講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では、全5回の事前課題レポート（A4 1枚以内）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

遠野みらい創りカレッジ編著「SDGsの主流化と実践による地域創生」水曜社；まち創り叢書

【参考書】

講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

課題レポート10点×5回、最終レポート50点で評価し、グループワークでの貢献度によって加点する（最高10点）。オンラインでのセッションとなった場合でも、評価方法や基準は変更しない。より具体的な方法と基準は、講義開始日に案内する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の講義参加者からの要望に基づき、学生にとって身近な地域を選んだ演習を実施します。今年度も、2年生から4年生まで「学部横断型」の多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に「実践型」の講義を実施します。経済学部、社会学部からの参加者も期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, the students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to understand logic and process of Social Management. Indeed, at the end of the course, students are expected to identify social responsibility of the company organization and the meaning of the mainstream for SDGs.

【Learning activities outside of classroom】 Before the every session, students will be expected to have read the relevant case study on web site or news paper. And some text will be introduced in the session for reference of group discussion.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), term-end report (50%), and additional point by in-class contribution and leadership on work shop.

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルファイナンス論

徳永 洋子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦労しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】

非営利団体の活動資金の調達について具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式。スライドは学習支援システムを通じて配布。理解度や関心の把握には毎授業提出してもらうリアクションペーパーを活用し、各授業の初めにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ	本講の概要、目的
第2回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第3回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代の事例
第4回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第5回	ドナージャーニー	寄付者の心理と行動
第6回	ドナーピラミッド	団体の寄付者の構造的把握
第7回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第8回	遺贈寄付	その定義と実態
第9回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第10回	会員拡大	新規会員拡大と継続率向上
第11回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第12回	助成金	助成金の獲得方法と活用
第13回	事業収益	非営利団体らしい事業収益の上げ方
第14回	エピローグ	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題はありませんが、授業に関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「改訂新版 非営利団体の資金調達ハンドブック」 徳永洋子著 時事通信社

<https://www.amazon.co.jp/dp/4788718820/>

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、期末テスト（80％）※期末テストはマークシート形式。資料持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】

卒業後に、社会福祉法人などのソーシャルセクターに就職するとは限らないことから、本講座の共感を軸とした資金調達の学びを、一般企業に就職した際にも役立てられるようにします。

【Outline (in English)】

1) Course Outline

In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues. In general, “financing” refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds.

In this course, we will see how “charitable funding” can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.

2) Learning Objectives

The goals of this course is to know how to fundraise.

3) Learning activities outside of class room

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by checking relevant contents from newspapers, TV news, online materials, etc.

4) Grading Criteria/Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80% In class contribution: 20%

MAN300JB (経営学 / Management 300)

NPO論

渡真利 紘一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6155」を選択すること。旧「非営利組織の運営」修得者は不可。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる

・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方を学ぶ

NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者から実践を聞き、体験的に実践を把握できる機会をつくります。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。

各回の授業計画の変更が生じる場合があります。変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/ NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野と関 心分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景と 社会的意義	非営利な活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿る。
第4回	NPOの社会的意義	行政や企業等との比較を通じ、NPOの社会的意義について考察する。
第5回	NPOの組織運営	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解する。
第6回	NPOと他の主体との 関係	他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係について把握する。
第7回	中間課題の共有	中間課題で調べたり考えたことを共有し、お互いの観点から学ぶ。

第8回	実践から考えるシ リーズ「資金を調達 する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第9回	実践から考えるシ リーズ「協力関係を つくる」	コミュニティ・オーガナイズンや協力のテクノロジー等の理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第10回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第11回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第12回	期末課題発表会 1	グループ又は個人で期末課題の発表を行う。
第13回	期末課題発表会 2	グループ又は個人で期末課題の発表を行う。
第14回	最終講義「これから の市民社会とわたし たち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。

また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、ニュースや映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。

授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動へボランティアや取材等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

（1）平常点（出席・リアクション）50点、（2）中間課題（NPO活動計画書）10点、（3）期末課題（発表、レポート）40点。平常点については、授業ごとに授業中の発言又はリアクションペーパーによって評価・採点します。

なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。

- ・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
- ・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
- ・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか

（注）授業を欠席する場合は事前に連絡してください。

（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者同士がお互いの観点を尊重して学びを深める環境をつくります。
- ・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
- ・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の閲覧や調べ物をする際に使用するため、パソコン又はスマートフォンを持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、Short reports : 10%、in class contribution: 50%

MAN300JB (経営学 / Management 300)

協同組合論

西井 賢悟

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、協同組合が人々のくらしの中で果たしてきた役割、そして現在果たしている役割を学ぶ。特に、その役割を社会・経済的な動きと関連付けながら見ていくことにより、さまざまな企業形態の経営組織が存在する中で、協同組合の存在意義を学ぶ。また、農協や生協などの実際の取り組みから、実社会をよりよいものにしていく方策を学ぶ。

【到達目標】

- ・協同組合の経営組織としての特徴を説明できる
- ・協同組合の展開過程を社会・経済的背景を踏まえて説明できる
- ・農協と生協が地域社会に果たしている役割を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とするが、適宜質疑やグループワークの時間を設けることにより、受講生が主体的に講義に関われるようにする。また、講義後のリアクションペーパーの作成を通じて、講義内容を自らの知識や実際の生活と結びつけながら考察することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	協同組合とは	協同組合の多様なタイプ、協同組合と株式会社の違いなど、協同組合の概要を把握する
第2回	世界の協同組合－誕生の歴史と協同組合原則－	イギリス産業革命と協同組合の誕生、協同組合原則の制定・改定など、世界的な協同組合の原理・原則と動向を学ぶ
第3回	日本の協同組合の歴史①	二宮尊徳の思想・実践、産業組合法の制定など、戦前の日本の協同組合の歴史を学ぶ
第4回	日本の協同組合の歴史②	戦時中の協同組合の再編、戦後の多様な組合の設立・発展など、戦時・戦後の日本の協同組合の歴史を学ぶ
第5回	日本の農協①	総合事業の構成と内容、連合会と中央会の機能など、農協・JAグループの概要を把握する
第6回	日本の農協②	正・准組合員の相違、組合運営の仕組みなど、農協の特徴を協同組合らしさの観点から学ぶ
第7回	日本の農協③	自己改革の実践、農業振興の応援団づくりなど、近年のJAにおける改革の動向を学ぶ
第8回	日本の農協④	農協の実務者をゲストスピーカーとして招き、農協が地域農業や地域社会に果たしている役割の実際を学ぶ
第9回	日本の生協①	生協の多様なタイプ、購買生協の事業構成と内容、供給事業の仕組みなど、生協の概要を把握する

第10回	日本の生協②	組合員組織と組合員活動の概況、組合運営の仕組みなど、生協の特徴を協同組合らしさの観点から学ぶ
第11回	日本の生協③	生協の実務者をゲストスピーカーとして招き、生協が個々の家庭や地域社会に果たしている役割の実際を学ぶ
第12回	新たな協同の動向	労働者協同組合法の制定、協同組合間連携の拡大など、日本における新たな協同の動向を把握する
第13回	期末試験	小論文中心の試験を通じて、これまで学んだことの到達状況を確認する
第14回	まとめ	これまで学んだことをもとに、協同組合の進むべき途や、協同の実社会での可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
- ・毎回、復習として講義内容を考察してリアクションペーパーを作成する。
- ・毎回、事前に提供する資料や視聴資料を用いて準備学習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

参考書は指定しない

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（70%）、期末試験（30%）。リアクションペーパーは、毎回の講義内容を自らの知識や実際の生活と結びつけながら考察できているかを評価する。期末試験は、小論文中心の構成とし、本講義の到達目標に対する到達状況を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、講義の開始時にその回のポイント、終了時にポイントを踏まえたまとめを行う。

【その他の重要事項】

本講義では農協・生協の実務者をゲストスピーカーとして招く予定としている。農業振興、食品流通、地域づくり、環境問題への対応や、そこで働く職員などをリアルに学ぶことができるようにする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, students will learn the roles that cooperatives have played in people's lives and the roles they are playing today. In particular, students will learn about the significance of the existence of cooperatives in the presence of various types of management organizations, and how to improve the real world.

【Learning Objectives】

- ・Be able to explain the characteristics of cooperatives as management organizations
- ・Be able to explain the development process of cooperatives based on the social and economic background
- ・Be able to explain the role that agricultural cooperatives and consumer cooperatives play in the local community.

【Learning activities outside of classroom】

- ・The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.
- ・Every time, as a review, consider the contents of the lecture and create a reaction paper.
- ・Prepare for each lesson using materials and audio-visual materials provided in advance.

【Grading Criteria / Policy】

- ・Reaction paper (70%), final exam (30%).
- ・Reaction papers are evaluated based on whether students are able to consider the content of each lecture while connecting it with their own knowledge and actual life.

・ The final exam will be composed mainly of short essays and will be evaluated on the achievement status of the goals of this course.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

居住福祉論

大原 一興

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：隔週開講。4・5限連続受講が必須のため注意すること。
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】

居住福祉の諸理論および実践の理解。福祉住環境の理念と実際についての理解。
国内外の実践例に関する知識の習得。福祉住環境コーディネーター検定3～2級レベルの知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の講義と簡単な演習。参考図書・資料の紹介による予習と復習。事例調査レポートの作成。
基本的に隔週でおこなう。第2回目以降から第4、5時限の2時限続きでおこない、初回と最終回は第4時限のみとする。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。
第1回：4月8日 4時限
第2・3回：4月22日 4・5時限
第4・5回：5月13日 4・5時限
第6・7回：5月27日 4・5時限
第8・9回：6月10日 4・5時限
第10・11回：6月24日 4・5時限
第12・13回：7月 8日 4・5時限
第14回：7月22日 4時限 基本的に対面授業での開講となる。それにとまう各回の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。オンライン授業の必要性がある場合は、基本的にオンデマンド型で一部双方向を用いながら行う。資料等は学習支援システムで提示する。
課題に対するフィードバックとしては、授業中に発表をした学生に対しては講評し、他の学生に対しては提出物について適宜コメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】

授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第2回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念（居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理）
第3回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第4回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第5回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサルデザインの基礎理念からみたICFの考え方
第6回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境
第7回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ

第8回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第9回	ハウスメーカー・リフォーム・住宅改造	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第10回	福祉機器の活用	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第11回	高齢者福祉施設	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第12回	障害者福祉施設等	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第13回	コハウジング 共生の住まいの理念	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第14回	コハウジング 共生の住まいの実際	国内外の実例の紹介
第15回	くらしの先進国に学ぶ	北欧社会における福祉居住環境の実際と各自レポート内容の発表
第16回	レポート提出・発表	表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付資料や参考資料の予習
平日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。
レポート作成のために、学外の実例を見学調査することを課しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に授業の際に学習支援システムにて資料を配付するので、必要に応じて各自ダウンロードしてほしい。特定の教科書は使用しない。

【参考書】

野口定久、外山義、武川正吾 編『居住福祉』有斐閣
東京商工会議所 編『福祉住環境コーディネーター検定1、2、3級公式テキスト』東京商工会議所
住総研高齢期居住委員会 編『住みつなぎのススメ』萌文社

【成績評価の方法と基準】

平常点と毎回の小レポート（リフレクションシート）（70%）、レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

2時間続きの授業のため、講義のみ続けて行くと疲れてしまうので、適宜演習や対話を含めて進めることとする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。毎回の資料は学習支援システムから各自ダウンロードしてほしい。

【Outline (in English)】

Course outline
The aim of this course is to help students learn the theory and the practice for living environment and well-being concerning with social issues, welfare, health, housing, institution, community and social care system
Learning Objectives
The aim of this course is to help students acquire the theory and the practice for living environment and well-being.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports : 30%, in class contribution and short report at each class: 70%

— 1952 —

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

人権活動論

寺中 誠

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

人権は、実社会の問題の解決のための手段として使ってこそ、意味のある概念です。多くの社会事象の中から「人権問題」として対象化された問題の解決手法を学びます。

【授業の目的・意義】

人権問題の構造や主なテーマを把握するための方法の習得を目的とし、人権活動を担う団体や組織のマネジメントの基礎についても考えます。

【到達目標】

- ・法や権利を理解するための基礎知識を身につけ、国内的・国際的な人権システムがどのように機能しているかを理解する。
- ・上記で得た法や権利の知識を日常生活の上で使えるようになる。
- ・実際に人権に関わる活動の現場で役立つ基礎知識と技術を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は主として講義形式で行い、必要に応じてディスカッション形式も取り入れます。関係する資料等を紹介し、外部の経験者の声なども紹介しながら、理論的な仕組みを勉強します。毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

学生は、各自受講用のノートを準備し、毎回ノートに講義内容を記録します。このノートを充実させることにより、自分自身の人権活動論を習得するようにします。

課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人権論基礎Ⅰ 人権における権利義務関係論	権利義務関係論で基本的人権概念を再考する。
第2回	人権論基礎Ⅱ 人権を構成する要素	社会資本（ソーシャルキャピタル）としての人権と依存
第3回	人権論基礎Ⅲ 福祉と人権	多義的な平等概念とポジティブアクション：配分の平等と結果の平等
第4回	人権基礎論Ⅳ 権利の優先順位	絶対的自由と調整可能な権利：自由権と社会権、そして人権の不可分性・相互依存性
第5回	人権基礎論Ⅴ 権利制約の原理	調整可能な権利の具体的な調整における手順：比例原則、LRA等
第6回	依存と人権Ⅰ 依存症の構造	依存症という概念の理解とその実態
第7回	依存と人権Ⅱ ハームリダクション	依存症におけるハームリダクション政策：公衆衛生か刑罰か？
第8回	性産業と人権Ⅰ 性産業論	性産業政策の歴史と近年のハームリダクション政策
第9回	性産業と人権Ⅱ 「慰安婦」問題の構造	性産業論と植民地主義（戦争責任）の狭間で

第10回	移民問題Ⅰ 移民排斥という構造的暴力	移民をめぐる意識や「テロ」不安、「体感治安」。
第11回	移民問題Ⅱ 「在日」問題と「ヘイト」	植民地支配に伴う「在日」問題と「ヘイト犯罪」の状況。
第12回	移民問題Ⅲ 移住労働者問題が表すグローバルな変化	移民を政策的に受け入れたり、締め出したりした政策のプレについて。
第13回	企業と人権Ⅰ ビジネスと人権	国連指導原則の誕生と企業の社会的責任（CSR）の流れ
第14回	企業と人権Ⅱ 企業や非国家主体の統制のための制度	ソフトローの重要性と国内人権機関、差別禁止法制の必要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートに、授業等で知りえた参考情報や文献の内容を記録します。その内容を見直し、次回授業では必要な点を確認します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に定めませんが、山崎・川島・菅原「国際人権法の考え方」（法律文化社）を参照することが多いと思います。

【参考書】

申恵ボン「友だちを助けるための国際人権法入門」（影書房）、阿部浩己「国際法を物語る」三分冊（朝陽会）ほか
<http://www.teramako.jp/housei.html> 上で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「知る」「理解する」「日常的に使える」「活動できる」という各段階をどの程度習得したかを確認する。
期末レポートないし試験の評価（60％）
リアクションペーパーの内容も含めた平常点評価（40％）

【学生の意見等からの気づき】

「理念的」「抽象的」と捉えるという先入観を壊し、日常の具体的な事例に即したところから、実際の問題解決に役立てるための発想を養うことに注力したい。

【Outline (in English)】

[Outline]

Human Rights are to solve problems within the real life and in the community. The class shall explore ways to find out how to design 'social problems' adaptable to human rights.

[Learning Objectives]

Obtaining methods to understand themes and mechanisms of human rights problems as "social problems", while getting some thoughts of organising and managing human rights movements.

[Learning activities outside of classroom]

Each students are required to spend three to four hours before and after the class meetings. They are also invited to make questions regarding contents.

[Grading Criteria]

60%are considered for ordinal attendance attitude and performances provided during the class (including response sheets). 40%are counted from term-end essays/reports.

ASS300JB (社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 300)

農山村とコミュニティ

関司 直也

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、農山村の地域構造の原型ともいえる「家と集落（むら）」の関係を理解し、農山村地域が今日に至るまで直面してきた社会的諸問題を考えながら、その解決手段として試みられてきた地域づくりの展開を探っていく。

【到達目標】

講義を通して、まず、農村の家と集落（むら）との関係を通して、農山村地域構造の原型を理解できる。その上で、農と食の変化や、環境・開発、農村女性や高齢者などの担い手、都市と農山村との関係性、「小さな自治」の試みなど多様な切り口から、農山村地域が直面する問題の背景と、そこで展開する新たな取り組みを知る。授業で学んだ内容を、食をはじめとする日常生活との繋がりから意識したり、ゼミ活動や実習等の農山村地域における現場での実践に活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、リアクションペーパー等のフィードバックは、授業内で行い全体で共有するとともに、質問にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進度やゲスト講師によって変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	村落空間とむらの構造	農山村の地域構造の原型とその変化を学ぶ。
第2回	むらの変化—過疎化	農山村の地域構造変化である過疎化を学ぶ。
第3回	むらの変化—都市化・混住化	農山村の地域構造変化である都市化・混住化を学ぶ。
第4回	変わりつつある農村の家・家族・世帯	農山村の家族・世帯の変化を学ぶ。
第5回	農村自治とむらづくり	農山村の自治の仕組みを学ぶ。
第6回	「農」の変化と地域	「農業」から農山村地域での取り組みを捉える。
第7回	「食」の変化と地域	「食」から農山村地域での取り組みを捉える。
第8回	農の担い手—農村女性や高齢者	農村女性や高齢者など多様な主体による農の取り組み
第9回	開発と環境—景観形成・コモンズ	景観形成・コモンズに関する取り組み
第10回	消費される農村と地域づくり	グリーン・リズムの展開と課題
第11回	都市農村交流から協働へ	外部人材の役割と活用
第12回	新しいコミュニティづくりの試み—地域運営組織	地域運営組織の役割と立ち上げプロセス
第13回	新しいコミュニティづくりの試み—「小さな経済」	「小さな経済」を生み出す実践
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習には、各2時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後には、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点60%、期末レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

VTRなども交えて農山村の地域社会の様子が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will understand the prototype of the regional structure of agricultural and mountain villages, think about regional issues, and explore the development of regional development.

【Learning Objectives】 You can be aware of what you have learned in class from the connection with daily life such as food, and you can apply it to practice in the field in agricultural and mountain village areas.

【Learning activities outside of classroom】 Two hours will be secured for each preparation and review of this class. It is advisable to take an interest in various issues in the area on a daily basis and review the lesson content after the lecture.

【Grading Criteria /Policy】 60%of reaction papers every time, 40%of year-end reports.

CMF300JB (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300)

コミュニティアート

吉野 裕之

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6162」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】

まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業というアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングやグループでのディスカッションなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	NPO・市民主体のまちづくりの意義	NPO・市民主体のまちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第3回	市民主体のまちづくりの事例（1）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第4回	市民主体のまちづくりの事例（2）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第5回	生活の現場としてのまちをめぐる考察	実体験に基づくまちをめぐる考察とNPO・市民主体のまちづくりの意味の考察。
第6回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史的変遷や芸術家のことばなど）の説明。
第7回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第8回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明。
第9回	コミュニティアートの事例（1）	コミュニティアートの事例（基本的な考え方を理解するための事例）の紹介と解説。

第10回	コミュニティアートの事例（2）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例（3）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例（4）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例（5）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、必ず授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーなど）：30点 期末レポート：70点
平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回～数回の授業の内容の理解度について確認する。
期末レポートでは、コミュニティアートの意味の理解度やその分析・評価などの習得度について確認する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students will be able to do the followings:

- Analysis and evaluation of cases about community art
- Planning of community art

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Reviewing the class meeting
 - Reading literature related to the class meeting
 - Participating in events related to community design and art
- (Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process.

Short reports : 30%、Term-end report : 70%

CUM300JB（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300）

地域遺産マネジメント論

須田 英一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で行われています。そこには地域住民をはじめNPOなどが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福な暮らし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。近年の文化政策の展開も視野に入れながら、文化財の保存と活用についての知識と、実務に展開可能な適応力を身に着ける講義を展開します。

【到達目標】

さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第2回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第3回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第4回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第5回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第6回	地域遺産保護と専門家(1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第7回	地域遺産保護と専門家(2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割、さまざまな地域遺産
第8回	世界遺産条約	世界遺産の成り立ちとしくみ
第9回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第10回	地域遺産の再生と活用(1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第11回	地域遺産の再生と活用(2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第12回	地域遺産の再生と活用(3)	地域遺産としての名勝・天然記念物・食文化
第13回	地域遺産の再生と活用(4)	地域遺産としての伝統的建造物群
第14回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私たちの生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きっとすごい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に選定しません。資料を毎授業時に配布します。

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000円）、川村恒明監修・著『文化財政概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
・試験方法：期末に課題レポート提出。
・評価方法：平常点（リアクションペーパー）40%、課題レポート60%により総合的に評価します。課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。地方自治体勤務を希望している学生においては、自治体の仕事の進め方などを理解するうえで、参考になると考えます。

【Outline (in English)】

This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area. The goals of this course are to acquire the ability to utilize regional heritage and build regional networks. Students will try to find a community heritage that is related to our lives in their area. Students should also visit museums and museum exhibitions. Your study time will be more than four hours for class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report, term-end report (70%) ,and in-class contoribution (30%) .

TRS300JB（観光学 / Tourism Studies 300）

地域ツーリズム

野田 岳仁

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6165」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、“水辺空間の観光化”、“伝統文化の観光化”、“生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構築していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】

大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では“いくら儲かるか”、“いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指す美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第9回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメント・リアクションペーパー（10%）、期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

ボランティアアクション (2020年度以前入学者)

高井 大輔

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考(履修条件等)：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

ボランティアアクションとは、奉仕的な活動にとどまらず、地域や社会課題に対し様々な手法でその解決や新しい価値創造を図る自発的で主体的な取り組みです。本授業は、ボランティアアクションについての全体的な講義を行うとともに、さまざまな現場での実践的な取り組みを必要に応じゲストを招きながら具体的に紹介することで、ボランティアアクションについての理解を深め、これについて学生それぞれが考える機会とします。

【到達目標】

1. ボランティア及びNPOの意味、役割、これまでの歴史について理解する
2. ボランティアアクションの意義について学問的見地および実践的立場の両面から学び、その可能性を考える
3. 現代社会や地域が抱える課題を認識し、自身の体験等も踏まえながら、その解決方法を検討することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はボランティアアクションに関連する各回ごとに設定したテーマに沿って行います。受講者にはリアクションペーパー及びミニレポートを提出してもらい、記載された内容や質問については、次の講義で紹介・回答し、前回の講義の振り返りとしします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし /No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や全体の流れについての説明
第2回	ボランティアの概念-ボランティアアクションとは何か-	ボランティアという言葉の概念、ボランティアアクションの意味と意義を理解する
第3回	NPO・ボランティアの歴史	NPO・ボランティアの歴史的な背景やその特徴的な事例を学ぶ
第4回	SDGsの意味と意義-SDGsとは何か-	SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)の内容と意義を理解する
第5回	現代社会におけるボランティアアクションの概要	現代社会におけるボランティアアクションの種類と分類からその特徴を理解する
第6回	事例から学ぶ①-福祉サービスとボランティアアクション-	福祉事業の中で活躍するボランティアの事例を取り上げ、ボランティアアクションの意義を考える
第7回	事例から学ぶ②-営利事業とボランティアアクション-	営利事業と結びつけて実践されているボランティアアクションの事例を取り上げ、その意義を考える

第8回	NPO法人制度の内容とその歴史	NPO法人制度の内容や制定過程、その他の法人制度との比較から、その役割を理解する
第9回	事例から学ぶ③-個人的な活動から組織化へ-	社会課題の解決に取り組む個人レベルの活動から組織化するまでのプロセスを、事例から理解する
第10回	事例から学ぶ④-NPO法人の組織運営-	実際のNPO法人を事例として、NPO法人の特徴や意義、運営の仕組みを理解する
第11回	企業や行政とボランティアアクション	企業における社会貢献活動・CSRや行政に関わるボランティアの現状と特徴を学ぶ
第12回	中間支援組織の役割とその歴史	中間支援組織の概要やその役割を学び、ボランティアアクションの発展にとって、それらが持つ意味について理解する
第13回	事例から学ぶ⑤-多様な市民・組織の協働によるボランティアアクション-	多様な市民や組織が連携して実践されているボランティアアクションの事例から、“協働”の可能性を考える
第14回	授業の振り返りと補足	全体を通しての授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義で配布する資料及び紹介する文献を使用したり、関心のある活動や講義で扱う分野の事例をインターネット等で調べたりすることで予習・復習をしてください。レポートは、文献を講読し、概要・感想をまとめる他、実体験をもとに意見を述べられるようにするため、授業内で紹介する市民活動等への参加も推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは特に指定せず、適宜資料を配布します。

【参考書】

必要なものを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート(50%)
- ・平常点(授業の出席、授業内課題の提出など)(50%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Voluntary action" is not just a service activity, but a voluntary and proactive effort to solve local and social issues by various methods and create new value. This class will deepen the understanding of "Voluntary action" by giving an overall lecture and various practical efforts by inviting guests as needed and be an opportunity for each student to think about.

【Learning Objectives】

1. Understand the meaning and role of volunteers and NPOs, and their history.
2. Learn the significance of "Voluntary action" from both an academic and practical standpoint.
3. Recognize the problems faced by modern society and the region, and consider how to solve them while taking into account student's own experiences.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare and review by using books to be introduced and handouts, and by researching the Internet etc. for examples of activities you are interested or fields taken in the lecture. In addition, recommend that you participate in the civic activities introduced in the lecture. The standard time to prepare and review is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

- ・Report (50%)
- ・Attendance and submission of assignments (50%)

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

ボランティアアクション (2021年度以降入学者)

高井 大輔

配当年次／単位数：福コミ：2～4・臨心：1～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ボランティアアクションとは、奉仕的な活動にとどまらず、地域や社会課題に対し様々な手法でその解決や新しい価値創造を図る自発的で主体的な取り組みです。本授業は、ボランティアアクションについての全体的な講義を行うとともに、さまざまな現場での実践的な取り組みを必要に応じゲストを招きながら具体的に紹介することで、ボランティアアクションについての理解を深め、これについて学生それぞれが考える機会とします。

【到達目標】

1. ボランティア及びNPOの意味、役割、これまでの歴史について理解する
2. ボランティアアクションの意義について学問的見地および実践的立場の両面から学び、その可能性を考える
3. 現代社会や地域が抱える課題を認識し、自身の体験等も踏まえながら、その解決方法を検討することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はボランティアアクションに関連する各回ごとに設定したテーマに沿って行います。受講者にはリアクションペーパー及びミニレポートを提出してもらい、記載された内容や質問については、次の講義で紹介・回答し、前回の講義の振り返りとしします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や全体の流れについての説明
第2回	ボランティアの概念-ボランティアアクションとは何か-	ボランティアという言葉の概念、ボランティアアクションの意味と意義を理解する
第3回	NPO・ボランティアの歴史	NPO・ボランティアの歴史的な背景やその特徴的な事例を学ぶ
第4回	SDGsの意味と意義-SDGsとは何か-	SDGs (Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標) の内容と意義を理解する
第5回	現代社会におけるボランティアアクションの概要	現代社会におけるボランティアアクションの種類と分類からその特徴を理解する
第6回	事例から学ぶ①-福祉サービスとボランティアアクション-	福祉事業の中で活躍するボランティアの事例を取り上げ、ボランティアアクションの意義を考える
第7回	事例から学ぶ②-営利事業とボランティアアクション-	営利事業と結びつけて実践されているボランティアアクションの事例を取り上げ、その意義を考える

第8回	NPO法人制度の内容とその歴史	NPO法人制度の内容や制定過程、その他の法人制度との比較から、その役割を理解する
第9回	事例から学ぶ③-個人的な活動から組織化へ-	社会課題の解決に取り組む個人レベルの活動から組織化するまでのプロセスを、事例から理解する
第10回	事例から学ぶ④-NPO法人の組織運営-	実際のNPO法人を事例として、NPO法人の特徴や意義、運営の仕組みを理解する
第11回	企業や行政とボランティアアクション	企業における社会貢献活動・CSRや行政に関わるボランティアの現状と特徴を学ぶ
第12回	中間支援組織の役割とその歴史	中間支援組織の概要やその役割を学び、ボランティアアクションの発展にとって、それらが持つ意味について理解する
第13回	事例から学ぶ⑤-多様な市民・組織の協働によるボランティアアクション-	多様な市民や組織が連携して実践されているボランティアアクションの事例から、“協働”の可能性を考える
第14回	授業の振り返りと補足	全体を通しての授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で配布する資料及び紹介する文献を使用したり、関心のある活動や講義で扱う分野の事例をインターネット等で調べたりすることで予習・復習をしてください。レポートは、文献を講読し、概要・感想をまとめる他、実体験をもとに意見を述べられるようにするため、授業内で紹介する市民活動等への参加も推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、適宜資料を配布します。

【参考書】

必要なものを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート（50％）
- ・平常点（授業の出席、授業内課題の提出など）（50％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Voluntary action" is not just a service activity, but a voluntary and proactive effort to solve local and social issues by various methods and create new value. This class will deepen the understanding of "Voluntary action" by giving an overall lecture and various practical efforts by inviting guests as needed and be an opportunity for each student to think about.

【Learning Objectives】

1. Understand the meaning and role of volunteers and NPOs, and their history.
2. Learn the significance of "Voluntary action" from both an academic and practical standpoint.
3. Recognize the problems faced by modern society and the region, and consider how to solve them while taking into account student's own experiences.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare and review by using books to be introduced and handouts, and by researching the Internet etc. for examples of activities you are interested or fields taken in the lecture. In addition, recommend that you participate in the civic activities introduced in the lecture. The standard time to prepare and review is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Report (50%)
- ・ Attendance and submission of assignments (50%)

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

老いの文化と福祉

金 慧英

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、老いについて社会・経済・歴史・地域・文化・福祉などの多角的な理解を深める。また、老いをめぐる様々な課題に取り組み、考察することで自分の「老年観」を客観的に見つめ、明確にしていく。

【到達目標】

- 1) 老いについて多角的に理解し、説明できる
- 2) 老いに関連する課題に取り組み、ウェルビーイングな老いについて考察できる
- 3) 自分の「老年観」を明確にすることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

先行研究から老年観をめぐる諸理論を学んだ後、高齢者の生活実態と高齢者が直面している問題について理解する。また、高齢期のウェルビーイングを実現するために必要な社会的・文化的役割を考えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義ねらい、スケジュール、「老い」を学ぶ意味
第2回	老年観をめぐる諸理論①	老年観に関するパラダイムシフト
第3回	老年観をめぐる諸理論②	高齢者の幸福感と社会・文化的役割を理解
第4回	高齢期の生きがい①	高齢期の生きがいとその規定因を把握
第5回	高齢期の生きがい②	社会参加とコミュニティの役割を理解
第6回	高齢者の貧困問題と経済的自立	就労の実際と所得保障の仕組み
第7回	介護実態と介護者	介護離職、老老介護、ヤングケアラーなどの諸問題と介護者
第8回	外国人高齢者の支援	外国人高齢者の諸問題と支援について考える
第9回	限界集落の高齢者支援	過疎化地域に生きる高齢者の生活実態を把握
第10回	高齢者と犯罪	高齢者のアイデンティ危機や孤立化問題と犯罪との関連
第11回	地域のフォーマルケアとインフォーマルケア	コミュニティケア、新しいサービスの創造
第12回	諸外国の高齢者ケア	欧米、アジアの高齢者ケアシステム
第13回	幸福な老いを考える	幸福な老いについて考え、ワークシートを作成
第14回	まとめ	講義の総括、今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

老いを身近に認識することは、本講義での学びを深めるために重要である。そのため、事前準備として、普段より社会的、文化的老いに関連する専門書や文献を読んでおく。また、復習として講義中に配布されたレジュメや資料を整理し、まとめる。本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

アードマン・B・パルモア（2002）『エイジズム 高齢者差別の実相と克服の展望』（鈴木研一訳）明石書店 など、適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

試験(70%)、授業内小レポート課題の内容(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の振り返りシートで受講生の意見を聞き、随時、講義に反映していく予定である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will deepen their understanding of aging from diverse perspectives including social, economic, historical, regional, cultural, and welfare. In addition, by addressing and considering various issues related to aging, students will be able to clarify their “views about aging” in order to live the subjective age.

【Learning Objectives】

- 1) Can understand and explain aging from diverse perspectives.
- 2) Can address issues related to aging and think about wellbeing and aging.
- 3) Can clarify one's own view of aging.

【Learning activities outside of classroom】

It is crucial to thoroughly perceive aging for deepening the learning in this course. Therefore, students are encouraged to read specialized books and literature related to social and cultural aging as part of their advance preparations more than usual. Furthermore, as part of the review, students organize and summarize the resumes and documents distributed during the lectures. The standard preparation and review time for this class is four hours for each session.

【Grading Criteria /Policy】

The final exam (70%) and in-class small report (30%) will be the basis of evaluation.

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

セルフヘルプグループ

横川 剛毅

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が生活するうえで、さまざまな困難や生きづらさがあります。同じような生きづらさをもつ人たちの集まりがセルフヘルプグループ（SHG＝自助グループ）です。その意義を理解することがこの科目の目的です。

【到達目標】

次の2点を目標とします。

- ①さまざまな困難や生きづらさを理解することによって、支え合いについての考えを他者に伝えることができる。
- ②SHGの役割と意義を言語化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この科目は学生同士が協働しながら学びます。講義形式と併せて、視聴覚教材・ゲストスピーカーの声や姿をもとに、毎回、小グループでのディスカッションを取り入れます。そのため受講者には、相応の主体性と協調性を求め評価にあたってはそれらを平常点として重視します。併せて、基本的に「休まない」「遅刻しない」心構えを求めます。課題のフィードバックについては、①前週の授業のリアクションペーパーを授業冒頭に匿名で全体に対して紹介して共有を図ります。②発表に関しては、教員が評価コメントを授業内で伝えます。なお、履修者数、授業の進度などを考慮し、下記の授業計画を若干変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業の全体像を把握する。
	SHGとは何か	またSHGの定義を学ぶ
第2回	知的障がいのある人の地域生活	障がいを隠さない生き方について学ぶ
第3回	摂食障がいの困難	摂食障がいについて学ぶ
第4回	摂食障がいのSHG	摂食障がいのSHGについて学ぶ
第5回	パニック障がいの理解とSHG	パニック障がいのある当事者の手記から学ぶ
第6回	精神障がいの理解	精神障がいを理解しSHGについて学ぶ
第7回	ゲストスピーカーから学ぶ①	精神障がいのある親をもつ子どものSHGから、実践を学ぶ
第8回	依存症とは ゲーム依存	多様な依存症を知り、特にゲーム依存について学ぶ
第9回	アルコール依存症の困難	アルコール依存症について学ぶ
第10回	ゲストスピーカーから学ぶ②	ゲストスピーカーの語りから依存症と回復について考える
第11回	アルコール依存症者のSHG	アルコール依存症者のSHGについて学ぶ
第12回	学びの振り返りと、発表テーマ設定、及び発表準備	発表テーマを設定し、プレゼンテーション資料を作成する
第13回	学びの成果の共有①	一人ひとりが履修者全体に、学びの成果をプレゼンテーションする

第14回 学びの成果の共有② 一人ひとりが履修者全体に、学びの成果をプレゼンテーションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ内でのシェアや、全体への発表・レポート作成に向け、授業内容だけでなく、自分自身が関心のあるSHGについて調べたり情報収集したりして学びを深めましょう。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。基本的に毎回プリントを配布します。

【参考書】

「セルフヘルプ・グループ ―当事者へのまなざし―」（久保絃章 著）相川書房 2004他、授業内で適宜伝えます。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参画度合いなどの平常点（20％）、リアクション（30％）、レポート課題（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度の授業改善アンケートや、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通した学びの意義が見出されました。そのため、この科目の本質である「語り合いと共有」を大切にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業配布プリント収納用にクリアファイル（A4サイズ・20シート以上）を準備しておく。

【Outline (in English)】

【Course outline】

When a person lives, there are various difficulty and difficulty in living. People's gathering with difficulty in living equally is a self-helping group (SHG). It's the purpose of this classroom to understand the significance of SHG.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to about following two.

- ① By understanding various difficulty and difficulty in living, it's possible to tell ideas about mutual support.
- ② Can be put into words about The role and the significance of SHG.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

The posture overlooked in this class meeting:20%、Reaction paper:30%、Report:50 %

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

多文化ソーシャルワーク

伊藤 正子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多文化社会を形成する要因とその問題について「資本と労働の国際移動」と「外国人労働者問題」から検討し、外国にルーツを持つ人々の生活問題とその福祉援助について考える。

【到達目標】

グローバル化の視点から、現代社会の特質と人種・民族、文化の差異が関わって発生する偏見・差別と生活問題について理解する。
多文化ソーシャルワークの視点、思想・価値、原則・方法について理解する。
多文化ソーシャルワークの実践について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、仮想現実の中で問題解決のあり方を探る集団討議を行い、多文化理解や多文化社会実現の方法と課題について検討する。次に、現実に存在する人種・民族差別についてその具体例、人々に及ぼす影響をアメリカ、日本の場合を中心に検討する。その上で、多文化ソーシャルワークについて、その起源・発展、理論的基盤、思想・価値、原則・方法について説明し、実際の展開例の演習を行う。対面式での開講となり、出席を重視する。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標、評価方法の確認、文化固有の習慣・価値とコミュニケーション・ギャップの理解
第2回	多文化社会における諸問題①	異文化間コミュニケーションの相違と相互理解 エスニシティとインターセクショナルリティ
第3回	多文化社会における諸問題②	勤労に対する価値観の相違と社会問題
第4回	多文化社会における諸問題③	言語・教育における価値観の相違と社会問題
第5回	多文化社会における諸問題④	居住の集住化と分離と社会保障問題
第6回	多文化社会における諸問題⑤	共有財産と共生の条件
第7回	制度的人種差別①	前半の振り返りとアメリカにおける人種差別
第8回	制度的人種差別②	日本における外国人差別・排斥
第9回	多文化ソーシャルワーク理論	歴史的変遷、理論とその特徴
第10回	多文化ソーシャルワークの実践①	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるアプローチ
第11回	多文化ソーシャルワークの実践②	やさしい日本語①書きことば
第12回	多文化ソーシャルワークの実践③	やさしい日本語②話しことば

第13回 多文化ソーシャルワークの実際④ やさしい日本語③演習

第14回 試験・まとめと解説 学習した内容の発表と相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介した文献・資料の他、新聞、テレビ、地域活動などからも関連した問題・動向に関心を持ち、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への能動的参加・発言（60％）

最終試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】

集団討議を積み重ねていくことでディスカッションに慣れていき、講義より積極的に参加できるとの意見に基づき、主体的な検討、討議ができる主題をさらに工夫していきたい。

【その他の重要事項】

外国人支援NGOでのソーシャルワーカー経験を持つ教員が、多文化社会において発生する諸問題やその支援のあり方について、様々な事例を交えて解説する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces the complexity of issues on multicultural society from the perspective of the historical, global economy and international migration.

【Learning Objectives】 At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Ethnic Sensitive Social Work, discuss the role of social worker and apply in the treatment of difference, oppression and social justice.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Class attendance and attitude in class: 60%、 Term-end examination: 40%

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

死生観とソーシャルワーク

安西 美咲

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活では意識しにくくなっている「死」について考えることにより、改めて「生きる」ことを見つめ、ソーシャルワークにおける援助観の形成を目指すものである。授業内では、「死」を取り扱うことへの概念的な理解から、映像・グループワークを通して、死にゆく人への寄り添い方や専門的な実務に至るまでを学習していく。

【到達目標】

受講者ひとりひとりが自己の生き方や価値観を見つめ、死生観を育むことを目指す。また、社会福祉や近接領域の死の位相について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体とするが、参加型の授業を目指すため、DVD視聴、グループディスカッションや演習を実施します。また、リアクションペーパー、小レポートを課すので、必ず提出してください。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、死生観を育む必要性についての解説
第2回	ホスピスの誕生	ホスピスの誕生、三徴候死、脳死
第3回	病む人が抱える痛み	病む人が抱える痛みについて考える
第4回	残された人生	あなたにとって大切なこと・ものを考える
第5回	グリーフ・ケア、ビリーフメントケア	悲嘆へのケアについて考える
第6回	尊厳死・安楽死	現代の死の様相について考える
第7回	愛する人を失うということ①	大切な人を失う感覚について考える
第8回	愛する人を失うということ②	悲嘆感情の表出について考える
第9回	ソーシャルワーカーとして何ができるか①	社会福祉援助対象者の喪失について考える
第10回	ソーシャルワーカーとして何ができるか②	対象者の悲嘆感情への支援について考える
第11回	癒しとは何か①	人の癒しについて考える
第12回	癒しとは何か②	心地よさについて考える
第13回	死への準備に必要なこと	人として死を迎えることについて考える
第14回	総括	これまでの学習をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『相談援助の基盤と専門職』、『相談援助の理論と方法Ⅰ』、『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規
本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業内では資料やレジュメを配布する。

【参考書】

適宜必要な文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

小レポート及びリアクションペーパーの内容30%、ディスカッション・ディベートへの参加度20%、学期末レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

「生きること」「死ぬこと」について学生同士で意見交換することについて、好評だったので、今年度も意識しながら実施していく。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会や東日本大震災被災地の行政に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーカーが関わる「生と死」について具体的な話を盛り込みながら、授業を展開する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.

【Learning Objectives】 The goal is to understand the view of life and death as a profession.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (50%), and in-class contribution(20%).

PSY300JB, PSY300JC (心理学 / Psychology 300, 心理学 / Psychology 300)

家族心理学

松本 聡子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族とは」「家族はどのように変化するか」「家族をとりまく問題とは」といった問いに対して、基礎的な事項をふまえたうえで、心理学的な視点からアプローチしていくことが本講義の主なテーマです。

【到達目標】

- ・家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識を獲得すること。
- ・上記の知識や視点をふまえ、家族や家族をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、家族について概説をおこない、そのうえで人間の発達を軸とした家族の変化のようすとその関連要因について考察していきます。講義の後半では、家族をとりまく諸問題として少子高齢化、環境、労働などを取り上げ、現代社会における家族のあり方について検討します。講義中に多くのデータを紹介しますので、配布資料には必ず目を通すようにしてください。また、リアクションペーパーを提出していただく場合もあります。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、講義中に適宜おこなう予定です。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の概要説明
第2回	家族とはなにか	家族に関する定義など、基礎的な事項の説明
第3回	家族の発達	家族の変化・発達の概観
第4回	結婚と夫婦関係	結婚し夫婦になることについて心理学的な視点からの検討
第5回	子どもの発達	発達に関する基礎的な事項の説明
第6回	親になること	親への移行の様相とその関連要因
第7回	夫婦と子どもの発達	夫婦関係と子どもの発達の関わり
第8回	親と子の関係	親子の相互の関係性と変化
第9回	家族をめぐる諸問題： 少子高齢化	少子高齢化問題の家族心理学的な視点からの検討
第10回	家族をめぐる諸問題： 家族をとりまく環境	住環境や近隣環境など、家族をとりまく環境の視点から、家族関係を検討
第11回	家族をめぐる諸問題： 働くことと家族	就労と家族の問題に関する考察
第12回	日本の家族	日本の家族が置かれている状況について国際比較も交えて検討
第13回	家族に関する研究の課題と展望	家族に関する学術的な研究の紹介と課題の検討
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際に配布するプリントなどを見ながら、前回の内容を復習したうえで、講義に参加してください。講義では現代社会における家族に関する問題も扱っていきますので、日ごろから新聞や雑誌記事などを意識して見るようにしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に適宜プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーや課題など 20%

学期末試験 80%

家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識が獲得・理解できているか、基礎知識をふまえたうえでの、家族や家族をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析による考察内容、などの観点から、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義内容・進度は受講生の人数や状況に応じて調整していきたいと考えています。
- ・学習支援システムの本講義での使用方法について、初回に受講生と共有・確認をしたいと考えています。

【その他の重要事項】

- ・講義中に様々なデータをスライドやビデオなどで提示したり、講義に出席・参加することは講義内容を理解するために重要です。
- ・上記の授業計画や内容は、授業の進行や状況により変更があり得ますので、学習支援システム上や講義内での連絡に常に気を付けるようにしてください。
- ・講義に関する連絡事項を学習支援システム上でおこなうこともありますので、必ず確認してください。
- ・期限内の課題の提出が難しい場合には、連絡をするようにしてください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course will be to acquire basic understanding of "family" from psychological perspective. By taking this course, students should be able to apply the basic knowledge and psychological perspectives to understand various family issues. Before/After each class meeting, students will be expected to spend about two hours to understand and review the course content. Grading will be decided based on brief writing assignments (20%) and final exam (80%).

PSY300JB,PSY200JC (心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 200)

コミュニティ心理学

丹羽 郁夫

配当年次／単位数：福コミ：2～4・臨心：1～4年次／2単位
備考（履修条件等）：福祉コミュニティ学科と、臨床心理学科とで
配当年次が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティ心理学のアプローチは、伝統的個人心理臨床と異なり、個人の心だけでなく取り巻く環境（家族、学校、職場、地域社会など）へも働きかけ、治療よりも予防を重視します。その点で福祉および地域づくりと接点を持ちます。この講義を受講することで、現代の様々な心理的問題の理解と解決方法の幅が広がると思います。

【到達目標】

コミュニティ心理学のもつ視点と様々な介入方法に関して、個人心理臨床との違いを踏まえて説明することができます。そして、コミュニティ心理学に基づいた実証研究を計画できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学関連の授業を初めて履修する場合にも理解できるように、伝統的な心理臨床のモデルと基本的な視点について紹介します。その上で、コミュニティ心理学の基本的視点と理論、介入方法について講義します。実践や研究などの実際の紹介を多くまじえながら進める予定です。また授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と進め方、評価の仕方を説明。
第2回	伝統的心理臨床モデルとは	伝統的心理臨床モデルによる事例を報告し、個人心理臨床の特徴を講義。
第3回	臨床心理の基本的視点①：発達の視点	臨床心理の基本的な視点としてM. マーラーの分離-個体化理論などの発達モデルを講義。
第4回	臨床心理の基本的視点②：病態水準の視点	臨床心理の基本的な視点として病態水準を講義。
第5回	臨床心理の基本的視点③：システム論の視点	臨床心理の基本的な視点としてシステムの視点と家族療法を講義。
第6回	コミュニティ心理学の視点①	伝統的心理臨床の限界とそれを補うコミュニティ心理学の視点を講義。
第7回	コミュニティ心理学の視点②	コミュニティ心理学の歴史、定義、専門家の役割を講義。
第8回	心理的ストレス	心理的ストレス理論と実証研究、自然災害によるPTSDを講義。
第9回	ソーシャルサポートと介入	ソーシャルサポートの理論とその介入を講義。
第10回	危機理論と危機介入	危機理論と危機介入の実際を事例を用いて講義。

第11回	コンサルテーションとコラボレーション	コンサルテーションとコラボレーションの理論と実践を事例を用いて講義。
第12回	予防と介入	いくつかの予防の理論とその介入を講義。
第13回	コミュニティー・アプローチの実際	ひきこもりへの支援について講義
第14回	まとめ	講義全体の振り返りと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の講義で今回の講義内容が説明されるので、参考書などで事前に調べることが求められます。講義の後には、配布資料を読み、講義内容を振り返り、疑問点や興味をもったことなどを調べることが求められます。さらに学習を進めたい場合は、配布資料に記載された引用・参考文献を読むことが勧められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、教員が作成する資料を配布します。各テーマの重要文献は資料に記載します。

【参考書】

授業では使用しませんが、参考書には次のものがあります（必ずしも購入する必要はありません）。『よくわかるコミュニティ心理学（改訂第3版）』（植村勝彦・高島克子・箕口雅博・久田満編 ミネルヴァ書房 2017年 2,500円+税）。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験で評価しますが、その得点が60点未満の場合は平常点（リアクションペーパーの内容等）を含め総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

現状を維持します。

【その他の重要事項】

講義する内容を学生の皆さんが理解しやすくするため、プライバシーに配慮して、教員が経験した事例をいくつか報告します。

【Outline (in English)】

Course outline

Unlike the traditional individual clinical psychological approach, community psychology approach works not only on the individual but also on the surrounding environment (family, school, workplace, community, etc.) and emphasizes prevention rather than treatment. In that respect, this approach has contacts with welfare and community development. By taking this lecture, students will be able to understand and solve various modern psychological problems.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-Students can explain a viewpoint and various intervention methods of the community psychology.

-Students become able to plan a proof study based on community psychology.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Final grade will be decided based on the Term-end examination (100%).

PSY300JB, PSY300JC (心理学 / Psychology 300, 心理学 / Psychology 300)

異文化心理学

奥山 今日子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するように、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々とものごとを経験していますが、そのような経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。

私たちが持つて生まれた資質と私たちのこれまでの諸経験の相互作用の結果が、いまの私たちの感じ方、知り方、解釈の仕方を規定しているとも言えるでしょう。

私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものの/異文化/他者が私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知る機会になればと考えています。

授業内で映画を視聴し、私が提示するテーマについて、グループディスカッションを行うことを通じて、異質なものの/異文化/他者に触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生のみなさんに目指していただきたいのは、①自分自身の経験に気づき、②それを他者に伝えることができるようになり、③自分の経験について自分自身がより考えられるようになり、④他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で行います。講義では刺激素材として主に映画を上映します。その際、みなさんはそれらの映画をどのように経験しているかに注意を払いながら視聴します。まずは、みなさんそれぞれが感じたり想ったり思ったり考えたことを可能な限り言語化し、その上で、グループディスカッションを通じて、異質なものに触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。

受講者の反応に従って、視聴するDVD素材の内容・順序を変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるように説明する。
第2回	アサーション・トレーニング（1）	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第3回	アサーション・トレーニング（2）	さらにアサーティブ・コミュニケーションを学ぶ
第4回	映画視聴（1）とディスカッション	家族関係について
第5回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	家族関係について更に学ぶ
第6回	映画視聴（2）とディスカッション	心理的な成長や発達とは何か
第7回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長や発達とは何かについて更に学ぶ

第8回	映画視聴（3）とディスカッション	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まり
第9回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まりについて更に学ぶ
第10回	映画視聴（4）とディスカッション	人生に登場する壁のような存在について
第11回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	人生に登場する壁のような存在について更に学ぶ
第12回	映画視聴（5）とディスカッション	夢と現実、無意識とは
第13回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	夢と現実、無意識について更に学ぶ
第14回	映画視聴（6）	ある人生を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを想い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『こころの処方箋』 河合隼雄 新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー・授業への能動的参加）40％
期末レポート60％

【学生の意見等からの気づき】

発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみてほしいと思います。

【Outline (in English)】

The definition of "culture" varies. In this lecture, the interaction between all individuals is considered as cross-cultural exchange to contribute to the lives of the students. We experience things from time to time, and many of those experiences are shaped in ways we don't realize.

It can be said that the result of the interplay between our qualities and our previous experiences defines the way we feel, know and interpret now.

I hope this lecture will be an opportunity for you to see that the alien /different culture /others that we unknowingly exclude have the potential to make us richer.

The students will be exposed to the alien /different culture /others through watching several movies and holding group discussions on the themes I will present. I will introduce a psychoanalytic point of view.

【Goal】

Through this course, I would like to encourage students to (1) become aware of their own experiences, (2) become able to communicate them to others, (3) become more self-reflective about their own experiences, and (4) acquire skills that can enrich themselves through interaction with others.

【Methods】

In the lecture, movies are mainly shown as stimulus materials. You watch these movies paying attention to how you experience them. First, you will try to put what you feel, imagine, reflect and think into words as much as possible, and then touch on the alien /different culture /others through group discussions. I will introduce a psychoanalytic point of view.

I will change the contents to be viewed according to the student's response. We have a hybrid of face-to-face and online classes. The learning support system will show you which way the next class will be. Feedback on assignments, etc. is given sequentially and comprehensively in class. If you personally wish to receive feedback, please let us know by email.

【Work to be done outside of class】

Pay attention to what and how you are experiencing — what you feel, what you imagine, reflect, think, and do.

【Grading criteria】

Normal point (reaction paper, active participation in class) 40%

Year-end Report 60%

PSY300JB,PSY300JC (心理学 / Psychology 300, 心理学 / Psychology 300)

教育心理学特講**金山 裕介**

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：教職・スクールソーシャルワーク課程科目でないため注意。

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、教育心理学の基礎的な知見を習得するとともに、臨床心理学的視点から学校現場における様々な課題への理解を深めることを目的とする。子どもの発達や学習に関する心理学的知見に加え、現代の子どもが抱える困難の理解と対応についても学ぶ。

【到達目標】

教育心理学の理論を習得し、子どもの発達や学習および学校における諸問題への理解が深まること、対応と支援に関する基礎的な知識が身につくことを目標とする。また、学校場面での具体的な問題や支援の実際について学ぶことで、教育に対する様々な考え方、困難や障害を抱える生徒への配慮や学校が抱える問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本として、教育心理学分野に関する基礎的な内容について概説する。毎回の講義内でリフレクションペーパーを提出する。また内容に応じて、講義内で小グループでの話し合いを取り入れることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教育心理学を知る	オリエンテーション。教育心理学とはどのような研究分野かについて概観する。
2	知識を広げる記憶のメカニズム	記憶のモデルと記憶方略を理解し、教科の学習内容を効率的に記憶する方法を学ぶ。
3	経験から学ぶということ	学習理論を理解し、人の行動がどのように身につくのか、および問題行動への対応を学ぶ。
4	子どもの意欲を育む	動機づけの理論を理解し、子どもの学習意欲を引き出す方法を学ぶ。
5	子どもの育ちの過程	幼児期、児童期、青年期における発達の特徴と、それぞれの段階で子どもたちが直面する課題を学ぶ。
6	パーソナリティの形成	パーソナリティの概念、その形成過程、そして心理学的に測定する方法を学ぶ。
7	頭がいいとはどういうことか	知能の概念、その発達メカニズム、そして知能検査とその結果を教育現場でどのように活用できるかを学ぶ。
8	子どもの「わからない」を理解する	認知科学の知見を基に、算数や読解における「わからない」のメカニズムを理解し、学習上のつまずきを捉える視点を学ぶ。
9	困難を抱える子どもたち①	知的障害や発達障害の理解と対応を学ぶ。

10	困難を抱える子どもたち②	いじめや非行の理解と対応を学ぶ。
11	困難を抱える子どもたち③	家族の問題や虐待の理解と対応を学ぶ。
12	困難を抱える子どもたち④	不登校や自死の理解と対応を学ぶ。
13	学級づくり	学級集団の特徴や対人関係、リーダーシップ、教師のメンタルヘルスを学ぶ。
14	社会における学校	学校内外での連携について学び、社会における学校の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。事前学習としては、子どもや学校に関心を持ち、関連する新聞記事などを読むこと。また、必要に応じて「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」などの関連書籍を参考に学習すること。本授業においては、各回のテーマに沿った参考資料を紹介する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著
「ベーシック現代心理学6 教育心理学」有斐閣 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司 著

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（60％）

授業参加およびリフレクションペーパー（40％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

Educational Psychology

Course outline:

This course introduces students to the fundamental principles of educational psychology.

Learning Objectives:

The goal of this course is to provide students with a foundational understanding of educational psychology and to explore various challenges in educational settings from a psychological perspective.

Learning activities outside of classroom:

・Lecture/Exercise (two-credits)

Student will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policies:

The final grade will be determined as follows:

・End-of-semester report: 60%

・Reflection papers and in-class contributions: 40%

PSY200JC（心理学 / Psychology 200）

心理療法

上倉 安代

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理療法の基本的な概念、歴史、対象、具体的な方法について概説する。

【到達目標】

心理療法の基本的な概念を理解し、心理療法の対象、心理療法家としての姿勢を学ぶ。またいくつかの心理療法について、具体的な方法とその効果について理解し、心理的援助の実際について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

心理的援助を必要とする対象とそれらが抱える問題、それを解決するための心理療法の方法、心理療法家の姿勢について具体的に理解できるよう、講義を中心に視聴覚資料なども取り入れつつ進めていきます。

理解を深めるために、リアクションペーパーも活用しますが、授業で提出されたリアクションペーパーについては、いくつか質問や意見を取り上げ、次の授業内で全体に対してフィードバックを行っていきます。また課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。

なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得ます。各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理療法とは何か	講義の概要と成績評価の基準について説明し、心理療法とは何かについて概説する
第2回	心理療法の歴史	心理療法の発展の歴史について概説する
第3回	心理療法の対象と領域	心理療法が、どのような領域で、どのような対象に対しておこなわれるのかを概説する。
第4回	心理療法家の姿勢と役割（1）	心理療法を行う上で、セラピストに必要な資質、姿勢について概説する。
第5回	心理療法家の姿勢と役割（2）	心理療法において、セラピストがクライアントとどのように関わるか、またセラピストの役割について概説する。
第6回	心理療法を始めるにあたって	心理療法を始めるにあたって、セラピストがどのような作業を行うかを概説する。
第7回	心理療法（1） 来談者中心療法、支持的 精神療法	主な心理療法の中で、来談者中心療法、支持的 精神療法の理論と方法について概説する。
第8回	心理療法（2） 精神分析的 精神療法、ブリーフセラピー など	主な心理療法の中で、精神分析的 精神療法、ブリーフセラピーなどの理論と方法について概説する。
第9回	心理療法（3） 認知行動療法、対人 関係療法など	主な心理療法の中で、認知行動療法、対人関係療法などの理論と方法について概説する。

第10回	心理療法（4） 日本で生まれた心理療法：森田療法、内 観療法	日本で生まれた心理療法である森田療法と内観療法の理論と方法について概説する。
第11回	心理療法（5） 遊戯療法、箱庭療法 など	主な心理療法の中で、言語を介さない遊戯療法、箱庭療法などの理論と方法について概説する。
第12回	心理療法の実際（1）	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：対人緊張
第13回	心理療法の実際（2）	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：摂食障害
第14回	学期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料をもとに授業内容を復習すると共に、参考図書で授業内容に該当する箇所をあらかじめ理解しておくことを勧める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。講義時に適宜レジュメを配布すると共に、参考文献を紹介する。

【参考書】

「臨床心理学への招待」野島和彦編著、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

平常点および学期末試験によって評価する。
平常点およびリアクションペーパー：30％
学期末試験：70％

【学生の意見等からの気づき】

心理療法を行う上でのセラピストの関わり方、セラピーにおけるクライアントの体験などを、具体的にイメージしやすいように進めていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

医療機関において病院臨床の実務経験があることから、心理療法家としての心得、関わり方について、事例経験・事例紹介を盛り込みつつ講義を行っていきます。

【Outline (in English)】

This course will provide an overview of the psychotherapy including the basic concept, history, objects, and specific methods. The objectives of this course is to enable students to understand the basics of psychotherapy and to explain the psychotherapeutic practice. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

臨床心理学特講

末武 康弘

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論について、その提唱者の原著（主に日本語訳）の読解をすることを通して、臨床心理学がどのような考え方や方法から成り立っているのかを学びます。

【到達目標】

この授業の達成目標は、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の内容を理解し、またそれらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察し説明できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義レジュメをもとに、パワーポイントを活用しながら講義、原著の読解、関連する問題や英文和訳などの課題、ディスカッション等によって授業を進めていきます。関連する映像資料の視聴も行います。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業への導入を行い、成績評価の基準を明示します。
第2回	臨床心理学の主要な概念と理論：概説	臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な立場の概要を学びます。
第3回	主要な概念と理論 (1)：無意識、自我、対象関係	精神分析学的な概念と理論をフロイトの著作等から考察します。
第4回	主要な概念と理論 (2)：集合無意識、元型、夢と箱庭	分析心理学の概念と理論をユングの著作等から考察します。
第5回	主要な概念と理論 (3)：自己愛、シニフィアン、大文字の他者	精神分析の特異な発展をコフートやラカンの著作等から考察します。
第6回	主要な概念と理論 (4)：実存、現象学、超越	Binswangerらの現存在分析およびフランクルのロゴセラピーの概念と理論を考察します。
第7回	主要な概念と理論 (5)：ヒューマニスティック、クライアント中心、PCA	クライアント中心療法の概念と理論をロジャーズの著作等から考察します。
第8回	主要な概念と理論 (6)：体験過程、フォーカシング、暗在性	クライアント中心療法から発展した概念と理論をジェンドリンの著作等から考察します。
第9回	主要な概念と理論 (7)：逆制止、強化、思考修正	行動療法や認知行動療法の概念と理論をウォルビヤベックの著作等から考察します。

第10回	主要な概念と理論 (8)：ダブルバインド、家族システム、ソリューションフォーカス	家族療法、システム理論、ナラティブアプローチ等の概念と理論を考察します。
第11回	主要な概念と理論 (9)：芸術、ドラマ、詩歌	芸術療法、サイコドラマ、読書療法や詩歌療法の理論を考察します。
第12回	主要な概念と理論 (10)：エスノ、自然、真空	日本的エスノセラピーやクライアント中心療法の日本的な発展について考察します。
第13回	主要な概念と理論 (11)：折衷、統合、多面的アプローチ	複数の理論や方法を活用するアプローチについて考察します。
第14回	新しい概念と理論、授業のまとめ	最近注目されている新しい概念や理論を取り上げて考察します。最後に授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の資料は、事前に「授業支援システム」上に掲載するので、それを読んで授業に参加することが求められます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

参考書は授業の中で適宜紹介します。また、資料（講義レジュメ、パワーポイント等）、映像教材などを使用します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポート（2000字前後）（60％）と平常点（毎回の発展課題ほか：40％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果に基づき、より具体的でわかりやすい内容の授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】

In this lesson, through reading the original author's work (mainly Japanese translation) on clinical psychology, especially counseling and psychotherapy, you learn major theories and methods of clinical psychology.

At the end of the course, students are expected to understand major theories and methods of clinical psychology, especially counseling psychotherapy.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant materials uploaded on Hoppii. And students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 60%, Assignments after each class meeting: 40%.

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

精神分析学

関谷 秀子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フロイトの精神分析学理論は人の心を理解しようとする科学的仮説の体系である。力動的な精神分析学仮説は、通常の日常生活で意識することのない、無意識的なレベルにおける人の心を示す概念である。そのため難解であるが、授業では無意識の発見、構造論モデル、精神性の発達、親子関係ならびに治療関係論をテーマにして、心の在り方を理解する。

【到達目標】

精神分析学仮説の意味する事柄を日常生活のレベルで理解できるようにすることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

PCプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜資料を配布する。毎回の授業での質疑応答やディスカッションを行うほか、リアクションペーパーの内容を取り上げてフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	精神分析学の誕生①	メスメルの磁気術、催眠術
第2回	精神分析学の誕生②	ブロイエルと症例アンナO、ヒステリー研究、催眠浄化法から前額法・自由連想法へ
第3回	無意識、フロイトの夢判断	心の局所論モデル、夢分析、心の構造論モデル、防衛機制
第4回	精神性の発達論①	口唇期、肛門期、幼児性器期、エディプス・コンプレックス、潜伏期、性器期、退行と固着
第5回	精神性の発達論②	思春期青年期、性器統裁、対象選択、超自我の構造的変化、Blosによる思春期の発達論
第6回	フロイトの症例／ドラ	転移と抵抗への気づき
第7回	フロイトの症例／ハンス	親を介しての児童分析
第8回	精神分析療法と精神分析的な精神療法	精神分析療法、治療構造、基本規則、精神分析的心理療法、心理療法の進め方。アセスメントと治療契約、適応
第9回	契約	治療契約について
第10回	退行	治療的退行について
第11回	抵抗	抵抗の形式、抵抗解釈について
第12回	転移、逆転移、解釈技法	転移・逆転移の概念、転移解釈について
第13回	終結の仕事	終結の仕事、喪の仕事、同一化
第14回	期末試験・まとめと解説	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進行に伴い、日常生活における自己の感情と思考を眺めてみてほしい。自己理解につながるかもしれない。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)、平常点(リアクション・ペーパーを含む)(30%)にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】

精神科医が、専門分野である精神分析学について講義する。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course deals with the Freud's psychoanalytic theory, which is a system of scientific hypotheses. Psychodynamic theory is a notion which demonstrates the unconscious state of mind of human being. The aim of this lecture is to understand the state of the mind, through learning about discovery of unconsciousness, structural point of view, psychosexual development, parent-child relationship, and therapeutic relationship.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand the psychoanalytic theory in the level of everyday life.

【Learning activities outside the classroom】

Attending this course, try to observe your emotion and thought in everyday life. It may leads to understanding yourself. Before /after each class meeting, students will be expected to spend two hours each to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Grading will be decided based on term-end examination (70%), in-classroom contribution (including reaction paper)(30%).

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

児童精神医学

関谷 秀子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

児童精神医学は1950年代に成立した比較的新しい領域である。精神発達の正常からの逸脱をすべて疾患として理解するのは必ずしも適切ではないが、国際的診断分類学の臨床単位ごとの病理特性と治療について取り上げる。またその理解に必要な心の発達について理解する。

【到達目標】

児童精神医学の歴史を理解する。
 児童・思春期の心の発達について理解する。
 代表的な児童思春期の心の病について基本的知識を習得する。
 児童思春期に対する治療的アプローチについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主にPCプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 児童精神医学の歴史①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。19世紀の子ども観について。
第2回	児童精神医学の歴史②	子どもガイダンス運動の展開について。
第3回	児童精神医学の歴史③	児童精神医学の誕生について。
第4回	子どもの精神発達①	乳幼児期・幼児期の発達について。マラーの発達理論。
第5回	子どもの精神発達②	児童期・思春期の発達について。アンナフロイトの発達ライン。
第6回	子どもの精神療法	児童期と精神療法
第7回	親ガイダンス	親ガイダンスの基本構造と基本原則
第8回	不登校①	小学生の不登校
第9回	不登校②	思春期の不登校
第10回	摂食障害	摂食障害の経過と治療について
第11回	強迫性障害・恐怖症	強迫性障害・恐怖症の経過と治療について
第12回	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害の経過と治療について
第13回	ケースの検討	見立て・治療経過について
第14回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

幼児や児童と関わるボランティア活動を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(60%),平常点（40%）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】

精神科医が専門分野である児童思春期精神医学について講義する。

【Outline (in English)】

The child psychiatry is a relatively new field established in the 1950s. It is not necessarily appropriate to understand all deviation from normal mental development as a disease. But nevertheless, an international criterion of diagnosis and classification is currently available. We should learn about pathology and the treatment of all disorders respectively. In addition, we must understand child development and adolescence. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Short reports : 40%

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

認知行動療法

金築 優

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知行動療法とは、心の問題を、認知・行動・感情の側面から捉えて、アプローチする心理療法です。本授業では、認知行動療法の様々な技法を、それらの理論的根拠も含めて、紹介します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、認知行動療法における様々な技法や理論について、自分の言葉で説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

認知行動療法を、認知、行動及び感情へのアプローチの3つに分類し、各アプローチを取り上げていきます。技法についてだけではなく、技法の背景にある理論についても紹介していきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

課題等のフィードバックは、授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方を示し、認知行動療法の歴史を概説します。
第2回	行動に焦点を当てたアプローチ（1）	学習（行動）理論（特に、レスポナント学習）と行動療法の関連を考えます。
第3回	行動に焦点を当てたアプローチ（2）	学習（行動）理論（特に、オペラント学習）と行動療法の関連を考えます。
第4回	行動に焦点を当てたアプローチ（3）	行動療法の技法群を紹介します。
第5回	行動に焦点を当てたアプローチ（4）	行動療法の適用例を紹介します。
第6回	感情に焦点を当てたアプローチ（1）	認知行動療法が感情をどのように捉えられているかを考えます。
第7回	感情に焦点を当てたアプローチ（2）	エクスポージャー法を紹介します。
第8回	認知に焦点を当てたアプローチ（1）	論理療法を紹介します。
第9回	認知に焦点を当てたアプローチ（2）	認知療法を紹介します。
第10回	認知に焦点を当てたアプローチ（3）	情報処理理論と認知へのアプローチの関連を考えます。
第11回	認知に焦点を当てたアプローチ（4）	メタ認知療法を紹介します。
第12回	新世代の認知行動療法（1）	マインドフルネス認知療法を紹介します。
第13回	新世代の認知行動療法（2）	アクセプタンス&コミットメント・セラピーを取り上げます。
第14回	新世代の認知行動療法（3）	アクセプタンス&コミットメント・セラピーにおける価値を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と定期試験（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

認知行動療法のイメージをつかみやすいように、動画の教材も取り入れていく予定です。

【その他の重要事項】

これまでに携わってきた認知行動療法に関する実践活動や研究活動についても触れます。

【Outline (in English)】

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to cognitive behavior therapy. This course will review Meta-Cognitive Therapy, Mindfulness-Based Cognitive Therapy, and Acceptance and Commitment Therapy. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end reports (60%), and in class contribution (40%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

グループアプローチ

大竹 直子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グループ・アプローチは、心理、福祉、教育、医療、看護などの臨床場面で広く行われているグループ状況での専門的援助活動の総称です。「人は人との間で人になる」という人間の本来的特質を改めて確認しながら、治療的グループ・アプローチ、教育的グループ・アプローチ、成長傾向のグループ・アプローチなどについて理解を深めていきます。

【到達目標】

主に心理臨床の現場で用いられるグループ・アプローチの理論を理解するとともに、グループ体験をとおして「人間」や「自己」への理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、毎回異なったメンバーとグループを組み、前半はレジュメを用いた講義を中心に、後半はグループワークやディスカッションを中心に進めていきます。（授業の展開によって若干の変更があり得ます。）

また、毎回リアクションペーパーの提出を求め、出欠の確認をするとともに、質問が記入されている場合は、次の授業の始めに回答をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、ねらい、進め方、評価などの確認
2	グループ・アプローチとは	講義：グループ・アプローチの歴史と発展
3	人は人との間で人になる（1）	講義と演習：人間の本来的特質～“人間”に焦点を当てて～
4	人は人との間で人になる（2）	講義と演習：人間の本来的特質に～“個人”に焦点を当てて～
5	グループ体験（1）	演習：構成的グループの体験
6	ベーシック・エンカウンター・グループ	講義とビデオ：カール・ロジャーズと記録映画
7	医療現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：集団精神療法など
8	教育現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：構成的グループエンカウンターなど
9	企業におけるグループ・アプローチ	講義と演習：研修や開発に用いられるグループ・アプローチ
10	グループ体験（2）	演習：非構成的グループの体験
11	グループ・アプローチの現代的意義	講義と演習：今なぜグループ・アプローチか～グループ・アプローチ再考～
12	グループ・ファシリテーターの役割	講義と演習：ファシリテーターの役割と在り方
13	グループワークのまとめ	講義と演習
14	試験・まとめと解説	筆記試験（持込不可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、これまで話したことがない人とグループを組み、話し合いや演習を行います。みなさんで安心した場を作っていきながら、積極的に自分や他者と向き合えるよう、心構えをもってご参加ください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。（プリントを配布します。A4版のファイルをご準備ください。）

【参考書】

講義の中で提示します

【成績評価の方法と基準】

①最終試験 60%

②平常点 40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんより、授業内でのグループを体験は、自己や他者への発見や気づきの機会となったこと、グループアプローチの理解に役立ったとの感想をいただいております。毎回、違うメンバーとのグループワークやディスカッションを行うため「最初は、自分について話すことに戸惑った」「知らない人と話すのは緊張した」との声や「回数を重ねるごとに楽しになってきた」「自己理解が深まった」「グループの意義を実感することができた」などのフィードバックをいただきました。

今年度も、受講生同士のディスカッション、グループ体験の時間を持つ予定です。できるだけ安心して授業やグループに参加していただけるよう、工夫をしていきたいと考えております。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

The group approach is a general term for professional psychological helping activities in group situations that are widely practiced in clinical situations such as Psychology, Welfare, Education, Medical care, Nursing. We will deepen our understanding of the group approaches, while again confirming the inherent characteristics of human beings, "People become people with people".

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the theory of group approach and to deepen understanding of humans and self.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

精神生理学特講

望月 聡

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科目名は「精神生理学特講」ですが、内容的には「**神経心理学特講**」になります。

こころの働きと脳がどのように関係しているかを明らかにしようとする「**神経心理学**」を概説します。人間の脳損傷によって生じうる認知・行動・感情などの障害(高次脳機能障害)を詳しく紹介し、それらの障害からどのような心理学的・認知神経科学的メカニズムが明らかになるか解説します。

神経心理学的障害に関する評価方法や認知リハビリテーションなどの介入方法の基礎、さらに健常者を対象としたニューロイメージングによる知見も取り上げます。

心理臨床、特に医療領域や福祉領域に携わる人にとっては、神経心理学に関する知識は必須であると考えてください。

【到達目標】

- 1) 高次脳機能の障害及び必要な支援について説明できる。
- 2) 脳神経系の構造及び機能について概説できる。
- 3) 記憶、感情等の生理学的反応の機序について概説できる。
- 4) 人の感覚・知覚等の障害について概説できる。
- 5) 人の認知・思考等の障害について概説できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式で進めます。各回ごとにリアクションを提出し学習内容をふりかえります。リアクションは学習支援システムの「掲示板」に書き込んでもらいます。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	神経心理学の目的と方法についての概要を学びます。
第2回	脳の構造	特に大脳皮質に関する解剖学的基礎について学びます。
第3回	知覚・認知	視覚性失認、聴覚性失認、触覚性失認などを学び、知覚・認知に関わる脳のメカニズムを理解します。
第4回	空間、身体	半側空間無視、身体失認を学び、空間認知、身体認知に関わる脳のメカニズムを理解します。
第5回	行為	失行、行為制御障害を学び、行為表出と制御に関わる脳のメカニズムを理解します。
第6回	記憶	短期記憶障害、ワーキングメモリ障害、エピソード記憶障害、意味記憶障害、手続き記憶障害を学び、記憶に関わる脳のメカニズムを理解します。
第7回	言語(1) 聞く・話す	失語を学び、口頭言語に関わる脳のメカニズムを理解します。
第8回	言語(2) 読む・書く、計算	失読、失書、計算障害を学び、文字言語と計算に関わる脳のメカニズムを理解します。
第9回	脳の側性化	左右半球の情報処理の違いを学び、半球優位性のメカニズムを理解します。

第10回	注意	注意障害を学び、注意に関わる脳のメカニズムを理解します。
第11回	遂行機能（実行機能）	遂行機能（実行機能）障害を学び、計画性や問題解決に関わる脳のメカニズムを理解します。
第12回	社会的認知	社会的認知の障害を学び、社会性に関わる脳のメカニズムを理解します。
第13回	感情、動機づけ	感情の認知や表出の障害、動機づけや意欲の障害を学び、感情や動機づけ・意欲に関わる脳のメカニズムを理解します。
第14回	授業内試験・まとめと解説	筆記試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「知覚・認知心理学」や「神経・生理心理学」など、これまでに他の科目で学んできた心理学の生物学的な側面について復習をしておく、授業内容の理解が深まります。

授業後には、資料をもとに復習し、関心をもった点は、授業担当者に質問する、関連する書籍を読むなどをすると、理解がもっと深まります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

各回の内容ごとに、関連する参考図書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

（各回授業終了後のリアクションの提出状況・内容を含む）平常点（25%）、および期末試験（75%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな領域の心理学の知見を結びつけたり、心理学の基礎的な面と臨床的な面をつなぐための大切な学問領域でもありますので、頑張って受講してもらいたいと思っています。興味を持って受講していただけるような内容や説明の仕方を心がけます。

【その他の重要事項】

「神経・生理心理学」とあわせての受講を推奨します。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course provides an overview of neuropsychology, which aims to clarify how the brain is related to psychological functions. I will introduce in detail the cognitive, behavioral, and emotional disorders (higher brain dysfunction) that can be caused by brain injury, and explain what psychological and cognitive neuroscience mechanisms can be revealed from these disorders.

It will also cover the basics of neuropsychological assessment and intervention methods such as cognitive rehabilitation, as well as neuroimaging findings in healthy subjects.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students are expected to be able to:

- 1) Explain higher brain dysfunction and necessary support.
- 2) Outline the structure and function of the cerebral nervous system.
- 3) Outline the mechanisms of physiological responses such as memory and emotion.
- 4) Outline disorders of sensation and perception in humans.
- 5) Outline disorders of cognition and thought in humans.

[Learning activities outside of classroom]

Reviewing the biological aspects of psychology that you have studied in other courses will help you understand the content of the class better.

After the class, review the material and ask questions to the class instructor or read related books to deepen your understanding.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policies]

Evaluation will be made on the basis of the reaction papers submitted after each class (25%) and the final exam (75%).

PRI100LA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
単位数：2単位
定員制（50）
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報 I」では実習に関する時間が多くないため、理論と演習を往還しながら情報処理について学んでいきます。

【到達目標】
本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録―テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。
授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。
また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】
本科目は対面授業を基本とします。毎回 1人1台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。
課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第01回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第02回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Wordを用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第03回	文字の装飾	Microsoft Wordを用いて文字飾りなどの装飾を行う
第04回	箇条書きとインデント	Microsoft Wordを用いて箇条書きやインデント設定を行う

第05回	表の作成・挿入	Microsoft Wordを用いて表を作成する
第06回	図・図形の挿入	Microsoft Wordを用いて図の挿入を行う
第07回	段組み・数式入力	Microsoft Wordを用いて段組み・数式の挿入を行う
第08回	テンプレートの利用	Microsoft Wordのテンプレートを作成・利用する。
第09回	長文作成	Microsoft Wordで長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第10回	差し込み印刷	Microsoft Wordの差し込み印刷機能を利用する。
第11回	グラフの挿入	Microsoft Wordを用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excelとの連動を行う事で、情報処理演習2の内容につなげる。
第12回	Processingを用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processingを使ってプログラミングし、学習する
第13回	Processingを用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第14回	FreeMatを用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回の授業の前に、教室内の端末にログインするためのID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980円

【参考書】
適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】
上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】
The goal of this class is to find the information you need, change it in your own way, and share it. Also, in the high school subject "Information I," there is not much time for practice, so we will learn about information processing by studying both theory and practice.

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2019（表計算ソフト）と PowerPoint2019（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。特に、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「式で表現する力をつける」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では論理的な思考が身に付きます。後者ではプレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1人1台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。初心者者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第02回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第03回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第04回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第05回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第06回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう

第07回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第08回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする
第09回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第10回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第11回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第12回	スライドの発表	第11回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第13回	スライド発表時の諸注意と応用	第11回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する
第14回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題出題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅱ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course. It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2019. In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions. That is, you will able to acquire logical thinking. And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow. Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制（50）
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報 I」では実習に関する時間が多くないため、理論と演習を往還しながら情報処理について学んでいきます。

【到達目標】
本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録―テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。
授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。
また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】
本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。
課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】	授業形態：対面/face to face	
回	テーマ	内容
第01回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第02回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第03回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第04回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第05回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第06回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第07回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第08回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第09回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第10回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第11回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第12回	Processingを用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第13回	Processingを用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第14回	FreeMatを用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】
適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】
上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】
The goal of this class is to find the information you need, change it in your own way, and share it. Also, in the high school subject "Information I," there is not much time for practice, so we will learn about information processing by studying both theory and practice.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2019（表計算ソフト）と PowerPoint2019（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。特に、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「式で表現する力をつける」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では論理的な思考が身に付きます。後者ではプレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1人1台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。初心者者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第02回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第03回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第04回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第05回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第06回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう

第07回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第08回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする
第09回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第10回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第11回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第12回	スライドの発表	第11回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第13回	スライド発表時の諸注意と応用	第11回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する
第14回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使ったスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題出題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅱ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course. It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2019. In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions. That is, you will able to acquire logical thinking. And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow. Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制（50）
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報 I」では実習に関する時間が多くないため、理論と演習を往還しながら情報処理について学んでいきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録―テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。
授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。
また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。
課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第02回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第03回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第04回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第05回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第06回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第07回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第08回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第09回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第10回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第11回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第12回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第13回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第14回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The goal of this class is to find the information you need, change it in your own way, and share it. Also, in the high school subject "Information I," there is not much time for practice, so we will learn about information processing by studying both theory and practice.

— 1980 —

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2019（表計算ソフト）と PowerPoint2019（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。特に、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「式で表現する力をつける」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では論理的な思考が身に付きます。後者ではプレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1人1台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。初心者者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第02回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第03回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第04回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第05回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第06回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう

第07回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第08回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする
第09回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第10回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第11回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第12回	スライドの発表	第11回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第13回	スライド発表時の諸注意と応用	第11回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する
第14回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題出題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course. It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2019. In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions. That is, you will able to acquire logical thinking. And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow. Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報 I」では実習に関する時間が多くないため、理論と演習を往還しながら情報処理について学んでいきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録―テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第02回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第03回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第04回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第05回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第06回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第07回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第08回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第09回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第10回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第11回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第12回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第13回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第14回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The goal of this class is to find the information you need, change it in your own way, and share it. Also, in the high school subject "Information I," there is not much time for practice, so we will learn about information processing by studying both theory and practice.

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2019（表計算ソフト）と PowerPoint2019（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。特に、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「式で表現する力をつける」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では論理的な思考が身に付きます。後者ではプレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1人1台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。初心者者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第02回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第03回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第04回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第05回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第06回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう

第07回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第08回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする
第09回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第10回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第11回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第12回	スライドの発表	第11回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第13回	スライド発表時の諸注意と応用	第11回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する
第14回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使ったスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題出題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅱ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course. It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2019. In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions. That is, you will able to acquire logical thinking. And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow. Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I 2017年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位
定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピュータの基本的な概念と使い方、ワードプロセッサと表計算の基礎的な使い方を中心に学びます

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自フォームへの回答を作成する。

授業資料や課題の提出、質問などは Google Classroom を使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	コンピューターの基本概念・新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ。また、安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第2回	キーボード・ウィンドウ	スマホやタブレットと異なり、キーボードとマウスを基本としたPCの操作について実習を交えて学ぶ
第3回	ファイル・クラウド	コンピューターでのデータ管理の基本であるファイルについて学び、クラウドを活用したデータの運用について実習する
第4回	第9章(1) ワード1(練1-3)	Wordの基本的な入力方法とレイアウトの扱いについて学ぶ
第5回	第9章(2) ワード2(練4-7)	Wordで表や図形の扱い方について学ぶ
第6回	第9章(3) ワード3(練8-10・章1)	Wordで章立てや参考文献の使い方について学ぶ
第7回	第1章 コンピュータの基本概念	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OSの役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ

第8回	第2章 コンピュータの基本操作	ウィンドウの操作やシャットダウンなど、コンピューターを使う際に覚えておくべき基本的な操作について学ぶ
第9回	第3章 キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第10回	第10章(1) エクセル1(練1-8)	Excelの基本概念とセルの操作、オートフィルについて学ぶ
第11回	第10章(2) エクセル2(練9-12)	数式を使った計算と、相対参照と絶対参照について学ぶ
第12回	第10章(3) エクセル3(練13-15)	合計や平均など様々な計算や、文字列の加工などに使われる関数について学ぶ
第13回	第4章 ファイル操作(1)	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第14回	第4章 ファイル操作(2)	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版までの「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 11 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物(80%)と平常点(20%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピューターを用いて授業を行う。各自のノートパソコン等の持ち込みも認めます。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PR1200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に、ワードプロセッサと表計算ソフトの応用的な使い方、プレゼンテーション、インターネットといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自フォームへの回答を作成する。授業資料や課題の提出、質問などはGoogle Classroomを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第5章 コンピューターとデータ (1)	デジタルとアナログ、著作権、2進数について学ぶ
第2回	第5章 コンピューターとデータ (2)	様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第3回	第6章 インターネットと電子メール	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組み、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第4回	第10章 (4) エクセル 4(練16-21)	数表からグラフを作成し、レイアウトを調整する方法について学ぶ
第5回	第10章 (5) エクセル 5(章1-4)	Excelについて学んだ内容を応用したスプレッドシートの作成実習を行う
第6回	第10章 (6) エクセル 6(章5)	特に難易度の高い章末問題5について集中的に解説する(進度により別内容もありうる)
第7回	第9章 (4) ワード 4(章2,4)	Wordについて学んだ内容を応用した総合的な文書作成の実習を行う。実習の時間配分上、章末問題を分割して実施する。

第8回	第9章 (4) ワード 4(章3,5)	Wordについて学んだ内容を応用した総合的な文書作成の実習を行う。実習の時間配分上、章末問題を分割して実施する。
第9回	第11章 (1) パワーポイント (1)	パワーポイントの基本的な操作とプレゼンテーションの基本について学ぶ
第10回	第11章 (2) パワーポイント (2)	応用的なパワーポイントスライドの作成実習を行う
第11回	第7章 World Wide Web	WWWの仕組みと利用方法、得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第12回	第8章 インターネットとメディアリテラシ	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽、フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ
第13回	RSA 暗号	現代の暗号技術の基礎となっているRSA暗号について学ぶ
第14回	まとめと振り返り	情報処理演習ⅠとⅡを通してのまとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版までの「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 11やMicrosoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物(80%)と平常点(20%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。各自のノートパソコン等の持ち込みも認めます。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I2017年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピュータの基本的な概念と使い方、ワードプロセッサと表計算の基礎的な使い方をを中心に学びます

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自フォームへの回答を作成する。

授業資料や課題の提出、質問などは Google Classroom を使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの基本概念・新しいパスワードの設定	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ。また、安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第2回	キーボード・ウィンドウ	スマホやタブレットと異なり、キーボードとマウスを基本としたPCの操作について実習を交えて学ぶ
第3回	ファイル・クラウド	コンピュータでのデータ管理の基本であるファイルについて学び、クラウドを活用したデータの運用について実習する
第4回	第9章(1) ワード1(練1-3)	Wordの基本的な入力方法とレイアウトの扱いについて学ぶ
第5回	第9章(2) ワード2(練4-7)	Wordで表や図形の扱い方について学ぶ
第6回	第9章(3) ワード3(練8-10・章1)	Wordで章立てや参考文献の使い方について学ぶ
第7回	第1章 コンピュータの基本概念	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OSの役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ

第8回	第2章 コンピュータの基本操作	ウィンドウの操作やシャットダウンなど、コンピュータを使う際に覚えておくべき基本的な操作について学ぶ
第9回	第3章 キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第10回	第10章(1) エクセル1(練1-8)	Excelの基本概念とセルの操作、オートフィルについて学ぶ
第11回	第10章(2) エクセル2(練9-12)	数式を使った計算と、相対参照と絶対参照について学ぶ
第12回	第10章(3) エクセル3(練13-15)	合計や平均など様々な計算や、文字列の加工などに使われる関数について学ぶ
第13回	第4章 ファイル操作(1)	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第14回	第4章 ファイル操作(2)	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版までの「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 11 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物(80%)と平常点(20%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。各自のノートパソコン等の持ち込みも認めます。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PR1200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に、ワードプロセッサと表計算ソフトの応用的な使い方、プレゼンテーション、インターネットといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自フォームへの回答を作成する。授業資料や課題の提出、質問などはGoogle Classroomを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第5章 コンピューターとデータ(1)	デジタルとアナログ、著作権、2進数について学ぶ
第2回	第5章 コンピューターとデータ(2)	様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第3回	第6章 インターネットと電子メール	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組み、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第4回	第10章(4) エクセル4(練16-21)	数表からグラフを作成し、レイアウトを調整する方法について学ぶ
第5回	第10章(5) エクセル5(章1-4)	Excelについて学んだ内容を応用したスプレッドシートの作成実習を行う
第6回	第10章(6) エクセル6(章5)	特に難易度の高い章末問題5について集中的に解説する(進度により別内容もありうる)
第7回	第9章(4) ワード4(章2,4)	Wordについて学んだ内容を応用した総合的な文書作成の実習を行う。実習の時間配分上、章末問題を分割して実施する。

第8回	第9章(4) ワード4(章3,5)	Wordについて学んだ内容を応用した総合的な文書作成の実習を行う。実習の時間配分上、章末問題を分割して実施する。
第9回	第11章(1) パワーポイント(1)	パワーポイントの基本的な操作とプレゼンテーションの基本について学ぶ
第10回	第11章(2) パワーポイント(2)	応用的なパワーポイントスライドの作成実習を行う
第11回	第7章 World Wide Web	WWWの仕組みと利用方法、得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第12回	第8章 インターネットとメディアリテラシ	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽、フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ
第13回	RSA 暗号	現代の暗号技術の基礎となっているRSA暗号について学ぶ
第14回	まとめと振り返り	情報処理演習ⅠとⅡを通してのまとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版までの「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 11やMicrosoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物(80%)と平常点(20%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。各自のノートパソコン等の持ち込みも認めます。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

PRI100LA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）		
情報処理演習 I		
2017年度以降入学者		
河内谷 幸子		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：火3/Tue.3		
単位数：2単位		
定員制（50）		
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド（ https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/ ）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。		
当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。		
【到達目標】		
他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。パソコンやネットワークのしくみを理解します。文書作成ソフト Word、表計算ソフト Exceの機能を理解し利用できるようになります。初心者でも WordやExcelの資格試験合格レベルまで上達できます。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3		
【授業の進め方と方法】		
この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。		
基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされるのですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システムのHoppii		
(lms2025、WebClass)の記載を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に1回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システムの記載を確認して下さい。		
対面授業では、ポアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excelの基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	webブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Wordを使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Wordを使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文書をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Wordを使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Wordを使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excelを使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excelを使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excelを使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excelを使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、htmlによるホームページ作成について実習する。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
学習支援システムHoppiiで指示します。		
【参考書】		
実習 情報リテラシ[第3版] 著者：重定如彦・河内谷幸子 共著 出版：サイエンス社		
【成績評価の方法と基準】		
学習支援システムHoppiiでの提出物（100%）で評価します。		
【学生の意見等からの気づき】		
対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思います。		
【学生が準備すべき機器他】		
オンライン授業の備えて、WordとExcelとPowerPointが使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。		
【その他の重要事項】		
コンピュータが苦手でも履修できます。 この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。		
授業の前日には必ず学習支援システムを読んで対面かオンラインかを確認して下さい。		
1回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システムで確認して下さい。		

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ 2017年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅱ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされますが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システムHoppii (lms2025、WebClass) の記載を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。特に1回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システムで確認して下さい。対面授業では、ボアボードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。
2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF、SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、Excel のグラフテンプレートについて実習する。
10	表計算 3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算 4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	python プログラミング	プログラミング言語 python の使い方を学ぶ。
13	プレゼンテーションソフト 1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ[第3版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii への提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word・Excel・PowerPoint・Zoomが使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅱ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システムを読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

1回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システムで確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills. This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the advanced technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度 of アプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプライター練習、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PCの操作	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケット
3	日本語入力およびICTスキル診断テスト	IMEの概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト1	文字の書式設定
5	ワープロソフト2	段落の書式設定
6	ワープロソフト3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト4	表の作成と編集
8	ワープロソフト5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎3	表の編集
12	表計算ソフト基礎4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経BP社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・IIがセットになっている講義ですが、特にI期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。

okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

https://c-research.chuo-u.ac.jp/html/100003440_ja.html

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

【Outline (in English)】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシーを身につけることも目標とします。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excel の応用レベルを修了し、実務で困らない運用ができる水準に到達します。PowerPoint についても、グラフィカルな機能を中心に学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理、情報科学についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	表計算ソフト応用1	ブックの活用
2	表計算ソフト応用2	高度な関数
3	表計算ソフト応用3	シートの分析と入力規則
4	表計算ソフト応用4	グラフの応用
5	表計算ソフト応用5	データベース機能の活用
6	表計算ソフト応用6	ピボットテーブル
7	表計算ソフト応用7	マクロによる作業の自動化
8	プレゼンテーションソフト1	スライドの基本操作
9	プレゼンテーションソフト2	プレゼンテーションの編集
10	プレゼンテーションソフト3	整列した図の作成
11	プレゼンテーションソフト4	オブジェクトの挿入
12	プレゼンテーションソフト5	スライドショーと特殊効果の追加

- 13 プログラミング初歩、足し算ゲームなどの簡単なプログラムもしくはデータ グラミング、もしくはデータベース ベースソフトの操作
(受講者のスキルによって決定します)
- 14 期末試験 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシー (サイエンス社)

Microsoft Excel 応用 セミナーテキスト (日経BP社) など

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・IIがセットになっている講義ですが、II期で急に難しくなったと感じる方が多いようです。主にExcelの関数を扱うのが原因です。対策として、この時期は問題演習の時間を多く取るなどいたしますが、受講生の方も是非復習をしてください。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
https://c-research.chuo-u.ac.jp/html/100003440_ja.html
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にしてお話しします。

【Outline (in English)】

The aim of this lesson is to learn how to express your own information. To master the operation skills and applied skills of the main application that you will use when you get a job.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度 of アプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプライター練習、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PCの操作	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケット
3	日本語入力およびICTスキル診断テスト	IMEの概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト1	文字の書式設定
5	ワープロソフト2	段落の書式設定
6	ワープロソフト3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト4	表の作成と編集
8	ワープロソフト5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎3	表の編集
12	表計算ソフト基礎4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経BP社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・IIがセットになっている講義ですが、特にI期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。

okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

https://c-research.chuo-u.ac.jp/html/100003440_ja.html

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

【Outline (in English)】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシを身につけることも目標とします。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excel の応用レベルを修了し、実務で困らない運用ができる水準に到達します。PowerPoint についても、グラフィカルな機能を中心に学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理、情報科学についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	表計算ソフト応用1	ブックの活用
2	表計算ソフト応用2	高度な関数
3	表計算ソフト応用3	シートの分析と入力規則
4	表計算ソフト応用4	グラフの応用
5	表計算ソフト応用5	データベース機能の活用
6	表計算ソフト応用6	ピボットテーブル
7	表計算ソフト応用7	マクロによる作業の自動化
8	プレゼンテーションソフト1	スライドの基本操作
9	プレゼンテーションソフト2	プレゼンテーションの編集
10	プレゼンテーションソフト3	整列した図の作成
11	プレゼンテーションソフト4	オブジェクトの挿入
12	プレゼンテーションソフト5	スライドショーと特殊効果の追加

- 13 プログラミング初歩、足し算ゲームなどの簡単なプログラムもしくはデータ グラミング、もしくはデータベース ベースソフトの操作
(受講者のスキルによって決定します)
- 14 期末試験 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 応用 セミナーテキスト（日経BP社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・IIがセットになっている講義ですが、II期で急に難しくなったと感じる方が多いようです。主にExcelの関数を扱うのが原因です。対策として、この時期は問題演習の時間を多く取るなどいたしますが、受講生の方も是非復習をしてください。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
https://c-research.chuo-u.ac.jp/html/100003440_ja.html
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にしてお話しします。

【Outline (in English)】

The aim of this lesson is to learn how to express your own information. To master the operation skills and applied skills of the main application that you will use when you get a job.

PR1100LA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報処理演習 I 2017年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制（50）

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の導入	法政大学のコンピューター環境について学ぶ
第2回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第3回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OSの役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第4回	Windowsの基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUIとCUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処などWindowsの基本操作について学ぶ

第5回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第6回	ファイル操作その1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第7回	ファイル操作その2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第8回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第9回	インターネットと電子メールその1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第10回	インターネットと電子メールその2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第11回	WWWその1	WWWの仕組みと利用方法について学ぶ
第12回	WWWその2	WWWで得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ 生成AIの簡単な仕組みや使い方について学ぶ
第13回	インターネットとメディアリテラシその1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第14回	インターネットとメディアリテラシその2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされているWindows 11やMicrosoft Officeに対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点10%、レポート70%、タッチタイピングのテスト20%
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限をBとします。6回以上欠席した場合は成績をEとします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅰは秋学期の情報処理演習Ⅱとセットになる科目です。情報処理演習Ⅰを受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習Ⅱを受講するようにして下さい。

生成AIを補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用したレポート課題の提出は認めない。詳しくは授業内で指示する。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of normal score, 70% of report, 20% of touch typing test

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ

第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第14回	プレゼンテーション3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 11やMicrosoft Officeに対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点10%、レポート70%、タッチタイピングのテスト20%

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限をBとします。6回以上欠席した場合は成績をEとします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

生成AIを補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用したレポート課題の提出は認めない。詳しくは授業内で指示する。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of ordinary points, 70% of reports, 20% of touch typing test

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の導入	法政大学のコンピューター環境について学ぶ
第2回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第3回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OSの役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第4回	Windowsの基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUIとCUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処などWindowsの基本操作について学ぶ

第5回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第6回	ファイル操作その1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第7回	ファイル操作その2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第8回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第9回	インターネットと電子メールその1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第10回	インターネットと電子メールその2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第11回	WWWその1	WWWの仕組みと利用方法について学ぶ
第12回	WWWその2	WWWで得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ 生成AIの簡単な仕組みや使い方について学ぶ
第13回	インターネットとメディアリテラシその1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第14回	インターネットとメディアリテラシその2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされているWindows 11やMicrosoft Officeに対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点10%、レポート70%、タッチタイピングのテスト20%
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限をBとします。6回以上欠席した場合は成績をEとします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅰは秋学期の情報処理演習Ⅱとセットになる科目です。情報処理演習Ⅰを受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習Ⅱを受講するようにして下さい。

生成AIを補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用したレポート課題の提出は認めない。詳しくは授業内で指示する。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of normal score, 70% of report, 20% of touch typing test

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ

第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第14回	プレゼンテーション3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 11やMicrosoft Officeに対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点10%、レポート70%、タッチタイピングのテスト20%

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限をBとします。6回以上欠席した場合は成績をEとします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

生成AIを補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用したレポート課題の提出は認めない。詳しくは授業内で指示する。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10%of ordinary points, 70%of reports, 20%of touch typing test

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI100LA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）		
情報処理演習 I		
2017年度以降入学者		
河内谷 幸子		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木3/Thu.3		
単位数：2単位		
定員制（50）		
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド（ https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/ ）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。		
当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。		
【到達目標】		
他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。パソコンやネットワークのしくみを理解します。文書作成ソフト Word、表計算ソフト Exceの機能を理解し利用できるようになります。初心者でも WordやExcelの資格試験合格レベルまで上達できます。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3		
【授業の進め方と方法】		
この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。		
基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされるのですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システムのHoppii		
(lms2025、WebClass)の記載を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に1回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システムの記載を確認して下さい。		
対面授業では、ポアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excelの基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	webブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Wordを使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Wordを使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文書をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Wordを使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Wordを使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excelを使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excelを使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excelを使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excelを使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、htmlによるホームページ作成について実習する。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
学習支援システムHoppiiで指示します。		
【参考書】		
実習 情報リテラシ[第3版] 著者：重定如彦・河内谷幸子 共著 出版：サイエンス社		
【成績評価の方法と基準】		
学習支援システムHoppiiでの提出物（100%）で評価します。		
【学生の意見等からの気づき】		
対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思います。		
【学生が準備すべき機器他】		
オンライン授業の備えて、WordとExcelとPowerPointが使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。		
【その他の重要事項】		
コンピュータが苦手でも履修できます。 この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。		
授業の前日には必ず学習支援システムを読んで対面かオンラインかを確認して下さい。		
1回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システムで確認して下さい。		

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅱ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされますが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システムHoppii (lms2025、WebClass) の記載を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。特に1回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システムで確認して下さい。対面授業では、ボアボードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。
2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF、SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、Excel のグラフテンプレートについて実習する。
10	表計算 3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算 4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	python プログラミング	プログラミング言語 python の使い方を学ぶ。
13	プレゼンテーションソフト 1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ[第3版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii への提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word・Excel・PowerPoint・Zoomが使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅱ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システムを読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

1回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システムで確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills. This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the advanced technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）		
情報処理演習Ⅰ		
2017年度以降入学者		
河内谷 幸子		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木4/Thu.4		
単位数：2単位		
定員制（50）		
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド（ https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/ ）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。		
当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。		
【到達目標】		
他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。パソコンやネットワークのしくみを理解します。文書作成ソフト Word、表計算ソフト Exceの機能を理解し利用できるようになります。初心者でも WordやExcelの資格試験合格レベルまで上達できます。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3		
【授業の進め方と方法】		
この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。		
基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされるのですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システムのHoppii		
(lms2025、WebClass)の記載を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に1回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システムの記載を確認して下さい。		
対面授業では、ポアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excelの基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	webブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Wordを使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Wordを使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文書をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Wordを使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Wordを使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excelを使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excelを使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excelを使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excelを使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、htmlによるホームページ作成について実習する。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
学習支援システムHoppiiで指示します。		
【参考書】		
実習 情報リテラシ[第3版] 著者：重定如彦・河内谷幸子 共著 出版：サイエンス社		
【成績評価の方法と基準】		
学習支援システムHoppiiでの提出物（100%）で評価します。		
【学生の意見等からの気づき】		
対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思います。		
【学生が準備すべき機器他】		
オンライン授業の備えて、WordとExcelとPowerPointが使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。		
【その他の重要事項】		
コンピュータが苦手でも履修できます。 この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。		
授業の前日には必ず学習支援システムを読んで対面かオンラインかを確認して下さい。		
1回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システムで確認して下さい。		

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。

文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。

表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。

データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。

プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅱ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされますが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii (lms2025、WebClass) の記載を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。特に1回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システムで確認して下さい。

対面授業では、ボアボードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。
2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF、SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、Excel のグラフテンプレートについて実習する。
10	表計算 3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算 4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	python プログラミング	プログラミング言語 python の使い方を学ぶ。
13	プレゼンテーションソフト 1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ[第3版]

著者：重定如彦・河内谷幸子 共著

出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii への提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word・Excel・PowerPoint・Zoomが使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅱ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システムを読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

1回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システムで確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills. This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the advanced technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習から社会まで様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の演習を中心に、情報機器の基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

情報機器の基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中からその後も含めた様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第3回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第4回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第5回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第6回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第7回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第8回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第9回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第10回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第11回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第12回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第13回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第14回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000 + 税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

初心者や苦手感をもつ人でも習得して理解できるよう、丁寧な説明や資料の充実、授業の進め方についての良い点は継続していきたいです。合わせて意見を聞ける機会も広げて進捗ペースの調整・改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金1/Fri.1

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習からその後の社会まで、必要とされる ICT 関連や情報技術・知識の習得を深め、さらなる情報利活用へとつなげることを目指します。PC 操作の演習を中心に、情報の収集や表現・活用・分析、集計・データ処理について習得します。

【到達目標】

事務作業等を想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。さらに応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	確認と復習	これまでの確認と復習
第3回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第4回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第5回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第6回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第7回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第8回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第9回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第10回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第11回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第12回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第13回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第14回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000 + 税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

情報処理・リテラシー関連の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆が習得、理解できるよう丁寧な説明を行うことは継続し、さらなる資料の充実や授業内容の改善を目指していきます。そして進捗や全体の状況把握のため、意見を聞く機会を広げるなどして調整、改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習から社会まで様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の演習を中心に、情報機器の基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

情報機器の基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中からその後も含めた様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第3回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第4回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第5回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第6回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第7回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第8回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第9回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第10回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第11回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第12回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第13回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第14回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000 + 税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

初心者や苦手感をもつ人でも習得して理解できるよう、丁寧な説明や資料の充実、授業の進め方についての良い点は継続していきたいです。合わせて意見を聞ける機会も広げて進捗ペースの調整・改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習からその後の社会まで、必要とされる ICT 関連や情報技術・知識の習得を深め、さらなる情報利活用へとつなげることを目指します。PC 操作の演習を中心に、情報の収集や表現・活用・分析、集計・データ処理について習得します。

【到達目標】

事務作業等を想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。さらに応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	確認と復習	これまでの確認と復習
第3回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第4回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第5回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第6回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第7回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第8回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第9回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第10回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第11回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第12回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第13回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第14回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000 + 税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

情報処理・リテラシー関連の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆が習得、理解できるよう丁寧な説明を行うことは継続し、さらなる資料の充実や授業内容の改善を目指していきます。そして進捗や全体の状況把握のため、意見を聞く機会を広げるなどして調整、改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習から社会まで様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の演習を中心に、情報機器の基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

情報機器の基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中からその後も含めた様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第3回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第4回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第5回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第6回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第7回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第8回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第9回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第10回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第11回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第12回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第13回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第14回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000 + 税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

初心者や苦手感をもつ人でも習得して理解できるよう、丁寧な説明や資料の充実、授業の進め方についての良い点は継続していきたいです。合わせて意見を聞ける機会も広げて進捗ペースの調整・改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習からその後の社会まで、必要とされる ICT 関連や情報技術・知識の習得を深め、さらなる情報利活用へとつなげることを目指します。PC 操作の演習を中心に、情報の収集や表現・活用・分析、集計・データ処理について習得します。

【到達目標】

事務作業等を想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。さらに応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	確認と復習	これまでの確認と復習
第3回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第4回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第5回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第6回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第7回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第8回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第9回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第10回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第11回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第12回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第13回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第14回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000 + 税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

情報処理・リテラシー関連の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆が習得、理解できるよう丁寧な説明を行うことは継続し、さらなる資料の充実や授業内容の改善を目指していきます。そして進捗や全体の状況把握のため、意見を聞く機会を広げるなどして調整、改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習から社会まで様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の演習を中心に、情報機器の基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

情報機器の基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中からその後も含めた様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第3回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第4回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第5回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第6回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第7回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第8回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第9回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第10回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第11回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第12回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第13回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第14回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000 + 税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

初心者や苦手感をもつ人でも習得して理解できるよう、丁寧な説明や資料の充実、授業の進め方についての良い点は継続していきたいです。合わせて意見を聞ける機会も広げて進捗ペースの調整・改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習からその後の社会まで、必要とされる ICT 関連や情報技術・知識の習得を深め、さらなる情報利活用へとつなげることを目指します。PC 操作の演習を中心に、情報の収集や表現・活用・分析、集計・データ処理について習得します。

【到達目標】

事務作業等を想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。さらに応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	確認と復習	これまでの確認と復習
第3回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第4回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第5回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第6回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第7回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第8回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第9回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第10回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第11回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第12回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第13回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第14回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000 + 税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

情報処理・リテラシー関連の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆が習得、理解できるよう丁寧な説明を行うことは継続し、さらなる資料の充実や授業内容の改善を目指していきます。そして進捗や全体の状況把握のため、意見を聞く機会を広げるなどして調整、改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (26)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、G U I の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第2回	パソコン・ウェブブラウザ操作の基礎／グループディスカッション	Windowsのファイル構造や様々な機能の操作方法を学ぶ。ウェブブラウザの機能と操作方法を学ぶ。身近な情報機器についてグループ別に議論を行う。
第3回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第4回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第5回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第6回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第7回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能やテンプレート機能を学ぶ。

第8回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、データ処理機能を体験する。
第9回	文章作成演習	実用的な文章作成課題を通して、Microsoft Word の機能を復習する。
第10回	アプリケーションソフトウェア②	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、画像処理機能を体験する。
第11回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第12回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能、画面切り替え設定やアニメーション機能について学ぶ。
第13回	スライドデザイン・発表課題の説明	Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
第14回	プレゼンテーション制作のポイント・発表課題作業	プレゼンテーションを作成する時のポイントについて学ぶ。発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】

「実習情報リテラシ[第4版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、小テスト（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

星 善光

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (26)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報処理演習Ⅰに引き続き、様々なソフトウェアや情報機器を効果的に利用できるように、身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎力を習得することを目的とする。

【到達目標】

一般的な表計算ソフトウェアである Microsoft Excel を使うことができる。HTML、JavaScript、PHP を用いた Web ページを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

情報処理演習Ⅰと同様に、授業と実習の組み合わせで進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。表計算や様々なアプリケーションソフトウェアを利用します。また、ホームページの作成、簡単なプログラム作成も行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Microsoft Excel の基礎／計算式・関数・書式	Microsoft Excel の基礎を学ぶ。Excel で利用する計算式・関数・書式を学ぶ。
第2回	ページレイアウト・データツール	Microsoft Excel のページレイアウトやデータツールを学ぶ。
第3回	グラフ	Microsoft Excel のグラフ作成機能を学ぶ。
第4回	外部データの処理	Microsoft Excel を用いて外部データの処理を行う方法を学ぶ。
第5回	CEATEC 見学	日本を代表するテクノロジー展示会である CEATEC を見学して ICT 技術の最先端を学ぶ。
第6回	VBA	Microsoft Excel 用 Visual Basic for Application (VBA) の機能を学ぶ。
第7回	課題発表会	情報処理演習Ⅰで作成したプレゼンテーション資料を用いた発表会を開催する。
第8回	アプリケーションソフトウェア③	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、統計解析に役立つ R の機能を体験する。
第9回	コンピュータネットワークとセキュリティの基礎	コンピュータネットワーク及びセキュリティの基礎知識を学ぶ。

第10回	コンピュータの未来	コンピュータの進歩や未来の応用について学び、グループディスカッションを通じて理解を深める。
第11回	HTML の基礎	HTML を用いたホームページ作成の基礎を学ぶ。
第12回	JavaScript とスタイルシート	JavaScript とスタイルシートの基礎を学ぶ。
第13回	PHP の基礎	HTML 自動生成に役立つ PHP 言語についての基礎を学ぶ。
第14回	まとめ	講義内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適時指示します。必要に応じてプリントを配布します。また、ホームページでパワーポイント資料を閲覧できます。

【参考書】

「実習情報リテラシ【第3版】」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、小テスト（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

You learn how to use various application software including Microsoft Excel, various information devices effectively. You learn about web development related languages such as HTML, JavaScript, PHP and learn about network structure too.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

定員制 (26)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、G U I の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第2回	パソコン・ウェブブラウザ操作の基礎／グループディスカッション	Windowsのファイル構造や様々な機能の操作方法を学ぶ。ウェブブラウザの機能と操作方法を学ぶ。身近な情報機器についてグループ別に議論を行う。
第3回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第4回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第5回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第6回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第7回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能やテンプレート機能を学ぶ。

第8回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、データ処理機能を体験する。
第9回	文章作成演習	実用的な文章作成課題を通して、Microsoft Word の機能を復習する。
第10回	アプリケーションソフトウェア②	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、画像処理機能を体験する。
第11回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第12回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能、画面切り替え設定やアニメーション機能について学ぶ。
第13回	スライドデザイン・発表課題の説明	Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
第14回	プレゼンテーション制作のポイント・発表課題作業	プレゼンテーションを作成する時のポイントについて学ぶ。発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】

「実習情報リテラシ[第4版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、小テスト（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

星 善光

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

定員制 (26)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報処理演習Ⅰに引き続き、様々なソフトウェアや情報機器を効果的に利用できるように、身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎力を習得することを目的とする。

【到達目標】

一般的な表計算ソフトウェアである Microsoft Excel を使うことができる。HTML、JavaScript、PHP を用いた Web ページを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

情報処理演習Ⅰと同様に、授業と実習の組み合わせで進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。表計算や様々なアプリケーションソフトウェアを利用します。また、ホームページの作成、簡単なプログラム作成も行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Microsoft Excelの基礎／計算式・関数・書式	Microsoft Excelの基礎を学ぶ。Excelで利用する計算式・関数・書式を学ぶ。
第2回	ページレイアウト・データツール	Microsoft Excelのページレイアウトやデータツールを学ぶ。
第3回	グラフ	Microsoft Excelのグラフ作成機能を学ぶ。
第4回	外部データの処理	Microsoft Excelを用いて外部データの処理を行う方法を学ぶ。
第5回	CEATEC見学	日本を代表するテクノロジー展示会であるCEATECを見学してICT技術の最先端を学ぶ。
第6回	VBA	Microsoft Excel用Visual Basic for Application(VBA)の機能を学ぶ。
第7回	課題発表会	情報処理演習Ⅰで作成したプレゼンテーション資料を用いた発表会を開催する。
第8回	アプリケーションソフトウェア③	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、統計解析に役立つRの機能を体験する。
第9回	コンピュータネットワークとセキュリティの基礎	コンピュータネットワーク及びセキュリティの基礎知識を学ぶ。

第10回	コンピュータの未来	コンピュータの進歩や未来の応用について学び、グループディスカッションを通じて理解を深める。
第11回	HTMLの基礎	HTMLを用いたホームページ作成の基礎を学ぶ。
第12回	JavaScriptとスタイルシート	JavaScriptとスタイルシートの基礎を学ぶ。
第13回	PHPの基礎	HTML自動生成に役立つPHP言語についての基礎を学ぶ。
第14回	まとめ	講義内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適時指示します。必要に応じてプリントを配布します。また、ホームページでパワーポイント資料を閲覧できます。

【参考書】

「実習情報リテラシ【第3版】」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、小テスト（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

You learn how to use various application software including Microsoft Excel, various information devices effectively. You learn about web development related languages such as HTML, JavaScript, PHP and learn about network structure too.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習

2017年度以降入学者

大間 哲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生にとって、情報技術の習得は必須です。それも、むしろ理系や経済学部等の計算をメインに行う学生よりも、キャリアデザイン学部等「文系」と言われる学生にとってこそ大切と言えます。それは、皆さんが、プログラミングなどのITの専門技術者よりも、キャリアデザイン学等の幅広い専門知識を扱うための「道具として」、パソコンやネットの情報を文具のように使いこなすことが求められるからです。そのため、この授業では一番の目的を、「コンピュータが使えるようになること」とはしません。実践的な実務能力を身につけられるようにします。言い換えるなら、皆さんが将来にわたって、コンピュータやネットの技術を使って、皆さんの「やりたいこと」ができるようになることを目的とします。

情報処理の技術は日進月歩ですから、今あるコンピュータやネットの情報技術が使えるようになって、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、この授業では、各コンピュータ／ソフトウェア／サービスの「操作のやり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることよりも、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることを大切にします。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるよう、応用的な操作方法是随時「検索して自力で調べられる」ようになることを目的とします。その目的実現のための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ／ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的使用方法を習得します。

同時に、大学の学びの基本となる、自ら興味があることの中から「問い」を立てて、調査をし、ディスカッションをし、結果を纏めるという一連の作業を、情報処理技術を使いながら行う演習をして、レポートや卒論に使えるスキルを身に付けます。

<オンラインでの開講について>

前年度、前々年度は、初回に定員の倍以上の申込みがあったため、初回授業はオンラインとし、受講希望者多数の場合は適宜抽選等で人数を確定します（オンライン授業の方法や抽選については、学習支援システムのお知らせを事前に確認してください）。

また、受講希望者数が定員以下の場合でも、情報処理演習という授業の性格上、オンラインミーティングの技術について学習することは有意義であるため、学期中一部の授業はオンライン開講を行う可能性があります（その場合、前の週までには告知します）。

なお、2月現在、大学の方針で対面授業ですので、原則は対面授業とします。ただし、万が一インフルエンザやコロナ等の感染流行の再悪化やその他やむを得ない事情が起きた場合は、別途オンラインの開講もあり得ます。

ただし、対面授業であろうとオンラインであろうと、前述の目的が変わることはありません。

※大学の授業実施方針については、最新の情報を大学ホームページで確認してください。

【到達目標】

Windows環境で基礎的なPCリテラシーやインターネットのリテラシーの習得をめざします。大学の授業のレポートや卒論作成時に使えるOfficeソフト（Word・Excel・PowerPoint）やGoogleのWebサービス、クラウド等の基本操作および活用方法を知ります。またChatGPT等の生成AIの適切な利用方法についても、学習します。

同時に、最も大切なこととして、自分がやりたいことのための操作方法を検索して、調べる技術を身につけることを目標とします。

<皆さんのパソコン等の環境について>

学期の早い時期に皆さんの学習環境（自宅等のネット環境を含む）のアンケートを行い、皆さんが将来の授業や卒業研究に役立てられるスキルを身につけられるよう内容を構築します。また、もし自宅等での環境が整わない場合は、必要な操作方法を自ら検索する能力をより高めることにより、将来必要な時に十分な情報リテラシーの習得が可能なようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(1) テキストと毎回のレジュメをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。

(2) 毎回の授業は、講義と演習、ディスカッション等のグループワークを組み合わせて行います。

(3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報をネットで検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。

※ 出席さえすれば単位がもらえる楽な科目ではありませんが、課題を着々と提出して行けば、期初に初心者であっても、最終的にはWebを利用した調査や、その結果を纏めて発表するなど、レポートや卒論に使えるだけの能力が自然に身につくように、段階的に演習を進めます。また、暗記科目ではないので、期末テストは行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 ネットリテラシーとセキュリティ Zoomの基本操作	授業ガイダンス。授業の目的の確認。 自身のPCを使用する場合、使い方の確認。 WindowsPCの基本的な使い方の説明。 ネットリテラシーの基本と、セキュリティの重要性。 オンライン会議システム（Zoom）の参加者としての基本機能を知る。 電子メールの仕組みと使用上の注意点。電子メールと他のコミュニケーション・ツールやSNSとの比較。 USBメモリの使い方と利用上の注意点。 アンケートによる、学生の自身の学習環境の報告。 学習支援ハンドブック等による、メールの書き方（マナー）の学習。 ウェブの仕組みについて理解する。 情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探すための方法を知る。 Dropboxの利用と、注意点。 ChatGPTの利用と、注意点。 教科書によるネットリテラシーの復習。 Windowsの基礎の復習。 ワープロソフト（Word）の基本的な文章の作成方法、フォント・段落書式（インデント）・表について学ぶ。 応用的な文章作成方法。 Wordで絵・写真や図を挿入する方法。 見出し・アウトライン・スタイル・脚注。校閲機能。見出しの利用と目次の作成（課題）。 「表計算ソフト」とは。Excelでできることを知る（頭出し）。 脚注。校閲機能（補足）。 表計算ソフト（Excel）の基本操作を習得する。 （Google スプレッドシートとの関連の確認）
第2回	電子メールとネットの基本 学習環境を整える	
第3回	ウェブの仕組みと情報検索 クラウドの利用 生成AIについて	
第4回	Word(1)	
第5回	Word(2)	
第6回	Word(3) Excel(1)	

第7回	Excel(2)	計算式や関数の基本的な使い方。 見やすい表の作り方。書式設定、 見出しなど。
第8回	Excel(3)	Excelでグラフを作成する。 Excelの表やグラフをWordに貼り 付ける。
第9回	Excel(4)	計算式や関数の応用的な使い方。 Excelでのリスト管理（データ ベース）。
第10回	PowerPoint(1)	Excelとワードの合わせ技（差し 込み印刷）。
第11回	PowerPoint(2)	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作を習得 する。
第12回	Officei ソフト総合演習	発表資料としてのPowerPoint ファイルの作成。
第13回	Google のサービスと Office ソフトの合わせ 技	簡易DTPとしてのPowerPointの 利用。
第14回	総合演習	Canvaの利用。 Word Excelとの連携。
		Excel、Word、Powerpointを総 合的に使用し、最終課題の準備を 行う。
		Google Forms（アンケート調査）、 Google Spreadsheet
		Excel、Word、Powerpointを総 合的に使用し、最終課題を行う。
		授業で扱った内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・当授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。
- ・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。
- ・次の授業に向けてのリーディング・アサシメント（準備学習としての読む課題）を出すことがあります。その場合は、そこを読んでから授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

- ・『学生・新社会人のための情報リテラシー入門 大間 哲 著 カットシステム（2025年4月発売予定。発売日決定後に、購入を指示します）
- ・法政大学『学習支援ハンドブック』 <http://www.hoseikyoku.jp/lf/>（法政大学教育開発・学習支援センター）のメニューより「学習支援ハンドブック」を選択。（ダウンロードをしておく必要はないが、授業時にパソコンから参照できるように、一度見つけて確認をしておくこと）

【参考書】

- ・『思考を鍛えるレポート・論文作成法[第3版]』 井下千以子 廣慶義塾大学出版会（他の授業でテキストとして指定されている場合もあります）
- ・『情報リテラシー教科書 -Windows11/Office2021 対応版-』 矢野文彦 著 オーム社（定価：本体2090円）
- （『情報リテラシー教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』でも可。自分が持っているパソコンのソフトのバージョンに合わせてください）
- ・『キャリアデザイン・就活のプロによる ChatGPT徹底活用法: 就活生・就職担当者必携AIアシスト・キャリアデザイン』 大間哲 著 カットシステム（定価：1540円）
- ・『情報処理エンジニア職業ガイド - プログラマ・ITエンジニア・SEのためのキャリアデザイン-』 豊沢聡/大間哲 著 カットシステム（定価：本体1800円）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（出席という意味ではありません。積極的な参加という意味です。）や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、高校時代を含むそれまでの経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。しかし、初心者であっても、恐れる必要はありません。真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要なゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。

- ・授業内の講義と演習への参加（配点比重 30%）
- ・毎回の小課題の提出（未提出の場合、その課題について0点。提出遅れは減点）（配点比重 50%）
- ・総合課題（配点比重 20%）
- ※期末テストは行いません。

【学生の意見等からの気づき】

- ・自らの興味がある事について能動的に調べ、ディスカッションし、発表するという課題は好評でもあり、また、大学での学び方の基本でもあるので、今期も続けたいと考えています。

・好評だった、最終的な総合課題に向けてのグループワーク、ディスカッション方式での演習は続けたいと考えています。

・『「月曜5限可哀想～」と友人から言われても、『情報処理楽しいから良いんだ～』と言い返すくらい楽しい授業でした』『学生の視点に立って接して下さり、とても嬉しかった』（授業アンケートより）。今年度から水曜5限・木曜3限・4限になったが、今回も学生の皆さんがそう思ってくれるような、学生主体の視点で、楽しい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・初回参加時までに、このシラバスと、学習支援システムの「お知らせ」を良く読んでおくこと。
- ・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。
- ・この授業の目的である大学での授業のレポートや卒業研究・卒論作成に実践的に使用できるスキルを身に着けるため、できれば大学の授業で使う予定の自身のパソコンや自宅から、ネットへの接続環境を整える事が望ましい（必須ではありません）。
- ・今後の他の授業やレポートで使えるようになるために、自身のパソコンに慣れる意味からも、授業時に自身のパソコンを持参することを推奨する。
- ・自身のパソコンを持参できない場合は、大学でパソコンの貸し出し手続きをして持参すること。その場合、USBメモリー（8GB以上の容量のもの）を入手し、持参すること。

【その他の重要事項】

- ・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
- ・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。
- ・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
- ・情報処理演習という授業の内容上、ChatGPT等生成AIの適切な利用法についても学習します。が、他の授業での生成AIの使用については、それぞれの授業の教員の指示に従ってください。
- ・定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。
- ・Q0301（水曜5限）、Q0303（木曜3限）、Q0305（木曜4限）は、授業内容は基本的に同一です。ただし、皆さんの学習の進度、理解度等に合わせ、内容に若干の修正・差異が生じる可能性はあります。
- ・当授業は「実務経験がある教員による授業」です。教員は、20年間日本IBMに在籍し、システムエンジニア（特にネットワーク系）の経験があります。また、社内での専門職育成部門での経験もあるため、一般から先端までの技術をわかりやすく説明することに長けています。

【Outline (in English)】

[Course outline and Objectives]

The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now and in the future. Since information technology is advancing every day, it is more important to understand what the computers and/or network services actually are and what can be done with them than memorizing the way of using computer software.

Mastering information technology is essential for university students, particularly for those in liberal arts fields like Career Design. Unlike students in fields focused on computational tasks, liberal arts students must use computers and internet tools as essential instruments to complement their broad knowledge base. Students will learn basic computer, software, and web service operations needed for academic tasks, such as reports and theses. You will also develop skills in research, discussion, and presentation using information technology, providing a foundation for academic and professional success.

[Goals]

Students will acquire fundamental PC and internet literacy in a Windows environment. You will learn to use Office software (Word, Excel, PowerPoint), Google Web Services, and cloud tools for report and thesis preparation. You will also understand the appropriate use of generative AI tools like ChatGPT.

The most critical objective is to develop the ability to search for and learn necessary operations independently to achieve their goals.

[Learning activities outside of classroom (Preparation, etc.)]

Students are expected to understand the course content and complete the required assignments after each class meeting.

- Allocate approximately 4 hours for preparation (2 hours) and review (2 hours) for each class.

- Submit assignments by the deadline and via the specified method.

- Reading assignments may be given; complete these before attending the next class.

[Grading Criteria /Policy]

Students are evaluated comprehensively based on participation, assignment submission, and effort. Beginners can achieve the course goals through active engagement and completing assignments, while advanced students can earn additional points for demonstrating excellence.

- Participation In class contribution:30%
- Submission of regular assignments (zero points for non-submission, penalties for late submissions): 50%
- Term-end assignment: 20%

** No final exam will be conducted.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習

2017年度以降入学者

大間 哲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生にとって、情報技術の習得は必須です。それも、むしろ理系や経済学部等の計算をメインに行う学生よりも、キャリアデザイン学部等「文系」と言われる学生にとってこそ大切と言えます。それは、皆さんが、プログラミングなどのITの専門技術者よりも、キャリアデザイン学等の幅広い専門知識を扱うための「道具として」、パソコンやネットの情報を文具のように使いこなすことが求められるからです。

そのため、この授業では一番の目的を、「コンピュータが使えるようになること」とはしません。実践的な実務能力を身につけられるようにします。言い換えるなら、皆さんが将来にわたって、コンピュータやネットの技術を使って、皆さんの「やりたいこと」ができるようになることを目的とします。

情報処理の技術は日進月歩ですから、今あるコンピュータやネットの情報技術が使えるようになって、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、この授業では、各コンピュータ／ソフトウェア／サービスの「操作のやり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることよりも、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることを大切にします。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるよう、応用的な操作方法是随時「検索して自力で調べられる」ようになることを目的とします。その目的実現のための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ／ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的使用方法を習得します。

同時に、大学の学びの基本となる、自ら興味があることの中から「問い」を立てて、調査をし、ディスカッションをし、結果を纏めるという一連の作業を、情報処理技術を使いながら行う演習をして、レポートや卒論に使えるスキルを身に付けます。

＜オンラインでの開講について＞

前年度、前々年度は、初回に定員の倍以上の申込みがあったため、初回授業はオンラインとし、受講希望者多数の場合は適宜抽選等で人数を確定します（オンライン授業の方法や抽選については、学習支援システムのお知らせを事前に確認してください）。

また、受講希望者数が定員以下の場合でも、情報処理演習という授業の性格上、オンラインミーティングの技術について学習することは有意義であるため、学期中一部の授業はオンライン開講を行う可能性があります（その場合、前の週までには告知します）。

なお、2月現在、大学の方針で対面授業ですので、原則は対面授業とします。ただし、万が一インフルエンザやコロナ等の感染流行の再悪化やその他やむを得ない事情が起きた場合は、別途オンラインの開講もあり得ます。

ただし、対面授業であろうとオンラインであろうと、前述の目的が変わることはありません。

※大学の授業実施方針については、最新の情報を大学ホームページで確認してください。

【到達目標】

Windows環境で基礎的なPCリテラシーやインターネットのリテラシーの習得をめざします。大学の授業のレポートや卒論作成時に使えるOfficeソフト（Word・Excel・PowerPoint）やGoogleのWebサービス、クラウド等の基本操作および活用方法を学びます。またChatGPT等の生成AIの適切な利用方法についても、学習します。

同時に、最も大切なこととして、自分がやりたいことのための操作方法を検索して、調べる技術を身につけることを目標とします。

＜皆さんのパソコン等の環境について＞

学期の早い時期に皆さんの学習環境（自宅等のネット環境を含む）のアンケートを行い、皆さんが将来の授業や卒業研究に役立てられるスキルを身につけられるよう内容を構築します。また、もし自宅等での環境が整わない場合は、必要な操作方法を自ら検索する能力をより高めることにより、将来必要な時に十分な情報リテラシーの習得が可能なようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(1) テキストと毎回のレジュメをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。

(2) 毎回の授業は、講義と演習、ディスカッション等のグループワークを組み合わせで行います。

(3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報をネットで検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。

時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。

※ 出席さえすれば単位がもらえる楽な科目ではありませんが、課題を着々と提出して行けば、期初に初心者であっても、最終的にはWebを利用した調査や、その結果を纏めて発表するなど、レポートや卒論に使えるだけの能力が自然に身につくように、段階的に演習を進めます。また、暗記科目ではないので、期末テストは行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 ネットリテラシーとセキュリティ Zoomの基本操作	授業ガイダンス。授業の目的の確認。 自身のPCを使用する場合、使い方の確認。 WindowsPCの基本的な使い方の説明。 ネットリテラシーの基本と、セキュリティの重要性。 オンライン会議システム（Zoom）の参加者としての基本機能を知る。
第2回	電子メールとネットの基本 学習環境を整える	電子メールの仕組みと使用上の注意点。電子メールと他のコミュニケーション・ツールやSNSとの比較。 USBメモリの使い方と利用上の注意点。 アンケートによる、学生の自身の学習環境の報告。 学習支援ハンドブック等による、メールの書き方（マナー）の学習。
第3回	ウェブの仕組みと情報検索 クラウドの利用 生成AIについて	ウェブの仕組みについて理解する。 情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探すための方法を知る。 Dropboxの利用と、注意点。 ChatGPTの利用と、注意点。
第4回	Word(1)	教科書によるネットリテラシーの復習。 Windowsの基礎の復習。 ワープロソフト（Word）の基本的な文章の作成方法、フォント・段落書式（インデント）・表について学ぶ。
第5回	Word(2)	応用的な文章作成方法。 Wordで絵・写真や図を挿入する方法。 見出し・アウトライン・スタイル・脚注。校閲機能。見出しの利用と目次の作成（課題）。 「表計算ソフト」とは。Excelでできることを知る（頭出し）
第6回	Word(3) Excel(1)	脚注。校閲機能（補足）。 表計算ソフト（Excel）の基本操作を習得する。 （Google スプレッドシートとの関連の確認）

第7回	Excel(2)	計算式や関数の基本的な使い方。 見やすい表の作り方。書式設定、 見出しなど。
第8回	Excel(3)	Excelでグラフを作成する。 Excelの表やグラフをWordに貼り 付ける。
第9回	Excel(4)	計算式や関数の応用的な使い方。 Excelでのリスト管理（データ ベース）。
第10回	PowerPoint(1)	Excelとワードの合わせ技（差し 込み印刷）。
第11回	PowerPoint(2)	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作を習得 する。
第12回	Officei ソフト総合演習	発表資料としてのPowerPoint ファイルの作成。
第13回	Google のサービスと Office ソフトの合わせ 技	簡易DTPとしてのPowerPointの 利用。
第14回	総合演習	Canvaの利用。 Word Excelとの連携。
		Excel、Word、Powerpointを総 合的に使用し、最終課題の準備を 行う。
		Google Forms（アンケート調査）、 Google Spreadsheet
		Excel、Word、Powerpointを総 合的に使用し、最終課題を行う。
		授業で扱った内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・当授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。
- ・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。
- ・次の授業に向けてのリーディング・アサシメント（準備学習としての読む課題）を出すことがあります。その場合は、そこを読んでから授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

- ・『学生・新社会人のための情報リテラシー入門 大間 哲 著 カットシステム（2025年4月発売予定。発売日決定後に、購入を指示します）
- ・法政大学『学習支援ハンドブック』 <http://www.hoseikyoku.jp/lf/>（法政大学教育開発・学習支援センター）のメニューより「学習支援ハンドブック」を選択。（ダウンロードをしておく必要はないが、授業時にパソコンから参照できるように、一度見つけて確認をしておくこと）

【参考書】

- ・『思考を鍛えるレポート・論文作成法[第3版]』 井下千以子 廣慶義塾大学出版会（他の授業でテキストとして指定されている場合もあります）
- ・『情報リテラシー教科書 -Windows11/Office2021 対応版-』 矢野文彦 著 オーム社（定価：本体2090円）
- （『情報リテラシー教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』でも可。自分が持っているパソコンのソフトのバージョンに合わせてください）
- ・『キャリアデザイン・就活のプロによる ChatGPT徹底活用法: 就活生・就職担当者必携AIアシスト・キャリアデザイン』 大間哲 著 カットシステム（定価：1540円）
- ・『情報処理エンジニア職業ガイド - プログラマ・ITエンジニア・SEのためのキャリアデザイン-』 豊沢聡/大間哲 著 カットシステム（定価：本体1800円）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（出席という意味ではありません。積極的な参加という意味です。）や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、高校時代を含むそれまでの経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。しかし、初心者であっても、恐れる必要はありません。真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要なゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。

- ・授業内の講義と演習への参加（配点比重 30%）
- ・毎回の小課題の提出（未提出の場合、その課題について0点。提出遅れは減点）（配点比重50%）
- ・総合課題（配点比重20%）
- ※期末テストは行いません。

【学生の意見等からの気づき】

- ・自らの興味がある事について能動的に調べ、ディスカッションし、発表するという課題は好評でもあり、また、大学での学び方の基本でもあるので、今期も続けたいと考えています。

- ・好評だった、最終的な総合課題に向けてのグループワーク、ディスカッション方式での演習は続けたいと考えています。
- ・『月曜5限可哀想〜』と友人から言われても、『情報処理楽しいから良いんだ〜』と言いつつ楽しい授業でした」「学生の視点に立って接し下され、とても嬉しかった」（授業アンケートより）。今年度から水曜5限・木曜3限・4限の開講になったが、今回も学生の皆さんがそう思ってくれるような、学生主体の視点で、楽しい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・初回参加時までに、このシラバスと、学習支援システムの「お知らせ」を良く読んでおくこと。
- ・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。
- ・この授業の目的である大学での授業のレポートや卒業研究・卒論作成に実践的に使用できるスキルを身に着けるため、できれば大学の授業で使う予定の自身のパソコンや自宅から、ネットへの接続環境を整える事が望ましい（必須ではありません）。
- ・今後の他の授業やレポートで使えるようになるために、自身のパソコンに慣れる意味からも、授業時に自身のパソコンを持参することを推奨する。
- ・自身のパソコンを持参できない場合は、大学でパソコンの貸し出し手続きをして持参すること。その場合、USBメモリー（8GB以上の容量のもの）を入手し、持参すること。

【その他の重要事項】

- ・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
- ・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。
- ・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
- ・情報処理演習という授業の内容上、ChatGPT等生成AIの適切な利用法についても学習します。が、他の授業での生成AIの使用については、それぞれの授業の教員の指示に従ってください。
- ・定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。
- ・Q0301（水曜5限）、Q0303（木曜3限）、Q0305（木曜4限）は、授業内容は基本的に同一です。ただし、皆さんの学習の進度、理解度等に合わせ、内容に若干の修正・差異が生じる可能性はあります。
- ・当授業は「実務経験がある教員による授業」です。教員は、20年間日本IBMに在籍し、システムエンジニア（特にネットワーク系）の経験があります。また、社内での専門職育成部門での経験もあるため、一般から先端までの技術をわかりやすく説明することに長けています。

【Outline (in English)】

[Course outline and Objectives]

The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now and in the future. Since information technology is advancing every day, it is more important to understand what the computers and/or network services actually are and what can be done with them than memorizing the way of using computer software.

Mastering information technology is essential for university students, particularly for those in liberal arts fields like Career Design. Unlike students in fields focused on computational tasks, liberal arts students must use computers and internet tools as essential instruments to complement their broad knowledge base. Students will learn basic computer, software, and web service operations needed for academic tasks, such as reports and theses. You will also develop skills in research, discussion, and presentation using information technology, providing a foundation for academic and professional success.

[Goals]

Students will acquire fundamental PC and internet literacy in a Windows environment. You will learn to use Office software (Word, Excel, PowerPoint), Google Web Services, and cloud tools for report and thesis preparation. You will also understand the appropriate use of generative AI tools like ChatGPT.

The most critical objective is to develop the ability to search for and learn necessary operations independently to achieve their goals.

[Learning activities outside of classroom (Preparation, etc.)]

Students are expected to understand the course content and complete the required assignments after each class meeting.

- Allocate approximately 4 hours for preparation (2 hours) and review (2 hours) for each class.

- Submit assignments by the deadline and via the specified method.

- Reading assignments may be given; complete these before attending the next class.

[Grading Criteria /Policy]

Students are evaluated comprehensively based on participation, assignment submission, and effort. Beginners can achieve the course goals through active engagement and completing assignments, while advanced students can earn additional points for demonstrating excellence.

- Participation In class contribution:30%
- Submission of regular assignments (zero points for non-submission, penalties for late submissions): 50%
- Term-end assignment: 20%

** No final exam will be conducted.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習

2017年度以降入学者

大間 哲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生にとって、情報技術の習得は必須です。それも、むしろ理系や経済学部等の計算をメインに行う学生よりも、キャリアデザイン学部等「文系」と言われる学生にとってこそ大切と言えます。それは、皆さんが、プログラミングなどのITの専門技術者よりも、キャリアデザイン学等の幅広い専門知識を扱うための「道具として」、パソコンやネットの情報を文具のように使いこなすことが求められるからです。

そのため、この授業では一番の目的を、「コンピュータが使えるようになること」とはしません。実践的な実務能力を身につけられるようにします。言い換えるなら、皆さんが将来にわたって、コンピュータやネットの技術を使って、皆さんの「やりたいこと」ができるようになることを目的とします。

情報処理の技術は日進月歩ですから、今あるコンピュータやネットの情報技術が使えるようになって、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、この授業では、各コンピュータ／ソフトウェア／サービスの「操作のやり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることよりも、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることを大切にします。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるよう、応用的な操作方法是随時「検索して自力で調べられる」ようになることを目的とします。その目的実現のための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ／ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的使用方法を習得します。

同時に、大学の学びの基本となる、自ら興味があることの中から「問い」を立てて、調査をし、ディスカッションをし、結果を纏めるという一連の作業を、情報処理技術を使いながら行う演習をして、レポートや卒論に使えるスキルを身に付けます。

<オンラインでの開講について>

前年度、前々年度は、初回に定員の倍以上の申込みがあったため、初回授業はオンラインとし、受講希望者多数の場合は適宜抽選等で人数を確定します（オンライン授業の方法や抽選については、学習支援システムのお知らせを事前に確認してください）。

また、受講希望者数が定員以下の場合でも、情報処理演習という授業の性格上、オンラインミーティングの技術について学習することは有意義であるため、学期中一部の授業はオンライン開講を行う可能性があります（その場合、前の週までには告知します）。

なお、2月現在、大学の方針で対面授業ですので、原則は対面授業とします。ただし、万が一インフルエンザやコロナ等の感染流行の再悪化やその他やむを得ない事情が起きた場合は、別途オンラインの開講もあり得ます。

ただし、対面授業であろうとオンラインであろうと、前述の目的が変わることはありません。

※大学の授業実施方針については、最新の情報を大学ホームページで確認してください。

【到達目標】

Windows環境で基礎的なPCリテラシーやインターネットのリテラシーの習得をめざします。大学の授業のレポートや卒論作成時に使えるOfficeソフト（Word・Excel・PowerPoint）やGoogleのWebサービス、クラウド等の基本操作および活用方法を学びます。またChatGPT等の生成AIの適切な利用方法についても、学習します。

同時に、最も大切なこととして、自分がやりたいことのための操作方法を検索して、調べる技術を身につけることを目標とします。

<皆さんのパソコン等の環境について>

学期の早い時期に皆さんの学習環境（自宅等のネット環境を含む）のアンケートを行い、皆さんが将来の授業や卒業研究に役立てられるスキルを身につけられるよう内容を構築します。また、もし自宅等での環境が整わない場合は、必要な操作方法を自ら検索する能力をより高めることにより、将来必要な時に十分な情報リテラシーの習得が可能なようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(1) テキストと毎回のレジュメをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。

(2) 毎回の授業は、講義と演習、ディスカッション等のグループワークを組み合わせて行います。

(3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報をネットで検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。

※ 出席さえすれば単位がもらえる楽な科目ではありませんが、課題を着々と提出して行けば、期初に初心者であっても、最終的にはWebを利用した調査や、その結果を纏めて発表するなど、レポートや卒論に使えるだけの能力が自然に身につくように、段階的に演習を進めます。また、暗記科目ではないので、期末テストは行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 ネットリテラシーとセキュリティ Zoomの基本操作	授業ガイダンス。授業の目的の確認。 自身のPCを使用する場合、使い方の確認。 WindowsPCの基本的な使い方の説明。 ネットリテラシーの基本と、セキュリティの重要性。 オンライン会議システム（Zoom）の参加者としての基本機能を知る。 電子メールの仕組みと使用上の注意点。電子メールと他のコミュニケーション・ツールやSNSとの比較。 USBメモリの使い方と利用上の注意点。 アンケートによる、学生の自身の学習環境の報告。 学習支援ハンドブック等による、メールの書き方（マナー）の学習。 ウェブの仕組みについて理解する。 情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探すための方法を知る。 Dropboxの利用と、注意点。 ChatGPTの利用と、注意点。 教科書によるネットリテラシーの復習。 Windowsの基礎の復習。 ワープロソフト（Word）の基本的な文章の作成方法、フォント・段落書式（インデント）・表について学ぶ。 応用的な文章作成方法。 Wordで絵・写真や図を挿入する方法。 見出し・アウトライン・スタイル・脚注。校閲機能。見出しの利用と目次の作成（課題）。 「表計算ソフト」とは。Excelでできることを知る（頭出し）。 脚注。校閲機能（補足）。 表計算ソフト（Excel）の基本操作を習得する。 （Google スプレッドシートとの関連の確認）
第2回	電子メールとネットの基本 学習環境を整える	
第3回	ウェブの仕組みと情報検索 クラウドの利用 生成AIについて	
第4回	Word(1)	
第5回	Word(2)	
第6回	Word(3) Excel(1)	

第7回	Excel(2)	計算式や関数の基本的な使い方。 見やすい表の作り方。書式設定、 見出しなど。
第8回	Excel(3)	Excelでグラフを作成する。 Excelの表やグラフをWordに貼り 付ける。
第9回	Excel(4)	計算式や関数の応用的な使い方。 Excelでのリスト管理（データ ベース）。
第10回	PowerPoint(1)	Excelとワードの合わせ技（差し 込み印刷）。
第11回	PowerPoint(2)	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作を習得 する。
第12回	Officeソフト総合演習	発表資料としてのPowerPoint ファイルの作成。
第13回	Googleのサービスと Officeソフトの合わせ 技	簡易DTPとしてのPowerPointの 利用。
第14回	総合演習	Canvaの利用。 Word Excelとの連携。
		Excel、Word、Powerpointを総 合的に使用し、最終課題の準備を 行う。
		Google Forms（アンケート調査）、 Google Spreadsheet
		Excel、Word、Powerpointを総 合的に使用し、最終課題を行う。
		授業で扱った内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・当授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。
- ・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。
- ・次の授業に向けてのリーディング・アサシメント（準備学習としての読む課題）を出すことがあります。その場合は、そこを読んでから授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

- ・『学生・新社会人のための情報リテラシー入門 大間 哲 著 カットシステム（2025年4月発売予定。発売日決定後に、購入を指示します）
- ・法政大学『学習支援ハンドブック』 <http://www.hoseikyoku.jp/lf/>（法政大学教育開発・学習支援センター）のメニューより「学習支援ハンドブック」を選択。（ダウンロードをしておく必要はないが、授業時にパソコンから参照できるように、一度見つけて確認をしておくこと）

【参考書】

- ・『思考を鍛えるレポート・論文作成法[第3版]』 井下千以子 廣慶義塾大学出版会（他の授業でテキストとして指定されている場合もあります）
- ・『情報リテラシー教科書 -Windows11/Office2021 対応版-』 矢野文彦 著 オーム社（定価：本体2090円）
- （『情報リテラシー教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』でも可。自分が持っているパソコンのソフトのバージョンに合わせてください）
- ・『キャリアデザイン・就活のプロによる ChatGPT徹底活用法: 就活生・就職担当者必携AIアシスト・キャリアデザイン』 大間哲 著 カットシステム（定価：1540円）
- ・『情報処理エンジニア職業ガイド - プログラマ・ITエンジニア・SEのためのキャリアデザイン-』 豊沢聡/大間哲 著 カットシステム（定価：本体1800円）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（出席という意味ではありません。積極的な参加という意味です。）や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、高校時代を含むそれまでの経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。しかし、初心者であっても、恐れる必要はありません。真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要なゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。

- ・授業内の講義と演習への参加（配点比重 30%）
- ・毎回の小課題の提出（未提出の場合、その課題について0点。提出遅れは減点）（配点比重50%）
- ・総合課題（配点比重20%）
- ※期末テストは行いません。

【学生の意見等からの気づき】

- ・自らの興味がある事について能動的に調べ、ディスカッションし、発表するという課題は好評でもあり、また、大学での学び方の基本でもあるので、今期も続けたいと考えています。

- ・好評だった、最終的な総合課題に向けてのグループワーク、ディスカッション方式での演習は続けたいと考えています。
- ・『1月曜5限可哀想〜』と友人から言われても、『情報処理楽しいから良いんだ〜』と言いつつ楽しい授業でした」「学生の視点に立って接し下され、とても嬉しかった」（授業アンケートより）。今年度から水曜5限・木曜3限・4限の開講になったが、今回も学生の皆さんがそう思ってくれるような、学生主体の視点で、楽しい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・初回参加時までに、このシラバスと、学習支援システムの「お知らせ」を良く読んでおくこと。
- ・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。
- ・この授業の目的である大学での授業のレポートや卒業研究・卒論作成に実践的に使用できるスキルを身に着けるため、できれば大学の授業で使う予定の自身のパソコンや自宅から、ネットへの接続環境を整える事が望ましい（必須ではありません）。
- ・今後の他の授業やレポートで使えるようになるために、自身のパソコンに慣れる意味からも、授業時に自身のパソコンを持参することを推奨する。
- ・自身のパソコンを持参できない場合は、大学でパソコンの貸し出し手続きをして持参すること。その場合、USBメモリー（8GB以上の容量のもの）を入手し、持参すること。

【その他の重要事項】

- ・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
- ・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。
- ・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
- ・情報処理演習という授業の内容上、ChatGPT等生成AIの適切な利用法についても学習します。が、他の授業での生成AIの使用については、それぞれの授業の教員の指示に従ってください。
- ・定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。
- ・Q0301（水曜5限）、Q0303（木曜3限）、Q0305（木曜4限）は、授業内容は基本的に同一です。ただし、皆さんの学習の進度、理解度等に合わせ、内容に若干の修正・差異が生じる可能性はあります。
- ・当授業は「実務経験がある教員による授業」です。教員は、20年間日本IBMに在籍し、システムエンジニア（特にネットワーク系）の経験があります。また、社内での専門職育成部門での経験もあるため、一般から先端までの技術をわかりやすく説明することに長けています。

【Outline (in English)】

[Course outline and Objectives]

The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now and in the future. Since information technology is advancing every day, it is more important to understand what the computers and/or network services actually are and what can be done with them than memorizing the way of using computer software.

Mastering information technology is essential for university students, particularly for those in liberal arts fields like Career Design. Unlike students in fields focused on computational tasks, liberal arts students must use computers and internet tools as essential instruments to complement their broad knowledge base. Students will learn basic computer, software, and web service operations needed for academic tasks, such as reports and theses. You will also develop skills in research, discussion, and presentation using information technology, providing a foundation for academic and professional success.

[Goals]

Students will acquire fundamental PC and internet literacy in a Windows environment. You will learn to use Office software (Word, Excel, PowerPoint), Google Web Services, and cloud tools for report and thesis preparation. You will also understand the appropriate use of generative AI tools like ChatGPT.

The most critical objective is to develop the ability to search for and learn necessary operations independently to achieve their goals.

[Learning activities outside of classroom (Preparation, etc.)]

Students are expected to understand the course content and complete the required assignments after each class meeting.

- Allocate approximately 4 hours for preparation (2 hours) and review (2 hours) for each class.

- Submit assignments by the deadline and via the specified method.

- Reading assignments may be given; complete these before attending the next class.

[Grading Criteria /Policy]

Students are evaluated comprehensively based on participation, assignment submission, and effort. Beginners can achieve the course goals through active engagement and completing assignments, while advanced students can earn additional points for demonstrating excellence.

- Participation In class contribution:30%
- Submission of regular assignments (zero points for non-submission, penalties for late submissions): 50%
- Term-end assignment: 20%

** No final exam will be conducted.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習

2017年度以降入学者

御園生 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【日常で活かすIT】

コンピュータを日常の中でどのように活用し、大学での活動を豊かにしていくための実践的な技術・知識の習得を目指します。

以下の3点を授業の柱とします。

■動画作成をマスターしよう！

動画を通じて他者に自分の考えを伝えることとは？

ひとは何に注目するのか？

みるひと・聞く人の関心を引く動画をフリーソフトを利用してつくる

■オリジナルスタンプをつくってみよう！

コンピュータでデザインって難しくないの？

自分の考え（アイデア）をカタチにする

自分だけのスタンプをつくってみよう

■エクセルのマスターになる

計算だけじゃない、エクセルの使い方～予測・分析

エクセルでプログラミング

パソコンの基本的操作やアプリケーションソフトの利用方法はもとより、インターネットを利用した情報の主体的な受発信や各種のメディア活用能力・情報モラルの涵養など、情報化社会に必要な不可欠である、基礎的な情報リテラシー能力の習得を講義の中心に据え、できる限り受講者個々のスキルレベルに合わせた授業展開を心がける予定です。

【到達目標】

ビジネス系のみならず、表現方法としての情報リテラシーの習得を目指します。とくにプレゼンテーションについてはその理論と方法論の習得を通じて、実際に動画編集やプレゼンツール（DaVinci Resolve / パワーポイント）とドローソフト（Inkscape）の活用の実際を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

具体的な課題の完成（目的）に合わせた基本ソフトウェアの使用方法を通じて、複数のソフトウェアを駆使することを目指し、実践的なコンピュータの活用方法を実習を通じて学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション (授業方針と計画・評価方法について)	授業の進め方の注意事項～ログオン方法の確認
②	情報保護について	データ管理とセキュリティについて理解する

③	パーソナルコンピュータ及び Windows-OSの基本的な取扱い方法について 電子メールの基礎と 日本語入力方法～ FEP活用の基礎理解 操作方法	OSの利用方法 メールアカウントの設定とメールソフトについて
④	アプリケーションソフト習得～MS Word (1)	基礎的な日本語入力 表組みと描画など
⑤	アプリケーションソフト習得～MS Word (2)	アウトラインプロセッサについて
⑥	パワーポイント活用	パワーポイントによるアニメーションを活用したプレゼン作成
⑦	動画ファイルの基礎と編集とDaVinci Resolve	動画ファイルのコンバート方法 やアプリの活用について
⑧	アプリケーションソフト習得～MS Excel (1)	エクセルの基礎的な画面構成の理解
⑨	アプリケーションソフト習得～MS Excel (2)	計算式と関数① 再計算機能と相対・絶対番地について
⑩	アプリケーションソフト習得～MS Excel (3)	計算式と関数② 条件判断関数の基本とその応用
⑪	アプリケーションソフト習得～MS Excel (4)	マクロ・VBA基礎
⑫	ドローイングソフト習得～inkscape①	ドローソフトの基本的構造とレイヤーの意味
⑬	ドローイングソフト習得～inkscape②	オリジナルスタンプを作ってみよう
⑭	プレゼンテーション～prezi	preziを使ったプレゼンテーションの作成～アカウント取得など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- ・情報における権利意識と保護意識の醸成 15%
- ・著作権・複製権などの権利関係に対する具体的な理解 15%
- ・授業毎に課す提出課題の提出度と完成度 70%

【学生の意見等からの気づき】

ありません。

【その他の重要事項】

履修に当たってはできればPCを所有していることが望ましいです。定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

[IT to utilize in daily life] We aim to acquire practical skills and knowledge for how to utilize computers in daily life and enrich activities at the university. The following three points are the pillars of the class.

■ Let's master video creation! What does it mean to convey your thoughts to others through videos? What do people pay attention to? It was Using free software to create videos that attract the attention of viewers and listeners.

■ Let's make an original stamp! Isn't it difficult to design with a computer? It was Shape your thoughts (ideas) Let's make your own stamp.

■ Become an Excel master How to use Excel, not just calculations-prediction /analysis Programming in excel Basic operations that are indispensable to the information-oriented society, such as the basic operation of personal computers and how to use application software, as well as the proactive transmission and reception of information using the Internet, the ability to utilize various media, and the development of information morals. We plan to put the acquisition of information literacy ability at the center of the lesson and try to develop the lesson according to the skill level of each student as much as possible.

【Learning Objectives】

We aim to acquire information literacy as an expression method as well as business-related. Especially for presentations, you will actually learn the actual specifications of video editing and presentation tools (DaVinci resolve /PowerPoint) and drawing software (Inkscape) by learning the theory and methodologies.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Fostering awareness of rights and protection in information 15%
- ・ Specific understanding of rights such as copyright and reproduction rights 15%
- ・ 70%of the degree of submission and completion of the submitted assignments imposed for each class

IDN100LA (アイデンティティー教育 / Identity studies 100)

大学を知らう <法政学>への招待 2017年度以降入学者待

小林 ふみ子、金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

2018年度までに「法政学への招待」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ようこそ法政大学へ！みなさんのこの大学や学部がいつどのようになり、どうして作られたのか知ってみたいはありませんか？

この授業では、創立から144年めとなる本学の歴史、校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、多方面から法政大学に迫ります。最後には未来を考え、総長に提言する機会も設けます。長い歴史をもつ本学で学ぶ自らをみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。【なお多くの学生さんに愛されてきたこの科目ですが、残念ながら2025年度をもって閉講の余儀なきに至りそうです。法政大学について学んでおきたい方は本年度中に履修してください】

【到達目標】

- ・法政大学の歴史を日本近現代史、世界史の流れのなかで理解する。
- ・〈法政大学らしさ〉を考え、ここで学ぶ自らの将来へのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、科目責任者2名のコーディネートのもと、総長以下、本学教員、卒業生等が、学部やキャンパスの垣根を超えて担当します。講義の途中や最後に内容を確認するクイズ、グループワークなどで参加型・双方向型授業にしています。毎回の学習支援システムのコメントに書かれた質問のなかから講義担当者が重要なものを選んで翌週にペーパーにして応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「山の手」の市ヶ谷キャンパス～法政大学と地域社会	ガイダンスとして授業の概要を説明したのち、市ヶ谷キャンパス周辺地域の歴史・地理環境、本学の地域連携活動を紹介する。（小倉淳一）
2	市民社会の開明とノンエリートへの夢～法政大学と日本近現代史①	創立者の一人、青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期について講義する。（科目責任者＝金子匡良）
3	ボアソナードと梅謙次郎～法政大学と日本近現代史②	開学後約30年の発展期に多大な貢献をした人物たち、その民法制定への関わりを学ぶ。（岡孝）
4	リベラリズムの潮流～法政大学と日本近現代史③	本学で教えた夏目漱石門の内田百閒らの文学者、三木清らの哲学者たちを紹介し、そこに底流するリベラリズムを考える。図書館にある旧蔵書も紹介。（衣笠正晃）
5	学生生活の今昔	写真や映像を交えて学生文化史を振り返る。戦時下の学徒出陣にも触れる。（古保達郎）

6	アジアからみつめる～法政大学と国際社会	20世紀初頭の清国留学生受け入れに始まる本学の国際関係を、近隣のアジア諸国を中心に概観する。（高柳俊男）
7	校歌「よき師よき友つどひ結び」	成立背景や作詞・作曲者、歌詞の意味などについて知り、応援団のパフォーマンスを見ながらアカデミー合唱団のみなさんより歌唱指導を受ける予定。（兄美川孝一郎）
8	大内総長とその時代～法政大学と日本近現代史④	戦後の本学の復興・発展期を担った大内兵衛総長の功績とその教育的理想を考える。（横内正雄）
9	先輩からのエール	社会で活躍する卒業生の体験を聞き、本学で学ぶ意義や可能性を考える。今年度は留学経験を経て日本酒の魅力に目覚め、あえて酒蔵の経営に乗りだした先輩をお呼びしています。
10	ユニークな研究所	多数の研究所のうち他大に類例がなく、研究実績で世に知られる能楽研究所、沖縄文化研究所、大原社会問題研究所について知る。
11	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑤	本学が大きく変貌した90年代以降の改革と、市ヶ谷に設置された国際文化・人間環境学部について学ぶ。（職員・各学部教員）
12	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑥、そして未来へ	前回に引き続き2000年代に市ヶ谷に設置されたキャリアデザイン学部・GIS（グローバル教養学部）について学ぶ。
13	「自由と進歩」と法政大学憲章～「法政らしさ」を考える	法政大学の学風として掲げられてきた「自由と進歩」から「法政大学憲章」へ、この講義の内容をふり振り返りつつ「法政大学らしさ」を考える。（科目責任者＝小林ふみ子）
14	まとめのワーク	「法政大学と自分たちの未来」を話しあい、将来の法政大学への提言をする。本学の教学担当理事の講評を受け、もっとも優れた発表に総長賞を授与する。（ダイアナ・コー総長、科目責任者＝小林）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講師は代わりますが、一つの流れになっています。配付資料を読み直し、紹介した参考文献にも目を通すようにしましょう。オープン5周年を迎えるHOSEIミュージアムは必見。予習復習をかねてぜひ見学を！ デジタル展示でつぎつぎと新しい情報が出てきます。その他関連する特別展示なども紹介、見学を推奨します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

写真でみせる『法政大学1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、授業支援システムに掲載します。さらに充実したバージョンはテキストとして生協で販売します。

【参考書】

毎回、適宜お知らせします。本学の大学史については、上述書のほか『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の学習支援システムのコメントにみえる取り組み70%、期末レポート30%で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

開設15年を迎える科目で、受講生が法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしているようです。毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていこう努めます。みなさんにとって興味深く、よい刺激となるようにする工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

配付資料類は、学習支援システムを通じても配付します。

【その他の重要事項】

- ・入学した段階で、本学で学ぶことの意味を考えられるよう1年次での履修を推奨します。2年生以上の受講もちろん歓迎します。
- ・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法政学の探究LA・LB」にもチャレンジしてみてください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Welcome to Hosei University! Would you like to know when, how and why your university and faculty were founded?

We will trace the more than 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to study for four hours before and after each class.

(Grading Policies) The final grade will be calculated based on the small report submitted in each class (70%) and the final report (30%).

IDN200LA (アイデンティティー教育 / Identity studies 200)

法政学の探究 L B2017年度以降入学者

サブタイトル：

北口 由望

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では「大学と地域」をテーマに、法政大学の歴史と文化に焦点をあてます。法政大学はなぜ市ヶ谷にあるのか、なぜ多摩や小金井にもキャンパスがあるのか。法政大学に通う学生として抱く疑問や関心について、日本近現代史や大学史などの学問的な観点から検証します。具体的なテーマとして、大学創立の地・東京神田、市ヶ谷キャンパスとその周辺（外濠・神楽坂）の歴史と文化、鉄道と郊外型キャンパスの形成、グラウンドと法政スポーツの隆盛、付属校の成り立ち、北軽井沢法政大学村と岩波文化などを挙げることができます。法政大学の歴史を通して、日本の近現代や大学の在り方を捉え直す機会となるでしょう。

また、HOSEIミュージアムの展示コンテンツやデジタルアーカイブをはじめ、様々な資料から「法政学」を探究し、実践的な試みとして、ミュージアムでの小規模な発表会開催も検討します。

- 【到達目標】
1. 法政大学の歴史はもちろんのこと、日本近現代史や大学の歴史に関する基礎的な知識を得ることができます。
 2. 身近なテーマを学問的な「問い」へと発展させる視野を養います。
 3. 調査研究の前提となるテーマ設定の具体化や各種資料の調査方法・読解方法について学ぶことができます。
 4. 演習形式が中心となるため、各学部の専門ゼミ履修への準備になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業計画に則り、講義形式と演習形式を組み合わせで進めます。第4回ではHOSEIミュージアムで見学調査を行い、第7回では市ヶ谷キャンパスとその周辺地域を歩き、現在の大学と地域について議論します。なお、受講生は授業内で報告（1回）を行う必要があります。報告（発表）や質問、リアクションペーパー等に対するフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	導入	本授業の目標、スケジュール等を説明します。
第2回	法政大学の歴史－東京法学校創立から戦前期まで－	法律学校時代から戦争の時代に至るまで、法政大学の歴史を主に「地域」の観点から振り返ります。
第3回	法政大学の歴史－戦後復興から現在まで－	戦後復興から現在に至るまで、法政大学の歴史を主に「地域」の観点から振り返ります。
第4回	HOSEIミュージアムでの学び	HOSEIミュージアムを訪問し、展示内容から法政大学に関わる様々なテーマについて知見を得ます。

第5回	デジタルアーカイブの使い方を学ぶ	HOSEIミュージアム・デジタルアーカイブをはじめ、各種デジタルアーカイブの使用方を学びます。
第6回	テーマ設定方法と報告の基礎を学ぶ	「問い」の立て方、テーマ設定の方法をはじめ、レジュメの作成やプレゼンテーション方法など、報告の基礎を学びます。
第7回	市ヶ谷キャンパスとその周辺を歩く	市ヶ谷キャンパスと、その周辺を歩き、現在の大学と地域について議論します。
第8回	法政大学草創期に関するテーマ設定と資料紹介	法政大学創立の地である東京神田や創立者の出身地について、科目担当者とともにテーマ設定を行います。
第9回	市ヶ谷キャンパスとその周辺に関するテーマ設定と資料紹介	市ヶ谷キャンパスと、外濠や神楽坂といった周辺地域について、科目担当者とともにテーマ設定を行います。
第10回	その他、大学ゆかりの地域に関するテーマ設定と資料紹介	多摩／小金井キャンパスや付属校、中野／川崎グラウンド、北軽井沢法政大学村など、大学ゆかりの地域について、科目担当者とともにテーマ設定を行います。
第11回	法政大学草創期をテーマとした報告	法政大学創立の地である東京神田や創立者の出身地について、受講者の報告を行います。
第12回	市ヶ谷キャンパスとその周辺をテーマとした報告	市ヶ谷キャンパス、そして外濠や神楽坂といった周辺地域について、受講者の報告を行います。
第13回	その他、大学ゆかりの地域をテーマとした報告	多摩／小金井キャンパスや付属校、中野／川崎グラウンド、北軽井沢法政大学村など、大学ゆかりの地域について、受講者の報告を行います。
第14回	映像上映と総括	HOSEIミュージアムの映像シリーズ「法政大学の歴史・文化・個性」を鑑賞し、科目担当者による総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習では、HOSEIミュージアムに展示されているコンテンツ、同デジタルアーカイブの調査や授業内で紹介された文献の読解を行います。復習では、毎回科目担当者が配布した資料とHoppiiにアップロードされた資料を読み直します。
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、毎回、科目担当者が資料を配布します。

【参考書】
『法政大学八十年史』（1961年）、『法政大学百年史』（1980年）、『法政大学と戦後五〇年』（2004年）、『法律学の夜明けと法政大学』（1992年）、『都市と大学－法政大学から東京を視る〈増補改訂版〉』（2023年）、『HOSEIミュージアム紀要』（2021年～2025年）

【成績評価の方法と基準】
平常点と授業内の報告（各50％）にて判断します。

【学生の意見等からの気づき】
学部を超えた交流の機会となるよう、受講者が自由に発言できる「場」を形成したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
報告用のPCなどの機器は科目担当者が用意します。

【その他の重要事項】
関連科目「大学を知ろう <法政学>への招待」で学んだ内容を前提としますので、同科目の既修者か、それと同等の前提知識を得てから受講してください。後者の場合、大学公式HPに掲載されている「HOSEI MUSEUM」が参考になります。

【Outline (in English)】

This course explores the history and culture of Hosei University with the theme of "Universities and the Region.". We examine questions and interests in student life from an academic perspective. Students will learn the modern and contemporary history of Japan, the history of Universities through the history of Hosei University.

Please refer to the documents mentioned by the lecturer in the class. Also, please make use of the newly opened HOSEI Museum and Digital Archives for preparation and review. As a practical experiment, we will also consider holding a small exhibition.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Usual performance score: 50%、Classroom presentations: 50%

IDN200LA（アイデンティティー教育 / Identity studies 200）			2	世界を知りつくした 本学の祖 箕作麟祥	本学前身である和仏法律学校 初代校長の箕作麟祥は、明治期 の有数の啓蒙家であった。彼は、 洋学を学んで、西洋の法律や歴史 を日本に紹介し、日本の「民権」 のために活躍した。彼の仕事を 振り返り、そこから学ぶものを 探りたい。（南塚信吾）
法政学の探究 L A			2017年度以降入学者		
サブタイトル：人物で知る法政大学史					
高柳 俊男、北口 由望					
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金 5/Fri.5 単位数：2単位			3	本学初代総理（総長） 梅謙次郎	「日本民法の父」といわれる梅謙 次郎は、帝国大学法科大学教授 のほかに、和仏法律学校の校長 ・初代の総理（総長）として講 義のかたわら本学の経営に尽力 した。梅の50年の人生を追いな がら、「清国留学生速成科」の設 置など本学との関係を語ろう。 （岡孝）
その他属性：〈優〉			4	野上豊一郎と能楽研究	夏目漱石門下の英文学者で、能 楽研究者でもある野上豊一郎。そ の名を冠する本学能楽研究所は 、現在、国内外の能楽研究の拠 点となっている。作品・能面・ 翻訳など多岐に亘る能楽研究の 事績を辿りつつ、彼を魅了した 能楽についても知る。（深澤希 望）
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この授業は、「大学を知ろう <法政学>への招待」（旧科目名「法政学への招待」）をすでに受講し、法政大学が経てきた140余年の歴史と現状について一通りの理解をもつ学生を主対象にして、法政大学についてより深く考える発展科目として設置されました。 「大学を知ろう <法政学>への招待」における学習を前提に、本授業では、法政大学で教えた教員や、学んだ学生を具体的に上げます。教員の場合なら、その人物が法政大学でどういう教育研究に携わったのか、そのことで本学や社会の発展にいかに関与できたか、などを追います。卒業生の場合なら、本学で何を学んだのか、あるいは学んだことをその後の本人の人生や、社会に向けてどう役立てたか、などについて探究することになるでしょう。 法政大学ゆかりの特定の人物を詳しく追うことで、「自由と進歩」の理念や、時代のフロントランナー養成を掲げる本学の歴史と現在を、より具体的に理解できるようになるはずです。			5	内田百閒は「教え子」が嫌い	大正末期と昭和に二度法政大学 の教壇に立った作家内田百閒。 北村猛徳、大井征、中野勝義な ど、激動期を生きぬいた愛弟子 達との師弟関係は、まさに一篇 の「名作」であった。彼の作品 を読み解く。（山本一生）
【到達目標】 本学の経てきた道を、具体的な人物に即して、実証的・実感的に把握できることを目指します。時代の大きな流れの中で、本学ゆかりのその人物が何に興味をもち、どんな活動をし、何を目指し、何に悩んだかなどを、受講生個々人の知性と感性で感じられるようにします。それを、自分の学生生活や将来像へとつなげて考える契機を得るよう努めます。			6	「不安の時代」を代表する思想家 三木清	西田幾多郎を中心とする「京都 学派」随一の俊才とされ、昭和 前期のアカデミズムとジャーナ リズムの双方で幅広く活躍しな がら、第2次大戦直後に悲劇的な 獄死をとげた哲学者・三木清の 生涯と思想を紹介・検討する。 （衣笠正晃）
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1			7	夏目漱石門下生たちに学んで作家になった椋鳩十	伊那谷出身の椋鳩十（本名：久 保田彦徳）は、とくに動物物語 の作者として広く知られる。初 の詩集を出し、学生結婚もした 法政大学時代をはじめ、戦前戦 後にわたる椋の歩みを時代の中 で振り返る。（高柳俊男）
【授業の進め方と方法】 科目責任者の教員2名が毎回同席し、授業をコーディネートします。講義は、毎回のテーマに最適な本学内外の講師陣（科目責任者を含む）が、分担して担当します。 授業の最後に毎回、リアクションペーパーに感想や質問を書いてもらいます。それに対する講義担当者のコメントを入れた授業通信を作成し、次週の冒頭で解説するなど、参加型・双方向型授業になるよう努めます。 対面を基本としますが、講師の都合等により他の形式で行う回が生じた場合は、事前にお知らせします。			8	戦争の中を生きた学友たち～久納好孚を例に	終戦直前のわずか10ヶ月足らず の間に5,845名もの戦死者を出 した「特攻」。その第一号となっ たのが、本学に学んだ学友の一 人・久納好孚であった。彼はな ぜ「特攻」を志願したのか。その 短い生涯を辿りながら、戦前 戦中の本学の歴史と学友たちの 生きざまを追体験してみたい。 （鈴木靖）
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし /No			9	城戸幡太郎、波多野完治、宮原誠一、乾孝～生涯学習の時代を切り拓いた人々	戦前の法政大学高等師範部教授 の城戸幡太郎、波多野完治、宮 原誠一らは、本学を舞台に教育 科学研究会や保育問題研究会を 組織したが、そのねらいは現場 の教員と研究者とが共同して教 育実践を研究することにあった。 キャリアデザイン学部へと引き
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
1	導入	この授業の狙いや、全体の構成について説明する。 あわせて、本学の経てきた歴史の概略を、映像も使いながら復習する。（科目責任者=高柳俊男、北口由望）			

10	「女性である前にまず人間であれ」 野上弥生子と法政大学	日本を代表する作家野上弥生子。法政大学女子高等学校名誉校長もつとめた弥生子は、同校の生徒たちに「女性である前にまず人間であれ」という言葉をのこした。弥生子の思想と人物像を探るとともに、その日記に記された法政大学の逸話を紹介する。(古俣達郎)
11	校舎と建築学科の礎を築いた建築家 大江宏	法政大学の幾つもの校舎を設計し、また教育者として建築学科の礎を築いた建築家・大江宏(1913～89年)。残された建築と資料を参照しながら、その思想と足跡に迫る。(藤本貴子)
12	高度経済成長と戦後思想の変容－藤田省三の射程	「焼け跡・闇市」の原風景から出発した日本の「戦後」は、政治的安定化と経済的繁栄とともに劇的に変わって行く。そのなかで行われた戦後思想の変容について、思想家藤田省三(1927-2003)の議論を中心に考察する。(趙星銀)
13	法政スポーツの伝統を探る	法政スポーツは100年以上の歴史をもつ。HOSEIミュージアムで開催された展示「HOSEIスポーツの原点」をもとに、その歴史と伝統を振り返る。(北口由望)
14	学生の目と教員の目から見る法政大学	学生として本学で学び、のちに本学で教えるに至った方を授業にお招きし、2つの立場から見た法政大学について体験的に語っていただき、授業全体のまとめとする。(根崎光男、明田川融)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講師が授業内で言及した文献は、積極的に参照してください。また、2020年に開館したHOSEIミュージアムの展示、および同ミュージアムデジタルアーカイブ (<https://museum.hosei.ac.jp/archives/Users/Top>) には、授業で取り上げた人物や事象に関するコンテンツが豊富に含まれていますので、準備学習・復習に活用してください。

その他、授業に関連する特別展示などが学内外で開催される場合には、随時お知らせしますので、極力足を運んでみましょう。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストはありません。毎回の講義担当者が適宜、プリント配付やパワーポイント提示を行います。それらを基本的に、学習支援システム上にアップします。

【参考書】

各講義担当者が、その都度お知らせします。

本学の歴史を通史的にまとめた書籍には、『法政大学1880-2000：そのあゆみと展望』のほか、『法政大学参拾年史』『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。図書館などで適宜参照してください。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 40%、学期末のレポート 60% を基準にして、総合的に評価します。受講者数によっては若干の変更があるかもしれませんが、その場合は授業の場（もしくは学習支援システム上）でお知らせします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

なお、レポートの作成に際しては、典拠となる文献に必ず当たり、実証的な内容になるよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

法政大学の経てきた歴史や、その中での人物について、ただ賛美するような授業ではありません。あくまでも学術的でありながら、同時に本学で学ぶ自分自身の生き方の参考になるような、意義ある授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。学習支援システムを積極的に活用します。

【その他の重要事項】

上述のように、本科目は「大学を知ろう <法政学>への招待」の上位科目として設置されました。したがって、本来は同科目を履修した人を受講者に想定していますが、受講していない人を拒むものではありません。未修の方は、上記した参考書などを参照に、自分なりに基礎知識を得て、授業についていけるよう努めてください。

この「法政学の探究LA」を履修し、さらに学びを深めたい方には、より演習に近い少人数の科目として、「法政学の探究LB」（春学期）も用意されています。

【Outline (in English)】

This intermediate class aims to explore the history and the spirit of Hosei University, by following the achievements and personality of several specific individuals.

Please refer to the documents mentioned by the lecturer in the class. Also, please make use of the newly opened HOSEI Museum and Digital Archives for preparation and review.

Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, and term-end report 60%.

LIT100LA（文学 / Literature 100）			⑤	忠度の最期の事	一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平忠度を取り上げ、忠度の和歌に対する情熱と勅撰集入集への思い、覚悟を決めて最期を迎える様子などを読み取っていく。
日本古典文学 A			⑥	敦盛最期の事	一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平敦盛を取り上げ、十七歳の若武者ながら高貴な武士としてのプライドを保つ敦盛の健気さと、敦盛を討った熊谷次郎直実の心の変化を読み取っていく。
サブタイトル：中世文学を読み解く			⑦	逆槽の事	四国の屋島へ逃れた平氏を討つために義経が都を出発する様子や、大坂の港での逆槽設置をめぐる梶原景時との激しい論争、悪天候の中船出を強行する義経の思いを読み取っていく。
表 きよし			⑧	大坂越の事・嗣信最期の事	四国の阿波に上陸した義経が陸路を通して屋島を急襲する様子や、慌てた平氏が海上へと逃れる様子、海岸での戦いで義経の部下である佐藤嗣信が戦死する様子を読み取っていく。
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：火4/Tue.4			⑨	那須与一の事	夕刻となって戦いが中断となり、そうな時に平氏が扇の目的を船に立てた理由や、射手に選ばれた那須与一が厳しい状況の中で見事に任務をやり遂げる様子を読み取っていく。
単位数：2単位			⑩	壇の浦合戦の事・遠矢の事	最後の合戦である壇の浦合戦がどのような状況で始まっていくか、合戦を目前にしての義経と梶原景時との対立、平氏のリーダー平宗盛の決断力のない姿などを読み取っていく。
その他属性：〈優〉			⑪	先帝御入水の事	阿波民部重能の寝返りなどにより平氏の敗戦が決定的になる様子や、平氏の副リーダー平知盛の人々に覚悟を促す行動、先頭を切って安徳天皇とともに海中に沈む二位殿の覚悟などを読み取っていく。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			⑫	能登殿最期の事	入水したが救出されてしまう建礼門院、覚悟が決まらず生け捕りとなる平宗盛、あくまでも戦おうとする平教経、みんなの最期を見届けて入水する平知盛など、平氏の人々の最期の有様を読み取っていく。
日本古典文学の代表的な作品である『平家物語』を読み、一の谷合戦・屋島合戦・壇の浦合戦という三つの合戦を通して平氏が滅亡に追い込まれていく様子を考察する。登場する人物たちの活躍がどのように描かれているかを細かく分析するとともに、その合戦の持つ意味を作者がどのようにとらえているかを明らかにする。『平家物語』が語られた作品であることにも留意しながら、言葉による表現の可能性を探る。			⑬	腰越の事	平氏が滅亡に追い込んだ源義経が、兄の源頼朝との関係が悪化したために鎌倉入りを拒否され、自らの思いを腰越状に認めるがついに許されず、苦境に陥っていく様子を読み取っていく。
【到達目標】			⑭	全体のまとめと試験	今までの授業を振り返りながら、登場人物の特徴が把握できたか、それぞれの合戦の様子が把握できたか、『平家物語』の特色を理解できたかを確認する。
『平家物語』の多彩な登場人物の個性、さまざまな合戦などの出来事の内容、『平家物語』という作品の特色を理解し説明することができる。古典文学作品の面白さを味わうことができる。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1					
【授業の進め方と方法】					
『平家物語』後半の、三つの合戦に関する部分を毎回1〜2段ずつ取り上げて講義していく。各段で事件・人物がどのように描かれているかを分析しながら内容を理解していく。					
授業の最後のリアクションペーパーを提出してもらう。多くの人から質問があった事柄については次の授業の中で回答する。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
なし /No					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし /No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
①	『平家物語』の特色	授業の進め方、教科書などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。『平家物語』の特色を説明し、どのような点に留意しながら読んだらよいかを把握してもらう。			
②	『平家物語』の内容展開	『平家物語』の最初から最後まで話の展開を説明する。どのような出来事が起きるかを把握しておくことにより、以後の授業に順調に対応できるようにしてもらう。			
③	木曾の最期の事	義経が都に攻め入ったために追い詰められた義仲が、あえて範頼軍が待ち構える琵琶湖へと向かう様子や、乳母子の今井兼平や愛妾の巴との心のつながりを読み取っていく。			
④	老馬の事・坂落しの事	平氏が態勢を整えて待つ一の谷へと範頼・義経が向かっていく様子や、義経が坂落しと呼ばれる奇襲戦法を実行していく様子、それにより平氏が大混乱に陥る様子を読み取っていく。			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業で取り上げる段に必ず事前に目を通し、どのような内容が書かれているか、わかりにくい部分はないかを確認しておく。授業で取り上げることができない段についてもおおよその内容を把握するように心がける。復習として、授業内容をしっかり再確認し、わからなかった部分はまず自分で調べてみる。『平家物語』に関する解説書はたくさん出版されているので、それらを読むことで『平家物語』に関する知識を自分でも補強していく。本授業の準備学習・復習時間は、1回の授業につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『角川ソフィア文庫 平家物語 下巻』。佐藤謙三校註。角川学芸出版。1959年。776円。

【参考書】

千明守著『平家物語が面白いほどわかる本』中経出版。2004年。
梶原正昭著『古典講読・平家物語』岩波書店。2014年。
日下力『平家物語転読』笠間書院。2006年。
山下宏明『平家物語入門・琵琶法師の「平家」を読む』笠間書院。2012年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出するリアクションペーパーの点数（50％）と期末試験の点数（50％）を総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

『平家物語』は登場人物が多彩なため、人物関係の把握が難しい。その点に留意しながら授業を進めていくようにしたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Read the "The Tale of the Heike" which is a typical work of Japanese classical literature and consider how Heike clan is being driven to ruin through three battles of Ichinotani battle, Yasima battle and Dannoura battle. We analyze in detail how the activities of the appearing people are depicted and clarify how the author sees the meaning of the battle. While paying attention to the fact that "Heike Monogatari" was spoken, We explore the possibilities of expression by means of words.

【Learning Objectives】

You can understand and explain the individuality of various characters in "The Tale of the Heike", the contents of events such as various battles, and the characteristics of the work "The Tale of the Heike". You can enjoy the fun of classical literary works.

【Learning activities outside of classroom】

As a preparatory study, be sure to read the stages covered in the class in advance to see what kind of content is written and whether there are any parts that are difficult to understand. Try to grasp the approximate contents of the steps that cannot be taken up in the class. As a review, reconfirm the content of the lesson, and first try to find out what you did not understand. Many commentary books on "The Tale of the Heike" have been published, so reading them will reinforce your knowledge of "The Tale of the Heike". The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

【Gradeing Policy】

Comeprehensive score of the assignment report (50%) submitted after each class and the score of the term-end report (50%) that reports the results of investigating and considering the theme of "The Tale of the Heike". And evaluate the grade.

LIT100LA（文学 / Literature 100）				
日本古典文学 B			2017年度以降入学者	
サブタイトル：中世文学を読み解く				
表 きよし				
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火4/Tue.4				
単位数：2単位				
その他属性：〈優〉				
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】				
中世において悲劇的な英雄として人気を集めた源義経と弁慶を取り上げ、『平治物語』『義経記』『お伽草子』などの古典文学作品や、能・歌舞伎などの古典芸能における二人の描かれ方やその変化を比較検討し、人々が二人の英雄に求めた理想像を、作者が作品を通してどのように表現しようとしているかを明らかにする。これらの考察を通して、文学作品成立の背景にある様々な伝説や、文学作品が伝説の流布に果たした役割を考える。			④	伊勢三郎との出会い 関東で自分に冷たい態度をとった人物の家を焼き払う義経の過激な行動や、上野国で伊勢三郎の家に泊めてもらい、義経が優れた人物であることを見抜いた伊勢三郎が義経の家来となる様子を読み取っていく。
【到達目標】			⑤	義経と兵法書 奥州平泉に身を落着けた義経だが、平氏の情報を入手するため都に舞い戻り、周囲の人々にも助けられながら、鬼一法眼が所持していた兵法書を盗み読む様子を読み取っていく。
義経・弁慶伝説の内容を把握・理解し、説明することができる。人々がどのような思いを込めてこれらの伝説を生み出し流布させていったかを考えるとともに、古典文学や古典芸能の面白さを味わうことができる。			⑥	弁慶の誕生と成長 弁慶が生まれた時から人並みはずれた様子だったことや、延暦寺の稚児となってからも暴れ回って寺を追放される様子など、弁慶の波乱に富んだ人生の始まりの様子を読み取っていく。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			⑦	義経・弁慶の出会い 京都に戻った弁慶と義経の出会いには、千本太刀奪いと千人斬りという二つのパターンがある。それぞれがどのような内容で、どのような特色を持っているのかを読み取っていく。
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1			⑧	義経・弁慶の主従契約 清水寺や五条大橋での戦いにより、義経と弁慶は主従の関係を結んでいく。戦いながらも惹かれあっていく二人の息の合った様子や心の結び付きを読み取っていく。
【授業の進め方と方法】			⑨	頼朝からの刺客 平氏を倒すために大活躍した義経だったが、兄の頼朝との関係が悪化して鎌倉に入らず京都で生活を送る。そんな義経のもとに刺客が送りこまれ、義経がそれを退ける様子を読み取っていく。
授業計画に示したように、毎回テーマを決めて授業を行う。源義経や弁慶をめぐる出来事が文学作品にどのように描かれているか確認しながら、それぞれの話の特色を理解していく。			⑩	義経・弁慶の都落 鎌倉から大軍が京都に向かったため、義経は京都を離れて西国へ向かうことにする。大坂から船出した義経一行が暴風に遭遇して危機に陥る様子を読み取っていく。
授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。多くの人から質問があった事柄については次回の授業の中で回答する。			⑪	静との別れ 義経は潜伏生活にも愛妾の静を伴っていたが、吉野山で泣く泣く別れることになる。吉野山で捕えられて鎌倉へ送られた静の行動を通して、静の性格を読み取っていく。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】			⑫	義経・弁慶の北国落 吉野山などで潜伏生活を送っていた義経は、山伏姿となって奥州平泉へ向かう。途中あちらこちらで疑われるが、弁慶の機転により危機を乗り越えていく様子を読み取っていく。
なし /No			⑬	義経・弁慶の最期 奥州平泉にたどり着いて平穏な日々を送っていた義経だが、良き理解者だった藤原秀衡の死によって追い詰められる。義経を守り抜こうとする弁慶の様子や、義経の最期の有様を読み取っていく。
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】			⑭	全体のまとめと試験 今までの授業を振り返りながら、登場人物の特徴が把握できたか、出来事の様子が把握できたか、義経伝説の特徴を理解できたかを確認する。
なし /No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
①	義経・弁慶の生涯	この授業の内容や進め方などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。義経・弁慶の生涯を把握することにより、今後の授業に順調に取り組めるようにする。		
②	鞍馬寺での義経	生まれた年に平治の乱によって父を失い、母とも引き離されて鞍馬寺の稚児となる義経の様子や、鞍馬山の僧正が谷で平氏を倒すため武術の修業に励む義経の健気な姿を読み取っていく。		
③	義経の東国下り	僧になることを嫌って鞍馬寺を脱出した義経が金商人吉次とともに東国へ旅立つ様子や、鏡の宿で盗賊に襲撃されるが戦って見事に退治する義経の活躍ぶりを読み取っていく。		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業で取り上げる話について、事前にプリントをよく読んでおおよその内容を把握しておく。復習として、授業の中で疑問に思った事について自分なりに調べてみる。源義経に関する書物はたくさん出版されているので、そのうちのいくつかを読み、様々な角度から義経・弁慶の様子を理解できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は、1回の授業につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

安価で入手できる教科書がないため使用しない。各回の授業に必要な古典文学作品の本文を記載したプリントを学習支援システムに掲載する。

【参考書】

岡見正雄校注『日本古典文学大系・義経記』岩波書店。1959年。
梶原正昭校注『新編日本古典文学全集・義経記』小学館。1999年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出するリアクションペーパーの点数（50％）と期末試験の点数（50％）を総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

義経伝説は能や歌舞伎などの古典芸能の題材ともなっており、これらの芸能の作品に関心を持つ学生が多い。適宜、古典芸能の作品にも言及するようにしたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Taking a look at Minamoto Yoshitune and Benkei who gained popularity as a tragic hero in the Middle Ages, they are drawn by classical literary works such as "Heiji Monogatari", "Gikeiki" and "Otogisoushi" and classical performing arts such as Noh and Kabuki Comparing people and their changes, we will clarify how the author tries to express ideal images that people asked through their works. Through these considerations, consider various legends behind the formation of literary works and the role that literary works played in the legendary dissemination.

【Learning Objectives】

Be able to understand, and explain the contents of Yoshitsune and Benkei legends. You can think about how people thought about creating and spreading these legends, and enjoy the fun of classical literature and entertainment.

【Learning activities outside of classroom】

As a preparatory study, read the prints carefully in advance to understand the approximate contents of the stories to be taken up in class. As a review, I will try to find out what I wondered in class. Many books on Minamoto no Yoshitsune have been published, so read some of them so that you can understand the situation of Yoshitsune and Benkei from various angles. The standard preparation /review time for this lesson is 4 hours per lesson.

【Grading Policy】

The score of the assignment report submitted after each class (50%) and the score of the term-end report (50%) that reports the results of investigating and considering the Yoshitsune legend by setting its own theme are combined. Perform grade evaluation.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本古典文学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：『竹取物語』を読む 一知っていそうで知らない
かぐや姫

園 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『竹取物語』は、現存する我が国最古の物語である。
この物語については、おとぎ話の「かぐや姫のお話」として、幼い頃に絵本や紙芝居で親しんだ人も多いであろう。また、2013年にはアニメ映画化もされて話題になった。
しかし、原典である『竹取物語』を読む機会は、意外に少ないのではないか。
実をいうと、原典の『竹取物語』には、おとぎ話やアニメーションのかぐや姫からは想像できないようなかぐや姫の姿が随所に見られるのである。
本授業では、『竹取物語』の原典を読むことを通して、学生諸君それぞれの「かぐや姫像」・「『竹取物語』像」を見出してほしい。

【到達目標】

『竹取物語』のストーリー展開を、原典の本文を中心に追いながら、おとぎ話やアニメーションに描かれた姿との比較や、背景となる史実や当時の習慣等を知ることを通して、理解を深めてゆく。
なお、受験勉強の古文ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

なお、毎回コメントが記入できる形式の出席カード（リアクションペーパー）を配布し、寄せられたコメントの内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	物語冒頭	かぐや姫の登場
③	求婚譚のはじまり	求婚者に対する無理難題
④	求婚者の受難Ⅰ	石作皇子のエピソード
⑤	求婚者の受難Ⅱ	庫持皇子のエピソード
⑥	求婚者の受難Ⅲ	右大臣阿倍御主人のエピソード
⑦	求婚者の受難Ⅳ	大納言大伴御行のエピソード
⑧	求婚者の受難Ⅴ	中納言石上麻呂足のエピソード
⑨	帝の求愛Ⅰ	興味から執着へ
⑩	帝の求愛Ⅱ	愛情の深化
⑪	かぐや姫の昇天Ⅰ	天人の迎えな予告
⑫	かぐや姫の昇天Ⅱ	地上の人々の抵抗
⑬	かぐや姫の昇天Ⅲ	月への帰還
⑭	かぐや姫の昇天Ⅳ	遣された人々の嘆き

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、各自紹介された内容をふり返し、次のストーリー展開といかに関わりを持つのか、個々に考察を深めるよう努めてほしい。

また、受験勉強ではないので、文法等にこだわった逐語訳ではなく、エピソードの内容をかみ砕いて解説し、学生諸君に登場人物が何を感じ、いかに行動したのか？を考えてほしい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、毎回プリントを配付する。

【参考書】

『竹取物語（全） ビギナーズ・クラシックス 日本の古典』（角川ソフィア文庫 2011）
その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポート課題を課し、その内容（設定したテーマに対して、自己の考えが明確に示されているか否か）によって評価する（90%）。平常点（リアクションペーパーへのコメント内容）は最終評価の参考とする（10%）。ただし、出席率が60%に満たない場合は評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。
したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。
また、毎回コメント欄に記された内容を紹介することにより、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

【Outline (in English)】

This course introduces to the Tale of Taketori students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about The Tale of Taketori.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

This class needs two hours for preparations for lessons and a review each.

It is not a literal translation of the text and aims at the action of the character and the deep understanding to feelings.

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 10%, Reports 90%. To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

The answer to questionnaire is required every time.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本古典文学 B

2017年度以降入学者

サブタイトル：『落窪物語』ー日本のシンデレラストーリーー

園 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『落窪物語（おちくぼものがたり）』と聞いても、その内容が思い浮かぶ人は少ないかもしれないが、この作品は、継母に虐待されている美しい姫君が、ある貴公子に救われてその妻となり幸せになるという構成の類似から、「日本のシンデレラストーリー」ともいわれ、後世の作品にも影響を及ぼしたものである。

本授業では、『落窪物語』の読解を通して、『源氏物語』以前に成立した整った構成を持つ「王朝家庭小説」といわれるこの作品の特性を考えてみる。

【到達目標】

『落窪物語』の本文を物語の展開に沿って紹介し、この物語の持つ特性や、当時の貴族社会の価値観を考察するとともに、現代とは異なる平安時代の習俗等も理解してゆく。

なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

なお、毎回コメントが記入できる形式の出席カード（リアクションペーパー）を配布し、寄せられたコメントの内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	物語の発端	薄幸な美しい姫君
③	恋の予感	貴公子、姫君に興味を持つ
④	恋のはじまり	姫君への求婚
⑤	秘密の結婚Ⅰ	恋の成就
⑥	秘密の結婚Ⅱ	深まる思い
⑦	姫君の不運	貴公子、継母の虐待を知る
⑧	継母の怒り	継母、姫君と貴公子の関係を知り逆上
⑨	継母の陰謀	姫君の窮地
⑩	急展開する物語	姫君、貴公子に救出される
⑪	幸せはじまり	姫君、貴公子の邸に迎えられる
⑫	報復	貴公子による仕返し
⑬	和解	それぞれの思い
⑭	物語の結末	大団円へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、各自紹介された内容をふり返し、次のストーリー展開といかに関わりを持つのか、個々に考察を深めるよう努めてほしい。

また、受験勉強ではないので、文法等にこだわった逐語訳ではなく、エピソードの内容をかみ砕いて解説し、学生諸君に登場人物が何を感じ、いかに行動したのか？を考えてほしい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、毎回プリントを配付する。

【参考書】

新編日本古典文学全集『落窪物語・堤中納言物語』（小学館）

新日本古典文学大系『落窪物語・住吉物語』（岩波書店）

新潮日本古典集成『落窪物語』（新潮社）

その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポート課題を課し、その内容（設定したテーマに対して、自己の考えが明確に示されているか否か）によって評価する（90%）。平常点（リアクションペーパーへのコメント内容）は最終評価の参考とする（10%）。ただし、出席率が60%に満たない場合は評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回コメント欄に記された内容を紹介することにより、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

【Outline (in English)】

This course introduces to the Tale of Ochikubo students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about The Tale of Ochikubo.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

This class needs two hours for preparations for lessons and a review each.

It is not a literal translation of the text and aims at the action of the character and the deep understanding to feelings.

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 10%, Reports 90%. To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

The answer to questionnaire is required every time.

LIT100LA（文学 / Literature 100）

日本古典文学 A2017年度以降入学者

サブタイトル：古事記の神話を読む

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「古事記」から日本の神話を読む。
古事記の上巻の神代の部分を読むことから、日本人と神とのかかわり、自然観、始源に対するイメージ、当時の社会制度といったものを読み取るとともに、それらを表現した文学としての営みを理解し、享受する。

【到達目標】
神話の文学作品としての価値を理解する。
現代の日本社会、日本人にも通じる神・自然との関わりが古代からつながるものであることを理解する。
また他の地域の神話と比較することで始源や自然、人間以上の存在のイメージが、共通するものであることなどを理解する。
神話が現代のファンタジーを生み出す温床となっていることから、文学作品の、理解・享受・再生といった、つながりを理解する。
古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
可能な限り教室での対面式の授業での現代語訳付のテキストを使つての講義形式。
現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。
また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。
受け身でない、授業参加姿勢を期待する。
学習支援システムを使つてのまとめ資料などの配布や、質問受付なども、必要に応じて行っていけたらと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	導入 日本神話とは。	古事記の成立経緯から、時代背景など。
2	創世神話1 大地の誕生のイメージ	物事の始まりを昔の人々はどう考えたのか。
3	創世神話2 古事記と日本書紀の違い	多様な始源のイメージの存在と、古事記の特性を考える。
4	イザナギ・イザナミ1 国生み神話	出産という形の、人間的な神の誕生。
5	イザナギ・イザナミ2 黄泉の国訪問と永遠の別れ	死の認識とイメージ。葬儀の風習とのかかわり

6	アマテラスとスサノヲ1 禊により生まれた神とは。	太陽神の姉と風の神の弟の対立。
7	アマテラスとスサノヲ2 天の岩戸神話を中心に	天変地異の理解と地上への追放（天の神地の神の関係性）
8	出雲神話1 八俣の大蛇	災害のイメージとマレビト神
9	出雲神話2 オオクニヌシ1 因幡の白兔を中心に考える	因幡の白兔 末子相続のイメージと、共同体同士の関係
10	出雲神話3 オオクニヌシ2 根の国とは何か	異界・黄泉の国との関係。妻の力。
11	アマテラスから地上へ くりかえされる失敗の意味するもの	天の神と地の神の関係からヤマト朝廷の支配の姿。
12	オオクニヌシの国譲りの意味するもの	支配者の変遷のイメージ 出雲神話から大和の神話へつながり
13	天孫降臨とは何か	古事記の今との関係性。政治と神事との関係性とは。
14	試験・日本神話のまとめと解説	神とはどのようなものだったか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習としては、
①身近なまたは有名な神社の祭神について興味をもつ。
②自然と人間とのかかわり方を考える。
③伝統的な年中行事の由来興味を持つ。
④6世紀から8世紀の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておく。
⑤ギリシャ神話など多神教の神話や神話的ファンタジー小説（「ゲド戦記」「指輪物語など」）を読む。
などを、予習・復習としてしておくことで、古事記の神話理解につながる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
角川文庫「新版 古事記 現代語訳付き」

【参考書】
講談社学術文庫「全訳注古事記 上巻」次田真幸
講談社学術文庫「全訳注古事記 中巻」次田真幸
講談社学術文庫「全訳注古事記 下巻」次田真幸
岩波文庫「古事記の世界」西郷信綱
徳間文庫「空色勾玉」荻原規子
高校時代の日本史の年表
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に発表した問題(3問から1問選択)についてのテスト(持ち込み可)を行う。
このテストが評価のほぼ100パーセント。
毎回出席をとり、50パーセント以上(7回以上)の出席をテスト受験資格とする。
評価のポイントは、
①設定された問題テーマについて古事記の文章の具体的読解をふまえて自分なりに考察し、それが論理的にの論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているか。
②古典文学と現代とのかかわり、自然と人間とのかかわりへの思考・理解がなされているかとなる。

【学生の意見等からの気づき】
文学作品という関係上、授業計画どおりに作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。テーマが時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
また、ディスカッションとはいかなくても、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

数回、小テストというほどでないが、設問を出し、その回答に対して振り返りを行うことで、理解度が上がるということが、昨年のオンライン授業で経験したので、そうしたこともとり入れていきたい

【Outline (in English)】

●Outline and objectives

By reading the part of the Kojiki that deals with the age of the gods, one can grasp the relationship between the Japanese people and the gods, their view of nature, their imagination regarding origins, and the social systems of the time, while also understanding and enjoying the literary endeavor that expresses these themes.

●Work to be done outside of class

As for learning outside of class hours, ① take an interest in the deities of nearby or famous shrines. ② Consider the relationship between nature and humans. ③ Take an interest in the origins of traditional annual events. ④ Review Japanese history from the 6th to 8th century at a high school level. ⑤ Read polytheistic myths and mythological fantasy novels such as Greek mythology, 'A Wizard of Earthsea,' and 'The Lord of the Rings.' By doing these as preparation and review, it will lead to a better understanding of the myths in the 'Nihon Shoki.' The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

●Grading criteria

At the end of the semester, a test will be conducted on the problems announced in advance (choose one from three) which allows for reference materials. This test accounts for almost 100 percent of the evaluation. Attendance will be taken each time, and a minimum attendance of 50 percent (at least 7 times) is required to qualify for the test. The evaluation points are: 1) Whether the student has considered the specific reading of the text from the Kojiki based on the set problem theme, and whether it is logically articulated and expressed in a way that is easy for others to read. 2) Whether there is thought and understanding regarding the relationship between classical literature and modern times, as well as the relationship between nature and humanity.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本古典文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：人間の時代の古事記から物語の始まりを考える

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古事記」の人間の時代に入ってから部分を読む。

神話を背景に描かれた、人間の物語を、ヤマトタケルやサホビメを中心に読み解き、現代のファンタジーにも影響を与える古事記の魅力を考える。

【到達目標】

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。

文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することにより深まる作品理解・享受という2面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本は教室での対面授業を想定している。

現代語訳付のテキストを使っての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関するディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

学習支援支援システムを使っての、質問受付や、理解確認のための設問、まとめ資料の配布なども考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・背景の説明	作品理解のための時代・制度等の背景説明
第2回	海幸山幸	神の時代から人の時代へ 他界からの助力による権力者の誕生。
第3回	神武天皇1 東征の意味	東に進むメリットはあるのかを考える
第4回	神武天皇2 神婚説話	神と権力の関係性。女性のもつ力を考える。
第5回	サホビメ・サホビコ1 兄・妹の絆	家族制度のせめぎあい。 一夫多妻制における夫と妻と兄と妹の関係性
第6回	サホビメ・サホビコ2 妹と妻と母、女性の姿	サホビメの変化・成長を読み取る
第7回	常世の国伝説	永遠へのあこがれと死

第8回	ヤマトタケル1 西征	さまざまな形で勝ち続ける英雄の姿
第9回	ヤマトタケル2 東征	戦う意味や心の支えを求めて苦悩する英雄の姿。
第10回	ヤマトタケル3 英雄の終焉	英雄とはなにか。王権との関係性。 日本書紀のヤマトタケルとの比較。
第11回	風土記のヤマトタケルと「白鳥異伝」	現代のファンタジーとの関わり。古典の享受から生み出される現代の作品。現代にも生きる古典の意味。
第12回	神功皇后という存在はなにか	古事記の今との関わり。持統天皇との比較
第13回	古事記下巻や万葉集にみられるヤマトヒメと天皇の恋と妻間	天皇の恋と王権の関わり、天皇や皇后へのワイドショーの興味が生み出すもの
第14回	まとめと解説・レポート提出	古事記における人間の時代とは。下巻の終末と「古事記の今」との関わり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習としては、

①6世紀から8世紀の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておく。

②古事記の人物理解のために、ギリシャ神話やファンタジー小説（「ゲド戦記」「指輪物語」、萩原規子、上橋菜穂子のファンタジー作品など）を読む

などが、準備・予習・復習となる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

角川文庫「新版 古事記 現代語訳付き」

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注 古事記 上巻」次田真幸

講談社学術文庫「全訳注 古事記 中巻」次田真幸

講談社学術文庫「全訳注 古事記 下巻」次田真幸

岩波文庫「古事記の世界」西郷信綱

徳間文庫「白鳥異伝」萩原規子

高校時代の日本史の年表などの資料

その他必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

古事記中巻についての学期末のレポート、4000字相当が評価の100%となる。

毎時間とする出席の半分以上(7回以上)の出席がレポート提出資格となる。

評価のポイントとしては、

①古事記中巻について、適切に問題を設定できているか

②作品の具体的な読解が、知識をふまえて適切になされたうえで、それにより自らの考えを論理的に他者にわかりやすい文章で述べられているか。

③古典文学と現代とのかかわりについてや、文学作品を通して人間理解が深まっているか
が重要な評価基準となる

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。

数回、小テストというほどでないが、設問を出し、その回答に対して振り返りを行うことで、理解度が上がるということが、昨年のオンライン授業で経験したので、そうしたこともとり入れていきたい。

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ、進めていく。

また、ディスカッションとはいかなくても、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

Read the part of "Kojiki" from the beginning of the human era. We will read the human story drawn against the background of myths, focusing on Yamato Takeru and Sahobime, and think about the charm of Kojiki, which also affects modern fantasy.

As for learning outside of class hours, 1) review Japanese history from the 6th to 8th centuries at a high school level. 2) Read Greek mythology and fantasy novels (such as 'A Wizard of Earthsea', 'The Lord of the Rings', and fantasy works by Noriko Ogiwara and Nahoko Uehashi) to understand the characters in the 'Nihon Shoki'. These will serve as preparation, preview, and review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

The final report on the middle volume of the Kojiki, equivalent to 4000 words, will account for 100% of the evaluation. Attendance of more than half of the classes (7 times or more) is required to qualify for report submission. The evaluation points are as follows: 1) Whether appropriate questions can be set regarding the middle volume of the Kojiki; 2) Whether the specific reading of the work is conducted appropriately based on knowledge, and whether one's own thoughts are expressed in a logical and understandable manner to others; 3) Whether there is an understanding of the relationship between classical literature and modern times, and whether understanding of humanity has deepened through literary works.

LIT100LA（文学 / Literature 100）

日本古典文学 A2017年度以降入学者

サブタイトル：古事記の神話を読む

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「古事記」から日本の神話を読む。
古事記の上巻の神代の部分を読むことから、日本人と神とのかかわり、自然観、始源に対するイメージ、当時の社会制度といったものを読み取るとともに、それらを表現した文学としての営みを理解し、享受する。

【到達目標】
神話の文学作品としての価値を理解する。
現代の日本社会、日本人にも通じる神・自然との関わりが古代からつながるものであることを理解する。
また他の地域の神話と比較することで始源や自然、人間以上の存在のイメージが、共通するものであることなどを理解する。
神話が現代のファンタジーを生み出す温床となっていることから、文学作品の、理解・享受・再生といった、つながりを理解する。
古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
可能な限り教室での対面式の授業での現代語訳付のテキストを使つての講義形式。
現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。
また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。
受け身でない、授業参加姿勢を期待する。
学習支援システムを使つてのまとめ資料などの配布や、質問受付なども、必要に応じて行っていけたらと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	導入 日本神話とは。	古事記の成立経緯から、時代背景など。
2	創世神話1 大地の誕生のイメージ	物事の始まりを昔の人々はどう考えたのか。
3	創世神話2 古事記と日本書紀の違い	多様な始源のイメージの存在と、古事記の特性を考える。
4	イザナギ・イザナミ1 国生み神話	出産という形の、人間的な神の誕生。
5	イザナギ・イザナミ2 黄泉の国訪問と永遠の別れ	死の認識とイメージ。葬儀の風習とのかかわり

6	アマテラスとスサノヲ1 禊により生まれた神とは。	太陽神の姉と風の神の弟の対立。
7	アマテラスとスサノヲ2 天の岩戸神話を中心に	天変地異の理解と地上への追放（天の神地の神の関係性）
8	出雲神話1 八咫の大蛇	災害のイメージとマレビト神
9	出雲神話2 オオクニヌシ1 因幡の白兔を中心に考える	因幡の白兔 末子相続のイメージと、共同体同士の関係
10	出雲神話3 オオクニヌシ2 根の国とは何か	異界・黄泉の国との関係。妻の力。
11	アマテラスから地上へ くりかえされる失敗の意味するもの	天の神と地の神の関係からヤマト朝廷の支配の姿。
12	オオクニヌシの国譲りの意味するもの	支配者の変遷のイメージ 出雲神話から大和の神話へつながり
13	天孫降臨とは何か	古事記の今との関係性。政治と神事との関係性とは。
14	試験・日本神話のまとめと解説	神とはどのようなものだったか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習としては、
①身近なまたは有名な神社の祭神について興味をもつ。
②自然と人間とのかかわり方を考える。
③伝統的な年中行事の由来興味を持つ。
④6世紀から8世紀の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておく。
⑤ギリシャ神話など多神教の神話や神話的ファンタジー小説（「ゲド戦記」「指輪物語など」）を読む。
などを、予習・復習としてしておくことで、古事記の神話理解につながる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
角川文庫「新版 古事記 現代語訳付き」

【参考書】
講談社学術文庫「全訳注古事記 上巻」次田真幸
講談社学術文庫「全訳注古事記 中巻」次田真幸
講談社学術文庫「全訳注古事記 下巻」次田真幸
岩波文庫「古事記の世界」西郷信綱
徳間文庫「空色勾玉」荻原規子
高校時代の日本史の年表
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に発表した問題(3問から1問選択)についてのテスト(持ち込み可)を行う。
このテストが評価のほぼ100パーセント。
毎回出席をとり、50パーセント以上(7回以上)の出席をテスト受験資格とする。
評価のポイントは、
①設定された問題テーマについて古事記の文章の具体的読解をふまえて自分なりに考察し、それが論理的にの論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているか。
②古典文学と現代とのかかわり、自然と人間とのかかわりへの思考・理解がなされているかとなる。

【学生の意見等からの気づき】
文学作品という関係上、授業計画どおりに作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。テーマが時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
また、ディスカッションとはいかなくても、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

数回、小テストというほどでないが、設問を出し、その回答に対して振り返りを行うことで、理解度が上がるということが、昨年のオンライン授業で経験したので、そうしたこともとり入れていきたい

【Outline (in English)】

●Outline and objectives

By reading the part of the Kojiki that deals with the age of the gods, one can grasp the relationship between the Japanese people and the gods, their view of nature, their imagination regarding origins, and the social systems of the time, while also understanding and enjoying the literary endeavor that expresses these themes.

●Work to be done outside of class

As for learning outside of class hours, ① take an interest in the deities of nearby or famous shrines. ② Consider the relationship between nature and humans. ③ Take an interest in the origins of traditional annual events. ④ Review Japanese history from the 6th to 8th century at a high school level. ⑤ Read polytheistic myths and mythological fantasy novels such as Greek mythology, 'A Wizard of Earthsea,' and 'The Lord of the Rings.' By doing these as preparation and review, it will lead to a better understanding of the myths in the 'Nihon Shoki.' The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

●Grading criteria

At the end of the semester, a test will be conducted on the problems announced in advance (choose one from three) which allows for reference materials. This test accounts for almost 100 percent of the evaluation. Attendance will be taken each time, and a minimum attendance of 50 percent (at least 7 times) is required to qualify for the test. The evaluation points are: 1) Whether the student has considered the specific reading of the text from the Kojiki based on the set problem theme, and whether it is logically articulated and expressed in a way that is easy for others to read. 2) Whether there is thought and understanding regarding the relationship between classical literature and modern times, as well as the relationship between nature and humanity.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本古典文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：人間の時代の古事記から物語の始まりを考える

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古事記」の人間の時代に入ってから部分を読む。
神話を背景に描かれた、人間の物語を、ヤマトタケルやサホビメを中心に読み解き、現代のファンタジーにも影響を与える古事記の魅力を考える。

【到達目標】

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。
文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。
文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することにより深まる作品理解・享受という2面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本は教室での対面授業を想定している。
現代語訳付のテキストを使っての講義形式。
現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。
また、人数にもよるが、読解に関するディスカッション、意見交換などもできたいと考えている。
学習支援支援システムを使っての、質問受付や、理解確認のための設問、まとめ資料の配布なども考えている。
受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・背景の説明	作品理解のための時代・制度等の背景説明
第2回	海幸山幸	神の時代から人の時代へ 他界からの助力による権力者の誕生。
第3回	神武天皇1 東征の意味	東に進むメリットはあるのかを考える
第4回	神武天皇2 神婚説話	神と権力の関係性。女性のもつ力を考える。
第5回	サホビメ・サホビコ1 兄・妹の絆	家族制度のせめぎあい。 一夫多妻制における夫と妻と兄と妹の関係性
第6回	サホビメ・サホビコ2 妹と妻と母、女性の姿	サホビメの変化・成長を読み取る
第7回	常世の国伝説	永遠へのあこがれと死

第8回	ヤマトタケル1 西征	さまざまな形で勝ち続ける英雄の姿
第9回	ヤマトタケル2 東征	戦う意味や心の支えを求めて苦悩する英雄の姿。
第10回	ヤマトタケル3 英雄の終焉	英雄とはなにか。王権との関係性。 日本書紀のヤマトタケルとの比較。
第11回	風土記のヤマトタケルと「白鳥異伝」	現代のファンタジーとの関わり。 古典の享受から生み出される現代の作品。現代にも生きる古典の意味。
第12回	神功皇后という存在はなにか	古事記の今との関わり。 持統天皇との比較
第13回	古事記下巻や万葉集にみられるヤマトヒメと天皇の恋と妻間	天皇の恋と王権の関わり、天皇や皇后へのワイドショーの興味が生み出すもの
第14回	まとめと解説・レポート提出	古事記における人間の時代とは。 下巻の終末と「古事記の今」との関わり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習としては、
①6世紀から8世紀の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておく。
②古事記の人物理解のために、ギリシャ神話やファンタジー小説（「ゲド戦記」「指輪物語」、萩原規子、上橋菜穂子のファンタジー作品など）を読む
などが、準備・予習・復習となる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

角川文庫「新版 古事記 現代語訳付き」

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注 古事記 上巻」次田真幸
講談社学術文庫「全訳注 古事記 中巻」次田真幸
講談社学術文庫「全訳注 古事記 下巻」次田真幸
岩波文庫「古事記の世界」西郷信綱
徳間文庫「白鳥異伝」萩原規子
高校時代の日本史の年表などの資料
その他必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

古事記中巻についての学期末のレポート、4000字相当が評価の100%となる。
毎時間とする出席の半分以上(7回以上)の出席がレポート提出資格となる。
評価のポイントとしては、
①古事記中巻について、適切に問題を設定できているか
②作品の具体的な読解が、知識をふまえて適切になされたうえで、それにより自らの考えを論理的に他者にわかりやすい文章で述べられているか。
③古典文学と現代とのかかわりについてや、文学作品を通して人間理解が深まっているか
が重要な評価基準となる

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。
数回、小テストというほどでないが、設問を出し、その回答に対して振り返りを行うことで、理解度が上がるということが、昨年のオンライン授業で経験したので、そうしたこともとり入れていきたい。
文学作品という関係上、作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ、進めていく。
また、ディスカッションとはいかなくても、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

Read the part of "Kojiki" from the beginning of the human era. We will read the human story drawn against the background of myths, focusing on Yamato Takeru and Sahobime, and think about the charm of Kojiki, which also affects modern fantasy.

As for learning outside of class hours, 1) review Japanese history from the 6th to 8th centuries at a high school level. 2) Read Greek mythology and fantasy novels (such as 'A Wizard of Earthsea', 'The Lord of the Rings', and fantasy works by Noriko Ogiwara and Nahoko Uehashi) to understand the characters in the 'Nihon Shoki'. These will serve as preparation, preview, and review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

The final report on the middle volume of the Kojiki, equivalent to 4000 words, will account for 100% of the evaluation. Attendance of more than half of the classes (7 times or more) is required to qualify for report submission. The evaluation points are as follows: 1) Whether appropriate questions can be set regarding the middle volume of the Kojiki; 2) Whether the specific reading of the work is conducted appropriately based on knowledge, and whether one's own thoughts are expressed in a logical and understandable manner to others; 3) Whether there is an understanding of the relationship between classical literature and modern times, and whether understanding of humanity has deepened through literary works.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本近・現代文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：恐怖と不安から読む近代文学史

細沼 祐介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代の文学を「恐怖」や「不安」という感情をテーマに読み解いていきます。

これらの感情はネガティブなものです、それだけに人間の根源に根差したものであり、直感的な違和感の表明に他なりません。

近現代の作家たちがどのような「恐怖」や「不安」を感じ、それを作品で表現したかを通じて、近現代という激動の時代の特異性について考察していきます。

なお、この講義はあくまでも著名な作品に表現された「恐怖」や「不安」をテーマにするものであり、いわゆるホラー作品を主眼としたものではないことに注意してください。

【到達目標】

- ①「恐怖」や「不安」などの感情の概略や機能を知る
- ②それらが近現代の文学作品にどのように表現されているかを読み解く
- ③作品読解を通じて近現代という時代区分の特徴を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各テーマごとに三時間を割り、様々な文学作品を紹介しながら全体に迫っていきます。

講義内では各作品の概要やあらすじについても解説しますが、可能な限り自身で読み、作家たちの味わった「恐怖」や「不安」を自身の身体で体感してみてください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「恐怖」と「不安」の哲学概論
第2回	「近代化する社会」へ	消滅していく前近代の恐怖と不安①
第3回	「近代化する社会」へ	功利主義の功罪の恐怖と不安②
第4回	「近代化する社会」へ	かくあらねばならない社会の恐怖と不安③
第5回	「分断された個」であ	「私」
第6回	「分断された個」であ	「近代的自我」について
		ることへの恐怖と不安①
		「分断された個」であ
		捏造されていく内面
		ることへの恐怖と不安②

第7回 「分断された個」であ 「自由」であることの代償することへの恐怖と不安③

第8回 「私の知らない私」へ 「自意識」の誕生の恐怖と不安①

第9回 「私の知らない私」へ 「私」に連なる無数の「私」の恐怖と不安②

第10回 「私の知らない私」へ 才能という呪縛の恐怖と不安③

第11回 「主義」への恐怖と不安 ① 道具としての「主義」

第12回 「主義」への恐怖と不安 ② 社会運動の暴走

第13回 「主義」への恐怖と不安 ③ 全体主義の浸食

第14回 総括 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、紹介した作品を可能な限り読んでおきましょう。作品は実際に鑑賞してこそです。よって本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とし、復習時間としての読書に多くを割くことが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

講義内で適宜紹介する作品を読んでください。

前提として文学史の一般的な概略を学べるものとしては、

安藤宏『日本近代小説史』（中公選書、2015年）

がおすすめです。

【成績評価の方法と基準】

平常点5割、期末レポート5割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

成績に反映する以上、リアクションペーパーは毎授業ごとにかんりの文字数のものを要求するので、覚悟しておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

大人数講義のため、私語をする学生が時折発生し、大変邪魔です。都度注意を行います、今後厳重なペナルティも考えていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

関連した内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

また、初回はオンデマンド形式での実施とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces modern literature through the emotions of "fear" and "anxiety."

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding how 'fear' and 'anxiety' are expressed in modern literature.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本近・現代文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：恐怖と不安から読む近代文学史

細沼 祐介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代の文学を「恐怖」や「不安」という感情をテーマに読み解いていきます。

これらの感情はネガティブなものです、それだけに人間の根源に根差したものであり、直感的な違和感の表明に他なりません。

近現代の作家たちがどのような「恐怖」や「不安」を感じ、それを作品で表現したかを通じて、近現代という激動の時代の特異性について考察していきます。

なお、この講義はあくまでも著名な作品に表現された「恐怖」や「不安」をテーマにするものであり、いわゆるホラー作品を主眼としたものではないことに注意してください。

「日本近・現代文学A」に引き続き戦後を主として扱います。

【到達目標】

- ①「恐怖」や「不安」などの感情の概略や機能を知る
- ②それらが近現代の文学作品にどのように表現されているかを読み解く
- ③作品読解を通じて近現代という時代区分の特徴を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各テーマごとに三時間を割り、様々な文学作品を紹介しながら全体に迫っていきます。

講義内では各作品の概要やあらすじについても解説しますが、可能な限り自身で読み、作家たちの味わった「恐怖」や「不安」を自身の身体で体感してみてください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「恐怖」と「不安」についての復習
第2回	「戦争」の恐怖と不安①	戦場の絶望
第3回	「戦争」の恐怖と不安②	圧倒的な暴力と開放
第4回	「戦争」の恐怖と不安③	埋没する個人の死
第5回	「間に合わなかったこと」への恐怖と不安①	「戦後」への失望

第6回	「間に合わなかったこと」への恐怖と不安②	贖罪意識の行方
第7回	「間に合わなかったこと」への恐怖と不安③	「死にぞびれる」こと
第8回	「物語の喪失」への恐怖と不安①	「大きなもの」の欠如感
第9回	「物語の喪失」への恐怖と不安②	仮構される「物語」たち
第10回	「物語の喪失」への恐怖と不安③	「物語」の拡散と縮小
第11回	「拡大していく他者」への恐怖と不安①	隠されていく「私」と「あなた」
第12回	「拡大していく他者」への恐怖と不安②	外面と内面のズレ、および認識の難しさ
第13回	「拡大していく他者」への恐怖と不安③	SNS時代の「他者」像
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、紹介した作品を可能な限り読んでおきましょう。作品は実際に鑑賞してこそです。よって本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とし、復習時間としての読書に多くを割くことが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

講義内で適宜紹介する作品を読んでください。

前提として文学史の一般的な概略を学べるものとしては、

安藤宏『日本近代小説史』（中公選書、2015年）

がおすすめです。

【成績評価の方法と基準】

平常点5割、期末レポート5割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

成績に反映する以上、リアクションペーパーは毎授業ごとにかなりの文字数のものを要求するので、覚悟しておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

大人数講義のため、私語をする学生が時折発生し、大変邪魔です。都度注意を行います、今後厳重なペナルティも考えていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

関連した内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

また、初回はオンデマンド形式での実施としますのでご注意ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces modern literature through the emotions of "fear" and "anxiety."

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding how 'fear' and 'anxiety' are expressed in modern literature.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

島田 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「現代国語」を越え、文学作品を能動的かつ創造的に読む。主に日本の近現代小説に秘められた欲望を掘り起こす。多様な作品解釈に向けて、誤読の自由も行使する。神話、日本語、カネ、恋愛、戦争、テクノロジーなどのテーマに基づき、漱石、一葉、谷崎、戦後文学などを読み解く。

【到達目標】

日本近代文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式で話す。が、随時、資料を提示するので、それについての小レポートを提出してもらう。それについての講評は授業内で行う。履修者からの質問も受け付けるが、個別に答えるのではなく、次の授業の初めに補足コメントの形で答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文学とはどんな営みか？	神話と文学をつなぐもの。魅惑の日本古典。
2	近代文学概論	江戸と明治の断絶。近代文学事始。
3	お金の話 漱石を読む1	コトバかカネか？『こころ』の自由な読み方。誤読のススメ。
4	写生文について 漱石を読む2	明治の散文理論 描写について
5	樋口一葉を読む	少女文学の元祖 言文一致とは別の散文のあり方
6	快楽の活用 谷崎論	官能の哲学 もてない男の栄光
7	性的人間	さまざまな愛の形 同性愛 ロリコン フェティッシュ
8	日本論と日本人論	「武士道」、「日本風景論」、「茶の本」を読む。
9	戦争に負けるということ	大岡昇平『野火』、『武蔵野夫人』を読む。

10	戦後の文学	戦争文学 占領文学 坂口安吾の認識。敗戦と焼跡の想像力。
11	小説と“場所”	上京小説 よそ者の視点 芥川『歯車』を読む。可能性、パレルワールド。
12	空っぽな心	三島由紀夫という逆説。川端という曖昧。
13	現代文学と世相	近頃巷で流行るもの 経済と文学。安部公房、大江健三郎を読む。
14	まとめと質疑応答	これまでの質問、コメントに対する回答と論評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予告した本や資料を読んで授業に臨めば、3 倍楽しめる。本授業の準備、復習時間は提示した資料を読むのに必要な時間である。授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『深読み日本文学』 島田雅彦 集英社インターナショナル新書2018

『小説作法ABC』 島田雅彦 新潮選書 2008

『小説作法XYZ』 島田雅彦 新潮選書 2022

【参考書】

『必読150』太田出版

それ以外は随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を行う。質疑や討論への参加も平常点として評価されよう。評価基準は選択式試験80%、平常点20%とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Beyond the "Gendai kokugo(contemporary Japanese)" we read literary works actively and creatively. We primarily focus to discover the hidden desires in Japanese contemporary novels. We also exercise freedom of misreading for interpretation of various works. Based on themes such as myths, languages money, romance, war, technology, we will read about Soseki, Ichiyo, Tanizaki, postwar literature etc.Out-of-class learning requires regular preparation and review.Submit a report. Participation in questions and discussions will also be evaluated as a normal point. The evaluation criteria are 80%for multiple-choice test and 20%for the normal score.The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

LIT100LA（文学 / Literature 100）		
日本文学B		2017年度以降入学者
サブタイトル：		
島田 雅彦		
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 曜日・時限：火2/Tue.2 単位数：2単位 この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド（ https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/ ）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。 その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 「世界文学」のエポックメイキングな作品を能動的かつ創造的に読む。神話、言語、恋愛、交易、テクノロジーなどのテーマに基づき、履修者諸君には主に日本で広く、長く読まれて来た西洋古典の必読書と向き合い、世界史の中の文学の役割を認識してもらう。		
【到達目標】 世界文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテクストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【授業の進め方と方法】 原則として講義形式で話すが、随時、資料を提示するので、それについての小レポートを提出してもらう。それについての講評は授業内で行う。履修者からの質問も受け付けるが、個別に答えるのではなく、次の授業の初めに補足コメントの形で答えを提示する。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	夢見る力	神話の時代 口承文学
2	古代の英雄	「オイディプス王」を読む
3	聖書の虚実	政治、宗教というフィクション モーゼと一神教 イエスという男
4	恋愛の誕生	『神曲』を読む
5	ゲーテンベルク以後	出版文化の萌芽 大量複製時代 ルネッサンスとは？
6	大航海時代	転換期の知性 交易と文学
7	宣教と棄教	East Meets West 日本におけるキリスト教布教の歴史
8	小説というジャンル	資本主義と小説 ドン・キホーテ ガリヴァー旅行記
9	対話について	ドストエフスキー論
10	パロディ文学論	ジョイスとナボコフ 現代亡命文学事情
11	映画と文学	小説から劇映画へ 映像化された古典
12	政治と文学	物語と歴史のはざま ナショナルリズムというフィクション 想像の共同体
13	テクノロジーと文学	世界の終わり パラレルワールド 時間の彼方 SFの想像力
14	授業内試験か質疑応答	授業内試験ができない場合はレポート。この時間はまとめと質疑応答にあてる。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 予告した本や資料を読んで授業に臨めば、3 倍楽しめる。本授業の準備、復習時間は提示した資料を読むのに必要な時間である。授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各2 時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】 『小説作法ABC』 島田雅彦著 新潮選書 2009		
【参考書】 『深読み日本文学』 島田雅彦 集英社インターナショナル新書 2018 『小説作法ABC』 島田雅彦 新潮選書 2008 『小説作法XYZ』 島田雅彦 新潮選書 2022		
【成績評価の方法と基準】 筆記試験を行う。質疑や討論への積極的な参加もまた評価されよう。評価基準は選択式試験 80 %、平常点 20 %とする。		
【学生の意見等からの気づき】 特になし		
【Outline (in English)】 Active and creative reading of epoch-making works of "World Literature". Based on themes such as myths, languages, romance, trade, technology, etc., Students face the must-read books of the Western classics, which have been read widely in Japan recognizing the role of literature in world history.Out-of-class learning requires regular preparation and review.Submit a report. Participation in questions and discussions will also be evaluated as a normal point. The evaluation criteria are 80%for multiple-choice test and 20%for the normal score.The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.		

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：新戯作派（無頼派）の文学を読む

関口 雄士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、敗戦後間もない時期に広く読まれた、文学史的に「新戯作派（無頼派）」と呼ばれる区分の文学作品を読むことによって、世界が大きく転変する状況において文学が表現したものを探っていくことを目的とします。

具体的には「新戯作派（無頼派）」と呼ばれる区分の代表的作家である太宰治・坂口安吾・織田作之助・石川淳の文学を扱います。各作家の生涯を概観したうえで、戦中と戦後の小説・評論を取りあげ、それらを精読することを通じて各作家と作品の特質について受講者に考えてもらうことで、授業目的の達成を目指していきます。

【到達目標】

それぞれの作家の文学的特質を把握したうえで、扱った作品の主題や表現方法について受講者自身の評価を下すことを到達目標とします。

- ①テキストに書かれている内容を正確に読みとること。
- ②読みとった内容をもとに自分なりの観点をもつこと。
- ③自分なりの観点を明確・具体的なものとし、学術的文章の形式を意識しつつ、他者に伝わるように表現できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各作家3コマで「人物」「戦中の作品」「戦後の作品」を講義します。「人物」についてはスライドを使って解説します。受講者がそれぞれメモを取り、後の作品理解につなげてください。「作品」については作品を精読していきながら〈読み〉のポイントとなる点を確かめていきます。そのうえで、当該作品に関連する参考資料の紹介・解説を通して理解を深めてもらいます。各授業の後半には、質問や感想を書いてもらいます。そこで書いてもらった内容について、次回の授業の導入でフィードバックをおこなうことによって、前回の授業内容の理解をさらに深められるような、双方向性のある授業をおこないたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容と新戯作派（無頼派）についての基礎知識を確認する。
第2回	太宰治の文学①	太宰治の紹介。
第3回	太宰治の文学②	太宰治の戦中の作品を読む。
第4回	太宰治の文学③	太宰治の戦後の作品を読む。
第5回	坂口安吾の文学①	坂口安吾の紹介。
第6回	坂口安吾の文学②	坂口安吾の戦中の作品を読む。
第7回	坂口安吾の文学③	坂口安吾の戦後の作品を読む。
第8回	織田作之助の文学①	織田作之助の紹介。
第9回	織田作之助の文学②	織田作之助の戦中の作品を読む。
第10回	織田作之助の文学③	織田作之助の戦後の作品を読む。
第11回	石川淳の文学①	石川淳の紹介。
第12回	石川淳の文学②	石川淳の戦中の作品を読む。
第13回	石川淳の文学③	石川淳の戦後の作品を読む。
第14回	まとめ	質疑応答と授業内容の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業であつかう4人の作品を、できるだけ事前に読んでおくことが望ましいです。1人につき少なくとも1作品は読んで、自分なりの印象を持ったうえで受講してください。あわせて授業後に、あらかじめ読んでおいた作品を授業で学んだことを踏まえて再読したり、授業であつかわなかった作品にも眼をとおして、さらに自分なりのイメージを深めてください。

【テキスト（教科書）】

扱う作品は以下の予定です。

太宰治「散華」「未帰還の友に」「如是我聞」

坂口安吾「真珠」「墮落論」「罌堂小論」

織田作之助「夫婦善哉」「世相」「可能性の文学」

石川淳「マルスの歌」「焼跡のイエス」

授業で講読するためのテキストは初回授業までに学習支援システムで配布する予定です。

【参考書】

あらかじめ作品を読むにあたって、本選に迷った場合は、筑摩書房から刊行されている「ちくま日本文学」シリーズの太宰治（008）・坂口安吾（009）・織田作之助（035）それぞれの巻を読むのが最も便利です。ただし、石川淳だけは旧版の「ちくま日本文学全集11」しかなく、現在は新刊で入手できません。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

期末レポート：50%

平常点はリアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当のため、ありません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付や課題提出に学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to explore what literature expressed in a situation of great change in the world by reading the literary works of the “Shingisakuha(Buraiha)” in the history of literature, which were widely read in the period immediately after the end of World War II.

Specifically, the course will focus on the literature of Osamu Dazai, Ango Sakaguchi, Sakunosuke Oda, and Jun Ishikawa, who are representative writers of the “Shingisakuha(Buraiha)”. After an overview of each writer's life, the course will select novel and essay each from the wartime and postwar periods, and have students consider the characteristics of each writer and their works through close reading, with the aim of achieving the course objectives.

【Learning Objectives】

The goal of this course is for students to grasp the literary characteristics of each author and then make their own evaluation of the themes and methods of expression of the works they have studied.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

It is advisable to read as many of the works by the four authors that will be covered in class in advance as possible. Please read at least one work by each author and form your own impression before attending the class. After class, please re-read the works you have read in advance based on what you have learned in class, or read at works not covered in class to further develop your own image of the works.

【Grading Criteria /Policy】

Regular grades: 50%

Final report: 50%

Regular grades will be determined by the content of the reaction paper.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：国語教科書の小説を精読する

関口 雄士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では教科書に採録されている日本近現代小説を精読することを通して、文学作品を〈読む〉楽しみを学んでいきます。とはいえ、ただ単に自由な〈読み〉を展開するだけではまとまりがつかなくなってしまうし、そもそものように〈読み〉をおこなえばいいのかわからないということもあると思います。そこで、土台となる部分を一緒にたしかめ、その作品が今までにどのように受容・解釈をされてきたかを学ぶことによって、文学作品を〈読む〉力の基礎をつけることを、この授業の目的とします。

【到達目標】

扱った作品について基礎的な事項（成立過程・文学史的位置づけ・主題・表現的特色）を正確に把握したうえで、受講者自身の〈読み〉を提示することを到達目標とします。

- ①テキストの背景を理解し、書かれている内容を正確に読みとること。
- ②読みとった内容をもとに自分なりの観点をもつこと。
- ③自分なりの観点を明確・具体的なものとし、学術的文章の形式を意識しつつ、他者に伝わるように表現できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各作品2コマを使って講義します。

前半では作品に関する基礎的な事項を解説し、概略を共有します。後半では細部に着目した〈読み〉（精読）をおこないます。あわせて研究史の解説もおこないます。

各授業ごとに質問・感想を書いてもらいます。

そこで書いてもらった内容について、次の授業の導入でフィードバックをおこなうことによって、前回の授業内容の理解をさらに深められるような、双方向性のある授業をおこないたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の詳細な説明。
第2回	芥川龍之介「羅生門」①	作品の基礎的事項の共有・解説。
第3回	芥川龍之介「羅生門」②	作品の精読と研究史の解説。
第4回	志賀直哉「城の崎にて」①	作品の基礎的事項の共有・解説。
第5回	志賀直哉「城の崎にて」②	作品の精読と研究史の解説。
第6回	井伏鱒二「山椒魚」①	作品の基礎的事項の共有・解説。
第7回	井伏鱒二「山椒魚」②	作品の精読と研究史の解説。
第8回	太宰治「水仙」①	作品の基礎的事項の共有・解説。
第9回	太宰治「水仙」②	作品の精読と研究史の解説。
第10回	安部公房「赤い蔭」①	作品の基礎的事項の共有・解説。
第11回	安部公房「赤い蔭」②	作品の精読と研究史の解説。
第12回	石川淳「アルプスの少女」①	作品の基礎的事項の共有・解説。

第13回 石川淳「アルプスの少女」② 作品の精読と研究史の解説。

第14回 まとめ 質疑応答と授業内容の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業であつかう作品については、あらかじめ眼をとっておき、語句でわからないものなどはあらかじめ調べておきましょう。また、作品は繰り返し読むことが重要です。授業で読んでおしまいではなく、再読を必ずおこなうようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

授業で講読するためのテキストは初回授業までに学習支援システムで配布する予定です。

【参考書】

各作家についてイメージを浮かびやすくするためには「新潮日本文学アルバム」シリーズで該当作家の巻を読んでおくといでしょう。背景を理解するための日本近現代小説史についての書籍としては、一例として安藤宏『日本近代小説史（新装版）』（中央公論新社、2020年）を挙げておきます。その他、関連文献は授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

期末レポート：50%

平常点はリアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当のため、ありません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付や課題提出に学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn the pleasure of “reading” literary works through close reading of modern and contemporary Japanese novels included in the textbook.

However, simply developing a free “reading” will not lead to a cohesiveness, and that there will be times when students will not know how to “read” in the first place.

Therefore, the purpose of this class is to build a foundation for the ability to “read” literary works by checking the foundation of the work together and learning how the work has been accepted and interpreted in the past.

【Learning Objectives】

The goal of the course is for students to present their own “readings” based on an accurate understanding of the fundamentals of the works covered (process of formation, position in literary history, subject matter, and expressive features).

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Please read through the works to be covered in class in advance, and look up any vocabulary you do not understand.

It is also important to read the works repeatedly. Please be sure to re-read the works.

【Grading Criteria /Policy】

Regular grades: 50%

Final report: 50%

Regular grades will be determined by the content of the reaction paper.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

外国文学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「変身」

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローマ詩人オウィディウス『変身物語』から、カフカの『変身』とステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』など、変身をテーマにした作品は今も多く読者を惹き付けてやまない。授業ではヨーロッパ変身物語の異なる時代と異なる語圏の数例を取り上げながら、この題材を比較文学的な視点から論じる。

【到達目標】

- ・今日的な視点から「変身」の意義を捉え直すこと。
- ・「変身」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
- ・異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、毎回の課題の提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の紹介	授業の内容と進め方の説明 諸芸術モチーフとしての変身について
②	カフカ（1）	『変身』第一章を読む
③	カフカ（2）	カフカ『変身』第二章を読む
④	カフカ（3）	カフカ『変身』第三章を読む、 諸映画化の作品、コミック等との比較
⑤	オウィディウス（1）	変身物語「アラクネ」読解
⑥	オウィディウス（2）	変身物語「ダブネー」読解
⑦	オウィディウス（3）	変身物語「オルベウス」読解
⑧	グリム兄弟（1）	『兄と妹』読解
⑨	グリム兄弟（2）	『七羽のカラス』読解
⑩	ステューヴンソン（1）	『ジキル博士とハイド氏』（pp.1-16）読解、 諸映画との比較
⑪	ステューヴンソン（2）	『ジキル博士とハイド氏』（pp.17-34）読解、 諸映画との比較
⑫	ヘッセ	『ピクトルの変身』読解
⑬	プロイスラー	『クラバート』読解、 その映画、アニメとの比較
⑭	試験・まとめ	春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの当該箇所を読んでおくこと。
「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。」

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題達成度：60%

学期末試験：40%

欠席が全体の3分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学のPCやプリンター、WIFIを利用して下さい。

【Outline (in English)】

Literary works exploring the theme of transformation, from Ovid's *Metamorphoses* to Kafka's *Metamorphosis* until Stevenson's *Dr.Jekyll and Mr.Hyde*, are still attracting a lot of readers.

This class discusses this theme from a comparative point of view, taking several examples from different eras and different languages.

- ・ To recapture the meaning of "transformation" from a modern perspective.
- ・ To understand the ideological and cultural background of each era, using the motif of "transformation" as a clue.
- ・ Improve the ability to understand different cultures.

Reading the relevant part of the text in advance.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Grading will be decided based on worksheets (60%) and term-end examination (40%).

If more than one-third of the class is absent, it will not be considered for grade evaluation.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：映画化とともに読むヨーロッパ文学の名作

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ文学作品の映画化を取り上げ、原作の描写と映画の比較、そして映画の翻案について分析をします。

【到達目標】

- ・ヨーロッパ文学・映画・文化に対する関心や理解を深める。
- ・メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、毎回の課題の提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	扱う文学作品と映画の紹介
②	T. マン『ヴェネツィアに死す』総論	原作の通読、映画の視聴
③	原作『ヴェネツィアに死す』分析（1）	原作の指定箇所の熟読
④	原作『ヴェネツィアに死す』分析（2）	原作『ヴェネツィアに死す』(Chapters 1-3)分析
⑤	原作『ヴェネツィアに死す』分析（3）	原作『ヴェネツィアに死す』(Chapters 4-5)分析
⑥	映画化『ベニスに死す』分析（1）	原作と映画（前半）の比較
⑦	映画化『ベニスに死す』分析（2）	原作と映画（後半）の比較
⑧	P. ジュースキント『香水_ある人殺しの物語』総論（3）	原作の通読、映画の視聴
⑨	原作『香水_ある人殺しの物語』分析（1）	原作(Chapters 1-16)の指定箇所の熟読
⑩	原作『香水_ある人殺しの物語』分析（2）	原作(Chapters 17-34)の指定箇所の熟読
⑪	原作『香水_ある人殺しの物語』分析（3）	原作(Chapters 35-52)の指定箇所の熟読
⑫	映画化『パフューム_ある人殺しの物語』分析（1）	原作と映画（前半）の比較
⑬	映画化『パフューム_ある人殺しの物語』分析（2）	原作と映画（後半）の比較
⑭	試験・まとめ	秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの当該箇所を読んでおくこと。

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。」

【テキスト（教科書）】

パトリック・ジュースキント：『香水_ある人殺しの物語』（文春文庫 シ 16-1）。

その他の教材は学習支援システムに事前に授業資料をアップします。

【参考書】

教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題達成度：60%

学期末試験：40%

欠席が全体の3分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学のPCやプリンター、WIFIを利用して下さい。

【Outline (in English)】

We will examine the film adaptations of European literary works, compare the depictions of the originals and the films, and analyze the adaptations of the films.

- ・ Deepen interest and understanding of European literature, movies and culture.
- ・ Deepen understanding of media-specific expressions and interconnectivity between media.

Reading the relevant part of the text in advance.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

In-class assignment achievement rate: 60%

Final exam: 40%

If more than one-third of the class is absent, it will not be considered for grade evaluation.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

外国文学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の意味でのフランスのバカロレアは、19世紀にナポレオンⅠ世により創設されました。合格者には中等教育修了（高等学校卒業程度の能力）の認定と、高等教育進学（大学やグランゼコールなど）の許可を兼ねる学位が付与されてきました。

本授業では、バカロレアのフランス語（いわゆる国語）の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。筆記試験とは、「テキスト解釈」と「ディセルタシオン」です。2020年のバカロレア改革以降、そのいずれかを選択するようになりました。

同時に関連する文学作品の抜粋を（日本語で）読みます。春学期は、17世紀と18世紀の作家の作品が中心になります。

【到達目標】

- ・フランス文学史の流れを理解し、主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・フランスの学校教育における伝統的な論述文とは何かを理解する。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。
- ・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義が中心です。映像を視聴したり、指示に従って文章を書いてもらったりすることもあります。課題へのフィードバックは授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業概要
2	16世紀	ユマニスムとモンテーニュ『エッセー』
3	17世紀（1）	ラファイエット夫人『クレヴの奥方』（1）時代と作者
4	17世紀（2）	ラファイエット夫人『クレヴの奥方』（2）作品分析
5	17世紀（3）	ラ・フォンテーヌ『寓話』
6	17世紀（4）	ラ・ロシュフーコー『箴言』
7	17世紀（5）	古典主義の悲劇
8	17世紀（6）	モリエール『病は気から』（1）時代と作者
9	17世紀（7）	モリエール『病は気から』（2）作品分析
10	18世紀（1）	アベ・プレヴォ『マノン・レスコー』
11	18世紀（2）	ヴォルテール『カンディード』
12	18世紀（3）	モンテスキュー『ペルシャ人の手紙』
13	18世紀（4）	ラクロ『危険な関係』
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で言及された文学作品を読むこと。課題に取り組むこと。本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

- ・横山安由美／朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016年
- ・植田祐次【編】『十八世紀フランス文学を学ぶ人のために』世界思想社、2003年
- ・野崎敏『フランス文学と愛』講談社現代新書、2013年

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

ときどき（匿名で）授業コメントを紹介するようにしたいと思います。

【Outline (in English)】

An introduction to French literature and a literary analysis.

The goal of this course is to learn to write a short literary criticism.

After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to do their homework.

The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50 %, in-class contribution : 50%.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の意味でのフランスのバカロレアは、19世紀にナポレオンⅠ世により創設されました。合格者には中等教育修了（高等学校卒業程度の能力）の認定と、高等教育進学（大学やグランゼコールなど）の許可を兼ねる学位が付与されてきました。

本授業では、バカロレアのフランス語（いわゆる国語）の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。筆記試験とは、「テキスト解釈」と「ディセルタシオン」です。2020年のバカロレア改革以降、そのいずれかを選択するようになりました。

同時に関連する文学作品の抜粋を（日本語で）読みます。秋学期は19世紀と20世紀の作家が中心になります。

【到達目標】

- ・フランス文学史の流れを理解し、主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・フランスの学校教育における伝統的な論述文とは何かを理解する。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。
- ・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義が中心です。映像を視聴したり、指示に従って文章を書いてもらったりすることもあります。課題へのフィードバックは授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要説明
2	19世紀（1）	ヴィクトル・ユゴー『静観詩集』
3	19世紀（2）	フローベール『ボヴァリー夫人』 （1）時代と作者
4	19世紀（3）	フローベール『ボヴァリー夫人』 （2）作品分析
5	19世紀（4）	エミール・ゾラ『我弾劾す』
6	19世紀（5）	エミール・ゾラと自然主義
7	19世紀（6）	ボードレール『悪の華』
8	20世紀（1）	シュールレアリスム
9	20世紀（2）	アルベール・カミュ『異邦人』
10	20世紀（3）	レーモン・クノー『文体練習』
11	20世紀（4）	ヌーボ・ロマン
12	20世紀（5）	アニー・エルノー『凍りついた女』
13	20世紀（6）	アゴタ・クリストフ『悪童日記』
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で言及された文学作品を読むこと。課題に取り組むこと。
本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

- ・横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016年
- ・小倉孝誠【編】『十九世紀フランス文学を学ぶ人のために』世界思想社、2014年
- ・野崎敏『フランス文学と愛』講談社現代新書、2013年

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

受け身で授業を聞くだけの講義形式に、アクティブラーニングの要素も取り入れていければと思います。

【Outline (in English)】

An introduction to French literature and a literary analysis.

The goal of this course is to learn to write a short literary criticism.

After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to do their homework.

The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50 %, in-class contribution : 50%.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

外国文学 A2017年度以降入学者

サブタイトル：

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代のものから唐詩までを主な対象とし、作品のエピソードや時代背景・文化などと関連させつつ読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。また、中国詩を鑑賞する上で必要な基本的知識（五言・七言、絶句・律詩や押韻・平仄）を学ぶ。

【到達目標】
中国古典や漢詩を鑑賞するために必要な基本知識を習得する。漢詩をはじめ中国古典は難しいイメージを持ってしまいがちだが、要領さえ掴めば親しみやすいものであることがわかるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。成立した時代背景・習俗や作者などを解説しつつ、原文を訓読で読解していく形を基本とする。授業は春秋時代から唐代まで、時代順に進めていく。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらって学生の理解度を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中国とは
第2回	甲骨・金文	
第3回	『詩経』を読む	
第4回	楽府と古詩	
第5回	三曹の詩	
第6回	陶淵明	
第7回	孟浩然と崔顥	
第8回	李白	

第9回	王維	王維の「九月九日憶山東兄弟」を読み、当時の重陽の節句などの習俗を知る。
第10回	杜甫	「春望」など、杜甫の詠んだ詩から、当時の戦乱を読む。
第11回	白居易	「長恨歌」を読み解く。
第12回	杜牧	杜牧の詩から、「題烏江亭」など、英雄を詠んだ懐古的な詩を鑑賞する。
第13回	復習と総括	第1回からの授業を振り返り、改めて中国文学の流れを学習する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】
大島正二『漢字と中国人—文化史をよみとく—』（岩波書店2003年）
岡村繁『文選の研究』（岩波書店1999年）
興膳宏『六朝詩人伝』（大修館書店2000年）
小川環『唐代の詩人—その傳記』（大修館書店1975年）
松浦友久『校注 唐詩解釈辞典』（大修館書店1987年）
この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。
シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。
授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】
電子でも構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが大変望ましい。
授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
It focuses mainly from ancient things to Tang poetry, and it opens a vision to Chinese classical literature by understanding while relating it to episode of poet, background background・culture etc. Also learn the basic knowledge necessary for appreciating Chinese poetry.
Acquire the basic knowledge necessary to appreciate Chinese classics and Chinese poetry. Chinese classics, including Chinese poetry, tend to have a difficult image, but once you know the point, you can see that it's easy to understand.

Do it in a lecture format. While explaining the historical background, customs, and authors, he reads the original text in “kundoku”. Classes proceed in chronological order from the spring and autumn period to the Tang dynasty.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each.

I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a “kundoku” method using “kaeriten”, so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に漢代のものから、より物語性の高い唐代の伝奇小説に至るまで、その当時の時代背景や文化などと一緒に多くの話を読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひろく。

【到達目標】

物語性の高い作品を実際に多く読むことで、中国古典全般に対する理解を深めることができる。そこで読み解いた知識により、他の中国古典を楽しむ素地と教養を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。人物を取り上げる場合は、その生涯や時代背景も解説する。作品および小説は原文を訓読で読解していくのを基本とするが、特に長文のものは日本語訳などを利用する。毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国とは	授業内容の説明と、導入部として中国の地理・歴史・言語的性格などを、漢字の発展を軸に概説する。
第2回	漢代の文章	『史記』伯夷・叔斉伝を読む。
第3回	『穆天子伝』を読む	中国最古の小説とも言われる『穆天子伝』を読み、西周の王であった穆王の説話について知る。
第4回	『漢武故事』を読む	前漢の武帝の生涯を描いた小説『漢武故事』を読む。
第5回	英雄からの手紙	諸葛亮の書いた「出師表」を読む。
第6回	志怪小説を読む（1）	『搜神記』をはじめとする志怪小説について解説し、出来るだけ多くの話を読む。 （1）では魂の行方をテーマとする
第7回	志怪小説を読む（2）	志怪小説のうち、異界に関する話を読む。
第8回	志怪小説を読む（3）	志怪小説のうち、予言に関する話を読む。
第9回	「人虎伝」を読む（1）	中島敦の『山月記』により、中国の伝奇小説の中でもこの人虎伝は日本でも有名である。ここでは、その物語に可能な限り詳しく迫る。

第10回 「人虎伝」を読む（2） 人虎伝の続きを読み進めつつ、伏線について資料を用いて解説する。

第11回 「人虎伝」を読む（3） 人虎伝の続きを読むと共に、『広異記』の虎に化ける人間のエピソードを解説する。

第12回 「人虎伝」を読む（4） 結末を読み、人虎伝とは結局どのような物語であったのかを整理する。

第13回 復習と総括 第1回からの授業を振り返り、改めて文学の流れを学習する。

第14回 試験・まとめと解説 授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容、特に基本的知識として学んだことはよく復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

明治書院 中国古典小説選『穆天子伝 漢武故事 神異経 山海経他』

明治書院 中国古典小説選『搜神記・幽明録・異苑他』

明治書院 新釈漢文大系『史記八（列伝一）』

明治書院 新釈漢文大系『唐代伝奇』

平凡社 東洋文庫『搜神記』

この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが大変望ましい。授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

From the things of the Han Dynasty to the Literary novels of the Tang Dynasty with high narratives, touched many stories, and by reading along with the times background and culture, we will open our vision to Chinese classical literature.

By actually reading a very narrative work, you can deepen your understanding of Chinese classics in general. Through the knowledge read there, will cultivate the basics and culture of enjoying other Chinese studies.

Do it in a lecture format. In the case of a person, the life and historical background are also explained. Works and novels are based on reading the original text by reading comprehension, but especially long texts use Japanese translations.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each.

I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日中のそれぞれの文献や文学作品を比較・鑑賞することで、他国の文学作品のみならず、自国のものに対しても多角的な視点で読めるようになることを目的とする。

【到達目標】

日中両国の文学作品を、より広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることにより、自国の文化への理解もより深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 日本と中国	授業内容の説明と、導入部として中国と日本の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第2回	「神話」を読む（1）	中国前漢時代の書物である『淮南子』の、中国の創世神話的な部分を読む。
第3回	「神話」を読む（2）	中国の歴史書である『史記』の本紀を中心に、史書の中の神話的性格が強い部分を読む。
第4回	「神話」を読む（3）	前回に引き続き、『史記』の神話・伝説にあたる部分から、実在の王朝へとつながる部分を読む。
第5回	「神話」を読む（4）	日本の記紀神話の創世の部分を中心に読む。
第6回	「神話」を読む（5）	日本の神話から、スサノオやオクニヌシの部分を読む。
第7回	月と太陽の神話比較	日本と中国それぞれの文化における月と太陽の話を扱う。
第8回	「魏志倭人伝」を読む（1）	日本の記述が中国の正史に現れるのは『漢書』からである。この回では『漢書』『後漢書』と、主に『三国志』魏書東夷伝倭人の条（所謂「魏志倭人伝」）を実際に読む。
第9回	「魏志倭人伝」を読む（2）	「魏志倭人伝」を読み、当時の日本の状況と当時の中国との関係について学ぶ。

第10回	説話を読む（1）	『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』から、当時の習俗や思想・他界観が読み取れる話を読む。
第11回	説話を読む（2）	信貴山の縁起に関わる物語を読む。
第12回	『枕中記』を読む	中国唐代の伝記小説である『枕中記』を読み、当時の人々の暮らしなども学ぶ。
第13回	復習と総括	第1回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

岩波文庫『古事記』
明治書院 新釈漢文大系『史記』一（本紀上）
渡邊義浩 中央公論新社『魏志倭人伝の謎を解く 三国志から見る邪馬台国』
小学館 日本古典文学全集『今昔物語』
小学館 日本古典文学全集『宇治拾遺物語』
明治書院 新釈漢文大系『唐代伝奇』
小学館 日本古典文学全集『枕草子』
など

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。
シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とするものであって、適宜他の作品等も用いる。
授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書やアプリ等で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。

【その他の重要事項】

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。
高校の日本史B程度の基礎知識及び文学史の知識等が必須であるので、よく留意しておくこと。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view.

Can gain the knowledge and education necessary to appreciate literary works from both Japan and China from a broader perspective, and deepen your understanding of your own culture.

Do it in a lecture format. First, explain the times, the background of the establishment, the author, etc., and then read the text. You will also learn habits and lifestyles as needed.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each.

I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

Classes are conducted on the premise that you have basic knowledge of Japanese history B in high school and knowledge of literary history.

LIT100LA（文学 / Literature 100）

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と中国それぞれの古典を比較しつつ鑑賞することで、他国の文学のみならず自国のものに対しても、多角的な視点でより深く楽しむことができる知識と教養を得る。

【到達目標】

精読を通して、日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得る。日本と中国の古典に興味を持った際に、自身の力で読み解くための基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テーマを決め、講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と、導入部として中国の地理・歴史・言語的性格などを、漢字の発展を軸に概説する。
第2回	流浪する英雄—中国—（1）	『史記』晋世家・『国語』晋語から、重耳の話を精読する。
第3回	流浪する英雄—中国—（2）	重耳の遭った驪姫の乱と逃亡後の運命を読む。
第4回	流浪する英雄—中国—（3）	登場人物を整理しつつ、重耳の流転を追う。
第5回	流浪する英雄—中国—（4）	これまでの流れを、『史記』晋世家以外の歴史資料などを用いて補完し、時系列を整理する。
第6回	流浪する英雄—中国—（5）	重耳の結末と、家臣らのその後を知る。
第7回	流浪する英雄—日本—（1）	記紀からヤマトタケルの物語を読み解く。
第8回	流浪する英雄—日本—（2）	ヤマトタケルの辿った運命とその結末について学ぶ。
第9回	戦の天才とその終わり—中国—（1）	『史記』列伝から、中国史における軍事の天才の1人である楽毅の話を読む。
第10回	戦の天才とその終わり—中国—（2）	当時の時代背景などに注意しつつ、楽毅列伝から、楽毅の書いた手紙を読む。

第11回	戦の天才とその終わり—日本—（1）	日本の戦の天才とされる人物のうち、源義経について『平家物語』から数段抜粋して読み解く。
第12回	戦の天才とその終わり—日本—（2）	『平家物語』の続きと義経の書いた手紙を読み、平家の結末に関して解説する。
第13回	復習と総括	第1回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容はよく復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

明治書院 新釈漢文大系『史記』五（世海上）
明治書院 新釈漢文大系『春秋左氏伝』（一）
明治書院 新釈漢文大系『国語』（上）
明治書院 新釈漢文大系『国語』（下）
明治書院 新釈漢文大系『史記』九（列伝二）
小学館 日本古典文学全集『古事記 上代歌謡』
岩波書店 日本古典文学大系32『平家物語』上
岩波書店 日本古典文学大系33『平家物語』下
など

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品を加える。授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書やアプリ等で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持ってくるのが望ましい。

【その他の重要事項】

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。高校の日本史B程度の基礎知識及び文学史の知識等が必須であるので、よく留意しておくこと。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view. By learning each classic during the day, you can acquire more knowledge and culture when you read other literary works.

Through reading carefully, you will gain the knowledge and culture necessary to appreciate the literature of both Japan and China from a broader perspective. When you are interested in Japanese and Chinese classics, you can learn the basics for reading on your own.

Decide on a theme, do it in a lecture format. First, explain the times, the background of the establishment, the author, etc., and then read the text. You will also learn habits and lifestyles as needed.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

Classes are conducted on the premise that you have basic knowledge of Japanese history B in high school and knowledge of literary history.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本近・現代文学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：教科書文学で学ぶ文学理論

細沼 祐介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学や高校の現代文で扱われる日本の近現代文学を読み解きながら、批評理論や文学理論について学んでいきます。自由な読解や解釈は大変大事なのですが、手放しで行くと結果的にどう読んだらいいかわからないという状態になりがちです。そこで先人たちが積み上げてきた文学や批評に関する理論、つまり解釈の切り口を学ぶことで、より深い読書のための「定石」を身につけましょう。

【到達目標】

- ①文学理論についての概略を理解する
- ②実際にその理論を用いることで、既知の作品の解釈がどう変化するかを楽しむ
- ③複数の理論を応用して自分自身の解釈を試みる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

作品ごとに四時間を割り、一つの講義ごとに様々な文学理論を適用した読解を行います。

講義の性質上、すでに知っている作品であっても必ずもう一度読み直すようにして臨んでください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

なお、授業冒頭ではリアクションペーパーへの返答に多めに時間を割り、テーマにかかわらず文学に関する種々の疑問に答えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「教科書として読まないこと」と理論を学ぶ意味について
第2回	芥川龍之介「羅生門」	「語り」について①
第3回	芥川龍之介「羅生門」	物語類型について②
第4回	芥川龍之介「羅生門」	テキスト論について③
第5回	芥川龍之介「羅生門」	間テキスト性について④
第6回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」	プロレタリア文学について①
第7回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」	マルクス主義批評について②
第8回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」	書簡体の力について③
第9回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」	ストーリーとプロットについて④
第10回	夏目漱石『こころ』	読者反応批評について①
第11回	夏目漱石『こころ』	フェミニズム批評ジェンダー批評について②

- 第12回 夏目漱石『こころ』③ ジェンダー批評について
 第13回 夏目漱石『こころ』④ 教育と『こころ』について
 第14回 総括 まとめとレポート回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これは単位認定のための最低条件です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

芥川龍之介『羅生門・鼻』新潮文庫

葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』角川文庫

夏目漱石『こころ』新潮文庫ほか

必ずしもこのテキストを用いる必要はありませんが、必ず読むようにしましょう。

【参考書】

文学理論について概観したいときは、入門書として

廣野由美子『批評理論入門 『フランクシュタイン』解剖講義』（中公新書、2005年）

がおすすめです。

【成績評価の方法と基準】

平常点5割、期末レポート5割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

リアクションペーパーについては毎時間かなりの文字数を要求しますので、覚悟しておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

大人数講義のため、時折私語をする学生が発生し、大いに邪魔です。例年通り適宜注意を行うほか、厳重なペナルティも検討します。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

幅広い内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

また、初回は人数の把握のためにオンデマンド形式での実施とします。こちらからの連絡をお待ちください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces literary theory through reading comprehension of modern literature learned in high school.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding literary theory.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%、in class contribution: 50%.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本近・現代文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：教科書文学で学ぶ文学理論

細沼 祐介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学や高校の現代文で扱われる日本の近現代文学を読み解きながら、批評理論や文学理論について学んでいきます。自由な読解や解釈は大変大事なのですが、手放しで行くと結果的にどう読んだらいいかわからないという状態になりがちです。そこで先人たちが積み上げてきた文学や批評に関する理論、つまり解釈の切り口を学ぶことで、より深い読書のための「定石」を身につけましょう。

【到達目標】

- ①文学理論についての概略を理解する
- ②実際にその理論を用いることで、既知の作品の解釈がどう変化するかを楽しむ
- ③複数の理論を応用して自分自身の解釈を試みる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

作品ごとに四時間を割り、一つの講義ごとに様々な文学理論を適用した読解を行います。講義の性質上、すでに知っている作品であっても必ずもう一度読み直すようにして臨んでください。授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。なお、授業冒頭ではリアクションペーパーへの返答に多めに時間を割り、テーマにかかわらず文学に関する種々の疑問に答えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	角度を変えた読み方の面白さについて
第2回	中島敦「山月記」①	「信用できない語り手」について
第3回	中島敦「山月記」②	イメージと象徴について
第4回	中島敦「山月記」③	イメージに基づく「虎」解釈について
第5回	中島敦「山月記」④	プロットとストーリーについて
第6回	原民喜「夏の花」①	戦争と文学について
第7回	原民喜「夏の花」②	「私小説」について
第8回	原民喜「夏の花」③	伝記批評について
第9回	原民喜「夏の花」④	文体について
第10回	森鷗外「舞姫」①	文化批評について
第11回	森鷗外「舞姫」②	都市論について
第12回	森鷗外「舞姫」③	「近代文学」の制度について
第13回	森鷗外「舞姫」④	「自己」の問題について
第14回	総括	まとめとレポート回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。指定された作品はそれを扱う授業までに確実に読んでおいてください。

【テキスト（教科書）】

中島敦『山月記・李陵』岩波文庫
原民喜『夏の花・心願の国』新潮文庫
森鷗外『阿部一族・舞姫』新潮文庫

必ずしもこのテキストを用いる必要はありませんが、必ず読むようにしましょう。

【参考書】

文学理論について概観したいときは、入門書として
廣野由美子『批評理論入門』『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書、2005年）
がおすすめです。

【成績評価の方法と基準】

平常点5割、期末レポート5割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。
リアクションペーパーは毎時間かなりの文字数を要求するので、覚悟しておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

大人数講義のため、時折私語をする学生が発生し、大いに邪魔です。例年通り適宜注意を行うほか、厳重なペナルティも検討します。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

幅広い内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。
また、初回は人数の把握のためにオンデマンド形式での実施とします。こちらからの連絡をお待ちください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces literary theory through reading comprehension of modern literature learned in high school.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding literary theory.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

BSP100LA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

文章論

2017年度以降入学者

安藤 優一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小論文やレポートなど文章を書くにあたって、形式やルールといった基礎的な段階を出発点として、より豊かな文章表現を習得することを目指す。

【到達目標】

- ・言葉（日本語表現）についての知識と理解を深める。
- ・言葉や文章の背景にある社会的事象を理解し、実践を通して深める。
- ・自分の考えや意見を言語化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テーマに沿った課題を提示し実際に文章を書く。
- ・提出された課題（400～2000字程度）について添削・指導をおこなう（字数については目安、状況により変動あり）。
- ・提出された課題の中から適宜、事例を紹介し、全体に共有する（番号・氏名は伏せる）。可能であれば受講者による相互批評もおこなう。
- ・新聞記事やコラム、エッセイ、文学作品、学術論文など多様な形式に触れる中で文章表現を学ぶ。
- ・文章表現に関わる基礎知識や社会的事象について解説をおこなう。
- ・教室内での課題の実践にあたっては、専用用紙への手書きの他、パソコン・タブレット端末による入力を想定。
- ・配布資料については印刷したもののほか、分量によりPDFファイルなどでも共有する。
- ・下記の授業計画の内容は、実際の進行状況により修正・変更の場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要説明
第2回	自己紹介文	自分自身についての言語化
第3回	自己紹介文	文章表現の系譜の紹介・課題に沿った実践
第4回	自己紹介文	添削と講評
第5回	原稿執筆の基礎	書式とルール（段落構成・語句表現等）
第6回	原稿執筆の基礎	課題に沿った実践
第7回	原稿執筆の基礎	添削と講評
第8回	論述的な文章	資料調査の方法・引用について等
第9回	論述的な文章	時事的な文章の紹介
第10回	論述的な文章	課題に沿った実践
第11回	論述的な文章	添削と講評
第12回	文章表現とリテラシー	注意点の概説
第13回	意見・思考の言語化	これまでの内容を踏まえての実践
第14回	総括	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、授業内での提出物30%、期末レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

実践やフィードバックの方法などについて、より改善できるよう留意したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の実践や資料調査、配布資料の共有にあたり使用するため、パソコンやタブレット端末等の準備があると望ましい。（※スマートフォンの場合は、文章入力や内容確認、資料閲覧などにあたり、使いづらいため。）

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

・文章論は受講者の制限がある授業です（上限25名）。

・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。

・選抜終了後に受講決定者の学生証番号をHoppiiの「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が2週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。

・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。

・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

【授業概要（Course outline）】

The aim of this course is to help students acquire written expression.

到達目標（Learning Objectives）

The goals of this course are to verbalize your mind.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%, Short reports : 30%, in class contribution: 30%.

BSP100LA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

文章論

2017年度以降入学者

関口 雄士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習に必要な「書く力」を、技法を学びながら様々な文章を読み書きすることで習得することを目指す授業です。

なお、このクラスは留学生を主な対象としたクラスではありません。留学生・海外生活が長かった学生は、春学期月曜4限の「文章論」が留学生を主な対象とした授業になりますので、そちらの受講をおすすめします。もちろん、自信があれば本授業への参加も可能です。

【到達目標】

大学での学習に必要な「書く力」の基礎を定着する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

目標達成のために、以下のように3回1セットを基本として4セットの授業を行います（課題③は下記Ⅰを2回かけておこない、4回を1セットとします）。

Ⅰ 課題に関する文章を使った講義：課題にそった文章を読んでいくことで、知識・技法を身につけます。

Ⅱ 文章作成に関する知識の講義：授業前半で大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。授業後半で課題作文を作成・提出してもらいます。

Ⅲ 課題作文への講評と相互批評：前週に提出された課題作文を添削してコメントをつけたものを返却します。一部の作文については個人が特定できないかたちにしたうえで授業内で紹介・講評し、その作文について相互批評をおこなってもらいます。

なお、授業の性質上、受講者全員の作文への添削・コメントが必要になりますので、受講人数に制限があります。くわしくは末尾の【その他の重要事項】にありますので、必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業についての詳細な説明。
第2回	課題①エッセイを書く	エッセイとは何かを学ぶ。
第3回	課題①エッセイを書く	文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第4回	課題①エッセイを書く	課題①の講評・相互批評。
第5回	課題②文献を扱って書く	文献の扱い方を学ぶ。
第6回	課題②文献を扱って書く	資料の探し方を学ぶ。
第7回	課題②文献を扱って書く	課題②の講評・相互批評。
第8回	課題③意見文を書く	文の構成要素として段落を学ぶ。
第9回	課題③意見文を書く	事実と意見の分け方を学ぶ。
第10回	課題③意見文を書く	テーマの決め方を学ぶ。
第11回	課題③意見文を書く	課題③の講評・相互批評。
第12回	課題④期末作文を書く	読みやすい文章について学ぶ。

第13回 課題④期末作文を書く 学習内容のまとめをおこなう。

第14回 課題④期末作文を書く 課題④の講評・相互批評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作文を半期で4回書いてもらいます。課題作文は下書きを1週間で準備してもらいます。

授業中にしめた参考文献はできる限り読むようにしてください。日常生活のなかで文章を目にしたとき、講義で学んだことを意識するようにしてください。

（本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

授業内で単元ごとに紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（相互批評、リアクションペーパーの内容）：50%

提出物の内容：50%

未提出の課題が1つでもあった場合、原則として単位を認めません。特別な理由なく3回以上の欠席があった場合も原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

作文への添削・コメントが文章力を磨く役に立ったという意見を多くもらえたので、引き続き丁寧におこなうようにします。

作文や相互批評を書く時間を余裕を持って取れるように留意します。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

・文章論は受講者の制限がある授業です（上限25名）。

・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。

・選抜終了後に受講決定者の学生証番号をHoppiiの「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が2週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。

・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。

・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to help students acquire the "writing skills" necessary for university study by learning techniques and reading and writing a variety of texts.

Please note that this class is not intended primarily for international students. International students and students who have lived abroad for a long time are recommended to take "Writing Theory," which is offered on Mondays during 4th period of the spring semester and is intended mainly for international students. Of course, if you are confident, you can also join this class.

【Learning Objectives】

Establish a foundation of writing skills necessary for university study.

【Learning activities outside of classroom】

You will be required to write an assigned essay four times during the semester.

You will have one week to prepare a draft of your essay.

Please read the references given in class as much as possible.

When you see texts in your daily life, please be aware of what you have learned in the lecture.

(The standard preparation and review time for this class is two hours each.)

【Grading Criteria /Policy】

Regular marks (peer critiques, reaction paper content): 50%

Submission content: 50%

In principle, if even one assignment is not submitted, credits will not be given.

In principle, if you are absent three or more times without a special reason, credits will not be given.

BSP100LA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

文章論

2017年度以降入学者

関口 雄士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の大学での学習に必要な「書く力」を、技法を学びながら様々な文章を読み書きすることで習得することを目指す授業です。このクラスは留学生を主な対象としています。ただし、留学生に限定せず、レポートを書くことに不安を感じている日本人学生の受講も歓迎します。

【到達目標】

日本の大学での学習に必要な「書く力」の基礎を定着する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1：各回テーマにあわせた内容を講義形式で学びます。
 - 2：講義で学んだことを実践的に身につける実習をおこないます。
 - 3：実習へのフィードバックをもとに理解を深めます。
 - 4：最終的にレポートを実際に書いてもらうことで、学んだことの定着をはかります。
- なお、受講人数によっては受講者のニーズにそったかたちで柔軟に対応をおこないたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業についての詳細な説明。
第2回	レポート作成の基礎①	レポート執筆の基本的な規則を学ぶ。
第3回	レポート作成の基礎②	レポートに関する基本的な考え方を学ぶ。
第4回	資料の使い方①	引用について学ぶ。
第5回	資料の使い方②	インターネットを利用した文献検索を学ぶ。
第6回	資料の使い方③	文献の要約を学ぶ
第7回	前半のまとめ	第2～6回で学んだ内容を復習する。
第8回	学術的文章の実践①	テーマの決め方を学ぶ。
第9回	学術的文章の実践②	事実と意見の分け方を学ぶ。
第10回	学術的文章の実践③	段落構成を学ぶ。
第11回	学術的文章の実践④	読みやすい文章について学ぶ。
第12回	レポート作成実習①	ここまで学んだ内容をもとにレポートを作成する。
第13回	レポート作成実習②	前回内容の返却・講評をとおして理解を深める。
第14回	まとめ	授業内容の振り返りと参考文献紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容についてはきちんと復習をおこない、可能であれば他の授業で実践をおこなってください。
授業中にしめした参考文献はできる限り読むようにしてください。
日常生活のなかで文章を目にしたとき、講義で学んだことを意識するようにしてください。

（本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

授業内で単元ごとに紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（実習への取り組み・リアクションペーパーの内容）：60％
レポート作成実習：40％
特別な理由なく3回以上の欠席があった場合は原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

受講人数によっては、受講者のニーズにそった内容を取りあげたり、双方向性をより高めたりなど、臨機応変に対応したいと思います。資料がやや多いという意見があったので、厳選するとともに、丁寧な説明を心がけます。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

・文章論は受講者の制限がある授業です（上限25名）。

・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。

・選抜終了後に受講決定者の学生証番号をHoppiiの「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が2週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。

・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。

・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is designed to help students acquire the "writing skills" necessary for studying at Japanese universities by learning techniques and reading and writing a variety of texts. This class is primarily intended for international students. However, the course is not limited to international students; Japanese students who are anxious about writing reports are also welcome to take the course.

【Learning Objectives】

Establish a foundation of writing skills necessary for university study.

【Learning activities outside of classroom】

Please review the content you learned in class carefully and, if possible, put it into practice in other classes.

Please read the references given in class as much as possible.

When you see texts in your daily life, try to keep in mind what you learned in lecture.

(The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.)

【Grading Criteria /Policy】

Regular marks (approach to practical training and reaction paper contents): 60%

Report writing practical training: 40%

In principle, if you are absent three or more times without a special reason, credits will not be given.

BSP100LA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

文章論

2017年度以降入学者

関口 雄士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習に必要な「書く力」を、技法を学びながら様々な文章を読み書きすることで習得することを目指す授業です。

なお、このクラスは留学生を主な対象としたクラスではありません。留学生・海外生活が長かった学生は、春学期月曜4限の「文章論」が留学生を主な対象とした授業になりますので、そちらの受講をおすすめします。もちろん、自信があれば本授業への参加も可能です。

【到達目標】

大学での学習に必要な「書く力」の基礎を定着する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

目標達成のために、以下のように3回1セットを基本として4セットの授業を行います（課題③は下記Ⅰを2回かけておこない、4回を1セットとします）。

Ⅰ 課題に関する文章を使った講義：課題にそった文章を読んでいくことで、知識・技法を身につけます。

Ⅱ 文章作成に関する知識の講義：授業前半で大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。授業後半で課題作文を作成・提出してもらいます。

Ⅲ 課題作文への講評と相互批評：前週に提出された課題作文を添削してコメントをつけたものを返却します。一部の作文については個人が特定できないかたちにしたうえで授業内で紹介・講評し、その作文について相互批評をおこなってもらいます。

なお、授業の性質上、受講者全員の作文への添削・コメントが必要になりますので、受講人数に制限があります。くわしくは末尾の【その他の重要事項】にありますので、必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業についての詳細な説明。
第2回	課題①エッセイを書く	エッセイとは何かを学ぶ。
第3回	課題①エッセイを書く	文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第4回	課題①エッセイを書く	課題①の講評・相互批評。
第5回	課題②文献を扱って書く	文献の扱い方を学ぶ。
第6回	課題②文献を扱って書く	資料の探し方を学ぶ。
第7回	課題②文献を扱って書く	課題②の講評・相互批評。
第8回	課題③意見文を書く	文の構成要素として段落を学ぶ。
第9回	課題③意見文を書く	事実と意見の分け方を学ぶ。
第10回	課題③意見文を書く	テーマの決め方を学ぶ。
第11回	課題③意見文を書く	課題③の講評・相互批評。
第12回	課題④期末作文を書く	読みやすい文章について学ぶ。

第13回 課題④期末作文を書く 学習内容のまとめをおこなう。

第14回 課題④期末作文を書く 課題④の講評・相互批評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作文を半期で4回書いてもらいます。課題作文は下書きを1週間で準備してもらいます。

授業中にしめた参考文献はできる限り読むようにしてください。日常生活のなかで文章を目にしたとき、講義で学んだことを意識するようにしてください。

（本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

授業内で単元ごとに紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（相互批評、リアクションペーパーの内容）：50%

提出物の内容：50%

未提出の課題が1つでもあった場合、原則として単位を認めません。特別な理由なく3回以上の欠席があった場合も原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

作文への添削・コメントが文章力を磨く役に立ったという意見を多くもらえたので、引き続き丁寧におこなうようにします。

作文や相互批評を書く時間を余裕を持って取れるように留意します。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

・文章論は受講者の制限がある授業です（上限25名）。

・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。

・選抜終了後に受講決定者の学生証番号をHoppiiの「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が2週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。

・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。

・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to help students acquire the "writing skills" necessary for university study by learning techniques and reading and writing a variety of texts.

Please note that this class is not intended primarily for international students. International students and students who have lived abroad for a long time are recommended to take "Writing Theory," which is offered on Mondays during 4th period of the spring semester and is intended mainly for international students. Of course, if you are confident, you can also join this class.

【Learning Objectives】

Establish a foundation of writing skills necessary for university study.

【Learning activities outside of classroom】

You will be required to write an assigned essay four times during the semester.

You will have one week to prepare a draft of your essay.

Please read the references given in class as much as possible.

When you see texts in your daily life, please be aware of what you have learned in the lecture.

(The standard preparation and review time for this class is two hours each.)

【Grading Criteria /Policy】

Regular marks (peer critiques, reaction paper content): 50%

Submission content: 50%

In principle, if even one assignment is not submitted, credits will not be given.

In principle, if you are absent three or more times without a special reason, credits will not be given.

BSP100LA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

文章論

2017年度以降入学者

細沼 祐介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では論文・レポート執筆法に加え、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさや、目的に応じた多彩な表現方法を味わって欲しいと思います。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の構造を分解し、内容面だけにとどまらない表現に関する魅力を明確に理解し、自身でも使いこなせるようになる。
- ③他者の書いたものを批評的に読み、論理的に感想をまとめる行為をととし、読みと書きの両面から文章の奥深さを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するためにそれぞれのジャンルごとに三から四時間を割り、二〜三コマ目で概略の説明、最後の時間で簡単な相互批評を行っていきます。学生による文章の提出は講義の時間と相互批評の時間の間で行い、そのなかからこちらで選抜した秀作をまとめ、Hoppinで学生に配布します。相互批評の時間までに目を通したうえで授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと文章の二大形式について	「分かりやすく論理的」か「美しく感覚的」か、目的に合わせたスタイルを意識する
第2回	「マジメ」な文章の綴り方	ビジネスマナーを含む文章作法の一般基礎を学ぶ
第3回	論文の書き方①	論文の構成と三つの柱の繰り返しについて学ぶ
第4回	論文の書き方②	引用作法と文献調査の方法を学ぶ
第5回	論文の書き方③	パラグラフライティングと二つのセンテンスについて学ぶ
第6回	論文の書き方④	相互批評に挑戦する
第7回	批評文の書き方①	「分かりにくさ」の美点について学ぶ
第8回	批評文の書き方②	批評理論について概観する
第9回	批評文の書き方③	相互批評に挑戦する
第10回	小説の書き方①	虚と実、視点について学ぶ
第11回	小説の書き方②	文体と筋の関係について学ぶ
第12回	小説の書き方③	主題の取り扱いとオリジナルティについて学ぶ
第13回	小説の書き方④	相互批評に挑戦する
第14回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。期末レポートも含めて四度の大きな課題提出があります。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、提出物30%、期末課題40%

非常に課題の多い講義となりますが、文章力は実践を通してしか学びえません。必ず得るものをがあるので、じっくりがんばってください。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度に応じてプラスアルファが欲しいとの要望があったため、毎時簡単に文章上のレトリックについての講義も取り入れていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のためのパソコン（Wordをインストール）

また出欠確認および課題の提出には学習支援システムを使用します。特に出欠確認は授業内で行うため、スマートフォンやタブレット等の用意をお願いします。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

・文章論は受講者の制限がある授業です（上限25名）。

・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。

・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を学習支援システムを通じて告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が2週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。

・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。

・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lesson, in addition to writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from treatises, criticisms to the creation of novels.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding of how to write sentences in Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%.

BSP100LA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

文章論

2017年度以降入学者

細沼 祐介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では論文・レポート執筆法に加え、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさや、目的に応じた多彩な表現方法を味わって欲しいと思います。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の構造を分解し、内容面だけにとどまらない表現に関する魅力を明確に理解し、自身でも使いこなせるようになる。
- ③他者の書いたものを批評的に読み、論理的に感想をまとめる行為をとし、読みと書きの両面から文章の奥深さを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するためにそれぞれのジャンルごとに三から四時間を割り、二〜三コマ目で概略の説明、最後の時間で簡単な相互批評を行っていきます。学生による文章の提出は講義の時間と相互批評の時間の間で行い、そのなかからこちらで選抜した秀作をまとめ、Hoppiiで学生に配布します。相互批評の時間までに目を通したうえで授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと文章の二大形式について	「分かりやすくして論理的」か「美しくして感覚的」か、目的に合わせたスタイルを意識する
第2回	「マジメ」な文章の綴り方	マナーを含む文章作法の一般基礎を学ぶ
第3回	論文の書き方①	論文の構成と三つの柱の繰り返しについて学ぶ
第4回	論文の書き方②	引用作法と文献調査の方法を学ぶ
第5回	論文の書き方③	パラグラフライティングと二つのセンテンスについて学ぶ
第6回	論文の書き方④	相互批評に挑戦する
第7回	批評文の書き方①	「分かりにくさ」の美点について学ぶ
第8回	批評文の書き方②	批評理論を概観する
第9回	批評文の書き方③	相互批評に挑戦する
第10回	小説の書き方①	虚と実、視点について学ぶ
第11回	小説の書き方②	文体と筋の関係について学ぶ
第12回	小説の書き方③	主題の取り扱いとオリジナルティについて学ぶ
第13回	小説の書き方④	相互批評に挑戦する
第14回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業内で課された作文を期限厳守で仕上げる

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、提出物30%、期末課題40%

非常に課題の多い講義となりますが、文章力は実践を通してしか学びえません。必ず得るものをがあるので、じっくりがんばってください。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度に応じてプラスアルファが欲しいとの要望があったため、毎時簡単に文章上のレトリックについての講義も取り入れていくつもりです。す。

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のためのパソコン（Wordをインストール）
また出欠確認および課題の提出には学習支援システムを使用します。特に出欠確認は授業内で行うため、スマートフォンやタブレット等の用意をお願いします。

【その他の重要事項】

- ※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
- 受講人数の制限について（選抜について）
 - ・文章論は受講者の制限がある授業です（上限25名）。
 - ・4月14日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は選抜（抽選）を実施します。そのため、受講希望者は4月14日までに必ず仮登録をおこなってください。
 - ・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を学習支援システムを通じて告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。
 - ・選抜を受けていない学生が2週目以降から授業に参加することはできません。
- 複数の「文章論」クラスへの登録について
 - ・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。
 - ・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。
 - ・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lesson, in addition to writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from treatises, criticisms to the creation of novels.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding of how to write sentences in Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%.

LIN100LA（言語学 / Linguistics 100）

言語学 A

2017年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 講義と演習（グループディスカッション・グループワーク）を中心に行う。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3. 次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	言語学とは何か
	言語学入門1	言語の特質（1）
第2回	言語学入門2	言語の特質（2）
第3回	言語学入門3	言語の特質（3）
第4回	音声学1	音声器官
第5回	音声学2	調音
第6回	音声学3	母音、子音
第7回	音韻論1	異音、相補分布
第8回	音韻論2	環境同化、音声的類似
第9回	音韻論3	日本語の音韻体系
第10回	第二言語習得研究1	第二言語習得研究の流れ
第11回	第二言語習得研究2	中間言語
第12回	第二言語習得研究3	学習者の母語と第二言語習得
第13回	第二言語習得研究4	習得順序と発達順序
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ないが、復習時間は4時間を標準とする。
講義の骨子はPPTの形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業ではPPTの一部空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。
授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待される。
PPTを含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。

【テキスト（教科書）】

資料（テキストに相当）及びPPTは授業支援システムにアップロードしてある。

資料の配付は行わないので、毎回持参すること。

テキスト名1：『日本語教師トレーニングマニュアル3 よくわかる言語学入門 解説と演習』 著者：町田健ほか 出版社：バベルプレス 定価：2233円＋税

テキスト名2：『ことばの獲得 母語獲得と第二言語習得』 著者：鈴木孝明ほか 出版社：くろしお出版 定価：1800円＋税

【参考書】

参考文献は適宜PPTなどで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を100点満点換算で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

さらなる履修者の積極的な授業参加を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

※履修者数によっては、授業開始前に選抜を行なうかもしれない。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces language, phonetics, phonology and another language acquisition, encouraging to analyze and seize the many aspects of the language and language learning.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to understand the basic methods for scientific analysis of linguistic concepts, to understand the mechanism of second language acquisition and the current state of second language acquisition research.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated by Final exam(100%).

LIN100LA (言語学 / Linguistics 100)

言語学 B

2017年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は第一言語習得はどのようになされるか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。後半は、異文化コミュニケーションを概観することで異文化についての理解を深める。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

学生は、第一言語習得を含め、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 講義を中心に行うが、適宜演習（グループワーク）も行う。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3. 次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1言語習得1	第一言語とは？
第2回	第1言語習得2	第一言語習得とは？
第3回	第1言語習得3	第一言語習得研究の方法
第4回	第1言語習得メカニズム1	第一言語習得のメカニズム
第5回	第1言語習得メカニズム2	主な言語発達理論（基礎編）
第6回	第1言語習得メカニズム3	主な言語発達理論（応用編）
第7回	母語獲得とインプットの役割1	子どもの構造依存性 語順獲得母語獲得とインプットの役割
第8回	母語獲得とインプットの役割2	肯定証拠と否定証拠
第9回	母語獲得とインプットの役割3	インプットの効果
第10回	異文化理解1	カルチャーショック
第11回	異文化理解2	ジョハリの窓
第12回	異文化トレーニング1	異文化トレーニング方法1
第13回	異文化トレーニング2	異文化トレーニング方法2
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ないが、復習時間は4時間を標準とする。講義の骨子は PPT の形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業では PPT の一部空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。

授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待される。

PPT を含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。

【テキスト（教科書）】

テキスト（テキスト相当）及びPPTは授業試験システムにアップロードしてある。

資料の配付は行なわないので、毎回持参すること。

テキスト名：『ことばの獲得 母語獲得と第二言語習得 著者：鈴木孝明ほか 出版社：くろしお出版 定価：1800円＋税

【参考書】

PPTの参考文献に示した。

参考書名：『はじめて学ぶ異文化コミュニケーションー多文化共生と平和構築へ向けて』 著者：石井敏ほか 出版社：有斐閣選書

【成績評価の方法と基準】

全ての課題提出を期末試験に換算し、100点満点換算で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・第一言語習得理論、日本語を外国人に教えるための日本語教育文法に興味を持ってもらえてよかったと思う。

・前期に言語学Aを履修しなかった学生にも理解できるよう、言語学Bでは前期言語学のエッセンス部分を丁寧にひろってから後期の講義内容へとつなげた。後期登録の学生はスムーズに授業に入っていたようでよかった。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 In the first half of the course, this course introduces about how first language acquisition is accomplished. In the second half, students will deepen their understanding of different cultures through an overview of cross-cultural communication.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to understand various phenomena surrounding languages, including first language acquisition, and to become aware of the diversity of the world after being conscious of the diversity of languages. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated by Final exam(100%).

LIN100LA (言語学 / Linguistics 100)

言語学 A

2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多言語化した国際地域社会や多文化社会に関する高度な理解力を養うため、言語学の基本的な知識と考え方に触れ、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるか、客観的に分析できるようにすることを目的とします。

言語学は、ことばを分析し、「ことばの仕組み」を記述・説明する学問です。この授業では人間の言語を客観的に記述するのに必要な基本概念を紹介します。また、その過程で一つの現象に対する様々なアプローチを提示し、現代言語学で行なわれている主要な研究方法も概観します。それらを通じて、世界の言語に見られる構造と言語現象、およびそれらを説明するのに必要な基本概念を紹介します。

【到達目標】

1. 言語についてのヒトの営みについての一般的な知見を得る。
2. 言語学の方法についての基礎的な分野、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論の基本形式を理解する。
3. 他の学問領域と重なる語用論、社会言語学および心理言語学のような分野に触れ、ことばがさまざまな角度から分析・研究できることを理解する。
4. 現代言語学の主要な研究方法について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

言語学とはどんな学問かについて概観します。

「言語学」の基礎的な術語・概念について講義し、どう言語を扱ってきたかを紹介したり、「コミュニケーション」と言語との関係について解説したりします。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	言語と言語学	世界の言語と言語学を考える
第2回	音の作り方：音声学	「音声学」について解説する
第3回	音の使い方：音韻論	「音韻論」について解説する
第4回	単語のしくみ：形態論・語彙論	「形態論・語彙論」について解説する
第5回	意味の世界：意味論 1	「意味論」について解説する論
第6回	単語間の意味関係：意味論 2	単語間の意味関係について考察する
第7回	文のしくみ：統語論 1	「統語論」について解説する
第8回	文の意味：統語論 2	文の意味のかかわる要素について日本語と英語を例に概観する
第9回	談話のしくみ：誤用論 1	「語用論」の観点について紹介する
第10回	会話のしくみ：誤用論 2	コミュニケーションを考えるときの要素について解説する

第11回 言語のバリエーション：社会言語学 1 「社会言語学」について概観する

第12回 言語の変化：社会言語学 2 言語変化が社会の中でどのように進行しているのかを概観する

第13回 文理解：心理言語学 1 文を理解するときのしくみについて解説する

第14回 文産出：心理言語学 2 文を話すことができるしくみについて解説する
(授業内試験をする可能性あり)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な箇所や疑問点があれば、その時点で質問するなり、紹介する参考資料等を参考にし、理解をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高橋留美 他 (2021) 『やさしい言語学』

【参考書】

佐久間淳一 他 (2007) 『言語学入門』 研究社

千野栄一 (1994) 『言語学の開かれた扉』 三省堂、

必要に応じて授業中に紹介したりや支援システムにリストをアップする予定です。

【成績評価の方法と基準】

課題：30%

平常点：20%

期末試験：50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持とうという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてくれることを期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to develop an advanced understanding of multilingual international communities and multicultural societies, students will be exposed to the basic knowledge and concepts of linguistics and will be able to objectively analyze how "language" can be viewed from the perspective of communication.

Linguistics is a discipline that analyzes language and describes and explains the "mechanism of language." In this class, we will introduce the basic concepts necessary to objectively describe human language. In the process, we will also present various approaches to a single phenomenon and overview the major research methods used in modern linguistics. Through these approaches, we will introduce the structures and linguistic phenomena found in the world's languages and the basic concepts needed to explain them.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To gain a general knowledge of human activity in language.
2. To understand the basic forms of the methods of linguistics: phonetics, phonology, morphology, syntax, and semantics.
3. To understand that language can be analyzed and studied from various perspectives, touching on areas such as pragmatics, sociolinguistics, and psycholinguistics, which overlap with other disciplines.
4. To develop an awareness of the main research methods in modern linguistics.

【Learning activities outside of classroom】

Since the lecture content is limited to the basics, if there are any unclear points or questions, please ask questions or refer to the reference materials introduced at that time to ensure understanding.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%

LIN100LA (言語学 / Linguistics 100)

言語学 B

2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多言語化した国際地域社会や多文化社会に関する高度な理解力を養うため、言語学の基本的な知識と考え方に触れ、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるか、客観的に分析できるようにすることを目的とします。

言語学は、ことばを分析し、「ことばの仕組み」を記述・説明する学問です。この授業では人間の言語を客観的に記述するのに必要な基本概念を紹介します。また、その過程で一つの現象に対する様々なアプローチを提示し、現代言語学で行なわれている主要な研究方法も概観します。それらを通じて、世界の言語に見られる構造と言語現象、およびそれらを説明するのに必要な基本概念を紹介します。

【到達目標】

1. 言語についてのヒトの営みについての一般的な知見を得る。
2. 世界の言語には思いもよらない現象があることを、日本語や英語のしくみと違う点・似ている点に注目することで、理解する。
3. 他の学問領域と重なる言語学の分野、歴史・比較・地理言語学、社会言語学、認知言語学、対照言語学および第二習得論のような分野に触れ、ことばがさまざまな角度から分析・研究できることを理解する。
4. 現代言語学の主要な研究方法について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

言語学とはどんな学問かについて概観します。

世界の言語について概観し、言語学と呼ばれるさまざまな分野においてそれらをどう扱ってきたかを紹介したり、「コミュニケーション」と言語との関係について解説したりします。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	内容・授業のすすめ方の説明 「ことば」の記録
第2回	歴史言語学の成果 1	「歴史言語学」の概説と、音変化に関する研究成果を紹介する
第3回	歴史言語学の成果 2	「歴史言語学」の概説と、形態、統語、語彙、意味の変化に関する研究成果を紹介する
第4回	比較言語学の成果	「比較言語学」の概説と、それでわかったことを紹介する
第5回	地理言語学の成果	「地理言語学」の概説と、それでわかったことを紹介する
第6回	社会言語学の成果 1	「社会言語学」の概説と、言語の変異、方言、使用域の研究でわかったことを紹介する
第7回	社会言語学の成果 2	「社会言語学」の概説と、言語接触、言語変化、言語政策の研究でわかったことを紹介する

第8回	認知言語学の成果	「認知言語学」を概観し、それがもたらす成果について解説する
第9回	第二言語習得について	「第二言語取得論」を概観し、そこでわかったことを紹介する
第10回	文字論	「文字論」について解説する
第11回	世界の諸言語について（発表）1	世界の言語の現状と、言語の起源などについて、受講生が学んでいる外国語を自ら調べて発表する（中国語、韓国・朝鮮語）
第12回	世界の諸言語について（発表）2	世界の言語の現状と、言語の起源などについて、受講生が学んでいる外国語を自ら調べて発表する（スペイン語、フランス語）
第13回	言世界の諸言語について（発表）3	世界の言語の現状と、言語の起源などについて、受講生が学んでいる外国語を自ら調べて発表する（ロシア語、ドイツ語、英語）
第14回	「ことば」を考えると きの問題等 (授業内試験をする可能性あり)	「ことば」の力、言語の発見等について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な個所や疑問点があれば、その時点で質問するなり、紹介する参考資料等を参考にして、理解をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

風間喜代三(1978)『言語学の誕生』岩波新書
佐久間淳一他(2007)『言語学入門』研究社
スティーブンソン／江村他訳(2010)『図説 ことばの世界－欧米の言語史－』青山社
千野栄一(1994)『言語学の開かれた扉』三省堂
町田健・初山洋介(1995)『よくわかる言語学入門－解説と演習』バベルプレス
小泉政利(2016)『ここから始める言語学プラス統計分析』共立出版
初山洋介(2009)『日本語表現で学ぶ入門からの認知言語学』研究社
迫田久美子(2002)『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
野田尚史・迫田久美子・渋谷勝己・小林典子(2001)『日本語学習者の文法習得』大修館書店

【成績評価の方法と基準】

課題：20%
平常点：20%
発表：20%
期末試験：40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持とうという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてくれることを期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to develop an advanced understanding of multilingual international communities and multicultural societies, students will be exposed to the basic knowledge and concepts of linguistics and will be able to objectively analyze how "language" can be viewed from the perspective of communication.

Linguistics is a discipline that analyzes language and describes and explains the "mechanism of language. In this class, we will introduce the basic concepts necessary to objectively describe human language. In the process, we will also present various approaches to a single phenomenon and overview the major research methods used in modern linguistics. Through these approaches, we will introduce the structures and linguistic phenomena found in the world's languages and the basic concepts needed to explain them.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To gain a general knowledge of human activity in language.
2. To understand that there are unexpected phenomena in the world's languages by focusing on the differences and similarities between the systems of Japanese and English.
3. To understand that language can be analyzed and studied from various angles through exposure to fields of linguistics that overlap with other disciplines, such as historical, comparative, and geographical linguistics, sociolinguistics, cognitive linguistics, contrastive linguistics, and second acquisition theory.
4. To develop an awareness of the main research methods in modern linguistics.

【Learning activities outside of classroom】

Since the lecture content is limited to the basics, if there are any unclear points or questions, please ask questions or refer to the reference materials introduced at that time to ensure understanding.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Presentation performance: 20%, Assignments : 20%, in class contribution: 20%

LIN100LA（言語学 / Linguistics 100）

言語学 A

2017年度以降入学者

齊藤 雄介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】

学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	言語学入門	言語学とは何か、どのような分野があるのかについて説明する。
第2回	音声学・音韻論1	音声学と音韻論の違い、音声構造
第3回	音声学・音韻論2	音声器官、調音点
第4回	音声学・音韻論3	母音と子音
第5回	音声学・音韻論4	音素と異音
第6回	音声学・音韻論5	日本語と英語の強制的の違い
第7回	形態論1	語の構造と語の構成
第8回	形態論2	派生接辞と屈折接辞
第9回	形態論3	語彙範疇と機能範疇
第10回	形態論4	派生、屈折、複合と接頭辞、接尾辞の関係
第11回	形態論5	語の右側主要部規則
第12回	統語論1	文法とは何か
第13回	統語論2	文法構造
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。毎回プリントを配布するので、その内容も確認しておくこと。復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

毎回プリントを配布する。

『言語学入門』 西原哲雄（編） 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、期末試験80% *5回以上の欠席で評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は講義形式で行いますが、リアクションペーパーなどを用いて双方向の授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline: Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.

Learning Objectives: Students understand a fundamental method to analyze languages and linguistic studies.

Learning activities outside of classroom: Students reconsider the content of previous classes.

Grading Criteria /Policy: Participation: 20%, Final Exam: 80%

LIN100LA（言語学 / Linguistics 100）

言語学B

2017年度以降入学者

齊藤 雄介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】

学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	言語学入門	言語学とは何かを説明し、言語学Aの内容を若干復習する
第2回	統語論1	文法とは何か 文の構造
第3回	統語論2	下位範疇と句構造規則
第4回	統語論3	変形文法
第5回	統語論4	Xバー統語論
第6回	意味論1	語と語の意味関係
第7回	意味論2	語の内部の意味関係
第8回	意味論3	語の意味と背景知識
第9回	意味論4	意味と話者の関係
第10回	語用論1	語用論とは何か
第11回	語用論2	言語能力と言語運用と語用論
第12回	語用論3	会話仮説理論
第13回	語用論4	関連性理論
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。使用するテキスト以外に授業中に配布したプリントも試験範囲に含まれるため、その内容も確認しておくこと。復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『言語学入門』 西原哲雄（編） 朝倉書店

【参考書】

毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%, 期末試験80% *5回以上の欠席で評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は講義形式で行いますが、リアクションペーパーなどを用いて双方向の授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline: Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.

Learning Objectives: Students understand a fundamental method to analyze languages and linguistic studies.

Learning activities outside of classroom: Students reconsider the content of previous classes.

Grading Criteria /Policy: Participation: 20%, Final Exam: 80%

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。

この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：

- ・ソクラテスと彼の対論者たちとの思想の違い
- ・イデア説の哲学史上の意味
- ・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
- ・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(4～5回実施予定)。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学 I のオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第2回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第3回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第4回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス（1） ソクラテス以前・以後： 哲学の転回
第5回	哲学の歴史 2	ソクラテス（2） ソフィストと哲学者
第6回	哲学の歴史 3	ソクラテス（3） ソクラテス VS 快楽主義
第7回	哲学の歴史 4	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第8回	哲学の歴史 5	プラトン（2） 想起説とイデア
第9回	哲学の歴史 6	プラトン（3） 善のイデア アリストテレスのイデア解釈
第10回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠

第11回	哲学の基本問題 2	知性と神：プラトン
第12回	哲学の基本問題 3	モラルの危機と哲学
第13回	哲学の基本問題 4	一元論思想とその問題点 東西の一元論思想
第14回	哲学 I のまとめ	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績(60%)、授業内容確認小テストの成績(30%)そして平常点(10%)とにより評価する。

授業内筆記試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

多くの大学生にとって哲学を授業で学ぶのは初めてのことと思います。わかりやすく丁寧な、また可能な限り深い解説に努めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

This course introduces ancient Greek philosophy, especially the philosophy of Socrates and Plato, to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. Differences in thought between Socrates and his opponents.
2. The meaning of Plato's theory of ideas in the history of philosophy.
3. The grounds for the possibility of common understanding on values.
4. How to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で、授業を進めていきます。
学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回実施予定）。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第2回	哲学の基本的性格1	普遍とは？ 唯名論・實在論 オッカムの剃刀
第3回	哲学の基本的性格2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変遷
第4回	哲学の根本問題について1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第5回	哲学の根本問題について2	デカルトの二元論
第6回	哲学の根本問題について3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第7回	哲学の根本問題について4	認識批判1 共有可能な知識とは？
第8回	哲学の根本問題について5	認識批判2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ
第9回	哲学の根本問題について6	カントの超越論的哲学 認識の客観性

第10回	哲学の根本問題について7	カントと近代哲学の難問 (カント哲学の意義と問題点)
第11回	哲学の根本問題について8	超越論的哲学の展開1 超越論的現象学
第12回	哲学の根本問題について9	超越論的哲学の展開2 世界信念
第13回	現代世界と哲学について	ニヒリズム ニーチェの対応法
第14回	哲学Ⅱのまとめ	世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末リポート試験の成績（60%）、授業内容確認小テストの成績（30%）そして平常点（10%）とにより評価する。
学期末リポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】

教材がわかりやすく、またある程度詳しくて良かったようです。授業では、丁寧でわかりやすい、かつ、可能な限り深い説明・解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The problems which have arisen from Descartes' dualism.
2. Kant's and Husserl's solutions to the problems.
3. The problem of nihilism pointed out by Nietzsche, and his solutions to the problem.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。「心」「観念」「自由意志」など哲学の代表的な問題を取りあげ、それに関連する哲学者の言葉を読み合わせ解釈を試みるとともに、問題そのものの理解を深めます。その際、専門用語を他の専門用語に置き換えて「説明」するのではなく、私たちが日頃感じているどのような問題とつながるのかを探り、哲学史の知識と日常に潜む哲学的問題とを接続することにより、地に足の着いた理解の獲得をめざします。

【到達目標】

毎日を生きる私たちが漠然と疑問に思いながらもそのまま放置してしまっている問題に向き合い、それについての自分の考えを言語化できるようになること。同じ問題について他人の考えを理解できるようになること。また、関連する主要な哲学者の言葉を解釈し説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式によって実施されます。ただし、参加人数によっては適宜グループワークや参加者による発表が取り入れられることもあります。また、講義内容に関する簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格1	〈わたし〉というもの
3	哲学の基本的性格2	他人の心
4	哲学の基本概念1	真理
5	哲学の基本概念2	客観性
6	哲学の基本概念3	歴史と自然
7	哲学の基本概念4	科学
8	哲学の基本概念5	道徳
9	哲学の基本問題1	心と身体
10	哲学の基本問題2	心の内と外
11	哲学の基本問題3	自由意志と決定論
12	哲学の基本問題4	道徳的運
13	哲学の基本問題5	生きる意味
14	授業内試験	試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員からの指示に従い次回授業に関連する内容を下調べしておいてください。また、毎回出される課題を授業後に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50％：受講者がどれだけ授業内容を理解・深化・拡張できたかを評価します。

平常点50％：平常点は主に授業内課題に基づいて評価します。課題は授業で扱った問題について自分の考えを述べるというものです。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

1) In this course we will review the basic nature, history and fundamental issues of philosophy.

2) We will attempt to find clues to solve the various problems that people face today by rethinking them from a variety of perspectives.

3) Students are required to submit an assignment after each class.

4) Grading will be based on a final exam (50%) and regular marks (50%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は常識を批判的に再検討します。この観点から哲学史上の主要問題を理解するよう試みます。「愛」「悪」「道徳」など哲学の代表的な問題を取りあげ、それに関連する哲学者の言葉を読み合わせ解釈を試みるとともに、問題そのものの理解を深めます。その際、専門用語を他の専門用語に置き換えて「説明」するのではなく、私たちが日頃感じているどのような問題とつながるのかを探り、哲学史の知識と日常に潜む哲学的問題とを接続することにより、地に足の着いた理解の獲得をめざします。

【到達目標】

日頃あらためて意識することのない「あたりまえ」を批判的に再検討できるようになること。自分の考えを言語化するとともに他人の考えを理解できるようになること。関連する主要な哲学者の言葉を解釈し説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式によって実施されます。ただし、参加人数によっては適宜グループワークや参加者による発表が取り入れられることもあります。また、講義内容に関する簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格1	愛
3	哲学の基本的性格2	友人
4	哲学の基本概念1	「ある」
5	哲学の基本概念2	時間
6	哲学の基本概念3	言葉
7	哲学の基本概念4	自由と平等
8	哲学の基本問題1	退屈
9	哲学の基本問題2	悪
10	哲学の基本問題3	道徳の根拠
11	哲学の基本問題4	死
12	哲学の基本問題5	寛容
13	哲学の基本問題6	個
14	授業内試験	試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員からの指示に従い次回授業に関連する内容を下調べしておいてください。また、毎回出される課題を授業後に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50％：受講者がどれだけ授業内容を理解・深化・拡張できたかを評価します。

平常点50％：平常点は授業への参加度と授業内課題に基づいて評価します。課題は授業で扱った問題について自分の考えを述べるというものです。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

1) Philosophy critically re-examines common sense. We will attempt to understand the major issues in the history of philosophy from this perspective.

2) The goal is to be able to critically re-examine common sense while studying major philosophies.

3) Students are required to submit an assignment after each class.

4) Grading will be based on a final exam (50%) and regular marks (50%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

内山 真莉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。特に、「この世界には何が存在しているのか」という〈存在〉にかかわる問いと、「我々はこの世界をどのように認識しているのか」という〈認識〉にかかわる問いを軸に据え、哲学的探求の営みを追体験することを目的とします。

代表的な哲学者の実際の言葉・思想に触れることで、哲学史の基本的な知識を得て、論理的に考察し探求する力を養うことを目指します。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決する。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。具体的には以下の通り。

- ・世界における存在と認識の問題について、西洋哲学の基本的な考えを理解する。
- ・哲学的に考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な哲学者の思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学 I のオリエンテーション	哲学とはどのような営みか
第2回	哲学の基本的性格 1・存在論	世界はどのように成立しているのか
第3回	哲学の基本的性格 2・認識論	我々は何をどのように認識しているのか
第4回	哲学の歴史 1・プラトンとアリストテレス	イデアはどこにあるのか
第5回	哲学の歴史 2・エピクロスとストア派	世界理性と人間理性
第6回	哲学の歴史 3・新プラトン主義	一者と神と流出
第7回	哲学の歴史 4・イスラーム哲学	一神教とアリストテレス
第8回	哲学の歴史 5・中世スコラ哲学	人間と神と世界
第9回	哲学の基本問題 1・科学革命と哲学	人間中心主義

第10回 哲学の基本問題 2・哲学的懐疑と理性

合理論と経験論①

第11回 哲学の基本問題 3・経験の直接性

合理論と経験論②

第12回 哲学の基本問題 4・コペルニクスの転回

カントの認識論

第13回 哲学の基本問題 5・言語論的転回

言語と分析

第14回 哲学的考察の実践 授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布します。

【参考書】

『西洋哲学史〔古代・中世編〕』内山勝利・中川純男編著、ミネルヴァ書房、1996年。

『西洋哲学史〔近代編〕』宗像恵・中岡成文編著、ミネルヴァ書房、1995年。

『西洋思想のあゆみ ログスの諸相』岩田靖夫・坂口ふみ・柏原啓一・野家啓一著、有斐閣、1993年。

その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価します。

①授業最終回の論述試験：60%

②リアクションペーパーの内容：40%

【学生の意見等からの気づき】

板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will offer a historical perspective on the questions that philosophy has explored and the ideas it has developed. Specifically, we will delve into philosophical inquiries that revolve around existential matters, such as "What exists in this world?" as well as those related to cognition, such as "How do we perceive the world around us?"

【Learning Objectives】

This course aims to comprehend fundamental concepts of Western philosophy, practice the art of philosophical reasoning, and enhance self-awareness by exploring the ideas of various philosophers.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

内山 真莉子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。この観点から哲学史上の主要問題をできる限り平明に解釈し、理解するよう試みます。この授業では特に、西洋における最重要トピックである「神」の問題について検討します。その際、中世から近代にかけて熱心に行われた神の存在証明や、理性と信仰の問題についての議論に着目します。

【到達目標】

- ・神の問題と人間との関係性について、西洋哲学の基本的な考えを理解する。
- ・哲学的に考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な哲学者の思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義の導入
第2回	哲学の基本的性格1	神は哲学の対象か
第3回	哲学の基本的性格2	理性と信仰
第4回	哲学の根本問題について1・神の存在証明①	宇宙論的論証(1)第一原因の論証
第5回	哲学の根本問題について2・神の存在証明②	宇宙論的論証(2)必然・比較による論証
第6回	哲学の根本問題について3・神の存在証明③	目的論的論証
第7回	哲学の根本問題について4・神の存在証明④	存在論的論証(1)アンセルムス
第8回	哲学の根本問題について5・神の存在証明⑤	存在論的論証(2)アンセルムスとデカルト
第9回	哲学の根本問題について6・神の存在証明⑥	近代
第10回	哲学の根本問題について7・神の本質	神の諸属性について

第11回	哲学の根本問題について8・神認識①	神は認識可能か
第12回	哲学の根本問題について9・神認識②	神認識と幸福
第13回	現代世界と哲学について	信仰と合理性
第14回	哲学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】

『「神」という謎〔第二版〕宗教哲学入門』上枝美典、世界思想社、2007年。
『西洋思想のあゆみ ロゴスの諸相』岩田靖夫・坂口ふみ・柏原啓一・野家啓一著、有斐閣、1993年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価する。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

【学生の意見等からの気づき】

板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Philosophy critically reevaluates common sense. From this perspective, we aim to interpret and understand significant issues in the history of philosophy in the simplest way possible. In particular, this class will focus on "God," one of the most important subjects in Western philosophy. We will concentrate on the passionate debates surrounding the proof of God's existence and the relationship between reason and faith, from the Middle Ages to modern times.

【Learning Objectives】

This course aims to comprehend fundamental concepts of Western philosophy, practice the art of philosophical reasoning, and enhance self-awareness by exploring the ideas of various philosophers.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

内山 真莉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。特に、「この世界には何が存在しているのか」という〈存在〉にかかわる問いと、「我々はこの世界をどのように認識しているのか」という〈認識〉にかかわる問いを軸に据え、哲学的探求の営みを追体験することを目的とします。

代表的な哲学者の実際の言葉・思想に触れることで、哲学史の基本的な知識を得て、論理的に考察し探求する力を養うことを目指します。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決する。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。具体的には以下の通り。

- ・世界における存在と認識の問題について、西洋哲学の基本的な考えを理解する。
- ・哲学的に考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な哲学者の思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学 I のオリエンテーション	哲学とはどのような営みか
第2回	哲学の基本的性格 1・存在論	世界はどのように成立しているのか
第3回	哲学の基本的性格 2・認識論	我々は何をどのように認識しているのか
第4回	哲学の歴史 1・プラトンとアリストテレス	イデアはどこにあるのか
第5回	哲学の歴史 2・エピクロスとストア派	世界理性と人間理性
第6回	哲学の歴史 3・新プラトン主義	一者と神と流出
第7回	哲学の歴史 4・イスラーム哲学	一神教とアリストテレス
第8回	哲学の歴史 5・中世スコラ哲学	人間と神と世界
第9回	哲学の基本問題 1・科学革命と哲学	人間中心主義

第10回 哲学の基本問題 2・哲学的懐疑と理性

合理論と経験論①

第11回 哲学の基本問題 3・経験の直接性

合理論と経験論②

第12回 哲学の基本問題 4・コペルニクスの転回

カントの認識論

第13回 哲学の基本問題 5・言語論的転回

言語と分析

第14回 哲学的考察の実践 授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布します。

【参考書】

『西洋哲学史〔古代・中世編〕』内山勝利・中川純男編著、ミネルヴァ書房、1996年。

『西洋哲学史〔近代編〕』宗像恵・中岡成文編著、ミネルヴァ書房、1995年。

『西洋思想のあゆみ ログスの諸相』岩田靖夫・坂口ふみ・柏原啓一・野家啓一著、有斐閣、1993年。

その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価します。

①授業最終回の論述試験：60%

②リアクションペーパーの内容：40%

【学生の意見等からの気づき】

板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will offer a historical perspective on the questions that philosophy has explored and the ideas it has developed. Specifically, we will delve into philosophical inquiries that revolve around existential matters, such as "What exists in this world?" as well as those related to cognition, such as "How do we perceive the world around us?"

【Learning Objectives】

This course aims to comprehend fundamental concepts of Western philosophy, practice the art of philosophical reasoning, and enhance self-awareness by exploring the ideas of various philosophers.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で、授業を進めていきます。
学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回実施予定）。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第2回	哲学の基本的性格1	普遍とは？ 唯名論・実在論 オッカムの剃刀
第3回	哲学の基本的性格2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変遷
第4回	哲学の根本問題について1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第5回	哲学の根本問題について2	デカルトの二元論
第6回	哲学の根本問題について3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第7回	哲学の根本問題について4	認識批判1 共有可能な知識とは？
第8回	哲学の根本問題について5	認識批判2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ
第9回	哲学の根本問題について6	カントの超越論的哲学 認識の客観性

第10回	哲学の根本問題について7	カントと近代哲学の難問 (カント哲学の意義と問題点)
第11回	哲学の根本問題について8	超越論的哲学の展開1 超越論的現象学
第12回	哲学の根本問題について9	超越論的哲学の展開2 世界信念
第13回	現代世界と哲学について	ニヒリズム ニーチェの対応法
第14回	哲学Ⅱのまとめ	世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末リポート試験の成績（60%）、授業内容確認小テストの成績（30%）そして平常点（10%）とにより評価する。
学期末リポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】

配布した教材やレジュメ及び説明がわかりやすく、またある程度詳しくて良かったようです。授業では、これからも丁寧でわかりやすい、またできるだけ深い解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The problems which have arisen from Descartes' dualism.
2. Kant's and Husserl's solutions to the problems.
3. The problem of nihilism pointed out by Nietzsche, and his solutions to the problem.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

谷口 カ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。
この授業では、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、主として、「世界」および「世界」に関するさまざまな論理的問題（存在論、認識論、言語論、など）について、各時代の哲学者たちが、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

この授業では、主として、以下の内容の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における世界
- ・大陸合理論における世界
- ・イギリス経験論における世界
- ・近代ドイツ哲学における世界
- ・19～20世紀哲学における世界
- ・現代分析哲学における世界

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体の説明をしたうえで、各哲学の項目に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、内容・ポイントを解説し、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学 I のオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・哲学とは何か
第2回	哲学の歴史～哲学の基本問題1 ：古代ギリシャ哲学(1)	・西洋哲学史全体の流れ ・ソクラテス以前の哲学者たち ①（さまざまなアルケー、有）
第3回	哲学の基本問題2 ：古代ギリシャ哲学(2)	・ソクラテス以前の哲学者たち ②（ゼノンのパラドックス、流動説、ヌース、など） ・ソクラテス（無知の知、など）
第4回	哲学の基本問題3 ：古代ギリシャ哲学(3)	・プラトン①（イデア論）
第5回	哲学の基本問題4 ：古代ギリシャ哲学(4)	・プラトン②（知識とは何か）
第6回	哲学の基本問題5 ：古代ギリシャ哲学(5)	・アリストテレス（デユナミスとエネルゲイア、など） ・プロティノス（一者、流出説） ・近代への過渡期

第7回	哲学の基本問題6 ：大陸合理論	・デカルト（実体、神、精神と物体） ・スピノザ（実体、属性、様態） ・ライプニッツ（モノイド）
第8回	哲学の基本問題7 ：イギリス経験論(1)	・ロック（タブラ・ラサ、経験と観念、など） ・ヒューム（知覚の束、因果律の否定、など）
第9回	哲学の基本問題8 ：イギリス経験論(2)	・バークリ（物質的実体の否定、など）
第10回	哲学の基本問題9 ：近代ドイツ哲学(1)	・カント（感性と悟性、ア・プリオリな総合判断、など）
第11回	哲学の基本問題10 ：近代ドイツ哲学(2)	・フィヒテ（自我と非我） ・シュリング（主客の無差別） ・ヘーゲル（弁証法、絶対者、など）
第12回	哲学の基本問題11 ：19～20世紀哲学	・ショーペンハウアー（意志と表象） ・ニーチェ（真理らしさ、パースペクティブ、など） ・ハイデガー（世界-内-存在、など）
第13回	哲学の基本問題12 ：現代分析哲学(1)	・フレーゲ（意味と意義） ・ウィトゲンシュタイン（対象と事実、世界の限界、など）
第14回	哲学の基本問題13 ：現代分析哲学(2) ～哲学 I のまとめ	・一と多、時間論、その他の現代形而上学 ・試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いず、授業時にプリントを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。
この授業では、原則として、期末試験50%、平常点50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【その他の重要事項】

哲学に興味・関心のある方の履修を推奨します。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The main objective of this course is to study overview of the following major philosophical questions and problems : “world” and various related logical problems of “world” (ontology, epistemology, linguistic theory, etc.).

[Learning Objectives]

The goals of this course are to understand and examine many ideas, ways of thinking of “world” in the philosophical history.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to have read the relevant books.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be decided based on a term-end exam (50%) , and the quality of students' class participation (50%) .

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

谷口 カ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、主として、「心」および「心」に関するいくつかの倫理的問題（価値、道徳、生、など）について、各時代の哲学者たちが、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

この授業では、主として、以下の内容の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における心
- ・大陸合理論における心
- ・イギリス経験論における心
- ・近代ドイツ哲学における心
- ・19～20世紀哲学における心
- ・現代分析哲学における心

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体の説明をしたうえで、各哲学の項目に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、内容・ポイントを解説し、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・心の哲学とは何か ・西洋哲学史全体の流れ
第2回	哲学の根本問題について1 ：古代ギリシャ哲学(1)	・ソクラテス（徳の知、死について） ・プラトン①（ブシュケー、想起説、など）
第3回	哲学の根本問題について2 ：古代ギリシャ哲学(2)	・プラトン②（魂の正しさについて）
第4回	哲学の根本問題について3 ：古代ギリシャ哲学(3)	・プラトン③（正しさとは何か） ・アリストテレス（アニマ） ・近代への過渡期
第5回	哲学の根本問題について4 ：大陸合理論	・デカルト（コギト、二元論） ・スピノザ（汎神論、善悪の相対性） ・ライプニッツ（モノドロジー）

第6回	哲学の根本問題について5 ：イギリス経験論	・ロック（感覚と反省、など） ・ヒューム（同一性の否定、など） ・バークリ（存在するとは知覚されること）
第7回	哲学の根本問題について6 ：近代ドイツ哲学(1)	・カント（実践的要請、定言命法、など）
第8回	哲学の根本問題について7 ：近代ドイツ哲学(2)	・フィヒテ（自我） ・ヘーゲル（精神現象学、など）
第9回	哲学の根本問題について8 ：19～20世紀哲学	・シュティルナー（唯一者） ・ニーチェ（自己、ニヒリズム） ・志向性、その他の独英米の諸議論
第10回	哲学の根本問題について9 ：現代分析哲学(1)	・ウィトゲンシュタイン①（形而上学的主体、語りえぬもの、など）
第11回	哲学の根本問題について10 ：現代分析哲学(2)	・現代の心の哲学①（行動主義、同一説、機能主義、消去主義、随伴現象説、性質二元論、など）
第12回	哲学の根本問題について11 ：現代分析哲学(3)	・現代の心の哲学②（非法則的一元論、クオリア、認知的閉鎖、さまざまな思考実験）
第13回	哲学の根本問題について12 ：現代分析哲学(4)	・ウィトゲンシュタイン②（言語ゲーム、生きている人間、まなざし）
第14回	哲学の根本問題について13 ：大乘仏教の哲学～現代世界および現代日本と哲学について～哲学Ⅱのまとめ	・炎のたとえ ・心の哲学が教えること ・試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでもみるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いず、授業時にプリントを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。
この授業では、原則として、期末試験50%、平常点50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【その他の重要事項】

哲学に興味・関心のある方の履修を推奨します。
春学期の「哲学Ⅰ」を受講していない方も履修可能です。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The main objective of this course is to study overview of the following major philosophical questions and problems: “mind” and some related ethical problems of “mind” (value, moral, life, etc.).

[Learning Objectives]

The goals of this course are to understand and examine many ideas, ways of thinking of “mind” in the philosophical history.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to have read the relevant books.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be decided based on a term-end exam (50%) , and the quality of students' class participation (50%) .

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

特にこの I の講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業内で、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。小テストはその採点結果が模範解答付きで次の授業までに返され、さらに次の授業で解説される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学とは？
2	プラトン(1)	「アイデアの萌芽」としての人間存在
3	プラトン(2)	『饗宴』アリストファネスの話
4	プラトン(3)	『饗宴』ソクラテスの話
5	西田幾多郎(1)	『善の研究』-「知即愛」の命題
6	西田幾多郎(2)	「主客合一」としての人間存在
7	和辻哲郎(1)	『倫理学』-「問柄」としての人間存在
8	和辻哲郎(2)	「矛盾の統一」としての人間存在
9	和辻哲郎(3)	『風土』-「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	和辻哲郎(4)	主体としての風土
11	ブーバー(1)	『我と汝』
12	ブーバー(2)	「汝」としての世界
13	ブーバー(3)	ブーバー:我と汝の芸術論
14	哲学 I のまとめ	哲学のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。

プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』（一）、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』

復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックし、間違えた個所があればその点を中心にノートやプリントを振り返り、特に疑問などは次の時間に質問できるようにしておくこと。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before, such as through the development of new technologies, something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

The purpose of this course is for students to have the experience of actually coming into the contact with the world of thoughts in famous works and to be able to express that experience.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests given every class (100%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間的欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子を見ます。

【到達目標】

受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業内で、その回の内容について問うグループフォーム上の小テストを行う。小テストはその採点結果が模範解答付きで次の授業までに返され、さらに次の授業で解説される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学への導入
2	今西錦司(1)	生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
3	今西錦司(2)	生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として その2
4	アリストテレス(1)	自己形成的世界観としての形而上学
5	アリストテレス(2)	自己形成的世界観としての形而上学 その2
6	デカルト(1)	自己形成的世界観の展開としての近代哲学 近代化の原理としての主観客観二元論
7	デカルト(2)	デカルトの近代的世界観
8	デカルト(3)	近代的主客二元論
9	デカルト(4)	「近代的分裂」の予告としての近代的主客二元論
10	合理論と経験論	「近代化」と「近代的分裂」の原理としての主客二元論 近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	カントとヘーゲル(1)	カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	カントとヘーゲル(2)	カントのアンチノミー論
13	カントとヘーゲル(3)	ヘーゲルの弁証法的世界観
14	カントとヘーゲル(4)	ヘーゲルの弁証法的世界観その2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。
今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』

復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックし、間違えた箇所があればその点を中心にノートやプリントを振り返り、特に疑問などは次の時間に質問できるようにしておくこと。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点100%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

グループフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PCが望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

The purpose of this course is for students to have the experience of actually coming into the contact with the world of thoughts in famous works and to be able to express that experience.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests given every class(100%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、人間の知のあり方を、広くて新しい視野から考えることを目的とします。

【到達目標】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観を通して、学として知ることの意味に対する理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学 I のオリエンテーション	学問としての哲学
第2回	哲学の基本的性格 1	自然を知ること—自然哲学—
第3回	哲学の基本的性格 2	人間を知ること—ソクラテス—
第4回	哲学の歴史 1	知の可能性について 1—プラト—
第5回	哲学の歴史 2	知の可能性について 2—アリス—
第6回	哲学の基本問題 1	『国家』を読む
第7回	哲学の歴史 3	信仰と知—中世哲学—
第8回	哲学の歴史 4	人間的理性について—近代哲学—
第9回	哲学の歴史 5	考えることと感ずること 1—大陸合理論—
第10回	哲学の歴史 6	考えることと感ずること 2—イギリス経験論—
第11回	哲学の基本問題 2	『方法序説』を読む
第12回	哲学の歴史 7	自然と自由—カント—
第13回	哲学の歴史 8	社会と歴史を知ること—ドイツ観念論—
第14回	哲学の基本問題 3	人間の知のあり方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題の理解は授業の内容理解度によって、学として知ることの意味に対する理解は学期末レポートによって、それぞれ30%と70%の割合で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各回授業の内容理解度にその都度注意するようにします。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and history of philosophy.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the basic concepts and history of philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の根本問題を、イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながらかできるだけ平明に解説します。カント哲学の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

【到達目標】

カント哲学を学習することを通して、哲学の観点から学として社会的、歴史的、文化的に時代状況を考える力を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	時代状況と哲学
第2回	哲学の基本的性格1	近代の哲学思想1—デカルト—
第3回	哲学の基本的性格2	近代の哲学思想2—ロック—
第4回	哲学の基本的性格3	カント哲学の概要
第5回	哲学の根本問題について1	カントの理論哲学
第6回	哲学の根本問題について2	『純粋理性批判』を読む1—超越論的感性論と超越論的論理学—
第7回	哲学の根本問題について3	『純粋理性批判』を読む2—超越論的分析論と超越論的弁証論—
第8回	哲学の根本問題について4	『純粋理性批判』を読む3—概念の分析論—
第9回	哲学の根本問題について5	カントの実践哲学
第10回	哲学の根本問題について6	『実践理性批判』を読む
第11回	現代世界と哲学について1	現代の哲学思想
第12回	現代世界と哲学について2	カント哲学の解釈
第13回	現代世界と哲学について3	カントの世界市民主義
第14回	現代日本と哲学について まとめ	グローバル化時代の哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

カント哲学の理解は授業の内容理解度によって、哲学の観点から学として社会的、歴史的、文化的に時代状況を考える力は学期末レポートによって、それぞれ30%と70%の割合で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各回授業の内容理解度にその都度注意するようにします。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of Kant's philosophy to students taking this course.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the foundations of Kant's philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。哲学は子供から大人、老年に至るまで、才能の有無、向き不向きを問うことなく、人間として誰もが考えるべき問いを探究する。本講義は、古今東西の思想家に、この問いを訪ねてゆく。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考えます。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。特にこの講義では、人間存在（自己）の哲学的在り方と人間を超える存在との関わりを理解し、説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学 I のオリエンテーション	講義全体の概観とシラバスの解説
第2回	哲学の基本的性格 1 — 哲学の暫定的定義と方法	「愛知」としての哲学と自己
第3回	哲学の基本的性格 2 — 哲学の問い	哲学と科学の関連と相違
第4回	哲学の歴史 1— 近代 ①	ニーチェ：解釈論と試みとしての哲学
第5回	哲学の歴史 2— 近代 ②	ニーチェ：超人、自己、運命愛
第6回	哲学の歴史 3— 現代 ①	ヤスパース：実存と永遠
第7回	哲学の歴史 4— 現代 ②	ヤスパース：超越者の「言葉」
第8回	哲学の基本問題 1— 死について ①	ハイデガー：死に関わる人間存在
第9回	哲学の基本問題 2— 死について ②	ドストエフスキー：死と魂の滅
第10回	哲学の基本問題 3— 現実と非現実について	ドストエフスキー：悪魔の存在
第11回	哲学の基本問題 4— 人間生命に目的はあるか？	清沢満之：絶対無限と自己
第12回	哲学の歴史 5— 古代	エピクテトス：我執、運命、自由意志
第13回	哲学の歴史 6— 中世	証空：浄土教における無限者との一体化
第14回	哲学 I のまとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

ヤスパース『新版 哲学入門』林田新二訳、リベルタス出版、2020年。その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40% くらい）と期末の筆記試験（60% くらい）の 2 つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、6 月下旬頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the defining characteristics, the history and the questions of philosophy. We will ask thinkers of all ages, east and west, about the problem of self and being beyond myself. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、通俗的常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、通俗的な意識への批判（存在意識の変革）であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。特にこの講義では、人間存在と人間を超える存在との関わりを、近現代社会の哲学的な状況をも意識しつつ、理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義全体の概観とシラバスの解説
第2回	哲学の基本的性格—哲学の暫定的定義と方法、哲学の懐疑	哲学することの動機
第3回	哲学の根本問題について1—科学的認識、概念、行為の因果性について	カントの認識論
第4回	哲学の根本問題について2—我執、自由、幸福について	カント：道徳と宗教
第5回	哲学の根本問題について3—現実世界と人間存在について	ヤスパース：包摂者論
第6回	哲学の根本問題について4—思考、真理について	ヤスパース：理性と交わり
第7回	哲学の根本問題について5—哲学的世界像について	古代ギリシャの存在論
第8回	哲学の根本問題について6—現実世界の運動について	ヘーゲルの弁証法
第9回	哲学の根本問題について7—近世日本の道徳観	伊藤仁斎の「仁」の思想
第10回	現代日本と哲学について1	夏目漱石：現代日本批判と自己本位
第11回	現代日本と哲学について2	夏目漱石：道と天

第12回	現代世界と哲学について1	小林秀雄：信じられる自己、言葉、物、美
第13回	現代世界と哲学について2	小林秀雄：西洋と日本、自己を超える存在
第14回	哲学Ⅱのまとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】

ヤスパース『理性と実存』越部良一訳、リベルタス出版、2023年。その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％くらい）と期末の筆記試験（60％くらい）の2つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、12月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic subjects of philosophy from ancient to modern times in the critique of a commonly held view. The goals of this course are to understand and explain philosophical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。「心」「観念」「自由意志」など哲学の代表的な問題を取りあげ、それに関連する哲学者の言葉を読み合わせ解釈を試みるとともに、問題そのものの理解を深めます。その際、専門用語を他の専門用語に置き換えて「説明」するのではなく、私たちが日頃感じているどのような問題とつながるのかを探り、哲学史の知識と日常に潜む哲学的問題とを接続することにより、地に足の着いた理解の獲得をめざします。

【到達目標】

毎日を生きる私たちが漠然と疑問に思いながらもそのまま放置してしまっている問題に向き合い、それについての自分の考えを言語化できるようになること。同じ問題について他人の考えを理解できるようになること。また、関連する主要な哲学者の言葉を解釈し説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式によって実施されます。ただし、参加人数によっては適宜グループワークや参加者による発表が取り入れられることもあります。また、講義内容に関する簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格1	〈わたし〉というもの
3	哲学の基本的性格2	他人の心
4	哲学の基本概念1	真理
5	哲学の基本概念2	客観性
6	哲学の基本概念3	歴史と自然
7	哲学の基本概念4	科学
8	哲学の基本概念5	道徳
9	哲学の基本問題1	心と身体
10	哲学の基本問題2	心の内と外
11	哲学の基本問題3	自由意志と決定論
12	哲学の基本問題4	道徳的運
13	哲学の基本問題5	生きる意味
14	授業内試験	試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員からの指示に従い次回授業に関連する内容を下調べしておいてください。また、毎回出される課題を授業後に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50%：受講者がどれだけ授業内容を理解・深化・拡張できたかを評価します。

平常点50%：平常点は主に授業内課題に基づいて評価します。課題は授業で扱った問題について自分の考えを述べるというものです。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

1) In this course we will review the basic nature, history and fundamental issues of philosophy.

2) We will attempt to find clues to solve the various problems that people face today by rethinking them from a variety of perspectives.

3) Students are required to submit an assignment after each class.

4) Grading will be based on a final exam (50%) and regular marks (50%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は常識を批判的に再検討します。この観点から哲学史上の主要問題を理解するよう試みます。「愛」「悪」「道徳」など哲学の代表的な問題を取りあげ、それに関連する哲学者の言葉を読み合わせ解釈を試みるとともに、問題そのものの理解を深めます。その際、専門用語を他の専門用語に置き換えて「説明」するのではなく、私たちが日頃感じているどのような問題とつながるのかを探り、哲学史の知識と日常に潜む哲学的問題とを接続することにより、地に足の着いた理解の獲得をめざします。

【到達目標】

日頃あらためて意識することのない「あたりまえ」を批判的に再検討できるようになること。自分の考えを言語化するとともに他人の考えを理解できるようになること。関連する主要な哲学者の言葉を解釈し説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式によって実施されます。ただし、参加人数によっては適宜グループワークや参加者による発表が取り入れられることもあります。また、講義内容に関する簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格1	愛
3	哲学の基本的性格2	友人
4	哲学の基本概念1	「ある」
5	哲学の基本概念2	時間
6	哲学の基本概念3	言葉
7	哲学の基本概念4	自由と平等
8	哲学の基本問題1	退屈
9	哲学の基本問題2	悪
10	哲学の基本問題3	道徳の根拠
11	哲学の基本問題4	死
12	哲学の基本問題5	寛容
13	哲学の基本問題6	個
14	授業内試験	試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員からの指示に従い次回授業に関連する内容を下調べしておいてください。また、毎回出される課題を授業後に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50％：受講者がどれだけ授業内容を理解・深化・拡張できたかを評価します。

平常点50％：平常点は授業への参加度と授業内課題に基づいて評価します。課題は授業で扱った問題について自分の考えを述べるというものです。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

1) Philosophy critically re-examines common sense. We will attempt to understand the major issues in the history of philosophy from this perspective.

2) The goal is to be able to critically re-examine common sense while studying major philosophies.

3) Students are required to submit an assignment after each class.

4) Grading will be based on a final exam (50%) and regular marks (50%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学 I

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第2回	倫理学とは何か	倫理学と他の学問。倫理学の根本問題、善、快楽、自己、共同体、超越者
第3回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第4回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第5回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第6回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第7回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第8回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第9回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」
第11回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	カント倫理学② 自由とは何か？

第12回 私は自分の義務をなすべきか？（3） 功利主義（ベンサム、ミル）

第13回 私は法になつたことをなすべきか？ 社会契約論、共同体主義

第14回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％くらい）と期末の筆記試験（60％くらい）の2つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、6月下旬頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics. It also enhances the development of students' skill in considering social rules and morals. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあって、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行う。質問等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第2回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第3回	私は生命を操作する権利があるのか？	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？	科学技術と倫理 脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第7回	環境は保護しなければならないのか？	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第8回	環境は保護しなければならないのか？	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か？
第9回	環境は保護しなければならないのか？	21世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」

第10回	環境は保護しなければならないのか？	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）
第11回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	世代間倫理（フレチェット）
第12回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	責任という原理（ヨナス）
第13回	何が暴力を抑止するのか？	暴力、戦争と倫理学
第14回	授業のまとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％くらい）と期末の筆記試験（60％くらい）の2つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、12月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics. It enhances the development of students' skill in considering various ethical issues. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学 I

2017年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。原則対面授業を行います。ただし、「オンライン授業による教育効果が高い場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7回以下）で、オンライン授業を実施する場合もあります。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、学習支援システムより通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第2回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第3回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第4回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第5回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第6回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第7回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学
第8回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第9回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学

第11回 私は法になかったことをなすべきか？ 法実証主義

第12回 私は法になかったことをなすべきか？ 社会契約論

第13回 私は法になかったことをなすべきか？ 自由主義・共同体主義

第14回 私は法になかったことをなすべきか？ 自由主義・共同体主義

第14回 まとめ 授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜共有します。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997年
など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、学習支援システム上から毎回の授業課題を提出してもらう。また期末にレポートを提出してもらう。以上の2点を総合して評価する。

評価の比率は、課題60%、期末レポート40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅱも併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

The purpose of this lesson is to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in everyday society based on the relationship with social norms.

Study time outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、Short reports : 60%

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。原則対面授業を行います。ただし、「オンライン授業による教育効果が高い場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7回以下）で、オンライン授業を実施する場合もあります。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、学習支援システムより通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するのか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第2回	何が暴力を抑止するのか？（2）	暴力の倫理学
第3回	何が暴力を抑止するのか？（3）	テロリズムと戦争
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学

第7回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	生命倫理
第8回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第9回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第10回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第11回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？
第12回	環境は保護しなければならないのか？（2）	持続可能な社会とは何か？
第13回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21世紀の倫理学に向けて
第14回	まとめ	まとめの授業を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜共有します。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・レッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年
など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、学習支援システムから毎回の課題を提出してもらう。また期末にレポートを提出してもらう。以上の2点を総合して評価する。
評価の比率は、課題60%、期末レポート40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、学習支援システムより通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅰも併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

The purpose of this lesson is to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in a global society based on the relationship with social norms.

Study times outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%, Short reports : 60%

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学 I

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、基本的には、講義形式で行う。ただ、受講者各自の理解度を確認するために、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりである。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人間とは何か？（1）	・受講上の注意 ・授業内容についてのイントロダクション ・「現に問うているのは誰か？」
第2回	人間とは何か？（2）	・ハイデガー哲学からみた「私」の位置 ・「世界内存在としての私」
第3回	人間とは何か？（3）	・「私は世界とどのように関わるのか？」
第4回	私は何をなすべきか？（1）	・「倫理学とは何か？」
第5回	私は何をなすべきか？（2）	・「絶対的な善とは何か？」
第6回	私は何をなすべきか？（3）	・倫理学と宗教 ・アリストテレス倫理学
第7回	私は何をなすべきか？（4）	・快楽主義とストア派の倫理学
第8回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	・功利主義 ・義務と有用性
第9回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	・自由とは何か？ ・権利と自由
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	・カント倫理学 ・権利と義務
第11回	私は法になかったことをなすべきか？（1）	・法実証主義 ・法と倫理

第12回 私は法になかったことをなすべきか？（2）

・社会契約論
・国家と個人

第13回 私は法になかったことをなすべきか？（3）

・自由主義・共同体主義
・政治と倫理
・社会と個人

第14回 まとめ

・倫理学の現代的意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・倫理的問題は、私たちが日常生活を営むなかで様々な形で出会う問題が多い。それゆえ、受講生各自は、授業内で指示された様々な倫理的な基本的文献を参考にしながら、自らの倫理的問題を意識することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

・ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ

『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
・加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997年など

【成績評価の方法と基準】

・定期試験（60％）に加え、リアクションペーパー（40％）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにする。

【その他の重要事項】

・倫理学という学問の性質上、私たちが生きている現場で、実践知として生かされなければ、倫理学で学んだ知識は単なる「机上の空論」にすぎない。倫理学説の特徴を理解しながらも、各自がいきている場面で生かしていけない限り、倫理学的知は身につかない。したがって、授業に参加するだけでなく、自ら日常生活の中で、日頃から倫理観を問い直す姿勢をもつようにしてもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, the aim of this course is to help students think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に、講義形式で行われる。ただ、授業で取り上げる応用倫理的な諸問題について、受講生から意見を聞いたり、ディスカッションを行ったりすることも考えている。また、リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の意見を積極的に授業に反映させることも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するのか？（1）	・「正義の戦争」はありうるか？ ・戦争倫理学入門
第2回	何が暴力を抑止するのか？（2）	・暴力の倫理学
第3回	何が暴力を抑止するのか？（3）	・テロリズムと戦争 ・国家に抵抗することは、可能か？
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	・生存権／人権とは何か？ ・生命の尊厳と生命の質
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	・「生きるに値する命」とは何か？
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	・動物倫理学 ・動物保護の倫理
第7回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	・バイオテクノロジーの倫理
第8回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	・責任という原理（ヨナス）
第9回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	・科学技術の倫理

第10回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	・世代間倫理
第11回	環境は保護しなければならないのか？（1）	・環境倫理学とは何か？
第12回	環境は保護しなければならないのか？（2）	・持続可能な社会とは何か？
第13回	環境は保護しなければならないのか？（3）	・21世紀の倫理学に向けて
第14回	まとめ	・応用倫理学の現代的な意味について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

応用倫理学の領域は多岐に渡るため、受講生各自はそれぞれの興味関心のままに倫理的問題にアプローチすることができる。それゆえ、自分が興味のあるテーマについての様々な文献をよみ、自らの倫理観を見直すように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

・ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
・加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003年
・加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005年
・ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年
など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（60％）に加え、リアクション・ペーパー（40％）などで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

応用倫理学の扱う領域は多種多様であり、そこで生ずる倫理的問題もまた多岐にわたっている。その意味では、私たちは、倫理的問題にどこからでも取り組むことができる。それゆえ、受講生各自は、自らの興味関心や素朴な疑問から倫理的問題にアプローチすることができる。そして、応用倫理学の分野（生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学、戦争倫理学など）の領域を堪能してもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society. Therefore, the aim of this course is to help students consider differences of values with others with different cultures.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学 I

2017年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

The purpose of this class is to examine how we exist and live as an individual human being in the everyday society we live in today, based on the relationship with social norms. In doing so, we aim to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行ないます。毎回の講義後には、リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではなく、授業を視聴して各自で考えたことを書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために実施しています。

学生の皆さんに質問を投げかけたり、皆さんのリアクションペーパーを紹介したりすることで、同世代の受講者がどのような考えを持っているのか、同じ講義を聞いてもさまざまな考えがあるのだということを知ることができます。講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人間とは何か？（1）	「私」とは誰か？
第2回	人間とは何か？（2）	世界の中にいるとはどういうことか？
第3回	人間とは何か？（3）	世界の様々な捉え方、世界と「私」
第4回	私は何をなすべきか？（1）	近代とは何か？
第5回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第6回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学：幸福な生とは何か？
第7回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学：快楽と禁欲
第8回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義：「万人の利益」が善なのか？

第9回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？：自由意志と責任
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学：行為の道徳的価値と義務
第11回	私は法になかったことをなすべきか？（1）	法実証主義：法律は絶対的に正しいのか？
第12回	私は法になかったことをなすべきか？（2）	社会契約論：人民の主権と法の支配
第13回	私は法になかったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義：個人の権利と共同体的多元性
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各90分を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 1.5 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年適宜、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（60%）、期末試験またはレポート（40%）

毎回リアクションペーパーを提出することを必須としますので、受講を検討する際は注意してください（ただ提出しているだけの人は、評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています）。

Reaction papers for each class (60%), final exam or report (40%)

This year, due to the university's request, the class will be conducted on demand. For this reason, we will increase the evaluation ratio of the reaction papers for each class. Please note that it is mandatory to listen to the on-demand class properly and then submit a reaction paper by the deadline every week, so please be careful when considering taking this course.

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ倫理学が身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。また、受講者のコメントシートを紹介することで、同世代の人たちの色々な考え方を知ることができ、良い刺激になると思います。

【その他の重要事項】

※ 倫理学という科目が初めてであっても、毎回の授業の中で少しずつ理解を深め、徐々に慣れることはできるので心配しないでOKです。（基本的に初学者向けの授業です）

※ ただし単位取得のみを目的としている人にはお勧めしません。大学生としてきちんと学ぼうという意思のある人に受講して頂きたいです。

※ この科目は教職科目のため、共通シラバスです。

* Even if you are new to the subject of ethics, don't worry because you can gradually deepen your understanding and get used to it in each class. (Basically, this class is for first-time students)

* We do not recommend this course to those who just want to get credits. This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.

* This course is based on a common syllabus.

【Outline (in English)】

This course will introduce and survey the various basic concepts and theoretical framework of ethics. Students will gain practice the critical and philosophical thinking through this course.

During the first part of this course we will introduce the basic concepts and foundational theories of ethics. We will attempt to consider what is definition and what is value. In the second part of the course we will examine some specific topics through philosophical theme. Through this course, students will be able to recognize the importance of ethical values and consideration. In addition, students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちがグローバルな社会の中で、一個人としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学である。

The goals of this course are to provide students with practical knowledge to solve various ethical problems. In particular, this course is a more practical ethics in terms of applying the fundamentals of ethics learned in Ethics I under realistic themes by studying the so-called field of "applied ethics."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

- * 講義
- * 毎回、授業後に簡単なコメントシートを提出。
- * 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するのか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第2回	何が暴力を抑止するのか？（2）	暴力の倫理学
第3回	何が暴力を抑止するのか？（3）	テロリズムと戦争
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？

第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第7回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	バイオテクノロジーの倫理
第8回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第9回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第10回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第11回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？
第12回	環境は保護しなければならないのか？（2）	持続可能な社会とは何か？
第13回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21世紀の倫理学に向けて
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各90分を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 1.5 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年
田島樹里奈『デリダのポリティカルエコノミー：パレルゴン・自己免疫・暴力』北樹出版、2019年
その他、適宜授業中に紹介します

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（60%）、期末試験またはレポート（40%）

リアクションペーパーの提出をもって出席扱いとしますが、ただ提出しているだけの人は評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています。（リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではありません。受講して各自で考えたことを毎回書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために行っています）

Reaction papers for each class (60%), final exam or report (40%)

Submission of reaction papers will count as attendance, but those who just submit them may not be evaluated. In this course, the emphasis is on taking the class while thinking proactively. (The reaction paper is not as hard as a report, but is designed to develop your ability to think and to train you to put your thoughts into words by asking you to write what you have thought about each time you take the course.)

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。

Even if you have never taken an ethics class or do not know what ethics is, if you take the course with interest, you will gradually come to understand that it is a familiar subject.(Basically, this class is for first-time students)

【その他の重要事項】

倫理学Ⅰを受けてから受講すると、より理解しやすくなります。

※ 単位取得のみを目的とする人にはお勧めしません。大学生としてきちんと学ぼうという意思のある人に受講して頂きたいです。

※ この科目は教職科目のため、共通シラバスです。

It is recommended that students take Ethics I before taking this course for better understanding.

We do not recommend this course to those who just want to get credits. This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.

This course is based on the common syllabus.

【Outline (in English)】

This course will learn applied ethics with emphases on violence, technology, environment and sustainability. This course will recognize a variety of ethical issues and problems when confronted with examples of social and historical situations. By this course students will be able to understand what is applied ethics and why this field is important. In addition, through this course students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学 I

2017年度以降入学者

上田 瑞季

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 授業形態：対面・講義形式（ただし、発言を求めることがある）
- 授業の進め方：講義＋小課題＋ディスカッション
- フィードバック：授業冒頭で、前回提出された小課題からいくつか取り上げる予定。
- 授業の課題：原則として、毎回課す予定。授業で取り上げた問題に対して、小課題を提出してもらい。思考を促し、自らの考えを言語化するスキルの向上を目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第2回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第3回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第4回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第5回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第6回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第7回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学
第8回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第9回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学
第11回	私は法になかったことをなすべきか？（1）	法実証主義
第12回	私は法になかったことをなすべきか？（2）	社会契約論

第13回 私は法になかったことをなすべきか？（3） 自由主義・共同体主義

第14回 まとめ これまでの授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年。
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997年 など

【成績評価の方法と基準】

小課題などの平常点（50％）＋期末試験またはレポート（50％）。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標60％以上に達した場合を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・最初は文章が書けなくて小課題に取り組むのが大変だったが、続けていくうちに論理的に文章を書けるようになったという声が多かった。毎回小課題が課される授業だと思って履修していただきたい。
・グループワークやディスカッションのおかげで、同じ問題に対して他の学生がどのように考えているかを学べたというフィードバックが多かったため、引き続きその時間を設けていきたい。
・私語する学生が少なく、集中しやすい授業だったという声が多数あった。今年度もそのような授業運営・雰囲気作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って、事前に学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

※倫理学Ⅱもあわせて受講するのが望ましいです。
※教職科目のため、共通シラバスとなっています。

【Outline (in English)】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:50,Term-end exam:50.

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

上田 瑞季

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 授業形態：対面・講義形式（ただし、発言を求めることがある）
- 授業の進め方：講義＋小課題＋ディスカッション
- フィードバック：授業冒頭で、前回提出された小課題からいくつか取り上げる予定。
- 授業の課題：原則として、毎回課す予定。授業で取り上げた問題に対して、小課題を提出してもらう。思考を促し、自らの考えを言語化するスキルの向上を目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するのか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第2回	何が暴力を抑止するのか？（2）	暴力の倫理学
第3回	何が暴力を抑止するのか？（3）	テロリズムと戦争
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第7回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	バイオテクノロジーの倫理
第8回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）

第9回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第10回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第11回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？
第12回	環境は保護しなければならないのか？（2）	持続可能な社会とは何か？
第13回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21世紀の倫理学に向けて
第14回	まとめ	これまでの授業を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・レッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年。
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003年。
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善出版、2005年。
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年 など

【成績評価の方法と基準】

小課題などの平常点（50％）＋期末試験またはレポート（50％）。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標60％以上に達した場合を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・最初は文章が書けなくて小課題に取り組むのが大変だったが、続けていくうちに論理的に文章を書けるようになったという声が多かった。毎回小課題が課される授業だと思って履修していただきたい。
・グループワークやディスカッションのおかげで、同じ問題に対して他の学生がどのように考えているかを学べたのは有意義だったというフィードバックが多かったため、引き続きその時間を設けていきたい。
・私語する学生が少なく、集中しやすい授業だったという声が多数あった。今年度もそのような授業運営・雰囲気作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って、事前に学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

※倫理学Ⅰもあわせて受講するのが望ましいです。
※教職科目のため、共通シラバスとなっています。

【Outline (in English)】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in a global society based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:50,Term-end examination:50.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学 I

2017年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回アクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルが1の場合は、オンライン授業と対面授業を併用する。レベルが2となった場合は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人間とは何か？（1） ——現に問うているのは誰か？	人間が人間の本質を問うという営みがどのようなものなのか考える。
第2回	人間とは何か？（2） ——世界内存在としての私	人間を「世界内存在」と捉えたハイデガーの思想を解説する。
第3回	人間とは何か？（3） ——私は世界とどのように関わるのか？	人間が世界を認識することができるのは精神的な働きによってである。その位置づけについて考察する。
第4回	私は何をなすべきか？（1）——倫理学とは何か？	倫理学という学問の概要を倫理学の3つのレベルの違いという観点から解説する。
第5回	私は何をなすべきか？（2）——絶対的な善とは何か？	「よい」という言葉の相対的な使用と絶対的な使用の区別について考える。
第6回	私は何をなすべきか？（3）——アリストテレス倫理学	エウダイモニア（幸福）を中心とするアリストテレス倫理学の特徴を解説する。
第7回	私は何をなすべきか？（4）——快楽主義とストア派の倫理学	生涯にわたる苦痛からの解放を求めるエピクロス派と自然に適合した行為を求めるストア派の思想を解説する。

第8回	私は自分の義務をなすべきか？（1）——功利主義	公益の最大化をめざす利他主義的幸福主義の立場について考える。
第9回	私は自分の義務をなすべきか？（2）——自由とは何か？	倫理学の人間学的前提である「自由意志」について考察する。
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（3）——カント倫理学	カント倫理学の概要を解説する。
第11回	私は法になかったことをなすべきか？（1）——法実証主義	現に通用している法律の妥当性が倫理的にどんな根拠に基づくのか考える。
第12回	私は法になかったことをなすべきか？（2）——社会契約論	ホブズの社会契約論、現代的な契約論ともいえるロールズの思想について解説する。
第13回	私は法になかったことをなすべきか？（3）——自由主義・共同体主義	社会的な目標より個人の権利を優先する「自由主義」と共同体にとっての善を重視する「共同体主義」について考える。
第14回	まとめ ※別途期末レポートを提出	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997年
など

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（70％） 期末レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:70,Term-end examination:30.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回アクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するのか？（1）——「正義の戦争」はあるのか？	正戦論とはなにか、正戦論はどのような戦争を正当化するのか考える。
第2回	何が暴力を抑止するのか？（2）——暴力の倫理学	暴力という観点から戦争を考える。
第3回	何が暴力を抑止するのか？（3）——テロリズムと戦争	テロリズムについて戦争倫理学という観点から考察する。
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）——生存権／人権とは何か？	生存権をもつとはいかなることか、その前提条件は何かを考える。
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）——「生きるに値する命」とは何か？	「生きるに値する命」といった評価をおこなう可能性について考える。
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）——動物倫理学	シンガーの「動物解放論」について解説する。

第7回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）——動物倫理学	動物倫理学と環境倫理学との関係について解説する。
第8回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）——責任という原理（ヨナス）	ヨナスの責任概念を中心に相互性の問題について考える。
第9回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）——科学技術の倫理	科学技術の発展がもたらす倫理問題を考える。
第10回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）——世代間倫理	世代内倫理に対する世代間倫理について解説する。
第11回	環境は保護しなければならないのか？（1）——環境倫理学とは何か？	世代間倫理としての環境倫理学について解説する。
第12回	環境は保護しなければならないのか？（2）——持続可能な社会とは何か？	「持続可能性」という概念について倫理的な観点から考える。
第13回	環境は保護しなければならないのか？（3）——21世紀の倫理学に向けて	なぜ地球環境を保護しなければならないのか、その理由を考える。
第14回	まとめ ※別途期末レポートを提出	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
 加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003年
 加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005年
 ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年
 浅見昇吾、森永審一郎（編）『教養としての応用倫理学』、丸善出版、2013年
 など

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（70％）期末レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in a global society based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:70,Term-end examination:30.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学 I

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第2回	倫理学とは何か	倫理学と他の学問。倫理学の根本問題、善、快楽、自己、共同体、超越者
第3回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第4回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第5回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第6回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第7回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第8回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第9回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」
第11回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	カント倫理学② 自由とは何か？

第12回 私は自分の義務をなすべきか？（3） 功利主義（ベンサム、ミル）

第13回 私は法になつたことをなすべきか？ 社会契約論、共同体主義

第14回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％くらい）と期末の筆記試験（60％くらい）の2つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、6月下旬頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics. It also enhances the development of students' skill in considering social rules and morals. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあって、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行う。質問等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第2回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第3回	私は生命を操作する権利があるのか？	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？	科学技術と倫理 脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第7回	環境は保護しなければならないのか？	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第8回	環境は保護しなければならないのか？	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か？
第9回	環境は保護しなければならないのか？	21世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」

第10回	環境は保護しなければならないのか？	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）
第11回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	世代間倫理（フレチェット）
第12回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	責任という原理（ヨナス）
第13回	何が暴力を抑止するのか？	暴力、戦争と倫理学
第14回	授業のまとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％くらい）と期末の筆記試験（60％くらい）の2つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、12月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics. It enhances the development of students' skill in considering various ethical issues. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

論理学 I

2017年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されている。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というもの成り立っているのか知りたいという哲学的な関心もあるからである。思考を研究してみてもわかることは、思考が、初めばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出しそれらを結合しまとめる作業だということである。だからうまく考えることができると世界はまとまりがついてすっきりする。「わかった!」というときのあの感覚である。逆にうまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためである。考えられるとは、まとまること・すっきりすることである。私たちはすっきりしたいから正しく考えられるようになりたいと願う。論理学はその手助けをする。それにより学生は思考や他者との議論が成り立つためのかなめの点、つまり論理というものがあるのを理解できるようになる。論理学は学生が他者との間に議論を理性的に組み立てていく作業に積極的に加わることができるようになることを目指す。

特にこの論理学 I では、アリストテレス以来の伝統的な形式論理学に焦点を当てる。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。授業後にグーグルフォーム上の小テストを行う。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムやグーグルフォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学とは？
2	論理学の原理	アイデンティティとは何か
3	概念(1)	概念とは何かー内包と外延、類と種
4	概念(2)	概念の定義
5	概念(3)	ロジックツリー ロジックツリーを使って実戦的問題を解決する方法
6	判断(1)	判断とは何か
7	判断(2)	判断の分類
8	判断(3)	オイラーの図形、周延と不周延
9	判断(4)	オイラーの図形を使った問題
10	推理(1)	推理とは何か 演繹と帰納、アナロジー
11	推理(2)	対当推理
12	推理(3)	変形推理
13	推理(4)	三段論法の形式

14 推理(5)

定言三段論法の格式と規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、前回のグーグルフォーム上の小テストの模範解答をチェックしてから授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。そのうえで今回のグーグルフォーム上の小テストを受けること。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点100%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

上記グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PCが望ましい。

【Outline (in English)】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In particular, this logic I focuses on traditional formal logic since Aristotle.

The purpose of this course is to be able to think logically and correctly.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests (100%).

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されている。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というもの成り立っているのか知りたいという哲学的な関心もあるからである。思考を研究してみてもわかることは、思考が、初めばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出しそれらを結合しまとめる作業だということである。だからうまく考えることができると世界はまとまりがついてすっきりする。「わかった!」というときのあの感覚である。逆にうまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためである。考えられるとは、まとまること・すっきりすることである。私たちはすっきりしたいから正しく考えられるようになりたいと願う。論理学はその手助けをする。それにより学生は思考や他者との議論が成り立つためのかなめの点、つまり論理というものがあつたの理解できるようになる。論理学は学生が他者との間に議論を理性的に組み立てていく作業に積極的に加わることができるようになることを目指す。

春学期の論理学Ⅰでは伝統的な形式論理学と呼ばれるものが主に扱われた。それに対してこの秋学期の論理学Ⅱでは、そうした伝統的な形式論理学の問題点や限界を乗り越えようとする近代以降の論理学の試みにも焦点を当てる。ただし、論理学Ⅰの受講を前提とせず独立にとれるように配慮する。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。授業後にグーグルフォーム上の小テストを行う。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムやグーグルフォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学への導入
2	三段論法(1)	三段論法の格式
3	三段論法(2)	正しい三段論法の規則
4	三段論法(3)	ペンの図形による三段論法の妥当性の判定
5	誤謬論	なぜ誤謬に陥るのか
6	帰納推理(1)	帰納推理とは何か
7	帰納推理(2)	ミルの帰納法
8	記号論理学(1)	記号論理学とは何か
9	記号論理学(2)	命題論理学
10	記号論理学(3)	命題の記号化と真理表、簡単な思考装置の設計
11	記号論理学(4)	結合記号の相互関係
12	記号論理学(5)	恒真命題

13 記号論理学(6) 公理主義体系

14 記号論理学(7) 限量論理学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、前回のグーグルフォーム上の小テストの模範解答をチェックしてから授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。そのうえで今回のグーグルフォーム上の小テストを受けること。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点100%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

上記グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PCが望ましい。

【Outline (in English)】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In Logic I, things called traditional formal logic were mainly dealt with. On the other hand, this Logic II also focuses on modern logic attempts to overcome the problems and limitations of such traditional formal logic. However, we will be able to take it independently without assuming that you take Logic I.

The purpose of this course is to be able to think logically and correctly.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests (100%).

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

論理学 I

2017年度以降入学者

鵜澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。その知識は、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題の解決に役立ち、また、社会人として備えるべき就業力にもつながります。論理学Ⅰの授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を学び、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ①正しい推理のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。
- ②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理（三段論法）の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。
- ③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は対面の形式で行われます。学習支援システムHoppiiを通じて、パワーポイント原稿、授業資料、課題を提供します。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は課題に答え、それを送信してください。課題等の提出・フィードバックはHoppiiを通じて行われます。出席、質問、感想は、Google Formを通じて提出してもらいます。質問は次回の授業時にお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全体のガイダンスと思考の基礎	春学期講義全体（教員紹介、授業のテーマ、到達目標、方法、成績評価基準）、思考の3原則（同一律、矛盾律、排中律）
2	知識の成り立ち	概念、内包と外延、上位と下位、類と種、普遍と特殊、種差と定義、区別と分類、定義とその種類
3	1.判断・命題、2.オイラーの図、3.命題の標準形式化	判断・命題の定義、定言命題の4種類（全称肯定、全称否定、特称肯定、特称否定）、概念の周延と不周延、オイラーの図、命題の標準形式化
4	1.推理の定義と分類、2.対当推理	推理の概念、演繹推理と蓋然推理、直接推理と間接推理、真偽と妥当・非妥当、対当推理（矛盾、反対、大小、小反対）
5	変形推理（1.換質法、2.换位法、3.換質换位法、4.戻換法）	換質法、换位法、换位不可能な命題、換質换位法、戻換法、直接推理の有用性

6	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法の概念、種類、定言三段論法
7	定言三段論法の規則	三段論法の導入、三つの一般原則、六つの規則と三つの派生規則
8	定言三段論法の判定、誤謬判定の練習問題、妥当性の判定の練習問題	誤謬判定の練習問題（設問1から設問6）、妥当性の判定の練習問題（設問8から11）
9	定言三段論法の格と式	定言三段論法の格（第1格、第2格、第3格、第4格）、定言三段論法の式、全体及び皆無の原理（第1格）、差異の原理（第2格）、用例の原理（第3格）、逆の原理（第4格）
10	練習問題、仮言三段論法	練習問題の解答と解説、仮言三段論法の概念、種類、肯定式、否定式、妥当な混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法（第1格から第4格）
11	仮言三段論法の復習と練習問題、選言三段論法	前件否定の誤謬、後件肯定の誤謬、選言三段論法の概念と種類（肯定否定式、否定肯定式）、選言三段論法の規則とその違反
12	両刀論法（ディレンマ）、規則、詭弁的両刀論法に対する反論	両刀論法の概念と分類（単純構成的、単純破壊的、複合構成的、複合破壊的両刀論法）、両刀論法の規則、詭弁的両刀論法に対する反論
13	両刀論法、仮言・選言三段論法の練習問題	両刀論法の練習問題、教科書の練習問題、仮言三段論法の練習問題、選言三段論法の練習問題
14	課題プリントの復習と授業全体のまとめ	課題プリントの復習と授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2時間）。復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する。また、課題を解き、Hoppiiを使って課題を提出する（2時間）。

【テキスト（教科書）】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』梓出版社、2013年、2,100円。本教科書はオンデマンド出版となりますので、三省堂書店法政大学売店で購入できます。大学生協書籍部教科書コーナーではありませんから、間違えないでください。学生は現金会計10%引きでご購入いただけます。

【参考書】

①『論理哲学入門』E.トゥーゲントハット、U.ヴォルフ著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題の評価など）、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ50%の割合で総合評価する。課題と筆記試験は、授業で示した方法に従って評価します。具体的には、到達目標で示された①オイラーの図によって概念間の関係が正しく把握されているかどうか（30%）、②推論の規則が正確に理解されているかどうか（40%）、③相手の詭弁を適切に指摘し、反論することができるかどうか、という基準に従って評価されます（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外の学習教材は、すべて学習支援システムHoppiiにアップロードされていますので、病気などで欠席された方は、このシステムを活用して、自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【Outline (in English)】

The study of logic is fundamental to our ability to think and act rationally. Defining objects and concepts in question helps us understand and solve various problems we encounter in daily life. Furthermore, the ability to discern valid inferences forms the foundation of critical thinking. The purpose of this course is to develop mastery of traditional logic—its concepts, judgments, and reasoning—using ordinary language. **Goals:** ① Students will acquire fundamental knowledge necessary for logical reasoning. ② Students will cultivate a habit of thinking logically and calmly. For example, they will be able to apply the rules of direct and indirect reasoning to draw correct inferences. ③ Students will develop the ability to communicate logically. **Homework:** Read the relevant sections of the textbook to gain an overview (2 hours). Review the previous class content using handouts to reinforce understanding of logic (2 hours). **Grading Criteria:** Class performance (participation, assignments, etc.). Spring semester exam scores. Each component (1) and (2) will account for 50% of the final grade.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

鵜澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。その知識は、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することに役立ち、また、社会人として備えるべき就業力にもつながります。論理学Ⅱの授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、現代の記号論理学（命題論理学）の習得を目的とします。

【到達目標】

- ①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。
- ②真理表や帰謬法を用いて推論の真偽を判定することができる。
- ③仮設構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は対面の形式で行われます。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、授業資料、課題が提供されます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行われます。出席、質問、感想は、Google Form を通じて提出してもらいます。質問は、次の週の授業でお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション およびF・ペーコン の帰納法	秋学期セメスターの授業内容、 授業の進め方など、F・ペーコン の帰納法論理（イドラ論と四 つの表）
第2回	J・S・ミルの帰納 法	ミルの論理学的体系、一致法、差 異法、一致差異併用法、剰余法、 自然の斉一性の原理、ペーコン とミルの帰納法の共通点と相違 点
第3回	デカルトとライブ ニッツの演繹法	デカルト（明晰判明な認識、直 観および演繹の確実性）、ライブ ニッツ（定義論、結合法、根拠 律）、両者の共通点と相違点
第4回	アンチノミーと弁証 法	カントの超越論的論理（超越論 的論理、分析論と弁証論、アンチ ノミー）、ヘーゲルの弁証法論理
第5回	文（命題）の真偽お よび論理的結合	文の真偽、論理的結合詞、真理 関数、複合命題の真理値、否定
第6回	文の論理的結合	連言、両立的選言、排他的選言、 条件（含意）、等値、ブール代数 の考え方
第7回	文と文の論理的関係 の具体相	同一命題の連言、同一命題の両 立的選言、同一命題の排反的選 言、論理代数のまとめ

第8回	つねに真である文と 真理表	恒真命題。命題の恒真性を真理 表で知る。テキストの問題を解 く。
第9回	つねに真である文	テキストおよびプリントの問題 を解く。
第10回	三段論法（推理）の 妥当性	三段論法（推論）の妥当性。テ キストの問題を解く。帰謬法の 導入
第11回	帰謬法の概念	教科書およびその他の練習問題 を解く。
第12回	帰謬法の練習	プリントなどの練習問題、帰謬 法を用いた推論の妥当性の検証
第13回	帰謬法のまとめ	プリント及び教科書の問題を解 く。対偶律、両刀論法
第14回	授業全体のまとめ	模擬試験を行い、その解答解説 を通じて、本授業の内容をまと める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2時間）。
復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する。また、課題を解き、Hoppii を使って課題を提出する（2時間）。

【テキスト（教科書）】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中金浩一著『改訂版 論理学の初歩』梓出版社、2013年、2,100円。本教科書はオンデマンド出版となりますので、三省堂書店法政大学売店で購入できます。大学生協書籍部教科書コーナーではありませんので、間違えないでください。学生は現金会計10%引きでご購入いただけます。

【参考書】

①『論理哲学入門』E.トゥーゲントハット、U.ヴォルフ著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題の評価など）、②秋学期試験の点数。①と②とをそれぞれ50%の割合で総合評価する。課題と筆記試験は、授業で示した方法に従って評価します。具体的には①授業内容が正しく把握されているかどうか（30%）、②学習した規則を使って問題を解くことができるかどうか（40%）、③期限内に課題を提出できているかどうか、という基準に従って評価されます（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外のすべての授業資料は、すべて授業支援システム Hoppii にアップロードされていますので、病気などで欠席した方は、これを活用し、自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【Outline (in English)】

Learning logic is fundamental to developing rational thinking and problem-solving skills. It equips us with the methods to approach and resolve various challenges we face in our daily lives. Moreover, logical thinking helps us function better in society by improving our decision-making abilities and overall cognitive performance. "Logic II" aims to acquire modern propositional logic and logic on science, cognition, and history. Goals: (1) Students can learn fundamental knowledge for thinking about science, cognition, and history. (2) Students can judge the truth or falsity of inferences using truth tables and reductio ad absurdum. Students can acquire working skills related to hypothesis building, document construction, and persuasion. Homework: Please read the relevant parts of the textbook to get an overview (2 hours). Review the contents of the previous class using the handouts to ensure that you have acquired the knowledge of logic (2 hours).

Grading criteria: (1) Ordinary points (attitude toward lecture, evaluation of assignments, etc.) and (2) Autumn semester exam scores. (1) and (2) will each be at a ratio of 50%.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学 I

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

(論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学II」も必ず履修して下さい。)

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。

2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回程度実施予定。）

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第2回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）
第3回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類

第4回	判断論（命題論）1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第5回	判断論（命題論）2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第6回	推理論：直接推理1	1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第7回	推理論：直接推理2	1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第8回	推理論：直接推理3	1. 命題の変形による推理：換質法・换位法 2. 練習問題
第9回	推理論：直接推理4	1. 命題の変形による推理：換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第10回	推理論：間接推理1（定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第11回	推理論：間接推理2（定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級）
第12回	推理論：間接推理3（定言三段論法・仮言三段論法）	1. 練習問題（中級） 2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粋仮言三段論法 4. 練習問題
第13回	推理論：間接推理4（仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績(65%)、授業内容確認小テストの成績(25%)、平常点(10%)により評価します。

学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

「論理学を学ぶのは初めてだったけど、思っていたより楽しかった」という感想をもらいました。論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目です。問題の解き方・解説は丁寧に行いますので、練習問題に積極的に取り組みましょう。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学I」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学II」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%). Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。

前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みは取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論(1)：復習	1. 仮言命題（条件文）：逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式
第2回	序論(2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第3回	命題論理学(1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第4回	命題論理学(2)	1. カッコの省略 2. 練習問題
第5回	命題論理学(3)	1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第6回	命題論理学(4)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第7回	命題論理学(5)	1. 整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第8回	論理トレーニング(1)	1. 小テスト（筆記試験） 2. 意味論と構文論
第9回	論理トレーニング(2)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第10回	論理トレーニング(3)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 練習問題
第11回	論理トレーニング(4)	1. 逆・裏・対偶 2. 練習問題
第12回	論理トレーニング(5)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第13回	論理トレーニング(6)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	1. 背理法 2. 練習問題 小テスト（筆記試験） まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題（宿題）または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971年

野矢茂樹著『まったくゼロからの論理学』、岩波書店、2020年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間小テスト成績（40％）と期末小テスト成績（40％）と平常点（20％）に基づき評価。2回的小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

小テストの採点基準は、2回ともいづれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

「勉強した内容が就活にも役立ちました」「説明・解説がとても丁寧だった」という感想をもらいました。引き続き、説明は丁寧に行いますので、授業・練習問題に積極的に取り組んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学I」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.
2. The application of the valid rules of inference such as De Morgan's laws and disjunction elimination.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in class (20%).

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

論理学 I

2017年度以降入学者

鵜澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。その知識は、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題の解決に役立ち、また、社会人として備えるべき就業力にもつながります。論理学Ⅰの授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を学び、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ①正しい推理のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。
- ②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理（三段論法）の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。
- ③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は対面の形式で行われます。学習支援システムHoppiiを通じて、パワーポイント原稿、授業資料、課題を提供します。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は課題に答え、それを送信してください。課題等の提出・フィードバックはHoppiiを通じて行われます。出席、質問、感想は、Google Formを通じて提出してもらいます。質問は次回の授業時にお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全体のガイダンスと思考の基礎	春学期講義全体（教員紹介、授業のテーマ、到達目標、方法、成績評価基準）、思考の3原則（同一律、矛盾律、排中律）
2	知識の成り立ち	概念、内包と外延、上位と下位、類と種、普遍と特殊、種差と定義、区別と分類、定義とその種類
3	1.判断・命題、2.オイラーの図、3.命題の標準形式化	判断・命題の定義、定言命題の4種類（全称肯定、全称否定、特称肯定、特称否定）、概念の周延と不周延、オイラーの図、命題の標準形式化
4	1.推理の定義と分類、2.対当推理	推理の概念、演繹推理と蓋然推理、直接推理と間接推理、真偽と妥当・非妥当、対当推理（矛盾、反対、大小、小反対）
5	変形推理（1.換質法、2.换位法、3.換質换位法、4.戻換法）	換質法、换位法、换位不可能な命題、換質换位法、戻換法、直接推理の有用性

6	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法定言三段論法の規則	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法の概念、種類、定言三段論法三段論法の導入、三つの一般原則、六つの規則と三つの派生規則
7	定言三段論法の判定、誤謬判定の練習問題、妥当性の判定の練習問題	誤謬判定の練習問題（設問1から設問6）、妥当性の判定の練習問題（設問8から11）
8	定言三段論法の格と式	定言三段論法の格（第1格、第2格、第3格、第4格）、定言三段論法の式、全体及び皆無の原理（第1格）、差異の原理（第2格）、用例の原理（第3格）、逆の原理（第4格）
9	練習問題、仮言三段論法	練習問題の解答と解説、仮言三段論法の概念、種類、肯定式、否定式、妥当な混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法（第1格から第4格）
10	仮言三段論法の復習と練習問題、選言三段論法	前件否定の誤謬、後件肯定の誤謬、選言三段論法の概念と種類（肯定否定式、否定肯定式）、選言三段論法の規則とその違反
11	両刀論法（ディレンマ）、規則、詭弁的両刀論法に対する反論	両刀論法の概念と分類（単純構成的、単純破壊的、複合構成的、複合破壊的両刀論法）、両刀論法の規則、詭弁的両刀論法に対する反論
12	両刀論法、仮言・選言三段論法の練習問題	両刀論法の練習問題、教科書の練習問題、仮言三段論法の練習問題、選言三段論法の練習問題
13	課題プリントの復習と授業全体のまとめ	課題プリントの復習と授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2時間）。復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する。また、課題を解き、Hoppiiを使って課題を提出する（2時間）。

【テキスト（教科書）】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』梓出版社、2013年、2,100円。本教科書はオンデマンド出版となりますので、三省堂書店法政大学売店で購入できます。大学生協書籍部教科書コーナーではありませんので、間違えないでください。学生は現金会計10%引きでご購入いただけます。

【参考書】

①『論理哲学入門』E.トゥーゲントハット、U.ヴォルフ著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題の評価など）、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ50%の割合で総合評価する。課題と筆記試験は、授業で示した方法に従って評価します。具体的には、到達目標で示された①オイラーの図によって概念間の関係が正しく把握されているかどうか（30%）、②推論の規則が正確に理解されているかどうか（40%）、③相手の詭弁を適切に指摘し、反論することができるかどうか、という基準に従って評価されます（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外の学習教材は、すべて学習支援システムHoppiiにアップロードされていますので、病気などで欠席された方は、このシステムを活用して、自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【Outline (in English)】

The study of logic is fundamental to our ability to think and act rationally. Defining objects and concepts in question helps us understand and solve various problems we encounter in daily life. Furthermore, the ability to discern valid inferences forms the foundation of critical thinking. The purpose of this course is to develop mastery of traditional logic—its concepts, judgments, and reasoning—using ordinary language. **Goals:**

① Students will acquire fundamental knowledge necessary for logical reasoning. ② Students will cultivate a habit of thinking logically and calmly. For example, they will be able to apply the rules of direct and indirect reasoning to draw correct inferences. ③ Students will develop the ability to communicate logically.

Homework: Read the relevant sections of the textbook to gain an overview (2 hours). Review the previous class content using handouts to reinforce understanding of logic (2 hours).

Grading Criteria: Class performance (participation, assignments, etc.). Spring semester exam scores. Each component (1) and (2) will account for 50% of the final grade.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

鵜澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。その知識は、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することに役立ち、また、社会人として備えるべき就業力にもつながります。論理学Ⅱの授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、現代の記号論理学（命題論理学）の習得を目的とします。

【到達目標】

- ①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。
- ②真理表や帰謬法を用いて推論の真偽を判定することができる。
- ③仮説構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は対面の形式で行われます。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、授業資料、課題が提供されます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行われます。出席、質問、感想は、Google Form を通じて提出してもらいます。質問は、次の週の授業でお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション およびF・ペーコン の帰納法	秋学期セメスターの授業内容、 授業の進め方など、F・ペーコン の帰納法論理（イドラ論と四 つの表）
第2回	J・S・ミルの帰納 法	ミルの論理学的体系、一致法、差 異法、一致差異併用法、剰余法、 自然の斉一性の原理、ペーコン とミルの帰納法の共通点と相違 点
第3回	デカルトとライプ ニッツの演繹法	デカルト（明晰判明な認識、直 観および演繹の確実性）、ライプ ニッツ（定義論、結合法、根拠 律）、両者の共通点と相違点
第4回	アンチノミーと弁証 法	カントの超越論的論理（超越論 的論理、分析論と弁証論、アンチ ノミー）、ヘーゲルの弁証法論理
第5回	文（命題）の真偽お よび論理的結合	文の真偽、論理的結合詞、真理 関数、複合命題の真理値、否定
第6回	文の論理的結合	連言、両立的選言、排他的選言、 条件（含意）、等値、ブール代数 の考え方
第7回	文と文の論理的関係 の具体相	同一命題の連言、同一命題の両 立的選言、同一命題の排反的選 言、論理代数のまとめ

第8回	つねに真である文と 真理表	恒真命題。命題の恒真性を真理 表で知る。テキストの問題を解 く。
第9回	つねに真である文	テキストおよびプリントの問題 を解く。
第10回	三段論法（推理）の 妥当性	三段論法（推論）の妥当性。テ キストの問題を解く。帰謬法の 導入
第11回	帰謬法の概念	教科書およびその他の練習問題 を解く。
第12回	帰謬法の練習	プリントなどの練習問題、帰謬 法を用いた推論の妥当性の検証
第13回	帰謬法のまとめ	プリント及び教科書の問題を解 く。対偶律、両刀論法
第14回	授業全体のまとめ	模擬試験を行い、その解答解説 を通じて、本授業の内容をまと める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2時間）。
復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する。また、課題を解き、Hoppii を使って課題を提出する（2時間）。

【テキスト（教科書）】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』梓出版社、2013年、2,100円。本教科書はオンデマンド出版となりますので、三省堂書店法政大学売店で購入できます。大学生協書籍部教科書コーナーではありませんので、間違えないでください。学生は現金会計10%引きでご購入いただけます。

【参考書】

①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題の評価など）、②秋学期試験の点数。①と②とをそれぞれ50%の割合で総合評価する。課題と筆記試験は、授業で示した方法に従って評価します。具体的には①授業内容が正しく把握されているかどうか（30%）、②学習した規則を使って問題を解くことができるかどうか（40%）、③期限内に課題を提出できているかどうか、という基準に従って評価されます（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外のすべての授業資料は、すべて授業支援システム Hoppii にアップロードされていますので、病気などで欠席した方は、これを活用し、自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【Outline (in English)】

Learning logic is fundamental to developing rational thinking and problem-solving skills. It equips us with the methods to approach and resolve various challenges we face in our daily lives. Moreover, logical thinking helps us function better in society by improving our decision-making abilities and overall cognitive performance. "Logic II" aims to acquire modern propositional logic and logic on science, cognition, and history. Goals: (1) Students can learn fundamental knowledge for thinking about science, cognition, and history. (2) Students can judge the truth or falsity of inferences using truth tables and reductio ad absurdum. Students can acquire working skills related to hypothesis building, document construction, and persuasion. Homework: Please read the relevant parts of the textbook to get an overview (2 hours). Review the contents of the previous class using the handouts to ensure that you have acquired the knowledge of logic (2 hours).

Grading criteria: (1) Ordinary points (attitude toward lecture, evaluation of assignments, etc.) and (2) Autumn semester exam scores. (1) and (2) will each be at a ratio of 50%.

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

論理学 I

2017年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように自分の意思を正しく表現して伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。私たちは普段から思考（推理）をしています、多くの場合、その推理は誤っています。この授業は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また、論理的に正しく思考し表現するためには、どのようにしたらよいのかということを、基礎から順に学んでいきます。そして最後に、日常の生活で正しくし思考し行動するためには、正しい知識（判断）と正しい論理（推理）の両方が必要であることを確認します。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に思考し表現する方法が実際に身につくようになることが、この授業の到達目標です。学期末試験は、正しく論理的に思考し表現する力が、身についたかどうかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。配布プリントと教科書を使い、基礎から、多くの例を挙げて、できる限り理解しやすく説明していきます。また、論理的な思考が身につくようにするために、演習として授業内で練習問題に取り組み、フィードバックとして問題の答え合わせと解説をし各自の理解度を確認してもらいます。下の授業計画には、見慣れない多くの論理学用語が出てきますが、恐れることはありません。それら論理学用語の丁寧な説明から始めていき、その理解の上に立って、正しく思考し、表現することを、順に学んでいきますから。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の内容、論理学への導入
第2回	論理学の根本原理について。	同一の原理、矛盾の原理、排中律の原理についての説明
第3回	概念について	概念の成り立ち、概念と判断についての説明
第4回	概念について	概念の内包と外延、概念の種類についての説明
第5回	区分と分類について	区分及び分類とは何か、区分の仕方、分類の仕方について
第6回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化についての説明。
第7回	定言命題の4種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図と、概念の周延・不周延の説明。
第8回	判断の命題化（標準形式化）	判断を命題の形にする方法について説明し、練習問題を解く。
第9回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、命題の真偽と推理の妥当・非妥当等について。
第10回	演繹推理の直接推理について	矛盾・反対・大小・小反対のそれぞれの対当推理の説明。

第11回	命題の変形による直接推理について	換質法・換位法についての説明
第12回	命題の変形による直接推理について	換質換位法及び本格的な推理についての説明
第13回	練習問題で推理を身につけよう。	命題の変形による推理の練習問題を授業内で解き、その解説を行う。
第14回	授業内の学期末試験：まとめと解説	論理的な正しい思考ができるかどうかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は、授業の準備として教科書の該当箇所を予め読んでおいて下さい。学んだ内容については、その都度教科書で復習して理解度を確認し、次の授業の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は4時間、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。 大貫義久・他『改訂版 論理学の初歩』（梓出版社、2013年） アマゾンPOD及び大学内の三省堂書店で購入可能

【参考書】

参考文献については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）と学期末試験（80％：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。平常点（20点）は各単元ごとの練習問題の取り組みを、学期末試験（80点）は、問題によって内容の理解度を見ます。できる限り出席し演習（練習問題）に取り組んで下さい。理解しやすいように工夫して説明していきます。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が「わかりやすい授業だった」、「レジュメのプリントや問題演習もあってよかった。理解できると楽しかった」と書いてくれました。説明のスピードに配慮し、理解が進むよう授業を工夫します。論理学は、理解できるし、理解すれば、楽しくなります。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of the traditional formal logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. Learning time outside of classroom is 4 hours: 2 hours each for preparation and review. Your final grade will be calculated according to the following process: usual performance score (20%), term-end examination (80%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、春学期の復習をした上で、「推理」の説明から始めます。特に「判断の変形による直接推理」を扱い、この推理が日常の曖昧な表現（言い方）を正確なものにするのに大いに役立つことを、丁寧に説明して行きます。

さらに、本格的な推理の三段論法に入り、正しい思考法を学びます。論理学は、正しく考えるということにおいて、これからの人生の様々な場面において役立ちます。正しい思考は正しい知識（判断）と正しい論理（推理）から可能になりますが、この授業では、その正しい論理について学びます。

本格的な論理である三段論法についても学び、最後に、現代論理学へと導きます。論理学は、分かってくると、学ぶことがとても楽しくなります。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に正しく思考し、表現する方法を実際に身につけることが、この授業の目標です。春学期よりも少し複雑な論理的思考（推理）を正しく行う方法を身につけます。試験では、複雑な論理的思考を正しく行うことができるかどうかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。配布プリントと教科書を使い、多くの例を挙げて、できる限り分かりやすく説明していきます。また、論理的思考を実際に身につけてもらうために、演習として練習問題を授業内で解き、フィードバックとして問題の答え合わせと解説を各自で理解度を確認してもらいます。秋学期から初めて授業を受ける学生にも、春学期の復習をすることによって考慮します。安心して履修して下さい。出席すれば、理解が十分できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の目標や内容、授業の仕方、評価方法についての説明。秋学期の内容に進むにあたって必要な春学期内容の復習
第2回	演繹推理の直接推理について	判断の変形による直接推理:換質法・换位法についての説明
第3回	演繹推理の直接推理について（続き）	判断の変形による直接推理:練習問題の解法と説明
第4回	演繹推理の間接推理について	定言三段論法について、その構造と規則について学ぶ。
第5回	定言三段論法についてのさらなる説明	定言三段論法の格と正しい式についての説明
第6回	練習問題で推理を身につけよう。	定言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第7回	仮言三段論法について	混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法についての説明
第8回	選言三段論法について	選言三段論法（肯定式・否定式）についての説明

第9回	練習問題で推理を身につけよう。	仮言三段論法と選言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第10回	両刀論法（ディレンマ）について	単純肯定的両刀論法、単純否定的両刀論法、複合肯定的両刀論法、複合否定的両刀論法についての説明
第11回	両刀論法と詭弁両刀論法について	詭弁両刀論法の反論について練習問題に取り組む。
第12回	現代論理学への導入	命題論理学と述語論理学について。特に命題論理学の説明
第13回	命題論理学の演習	問題の解答と説明
第14回	授業内の期末試験：まとめと解説	複雑な論理的思考が正しくできるかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として教科書の該当箇所を予め読んでおいて下さい。学んだ内容は、その都度教科書で復習して理解度を確認し、次の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は4時間、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。 大貫義久・他『改訂版 論理学の初歩』（梓出版社・2013年） アマゾンPOD及び大学内の三省堂書店で購入可能

【参考書】

参考文献については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）と学期末の授業内試験（80％：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り授業に出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明していきます。

【学生の意見等からの気づき】

授業については、多くの学生が「わかりやすかった」、「推理に興味を持てた」、「理解できると面白くなる」と書いてくれていました。内容をもっと理解しやすいものにするために、プリントと黒板を効率よく使って説明していきます。論理学は、理解でき、そして理解すれば、とても楽しくなる学びです。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of immediate inference to students taking this course. Then this course introduces syllogism to students. Lastly this course introduces symbolic logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. Learning time outside of classroom is 4 hours : 2 hours each for preparation and review. Your final grade will be calculated according to the following process: usual performance score (20%) , term-end examination (80%) .

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学 I

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

(論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学II」も必ず履修して下さい。)

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。

2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回程度実施予定。）

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第2回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）
第3回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類

第4回	判断論（命題論）1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第5回	判断論（命題論）2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第6回	推理論：直接推理1	1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第7回	推理論：直接推理2	1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第8回	推理論：直接推理3	1. 命題の変形による推理：換質法・换位法 2. 練習問題
第9回	推理論：直接推理4	1. 命題の変形による推理：換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第10回	推理論：間接推理1（定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第11回	推理論：間接推理2（定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級）
第12回	推理論：間接推理3（定言三段論法・仮言三段論法）	1. 練習問題（中級） 2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粋仮言三段論法 4. 練習問題
第13回	推理論：間接推理4（仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績(65%)、授業内容確認小テストの成績(25%)、平常点(10%)により評価します。

学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

「論理学を学ぶのは初めてだったけど、面白かった」「わかりやすい授業だった」という感想をもらいました。論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目です。問題の解き方・解説は丁寧に行いますので、練習問題に積極的に取り組んでみてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学I」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学II」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%). Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。

前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
 2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
 3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。
- 上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みは取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論(1)：復習	1. 仮言命題（条件文）：逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式
第2回	序論(2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第3回	命題論理学(1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第4回	命題論理学(2)	1. カッコの省略 2. 練習問題
第5回	命題論理学(3)	1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第6回	命題論理学(4)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第7回	命題論理学(5)	1. 整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第8回	論理トレーニング(1)	1. 小テスト（筆記試験） 2. 意味論と構文論
第9回	論理トレーニング(2)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第10回	論理トレーニング(3)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 練習問題
第11回	論理トレーニング(4)	1. 逆・裏・対偶 2. 練習問題
第12回	論理トレーニング(5)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第13回	論理トレーニング(6)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	1. 背理法 2. 練習問題 小テスト（筆記試験） まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題（宿題）または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971年

野矢茂樹著『まったくゼロからの論理学』、岩波書店、2020年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間小テスト成績（40％）と期末小テスト成績（40％）と平常点（20％）に基づき評価。2回的小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

小テストの採点基準は、2回ともいづれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

「勉強した内容が就活にも役立ちました」「説明・解説がとても丁寧だった」という感想をもらいました。引き続き、説明は丁寧に行いますので、授業・練習問題に積極的に取り組んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学I」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.
2. The application of the valid rules of inference such as De Morgan's laws and disjunction elimination.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in class (20%).

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

論理学 I

2017年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の伝統的論理学の基礎 — オイラー図とベン図で知る —
すべての学問の基礎にある、古代ギリシア以来のアリストテレスの伝統的論理学を学びます。(1)概念、(2)判断、(3)推理が三本柱となります。オイラー図やベン図を用いて考えることにより、数少ないシンプルな図形の組合せだけで伝統的論理学を知ることができます。覚えねばならないことは少なく、図形を使って論理的に考える力が身につきます。

【到達目標】

- (A) ヨーロッパの伝統的論理学の基礎的な知識を得る。
(B) 論理的に冷静に考える態度を身につける。
(C) 論理的に正しく推理することができる。
(1) オイラー図を使って伝統的論理学に則った正しい推理ができる。
(2) ベン図を使って伝統的論理学に則る正しい推理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) テキストを用い、必要に応じて板書を行いプロジェクターを使います。
(2) 各回の授業が終わった後に、「学習支援システム」を使った確認小テストの提出を求めます。
(3) 授業の初めに、前回を振り返り、確認小テストの気づきを、フィードバックします。
(4) 最終授業で全体を振り返る総合確認テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業のオリエンテーションと思考の基礎	①授業の受け方 ②何をどのように学ぶのか ③思考の3原則
2	概念と判断	①概念 ②定義 ③判断（オイラー図）
3	直接推理（対当推理）	①存在判断から述定判断への変換 ②対当推理（オイラー図）
4	直接推理（変形推理）	①換質法 ②换位法 ③戻換法（オイラー図）
5	間接推理（三段論法）	①三段論法の妥当性をオイラー図で考える。
6	三段論法の誤謬論	①量の公理 ②質の公理
7	三段論法の実践	①三段論法の問題を解く。
8	直接推理をベン図で考える	①存在仮定とベン図 ②対当推理をベン図で考える ③変形推理の戻換法をベン図で考える

9	ベン図で三段論法	①三段論法の妥当性をベン図で調べる手順 ②三段論法の誤謬論をベン図で考える ③三段論法の問題をベン図で解く
10	ベン図で三段論法（実践）	①実例で三段論法の妥当性を判定する
11	仮言三段論法	①混合仮言三段論法 ②純粹仮言三段論法
12	選言三段論法	①純粹選言三段論法 ②混合選言三段論法
13	両刀論法（ジレンマ）	①両刀論法（ジレンマ） ②ジレンマから抜け出す方法
14	全体への振り返り	①全体（第1～13回）の総合確認テストによる総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
《予習》各回の授業内容についてテキストで確認しておく。
《復習》①「学習支援システム」で各回の確認小テストを提出する。
②授業内容を復習して理解を確実にする。

【テキスト（教科書）】

菅沢龍文『論理学 はじめの一步 ——オイラー図とベン図で知る伝統的論理学——』（春風社）

【参考書】

大貫・白根・菅沢・中釜『論理学の初歩』梓出版社
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

伝統的論理学の基礎的知識、論理的に考える態度、論理的推理力に関して次の2方面から評価する。

- (1) 平常点（参加姿勢、確認小テストの評価など）
(2) 全体についての総合確認テストの点数
そして(1)を70%、(2)を30%の割合で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
(2) 授業内容は必須事項と発展的な事項との区別をつけて、必須事項の習得に重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システム（Hoppii）にインターネット接続して、確認テストをするためのパソコン（推奨）やタブレット、スマホが必要で。

【Outline (in English)】

Elements of the traditional European Logic, Using Euler Diagrams and Venn Diagrams: We learn the ancient Greek traditional logic of Aristotle. This logic is the basis of every science and constituted by three parts: (1) concepts, (2) judgements, (3) reasoning. Using Euler diagrams and Venn diagrams, by simple combinations of the figures we can realize the traditional logic. We don't have to learn so many things by heart and we will get the skill to think logically with the diagrams.

[Learning Objectives]

- (A) To acquire a basic knowledge of the traditional European logic.
(B) To acquire an attitude to think logically and calmly.
(C) To be able to reason logically and correctly.
(1) To be able to use Euler diagrams to make correct deductions in accordance with traditional logic.
(2) To be able to reason correctly using Venn diagrams in accordance with traditional logic.

[Learning activities outside of classroom]
The preparation (2 hours): To understand what we learn in our class next time.

The brush-up (2 hours): (1) To try mini-examination on "Hoppii". (2) To review the lesson.

[Grading Criteria /Policy]

The grades are given in the light of the basic understanding of the traditional logic, the perspective of logical thinking and the reasoning skill. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the mini-examinations, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「論理学Ⅱ」では現代における文（ぶん）の論理学を取り上げます（「論理学Ⅰ」では概念の論理学を主に取り上げました）。それに先立ち、近・現代科学の哲学的論理について、ペーコンやデカルトから始まる西洋の哲学者たちの思想を初歩的に学びます。そして文の論理学として、現代の命題論理学、さらに述語論理学の基礎を習得して、論理的な言葉遣いを学びます。また、論理代数、真理表、ベン図といった3つの表現方法を身につけて、論理的言葉遣いの理解を深めます。これにより、近・現代科学の論理的基礎や、論理的に正しい言葉遣いの基礎について学ぶことができます。

【到達目標】

近・現代科学の哲学的論理、現代の命題論理、述語論理の初歩を学ぶ。
 ①哲学的論理学によって、近代科学の論理的基礎を明らかにできる。
 ②命題論理学によって論理的に正しい文章を作ることができる。
 ③述語論理学によって文の論理的な意味を明らかにできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加者は

- (1) テキスト、プリント、プロジェクターを用います。
- (2) 授業内では、必要に応じて板書で問題を解きます。
- (3) 毎回「学習支援システム」で確認小テストを解いて提出します。
- (4) 授業の初めに前回の確認小テストを用いて復習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	(1) 授業について
	F・ペーコンの考えたこと	(2) イドラ説 (3) 表を用いた帰納法
2	帰納法と演繹法	(1) ミルの帰納法 (2) 自然の斉一性 (3) デカルトと演繹法
3	哲学的論理	(1) ライプニッツ 充足理由律 (2) カント 超越論的論理学 (3) ヘーゲル 弁証法
4	命題論理学 — 命題の真偽・論理的結合・複合命題の真理値	(1) 命題 (2) 論理的結合 (3) 真理表とベン図 —複合命題の真理値— (1) 否定 (2) 連言
5	複合命題の真理値	—複合命題の真理値— (3) 選言 (4) 条件（対偶など） (5) 等値 (*) 論理代数も用いて考える
6	問題を解く	(1) 複合命題の反例となる命題 (2) 複合命題に対応する事象の確率 (3) 複合命題の論理代数化

7	恒真命題（1）	(1) 恒真命題・総合命題 (2) 論理結合子の縮減 (3) 恒真命題の判定（真理表）
8	恒真命題（2）	(1) 恒真命題の判定（真理表） (2) 代表的な恒真命題 (3) 恒真命題の判定（帰謬法）
9	恒真命題と推理の妥当性	(1) 恒真命題の判定（帰謬法の続き） (2) 推理の妥当性を判定する
10	G. フレーゲ、B. ラッセル	(1) クラス理論／タイプ理論 (2) 嘘つきのパラドックス (3) 悪循環の原理
11	述語論理学のはじめ（Ⅰ）	(1) 命題関数 (2) 限量記号（ $\forall$, $\exists$ ） (3) 概念の述語化
12	述語論理学のはじめ（Ⅱ）	(1) 多項述語で考える (2) ある人がすべての人を愛する？ (3) すべての人がある人を愛する？
13	総復習	秋学期全体について
14	問題を解く	試験問題を解いて到達度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

《予習》 次回の内容についてテキストやプリント（「学習支援システム」上で前日にPDFで配布が原則）で概観しておく。
 《復習》 「学習支援システム」で毎回の確認小テストを提出し、前回の授業内容を復習して理解を確実にしておく。

【テキスト（教科書）】

大貫・白根・菅沢・中釜著『論理学の初歩』（梓出版社）

※第2回(3)～第3回および第10～14回は、プリントをテキストとします。

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

近・現代科学の哲学的論理学、現代の命題論理学、述語論理学の初歩に関して、次の2方面から総合評価する。

- (1) 平常点（参加姿勢、確認小テストの評価など）
- (2) 最終回に行う全体を振り返る試験の点数

これらのうち(1)を70% (2)を30%の割合で総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
- (2) 授業内容は基礎的なものとはいえ多いので、整理して見通しよく説明する。
- (3) 問題解答は、板書等により、解き方が具体的につかめるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システム（Hoppii）にインターネット接続して、確認テストをするためのパソコン（推奨）やタブレット、スマホが必要です。

【Outline (in English)】

Elements of Modern Philosophical Logic of Knowledge, Propositional Logic and Predicate Logic:

Students will first learn the basic ideas of Western philosophers, beginning with Bacon and Descartes, about logic, which is the mainstay of modern scientific knowledge. Then, students will learn modern propositional logic beginning with Boolean logic, as well as the fundamentals of predicate logic, and learn how to use logical language. In addition, students will deepen their understanding of logical wording by acquiring various methods of expression, such as logical algebra, truth tables, and Venn diagrams. This will enable students to learn about the logical foundations of modern science and the fundamentals of logically correct wording.

Students will learn the rudiments of philosophical logic, modern propositional logic, and predicate logic.

- (1) Students will be able to clarify the logical basis of modern science by means of philosophical logic.
- (2) Students will be able to produce logically correct sentences by means of propositional logic.
- (3) Students will be able to clarify the logical meaning of sentences by predicate logic.

[Learning activities outside of classroom]

The preparation (2 hours): To understand what we learn in our class next time.

The brush-up (2 hours): (1) To try mini-examination on "Hoppii". (2) To review the lesson.

[Grading Criteria /Policy]

The grades are given in terms of the philosophical logic of the modern science, the propositional logic of our time and the predicate logic elementary understood. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the mini-examinations, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学 I

2017年度以降入学者

相原 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることかを研究します。すなわち、論理学とは思考の形式および法則を研究する学問です。論理学 I では、はじめて論理学を学ぶ人のために、日常生活における言葉の使い方から学術レポートにおける論理性、さらに論証や反論のやり方を学びます。そして授業の後半で、論証構造のパターンを取り出すことで、正しく考えるために必要となる、論理学の基礎的な知識と技法を習得します。論理学を学ぶことで、筋道を立てて物事を考えることができるようになります。それは、言ってみれば、思考がクリアになることです。そのため論理学は、みなさんの今後の社会生活にも大いに役立つことでしょう。なお、論理学の基礎的な知識と技法の習得には、本授業だけでは不十分です。そのため、秋学期の「論理学Ⅱ」も履修することを勧めます。

【到達目標】

授業の目標は、正しく考えるために必要となる、論理学の基礎的な知識と技法を習得し、論理的な思考力を高めることです。具体的には、以下の事柄の習得を目指します。

1. 三段論法などの論法を適切に使うことで、筋道を立てて思考できるようにする。
2. 検証と代案という二種類の反論を使い分けて、批判的に思考できるようにする。
3. 自分の気持ちを表現することと、理性的に論じることが区別でき、たんなる感想文と論理的な文章を識別できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行います。なお毎回、理解度を確認する小テストを行い、解答・解説のフィードバックは次の回の授業で行います。また論理的な思考力を高めるために、授業内で練習問題を出します。問題の答えを発表してもらうことがあるので、受講者には主体的な参加を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・論理学とは何か	授業の進め方、評価方法などについて説明する
第2回	言葉の使い方	「学んで知ること」ということについて説明する
第3回	日本語と論理	「言葉の建築物をつくること」について説明する
第4回	文と文のつながり①	前提と結論の関係を示す接続表現について説明する
第5回	文と文のつながり②	内容を明瞭にする接続表現と論証構造を複雑にする接続表現について説明する
第6回	論理的な思考に基づく学術レポートの仕組み	パラグラフの役割について説明する
第7回	学術レポートの設計図	アウトラインの活用について説明する

第8回	論証の一般的なやり方	思いを論理的に伝える方法について説明する
第9回	反論の一般的なやり方	適切に反論する方法について説明する
第10回	反論の実践	誤りのパターンと論法の応用について説明する
第11回	記号論理の基礎①	論証のパターンと論理語について説明する
第12回	記号論理の基礎②	論証の記号化について説明する
第13回	記号論理の応用	三段論法による議論について説明する
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読んでください。

復習：前回の授業内容を確認してください。また参考書の練習問題を解いてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠著『はじめての論理学』、有斐閣ストゥディア、2020年。

沢田允茂著『現代論理学入門』、岩波新書、1962年。

野矢茂樹著『入門！ 論理学』、中公新書、2006年。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度および毎回の確認小テストの成績(40%)、学期末の授業内筆記試験の成績(60%)により評価します。

学期末の授業内筆記試験では、「到達目標」に記した事柄をどれくらい理解できているか、確認する問題を出す予定です。

筆記試験の採点基準は、授業で学んだとおりに答案を作成できているか、また論理的に正しい答えを導くことができているかです。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を行うよう努力したい。

【Outline (in English)】

In this course, for those who are learning logic for the first time, students will learn how to use language in everyday life, logic in academic reports, as well as how to make arguments and counterarguments. Then, in the second half of the class, students will learn the basic knowledge and techniques of logic that are necessary for thinking correctly by extracting patterns of argumentation structures.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. By using appropriate logic such as syllogisms, students can organize their thoughts and think in a coherent manner.

B. Students will be able to think critically by using two types of arguments, verification and alternative argumentation.

C. Students can distinguish between expressing their emotions and discussing rationally, and identify the difference between mere personal opinions and logical arguments.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 60%, in class contribution and quiz: 40%.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

相原 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることかを研究します。すなわち、論理学とは思考の形式および法則を研究する学問です。論理学Ⅱでは、多少なりとも一度は論理学を学んだ人のために、論理的に推論する仕方と説得的に議論する仕方を学びます。言い換えれば、論理学とレトリックという二つのアプローチを組み合わせることで、日常言語における推論の仕組みを学びます。「理屈は分かるけれども、納得できない」という不満を感じさせることなく、日常生活において正しく考えるための、基礎的な知識と技法を習得します。論理学を学ぶことで、論理的に主張するだけでなく、相手を説得することもできるようになります。そのため論理学は、主張の対立を避ける「根回し文化」が日本に残るとしても、みなさんの今後の社会生活に多に役立つことでしょう。なお本授業は、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提しています。そのため、「論理学Ⅰ」から履修することを勧めます。

【到達目標】

授業の目標は、春学期の「論理学Ⅰ」と同様、正しく考えるために必要となる、論理学の基礎的な知識と技法を習得し、論理的な思考力を高めることです。具体的には、以下の事柄の習得を目指します。

1. 論理的に推論できるとともに、説得的に議論できるようになる。
2. 論理学およびレトリックの知識と技能を使い分けて、説得力ある議論が展開できるようになる。
3. 記号による論理的な推論と日常言語による推論が識別できるとともに、それぞれの仕組みが理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行います。なお毎回、理解度を確認する小テストを行い、解答・解説のフィードバックは次の回の授業で行います。また論理的な思考力を高めるために、授業内で練習問題を出します。問題の答えを発表してもらうことがあるので、受講者には主体的な参加を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・論理学とは何か	授業の進め方、評価方法などについて説明する
第2回	論理的に考えるための基本①	推論とは何か説明する
第3回	論理的に考えるための基本②	論理記号の働きについて説明する
第4回	論理学と日常言語の落差①	論理記号と接続表現について説明する
第5回	論理学と日常言語の落差②	条件記号のパラドックスについて説明する
第6回	推論の実例①	健全な推論と反例などを説明する
第7回	推論の実例②	正しい三段論法の見分け方について説明する

第8回	立論と反論	日常生活で説得力ある主張を展開する方法について説明する
第9回	レトリック的推論①	類似性に基づく推論の問題点について説明する
第10回	レトリック的推論②	関連性に基づく推論の問題点について説明する
第11回	論証の型	有効な論証のパターンについて説明する
第12回	準論理的論証	論理学的な方法を使った論証のパターンについて説明する
第13回	事象的論証	誤った例示や無理な因果づけなどによる論証について説明する
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備学習：参考書の該当箇所を良く読んでください。
復習：前回の授業内容を確認してください。また参考書の練習問題を解いてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

野内良三著『実践ロジカル・シンキング入門』、大修館書店、2003年。
沢田允茂著『現代論理学入門』、岩波新書、1962年。
野矢茂樹著『入門！ 論理学』、中公新書、2006年。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度および毎回の確認小テストの成績(40%)、学期末の授業内筆記試験の成績(60%)により評価します。
学期末の授業内筆記試験では、「到達目標」に記した事柄をどれくらい理解できているか、確認する問題を出す予定です。
筆記試験の採点基準は、授業で学んだとおりに答案を作成できているか、また論理的に正しい答えを導くことができているかです。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を行うよう努力したい。

【Outline (in English)】

In this course, for those who have studied logic more or less once, students will learn how to reason logically and argue persuasively. In other words, by combining two approaches, logic and rhetoric, they will learn the mechanism of reasoning in everyday language. Students will acquire the basic knowledge and techniques to think correctly in everyday life without frustration.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. Students will be able to reason logically and argue persuasively.

B. Students will be able to use knowledge and skills in logic and rhetoric to develop persuasive arguments.

C. Students will be able to distinguish between logical reasoning by symbols and reasoning by everyday language, and understand how each works.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 60%, in class contribution and quiz: 40%.

HIS100LA（史学/History 100）

東洋史Ⅰ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は原則として授業後に行ってください。なお、授業の進度により授業計画が変更される場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中	列強の進出と中国の抵抗
第14回	国	
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。

また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA（史学 / History 100）

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は原則として授業後に行ってください。なお、授業の進度により授業計画が変更される場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。

また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA（史学/History 100）

東洋史Ⅰ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は原則として授業後に行ってください。なお、授業の進度により授業計画が変更される場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。

また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA（史学 / History 100）

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は原則として授業後に行ってください。なお、授業の進度により授業計画が変更される場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。

また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA（史学 / History 100）

東洋史 I

2017年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に中華世界が形成されてゆく過程、帝国・皇帝制度の確立について扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかにか普及したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の競争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】

前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中で位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。授業中に用いる資料は学習支援システムを通じて配布します。各回の授業に先立ち学習支援システムに資料をアップロードしますので、適宜取得してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

授業内容をふまえ、要点を整理できているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

個々の事象やテーマの学びを通じて、中国と中国をとりまく世界の大きな流れをつかむことを意識してゆくようにしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of premodern China
Learning objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end exam (100%)

HIS100LA（史学/History 100）

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】

近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。授業中に用いる資料は学習支援システムを通じて配布します。各回の授業に先立ち学習支援システムに資料をアップロードしますので、適宜取得してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

授業内容をふまえ、要点を整理できているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

個々の事象やテーマの学びを通じて、中国と中国をとりまく世界の大きな流れをつかむことを意識してゆくようにしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of modern China

Learning objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end exam (100%)

HIS100LA（史学/History 100）

東洋史Ⅰ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は原則として授業後に行ってください。なお、授業の進度により授業計画が変更される場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。

また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA（史学 / History 100）

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は原則として授業後に行ってください。なお、授業の進度により授業計画が変更される場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。

また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA（史学/History 100）

東洋史 I

2017年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に中華世界が形成されてゆく過程、帝国・皇帝制度の確立について扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかにか普及したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の競争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】

前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中で位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。授業中に用いる資料は学習支援システムを通じて配布します。各回の授業に先立ち学習支援システムに資料をアップロードしますので、適宜取得してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

授業内容をふまえ、要点を整理できているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

個々の事象やテーマの学びを通じて、中国と中国をとりまく世界の大きな流れをつかむことを意識してゆくようにしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of premodern China
Learning objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end exam (100%)

HIS100LA（史学/History 100）

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】

近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。授業中に用いる資料は学習支援システムを通じて配布します。各回の授業に先立ち学習支援システムに資料をアップロードしますので、適宜取得してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

授業内容をふまえ、要点を整理できているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

個々の事象やテーマの学びを通じて、中国と中国をとりまく世界の大きな流れをつかむことを意識してゆくようにしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of modern China

Learning objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end exam (100%)

HIS100LA（史学/History 100）

西洋史Ⅰ

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジアとの地理的な隔たりにもかかわらず、西洋世界は私たちの生活、価値観、歴史に大きな影響を及ぼしてきた。西洋とそれ以外の地域の交流や関係においてひとつの媒介となったのが、「帝国」である。本授業では、「帝国」をキーワードに西洋の歴史を概観し、あわせて、それが現代の世界に及ぼし続けている影響についても考えたい。

【到達目標】

- ・帝国の視座から西洋史の基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	帝国支配のはじまり	近世における西洋諸国の海外進出について学ぶ。
第3回	帝国主義について	帝国主義の時代の概要を学ぶ。
第4回	帝国主義の時代①：労働	帝国主義の時代を労働の視点から学ぶ。
第5回	帝国主義の時代②：戦争と暴力	帝国主義の時代を戦争と暴力の視点から学ぶ。
第6回	帝国主義の時代③：文化	帝国主義の時代を文化の視点から学ぶ。あわせて、読書課題に基づくディスカッションをおこなう。
第7回	第一次世界大戦の時代	第一次世界大戦の概要を学ぶ。
第8回	第一次世界大戦と帝国	第一次世界大戦を帝国の視点から学ぶ。
第9回	民族運動の展開	帝国支配を批判する民族運動の展開と特徴について学ぶ。
第10回	第二次世界大戦・冷戦と脱植民地化	第二次世界大戦と冷戦が帝国支配に与えた影響について学ぶ。
第11回	脱植民地化の苦難	植民地の独立とそれに伴う諸問題を学ぶ。
第12回	帝国の過去と民族紛争	帝国支配の過去と旧植民地地域の民族紛争の関連について学ぶ。
第13回	帝国の遺産と植民地責任	帝国支配の過去が現在の世界に及ぼしている影響について学び、授業内容を総括する。
第14回	授業内試験とまとめ	期末試験とまとめ及び解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料についての宿題を課す。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006年
 小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011年
 南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50%
- ・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の知的関心を喚起することを心がけながら、授業を進めています。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history. In particular, it covers topics related with empire.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about western history in view of empires.
- 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments 50%, Final examination 50%

HIS100LA（史学 / History 100）

西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダー関係、女性の立場、性のあり方は社会の基盤にかかわる問題であり、歴史の理解においても重要なイシューである。本授業では、女性とジェンダーの視座から西洋の歴史を考えてみたい。

【到達目標】

・女性とジェンダーの視座から西洋史の基礎知識を習得する。
・授業で学んだことを基礎にして、現代世界が直面するさまざまな問題を歴史的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	前近代西洋世界における女性とジェンダー	古代・中世西洋社会における女性の立場とジェンダー関係について学ぶ。
第3回	宗教改革と魔女裁判の時代	宗教改革と魔女裁判の時代における女性とジェンダーのあり方を学ぶ。
第4回	近世ヨーロッパの社会：戦争とジェンダー	近世社会におけるジェンダーと家族に関連する諸問題を、同時代の戦争の観点から学ぶ。
第5回	啓蒙の時代	啓蒙思想で女性やジェンダー関係がどう論じられていたかを学ぶ。
第6回	女性とジェンダーから考えるフランス革命	フランス革命を女性とジェンダーの観点から学ぶ。
第7回	産業革命の時代	産業革命の概要と当時における女性およびジェンダーのありようを学ぶ。あわせて、読書課題に基づくディスカッションを行う。
第8回	近代西洋の社会：革命・ジェンダー・フェミニズム	近代社会における家族とジェンダーに関する諸問題を、同時代の革命や戦争の観点から学ぶ。
第9回	帝国主義の時代	帝国主義の時代におけるジェンダーのありようを学ぶ。
第10回	第一次世界大戦とジェンダー	第一次世界大戦期におけるジェンダー関係のありようを学ぶ。
第11回	第一次世界大戦と女性の経験	女性が第一次世界大戦をどう経験したのかを学ぶ。

第12回	戦間期から第二次世界大戦期の西洋世界	戦間期から第二次大戦期にかけての西洋世界をジェンダーの視点から学ぶ。
第13回	現代の西洋世界とジェンダー	20世紀後半以降の西洋世界とジェンダー問題について学び、授業内容を総括する。
第14回	授業内試験とまとめ	期末試験とまとめ及び解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料についての宿題を課す。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006年
小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50％
・期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】

学生のみさんの主体的参加を促すような授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history. In particular, it covers topics related with women and gender.

< Learning objectives >

1) Students are able acquire basic knowledge about western history in view of women and gender.

2) Students are able to acquire critical views of various issues surrounding contemporary world in reference to history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments 50%, Final examination 50%

HIS100LA（史学/History 100）

西洋史Ⅰ

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジアとの地理的な隔たりにもかかわらず、西洋世界は私たちの生活、価値観、歴史に大きな影響を及ぼしてきた。西洋とそれ以外の地域の交流や関係においてひとつの媒介となったのが、「帝国」である。本授業では、「帝国」をキーワードに西洋の歴史を概観し、あわせて、それが現代の世界に及ぼし続けている影響についても考えたい。

【到達目標】

- ・帝国の視座から西洋史の基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	帝国支配のはじまり	近世における西洋諸国の海外進出について学ぶ。
第3回	帝国主義について	帝国主義の時代の概要を学ぶ。
第4回	帝国主義の時代①：労働	帝国主義の時代を労働の視点から学ぶ。
第5回	帝国主義の時代②：戦争と暴力	帝国主義の時代を戦争と暴力の視点から学ぶ。
第6回	帝国主義の時代③：文化	帝国主義の時代を文化の視点から学ぶ。あわせて、読書課題に基づくディスカッションをおこなう。
第7回	第一次世界大戦の時代	第一次世界大戦の概要を学ぶ。
第8回	第一次世界大戦と帝国	第一次世界大戦を帝国の視点から学ぶ。
第9回	民族運動の展開	帝国支配を批判する民族運動の展開と特徴について学ぶ。
第10回	第二次世界大戦・冷戦と脱植民地化	第二次世界大戦と冷戦が帝国支配に与えた影響について学ぶ。
第11回	脱植民地化の苦難	植民地の独立とそれに伴う諸問題を学ぶ。
第12回	帝国の過去と民族紛争	帝国支配の過去と旧植民地地域の民族紛争の関連について学ぶ。
第13回	帝国の遺産と植民地責任	帝国支配の過去が現在の世界に及ぼしている影響について学び、授業内容を総括する。
第14回	授業内試験とまとめ	期末試験とまとめ及び解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料についての宿題を課す。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006年
 小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011年
 南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50%
- ・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の知的関心を喚起することを心がけながら、授業を進めています。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history. In particular, it covers topics related with empire.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about western history in view of empires.
- 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments 50%, Final examination 50%

HIS100LA（史学 / History 100）

西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダー関係、女性の立場、性のあり方は社会の基盤にかかわる問題であり、歴史の理解においても重要なイシューである。本授業では、女性とジェンダーの視座から西洋の歴史を考えてみたい。

【到達目標】

・女性とジェンダーの視座から西洋史の基礎知識を習得する。
・授業で学んだことを基礎にして、現代世界が直面するさまざまな問題を歴史的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	前近代西洋世界における女性とジェンダー	古代・中世西洋社会における女性の立場とジェンダー関係について学ぶ。
第3回	宗教改革と魔女裁判の時代	宗教改革と魔女裁判の時代における女性とジェンダーのあり方を学ぶ。
第4回	近世ヨーロッパの社会：戦争とジェンダー	近世社会におけるジェンダーと家族に関連する諸問題を、同時代の戦争の観点から学ぶ。
第5回	啓蒙の時代	啓蒙思想で女性やジェンダー関係がどう論じられていたかを学ぶ。
第6回	女性とジェンダーから考えるフランス革命	フランス革命を女性とジェンダーの観点から学ぶ。
第7回	産業革命の時代	産業革命の概要と当時における女性およびジェンダーのありようを学ぶ。あわせて、読書課題に基づくディスカッションを行う。
第8回	近代西洋の社会：革命・ジェンダー・フェミニズム	近代社会における家族とジェンダーに関する諸問題を、同時代の革命や戦争の観点から学ぶ。
第9回	帝国主義の時代	帝国主義の時代におけるジェンダーのありようを学ぶ。
第10回	第一次世界大戦とジェンダー	第一次世界大戦期におけるジェンダー関係のありようを学ぶ。
第11回	第一次世界大戦と女性の経験	女性が第一次世界大戦をどう経験したのかを学ぶ。

第12回	戦間期から第二次世界大戦期の西洋世界	戦間期から第二次大戦期にかけての西洋世界をジェンダーの視点から学ぶ。
第13回	現代の西洋世界とジェンダー	20世紀後半以降の西洋世界とジェンダー問題について学び、授業内容を総括する。
第14回	授業内試験とまとめ	期末試験とまとめ及び解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料についての宿題を課す。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006年
小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50％
・期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】

学生のみさんの主体的参加を促すような授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history. In particular, it covers topics related with women and gender.

< Learning objectives >

1) Students are able acquire basic knowledge about western history in view of women and gender.

2) Students are able to acquire critical views of various issues surrounding contemporary world in reference to history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments 50%, Final examination 50%

HIS100LA（史学/History 100）

西洋史 I

2017年度以降入学者

内川 勇海

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、リアクションペーパーを積極的に活用するなど、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第2回	古代地中海世界1：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成と特徴について
第3回	古代地中海世界2：古代ギリシアの社会と人々	古代ギリシア社会における人々の生活について
第4回	古代地中海世界3：ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第5回	古代地中海世界4：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第6回	古代地中海世界5：古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第7回	古代地中海世界6：ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第8回	中世ヨーロッパ1：中世世界の形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第9回	中世ヨーロッパ2：国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第10回	中世ヨーロッパ3：中世ヨーロッパの社会と人々	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第11回	中世ヨーロッパ4：キリスト教世界の発展と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について
第12回	中世ヨーロッパ5：危機と変容	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について

第13回 中世から近世へ：ルネサンスの展開について
ネサンス

第14回 まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じて講義資料をHoppiiで共有する。印刷するかパソコンなど資料を表示できる機器を持参すること。

【参考書】

『古典古代史』、伊藤貞夫、放送大学教育振興会、1995年
『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』、服部良久/南川高志/山辺規子編著、ミネルヴァ書房、2006年
『論点・西洋史学』、金澤周作監修、藤井崇ほか編著、ミネルヴァ書房、2020年
『はじめて学ぶ西洋古代史』、長谷川岳夫[編著]、ミネルヴァ書房、2022年
その他適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50%
- ＊出席管理は厳格に行う。
- ・期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

図像資料の提供を増やす。適宜休憩をはさむ。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、講義中のパソコンやタブレットなどの使用は可能。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

< Course outline > This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

< Learning objectives > 1) Students are able to acquire basic knowledge about ancient and medieval history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 50%, essay: 50%

HIS100LA (史学/History 100)	
西洋史Ⅱ	2017年度以降入学者
渡辺 知	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきました。本授業では、近世から近代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考えます。

【到達目標】

- ・近世から近代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパー等へのコメントを授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近代史を学ぶことの意義について説明します。
第2回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ1	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。1回目は11～13世紀にかけての経済社会状況を概観します。
第3回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ2	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。2回目は「14世紀の危機」を扱います。
第4回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ3	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。3回目は主権国家の形成とインターステイト・システムの成立について説明します。
第5回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア1	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。1回目はポルトガルのアフリカ進出の過程、その特徴と影響を説明します。

第6回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア2	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。2回目はポルトガルのアジア進出の過程と特徴について説明します。
第7回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア3	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。3回目はポルトガルのアジア進出がポルトガルとアジアにとってどのような意味を持ったのか考察します。
第8回	第3章 スペインとアメリカ1	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。1回目はスペインのアメリカ進出の過程とその特徴を説明します。
第9回	第3章 スペインとアメリカ2	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。2回目はスペインのアメリカ進出がアメリカ世界に与えた影響を考察します。
第10回	第3章 スペインとアメリカ3	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。3回目はスペインのアメリカ進出がスペインにとってどのような意味を持ったのか考察します。
第11回	第4章 イギリス 第一帝国の形成1	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。1回目はイギリスがオランダ、フランスと競争しつつ帝国を形成する過程を説明します。
第12回	第4章 イギリス 第一帝国の形成2	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。2回目は帝国の形成がイギリスに与えた影響を論じます。
第13回	第4章 イギリス 第1帝国の形成3	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。3回目は帝国の形成が西インド諸島とアフリカに与えた影響を論じます。
第14回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、現代世界が直面する諸問題を歴史的に考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に設けません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20％、学期末の試験80％）

【学生の意見等からの気づき】

高校で世界史を履修していなかった人にもこれまで以上に配慮するようにします。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern periods.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS100LA（史学 / History 100）

西洋史 I

2017年度以降入学者

内川 勇海

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、リアクションペーパーを積極的に活用するなど、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第2回	古代地中海世界1：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成と特徴について
第3回	古代地中海世界2：古代ギリシアの社会と人々	古代ギリシア社会における人々の生活について
第4回	古代地中海世界3：ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第5回	古代地中海世界4：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第6回	古代地中海世界5：古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第7回	古代地中海世界6：ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第8回	中世ヨーロッパ1：中世世界の形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第9回	中世ヨーロッパ2：国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第10回	中世ヨーロッパ3：中世ヨーロッパの社会と人々	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第11回	中世ヨーロッパ4：キリスト教世界の発展と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について
第12回	中世ヨーロッパ5：危機と変容	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について

第13回 中世から近世へ：ルネサンスの展開について
ネサンス

第14回 まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じて講義資料をHoppiiで共有する。印刷するかパソコンなど資料を表示できる機器を持参すること。

【参考書】

『古典古代史』、伊藤貞夫、放送大学教育振興会、1995年
『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』、服部良久/南川高志/山辺規子編著、ミネルヴァ書房、2006年
『論点・西洋史学』、金澤周作監修、藤井崇ほか編著、ミネルヴァ書房、2020年
『はじめて学ぶ西洋古代史』、長谷川岳夫[編著]、ミネルヴァ書房、2022年
その他適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50%
- ＊出席管理は厳格に行う。
- ・期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

図像資料の提供を増やす。適宜休憩をはさむ。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、講義中のパソコンやタブレットなどの使用は可能。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

< Course outline > This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods. < Learning objectives > 1) Students are able to acquire basic knowledge about ancient and medieval history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 50%, essay: 50%

HIS100LA（史学 / History 100）

西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

渡辺 知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきました。本授業では、近世から近代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考えます。

【到達目標】

- ・近世から近代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパー等へのコメントを授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近代史を学ぶことの意義について説明します。
第2回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ1	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。1回目は11～13世紀にかけての経済社会状況を概観します。
第3回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ2	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。2回目は「14世紀の危機」を扱います。
第4回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ3	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。3回目は主権国家の形成とインターステイト・システムの成立について説明します。
第5回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア1	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。1回目はポルトガルのアフリカ進出の過程、その特徴と影響を説明します。

第6回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア2	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。2回目はポルトガルのアジア進出の過程と特徴について説明します。
第7回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア3	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。3回目はポルトガルのアジア進出がポルトガルとアジアにとってどのような意味を持ったのか考察します。
第8回	第3章 スペインとアメリカ1	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。1回目はスペインのアメリカ進出の過程とその特徴を説明します。
第9回	第3章 スペインとアメリカ2	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。2回目はスペインのアメリカ進出がアメリカ世界に与えた影響を考察します。
第10回	第3章 スペインとアメリカ3	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。3回目はスペインのアメリカ進出がスペインにとってどのような意味を持ったのか考察します。
第11回	第4章 イギリス 第一帝国の形成1	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。1回目はイギリスがオランダ、フランスと競争しつつ帝国を形成する過程を説明します。
第12回	第4章 イギリス 第一帝国の形成2	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。2回目は帝国の形成がイギリスに与えた影響を論じます。
第13回	第4章 イギリス 第1帝国の形成3	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。3回目は帝国の形成が西インド諸島とアフリカに与えた影響を論じます。
第14回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、現代世界が直面する諸問題を歴史的に考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に設けません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20％、学期末の試験80％）

【学生の意見等からの気づき】

高校で世界史を履修していなかった人にもこれまで以上に配慮するようにします。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern periods.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS100LA（史学/History 100）

日本史 I

2017年度以降入学者

芳賀 和樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から中世社会の終焉までを、政治・対外関係・社会経済・文化などの様々な側面から考えます。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていきます。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を提示してその解釈を検討し、史料から具体的な歴史像を描き出せるようにします。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学びます。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説します。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配布資料により、シラバス通りに実施します。ワークシートの提出等により、学習状況を確認しながら進めます。提出されたワークシートについては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方について説明し、東アジア世界という視点から日本の歴史を考える意味について学ぶ
第2回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジアの国際情勢から、古代国家形成について学ぶ
第3回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と対外関係について学ぶ
第4回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の様相、在地首長制について学ぶ
第5回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制の地方支配の行き詰まりについて学ぶ
第6回	東アジア世界の文化と国風文化	10世紀以降の東アジアの国際情勢と対外関係、貴族社会と国風文化について学ぶ
第7回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立と展開、王朝国家期の政治・社会について学ぶ
第8回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について学ぶ

第9回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生から鎌倉幕府の成立までの過程と、幕府の支配体制について学ぶ
第10回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について学ぶ
第11回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立までの過程について学ぶ
第12回	日明関係と室町文化の特質	15・16世紀における東アジア世界の活発な交流と、室町文化の特質について学ぶ
第13回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配体制、享徳の乱と関東地方の戦国時代の様相について学ぶ
第14回	総括と試験	授業内容を総括し、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。授業で提示した史料についても復習し、史料に基づいて考える姿勢を養ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

佐々木潤之介ほか編（2000）『概論 日本歴史』吉川弘文館

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業での学習状況（50%）、期末試験（50%）により行います。授業での学習状況を評価するため、毎回、指定したワークシートを提出してください。期末試験は授業内容の理解度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。今年度も、授業の冒頭にて、前回の授業に関する質問や考察などに対するフィードバックの時間を設けたいと思います。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this course, students will consider the period from the birth of Japan to the end of middle ages society from various aspects such as politics, foreign relations, social economy, and culture. The course will consist mainly of lectures, incorporating new results of recent research on Japanese history, while developing the ability to "think" rather than "memorize" history. In order to enable students to "think" based on historical documents, important historical documents will be presented and their interpretations will be considered as appropriate, so that students will be able to draw a concrete historical image from historical documents.

【到達目標（Learning Objectives）】

The course is designed to provide students with the knowledge necessary for teaching Japanese history in junior high and high schools, how to research historical facts and how to logically structure the overall picture. The course will explain how the descriptions in the textbooks are based on the historical evidence, tracing back to the academic theories on which they are based. The goal is to develop the ability to construct an image of Japanese history (including culture) from ancient times to the Middle Ages, supported by rich and diverse values, while always maintaining the international environment and geographical perspective of Japan within the East Asian world. 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】 Please review the handouts and reference books related to the theme for preparatory study and review. Please also review the historical materials presented in class and develop an attitude of thinking based on the historical materials. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be based on class work (50%) and a final exam (50%). In order to evaluate your learning in class, please submit the designated worksheet each time. The final exam will be graded according to the level of understanding of the class content.

HIS100LA（史学 / History 100）

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

芳賀 和樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・対外関係・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていきます。史料に基づいて「考える」ことができるように、適宜、重要史料を提示してその解釈を検討し、史料から具体的な歴史像を描き出せるようにします。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学びます。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説します。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配付資料により、シラバス通りに実施します。ワークシートの提出等により、学習状況を確認しながら進めます。提出されたワークシートについては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス—世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世と近代の位置づけについて、世界のなかの日本という視点を意識しながら学ぶ
第2回	江戸幕府の成立と地域社会	天皇・将軍・大名・寺社・庶民などの動向を視野に入れながら、江戸幕府の成立について学ぶ
第3回	寛永期の政治と国際関係	寛永期における幕府政治の動向と対外関係の特質について学ぶ
第4回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期における幕府政治の課題と地域社会の動向について学ぶ
第5回	近世村落の運営と租税	家族や生業の様子を視野に入れながら、近世村落の運営と租税の仕組みについて学ぶ
第6回	近世文化の展開と文化遺産	文化遺産の観点から、文学・美術・芸能・信仰などの近世文化について学ぶ
第7回	近世社会の変容と政治状況	近世後期における社会の変容と幕府政治の課題について学ぶ
第8回	明治維新と近代国家の形成	開国から江戸幕府の終焉までを把握し、明治維新と近代国家の形成について学ぶ

第9回	近代産業の発展と国際環境	国際的な動向に着目しつつ、殖産興業政策や「産業革命」期における諸産業の発展について学ぶ
第10回	政党政治の展開	自由民権運動から政党内閣までの展開について学ぶ
第11回	二つの世界大戦と国際状況	第一次世界大戦、第二次世界大戦における日本の思惑と国際状況の変容について学ぶ
第12回	近代文化の展開と東京の文化遺産	文学・美術・建築・教育などの近代文化と、東京に遺る文化遺産について学ぶ
第13回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と国際社会への復帰について学ぶ
第14回	総括と試験	授業を総括し、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。授業で提示した史料についても復習し、史料に基づいて考える姿勢を養ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

佐々木潤之介ほか編（2000）『概論 日本歴史』吉川弘文館

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業での学習状況（50％）、期末試験（50％）により行います。授業での学習状況を評価するため、毎回、指定したワークシートを提出してください。期末試験は授業内容の理解度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。今年度も、授業の冒頭にて、前回の授業に関する質問や考察などに対するフィードバックの時間を設けたいと思います。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this course, students will consider the period from the establishment of early modern society to the formation of modern society from various aspects such as politics, foreign relations, social economy, and culture. The course will consist mainly of lectures, incorporating new results of recent research on Japanese history, while developing the ability to "think" rather than "memorize" history. In order to enable students to "think" based on historical documents, important historical documents will be presented and their interpretations will be considered as appropriate, so that students will be able to draw a concrete historical image from historical documents.

【到達目標（Learning Objectives）】

The course is designed to provide students with the knowledge necessary for teaching Japanese history in junior high and high schools, how to research historical facts and how to logically structure the overall picture. The course will explain how the descriptions in the textbooks are based on the historical evidence, tracing back to the academic theories on which they are based. The goal is to develop the ability to construct an image of Japanese history (including culture) from the early modern period to the modern period, supported by rich and diverse values, while always maintaining the international environment and geographical perspective of Japan in the world.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Please review the handouts and reference books related to the theme for preparatory study and review. Please also review the historical materials presented in class and develop an attitude of thinking based on the historical materials. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be based on class work (50%) and a final exam (50%). In order to evaluate your learning in class, please submit the designated worksheet each time. The final exam will be graded according to the level of understanding of the class content.

HIS100LA（史学/History 100）

日本史 I

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。とくに日本古代の歴史は、日本国家の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある日本古代史をベースに、1回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようにする方法を取得することを目指して頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで。

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。具体的に当時の生の史料を解読しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論・日本史の時代区分	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論です。ここで古代とは何かを定義します。

第2回	ヤマト王権－日本国家の初源	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第3回	大化改新－古代史上最大の政治改革	対外的緊張の高まりのなかで、ヤマト政権の限界を打破して新国家体制を作るべく、古代史上最大のクーデターが実行されます。その政治改革の実像を検討してみます。
第4回	律令法の成立と展開	新国家体制の柱となった律令とは何かについて考えてみます。
第5回	律令国家の財政制度	古代国家の財政の特徴を、中央財政と地方財政とにわけて考えてみます。
第6回	在地首長と地方政治	通信手段が貧弱だった時代にわずか60余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。
第7回	古代家族論	世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」中にはたくさんの戸籍があります。古代家族の真実の姿を考えてみます。
第8回	律令国家の転換	東大寺に代表される天平文化華やかかなりし時代は、じつは律令国家の大きな転換点でもありました。その実態を検討します。
第9回	公営田制－人から土地へ	戸籍によって人を支配する古代国家は、次第にその維持が難しくなります。変わって登場したのが土地を支配する体制でした。その実態を探ります。
第10回	王朝国家論	人から土地への変化は、中央政府の在り方は変えませんでした。地方政治は大きく変化しました。それを重視する「王朝国家論」について検討してみます。
第11回	摂関政治とは	地方の変化にもかかわらず中央で権勢を奮った貴族政治の実態とその力の源泉を探ってみます。
第12回	荘園制の展開	高校の日本史の先生方が一番嫌っている「荘園とは何か」をテーマに、じっくりと考えてみます。
第13回	院政の特徴-摂関政治との比較	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれ、両者の違いは何かについて考えてみます。
第14回	武家政権前夜	平氏政権から鎌倉幕府への道筋はどうやって引かれたのか。歴史的背景を探ってみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておく次回講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

日本史概論編集委員会編『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて補助プリントを授業支援システムを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人はやや難解なようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので。高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、『『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として』『漢学文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA（史学/History 100）

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジア世界の理解にあたって一つの共通の重要な視点となるのが、その土地制度の問題である。本講義では、舞台を日本に定め、その古代における土地制度がどのようなものであり、どのように運用されていたのかを、当時実際に書かれた様々な生の古文書（正倉院文書）を素材に考えることにする。また土地経営と深く関連する農民の実生活にもふれる。これによって現代日本の土地問題を理解するベースも構築される材に考えることにする。また土地経営と深く関連する農民の実生活にもふれる。

【到達目標】

土地の具体的経営方法や在地農民の世界を、現在に残された当時の生の古文書の正確な読解によって明らかにする。その際、公的機関による経営方式と個人による経営方式を比較する。それをもとに土地経営の問題から始まって古代社会の生活実態にできるだけ迫ることを目標とする。さらにまた、現代社会の理解にも通じる正確な歴史分析まで導き出せればなお良いと考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進める。適宜パソコン画面を用い、古文書のデジタル処理を実演する。またスライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えている。古文書読解は基本的に教員が行うが、受講生の理解度を勘案しながら、古文書の基本的な部分は受講生自身に読解してもらうことも考えている。そこで同時にフィードバックも行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本古代の土地制度と古代荘園	この講義を理解する前提として、律令制下の土地制度とそこから派生した古代荘園について考える。
第2回	日本古代の土地制度と政治史	律令制下の土地制度と政治がどのように関係しているのかを考える。
第3回	古代荘園の成立と支配方法－桑原荘を讀む－	中央官庁が直営した越前国桑原荘の成立と経営について考える。（テキスト1～3, 5, 7～11, 13号文書）
第4回	古代荘園・桑原荘経営の展開と崩壊	桑原荘の経営は大きな困難に直面する。その状況と溝開発などによる経営再建方針について考える。（テキスト同上）
第5回	古代荘園の支配方法－鯖田国富荘の場合－	桑原荘とは対照的に、経営史料をほとんど残さなかった、在地豪族直営の鯖田国富荘について考える。（テキスト6, 12号文書）

第6回	東大寺領古代荘園を侵略した農民たち	政治的に力を失った東大寺領荘園の経営の実態について考える。（テキスト30, 31, 39号文書）
第7回	東大寺弾圧下の在地豪族のありよう	東大寺弾圧下での在地豪族の動向について考える。（テキスト38, 39号文書）
第8回	東大寺の復権と寺領回復	東大寺による経営の復権過程を、越前を舞台に広く検討する。テキスト36, 39, 40号文書）
第9回	私信に見える個人の土地経営（1）－石山紙背文書とは－	正倉院文書の中の特殊な一群である石山紙背文書とはなにかについて考える。
第10回	私信に見える個人の土地経営（2）	安都雄足配下の現地湯有力農民の活動を考える。（テキスト14, 18, 20, 26～27号文書）
第11回	安都雄足をとりまく世界1	下級官人の私田経営の周辺について、関連する私信から古代世界を垣間見る。（テキスト25号）
第12回	安都雄足をとりまく世界2	下級官人の私田経営の周辺について、越前以外の畿内私田経営文書から考える。（テキストは学習支援システムで配付する）
第13回	安都雄足をとりまく世界3	古代人の書いたラブレター（？）を解説する。（テキストは学習支援システムで配付する）
第14回	試験と解説	講義の総まとめと試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別な事前学習は必要としないが、テキストには利用する古文書の詳しい解説が付いているので、事前に解説などに目を通しておくと、講義が理解しやすくなると思われる。準備・復習時間は、人によって異なりますが、2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

『デジタル古文書集日本古代土地経営関係史料集成 東大寺領・北陸編（大学テキスト版）』（同成社）、定価税込2200円。割引予定有。このテキストは一般書店では購入できません。法政大学生協市ヶ谷購買書籍部でのみ販売します。なお一般書店で購入できる市販本は論文集をとまなう詳細版で、CD-ROMも付いていて、日本古代史に興味があり、本格的に勉強したい方には大いに役立ちます。こちらでも可ですが、高価（¥8000）です。

【参考書】

『土地所有史』（山川出版社）

【成績評価の方法と基準】

講義内容に即した試験によって行う（90%予定）。講義内で行われる史料読解の内容を考慮することもある（10%予定）。答案については、細かい点よりも、全体として論理的なまとまりをもって構成されているかどうかを重視する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ごく一部、テキストに掲載されていない史料を扱います。それについては事前に学習支援システムにPDFでアップロードします。

【その他の重要事項】

高校日本史では学べない、古代人が自ら書き残した生の同時代史料（原文書）から歴史を再構築する世界を堪能してください。大学の歴史学とはなにかが分かれば、それは現代社会を正しく理解する目を養うことに繋がります。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、『近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって』『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine how to manage land in ancient societies.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%),
and in-class contribution (10%).

HIS100LA（史学/History 100）

日本史 I

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。とくに日本古代の歴史は、日本国家の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある日本古代史をベースに、1回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようにする方法を取得することを目指して頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで。

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。具体的に当時の生の史料を解読しながら皆さんといっしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論・日本史の時代区分	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論です。ここで古代とは何かを定義します。

第2回	ヤマト王権－日本国家の初源	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第3回	大化改新－古代史上最大の政治改革	対外的緊張の高まりのなかで、ヤマト政権の限界を打破して新国家体制を作るべく、古代史上最大のクーデターが実行されます。その政治改革の実像を検討してみます。
第4回	律令法の成立と展開	新国家体制の柱となった律令とは何かについて考えてみます。
第5回	律令国家の財政制度	古代国家の財政の特徴を、中央財政と地方財政とにわけて考えてみます。
第6回	在地首長と地方政治	通信手段が貧弱だった時代にわずか60余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。
第7回	古代家族論	世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」中にはたくさんの戸籍があります。古代家族の真実の姿を考えてみます。
第8回	律令国家の転換	東大寺に代表される天平文化華やかかなりし時代は、じつは律令国家の大きな転換点でもありました。その実態を検討します。
第9回	公営田制－人から土地へ	戸籍によって人を支配する古代国家は、次第にその維持が難しくなります。変わって登場したのが土地を支配する体制でした。その実態を探ります。
第10回	王朝国家論	人から土地への変化は、中央政府の在り方は変えませんでした。地方政治は大きく変化しました。それを重視する「王朝国家論」について検討してみます。
第11回	摂関政治とは	地方の変化にもかかわらず中央で権勢を奮った貴族政治の実態とその力の源泉を探ってみます。
第12回	荘園制の展開	高校の日本史の先生方が一番嫌っている「荘園とは何か」をテーマに、じっくりと考えてみます。
第13回	院政の特徴-摂関政治との比較	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれ、両者の違いは何かについて考えてみます。
第14回	武家政権前夜	平氏政権から鎌倉幕府への道筋はどうやって引かれたのか。歴史的背景を探ってみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておく次回講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

日本史概論編集委員会編『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて補助プリントを授業支援システムを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人はやや難解なようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので。高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として」『漢学文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA（史学/History 100）

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジア世界の理解にあたって一つの共通の重要な視点となるのが、その土地制度の問題である。本講義では、舞台を日本に定め、その古代における土地制度がどのようなものであり、どのように運用されていたのかを、当時実際に書かれた様々な生の古文書（正倉院文書）を素材に考えることにする。また土地経営と深く関連する農民の実生活にもふれる。これによって現代日本の土地問題を理解するベースも構築される

【到達目標】

土地の具体的経営方法や在地農民の世界を、現在に残された当時の生の古文書の正確な読解によって明らかにする。その際、公的機関による経営方式と個人による経営方式を比較する。それをもとに土地経営の問題から始まって古代社会の生活実態にできるだけ迫ることを目標とする。さらにまた、現代社会の理解にも通じる正確な歴史分析まで導き出せればなお良いと考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進める。適宜パソコン画面を用い、古文書のデジタル処理を実演する。またスライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えている。古文書読解は基本的に教員が行うが、受講生の理解度を勘案しながら、古文書の基本的な部分は受講生自身に読解してもらうことも考えている。そこで同時にフィードバックも行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本古代の土地制度と古代荘園	この講義を理解する前提として、律令制下の土地制度とそこから派生した古代荘園について考える。
第2回	日本古代の土地制度と政治史	律令制下の土地制度と政治がどのように関係しているのかを考える。
第3回	古代荘園の成立と支配方法－桑原荘券を読む－	中央官庁が直営した越前国桑原荘の成立と経営について考える。（テキスト1～3, 5, 7～11, 13号文書）
第4回	古代荘園・桑原荘経営の展開と崩壊	桑原荘の経営は大きな困難に直面する。その状況と溝開発などによる経営再建方針について考える。（テキスト同上）
第5回	古代荘園の支配方法－鯖田国富荘の場合－	桑原荘とは対照的に、経営史料をほとんど残さなかった、在地豪族直営の鯖田国富荘について考える。（テキスト6, 12号文書）
第6回	東大寺領古代荘園を侵略した農民たち	政治的に力を失った東大寺領荘園の経営の実態について考える。（テキスト30, 31, 39号文書）

第7回	東大寺弾圧下の在地豪族のありよう	東大寺弾圧下での在地豪族の動向にいて考える。（テキスト38, 39号文書）
第8回	東大寺の復権と寺領回復	東大寺による経営の復権過程を、越前を舞台に広く検討する。テキスト36, 39, 40号文書）
第9回	私信に見える個人の土地経営（1）－石山紙背文書とは－	正倉院文書の中の特殊な一群である石山紙背文書とはなにかについて考える。
第10回	私信に見える個人の土地経営（2）	安都雄足配下の現地湯有力農民の活動を考える。（テキスト14, 18, 20, 26～27号文書）
第11回	安都雄足をとりまく世界1	下級官人の私田経営の周辺について、関連する私信から古代世界を垣間見る。（テキスト25号）
第12回	安都雄足をとりまく世界2	下級官人の私田経営の周辺について、越前以外の畿内私田経営文書から考える。（テキストは学習支援システムで配付する）
第13回	安都雄足をとりまく世界3	古代人の書いたラブレター（？）を解説する。（テキストは学習支援システムで配付する）
第14回	試験と解説	講義の総まとめと試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別な事前学習は必要としないが、テキストには利用する古文書の詳しい解説が付いているので、事前に解説などに目を通しておくと、講義が理解しやすくなると思われる。準備・復習時間は、人によって異なりますが、2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

『デジタル古文書集日本古代土地経営関係史料集成 東大寺領・北陸編（大学テキスト版）』（同成社）、定価税込2200円。割引予定有。このテキストは一般書店では購入できません。法政大学生協市ヶ谷購買書籍部でのみ販売します。なお一般書店で購入できる市販本は論文集をとまう詳細版で、CD-ROMも付いていて、日本古代史に興味があり、本格的に勉強したい方には大いに役立ちます。こちらでも可ですが、高価(¥8000)です。

【参考書】

『土地所有史』（山川出版社）

【成績評価の方法と基準】

講義内容に即した試験によって行う（90%予定）。講義内で行われる史料読解の内容を考慮することもある（10%予定）。答案については、細かい点よりも、全体として論理的なまとまりをもって構成されているかどうかを重視する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ごく一部、テキストに掲載されていない史料を扱います。それについては事前に学習支援システムにPDFでアップロードします。

【その他の重要事項】

高校日本史では学べない、古代人が自ら書き残した生の同時代史料（原文書）から歴史を再構築する世界を堪能してください。大学の歴史学とはなにかが分かれば、それは現代社会を正しく理解する目を養うことに繋がります。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、『近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって』『古文書研究』66

2007年、『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として』『漢学文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine how to manage land in ancient societies.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%), and in-class contribution (10%).

HIS100LA（史学 / History 100）

日本史 I

2017年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確認するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	東アジアのなかの日本史とは何かを学問的に考えた上で、時代区分論の諸説を検討する。
2	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家前史としてのヤマト王権とその対外関係を考察する。
3	律令国家の誕生と国際環境	大化の改新を中心にヤマト王権から律令国家への転換を国際環境のなかで位置づける。
4	古代家族と在地首長制	律令国家における古代家族と在地首長制の実態について考察する。
5	律令国家の展開と終焉	皇位継承問題と藤原氏の台頭を中心に律令国家の展開とその終焉を考察する。
6	東アジア世界の文化と国風文化	中国の影響下で形成された日本文化の展開とその特徴を考察する。
7	摂関政治と王朝国家	摂関期の国家の歴史的特徴を検討する。
8	院政の展開と日宋貿易	古代から中世への変容と院政期の特徴を考察し、併せて日宋貿易の役割についても考える。
9	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生について、北方世界の動向を踏まえながら検討する。

10	執権政治の展開と元寇	執権政治を概括した上で、元寇がそれに与えた影響を考える。
11	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府と室町幕府を比較し、室町幕府が成立した背景を考える。
12	日明関係と室町文化の特質	日明関係の影響を受けた室町文化の特徴を考察する。
13	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程と幕府の勢力地盤である関東地方の変化を考察する。
14	試験と解説	古代とは何か、中世とは何かを総体的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

【参考書】

随時、授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（70％）。授業への積極的な貢献度（課題提出含む）（30％）。

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付・課題提出等は、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This course explores Japanese history from its origins to the end of the medieval period, examining various aspects such as politics, diplomacy, society, economy, and culture. The lectures incorporate significant historical sources and recent advancements in historical research. Rather than focusing on rote memorization, this course aims to develop students' ability to critically engage with history by introducing concrete methods for historical analysis. Key historical materials will be presented during lectures to help students construct detailed historical narratives, and participants may occasionally be invited to share their interpretations of these sources. By the end of the course, students are expected to enhance their critical thinking skills.

HIS100LA（史学 / History 100）

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確認するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	世界のなかの近世・近代日本について、時代区分に関する諸説を中心に検討する。
2	江戸幕府の成立と地域社会	織田・豊臣政権から徳川政権への移行の歴史的背景とそれぞれの地域社会の特徴を説明する。
3	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治の特徴を考察した上で、国際関係のなかの「鎖国」の意義を問う。
4	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期の政治と社会・文化の特徴を検討する。
5	近世村落の運営と租税	近世村落の運営と租税の特徴を概括した上で、他の時代と比較する。
6	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概括した上で、現代に引き継がれている文化遺産の今を考える。
7	近世社会の変容と政治状況	政治状況のなかで近世社会がどのように変容して近代社会を形成していくのかを考察する。
8	明治維新と近代国家の形成	明治維新の概念を規定した上で、国家としての近代化の歩みを追う。
9	近代産業の発展と国際環境	国際環境のなかで近代化が進められた産業の展開を追う。

10	政党政治の展開	日本の政党政治の歴史的特徴を検討し、他国と比較する。
11	二つの世界大戦と国際状況	国際状況のなかの二つの世界大戦に対する日本の対応を比較検討する。
12	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の展開を概括した上で、今に残る東京の文化遺産について考える。
13	戦後政治の動向と国際社会	国際社会における戦後日本の歴史について、今日的課題も踏まえながら考察する。
14	試験と解説	近世とは何か、近代とは何かを総体的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

【参考書】

随時、授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（70％）。授業への積極的な貢献度（課題提出含む）（30％）。

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付・課題提出等は、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This course examines Japanese history from the early modern period to the present, exploring various aspects such as politics, diplomacy, society, economy, and culture. The lectures incorporate significant historical materials and recent findings in Japanese historical research. Rather than focusing on rote memorization, the course aims to develop students' ability to critically analyze history by introducing concrete methods for historical thinking. Key historical sources will be presented during lectures to help students construct detailed historical narratives, and participants may occasionally be invited to share their interpretations of these sources. By the end of the course, students are expected to enhance their critical thinking skills.

HIS100LA（史学/History 100）

日本史 I

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。とくに日本古代の歴史は、日本国家の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある日本古代史をベースに、1回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようにする方法を取得することを目指して頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで。

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。具体的に当時の生の史料を解読しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論・日本史の時代区分	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論です。ここで古代とは何かを定義します。

第2回	ヤマト王権－日本国家の初源	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第3回	大化改新－古代史上最大の政治改革	対外的緊張の高まりのなかで、ヤマト政権の限界を打破して新国家体制を作るべく、古代史上最大のクーデターが実行されます。その政治改革の実像を検討してみます。
第4回	律令法の成立と展開	新国家体制の柱となった律令とは何かについて考えてみます。
第5回	律令国家の財政制度	古代国家の財政の特徴を、中央財政と地方財政とにわけて考えてみます。
第6回	在地首長と地方政治	通信手段が貧弱だった時代にわずか60余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。
第7回	古代家族論	世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」中にはたくさんの戸籍があります。古代家族の真実の姿を考えてみます。
第8回	律令国家の転換	東大寺に代表される天平文化華やかかなりし時代は、じつは律令国家の大きな転換点でもありました。その実態を検討します。
第9回	公営田制－人から土地へ	戸籍によって人を支配する古代国家は、次第にその維持が難しくなります。変わって登場したのが土地を支配する体制でした。その実態を探ります。
第10回	王朝国家論	人から土地への変化は、中央政府の在り方は変えませんでした。地方政治は大きく変化しました。それを重視する「王朝国家論」について検討してみます。
第11回	摂関政治とは	地方の変化にもかかわらず中央で権勢を奮った貴族政治の実態とその力の源泉を探ってみます。
第12回	荘園制の展開	高校の日本史の先生方が一番嫌っている「荘園とは何か」をテーマに、じっくりと考えてみます。
第13回	院政の特徴-摂関政治との比較	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれ、両者の違いは何かについて考えてみます。
第14回	武家政権前夜	平氏政権から鎌倉幕府への道筋はどうやって引かれたのか。歴史的背景を探ってみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくとか次の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

日本史概論編集委員会編『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて補助プリントを授業支援システムを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人はやや難解なようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので。高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、『『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として』『漢学文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA（史学/History 100）

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジア世界の理解にあたって一つの共通の重要な視点となるのが、その土地制度の問題である。本講義では、舞台を日本に定め、その古代における土地制度がどのようなものであり、どのように運用されていたのかを、当時実際に書かれた様々な生の古文書（正倉院文書）を素材に考えることにする。また土地経営と深く関連する農民の実生活にもふれる。これによって現代日本の土地問題を理解するベースも構築される

【到達目標】

土地の具体的経営方法や在地農民の世界を、現在に残された当時の生の古文書の正確な読解によって明らかにする。その際、公的機関による経営方式と個人による経営方式を比較する。それをもとに土地経営の問題から始まって古代社会の生活実態にできるだけ迫ることを目標とする。さらにまた、現代社会の理解にも通じる正確な歴史分析まで導き出せればなお良いと考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進める。適宜パソコン画面を用い、古文書のデジタル処理を実演する。またスライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えている。古文書読解は基本的に教員が行うが、受講生の理解度を勘案しながら、古文書の基本的な部分は受講生自身に読解してもらうことも考えている。そこで同時にフィードバックも行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本古代の土地制度と古代荘園	この講義を理解する前提として、律令制下の土地制度とそこから派生した古代荘園について考える。
第2回	日本古代の土地制度と政治史	律令制下の土地制度と政治がどのように関係しているのかを考える。
第3回	古代荘園の成立と支配方法－桑原荘券を読む－	中央官庁が直営した越前国桑原荘の成立と経営について考える。（テキスト1～3, 5, 7～11, 13号文書）
第4回	古代荘園・桑原荘経営の展開と崩壊	桑原荘の経営は大きな困難に直面する。その状況と溝開発などによる経営再建方針について考える。（テキスト同上）
第5回	古代荘園の支配方法－鯖田国富荘の場合－	桑原荘とは対照的に、経営史料をほとんど残さなかった、在地豪族直営の鯖田国富荘について考える。（テキスト6, 12号文書）
第6回	東大寺領古代荘園を侵略した農民たち	政治的に力を失った東大寺領荘園の経営の実態について考える。（テキスト30, 31, 39号文書）

第7回	東大寺弾圧下の在地豪族のありよう	東大寺弾圧下での在地豪族の動向にいて考える。（テキスト38, 39号文書）
第8回	東大寺の復権と寺領回復	東大寺による経営の復権過程を、越前を舞台に広く検討する。テキスト36, 39, 40号文書）
第9回	私信に見える個人の土地経営（1）－石山紙背文書とは－	正倉院文書の中の特殊な一群である石山紙背文書とはなにかについて考える。
第10回	私信に見える個人の土地経営（2）	安都雄足配下の現地湯有力農民の活動を考える。（テキスト14, 18, 20, 26～27号文書）
第11回	安都雄足をとりまく世界1	下級官人の私田経営の周辺について、関連する私信から古代世界を垣間見る。（テキスト25号）
第12回	安都雄足をとりまく世界2	下級官人の私田経営の周辺について、越前以外の畿内私田経営文書から考える。（テキストは学習支援システムで配付する）
第13回	安都雄足をとりまく世界3	古代人の書いたラブレター（？）を解説する。（テキストは学習支援システムで配付する）
第14回	試験と解説	講義の総まとめと試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別な事前学習は必要としないが、テキストには利用する古文書の詳しい解説が付いているので、事前に解説などに目を通しておくと、講義が理解しやすくなると思われる。準備・復習時間は、人によって異なりますが、2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

『デジタル古文書集日本古代土地経営関係史料集成 東大寺領・北陸編（大学テキスト版）』（同成社）、定価税込2200円。割引予定有。このテキストは一般書店では購入できません。法政大学生協市ヶ谷購買書籍部でのみ販売します。なお一般書店で購入できる市販本は論文集をとまう詳細版で、CD-ROMも付いていて、日本古代史に興味があり、本格的に勉強したい方には大いに役立ちます。こちらでも可ですが、高価(¥8000)です。

【参考書】

『土地所有史』（山川出版社）

【成績評価の方法と基準】

講義内容に即した試験によって行う（90%予定）。講義内で行われる史料読解の内容を考慮することもある（10%予定）。答案については、細かい点よりも、全体として論理的なまとまりをもって構成されているかどうかを重視する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ごく一部、テキストに掲載されていない史料を扱います。それについては事前に学習支援システムにPDFでアップロードします。

【その他の重要事項】

高校日本史では学べない、古代人が自ら書き残した生の同時代史料（原文書）から歴史を再構築する世界を堪能してください。大学の歴史学とはなにかが分かれば、それは現代社会を正しく理解する目を養うことに繋がります。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、『近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって』『古文書研究』66

2007年、『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として』『漢学文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine how to manage land in ancient societies.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%), and in-class contribution (10%).

HIS100LA（史学/History 100）

日本史 I

2017年度以降入学者

芳賀 和樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から中世社会の終焉までを、政治・対外関係・社会経済・文化などの様々な側面から考えます。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていきます。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を提示してその解釈を検討し、史料から具体的な歴史像を描き出せるようにします。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学びます。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説します。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配布資料により、シラバス通りに実施します。ワークシートの提出等により、学習状況を確認しながら進めます。提出されたワークシートについては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方について説明し、東アジア世界という視点から日本の歴史を考える意味について学ぶ
第2回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジアの国際情勢から、古代国家形成について学ぶ
第3回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と対外関係について学ぶ
第4回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の様相、在地首長制について学ぶ
第5回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制の地方支配の行き詰まりについて学ぶ
第6回	東アジア世界の文化と国風文化	10世紀以降の東アジアの国際情勢と対外関係、貴族社会と国風文化について学ぶ
第7回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立と展開、王朝国家期の政治・社会について学ぶ
第8回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について学ぶ

第9回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生から鎌倉幕府の成立までの過程と、幕府の支配体制について学ぶ
第10回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について学ぶ
第11回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立までの過程について学ぶ
第12回	日明関係と室町文化の特質	15・16世紀における東アジア世界の活発な交流と、室町文化の特質について学ぶ
第13回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配体制、享徳の乱と関東地方の戦国時代の様相について学ぶ
第14回	総括と試験	授業内容を総括し、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。授業で提示した史料についても復習し、史料に基づいて考える姿勢を養ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

佐々木潤之介ほか編（2000）『概論 日本歴史』吉川弘文館

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業での学習状況（50％）、期末試験（50％）により行います。授業での学習状況を評価するため、毎回、指定したワークシートを提出してください。期末試験は授業内容の理解度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。今年度も、授業の冒頭にて、前回の授業に関する質問や考察などに対するフィードバックの時間を設けたいと思います。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this course, students will consider the period from the birth of Japan to the end of middle ages society from various aspects such as politics, foreign relations, social economy, and culture. The course will consist mainly of lectures, incorporating new results of recent research on Japanese history, while developing the ability to "think" rather than "memorize" history. In order to enable students to "think" based on historical documents, important historical documents will be presented and their interpretations will be considered as appropriate, so that students will be able to draw a concrete historical image from historical documents.

【到達目標（Learning Objectives）】

The course is designed to provide students with the knowledge necessary for teaching Japanese history in junior high and high schools, how to research historical facts and how to logically structure the overall picture. The course will explain how the descriptions in the textbooks are based on the historical evidence, tracing back to the academic theories on which they are based. The goal is to develop the ability to construct an image of Japanese history (including culture) from ancient times to the Middle Ages, supported by rich and diverse values, while always maintaining the international environment and geographical perspective of Japan within the East Asian world. 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】 Please review the handouts and reference books related to the theme for preparatory study and review. Please also review the historical materials presented in class and develop an attitude of thinking based on the historical materials. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be based on class work (50%) and a final exam (50%). In order to evaluate your learning in class, please submit the designated worksheet each time. The final exam will be graded according to the level of understanding of the class content.

HIS100LA（史学 / History 100）

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

芳賀 和樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・対外関係・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていきます。史料に基づいて「考える」ことができるように、適宜、重要史料を提示してその解釈を検討し、史料から具体的な歴史像を描き出せるようにします。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学びます。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説します。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配付資料により、シラバス通りに実施します。ワークシートの提出等により、学習状況を確認しながら進めます。提出されたワークシートについては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス—世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世と近代の位置づけについて、世界のなかの日本という視点を意識しながら学ぶ
第2回	江戸幕府の成立と地域社会	天皇・将軍・大名・寺社・庶民などの動向を視野に入れながら、江戸幕府の成立について学ぶ
第3回	寛永期の政治と国際関係	寛永期における幕府政治の動向と対外関係の特質について学ぶ
第4回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期における幕府政治の課題と地域社会の動向について学ぶ
第5回	近世村落の運営と租税	家族や生業の様子を視野に入れながら、近世村落の運営と租税の仕組みについて学ぶ
第6回	近世文化の展開と文化遺産	文化遺産の観点から、文学・美術・芸能・信仰などの近世文化について学ぶ
第7回	近世社会の変容と政治状況	近世後期における社会の変容と幕府政治の課題について学ぶ
第8回	明治維新と近代国家の形成	開国から江戸幕府の終焉までを把握し、明治維新と近代国家の形成について学ぶ

第9回	近代産業の発展と国際環境	国際的な動向に着目しつつ、殖産興業政策や「産業革命」期における諸産業の発展について学ぶ
第10回	政党政治の展開	自由民権運動から政党内閣までの展開について学ぶ
第11回	二つの世界大戦と国際状況	第一次世界大戦、第二次世界大戦における日本の思惑と国際状況の変容について学ぶ
第12回	近代文化の展開と東京の文化遺産	文学・美術・建築・教育などの近代文化と、東京に遺る文化遺産について学ぶ
第13回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と国際社会への復帰について学ぶ
第14回	総括と試験	授業を総括し、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。授業で提示した史料についても復習し、史料に基づいて考える姿勢を養ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

佐々木潤之介ほか編（2000）『概論 日本歴史』吉川弘文館

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業での学習状況（50%）、期末試験（50%）により行います。授業での学習状況を評価するため、毎回、指定したワークシートを提出してください。期末試験は授業内容の理解度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。今年度も、授業の冒頭にて、前回の授業に関する質問や考察などに対するフィードバックの時間を設けたいと思います。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this course, students will consider the period from the establishment of early modern society to the formation of modern society from various aspects such as politics, foreign relations, social economy, and culture. The course will consist mainly of lectures, incorporating new results of recent research on Japanese history, while developing the ability to "think" rather than "memorize" history. In order to enable students to "think" based on historical documents, important historical documents will be presented and their interpretations will be considered as appropriate, so that students will be able to draw a concrete historical image from historical documents.

【到達目標（Learning Objectives）】

The course is designed to provide students with the knowledge necessary for teaching Japanese history in junior high and high schools, how to research historical facts and how to logically structure the overall picture. The course will explain how the descriptions in the textbooks are based on the historical evidence, tracing back to the academic theories on which they are based. The goal is to develop the ability to construct an image of Japanese history (including culture) from the early modern period to the modern period, supported by rich and diverse values, while always maintaining the international environment and geographical perspective of Japan in the world.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Please review the handouts and reference books related to the theme for preparatory study and review. Please also review the historical materials presented in class and develop an attitude of thinking based on the historical materials. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be based on class work (50%) and a final exam (50%). In order to evaluate your learning in class, please submit the designated worksheet each time. The final exam will be graded according to the level of understanding of the class content.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

宗教論 I

2017年度以降入学者

榎本 香織

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代における主要な宗教の概略を学び、基本的な理解を深めていく。

【到達目標】

日本および世界の宗教の基礎を知ること、日本の宗教文化および異文化への理解を深めると同時に、人間にとって「宗教とは何か？」を考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、レジュメを配布して授業を進める。講義の最後（10分程度）にリアクションペーパーを書き、提出。質問やコメントに対するフィードバックは次回講義冒頭（15-20分程度）にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の説明、「宗教 (Religion)」とは何か？
2	なぜ宗教は生まれたのか	宗教の発生を人類の起源や進化の観点から考察する
3	宗教形態の基本知識	一神教、多神教、アニミズムなど
4	世界の主要宗教を概観する (1)	ユダヤ教
5	世界の主要宗教を概観する (2)	キリスト教
6	世界の主要宗教を概観する (3)	イスラム教
7	世界の主要宗教を概観する (4)	仏教
8	日本の宗教 (1)	神道と仏教（神仏習合）
9	日本の宗教 (2)	新宗教、民俗信仰など
10	日本の宗教 (3)	ニューエイジ、スピリチュアリティ
11	宗教現象の分析 (1)	祈り、儀礼
12	宗教現象の分析 (2)	シャーマニズム
13	宗教現象の分析 (3)	現代社会と宗教
14	まとめ、試験	振り返りと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間程度を標準とする。準備としては、講義のテーマごとに自分に合った本を見つけて目を通し、講義後はレジュメや講義内容を元に関心を持ったことを掘り下げるなどすることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

中村圭志『エッセンシャル版 図解世界5大宗教全史』（2016年、ディスカヴァー・トゥエンティワン）
 脇本平也『宗教学入門』（1997年、講談社学術文庫）

その他、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%、期末試験：50%。両方を合わせて総合的に評価。前者はリアクションペーパーの内容および参加度、後者は試験により「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

単なる知識・情報としてだけでなく、宗教をより身近なものとして考えることのできる内容を目指したいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course deals with an overview and basic understanding of the major religions from ancient times to the present.

(Learning Objectives) The goal of this course is to deepen students' understanding of Japanese religious culture and other cultures, and to enable them to consider "What is religion for human beings?".

(Learning activities outside of classroom) As preparation, it is advisable to find and read books suitable for each lecture topic, and after the lecture, it is advisable to do in-depth research on what you are particularly interested in based on what you have learned.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end examination (50%). The former is based on the content of the reaction paper and the level of participation, and the latter is based on the degree to which the "Learning Objectives" have been achieved through the examination.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

宗教論Ⅱ

2017年度以降入学者

榎本 香織

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「宗教論Ⅰ」から引き続き、主要な宗教現象を横断的に更に掘り下げる。私たちと宗教がどのように結び付いているかを、より専門的な観点から学ぶ。

【到達目標】

宗教や宗教研究のあり方への理解をさらに深める。現代における宗教の役割や意義について客観的に捉え・考察できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、レジュメを配布して授業を進める。講義の最後（10分程度）にリアクションペーパーを書き、提出。質問やコメントに対するフィードバックは次回講義冒頭（15-20分程度）にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の説明、宗教論を学ぶことについて
2	宗教と宗教論	宗教と宗教論(宗教学)との違いについて
3	宗教的世界観 (1)	神話、伝説
4	宗教的世界観 (2)	聖と俗、ハレとケなど
5	宗教的世界観 (3)	死生観、他界観など
6	宗教的行為 (1)	祈りについて
7	宗教的行為 (2)	儀礼について
8	宗教的行為 (3)	修行、戒律について
9	宗教的行為 (4)	祭りについて
10	現代社会と宗教 (1)	宗教・呪術・科学
11	現代社会と宗教 (2)	宗教とメディアの歴史
12	現代社会と宗教 (3)	宗教と公共性
13	現代社会と宗教 (4)	宗教といのち
14	まとめ、試験	振り返りと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間程度を標準とする。準備としては、講義のテーマごとに自分に合った本を見つけて目を通し、講義後はレジュメや講義内容を元に関心を持ったことを掘り下げるなどすることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

島園進、他『宗教学キーワード』（2006年、有斐閣）
石井研士『テレビと宗教』（2008年、中公新書ラクレ）
宗教者災害支援連絡会（編）『災害支援ハンドブック：宗教者の実践とその協働』（2016年、春秋社）
その他、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%、期末試験：50%。両方を合わせて総合的に評価。前者はリアクションペーパーの内容および参加度、後者は試験により「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

私たちを取り巻く宗教を単なる知識・情報としてだけでなく、より身近なものとして客観的に捉え、考えることのできる内容にしたいと思います。

【その他の重要事項】

春学期「宗教論Ⅰ」をベースとした発展的内容です。よって可能であれば「Ⅰ」を履修しておくことが望ましいですが、していなくても受講可能です。重複するテーマがいくつかありますが、より掘り下げた内容となる予定です。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course continues from "Religious Science I" and further explores a cross-section of major religious phenomena. Students will learn how religion is connected to modern society from a more specialized perspective. (This is a developmental course based on the spring semester "Religious Science I". Prior completion of the course is recommended, but students may take this course even if they have not taken it. There are some overlapping themes, but the content will be more in-depth.)

(Learning Objectives) The goal of this course is to further develop an understanding of religion and the religious studies. It will enable students to objectively view and examine the role and significance of religion in the modern world.

(Learning activities outside of classroom) As preparation, it is advisable to find and read books suitable for each lecture topic, and after the lecture, it is advisable to do in-depth research on what you are particularly interested in based on what you have learned.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end examination (50%). The former is based on the content of the reaction paper and the level of participation, and the latter is based on the degree to which the "Learning Objectives" have been achieved through the examination.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

宗教論 I

2017年度以降入学者

古澤 有峰

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教の発生と形態について基本的な見方を学び、既存の宗教への理解を深めていく。

【到達目標】

宗教の基本を客観的に学んで、「人間とは何か」という人文系の学問の大前提の問題へ理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。初回レポートおよび中間レポートの提出を求める。コメントに対するフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	今学期の授業の概要の説明	宗教を学ぶことの意義を中心に
2	なぜ宗教は生まれたのか	宗教の発生を人類の起源に立ち返って考察する
3	宗教形態の基本的な問題	一神教と多神教など
4	世界の主要宗教を概観する（1）	ユダヤ教
5	世界の主要宗教を概観する（2）	キリスト教
6	世界の主要宗教を概観する（3）	イスラム教
7	世界の主要宗教を概観する（4）	仏教
8	日本の宗教観（1）	神道と仏教
9	日本の宗教観（2）	無宗教と現代
10	宗教現象の分析（1）	神とカミガミ
11	宗教現象の分析（2）	祈り
12	宗教現象の分析（3）	祭礼
13	宗教現象の分析（4）	現代の問題
14	まとめ	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が40%、最終レポートが60%。前者は初回レポートと中間レポートの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

(Outline) Students will learn some basic views on the origins and forms of religion and gain the deeper understanding of existing religions. (Goals) By objectively studying the basics of religion, we can deepen our understanding of the fundamental question of the humanities: "What is a human being?". (Methods) Lecture-style. No textbook will be used, and the class will progress according to the handouts. Students will be required to submit an initial report and a mid-term report. Feedback on comments will be provided via the distribution of materials. (Work to be done outside of class) The standard amount of time for preparation and review for this class is 2 hours each. Try to understand the content of the class well using the handouts, notes, and reference books that are provided, and ask questions if there are any points you don't understand. (Textbooks) No textbooks are used. (References) Instructions will be given as appropriate during class. (Grading criteria) Class participation is 40%, and the final report is 60%. The former is evaluated based on the content of the initial and interim reports, and the latter is evaluated based on the extent to which the "learning objectives" listed above have been achieved. (Changes following student comments) Lectures will be taken into account the interests and level of understanding of the students.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

宗教論Ⅱ

2017年度以降入学者

古澤 有峰

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神（あるいはカミガミ）と人間の関係を中心に主要な宗教現象を学び、さらに古代から近代までの歴史のなかで宗教が果たした役割について考察していく。

【到達目標】

宗教に対する基本的な見方を学び、さらに世界の歴史に眼を向け、宗教現象を広い視点で捉えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。初回レポートおよび中間レポートの提出を求める。コメントに対するフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	今学期の授業の概要の説明	宗教論とは何か
2	宗教の分類	世界宗教と民族宗教など
3	宗教現象の基本的な見方	聖と俗など
4	聖なることば (1)	祈りを中心に
5	聖なることば (2)	神話を中心に
6	宗教的世界観 (3)	聖なる空間および他界について
7	聖なる行為 (1)	儀礼とは何か
8	聖なる行為 (2)	通過儀礼が意味するもの
9	聖なる行為 (3)	祝祭とは何か
10	理性と宗教 (1)	宗教・呪術・科学
11	理性と宗教 (2)	呪術と宗教
12	理性と宗教 (3)	西洋占星術の起源から近代天文学の誕生へ
13	理性と宗教 (4)	近代科学革命のなかで
14	まとめ	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が40%、最終レポートが60%。前者は初回レポートと中間レポートの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

(Outline) Students will learn major religious phenomena, focusing on the relationship between God (or gods/kamigami) and humans, and will also examine the role that religion has played in history from ancient to modern times. (Goal) The goals of this course are to learn about basic views on religion, and then look at world history to gain a broader perspective on religious phenomena. (Methods) Lecture-style. No textbook will be used, and the class will progress according to the handouts. Students will be required to submit an initial report and a mid-term report. Feedback on comments will be provided via the distribution of materials. (Work to be done outside of class) The standard amount of time for preparation and review for this class is 2 hours each. Try to understand the content of the class well using the handouts, notes, and reference books that are provided, and ask questions if there are any points you don't understand. (Textbooks) No textbooks are used. (References) Instructions will be given as appropriate during class. (Grading criteria) Class participation is 40%, and the final report is 60%. The former is evaluated based on the content of the initial and interim reports, and the latter is evaluated based on the extent to which the "learning objectives" listed above have been achieved. (Changes following student comments) Lectures will be taken into account the interests and level of understanding of the students.

ART100LA (芸術学 / Art studies 100)

芸術 A

2017年度以降入学者

嘉藤 笑子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀になって「芸術」は、モダンアートや現代アートと呼ばれるようになって、人々の生活から乖離していく存在になった。わかりづらいモノ、難しいモノとして人々の生活から遠のいたように思える。にもかかわらず、SNSやインスタ映えといった現象によって現代アート展や国際芸術祭には、多くの若者や外国人旅行者が押し寄せている。こうした現象に代表されるようにアートは面白い！と思わせる存在でもある。したがって、その真性をつかむのは容易ではない。古えから連綿と続く芸術の普遍性や真価値性を紐解きながら、新たな美意識や思想を生み出してきた芸術の真価を学ぶべきである。同時に「アートとは何か？」ということ学ぶことは現代社会の深層を掘り下げることにある。アートの定義を改めて探求し、社会的文脈を読み解くことで、芸術の真正を探求していく。

【到達目標】

芸術がモダンアートと呼ばれるようになった20世紀初めから現代までのおよそ100年間における芸術と社会の関係を考察していく。特に19世紀末から1960年代までの大きな流れを把握し、20世紀に起きた二つの大戦が世界の美術動向に大きな影響を与えて、20世紀後半のアメリカ経済大国とアートマーケットの占有。そして資本主義社会や大量消費文化のなかで大きなうねりを作り、変動していく様子を考察していく。また、芸術の存在を受容してきた社会的背景や歴史的考察を経て、芸術が影響を与えてきた社会的構造を探求していく。本時代を象徴する具体的なアーティストや代表的なアート作品の事例をもとにアートと社会との関係性を模索していく。その芸術が誕生した地域や習性などの文化的背景や社会環境を包括的に捉えていくことで、芸術の文化的価値について探求していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義（動画・画像を多用していく）を行う。

毎回リアクションペーパーの提出。

各回のレジュメおよび参考資料を配布。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アートとは何か？ （ガイダンス）	20世紀におけるアートの変化を考える。アートを探る手立てを哲学、歴史、動向などの分析方法で考察する。
第2回	美術館と展覧会のはじまり	アートをめぐるインスティテューションの在り方を探求する
第3回	博覧会と芸術祭	芸術の見せ方を模索するなかで博覧会や芸術祭の可能性を模索する
第4回	後期印象派とフォーヴィズム、そしてキュビズム	モダンアートの始まりとされる後期印象から抽象的表現に変貌を遂げるフランスの動向を探索。

第5回	前衛芸術の発展：ダダイズム・シュールレアリズム	コスモポリタンとなったパリが、多くのアート動向を生み出したが、戦争によって世界同時に誕生したアヴァンギャルドを探索する。
第6回	ふたつの世界大戦とアート①プロパガンダ（退廃芸術）	ナチス・ドイツによって退廃芸術と呼ばれて政治的抑圧を受けた芸術と表現を探索する
第7回	ふたつの世界大戦とアート②プロパガンダ（戦争画）	第二次大戦中に日本において軍部主導によって描かれた多くの「戦争画」の具体的な内容と戦後処理の実態を探索する。
第8回	冷戦構造とアート①ロシア・アヴァンギャルド	ソビエト連合の設立と崩壊に関わった芸術を探索する。ロシア革命とロシア・アヴァンギャルドの実態、冷戦構造のなかで変化していく共産圏のアート動向。
第9回	冷戦構造とアート②ドクメンタ（ドイツ・カッセル）	東西分断されたドイツの芸術祭『ドクメンタ』や五月革命（1968）を考察していく。
第10回	アメリカ現代美術の発展：抽象表現主義	アメリカが経済大国となった20世紀後半に焦点を当てて、その戦略と方策を探索する。
第11回	ミニマリズムと宇宙開発	アメリカの工業化が進むなかで皮肉な存在でもあるミニマリズムと同時期の宇宙開発の関係性をつかむ。
第12回	ポップアートと消費社会	20世紀を代表するアンディ・ウォーホルとポップアートを検証する。
第13回	パブリックアートと都市再生	公共事業とパブリックアートの構造について学ぶ。
第14回	現代美術館の興隆	20世紀後半に乱立したモダンアートを輩出する装置である現代美術館を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業のレジュメや参考書類はファイルにしておき、自分で調べた資料などを追加していけるようにするしましょう。日頃から新聞・ニュースなどを通じて国際政治や社会動向について目を触れておくこと。文化芸術に関する専門知識や世界史や歴史的考察を身に着けていくことも必要となります。専門誌や文献、関連する書籍を通じて現在の文化動向の概観を掴むこと。また、日ごろから文化芸術に触れる機会や興味を増やしておくことがいいでしょう。学習時間は、予習・復習ともに各自で考えて進めてください。準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

「ART SINCE1900:図鑑 1900年以後の芸術」ハル・フォスター著
そのほか、2019、東京書籍
「アートとは何か：芸術の存在論と目的論」アーサー・C・ダントー著、2018、人文書院
「戦争と美術1937-1945」針生一郎（編者）ほか、2007、国書刊行会
「現代美術史：欧米、日本、トランスナショナル」山本浩貴著、2019、中公新書

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

定期試験（割合％）60％

◎定期試験を行わない場合は小論文（用語解説を含む）レポートの提出（割合％）60％

小論文のレポート課題（学期内に1点）

締切厳守（遅れた場合が、減点はするが学期内であれば受け付ける）

授業後にリアクションペーパー 20％

※授業に対する感想や意見を記入して提出すること。

※無記名や記述のないものは無効。

出席（リアクションペーパーの提出で判断）20％

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートに限らず、リアクションペーパーや授業内での発言などの様々な方法で学生からの意見や要望、実際の授業の状況などを受け付ける。

Emailでも質問は可能。kotorismile@gmail.com

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具。

【その他の重要事項】

徳島県神山町のアーティスト・イン・レジデンス評価委員（2005－2018）

Art Autonomy Network(2005-2019)

向島学会副理事長（2005－現職）

すみだ向島EXPO実行委員会（2020－現職）

KAB Library and Residencyの運営(2019－現職) アーティスト・イン・レジデンス

市川シブエ会理事～市川市立美術館設立にむけて活動（2025-）

「ととのう温泉美術館」愛知県蒲郡市（2023）ゲスト・キュレーター。など。

地域社会と文化振興について実質的問題や方策を協議していくときに具体例として話題にしていく。授業中の私語を慎み、携帯電話や電子機器の利用を禁止します。遅刻や途中退出はしないようにしてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

What is art?" is to delve into the depths of contemporary society. The course will examine the relationship between art and culture over approximately 100 years. In particular, we will discuss the major trends from the end of the 19th century to the 1970s, the two world wars of the 20th century that significantly impacted world art trends, and the economic powerhouse of the United States in the latter half of the 20th century. Contemporary art will also examine how the art market fluctuated and created a great swell in capitalist society and mass consumer culture.

[Learning Objectives]

While unravelling the universality and authenticity of art that has continued uninterruptedly since ancient times, students will learn the actual value of art, which has created new aesthetic senses and ideas. By reexamining the definition of art and reading it in a social context, we will explore the authenticity of art.

[Learning activities outside of classroom]

Keep a file of resumes and reference materials for each class so that you can add your research materials.

Explore international politics and social trends through newspapers and other media. Acquiring specialized knowledge of culture and the arts, world history, and critical considerations is also necessary.

Acquire an overview of current cultural trends through specialized journals, literature, and related books. Also, it would be best to increase your exposure to and interest in culture and the arts.

Preparation Standard study and review time is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

-Periodic Examinations 40 %

In the periodic examination (Evaluation criteria, evaluation method), the total 100 points are essay (60 points) and terminology (20 points x 2 questions) writing examination. All questions must be answered.

-Essay and Report 40 %.

Essay report assignment (1 point within the term).

The deadline must be strictly adhered to (if late, points will be deducted but accepted within the semester)

-Reaction paper after class: 20%.

*To be submitted with your comments and opinions about the class.

*Unsigned papers or papers with no description will be invalid.

ART100LA (芸術学 / Art studies 100)

芸術B

2017年度以降入学者

嘉藤 笑子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル社会の発展とともにアートは国際化しボーダレスな価値観を築いてきた。情報化社会の到来は、経済状況や政治体制に大きな変化をもたらし、迅速な移動手段を進展させ、国際間の地政学的な格差やリスクを生み出している。こうした社会状況は、ふたつの大戦という歴史的背景を経て不透明な不安を築いている。新自由主義によって発展してきた20世紀後半のアート動向に注目し、芸術の在り方を探求していく。さらにわが国の芸術文化の発展および振興をめざすために、必要不可欠な近代的制度を文化政策や政治環境、経済的支援などによって俯瞰していく。特に1960年代以降の各国の文化的背景や社会環境を包括的に捉えていくことで、現代社会の創造的価値を追究していく。また、地域創生やコミュニティ再生といった今日の問題を視野に入れて、社会動向と文化推進のなかで内在する具体的な課題を見出し、多くの文化事業やコミュニティ活動から事例を見出し、芸術が育成されるべき社会構造についても考察していく。同時に世界情勢が常に変化していくことを鑑みて、国際的な視座を含有する文化政策やアート市場の現状を把握していく。

【到達目標】

国際社会における民主主義国家を中心に発展してきた現代アートの動向を探求していく。特に20世紀後半のアメリカ、ヨーロッパ（イギリス・フランス・ドイツ）、日本を取り上げ、それぞれの国家の歴史的背景と文化的状況を比較していく。その歴史的考察には、第二次世界大戦や、冷戦構造、そして東西分断をしていたベルリン壁の崩壊を経て、新自由主義社会による格差社会の課題にも目を向けていく。IT発展による情報化が進んだ社会的環境は、現代アートに大きな影響を与えている。こうした環境を社会的構造から探求し、文化支援を行う公的機関やNPO、民間組織の存在は、各国ごとに構造や運営方法などを学ぶ。さらに各国の経済・文化振興を図るために取り入れられた文化施設の設立、万国博覧会やオリンピックといった大型イベント、その流れで登場してきた地域創生やコミュニティ再生といった今日の問題を視野に入れて、社会変化と文化推進のなかで内在する具体的な課題を見出し、地域プロジェクトや国内芸術祭にも目を向けて文化交流事業を検証する。日々刻々と変化していく世界の状況を国際的視野で見つめていき国際社会の一員として文化支援の在り方を考察していく。授業の内容や順序等に変更がある場合は予めご了解いただきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の最後にリアクションペーパー提出をもって出席とする。質疑応答についてもリアクションペーパー内で行ってもよいが、確実な質疑応答が必要な場合は教員に直接にしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	グローバル社会における現代アート（ガイダンス）	1960年以降の美術動向と社会状況の関係性を考える。

第2回	世界の文化予算の国際比較	ヨーロッパ、アメリカ、日本による文化予算を比較することで各国の文化支援の現状を把握する。
第3回	冷戦構造と文化戦略（大型文化財団による美術振興）	東西分断による壁の創出とアイデアオロジーの崩壊。美術振興による国際文化戦略。
第4回	20世紀写真/メディアアート/ヴィデオ・アート	テクノロジーの発展と複製時代の芸術、情報化社会のアート動向。
第5回	コンセプチュアル・アート/パフォーマンスアート	概念芸術の誕生と発展。言語と身体、体験型表現の実際
第6回	ランドアート/パブリックアート	ヨゼフ・ボイスに代表される「社会彫刻」や脱美術館を目指すランドアートの実態。
第7回	シミュレーションイズム/盗用芸術	流通している写真や広告などを「引用」の範疇を超えて作品に取り込む方法論を考える。
第8回	ソーシャル・エンゲイジド・アート（SEA）	社会課題に向き合うアート活動と保守体制に反抗するアート。
第9回	日本のコミュニティ・アート、地域社会との連携	地域フェスティバルの振興とコミュニティ・アートの発展。
第10回	政治とアート	アクティヴィズムを手段にメッセージ性を希求する現代アート。
第11回	グローバル社会の課題①アールブリュット	ソーシャル・インクルージョン/障害者支援のアート活動を考察する。
第12回	グローバル社会の課題①エコロジー	深刻化する環境問題と現代アートを考察する
第13回	グローバル社会の課題②（多様性社会のアート）	多文化共生における不確実性、ジェンダー格差と社会構造
第14回	国際社会の文化政策（ユネスコ・世界遺産など）	グローバル社会の文化支援と文化財保護の実態。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・ニュースなどを通じて国際政治や動向について目を触れておくこと。文化芸術に関する専門知識や世界史や歴史的考察を身に付けていくことも必要となります。専門誌や文献、関連する書籍を通じて世界の文化動向の概観を掴むこと。また、日ごろから文化芸術に触れる機会や興味を増やしておくことがいいでしょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

「現代アート入門」デイヴィッド・コッティントン・松井 裕美著、2020、名古屋大学出版会
「文化政策入門」池上惇、端信之、福原義春、堀田力（共に編者）、2001、丸善ライブラリー
「地域主権の国 ドイツの文化政策」藤野一夫・秋野有紀、2017 美学出版

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

定期試験（割合％）60％

定期試験（評価基準、評価方法）総計100点

小論文（60点）と用語解説（20点x2問）の記述試験。全ての問題に解答すること。

◎定期試験を行わない場合は小論文（用語解説を含む）レポートの提出（割合％）60％

小論文のレポート課題（学期内に1点）

締切厳守（遅れた場合が、減点はするが学期内であれば受け付ける）

授業後にリアクションペーパー 20％

※授業に対する感想や意見を記入して提出すること。

※無記名や記述のないものは無効。

出席（リアクションペーパーの提出で判断）20％

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートに限らず、リアクションペーパーや授業内での発言などの様々な方法で学生からの意見や要望、実際の授業の状況などを受け付ける。

Emailでも質問は可能。kotorismile@gmail.com

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具

【その他の重要事項】

徳島県神山町のアーティスト・イン・レジデンス評価委員（2005－2018）

Art Autonomy Network(2005-2019)

向島学会副理事長（2005－現職）

すみだ向島EXPO実行委員会（2020－現職）

KAB Library and Residencyの運営(2019－現職) アーティスト・イン・レジデンス

市川シブエ会理事～市川市立美術館設立にむけて活動（2025-）

「ととのう温泉美術館」愛知県蒲郡市（2023）ゲスト・キュレーター。など。

地域社会と文化振興について実質的問題や方策を協議していくときに具体例として話題にしていく。授業中の私語を慎み、携帯電話や電子機器の利用を禁止します。遅刻や途中退出はしないようにしてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

With the development of a global society, art has become internationalized and built a borderless value system. The advent of the information society has brought about significant changes in economic conditions and political systems, developed rapid means of transportation, and created geopolitical disparities and risks between international countries. This project explores the state of art by focusing on the art trends of the latter half of the 20th century, which Neoliberal has created.

[Learning Objectives]

This course will explore the trends in contemporary art that have developed mainly in democratic nations in the international community. In particular, we will focus on the United States, Europe (England, France, and Germany), and Japan in the second half of the 20th century, comparing each nation's historical background and cultural conditions. The historical discussion will include World War II, the Cold War structure, the Berlin Wall collapse that divided East and West, and the challenges of social disparity caused by neo-liberal society.

By comprehensively understanding each country's cultural background and social environment, especially since the 1970s, we will pursue the creative values of contemporary society. In addition, we will also look into today's issues, such as regional development and community revitalization, and discover the challenges inherent in social trends and cultural promotion.

[Learning activities outside of classroom]

Keep a file of resumes and reference materials for each class so that you can add your research materials.

Explore abreast of international politics and social trends through newspapers and other media. Acquiring specialized knowledge of culture and the arts, world history, and historical considerations is also necessary.

Acquire an overview of current cultural trends through specialized journals, literature, and related books. Also, it would be best to increase your exposure to and interest in culture and the arts.

Preparation Standard study and review time is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

-Periodic Examinations 40 %

In the periodic examination (Evaluation criteria, evaluation method), the total 100 points are essay (60 points) and terminology (20 points x 2 questions) writing examination. All questions must be answered.

-Essay and Report 40 %.

Essay report assignment (1 point within the term).

The deadline must be strictly adhered to (if late, points will be deducted but accepted within the semester)

-Reaction paper after class: 20%.

*To be submitted with your comments and opinions about the class.

*Unsigned papers or papers with no description will be invalid.

ART100LA (芸術学 / Art studies 100)

芸術 A

2017年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代以降の芸術の歴史や作品を時代背景とともに概観する。その際、美術史のみならずそれに関連する学問領域の学説や議論を参照する。それは、同時代を表象する芸術と社会の関係を考察する力を養うことでもある。

【到達目標】

近代における芸術の変容を、それを成立させている社会や時代思潮の変化とともに追う。その過程で、近代社会と芸術の関係を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代の芸術作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	芸術とは何か？	本講義において、どのようなものを「芸術」と呼ぶかについて。
2	絵画の歩み	19世紀フランスのクールベやマネなど、近代絵画の可能性を開いた作品や芸術の考え方について。
3	絵画とリアリティ	具象的な絵画から抽象的な絵画へと至る道を、第一次世界大戦に着目しながら概説。
4	マルセル・デュシャンとコンセプチュアルアート	デュシャンの絵画からの離脱とコンセプチュアルアートへの移行について。
5	複製技術時代の到来と芸術の変容	写真術の到来とその芸術への影響について。
6	映像の誕生とスペクタクルの社会1	映画やテレビジョンの発明と映像文化について。
7	映像の誕生とスペクタクルの社会2	写真や映像が日常を取り巻くなかで、リアリティはどこにあるのかを考える。
8	パフォーマンスが芸術になるとき1	身体を表現のメディアとするパフォーマンスを時代や社会背景の関係において考える。
9	パフォーマンスが芸術になるとき2	近代社会における身体表現の批評性について考察する。
10	彫刻からインスタレーションへ	場や台座との関係で考えられる彫刻から、社会空間の力学を扱うインスタレーションについて。
11	大正期の芸術表現	大正時代から昭和時代の初期に至る芸術について。
12	戦後日本の前衛芸術	「反芸術」いわれた芸術運動の歴史を概説する。

13 まとめ 近代社会の誕生から戦後にかけての芸術の変容を振り返る。

14 授業内試験 小論文の執筆と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行き、実物を見ること。講義で出てきたキーワードについて、関連文献などでさらに調べる。各回30分程度の集中的な復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典

授業内試験を実施する。

<https://artscape.jp/dictionary/modern/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。また、成績評価は、授業内試験(90%)とリアクションペーパー(10%)による。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline (in English)】

This series of lectures aims to give an overview of the history of modern art with reference to other academic disciplines such as philosophy, sociology or anthropology. This means that students are encouraged to grasp art as a representation of the contemporary Society. Towards the end of the course, students attend an examination and write a short essay.

Following the transformation of art in the modern age in relation to that of society and the cultural climate, the students nurture an ability to envisage a relationship between art and modern society.

Students are encouraged to visit art museums and galleries in order to discover art today as well as look into the terminologies introduced in the course. In addition, it is recommended that each lecture be reviewed for 30 minutes. Grading will be determined by reaction paper (20%) and an exam at the end of the course (80%).

ART100LA (芸術学 / Art studies 100)

芸術 B

2017年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990年代以降のグローバリゼーションと芸術の関係について考察する。新自由主義と芸術の関係について、国際展や芸術祭、アートフェア、美術館などの変容をとおして考察する。

【到達目標】

政治や経済と密接な関係をもつ現代アートのあり方を多角的に考察する。時代の先行指標となり既存の価値に問いを投げかける現代アートのあり方を踏まえ、現代のグローバル化した世界のこれからを探る思考力と洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会に関するスライドを見せながら解説をする。講義の途中でも質問に応じ、学生とのコミュニケーションを図りながら進めてゆく。また、必要に応じてテーマに関連する展覧会を訪れるよう促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アート界の仕組み1 (オリエンテーション)	アートをアートとして成り立たせる制度について概説する。
2	アート界の仕組み2	アートをアートとして成り立たせる制度について概説する。
3	美術館とは？	近代の到来とともに誕生した美術館とその役割について概説する。
4	美術館と芸術の変容	1990年代以降、新自由主義における美術館と芸術について概説する。
5	西洋中心主義の終わりと1990年代1	モダニズムー ポスト・モダニズムの考え方を紹介しながら、西洋中心主義を問う作品について考察する。
6	西洋中心主義の終わりと1990年代2	モダニズムー ポスト・モダニズムの考え方を紹介しながら、西洋中心主義を問う作品について考察する。
7	関係性の美学と芸術の実践	モノと人との関係によって成立する芸術とその社会背景について考察する。
8	関係性の美学の現在地	芸術の領域で語られる「関係」の多様性について概説する。
9	グローバリゼーションと多文化主義1	1980年代から1990年代にかけて唱えられはじめた多文化主義とその課題について、大地の魔術師たち展からドクメンタ11へ至る道筋を追う。

10	グローバリゼーションと多文化主義2	1980年代から1990年代にかけて唱えられはじめた多文化主義とその課題について、大地の魔術師たち展からドクメンタ11へ至る道筋を追う。
11	非対称な世界とその表象1	2010年代のヴェネチアビエンナーレやドクメンタなどの国際展に触れながら、新自由主義とその表象としての芸術について考察する。
12	非対称な世界とその表象2	2010年代のヴェネチアビエンナーレやドクメンタなどの国際展に触れながら、新自由主義とその表象としての芸術について考察する。
13	ポストコロナと現代アートの結びめ	気候変動や環境危機が叫ばれる現在、芸術はそれにどう向き合えるかを検討する。
14	授業内試験	小論文の執筆と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行き、実際に実物を見ること。講義で出てきたキーワードについて、関連文献やウェブサイトですらに調べる。各回30分程度の復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典

<https://artscape.jp/dictionary/modern/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。また、成績評価は、授業内試験(90%)とリアクションペーパー(10%)による。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline (in English)】

This series of lectures is intended to overview the relationship between art and globalization from the 1990s. By touching upon Venice Biennale, Documenta, art fairs and art museum, students are encouraged to consider contemporary art practice in relation to neo liberalism. Towards the end of the course, students attend an exam and write a short essay.

Students are encouraged to approach contemporary art in multiple ways that is profoundly related to politics and economics today. With contemporary art, which questions preconceived ideas and sheds light on a path to the future, they will also gain an insight into the globalized society of today. Students are encouraged to visit art museums and galleries in order to discover art today as well as look into the terminologies introduced in the course. In addition, it is recommended that each lecture be reviewed for 30 minutes. Grading will be determined by reaction paper (20%) and an exam at the end of the course (80%).

ART100LA (芸術学 / Art studies 100)

芸術 A

2017年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芸術の中でも主に西洋絵画、加えて彫刻・装飾美術を取り上げ、ルネサンス以降の西洋美術史と欧米での近代的な美術館の成立について学びます。これを通して、美術が社会にどう関わってきたか、現在どう関わっているかについて考えます。

【到達目標】

- 1) ルネサンス以降の西洋絵画、彫刻・装飾美術に関する知識を深め、様々な視点から作品を鑑賞できる。
- 2) 西洋絵画が歴史的にどのような変遷をたどっていったかを学び、絵画の背景にある歴史を理解することができる。
- 3) 美術館の成立過程について、近代の美術館がどのように成立したか、歴史的な背景を含めて理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第2回	西洋絵画入門	西洋絵画におけるジャンル分けを解説し、主なジャンルの作品を紹介する。
第3回	風景画の成立	風景画について、ジャンルとしての成立から印象派に至るまでの流れを解説する。
第4回	ルネサンス美術	ルネサンス美術の代表的な作家・作品を紹介し解説する。
第5回	北方ルネサンス・バロック	北方ルネサンス、バロックの代表的な作家・作品を紹介し解説する。
第6回	新古典主義・ロマン主義	フランス革命期の絵画について、主題の変化や背景の理念等に触れながら作品を紹介する。
第7回	印象派	印象派の作家・作品およびその時代背景・技法について解説する。
第8回	ポスト印象派・新印象派	印象派に強く影響を受けた画家を中心に、作家・作品を紹介する。
第9回	世紀末から20世紀	世紀末から第二次世界大戦前までの西洋絵画の潮流・運動について概説する。

第10回	彫刻	西洋の彫刻について、古代ギリシアからロダン以降の近代彫刻まで概説する。
第11回	万博と装飾美術	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、及びこれらと関連の深い万国博覧会について解説する。
第12回	ルーヴル美術館の設立とフランスの美術館	西洋における美術館の成り立ちについて、ルーヴル美術館を一例として取り上げ、更に現在のフランスの美術館について解説する。
第13回	欧米の美術館	欧米の代表的な美術館をいくつか取り上げ、その成立や現在、及び所蔵作品について解説する。
第14回	まとめ	授業を通しての総括を実施する。また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内レポートとは別に、学期中に授業に関するレポートを課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。そのうち半分程度を授業に関するレポートおよび期末レポート、残りを授業外での作品鑑賞や教養の涵養などにあてることが想定されています。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に必要があれば紹介します。準備の必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内レポート）：50%

期末レポート：50%

期末レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。

ただし、成績は平常点と期末レポートの双方を加味して評価するため、期末レポートを提出しても必ずしも単位が取得できるわけではないことに注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートを受けて、内容の見直し、資料の内容改訂を行っていきます。

【その他の重要事項】

第1回の授業で、ガイダンスと概要説明を実施します。オンデマンドで視聴可能な状態としますので、履修希望者は必ず期間内に受講するようにしてください。

【Outline (in English)】

In this course, Western paintings will be mainly discussed, along with sculptures and decorative arts, in order to learn about the Western art history since the Renaissance, and the establishment of the art museums in the Western society. Students will learn about how art has contributed to the society.

The goal of the course is following:

1) Acquiring the knowledge on Western paintings, sculptures and decorative arts since the Renaissance, and the skill of viewing from various perspectives.

2) Acquiring the knowledge on the Western art history since the Renaissance, and understanding the background of the paintings of respective eras.

3) Acquiring the knowledge on the establishment of the art museums in the Western society, and learning about how art has contributed to the society.

The lecture will be conducted online using the slides including the picture of art works. A simple report will be requested every class for checking your understanding on the theme. Also, you can add a question about the lecture. You can get some feedbacks for the report and questions on the next class. In addition to weekly reports, a term paper is requested.

No textbooks are designated. References for art works would be given in the lecture.

Although no preparation is requested, viewing art works is recommended for more fruitful experience. I expect you of spending two hours per week for the lecture, and for example, spending one hour for weekly reports and a term paper, and one hour for viewing art works.

Your grade in this course is to be evaluated based on the following basis.

Weekly report: 50 %

Term paper: 50 %

Note that the term paper is mandatory, but not enough, to get the pass-mark.

The first class is guidance and introduction for the course. I expect you to view it if you seriously consider taking the course.

ART100LA (芸術学 / Art studies 100)

芸術B

2017年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治・大正・昭和初期の日本における西洋美術の受容について、作家の視点と観衆の視点から学びます。また、日本の近代美術館の成立過程や歴史、現代の美術館の機能や役割について学びます。

【到達目標】

- 1) 江戸期から大正期の作家たちが西洋美術技法をどう取り入れたかを学ぶ。
- 2) 明治期から昭和初期にかけて、西洋美術作品がどう展覧されたかを学ぶ。
- 3) 美術館の機能と役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第2回	伝統的な日本の絵画	伝統的な日本の絵画について江戸時代を中心に、代表的な作家と作品を取り上げる。
第3回	洋風画から洋画へ	江戸時代における洋風画の流行に関して、作品を取り上げつつ概説する。
第4回	明治・大正期の日本の洋画	明治・大正期の洋画について、その成立過程と作品について解説する。
第5回	明治・大正期の日本画	明治・大正期の日本画について、その代表的な画家と作品を取り上げ、その変遷を概説する。
第6回	日本の近代彫刻	ロダン彫刻の受容を中心に、明治・大正期の日本における彫刻を取り上げる。
第7回	西洋美術品の流入	大正から昭和にかけて西洋美術品の輸入を試みた活動をいくつか取り上げて解説する。
第8回	黎明期の日本の美術館	日本における美術館制度の成立過程を、展覧会および美術館設立運動を中心に解説する。
第9回	美術館の役割（概説・保存修復）	美術館の役割について概説し、その1つである保存修復に関して、具体例を挙げて解説する。
第10回	美術館の役割（調査研究・教育普及）	調査研究、教育普及について、活動の例をあげて解説する。

第11回	美術館の役割（展示・収集①）	美術館の役割について、展示、収集の観点から、実際の活動について扱う。
第12回	美術館の役割（展示・収集②）	美術館の役割について、展示、収集の観点から、実際の活動について扱う。
第13回	美術館の外の美術	パブリックアート、アートプロジェクトなどの、美術館の外での芸術活動を取り上げる。
第14回	まとめ	授業を通しての総括を行う。また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内レポートとは別に、学期中に授業に関するレポートを課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。そのうち半分程度を授業に関するレポートおよび期末レポート、残りを授業外での作品鑑賞や教養の涵養などにあてることが想定されています。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に必要があれば紹介します。準備の必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業レポート）：50%

期末レポート：50%

期末レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。ただし、成績は平常点と期末レポートの双方を加味して評価するため、期末レポートを提出しても必ずしも単位が取得できるわけではないことに注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートを受けて、内容の見直し、資料の内容改訂を行っていきます。

【その他の重要事項】

第1回の授業で、ガイダンスと概要説明を実施します。オンデマンドで視聴可能な状態としますので、履修希望者は必ず期間内に受講するようにしてください。

本授業では、ゲストをお招きする授業が予定されています。そのため、都合により、内容が前後する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this course, how the Western art was introduced in Japan during the Meiji/Taisho/Showa era will be discussed from the artists' and people's point of view. The origin and history of art museums in Japan, and also the function and role of art museums today will be discussed.

The goal of the course is following:

- 1) Acquiring the knowledge how the Western art was introduced to the artists in Japan during the Edo/Meiji/Taisho/Showa era (1600s - early 1900s).
- 2) Acquiring the knowledge how the Western art was exhibited to the public during the Meiji/Taisho/Showa era (1860s - 1930s).
- 3) Acquiring the knowledge on the functions of art museum.

The lecture will be conducted online using the slides including the picture of art works. A simple report will be requested every class for checking your understanding on the theme. Also, you can add a question about the lecture. You can get some feedbacks for the report and questions on the next class. In addition to weekly reports, a term paper is requested.

No textbooks are designated. References for art works would be given in the lecture.

Although no preparation is requested, viewing art works is recommended for more fruitful experience. I expect you of spending two hours per week for the lecture, and for example, spending one hour for weekly reports and a term paper, and one hour for viewing art works.

Your grade in this course is to be evaluated based on the following basis.

Weekly report: 50%

Term paper: 50 %

Note that the term paper is mandatory, but not enough, to get the pass-mark.

The first class is guidance and introduction for the course. I expect you to view it if you seriously consider taking the course.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

日本文学と文化 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：絵画化された『源氏物語』

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

絵巻の鑑賞方法等について解説した後、院政期に作られたとされる国宝『源氏物語絵巻』について講義します。

種々の源氏絵、また現代のマンガ等とも比較しながら、『源氏物語』がどのように解釈され、絵画化されてきたかを考察します。『源氏物語絵巻』を学ぶことを通し、日本の古典文学や美術に関する理解を深めます。

【到達目標】

- ①絵巻に関する基礎的な知識を習得する。
- ②『国宝 源氏物語絵巻』の特質を理解する。
- ③平安時代の人々が『源氏物語』をどのように解釈し、イメージしたかについて理解する。
- ④現代に至るまで、『源氏物語』がどのように絵画化されてきたか、源氏絵の様相を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義します。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

現代語訳を記載したプリントを用いる等、古典文学の読解が苦手な人に配慮しつつ、授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要
第2回	絵巻とは(1)	絵巻の歴史について
第3回	絵巻とは(2)	絵巻に見られる技法、絵巻の鑑賞方法について
第4回	『源氏物語絵巻』(1)	『源氏物語絵巻』概説
第5回	『源氏物語』第一部概説	『源氏物語』第一部の解説
第6回	『源氏物語絵巻』(2)	『源氏物語絵巻』蓬生巻について
第7回	『源氏物語』第二部概説	『源氏物語』第二部の解説およびあらすじ
第8回	『源氏物語絵巻』(3)	『源氏物語絵巻』柏木巻（一）について
第9回	『源氏物語絵巻』(4)	『源氏物語絵巻』柏木巻（三）について
第10回	『源氏物語絵巻』(5)	『源氏物語絵巻』横笛巻について
第11回	『源氏物語絵巻』(6)	『源氏物語絵巻』鈴虫巻（二）について
第12回	『源氏物語絵巻』(7)	『源氏物語絵巻』御法巻について
第13回	『源氏物語絵巻』(8)	『源氏物語絵巻』の制作・伝来について
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70％）、平常点（30％）によって評価します。レポートは【到達目標】①～④に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を継続します。学習支援システムにアップロードされた質問やコメントは、次週の講義でできる限り紹介・回答し、疑問点を残さないようにしていきます。

【Outline (in English)】

This course deals with *The Tale of Genji illustrated Scrolls*(源氏物語絵巻, designated a National Treasure) and the other works(including Manga) painted *The Tale of Genji*.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature and art.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

日本文学と文化 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：説話のメディア展開

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、小説がテレビドラマ化・映画化されたり、漫画がアニメ化・ゲーム化・ミュージカル化されたり等、1つのコンテンツが複数のメディアに展開されるメディアミックスの事例が多く見られますが、実は古典文学の世界においても、類似の現象を見て取ることができます。

そうした例として、当授業では安珍・清姫伝説として知られる、道成寺にまつわる説話をとりあげ、講義します。

この説話が、絵巻や、能・歌舞伎といった伝統芸能など、複数のメディアにどのように展開されていったのか、そして人々にどのように享受されたのかについて学び、日本の古典文学や古典芸能に関する理解を深めていきます。

【到達目標】

- ①説話文学の特質について理解する。
- ②絵巻に関する基礎的な知識を習得する。
- ③能、歌舞伎など古典芸能に関する基礎的な知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義します。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。現代語訳を記載したプリントを用いる等、古典文学の読解が苦手な人に配慮しつつ、授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要
第2回	説話について	説話文学に関する解説
第3回	道成寺にまつわる説話	説話集に収められた道成寺説話
第4回	絵巻について	絵巻の鑑賞方法に関する解説
第5回	道成寺縁起絵巻(1)	『道成寺縁起絵巻』鑑賞
第6回	道成寺縁起絵巻(2)	『道成寺縁起絵巻』解説
第7回	道成寺縁起絵巻(3)	熊野信仰について
第8回	道成寺縁起絵巻(4)	『道成寺縁起絵巻』の異本について
第9回	能について	能の歴史・鑑賞の仕方に関する解説
第10回	能『道成寺』(1)	能『道成寺』を読む
第11回	能『道成寺』(2)	能『道成寺』解説
第12回	能『道成寺』(3)	能『道成寺』鑑賞
第13回	道成寺物について	日本伝統芸能における「道成寺」の解説
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末締切のレポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

授業に関する質問やコメントは、次以降の講義でできる限り紹介・回答し、疑問点を残さないようにしていきます。

また、できるだけ動画等視聴覚資料を用い、伝統芸能のおもしろさを学んでもらうようにします。

【Outline (in English)】

This course deals with the picture scrolls *Dojoji Engi* and the Noh program *Dojoji*.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature and art and performing arts.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

日本文学と文化 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：

中司 由起子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて日本では「変体仮名・くずし字」という文字が使われていました。本講義では変体仮名・くずし字を正確に読み取る力を習得することを目的とします。変体仮名・くずし字は日本文学や文化を深く理解するうえで欠かせないものです。変体仮名・くずし字がわかると、古典文学のみならず近代の作家たちの手書き原稿や手紙を読んだり、史料・古文書を解読でき、作品が成立した時代や楽しまれた時代へ直接アクセスできます。初めて学ぶ学生が多いと思われますが、基礎からていねいに解説していきます。

【到達目標】

- ① 変体仮名・くずし字を正確に読むことができる。
- ② 変体仮名・くずし字で書かれた内容を解釈できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の講義では、講師による解説の後に問題を解き、答え合わせをします。これを繰り返すことで、変体仮名・くずし字を覚えていきます。毎回、宿題に取り組み、次の講義時に答え合わせをしてフィードバックをおこないます。

教材にする作品は、できるだけ皆さんが知っているようなものを取りあげます。

小テスト・中間テスト・期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	変体仮名・くずし字を学ぶ意義や、変体仮名と字母の関係など、基本的な解説を学びます。
2	百人一首①	有名な和歌を教材に変体仮名を読みます。
3	百人一首②	有名な和歌を教材に変体仮名を読みます。
4	小学校唱歌	明治時代の教科書を教材に変体仮名を読みます。
5	小テスト・江戸時代の作品	小テストをします。江戸時代に出版された作品を教材に変体仮名を読みます。
6	御伽草子①	『浦島太郎』を読みます。
7	御伽草子②	『一寸法師』を読みます。
8	仮名草子	『伊曾保物語』を読みます。
9	『平家物語』	『平家物語』の有名な場面を読みます。
10	中間テスト・江戸時代の作品	中間テストをします。江戸時代に出版された作品を教材に変体仮名を読みます。
11	『枕草子』	『枕草子』の有名な章段を読みます。

12	『徒然草』	『徒然草』の有名な章段を読みます。
13	『源氏物語』	『源氏物語』の有名な場面を読みます。
14	まとめ・期末テスト	これまでの内容をまとめ、習得度をはかる期末テストをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【準備】 次回講義で扱う問題を解きます。

【復習】 毎回の講義内で示される宿題を解きます。

展覧会などに足を運び、くずし字で書かれた展示品や史料などを鑑賞し、読み解いてみてください。

【テキスト（教科書）】

伊地知鐵男編『増補改訂 仮名変体集』新典社、385円。このテキストは変体仮名を解読するための手引きとなります。必ず用意してください。
教材は講義時に資料を配布します。

【参考書】

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』近藤出版社、1981年（図書館の参考図書にあります）
そのほか、講義時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題への取り組み 10%

小テスト 10%

中間テスト 30%

期末テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度はできるだけシラバスに沿う予定ですが、受講者の習得度に合わせて教材にとりあげる作品を変更する場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with Hentaigana(anomalous cursive syllabary), Kuzushi-ji(character written in a cursive style). It enhances the development of students' skill in reading of Hentaigana and Kuzushi-ji.

【Learning Objectives】

The goals of this course is to reading Hentaigana, Kuzushi-ji accurately.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Preparation: Solve the problems to be covered in the next lecture.

Review: Students will solve the problems given in each lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Work on assignments 10%.

Short test 10%.

Midterm test 30%.

Final test 50%.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

日本文学と文化 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：

中司 由起子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて日本では「変体仮名・くずし字」という文字が使われていました。本講義では変体仮名・くずし字を正確に読み取る力を習得することを目的とします。変体仮名・くずし字は日本文学や文化を深く理解するうえで欠かせないものです。変体仮名・くずし字がわかると、古典文学のみならず近代の作家たちの手書き原稿や手紙を読んだり、史料・古文書を解読でき、作品が成立した時代や楽しめた時代へ直接アクセスできます。初めて学ぶ学生が多いと思われるが、基礎からていねいに解説していきます。

【到達目標】

- ① 変体仮名・くずし字を正確に読むことができる。
- ② 変体仮名・くずし字で書かれた内容を解釈できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の講義では、講師による解説の後に問題を解き、答え合わせをします。これを繰り返すことで、変体仮名・くずし字を覚えていきます。毎回、宿題に取り組み、次の講義時に答え合わせをしてフィードバックをおこないます。教材にする作品は、できるだけ皆さんが知っているようなものを取りあげます。

小テスト・中間テスト・期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	変体仮名・くずし字を学ぶ意義や、変体仮名と字母の関係など基本的な事項を学びます。
2	百人一首①	有名な和歌を教材にして変体仮名を読みます。
3	百人一首②	和歌とその解説を教材にして変体仮名を読みます。
4	小学校唱歌	明治時代の教科書を教材に変体仮名を読みます。
5	小テスト・江戸時代の作品	小テストをします。江戸時代に出版された作品を教材に変体仮名を読みます。
6	御伽草子①	『浦島太郎』を読みます。
7	御伽草子②	『一寸法師』を読みます。
8	仮名草子	『伊曾保物語』を読みます。
9	『平家物語』	『平家物語』の有名な場面を読みます。
10	中間テスト・江戸時代の作品	中間テストをします。江戸時代に出版された作品を教材に変体仮名を読みます。
11	『枕草子』	『枕草子』の有名な章段を読みます。

12	『徒然草』	『徒然草』の有名な章段を読みます。
13	『源氏物語』	『源氏物語』の有名な場面を読みます。
14	まとめ・期末テスト	これまでの内容を振り返り、習得度をはかる期末テストをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【準備】 次回講義で扱う問題を解きます。

【復習】 毎回の講義内で示される宿題を解きます。

展覧会などに足を運び、くずし字で書かれた展示品や史料などを鑑賞し、読み解いてみてください。

【テキスト（教科書）】

伊地知鐵男編『増補改訂 仮名変体集』新典社、385円。本テキストは、変体仮名を解読するための手引きとなります。必ず用意してください。

問題は、講義時に紙の資料を配布します。

【参考書】

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』近藤出版社、1981年（図書館の参考図書にあります）
そのほか、講義時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題への取り組み 10パーセント

小テスト 10パーセント

中間テスト 30パーセント

期末テスト 50パーセント

【学生の意見等からの気づき】

本年度はできるだけシラバスに沿う予定ですが、受講者の習得度に合わせて取り上げる作品を変更する場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with Hentaigana(anomalous cursive syllabary), Kuzushi-ji(character written in a cursive style). It enhances the development of students' skill in reading of Hentaigana and Kuzushi-ji.

【Learning Objectives】

The goals of this course is to reading Hentaigana, Kuzushi-ji accurately.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Preparation: Solve the problems to be covered in the next lecture.

Review: Students will solve the problems given in each lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Work on assignments 10%.

Short test 10%.

Midterm test 30%.

Final test 50%.

LIT200LA（文学 / Literature 200）

日本文学と文化LG

2017年度以降入学者

サブタイトル：宮崎駿の文学世界

榎本 正樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アニメーションは、日本が誇るコンテンツであり文化遺産です。アニメーション制作の現場からは数多くのクリエイターが生みだされましたが、その中でも宮崎駿の存在は突出しています。アニメーションを普段観ない人でも、宮崎作品を人生のどこかで必ず観ているはずで、日本だけでなく、世界中に多くのファンを持ち、国内外の重要な賞を数多く受賞しています。宮崎作品の広がり、たとえば『千と千尋の神隠し』の舞台化（2022年に世界初演、2024年にはロンドン公演、2025年には上海公演予定）や、ビリー・アイリッシュが『千と千尋の神隠し』にインスパイアされて制作した楽曲"CHIHIO"（2024年）などに見てとることができます。

宮崎監督がアニメーションの世界に入ったのは、1960年代です。アニメーターとして研鑽を積みながら、原画や脚本や画面構成を担当する中で、NHKのテレビアニメ『未来少年コナン』（1978年）で初めて監督として仕事をします。本授業では、『未来少年コナン』に始まる宮崎駿の全監督作品について、作品分析を試みながら、宮崎監督がそれぞれの作品で何をテーマにどのような世界を描こうとしたのか検証するとともに、宮崎監督の思想の深まりに注目していきたいと思います。

誰もが日常的に親しんできた宮崎監督のアニメーション作品を、いま一度新たな視点で読み直してみることで、これまで気づけなかった問題系や、登場人物の相関関係、ストーリーの奥深さ、物語上のたくらみ、そして宮崎作品の根底にある文学性に気づくことになるはずです。宮崎監督の全作品を辿る旅を通して、皆さんと一緒に宮崎監督とその作品の新たなイメージに到達したいと考えています。

【到達目標】

映像作品であるアニメーションをシーンやカットごとに解説する技術を身につけ、アニメ固有の表現方法やギミックや物語構造などについて、自分の力で読み解き、考察し、論述できる力の獲得を目指します。関連資料を参照し、他者の意見や論考に目を通し、作品の背景にある文化的、社会的、民俗的、歴史的、地理的背景について深く学び、作品を客観的に論じる力を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はプレゼンテーション（資料提示）と講義を併せた形で行います。宮崎監督作品を初期から最新作まで重要なシーンを観賞しながら、解説と分析を加えていきます。アニメーションで重要なのは、シーンを構成する一つひとつの短いカットです。カットは継的な物語を構成する最小の「部品」ですが、同時にクリエイターの「世界そのものへの純粋な視線」が投影されています。

その意味で、作品の基礎であり設計図ともいえる絵コンテの存在が大きくなるでしょう。絵コンテを出発点に最終的な作品に仕上がるまでには、多くの制作プロセスがあります。アニメーションの制作現場でどのようなことが行われているのか、そうしたことにも言及していきたいと思います。さらに宮崎監督自身の言葉、関連資料の紹介、他の論者の考察など、作品をめぐる多様な言説を紹介する機会も設けます。

授業内容に関する一般的な質問は、メール（eno@mar.email.ne.jp）で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	宮崎駿、その人と作品について
2	『未来少年コナン』	理想郷を求めてさまよう人々
3	『ルパン三世 カリオ ストロの城』	「城」のイメージに潜む権力性
4	『風の谷のナウシカ』	終末世界に重ねられる神話世界
5	『天空の城ラピュタ』	少年少女のイメージの継承と発展
6	『となりのトトロ』	「他者」との出会いの意味
7	『魔女の宅急便』	少女と猫のいる風景
8	『紅の豚』	「世情」に抗う決意と行動
9	『もののけ姫』	神と人が交錯する群像劇
10	『千と千尋の神隠し』	行きて帰らし物語」に宿る力
11	『ハウルの動く城』	魔法世界の造形
12	『崖の上のポニョ』	異種交流譚としての読み解き
13	『風立ちぬ』	戦争を描くということ
14	『君たちはどう生きるか』	宮崎作品の集大成をどう読むか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宮崎監督作品のほとんどは鑑賞済みと思いますが、もし未鑑賞のものがある場合は、時間がある時に観ておくようにしてください。その際、ただ受動的に消費するのではなく、作品について自分の頭で積極的に考え、客観的に書いたり話したりする習慣をつけましょう。授業で取りあげる映像作品を鑑賞する中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を適宜行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書は膨大に存在するので、授業時その都度紹介します。大学の図書館などを利用して、各自参考資料を手に入れるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100％）。

試験や小テストはありません。

レポートのテーマは、「授業で取りあげた宮崎駿監督作品の中から、一作品または複数の作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

これまで宮崎作品に触れる機会が少なかった学生にも、理解しやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

アニメーションや現代日本文学、同時代の表現に関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト（<http://enmt.jp>）で確認できます。X（@enmt）での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Animation is Japan's proud source of content and cultural heritage. Numerous creators have emerged from the field of animation production, but Hayao Miyazaki stands out among them. Even those who do not usually watch animation must have seen Miyazaki's works at some point in their lives. He has many fans not only in Japan but also around the world, and has received many important national and international awards.

In this class, we will attempt to analyze all of Hayao Miyazaki's works, while examining what themes and what kind of world he tried to depict in each of his films, as well as focusing on the depth of his philosophy.

【Learning Objectives】

The goal of this course is for students to acquire the skills to analytically decipher Hayao Miyazaki's animations as a visual works, scene by scene, and to be able to discuss in their own words the unique expression methods and narrative structure of animation.

【Learning activities outside of classroom】

When watching animations, develop the habit of objectively writing and talking about the details of the story in your own words, rather than just passively watching the animation films. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grade will be based on reports 100%.

There will be no examinations.

The theme of the report is "Select one or more of Miyazaki's works discussed in class and wrapping up the report". Based on the content of the class, develop your own argument in your own words about the work you have chosen, based on the theme you have set for yourself.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

日本文学と文化LH

2017年度以降入学者

サブタイトル：現代日本文学と映像表現

榎本 正樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文学を原作として映画化された作品の一部を解説を加えながら観賞しつつ、原作小説を講読していきます。2024年に劇場公開された以下の12作品の中から6～7作品を選んで取りあげます。小説（文学表現）と映画（映像表現）を比較対照し、分析を行うことで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現方法について考えを深めるとともに、「文学固有の表現とは何か？」という視点から小説を深く読む力の獲得を目指します。

＊

瀬尾まいこ『夜明けのすべて』（三宅唱監督）

町田そのこ『52ヘルツのクジラたち』（成島出監督）

川村元気『四月になれば彼女は』（山田智和監督）

高山一実『トラベジウム』（篠原正寛監督）

嶽本野ばら『ハピネス』（篠原哲雄監督）

村上春樹『めくらやなぎと眠る女』（ピエール・フォルデス監督）

安部公房『箱男』（石井岳龍監督）

吉田修一『愛に乱暴』（森ガキ侑大監督）

辻村深月『傲慢と善良』（萩原健太郎監督）

山田風太郎『八犬伝』（曾利文彦監督）

平野啓一郎『本心』（石井裕也監督）

染井為人『正体』（藤井道人監督）

＊作品の配列は劇場公開順です。

【到達目標】

現代日本文学を代表する多様なジャンル（純文学、エンターテインメント、社会小説、ミステリ、時代小説、児童文学）の小説を読む経験を重ねることで、複雑な言語構成体としてのテキストから様々な要素を抽出し、整理し、分析し、自分の言葉で批評的なアウトプットができるようになります。

加えて、個人、社会、性、生、死、ジェンダー、家族、事件、歴史などの諸問題について思考する力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式をとります。原作小説を講読し、作品分析を行った後、映画の一部を解説を加えながら観賞します。同一の物語内容を含む言語メディアである小説と映像メディアである映画を比較検証することによって、情報提示、叙述、人物設定、構成など、表現上の相違点を明らかにしていきます。

履修者には、現代日本文学の多様な表現世界や作品固有の表現に触れ、それぞれの作品について深く思考し、自分の考えをまとめ、批評的な言葉でアウトプットする力が求められます。

小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業は進めていきます。

授業内容に関する一般的な質問は、メール（eno@mar.email.ne.jp）で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス授業
2	原作小説の講読(1)	原作小説の講読・分析・考察
3	映画観賞と解説(1)	原作の映画鑑賞と解説・考察
4	原作小説の講読(2)	原作小説の講読・分析・考察
5	映画観賞と解説(2)	原作の映画鑑賞と解説・考察
6	原作小説の講読(3)	原作小説の講読・分析・考察
7	映画観賞と解説(3)	原作の映画鑑賞と解説・考察
8	原作小説の講読(4)	原作小説の講読・分析・考察
9	映画観賞と解説(4)	原作の映画鑑賞と解説・考察
10	原作小説の講読(5)	原作小説の講読・分析・考察
11	映画観賞と解説(5)	原作の映画鑑賞と解説・考察
12	原作小説の講読(6)	原作小説の講読・分析・考察
13	映画観賞と解説(6)	原作の映画鑑賞と解説・考察
14	秋学期授業のまとめ	秋学期授業のまとめと、レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に原作小説を読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、物語内容や人物関係を把握したい人は、小説を読んだ上で授業に臨んでください。授業で取りあげた小説や映像作品は、授業外に読み直し観賞し直し、作品の理解を深めるよう努めてください。レポート提出のための事前準備として、自分がレポートの対象として選んだ作品を精読した上で、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を適宜行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で扱う予定の以下の文庫本。すべての本を入手する必要はありません。

- ・瀬尾まいこ『夜明けのすべて』（文春文庫）
- ・町田そのこ『52ヘルツのクジラたち』（中公文庫）
- ・川村元気『四月になれば彼女は』（文春文庫）
- ・高山一実『トラベジウム』（角川文庫）
- ・嶽本野ばら『ハピネス』（小学館文庫）
- ・村上春樹『蜩・納屋を焼く・その他の短編』（新潮文庫）
- ・安部公房『箱男』（新潮文庫）
- ・吉田修一『愛に乱暴』（新潮文庫）
- ・辻村深月『傲慢と善良』（朝日文庫）
- ・山田風太郎『八犬伝』（角川文庫）
- ・平野啓一郎『本心』（文春文庫）
- ・染井為人『正体』（光文社文庫）

【参考書】

必要な資料はプリントで配付します。

参考書・参考文献は、教室で指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100％）。

試験や小テストはありません。

レポートのテーマは、「授業でとりあげた小説の中から一作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ小説について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で「論」を展開してください。

分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを見て採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

現代日本文学になじみのない学生にもわかりやすい言葉で、解説と考察を行うよう心がけます。

【その他の重要事項】

現代日本文学のみならず、映像メディアに関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト（<http://enmt.jp>）で確認できます。X（@enmt）での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We read the original novel after having watched movie works that filmed as "Contemporary Japanese literature". I select from the following 6 or 7 works in 2024.

We compare movie expression with the literature expression including the same story contents, we are analyzing peculiar expressin words and movies.

【Learning Objectives】

We will read through the original novels after watching films based on contemporary Japanese literature. We plan to highlight the following 6 or 7 titles after carefully selecting from the works released in 2024.

By comparing and analyzing literary expressions and visual expressions of the same story events, we will deepen our thoughts about specific expressions and techniques of the book and film media. Our aim to acquire the ability to read novels from the perspective of what is literature-specific expression.

【Learning activities outside of classroom】

Although the class will be conducted in a manner that can be understood without having read the original novel beforehand, it is best to read the novel in order to grasp the content of the story and the relationships between the characters.

Students are encouraged to re-read and re-watch the novels and films discussed in class outside of class to deepen their understanding of the works. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grade will be based on reports 100%.

There will be no examinations.

The theme of the report is "Select one of the novels discussed in class and wrapping up the report". Based on the content of the class, develop a "theory" in your own words about the novel you have chosen, based on the theme you have set for yourself.

LIT200LA（文学 / Literature 200）	
外国文学と文化 L A	2017年度以降入学者
サブタイトル：西洋文学と音楽	
鈴木 正道	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水4/Wed.4	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】	
この授業は、西洋の文学、特に音楽とかかわりの深い作品を扱います。音声や文字という記号の表現である文学と、直接感性に訴える音の連なりである音楽は、元来切っても切れない関係にあります。「詩」は「うたふ」ものであり、かつて物語は韻律をとめない楽器にのせて語られました。春学期では、ミュージカルの名作として愛され続けている『レ・ミゼラブル』を、原作を参照しつつ分析します。さらに最も人気の高いオペラの一つである『カルメン』を扱います。次にシェークスピアの名高い『ロミオとジュリエット』を取り上げます。この作品は様々な作曲家により音楽化されています。さらにこの現代への翻案として創られたミュージカル『ウエストサイド物語』を扱います。	
【到達目標】	
芸術作品を観賞しつつ、批評、分析し、それを表現する手法を学びます。「文学」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、さまざまな知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けることは大切でしょう。この授業を履修することで、出版、メディア、教育などの分野で働くうえで必要な基礎的な知識と表現力や探求力を身につけることができます。	
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】	
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1	
【授業の進め方と方法】	
教材や資料は学習支援システムに載せます。まずは19世紀中ごろにユゴーによって書かれた『レ・ミゼラブル』を概観したうえで、ミュージカルやテレビドラマ版を鑑賞し、分析します。次にほぼ同時期にメリメによって書かれた小説をもとに創られたオペラ『カルメン』を扱います。さらに16世紀末にシェイクスピアによって書かれた『ロミオとジュリエット』を概観し、鍵となる場面を詳しく検討します。そのうえで音楽家によるさまざまな作品を鑑賞し、分析します。さらに『ロミオとジュリエット』の現代への翻案として創られたミュージカル『ウエストサイド物語』の映画版（1961年）を、『ロミオとジュリエット』とのかかわりを含めて鑑賞し、分析します。2021年にスビルバーグ監督による映画が公開されました。この授業では主に1961年の映画版に沿いながら、2021年版もところどころ参照します。時代も背景も異なる状況で書かれた物語にも、シェイクスピアの名高い作品の扱う普遍的なテーマが生きていることを見ます。各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムを通して出させていただきます。やはり学習支援システムによりお返しします。	
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】	
なし /No	
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】	
なし /No	

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『レ・ミゼラブル』1 そもそもこれはどの ような作品か	ヴィクトル・ユーゴー：ロマン主義運動の総帥 小説『レ・ミゼラブル』
2	『レ・ミゼラブル』2 ぶつかる二人の主要 人物	ミュージカル： ジャン・ヴァルジャン とジャヴエール
3	『レ・ミゼラブル』3 ハッピーエンドの カップルと二人の 「もう一人」	コゼットとマリウス エポニヌという存在 ジャン・ヴァルジャンという存在
4	『レ・ミゼラブル』4 フランス語版のドラ マ	フランスのテレビ局製作：ジェラルール・ドパルデュー主演
5	『カルメン』1 小説とオペラ	原作は中編小説。書いたのはフランスの役人。 オペラを作曲したのはフランス人ビゼー。 序曲と冒頭 「ハバナラ」 「ミカエラの歌」 Femme fatale（運命の／致命的な女） VS 清純派
6	『カルメン』2 フランスにとっての、 スペインという「お 隣の」異郷	「アルカラの竜騎兵」：ロマの踊りが旺巻 歌手も踊る（というよりも踊れない歌手はお呼びでない）： 「鈴を打ち鳴らす」
7	『カルメン』3 闘牛場の外で	「闘牛士の歌」 「行進曲」 最終場面：中の祝祭と外の破局
8	『ロミオとジュリエット』1 誰もが聞いたことはあるあの作家、あの作品、 誰もが見たことのあるあの場面	ウィリアム・シェイクスピアの戯曲：元ネタと著作権という考え方 映画版：ゼフィレリ監督 1968年 冒頭とバルコニーの場面
9	『ロミオとジュリエット』2 どう描くか、演出による違い	決闘の場面 最終場面 ゼフィレリ版とルールマン版（1966年）
10	『ロミオとジュリエット』3 バレエ：セリフがないシェイクスピア演劇	セルゲイ・プロコフィエフのバレエ音楽 冒頭 「騎士たちの踊り」 （シンセサイザーなどによるELP版） 決闘の場面／最終場面
11	『ロミオとジュリエット』4 原作と最後が大きく違うオペラ	シャルル・グノーのオペラ：冒頭とバルコニーの場面 決闘の場面 最終場面
12	『ウエストサイド物語』1 誰もが見たことのあるあの振り付け	現代への翻案 『ロミオとジュリエット』との比較： 登場人物と設定の共通点と違い ジャズの表現：裏拍； 冒頭場面 "Tonight" "America"（The Niceによる編曲）
13	『ウエストサイド物語』2 移民グループの対立	悪魔の？ 魅惑の？ 減5度（増4度） 決闘場面 "Cool"

- 14 『ウエストサイド 最終場面
物語』3 永遠のテーマ
どこが、そしてなぜ
「原作」と異なるのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱われる作品の原作をあらかじめ読んでおいて下さい。さらにAVライブラリなどで借りて映像作品をみておくといいかと思います。またインターネットで視聴できるものは私のほうからも紹介しますが、皆さんも独自にいろいろ探してみてください。

1-4:原作の小説『レ・ミゼラブル』を読む。主要登場人物についてまとめる。映画版やドラマ版を選んで視聴する。

5-7：原作の小説『カルメン』を読む。オペラ版を選んで視聴する。

8-11：原作の演劇『ロミオとジュリエット』を読む。映画版やバレエ版を選んで視聴する。

12-14：映画版を視聴する。舞台版を選んで視聴する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。資料、教材を学習支援システムでお配りします。

【参考書】

【参考書/References】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書1603.

『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書C164

『悪文の構造』千早耿一郎 ちくま学芸文庫 C0180

『著作権とは何か』福井建策、集英社新書0924A

他にも随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムを通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

課題の趣旨が伝わりにくいことがあったようです。わかりやすく示すようにします。

【その他の重要事項】

教室の定員を超える受講希望者があった場合には抽選を行いますので「お知らせ」等をよく確認してください。

【Outline (in English)】

This course deals with occidental literature, especially works adapted for music. Literature, which expresses its objects by signs, and music, which appeals to sentiments by way of sequences of sounds, are closely related to each other. Stories were, in effect, once sung accompanied by musical instruments. The works dealt with in this class during the spring term will be:

"Les Misérables" (musical), "Carmen"(opera), "Romeo and Juliet" (movie, ballet and opera), "West Side Story" (musical).

Through this course students are expected to get knowledge to appreciate analytically and critically literary and musical works.

Students should read beforehand relevant works. They need also to submit an assignment after having studied each work. They must spend in total four hours for these tasks.

Final grade will be calculated according to the total score of their assignments (100%).

LIT200LA（文学 / Literature 200）

外国文学と文化 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：西洋文学と音楽

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続いて、西洋の文学、特に音楽とかかわりの深い作品を扱います。モーツァルトとサリエリのライヴァル関係を描いた演劇および映画『アマデウス』を軸に、モーツァルトの『フィガロの結婚』、『ドン・ジョヴァンニ』、サリエリの『タラール』といったオペラ、モリエールの『ドン・ジュアン』、ボーマルシェの『フィガロの結婚』などの戯曲を分析します。その次に、ミュージカルとして人気を博しているルルー原作の『オペラ座の怪人』を扱います。

【到達目標】

芸術作品を観賞しつつ、批評、分析し、それを表現する手法を学びます。
「文学」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、さまざまな知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら採り当てる習慣を身に着けることは大切でしょう。
この授業を履修することで、出版、メディア、教育などの分野で働くうえで必要な基礎的な知識と表現力や探求力を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教材や資料は学習支援システムに載せます。
秋学期には、イギリスの劇作家ピーター・シェファールの『アマデウス』（1979年）を軸に、その中に登場するヨーロッパの17世紀から18世紀の音楽作品、またそれにちなむ文学作品を扱います。『アマデウス』は1984年に作者自身が脚色して映画化されて多くの人々に評価されたので、知っている方も多いことでしょう。まず、この作品の概要を見渡し、それからこの作品の中に登場する音楽、その原作となった文学作品を概観し、分析します。分析の方法論も学びます。次に扱う『オペラ座の怪人』は20世紀の初めにフランスのミステリー作家ガストン・ルルーによって発表された小説作品ですが、英語によるミュージカルで今では人気を博しています。美と醜、歴史的な建物に潜む謎など、ある意味では定番の数々のテーマを分析します。
各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムを通して出させていただきます。やはり学習支援システムによりお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『アマデウス』とは	演劇と映画；「神に愛されたる者」の物語
2	『アマデウス』 衝撃の出会い	モーツァルトとサリエリのライヴァル関係

3	『フィガロの結婚』1 原作者はどんな人か オペラへの翻案	ボーマルシェの戯曲：政治的な意味合い ダ・ボンテの台本とモーツァルトのオペラ：序曲と冒頭
4	『フィガロの結婚』2 ケルビーノというトリックスター	「自分で自分がわからない」「もう飛ぶまいぞこの蝶々」 映画『アマデウス』におけるサリエリの行進曲の変奏
5	『フィガロの結婚』3 モーツァルトによる譜面と『アマデウス』版	第2幕の最終場面の7重唱 結婚式の場面 第3幕の山場と急転換 第4幕のどんでん返し 最終場面
6	『タラール』とはどんな作品か	ボーマルシェ自身が台本を書いたサリエリのオペラは当時のお手本オペラ 女たらしの伝説 無神論を支持する誘惑者？ モリエールの演劇：フランス古典主義の時代 冒頭の場面 貧者との対話の場面
7	ドン・ファン伝説 モリエールの『ドン・ジュアン』1 唯物論者にして快楽主義者？	騎士隊長の像 亡霊 晩餐 最終場面
9	オペラ『ドン・ジョヴァンニ』1 グロテスク：おぞましくも滑稽	ダ・ボンテの台本とモーツァルトのオペラ：序曲、「女のリスト」
10	『ドン・ジョヴァンニ』2 超自然現象をどう演出するか	村の娘の誘惑 騎士隊長の像
11	『ドン・ジョヴァンニ』3 再び『アマデウス』 歴史上の謎をどう演出するか	晩餐 最終場面のさまざまな演出： 映画『アマデウス』版とロゼー版 精神分析：科学か20世紀の骨相学か 『アマデウス』の最終場面
12	『オペラ座の怪人』1 これはオペラではない、オペラ劇場を舞台とした作品。	原作者のガストン・ルルーとは？ 小説『オペラ座の怪人』 2004年の映画版ミュージカル
13	『オペラ座の怪人』2 読み手／観客を惹きつける設定	ミュージカル： 人気スターと新進の歌手、 謎と恐怖
14	『オペラ座の怪人』3 捕り物という定番クライマックスと余韻を残す最終場面	ミュージカル： 表の二枚目と裏のヒーロー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱われる作品の原作をあらかじめ読んでおいて下さい。さらにAVライブラリなどで借りて映像作品をみておくといいかと思います。またインターネットで視聴できるものは私のほうからも紹介しますが、皆さんも独自にいろいろ探してみてください。

1-2：原作の演劇を読む。

3-5：原作の演劇を読む。オペラ版を選んで視聴する。

6：サリエリについて調べる。

7-10：ドン・ファンの伝説について調べる。モリエールの『ドン・ジュアン』を読む。オペラ『ドン・ジョヴァンニ』を選んで視聴する。

11：モーツァルトの晩年について調べる。

12-14：原作の小説を読む。映画版、ミュージカル版を選んで視聴する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムを通して資料などを配ります。

【参考書】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書1603.

『論文レポートの文章作法』古郡延治、有斐閣新書C164

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A

『悪文の構造』千早耿一郎 ちくま学芸文庫 C0180

他にも随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムを通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

課題の趣旨が伝わりにくいことがあったようです。わかりやすく示すようにします。

【その他の重要事項】

教室の定員を超える受講希望者があった場合には抽選を行いますので「お知らせ」等をよく確認してください。

【Outline (in English)】

As in the spring semester, this course deals with occidental literature, especially works adapted for music.

The works dealt with during the fall term will be : "The Marriage of Figaro", "Tarare", "Don Giovanni" (opera works presented in Peter Shaffer's "Amadeus", which will be also treated in this course); "Le Fantôme de l'opéra", one of the most popular musicals, based on a mystery written by a French writer, Gaston Leroux.

Through this course students are expected to get knowledge to appreciate analytically and critically literary and musical works.

Students should read beforehand relevant works. They need also to submit an assignment after having studied each work.

They must spend in total four hours for these tasks.

Final grade will be calculated according to the total score of their assignments (100%).

LIT200LA (文学 / Literature 200)

外国文学と文化 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：漢詩を作る

日原 傳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者に漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩（七言絶句）の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して四季の風物を詠じた漢詩（歳時詩）を季節に沿って鑑賞します。

【到達目標】

- ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・近体詩の規則を理解し、それに従って漢詩の実作をする。
- ・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

開講時から五回ほどを使って、漢詩の歴史、さまざまな詩形、漢文のルール、近体詩の規則について説明する。その後は漢詩の実作指導を中心に据える。実作の参考になるように、一回ごとに異なるテーマを設け、毎回数首の漢詩を鑑賞する。日本人の作った漢詩もできるだけ紹介したい。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩と取り組み、各自の思いを表現していったことを知ってほしい。※第1回目から対面授業をする予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢詩の詩形、古体詩と近体詩、歳時詩について、／梅の詩鑑賞	漢詩の歴史、さまざまな詩形、古体詩と近体詩の説明。「歳時詩」「二十四節気」の説明。／林逋「山園小梅」などを鑑賞。
第2回	近体詩の格律①／桜の詩鑑賞	正岡子規「閑子規」を例に作詩法を解説。平仄図式・押韻の説明。二四不同二六対の説明。／藤井竹外「芳野」などを鑑賞。
第3回	近体詩の格律②／春遊の詩鑑賞	反法・粘法の説明。いくつかの禁忌（下三連、孤平、冒韻、同字の重複）について。／杜牧「江南春」などを鑑賞。
第4回	漢文のルール①／晩春の詩鑑賞	和習を避ける。動詞・形容詞・副詞の用法／白居易「三月三十日題慈恩寺」、呉錫麒「送春」などを鑑賞。
第5回	漢文のルール②／ほととぎすの詩鑑賞	前置詞・助動詞の用法。「有」「無」の用法／杜甫「子規」、嵯峨波響「聞鵲」などを鑑賞。

第6回	牡丹・薔薇・石榴の詩鑑賞／実作指導	皮日休「牡丹」、石川丈山「白牡丹」、高駢「山亭夏日」、柏木如亭「石榴」などを鑑賞。／実作（七言一句を作る）
第7回	山行の詩鑑賞／実作指導	王安石「鍾山」、広瀬淡窓「彦山」などを鑑賞。／実作（七言二句を作る）
第8回	梅雨の詩鑑賞／実作指導	趙師秀「約客」、篠崎小竹「梅雨」などを鑑賞。／実作（七言絶句を作る）
第9回	蓮の花の詩鑑賞／実作指導	白居易「池上」、菅茶山「夏日雜詩」などを鑑賞。／実作
第10回	螢・蟬・蠅・蚊の詩鑑賞／実作指導	杜甫「螢火」、北條霞亭「観螢」、蘇軾「溪陰堂」、韓愈「雜詩」などを鑑賞。／実作
第11回	苦熱・避暑・昼寝の詩鑑賞／実作指導	柳宗元「夏昼偶作」、袁枚「銷夏」、野田笛浦「昌平橋納涼」などを鑑賞。／実作
第12回	夏の江村・舟行・滝の詩鑑賞／実作指導	杜甫「江村」、李白「望廬山瀑布」などを鑑賞。／実作
第13回	夕立の詩鑑賞／実作指導	蘇軾「六月二十七日、望湖樓醉書」、大窪詩仏「急雨」などを鑑賞。／実作
第14回	授業の総まとめと期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

漢詩関連の書籍を読み、漢詩に親しむ。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者作成の資料を配布する。

【参考書】

石川忠久『漢詩を作る』（大修館書店）
石川忠久『漢詩の稽古』（大修館書店）
石川忠久監修『漢詩創作のための詩語集』（大修館書店）
鷺野正明『初めての漢詩創作』（白帝社）
鈴木健一編『漢文のルール』（笠間書院）
小川環樹『唐詩概説』（岩波文庫）
前野直彬『唐詩選』全三冊（岩波文庫）
村上哲見『三体詩』全四冊（朝日文庫）
目加田誠『唐詩三百首』全三冊（平凡社）
山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』（角川書店）
猪口篤志『日本漢詩鑑賞辞典』（角川書店）
石川忠久『漢詩鑑賞事典』（講談社学術文庫）
石川忠久『日本人の漢詩 風雅の過去へ』（大修館書店）
石川忠久『漢詩をよむ 春の詩100選』
同 『漢詩をよむ 夏の詩100選』
同 『漢詩をよむ 秋の詩100選』
同 『漢詩をよむ 冬の詩100選』（以上、NHK出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作）50％
期末試験またはそれに代わる最終レポート 50％

【学生の意見等からの気づき】

実作指導の時間を多くとれるように工夫する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write Chinese poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Term-end examination (or Term-end report) : 50%、Short reports : 50%

LIT200LA (文学 / Literature 200)

外国文学と文化 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：『唐詩選画本』を読む

日原 傳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代に日本で刊行された『唐詩選画本』をテキストとして唐詩を読む。『唐詩選画本』は絵と詩の本文、その書き下し文、日本語による解説文によって構成されている。はじめに『唐詩選画本』を含む唐詩のテキストについて概説する。以後は五言絶句から始めて徐々に長い詩に進むかたちで具体的な作品を鑑賞してゆく。「歳時詩」「辺塞詩」「閨怨詩」「唱酬詩」「詠物詩」「詠史詩」といった漢詩のテーマについても折をみて解説を加えるつもりである。なお、『唐詩選画本』の書き下し文、解説文は「変体仮名」で記されているので、変体仮名を読む訓練にもなるであろう。

【到達目標】

- ・中国古典文学の基盤をなす考え方を知るとともに漢詩の読解に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・変体仮名に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。第一回目の授業で、漢詩の歴史、さまざまな詩形、近代詩の規則について概説する。第二回目の授業では「変体仮名」について説明した上で、『唐詩選画本』の具体的な作品を鑑賞する。第三回目以降の授業は作品鑑賞が中心になる。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩をどのように読み解いていたかを具体的に知ってほしい。

※第1回目から対面授業をする予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。

※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢詩の形式について	漢詩の形式の解説。『全唐詩』『唐詩のテキストについて』『唐詩選』『唐詩三百首』『唐詩選画本』等の説明。
第2回	鑑賞（五言絶句）	賀知章「題袁氏別業」
第3回	鑑賞（五言絶句）	駱賓王「易水送別」
第4回	鑑賞（五言絶句）	李白「静夜思」、王維「班婕妤」
第5回	鑑賞（七言絶句）	王勃「蜀中九日」
第6回	鑑賞（七言絶句）	王翰「涼州詞」
第7回	鑑賞（七言絶句）	李白「峨眉山月歌」、王昌齡「閨怨」
第8回	鑑賞（五言律詩）	杜甫「旅夜書懷」
第9回	鑑賞（五言律詩）	張謂「同王徵君洞庭有懷」
第10回	鑑賞（七言律詩）	崔顥「黃鶴樓」
第11回	鑑賞（五言古詩）	李白「子夜吳歌」
第12回	鑑賞（七言古詩）	杜甫「貧交行」
第13回	鑑賞（七言古詩）	劉廷芝「代悲白頭翁」

第14回 授業の総まとめと期 筆記試験、まとめと解説
末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

漢詩関連の書籍を読み、漢詩に親しむ。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者がプリントを用意する。

【参考書】

前野直彬注解『唐詩選』全三冊（岩波文庫）

村上哲見『三体詩』全四冊（朝日文庫）

目加田誠『唐詩三百首』全三冊（平凡社）

山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』（角川書店）

猪口篤志『日本名詩鑑賞辞典』（角川書店）

石川忠久『漢詩鑑賞事典』（講談社学術文庫）

小川環樹『唐詩概説』（岩波文庫）

石川忠久『漢詩をよむ 春の詩100選』

同 『漢詩をよむ 夏の詩100選』

同 『漢詩をよむ 秋の詩100選』

同 『漢詩をよむ 冬の詩100選』（以上、NHK出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・リアクションペーパー）50%

期末試験またはそれに代わる最終レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

変体仮名を読む訓練の時間を多くとれるように工夫する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to appreciate Chinese poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Term-end examination (or Term-end report): 50%, Short reports: 50%

LIT200LA (文学 / Literature 200)

外国文学と文化 L E

2017年度以降入学者

サブタイトル：イタリア・オペラに親しむ (1)

大崎 さやの

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/
intensive・other courses

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

オペラは16世紀末にイタリアで生まれた舞台芸術形式です。本講義では、イタリア・オペラの代表的な作品をとりあげ、さまざまな演出により上演された舞台を映像で鑑賞、オペラという舞台芸術の歴史を学びつつ、現代におけるあり方を考えます。日本では比較的馴染みが薄いオペラですが、特にイタリア・オペラはありふれた内容のものが多く、肩肘張って見るような難しいものでは決してありません。楽しみながらヨーロッパ文化の神髄であるオペラに親しんでいきましょう。

【到達目標】

イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オペラの誕生したルネサンスから18世紀までのオペラを講義形式で扱います。配布PDF・音声ファイルの他、視聴覚教材を用います。また毎回課題を提出してもらいます。フィードバックは授業内で行います。

授業はオンデマンド方式で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	イントロダクション ルネサンスの舞台芸術 (1)	授業紹介 ルネサンスと宮廷音楽劇
②	ルネサンスの舞台芸術 (2)	コンメディア・デッラルテとマドリガル・コメディ
③	オペラの誕生 (1)	カメラータ・フィオレンティーナとオペラの誕生、モンテヴェルディの生涯
④	オペラの誕生 (2)	モンテヴェルディ作曲、ストリッジョ台本のオペラ
⑤	バロック・オペラ (1)	ヴェネツィア・オペラとカストラートの隆盛
⑥	バロック・オペラ (2)	モンテヴェルディ作曲、プゼネッロ台本のオペラ
⑦	バロック・オペラ (3)	ヘンデルの生涯と作品
⑧	バロック・オペラ (4)	ヘンデル作曲、ハイム台本のオペラ
⑨	オペラ・ブッフアとオペラ・セーリア (1)	アルカーディア・アカデミーとオペラ

⑩	オペラ・ブッフアとオペラ・セーリア (2)	メタスタージオ台本、ヴィンチ作曲のオペラ
⑪	オペラ・セーリアの改革 (1)	グルックとカルツァビージについて
⑫	オペラ・セーリアの改革 (2)	グルック作曲、カルツァビージ台本のオペラ
⑬	オペラ・ブッフアとインテルメッツ	ベルゴレージ作曲のインテルメッツ
⑭	授業のまとめ	オペラの誕生から18世紀前半までのオペラ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

GoogleClassroomで指示します。GoogleClassroomのコードは、学習支援システムで指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

GoogleClassroomで資料を配布します。教科書は使用しません。

【参考書】

GoogleClassroomで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (期限内に提出された課題含む) (約70%)と期末試験 (定期試験中に対面で実施、約30%)により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれか、インターネットに接続できる機器

【重要】対面授業のみの場合と異なり、課題のレポートを作成し、オンラインで提出するにあたり、ワード等のワープロ機能 (大学のOffice 365に入っています) を使用します。また、授業では映像を多用しますので、オンライン授業受講の際は通信容量が多く必要となります。

【その他の重要事項】

本授業は受講者数を「40名」までに制限しております。選抜は抽選で行います。選抜方法については、学習支援システムを通じて通知しますので、希望者はチェックしてください。

【Outline (in English)】

Opera is a performing art form born in Italy at the end of the sixteenth century. In this class, I will take up representative works of Italian opera and give a lecture on its history.

Instructions will be given in class or via GoogleClassroom; GoogleClassroom codes will be given via the class support system (Hoppii). The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Students will be graded on the basis of their normal scores (including assignments submitted on time) (70%) and the final test (30%).

LIT200LA (文学 / Literature 200)

外国文学と文化 L F

2017年度以降入学者

サブタイトル：イタリア・オペラに親しむ (2)

大崎 さやの

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

オペラは16世紀末にイタリアで生まれた舞台芸術形式です。本講義では、イタリア・オペラの代表的な作品をとりあげ、さまざまな演出により上演された舞台を映像で鑑賞、オペラという舞台芸術の歴史を学びつつ、現代におけるあり方を考えます。外国文学と文化 F では、春学期の外国文学と文化 E に引き続き、19世紀から20世紀にかけての爛熟期のイタリア・オペラを扱います。

【到達目標】

イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では18世紀から20世紀にかけてのイタリア・オペラを扱います。配布PDF・音声ファイルの他、視聴覚教材を用います。また毎回課題を提出してもらいます。フィードバックは授業内で行います。授業はすべてオンデマンド方式で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	オペラ・ブッフア	18世紀までのオペラの簡単な歴史とオペラ・ブッフアについて
②	古典派オペラ (1)	モーツァルト作曲のオペラ (1) 生涯と作品 作品解説
③	古典派オペラ (2)	モーツァルト作曲のオペラ (2) 作品鑑賞
④	古典派オペラ (3)	モーツァルト作曲のオペラ (3) 作品解説
⑤	古典派オペラ (4)	モーツァルト作曲のオペラ (4) 作品鑑賞
⑥	ロマン派オペラ (3)	ロッシーニ作曲のオペラ (1) 生涯と作品 作品解説
⑦	ロマン派オペラ (4)	ロッシーニ作曲のオペラ (2) 作品鑑賞
⑧	ロマン派オペラ (5)	ドニゼッティ作曲のオペラ (1) 生涯と作品 作品解説
⑨	ロマン派オペラ (6)	ドニゼッティ作曲のオペラ (2) 作品鑑賞
⑩	ロマン派オペラ (7)	ヴェルディ作曲のオペラ (1) 生涯と作品
⑪	ロマン派オペラ (8)	ヴェルディ作曲のオペラ (2) 作品鑑賞
⑫	ロマン派オペラ (9)	ヴェルディ作曲のオペラ (3) 作品解説

- ⑬ 世紀末から20世紀 プッチーニ作曲のオペラ 作品にかけてのオペラ 鑑賞 (2)
- ⑭ 授業のまとめ 18世紀後半から20世紀のオペラ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Google Classroomで指示します。Google Classroomのコードは、学習支援システムで指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Google Classroomで資料を配布します。教科書は使用しません。

【参考書】

Google Classroomで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (期限内に提出された課題含む) (70%) と期末試験 (定期試験中に対面で実施、30%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

分かり易い授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれか、インターネットに接続できる機器

【重要】対面授業のみの場合と異なり、課題のレポートを作成し、オンラインで提出するにあたり、ワード等のワープロ機能 (大学のOffice 365に入っています) を使用します。また、授業では映像を多用しますので、オンライン授業受講の際は通信容量が多く必要となります。

【その他の重要事項】

本授業は受講者数を「40名」までに制限しております。選抜は抽選で行います。選抜方法については、学習支援システムを通じて通知しますので、希望者はチェックしてください。

【Outline (in English)】

Opera is a performing art form born in Italy at the end of the sixteenth century. In this class, I will take up representative works of Italian opera and give a lecture on its history.

Instructions will be given in class or via Google Classroom; Google Classroom codes will be given via the class support system (Hoppii). The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Students will be graded on the basis of their normal scores (including assignments submitted on time) (about 70%) and the final test (about 30%).

LIT200LA (文学 / Literature 200)

文学と社会 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：日本文学と民俗学

梶 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「民俗」（民間伝承）とは、ある地域社会、特定のコミュニティのごくふつうの人々の暮らしの中で集団的に形づくられ、時代を超えて伝えられてきた暮らしぶりや心の持ち方を指します。「地域（ローカル）」の範囲は、小さくは一つの集落、大きくは世界（グローバル）の中の日本という「地域」といったように、さまざま設定できます。この授業では世界の中の日本、という視野のもと、こうした「民間伝承」を研究対象とする「民俗学」を探り入れた日本文学研究の世界を、『万葉集』『古事記』『日本書紀』『風土記』『古今和歌集』『源氏物語』等、主として上代・中古の文学の中から事例を選んで紹介します。民俗学的な日本文学研究とは、個々の作者・作品の個性や創意、時代性を超えて、現代の私たちの心の底にまで伝わっていると考えられるような集団の心性を、残された言語表現を通じて探ろうとするものである、といえるでしょう。このような性格のため、「個」（一作者や作品）の芸術性の追究といったことを期待する人には、不向きと思われるかもしれません。

【到達目標】

- ・一般的な文学研究に比べて、民俗学的に文学を見る方法の特色・意義を知り、視野を広げられること。
- ・科目名が示すように、人文科学と社会科学の融合領域を扱う分野に触れ、学際的なアプローチの一例を学べること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室対面を基本とする、ふつうの講義形式です。小説の構成に喩えれば、テーマに沿って2～3回で完結する例題を並べていく「短編小説集」のような構成と思って下さい。

毎回、リアクションペーパーないしは小レポートの形で感想等を書いてもらう予定です。毎回の初めに、前週のリアクションペーパーの中から具体例を選んで紹介するなどして、感想の共有を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	民俗学的な日本文学研究について、概説
第2回	桜の文学と民俗（1）	季節感と古典文学との関わり、またその源流と考えられる民俗について
第3回	桜の文学と民俗（2）	前回の続きとまとめ
第4回	「女歌」の特色と源流（1）	男女の恋の贈答歌における女性の歌の特色と、その源と考えられる「歌垣」の習俗について
第5回	「女歌」の特色と源流（2）	前回の続きとまとめ
第6回	恋歌の虚構性	万葉集・額田王の蒲生野の恋歌を例に
第7回	古代女性の巫女的性格と文学（1）	古代女性の「神」に仕える役割と古典文学、歴史との関係

第8回	古代女性の巫女的性格と文学（2）	前回の続き
第9回	古代女性の巫女的性格と文学（3）	前回の続きとまとめ
第10回	「恋（こひ）」の生活と靈魂信仰（1）	「魂乞い」・名前の民俗ほか、和歌や物語から恋愛に関わる靈魂信仰（生命観）を探る
第11回	「恋（こひ）」の生活と靈魂信仰（2）	前回の続きとまとめ
第12回	「誕生」「成人」——年齢通過儀礼と文学（1）	昔の日本人にとっての「誕生」「成人」の意義と文学への反映
第13回	「誕生」「成人」——年齢通過儀礼と文学（2）	前回の続きとまとめ
第14回	総括として	例題を総復習し、授業の到達目標を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

古典文学に高校までの授業のイメージを持たずに、現代語訳でもいいので、日頃からその世界に親しんでほしいと思います。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載する資料教材をもって代えます。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

およそ、期末試験60％、毎回のリアクションペーパー（ないしは小レポート）40％の予定。詳細は初回授業までに学習支援システムにてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

授業教材が、欠席した時もとで読めば凡そ分かるような、解説付きのオンデマンド対応パワーポイントであるため、復習の際に要点が掴みやすく、画像も豊富に入っているのが親しみやすい、という感想が多かったです。ただし、オンデマンド型教材だと「出席しなくてもあとで読めば内容がわかる」と、教室授業に欠席がちになるデメリットもあるため、今年度から出席替わりのリアクションペーパー（ないしは小レポート）を毎回課すことを試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

Theme: Japanese literature and folklore

"Folk" (folklore) refers to the way of life and mindset that has been collectively formed in the lives of ordinary people in a certain community or a specific community and has been passed down through the ages, increase. The range of "region (local)" can be set in various ways, such as one village for small and Japan in the world (global) for large. In this class, from the perspective of Japan in the world, the world of Japanese literature research that incorporates "folklore" that targets such "folklore" will be discussed in "Manyoshu," "Kojiki," and "Nihonshoki." We will introduce examples mainly from the literature of the upper generation and used, such as "Fudoki", "Kokin Wakashu", and "Genji Monogatari". Folklore Japanese literature research transcends the individuality, creativity, and timeliness of individual authors and works, and is the bottom of our hearts today.

Folklore Japanese literature research leaves behind a collective spirit that is thought to be transmitted to the bottom of our hearts today, transcending the individuality, creativity, and timeliness of individual authors and works. It can be said that it is an attempt to explore through the linguistic expressions that have been made. Because of this personality, it seems unsuitable for those who expect to pursue the artistry of "individuals" (one author or work).

Goal

This lecture aims at the following two goals

- ・ Compared to general literary research, students can broaden your horizons by learning about the characteristics and significance of folklore-based methods of viewing literature.

- ・ As the subject name indicates, students can learn an example of an interdisciplinary approach by touching on fields dealing with the integrated area of the humanities and social sciences.

Work to be done outside of class

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. I would like you to become familiar with the world on a daily basis, as you can use a modern translation without having the image of a class up to high school in classical literature.

Grading criteria

60% will be the final exam, and 40% will be the reaction paper (or small report) each time. Details will be provided on the learning support system before the first class.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

文学と社会 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：日本文学と民俗学

梶 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ（副題）：日本文学と民俗

梶「文学と社会LA」と同じです。ただし具体的な内容は「授業計画」に記す通り、異なります。Aよりも「民俗」(＝民間伝承)の部分に重点を置いた内容になります。「文学」発生の母胎としての性格を未だによく保持しており、日本文学の「古代性」を考える上で重要なヒントになるとされる沖縄離島の祭事・信仰をクローズアップして紹介する回が多くなり、時間があればそれを材料に、伝統文化を活かした持続可能な地域形成に祭事や言語伝承が果たす役割なども考察したいと思っています。

【到達目標】

- ・一般的な文学研究に比べて、民俗学的に文学を見る方法の特色・意義を知り、視野を広げられること。
- ・科目名が示すように、人文科学と社会科学の融合領域を扱う分野に触れ、学際的なアプローチの一例を学べること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。小説の構成に喩えれば、テーマに沿って2～3回で完結する例題を並べていく「短編小説集」のような構成と思って下さい。毎回、リアクションペーパーないしは小レポートの形で感想を書いてもらう予定です。毎回、前週のリアクションペーパーの中から具体例を選んで紹介するなどして、感想の共有を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	日本文学の民俗学的な見方について、概説
第2回	季節行事と文学（1）	具体例として、古典文学における七夕と、七夕関連行事・民俗について
第3回	季節行事と文学（2）	日本固有のタナバタ説話について／2回のまとめ
第4回	古代文学に表現された異郷「訛（は）の国」（1）	古事記の用例をめぐって、語の意味・由来、背景に考えられる民族移動・渡来の歴史など
第5回	古代文学に表現された異郷「訛（は）の国」（2）	別視点：「異族結婚」が多かった時代の記憶の反映／2回のまとめ
第6回	古代文学に表現された異郷「常世（とこよ）」（1）	万葉集・記紀・風土記などに見える用例（浦島伝説等）／明・暗両面性
第7回	古代文学に表現された異郷「常世（とこよ）」（2）	比較事例として、沖縄・奄美等の来訪神の祭事を紹介：「ニライカナイ」の心象

第8回	古代文学に表現された異郷「常世（とこよ）」（3）	明暗両面性の由来の考察（日本の「神」とは何か）—自然観・祖霊観念との関わりなど
第9回	古代文学に表現された異郷「常世（とこよ）」（4）	トコヨからの来訪者／まとめ
第10回	「貴種流離譚」（1）	神（またはそれに近い高貴な存在）がさすらう物語の類型をめぐって
第11回	「貴種流離譚」（2）	古代的な生命観・霊魂信仰や異郷意識（他界観念）との関わり／2回のまとめ
第12回	「神話」が生きる島（1）	祭事・信仰などに古代的要素が残っている日本の離島の例を紹介
第13回	「神話」が生きる島（2）	前回の続き
第14回	総括の授業と授業内試験	話してきた例題のポイントを振り返ったあと、まとめのテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

古典文学と「民俗」との関連を知ることをきっかけに、地域の伝統行事を見学することなども奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載するスライド教材をもって替えます。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%。毎回のリアクションペーパー（ないしは小レポート）40%。詳細は初回授業までに学習支援システムにてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

春学期の「LA」の授業と同様、文章の説明入りのオンデマンド対応のスライド教材であるため、体調不良で教室授業に出られない場合でも自宅で自習できることへの評価のほか、伝統祭事についての豊富な動画で実感を持てたという声もありました。ただし春学期の授業同様、オンデマンド型教材だと、教室授業への出席意欲についてはデメリットにはたらく場合もあるため、今年度から毎回、リアクションペーパーないしは小レポートを課すこととする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

Theme: Japanese literature and folklore

This class is same as "Literature and Society LA" by Kaji. However, the specific content is different as described in the "Class Plan". The content focuses on the "folk" (= folklore) part rather than A. A close-up introduction to the festivals and beliefs of the remote islands of Okinawa, which still retains the character of the mother of "literature" and is considered to be an important hint when considering the "ancientity" of Japanese literature. If I have more time, I would like to consider the role of festivals and linguistic tradition in the sustainable regional formation that make use of traditional culture.

Goal

This lecture aims at the following two goals

- ・ Compared to general literary research, students can broaden your horizons by learning about the characteristics and significance of folklore-based methods of viewing literature.
- ・ As the subject name indicates, students can learn an example of an interdisciplinary approach by touching on fields dealing with the integrated area of the humanities and social sciences.

Work to be done outside of class

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. We also encourage you to visit traditional events in the area by learning about the relationship between classical literature and "folklore".

Grading criteria

60% will be the final exam, and 40% will be the reaction paper (or small report) each time. Details will be provided on the learning support system before the first class.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

文学と社会 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：江戸の印刷・出版物

白戸 満喜子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では江戸時代の文学作品『御存商売物』を通読します。作品を通して江戸の出版文化の多様性に触れていきます。江戸という地域・時代に暮らした人々が手にしていた、読んでいた、眼にしていた、時には聴いていたさまざまなメディアを、実際に読んだり聴いたりすることで江戸を体感します。

【到達目標】

江戸時代の特徴的な文化や慣習・感覚をテキスト『御存商売物』を通じて理解することが目標。
くずし字（変体仮名）で書かれた簡単な出版・印刷物を判読できるようになることがもう一つの目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は『御存商売物』という江戸時代の印刷・出版物を人物になぞらえた作品を通読しながら講義を行います。あわせて作品の中に登場人物として描かれている印刷・出版物を読解する演習形式を取り入れます。意匠絵本（デザイン集）・暦など、簡単な読み物の翻字（くずし字を現代仮名遣いにすること）のノウハウを解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・江戸時代の文学について ・テキスト『御存商売物』について ・外国人から見た江戸
2	テキスト『御存商売物』の解説	・日本の書物 ・江戸後期の文学作品 ・江戸の出版
3	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の紋様 ・大坂と江戸
4	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の人気小説 ・江戸の食べ物
5	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の絵画 ・江戸時代までの紙 ・江戸の流行歌
6	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・「見立（みたて）」という表現 ・小道具と物語の関係 ・絵と文の関係を読み取る
7	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の慣習 ・江戸の街並み
8	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の繁華街「吉原」 ・浮世絵と鑑賞の基礎知識

9	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・現在と異なる暦 ・江戸の教養を支えた書物
10	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の土産物 ・江戸時代の夫婦喧嘩
11	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の占い ・江戸のおまじない
12	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の学問書 ・江戸時代の情報伝達
13	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸時代の流行り廃り ・江戸の刑罰
14	授業のまとめ	・江戸時代の豊かな出版文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に随時、レポートに関する情報を話しますので、その情報を参考にしながら江戸に関する知識を広げて下さい。
くずし字の読解に必要な資料（配布プリント）は毎回持参し、授業前には一読しておくこと。くずし字読解の準備として2時間、復習に2時間、計4時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布します。

【参考書】

くずし字読解のための参考文献は以下の2冊ですが、読解に必要なプリントは別途授業中に配布します。
・笠間影印叢刊行会『字かな』笠間書院
・松尾聡編『変体平仮名演習』笠間書院

【成績評価の方法と基準】

レポート40% 筆記試験（最後の授業時に一回）40% 平常点（授業への取り組み・発言）20% として評価します。
詳細は開講時にお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

「高校までは学んでこなかった、非常に興味深い内容だった」という感想が寄せられています。古典文学でもなく、現在の小説とも異なる、江戸の大人の娯楽と教養を『御存商売物』という作品を通じて楽しんで下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業における「AI くずし字認識アプリ」の使用を推奨しています。インストール可能な機器（スマートフォンなど）と空き容量を準備してください。

【Outline (in English)】

In this class, we read through the literary work "Gozonji-no-shobaimono" in the Edo Period. Through the work we can touch on the diversity of Edo's publishing culture. You will experience Edo by actually reading and listening to various media that people were living in in the region & the era of Edo. Sometimes you can listen the audible media.

The main goal of this course is to understand the characteristic culture, customs, and sensations of the Edo period through the textbook "Gozonji-no-shobaimono".

Another goal is to be able to read simple publications and printed matter written in cursive script (Hentaigana).

Bring the materials (distributed prints) necessary for reading the cursive script every time, and read them before class. It takes 2 hours to prepare for reading comprehension and 2 hours to review, for a total of 4 hours.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40 %, Term-end examination 40 %, in class contribution 20 %

LIT200LA (文学 / Literature 200)

文学と社会 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：江戸の絵入り本で読む百人一首

白戸 満喜子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

浮世絵が添えられた絵本『錦百人一首あづま織』（国立国会図書館所蔵）<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533227>を受講生全員で分担し、読解・解釈をします。最近では競技としての知名度が上がってきた百人一首が、いつ、どのようにして成立し、また現在まで人々に愛されてきたのか。江戸時代の人々が楽しんだ百人一首を読み解き、和歌の解釈と描かれた歌人について学んでいきます。

【到達目標】

くずし字で書かれた和歌（ひらかなの部分とその字母）を判読し、解釈することが各受講生の目標です。

各自の担当する和歌について、1：字母を確認しながら翻字をする、2：解釈（意味や技法）する、という2点から考察・発表をし、『錦百人一首あづま織』という絵本の成立を理解し、和歌の知識を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業前半は百人一首と『錦百人一首あづま織』に関連する講義を行います。後半は受講生がそれぞれ分担する和歌についての翻字・解釈を各週で順番に発表します。受講生はそれぞれの和歌に対する読解・解釈を準備し意見交換をします。授業時間内に翻字の正解を示し、和歌の解釈に対するまとめをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 百人一首とは何か くずし字読解の方法 と解釈	テキスト『錦百人一首あづま織』 の発表順番決定
2	テキスト『錦百人一首あづま織』の構成 について解説	テキストに関する講義
3	テキスト『錦百人一首あづま織』の読解 方法	テキストの翻字・解釈の具体的な方法・内容
4	勅撰和歌集に関する 講義1および受講者 による発表1回目	・勅撰和歌集とは何か：八代集 ・担当者による発表
5	勅撰和歌集に関する 講義2および受講者 による発表2回目	・勅撰和歌集にまつわる逸話 ・担当者による発表
6	歌合に関する講義1 および受講者による 発表3回目	・歌合とは何か ・担当者による発表
7	歌合に関する講義2 および受講者による 発表4回目	・歌合に賭けた歌人たち ・担当者による発表

8	歌道に関する講義および受講者による発表5回目	・歌道とは何か一和歌の変化 ・担当者による発表
9	百人一首の中世写本に関する講義および受講者による発表6回目	・中世における百人一首 ・担当者による発表
10	百人一首の近世写本に関する講義および受講者による発表7回目	・手で書き写された百人一首：近世の写本 ・担当者による発表
11	百人一首版本に関する講義1および受講者による発表8回目	・印刷された百人一首 ・担当者による発表
12	百人一首版本に関する講義2および受講者による発表9回目	・浮世絵と百人一首 ・担当者による発表
13	百人一首版本に関する講義3および受講者による発表10	・百人一首とかるた ・担当者による発表
14	テキスト『錦百人一首あづま織』のまとめ	教員による全体の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者にはこちらから発表分担となる和歌を指定します。受講生は各自が分担する和歌の翻字と読解・解釈を指定日までに提出してください。分担以外の和歌については、それぞれ読解しておいてください。各自の読解に基づいて発表内容に対する意見交換をします。くずし字の読解に必要な資料（配布プリント）は毎回持参し、授業前には一読しておくこと。テキストのくずし字読解として2時間、授業で扱った和歌の字母確認・復習に2時間を毎回必要とします。

【テキスト（教科書）】

『錦百人一首あづま織』（国立国会図書館所蔵）<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533227>

【参考書】

くずし字を読むための参考文献は以下の2冊ですが、読解用のプリントは教材にアップロードします。文学と社会LC既習者は同じプリントになります。

・笠間影印叢刊行会『字典かな』笠間書院
・松尾聡編『変体平仮名演習』笠間書院

【成績評価の方法と基準】

分担発表の内容30％ 平常点（授業内での意見内容）40％ 期末レポート30％ として評価します。分担する和歌の翻字と読解・解釈の未提出、発表内容に関する意見交換がない場合は評価対象となりません。

【学生の意見等からの気づき】

「江戸時代の文字を翻字すること、内容を読み解くこと、どちらも読解きのようで楽しかった」という感想が寄せられています。くずし字の読解は、昔の日本人たちと時空を越えたコミュニケーションをするようなもの。語学習得に似ているものの、ひと味異なる独特の達成感を味わって下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業における「AIくずし字認識アプリ」の使用を推奨しています。インストール可能な機器（スマートフォンなど）と空き容量を準備してください。

【その他の重要事項】

関連部分があるので文学と社会LCを履修していることが望ましいものの、前向きな性格・柔軟な思考・気合などのどれかがあれば秋学期のみの履修も可能。

【Outline (in English)】

In this class, we read the original book of "Nishiki Hyakunin Isshu Azuma Ori" <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533227> with ukiyo-e. Hyakunin Isshu has been loved by people, and recently it has gained recognition as a sport. We will read Hyakunin Isshu which was made in the Edo period, and learn about the interpretation of waka and the singer drawn. The main goal of this lesson is to read and interpret waka (the hirakana part and its character) written in cursive script.

About the waka poems that each person is in charge of

1: Transliterate while checking the character

2: Interpret (meaning and technique),

We will consider and present from these two points, understand the formation of the text, and deepen our knowledge of waka.

Students will be assigned a waka poem to be shared by the instructor. Students are requested to submit the transliteration, reading comprehension, and interpretation of the waka poems that they share by the designated date. Please read each of the waka poems other than the division. We will exchange opinions on the content of the presentation based on each person's reading comprehension.

Bring the materials (distributed prints) necessary for reading the cursive script every time and read them before class. It takes 2 hours to read the text and 2 hours to check and review the waka characters used in the class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30 %), in-class contribution (40 %), and term-end examination (30 %)

However, if there is no transliteration of the shared waka poem, unsubmitted reading comprehension /interpretation, and no exchange of opinions regarding the content of the presentation, it will not be evaluated.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

文学と社会 L E

2017年度以降入学者

サブタイトル：

中澤 忠之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説を読むとき、私たちはどんなところを重視するでしょう。たとえば、泣けるかどうかとか、感情移入できるかどうか、とかいったところでしょうか。実際、これまで中学校や高校の現国の授業では、主人公の心情を素直に読み取るトレーニングを受けてきたはずです。しかし、小説の書き方・読み方は一様ではありません。この講義は、小説の書き方・読み方には多様性があることを知り（夏目漱石とライトノベルを優劣関係ではなく多様性の一つとして捉えること）、それを身に付ける土台作りとなるでしょう。そのためにはまず、小説の成り立ちをおさらいすることからはじめます。そして文学史にしたがって、小説の書き方・読み方が変化し、新たな書き方・読み方の発見が文学史を豊かに形成してきたことを確認します。戦前の文学史がメインですが、最近の文学史にも積極的にふれます。マンガや映画、美術など、文学に隣接するジャンルにもしばしば言及したい。

【到達目標】

創作物を単に主観的に受容するのではなく、対象化して評価する技術と教養を身に付け、作品受容の許容範囲が広がることを目指します。文学に関心がある学生はもちろん、ポップカルチャーやサブカルチャーのジャンルに関心がある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布する資料をもとに講義するスタイルです。必要に応じてリアクションペーパーを書いてもらいます（3回程度）。授業中・授業後の質問やリアクションペーパーにおける有意義なコメントは授業内で紹介し、今後の授業に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第2回	現在の文学が置かれた状況	最近の文学事情を、他のジャンルとの関係から明らかにする。
第3回	文学作品の読み方	文学の仕組みを解説して、高校時代までの読み方を相対化する。
第4回	近代文学の誕生①	言文一致（いわゆる近代日本語）を中心に、近代文学が形になったプロセスを解説。 言文一致形成の全体像を確認する。
第5回	近代文学の誕生②	言文一致形成の初期（明治10から20年代）の状況 작품을参照しながら確認する。
第6回	近代文学の誕生③	言文一致形成の後期（明治30から40年代）の状況 작품을参照しながら確認する。

第7回	文学史第1期（明治20～40年の文学）	リアリズム（写実主義）は近代に確立した表現法だが、そのリアリズムが確立した時代の表現パターンを解説。
第8回	文学史第2期（大正時代の文学）	私小説がはやった時代の表現パターンを解説。文学における自己表現を問題にしたい。
第9回	文学史第3期（1920年代）①	社会が大衆化したモダニズムの時代の表現パターンを解説。
第10回	文学史第3期（1920年代）②	具体的な文学作品を参照する。
第11回	文学史第4期（1930年代）①	文学表現が成熟した時代の表現パターンを解説。現代の表現とも関係させる。
第12回	文学史第4期（1930年代）②	具体的な文学作品を参照する。
第13回	現在の文学との接点	過去の文学を参照することで現代文学の読み書きにいかに応用できるのかを考察する。
第14回	まとめと試験	これまでの講義の総括。今後の現代文学の読み方についても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少しでも文学作品に触れてください。しかし闇雲に読むのではなく、ジャンルを意識しながら読むことをおすすめします。ジャンルが分からなければ、大きめの本屋に行って書棚がどういう配置になっているのか、どういう本が収まっているのかを確認してみるのもよいです。たとえば、映画をよく観る人はTSUTAYAの棚陳列がどういうジャンル区分に従っているのかよくわかってはいるはず。アイドルグループのファンは、素人目には同じように見える顔が、それぞれ個性を持ち、ジャンル分けできることを知っているはず。文学も同じです。

小説を全く読まない人は、まず『ノルウェイの森』（村上春樹）と『時をかける少女』（筒井康隆）と『涼宮ハルヒの憂鬱』（谷川流）の3冊を読み比べてみてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

最後の試験が評価の主要な対象となります。3回予定のリアクションペーパー（400字程度）も評価したい。評価の割合は最後の試験が70%、リアクションペーパーを30%とします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるころではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning objectives】

This lecture aims to give techniques and cultures to read novels, using the work of modern Japanese literature.

How to write and read novels is not single. In this lecture, you can learn that diversity exists in how to write and read novels. Let's begin by reviewing the origins of the novel. And according to the history of literature, We confirm that the way of writing and reading the novel has changed.

【Learning activities outside of classroom】

Please try reading literary works for about 4 hours per week. I recommend reading while being aware of the genre. If you don't know the genre, check the shelves in the bookstore.

【Grading Criteria /Policy】

The final report is the main subject of evaluation. I also want to evaluate the short reports (about 400 characters) for each session. The evaluation rate is 70% for the final report and 30% for short reports.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

文学と社会 L F

2017年度以降入学者

サブタイトル：

中澤 忠之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段何気なく読んでいる小説が、きわめて政治的で社会的なものであるということ考えたことがあるでしょうか。文学作品は、人畜無害な単なるフィクションではありません。ときに世の中の差別や偏見を生み出し助長するものであり、特定の個人や集団を傷つけるものでもあります。あるいはまた、社会秩序を乱すとして批判される過激な暴力や性表現も無視できないでしょう。もちろんその一方で、社会の差別や偏見と戦ってきた歴史も、文学にはあります。文学作品における、こういった政治的かつ社会的な側面を、本講義では取り上げます。素材は性表現と差別表現がメインです。メディア環境が激変している昨今の事情に対応させて、取り上げる表現は文学のみならず、映画やマンガなど多岐にわたる予定です。現在進行形の話題も積極的に扱います。

【到達目標】

これまでなんとなくイメージしてきた表現の自由や表現の暴力性といった概念を、法規制や表現史を通して具体的に捉えられる教養の獲得を到達目標とします。文学に関心がある学生のみならず、法律等社会の制度設計に関心のある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布する資料をもとに講義するスタイルです。必要に応じてリアクションペーパーを書いてもらいます（3回程度）。授業中・授業後の質問やリアクションペーパーにおける有意義なコメントは授業内で紹介し、今後の授業に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第2回	文学が置かれた社会状況	表現規制の最近の動向を解説。
第3回	性表現・暴力表現と規制①	性・暴力表現とその規制の歴史を振り返る。
第4回	性表現・暴力表現と規制②	「わいせつ罪」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第5回	性表現・暴力表現と規制③	「青少年保護」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第6回	性表現・暴力表現と規制④	「児童ポルノ」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第7回	性表現・暴力表現と規制⑤	ネット社会における性・暴力表現について解説する。
第8回	差別表現と規制①	差別表現とその規制の概要を解説する。
第9回	差別表現と規制②	差別の仕組みを知るために、具体的な作品を参照する。

第10回	差別表現と規制③	戦後の日本における差別の歴史を振り返る。
第11回	差別表現と規制④	差別には複数のパターンがあるので、それらを分節化して解説する。
第12回	差別表現と規制⑤	差別表現とその規制の現在。特にネット社会における差別表現（Metoo運動など）を考える。
第13回	差別表現と規制⑥	最近話題になる嫌韓・嫌中の「ヘイトスピーチ」について考察する。
第14回	まとめと試験	これまでの講義の総括。表現の自由とその規制の社会的バランスを考える。 また、補足として、著作権やプライバシーの問題から表現の社会性をも言及したい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず何より活字や映像作品に触れてください。そして、表現規制の話は常時ニュースになるので、そのつど気にかけて、新聞やウェブでの議論に触れてほしい。たとえば、昨今話題になっている性表現なり差別表現に対する規制強化の動き、あるいはネット上で盛んに行われている著作物の無断コピーや二次創作等について考えてみるのもよいでしょう。ここ数年は、美術家の性的な表現物がわいせつ罪に問われたり、また差別的なヘイトスピーチがメディアで盛んに取り扱われています。文学作品にとらわれず、こういった表現にかかわる社会的問題に注目してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

最後の試験が評価の主要な対象となります。3回予定のリアクションペーパー（400字程度）も評価したい。評価の割合は最後の試験が70%、リアクションペーパーを30%とします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるところではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。映像を積極的に導入し、時事的な話題も取り入れました。

【Outline (in English)】

【Course outline】 【Learning objectives】

The novel has a very political and social part. Literary works are not mere fiction. They sometimes produce discrimination and prejudice of the world, and they also hurt certain individuals and groups. Or you can not ignore radical violence or sexual expression that is criticized as disturbing the social order.

On the other hand, literature also has a history of fighting social discrimination and prejudice. This lecture will cover these political and social aspects of literary works. Sexual expression and discrimination are the main material.

Our goal is to acquire a culture that allows us to understand topics such as freedom of expression and violence of expression through legal regulations and the history of expression.

【Learning activities outside of classroom】

Please spend about 4 hours per week reading literary works and watching video works. And since the topic of freedom of expression and expression regulation is always news, please contact the discussion in newspapers and the web.

【Grading Criteria /Policy】

The final report is the main subject of evaluation. I also want to evaluate the short reports (about 400 characters) for each session. The evaluation rate is 70% for the final report and 30% for short reports.

LIT200LA（文学 / Literature 200）

日本文学と文化LG

2017年度以降入学者

サブタイトル：宮崎駿の文学世界

榎本 正樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アニメーションは、日本が誇るコンテンツであり文化遺産です。アニメーション制作の現場からは数多くのクリエイターが生みだされましたが、その中でも宮崎駿の存在は突出しています。アニメーションを普段観ない人でも、宮崎作品を人生のどこかで必ず観ているはずで、日本だけでなく、世界中に多くのファンを持ち、国内外の重要な賞を数多く受賞しています。宮崎作品の広がり、たとえば『千と千尋の神隠し』の舞台化（2022年に世界初演、2024年にはロンドン公演、2025年には上海公演予定）や、ビリー・アイリッシュが『千と千尋の神隠し』にインスパイアされて制作した楽曲"CHIHIO"（2024年）などに見てとることができます。

宮崎監督がアニメーションの世界に入ったのは、1960年代です。アニメーターとして研鑽を積みながら、原画や脚本や画面構成を担当する中で、NHKのテレビアニメ『未来少年コナン』（1978年）で初めて監督として仕事をします。本授業では、『未来少年コナン』に始まる宮崎駿の全監督作品について、作品分析を試みながら、宮崎監督がそれぞれの作品で何をテーマにどのような世界を描こうとしたのか検証するとともに、宮崎監督の思想の深まりに注目していきたいです。

誰もが日常的に親しんできた宮崎監督のアニメーション作品を、いま一度新たな視点で読み直してみることで、これまで気づけなかった問題系や、登場人物の相関関係、ストーリーの奥深さ、物語上のたくらみ、そして宮崎作品の根底にある文学性に気づくことになるはずです。宮崎監督の全作品を辿る旅を通して、皆さんと一緒に宮崎監督とその作品の新たなイメージに到達したいと考えています。

【到達目標】

映像作品であるアニメーションをシーンやカットごとに解説する技術を身につけ、アニメ固有の表現方法やギミックや物語構造などについて、自分の力で読み解き、考察し、論述できる力の獲得を目指します。関連資料を参照し、他者の意見や論考に目を通し、作品の背景にある文化的、社会的、民俗的、歴史的、地理的背景について深く学び、作品を客観的に論じる力を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はプレゼンテーション（資料提示）と講義を併せた形で行います。宮崎監督作品を初期から最新作まで重要なシーンを観賞しながら、解説と分析を加えていきます。アニメーションで重要なのは、シーンを構成する一つひとつの短いカットです。カットは継的な物語を構成する最小の「部品」ですが、同時にクリエイターの「世界そのものへの純粋な視線」が投影されています。

その意味で、作品の基礎であり設計図ともいえる絵コンテの存在が大きくなるでしょう。絵コンテを出発点に最終的な作品に仕上がるまでには、多くの制作プロセスがあります。アニメーションの制作現場でどのようなことが行われているのか、そうしたことにも言及していきたいです。さらに宮崎監督自身の言葉、関連資料の紹介、他の論者の考察など、作品をめぐる多様な言説を紹介する機会も設けます。

授業内容に関する一般的な質問は、メール（eno@mar.email.ne.jp）で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	宮崎駿、その人と作品について
2	『未来少年コナン』	理想郷を求めてさまよう人々
3	『ルパン三世 カリオ ストロの城』	「城」のイメージに潜む権力性
4	『風の谷のナウシカ』	終末世界に重ねられる神話世界
5	『天空の城ラピュタ』	少年少女のイメージの継承と発展
6	『となりのトトロ』	「他者」との出会いの意味
7	『魔女の宅急便』	少女と猫のいる風景
8	『紅の豚』	「世情」に抗う決意と行動
9	『もののけ姫』	神と人が交錯する群像劇
10	『千と千尋の神隠し』	行きて帰らし物語」に宿る力
11	『ハウルの動く城』	魔法世界の造形
12	『崖の上のポニョ』	異種交流譚としての読み解き
13	『風立ちぬ』	戦争を描くということ
14	『君たちはどう生きるか』	宮崎作品の集大成をどう読むか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宮崎監督作品のほとんどは鑑賞済みと思いますが、もし未鑑賞のものがあれば、時間がある時に観ておくようにしてください。その際、ただ受動的に消費するのではなく、作品について自分の頭で積極的に考え、客観的に書いたり話したりする習慣をつけましょう。授業で取りあげる映像作品を鑑賞する中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を適宜行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書は膨大に存在するので、授業時その都度紹介します。大学の図書館などを利用して、各自参考資料を手に入れるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100％）。

試験や小テストはありません。

レポートのテーマは、「授業で取りあげた宮崎駿監督作品の中から、一作品または複数の作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。

分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

これまで宮崎作品に触れる機会が少なかった学生にも、理解しやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

アニメーションや現代日本文学、同時代の表現に関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト（<http://enmt.jp>）で確認できます。X（@enmt）での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Animation is Japan's proud source of content and cultural heritage. Numerous creators have emerged from the field of animation production, but Hayao Miyazaki stands out among them. Even those who do not usually watch animation must have seen Miyazaki's works at some point in their lives. He has many fans not only in Japan but also around the world, and has received many important national and international awards.

In this class, we will attempt to analyze all of Hayao Miyazaki's works, while examining what themes and what kind of world he tried to depict in each of his films, as well as focusing on the depth of his philosophy.

【Learning Objectives】

The goal of this course is for students to acquire the skills to analytically decipher Hayao Miyazaki's animations as a visual work, scene by scene, and to be able to discuss in their own

words the unique expression methods and narrative structure of animation.

【Learning activities outside of classroom】

When watching animations, develop the habit of objectively writing and talking about the details of the story in your own words, rather than just passively watching the animation films. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grade will be based on reports 100%.

There will be no examinations.

The theme of the report is "Select one or more of Miyazaki's works discussed in class and wrapping up the report". Based on the content of the class, develop your own argument in your own words about the work you have chosen, based on the theme you have set for yourself.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

日本文学と文化LH

2017年度以降入学者

サブタイトル：現代日本文学と映像表現

榎本 正樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文学を原作として映画化された作品の一部を解説を加えながら観賞しつつ、原作小説を講読していきます。2024年に劇場公開された以下の12作品の中から6～7作品を選んで取りあげます。小説（文学表現）と映画（映像表現）を比較対照し、分析を行うことで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現方法について考えを深めるとともに、「文学固有の表現とは何か？」という視点から小説を深く読む力の獲得を目指します。

＊

瀬尾まいこ『夜明けのすべて』（三宅唱監督）

町田そのこ『52ヘルツのクジラたち』（成島出監督）

川村元気『四月になれば彼女は』（山田智和監督）

高山一実『トラベジウム』（篠原正寛監督）

嶽本野ばら『ハピネス』（篠原哲雄監督）

村上春樹『めくらやなぎと眠る女』（ピエール・フォルデス監督）

安部公房『箱男』（石井岳龍監督）

吉田修一『愛に乱暴』（森ガキ侑大監督）

辻村深月『傲慢と善良』（萩原健太郎監督）

山田風太郎『八犬伝』（曾利文彦監督）

平野啓一郎『本心』（石井裕也監督）

染井為人『正体』（藤井道人監督）

＊作品の配列は劇場公開順です。

【到達目標】

現代日本文学を代表する多様なジャンル（純文学、エンターテインメント、社会小説、ミステリ、時代小説、児童文学）の小説を読む経験を重ねることで、複雑な言語構成体としてのテキストから様々な要素を抽出し、整理し、分析し、自分の言葉で批評的なアウトプットができるようになります。

加えて、個人、社会、性、生、死、ジェンダー、家族、事件、歴史などの諸問題について思考する力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式をとります。原作小説を講読し、作品分析を行った後、映画の一部を解説を加えながら観賞します。同一の物語内容を含む言語メディアである小説と映像メディアである映画を比較検証することによって、情報提示、叙述、人物設定、構成など、表現上の相違点を明らかにしていきます。

履修者には、現代日本文学の多様な表現世界や作品固有の表現に触れ、それぞれの作品について深く思考し、自分の考えをまとめ、批評的な言葉でアウトプットする力が求められます。

小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業は進めていきます。

授業内容に関する一般的な質問は、メール（eno@mar.email.ne.jp）で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス授業
2	原作小説の講読(1)	原作小説の講読・分析・考察
3	映画観賞と解説(1)	原作の映画鑑賞と解説・考察
4	原作小説の講読(2)	原作小説の講読・分析・考察
5	映画観賞と解説(2)	原作の映画鑑賞と解説・考察
6	原作小説の講読(3)	原作小説の講読・分析・考察
7	映画観賞と解説(3)	原作の映画鑑賞と解説・考察
8	原作小説の講読(4)	原作小説の講読・分析・考察
9	映画観賞と解説(4)	原作の映画鑑賞と解説・考察
10	原作小説の講読(5)	原作小説の講読・分析・考察
11	映画観賞と解説(5)	原作の映画鑑賞と解説・考察
12	原作小説の講読(6)	原作小説の講読・分析・考察
13	映画観賞と解説(6)	原作の映画鑑賞と解説・考察
14	秋学期授業のまとめ	秋学期授業のまとめと、レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に原作小説を読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、物語内容や人物関係を把握したい人は、小説を読んだ上で授業に臨んでください。授業で取りあげた小説や映像作品は、授業外に読み直し観賞し直し、作品の理解を深めるよう努めてください。レポート提出のための事前準備として、自分がレポートの対象として選んだ作品を精読した上で、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を適宜行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で扱う予定の以下の文庫本。すべての本を入手する必要はありません。

- ・瀬尾まいこ『夜明けのすべて』（文春文庫）
- ・町田そのこ『52ヘルツのクジラたち』（中公文庫）
- ・川村元気『四月になれば彼女は』（文春文庫）
- ・高山一実『トラベジウム』（角川文庫）
- ・嶽本野ばら『ハピネス』（小学館文庫）
- ・村上春樹『蜩・納屋を焼く・その他の短編』（新潮文庫）
- ・安部公房『箱男』（新潮文庫）
- ・吉田修一『愛に乱暴』（新潮文庫）
- ・辻村深月『傲慢と善良』（朝日文庫）
- ・山田風太郎『八犬伝』（角川文庫）
- ・平野啓一郎『本心』（文春文庫）
- ・染井為人『正体』（光文社文庫）

【参考書】

必要な資料はプリントで配付します。

参考書・参考文献は、教室で指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100％）。

試験や小テストはありません。

レポートのテーマは、「授業でとりあげた小説の中から一作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ小説について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で「論」を展開してください。

分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを見て採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

現代日本文学になじみのない学生にもわかりやすい言葉で、解説と考察を行うよう心がけます。

【その他の重要事項】

現代日本文学のみならず、映像メディアに関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト（<http://enmt.jp>）で確認できます。X（@enmt）での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We read the original novel after having watched movie works that filmed as "Contemporary Japanese literature". I select from the following 6 or 7 works in 2024.

We compare movie expression with the literature expression including the same story contents, we are analyzing peculiar expressin words and movies.

【Learning Objectives】

We will read through the original novels after watching films based on contemporary Japanese literature. We plan to highlight the following 6 or 7 titles after carefully selecting from the works released in 2024.

By comparing and analyzing literary expressions and visual expressions of the same story events, we will deepen our thoughts about specific expressions and techniques of the book and film media. Our aim to acquire the ability to read novels from the perspective of what is literature-specific expression.

【Learning activities outside of classroom】

Although the class will be conducted in a manner that can be understood without having read the original novel beforehand, it is best to read the novel in order to grasp the content of the story and the relationships between the characters.

Students are encouraged to re-read and re-watch the novels and films discussed in class outside of class to deepen their understanding of the works. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grade will be based on reports 100%.

There will be no examinations.

The theme of the report is "Select one of the novels discussed in class and wrapping up the report". Based on the content of the class, develop a "theory" in your own words about the novel you have chosen, based on the theme you have set for yourself.

LIN200LA (言語学 / Linguistics 200)

音声学Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言語」は、音声の形式という表現面と意味の形式という内容面が結びついた言語記号が単位であるようなシステムであり、このシステムの解明を対象とする学問分野は「言語学」と呼ばれています。この「言語」の表現面である「音声を使ったコミュニケーション」のあらゆる側面を研究するのが音の科学、すなわち「音声学」です。音そのものがある特定のイメージを喚起する現象を「音象徴」といいます。この授業では、音象徴という現象を題材に、「音声学」をできるだけ分かりやすく解説することを目指します。

【到達目標】

1. ヒトが音声を使って話すときに何が起きているか、個々の音（子音・母音）とその連続を発音するしくみを理解する。
2. 音がどのような音響振動として現れるか、障害音、共鳴音、圧力変化などの概念から理解する。
3. 音象徴の例を通して、母音や濁音の調音と音響を理解する。
4. 身近な音象徴の例を自ら発見し、分析する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず「言語学」は言語をどういうものとして見ているかを概説し、表現面の形式である「音韻」が実質である「音声」によって実現されているという発想に慣れ、「音象徴」と呼ばれる現象の分析に入ります。具体的には、音声がある振る舞いをする時に「なぜそのような振る舞いをするのか」を、音声学で必要になる概念や道具立てを使って分析・研究・理解していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入 1	言語とは
2	導入 2	音声とは
3	優しい音、ツンツンした音	どこでどのように発音するか
4	障害音、共鳴音、圧力変化	障害音、共鳴音の物理学的な定義
5	大きな音、小さい音	母音と「大きさのイメージ」
6	母音の調音と音響	母音の発音の仕方
7	濁音と向かい合う	聞き取ってみる 調音してみる
8	濁音の調音と音響	有声音と無声音の発音の仕方の違いとイメージ
9	その他の音象徴	音象徴の具体例の「音声学」の概念による理解
10	音象徴研究の実際	音象徴研究の例
11	音象徴・音声学とその関連分野	より広い視点から音象徴・音声学を考える

12	気になる音象徴についての発表 1	受講生が自ら音象徴について調べたことを発表 1
13	気になる音象徴についての発表 2	受講生が自ら音象徴について調べたことを発表 2
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声学はスポーツと同じです。できない発音があっても、訓練すればだれでもできるようになります。発音するしくみを理解し、再現できるよう努めてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

川原繁人 (2017) 『「あ」は「い」より大きい!?』 ひつじ書房
川原繁人 (2018) 『ビジュアル音声』 三省堂
J.C. キャットフォード、竹林滋 ほか (訳) (2006) 『実践音声学入門』大修館書店
国際音声学会 (編)、竹林滋・神山孝夫 (訳) (2003) 『国際音声記号ガイドブック-国際音声学会案内-』 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

課題：20%
平常点：20%
発表：20%
期末試験：40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Language is a system of linguistic symbols that combines the expressive aspect of the form of speech with the content aspect of the form of meaning. The academic field that focuses on the clarification of this system is called "linguistics". The science of sound, or phonetics, studies all aspects of communication using speech, the expressive aspect of language.

The phenomenon in which sound itself evokes a certain image is called "sound symbolism". In this class, we aim to explain phonetics as clearly as possible using the phenomenon of sound symbolism as a subject.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To understand what happens when humans speak using speech sounds, and how individual sounds (consonants and vowels) and their sequences are pronounced.
2. To understand how sounds appear as acoustic vibrations, based on concepts such as inhibitory sounds, resonant sounds, and pressure changes.
3. To understand the articulation and acoustics of vowels and murmurs through examples of sound symbols.
4. To learn how to discover and analyze examples of familiar sound symbols.

【Learning activities outside of classroom】

Phonetics is just like sports. Even if you can't pronounce something, you can learn to do it with practice. Please try to understand the mechanism of pronunciation and try to reproduce it.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Presentation: 20%, Assignments : 20%, in class contribution: 20%

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

哲学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

特にこのLAの講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われます。なお、日本の哲学や20世紀以降の思想にも焦点を当てます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業内で、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。小テストはその採点結果が模範解答付きで次の授業までに返され、さらに次の授業で解説される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学とは？
2	プラトン(1)	「イデアの萌芽」としての人間存在
3	プラトン(2)	『饗宴』 アリストファネスの話
4	プラトン(3)	『饗宴』 ソクラテスの話
5	西田幾多郎(1)	『善の研究』 - 「知即愛」の命題
6	西田幾多郎(2)	「主客合一」としての人間存在
7	和辻哲郎(1)	『倫理学』 - 「間柄」としての人間存在
8	和辻哲郎(2)	「矛盾の統一」としての人間存在
9	和辻哲郎(3)	『風土』 - 「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	和辻哲郎(4)	主体としての風土
11	ブーバー(1)	『我と汝』
12	ブーバー(2)	「汝」としての世界
13	ブーバー(3)	ブーバー:我と汝の芸術論
14	哲学LAのまとめ	哲学のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。

プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』(一)、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』
復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックし、間違えた個所があればその点を中心にノートやプリントを振り返り、特に疑問などは次の時間に質問できるようにしておくこと。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点100%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎行行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PCが望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before, such as through the development of new technologies, something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

The purpose of this course is for students to have the experience of actually coming into the contact with the world of thoughts in famous works and to be able to express that experience.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests given every class (100%).

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

哲学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間的欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子をみます。

【到達目標】

受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業内で、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。小テストはその採点結果が模範解答付きで次の授業までに返され、さらに次の授業で解説される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学への導入
2	今西錦司(1)	生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
3	今西錦司(2)	生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として その2
4	アリストテレス(1)	自己形成的世界観としての形而上学
5	アリストテレス(2)	自己形成的世界観としての形而上学 その2
6	デカルト(1)	自己形成的世界観の展開としての近代哲学 近代化の原理としての主観客観二元論
7	デカルト(2)	デカルトの近代的世界観
8	デカルト(3)	近代的主客二元論
9	デカルト(4)	「近代的分裂」の予告としての近代的主客二元論
10	合理論と経験論	「近代化」と「近代的分裂」の原理としての主客二元論 近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	カントとヘーゲル(1)	カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	カントとヘーゲル(2)	カントのアンチノミー論
13	カントとヘーゲル(3)	ヘーゲルの弁証法的世界観
14	カントとヘーゲル(4)	ヘーゲルの弁証法的世界観その2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックし、間違えた箇所があればその点を中心にノートやプリントを振り返り、特に疑問などは次の時間に質問できるようにしておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点100%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PCが望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

The purpose of this course is for students to have the experience of actually coming into the contact with the world of thoughts in famous works and to be able to express that experience.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests given every class(100%).

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

哲学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学という難しいという印象があるかもしれないが、何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指しているが、善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、哲学を学ぶことが必要なのである。哲学はあらゆる学問の基礎である。学生は、何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大なる信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

【到達目標】

この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学LAでは、哲学の源である古代ギリシア哲学に遡って、哲学とは何か、その根本的な特徴を捉えた上で、哲学はその他の学問や科学とはどう異なるのか、また、なぜ哲学が必要とされるのかなどを探ってみたい。学生は、まずはオーソドックスな哲学の基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上での基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

今年度、この講義は、対面授業とオンライン授業を隔週で交互に行う予定です。どちらの場合も授業は基本的にプリントを用いた講義形式である。哲学者たちの生き方をめぐるエピソードなども交えながら、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義してゆく。補助資料によって著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、理解を深めてゆきたい。できるだけ、わかりやすい授業を目指す。オンラインの回は課題の提出を重視する。課題のコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。課題やコメントへのフィードバックは、対面授業の初めに行う予定。なお、教室収容定員を超過した場合は抽選を行うので、人数確認のために、履修を予定している人は第一回目までに（仮）登録をするように。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論	No.1, 授業の概略、足の裏に影はあるか？
2	哲学とは何か	No.2, 「哲学」という語の由来、用例～ペリクレスの演説
3	哲学の誕生	No.3, 「哲学」という語の用例2～知ることを欲する

4	哲学の出発点1	No.4, 無知の自覚と愛知, ソクラテスの死と哲学（歴史的背景）
5	哲学の出発点2	No.5, 無知の自覚と愛知
6	哲学の出発点3	No.6, 『ソクラテスの弁明』を読む
7	その他の出発点	No.7, その他の出発点、驚き、懐疑、絶望…
8	哲学とは何か・まとめ1	No.8, 愛の3つの対象と知への愛
9	哲学とは何か・まとめ2	No.9, 知への愛、学期末レポート1提出
10	哲学と科学1	No.10, 知についての考察
11	哲学と科学2	No.11, 部分と全体、現象と本質・法則と原理、仮説性の自覚と原理の探究
12	哲学と科学3	No.12, 分析と反省、知るものと知られるもの、薔薇の木に…
13	哲学と科学4	No.13, 事実と価値、手段と目的、対象の知と主体知、哲学と科学の相補性
14	哲学と科学、まとめ	学期末レポート2提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた著作を、実際に手に取って読んでみる。本授業の準備・復習時間、並びに毎回の課題の提出準備は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』内山 勝利、中川 純男、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1～5、中央公論新社

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40％）と、学期末試験（レポート）（60％）によって評価する。学期末のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

★ AI については、AI を用いた記述はもちろん、AI を自分の文章の修正に用いることも、疑わしい場合を含めて一切認めないので、AI を利用しないように注意すること。毎回、自分の言葉で書くこと。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさをじっくり伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面授業の場合、授業中の私語には厳しく対処し、板書の写メ、スマホも禁止してゆく。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの場合は、「学習支援」を通じて、資料の配布や課題の提出などを行うので、できるだけパソコンで「学習支援」を見たり、課題を提出したりできることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to sciences.

At the end of the course, students are expected to understand much better what philosophy is through the knowledge about the origins of Western philosophy.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report: 60%, Short reports: 40% and in-class contribution.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

哲学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学LBでは、「Ⅲ.哲学と宗教」、「Ⅳ.哲学と幸福」について考察する。宗教というと嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴らしい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることでもできるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探求する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと願っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？ 幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

【到達目標】

西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教について、付かず離れずに見る視点を確保することができるだろう。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つめようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」とことと「知る」とこととの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か？ どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか？ 古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知ることがいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

今年度、この講義は、対面授業とオンライン授業を隔週で交互に行う予定です。どちらの場合も授業は基本的にプリントを用いた講義形式で進める。まずは、哲学と宗教の根本的相違点である知と信の問題に触れる。その上で、ユダヤ教、キリスト教、ギリシア哲学者たちの神観などについて、補助プリントなども用いて概要を把握した上で、哲学と宗教との関わりについて考えたい。また、哲学者たちの生き方をめぐるエピソードなども交えながら、幸福をめぐる哲学を考えてゆく。できるだけ、わかりやすい授業を目指す。

オンラインの回は課題の提出を重視する。課題のコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。課題やコメントへのフィードバックは、対面授業の初めに行う予定です。なるべく哲学LAから取るようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序・哲学とは何か？、 復習	No.1, 哲学と科学と宗教の関係
2	哲学と宗教の相違点	No.2, 知の立場と信の立場
3	ユダヤ人とユダヤ教	No.3, ユダヤ人とは
4	ユダヤ人とユダヤ教	No.4, 旧約聖書とメソポタミア
5	キリスト教とは	No.5, キリスト教——愛の宗教
6	ギリシア哲学とキリスト教	No.6, 知と信の葛藤
7	現代における宗教の存在理由	No.7, 人間知性の偉大さとその限界
8	宗教心の源泉	No.8, パスカールとアウグスティヌス・自由意志と悪の問題
9	哲学と宗教、まとめ	No.9, 自力と他力——人間の強さと弱さについて, 学期末レポート1提出
10	哲学と幸福（善き生）	No.10, 幸福論——哲学とよき生, 幸福は知による
11	哲学と幸福（善き生）	No.11, 意志の弱さと選択の問題、無知と不幸
12	哲学と幸福（善き生）	No.12, 正義と幸福、善と快——ソクラテスの場合
13	哲学と幸福（善き生）	No.13, カリクレス説、ソクラテスの後継者たち
14	まとめと解説	学期末レポート2提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れて、興味を持った哲学者の著作を、自分で手に取って読んでみて下さい。本授業の準備・復習時間、並びに毎回の課題の提出準備は、各々2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』

内山 勝利、中川 純男著、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1～5、中央公論新社

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40％）と、学期末試験（レポート）（60％）によって評価する。毎回の課題を提出済みであること。学期末試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

★ AI については、AI を用いた記述はもちろん、AI を自分の文章の修正に用いることも、疑わしい場合を含めて一切認めないので、AI を利用しないように注意すること。毎回、自分の言葉で書くこと。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、じっくり楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさを伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面授業の場合、授業中の私語には厳しく対処し、板書の写メ、スマホも禁止してゆく。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの場合は、「学習支援」を通じて、資料の配布や課題の提出などを行うので、できるだけパソコンで「学習支援」を見たり、課題を提出したりできることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to religion. And also this course introduces the philosophical theory of eudaemonics (happiness) to students taking this course.

At the end of the course students will be able to understand the difference between philosophy and religion and find in what point the clear distinction should be made between them. Students, what is more important, will be able to find the key to understanding of happiness.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report: 60%, Short reports: 40% and in-class contribution.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

哲学 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：社会思想史

政井 啓子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期では、ヨーロッパ社会思想史における、古代ギリシャから近世までの基本的な諸思想を学びます。

「社会思想史」は、「人間と社会共同体との関係はどうあるべきか」という問題についての人類の探求の歴史です。

古代ギリシャから近世まで、哲学者たちは「自然本来の恒常不変な秩序」を探求していました。この「恒常不変な秩序」とは、人間にとって変更不可能なものであり、人間社会での、真偽・正不正・美醜善悪などを区別するための基盤となるものでもあります。探究の仕方は、知性主義あるいは感覚経験重視など、哲学者によって異なり、また「人間に認識可能な恒常不変な秩序というものはない」という相対主義や懐疑主義思想もあります。このような探究に基づいて、哲学者たちは多様な世界観と人間観を提示し、そして様々な望ましい社会のあり方を考えました。

本授業では古典にふれながら、順序正しく考えることの大切さ、常識や教科書的な通説とされる事柄を疑うということの重要性など、学生が人間の思考活動の豊かさを実感して、さらに自分の考えを具体的な表現で論理的に説明できるようになることを目指します。

【到達目標】

(1) 学生が、古典思想を学ぶことを通して、論理的な思考法と、「恒常不変な秩序」についての諸研究を理解する。

(2) 学生が、現代社会の諸問題についての冷静な分析力や判断力を養い、自分の考えをできるだけ明確にし、文章として表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式です。毎回、授業のレジュメと資料を配布し、それを元に解説します。

受講生には、授業後にリアクションペーパー（質問・感想・意見）を提出してもらい、次の授業でそのいくつかを匿名で紹介し、コメントします。学期中に小レポートを提出してもらいます（4～5回の予定）。期末試験は論述形式です。

オンライン授業は、Zoom使用（リアルタイム）でおこないます。

☆学習支援システムの「お知らせ」を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の概説	古代から近世までの思想の流れ。授業の進め方の説明
第2回	アテネ民主政時代の思想	「自然本来の秩序」と「人間社会の法」
第3回	プロタゴラスの思想（人間は万物の尺度である）	民主政と道徳的相対主義
第4回	ソクラテスの思想	愛知の精神。無知の自覚

第5回 プラトンのイデア論 「恒常不変であるもの」

第6回 プラトンの国家観 「理想国」と民主政への疑問

第7回 アリストテレスの思想 人間の幸福と社会共同体

第8回 ヘレニズム時代の思想 政治的自由の喪失と個人主義思想

第9回 ルネサンスの思想と科学革命 古代哲学の復興と「自然」の探究

第10回 デカルトの思想 1 「私は考える、ゆえに私は在る」

第11回 デカルトの思想 2 自然学（自然科学）の基礎付け

第12回 自然科学の発展 「科学」と「技術」と「社会制度」

第13回 自然法思想 「社会契約説」

第14回 春学期のまとめと期末試験 授業内筆記試験・まとめ末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業で配布する資料および授業内で紹介する文献を読んで、準備と復習をしてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

『社会思想史』（法政大学通信教育部 発行）。プラトンやアリストテレスやデカルトなどの哲学者の著作、その他の参考文献は授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容の理解度と上記「到達目標」の達成度によって評価します。大体の目安として、平常点（リアクションペーパー）25%、小レポート 25%、期末試験（論述式）50% です。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料を工夫し、授業内容をより理解しやすく伝えるよう努めます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces some fundamental thoughts in the history of European social thought from ancient Greece to the early modern period, to students taking this course. From ancient Greece to the early modern period, philosophers sought "the constant and unchanging order of nature." This unchangeable order of nature is also the basis for discriminating between right and wrong, good and evil, etc. in human society. Through such quests, philosophers expressed diverse opinions about the world and human beings, and devised various ideal social systems.

(Learning Objectives)

(1) The goals of this course are for students to understand logical thinking, and recognize researches on "constant and unchanging order", by learning classical philosophy.

(2) At the end of this course, students are expected to be able to calmly analyze various problems in modern society, clarify their thoughts and express them in logical sentences.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports: 25%, Reaction papers: 25%

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

哲学 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 由加里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、社会思想としての「フェミニズム」について考察することである。現代の日本社会において、ジェンダー格差が問題にされることは多い。メディアの報道で世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数のランキングなどを目にすることもある。「フェミニズム」は女性解放とジェンダー平等の実現を課題にしてきた社会運動であり、社会思想の一つである。本講義では、「フェミニズム」の歴史的意義と現代的価値について学び、現代社会に存在する具体的な問題、性暴力、セクシュアル・ハラスメントなどに対する考察と分析、対象方法などを考えることを目的としている。また、ジェンダー概念によって開かれた問題、性的マイノリティの権利問題などについても考察研究する予定である。

【到達目標】

社会思想に関する基本的な歴史を踏まえつつ、社会思想としての「フェミニズム」について論じられるようになることが本授業の目的である。歴史的な事象や現在世界および日本社会で起こっていることについての確かな情報の把握、学問的分析を行い、感情論ではない自分なりの見解を正しい知識の基づいて文章化できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、PowerPointを使った講義と映像資料などを活用し、ディスカッションとレポート（リアクションペーパー）作成によって構成される。レポートは、大学の「課題」提出システムを使ったデジタルでの提出を予定している。リアクションペーパーについては、講義内で講評し特に優れたものについては、授業中に匿名で紹介する予定である。資料などはプリントアウトしたものを教室で配布予定。

また、コロナ禍が収束せず、対面授業が不可能な場合は、以下のような形での講義形式になる。

【遠隔授業の場合】

PowerPoint ファイルに動画を載せた動画やインターネット上の動画視聴と課題によって、構成される。質問などについては、授業時間中に文字チャットで対応。Google のシステム、ハングアウトを利用。課題は、Hoppii のシステムを利用し個別に採点して返却。こちらへの参加は、大学から与えられているメールアドレスでの参加をすること。

「学習支援システムガイド」の「お知らせ」から、授業動画、参照動画へのリンク先を指示する。教材のところから、各自レジュメ、資料などをダウンロードして学習に役立てること。

動画の視聴可能期間は、1週間。課題提出も1週間後に設定予定。オンデマンドなので、動画は何度でも視聴可能。質問や文字チャットによる意見交換（自由参加）は、水曜日4限の授業時間中に行う。課題提出をもって、出席とする。

なお、授業計画内容は学生の理解度などによって前後したり別のものに差し替えられる可能性がある。「学習支援システム」のお知らせを毎回確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業説明及び社会思想とフェミニズムの関係について。	課題提出の方法、成績評価の認定、レポートのレベルや採点基準の説明。 簡単に講義全体のテーマについての説明を行う。課題の出題あり。
第2回	社会思想とはどのような学問か？（概論）	社会思想史という学問の歴史と対象領域についての基礎的なことについての講義を行う。
第3回	フェミニズムの歴史①	フェミニズム前史から第一波フェミニズムの成立まで。フランス革命から婦人参政権運動。
第4回	フェミニズムの歴史②	社会運動としての「フェミニズム」から第二波フェミニズム成立について歴史的経緯を学ぶ。
第5回	第二波フェミニズムの問題射程と現代社会	婦人参政権獲得後の「フェミニズム」の課題について学ぶ。アメリカとフランスの事例について。
第6回	日本におけるフェミニズム	「ウーマンリブ」とは何であったのか？ 第二波フェミニズムの日本への影響について。
第7回	フェミニズムとジェンダー概念	ジェンダー概念の意味と歴史的経緯を学ぶ
第8回	ジェンダーに対する社会的理解と誤解	日本の社会において「ジェンダー」という言葉がどのように使われてきたかを学ぶ。
第9回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題①	ジェンダー・アイデンティティについて学ぶ
第10回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題②	性的指向について学ぶ。いわゆる「LGBT」問題について考察する。
第11回	ジェンダー差別という問題設定	社会的不平等論と現代の日本社会について学ぶ
第12回	性暴力について	性暴力被害とはどのような「被害」であるのかを分析する。可能ならば動画の紹介をする。
第13回	社会問題としてのセクシュアル・ハラスメント	セクハラ問題の現状と分析
第14回	ジェンダー論とフェミニズムについて	フェミニズムは過去の社会思想なのかを問い直す。参考資料としての動画視聴と最終課題の提示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献、資料などを読み、どの知識が不足しているのかを確認し、各自補足すること。参考文献、参考資料などを読み込んでおいてほしい。

授業後については、授業時間内では十分な形で各種の資料を紹介出来ない。できる範囲で映像資料を視聴したり、配布された文章資料などの読解をすすめる努力をしてもらいたい。授業内で配布された参考文献リストなどに目を通し、学習を深めておこう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した授業レジュメ、デジタルデータは学習支援システム「教材」フォルダにPDFファイルもしくはjpgファイルの形でアップロードする。

【参考書】

『フェミニズム ワードマップ』江原 由美子（編集）、金井 淑子（編集）新曜社（1997/09）

『フェミニズムの歴史』ジャン・ラボー著 加藤康子訳新評論（1987/10）

『現代日本女性史—フェミニズムを軸として』鹿野政直 有斐閣（2004/07）

『女性解放思想史 ちくま学芸文庫』 水田珠枝 筑摩書房 (1994/05)
『フェミニズム (思考のフロンティア)』 竹村和子 岩波書店 (2000/10/20)

その他授業時、レジュメなどで参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」で出題されるレポート課題をすべてを提出することが必須である。提出されたレポート課題の内容から到達目標の達成度合いを判断して成績を評価をする。

レポートの評価は、課題提出の回数×取得点数/10＝総合点数→100点換算

として点数化

レポートもしくはテストは各回 10 点満点

＊課題の回数は学生の理解度と授業進度によって変わる。課題については授業時に詳細を発表するので、欠席した場合は各自情報を集めること。

レポート 80% 平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

定員未満の人数での教場利用だったが、多少息苦しさを感じた。人数が多いため細部に目が行き届かず、いねむりやサボりに対する配慮が難しかった。まじめに授業に取り組めるように環境面やコミュニケーションにあり方に配慮したいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出に「学習支援システム」を利用するのでレポート提出、文字チャットに耐えうる情報機器及び通信環境が必要。

【その他の重要事項】

この講義では、セクシュアリティについて語ることが多い。特に、第十二講、第十三講では、「性暴力」がテーマになる。PTSD、フラッシュバックなどを引き起こす可能性がある。心身の健康を考えて、受講を検討して欲しい。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to consider "feminism" as social thought. "Feminism" is a social movement, a social movement that has been a subject of the realization of liberation of women and gender equality. This lecture aims to learn about the historical importance and contemporary value of "feminism", to consider and analyze concrete problems existing in contemporary society.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to be able to gain knowledge about feminism as a social thought and write essays on modern gender issues.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to read references and materials to see what knowledge they lack and supplement themselves.

[Grading Criteria /Policies]

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports : 80%、in class contribution: 20%

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 L I

2017年度以降入学者

サブタイトル：ビジネスと倫理

上田 瑞季

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、応用倫理学の一分野であるビジネス倫理学 (business ethics) を学ぶ。その結果として、各学生が人生において重大なモラル・ジレンマ、倫理的ジレンマに対峙した際に、いかに対応すべきかを検討できるようになることを目指す。

【到達目標】

- (1) ビジネスと倫理 (学) の関係を自分なりに説明できる
- (2) 同一の物事・事柄に対して、多角的に把握かつ思考することができる
- (3) 功利主義・義務論・徳倫理学のそれぞれの理論的立場から事例を説明できる
- (4) ビジネスパーソンとしての良識・思考力・判断力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 授業形態：対面・講義形式（ただし、発言を求めることがある）
- 授業の進め方：講義＋小課題＋ディスカッション
- フィードバック：授業冒頭で、前回提出された小課題からいくつか取り上げる予定。
- 授業の課題：原則として、毎回課す予定。授業で取り上げた問題に対して、小課題を提出してもらう。思考を促し、自らの考えを言語化するスキルの向上を目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の概要・狙い・進め方・倫理学の重要性などを確認する
第2回	ビジネス倫理学とは何か	ビジネス倫理学とは何かを学ぶ
第3回	理論①：功利主義	ベンサム功利主義を学び、その視点から具体的な事例を考えてみる
第4回	理論②：義務論	カント倫理学を学び、その視点から具体的な事例を考えてみる
第5回	理論③：徳倫理学	アリストテレスおよび現代の徳倫理学を学び、その視点から具体的な事例を考えてみる
第6回	理論④：正義論	ロールズの正義論を学び、その視点から具体的な事例を考えてみる
第7回	理論⑤：ケアの倫理	ギリガンのケアの倫理を学び、その視点から具体的な事例を考えてみる
第8回	理論の振り返り・ピアレビュー	これまで学んだ理論を振り返りつつ、中間レポートを提出前に学生間で相互批評する
第9回	理論⑥：企業の社会的責任論	ストックホルダー理論・ステークホルダー理論について学ぶ

第10回	働くこと①：ブルシット・ジョブ	ブルシット・ジョブとは何かを学ぶ
第11回	働くこと②：ブラックバイト・グレーバイト・闇バイト	ブラックバイト・グレーバイト・闇バイトのもつ倫理的問題について考える
第12回	応用①：内部告発・公益通報	三大理論を用いて、内部告発の問題について考える
第13回	応用②：マーケティング・広告	三大理論を用いて、広告炎上の問題について考える
第14回	まとめ・試験	これまでの授業を振り返り、理解を深める（授業内試験を予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ジョセフ・R. デジタルダン『ビジネス倫理学入門』（文京学院大学グローバル・カリキュラム研究会訳）、文京学院大学総合研究所、2014年。
梅津光弘『ビジネスの倫理学』、丸善出版、2002年。
高浦康有・藤野真也（編）『理論とケースで学ぶ 企業倫理入門』、白桃書房、2022年。
中谷常二（編）『ビジネス倫理学読本』、晃洋書房、2012年。
トム・L. ビーチャム&ノーマン・E. ボウイ（編）『企業倫理学』、晃洋書房、第1巻（2004年）～第4巻（2017年）。
佐藤方宣（編）『ビジネス倫理の論じ方』、ナカニシヤ出版、2009年。
田中朋弘・柘植尚則（編）『ビジネス倫理学 哲学的アプローチ』ナカニシヤ出版、2004年 など

【成績評価の方法と基準】

小課題などの平常点（20％）＋中間レポート（40％）＋期末試験またはレポート（40％）。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標60％以上に達した場合を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・最初は文章が書けなくて小課題に取り組むのが大変だったが、続けていくうちに論理的に文章を書けるようになったという声が多かった。毎回小課題が課される授業だと思って履修していただきたい。
・グループワークやディスカッションのおかげで、同じ問題に対して他の学生がどのように考えているかを学べたというフィードバックが多かったため、引き続きその時間を設けていきたい。
・私語する学生が少なく、集中しやすい授業だったという声が多数あった。今年度もそのような授業運営・雰囲気作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って、事前に学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

学生の要望や状況により、シラバスの内容が一部前後したり変更したりする場合があります。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will focus on business ethics, a branch of applied ethics, and learn the basic concepts of ethics. The goals of this course are to acquire basic knowledge of ethics, and to be able to consider how to respond when you face with a serious moral dilemma (ethical paradox or moral dilemma) in life. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports:20, Midterm report:40, Term-end examination:40.

PHL200LA (哲学/Philosophy 200)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：未来倫理

上田 瑞季

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、応用倫理学の一分野である未来倫理（Zukunftsethik）を学ぶ。その結果として、私たち現代世代が来たる未来世代に対して、どのような「道徳的責任」を担っているのかを検討できるようになることを目指す。

【到達目標】

- (1) 未来と倫理（学）の関係を自分なりに説明することができる
- (2) 同一の物事・事柄に対して、多角的に把握かつ思考することができる
- (3) 倫理学の理論的立場から事例を説明できる
- (4) 私たちが担っている未来世代への「道徳的責任」について考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 授業形態：対面・講義形式（ただし、発言を求めることがある）
- 授業の進め方：講義＋小課題＋ディスカッション
- フィードバック：授業冒頭で、前回提出された小課題からいくつか取り上げる予定。
- 授業の課題：原則として、毎回課す予定。授業で取り上げた問題に対して、小課題を提出してもらう。思考を促し、自らの考えを言語化するスキルの向上を目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の概要・狙い・進め方・倫理学の重要性などを確認する
第2回	未来倫理とは何か	未来倫理・世代間倫理について考える
第3回	理論①：功利主義	パ・フィットの功利主義を理解する
第4回	理論②：正義論	ロールズの正義論を理解する
第5回	理論③：ケアの倫理	ギリガンのケアの倫理を理解する
第6回	理論④：責任原理	ヨナスの責任原理を理解する
第7回	理論⑤：討議倫理	アーペルの討議倫理を理解する
第8回	理論⑥：共同体主義	デ・シャリートの共同体主義を理解する
第9回	理論⑦：反出生主義	ベネターの反出生主義を理解する
第10回	理論の振り返り・ピアレビュー	これまで学んだ理論を振り返りつつ、中間レポートを提出前に学生間で相互批評する
第11回	事例①：気候変動	これまで学んだ理論を用いて、気候変動の問題について考える
第12回	事例②：放射性廃棄物処理	これまで学んだ理論を用いて、放射性廃棄物処理の問題について考える

- 第13回 事例③：ゲノム編集 これまで学んだ理論を用いて、ゲノム編集の問題について考える
- 第14回 まとめ・試験 これまでの授業を振り返り、理解を深める（授業内試験を予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年。
戸谷洋志『未来倫理』、集英社新書、2023年。
戸谷洋志『ハンス・ヨナス 未来への責任』、慶応義塾大学出版会、2021年。
戸谷洋志『ハンス・ヨナスの哲学』、角川ソフィア文庫、2022年 など

【成績評価の方法と基準】

小課題などの平常点（20％）＋中間レポート（40％）＋期末試験またはレポート（40％）。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標60％以上に達した場合を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・最初は文章が書けなくて小課題に取り組むのが大変だったが、続けていくうちに論理的に文章を書けるようになったという声が多かった。毎回小課題が課される授業だと思って履修していただきたい。
・グループワークやディスカッションのおかげで、同じ問題に対して他の学生がどのように考えているかを学べたというフィードバックが多かったため、引き続きその時間を設けていきたい。
・私語する学生が少なく、集中しやすい授業だったという声が多数あった。今年度もそのような授業運営・雰囲気作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って、事前に学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

学生の要望や状況により、シラバスの内容が一部前後したり変更したりする場合があります。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will focus on ethics of/for the future, a branch of applied ethics, and learn the basic concepts of ethics. The goals of this course are to acquire basic knowledge of ethics, and to be able to consider moral responsibility we take for future generations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:20, Midterm report:40, Term-end examination:40.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 L I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、おもに人の生命誕生に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学ぶ。

【到達目標】

いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自ら思索を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルが1の場合は、オンライン授業と対面授業を併用する。レベルが2となった場合は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	倫理学の基本概念	倫理学とはどのようなことを研究対象とする学問なのか、倫理学全般に関して説明する。
第2回	規範倫理学・記述倫理学・メタ倫理学	倫理学の3つのレベルについて、その概要を説明する。
第3回	バイオエシックスの誕生	1970年代に米国においてバイオエシックスが誕生した背景を解説する。
第4回	バイオエシックスの諸問題	バイオエシックスにおいて取り扱われるテーマを解説する。
第5回	倫理的価値としての生命	生命や健康は価値あるものとされているが、それはいかなる理由からかを考える。
第6回	生命の誕生と人工妊娠中絶の問題	生殖に関する生命倫理問題を考察する。
第7回	人口抑制と環境問題	生殖に関する生命倫理問題と人口問題や環境問題との関係を考察する。
第8回	「自然」とは何か	倫理問題を考えるうえで「自然」という概念がいかなる意味を持つのかを解説する。
第9回	優生思想	優秀な子孫を残し劣った子孫の出生を防止するという「優生思想」に関する問題を解説する。

第10回 社会ダーウィニズムと人種主義 優生思想と社会ダーウィニズムとの関係を解説し、ナチズムにおける位置づけを考察する。

第11回 人工授精と体外受精 具体的な生殖医療における生命倫理問題を概観する。

第12回 ウォーノック報告と自由主義 英国のウォーノック報告の基本的考え方を解説し、生命倫理学における自由主義について考察する。

第13回 凍結保存の倫理的意味 配偶子や受精卵の凍結保存の持つ意味とそれによってもたらされる倫理的問題を考察する。

第14回 まとめ ※別途期末レポートを提出 これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業内容に関するテキストの該当箇所を一読しておくこと。またプリントやノートを用いて授業内容について復習し、自分自身の思索を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストとして今井道夫『生命倫理学入門 [第5版]』（産業図書）を使用し、他に資料を配付する。

【参考書】

授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（70％） 期末レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will focus on bioethical issues concerning the birth of people and learn the basic concepts of ethics.

The goals of this course are to acquire basic knowledge of ethics and to deepen your thoughts through specific bioethical issues. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:70,Term-end examination:30.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、おもに人の死に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学ぶ。

【到達目標】

いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自らの思索を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	倫理的観点から見た「人の死」	人の死とはどのようなことかをあらためて生命倫理学の視点から考察する。
第2回	脳死に関する倫理的諸問題	脳死とはどのような状態を確認し、生命倫理学においてどのような問題を孕んでいるのかを概観する。
第3回	臓器移植と功利主義	臓器移植という医療が、功利主義的な考え方によってどのように正当化されるかを具体的に考察する。
第4回	功利主義の問題	功利主義とはどのような考え方を確認し、その問題点を明らかにする。
第5回	義務論と目的論	功利主義を義務論と対比し、義務論的な考え方について概観する。
第6回	幸福加算の可能性	「最大多数の最大幸福」を原則とする功利主義が前提とする幸福計算の可能性について考察する。
第7回	社会的コンセンサスの倫理的意味	合意形成の可能性について倫理的視点から考察する。
第8回	安楽死・尊厳死・自然死	安楽死とはどのようなことかを解説し、安楽死に関する生命倫理問題を概観する。
第9回	生命の質	安楽死容認の根拠とされる考え方を考察する。

第10回	パターナリズム	自律原理に基づく医療とは対置されるパターナリズムの内容とその問題点を明らかにする。
第11回	自己決定の問題	安楽死の根拠とされる自律原理に関わる問題を明らかにする。
第12回	「判断能力」の有無	自己決定権行使の前提となる「判断能力」について、その内容を考察するとともに、問題とされる具体的事例を考察する。
第13回	「人格」概念	人間とはいかなる存在かをパーソン論の観点から考察する。
第14回	まとめ ※別途期末レポートを提出	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業内容に関するテキストの該当箇所を一読しておくこと。また授業内容について復習し、自分自身の思索を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストとして今井道夫『生命倫理学入門【第5版】』（産業図書）を使用し、他に資料を配付する。

【参考書】

授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（70％） 期末レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will focus on bioethical issues concerning human death and learn basic concepts of ethics.

The goals of this course are to acquire basic knowledge of ethics and to deepen your thoughts through specific bioethical issues. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:70,Term-end examination:30.

PHL200LA (哲学/Philosophy 200)

倫理学 L I

2017年度以降入学者

サブタイトル：情報通信社会における倫理

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報社会の倫理は、現代の情報社会の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学です。そのため、この授業では、グローバルな情報社会において生じている具体的な倫理的問題をいくつも取り上げながら、その問題に対して倫理的にどのように対応していくべきかを各学生がそれぞれの立場で考察できるようにします。

倫理学 L I では、情報社会における倫理的問題の中でも、特に「ネットにおけるコミュニケーション」、「メディア・リテラシー」、「情報技術とセキュリティ」、「インターネットと犯罪」「個人情報と知的財産」、「SNSと情報モラル」などインターネット社会を生きるための情報倫理に関連する諸問題を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが、グローバルな情報社会の中で、一個の人間としてどのように生きるべきかを倫理的に考察することを目指します。その中で、様々な倫理的問題を解決する実践的・応用的な知を獲得することを目指します。また、様々な倫理的問題と対峙した際に必要となる思考力と判断力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。原則対面授業を行います。ただし、「オンライン授業による教育効果が高い場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7回以下）で、オンライン授業を実施する場合もあります。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、学習支援システムより通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報と情報社会と情報倫理	授業ガイダンスを行う。また、情報と情報社会と情報倫理についての概説も行います。
第2回	情報通信社会とインターネット	情報通信社会とインターネットの進化と変遷を概観し、その中で生じてきた倫理的問題について検討します。
第3回	ネット時代のコミュニケーション	ネットにおけるコミュニケーションとマナーについて倫理的に検討します。

第4回	メディアの変遷とメディア・リテラシー	メディアの変遷とメディア・リテラシーについて倫理的に検討します。
第5回	情報技術とセキュリティ	情報セキュリティとネット被害の問題を倫理的に検討します。
第6回	インターネットと犯罪	ネット社会におけるトラブルと犯罪について倫理的に検討します。
第7回	個人情報とプライバシー	個人情報の流出と保護の問題について倫理的に検討します。
第8回	知的所有権とコンテンツ	知的財産の問題と知的財産権について倫理的に検討します。
第9回	企業と情報倫理	企業の社会的責任や企業倫理について倫理的に検討します。
第10回	科学技術と倫理	科学技術と倫理の問題や技術者倫理について検討します。
第11回	デジタルデバイドとユニバーサルデザイン	デジタルデバイドの問題とユニバーサルデザインについて倫理的に検討します。
第12回	SNSと情報モラル	ソーシャルネットワークサービス（SNS）と情報モラルについて倫理的に検討します。
第13回	情報社会とリテラシー	情報社会を生き抜くリテラシーについて倫理的に検討します。
第14回	まとめ	まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を読み、分からなかった部分についてはノートに抜き書きするなどして、問題意識を持った上で授業に臨んでください。

受講後は、不明点を理解できたかどうか復習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にテキストは使用しません。授業のテーマに関係する資料を共有します。

【参考書】

- ・高橋慈子他著『情報倫理—ネット時代のソーシャル・リテラシー』（技術評論社）
- ・情報教育学研究会『インターネット社会を生きるための情報倫理（改訂版）』（実務出版）
- ・勢力尚雅編著『科学技術時代の倫理学』（梓出版社）
- ・大黒岳彦『情報社会の〈哲学〉—グーグル・ビッグデータ・人工知能』（勁草書房）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、学習支援システム上から毎回の授業課題を提出してもらう。また期末にレポートを提出してもらいます。以上の2点を総合して評価します。

評価の比率は、課題60%、期末レポート40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては学習支援システムより通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

積極的・意欲的な態度で授業に臨んでもらいたいです。

倫理学 L II も併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】

Ethics of information society is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in modern information society. From this reason, in this class, we will take up a variety of ethical issues arising from global information society, and consider a ethical reaction to those.

In this class, we aim to ethically consider how we, who live in the present age, should live as one person in the global information society.

Study times outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、Short reports : 60%

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：来るべき情報通信社会における倫理

杉本 隆久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報社会の倫理は、現代の情報社会の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学です。そのため、この授業では、グローバルな情報社会において生じている具体的な倫理的問題をいくつも取り上げながら、その問題に対して倫理的にどのように対応していくべきかを各学生がそれぞれの立場で考察できるようにします。

倫理学Ⅱでは、〈身体〉というパースペクティブから、特に「人工知能（AI）」、「ロボット、アンドロイド、サイボーグ」という問題を中心に、他にも「技術的特異点（テクノロジカル・シンギュラリティ）」、「2045年問題」、「Google」、「ビッグデータ」、「SNS」、「ウェアラブル」など現代を生きるための情報社会に関連する様々な倫理的問題を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが、グローバルな情報社会の中で、一個の人間としてどのように生きるべきかを倫理的に考察することを目指します。その中で、様々な倫理的問題を解決する実践的・応用的な知を獲得することを目指します。また、様々な倫理的問題と対峙した際に必要となる思考力と判断力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。原則対面授業を行います。ただし、「オンライン授業による教育効果が高い場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7回以下）で、オンライン授業を実施する場合もあります。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、学習支援システムより通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報社会と2045年問題	授業ガイダンスを行う。また、情報社会と技術的特異点の問題についての概説も行います。
第2回	技術的特異点という倫理学的問題（1）— 切迫の状況と指数関数的な爆発	技術的特異点という倫理学的問題について検討します。

第3回	技術的特異点という倫理学的問題（2）— 来るべき未来と終末論	技術的特異点という倫理学的問題について検討します。
第4回	マスメディアの終焉とメディア史観	マスメディアの終焉とメディア史観について倫理的に検討します。
第5回	メディアリテラシーとメディアオロジー	メディアオロジーについて解説し、メディアオロジーの観点からメディアリテラシーを批判的に検討します。
第6回	グーグルによる「汎知」の企図と哲学の終焉	「汎知」の思想史を概観しながら、「グーグル」という問題について倫理的に検討します。
第7回	人間をつくり変える？	クローン、サイボーグ、アンドロイドをめぐる倫理的問題について検討します。
第8回	ロボットから倫理を考える（1）	ロボットをめぐる倫理的問題について検討します。
第9回	ロボットから倫理を考える（2）	ロボットにおける倫理は可能かという観点から、倫理の根拠について検討します。
第10回	身体から考える情報通信社会における倫理（1）	スピノザと身体の哲学について倫理的に検討します。
第11回	身体から考える情報通信社会における倫理（2）	ニーチェと身体の哲学について倫理的に検討します。
第12回	身体から考える情報通信社会における倫理（3）	メルロ＝ポンティと身体の哲学について倫理的に検討します。
第13回	ニヒリズムと人間の終焉とポスト・ヒューマンの倫理学	ニヒリズムと人間の終焉とポスト・ヒューマンの倫理学についてフォーコーのパースペクティブから検討します。
第14回	まとめ	まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を読み、分からなかった部分についてはノートに抜き書きするなどして、問題意識を持った上で授業に臨んでください。

受講後は、不明点を理解できたかどうか復習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にテキストは使用しません。授業のテーマに関係する資料を共有します。

【参考書】

- ・ニック・ボストロム著『スーパーインテリジェンス 超絶AIと人類の命運』（日本経済新聞出版社）
- ・レイ・カーツワイル著『ポスト・ヒューマン誕生 コンピュータが人類の知性を超えるとき』（NHK出版）
- ・大黒岳彦著『情報社会の〈哲学〉—グーグル・ビッグデータ・人工知能』（勁草書房）
- ・ジャン＝ガブリエル・ガナシア著『そろそろ、人工知能の真実を話そう』（早川書房）
- ・三宅陽一郎著『人工知能のための哲学塾』（BNN新社）
- ・久木田水生他著『ロボットからの倫理学入門』（名古屋大学出版会）
- ・岡本裕一郎著『12歳からの現代思想』（ちくま新書）
- ・松田卓也著『2045年問題 コンピュータが人類を超える日』（廣済堂新書）
- ・松尾豊著『人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの』（角川EPUB選書）
- ・弥永真生他編『ロボット・AIと法』（有斐閣）
- ・岡本裕一郎著『人工知能に哲学を教えたら』（SB新書）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、学習支援システム上から毎回の授業課題を提出してもらう。また期末にレポートを提出してもらいます。以上の2点を総合して評価します。

評価の比率は、課題60%、期末レポート40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、学習支援システムより通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

積極的・意欲的な態度で授業に臨んでもらいたいです。
倫理学L I も併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】

Ethics of information society is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in modern information society. From this reason, in this class, we will take up a variety of ethical issues arising from global information society, and consider a ethical reaction to those.

In this class, we aim to ethically consider how we, who live in the present age, should live as one person in the global information society.

Study times outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、Short reports : 60%

PHL200LA (哲学/Philosophy 200)

倫理学Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

伊藤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のテストにおいて、それを行なってもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業で行う。資料を配付し、それに沿って講義をする。講義終了後、コメントカードを書いてもらう。次の授業では、最初にそのコメントカードに対してリアクションしながら復習をして、当日の内容に入ってゆく。このパターンで授業を進める。

学期中に2度ほど「哲学対話」を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに：問題設定	単位取得方法、および講義の概要についての説明；他者という問題。なぜ「他者」が問題なのか。
第2回	デカルトの他者論（その1）	デカルト哲学の紹介
第3回	デカルトの他者論（その2）	デカルトの他者論（コギト、神の存在証明）
第4回	デカルトの他者論（その3）	それまでの議論を振り返りつつ、あらためてデカルトにおける他者の不在について考察する。
第5回	フッサールの他者論（その1）	フッサール哲学の紹介
第6回	フッサールの他者論（その2）	フッサールの他者論へ 問主観性・共現前という問題
第7回	フッサールの他者論（その3）	フッサールの他者論の問題点と可能性（自己移入論、超越論的問主観性という立論）
第8回	デイルタイの他者論（その1）	デイルタイの思想の紹介
第9回	デイルタイの他者論（その2）	デイルタイの解釈学
第10回	デイルタイの他者論（その3）	デイルタイの他者論
第11回	サルトルの他者論（その1）	サルトル哲学の紹介

第12回	サルトルの他者論（その2）	サルトルの他者論（対他存在について）
第13回	サルトルの他者論（その3）	サルトルの他者論から見た人間存在の諸相
第14回	レポートについての説明	レポートの書き方、内容について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業毎に、資料を配付する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席は、授業形態に関わらず2／3以上参加してください。

学期末のレポート（65％）と授業への積極的な貢献度〔コメントカードの記述など〕（35％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答をします。

コメントペーパーを見ていると、4月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

「L」の付いている授業なので、内容は発展的で、やや高度な場合もあります。受講のさい、その点は注意してください。

【Outline (in English)】

This course deals with the relation between self and the Other. Specifically, we inquire will analyze the concept of the Other. By taking this course, students acquire an understanding of the knowledge about the significance of the Other in ethics. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (65%), and in-class contribution (35%)

PHL200LA (哲学/Philosophy 200)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

伊藤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のテストにおいて、それを行なってもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず、他者論の問題設定の発生を明らかにして、そのうえで、サルトル、和辻哲郎、M・ブーバー、E・レヴィナスなどが、その問題をどのように考えているかを見てゆく。

基本的に講義形式を取るが、内容に応じて映像資料なども用いる。また、受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足してゆく。

2回ほど「哲学対話」を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	単位取得方法、および講義の概要についての説明
第2回	問題設定	他者という問題（デカルト、カント、フッサールの問題設定）
第3回	和辻哲郎の倫理学（その1）	和辻哲郎という人物、「面とペルソナ」について
第4回	和辻哲郎の倫理学（その2）	和辻倫理学の主要論点（個と全体、二人共同体）
第5回	和辻哲郎の倫理学（その3）	和辻倫理学の問題点
第6回	M・ブーバーの思想（その1）	ブーバーという人物、「わたし-きみ」「わたし-それ」
第7回	M・ブーバーの思想（その2）	ブーバーの人間観
第8回	M・ブーバーの思想（その3）	ブーバーの思想の問題点、E・レヴィナスによる批判
第9回	ハイデガーの他者論（その1）	ハイデガー哲学の紹介
第10回	ハイデガーの他者論（その2）	顧慮の気遣い、本来的な他者
第11回	E・レヴィナスの他者論（その1）	レヴィナス哲学の紹介
第12回	E・レヴィナスの他者論（その2）	レヴィナスの他者論（顔、他者）

第13回 アーレントの他者論 アーレントの他者論

第14回 レポートについての説明 レポートのテーマ、書き方についての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業毎に、資料を配付する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席は、授業形態に関わらず2/3以上参加してください。

学期末のレポート（70%）と授業への積極的な貢献度[コメントカードの記述など]（30%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答をします。

コメントペーパーを見ていると、9月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

「L」の付いている授業なので、内容は発展的で、やや高度な場合もあります。受講のさい、その点に注意してください。

【Outline (in English)】

This course deals with the relation between self and the Other. Specifically, we inquire will analyze the concept of the Other. By taking this course, students acquire an understanding of the knowledge about the significance of the Other in ethics. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 L I

2017年度以降入学者

サブタイトル：〈いのち〉への問い

田島 樹里奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）（life）とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。とりわけ本授業では、「幸福とは何か」を出発点としながら、人間の生／死、人格、医療（技術）に焦点を当てながら、私たち人間とはどのような存在であるかをじっくり倫理的な視点から考え直していきたい。現代では、自然界に生まれた生命に科学技術が介入することは当たり前であるが、人工授精・体外受精、デザイナーベビー、人工妊娠中絶、臓器移植、延命治療など、現代社会でよく耳にするこれらの人工的な生命操作は、自然の摂理という観点から見れば反自然的な行為と言える。だからと言って、私たちは簡単に善悪の判断を下すことはできない。日々の日常生活のうちには、こうした論理や合理性だけでは解決し難い問題がたくさんある。

「いのち」の問題は、私たちが生きていく中で、いずれどこかで関わる身近な問題であり、避けては通ることのできない重要な問題である。本授業では、具体的な事例や現代的な問題を取り上げながら、命（生と死）・医療・科学技術などについて、今一度考え直すきっかけを提供し、共に考えていきたい。

【到達目標】

① 生命、死、存在、医療、QOLなどの言葉を相互に関連づけながら思考する力を身につける。
 ② 生命倫理学の多様な価値観を学ぶことで、様々な立場の考え方を多角的に把握する力を身につける。
 ③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。
 本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

(1) Acquire the ability to think about life, death, existence, medical care, QOL, and other terms while relating them to each other.

(2) By learning the various values of bioethics, students will acquire the ability to grasp the ideas of various positions from multiple perspectives.

(3) Learn how to construct academic theories, and acquire the ability to academically analyze their own awareness of issues. The ultimate goal of this class is not only to acquire knowledge of bioethics, but also to cultivate a broader perspective and deep thinking skills as an individual.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

* 講義

* 毎回、授業後にコメントシートを提出。

* 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	生命倫理学とは？ 生命に科学技術が介入することの意味
第2回	バイオエシックスの成立(1)	善く生きるとは 近代的自由の成立と人権概念
第3回	バイオエシックスの成立(2)	アメリカにおける社会的・政治的背景 社会変動と幸福感の変化
第4回	幸福とは何か	「幸福」はどのように決まるか？
第5回	功利主義(1)：幸福は計算可能か	「最大多数の最大幸福」 平等の原理は存在するか？
第6回	功利主義(2)：個人の自由と社会道徳	個人の幸福追求と社会の幸福追求 「生命の質」か「生命の尊厳」か
第7回	人間の生命と人格	エンゲルハートの人格概念 胎児に人格はあるか？
第8回	優生思想と人工妊娠中絶	優生保護法と母体保護法 人工妊娠中絶は殺人か？
第9回	中絶問題と女性の権利	中絶問題の歴史 米国で揺れ動く中絶権利
第10回	命は誰のものか	医療とバタナリズム 患者の権利と医師の義務
第11回	医療と倫理	医学者たちの人体実験
第12回	伝える義務と知る権利	医療とインフォームド・コンセント 情報開示と自己決定権
第13回	尊厳死/安楽死とは	安楽死を考える 私たちに死ぬ権利はあるのか
第14回	医療の倫理と法	医療技術の進歩と医療現場 医療事故と医療過誤

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

今井道夫『生命倫理学入門（5版）』産業図書、2024年。
 中村元『構造倫理講座Ⅲ〈生命〉の倫理』春秋社、2021年。
 伏木信治『生命倫理と医療倫理：改訂4版』金芳堂、2020年。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（60%）、期末試験またはレポート（40%）

リアクションペーパーの提出をもって出席扱いとしますが、ただ提出しているだけの人は評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています。（リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではありません。受講して各自で考えたことを毎回書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために行っています）

Reaction papers for each class (60%), final exam or report (40%)

Submission of reaction papers will count as attendance, but those who just submit them may not be evaluated. In this course, the emphasis is on taking the class while thinking proactively.(The reaction paper is not as hard as a report, but is designed to develop your ability to think and to train you to put your thoughts into words by asking you to write what you have thought about each time you take the course.)

【学生の意見等からの気づき】

基礎から学ぶので、倫理学を受けたことのない人でも関心を持って受講することで、少しずつ理解でき、視野が広がってくると思います。また、受講者のコメントシートを紹介することで、同世代の人たちの色々な考え方を知ることができ、良い刺激になると思います。

Even if you are new to the subject of ethics, don't worry because you can gradually deepen your understanding and get used to it in each class. (Basically, this class is for first-time students)

【その他の重要事項】

受講生の希望や状況に応じて、シラバスの内容が前後したり、多少変更する場合があります。

* 人数が極端に多い場合には、受講者数を制限することがあります。
* 真面目に受講したい人にとって迷惑になる行為（私語・遅刻の常習など）は、注意や減点の対象になります。基本的には楽しく授業をしたいので、メリハリを付けられない人は、本授業の受講はご遠慮願います。

【Outline (in English)】

This course is an introduction and survey course in Bioethics. The purpose of this course is introduce students to bioethics through critical thinking contemporary issues. Through this course, students will be given not only the knowledge and comprehension of relationship between biotechnology and ethics, but also the opportunity to focus on their life and death. Students will first be introduced the history of ethics, foundational theories in bioethics, and the basic concepts and theoretical framework of bioethics.

Topics will include: what is happiness, health-care, responsibility, system of value, informed consent, death and dying, and the issue of beginning of life(on abortion, designer baby, prenatal testing etc.).

Through this course, students will be able to think carefully and to express their own views more clearly through their own positions on bioethical/medical issues.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：〈いのち〉と科学を考える

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）(life) とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。とりわけ本授業の後半では、宗教の視点から生命倫理を考察することにより、様々な宗教的思想を背景にした死生観と生命倫理観を学んでいく。そもそも宗教は生死と密接に関わり、それぞれの仕方で「あの世／この世」「現世／来世」を語ってきた。本授業ではこれら全てを網羅することはできないが、私たちが今・ここで生きることの意義や、死や死後を考察するための手掛かりとして、それぞれの宗教的思想の意義を検討していきたい。

倫理学という学問領域は、私たちの日常生活や生きること・死ぬことに直接関わる部分を含んでいる。それゆえ本授業を通じて、受講生各自が関心を持ったテーマに対して、積極的にアプローチをすることで、それぞれの興味・関心を深めていながら、死生観や生命観を構築し、さらに倫理的な問題意識を持って学問的に掘り下げてもらいたい。

以上の観点をもって、受講生各自が本授業を通して、私たち人間とはどのような存在であるか、生きるとは、死ぬとはどういうことなのかをじっくり倫理的な視点から考え直していくきっかけを提供し、共に考えていきたい。

【到達目標】

① 生命、死、人格、医学、宗教などの言葉を、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。

② 多様な生命の在り方や、宗教的思想を背景とした多様な価値観を学ぶことで、様々な立場から生命倫理を考える力を身につける。

③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。

本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

1) Acquire the ability to think about life, death, personality, medicine, religion, and other terms while relating them to each other in one's mind.

2) To acquire the ability to think about bioethics from various perspectives by learning about various ways of life and various values based on religious thought.

(3) Learn how to construct academic theories, and acquire the ability to academically analyze their own awareness of the issues.

The ultimate goal of this class is not only to acquire knowledge of bioethics, but also to cultivate a broader perspective and deep thinking ability as an individual.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたりしながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

* 講義

* 毎回、授業後にコメントシートを提出。

* 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	生命倫理学とは バイオエシックスの成立
第2回	生命の誕生と倫理(1)	日本人の生命倫理観の変化 生殖医療とは
第3回	生命の誕生と倫理(2)	生殖技術の発展と拡大 人工授精の歴史と現状
第4回	生命の誕生と生殖医療	不妊治療の実態 性教育不足による社会問題化
第5回	生殖技術の倫理(1)	代理母の在り方 出自を知る権利
第6回	生殖技術の倫理(2)	精子バンク問題とインターネット取引
第7回	遺伝子と生命倫理(1)	再生医療とクローン技術 「全能性」とは
第8回	遺伝子と生命倫理(2)	遺伝子とDNA デザイナーベビーとは
第9回	遺伝子と生命倫理(3)	遺伝子組み換えとゲノム編集
第10回	ジェンダーと生命倫理(1)	ジェンダー概念と社会変容 「家族」のあり方を再考する
第11回	ジェンダーと生命倫理(2)	性転換手術と医療倫理 自然界の性転換と人工的性転換の問題
第12回	宗教と生命倫理(1)	「宗教」とは 宗教的価値観と倫理的判断
第13回	宗教と生命倫理(2)	神道における死後観と人間観 臓器移植問題の捉え方
第14回	宗教と生命倫理(3)	ヒンドゥー教の死生観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

今井道夫『生命倫理学入門（5版）』産業図書、2024年。
中村元『構造倫理講座Ⅲ〈生命〉の倫理』春秋社、2021年。
伏木信治『生命倫理と医療倫理：改訂4版』金芳堂、2020年。
小松美彦、土井健司編『宗教と生命倫理』ナカニシヤ出版、2005年。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（60%）、期末試験またはレポート（40%）

リアクションペーパーの提出をもって出席扱いとしますが、ただ提出しているだけの人は評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています。（リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではありません。受講して各自で考えたことを毎回書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために行っています）

Reaction papers for each class (60%), final exam or report (40%)

Submission of reaction papers will count as attendance, but those who just submit them may not be evaluated. In this course, the emphasis is on taking the class while thinking proactively.(The reaction paper is not as hard as a report, but is designed to develop your ability to think and to train you to put your thoughts into words by asking you to write what you have thought about each time you take the course.)

【学生の意見等からの気づき】

倫理学L1から継続して受講すると理解しやすく、知識も深まります。
(倫理学L2を受講した後に、次年度の倫理学L1を受講することも可能です。)

It is recommended that students take Ethics LI before taking this course for better understanding.

We do not recommend this course to those who just want to get credits. This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.

【その他の重要事項】

受講生の希望や状況に応じて、シラバスの内容が前後したり、多少変更する場合があります。

* 人数が極端に多い場合には、受講者数を制限することがあります。

* 真面目に受講したい人にとって迷惑になる行為（私語・遅刻の常習など）は、注意や減点の対象になります。基本的には楽しく授業をしたいので、メリハリを付けられない人は、本授業の受講はご遠慮願います。

【Outline (in English)】

This course is intended to develop student's understanding of ethical issues of bioethics and medical care. Especially, this course will focus upon major bioethical issues which related to artificial insemination, genetic testing and human right. In addition, the second half of this course, we will explore various ethical problems within several religious traditions. Through comparison of bioethical perspectives on selected themes, students will be able to recognize the interconnections between bioethical issues and religious system. This course will help students to develop the ability to analyze diverse perspective and to recognize the importance of ethical considerations.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

2020年から2023年にかけて、新型コロナウイルス感染の爆発的流行（パンデミック **pandemic**）に、全世界が巻き込まれた。確かに、一時期の爆発的流行は収まり、2025年現在では、確かに新型コロナウイルスに対して、「普通の感染症」のレベルまで終息した。その一方で、やはりコロナ感染の後遺症で苦しむ人は存在する。感染症といえば、若者を中心に「性感染症」、特に「梅毒」が飛躍的に感染を拡大させている。社会がますます多様化し、グローバルな交流が拡大し、個人レベルも社会レベルも倫理観やモラル（道徳性）に対する意識が希薄になった可能性も否定できない。ある意味で、私たちの社会の「道徳性」の弱さが露呈し、個人主義というよりも利己主義的な個人の倫理観や社会道徳の意味などが問われているように思われる。自己中心的な価値観に基づくあまり、誰もが自分以外の他者に対して〈優しくない〉雰囲気を出しているといえよう。

こうした観点を含めて、本授業では、「ケアの倫理学」という立場から、「自己をケアすること」・「他者をケアすること」から出発し、いかに社会や国家だけでなく、世界や地球全体を守り、ケアするかという大きな問いにまで視野を広げていく。

そこで本授業では、自分の個人的な行為が、見ず知らずの多数の人に影響を与えかねない現代社会の倫理性の問題を、「ケア」という角度から哲学的・倫理的に分析する。

《授業の目的》

本科目は、1980年代に始まった比較的新しい「ケアの倫理学」を学んでいく科目である。「ケアの倫理」では、「ケアとは何か」、「誰が誰をケアするのか」、「グローバル・エシックスにおけるケアとは何か」などの様々な問いを検討することを通じて、「ケア」という概念が私たちが生きている現場で必要不可欠な概念であることを明らかにする。また、「他者をケアすることの意味」や「自己へのケアの必要性」を考察することの重要性を学んでいく。

さらに「グローバル社会におけるケアの意味」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比を考察しながら、「愛とケア」に重点を置く、新しい「愛とケアのグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的なテーマである。

【到達目標】

- (1)「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
- (2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
- (3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
- (4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的に、授業は「講義形式」で行う。場合によっては、リアクションペーパーを用いて、受講生の皆さんと討論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・履修上の注意 ・「ケアの倫理」についての概要説明
2	第1章 生きることの倫理①	・生きることの質（QOL）
3	第1章 生きることの倫理②	・健康であることの意味
4	第1章 生きることの倫理③	・死ぬことの意味
5	第1章 生きることの倫理④	・死に立ち会うこと
6	第1章 生きることの倫理⑤	・ベットのロス
7	第1章 生きることの倫理⑥	・死への準備教育（Death Education）
8	第2章 「ケア」の倫理①	・「ケア」の思想①——メイヤロフ『ケアの本質』
9	第2章 「ケア」の倫理②	・「ケア」の思想②——ギリガン『もう一つの声で』
10	第2章 「ケア」の倫理③	・〈心〉が傷ついた人のケア
11	第2章 「ケア」の倫理④	・スピリチュアルケア（spiritual care）——〈いたみ〉を分かち合うこと
12	第3章 支え合うこと	・ケア意識の発達
13	第3章 支え合うこと	・ケアする人を支えるために
14	まとめ	・「自己へのケア」から「他者へのケア」へ、そして「支え合いとしてのケア」へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で触れたことについて、様々な書籍、雑誌、新聞やインターネットで確認し、自分の知識を増やすように心がけること。倫理学は、生き方に関わる学問である。座学では何も身につかない。積極的に、倫理的な問題を考え、自ら主体的に学ぶように日頃から気をつける必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・森村修『ケアの倫理』（大修館書店、2000年）
- ・森村修『ケアの形而上学』（大修館書店、2020年）
- ・キャロル・ギリガン『もうひとつの声で——心理学の理論とケアの倫理』（風行社、2022）
- ・Virginia Held, *The Ethics of Care: Personal, Political, and Global*, Oxford University Press, 2006.

【参考書】

竹田純郎・伊坂青司・森秀樹編『生と死の現在——家庭・学校・地域のなかのデス・エデュケーション』（ナカニシヤ出版、2002年）

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーなど（30％）と期末試験（70％）によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ビデオ、DVDなどAV機器を用いる場合がある。

【その他の重要事項】

「ケアの倫理」は、単に授業ですわっていれば自然と身につくものではない。自らの主体的な実践を伴わない「ケア」や「〈癒しと救い〉」は、単なる「絵に描いた餅」でしかなく、生きるためには何の役にも立たない。受講生各自が、自らの日々の生活のなかで、「ケアとは何か」「何をケアするのか」「ケアするためには何が必要なのか」「ケアとは何をしなければならないことなのか」などという問いを自らに問いかけ、それに答える努力を欠かさないようにしてもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we examine the question "What is care?" from the perspective of "Global Ethics of Care and Justice". At that time, in this subject, we will consider the problem of care labor by examining the specific question of "who cares who". In addition, we will ask the contemporary significance of the previously controversial issue of the conflict between care and justice. From there, the aim of this course is to help students examine the question of what is care ethics in global ethics in the 21st century from various angles.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to describe the differences between ethics of justice and ethics of care in detail and to understand the concept of care comprehensively.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the term-end examination (70%), and in-class contribution(30 %).

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

2020年から2023年にかけて、新型コロナウイルス感染の爆発的流行（パンデミック **pandemic**）に、全世界が巻き込まれた。確かに、一時期の爆発的流行は収まり、2025年現在では、確かに新型コロナウイルスに対して、「普通の感染症」のレベルまで終息した。その一方で、やはりコロナ感染の後遺症で苦しむ人は存在する。感染症といえば、若者を中心に「性感染症」、特に「梅毒」が飛躍的に感染を拡大させている。社会がますます多様化し、グローバルな交流が拡大し、個人レベルも社会レベルも倫理観やモラル（道徳性）に対する意識が希薄になった可能性も否定できない。ある意味で、私たちの社会の「道徳性」の弱さが露呈し、個人主義的というよりも利己主義的な個人の倫理観や社会道徳の意味などが問われているように思われる。自己中心的な価値観に基づくあまり、誰もが自分以外の他者に対して〈優しくない〉雰囲気を出しているといえよう。

こうした観点を含めて、本授業では、「ケアの倫理学」という立場から、「自己をケアすること」・「他者をケアすること」から出発し、いかに社会や国家だけでなく、世界や地球全体を守り、ケアするかという大きな問いにまで視野を広げていく。

そこで本授業では、自分の個人的な行為が、見ず知らずの多数の人に影響を与えかねない現代社会の倫理性的の問題を、「ケア」という角度から哲学的・倫理的に分析する。

《授業の目的》

本科目は、1980年代に始まった比較的新しい「ケアの倫理学」を学んでいく科目である。「ケアの倫理」では、「ケアとは何か」、「誰が誰をケアするのか」、「グローバル・エシックスにおけるケアとは何か」などの様々な問いを検討することを通じて、「ケア」という概念が私たちが生きている現場で必要不可欠な概念であることを明らかにする。また、「他者をケアすることの意味」や「自己へのケアの必要性」を考察することの重要性を学んでいく。

さらに「グローバル社会におけるケアの意味」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比を考察しながら、「愛とケア」に重点を置く、新しい「愛とケアのグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的なテーマである。

【到達目標】

- (1)「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
- (2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
- (3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
- (4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的に、授業は「講義形式」で行う。場合によっては、リアクションペーパーを用いて、受講生の皆さんと討論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・受講上の注意 ・「ケアの倫理」入門
2	第1章 暴力被害者のケア①	・〈生き残ること〉と〈生き延びること〉 ・「こども虐待」という〈社会・政治的暴力〉
3	第1章 暴力被害者のケア②	・「新たな傷つきし者」の出現——「社会・政治的トラウマ」の問題 ・〈情動を抱える生〉の〈ケアの倫理〉
4	第2章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の現実①	・哲学的課題としての「認知症」 ・「認知症」が問いかけるもの
5	第2章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の現実②	・「社会的疾患」としての「認知症」 ・「認知症」における〈こころ〉と脳
6	第2章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の現実③	・認知症ケアの倫理
7	第3章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理①	・「孤独死」の現在 ・「ひとりて死ぬこと」の意味
8	第3章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理②	・「何も共有していない者たちの共同体」の倫理 ・〈他者としての死者〉を抱えて〈生き延びる〉こと
9	第3章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理③	・アボリアの経験 ・喪の倫理
10	第4章 〈からだ〉と〈ことば〉のケア倫理①	・〈からだ〉という問題圏 ・東洋の心身論の試み
11	第4章 〈からだ〉と〈ことば〉のケア倫理②	・富士谷御杖の思想 ・〈身〉と〈言〉 ・〈身〉と〈こころ〉 ・「言霊」の〈力〉
12	第5章 「生存の美学」としてのケア①	・アウトサイダーとアーと・セラピー ・ヘンリー・ダーガーの世界
13	第5章 「生存の美学」としてのケア②	・他者への配慮 ・レベッカ・ブラウンの「贈与」
14	第5章 「生存の美学」としてのケア③	・デヴィッド・グレーバーの価値論について ・贈与としてのケア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

森村修『ケアの形而上学』、大修館書店、2020年

【参考書】

森村修『ケアの倫理』、大修館書店、2000年

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（30％）と期末試験あるいはレポート（70％）によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合には、インターネットなどの必要な設備が必要である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we examine the question "What is care?" from the perspective of "Global Ethics of Care and Justice". At that time, in this subject, we will consider the problem of care labor by examining the specific question of "who cares who". In addition, we will ask the contemporary significance of the previously controversial issue of the conflict between care and justice. From there, the aim of this course is to help students examine the question of what is care ethics in global ethics in the 21st century from various angles.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to describe the differences between ethics of justice and ethics of care in detail and to understand the concept of care comprehensively.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the term-end examination (70%), and in-class contribution(30 %).

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

論理学Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：論理的思考のトレーニング

佐々木 護

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論点が明確で、筋の通った議論や文章は「論理的」と言われます。この授業では、分野を問わず多様な文章を論理的に把握し、それを吟味検討したうえで、自分の見解を論理的に表現する訓練を行います。論理的読解力や論述力を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上で大いに役立つはずです。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2点です。

- (1) 新聞記事や新書レベルの文章を読み、そこから論証構造を抽出し、内容をよく理解した上で、的確な要約を行うことができる。
- (2) 上記の文章を吟味検討し、自分の見解を論理的に展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業前半は講義形式ですが、後半は問題演習とその検討が中心となります。そのため、受講者には主体的な参加を求めます。また、論述力の向上を図るため、定期的に小論文を作成する回を設けます。提出された答案は添削・評価のうえ、翌日に返却・解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／論理学とは	論理学には分析論と弁証術の2つの流れがあることを理解する。
第2回	論理的説明と論証	トゥールミン・モデルなどを参照しつつ、論理的な説明には、根拠の提示が不可欠であることを理解する。
第3回	論理的読解と論証	論理的読解には、文章全体を論証と捉え、結論とそれを支える根拠を見きわめることが有効であることを理解する。
第4回	論証の構造	論証図の作成を通じて、論証構造を的確に把握する仕方を身につける。
第5回	要約の技法	文章から論証構造を取り出し、それを軸に要約する技法を身につける。
第6回	隠れた前提	論証を論理的に理解するには、隠れた前提を自覚的に取り出すことが必要な場合があることを理解する。
第7回	論証の評価（1）	論証の適切さや妥当性を評価するにあたって着目すべきポイントを理解する。
第8回	論証の評価（2）	論証を検討する仕方を実践的に身につける。

第9回	誤った論法（誤謬）	論証の誤りの代表的なパターンを理解する。
第10回	論証への反論（1）	現代の社会問題に関連した論証に対する反論を作成する。
第11回	論証への反論（2）	前回作成答案を基にして、発展的検討を行う。
第12回	文章読解と見解論述（1）	現代の社会問題に関連した文章を読み、それに対する見解論述を作成する。
第13回	文章読解と見解論述（2）	前回作成答案を基にして、発展的検討を行う。
第14回	試験日	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回、講義内容に関連した課題が課されます。毎回返信する資料にはよく目を通しておいください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

野矢茂樹『新版・論理トレーニング』（産業図書、2006年）

渡邊雅子『論理的思考とは何か』（岩波新書、2024年）

【成績評価の方法と基準】

通常回の課題成績（50％）および最終回の試験の成績（50％）で評価します。

試験の評価基準については、授業中に何度か実施する課題の評価基準を参考にしてください。

【学生の意見等からの気づき】

「他の学生の答案を見て、意見や表現方法を学ぶことができたのが良かった」「文章を読むときにどういうところに気をつければよいかが分かってきた」「授業を通して、少しずつ自分の文章力がついてきたと実感した」などの感想がありました。

今まで文章を書く機会の少なかった受講者の場合、最初は小論文作成に時間がかかり、難しく感じることもあるようです。しかし、書き続けるうちに徐々に慣れていきますので、その点についてあまり心配する必要はありません。

【Outline (in English)】

We call a reasonable argument as "logical". In this course, we will practice to logically read various texts regardless of the field, examine them, and express your own view logically. If you acquire the ability of logical reading and argumentation, it will be useful for your future academic activities and social life. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grading will be evaluated based on the results of regular assignments (50%) and the final exam (50%).

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：批判的思考のトレーニング

佐々木 護

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

批判的思考（クリティカル・シンキング）教育の一環として、複数の視点から仮説を立てたり、対立する意見も視野に入れつつ望ましい問題解決策を見出す訓練を行います。自分が自明とする考えからいったん距離を置き、異なる他者の考えにも目を向ける態度を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上でも大いに役立つはずです。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2点です。

- （1）統計資料などを手がかりに仮説を立て、それに基づく解決策を提示することができる。
- （2）与えられたテーマに関して、対立する意見も視野に入れつつ、説得力ある見解論述を展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業前半は講義形式ですが、後半は問題演習とその検討が中心となります。そのため、受講者には主体的な参加を求めます。また、論述力の向上を図るため、定期的に小論文を作成する回を設けます。提出された答案は添削・評価のうえ、翌日に返却・解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／推論の分類	演繹、帰納、仮説推量という推論の3つのタイプを概観する。
第2回	演繹と仮説推量	演繹と仮説推量の関連性と相違点を理解したうえで、新たな発想やアイデアを導く上で仮説推量が果たす意義を押さえる。
第3回	統計資料の分析と仮説推量	統計資料の分析の基本を理解し、資料からどのような仮説を立てることができるかを考える。
第4回	相関関係と因果関係	2つの現象の間に何らかの関係が認められる場合に、どんな仮説が立てられるのかを理解する。
第5回	原因分析と対策提言	ある仮説に基づくならば、どのような対策が必要かを考える。仮説が異なれば、必要な対策も大きく異なることを理解する。
第6回	価値前提	それぞれの論証がどのような価値判断や価値基準を前提としているかに注目することで、議論の争点を整理する仕方を身につける。
第7回	対策提言の評価（1）	現代の社会問題に関連した論証に対する検討を行う。
第8回	対策提言の評価（2）	前回作成答案を基に、発展的検討を行う。

第9回	立論・批判・異論（1）	対立する意見を視野に入れつつ、それに対する批判や異論を展開する仕方を身につける。
第10回	立論・批判・異論（2）	批判と異論の違いを見きわめる。
第11回	立論・批判・異論（3）	あるテーマに対し、立論・批判・異論から構成される小論文を作成する。
第12回	立論・批判・異論（4）	前回作成答案を基に、発展的検討を行う。
第13回	誤った二分法・両論併記	二分法が陥りがちな罠を理解する。
第14回	試験日	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

配信された資料にはよく目を通しておいください。

また、日頃から政治や経済、社会等のニュースに関心を持ち、批判的にチェックする習慣を身につけていきましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

野矢茂樹『新版・論理トレーニング』（産業図書、2006年）

渡邊雅子『論理的思考とは何か』（岩波新書、2024年）

【成績評価の方法と基準】

通常回の課題成績（50％）および最終回の試験の成績（50％）で評価します。

試験の評価基準については、授業中に何度か実施する課題の評価基準を参考にしてください。

【学生の意見等からの気づき】

「文章の書き方などを学べたことはもちろん、毎回の授業や課題においてテーマとなる社会問題について考え文章にすることが、自分の意見を持つ大変いい機会となった」「ただ論理の立て方を学ぶだけではなく時事を用いて学ぶことができて大変勉強になった」などの感想がありました。

テーマに関連したアウトプットを繰り返す授業形式を通して、考えて書く力がアップしたと感じる受講者が多かったようです。

【Outline (in English)】

As part of the critical thinking education, we will make hypotheses from multiple perspectives, and practice to find solutions while taking into account the opposite opinion. If you learn how to think critically, you will be of great help in your future academic activities and social life. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grading will be evaluated based on the results of regular assignments (50%) and the final exam (50%).

HIS200LA（史学/History 200）

東洋史 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：南アジア史（1）

水上 香織

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、南アジア近代史について、前近代からの社会変化という側面に重点を置きながら学びます。したがって、授業では18世紀から20世紀半ばまでを特に詳しく扱いますが、歴史的な背景を理解するために先史時代～17世紀の南アジア社会についても議論します。長期的な視野において南アジア地域の社会変動について理解できるようにすることを目的とします。

【到達目標】

- ・20世紀半ばまでの南アジア史に関する基礎知識を獲得する。
- ・歴史を学ぶことを通じて、社会の変化を多角的に考察することの重要性を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式の対面授業を行います。授業ごとに提出していただいた感想や質問に対して、授業内で随時フィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インド亜大陸の地理的特徴/インダス文明～仏教の興隆	先史時代～3世紀
第2回	ヒンドゥー教の興隆とカースト社会の形成	4～13世紀
第3回	南アジアとイスラーム、そしてムガル帝国の時代	11～17世紀
第4回	ムガル帝国の衰退と地方諸勢力の台頭	18世紀
第5回	イギリス東インド会社のインド進出と植民地支配のはじまり	18～19世紀
第6回	植民地経済とインド人中間層の出現	19世紀前半
第7回	宗教・社会改革運動～人々の不満の噴出	19世紀前半～後半
第8回	植民地支配体制の再編～インド経済の変容	19世紀後半
第9回	19世紀末の社会不安とインド人中間層の変容	19世紀末～20世紀初頭
第10回	インド独立運動の展開	20世紀初頭～1930年代
第11回	インド・パキスタン分離独立への道	1930年代～1947年

第12回	ヒマラヤ周縁社会の歴史	ネパール、ブータン、シッキム、カシュミール、アフガニスタンの歴史
第13回	インド洋島嶼社会の歴史	モルディブ、セイロン（スリランカ）の歴史
第14回	まとめ+試験	授業内容の振り返りと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。特に授業後には、授業資料やノートを読み直して復習しましょう。また、疑問点や興味を持った点について、授業中に紹介する参考文献などを活用して調べるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

辛島昇（編）『南アジア史』山川出版社、2011年。
辛島昇ほか（監修）『南アジアを知る事典』平凡社、2012年。
佐藤正哲・中里成章・水島司『ムガル帝国から英領インドへ』中央公論社、1998年。
内藤雅雄・中村平治（編）『南アジアの歴史——複合的社会的歴史と文化』有斐閣、2006年。
長崎暢子（編）『南アジア史4 近代・現代』山川出版社、2019年。
その他、授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における質問や感想の提出：30%

期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業では、画像や映像を多く見せたり、授業中に適宜休憩時間をとったりしたことが好評だったので、それらについては今年度も継続したいと思います。他方で、授業への感想・質問の受付締め切りをもう少し長くしてほしいという要望があったため、見直しを検討します。

【学生が準備すべき機器他】

感想・質問の提出は学習支援システムを通じて行う予定です。インターネットに接続できる機器（スマートフォン、タブレット、パソコンなど）を各自準備してください。

【Outline (in English)】

- ・ This course examines modern South Asian history, focusing on social change from pre-modern times. While the primary emphasis will be on the period from the 18th to the mid-20th century, discussions will also extend to societies from prehistoric times to the 17th century, offering a broader historical context.
- ・ By the end of the course, students are expected to understand social change in the South Asian region from a long-term perspective.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In particular, students are encouraged to re-read and review their notes and distributed handouts after each class. Students are also encouraged to use the references provided in class to research any questions or points of interest.
- ・ The overall class grade is determined on the basis of the following items: Term-end examination 70%, in-class contribution 30%.

HIS200LA（史学 / History 200）

東洋史 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：南アジア史（2）

水上 香織

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、南アジア現代史について、今日の南アジア社会に至る歴史的背景という側面に重点を置きながら学びます。したがって、授業では20世紀半ばから現在までを特に詳しく扱いますが、それ以前の社会の動向についても議論します。現在の南アジア社会が直面している様々な問題について、歴史的な背景を踏まえたうえで理解できるようになることを目的とします。

【到達目標】

- ・20世紀半ばから現在に至るまでの南アジア史について、基礎知識を獲得する。
- ・現代南アジアの諸問題について、歴史的な背景を踏まえたうえで理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式の対面授業を行います。授業ごとに提出していただいた感想や質問に対して、授業内で随時フィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イギリスによる植民地化とインド人中間層	18世紀～20世紀初頭
第2回	ムスリムの自治をめぐる議論～インド・パキスタン分離独立	20世紀初頭～1947年
第3回	ネルー時代の成果と残された課題	1947年～1960年代のインド
第4回	インディラ・ガンディー政権の光と影	1970年代～1980年代のインド
第5回	コミュニナリズムの高まり	1990年代～現在のインド
第6回	映画から見えてくる南アジア社会	インド映画を題材に、現代南アジア社会について考える
第7回	東西パキスタンの決裂	1947年～1970年代のパキスタン
第8回	国内治安の悪化	1980年代～現在のパキスタン
第9回	機能不全の議会	1971年～現在のバングラデシュ
第10回	ヒマラヤ周縁社会の現代史	現代ネパール、ブータン、アフガニスタンの動向
第11回	インド洋島嶼社会の現代史	現代モルディヴ、スリランカの動向
第12回	カーストとトライブをめぐる歴史的状況と現在	カースト差別への異議申し立ての歴史
第13回	女性の地位向上をめぐる歴史的状況と現在	女性の地位をめぐる議論と南アジアのフェミニズム運動の歴史

第14回 まとめ+試験

授業内容の振り返りと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。特に授業後には、授業資料やノートを読み直して復習しましょう。また、疑問点や興味を持った点について、授業中に紹介する参考文献などを活用して調べるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

辛島昇（編）『南アジア史』山川出版社、2011年。
 辛島昇ほか（監修）『南アジアを知る事典』平凡社、2012年。
 大橋正明、村山真弓（編著）『バングラデシュを知るための60章』、明石書店、2009年。
 黒崎卓、子島進、山根聡『現代パキスタン分析——民族・国民・国家』岩波書店、2004年。
 内藤雅雄・中村平治（編）『南アジアの歴史——複合的社会の歴史と文化』有斐閣、2006年。
 長崎暢子（編）『南アジア史4 近代・現代』山川出版社、2019年。
 その他、授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における感想や質問の提出：30%

期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業では授業内容に関連する映画を鑑賞したことが好評だったので、今年度も何か映画を選んで鑑賞したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

感想・質問の提出は学習支援システムを通じて行う予定です。インターネットに接続できる機器（スマートフォン、タブレット、パソコンなど）を各自準備してください。

【Outline (in English)】

- ・ This course examines contemporary South Asian history, focusing on the historical factors that have shaped present-day societies. While the focus will be on the period from the mid-20th century to the present, discussions will also consider earlier developments to provide deeper context.
- ・ By the end of the course, students are expected to understand present-day South Asian issues within the broader framework of historical context.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In particular, students are encouraged to re-read and review their notes and distributed handouts after each class. Students are also encouraged to use the references provided in class to research any questions or points of interest.
- ・ The overall class grade is determined on the basis of the following items: Term-end examination 70%, in-class contribution 30%.

HIS200LA（史学/History 200）

東洋史 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：イスラーム史 1

長谷部 圭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、イスラームが誕生した7世紀から、オスマン帝国がビザンツ帝国を滅ぼす15世紀までの「中東・イスラーム地域」の歴史を概観する。また、イスラームの教義や戒律などについても解説する。受講者が、当該地域への理解を深めつつ、他の地域との比較や連関ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

本科目の目標は、受講者が、15世紀までの「中東・イスラーム地域」の歴史と、イスラームの教義に関する基礎的な知識を習得し、それを論理的に表現できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎週質問用紙を配布するので、質問や意見を記入してほしい。それには翌週、可能な限り回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義の目的、成績評価方法等を確認する。
第2回	預言者ムハンマド	ムハンマドの生涯を概観する。
第3回	六信五行	イスラームの信仰箇条と行為義務を概観する。
第4回	聖典『クルアーン』	イスラームの聖典を概観する。
第5回	スンナ派とシーア派	イスラームの宗派を概観する。
第6回	ウマイヤ朝とアッバース朝	7世紀から8世紀までのイスラーム地域を概観する。
第7回	シャリーアとフィクフ	イスラームの法と法学を概観する。
第8回	ウラマーとマドラサ	イスラームの法の担い手とその養成方法を概観する。
第9回	マムルークとイクター制	9世紀から11世紀までのイスラーム地域を概観する。
第10回	スーフィーと聖者	イスラームの神秘主義と聖者を概観する。
第11回	スンナ派の時代	12世紀のイスラーム地域を概観する。
第12回	モンゴルの時代	13世紀のイスラーム地域を概観する。
第13回	オスマン朝とティムール朝	14世紀から15世紀までのイスラーム地域を概観する。
第14回	総括	本講義を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
準備学習：レジュメに記載されている参考文献を読むこと。
復習：講義内容を、自身の専門と比較したり関連付けたりすること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。レジュメおよび資料を配付する。

【参考書】

大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002年。
東長靖『イスラームのとりえ方』山川出版社、1996年。
屋形禎亮・佐藤次高『西アジア』上巻、朝日新聞社、1993年。

【成績評価の方法と基準】

70%: 期末試験

30%: 平常点

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の受講生アンケートの結果は以下のとおり（抜粋）。
・高校世界史で深く理解できず、単語をとにかく暗記しただけの範囲だったのですが、とてもよく分かりました。ストーリーや宗教のリアル、家系図などを理解しやすいように噛み砕いて説明してくださったので、イスラームの範囲の苦手意識が少なくなりました。履修して良かったです。
・イスラームという身近に体験することができない内容だったが、時折現代の言葉を交えて解説されており、非常に分かりやすく、かつ楽しみながら聞くことができた。レジュメの内容に加えて、家系図や概念図など自ら手を動かして考えることができたのも良かったと思う。
以上を踏まえ、これまでの授業方法を維持することとする。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「東洋史LD（イスラーム史2）」も受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

We survey a history of Islamic area from 7th to 15th century and review the Islamic technical terms. We aim to understand the area and to compare and connect it with another. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%; reaction paper: 30%.

HIS200LA（史学 / History 200）

東洋史 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：イスラーム史2

長谷部 圭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、オスマン・サファヴィー・ムガルの三王朝が並び立った16世紀から現代までの「中東・イスラーム地域」の歴史を概観する。とくに、この地域の大部分を支配したオスマン帝国（1300頃～1922）に焦点をあてる。受講者が、オスマン帝国への理解を深めつつ、他の政治体との比較や連関ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

本科目の目標は、受講者が、オスマン帝国の歴史に関する基礎的な知識を習得し、それを論理的に表現できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎週質問用紙を配布するので、質問や意見を記入してほしい。それには翌週、可能な限り回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義の目的、成績評価方法等を確認する。
第2回	オスマン史の全体像	オスマン史の時代区分（形成、拡張、変容、刷新、崩壊）を紹介する。
第3回	形成の時代1—戦士集団から君侯国へ	13世紀から15世紀中葉までのオスマン史を概観する。
第4回	形成の時代2—コンスタンティノープルの征服	コンスタンティノープルの征服を概観する。
第5回	拡張の時代1—世界帝国への道	15世紀中葉から16世紀前半までのオスマン史を概観する。
第6回	拡張の時代2—スレイマンの時代	16世紀中葉のオスマン史を概観する。
第7回	拡張の時代3—支配組織の確立	16世紀の支配組織を概観する。
第8回	変容の時代1—兵制と税制の変容	16世紀後半から17世紀前半までのオスマン史を概観する。
第9回	変容の時代2—対外関係の変容	17世紀後半から18世紀までのオスマン史を概観する。
第10回	刷新の時代1—改革の序章	19世紀前半のオスマン史を概観する。
第11回	刷新の時代2—二つのナショナリズム	オスマン帝国のナショナリズムを概観する。
第12回	刷新の時代3—社会秩序の変容	19世紀中葉のオスマン史を概観する。
第13回	崩壊の時代1—専制と革命	19世紀後半から20世紀初頭までのオスマン史を概観する。
第14回	崩壊の時代2—帝国の終焉	20世紀前半のオスマン史を概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
準備学習：レジュメに記載されている参考文献を読むこと。
復習：講義内容を、自身の専門と比較したり関連付けたりすること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。レジュメおよび資料を配布する。

【参考書】

新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001年。
大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002年。
小笠原弘幸『オスマン帝国』中央公論新社、2018年。
鈴木董『オスマン帝国』講談社、1992年。
鈴木董『オスマン帝国の解体』筑摩書房、2000年。
永田雄三編『トルコ史』山川出版社、2023年。
永田雄三・羽田正『成熟のイスラーム社会』中央公論社、1998年。
林佳世子『オスマン帝国の時代』山川出版社、1997年。
林佳世子『オスマン帝国500年の平和』講談社、2008年。

【成績評価の方法と基準】

70%: 期末試験

30%: 平常点

【学生の意見等からの気づき】

2024年度の受講生アンケートの結果は以下のとおり（抜粋）。
・高校時代に世界史を選択していた人でも、日本史を選択していた人でも内容をわかるようにしていた点がとても良いと思いました。私は世界史選択でしたが、高校時代には踏み込まなかった知識や内容まで知ることが出来て大変興味深かったです。
・講義のスピードが早く情報に押し流されそうになる時もありましたが、先生の話し方が整然としており全体的に分かりやすかったです。レジュメも講義の理解に大変役立ちました。毎回しっかりと質問に答えてくださる時間があつたことも有り難かったです。手を動かして国際関係や支配組織の図を書くことで頭が整理されるため、今後このような授業形態を続けていただきたいと思います。
以上を踏まえ、これまでの授業方法を維持することとする。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「東洋史LC（イスラーム史1）」も受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

We survey a history of the Ottoman Empire. We aim to understand it and to compare and connect it with another political body. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%; reaction paper: 30%.

HIS200LA（史学 / History 200）

西洋史 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

内田 康太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代地中海世界に成立した諸国家のうち、アテナイ民主政とローマ共和政の国制について概説する。個々に独立した分析だけではなく、両者の比較という方法でそれぞれの特徴を把握することにより、歴史研究における比較史の有用性も学ぶ。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下のとおり。

- ・アテナイ民主政とローマ共和政の国制について基礎的知識を習得する。
- ・両者の国制について、類似点と相違点を説明できる。
- ・両者の国制を比較することの意義を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行うが、授業時間内に質疑応答の機会を設ける。さらに、授業終了後に毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国制について考える
第2回	アテナイ民主政の歴史	アテナイ民主政の誕生から終焉まで
第3回	アテナイ民主政の国制（1）	参政権
第4回	アテナイ民主政の国制（2）	投票
第5回	アテナイ民主政の国制（3）	民会
第6回	アテナイ民主政の国制（4）	役人・公職者
第7回	アテナイ民主政の国制（5）	裁判
第8回	ローマ共和政の歴史	ローマ共和政の誕生から終焉まで
第9回	ローマ共和政の国制（1）	参政権
第10回	ローマ共和政の国制（2）	投票
第11回	ローマ共和政の国制（3）	民会
第12回	ローマ共和政の国制（4）	役人・公職者
第13回	ローマ共和政の国制（5）	裁判
第14回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

橋場弦『古代ギリシアの民主政』、岩波新書、2022年。
島田誠『世界史リブレット3 古代ローマの市民社会』、山川出版社、1997年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80％）

リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

受講生の理解を助けるために、図表や図像資料などをより一層積極的に活用する。また、リアクションペーパー等を利用して質疑応答を行うことにより、できる限り受講生の関心に沿ったかたちで授業を進める。

【Outline (in English)】

Course outline: This course outlines the constitution of the Athenian democracy and the Roman republic. Not only analyzing them individually but also comparing each other to identify their characteristics, it also helps students learn the usefulness of comparative history.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the constitution of the Athenian democracy and the Roman republic.
- Students are able to explain similarities and differences between them.
- Students are able to understand the significance of comparing them each other.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200LA（史学 / History 200）		
西洋史 L B		2017年度以降入学者
サブタイトル： 神聖ローマ帝国の歴史		
皆川 卓		
開講時期： 秋学期授業/Fall 曜日・時限： 木1/Thu.1		
単位数： 2単位		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 800年以上ものあいだ西中欧を統合していた「神聖ローマ帝国」の仕組みとその発展を学びます。神聖ローマ帝国は帝国を構成する群小国が皇帝の権威に依存しつつ、人々の生活に必要な実際の政治を行っていくという、奇妙な政治構造をしていました。そのため皇帝は人々を精神的に満たす文化をカトリック教会やルネサンス都市から得、群小国がそれを使って人々の納得を得つつ、実際の政治を行っていました。本講義では最初に神聖ローマ帝国の概要を紹介したあと、こうした社会からどのような技術や価値観、美意識や生まれ、独創的なアイデアが考え出され、遺産として後代の世界に伝えられたかを学びます。 【到達目標】 本授業の目的は、近代国民国家という形にならなかった神聖ローマ帝国という政治的共同体を、当時の歴史的文脈の中において考察し、時代の制約の中で生み出された効果と限界を分析的に理解することです。そこから先に何を学べるかは、受講者の積極的な取り組み次第です。中学歴史分野や高校世界史で学んだことの意味をより批判的に理解できるよう、授業の中に多くのヒントを示しておきます。 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1 【授業の進め方と方法】 スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし /No 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No 【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
第1回	テーマ 神聖ローマ帝国の遺産	内容 世界史の難問「神聖ローマ帝国」が、現在の社会を支える多くの遺産を残していることを紹介するとともに、その過去及び現在の評価を論じ、両者の間にあるギャップと問題の所在を把握します。
第2回	神聖ローマ帝国の成り立ち（1）－統率を欠いた巨大帝国	中世の中欧に出現し、キリスト教による世界支配を掲げた権威と武力の集団が、社会の発展を捉えた地方政権に分裂すると共に、それらが新たな危機に直面するまでを紹介しします。
第3回	神聖ローマ帝国の成り立ち（2）－協力する体制の発展	帝国から誕生した大小の地方政権が、共同の課題を解決するために結束し、それを維持するための制度を作り出していく過程を説明します。
第4回	神聖ローマ帝国の成り立ち（3）－滅んだものと受け継がれたもの	帝国を構成する地方政権が国家としての成熟を果たし、それを支える近代思想を受け入れたことを見届けた神聖ローマ帝国が、役割を終えて消えていく過程と、その遺産を論じます。
第5回	ルネサンス文化と帝国の文明化	親分子分関係から地方政権の連合として再出発した15～16世紀の神聖ローマ帝国が、その絆となる価値としてルネサンス文化を受け入れ、活用する過程を紹介しします。
第6回	宗派対立と三十年戦争	ルネサンスの根底にある「神」の解釈を巡って神聖ローマの構成国が二つに分断され、激しい宗教戦争を引き起こす過程を論じ、それがいかなる結果をもたらしたのかを考えます。
第7回	皇帝と領邦君主のパロック戦略	回復した平和を維持するため、宗派を超越した価値観が求められる中、帝国の統治者たちが「パロック文化」を取り入れ、人々を「紀律化」していく経緯を説明します。
第8回	領邦君主の神聖ローマ帝国	神聖ローマ帝国を支えた地方政権の中で、もっとも重要な役割を果たした「領邦君主」の領国統治の仕組みを、代表的な領国について紹介しします。
第9回	ドイツ文化のまほろば－帝国自由都市の世界	政治勢力としては小さいものの、神聖ローマの統治のアイデアや経済力、文化を供給した自治都市「帝国自由都市」の発展と、帝国におけるその役割を論じます。
第10回	帝国を支えるイタリア人	皇帝の領国オーストリアとイタリアは、近代の経緯で今でもわだかまりが残るほど緊張を伴う関係ですが、実は帝国を支える上で非常に深い協力関係にあった事実焦点を当てます。
第11回	裁かれる国－神聖ローマ帝国の裁判所	神聖ローマの領邦君主や帝国自由都市は、それぞれ国としての性格を持つ一方、皇帝を担いだ平和共同体としての性格も持っていました。その平和と権利を支えた帝国裁判所の活動を紹介しします。
第12回	帝国と科学－グレゴリウス暦の導入を巡って	他の西欧諸国と同様、近世の神聖ローマ帝国も宗教教義と経験合理主義の綱引きの場でした。西欧各国を悩ました暦の導入を巡る論争の行方に、帝国における「科学」の誕生を読み取ります。
第13回	教育の帝国	中世神聖ローマのアルプス以北の地域は、イタリアやフランスに遠く及ばない教育後進国でした。それが近世に急速に挽回し、教育先進国と呼ばれるまでに成長した経緯とその背景を分析しします。
第14回	まとめ－神聖ローマ帝国と国家連合のヨーロッパが生み出せるもの	近世の神聖ローマ帝国が、集権化する同時期の周辺諸国とは正反對の方法で、同水準の生活と秩序を人々に保証したこと、それは歴史の中でどう評価されるかを、第1回の問題提起を振り返りながらまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
- ・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
- ・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（適宜必要時に）。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。（配布プリントがその機能を担います）

【参考書】

- ・草光俊雄・甚野尚志編著『ヨーロッパの歴史Ⅰ－ヨーロッパ史の視点と方法』放送大学教育振興会 2015
- ・成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『ドイツ史〈1〉先史～1648年（山川世界歴史大系）』山川出版社 1997
- ・成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『ドイツ史〈2〉1648～1890年（山川世界歴史大系）』山川出版社 1996
- ・斎藤寛海編『イタリア史〈2〉中世・近世（山川世界歴史大系）』山川出版社 2021
- ・三佐川亮宏『オットー大帝－辺境の戦士から「神聖ローマ帝国」樹立者』中央公論新社 2023
- ・池谷文夫『神聖ローマ帝国－ドイツ王が支配した帝国』刀水書房 2019
- ・ピーター・H・ウィルソン『神聖ローマ帝国 1495-1806』岩波書店 2005
- ・江村洋『中世最後の騎士－皇帝マクシミリアン1世伝』中央公論社 1989
- ・アルブレヒト・デューラー（前川誠郎訳）『自伝と書簡』岩波書店 2009
- ・ペーター・ブリックレ（服部良久訳）『ドイツの臣民』ミネルヴァ書房 1990
- ・河野淳『ハプスブルクとオスマン帝国－歴史を変えた〈政治〉の発明』講談社 2010
- ・永田諒一『宗教改革の真実－カトリックとプロテスタントの社会史』講談社 2004
- ・山本文彦『神聖ローマ帝国－「弱体なる帝国」の実像』中央公論新社 2024
- ・ヴェロニカ・C・ウェッジウッド（瀬原義生訳）『ドイツ300年戦争』刀水書房 2003
- ・エンゲルハルト・ヴァイグ（三島憲一他訳）『啓蒙の都市周遊』岩波書店 1997
- ・マックス・フォン・バーン（飯塚信雄他訳）『ドイツ十八世紀の文化と社会』三修社 1997
- ・W・H・ブリュフォード（上西川原章訳）『十八世紀のドイツ－ゲテ時代の社会的背景』三修社 1981
- ・今野元『フランス革命と神聖ローマ帝国の試煉－大宰相ダールベルクの帝国愛国主義』岩波書店 2019

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は平常点（20%）、単元毎の小テスト（30%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
- ・神聖ローマ帝国の発展を系統的に説明することができ【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、授業で学んだ知識を用いて、自分なりに神聖ローマ帝国の歴史をヨーロッパ史の中に批判的に位置づけ、その影響について論じることができること【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】、が基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

- ・シラバスの予定に対し若干遅れた部分があり、時間配分に心がける。
- ・受講者の予備知識の差が大きいため、反転学習的な試みを導入したい。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 : We learn about the structure and development of the "Holy Roman Empire," which unified Central and Western Europe for over 800 years. The Holy Roman Empire had a peculiar political structure where the small states that made up the empire depended on the authority of the emperor while conducting the actual politics necessary for people's lives. Therefore, the emperor derived cultural elements that spiritually fulfilled the people from the Catholic Church and Renaissance cities, and the small states used these to gain the people's consent while carrying out actual politics. In this lecture, we will first introduce an overview of the Holy Roman Empire, and then learn how technologies, values, aesthetics, and original ideas emerged from such a society and were passed down as a legacy to later generations.

【到達目標 (Learning Objectives)】 : We aim to examine the political community of the Holy Roman Empire, which did not take the form of a modern nation-state, in the historical context of the time, and to analytically understand the effects and limitations produced within the constraints of the times. What you can learn from there depends on your willingness. There are many hints in the classroom to help you understand more critically the meaning of what you have learned in the middle school history field or high school world history.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

- ・ Be sure to read the handouts distributed in advance before class and keep the general contents in mind (1 hour each time).
- ・ Before class, you will look up all the words you know for the first time or words you only know by name through reference books and the Internet, and make notes on printouts (1 hour each time).

・ After the class, you will do your own research or ask questions to the instructor about points that you did not understand during the class (if necessary).

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 : The evaluation will be based on a combination of normal scores (20%), quizzes for each unit (30%), and final reports (50%).

- The ability to systematically explain the development of the Holy Roman Empire [1st Evaluation Process: Corresponding to 30% of the quiz per unit], and the ability to critically position the history of the Holy Roman Empire in the context of European history and discuss its impact in your own way using the knowledge learned in class [2nd Evaluation Process: 50% of the final report].

HIS200LA (史学/History 200)	
西洋史 L C	2017年度以降入学者
サブタイトル：	
渡辺 知	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木3/Thu.3	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀後半から20世紀にかけてのイギリスの歴史を講じます。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに関係に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を行います。リアクションペーパー等でのコメント、質問は随時授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業内容の紹介	18世紀から20世紀にかけてのイギリスの歴史の流れを概観します。
第2回	二重革命の時代 1	産業革命の特徴とそれがイギリスの政治、経済、社会に与えた影響を検討します。
第3回	二重革命の時代 2	フランス革命がイギリスにどのような影響を与えたか検討します。
第4回	帝国の再編 1	二重革命の時代は、イギリスの帝国が第一帝国から第二帝国へと再編された時期でもありました。その再編の過程を奴隷貿易の廃止問題を中心に説明します。
第5回	帝国の再編 2	二重革命の時代は、イギリスの帝国が第一帝国から第二帝国へと再編された時期でもありました。その再編の過程をインドの植民地化を中心に説明します。
第6回	ミドル・クラス	二重革命の影響で、イギリスではミドル・クラスが台頭してきます。このミドル・クラスの特徴を「リスペクタビリティ」という言葉をキーワードに検討します。

第7回	ミドル・クラスのジェントルマン化	台頭してきたミドル・クラス層が従来の支配者層であるジェントルマンと融合していく過程を検討します。
第8回	労働者階級	ジェントルマンとミドル・クラスが19世紀のイギリスの繁栄の恩恵を受けたのに対し、労働者階級の大多数はその恩恵から排除されていました。労働者階級を取り巻く状況を説明します。
第9回	アイルランド移民	労働者階級の中でも最下層を形成したのがアイルランドからの移民でした。アイルランド移民を切り口にアイルランド、スコットランド、イングランドの地域の問題を検討します。
第10回	「怠惰な女性」と「善良な女性」 1	19世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに検討します。
第11回	「怠惰な女性」と「善良な女性」 2	19世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに、引き続き、検討します。
第12回	帝国主義の時代	1870年代以降のイギリスの経済、社会について概観します。
第13回	社会帝国主義	イギリスの国内問題の解決の場として帝国の果たす役割がこの時期大きくなったことを検討します。
第14回	試験・まとめと解説	18世紀から20世紀にかけてのイギリスの歴史がどのような特徴を持ち、イギリス帝国の諸地域に対してどのような影響を与えたのか、また、帝国の諸地域からどのような影響を受けたのか総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。
また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20％、学期末の試験80％）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline (in English)】

< Course outline >

British History from the 18th century to the 20th century
In this lecture, the formation of the British Empire and the influence of the empire on Britain and her dependencies will be discussed.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary British history
- 2) Students are able to understand British history in view of its interaction with the rest of the world.
- 3) Students are able to learn diverse perspectives in history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination:
80%

HIS200LA（史学/History 200）

西洋史 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：古代アテナイ民主政の成立と発展

内川 勇海

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代アテナイ（紀元前5～4世紀）で実践された民主政治について、主に制度面に注目しながら、その成立と発展を概観する。歴史的なものの見方、考え方に留意しながらアテナイ民主政の具体的な仕組みを学ぶ。

【到達目標】

アテナイ民主政の具体的な仕組みを理解できる。
歴史的な知識を深めるだけでなく、常に現代の民主主義国家との比較の視点を持って過去を理解する姿勢を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、リアクションペーパーを積極的に活用するなど、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の内容と目標について説明する。
第2回	古代ギリシアの歴史概観	古代アテナイに焦点を合わせる前に、古代ギリシアの通史について、高校世界史の復習も兼ねて概観する。
第3回	史料について	歴史学で用いる史料について概説する。
第4回	アテナイ民主政概観	アテナイの民主政が、どのような組織や機関からなるのか、その概要を説明する。
第5回	500人評議会（1）	アテナイ民主政の主要機関であり、主に行政的機能を担った500人評議会について説明する。
第6回	500人評議会（2）	前回に引き続き500人評議会について説明する。
第7回	民会（1）	主要機関の一つであり、アテナイ市民団の意思決定機関である民会について説明する。
第8回	民会（2）	前回に引き続き民会について説明する。
第9回	公職者（役人）	公職者（役人）の組織や役割について説明する。
第10回	民衆法廷（1）	アテナイの主要法廷であり、司法だけでなく政治的機能も担った民衆法廷について説明する。
第11回	民衆法廷（2）	引き続き民衆法廷について説明する。

第12回	その他の機関（アレオパゴス評議会・立法委員会など）	アテナイ民主政を支えたそれ以外の機関について説明する。
第13回	殺人法廷	アテナイにおいて特殊な位置を占めた殺人法および殺人訴訟について説明する。
第14回	全体のまとめ	半年間の講義内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じて講義資料を学習支援システムで共有する。
印刷するかパソコンなど資料を表示できる機器を持参すること。

【参考書】

伊藤貞夫『古代ギリシアの歴史』（講談社学術文庫、2004年）
橋場弦『民主主義の源流』（講談社学術文庫、2016年）
橋場弦『古代ギリシアの民主政』（岩波新書、2022年）
橋場弦、國方栄二訳『アテナイ人の国制；著作断片集』（岩波書店、2014年）
長谷川岳夫[編著]『はじめて学ぶ西洋古代史』（ミネルヴァ書房、2022年）
その他講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50%
・出席管理は厳格に行う。
・期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、講義中のパソコンやタブレットなどの使用は可能。

【Outline (in English)】

< Course outline > This course explores ancient Athenian history, particularly focusing on the development of democracy in the 5th and 4th century BC.

< Learning objectives > 1) Students are able to acquire basic knowledge about ancient Athenian history . 2) Students are able to acquire a wider perspective on democratic nations.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 50% , essay: 50%

HIS200LA（史学 / History 200）

日本史Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

森 朋久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：日本の耕地と集落（村）の史的展開

日本の歴史のうち、日本の原風景、伝統的な景観であり、主に耕地と集落で成り立つ、村（ムラ）の歴史について、各時代の政治と経済を背景としながら、通史的に学習することができる。特に、現在の市町村の基盤となる村が成立する、近世・近代が重点となる。耕地と集落は、棚田に代表されるように、人間と自然との共同作品で、文化的景観として近年注目されている。世界的に優良なその景観は、世界遺産の選定項目となり、日本でも優良な景観は、文化財保護法、農林水産業の重要文化的景観に選定されており、文化財としての意義がある。授業では前提として、日本史研究の基礎資料である歴史資料（古文書）を読み、その重要性を理解するとともに、耕地や集落が文化財としてどのような意義があるのかを学ぶことができる。（学問分野：日本史、日本地域史、日本村落史、環境歴史学、文化財学）

【到達目標】

日本史研究の基礎資料である歴史資料（古文書）や耕地と集落の文化財的な意義を踏まえ、日本の農林水産業の地域基礎単位である村（ムラ）に関する通史的な学習を通し、教科書的な理解を越え日本史に対する新たな歴史観と問題意識を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業の講義形式で行う。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業の場合および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は主として適宜配信または配布した資料により、シラバス通りに進める。授業内レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	日本史における耕地と集落の意義 日本史研究の基礎
第2回	日本史学入門	歴史資料の提示、解説、歴史資料の内容解説、背景
第3回	文化財保護法と耕地と集落	文化財・重要文化的景観からみた村（耕地と集落）
第4回	弥生・古墳時代の村	縄文・弥生移行期、弥生・古墳時代の耕地と集落
第5回	古代の政治と経済	古代の村と領主支配との関係
第6回	古代の村	古代の開発、条里と村、荘園と村、初期武士団の村
第7回	中世の政治と経済	中世の村と領主支配との関係
第8回	中世の村	村の景観、惣村と在家、開発と経営、近世の村との関係
第9回	近世の村の景観	村の基本構成要素、様々な村のかたち

第10回	近世の村の機能	村で作成される様々な文書、ムラの運営
第11回	幕藩領主の農政と近世の村（1）	近世中期までの領主財政と年貢収奪
第12回	幕藩領主の農政と近世の村（2）	吉宗政権の年貢増徴策と新田開発、土地政策
第13回	近代の村	地租改正、戸長制、大区小区制、地方三新法、地方改良運動と村
第14回	現代の村	農地改革、昭和の市町村合併と村、高度成長下の耕地と集落

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

〈1〉準備学習：あらかじめ配信または配布した資料を一読、一覧しておくこと。各授業の時代背景を、日本史年表で調べておくことが望ましい。

〈2〉復習：日本各地の地名が出てくるので、馴染みがない地名は地名辞典などで調べておくこと。授業内レポートに備えて、授業の内容を各回まとめておくこと。

〈3〉本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。適宜配信・配布した資料に沿って授業を行う。

【参考書】

〈1〉『村の語る日本の歴史 古代・中世編』、『村の語る日本の歴史 近世編①』、『村の語る日本の歴史 近世編②』木村礎著（1983年 そしえて）

〈2〉『日本の農業150年 1850～2000年』暉峻衆三編著（2003年 有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート・リアクションペーパー 30％）と期末レポート（70％）で、評価を決める。

授業内レポートは授業内容の理解度に応じて、また期末レポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

リアクションペーパーは、履修者の手書きとする。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド授業資料（音声付属）を利用する場合は、形式的になる説明部分に関しては、口頭で追加の情報資源を伝える予定である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the historical explores the features of the Japanese village society from the perspective of people's life and an abundant historical and geographic image.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to understand the historical features of the Japanese village society.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、Short class reports : 30%.

HIS200LA（史学 / History 200）

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

森 朋久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸時代転換期における政治・経済・社会
日本の江戸時代の歴史のうち、おもに転換期となる享保改革期から田沼政治期の政治・経済・社会（農村・都市）について、地域環境の変化に留意しながら学ぶことができる。具体的には、最近の成果を取り入れながら、一般的に知られているこの時期の諸事象と諸政策が歴史上どのような意義をもつのかを理解することを学習・教育目標とする。また、江戸時代における地域の諸相や地域基礎単位であり、町人や武家の生業生活の場である「都市」および農民の生産生活の場である「村」に注目しながら、日本近世史を学ぶことができる。（学問分野：日本近世史、日本地域史、日本都市史、日本都市近郊農村史）

【到達目標】

江戸時代研究の重要な情報資源である近世文書や江戸時代の政治（幕政・藩政）・経済・社会（都市江戸および江戸近郊・周辺農村）に関する学習などを通し、教科書的な理解を越え当該期に対する新たな歴史観と問題意識を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業の講義形式で行うことを基本とする。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業の場および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は、主として資料の配信または配付によりシラバス通りに進める。授業内レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。近年、大河ドラマの主演となった、徳川家康、その妻子（築山殿・松平信康など）も話題とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と進め方についての説明
第2回	吉宗政権の成立	家康～吉宗の時代推移と地域 吉宗政権の性格
第3回	行政機構の改革と法令の整備	老中制度及び勘定所機構の整備 法令集の編さん
第4回	享保改革期の農政	農政の特徴
第5回	都市政策の前提	都市江戸の成立と河川 武家屋敷の展開
第6回	都市政策の展開	江戸の防火政策 経済政策 風俗・出版統制
第7回	田沼政権の成立	家重政権時代の意次 意次権力の拡大
第8回	通貨制度の改革	江戸時代の通貨の特徴 田沼政権発行の貨幣
第9回	間接税の導入	百姓一揆と財政窮乏策 株仲間の役割

第10回	幕政と藩政（1）	幕府の銅貿易と秋田藩の産銅政策
第11回	幕政と藩政（2）	幕府の通貨政策と秋田藩の銭鑄造
第12回	江戸近郊の地域史	江戸の青物市場 江戸近郊農村における蔬菜生産と下肥流通
第13回	江戸周辺の地域史	利根川の歴史と流域住民の共生
第14回	日本通史、地域史における享保改革・田沼政治期の意義	享保改革・田沼政権期はなぜ転換期と呼ばれるのか、江戸と近郊・周辺地域との関係は如何なるものなのかを、総体的に考えていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

常にノートを整理し、配信または配布した資料などを改めて読みなおすなど、次回に備えるようにしてもらいたい。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。適宜資料を配信・配布する。

【参考書】

〈1〉『幕藩体制の展開と動揺 上（日本歴史大系10）』井上光貞ほか著（山川出版社）
〈2〉『大江戸歴史の風景』加藤貴編著（山川出版社）
その他、参考となる文献は、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート・リアクションペーパー 30%）と期末レポート（70%）で、評価を決める。授業内レポートは授業内容の理解度に応じて、また期末レポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。
リアクションペーパーは、履修者の手書きとする。

【学生の意見等からの気づき】

授業で利用する資料を、対面授業教室のみではなく、オンラインでの配布を求める意見があり、これを実行する予定である。
関東に関わる歴史事象の紹介が昨年度好評だったので、今年度も引き続きこれを行う予定である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the historical explores the administration, the economy and the society of Japan in the early modern period including the social system of Edo and its surrounding areas.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to understand the economy and the society of Japan in the early modern period.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、Short class reports : 30%、

HIS200LA (史学/History 200)

日本史Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

仁平 義孝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代の幕府政治史を概観する。幕府内部で繰り返された内紛と、幕府の政治意志決定のあり方を中心に、関連する史料を読みながら検討していく。

【到達目標】

鎌倉幕府政治史の流れを理解し、史料に基づく検証方法を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。講義資料を学習支援システムにて配布するので、受講生は各自でプリントアウトして受講すること。第2回以降の対面授業では出席をとる。

学期内と学期末にレポートを提出してもらう。レポートは2回とも期限内に提出することを必須とする。学期内に課すりポートについては、最終授業で解説する。

質問は授業終了後や、学習支援システムの掲示板などで受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明。
2	源頼朝執政期の幕府政治(1)	寿永2年10月宣旨、文治勅許など。
3	源頼朝執政期の幕府政治(2)	頼朝上洛、建久7年の政変、頼朝執政期の評定など。
4	将軍源頼家・実朝、北条政子期の幕府政治(1)	比企氏事件、頼家・実朝期の評定など。
5	将軍源頼家・実朝、北条政子期の幕府政治(2)	和田合戦、承久の乱、政子期の評定など。
6	執権北条泰時・経時期の幕府政治(1)	伊賀氏事件、宇津宮辻子幕府移転など。
7	執権北条泰時・経時期の幕府政治(2)	評定、御成敗式目など。
8	執権北条泰時・経時期の幕府政治(3)	経時の訴訟制度改革など。
9	執権北条時頼・長時期の幕府政治(1)	寛元の政変、宝治合戦など。
10	執権北条時頼・長時期の幕府政治(2)	引付設置、得宗時頼など。
11	得宗北条時宗・貞時・高時期の幕府政治(1)	引付廃止・再設置、寄合、二月騒動など。
12	得宗北条時宗・貞時・高時期の幕府政治(2)	霜月騒動、平禅門の乱など。
13	得宗北条時宗・貞時・高時期の幕府政治(3)	貞時の訴訟制度改革、貞時・高時期の評定・寄合など。

14 まとめ

授業内容のまとめと学期内リポートの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や授業時に紹介する文献を読む。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。講義資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

本郷恵子『京・鎌倉 ふたつの王権』（小学館、2008年）
川合 康『源平の内乱と公武政権』（吉川弘文館、2009年）
小林一岳『元寇と南北朝の動乱』（吉川弘文館、2009年）
近藤成一『鎌倉幕府と朝廷』（岩波新書、2016年）
その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期内リポート（45%）、学期末リポート（45%）、平常点（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のわかりにくい表現を改める。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course studies political history of the Kamakura Shogunate.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquisition of the study method of the Kamakura era.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

mid-term report:45%, term-end report:45%, in class contribution:10%

HIS200LA（史学 / History 200）

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

仁平 義孝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉幕府の基本法である御成敗式目を読む。その内容は多岐にわたるが、ここでは犯罪や訴訟手続きに関する条文を読み、鎌倉幕府法の特徴を考えていく。

【到達目標】

鎌倉幕府法の特徴を理解し、史料に基づく検証方法を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。講義資料を学習支援システムにて配布するので、受講生は各自でプリントアウトして受講すること。第2回以降の対面授業では出席をとる。

学期内と学期末にレポートを提出してもらう。レポートは2回とも期限内に提出することを必須とする。学期内に課すレポートについては、最終授業で解説する。

質問は授業終了後や、学習支援システムの掲示板などで受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	御成敗式目について (1)	御成敗式目制定の目的などの解説。
2	御成敗式目について (2)	御成敗式目の条文構成などの解説。
3	御成敗式目第9条	謀叛の罪について。
4	御成敗式目第10条	殺害・刃傷の罪について。
5	御成敗式目第11条	夫の罪科の妻への縁坐について。
6	御成敗式目第21・24条	離婚・再婚と女性所領について。
7	御成敗式目第12条	悪口の罪について。
8	御成敗式目第13・14条	殴人の罪および地頭代の罪について。
9	御成敗式目第15条	謀書の罪について。
10	御成敗式目第33条	強盗・窃盗・放火の罪について。
11	御成敗式目第34条	密懐の罪について。
12	御成敗式目第51条	問状狼藉について。
13	御成敗式目第35条	召文違背の罪について。
14	まとめ	授業内容のまとめと学期内レポートの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や授業時に紹介する文献を読む。

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。講義資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

『中世政治社会思想 上』（日本思想大系21、岩波書店、1972年）

笠松宏至編『中世を考える 法と訴訟』（吉川弘文館、1992年）

水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』（新体系日本史2、山川出版社、2001年）

佐藤雄基『御成敗式目』（中公新書、2023年）

その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期内レポート（45%）、学期末レポート（45%）、平常点（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のわかりにくい表現を改める。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course studies law of the Kamakura shogunate.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquisition of the study method of the Kamakura era.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

mid-term report:45%, term-end report:45%, in class contribution:10%

HIS200LA（史学 / History 200）

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

貫井 裕恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユネスコ「世界の記憶」に採択されている国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を学びます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいかに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。＊日本史ⅡⅡもあわせて受講することを強く推奨します。

【到達目標】

- ・「東寺百合文書」を通じて、日本中世社会への理解を深める。
- ・歴史史料から歴史像を浮かび上がらせる醍醐味を味わう。
- ・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
- ・文化財のもつ多様な価値とさまざまな見方を学ぶ。
- ・くずし字に親しみ、解読できるようになる。
- ・国際社会において日本の歴史文化や文化財の魅力を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業で実施しますが、大学の方針に従い、適宜柔軟に対応します。学習支援システムを通じてお知らせします。毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに応答するかたちで復習を行います。授業期間内に、文化財関連の研究所・美術館・博物館へ見学に行ってください、感想の提出を求めます。上記のレビューシート同様に、授業内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の目的と課題、評価方法などの説明
2	歴史学の流れと日本中世史	歴史学の発展と、そのなかでの日本中世史研究の大きな流れを学ぶ
3	中世社会と東寺	日本中世社会の構造と、そのなかでの東寺の位置づけなど、本授業のおおまかな流れや前提となる知識を学ぶ
4	東寺百合文書について	東寺百合文書の特徴と採択されているユネスコ「世界の記憶」について学ぶ
5	寺院組織	東寺をはじめとする中世寺院の組織と構造を学ぶ
6	史料管理（アーカイブズ）	中世寺院における史料管理のありかたを学ぶ

7	芸能	能・狂言の淵源となった、中世寺院周辺で行われた様々な芸能を学ぶ
8	喫茶文化	中世寺院における僧侶や民間における喫茶文化を学ぶ
9	寺誌・縁起	寺院における歴史叙述のありかたを学ぶ
10	絵巻	『弘法大師行状絵巻』など寺院における絵巻作成の背景や利用方法などを学ぶ
11	荘園の構造・荘園絵図の世界	中世荘園制社会について学び、荘園絵図も紹介しつつ、中世社会の諸問題を学ぶ
12	文化財を守り伝える	文化財が現代まで守り伝えられてきた意義を学ぶ
13	現代社会と歴史学研究	現代社会において歴史学を学ぶ意義を学び、受講者と討論する
14	まとめ	受講者の質疑応答とレポート内容の報告会および講評、本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

- ・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局、2003年
- ・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998年

【成績評価の方法と基準】

レポート60%、平常点40%で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・日本史ⅡⅡもあわせて受講することを強く推奨します。
- ・日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、日本の文化、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修をとくにお待ちしております。
- ・高校で日本史を学んでいなくても、受講に支障はありません。
- ・日本の歴史と文化、文化財の魅力を自分の言葉で海外に発信できるようにしましょう。

【Outline (in English)】

【Course outline】The Outline of this class is learning of the medieval history of Japan. 【Learning Objectives】The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan. 【Learning activities outside of classroom】You spend 2hours preparing and reviewing each class. 【Grading Criteria /Policy】You need to hand over review sheets each class and reports last class.

HIS200LA (史学/History 200)	
日本史Ⅱ	2017年度以降入学者
サブタイトル：	
貫井 裕恵	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月5/Mon.5	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。＊日本史ⅡⅠもあわせて受講することを強く推奨します。同授業の発展的内容になります。

【到達目標】

- ・「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深める。
- ・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
- ・歴史史料から歴史像を浮かび上がらせる醍醐味を味わう。
- ・文化財のもつ多様な価値と読み解き方を学ぶ。
- ・くずし字に親しみ、解読できるようになる。
- ・国際社会において日本の歴史文化や文化財の魅力を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業で実施しますが、大学の方針に従い、適宜柔軟に対応します。学習支援システムを通じてお知らせします。毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに応答するかたちで復習を行います。授業期間内に、美術館・博物館へ見学に行ってください、感想の提出を求めます。上記のレビューシート同様に、授業内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や評価方法を知る
2	歴史学と日本中世史	日本における歴史学の流れと、中世史の歩みを学ぶ
3	寺院史料論	中世寺院における史料（聖教・古文書等）とその社会について学ぶ
4	寺院史料と東寺百合文書	中世寺院における史料群の形成と伝来を概観し、東寺百合文書の特質を探る
5	中世寺院・東寺の誕生	古代から鎌倉初期に至る東寺の歴史を学ぶ
6	鎌倉幕府と東寺	建久年間の文覚上人による東寺復興事業や蒙古襲来をとりあげながら、寺院と武家の関わりを学ぶ

7	本末相論	鎌倉中～末期における東大寺・醍醐寺の本末相論との関わりに関心をあてながら、同時期の東寺の宗教環境を学ぶ
8	アーカイブズの形成と伝来	中世寺院における文書・聖教群の形成と管理のありかたを学ぶ
9	東寺領荘園の展開	鎌倉末期から南北朝期にかけて拡充した東寺領荘園とその展開を学ぶ
10	東寺の伽藍修造事業	東寺大勧進職が推進した室町期における修造事業について学ぶ
11	弘法大師信仰の展開	東寺御影堂を中心に展開した弘法大師信仰とその社会的意義を学ぶ
12	寺院の芸能	古典芸能に通じる、室町期に発達した寺院における芸能について学ぶ
13	応仁・文明の乱	応仁・文明の乱という大乱に際して、人びとがどのように対応したのかを学ぶ
14	まとめ	現代社会において歴史学研究の果たす役割を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・使用テキストは事前に予習しておく。（各回2時間程度。予習の仕方については教場で説明します。）
- ・プリントやノートを用いた復習を行う。（各回2時間程度。復習の仕方については教場で説明します。）
- ・本授業の最終にレポートをまとめて提出する。（テーマや執筆方法については、教場でお伝えします。）

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

- ・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局、2003年
 - ・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998年
- このほか、授業の進行状況に応じてお伝えします。

【成績評価の方法と基準】

レポート60%、平常点40%で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次回の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・日本史Ⅱもあわせて受講することを強く推奨します。
- ・日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、日本の文化、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修をとおくお待ちしております。
- ・高校で日本史を学んでいなくても、受講に支障はありません。
- ・日本の歴史と文化、文化財の魅力を自分の言葉で海外に発信できるようにしましょう。

【Outline (in English)】

【Course outline】The Outline of this class is learning of the medieval history of Japan. 【Learning Objectives】The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan. 【Learning activities outside of classroom】You spend 2hours preparing and reviewing each class. 【Grading Criteria /Policy】You need to hand over review sheets each class and reports last class.

HIS200LA（史学/History 200）

日本史Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 多聞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は日本近代史（政治史、社会史）に関する知識を身につけるとともに、歴史学、政治学の基礎的概念を理解することを目的としています。史料やデーターを正確に解釈し、全体像をバランスよく把握する能力は、現代社会を生きていく上でも重要です。

【到達目標】

日本近代史に関する基礎的な知識を習得し、簡単な文章を書けるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義においては、双方向的なやりとりを重視する。課題の中で優秀な小レポートについては、その都度、授業内において取り上げ、講評を行う。また、授業の最後に寄せられたコメントについても、次週の授業において取り上げる。新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、内容に若干の変更を伴うこともある。オンライン、対面授業等などの実施予定にともなう、各回の授業計画の変更については、本講義の開始日に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本近代史を考える	日本近代史の見方や解釈について、先行研究の論点を整理し、考察を深める。
2	空襲と国民	空襲の残した爪痕について「戦後」も含めて考察する。
3	日本近代史の中の病	「流感」やその他の病気が、日本近代史に与えた社会的影響について考える。
4	明治憲法と戦前の日本	いわゆる明治憲法体制の形成と崩壊について考える。
5	皇族と戦前の日本	皇族たちの近代史について考える。
6	第一次世界大戦と日本	近年の研究動向をふまえ、100年以上前の戦争の記憶について考える。
7	皇族と三種の神器	三種の神器や賢所、宮中の制度などについて考える。
8	満洲事変と日本外交	「満洲事変」が日本の国内政治をどのように変容させたのかについて考える。
9	戦争と捕虜	「捕虜」「俘虜」などの定義などについて考える。
10	二・二六事件と陸軍	二・二六事件とその思想的背景について考える。

11	日独伊三国同盟と重臣	いわゆる「三国同盟」について、当時の史料を読みながら、この問題について考察を深める。また、同盟理論についても考察を深める。
12	「アジア・太平洋戦争」の時代	戦前の朝鮮・台湾・アジアとの関係について考える。
13	シベリア抑留と日ソ関係	近衛文隆や宇野宗佑、三波春夫など、多くの人が抑留されました。抑留中に歌われた音楽やナヴォイ劇場にまつわる言説についても取り上げます。
14	原爆投下について考える	原爆投下についての論争などについて整理し「戦後」の問題も考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各回のコメント）30%
簡単な小レポート（複数回）50%
テスト 20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course will help students understand modern Japanese history, especially political and social history. Students will also gain a general understanding of the disciplines of history and political science. The ability to analyze historical materials and data to obtain a balanced view of a topic is a critical skill for modern life.

(Learning Objectives) Students will acquire a basic understanding of modern Japanese history while also learning how to write short essays.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation time: 2 hours per class

Review time: 2 hours per class

(Grading Criteria / Policy)

Short reports 50%

Class participation (weekly comments) 30%

Final test 20%

HIS200LA (史学/History 200)

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 多聞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は日本現代史（政治史）に関する知識を身につけるとともに、歴史学、政治学の基礎的概念を理解することを目的としています。史料やデータを正確に解釈し、全体像をバランスよく把握する能力は、現代社会を生きていく上でも重要です。

【到達目標】

日本現代史に関する基礎的な知識を習得し、簡単な文章を書けるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義においては、双方向的なやりとりを重視する。課題の中で優秀な小レポートについては、その都度、授業内において取り上げ、講評を行う。また、授業の最後に寄せられたコメントについても、次週の授業において取り上げる。新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、内容に若干の変更を伴うこともある。オンライン、対面授業等などの実施予定にともなう、各回の授業計画の変更については、本講義の開始日に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本現代史について考える	「戦前」と「戦後」について考えます。
2	老病死の「終戦史」	「病気」「身体」といった要因が政治に与えた影響を考える。
3	日露戦争と鈴木貫太郎	近年の研究動向をふまえ、日露戦争のインパクトについて考える。
4	真珠湾攻撃と日米戦争	2021年の80周年にあたってのメディアや記憶について考える。
5	新憲法の制定過程	日本国憲法の制定過程について概観します。
6	東条英機と「東京裁判」	国際政治の文脈から「東京裁判」を考えます。
7	昭和天皇と平沼騏一郎	平沼騏一郎とその政治グループの位置づけについて考えます。
8	55年体制の成立と岸信介	岸信介とその政治グループの位置づけについて考えます。
9	占領政策の転換と吉田茂	吉田茂とその政治グループの位置づけについて考えます。
10	風化する戦争体験と「五感」	五感を歴史学の文脈で語ることは難しいです。空襲警報の音や、戦争における「匂い」などについて考えます。

11	政治とシンボル	「国家」「陸軍」「海軍」は見えてなくても、シンボルは目に見えます。国旗、軍旗、軍艦、日本刀、石碑、いろいろなものについて考えてみたいと思います。
12	日中国交正常化と高度成長	戦後の日中・日台関係について概観します。
13	冷戦の終結と日米関係	日米関係を長期的視点から考察します。
14	21世紀の日本外交 相互理解に向けて	日本の内政と外交がどのような関連性を持っているのかを理解します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各回のコメント） 30%

小レポート（複数回） 50%

テスト 20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course will help students understand modern Japanese history, especially political and social history. Students will also gain a general understanding of the disciplines of history and political science. The ability to analyze historical materials and data to obtain a balanced view of a topic is a critical skill for modern life.

(Learning Objectives) Students will acquire a basic understanding of modern Japanese history while also learning how to write short essays.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation time: 2 hours per class

Review time: 2 hours per class

(Grading Criteria /Policy)

Short reports 50%

Class participation (weekly comments) 30%

Final test 20%

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

宗教論Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

古澤 有峰

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバルな視点から、宗教の社会貢献や中立性、利他等について再考する。

【到達目標】

国際社会の中の宗教をめぐる課題や問題点（宗教の社会貢献や公共における宗教的中立性など）について、具体例の検証などを通じて学習・理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。初回レポートおよび中間レポートの提出を求める。コメントに対するフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	「宗教」を取り巻く諸問題について、国際社会の中の宗教という観点から再考する
2	理論編	宗教・中立・公共性—講義理解のための“理論入門”
3	国際社会の中の宗教 ①災害支援は誰のためか（1）	赤十字の思想と実践を例に
4	国際社会の中の宗教 ①災害支援は誰のためか（2）	阪神大震災を例に
5	国際社会の中の宗教 ①災害支援は誰のためか（3）	東日本大震災を例に
6	国際社会の中の宗教 ②あなたのからだは誰のものか（1）	中絶論争を例に
7	国際社会の中の宗教 ②あなたのからだは誰のものか（2）	臓器移植を例に
8	国際社会の中の宗教 ②あなたのからだは誰のものか（3）	終末期医療を例に
9	国際社会の中の宗教 ③心と魂のケアは何のためか（1）	心のケア、その課題と問題点
10	国際社会の中の宗教 ③心と魂のケアは何のためか（2）	スピリチュアルケアの功罪：理念と実際
11	国際社会の中の宗教 ③心と魂のケアは何のためか（3）	スピリチュアルケアの功罪：歴史的背景

12	国際社会の中の宗教 ③心と魂のケアは何のためか（4）	スピリチュアルケアの功罪：中立性をめぐって
13	国際社会の中の宗教 ③心と魂のケアは何のためか（5）	音楽と癒しを例に
14	まとめ	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が40%、最終レポートが60%。前者は初回レポートと中間レポートの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course deals with religions' contributions, neutrality, and altruism towards society from a global standpoint. (Learning Objectives) The goals of this course are deepen learning and understanding of issues and problems surrounding religion in the international community (such as the contribution of religion to society and religious neutrality in the public sphere) through examination of specific examples. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to make an effort to understand the contents of the class using the handouts, notes, and reference books provided, and to ask questions if there are any points that are not clear. (Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the initial and mid-term reports(40%) and term-end report (60%).

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

宗教論Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

古澤 有峰

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダーの視点からキリスト教と宗教を捉えなおす。

【到達目標】

理論と実際の両方を検証する事を通じて、ジェンダーとキリスト教および宗教をめぐる問題や課題について学習・理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。初回レポートおよび中間レポートの提出を求める。コメントに対するフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	ジェンダーの視点からキリスト教と宗教を捉えなおす
2	基礎知識編	ジェンダーの視点からキリスト教における「聖書」「神」を再考する
3	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた性的マイノリティ（1）	世界における宗教の歴史的動向と、キリスト教における性的マイノリティ
4	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた性的マイノリティ（2）	ジェンダーの定義と歴史的背景
5	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた性的マイノリティ（3）	ライフヒストリーから考える
6	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた生命倫理（1）	キリスト教の体系化の歴史と中絶論争
7	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた生命倫理（2）	脳死・臓器移植・生殖医療・再生医療
8	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた生命倫理（3）	看取り・終末期医療
9	ジェンダーとキリスト教・宗教からみたスピリチュアルケア（1）	心と魂のケア、その課題と問題点
10	ジェンダーとキリスト教・宗教からみたスピリチュアルケア（2）	スピリチュアルケアの功罪：理念と実際

11	ジェンダーとキリスト教・宗教からみたスピリチュアルケア（3）	スピリチュアルケアの功罪：歴史的背景
12	ジェンダーとキリスト教・宗教からみたスピリチュアルケア（4）	スピリチュアルケアの功罪：中立性をめぐって
13	ジェンダーとキリスト教・宗教からみたスピリチュアルケア（5）	音楽と癒しを例に
14	まとめ	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が40%、最終レポートが60%。前者は初回レポートと中間レポートの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course deals with Christianity and religion from the perspective of gender. (Learning Objectives) The goals of this course are deepen learning and understanding of issues and problems surrounding Christianity and religion from the perspective of gender through examination of specific examples. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to make an effort to understand the contents of the class using the handouts, notes, and reference books provided, and to ask questions if there are any points that are not clear. (Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the initial and mid-term reports(40%) and term-end report (60%).

HIS200LA（史学 / History 200）

西洋史ⅡE

2017年度以降入学者

サブタイトル：

竹下 和亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローマ帝国の崩壊からマクロン政権までのフランス史の基本的な流れを解説する。

【到達目標】

フランス史の基礎的な知識を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

年表と王家の系図を詳細にみながら、フランスの歴史を講義します。質問は、授業終了後及びコメントシートで受け付けます。課題等のフィードバックは授業内で行います。また適宜、ディスカッションを行います。授業の日程は、受講生の関心等により多少変更されることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フランスの諸地域Ⅰ	イール・ド・フランスからブルゴーニュまで
第2回	フランスの諸地域Ⅱ	プロヴァンスからノルマンディーまで
第3回	時代区分	西洋史の時代区分の特質と問題点
第4回	「フランス」史のはじまり	ローマ帝国の崩壊とフランク王国
第5回	中世社会とカペー王国	カペー朝フランス王国の形成
第6回	中世後期の危機と王権	フランス王朝国家の拡大と百年戦争
第7回	近代国家の成立	「国家」概念の成立と国王行政の凝集化
第8回	フランス絶対王政の統治構造	封建制から社団的編成へ
第9回	フランス革命と第一帝政Ⅰ	テュルゴーの改革からジャコバン独裁まで
第10回	フランス革命と第一帝政Ⅱ	テルミドールの反動からナポレオン体制の崩壊まで
第11回	革命と名望家の時代	七月革命と二月革命
第12回	共和主義による国民統合	国民国家と植民地帝国の形成
第13回	危機の時代と変貌する現代のフランス	世界大戦後の世界
第14回	試験及びまとめ	試験及びまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。文献が配布されたときは、事前に読んでおいてください。

【テキスト（教科書）】

レジュメと資料を配布します。

【参考書】

柴田三千雄、樺山紘一、福井憲彦編『世界歴史大系 フランス史1・2・3』山川出版社、1995年
井上幸治編『世界各国史2』山川出版社、1968年
福井憲彦編『新版 世界各国史12』山川出版社、2001年
J・H・エリオット（立石博高、竹下和亮訳）『歴史ができるまで』岩波書店、2017年
クリシャン・クマー（立石博高、竹下和亮訳）『帝国』岩波書店、2024年
『二宮宏之著作集』（全5巻）岩波書店、2011年

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、試験（70％）
毎回の授業への出席は単位修得の前提条件です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This course provides an overview of the fundamental flow of French history, from the fall of the Roman Empire to the Macron administration.

< Learning Objectives >

Students will acquire fundamental knowledge of French history.

< Learning Activities outside of Classroom >

Students are expected to spend approximately two hours on both preparation and review for each class. If reading materials are distributed, students must read them in advance.

< Grading Policy >

Class participation and assignments: 30%

Final examination: 70%

Regular attendance is a prerequisite for earning course credit.

HIS200LA (史学/History 200)

西洋史 L F

2017年度以降入学者

サブタイトル：

内川 勇太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世ヨーロッパにまつわる主要なフィクションをとりあげ、それらが流布した原因および実際に起きたことについて、1次史料に基づいて考察する。

【到達目標】

中世ヨーロッパ史に関するフィクションが訂正される過程を体験すること、史料批判に基づく歴史学の研究手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回終了後にリアクションペーパーを提出してもらい、全体に共有すべき質問等は次の授業冒頭において取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	まえがき・イントロダクション・訳者あとがき
第2回	第1章 中世は暗黒時代だった	中世ヨーロッパに対する全般的なイメージ
第3回	第2章 中世の人々は地球は平らだと思っていた	中世ヨーロッパにおける世界認識
第4回	第3章 農民は風呂に入ったことがなく、腐った肉を食べていた	中世ヨーロッパの衛生
第5回	第4章 人々は紀元千年を恐れていた	中世ヨーロッパにおけるキリスト教の終末思想
第6回	第5章 中世の戦争は馬に乗った騎士が戦っていた	中世ヨーロッパの戦争・戦闘技術
第7回	第6章 中世の教会は科学を抑圧していた	中世ヨーロッパにおける信仰と科学の関係
第8回	第7章 一二二二年、何千人もの子どもたちが十字軍遠征に出立し、そして死んだ	中世ヨーロッパの教皇権と子ども十字軍
第9回	第8章 ヨハンナという名の女教皇がいた	中世ヨーロッパの女性と教皇権
第10回	第9章 中世の医学は迷信にすぎなかった	中世ヨーロッパの医学と迷信
第11回	第10章 中世の人々は魔女を信じ、火あぶりにした	中世ヨーロッパの魔女

第12回 第11章 ペスト医師 中世ヨーロッパにおける疫病のマスクと「バラのまわりを輪になって」は黒死病から生まれた

第13回 番外編 アングロ＝サクソン期イングランドでは七王国の王がブリテンの覇者になろうと互いに争っていた

第14回 まとめ 授業の復習とレポートの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習、授業内容の復習を合わせて各回4時間以上の予習・復習を行う。

【テキスト（教科書）】

ウィンストン・ブラック 著/大貫 俊夫 監訳『中世ヨーロッパ：ファクトとフィクション』平凡社 2021

【参考書】

適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(70%)、毎回のリアクションペーパー(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Course outline:Featuring popular fictions or myths on Medieval Europe, this course aims to outline the reason and the way of their development, and present the historical facts based on primary sources.

Learning Objectives:By experiencing the process of fictions on Medieval Europe being corrected, students will learn the method of History based on source criticism.

Learning activities outside of classroom:reading of the textbook before and after each class

Grading Criteria/Policy:Report(70%), Reaction Papers(30%)

LAW100LA（法学 / law 100）

法学 I

2017年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義形式で実施する。授業毎に学習支援システムで自動採点の小テストを実施する。小テストについては、次の授業時に講評と解説によりフィードバックを行う。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第2回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第3回	法と権利	権利義務関係
第4回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
第5回	法の解釈	法解釈の性質と役割
第6回	法の分類	法の分類と法源
第7回	国家と法	立憲主義と「法の支配」
第8回	明治憲法と日本国憲法	日本国憲法の成り立ちを学ぶ
第9回	日本国憲法の基本原理 1	国民主権
第10回	日本国憲法の基本原理 2	平和主義
第11回	日本国憲法の基本原理 3（1）	基本的人権とは
第12回	日本国憲法の基本原理 3（2）	人権規定の構成
第13回	統治機構 1	国会と内閣
第14回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキストの該当箇所を復習し、関係条文を確認してから小テストを受験する。授業前にはテキストを読み込んで予習し、関係条文を確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大谷實編著『エッセンシャル法学 第8版』成文堂、2025年3月発行、3190円（税込み）、ISBN9784792307400

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業毎に実施する学習支援システムの小テスト（30%）、期末に実施するレポート課題（70%）の合計で評価する。これらにより、到達目標欄に記載した3点の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

主な裁判例や憲法条文を掲載している情報量の多いテキストを用い、例年、文字が多くとっつきにくいという意見があった。事前にパワーポイントや追加資料を学習支援システムで配布し理解を促すよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで小テストを受験できる、レポート課題を学習支援システム上でワードファイルで提出できる機器を準備すること。六法を購入する必要はない。

【その他の重要事項】

質問については、学習支援システムで受けるほか、講義の前後に教室で受ける。

【Outline (in English)】

Lectures on the basics of law will be given to beginners in law. The content will be centered on general and comprehensive knowledge of law as a whole and lectures on the structure and basic principles of the Constitution of Japan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Each class will be evaluated based on the total of quizzes (30%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (70%).

LAW100LA（法学 / law 100）

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でパワーポイントを用いて授業を行う。授業毎に学習支援システムでの自動採点の小テストを実施する。小テストについては、次の授業時に講評と解説によりフィードバックを行う。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・犯罪と刑罰1	授業の進め方、犯罪と刑罰
第2回	犯罪と刑罰2	犯罪の成立要件
第3回	民法1	民法の基礎・物権
第4回	民法2	債権法の基礎・契約
第5回	民法3	不法行為と損害賠償
第6回	民法4	各種事故の被害者救済
第7回	民法5	家族関係と法1夫婦と親子
第8回	民法6	家族関係と法2相続
第9回	経済取引と法	商法・会社法
第10回	労働関係と法	労働法の理念と体系
第11回	社会保障法	被用者保険・社会保障・社会福祉
第12回	情報化社会と法	情報法
第13回	国際関係と法1	主権と領土
第14回	国際関係と法2	国際法と国内法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキストの該当箇所を復習し、関係条文を確認してから小テストを受験する。授業前にはテキストを読み込んで予習し、関係条文を確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大谷實編著『エッセンシャル法学 第8版』成文堂、2025年3月発刊、3190円（税込み）、ISBN9784792307400

【参考書】

学習支援システム及び授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業毎に実施する学習支援システムの自動採点の小テスト（30%）、期末に実施するレポート課題（70%）の合計で評価する。これらにより、到達目標欄に記載した4点の達成度を評価する

【学生の意見等からの気づき】

法学部以外の学生も多く、テキストが難しいという指摘があることから、難解な用語について平易に解説するように努め、ニュース解説番組などを紹介して導入のきっかけを作る工夫をした。法改正が頻繁な法令について追加資料を学習支援システムで配布し、e-govの条文へのリファレンスを行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで小テストを受験できる、レポート課題を学習支援システムでワードファイルで提出できる機器を準備すること。最新の法律条文は、電子政府の総合窓口（e-Govなどで閲覧すると良い）。

【その他の重要事項】

質問については、学習支援システムで受けるほか、講義の前後に教室で受ける。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

Lectures on the basics of law will be given to beginners in law. The main content is lectures on basic knowledge and principles of criminal law, civil law, and labor law, and the basics of international law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (30%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (70%).

LAW100LA (法学 / law 100)

法学 I

2017年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容は、主に日本国憲法の構造と基本原理、行政法に関するものである。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。授業回によっては、質疑応答を行う。授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。リアクションペーパーを書いてもらう場合がある。提出されたリアクションペーパーについては、次回授業の質疑応答の際にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と法学の意義について
2	法とは何か	法の特徴と働き、法の適用と解釈
3	日本国憲法 1	憲法総論—憲法とは何か、憲法の歴史、立憲主義
4	日本国憲法 2	統治機構—国会
5	日本国憲法 3	統治機構—内閣
6	日本国憲法 4	統治機構—裁判所
7	日本国憲法 5	基本的人権—幸福追求権（包括的基本権）・法の下での平等
8	日本国憲法 6	基本的人権—精神的自由（思想・良心の自由、信教の自由）
9	日本国憲法 7	基本的人権—表現の自由
10	日本国憲法 8	基本的人権—経済的自由、人身の自由
11	行政法 1	行政法総論
12	行政法 2	行政処分
13	行政法 3	行政手続
14	行政法 4	行政訴訟（取消訴訟）、国家賠償法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートや文献を事前・事後に読む。授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上田健介、尾形健、片桐直人『憲法判例50!〔第3版〕（START UP）』（有斐閣、2023）ISBN-13：978-4641228467

【参考書】

毛利透『グラフィック 憲法入門 第2版』（新世社、2021）ISBN：978-4883843244

長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選 I・II』（有斐閣、2019）

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100％）。

これにより、到達目標欄の達成度を評価する。

なお、リアクションペーパーを考慮する場合がある。

詳細は、授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、具体例を示しながら授業を進めていきます。

【その他の重要事項】

私語や授業妨害に相当する行為を禁止する。場合によっては、退室を指示する場合がある。

オンライン（オンデマンド）授業を行う場合がある。その際の受講には、PCが必要である。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA (法学 / law 100)

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する授業を行う。特に、国際法、民法、労働法を中心に扱う。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関与されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。授業回によっては、質疑応答を行う。授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。リアクションペーパーを書いてもらう場合がある。提出されたリアクションペーパーについては、次回授業の質疑応答の際にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と履修の意義について
2	国際法 1	国際法の基礎
3	国際法 2	国際法の基本構造
4	民法 1	民法の基本原則
5	民法 2	不法行為—過失責任原則、損害賠償
6	民法 3	契約—契約自由の原則、契約の成立と効力
7	民法 4	物権
8	民法 5	親族（婚姻・離婚）
9	民法 6	権利能力、意思能力、行為能力
10	民法 7	法律行為、意思表示、代理、法人
11	労働法 1	労働法の基本事項、労働関係の当事者（労働者、労働組合、使用者）
12	労働法 2	労働関係の成立・終了
13	労働法 3	労使関係
14	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートや文献を事前・事後に読む。授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

穴戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100％）。これにより、到達目標欄に記載した事項の達成度を評価する。なお、リアクションペーパーを考慮する場合がある。詳細は、授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、具体例を示しながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

私語や授業妨害に相当する行為を禁止する。場合によっては、退室を指示する場合がある。オンライン（オンデマンド）授業を行う場合がある。その際の受講には、PCが必要である。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including international law, civil law(torts, contract and property etc.) and labor law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA (法学 / law 100)

法学 I

2017年度以降入学者

村元 宏行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学の基礎を学ぶものですが、主には、法律を知識として吸収していくことの重要性和、論理的思考力のトレーニングとしての法学学修という二つの側面から授業を行う予定です。

法学はⅠとⅡに分かれますが、Ⅰでは総論的事項や憲法を中心に取り上げることとします。

【到達目標】

法の種類や法の解釈について基礎的な説明ができるようになる。日本国憲法の学修を通じて、立憲主義について基礎的な説明ができるようになる。

社会において、法が存在する意義や法学学修の重要性について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など 法学を学修する意義について
第2回	法の種類について	制定法としての法律や政令等、 不文法としての慣習や条約等の 種類について
第3回	法の解釈について	法解釈について、強制力の有無 や解釈の類型について
第4回	法と裁判について	法適用の要としての裁判制度に ついて
第5回	法に関わる職業について	法曹三者（裁判官、検察官、弁 護士）と中心とする法律専門職 について
第6回	日本国憲法① 総論	日本国憲法の位置づけと立憲主 義について
第7回	日本国憲法② 日本国憲法の誕生	日本国憲法の制定過程について
第8回	日本国憲法③ 国民主権と象徴天皇 制	国民主権と象徴天皇制の意義、 天皇の国事行為等について
第9回	日本国憲法④ 平和主義	憲法9条をめぐる論議について
第10回	日本国憲法⑤ 人権総論	基本的人権の意義とその限界に ついて
第11回	日本国憲法⑥ 自由権	精神的自由権、経済的自由権、 人身の自由について
第12回	日本国憲法⑦ 社会権、国務請求 権・参政権	生存権、請願権等について

第13回	日本国憲法⑧ 統治の仕組み	権力分立制の意義と内容につい て
第14回	まとめ	教養科目として法学を学ぶ意義 について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『デイリー六法 2025年版』（三省堂）

ただし、他の六法を持っている場合はそれでも構いませんが、詳しくは初回で指示します。

【参考書】

授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

期末試験と授業内小レポートにより、【到達目標】欄に記載した法解釈や立憲主義の理解の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that law.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that law.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW100LA（法学 / law 100）

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

村元 宏行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学の基礎を学ぶものですが、主には、法律を知識として吸収していくことの重要性和、論理的思考力のトレーニングとしての法学学修という二つの側面から授業を行う予定です。

法学はⅠとⅡに分かれますが、Ⅱでは民事法、刑事法、行政法、国際法等を中心に取上げることにします。

【到達目標】

民事法の基本原則について基礎的な説明ができるようになる。
刑事法の基本原則について基礎的な説明ができるようになる。
行政法の基本原則について基礎的な説明ができるようになる。
国際法の基本原則について基礎的な説明ができるようになる。
以上の基本原則の理解を踏まえて、現実の社会問題に法的視点からアプローチできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など 法学を学修する意義について
第2回	民事法について－法体系と基本原則－	民法を中心とした民法体系と私的自治の原則等について
第3回	民事法について－私的トラブルと法－	私的トラブルと法の適用について
第4回	刑事法について－法体系と基本原則－	刑法、刑事訴訟法を中心とした法体系と罪刑法定主義等について
第5回	刑事法について－刑事手続の実際－	捜査から裁判、刑の執行について
第6回	行政法について－法体系と基本原則－	国家行政組織法等を中心とする法体系と行政の基本原則について
第7回	行政法について－行政組織について－	行政組織法を中心とした行政組織について
第8回	国際法について－法体系と基本原則－	国際法の法類型と基本原則について
第9回	国際法について－国際人権法を中心に－	国際人権規約や子どもの権利条約を中心とした国際人権条約について
第10回	社会問題と法①－教育と法－	校則や体罰について法的視点から考察する
第11回	社会問題と法②－貧困と法－	生活保護や子どもの貧困について法的視点から考察する
第12回	社会問題と法③－消費生活と法－	18歳成年や消費者トラブルについて法的視点から考察する

第13回	社会生活と法④－労働と法－	過労死やブラック職場について法的視点から考察する
第14回	まとめ	教養科目として法学を学ぶ意義について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『デイリー六法 2025年版』（三省堂）

ただし、他の六法を持っている場合はそれでも構いませんが、詳しくは初回で指示します。

【参考書】

授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

期末試験と授業内小レポートにより、【到達目標】欄に記載した諸法の基本原則理解の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that law.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that law.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW100LA (法学 / law 100)

法学 I

2017年度以降入学者

吉村 千冬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの社会生活に法は欠かせないものですが、普段の生活で法を意識することはあまりないかもしれません。しかし、法は私たちの社会生活に欠かせないものであるからこそ、法学の知識が日常のトラブルや社会問題の解決に有益となります。

この授業では、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎的・一般的知識を学ぶことを通じて、法学に関する知識や法的思考の獲得を目指します。法学 I では、法学の基礎と日本国憲法について扱います。なお、授業の進行ペース等により、順序や内容を変更する場合があります。

【到達目標】

法学の基礎的・一般的知識を習得し、日本法の仕組みと基本原則を理解することを基本的な目標とします。

具体的には、以下の4つが到達点です。

- ①法学の基本概念・用語を理解する。
- ②現代の日本法の基本的な仕組みと体系を把握する。
- ③社会における法の役割を理解し、法によって紛争や社会問題がどのように解決されるか、人の権利がどのように守られているのかを理解する。
- ④日本国憲法の基本原理と特徴を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布するレジュメに沿って講義形式で行います。

一方通行な授業にならないよう、リアクションペーパーを書いていただき、翌週の授業の冒頭でフィードバックをする予定です。

基本的に対面を予定していますが、オンラインになる場合には事前にご連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価等に関する説明 法学を学ぶ意義について
第2回	法とは何か	社会生活における法の役割について
第3回	法の歴史	法の歴史的展開について
第4回	法の体系と形式	法の分類、法源について
第5回	法解釈の方法	法解釈の意義と役割、条文や判例の読み方について
第6回	裁判制度とその役割	裁判の仕組み、裁判員制度について
第7回	法の担い手	法律家や法制度の運用に携わる専門職等について
第8回	日本国憲法の歴史	明治憲法と日本国憲法の比較について
第9回	日本国憲法の基本原理①	国民主権について
第10回	日本国憲法の基本原理②	平和主義について

第11回 日本国憲法の基本原理③ 基本的人権の概要について

第12回 日本国憲法の基本原理④ 人権規定の構成について

第13回 統治機構① 統治の基本原則、国会と内閣の位置付けについて

第14回 統治機構② 裁判所の地位と機能について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや参考文献等を参照しながら、概念や制度等について予習・復習してください（各2時間）。

【テキスト（教科書）】

配布するレジュメに沿って行います。
六法を持参してください（どこの出版社のものでも良いです）。

【参考書】

配布するレジュメに参考文献を記載しますので、予習や復習の際に参照してください。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 20%

期末試験または期末レポート 80%

双方に基づき、到達目標として記載した4点に達しているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当するため特にありませんが、丁寧な説明を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメの配布は学習支援システムを利用しますので、各自で確認をお願いします（紙資料の配布はない予定です）。

【Outline (in English)】

・ Course outline

The purpose of this course is to understand the basic structure and principle of Japanese law.

・ Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic structure and principle of Japanese law and role of law in society, how issues are resolved by law, and how people's rights are protected.

・ Learning activities outside of the classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Short reports in class: 20%

LAW100LA (法学 / law 100)

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

吉村 千冬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの社会生活に法は欠かせないものですが、普段の生活で法を意識することはあまりないかもしれません。しかし、法は私たちの社会生活に欠かせないものであるからこそ、法学の知識が日常のトラブルや社会問題の解決に有益となります。

この授業では、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎的・一般的知識を学ぶことを通じて、法学や法的思考に関する知識の獲得を目指します。法学Ⅱでは、刑事法、民事法、行政法等の各種法について扱います。なお、授業の進行ペース等により、順序や内容を変更する場合があります。

【到達目標】

法学の基礎的・一般的知識を習得し、日本法の仕組みと基本原則を理解することを基本的な目標とします。

具体的には、以下の4つが到達点です。

- ①法学の基本概念・用語を理解する。
- ②現代の日本法の基本的な仕組みと体系を把握する。
- ③社会における法の役割を理解し、法によって紛争や社会問題がどのように解決されるか、人の権利がどのように守られているのかを理解する。
- ④それぞれの法の基本原則と特徴を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布するレジュメに沿って講義形式で行います。

一方通行な授業にならないよう、リアクションペーパーを書いていただき、翌週の授業の冒頭でフィードバックをする予定です。

基本的に対面を予定していますが、オンラインになる場合には事前にご連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価等に関する説明
第2回	刑事法①	刑事司法を取り巻く近年の状況について
第3回	刑事法②	犯罪の成立と刑事手続について
第4回	刑事法③	日本における刑罰制度について
第5回	刑事法④	少年法について
第6回	民事法①	民事法の意義、構成、基本原則の概要について
第7回	民事法②	契約自由の原則－契約について
第8回	民事法③	過失責任の原則－不法行為と損害賠償について
第9回	家族関係と法①	夫婦と親子について
第10回	家族関係と法②	戸籍をめぐる問題－無戸籍について
第11回	行政法①	行政法の基本構造や行政法的一般原則について
第12回	行政法②	行政救済法について

第13回 労働法 労働法の理念、体系、内容について

第14回 国際法 国際法と国内法の関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや参考文献等を参照しながら、概念や制度等について予習・復習してください（各2時間）

【テキスト（教科書）】

配布するレジュメに沿って行います。

六法を持参してください（どこの出版社のものでも良いです）。

【参考書】

配布するレジュメに参考文献を記載しますので、予習や復習の際に参照してください。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 20%

期末試験または期末レポート 80%

双方に基づき、到達目標として記載した4点に達しているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当するため特にありませんが、丁寧な説明を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメの配布は学習支援システムを利用しますので、各自で確認をお願いします（紙資料の配布はない予定です）。

【その他の重要事項】

私語は他の学生の迷惑にもなりますので、ご遠慮ください。

【Outline (in English)】

・ Course outline

The purpose of this course is to understand the basic structure and principle of Japanese law.

・ Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic structure and principle of Japanese law and role of law in society, how issues are resolved by law, and how people's rights are protected.

・ Learning activities outside of the classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Short reports in class: 20%

LAW100LA（法学 / law 100）

法学 I

2017年度以降入学者

陳 志明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学Ⅱ（秋学期）と一体をなすものであり、主に初学者・入門者を対象に、法学の一般的・基本的な知識を習得して理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、春学期の法学Ⅰでは、法学全体に関わる一般的・包括的な知識、立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造に関する講義を行う予定です。

【到達目標】

受講生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することで、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養を習得することを目標としています。具体的には、①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解すること、②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明
第2回	法とは何か	法と社会との関係 道徳等との関係 法の目的 権利義務との関係
第3回	法と裁判	事件への法の適用 裁判制度 訴訟手続上の諸原則
第4回	裁判の基準	制定法 法の適用における原則 不文法
第5回	法の解釈と分類	事実認定と法の解釈 解釈の性質及び方法 法の分類
第6回	国家と憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特質
第7回	日本の新旧憲法	大日本帝国憲法の特質 日本国憲法の制定 日本国憲法の基本原則
第8回	国民主権	国民主権 選挙 地方自治
第9回	平和主義	規定の背景 規定の内容及び解釈 安全保障

第10回 基本的人権①

人権総論
包括的基本権
法の下での平等
自由権
社会権
参政権及び国務請求権

第11回 基本的人権②

第12回 権力分立①

国会
議院内閣制
内閣

第13回 権力分立②

裁判所
違憲審査制
財政

第14回 授業内試験（教室レポート）

レポートの作成及び提出並びに
まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

末川博編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014年）
 宍戸常寿・石川博康編著『法学入門』（有斐閣、2021年）
 安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第4版〕』（有斐閣、2024年）
 その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期末の授業内試験（教室レポート）（80％）及び平常点（20％）により、「到達目標」に掲げた「法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of general and comprehensive knowledge of the whole law, and the basic principles and structure of the Constitution of Japan. At the end of the course, students are expected to master the basics of law and to understand the mechanism and basic principles of modern law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW100LA (法学 / law 100)

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

陳 志明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学Ⅰ（春学期）と一体をなすものであり、主に初学者・入門者を対象に、法学の一般的・基本的な知識を習得して理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、秋学期の法学Ⅱでは、刑法、民法、労働法の基本構成と基本原則、国際法の基礎的な知識に関する講義を行う予定です。

【到達目標】

受講生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することで、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養を習得することを目標としています。具体的には、①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解すること、②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	犯罪と法①	刑法とは何か 罪刑法定主義 法益の保護
第2回	犯罪と法②	犯罪の成立 構成要件 違法性と責任
第3回	民法総論①	民法とは何か 民法の基本原則 権利と義務
第4回	民法総論②	契約と法律行為 権利能力と行為能力 法人と会社
第5回	財産関係と法①	契約の成立と効果 双務契約における債務 契約の履行と不履行
第6回	財産関係と法②	所有権 不法行為 損害賠償
第7回	家族関係と法①	家族法 親族 夫婦
第8回	家族関係と法②	親子 扶養 相続
第9回	労働と法①	労働法の概観 労働関係の当事者 労働条件の決定

第10回 労働と法② 労働契約の成立

第11回 国際社会と法① 人事
賃金
主体
国家の主権第12回 国際社会と法② 国際法の存在形式
国際法の国内の実施
国際法の国際の実施
領域第13回 国際社会と法③ 海洋
南極と上空
人権第14回 授業内試験（教室レポート） レポートの作成及び提出並びに
まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

末川博編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014年）
 宍戸常寿・石川博康編著『法学入門』（有斐閣、2021年）
 井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第6版補訂版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2022年）
 野村豊弘『民事法入門〔第9版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2025年）
 小畑史子・緒方桂子・竹内（奥野）寿『労働法〔第4版〕』（有斐閣ストゥディア、有斐閣、2023年）
 玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法〔第2版〕』（有斐閣ストゥディア、有斐閣、2022年）
 その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期末の授業内試験（教室レポート）（80％）及び平常点（20％）により、「到達目標」に掲げた「法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic structure and principles of criminal law, civil law and labor law, and the basic knowledge of international law. At the end of the course, students are expected to master the basics of law and to understand the mechanism and basic principles of modern law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW100LA (法学 / law 100)

法学 I

2017年度以降入学者

水野 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。契約法に関する基本的な概念を理解し、初歩的な法知識を取得することすることを第一の目的とする。これに加え、憲法の構造と基本原理、国際法に関して、条約の締結やEU法についても学ぶ。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業の目標である。法律を学んだことのない学生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。法学の基礎を学習することにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。
- ④EU法の基礎を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書とパワーポイント・黒板を利用し、講義形式で授業を行う。ドキュメンタリーなど視聴覚教材を使用する場合があるが、その場合は、リアクションペーパーの提出を求める。

毎回の授業の終わりに質問等を受ける時間を設け、次回の授業開始時に、前回の復習を行うとともに、リアクションペーパーに関するコメントについて、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	法の役割と法律の学び方
第2回	契約をしたことはありますか。	私たちが日々行っている契約が生活における様々な活動と契約がどのように関係しているか考え、契約とは何かを学ぶ。
第3回	契約を結ぶとどのような権利義務関係にはいるのだろうか。	契約をすると、どのような義務が発生し、どのような権利を得るのか。
第4回	債権・債務関係	契約によって生じる権利義務関係について、具体例を通じて考える。
第5回	債務不履行	契約が守られなかったとき、契約を締結した者はどのような対応を取ることができるか。
6回	契約に拘束されない場合	契約を結んだにもかかわらず、契約に従わなくてもよい場合について
7回	不法行為（1）	他人によって自分の権利を侵害された場合について

8回	不法行為（2）	典型的な不法行為とその解決
9回	憲法とは	憲法は何のためにあり、何を守るものか。
10回	憲法と私人	憲法は何を保障するか。憲法が保障する基本的人権について
11回	憲法と統治機構	なぜ、権力を抑制する必要があるか。近年起きた事例をもとに検討する。
12回	EUとはどのようなものか	EUの成立と法制度について
13回	EUにおける司法制度	EUの裁判の特徴を理解し、国内裁判との違いを理解する。また、判決文を見る
14回	まとめ・試験	春学期の重要な点について確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、資料等の指摘されたところを熟読すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池田・大伏・野川・大塚『法の世界へ〔第9版〕』（有斐閣アルマ、2023年）

なお、版が改訂される場合があるが、講義では最新版のものを使用するので、版の改訂を確認の上購入すること。

【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）
田中淳子・大野正博 編『法学入門』（成文堂、2015年）
末川博 編『法学入門〔第6版〕』（有斐閣双書、2009年）
松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第3版〕』（有斐閣、2014年） など

【成績評価の方法と基準】

記号選択問題によっておこなう期末試験の成績（80％）、これに、授業内で行った小テスト・レポート（20％）とし、到達目標欄に記載した4点の達成度を測り評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上に単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

近年の社会問題と関係のある事例についての関心が高いので、時事的な問題を今年度も取り扱う。

また、映像資料を講義内で利用する。

パワーポイントだけではなく、板書を利用する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture targets beginners in law and explains the basic knowledge of law. As a relationship between individuals, we aim to understand the basic concepts concerning the contract law and to acquire rudimentary legal knowledge. Furthermore, as a relationship between the nation and individual, we study the Constitution of Japan and fundamental human rights. Also, as a field related to international law, we also learn about the treaty and the EU law, which is the relation between nations.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to acquire and understand the general and basic knowledge of law. The purpose of this course is to enable students who have never studied law to acquire the basics of law and to understand the structure and basic principles of modern law. This course is designed to help students who have never studied law to acquire basic legal knowledge and qualities required as citizens of a law-abiding country, and to acquire the basic legal knowledge that a sovereign citizen of a democratic country should have. Specific objectives of the course are as follows

(1) To acquire the meaning and content of the basic concepts and terms of law, and to understand the basic structure and system of modern law.

(2) To understand the role of law in society, and how social conflicts can be resolved by law and how individual rights can be protected.

(3) Understand the significance of constitutionalism and the basic principles and structure of the Japanese Constitution.

4) Understand the basics of EU law.

(Learning activities outside of classroom)

Please read the textbook and handouts carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Students will be graded on the basis of their performance on the final exam, which will consist of symbol selection questions (80%), and in-class tests and reports (20%). Grades are given on a 100-point scale, with 60 points or more being awarded for credit.

LAW100LA (法学 / law 100)

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

水野 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、春期法学Ⅰの契約に関わる法を履修していることを前提に、さらに発展した契約である労働契約を中心に働くことに関わる法を学ぶ。

学生であってもアルバイトをする場合など、働くことと法律は様々なかわりを持っている。しかしながら、労働と法について学ぶ機会は多くない。本講義では、働くこととかわかる法律について、春学期の法学Ⅰにて扱った法学の全般的知識を踏まえて、採用内定とその取り消し、アルバイトの場合の残業代の支給や有給休暇の取得など労働災害、採用内定とその取消など学生であってもかわかりを持つ事例について、さらには、賃金、労働時間、転勤、解雇など重要な問題についても検討を行う。引き続き、働くことと関係する憲法の問題、働くことについてもボーダレスとなっているEUの仕組みなどを通じて、国際的な法律関係、とくにEU法を素材として、人権や平等、労働法上の規制等についても知識を深めることを目的とする。

【到達目標】

春学期の法学Ⅰにて扱った法学の全般的知識を踏まえて、発展的な契約である労働契約の仕組みと法的な規制についての知識を得る。これによって、働く場合における法律関係について、正確な法的知識に基づく正しい理解ができる。

全般的知識に基づいて発展的な法的課題として、EUなどの国際法的な関係についても、EU憲章、EU指令、EU裁判所制度、EUの社会保障制度などについても法的な理解を深める。

上述の点に関与する憲法的な論点について理論的に説明できるよう理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメ、パワーポイントを用いた講義形式で授業を進める。視聴覚教材を利用した場合など、リアクションペーパーやコメントの提出を求める場合がある。講義の終わりに質問の時間を設け、次回抗議の開始時に、復習と質問に対する解説、リアクションペーパー等についてのフィードバックとしてをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	授業の進め方・テストなどについてのガイダンスと模擬授業
2回	契約と労働契約はどのような点で異なるのか	労働契約を結び働く場合の法律関係について アルバイトにおける労働契約
3回	契約によって定められる働く条件 働く場合の法律 労働時間・賃金	労働時間・賃金・時間外労働・割増賃金といった基本的な労働条件とその守られ方について
4回	働く場合の法律 仕事から離れる・仕事を休む	休憩・休息時間・休日・休暇について アルバイトは有給休暇を取得できるのか

5回	仕事へのアクセス 労働契約の開始と終了	就職活動と労働英訳の開始 採用内定と内定の取り消し・解雇
6回	働く場合の法律	最近の問題 問題となっているテーマ 例えばハラスメントなどを取り上げる
7回	ワークライフバランス	ワークライフバランスと少子高齢化 高齢化はなぜ問題なのか フランスやドイツではどのような対策が取られているのか
8回	安全に働く	労働災害・過労死について知る
9回	安全に働く	過労自殺・過労死の認定の問題
10回	国と国の関係と働くこと	グローバル化の中で労働はどのように変わってきているのか
11回	EU諸国における労働と社会保障法	EU市民とEU加盟国はどの間の労働法・社会保障法はどのようなになっているのか
12回	EUの労働法とその実行の仕組み	EU指令の制度、EU加盟国の立法権、EU裁判所の制度による労働法の問題の解決
13回	EUと社会憲章 EUにおける労働と社会保障	EUにおいて人権や働く権利、私生活はどのように保障されているのか。
14回	サステナブルな社会と労働法	ワークライフバランスや多様性を許容する社会を実現するためにしする労働法とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当する教科書のページを熟読すること。さらに、関連する新聞記事やニュースなどをフォローすること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池田真朗、犬伏由子、野川忍、大塚英明『法の世界へ〔第9版〕（有斐閣アルマ、2023年）（改訂版が出た場合は最新のものとする）このほか今年度版の六法を用意すること。六法については初回の授業で紹介しします。

【参考書】

伊藤正己、加藤一郎『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）浜村彰、唐津博、青野覚、奥田香子『ベーシック労働法〔第7版〕』（有斐閣アルマ、2019年）

【成績評価の方法と基準】

選択問題、マークシートを利用して行う期末試験の成績（80％）、これに、春期期間に提出されたレポート（20％）として、到達目標欄に記載した①労働関係の法的知識、②EU法に関する理解、③憲法的論点の理解を達成度を測り評価する。これらの合計を60点～69点をC、70点から79点をB、80点～89点をA、90点以上A+、あるいはSと単位認定する。

【学生の意見等からの気づき】

EUやフランス法との比較法的な検討について、関心が高かったのが今後もそのような比較法的な視点からの講義を増やすこととしたい。また、コロナ感染症対策における雇用政策や公衆衛生法についても関心が高かったのが、時事的な問題や直ちに影響を受ける政策について情報を提供するように心がけた。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is aimed at students who have completed Spring Law I and focuses on the law relating to working, with an emphasis on the further developed contract, the labour contract.

Working and the law are involved in various ways, even for students, such as when they work part-time or engage in job activities. However, there are not many opportunities to learn about work and the law. In this lecture, students will learn about the law as it relates to working.

Based on the knowledge of law covered in Law I in the spring semester, the following topics will be discussed. Cases that are relevant even to students, such as employment offers and withdrawal of offers, work-related accidents such as overtime pay and paid leave in the case of part-time jobs, employment offers and their withdrawal, as well as important issues such as wages, working hours, transfers and dismissal will also be examined. In the area of international law, the course will also provide an overview of the EU's borderless working environment with regard to the movement of people and labour, and will deepen knowledge of human rights, equality and labour law regulations.

(Learning Objectives)

Gain knowledge of the structure and legal regulations of labor contracts, which are developmental contracts. This will provide students with a correct understanding based on accurate legal knowledge of legal relations in the case of work.

Students will also gain a legal understanding of international legal relations such as the EU, including EU directives, the EU court system, and the EU social security system from the perspective of labor.

Deepen their understanding so that they can theoretically explain the constitutional issues involved in the above points.

(Learning activities outside of classroom)

Read the relevant textbook pages and handouts carefully. In addition, students are expected to follow up on relevant newspaper articles and news. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Students will be evaluated based on their performance in the final examination using mark sheets (80%), plus reports submitted during the spring semester (20%) to measure their achievement in (1) legal knowledge of labor relations, (2) understanding of EU law, and (3) understanding of constitutional issues as stated in the achievement objectives section. A total of 60 to 69 points will be awarded as C, 70 to 79 points as B, 80 to 89 points as A, and 90 points or more as A+ or S.

LAW100LA (法学 / law 100)

法学 I

2017年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容は、主に日本国憲法の構造と基本原理、行政法に関するものである。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。授業回によっては、質疑応答を行う。授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。リアクションペーパーを書いてもらう場合がある。提出されたリアクションペーパーについては、次回授業の質疑応答の際にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と法学の意義について
2	法とは何か	法の特徴と働き、法の適用と解釈
3	日本国憲法 1	憲法総論—憲法とは何か、憲法の歴史、立憲主義
4	日本国憲法 2	統治機構—国会
5	日本国憲法 3	統治機構—内閣
6	日本国憲法 4	統治機構—裁判所
7	日本国憲法 5	基本的人権—幸福追求権（包括的基本権）・法の下での平等
8	日本国憲法 6	基本的人権—精神的自由（思想・良心の自由、信教の自由）
9	日本国憲法 7	基本的人権—表現の自由
10	日本国憲法 8	基本的人権—経済的自由、人身の自由
11	行政法 1	行政法総論
12	行政法 2	行政処分
13	行政法 3	行政手続
14	行政法 4	行政訴訟（取消訴訟）、国家賠償法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートや文献を事前・事後に読む。授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上田健介、尾形健、片桐直人『憲法判例50!〔第3版〕（START UP）』（有斐閣、2023）ISBN-13：978-4641228467

【参考書】

毛利透『グラフィック 憲法入門 第2版』（新世社、2021）ISBN：978-4883843244

長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選 I・II』（有斐閣、2019）
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100％）。これにより、到達目標欄の達成度を評価する。
なお、リアクションペーパーを考慮する場合がある。
詳細は、授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、具体例を示しながら授業を進めていきます。

【その他の重要事項】

私語や授業妨害に相当する行為を禁止する。場合によっては、退室を指示する場合がある。
オンライン（オンデマンド）授業を行う場合がある。その際の受講には、PCが必要である。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA (法学 / law 100)

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する授業を行う。特に、国際法、民法、労働法を中心に扱う。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関与されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。授業回によっては、質疑応答を行う。授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。リアクションペーパーを書いてもらう場合がある。提出されたリアクションペーパーについては、次回授業の質疑応答の際にフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と履修の意義について
2	国際法 1	国際法の基礎
3	国際法 2	国際法の基本構造
4	民法 1	民法の基本原則
5	民法 2	不法行為—過失責任原則、損害賠償
6	民法 3	契約—契約自由の原則、契約の成立と効力
7	民法 4	物権
8	民法 5	親族（婚姻・離婚）
9	民法 6	権利能力、意思能力、行為能力
10	民法 7	法律行為、意思表示、代理、法人
11	労働法 1	労働法の基本事項、労働関係の当事者（労働者、労働組合、使用者）
12	労働法 2	労働関係の成立・終了
13	労働法 3	労使関係
14	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートや文献を事前・事後に読む。授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

穴戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100％）。これにより、到達目標欄に記載した事項の達成度を評価する。なお、リアクションペーパーを考慮する場合がある。詳細は、授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、具体例を示しながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

私語や授業妨害に相当する行為を禁止する。場合によっては、退室を指示する場合がある。オンライン（オンデマンド）授業を行う場合がある。その際の受講には、PCが必要である。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including international law, civil law(torts, contract and property etc.) and labor law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA (法学 / law 100)

法学 I

2017年度以降入学者

吉岡 郁美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメに沿って講義形式で行う。毎回の講義の最後に課題を出す。質問および質問等に対するフィードバックは随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
2	法、法学とは何か	法、法学の概要 法源論 法律を読むときの基礎知識
3	裁判制度、判例の読み方	裁判制度 判決の構成、裁判員制度
4	憲法 1	立憲主義、国民主権、平和主義 憲法の歴史
5	憲法 2	基本的人権の享有主体
6	憲法 3	包括的基本権 平等原則
7	憲法 4	精神的自由
8	憲法 5	経済的自由 人身の自由
9	憲法 6	参政権 社会権
10	憲法 7	統治機構 地方自治
11	民法 1	民法総則 物権
12	民法 2	債権 家族

13	労働法	労働法とは 民法の特別法的側面 社会保障法
14	まとめ・授業内試験	授業のまとめを行ったあと、確認テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や対応法学分野の教科書などの該当部分を予め確認しておくといよい。復習を強く勧める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを用いる。

【参考書】

法学入門や法学の教科書、例えば
南野森編『ブリッジブック法学入門〔第3版〕』（信山社、2022年）
高橋雅夫編『法学〔第3版〕』（弘文堂、2020年）など
授業中にも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義最終回の確認テスト（70％）および毎回の講義の最後に出す課題への回答を含めた平常点（30％）で評価する。
課題で各回の理解度を確認しつつ、確認テストによって上記到達目標に掲げた3点の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを講義中に利用できる準備が必要である。

【その他の重要事項】

授業の予定の変更や、オンライン（オンデマンド）講義を行う場合がある。その際の受講にはPCが必要である。
また当然のことながら、私語や授業妨害行為等は禁止する。左記行為が目立つ者に対して退室を指示する場合がある。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to provide basic knowledge of the Constitution of Japan and other areas of law.
An assignment will be given at the end of each lecture. Grades will be based on answers to the assignments (30%) and a test at the last lecture (70%).

It is advisable to check the relevant sections of reference books and textbooks in the corresponding field of law in advance. Review is strongly recommended. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

LAW100LA (法学 / law 100)

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

吉岡 郁美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。法学Ⅰでは法学基礎、憲法、民法、労働法を取り扱ったが、法学Ⅱでは刑法、国際法、E U法、行政法の基礎知識に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③行政法、刑法、国際法などの基本的な構造と知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメに沿って講義形式で行う。毎回の講義の最後に課題を出す。質問および質問等に対するフィードバックは随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
2	刑法 1	刑法の法体系、意義 刑法の基本原則
3	刑法 2	刑法総論、特に構成要件および責任論
4	国際法	基本構造 条約法 国際機関、国際化地域
5	E U 法	E U とは、E U 法とは E U 基本権 E U 統治機構など
6	行政法 1	行政法とは 行政通則法
7	行政法 2	行政組織法 公私協働
8	行政法 3	行政作用法①（行政行為、行政裁量）
9	行政法 4	行政作用法②（行政立法、行政計画、行政契約、行政指導）
10	行政法 5	行政手続 情報公開 個人情報保護
11	行政法 6	行政上の実効性確保

12	行政法 7	行政訴訟
13	行政法 8	行政不服審査 国家補償
14	まとめ・授業内試験	まとめを行ったあと、確認テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や対応法学分野の教科書などの該当部分を予め確認しておく。復習を強く勧める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを用いる。

【参考書】

法学入門や法学の教科書、例えば
南野森編『ブリッジブック法学入門〔第3版〕』（信山社、2022年）
高橋雅夫編『法学〔第3版〕』（弘文堂、2020年）など
授業中にも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義最終回の確認テスト（70%）および毎回の講義の最後に出す課題への回答を含めた平常点（30%）で評価する。
課題で各回の理解度を確認しつつ、確認テストによって上記到達目標に掲げた3点の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを講義中に利用できる準備が必要である。

【その他の重要事項】

講義の予定の変更や、オンライン（オンデマンド）講義を行う場合がある。その際の受講にはPCが必要である。
また当然のことながら、私語や授業妨害行為等は禁止する。左記行為が目立つ者に対して退室を指示する場合がある。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to provide basic knowledge of the Constitution of Japan and other areas of law.

An assignment will be given at the end of each lecture. Grades will be based on answers to the assignments (30%) and a test at the last lecture (70%).

It is advisable to check the relevant sections of reference books and textbooks in the corresponding field of law in advance. Review is strongly recommended. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

LAW100LA (法学 / law 100)

法学 (日本国憲法)

2017年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/
intensive・other courses

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、まず憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について学び、法体系における憲法の存在意義・機能・役割を理解する。その上で、日本国憲法の歴史と全体構造を概観し、日本国憲法が社会において果たしている役割、あるいは果たすべき役割について考える。この授業の目的は、単に憲法の知識を学ぶことにあるのではなく、憲法を通じて現代社会の諸問題を分析し、自分なりの考えを提示できる力を養うことにある。

【到達目標】

- ①憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について理解する。
- ②法体系における憲法の機能と役割、および憲法の特質を理解する。
- ③日本国憲法が成立した歴史的経緯および日本国憲法の構造について理解する。
- ④現代社会で生起する諸問題について分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントと動画を用いて、オンデマンド形式のオンライン授業で行う。受講者は予めプリントをダウンロードし、一読の上で動画を視聴し、自己学習を行う。質問はWebClassの掲示板、およびメールを通じて受け付ける。質問等に対するフィードバックはWebClassまたは個別のメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけと立憲主義の意義について学ぶ
第2回	憲法の歴史①	近代国家と近代憲法の成立経緯について学ぶ
第3回	憲法の歴史②	近代国家から現代国家への変遷、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ
第4回	日本国憲法の概要	日本国憲法の制定経緯と構造について学ぶ
第5回	国民主権・天皇制	国民主権の意義と象徴天皇制の意義、および天皇の権能について学ぶ
第6回	平和主義	平和主義の内容とその変遷について学ぶ
第7回	平等権	平等権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第8回	表現の自由	表現の自由の意義とそれに関する判例について学ぶ
第9回	参政権	参政権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第10回	社会権	社会権の意義とそれに関する判例について学ぶ

第11回	権力分立	権力分立の類型と議院内閣制について学ぶ
第12回	違憲審査制	違憲審査制の意義と限界について学ぶ
第13回	司法権の独立	司法権の独立の意義とそれを脅かす要因について学ぶ
第14回	全体のまとめ	授業全体のまとめと期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に学習支援システム（WebClass）からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。動画を視聴して自己学習を行った後に、プリントの内容が理解できたかどうか、また事前に抱いた疑問点が解明できたかどうかを確認し、授業内容を復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントを用いて行う。

【参考書】

毛利透『グラフィック憲法入門〔第3版〕』（新世社、2024年）
芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023年）
安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第4版〕』（有斐閣、2024年）
その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記「到達目標」の達成度を学期末にオンラインで実施する期末試験の点数で判断し、成績を評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

法学の初学者が多いことを考慮して、なるべく平易な説明を心がける。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】

In this class, students will first learn about constitutionalism, which is the foundation of the Constitution, and the historical background of the Constitution. The class will then overview the history and overall structure of the Constitution of Japan, and consider the role that the Constitution of Japan plays, or should play, in society. The purpose of this class is not merely to learn about the Constitution, but to develop the ability to analyze various issues in contemporary society through the Constitution.

Before/after each class, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、まず憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について学び、法体系における憲法の存在意義・機能・役割を理解する。その上で、日本国憲法の歴史と全体構造を概観し、日本国憲法が社会において果たしている役割、あるいは果たすべき役割について考える。この授業の目的は、単に憲法の知識を学ぶことにあるのではなく、憲法を通じて現代社会の諸問題を分析し、自分なりの考えを提示できる力を養うことにある。

【到達目標】

- ①憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について理解する。
- ②法体系における憲法の機能と役割、および憲法の特質を理解する。
- ③日本国憲法が成立した歴史の経緯および日本国憲法の構造について理解する。
- ④現代社会で生起する諸問題について分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントと動画を用いて、オンデマンド形式のオンライン授業で行う。受講者は予めプリントをダウンロードし、一読の上で動画を視聴し、自己学習を行う。質問はWebClassの掲示板、およびメールを通じて受け付ける。質問等に対するフィードバックはWebClassまたは個別のメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけと立憲主義の意義について学ぶ
第2回	憲法の歴史①	近代国家と近代憲法の成立経緯について学ぶ
第3回	憲法の歴史②	近代国家から現代国家への変遷、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ
第4回	日本国憲法の概要	日本国憲法の制定経緯と構造について学ぶ
第5回	国民主権・天皇制	国民主権の意義と象徴天皇制の意義、および天皇の権能について学ぶ
第6回	平和主義	平和主義の内容とその変遷について学ぶ
第7回	平等権	平等権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第8回	表現の自由	表現の自由の意義とそれに関する判例について学ぶ
第9回	参政権	参政権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第10回	社会権	社会権の意義とそれに関する判例について学ぶ

第11回	権力分立	権力分立の類型と議院内閣制について学ぶ
第12回	違憲審査制	違憲審査制の意義と限界について学ぶ
第13回	司法権の独立	司法権の独立の意義とそれを脅かす要因について学ぶ
第14回	全体のまとめ	授業全体のまとめと期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に学習支援システム（WebClass）からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。動画を視聴して自己学習を行った後に、プリントの内容が理解できたかどうか、また事前に抱いた疑問点が解明できたかどうかを確認し、授業内容を復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントを用いて行う。

【参考書】

毛利透『グラフィック憲法入門〔第3版〕』（新世社、2024年）
 芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023年）
 安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第4版〕』（有斐閣、2024年）
 その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記「到達目標」の達成度を学期末にオンラインで実施する期末試験の点数で判断し、成績を評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

法学の初学者が多いことを考慮して、なるべく平易な説明を心がける。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】

In this class, students will first learn about constitutionalism, which is the foundation of the Constitution, and the historical background of the Constitution. The class will then overview the history and overall structure of the Constitution of Japan, and consider the role that the Constitution of Japan plays, or should play, in society. The purpose of this class is not merely to learn about the Constitution, but to develop the ability to analyze various issues in contemporary society through the Constitution.

Before/after each class, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA (法学 / law 100)

法学 (日本国憲法)

2017年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的な概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則 (「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」)、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】

本講義では、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解できるようになることを目標としている。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの正しい理解を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的な国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得する。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド (法的思考)」を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半はオンデマンド型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半は対面型とする。ウェブに動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と憲法の意義
4	国家の役割	国家が果たすべき役割
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に与えた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本的原理である国民主権の意義について学ぶ
11	日本国憲法と人権保障①	人権保障の特色 基本的人権の保障の限界
12	日本国憲法と人権保障②	私人間における人権保障

13 日本国憲法と人権保障③ 法の下での平等 (総論)

14 日本国憲法と人権保障④ 法の下での平等 (各論)
日本国憲法と家族

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

講義中に指示した資料を閲覧する (紙媒体の資料だけでなく、YouTube等の動画の閲覧を指示する場合もある)。

講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる (講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する)。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義前半 (対面型) の課題レポート (50%) と講義後半 (オンデマンド型) の課題レポート (50%) によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ウェブ上に挙げた資料を閲覧できる電子機器を持参して下さい。

【その他の重要事項】

対面講義中の質問は講義の前後に、オンライン講義期間中はホッピイで質問してください。

【Outline (in English)】

In order to achieve the following goals, the course will cover and explain basic concepts and understanding of law in general at the beginning of the course, and then lecture on the Constitution of Japan in the following period. The course will focus on three pillars: 1) principles related to the foundations of the Constitution itself, such as constitutionalism and separation of powers, 2) the basic principles of the Constitution of Japan ("sovereignty of the people," "respect for fundamental human rights," and "pacifism"), and 3) the governance system therein. With the understanding that students are beginners, the course will avoid leaning toward abstract discussions and explanations by covering many contemporary topics related to law in general and the Constitution, and will proceed in a way that makes it easy for students to gain a basic understanding.

Assessment will be based on the assignment reports completed in the first half of the lectures (face-to-face) (50%) and in the second half of the lectures (on-demand) (50%) to measure the degree of achievement of the goals listed in the "Goals to be achieved" section: "Systematic understanding of the Constitution," "Basic legal knowledge," and "Development of a legal mindset."

After the lecture, please summarize your notes taken during the lecture in easy-to-understand text.

Before and after each class, students will need to spend about four hours studying to understand the content of this class.

LAW100LA (法学 / law 100)

法学 (日本国憲法)

2017年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的な概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則 (「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」)、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】

本講義では、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することを目標とする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的國家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得する。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド (法的思考)」を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半はオンデマンド型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半は対面型とする。ウェブに動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。

受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と憲法の意義
4	国家の役割	国家が果たすべき役割
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に与えた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本的原理である国民主権の意義について学ぶ
11	日本国憲法と人権保障①	人権保障の特色 基本的人権の保障の限界
12	日本国憲法と人権保障②	私人間における人権保障

- 13 日本国憲法と人権保障③ 法の下での平等 (総論)
- 14 日本国憲法と人権保障④ 法の下での平等 (各論)
日本国憲法と家族

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

講義中に指示した資料を閲覧する (紙媒体の資料だけでなく、YouTube等の動画の閲覧を指示する場合もある)。

講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる (講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する)。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義前半 (対面型) の課題レポート (50%) と講義後半 (オンデマンド型) の課題レポート (50%) によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ウェブ上に挙げた資料を閲覧できる電子機器を持参して下さい。

【その他の重要事項】

対面講義中の質問は講義の前後に、オンライン講義期間中はホッピイで質問してください。

【Outline (in English)】

In order to achieve the following goals, the course will cover and explain basic concepts and understanding of law in general at the beginning of the course, and then lecture on the Constitution of Japan in the following period. The course will focus on three pillars: 1) principles related to the foundations of the Constitution itself, such as constitutionalism and separation of powers, 2) the basic principles of the Constitution of Japan ("sovereignty of the people," "respect for fundamental human rights," and "pacifism"), and 3) the governance system therein. With the understanding that students are beginners, the course will avoid leaning toward abstract discussions and explanations by covering many contemporary topics related to law in general and the Constitution, and will proceed in a way that makes it easy for students to gain a basic understanding. Assessment will be based on the assignment reports completed in the first half of the lectures (face-to-face) (50%) and in the second half of the lectures (on-demand) (50%) to measure the degree of achievement of the goals listed in the "Goals to be achieved" section: "Systematic understanding of the Constitution," "Basic legal knowledge," and "Development of a legal mindset."

After the lecture, please summarize your notes taken during the lecture in easy-to-understand text.

Before and after each class, students will need to spend about four hours studying to understand the content of this class.

ECN100LA (経済学 / Economics 100)

経済学 I

2017年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第2回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給
第3回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給
第4回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易
第5回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等
第6回	マクロ経済のデータ①	GDPに関して
第7回	マクロ経済のデータ②	GDPに関して
第8回	マクロ経済のデータ③	消費者物価指数
第9回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム
第10回	長期の実物経済②	金利について お金の時間価値について
第11回	実社会の経済学①	ローンの計算等
第12回	実社会の経済学②	資産運用関連の話題
第13回	実社会の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、講義の礎とする

ダロン・アセモグル、デヴィット・レイブソン、ジョン・リスト著、岩本康志監訳、岩本千晴訳、『入門経済学』東洋経済新報社、2023。

【参考書】

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017。

ジョセフ・E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンミクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2017。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点（50％）および期末レポート（50％）により評価する。ただし、平常点：①毎回の講義で出題する課題に対する点数、②授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた点数 等である。

【学生の意見等からの気づき】

・本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

・学生が苦手だと思われるEメール、表計算ソフトを用いる。はじめのうちは戸惑う学生も多いが、終盤には比較的使えるようになる。

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出にはEメールを利用する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to enable students to acquire the basics of understanding the main economic statistics that are often mentioned in the real world and considering their implications. The goal of this course is that students will develop their ability to understand changes in various economic indicators announced in different aspects, and to explain the background and implications in their own words. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA (経済学 / Economics 100)

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第2回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第3回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第4回	企業行動と産業組織①	独占
第5回	企業行動と産業組織②	ゲーム理論／ナッシュ均衡
第6回	企業行動と産業組織③	ゲーム理論／囚人のジレンマ
第7回	企業行動と産業組織④	ゲーム理論／応用
第8回	長期の実物経済①	効率的市場仮説
第9回	長期の実物経済②	リスクとリターン
第10回	長期の実物経済③	リスクとリターン
第11回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第12回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第13回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、講義の礎とする

ダロン・アセモグル、デヴィット・レイブソン、ジョン・リスト著、岩本康志監訳、岩本千晴訳、『入門経済学』東洋経済新報社、2023。

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

ジョセフ・E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンミクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2017。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点（50％）および期末レポート（50％）により評価する。ただし、平常点：①毎回の講義で出題する課題に対する点数、②授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた点数 等である。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出にはEメールを利用する。

【Outline (in English)】

With reference to Economics I, the objective of this course is to address a selection of topics discussed in the real world and to enable students to comprehend rationales and issues behind. The goal of this course is that students will understand some current topics based on actual data as well as develop their ability to explain issues around them in their own words, based on the theoretical background learned in Economics I. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA (経済学 / Economics 100)

経済学 I

2017年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学 I では、経済学の基礎から専門基礎レベルを身につけていくことを目指します。社会の基盤を成す経済の仕組み、それを体系的に解き明かすのが経済学です。ここでは、経済学の概念、ルーツ、理論などを、身近な事例と関連付けながら学んでいきます。経済を知ることによって社会の実態と変容を理解できるようになり、国際関係などを理解出来る力を身につけることが出来ます。
(秋学期の経済学IIでは、応用基礎のレベルまで身につけていくことを目指します)

【到達目標】

・経済、金融を理解する基礎知識と応用力を身に付け、様々な経済、社会問題の把握と考察を行っていただける知識基盤を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

講義の中で様々なグラフ、統計、数式が出てくる場面はありますが、数学的な能力を身に付けることが目的ではないため、数学的要素を極力省くことで親しみやすい経済学を通じ、経済事象への関心を高め、理解が出来るベースを作ります。
最終回は、期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 経済と経済学	経済学とは何か、何のために学ぶのか SDGs に経済学が不可欠なわけ
2	経済学の基礎概念 1	経済財とは？ 経済取引とは？ 市場の意義
3	経済学の基礎概念 2	需要と供給 お金と価格 効用 余剰と予算制約
4	経済学のルーツと理論の発展 1	オイコノミー（執事家政学）からミクロ基盤の近代経済学（A. スミス古典派完全市場経済学）の発展
5	経済学のルーツと理論の発展 2	需給構造の変化と古典派経済学の行き詰まり ケインズ マクロ経済学の登場
6	実態変化と理論の変遷	ケインズ経済学 国全体の経済構造と活動の体系化を実現 GDP の概念と経済政策の理論基礎付け 実物市場と金融市場の体系的把握

7	専門基礎 1 市場メカニズム	市場メカニズム（需給の決定と価格） 市場の不完全性（レモン問題）
8	専門基礎 2 GDP、財市場の均衡	財市場、GDP の構成と需要の決定 財市場の均衡 貯蓄のパラドックス
9	専門基礎 3 ミクロとマクロ	実物経済 ミクロとマクロの関係
10	専門基礎 4 貨幣市場	貨幣の定義と機能 実物財に対する相対価値としての価格
11	専門基礎 5 金融	金融とは？ 金融取引の価格＝金利の意味と決定 割引現在価値 不換紙幣
12	専門基礎 6 マネー管理	マネーサプライ管理の仕組み 中央銀行の機能と金融政策手段
13	専門基礎 7 金融市場と財市場の均衡	金融市場と財市場の均衡 IS 曲線、LM 曲線の導出 IS/LM モデルの概要 AD-AS 分析の意味
14	期末テストおよび総復習	講義内容の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験＝100%（試験＝100 点満点）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

経済学IIの履修を予定する学生は、同IIが直面する問題等を含めた応用基礎の内容となるので本経済学 I の講義を履修しておくことが望まれます。

【Outline (in English)】

Economics I introduce a broad perspective of basic economic theories as well as understanding economic related activities. The goal of this course is to grasp a sense of economic theories and models and become to be able to relate them to understand ongoing world issues.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after class.

Your overall grade will be decided 100%on Term-end examination.

ECN100LA (経済学 / Economics 100)

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Ⅰの基礎知識を要約レビュー（英語含む）した上で、実践的に国際社会や日本が直面する社会経済的課題を専門基礎のレベルから解き明かし、経済学と経済知識の応用力を身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

様々な経済、社会問題の把握と考察を経済学の基礎知識の応用から、実践的に考察していける力を身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とします。

後半2～3回ディスカッションを行います。

最終回（第14回）に期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 経済学の応用基礎 基本概念1	経済財、経済取引 需要と供給 お金と価格
2	基本概念2	市場メカニズム ミクロとマクロ 財市場 GDPの構成と需要の決定
3	基本概念3	貨幣の定義と機能 金融システムと中央銀行
4	基本概念4	国際取引とマクロ経済、金融の 関係 国際取引関係と経済の収支パ ランス
5	基本概念5	国際決済と外国為替の基礎、国 際収支の発展段階説
6	直面する課題と経 済学 日本経済の衰退1 日本経済の衰退2	日本経済衰退の実態 デフレ衰退のメカニズムと実態
7		正常化への道を探る 市場機能の不全と国際競争力の 基盤の衰退が構造化
8	グローバル化1 グローバル化と市場 と国家 国家間の対立と新た な関係	経済グローバル化の進行と国家 の後退 グローバル化による市場統合と 国民経済関係の構造的変貌 国家間の新たな競争と対立（中 国の台頭と米中関係）
9	グローバル化2 グローバル化と地域 統合化	グローバル化での地域統合は解 決策か？ EUの拡大、アセアン経済共同 体、メルコスールの展開から考 える

10	グローバル化3 グローバル化と国際 ガバナンス	G A F Aの台頭と国際ガバナ ンス 世界共通決済システム内臓の仮 想通貨の意義と限界 グローバル経済統合と民主主義、 相互矛盾相克への道、ロドリ ク・モデルから考える。
11	エネルギー1 エネルギー革命	エネルギー革命の進行 その推移と実態
12	エネルギー2 エネルギーと経済の 長期波動	経済の長期成長波動とエネル ギー革命の関連性 再生エネルギーから究極の水素 循環型エネルギーへの転換初期 に伴うグリーン成長と雇用波及 の視点から日本経済再生の道 を考える
13	資本主義の存続	資本主義の史的構造変化とピケ ティの指摘 資本主義が内蔵するメカニズム から存続への課題を探る
14	期末テストおよび総 まとめ	期末テストおよび総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習1時間、復習時間3時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験＝90%

ディスカッション参加＝10%

【学生の意見等からの気づき】

日本経済の現状、世界が直面する問題などを、より身近なこととして実感できたという感想を複数いただきました。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

本講義は、基礎となる経済学Ⅰの講義をあらかじめ履修しておくことをお勧めします。

【Outline (in English)】

Economics II focuses more on the practical side of Economics I. Here we study ongoing issues and crisis that are deeply related to economic activities, policies and theories.

The goal of this course is to grasp a further sense of economic theories used in practice as well as to understand its cause and effects in our real world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

(Students are strongly required to take Economics I in advance.)

Your overall grade will be decided 90%on Term-end examination, and 10%on discussion.

ECN100LA (経済学 / Economics 100)

経済学 I

2017年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は多くの内容から構成されるが、本授業では最も基本であるミクロ経済学を学び、入門コースとして必須の考え方を習得する。家計・企業・政府が経済活動の選択を行う基準は何か、市場の取引により無駄のない資源配分が実現するのか、無駄がある場合に必要な対処は何かというポイントを理解し、経済社会の現実の課題に対して経済学が取り組む分析手法を身に着けることが目的である。

【到達目標】

目標は、①身の回りの出来事の背景にある経済主体の判断基準を理解できること、②価格が変化する競争的な市場の意味を理解できること、③経済ニュースの内容について経済学が示す論点と政策的な判断を理解できるようになることの3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。その際、現実問題を経済学で考える習慣を身に着けるために、新聞記事・雑誌などからも教材を提供する。なお教科書が取り上げていない最新の話題については、他の文献等に基づいて教材に盛り込む。講義資料は学習支援システムに事前に掲載する。授業中に講義内容を復習するリアクションペーパーを実施し、受講生の理解を深める。そして、小テストを2回実施し授業の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	市場の機能と経済学	経済学の基本的考え方と効率の意味を学ぶ
2	需要と供給	需要と供給による市場の取引を理解する（教科書第1章）
3	消費者の行動（1）	需要曲線を学ぶ（第2章）
4	消費者の行動（2）	消費者余剰を学ぶ（第2章）
5	企業の行動（1）	供給曲線を学ぶ（第3章）
6	企業の行動（2）	生産者余剰を学ぶ（第3章）
7	市場競争と資源配分	価格メカニズムと余剰分析を学ぶ（第4章）
8	市場の失敗と政府の役割	外部効果と公共財を学ぶ（第6章）
9	不完全な情報	情報の不完全性と取引を学ぶ（第7章）
10	ゲームの理論（1）	相手の出方が関係するナッシュ均衡、囚人のジレンマを学ぶ（第8章）
11	ゲームの理論（2）	オークションやマッチングにおける経済学の活用を学ぶ（市村・松井他2020）
12	経済学と労働	労働供給の視点（つまり労働者個人の立場）から「働く」判断を学ぶ（清家他2020）
13	経済学と家族	子育て、働き方などの視点から少子化の要因と対応を学ぶ

14 期末試験

試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

【参考書】

伊藤元重（2021）『ビジネス・エコノミクス』（第2版）日本経済新聞出版

市村英彦・松井彰彦他（2020）『経済学を味わう』日本評論社

小塩隆士（2024）『経済学の思考軸』ちくま新書

坂井豊貴（2013）『マーケットデザイン』ちくま新書

坂井豊貴（2017）『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書

清家篤・風神佐知子（2020）『労働経済』東洋経済新報社

田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

小テスト 40%（2回）、期末試験 50%、リアクションペーパー 10%

【学生の意見等からの気づき】

この講義の中で受講生の関心が最も高いのは、ゲームの理論である。これは多くの人が楽しんでいるビデオゲームではなく、経済学の新しい研究分野の一つである。相手の出方を読むことがポイントになるような経済問題において人や組織が行う意思決定の背景を合理的に探究し、得られる成果が参加者の満足を高めるようになる仕組みを明らかにする。授業で取り上げる事例としては、スーパーの新規出店をめぐる駆け引き、オークションの工夫、高校入試単願制の改善などがある。受講生の期待に沿えるように講義を行いたいと考えている。昨年の講義では変動価格制（チケットの価格が日によって変わる、スーパーでは総菜の値引きが夜にあるなど）を取り上げ、経済学の視点から説明した。また身の回りの事例（牛丼店の価格戦略、これからの百貨店、サブスクの活用、競争する保険会社など）も経済学の理解を深めたとの感想を得たので、今回の授業でも続けていきたい。

二番目に関心が高かったのは、家族と少子化の問題を経済学の視点で考える内容である。昨年は日本の地方創生を批判的に考察し、欧州の少子化評論を紹介した。これについても教材を見直し、講義を行いたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するためのパソコンまたはスマホが必要。

【その他の重要事項】

経済学の基礎用語を英語で理解することが知見を深めるので、毎回の教材に英語資料を含める。実際のビジネスにおける経済学の活用事例を伊藤（2021）から紹介する。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of microeconomics with an emphasis on understanding basic framework of economic theory: decision making of household, firms and government, economic consequences of economic transactions in the market. The course aims to enhance the ability to understand economic and social outcomes based on the reasoning with microeconomics. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded by two short-answer tests (40%), the final exam (50%) and reaction-papers (10%).

ECN100LA (経済学 / Economics 100)

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業ではマクロ経済学の基礎を取り上げ、日本のマクロ経済を理解するために必須の考え方を習得する。GDP（国内総生産）による経済全体の把握、経済成長、消費や投資などの有効需要、経済政策と政府の役割、インフレとデフレ、雇用と失業、為替レート、海外との取引などについて、体系的に学ぶことが目的である。経済理論にとどまらず、現代日本のマクロ経済問題（日本経済論として講義される内容を指す）について知見を深めることも目指す。

【到達目標】

目標は、①経済学の考え方を日本経済に適用してその動向を理解できること、②政府と中央銀行が経済成長と物価の安定に果たす役割を具体的に理解できること、③目の子計算を用いてマクロ経済に関する数値の意味を理解できるようになることの3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。その際、基礎理論の図表、因果関係のフローチャート、日本経済の基礎データの図表を教材として配布する。また、教科書が取り上げていない話題や日本や海外で現実に行っている最新の事象についても教材に盛り込み、マクロ経済学と日本経済論の事例として理解を深める。講義資料は学習支援システムに事前に掲載する。授業中に講義内容を復習するリアクションペーパーを実施し、受講生の理解を深める。そして、小テストを2回実施し授業の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マクロ経済学とは	ミクロ経済学との違い、GDP（国内総生産）、目の子計算を学ぶ（教科書第9章）
2	経済成長	日本の経済成長、成長会計、成長理論を学ぶ（第15章）
3	有効需要	需要の波及、乗数、需要・生産・所得の循環を学ぶ（第10章）
4	マクロ経済政策	財政政策と金融政策が財市場と資産市場に及ぼす効果を学ぶ（第12章）
5	景気対策	財政出動とクラウドディングアウトを学ぶ（第12章）
6	貨幣と金融政策	貨幣の機能と日銀の金融調節を学ぶ（第11章）
7	インフレとデフレ	物価変動と消費者行動、物価の見方、インフレ目標を学ぶ（第13章）
8	雇用と失業	離職と失業の現実と要因を学ぶ（第13章）
9	日本型雇用	人的資本、賃金決定、ジョブ型雇用を学ぶ（第13章）（清家他2020）

10	高齢社会の財政運営	人口の動きと経済成長、社会保障費の増大と大きな政府を学ぶ（第14章）
11	財政健全化	財政赤字の原因と対処、基礎的財政収支の考え方を学ぶ（第14章）
12	為替レートと開放経済	円高・円安の経済効果、オープンマクロ経済学を学ぶ（第16章）
13	貿易と直接投資	比較優位の考え方、貿易と直接投資の動向を学ぶ（第16章）
14	期末試験	試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。マクロ経済学は財政金融政策の運営とつながりが深いので、政府や国際機関の経済ニュースに関心を持つことが有益である。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

【参考書】

飯田泰之（2023）『財政・金融政策の転換点』中公新書
小塩隆士（2024）『経済学の思考軸』ちくま新書
塩路悦朗（2019）『やさしいマクロ経済学』日経文庫
清家篤・風神佐知子（2020）『労働経済』東洋経済新報社
田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書
吉川洋（2016）『人口と日本経済』中公新書
渡辺努（2022）『世界インフレの謎』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

小テスト 40%（2回）、期末試験 50%、リアクションペーパー 10%

【学生の意見等からの気づき】

講義の中で受講生の関心が最も高かったのが労働と日本型雇用であった。人手不足の労働環境で若者の離職率が高まり、受講生が直面する雇用問題について丁寧に授業を進めたい。次に関心が集まったのが、インフレ問題であった。世界各国で物価上昇は選挙に大きな影響を及ぼしている。さらに金融政策の在り方も密接に関係している。今年度の講義でも最新動向を踏まえながら教材を作成していきたい。試験には簡単な計算問題を出題するが、計算に不慣れな学生がいることから、講義の中で計算問題を練習するように努めたい。ミクロ経済学に比べると、マクロ経済学の事例は日常実感することが少ない学生が多いようだが、就職試験においてもマクロ経済学はビジネスに関連が深いのでこの履修が学習のきっかけになることを望む。毎回の授業は具体的な事例で始める（例。複利計算で倍になる年数、値上げに対する消費者行動の国際比較、日本の低い若年失業率、日本の貿易構造の変化など）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するためのパソコンまたはスマホが必要。

【その他の重要事項】

経済学の基礎用語を英語で理解することが知見を深めるので、毎回の教材に英語資料を含める。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of standard macroeconomics. Topics to be covered are growth theory, effective demand such as consumption and investment, role of government and economic policy, prices, employment, and exchange rates and goods and service trade. The course aims to help understand fundamental ideas of macroeconomic theory as well as the practical knowledge of modern Japanese economy. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded by two short-answer tests (40%), the final exam (50%) and reaction-papers (10%).

ECN100LA (経済学 / Economics 100)

経済学 I

2017年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第2回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給
第3回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給
第4回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易
第5回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等
第6回	マクロ経済のデータ①	GDPに関して
第7回	マクロ経済のデータ②	GDPに関して
第8回	マクロ経済のデータ③	消費者物価指数
第9回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム
第10回	長期の実物経済②	金利について／お金の時間価値について
第11回	実社会の経済学①	ローンの計算等
第12回	実社会の経済学②	資産運用関連の話題
第13回	実社会の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、講義の礎とする

ダロン・アセモグル、デヴィット・レイブソン、ジョン・リスト著、岩本康志監訳、岩本千晴訳、『入門経済学』東洋経済新報社、2023。

【参考書】

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017。

ジョセフ・E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンミクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2017。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点（50％）および期末レポート（50％）により評価する。ただし、平常点：①毎回の講義で出題する課題に対する点数、②授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた点数 等である。

【学生の意見等からの気づき】

・本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

・学生が苦手だと思われるEメール、表計算ソフトを用いる。はじめのうちは戸惑う学生も多いが、終盤には比較的使えるようになる。

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出にはEメールを利用する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to enable students to acquire the basics of understanding the main economic statistics that are often mentioned in the real world and considering their implications. The goal of this course is that students will develop their ability to understand changes in various economic indicators announced in different aspects, and to explain the background and implications in their own words. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA (経済学 / Economics 100)

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土1/Sat.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第2回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第3回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第4回	企業行動と産業組織①	独占
第5回	企業行動と産業組織②	ゲーム理論／ナッシュ均衡
第6回	企業行動と産業組織③	ゲーム理論／囚人のジレンマ
第7回	企業行動と産業組織④	ゲーム理論／応用
第8回	長期の実物経済①	効率的市場仮説
第9回	長期の実物経済②	リスクとリターン
第10回	長期の実物経済③	リスクとリターン
第11回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第12回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第13回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、講義の礎とする

ダロン・アセモグル、デヴィット・レイブソン、ジョン・リスト著、岩本康志監訳、岩本千晴訳、『入門経済学』東洋経済新報社、2023。

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

ジョセフ・E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンミクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2017。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点（50％）および期末レポート（50％）により評価する。ただし、平常点：①毎回の講義で出題する課題に対する点数、②授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた点数 等である。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出にはEメールを利用する。

【Outline (in English)】

With reference to Economics I, the objective of this course is to address a selection of topics discussed in the real world and to enable students to comprehend rationales and issues behind. The goal of this course is that students will understand some current topics based on actual data as well as develop their ability to explain issues around them in their own words, based on the theoretical background learned in Economics I. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA (経済学 / Economics 100)

マクロ経済学 I

2017年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ればよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、学生の皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかるでしょう。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期(マクロ経済学I)は、GDPやその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を鳥瞰する基本のスタイルを学べます。

秋学期(マクロ経済学II)は、そのモデルを発展して物価とGDPの決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を分析する方法論の基本を学べます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1セメスター14回の授業のうち半分の7回を対面授業とする予定です（詳細は4月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全12回分の授業が録画されているので、期末試験直前に全てみられるようにして、復習ができるようになります。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

なお、授業の詳細については、Hoppii上のシラバスで告知しますので、必ずそちらを参照するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします

2	序章 マクロ経済学とは1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます
3	序章 マクロ経済学とは2	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDPの基本を学びます
4	マクロ経済を観察する1（GDP）	GDPの基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。
5	マクロ経済を観察する2（GDP）	物価統計の基本的な特徴を理解します
6	マクロ経済を観察する3（物価）	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します。更に、金融と実体経済の関係を考察します
7	マクロ経済を観察する4（失業率、景気）	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
8	マクロ経済を支える金融市場1	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
9	マクロ経済を支える金融市場2	貨幣の機能と中央銀行の役割1
10	マクロ経済を支える金融市場3	貨幣の機能と中央銀行の役割2
11	財政の仕組みと機能1	金融システムの安定化の意義を理解します
12	財政の仕組みと機能2	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
13	財政の仕組みと機能3	税制の基本を学びます
14	演習	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
15	授業内期末試験	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います
16		期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。予習は基本的にスライドに目を通す程度で大丈夫ですが、復習としてスライドと教科書を照らし合わせ、テキスト内の例題を解くことで、慣れるようにしてください。期末試験もテキスト内の例題等の問題に準拠して出題します。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 第三版』（有斐閣）

ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験（100%）の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～Dの評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～Dの評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年95%程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行方予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

対面授業部分は、昨年度の授業履修者のアンケート結果に基づいて、対面の希望が多かった部分にしています。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA (経済学 / Economics 100)

マクロ経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一歩学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見なければよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1 セメスター 1 4 回の授業のうち半分の 7 回を対面授業とする予定です（詳細は 4 月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全 12 回分の授業が録画されていますので、期末試験直前に全てみられるようにして、復習ができるようにします。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

なお、授業の詳細については、Hoppii 上のシラバスで告知しますので、必ずそちらを参照するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方 1	総需要と物価の関係を学びます
2	GDP と金利の決まり方 2	総供給と物価の関係を学びます
3	GDP と金利の決まり方 3	金利と GDP の決まり方を考察します

4	総需要・総供給分析 1	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します
5	総需要・総供給分析 2	マクロ的な均衡状態の背後で何がおきなのかを理解します
6	総需要・総供給分析 3	マクロ経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ 2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済 1	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済 2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長 1	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長 2	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。予習は基本的にスライドに目を通す程度で大丈夫ですが、復習としてスライドと教科書を照らし合わせ、テキスト内の例題を解くことで、慣れるようにしてください。期末試験もテキスト内の例題等の問題に準拠して出題します。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣）

ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験（100%）の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア) S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ) C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA (経済学 / Economics 100)

マクロ経済学 I

2017年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見なければよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、学生の皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかるでしょう。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期(マクロ経済学I)は、GDPやその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を鳥瞰する基本のスタイルを学べます。

秋学期(マクロ経済学II)は、そのモデルを発展して物価とGDPの決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を分析する方法論の基本を学べます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1セメスター14回の授業のうち半分の7回を対面授業とする予定です（詳細は4月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全12回分の授業が録画されているので、期末試験直前に全てみられるようにして、復習ができるようになります。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

なお、授業の詳細については、Hoppii上のシラバスで告知しますので、必ずそちらを参照するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします

2	序章 マクロ経済学とは1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます
3	序章 マクロ経済学とは2	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDPの基本を学びます
4	マクロ経済を観察する1（GDP）	GDPの基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。
5	マクロ経済を観察する2（GDP）	物価統計の基本的な特徴を理解します
6	マクロ経済を観察する3（物価）	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します。更に、金融と実体経済の関係を考察します
7	マクロ経済を観察する4（失業率、景気）	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
8	マクロ経済を支える金融市場1	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
9	マクロ経済を支える金融市場2	貨幣の機能と中央銀行の役割1
10	マクロ経済を支える金融市場3	貨幣の機能と中央銀行の役割2
11	財政の仕組みと機能1	金融システムの安定化の意義を理解します
12	財政の仕組みと機能2	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
13	財政の仕組みと機能3	税制の基本を学びます
14	演習	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
15	授業内期末試験	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います
16		期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。予習は基本的にスライドに目を通す程度で大丈夫ですが、復習としてスライドと教科書を照らし合わせ、テキスト内の例題を解くことで、慣れるようにしてください。期末試験もテキスト内の例題等の問題に準拠して出題します。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 第三版』（有斐閣）

ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験（100%）の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～Dの評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～Dの評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年95%程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行方予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

対面授業部分は、昨年度の授業履修者のアンケート結果に基づいて、対面の希望が多かった部分にしています。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA (経済学 / Economics 100)

マクロ経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一歩学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見なければよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1 セメスター 1 4 回の授業のうち半分の 7 回を対面授業とする予定です（詳細は 4 月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全 12 回分の授業が録画されていますので、期末試験直前に全てみられるようにして、復習ができるようにします。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

なお、授業の詳細については、Hoppii 上のシラバスで告知しますので、必ずそちらを参照するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方 1	総需要と物価の関係を学びます
2	GDP と金利の決まり方 2	総供給と物価の関係を学びます
3	GDP と金利の決まり方 3	金利と GDP の決まり方を考察します

4	総需要・総供給分析 1	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します
5	総需要・総供給分析 2	マクロ的な均衡状態の背後で何がおきなのかを理解します
6	総需要・総供給分析 3	マクロ経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ 2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済 1	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済 2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長 1	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長 2	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。予習は基本的にスライドに目を通す程度で大丈夫ですが、復習としてスライドと教科書を照らし合わせ、テキスト内の例題を解くことで、慣れるようにしてください。期末試験もテキスト内の例題等の問題に準拠して出題します。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣）

ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験（100%）の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア) S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ) C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学 I

2017年度以降入学者

望月 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心」とは何か、「心理学」という学問とはどのようなものなのかを理解し、それぞれの専門分野での学び、周囲の人との関わりの中で活用できるようになることを本授業では目指します。受講者には心理学Ⅱを連続履修することを期待します。

【到達目標】

授業では、私たちがどのように環境を認識したり、記憶したりしているか、あるいは私たちは生涯を通じてどのように成長していくのかなどを学びます。

「心理学」の知識を持つことで皆さんの専攻する学問での学びや周りの人々との関係性がより深まり、私たち人間の心の働きをさまざまな切り口から捉えることができる能力を身につけることが目標です。また、授業の中でリラクゼーションやマインドフルネスを実施し、心理学を体験的にも学んでもらう時間を設ける予定ですので、生活の中で心理学がどう役に立つかも体験してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、映像を用いて心の問題を捉えてみたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
第2回	心理学とは何か	心理学が生まれてくるまで。心を科学的に研究することとはどういうことか
第3回	感覚と知覚について	私たちが環境を認識する際の心の働きについて
第4回	記憶について	私たちが何かを記憶することに関する心の働きについて
第5回	学習について	私たちが物を学ぶ際の心の働きについて
第6回	言語と思考について	私たちはどのように言語に関わり、思考しているのかについて
第7回	情動について	私たちの情動とはどんな働きをしているのだろうか
第8回	動機付けについて	私たちの動機付けと欲求のメカニズムについて
第9回	性格とは何か	心理学における性格のとらえ方
第10回	発達の基礎	私たちの様々な機能の発達段階について
第11回	社会的な発達	私たちが社会的に発達するとはどんなことなのか
第12回	自己とは何か	自分とは何か。心理学ではどのように考えてきたのか
第13回	集団の中での人の心について	同調と服従、説得などの社会的影響について

第14回 ストレスについて 心理学Ⅰのまとめとストレスに
まとめ ついて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

事前準備は、教科書でその回のテーマを読み、自分なりの疑問・問題意識を持ち授業に臨んでください。

復習は、その回のテーマを振り返り、自分なりの解答をまとめ、文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

よくわかる心理学(やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ) 無藤隆・森俊昭・池上智子・福丸由佳(編) ミネルヴァ書房

ISBN-13 : 978-4623052509

【参考書】

心理学への招待—こころの科学を知る(新心理学ライブラリ) 梅本堯夫・大山正著 サイエンス社

ISBN-13 : 978-4781913476

【成績評価の方法と基準】

レポート 100%

授業の中で扱ったテーマの一つを選び、授業で学んだことが自分自身の実体験とどうかかわり、今後どう活かそうかを、500字～1000字以内でまとめて提出してもらいます。

テーマについてまとめている部分は50点とし、自分の考えについてまとめた個所を50点で評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

シラバスとそれた個所へのフィードバックがあったため、それた個所であった体験的学習について目標のところで触れておきました。

【その他の重要事項】

臨床心理学での実務経験を踏まえ、心理学の知識がどのように活用されているかの具体例を示していきます。

【Outline (in English)】

You will understand what the “mind” is and what the science of “psychology” is.

The goal of this class is for you to be able to use these skills in your studies in your specialized field and in your interactions with people around you.

I expect you to take Psychology II.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

望月 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学Ⅰで学んだ心理学の基礎が、生活や社会の中でどのように役立っているかを学びます。主に臨床心理学の分野から、人格理論、発達各期における心理臨床的問題、異常心理、臨床心理学的査定、心理療法について学びます。

【到達目標】

心理学Ⅰでは学びきれなかった応用分野での心理学を学び、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。リラクゼーションやマインドフルネスを体験してもらい、心理学を日常的に活かすことを体験的に学んでいただきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
第2回	パーソナリティー理論	私たちの性格をどうとらえるか（類型論、特性論、状況論、相互作用論）
第3回	欲求と防衛機制	私たちの欲求や自分の心を守ろうとする防衛機制について知る
第4回	臨床心理学について	臨床心理学とはなにか、その誕生や専門性や活動について
第5回	臨床心理学の理論的モデル	臨床心理学の主な理論的モデルと実践について
第6回	臨床心理学のアセスメント方法について	アセスメントとは何か、どんなふうに用いられているのか、その方法について
第7回	臨床心理学の介入方法①	精神分析と分析心理学と認知行動療法
第8回	臨床心理学の介入方法②	来談者中心療法とマイクロカウンセリング
第9回	臨床心理学の介入方法③	ブリーフセラピー（解決志向アプローチなど）
第10回	臨床心理学の介入方法④	集団療法：アサーティブネストレーニングなど
第11回	臨床心理学の介入方法⑤	集団療法：カップルカウンセリングなど
第12回	異常心理学①	気分障害・統合失調症・不安障害など
第13回	異常心理学②	パーソナリティー障害・摂食障害・性同一性障害・身体症状と解離性障害など
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
事前学習は毎回のテーマの教科書を読み自分なりの疑問を用意して授業に臨んでください。
復習は、授業の中で扱ったことを復習し、疑問に対する自分なりの回答を練り上げ、文章にまとめておきましょう。

【テキスト（教科書）】

よくわかる臨床心理学［改訂新版］（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）下山晴彦（著） ミネルヴァ書房 ISBN(13桁)978-4623054350

【参考書】

実践に役立つ臨床心理学 【第4版】 塩崎尚美（著）北樹出版 ISBN(13桁)978-4779306976

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 100%

授業の中で扱ったテーマについて、自分自身の体験の中でどのようにそのテーマで学んだことが活かせるかについて500字～1000字以内でまとめて提出してください。

テーマについてまとめている部分は50点とし、自分の考えについてまとめた個所を50点で評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

心理学Ⅰを受講した学生の希望に出ていた、リラクゼーションやマインドフルネスを授業の中に取り入れました。

【その他の重要事項】

心理学Ⅰを履修していること。
医療現場における臨床実務経験がある教員のため、なるべく現場での経験も踏まえ授業を行います。

【Outline (in English)】

You learn about how psychology helps us in our lives and in society. From the field of clinical psychology, you learn about personality theory, clinical psychological problems at various stages of development, abnormal psychology, clinical psychological assessment, and psychotherapy.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学 I

2017年度以降入学者

久木田 敦志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

あまりにも身近でありながら、目には見えず、思い通りにならないことも多々ある私たちの心。この心の理（ことわり）を科学的に探究する学問が心理学です。本講義では、みなさんが一生つきあっていくことになる自身の心と向き合い、理解を深める手助けとなることを目指して、心のはたらきについての知見を感覚・認知・動機・発達・対人関係・臨床など様々な角度から紹介します。

【到達目標】

「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。また、受講者には心理学IIを連続履修することを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。適宜、授業内容の理解深化を目的とした課題及び小テストを行うことで習熟度への定期的なフィードバックを提供します。その他の詳細は第1回ガイダンス時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業ガイダンス：授業計画、授業のねらいなどの説明
第2回	科学的心理学の歩み	心理学における人間観、「心の理論」は人間をどう捉えるか
第3回	見えの不思議（1）	視覚、形・空間・運動の知覚
第4回	見えの不思議（2）	注意・バイアス、社会的知覚
第5回	学習の不思議	条件づけ、強化と消去、般化と分化、モデリング・社会的学習
第6回	記憶の不思議	短期記憶と長期記憶、感覚記憶、記憶と忘却
第7回	思考の不思議	思考と問題解決、創造的思考
第8回	動機づけ	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ
第9回	内発的動機づけと外的報酬	言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第10回	無気力	学習性無力感、達成目標と無気力
第11回	発達（1）	遺伝も環境も影響、発達段階、生涯発達
第12回	発達（2）	アイデンティティ、青年・成人期・高齢期の発達
第13回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る
第14回	学期末試験	授業内期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学概論——ヒューマン・サイエンスへの招待」 松田幸弘 編著（2018年）ISBN 9784779513367

【参考書】

教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）と学期中の各課題・小テスト（50％）を総合して評価します。成績評価項目の詳細は第1回ガイダンス時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講生のみなさんから、参加型の実験やリアルタイムで結果が分かるアンケート集計が楽しかった、講義・説明が丁寧だった、定期的な小テストで学びが深まった、スライド資料の配布が役立った、等々、温かいフィードバックを多数いただくことができました。引き続き、安心して学べる環境を丁寧に作り、学生のみなさんと共に充実した授業を迎えられるよう尽力していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: Psychology is a discipline of scientific inquiry of the human mind, something that is very familiar to each of us on the one hand yet invisible and sometimes unpredictable on the other. This course is intended to help nurture a deeper understanding of the workings of the mind through various perspectives including perception, cognition, motivation, development, interpersonal relationships, and clinical practices.

Learning Objectives: To understand the sound workings and development of the human mind as well as conceptualize identity and interpersonal relationships through various psychological perspectives. Students enrolled in this course are expected to continue taking Psychology II.

Learning Activities Outside of Classroom: The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.

Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on their performances on the final examination (50%) and learning activities/quizzes (50%). Details will be provided at the first class session.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

久木田 敦志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

あまりにも身近でありながら、目には見えず、思い通りにならないことも多々ある私たちの心。この心の理（ことわり）を科学的に探究する学問が心理学です。本講義では、みなさんが一生つきあっていくことになる自身の心と向き合い、理解を深める手助けとなることを目指して、心のはたらきについての知見を感覚・認知・動機・発達・対人関係・臨床など様々な角度から紹介します。

【到達目標】

「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。適宜、授業内容の理解深化を目的とした課題及び小テストを行うことで習熟度への定期的なフィードバックを提供します。その他の詳細は第1回ガイダンス時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
第2回	自分を良く知りたい	パーソナリティの類型論と特性論
第3回	パーソナリティの理解	パーソナリティとその測定法
第4回	人間関係と社会心理学	自己概念・社会的認知、対人関係、家族関係
第5回	集団との関係	社会的影響、集団・組織
第6回	社会性と進化的視点	向社会行動、利他行動
第7回	向社会行動を支える内的要因	社会脳仮説
第8回	臨床心理（1）	臨床心理学とは、理論とアセスメント
第9回	臨床心理（2）	臨床心理学の実践、介入
第10回	カウンセリング（1）	精神分析学、認知行動療法
第11回	カウンセリング（2）	来談者中心療法、ポジティブ心理学
第12回	心理的ウェルビーイングを考える	精神的に健康で、充実した人生を生きるために
第13回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る
第14回	学期末試験	授業内期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学概論——ヒューマン・サイエンスへの招待」 松田幸弘 編著（2018年）ISBN 9784779513367

【参考書】

教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）と学期中の各課題・小テスト（50％）を総合して評価します。成績評価項目の詳細は第1回ガイダンス時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講生のみなさんから、参加型の実験やリアルタイムで結果が分かるアンケート集計が楽しかった、講義・説明が丁寧だった、定期的な小テストで学びが深まった、スライド資料の配布が役立った、等々、温かいフィードバックを多数いただくことができました。引き続き、安心して学べる環境を丁寧に作り、学生のみなさんと共に充実した授業を迎えられるよう尽力していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: Psychology is a discipline of scientific inquiry of the human mind, something that is very familiar to each of us on the one hand yet invisible and sometimes unpredictable on the other. This course is intended to help nurture a deeper understanding of the workings of the mind through various perspectives including perception, cognition, motivation, development, interpersonal relationships, and clinical practices.

Learning Objectives: To understand the sound workings and development of the human mind as well as conceptualize identity and interpersonal relationships through various psychological perspectives. Students enrolled in this course are expected to continue taking Psychology II.

Learning Activities Outside of Classroom: The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.

Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on their performances on the final examination (50%) and learning activities/quizzes (50%). Details will be provided at the first class session.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学 I

2017年度以降入学者

望月 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心」とは何か、「心理学」という学問とはどのようなものなのかを理解し、それぞれの専門分野での学び、周囲の人との関わりの中で活用できるようになることを本授業では目指します。受講者には心理学Ⅱを連続履修することを期待します。

【到達目標】

授業では、私たちがどのように環境を認識したり、記憶したりしているか、あるいは私たちは生涯を通じてどのように成長していくのかなどを学びます。

「心理学」の知識を持つことで皆さんの専攻する学問での学びや周りの人々との関係性がより深まり、私たち人間の心の働きをさまざまな切り口から捉えることができる能力を身につけることが目標です。また、授業の中でリラクゼーションやマインドフルネスを実施し、心理学を体験的にも学んでもらう時間を設ける予定ですので、生活の中で心理学がどう役に立つかも体験してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、映像を用いて心の問題を捉えてみたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
第2回	心理学とは何か	心理学が生まれてくるまで。心を科学的に研究することとはどういうことか
第3回	感覚と知覚について	私たちが環境を認識する際の心の働きについて
第4回	記憶について	私たちが何かを記憶することに関する心の働きについて
第5回	学習について	私たちが物を学ぶ際の心の働きについて
第6回	言語と思考について	私たちはどのように言語に関わり、思考しているのかについて
第7回	情動について	私たちの情動とはどんな働きをしているのだろうか
第8回	動機付けについて	私たちの動機付けと欲求のメカニズムについて
第9回	性格とは何か	心理学における性格のとらえ方
第10回	発達の基礎	私たちの様々な機能の発達段階について
第11回	社会的な発達	私たちが社会的に発達するとはどんなことなのか
第12回	自己とは何か	自分とは何か。心理学ではどのように考えてきたのか
第13回	集団の中での人の心について	同調と服従、説得などの社会的影響について

第14回 ストレスについて 心理学Ⅰのまとめとストレスに
まとめ ついて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
事前準備は、教科書でその回のテーマを読み、自分なりの疑問・問題意識を持ち授業に臨んでください。
復習は、その回のテーマを振り返り、自分なりの解答をまとめ、文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

よくわかる心理学(やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ) 無藤隆・森俊昭・池上智子・福丸由佳(編) ミネルヴァ書房
ISBN-13 : 978-4623052509

【参考書】

心理学への招待—こころの科学を知る(新心理学ライブラリ) 梅本堯夫・大山正著 サイエンス社
ISBN-13 : 978-4781913476

【成績評価の方法と基準】

レポート 100%
授業の中で扱ったテーマの一つを選び、授業で学んだことが自分自身の実体験とどうかかわり、今後どう活かそうかを、500字～1000字以内でまとめて提出してもらいます。
テーマについてまとめている部分は50点とし、自分の考えについてまとめた個所を50点で評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

シラバスとそれた個所へのフィードバックがあったため、それた個所であった体験的学習について目標のところで触れておきました。

【その他の重要事項】

臨床心理学での実務経験を踏まえ、心理学の知識がどのように活用されているかの具体例を示していきます。

【Outline (in English)】

You will understand what the “mind” is and what the science of “psychology” is.

The goal of this class is for you to be able to use these skills in your studies in your specialized field and in your interactions with people around you.

I expect you to take Psychology II.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

望月 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学Ⅰで学んだ心理学の基礎が、生活や社会の中でどのように役立っているかを学びます。主に臨床心理学の分野から、人格理論、発達各期における心理臨床的問題、異常心理、臨床心理学的査定、心理療法について学びます。

【到達目標】

心理学Ⅰでは学びきれなかった応用分野での心理学を学び、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。リラクゼーションやマインドフルネスを体験してもらい、心理学を日常的に活かすことを体験的に学んでいただきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
第2回	パーソナリティー理論	私たちの性格をどうとらえるか（類型論、特性論、状況論、相互作用論）
第3回	欲求と防衛機制	私たちの欲求や自分の心を守ろうとする防衛機制について知る
第4回	臨床心理学について	臨床心理学とはなにか、その誕生や専門性や活動について
第5回	臨床心理学の理論的モデル	臨床心理学の主な理論的モデルと実践について
第6回	臨床心理学のアセスメント方法について	アセスメントとは何か、どんなふうに用いられているのか、その方法について
第7回	臨床心理学の介入方法①	精神分析と分析心理学と認知行動療法
第8回	臨床心理学の介入方法②	来談者中心療法とマイクロカウンセリング
第9回	臨床心理学の介入方法③	ブリーフセラピー（解決志向アプローチなど）
第10回	臨床心理学の介入方法④	集団療法：アサーティブネストレーニングなど
第11回	臨床心理学の介入方法⑤	集団療法：カップルカウンセリングなど
第12回	異常心理学①	気分障害・統合失調症・不安障害など
第13回	異常心理学②	パーソナリティー障害・摂食障害・性同一性障害・身体症状症と解離性障害など
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
事前学習は毎回のテーマの教科書を読み自分なりの疑問を用意して授業に臨んでください。
復習は、授業の中で扱ったことを復習し、疑問に対する自分なりの回答を練り上げ、文章にまとめておきましょう。

【テキスト（教科書）】

よくわかる臨床心理学［改訂新版］（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ） 下山晴彦（著） ミネルヴァ書房 ISBN(13桁)978-4623054350

【参考書】

実践に役立つ臨床心理学【第4版】 塩崎尚美（著） 北樹出版 ISBN(13桁)978-4779306976

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 100%

授業の中で扱ったテーマについて、自分自身の体験の中でどのようにそのテーマで学んだことが活かせるかについて500字～1000字以内でまとめて提出してください。

テーマについてまとめている部分は50点とし、自分の考えについてまとめた個所を50点で評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

心理学Ⅰを受講した学生の希望に出ていた、リラクゼーションやマインドフルネスを授業の中に取り入れました。

【その他の重要事項】

心理学Ⅰを履修していること。
医療現場における臨床実務経験がある教員のため、なるべく現場での経験も踏まえ授業を行います。

【Outline (in English)】

You learn about how psychology helps us in our lives and in society. From the field of clinical psychology, you learn about personality theory, clinical psychological problems at various stages of development, abnormal psychology, clinical psychological assessment, and psychotherapy.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学 I

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学II」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学I」「心理学II」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じてZoom等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第2回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第3回	心の働きはその人の生きる文化にどう影響されているのか	文化心理学的視点から、文化と心の働きに関連について考えていく。
第4回	描画テストにみる心の健康と健康障害 (TOPIC1)	心の健康と健康障がい描画テストにどのように現れるのかを、事例を見ながら確認していく。
第5回	統合失調症について (TOPIC2)	統合失調症に関するビデオを観る。併せて他の資料を参照し、統合失調症に対する認識を深める。
第6回	無意識の心理学（フロイト①）— 精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。
第7回	無意識の心理学（フロイト②）— 心理・性的発達論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達論について解説する。
第8回	無意識の心理学（フロイト③）— 精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療の根底にあるメカニズムを解説する。

第9回	無意識の心理学（ユング①）— 無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第10回	無意識の心理学（ユング②）— 無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第11回	アイデンティティの心理学（エリクソン①）— その人生と基本的な考え方について	エリクソンがなぜアイデンティティの心理学を作り上げるに至ったのかを解説する。
第12回	アイデンティティの心理学（エリクソン②）— 心理・社会的発達論について	エリクソンの心理・社会的発達論を解説する。
第13回	夜回り先生・水谷修のメッセージ「いいもんだよ、生きるって」 (TOPIC3)	夜回り先生・水谷修のDVD「いいもんだよ、生きるって」を観る。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

平木典子・巖秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This spring term course will mainly focus on Freud, Jung, and Erikson's theories, which deal with the unconscious. In order to understand a big picture of movement in psychology, students will be recommended to take Psychology II continuously in the autumn semester.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how Freud, Jung, and Erikson conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、担当者が「心理学Ⅰ」で取りあげるこころの理論（精神分析学を代表とする無意識の心理学）とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学を取りあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達モデルとしてのフロー理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考える習慣を身につけることを本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じてZoom等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第2回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第3回	行動主義心理学と行動療法①ーさまざまな学習理論について	行動主義心理学にもとづくさまざまな学習理論を解説する。
第4回	行動主義心理学と行動療法②ー行動療法どのような学習理論にもとづくか	行動療法がどのような学習理論にもとづき、実際、どのように行なわれているのかを解説する。
第5回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法①ー基本的な考え方について	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。
第6回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法②ーゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。
第7回	夜回り先生・水谷修のメッセージ2「生きていてくれてありがとう」(TOPIC1)	夜回り先生・水谷修のDVD「生きていてくれてありがとう」を観る。

第8回	人間性心理学と心理療法①ー来談者中心療法の基本的考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的考え方を解説する。
第9回	人間性心理学と心理療法②ー来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。
第10回	精神科医・神谷美枝子について (TOPIC2)	精神科医・神谷美枝子に関するビデオを観る。
第11回	フロー理論と日常生活の充実感について①ー楽しさにもとづく人間発達モデル	楽しさにもとづく人間発達モデルとしてのフロー理論を解説する。
第12回	フロー理論と日常生活の充実感について②ー現代の子どもたちは本当の「楽しさ」を知っているのか	フロー理論の観点から、現代の子どもたちの生き方や行動を考える。
第13回	フロー理論と日常生活の充実感について③ー精神的健康を促進するフロー経験	実証研究を紹介しながら、楽しさと充実感を伴うフロー経験の有用性を解説する。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

平木典子・巖谷秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997年）。会沢勲・石川悦子・浅川希洋志著『子どもたちは本当に変わってしまったのか』（学文社、1999年）。浅川希洋志・静岡大学教育学部附属浜松中学校著『フロー理論に基づく「学びひたる」授業の創造』（学文社、2011年）。今村浩明・浅川希洋志編著『フロー理論の展開』（世界思想社、2003年）。チクセントミハイ著（浅川希洋志監訳）『クリエイティヴィティ』（世界思想社、2016年）。「心理学者ミハイ・チクセントミハイが残したものの」『心と社会』（第53巻第2号）日本精神衛生会（2022）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This autumn term course will mainly focus on psychological theories of behaviorist and humanistic psychologies. Moreover, one of the most important theories of positive psychology, namely flow theory, will be introduced and discussed how we can attain psychological well-being.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand
(a) how the theories of behaviorist psychology, gestalt psychology, humanistic psychology, and positive psychology conceptualized human beings and their development, and
(b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学 I

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学II」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学I」「心理学II」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じてZoom等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第2回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第3回	心の働きはその人の生きる文化にどう影響されているのか	文化心理学的視点から、文化と心の働きに関連について考えていく。
第4回	描画テストにみる心の健康と健康障害 (TOPIC1)	心の健康と健康障がい描画テストにどのように現れるのかを、事例を見ながら確認していく。
第5回	統合失調症について (TOPIC2)	統合失調症に関するビデオを観る。併せて他の資料を参照し、統合失調症に対する認識を深める。
第6回	無意識の心理学（フロイト①）— 精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。
第7回	無意識の心理学（フロイト②）— 心理・性的発達論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達論について解説する。
第8回	無意識の心理学（フロイト③）— 精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療の根底にあるメカニズムを解説する。

第9回	無意識の心理学（ユング①）— 無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第10回	無意識の心理学（ユング②）— 無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第11回	アイデンティティの心理学（エリクソン①）— その人生と基本的な考え方について	エリクソンがなぜアイデンティティの心理学を作り上げるに至ったのかを解説する。
第12回	アイデンティティの心理学（エリクソン②）— 心理・社会的発達論について	エリクソンの心理・社会的発達論を解説する。
第13回	夜回り先生・水谷修のメッセージ「いいもんだよ、生きるって」 (TOPIC3)	夜回り先生・水谷修のDVD「いいもんだよ、生きるって」を観る。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

平木典子・巖崎秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This spring term course will mainly focus on Freud, Jung, and Erikson's theories, which deal with the unconscious. In order to understand a big picture of movement in psychology, students will be recommended to take Psychology II continuously in the autumn semester.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how Freud, Jung, and Erikson conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、担当者が「心理学Ⅰ」で取りあげるこころの理論（精神分析学を代表とする無意識の心理学）とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学を取りあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達モデルとしてのフロー理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考える習慣を身につけることを本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じてZoom等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第2回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第3回	行動主義心理学と行動療法①ーさまざまな学習理論について	行動主義心理学にもとづくさまざまな学習理論を解説する。
第4回	行動主義心理学と行動療法②ー行動療法どのような学習理論にもとづくか	行動療法がどのような学習理論にもとづき、実際、どのように行なわれているのかを解説する。
第5回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法①ー基本的な考え方について	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。
第6回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法②ーゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。
第7回	夜回り先生・水谷修のメッセージ2「生きていてくれてありがとう」(TOPIC1)	夜回り先生・水谷修のDVD「生きていてくれてありがとう」を観る。

第8回	人間性心理学と心理療法①ー来談者中心療法の基本的考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的考え方を解説する。
第9回	人間性心理学と心理療法②ー来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。
第10回	精神科医・神谷美枝子について (TOPIC2)	精神科医・神谷美枝子に関するビデオを観る。
第11回	フロー理論と日常生活の充実感について①ー楽しさにもとづく人間発達モデル	楽しさにもとづく人間発達モデルとしてのフロー理論を解説する。
第12回	フロー理論と日常生活の充実感について②ー現代の子どもたちは本当の「楽しさ」を知っているのか	フロー理論の観点から、現代の子どもたちの生き方や行動を考える。
第13回	フロー理論と日常生活の充実感について③ー精神的健康を促進するフロー経験	実証研究を紹介しながら、楽しさと充実感を伴うフロー経験の有用性を解説する。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

平木典子・巖谷秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997年）、会沢勲・石川悦子・浅川希洋志著『子どもたちは本当に変わってしまったのか』（学文社、1999年）、浅川希洋志・静岡大学教育学部附属浜松中学校著『フロー理論に基づく「学びひたる」授業の創造』（学文社、2011年）、今村浩明・浅川希洋志編著『フロー理論の展開』（世界思想社、2003年）、チクセントミハイ著（浅川希洋志監訳）『クリエイティヴィティ』（世界思想社、2016年）、「心理学者ミハイ・チクセントミハイが残したもの」『心と社会』（第53巻第2号）日本精神衛生会（2022）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This autumn term course will mainly focus on psychological theories of behaviorist and humanistic psychologies. Moreover, one of the most important theories of positive psychology, namely flow theory, will be introduced and discussed how we can attain psychological well-being.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand
(a) how the theories of behaviorist psychology, gestalt psychology, humanistic psychology, and positive psychology conceptualized human beings and their development, and
(b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA（心理学 / Psychology 100）

心理学 I

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、それらの発達やプロセスについて学ぶ。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半はDVDの視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。次回授業時にリアクションペーパーの結果に言及する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第2回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由に記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第3回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第4回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第5回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第6回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとりえ方
第7回	ことば	言語発達の概要
第8回	知性	知能 思考
第9回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第10回	認知と思考	記憶
第11回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第12回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬 無気力	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響 学習性無力感 達成目標と無気力
第14回	まとめ	児童のこころの発達について、 認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。

2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。
4. 授業時間外において必要な準備時間および復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころー児童心理学入門』
櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）
有斐閣アルマ、2014年
2,100円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 桜井茂男（著）
誠信書房、2010年
『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男（編著）
有斐閣アルマ、2010年

【成績評価の方法と基準】

学期末試験70%、授業内リアクションペーパー30%

【学生の意見等からの気づき】

2024年度も対面授業を実施いたしました。オンライン授業ではできない体験（質問紙体験、DVD視聴等）をして、概ね学生から満足のいく感想を得られました。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the development of language, cognition and thinking.

Explain the mechanism of motivation.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.

Your study time will be more than two hours for class.

Grading Criteria: Term end test(70%), short report(30%)

PSY100LA（心理学 / Psychology 100）

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてます。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにします。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めていきます。pptを提示して説明しますが、DVD鑑賞を数回予定しています。各章ごとに復習問題に取り組み、理解度を確認していきます。ショートレポート課題を数回提示し、次回授業時にショートレポート課題の結果に言及します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第2回	自分をよく知りたい	自己概念
第3回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第4回	人間関係	親・家族との関係
第5回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第6回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第7回	向社会的行動を支える内的要因	共感と向社会的行動
第8回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第9回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第10回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第11回	ソーシャル・スキル・トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第12回	子どもの心理臨床の流れ	場面緘黙の事例
第13回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第14回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみましょう。
・日頃から児童（子ども）を取り巻く環境に関心を持つようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版子どものこころ—児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ、2014年新版、2100円＋税

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験70％、授業内ショートレポート30％

【学生の意見等からの気づき】

2024年度は履修者数が大人数でしたが、授業アシスタントのサポートもあり対面授業をスムーズに進められました。授業内に実施した質問紙や復習問題で、授業に対する理解度が深まりました。

DVD視聴が補助教材として好評でした。

【その他の重要事項】

心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings:

Make image of child.

Understand children's mind.

Have the intelligence to solve the problem of children's mind.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.

Grading Criteria: Term end test(70%) short report(30%)

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学 I

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、それらの発達やプロセスについて学ぶ。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半はDVDの視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。次回授業時にリアクションペーパーの結果に言及する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第2回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由に記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第3回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第4回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第5回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第6回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとりえ方
第7回	ことば	言語発達の概要
第8回	知性	知能 思考
第9回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第10回	認知と思考	記憶
第11回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第12回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬 無気力	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響 学習性無力感 達成目標と無気力
第14回	まとめ	児童のこころの発達について、 認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。

2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。
4. 授業時間外において必要な準備時間および復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころー児童心理学入門』
櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）
有斐閣アルマ、2014年
2,100円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 桜井茂男（著）
誠信書房、2010年
『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男（編著）
有斐閣アルマ、2010年

【成績評価の方法と基準】

学期末試験70%、授業内リアクションペーパー30%

【学生の意見等からの気づき】

2024年度も対面授業を実施いたしました。オンライン授業ではできない体験（質問紙体験、DVD視聴等）をして、概ね学生から満足のいく感想を得られました。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the development of language, cognition and thinking.

Explain the mechanism of motivation.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.

Your study time will be more than two hours for class.

Grading Criteria: Term end test(70%), short report(30%)

PSY100LA（心理学 / Psychology 100）

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてます。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにします。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めていきます。pptを提示して説明しますが、DVD鑑賞を数回予定しています。各章ごとに復習問題に取り組み、理解度を確認していきます。ショートレポート課題を数回提示し、次回授業時にショートレポート課題の結果に言及します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第2回	自分をよく知りたい	自己概念
第3回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第4回	人間関係	親・家族との関係
第5回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第6回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第7回	向社会的行動を支える内的要因	共感と向社会的行動
第8回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第9回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第10回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第11回	ソーシャル・スキル・トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第12回	子どもの心理臨床の流れ	場面緘黙の事例
第13回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第14回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみましょう。
・日頃から児童（子ども）を取り巻く環境に関心を持つようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版子どものこころ—児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ、2014年新版、2100円＋税

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験70％、授業内ショートレポート30％

【学生の意見等からの気づき】

2024年度は履修者数が大人数でしたが、授業アシスタントのサポートもあり対面授業をスムーズに進められました。授業内に実施した質問紙や復習問題で、授業に対する理解度が深まりました。

DVD視聴が補助教材として好評でした。

【その他の重要事項】

心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings:

Make image of child.

Understand children's mind.

Have the intelligence to solve the problem of children's mind.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.

Grading Criteria: Term end test(70%) short report(30%)

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学 I

2017年度以降入学者

久木田 敦志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

あまりにも身近でありながら、目には見えず、思い通りにならないことも多々ある私たちの心。この心の理（ことわり）を科学的に探究する学問が心理学です。本講義では、みなさんが一生つきあっていくことになる自身の心と向き合い、理解を深める手助けとなることを目指して、心のはたらきについての知見を感覚・認知・動機・発達・対人関係・臨床など様々な角度から紹介します。

【到達目標】

「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。また、受講者には心理学IIを連続履修することを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。適宜、授業内容の理解深化を目的とした課題及び小テストを行うことで習熟度への定期的なフィードバックを提供します。その他の詳細は第1回ガイダンス時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業ガイダンス：授業計画、授業のねらいなどの説明
第2回	科学的心理学の歩み	心理学における人間観、「心の理論」は人間をどう捉えるか
第3回	見えの不思議（1）	視覚、形・空間・運動の知覚
第4回	見えの不思議（2）	注意・バイアス、社会的知覚
第5回	学習の不思議	条件づけ、強化と消去、般化と分化、モデリング・社会的学習
第6回	記憶の不思議	短期記憶と長期記憶、感覚記憶、記憶と忘却
第7回	思考の不思議	思考と問題解決、創造的思考
第8回	動機づけ	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ
第9回	内発的動機づけと外的報酬	言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第10回	無気力	学習性無力感、達成目標と無気力
第11回	発達（1）	遺伝も環境も影響、発達段階、生涯発達
第12回	発達（2）	アイデンティティ、青年・成人期・高齢期の発達
第13回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る
第14回	学期末試験	授業内期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学概論——ヒューマン・サイエンスへの招待」 松田幸弘 編著（2018年）ISBN 9784779513367

【参考書】

教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）と学期中の各課題・小テスト（50％）を総合して評価します。成績評価項目の詳細は第1回ガイダンス時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講生のみなさんから、参加型の実験やリアルタイムで結果が分かるアンケート集計が楽しかった、講義・説明が丁寧だった、定期的な小テストで学びが深まった、スライド資料の配布が役立った、等々、温かいフィードバックを多数いただくことができました。引き続き、安心して学べる環境を丁寧に作り、学生のみなさんと共に充実した授業を迎えられるよう尽力していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: Psychology is a discipline of scientific inquiry of the human mind, something that is very familiar to each of us on the one hand yet invisible and sometimes unpredictable on the other. This course is intended to help nurture a deeper understanding of the workings of the mind through various perspectives including perception, cognition, motivation, development, interpersonal relationships, and clinical practices.

Learning Objectives: To understand the sound workings and development of the human mind as well as conceptualize identity and interpersonal relationships through various psychological perspectives. Students enrolled in this course are expected to continue taking Psychology II.

Learning Activities Outside of Classroom: The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.

Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on their performances on the final examination (50%) and learning activities/quizzes (50%). Details will be provided at the first class session.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

久木田 敦志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

あまりにも身近でありながら、目には見えず、思い通りにならないことも多々ある私たちの心。この心の理（ことわり）を科学的に探究する学問が心理学です。本講義では、みなさんが一生つきあっていくことになる自身の心と向き合い、理解を深める手助けとなることを目指して、心のはたらきについての知見を感覚・認知・動機・発達・対人関係・臨床など様々な角度から紹介します。

【到達目標】

「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。適宜、授業内容の理解深化を目的とした課題及び小テストを行うことで習熟度への定期的なフィードバックを提供します。その他の詳細は第1回ガイダンス時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
第2回	自分を良く知りたい	パーソナリティの類型論と特性論
第3回	パーソナリティの理解	パーソナリティとその測定法
第4回	人間関係と社会心理学	自己概念・社会的認知、対人関係、家族関係
第5回	集団との関係	社会的影響、集団・組織
第6回	社会性と進化的視点	向社会行動、利他行動
第7回	向社会行動を支える内的要因	社会脳仮説
第8回	臨床心理（1）	臨床心理学とは、理論とアセスメント
第9回	臨床心理（2）	臨床心理学の実践、介入
第10回	カウンセリング（1）	精神分析学、認知行動療法
第11回	カウンセリング（2）	来談者中心療法、ポジティブ心理学
第12回	心理的ウェルビーイングを考える	精神的に健康で、充実した人生を生きるために
第13回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る
第14回	学期末試験	授業内期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学概論——ヒューマン・サイエンスへの招待」 松田幸弘 編著（2018年）ISBN 9784779513367

【参考書】

教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）と学期中の各課題・小テスト（50％）を総合して評価します。成績評価項目の詳細は第1回ガイダンス時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講生のみなさんから、参加型の実験やリアルタイムで結果が分かるアンケート集計が楽しかった、講義・説明が丁寧だった、定期的な小テストで学びが深まった、スライド資料の配布が役立った、等々、温かいフィードバックを多数いただくことができました。引き続き、安心して学べる環境を丁寧に作り、学生のみなさんと共に充実した授業を迎えられるよう尽力していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: Psychology is a discipline of scientific inquiry of the human mind, something that is very familiar to each of us on the one hand yet invisible and sometimes unpredictable on the other. This course is intended to help nurture a deeper understanding of the workings of the mind through various perspectives including perception, cognition, motivation, development, interpersonal relationships, and clinical practices.

Learning Objectives: To understand the sound workings and development of the human mind as well as conceptualize identity and interpersonal relationships through various psychological perspectives. Students enrolled in this course are expected to continue taking Psychology II.

Learning Activities Outside of Classroom: The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.

Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on their performances on the final examination (50%) and learning activities/quizzes (50%). Details will be provided at the first class session.

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学 I

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では足もとに広がる陸域、すなわち「島 island」に注目することとし、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに、私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「島」に関わる事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。近年「島」をめぐる様々なニュースに接するようになり、国際問題化している事案に目が行きがちですが、じつは人口減少や少子高齢化の問題をはじめ「島嶼国日本の縮図」としての先進的現象が国内の多くの島々で生起しています。全14回の授業を通して、「島嶼性」という普遍的でダイナミックな島の性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなるしくみ・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式となります。
- ・毎回、授業内容を整理してコメントをご提出いただきます。
- ・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初日に詳しく説明することといたします。
- ・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしく願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第2回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第3回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第4回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第5回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第6回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第7回	現代社会の経済・社会・政治	「島嶼性」と日本・世界の島々
第8回	現代社会の情報・通信・観光	島々の歴史（豊島産廃問題と瀬戸内国際芸術祭）
第9回	現代の人びとの生活・文化	島々の文化（戦後の図書館運動と島）

第10回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第11回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第12回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第13回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第14回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用います。学習支援システムの「教材」に配布プリントをアップいたしますので、授業前に印刷のうえ、予めお目通しください。

【参考書】

高等学校用などの地図帳があると、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50％）・レポート（50％）

質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, region, landscape and location. This course focuses on "islands" in particular, and aims to deepen the understanding of island life space using maps, charts, statistics, videos and photographs. In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では足元に広がる「島 island」に注目することとし、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに島の一般的性質、および島々の多様な姿について捉え、最終的には私たちが生きている島嶼（とうしょ）生活空間への理解を深めていくことを目的としています。

【到達目標】

現代世界の諸地域、とくに「島」を地誌的に考察することを目標とします。全14回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の一般的性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなるしくみ・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式となります。
- ・毎回授業内容を整理し、コメントをご提出いただきます。
- ・期末にまとめたレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。
- ・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしく願います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	島の定義、「島嶼性」と島嶼ネットワーク
第4回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	島々の産業の盛衰にみる「島嶼性」の表出
第5回	統計資料をもとに世界・日本について考える	戦後日本の島嶼政策とそこにみられる諸問題
第6回	映像資料から世界・日本について考える	島々のコミュニティとネットワーク
第7回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第8回	現代世界の諸地域	資源・産業
第9回	現代世界の諸地域	人口
第10回	現代世界の諸地域	都市・村落
第11回	現代世界の諸地域	生活文化
第12回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など

第13回 現代の私たちが描く 未来の社会のために
世界像・日本像

第14回 まとめ 試験 授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用います。学習支援システムの「教材」に配布プリントをアップいたしますので、授業前に印刷のうえ、予めお目通しください。

【参考書】

高等学校用などの地図帳があると、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50％）・レポート（50％）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The purpose of this course is to deepen our understanding of the island life space by considering the general nature of islands and the diversity of islands based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学 I

2017年度以降入学者

前川 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新課程で必須となった高校の地理でも、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」「覚える」ことが中心だったのではないのでしょうか。大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードやロジックから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。大学の方針に従って、対面授業を基本とします。様々な映像資料や資料等から考えています。Webclassで教材配信、出席等をしますので、全員習熟してください。成績に関連するレポート等も含めて、生成AIに関しては大学の方針に準拠して使用可能な授業ですので頑張ってください。

【到達目標】

現代の様々な事象を理解することを通して、前半は大都市TOKYOやローマ、北京などを舞台に自然地理学を、後半は日本を中心に人文地理学の考え方や自分で考えるという力を学ぶことを目標とします。東京は再び、人口流入が始まり、特に都心部では顕著です。都市に関係する分野は様々ありますが、グローバルな経済的影響等を最も可視化や内包化しやすい地域だからこそ、都市に係る分野は様々あるのかもしれませんが。一方的な講義で眠くなるより、大学のオープンな居場所と考え、学問の入口やコミュニケーションを楽しみながら考えましょう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

100番台の本講義では、自然地理学、人文地理学の両方の分野を講義しますが、基本的には大都市や日本を舞台に身近な事例などから紹介し、すすめていきます。対面授業の利点を活かし「考える」ことを重視し、基本的に「映像＋講義＋GDなど」形式となります。授業資料等はWebclassにアップしますので、授業前にはダウンロードしてください。授業時にALとしてGD/GWを考えており、評価に関連します。また、中間Rは簡易的な都市フィールドワークの基礎として都心部を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理から地理学へ	大学の地理学へ 地理学って何だろう
第2回	地理学が扱う諸問題 地球規模の自然環境とグローバルな社会	地球の成り立ちと日本や日本を中心に、グローバルな自然地理学のロジックから考える
第3回	身近な事象を通して地理学を考える（1） なぜ再開発で渋谷はあとに	地理学的な考え方を学ぶには？ 新宿、池袋と比較して渋谷の街から見えてくるものは何だろう
第4回	身近な事象を通して学問として地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方 プラタモリの世界ローマ
第5回	現代世界における生態・環境（1） 気候変動は・・・	餃子で考える、食文化と自然環境および理論の世界感

第6回	現代世界における生態・環境（2）	世界における生態・環境問題 アメリカが世界の環境問題を変えるか・環境問題・なぜ、人は都市に 若い女性はなぜTOKYOに
第7回	少子高齢化の課題・・・能登の災害からもみえてくるもの	
第8回	現代社会の経済・社会・政治	産業と経済発展を身近なスマホなどから考えてみよう
第9回	現代社会の情報・通信・観光	観光は新たな産業として可能だろうか
第10回	日本社会における諸問題（1）	遅れた日本 安い日本 失われた30年 DX, AI社会ほか
第11回	日本社会における諸問題（2）	人材不足、人手不足の中で 必要な人材とは何か、生成AIと日本の将来
第12回	グローバル社会における諸問題（1）	グローバル社会の分断と混乱を欧米社会から地理学的な見方から考える
第13回	グローバル社会における諸問題（2）	格差・貧困とグローバル社会 アメリカのホームレス大学生や生理の貧困を考えながら
第14回	まとめと展望	災害日本を社会科学から再検討する&最終レポートの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞・ネット情報を読むようにして、常に疑問を持ち、正誤に関しては自分の判断で選択できるように考えてください。昨年は世界的な選挙イヤーでしたが、アメリカ大統領が変わるだけで世界は大きな変化しています。政治や経済が社会に与えていることを身近に考えてください。こうした世界や日本社会の様々な出来事にも興味や疑問をもってください。これは、普段歩いている大学や自宅界隈も視点を変えてみることでちょっと違うこともレポートなどで経験してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

印刷されたテキストは特にありませんが、Webclassで教材資料等を授業前にアップします。

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

対面授業予定ですので、中間・期末のレポート80%、授業での平常点（20%）としますが、感染の拡大等から変わる可能性もあります。詳細は4月の授業時やWebclass等で確認してください

【学生の意見等からの気づき】

この数年間、社会の閉塞感からなのか、各自の孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。多様性を否定する流れが来ているかもしれません。画一化や均一化などはイノベーションを生み出しにくいことはすでに明らかになっています。このため、この講義では一方的に抗議するという形式ではなく、多様な意見や考え方をする方向性を期待しています。授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮する方向性でのGDやレポートなどでの簡易的フィールドワークは行ってきました。大半の学生には好評でした。授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Webclassで、資料配信、簡単な質問、出席などを行います。それを見て使えるように習熟を、さらにPCなどの機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

1年生は新課程で高校地理が必須だと思いますが、苦手な人でも構いません。100番台で基礎科目としてのポジションですが原則、春学期のⅠでは地理学の基礎、秋学期のⅡは世界の地誌的な見方での応用が中心です。自分の経験ですが、海外研究で奥地や災害ボランティアで気がつくのは日本人女性は1人でも参加しますが。若い男性は集団志向です。昨今、多様性やジェンダーギャップ等が話題になりつつありますが、大学デビューも含めて1人参加でも例年大丈夫です。一方的な授業は教員は楽ですが避けたいのでみんなでALも楽しみましょう。

授業資料、出席などは、Webclass（タイムラインも含めて）等を使う予定です、互いに習熟しましょう。また、授業開始日までに、最初の項目に、今後の内容の詳細や要点をパワポや動画等でまとめておきたいと思います。必ず確認してください。（仮登録すれば見れるようにします）

【Outline (in English)】

Course outline: Regional or geographical issues in the modern world.

Learning Objective: Students will gain a deep understanding of various events in the modern world and learn the importance of thinking logically on their own. Learning activities outside of classroom: Total of 4 hours

Grading Criteria: Examination 80% Contribution to class 20%

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前川 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」「覚える」ことが中心だったのではないのでしょうか。大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードやロジックから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。秋学期のこの授業では現在の世界や日本の諸地域について、地理学的（自然地理学・人文地理学・地誌学）に考察していきましょう。現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。グローバリゼーションが深化し、大量な多様な情報が席巻しているにもかかわらず、人々が、必ずしも十分に理解しているかどうか危惧されます。とくにグローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を知ることは重要で、このために、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的、さらに自然地理学や人文地理学をとおして考察すること、目まぐるしい変化の世界各地や日本などについて、自ら考えていけるようになることを目標にします。さらに、高校までの地理の復習や延長ではなく、日本や世界の身近な課題等を地理学をとおして多様な持続可能な考え方として尊重することも考えます。いくつかの系統地理学的なテーマも、代表する世界のエリアで考えてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本は「世界を知ろう」です。各テーマにかかわる身近なトピックを紹介しながら、「映像＋講義＋GDなど」などですすめていきます。対面授業の利点を活かし、多様な考え方のためにGD・GWが多様性を感じる簡易的なフィールドワークを行いますので楽しんでください。授業資料等はwebclassにアップしますので、授業前にはダウンロードしてください。授業時にALとしてGD/GWを考えており、評価に関連します。シラバス内容は順番など多少変更する場合もあります。生成AIは大学の方針に準拠して使用可能。うまく使用できるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地理学・地誌学	地理学・地誌学とは？ 身近なこと 動画・映像から大学の地理学へ 韓国
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	東アジアから映画や動画をもとに考えよう 中国
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	GPSの行動結果などから外国人インバウンド観光行動やアメリカの格差をMAPなどから考える
第4回	統計資料をもとに世界・日本について考える	能登半島の災害などをビックデータやGISなどから考える
第5回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	グローバル社会について考えてみよう ASEAN タイなど、

第6回	映像資料から世界・日本について考える	映画やネット動画から分析してみよう ASEAN ベトナム・カンボジアなど
第7回	現代世界の諸地域	ASEANを事例に地域区分と国家・宗教・民族多様性を考える
第8回	現代世界の諸地域	南アジアを事例に資源・産業 世界一の人口インド
第9回	現代世界の諸地域	アメリカを事例に多様性を変える？ 都市・移民 アメリカンドリームは今
第10回	現代世界の諸地域	アメリカを事例に分断と格差 トランプ・ブアホワイト・ラストベルト
第11回	現代世界の諸地域	ヨーロッパを事例に移民・分断社会 生活文化
第12回	現代世界の諸地域	ヨーロッパを事例に民族・宗教・領土問題、都市など
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	災害復興からみえる未来の社会のために
第14回	試験 まとめと解説	世界の変化と最終レポートの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞・ネット情報を読むようにして、常に疑問を持ち、正誤に関しては自分の判断で選択できるように考えてください。昨年は世界的な選挙イヤーでしたが、アメリカ大統領が変わるだけで世界は大きな変化しています。大学に入学して1年生で半年が過ぎます。身近な変化はありましたか、地域社会にネットワークは張っていますか？ 世界や日本の動向を身近なことから考えられるように、何事にも興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

地理学Ⅰ同様に 基本的になし

【参考書】

適宜、指示します

【成績評価の方法と基準】

体面授業が中心となります。中間・期末のレポート（80%）、授業時での平常点（20%）として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

この数年間で孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。本格的なフィードバックではありませんが、レポートの街あるきは好評でした。今年もやってみましょう。対面授業ですから、授業を居場所としてコミュニティの重要性や多様性をフルに発揮していきたいと思います。むしろ、授業でたくさんの方の知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Webclassのシステムを教材や課題等で使用するの、慣れてほしい。先進国の中でパソコンが苦手な人が多いといわれる日本です。スマホではなく、パソコンやタブレットなどに慣れてください。なお、生成AIに関しては大学の方針に準拠して使用し、習熟してみてください。大学のパソコンレンタルなども活用してください。

【その他の重要事項】

学部により半期、通年登録などがバラバラですので、授業開始日までに、簡単なガイダンスをパワポ資料や動画作成しておく予定で、Webclassの授業欄の案内にアップしておきたいと思います。必ず確認してください。（仮登録すれば見れるようにします）昨今、多様性がイノベーションを産みやすいことは自明の理になっていますが、否定する意見もあります。この授業は人によったら楽な授業ではないと感じる人もいますが、同じような形式ではなく、大学生の時ぐらいトライすることを自分の成果にしませんか。学部学年、性差の違い等でも多様性が実感できます。大学デビューも含めて1人参加でも例年大丈夫ですし、大学の居場所にしませんか。みんなでもALも楽しみましょう。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional or geographical issues in the modern world.

Learning Objective: Students will develop the ability to think for themselves about the importance of coexistence among diverse people in an increasingly globalized society.

Learning activities outside of classroom: Total of 4 hours

Grading Criteria: Examination 80% Contribution to class 20%

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学 I

2017年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、人文地理学的なテーマにかかわるトピックを紹介しながら、すすめていきます。高校時代に地理を学習していない受講生にも、大学での地理学的な考え方をわかりやすく説明していきます。高校教科書や地図帳を利用したり、様々な画像・映像も見ていきたいと考えています。大学の方針に従って、本年は対面授業を基本とします。しかし、授業支援システムを主に活用し、資料配信やコメント提出もしていただきます。リアクションペーパーには授業支援システムを使って教員からコメントをし、受講生のみなさんにフィードバックします。授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第2回	地理学が扱う諸問題	さまざまな地理学的課題
第3回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	法政大学周辺の地理
第4回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアのなかの地理 プラタモリ鑑賞
第5回	現代世界における生態・環境（1）	自然環境と人々の生活
第6回	現代世界における生態・環境（2）	地球温暖化・シベリアの環境問題
第7回	現代の人びとの生活・文化	文化遺産と郷土のアイデンティティ
第8回	現代社会の経済・社会・政治	「大江戸」と東京一極集中
第9回	現代社会の情報・通信・観光	アートと地域振興
第10回	日本社会における諸問題（1）	自然災害と防災・復興
第11回	日本社会における諸問題（2）	都市と地方 少子化・高齢化
第12回	グローバル社会における諸問題（1）	ロシアによるウクライナ侵攻
第13回	グローバル社会における諸問題（2）	旧ソ連地域 ロシアと周辺諸国 ロシアとアメリカ、中国の関係

第14回 まとめ

試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要な資料は適宜、学習支援システムにアップします。

【参考書】

『高等学校用地図帳』その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験50％、平常点50％

【学生の意見等からの気づき】

映像資料（写真やDVD、映画など）は好評でしたので、対面授業内で積極的に鑑賞する機会をもうけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信を行います（紙での配布はしません）。それを見ることができるようにPCなどの機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

高校時代に地理を学んでいない人も大歓迎です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines various issues in contemporary world through academic key words of human geography.

【Learning Objectives】 The goals of this course is to understand human geographies of Japan and Russia.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end examination:50%, and class contribution:50%

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、世界や日本の地誌を扱います。大学の方針に従って、本年は対面授業を基本とします。授業支援システムでの資料配信やリアクションペーパーの提出も行います。リアクションペーパーへのコメントは、授業内で発表してフィードバックします。必要な事項は全員向けに授業支援システム内の掲示板を利用します。授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	地誌とは？
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	世界や日本の地誌を学ぶ
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	地図から見る世界と日本
第4回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計から見る世界と日本
第5回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	最近の新聞・ニュースから見る世界と日本
第6回	映像資料から世界・日本について考える	絵画・写真からみる世界と日本
第7回	現代世界の諸地域	世界遺産・文化財からみる地域
第8回	現代世界の諸地域	アートからみる地域
第9回	現代世界の諸地域	公共空間からみる地域
第10回	現代世界の諸地域	震災・復興からみる地域
第11回	現代世界の諸地域	国際紛争からみる地域
第12回	現代世界の諸地域	グローバル化と地域
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	様々な地域像
第14回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験50％、平常点50％

【学生の意見等からの気づき】

各地の状況を理解するために、様々な映像資料を使います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信を行います（紙での配布はしません）。それを見ることができるよう、PCやスマートフォンなどの機器類は準備してください。

【その他の重要事項】

高校時代に地理を学んでいない人も大歓迎です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines culture and people of various regions in the world through academic key words of topography.

【Learning Objectives】 The goals of this course is to understand topography of Japan and Russia.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end examination:50%, and in class contribution:50%

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学 I

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では足もとに広がる陸域、すなわち「島 island」に注目することとし、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに、私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「島」に関わる事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。近年「島」をめぐる様々なニュースに接するようになり、国際問題化している事案に目が行きがちですが、じつは人口減少や少子高齢化の問題をはじめ「島嶼国日本の縮図」としての先進的現象が国内の多くの島々で生起しています。全14回の授業を通して、「島嶼性」という普遍的でダイナミックな島の性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなるしくみ・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式となります。
- ・毎回、授業内容を整理してコメントをご提出いただきます。
- ・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初日に詳しく説明することといたします。
- ・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしく願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第2回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第3回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第4回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第5回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第6回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第7回	現代社会の経済・社会・政治	「島嶼性」と日本・世界の島々
第8回	現代社会の情報・通信・観光	島々の歴史（豊島産廃問題と瀬戸内国際芸術祭）
第9回	現代の人びとの生活・文化	島々の文化（戦後の図書館運動と島）

第10回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第11回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第12回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第13回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第14回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用います。学習支援システムの「教材」に配布プリントをアップいたしますので、授業前に印刷のうえ、予めお目通しください。

【参考書】

高等学校用などの地図帳があると、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, region, landscape and location. This course focuses on "islands" in particular, and aims to deepen the understanding of island life space using maps, charts, statistics, videos and photographs. In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では足元に広がる「島 island」に注目することとし、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに島の一般的性質、および島々の多様な姿について捉え、最終的には私たちが生きている島嶼（とうしょ）生活空間への理解を深めていくことを目的としています。

【到達目標】

現代世界の諸地域、とくに「島」を地誌的に考察することを目標とします。全14回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の一般的性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなるしくみ・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式となります。
- ・毎回授業内容を整理し、コメントをご提出いただきます。
- ・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。
- ・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしく願います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	島の定義、「島嶼性」と島嶼ネットワーク
第4回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	島々の産業の盛衰にみる「島嶼性」の表出
第5回	統計資料をもとに世界・日本について考える	戦後日本の島嶼政策とそこにみられる諸問題
第6回	映像資料から世界・日本について考える	島々のコミュニティとネットワーク
第7回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第8回	現代世界の諸地域	資源・産業
第9回	現代世界の諸地域	人口
第10回	現代世界の諸地域	都市・村落
第11回	現代世界の諸地域	生活文化
第12回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など

第13回 現代の私たちが描く 未来の社会のために
世界像・日本像

第14回 まとめ 試験 授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用います。学習支援システムの「教材」に配布プリントをアップいたしますので、授業前に印刷のうえ、予めお目通しください。

【参考書】

高等学校用などの地図帳があると、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50％）・レポート（50％）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The purpose of this course is to deepen our understanding of the island life space by considering the general nature of islands and the diversity of islands based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学 I

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに「海」に関わる事象を取り上げます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「海」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。マイクロプラスチックによる海洋汚染の問題、領海をめぐる問題など、海をめぐる様々な問題は、陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。全14回により、「海と人間社会の関係性」および「海に囲まれた島嶼生活空間」についての認識を深め、そうした諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなるしくみ・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式となります。
- ・毎回、授業内容を整理してコメントをご提出いただきます。
- ・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初日に詳しく説明することといたします。
- ・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしく願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第2回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第3回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第4回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第5回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第6回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第7回	現代の人びとの生活・文化	海洋をめぐる諸問題
第8回	現代社会の経済・社会・政治	国連海洋法条約と世界・日本の海洋政策
第9回	現代社会の情報・通信・観光	世界・日本の海洋教育
第10回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第11回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として

第12回 グローバル社会における諸問題（1） 地理学的な考え方を学ぶには？

第13回 グローバル社会における諸問題（2） 世界の諸地域を事例として

第14回 まとめ 試験 授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用います。学習支援システムの「教材」に配布プリントをアップいたしますので、授業前に印刷のうえ、予めお目通しください。

【参考書】

高等学校用などの地図帳があると、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50％）・レポート（50％）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, region, landscape and location. In this course, we will focus on various phenomena related to the sea.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目ではとくに「海」を取り上げ、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに「海と人間社会の関係性」を多角的に考察し、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。今日私たちが直面する海をめぐる様々な問題は、その多くが陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。したがって陸域の社会経済活動を捉えながら諸問題を考えていくことが重要であり、秋学期では陸＝島が内包する島嶼社会システムを捉えつつ「海と人間社会の関係性」を考察し、問題解決への道を考えていきます。また海に関する諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなるしくみ・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式となります。
- ・毎回、授業内容を整理してコメントをご提出いただきます。
- ・期末にまとめたレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初日に詳しく説明することといたします。
- ・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしく願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	沿岸域の開発と地域社会への影響
第4回	映像資料から世界・日本について考える	里海再生の取り組みとその現状
第5回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日本列島の海の食文化と「島嶼ネットワーク」
第6回	統計資料をもとに世界・日本について考える	「島嶼ネットワーク」から捉える日本の海洋産業の問題
第7回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第8回	現代世界の諸地域	資源・産業
第9回	現代世界の諸地域	人口
第10回	現代世界の諸地域	都市・村落

第11回	現代世界の諸地域	生活文化
第12回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第14回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用います。学習支援システムの「教材」に配布プリントをアップいたしますので、授業前に印刷のうえ、予めお目通しください。

【参考書】

高等学校用などの地図帳があると、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50％）・レポート（50％）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The objective of this course is to deepen our understanding of the island life space by examining from various angles the "relationship between the sea and human society " based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナショナリズムのパラドックス

14 政治社会学の視点 M・ウェーバー『職業としての政治』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第2版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50％）、平常点（50％）[リアクションペーパー 20％＋プレゼンテーショングループワーク 30％]

詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土1/Sat.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、文献資料、いずれもPDF形式）に基づき授業を進める。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
三上剛史（2010）『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムントバウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダニティ—』大月書店。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、平常点（50%）[リアクションペーパー20%＋プレゼンテーショングループワーク30%]
詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナショナリズムのパラドックス

14 政治社会学の視点 M・ウェーバー『職業としての政治』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第2版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50％）、平常点（50％）[リアクションペーパー20％＋プレゼンテーショングループワーク30％]

詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、文献資料、いずれもPDF形式）に基づき授業を進める。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
三上剛史（2010）『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムントバウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダニティ—』大月書店。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、平常点（50%）[リアクションペーパー20%＋プレゼンテーショングループワーク30%]
詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」、社会学の考え方の基礎となる概念や社会学に特有な視点を学びます。そのうえで、履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると感じ、その問題について、自分なりに考えていくことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず社会学の基礎的な概念を学びます。次に、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分自身の独自の「題材」を使って、現代の社会について、コミュニケーションという側面から考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、全てリアルタイム配信型オンライン授業の形態で実施の予定です。Hoppii～学習支援システムを使って資料配付＋ZOOMでの講義＋ワードファイルによる課題の提出という形になる予定です。提出された課題については、可能な範囲で、後日の授業内でフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第2回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第3回	社会を感じる その2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第4回	コミュニケーション論1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第5回	コミュニケーション論2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第6回	コミュニケーション論3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第7回	メディアの歴史 その1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第8回	メディアの歴史 その2	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを、さらに深く考えます。
第9回	メディアの歴史 その3	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第10回	メディアの歴史 その4	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを、さらに深く考えます。
第11回	メディアの歴史 その5	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第12回	メディアの歴史 その6	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第13回	現代の社会について考える1	スポーツを題材として、ここまでの考察を振り返り、現代の社会について考えてみます。
第14回	現代の社会について考える2	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は各回につき4時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1-3 学生は「社会的なもの」について考えます
- 4 自分が社会について考えるための題材を決めます
- 5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
- 7-12 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
13. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます
14. 学生はここまで自分が考えたことをまとめます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995年
https://www.socius.schule/p/blog-page_16.html

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（50%）、および期末レポート（50%）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「コミュニケーションに関する話をしているのに、コミュニケーションが取れていない」という意見をいただきました。ご指摘の通りと思います。なお、この授業では、「コミュニケーションは難しいね」ということに関する話をしていきますので、まずはこの点をしっかりコミュニケーションできるように、改善したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

(1) 資料配布、その他の連絡等のために学習支援システムとZOOMアプリを利用しますので、事前に登録を済ませて、使いがってを試しておいて下さい。(2) リモート授業に対応できる、信頼できる通信環境を整えておいてください。(3) 可能であれば、リモート授業に対応できる、余力のあるPCを用意してください。(4) マイクロソフト・オフィス（ワードとパワーポイント）を使えるように準備を済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students learn 'way of thinking' to think about contemporary society. Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own.

Learning Objectives: The goals of this course are to think about modern society from the aspect of communication and summarize it in a report. Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria / Policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (reports): 50%, in class contribution: 50%

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分自身の独自の「題材」を使って、現在の社会について考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、全てリアルタイム配信型オンライン授業の形態で実施の予定です。Hoppii～学習支援システムを使って資料配付＋ZOOMでの講義＋ワードファイルによる課題の提出という形になる予定です。提出された課題については、可能な範囲で、後日の授業内でフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム（1）	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム（2）	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム（3）	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム（4）	現代の社会を生きる人の特徴について考えます。
5	現代社会と資本主義のシステム（5）	現代の社会における限界問題について考えます。
6	現代社会とメディアの働き（1）	現代社会におけるメディアの働きについて学びます。
7	現代社会とメディアの働き（2）	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
8	現代社会とメディアの働き（3）	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
9	現代社会とメディアの働き（4）	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
10	現代社会とメディアの働き（5）	物語論を使ったメディアの分析を学びます。
11	現代社会の課題（1）	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題（2）	身体の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題（3）	地域の問題とメディアの関係について考えます。
14	まとめ	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は4時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
- 2-5 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 6 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 7-10 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 11 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 12 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996年）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（50％）、および期末レポート（50％）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「この授業を聴いていると友達が減るような気がする」という意見をいただきました。ご指摘の通りだと思います。私自身も、友達は少ないです。私たちが生きている社会について、一緒に考えることができる友達を増やす方法について考えることも、今後の課題としたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

(1) 資料配布、その他の連絡等のために学習支援システムとZOOMアプリを利用しますので、事前に登録を済ませて、使いがたを試しておいて下さい。(2) リモート授業に対応できる、信頼できる通信環境を整えておいてください。(3) 可能であれば、リモート授業に対応できる、余力のあるPCを用意してください。(4) マイクソフト・オフィス（ワードとパワーポイント）をえるように準備を済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solutions about the society in which they live

Learning Objectives : The goals of this course are to think about modern society from the aspect of the media works and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (reports) : 50%、in class contribution: 50%

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナショナリズムのパラドックス

14 政治社会学の視点 M・ウェーバー『職業としての政治』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第2版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50％）、平常点（50％）[リアクションペーパー20％＋プレゼンテーショングループワーク30％]

詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・パウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・パウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・パウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、文献資料、いずれもPDF形式）に基づき授業を進める。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
三上剛史（2010）『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムント・パウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダニティ—』大月書店。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、平常点（50%）[リアクションペーパー20%＋プレゼンテーショングループワーク30%]
詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

服部 あさこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面とし、状況によっては、リアルタイムでのオンライン授業を行う。現在の社会現象に対して、バズセッションの実施や短時間で取り組めるリアクションペーパーの提出を求めることがある。リアクションペーパーに関しては、次回以降の授業内で、全体の傾向の報告や、他の学生の学習のヒントになるものを取りあげて解説する等のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、社会学への導入	社会学とはどのような学問か？
2	社会変動1	近代という「謎」の発見
3	社会問題1	集団へのアプローチ
4	社会問題2	規範と価値
5	理論的整理	行為と合理性
6	社会変動2	個へのアプローチ
7	歴史社会学の視点	合理性と社会変動
8	社会集団1	地位と役割
9	社会集団2	社会化理論
10	「自己」の社会学1	近代的個人
11	「自己」の社会学2	社会性の発達
12	政治社会学の視点1	闘争、疎外
13	政治社会学の視点2	国家、国民、民族
14	総括、社会分析の精緻化	社会のとらえ方の変遷

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。復習として、配布資料を読み、それまでに学習した社会学上の概念を用いて現象をどのように説明できるかを考え、簡潔なメモを作成します。予習として、次回の資料を読み、大まかな話の流れを把握します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません

【参考書】

長谷川公一ほか編著、2007『社会学』有斐閣

友枝 敏雄ほか編著、2017『社会学の力－重要概念・命題集』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー等による平常点30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】**【Outline (in English)】**

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an ability of comprehend from various perspective about social phenomenon.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To be able to understand the basic concepts and theories of sociology.

To be able to examine social phenomena from both micro and macro perspectives.

To be able to deep their understanding of the multilayered nature of society and be able to understand the origins of social issues from multiple perspectives.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following :30%score for regular assignments (e.g. reaction paper), 70%score for test

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

服部 あさこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的な事柄について、多様な背景をもつ人々の視角を想像しながら考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面とし、状況によっては、リアルタイムでのオンライン授業を行う。現在の社会現象に関して、バズセッションの実施や短時間で取り組めるリアクションペーパーの提出を求めることがある。リアクションペーパーに関しては、次回以降の授業内で、全体の傾向の報告や、他の学生の学習のヒントになるものを取り上げて解説する等のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、基礎概念の確認	社会学の頻出概念の確認
2	社会秩序と権力1	社会秩序をめぐる問題提起と国家
3	社会秩序と権力2	社会秩序を維持するもの
4	日常生活の社会学1	行為と演技
5	日常生活の社会学2	やりとり秩序
6	現象学的社会学の視点	対象の認識と文化
7	国際社会学の視点	文化相対主義
8	構築主義	予言の自己成就
9	逸脱	ラベリング理論
10	法社会学の視点	犯罪と刑罰
11	格差社会論	社会階層と文化
12	貧困と社会的排除	人々を分断する制度の存在
13	教育と社会	学力と社会階層
14	総括、「近代社会」の変容	個人の主観の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。復習として、配布資料を読み、それまでに学習した社会学上の概念を用いて現象をどのように説明できるかを考え、簡潔なメモを作成します。予習として、次回の資料を読み、大まかな話の流れを把握します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

金菱清、2014『新 体感する社会学: Oh! My Sociology』新曜社
盛山和夫ほか編著、2017『社会学入門』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー等による平常点30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していないためフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムまたは google classroomを利用します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an ability of comprehend from various perspective about social phenomenon. Sometime students should submit short opinion essays. Good opinions will feedbacked in next time.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to think multidimensionally about social issues. Based on that way of thinking, you will be able to respect others, especially those who are weak, and have an opinion that you think is good for yourself.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following :30%score for regular assignments (e.g. reaction paper), 70%score for tests

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅰ

2017年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げながら、講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で発言やコメント作成を行なう。提出物は、個人情報に留意したうえで授業に適宜フィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。2回ワンセットで教科書を1章ずつ進め、半期で7セット繰り返す。初めの回は概説編である。授業時刻までに講義動画とパワーポイント配布資料等を教材としてアップロードするので、各自閲覧、視聴する。確認課題あり。次の回は発展編とし、教室で追加レクチャーを行うほか、受講生が相互に情報・意見交換するなどして理解を深める。課題に対しては次の回に、発言に対してはその場でフィードバックする。質問や意見があれば、対面授業の際に教員に直接申し出るか、メール連絡すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	理論と方法(1)	授業ガイダンス、テキスト第1章概説
2	理論と方法(2)	第1章発展編
3	文化と社会(1)	テキスト第2章概説
4	文化と社会(2)	第2章発展編
5	社会化と相互行為(1)	テキスト第3章概説
6	社会化と相互行為(2)	第3章発展編
7	集団と組織(1)	テキスト第4章概説
8	集団と組織(2)	第4章発展編
9	社会階層(1)	テキスト第6章概説
10	社会階層(2)	第6章発展編
11	人種とエスニシティ(1)	テキスト第7章概説
12	人種とエスニシティ(2)	第7章発展編
13	ジェンダーとセクシュアリティ(1)	テキスト第8章概説
14	ジェンダーとセクシュアリティ(2)	第8章発展編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
・テキストおよび参考文献、そのほか社会学者の書いた論文や本を各自で読む。

・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】

『社会学の基礎』松本康監修、小池靖・貞包英之編、有斐閣、2024年刊、2400円＋税。
またテーマごとにレジュメ、資料を配付する。

【参考書】

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018年刊、3200円＋税。
『二世に聴く在日コリアンの生活文化』橋本みゆき編著、猿橋順子・高正子・柳蓮淑著、社会評論社、2021年刊、2800円＋税。
他は授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%＋平常点50%。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生はそれぞれ関心ある題材に出会えるだろう。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもあるかもしれない。

【その他の重要事項】

秋学期科目「社会学Ⅱ」は教科書の続きの章から始める。各章の内容は独立しているので、春学期のみの受講でも差し支えない。

【Outline (in English)】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

The goals of this courses are to understand terms and ways of thinking of sociology and to grow the sociological imagination. After each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the textbook, and other books, articles. Your required study time is at least four hours for a class. Final grade will be decided based on term-end report(50%), and in-class contribution(50%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げながら、講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で発言やコメント作成を行なう。提出物は、個人情報に留意したうえで授業に適宜フィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。2回ワンセットで教科書を1章ずつ進め、半期で7セット繰り返す。初めの回は概説編である。授業時刻までに講義動画とパワーポイント配布資料等を教材としてアップロードするので、各自閲覧、視聴する。確認課題あり。次の回は発展編とし、教室で追加レクチャーを行うほか、受講生が相互に情報・意見交換するなどして理解を深める。課題に対しては次の回に、発言に対してはその場でフィードバックする。
質問や意見があれば、対面授業の際に教員に直接申し出るか、メール連絡すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業ガイダンス
	家族とライフコース	テキスト第9章概説
(1)		
2	家族とライフコース	第9章発展編
(2)		
3	宗教(1)	テキスト第10章概説
4	宗教(2)	第10章発展編
5	経済と労働(1)	テキスト第11章概説
6	経済と労働(2)	第11章発展編
7	政治と社会運動(1)	テキスト第12章概説
8	政治と社会運動(2)	第12章発展編
9	共同体と都市(1)	テキスト第13章概説
10	共同体と都市(2)	第13章発展編
11	情報化とメディア(1)	テキスト第14章概説
12	情報化とメディア(2)	第14章発展編
13	環境(1)	テキスト第15章概説
14	環境(2)	第15章発展編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
・テキストおよび参考文献、そのほか社会学者の書いた論文や本を各自探して読む。
・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】

『社会学の基礎』松本康監修、小池靖・貞包英之編、有斐閣、2024年刊、2400円＋税。
またテーマごとにレジュメ、資料を配付する。

【参考書】

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018年刊、3200円＋税。
『二世に聴く在日コリアンの生活文化』橋本みゆき編著、猿橋順子・高正子・柳蓮淑著、社会評論社、2021年刊、2800円＋税。
他は授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%＋平常点50%。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生は関心をひかれる題材に出会うかもしれない。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもおもしろいだろう。

【その他の重要事項】

春学期科目「社会学Ⅰ」の続き。教科書第9章から始める。各章は独立した内容なので、秋学期のみの受講でも差し支えない。
ただし、社会学そのものについて説明するプロローグは、開講前に読んでおくこと。

【Outline (in English)】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

The goals of this courses are to understand terms and ways of thinking of sociology and to grow the sociological imagination.

After each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the textbook, and other books, articles.

Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on term-end report(50%), and in-class contribution(50%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナショナリズムのパラドックス

14 政治社会学の視点 M・ウェーバー『職業としての政治』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第2版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50％）、平常点（50％）[リアクションペーパー 20％＋プレゼンテーショングループワーク 30％]

詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、文献資料、いずれもPDF形式）に基づき授業を進める。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
三上剛史（2010）『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムントバウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダニティ—』大月書店。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、平常点（50%）[リアクションペーパー20%＋プレゼンテーショングループワーク30%]
詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

松下 優一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の基本的な概念や視点・論点などについて学ぶ。社会学の諸領域を入門的に概観し、社会学的考察のためのポイント（着眼点や研究方法など）について知るとともに、自ら具体的な現象を分析・考察していくための社会学的思考力を養う。

【到達目標】

・社会学の基本的な概念や理論について理解し、その意味を説明できる。
・具体的な事象（社会現象）を取り上げ、その複層性を観察しつつ、社会学的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回教員作成の資料を配布し、講義形式で授業を進める。その際、適宜新聞記事や書籍や映像資料等を用いて、社会現象に対する観察や理解に努める。学習内容の定着と応用を目的として、授業内で小課題（コメント作成等）に取り組んでもらう。受講生の提出物については、基本的に次回授業の冒頭で、いくつかピックアップするかたちでフィードバックし、全体で知見の共有を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会学とは？	授業概要および社会学という学問分野について説明する。
第2回	社会変動	近代化論を中心に、社会構造と社会変動の捉え方について学ぶ。
第3回	消費社会	映像作品を通じて、消費社会の諸相について考える。
第4回	情報社会	基本的なマスメディアの理論を概観しつつ、情報と社会の関係について考える。
第5回	メディア論の視点	マクルーハンのメディア論を概観しつつ、メディアと社会の重層の関係について考える。
第6回	都市とは、いかなる社会空間であるのか	都市社会学の基本的観点について学ぶ。
第7回	社会運動	社会運動の事例を取り上げ、そのありようについて学ぶ。
第8回	社会問題	社会問題が「社会問題」として問題化される過程について考える。
第9回	対抗文化（1）	映像作品を通じて、文化とその担い手の関係、そこに現れる対抗性について考える。
第10回	対抗文化（2）	ウィリス『ハマータウンの野郎ども』をテキストに、対抗文化について理解を深める。
第11回	歴史社会学の視点	アルヴァックスの集合的記憶論を中心に、社会は何をどのように記憶（記念）するか考える。

第12回 階層

社会階層論の基本概念について学ぶ。

第13回 ネーション

エスニシティ、ナショナリズムについて。

第14回 政治社会学の視点

支配とその正当性の問題を中心に。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料や関連文献等を読み込むとともに、関連するテーマについて調べ、自分なりに理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学〔新版〕』有斐閣、2019年。その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の提出物（60%）＋期末課題（40%）。
観察の鋭さ、記述の具体性、洞察の深さ等に加点します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces students to the key concepts of sociology and basic sociological approaches.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand basic approaches and keywords of sociology.
- think about contemporary issues from the sociological perspectives.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided based on Short reports (60%) and Term-end report (40%) .

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

松下 優一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の基本的な概念や視点・論点などについて学ぶ。社会学の諸領域を入門的に概観し、社会学の考察のためのポイント（着眼点や研究方法など）について知るとともに、自ら具体的な現象を分析・考察していくための社会的思考力を養う。

【到達目標】

・社会学の基本的な概念や理論について理解し、その意味を説明できる。
・具体的な事象（社会現象）を取り上げ、その複層性を観察しつつ、社会的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回教員作成の資料を配布し、講義形式で授業を進める。その際、適宜新聞記事や書籍や映像資料等を用いて、社会現象に対する観察や理解に努める。学習内容の定着と応用を目的として、授業内で小課題（コメント作成等）に取り組んでもらう。受講生の提出物については、基本的に次回授業の冒頭で、いくつかピックアップするかたちでフィードバックし、全体で知見の共有を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	家族	近代家族の特徴、その歴史・社会的条件、その変容について。
第2回	ライフコース	女性のライフコースの変化を中心に。
第3回	個人化	個人化の諸相とその歴史・社会的条件について。
第4回	郊外	「郊外」という社会空間の特徴について。
第5回	自己の社会学	ミードの自己論を中心に、自己の成立条件としての他者との相互作用について考える。
第6回	現象学的社会学の視点	シュッツの生活世界論を中心に。
第7回	逸脱	ベッカーのラベリング理論を中心に。
第8回	環境社会学（1）	公害病について取り上げ、環境と社会の重層的関係について考える。
第9回	環境社会学（2）	野生動物をめぐる問題を中心に、開発と自然、「野生」と社会の境界について考える。
第10回	少子高齢化と地域	社会の存続可能性、あるいは「社会の消滅」について考える。
第11回	福祉社会	「良き生」とその社会的条件について考える。
第12回	格差社会	格差拡大は何をもたらすのか。
第13回	国際社会学の視点	移民、あるいは多文化共生空間としての社会について。

第14回 後期近代を生きる まとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
配布資料や関連文献等を読み込むとともに、関連するテーマについて調べ、自分なりに理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学〔新版〕』有斐閣、2019年。その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の提出物（60%）＋期末課題（40%）。
観察の鋭さ、記述の具体性、洞察の深さ等に加点します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces students to the key concepts of sociology and basic sociological approaches.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand basic approaches and keywords of sociology.
- think about contemporary issues from the sociological perspectives.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided based on Short reports (60%) and Term-end report (40%) .

POL100LA（政治学 / Politics 100）

政治学 I

2017年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度を習得するための講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え、判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として教室での対面授業を予定するが、都合によりオンラインまたはオンデマンド授業に変更する場合がある。対面授業ではレクチャーとディスカッションを併用する。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも、教室での対面と学習支援システムの双方を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	統治に関する政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力と立憲制度の関係についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治学 第2版』（川出良枝・谷口将記）東京大学出版会、2022年、2200円＋税

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009年、780円＋税

『戦後政治史 第四版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021年、1040円＋税

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020年、1034円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う2回前後の小課題によって評価を決める。試験が75%、小課題および平常点が25%とする。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン・オンデマンド授業に対応できる情報端末。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 75%、Short reports : 25%

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として教室での対面授業を予定するが、都合によりオンラインまたはオンデマンド授業に変更する場合がある。対面授業ではレクチャーとディスカッションを併用する。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックは対面と学習支援システムの双方を使って行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	新憲法の特徴、およびその制定の政治過程についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	選挙以外の市民の政治行動が政治に及ぼした影響とその意義についての講義
6	自民党政治	日本における経済成長と利益配分を軸にした政治についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による「小さな政府」志向についての講義
12	福祉政治	社会保障をめぐる政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治学 第2版』（川出良枝・谷口将記）東京大学出版会、2022年、2200円＋税

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009年、定価780円＋税

『戦後政治史 第4版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021年、定価1040円＋税

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020年 1034円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う2回前後の小課題によって評価を決める。試験が75%、小課題が25%とする。期末試験は状況によってオンラインでのレポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞きたいうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン・オンデマンド授業に対応できる情報端末。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 75%、Short reports : 25%.

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 I

2017年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行います。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。(授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013年
杉田敦 著 『政治的思考』、東京、岩波書店(岩波新書1402)、2014年**【参考書】**R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999年

南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988年

【成績評価の方法と基準】

受講態度(=手書きのレポートなどの提出物、40%)+試験(60%)(上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート・教科書

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。(授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。)

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013年
杉田敦 著 『政治的思考』、東京、岩波書店(岩波新書1402)、2014年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988年

【成績評価の方法と基準】

受講態度(=手書きのレポートなどの提出物、40%) + 試験(60%)
(上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
(授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。)
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 I

2017年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行います。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。(授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013年
杉田敦 著 『政治的思考』、東京、岩波書店(岩波新書1402)、2014年**【参考書】**R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999年

南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988年

【成績評価の方法と基準】受講態度(=手書きのレポートなどの提出物、40%)+試験(60%)
(上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)**【学生の意見等からの気づき】**

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート・教科書

【その他の重要事項】授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
(授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。)
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。**【Outline (in English)】****【Course outline】**

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013年
杉田敦 著 『政治的思考』、東京、岩波書店(岩波新書1402)、2014年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988年

【成績評価の方法と基準】

受講態度(=手書きのレポートなどの提出物、40%)+試験(60%)
(上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
(授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。)
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 I

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づく講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。

復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学 第二版』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ・『政治学事典』弘文堂
- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明する通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to term-end examination.

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・テキストとレジュメに基づいた講義形式
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。
復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確実にものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学 第二版』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

・期末に行う選択肢型筆記試験

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明する通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to term-end examination.

POL100LA（政治学 / Politics 100）

政治学 I

2017年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度を習得するための講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え、判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として教室での対面授業を予定するが、都合によりオンラインまたはオンデマンド授業に変更する場合がある。対面授業ではレクチャーとディスカッションを併用する。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも、教室での対面と学習支援システムの双方を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	統治に関する政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力と立憲制度の関係についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治学 第2版』（川出良枝・谷口将記）東京大学出版会、2022年、2200円＋税

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009年、780円＋税

『戦後政治史 第四版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021年、1040円＋税

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020年、1034円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う2回前後の小課題によって評価を決める。試験が75%、小課題および平常点が25%とする。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン・オンデマンド授業に対応できる情報端末。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 75%、Short reports : 25%

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として教室での対面授業を予定するが、都合によりオンラインまたはオンデマンド授業に変更する場合がある。対面授業ではレクチャーとディスカッションを併用する。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックは対面と学習支援システムの双方を使って行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	新憲法の特徴、およびその制定の政治過程についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	選挙以外の市民の政治行動が政治に及ぼした影響とその意義についての講義
6	自民党政治	日本における経済成長と利益配分を軸にした政治についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による「小さな政府」志向についての講義
12	福祉政治	社会保障をめぐる政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治学 第2版』（川出良枝・谷口将記）東京大学出版会、2022年、2200円＋税

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009年、定価780円＋税

『戦後政治史 第4版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021年、定価1040円＋税

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020年 1034円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う2回前後の小課題によって評価を決める。試験が75%、小課題が25%とする。期末試験は状況によってオンラインでのレポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞きたいうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン・オンデマンド授業に対応できる情報端末。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 75%、Short reports : 25%.

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 I

2017年度以降入学者

面 一也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出（2回程度）を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第2回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第3回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第4回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第5回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第6回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第7回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第8回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第9回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第10回	議会	立法過程についての講義
第11回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第12回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第13回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第14回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学 第2版』東京大学出版会、2022年、2,420円。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（50%）、リアクションペーパー（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

面 一也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出（2回程度）を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第2回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第3回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第4回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第5回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第6回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第7回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第8回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第9回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第10回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第11回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による民主化についての講義
第12回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第13回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第14回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上神貴佳、三浦まり編『日本政治の第一歩 [新版]』有斐閣ストゥディア、2023年、2,200円。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（50%）、リアクションペーパー（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 I

2017年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。毎回の授業では、学生は意見や質問をリアクションペーパーにより提出し、次回授業で回答や解説をおこない全体で共有する。また、レポート課題を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第2回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第3回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第4回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第5回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第6回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第7回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第8回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第9回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第10回	議会	立法過程についての講義
第11回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第12回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第13回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第14回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学 第2版』（東京大学出版会、2022年）

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(60%)と平常点(40%)により総合的に評価する。平常点は、授業への取り組み、レポートを含む課題の提出及びその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

刻々と変化する社会において生じる事象と講義の内容とを関連付けて考え表現する機会を、より充実させていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの使用に対応できる情報端末。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

POL100LA（政治学 / Politics 100）

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。毎回の授業では、学生は意見や質問をリアクションペーパーとして提出し、次回授業で回答や解説をおこない全体で共有する。またレポート課題を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第2回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第3回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第4回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第5回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第6回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第7回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第8回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第9回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第10回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第11回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第12回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第13回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第14回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川出良枝・谷口将紀編著『政治学 第2版』（東京大学出版会 2022年）

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）と平常点（40％）により総合的に評価する。平常点は、授業への取り組み、レポートを含む課題の提出およびその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

現代社会にあるさまざまな課題と講義の内容を関連付け考察する機会を設けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの使用に対応できる情報端末。

【Outline (in English)】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 I

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。

復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学 第二版』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ・『政治学事典』弘文堂
- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明する通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to term-end examination.

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・テキストとレジュメに基づいた講義形式
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。
復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確実にものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学 第二版』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明する通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to term-end examination.

CUA100LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100)

文化人類学

2017年度以降入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学の基本的な考え方や概念を理解し、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになることがこの授業の目標である。それを通じて、「異文化」や「他者」に対する際の姿勢を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。
また授業に臨むにあたり、比較的短い文章を読んでくるなどの予習課題を課す。受講者には積極的な発言を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族研究	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を歴史的に把握する。
第四回	贈与と交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与と交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	リーチとレヴィ＝ストロースの婚姻と社会構造に関する議論を例に、構造主義人類学について学習する。
第六回	言語と記号	ソシュールの構造主義言語学、記号論について学習する。
第七回	記号の戯れ	レヴィ＝ストロースの『野生の思考』及び、二項対立について学習する。
第八回	呪術と儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第九回	法と規範	法人類学における法の捉え方、諸研究を概観し、特に法多元主義をめぐる議論に焦点を当てる。

第十回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。
第十一回	人種と民族	人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。
第十二回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。
第十三回	ポストコロニアル人類学	80年代以降、人類学は、コロンIAL状況ないし、ポストコロニAL状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。
第十四回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%、毎回のリアクションペーパー42%、授業への参加度8%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。必要に応じて授業の冒頭に学生の回答を紹介し、応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらおうつもりである。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduces students to some of major social theories and anthropological discussion. Over this course, we will investigate the term of "other cultures" critically, and discuss how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced. Students should understand anthropological theories and terms and learn to discuss events at hand as well as social issues from an anthropological perspective.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA100LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

2017年度以降入学者

渡辺 浩平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には多様な生き方がある。この授業では、文化人類学の研究史を概観してから、各回のテーマに沿った講義を行う。世界各地の様々な事例に触れ、人類学の基本的な考えと概念を学び、自身が当たり前だと感じている社会や文化についての概念や思考を相対化する。

【到達目標】

文化人類学の基本的な視座を習得する。
世界各地の事例を知り、生き方の多様性を理解しようとすることで、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。
毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。毎回の授業のはじめに、リアクションペーパーのコメントや質問等に応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第2回	文化人類学とは	文化人類学の基礎と方法論
第3回	文化人類学史	人類学的な思考の歴史について
第4回	環境と生業	人と自然の関係について
第5回	経済と政治	コミュニケーションとしての贈与
第6回	国家	権威の生成について
第7回	ヒト	霊長類からみる人類の文化的なもの
第8回	マルチモーダル人類学	民族誌と映像
第9回	家族と親族	家族・親族・結婚の多様性について
第10回	日常と儀礼	日常における儀礼的行動
第11回	セクシュアリティとジェンダー	儀礼的行動から
第12回	境界論	芸術、冗談、人類学
第13回	医療	病いと癒やし
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。
人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習の情報源となるような参考書・文献・資料情報を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

各回で取り上げる具体的なテーマは、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There are many ways of life in the world. This course introduces case studies from around the world and anthropology's basic ideas and concepts. This course aims to help students relativize the concepts and thoughts about society and culture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of cultural anthropology. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA100LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100)

文化人類学

2017年度以降入学者

北原 卓也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学の基本概念、研究方法を学び、身の回りの「あたりまえ」や「異文化」に注目し考察するための多角的な視点を身につける。授業では、まず「文化」とは何かについて確認し、続いて文化人類学の基本的な考え方や研究方法について学ぶ。それを踏まえて、文化人類学がこれまで扱ってきたトピックについてみていく。

【到達目標】

本講義の到達目標は下記の通り。

- (1) 文化人類学の基本概念や研究方法を理解する。
- (2) 他者の文化との比較から自身の「あたりまえ」を認識し言語化する。
- (3) 自身の「あたりまえ」ととらわれない新たな視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づき対面で行います。配布するレジュメに沿って講義を行い、扱うトピックによって発言を求めることがあります。また、映像を視聴することで理解を深める場合もあります。毎回授業後にはコメントシートの提出していただきます。提出されたコメントシートは次回授業の冒頭でいくつか紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ：講義の目的と概要	授業の進め方や目的について確認した後、担当教員の研究フィールドの紹介や文化人類学という学問分野について説明する
2	文化の定義	漠然とした概念である「文化」とは何かについて理解する
3	文化相対主義	文化人類学の基本的な考え方である文化相対主義を通じて、文化を学ぶ姿勢について理解する
4	フィールドワークと民族誌	文化人類学の研究手法について理解する
5	民族とエスニシティ	国民、民族といった人々の集団について理解する
6	コミュニケーションと言語	文化と言語の関係性について理解する
7	中間のまとめ	これまでの講義の理解度を確認するため課題に取り組む
8	家族・親族	文化人類学の古典的なテーマである家族・親族の研究について理解する
9	結婚	様々な文化における結婚の形態や規則を理解する
10	ジェンダーとセクシュアリティ（1）	社会や文化の中で形成される性差について理解する

11	ジェンダーとセクシュアリティ（2）	異性愛と同性愛という分け方だけでは捉えられない多様なセクシュアリティについて理解する
12	生業	人間が生きていくために必要な食料採取や生産活動について理解する
13	宗教	世界の宗教の事例を概観し、人類との関わりについて理解する
14	まとめと確認（試験）	今期のまとめとして教場試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定する文献や配布するプリントまたは映像作品に目を通しておくこと。授業後は配布するレジュメを復習し、内容をきちんと理解しておくこと。1回の授業につき、準備・復習は各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

【参考書】

『自分のあたりまえを切り崩す文化人類学入門』、箕曲在弘、大和書房、2024年。
『詳論 文化人類学』、桑山敬己・綾部真雄（編）、ミネルヴァ書房、2018年。
『よくわかる文化人類学』、綾部恒雄・桑山敬己（編）、ミネルヴァ書房、2010年。
『文化人類学キーワード [改訂版]』、山下晋司・船曳建夫（編）、有斐閣、2008年。

【成績評価の方法と基準】

中間のまとめ：30%、期末試験（またはレポート）：30%、平常点（コメントシート）：40%
2/3以上の出席で評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

他の履修生のコメントシートが気になるという声があったので、復習を兼ねて毎回授業の冒頭に前回のコメントシートの内容を振り返る時間を設ける。

【Outline (in English)】

This course introduce the concept of Cultural Anthropology and its research method as tools to understand different cultures. The goal of this course are:

- (1) to understand the concept of Cultural Anthropology and research method
- (2) to compare cultures and explain differences between your culture and other culture.
- (3) to gain the new point of view

Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term exam (30%), term-end examination or report (40%), and in-class contribution through comment sheets you should submit after each class(30%).

CUA100LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100)	
文化人類学	2017年度以降入学者
ベル 裕紀	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水4/Wed.4	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学の基本的な考え方や概念を理解し、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになることがこの授業の目標である。それを通じて、「異文化」や「他者」に対する際の姿勢を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。
また授業に臨むにあたり、比較的短い文章を読んでくるなどの予習課題を課す。受講者には積極的な発言を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族研究	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を歴史的に把握する。
第四回	贈与と交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与と交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	リーチとレヴィ＝ストロースの婚姻と社会構造に関する議論を例に、構造主義人類学について学習する。
第六回	言語と記号	ソシュールの構造主義言語学、記号論について学習する。
第七回	記号の戯れ	レヴィ＝ストロースの『野生の思考』及び、二項対立について学習する。
第八回	呪術と儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第九回	法と規範	法人類学における法の捉え方、諸研究を概観し、特に法多元主義をめぐる議論に焦点を当てる。

第十回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。
第十一回	人種と民族	人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。
第十二回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。
第十三回	ポストコロニアル人類学	80年代以降、人類学は、コロンIAL状況ないし、ポストコロニAL状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。
第十四回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%、毎回のリアクションペーパー42%、授業への参加度8%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。必要に応じて授業の冒頭に学生の回答を紹介し、応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduces students to some of major social theories and anthropological discussion. Over this course, we will investigate the term of "other cultures" critically, and discuss how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced. Students should understand anthropological theories and terms and learn to discuss events at hand as well as social issues from an anthropological perspective.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA100LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100)

文化人類学

2017年度以降入学者

菊池 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学とは、さまざまな文化や社会に生きる人々について多様な側面から理解する学問である。その基本的な考え方や概念、理論について、トピック毎に、且つ具体的な事例を通して学ぶ。また、現代世界で経験する出来事や直面する問題について、人類学的視点で考える力を養う。更に、他者と出逢うなかで、わたし／たちとは何者で在るか／何者になり得るのかを知り、自身や自文化を見つめ直す姿勢を育む。

【到達目標】

- ・文化人類学の基本概念や研究方法を理解できる。
- ・文化人類学的な思考が育まれてきた歴史について学ぶ。
- ・良質な民族誌に触れることを通じて、異文化理解のための方法や表現について学ぶ。
- ・私たち自身の思考や在りようを相対化し、自文化や自分自身について深く理解し、他者との共生の可能性を探る。
- ・文化人類学的な思考や実践が、現代世界で私たちが生きる上でどのような可能性をもっているか、自分なりに考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・講義を基本とする。
- ・講義レジュメに沿って講義を行うが、発言を求める場合もある。
- ・必要に応じて映像資料なども用いながら、理解を深める。
- ・毎回の授業後には、リアクションペーパーの提出をしていただく。提出されたリアクションペーパーは、次回授業の冒頭で紹介しながら、フィードバックを行う。
- ・授業に臨む前に、事前に指示した課題文献を読むなど、予習課題を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要などの確認、担当教員の研究フィールドの紹介
第2回	文化人類学史	文化人類学的な思考の歴史
第3回	文化人類学の研究方法Ⅰ	フィールドワークとは
第4回	文化人類学の研究方法Ⅱ	民族誌（エスノグラフィ）とは
第5回	家族・親族	異文化における様々な家族・親族のあり方
第6回	エスニシティと国家	人々の集合意識と国家観
第7回	分類と境界性	異文化における様々な分類法
第8回	贈与・交換	社会関係の表現としての贈与・交換
第9回	儀礼	世界各地の儀礼
第10回	宗教	人々の信仰の理論と実践
第11回	妖術・シャーマニズム	人々の思考体系と実践
第12回	死と喪	死に関する多様な観念・死者儀礼と、生者-死者の関係

第13回	医療・文化・社会	病と癒やしについての多様な考え方・実践と、現代社会における医療のあり方
第14回	まとめ	現代に生きる私たちにとっての文化人類学の意義や可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習：事前に指示された課題文献を読み、理解したことや疑問点などをまとめる。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献を各自の関心に応じて読み進めながら、授業の理解を深める。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・特に指定しない。
- ・原則、事前に講義レジュメを配布する。
- ・必要に応じて関連する文献を紹介し、学習支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介するが、参考になるものを以下に挙げる。

- ・太田好信・浜本満（編）2005『メイキング文化人類学』世界思想社。
- ・菅原和孝（編）2006『フィールドワークへの挑戦＜実践＞人類学入門』世界思想社。
- ・波平恵美子（編）2021『文化人類学 カレッジ版 第4版』医学書院。
- ・ヘンドリー、ジョイ2002『社会人類学入門：異民族の世界』桑山敬已訳、法政大学出版。
- ・松村圭一郎2020『はみだしの人類学：ともに生きる方法』NHK出版。
- ・松村圭一郎、中川理、石井美保（編）2019『文化人類学の思考法』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（40％）：リアクションペーパー、出席状況等。
- ・学期末レポート（60％）：未提出の場合、原則E評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

国内外の様々な事例を取り上げるが、対象となる地域の専門的な知識がなくても理解できるように解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義レジュメ・関連資料の配布、課題等の提出は、学習支援システムを通じて行う予定。

【その他の重要事項】

- ・学期末レポートが未提出の場合、原則E判定とする。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand basic concepts, ideas and theories of Cultural Anthropology. The goals of this course are to learn the history of philosophical thought in anthropology, and the methodology of understanding others. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final report: 60%(in case of no submission would be E grade), in class contribution:40%.

CUA100LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100)

文化人類学

2017年度以降入学者

菊池 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学とは、さまざまな文化や社会に生きる人々について多様な側面から理解する学問である。その基本的な考え方や概念、理論について、トピック毎に、且つ具体的な事例を通して学ぶ。また、現代世界で経験する出来事や直面する問題について、人類学的視点で考える力を養う。更に、他者と出逢うなかで、わたし／たちとは何者で在るか／何者になり得るのかを知り、自身や自文化を見つめ直す姿勢を育む。

【到達目標】

- ・文化人類学の基本概念や研究方法を理解できる。
- ・文化人類学的な思考が育まれてきた歴史について学ぶ。
- ・良質な民族誌に触れることを通じて、異文化理解のための方法や表現について学ぶ。
- ・私たち自身の思考や在りようを相対化し、自文化や自分自身について深く理解し、他者との共生の可能性を探る。
- ・文化人類学的な思考や実践が、現代世界で私たちが生きる上でどのような可能性をもっているか、自分なりに考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・講義を基本とする。
- ・講義レジュメに沿って講義を行うが、発言を求める場合もある。
- ・必要に応じて映像資料なども用いながら、理解を深める。
- ・毎回の授業後には、リアクションペーパーの提出をしていただく。提出されたリアクションペーパーは、次回授業の冒頭で紹介しながら、フィードバックを行う。
- ・授業に臨む前に、事前に指示した課題文献を読むなど、予習課題を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要などの確認、担当教員の研究フィールドの紹介
第2回	文化人類学史	文化人類学的な思考の歴史
第3回	文化人類学の研究方法Ⅰ	フィールドワークとは
第4回	文化人類学の研究方法Ⅱ	民族誌（エスノグラフィ）とは
第5回	家族・親族	異文化における様々な家族・親族のあり方
第6回	エスニシティと国家	人々の集合意識と国家観
第7回	分類と境界性	異文化における様々な分類法
第8回	贈与・交換	社会関係の表現としての贈与・交換
第9回	儀礼	世界各地の儀礼
第10回	宗教	人々の信仰の理論と実践
第11回	妖術・シャーマニズム	人々の思考体系と実践
第12回	死と喪	死に関する多様な観念・死者儀礼と、生者-死者の関係

第13回	医療・文化・社会	病と癒やしについての多様な考え方・実践と、現代社会における医療のあり方
第14回	まとめ	現代に生きる私たちにとっての文化人類学の意義や可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習：事前に指示された課題文献を読み、理解したことや疑問点などをまとめる。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献を各自の関心に応じて読み進めながら、授業の理解を深める。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・特に指定しない。
- ・原則、事前に講義レジュメを配布する。
- ・必要に応じて関連する文献を紹介し、学習支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介するが、参考になるものを以下に挙げる。

- ・太田好信・浜本満（編）2005『メイキング文化人類学』世界思想社。
- ・菅原和孝（編）2006『フィールドワークへの挑戦＜実践＞人類学入門』世界思想社。
- ・波平恵美子（編）2021『文化人類学 カレッジ版 第4版』医学書院。
- ・ヘンドリー、ジョイ2002『社会人類学入門：異民族の世界』桑山敬巳訳、法政大学出版。
- ・松村圭一郎2020『はみだしの人類学：ともに生きる方法』NHK出版。
- ・松村圭一郎、中川理、石井美保（編）2019『文化人類学の思考法』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（40％）：リアクションペーパー、出席状況等。
- ・学期末レポート（60％）：未提出の場合、原則E評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

国内外の様々な事例を取り上げるが、対象となる地域の専門的な知識がなくても理解できるように解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義レジュメ・関連資料の配布、課題等の提出は、学習支援システムを通じて行う予定。

【その他の重要事項】

- ・学期末レポートが未提出の場合、原則E判定とする。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand basic concepts, ideas and theories of Cultural Anthropology. The goals of this course are to learn the history of philosophical thought in anthropology, and the methodology of understanding others. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final report: 60%(in case of no submission would be E grade), in class contribution:40%.

CUA100LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100)

文化人類学

2017年度以降入学者

相田 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、異なる背景を持つ他者の考え方や思いについて、もっと理解したいと思ったことはありませんか？ 実は、この講義のタイトルとなっている文化人類学とは、異文化の人、異なる生活をしている人について理解するための学問です。

文化人類学は、世界の様々な地域に実際に行き、現地の人となるべく同じことをして、その人たちから話を聞くことで、異文化についての理解を深めます。この授業では、この文化人類学という学問の中で、もっとも大事なことは何かということをグループワークを通じて理解していきます。その上で、各自、実際に文化人類学の調査を体験し、その基礎を身につけてもらうことを目指します。

【到達目標】

- 1) 文化人類学とは、他者を理解するための方法なのだということを実感を持って理解すること。
- 2) 文化人類学のフィールドワーク（インタビューや参与観察）の基礎を学び、簡単なものであれば自分ひとりで実施できるようになること。
- 3) グループワークなどを通じて、他者とともに学ぶ経験を積み、その能力を向上させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1) 授業では、まず冒頭に前回授業の内容確認のために小テストを行います。
 - 2) その後、教員からその日のトピックとなっている文化人類学の概念や理論について解説を行います。
 - 3) 提示されたトピックについて理解を深めるため、ディスカッションや、クイズ、ワークショップなどを2～3程度のアクティビティを行います。
 - 4) 最後にまとめを行います。
- ※履修者のコメントや質問等については授業内で適宜取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／文化人類学とは何か	この授業の概要を説明するとともに、文化人類学の基本をグループワークを通じて学びます。
2	「意味」はなぜ大事なのだろうか？	文化人類学において「意味」が重要であるということ、事例研究を通じて学びます。
3	「物語」を聞くことはどうして必要なのだろうか？	ライフヒストリー分析やバルソナ分析の方法について、「物語」をキーワードに学びます。
4	とある人類学者の経験を「解説」してみよう	具体的な文化人類学のエスノグラフィを読み、その解説を試みます。

5	「比較」という方法を知る	前回授業の内容について、文化人類学における「比較」をキーワードにまとめ、理解を深めます。
6	調査計画はどのように立てればいいだろうか？	文化人類学における調査において最も大事にしなければいけないポイントを学び、調査計画の立案を試みます。
7	そもそもレポートや論文とは何だろうか？	中間レポートの執筆に向けて、そもそもレポートや論文とはどのような特徴を持った文書なのか、文化人類学の観点から考えます。
8	レポート作例の検討を行う	文化人類学のレポートの作例を検討する中で、自身の中間レポートの意義を考えます。
9	レポート作例の批評を行う	文化人類学のレポートの作例を批評する中で、自身の中間レポートの改善点を探します。
10	なぜレポートの書式は重要なのだろうか？	文化人類学という学問の成り立ちや、学会の役割などをレポートの書式を通じて学びます。
11	他者のレポートを読む	他の人の提出した中間レポートを読み、ピアレビューの準備をします。
12	レポート発表会を実施しよう	中間レポートのピアレビューをレポート発表会という形でを行います。
13	テーマを人類学的に掘り下げるにはどうしたらよいだろうか？	これまでに受けたフィードバックをもとに各自のテーマを文化人類学的に深めるための方法を再び「比較」をテーマに学びます。
14	まとめ／他者を理解する方法	それまでの授業の内容を「他者理解」をキーワードにまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
- 2) コメントペーパーを授業後に毎回提出する必要があります。また、毎回の授業冒頭で、前回の授業内容についての小テストを行うので、復習が求められます。
- 3) 授業外に、自ら調査協力者を探してインタビューを実施する必要があるため、相応の負担があることを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー 25%（各回の授業後に200字以上のコメントをLMSを通じて提出）
 小テスト 25%（各回の授業冒頭で前回授業の内容について小テストを実施）
 中間レポート 20%（文化人類学的なインタビューを行い、その内容に考察を付してまとめる。1500字以上。）
 期末レポート 30%（中間レポートに他の人の研究やグループディスカッションの内容を足してまとめる。3000字以上。）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 授業中にWordを使うことがあるので、PC・タブレット等を用意し、Wordのアプリをダウンロードしておいてください。
- 2) 本授業の受講に際して、文化人類学についての事前知識は必要ありませんが、レポート作成に必要な基本技能はあらかじめ身につけている必要があります。

【その他の重要事項】

- 1) 本授業は、グループワークや自主研究を中心にしたアクティブラーニング型の講義となるので、この点を理解した上で履修すること。

2) 授業外に、自ら調査協力者を探してインタビューを実施する必要があるため、相応の負担があることを理解しておくこと。

3) 履修生が多い場合、課題についての個別のフィードバックは行えない場合があります。また、授業成果物については、教育に活かすため、今回／今後の授業で他の履修生と共有される場合があります。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Have you ever wanted to better understand the thoughts and perspectives of people from different backgrounds? Anthropology is the study of different cultures and ways of life, aiming to deepen our understanding of others.

Anthropologists conduct fieldwork by immersing themselves in different cultures, engaging in local practices, and listening to people's stories. This course introduces key concepts in anthropology through group work, helping students grasp its core principles. Additionally, students will gain hands-on experience by conducting their own small-scale anthropological research.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will:

- Develop an understanding of anthropology as a method for understanding others.
- Learn the basics of anthropological fieldwork, such as interviews and participant observation, and be able to conduct simple research independently.
- Improve collaboration and learning skills through group work.

【Course Format】

Each class follows this structure:

- Each session begins with a short quiz reviewing the previous class.
- The instructor explains key anthropological concepts and theories related to the day's topic.
- Students engage in 2 – 3 interactive activities such as discussions, quizzes, or workshops.
- The session concludes with a summary.

【Learning Activities Outside of Classroom】

- Students should allocate approximately two hours for preparation and review per session.
- A comment paper is required after each class. Additionally, quizzes at the beginning of each session will test knowledge of previous lessons.
- Group presentations involve researching and presenting basic information about assigned countries, requiring a significant time commitment.

【Grading Criteria】

- Comment Papers: 25%(200+ words submitted via LMS after each class)
- Quizzes: 25%(weekly short tests on past lessons)
- Midterm Report: 20%(report based on interviews, minimum two A4 pages)
- Final Report: 30%(revised and expanded version of the midterm report, minimum three A4 pages)

CUA100LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

2017年度以降入学者

渡辺 浩平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には多様な生き方がある。この授業では、文化人類学の研究史を概観してから、各回のテーマに沿った講義を行う。世界各地の様々な事例に触れ、人類学の基本的な考えと概念を学び、自身が当たり前だと感じている社会や文化についての概念や思考を相対化する。

【到達目標】

文化人類学の基本的な視座を習得する。
世界各地の事例を知り、生き方の多様性を理解しようとすることで、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。
毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。毎回の授業のはじめに、リアクションペーパーのコメントや質問等に応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第2回	文化人類学とは	文化人類学の基礎と方法論
第3回	文化人類学史	人類学的な思考の歴史について
第4回	環境と生業	人と自然の関係について
第5回	経済と政治	コミュニケーションとしての贈与
第6回	国家	権威の生成について
第7回	ヒト	霊長類からみる人類の文化的なもの
第8回	マルチモーダル人類学	民族誌と映像
第9回	家族と親族	家族・親族・結婚の多様性について
第10回	日常と儀礼	日常における儀礼的行動
第11回	セクシュアリティとジェンダー	儀礼的行動から
第12回	境界論	芸術、冗談、人類学
第13回	医療	病いと癒やし
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。
人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習の情報源となるような参考書・文献・資料情報を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

各回で取り上げる具体的なテーマは、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There are many ways of life in the world. This course introduces case studies from around the world and anthropology's basic ideas and concepts. This course aims to help students relativize the concepts and thoughts about society and culture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of cultural anthropology. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA100LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

2017年度以降入学者

石森 大知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化や国際化の加速度的な進展とともに、地球上のすべての社会を取り巻く文化的環境は大きく変化している。それに伴い、文化人類学では、新しい知の体系を再構築するべく現代的課題を積極的に扱うようになった。本授業では、異文化理解のための基本的な視座を養うとともに、国際協力、地球温暖化、科学技術、芸術と物質文化、観光開発などの現代的諸テーマを把握し、また自らもかかるグローバルな問題として理解することを目指す。

【到達目標】

- ・異文化の比較考察を行うためのものの見方や基本概念を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる他者理解の洞察力を身に付ける。
- ・文化的多様性を理解するとともに、グローバル化の渦中の諸問題について広い視野から考察を行い、自分なりの意見や見解をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は「フルオンデマンド型／資料・教材コンテンツ配布型授業（全14回）」です。履修生のみなさんには主に学習支援システムを通して配信される授業レジュメや動画等の資料を用いた学習を行います。
- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、基本的に毎回、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	フィールドワークの論理	質的調査の方法論とその考え方
第3回	親族の組織化	キンドレッド・出自・母系社会
第4回	宗教と精神世界	日本人は「無宗教」なのか
第5回	境界性とタブー	「汚さ」の正体
第6回	人生と儀礼	儀礼の構造と論理
第7回	贈物と交換	贈物を社会関係から考える
第8回	芸術とモノ	「美しさ」の正体
第9回	科学技術と人類学	ネットワークとしての科学
第10回	開発現象と人類学	社会開発への転換
第11回	地球温暖化と海面上昇	ツバルの事例から
第12回	観光と文化創造	「楽園」ハワイの事例から

第13回 オリエンタリズム批判 他者表象の政治性と人類学批判

第14回 総括 授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学修・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。
岸上伸啓編著『はじめて学ぶ文化人類学—人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房、2018年。
梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン—フィールドからの出発』学陽書房、2017年。
波平恵美子編『文化人類学—カレッジ版（第3版）』医学書院、2011年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムや動画閲覧サービス等を利用します。

【その他の重要事項】

- ・本授業は、大人数授業抽選科目（＝指定された期間にILAC事務局にて抽選を行い、受講者が決定される科目）となります。
- ・本授業では授業コメント（リアクションペーパー）や学期末レポートの提出を課しますが、生成AIツールは使用しないでください。
- ・学期末レポートにおいては、出典の明示を徹底してください（詳細についてはレポート作成要領において説明しますが、出典が明示されていない場合は評価対象外となることがあります）。
- ・本学では成績評価におけるSの割合を受講者の20%以内を目安とすることを定めており（ただし少人数授業等を除く）、本授業でもこれに従って評価を行います。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システム等で周知します。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces the fundamentals of cultural anthropology, which seeks to understand the cultural and social diversity of the world. The course aims to provide students with the basic concepts and perspectives needed to make cross-cultural comparisons.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students should be able to understand global issues such as international development, environmental issues, tourism and ethnic conflict from an anthropological perspective.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

SOS100LA（その他の社会科学 / Social science 100）

社会思想 I

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたっても留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について 若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について

5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと16世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20％
複数回の小レポート：30％
期末レポート：50％

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

SOS100LA (その他の社会科学 / Social science 100)

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を収拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について 若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念

5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について
6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	バークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20％
複数回の小レポート：30％
期末レポート：50％

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

SOS100LA（その他の社会科学 / Social science 100）

社会思想 I

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたっても留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について 若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について

5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと16世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20％
複数回の小レポート：30％
期末レポート：50％

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

SOS100LA (その他の社会科学 / Social science 100)

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を収拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について 若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念

5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について
6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	バークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20％
複数回の小レポート：30％
期末レポート：50％

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

SOS100LA（その他の社会科学 / Social science 100）

社会思想 I

2017年度以降入学者

林 嵩文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治に関わるコミュニケーションで使用される思考枠組みや概念について、政治哲学および政治思想史と呼ばれる分野が蓄積してきた知見やパースペクティブを獲得することを目指します。その中でもとりわけ、民主主義の歴史と理論に焦点を当てます。中心となるのは、(1) 古代ギリシア世界における民主主義の実践と理論 (2) 18世紀フランスにおける人民主権の思想とその制度化 (3) 戦間期ドイツ（ヴァイマル共和国）における民主主義論という3つのトピックです。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りです。

- (1) 民主主義の歴史や理論に関する議論を理解し、それぞれの立場の意義や問題点を説明できるようになる。
- (2) 授業で得た知識を用いて民主主義にまつわる様々な問題を分析し、それらに対する自分の立場を説明・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。ただし、毎回コメントカードを提出していただき、その次の授業でそのコメントについてのレスポンスを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義全体の概要および成績評価についての説明
第2回	古代ギリシア世界の成立	神話の時代から都市国家（ポリス）の成立
第3回	アテナイの民主主義の歴史①	ソロンの改革からペロポネソス戦争まで
第4回	アテナイの民主主義の歴史②	民主主義の動揺からアレクサンドロス大王の時代まで
第5回	古代ギリシア思想と民主主義①	歴史家の民主主義論・「ピュシス」と「ノモス」の概念
第6回	古代ギリシア思想と民主主義②	プラトンの民主主義批判
第7回	歴史上の民主主義像	ヨーロッパ思想史における民主主義のイメージ
第8回	民主主義とルソー①	ルソーの人民主権論
第9回	民主主義とルソー②	ルソーの代表制批判
第10回	フランス革命と民主主義①	フランス人権宣言とシエス
第11回	フランス革命と民主主義②	「共和政」の誕生と代表制の諸構想
第12回	議会制民主主義の概念と評価①	シュミットの議会制論
第13回	議会制民主主義の概念と評価②	ケルゼンの民主主義論
第14回	まとめと課題説明	講義全体のまとめとレポート課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。予習・復習については、(1) 毎回の授業前に配布する教材（レジュメとスライド）に目を通してどのような問題が講義で扱われるのかを予習し、(2) 毎回の講義後にその内容についてコメントカードを執筆・提出すること。

【テキスト（教科書）】

ありません。教材として毎回レジュメとスライドを配布します。

【参考書】

講義内で随時紹介しますが、ここでは以下の3冊を推奨します。橋場弦『古代ギリシアの民主政』、岩波書店（岩波新書）、2022年。ルソー『社会契約論』桑原武夫・前川貞次郎訳、岩波書店（岩波文庫）、1954年。ハンス・ケルゼン『民主主義の本質と価値』長尾龍一・植田俊太郎訳、岩波書店（岩波文庫）、2015年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（受講態度とコメントカード、30%）と期末課題（レポート、70%）で成績を評価します。なお、講義内での不要な私語がなされる場合、期末課題の提出を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用するための情報機器（パソコン、スマートフォン、タブレット）を準備してください。

【その他の重要事項】

授業に関連する質問は、授業後もしくは初回授業で案内するメールアドレスで受け付けます。

【Outline (in English)】

The course aims to present theoretical concepts and frameworks for politics by explaining the history and theories of political philosophy. Students will learn to understand central issues of politics, especially history and theory of democracy. Central issues are (1) democracy in ancient Greece, (2) concepts and institutions of popular sovereignty in 18th century's France, and (3) theories of democracy in Weimar republic.

SOS100LA (その他の社会科学 / Social science 100)

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

林 嵩文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治に関わるコミュニケーションで使用される思考枠組みや概念について、政治哲学および政治思想史と呼ばれる分野が蓄積してきた知見やパースペクティブを獲得することを目指します。その中でもとりわけ、自由の概念に焦点を当てます。授業全体を貫くテーマは、自由と国家権力の関係をどのように考えるか、個人の自由とはやりたいことをやる自由なのか、自由を実現するには国家権力は本当に障害なのか、といった問題です。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りです。

- (1) 自由に関する近代や現代の政治理論を理解し、それぞれの立場の意義や問題点を説明できるようになる。
- (2) 授業で得た知識を用いて、社会や政治の次元で自由を実現することに関わる様々な問題を分析し、それらに対する自分の立場を説明・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。ただし、毎回コメントカードを提出していただき、その次の授業でそのコメントについてのレスポンスを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義全体の概要および成績評価についての説明
第2回	自由と権力①	ロックの自然権論
第3回	自由と権力②	近代の権力分立論と自由
第4回	自由と社会①	ルソーの社会的不平等批判と自由
第5回	自由と社会②	ルソーにおける道徳的自由
第6回	自律としての自由	カントの自由概念
第7回	言論の自由と啓蒙	カントの啓蒙概念
第8回	自由と法	ヘーゲルの自由概念
第9回	功利主義と自由①	ミルの自由論
第10回	功利主義と自由②	ミルの自由論・女性論
第11回	福祉国家と自由	ニュー・リベラリズムの自由概念
第12回	自由と正義	ロールズの正義論と自由
第13回	個人の自由と国家	リバタリアニズムの自由論
第14回	まとめと課題説明	講義全体のまとめとレポート課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。予習・復習については、(1) 毎回の授業前に配布する教材（レジュメとスライド）に目を通しどのような問題が講義で扱われるのかを予習し、(2) 毎回の講義後にその内容についてコメントカードを執筆・提出すること。

【テキスト（教科書）】

ありません。教材として毎回レジュメとスライドを配布します。

【参考書】

講義内で随時紹介しますが、ここでは以下の3冊を推奨します。
笹澤豊『〈権利〉の選択』筑摩書房（ちくま学芸文庫）、2021年。
イマヌエル・カント『道徳形而上学の基礎づけ』御子柴善之訳、人文書院、2022年。

マイケル・フリーデン『リベラリズムとは何か』山岡龍一監訳、筑摩書房（ちくま学芸文庫）、2021年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（受講態度とコメントカード、30%）と期末課題（レポート、70%）で成績を評価します。なお、講義内での不要な私語がなされる場合、期末課題の提出を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用するための情報機器（パソコン、スマートフォン、タブレット）を準備してください。

【その他の重要事項】

授業に関連する質問は、授業後もしくは初回授業で案内するメールアドレスで受け付けます。

【Outline (in English)】

The course aims to present theoretical concepts and frameworks for politics by explaining the history and theories of political philosophy. Students will learn to understand central issues of politics, especially concepts of freedom. Central issues are (1) the relations of freedom and state, (2) the nature of individual freedom, and (3) (un)necessity of state in order to realize freedom.

SOS100LA（その他の社会科学 / Social science 100）

社会思想Ⅰ

2017年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治・政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、現代の社会的課題の解決策を提示するのが、規範的な政治理論の目標です。春学期は、現代の規範的な政治理論において提示されてきた、代表的な理論を検討します。それを通じて、現代の社会的課題への解決策を考えたり、様々な政策や制度を批判的に評価したりできるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本授業における具体的な到達目標は、以下の3つになります。（1）功利主義、リベタリアニズム、リベラルな平等主義、といった理論を理解した上で批判的に検討できるようになる。（2）様々な政策や制度を批判的に評価したり新たに構想したりできるようになる。（3）現代の社会的課題について自らの意見や解決策を提示できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・現代の社会的課題を簡略化した事例に対するみなさんの意見を聞き、それを起点に様々な理論を検討していきます。
- ・積極的な発言を歓迎しますが、意見の提示は任意であり、強制的に当てることはないので、安心してください。
- ・毎回の授業後に、その回に扱った理論に対するみなさん自身の意見を書くコメントペーパーを提出してもらいます。
- ・毎回の授業の最初に、コメントペーパーへの応答（20分程度）を行います。
- ・第9回の授業は、グループディスカッションを行い、規範的政治理論を用いつつ現代の社会的課題をみなさんに検討してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要の説明
第2回	功利主義（1）	人々の幸福を最大化する社会の構想
第3回	功利主義（2）	功利主義の課題
第4回	リベタリアニズム（1）	自由権を絶対的に尊重する社会の構想
第5回	リベタリアニズム（2）	リベタリアニズムの課題
第6回	リベラルな平等主義（1）	自由を平等に尊重する社会の構想
第7回	リベラルな平等主義（2）	人々が公正に協働する社会の構想
第8回	リベラルな平等主義（3）	リベラルな平等主義の課題
第9回	グループディスカッション	理論を用いた社会的課題の検討
第10回	運の平等主義（1）	選択責任と平等を両立する社会の構想
第11回	運の平等主義（2）	運の平等主義の課題
第12回	関係論的平等主義（1）	人々が平等に関わり合う社会の構想
第13回	関係論的平等主義（2）	関係論的平等主義の課題
第14回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。
- ・加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。

※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各2時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することなく、学習支援システムに毎回の講義資料（パワーポイントとPDF）をアップロードします。

【参考書】

※参考書として、規範的な政治理論の教科書を4冊挙げておきます。どれか1冊が手元にあると、予習・復習をしやすいと思います。
※授業内容との関連という点では、（1）→（4）の順番で関わりが深いです。しかし逆に、簡単に読めるという観点では、（4）→（1）という順番で読みやすいと思います。
（1）W.キムリッカ、千葉真・岡崎晴暉（訳）『現代政治理論』日本経済評論社、2005年
（2）宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年
（3）川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論』有斐閣、2012年
（4）田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、2017年
※その他、各回の授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末レポートが70%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第14回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパー、普段の聴講態度、グループディスカッションへの参加を考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

（1）昨年度は、試験的に、社会的課題（事例）に対する受講者の意見を聞き、それを起点に理論を説明する進め方を中心に授業を進めました。このスタイルが好評だったため、今年も同じように授業を進めます。
（2）他方で、受講者の意見を聞く時間が長くなり、理論の説明が短く理解が難しくなってしまった授業回もあったので、バランスに注意しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。また、毎回の課題提示と提出は学習支援システムを介して行います。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱでは、春学期の社会思想Ⅰ（本授業）の内容を踏まえて、現代の様々な社会的課題についてより具体的に考察します。社会思想Ⅰのみの履修でも意義があるような講義を行います。春学期・秋学期を合わせた履修を推奨します。また、社会思想Ⅰで学ぶことのイメージがつかみにくい場合は、実践編である社会思想Ⅱのシラバスを参照してください。

【Outline (in English)】

《Course outline》

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to deal with social issues nowadays by examining values or ideals related to policies, institutions, and social practices. The representatives of these values are Liberty, equality, and fairness. In the Spring semester, we examine essential theories in modern political philosophy, such as utilitarianism, libertarianism, and liberal egalitarianism. After examining them, students can explore how we should deal with social issues nowadays and critically evaluate our society's policies, institutions, and practices.

《Learning objectives》

The goals of this course are the followings:

- 1. To examine theories in modern political philosophy.
- 2. To evaluate our society's policies, institutions, and practices critically.
- 3. To explore how we should deal with social issues nowadays.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. You are recommended to study more than four hours per class according to the standard set by the Japanese government.

《Grading Criteria/Policies》

Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:

- 1. Required assignments after each class: 30%
- 2. Term-end report: 70%

SOS100LA (その他の社会科学 / Social science 100)

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治・政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのかが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、現代の社会的課題の解決策を提示するのが、規範的な政治理論の目標です。秋学期は、貧困や差別といった現代の様々な社会的課題を取り上げ、価値ないし理念の観点から考察を行います。それを通じて、現代の社会的課題に関する規範的な論争点を理解するとともに、様々な社会的課題に対する解決策を自ら考えられるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本講義では、貧困、格差、差別といった、現代社会における様々な課題・問題を取り上げ、価値や理念に着目する規範的な観点から、考察を行います。具体的には、以下の3つを到達目標とします。(1) 様々な社会的課題について、どのような規範的な論争点が存在するのかを理解すること。(2) それらの論争点についてどのような立場が提示されてきて、どのような批判的検討がなされてきたかを理解すること。(3) 現代の社会的課題に対して、自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式を中心としつつ、グループディスカッションを3回行います。
- ・講義形式の授業でも、双方向的な授業になるような工夫を行います。
- ・現代の社会的課題を簡略化した事例に対するみなさんの意見を聞き、それを起点に様々な議論を検討していきます。
- ・積極的な発言を歓迎しますが、意見の提示は任意であり、強制的に当てることはないので、安心してください。
- ・毎回の授業後に、その回に扱った社会的課題に対するみなさん自身の意見を書くコメントペーパーを提出してもらいます。
- ・毎回の授業の最初に、コメントペーパーへの応答（20分程度）を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要
第2回	貧困	貧困とは何か？
第3回	格差	仕事と経済的報酬の比例性
第4回	自己責任論	貧困や格差は自己責任か？
第5回	能力主義	能力主義は格差を正当化できるか？
第6回	ディスカッション(1)	貧困と格差に対処する政策を考える
第7回	健康	健康の価値と社会的決定要因
第8回	医療	医療資源の公正な分配
第9回	ディスカッション(2)	医療に関する政策を考える
第10回	差別(1)	差別の形式的特徴
第11回	差別(2)	さまざまな形態の差別
第12回	差別(3)	差別の規範的特徴
第13回	ディスカッション(3)	差別に対処する政策を考える
第14回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。※大学設置基準に鑑みした場合、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することはなく、学習支援システムに毎回の講義資料（パワーポイントとPDF）をアップロードします。

【参考書】

※(1)の本と(2)の第2部は、現代の社会的課題を取り上げ、規範的政治理論の観点から検討を行う教科書です。(3)は、具体的なトピックの一例として、新型コロナウイルスを題材にした医療資源の分配などを扱う本です。

- (1) J. ウルフ、大澤津・原田健二朗訳『正しい政策』がないならどうすべきか：政策のための哲学』勁草書房、2016年
 - (2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年
 - (3) 広瀬巖『パンデミックの倫理学：緊急時対応の倫理原則と新型コロナウイルス感染症』勁草書房、2021年
- ※その他、各授業で取り上げるテーマ・トピックに関して、授業中に参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末レポートが70%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第14回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 昨年度は、試験的に、社会的課題（事例）に対する受講者の意見を聞き、それを起点に説明を行う進め方を中心に授業を進めました。このスタイルが好評だったため、今年も同じように授業を進めます。
- (2) 他方で、受講者の意見を聞く時間が長くなり、理論の説明が短く理解が難しくなってしまう授業回もあったので、バランスに注意しながら進めます。
- (3) グループディスカッションの進め方についても、前年度までにいただいた意見を反映します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱ（本授業）は、春学期の社会思想Ⅰの応用編としての性質を持ちます。社会思想Ⅰを履修していなくても理解できるように講義を行います。が、合わせて履修していただくことで理解が深まります。そのため、本授業に興味を持っていたいただいた場合、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline (in English)】

《Course outline》

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to deal with social issues nowadays by examining values or ideals related to policies, institutions, and social practices. The representatives of these values are Liberty, equality, and fairness. In the Fall semester, we discuss actual social issues such as poverty, inequality, and discrimination, focusing on normative issues. After completing the course, students can present their views on social issues.

《Learning objectives》

The goals of this course are the followings:

- 1. To understand the normative point of various social issues.
- 2. To understand and evaluate various normative views on social issues.
- 3. To construct your own view on various social issues.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. You are recommended to study more than four hours for a class according to the standard set by the Japanese government.

《Grading Criteria/Policies》

Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:

- 1. In-class contribution and required assignments after each class: 30%
- 2. Term-end report: 70%

SOS100LA (その他の社会科学 / Social science 100)

社会思想 I

2017年度以降入学者

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では1945年生まれの実証史研究者である市村弘正の思想を学びます。ここでは市村のエッセイを読解することを通して、論じられた主題群とともにその論じられ方について学ぶことが試みられます。その主題には例えば名づけの精神史、江戸という都市の経験、現代日本論、ベンヤミンとヨーロッパ1920年代論、映像作家や音楽家の経験、亡命や難民ということ、フランツ・カフカ、ハンナ・アーレント、カール・シュミット、パウル・ツェラン研究などを含みます。この授業ではこれらのエッセイの読解を通して、各主題の歴史的、思想的背景とともに、そこから読みとりうる20世紀という歴史的経験の意味を学びます。

【到達目標】

テキスト読解や講義を通して19世紀末から20世紀の思想的主題を理解することができる
 テキスト読解や講義を通して現代史に生きる人間の歴史的経験の意味を考察することができる
 テキスト読解や講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。各回ともリアクションメールを提出してもらい、授業のなかで紹介しながら理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、授業の進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについての説明
2	導入	読むことと経験すること I
3	物への弔辞	物と人間の交渉
4	都市の周縁	江戸から東京へ
5	都市の崩壊	東海道四谷怪談
6	断片の運動	ヨーロッパ1920年代
7	精神の現在形	統合失調という経験
8	失敗の意味	映画「水俣の甘夏」について
9	そぎ落とす精神	映画「抵抗」について
10	思想史家	貧民とガストアルバイター
11	死の影のゆくえ	ノーマ・フィールドの仕事
12	名づけの精神史	名づけという経験
13	20世紀の思考	逆向きに読まれる時代
14	結論	読むことと経験すること II

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ともテキストの指定されたページを事前に読んでおくことで理解が進みます。

【テキスト（教科書）】

ガイダンス時に説明します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各授業後に提出するリアクションペーパー10回で平常点50パーセント、
 加えて1回の期末レポートで残り50パーセント、合計100パーセントとする。
 リアクションペーパーと期末レポート、両者を提出する必要があります。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のコメントを授業中に紹介することで刺激をうけ、授業の理解が進むようです。
 また、映像資料の視聴は授業の理解を深めるのに有用なので、映画や動画を使用する場合もあります。

【Outline (in English)】

This course introduces the ideas and style of essay of Hiromasa Ichimura who is a researcher of the history of ideas to students taking this course. His ideas include various themes. For example there are an intellectual history of a naming, the experience of the Edo city, Walter Benjamin and the 1920's mind, the experience of exiles and refugees, Franz Kafka, Hannah Arendt, Carl Schmitt and Paul Celan. The aim of this course is to help students acquire an understanding of an intellectual background of these themes and meanings of the historical experience of 20's century.

SOS100LA (その他の社会科学 / Social science 100)

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では春学期に続いて1945年生まれの実証史研究者である市村弘正の思想を学びます。ここでは市村のエッセイを読解することを通して、そこで論じられた主題群を学びます。その主題には例えば音楽家バルトックの難民経験、日本の戦後という経験、マイノリティとしての在日朝鮮人と小説家カフカとの関係、家族論、友情論、古典文学における夢の意味などを含みます。この授業ではこれらのエッセイの読解を通して、各主題の歴史的、思想的背景とともに、そこから読みとられる20世紀という時代の歴史的経験の意味を学びます。

【到達目標】

テキスト読解や講義を通して歴史的、思想的テーマを理解することができる
 テキスト読解や講義を通して人間の歴史的経験の意味を考えることができる
 テキスト読解や講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。各回ともリアクションメールを提出してもらい、授業のなかで紹介しながら理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、授業の進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについての説明
2	導入	読むことと経験することⅠ
3	文化崩壊の経験	晩年のバルトックについて
4	マイノリティ	小さなもののかたち
5	戦後経験	経験の古典化
6	残像文化	衰えゆく感覚
7	在日について	在日三世のカフカ
8	落下する世界	墮落と落下
9	友情について	友情の点呼に答える声
10	家族について	家族という場所
11	貧民について	貧民の都市
12	夢見ること	夢の弁証法
13	叙事詩	叙事詩的精神
14	結論	読むことと経験することⅡ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ともテキストの指定された箇所を事前に読んでおくとう理解が進みます。

【テキスト（教科書）】

授業中に配布します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに毎回提出するレビューシートの平常点を50パーセントとし、学期末に提出してもらう一回の期末レポートを50パーセントとし、合計100パーセントとして成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のコメントを紹介することで他の受講者の理解が進むようです。
 また、映像資料の視聴は授業の理解に有用なので、映画や動画を利用することもあります。

【Outline (in English)】

This course introduces the ideas and style of essay of Hiromasa Ichimura who is a researcher of the history of ideas to students taking this course. His ideas include various themes. For example there are an intellectual history of a naming, the experience of the Edo city, Walter Benjamin and the 1920's mind, the experience of exiles and refugees, Franz Kafka, Hannah Arendt, Carl Schmitt and Paul Celan. The aim of this course is to help students acquire an understanding of an intellectual background of these themes and meanings of the historical experience of 20's century.

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ

中平 千彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、春学期開講『経済学 LA』（担当:中平）です。この講義で学んだ内容は、秋学期開講『経済学 LB』（担当:中平）に接続されます。

春学期開講『経済学 LA』では、大学基礎レベルの「ミクロ（マイクロ）経済学」と「マクロ経済学」を担当教員がコンパクトに解説し、受講生にそれらを速習してもらうことを目指します。

受講生の皆さんは、「経済学」に対してどのような印象を持っているでしょうか？ 経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競合する目的を考慮しながら決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。

【到達目標】

・ミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学の理論的基礎を説明できるようになる。

・ミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学に関する基本的問題を、社会科学的に思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

経済理論を大別すると、「ミクロ（マイクロ）経済学」と「マクロ経済学」の2つになります。「ミクロ（マイクロ）経済学」は、個々の経済主体における最適化された行動を前提に、市場における経済主体間の相互関係、資源配分と所得分配の決定における市場機構の役割などを分析する、あるいは、いくつかの代表的な公理に依拠した最適化行動に基づき、個から市場、そして経済全体へとアプローチする研究分野です。一方、「マクロ経済学」は、消費者部門における消費、企業部門における投資と生産物供給、政府部門における財政支出と貨幣供給、貿易バランス、そして、それらの相互連関によって決定される国民所得、インフレーションと失業、景気変動などに着目し、経済全体についての集計変数における均衡水準と決定経路を分析する研究分野です。これらの2分野は相互補完的な関係にあります。例えば、「ミクロ（マイクロ）経済学」において、個々の経済主体の最適な行動がマクロ経済にいかなる影響を与えるかを分析するには、「マクロ経済学」の理論が必要となります。また、「現代マクロ経済学」にとって「マクロ経済学のミクロ（マイクロ）的基礎」は不可欠な要素となっています。

この講義では「ミクロ（マイクロ）経済学」と「マクロ経済学」の基礎理論を学びますが、講義時間に余裕があれば、「ミクロ（マイクロ）経済学」の理論と現実との関係、また、マクロ経済学や公共政策学のミクロ（マイクロ）的基礎などのトピックも採り入れたと思っています。

我々には、講義回数14回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よくミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力します。また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	経済学の基本問題と経済システム	経済学の基本問題と市場の仕組み、経済システム
第02回	消費者と生産者の行動（Ⅰ）	選好と効用関数、需要関数
第03回	消費者と生産者の行動（Ⅱ）	生産技術と費用関数（Ⅰ）
第04回	消費者と生産者の行動（Ⅲ）	生産技術と費用関数（Ⅱ）、供給関数
第05回	市場均衡（Ⅰ）	完全競争市場と調整過程、余剰と比較静学
第06回	市場均衡（Ⅱ）	部分均衡と一般均衡、独占市場と独占的競争市場
第07回	経済厚生	市場の失敗、パレート効率性、厚生
第08回	国民所得分析の基礎	経済学の基本定理 SNA、マクロ経済指標

第09回	消費関数	消費と消費関数
第10回	投資関数	投資と投資関数
第11回	有効需要と乗数理論	有効需要の原理、乗数効果
第12回	IS・LM曲線と総需要曲線・総供給曲線	IS曲線・LM曲線および総需要曲線・総供給曲線による経済分析
第13回	インフレ需要曲線	インフレ需要曲線による経済分析
第14回	インフレ供給曲線	インフレ供給曲線による経済分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・受講後に講義ノートとテキストによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

・塩澤修平（著）（2011）『基礎コース 経済学（第2版）』新世社。

【参考書】

・浅田統一郎（著）（2022）『マクロ経済学基礎講義（第4版）』中央経済社。
・浅田統一郎（著）（2017）『ミクロ経済学の基礎（第2版）』中央経済社。
・アセモグル、ダロン／レイブソン、デヴィッド／リスト、ジョン（著）、岩本康志（監訳）、岩本千晴（訳）（2020）『入門経済学』東洋経済新報社。
・井堀利宏（著）（2021）『入門経済学（第4版）』新世社。
・ステイグリッツ、ジョセフ・E. /ウォルシュ、カール・E.（著）、蔵下史郎/秋山太郎/饒川靖浩/大阿久博/木立力/宮田亮/清野一治（訳）（2012）『ステイグリッツ入門経済学（第4版）』東洋経済新報社。
・福岡正夫（著）（2008）『ゼミナール経済学入門（第4版）』日本経済新聞出版社。
・マンキュー、N. グレゴリー（著）、足立英之/石川城太/小川英治/地主敏樹/中馬宏之/柳川隆（訳）（2019）『マンキュー入門経済学（第3版）』東洋経済新報社。
・Bade, Robin and Michael Parkin（2022）*Foundation of Economics* (9th ed.)(global edition, pap.), Pearson.
・Hirshleifer, Jack, Amihai Glazer and David Hirshleifer（2005）*Price Theory and Applications: Decisions, Markets, and Information* (7th ed.)(pap.), Cambridge Univ. Press.
・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien（2018）*Essentials of Economics* (6th ed.), Pearson.
・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien（2022）*Economics* (8th ed., Global Edition), Pearson.
・Krugman, Paul and Robin Wells（2023）*Essentials of Economics* (6th ed., International Edition), Macmillan Learning.
・Landsburg, Steven E（2024）*Price Theory and Applications* (10th ed.)(pap.), World Scientific Publishing.
・Sloman, John and Dean Garratt（2023）*Essentials of Economics* (9th ed.)(pap), Pearson Education Limited.

【成績評価の方法と基準】

・[定期試験点(90%) + 平常点(10%) = 総合点(100%)] の評点配分で成績が決定されます。
・単位認定には規定数以上の出席が必要です。
・公式行事の参加や疾病などによるやむを得ない欠席は、原則として出席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】

・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】

・出席確認を行いますので注意してください。
・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。
・本講義の趣旨は、アカデミックな経済学の基礎理論を平易に解説することですが、公務員、国税専門官、公認会計士、不動産鑑定士、中小企業診断士、ファイナンシャル・プランナーなどの、各種資格・就職試験で経済学を受験科目として選択する受講生にも配慮した解説を行います。

【オフィス・アワー】

・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。

【関連科目】

・秋学期のリベラルアーツ科目『経済学 LB』（担当：中平）、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline (in English)】

【Course outline】

* This course is designed to provide the student with an opportunity to understand the basic theory of microeconomics and macroeconomics. Generally, economic theory broadly divided into two parts - microeconomics and macroeconomics. Microeconomics focuses on decision making at the individual level, while macroeconomics studies the economy as a whole.

* This course is a comprehensive guide on how to get started with microeconomics and macroeconomics.

【Learning Objectives】

* Through this course, the students will be able to:
- explain the basic theories of microeconomics and macroeconomics;
- think and express basic issues of economics from the aspect of social science.

【Learning activities outside of classroom】

* Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.

* Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.

【Grading Criteria/Policy】

*Final examination(90%) + Active Participation(10%) = Evaluation Score(100 %).

*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.

*Absence due to unavoidable circumstances is regarded as equivalent to attendance in general.

ECN200LA (経済学 / Economics 200)

経済学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：観光経済学の基礎を学ぶ

中平 千彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、応用経済学の一分野としての「観光経済学」を学びます。観光経済学のトピックの中で、特に基本的フレームワークを形成する主要な項目を、ミクロ(マイクロ)経済学とマクロ経済学の理論に立脚して理解することを目指します。

【到達目標】

・観光経済学の基礎的事項を説明できるようになる。
・観光経済学に関する基本的問題をミクロ(マイクロ)・マクロ経済学理論に基づいて思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

観光経済学は、経済学理論に基づき、また、経済学の関連領域に属する学問を包含し、広義の観光活動を分析する、応用経済学の一種と位置付けられるものです。さらに、現代における広義の観光経済学は、観光客の支出決定、観光市場の構造、観光行動における意思決定、観光企業間の連携、観光による外貨発生効果と範囲、観光資源の貢献可能性、観光政策などを包括的に研究する分野となっています。

本講義では、観光の現状と課題、観光統計、投資理論、消費理論、消費者行動と観光、観光需要、観光サービス供給、観光市場の機能、観光市場の失敗、経済成長と観光、世界遺産と観光、我が国の観光と課題などの項目を学びます。なお、必要に応じて、公共経済学などの知識を補充し、学習内容の拡充を試みます。

我々には、講義回数14回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よく観光経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力します。また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	観光の現状と課題、SNAと観光統計(1)	観光のもたらす課題、SNAの概念と観光統計
第02回	SNAと観光統計(2)	SNAの基本構造、サテライト勘定の意義と分類
第03回	観光市場の機能	市場需要曲線と市場供給曲線、市場均衡と市場調整、観光財・サービスの価格決定メカニズム
第04回	消費理論と観光(1)	消費と消費関数、消費関数における短期と長期
第05回	消費理論と観光(2)	消費決定の仮説、観光消費の性質
第06回	投資理論と観光(1)	投資と投資の決定要因、限界効率と投資判断
第07回	投資理論と観光(2)	投資の限界効率表と投資量の決定
第08回	消費者行動と観光(1)	消費者行動と需要曲線、観光サービスの対象と選択
第09回	消費者行動と観光(2)、観光需要	観光需要と弾力性、観光需要の実際
第10回	観光サービス供給	観光サービス供給、観光市場の構造
第11回	観光市場の失敗	市場の失敗と観光分析

第12回	公共財とコモンプール財	公共財、コモンプール財と資源の過剰利用
第13回	観光成長と観光	インバウンド市場とアウトバウンド市場、観光発展の将来
第14回	世界遺産とエコツーリズム、観光の課題と将来	世界遺産の基礎知識、エコツーリズムの事例と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・受講後に講義ノートとテキストによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

・中平千彦／藪田雅弘(編著)『観光経済学の基礎講義』九州大学出版会、2017年。

【参考書】

・M.T. シンクレア／M. スタブラー(著)、小沢健市(監訳)(2001)『観光の経済学』学文社。
・ジェームズ・マック(著)、瀧口／藤井(監訳)(2005)『観光経済学入門』日本評論社。
・ステイーブン・J. ページ(著)、木谷／松下／図師(訳)(2001)『交通と観光の経済学』日本経済評論社。
・A. ブル(著)、諸江／吉岡／菊池／小沢／原田／池田／和久井(訳)(1998)『旅行・観光の経済学』文化書房博文社。
・山内／山本／山崎／川口(編)(2022)『観光経済学：理論とデータで学ぶ』有斐閣。
・Bull, Adrian (1995) *The Economics of Travel and Tourism* (2nd revised ed.), Longman.
・Dwyer, Larry, Forsyth, Peter, and Wayne Dwyer (2020) *Tourism Economics and Policy* (2nd ed.), Channel View Books.
・Hall, C. Michael and Allan M. Williams (2019) *Tourism and Innovation* (2nd ed.), Routledge.
・Stabler, Mike J., Papatheodorou, Andreas., and M. Thea Sinclair (2009), *The Economics of Tourism* (2nd ed.), Routledge.
・Sullivan, Charlotte (ed.)(2016) *Leisure and Tourism Economics*, Willford Press.
・Tribe, John (2020) *The Economics of Recreation, Leisure and Tourism* (6th ed.), Routledge.
・Vanhove, Norbert (2022) *The Economics of Tourism Destinations* (4th ed.), Routledge.
・Chen, Yong (2021) *Economics of Tourism and Hospitality: A Micro Approach*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

・[定期試験点(90%)＋平常点(10%)＝総合点(100%)]の評点配分で成績が決定されます。
・単位認定には規定数以上の出席が必要です。
・公式行事の参加や疾病などによるやむを得ない欠席は、原則として出席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】

・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】

・出席確認を行いますので注意してください。
・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。

【オフィス・アワー】

・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。

【関連科目】

・春学期のリベラルアーツ科目『経済学LA』(担当：中平)、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline (in English)】

【Course outline】

*The aim of the course is to provide students with an opportunity to gain and enhance the knowledge of tourism economics. Namely, this course is designed to provide a basic understanding of the scientific approaches to economics of tourism, particularly in the field of economic theory.

*In this course, you will learn how the microeconomics and macroeconomics are applied to the analysis of tourism.

【Learning Objectives】

* Through this course, the students will be able to:

- explain the fundamental problems of tourism economics;
- think and express basic issues of tourism economics from the aspect of microeconomics and macroeconomics.

【Learning activities outside of classroom】

* Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.

* Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.

【Grading Criteria/Policy】

*Final examination(90%) + Active Participation(10%) = Evaluation Score(100 %).

*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.

*Absence due to unavoidable circumstances is regarded as equivalent to attendance in general.

ECN200LA (経済学 / Economics 200)

経済学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 誠

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は金融をこれまで学んだことのない学生向けに、経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。春学期の授業では、経済学における金融の意味と金融で利用される言葉やその意味、さらに計算方法などを身に付け、生活の上で、金融のリテラシーを身に付けることを目指す。

【到達目標】

この授業では、金融リテラシーを身に付けるために、1. 歴史的な金融の発展、2. 身近な金融活動の発見、3. 金融の意義と意味、4. 自ら金融取引を確認する、ことを学ぶ。金融の知識は不要と考える人もいるだろう、しかし、卒業後、家を購入する、保険に入る、ローンを組む、年金資産運用するなど、金融知識がすぐにでも必要となってくる。必要な時に備えて、今、これらの知識を準備する。春学期の目標は、一般の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事を読んで、理解できる水準への到達である。いわばリテラシーを高めることを目標とする。金融についてさらに、一歩踏み出した議論は、秋学期に行いたいと考えているので、履修する学生には春と秋の履修を勧めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面による授業として実施します。ただし、履修生の皆さんには資料を配信し、各自で理解を深めてもらうように配慮する。なお、配布する資料は教科書と合致しない部分も一部あります。理解する目的は同じであっても、履修する皆さんにとって理解のしやすい方法で、あるいは、理解できる段階から説明することを心掛けて作成しているためです。大学で初めて学習する内容となるはずなので、継続した授業への出席が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業内容の紹介、歴史的な経済活動の発展	本授業の進め方、評価についての解説、人類の経済活動の発展と経済行動における工夫や発明を映像資料を見て動機付けを行う
2	身近にみる金融商品や金融活動	日ごろの生活で利用される金融商品や金融活動について詳しく学ぶ
3	金融取引と必要な知識	銀行における取引について考える、また、その際に必要とされる知識について学ぶ
4	評価する、価値を測る（第1章、第2章）	金融活動において、将来の価値や現在の価値を測ることが重要となる。その方法を学ぶ

5	企業における金融取引、債券と株式の発行と投資	企業が発行する債券と株式について学ぶ。特にその違いについて理解を深める。
6	債券の評価（第3章）	債券の価格をどのように求めるか、その方法を学ぶ
7	債券投資の理論（第10章）	債券を運用する際の基礎となるデュレーションについて意味と計算方法を学ぶ。
8	債券投資の理論（第10章） 続き	債券ポートフォリオのデュレーションとイミューゼーションについて学ぶ
9	中間テスト	第1講から第8講までの内容の理解を確認する。
10	確率変数の基礎知識（第11章）とポートフォリオ理論（第12章）	期待値や標準偏差など統計値の計算方法を確認する。ポートフォリオ理論の導入を図る。
11	投資理論（第12章と第13章）	2資産からなる危険資産によるポートフォリオを構築する。ポートフォリオ理論を発展させCAPMについて学習する
12	コーポレートファイナンス①（第7章）	企業の資金調達について検討する。
13	コーポレートファイナンス②（第7章）	企業の資金調達におけるモジリアニ＝ミラーの定理（MM理論）を学習する。
14	期末試験	これまで学習した全範囲の試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。特に力を入れてほしいのは、復習と日ごろの生活での習慣である。復習はしっかりと自分の頭で考えたり、計算をしてほしい。目で見ただけでは利用することはできない。日々の生活では、ニュースを見る、新聞を読む、30分でも日々の生活で経済事象を知ることが、授業を受ける上で大きなきっかけとなる。

【テキスト（教科書）】

手嶋宜之著「基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門」ダイヤモンド社
ISBN:978-4-478-01630-5

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次の3つの項目に基づいて行う。1. 各回の授業に付随するクイズ（20%）、2. 第8回に実施する中間テスト（40%）、3. 第15回に実施する期末テスト（40%）である。中間試験と期末試験は授業期間内で行う。また、各回のクイズはHoppi上で提示される。なお、クイズは毎回実施するとは限らない。成績評価は以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね90%以上、A:優れた成績であるもの、概ね80%以上、B:秀でた成績である者、概ね70%以上、C:平均的な水準である者、概ね60%以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】

質問のあった箇所については、授業でも取り上げて参加者全員の理解を図るようにする。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。ただし、中間と期末試験の際にはスマホの計算機能は利用できないので注意。

【その他の重要事項】

新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることが望ましい。なお、本授業の講師はファイナンスの実務経験を通算20余年有している。うち、10年は米国ニューヨークで勤務し、ノーベル経済学受賞者との共同研究、米国著名大学大学院修了（MBA）している。また、経済金融教育アドバイザーでもある。実務経験を授業に反映させる予定である。

【Outline (in English)】

This class focuses on finance in economics for students who have never studied finance before. As a university student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time without touching finance. In the spring semester class, students will learn the meaning of finance in economics, the words used in finance, their meanings, and calculation methods, and aim to acquire financial literacy in their daily lives.

A "Finance" is indispensable in daily transactions. In the class, we study theories and systems related to financial transactions, but it is also very important to learn about the relationship between finance and the economy through daily news and newspaper reports. I hope that students will pay attention to financial information outside of class hours.

Grading for students will consist of two parts: 80% will be based on mid-term and final exams. 80% will be based on mid-term and final exams, and 20% will be based on class participation and quizzes/assignments. A grade of "S" is given to students who have achieved 90% or more in all grades, "A" is given to students who have achieved 80% or more, "B" is given to students who have achieved 70% or more, and "C" is given to students who have exceeded the minimum passing grade. Students who fail the course will receive a grade of "D". This evaluation method is in accordance with the Hosei University evaluation standards.

ECN200LA (経済学 / Economics 200)

経済学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 誠

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は既に金融の「入門レベル（経済学 LA）」を学んだ学生向けに、広く、深く金融を学習することを目的としている。したがって、金融システム、金融制度など幅広く経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。しっかりと金融知識を身に付けてほしい。

【到達目標】

この授業では、経済学 LA に始まる金融リテラシーを身に着けるために、1. 歴史的な金融の発展、2. 身近な金融活動の発見、3. 金融の意義と意味、4. 自ら金融取引を確認する、ことを継続して学ぶ。

秋学期の経済学 LB の目標は、経済専門の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事を読んで内容が概ね理解できることを目標としたい。通常、経済専門紙の記事を完璧に理解できる水準は金融業界に身を置かない限り、困難である。本講座は、入門レベル（経済学 LA）を経て、金融基礎知識を固める初級から中級レベルの水準に達することを目標に掲げたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施する。経済学 LA と同じである。

授業はテキストと配布資料に基づいて行われる。適宜、履修者の理解の定着を図る目的でクイズやテキスト章末問題を課題とすることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	利子率、将来価値、現在価値（第1章）	単利と複利、現在価値・将来価値を計算する、複利利回りの種類を知る。今学期から参加した学生にも理解しやすいように経済学 LA の内容を一部復習する。
2	債券入門（第2章）、債券分析の基礎（第3章）①	最終利回り、債券投資のリスクについて学ぶ。（経済学 LA の復習、一部あり）
3	債券分析の基礎（第3章）②	デュレーション分析、イールドカーブ分析、債券の投資方法について学習する。
4	ポートフォリオ理論入門①（第8章）	経済学 LA においてファイナンスで利用する基礎統計学は学習しているので、その前提で2つの危険資産によるポートフォリオを作成する。
5	ポートフォリオ理論入門②（第8章）	安全資産を組み入れた場合のドミナントな組み合わせを考える。CAPMの導出を行う。（一部経済学 LA の復習あり）

6	株式入門（第4章）①	株式とは、株式発行市場、流通市場、配当割引モデルの紹介
7	株式入門（第4章）②	配当割引モデル応用、株価評価の指標、
8	中間試験	これまでに学習した内容をテストする。60分間。
9	デリバティブズ	先渡し取引、先物取引の市場、取引の仕組み、価格の計算方法と利用について学習する
10	リーマンショックを考える	リーマンショックの原因はなんであったか、動画を視聴して考えたい。
11	オプション入門①（第6章）	オプションの基本的な仕組みと性質の紹介、オプション市場、オプション取引の仕組みを学習する。
12	オプション入門②（第6章）	オプションを用いた投資戦略、バイノミアル（二項価格評価）モデルによるオプション価値の推定する。
13	効率的市場仮説（第11章）	市場モデルとCAPMの類似点と相違点を整理する。市場の効率性について学習する。
14	期末試験	学習した範囲（第1回から第13回まで）の試験を行う。授業内で実施する。60分間

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

春学期より少しだけレベルが上がった内容となるので、授業の資料を読む前に関連する該当箇所を読んでおくと、理解の助けとなる。さらに、授業後に、もう一度同じ箇所を読み直すと理解が深まる。また、必要な計算は必ず手を動かしてやってほしい。資料やテキストを読んでいても、自分の力にはならない。また、日常的に新聞やニュースに触れて、金融に関する言葉を利用する場面を知ってほしい。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹、池田正幸「入門・証券投資論」有斐閣ブックス、ISBN:978-4-641-18447-3

【参考書】

手嶋宣之「ファイナンス入門」ダイヤモンド社、ISBN:978-4-478-01630-5

大村敬一・俊野雅司「証券論」有斐閣、ISBN:978-4-461-16427-7

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次の3つの項目に基づいて行う。

1. 授業における貢献などの平常点と授業に関連したクイズ（試験ではない）（20 %）、
2. 第8回に実施する中間テスト（40 %）、
3. 第15回に実施する期末テスト（40 %）である。

中間試験と期末試験は原則教室で実施する予定であるが、感染状況によりHoppi上で行う場合もある。実施予告の指示に従って受験してほしい。

成績評価は法政大学の基準に従って行う。概ね、以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね90 %以上、A:優れた成績であるもの、概ね80 %以上、B:秀でた成績である者、概ね70 %以上、C:平均的な水準である者、概ね60 %以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】

経済学 LB(秋学期)は経済学 LA 同様、対面授業の予定となっている。対面授業ではあるが、スライドで利用する資料等はHoppii上に掲示（授業開始から1週間のみダウンロード可）する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。ただし、中間・期末試験においてスマホの計算機能を利用することはできないので、留意してほしい。

【その他の重要事項】

配布する資料は指定した教科書を理解しやすくするために作成したものである。資料だけでは、教科書の内容を理解することは不可能であるので、必ず、指定した教科書を用意してほしい。ただし、参考図書はその限りではない。また、新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることがファイナンスの理解の早道でもある。なお、本授業の講師はファイナンスの実務経験を通算20余年有している。うち、10年は米国ニューヨークで勤務し、ノーベル経済学受賞者との共同研究、米国著名大学大学院修了（MBA）している。金融経済教育アドバイザーでもある。実務経験を授業に反映させる予定である。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to provide a broad and deep study of finance for students who have studied finance at an introductory level (Economics LA). Therefore, the class will focus on finance in economics, including financial systems and financial institutions. As a undergraduate student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time to finance. I would recomend you to acquire a financial literacy for your life.

A "Finance" is indispensable in daily transactions. In the class, we study theories and systems related to financial transactions, but it is also very important to learn about the relationship between finance and the economy through daily news and newspaper reports. I hope that students will pay attention to financial information outside of class hours.

Grading for students will consist of two parts: 80% will be based on mid-term and final exams. 80% will be based on mid-term and final exams, and 20% will be based on class participation and quizzes/assignments. A grade of "S" is given to students who have achieved 90% or more in all grades, "A" is given to students who have achieved 80% or more, "B" is given to students who have achieved 70% or more, and "C" is given to students who have exceeded the minimum passing grade. Students who fail the course will receive a grade of "D". This evaluation method is in accordance with the Hosei University evaluation standards.

ECN200LA (経済学 / Economics 200)

経済学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：東アジア経済論

陳 文挙

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀はアジアの時代であり、中国やアジア新興国の台頭によって東アジア地域の存在感は増している。東アジア経済の動向は世界政治経済、安全保障、資源エネルギー等に大きな影響を与えている。本講義は東アジア経済の発展に焦点を合わせ、経済発展の歴史、過程、経験と教訓等について経済学の基礎原理やリベラルアーツの視点から研究する。また、新型コロナウイルス感染症の拡大によって東アジア地域経済、そして世界経済が一変しており、東アジア経済を分析することを通じて学生諸君の地域的突発問題や危機管理に対する分析力を向上させる。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察する力が必要になる。当該授業を聴講して、学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。特に、トランプ米大統領の再登場による世界の地政学は新しい局面を迎え、混沌化が増す世界、そして東アジア地域に関するリスクのヘッジ方、危機対応型思考力を鍛える学習ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 大学の授業計画に従って対面式で開講するが、事情によってまたデジタル社会適合のためオンライン（Zoom方式）の開講もある。但し、オンライン授業の場合は事前に学習支援システムを通じて知らせる。
2. 一回の講義で基本的に1つの話題を中心に議論、展開、解明、まとめる。
3. 情報化時代のニーズに応えるために図表や統計資料、事例学習も多用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	東アジア経済入門基礎、講義概要、成績評価等説明
2	現代経済社会の仕組み	家計、企業、政府；資本、労働、技術進歩；市場の原理；経済成長と経済発展の原動力分析
3	東アジア経済近代化の始まり	商業とシルクロード、産業革命、国際貿易と植民地の歴史、アヘン戦争
4	日中近代工業化の歴史比較研究	清王朝近代化の失敗と日本明治維新ならびに日本近代化成功の比較分析
5	国際貿易とグローバル化の形成	アダム・スミスの絶対優位性仮説とリカードの比較優位性仮説の検証
6	農業の発展と人口問題	マルサスの人口論と「マルサスの罠」

7	中間進捗状況確認	前半復習、「機会費用」と人口問題の両面性
8	農業の発展と様々な制約	「豊作貧乏」現象と需要の価格弾力性
9	東アジア地域の工業化と労働移動	都市化とインフォーマル部門、スラム街の形成
10	東アジア地域の工業化と国際化	「輸入代替」政策の失敗から「輸出振興」政策の成功まで
11	東アジア地域の産業移転	ベティ・クラークの法則と「雁行形態」、「産業移転」、「世界の工場」の背景と実態
12	経済成長と所得格差	クズネットの「逆U字仮説」から「エレファントカーブ」まで
13	さまざまな格差と計測	ジニ係数の計算を通じて地域間経済格差を考える
14	まとめ：東アジア地域経済統合の行方は	半期の復習、まとめ、期末レポート作成要領説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。講義内容に応じて宿題として課題レポートを完成する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『アジア経済とは何か—躍進のダイナミズムと日本の活路』、後藤健太（著）、中公新書。
『アジア経済論』、小林尚朗、山本博史、矢野修一、春日尚雄（著、編集）、文真堂。
『東アジアの論理—日中韓の歴史から読み解く』、岡本隆司（著）、中公新書。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業参加（出席）状況（30%）
 2. リアクションペーパーや課題の提出状況（30%）
 3. 期末レポートの完成状況（40%）
- などによって総合的に評価する。ただし、各項目の配分など詳しくは、初回の授業時に確認、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

1. 学生皆さんの関心事、質問等についてよく聞く、確認する。
2. 課題や質問に対してできるだけ早く対応する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

ただし、学習支援システムの活用、オンライン（Zoom方式）学習環境の確保などを事前にしておく。

【その他の重要事項】

秋期『経済学LB：中国経済入門』の継続履修を勧める。

【Outline (in English)】

The 21st century is said to be the age of Asia. The rapid growth of China and some other developing countries of Asia has increased the presence of the East-Asia in the world. The economy of East-Asia has been greatly affecting the world's politics and economy, security, and resources energy for these years.

This lecture focuses on the development of East-Asia economy, aims at studying the history, process, experiences and teachings of the economic development in this region from the viewpoints of basic theory of economics and Liberal Arts.

【Learning Objectives】

This lecture will help to improve students' ability of analyzing regional economy about its variability and complexity in east-Asia from various viewpoints.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, you should be expected to spend four hours in preparing/reviewing to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

You overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1, in-class contribution (30%)

2, Reaction paper or homework (40%)

3, Term-end report (30%)

ECN200LA (経済学 / Economics 200)

経済学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国経済論

陳 文挙

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の経済規模は2010年に日本に追い付き、追い越し、アメリカに次ぐ世界第2位に上り詰めた。2022年に中国のGDPは日本の約4倍に拡大し、アメリカの5分の4までに迫っていた。本講義では前期授業で学習した東アジア経済発展の基礎を元に、計画経済期から市場経済移行期まで中国経済の発展を研究し、失敗の教訓と成功の要因を明らかにする。その上、「新常态」（ニューノーマル）にある現在の中国経済について事例研究等を通じて考察し、中国経済発展の未来像について考える。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について、特に世界第2位の経済規模を持つ中国の経済動向について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1、大学の授業計画に従って対面式で開講するが、事情によってまたデジタル社会適合のためオンライン（Zoom方式）の開講もある。但し、オンライン授業の場合は事前に学習支援システムを通じて知らせる。

2、一回の講義で基本的に1つの話題を中心に議論、展開、解明、まとめる。

3、情報化時代のニーズに応えるために図表や統計資料、事例学習も多用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	中国経済の基礎、講義概要、中国最新経済情報、成績評価等
2	中国近代史①	アヘン戦争から太平天国、日清戦争、辛亥革命、日中戦争、国共内戦
3	中国近代史②	中国共産党の誕生、武力闘争から政権の奪取、中国人民共和国の樹立
4	朝鮮戦争と社会主義国家建設	戦後処理と冷戦、朝鮮戦争と日中両国に与える影響：ソ連の対中経済援助と日本の「朝鮮特需」
5	計画経済期の中国経済と政治	社会主義経済大実験：大躍進、人民公社と文化大革命
6	計画経済の行き詰まりと改革開放の始まり	貧しい農民たちの「下剋上」と郷鎮企業の発展：「世界の工場」の形成
7	労働移動と「世界の工場」	中国の経済格差の実態と労働移動の事例研究

8	中間進捗状況確認	前半の復習：「効率」か「平等」か＝日本と中国のどちらが「社会主義」か？
9	企業改革と工業の発展	世界最大白物家電メーカーハイアール（Haier）社の事例研究
10	対外開放：外資の積極的導入と国際貿易の拡大	日本の対中経済支援と日本企業の中国進出
11	中国の技術革新とニュービジネスの拡大	ネット通販、QRコードとキャッシュレス、EVシフトとドローン、AI開発など
12	中国の不動産バブルの崩壊と「新常态」	中国経済も「失われた30年」に突入するのか？
13	中国経済展望	米中「貿易戦争」、世界のデカップリング、トランプ2.0などによって中国経済の先行きを予測する
14	復習とまとめ	期末レポート作成要領、成績評価再確認など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。

講義内容に応じて課題、宿題もあり、期末にはレポートの提出がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

『現代中国経済』（新版）、丸川知雄、有斐閣アルマ。

『幸福な監視国家・中国』、梶谷懐・高口康太、NHK出版新書。

『中国S級B級論—発展途上と最先端が混在する国』、高口康太・伊藤聖聖他著、さくら舎。

【成績評価の方法と基準】

- 1、授業参加（出席）状況（30%）
- 2、リアクションペーパーや課題の提出状況（30%）
- 3、期末レポートの完成状況（40%）

などによって総合的に評価する。

ただし、各項目の配分など詳しくは、初回の授業時に確認、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1、学生皆さんの関心事、意見などをよく聞く、確認する。
- 2、課題や質問等に対してできるだけ早く対応する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

ただし、学習支援システムの活用、オンライン（Zoom方式）学習環境の確保などを事前にしておく。

【その他の重要事項】

1、前期の『経済学LA：東アジア経済論』とセットにして履修してもらいたいですが、必要条件ではありません。

2、中国経済の話題が中心だが、政治、歴史、文化、社会、企業経営等の話もあり、興味があればぜひ履修していただきたい。

【Outline (in English)】

This lecture aims at clearing up the success factors and lessons of failure by studying the development of China economy of the period transforming from the planned economy to the market economy, based on the basic knowledge about the development of the East-Asia economy, which students learned in the first semester. Furthermore, this lecture will examine the current China economy, so-called new-normal economy through case-study and consider the future image of China economy.

【Learning Objectives】

This lecture will help to improve students' ability of analyzing China economy about its variability and complexity from various viewpoints.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, you should be expected to spend four hours in preparing/reviewing to understand the course content.

【Grading Criteria / Policy】

You overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1, in-class contribution (30%)
- 2, Reaction paper or homework (40%)
- 3, Term-end report (30%)

ECN200LA (経済学 / Economics 200)

経済学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：福祉の経済思想家たち

小峯 敦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Lでは「経済学的思考とは何か」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近します。前期LAでは「福祉という観点から経済思想を振り返る」を取り上げます。過去から現在にかけて、世の中には貧困や格差など、福祉に直結する経済問題が溢れています。意外にも、経済学者は単にカネの亡者や利己的な人間像ではなく、社会全体の幸福（＝福祉）について多くの見解を示してきたのです。この授業では、経済学の立場や経済の観点から、格差や貧困、個人と国家などがどのように考えられてきたか／考えるべきかを学びたいと思います。

【到達目標】

「経済学的思考とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とします。その題材として、本授業では、「福祉という観点から経済思想を振り返る」に関して、過去や現在の経済学者・経済思想家がどのような前提・発想・解決策を提示していたのか、ある程度の理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の章立てに沿って進みます。適宜、映像教材を用いて理解を深めたいと思います。基本的には過去から現在へと説明が進みますが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（LGBTQ、アメリカ大統領選、イギリスのEU離脱など）を含めて説明を補うつもりです。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合があります。学生の希望があれば、グループ討議や発表タイムを混ぜても良いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ～経済学的思考とは何か	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介
2	全体の概観～経済学の歴史から現代の経済問題を扱う	なぜ経済問題の把握に、経済学の歴史が必要か（参考書・第1章、教科書第1章）
3	経済の発見～古代から中世へ	プラトン、アリストテレス、トマス・アクイナス、利子と利潤（参考書・第2章）
4	近代とは何か～民主主義から資本主義へ	社会契約説の三巨人、ホッブズ、ロック、ルソー（参考書・第3章）
5	経済学の生誕～スミスの登場	共感、利己心、そしてアダム・スミス、見えざる手（教科書・第3章）
6	安全で幸福な社会、経済論争～ベンサム	功利主義、安全、食糧安保、関税（教科書・第4章～第5章）

7	社会改良と経済学～ミルの苦悩と挑戦	古典派経済学の完成と現実、ジェンダー、植民地（教科書・第6章）
8	社会主義の勃興～マルクスとエンゲルス	経済学批判、唯物史観、疎外、剰余価値（教科書・第7章）
9	マーシャル～労働者階級の向上	生活基準、安楽基準、経済騎士道（教科書第11章）
10	ビグーとホブソン～正統と異端の福祉思想	厚生経済学、人間の福祉（教科書第12章・第13章）
11	ウェッブ夫妻、ホブハウス～	自由党／自由主義の改革、国民最低限保障（教科書第14章）
12	ケインズとベヴァーリッジ～現代福祉国家へ	福祉国家の合意、完全雇用と社会保障（教科書第17章）
13	2人のノーベル経済学賞～ミュルダールとハイエク	北欧型福祉国家と、アメリカ型国家（教科書第21章～第22章）
14	この授業のまとめ	振り返り；チェックテスト理解度小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】

・小峯敦編（2024）『福祉の経済思想家たち【第三版】』ナカニシヤ出版。

ISBN 978-4-7795-1831-7

（以下は増補改訂版の情報）

<https://www.nakanishiya.co.jp/book/b134734.html>

【参考書】

・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html>

・小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』晃洋書房。

<https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html>

【成績評価の方法と基準】

（1）平常点：40%

（2）理解度小テスト：60%

（1）平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、提供スライドや教科書を参照して確認できる課題の提出回数、その他授業への参加度合い等によって定めます。

（2）理解度小テスト（第14回を予定）は、マークセンス（択一式）8割、記述式2割を標準として、簡単なチェックテストとなります。自筆メモ（A4オモテ・ウラ1枚）が持ち込み可能です。

（3）レポート、および定期試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努めます。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

資料をダウンロードできる機器があれば良いでしょう。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利です。

【その他の重要事項】

「経済学的思考とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしいと思います。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、公務員試験を目指す学生や教職課程の学生にも有用です。教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がります。

【Outline (in English)】

In Economics L, we will concentrate on a single point, "What is economic thought?". We will also approach this question from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy. In the second semester, we will take up "Economic Thought from the Perspective of Welfare." From the past to the present, the world is full of economic problems directly linked to welfare, such as poverty and inequality. Surprisingly, economists have not just been money-hungry or selfish but have also expressed many views on society's happiness (i.e., welfare). In this class, we will learn how inequality, poverty, individuals, and the state have been thought about/should be thought about from the perspective of economics and the standpoint of economics.

ECN200LA (経済学 / Economics 200)

経済学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：戦争と平和の経済思想

小峯 敦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Lでは「経済学的思考とは何か」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近します。後期LBでは「戦争と平和の経済思想」を取り上げます。過去から現在にかけて、世の中には戦争・紛争が溢れています。同時に、その原因や解決策を模索する学問的営みも多いのです。この授業では、経済学の立場や経済の観点から、この問題をどのように考えられてきたか／考えるべきかを学びます。

【到達目標】

「経済学的思考とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とします。その題材として、本授業では、「戦争と平和」に関して、過去や現在の経済学者・経済思想家がどのような前提・発想・解決策を提示していたのか、ある程度の理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の章立てに沿って進みます。適宜、映像教材を用いて理解を深めたいと思います。基本的には過去から現在へと説明が進みますが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（露ウ戦争、パレスチナ紛争）を含めて説明を補うつもりです。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合があります。学生の希望があれば、グループ討議や発表タイムを混ぜても良いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ～経済学的思考とは何か	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介
2	全体の概観～経済学の歴史から戦争と平和を扱う	経済学の浸透は国際紛争の軽減に貢献しうるか（教科書・序章）
3	近代国家と戦争	重商主義、主権国家、経済学の生成（教科書・第1章）
4	アダム・スミスにおける国防と経済	『国富論』、商業の発展、自由の確立（教科書・第2章）
5	古典派経済学と戦争～リカード、マルサス、ミル	平和的な分業（比較生産費説）、植民地経営（人口問題）、黒人問題
6	エッジワースの契約モデルと戦争	限界革命による経済学の左心、価格交渉（教科書・第3章）
7	ヴェブレンの平和連盟構想	アメリカ異端派の現状分析、国際連盟の誕生（教科書・第4章）
8	戦後構想における経済助言者の役割（1）	ケインズ～ベヴァリッジ体制とは何か、伝記的アプローチ（教科書・第5章）
9	戦後構想における経済助言者の役割（2）	福祉国家の誕生、連邦主義、国際連合の誕生（教科書・第5章）

10	ミューダールにおける戦争と平和（1）	福祉国家から福祉社会へ、累積的因果関係、南北問題（教科書・第6章）
11	ミューダールにおける戦争と平和（2）	スウェーデンモデルとは何か、国際平和研究所（教科書・第6章）
12	冷戦期以降の戦争と経済思想	シューマッハー、ガルブレイス、ボールディング（教科書・第7章）
13	帝国主義・総力戦と日本の経済学者	石橋湛山、新渡戸稲造（教科書・第8章）
14	全体のまとめ～経済学の歴史から戦争と平和を扱う	経済学の浸透は国際紛争の軽減に貢献しうるか（教科書・終章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】

小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』見洋書房。

<https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html>

【参考書】

・小峯敦編（2024）『福祉の経済思想家たち【三版】』ナカニシヤ出版。

<https://www.nakanishiya.co.jp/book/b134734.html>

・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html>

【成績評価の方法と基準】

（1）平常点：40%

（2）理解度小テスト：60%

（1）平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、提供スライドや教科書を参照して確認できる課題の提出回数、その他授業への参加度合い等によって定めます。

（2）理解度小テスト（第14回を予定）は、マークセンス（択一式）8割、記述式2割を標準として、簡単なチェックテストとなります。自筆メモ（A4オモテ・ウラ1枚）が持ち込み可能です。

（3）レポート、および定期試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努めます。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

資料をダウンロードできる機器があれば良いでしょう。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利です。

【その他の重要事項】

「経済学的思考とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしいと思います。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、公務員試験を受ける学生や教職課程の学生にも有用なはずです。教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がります。

【Outline (in English)】

In Economics L, we will concentrate on a single point, "What is economic thought?". We will also approach this question from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy. In the second semester, we will take up "War and Peace in the History of Economic Thought". From the past to the present, the world is full of wars and conflicts. At the same time, there are many academic endeavors that search for their causes and solutions. In this class, students will learn how this issue has been/should be considered from the standpoint of economics and the economy.

PSY200LA (心理学 / Psychology 200)

心理学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

金子 楓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、人が生まれてから死に至るまでの心身の変化である発達について、発達の基本的な考え方や原理について紹介した後に、各段階における発達の特徴について、特に人間関係と社会性を中心に学習する。あわせて、人が生まれてから死に至るまでに生じ得る心理臨床的な課題とその支援について考察する。

【到達目標】

人が生まれてから死に至るまでの各発達段階における基礎的な知識を身につけることができる。

自分自身や周囲の人について、授業で学習した内容をもとに理解を深め、適応的に生きていくための知識を身につけることを目標とする。具体的には、心理学LAで、人間関係と社会性を中心に、生涯発達の観点から人の発達について理解することを目標とする。また、心理学LBでは、生涯で生じ得る心理臨床的な課題に対する支援方法について、実際にふまえながら学ぶ。そのため、心理学LAと心理学LBを連続履修することが望ましく、通年で受講することで、人の発達について理解したうえで、理想の生き方や老い方について考え、発達臨床的な問題に取り組む力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にはパワーポイントを用いた講義で行い、適宜、視聴覚教材を使用する。

授業では、授業毎にリアクションペーパーの提出、授業内容に応じて演習問題への取り組みを求める。リアクションペーパーや演習問題への取り組みへのフィードバックは、当日の講義内または翌週の講義内で行う。

本授業は、対面形式で実施するが、状況に応じてオンライン授業を実施する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要説明
第2回	発達心理学とは何か	発達の規定要因／発達段階理論
第3回	人間関係の発達①	乳児期の人間関係 乳児と人とのかわり／愛着形成
第4回	人間関係の発達②	幼児期の人間関係 仲間関係の発達／他者を理解する能力の発達
第5回	人間関係の発達③	児童期の人間関係 小学校における仲間関係／児童の攻撃行動
第6回	人間関係の発達④	青年期の人間関係 青年期の親子関係／ソーシャルサポート
第7回	社会性の発達①	社会性とは何か／ソーシャルスキル

第8回	社会性の発達②	向社会性の発達
第9回	社会性の発達③	道徳性の発達
第10回	社会性の発達④	コミュニケーションの発達
第11回	定型発達と非定型発達	発達障害とその支援
第12回	成人期の発達	キャリアの発達／職業生活の中での発達
第13回	高齢期の発達	サクセスフル・エイジングと幸福感
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。心理学に関する知識をただ覚えるのではなく、自分自身や周囲の人、環境など実生活と照らし合わせて、授業内容について熟考する。

【テキスト（教科書）】

適宜、配布資料を使用。配布資料はすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

『はじめて学ぶ乳幼児の心理 こころの育ちと発達の支援』（桜井茂男編、有斐閣アルマ、2006年）
『たのしく学べる最新発達心理学 乳幼児から中学生までの心と体の育ち』（桜井茂男編、図書文化社、2010年）
その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）、授業内で実施する演習問題（30％）、リアクションペーパー（20％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・演習問題の提出等のために学習支援システム等を利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic concepts and principles of development, the characteristics of development at each stage. In addition, we will consider the psychological and clinical issues that can arise from birth to death and the support for them.

The goal is to deepen understanding of oneself and those around them based on the content learned in class, and to acquire knowledge for living adaptively.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Term-end examination: 50%, Short reports: 20%, in class contribution: 30%

PSY200LA (心理学 / Psychology 200)

心理学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

金子 楓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、人が生まれてから死に至るまでの心身の変化である発達について、発達の基本的な考え方や原理について紹介した後に、各段階における発達の特徴について、特に人間関係と社会性を中心に学習する。あわせて、人が生まれてから死に至るまでに生じ得る心理臨床的な課題とその支援について考察する。

【到達目標】

人が生まれてから死に至るまでの各発達段階における基礎的な知識を身につけることができる。

自分自身や周囲の人について、授業で学習した内容をもとに理解を深め、適応的に生きていくための知識を身につけることを目標とする。具体的には、心理学LAで、人間関係と社会性を中心に、生涯発達の観点から人間の発達について理解することを目標とする。また、心理学LBでは、生涯で生じ得る心理臨床的な課題に対する支援方法について、実際にふまえながら学ぶ。そのため、心理学LAと心理学LBを連続履修することが望ましく、通年で受講することで、人の発達について理解したうえで、理想の生き方や老い方について考え、発達臨床的な問題に取り組む力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、主にテキストを使用してワークに取り組む。授業の後半は、視聴覚教材を使用して、実践したワークへの理解を深める。授業では、授業毎にリアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーへのフィードバックは、翌週の講義内で行う。

本授業は、対面形式で実施するが、状況に応じてオンライン授業を実施する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要説明
第2回	認知行動療法とは	認知行動療法の基本的な考え方
第3回	認知の歪みに気づく①	できごとの振り返り 気持ちへの点数づけ 心のつぶやきと気分の関連
第4回	認知の歪みに気づく②	心のつぶやきの検証 心のつぶやきの書き換え 心のイメージの修正
第5回	認知の歪みに気づく③	トリプル・カラム 葉っぱのトレーニング シアター鑑賞トレーニング 呼吸法
第6回	行動を変える①	気分と活動のモニタリング 気分と行動の関連 気分の変化チェック
第7回	行動を変える②	先延ばし行動の克服 自分を変えるチャレンジ

第8回	行動を変える③	アクションプラン アクションプランの検証 やってみようことリスト
第9回	心のルールからの解放①	生き方のルール マイルールの検証 ルールのデメリット・メリット
第10回	心のルールからの解放②	心の新ルール 新ルールの証拠
第11回	心のルールからの解放③	人生で大切なことの言語化 気持ちのコントロール マインドフルネス
第12回	認知行動療法の実際①	認知行動療法に関する映像視聴
第13回	認知行動療法の実際②	認知行動療法の事例の紹介
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『心がスッと軽くなる認知行動療法ノート』（福井至・貝谷久宣著、ナツメ社、2015年）
必ず、使用する。

【参考書】

『子どもと若者のための認知行動療法ワークブック 上手に考え、気分はスッキリ』（ポール・スタラード著、下山晴彦監訳、金剛出版、2006年）
その他、適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（30％）、授業内で実施するワークへの取り組み（50％）、リアクションペーパー（20％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・ワーク課題の提出等のために学習支援システム等を利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic concepts and principles of development, the characteristics of development at each stage. In addition, we will consider the psychological and clinical issues that can arise from birth to death and the support for them.

The goal is to deepen understanding of oneself and those around them based on the content learned in class, and to acquire knowledge for living adaptively.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Term-end examination: 30%, Short reports: 20%, in class contribution: 50%

PSY200LA (心理学 / Psychology 200)

心理学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

金子 楓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、人が生まれてから死に至るまでの心身の変化である発達について、発達の基本的な考え方や原理について紹介した後に、各段階における発達の特徴について、特に人間関係と社会性を中心に学習する。あわせて、人が生まれてから死に至るまでに生じ得る心理臨床的な課題とその支援について考察する。

【到達目標】

人が生まれてから死に至るまでの各発達段階における基礎的な知識を身につけることができる。

自分自身や周囲の人について、授業で学習した内容をもとに理解を深め、適応的に生きていくための知識を身につけることを目標とする。具体的には、心理学LAで、人間関係と社会性を中心に、生涯発達の観点から人の発達について理解することを目指す。また、心理学LBでは、生涯で生じ得る心理臨床的な課題に対する支援方法について、実際にふまえながら学ぶ。そのため、心理学LAと心理学LBを連続履修することが望ましく、通年で受講することで、人の発達について理解したうえで、理想の生き方や老い方について考え、発達臨床的な問題に取り組む力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にはパワーポイントを用いた講義で行い、適宜、視聴覚教材を使用する。

授業では、授業毎にリアクションペーパーの提出、授業内容に応じて演習問題への取り組みを求める。リアクションペーパーや演習問題への取り組みへのフィードバックは、当日の講義内または翌週の講義内で行う。

本授業は、対面形式で実施するが、状況に応じてオンライン授業を実施する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要説明
第2回	発達心理学とは何か	発達の原理／発達理論
第3回	人間関係の発達①	乳児期の人間関係 乳児と人とのかわり／愛着形成
第4回	人間関係の発達②	幼児期の人間関係 仲間関係の発達／他者を理解する能力の発達
第5回	人間関係の発達③	児童期の人間関係 小学校における仲間関係／児童の攻撃行動
第6回	人間関係の発達④	青年期の人間関係 青年期の親子関係／ソーシャルサポート

第7回	社会性の発達①	社会性とは何か／ソーシャルスキル
第8回	社会性の発達②	向社会性の発達
第9回	社会性の発達③	道徳性の発達
第10回	社会性の発達④	コミュニケーションの発達
第11回	定型発達と非定型発達	発達障害とその支援
第12回	成人期の発達	キャリアの発達／職業生活の中での発達
第13回	高齢期の発達	サクセスフル・エイジングと幸福感
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
心理学に関する知識をただ覚えるのではなく、自分自身や周囲の人、環境など実生活と照らし合わせて、授業内容について熟考する。

【テキスト（教科書）】

適宜、配布資料を使用。配布資料はすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

『はじめて学ぶ乳幼児の心理 こころの育ちと発達の支援』（桜井茂男編、有斐閣アルマ、2006年）
『たのしく学べる最新発達心理学 乳幼児から中学生までの心と体の育ち』（桜井茂男編、図書文化社、2010年）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）、授業内で実施する演習問題（30％）、リアクションペーパー（20％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・演習問題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic concepts and principles of development, the characteristics of development at each stage. In addition, we will consider the psychological and clinical issues that can arise from birth to death and the support for them.

The goal is to deepen understanding of oneself and those around them based on the content learned in class, and to acquire knowledge for living adaptively.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Term-end examination: 50%, Short reports: 20%, in class contribution: 30%

PSY200LA (心理学 / Psychology 200)

心理学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

金子 楓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、人が生まれてから死に至るまでの心身の変化である発達について、発達の基本的な考え方や原理について紹介した後に、各段階における発達の特徴について、特に人間関係と社会性を中心に学習する。あわせて、人が生まれてから死に至るまでに生じ得る心理臨床的な課題とその支援について考察する。

【到達目標】

人が生まれてから死に至るまでの各発達段階における基礎的な知識を身につけることができる。

自分自身や周囲の人について、授業で学習した内容をもとに理解を深め、適応的に生きていくための知識を身につけることを目標とする。具体的には、心理学LAで、人間関係と社会性を中心に、生涯発達の観点から人間の発達について理解することを目標とする。また、心理学LBでは、生涯で生じ得る心理臨床的な課題に対する支援方法について、実際にふまえながら学ぶ。そのため、心理学LAと心理学LBを連続履修することが望ましく、通年で受講することで、人の発達について理解したうえで、理想の生き方や老い方について考え、発達臨床的な問題に取り組む力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、テキストを使用してワークに取り組む。授業の後半は、視聴覚教材を使用して、実践したワークへの理解を深める。授業では、授業毎にリアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーへのフィードバックは、翌週の講義内で行う。本授業は、対面形式で実施するが、状況に応じてオンライン授業を実施する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要説明
第2回	認知行動療法とは	認知行動療法の基本的な考え方
第3回	認知の歪みに気づく①	できごとの振り返り 気持ちへの点数づけ 心のつぶやきと気分の関連
第4回	認知の歪みに気づく②	心のつぶやきの検証 心のつぶやきの書き換え 心のイメージの修正
第5回	認知の歪みに気づく③	トリプル・カラム 葉っぱのトレーニング シアター鑑賞トレーニング 呼吸法
第6回	行動を変える①	気分と活動のモニタリング 気分と行動の関連 気分の変化チェック
第7回	行動を変える②	先延ばし行動の克服 自分を変えるチャレンジ

第8回	行動を変える③	アクションプラン アクションプランの検証 やってみようことリスト
第9回	心のルールからの解放①	生き方のルール マイルールの検証 ルールのデメリット・メリット
第10回	心のルールからの解放②	心の新ルール 新ルールの証拠
第11回	心のルールからの解放③	人生で大切なことの言語化 気持ちのコントロール マインドフルネス
第12回	認知行動療法の実際①	認知行動療法に関する映像視聴
第13回	認知行動療法の実際②	認知行動療法の事例の紹介
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『心がスッと軽くなる認知行動療法ノート』（福井至・貝谷久宣著、ナツメ社、2015年）必ず、使用する。

【参考書】

『子どもと若者のための認知行動療法ワークブック 上手に考え、気分はスッキリ』（ポール・スタラード著、下山晴彦監訳、金剛出版、2006年）その他、適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（30％）、授業内で実施するワークへの取り組み（50％）、リアクションペーパー（20％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・ワーク課題の提出等のために学習支援システム等を利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic concepts and principles of development, the characteristics of development at each stage. In addition, we will consider the psychological and clinical issues that can arise from birth to death and the support for them.

The goal is to deepen understanding of oneself and those around them based on the content learned in class, and to acquire knowledge for living adaptively.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Term-end examination: 30%, Short reports: 20%, in class contribution: 50%

GEO200LA (地理学 / Geography 200)

地理学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

関戸 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、歴史地理学研究の具体的な事例を検討しながら、その研究手法について学ぶ。地域の歴史的な形成過程を考察するとともに、多様なメディアを活用して、地域社会の諸相を捉えていきたい。

【到達目標】

歴史地理学のアプローチの仕方を理解し、地域に関する地理的な知識を深めること。

地域の歴史的な形成過程について、多角的・多面的に捉える視点を養うこと。

地域を比較する地理学的なアプローチによって、課題を考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用した講義と資料の読解などの演習を組み合わせで行う。

授業資料の配布や課題・コメントの提出は、授業支援システムを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	歴史地理学とは	歴史地理学序説、古代中世の日本図
2	近世の国絵図・伊能図	近世における日本図の系譜
3	京都の都市プランの変容	古代から近世にかけての京都の景観
4	城下町の類型と特色(1)	さまざまな類型と江戸・大坂
5	城下町の類型と特色(2)	北関東の城下町の特徴
6	近世の旅と名所図会	近世の街道と旅に関する情報
7	近代における旅行文化(1)	交通整備と鉄道旅行案内
8	近代における旅行文化(2)	観光地コンテストと温泉案内
9	温泉地の地域的展開(1)	鳥瞰図・紀行文からみた熱海と伊香保
10	温泉地の地域的展開(2)	鳥瞰図・紀行文・絵はがきからみた草津
11	鳥瞰図に描かれた観光地	吉田初三郎の鳥瞰図の特色と場所イメージ
12	山村の生業と空間認識	山村とは何か、生業と民俗、空間認識
13	山村の生業と秘境イメージ	焼畑の実態、秘境イメージの形成
14	試験・まとめと解説	授業内容のまとめ、試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。
配付資料とノートを授業後に読み返し、図表の内容や重要なポイントが理解できたかを確認すること。毎時間の課題に取り組み提出すること。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

関戸明子（2007）『近代ツーリズムと温泉』ナカニシヤ出版
中西僚太郎・関戸明子編（2008）『近代日本の視覚的経験』ナカニシヤ出版
関戸明子（2018）『草津温泉の社会史』青弓社
このほか、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを筆記試験と平常点で評価する。
第14回のまとめに実施する試験50%、毎時間の課題・コメント(50%)

【学生の意見等からの気づき】

新規に担当のため、特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業時間にデジタル・アーカイブにアクセスしたり、資料のPDFや絵図などの画像データを検討したりします。各自、ノートパソコン・タブレットを持参してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course, we will learn about the research method while examining concrete examples of historical geography research.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand characteristics of historic landscapes in Japan.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) examination: 50%, and in class contribution: 50%

GEO200LA（地理学 / Geography 200）

地理学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

朝倉 慎人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東京大都市圏をはじめ、身近な地域でみられる地理的事象が、「なぜそこで」、「なぜそのようなかたちで」展開してきたのかを論理的に考察する。

【到達目標】

日常生活で目にする地理的事象を地理学の視点から論理的に説明する力を習得し、現代社会の諸問題を多角的に分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で資料を配布し、講義を行う。毎回の授業でミニッツペーパーないしは小課題の提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	日常生活の中で訪れるさまざまな場所を事例に、地理学的な見方・捉え方の特徴を大まかに理解する
第2回	都心地区の機能分化	東京の都心地区を事例に、都心地区の機能分化とその背景を考察する
第3回	鉄道会社と郊外化	私鉄による沿線開発を事例に、東京大都市圏における初期の郊外開発の特徴を考察する
第4回	ニュータウンの建設と変容	ニュータウンや団地を事例に、東京大都市圏における大規模住宅開発の特徴を考察する
第5回	インナーシティ問題の都市間比較	国内外の事例と比較して、東京のインナーシティ問題の特徴を考察する
第6回	都市の再生	地方都市の事例に注目して、中心市街地再生の意義と可能性を考察する
第7回	小売業の業態別立地特性	さまざまな小売業の業態別立地特性を考察する
第8回	工業の立地変化	国内の工場開設・閉鎖を事例に、経済のグローバル化と工業の関係を考察する
第9回	周辺型経済と農村	都市との関係に注目して、国内の農村の地域問題を考察する
第10回	農村における地域づくりの実践	国内の農村でみられる地域づくりの実践を理解する
第11回	地域文化と真正性	真正性をめぐる議論に注目し、地域文化なるものを検討する
第12回	観光空間の生産	観光空間を文化論的視点から理解する

第13回 生活空間の観光化と地域社会 日常空間の観光資源化に注目して、ホストの実践と観光空間の関係を考える

第14回 まとめ 講義内容を振り返り、まとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やノートを整理し、わからない用語を調べるとともに、興味を持った参考文献を入手して目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（50%）と授業内課題（ミニッツペーパーないしは小レポート）（50%）によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This course logically considers various geographical phenomena observed in Japan. At the end of the course, students are expected to discuss a wide range of regional and global issues from a geographical perspective. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end reports (50%), short reports and minute papers (50%).

GEO200LA (地理学 / Geography 200)

地理学 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：

片岡 義晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代世界、とりわけ低開発諸国・地域の地域問題について学んでいきます。

【到達目標】

食糧、人口、貧困などの問題を手がかりにして、現代世界の地域・社会問題を学んでいきます。低開発諸国、地域のそれら問題は先進諸国との関係性の中で生じており、授業を通して先進諸国と低開発諸国、諸地域の関係を理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

「発展」から取り残されている地域・国を事例にして、現代世界の地域・社会問題を考えていきます。主としてアジア諸地域を例に挙げて、「発展」の仕組みを、その「裏側」から考えていくつもりです。取り扱うテーマは世界の食料、人口、貧困にかかわる諸問題です。それらの出来事は個別に存在するわけではなく、相互に関連し、問題を複雑化させています。したがって結論や解決策を単純に、かつ安易に見いだすことなどできるはずがありません。現実の「構造」（＝仕組み）を知ることができるようにしていきたいと思います。

【課題等に対するフィードバック方法】

各授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかの疑問点などを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【授業の方法】

講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	世界の食糧問題(1)	先進国と途上国の食料自給率
第2回	世界の食糧問題(2)	食糧輸出国と輸入国
第3回	世界の食糧問題(3)	農業生産性の向上－「緑の革命」－
第4回	世界の人口(1)－人口の趨勢－	人口爆発とその後－2022年、80億人突破－
第5回	世界の人口(2)－二つの人口論－	マルサスとマルクス
第6回	世界の人口(3)－死亡率・出生率変化の検討－	死亡率の急減と出生率低下の緩慢さ
第7回	世界の人口(4)	人口問題と人権
第8回	貧困と援助・協力(1)	世界の貧困－先進国、途上国それぞれに貧困－
第9回	貧困と援助・協力(2)	衛生問題－乳児死亡率の地域差と女性の権利－
第10回	貧困と援助協力(3)	教育の不平等－教育と識字率－
第11回	貧困と援助協力(4)	グローバル・ディアスポラ－難民・移民問題の検討－

第12回 貧困と援助協力(5) ODAと日本、世界の児童労働

第13回 貧困と飢饉 飢饉発生の構造的要因

第14回 まとめ まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「食糧」「人口」「貧困」に関わる報道に目を向けて下さい。それら問題は「なぜ」生じているか、さらにそれら問題が私たちと如何に関連しているのか、それを考えようとして下さい。時間をとって机に向かうことも重要ですが、それら問題を普段から意識することがより重要です。

なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。PowerPointを使用して授業を進めます。

【参考書】

西川 潤 (2008) 『データブック 食料』、同『データブック 人口』、同『データブック 貧困』 いずれも岩波ブックレット。その他は授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験100%で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

慣れないPowerPointを使って授業したこともあり、誤字脱字が多めに多く、ご批判を頂戴しました。また、教材提示の順番が前後してわかりにくいという意見もありました。

2024年度はPowerPoint教材を作成し直しましたが、誤字脱字が未だ多く、反省しきりです。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course is aimed at broadening students' basic knowledge of the current factors of underdeveloped countries and regions. It has three focuses, : 1) food problems, :2) population problems, :3) poverty problems in underdeveloped countries and regions.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to help students understand the structural relationships (political and economic relationships) between developed countries and underdeveloped countries and regions.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

GEO200LA (地理学 / Geography 200)

地理学 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：

片岡 義晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の地域問題に関して、様々な問題群、その構造的要因について学んでいきます。具体的には、日本の地域性、第一次～第五次全国総合開発計画に代表される地域開発政策、同時期に生じた公害問題、地域格差等について検討していきます。

【到達目標】

明治期以降の日本の地域性の形成過程を振り返った上で、日本の高度経済成長期における全国総合開発計画に代表される地域開発政策、公害問題、地域格差等を手がかりにして、日本の地域問題の構造的要因に迫っていきます。多くの場合、それら問題は地域開発政策に代表される政治、経済に関わる要因に規定されています。授業を通して、日本の地域問題は構造的であることが理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

国籍の如何に関わらず、日本居住者は日本のことを「知っている」と思い込んでいます。しかし現代日本の地域・社会問題を「知っている」「理解している」人がどれくらい居るでしょうか。地域居住者の「権利」を侵害するような問題は、いつの時代も、どの地域でも発生しています。発生するように「仕組まれ」ているといわなければなりません。具体例を挙げ、日本の「裏側」から日本の地域・社会問題に迫っていきましょう。

【課題等に対するフィードバック方法】

各授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか疑問点等を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【授業の方法】

講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本の地域性(1)	「裏日本」の形成
第2回	日本の地域性(2)	「裏日本」の役割
第3回	地域格差とその指標(1)	戦後日本の高度経済成長の内実
第4回	地域格差とその指標(2)	経済格差と指標
第5回	様々な格差	様々な格差－女性、高齢者、若者、外国人等－
第6回	日本の地域開発(1)	地域開発前史
第7回	日本の地域開発(2)	全国総合開発計画（全総、新全総、三全総、四全総、グランドデザイン）
第8回	日本のディアスポラ	移民送出し国・日本から、外国人労働者（移民）受入国・日本へ
第9回	地域経済の実態	経済の地域間相互依存

第10回	公害と地域(1)	イタイイタイ病と神岡鉱山
第11回	公害と地域(2)	イタイイタイ病訴訟
第12回	公害と地域(3)	水俣病の「発見」とチッソ
第13回	公害と地域(4)	水俣病訴訟
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の「地域問題」「社会問題」に関わる報道に目を向けて下さい。それら問題は「なぜ」生じているか、それら問題が私たちと如何に関連しているのか、それを考えて下さい。それら問題は「身近」に存在しています。それら問題について普段から関心を持って下さい。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。PowerPointで資料等を提示します。

【参考書】

政野淳子（2013）『四大公害病』中公新書
その他は授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験100%で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

PowerPointに未だ慣れず、誤字脱字が散見されるとの意見を頂戴しました。教材提示の順番が前後してわかりにくいという意見もありました。

2024年度はPowerPoint教材を再構成しましたが、誤字脱字も未だ多く、改善する必要性を痛感しました。気づいたことがあればリアクションペーパーなどでご指摘ください。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire the regional problems in Japan. It has two main focuses,: 1) regional development policies in Japan's high economic growth, :2) as a result environmental pollution problems and regional disparities in Japan.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students understand the structural factors (political and economic factors) of regional problems during the period of Japan's high economic growth.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

GEO200LA (地理学 / Geography 200)

地理学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

関戸 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、歴史地理学研究の具体的な事例を検討しながら、その研究手法について学ぶ。地域の歴史的な形成過程を考察するとともに、多様なメディアを活用して、地域社会の諸相を捉えていきたい。

【到達目標】

歴史地理学のアプローチの仕方を理解し、地域に関する地理的な知識を深めること。

地域の歴史的な形成過程について、多角的・多面的に捉える視点を養うこと。

地域を比較する地理学的なアプローチによって、課題を考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用した講義と資料の読解などの演習を組み合わせで行う。

授業資料の配布や課題・コメントの提出は、授業支援システムを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	歴史地理学とは	歴史地理学序説、古代中世の日本図
2	近世の国絵図・伊能図	近世における日本図の系譜
3	京都の都市プランの変容	古代から近世にかけての京都の景観
4	城下町の類型と特色(1)	さまざまな類型と江戸・大坂
5	城下町の類型と特色(2)	北関東の城下町の特徴
6	近世の旅と名所図会	近世の街道と旅に関する情報
7	近代における旅行文化(1)	交通整備と鉄道旅行案内
8	近代における旅行文化(2)	観光地コンテストと温泉案内
9	温泉地の地域的展開(1)	鳥瞰図・紀行文からみた熱海と伊香保
10	温泉地の地域的展開(2)	鳥瞰図・紀行文・絵はがきからみた草津
11	鳥瞰図に描かれた観光地	吉田初三郎の鳥瞰図の特色と場所イメージ
12	山村の生業と空間認識	山村とは何か、生業と民俗、空間認識
13	山村の生業と秘境イメージ	焼畑の実態、秘境イメージの形成
14	試験・まとめと解説	授業内容のまとめ、試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。
配付資料とノートを授業後に読み返し、図表の内容や重要なポイントが理解できたかを確認すること。毎時間の課題に取り組み提出すること。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

関戸明子（2007）『近代ツーリズムと温泉』ナカニシヤ出版
中西僚太郎・関戸明子編（2008）『近代日本の視覚的経験』ナカニシヤ出版
関戸明子（2018）『草津温泉の社会史』青弓社
このほか、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを筆記試験と平常点で評価する。
第14回のまとめに実施する試験50%、毎時間の課題・コメント(50%)

【学生の意見等からの気づき】

新規に担当のため、特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業時間にデジタル・アーカイブにアクセスしたり、資料のPDFや絵図などの画像データを検討したりします。各自、ノートパソコン・タブレットを持参してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course, we will learn about the research method while examining concrete examples of historical geography research.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand characteristics of historic landscapes in Japan.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) examination: 50%, and in class contribution: 50%

GEO200LA（地理学 / Geography 200）

地理学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

朝倉 慎人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東京大都市圏をはじめ、身近な地域でみられる地理的事象が、「なぜそこで」、「なぜそのようなかたちで」展開してきたのかを論理的に考察する。

【到達目標】

日常生活で目にする地理的事象を地理学の視点から論理的に説明する力を習得し、現代社会の諸問題を多角的に分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で資料を配布し、講義を行う。毎回の授業でミニッツペーパーないしは小課題の提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	日常生活の中で訪れるさまざまな場所を事例に、地理学的な見方・捉え方の特徴を大まかに理解する
第2回	都心地区の機能分化	東京の都心地区を事例に、都心地区の機能分化とその背景を考察する
第3回	鉄道会社と郊外化	私鉄による沿線開発を事例に、東京大都市圏における初期の郊外開発の特徴を考察する
第4回	ニュータウンの建設と変容	ニュータウンや団地を事例に、東京大都市圏における大規模住宅開発の特徴を考察する
第5回	インナーシティ問題の都市間比較	国内外の事例と比較して、東京のインナーシティ問題の特徴を考察する
第6回	都市の再生	地方都市の事例に注目して、中心市街地再生の意義と可能性を考察する
第7回	小売業の業態別立地特性	さまざまな小売業の業態別立地特性を考察する
第8回	工業の立地変化	国内の工場開設・閉鎖を事例に、経済のグローバル化と工業の関係を考察する
第9回	周辺型経済と農村	都市との関係に注目して、国内の農村の地域問題を考察する
第10回	農村における地域づくりの実践	国内の農村でみられる地域づくりの実践を理解する
第11回	地域文化と真正性	真正性をめぐる議論に注目し、地域文化なるものを検討する
第12回	観光空間の生産	観光空間を文化論的視点から理解する

第13回 生活空間の観光化と地域社会 日常空間の観光資源化に注目して、ホストの実践と観光空間の関係を考える

第14回 まとめ 講義内容を振り返り、まとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やノートを整理し、わからない用語を調べるとともに、興味を持った参考文献を入手して目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（50%）と授業内課題（ミニッツペーパーないしは小レポート）（50%）によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This course logically considers various geographical phenomena observed in Japan. At the end of the course, students are expected to discuss a wide range of regional and global issues from a geographical perspective. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end reports (50%), short reports and minute papers (50%).

GEO200LA (地理学 / Geography 200)		
地理学 L C		2017年度以降入学者
サブタイトル：グローバル社会を考える地理学		
前川 明彦		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水3/Wed.3		
単位数：2単位		
その他属性：〈優〉		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の特徴として、俯瞰的に物事を分析できる可能性を有していると思います。それは、学問体系が文理融合かつミクロ、マクロ的に学際化・専門化しているからです。この講義はグローバルゼーションの現代社会の課題を身近に捉え、地理学で考察することが目的です。例えば格差の課題はその背景となる地域社会の変化を産業や経済、政治などからも再考せねばならないと考えるからです。このため、近年、産業がどのように進展し、大都市が生まれ、21世紀には情報・IT革命（今のAIも含めて）とともに、産業の分業や深化、DXなどから、消費・競争社会の中心たる都市も巨大化、深化している。また居住する人々には新たな格差が生じ地域格差も生じています。この流れを、様々な地理学の分野を中心に、俯瞰的に捉え、分析、考察してみようということです。

【到達目標】

身近な問題や課題を論理的に自らみつけ分析することを目標としたい。さらに、その背景や要因などを多様な考え方や地理学的思考やロジックで考え、解決の方向性に活用できることを目指したい。日本もやっと給与が上がりつつあるとはいえ、食品関係に費やす割合を表すエンゼル係数は約25%と他国を圧倒した家計消費になりつつあります。また、円安傾向は海外から見ると格安日本とさえ思われています。こうした背景には、競争社会でゆとりがなくなってきた世界や日本が見えてきます。また、生成AIの急激な進展など今後のAI時代において皆さんはどうすべきでしょうか。問題の解決には知識だけでなく自分の目でみつけ、考え応用するという必要性が突きつけられている気がします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は対面授業の予定である。近年、世界や日本は様々な課題が顕在化、表面化しました。こうしたマクロ的な課題や問題を学際的、地理学的視点から考えていきます。この授業が自分のプラスになるかは自分次第かもしれません。一方的な授業ではなく、基本的には「動画映像＋講義＋GD・GD」になりますが、毎回のALは無理かもしれません。授業資料等はWebclassにアップしますので、授業前には確認してください。また、中間Rは簡易的な都市フィールドワークの基礎として東京の都心部を予定しています。生成AIは大学の方針に準拠して使用可、うまくできるように。ほか添付ファイルなどを参考にしてください。授業開始日までに、内容の詳細や要点を動画等でまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ず確認してください。（仮登録すれば見れるようにしておきます）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	地域とは、グローバルとは何かを身近なことから考える

2	グローバルゼーション・21世紀	コロナで顕在化した世界や日本の課題を概観してみよう。
3	グローバル化と産業	産業や都市はどう発展してきたか 大量生産社会と経済成長をUNIQLOから考えよう。
4	21世紀のボーダレス化と地域社会	21世紀社会の変貌
5	世界から遅れた日本	GAFAM・国際分業・市場先進国か 様々な分野で遅れ始め、安い、動けなくなった日本社会
6	世界の課題を日本から見る1	若者の格差・貧困と地域社会
7	世界の課題を日本から見る2	ブラックバイト・闇バイト
8	世界の課題を日本から見る3	子ども・女性の格差・貧困と連鎖 社会的弱者
9	グローバルゼーションの課題1	雇用とジェンダー、少子高齢化・若い女性はなぜ大都市へ少子高齢化日本
10	グローバルゼーションの課題2	AI/第4次産業革命と格差社会・立地や仕事が変わることに気がつく
11	グローバルゼーションの課題3	データやデータの重要性に気がつく。WHAT? AI/MATSUKO
12	グローバルゼーションの課題4	アジア、アフリカのリープフ
13	グローバルゼーションの課題5	ログと日本 多様性の重要性
14	まとめと解説	環境か経済か カーボンニュートラルで産業が生まれるか
		分断と共生 欧米の分断やウクライナ問題などから考えてみよう
		世界や日本の課題を自ら考え、解決方向性を&最終Rの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近年、世界は大きく変わってきていることに気がつくと思いますか。昨年は世界的な選挙イヤーでしたが、アメリカ大統領が変わるだけで世界は大きく変化しています。政治や経済が社会に与えていることを身近に考えてください。普段から何事にも興味・関心を持ち、最初の一步を踏み出してください。内外のことを特定のネットサイトだけでなく新聞、TV、ネットなどで調べ知識化し、自ら問題を考え応用できるようにしてください。一見何気なしに見ていることも、普段歩いている大学の往復や自宅界隈で新たな発見をしてみてください。また、レポートなどで経験してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にはないが、授業資料等はwebclassにアップしますので、授業前にはダウンロードなどしてください。

【参考書】

授業時やWebclassなどに指示

【成績評価の方法と基準】

原則的には、中間・期末レポート（80%）授業での平常点（コメント、GD等）20%を考えています。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ以降、孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われています。また、多様性やジェンダーを否定する流れから競争社会、格差が進展する可能性もあります。画一化や均一性はイノベーションを生み出しにくいことはすでに明らかになっています。このため、この講義では楽な一方的に話す講義ではなく、多様な意見や考え方を経験するという視点をもとに、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮する方向性でのGDやレポートなどでの簡易的フィールドワークは行ってきました。大半の学生には好評でした。

授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。対面授業ですから、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフル活用するためにもGD・GWなどを試みたいと思います。そして、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。

【学生が準備すべき機器他】

テキストはありませんが、基本教材（パワポ形式）や授出席などでWebclassのシステム等や映像を活用するため、授業時にスマホだけでなく、パソコン等はできたらお願いしたい。ほかの科目も予想されるが、WEB授業等に係るものは用意されたほうが・・・
生成AIに関しては大学の方針に準拠して使用し、習熟してみてください。なお、授業開始日までに、内容の詳細や要点を動画等でまとめてWebclassシステムに上げておきたいと思います。必ず確認してください。（仮登録すれば見れるようにします）

【その他の重要事項】

コロナ以降、孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われています。また、多様性やジェンダーを否定する流れから競争社会、格差が進展する可能性もあります。画一化や均一性はイノベーションを生み出しにくいことはすでに明らかになっています。毎回は無理ですが簡単なGD/GWを考えています。多様な考え方や視野の広がりなどを期待していますので、出会いも含めてみんなで楽しみましょう。

地理学が苦手な人や大学デビューも含めて1人参加でも例年大丈夫です。一方的な授業は教員は楽ですが避けたいのでみんなでALも楽しみましょう。秋学期の地理学LDと合わせて受講することを勧めたい。通年でなくとも構わないが、先に春学期のLCでの問題意識や問題の発見を基礎や理論を理解し、秋学期のLDで知識の応用を目指し、課題解決型講義の方向をともに目指したい。学生の授業アシスタントも予定してますので相談してみてください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course is to discover familiar issues in the world and Japan through geography, and to foster an awareness of these issues.

The purpose of this lecture is to examine the challenges of modern society due to globalization using geography. Specifically, how industry has progressed since the 20th century and large cities were born, and in the 21st century, along with the information and IT revolution (including today's AI), the division of labor and deepening of industry, and digital transformation have caused cities, which are the centers of consumption and competitive society, to grow larger and deeper, creating new disparities among the people who live there, and regional disparities as well. Our goal is to capture, analyze, and consider this trend from a bird's-eye view, focusing on various fields of geography.

Learning activities outside of classroom: Total is 4 hours

Grading Criteria: Term-end exam: 80% Contribution to class: 20%

GEO200LA（地理学 / Geography 200）

地理学 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：21世紀の都市・地域を考える地理学

前川 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期のLCでは、現代社会を学際的かつ俯瞰的な視点もある地理学から一緒に考えていきました。秋学期のこの科目は21世紀以降の世界を都市や地域を中心に地理学ロジックを活かして課題や解決策をとるに考えます。具体的には前半で世界や日本の都市を中心にDXなどの進展から変化する都市、地域社会の変化を政治・経済的側面を地理学的な視点から考えます。後半は日本の都市・地域社会の課題解決を中心にネットワーク、コミュニティなどの視点から方法論などを再検討します。そこから学生自身が多様性のある社会の実現を模索、検討できることを目的としています。地理学を骨子に、アクティブに一緒に考えることを目指します。

【到達目標】

学生が自らの考えをもち行動し、将来的には世界の地域社会の課題を解決する一員になることを到達目標にしている。秋学期のこの講義では、世界的な地域のも視点を広げ、問題意識や相違点や共通点などを見つけ、課題を解決方向へと踏み出したい。このため、新たな世界的な課題を前半で、後半 都市・地域再生を主なテーマとし、学生が、地域社会に関連するコミュニティデザインやソーシャルビジネスなどから、多様性のある様々な問題解決の方向性を示せることを到達目標としたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業の利点を如何にいかすかが問われます。地域再生を軸とした解決方法の事例紹介だけならオンデマンドで十分かもしれませんが。多様な意見や価値観の認識、コミュニケーションスキル等のためにも皆さんと考えていきたいと思います。初めての受講でも心配ありません。教材等は授業支援システムを使う予定です。進め方の基本は「映像＋講義＋GDなど」を考えています。授業アシスタントの人も予定していますので、不安な場合は相談してみてください。なお、生成AIは使用可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	AIの判断する2050の日本・・・TOKYOか地方 四国や能登はなくなる？
2	世界の都市再考	画一化する世界の都市景観
3	日本の課題 都市と地方	人口減少の深刻な意味 TOKYOでもバス・タクシーが足りない 都心だけが残る社会 住とリモートワーク・ワーケーション
4	日本の課題2 新たな産業には？	インバウンドの都市集中とオーバーツーリズム
5	日本の課題3 産業の競争	将来 世界的な半導体、データセンターなどの競争

6	都市再生 1	AKIBAというコミュニティと場の重要性
7	都市再生 2	イタリア、シエナとコミュニティ
8	都市再生 3	失敗から学ぶ コンパクト・スーパーシティの試み
9	都市・地域再生 1	ハロウィンなどイベントとコミュニティ
10	都市・地域再生 2	情報発信と人を呼ぶとは
11	都市・地域再生 3	関係人口と地域へのかかわりかた
12	都市・地域再生 4	コミュニティ再考 新たな試み 仮想空間の地域再生
13	都市・地域再生 5	スタートアップとソーシャルキャピタル論
14	試験 まとめと解説	今後の日本を考える 能登や東日本の災害から何を学んだのか、復興ができたのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ネットやニュースなどから多様な考え方を学んでください。問題をどう解決するかは、さまざまな方法があり、必ずしも1つの方法が正解ではありません。日本はどんどん世界から遅れ始めていることに気が付いていますか。将来の自分が想像できますか、自ら考え、行動する意欲を常に持ち、失敗を恐れずむしろ失敗から学び、前向きになる自分を想像してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にはない 教材関係はWebclassでパワポで原則アップします。

【参考書】

授業時に指示

【成績評価の方法と基準】

中間・期末のレポート試験（80%）、授業での平常点（20%）で総合的に評価する予定でいる。状況により変更の場合などもあり得るかもしれません。

【学生の意見等からの気づき】

中間Rの秋葉原の街歩きは好評でした。いろいろレポートを理由に楽しんでください。また、コミュニケーションの重要性や多様性を知るためのGD/GWも楽しんでくれたようです。授業を居場所としてコミュニティの重要性をフル活用するためにもGD・GWなどを試みた結果、秋から参加で心配していた学生もいましたが。周りの協力もあって心配はありませんでした。今年度も、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコン使用を慣れてください。このため、この授業以外のためにも大学からの貸し出しなどは積極的に申し込んでください。授業支援システム等をかなり利用するので仕様の仕方等に習熟してほしい。また、生成AIに関しては大学の方針に準拠して使用し、習熟してみてください。

【その他の重要事項】

秋から受講でも心配ありません。授業開始日までに、内容の詳細や要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ず確認してください。（仮登録すれば見れるようにします）大学デビューのつもりで新たな柔軟な思考を持ちたいなどの人、1人でも参加したい人も歓迎します。対面授業形式の利点や今後の将来に活かすためにGD・GWなどもします。多様性を考えたり、視野の相違などが目的ですが知り合いを創るためにも楽しみましょう。授業アシスタントの人を予定していますので、1年生などはさまざまな相談をしてみてください。楽かどうかは皆さん次第です。能登半島の災害や世界的課題を考えると、知識だけではなく自ら考え行動することが必要な気がします。

【Outline (in English)】

We will consider issues and solutions geographically from the perspective of cities and regions in the world after the 21st century. Specifically, in the first half, we will consider political and economic aspects of changes in cities and local communities due to developments such as DX, mainly in cities around the world and in Japan, from a geographical perspective. In the second half, we will reexamine methodologies from the perspective of networks and communities, focusing on solving problems in Japanese cities and local communities. The aim is for students to explore and consider ways to create a diverse society. We aim to actively think together using geography as methodology

Learning activities outside of classroom: Total is 4 hours

Grading Criteria: Term-end exam: 70%Contribution to class: 30%

SOC200LA (社会学 / Sociology 200)

社会学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：文化の社会学

松下 優一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文化を社会的な観点から分析・考察するための理論や方法について学ぶ。まずは文化社会学のオーソドックスな概念について具体的に応用しながら理解を深め、そのうえで現代文化を成り立たせている諸条件にかんする主要な研究について学んでいく。これにより、文化を社会学するのに役立つ基本的な視座・着眼点の獲得を目指す。

【到達目標】

・文化を社会的に考察するのに役立つ理論、基本的な着眼点や問題設定などについて理解できる。
・作品（あるいは作家の営み、生産・流通・受容のメカニズムなど）の具体的な特徴を捉え、その社会的文脈性を考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に配布資料を用いて講義形式で進める。毎回のテーマに関するリアクションペーパーないし課題の提出を課す。提出物へのフィードバックは、次回授業の冒頭やまとめの回でいくつかピックアップする形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	文化社会学へのイントロダクション
第2回	遊戯	井上俊『遊びの社会学』を中心に
第3回	欲望	作田啓一『個人主義の運命』を中心に
第4回	記号	R・バルト「神話作用」を中心に
第5回	表象とイデオロギー	マルクス主義的アプローチの系譜
第6回	文化テキストの分析（1）	『君の名は。』を取り上げ、分析・考察を試みる
第7回	文化テキストの分析（2）	『シン・ゴジラ』を取り上げ、分析・考察を試みる
第8回	文化テキストの分析（3）	『この世界の片隅に』を取り上げ、分析・考察を試みる
第9回	文化テキストの分析（4）	『コンビニ人間』を取り上げ、分析・考察を試みる
第10回	メディア文化	ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」を中心に
第11回	文化と卓越化	ブルデュー『ディスタンクシオン』および『芸術の規則』について
第12回	受容と流用	カルチュラルスタディーズの展開
第13回	コンヴァージェンス・カルチャー	参加型文化の時代

第14回 まとめ

授業の振り返りと補足、および課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。課題に取り組むとともに、授業で紹介するテキストや作品を熟読・鑑賞し、自分なりに理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

・井上俊／長谷正人編『文化社会学入門』（ミネルヴァ書房、2010年）
・栗谷佳司／太田健二編『表現文化の社会学入門』（ミネルヴァ書房、2019年）

【成績評価の方法と基準】

各回の提出物（50％）＋期末レポート（50％）
記述の具体性・独自性・妥当性などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の反応を見る限り概ね好評であった。今後も研鑽を重ねたい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course introduces students to the key concepts in sociology of culture and to the ways of thinking about culture in the contemporary world.

[Learning Objectives] By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand key concepts in cultural theory and fundamental approaches of the sociology of culture.
- analyze artworks (artists, cultural production/distribution/reception, and so on) in its social context.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policy] Grading will be decided based on Term-end report(50%) and Short reports(50%).

SOC200LA (社会学 / Sociology 200)

社会学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：現代社会論

松下 優一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学分野の主要な現代社会論について学ぶとともに、現代日本社会に生起する諸々の社会現象について考える。個別・具体的な現象について、歴史的・構造的な視野をもって複層的に捉えつつ、分析・考察を深めるための社会学的想像力を養いたい。

【到達目標】

- ・基本的な現代社会の理論について理解し、具体的な事象に応用し、考察できる。
- ・現代社会において生起する具体的な事象を取り上げ、社会学的に分析・考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に配布資料を用いた講義形式で進める。リアクションペーパー（ないし各回の内容に関する課題）の提出を課す。フィードバックは、次回授業冒頭やまとめの回にて、いくつかの答案をピックアップする形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要説明、初回アンケートほか
第2回	リスク社会論	ベックのリスク社会論の要点と応用
第3回	消費社会論	「〇〇消費」から考える現代社会
第4回	格差社会論	「新しい貧困」をめぐる問題を中心に。
第5回	監視社会論	管理／監視の技術から考える現代社会
第6回	情報社会論	情報技術と社会の関係をどう捉えるか
第7回	再帰的近代化論	ギデンズのモダニティ論を中心に
第8回	現代社会とノスタルジア	『ALWAYS三丁目の夕日』から考える
第9回	ポスト・トゥルース	陰謀論の時代へ？
第10回	排除型社会	包摂型社会から排除型社会へ？
第11回	心理主義化	高度化する自己コントロールと人格崇拜について
第12回	コンプライアンス社会	フラット化する社会と文化について
第13回	アフター・コロナ	コロナ禍から考える現代日本社会
第14回	まとめ	授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。各回のテーマに沿った具体的事例の収集、考察、まとめに取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

本田由紀編『現代社会論—社会学で探る私たちの生き方』（有斐閣、2015年）

【成績評価の方法と基準】

各回の提出物（50％）＋期末レポート（50％）
記述の具体性・妥当性・独自性などを基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果をみる限り、概ね好評であった。今後も研鑽を重ねていきたい。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

This course introduces students to the key concepts of contemporary social theories and to the ways of thinking about current social changes.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand basic approaches and theoretical arguments of contemporary social theories.
- think about social issues (cultural phenomena and so on) in contemporary context.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided based on Term-end report (50%) and Short reports (50%) .

SOC200LA (社会学 / Sociology 200)

社会学 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：政治と社会における「問題の発見」

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では政治と社会に関わる様々な事例を取り上げながら、政治と社会を動かしている原理を理解するとともに隠れている問題の発見に努める。できるだけ具体的な事例を取り上げながら基本的な概念や理論を学び、これらをもとに社会や政治、広くは時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付けることを目指す。問題解決能力は問題を発見する能力とそれを解決する能力に区分できる。問題解決能力の中心は「問題の発見」にある。診断ができなければ治療することもできない医者のように、多くの領域において「問題解決」の主題は「問題の発見」である。この「問題の発見」こそが創造的な問題解決の出発点である。

【到達目標】

- ・基本的な概念や理論を論理的に発表、論述することができる。
- ・具体的な社会現象を複数の概念や理論を駆使して論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能な限り双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的で身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要および受講時の注意点、成績評価の方法
2	基礎概念の理解	C.W・ミルズ『社会学的想像力』を手がかりに社会学の基礎概念を学ぶ
3	「問題の発見」	政治と社会における「問題の発見」の練習として「宝くじ」の歴史と機能、昔話「ウサギとカメの競争」を手がかりにルールや制度が不公平な側面を内包していることを確認する。
4	政策決定と利益	「問題の発見」の実践として、薬害事件を扱ったドキュメンタリー映画『薬に病む一クロロキン網膜症』（小池征人監督、1980）の一部視聴と解説
5	社会的暴力と個人の身体	前回の授業内容の理解を深めるために市村弘正「社会的失明の時代」の一部講読と討論

6	スティグマと社会的統制	社会的スティグマを学ぶための予備的考察として、芥川龍之介「桃太郎」、H・S・ベッカー『アウトサイダーズ』の一部講読
7	スティグマの政治社会学	E・ゴフマン『スティグマの社会学』とS・フェデリリーチ『キャリバンと魔女』の一部講読と討論
8	差別と偏見について	ドキュメンタリー映画『人間の街—大阪・被差別部落』（小池征人監督、1986年）の一部視聴と解説
9	差別と解放について	前回の授業内容の理解を深めるために市村弘正「人間の場所」の一部講読と討論
10	感情と法の関係について	M・ヌスバウム『感情と法』（第2章「嫌悪感と私たちの動物的身体」）の一部講読
11	感情の政治社会学の理解	M・ホルクハイマー、T・アドルノ『啓蒙の弁証法』（「V 反ユダヤ主義の諸要素」）の一部講読と討論
12	個人の選択と社会的選別について	国鉄分割民営化の過程で労働者たちの置かれた状況を描いたドキュメンタリー映画『日本鉄道員物語1987』（小池征人監督、1987）の一部視聴と解説
13	権力と自由の関係について	前回の授業内容の理解を深めるために市村弘正「選択と選別の間」の一部講読
14	期末テストおよび総括	期末テスト（60分）、講評・まとめ（40分）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用いる。

【参考書】

- ・市村弘正・杉田敦（2005）『社会の喪失』中公新書。
- ・杉田敦（2009）『政治への想像力』岩波書店。
- ・マーサ・ヌスバウム（2010）『感情と法—現代アメリカ社会の政治的リベラリズム』（河野哲也監訳）慶應義塾大学出版会。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、平常点（50%）[リアクションペーパー20%＋プレゼンテーショングループワーク30%]

詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In the class, students take up various cases related to politics and society and try to understand the principles that drive politics and society and discover hidden problems. Through these efforts, we aim to become more aware of social, political and, more broadly, contemporary issues, understand their meaning, and develop the ability to think about solutions. Problem solving ability can be divided into the ability to discover a problem and the ability to solve it. The center of problem-solving ability lies in "finding a problem.". In many areas, the subject of "problem solving" is "finding a problem," as in a doctor who cannot be treated without being diagnosed. This "discovery of problems" is the starting point for creative problem solving.

(Learning Objectives)

- ・ You can discover the principles and problems that drive politics and society.

- ・ You can logically present and describe problems you find in your own words. (Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

- ・ Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance. ・ 2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC200LA (社会学 / Sociology 200)

社会学 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：国家暴力の最小化と市民的自由の最大化

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国家の本質、機能、市民の役割などについて学ぶ。具体的には、マックス・ウェーバーによって定義された支配と服従、国家などの概念を手掛かりに、歴史上登場した国家論の変遷と共に「市民」や政治制度の「民主主義」に関する理論を取り上げる。これらを通して受講者自らの「国家」と「市民」、「民主主義」に関する見解と比較してみることで、自らの考え方を少しでも明瞭にすることが目的である。

【到達目標】

- ・国家論の変遷を歴史的な文脈で説明できる。
- ・市民の自由と権利の意義と限界を受講生の経験を踏まえて具体的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要および受講時の注意点、成績評価の方法
2	基礎概念の理解	マックス・ウェーバー『職業としての政治』を手がかりに基礎概念を学ぶ
3	統治術の変化	「誰が統治すべきか」から「如何に統治すべきか」へ
4	国家主義国家論	トマス・ホブズ『リヴァイアサン』の一部講読
5	自由主義国家論（政治的な側面から）	ジョン・ロック『統治二論』の一部講読と討論
6	自由と平等をめぐるルソーの立場	ルソー『人間不平等起源論』、『社会契約論』の一部講読
7	自由主義国家論（経済的な側面から）	アダム・スミス『道徳感情論』と『国富論』の一部講読と討論
8	階級国家論、国家消滅論	カール・マルクス『共産党宣言』の一部講読
9	メディアとナショナリズム	ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』の一講読
10	全体主義について	ハンナ・アーレント、丸山眞男、藤田省三の分析を学ぶ

11	大衆社会論	オルテガ・イ・ガセット『大衆の反逆』、エリック・フロム『自由からの逃走』の一部講読と討論
12	民主主義について	杉田敦『デモクラシーの論じ方』、同『境界線の政治学』の一部講読
13	市民の役割について	宇野重規『〈私〉時代のデモクラシー』の一部講読と討論
14	期末テストおよび総括	期末テスト（60分）、講評・まとめ（40分）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用いる。

【参考書】

マックス・ウェーバー（1919 = 2018）野口雅弘訳「仕事としての政治」『仕事としての学問・仕事としての政治』講談社。
加藤秀治郎・岩淵美克（2013）『政治社会学 第5版』一藝社。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、平常点（50%）[リアクションペーパー 20% + プレゼンテーショングループワーク 30%]

詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn about the nature, function, and role of the nation. Specifically, this paper takes up the theory on "democracy" of "citizen" and political system as well as the transition of state theory which has appeared in history, taking into consideration the concepts of rule, obedience and nation defined by Max Weber. The purpose of this study is to clarify the students' views by comparing them with their own views on "nation," "citizen," and "democracy". (Learning Objectives)

・ The basic concepts of political sociology can be logically presented and discussed in one's own words.

・ The transition of the theory of nation in modern times can be understood in the historical context.

・ To enhance sociological understanding of political conflicts.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson. ・ Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance. ・ 2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature. (Grading Criteria / Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

POL200LA (政治学 / Politics 200)

政治学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：音楽と政治

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：ボブ・ディランと政治

ボブ・ディランとUS政治の関係について考察する。

ボブ・ディランとUS政治の関係について考察することによって現代政治に関する見方を養うことを目指します。

【到達目標】

WW I 以降のUSの政治と社会についての基本的知識を得ること。

音楽を通して政治について考えるようになること。

ボブ・ディランの信仰を考察することによって、ユダヤ教とキリスト教についての基本的な知識を得ることと、宗教と政治の関係について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

交通事情や天候その他の理由でオンライン（Zoom）のみの授業になる時があります。

ただし初回はオンラインのみで授業を行います。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
# 1	Intro.	講義の概要とやり方について
# 2	戦間期のフォークミュージック	フォークミュージックと政治の交錯
# 3	本当のフォークミュージックの追求	ローマックス親子とレッド・ベリー
# 4	プロテスト・フォークミュージックの登場	ウディ・ガスリーを中心に
# 5	マッカーシズムとフォーク・リヴァイバル	ピート・シガーを中心に
# 6	古くて奇妙なアメリカ	ハリー・スミスとコラージュの政治学
# 7	ボブ・ディランの登場	プロテスト・フォークミュージックの政治学
# 8	1965年	USのニュー・レフトとボブ・ディラン
# 9	ピート・ジェネレーション	文学による政治の変容
# 10	カウンターカルチャー	カウンターカルチャーの時代とその後
# 11	The Basement Tapes	Bob Dylan の「古くて奇妙なアメリカ」あるいは「見えない共和国」
# 12	Slow Train Coming	Bob Dylan の改宗とUSの政治と社会

13 Things Have Changed. 終末論とUSの政治と社会

14 Outro. 秋学期の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するプリントを授業の前に目を通し、授業後に復習する。紹介された参考文献を読む。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

湯浅学『ボブ・ディラン ロックの精霊』（岩波新書、2013年）

北中正和『ボブ・ディラン』（新潮新書、2023年）

他の文献・音源・映像は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容に関するレポートで評価。

小レポート 20%、期末レポート 80%

出席は当然であるが、欠席に由来する不利益に関しては何の対応もしません。

【学生の意見等からの気づき】

ポピュラー・ミュージックやロックについての授業ではないことに注意してください。

洋楽についての知識がなくてもかまいませんが、興味・関心を持っていることは必要です。

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば個別にZOOMによるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる機器。

映像・音楽を視聴できる機器。

【その他の重要事項】

ボブ・ディランや「洋楽」についての知識がなくても受講可能です。政治や音楽に関する基本的知識は学生によって差があるので、すべてを授業で提供できません。そこでわからないことや知らないことは教員に尋ねる、あるいは、自分で文献やネットで調べるようにしてください。

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に2時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）を参照してください。

【Outline (in English)】

Theme: Bob Dylan and Politics

【Course outline】

This course deals with the political world of Bob Dylan.

【Learning Objectives】

The fundamental aim of this course is to acquire lens through which contemporary politics can be viewed by considering the political world of Bob Dylan.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire basic knowledge of politics and society of the United States since the Second World War

To acquire basic knowledge of Judaism and Christianity and to understand relationships between politics and religion by considering the religious belief of Bob Dylan.

【Learning activities outside of classroom】

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Read references.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to short reports(20%) and term-end report(80%).

CUA200LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)			第四回	ことばと政治	言語および発話行為と政治に着目した人類学的な研究の展開を概観し、理解を深める。
文化人類学L			第五回	技術と産業の人類学	企業は労働力とモノやサービスの流通の結節点であり、様々な技術が折り重なった複合体として捉えることができる。この授業では人類学における産業および技術の研究を概観しながら、ネットワークとしての産業を捉える視点を提示する。
サブタイトル：			第六回	機械の人類学	人類学における科学技術社会論、特にアクターネットワーク理論で著名なラトゥールの「純化」と「翻訳」「媒介」をめぐる議論を参照しながら、自然と人間と機械をめぐる近代的な認識論について理解を深める。
ベル 裕紀			第七回	都市人類学	その上で動く道具としての機械と製品のオーナーシップに関する議論を参照しながら、機械をめぐる人類学的な研究を概観していく。
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水3/Wed.3			第八回	国民国家とナショナリズム	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。
単位数：2単位			第九回	グローバル化の人類学	A.ゲルナーやB.アンダーソンなどの国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
その他属性：〈優〉			第十回	社会運動論と人類学	人類学のみならず、社会科学におけるグローバル化の理論を概観した上で、グローバル化という現象を政治人類学の文脈に沿って理解する。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			第十一回	人権と人類学	人類学における社会運動研究を概観し、集合的アイデンティティの形成、生活と運動との乖離、「歴史性」といったトピックを学習する。
我々が生きる社会を特徴づける、近代という時代が生み出した政治システムとしての国民国家や人権イデオロギー、労働集約型の産業、統治技法としての人口の管理、あるいはケアと教育のための全制的施設といったテーマについて、様々な対象を取り上げて、人類学的な研究を参照しながら考えていく。それを通じて現代社会についてのみならず、人類学的な社会の見方についてより深い理解に到達することを目的とする。			第十二回	難民の人類学	1945年以降の人類学における人権の捉え方を通時的に把握した上で、近年の人権に関する議論について学習する。
【到達目標】			第十三回	移住労働の人類学	難民という存在をH.アーレントを手がかりに、国民国家を基本とした国際秩序の枠組みの中で捉えた上で、人類学的な難民研究を紹介する。
学生は、授業で取り上げた人類学的な考え方や理論を理解するのみならず、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになる。また、そうした学習を通じて、現代社会に対する理解も今まで以上に深めることになる。			第十四回	まとめ	第十回に引き続き、移住をテーマに学習する。東アジアでは、移民がホスト社会に定着し、永住につながるような受け入れ方ではなく、在留期間と活動に制限を加え、定着しないような形での労働力移入政策を取ることが一般的である。この講義ではその特徴と、その下での移住労働者たちの活動について紹介する。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			文化と権利という視点から、グローバル化、多文化主義、アイデンティティ、人権といった、これまで授業で取り扱ってきた問題を捉え直す。		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
【授業の進め方と方法】			課題を通じて復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。		
講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回アクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。					
また授業に臨むにあたり、比較的短い文章を読んでくるなどの予習課題を課す。受講者には積極的な発言を期待する。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
なし /No					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし /No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
第一回	人類学の射程	人類学は「未開社会」と呼ばれた国家を持たない社会を含む、非西欧社会を対象として発展してきた。しかし、これら古典期の研究は、近代国家や西欧との接触の事実を捨象した形で「伝統」や「文化」を抽出し、それらを本質化してきたと80年代以降、鋭く批判されてきた。現在の人類学は、こうした批判の上に存在する。こうした人類学の歴史を踏まえつつ、同時代を眼差す視点を提示する。			
第二回	贈与と交換の政治経済	D.グレーバーや小田亮の贈与をめぐる議論を手掛かりに、シェアリングや贈与、市場交換、再分配というモノやサービスの流通を「負い目」という観点から捉えなおす。			
第三回	暴力の人類学	暴力や戦争を扱った人類学的な研究を取りあげ、集団の境界や関係について、考察を深めていく。			

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50％、毎回のリアクションペーパー42％、授業への参加度8％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。必要に応じて授業の冒頭に学生の回答を紹介し、応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduce students several anthropological perspectives on modern society, such as Nation-states as a political system, human rights as a modern ideology, population control as technology of governance, and total institutions for educations and health care. Students should understand modern societies as well as anthropological perspectives on societies in general, through this course.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA200LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

文化人類学L

2017年度以降入学者

サブタイトル：宗教と身体的人类学

渡辺 浩平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には私たちにはいっけん不思議に思える多様な宗教実践がある。この授業では、世界各地の多様な宗教実践の事例や、宗教実践を理解するための概念を紹介しながら、「宗教的なもの」について人類学的に考察する。また、私たちの日常生活の様々な側面から宗教を考える。それらを通じて、多様な宗教実践と自身の日常的な体験の間の連続性をとらえる。

【到達目標】

宗教人類学の基本的な視座を習得し、宗教実践の多様性と類似性をとらえる方法を身につける。

世界各地の事例を知り、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。毎回の授業のはじめに、リアクションペーパーのコメントや質問等に応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第2回	人類学とは	宗教を人類学的に考える方法
第3回	呪術	日常生活と呪術の密接なつながり
第4回	アニミズム	アニミズムと自然
第5回	シャーマニズム	自と他
第6回	マルチモーダル人類学	民族誌と映像
第7回	コスモポリティクス	開発と宗教的なもの
第8回	身体①	モノと宗教的なもの
第9回	身体②	音と集合的沸騰
第10回	身体③	身体感覚と霊的経験
第11回	アメリカ先住民ナヴァホの宗教実践①	経済と宗教的なもの
第12回	アメリカ先住民ナヴァホの宗教実践②	国家と宗教的なもの
第13回	アメリカ先住民ナヴァホの宗教実践③	医療と宗教的なもの
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。授業内で資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習のための参考書・文献・資料情報を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業計画は、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There is a wide variety of religious practices that seem strange to us at first glance. This course aims to help students understand the continuity between various religious practices and daily experiences. This course discusses "the religious" from an anthropological perspective, introducing examples of diverse religious practices and concepts for understanding religious practices. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of anthropology of religion. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA200LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

文化人類学L

2017年度以降入学者

サブタイトル：

北原 卓也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、文化人類学で扱われる現在の我々の生活に密接な医療、スポーツ、観光といったトピックについて考える。また、オセアニアという地域に焦点をあて、地域から文化的な事象をみていく。普段、何気なく接している事柄を新たな視点から捉えられるようになることを目指す。

【到達目標】

本講義の到達目標は下記の通り。

- (1)文化人類学で扱われるトピックについて理解する。
- (2)他者の文化との比較から自身の「あたりまえ」を認識し言語化する。
- (3)自身の「あたりまえ」ととらわれない新たな視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づき対面とオンライン組み合わせで行います。

配布するレジュメに沿って講義を行い、扱うトピックによってディスカッションを行うことがあります。

また、映像を視聴することで理解を深める場合もあります。

毎回授業後にはコメントシートの提出していただきます。

提出されたコメントシートは次回授業の冒頭でいくつか紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ：講義の目的と概要	授業の進め方や目的について確認した後、担当教員の研究フィールドの紹介や文化人類学という学問分野について説明する
2	医療	医療を文化の視点から捉えられるようになる
3	スポーツ	スポーツを文化の視点から捉えられるようになる
4	観光	文化現象としての観光を理解する
5	贈与	贈与という行為について身近な事例と世界の事例を比較しながら理解する
6	開発	開発と文化をめぐる諸問題について考察する視点を獲得
7	中間のまとめ	これまでの講義の理解度を確認するため課題に取り組む
8	オセアニアの人類学 1: オセアニアとはどこか	オセアニアの地理と歴史について概観し、各地域の文化の背景を理解する

9	オセアニアの人類学 2：タトゥーを入れる人々	身体変工についてポリネシア地域で見られるタトゥー文化の事例から理解する
10	オセアニアの人類学 3：移動する人々	オセアニアからの移民について理解する
11	オセアニアの人類学 4：ニュージーランドと映画	ニュージーランドの映画の事例から、文化の表象について理解する
12	オセアニアの人類学 5：トンガ王国の祝祭	祝祭についてトンガ王国の戴冠式の事例から理解する
13	オセアニアの人類学 6：現地の声を聞く	これまでの授業を踏まえてオセアニア出身のゲストスピーカーから話を聞く
14	まとめと確認（試験）	今期のまとめとして教場試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定する文献や配布するプリントまたは映像作品に目を通しておくこと。授業後は配布するレジュメを復習し、内容をきちんと理解しておくこと。1回の授業につき、準備・復習は各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

【参考書】

『自分のあたりまえを切り崩す文化人類学入門』、箕曲在弘、大和書房、2024年。

『太平洋諸島の歴史を知るための60章-日本とのかかわり』石森大地・丹羽典生(編)、明石書店、2019年。

『よくわかる文化人類学』、綾部恒雄・桑山敬己(編)、ミネルヴァ書房、2010年。

『オセアニア史』山本真鳥(編)、山川出版会、2000年。

『オセアニアの人類学-海外移住・民主化・伝統の政治』須藤健一、風響社、2008年。

【成績評価の方法と基準】

中間のまとめ：30%、期末試験（またはレポート）：30%、平常点（コメントシート）：40%

2/3以上の出席で評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

他の履修生のコメントシートが気になるという声があったので、復習を兼ねて毎回授業の冒頭に前回のコメントシートの内容を振り返る時間を設ける。

【Outline (in English)】

This course introduce the concept of Cultural Anthropology and its research method as tools to understand different cultures.

The goal of this course are:

- (1) to understand the topics of Cultural Anthropology
- (2) to compare cultures and explain differences between your culture and other culture
- (3) to gain the new point of view

Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term exam (30%), term-end examination or report (40%), and in-class contribution through comment sheets you should submit after each class(30%).

CUA200LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)			第四回	ことばと政治	言語および発話行為と政治に着目した人類学的な研究の展開を概観し、理解を深める。
文化人類学L			第五回	技術と産業の人類学	企業は労働力とモノやサービスの流通の結節点であり、様々な技術が折り重なった複合体として捉えることができる。この授業では人類学における産業および技術の研究を概観しながら、ネットワークとしての産業を捉える視点を提示する。
サブタイトル：			第六回	機械の人類学	人類学における科学技術社会論、特にアクターネットワーク理論で著名なラトゥールの「純化」と「翻訳」「媒介」をめぐる議論を参照しながら、自然と人間と機械をめぐる近代的な認識論について理解を深める。
ベル 裕紀			第七回	都市人類学	その上で動く道具としての機械と製品のオーナーシップに関する議論を参照しながら、機械をめぐる人類学的な研究を概観していく。
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水4/Wed.4			第八回	国民国家とナショナリズム	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。
単位数：2単位			第九回	グローバル化の人類学	A.ゲルナーやB.アンダーソンなどの国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
その他属性：〈優〉			第十回	社会運動論と人類学	人類学のみならず、社会科学におけるグローバル化の理論を概観した上で、グローバル化という現象を政治人類学の文脈に沿って理解する。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			第十一回	人権と人類学	人類学における社会運動研究を概観し、集合的アイデンティティの形成、生活と運動との乖離、「歴史性」といったトピックを学習する。
我々が生きる社会を特徴づける、近代という時代が生み出した政治システムとしての国民国家や人権イデオロギー、労働集約型の産業、統治技法としての人口の管理、あるいはケアと教育のための全制的施設といったテーマについて、様々な対象を取り上げて、人類学的な研究を参照しながら考えていく。それを通じて現代社会についてのみならず、人類学的な社会の見方についてより深い理解に到達することを目的とする。			第十二回	難民の人類学	1945年以降の人類学における人権の捉え方を通時的に把握した上で、近年の人権に関する議論について学習する。
【到達目標】			第十三回	移住労働の人類学	難民という存在をH.アーレントを手がかりに、国民国家を基本とした国際秩序の枠組みの中で捉えた上で、人類学的な難民研究を紹介する。
学生は、授業で取り上げた人類学的な考え方や理論を理解するのみならず、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになる。また、そうした学習を通じて、現代社会に対する理解も今まで以上に深めることになる。			第十四回	まとめ	第十回に引き続き、移住をテーマに学習する。東アジアでは、移民がホスト社会に定着し、永住につながるような受け入れ方ではなく、在留期間と活動に制限を加え、定着しないような形での労働力移入政策を取ることが一般的である。この講義ではその特徴と、その下での移住労働者たちの活動について紹介する。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			文化と権利という視点から、グローバル化、多文化主義、アイデンティティ、人権といった、これまで授業で取り扱ってきた問題を捉え直す。		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
【授業の進め方と方法】			課題を通じて復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。		
講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回アクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。					
また授業に臨むにあたり、比較的短い文章を読んでくるなどの予習課題を課す。受講者には積極的な発言を期待する。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
なし /No					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし /No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
第一回	人類学の射程	人類学は「未開社会」と呼ばれた国家を持たない社会を含む、非西欧社会を対象として発展してきた。しかし、これら古典期の研究は、近代国家や西欧との接触の事実を捨象した形で「伝統」や「文化」を抽出し、それらを本質化してきたと80年代以降、鋭く批判されてきた。現在の人類学は、こうした批判の上に存在する。こうした人類学の歴史を踏まえつつ、同時代を眼差す視点を提示する。			
第二回	贈与と交換の政治経済	D.グレーバーや小田亮の贈与をめぐる議論を手掛かりに、シェアリングや贈与、市場交換、再分配というモノやサービスの流通を「負い目」という観点から捉えなおす。			
第三回	暴力の人類学	暴力や戦争を扱った人類学的な研究を取りあげ、集団の境界や関係について、考察を深めていく。			

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50％、毎回のリアクションペーパー42％、授業への参加度8％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。必要に応じて授業の冒頭に学生の回答を紹介し、応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduce students several anthropological perspectives on modern society, such as Nation-states as a political system, human rights as a modern ideology, population control as technology of governance, and total institutions for educations and health care. Students should understand modern societies as well as anthropological perspectives on societies in general, through this course.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA200LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

文化人類学L

2017年度以降入学者

サブタイトル：死と傷／悼みの人類学

菊池 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人は死をどのようなものと捉え、それにいかに向き合ってきたか。どのように死者を悼み、新たな関係性に置かれた自分を生きようとしてきたか。本授業では、死と悲嘆・喪に関する人類学的研究を概観しながら主要な理論や概念について学ぶとともに、世界の諸地域に見られる、死の観念、葬送儀礼、喪の様式の多様性を把握する。また、現代社会における死や看取りのあり方、追悼・哀悼をめぐる諸問題について、人類学的な視点から考える力を養う。死別の経験が、生き残った者の甦生の萌芽を宿していることを学ぶ。

【到達目標】

- ・死や悲嘆・喪をめぐる人々の多様な実践について、人類学的に理解することができる。
- ・現代社会における死や悲嘆・喪に関する問題について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・講義を基本とする。
- ・必要に応じて映像資料なども用いながら、理解を深める。
- ・毎回の授業後には、リアクションペーパーの提出をしていただく。提出されたリアクションペーパーは、次回授業の冒頭でいくつか紹介しながら、フィードバックを行う。
- ・授業に臨む前に、事前に指示した課題文献を読むなど、予習課題を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要などの確認、担当教員の研究フィールドの紹介
第2回	死と喪の人類学説史 I（～1980年代）	デュルケム的な構造機能主義を反映した、初期の人類学的研究
第3回	死と喪の人類学説史 II（1990年代～）	個人的な経験としての死別、既存の宗教的・文化的な喪の方法が適用し難い死、生者による死者への応答としての喪
第4回	死の観念	世界各地の様々な死の観念
第5回	葬送儀礼	世界各地の様々な葬送・埋葬の儀礼
第6回	悲嘆と喪	死者を悼むこと
第7回	中間のまとめ	前半の講義の理解度の確認を兼ねて、関連する民族誌を読み解く課題に取り組む
第8回	現代社会における死	自然災害や紛争などによる大量死や、脳死、孤独死など
第9回	看取り・死とケア	看取りと死をめぐるとケアの実践・文化
第10回	（エスノ・）ナショナルな追悼実践	国家や共同体による追悼実践

第11回	人々の哀悼実践	人々の日々の哀悼実践
第12回	異形の死と向き合う	遺体が見つからないような、既存の喪の方法を用いることが困難な死（者）とどう向き合うか
第13回	文化人類学者と死別の経験	死別の経験と研究との関係
第14回	まとめ	授業内容のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習：事前に指示された課題文献を読み、理解したことや疑問点などをまとめる。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献を各自の関心に応じて読み進めながら、授業の理解を深める。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・特に指定しない。
- ・原則、事前に講義レジュメを配布する。
- ・必要に応じて、関連する文献を紹介し、学習支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介するが、参考になるものを以下に挙げる。

- ・内堀基光、山下晋司1986『死の人類学』弘文堂。
- ・北村毅2009『死者たちの戦後誌—沖縄戦跡をめぐる人々の記憶』御茶の水書房。
- ・川村邦光2013『弔い論』青弓社。
- ・デヴィッド・サドナウ1992『病院でつくられる死』岩田啓靖・志村哲郎・山田富秋（共訳）せりか書房。
- ・野田正彰1992『喪の途上にて』岩波書店。
- ・P.メトカーフ、R.ハンティントン1996『死の儀礼：葬送習俗の人類学的研究〔第二版〕』池上良正、池上富美子（訳）未來社。
- ・Rosaldo, R. 2014. The Day of Shelly's Death: The Poetry and Ethnography of Grief. Durham & London: Duke University Press.

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（40％）：リアクションペーパー、中間のまとめの課題等。
- ・学期末レポート（60％）：未提出の場合、原則E評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通しておいて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

講義レジュメ・関連資料の配布、課題等の提出は、学習支援システムを通じて行う予定。

【その他の重要事項】

- ・学期末レポートが未提出の場合、原則E判定とする。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】

The aim of this course introduces the Anthropology of Death, Mourning and Burial. The goal of this course is to learn anthropological theories and concepts about death, and the rituals of mourning and the forms of burial. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final report: 60%(in case of no submission would be E grade), in class contribution:40%.

CUA200LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

文化人類学L

2017年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 浩平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には私たちにはいっけん不思議に思える多様な宗教実践がある。この授業では、世界各地の多様な宗教実践の事例や、宗教実践を理解するための概念を紹介しながら、「宗教的なもの」について人類学的に考察する。また、私たちの日常生活の様々な側面から宗教を考える。それらを通じて、多様な宗教実践と自身の日常的な体験の間の連続性をとらえる。

【到達目標】

宗教人類学の基本的な視座を習得し、宗教実践の多様性と類似性をとらえる方法を身につける。
世界各地の事例を知り、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。
毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。毎回の授業のはじめに、リアクションペーパーのコメントや質問等に応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第2回	人類学とは	宗教を人類学的に考える方法
第3回	呪術	日常生活と呪術の密接なつながり
第4回	アニミズム	アニミズムと自然
第5回	シャーマニズム	自と他
第6回	マルチモーダル人類学	民族誌と映像
第7回	コスモポリティクス	開発と宗教的なもの
第8回	身体①	モノと宗教的なもの
第9回	身体②	音と集合的沸騰
第10回	身体③	身体感覚と霊的経験
第11回	アメリカ先住民ナヴァホの宗教実践①	経済と宗教的なもの
第12回	アメリカ先住民ナヴァホの宗教実践②	国家と宗教的なもの
第13回	アメリカ先住民ナヴァホの宗教実践③	医療と宗教的なもの
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。
人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。授業内で資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習のための参考書・文献・資料情報を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業計画は、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There is a wide variety of religious practices that seem strange to us at first glance. This course aims to help students understand the continuity between various religious practices and daily experiences. This course discusses "the religious" from an anthropological perspective, introducing examples of diverse religious practices and concepts for understanding religious practices. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of anthropology of religion. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA200LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

文化人類学L

2017年度以降入学者

サブタイトル：ラテンアメリカ地域文化入門

相田 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わたしたちが暮らす日本から、ちょうど地球の反対側に位置するラテンアメリカ。日常生活ではあまりなじみのない世界かもしれませんが、そこにはびっくりするほど多様で、面白い生活を営んでいる人々がいます。

この授業では、彼ら、ラテンアメリカの人びとの暮らしを国別に見ていくことで、彼らがしている生活はどのようなものか、彼らから学ぶことができることは何か、一緒に考えていきます。

【到達目標】

- 1) 世界は広く、驚くほど多様な文化があることを実感を持って理解すること。
- 2) 異文化の人について、生活者の目線から理解できるようになること。
- 3) 日本ではなじみが薄いラテンアメリカ地域の文化や社会について基本となる知識を身につけること。
- 4) グループワークなどを通じて、他者とともに学ぶ経験を積み、その能力を向上させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1) 授業では、まず冒頭に前回授業の内容確認のために小テストを行います。
- 2) その後、その日のテーマとなっている国の概要を、あらかじめ決めた履修者のグループから発表してもらいます。
- 3) その後、教員からテーマとなっている国の人々の生活を知る手がかりとなるようなトピックを紹介します。
- 4) 提示されたトピックについて理解を深めるため、ディスカッションや、クイズ、ワークショップなどから2～3個程度のグループワークを行います。
- 5) 最後にまとめを行います。

※履修者のコメントや質問等については授業内で適宜取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：異文化理解の方法とは何か？	この授業の概要を説明するとともに、異文化理解の方法について講義を行います。
2	ラテンアメリカの概要を知る：世界最初の「グローバル」化	ラテンアメリカの概要について「グローバル化」をキーワードに解説します。
3	ラテンアメリカの人々を知る：多様な人々が住む世界	ラテンアメリカの人々について「多様性」をキーワードに解説します。

4	ペルー：浮島を作って暮らす人々から学ぶ	ペルーのチチカカ湖で生きる人々の生活について、日本の生活との比較を交えながら想像することを試みます。
5	ボリビア：精霊たちと暮らす方法	ボリビアのアンデス地域における精霊信仰について、日本の生活との比較を交えながら想像することを試みます。
6	メキシコ：「落書き」で世界を表現する	メキシコにおけるグラフィティや壁画の実践をトピックに、実際にグラフィティ制作を体験しながら学びます。
7	ベネズエラ：隠れた石油大国の音楽	ベネズエラの音楽文化をトピックに、実際にベネズエラ音楽を体験しながら学びます。
8	キューバ：革命ってどんなもの？	革命後のキューバに生きる人の生活について理解した上で、政治と日常の関係について議論します。
9	ブラジル：熱帯雨林の生活を想像する	ブラジルのアマゾン地域における人と動物の関係について学びつつ、その関係性を想像してみます。
10	アルゼンチン：海を渡った「ニホンジン」と彼らの挑戦	アルゼンチンに渡った日本人について知るとともに、その足跡を次世代につなげるための方法を考えます。また次回授業に向けて準備をします。
11	日本：日本のラテンアメリカ人を訪ねて	ラテンアメリカから日本に来た方をゲストとして招き、講演を行います。
12	レポート課題の執筆計画を立てる	期末レポートの執筆計画を立て、グループで話し合います。
13	レポート課題の草稿をピアレビューする	期末レポートの草稿を持ち寄り、グループでピアレビューします。
14	まとめ：世界は広い、そして多様である	授業の内容を再び「多様性」や「生活」などといったキーワードから振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
- 2) コメントペーパーを授業後に毎回提出する必要があります。また、毎回の授業冒頭で、前回の授業内容についての小テストを行うので、復習が求められます。
- 3) 授業では、グループごとに国の基本情報を調べて発表することになるので、相応の負担があることを理解しておいてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は必要としません。

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー 25%（各回の授業後に200字以上のコメントをLMSを通じて提出）

小テスト 25%（各回の授業冒頭で前回授業の内容について小テストを実施）

授業内グループ発表 20%（グループごとに国の基本情報を調べて発表）

期末レポート 30%（選択した国の生活について3000字程度のレポートを提出）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

1) 授業中にWordを使うことがあるので、PC・タブレット等を用意し、Wordのアプリをダウンロードしておいてください。

2) 本授業の受講に際して、文化人類学・ラテンアメリカ地域についての事前知識は必要ありませんが、レポート作成に必要な基本技能はあらかじめ身につけている必要があります。

【その他の重要事項】

- 1) 本授業は、グループワークや自主研究を中心にしたアクティブラーニング型の講義となるので、この点を理解した上で履修してください。
- 2) 授業では、グループごとに国の基本情報を調べて発表することになるので、相応の負担があることを理解しておいてください。
- 3) 履修生が多い場合、課題についての個別のフィードバックは行えない場合があります。また、授業成果物については、教育に活かすため、今回／今後の授業で他の履修生と共有される場合があります。

【Outline (in English)】**【Course Outline】**

Latin America lies on the opposite side of the world from Japan, making it a region that may feel unfamiliar. However, it is home to a fascinating and diverse range of cultures and lifestyles.

This course explores everyday life in different Latin American countries. By learning about their customs and experiences, students will gain insights into how people live in this region and what we can learn from them.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will:

- Develop an appreciation for the vast cultural diversity of the world.
- Learn to understand other cultures from the perspective of everyday life.
- Acquire foundational knowledge about Latin American societies and cultures.
- Improve their ability to learn collaboratively through group work.

【Course Format】

Each class follows this structure:

- A short quiz reviewing the previous session.
- A student group presentation on the country of the day.
- A lecture introducing key aspects of daily life in that country.
- Interactive activities such as discussions, quizzes, or workshops.
- A summary and closing discussion.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Expect about two hours of preparation and review per session.

A short reflection paper (comment paper) is required after each class.

Weekly quizzes will test knowledge of previous sessions.

Students will conduct research and present on assigned countries in groups.

【Grading Criteria】

- Comment Papers: 25%(200+ words submitted via LMS after each class)
- Quizzes: 25%(weekly short tests on past lessons)
- Group Presentation: 20%(research and presentation on a country)
- Final Report: 30%(approximately three A4 pages on daily life in a selected country)

CUA200LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

文化人類学L

2017年度以降入学者

サブタイトル：死と傷／悼みの人類学

菊池 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人は死をどのようなものと捉え、それにいかに向き合ってきたか。どのように死者を悼み、新たな関係性に置かれた自分を生きようとしてきたか。本授業では、死と悲嘆・喪に関する人類学的研究を概観しながら主要な理論や概念について学ぶとともに、世界の諸地域に見られる、死の観念、葬送儀礼、喪の様式の多様性を把握する。また、現代社会における死や看取りのあり方、追悼・哀悼をめぐる諸問題について、人類学的な視点から考える力を養う。死別の経験が、生き残った者の甦生の萌芽を宿していることを学ぶ。

【到達目標】

- ・死や悲嘆・喪をめぐる人々の多様な実践について、人類学的に理解することができる。
- ・現代社会における死や悲嘆・喪に関する問題について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・講義を基本とする。
- ・必要に応じて映像資料なども用いながら、理解を深める。
- ・毎回の授業後には、リアクションペーパーの提出をしていただく。提出されたリアクションペーパーは、次回授業の冒頭でいくつか紹介しながら、フィードバックを行う。
- ・授業に臨む前に、事前に指示した課題文献を読むなど、予習課題を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要などの確認、担当教員の研究フィールドの紹介
第2回	死と喪の人類学説史 I（～1980年代）	デュルケム的な構造機能主義を反映した、初期の人類学的研究
第3回	死と喪の人類学説史 II（1990年代～）	個人的な経験としての死別、既存の宗教的・文化的な喪の方法が適用し難い死、生者による死者への応答としての喪
第4回	死の観念	世界各地の様々な死の観念
第5回	葬送儀礼	世界各地の様々な葬送・埋葬の儀礼
第6回	悲嘆と喪	死者を悼むこと
第7回	中間のまとめ	前半の講義の理解度の確認を兼ねて、関連する民族誌を読み解く課題に取り組む
第8回	現代社会における死	自然災害や紛争などによる大量死や、脳死、孤独死など
第9回	看取り・死とケア	看取りと死をめぐるとケアの実践・文化
第10回	（エスノ・）ナショナルな追悼実践	国家や共同体による追悼実践

第11回	人々の哀悼実践	人々の日々の哀悼実践
第12回	異形の死と向き合う	遺体が見つからないような、既存の喪の方法を用いることが困難な死（者）とどう向き合うか
第13回	文化人類学者と死別の経験	死別の経験と研究との関係
第14回	まとめ	授業内容のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習：事前に指示された課題文献を読み、理解したことや疑問点などをまとめる。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献を各自の関心に応じて読み進めながら、授業の理解を深める。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・特に指定しない。
- ・原則、事前に講義レジュメを配布する。
- ・必要に応じて、関連する文献を紹介し、学習支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介するが、参考になるものを以下に挙げる。

- ・内堀基光、山下晋司1986『死の人類学』弘文堂。
- ・北村毅2009『死者たちの戦後誌—沖縄戦跡をめぐる人々の記憶』御茶の水書房。
- ・川村邦光2013『弔い論』青弓社。
- ・デヴィッド・サドナウ1992『病院でつくられる死』岩田啓靖・志村哲郎・山田富秋（共訳）せりか書房。
- ・野田正彰1992『喪の途上にて』岩波書店。
- ・P.メトカーフ、R.ハンティントン1996『死の儀礼：葬送習俗の人類学的研究〔第二版〕』池上良正、池上富美子（訳）未來社。
- ・Rosaldo, R. 2014. The Day of Shelly's Death: The Poetry and Ethnography of Grief. Durham & London: Duke University Press.

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（40％）：リアクションペーパー、中間のまとめの課題等。
- ・学期末レポート（60％）：未提出の場合、原則E評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となりま
す。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に
目を通しておいて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

講義レジュメ・関連資料の配布、課題等の提出は、学習支援システムを通じて行う予定。

【その他の重要事項】

- ・学期末レポートが未提出の場合、原則E判定とする。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】

The aim of this course introduces the Anthropology of Death, Mourning and Burial. The goal of this course is to learn anthropological theories and concepts about death, and the rituals of mourning and the forms of burial. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final report: 60%(in case of no submission would be E grade), in class contribution:40%.

CUA200LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

文化人類学L

2017年度以降入学者

サブタイトル：開発と文化の人類学

石森 大知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、開発人類学、すなわち開発援助および国際協力のテーマを文化人類学の視点から取り上げる。現在、世界の各地で、2015 年に国連で定められた「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けたさまざまな取り組みが実施され、その成果や有効性に関する調査・研究も進んでいる。21 世紀において人類に課せられた課題は数多くあるが、貧困撲滅、健康向上（国際保健）、環境問題などへの対処は重要である。本授業では、これらの同時代的なグローバル・イシューを通して、開発とローカルな社会・文化・環境の持続的共存関係について考察する。

【到達目標】

- ・文化人類学、とくに開発人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる他者理解の洞察力を身に付ける。
- ・同時代的なグローバル・イシューを理解するとともに、開発とローカルな社会・文化・環境の持続的共存関係について自らの視点から考察・検討を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・本授業は「フルオンデマンド型／資料・教材コンテンツ配布型授業（全 14 回）」です。履修生のみなさんには主に学習支援システムを通して配信される授業レジュメや動画等の資料を用いた学習を行っています。

・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、基本的に毎回、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。

・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	開発概念と関連理論①	開発の誕生
第3回	開発概念と関連理論②	社会開発への転換
第4回	開発援助と ODA、そして人類学者	開発援助とのかかわり方
第5回	貧困撲滅の取り組み①	貧しい／豊かとは何か

第6回	貧困撲滅の取り組み②	マイクロファイナンス
第7回	健康な生活①	プライマリヘルスケア
第8回	健康な生活②	感染症対策と DOTS
第9回	森林開発と環境問題①	近代化と環境破壊
第10回	森林開発と環境問題②	ソロモン諸島の植林事業
第11回	温暖化と環境言説①	ツバルの「海面上昇」
第12回	温暖化と環境言説②	ツバルの浸水被害と海岸浸食
第13回	観光開発と自然環境	エコツーリズムを考える
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や開発人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学修・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。

信田敏宏ほか編『グローバル支援の人類学—変貌する NGO・市民活動の現場から』昭和堂、2017 年。

佐藤寛・藤掛洋子編『開発援助と人類学—冷戦・蜜月・パートナーシップ』明石書店、2011 年。

佐藤寛『開発援助の社会学』世界思想社、2005 年。

青柳まちこ編『開発の文化人類学』古今書院、2000 年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E 評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムや動画閲覧サービス等を利用します。

【その他の重要事項】

- ・本授業は、大人数授業抽選科目（＝指定された期間に ILAC 事務局にて抽選を行い、受講者が決定される科目）となります。
- ・本授業では授業コメント（リアクションペーパー）や学期末レポートの提出を課しますが、生成 AI ツールは使用しないでください。
- ・学期末レポートにおいては、出典の明示を徹底してください（詳細についてはレポート作成要領において説明しますが、出典が明示されていない場合は評価対象外となることがあります）。
- ・本学では成績評価における S の割合を受講者の 20% 以内を目安とすることを定めており（ただし少人数授業等を除く）、本授業でもこれに従って評価を行います。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システム等で周知します。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces the fundamentals of development anthropology, which seeks to apply anthropological perspectives to the multidisciplinary field of development studies. The aims of the course are to provide a basic knowledge of development anthropology and to understand the impact of development on local culture, environment and society.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students will have an understanding of global issues and their own opinions on the sustainable coexistence of development and local societies, cultures and environments.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

SOS200LA (その他の社会科学 / Social science 200)

社会思想 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では在日朝鮮人の歴史と文化を学びます。日本と朝鮮半島（南北）の近現代史の諸関係から生み出され、この3ヶ国のはざまにあって日本で存在しているコリアンが在日朝鮮人という存在です。この授業では3ヶ国の近現代史をふまえながら、在日朝鮮人のアイデンティティーのありかた、その詩や文学、映画や音楽、芸能などの作品世界を学びます。

【到達目標】

テキストや講義を通して日本や朝鮮半島の近現代史を理解することができる

テキストや講義を通して在日朝鮮人に対する正確な理解を持つことができる

テキストや講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業の講義形態で授業を行います。受講生は各授業とも疑問、コメントなどのリアクションをする必要があり、それに対して授業時に応答していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、学ぶ内容、学ぶ方法、成績評価の方法などについてガイダンスを行います
2	導入	在日朝鮮人という存在
3	発生	日本の近代と在日朝鮮人の発生
4	定着化	定着化と二世の誕生
5	運動	さまざまな運動
6	コミュニティ	朝鮮人コミュニティの変容
7	強制動員	戦時下の在日朝鮮人
8	戦後	占領政策
9	帰国	帰国運動
10	二世（1）	二世たちの挑戦
11	二世（2）	転換期の思想と文化
12	グローバル化（1）	多民族化する日本社会
13	グローバル化（2）	国民の論理を超えて
14	まとめ	在日朝鮮人と日本の進む道

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに指定するテキスト数十ページを事前に読んでおくことと授業の理解の助けになります。本授業の準備学習・復習時間は、各1～2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に説明します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

授業後に提出するリアクションペーパー10回分を平常点として50%の成績評価を行います。

各ペーパーの評価基準としては、各回の授業ごとに、主題を理解し、その内容を自らの言葉によって解釈し、表現していることとします。さらに学期末の期末レポートを残りの50パーセントとし、合計100%として成績評価を行います。期末レポートの評価基準としては、授業内容を正確に理解し、それを自分の言葉で表現できていることとします。

いずれにしても、リアクションペーパーと期末レポート両者を提出する必要があります。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で、他の受講生の疑問、質問、コメントなどが紹介されることで授業の理解が深まるので、このような相乗効果が起こるよう、授業中に実践していきます。

【Outline (in English)】

This course introduces the history and cultures of the Korean residents in Japan to students taking this course. They are also called Korean minority in Japan or ZAINICHI in Japanese. The aim of this course is to guide students acquire an understanding of the modern history of ZAINICHI Koreans and a variety of their identities, poetry, literature, movies, music, and some other cultural works.

SOS200LA（その他の社会科学 / Social science 200）

社会思想 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では在日朝鮮人の歴史と文化を学ぶことを目的とする。日本と朝鮮半島（南北）の近現代史の諸関係から生み出され、この3ヶ国のはざまにあって日本で存在しているコリアンが在日朝鮮人という存在である。この授業では3ヶ国の近現代史をふまえながら、在日朝鮮人のアイデンティティーのありかたを様々な社会思想と連関させて学ぶことを目的としている。

【到達目標】

テキストや講義を通して日本や朝鮮半島の近現代史を理解することができる。

テキストや講義を通して在日朝鮮人に対する正確な理解を持つことができる。

在日朝鮮人の在り方を現代思想の視点から理解することができる。

テキストや講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。各回の授業を進めるごとに毎回コメントを提出してもらい、それに対して授業の中でフィードバックしていく。（基本的には対面授業だが、特別な事情が生じた場合のみオンライン授業を行うこともある。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについて説明
2	導入（1）	在日朝鮮人という存在
3	導入（2）	歴史的背景
4	在日一世とは何か	植民地朝鮮から日本へ
5	在日二世とは何か	日本での定住化、二世論の誕生
6	金時鐘（キム・シジョン）を読む	朝鮮と日本に生きる（1）
7	金時鐘を読む（2）	朝鮮と日本に生きる（2）
8	ベネディクト・アンダーソン（1）	「想像の共同体」とは何か（1）
9	ベネディクト・アンダーソン（2）	「想像の共同体」とは何か（2）
10	在日三世のカフカ	カフカと在日朝鮮人の共通平面を考える
11	ピエール・クルストル	『国家に抗する社会』とは何か（1）
12	ピエール・クルストルを読む（1）	『国家に抗する社会』とは何か（2）
13	マルクスを読む（2）	生産様式と交換様式について（1）

14 マルクスを読む（2）生産様式と交換様式について（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。具体的には準備学習としてテキストの指定した箇所を事前に読んでおくこと、また復習としては講義内容を振り返り、参考文献を読み進めるなどのことができる。

【テキスト（教科書）】

第1回のガイダンス時に説明する。

【参考書】

その他の参考資料については授業中に指定、配布する。

【成績評価の方法と基準】

各授業後に提出してもらう授業レビューシート10回分を（50％）とし、

さらに期末レポート1回分を（50％）とし、合わせて100パーセントとして成績評価を行う。この両者を提出することで成績評価を行う。評価の基準としては授業内容を正確に理解していること、その理解内容を自分の言葉で表現できていることとする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This class aims to learn about the history and culture of Koreans in Japan. In this class, students will learn about the identity of Koreans in Japan and the world of works such as poetry, literature, movies, music, and performing arts, based on the modern history of Korea and Japan relation.

The standard time for preparation and review for taking classes is two hours each. Specifically, it is possible to read the specified parts of the text in advance as preparation study, and to review the lecture contents and read the reference materials as review.

Grades will be evaluated based on 10 comments (50%) submitted after each class, plus one final report (50%).

SOS200LA（その他の社会科学 / Social science 200）

社会思想 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

林 嵩文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、18世紀ドイツの哲学者イマヌエル・カントの著作『永遠平和のために』を丹念に読解することを目指します。この著作は国際平和論の古典としてよく知られていますが、その内容は平和論だけに尽きるものではありません。カントはこの著作で、自由とは何か、国家とは何か、法とは何か、政治と道德の関係をどうあるべきかといった原理的な問題に対する独自の解答を提示しています。そのロジックを紐解いていくと同時に批判的に思考していくことがこの授業の目的です。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りです。

- (1) 抽象的な思想体系を具体的な事例に適用して説明できるようになる。
- (2) 特定の著作の背景をなしている思想史的議論の蓄積を知ること、社会思想・政治思想の全体の流れを説明できるようになる。
- (3) 授業で得た知識を用いて、国際平和にまつわる様々な問題を分析し、それらに対する自分の立場を説明・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。ただし、毎回コメントカードを提出していただき、その次の授業でそのコメントについてのレスポンスを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義全体の概要および成績評価についての説明
第2回	『永遠平和のために』の背景	時代背景とカント哲学の概要
第3回	『永遠平和のために』第1章①	平和とは何か、他国の併合の禁止
第4回	『永遠平和のために』第1章②	常備軍廃止、戦時国債発行の禁止
第5回	『永遠平和のために』第1章③	内政不干渉、戦争における卑劣な行為の禁止
第6回	『永遠平和のために』第2章①	カントにおける共和主義
第7回	『永遠平和のために』第2章②	国際法の基礎としての「平和連合」
第8回	『永遠平和のために』第2章③	世界市民法と植民地主義
第9回	『永遠平和のために』補説	カントの歴史観
第10回	『永遠平和のために』付録1①	道德とは何か
第11回	『永遠平和のために』付録1②	道德にかなった政治はいかなるものか

第12回 『永遠平和のために』 法の公表性と抵抗権の否定
付録2①

第13回 『永遠平和のために』 法の公表性と戦争の権利
付録2②

第14回 まとめと課題説明 講義全体のまとめとレポート課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。予習・復習については、(1) 教科書の指定した範囲を熟読し、(2) 毎回の講義後にその内容についてコメントカードを執筆・提出すること。

【テキスト（教科書）】

カント『永遠平和のために』宇都宮芳明訳（改版）、岩波書店（岩波文庫）、2009年。

【参考書】

講義内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（受講態度とコメントカード、30%）と期末課題（レポート、70%）で成績を評価します。なお、講義内での不要な私語がなされる場合、期末課題の提出を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用するための情報機器（パソコン、スマートフォン、タブレット）を準備してください。

【その他の重要事項】

授業に関連する質問は、授業後もしくは初回授業で案内するメールアドレスで受け付けます。

【Outline (in English)】

The course aims to read critically "Zum ewigen Frieden", written by Immanuel Kant. Students will get clues to think about central issues of society and politics, for example freedom, state, right, and the relation of politics and moral.

SOS200LA（その他の社会科学 / Social science 200）

社会思想 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

林 嵩文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、18世紀フランスの哲学者ジャン＝ジャック・ルソーの著作『社会契約論』を丹念に読解することを目指します。この著作は人民主権論あるいは民主主義論の古典としてよく知られていますが、その内容は単なる政治制度論ではありません。ルソーはこの著作で、独自の人間観を前提としたうえで、その人間同士が「正しい」秩序を作り上げるためにはどのような仕掛けが必要なのかを徹底的に考察しています。そのロジックを紐解いていくと同時に批判的に思考していくことがこの授業の目的です。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りです。

- (1) 抽象的な思想体系を具体的な事例に適用して説明できるようになる。
- (2) 特定の著作の背景をなしている思想史的議論の蓄積を知ること、社会思想・政治思想の全体の流れを説明できるようになる。
- (3) 授業で得た知識を用いて、人民主権の制度化にまつわる様々な問題を分析し、それらに対する自分の立場を説明・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。ただし、毎回コメントカードを提出していただき、その次の授業でそのコメントについてのレスポンスを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義全体の概要および成績評価についての説明
第2回	『社会契約論』の背景	時代背景とルソーの思想の概要
第3回	『社会契約論』1.1～1.6	社会契約の概念
第4回	『社会契約論』1.7～1.9	社会契約のメリット
第5回	『社会契約論』2.1～2.6	一般意志、主権、法の概念
第6回	『社会契約論』2.7	「立法者」とは何か
第7回	『社会契約論』2.8～2.12	法律の種類と人民の性質
第8回	『社会契約論』3.1～3.3	政府の概念
第9回	『社会契約論』3.4～3.10	政府の種類とその良し悪しを決める基準
第10回	『社会契約論』3.11～3.18	主権を維持する手段、および代表制の否定
第11回	『社会契約論』4.1～4.3	投票について
第12回	『社会契約論』4.4～4.7	共和政ローマとルソーの政治思想

第13回	『社会契約論』4.8	社会の基礎としての「市民宗教」
第14回	まとめと課題説明	講義全体のまとめとレポート課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。予習・復習については、(1)教科書の指定した範囲を熟読し、(2)毎回の講義後にその内容についてコメントカードを執筆・提出すること。

【テキスト（教科書）】

ルソー『社会契約論』桑原武夫・前川貞次郎訳、岩波書店（岩波文庫）、1954年。

【参考書】

講義内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（受講態度とコメントカード、30%）と期末課題（レポート、70%）で成績を評価します。なお、講義内での不要な私語がなされる場合、期末課題の提出を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用するための情報機器（パソコン、スマートフォン、タブレット）を準備してください。

【その他の重要事項】

授業に関連する質問は、授業後もしくは初回授業で案内するメールアドレスで受け付けます。

【Outline (in English)】

The course aims to read critically "Du contract social", written by Jean-Jacques Rousseau. Students will get clues to think about central issues of society and politics, for example freedom, citizen, popular sovereignty, representation.

GEO200LA（地理学 / Geography 200）

地理学Ⅱ E

2017年度以降入学者

サブタイトル：

呉羽 正昭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生は、観光・ツーリズムに関する地理学の一般的概念を学びます。観光地理学を理解するために必要な諸概念（観光・ツーリズムの概念や構造など）、さまざまな地域スケールでツーリズムに関する特徴について理解します。また、ツーリズムの時間的・地域的展開みられる諸特徴と問題点、将来の課題について、日本における具体的な地域事例とともに理解します。

【到達目標】

この授業は、観光の概念および観光地理学の方法論を習得すること、環境と観光・ツーリズムとの関係について、日本におけるツーリズムの地域的特徴について理解することを目標とします。ツーリズムやさらにそれを取り巻く生活・文化に関する地域的特色の理解を通じて、広い視野で現代社会を主体的に考察する視点を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。準備学習のまとめに使用するとともに、意見・質問の記入も含めて講義内容に関する課題をまとめてもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義テーマの概説
第2回	観光・ツーリズムの概念 —観光やツーリズムとは何か？	観光やツーリズムとは何かを解説します
第3回	観光・ツーリズムの構造 —観光・ツーリズムの要素と構造	観光・ツーリズムの要素や構造を解説します
第4回	観光地理学の概念 —概念および方法論	観光地理学の概念および方法論を解説します
第5回	観光地域の変容プロセス —モデルの解説	モデルに基づいて観光地域の変容プロセスを解説します
第6回	観光・ツーリズムの変遷 —古代～マストゥリズム時代～新しいツーリズムの出現	ツーリズムの変遷について解説します
第7回	エコツーリズムの発展プロセス	エコツーリズムの発展プロセスを解説します
第8回	エコツーリズムの特徴と展望 —西表島や屋久島などにおけるエコツーリズム	西表島や屋久島などの事例をもとにエコツーリズムの特徴や課題を解説します

第9回	日本の避暑ツーリズムの地域的展開	避暑の地域的展開に関して解説します
第10回	日本の湯治・温泉ツーリズムの地域的展開	湯治・温泉ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第11回	日本のルーラル・ツーリズムの地域的展開	ルーラル・ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第12回	日本のスキー・ツーリズムの地域的展開 —明治期～高度経済成長期	明治期から高度経済成長期までのスキー・ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第13回	日本のスキー・ツーリズムの地域的展開 —バブル期以降	バブル期以降のスキー・ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第14回	まとめ	全体のまとめと総括をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回、次回講義のトピックに関する課題を出すので、既存文献やインターネットなどで自ら予習して準備します。また、講義中に示された参考文献等で講義内容の理解を深めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】

岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣。
溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房。
（財）日本交通公社編 2004『観光読本第2版』東洋経済新報社。
真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社。
ピアス, D. 著, 内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店。
江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版。
呉羽正昭 2017『スキーリゾートの発展プロセス：日本とオーストラリアの比較研究』二宮書店。
矢ヶ崎典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018『グローバリゼーション 縮小する世界』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを期末試験と平常点で評価します。期末試験の評価割合は全体の60%です。毎時間の講義内容の理解度を問う復習課題と次回の講義内容に関する予習課題等の記載内容をそれぞれ評価して平常点（全体の40%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

【Outline (in English)】

Students can study basic concept of geography related to tourism. Students can understand various concepts necessary for understanding geography of tourism (concepts and structures of tourism and sightseeing, etc.) and features related to tourism on various regional scales. In addition, Students learn various features, problems and future challenges of tourism that encompasses it, while understanding specific regional examples in Japan.

At the end of the course, students are expected to understand the methodology of tourism geography and the regional characteristics of tourism in Japan.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60% and Short reports: 40%.

GEO200LA（地理学 / Geography 200）

地理学 L F

2017年度以降入学者

サブタイトル：

加賀美 雅弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義はヨーロッパの地理的特徴を食と景観に着目して考察する。前半は、ヨーロッパの食が自然環境と社会によって規定されてきたことを、いくつかの食材に着目して検討し、社会の格差について考える。後半は、ヨーロッパの街並みに着目して、国民と社会の関係について検討する。

【到達目標】

食と景観に着目し、歴史的、空間的に形成されてきたヨーロッパの社会の格差や階層を理解することによって、ヨーロッパという地域を地理学的な視点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われる。基本的にはパワーポイントを使用し、配布資料とあわせて講義内容の理解をはかる。また、毎時間に課すリアクションペーパーで学習内容の理解度を確認し、その総括を次の授業で解説する。また、出された質問に対する回答も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の全体像および進め方を説明する。
第2回	世界の食の地域差	自然・文化・社会と食の関係を考える。
第3回	ヨーロッパの食の地域差	自然と社会と食の関係を考える。
第4回	ヨーロッパにおける貧困層と食	社会的弱者をトウモロコシとジャガイモから考える。
第5回	ヨーロッパにおける富裕層と都市	産業化によって出現した富裕層と都市との関わりについて考える。
第6回	ヨーロッパにおける富裕層と食	都市の社会的強者をカフェを事例にして考える。
第7回	中間まとめ（試験を含む）	授業内容を整理し、ヨーロッパの食と自然・社会についての理解を確認する。
第8回	統合の個性化のヨーロッパ	EUによるヨーロッパ統合と諸地域の個性化について考える。
第9回	ヨーロッパの都市の構造	旧市街を中心にしたヨーロッパの都市構造について考える。
第10回	ヨーロッパにおける街並みの形成	19世紀ヨーロッパの都市における街並み整備の特徴とその理由について考える。
第11回	ヨーロッパにおける街並みの保存	都市において維持・復元される街並みの特徴と、その理由について考える。
第12回	ヨーロッパにおける外国人の街並み	増加する外国人の街並みについて考える。

第13回 ヨーロッパにおける街並みをもたないローマについて考える。

第14回 最終まとめ（試験を含む） 授業内容を整理し、ヨーロッパの街並みと国民、社会との関わりについての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、テキストを読んで内容を整理しておく。復習として、授業で学んだ内容をテキストを読み直してまとめる作業を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『食で読み解くヨーロッパー地理研究の現場から』 加賀美雅弘著、朝倉書店、3000円

【参考書】

『国境で読み解くヨーロッパー境界の地理紀行』 加賀美雅弘著、朝倉書店、3000円

【成績評価の方法と基準】

第7回の中間まとめに実施する試験33%、第14回の最終まとめに実施する試験：33%、授業中に課すリアクションペーパーの内容：34%

【学生の意見等からの気づき】

授業内で行うリアクションペーパーに授業に関する質問や意見を記載することによって、その内容をできるだけ次の授業に反映させる。

【Outline (in English)】

This lecture examines the geographical characteristics of Europe by focusing on food and landscape. In the first half, we will examine the fact that European food has been determined by the natural environment and society, focusing on some ingredients, and consider social disparities. In the second half, we will focus on the streetscape of Europe and examine the relationship between nation and society. The goal of the course is to understand the disparities and hierarchies of European society that have been historically and spatially formed. Your overall grade in the class will be decided based on the following, examinations taken in the 7th class (33%) and in the last class (33%), and reaction paper in every class (34%)

MAT100LA（数学 / Mathematics 100）

教養数学 A

2017年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むために I」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第2回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第3回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第4回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。
第5回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第6回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。

第7回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第8回	代数系	群構造について学ぶ。
第9回	群の理論の応用	オイラーの定理について学ぶ。
第10回	連立合同式	異なる周期をもつ2つの事柄について考える。
第11回	連立合同式	異なる周期をもつ3つ以上の事柄について考える。
第12回	整数の理論の応用	2つの素数の積について調べる。
第13回	整数の理論の応用	RSA暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第14回	整数の理論の応用	計算の効率について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価(100%)する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学B

2017年度以降入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第2回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第3回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつながりについて考える。
第4回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第5回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第6回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。
第7回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。

第8回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第9回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第10回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。
第11回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第12回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第13回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第14回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価(100%)する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA（数学 / Mathematics 100）

教養数学 A

2017年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第2回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第3回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第4回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。
第5回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第6回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。

第7回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第8回	代数系	群構造について学ぶ。
第9回	群の理論の応用	オイラーの定理について学ぶ。
第10回	連立合同式	異なる周期をもつ2つの事柄について考える。
第11回	連立合同式	異なる周期をもつ3つ以上の事柄について考える。
第12回	整数の理論の応用	2つの素数の積について調べる。
第13回	整数の理論の応用	RSA暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第14回	整数の理論の応用	計算の効率について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価(100%)する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学B

2017年度以降入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第2回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第3回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつながりについて考える。
第4回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第5回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第6回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。
第7回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。

第8回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第9回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第10回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。
第11回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第12回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第13回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第14回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価(100%)する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学 A

2017年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもって、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入り組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	論理的な文章を練習する。
第3回	整数の性質	整数について確認する。
第4回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第5回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第6回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第7回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第8回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第9回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第10回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第11回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第12回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第13回	さまざまな応用	置換でアマダクジを作る。
第14回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学B

2017年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第3回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第4回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第5回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第6回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第7回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第8回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第9回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第10回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第11回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第12回	さまざまな応用	黄金比との関係
第13回	マルコフ3数	マルコフ3数の定義と例
第14回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の2部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学 A

2017年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもって、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	論理的な文章を練習する。
第3回	整数の性質	整数について確認する。
第4回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第5回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第6回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第7回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第8回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第9回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第10回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第11回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第12回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第13回	さまざまな応用	置換でアマダクジを作る。
第14回	さまざまな応用	社会数理への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学B

2017年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第3回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第4回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第5回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第6回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第7回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第8回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第9回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第10回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第11回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第12回	さまざまな応用	黄金比との関係
第13回	マルコフ3数	マルコフ3数の定義と例
第14回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の2部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学 A

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことは	論理的な文章を練習する。
第3回	整数の性質	整数について確認する。
第4回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第5回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第6回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第7回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第8回	さまざまな応用	効率的な着回し法を学ぶ。
第9回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第10回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第11回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第12回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第13回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。

第14回 さまざまな応用 結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80% , Short reports 20%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学B

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことは	文章の記号化を練習する。
第3回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第4回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第5回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第6回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第7回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第8回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第9回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第10回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第11回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第12回	包除原理	重なり合った集合の大きさ。
第13回	ネイピア数	有限のものを無限で近似する。
第14回	さまざまな応用	プレゼント交換で成功する回数。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80% , Short reports 20%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学 A

2017年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率の算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 **RSA** の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 **RSA** の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々の整数の計算についてその計算量を考察する。
第3回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第4回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第5回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第6回	整数の表現	2進数について学ぶ。
第7回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第8回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第9回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第10回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第11回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第12回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第13回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価(100%)する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学B

2017年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第3回	安定マッチング1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第4回	安定マッチング2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算することで、安定マッチング問題を理解する。
第5回	課題提出1	最初の課題を与える。
第6回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。
第7回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える。

第8回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する。
第9回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明。
第10回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する。
第11回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する。
第12回	練習問題	GSアルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える。
第13回	2 番目の課題	2 番目の課題を与える。
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価(100%)する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学 A

2017年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率の算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 **RSA** の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 **RSA** の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々の整数の計算についてその計算量を考察する。
第3回	ユークリッドの互除法1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第4回	ユークリッドの互除法2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第5回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第6回	整数の表現	2進数について学ぶ。
第7回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第8回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第9回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第10回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第11回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第12回	RSA 公開鍵暗号1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第13回	RSA 公開鍵暗号2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価(100%)する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学B

2017年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第3回	安定マッチング1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第4回	安定マッチング2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算することで、安定マッチング問題を理解する。
第5回	課題提出1	最初の課題を与える。
第6回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。
第7回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える。

第8回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する。
第9回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明。
第10回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する。
第11回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する。
第12回	練習問題	GSアルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える。
第13回	2 番目の課題	2 番目の課題を与える。
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価(100%)する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学 A

2017年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に行うことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 **RSA** の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 **RSA** の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々な整数の計算についてその計算量を考察する。
第3回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第4回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第5回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第6回	整数の表現	2進数について学ぶ。
第7回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第8回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第9回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第10回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第11回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第12回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第13回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価(100%)する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学B

2017年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第3回	安定マッチング1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第4回	安定マッチング2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算することで、安定マッチング問題を理解する。
第5回	課題提出1	最初の課題を与える。
第6回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。
第7回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える。

第8回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する。
第9回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明。
第10回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する。
第11回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する。
第12回	練習問題	GSアルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える。
第13回	2 番目の課題	2 番目の課題を与える。
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価(100%)する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学 I

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	Σ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎1	微分とは
第3回	微分の基礎2	導関数の計算
第4回	微分の基礎3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎4	微分の線形性
第6回	微分の基礎5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ3	関数の極限
第11回	関数のグラフ4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ5	さまざまな関数
第13回	応用1	マクローリン展開
第14回	応用2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学 I

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。提出課題は返却して評価をフィードバックする。課題の回収や返却は授業支援アシスタントが行うことがある。重要な連絡には学習支援システムを利用することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	Σ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

クラス分けが廃止されたことで時限によって受講人数の偏りが大きく、人数の多いクラスでは授業運営に苦慮した。1年生と2年生以上で参加度や習熟度に格差が感じられた。1年生は安定感があったのに対して2年生以上は個人差が大きかった。1年生が中心的な授業で少数の上級生によって全体の質が低下するのが悩ましかった。試験日が定期試験期間の最終日であったため、答案の受領から成績の提出まで非常に短く感じられた。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。提出課題は返却して評価をフィードバックする。課題の回収や返却は授業支援アシスタントが行うことがある。重要な連絡には学習支援システムを利用することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎1	微分とは
第3回	微分の基礎2	導関数の計算
第4回	微分の基礎3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎4	微分の線形性
第6回	微分の基礎5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ3	関数の極限
第11回	関数のグラフ4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ5	さまざまな関数
第13回	応用1	マクローリン展開
第14回	応用2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの履修生が春学期からの継続だったため、授業方法や評価方法に理解があった。その代償に緊張感を維持するのが難しく、最終到達度には個人差が拡大したように感じられた。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学 I

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	Σ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎1	微分とは
第3回	微分の基礎2	導関数の計算
第4回	微分の基礎3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎4	微分の線形性
第6回	微分の基礎5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ3	関数の極限
第11回	関数のグラフ4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ5	さまざまな関数
第13回	応用1	マクローリン展開
第14回	応用2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学 I

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	Σ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎1	微分とは
第3回	微分の基礎2	導関数の計算
第4回	微分の基礎3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎4	微分の線形性
第6回	微分の基礎5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ3	関数の極限
第11回	関数のグラフ4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ5	さまざまな関数
第13回	応用1	マクローリン展開
第14回	応用2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学 I

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。提出課題は返却して評価をフィードバックする。重要な連絡には学習支援システムを利用することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	Σ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

クラス分けが廃止されたことで時限によって受講人数の偏りが大きく、人数の多いクラスでは授業運営に苦慮した。1年生の履修生は学習意欲や習熟度に安定感があり、対面授業や演習課題の重要性を再認識した。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。提出課題は返却して評価をフィードバックする。重要な連絡には学習支援システムを利用することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎1	微分とは
第3回	微分の基礎2	導関数の計算
第4回	微分の基礎3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎4	微分の線形性
第6回	微分の基礎5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ3	関数の極限
第11回	関数のグラフ4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ5	さまざまな関数
第13回	応用1	マクローリン展開
第14回	応用2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

クラス分けが廃止されたことで時限によって受講人数の偏りが大きく、1時限は過少傾向があった。平均的な出席人数は3～4名に過ぎず、人数が少ないクラスも授業がしづらいことに気づいた。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学 I

2017年度以降入学者

井沼 学

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	Σ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

井沼 学

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎1	微分とは
第3回	微分の基礎2	導関数の計算
第4回	微分の基礎3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎4	微分の線形性
第6回	微分の基礎5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ3	関数の極限
第11回	関数のグラフ4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ5	さまざまな関数
第13回	応用1	マクローリン展開
第14回	応用2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学 I

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。提出課題は返却して評価をフィードバックする。課題の回収や返却は授業支援アシスタントが行うことがある。重要な連絡には学習支援システムを利用することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	Σ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微積分分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度まで1年生に関しては経営学部だけが受講対象であったが、本年度から法文営国環キ6学部に拡大して開講することになった。昨年度はクラス分けが廃止されたことで時限によって受講人数の偏りが大きく、人数の多いクラスでは授業運営に苦慮した。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。提出課題は返却して評価をフィードバックする。課題の回収や返却は授業支援アシスタントが行うことがある。重要な連絡には学習支援システムを利用することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎1	微分とは
第3回	微分の基礎2	導関数の計算
第4回	微分の基礎3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎4	微分の線形性
第6回	微分の基礎5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ3	関数の極限
第11回	関数のグラフ4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ5	さまざまな関数
第13回	応用1	マクローリン展開
第14回	応用2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度まで1年生に関しては経営学部だけが受講対象であったが、本年度から法文営国環キ6学部に拡大して開講することになった。昨年度はクラス分けが廃止されたことで時限によって受講人数の偏りが大きく、授業運営に苦慮した。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：素粒子から宇宙まで

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀末から20世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで見られる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義の全体について紹介する。
第2回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第3回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第4回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第5回	空中での物体の運動	空気抵抗と、それが物体の運動に与える影響について解説する。
第6回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第7回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力の法則について解説する。
第8回	惑星の運動	万有引力の法則の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第9回	スペースシャトルや人工衛星の運動	人工衛星などの地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第10回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。

第11回	熱の法則と熱効率	熱に関係する法則と熱効率について解説する。
第12回	気体の法則、絶対零度	気体の法則について解説する。
第13回	気体分子の運動と温度	気体分子の運動と温度の関係、そして熱の正体について解説する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through physical phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：素粒子から宇宙まで

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の1つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば21世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章 < 20世紀以降の物理学 >	講義の全体について紹介する。
第2回	光の性質 〈波動性と粒子性〉	光が示す、波の性質や太陽電池にも関係する粒子の性質について解説する。
第3回	光の性質 〈二重性〉	ミクロの世界に起こる不思議な現象について紹介する。
第4回	原子の構造 〈電子の発見〉	ランプから発せられる光の波長に関する法則や、電子の発見に至る研究について解説する。
第5回	原子の構造 〈原子核の発見〉	原子の構造について解説する。
第6回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第7回	核分裂反応と核融合反応	核分裂反応と核融合反応について、そしてそれらの応用について解説する。
第8回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第9回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の1つである超新星爆発について解説する。

第10回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。
第11回	クォークとレプトン	現在の万物の基となる素粒子であるクォークとレプトン、更には現在未発見の素粒子について解説する。
第12回	宇宙の進化	138億年間における宇宙の進化の過程について解説する。
第13回	宇宙の大規模構造と宇宙論	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造、そして現在の宇宙論について解説する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントや資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics such as the universe and elementary particles that research has developed since the 20th century. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through the phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究が進められている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものかを紹介する。本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	授業全体の内容を紹介する。
第2回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する。
第3回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する。
第4回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する。
第5回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する。

第6回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する。
第7回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する。
第8回	摩擦力と空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようなになるか解説する。
第9回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する。
第10回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する。
第11回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する。
第12回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する。
第13回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する。
第14回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第13回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(約50%)と小テスト(約50%)により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the basic knowledge of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the Newton's laws of motion and universal gravitation
- ・ Explain the motion of falling objects and the similarity to the revolution of the moon
- ・ Describe the scientific definition of the work and energy
- ・ Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・ Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学 B

2017年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象やその背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して、学生は、現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。

秋学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第14回授業においてその講評や解説を行う。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第2回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの自然現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第3回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第4回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第5回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第6回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する
第7回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第8回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第9回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する

第10回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第11回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第12回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第13回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する。
第14回	まとめと試験	秋学期のまとめを行うとともに、試験を実施する。 また、これまでに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、秋学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms and the structure of atoms in terms of the electron orbits
- ・ Explain how to confirm the existence of the atomic nucleus by experiments
- ・ Explain the beginning and evolution of the universe

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end exam (70%) and usual performance score (30%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：身近な物理学

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、我々の身の回りの力や運動に関係する現象と、それらを支配している法則（ニュートンの法則）について、歴史的側面を概観しながら解説する。

・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

・我々の身の回りで起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序章(1)	自然科学全般の研究対象と、本講義で学ぶ対象との関係について学ぶ。
2	序章(2)	ミクロな世界（原子）からマクロな世界（宇宙）まで、自然界の階層性について理解する。
3	天界の法則と地上の法則(1)	天体のみかけの運動を天動説、地動説それぞれの立場で説明し、その長所・短所を理解する。
4	天界の法則と地上の法則(2)	地球から見た太陽と惑星の位置関係を利用して、惑星運動の法則が得られることを理解する。
5	天界の法則と地上の法則(3)	落体の運動にみられる法則性を理解する。
6	運動法則(1)	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を理解する。
7	運動法則(2)	万有引力の法則について理解する。
8	運動法則(3)	運動量やエネルギーの意味とそれらが保存されていることを理解する。
9	色々な運動(1)	等速度運動、等加速度運動など、運動の基本的な記述の仕方を学ぶ。

10	色々な運動(2)	空気抵抗がある場合などのより現実的な落下運動について考える。
11	色々な運動(3)	バネの運動や、スポーツにおける色々な運動について考える。
12	色々な運動(4)	乗り物に乗っているときや自転している地球上での運動について考える。
13	色々な運動(5)	宇宙における天体の運動や地球外の天体に向かうための力学的条件について考える。
14	まとめ	物体運動の予言性（決定論・非決定論）について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配付資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。
・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】

・「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著（サイエンス社、2013）
・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）
・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」 アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、平常点を30%、期末試験の結果を70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of Newtonian mechanics, which are very fundamental filed of physics.

At the end of the course, students are expected to understand how motions around themselves, in the universe, etc. are explained from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：熱と光

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（気象、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。

・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。

・適時、理解度を確認するための課題を出題する。

・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序章	講義の概要を理解する。
2	熱現象(1)	熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
3	熱現象(2)	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
4	熱現象(3)	生命活動のエネルギー源、および熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
5	熱現象(4)	熱現象を微視的に理解することを考える。
6	波	波動一般についてその基礎的事項を学ぶ。
7	波としての光(1)	光の屈折や分散という性質について学ぶ。
8	波としての光(2)	光の回折や干渉という性質について学ぶ。
9	粒子としての光(1)	物の色と温度との関係について学ぶ。
10	粒子としての光(2)	光電効果、原子スペクトルの意味とその特徴について学ぶ。
11	原子のモデル	原子が光を放出したり吸収したりする性質を説明するための、原子モデルについて考える。

12	物の色と光(1)	光による現象・風景や物の色の例として、空の色、照明などについて学ぶ。
13	物の色と光(2)	天体の色やオーロラの発光について学ぶ。
14	太陽エネルギー	太陽から発生しているエネルギーと地球との関係を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配布資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。

・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】

・「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著（サイエンス社、2013）

・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）

・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、平常点を30%、期末試験の結果を70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of physics related to thermal phenomena, light, atoms, etc.

At the end of the course, students are expected to understand how various phenomena around us, such as heat, mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探求することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシミュレーションで説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

講義形式の対面授業を行う。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。小テストなどの課題のフィードバックは授業中に行う。授業自体が面白い動画（目標はYouTubeの動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第2回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第3回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。

第4回	投げたボールの未来を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第5回	勢いがつくと止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第6回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときに感じる慣性力を理解する。エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第7回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	
第8回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第9回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第10回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第11回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第12回	相対論的ダイエツト法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第13回	ダイエツトしても重くなる	動くと物体の質量が増加することを学ぶ。
第14回	宇宙をもっと楽しもう・まとめと解説	春学期の授業のまとめと解説をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力が自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。

本授業の準備学習は1時間、復習は3時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポイントスライド）のpdfファイルを学習支援システムで公開する。教材中の図・表やレジュメなどを印刷したものを配布する予定である。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男(編著) 講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第1巻、第2巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論のABC 福島肇(著) 講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

定期試験は実施せずに、授業時間内に行う小テスト（70%、毎回実施）とコメントシート（30%、小テストの用紙に記入）で評価する。小テストでは自筆ノートと配布物の参照を認める。欠席時の小テストやコメントシートを後日提出することはできない。平常評価を行うため、単位認定には授業回数の2/3以上の出席が必要である。やむを得ない理由による1、2回の欠席が成績評価に大きく影響しないように評価方法を工夫する。小テストは、授業に参加して（見て聞いて）いれば容易に解答できるような問題とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【Outline (in English)】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. There will be no regular exams, but grades will be evaluated based on quizzes (70%) and class participation (comment sheets, 30%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学 B

2017年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる宇宙の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくはない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に係る身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。

講義形式の対面授業を行う。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペントプレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。小テストなどの課題のフィードバックは授業中に行う。授業自体が面白い動画（目標はYouTubeの動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ミクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子や素粒子について学ぶ。
第2回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第3回	昼間の空は青いのに夕焼けが赤いのはなぜか	波動の基本を学ぶ。
第4回	粒子は波である	光のスペクトルと極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第5回	スカスカの物質をつかめるワケ	電気と磁気の基本を学ぶ。
第6回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。

第7回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第8回	宇宙空間への入り口	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第9回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第10回	太陽がくしゃみをすると地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第11回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第12回	太陽の一生	恒星の誕生と進化について学ぶ。
第13回	我々は宇宙の子だ	超新星爆発や中性子星・ブラックホールについて学ぶ。
第14回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持とう。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。本授業の準備学習は1時間、復習は3時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポイントスライド）のpdfファイルを学習支援システムで公開する。教材中の図・表やレジュメなどを印刷したものを配布する予定である。

【参考書】

・高校の物理基礎・物理の教科書
・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男(編著) 講談社ブルーバックス
・もういちど読む数研の高校物理 第1巻、第2巻 数研出版
・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
・物理科学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎(監修) 共立出版
・物理科学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎(監修) 共立出版
・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

pdfファイル：

<https://www.gakushuin.ac.jp/881791/radbookbasic/>

【成績評価の方法と基準】

定期試験は実施せずに、授業時間内に行う小テスト（70%、毎回実施）とコメントシート（30%、小テストの用紙に記入）で評価する。小テストでは自筆ノートと配布物の参照を認める。欠席時の小テストやコメントシートを後日提出することはできない。平常評価を行うため、単位認定には授業回数の2/3以上の出席が必要である。やむを得ない理由による1、2回の欠席が成績評価に大きく影響しないように評価方法を工夫する。小テストは、授業に参加して（見て聞いて）いれば容易に解答できるような問題とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅インターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【Outline (in English)】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. There will be no regular exams, but grades will be evaluated based on quizzes (70%) and class participation (comment sheets, 30%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究が進められている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものかを紹介する。本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。最終授業で、13回までの講義内容のまとめと復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	授業全体の内容を紹介する。
第2回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する。
第3回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する。
第4回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する。
第5回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する。

第6回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する。
第7回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する。
第8回	摩擦力と空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようなになるか解説する。
第9回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する。
第10回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する。
第11回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する。
第12回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する。
第13回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する。
第14回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第13回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(約50%)と小テスト(約50%)により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the basic knowledge of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the Newton's laws of motion and universal gravitation
- ・ Explain the motion of falling objects and the similarity to the revolution of the moon
- ・ Describe the scientific definition of the work and energy
- ・ Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・ Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)	
入門物理学 B	2017年度以降入学者
サブタイトル: 原子から宇宙まで	
井坂 政裕	
開講時期: 秋学期授業/Fall 曜日・時限: 水3/Wed.3	
単位数: 2単位	
その他属性: 〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象やその背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して、学生は、現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。

秋学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第14回授業においてその講評や解説を行う。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第2回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの自然現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第3回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第4回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第5回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第6回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する
第7回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第8回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第9回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する

第10回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第11回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第12回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第13回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する。
第14回	まとめと試験	秋学期のまとめを行うとともに、試験を実施する。 また、これまでに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、秋学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms and the structure of atoms in terms of the electron orbits
- ・ Explain how to confirm the existence of the atomic nucleus by experiments
- ・ Explain the beginning and evolution of the universe

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end exam (70%) and usual performance score (30%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：素粒子から宇宙まで

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀末から20世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで行き起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義の全体について紹介する。
第2回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第3回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第4回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第5回	空中での物体の運動	空気抵抗と、それが物体の運動に与える影響について解説する。
第6回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第7回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力の法則について解説する。
第8回	惑星の運動	万有引力の法則の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第9回	スペースシャトルや人工衛星の運動	人工衛星などの地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第10回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。

第11回	熱の法則と熱効率	熱に関係する法則と熱効率について解説する。
第12回	気体の法則、絶対零度	気体の法則について解説する。
第13回	気体分子の運動と温度	気体分子の運動と温度の関係、そして熱の正体について解説する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through physical phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：素粒子から宇宙まで

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の1つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば21世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章 < 20世紀以降の物理学 >	講義の全体について紹介する。
第2回	光の性質 〈波動性と粒子性〉	光が示す、波の性質や太陽電池にも関係する粒子の性質について解説する。
第3回	光の性質 〈二重性〉	ミクロの世界に起こる不思議な現象について紹介する。
第4回	原子の構造 〈電子の発見〉	ランプから発せられる光の波長に関する法則や、電子の発見に至る研究について解説する。
第5回	原子の構造 〈原子核の発見〉	原子の構造について解説する。
第6回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第7回	核分裂反応と核融合反応	核分裂反応と核融合反応について、そしてそれらの応用について解説する。
第8回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第9回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の1つである超新星爆発について解説する。

第10回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。
第11回	クォークとレプトン	現在の万物の基となる素粒子であるクォークとレプトン、更には現在未発見の素粒子について解説する。
第12回	宇宙の進化	138億年間における宇宙の進化の過程について解説する。
第13回	宇宙の大規模構造と宇宙論	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造、そして現在の宇宙論について解説する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントや資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics such as the universe and elementary particles that research has developed since the 20th century. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through the phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探求することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシミュレーションで説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

講義形式の対面授業を行う。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。小テストなどの課題のフィードバックは授業中に行う。授業自体が面白い動画（目標はYouTubeの動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第2回	山手線が等速度で走ることとは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第3回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。

第4回	投げたボールの未来を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第5回	勢いがつくと止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第6回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときに感じる慣性力を理解する。
第7回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第8回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第9回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第10回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第11回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第12回	相対論的ダイエツト法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第13回	ダイエツトしても重くなる	動くと物体の質量が増加することを学ぶ。
第14回	宇宙をもっと楽しもう・まとめと解説	春学期の授業のまとめと解説をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力があるのか自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。

本授業の準備学習は1時間、復習は3時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポイントスライド）のpdfファイルを学習支援システムで公開する。教材中の図・表やレジュメなどを印刷したものを配布する予定である。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男(編著) 講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第1巻、第2巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論のABC 福島肇(著) 講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

定期試験は実施せずに、授業時間内に行う小テスト（70%、毎回実施）とコメントシート（30%、小テストの用紙に記入）で評価する。小テストでは自筆ノートと配布物の参照を認める。欠席時の小テストやコメントシートを後日提出することはできない。平常評価を行うため、単位認定には授業回数の2/3以上の出席が必要である。やむを得ない理由による1、2回の欠席が成績評価に大きく影響しないように評価方法を工夫する。小テストは、授業に参加して（見て聞いて）いれば容易に解答できるような問題とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【Outline (in English)】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. There will be no regular exams, but grades will be evaluated based on quizzes (70%) and class participation (comment sheets, 30%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学 B

2017年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる宇宙の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくはない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。

講義形式の対面授業を行う。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。小テストなどの課題のフィードバックは授業中に行う。授業自体が面白い動画（目標はYouTubeの動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ミクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子や素粒子について学ぶ。
第2回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第3回	昼間の空は青いのに夕焼けが赤いのはなぜか	波動の基本を学ぶ。
第4回	粒子は波である	光のスペクトルと極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第5回	スカスカの物質をつかめるワケ	電気と磁気の基本を学ぶ。
第6回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。

第7回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第8回	宇宙空間への入り口	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第9回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第10回	太陽がくしゃみをすると地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第11回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第12回	太陽の一生	恒星の誕生と進化について学ぶ。
第13回	我々は宇宙の子だ	超新星爆発や中性子星・ブラックホールについて学ぶ。
第14回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持とう。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。本授業の準備学習は1時間、復習は3時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポイントスライド）のpdfファイルを学習支援システムで公開する。教材中の図・表やレジュメなどを印刷したものを配布する予定である。

【参考書】

・高校の物理基礎・物理の教科書
・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男(編著) 講談社ブルーバックス
・もういちど読む数研の高校物理 第1巻、第2巻 数研出版
・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎(監修) 共立出版
・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎(監修) 共立出版
・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

pdfファイル：

<https://www.gakushuin.ac.jp/881791/radbookbasic/>

【成績評価の方法と基準】

定期試験は実施せずに、授業時間内に行う小テスト（70%、毎回実施）とコメントシート（30%、小テストの用紙に記入）で評価する。小テストでは自筆ノートと配布物の参照を認める。欠席時の小テストやコメントシートを後日提出することはできない。平常評価を行うため、単位認定には授業回数の2/3以上の出席が必要である。やむを得ない理由による1、2回の欠席が成績評価に大きく影響しないように評価方法を工夫する。小テストは、授業に参加して（見て聞いて）いれば容易に解答できるような問題とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅インターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【Outline (in English)】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. There will be no regular exams, but grades will be evaluated based on quizzes (70%) and class participation (comment sheets, 30%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学 A

2017年度以降入学者

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を初めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。「入門生物学A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNAから細胞・個体を作り上げられるしくみを学びます。現代の生物学が私たちの生活や社会に対してどのような影響をもたらし、私達の「生命観」にどのような影響を与えてきたのか考えていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は2つあります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

4月の授業はオンデマンドで行う予定です。授業支援システムからアクセスしてください。

5月以降は基本的に対面方式で行う予定です。板書による解説と、ビデオを通じた事例の提示を行いながら授業を進めます。

本授業では、生物学を大きく変えた発見・技術革新を毎回一つとりあげ、①歴史的背景、②基礎知識、③それが社会にもたらした影響、の3項目をたどって解説します。

授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようにして下さい。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ダーウィン進化論	「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「パラダイム」として大きな影響力を持っています。
第2回	メンデル遺伝学	遺伝子の発見が何をもたらしたのか学びます。
第3回	生体内の化学反応	体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第4回	微生物工場	微生物を利用した発酵食品などについて学びます。
第5回	遺伝子の正体DNA	メンデルが提唱した遺伝子がDNAであることが解明された経緯を学びます。
第6回	遺伝子組み換えとゲノム編集	人工的に遺伝子を変えて新たな生きものを生み出す技術を学びます。
第7回	遺伝子改変生物の是非	人間が新たに作り出した生物の是非を考えます。
第8回	ゲノム解読と遺伝子診断	DNAの塩基配列が人の運命にどのような影響を与えるのか、考えます。

第9回	遺伝子治療とエンハンスメント	人間の遺伝子を改変して病気を治療したり、新しい能力を付与する事の問題点を整理します。
第10回	移植医療と再生医療	臓器移植から臓器再生への流れを学びます。
第11回	細胞の運命	受精卵から始める細胞の一生を考えます。
第12回	初期化細胞の衝撃	成人の細胞を初期化して、新たな生命を作り出す技術について学びます。
第13回	生命操作の是非	人間が行う生命操作の是非について考えます。
第14回	まとめ	13回の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。(週1時間以上) 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。(週1時間以上) 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出してください。(週1時間以上) 以上合計して週4時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じてHOPPIIを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200字 85%

最終レポート 15%

授業要約(200字要約)のまとめ方は第1回目の授業で説明します。それに従って毎回(13回まで)授業を要約してHOPPIIのテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を400字程度で発表してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。

板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPIIへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は一切受け付けません。そのような行為は絶対に行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following 13 times class summary 80%the final report 20%

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）		
入門生物学B		
2017年度以降入学者		
木原 章		
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火 4/Tue.4		
単位数：2単位		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1が2にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。		
【到達目標】		
本授業の到達目標は2つあります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【授業の進め方と方法】		
基本的に対面方式で行う予定です。授業は講義形式で、要点は板書で示します。またビデオを通じて事例の提示をします。毎回、生物学のマクロレベルの現象の一つとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システムHoppiiを通じて行う予定です。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。
第2回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第3回	共進化	進化における相互関係が2種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合があります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。
第4回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。
第5回	本能行動	動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか？ 神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われています。「意識」を作り出す背景について考えてみます。
第6回	意識と神経	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。
第7回	ミームの進化	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。
第8回	群れ	人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。
第9回	社会	多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。
第10回	発生・分化	iPS細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。
第11回	再生	生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。
第12回	生態学的生命観	現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。
第13回	種と多様性	13回のまとめ
第14回	まとめ	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。（週1時間以上）予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。（週1時間以上）復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出して下さい。（週1時間以上）以上合計して週4時間以上の自習をして下さい。
【テキスト（教科書）】 教科書は無し。		
【参考書】 参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。		
【成績評価の方法と基準】 授業要約 200字 85%		

最終レポート 15 %

授業要約（200字要約）のまとめ方は第1回目の授業で説明します。それに従って毎回（13回まで）授業を要約してHOPPIIのテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を200字程度で発表してもらいます。

単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。

同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。板書が見にくいというご意見が寄せられていますが、大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPIIへのアクセスが必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は一切受け付けません。そのような行為は絶対に行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

13 times class summary 80%

the final report 20%

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学 A

2017年度以降入学者

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を初めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。「入門生物学A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNAから細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代の生物学が私たちの生活や社会に対してどのような影響をもたらしたか、私達の「生命観」にどのような影響を与えてきたのか考えていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は2つあります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

4月の授業はオンデマンドで行う予定です。授業支援システムからアクセスしてください。

5月以降は対面方式で行う予定です。板書による解説と、ビデオを通じた事例の提示を行いながら授業を進めます。

本授業では、生物学を大きく変えた発見・技術革新を毎回一つとりあげ、①歴史的背景、②基礎知識、③それが社会にもたらした影響、の3項目をたどって解説します。

授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようにして下さい。リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ダーウィン進化論	「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「パラダイム」として大きな影響力を持っています。
第2回	メンデル遺伝学	遺伝子の発見が何をもたらしたのか学びます。
第3回	生体内の化学反応	体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第4回	微生物工場	微生物を利用した発酵食品などについて学びます。
第5回	遺伝子の正体DNA	メンデルが提唱した遺伝子がDNAであることが解明された経緯を学びます。
第6回	遺伝子組み換えとゲノム編集	人工的に遺伝子を変えて新たな生きものを生み出す技術を学びます。
第7回	遺伝子改変生物の是非	人間が新たに作り出した生物の是非を考えます。
第8回	ゲノム解読と遺伝子診断	DNAの塩基配列が人の運命にどのような影響を与えるのか、考えます。

第9回	遺伝子治療とエンハンスメント	人間の遺伝子を改変して病気を治療したり、新しい能力を付与する事の問題点を整理します。
第10回	移植医療と再生医療	臓器移植から臓器再生への流れを学びます。
第11回	細胞の運命	受精卵から始める細胞の一生を考えます。
第12回	初期化細胞の衝撃	成人の細胞を初期化して、新たな生命を作り出す技術について学びます。
第13回	生命操作の是非	人間が行う生命操作の是非について考えます。
第14回	まとめ	13回の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。(週1時間以上) 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。(週1時間以上) 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出してください。(週1時間以上) 以上合計して週4時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じてHOPPIIを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200字 85%

最終レポート 15%

授業要約(200字要約)のまとめ方は第1回目の授業で説明します。それに従って毎回(13回まで)授業を要約してHOPPIIのテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を200字程度で発表してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。

板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPIIへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は一切受け付けません。そのような行為は絶対行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following 13 times class summary 80%the final report 20%

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）		
入門生物学B 2017年度以降入学者		
木原 章		
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火5/Tue.5 単位数：2単位 その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1が2にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。		
【到達目標】 本授業の到達目標は2つあります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【授業の進め方と方法】 基本的に対面方式で行う予定です。授業は講義形式で、要点は板書で示します。またビデオを通じて事例の提示をします。毎回、生物学のマクロレベルの現象の一つとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システムHoppiiを通じて行う予定です。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。
第2回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第3回	共進化	進化における相互関係が2種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合があります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。
第4回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。
第5回	本能行動	動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか？ 神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。
第6回	意識と神経	ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われています。「意識」を作り出す背景について考えてみます。
第7回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。
第8回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。
第9回	社会	人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。
第10回	発生・分化	多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。
第11回	再生	iPS細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。
第12回	生態学的生命観	生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。
第13回	種と多様性	現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。
第14回	まとめ	13回のまとめ
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。（週1時間以上）予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。（週1時間以上）復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出して下さい。（週1時間以上）以上合計して週4時間以上の自習をして下さい。		
【テキスト（教科書）】 教科書は無し。		
【参考書】 参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。		
【成績評価の方法と基準】 授業要約 200 字 85 %		

最終レポート 15 %

授業要約（200字要約）のまとめ方は第1回目の授業で説明します。それに従って毎回（13回まで）授業を要約してHOPPIIのテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を200字程度で発表してもらいます。

単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。

同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPIIへのアクセスが必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は一切受け付けません。そのような行為は絶対に行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

13 times class summary 80%

the final report 20%

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学 A

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を扱います。前半では、生物が遺伝情報をもとに作り上げられるしくみや進化するしくみを、その発見の歴史とともに学びます。後半では、ウイルスや遺伝子組み換え作物、再生医療など、私たちの生活や社会に関わるものについて、前半で学んだ知識を基盤として理解していきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、ミクロレベルの生物学の基礎となる重要事項を理解することで、生物学に関わるものごとを正しくとらえ、考えることができるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、対面方式で行います。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・講義の中で、毎回10～15分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業に関する情報は学習支援システムより通知しますので、必ず確認してください。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命観の変遷	生命とは何か・複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第2回	ダーウィン進化論	生物学のみならず社会にも大きな影響を与えたダーウィンの提唱した進化論について学びます。
第3回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第4回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起る化学反応の役割について学びます。
第5回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品に微生物がどのように利用されているかを学びます。
第6回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体はDNAという物質でした。その発見の歴史を学びます。
第7回	生命情報	DNAが遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。

第8回	ウイルスと生命	単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスはどのような存在なのかを学びます。
第9回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNAを改変し新たな性質をもつ生物を生み出す技術について学びます。
第10回	食糧問題とバイオテクノロジー	遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。
第11回	ゲノムと医療	個人のDNA配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。
第12回	遺伝子治療	人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。
第13回	クローン技術とiPS細胞	細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。
第14回	移植医療・再生医療	臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

以下の割合を目安として総合的に評価します。
・小テスト 20%（毎回、授業内容に関する設問に解答して提出していただきます。その提出状況・理解度等を評価します。）
・200字要約レポート 80%（毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて期限内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。
- 同一の要約文が複数の学生から提出された場合（過去の年度の提出物も含む）、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
- 本授業の課題に対しての生成AIツール（ChatGPTなど）の利用は禁止します。利用した場合、不正行為として処分の対象となります。
- インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

第1回授業で授業の進め方・課題提出方法・成績評価の基準などを詳しく説明しますので、履修する方は必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; small tests each time (25%), 200-character summary report (75%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学B

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物どうしや生物と環境との相互作用について学びます。1+1が2にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、マクロ生物学のそれぞれのトピックを通じて、生命現象をさまざまな見方でとらえられるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、対面方式で行います。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・講義の中で、毎回10～15分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業に関する情報は学習支援システムより通知しますので、必ず確認してください。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第2回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第3回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第4回	共進化	進化における相互関係が2種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第5回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第6回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介しします。
第7回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。
第8回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。

第9回 群れ

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。

第10回 生物の社会

人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。

第11回 発生・分化

一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。

第12回 再生

多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS細胞や再生医療との関係も解説します。

第13回 薬と生物学

さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。

第14回 サイズと進化

大きさによって変わるもの、変わらないものについて学び、各々の生物から見た世界について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

以下の割合を目安として総合的に評価します。
 ・小テスト 20%（毎回、授業内容に関する設問に解答して提出していただきます。その提出状況・理解度等を評価します。）
 ・200字要約レポート 80%（毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて期限内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。
 - 同一の要約文が複数の学生から提出された場合（過去の年度の提出物も含む）、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
 - 本授業の課題に対しての生成AIツール（ChatGPTなど）の利用は禁止します。利用した場合、不正行為として処分の対象となります。
 - インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

第1回授業で授業の進め方・課題提出方法・成績評価の基準などを詳しく説明しますので、履修する方は必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (25%), 200-character summary report (75%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学 A

2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、進化や遺伝といった生物学的に重要な概念を取り上げると共に、主に細胞やそれを構成する生体分子のはたらきなどのミクロレベルの生物的事象に注目します。また、医療などの身近な応用分野を取り上げ、関連する科学技術をより良く理解し、生物学的根拠のある見解をもつための生物学的基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1）ミクロレベルの生物的事象の基礎知識を取得すること。2）取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3）医療などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、生命の基本的な特徴についても考えます。
第2回	ダーウィン進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に、進化論の社会的影響についても考えます。
第3回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に、遺伝学の社会的影響についても考えます。
第4回	細胞の増殖と遺伝	「生命の最小単位」であると認識されている細胞は、どのように増殖（自己複製）し、かつ遺伝情報を受け渡しているのかを学びます。
第5回	細胞呼吸	生物は呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第6回	DNAの構造と複製	「生命の設計図」と言われるDNAはどのような物質なのか。その基本的構造・機能について学びます。

第7回	DNAからタンパク質へ	DNAの保持する情報を基にして作られるのはタンパク質です。DNAからRNAを介してタンパク質が合成される仕組みについて学びます。
第8回	タンパク質の構造と機能	タンパク質は生命活動を実現する上で必要不可欠な生体分子です。その構造について学ぶと共に、特に酵素に注目してその機能を学びます。
第9回	ゲノムからわかること	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を分析することで、その生物の全てを知ることができるのでしょうか。ゲノムからヒトをはじめとする生物についてわかることについて考えます。
第10回	生体防御と感染症	外界からの異物の侵入に対する生体防御の仕組みと様々な感染症の原因となるウイルスについて学びます。
第11回	遺伝子組み換え・ゲノム編集	分子生物学の急速な発展は、DNAという分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術やゲノム編集の原理を学びます。
第12回	クローン技術・iPS細胞	再生医療などで注目される「クローン技術」とは、iPS細胞などの関連技術を含めて基本原理から解説します。
第13回	生命操作の倫理的考察	生命を操作する技術はどのように活用されるのか。医療分野の例を学ぶと共に、その倫理的課題について考察します。
第14回	学習のまとめ	春学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、各回の理解度チェックや学習内容へのリアクションに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and, as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also include the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provide an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of micro-scale biological phenomena; to understand historical/social background and significance of the course materials; and to develop personal opinions about biological applications relevant to one's life.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%), and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学B

2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、生物同士や生物と環境の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習します。また、環境問題や環境保全についても取り上げ、学習内容との関連性について明らかにしていきます。これにより、日常生活で接する機会のある自然環境に関する課題についてより良く理解し、生物学的根拠のある見解を持つための基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1）マクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。2）学習内容と種々の環境問題の関係を理解・把握すること。3）取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。マクロレベルの階層構造を確認しながら、時間や空間スケールなどの重要な視点について考えます。
第2回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	生態系や生物多様性を構成する生物は、環境や他の生物との相互作用の中で進化していきます。「進化する」とはどういうことか、その仕組みから考えます。
第3回	生態系の成り立ち	多種多様な生態系が存在するにもかかわらず、それらが全て生態系と認識できるのはなぜでしょうか。生態系の多様性と共通性について考えます。
第4回	生態系機能：物質循環とエネルギーの流れ	生態系の基本的な機能として物質やエネルギーが供給される仕組みを学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第5回	生態系の時間・空間的変動	生態系の不安定化が問題視されていますが、「安定した生態系」とはどのようなもののでしょうか。生態学的な安定性について考えます。
第6回	個体群の動態	生物の個体数はどのように増減するのか、その基本的要素を学びます。

第7回	種間関係と共進化	二種の生物の相互関係について進化の観点から考えます。
第8回	生物の生存戦略と共存	生物の関係性は「弱肉強食」と表現されがちですが、生物はどのような戦略によって生き残り、かつ共存しているかを考えます。
第9回	生物の作るコミュニティ	複数の生物種によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第10回	動物の社会性	動物には社会性を示すものがあり、中には非常に高度な社会を構築するものも存在します。ここでは、動物の示す社会性や社会構造について考えます。
第11回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ちや生態系機能との関係性について考えます。
第12回	保全生物学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、実践的なアプローチや課題について考えます。
第13回	土中環境	普段目を向けられない地中の環境について生物学的視点から解説すると共に、関連する社会的課題について考えます。
第14回	学習のまとめ	秋学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、各回の理解度チェックと学習内容へのリアクションに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may be exposed in their daily life.

[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of macro-scale biological phenomena; to understand how the class materials relate to various environmental problems; and to be able to apply the acquired understanding to problem solving.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%) and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学 A

2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、進化や遺伝といった生物学的に重要な概念を取り上げると共に、主に細胞やそれを構成する生体分子のはたらきなどのミクロレベルの生物学的事象に注目します。また、医療などの身近な応用分野を取り上げ、関連する科学技術をより良く理解し、生物学的根拠のある見解をもつための生物学的基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1）ミクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。2）取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3）医療などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、生命の基本的な特徴についても考えます。
第2回	ダーウィン進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に、進化論の社会的影響についても考えます。
第3回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に、遺伝学の社会的影響についても考えます。
第4回	細胞の増殖と遺伝	「生命の最小単位」であると認識されている細胞は、どのように増殖（自己複製）し、かつ遺伝情報を受け渡しているのかを学びます。
第5回	細胞呼吸	生物は呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第6回	DNAの構造と複製	「生命の設計図」と言われるDNAはどのような物質なのか。その基本的構造・機能について学びます。

第7回	DNAからタンパク質へ	DNAの保持する情報を基にして作られるのはタンパク質です。DNAからRNAを介してタンパク質が合成される仕組みについて学びます。
第8回	タンパク質の構造と機能	タンパク質は生命活動を実現する上で必要不可欠な生体分子です。その構造について学ぶと共に、特に酵素に注目してその機能を学びます。
第9回	ゲノムからわかること	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を分析することで、その生物の全てを知ることができるのでしょうか。ゲノムからヒトをはじめとする生物についてわかることについて考えます。
第10回	生体防御と感染症	外界からの異物の侵入に対する生体防御の仕組みと様々な感染症の原因となるウイルスについて学びます。
第11回	遺伝子組み換え・ゲノム編集	分子生物学の急速な発展は、DNAという分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術やゲノム編集の原理を学びます。
第12回	クローン技術・iPS細胞	再生医療などで注目される「クローン技術」とは、iPS細胞などの関連技術を含めて基本原理から解説します。
第13回	生命操作の倫理的考察	生命を操作する技術はどのように活用されるのか。医療分野の例を学ぶと共に、その倫理的課題について考察します。
第14回	学習のまとめ	春学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、各回の理解度チェックや学習内容へのリアクションに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and, as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also include the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provide an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of micro-scale biological phenomena; to understand historical/social background and significance of the course materials; and to develop personal opinions about biological applications relevant to one's life.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%), and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学B

2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、生物同士や生物と環境の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習します。また、環境問題や環境保全についても取り上げ、学習内容との関連性について明らかにしていきます。これにより、日常生活で接する機会のある自然環境に関する課題についてより良く理解し、生物学的根拠のある見解を持つための基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1）マクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。2）学習内容と種々の環境問題の関係を理解・把握すること。3）取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。マクロレベルの階層構造を確認しながら、時間や空間スケールなどの重要な視点について考えます。
第2回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	生態系や生物多様性を構成する生物は、環境や他の生物との相互作用の中で進化していきます。「進化する」とはどういうことか、その仕組みから考えます。
第3回	生態系の成り立ち	多種多様な生態系が存在するにもかかわらず、それらが全て生態系と認識できるのはなぜでしょうか。生態系の多様性と共通性について考えます。
第4回	生態系機能：物質循環とエネルギーの流れ	生態系の基本的な機能として物質やエネルギーが供給される仕組みを学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第5回	生態系の時間・空間的変動	生態系の不安定化が問題視されていますが、「安定した生態系」とはどのようなもののでしょうか。生態学的な安定性について考えます。
第6回	個体群の動態	生物の個体数はどのように増減するのか、その基本的要素を学びます。

第7回	種間関係と共進化	二種の生物の相互関係について進化の観点から考えます。
第8回	生物の生存戦略と共存	生物の関係性は「弱肉強食」と表現されがちですが、生物はどのような戦略によって生き残り、かつ共存しているかを考えます。
第9回	生物の作るコミュニティ	複数の生物種によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第10回	動物の社会性	動物には社会性を示すものがあり、中には非常に高度な社会を構築するものも存在します。ここでは、動物の示す社会性や社会構造について考えます。
第11回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ちや生態系機能との関係性について考えます。
第12回	保全生物学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、実践的なアプローチや課題について考えます。
第13回	土中環境	普段目を向けられない地中の環境について生物学的視点から解説すると共に、関連する社会的課題について考えます。
第14回	学習のまとめ	秋学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、各回の理解度チェックと学習内容へのリアクションに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may be exposed in their daily life.

[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of macro-scale biological phenomena; to understand how the class materials relate to various environmental problems; and to be able to apply the acquired understanding to problem solving.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%) and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学 A

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を扱います。前半では、生物が遺伝情報をもとに作り上げられるしくみや進化するしくみを、その発見の歴史とともに学びます。後半では、ウイルスや遺伝子組み換え作物、再生医療など、私たちの生活や社会に関わるものについて、前半で学んだ知識を基盤として理解していきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、ミクロレベルの生物学の基礎となる重要事項を理解することで、生物学に関わるものごとを正しくとらえ、考えることができるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、対面方式で行います。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・講義の中で、毎回10～15分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業に関する情報は学習支援システムより通知しますので、必ず確認してください。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命観の変遷	生命とは何か・複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第2回	ダーウィン進化論	生物学のみならず社会にも大きな影響を与えたダーウィンの提唱した進化論について学びます。
第3回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第4回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起る化学反応の役割について学びます。
第5回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品に微生物がどのように利用されているかを学びます。
第6回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体はDNAという物質でした。その発見の歴史を学びます。
第7回	生命情報	DNAが遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。

第8回	ウイルスと生命	単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスはどのような存在なのかを学びます。
第9回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNAを改変し新たな性質をもつ生物を生み出す技術について学びます。
第10回	食糧問題とバイオテクノロジー	遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。
第11回	ゲノムと医療	個人のDNA配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。
第12回	遺伝子治療	人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。
第13回	クローン技術とiPS細胞	細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。
第14回	移植医療・再生医療	臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

以下の割合を目安として総合的に評価します。
・小テスト 20%（毎回、授業内容に関する設問に解答して提出していただきます。その提出状況・理解度等を評価します。）
・200字要約レポート 80%（毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて期限内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。
- 同一の要約文が複数の学生から提出された場合（過去の年度の提出物も含む）、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
- 本授業の課題に対しての生成AIツール（ChatGPTなど）の利用は禁止します。利用した場合、不正行為として処分の対象となります。
- インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

第1回授業で授業の進め方・課題提出方法・成績評価の基準などを詳しく説明しますので、履修する方は必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; small tests each time (25%), 200-character summary report (75%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学B

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物どうしや生物と環境との相互作用について学びます。1+1が2にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、マクロ生物学のそれぞれのトピックを通じて、生命現象をさまざまな見方でとらえられるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、対面方式で行います。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・講義の中で、毎回10～15分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業に関する情報は学習支援システムより通知しますので、必ず確認してください。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第2回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第3回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第4回	共進化	進化における相互関係が2種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第5回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第6回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介しします。
第7回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。
第8回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。

第9回 群れ

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。

第10回 生物の社会

人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。

第11回 発生・分化

一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。

第12回 再生

多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS細胞や再生医療との関係も解説します。

第13回 薬と生物学

さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。

第14回 サイズと進化

大きさによって変わるもの、変わらないものについて学び、各々の生物から見た世界について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

以下の割合を目安として総合的に評価します。
 ・小テスト 20%（毎回、授業内容に関する設問に解答して提出していただきます。その提出状況・理解度等を評価します。）
 ・200字要約レポート 80%（毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて期限内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。
 - 同一の要約文が複数の学生から提出された場合（過去の年度の提出物も含む）、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
 - 本授業の課題に対しての生成AIツール（ChatGPTなど）の利用は禁止します。利用した場合、不正行為として処分の対象となります。
 - インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

第1回授業で授業の進め方・課題提出方法・成績評価の基準などを詳しく説明しますので、履修する方は必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (25%), 200-character summary report (75%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学 A

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を扱います。前半では、生物が遺伝情報をもとに作り上げられるしくみや進化するしくみを、その発見の歴史とともに学びます。後半では、ウイルスや遺伝子組み換え作物、再生医療など、私たちの生活や社会に関わるものについて、前半で学んだ知識を基盤として理解していきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、ミクロレベルの生物学の基礎となる重要事項を理解することで、生物学に関わるものごとを正しくとらえ、考えることができるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、対面方式で行います。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・講義の中で、毎回10～15分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業に関する情報は学習支援システムより通知しますので、必ず確認してください。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命観の変遷	生命とは何か・複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第2回	ダーウィン進化論	生物学のみならず社会にも大きな影響を与えたダーウィンの提唱した進化論について学びます。
第3回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第4回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起る化学反応の役割について学びます。
第5回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品に微生物がどのように利用されているかを学びます。
第6回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体はDNAという物質でした。その発見の歴史を学びます。
第7回	生命情報	DNAが遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。

第8回	ウイルスと生命	単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスはどのような存在なのかを学びます。
第9回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNAを改変し新たな性質をもつ生物を生み出す技術について学びます。
第10回	食糧問題とバイオテクノロジー	遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。
第11回	ゲノムと医療	個人のDNA配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。
第12回	遺伝子治療	人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。
第13回	クローン技術とiPS細胞	細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。
第14回	移植医療・再生医療	臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

以下の割合を目安として総合的に評価します。
・小テスト 20%（毎回、授業内容に関する設問に解答して提出していただきます。その提出状況・理解度等を評価します。）
・200字要約レポート 80%（毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて期限内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。
- 同一の要約文が複数の学生から提出された場合（過去の年度の提出物も含む）、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
- 本授業の課題に対しての生成AIツール（ChatGPTなど）の利用は禁止します。利用した場合、不正行為として処分の対象となります。
- インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

第1回授業で授業の進め方・課題提出方法・成績評価の基準などを詳しく説明しますので、履修する方は必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; small tests each time (25%), 200-character summary report (75%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）	
入門生物学B	2017年度以降入学者
植木 紀子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木3/Thu.3	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物どうしや生物と環境との相互作用について学びます。1+1が2にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、マクロ生物学のそれぞれのトピックを通じて、生命現象をさまざまな見方でとらえられるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、対面方式で行います。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・講義の中で、毎回10～15分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業に関する情報は学習支援システムより通知しますので、必ず確認してください。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第2回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第3回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第4回	共進化	進化における相互関係が2種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第5回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第6回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介しします。
第7回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。
第8回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。

第9回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。
第10回	生物の社会	人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。
第11回	発生・分化	一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。
第12回	再生	多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS細胞や再生医療との関係も解説します。
第13回	薬と生物学	さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。
第14回	サイズと進化	大きさによって変わるもの、変わらないものについて学び、各々の生物から見た世界について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

- 以下の割合を目安として総合的に評価します。
- ・小テスト 20%（毎回、授業内容に関する設問に解答して提出していただきます。その提出状況・理解度等を評価します。）
- ・200字要約レポート 80%（毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて期限内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

- 200字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。
- 同一の要約文が複数の学生から提出された場合（過去の年度の提出物も含む）、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
- 本授業の課題に対しての生成AIツール（ChatGPTなど）の利用は禁止します。利用した場合、不正行為として処分の対象となります。
- インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

第1回授業で授業の進め方・課題提出方法・成績評価の基準などを詳しく説明しますので、履修する方は必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (25%), 200-character summary report (75%).

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学 A

2017年度以降入学者

田中 雅人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。私たちの日常生活や社会は、化学と密接に関わっており、そのため社会問題を理解するために化学の視点で考えることは重要です。この授業では、化学の基礎を学び、身の回りの物質、身近で起きている現象や社会問題(環境問題、エネルギー問題)などを、化学的な視点で理解することを目的とします。

【到達目標】

本授業では、基本的な化学の知識を学習し、化学の視点を身につけます。その上で、主に持続可能な社会実現のための課題である環境問題、エネルギー問題についてとりあげます。これらの社会問題を化学的な視点で理解し、自分のことばで説明できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料をプロジェクターで投影し、板書を交えて講義形式で行います。また、高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。理解度の確認のための課題を出題します。課題内容については、次の講義で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要と受講方法について説明する
第2回	原子・分子の構造	物質の基本となる原子・分子について理解する
第3回	元素と周期表	原子の電子構造と化学的性質の関係と、それをまとめた周期表について理解する
第4回	化学結合	分子を形成する化学結合について理解する
第5回	酸・塩基	酸・塩基の定義や酸の強さの尺度であるpHについて理解する
第6回	酸化・還元	電子をやりとりする酸化・還元について理解する
第7回	化学熱力学	化学反応によって生じるエネルギーや反応の進みやすさを決める熱力学について理解する
第8回	地球温暖化	地球温暖化に関わる分子やそのメカニズムを理解する
第9回	環境汚染1	酸性雨などの大気汚染のメカニズムを理解する
第10回	環境汚染2	有害元素などによる土壌・水質汚染のメカニズムを理解する
第11回	化石燃料	石油など化石燃料の成り立ちやその利用について理解する
第12回	電池	電池の基本と燃料電池などの成り立ちやその利用について理解する

第13回 放射線と原子力 放射線・放射能の基本と原子力の成り立ちやその利用について理解する

第14回 まとめ 本授業の内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。身近なテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

・下井 守、村田 滋 著「大学生のための基礎シリーズ3 化学入門 第2版」東京化学同人
・D.P. Heller, C.H. Snyder 著 渡辺 正 訳「教養の化学－暮らしのサイエンス－」東京化学同人
・Kimberley Waldron 著 竹内 敬人 訳「教養としての化学入門（第2版） 未来の環境・食・エネルギーを考えるために」化学同人
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回授業の理解度を確認する簡単な課題を出題します。
成績は、授業で出題する課題(30%)と期末試験(70%)により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・内容が詰め込まれて難易度が高かったというご意見があったので、内容を精査してより平易な説明に努めます。
・教材や課題は速やかに学習支援システムにアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「入門化学B」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

Global interest in efforts to achieve a sustainable society has grown in recent years. Our daily lives and society are closely related to chemistry and therefore it is important to think from a chemical perspective in order to understand social issues. The goal of this lecture is to provide a chemical perspective to understand the materials and phenomena in our daily lives and social issues (environmental problems, energy problems) based on learning the basics of chemistry.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Students are also encouraged advanced reading or Web search based on their own interest after a class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, required assignments: 30%

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学B

2017年度以降入学者

田中 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。私たちの日常生活や社会は、化学と密接に関わっており、そのため社会問題を理解するために化学の視点で考えることは重要です。この授業では、化学の基礎を学び、身の回りの物質、身近で起きている現象や社会問題(環境問題、エネルギー問題)などを、化学的な視点で理解することを目的とします。

【到達目標】

本授業では、基本的な化学の知識を学習し、化学の視点を身につけます。その上で、主に持続可能な社会実現のための課題である食や環境問題に関連して、食品や素材など身近な物質や関連する現象についてとりあげます。これらの身近な物質や現象を化学的な視点で理解し、自分のことばで説明できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料をプロジェクターで投影し、板書を交えて講義形式で行います。また、高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。理解度の確認のための課題を出題します。課題内容については、次の講義で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要と受講方法について説明する
第2回	分光法	物質を構成する原子・分子の構造を調べるための分光法について学ぶ
第3回	無機物質1	非金属元素とその化合物の構造や性質について理解する
第4回	無機物質2	金属元素とその化合物の構造や性質について学ぶ
第5回	有機化合物1	有機化合物の種類、炭化水素の構造や性質、異性体について学ぶ
第6回	有機化合物2	酸素を含む有機化合物の構造や性質について学ぶ
第7回	食品の化学1	食品の多量栄養素である炭水化物、脂質、タンパク質について、その構造や性質を学ぶ
第8回	食品の化学2	食品の微量栄養素であるビタミン、ミネラルについて、その構造や性質を学ぶ
第9回	遺伝子の化学	生物の遺伝情報を司るDNAの構造やはたらきについて学ぶ
第10回	きれいの化学	石鹸や洗剤(界面活性剤)について、その構造や性質を理解する
第11回	材料の化学1	三大材料のうちの金属、セラミクスについて学ぶ

第12回 材料の化学2

三大材料のうちのプラスチックなどの高分子材料について学ぶ
環境保全にも利用されるナノ材料について学ぶ
本授業の内容を振り返る

第13回 材料の化学3

第14回 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
身近なテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

・下井 守、村田 滋 著「大学生のための基礎シリーズ3 化学入門 第2版」東京化学同人
・D.P. Heller, C.H. Snyder 著 渡辺 正 訳「教養の化学－暮らしのサイエンス－」東京化学同人
・Kimberley Waldron 著 竹内 敬人 訳「教養としての化学入門（第2版） 未来の環境・食・エネルギーを考えるために」化学同人
・山口佳隆、伊藤卓 共著「物質・材料をまなぶ化学」裳華房
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回授業の理解度を確認する簡単な課題を出題します。
成績は、授業で出題する課題(30%)と期末試験(70%)により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・内容を精査してより平易な説明に努めます。
・教材や課題は速やかに学習支援システムにアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「入門化学A」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

Global interest in efforts to achieve a sustainable society has grown in recent years. Our daily lives and society are closely related to chemistry and therefore it is important to think from a chemical perspective in order to understand social issues. The goal of this lecture is to provide a chemical perspective to understand the materials and phenomena in our daily lives and social issues (environmental problems, energy problems) based on learning the basics of chemistry.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Students are also encouraged advanced reading or Web search based on their own interest after a class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, required assignments: 30%

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学 A

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム(LMS)に提示します。毎回の授業で、LMSを介して簡単な課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答は、授業内で解説します。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、授業中あるいはLMSを介してお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス 2. 量と単位	講義概要の説明 科学で使われる測定値の単位について
第2回	3. 物質をつくるもの①	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第3回	3. 物質をつくるもの②	原子の電子配置と化学的性質、 周期表
第4回	3. 物質をつくるもの③	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第5回	4. 化学反応①	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第6回	4. 化学反応②	酸塩基反応
第7回	4. 化学反応③	酸化還元反応
第8回	4. 化学反応④	化学反応と熱の出入り、反応熱の利用
第9回	5. 物質の状態①	気体・液体・固体間の変化と熱の出入り、気体の性質
第10回	5. 物質の状態②	溶液の性質
第11回	6. 地球温暖化①	地球温暖化の現状、地球温暖化の仕組みと原因物質
第12回	6. 地球温暖化②	温暖化の影響
第13回	試験	自作メモの持ち込み可
第14回	6. 地球温暖化③	温暖化の将来予測、エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、LMSを介した課題実施が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。LMSに教材をアップします。

【参考書】

化学の世界への招待(第2版)、小林憲司ほか(編著)、三共出版
一般化学(四訂版)、長島 弘三(著)、富田 功(著)、裳華房

【成績評価の方法と基準】

平常点(毎回の課題提出等)(50%)、期末試験(自作メモ持込可)(50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業内容については概ね好評でしたが、ついていくのが大変だったという受講生もいたので、内容は前年度と同様にしつつも、メリハリをつけて重要事項にはより時間をかけて解説するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

LMSにアクセスするための端末等、および通信環境が必要です。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamentals of inorganic and physical chemistry tailored for non-science majors. Topics include the periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions. The objectives of this course are to gain a foundational understanding of general chemistry and to apply this knowledge to comprehend global environmental issues. Prior to and following each class, students are expected to dedicate four hours to grasp the course material. Grading will be determined by required assignments given after each class (50%) and a final examination (50%).

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学B

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

前半の授業では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム(LMS)に提示します。毎回の授業で、LMSを介して簡単な課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答は、授業内で解説します。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、授業中あるいはLMSを介してお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス	講義概要の説明
	2. 物質を構成するものの	物質の構成単位である原子・分子について
第2回	3. 有機化合物の構造	原子の電子配置と周期表、化学結合
第3回	4. 官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基
第4回	5. 親水性・疎水性、酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基、酸性・塩基性官能基
第5回	6. 炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料
第6回	7. 酸素を含む有機化合物	身近な酸素含有化合物の構造と性質
第7回	8. 窒素を含む有機化合物	身近な窒素含有化合物の構造と性質
	9. 芳香族化合物	身近な芳香族化合物の構造と性質
第8回	10. 有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応と反応熱
第9回	11. 有機化合物の重合反応	重合反応とプラスチック、海洋プラスチック問題
第10回	12. 生体を作る有機化合物①	糖質
第11回	12. 生体を作る有機化合物②	タンパク質・脂質

第12回 12. 生体を作る有機化合物③ 核酸代謝、酵素
13. 生体内の化学反応

第13回 試験 自作メモの持ち込み可

第14回 14. 有害化学物質 人体や生態系に有害な化学物質

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、LMSを介した課題実施が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。LMSに教材をアップします。

【参考書】

一般化学(四訂版)、長島 弘三(著)、富田 功(著)、裳華房
マクマリー生体有機化学[有機化学編] 原書8版、菅原二三男(監訳)、丸善出版

【成績評価の方法と基準】

平常点(毎回の課題提出等)(50%)、期末試験(自作メモ持込可)(50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業内容については概ね好評でしたが、ついていくのが大変だったという受講生もいたので、内容は前年度と同様にしつつも、メリハリをつけて重要事項にはより時間をかけて解説するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

LMSにアクセスするための端末等、および通信環境が必要です。

【Outline (in English)】

This course covers the basics of organic chemistry and biochemistry, tailored for non-science majors. Topics include chemical bonding, functional groups, acid-base reactions, oxidation-reduction reactions, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms. The objectives of this course are to acquire a foundational understanding of organic chemistry and biochemistry, and to apply this knowledge to comprehend environmental problems associated with organic compounds. Prior to and following each class, students are expected to dedicate four hours to grasp the course material. Grading will be based on required assignments given after each class (50%) and a final examination (50%).

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学 A

2017年度以降入学者

田中 雅人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。私たちの日常生活や社会は、化学と密接に関わっており、そのため社会問題を理解するために化学の視点で考えることは重要です。この授業では、化学の基礎を学び、身の回りの物質、身近で起きている現象や社会問題(環境問題、エネルギー問題)などを、化学的な視点で理解することを目的とします。

【到達目標】

本授業では、基本的な化学の知識を学習し、化学の視点を身につけます。その上で、主に持続可能な社会実現のための課題である環境問題、エネルギー問題についてとりあげます。これらの社会問題を化学的な視点で理解し、自分のことばで説明できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料をプロジェクターで投影し、板書を交えて講義形式で行います。また、高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。理解度の確認のための課題を出題します。課題内容については、次の講義で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要と受講方法について説明する
第2回	原子・分子の構造	物質の基本となる原子・分子について理解する
第3回	元素と周期表	原子の電子構造と化学的性質の関係と、それをまとめた周期表について理解する
第4回	化学結合	分子を形成する化学結合について理解する
第5回	酸・塩基	酸・塩基の定義や酸の強さの尺度であるpHについて理解する
第6回	酸化・還元	電子をやりとりする酸化・還元について理解する
第7回	化学熱力学	化学反応によって生じるエネルギーや反応の進みやすさを決める熱力学について理解する
第8回	地球温暖化	地球温暖化に関わる分子やそのメカニズムを理解する
第9回	環境汚染1	酸性雨などの大気汚染のメカニズムを理解する
第10回	環境汚染2	有害元素などによる土壌・水質汚染のメカニズムを理解する
第11回	化石燃料	石油など化石燃料の成り立ちやその利用について理解する
第12回	電池	電池の基本と燃料電池などの成り立ちやその利用について理解する

第13回 放射線と原子力 放射線・放射能の基本と原子力の成り立ちやその利用について理解する

第14回 まとめ 本授業の内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。身近なテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

・下井 守、村田 滋 著「大学生のための基礎シリーズ3 化学入門 第2版」東京化学同人
 ・D.P. Heller, C.H. Snyder 著 渡辺 正 訳「教養の化学－暮らしのサイエンス－」東京化学同人
 ・Kimberley Waldron 著 竹内 敬人 訳「教養としての化学入門（第2版） 未来の環境・食・エネルギーを考えるために」化学同人
 その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回授業の理解度を確認する簡単な課題を出題します。成績は、授業で出題する課題(30%)と期末試験(70%)により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・内容が詰め込まれて難易度が高かったというご意見があったので、内容を精査してより平易な説明に努めます。
 ・教材や課題は速やかに学習支援システムにアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「入門化学B」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

Global interest in efforts to achieve a sustainable society has grown in recent years. Our daily lives and society are closely related to chemistry and therefore it is important to think from a chemical perspective in order to understand social issues. The goal of this lecture is to provide a chemical perspective to understand the materials and phenomena in our daily lives and social issues (environmental problems, energy problems) based on learning the basics of chemistry.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Students are also encouraged advanced reading or Web search based on their own interest after a class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, required assignments: 30%

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学B

2017年度以降入学者

田中 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。私たちの日常生活や社会は、化学と密接に関わっており、そのため社会問題を理解するために化学の視点で考えることは重要です。この授業では、化学の基礎を学び、身の回りの物質、身近で起きている現象や社会問題(環境問題、エネルギー問題)などを、化学的な視点で理解することを目的とします。

【到達目標】

本授業では、基本的な化学の知識を学習し、化学の視点を身につけます。その上で、主に持続可能な社会実現のための課題である食や環境問題に関連して、食品や素材など身近な物質や関連する現象についてとりあげます。これらの身近な物質や現象を化学的な視点で理解し、自分のことばで説明できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料をプロジェクターで投影し、板書を交えて講義形式で行います。また、高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。理解度の確認のための課題を出題します。課題内容については、次の講義で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要と受講方法について説明する
第2回	分光法	物質を構成する原子・分子の構造を調べるための分光法について学ぶ
第3回	無機物質1	非金属元素とその化合物の構造や性質について理解する
第4回	無機物質2	金属元素とその化合物の構造や性質について学ぶ
第5回	有機化合物1	有機化合物の種類、炭化水素の構造や性質、異性体について学ぶ
第6回	有機化合物2	酸素を含む有機化合物の構造や性質について学ぶ
第7回	食品の化学1	食品の多量栄養素である炭水化物、脂質、タンパク質について、その構造や性質を学ぶ
第8回	食品の化学2	食品の微量栄養素であるビタミン、ミネラルについて、その構造や性質を学ぶ
第9回	遺伝子の化学	生物の遺伝情報を司るDNAの構造やはたらきについて学ぶ
第10回	きれいの化学	石鹸や洗剤(界面活性剤)について、その構造や性質を理解する
第11回	材料の化学1	三大材料のうちの金属、セラミクスについて学ぶ

第12回 材料の化学2

三大材料のうちのプラスチックなどの高分子材料について学ぶ
環境保全にも利用されるナノ材料について学ぶ
本授業の内容を振り返る

第13回 材料の化学3

第14回 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
身近なテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

・下井 守、村田 滋 著「大学生のための基礎シリーズ3 化学入門 第2版」東京化学同人
・D.P. Heller, C.H. Snyder 著 渡辺 正 訳「教養の化学－暮らしのサイエンス－」東京化学同人
・Kimberley Waldron 著 竹内 敬人 訳「教養としての化学入門（第2版） 未来の環境・食・エネルギーを考えるために」化学同人
・山口佳隆、伊藤卓 共著「物質・材料をまなぶ化学」裳華房
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回授業の理解度を確認する簡単な課題を出題します。

成績は、授業で出題する課題(30%)と期末試験（70%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・内容を精査してより平易な説明に努めます。
・教材や課題は速やかに学習支援システムにアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「入門化学A」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

Global interest in efforts to achieve a sustainable society has grown in recent years. Our daily lives and society are closely related to chemistry and therefore it is important to think from a chemical perspective in order to understand social issues. The goal of this lecture is to provide a chemical perspective to understand the materials and phenomena in our daily lives and social issues (environmental problems, energy problems) based on learning the basics of chemistry.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Students are also encouraged advanced reading or Web search based on their own interest after a class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, required assignments: 30%

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学 A

2017年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生きる地球において、その生活環境について考えていくことは、とても大切です。本講義では、地球上における環境について思考するための手助けとなる、目に見えない原子や分子についての化学事象を捉えていきます。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。

以前よりも化学現象にさらに興味を持ち、考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見てもらいながら、説明をします。学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。これまでに化学を履修していなくても理解できるようにします。提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映させて説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第2回	物質について	物質の考え方として、原子を理解する
第3回	元素	物質の考え方として、原子を理解する
第4回	電子軌道と電子配置	電子軌道や電子配置について理解し、分子の形について考える
第5回	イオン	イオンのでき方を理解する
第6回	イオン結合	イオン結合の仕組みを理解する
第7回	共有結合	電子配置の安定化とは何か
第8回	配位結合と金属結合	配位結合や金属結合を理解し、金属の特徴を知る
第9回	分子の極性	電気陰性度と分子の極性について理解する
第10回	分子間力	分子間力や分子の集合について考える
第11回	物質質量	地球上における環境を考えるための、物質量の概念を理解する
第12回	化学反応式を使った環境の思考	化学反応式を使って、地球上の環境について考える
第13回	分子の環境との関わり	分子が、私たちの環境にどのような関わっているかを考える
第14回	まとめ	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ講義テーマに関することを本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で、紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を50%、平常点（毎回出題する課題）を50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

化学を科目として受講したことがなくても、問題ありません。

日々の生活の中でのここが化学であると知ってもらえるような授業として、行っていきたいと思います。

少しずつでも自分の力で化学を考えていけるように、毎回各個人の考えを調査し、工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCなどの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical events of invisible atoms or molecules to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

– To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.

– To be more interested in chemical phenomena than before and develop the ability to think.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学B

2017年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生活する上で、目に見えない化学的事象について考えることは、より生活を豊かにすることにもつながっていきます。本講義では、より生活を豊かにしていくために知っておくと便利な化学的知識を習得します。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。
このようにして、化学現象を生活に生かしていくための能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見もらいながら、説明をします。
学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。
これまでに化学を履修していなくても理解できるようにします。
提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映させて説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第2回	周期表と電子配置	周期表と電子配置について考え、理解する
第3回	酸化と還元	酸化と還元について、現象を理解する
第4回	モル濃度	モル濃度について考え、生活との関連について学ぶ
第5回	化学平衡	化学平衡の概念を理解する
第6回	酸と塩基	酸と塩基について、理解する
第7回	混成軌道	混成軌道とは何かを考える
第8回	異性体	異性体の仕組みを理解し、どんなものがあるかを知る
第9回	共鳴と芳香族性	共鳴と芳香族性について捉え、生活と結び付け考える
第10回	有機物の酸と塩基	有機物の酸と塩基について、考える
第11回	界面活性剤について	洗浄作用のある界面活性剤の仕組みについて、考える
第12回	金属表面に関する分子の構造を知る手法	金属表面に吸着する分子の構造を知るには、どうすればよいかを考える
第13回	金属に吸着する分子の話	金属に吸着させると離れない分子について、紹介する
第14回	まとめ	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ、講義テーマに関することを、本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を50%、平常点（毎回出題する課題）を50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

化学を科目として受講したことがなくても、問題ありません。

日々の生活の中でのこが化学であると知ってもらえるような授業として、行っていきたいと思います。

少しずつでも自分の力で化学を考えていけるように、毎回各個人の考えを調査し、工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するための、PCなどの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical knowledge that is useful to enrich your life to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

– To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.

– To develop the ability to make use of chemical phenomena in their lives.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学 A

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム(LMS)に提示します。毎回の授業で、LMSを介して簡単な課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答は、授業内で解説します。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、授業中あるいはLMSを介してお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス 2. 量と単位	講義概要の説明 科学で使われる測定値の単位について
第2回	3. 物質をつくるもの①	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第3回	3. 物質をつくるもの②	原子の電子配置と化学的性質、 周期表
第4回	3. 物質をつくるもの③	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第5回	4. 化学反応①	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第6回	4. 化学反応②	酸塩基反応
第7回	4. 化学反応③	酸化還元反応
第8回	4. 化学反応④	化学反応と熱の出入り、反応熱の利用
第9回	5. 物質の状態①	気体・液体・固体間の変化と熱の出入り、気体の性質
第10回	5. 物質の状態②	溶液の性質
第11回	6. 地球温暖化①	地球温暖化の現状、地球温暖化の仕組みと原因物質
第12回	6. 地球温暖化②	温暖化の影響
第13回	試験	自作メモの持ち込み可
第14回	6. 地球温暖化③	温暖化の将来予測、エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、LMSを介した課題実施が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。LMSに教材をアップします。

【参考書】

化学の世界への招待(第2版)、小林憲司ほか(編著)、三共出版
一般化学(四訂版)、長島 弘三(著)、富田 功(著)、裳華房

【成績評価の方法と基準】

平常点(毎回の課題提出等)(50%)、期末試験(自作メモ持込可)(50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業内容については概ね好評でしたが、ついていくのが大変だったという受講生もいたので、内容は前年度と同様にしつつも、メリハリをつけて重要事項にはより時間をかけて解説するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

LMSにアクセスするための端末等、および通信環境が必要です。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamentals of inorganic and physical chemistry tailored for non-science majors. Topics include the periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions. The objectives of this course are to gain a foundational understanding of general chemistry and to apply this knowledge to comprehend global environmental issues. Prior to and following each class, students are expected to dedicate four hours to grasp the course material. Grading will be determined by required assignments given after each class (50%) and a final examination (50%).

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学B

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

前半の授業では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム(LMS)に提示します。毎回の授業で、LMSを介して簡単な課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答は、授業内で解説します。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、授業中あるいはLMSを介してお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス	講義概要の説明
	2. 物質を構成するものの	物質の構成単位である原子・分子について
第2回	3. 有機化合物の構造	原子の電子配置と周期表、化学結合
第3回	4. 官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基
第4回	5. 親水性・疎水性、酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基、酸性・塩基性官能基
第5回	6. 炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料
第6回	7. 酸素を含む有機化合物	身近な酸素含有化合物の構造と性質
第7回	8. 窒素を含む有機化合物	身近な窒素含有化合物の構造と性質
	9. 芳香族化合物	身近な芳香族化合物の構造と性質
第8回	10. 有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応と反応熱
第9回	11. 有機化合物の重合反応	重合反応とプラスチック、海洋プラスチック問題
第10回	12. 生体を作る有機化合物①	糖質
第11回	12. 生体を作る有機化合物②	タンパク質・脂質

第12回 12. 生体を作る有機化合物③ 核酸代謝、酵素
13. 生体内の化学反応

第13回 試験 自作メモの持ち込み可

第14回 14. 有害化学物質 人体や生態系に有害な化学物質

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、LMSを介した課題実施が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。LMSに教材をアップします。

【参考書】

一般化学(四訂版)、長島 弘三(著)、富田 功(著)、裳華房
マクマリー生体有機化学[有機化学編] 原書8版、菅原二三男(監訳)、丸善出版

【成績評価の方法と基準】

平常点(毎回の課題提出等)(50%)、期末試験(自作メモ持込可)(50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業内容については概ね好評でしたが、ついていくのが大変だったという受講生もいたので、内容は前年度と同様にしつつも、メリハリをつけて重要事項にはより時間をかけて解説するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

LMSにアクセスするための端末等、および通信環境が必要です。

【Outline (in English)】

This course covers the basics of organic chemistry and biochemistry, tailored for non-science majors. Topics include chemical bonding, functional groups, acid-base reactions, oxidation-reduction reactions, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms. The objectives of this course are to acquire a foundational understanding of organic chemistry and biochemistry, and to apply this knowledge to comprehend environmental problems associated with organic compounds. Prior to and following each class, students are expected to dedicate four hours to grasp the course material. Grading will be based on required assignments given after each class (50%) and a final examination (50%).

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学 A

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では核エネルギーの利用に関連する環境問題やエネルギー消費過程について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立しています。しかしながら、一人当りのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕しており、新しいエネルギー資源の開発が必要不可欠となっています。春学期の本授業では核エネルギーを取り上げます。原子核の構造から原子力発電の仕組みに至るまで、関連分野を化学的に理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識がなくても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第2回	原子の構造	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第3回	同位体	同位体について解説する。安定同位体・放射性同位体の種類や性質を学習する。
第4回	放射性壊変（1）	α 壊変および β 壊変について学習する。
第5回	放射性壊変（2）	その他の放射性壊変について学習する。
第6回	天然放射性核種	自然界に存在する放射性核種について学習する。
第7回	人工放射性核種	人工的に核反応を起こさせて得られる放射性核種について学習する。

第8回	^{235}U の誘導核分裂	^{235}U に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第9回	^{239}Pu の誘導核分裂	^{239}Pu に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第10回	核エネルギー	核反応にともなって反応系に入力するエネルギーについて考察する。
第11回	原子力発電所の構造	原子力発電所の内部構造を概観し、どのように電気エネルギーが生産されるかを学習する。
第12回	原子力発電所の種類（1）	最も一般的な軽水炉について学習する。
第13回	原子力発電所の種類（2）	高速増殖炉、ブルサーマル等、その他の形式の原子力発電所について学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第2版）
著者名：安井伸郎
出版者名：三共出版

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

書名：放射化学・放射線化学
著者名：前田米蔵，百鳥則幸
出版者名：南山堂

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じてオンライン授業を行う場合がありますので、PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「入門化学B」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of nuclear energies will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学B

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では化石燃料の燃焼によって引き起こされる環境問題やエネルギー消費について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられています。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料としての役割を持っています。本授業では、文明の鍵である化石燃料について、成分分子の構造や性質に加え、燃焼反応に伴う生成物や反応熱に関して定量的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第2回	分子	物質の基本単位である分子の構造や種類を学習する。
第3回	化学反応	物質の変化である化学反応に関して基本的な法則や表記法を演習を交えて学習する。
第4回	炭化水素の燃焼	化石燃料からエネルギーを取り出す際に本質的な炭化水素の燃焼反応について詳細に検討する。
第5回	化学量論	原子量・分子量の概念を学習し、反応物と生成物の量的関係を学習する。
第6回	熱化学方程式	化学反応に伴って出入りするエネルギーに関して、種類や関連する法則を学習する。
第7回	炭化水素のH/C比	炭化水素のH/C比と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第8回	CO ₂ の排出量	CO ₂ の排出量と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。

第9回	石炭	石炭に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第10回	石油	石油に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第11回	天然ガス	天然ガスに関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第12回	その他の化石燃料	オイルサンド、オイルシェール等に関して、成り立ち、特徴、利用法などを学習する。
第13回	温暖化・酸性雨	化石燃料の燃焼に伴って発生した地球温暖化や酸性雨について学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第2版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

書名：教養としての化学入門（第2版）

著者名：Kimberley Waldron

訳者名：竹内敬人

出版者名：化学同人

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じてオンライン授業を行うことがありますので、PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「入門化学A」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of fossil fuels will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

ASR100LA (天文学 / Astronomy 100)

天文学 A

2017年度以降入学者

小野 宜昭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙はどのように始まり、今日に至ったのか？ この問いは、おそらく誰もが一度は抱く素朴な疑問でありながら、人類が現在の理解にたどり着くまでには長い科学的探究が必要であった。科学者たちは好奇心を原動力に、試行錯誤する中での発見やセレンディビティ等を契機にして、宇宙に対する理解を前進させてきた。この授業では、宇宙の探究に取り組んできた科学者たちの挑戦を通して、この宇宙の成り立ちや進化について学ぶ。

【到達目標】

宇宙の成り立ちや進化の解明に挑んできた先人たちの歩みを知り、ビッグバン宇宙論について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。資料はHoppiiを通じて配布し、復習できるようにする。毎回Hoppiiでミニテストを行って理解度を確認する。随時、授業内容の質問を受け付け、質問に答えることでフィードバックをかける。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。 受講の方法を示す。
第2回	天動説と地動説	地球中心説から太陽中心説へ 至った経緯を学ぶ。
第3回	光速の測定と特殊相対論	光の速さを測定する実験と、特殊相対論について学ぶ。
第4回	一般相対論	重力の理論について学ぶ。
第5回	相対論的宇宙モデル	一般相対論をもとにした宇宙モデルについて学ぶ。
第6回	星雲論争	星雲が銀河系内の天体か銀河系外の天体かという論争について学ぶ。
第7回	膨張する宇宙	銀河の後退速度と距離の間の関係について学ぶ。
第8回	原子の近代史	原子の構造と原子核反応について学ぶ。
第9回	宇宙の始まり	ビッグバン元素合成について学ぶ。
第10回	宇宙の年齢問題	ビッグバン宇宙モデルと定常宇宙モデルの論争について学ぶ。
第11回	重い元素の合成	恒星内部の核融合について学ぶ。
第12回	宇宙からの電波	電波観測と宇宙マイクロ波背景放射について学ぶ。
第13回	宇宙初期の「化石」	宇宙マイクロ波背景放射の密度ゆらぎについて学ぶ。
第14回	期末試験	対面で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料をweb上で配布する。

【参考書】

適宜授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は期末試験70%、ミニテスト30%である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

web上の資料を閲覧したり、ミニテストに回答したりできる情報機器。

【その他の重要事項】

天文学Aと天文学Bはどちらを先に受講してもよく、必ずしも両方を受講する必要はない。ただし、両方を受講することで、天文学への理解がより深まることが期待される。

【Outline (in English)】

Course Outline:

How did the universe originate, and how has it evolved into its current state? This fundamental question, though seemingly simple and intuitive, has required an extensive and rigorous process of scientific investigation to reach our present understanding. Motivated by curiosity, scientists have advanced our knowledge of the universe through systematic experimentation, theoretical modeling, and occasional serendipitous discoveries. In this course, we will explore the origins and evolution of the universe by examining the scientific challenges and breakthroughs achieved by researchers who have dedicated themselves to unraveling its nature and underlying principles.

Learning Objectives:

We will learn about the efforts of previous pioneers who have challenged the fundamental questions regarding the origin and evolution of the universe and grasp the concept of the Big Bang cosmology.

Learning Activities outside of Classroom:

Instructions will be given during class. The standard time for preparation and review for this course is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

A final exam will be conducted. Mini-tests will be given in each class. The grading distribution is 70% for the final exam and 30% for the mini-tests.

ASR100LA (天文学 / Astronomy 100)

天文学B

2017年度以降入学者

小野 宜昭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、宇宙の始まりや進化、その中で形成される星やブラックホール、銀河、銀河団、さらには太陽系や太陽系外惑星、地球外生命など、天文学に関する幅広いトピックの基本的な内容を学ぶ。夜空の向こうに広がる豊かな宇宙に思いを巡らせ、私たちが住むこの世界を広い視点から理解する機会とする。

【到達目標】

天文学に関して現在までに得られているさまざまな科学的成果への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。資料はHoppiiを通じて配布し、復習できるようにする。毎回Hoppiiでミニテストを行って理解度を確認する。随時、授業内容の質問を受け付け、質問に答えることでフィードバックをかける。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	宇宙の観測と距離測定	宇宙を観測する方法と天体までの距離測定について学ぶ。
第3回	宇宙の歴史	ビッグバン宇宙論にもとづく宇宙の歴史について学ぶ。
第4回	ダークマター	ダークマターの存在を示唆する観測結果とその候補や検証実験について学ぶ。
第5回	銀河の形成と進化	宇宙の構造形成論にもとづく銀河の形成と進化について学ぶ。
第6回	恒星の誕生と進化	星形成や恒星の主系列段階および超新星爆発など、恒星の一生について学ぶ。
第7回	元素の合成	宇宙において元素がどのように作られてきたか学ぶ。
第8回	ブラックホール	ブラックホールに関する理論研究やさまざまな観測結果について学ぶ。
第9回	ダークエネルギー	宇宙の加速膨張を示す観測結果とダークエネルギーについて学ぶ。
第10回	太陽系	太陽系を構成する惑星や衛星などについて学ぶ。
第11回	惑星系	惑星系の形成と進化について学ぶ。
第12回	太陽系外惑星	太陽系以外の恒星の周囲に見つかっている惑星について学ぶ。
第13回	地球外生命	地球以外の太陽系内外の天体での生命探査について学ぶ。

第14回 期末試験

対面で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料をweb上で配布する。

【参考書】

適宜授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は期末試験70%、ミニテスト30%である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

web上の資料を閲覧したり、ミニテストに回答したりできる情報機器。

【その他の重要事項】

天文学Aと天文学Bはどちらを先に受講してもよく、必ずしも両方を受講する必要はない。ただし、両方を受講することで、天文学への理解がより深まることが期待される。

【Outline (in English)】

Course Outline:

This course provides an introduction to a wide range of fundamental topics in astronomy, including the origin and evolution of the universe, the formation of stars, black holes, galaxies, and galaxy clusters, as well as the solar system, exoplanets, and extraterrestrial life. It offers an opportunity to contemplate the expansive and profound universe beyond the night sky and to gain a broader perspective on the world that we inhabit.

Learning Objectives:

Students will deepen their understanding of the various scientific findings obtained in astronomy to date.

Learning Activities outside of Classroom:

Instructions will be given during class. The standard time for preparation and review for this course is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

A final exam will be conducted. Mini-tests will be given in each class. The grading distribution is 70% for the final exam and 30% for the mini-tests.

ASR100LA (天文学 / Astronomy 100)

天文学 A

2017年度以降入学者

水田 晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

約138億年前におきたビッグバン以降、宇宙がどのように進化し現在の姿に至ったのか、我々や身の回りの物質を構成するさまざまな元素がいつどのように作られたのかを学ぶ。太陽のような恒星、恒星の集団である銀河、銀河の集団、さらに宇宙全体を対象とするだけでなく重力波やニュートリノ観測など近年急速に観測が進んできた分野についても学ぶ。

【到達目標】

ビッグバン以降、星の誕生から銀河の形成を経て、現在の宇宙の姿に至るまでを学ぶ。星や銀河の性質を理解し我々を含め宇宙を構成する元素の起源を理解する。単に知識を増やすだけでなく、どのような観測や理論から現在の理解に至ったかという背景まで含めての理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。講義資料はHoppiiを通じて配布し、復習できるようにする。毎回授業の終わりにHoppiiでミニテストを行って理解度を確認をし、出席点とする。随時、授業内容の質問を受け付け、次回以降の授業中に質問に答えることでフィードバックをかける。

最新の観測や理論を紹介するだけでなく、関連する身近な話題や動画などを利用し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、宇宙の階層構造	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。宇宙の構造についてふれる。
第2回	太陽と恒星(1)	我々にとって最も身近な恒星である太陽について学ぶと共に、恒星の多様性について学ぶ。
第3回	太陽と恒星(2)	恒星の一生について学ぶ。
第4回	万有引力の法則	万有引力の法則について学ぶ。
第5回	銀河	星の集団である銀河について学ぶ。
第6回	超新星爆発	星の一生の最期の一形態である超新星爆発について学ぶ。
第7回	宇宙の観測と望遠鏡	宇宙の観測手段の発展の歴史、最新の観測機器およびその成果について学ぶ。
第8回	ビッグバンと宇宙膨張	宇宙開闢時にあった大爆発「ビッグバン」とその後の宇宙膨張について学ぶ。
第9回	宇宙の歴史	ビッグバン以降約138億年に渡る宇宙の歴史について学ぶ。

第10回	元素の起源	私達を含め身の回りの全てのものは元素からなりたっている。宇宙においてさまざまな元素がどのようにできてきたのかを学ぶ。
第11回	ブラックホール	アインシュタインが提唱した一般相対性理論とその帰結の一つであるブラックホールについて学ぶ。
第12回	重力波	一般相対性理論から時空のゆがみが伝搬する重力波が予言された。重力波とは何か、どのように観測するのかを学ぶ。
第13回	ニュートリノ、ダークマター	幽霊粒子と言われたニュートリノの性質、観測方法について学ぶ。宇宙に存在するといわれながらいまだ発見されていないダークマター、その探索について学ぶ。
第14回	期末試験	対面で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料をHoppiiを用いて配布する。

【参考書】

適宜授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

【学生の意見等からの気づき】

受講のきっかけは「授業内容に興味を持ったから」が最も多かった。学生の興味、関心に応えられるような講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回授業の最後にミニテストをHoppiiを用いて行う。Hoppiiにアクセスができれば簡単な入力作業ができる情報機器。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the components of the universe such as stars, black holes, galaxies, etc. and to get an overall picture of them.

The goal of this course is to understand the 13.8 billion years history of the Universe from the Big Bang to today.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

ASR100LA (天文学 / Astronomy 100)

天文学B

2017年度以降入学者

水田 晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙138億年の歴史のなかでどのようにして地球のような生命を育む環境が生じたのか、地球以外にも生命を宿す惑星、衛星があるのかについて学ぶ。太陽系全体を俯瞰すると同時に多様な生命を宿す地球の環境や歴史についても学ぶ。また、系外惑星（第二の地球）と地球外生命の可能性についても学ぶ。天文学Bは天文学Aからの続きである。必ずしも天文学Aを事前に受講する必要はないが、天文学AとBを両方受講するとより理解が深まるであろう。

【到達目標】

我々が住む地球を含む太陽系の現在の姿だけでなくその成り立ちや歴史を理解し、天体上に生命が誕生しうる条件を学ぶことで、宇宙・地球と生命との関係を時間的・空間的スケールにおいてとらえられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。講義資料はHoppiiを通じて配布し、復習できるようにする。毎回授業の終わりにHoppiiでミニテストを行って理解度を確認をし、出席点とする。随時、授業内容の質問を受け付け、次回以降の授業中に質問に答えることでフィードバックをかける。

最新の観測や理論を紹介するだけでなく、関連する身近な話題や動画などを利用し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、天文学と暦	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。天文観測から暦の決められ方を学ぶ。
第2回	星の運動、天動説と地動説	星の見かけの運動を理解し、そこからどのように地動説という考えに至ったかを学ぶ。
第3回	現代の太陽系像（1）	太陽系全体を概観し、太陽、地球型惑星について学ぶ。
第4回	現代の太陽系像（2）	木星型／天王星型惑星、準惑星、太陽系小天体（小惑星、彗星など）について学ぶ。
第5回	星間物質と星形成	太陽などの恒星の生まれる環境、条件について学ぶ。
第6回	太陽系の起源	惑星の誕生、地球の衛星である月の起源についても学ぶ。
第7回	地球の歴史（1）	地球の誕生から海、そして酸素を含む大気がどのように形成されたかを学ぶ。
第8回	地球の歴史（2）	大量の水を液体としてもつ地球とハビタブルゾーン概念について学ぶ。

第9回	地球が宇宙から受ける影響	地球が宇宙から受ける影響、特に宇宙線、隕石などから受ける影響について学ぶ。
第10回	太陽系の惑星、衛星の探査	人工衛星などを用いた惑星、衛星探査の成果について学ぶ。今後の観測計画についてもふれる。
第11回	系外惑星（1）	太陽系以外の恒星の周りを周回する惑星の発見について学ぶ。
第12回	系外惑星（2）	太陽系以外の恒星の周りを周回する惑星の多様性について学ぶ。
第13回	地球外生命探査	地球以外の太陽系天体、太陽系外の天体に生命が存在するかをどうやって探るかを考える。対面で期末試験を実施する。
第14回	期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料をHoppiiを用いて配布する。

【参考書】

適宜授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

【学生の意見等からの気づき】

受講のきっかけは「授業内容に興味を持ったから」が最も多かった。学生の興味、関心に応えられるような講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回授業の最後にミニテストをHoppiiを用いて行う。Hoppiiにアクセスができ簡単な入力作業ができる情報機器。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about the environment and history of the Earth, which is home to a variety of life, and solar system.

The goals of this course is to enable students to understand the relationship between the Universe, the earth, and life on both time and spatial scales.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

ASR100LA (天文学 / Astronomy 100)

天文学 A

2017年度以降入学者

小野 宜昭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙はどのように始まり、今日に至ったのか？ この問いは、おそらく誰もが一度は抱く素朴な疑問でありながら、人類が現在の理解にたどり着くまでには長い科学的探究が必要であった。科学者たちは好奇心を原動力に、試行錯誤する中での発見やセレンディビティ等を契機にして、宇宙に対する理解を前進させてきた。この授業では、宇宙の探究に取り組んできた科学者たちの挑戦を通して、この宇宙の成り立ちや進化について学ぶ。

【到達目標】

宇宙の成り立ちや進化の解明に挑んできた先人たちの歩みを知り、ビッグバン宇宙論について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。資料はHoppiiを通じて配布し、復習できるようにする。毎回Hoppiiでミニテストを行って理解度を確認する。随時、授業内容の質問を受け付け、質問に答えることでフィードバックをかける。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。 受講の方法を示す。
第2回	天動説と地動説	地球中心説から太陽中心説へ 至った経緯を学ぶ。
第3回	光速の測定と特殊相対論	光の速さを測定する実験と、特殊相対論について学ぶ。
第4回	一般相対論	重力の理論について学ぶ。
第5回	相対論的宇宙モデル	一般相対論をもとにした宇宙モデルについて学ぶ。
第6回	星雲論争	星雲が銀河系内の天体か銀河系外の天体かという論争について学ぶ。
第7回	膨張する宇宙	銀河の後退速度と距離の間の関係について学ぶ。
第8回	原子の近代史	原子の構造と原子核反応について学ぶ。
第9回	宇宙の始まり	ビッグバン元素合成について学ぶ。
第10回	宇宙の年齢問題	ビッグバン宇宙モデルと定常宇宙モデルの論争について学ぶ。
第11回	重い元素の合成	恒星内部の核融合について学ぶ。
第12回	宇宙からの電波	電波観測と宇宙マイクロ波背景放射について学ぶ。
第13回	宇宙初期の「化石」	宇宙マイクロ波背景放射の密度ゆらぎについて学ぶ。
第14回	期末試験	対面で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料をweb上で配布する。

【参考書】

適宜授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は期末試験70%、ミニテスト30%である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

web上の資料を閲覧したり、ミニテストに回答したりできる情報機器。

【その他の重要事項】

天文学Aと天文学Bはどちらを先に受講してもよく、必ずしも両方を受講する必要はない。ただし、両方を受講することで、天文学への理解がより深まることが期待される。

【Outline (in English)】

Course Outline:

How did the universe originate, and how has it evolved into its current state? This fundamental question, though seemingly simple and intuitive, has required an extensive and rigorous process of scientific investigation to reach our present understanding. Motivated by curiosity, scientists have advanced our knowledge of the universe through systematic experimentation, theoretical modeling, and occasional serendipitous discoveries. In this course, we will explore the origins and evolution of the universe by examining the scientific challenges and breakthroughs achieved by researchers who have dedicated themselves to unraveling its nature and underlying principles.

Learning Objectives:

We will learn about the efforts of previous pioneers who have challenged the fundamental questions regarding the origin and evolution of the universe and grasp the concept of the Big Bang cosmology.

Learning Activities outside of Classroom:

Instructions will be given during class. The standard time for preparation and review for this course is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

A final exam will be conducted. Mini-tests will be given in each class. The grading distribution is 70% for the final exam and 30% for the mini-tests.

ASR100LA (天文学 / Astronomy 100)

天文学B

2017年度以降入学者

小野 宜昭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、宇宙の始まりや進化、その中で形成される星やブラックホール、銀河、銀河団、さらには太陽系や太陽系外惑星、地球外生命など、天文学に関する幅広いトピックの基本的な内容を学ぶ。夜空の向こうに広がる豊かな宇宙に思いを巡らせ、私たちが住むこの世界を広い視点から理解する機会とする。

【到達目標】

天文学に関して現在までに得られているさまざまな科学的成果への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。資料はHoppiiを通じて配布し、復習できるようにする。毎回Hoppiiでミニテストを行って理解度を確認する。随時、授業内容の質問を受け付け、質問に答えることでフィードバックをかける。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	宇宙の観測と距離測定	宇宙を観測する方法と天体までの距離測定について学ぶ。
第3回	宇宙の歴史	ビッグバン宇宙論にもとづく宇宙の歴史について学ぶ。
第4回	ダークマター	ダークマターの存在を示唆する観測結果とその候補や検証実験について学ぶ。
第5回	銀河の形成と進化	宇宙の構造形成論にもとづく銀河の形成と進化について学ぶ。
第6回	恒星の誕生と進化	星形成や恒星の主系列段階および超新星爆発など、恒星の一生について学ぶ。
第7回	元素の合成	宇宙において元素がどのように作られてきたか学ぶ。
第8回	ブラックホール	ブラックホールに関する理論研究やさまざまな観測結果について学ぶ。
第9回	ダークエネルギー	宇宙の加速膨張を示す観測結果とダークエネルギーについて学ぶ。
第10回	太陽系	太陽系を構成する惑星や衛星などについて学ぶ。
第11回	惑星系	惑星系の形成と進化について学ぶ。
第12回	太陽系外惑星	太陽系以外の恒星の周囲に見つかっている惑星について学ぶ。
第13回	地球外生命	地球以外の太陽系内外の天体での生命探査について学ぶ。

第14回 期末試験

対面で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料をweb上で配布する。

【参考書】

適宜授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は期末試験70%、ミニテスト30%である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

web上の資料を閲覧したり、ミニテストに回答したりできる情報機器。

【その他の重要事項】

天文学Aと天文学Bはどちらを先に受講してもよく、必ずしも両方を受講する必要はない。ただし、両方を受講することで、天文学への理解がより深まることが期待される。

【Outline (in English)】

Course Outline:

This course provides an introduction to a wide range of fundamental topics in astronomy, including the origin and evolution of the universe, the formation of stars, black holes, galaxies, and galaxy clusters, as well as the solar system, exoplanets, and extraterrestrial life. It offers an opportunity to contemplate the expansive and profound universe beyond the night sky and to gain a broader perspective on the world that we inhabit.

Learning Objectives:

Students will deepen their understanding of the various scientific findings obtained in astronomy to date.

Learning Activities outside of Classroom:

Instructions will be given during class. The standard time for preparation and review for this course is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

A final exam will be conducted. Mini-tests will be given in each class. The grading distribution is 70% for the final exam and 30% for the mini-tests.

SHS100LA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 100）

科学論 A

2017年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「閉じた世界から無限宇宙へ」をテーマとし、西洋における科学のはじまりから「17世紀科学革命」の時期までの宇宙論の変遷を追う中で、近代科学および科学的思考について、歴史的、思想的な背景を中心に学んでいくことを目指す（秋学期の同一講師による「科学論B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

(1)講義で取り上げた科学論、科学史、科学的思考に関する事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。

(2)その知識をベースに、これらの事項に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後学習支援システムを通じて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、学習支援システムで受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第2回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第3回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、一度歴史をさかのぼり、ピュタゴラス派からプトレマイオスまでの西洋古代の天文学史を学ぶ
第4回	アリストテレスの形而上学と自然学(1)	再びプラトンの直後に戻り、プラトンの弟子であり中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく
第5回	アリストテレスの形而上学と自然学(2)／古代後期の自然哲学	引き続きアリストテレス自然学に付いて学び、その後、近代世界にも大きな影響を与えた古代後期の代表的な学派であるストア派とエピクロス派の自然哲学を学ぶ

第6回	中世イスラム世界におけるプトレマイオス天文学の継承と見直し／ルネサンス期の天文学	中世におけるプトレマイオス天文学の発展と、コペルニクスに先立つルネサンス期ヨーロッパの天文学の動向を学ぶ
第7回	コペルニクス天文学の成立	ルネサンス人コペルニクスの人となり、プラトン、アリストテレス、およびイスラム天文学の影響下でプトレマイオス体系の見直しを試みたコペルニクスが地動説に到達するまでの経過を学ぶ
第8回	コペルニクス天文学の受容とその余波	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心に見ていく
第9回	17世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判	天文学の革新と呼応して進んだ「17世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第10回	デカルトによる近代科学の基礎づけ	科学革命によって成立した「機械論的自然観」を哲学的に基礎づけようとしたデカルトの試みを見ていく
第11回	デカルトとヘンリー・モアの論争	ニュートンの空間概念に大きな影響を与えたとされる、ケンブリッジ・プラトン主義の創始者ヘンリー・モアの独特の空間論と、彼のデカルトとの論争を見ていく
第12回	スピノザの「神即自然」	科学革命が明らかにした「無限な宇宙」を「無限な実体としての神」と重ね合わせた異端的思想家であるスピノザの「神即自然」の思想を概観する
第13回	ニュートンとライプニッツの論争(1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第14回	ニュートンとライプニッツの論争(2)／ニュートン力学の発展とその後	18世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後学習支援システムの課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ハーバート・バタウィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）を挙げておく。今期の講義により密接に関わる文献としては、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）と、アレクサンドル・コイレ『閉じた世界から無限宇宙へ』（みすず書房）／『コスモスの崩壊』（白水社）があるが、いずれも入門書とは言えず、難易度が高い。

【成績評価の方法と基準】

毎回の受講確認課題に基づく平常点30%、期末レポート70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることが心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の受講確認課題とレポートは受講後学習支援システム上で受け付けるので、受講後学習支援システムにアクセスできる環境は必須である。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of cosmology from ancient to the age of "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn about modern science and the scientific thinking from the historical viewpoint.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

- (1) to learn about the topics on science, history of science, and the scientific thinking treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,
- (2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through internet and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (70%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(30%) .

SHS100LA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 100)

科学論B

2017年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は「進化論と人間観」と題し、19世紀におけるダーウィン進化論の登場までの科学の歩みとその後の進化論の発展の歴史、そしてその人間観への影響を見ていく中で、科学理論と社会や思想との関わりについて学ぶことを目指す。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学論A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

- (1) 講義で取り上げた科学論およびそれに関連する歴史的事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、それらの事項に関して、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後受講後学習支援システムを通じて求め求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、受講後学習支援システムを通じて受け付ける（最終の授業の内容も反映できるように、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第2回	古代哲学における目的論と反目的論(1)	古代ギリシャにおける目的論的自然観と反目的論的自然観の相克を見ていく。まずはデモクリトスの反目的論的自然観とプラトンの目的論的自然観
第3回	古代学における目的論と反目的論(2)	アリストテレスの目的論的自然観、およびストア派とエピクロス派の自然観の衝突
第4回	デカルト・ライプニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「こころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライプニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ
第5回	ヒュームの『自然宗教をめぐる対話』におけるダーウィン以前の「デザイン論」をめぐる問題	ヒュームの著書を手がかりに、ダーウィン以前における「知的デザイン」をめぐる思想状況を概観する

第6回	進化論前史(1)	ダーウィンの進化論に先立つ、それを準備した歴史的背景について見ていく
第7回	進化論前史(2)／ダーウィンの自然選択説(1)	前回に引き続き、主にダーウィン以前の進化思想について学び、引き続き、ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択説について学ぶ
第8回	ダーウィンの自然選択説(2)	前回に引き続き、自然選択説の論理やその意義などについて学ぶ
第9回	「ダーウィニズムの失墜」の時代：「偽ダーウィニズム」と「反ダーウィニズム」	19世紀後期から20世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィンの進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方をの特徴を考察する
第10回	「メンデル革命」から集団遺伝学の成立まで	20世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル遺伝学が、やがてダーウィニズムと結びつき、集団遺伝学を生み出すまでを学ぶ。
第11回	進化の総合説の確立とその後の発展	集団遺伝学において復権したダーウィニズムを生物学の基礎的な理論とする「進化の総合説」の確立と、その後の1970年代頃までのダーウィニズムの発展を見ていく。
第12回	進化論の社会的影響	いったん目を19世紀後半に戻し、進化論が社会にどのような影響を与えたかを見ていく。
第13回	社会生物学論争とその後の展開	第二次大戦後の人間研究の状況を概観したあと、1980年代に巻き起こった「社会生物学論争」について学ぶ。
第14回	現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影响を見ていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後学習支援システムを用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に持ってよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】

毎回の受講確認課題に基づく平常点30%、期末レポート70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の受講確認課題とレポートは受講後学習支援システム上で受け付けるので、受講後学習支援システムにアクセスできる環境は必須である。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of evolutionary theory and its social influence. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

- (1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,
- (2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through internet and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (70%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(30%) .

SHS100LA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 100)

科学論 A

2017年度以降入学者

金光 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学・技術の過去や現在を学ぶことは、科学・技術の未来を考察することにつながります。本授業では、環境問題を中心に現代の科学・技術がもたらした社会問題の歴史を学び、そうした問題について自らの社会観・価値観と関連づけながら考察することを目指します。それを通して、科学・技術が将来もたらしうる問題を自らの社会観・価値観と関連づけながら考察するための基礎づくりを行います。

【到達目標】

本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。
 ・科学・技術がもたらした社会問題について、歴史的観点を踏まえて具体的に説明できる。
 ・科学・技術がもたらした社会問題について、自らの社会観・価値観と関連づけながら考察できる。
 ・科学・技術と社会の相互作用の中で生じる問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行います。そのため、知識を扱うオンデマンド配信回とディスカッションをメインとする対面回の混合型で授業を実施します。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	環境問題の歴史	科学・技術がもたらした環境問題について歴史的に概観します。
第3回	事例研究「水俣病」	水俣病を事例として研究します。
第4回	環境思想の歴史	環境思想について歴史的に概観します。
第5回	事例研究「アミノクロウサギ訴訟」	アミノクロウサギ訴訟を事例として研究します。
第6回	環境問題と市民	環境問題における当事者性について考察します。
第7回	事例研究「地球温暖化」	地球温暖化を事例として研究します。
第8回	科学による可視化と不可視化	科学の不確実性の問題を考察します。
第9回	事例研究「緑の革命」	緑の革命を事例として研究します。
第10回	巨大事故の時代	具体例を用いながら巨大事故について考察します。
第11回	事例研究「チャレンジャー号事故」	チャレンジャー号事故を事例として研究します。

第12回	巨大技術システムの構造的問題	具体例を用いながら巨大技術システムの構造的問題を考察します。
第13回	事例研究「阪神・淡路大震災」	阪神・淡路大震災を事例として研究します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学・技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

塚原東吾 [ほか] 編著『よくわかる現代科学技術史・STS』ミネルヴァ書房、2022年
 野家啓一『科学哲学への招待』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2015年
 中島秀人『社会の中の科学』放送大学教育振興会、2008年
 伊勢田哲治 [ほか] 編『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013年

【成績評価の方法と基準】

本授業は、知識を得ることだけでなく、積極的にディスカッションに参加するなどして、自ら問題を考察することを期待します。このような観点から、対面回における議論への参加度合とリアクションペーパーを平常点として評価します（30％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（50％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションが好評でしたので、引き続き実施します。

【その他の重要事項】

本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline

Studying the past and present of science and technology will lead us to consider the future of science and technology. In this course, we will study the history of social problems brought about by modern science and technology, with a focus on environmental issues, and will aim to examine such problems in relation to our own social views and values. Through this, students will build a foundation for examining the problems that science and technology may bring in the future while relating them to their own social views and values.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social problems brought about by science and technology in concrete terms from a historical perspective.
- Consider the social problems brought about by science and technology while relating them to your own social views and values.
- Think critically about issues that arise in the interaction between science, technology, and society.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class report (20%), in class exam (50%), and in class contribution (30%).

SHS100LA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 100)

科学論 B

2017年度以降入学者

金光 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学・技術の過去や現在を学ぶことは、科学・技術の未来を考察することにつながります。本授業では、科学者の社会的責任という観点から現代の科学・技術がもたらした社会問題の歴史を学び、そうした問題について自らの社会観・価値観と関連づけながら考察することを目指します。それを通して、科学・技術が将来もたらしうる問題を自らの社会観・価値観と関連づけながら考察するための基礎づくりを行います。

【到達目標】

本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。

- ・科学・技術がもたらした社会問題について、歴史的観点を踏まえて具体的に説明できる。
- ・科学・技術がもたらした社会問題について、自らの社会観・価値観と関連づけながら考察できる。
- ・科学・技術と社会の相互作用の中で生じる問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行います。そのため、知識を扱うオンデマンド配信回とディスカッションをメインとする対面回の混合型で授業を実施します。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	科学者の社会的責任の歴史的概観	科学者の社会的責任について歴史的に概観します。
第3回	事例研究「マンハッタン計画」	マンハッタン計画を事例として研究します。
第4回	科学・技術と国家	科学・技術と国家の関係について、軍事技術を取り上げながら検討します。
第5回	事例研究「朝鮮戦争・ベトナム戦争と科学技術」	朝鮮戦争・ベトナム戦争を例に科学技術のあり方を考察します。
第6回	責任ある研究	具体例を用いながら責任ある研究と研究不正について解説します。
第7回	事例研究「東大RNA論文捏造事件」	東大RNA論文捏造事を事例として研究します。
第8回	研究不正の防止①	研究不正を防止するにはどうすればよいのかについて検討します。

第9回	事例研究「ベル研シェーン事件」	ベル研シェーン事件を事例として研究します。
第10回	研究不正の防止②	具体例を用いながら研究不正を防止について検討します。
第11回	事例研究「The Lab」	仮想事例The Labを通して問題を検討します。
第12回	科学者の社会的責任の3つの相	科学者の社会的責任の3つの相について考察します。
第13回	事例研究「BSE問題」	BSEを事例として研究します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学・技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

藤垣裕子『科学者の社会的責任』岩波書店、2018年
唐木順三『「科学者の社会的責任」についての覚え書』筑摩書房、2012年
金森修『科学の危機』集英社、2015年

【成績評価の方法と基準】

本授業は、知識を得るだけでなく、積極的にディスカッションに参加するなどして、自ら問題を考察することを期待します。このような観点から、対面回における議論への参加度合とリアクションペーパーを平常点として評価します（30％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（50％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションが好評でしたので、引き続き実施します。

【その他の重要事項】

本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline

Studying the past and present of science and technology will lead us to consider the future of science and technology. In this course, we will study the history of social problems brought about by modern science and technology, with a focus on social responsibility of scientists, and will aim to examine such problems in relation to our own social views and values. Through this, students will build a foundation for examining the problems that science and technology may bring in the future while relating them to their own social views and values.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social problems brought about by science and technology in concrete terms from a historical perspective.
- Consider the social problems brought about by science and technology while relating them to your own social views and values.
- Think critically about issues that arise in the interaction between science, technology, and society.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class report (20%), in class exam (50%), and in class contribution (30%).

SHS100LA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 100）

科学論 A

2017年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「閉じた世界から無限宇宙へ」をテーマとし、西洋における科学のはじまりから「17世紀科学革命」の時期までの宇宙論の変遷を追う中で、近代科学および科学的思考について、歴史的、思想的な背景を中心に学んでいくことを目指す（秋学期の同一講師による「科学論B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

(1)講義で取り上げた科学論、科学史、科学的思考に関する事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。

(2)その知識をベースに、これらの事項に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後学習支援システムを通じて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、学習支援システムで受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第2回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第3回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、一度歴史をさかのぼり、ピュタゴラス派からプトレマイオスまでの西洋古代の天文学史を学ぶ
第4回	アリストテレスの形而上学と自然学(1)	再びプラトンの直後に戻り、プラトンの弟子であり中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく
第5回	アリストテレスの形而上学と自然学(2)／古代後期の自然哲学	引き続きアリストテレス自然学について学び、その後、近代世界にも大きな影響を与えた古代後期の代表的な学派であるストア派とエピクロス派の自然哲学を学ぶ

第6回	中世イスラム世界におけるプトレマイオス天文学の継承と見直し／ルネサンス期の天文学	中世におけるプトレマイオス天文学の発展と、コペルニクスに先立つルネサンス期ヨーロッパの天文学の動向を学ぶ
第7回	コペルニクス天文学の成立	ルネサンス人コペルニクスの人となり、プラトン、アリストテレス、およびイスラム天文学の影響下でプトレマイオス体系の見直しを試みたコペルニクスが地動説に到達するまでの経過を学ぶ
第8回	コペルニクス天文学の受容とその余波	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心に見ていく
第9回	17世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判	天文学の革新と呼応して進んだ「17世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第10回	デカルトによる近代科学の基礎づけ	科学革命によって成立した「機械論的自然観」を哲学的に基礎づけようとしたデカルトの試みを見ていく
第11回	デカルトとヘンリー・モアの論争	ニュートンの空間概念に大きな影響を与えたとされる、ケンブリッジ・プラトン主義の創始者ヘンリー・モアの独特の空間論と、彼のデカルトとの論争を見ていく
第12回	スピノザの「神即自然」	科学革命が明らかにした「無限な宇宙」を「無限な実体としての神」と重ね合わせた異端的思想家であるスピノザの「神即自然」の思想を概観する
第13回	ニュートンとライプニッツの論争(1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第14回	ニュートンとライプニッツの論争(2)／ニュートン力学の発展とその後	18世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後学習支援システムの課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。
講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい）。
講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ハーバート・バタウィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）を挙げておく。今期の講義により密接に関わる文献としては、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）と、アレクサンドル・コイレ『閉じた世界から無限宇宙へ』（みすず書房）／『コスモスの崩壊』（白水社）があるが、いずれも入門書とは言えず、難易度が高い。

【成績評価の方法と基準】

毎回の受講確認課題に基づく平常点30%、期末レポート70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることが心掛けて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の受講確認課題とレポートは受講後学習支援システム上で受け付けるので、受講後学習支援システムにアクセスできる環境は必須である。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of cosmology from ancient to the age of "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn about modern science and the scientific thinking from the historical viewpoint.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

- (1) to learn about the topics on science, history of science, and the scientific thinking treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,
- (2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through internet and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (70%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(30%) .

SHS100LA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 100)

科学論B

2017年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は「進化論と人間観」と題し、19世紀におけるダーウィン進化論の登場までの科学の歩みとその後の進化論の発展の歴史、そしてその人間観への影響を見ていく中で、科学理論と社会や思想との関わりについて学ぶことを目指す。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学論A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

- (1) 講義で取り上げた科学論およびそれに関連する歴史的事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、それらの事項に関して、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後受講後学習支援システムを通じて求め求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、受講後学習支援システムを通じて受け付ける（最終の授業の内容も反映できるように、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第2回	古代哲学における目的論と反目的論(1)	古代ギリシャにおける目的論的自然観と反目的論的自然観の相克を見ていく。まずはデモクリトスの反目的論的自然観とプラトンの目的論的自然観
第3回	古代学における目的論と反目的論(2)	アリストテレスの目的論的自然観、およびストア派とエピクロスの自然観の衝突
第4回	デカルト・ライプニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「こころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライプニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ
第5回	ヒュームの『自然宗教をめぐる対話』におけるダーウィン以前の「デザイン論」をめぐる問題	ヒュームの著書を手がかりに、ダーウィン以前における「知的デザイン」をめぐる思想状況を概観する

第6回	進化論前史(1)	ダーウィンの進化論に先立つ、それを準備した歴史的背景について見ていく
第7回	進化論前史(2)／ダーウィンの自然選択説(1)	前回に引き続き、主にダーウィン以前の進化思想について学び、引き続き、ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択説について学ぶ
第8回	ダーウィンの自然選択説(2)	前回に引き続き、自然選択説の論理やその意義などについて学ぶ
第9回	「ダーウィニズムの失墜」の時代：「偽ダーウィニズム」と「反ダーウィニズム」	19世紀後期から20世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィンの進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方をの特徴を考察する
第10回	「メンデル革命」から集団遺伝学の成立まで	20世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル遺伝学が、やがてダーウィニズムと結びつき、集団遺伝学を生み出すまでを学ぶ。
第11回	進化の総合説の確立とその後の発展	集団遺伝学において復権したダーウィニズムを生物学の基礎的な理論とする「進化の総合説」の確立と、その後の1970年代頃までのダーウィニズムの発展を見ていく。
第12回	進化論の社会的影響	いったん目を19世紀後半に戻し、進化論が社会にどのような影響を与えたかを見ていく。
第13回	社会生物学論争とその後の展開	第二次大戦後の人間研究の状況を概観したあと、1980年代に巻き起こった「社会生物学論争」について学ぶ。
第14回	現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影响を見ていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後学習支援システムを用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に持ってよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】

毎回の受講確認課題に基づく平常点30%、期末レポート70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の受講確認課題とレポートは受講後学習支援システム上で受け付けるので、受講後学習支援システムにアクセスできる環境は必須である。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of evolutionary theory and its social influence. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

- (1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,
- (2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through internet and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (70%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(30%) .

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

数学特講 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

安東 祐希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

線型代数学－大人のための鶴亀算その1

線型（形）代数学の基礎を学ぶ。線型代数学は、微分積分学と並び、数学の基礎を成し、社会科学などを含めて様々な分野で応用されている。データサイエンスにおいても重要な役割を持つ。

線型代数学を標語的にはツルカメ算の一般化と表現できる。鶴と亀あわせて10匹いて足は全部で26本、それぞれ何匹いるのか、というあの鶴亀算である。全部亀だったら足が40本のはずで…などと考えれば小学生でもできる。

次に、頭が二つで足は五本、翼が二つの竜Aがいたとして、鶴と亀と竜Aをあわせて頭は9、足は25、翼は8だったらどうか。これも中学生なら連立一次方程式を解いてそれぞれ何匹いるかわかる。では、竜Bは頭三つ、足八本、翼四つとして、鶴と亀と竜Bをあわせて頭は17、足は48、翼は20の場合は。さっきと同じことだ、と思うかもしれないが、違うのである。さっきより少々難しい。何が違うのか、どのように解くことができるのか、線型代数学を学ぶと、図形的な把握のもとに理解することができる。

この春期授業では、線型代数の基本的な道具である行列と行列式に関し、計算方法を学んでゆく。

【到達目標】

- ・行列の定義を理解し、行列演算に関する計算ができる。
- ・行列式の定義を理解し、行列式に関する計算ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	線型代数の第一歩	鶴亀算
第2回	ベクトルとは	数ベクトルの定義と演算
第3回	ベクトルと図形	一次結合の図形的解釈
第4回	行列とは	行列の定義と演算
第5回	行列演算の性質	線型性
第6回	行列の意味するもの	線型写像と表現行列
第7回	行列演算の再考	線型写像の合成写像

第8回	行列の逆演算	逆行列の定義
第9回	簡単な行列式	低次の行列式
第10回	行列式の性質	多重線型性、交代性、正規性
第11回	行列式の性質再考	行列式の一意性
第12回	一般の行列式	行列式の定義の拡張
第13回	行列式計算の実際	行展開、列展開
第14回	半期のまとめ	総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

線型代数（線形代数）に関する書籍は実に沢山あり、おそらくそのいずれもが本授業の参考となるものと思う。次の三つはそれらの中の例である。

・松坂和夫『線型代数入門』（岩波書店）1980年、新装版2018年
 ・川久保勝夫『線形代数学』（日本評論社）1999年、新装版2010年
 ・H. アントン [山下純一 訳]『アントンのやさしい線型代数』（現代数学社）1980年、新装版2020年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

秋期科目「数学特講 L B」の予備知識となる内容を含む。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with basic concepts and tools of linear algebra, especially matrices and determinants.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do calculations on matrices and determinants.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

数学特講 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

安東 祐希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

線型代数学－大人のための鶴亀算その2

線型（形）代数学の基礎を学ぶ。線型代数学は、微分積分学と並び、数学の基礎を成し、社会科学などを含めて様々な分野で応用されている。データサイエンスにおいても重要な役割を持つ。

線型代数学を標語的にはツルカメ算の一般化と表現できる。鶴と亀あわせて10匹いて足は全部で26本、それぞれ何匹いるのか、というあの鶴亀算である。全部亀だったら足が40本のはずで…などと考えれば小学生でもできる。

次に、頭が二つで足は五本、翼が二つの竜Aがいたとして、鶴と亀と竜Aをあわせて頭は9、足は25、翼は8だったらどうか。これも中学生なら連立一次方程式を解いてそれぞれ何匹いるかわかる。では、竜Bは頭三つ、足八本、翼四つとして、鶴と亀と竜Bをあわせて頭は17、足は48、翼は20の場合は。さっきと同じことだ、と思うかもしれないが、違うのである。さっきより少々難しい。何が違うのか、どのように解くことができるのか、線型代数学を学ぶと、図形的な把握のもとに理解することができる。

この秋期授業では、連立一次方程式の線型代数による一般的解法や、線型空間の理論を学んでゆく。

【到達目標】

- ・階数の定義を理解し、連立一次方程式を一般に解くことができる。
- ・線型写像の定義を理解し、固有値・固有ベクトルを計算できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	鶴亀算再考	クラメールの方法
第2回	正方行列の分析	余因子行列の定義
第3回	逆行列の計算	余因子行列の性質
第4回	余因子行列再考	行列式の展開の応用
第5回	行列の基本変形	階段行列
第6回	基本変形再考	基本変形と連立一次方程式
第7回	基本変形の応用	連立一次方程式の解法

第8回	行列の階数とは	階数と基本変形
第9回	階数再考	階数と一次独立性
第10回	基本変形の行列表現	基本行列
第11回	逆行列再考	基本変形と逆行列
第12回	線型写像の構造	次元定理
第13回	線型写像を見やすく	固有値・固有ベクトル
第14回	半期のまとめ	総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

線型代数（線形代数）に関する書籍は実に沢山あり、おそらくそのいずれもが本授業の参考となるものと思う。次の三つはそれらの中の例である。

・松坂和夫『線型代数入門』（岩波書店）1980年、新装版2018年
 ・川久保勝夫『線形代数学』（日本評論社）1999年、新装版2010年
 ・H. アントン [山下純一 訳]『アントンのやさしい線型代数』（現代数学社）1980年、新装版2020年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

春期科目「数学特講 L A」で扱う内容を既知として授業を進める。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with basic concepts and tools of linear algebra, especially linear equations and linear mappings.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to solve linear equations and eigenvalue problems.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

発展数学ⅠⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（1変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

【到達目標】

いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞くだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	微分の導入1	導関数と曲線の傾き
第03回	微分の導入2	直線によるグラフの近似
第04回	微分の導入3	ニュートン法
第05回	関数の形式と微分1	合成関数の微分
第06回	関数の形式と微分2	陰関数と微分
第07回	関数の形式と微分3	媒介変数表示と微分
第08回	高階導関数1	2階導関数と曲線のしなり
第09回	高階導関数2	放物線によるグラフの近似
第10回	高階導関数3	マクローリン展開
第11回	高階導関数4	社会科学への応用例
第12回	積分1	積分と微分の関係
第13回	積分2	積分と面積の関係
第14回	試験・まとめと解説	課題等に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（計算ミスなどは誰でもよくある話ですので、気にする必要は全くありません。分からない時は、むしろ、自分の弱点を一步改善する良い機会だと思って、気軽に相談頂けたらと思います。）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。）

【参考書】

微積分学を主題とした数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（30%）において、また、平常点（10%）と共に演習問題への取り組み具合を課題提出（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子です。履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思います。

【その他の重要事項】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよその理解があると履修に有益である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of single variable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of single variable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 30%, Class contribution 10%, Short reports 60%.

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

発展数学ⅠⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の变化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはずである。

【到達目標】

与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞くだけでなく、自ら問題を解いてみる事が求められる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	空間の数学1	空間ベクトルの基礎
第03回	空間の数学2	2変数の1次式と平面
第04回	偏微分1	偏微分とその意味
第05回	偏微分2	偏導関数の計算
第06回	偏微分3	全微分と接平面
第07回	偏微分4	社会科学での活用事例
第08回	極値の計算1	2階偏導関数
第09回	極値の計算2	2変数関数の極値計算
第10回	極値の計算3	公務員試験の問題例
第11回	極値の計算4	制約条件付きの極値問題
第12回	データサイエンスへの応用例1	データの傾向を学習して予想する
第13回	データサイエンスへの応用例2	4次元データを見える化する
第14回	試験・まとめと解説	課題等に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（計算ミスなどは誰でもよくある話ですので、気にする必要は全くありません。分からない時は、むしろ、自分の弱点を一步改善する良い機会だと思って、気軽に相談頂けたらと思います。）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。）

【参考書】

微積分学を主題とした数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（30%）において、また、平常点（10%）と共に演習問題への取り組み具合を課題提出（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子です。で、履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思います。

【その他の重要事項】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよその理解があると履修に有益である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of multivariable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of multivariable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives. [Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 30%, Class contribution 10%, Short reports 60%.

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

発展数学ⅠⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（1変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

【到達目標】

いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞くだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	微分の導入1	導関数と曲線の傾き
第03回	微分の導入2	直線によるグラフの近似
第04回	微分の導入3	ニュートン法
第05回	関数の形式と微分1	合成関数の微分
第06回	関数の形式と微分2	陰関数と微分
第07回	関数の形式と微分3	媒介変数表示と微分
第08回	高階導関数1	2階導関数と曲線のしなり
第09回	高階導関数2	放物線によるグラフの近似
第10回	高階導関数3	マクローリン展開
第11回	高階導関数4	社会科学への応用例
第12回	積分1	積分と微分の関係
第13回	積分2	積分と面積の関係
第14回	試験・まとめと解説	課題等に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（計算ミスなどは誰でもよくある話ですので、気にする必要は全くありません。分からない時は、むしろ、自分の弱点を一步改善する良い機会だと思って、気軽に相談頂けたらと思います。）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。）

【参考書】

微積分学を主題とした数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（30%）において、また、平常点（10%）と共に演習問題への取り組み具合を課題提出（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子です。履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思います。

【その他の重要事項】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよその理解があると履修に有益である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of single variable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of single variable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 30%, Class contribution 10%, Short reports 60%.

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

発展数学ⅠⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の变化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはずである。

【到達目標】

与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞くだけでなく、自ら問題を解いてみる事が求められる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	空間の数学1	空間ベクトルの基礎
第03回	空間の数学2	2変数の1次式と平面
第04回	偏微分1	偏微分とその意味
第05回	偏微分2	偏導関数の計算
第06回	偏微分3	全微分と接平面
第07回	偏微分4	社会科学での活用事例
第08回	極値の計算1	2階偏導関数
第09回	極値の計算2	2変数関数の極値計算
第10回	極値の計算3	公務員試験の問題例
第11回	極値の計算4	制約条件付きの極値問題
第12回	データサイエンスへの応用例1	データの傾向を学習して予想する
第13回	データサイエンスへの応用例2	4次元データを見える化する
第14回	試験・まとめと解説	課題等に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（計算ミスなどは誰でもよくある話ですので、気にする必要は全くありません。分からない時は、むしろ、自分の弱点を一步改善する良い機会だと思って、気軽に相談頂けたらと思います。）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。）

【参考書】

微積分学を主題とした数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（30%）において、また、平常点（10%）と共に演習問題への取り組み具合を課題提出（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子です。で、履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思います。

【その他の重要事項】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおその理解があると履修に有益である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of multivariable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of multivariable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives. [Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 30%, Class contribution 10%, Short reports 60%.

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

発展数学ⅠⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（1変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

【到達目標】

いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。また、2変数関数の微分を扱う秋学期科目「発展数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分1	微分の定義と基本性質
第3回	微分2	積の微分、商の微分、合成関数の微分
第4回	微分3	陰関数の微分
第5回	微分4	曲線の傾きと極値
第6回	微分的应用1	曲線の凹凸と変曲点
第7回	微分的应用2	テイラー展開
第8回	微分的应用3	マクローリン展開
第9回	微分的应用4	近似計算
第10回	積分1	定積分と不定積分
第11回	積分2	リーマン積分
第12回	積分3	微分積分法の基本定理
第13回	積分的应用1	図形の面積
第14回	積分的应用2	立体の体積

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」の教科書である、藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)は参考になる。さらに学習する際は、微積分学を主題とした書物であれば参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of single variable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of single variable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

発展数学ⅠⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の变化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはすである。

【到達目標】

与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	2変数関数1	多変数関数とは
第3回	2変数関数2	平面のグラフ
第4回	2変数関数3	曲面のグラフ
第5回	偏微分1	偏微分とは
第6回	偏微分2	極限值
第7回	偏微分3	偏導関数の計算
第8回	偏微分4	合成関数の微分
第9回	偏微分5	全微分と接平面
第10回	偏微分の応用1	極値問題
第11回	偏微分の応用2	陰関数の微分法
第12回	偏微分の応用3	条件付極値問題
第13回	重積分1	重積分とは
第14回	重積分2	体積

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」の教科書である、藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)は参考になる。さらに学習する際は、微積分学を主題とした書物であれば参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「発展数学ⅠⅡ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of multivariable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of multivariable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives. [Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

PHY200LA (物理学 / Physics 200)

教養物理学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようなになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	各回の講義概要について
第2回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史について
第3回	我々の住む地球(1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）の概要
第4回	我々の住む地球(2)	地球の内部構造を調べる方法とその結果わかったこと
第5回	我々の住む地球(3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第6回	色々な天体	地上から観測できる天体の種類とその階層性について
第7回	天体の光	天体の光の観測から何がわかるか
第8回	宇宙観の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第9回	星の一生と元素合成(1)	恒星の誕生、星の中で行われている元素合成
第10回	星の一生と元素合成(2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第11回	太陽系(1)	太陽系のあらまし
第12回	太陽系(2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、太陽系外惑星の探査
第13回	太陽系(3)	誕生後の地球で起こったこと
第14回	宇宙の謎	現代の宇宙の謎である暗黒物質、暗黒エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。配分は、平常点を30%、期末試験の結果を70%とする

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe. The goals of this course are to have a deeper understanding of the universe and the earth as well as relations between them, and to have an attitude to understand natural phenomena from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY200LA (物理学 / Physics 200)

教養物理学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようなになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	各回の講義概要について
第2回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史について
第3回	我々の住む地球(1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）の概要
第4回	我々の住む地球(2)	地球の内部構造を調べる方法とその結果わかったこと
第5回	我々の住む地球(3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第6回	色々な天体	地上から観測できる天体の種類とその階層性について
第7回	天体の光	天体の光の観測から何がわかるか
第8回	宇宙観の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第9回	星の一生と元素合成(1)	恒星の誕生、星の中で行われている元素合成
第10回	星の一生と元素合成(2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第11回	太陽系(1)	太陽系のあらまし
第12回	太陽系(2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、太陽系外惑星の探査
第13回	太陽系(3)	誕生後の地球で起こったこと
第14回	宇宙の謎	現代の宇宙の謎である暗黒物質、暗黒エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けませんが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。配分は、平常点を30%、期末試験の結果を70%とする

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe.

The goals of this course are to have a deeper understanding of the universe and the earth as well as relations between them, and to have an attitude to understand natural phenomena from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY200LA (物理学 / Physics 200)

教養物理学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な物理学的な発見はどのようにしてなされてきたのか。物理学上の幾つかの事柄について、歴史的な経緯を踏まえつつ紹介する。また、内容の理解を深めると共に、他の分野に与えた影響についても紹介したい。最新の研究も合わせて紹介する予定である。

【到達目標】

単に結果のみでなく、そこに至るプロセスや社会への影響等を学ぶことによって、様々な現象に対して自分自身で判断する能力を身に付けることができるようにすることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全体について紹介する。
第2回	万有引力：ガリレオ研究	ガリレオ・ガリレイの研究について紹介する。
第3回	万有引力：ケプラーの研究	ヨハネス・ケプラーの研究について紹介する。
第4回	万有引力：万有引力の法則	万有引力の法則、それに付随してキャベンディッシュの研究についても紹介する。
第5回	万有引力：万有引力の証明	ハレー彗星や惑星の運動について紹介する。
第6回	宇宙：太陽系	第5回に関連して、地球を含めた太陽系の天体について紹介する。
第7回	宇宙：アポロ計画	アポロ計画を中心に、当時の宇宙開発について紹介する。
第8回	宇宙：スペースシャトルと国際宇宙ステーション	スペースシャトル、更には国際宇宙ステーションを含めた現在の宇宙開発について紹介する。
第9回	宇宙：冥王星探査	冥王星・エッジワースカイパーベルト天体探査について紹介する。
第10回	宇宙：彗星・小惑星探査	地球上の生命はどこから来たのか。小惑星・彗星探査等について紹介する。
第11回	ラジウム：原子核	原子核について簡単に紹介する。
第12回	ラジウム：マリ・キュリーの研究	マリ・キュリーたちの研究について紹介する。

第13回	ラジウム：ラジウム狂詩曲	ラジウム発見による当時の騒動、社会に与えた影響について紹介する。
第14回	ラジウム：原子核の応用について	マリ・キュリーが目指した応用等について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the gravitation, the universe, and the radium with historical episodes. In this course, goals are not only to deepen the knowledge about physics but also to acquire the ability to judge various scientific phenomena by yourself. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY200LA (物理学 / Physics 200)

教養物理学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な物理学的な発見はどのようにしてなされてきたのか。物理学上の幾つかの事柄について、歴史的な経緯を踏まえつつ紹介する。また、内容の理解を深めると共に、他の分野に与えた影響についても紹介したい。最新の研究も合わせて紹介する予定である。

【到達目標】

単に結果のみでなく、そこに至るプロセスや社会への影響等を学ぶことによって、様々な現象に対して自分自身で判断する能力を身に付けることができるようにすることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全体について紹介する。
第2回	万有引力：ガリレオ研究	ガリレオ・ガリレイの研究について紹介する。
第3回	万有引力：ケプラーの研究	ヨハネス・ケプラーの研究について紹介する。
第4回	万有引力：万有引力の法則	万有引力の法則、それに付随してキャベンディッシュの研究についても紹介する。
第5回	万有引力：万有引力の証明	ハレー彗星や惑星の運動について紹介する。
第6回	宇宙：太陽系	第5回に関連して、地球を含めた太陽系の天体について紹介する。
第7回	宇宙：アポロ計画	アポロ計画を中心に、当時の宇宙開発について紹介する。
第8回	宇宙：スペースシャトルと国際宇宙ステーション	スペースシャトル、更には国際宇宙ステーションを含めた現在の宇宙開発について紹介する。
第9回	宇宙：冥王星探査	冥王星・エッジワースカイパーベルト天体探査について紹介する。
第10回	宇宙：彗星・小惑星探査	地球上の生命はどこから来たのか。小惑星・彗星探査等について紹介する。
第11回	ラジウム：原子核	原子核について簡単に紹介する。
第12回	ラジウム：マリ・キュリーの研究	マリ・キュリーたちの研究について紹介する。
第13回	ラジウム：ラジウム狂詩曲	ラジウム発見による当時の騒動について紹介する。

第14回 ラジウム：原子核の マリ・キュリーが目指した応用
応用について 等について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the gravitation, the universe, and the radium with historical episodes. In this course, goals are not only to deepen the knowledge about physics but also to acquire the ability to judge various scientific phenomena by yourself. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY200LA (物理学 / Physics 200)

教養物理学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようにになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	各回の講義概要について
第2回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史について
第3回	我々の住む地球(1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）の概要
第4回	我々の住む地球(2)	地球の内部構造を調べる方法とその結果わかったこと
第5回	我々の住む地球(3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第6回	色々な天体	地上から観測できる天体の種類とその階層性について
第7回	天体の光	天体の光の観測から何がわかるか
第8回	宇宙観の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第9回	星の一生と元素合成(1)	恒星の誕生、星の中で行われている元素合成
第10回	星の一生と元素合成(2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第11回	太陽系(1)	太陽系のあらまし
第12回	太陽系(2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、太陽系外惑星の探査
第13回	太陽系(3)	誕生後の地球で起こったこと
第14回	宇宙の謎	現代の宇宙の謎である暗黒物質、暗黒エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。
配分は、平常点を30%、期末試験の結果を70%とする

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe. The goals of this course are to have a deeper understanding of the universe and the earth as well as relations between them, and to have an attitude to understand natural phenomena from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY200LA (物理学 / Physics 200)

教養物理学 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：放射線の性質と利用

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

放射線は我々の身近に存在している。自然界では、放射線は宇宙から降り注いでいるだけでなく、地殻や大気、さらには食品中にも放射線を出す物質がごく微量ながら含まれている。また、放射線は、社会において広く利用されている。例えば医学では、放射線の性質を利用したがんの治療などが代表例である。他にも様々なところで放射線は利用されており、放射線を理解することは、現代の科学技術を理解する上でも非常に重要である。一方、放射線と聞くと、人体への影響を心配するかも知れない。人体にどのような影響があり、どのようにコントロールすれば良いのか。それを理解するためにも、放射線の性質を科学的に理解することが重要である。

本授業を通して、学生は、現代物理学の知見に基づいて放射線を理解するとともに、放射線や関連する物理学の知見やそれに基づく技術が社会においてどのように利用されているのかを理解する。

【到達目標】

- ・放射線がどのような性質を持つのか、その発生原理とともに理解できる。
- ・がんの粒子線・放射線治療といった医学での具体例をはじめ、放射線の利用例や関連技術について、その原理を放射線の性質と関連付けて理解することができる。
- ・原子力発電や近年研究が進められている核融合発電などの原理を、物理学の知識に基づいて理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。

学期中に数回程度、授業内容に関する選択式問題の小テストを、学習支援システム上で実施する。小テストの解説や講評は、第14回授業で実施する。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	放射線とは何か説明するとともに、授業内容の概観を示す。
第2回	放射線を見る	動画または実験デモンストレーションによって、霧箱による放射線の観察例を示し、その原理を解説する。また、身近な放射線の例を紹介するとともに、放射線がどのように生体に影響を与えるのかを説明する。
第3回	物理学の基礎知識（1）	放射線を学ぶ上で必要な物理学の基礎知識として、力学の基礎について解説する。

第4回	物理学の基礎知識（2）	放射線を学ぶ上で必要な物理学の基礎知識として、光の性質について解説する。
第5回	原子の構造	原子がどのような構造を持つのか解説する。
第6回	X線の発生	これまでの内容を踏まえ、X線の発生原理を解説する。
第7回	原子核	原子核の性質や構造について解説する。
第8回	放射性崩壊	原子核の崩壊と、それによる放射線の発生機構について解説する。
第9回	特殊相対論と質量エネルギー	放射線を学ぶ上で必要な知識として特殊相対論の概略を紹介するとともに、質量エネルギーについて解説する。
第10回	放射線が物質に当たると何が起るのか？（1）	主に電子や陽子などの電荷をもった粒子が物質に入射すると何が起るのかを解説する。さらに、それを利用したガンの粒子線治療や放射線治療の原理を紹介する。
第11回	放射線が物質に当たると何が起るのか？（2）	主にX線やγ線、中性子線が物質に入射したときに何が起るのかを解説する。
第12回	原子炉	原子炉の原理や原子炉内で起こる核反応について解説するとともに、それを利用した原子力発電の原理を説明する。
第13回	核融合発電に向けて	近年実用化に向けた研究が進められている核融合発電について、その原理や現状について解説する。
第14回	まとめと試験	全体のまとめを行うとともに、期末試験を実施する。また、学期中に実施した小テストの講評や解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学・技術に関連するニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、学期中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the radiation physics. It also helps students acquire understand how to use the radiation and the related techniques in modern society.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain properties of radiation and radiation sources
- ・ Explain the principles of radiation-related technology
- ・ Explain the principle and utilization of nuclear reactor

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end exam (70%) and usual performance score (30%).

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

教養生物学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：異なる細胞が合体して真核細胞が誕生・進化する

野崎 久義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バクテリアからヒトまで「生物」とよく言うが、両者の細胞構造は基本的に異なり、バクテリアではミトコンドリアが細胞中にない。更に植物はヒトのような動物とは異なり、細胞の中に光合成を行う葉緑体をもつ。この授業では、このような「真核細胞」内のオルガネラが「細胞内共生」という異なる生物の合体で誕生し、多様化していることの理解を目的とする。このためには現在地球上に存在する生物の多様性と細胞内部の構造と遺伝物質DNAの存在状態を理解する必要がある。また、オルガネラ（ミトコンドリアと葉緑体）が持つ独自のDNAとその遺伝様式を理解する。自分の体を構成する細胞に10-20億年前のバクテリアの「細胞内共生」という歴史がある。さらにそのバクテリアの末裔が現在でも細胞内のオルガネラとして生きていて、顕微鏡で観察することができ、オルガネラのDNAを系統解析することでその生い立ちを辿ることができることを理解してもらいたい。随時、関連する野崎の研究内容も紹介する。

【到達目標】

地球上に存在する多様な生物が細胞内のオルガネラのどのような基本的特徴でどのように分類されるか、オルガネラのミトコンドリアと葉緑体が「細胞内共生」で誕生したことがどのようにして分かるか、ミトコンドリアと葉緑体はどのような様式で遺伝するか、オルガネラのDNAをどのように系統解析してそれらの起源が探れるかを理解する。ミトコンドリアと葉緑体の細胞内共生による誕生は10-20億年前と言われているが、それから現在に至るまでに更なる細胞内共生が起きて細胞が大きく進化・多様化していること、現在でも新しい細胞内共生が起きていて生物の細胞が刻々と進化していることも理解する。生命の最小単位である細胞について、その多様性と進化史的について、理解を深める。また、現在地球上の生物のDNA・ゲノム情報はインターネットを通じて無償で入手することができ、これらの情報にアクセスする手法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義室でオンサイト（対面）の授業を進める。随時、質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるようにする。授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。課題と同時に授業に関する質問やコメントの提出を求める。

課題、質問、コメント等に対するフィードバックは次の授業で行う。毎回の講義内容が積み重なって新しい講義が理解できるように進めるので、復習をよくやって下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生物学における基本的な3学説の紹介	細胞説、遺伝学説、進化学説についてそれらの基本と歴史を解説する。
2	細胞の基本的な特徴と多様性および進化	生物の多様性と進化を細胞の基本的な特徴から解説する。

3	生物全体の多様性と分類	生物と呼ばれているものの多様性と大まかな分類の概要と歴史を解説する。
4	細胞内共生説：異なる起源の細胞が合体して新たな細胞が誕生する	異なる起源の細胞が合体して我々ヒトのような生物の細胞（真核細胞）が誕生したという「細胞内共生説」について解説する。
5	細胞内共生による動物や植物の細胞の起源	動物や植物の細胞内に存在するミトコンドリアと葉緑体は太古（10-20億年前）に起きた細胞内共生に起源すると考えられている。これらを解説する。
6	細胞内に残存する太古の細胞内共生の構造的痕跡	細胞内共生を細胞内の構造から理解する。
7	細胞内共生の証拠としてのオルガネラ（ミトコンドリアと葉緑体）DNA	オルガネラ（ミトコンドリアと葉緑体）のDNAについて解説する。
8	ミトコンドリアと葉緑体のDNAの遺伝	メンデルの法則とは異なるミトコンドリアと葉緑体のDNAの遺伝様式について解説する。
9	オルガネラの起源をDNAから探る	オルガネラの起源のDNAからの推定について説明する。
10	細胞内共生したオルガネラの起源の生物のDNAは宿主細胞（ホスト）に奪われてゆく	細胞内共生の結果誕生したオルガネラのDNAはホストの核に移動してゆく「細胞内共生遺伝子水平伝達」という現象があり、これを説明し、系統解析から理解してもらう。
11	くり返して起きた細胞内共生	植物細胞で見られる葉緑体の2回目の細胞内共生は「二次共生」といい、その結果誕生した「二次植物」について解説する。
12	ミドリムシは昔紅かった	単細胞生物のミドリムシが昔は紅かったという仮説を細胞内共生から解説します。
13	現在でも進行する細胞内共生1：他人の細胞内で生きる細菌	オルガネラではないが、動植物（真核生物）の細胞内に住み着いているバクテリア「細胞内共生細菌」について紹介する。
14	現在でも進行する細胞内共生2：ホスト側からの捕獲	光合成する植物細胞を食べることで自分の体に入れて光合成させる単細胞生物や海産動物を紹介しします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で使う資料を学習支援システムの教材欄に事前に提示するので、十分予習すること。授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して間違えの無いように解答すること。予習復習には1回の授業につき4時間以上かけて下さい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業中に課題を出します。10-13回の課題の評価点で成績評価を行う（100%）。1回の課題は10点満点とし、10-13回分を合計して120-140点満点で評価点となる。

【学生の意見等からの気づき】

内容が専門的で高校で生物を学ばない人でもわかるようにして欲しいという意見があるが、本講義は入門生物学でないものでそのような要望は受け入れられない。自分で高校レベルの生物学を学んでから受講すべきである。

講義内容が理解できない場合や質問は講義中、講義の前後に直接野崎に問いかけて下さい。後から「わからない」とレポートで書かれても困ります。

【学生が準備すべき機器他】

特になが、インターネットが可能なPCがあるとゲノム・遺伝子情報に直接アクセスしやすいです。

【その他の重要事項】

本講義は理科、特に生物学の最新の知識と方法論を体験した文系の若手を育成することを目的としています。高校レベルの生物学の知識を前提としていますので、現在までに生物学を学習・習得したことのない場合は事前に高校生物の「細胞、遺伝、進化、DNA、タンパク質」等を自分で予習する必要があります。

授業中の私語は他の学生への受講を阻害するので厳禁である。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Although we often speak of "organisms" from bacteria to humans, their cellular structures are fundamentally different: bacteria do not have mitochondria in their cells. Furthermore, unlike animals such as humans, plants have chloroplasts in their cells. The purpose of this lecture is to understand that these intracellular organelles originate from "ancient endosymbiosis", which was established by the union of different organisms from 1 to 2 billion years ago. For this purpose, it is necessary to understand the diversity of organisms that currently exist on the earth, as well as the morphology inside the cell and the state and distribution of the genetic material DNA. We will also understand the unique DNA and mode of inheritance of the organelles. The cells that make up our own bodies have a history of "intracellular symbiosis" with bacteria from 1 to 2 billion years ago. Furthermore, the students should understand that the descendants of those bacteria still live as organelles in our cells, which can be observed under a microscope, and that the origin of the organelles can be traced by phylogenetic analysis of their DNA. From time to time, we will also introduce results of Nozaki's original research.

【Learning Objectives】

To understand how the diversity of organisms on earth can be classified by the basic characteristics of their intracellular organelles, how the mitochondria and chloroplasts of organelles came into being in "intracellular symbiosis," what mode of inheritance mitochondria and chloroplasts have, and how the DNA of organelles can be phylogenetically analyzed to find their origin. The students will also understand that further intracellular symbiosis has occurred since then and that cells have evolved and diversified greatly, and that new intracellular symbiosis is still occurring and the cells of living organisms are evolving moment by moment. Students will deepen their understanding of the cell, the smallest unit of life, and its diversity and evolutionary history. In addition, DNA and genome information on living organisms on the earth is currently available free of charge via the Internet, and students will learn about methods for obtaining this information and conducting phylogenetic analysis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Materials to be used in class will be presented in the "Teaching Materials" section of the Learning Support System in advance, so students are expected to prepare well in advance. Students are expected to review the contents of the class and answer the assignments given in the class without making mistakes. Please spend at least 4 hours per class on preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】

An assignment/inquiry will be given after each class, and grading will be based on the evaluation score of 12-14 assignments, each assignment is worth 10 points, and the total score for 12-14 assignments is 120-140 points.

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

教養生物学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：メス・オスのはじまりと老死の起源を緑藻ボルボックスの仲間から探る

野崎 久義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々ヒトの一生は両親にあたる「メスとオス」の出会いに始まり、成長の後また両親と同じようなことを繰り返すが、成長した個体はやがて「老死」という運命を迎える。しかし、生物全体を見渡せば単純な体制をした単細胞生物等では分裂で増殖するので「老死」もなければ「メスとオスの差異」も存在しない。従って、生命が誕生した初期では「老死」もなければ「メスとオス」の差異も存在しない単細胞の段階があり、多細胞生物に進化する段階で両者が出現したと考えられる。これらの進化を探究するには真核生物が誕生した10-20億年前の状況を調査する必要があるとも考えられるが、これは不可能である。しかし、緑藻類のボルボックスの仲間（ボルボックス系列）は単細胞性のものから「老死」と「メスとオス」を持つ複雑な体制をしたものまで様々な進化段階の生物が現存しているため、現存の生物の比較でこれらの進化が研究できる。そのために、これらの生物を採集して培養株を確立し、最先端の生物学的手法を用いた研究が進展している。この授業では、このような「老死」と「メスとオス」に関連する多様性と進化を緑藻類のボルボックス系列に着目して理解することを目的とする。このためには自然界に生育するボルボックスの仲間をどのように採集して培養株とするか、ボルボックス系列の生物がどのような様子をどのように理解する必要がある。また、老死とメス・オスの進化は「多細胞化」に関連しており、ボルボックス系列を用いた多細胞化に関連する研究も紹介する。ヒトの様な多細胞の動物が進化した10億年以上も昔の我々の祖先が「老死」も「メスとオス」もないものであったというという歴史があるが、直接的に探れない。しかし、ボルボックスの仲間を用いた研究からこの歴史が推測できることを理解してもらいたい。随時、関連する野崎の緑藻ボルボックスの仲間の研究内容も紹介する。

【到達目標】

ヒトの一生で避けることのできない重大な2つの過程、「メスとオスの出会い」と「老死」が太古の祖先の多細胞生物に進化する段階で獲得されたものであり、これらを持たない単細胞生物が現存することを理解する。さらに、性（sex）進化と多細胞化の研究のモデル生物群である緑藻ボルボックスの仲間（ボルボックス系列）に焦点をあててこれらの2つの進化に関連する研究内容を紹介するが、基本的にボルボックス系列がどのような生物であるか、さらにこれらの生物のフィールドでの採集と実験室における培養株の確立の方法も理解する。また、ボルボックス系列の代表的な種的全ゲノム情報は公開されているので、ゲノム情報はインターネットを通じて無償で調査することができる。従って、着目する生物に目的の遺伝子があるかどうか検索する基本的な手法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義室でオンサイト（対面）の授業を進める。随時、質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるようにする。授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。課題と同時に授業に関する質問やコメントの提出を求める。

課題、質問、コメント等に対するフィードバックは次の授業で行う。毎回の講義内容が積み重なって新しい講義が理解できるように進めるので、復習をよくやって下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メスとオスの出会いと老死	メスとオスの出会いと老死、それらの存在意義を解説する。
2	ヒトの一生と生活環境	ヒトの生活環境を理解して、後から学習するクラミドモナスやボルボックスと比較する材料とします。
3	メスとオスの差も老死もない単細胞生物	メスとオスの差も老死もない単細胞生物であるクラミドモナスを解説する。
4	メスとオスの差と老死が認められる多細胞生物ボルボックス	ボルボックスにおけるメスとオスの差と老死を解説する。ここで性（sex）と雌雄は異なるものであることも理解してもらいます。
5	性進化と多細胞化研究のモデル生物群ボルボックス系列、世界最小の多細胞生物“シアワセモ”	ボルボックス系列の生物がどのようなものかについて解説する。また、世界最小の多細胞生物シアワセモも紹介します。
6	多細胞化と老死の不一致、“永遠の命”を得た多細胞生物ボルボックス	ボルボックス系列を用いて多細胞化と老死の進化は一致しないことを解説する。また、老死細胞を決定する遺伝子を失ったボルボックスの突然変異体を紹介します。
7	性（sex）と雌雄性	性（sex）と雌雄性（メスとオスに分化すること）は異なる概念であることをボルボックス系列を用いて説明する。
8	哺乳類の性決定遺伝子と性染色体	哺乳類の性決定遺伝子と性染色体について説明する。
9	メスとオスの未分化な生物からメスとオスの明瞭な生物への進化の鍵遺伝子“OTOKOGI”	ボルボックスの仲間における雌雄性の進化の鍵遺伝子“OTOKOGI”の発見と性決定、性染色体について解説する。
10	琵琶湖のフィールド調査から始まったボルボックスの性の多様性進化	琵琶湖のフィールド調査から始まったボルボックスの性の多様性と性進化の研究を解説する。
11	古代湖琵琶湖のボルボックス	日本の古代湖から採集されたボルボックスについて解説します。
12	熱帯に未知なるボルボックス系列を求め	熱帯、特にタイとアフリカにおけるボルボックス系列のフィールド調査とその研究成果を解説します。
13	全ゲノム解読による性進化の研究	緑藻ボルボックス系列を用いた全ゲノム解読による性進化、メス・オスの未分化な同型配偶からメス・オスの明瞭な生物への進化の研究成果について解説する。
14	赤の女王仮説と性が知られていなかった原生生物における性の発見	性に関する有名な仮説「赤の女王仮説」とこれまで「性」がないと思われていた原生生物のエリ鞭毛虫（2013年）と単細胞紅藻（2022年）で「性」の存在が明らかになった研究とその進化的重要性を解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使う資料を学習支援システムの教材欄に事前に提示するので、十分予習すること。授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して間違えの無いように解答すること。予習復習には1回の授業につき4時間以上かけて下さい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考書等は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業中に課題を出します。10-13 回の課題の評価点で成績評価を行う（100%）。1 回の課題は 10 点満点とし、10-13 回分を合計して 120-140 点満点で評価点となる。

【学生の意見等からの気づき】

内容が専門的で高校で生物を学ばない人でもわかるようにして欲しいという意見があるが、本講義は入門生物学でないものでそのような要望は受け入れられない。自分で高校レベルの生物学を学んでから受講すべきである。

講義内容が理解できない場合や質問は講義中、講義の前後に直接野崎に問いかけて下さい。後から「わからない」とレポートで書かれても困ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、インターネットが可能な PC があるとゲノム情報の探索が実際に自分で行える。

【その他の重要事項】

本講義は理科、特に生物学の最新の知識と方法論を体験した文系の若手を育成することを目的としています。高校レベルの生物学の知識を前提としていますので、現在までに生物学を学習・習得したことのない場合は事前に高校生物の「細胞分裂、生殖、染色体、遺伝子、DNA、タンパク質」等を自分で予習する必要があります。

授業中の私語は他の学生の受講を阻害するので厳禁である。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

The life of a human being begins with the encounter between the "male" and "female," which are the parents, and after growing up, the human being repeats the same process as the parents, but the grown individual eventually meets the fate of "aging death." However, if we look at all living organisms, we find that single-celled organisms, which have a simple structure, multiply by division, so there is no "aging death" and no "male and female differentiation". Therefore, it is thought that in the early stages of life, there was a unicellular stage in which there was neither aging death or male and female differentiation, and that both appeared during the evolution of multicellular organisms. One could argue that exploring these evolutionary processes would require investigating conditions 1 to 2 billion years ago, when eukaryotes emerged, but this is not possible. However, since there are extant organisms of various evolutionary stages in the green algal group "volvocine lineage" (Volvox and its related species), ranging from unicellular ones to complex multicellular bodies with "aging death" and "male and female genders," these evolutions can be studied by comparing the extant organisms. To this end, research is progressing by collecting these organisms from natural fields, establishing culture strains, and using cutting-edge biological techniques. The aim of this class is to understand such diversity and evolution related to "aging death" and "sex" by focusing on members of the volvocine lineage. For this purpose, it is necessary to understand how to collect naturally growing members of volvocine species and what kind of organisms the volvocine species are. In addition, the evolution of "aging death" and "male and female genders" is related to "multicellularity," and studies related to multicellularity using the volvocine species will also be presented. The history of our ancestors more than a billion years ago, when multicellular organisms evolved, is that they had neither "aging death" nor "male and female differentiation," but this cannot be directly explored. However, we hope you will understand that this history can be inferred from studies using organisms belonging to the volvocine lineage. From time to time, we will also introduce related studies by Nozaki's group.

【Learning Objectives】

We will understand that two critical processes that cannot be avoided in the human life span, "female-male encounter" and "old age and death," were acquired during the evolution of our ancient ancestors into multicellular organisms, and that unicellular organisms without these processes exist today. In addition, we will focus on the green algal group "volvocine lineage" (Volvox and its related species), which is a model organism group for the study of sex evolution and multicellularity, and introduce research related to these two evolutionary events, but we will also explain what the volvocine lineage is basically like, and how to collect these organisms in the field and establish laboratory cultures. The course will also provide an understanding of the field collection of these organisms and how to establish culture strains in the laboratory. In addition, the genome information of representative species of the volvocine lineage is publicly available, and genome information can be researched free of charge via the Internet. Therefore, students will also learn basic methods to search for the presence of target genes in the organisms of interest.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Materials to be used in class will be presented in the "Teaching Materials" section of the Learning Support System in advance, so students are expected to prepare well in advance. Students are expected to review the contents of the class and answer the assignments given in the class without making mistakes. Please spend at least 4 hours per class on preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】

An assignment/inquiry will be given after each class, and grading will be based on the evaluation score of 12-14 assignments, each assignment is worth 10 points, and the total score for 12-14 assignments is 120-140 points.

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

教養生物学 L A2017年度以降入学者

サブタイトル：異なる細胞が合体して真核細胞が誕生・進化する

野崎 久義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バクテリアからヒトまで「生物」とよく言うが、両者の細胞構造は基本的に異なり、バクテリアではミトコンドリアが細胞中にない。更に植物はヒトのような動物とは異なり、細胞の中に光合成を行う葉緑体をもつ。この授業では、このような「真核細胞」内のオルガネラが「細胞内共生」という異なる生物の合体で誕生し、多様化していることの理解を目的とする。このためには現在地球上に存在する生物の多様性と細胞内部の構造と遺伝物質DNAの存在状態を理解する必要がある。また、オルガネラ（ミトコンドリアと葉緑体）が持つ独自のDNAとその遺伝様式を理解する。自分の体を構成する細胞に10-20億年前のバクテリアの「細胞内共生」という歴史がある。さらにそのバクテリアの末裔が現在でも細胞内のオルガネラとして生きていて、顕微鏡で観察することができ、オルガネラのDNAを系統解析することでその生い立ちを辿ることができることを理解してもらいたい。随時、関連する野崎の研究内容も紹介する。

【到達目標】

地球上に存在する多様な生物が細胞内のオルガネラのどのような基本的特徴でどのように分類されるか、オルガネラのミトコンドリアと葉緑体が「細胞内共生」で誕生したことがどのようにして分かるか、ミトコンドリアと葉緑体はどのような様式で遺伝するか、オルガネラのDNAをどのように系統解析してそれらの起源が探れるかを理解する。ミトコンドリアと葉緑体の細胞内共生による誕生は10-20億年前と言われているが、それから現在に至るまでに更なる細胞内共生が起きて細胞が大きく進化・多様化していること、現在でも新しい細胞内共生が起きていて生物の細胞が刻々と進化していることも理解する。生命の最小単位である細胞について、その多様性と進化史的について、理解を深める。また、現在地球上の生物のDNA・ゲノム情報はインターネットを通じて無償で入手することができ、これらの情報にアクセスする手法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義室でオンサイト（対面）の授業を進める。随時、質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるようにする。授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。課題と同時に授業に関する質問やコメントの提出を求める。

課題、質問、コメント等に対するフィードバックは次の授業で行う。毎回の講義内容が積み重なって新しい講義が理解できるように進めるので、復習をよくやって下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生物学における基本的な3学説の紹介	細胞説、遺伝学説、進化学説についてそれらの基本と歴史を解説する。
2	細胞の基本的な特徴と多様性および進化	生物の多様性と進化を細胞の基本的な特徴から解説する。

3	生物全体の多様性と分類	生物と呼ばれているものの多様性と大まかな分類の概要と歴史を解説する。
4	細胞内共生説：異なる起源の細胞が合体して新たな細胞が誕生する	異なる起源の細胞が合体して我々ヒトのような生物の細胞（真核細胞）が誕生したという「細胞内共生説」について解説する。
5	細胞内共生による動物や植物の細胞の起源	動物や植物の細胞内に存在するミトコンドリアと葉緑体は太古（10-20億年前）に起きた細胞内共生に起源すると考えられている。これらを解説する。
6	細胞内に残存する太古の細胞内共生の構造的痕跡	細胞内共生を細胞内の構造から理解する。
7	細胞内共生の証拠としてのオルガネラ（ミトコンドリアと葉緑体）DNA	オルガネラ（ミトコンドリアと葉緑体）のDNAについて解説する。
8	ミトコンドリアと葉緑体のDNAの遺伝	メンデルの法則とは異なるミトコンドリアと葉緑体のDNAの遺伝様式について解説する。
9	オルガネラの起源をDNAから探る	オルガネラの起源のDNAからの推定について説明する。
10	細胞内共生したオルガネラの起源の生物のDNAは宿主細胞（ホスト）に奪われてゆく	細胞内共生の結果誕生したオルガネラのDNAはホストの核に移動してゆく「細胞内共生遺伝子水平伝達」という現象があり、これを説明し、系統解析から理解してもらう。
11	くり返して起きた細胞内共生	植物細胞で見られる葉緑体の2回目の細胞内共生は「二次共生」といい、その結果誕生した「二次植物」について解説する。
12	ミドリムシは昔紅かった	単細胞生物のミドリムシが昔は紅かったという仮説を細胞内共生から解説します。
13	現在でも進行する細胞内共生1：他人の細胞内で生きる細菌	オルガネラではないが、動植物（真核生物）の細胞内に住み着いているバクテリア「細胞内共生細菌」について紹介する。
14	現在でも進行する細胞内共生2：ホスト側からの捕獲	光合成する植物細胞を食べることで自分の体に入れて光合成させる単細胞生物や海産動物を紹介しします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で使う資料を学習支援システムの教材欄に事前に提示するので、十分予習すること。授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して間違えの無いように解答すること。予習復習には1回の授業につき4時間以上かけて下さい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業中に課題を出します。10-13回の課題の評価点で成績評価を行う（100%）。1回の課題は10点満点とし、10-13回分を合計して120-140点満点で評価点となる。

【学生の意見等からの気づき】

内容が専門的で高校で生物を学ばない人でもわかるようにして欲しいという意見があるが、本講義は入門生物学でないものでそのような要望は受け入れられない。自分で高校レベルの生物学を学んでから受講すべきである。

講義内容が理解できない場合や質問は講義中、講義の前後に直接野崎に問いかけて下さい。後から「わからない」とレポートで書かれても困ります。

【学生が準備すべき機器他】

特になが、インターネットが可能なPCがあるとゲノム・遺伝子情報に直接アクセスしやすいです。

【その他の重要事項】

本講義は理科、特に生物学の最新の知識と方法論を体験した文系の若手を育成することを目的としています。高校レベルの生物学の知識を前提としていますので、現在までに生物学を学習・習得したことのない場合は事前に高校生物の「細胞、遺伝、進化、DNA、タンパク質」等を自分で予習する必要があります。

授業中の私語は他の学生への受講を阻害するので厳禁である。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Although we often speak of "organisms" from bacteria to humans, their cellular structures are fundamentally different: bacteria do not have mitochondria in their cells. Furthermore, unlike animals such as humans, plants have chloroplasts in their cells. The purpose of this lecture is to understand that these intracellular organelles originate from "ancient endosymbiosis", which was established by the union of different organisms from 1 to 2 billion years ago. For this purpose, it is necessary to understand the diversity of organisms that currently exist on the earth, as well as the morphology inside the cell and the state and distribution of the genetic material DNA. We will also understand the unique DNA and mode of inheritance of the organelles. The cells that make up our own bodies have a history of "intracellular symbiosis" with bacteria from 1 to 2 billion years ago. Furthermore, the students should understand that the descendants of those bacteria still live as organelles in our cells, which can be observed under a microscope, and that the origin of the organelles can be traced by phylogenetic analysis of their DNA. From time to time, we will also introduce results of Nozaki's original research.

【Learning Objectives】

To understand how the diversity of organisms on earth can be classified by the basic characteristics of their intracellular organelles, how the mitochondria and chloroplasts of organelles came into being in "intracellular symbiosis," what mode of inheritance mitochondria and chloroplasts have, and how the DNA of organelles can be phylogenetically analyzed to find their origin. The students will also understand that further intracellular symbiosis has occurred since then and that cells have evolved and diversified greatly, and that new intracellular symbiosis is still occurring and the cells of living organisms are evolving moment by moment. Students will deepen their understanding of the cell, the smallest unit of life, and its diversity and evolutionary history. In addition, DNA and genome information on living organisms on the earth is currently available free of charge via the Internet, and students will learn about methods for obtaining this information and conducting phylogenetic analysis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Materials to be used in class will be presented in the "Teaching Materials" section of the Learning Support System in advance, so students are expected to prepare well in advance. Students are expected to review the contents of the class and answer the assignments given in the class without making mistakes. Please spend at least 4 hours per class on preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】

An assignment/inquiry will be given after each class, and grading will be based on the evaluation score of 12-14 assignments, each assignment is worth 10 points, and the total score for 12-14 assignments is 120-140 points.

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

教養生物学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：メス・オスのはじまりと老死の起源を緑藻ボルボックスの仲間から探る

野崎 久義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々ヒトの一生は両親にあたる「メスとオス」の出会いに始まり、成長の後また両親と同じようなことを繰り返すが、成長した個体はやがて「老死」という運命を迎える。しかし、生物全体を見渡せば単純な体制をした単細胞生物等では分裂で増殖するので「老死」もなければ「メスとオスの差異」も存在しない。従って、生命が誕生した初期では「老死」もなければ「メスとオス」の差異も存在しない単細胞の段階があり、多細胞生物に進化する段階で両者が出現したと考えられる。これらの進化を探索するには真核生物が誕生した10-20億年前の状況を調査する必要があるとも考えられるが、これは不可能である。しかし、緑藻類のボルボックスの仲間（ボルボックス系列）は単細胞性のものから「老死」と「メスとオス」を持つ複雑な体制をしたものまで様々な進化段階の生物が現存しているため、現存の生物の比較でこれらの進化が研究できる。そのために、これらの生物を採集して培養株を確立し、最先端の生物学的手法を用いた研究が進展している。この授業では、このような「老死」と「メスとオス」に関連する多様性と進化を緑藻類のボルボックス系列に着目して理解することを目的とする。このためには自然界に生育するボルボックスの仲間をどのように採集して培養株とするか、ボルボックス系列の生物がどのような様子をどのように理解する必要がある。また、老死とメス・オスの進化は「多細胞化」に関連しており、ボルボックス系列を用いた多細胞化に関連する研究も紹介する。ヒトの様な多細胞の動物が進化した10億年以上も昔の我々の祖先が「老死」も「メスとオス」もないものであったというという歴史があるが、直接的に探れない。しかし、ボルボックスの仲間を用いた研究からこの歴史が推測できることを理解してもらいたい。随時、関連する野崎の緑藻ボルボックスの仲間の研究内容も紹介する。

【到達目標】

ヒトの一生で避けることのできない重大な2つの過程、「メスとオスの出会い」と「老死」が太古の祖先の多細胞生物に進化する段階で獲得されたものであり、これらを持たない単細胞生物が現存することを理解する。さらに、性（sex）進化と多細胞化の研究のモデル生物群である緑藻ボルボックスの仲間（ボルボックス系列）に焦点をあててこれらの2つの進化に関連する研究内容を紹介するが、基本的にボルボックス系列がどのような生物であるか、さらにこれらの生物のフィールドでの採集と実験室における培養株の確立の方法も理解する。また、ボルボックス系列の代表的な種的全ゲノム情報は公開されているので、ゲノム情報はインターネットを通じて無償で調査することができる。従って、着目する生物に目的の遺伝子があるかどうか検索する基本的な手法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義室でオンサイト（対面）の授業を進める。随時、質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるようにする。授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。課題と同時に授業に関する質問やコメントの提出を求める。

課題、質問、コメント等に対するフィードバックは次回の授業で行う。毎回の講義内容が積み重なって新しい講義が理解できるように進めるので、復習をよくやって下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メスとオスの出会いと老死	メスとオスの出会いと老死、それらの存在意義を解説する。
2	ヒトの一生と生活環境	ヒトの生活環境を理解して、後から学習するクラミドモナスやボルボックスと比較する材料とします。
3	メスとオスの差も老死もない単細胞生物	メスとオスの差も老死もない単細胞生物であるクラミドモナスを解説する。
4	メスとオスの差と老死が認められる多細胞生物ボルボックス	ボルボックスにおけるメスとオスの差と老死を解説する。ここで性（sex）と雌雄は異なるものであることも理解してもらいます。
5	性進化と多細胞化研究のモデル生物群ボルボックス系列、世界最小の多細胞生物“シアワセモ”	ボルボックス系列の生物がどのようなものかについて解説する。また、世界最小の多細胞生物シアワセモも紹介します。
6	多細胞化と老死の不一致、“永遠の命”を得た多細胞生物ボルボックス	ボルボックス系列を用いて多細胞化と老死の進化は一致しないことを解説する。また、老死細胞を決定する遺伝子を失ったボルボックスの突然変異体を紹介します。
7	性（sex）と雌雄性	性（sex）と雌雄性（メスとオスに分化すること）は異なる概念であることをボルボックス系列を用いて説明する。
8	哺乳類の性決定遺伝子と性染色体	哺乳類の性決定遺伝子と性染色体について説明する。
9	メスとオスの未分化な生物からメスとオスの明瞭な生物への進化の鍵遺伝子“OTOKOGI”	ボルボックスの仲間における雌雄性の進化の鍵遺伝子“OTOKOGI”の発見と性決定、性染色体について解説する。
10	琵琶湖のフィールド調査から始まったボルボックスの性の多様性進化	琵琶湖のフィールド調査から始まったボルボックスの性の多様性と性進化の研究を解説する。
11	古代湖琵琶湖のボルボックス	日本の古代湖から採集されたボルボックスについて解説します。
12	熱帯に未知なるボルボックス系列を求め	熱帯、特にタイとアフリカにおけるボルボックス系列のフィールド調査とその研究成果を解説します。
13	全ゲノム解読による性進化の研究	緑藻ボルボックス系列を用いた全ゲノム解読による性進化、メス・オスの未分化な同型配偶からメス・オスの明瞭な生物への進化の研究成果について解説する。
14	赤の女王仮説と性が知られていなかった原生物における性の発見	性に関する有名な仮説「赤の女王仮説」とこれまで「性」がないと思われていた原生物のエリ鞭毛虫（2013年）と単細胞紅藻（2022年）で「性」の存在が明らかになった研究とその進化的重要性を解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使う資料を学習支援システムの教材欄に事前に提示するので、十分予習すること。授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して間違えの無いように解答すること。予習復習には1回の授業につき4時間以上かけて下さい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考書等は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業中に課題を出します。10-13 回の課題の評価点で成績評価を行う（100%）。1 回の課題は 10 点満点とし、10-13 回分を合計して 120-140 点満点で評価点となる。

【学生の意見等からの気づき】

内容が専門的で高校で生物を学ばない人でもわかるようにして欲しいという意見があるが、本講義は入門生物学でないものでそのような要望は受け入れられない。自分で高校レベルの生物学を学んでから受講すべきである。

講義内容が理解できない場合や質問は講義中、講義の前後に直接野崎に問いかけて下さい。後から「わからない」とレポートで書かれても困ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、インターネットが可能な PC があるとゲノム情報の探索が実際に自分で行える。

【その他の重要事項】

本講義は理科、特に生物学の最新の知識と方法論を体験した文系の若手を育成することを目的としています。高校レベルの生物学の知識を前提としていますので、現在までに生物学を学習・習得したことのない場合は事前に高校生物の「細胞分裂、生殖、染色体、遺伝子、DNA、タンパク質」等を自分で予習する必要があります。

授業中の私語は他の学生の受講を阻害するので厳禁である。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

The life of a human being begins with the encounter between the "male" and "female," which are the parents, and after growing up, the human being repeats the same process as the parents, but the grown individual eventually meets the fate of "aging death." However, if we look at all living organisms, we find that single-celled organisms, which have a simple structure, multiply by division, so there is no "aging death" and no "male and female differentiation". Therefore, it is thought that in the early stages of life, there was a unicellular stage in which there was neither aging death or male and female differentiation, and that both appeared during the evolution of multicellular organisms. One could argue that exploring these evolutionary processes would require investigating conditions 1 to 2 billion years ago, when eukaryotes emerged, but this is not possible. However, since there are extant organisms of various evolutionary stages in the green algal group "volvocine lineage" (Volvox and its related species), ranging from unicellular ones to complex multicellular bodies with "aging death" and "male and female genders," these evolutions can be studied by comparing the extant organisms. To this end, research is progressing by collecting these organisms from natural fields, establishing culture strains, and using cutting-edge biological techniques. The aim of this class is to understand such diversity and evolution related to "aging death" and "sex" by focusing on members of the volvocine lineage. For this purpose, it is necessary to understand how to collect naturally growing members of volvocine species and what kind of organisms the volvocine species are. In addition, the evolution of "aging death" and "male and female genders" is related to "multicellularity," and studies related to multicellularity using the volvocine species will also be presented. The history of our ancestors more than a billion years ago, when multicellular organisms evolved, is that they had neither "aging death" nor "male and female differentiation," but this cannot be directly explored. However, we hope you will understand that this history can be inferred from studies using organisms belonging to the volvocine lineage. From time to time, we will also introduce related studies by Nozaki's group.

【Learning Objectives】

We will understand that two critical processes that cannot be avoided in the human life span, "female-male encounter" and "old age and death," were acquired during the evolution of our ancient ancestors into multicellular organisms, and that unicellular organisms without these processes exist today. In addition, we will focus on the green algal group "volvocine lineage" (Volvox and its related species), which is a model organism group for the study of sex evolution and multicellularity, and introduce research related to these two evolutionary events, but we will also explain what the volvocine lineage is basically like, and how to collect these organisms in the field and establish laboratory cultures. The course will also provide an understanding of the field collection of these organisms and how to establish culture strains in the laboratory. In addition, the genome information of representative species of the volvocine lineage is publicly available, and genome information can be researched free of charge via the Internet. Therefore, students will also learn basic methods to search for the presence of target genes in the organisms of interest.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Materials to be used in class will be presented in the "Teaching Materials" section of the Learning Support System in advance, so students are expected to prepare well in advance. Students are expected to review the contents of the class and answer the assignments given in the class without making mistakes. Please spend at least 4 hours per class on preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】

An assignment/inquiry will be given after each class, and grading will be based on the evaluation score of 12-14 assignments, each assignment is worth 10 points, and the total score for 12-14 assignments is 120-140 points.

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

教養生物学 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：

町田 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『命とはなにか?』という問いをテーマに掲げて、生物学の立場から生物に共通する生命機能に対する理解を深め、命について考えることを目的として展開します。地球上に存在する多種多様な生物は、すべて細胞から構成されており、生物の遺伝形質は細胞内に収納されている遺伝子によって決定されています。この、細胞・遺伝子について学ぶことによって、「生命はなにからできているのか?」、「命はどのようにしてこの世に誕生するのか?」、「なぜ病気になるのか?」などの問いに対する答えを見つけていきます。また、この非常に複雑で精巧な生命のしくみに手を加える技術が近年急速に発展していますが、再生医療等の分野へどのように応用されているのか、またどのような倫理的課題をもたらしているのかについても考えます。

【到達目標】

生命現象を理解する上で必要とされる知識を会得し、命のしくみについて理解を深めるとともに、命というものの存在意義について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、対面です。ただし、初回を含めて一部オンライン授業となります。

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

授業は、生物学初学者でも理解できるように展開します。

課題等の提出・フィードバックは、授業時間内もしくは「学習支援システム」にて行う予定です。

授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」を通じてお知らせしますので、随時ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第2回	命ある生物とは？	命ある生物とはどんな特徴をもつのか、そしてその生物を対象とする生物学とはどんな学問なのかについて概説します。

第3回	命の材料とは？	生物体はどんな物質からできているのか、そして生命の最小単位である細胞とはなにかについて概説します。
第4回	命の設計図とは？	生命活動を営むための情報をもつDNAとはどのような働きをしているのかについて、その構造および複製のしくみ、また遺伝情報に基づいてタンパク質が作られるしくみを概説します。細胞の分裂や分化のしくみ、また細胞死やがん化について概説します。
第5回	命をつくる細胞の一生とは？	命はどのようにして誕生するのかについて、ひとつの受精卵から個体が形成されるまでの過程を、細胞の分裂・分化に着目しながら概説します。
第6回	命の誕生とは？	生体内において様々な役割を担うタンパク質の構造や機能について概説します。
第7回	命の要、タンパク質とは？	生命活動に欠かせない細胞の機能について、細胞膜に発現している種々のタンパク質の働きに着目して概説します。
第8回	命を支える細胞膜の機能とは？	体内に侵入した異物に対する防御のシステムについて概説します。
第9回	命を守るしくみとは？	細胞・遺伝子を扱う技術を用いた新たな治療法である再生医療について概説します。
第10回	命のしくみを利用した新しい医療とは？	生命科学分野の技術発展がもたらす倫理的課題について、歴史的背景とともに、実験動物の扱いや、遺伝子・幹細胞に関する技術などを例にあげながら概説します。
第11回	命に手を加えるとは？	細胞・遺伝子を利用した研究の実情について概説します。
第12回	命を操作する技術とは？	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第13回	命とはなにか？	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。
第14回	授業のまとめ・試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に実施する小テスト2回（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces the basis of biological science, focusing on the principle of life. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mechanism of life phenomenon. Lectures will also discuss current technologies related to cells and genes.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire the knowledge necessary to understand life phenomena, to have your own ideas about the significance of life, and to improve your ability to communicate what you have learned and your own ideas to others.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

The final grade will be determined as follows: Short tests to be submitted in class (50%) and term-end exam (50%).

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

教養生物学 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：

町田 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『人間とはなにものか?』という問いをテーマに掲げて、地球上に存在する多種多様な生物の関係性について理解を深め、その中でヒトの特徴について生物学の立場から考えることを目的として展開します。地球上に生息するすべての生物は、自らを取り巻く環境と相互作用することにより生命活動を営んでおり、私たちヒトも例外ではありません。自分自身を知るためにも、まずは自分がどのような環境でどのようなものに囲まれて生きているのかを知る必要があるでしょう。「どうして地球上にはたくさんの種類の生物がいるのか?」、「ヒトと他の動物にはどんな共通点・相違点があるのか?」などの問いに対する答えを探りながら、ヒト（皆さん自身）が地球環境の中で他の生物と共生していくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

【到達目標】

ヒトを含めた地球上の多種多様な生物に関する知識を会得し、生物と周囲の環境との関係性について理解を深めるとともに、ヒト（自分自身）のあり方について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。

また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、対面です。ただし、初回を含めて一部オンライン授業となります。

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

授業は、生物学初学者でも理解できるように展開します。

課題等の提出・フィードバックは、授業時間内もしくは「学習支援システム」にて行う予定です。

授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」を通じてお知らせしますので、随時ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第2回	多種多様な生物とは？	地球上にはどれほどの種の生物が存在し、どのような特徴をもつのかについて、動物の分類方法を学びながら概説します。

第3回	生態系の中のヒトとは？	地球上の多くの生物がどのような関係性の上に存在しているのかについて、ヒトの関わりについて概説します。
第4回	生物と地球環境のつながりとは？	ヒトを含めた全ての生物を構成している物質とは何なのか、またそれらの物質と地球環境とはどのような関わりをもつのかについて概説します。
第5回	生物、そしてヒトの起源とは？	地球上に生命が誕生した背景、そして生物の進化とヒトの誕生について概説します。
第6回	進化学とは？	ヒトはどのようにして生物の進化の謎をひも解いてきたのかについて、進化学分野の研究手法等を概説します。
第7回	行動の進化とは？	生物の行動と進化の関係について、また進化論がヒトの社会にどのような影響を及ぼしてきたのかについて概説します。
第8回	生物の行動にみられる特徴とは？	ヒトを含めた生物の様々な行動が引き起こされるしくみや意味について概説します。
第9回	種の存続とは？	生物のオスとメスの特性、また種の存続に際しヒトを含む様々な生物の配偶者選びにはどのような特徴があるのかについて概説します。
第10回	ヒトによる動物の家畜化とは？	地球上に存在する動物の中で、ヒトの管理下で生きる家畜化された動物に着目し、ヒトと動物の関わりについて概説します。
第11回	ヒトの動物観とは？	ヒトは他の動物をどのように見てきたのか、そしてヒトと他の動物の共生とはどのようなことなのかについて概説します。
第12回	ヒトの食とは？	自然界にある「食う・食われる」という関係の中で、現代のヒトは他の生物をどのように食しているのか、命を食べるとはどのようなことなのかについて概説します。
第13回	人間とはなにものか？	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第14回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に実施する小テスト2回（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces the basis of biological science, focusing on biodiversity. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of human beings compared to other living things. Lectures will also discuss harmonious symbiosis of nature and humans from many points of view.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire knowledge about biodiversity, to develop your own ideas about how humans should live, and to improve your ability to communicate what you have learned and your own ideas to others.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

The final grade will be determined as follows: Short tests to be submitted in class (50%) and term-end exam (50%).

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

教養生物学 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：

町田 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『命とはなにか?』という問いをテーマに掲げて、生物学の立場から生物に共通する生命機能に対する理解を深め、命について考えることを目的として展開します。地球上に存在する多種多様な生物は、すべて細胞から構成されており、生物の遺伝形質は細胞内に収納されている遺伝子によって決定されています。この、細胞・遺伝子について学ぶことによって、「生命はなにからできているのか?」、「命はどのようにしてこの世に誕生するのか?」、「なぜ病気になるのか?」などの問いに対する答えを見つけていきます。また、この非常に複雑で精巧な生命のしくみに手を加える技術が近年急速に発展していますが、再生医療等の分野へどのように応用されているのか、またどのような倫理的課題をもたらしているのかについても考えます。

【到達目標】

生命現象を理解する上で必要とされる知識を会得し、命のしくみについて理解を深めるとともに、命というものの存在意義について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、対面です。ただし、初回を含めて一部オンライン授業となります。

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

授業は、生物学初学者でも理解できるように展開します。

課題等の提出・フィードバックは、授業時間内もしくは「学習支援システム」にて行う予定です。

授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」を通じてお知らせしますので、随時ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第2回	命ある生物とは？	命ある生物とはどんな特徴をもつのか、そしてその生物を対象とする生物学とはどんな学問なのかについて概説します。

第3回	命の材料とは？	生物体はどんな物質からできているのか、そして生命の最小単位である細胞とはなにかについて概説します。
第4回	命の設計図とは？	生命活動を営むための情報をもつDNAとはどのような働きをしているのかについて、その構造および複製のしくみ、また遺伝情報に基づいてタンパク質が作られるしくみを概説します。細胞の分裂や分化のしくみ、また細胞死やがん化について概説します。
第5回	命をつくる細胞の一生とは？	命はどのようにして誕生するのかについて、ひとつの受精卵から個体が形成されるまでの過程を、細胞の分裂・分化に着目しながら概説します。
第6回	命の誕生とは？	生体内において様々な役割を担うタンパク質の構造や機能について概説します。
第7回	命の要、タンパク質とは？	生命活動に欠かせない細胞の機能について、細胞膜に発現している種々のタンパク質の働きに着目して概説します。
第8回	命を支える細胞膜の機能とは？	体内に侵入した異物に対する防御のシステムについて概説します。
第9回	命を守るしくみとは？	細胞・遺伝子を扱う技術を用いた新たな治療法である再生医療について概説します。
第10回	命のしくみを利用した新しい医療とは？	生命科学分野の技術発展がもたらす倫理的課題について、歴史的背景とともに、実験動物の扱いや、遺伝子・幹細胞に関する技術などを例にあげながら概説します。
第11回	命に手を加えるとは？	細胞・遺伝子を利用した研究の実情について概説します。
第12回	命を操作する技術とは？	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第13回	命とはなにか？	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。
第14回	授業のまとめ・試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に実施する小テスト2回（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces the basis of biological science, focusing on the principle of life. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mechanism of life phenomenon. Lectures will also discuss current technologies related to cells and genes.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire the knowledge necessary to understand life phenomena, to have your own ideas about the significance of life, and to improve your ability to communicate what you have learned and your own ideas to others.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

The final grade will be determined as follows: Short tests to be submitted in class (50%) and term-end exam (50%).

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）		
教養生物学 L D		2017年度以降入学者
サブタイトル：		
町田 郁子		
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 曜日・時限：水5/Wed.5 単位数：2単位 この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2025 年 4 月 2 日（水）17 時～4 日（金）正午 12 時、結果発表は 4 月 5 日（土）22 時予定です。履修ガイド（ https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2025/ ）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この授業は、『人間とはなにか?』という問いをテーマに掲げて、地球上に存在する多種多様な生物の関係性について理解を深め、その中でヒトの特徴について生物学の立場から考えることを目的として展開します。地球上に生息するすべての生物は、自らを取り巻く環境と相互作用することにより生命活動を営んでおり、私たちヒトも例外ではありません。自分自身を知るためにも、まずは自分がどのような環境でどのようなものに囲まれて生きているのかを知る必要があるでしょう。「どうして地球上にはたくさんの種類の生物がいるのか?」、「ヒトと他の動物にはどんな共通点・相違点があるのか?」などの問いに対する答えを探りながら、ヒト（皆さん自身）が地球環境の中で他の生物と共生していくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。		
【到達目標】 ヒトを含めた地球上の多種多様な生物に関する知識を会得し、生物と周囲の環境との関係性について理解を深めるとともに、ヒト（自分自身）のあり方について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。 また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【授業の進め方と方法】 授業形態は、対面です。ただし、初回を含めて一部オンライン授業となります。 授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。 授業は、生物学初学者でも理解できるように展開します。 課題等の提出・フィードバックは、授業時間内もしくは「学習支援システム」にて行う予定です。 授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」を通じてお知らせしますので、随時ご確認ください。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第2回	多種多様な生物とは？	地球上にはどれほどの種の生物が存在し、どのような特徴をもつのかについて、動物の分類方法を学びながら概説します。
第3回	生態系の中のヒトとは？	地球上の多くの生物がどのような関係性の上に存在しているのかについて、ヒトの関わりについて概説します。
第4回	生物と地球環境のつながりとは？	ヒトを含めた全ての生物を構成している物質とは何なのか、またそれらの物質と地球環境とはどのような関わりをもつのかについて概説します。
第5回	生物、そしてヒトの起源とは？	地球上に生命が誕生した背景、そして生物の進化とヒトの誕生について概説します。
第6回	進化学とは？	ヒトはどのようにして生物の進化の謎をひも解いてきたのかについて、進化学分野の研究手法等を概説します。
第7回	行動の進化とは？	生物の行動と進化の関係について、また進化論がヒトの社会にどのような影響を及ぼしてきたのかについて概説します。
第8回	生物の行動にみられる特徴とは？	ヒトを含めた生物の様々な行動が引き起こされるしくみや意味について概説します。
第9回	種の存続とは？	生物のオスとメスの特性、また種の存続に際しヒトを含む様々な生物の配偶者選びにはどのような特徴があるのかについて概説します。
第10回	ヒトによる動物の家畜化とは？	地球上に存在する動物の中で、ヒトの管理下で生きる家畜化された動物に着目し、ヒトと動物の関わりについて概説します。
第11回	ヒトの動物観とは？	ヒトは他の動物をどのように見てきたのか、そしてヒトと他の動物の共生とはどのようなことなのかについて概説します。
第12回	ヒトの食とは？	自然界にある「食う・食われる」という関係の中で、現代のヒトは他の生物をどのように食しているのか、命を食べるとはどのようなことなのかについて概説します。
第13回	人間とはなにか？	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第14回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。 授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。		
【テキスト（教科書）】 テキストは使用しません。		
【参考書】 必要に応じてお知らせします。		
【成績評価の方法と基準】 授業時に実施する小テスト2回（50％）および期末試験（50％）。		
【学生の意見等からの気づき】 生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。		
【Outline (in English)】 (Course outline)		

This course introduces the basis of biological science, focusing on biodiversity. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of human beings compared to other living things. Lectures will also discuss harmonious symbiosis of nature and humans from many points of view.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire knowledge about biodiversity, to develop your own ideas about how humans should live, and to improve your ability to communicate what you have learned and your own ideas to others.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

The final grade will be determined as follows: Short tests to be submitted in class (50%) and term-end exam (50%).

CHM200LA (その他の化学 / Chemistry 200)

教養化学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：エネルギーの科学

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質の変化には、エネルギーの出入りが伴います。社会や生命はこれらを上手に利用することで活動しています。エネルギーを題材にして身の回りの現象や物質について理解を深め、現在の我々の生活を支えている技術に対する興味を持って下さい。

【到達目標】

エネルギーについて原子核や電子の振る舞いをもとに理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。エネルギー問題に関する近年の話題について、自分なりの考察ができるようになることを目標にして下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクタで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文のpdfファイルを授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける理系科目の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし /No**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明。
第2回	エネルギーの基礎	エネルギーの定義やエネルギー変換についての概説。
第3回	電子の発見	ふたつの原子を結びつける電子の働きについて。
第4回	電子と電気	電磁誘導と発電機の仕組みについて。
第5回	同位体と原子の壊変	原子核の壊変と放射線について。
第6回	原子力発電	核分裂連鎖反応について。
第7回	原子爆弾と核融合	ウラン濃縮や臨界について。
第8回	光と電子のエネルギー	電磁波の性質と光子量子仮説について。
第9回	化学結合のエネルギー	化学結合が形成されるしくみと、物質の持つエネルギーについて。
第10回	有機化合物	炭素原子を含む化学物質の構造。
第11回	エネルギー物質	燃焼によって発生するエネルギーと、爆薬の化学構造、爆発事故について。
第12回	燃料電池	水素分子と酸素分子から得られるエネルギーについて。
第13回	元素の循環	物質変化に伴うエネルギーの吸収と放出について。
第14回	まとめ	これまでの内容の復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やWeb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業毎に資料を配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回5問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします(配分40%)。期末試験の結果(配分60%)と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

化学の学習に不安を持つ学生のために、高校の学習範囲を予備知識として必要としない内容を心掛けています。また、高校で理系科目を多く履修した人も気づきが得られるように、なるべく身の回りの現象を題材にしています。今年度は、学生自身の手を動かす機会を増やすように考えています。

【Outline (in English)】

This course introduces fundamental principles of familiar natural phenomena. The goals of this course are to understand about energy and to improve your scientific literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM200LA（その他の化学 / Chemistry 200）

教養化学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、各種エネルギー資源について注目が集まっています。それらの話題を理解するためには、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では、現代文明が大きく依存している化石燃料について利用の実態を学習し、それらが枯渇の危機に瀕していることを理解します。また、新たなエネルギー社会構築の可能性について議論します。これらの話題を化学の視点から理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

本授業では、化石燃料である石炭、石油、天然ガスについて、その構造、性質、燃焼反応、燃焼熱等について学習します。また、新しいエネルギー社会として提唱されている水素経済社会やメタノール経済社会について学習します。これらの話題を的確に理解するために必要な化学理論（化学結合論、熱力学、結合エネルギー等）を合わせて習得することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画と学習の仕方について講義する。
第2回	物質とは？	物質の基本単位である分子について学習する。
第3回	化学反応	物質の変化、すなわち、化学反応について学習する。
第4回	反応熱・エネルギー	化学反応にともなって反応系から出入りする反応熱について学習する。また、その他のエネルギー形態についても解説する。
第5回	石炭	現代文明で大きな役割を演じている石炭の性質や用途について学習する。
第6回	石油（１）	現代文明で大きな役割を演じている石油の性質や精製について学習する。
第7回	石油（２）	現代文明で大きな役割を演じている石油の用途について学習する。
第8回	天然ガス	現代文明で大きな役割を演じている天然ガスの性質や用途について学習する。

第9回	その他の化石燃料	オイルサンドやオイルシェール等、その他の化石燃料について性質や用途を学習する。
第10回	水素経済社会（１）	将来のエネルギー資源の候補である水素について、性質や用途を学習する。
第11回	水素経済社会（２）	水素を利用する社会システム（水素経済社会）について、その長所と短所を学習する。
第12回	メタノール経済社会（１）	将来のエネルギー資源の候補であるメタノールおよびジメチルエーテルについて、性質や用途を学習する。
第13回	メタノール経済社会（２）	メタノールを利用する社会システム（メタノール経済社会）について学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協 Web サイトにて購入することができます。

・
書名：新版 エネルギーの科学（第2版）
著者名：安井伸郎
出版社：三共出版

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

・
書名：メタノールエコノミー：CO2をエネルギーに変える逆転の発想
著者名：G.A. オラー, A. ゲッペールト, G.K.S. ブラカーシュ
訳者名：小林四郎, 齋藤彰久, 西村晃尚
出版者名：化学同人

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100％）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じてオンライン授業を行うことがありますので、PCやタブレット端末等、オンデマンド授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

基盤科目（100番台）の「入門化学A・B」、および、リベラルアーツ科目（200番台）の「教養化学LC・LD」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

【Outline (in English)】

In recent years, various kinds of energy resources are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To understand such topics, natural sciences play crucial roles. In this lecture, the actual state of use of fossil fuels on which modern civilization largely depend will be discussed to understand that such the fuels are on the crisis of exhaustion. In addition, some ideas that may bring sustainable civilization will be presented. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM200LA (その他の化学 / Chemistry 200)

教養化学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：環境の科学

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題の解決には、その原因となる材料や燃料の使用規制が提案されます。しかし、現在の我々の豊かな生活は、これらに支えられている側面もあります。この授業では、現在の生活を支える科学技術に対する理解を深め、環境問題の原因とその解決のために必要な科学技術について学んでいきます。

【到達目標】

自然現象や環境問題について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクトで投影して解説していきます。投影する資料は授業支援システムで配布する予定です。高校などにおける自然科学系科目の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、授業の進め方など	この講義の概要と、これからの授業の進め方、注意点等について説明します。
第2回	日本の過去の公害事例	明治から現代までの環境問題について。
第3回	化学の基礎	原子の結合と、有機化合物の構造、性質について。
第4回	触媒	化学反応を促進する触媒の原理について。
第5回	排ガスの清浄化	汚染物質を分解する仕組みについて。
第6回	触媒の活用	優れた機能を持つ材料や燃料、肥料などを作るための触媒について。
第7回	温室効果ガス	二酸化炭素やその他気体の温室効果のメカニズムについて。
第8回	二酸化炭素の利用	二酸化炭素の回収とその利用について。
第9回	高分子	天然の高分子と人工高分子について。
第10回	海洋プラスチック問題	プラスチックごみやマイクロプラスチックの問題点について。
第11回	バイオプラスチック	自然界で分解されやすいプラスチックの構造と機能について。
第12回	原子力発電	核分裂反応で生じる放射性物質について。

第13回 放射線と生体

放射線の種類や生体に及ぼす影響について。

第14回 まとめ

全般的な振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使いません、毎週資料を学習支援システム上で配布します。

【参考書】

気になるキーワードを図書館やWebで検索してみてください。必要に応じて授業内で紹介することも可能です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回5問程度の正誤問題とまとめを出題します。この成績を平常点とします(配分40%)。期末試験の結果(配分60%)と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

現象の原理を理解するには化学は必須ですが、その範囲は限定し、身近なものを例に挙げるよう気をつけています。

【Outline (in English)】

This course introduces the principles of the science and technology that support our current life. By the end of the course, students should be able to understand the causes of environmental issues and the scientific technologies necessary to resolve them.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM200LA (その他の化学 / Chemistry 200)

教養化学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：身近な問題を考えるための化学

西村 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、地球は様々な問題に直面しています。例えば気候変動、エネルギー問題、環境汚染などです。これらの問題を解決するには、その問題点をメカニズムから理解することが大切です。そのためには基本的な化学の理解が必須となります。本講座は身近な問題を考え、自分で判断できることを最終目的としますが、まずはこれに必須な化学の知識を身につけてもらうことを目的とします。

【到達目標】

身近な問題を考え、自分で判断できることを最終目的とします。授業では主に問題提議を行い、化学的なメカニズムを示します。最終的に、その解決策を自分の頭で考えてもらうことを目的としています。テストはそのような意図で作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

はじめにどのくらいの化学的な知識があるのかのテストを行い、その結果をもとに最初の3週間の授業内容を決めます。その後は様々なトピックを取り上げて化学的な見地から説明する予定です。授業の合間にQRコードを読み取ってもらう形式のクイズを出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
No.1	イントロダクション	授業の進め方の説明。簡単なテスト
No.2	化学基礎 1	これからの講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.3	化学基礎 2	これからの講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.4	化学基礎 3	これからの講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.5	小テスト	これまでの学習を振り返る
No.6	環境問題-概要	これまでの質問回答。環境問題概要とプラネタリーバウンダリーについて
No.7	環境問題-オゾン層破壊と大気汚染	気体に関係する環境問題について
No.8	環境問題-温室効果	温室効果ガスとは何か、またその環境に対する影響
No.9	環境問題-水質汚染とごみ	水の汚染とごみ問題
No.10	小テスト	これまでの学習を振り返る
No.11	身近な化学-エネルギー	現在と未来のエネルギー生産法に関して
No.12	身近な化学-洗剤と添加物	洗剤の成分と使い方の注意。食品に含まれている各種添加物の化学
No.13	身近な化学-化粧品成分	化粧品の成分、有効成分の化学

No.14 テスト

最終テスト

試験範囲は化学基礎を含む全授業範囲です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習する必要はありません。授業後に興味を持った内容を自分で調べて学習した内容の理解を深めてもらいたいと思っています。この復習に2時間程度充てることが望ましいです。それを授業後のレポートとして提出してください。

【テキスト（教科書）】

ありません。必要に応じて資料となるPDFファイルをHoppiiにUPします。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業中に出す課題(20%)、授業後のレポート(30%)、2回の小テスト(20%)、最終テスト(30%)を総合的に評価します。授業中に出す課題は出欠確認の意味を含めています。

【学生の意見等からの気づき】

「私たち文系なので、わかりやすく教えてください」とコメントいただくので、わかりやすく、急がずに授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にQRコードを読み取ってもらいますので、スマホなどのQRコードが読み取れるデバイスを持参してください。

【その他の重要事項】

希望者が多かった場合、抽選を行う予定です。

【Outline (in English)】

Today, the world faces a wide range of problems. For example, climate change, energy problems and environmental pollution. To solve these problems, it is important to understand them from their mechanisms. For this, an understanding of basic chemistry is essential. The ultimate aim of this course is to enable students to think about familiar problems and make their own decisions, but the first aim is to give them the chemical knowledge that is essential for this.

At the beginning, you will be tested on how much chemical knowledge you have, and the results will determine the content of the first three weeks of the class. Thereafter, a variety of topics will be covered and explained from a chemical perspective. In between classes, there will be a quiz in the form of a QR code to be scanned.

Grading will be based on a combination of in-class assignments (20%), after-class reports (30%), two quizzes (20%) and a final test (30%). Assignments given in class include the meaning of attendance confirmation.

CHM200LA (その他の化学 / Chemistry 200)

教養化学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、各種エネルギー資源について注目が集まっています。それらの話題を理解するためには、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では、現代文明が大きく依存している化石燃料について利用の実態を学習し、それらが枯渇の危機に瀕していることを理解します。また、新たなエネルギー社会構築の可能性について議論します。これらの話題を化学の視点から理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

本授業では、化石燃料である石炭、石油、天然ガスについて、その構造、性質、燃焼反応、燃焼熱等について学習します。また、新しいエネルギー社会として提唱されている水素経済社会やメタノール経済社会について学習します。これらの話題を的確に理解するために必要な化学理論（化学結合論、熱力学、結合エネルギー等）を合わせて習得することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画と学習の仕方について講義する。
第2回	物質とは？	物質の基本単位である分子について学習する。
第3回	化学反応	物質の変化、すなわち、化学反応について学習する。
第4回	反応熱・エネルギー	化学反応にともなって反応系から出入りする反応熱について学習する。また、その他のエネルギー形態についても解説する。
第5回	石炭	現代文明で大きな役割を演じている石炭の性質や用途について学習する。
第6回	石油（１）	現代文明で大きな役割を演じている石油の性質や精製について学習する。
第7回	石油（２）	現代文明で大きな役割を演じている石油の用途について学習する。
第8回	天然ガス	現代文明で大きな役割を演じている天然ガスの性質や用途について学習する。

第9回	その他の化石燃料	オイルサンドやオイルシェール等、その他の化石燃料について性質や用途を学習する。
第10回	水素経済社会（１）	将来のエネルギー資源の候補である水素について、性質や用途を学習する。
第11回	水素経済社会（２）	水素を利用する社会システム（水素経済社会）について、その長所と短所を学習する。
第12回	メタノール経済社会（１）	将来のエネルギー資源の候補であるメタノールおよびジメチルエーテルについて、性質や用途を学習する。
第13回	メタノール経済社会（２）	メタノールを利用する社会システム（メタノール経済社会）について学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協 Web サイトにて購入することができます。

・
書名：新版 エネルギーの科学（第2版）
著者名：安井伸郎
出版社：三共出版

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

・
書名：メタノールエコノミー：CO2をエネルギーに変える逆転の発想
著者名：G.A. オラー, A. ゲッペールト, G.K.S. ブラカーシュ
訳者名：小林四郎, 齋藤彰久, 西村晃尚
出版者名：化学同人

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じてオンライン授業を行うことがありますので、PCやタブレット端末等、オンデマンド授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

基盤科目（100番台）の「入門化学A・B」、および、リベラルアーツ科目（200番台）の「教養化学LC・LD」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

【Outline (in English)】

In recent years, various kinds of energy resources are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To understand such topics, natural sciences play crucial roles. In this lecture, the actual state of use of fossil fuels on which modern civilization largely depend will be discussed to understand that such the fuels are on the crisis of exhaustion. In addition, some ideas that may bring sustainable civilization will be presented. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM200LA (その他の化学 / Chemistry 200)

教養化学ⅠC

2017年度以降入学者

サブタイトル：

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国で発生した新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）は、2020年に入ってから急速に世界中に拡散し、世界各国で感染者数を増加させています。このウイルスの感染によって引き起こされる症状は深刻である一方、新規に発生したウイルスであるため有効な治療法は確立されていません。そのため、我々の生活様式から企業の経済活動にいたるまで、現代社会はCOVID-19から大きな影響を受けています。したがって、今、ウイルスや関連する事項について学習することは、将来の社会を担う学生にとって最も重要なテーマであるといえます。本授業では、まず、生体を構成する種々の有機化合物についてご紹介します。それらが集合して構成される生体の最小単位である細胞について学習し、細菌や細菌によって引き起こされる疾病について学びます。ウイルスが増殖する舞台である細胞について化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

我々の生命活動の舞台である細胞、我々に病気をもたらす細菌やウイルスについて、種類、構造、性質、および、活動について化学的に理解することを目標とします。なお、これまで化学を学習したことが無い学生でも授業を理解することができるように配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第2回	原子	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第3回	化学結合論	原子がどのようなルールによって結合し分子を形成するかを学習する。
第4回	多重結合	化学結合論に基づいて形成される様々な化学結合の種類について学習する。
第5回	生体を構成する有機化合物	生体を構成するタンパク質、脂質、糖質、および、核酸について学習する。
第6回	分子の立体構造	種々の化学結合がなす角度と結合距離について学習し、分子の立体構造について理解を深める。

第7回	分子の立体構造と物質の性質（1）	物質の性質が分子の立体構造によって決まることを、いくつかの例を通して学習する。
第8回	分子の立体構造と物質の性質（2）	物質の性質が分子の立体構造によって決まることを、いくつかの例を通して学習する。
第9回	生体分子の立体構造（1）	タンパク質の立体構造について学習する。
第10回	生体分子の立体構造（2）	脂質や糖質の立体構造について学習する。
第11回	生体分子の立体構造（3）	核酸の立体構造について学習する。
第12回	細胞	生物とウイルスの違いや生体の基本単位である細胞について学習する。
第13回	細菌	細菌の種類や細菌によって引き起こされる疾病について学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業終了後、各自の興味関心に基づいた発展的な読書や調査を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

書名：ヴォート生化学

著者名：Donald Voet, Judith G.Voet

訳者名：田宮信雄 ほか

出版者名：東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じてオンライン授業を行うことがありますので、PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「教養化学ⅠD」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

The new-type coronavirus (SARS-CoV-2) originated in China had rapidly spread worldwide last year to increase the number of infected patients in every country. While the symptoms generated from this virus are serious, an effective treatment has not yet been established. This situation brings severe influence to many things such as our lifestyles and economic activities of industries. Therefore, learning about virus and its related things is one of the most important subjects for university students who will lead the next generation. In this lecture, various organic compounds that comprise living organisms will be presented. Then, students will learn about the cell that is the minimum unit of the living organisms, and bacteria and its related diseases. The purpose of this lecture is to understand the properties and activities of cell that is the place of multiplication of virus from the viewpoint of chemistry. Students are encouraged advanced learning after a class using relevant books and the internet on the basis of their own interest. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM200LA (その他の化学 / Chemistry 200)

教養化学 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国で発生した新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）は、2020年に入って急速に世界中に拡散し、世界各国で感染者数を増加させています。このウイルスの感染によって引き起こされる症状は深刻である一方、新規に発生したウイルスであるため有効な治療法は確立されていません。そのため、我々の生活様式から企業の経済活動にいたるまで、現代社会はCOVID-19から大きな影響を受けています。したがって、今、ウイルスや関連する事項について学習することは、将来の社会を担う学生にとって最も重要なテーマであるといえます。本授業では、まず、生体を構成する最小単位である細胞がどのような活動をおこなっているかを学習します。次に、ウイルスがその細胞に侵入して増殖するメカニズムなどを学習します。ウイルスの性質や活動について化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

我々の生命活動の舞台である細胞、我々に病気をもたらす細菌やウイルスについて、種類、構造、性質、および、活動について化学的に理解することを目標とします。なお、これまで化学を学習したことが無い学生でも授業を理解することができるように配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第2回	化学結合論と分子の立体構造	化学結合論によって原子同士がつながって分子が生成すること、および、分子の立体構造によって物質の性質が決まることを学習する。
第3回	生体を構成する有機化合物	生体を構成する種々の有機化合物について学習し、それらの分子構造について理解を深める。
第4回	遺伝情報の発現（1）	生物の遺伝子DNAをRNAに転写する過程について学習する。
第5回	遺伝情報の発現（2）	mRNAが持つ遺伝情報をタンパク質に翻訳する過程について学習する。
第6回	遺伝情報の発現（3）	細胞分裂の際に行われる遺伝子DNAの複製について学習する。
第7回	生化学の研究手法	生化学を学習する際の研究手法について学習する。

第8回	ウイルスの構造	種々のウイルスについて基本的な構造を理解する。
第9回	λファージ	λファージの生活環について学習する。
第10回	HIV	ヒト免疫不全ウイルス（HIV）の生活環について学習する。
第11回	インフルエンザウイルス	インフルエンザウイルスの構造や増殖過程について学習する。
第12回	新型コロナウイルス	新型コロナウイルスについて最新の研究成果を学習する。
第13回	ウイルス治療薬	ウイルス治療薬開発の概要について学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業終了後、各自の興味関心に基づいた発展的な読書や調査を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

・書名：ヴォート生化学
著者名：Donald Voet, Judith G. Voet
訳者名：田宮信雄 ほか
出版者名：東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じてオンライン授業を行うことがありますので、PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「教養化学 L C」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

The new-type coronavirus (SARS-CoV-2) originated in China had rapidly spread worldwide last year to increase the number of infected patients in every country. While the symptoms generated from this virus are serious, an effective treatment has not yet been established. This situation brings severe influence to many things such as our lifestyles and economic activities of industries. Therefore, learning about virus and its related things is one of the most important subjects for university students who will lead the next generation. In this lecture, students will learn the processes of expression and transmission of genetic information that is fundamental for living organisms, and then that of multiplication of viruses utilizing such the processes of the host cell. The purpose of this lecture is to understand the properties and activities of viruses from the viewpoint of chemistry. Students are encouraged advanced learning after a class using relevant books and the internet on the basis of their own interest. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM200LA (その他の化学 / Chemistry 200)

教養化学Ⅰ E

2017年度以降入学者

サブタイトル：薬の科学

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

薬の開発は人類の寿命を大きく伸ばし、医学の発展に大きく寄与してきました。この授業では、薬とはどのようなものか、人体にどのような働きをするのか、薬はどのように開発されるか、など、薬の原理について有機化学を用いて紹介していきます。

【到達目標】

薬の働きについての学習を通して、タンパク質や低分子有機化合物の構造式を身近なものにし、有機化合物の性質を左右する構造的特徴について理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクトで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目(理系科目)の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と概要、学習方法について説明。
第2回	薬の歴史	古代から現代までの薬、薬を作ることができるようになったきっかけについて。
第3回	有機化学の基礎	有機化合物の構造や性質について。
第4回	DNAとタンパク質	アミノ酸の化学構造と、タンパク質やDNAの立体構造について。
第5回	酵素と代謝	タンパク質や炭水化物などを分解、合成する酵素について。
第6回	栄養の化学	食品に含まれる栄養素が体内でどのように変化し、働くかについて。
第7回	生活習慣病の薬	糖尿病や脂質異常症の薬について。
第8回	抗炎症薬①	非ステロイド薬とステロイド薬の作用機序について。
第9回	抗炎症剤②	花粉症などアレルギーの薬、抗ヒスタミン薬の分子設計と、副作用改善について。
第10回	化学療法薬と抗生物質	病原細菌に強く作用する薬と、その作用機序について。
第11回	抗ウイルス薬	インフルエンザやエイズ、新型コロナウイルスの特徴と、その薬について。

第12回	がんの薬	様々な抗がん薬の働きと、副作用を軽減する試みについて。
第13回	うつ病の薬と危険ドラッグ	脳で働く生体物質や薬の働きについて。
第14回	まとめ	これまでの内容の復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業で使用する資料を授業支援システムで配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回5問程度の正誤問題と簡単なまとめを出題します。この成績を平常点とします(配分40%)。期末試験の結果(配分60%)と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

高校で化学を履修していることを前提にはしていません。しかし、薬の理解には化学だけでなく理系全般の幅広い知識を必要とするため、難しく感じる内容も含まれると思います。そのため、発展的な内容を話す場合は、最低限理解して欲しい内容とはっきり区別するようにしています。また、高校で理系科目を多く履修した人も気づきが得られるように、服用する機会の多い薬や、最近認可された薬も題材にしています。質問は学習支援システムでも受け付けていますが、授業中にも時間を取るようにする予定です。

【Outline (in English)】

Pharmaceutics has extended the human lifespan and has greatly contributed to the development of medical science. This course introduces the basic principles of medical supplies using organic chemistry.

The goals of this course are to understand about organic compounds and to improve your scientific literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボ B

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制（48）

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制（48）

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制（48）

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第7週	太陽電池の実験 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第12週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第14週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボ B

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制（48）

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第7週	太陽電池の実験 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第12週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第14週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出 (生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験 (物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験 (物理学)	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み (化学)	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし /No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	細胞と染色体(生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ(生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出(生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学(生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは(物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー(物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験(物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験(物理学)	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷(化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験(化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験(化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み(化学)	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定(化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント(大学院生)のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボ B

2017年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制（48）

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第7週	太陽電池の実験 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第12週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第14週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

例えば、物理を苦手と思っている人でも物理のレポート作成は難しくありません。物理の授業で使うワークシートがそのままレポートになります。授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

土居 英男、島野 智之、石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	細胞と染色体(生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ(生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出(生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学(生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは(物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー(物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験(物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験(物理学)	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷(化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験(化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験(化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み(化学)	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定(化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント(大学院生)のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

例えば、物理を苦手と思っている人でも物理のレポート作成は難しくありません。物理の授業で使うワークシートがそのままレポートになります。授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第7週	太陽電池の実験 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第12週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第14週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

例えば、物理を苦手と思っている人でも物理のレポート作成は難しくありません。物理の授業で使うワークシートがそのままレポートになります。授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

土居 英男、島野 智之、石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	細胞と染色体(生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ(生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出(生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学(生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは(物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー(物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験(物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験(物理学)	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷(化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験(化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験(化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み(化学)	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定(化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント(大学院生)のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

例えば、物理を苦手と思っている人でも物理のレポート作成は難しくありません。物理の授業で使うワークシートがそのままレポートになります。授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出 (生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験 (物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験 (物理学)	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み (化学)	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出 (生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験 (物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験 (物理学)	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み (化学)	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第4週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み (化学)	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池 (シリコン型) との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これら理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生じさせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第4週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み (化学)	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池 (シリコン型) との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これら理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生み出し、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第4週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み (化学)	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池 (シリコン型) との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これら理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生み出し、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第4週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み (化学)	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池 (シリコン型) との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これら理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生じさせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第4週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み (化学)	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池 (シリコン型) との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ B

2017年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これら理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	エネルギーとは(物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー(物理学)	電気を用いて熱エネルギーを生じさせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験(物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験(物理学)	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷(化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験(化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験(化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定(化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か?(生物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体(生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ(生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出(生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学(生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント(大学院生)のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第4週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み (化学)	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池 (シリコン型) との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ B

2017年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生じさせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)	
サイエンス・ラボ A	2017年度以降入学者
向井 知大、島野 智之、石川 壮一	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木3/Thu.3	
単位数：2単位	
定員制 (48)	
2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第4週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み (化学)	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池 (シリコン型) との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

例えば、物理を苦手と思っている人でも物理のレポート作成は難しくありません。物理の授業で使うワークシートがそのままレポートになります。授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

土居 英男、島野 智之、石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	エネルギーとは（生物学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生じさせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

例えば、物理を苦手と思っている人でも物理のレポート作成は難しくありません。物理の授業で使うワークシートがそのままレポートになります。授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第4週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み (化学)	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池 (シリコン型) との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。例えば、物理を苦手と思っている人でも物理のレポート作成は難しくありません。物理の授業で使うワークシートがそのままレポートになります。授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

土居 英男、島野 智之、石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	エネルギーとは（生物学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生じさせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。例えば、物理を苦手と思っている人でも物理のレポート作成は難しくありません。物理の授業で使うワークシートがそのままレポートになります。授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第4週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み (化学)	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池 (シリコン型) との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生じさせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第4週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み (化学)	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池 (シリコン型) との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生じさせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に慣れない学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	物質と光の相互作用(化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て(化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成(化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価(化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ(生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光(生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光(生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し(続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質(物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験(物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察(物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察(物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント(大学院生)のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ B

2017年度以降入学者

土居 英男、島野 智之、石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。例えば、物理を苦手と思っている人でも物理のレポート作成は難しくありません。物理の授業で使うワークシートがそのままレポートになります。授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

土居 英男、島野 智之、石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

例えば、物理を苦手と思っている人でも物理のレポート作成は難しくありません。物理の授業で使うワークシートがそのままレポートになります。授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	物質と光の相互作用(化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て(化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成(化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価(化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ(生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光(生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光(生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し(続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質(物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験(物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察(物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察(物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント(大学院生)のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	物質と光の相互作用(化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て(化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成(化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価(化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ(生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光(生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光(生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し(続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質(物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験(物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察(物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察(物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント(大学院生)のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA (自然科学全般 / Natural science 100)

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の各コマの内容とその要点を逐一説明し、次週からの事前学習の進め方についての説明と指導を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の世界と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

HSS200LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

健康の科学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 康弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、人生の質を高める上で基盤となる「健康」について、科学的な視点から理解を深め、生涯にわたって実践できる健康管理の知識と方法を習得することを目的とします。

授業では、以下の内容を体系的に学習します。第一に、国の健康施策や統計データに基づき、平均寿命・健康寿命・人口動態の変化など、日本における健康課題を多角的に分析します。これにより、健康の社会的決定要因について、エビデンスに基づいた理解を深めます。

第二に、運動と健康の関連性について、様々な活動レベルにおけるデータを用いて検討します。特に、厚生労働省が示す運動指針の科学的根拠を理解し、生活習慣病予防のための効果的な運動方法について実践的に学びます。

第三に、日常的な健康管理に不可欠な栄養摂取と睡眠に関する科学的知見を学習します。現代社会で増加傾向にある肥満関連疾患や睡眠障害について、最新の研究成果に基づく予防・改善方法を理解します。

授業方法として、講義による知識の習得に加え、学生自身による振り返りと実践的な課題への取り組みを重視します。これにより、自己の健康行動を客観的に分析し、持続可能な健康づくりを実践する能力の育成を目指します。

【到達目標】

「健康に対する理解を深めること」、「運動・栄養・休養に対する新しい考え方を持つこと」を到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は講義科目です。この授業では、授業中に提供された知識・情報を単に記憶する・理解するだけでなく、個々人のスポーツ・運動実践場面における適用方法などについて考察することを最も重視します。そのため、共通の学習テーマの下での数回の授業が終了するごとに個人の考え・意見をまとめたミニレポートを提出してもらい、そのレポートを評価の一部とします。

なお、ミニレポート等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要説明
第2回	今日における健康の概念	WHOの提唱、健康日本21
第3回	健康と寿命①	平均寿命と健康寿命 出生者数と死亡者数
第4回	健康と寿命②	都道府県別にみた寿命と健康
第5回	健康と寿命③	世界の死因と感染症
第6回	運動と健康①	アスリートと健康 アスリートは長生きか？

第7回	運動と健康②	健康づくりのための運動 身体活動基準・アクティブガイド
第8回	健康と疾患①	虚血性心疾患および動脈硬化とは
第9回	健康と疾患②	糖尿病とは
第10回	健康と疾患③	肥満と糖尿病との関係
第11回	健康と疾患④	生活習慣病とメタボリックシンドローム
第12回	健康と疾患⑤	高血圧とは
第13回	健康と休養①	睡眠とは
第14回	健康と休養②	栄養補給とは 三大栄養素とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

厚生労働省、健康日本21（第二次）。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21.html

厚生労働省、健康日本21（第三次）。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21_00006.html

厚生労働省、生活習慣病予防。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/seikatsu/seikatusyuukan.html

【成績評価の方法と基準】

1) 授業への参画状況（授業ごとのリアクションペーパーなどで評価）：50%

毎回授業内容に関する簡易レポート（A4用紙1枚）の提出を求め、授業ごとに評価を行います。

2) 課題・ミニレポートの内容：30%

3) 学習態度：20%

【学生の意見等からの気づき】

2025年度より授業を担当するため、特にありません。

【Outline (in English)】

This course aims to deepen students' scientific understanding of "health" as a foundation for enhancing quality of life and to help them acquire practical knowledge and methods for lifelong health management.

The course systematically covers the following content. First, students will analyze health challenges in Japan from multiple perspectives, examining national health policies and statistical data, including changes in life expectancy, healthy life expectancy, and population dynamics. This will lead to an evidence-based understanding of the social determinants of health.

Second, students will examine the relationship between exercise and health using data from various activity levels. In particular, they will study the scientific basis of exercise guidelines established by the Ministry of Health, Labour and Welfare, and learn practical methods for preventing lifestyle-related diseases through effective exercise.

Third, students will study scientific findings on nutrition and sleep, which are essential for daily health management. They will understand prevention and improvement methods based on the latest research findings regarding obesity-related diseases and sleep disorders, which are increasing in modern society.

The teaching method emphasizes not only knowledge acquisition through lectures but also students' self-reflection and engagement with practical tasks. Through this approach, the course aims to develop students' ability to objectively analyze their health behaviors and implement sustainable health promotion practices.

Learning Objectives

Our goals are to deepen understanding of health, and to develop new ways of thinking about exercise, nutrition, and rest.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Participation in class (evaluated through reaction papers for each class): 50%

Students are required to submit a brief report (1 page of A4 paper) related to the content of each class, which will be evaluated for each session.

Content of assignments and mini-reports: 30%

Learning attitude: 20%

HSS200LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

健康の科学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 康弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スポーツトレーニングの基本原則を紹介した上で、各種体力要因の意味やこれらを効果的に高めるためのトレーニング方法について幅広く学習し、実際の生活で活用できるようにすることを目的とします。効率的かつ効果的なトレーニングにより体力を向上させることは、アスリートばかりではなく、一般人にとっても、生涯にわたって健康で活動的な生活を過ごす上で重要なことを解説し、具体的なトレーニング内容についても紹介します。

【到達目標】

- 1) 体力トレーニングを実施する上での基本原則を理解する
- 2) 体力向上および健康増進のための合理的なトレーニング法やその効果の機序を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は講義科目です。この授業では、授業中に提供された知識・情報を単に記憶する・理解するだけでなく、個々人のスポーツ・運動実践場面における適用方法などについて考察することを最も重視します。そのため、共通の学習テーマの下での数回の授業が終了するごとに個人の考え・意見をまとめたミニレポートを提出してもらい、そのレポートを評価の一部とします。

なお、ミニレポート等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要説明
第2回	健康とトレーニング①	トレーニングの常識・非常識
第3回	健康とトレーニング②	トレーニングとは何なのか？
第4回	健康とトレーニング③	トレーニングの原則
第5回	科学的トレーニング①	科学的トレーニングとは何なのか？
第6回	科学的トレーニング②	トレーニングに関する研究の作法 - 対照実験の有用性と限界 -
第7回	科学的トレーニング③	アスリートに有用な科学的トレーニングとは
第8回	中間まとめ	健康とトレーニング、科学的トレーニングについて考える
第9回	補助トレーニング①	専門トレーニングと補助トレーニング
第10回	補助トレーニング②	様々な補助トレーニング法
第11回	補助トレーニング③	筋力を増大させるトレーニング法

- 第12回 補助トレーニング④ スピードとパワーを増大させるトレーニング法
 第13回 補助トレーニング⑤ 持久力とは何なのか？
 第14回 補助トレーニング⑥ 持久力を増大させるトレーニング法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 毎回の授業で提示する課題に取り組んでから授業にのぞむこと。
 - 2) 各授業で配布する資料内容を次回までに復習してくること。
 - 3) シラバスに記載の内容を毎回予習してくること。
- なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。
必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

体力トレーニング論、高松薫、杏林書院
 アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学、山本正喜、市村出版。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業への参画状況（授業ごとのリアクションペーパーなどで評価）：50%
 毎回授業内容に関する簡易レポート（A4用紙1枚）の提出を求め、授業ごとに評価を行います。
- 2) 課題・ミニレポートの内容：30%
- 3) 学習態度：20%

【学生の意見等からの気づき】

2025年度より授業を担当するため、特にありません。

【Outline (in English)】

This course aims to introduce the fundamental principles of sports training, extensively covering the meaning of various physical fitness factors and effective training methods to enhance them, with the goal of enabling students to apply these principles in their daily lives. Enhancing physical fitness through efficient and effective training is crucial not only for athletes but also for the general population to lead a healthy and active lifestyle throughout their lives. This course will explain the importance of this aspect and also provide specific training content.

Learning Objectives

Understand the basic principles for implementing physical fitness training

Understand rational training methods for improving physical fitness and promoting health, and the mechanisms of their effects

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Participation in class (evaluated through reaction papers for each class): 50%

Students are required to submit a brief report (1 page of A4 paper) related to the content of each class, which will be evaluated for each session.

Content of assignments and mini-reports: 30%

Learning attitude: 20%

HSS200LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

健康の科学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

谷本 都栄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生100年時代を迎え人々の生き方が多様化する中で、身体的な健康だけでなく、生きがいや人間の尊厳をも含めた包括的健康、ウェルビーイングの視点が重要になってきている。本講義では、バイオ・サイコ・ソーシャル・ヘルスに関わる様々なトピックスから個人の健康や社会の健康について考え、ライフスキルとしてウェルネスの確立に向けて自ら実践に結びつけていくことを目指す。

【到達目標】

- ・健康の概念や健康観の変遷から、健康とは何かについて理解を深める。
- ・ウェルビーイングの視点から、自己の生活の質や地域の課題について考える。
- ・個人及び社会におけるウェルネスの確立に向けて主体的に行動できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
- ・セルフチェックや時事的な問題を取り上げ、具体的に考えられるようにする。
- ・毎回のワークシートやリアクションペーパーにより、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第2回	健康観・健康概念の多様化	世界における健康観・健康概念がどのように多様化してきたかについて理解を深める。
第3回	日本における健康観の変遷	日本における健康観・健康概念の変遷について、時代背景を踏まえて理解を深める。
第4回	ホリスティック・ヘルス、ウェルビーイングとは	包括的健康、ウェルビーイングの視点から現代人の心身の健康について考える。
第5回	心身の健康度チェック	自己の身体的・精神的・社会的ストレス状況について主観的・客観的に把握する。
第6回	ストレス特性とストレス対処	自己のストレス特性を知り、ストレス対処のスキルについて学ぶ。
第7回	セルフマネジメント	パーソナリティや行動パターンとストレスの関係、セルフマネジメントについて学ぶ。

第8回	ストレスマネジメント実践編	日常生活で実践しやすいストレスマネジメントの方法について学ぶ。
第9回	メンタルヘルス、心の病	子ども、青少年、働く世代のメンタルヘルス、心の病の予防について学ぶ。
第10回	日本人の生活と健康課題	日本人の生活と健康課題、超高齢社会におけるウェルビーイングについて考える。
第11回	0次予防、健康のための環境づくり	0次予防、健康のための環境づくりの考え方、実践事例について学ぶ。
第12回	ライフサイクルと健康	ライフサイクル、各ライフステージにおける健康課題について理解を深める。
第13回	ライフスタイルと健康	ライフコース、ライフスタイルの多様化とワークライフバランスについて考える。
第14回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習時間は、関連する記事や文献を読む、学んだことを実践する等、各2時間を標準とする。
- ・レポート課題は、複数の文献を読み込み、授業で学んだ知識も含めて総合的に論じるための準備が必要である。

【テキスト（教科書）】

- ・毎回オリジナルプリントを使用する。

【参考書】

- ・適宜テーマに関連する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（ワークシート、リアクションペーパー）70%
- ・期末レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

- ・各種資料を用いるなどして具体的に把握できるようにする。
- ・ワークシートにより各自が考えながら取り組めるようにする。
- ・リアクションペーパーを活用し、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

With the 100-Year Life, a life-course has become increasingly dynamic and diversified. Regarding the quality of individual lives, not only physical health but also perspective of holistic health including "ikigai" and human dignity is becoming an important concept. Health Sciences for ways of living is based on the biopsychosocial model, which posits that biological, psychological and social well-being are interactive.

【Learning Objectives】

The program has the following objectives.

- 1.Students deepen their understanding of the field of Health Sciences of body, mind, and spirit.
- 2.Students learn basic theory and specific issues of biopsychosocial health.
- 3.Students put into practice for health promotion in their life and community.

【Learning activities outside of classroom】

- 1.Get information on current health issues from newspapers and news
- 2.Read books related to what you learned in class

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Normal points (worksheets, reaction paper) 70%
- ・ Term-end report 30%

HSS200LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

健康の科学 L B2017年度以降入学者

サブタイトル：

谷本 都栄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
健康はいきいきと生きていくための資源であり、自ら健康をコントロールし、改善していくことは重要なライフスキルである。本講義では、ヘルスプロモーションの視点から、栄養・運動・休養に関わる基礎的知識、健康的な生活習慣や環境づくりについて学び、各自の生活における意識の向上、具体的な実践に結びつけていくことを目指す。

【到達目標】
・栄養・運動・休養に関わる基礎的知識を身に付け、自己の生活習慣を見直す。
・健康的なライフスタイルを意識して、学んだことを日々の生活に活かす。
・個人や社会のウェルビーイングについて考え、行動する機会をつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
・セルフチェックや時事的な問題を取り上げ、具体的に考えられるようにする。
・毎回のワークシートやリアクションペーパーにより、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第2回	生活習慣・健康度チェック	チェックシートにより自己の生活習慣や健康度を確認する。
第3回	健康的なウエイトコントロール	適正体重やボディイメージを知り、健康的なウエイトコントロールについて学ぶ。
第4回	エネルギー必要量と摂取量	エネルギー必要量と摂取量を算出してエネルギー収支を確認する。
第5回	食生活のセルフチェック	食事バランスガイドにより食生活振り返り、改善点を意識する。
第6回	食と健康	スポーツ栄養、サプリメント、食の安全等のトピックから、食と健康について理解を深める。
第7回	食と環境	食にまつわる健康や地域の課題、環境問題について、具体的事例から考える。
第8回	運動・スポーツの意義と役割	現代社会における運動・スポーツの重要性について理解を深める。

第9回	運動・スポーツによるトレーニング効果	人間の身体の特徴、運動・スポーツによるトレーニング効果について学ぶ。
第10回	健康的な運動習慣	自己の適切な運動量と運動内容を知り、運動習慣の改善点を意識する。
第11回	生活習慣病の予防	メタボリックシンドローム、生活習慣病とその予防について学ぶ。
第12回	生体リズムと健康	生体リズムとそのしくみ、健康的な睡眠について理解を深める。
第13回	ウェルエイジング	加齢による心身の変化を知り、老いをどう生きるかについて考える。
第14回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習時間は、関連する記事や文献を読む、学んだことを実践する等、各2時間を標準とする。
・レポート課題は、複数の文献を読み込み、授業で学んだ知識も含めて総合的に論じるための準備が必要である。

【テキスト（教科書）】
・毎回オリジナルプリントを使用する。

【参考書】
・適宜テーマに関連する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（ワークシート、リアクションペーパー）70％
・期末レポート30％

【学生の意見等からの気づき】
・各種資料を用いるなどして具体的に把握できるようにする。
・ワークシートにより各自が考えながら取り組めるようにする。
・リアクションペーパーを活用し、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Health promotion is the process of enabling people to increase control over, and to improve, their health. It moves beyond a focus on individual behaviour towards a wide range of social and environmental interventions. (WHO) The aim of this course is to maintain a healthy body and mind as life skill improving a quality of life. Developing healthy habits are needed not only to keep your life long but enhance your happiness and vitality.
【Learning Objectives】
The program has the following objectives.

- 1.Students learn foundational knowledge and skills required for healthy lifestyle.
 - 2.Students put into practice for health promotion in their life.
- 【Learning activities outside of classroom】
- 1.Get information on current health issues from newspapers and news
 - 2.Read books related to what you learned in class
- 【Grading Criteria /Policy】
- ・ Normal points (worksheets, reaction paper) 70%
 - ・ Term-end report 30%

LIT300LA (文学 / Literature 300)

漢字・漢文学 A

2017年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・中国史の概要紹介
第2回	漢字のなりたち	・「六書」の紹介 ・漢字の起源と歴史 ・「字謎」の紹介
第3回	権力者と文字による予言	・予言の種類 ・歴史書に見える予言 ・「拆字」の紹介
第4回	文字が左右した運命①	・「志怪」と「伝奇」 ・文字が動かした寿命 ・読めない文字
第5回	文字が左右した運命②	・三つの予言 ・詩を用いた予言
第6回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・近代諸国での流行 ・中国の「扶鸞」信仰
第7回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・「扶鸞」の方法と来歴 ・「扶鸞」の流行と評価

第8回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・宋代知識人の体験 ・明代のオカルト趣味 ・近代中国と「扶鸞」信仰
第9回	恋愛作品と文字	・「詩経」と「楽府」 ・恋のうたと言葉遊び
第10回	知識人の頓智と奇想	・外交における機知 ・知識人の応酬
第11回	伝統的「姓名」観	・避諱の制 ・姓名が左右した運命
第12回	創作活動と文字①	・「推敲」 ・現実と表現の衝突
第13回	創作活動と文字②	・詩が招いた幸運と悲運 ・「詩識」の説
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

【Learning Objectives】

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

【Learning activities outside of classroom】

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

漢字・漢文学B

2017年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めている。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・「ゆめ」の多義性 ・中国の夢分類
第2回	古代中国の吉夢	・誕生の予言 ・優れた人材を教示 ・栄達の予言
第3回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第4回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第5回	知識人たちが得たお告げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第6回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第7回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え
第8回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生

第9回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み
第10回	夢と恋愛文学	・夢での逢瀬 ・恋愛成就の神 ・夫婦の別離と再会
第11回	夢の世界の冒険	・怪異との接触 ・儚い栄達 ・動物への変身
第12回	他人と共有された夢	・「二人同夢」 ・危機の通達 ・夢での邂逅 ・他人が見る夢
第13回	日本における夢	・日本文学における夢
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【Outline (in English)】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.

[Learning Objectives]

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

[Learning activities outside of classroom]

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

藤村 耕治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティヴ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今セメスターで書いた作品は、秋セメスターで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。
第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。

第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今セメスターにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今セメスターにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなりません。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50 %、授業内討議への積極的な参加 30 %、期末に課す課題（自分の作品のブラッシュアップ） 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline/Leaning Objectives

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

50%submission of the work, 30 % active participation in the discussion, 20%of the semester-end assignment.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

藤村 耕治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今 semester では、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えて臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。

第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35 %、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35 %、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品〔三作以上〕への批評文） 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline/Leaning Objectives

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Students also learn to edit their work books.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

35%submission of the work, 35%cooperation in participation in discussions and editing work, 30%of semester-end assignment.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

日本芸能論 A

2017年度以降入学者

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本で豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループ（3人まで）で、関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

【参考】これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。
「歌舞伎舞台の変遷」「香道について」「寄席の歴史」「日本における『第九』の受容と定着について」「マク・ロの解体ショー」「青森ねふた祭り 芸術を作る」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	雅楽について
第5回	伝統芸能概説(2)	伎楽について
第6回	伝統芸能概説(3)	能について
第7回	伝統芸能概説(4)	狂言について
第8回	受講生による発表・討論	グループAの発表
第9回	受講生による発表・討論	グループBの発表

第10回	受講生による発表・討論	グループCの発表
第11回	受講生による発表・討論	グループDの発表
第12回	受講生による発表・討論	グループEの発表
第13回	受講生による発表・討論	グループFの発表
第14回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容70%（①②③）またはレポート70%（①②④）※、平常点および討論への参加状況30%（③）という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

※春学期「日本芸能論A」のみ履修する人は必ず発表してください。発表しない場合、単位を履修することはできません。秋学期「日本芸能論B」も続けて履修し、そちらで発表する予定の人は、春学期「日本芸能論A」については、発表の代わりにレポートにすることができま

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に学習支援システムに提出されたコメントは、教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。

秋学期「日本芸能論B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時にを行いますので、秋学期の受講希望者も、春学期「日本芸能論A」の学習支援システム上で行う連絡を必ず確認してください。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

日本芸能論 B

2017年度以降入学者

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

【参考】これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。「新能」「文楽の歴史と現在」「茶道の歴史」「落語の演技」「石見神楽の現在に至るまでの変化」「アイヌ文化と芸能の歴史」「新たな芸能の形としての2.5次元ミュージカル」「書道パフォーマンス～表現形態の変遷～」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	人形浄瑠璃の成立について
第5回	伝統芸能概説(2)	人形浄瑠璃の様相について
第6回	伝統芸能概説(3)	歌舞伎の成立について
第7回	伝統芸能概説(4)	歌舞伎の様相について
第8回	受講生による発表・討論	グループAの発表

第9回 受講生による発表・グループBの発表
討論

第10回 受講生による発表・グループCの発表
討論

第11回 受講生による発表・グループDの発表
討論

第12回 受講生による発表・グループEの発表
討論

第13回 受講生による発表・グループFの発表
討論

第14回 まとめ 秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容70%（①②③）またはレポート70%（①②④）※、平常点および討論への参加状況30%（③）という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

※秋学期「日本芸能論B」のみ履修する人は必ず発表してください。発表しない場合、単位を履修することはできません。春学期「日本芸能論A」から続けて履修し、そちらですでに発表した人は、秋学期「日本芸能論B」については、発表の代わりにレポートにすることができます。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に、学習支援システムに提出されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。

秋学期「日本芸能論B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時にを行いますので、当科目の受講を希望する人は、「日本芸能論A」の学習支援システム上で行う連絡を確認してください。

なお、秋学期「日本芸能論B」のみ履修することもできますが、理解を深めるために春学期科目「日本芸能論A」の受講を強くおすすめします。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

身体表現論 A

2017年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋舞踊の文化史について講義する。舞踊は最も古い芸術形式であるが、それがどのように生まれ、発展してきたかについて概観する。また、時代ごとに異なる舞踊のスタイルを紹介し、それがどのように文化や社会を反映しているのかについても検討する。舞踊のテクニクについての講義ではないので、注意すること。

【到達目標】

- ・西洋舞踊の文化史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・舞踊作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～先史時代の舞踊	授業に必要な概念・用語の説明～舞踊の発生と種類
2	古代文明の舞踊	古代エジプト、古代ギリシア、古代ローマの舞踊
3	中世～ルネサンスの舞踊	中世の社会階層、コメディ・デラルテ、宗教・祭祀と舞踊、死の舞踏、世俗の舞踊
4	ルネサンスの舞踊～宮廷舞踊（16～17世紀）	宮廷舞踊、宮廷バレエの種類（バレエ・コミック、他）、仮面劇、仮面舞踏会
5	宮廷舞踊から劇場へ（18～19世紀）	カマルゴとサレ、ノヴェールのバレエ・ダクシオン、メヌエット、オペラとバレエ
6	ロマンティック・バレエ（19世紀）	タリオニ、グリジ、エルスラー、ワルツの登場、『ラ・シルフィード』と『ジゼル』
7	クラシック・バレエ（19世紀）	『コッペリア』、プティパとイワノフ、『眠れる森の美女』、『くるみ割り人形』
8	クラシック・バレエからバレエ・リュスへ（19～20世紀）	『白鳥の湖』、フォーキン、ディアギレフのバレエ・リュス
9	19世紀アメリカの舞台芸術	ミンストレル・ショー、フリーク・ショー、ヴァラエティ・ショー、ヴォードヴィル・ショー
10	アメリカのダンスの誕生	社交ダンス、ジャズ・ダンス

11	アメリカのダンスの成熟	モダン・ダンス～アメリカン・バレエ～ディスコ、ストリート・ダンス
12	ポストモダン・ダンス（1）	モーリス・ベジャール、ピナ・バウシュ
13	ポストモダン・ダンス（2）	ウィリアム・フォーサイス、ローザス
14	講義のまとめ	講義の補足とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

Gayle Kassing. History of Dance. Second Edition. Human Kinetics. Kindle.

クルト・ザックス『世界舞踊史』

邦正美『舞踊の文化史』

【成績評価の方法と基準】

平常点50%：講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

期末レポート50%：舞踊の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western dance culture. Dance is the most ancient form of art. This course will survey the origin and development of dance as an art, and present dance styles of various ages. The class will focus on how these dance styles reflect culture and society of a specific age. Be sure that this course will not teach the technique of dance, but the culture of dance.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western dance culture, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of dance critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

身体表現論 B

2017年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、演劇はその時代の文化と社会を反映している。各時代の文化や社会が、身体表現にどのように影響を及ぼしているかを検討する。

【到達目標】

- ・西洋演劇の歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇（1）	原始社会から古代文明における演劇の発生、アイスキュロス、ソフォクレスについて
3	古代ギリシア演劇（2）	劇場の構造、ソフォクレス（続）、エウリピデスについて
4	中世演劇～エリザベス時代演劇（1）	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の演劇への影響から、エリザベス時代演劇への歴史的展開について
5	エリザベス時代演劇（2）	シェイクスピアの喜劇について
6	エリザベス時代演劇（3）	シェイクスピアの悲劇について
7	フランス古典主義演劇	コルネイユとル・シッド論争、モリエールについて
8	風俗喜劇、オペレッタ	イギリスの風俗喜劇、オッフェンバックのオペレッタについて
9	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
10	近代演劇（1）	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンダベリ、チェーホフについて
11	近代演劇（2）	ヨーロッパ近代演劇、特に、バーナード・ショー、オスカー・ワイルドについて
12	現代演劇（1）	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて

13 現代演劇（2） アメリカのリアリズム演劇について

14 講義のまとめ 秋学期の講義のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』（ちくま文庫）
シェイクスピア（福田恆存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
日本演劇学会『ベスト・プレイヤー 西洋古典戯曲』（相田書房）
岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
期末レポート 50%: 演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body which is anchored in everyday life and reveals the possibility of a new movement of the body. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. Theatre is always a reflection of culture and society. The class will focus on examining how culture and society of a particular age have influenced the movement of the human body.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western drama, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of theatre critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

美術論 A

稲垣 立男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2024年度の美術論Aでは、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。

特に

・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論

・各時代のアーティストの実践（アイデアや制作論）

について段階的に幅広い視点で学んでいきます。

以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）

・古代美術、中世美術、近世美術

・近代美術

・現代美術

また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。

【到達目標】

西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、具体的な作品や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの実践的なチャレンジに取り組みます。美術の理論と実践の密接な結びつきを理解し、創造的なアプローチを身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

資料

授業前にGoogle sitesで資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。

課題

受講後Google Formsで課題とレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

質問・相談

一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4/9	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方

4/16

古代美術
原始美術/先史美術、メソポタミア美術、エジプト美術、エーゲ美術、ギリシャ美術、ローマ美術

4/23

中世美術
初期キリスト美術、ビザンティン美術、初期中世美術、ロマネスク美術、ゴシック美術

5/7

近世美術
ルネサンス美術、バロック美術、ロココ美術

5/14

ワークショップ1単元の復習・古代美術、中世美術、近世美術
ワークショップ・伝える方法・絵から文字へ

文字の生まれる以前=先史時代の美術や、西洋美術史の出発点となるメソポタミアやエジプトなどの最古の文明から生まれた美術など古代美術について学びます。原始・先史美術からメソポタミア、エジプト、ギリシア、ローマまでの古代美術について扱います。かなり広範囲になります。歴史を学ぶことはその広がりを考えると果てがありませんが、まずは大きな流れを捕まえておくことが大切だと思います。

ルネサンス以前の、多くの民族や地域とキリスト教美術が結びついた中世美術について学びます。ローマ時代からルネサンス以前までのキリスト教と関連した美術の流れについて学びます。この後出てくるルネサンスの美術と比較して、シンプルでわかりやすい装飾的な図像という印象です。悪くいうと形骸化しているとも言えますが、キリスト教の拡大のために必要であったと想像できます。

それぞれの美術が展開した場所と時期は以下のようになっています。

初期キリスト教美術（西ヨーロッパ）（2～7世紀）

ビザンティン美術（東ヨーロッパ）（4～15世紀）

初期中世美術（ドイツ、フランス、アイスランド）（5～10世紀頃）

ロマネスク美術（西ヨーロッパ）（11 12世紀）

ゴシック美術（西ヨーロッパ）（12 15世紀）

ギリシア美術やローマ美術を見直し人間の尊厳が再認識されたルネサンス美術、ポルトガル語で「歪んだ真珠」を意味するバロック美術、フランスで発展した装飾性の強いロココ美術について学びます。

これまで学んだ時代の文化を違うベクトルから見てください。この時代は文字の発達した時代でもあり、情報を残し、伝えるために絵を描くことの発見、それらが発展（もしくは変化）して現在の文字の発明につながっていきました。ギリシア時代には現在使われているアルファベットとほとんど同じものが使われていました。

絵画や文字が発明されたことで、人間は様々な過去の事柄を記録することができるようになり、これらはコミュニケーションの手段の一つとなって、メディアが登場します。芸術の分野でも近代になってコンセプチュアル・アートのような概念的な表現が多くなり、文字は中心的な存在となります。

5/21	近代美術1 新古典主義 ロマン主義 写実主義 バルビゾン派 ラファエル前派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進화가、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典（ルネサンス）への回帰としての新古典主義、自由な感性や多様な美の表現を尊重したロマン主義、ありのままの日常を客観的に描こうとする写実主義、ありのままの自然を描こうとするバルビゾン派、芸術を通じて道徳や真実を探究するラファエル前派について学びます。	6/11	近代美術3 野獣派、キュビズム、表現主義、ナビ派、世紀末芸術、象徴主義、素朴派、アール・ヌーヴォー	ポスト印象派以降の絵画の新しい試みに関する講義です。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴッガン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。後期印象派という言葉は1906年に美術批評家ロジャー・フライが最初に使い、また1910年にロンドンのグラフィトン・ギャラリーで彼は「マネと後期印象派の作家たち」という展覧会を企画し、そのタイトルで正式にこの言葉をいしました。ゴッガンやゴッホの大胆な色彩や画家の内面性を追求する姿勢は印象派にはなかったもので、またセザンヌは形態の解釈にエネルギーを注ぎました。これらの発想は、フランスを中心としたフォービズムやキュビズム、ドイツを中心とした表現主義の芸術運動に大きな影響を与えました。
5/28	近代美術2 印象派、新印象派、ポスト印象派 ナビ派 世紀末芸術 象徴主義（ロシア象徴主義） 素朴派 アーツアンドクラフツ運動 アール・ヌーヴォー 分離派	写実主義の考えを引き継ぎ、現実をそのままに鮮やかで明るい色彩の印象派、印象派の色彩理論をさらに化学的に追求した新印象派、印象派を批判的に受け継ぎ、乗り越えようとするポスト印象派について学びます。19世紀のフランスを中心としたヨーロッパでは、印象派を軸として次々と新しい芸術運動が現れてきます。アーツ・アンド・クラフツ運動やアール・ヌーボーなど、生活と結びついた芸術運動も生まれてきました。今回の授業ではそうした様々な動向について扱いますが、見るものをどのように解釈するのか、心の中で感じ取ったものをどのように表現するのかといった写真が発明された以降の課題（そっくりそのまま写しと売るのではなく、絵画独自の特徴を追求する）について、様々な取り組みや実験がスタートします。中世、近世、近代美術の復習とワークショップをします。ワークショップでは、絵画を違う観点から考えてみましょう。絵画の目的は現実の世界を平たい神やキャンバスに定着させることにありますが、歴史の中で様々なテクニックが生まれました。色をだんだん薄くしてみる、前後のものを重ねてみる、近いものを下、遠いものを上の方に描いてみるなどで、奥行きは表現できます。私たちの学んだ中世、近世から近代美術にかけて最も進化したのは線遠近法と呼ばれる方法です。今日は遠近法について理解を深めましょう。	6/18	近代美術4 未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、デ・スティル、パウハウス、ロシア構成主義	1914年から起きた第一次世界大戦は、ドイツ・オーストリア・イタリアが中心の同盟国とロシア・フランス・イギリスの連合国との戦いでした。また、1917年のロシア革命を発端としてソビエト連邦ができました。この講義では、ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリスムについて学びます。また、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような作品が登場します。
6/4	ワークショップ2 単元の復習・近代美術1、近代美術2 ワークショップ・デッサンの手法		6/25	ワークショップ3 ワークショップ・単元の復習 近代美術3、近代美術4	今日は「表現の生まれる場所」というテーマで表現の原理原則のような出来事を体験するワークショップをしましょう。特に以下のキーワードについて考えていきます。 ・テキスト ・音 ・身体
			7/2	現代美術1 アンフォルメル 抽象表現主義ヌーボー・レアリズム、アルテ・ボーヴェラ	第二次世界大戦前後の芸術運動についてお話をします。大戦を挟んでアートの現場がヨーロッパからアメリカに移行します。第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義などアメリカを中心として登場した芸術運動、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ボーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。

7/9	現代美術2 ネオダダ、ポップ アート、ミニマル アート、コンセプ チュアルアート 新 表現主義	1960年代になるとアフリカ系ア メリカ人公民権運動、ベトナム 反戦運動、女性解放運動、LSD を使った平和を訴えるフラワー パワージェネレーションなどの 市民運動が盛んになります。こ の時代には絵画や彫刻ではない 表現が多く登場します。概念的 なアートや、ハプニング、パ フォーマンスアート、社会関与 などの動向が多く登場します。 1970年代の嵐のようなカウン ターカルチャーの時代が過ぎ去 り1980年代に入り登場したアメ リカのコマーシャル・ギャラ リーから生まれたムーブメント である新表現主義についても学 びます。
7/16	現代美術3 YBA、リレーショナ ル・アート、ソー シャリー・エンゲ ージド・アート ワークショップ4単 元の復習・現代美術 1、現代美術2 ワークショップ「テ キストとアート」	1989年にベルリンの壁が崩壊し 東西ドイツの境界線がなくなり、 さらに東ヨーロッパ全体が消滅、 冷戦構造が終焉を迎えます。そ して、東西対立の時代からアフ リカやアジア、南米などを含ん だ多文化の時代に移行します。 アートの世界でも、アメリカや ヨーロッパ中心からグローバル な考え方が一般的になります。 アメリカのコマーシャルリズムを 一つのきっかけとして生まれた 新表現主義の時代を経て、ミレ ニウム前夜に起こったイギリス およびフランスを中心とした ヨーロッパで発生した二つの ムーブメント（Young British Artist、リレーショナルアート） についての理解を深めます。21 世紀に入り、ソーシャリー・エ ンゲージド・アートやソーシャ ル・プラクティスという社会に 関与する芸術運動が盛んになっ ています。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google siteで配信する授業コンテンツには、学習を深めるための
ウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるも
のについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近く
には美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染
状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会な
どを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google siteを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考
書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読す
ることを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料につ
いてはその都度紹介します。

【参考書】

参考書

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論
新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』
美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、201
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2014年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポート
の合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点
比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成
した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実
践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的
に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたい
と思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履
修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よ
く確認しておいてください。

【その他の重要事項】

初回授業はオンラインで実施します。

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンツボラリーアーティスト。フィールドワークによ
る作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、
これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

In this course, we will learn the basic contents of modern
contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical
perspective.

* Art history and art theory which is the basis for
understanding art

* Work production including more practical content
Planning of art exhibitions・Art criticism.

We will learn about these in a step-by-step manner.

Learning Objectives

Some keywords are taken up about the thoughts and basic
ideas about art, and the background viewpoints and ideas are
considered while considering concrete examples such as works
and discourses related to the works. At the workshop, you will
challenge applied practices such as work production, exhibition
planning, and art criticism based on what you learned in each
unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website
links to deepen your learning, so we recommend browsing
the ones that interest you. There are also many museums
and galleries near the university. If possible, depending on
the infection status of the new coronavirus, please watch
exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2
hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities,
assignments and reports. We emphasize the experimentality
and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have
achieved 60% or more of the achievement target of this class
will be accepted.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)		10/1	原始美術 縄文・弥生・古墳時代	先史時代の縄文・弥生・古墳時代の文化・美術について学びます。縄文時代は約1万年前から約3千年前までの時代であり、人々は主に狩猟採集生活を営み、豊かな自然環境と共存しながら、土器や土偶などの芸術作品を生み出しました。紀元前3世紀から紀元3世紀ごろまでの弥生時代には、農耕や稲作が発展し、集落が形成されました。弥生時代の終わりから紀元7世紀頃までの古墳時代には、各地に巨大な古墳が築かれ、そこからは豪華な副葬品や装飾品が発見されています。
美術論B		2017年度以降入学者		
稲垣 立男				
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水3/Wed.3 単位数：2単位				
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉				
【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】 2025年度の美術論Bでは日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。 ・美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論 ・より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評 これらについて段階的に幅広く学んでいきます。 以下の単元で講義を進めます。(詳しくは授業計画を参照して下さい。) ・原始・古代美術 ・中世美術、近世美術 ・近代美術 ・現代美術 さらに、各単元ごとにワークショップを実施し、実践的な美術活動を通じて学びを深めていきます。				
【到達目標】 日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。 ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1				
【授業の進め方と方法】 基本的に対面授業を予定していますが、状況によりオンラインで行う場合もあります。 対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。 資料 授業前にGoogle sitesで資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。 課題 受講後、Google Formsで課題と簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。 質問・相談 一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。				
【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】 あり /Yes				
【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】 あり /Yes				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
9/24	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方		
			10/8	古代美術 飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代
			10/15	ワークショップ (1) 単元の復習・原始美術、古代美術 プレゼンテーションとディスカッション
			10/22	中世美術 鎌倉・室町時代
			10/29	近世美術 桃山・江戸時代
			11/5	ワークショップ (2) 単元の復習・中世美術、近世美術 プレゼンテーションとディスカッション

11/12	近代美術のはじまり 明治時代・西洋画と 日本画、大正デモク ラシー、戦争画	明治維新後の西欧化、近代化制 作により西洋画が盛んとなった 明治時代、その一方で新日本画 運動も起こり大きく揺れ動きま した。大正時代に入ると印象派 以降のアバンギャルドなどの新 傾向が紹介されました。第二次 世界大戦の最中にはプロパガン ダのための戦争画が描かれま す。
11/19	戦後美術 アンデパンダン、ネ オダダ、ハイレッド センター、実験工房	第二次世界大戦後の1950年代に は実験工房、具体美術協会が結 成され、従来の美術の枠を超え た実験的なアプローチや表現が 試みられました。続いて1960年 代にはアンデパンダン、ネオダ ダ、ハイレッドセンターなど新 しい芸術運動が始まります。こ れらの芸術運動は、戦後の日本 の芸術に新たな風を吹き込み、 アーティストの多様な表現を促 進しました。
11/26	ワークショップ (3) 単元の復習・近代美 術のはじまり、戦後 美術 プレゼンテーション とディスカッション	近代美術のはじまり、戦後美術 に関する単元の復習と、教室内 のひととひとの関係性に関する ワークショップを行います。
12/3	1960-1970年代 もの派ともの派以降、 新しい表現	1960年代から1970年代の美術 に大きな影響力を持ったもの派 ともの派以降の美術やアーティ ストについて学びます。
12/10	新しい表現 パフォーマンス、ビ デオアート、インス タレーション	1980年代には若いアーティスト たちは、前衛的な動きを引き継 ぎながら、新たな表現手法に挑 戦しました。特にビデオアート、 インスタレーション・パフォー マンスなどが注目されました。
12/17	1990-2020年代 1990年代、ミレニア ム以降、ゼロ年代、 2010年以降	1990年代からミレニアム、ゼロ 年代から現在に至るまでの日本 の美術について学びます。
1/14	ワークショップ (4) 単元の復習・ 1960-1980年代、 1990-2020年代 プレゼンテーション とディスカッション	1960-1980年代、1990-2020年 代に関する単元の復習と、授業 全体のまとめのワークショプを 行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるための
ウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるもの
については閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには
美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染
状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会な
どを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参
考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読
することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料に
ついてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論
新社、2019年

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』
美術出版社、2014年

『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年

『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポート
の合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点
比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成
した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実
践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的
に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたい
と思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履
修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく
確認しておいてください。

【その他の重要事項】

初回授業はオンラインで実施します。

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンツボラリーアーティスト。フィールドワークによ
る作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、
これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

We will learn the essential contents of Japanese art history and
modern art in a bird's-eye view and practical way.

1. Art history and art theory which is the basis for
understanding art
2. Work production including more practical content

Planning of art exhibitions・Art criticism

I will learn a wide range of them step by step.

Learning Objectives

We will take up some keywords about Japanese art's ideas
and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind
them, based on specific examples such as works and discourses
related to the works. At the workshop, we will challenge
applied practices such as work production, exhibition planning,
and art criticism based on what we learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website
links to deepen your learning, so we recommend browsing
the ones that interest you. There are also many museums
and galleries near the university. If possible, depending on
the infection status of the new coronavirus, please watch
exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2
hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities,
assignments and reports. We emphasize the experimentality
and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have
achieved 60%or more of the achievement target of this class
will be accepted.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

芸術と人間 A

2017年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (50)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、乗り物や建物などの映画的表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につける。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、hoppiiを通して感想を書いてもらったりすることになる。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行う。初回に選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、これに出席する必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	-ジョン・フォード -宮崎駿
3	地を走る	-チャールズ・チャップリン -バスター・キートン
4	地で踊る	-フレッド・アステア -ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	-S・エイゼンシュテイン -アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	-キング・ヴィダー -ニコラス・レイ
7	馬に乗る	-ジョン・フォード -黒沢明
8	列車に乗る2	-アルフレッド・ヒッチコック -黒沢明
9	自動車に乗る	-アルフレッド・ヒッチコック -濱口竜介
10	ドアを開け閉めする	-エルンスト・ルビッチ -ジャック・タチ
11	壁の向うを聴く	-フリッツ・ラング -ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	-アルフレッド・ヒッチコック -宮崎駿
13	鏡を見る	-オーソン・ウェルズ -吉田喜重
14	まとめ	講義のまとめや補足 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、映画館やDVDでの作品鑑賞等。本授業の復習時間は1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点50%+レポート50%（ただしレポートを提出しなければE評価とする）。

平常点は単に出席したことではなく、毎回のコメントシートをコメントする。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回に出席すること。50名以上受講希望者がいる場合、初回（対面式なので注意）に選抜試験を実践し、受講資格を得た学生が受講できる。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価になる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

芸術と人間 B

2017年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (50)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域です。本講義は「芸術と人間A」の発展形にあたり、より大きな空間的スケールで映画表現を学びます。主に古典的作品を通し、都市や自然の表現が問題となります。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、鑑賞力を深めることができます。表現技法や映画史の基本知識も身につきます、自分の観る映画のジャンル・年代・地域を上げことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させます。鑑賞力を鍛えるために、毎回、hoppiiを通して感想を書いてもらいます毎回提出してもらう。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行います。初回（対面式）に、「芸術と人間A」を受講していない学生に対してのみ選抜テスト（上映するシーンの分析）を行いますので注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと選抜	-授業の概要の説明 -「芸術と人間A」を受講していない学生に対する選抜試験
2	高層都市	-キング・ヴィダー -フリッツ・ラング
3	迷宮都市	-ジャック・タチ -ホセ・ルイス・ゲリン
4	記憶都市	-アルフレッド・ヒッチコック -黒沢清
5	日本家屋	-成瀬巳喜男 -小津安二郎
6	水と船	-溝口健二 -ジャン・ヴィゴ
7	雨	-山中貞雄 -宮崎駿
8	水の宇宙	-アンドレイ・タルコフスキー -ユーリー・ノルシュテイン
9	風	-ジャン・エプスタン -グル・ダッド
10	動物 1	-ハワード・ホークス -濱口竜介
11	動物 2	-本多猪四郎 -円谷英二
12	外国人監督による東京 1	-クリス・マルケル -ヴィム・ヴェンダース

13	外国人監督による東京 2	-ジャン＝ピエール・リモザン -ホウ・シャオシェン
14	まとめ	補遺 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、宿題、映画館やDVDでの映画観賞等。本授業の復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫
その他、随時提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価）。平常点は単に出席したことではなく、毎回のコメントシートをカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却します。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

「芸術と人間A」（春学期）未受講者は選抜試験をするので必ず初回に出席すること。毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

仏教思想論 A

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。）

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。

・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(4～5回実施予定)。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第2回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第3回	仏教の成立	仏陀の生涯
第4回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第5回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察
第6回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 四つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめての説法』

第7回 仏教の基本思想（3） 仏陀のさとり得た真理とその特徴

『梵天勧請』
『縁』経、他
比較思想的考察第8回 仏教の基本思想（4） 「諸法無我」
人無我と法無我
ミリンダ王経第9回 仏教教団と教団運営 律蔵文献
戒・波羅提木叉第10回 初期仏典講読（1） 『ダンマパダ』
第11回 初期仏典講読（2） 『スッタニパータ』
「慈しみ」他第12回 初期仏典講読（3） 『スッタニパータ』
「田を耕すパーラドヴァージャ」
他第13回 初期仏典講読（4） 『スッタニパータ』
真理についての争い第14回 授業内試験・まとめ 筆記試験
まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK出版新書、2013年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績(60%)と授業内容確認小テストの成績(30%)と平常点(10%)により評価します。

学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠でもって評価できているか(恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

仏陀自身のことば・思想を、先入見を持たずに、正しく真直ぐに捉え、深く理解することに努めてください。解説は丁寧にを行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

仏教思想の本質、特に仏教の人生観・世界観の理解のためには、春学期の「仏教思想論A」だけでは不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

仏教思想論 B

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。

(本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論A」からの履修を強く勧めます。)

【到達目標】

- ・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
- ・仏教思想はどのように多様化したのか、その理由を理解する。
- ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
- ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
 単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(3～4回実施予定)。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について インド仏教思想展開史概説
第2回	部派仏教の成立	仏教思想の多様性・多様化 諸部派成立から大乘仏教へ
第3回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第4回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第5回	仏教の世界観	『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第6回	大乘仏教（1）	大乘仏教の教理的特徴
第7回	大乘仏教（2）	大乘諸経典 『般若経』 『阿闍世王経』 『維摩経』
第8回	大乘仏教（3）	ナーガールジュナ 思想上の位置づけ 二真理説、空、中道

第9回	大乘仏教（4）	縁起の思想（1） 外縁起・内縁起 『入楞伽経』 『稲苢経』
第10回	大乘仏教（5）	縁起の思想（2） 縁起二種観察法 『稲苢経』・『稲苢経註』
第11回	大乘仏教（6）	大乘仏教の人生観（1） 到達目標・理想的境地・中道
第12回	大乘仏教（7）	大乘仏教の人生観（2） 『維摩経』
第13回	大乘仏教（8）	大乘仏教の人生観（3） 仏教論理学派と後期中観思想： 仏陀・経典の権威について
第14回	まとめ・授業内試験	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin 選書、2013年
 桜部健・上山春平著『仏教の思想2 存在の分析＜アビダルマ＞』、角川ソフィア文庫、1996年
 計良龍成著『中道を生きる：中観』、春秋社、2023年
 その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60％）と授業内容確認小テストの成績（30％）と平常点（10％）により評価します。

学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

東アジアには殆ど伝わらなかった後期中観思想を含め、インド本来の大乘仏教思想を初めて学ぶことで、その人生観等の思想に新鮮な驚きを感じる学生が多いようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、わかりやすい丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

授業内容の深い理解のために、春学期の「仏教思想論A」から履修することを強く推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Indian Hinayana (Shrāvākayāna) Buddhism and Mahayana (Bodhisattvayāna) Buddhism.

The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. Sarvāstivādin's interpretation of impermanence, i.e., momentariness of conditioned dharmas.
2. Later Madhyamaka philosophy consisting of the ideas of dependent origination, emptiness, middle way and non-abiding nirvana.
3. Dharmakīrti's and later Mādhyamika position on scriptural authority.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

HIS300LA（史学/History 300）

中国の民族と文化A

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していく、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化B」は春学期の学習を前提に授業を進めていくので、秋学期の履修を考えている方は必ず春学期も履修してください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎(1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎(2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎(3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎(4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎(5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史(1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史(2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史(3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史(4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史(5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史(6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史(7)	『三国志』の描く蜀
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学/History 300）

中国の民族と文化B

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較長めの文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けてください。
あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢民族の思想(1)	『論語』と儒家
第2回	漢民族の思想(2)	『論語』と政治
第3回	漢民族の思想(3)	『孟子』と国家
第4回	漢民族の思想(4)	『孟子』と性善説
第5回	漢民族の思想(5)	『荀子』と性悪説
第6回	漢民族の思想(6)	『荀子』と学問
第7回	漢民族の思想(7)	『韓非子』と法家
第8回	漢民族の思想(8)	『韓非子』と秦
第9回	儒家思想と政治の展開(1)	唐の太宗と『貞観政要』
第10回	儒家思想と政治の展開(2)	王安石と宋学
第11回	儒家思想と民族・学問(1)	朱子学と歴史学
第12回	儒家思想と民族・学問(2)	顧炎武の人生と明清交替
第13回	儒家思想と民族・学問(3)	顧炎武の学問と国家観
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験100%

試験は漢文の読解力のみで評価します。

なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とする
と全くできないと思いますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学/History 300）

古代日本・中国の法と社会 A

2017年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舍利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

岡野浩二『日本史特講（日本仏教史）』（法政大学通信教育部、2023年）
末本文美士編『新アジア仏教史 11日本1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010年）

佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）

仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年）

藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）

礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50%、毎回の出席確認の小テスト50%をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの2段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1)この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2)疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Buddhism temples.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: How temples in Japanese ancient was related to politics, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA（史学/History 300）

古代日本・中国の法と社会 B

2017年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代の日本は、中国から多くの文明・文物を移入した。その重要な役割を担ったのが入唐僧である。ここでは9世紀の円珍の関係史料を主な素材として、入唐僧の実情を探る。その前提として7・8世紀の入唐僧について概観する。9世紀には、円仁が『入唐求法巡礼行記』、円珍が『行歴抄』という旅行記を残しており、円珍関係の古文書も園城寺に現存する。それらの記事から、日本・唐の宗教・政治・社会を比較研究する。

【到達目標】

円珍の旅行記『行歴抄』、円珍の伝記『天台宗延暦寺座主円珍伝』、円珍関係の古文書『園城寺文書』の主要な記事を読解する。それらを素材として、日本・唐の宗教・政治・社会の相違点や特質を把握する。そして、その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する
2	道昭・玄昉・鑑真	7・8世紀の入唐交流を概観する
3	最澄・空海・円仁	9世紀の入唐僧を概観する
4	円珍の入唐と身分証	僧侶・俗人の身分証について日唐を比較する
5	円珍の通行許可証	唐の交通路と許可証を考察する
6	円珍がみた天台山	会昌の廃仏とその影響を概観する
7	円珍と円載	入唐僧どうしの交流と確執を読み取る
8	円珍がみた長安・洛陽	唐の寺院・施設・人物を概観する
9	円珍がみた唐の文物	仏教行事や風俗を日唐で比較する
10	円珍の帰国	仏典の保管、天皇・貴族との交流を概観する
11	後続の入唐僧	宗叡・高丘親王らの入唐と円珍との関係を探る
12	円珍と唐の僧侶・商人	帰国後の円珍と天台山・長安の僧侶や貿易商との交流を概観する
13	日本と唐の関係・比較	入唐僧の活動から日本と唐の関係を考察する
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

佐伯有清『円珍』（吉川弘文館、1990年）
 佐伯有清『智証大師伝の研究』（吉川弘文館、1989年）
 小野勝年『入唐求法行歴の研究』上下（法蔵館、1982・83年）
 園城寺編『園城寺文書 第一巻』（講談社、1998年）
 佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
 道端良秀『中国仏教史全集 第一巻 中国仏教通史』（書苑、1985年）
 鎌田茂雄『中国仏教史 第三巻 南北朝の仏教（上）』（東京大学出版会、1984年）
 鎌田茂雄『中国仏教史 第五巻 隋唐の仏教（上）』（東京大学出版会、1994年）
 山崎宏『隋唐仏教史の研究』（法蔵館、1967年）
 藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
 礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、19865年）

【成績評価の方法と基準】

①最終回の試験（50％）、②途中で実施する確認試験（30％）、③予習事項の紙面での提出（20％）。以上の3者を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1)この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2)疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。(3)①探究心や向上心、②漢文読解の能力、③日本史・東洋史の基礎知識、④文章作成の能力。以上の4者が必要である。授業に出席するだけでなく、各自が積極的に取り組まなければならない。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Enchin's historical materials .

(Learning Objectives)

By the end of course,students should be to understand the followings: Through the travelogues written by monks who visited China from Japan, what is the religious, political, and social differences between ancient Japan and China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA（史学/History 300）

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A 2017年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今も多くの米軍基地を抱える沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策や中国・朝鮮半島との国際関係、太平洋の島々との関わり、辺野古の新基地建設に反対する民意情勢の過程などを学びます。沖縄は太平洋戦争で、県民の4人に1人が犠牲になる最も過酷な被害を受け、1972年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれました。日本政府は米軍基地の縮小に取り組むことを約束しましたが、米国のアジア戦略や米中関係が変化の中で基地が沖縄に集中する状況は変わらず、台湾有事への備えという名目で自衛隊の配備も進んでいます。沖縄について学ぶことは、日本の近代史やアジアの国々との国際関係を理解する上でも役立つはずです。

【到達目標】

- ・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、太平洋戦争後の米国施政下から現在に至るまでの歴史的経緯を知る。
- ・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程を理解する。
- ・沖縄戦の実態や戦後の日米関係の中で沖縄が果たした役割、日本政府の政治的な思惑に翻弄された状況を理解する。
- ・沖縄の歴史や現状を通して、中国や朝鮮半島との国際関係、米国や日本のアジア戦略への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室でリアルタイムに受講する形式を基本とします。市ケ谷キャンパス以外の学生の履修や、部活・就活による欠席者らに配慮し、「Zoom」で撮影した授業内容の映像を可能な限り後日配信します。毎回の授業後、感想や質問をリアクションペーパーで提出してもらい、次の授業に活用します。リアルタイムで受講できなかった学生がリアクションペーパーを提出した場合は、出席扱いとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説や授業全体の流れを説明。沖縄の政治、経済、基地の現状について
2	グループディスカッション	沖縄について何を知っているのか、何を学びたいのか
3	沖縄の米軍基地を巡る現状	戦後の米国施政下や本土復帰後の米軍基地をめぐる状況の変化
4	新たな基地建設が進む辺野古の現状と歴史（1）	ドキュメンタリー動画などを参考に、辺野古の歴史を学ぶ
5	辺野古の現状と歴史（2）	現在の基地建設の状況。辺野古の民意の形成過程、政府の対応に変化
6	1995年の出来事	少女暴行事件を契機に、普天間返還に至る政治の流れと日米政府の思惑

7	沖縄県政の流れ、県知事の戦略と決断	太田知事の代理署名拒否、稲嶺知事の15年使用期限の軍民共用構想など。沖縄復帰後の政治と基地の関係
8	オール沖縄の台頭と自民党政権の巻き返し	元自民党の翁長知事誕生とオール沖縄の登場。現在に至る日本政府との対立構造
9	沖縄戦の実態	県民の4人に1人が命を落とした戦争被害の実態。本土決戦の捨て石とされた背景
10	戦後から日本復帰までの沖縄	米国施政下の日本と沖縄。沖縄への基地集中と日米安保、日本への復帰運動
11	米国のアジア戦略の変化	冷戦から現代に至る時代ごとの米軍の戦略変化と日本の思惑
12	朝鮮半島の戦後史（1）	韓国や北朝鮮の国の成り立ち。日本や米国、中国との関係
13	朝鮮半島の戦後史（2）	北朝鮮とはどのような国か。現地の映像を参考にして考察。
14	総括	全体のとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・『いま沖縄をどう語るか〜ジャーナリズムの現場から』 高文研、2024年

【参考書】

・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年
・『観光コースでない沖縄・第5版』 高文研、2023年

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、授業への参加度（50%）
期末レポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答や学生同士の議論など、受講生が自主的に参加ができる授業環境をつくるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信の社会部系記者として約30年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、新聞記者ならではの視点から、日本の政治や国際情勢を巡る日々のニュースの見方なども示したいと考えています。

2014年から16年まで、「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、今もメディア業界に就職を希望する学生への支援活動に取り組んでいます。共同通信社に勤務する一方で、日本と韓国でジャーナリストを目指す学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に2回）や、出版社の「週刊金曜日」と連携して学生がジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）なども主宰しています。

【その他の注意事項】

- ①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。
- ②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。
- ③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史B」の前提となるため、Bを受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through the current situation and history of Okinawa, which still hosts many U.S. military bases, students will learn about Japan's security policy, international relations with China and the Korean Peninsula, relations with the Pacific islands, and the process of forming public opinion against the construction of a new base in Henoko. Okinawa suffered the most severe damage during the Pacific War, with one in four prefecture residents killed, and was under U.S. administration until it was returned to Japan in 1972. The Japanese government has promised to work on reducing U.S. military bases, but the situation of bases concentrated in Okinawa remains unchanged despite changes in the U.S. Asia strategy and U.S.-China relations, and the deployment of the Self-Defense Forces is also progressing under the pretext of preparing for a Taiwan emergency. Learning about Okinawa should also be useful in understanding Japan's modern history and international relations with Asian countries.

HIS300LA（史学 / History 300）

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017年度以降入学者

水谷 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア・太平洋地域には多くの島嶼および島嶼国家があります。この授業では、その中で特に、沖縄に注目します。沖縄は現在日本の一県、一地域ですが、前近代には琉球王府の統治する別の政治体制に属し、「琉球処分」による日本への併合、その後の「同化」政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）、その後も続く基地強化など外からの政策決定と、それに対する沖縄人のさまざまな異議申し立ての中で、独自の歴史を辿っています。この授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼の国際関係から生じる現代社会の諸問題を検討し、この地域に生きる生活者としての問題意識を養います。

【到達目標】

「琉球処分」以降の沖縄近現代史を確認し、アジア・太平洋国際関係の中で、沖縄が現在直面している課題・問題について具体的にリサーチし、議論します。生活者の視点から、国際関係の中で、地域の問題を考え、受講生それぞれの関心あるテーマについて、資料を通じて調査し、議論する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
第2回	「琉球処分」ー東アジア国際関係史の視点から	「琉球処分」について内容、現在の研究状況を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
第3回	近代沖縄の政治変動と思想・文化	近代沖縄における政治変動、特に「同化」政策について確認し、それに対するアイデンティティーの模索と思想・文化について考えます。
第4回	アジア・太平洋戦争と沖縄戦	第二次世界大戦からアジア・太平洋戦争に至る過程、更に沖縄戦の経緯とその特徴について、国際関係史の視点から議論します。
第5回	占領とサンフランシスコ平和条約	沖縄戦後の占領政策とサンフランシスコ講和条約による状況について確認します。

第6回	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗う民衆運動の展開について確認します。
第7回	施政権返還と密約	日米外交における問題を「沖縄返還交渉」のなかで生じた密約から考えます。
第8回	「世替わり」後の沖縄	「日本復帰」後の沖縄における政治・経済・社会の変化について確認し、現在まで続く課題についてリサーチテーマを検討します。
第9回	沖縄の課題（1）：戦争の記憶とその継承	「日本復帰」後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動と教科書問題から考えます。
第10回	現代沖縄の課題（2）：アジア・太平洋島嶼の安全保障と在日米軍基地	沖縄の在日米軍基地についてアジア・太平洋島嶼における安全保障の観点より考えます。
第11回	現代沖縄の課題（3）：アジア・太平洋島嶼の自然と環境	アジア・太平洋島嶼の自然と環境の視点から沖縄の課題を考えます。
第12回	現代沖縄の課題（4）：自治・自立（自律）の思想と試み	戦後沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認し、その可能性について議論します。
第13回	現代沖縄の課題（5）：沖縄のネットワーク：移動の経験を考える	「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決のための連帯の試みと可能性を考えます。
第14回	リサーチレポート中間発表	リサーチレポートの内容について中間発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書く。リサーチレポート、およびリサーチレポート中間発表の準備をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】

宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009年。
田仲康博『風景の裂け目ー沖縄、占領の今ー』せりか書房、2010年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。
屋嘉比収『沖縄戦、米軍占領史を学びなおすー記憶をいかに継承するか』世織書房、2009年。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（40％）
レポート中間発表（30％）
リサーチレポート（30％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの文字数、枚数は、受講生の専門やリサーチテーマによって図表を用いるなどの場合を踏まえて、検討します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge on the history of Okinawa after the annexation to modern Japan in 1879, and the ways to grasp and consider some problems caused in the international relations of Asia-Pacific region, to the students taking this course. At the end of the course, students are expected to research and discuss some issues for their own interests. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time for students taking this course will be more than two hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end research report: 30％、Short presentation for the research report: 30％、comments to fill in every class: 40％

HIS300LA (史学/History 300)

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明、映像
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン、映像
3	1)「口絵・プロローグ」	学生によるテキストの報告、討論。
4	2)映像①	関連映像視聴、討論。
5	3)「密航1946年 関釜の間の海～」	学生によるテキストの報告、討論。
6	4)映像②	関連映像視聴、討論。
7	5)「第1章植民地の子ども1朝鮮 1911-24 鯨の町長生浦～」	学生によるテキストの報告、討論。
8	6)映像③	関連映像視聴、討論。
9	7)「第1章植民地の子ども2日本 1924-44 関東大震災の横浜で～」	学生によるテキストの報告、討論。
10	8)映像④	関連映像視聴、討論。

11	9)「第1章植民地の子ども3朝鮮 1944-46 朝鮮に逃げる～」	学生によるテキストの報告、討論。
12	10)「送還1946 失敗した密航～」	学生によるテキストの報告、討論。
13	資料館見学	資料館見学
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房 1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書 990円。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度50%、プレゼンテーション・期末レポート50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活かきてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution: 50%.

HIS300LA（史学/History 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を整理しつつ学習していく。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・在日コリアン概説	自己紹介、授業計画の説明、在日コリアン概説、映像。
2	1)「第2章洗濯屋の家族1尹紫遠（1）密航のち18年の人生～163Pまで）	戦後の在日コリアンの歴史。学生によるテキストの報告、映像、討論。
3	2)映像⑤	関連映像視聴、討論。
4	3)「第2章洗濯屋の家族1尹紫遠（2）横浜の検閲生活～（164P～）」	学生によるテキストの報告、討論。
5	4)映像⑥	関連映像視聴、討論。
6	5)「第2章2大津登志子 満州から38度線へ～」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
7	6)映像⑦	関連映像視聴、討論。
8	7)「第2章泰玄 money,money,money ～」	学生によるテキストの報告、討論。
9	8)映像⑧	関連映像視聴、討論。

10	9)「第2章逸己 歴史を準備する人～」	学生によるテキストの報告、討論。
11	10)映像⑨	関連映像視聴、討論。
12	12)「エビログ、補遺密航の時代」	学生によるテキストの報告、討論。
13	13)資料館見学	資料館見学
14	14)まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房 1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書 990円。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度50%、プレゼンテーション・期末レポート50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

春学期に開講された教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだことが、秋学期の学習に活きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution:50%.

GDR300LA (ジェンダー / Gender 300)

クィア・スタディーズ A

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

定員制 (100)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。

私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動とLGBTQ+運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】

- 1) クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
- 2) ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第2回	クィア・スタディーズとは何か？	クィア・スタディーズの基本概念について講義する。
第3回	第一波フェミニズム、第二波フェミニズム	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第4回	第三波フェミニズム、ポストフェミニズム	90年代から今日までのフェミニズム運動について考える。
第5回	#MeToo運動 同性愛の病理化から ストーンウォールの 暴動まで	LGBTQ運動の歴史を振り返る。
第6回	日本における LGBTQ運動	「府中青年の家」裁判について講義する。
第7回	クィア・スタディーズの誕生	クィア・スタディーズの誕生について講義する。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	ダイバーシティについて考える	現代社会における多様性について考える。

第10回	インターセクショナルリティ	インターセクショナルリティとトランスジェンダー問題について考える。
第11回	カミングアウトとアウトティング	具体的な例を挙げながらカミングアウトとアウトティングについて考える。
第12回	クィア・ベダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。
第13回	児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、授業内で示される課題（リアクション・ペーパー、レポート）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

岩渕功一（編）『多様性との対話—ダイバーシティ推進が見えなくするもの』（青弓社年、2021年）
 菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 1』（晃洋書房、2019年）
 菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 2』（晃洋書房、2022年）
 菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 3』（晃洋書房、2023年）
 清水晶子『フェミニズムってなんですか?』（文春新書、2022年）
 周司あきら、高井ゆと里『トランスジェンダー入門』（集英社新書、2023年）
 新ヶ江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』（花伝社、2022年）
 森山至貴『LGBTを読みとくクィア・スタディーズ入門—』（ちくま新書、2017年）
 トッド・マシュー『ヴィジュアル版 LGBTQ運動の歴史』（原書房、2022年）

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション：20%

中間試験：40%

学期末レポート：40% (2,000文字程度)

毎日出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の資料を使うこともあります。講義内容にセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.

We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.

In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ+ movements in Japan and around the world.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

a) Have basic knowledge of queer studies.

b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to read the reference material by the next session and submit comment sheets (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%

Active participation in class is required. Submit your comments via Hosei University Learning Management System at the end of each session.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

Midterm exam: 40%

Final essay (1000-1500 characters): 40%

GDR300LA (ジェンダー / Gender 300)

クィア・スタディーズ B

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

定員制 (100)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文学作品、映画、ドラマ、マンガなどにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象について学びます。さまざまなジャンルや作品を取り上げ、歴史的・社会的な背景を考えながら、メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析するための視座を身につけます。

【到達目標】

- 1) フェミニズム批評やクィア・スタディーズの分析方法について学ぶ。
- 2) クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。 クィア・スタディーズの基礎について講義する。
第2回	フェミニズム批評	文学とフェミニズム批評について講義する。
第3回	性暴力と文学	#MeToo運動と文学の関係について講義する。
第4回	文学とミソジニー	川上未映子「恥」や松田青子『おばちゃんたちのいるところ』を取り上げる。
第5回	トランスジェンダーの過去と現在	トランスジェンダーの歴史について講義する。
第6回	トランスジェンダー問題	トランスジェンダーの表象について考える。
第7回	ゲイ解放運動	映画におけるLGBT運動の表象について考える。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	アートと身体	アート作品における妊娠、出産、授乳の表象について考える。
第10回	ヘテロノーマティヴィティと家族	『ハッシュ！』を取り上げる。
第11回	日本におけるレズビアン	レズビアンの可視性やその表象について講義する。

第12回 表象分析実践

『きのう何食べた？』（漫画と映画）と『作りたい女と食べたい女』（漫画とドラマ）についてグループでディスカッションを行う。

第13回 カミングアウトとアウトティング

映像作品におけるカミングアウトとアウトティングについて考える。

第14回 期末試験

第13回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、授業内で示される課題（リアクション・ペーパー、レポート）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

菅野優香『クィア・シネマ・スタディーズ』（晃洋書房、2021年）
黒岩裕市『ゲイの可視化を読む - 現代文学に描かれる〈性の多様性〉？』（晃洋書房、2016年）

新ヶ江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』（花伝社、2022年）

平林美都子『女同士の絆 レズビアン文学の行方』（彩流社、2020年）

森山至貴『LGBTを読みとく クィア・スタディーズ入門』（筑摩書房、2017年）

マシュー・トッド『[ヴィジュアル版]LGBTQ運動の歴史』（原書房、2022年）

Mary K. Holland and Heather Hewett (Eds.), #MeToo and Literary Studies. Reading, Writing, and Teaching about Sexual Violence and Rape Culture, Bloomsbury, 2021

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション 20%

中間試験：40%

期末試験：40%

毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】

授業内試験のためノートパソコンを用意してください。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。

講義内容や鑑賞作品などにセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the representation of gender and sexuality in literary works, films, dramas, comics, etc.

Students will learn to analyze how gender and sexuality are represented in the media while considering the historical and social background of various genres and works.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

a) Learn about the analytical methods of feminist literary criticism and queer theory.

b) Develop the ability to interpret the representation of gender and sexuality in the media.

Learning activities outside of the classroom:

Students must read the reference material by the next session and submit comment sheets (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%

Active participation in class is required. Submit your comments via Hosei University Learning Management System at the end of each session.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

Midterm exam: 40%

Final exam: 40%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

キリスト教思想史 A

2017年度以降入学者

鵜澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。春期授業（キリスト教思想史A）は、初代教会と聖書の成立から中世後期の神秘主義思想までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システム Hoppii を使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4回から5回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出をもって、出席と判断します。質問へのフィードバックは次回授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppii を使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、キリスト教思想史の意義を解説します。
第2回	第1章 ギリシア思想の特質	神話に現れた「霊」、ギリシア宗教の諸段階、哲学の誕生などを学びます。
第3回	第2章 ヘブライズムの思想的特質	旧約聖書の思想、キリスト教の成立、イエスの教えなどについて説明します。
第4回	グループワークと質疑応答	第1章と第2章の内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第5回	第3章 教父思想の特質	ユスティノスとプラトン主義、オリゲネス、ニカイア公会議などについて学びます。
第6回	第4章 アウグスティヌスの思想	思想と基礎経験、プラトン主義とキリスト教、「神の像」の探求などを解説します。
第7回	第5章 中世思想の構造と展開	中世思想の構造と展開、修道制の確立、中世的な霊性の形成などについて学びます。

第8回	第6章 中世初期の思想家とスコラ哲学	ボエティウス、スコトゥス、エリウゲナ、アンセルムスなどについて解説します。
第9回	グループワークと質疑応答	第3章から第6章までの内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第10回	第7章 トマス・アキナスの神学体系	神学大全の構成と方法、自然神学の諸問題、恩恵と自由意志などについて学びます。
第11回	第8章 後期スコラ哲学の展開	トマスとスコトゥス、オッカムの二重真理説、ルターによる後期スコラ哲学の批判を解説します。
第12回	第9章 神秘的霊性思想の展開	アウグスティヌスの伝統、ベルナルドの霊性思想、ボナヴェントゥラの神秘神学、エックハルトの神秘主義を学びます。
第13回	第10章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の展開、宮廷的恋愛詩、ダンテの『新生』『新曲』、ペトラルカなどについて学びます。
第14回	グループワークと質疑応答	グループワークと質疑応答を行いながら、春期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。(2時間) 復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppii の投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。(2時間)

【テキスト（教科書）】

金子 晴勇 (著) 『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズム―』筑摩選書、ISBN-13：978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久 (共著) 『キリスト教講義』文芸春秋、ISBN-13：978-4163909455、2019年、1850円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②春学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システム Hoppii に記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

What kind of beings are we as human beings? How should we understand the world around us and God as its origin? Christianity has a rich intellectual heritage that explores these fundamental questions of existence. This course examines this heritage from the perspectives of faith (believing) and reason (knowing). The course aims to: (1) Deepen students' understanding of Christian doctrine and its historical development. (2) Enhance comprehension of philosophical concepts closely related to Christianity. (3)

Explore Christianity's influence on politics, economics, society, and culture (including art and the liberal arts). Grading Criteria: (1) Evaluation of assignments submitted after each class. (2) Final report at the end of the semester. Each component (1) and (2) will account for 50% of the final grade, and students' overall performance will be assessed comprehensively. Preparation: Students should read the relevant sections of the textbook in advance. Additionally, they should use reference books to understand technical terms and key concepts (2 hours). Review: Students should go through the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). After each session, they must complete the assigned tasks using the class support system. Furthermore, they should summarize their thoughts on the topic, incorporating insights from discussions with other students (2 hours).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

キリスト教思想史 B

2017年度以降入学者

鶴澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。秋期授業（キリスト教思想史B）は、ルネサンスと宗教改革から近代ヨーロッパ文学の人間観までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システムHoppiiを使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、3回から4回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。出席、質問、感想は、Google Formを通じて提出してもらいます。質問へのフィードバックは次回の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppiiを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、春期授業の内容を振り返ります。
第2回	第10章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の歴史的展開、ダンテの『新生』『神曲』、ペトラルカの文学を学びます。
第3回	第11章 キリスト教共同体の終焉と近代への移行	ダンテの『帝政論』、マルシリウスの『平和の擁護者』、クザーヌスの『普遍的一致』を解説します。
第4回	グループワークと質疑応答	第10章と第11章の内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第5回	第12章 ルネサンスと宗教改革の思想	ルネサンスとは何か、イタリア人文主義の思想、ルターの信仰特質およびキリスト教的霊性の定義などについて説明します。
第6回	第13章 宗教改革から近代思想へ	プロテスタンティズムの歴史的な成果と残された問題などについて学びます。

第7回	第14章 近代的自我の確立	デカルトのコギトと哲学の出発点、パスカルの問いと人間の理解などを解説します。
第8回	第14章続き パスカールと信仰	パスカルの生涯、決定的回心（メモリアル）、イエズス会との論争について学びます。
第9回	グループワークと質疑応答	第12章から第14章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第10回	第15章 啓蒙思想と敬虔主義	欧州各国の啓蒙思想、敬虔主義の覚醒運動、シュライマッハーの宗教論について解説します。
第11回	第16章 ヘーゲルの思想体系	ヘーゲルとフランス革命、歴史の弁証法とその影響などについて学びます。
第12回	第17章 ヘーゲル体系の批判と解体	フォイエルバッハ、マルクス、キルケゴールの思想などを解説します。
第13回	第18章 近代ヨーロッパ文学の人間観	中世から近代への歴史的変遷、近代ヨーロッパ文化および文学について学習します。
第14回	秋期授業のまとめと質疑応答	秋期授業の内容を振り返った後で、第15章から第18章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。（2時間）
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppiiの投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。（2時間）

【テキスト（教科書）】

金子 晴勇 (著) 『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズム―』筑摩選書、2021年、ISBN-13：978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久 (共著) 『キリスト教講義』文芸春秋、2019年、ISBN-13：978-4163909455、1850円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②秋学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなくても、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システムHoppiiに記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

This course aims to explore the intellectual heritage of Christianity through the lenses of both faith and reason. The goal is to provide a comprehensive understanding of the historical progression of Christian doctrine. Moreover, we will delve into the philosophical concepts closely related to Christianity and how they have influenced various aspects of society, including politics, economics, and culture. Scope of autumn classes: students will study everything from the Renaissance and Reformation to modern European literature's view of the human person.

In preparing for the assignment, students should start by reading the assigned text to understand technical terms (2 hours). They will revise their responses to the questions and complete assignments for the class (2 hours).

Your performance in this course will be evaluated based on two factors: assignment evaluation each time and a final report at the end of the semester. Both carry equal weightage in the grading criteria.

LIN300LA (言語学 / Linguistics 300)

異文化コミュニケーション論 A 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。

この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
- ②自分が今まで意識していなかった文化（主に日本文化）を意識化、また相対化する。
- ③グローバル社会、多文化共生などについて、日本と他国の現状を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第1～3回目は、講義形式。第14回目は期末試験を行う。
- ・第4～13回の授業内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。
- ・Google Classroom を使って授業を行う。
- 連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ステレオタイプ①定義・要因・具体例	・授業運営に関する打ち合わせ ・アンケート ・ステレオタイプとは
第2回	ステレオタイプ②メディア・個人的／社会的影響	・メディアとステレオタイプ ・ステレオタイプの影響 ・「差別」と「自己規制」 ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	ステレオタイプ③「日本人」についてのステレオタイプ	・日本と日本人のイメージ ・集団主義、年功序列、本音と建て前、男尊女卑など
第4回	異なる基準	・「美しさ」の基準 ・「恥ずかしさ」の基準
第5回	文化によって異なる色彩認識	・虹の色、太陽の色
第6回	カテゴリー分類	・「北京ダック」はアヒルかカモか？

第7回	日本語の諸問題①	・文法：統語法、品詞、人称、指示詞、感情表現
第8回	日本語の諸問題②表記	・ラジオ型言語とテレビ型言語 ・文字言語としての日本語と他言語との比較。 ・音声言語としての日本語と他言語との比較
第9回	言語とアイデンティティ	・母語に対する認識 ・各国の言語政策 ・外国語教育
第10回	宗教観	・日本人の宗教観 ・無神論・一神論・多神論 ・新しい外来宗教との折り合い
第11回	住居と自然	・自然との闘い／自然との共存 ・日本住宅の特徴 ・都市計画、インフラ
第12回	日本の「文化多様性」	・マイノリティ問題（過去から現在まで）
第13回	世界の「文化多様性」	・グローバル化と固有文化の維持 ・世界の動向
第14回	期末試験	・第1～14回のまとめ試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、授業前にテキストの次回授業該当箇所や、与えられた文献を読んでおくこと。
- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は5時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は60分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

- 今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
 高野陽太郎『日本人論の危険なあやまち』ディスカバー掲書鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書
 鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
 G. ドイツチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
 R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
 その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度	15%
リアクションペーパー	15%
クイズ	10%
発表	20%
期末試験	40%

・4回以上授業を欠席した場合、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。
- ・期末試験時にはPCまたはタブレット端末

★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。

[https://classroom.google.com/c/](https://classroom.google.com/c/NzM3NTYxMzU4OTY1?cjc=zk5hfer)

NzM3NTYxMzU4OTY1?cjc=zk5hfer

授業コード：zk5hfer

【その他の重要事項】

★受講希望者数によっては、第1回目（4月7日）の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第1回目に必ず出席すること。

【Outline (in English)】
(Outline)

In this course, students will read various materials on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to realize how human recognition will be affected by languages and cultures, and to have better understanding of relativity of the cultures.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required reading assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 20%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 15%

Quiz 10%

* Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIN300LA (言語学 / Linguistics 300)

異文化コミュニケーション論B 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化している。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互によりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第1・2回目は講義と教室内活動中心。
- ・第3～13回は、指定の内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文化とコミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・文化モデルと主なコミュニケーション・モデル
第2回	非言語コミュニケーションとは	・非言語コミュニケーションの種類 対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	コミュニケーション・スタイル① コンテキスト	・高コンテキスト文化と低コンテキスト文化 (学生発表と質疑応答。以下13回まで)

第4回	コミュニケーション・スタイル② ターン・テキングとバラ言語	・会話場面における」発話のターンの取り方の違い、文化差や特徴。 ・イントネーション、リズム、ポーズ、声質など、周辺言語の基本的知識と文化的な特徴 文化によって異なる「ほめ方・しかり方・謝り方」 ・ボライトネス理論の基本的概念 ・「誘い方・断り方」に見られる文化差
第5回	言語コミュニケーション① 褒め方・叱り方・謝り方	
第6回	言語コミュニケーション② 誘い方と断り方	
第7回	言語コミュニケーション③ 自己紹介と自己開示	・「自己紹介」の仕方と好まれる話題や態度。 ・「自己開示」の深さ、広さなどがコミュニケーションや対人関係に及ぼす影響と、文化的特徴。 ・人類共通の本能的、基本的な表情分析と、文化に依存する表情表現。 ・視線によるコミュニケーション、いわゆるアイコンタクトに見られる文化差。
第8回	非言語コミュニケーション① 表情・アイコンタクト	・異なる文化圏で見られる様々なしぐさやジェスチャー ・危険なしぐさ、あるいはコミュニケーションを円滑にするジェスチャーなどの具体例。 ・タッチングの文化差や性別、年齢、人間関係による変化。
第9回	非言語コミュニケーション② しぐさとジェスチャー・タッチング	・ソーシャル・ディスタンスやパーソナルスペースなど、空間の扱いに見られる文化差。 ・対人距離がコミュニケーションに与える影響。 ・時間感覚の地域、時代、個人による差異。 ・MタイムとPタイム
第10回	非言語コミュニケーション③ 空間と対人距離、時間感覚	・基本的価値志向 ・ホフステードの6次元モデル ・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
第11回	価値観	・偏見・差別と逆差別 ・幼少者への対応 ・日本と世界の動向
第12回	ジェンダーとLGBTQ	・メディア、行政、または個人による配慮とその影響 ・「多文化共生社会」におけるコミュニケーション
第13回	ポリティカル・コレクトネス	・第1回～第13回までの内容についての筆記試験・まとめと解説
第14回	期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。（ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する）

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
池田理知子 E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
八代京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暁・石井敏 他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
E. ホール『沈黙のことば－文化・行動・思考』南雲堂

宮津多美子『異文化コミュニケーション入門 ことばと文化の共感力』勁草書房

八島智子／久保田真弓『異文化コミュニケーション論 グローバル・マインドとローカル・アフェクト』松柏社

その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 15 %

リアクションペーパー 15 %

クイズ 10%

発表 20%

期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネット接続可能な機器：P C、タブレット端末、スマートフォン。

・期末試験時にはP Cまたはタブレット端末

★授業の運営は、初回アンケートを含めてグーグルクラスルームで行うので、事前にグーグルクラスルームへの登録を行うこと。

[https://classroom.google.com/c/](https://classroom.google.com/c/NzQ5NTM0MDk1NjQ0?cjc=a5if4dd)

NzQ5NTM0MDk1NjQ0?cjc=a5if4dd

授業コード：a5if4dd

【その他の重要事項】

・受講希望者数によっては、第1回目(9/22)の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。

・法政のメールアカウントをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to have knowledge of the basic terms, concepts and to be able to apply them for their real lives in the multicultural society.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 20%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 15%

Quiz 10%

*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

矢澤 美佐紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、マンガや小説を通じて、主に女性作家が愛や性といった〈家族〉にまつわるジェンダーの問題や、労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の実相を考察することにあります。それは、社会における〈居場所さがし〉の軌跡に迫ることでもあり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」やマンガを視座に、日本の近代国家としての歩みを踏まえつつ、現代文学やマンガの生成と変容、芸術と社会の関係について学びます。

受講人数によりありますが、可能な限りグループワークを取り入れます。また、各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の芸術概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、表現の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かなマンガ等の女性表現を生み出すに至った女性史の内側や、文学史の外部を参照しながら、抑圧される側にととの「書くこと」の意味を追求します。適宜、映画・ドラマなどの映像作品や世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。受講人数によりありますが対象作品についてグループワークを行い、発表を通じて討議をしてもらいます。後半には、作品を選んで本格的な発表をしてもらい、まとめの講評をします。また、リアクションペーパーを使って、随時教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応します。

*校外学習の日程に関しては、学生の予定を配慮して前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業の目的、授業の進め方、成績のつけ方について
対面授業	池田理代子『ベルサイユのばら』	＜男装＞による居場所の追求 ・グループワークと意見交換
対面授業	手塚治虫『リボンの騎士』	＜男装＞の系譜を探る ・グループワークと意見交換
対面授業	よしながふみ『大奥』	男女逆転劇の真相を考察する ・グループワークと意見交換
対面授業	萩尾望都『あそび玉』	管理社会における居場所さがし ① ・グループワークと意見交換

対面授業	小川洋子『密やかな結晶』	管理社会における居場所さがし ② ・グループワークと意見交換
対面授業	桐野夏生『日没』	管理社会における居場所さがし ③ ・グループワークによる意見交換
対面授業	大島弓子『ロングロングケーキ』	＜病＞における居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	グループ発表のための準備	・作品を選んでグループワーク ・レジュメの作成
対面授業	グループ発表①	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表②	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表③	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	一葉記念館か自由学園へ校外学習	作品の時代的背景を学習する
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。指定された作品や関連資料を事前によく読み込み、自分の意見をまとめておきましょう。授業後は、講義内容や教員のコメント、グループワークでの課題をふまえて、自分の考えを簡潔に文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

取り扱う作品は、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在－貧困・労働・格差』（2016・4、青柿堂）、『[新編] 日本女性文学全集』全12巻（矢澤・12巻責任編集、2020・3、六花出版）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』（2006・10、東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』（2005・5、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（1987・8、吉川弘文館）その他、マンガや映像作品については授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表等の平常点が50%、期末レポートが50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料はできるだけ早めに配布します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature and comic.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

矢澤 美佐紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、マンガや小説を通じて、主に女性作家が愛や性といった〈家族〉にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、社会における〈居場所さがし〉の軌跡に迫ることでもあり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」やマンガを視座に、日本の近代国家としての歩みを踏まえつつ、現代文学やマンガの生成と変容、芸術と社会の関係について学びます。

各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の芸術概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、表現の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かなマンガ等の女性表現を生み出すに至った経緯を女性史の内側や文学史の外側を参照しながら追求し、抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を考えます。

適宜、映画・ドラマ等の映像作品や世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。担当者は、あらかじめ対象作家・作品に関する考察をまとめた簡単なレジュメを作成して報告をしてください。それに基づいて、皆で討議をします。積極的に参加してください。また、適宜リアクションペーパーを使って、教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応するよう努めます。

*校外学習の日程に関しては、学生の予定等を配慮して前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業方法、成績のつけ方について／春学の振り返り／発表の分担を決める
対面授業	吉本ばなな『キッチン』	性の多様化における居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	江國香織『きらきらひかる』	性の多様化における居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	よしながふみ『きのう何食べた？』	性の多様化における居場所さがし③ ・グループワークと意見交換

対面授業	須藤佑実『夢の端々』	性の多様化における居場所さがし④ ・グループワークと意見交換
対面授業	津村記久子『ボトスライムの舟』	職場における居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	小山田浩子『工場』	職場における居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	益田ミリ『すーちゃん』、『ツユクサナツコの一生』	職場における居場所さがし③ ・グループワークと意見交換
対面授業	村田沙耶香「無」（『絶縁』）	コロナ禍における居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	川上未映子『春のこわいもの』	コロナ禍における居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	個人発表①	報告者による報告と討議
対面授業	個人発表②	報告者による報告と討議
対面授業	一葉記念館か自由学園を見学する	作品の背景を学習する
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 春秋学期を通じた振り返り 期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【予習】報告者は、担当した作家と作品について調査と考察を行い、レジュメを作成してください。他の受講生は、対象作品をじっくり読み、資料を確認するなどして考えをまとめておきましょう。【復習】教員のコメントや担当者の発表をふまえて、自分の考察を深化させましょう。

【テキスト（教科書）】

取り扱う作品は、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手にくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在－貧困・労働・格差』（2016・4、葺柿堂）、『[新編] 日本女性文学全集』全12巻（矢澤・12巻責任編集、2020・3、六花出版）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』（2006・10、東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』（2005・5、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（1987・8、吉川弘文館）その他、マンガや映像作品については授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表の平常点が50％、期末レポートが50％とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料は事前にできるだけ早く配布します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature and comic.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

HIS300LA（史学/History 300）

イギリスと帝国 A

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀から20世紀にかけてのイギリスは、巨大な帝国であった。イギリスの海外進出は、国内はもとより、世界各地にさまざまな影響を及ぼした。本授業では、18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史を考えてみたい。

【到達目標】

- ・18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史的特徴を理解する。
- ・帝国支配がイギリス国内と世界各地に与えた多様な影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	近世のイギリス帝国概観：アメリカ植民地の独立まで	18世紀末までのイギリス帝国の動向を概観する。
第3回	革命の時代の帝国	フランス革命の時代のイギリスと帝国について学ぶ。
第4回	奴隷制と奴隷貿易	19世紀初頭までの帝国を支えていた奴隷制と奴隷貿易について学ぶ。
第5回	奴隷貿易・奴隷制への反対運動	奴隷貿易と奴隷制への反対運動とその同時代的意義を学ぶ。
第6回	帝国の拡大と植民地自治	19世紀前半の帝国の拡大と植民地自治の発展について学ぶ。
第7回	インド	帝国の要であったインドとその支配について学ぶ。
第8回	非公式帝国	帝国を理解するうえで重要な非公式帝国という概念とその問題点を学ぶ。
第9回	帝国の支配者たち	帝国を支配した人々とその役割について学ぶ。
第10回	帝国の経済	帝国の経済構造について学ぶ。
第11回	支配の文化、文化の支配	帝国支配を文化の観点から学ぶ。
第12回	帝国とジェンダー	帝国支配をジェンダーの観点から学ぶ。
第13回	帝国主義の時代	帝国主義の時代におけるイギリスと帝国のありようを学び、授業内容を総括する。

第14回 授業内試験とまとめ 期末試験とまとめ及び解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料についての宿題を課す。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国=コモンウェルスのかゆみ』有斐閣、2000年

木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年

秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%

・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the early 20th century. It analyzes the empire's entanglement with British domestic affairs as well as its impact on other parts of the world.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about early modern and modern British imperial history.

2) Students are able to assess varied impact that the empire had on Britain and wider world.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments 50%, Final examination 50%

HIS300LA（史学/History 300）

イギリスと帝国 B

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代のイギリス帝国は、世界史の動向を大きく規定した。20世紀後半に帝国は崩壊したが、植民地支配の過去は現在の世界にも影響を及ぼし続けている。本授業では20世紀のイギリス帝国に焦点を当て、その歴史的意義を考えてみたい。

【到達目標】

- ・20世紀のイギリス帝国の特徴を理解する。
- ・現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。春学期に開講する「イギリスと帝国A」と内容面で連続性があるので、当該授業を履修したうえで登録することを強く勧める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	世紀転換期までのイギリス帝国	19～20世紀転換期までのイギリスと帝国についての概要を学ぶ。
第3回	南アフリカ戦争の時代①：イギリス国内への影響	南アフリカ戦争がイギリス国内に与えたインパクトを学ぶ。
第4回	南アフリカ戦争の時代②：帝国・国際関係の視点から	南アフリカ戦争をイギリス帝国と国際関係の視点から学ぶ。
第5回	第一次世界大戦とイギリス帝国	第一次世界大戦への植民地のかかわりを学ぶ。
第6回	植民地ナショナリズム	植民地支配に抵抗するナショナリズムの諸特徴を学ぶ。
第7回	中東のイギリス帝国	戦間期中東地域におけるイギリスの支配について学ぶ。
第8回	イギリス帝国と日本	第二次世界大戦までのイギリス帝国と日本の関係について学ぶ。
第9回	コモンウェルス形成	コモンウェルスの形成過程を学ぶ。
第10回	第二次世界大戦とイギリス帝国	第二次世界大戦期のイギリス帝国について学ぶ。
第11回	帝国＝コモンウェルス体制の変容と脱植民地化	脱植民地化とコモンウェルスの変容について学ぶ。
第12回	帝国のはころび	20世紀後半における帝国の崩壊について学ぶ。

第13回 帝国支配の過去と現在 帝国支配の過去が現在のイギリスと旧植民地にどのような影響を及ぼしているかを学び、授業内容を総括する。

第14回 授業内試験とまとめ 期末試験とまとめ及び解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料についての宿題を課す。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年
小川浩之『英連邦—王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%
- ・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire in the 20th century. It analyzes the empire's structures, decline, and continued impact on the contemporary world.

< Learning objectives >

- 1) Students are able acquire basic knowledge about modern and contemporary British imperial history.
- 2) Students are able to acquire critical views of various global issues in reference to the history of the British empire.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments 50%, Final examination 50%

LANj300LA (日本語 / Japanese language education 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の様子を知り、全体を概観する。

・日本語を外国語として教える「日本語教育」について基礎的な知識を幅広く身につけ、何をどう教えるかを考える。

・自分自身が身につけている言語観、教育観、学習スタイルをふりかえり、時代のニーズにあわせて変化してきた日本語教育の現状を踏まえて、よりよい教育方法について考察する。

【到達目標】

(1) 日本語教育とはどのような分野であるのか理解し、具体的にイメージできる。

(2) 日本語や日本社会を日本語教育の視点で、客観的に捉えることができる。

(3) 日本語教育の意義、社会における役割について理解し、自分のことばで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

グループやペアでの協働的な活動が多く設定されている。活動に積極的に参加し、クラスメイトと共に主体的に学ぶことが期待される。課題等に対するフィードバックは授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本語教育の特色	社会における日本語教育の意義・役割について考える。
第2回	日本語教育を取り巻く社会情勢	世界の日本語教育事情と日本の留学生政策について概観する。
第3回	母語の学習と外国語学習	第二言語習得と第一言語習得の違いについて理解する。
第4回	日本語の音の特徴とその指導	音声学と音韻論について概観し、日本語の音の特徴について理解する。
第5回	日本語の文字・語彙とその指導	文字・語彙論について概観し、日本語の音の特徴について理解する。
第6回	動詞の活用と初級文型	日本語の動詞の活用の説明について、国語文法と日本語教育でどう違うかを理解する。
第7回	初級の文型の導入とドリル	初修学習者に日本語を教える場合、どんな文型をどんな順序で教えるかを考える。
第8回	シラバスとコースデザイン	シラバスの種類を知るとともに、コースがどうやってデザインされるかを理解する。
第9回	教授法について	どんな教授法があるかや、歴史的変遷や理論、特色ある指導法などについて学ぶ。

第10回	教室活動と授業計画の立て方	現場でどのような教室活動が行われているか、また、1つ1つの授業がどのように計画されるのかを学ぶ。
第11回	各国の日本語教育についての発表-東アジア・東南アジア	東アジア・東南アジアの国・地域の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。
第12回	各国の日本語教育についての発表-オセアニア・南米	オセアニア・南米の国々の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。
第13回	各国の日本語教育についての発表-ヨーロッパ・アメリカ	ヨーロッパ・アメリカの国々の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。
第14回	討論・議論（授業内での期末試験実施の可能性あり）	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

田中望(1988)『日本語教育の方法—コース・デザインの実際—』大修館書店

縫部義憲(1991)『日本語教育学入門』創拓社

石田敏子(1998)『日本語教授法』大修館書店

高見澤孟(2004)『新・はじめての日本語教育2・日本語教授法入門』アスク

川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験（40％）

発表のパフォーマンス（25％）

受講態度（議論への積極的参加など）（20％）

課題提出（15％）

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

日頃から日本語教育や国際理解等に関わる機会があれば、積極的に参加することが望ましい（具体的な学習者や教育現場をイメージすることで、授業内容がより深く理解でき、更なる問題意識が醸成されます）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides an overview of the field of Japanese language teaching, based on a variety of materials and specific situations in the field. In other words, it introduces a wide range of basic knowledge about teaching Japanese as foreign language, and what and how it is taught, to students taking course.

It also provides an opportunity for students to reflect on their own views of language, education, and learning styles, and to consider better teaching methods based on the current state of Japanese language education, which has changed in response to the needs of the times.

【Learning Objectives】

After completing this course, students will be able to:

(1) understand what kind of field Japanese language education is and to be able to visualize it concretely.

(2) see Japanese language and Japanese society objectively from the perspective of Japanese language education.

(3) understand the significance of Japanese language teaching and its role in society, and explain it in one's own words.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to gather information on a regular basis so that they can express their own opinions on a given theme.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Final examination (40%)

Presentation performance (25%)

Attitude (active participation in discussions, etc.) (20%)

Submission of assignments (15%)

Based on this grading system, students who have achieved at least 60% of the course objectives will be considered to have passed the course.

LANj300LA（日本語 / Japanese language education 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の様子を知り、全体を概観する。

・日本語を外国語として教える「日本語教育」について基礎的な知識を幅広く身につけ、何をどう教えるかを考える。

・学習者主体の授業とはどういうものかを検討し、時代のニーズにあわせて変化してきた日本語教育の現状を踏まえて、具体的に日本語の教材作成や授業実践について考える。

【到達目標】

(1) 外国語としての日本語を教えるにはどのような教室運営がなされ、そこではどのような教材が望ましいかを理解できる。

(2) 学習者に合ったカリキュラム設定を行い、具体的な授業計画を立て、教材選定、教材作成ができる。

(3) 日本語の授業で、文法の導入・説明を適切に行い、定着を図るタスクを効果的にできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

グループやペアでの協働的な活動が多く設定されている。活動に積極的に参加し、クラスメイトと共に主体的に学ぶことが期待される。課題等に対するフィードバックは授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本語教育の歴史	日本語教育の歴史について概観する。
第2回	学習者中心の指導法	学習者中心の指導法とはどういうものかについて考える。
第3回	教材・教具	日本語を教える際に使用される教材や教具の特徴について理解する。
第4回	直接法による教え方	日本語を日本で直接教える方法とはどういうものか理解する。
第5回	タスク中心の指導法	実際に教える時に使われるタスクにはどのようなものがあるか概観するとともに、タスク中心の指導法について理解する。
第6回	初級と中・上級	学習者のレベルによって教え方がどう違うかを考える。
第7回	作文指導	作文、ライティング能力の向上のためにどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。
第8回	読解指導	読解力向上のためのどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。
第9回	会話の指導	会話やスピーチ能力の向上のためのどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。

第10回	スピーチの指導	コミュニケーションの4つの要素について考え、授業内での活動を実際のコミュニケーションにできるだけ近づける工夫をする。
第11回	視聴覚教材の使い方	視聴覚教材の効果的な使い方について考える。
第12回	教材作成の実践	教材の自作方法の基本を知り、受講生自ら教材を作成してみる。
第13回	作成教材を用いた模擬授業	受講生が自ら作成した教材を使って、実際に日本語を教えるみる。
第14回	討論・議論（授業内での期末試験実施の可能性あり）	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

田中望(1988)『日本語教育の方法—コース・デザインの実際—』大修館書店

縫部義憲(1991)『日本語教育学入門』創拓社

石田敏子(1998)『日本語教授法』大修館書店

高見澤孟(2004)『新・はじめての日本語教育2・日本語教授法入門』アスク

川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験（40％）

発表のパフォーマンス（25％）

受講態度（議論への積極的参加など）（20％）

課題提出（15％）

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

日頃から日本語教育や国際理解等に関わる機会があれば、積極的に参加することが望ましい（具体的な学習者や教育現場をイメージすることで、授業内容がより深く理解でき、更なる問題意識が醸成されます）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides an overview of the field of Japanese language teaching, based on a variety of materials and specific situations in the field. In other words, it introduces a wide range of basic knowledge about teaching Japanese as foreign language, and what and how it is taught, to students taking course.

It also provides an opportunity for students to examine what learner-centered classrooms are, and to consider the creation of Japanese language teaching materials and class practices based on the current state of Japanese language education, which has been changing in accordance with the needs of the times.

【Learning Objectives】

(1) understand what kind of classroom management and what kind of teaching materials are desirable for teaching Japanese as a foreign language.

(2) set up a curriculum suited to the learners, make concrete lesson plans, select teaching materials, and create teaching materials.

(3) to introduce and explain grammar appropriately in Japanese classes and effectively perform tasks to ensure retention.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to gather information on a regular basis so that they can express their own opinions on a given theme.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Final examination (40%)

Presentation performance (25%)

Attitude (active participation in discussions, etc.) (20%)

Submission of assignments (15%)

Based on this grading system, students who have achieved at least 60% of the course objectives will be considered to have passed the course.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

徳と倫理 A

2017年度以降入学者

内山 真莉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。

西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。春学期は其中でも古代・中世に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていく。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

【到達目標】

- ・古代・中世における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
- ・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	倫理学とは
第2回	ソクラテスとプラトン①	徳と知
第3回	ソクラテスとプラトン②	善とアイデア
第4回	アリストテレス①	徳と善と幸福
第5回	アリストテレス②	善と社会
第6回	エピクロス	快と幸福
第7回	ストア派	自然本性と懐疑
第8回	アウグスティヌス①	善く生きること
第9回	アウグスティヌス②	罪と自由
第10回	トマス・アキナス①	徳と神と愛
第11回	トマス・アキナス②	善と幸福
第12回	救済論	徳と死生観
第13回	スコトゥス／オッカム	理性と信仰
第14回	倫理学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】

『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。
『西洋哲学史〔古代・中世編〕』内山勝利・中川純男編、ミネルヴァ書房、1996年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価する。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

【学生の意見等からの気づき】

板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concepts to focus on are "virtue" and "goodness."

【Learning Objectives】

This course aims to deepen your understanding of ethical thought in ancient and medieval times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

徳と倫理 B

2017年度以降入学者

内山 真莉子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。

西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。秋学期は中でも近世～現代に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていくのだが、とりわけ「徳倫理学」について重点的に扱う。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

【到達目標】

- ・近世～現代における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
- ・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	徳倫理学とは
第2回	ルターと信仰	自由意志と奴隷的意志
第3回	ヒュームと徳	人間本性と道徳原理
第4回	義務倫理	カントの自律
第5回	功利主義	幸福と利益
第6回	ムーアとメタ倫理学	自然主義的誤謬
第7回	エイヤーと倫理的判断	情緒主義
第8回	アンスコムと徳①	道徳哲学の有益性について
第9回	アンスコムと徳②	行為と意図
第10回	マッキンタイアと徳	倫理思想の歴史
第11回	ロールズと正義	善と正
第12回	共同体主義と徳	個人は共同体に先立つか
第13回	現代の徳倫理学	アリストテレスへの回帰
第14回	倫理的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。レジメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】

『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。
ダニエル・C・ラッセル編『ケンブリッジ・コンパニオン 徳倫理学』立花幸司監訳、春秋社、2015年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価する。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

【学生の意見等からの気づき】

板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concept to focus on is virtue ethics.

【Learning Objectives】

This course aims to deepen your understanding of ethical thought from early modern to modern times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

人間存在論 A

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目「人間存在論 A」〔哲学科専門科目「人間学 5（人間存在論）A」〕では、いわゆる「現代思想」や「ポストモダン思想」（欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる）哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。

第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心に考察する。

おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性（アイデンティティ）と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家（ジュディス・バトラー、スラヴォイ・ジジック、カトリヌ・マラブーら）を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存（existence）を哲学的・倫理的に考察する。

【到達目標】

- ①現代思想（モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義）の歴史的概略について考察できるようになる。
- ②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
- ③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・基本的には、講義形式で行う。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。
・人数がそれほど多くない（30名定員）ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート（あるいはレジュメ）を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・ 選抜試験 ・ 受講上の注意点 ・ 授業の概要説明
2	構造主義とポスト構造主義①	第一章 構造主義を振り返る① 1. サルトルと実存主義
3	構造主義とポスト構造主義②	第一章 構造主義を振り返る② 2. レヴィ＝ストロースと構造主義の登場
4	構造主義とポスト構造主義③	第一章 構造主義を振り返る③ 3. ジャック・ラカンと精神分析

5	構造主義とポスト構造主義④	第一章 構造主義を振り返る④ 4. ルイ・アルチュセールとマルクス主義哲学
6	構造主義とポスト構造主義⑤	第二章 構造主義からポスト構造主義へ① 1. 「ポスト構造主義」の誕生
7	構造主義とポスト構造主義⑥	第二章 構造主義からポスト構造主義へ② 2. ロラン・バルト——現代の神話とテキスト理論
8	構造主義とポスト構造主義⑦	第二章 構造主義からポスト構造主義へ③ 3. フーコーと「知の考古学」
9	構造主義とポスト構造主義⑧	第二章 構造主義からポスト構造主義へ④ 4. フーコーの権力論
10	構造主義とポスト構造主義⑨	第二章 構造主義からポスト構造主義へ⑤ 5. デリダの脱構築論
11	構造主義とポスト構造主義⑩	第二章 構造主義からポスト構造主義へ⑥ 6. デリダの「倫理的転回」
12	構造主義とポスト構造主義⑪	第二章 構造主義からポスト構造主義へ⑦ 7. ドゥルーズの「差異の哲学」
13	構造主義とポスト構造主義⑫	第二章 構造主義からポスト構造主義へ⑧ 8. ドゥルーズの生成の哲学
14	ポスト構造主義とは何だったのか？	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）としては使わないが、授業に際して主に参照する書籍

- ① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
- ② 岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
- ③ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【参考書】

- ① 船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
- ② 船木亨『現代思想講義——人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
- ③ 川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年
- ④ 鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年（これは、あくまで参考書）

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点（リアクションペーパー／小テスト）（30％）（質問を3点以上用意する）
- (2) 期末レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・ 秋学期科目「人間存在論 B」（哲学科専門科目「人間学 5（人間存在論）B」）と内容的に連続しているので、両方を受講することが望ましい。
・ また「受講上の注意」として、秋学期科目「人間存在論 B」（哲学科専門科目「人間学 5（人間存在論）B」）については、選抜試験で「人間存在論 A」（哲学科専門科目「人間学 5（人間存在論）A」）の受講許可のある学生のみが登録・履修できることに注意してもらいたい

【受講上の注意】

・ 本授業は、定員（30名）が決められている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。
・ 初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】**【Course Outline】**

In this course "Human Ontology A" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) A"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.

【Course Objectives】

Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.

We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj Žižek, Catherine Malabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)	
人間存在論 B	2017年度以降入学者
森村 修	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：水 4/Wed.4
単位数：2単位	
定員制 (30)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目「人間存在論 B」〔哲学科専門科目「人間学 5（人間存在論 B）」は、春学期科目「人間存在論 A」（哲学科専門科目「人間学 5（人間存在論 A）」との連続性がある科目である。「人間存在論 A」と同様に、いわゆる「現代思想」や「ポストモダン思想」（欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる）哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。

第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心に考察する。

おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性（アイデンティティ）と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家（ジュディス・バトラー、スラヴォイ・ジジェク、カトリーヌ・マラブーら）を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存（**existence**）を哲学的・倫理的に考察する。

【到達目標】

- ①現代思想（モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義）の歴史的概略について考察できるようになる。
- ②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
- ③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・基本的には、講義形式と演習形式の双方で行うことを考えている。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。

・人数がそれほど多くない（30名定員）ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート（あるいはレジュメ）を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明
2	転換点としての80年代①	第三章 ポストモダン社会か新自由主義社会か① 1. リオタールとポストモダン

3	転換点としての80年代②	第三章 ポストモダン社会か新自由主義社会か② 2. リオタールの哲学
4	転換点としての80年代③	第三章 ポストモダン社会か新自由主義社会か③ 3. ボードリヤールとシミュレーション
5	転換点としての80年代④	第三章 ポストモダン社会か新自由主義社会か④ 4. ボードリヤールの「象徴交換と死」
6	転換点としての80年代⑤	第三章 ポストモダン社会か新自由主義社会か⑤ 5. ドゥルーズ&ガタリの「アンチ・オイディプス」
7	転換点としての80年代⑥	第三章 ポストモダン社会か新自由主義社会か⑥ 6. ドゥルーズ&ガタリの「ミル・プラトー」①
8	転換点としての80年代⑦	第三章 ポストモダン社会か新自由主義社会か⑦ 3. フーコーの生権力論
9	変容する社会①	第四章 ジェンダー／フェミニズム思想① 1. ボーヴォワールとフェミニズム
10	変容する社会②	2. イリガライの性的差異の倫理 第四章 ジェンダー／フェミニズム思想② 3. シクスーとエクリチュール・フェミニン
11	変容する社会③	4. クリステヴァと母性の思想 第四章 ジェンダー／フェミニズム思想③ 5. マラブーと社会的トラウマ 6. プレシアドの自然的な性の批判
12	哲学の最前線？ ①	哲学研究の継承と刷新① 1. メイヤスーと思弁の実在論 2. グレアム・ハーマンのオブジェクト指向存在論
13	哲学の最前線？ ②	哲学研究の継承と刷新② 3. バディウと数学的存在論——60年代の回帰
14	哲学に最先端はあるのか？	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）としては使わないが、授業に際して主に参照する書籍

- ① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
- ② 岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
- ③ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【参考書】

- ① 船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
- ② 船木亨『現代思想講義——人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
- ③ 川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年
- ④ 鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年（これは、あくまで参考書）

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点（リアクションペーパー／小テスト）（30％）（質問を3点以上用意する）
- (2) 期末レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・秋学期科目「人間存在論A」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）A）」と内容的に連続しているので、両方を受講することが望ましい。

・また「受講上の注意」として、春学期科目「人間存在論A」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）A）」を受講・登録していない学生で、春学期最初の授業で選抜試験を受けておらず、授業担当者から受講許可がない場合は、当該科目「人間存在論B」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）B）」の受講登録・履修できないので、注意してもらいたい。

【受講上の注意】

・本授業は、定員（30名）が決められている。「人間存在論A」の初回の授業で、選抜試験を合格し、授業担当者から受講許可がある学生のみが受講登録できる。

・春学期「人間存在論A」の試験を未受験の人は、受講登録できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】**【Course Outline】**

In this course "Human Ontology B" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) B"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.

【Course Objectives】

Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.

We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj Žižek, Catherine Marabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

LAW300LA (法学 / law 300)

法哲学A

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「正しい法とはどういうものか」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。

主要理論の解説や具体的な事例・問題の分析を通じて法哲学の基礎知識を学ぶと共に、法哲学的な観点に即した問題分析力・思考力を身に付けることが授業の目的である。

秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②現代社会の具体的な課題・問題に対して、法哲学的な視点に立って根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、社会的な問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	法哲学を学ぶにあたって	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何か
第3回	格差問題のポイント	現代日本の格差の概況とその論点について
第4回	法哲学の基本的視点（1）	自由主義と平等主義の関係について
第5回	法哲学の基本的視点（2）	格差問題に関する法哲学的考察について
第6回	ドーピングは禁止すべきか？（1）	ドーピングをめぐる現状について
第7回	ドーピングは禁止すべきか？（2）	ドーピングを禁止する根拠の検討について
第8回	ドーピングは禁止すべきか？（3）	ドーピングと個人の自由について
第9回	ドーピングは禁止すべきか？（4）	卓越主義と中立性原理について

第10回	臓器売買は許されるべきか？（1）	臓器売買規制の現状について
第11回	臓器売買は許されるべきか？（2）	臓器売買反対論の検討について
第12回	臓器売買は許されるべきか？（3）	臓器売買容認論について
第13回	臓器売買は許されるべきか？（4）	自分の身体に対する所有権について
第14回	臓器売買は許されるべきか？（5）	自己所有権の限界について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションを行ったりコメント提出を求めたりするので、受講者は、あらかじめテキストの該当箇所や関連する文献を読んで授業に臨むこと。また、各回の授業後には、配布資料を踏まえて講義内容を見直し、紹介された参考文献などを適宜読んで、そこで扱った問題や課題についての自分の意見をまとめておく。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円＋税）

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックからフロンティアまで』（法律文化社、2019年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80％、コメント等：20％の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。（春学期の「法哲学A」受講者には、秋学期の「法哲学B」の履修を優先的に認める。）あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with an explanation of the basic theories and issues in the philosophy of law.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, students are expected to understand some basic theories of philosophy of law and to form their own opinions on social issues by the perspective of philosophy of law. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%)
and submitted comments in class (20%).

LAW300LA (法学 / law 300)

法哲学B

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「正しい法とはどういうものか」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。

主要理論の解説や具体的な事例・問題の分析を通じて法哲学の基礎知識を学ぶと共に、法哲学的な観点に即した問題分析力・思考力を身に付けることが授業の目的である。

春学期開講の「法哲学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学A」とあわせて履修すること。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②現代社会の具体的な課題・問題に対して、法哲学的な視点に立って根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、社会的な問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	裁判員制度は廃止すべきか？（1）	裁判員制度の現状について
第3回	裁判員制度は廃止すべきか？（2）	裁判員制度への批判について
第4回	裁判員制度は廃止すべきか？（3）	裁判員の負担について
第5回	裁判員制度は廃止すべきか？（4）	刑事裁判の量刑の公平性について
第6回	裁判員制度は廃止すべきか？（5）	裁判員制度と死刑の関係について
第7回	裁判員制度は廃止すべきか？（6）	裁判員制度の正当化根拠について
第8回	児童手当は独身者差別か？（1）	子育て支援の現状について
第9回	児童手当は独身者差別か？（2）	児童手当の法哲学的問題点について

第10回	児童手当は独身者差別か？（3）	子育て支援制度の根拠について
第11回	児童手当は独身者差別か？（4）	ロールズの正義論について
第12回	児童手当は独身者差別か？（5）	ロールズの正義論の問題点について
第13回	児童手当は独身者差別か？（6）	リベラリズムとリバタリアニズムと功利主義の対比について
第14回	論点の総括	課題・提出物についての全体的フォローアップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションを行ったりコメント提出を求めたりするので、受講者は、あらかじめテキストの該当箇所や関連する文献を読んで授業に臨むこと。また、各回の授業後には、配布資料を踏まえて講義内容を見直し、紹介された参考文献などを適宜読んで、そこで扱った問題や課題についての自分の意見をまとめておく。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円＋税）

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80％、コメント等：20％の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

春学期開講の「法哲学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学A」とあわせて履修すること。（履修者の選抜・決定にあたっては、春学期の「法哲学A」を受講済みの学生を優先する。）

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with an explanation of the basic theories and issues in the philosophy of law.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, students are expected to understand some basic theories of philosophy of law and to form their own opinions on social issues by the perspective of philosophy of law. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%)
and submitted comments in class (20%).

POL300LA (政治学/Politics 300)

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

坂根 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本教養ゼミⅠ（囲碁で培う戦略的思考）では、囲碁のルールや基本的戦略及び歴史等を学び、対局の流れを理解する。そして、このように囲碁を学ぶことを通して、考える力、特に戦略的な思考力を身に着けることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。

【到達目標】

囲碁のルールや基本的戦略及び歴史等を理解し、初學者用の基盤での対局ができるようになることや、それらを通して、戦略的な思考力を身に着けること、及び、囲碁の歴史や現在の囲碁事情を理解することや、それらの学習成果を確認し学期末に行う各自の関心に基づく関係の発表が実施できることなどが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ガイダンスで本ゼミの説明（及び教養ゼミⅠの履修がない秋学期からの新規履修希望者多数の場合は選考又はその準備など）を実施した後、受講者を確定させる。その後囲碁の基本ルールを学び、初學者用の基盤での対局の流れと基本的戦略（初歩的技術）等を学ぶ。最後に、それらの学習成果を基に学期末に行う各自の関心に基づく発表を実施する。なお、発表に対しては授業内で検討・議論・講評等を行う。

以下の計画は、実際のゼミの進度や履修者数をはじめとした諸状況により修正・変更されることがありえる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本ゼミの説明（及び新規履修希望者多数の場合は選考又はその準備）
第2回	囲碁の歴史	囲碁の歴史についての概説
第3回	テキストの概説と効果的な時間外学習方法の紹介	テキストの概要の説明と効果的な時間外学習方法の紹介
第4回	囲碁の基本ルールと6路盤による学習の基本1	囲碁の基本ルールの解説と6路盤による学習の基本についての解説の開始
第5回	6路盤による学習の基本2	6路盤による学習の基本についての解説の継続
第6回	6路盤による学習・実践等	6路盤による学習・実践等
第7回	9路盤による学習の基本	9路盤による学習の基本についての解説
第8回	9路盤による学習・実践等1	9路盤による学習・実践の開始
第9回	9路盤による学習・実践等2	9路盤による学習・実践の継続
第10回	9路盤による学習・実践等3	9路盤による学習・実践の継続とまとめ

第11回	期末プレゼンテーションに向けた検討	9路盤による学習・実践等を踏まえた期末プレゼンテーションに向けた進捗状況や課題の検討
第12回	期末プレゼンテーション1	期末プレゼンテーションの開始
第13回	期末プレゼンテーション2	期末プレゼンテーションの継続
第14回	期末プレゼンテーション3	期末プレゼンテーションの継続とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

出された課題の準備・実施や教科書などによる学習をはじめとした時間外の学習が求められる。本演習の準備・復習に要する時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

石倉昇,梅沢由香里,黒瀧正憲,兵頭俊夫『東大教養囲碁講座―ゼロからわかりやすく』光文社,2007年。

【参考書】

日本棋院『実践囲碁総合演習―入門その後に完全対応』日本棋院,2014年。
薬科満治『囲碁文化の魅力と効用』日本評論社,2008年。

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や参加度などの平常点（60%）と期末プレゼンテーション（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

囲碁を学んだことがない又は学び始めて間もないなどの初學者が対象になる。履修を検討する者は、初回のガイダンスに必ず出席して説明を受け、履修希望の是非を決める。

本科目の定員は20名である。履修希望者多数の場合は、初回のガイダンスを含めて選考が実施され、第2回目までに履修者が確定される。本科目の履修登録は、履修者として確定してから実施されたい。

【Outline (in English)】

Main theme of this course is to learn the rules and basic strategies of Igo. By taking this course, students are expected to acquire strategic thinking. In addition, students are also expected to nourish presentation skills.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours.

Grading will be decided based on in-class performance and contribution (60%) and final presentations (40%).

POL300LA (政治学 / Politics 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

坂根 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本教養ゼミⅡ（囲碁で培う戦略的思考）では、春学期の教養ゼミⅠに続き、19路盤で学習・実践していくこと等を通して、布石を含めて春学期よりも発展的な囲碁の基本的戦略等への理解を深めていく。そして、このように囲碁を学ぶことを通して、考える力、特に戦略的な思考力を更に身に着けることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。

【到達目標】

理解した囲碁のルールを用いて先学期よりも発展した学習・実践を通して、戦略的な思考力を身に着けることや、それらの学習成果を確認し学期末に行う各自の関心に基づく関係の発表が実施できることなどが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ガイダンスで本ゼミの説明（及び希望者多数の場合は選考又はその準備など）を実施した後、受講者を確定させる。その後19路盤による対局の流れと基本的及び発展的戦略等を学ぶ。最後に、それらの学習成果を基に学期末に行う各自の関心に基づく発表を実施する。なお、発表に対しては授業内で検討・議論・講評等を行う。以下の計画は、実際のゼミの進捗や履修者数をはじめとした諸状況により修正・変更されることがありえる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本ゼミの説明（及び希望者多数の場合は選考又はその準備）
第2回	19路盤による学習の基礎的解説	19路盤による学習の基礎的学習の解説
第3回	19路盤による基礎的学習・実践等	19路盤による基礎的学習・実践
第4回	19路盤による学習の解説	基礎的学習・実践等を踏まえた19路盤による学習の解説
第5回	19路盤による学習・実践等1	19路盤による学習の解説を踏まえた19路盤による学習・実践の開始
第6回	19路盤による学習・実践等2	19路盤による学習の解説を踏まえた19路盤による学習・実践の継続
第7回	19路盤による学習の発展的解説	19路盤による学習の発展的解説
第8回	19路盤による発展的学習・実践等1	19路盤による発展的学習・実践の開始
第9回	19路盤による発展的学習・実践等2	19路盤による発展的学習・実践の継続
第10回	期末プレゼンテーションに向けた検討	19路盤による学習・実践等を踏まえた期末プレゼンテーションに向けた進捗状況や課題の検討

第11回	19路盤による発展的学習・実践等3	19路盤による発展的学習・実践の継続とまとめ
第12回	期末プレゼンテーション1	期末プレゼンテーションの開始
第13回	期末プレゼンテーション2	期末プレゼンテーションの継続
第14回	期末プレゼンテーション3	期末プレゼンテーションの継続とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

出された課題の準備・実施や教科書などによる学習をはじめとした時間外の学習が求められる。本演習の準備・復習に要する時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

石倉昇, 梅沢由香里, 黒瀧正憲, 兵頭俊夫『東大教養囲碁講座—ゼロからわかりやすく』光文社, 2007年。

【参考書】

日本棋院『実践囲碁総合演習—入門その後に完全対応』日本棋院, 2014年。

薬科満治『囲碁文化の魅力と効用』日本評論社, 2008年。

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や参加度などの平常点（60%）と期末プレゼンテーション（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

原則として、春学期に実施された本科目のⅠを履修した学生による継続履修が想定されている。Ⅰを履修していない学生の場合、囲碁の基本的なルールを理解し、19路盤での学習ができる、囲碁の初学者に限り、定員の20名に余裕があれば、これを受け入れることはありうる。

【Outline (in English)】

Main theme of this course is to learn advanced basic strategies of Igo based on study during spring semester. By taking this course, students are expected to acquire strategic thinking. In addition, students are also expected to nourish presentation skills.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours.

Grading will be decided based on in-class performance and contribution (60%) and final presentations (40%).

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー A

増淵 敏之

授業コード：Q6209 | 曜日・時限：月3/Mon.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年
 備考（履修条件等）：地理学科生は選択科目として履修する
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来の例えば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンが文化コンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特に文化コンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、日本化現象、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

The goal is for students to gain the ability to analyze and evaluate each case. In particular, we would like students to strive to understand cultural content works, the potential for local content creation, the Japanification phenomenon, and the policy framework of Cool Japan, as well as to acquire a wide range of knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

観光文脈での文化コンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。また文化コンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

We will consider the utility of cultural content in the context of tourism. The class will proceed by defining content tourism, examining its history, and introducing recent examples. As it can be said to be a new approach to regional development, it naturally comes with a variety of challenges, which will be discussed appropriately. We also plan to introduce the cultural content works themselves. The content of the class may change depending on the situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/	ガイダンス/Guidance.
第2回	コンテンツツーリズムの歴史/The history of content tourism.	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/The history of content tourism.

第3回	大河ドラマによる聖地巡礼/Pilgrimage to sacred sites through historical dramas	大河ドラマの観光的側面/Tourism aspects of taiga dramas.
第4回	司馬遼太郎と藤沢周平/Ryotaro Shiba and Shohei Fujisawa.	時代小説を巡る/Exploring historical novels
第5回	韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/the charm of the Korean drama "Winter Sonata.	韓国観光の契機/Opportunity for tourism in Korea.
第6回	「水木しげるロード」ができた理由/Why Mizuki Shigeru Road" was created.	マンガ、アニメによる観光創出/Creating tourism through manga and anime.
第7回	『らき☆すた』現象/The Lucky Star phenomenon.	アニメツーリズムの活発化/The rise of anime tourism.
第8回	テレビドラマの聖地巡礼/「silent」/「First love 初恋」/Pilgrimage to the sacred sites of TV dramas: "Silent" and "First Love"	ロケツーリズムの紹介/Introduction to location tourism.
第9回	ご当地ソング考1/Thoughts on local songs①.	JPOPを巡る旅1/A Journey Through JPOP1
第10回	ご当地ソング考2/Thoughts on local songs2	JPOPを巡る旅2/A Journey Through JPOP2
第11回	「ガールズ&パンツアー」と地域振興/"Girls & Pan Tour" and regional development.	大洗町/Oarai Town
第12回	「ラブライブ！サンシャイン!!」と地域振興/"Love Live! Sunshine!!" and regional development.	沼津市/Numazu City
第13回	スタジオジブリ作品を巡る/Explore Studio Ghibli.	「耳をすませば」「千と千尋の神隠し」など/"Whisper of the Heart" and "Spirited Away"
第14回	新海誠作品を巡る/Exploring Makoto Shinkai's works.	「秒速5センチメートル」「すずめの戸締り」/"Sparrow's Door Lock" from "5 Centimeters per Second"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。ただし状況によっては授業の内容の変更もある。Please review the class. The standard time for preparation and review is 2 hours each. However, the content of the class may change depending on the situation.

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。
The class will focus on the resume.

【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之, 彩流社
 「物語を旅するひとびと2」増淵敏之, 彩流社
 "People Traveling Through Stories" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha
 "People Traveling Through Stories 2" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha.

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

30%for regular classes, 70%for reports

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

There will also be presentations by students focusing on specific case studies.

【学生が準備すべき機器他】

映像を使用することもある。

Sometimes video is used.

【その他の重要事項】

基本的には対面で実施、オフィスアワー：月16～18時。

Classes are generally conducted face-to-face, office hours are 4-6pm Mondays.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

・『路地裏が文化を生む!：細街路とその界隈の変容』青弓社

【観光地理学】

・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと—コンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

Content tourism has been attracting attention recently. Traditionally, this would be called a "pilgrimage to sacred places," where fans become interested in cultural content works and travel to the locations where they are set. Explained in this way, it may not seem like anything new, but what is important is that content tourism today is not just a tourist context, but is linked to the regeneration and revitalization of local areas. This lecture will discuss the development of content tourism, focusing on domestic examples, and will also look at how the country will be perceived in the future and the creation of new schemes.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)	
人文地理学セミナー A	2017年度以降入学者
増淵 敏之	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位	
定員制 (30)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来の例えば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンが文化コンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特に文化コンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、日本化現象、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

The goal is for students to gain the ability to analyze and evaluate each case. In particular, we would like students to strive to understand cultural content works, the potential for local content creation, the Japanification phenomenon, and the policy framework of Cool Japan, as well as to acquire a wide range of knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

観光文脈での文化コンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。また文化コンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

We will consider the utility of cultural content in the context of tourism. The class will proceed by defining content tourism, examining its history, and introducing recent examples. As it can be said to be a new approach to regional development, it naturally comes with a variety of challenges, which will be discussed appropriately. We also plan to introduce the cultural content works themselves. The content of the class may change depending on the situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/ Guidance.	ガイダンス/Guidance.
第2回	コンテンツツーリズムの歴史/The history of content tourism.	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/The history of content tourism.

第3回	大河ドラマによる聖地巡礼/Pilgrimage to sacred sites through historical dramas	大河ドラマの観光的側面/Tourism aspects of taiga dramas.
第4回	司馬遼太郎と藤沢周平/Ryotaro Shiba and Shohei Fujisawa.	時代小説を巡る/Exploring historical novels
第5回	韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/the charm of the Korean drama "Winter Sonata.	韓国観光の契機/Opportunity for tourism in Korea.
第6回	「水木しげるロード」ができた理由/Why Mizuki Shigeru Road" was created.	マンガ、アニメによる観光創出/Creating tourism through manga and anime.
第7回	『らき☆すた』現象/The Lucky Star phenomenon.	アニメツーリズムの活発化/The rise of anime tourism.
第8回	テレビドラマの聖地巡礼/「silent」/「First love 初恋」/Pilgrimage to the sacred sites of TV dramas: "Silent" and "First Love"	ロケツーリズムの紹介/Introduction to location tourism.
第9回	ご当地ソング考1/Thoughts on local songs①.	JPOPを巡る旅1/A Journey Through JPOP1
第10回	ご当地ソング2考/Thoughts on local songs2	JPOPを巡る旅2/A Journey Through JPOP2
第11回	「ガールズ&パンツアー」と地域振興/"Girls & Pan Tour" and regional development.	大洗町/Oarai Town
第12回	「ラブライブ！サンシャイン!!」と地域振興/"Love Live! Sunshine!!" and regional development.	沼津市/Numazu City
第13回	スタジオジブリ作品を巡る/Explore Studio Ghibli.	「耳をすませば」「千と千尋の神隠し」など/"Whisper of the Heart" and "Spirited Away"
第14回	新海誠作品を巡る/Exploring Makoto Shinkai's works.	「秒速5センチメートル」「すずめの戸締り」/"Sparrow's Door Lock" from "5 Centimeters per Second"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。ただし状況によっては授業の内容の変更もある。Please review the class. The standard time for preparation and review is 2 hours each. However, the content of the class may change depending on the situation.

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。
The class will focus on the resume.

【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之, 彩流社
「物語を旅するひとびと2」増淵敏之, 彩流社
"People Traveling Through Stories" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha
"People Traveling Through Stories 2" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha.

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

30%for regular classes, 70%for reports

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

There will also be presentations by students focusing on specific case studies.

【学生が準備すべき機器他】

映像を使用することもある。

Sometimes video is used.

【その他の重要事項】

基本的には対面で実施、オフィスアワー：月16～18時。

Classes are generally conducted face-to-face, office hours are 4-6pm Mondays.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

・『路地裏が文化を生む!：細街路とその界隈の変容』青弓社

【観光地理学】

・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと—コンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

Content tourism has been attracting attention recently. Traditionally, this would be called a "pilgrimage to sacred places," where fans become interested in cultural content works and travel to the locations where they are set. Explained in this way, it may not seem like anything new, but what is important is that content tourism today is not just a tourist context, but is linked to the regeneration and revitalization of local areas. This lecture will discuss the development of content tourism, focusing on domestic examples, and will also look at how the country will be perceived in the future and the creation of new schemes.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー B

増淵 敏之

授業コード：Q6210 | 曜日・時限：月3/Mon.3
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年
 備考（履修条件等）：地理学科生は選択科目として履修する
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要としては、文化観光の一形態であるコンテンツツーリズムを軸に、その発展の過程、現状を視野に入れて論じていきます。またコンテンツツーリズムの資源である文化コンテンツそのものを生産する産業のありかたや拡張するコンテンツ（スポーツ、食文化など）にも言及していきます。授業の目的は観光行動、観光を取り巻く周辺環境の変化を読み込みつつ、コンテンツツーリズムの一般化の要因についてを明らかにすることです。意義は日本の産業振興、地域振興のために文化コンテンツの波及に寄与するコンテンツツーリズムの活用方法を学ぶことで、グローバル社会のなかでの競争優位を考える一助になる点にあります。

【到達目標】

- ・セミナーAの発展的授業です。
- ・学生がコンテンツツーリズムの資源となる文化コンテンツ産業振興政策及び企業のイノベーションを理解することができます。
- ・学生がグローバル社会の中のコンテンツツーリズムの果たす役割、コンテンツ産業の比較優位確保の重要性を理解できます。
- ・日本のみならず国際的な視点から他国（韓国）のコンテンツツーリズムの現状にも言及していきます。
- ・ This is an advanced seminar A class.
- ・ Students will be able to understand cultural content industry promotion policies and corporate innovation that are resources for content tourism.
- ・ Students will understand the role that content tourism plays in global society and the importance of securing a comparative advantage in the content industry.
- ・ We will also touch on the current state of content tourism in other countries (Korea) from an international perspective, not just in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。適宜、授業内での議論も行い、また授業の性格上、映像資料を効果的に使っていきます。
 Focus on the lecture. Discussions will be held in class as appropriate, and due to the nature of the class, video materials will be used effectively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/ guidance	授業の概要/Class outline
第2回	取り巻く環境の変化/ Changes in the surrounding environment	コンテンツを取り巻く経済、社会状況の変化についての説明/ Explanation of changes in economic and social conditions surrounding content

第3回	拡張する文化コンテンツ/Expanding cultural content	スポーツ、食文化などへと拡張する現状/The current situation is expanding to sports, food culture, etc.
第4回	文化コンテンツ産業の現状/Current state of the cultural content industry	日本の文化コンテンツ産業の概要/Overview of Japan's Cultural Content Industry
第5回	文化コンテンツ産業の東京集中と地域分散/Concentration of the cultural content industry in Tokyo and regional dispersion	文化コンテンツ産業のこれまでと今後について/The past and future of the cultural content industry
第6回	クールジャパン/Cool Japan	政府のクールジャパン政策の評価/Evaluation of the government's cool Japan policy
第7回	日本化現象/Japanification phenomenon	日本の文化コンテンツの海外波及/The spread of Japanese cultural content overseas
第8回	デジタル化と文化コンテンツ/ Digitalization and Cultural Content	流通システムの変化、バーチャル観光/Changes in the distribution system, virtual tourism
第9回	プロダクトプレイスメントとクロスメディア/Product Placement and Cross Media.	文化コンテンツ作品を活用したプロモーション/Promotion using cultural content
第10回	韓国のコンテンツ産業振興政策/Korea's content industry promotion policy	韓国のコンテンツ産業政策の評価/Evaluation of Korean content industry policy
第11回	ローカルコンテンツ/ Local content	ローカルでのコンテンツ産業創出/Creating a local content industry
第12回	メディアの変化/ Media changes	メディアの多様化/Media diversification
第13回	体験的具体例の紹介/ Introduction of experiential concrete examples	札幌、岩見沢、南魚沼、宇都宮などの事例/Cases of Sapporo, Iwamizawa, Minami Uonuma, Utsunomiya, etc.
第14回	議論（日本のコンテンツの未来）/ Discussion (Future of Japanese content)	日本のコンテンツは比較優位をどう取ればいいのか？ /How should Japanese content take a comparative advantage?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間（合計28時間）を標準とします。
 Please prepare and review. The standard time for preparation and review for this class is 1 hour each (total of 28 hours).

【テキスト（教科書）】

特にありません。PP（授業資料）を配布します。
 Nothing in particular. PP (class materials) will be distributed.

【参考書】

増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと—コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社
 増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社
 Toshiyuki Masubuchi (2010) "People Traveling Through Stories: What is Content Tourism?" Sairyusha Toshiyuki Masubuchi (2018) "Local Content and Regional Revitalization: From Tourism Creation to Industrial Promotion" Suiyosha

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%、平常点は授業での発言を評価、レポートは完成度、先行研究のサーベイ、独自性を重視して評価します。授業終了後に提出してもらいます。

Normal score 30%, report 70%, normal score evaluates remarks in class, report evaluates with emphasis on completeness, survey of previous research, and originality. Please submit after class.

【学生の意見等からの気づき】

前年度アンケートを授業に反映させていく。

The previous year's questionnaire will be reflected in the class.

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

Nothing in particular.

【その他の重要事項】

- ・セミナーAを履修してから受講されることをお勧めします。
- ・オフィスアワー月曜日16～18時
- ・実務経験者として、さまざまな地域振興に関わっていますので、携わった事例も授業内で紹介します。
- ・ We recommend taking Seminar A before taking this class.
- ・ Office hours: Mondays from 4pm to 6pm
- ・ As a person with practical experience, I am involved in various regional development projects, so I will introduce some of the cases I have been involved in during the class.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

- ・『路地裏が文化を生む! 細街路とその界隈の変容』青弓社

【観光地理学】

- ・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと—コンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

- ・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

- ・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

The outline of the class will be to discuss content tourism, a form of cultural tourism, with a view to its development process and current situation. We will also touch upon the state of the industry that produces the cultural content itself, which is the resource of content tourism, and the expanding content (sports, food culture, etc.). The purpose of the class is to clarify the factors behind the generalization of content tourism while examining changes in tourist behavior and the surrounding environment surrounding tourism. The significance is that by learning how to utilize content tourism to contribute to the spread of cultural content for the promotion of Japanese industry and regional development, it will help us consider competitive advantage in the global society.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー B

2017年度以降入学者

増淵 敏之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要としては、文化観光の一形態であるコンテンツツーリズムを軸に、その発展の過程、現状を視野に入れて論じていきます。またコンテンツツーリズムの資源である文化コンテンツそのものを生産する産業のありかたや拡張するコンテンツ（スポーツ、食文化など）にも言及していきます。授業の目的は観光行動、観光を取り巻く周辺環境の変化を読み込みつつ、コンテンツツーリズムの一般化の要因についてを明らかにすることです。意義は日本の産業振興、地域振興のために文化コンテンツの波及に寄与するコンテンツツーリズムの活用方法を学ぶことで、グローバル社会のなかでの競争優位を考える一助になる点にあります。

【到達目標】

- ・セミナーAの発展的授業です。
- ・学生がコンテンツツーリズムの資源となる文化コンテンツ産業振興政策及び企業のイノベーションを理解することができます。
- ・学生がグローバル社会の中でのコンテンツツーリズムの果たす役割、コンテンツ産業の比較優位確保の重要性を理解できます。
- ・日本のみならず国際的な視点から他国（韓国）のコンテンツツーリズムの現状にも言及していきます。
- ・This is an advanced seminar A class.
- ・Students will be able to understand cultural content industry promotion policies and corporate innovation that are resources for content tourism.
- ・Students will understand the role that content tourism plays in global society and the importance of securing a comparative advantage in the content industry.
- ・We will also touch on the current state of content tourism in other countries (Korea) from an international perspective, not just in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。適宜、授業内での議論も行い、また授業の性格上、映像資料を効果的に使っていきます。

Focus on the lecture. Discussions will be held in class as appropriate, and due to the nature of the class, video materials will be used effectively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/ guidance	授業の概要/Class outline
第2回	取り巻く環境の変化/ Changes in the surrounding environment	コンテンツを取り巻く経済、社会状況の変化についての説明/ Explanation of changes in economic and social conditions surrounding content

第3回	拡張する文化コンテンツ/Expanding cultural content	スポーツ、食文化などへと拡張する現状/The current situation is expanding to sports, food culture, etc.
第4回	文化コンテンツ産業の現状/Current state of the cultural content industry	日本の文化コンテンツ産業の概要/Overview of Japan's Cultural Content Industry
第5回	文化コンテンツ産業の東京集中と地域分散/Concentration of the cultural content industry in Tokyo and regional dispersion	文化コンテンツ産業のこれまでと今後について/The past and future of the cultural content industry
第6回	クールジャパン/Cool Japan	政府のクールジャパン政策の評価/Evaluation of the government's cool Japan policy
第7回	日本化現象/Japanification phenomenon	日本の文化コンテンツの海外波及/The spread of Japanese cultural content overseas
第8回	デジタル化と文化コンテンツ/ Digitalization and Cultural Content	流通システムの変化、バーチャル観光/Changes in the distribution system, virtual tourism
第9回	プロダクトプレイスメントとクロスメディア/Product Placement and Cross Media.	文化コンテンツ作品を活用したプロモーション/Promotion using cultural content
第10回	韓国のコンテンツ産業振興政策/Korea's content industry promotion policy	韓国のコンテンツ産業政策の評価/Evaluation of Korean content industry policy
第11回	ローカルコンテンツ/ Local content	ローカルでのコンテンツ産業創出/Creating a local content industry
第12回	メディアの変化/ Media changes	メディアの多様化/Media diversification
第13回	体験的具体例の紹介/ Introduction of experiential concrete examples	札幌、岩見沢、南魚沼、宇都宮などの事例/Cases of Sapporo, Iwamizawa, Minami Uonuma, Utsunomiya, etc.
第14回	議論（日本のコンテンツの未来）/ Discussion (Future of Japanese content)	日本のコンテンツは比較優位をどう取ればいいのか？ /How should Japanese content take a comparative advantage?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間（合計28時間）を標準とします。

Please prepare and review. The standard time for preparation and review for this class is 1 hour each (total of 28 hours).

【テキスト（教科書）】

特にありません。PP（授業資料）を配布します。

Nothing in particular. PP (class materials) will be distributed.

【参考書】

増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと—コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

Toshiyuki Masubuchi (2010) "People Traveling Through Stories: What is Content Tourism?" Sairyusha Toshiyuki Masubuchi (2018) "Local Content and Regional Revitalization: From Tourism Creation to Industrial Promotion" Suiyosha

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%、平常点は授業での発言を評価、レポートは完成度、先行研究のサーベイ、独自性を重視して評価します。授業終了後に提出してもらいます。

Normal score 30%, report 70%, normal score evaluates remarks in class, report evaluates with emphasis on completeness, survey of previous research, and originality. Please submit after class.

【学生の意見等からの気づき】

前年度アンケートを授業に反映させていく。

The previous year's questionnaire will be reflected in the class.

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

Nothing in particular.

【その他の重要事項】

- ・セミナーAを履修してから受講されることをお勧めします。
- ・オフィスアワー月曜日16～18時
- ・実務経験者として、さまざまな地域振興に関わっていますので、携わった事例も授業内で紹介します。
- ・ We recommend taking Seminar A before taking this class.
- ・ Office hours: Mondays from 4pm to 6pm
- ・ As a person with practical experience, I am involved in various regional development projects, so I will introduce some of the cases I have been involved in during the class.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

- ・『路地裏が文化を生む! 細街路とその界隈の変容』青弓社

【観光地理学】

- ・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと—コンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

- ・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

- ・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

The outline of the class will be to discuss content tourism, a form of cultural tourism, with a view to its development process and current situation. We will also touch upon the state of the industry that produces the cultural content itself, which is the resource of content tourism, and the expanding content (sports, food culture, etc.). The purpose of the class is to clarify the factors behind the generalization of content tourism while examining changes in tourist behavior and the surrounding environment surrounding tourism. The significance is that by learning how to utilize content tourism to contribute to the spread of cultural content for the promotion of Japanese industry and regional development, it will help us consider competitive advantage in the global society.

CUA300LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

文化人類学方法論 A

2017年度以降入学者

菊池 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、私たちの日常生活の場における、他者や自然や世界についての別様の「しり方」とその表現を学ぶ。自らに対する感受性を麻痺させること（自分に対する抑圧者になること）と、様々な形の暴力の問題（植民主義／開発や自然環境破壊など）との結びつきについて学ぶ。日々の暮らしの中で自分自身への感性を取り戻すことで、他者への感受性や想像力を育むことはますます重要になっている。国内外の様々な文芸作品や映像などに触れながら、自分や世界に対する感性の回復を試み、それを足場にして自他を理解する人類学の可能性を探る。思考や分析によってのみならず、感じることや「他者」に圧倒されること、自己変容することを通じて、他者や世界、そして自分を「しる」方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然と人間との関わり方について、異なる文化や社会の人々の視点や、環境破壊の現場を生きる人々の思想から理解できる。
- ・自分に対する感性の摩耗と、植民主義／開発や自然環境破壊とが地続きであることが理解できる。
- ・自然とのつながりの回復を通じて、自分自身とのつながりを取り戻すという経験について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッションの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
- ・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
- ・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
- ・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
- ・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	アラスカ先住民の世界①	・アラスカ先住民の歴史、社会、文化についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第3回	アラスカ先住民の世界②	・写真家・星野道夫の作品を朗読 ・テーマ（土地、開発、自然、死者など）についてディスカッション

第4回	アラスカ先住民の世界③	・写真家・星野道夫の作品を朗読 ・テーマ（土地、開発、自然、死者など）についてディスカッション
第5回	北米先住民と植物の世界①	・北米先住民の歴史、社会、文化についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第6回	北米先住民と植物の世界②わたしたちが享受するもの	・キマラー2018『植物と叡智の守り人』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第7回	北米先住民と植物の世界③わたしたちがお返しするもの	・キマラー2018『植物と叡智の守り人』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第8回	水俣病の思想①	・水俣病についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第9回	水俣病の思想②近代とシステム社会、「加害者」／「被害者」	・緒方2020『チッソは私であった』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第10回	水俣病の思想③魂のゆくえと救済、命のふるさと／おのれに還る	・緒方2020『チッソは私であった』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第11回	自然と自分に対する感性を取り戻す①	・文献発表、ディスカッション ・R. カーソン『沈黙の春』
第12回	自然と自分に対する感性を取り戻す②	・R.カーソン『センス・オブ・ワンダー』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第13回	自然と自分に対する感性を取り戻す③	・映像鑑賞とディスカッション
第14回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・発表、朗読に使用する文献やテキストの予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・緒方正人, 2020『チッソは私であった 水俣病の思想』河出書房新社。
- ・キマラー, R. W. 2018『植物と叡智の守り人:ネイティブアメリカンの植物学者が語る科学・癒やし・伝承』三木直子訳 築地書館。
- ・星野道夫, 1998『イニニク』新潮社。
- ・2000『ノーザンライツ』新潮社。
- ・Carson, R. 1962 Silent Spring, Houghton Mifflin. (『沈黙の春』渡辺政隆訳 光文社)
- ・1965 The Sense of Wonder: A Celebration of Nature for Parents and Children, Harper & Row. (『センス・オブ・ワンダー』新潮社 上遠恵子訳)
- (その他、必要に応じて関連資料を配布する。)

【参考書】

- ・落合一泰, 1997『東方の驚異、ワイルド・マン、インディアン、グリーザー：近代西欧＜民族人類学＞によるアメリカ大陸の＜占有＞』青木保ほか編『岩波講座 文化人類学 第1巻 新たな人間の発見』岩波書店 pp. 141-80。
- ・松村圭一郎, 2020『はみだしの人類学：ともに生きる方法』NHK出版。
- ・松村圭一郎、中川理、石井美保（編）2019『文化人類学の思考法』世界思想社。
- (その他、必要に応じて紹介する。)

【成績評価の方法と基準】

- ・発表と討論の内容、毎回のリアクション・ペーパー、授業への参加態度など平常点 (40%)
- ・学期末レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通して置いて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもある。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】

- ・ The aim of this course deals with other ways of “knowing” others, nature, and the world in our daily lives. The goal of this course is to learn the relationship between numbing one’s sensitivity to oneself (becoming one’s own oppressor) and various forms of violence (colonialism/development, destruction of the natural environment, etc.). It is becoming increasingly important to nurture sensitivity and imagination toward others by regaining sensitivity to oneself in daily life. Through various literary works and videos from Japan and abroad, students will attempt to regain sensitivity to themselves and the world, and explore the possibilities of anthropology in understanding the self and others. Students will learn ways to “know” others, the world, and themselves, not only through thinking and analysis, but also through feeling, being overwhelmed by the “other,” and self-transformation.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report (60%) and in class contribution including presentation and reaction paper (40%).

CUA300LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

文化人類学方法論B

2017年度以降入学者

菊池 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、これまでの文化人類学的研究における議論や実践を踏まえて、他者と自分を別様に理解し、表現する方法について学ぶ。1) 理性や客観的分析による理解を見直し、身体的な経験の次元から他者や社会を捉えなおそうとする人類学の情動論、2) 儀礼とパフォーマンスの人類学とにおける議論や実践、3) 文化人類学の新しい民族誌の可能性を拓いている作品に触れることを通じて学ぶ。「わからないまま」他者に圧倒され、他者との新たな関係性に自分を見いだすという、他者と自分を理解することの可能性を学ぶ。また、戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ということや新たに創造（表現）するということについて学ぶ。

【到達目標】

・人類学の情動論、儀礼とパフォーマンスの人類学的研究における議論を理解できる。
・民族誌や映像の読解だけでなく、それに揺さぶられる経験や、それを通じて他者と自分を「しる」という実践から、自他を別様に理解する方法を身につける。
・戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ということや新たに創造（表現）する方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッション、ドラマリーディングの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	情動の人類学①	情動の人類学的研究の紹介
第3回	情動の人類学②	文献発表とディスカッション
第4回	別様の「しり方」と表現①	スリランカ、内戦についての概説
第5回	別様の「しり方」と表現②	映像鑑賞
第6回	別様の「しり方」と表現③	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション
第7回	別様の「しり方」と表現④	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション

第8回	他者の傷みの「しり方」	・スリランカ内戦にまつわる憑依儀礼に関する民族誌的研究の紹介 ・ディスカッション
第9回	儀礼とパフォーマンスの人類学①	儀礼・パフォーマンス研究についての講義
第10回	儀礼とパフォーマンスの人類学②	文献発表とディスカッション
第11回	儀礼とパフォーマンスの人類学③	文献発表とディスカッション
第12回	ドラマリーディング①他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第13回	ドラマリーディング②他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・発表、ディスカッション、朗読、ドラマリーディングに使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
・発表のための資料作成やプレゼンテーション、朗読、ドラマリーディングの練習を行う。
・本授業の準備学修・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・シェークナー、R. 1998『パフォーマンス研究：演劇と文化人類学の出会い』高橋雄一郎訳 人文書院
・ターナー、V. 1996『儀礼の過程』新思索社。
・初見かおり 2001『ハレルヤ村の漁師たち：スリランカ・タミルの村 内戦と信仰のエスノグラフィー』左右社。
（その他、必要に応じて関連資料を配布する。）

【参考書】

・小栗宏太 2022「情動の人類学：感情史との対話」『文化人類学』87(1): 94-105.
・西井涼子 2013『情動のエスノグラフィー：南タイの村で感じる・つながる・生きる』京都大学学術出版会。
・西井涼子・箭内匡編 2020『アフエクトクス（情動）：生の外側に触れる』京都大学学術出版会。
・Das, V. 2015. What does Ordinary Ethics Look Like. In M. Lambek, V. Das, D. Fassin, and W. Keane (eds) Four Lectures on Ethics: Anthropological Perspectives, pp. 53-117. The University of Chicago Press.
・Lawrence, P. 1997. Work of Oracles, Silence of Terror: Notes on the Injury of War in Eastern Sri Lanka. unpublished Ph.D. thesis submitted to the Faculty of the Graduate School of the University of Colorado.
———. 2000. Violence, Suffering, Amman: The Work of Oracles in Sri Lanka's Eastern War Zone. In Veena Das et al. (eds) Violence and Subjectivity, pp.171-204. Oxford University Press.
（以上他、授業時に適宜紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

・発表内容、リアクション・ペーパー、演劇、授業への参加態度など平常点（40％）
・映像鑑賞文（10％）
・学期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通しておいて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用。

【その他の重要事項】

・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。

・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn theoretical discussion on anthropology of affect and anthropology of performance, and feeling and performing ethnography to explore possibilities of anthropology. The goals of this course are to understand different ways of understanding and expressing others and oneself. In addition, through performing a play, students will learn about what it means to "become" others, to "know" oneself. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report(50%), briefing paper on short film(10%) and in class contribution including presentation and reaction paper(40%).

PSY300LA (心理学 / Psychology 300)

人間行動学 A

2017年度以降入学者

久木田 敦志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポジティブ心理学は「よい生き方」に係る多彩な心理的働きを科学的に探究する学術分野です。人間行動学A・Bでは同分野の研究から「何が人生を生きるに値するものに至らしめるか」という包括的な問いに対する心理学的知見を得、人間に内在する心理的本質とその行動的帰着について学びます。多角的視点と深い洞察を通じて日常生活をより充実したものにし得る気づきの一助となることを目指します。

【到達目標】

人間行動学A（春学期）ではミハイ・チクセントミハイ著『フロー体験 喜びの現象学』を読み解きます。「最適経験」とも形容されるフロー現象。スポーツ等の文脈では「ゾーンに入る」と表現されることもあります。我を忘れるほどの没入感を伴って眼前の課題にのめり込む心理現象であるフロー状態を様々な角度から考察し、心理学的理論に照らしながらその心の働きと行動への影響について具体的な理解を深めつつ、実践的視点から日常の経験を振り返ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で実施します。主にゼミ形式で受講者による報告・討論を中心に進めるため、受講者の関心や授業の展開などによって授業計画の変更もあり得ます。基本構成として、課題図書を毎週一章読み進め、授業前にその考察及びディスカッションで取り上げたい質問等を提出していただきます。それを元に授業はディスカッション主体の進行となりますが、必要に応じて章の補足・解説等も行います。その他の詳細は第1回時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの概要説明 イントロダクション
第2回	発表・討論	第1章「幸福の再来」
第3回	発表・討論	第2章「意識の分析」
第4回	発表・討論	第3章「楽しさと生活の質」
第5回	発表・討論	第4章「フローの条件」
第6回	発表・討論	フローの計測
第7回	発表・討論	経験抽出法（ESM）
第8回	発表・討論	第5章「身体フロー」
第9回	発表・討論	第6章「思考のフロー」
第10回	発表・討論	第7章「フローとしての仕事」
第11回	発表・討論	第8章「孤独と人間関係の楽しさ」
第12回	発表・討論	第9章「カオスへの対応」
第13回	発表・討論	第10章「意味の構成」
第14回	総括	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ミハイ・チクセントミハイ著『フロー体験 喜びの現象学』（世界思想社、1996年）

【参考書】

教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

報告・発表およびディスカッション（討論）での参加姿勢・貢献度などを総合的に評価。内訳（配分）は、考察・ディスカッション準備課題（40%）、ディスカッション参加（40%）、学期末レポート（20%）です。成績評価項目の詳細は第1回時に説明します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講生のみなさんから、クラス全体でのディスカッションを中心にした授業形態が新鮮だった、積極的に発言する学生が多く普段できない踏み込んだ議論が楽しかった、自分で考えることを大切にできて学びが深まった、等々、温かいフィードバックを多数いただくことができました。引き続き、安心して議論を交わすことのできるディスカッション環境を丁寧に作り、学生のみなさんと共に充実した授業を迎えられるよう尽力していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: Positive psychology is an academic field that is built upon scientific investigations of psychological mechanisms behind a "good life." Drawing on the findings from the field that concern the question of "what makes life worth living," Human Behavioral Science A and B will help students expand their knowledgebase of the human mind and its inherent psychological underpinnings as well as their behavioral outcomes. The multifaceted insight acquired in the course would help students navigate a path toward an enriched everyday life.

Learning Objectives: In Human Behavioral Science A, "Flow — The Psychology of Optimal Experience" by Mihaly Csikszentmihalyi will be thoroughly covered. The phenomenon called flow, also expressed as optimal experience, or "being in the zone" in sports contexts, entails a state of complete absorption into a task at hand, so deep that even the sense of self is pushed out of consciousness. By acquiring a tangible understanding of the psychological workings behind flow and its behavioral consequences from multiple perspectives, students will also reflect on their daily lives for its applicability. Learning Activities Outside of Classroom: The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.

Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on the quality of their reports and presentations as well as their commitment and contribution to class discussions. Final grades are based on the following: reading and discussion prep assignments (40%), participation and engagement in class discussions (40%), and the final paper (20%). Details are provided during the first meeting. No exams are given.

PSY300LA (心理学 / Psychology 300)

人間行動学 B

2017年度以降入学者

久木田 敦志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポジティブ心理学は「よい生き方」に係る多彩な心理的働きを科学的に探究する学術分野です。人間行動学A・Bでは同分野の研究から「何が人生を生きるに値するものに至らしめるか」という包括的な問いに対する心理学的知見を得、人間に内在する心理の本質とその行動的帰着について学びます。多角的視点と深い洞察を通じて日常生活をより充実したものにし得る気づきの一助となることを目指します。

【到達目標】

人間行動学B（秋学期）ではクリストファー・ピーターソン著『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』を精読し、ウェルビーイングについての科学研究を多角的に学びます。「幸せ」の多面的側面に触れ、その心理学研究の展開を追うことで、よりよく生きるための方途を模索し、その過程にある人間の心理と行動への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で実施します。主にゼミ形式で受講者による報告・討論を中心に進めるため、受講者の関心や授業の展開などによって授業計画の変更もあり得ます。基本構成として、課題図書を毎週一章読み進め、授業前にその考察及びディスカッションで取り上げたい質問等を提出していただきます。それを元に授業はディスカッション主体の進行となりますが、必要に応じて章の補足・解説等も行います。その他の詳細は第1回時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの概要説明 イントロダクション
第2回	発表・討論	第1章「ポジティブ心理学とは何か？」
第3回	発表・討論	第2章「ポジティブ心理学について学ぶとは」
第4回	発表・討論	第3章「気持ちよさとポジティブな経験」
第5回	発表・討論	第4章「幸せ」
第6回	発表・討論	第5章「ポジティブ思考」
第7回	発表・討論	第6章「強みとしての徳性」
第8回	発表・討論	第7章「価値観」
第9回	発表・討論	第8章「興味、能力、達成」
第10回	発表・討論	第9章「ウェルネス」
第11回	発表・討論	第10章「ポジティブな対人関係」
第12回	発表・討論	第11章「よい制度」
第13回	発表・討論	第12章「ポジティブ心理学の未来」
第14回	総括	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

クリストファー・ピーターソン著『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（春秋社、2012年）

【参考書】

教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

報告・発表およびディスカッション（討論）での参加姿勢・貢献度などを総合的に評価。内訳（配分）は、考察・ディスカッション準備課題（40%）、ディスカッション参加（40%）、学期末レポート（20%）です。成績評価項目の詳細は第1回時に説明します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講生のみなさんから、クラス全体でのディスカッションを中心にした授業形態が新鮮だった、積極的に発言する学生が多く普段できない踏み込んだ議論が楽しかった、自分で考えることを大切にできて学びが深まった、等々、温かいフィードバックを多数いただくことができました。引き続き、安心して議論を交わすことのできるディスカッション環境を丁寧に作り、学生のみなさんと共に充実した授業を迎えられるよう尽力していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: Positive psychology is an academic field that is built upon scientific investigations of psychological mechanisms behind a "good life." Drawing on the findings from the field that concern the question of "what makes life worth living," Human Behavioral Science A and B will help students expand their knowledgebase of the human mind and its inherent psychological underpinnings as well as their behavioral outcomes. The multifaceted insight acquired in the course would help students navigate a path toward an enriched everyday life.

Learning Objectives: In Human Behavioral Science B, "A Primer in Positive Psychology" by Christopher Peterson will be used as the main text to examine a wide range of scientific studies on well-being. Through exposure to multidimensional definitions of "happiness" and following the course of psychological investigations on the topic, students will reflect on their personal endeavors for a good life while deepening their understanding of human psychology and the behavior involved in the process.

Learning Activities Outside of Classroom: The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.

Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on the quality of their reports and presentations as well as their commitment and contribution to class discussions. Final grades are based on the following: reading and discussion prep assignments (40%), participation and engagement in class discussions (40%), and the final paper (20%). Details are provided during the first meeting. No exams are given.

PSY300LA (心理学 / Psychology 300)

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、臨床心理学（カウンセリング）に関する文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考える。

【到達目標】

臨床心理学（カウンセリング）の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につける。また、本授業がめざす目標をさらに深化させるために、教養ゼミⅡ「心理的ウェルビーイングを考えるB」を連続履修することを期待する。

最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式（学生発表と討論）で行う。指定された箇所について担当学生が発表を行い、それについてクラス全体で討論する。

受講希望者が多い場合は、第1回目の授業で実施する簡単な試験により選抜を行う（定員30名）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。	授業の概要を説明し、受講者が多い場合に選抜の参考とする簡単な試験を実施する。
第2回	試験の解説および今後の予定について。	第1回の授業で実施した試験の解説をする。また、学生発表の順番を決定する。
第3回	『カウンセリングを考える・上』第1章「現代社会とカウンセリング」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・過渡期の日本社会：欧米文化の流入と日本人のこころ。
第4回	『カウンセリングを考える・上』第2章「カウンセリングにおける家族の問題」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・以心伝心からコミュニケーションの時代へ。
第5回	『カウンセリングを考える・上』第3章「不登校カウンセリング」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・自分を生きることの難しい日本。

第6回	『カウンセリングを考える・上』第4章「いじめとカウンセリング」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・母性社会日本の持つ圧力。
第7回	『カウンセリングを考える・上』第5章「事例研究の大切さ」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・事例研究が人間に対する知識を深化させる。
第8回	『カウンセリングを考える・上』第6章「カウンセラーの資格と責任」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・カウンセラーに資格はあるのか、カウンセラーにどこまで責任があるのか。
第9回	『カウンセリングを考える・下』第1章「新しい家族関係」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・欧米化の中で日本の家族はどのように変わってきたか、変わっていくべきか。
第10回	『カウンセリングを考える・下』第2章「ユング心理学から見た禅体験」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・禅体験はユング心理学によってどう説明できるか。
第11回	『カウンセリングを考える・下』第3章「カウンセリングにおける男性と女性」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・男性の女性性、女性の男性性（アニマ、アニムスの問題）。
第12回	『カウンセリングを考える・下』第4章「カウンセラーのための児童文学」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・児童文学を通して生き生きとした人間の姿、あり方を考える。
第13回	『カウンセリングを考える・下』第5章「『生きる』ということ」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・人間が生きたとはどういうことなのか。
第14回	授業の総括。	学期を通してのまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備をしておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。また、授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら、日常を生きること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

河合隼雄著『カウンセリングを考える・上・下』（創元社、1996年／創元こころの文庫、2015年）。また、発表担当者の作成するレジュメを使用する。テキストはできる限りPDF化し、授業支援システムにアップする。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分で評価する。
授業への取り組み（50%）＋ 期末レポート（50%）
レポートの字数はクラスで発表した学生は2,000字以上、発表しなかった学生は3,500字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に討論に参加できるような、できるだけ身近で、具体的なテーマで授業を展開していく。

【Outline (in English)】

Psychological well-being is a concept which is defined as lives going well. It is the combination of feeling good and functioning effectively as a member of society. In this seminar, students will read books and articles about counselling and discuss issues about children's refusal to go to schools, domestic abuse and violence, bullying (called "Ijime"), etc., which have been witnessed in recent Japanese society. Through such readings and discussions, students will learn what psychological well-being means and how we can attain it.

PSY300LA (心理学 / Psychology 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、文化心理学、ポジティブ心理学の文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考える。

【到達目標】

文化心理学、ポジティブ心理学の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につける。特に、文化心理学の観点からは心の働きと文化の関係について学ぶ。また、ポジティブ心理学の分野で注目されるフロー理論、ポジティブ感情の拡張—形成理論を紹介しながら、人間の最適な発達、精神的健康、充実した人生といったことについても考える。

本授業がめざす目標を深化させるために、教養ゼミⅠ「心理的ウェルビーイングを考えるA」からの連続履修を期待する。

最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式（学生発表と討論）で行う。指定された箇所について担当学生が発表を行い、それについてクラス全体で討論する。

受講希望者が多い場合は、第1回目の授業で実施する簡単な試験により選抜を行う（定員30名）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。	授業の概要を説明し、受講者が多い場合に選抜の参考とする簡単な試験を実施する。
第2回	試験の解説および今後の予定について。	第1回の授業で実施した試験の解説をする。また、学生発表の順番を決定する。
第3回	『日本人のしつけと教育』第1章「意欲の構造」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人とアメリカ人の意欲構造の違いについて。
第4回	『日本人のしつけと教育』第2章「役割社会と受容的勤勉性」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人に見られる受容的勤勉性はどのようにして培われたのか。
第5回	『日本人のしつけと教育』第3章「内在モデルとしてのいい子」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人とアメリカ人のいい子像とは。
第6回	『日本人のしつけと教育』第4章「『気持ち』への関心」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・なぜ日本人は人の気持ちに敏感なのか。

第7回	『日本人のしつけと教育』第5章「滲み込み型」と「リカ型」の教え込み教育を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本型の滲み込み教育とアメリカ型の教え込み教育。
第8回	『日本人のしつけと教育』第6章「道徳意識と道徳判断」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人の道徳意識と道徳判断に影響を与えるものは：他者の目と神の目。
第9回	『日本文化のゆくえ』第1章「『私』さがし」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・「私」さがし：自分の外に向かうのか自分の内に向かうのか。
第10回	『日本文化のゆくえ』第7章「異文化体験の軌跡」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・内なる異文化に気づくこと。
第11回	『ひきこもり文化論』第4章「『甘え文化』と『ひきこもり』—比較文化的考察」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・「ひきこもり」をつくりだす日本の社会、文化。
第12回	ポジティブ感情の機能に関する文献を読む。	・担当者の発表と議論。 ・ポジティブな感情には人を成長させる機能がある。
第13回	フロー理論に関する文献を読む。	・担当者の発表と議論。 ・充実感、没入感覚を伴う楽しい経験としてのフローとそれを通しての人間の成長。
第14回	授業の総括。	学期を通してのまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備をしておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。また、授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら、日常を生きること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

①東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994年）、②河合隼雄著『日本文化のゆくえ』（岩波現代文庫、2013年）、③斎藤環著『ひきこもり文化論』（ちくま学芸文庫、2016年）。また、ポジティブ心理学に関する文献および授業で使用するテキストはできる限りPDF化し、授業支援システムにアップする。

授業では、発表担当者の作成するレジュメを使用する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分で評価する。

授業への取り組み（50%）＋ 期末レポート（50%）

レポートの字数はクラスで発表した学生は2,000字以上、発表しなかった学生は3,500字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に討論に参加できるような、できるだけ身近で、具体的なテーマで授業を展開していく。

【Outline (in English)】

This is a continuation of the seminar from the spring semester. Psychological well-being is a concept which is defined as lives going well. It is the combination of feeling good and functioning effectively as a member of society. In this autumn seminar, students will read books and articles about cultural and positive psychologies and discuss how we can attain psychological well-being from different psychological perspectives from those we discuss in the spring term. Through these learning experiences, this course hopes students to obtain abilities to capture human beings from different perspectives and angles.

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 300）

沖縄を考えるA

2017年度以降入学者

中野 勝郎、大里 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形に残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、オムニバス形式でおこないます。シラバス作成時点では各回の担当講師が決まっていないため、シラバスの内容は暫定的です。

初回の授業までには、Hopiiで確定版のシラバスをアップします。沖縄文化研究所HPでも公開しますので確認してください。

授業はすべて対面でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄を知るための基礎知識①	沖縄についての調べ方、学習の仕方
3	沖縄を知るための基礎知識②	沖縄の歴史と地理に関する概説
4	琉球沖縄の歴史①	考古学からみた琉球沖縄（先史時代）
5	琉球沖縄の歴史②	「古琉球」時代
6	琉球沖縄の歴史③	「近世琉球」時代
7	琉球沖縄の歴史④	「近代沖縄」
8	琉球沖縄の歴史⑤	「沖縄戦」
9	琉球沖縄の歴史⑥	「戦後沖縄」
10	琉球沖縄の文化①	琉球沖縄の言語
11	琉球沖縄の文化②	琉球沖縄の文学
12	琉球沖縄の文化③	琉球沖縄の芸能①
13	琉球沖縄の文化④	琉球沖縄の芸能②
14	春学期のまとめ	琉球沖縄を再考する視点をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域的位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（100点満点）と出席票（リアクションペーパー付き）（13回×7.7点＝100点満点）を掛け合わせた値の平方根によって成績評価をします。学期末レポートの作成の仕方については、追って指示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この春学期の授業の前半は基礎的な内容に重点を置いており、秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 300）

沖縄を考える B

2017年度以降入学者

中野 勝郎、大里 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形に残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、オムニバス形式でおこないます。シラバス作成時点では各回の担当講師が決まっていないため、シラバスの内容は暫定的です。

初回の授業までには、Hopiiで確定版のシラバスをアップします。沖縄文化研究所HPでも公開しますので確認してください。

授業はすべて対面でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄の政治①	沖縄の政治問題
3	沖縄の政治②	日本の中の沖縄
4	沖縄の社会①	沖縄の経済
5	沖縄の社会②	沖縄のジェンダー問題
6	琉球沖縄の芸術①	琉球沖縄の美術工芸
7	琉球沖縄の芸術②	琉球沖縄の音楽
8	平和を考える①	沖縄の視点から平和を考える①
9	平和を考える②	沖縄の視点から平和を考える②
10	沖縄の自然環境①	沖縄の自然
11	沖縄の自然環境②	沖縄の環境問題
12	琉球沖縄の文化①	琉球沖縄の食文化
13	琉球沖縄の文化②	琉球沖縄の祭祀
14	秋学期のまとめ	「万国津梁」と沖縄

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（100点満点）と出席票（リアクションペーパー付き）（13回×7.7点≒100点満点）を掛け合わせた値の平方根によって成績評価をします。

学期末

レポートの作成の仕方については、追って指示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この春学期の授業の前半は基礎的な内容に重点を置いており、秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ECN300LA (経済学 / Economics 300)

ヨーロッパ政治経済論 A

2017年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ政治経済論Aでは、国際政治経済学の基礎理論を学んだ上で、国際体制の基本構造とその体制の中で主軸となってきたヨーロッパの歴史的展開を、EUの経済政治統合（EU統合）の歩みとともに学んでいきます。そしてグローバル市場化の進行による国際体制の構造的変容の中でのEUの新たな立ち位置を踏まえて、世界が直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対し考察出来るベースを身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

- ・政治経済学のアプローチを身に付けられる。
- ・世界動向への基盤となる基礎知識を体系的に身に付けられる。
- ・米中だけでなく、もう1つの主軸であるヨーロッパを知ることで、国際社会の変容と直面する問題を体系的に把握し、それらを解釈、論議していける力を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とします。

必要に応じて英語での解説も加えます。

後半にグループディスカッションが入ります。

最終回（第14回）に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	政治と経済 国際体制の変容の理論 学際的アプローチとしての国際政治経済学
2	国際政治経済学基礎理論 1	国際秩序と国際ガバナンス構造を巡る体制論 (理念、思想としてのリアリズム、リベラリズム、マルクス主義)
3	国際政治経済学基礎理論 2	新たな学際アプローチへの基礎理論 (重商主義、バランスオブパワーの基礎理論としての古典派経済学(アダム・スミス、リカード、J.Bセイ))
4	国際政治経済学基礎理論 3	「埋め込まれた自由主義」と国際協調への理論基礎 (ケインズ経済学の思想と理論)
5	19世紀ガバナンス体制	19世紀ガバナンス体制の成立と行き詰まり
6	ブレトンウッズ体制	戦後ブレトンウッズ体制の成立と展開
7	欧州統合の展開 1	ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての欧州統合の展開

8	欧州統合の展開 2	ECからEUへ 統合深化と拡大の歩み 欧州連合の成立とユーロの誕生
9	グローバル市場化の進行と国際ガバナンスの分断	グローバル化の進行 グローバル化の暴走と世界金融危機 (リーマンショックの展開と衝撃)
10	グローバル市場化と国際ガバナンスの分断	欧州国家債務危機 EUソブリン危機の波及と帰結
11	反グローバリズムの台頭とEUの分断危機	世界格差の進行と反グローバリズムの台頭 閉じる帝国化とレジリエンス 歴史的危機の位相
12	反グローバリズムの波及と反統合、EU民主主義の危機	反グローバリズムの世界的台頭 と極右反欧州主義勢力の台頭 政治分断化とEU民主主義の危機
13	EUの東欧拡大とウクライナ戦争	EU統合拡大の文脈から見たウクライナ戦争
14	期末試験およびまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習1時間、復習時間3時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験＝80%

課題およびディスカッション評価：20%

【学生の意見等からの気づき】

世界で起こっている様々な問題をより深く理解できるようになった、ヨーロッパの現状について理解が深まったなど、感想をいただきました。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

「ヨーロッパ政治経済論B」では、直面する問題とEUの新たな役割、日本への示唆へと発展的に学びを進めるので、合わせて受講することをお勧めします。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

This course provides a comprehensive overview to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as case studies to provide further understanding on world issues.

At the end of the course, students

- ・ Should have gained a good grasp of the fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.

- ・ Should have comprehensive knowledge about EU and its relation in the world.

- ・ Should have acquired a firm base for pursuing further studies in political economy as well as ongoing crisis in the world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

Your overall grade will be decided 80%on Term-end examination and 20 %on reports as well as contribution in discussions.

ECN300LA (経済学 / Economics 300)

ヨーロッパ政治経済論 B

2017年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ政治経済論 B では、ヨーロッパ政治経済論 A で学んだ内容を掘り下げ、世界経済のグローバル統合の進行に伴う国際社会の構造変化、国際ガバナンス構造の変容が生起した問題、課題への学習を進めます。具体的には、グローバル市場化と国際経済構造の変容、グローバル市場化の暴走と社会の分断、EU の分断化と政治危機、市場と国家の力学構造の変質等を取り上げ、EU が地域統合の発展過程で培ってきた多様性の中での統合の知見とソフトパワーの活用を含め、変容する国際社会の中で、現在直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対する EU の新たな立ち位置と役割を考察していきます。欧州の歴史上の展開と国際ガバナンス体制の変容の実態を深く理解することで、グローバルな視点から日本への示唆を考察していく知識と力も同時に身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

- ・政治経済学のアプローチを通じて世界を理解出来るようになる。
- ・国際社会の実態と問題、課題の把握に不可欠なヨーロッパについて、専門基礎のレベルで体系的に知識を身に付け、国際的な視座から直面する問題、課題を把握し、論じていける知識基盤と力を身に付けていける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心とします。

必要に応じて英語での解説を加えます。

授業後半にグループディスカッションを行います。

最終回（第14回）に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ヨーロッパ政治経済論 A のレビュー	政治経済学とは ヨーロッパとは
2	国際政治経済学専門基礎理論	国際ガバナンスへの学際アプローチの思想と理論 (体制思想としてのリベリズム、リアリズム、マルキシズム、学際アプローチに向けたバランスオブパワーの理論ベースとしての古典派経済学、埋め込まれた自由主義と国際協調体制への理論、ケインズ経済学)
3	国際システムとガバナンス体制	国際システムとガバナンス体制 (市場経済と統治、史的推移5つのフェーズ)
4	戦後の米ドル、ブレトンウッズ体制の成立と欧州共同体 (EC) の形成	戦間期から ECSC、EC 形成への目的と意義 ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての位置づけと限界 通貨統合計画の挫折と統合の行き詰まり

5	市場統合計画の推進と統合拡大を経て欧州連合への基盤形成	経済統合の深化、拡大と EC 機構の整備拡充 欧州の戦後体制の終焉、その実態と意義
6	市場統合の深化と通貨統合の実現、EU 連合の成立からリスボン条約へ	通貨統合の意義 条約としながら欧州憲法の中身をもつリスボン条約 政治体制としての欧州連合の位置づけ
7	グローバル市場化の進行と国際経済構造の変容	情報ネットワーク化と規制緩和が決定づけたグローバル市場化の光と影
8	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断 1	リーマンショック ギリシャ危機とユーロクライシス、EU 国家債務危機
9	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断 2	ポピュリズムと自国ファースト、極右の台頭と EU 内部分断の政治危機
10	統合への疑念と分断、英国の EU 脱退 (BREXIT)	英国と大陸欧州 参加の損益と機能的統合 (英国) vs 理念と制度的統合の根源的相違 防衛・安全保障では存在大きい英国とのねじれの関係
11	市場と国家の力学構造の変質	情報プラットフォーム革命 グローバル経済統合の進行が国家と市場の力学構造を変える 同時に国家間の分断と相互の力学関係を変え、中国の台頭に伴う覇権国家構図と国際関係の変容を含め、国際ガバナンス構造の変容を生起
12	グローバル化の進行と地域統合、EU の果たす役割と日本への示唆	ハードパワーとソフトパワー 多様性の中の統合で積み上げたノウハウと企画政治力としてのソフトパワー グリーンディール、SDGs における主導的役割 EU の立ち位置と日本への示唆
13	ウクライナ戦争 新たな欧州新秩序への模索	EU の対ロシア 東欧政策とウクライナ戦争 欧州新秩序への鍵握る国際エネルギー構造の変化の中での対ソ依存からのシフト
14	期末試験とまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 = 80%

課題およびディスカッションへの参加 = 20%

【学生の意見等からの気づき】

国際社会が直面する様々な問題、特にロシア・ウクライナ問題に対する EU の立ち位置が理解できた、また変容するグローバル社会における EU の役割を理解できた、などの感想をいただきました。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

本講義は、基礎となる「ヨーロッパ政治経済論 A」をあらかじめ受講しておくことをお勧めします。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

This course provides a further understanding to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as analysis and case studies to provide further understanding on Europe and related world issues.

At the end of the course, students

- ・ Should have the ability to use fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
- ・ Should have improved her/his skills in analyzing important political events around Europe and across the globe.
- ・ Should have acquired a firm base for pursuing further research in the European Union and elsewhere in the world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

Your overall grade will be decided 80%on Term-end examination and 20 %on reports as well as contribution in discussions.

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

数理論理学 A

2017年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理とは何か 〜〜 まずは最小限の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること（理論が複数あるという事実とは別のこと）を知るための第一歩として、どの論理にも共通する最小論理について学ぶ。それは後に論理を広げて次のような例を考えるときの準備となる。

〜〜〜

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた（あるいは、いる）ことが、**論理的に証明**できる。（クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。）

〜〜〜

クシャミ大王の存在証明が可能な論理をつくるためには、この授業で扱う最小論理に何らかのものを付け加える必要がある。最小論理を直観主義論（人の論理）、さらには古典論理（神の論理）まで広げるのである。その付加するものの役割を理解するため、まずは論理の共通部分とは何かについて学んでゆく。

【到達目標】

最小論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クシャミ大王	授業概要の説明
第2回	「かつ」を壊す	連言の除去
第3回	「かつ」を作る	連言の導入
第4回	「または」を壊す	選言の除去
第5回	「または」を作る	選言の導入
第6回	「ならば」を壊す	含意の除去
第7回	「ならば」を作る	含意の導入
第8回	「でない」を壊す	否定の除去
第9回	「でない」を作る	否定の導入
第10回	「すべて」を壊す	全称量化の除去
第11回	「すべて」を作る	全称量化の導入

第12回	「ある」を壊す	存在量化の除去
第13回	「ある」を作る	存在量化の導入
第14回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門 [新装版]』（日本評論社）2005年（初版1967）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

- （1）秋期科目「数理論理学B」の予備知識となる内容を含む。
- （2）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理2（数理論理学）A」。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in minimal logic.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to construct proof-figures in minimal logic.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

数理論理学 B

2017年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**論理とは何か 〜〜 人の論理、さらには神の論理**

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること（理論が複数あるという事実とは別のこと）を知り、その中でも古典論理（神の論理）と直観主義論理（人の論理）について学ぶ。次のような例を考えると、二つの論理に違いが現れてくる。〜〜

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた（あるいは、いる）ことが、**論理的に証明**できる。（クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。）〜〜

ここでいう論理的な証明は、「神の論理」における証明である。われわれは実は何の疑問もなく「神の論理」を用いることがある。一方、「神の論理」の無制限な使用を自省することにより得られた「人の論理」においては、クシャミ大王の存在を一般には示すことができない。春期授業の最小論理に何を加えとこれらの論理ができるのかについて学んでゆく。

【到達目標】

直観主義論理および古典論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今できること	最小論理
第2回	万能薬	量量子の順序
第3回	矛盾がどうした	否定と含意
第4回	矛盾が生み出す	矛盾の推論
第5回	人の論理	直観主義論理
第6回	どちらかだ	排中律
第7回	神の論理	古典論理
第8回	クシャミ大王再考	古典論理の応用
第9回	別の顔	背理法

第10回	得意分野	古典論理の表現
第11回	真か偽か	古典論理の意味論
第12回	まだわからない	可能世界
第13回	人の論理とは	直観主義の意味論
第14回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門〔新装版〕』（日本評論社）2005年（初版1967）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

（1）春期科目「数理論理学 A」で扱う内容を既知として授業を進める。

（2）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理 2（数理論理学）B」。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

This course deals with basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in intuitionistic and classical logic.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to construct proof-figures in intuitionistic and classical logic.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

計算と言語のしくみ

2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景の下で、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組みに焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようにになっているか?」「そうした機械仕掛けの上で、言語に関する様々な処理ができるのは何故なのか?」などの疑問に対して解説・実験する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの仕組みを理解すること」を目標としている。（例えば、電卓とPCの違いを尋ねられた時、皆さんは説明できるでしょうか?）また、「コンピュータでの言語処理に関する幾つかの活用方法を体験して、その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている。（例えば、コンピュータに大量の文章データを機械学習させると、各単語を数値データとして捉えるようになり「東京-日本+フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります。同様に「法政大学-東京+大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるでしょうか? 実験してみれば簡単に確認できます。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の様子なども考慮して対応する。学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違い易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	PCが動作する様子とその特徴を紹介する。
第02回	計算機の歴史	コンピュータ開発の歴史を解説する。
第03回	計算できる言語(1)	電卓的な機械の仕組みについて解説する。
第04回	計算できる言語(2)	電卓的な仕組みで計算できる言語について紹介する。
第05回	計算できる言語(3)	そのような言語の計算を日常文書の編集に活用する例を学ぶ。
第06回	計算できる言語(4)	そのような言語の計算を表計算に活用する例を学ぶ。
第07回	計算機のしくみ(1)	汎用コンピュータの理論的な仕組みについて紹介する。
第08回	計算機のしくみ(2)	現代的なコンピュータの仕組みについて説明する。
第09回	計算機のしくみ(3)	コンピュータにおける文字・数値の表現を確認する。

第10回	自然言語とAI(1)	Web上でプログラムを動かす方法を確認する。
第11回	自然言語とAI(2)	日本語の文章を品詞に分解する方法を学ぶ。
第12回	自然言語とAI(3)	「吾輩は猫である」の全文を機械学習させてみる。
第13回	自然言語とAI(4)	学習済みAIを用いて法政大学のシラバス文章を分析する。
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)、計算機を使う小課題(50%)を行い、平常点(10%)と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整（例えば、機械学習による自然言語処理の内容を多めにするなど）に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（予備知識のない学生にとって負担にならない内容の体験ができれば十分と思っています。実験についても、特別な電算環境は必要なく、Webが普通に使えれば十分（このWebシラバスが読める方でしたら大丈夫）です。課題などは、自由に相談しながら気軽に進められるようにしたいと思います。）

【Outline (in English)】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation of computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

コンピュータと数理の活用 2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学で勉強する様々な計算方法は理にかなったものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い。（平均値を計算する方法自体は分かっているが、実際に1000人分のデータの平均値を手で計算する人はいない。）一方で、身の回りには問題がむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたいという現状がある。こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力不足を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める経験は重要となる。そこで、講義では、様々な分野の中で「数学の計算方法」と「コンピュータの計算力」を組合せて活用する事例を体験することを主な目的としている。

【到達目標】

講義では「プログラムを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「コンピュータと数理を組み合わせることの良さを体験し（場合によっては自分好みに調整して）活用の勘を養うこと」を目標としている。（各々の事例で扱う数学の内容は独立していて、1つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないことになります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の様子なども考慮して対応する。学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決の流れを確認する。
第02回	コンピュータで数学(1)	Web上でプログラムを実行する方法について説明する。
第03回	コンピュータで数学(2)	大政奉還があった日は何曜日から計算してみる。
第04回	コンピュータで数学(3)	SymPyと呼ばれる関数電卓機能を統計に活用してみる。
第05回	平方根の計算(1)	開平方と呼ばれる筆算で平方根を計算してみる。
第06回	平方根の計算(2)	より効率的な方法で平方根を限りなく正確に計算してみる。
第07回	行列の応用(1)	数学の知識として、行列の掛算について学ぶ。
第08回	行列の応用(1)	行列の掛算を行うプログラムを紹介する。
第09回	行列の応用(3)	今後100年間の日本の世代人口の推移を予測する。
第10回	経営計画への応用(1)	上手な経営計画を立てるための数学分野を紹介する。

第11回	経営計画への応用(2)	上手な経営計画を立てるプログラムを紹介する。
第12回	経営計画への応用(3)	プログラムを利用して経営計画の最適化を行ってみる。
第13回	機械学習への応用	機械学習を行うプログラムを紹介する。
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)、計算機を使う小課題(50%)を行い、平常点(10%)と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（予備知識のない学生にとって負担にならない内容の体験ができれば十分と思っています。実験についても、特別な電算環境は必要なく、Webが普通に使えれば十分（このWebシラバスが読める方でしたら大丈夫）です。課題などは、自由に相談しながら気軽に進められるようにしたいと思います。）

【Outline (in English)】

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

確率の世界 A

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついて入っている人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味をもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要
第2回	確率の基礎 1	確率とは
第3回	確率の基礎 2	確率の性質
第4回	確率の基礎 3	確率空間とは
第5回	確率の基礎 4	事象の独立性
第6回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第7回	確率の基礎 6	期待値とは
第8回	確率の基礎 7	期待値の性質
第9回	確率の基礎 8	分散とは
第10回	確率分布 1	分散の性質
第11回	確率分布 2	二項分布とは
第12回	確率分布 3	二項分布の性質
第13回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in probability. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

確率の世界 B

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついていない人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味のもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要
第2回	様々な分布 1	離散分布とは
第3回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第4回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第5回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第6回	様々な分布 5	正規分布とは
第7回	様々な分布 6	正規分布の性質
第8回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第9回	推定と検定 1	標本の定義
第10回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第11回	推定と検定 3	点推定
第12回	推定と検定 4	区間推定
第13回	推定と検定 5	仮説と棄却
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「確率の世界A」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in statistics. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

相対性理論と宇宙 A

2017年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起きているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】

- ・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験を通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは2地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ（距離）の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起きている現象（事象とも呼ぶ）を抽象的に表現する方法である時空図について学ぶ。

[9]	速度の合成則と質量	動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について
[10]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。
[11]	核融合反応	太陽の中で起こっている核融合反応について学ぶ。
[12]	ミューオン	ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。
[13]	反物質	相対論により存在が予言された反粒子について学ぶ、
[14]	まとめ	特殊相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回学習支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：
 ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著
 （ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）
 ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論
 （ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）
 （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(60%)と小テスト等の平常点(40%)から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the special theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

相対性理論と宇宙 B

2017年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】

- ・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリングと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がり	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々を形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。
[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっていくのか考える。

- [12] ブラックホール（1） ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
- [13] ブラックホール（2） 銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
- [14] 重力波 重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：
 ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか /福江純著
 （ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）
 ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論
 （ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）
 （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(60%)と小テスト等の平常点(40%)から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the general theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

現代の錬金術 A

2017年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか?」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。
- ・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。

春学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第13回授業においてその講評や解説を行う。

講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第2回	原子は存在するか？（1）—化学反応の基本法則	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第3回	原子は存在するか？（2）—気体の法則	気体の法則と分子運動論について
第4回	原子は存在するか？（3）—気体の分子運動論	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第5回	原子は構造を持つのか？（1）—元素の周期律	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第6回	原子は構造を持つのか？（2）—電気分解や原子が出す光	第5回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する
第7回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について

第8回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第9回	原子構造（1）—電子配置からわかること	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第10回	原子構造（2）—量子力学の世界	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第11回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第12回	原子核と放射線	放射性同位体や半減期に特に注目しながら、原子核がどのようなものかを解説する
第13回	春学期のまとめ（1）と関連する話題	春学期中に実施した小テストの解説を通して授業内容を振り返るとともに、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する
第14回	春学期のまとめ（2）と試験	春学期の授業内容のまとめを行うとともに、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、春学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・Explain attempts and difficulties of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・Discuss the evidences that indicates the existence of atoms
- ・Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination (70%) and usual performance score (30%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

現代の錬金術 B

2017年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか?」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金(元素)を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。

本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。

秋学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第13回授業においてその講評や解説を行う。

講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	20世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第2回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第3回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第4回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する
第5回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第6回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第7回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する

第8回	標準模型	第7回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第9回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する
第10回	宇宙における元素合成（1）—ビッグバン	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。
第11回	宇宙における元素合成（2）—恒星内の元素合成	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第12回	宇宙における元素合成（3）—恒星の最期と超新星爆発	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第13回	現代の錬金術	これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する。また、秋学期中に実施した小テストの講評や解説を行う。
第14回	まとめと試験	秋学期授業のまとめを行い、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、秋学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in the modern physics
- ・ Explain the origin of matters in the universe
- ・ Discuss the possible alternative to alchemy based on the knowledge of the modern physics

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination (70%) and usual performance score (30%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

原子核と素粒子 A

2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には（最近命名された原子番号113番ニホニウムなどを含めて）どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義の全体的な紹介する。
第2回	元素の周期表	元素周期表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第3回	元素の存在比（地球）	地球上の生物や地球を構成する元素について紹介する。
第4回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体を構成する元素について、最新研究も含めて紹介する。
第5回	結晶構造	物体は3次元的に規則正しい立体構造をもっている。そのいくつかの例を紹介する。
第6回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について紹介する。
第7回	原子のスペクトル	原子からはどのような光（電磁波）が放出される仕組みについて解説する。
第8回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、その過程について紹介する。
第9回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について紹介する。

第10回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について紹介する。
第11回	原子の構造（電子配置）	第5回の内容に関して、物体が立体構造をもつ仕組みについて紹介する。
第12回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について紹介する。
第13回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第14回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course introduces the atom and nucleus. In particular, it is introduced that the abundance ratio of elements not only on the earth but also in the universe, and the structure of atom and nucleus. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

原子核と素粒子B

2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はいったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義全体の説明と共に、20世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第2回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第3回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて紹介する。
第4回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について紹介する。
第5回	核分裂反応の応用	核分裂反応の応用である原子炉の構造などについて紹介する。
第6回	核融合反応の応用	熱核融合炉などの核融合反応の応用について紹介する。
第7回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について紹介する。
第8回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて紹介する。
第9回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデなどで行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第10回	素粒子（クォークとレプトン）	現時点でのこの宇宙における万物の基となる素粒子などについて紹介する。
第11回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について紹介する。

第12回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について紹介する。
第13回	宇宙の大規模構造と宇宙論	宇宙論などの最新の研究について紹介する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course introduces the nucleus and elementary particle. In particular, it is introduced that the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the nucleosynthesis, and the evolution of stars and the universe. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

BIO300LA (その他の総合生物・生物学 / Biology 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

島野 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）。

用いる教科書は内容的に難しく感じるが、これまで生物学に触れたことがなくても理解できるように平易に説明する。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

【到達目標】

生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること、年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業およびゼミ形式で行う。生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを講義し、レポートをまとめ、討議してもらう。オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、進化の概念の歴史	博物館フィールドワークについて；調査の進め方；自然発生説；ダーウインの自然選択説；DNAの変異
第2回	無機物から有機物・原始生命体への化学進化	生物とは何か：43億年前に海が形成された証拠；熱水噴出孔での化学進化、など。
第3回	生命の誕生	原始独立栄養生物の誕生；高熱性アーキアと高熱性細菌；超高熱性菌のDNA2本鎖が解離しない仕組み
第4回	光合成生物と好気性生物の出現	光合成細菌の光合成；好気性生物の出現；シアノバクテリアの光合成、など。

第5回	真核生物の出現	酸素呼吸する真核生物の出現；真核生物がアーキアに由来する証拠；真核生物の起源となった原核生物、など。
第6回	多細胞かと有性生殖の獲得	単細胞時代に分岐していた植物・菌類・動物；多細胞生物の出現；有性生殖のはじまり、など。
第7回	遺伝的多様性と新規遺伝子の獲得をもたらす有性生殖	遺伝子の多様性をもたらす有性生殖；有性生殖は新規遺伝子の獲得を促進した；遺伝子ファミリーの形成、など。
第8回	動物の多様化	全球凍結が多細胞生物を多様化させた；脊椎動物の出現；エディアカラ生物群の絶滅とカンブリア爆発、など。
第9回	陸上植物の出現と多様化	陸上植物の起源；コケ植物が先か；前維管束植物が先か、など。
第10回	動物の陸上進出	節足動物の陸上進出；哺乳類の出現；鳥類の出現、など。
第11回	進化を促進する仕組み	塩基配列の変異はランダムにおこる；ウニとヒトはほとんど同じ遺伝子を持つ；タンパク質は自律的に細胞を形成する、など。
第12回	エボデボ体制の進化ー	ダーウインフィンチの嘴の進化；節足動物の付属肢の進化；鳥エンハンサーが鳥類を進化させた、など。
第13回	エボデボー特異体制の進化ー	ヘビの特異な形態をもたらした進化機構；フグの特異な形態をつくるしくみ、など。
第14回	まとめ、重要用語の振り返り、博物学について、生物の名前の付け方、	まとめと振り返り、ホモサピエンスの7万年前の大発明；博物学について；生物の名前の付け方、など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy & pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

更科 功 (著)2025

「世界一シンプルな進化論講義 生命・ヒト・生物——進化をめぐる6つの問い」（ブルーバックス B 2282）

講談社 ISBN 978-4065382929

【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う授業内の小レポート（60%）および、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（40%）も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう。適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

1) 現地調査（フィールドワーク）のための、交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000～9,000円程度：入館料、ガイド料、交通費など、金額は前後することがあります。）。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」]として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。

※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月13日～9月19日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

6) 9月の初旬（オータムセッション：9月13日～9月19日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

The textbook to be used may seem difficult in terms of content, but it will be explained in a simple manner so that students who have never been exposed to biology before can understand it.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits and other materials.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO300LA (その他の総合生物・生物学 / Biology 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

島野 智之

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

定員制 (20)

※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教養ゼミⅡでは、オータムセッション (秋学期として：9月11日～9月17日) では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、現地調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス (生命史) と生物の進化を学ぶ (自然史)。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

【到達目標】

生命 (生きていること) を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること、年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オータムセッション (秋学期として：9月11日～9月17日) では、生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを討議し、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明発表してもらう。

つぎに、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークⅠ (1).	博物館学と博物学、博物館 フィールドワークについて【講義】
第2回	フィールドワークⅠ (2)	フィールドワークについてテーマの設定と討議
第3回	フィールドワークⅡ (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (1)

第4回	フィールドワークⅡ (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (2)
第5回	フィールドワークⅡ (3)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (3)
第6回	フィールドワークⅡ (4)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (4)
第7回	フィールドワークⅢ (1)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史 (地質) と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (1)
第8回	フィールドワークⅢ (2)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史 (地質) と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (2)
第9回	フィールドワークⅢ (3)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史 (地質) と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (3)
第10回	フィールドワークⅣ (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (1)
第11回	フィールドワークⅣ (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (2)
第12回	フィールドワークⅤ (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館、付属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する (1)
第13回	フィールドワークⅤ (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館、付属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する (2)
第14回	フィールドワークⅥ 討議・まとめ	各自で作成したレポートについて発表と討議をおこなう。 フィールドワークのまとめ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます (その方法などお知らせします)。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

進化生物学 ケゲノミクスが解き明かす進化ー、赤坂甲治 (著)、裳華房、2021年出版、定価3520円 (本体3200円+税10%)

【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行うフィールドワーク後のレポート (60%) および、授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む) (40%) も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べる事が大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらい、適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

1) 現地調査（フィールドワーク）のための、交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000～9,000円程度：入館料、ガイド料、交通費など、金額は前後することがあります。）。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。

※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月11日～9月17日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

6) 9月の初旬（オータムセッション：9月11日～9月17日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits.

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

イオンの科学 A

2017年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。実験は10分程度で終わるものもあれば、授業時間のほとんどを使うものもあります。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫のように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明。
第2回	原子の構造	原子の構造と性質について。
第3回	砂糖と塩	有機化合物と無機イオンの違いについて。
第4回	金属の酸化とイオンの還元	金属を溶かしたり、鏡を作る実験。
第5回	炎色反応	花火の原理についての学習と炎色反応の実験。
第6回	化学発光	ルミノール発光やサイリウムの原理とその実験。
第7回	ホウ砂球反応	イオンの状態変化による色変化を利用したガラス玉を作る実験。
第8回	酸と塩基	酸塩基の定義の種類について。
第9回	色素の色変化	物質の色変化に及ぼすイオンの働きについて。
第10回	金属イオンの沈殿反応	イオンの組み合わせによる溶解度の違いについて。
第11回	金属イオンの分離1	様々なイオンが溶けた水溶液から特定のイオンを分離する実験。
第12回	金属イオンの分離2	様々なイオンが溶けた水溶液から分離したイオンを同定する実験。
第13回	金属イオンの定性分析	未知試料にどのイオンが含まれているかを検査する実験。

第14回 まとめ

これまでの内容のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回実験を行い、その結果のまとめを平常点(配分80%)として評価し、学期末の試験(配分20%)とあわせて評価します。実験結果のまとめは、その授業時間内に提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

実験だけでなく結果をまとめる時間を十分に取ることができるような配分にしています。

【その他の重要事項】

この授業はボアソナードタワー10階のサイエンスルームで行われます。

受講希望者数が過剰な場合、抽選を行う場合があります。

過去3年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

イオンの科学B

2017年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。実験は10分程度で終わるものもあれば、授業時間のほとんどを使うものもあります。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第2回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数の数え方について。
第3回	中和反応とpHの変化	中性のpHが7の理由と、中和反応におけるpH変化の測定。
第4回	弱酸と解離定数	重曹が洗剤、料理、消火剤に使われる原理について。
第5回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて。
第6回	ボルタの電池	電池における電解質の役割について。
第7回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験。
第8回	亜鉛めっきと合金	金属でできた銅製品を銀色にしたり、金色に変える実験。
第9回	自己触媒型無電解めっき	電気を使わないめっきの原理とその実験。
第10回	フォトレジスト	光化学反応を利用して金属表面に保護膜で模様を作る実験。
第11回	エッチング	ガラスにめっきされたニッケル薄膜を溶かして目的の模様を作る実験。
第12回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止する方法について。

第13回 イオン液体 イオンのみからなる液体とその応用について。

第14回 まとめ これまでの内容のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小レポートを平常点(配分80%)とし、学期末試験(配分20%)とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験だけでなく結果をまとめる時間を十分に取ることができるよう時間配分に気をつけています。

【その他の重要事項】

この授業はボアソナードタワー10階のサイエンスルームで行われます。

受講希望者数が過剰な場合、第1回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。

過去3年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

物質の科学 A

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、まず、学習支援システム（HOPPII）からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。本授業は基本的には対面授業によって行われますが、講義や演習を行う場合にはオンライン形式で授業を行うこともあります。実験日には、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマ毎に課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は学習支援システム（HOPPII）を通して提出します。提出していただいた課題については次回の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	化学実験入門(1)	安全に化学実験を行うための注意事項やノートの取り方について講義します。
第3回	化学実験入門(2)	実験器具や試薬類の取り扱い方法を学習します。
第4回	レジンアートの解説	レジンアートに関連する化学について学習し、実際の作成に備えます。
第5回	ドライフラワーの作成	シリカゲルを使用してドライフラワーを作成し、シリカゲルの構造や性質について理解します。
第6回	シリコン樹脂の合成	二液混合型の透明シリコン樹脂を合成します。その際、第5回で作成したドライフラワーの入った型に樹脂を流し込み、レジンアートを作成します。

第7回	化学基本事項の説明(1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第8回	化学基本事項の説明(2)	分子の立体的な構造がどのように決まるのかを学習します。
第9回	化学基本事項の説明(3)	簡単な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第10回	化学基本事項の説明(4)	石けんなどの複雑な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第11回	香料の精製と分析	水蒸気蒸留およびクロマトグラフィーについて原理を学習します。
第12回	香料(ラベンダー)の精製	水蒸気蒸留によってラベンダーのつばみから精油を取り出します。
第13回	香料(ラベンダー)の分析(1)	薄層クロマトグラフィーの原理を学習し、薄層プレートやキャピラリの準備を行います。
第14回	香料(ラベンダー)の分析(2)	ラベンダー精油について薄層クロマトグラフィーを行い、成分の分析を行います。なお、残ったラベンダー精油は、物質の科学B（秋学期開講）で合成する石鹸の香料として使用します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席（25 %）、各テーマ毎に提出するレポート（25 %）、および、平常点（50 %）によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「物質の科学B」を引き続き受講してください。受講希望者が定員（24名）を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生はオンラインで開講される第1回目の授業に必ず出席してください。また、本授業の直後、すなわち、水曜日4時限に「教養ゼミⅠ・Ⅱ」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

【Outline (in English)】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, students perform various kinds of chemical experiments such as analyses, syntheses, and so on. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture. Studying time will be more than two hours for a class. Students will be expected to have completed the required assignments and lab reports that should be submitted through HOPPII (<https://hoppii.hosei.ac.jp>). Overall grade in the class will be decided based on the following; attendance: 25%, assignments and lab reports: 25%, in class contribution: 50%.

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

物質の科学B

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、まず、学習支援システム（HOPPII）からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。本授業は基本的には対面授業によって行われますが、講義や演習を行う場合にはオンライン形式で授業を行うこともあります。実験日には、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマ毎に課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は学習支援システム（HOPPII）を通して提出します。提出していただいた課題については次回の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	水の硬度	石けんの泡立ちに関する水の硬度について概要と測定方法を解説します。
第3回	定量分析(1)	水道水や天然水のカルシウムイオン濃度を測定します。
第4回	定量分析(2)	水道水や天然水の硬度を測定します。
第5回	油脂の構造と種類	石けんの原料である油脂について分子構造と種類を学習します。
第6回	けん化価(1)	油脂の性質を表し石けんを合成する際にも重要な指標となるけん化価について学習します。
第7回	けん化価の測定(1)	中和滴定によりけん化価を測定します。2回にわたって測定し精度を確保します。(第1回)

第8回	けん化価の測定(2)	中和滴定によりけん化価を測定します。2回にわたって測定し精度を確保します。(第2回)
第9回	けん化価(2)	測定したけん化価から、石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量がどのように計算されるか学習します。
第10回	オリーブ油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、オリーブ油石けんを合成します。
第11回	やし油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、やし油石けんを合成します。
第12回	透明石けんの合成	測定したけん化価を利用して、透明石けんを合成します。
第13回	蒸留・比重	蒸留・比重など物質に関する基本概念を学習し実験方法を解説します。
第14回	アルコール濃度の測定	蒸留前・蒸留後の酒類のアルコール濃度を比重測定を通して決定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席（25 %）、各テーマ毎に提出するレポート（25 %）、および、平常点（50 %）によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「物質の科学A」から連続して受講してください。受講希望者が定員（24名）を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は春学期の「物質の科学A」の第1回目の授業に必ず出席してください。

また、本授業の直後、すなわち、水曜日4時限に「教養ゼミⅠ・Ⅱ」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

【Outline (in English)】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, students perform various kinds of chemical experiments such as analyses, syntheses, and so on. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture. Studying time will be more than two hours for a class. Students will be expected to have completed the required assignments and lab reports that should be submitted through HOPPII (<https://hoppii.hosei.ac.jp>). Overall grade in the class will be decided based on the following; attendance: 25%, assignments and lab reports: 25%, in class contribution: 50%.

PRI300LA (情報学基礎 / Principles of informatics 300)

I T リテラシー

2017年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、ITリテラシーに関する話題について学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第3回	2進数、8進数、16進数（1）	2進数について基礎的な概念を学び、応用である8進数、16進数について学ぶ。
第4回	2進数、8進数、16進数（2）	2進数の計算から、8進数、16進数の計算について学ぶ。
第5回	2進数、8進数、16進数（3）	2進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第6回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第7回	情報システム（1）	CMS (Contents Management System) を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第8回	情報システム（2）	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第9回	情報セキュリティ（1）	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第10回	情報セキュリティ（2）	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。

第11回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第12回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第13回	インダストリー 4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期期末ウェブ試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.

[Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The spring semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 40% and attendance score of 60%.

PRI300LA (情報学基礎 / Principles of informatics 300)

コンピュータ科学

2017年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析（ソフトウェア工学）、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第3回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第4回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第5回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第6回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第7回	データベース	データベースについて学ぶ。
第8回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第9回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第10回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第11回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第12回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第13回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。

第14回 まとめ

本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末ウェブ試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers. [Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The fall semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 40% and attendance score of 60%.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

人間と地球環境

2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、国連の持続可能な開発目標（SDGs）が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワードに人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎に加え社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を得る機会を提供します。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3）各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、各講義へのリアクションや質問を集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第2回	大気の変化と生態系	地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。
第3回	水の循環と水資源利用	生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。
第4回	エネルギーの供給	生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。
第5回	「土」というもの	日頃目を向けない「足元の世界」に注目し、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。
第6回	生物多様性はなぜ重要か？	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第7回	演習1：持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決への応用を目的としたグループワークを行います。
第8回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。

第9回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第10回	開発は持続可能か？	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第11回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第12回	演習2：多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第13回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第14回	地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、各種Hoppiiの機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【その他の重要事項】

30名の定員制です。必要に応じて選抜を行います。

【Outline (in English)】

[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs) has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental problems; to understand related social problems; and to develop a personal opinion about various problems the human species faces with a holistic understanding of the human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO300LA (その他の総合生物・生物学 / Biology 300)

Human Impact on the Global Environment 2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs) has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussions. In addition to in-class interactions, students will submit their opinions about/reactions to the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions, as needed.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.

Week 3	Water cycle and the use of water resource	As an essential matter for sustaining life and ecosystem, the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems.
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト (教科書)】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), a final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved to be effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to have access to Hosei's e-learning system (WebClass). Online format may be used, as needed, and students are expected to prepare necessary devices in such a case.

【その他の重要事項】

There is an enrollment limit of 30 students. There will be selection, if the limit is exceeded, and, to be included in the selection, you will be required to pre-register for the course a few days before the semester begins. Additional information will be provided through the e-learning system, as needed.

【Outline (in English)】

[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs) has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] The course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

ボルボックス生物論 A

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物が単細胞生物から多細胞生物への進化したプロセスを研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめにその回のテーマについての講義と実験・観察方法の説明を行います。その後、グループごとに実験・観察課題に取り組み、結果をノートに記録していただきます。
- ・毎回、授業内容に関する簡単な練習問題を用意します。期限内に提出してください。
- ・授業ノートを学期終了時に提出していただきます。
- ・課題・練習問題・質問に対しては授業内もしくは学習支援システムを通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物学における位置付けについて紹介します。
第2回	ボルボックスの観察①	レーウェンフックの顕微鏡と同じ原理でボルボックスを見てみましょう。
第3回	ボルボックスの観察②	光学顕微鏡の原理を学び、明視野法や暗視野法によって生物を観察します。
第4回	ボルボックスの観察③	ボルボックスが回転しながら泳ぐようすや、その周りの水の流れを観察します。
第5回	淡水産プランクトン①	池や川の水の採集方法や観察方法を学び、どのような生き物がいるかを調べます。
第6回	淡水産プランクトン②	一週間培養した後の野外採集サンプルを観察し、その変化について考察します。
第7回	淡水産プランクトン③	観察結果のまとめを行い、形態や運動性の多様性を理解します。
第8回	プラナリア①	高い再生能力を持つ扁形動物プラナリアを切断する実験を行います。
第9回	プラナリア②	切断したプラナリアが一週間後にどのようにに再生しているかを観察します。

第10回	プラナリア③	プラナリアの採餌行動を観察し、からだの作りと機能を学びます。
第11回	走光性①	ボルボックスが環境の光を感知して遊泳方向を変える「走光性」を観察します。
第12回	走光性②	細胞から生える「鞭毛/繊毛」が生み出す水流が、光によってどのように変化するかを調べます。
第13回	走光性③	光を感知する構造「眼点」を観察し、ボルボックスの走光性のしくみを考察します。
第14回	まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じて、実験方法・課題などを記したプリントを配布します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%
- ・授業後の練習問題および授業ノート 70%（提出状況・理解度等を評価します）
- ・期末試験は行いません。
- ・正当な理由なく3回以上欠席した場合、原則として単位を認めません。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）

【学生の意見等からの気づき】

授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知れてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (30%), short test and class note (70%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

ボルボックス生物論B

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物が単細胞生物から多細胞生物への進化したプロセスを研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り返る広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめにその回のテーマについての講義と実験・観察方法の説明を行います。その後、グループごとに実験・観察課題に取り組み、結果をノートに記録していただきます。
- ・毎回、授業内容に関する簡単な練習問題を用意します。期限内に提出してください。
- ・授業ノートを学期終了時に提出していただきます。
- ・課題・練習問題・質問に対しては授業内もしくは学習支援システムを通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物学における位置付けについて紹介します。
第2回	有性生殖とその進化①	ボルボックスの無性生殖個体を観察しながら顕微鏡の扱いに慣れましょう。
第3回	有性生殖とその進化②	ボルボックスの有性生殖個体と無性生殖個体を観察して比較します。
第4回	有性生殖とその進化③	異なる種の有性生殖様式を比較し、性の進化について考察します。
第5回	粘菌の行動①	アメーバ状単細胞生物である真性粘菌（変形菌）の探餌行動を調べる実験を行います。
第6回	粘菌の行動②	粘菌内部の原形質が往復流動するようすを顕微鏡で観察・撮影します。
第7回	粘菌の行動③	粘菌が基質の上を移動するようすをタイムラプス撮影し、解析します。
第8回	生活環と形態形成①	ボルボックスの美しい球形を生み出す過程である「インバージョン」について学びます。

第9回	生活環と形態形成②	40分程度かかるインバージョンの過程をタイムラプス撮影します。
第10回	生活環と形態形成③	インバージョンの観察結果から、生物の形づくりのしくみとその進化について考えます。
第11回	鞭毛・繊毛の生理学①	ボルボックスの遊泳や光行動の観察を通して、真核生物が普遍的に持つ鞭毛・繊毛について学びます。
第12回	鞭毛・繊毛の生理学②	細胞膜を取り除いて死んでしまった細胞の運動を復活させる「ゾンビ・クラミドモナス実験」を行います。
第13回	鞭毛・繊毛の生理学③	鞭毛・繊毛がATPのエネルギーで動きカルシウムイオンで調節されることを実験を通して学びます。
第14回	まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じて、実験方法・課題などを記したプリントを配布します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%
- ・授業後の練習問題および授業ノート 70%（提出状況・理解度等を評価します）
- ・期末試験は行いません。
- ・正当な理由なく3回以上欠席した場合、原則として単位を認めません。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）

【学生の意見等からの気づき】

授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知れてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (30%), short test and class note (70%).

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】

持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかかわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための概念を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業までに、あらかじめ教科書の割り当て部分を各自で読み、学習します。さらに、内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、それらをレジュメにまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに学習支援システムに課題欄から提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後、質疑応答を行います。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行い、理解を深めます。化学を履修していない学生にも理解できるように配慮いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	第1章_序論	教科書の目的や内容について概要を把握する。
第3回	第2章_産業革命およびそれ以降における石炭の歴史	産業革命およびそれ以降における石炭の歴史について学習する。
第4回	第3章_石油と天然ガスの歴史	石油と天然ガスの歴史について学習する。
第5回	第4章_化石燃料資源とその利用(1)	石炭の性質とその利用方法について学習する。
第6回	第4章_化石燃料資源とその利用(2)	石油の性質とその利用方法について学習する。
第7回	第4章_化石燃料資源とその利用(3)	天然ガスの性質とその利用方法について学習する。
第8回	第5章_減少する石油と天然ガス資源	石油と天然ガス資源の枯渇について学習する。
第9回	第6章_炭素燃料、炭化水素およびその製品の継続的必要性	化石燃料の燃料、及び原料としての有用性を学習する。

第10回	第7章_化石燃料と気候変動	化石燃料と気候変動について学習する。
第11回	第8章_再生可能なエネルギー源と原子力エネルギー(1)	太陽を起源とする再生可能エネルギーについて学習する。
第12回	第8章_再生可能なエネルギー源と原子力エネルギー(2)	地熱を起源とする再生可能エネルギーについて学習する。
第13回	第8章_再生可能なエネルギー源と原子力エネルギー(3)	潮汐を起源とする再生可能エネルギーについて学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する予定です。（購入は不要です。）

書籍名：メタノールエコノミー――CO2をエネルギーに変える逆転の発想

著者名：G. A. オラー、A. ゲッペルト、G. K. S. プラカーシュ

訳者名：小林四郎、齋藤彰久、西村晃尚

出版社：化学同人

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度（50%）、ディスカッションへの参加（50%）を総合的に考慮した平常点によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】

PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミⅡ」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（24名）を超える場合は抽選をおこないますので、第1回授業に必ず参加してください。

本授業は、基本的に対面形式により行われます。

教科書は図書館で利用できますので購入する必要はありません。

本授業に関する質問等は、学習支援システムを通して受付ます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、学習支援システムによって指示いたします。

【Outline (in English)】

Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as raw materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, students will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry. Students will be expected to have completed short reports before each class meeting. The study time will be more than four hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on short reports (50%) and in-class contribution (50%).

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】

持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかかわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための概念を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際化学学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業までに、あらかじめ教科書の割り当て部分を各自で読み、学習します。さらに、内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、それらをレジュメにまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに学習支援システムに課題欄から提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後、質疑応答を行います。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行い、理解を深めます。化学を履修していない学生にも理解できるように配慮いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。
第2回	第8章_再生可能なエネルギー源と原子力エネルギー(4)	原子力エネルギーについて学習する。
第3回	第9章_「水素経済社会」とその限界(1)	水素の物性について学習する。
第4回	第9章_「水素経済社会」とその限界(2)	水素の製造方法について学習する。
第5回	第9章_「水素経済社会」とその限界(3)	水素の安全性について学習する。
第6回	第9章_「水素経済社会」とその限界(4)	燃料電池について学習する。
第7回	第10章_「メタノールエコノミー」：総論	「メタノールエコノミー」について概要を把握する。
第8回	第11章_燃料とエネルギー媒体としてのMeOHとDME(1)	燃料とエネルギー媒体としてのメタノールについて学習する。
第9回	第11章_燃料とエネルギー媒体としてのMeOHとDME(2)	燃料とエネルギー媒体としてのジメチルエーテルについて学習する。
第10回	第12章_メタノールの製造(1)	化石燃料からメタノールを合成する方法を学習する。

第11回	第12章_メタノールの製造(2)	バイオマスからメタノールを合成する方法について学習する。
第12回	第12章_メタノールの製造(3)	二酸化炭素のメタノールへのケミカルリサイクリングについて学習する。
第13回	第13章_メタノールに由来する化学品、合成炭化水素および化学原料	メタノールから合成できる化学物質について種類や合成法を学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する予定です。（購入は不要です。）

書籍名：メタノールエコノミー ― CO2をエネルギーに変える逆転の発想

著者名：G. A. オラー、A. ゲッペールト、G. K. S. ブラカーシュ

訳者名：小林四郎、齋藤彰久、西村晃尚

出版社：化学同人

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度（50%）、ディスカッションへの参加（50%）を総合的に考慮した平常点によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】

PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミⅡ」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（24名）を超える場合は抽選をおこないますので、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）の第1回授業に必ず参加してください。本授業は、基本的に対面形式により行われます。教科書は図書館で利用できますので購入する必要はありません。本授業に関する質問等は、学習支援システムを通して受付ます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、学習支援システムによって指示いたします。

【Outline (in English)】

Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as raw materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, students will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry. Students will be expected to have completed short reports before each class meeting. The study time will be more than four hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on short reports (50%) and in-class contribution (50%).

BAB300LA (基礎生物学 / Basic biology 300)

バイオイメーキングの世界 A 2017年度以降入学者

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】

そのために、本授業ではデジカメを使って生物が生きている様子を記録し、その記録画像を動画として編集したり、画像解析ソフトで数値解析する事で生きる謎の解明に挑戦します。その過程で、生き物について学び、新しい発見をする喜びを体験して頂く事を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員の怪我に伴い、4月の授業はオンラインで行います。5月以降は、実験室で以下のような方式で行う予定です。先ず入門編として、ソバの発芽について学びます。種を植えれば芽が出てくると言う、一見当たり前の事も、その過程を映像として再現するためには様々な工夫が必要です。インターバル撮影を使うと、アサガオが花芽をつけて花を咲かせるまでの過程も映像化できるようになります。

プラナリアは、半分に切っても、また再生して2つの個体になります。この再生過程についても映像として記録します。

カイコでは、まゆ作りの過程を記録します。

アリについては、巣作りの様子や、6本脚歩行の様子の記録・解析を行います。

粘菌では、迷路のような成長過程を、画像解析で調べます。

これらの活動を通じて、生き物の映像を記録し解析するための基本的な手法を学ぶ事になります。なを、扱う生物材料は、その時の生き物の育成状況によって変わることがあります。受講生は、授業で行ったことを発表するポスターを製作します。

なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については、次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメーキングの基礎	授業の概略を説明します。
②	映像の研究	生き物の様々な映像を見ながら、その撮影法やそれによって分かることを解説します。
③	映像の歴史	デジカメがない時代にどんな苦労があったのか、科学的な視点でバイオイメーキングを振り返ります。
④	種々の長時間記録法	インターバル撮影の応用法について学びます。
⑤	拡大撮影法・プラナリア走性の観察	小さい生き物の撮影法を学びます。

⑥	画像解析法・粘菌の移動速度の測定	動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。
⑦	画像の整理法・根の成長の観察	様々な条件で撮影した画像の整理方法を学びます。
⑧	スタジオ撮影手法・芽生えの回転運動	撮影環境の設定法について学びます。
⑨	ストロボ撮影手法・種子の回転運動	ストロボによって動きを止めて撮影する方法を学びます。
⑩	ハイスピード撮影技法・カイコの飛翔	高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
⑪	ハイスピード撮影技・アリの歩行	アリの6本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。
⑫	データ整理法・芽生えの記録1	様々な種子の芽生えを記録した後、そのデータを整理して比較する方法を学びます。
⑬	動画編集手法・芽生えの記録2	様々な種子の芽生えを記録した後、動画として編集する手法を学びます。
⑭	春学期データ整理	春学期のデータについて、ノート上で整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して週4時間以上の学習を行って頂きます。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

最終プレゼンを30%、授業中の活動を70%として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合があります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分でない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】

上記のリストに嫌いな生き物がある場合は、活動の観察者として直接生き物とかかわらないように配慮しますので、事前に申告して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomenas. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the required presentations(30%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (70%).

BAB300LA (基礎生物学 / Basic biology 300)

バイオイメーキングの世界B 2017年度以降入学者**木原 章**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】

春学期の「バイオイメーキングの世界A」で学んだ技術を利用して、各班ごとに、独自のテーマ設定をして生命活動のしくみを画像記録して、その解明を行います。これらの活動を通じて、班ごとのプロジェクト遂行能力を身につけて頂くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、春学期の「バイオイメーキングの世界A」で学んだ技術を利用して、特定の生き物に的を絞って、より高度な記録に挑戦します。そのために、それぞれの生き物の特徴を理解し、何を調べたら良いかを考えます。例えば、春学期に学んだソバの発芽過程で、光の方向を変えるとどうなるでしょう？ プラナリアを10等分したらどうなるでしょう？ そんな問題点を設定し、その解決法を探って行きます。

班別に決めたテーマについての活動は、班ごとのプロジェクトとして進行し、最終的にプレゼンテーションとしてまとめて頂きます。これまでのテーマには「アリの6足歩行」「様々な種子のと栄養貯蔵と発芽速度の関係」「女王アリの産卵行動」「プラナリアの再生」等でした。（B T O 9 0 0教室の前に掲示中です）

授業では、実際に自分で機材の使い方を学ぶ実習的な要素が強くなりますので、出席が単位取得の前提となります。

なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については、次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメーキングの基礎	授業の概略を説明します。
②	秋学期プロジェクト計画	プロジェクト計画作成法
③	秋学期プロジェクト計画	班別にプロジェクト計画を作成します
④	秋学期プロジェクト計画発表会	班ごとにプロジェクト計画を発表します。
⑤	秋学期プロジェクト開始	班別作業
⑥	秋学期プロジェクト第2回	班別作業
⑦	秋学期プロジェクト第3回	班別作業。
⑧	秋学期プロジェクト・中間発表	各班のプロジェクト進行状況を報告します。

⑨	秋学期プロジェクト第4回	班別作業
⑩	秋学期プロジェクト第5回	班別作業
⑪	秋学期プロジェクト第6回	班別作業
⑫	秋学期プロジェクト・ポスター作成作業1	データ整理、表・グラフ作成などポスターのコンテンツを作ります
⑬	秋学期プロジェクト・ポスター作成作業2	プロジェクトの活動報告ポスターを作成します。
⑭	ポスターコンテスト	班毎に10分程度(質疑応答を含む)のポスターの発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して、週4時間以上の学習を行って下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

最終プレゼンを30%、授業中の活動を70%として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合があります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合もありますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomena. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the required presentations (30%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (70%).

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

環境の科学 A

2017年度以降入学者

田中 雅人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類の日常生活の利便性向上に伴い、天然資源の浪費や環境汚染など環境問題やエネルギー問題が社会問題となり、世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。環境問題を理解するためには、科学的な視点で環境影響をとらえることが重要です。本授業では、環境に関する知識だけではなく分析化学的な手法による環境分析などの実験も行い、環境を科学的にとらえる視点を養うことを目的とします。

【到達目標】

環境中の物質循環のしくみや大気汚染、水質汚染、土壌汚染など、身近な環境の問題が引き起こされるメカニズムについて理解を深めます。また、実際に環境中の水や土壌などを分析します。これらを通じて環境問題を身近な問題として捉え、環境に対する意識向上をさせるとともに、環境問題を科学的な視点で捉えることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、環境科学に関する講義とともに基本的な環境分析などの実験を行います。理解度の確認のための課題や実験のレポート課題を出します。課題の内容については、次の授業で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要について説明します。
第2回	分析化学の基礎 (1)	有効数字など分析データの取り扱いについて解説します。
第3回	分析化学の基礎 (2)	酸化剤(還元剤)の濃度を分析する酸化還元滴定を行います。
第4回	分析化学の基礎 (3)	金属濃度を分析するキレート滴定を行います。
第5回	環境中の物質循環	地球上の水などの物質の循環について解説します。
第6回	大気環境の科学 (1)	地球大気の種類とオゾン層について解説します。
第7回	大気環境の科学 (2)	温室効果ガスについて解説します。
第8回	大気環境の科学 (3)	大気汚染物質について解説します。
第9回	水環境の科学	水環境や水質基準について解説します。
第10回	水試料の分析[春学期](1)	環境水試料を分析するための前処理を行います。
第11回	水試料の分析[春学期](2)	環境水試料[春学期]の溶存酸素(DO)や化学的酸素要求量(COD)を調べます。

第12回	水試料の分析[春学期](3)	環境水試料[春学期]のリン酸濃度などの富栄養化項目を調べます。
第13回	水試料の分析[春学期](4)	環境水試料[春学期]の分析結果について考察します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
身近な環境に関するテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

・坂田昌弘 編「環境化学」講談社
・鈴木孝弘 著「新版 新しい環境科学」駿河台出版社
・酒井忠雄 編「環境・分析化学実験 第3版」三共出版
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業で出題する課題や実験レポート課題(70%)、期末試験(30%)により取り組みや理解度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】

この授業はサイエンスルーム(化学)で行います。受講希望者数が定員(30名)を超える場合は、第1回目のガイダンスで抽選を行います。環境試料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

There is growing interest worldwide in efforts to achieve a sustainable society. To understand environmental issues, it is important to understand environmental impacts from a scientific perspective. The goal of this course is to cultivate a scientific perspective on the environment. For the purpose, students will not only learn about environmental issues, but also conduct experiments such as environmental analysis.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

required assignments: 70%, Term-end examination: 30%

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

環境の科学B

2017年度以降入学者

田中 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類の日常生活の利便性向上に伴い、天然資源の浪費や環境汚染など環境問題やエネルギー問題が社会問題となり、世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。環境問題を理解するためには、科学的な視点で環境影響をとらえることが重要です。本授業では、環境に関する知識だけではなく分析化学的な手法による環境分析などの実験も行い、環境を科学的にとらえる視点を養うことを目的とします。

【到達目標】

環境中の物質循環のしくみや大気汚染、水質汚染、土壌汚染など、身近な環境の問題が引き起こされるメカニズムについて理解を深めます。また、実際に環境中の水や土壌などを分析します。これらを通じて環境問題を身近な問題として捉え、環境に対する意識向上をさせるとともに、環境問題を科学的な視点で捉えることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、環境科学に関する講義とともに基本的な環境分析などの実験を行います。理解度の確認のための課題や実験のレポート課題を出します。課題の内容については、次の授業で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要について説明します。
第2回	土壌環境の科学	土壌の構成物質、土壌の機能、土壌汚染などについて解説します。
第3回	土壌試料の分析(1)	土壌試料の土壌pH、土壌溶液などを調べます。
第4回	土壌試料の分析(2)	土壌試料の陰イオン吸着能を調べます。
第5回	土壌試料の分析(3)	土壌試料の陽イオン吸着能を調べます。
第6回	土壌試料の分析(4)	土壌試料の分析結果について考察します。
第7回	化学物質と環境	化学物質による環境影響について解説します。
第8回	水中の金属分析(1)	水道水やミネラルウォーターの硬度を調べます。
第9回	水中の金属分析(2)	水試料の電気伝導度や重金属濃度を調べます。
第10回	水試料の分析[秋学期](1)	環境水試料[秋学期]を分析するための前処理を行います。
第11回	水試料の分析[秋学期](2)	環境水試料[秋学期]の溶存酸素(DO)や化学的酸素要求量(COD)を調べます。

第12回	水試料の分析[秋学期](3)	環境水試料[秋学期]のリン酸濃度などの富栄養化項目を調べます。
第13回	水試料の分析[秋学期](4)	環境水試料[秋学期]の分析結果について考察します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。身近な環境に関するテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

・坂田昌弘 編「環境化学」講談社
・鈴木孝弘 著「新版 新しい環境科学」駿河台出版社
・酒井忠雄 編「環境・分析化学実験 第3版」三共出版
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業で出題する課題や実験レポート課題(70%)、期末試験(30%)により取り組みや理解度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】

この授業はサイエンスルーム(化学)で行います。受講希望者数が定員(30名)を超える場合は、第1回目のガイダンスで抽選を行います。環境試料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

There is growing interest worldwide in efforts to achieve a sustainable society. To understand environmental issues, it is important to understand environmental impacts from a scientific perspective. The goal of this course is to cultivate a scientific perspective on the environment. For the purpose, students will not only learn about environmental issues, but also conduct experiments such as environmental analysis.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

required assignments: 70%, Term-end examination: 30%

LANe300LA (英語 / English language education 300)

Issues in Modern Japanese Society A 2017年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

レベル3～4（各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）

定員制（15）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigration, minorities, etc.) using mostly materials (news items) written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to examine and think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】

This intermediate to advanced English course examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan, engage in discussion, and express their own opinion in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions may include lecture, comprehension check, small and large group discussions, group debates, and a final presentation by students. Feedback to students is provided on written work as well as during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion
4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading, discussion and debate
6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion

7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate
8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues: Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Hand back final papers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing answers for discussion questions.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】

No required textbook. Reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated partly their willingness to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm essay and Final report: 60%

Presentation: 10%

Attendance Policy: Students can miss no more than three classes per semester without a good reason (illness, emergency, etc). Coming to late class more than twice=one absence.

【学生の意見等からの気づき】

Students should have some prior experience writing essays and /or reports in English. Students will be do short debates in groups.

【学生が準備すべき機器他】

Students should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping handout materials and notes.

【その他の重要事項】

Students may choose to audit the course after receiving approval from the instructor.

International Students are very welcome to enroll in this course if they have sufficient English proficiency.

【Outline (in English)】

Issues in Modern Japanese Society: This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will be able to choose which topics in society interest them the most.

LANe300LA (英語 / English language education 300)

Issues in Modern Japanese Society B 2017年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

レベル3～4（各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）

定員制（15）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced level course examines various aspects of Japanese society (education, economy, gender, etc.) using authentic materials. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will be able to choose which topics related to society that they would like to investigate and discuss during the semester.

【到達目標】

Students will be able to improve their academic speaking (discussion, debate) and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted in English. English readings (newspaper articles, etc) will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members. Course feedback will be provided in class and on written assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with implementation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading, discussion, debate
5	Nationalism in Japan(II): the so-called "insular" student	Reading, discussion & debate
6	The declining birthrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due

7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spirituality and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students' individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers (reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to have some experience writing a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. The instructor will provide reading materials each week.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class every week.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm and Final Papers: 60%

Presentation: 10%

Attendance Policy: Students cannot be absent more than three times to earn credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities, depending on the number of students enrolled.

【学生が準備すべき機器他】

Student should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping and organizing class handouts and readings.

【その他の重要事項】

Attendance is very important. Students who have more than three unexcused absences may not receive credit for this course. Students should have some experience in writing essays or reports in English. Students may enroll in this course only for one semester if they wish. International students are very welcome to enroll in this course. Students wishing to audit the course may do so only with the permission of the instructor.

【Outline (in English)】

This intermediate to advanced English course examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

第三外国語としてのドイツ語 A 2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。発音の規則を習得するとともに、平易なドイツ語で書かれた文章の読解や会話練習を通じて、ドイツ語文法の基礎を学びます。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけます。

【到達目標】

- 1) ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解すること。具体的には、ドイツ語技能検定試験（独検）の4級～5級合格レベル到達を目指します。
- 2) ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを実感できること。
- 3) ドイツ語・ドイツ語圏という異文化と接することで、自分の属する文化と言語圏について反省的に考えられるようになることが最大の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。

・LMSとして、Google Classroomを使用します。

・連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／ Lektion1：発音の規則（1）、あいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベットと発音の規則1、あいさつの表現1
2	Lektion1：発音の規則（2）、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？ ふたつの二人称
3	Lektion1 & Lektion2：発音の規則（3）、動詞の不定詞と現在人称変化（1）、並列の接続詞	自己紹介1：人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（1）、平叙文と定動詞第2位の原則
4	Lektion2：動詞の現在人称変化（2）	人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（2）、自己紹介2、さまざまな疑問文のパターン
5	Lektion3：名詞の性と格（1）	名詞の格（1）、定冠詞と不定冠詞（1）
6	Lektion3：名詞の性と格（2）	名詞の格、定冠詞と不定冠詞、否定冠詞keinと否定文

7	Lektion4：名詞の複数形・人称	「品詞」について今一度理解度を確認する（1）、人称代名詞と所有冠詞をしっかりと区別する
8	Lektion5：不定冠詞類・定冠詞類	「品詞」について今一度理解度を確認する（2）、人称代名詞と所有冠詞をしっかりと区別する
9	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（1）	動詞の現在人称変化（3）
10	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（2）	動詞の現在人称変化（4）
11	Lektion7：命令法と態（Modus）	2人称と依頼の表現、ドイツ語の日常的なモノと人の感覚について
12	Lektion7：話法の助動詞（1）	「話法の助動詞」の構文、枠構造の意味
13	Lektion7：話法の助動詞（2）	話法の助動詞を使うそのココロを理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：次週扱うテキストの箇所を読んでくること。

復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』（郁文堂、2018/2023年）（¥2,200）
- ・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】

中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『（改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年（¥1,728）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（50％）および学期末試験（50％）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい（辞書類については第一回授業時に説明をします）
- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】

・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。

・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2025年7月下旬までに担当者へ通知されたものに限りです）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.

【Grading Criteria /Policy】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50% of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

第三外国語としてのドイツ語 B 2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。（春学期開講の「第三外国語としてのドイツ語A」に引き続き）初級文法の基礎を学びます。簡単なドイツ語を読み、書き、話すためのトレーニングとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。

【到達目標】

- 1）ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解すること。具体的には、ドイツ語技能検定試験（独検）の4級～5級合格レベル到達を目指します。
- 2）ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを実感できること。
- 3）ドイツ語・ドイツ語圏という異文化と接することで、自分の属する文化と言語圏について反省的に考えられるようになることが最大の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や自分の文法理解を確認します。

- ・LMSとして、Google Classroomを使用します。
- ・連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	動詞の現在人称変化、名詞の格変化（冠詞）と人称の格変化、話法の助動詞
2	Lektion8：再帰代名詞・再帰動詞	他動詞の再帰表現、再帰代名詞を用いた表現
3	Lektion9：分離動詞・非分離動詞	動詞の前綴りの話、複合動詞のいろいろ、前つづりと定動詞・枠構造の関連を理解する
4	Lektion9：zu不定詞	不定詞とzu不定詞およびその用法、zu不定詞句を使った表現
5	Lektion9：従属の接続詞	従属接続詞と副文の作り方、主文と副文の違いを理解する
6	Lektion10：動詞の3基本形（I）（1）・現在完了形	現在完了形を使うそのココロとは？
7	Lektion10：動詞の3基本形（I）（2）・過去時制	過去時制と過去人称変化、現在完了形と過去時制の違いとは？

8	Lektion11：動詞の3基本形（II）・受動態	なんで受動態にしなきゃいけないワケ？ 受動の助動詞2種類（行為受動、状態受動）
9	Lektion12：形容詞（1）・形容詞の格変化	形容詞の用法と形容詞の格変化
10	Lektion12：形容詞（2）・比較表現	並列の接続詞、従属の接続詞、形容詞の用法、付加語の用法と格変化
11	Lektion12：関係代名詞（1）	定関係代名詞・指示代名詞の格変化、関係代名詞（副文）
12	Lektion12：関係代名詞（2）	関係副詞・不定関係代名詞
13	補足：接続法	接続法第I式および第II式について
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：次週扱うテキストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』（郁文堂、2018/2023年）（¥2,200）
- ・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】

中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『（改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年（¥1,728）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（50％）および学期末試験（50％）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい。
- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】

- ・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。
- ・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2025年7月下旬までに担当者に通知されたものに限りです）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.

【Grading Criteria /Policy】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50% of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語コミュニケーション中級 A 2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course aims to develop basic communication skills in German. The focus is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, writing and listening skills. At the end of the course, students will be able to master simple every day situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックはHOPPIIで行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Eine andere Person vorstellen	kleine Präsentationen
3	Freizeit	(trennbare) Verben
4	Verabredung	Uhrzeit, Redemittel
5	Eine E-Mail, Postkarte aus dem Urlaub	Phrasen, Redemittel
6	Tagesablauf	Konnektoren, trennbare Verben
7	Leben auf dem Land/in der Stadt	Vorteile, Nachteile
8	Beschreiben, wo/ wie ich wohne	Wortschatz wohnen
9	Einladung zur Einweihungsfeier	Phrasen, Redemittel
10	Jahreszeiten	Wortschatz Zeit
11	Durch-, Ansagen	Hörverstehen
12	Anzeigen lesen	Leseverstehen
13	Wie sagt man am besten?	Alltagssituationen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

You are expected to prepare for every lesson as well as review it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト (教科書)】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

After every unit, there will be a test/composition which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure to always arrive on time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing. Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語コミュニケーション中級 B 2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this class is building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックはHOPPIIで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Fragen und Bitten	W-,Ja-/Nein-Fragen
3	Wie junge Leute wohnen	Nebensätze mit weil und obwohl
4	Bumerang-Kinder	Modalverben im Präteritum
5	Aber du wolltest doch	Redemittel
6	Reisen	Perfekt
7	Postkarten	trennbare Verben im Perfekt
8	Eine Reise durch Deutschland	Einen Reisebericht schreiben
9	Gesundheit	Wortschatz Körper
10	Krankheit	Wortschatz Krankheit
11	Ernährung	Komparation der Adjektive
12	Im Restaurant	Sprechen über deutsches Essen
13	Kleidung	Wortschatz Kleidung, Adjektivendungen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as to revise it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

There will be a test/composition at the end of each unit, which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure that you arrive in time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんが大学で出会う教員は皆、仕事として学問をしています。学問を単なる勉強でなく、仕事とすることとはどういうことなのか不思議に思ったことはありませんか。そしてそもそも仕事とは何だろうと思ったことはありませんか。この授業ではこの問題について、ヴェーバーの「仕事としての学問」を翻訳でゆっくりと読みながら議論することを目的とします。

さらに社会学や哲学の基本文献であるヴェーバーの議論に触れることになります。とっつきにくいように思われる本でも読み方さえマスターできれば読めるということを理解します。

この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【到達目標】

講義で言及されたりして、聞いたことはあるけれど、どこから取り掛かっていいかわからない気がする文献へのとっかかりを手に入れることができます。

レジュメの書き方、他の人の意見への適切な質問の仕方などを学ぶことができます。

大学の「ゼミ」ってどういう雰囲気なのだろうかということを味わうことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ごく短いテキスト範囲（長くて2ページ程度）について、毎回レポーターを決めて、その人の作成した資料（レジュメでもパワーポイントスライドでも形式は自由）をもとにみんなで意見を話し合います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	扱う文献やヴェーバーについてのイントロダクションと担当決め
第2回	「仕事としての学問」精読	レポーターのまとめを聞いて議論する
第3回	「仕事としての学問」精読（第2回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第4回	「仕事としての学問」精読（第3回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第5回	「仕事としての学問」精読（第4回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第6回	「仕事としての学問」精読（第5回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第7回	「仕事としての学問」精読（第6回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する

第8回	「仕事としての学問」精読（第7回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第9回	「仕事としての学問」精読（第8回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第10回	「仕事としての学問」精読（第9回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第11回	「仕事としての学問」精読（第10回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第12回	「仕事としての学問」精読（第11回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第13回	「仕事としての学問」精読（第12回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第14回	まとめ	学期の議論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の後に質問を2つ考えてリアクションペーパーとして提出してください。

次回の範囲を読んでください。担当者は、レジュメを切ります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

マックス・ウェーバー、野口雅弘（訳）、『仕事としての学問 仕事としての政治』（講談社学術文庫、2018年）

【参考書】

野口雅弘、『マックス・ウェーバー：近代と格闘した思想家』（中公新書、2020年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（レポーターとしての貢献度および授業への参加度）：100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】

In this course, we read a seminal work of Weber "Wissenschaft als Beruf" (on request, English translation or German original will be provided).

This course aims that students learn how to (intensively) work on a classic work for social sciences and/or philosophy.

【Learning activities outside of classroom】

You are expected to prepare the text in advance and to submit two questions from the discussions from the last session.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 100%

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代では政治家の多くが、職業政治家です。しかし政治を仕事とすることとはどういうことなのか不思議に思ったことはありませんか。そしてそもそも仕事とは何だろうと思ったことはありませんか。この授業ではこの問題について、ヴェーバーの「仕事としての政治」を翻訳でゆっくりと読みながら議論することを目的とします。さらに社会学や哲学の基本文献であるヴェーバーの議論に触れることになります。とっつきにくいように思われる本でも読み方さえマスターできれば読めるということを理解します。この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【到達目標】

講義で言及されたりして、聞いたことはあるけれど、どこから取り掛かっていいかわからない気がする文献へのとっかかりを手に入れることができます。レジュメの書き方、他の人の意見への適切な質問の仕方などを学ぶことができます。大学の「ゼミ」ってどういう雰囲気なのだろうかということを味わうことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ごく短いテキスト範囲（長くて2ページ程度）について、毎回レポーターを決めて、その人の作成した資料（レジュメでもパワーポイントスライドでも形式は自由）をもとにみんなで意見を話し合います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	文献の紹介と担当決め
第2回	「仕事としての政治」 精読	レポーターのまとめを聞いて議論する
第3回	「仕事としての政治」 精読（第2回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第4回	「仕事としての政治」 精読（第3回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第5回	「仕事としての政治」 精読（第4回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第6回	「仕事としての政治」 精読（第5回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第7回	「仕事としての政治」 精読（第6回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第8回	「仕事としての政治」 精読（第7回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する

第9回	「仕事としての政治」 精読（第8回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第10回	「仕事としての政治」 精読（第9回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第11回	「仕事としての政治」 精読（第10回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第12回	「仕事としての政治」 精読（第11回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第13回	「仕事としての政治」 精読（第12回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第14回	まとめ	今学期の議論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の後に質問を2つ考えてリアクションペーパーとして提出してください。次回の範囲を読んでください。担当者は、レジュメを切ります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

マックス・ウェーバー、野口雅弘（訳）、『仕事としての学問 仕事としての政治』（講談社学術文庫、2018年）
* 春学期と同じ書籍です。

【参考書】

野口雅弘、『マックス・ウェーバー：近代と格闘した思想家』（中公新書、2020年）。

【成績評価の方法と基準】

毎回質問を2つリアクションペーパーにまとめてもらいます。それを匿名化して、次の授業の最初に議論したいと思います。平常点（レポーターとしての貢献度、授業への参加度およびリアクションペーパーでの質問の提出）：100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】

In this course, we read a seminal work of Weber "Politik als Beruf" (on request, English translation or German original will be provided).

This course aims that students learn how to (intensively) work on a classic work for social sciences and/or philosophy.

【Learning activities outside of classroom】

You are expected to prepare the text in advance and to submit two questions from the discussions from the last session.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 100%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

ドイツの思想A

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20世紀前半という「危機」の時代のドイツ語圏の哲学を、とりわけ実存哲学と批判理論に着目しながら、概観します。

20世紀前半のドイツ語圏では、観念論（理想主義）への幻滅とともに、文明や学問が「危機」に陥っているという意識が強まりました。その危機意識に対応するように、一方ではヤスパースやハイデッガーらの「実存哲学」、また他方ではホルクハイマーやアドルノらの「批判理論」（あるいは「フランクフルト学派」）といった思想潮流が展開されました。授業においては、こうした歴史的・社会的な文脈を踏まえつつ、様々な哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

- (A) 20世紀前半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
 (B) 扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
 (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	そもそも「ドイツ哲学」とは？	「ドイツ哲学」の定義づけの困難と可能性
第3回	19世紀のドイツ哲学 (1)	ドイツ観念論とその挫折
第4回	19世紀のドイツ哲学 (2)	キルケゴール、マルクス、ニーチェの思想とその影響
第5回	20世紀前半の思想的状況 (1)	ヨーロッパのニヒリズムと『西洋の没落』
第6回	20世紀前半の思想的状況 (2)	時代の「危機」意識と現象学
第7回	実存哲学の生成と展開 (1)	ヤスパース『時代の精神的状況』と実存哲学
第8回	実存哲学の生成と展開 (2)	ハイデッガー『存在と時間』の存在論
第9回	実存哲学の生成と展開 (3)	ナチス政権下の哲学者たち 政治的決断主義
第10回	批判理論の生成と展開 (1)	社会研究所の設立と亡命 ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」

第11回	批判理論の生成と展開 (2)	ベンヤミン『歴史哲学テーゼ』と「進歩」への問い
第12回	批判理論の生成と展開 (3)	ホルクハイマー／アドルノ『啓蒙の弁証法』と近代的理性の自己省察
第13回	「危機」の時代のドイツの思想	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
 授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
 ・『哲学の歴史 第9巻 反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社
 ・『哲学の歴史 第10巻 危機の時代の哲学【20世紀I】』中央公論新社
 ・フッサール／ハイデッガー／ホルクハイマー『30年代の危機と哲学』清水多吉／手川誠士郎（訳）、平凡社〔平凡社ライブラリー〕
 その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40％、学期末課題もしくは試験の評価60％です。成績評価に際しては、【到達目標】(A)～(C)を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
 ・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the first half of the 20th century (especially existential philosophy and Critical Theory).

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the first half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

ドイツの思想 B

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20世紀後半のドイツ語圏の哲学を、歴史的・社会的諸問題との関連から概観します。

20世紀中盤から後半にかけてのドイツ語圏の哲学は、幾つかの重要な実際の問題と対峙しなければなりません。ホロコーストを含む第三帝国の過去の「克服」、東西ドイツの分裂とその再統一、ヨーロッパへの統合と国際社会との関わり、そしてそれらに通底する「ドイツ」のアイデンティティをめぐる問い、といった諸問題です。授業においては、これらの歴史的・社会的諸問題に関するコンテキストを踏まえながら、哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

(A) 20世紀後半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
(B) 扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
(C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	「危機」の時代から戦後へ	20世紀前半のドイツの哲学と戦後の課題
第3回	哲学者たちと「過去の克服」(1)	ニルンベルク裁判と「過去の忘却」
第4回	哲学者たちと「過去の克服」(2)	ヤスパースの戦争責任論
第5回	哲学者たちと「過去の克服」(3)	亡命知識人たちの帰還とファシズムへの問い
第6回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (1)	アウシュヴィッツ裁判と1968年運動
第7回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (2)	アドルノと「アウシュヴィッツ以後」の文化への問い
第8回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い (1)	ハーバーマスと「公共性」の思想
第9回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い (2)	1980年代の歴史修正主義と「歴史家論争」

第10回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い (3)	ナショナリズムと憲法パトリオティズム
第11回	ヨーロッパの中のドイツ (1)	東西ドイツの再統一とヨーロッパ統合
第12回	ヨーロッパの中のドイツ (2)	デリダとハーバーマスのヨーロッパ論
第13回	過去の克服と「ドイツ」のアイデンティティ再考	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
・三島憲一『戦後ドイツ その知的歴史』『現代ドイツ 統一後の知的軌跡』、岩波書店〔岩波新書〕
・ヤスパース『われわれの戦争責任について』橋本文夫（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕2015年
・ハーバーマス『近代 未完のプロジェクト』三島憲一（訳）、岩波書店〔岩波現代文庫〕
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40%、学期末課題もしくは試験の評価60%です。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the second half of the 20th century.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the second half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

LIT300LA (文学 / Literature 300)

**カルチュラル・スタディーズで見
るドイツ語圏A** 2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

2021年度までに「ドイツ語圏の文学A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【大人と子ども・学校とわたし】

20世紀初頭のドイツやフランスの人文科学に理論的源流を持ち、20世紀後半の英国で広がりを見せた「カルチュラル・スタディーズ」（文化学）は、日常生活に偏在する支配関係に注目することで、新たな表象分析の道を切り拓きました。この授業で注目するのは「ふつうの人々」の日常にひそむ権力関係、特に「子どもの目から見た大人の世界」です。20世紀前半～現代のドイツに生きた／生きる子どもたちの眼差しを通して、現代を生きる私たちの「文化」と「日常」の諸問題に迫ります。

【到達目標】

1) 読解能力と反省的思考能力の獲得

言語テキストを読み、語と文の意味を理解しながら、「自分が何かを考えている」という意識を持っているでしょうか。

2) 自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得
意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化した社会のニーズであるばかりでなく、あなたが社会の不正や自己疎外と向かい合う手立てにもなってくれます。

3) 社会に対する批判的な眼差し、遠く離れた場所の出来事を理解しようとする知性の獲得

近現代のドイツ語圏の物語が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突（＝「苦手」と感じる状況）を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

近現代ドイツ語圏文学のうち、児童文学・ジュヴナイル小説として知られる作品3点を、時系列に沿って扱います。

・毎回、担当者が講義形式で作品や作家の概要の説明を行ったあと、テキストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。文学作品のアダプテーション（映画）を扱う際は、映像の抜粋も確認します。

・授業後、次回授業までに、所定の研究課題（study question）として日本語の小レポートを執筆し提出します。

・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション（1）	ドイツ語圏？ カルチュラル・スタディーズ（文化学）？
2	導入・オリエンテーション（2）	「記号論」「受容理論」「メディア論」の基礎
3	「自然」と「文明／教育」の交差	ヨハンナ・シュビリ『ハイジ』（1880-1881）その1

4	「自然の中でのびのび生き生きと育つ子ども」？	ヨハンナ・シュビリ『ハイジ』（1880-1881）その2
5	子どもの成長・共同体との和解	ヨハンナ・シュビリ『ハイジ』（1880-1881）その3
6	信仰の力、あるいは善良に生きる価値？	ヨハンナ・シュビリ『ハイジ』（1880-1881、スイス）その4／TVアニメーションシリーズ『アルプスの少女ハイジ』（1974、ズイヨーエンタープライズ／日本）より
7	地下鉄の走る街・映画の時代	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その1／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ）
8	お母さんに心配をかけたくない	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その2／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ）
9	子どもこそ聡明な存在	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その3
10	「大人顔負けの子どもたち」という国家批判の言説	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その4
11	自分も親も初恋も全部イケてない	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その1
12	ちっぽけな自分と世界の大きさを知る	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その2
13	自分と世界を直視する勇氣	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その3
14	忘れられない日々の物語	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その4／映画『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

・授業資料に再度目を通すこと。

・あらゆる活字に触れる作業は全て、この授業にとって意味のある予習・復習です。

・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。

【テキスト（教科書）】

・授業ごと担当者から資料を配布します。

・『ハイジ』と『エーミールと探偵たち』（日本語訳）の2点を各自ご用意ください。図書館で借りるのでも構いません。

『ハイジ（全2冊）』（岩波書店、2003年）／『ハイジ（全2冊）』（福音館書店、1974年）／『アルプスの少女ハイジ』（角川書店、2021年）など

『エーミールと探偵たち』（岩波書店、2000年）

【参考書】

・手塚富雄・神品芳夫（著）『（増補）ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）

・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年

・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015年）

・D. ランゲヴィーシュ（飯田芳弘訳）『統一国家なき国民 — もう一つのドイツ史』（みすず書房）2023年

・小倉孝誠（編）『批評理論を学ぶ人のために』（世界思想社）2023年
その他は講義内資料を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献）（50%）

・授業後の提出課題（50%）

以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

・学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・筆記用具（紙媒体で利用可のもの）を必ず用意してください。

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識は必須ではありません。

・扱う作品・内容や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Cultural Studies, which had its theoretical origins in the German and French humanities of the early 20th century and spread in the UK in the latter half of the 20th century, has paved the way for alternatives of representation analysis by focusing on the ruler and ruled relationships that are ubiquitous in everyday life. In this class, we will focus on the power relations hidden in the daily lives of “ordinary people,” especially “the adult world as seen through the eyes of children,” and through the eyes of children who lived in Germany from the early 20th century to the present, we will explore various issues of “culture” and “everyday life” in our modern age.

【Learning Objectives】

To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.

To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed review tasks.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of submitted assignments as prescribed review tasks.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

**カルチュラル・スタディーズで見
るドイツ語圏 B** 2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

2021年度までに「ドイツ語圏の文学B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【「モダンガール」の系譜・多様化するフェミニズム】

この授業で着目するのは、大都市に生きる女性とジェンダー規範に関わる文学・文化現象です。20世紀以降のフェミニズム／ジェンダー批評は、あらゆる美的言説の中に、社会が約束事として作り上げた「男らしさ」「女らしさ」がひそむ現実を暴露することで、アイデンティティや主体性の問題を前傾化させてきました。この授業では、ドイツの首都ベルリンを舞台にした19～20世紀ドイツ語圏文学を例に、都市の匿名性や経済格差がいかに固定的性差と結びつけられ理解されてきたか、言語化されたジェンダー規範がどのように現実生活と通底しているか、考察を深めていきます。

【到達目標】

1) 読解能力と反省的思考能力の獲得

言語テキストを読み、語と文の意味を理解しながら、「自分が何かを考えている」という意識を持てているでしょうか。

2) 自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得
意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化した社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正や自己疎外と向かい合う手立てにもなってくれます。

3) 社会に対する批判的な眼差し、遠く離れた場所の出来事を理解しようとする知性の獲得

19～21世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突（＝「苦手」と感じる状況）を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

19世紀～20世紀のドイツ語圏で書かれたドイツ語による文学作品（日本語訳）を、時系列に沿って扱います。

・毎回、担当者が講義形式で作品や作家の概要の説明を行ったあと、テキストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。映画を扱う際はその抜粋も確認します。

・授業後、次回授業までに、所定の研究課題（study question）として日本語の小レポートを執筆し提出します。

・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏？カルチュラル・スタディーズ？？ジェンダー批評？？？
2	身分違いの恋ってわかってるけど…	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その1
3	オワコン下級貴族の本音？	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その2

4	「秩序」と人間、私的な人間関係	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その3
5	「オリエンタリズム」への逆襲？	森鷗外『舞姫』（1890年）その1
6	都市の相貌・心の迷い	森鷗外『舞姫』（1890年）その2
7	都会の「キラメキ」に憧れて	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その1
8	大都会の真実、男と女の真実	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その2／映画『狂乱のモンテカルロ』（1931年、ドイツ）
9	「とてつもなく、幸せになりたいの」	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その3／映画『会議は踊る』（1931年、ドイツ）
10	現実の、未完成の私を好きになってほしい	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その4
11	「それぞれの人生模様」？	ヴィッキ・バウム『ホテルの人々』（1929年）／映画『グラント・ホテル』（1932年、米国）
12	忌まわしいはずの記憶が美化される条件	トーマス・ブルスイヒ『太陽通り（ゾネンアレーの短い方の端で）』（1999年）その1
13	「世界で一番可愛い女の子」と「肝っ玉母さん」	トーマス・ブルスイヒ『太陽通り（ゾネンアレーの短い方の端で）』（1999年）その2
14	「ちょっと抜けてる男たち」？	トーマス・ブルスイヒ『太陽通り（ゾネンアレーの短い方の端で）』（1999年）その3／映画『ゾネンアレー』（1999年、ドイツ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

・授業資料に再度目を通すこと。

・あらゆる活字に触れる作業は全て、この授業にとって意味のある予習・復習です。

・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。

【テキスト（教科書）】

・授業ごと担当者から資料を配布します。

・授業第5、6回目は、各自で『舞姫』（森鷗外著）をご用意ください。どの版でも、図書館で借りるので問題ありません。

【参考書】

・手塚富雄・神品芳夫（著）『増補 ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）

・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）

・E. ショウォールター編（青山誠子訳）『新フェミニズム批評 女性・文学・理論』（岩波書店）1999年

・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年

・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015年）

・弓削尚子『はじめての西洋ジェンダー史 家庭史からグローバルヒストリーまで』（山川出版社）2021年

・田中東子『ガールズ・メディア・スタディーズ』（北樹出版）2021年

・林香里・田中東子『ジェンダーで学ぶメディア論』（世界思想社）2023年

・D. ラングヴィーシェ（飯田芳弘訳）『統一国家なき国民ーもう一つのドイツ史』（みすず書房）2023年

・小倉孝誠（編）『批評理論を学ぶ人のために』（世界思想社）2023年

その他は講義内資料を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献）（50%）

・授業後の提出課題（50%）

以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

・学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・筆記用具（紙媒体で使用可のもの）を必ず用意してください。

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識は必須ではありません。

・扱う作品・内容や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】

This class focus on women in the metropolis and the literary and cultural phenomena related to gender norms. Feminism and gender critique since the 20th century have brought forward issues of identity and subjectivity by exposing the reality of “masculinity” and “femininity” that society has created as promises in all aesthetic discourses. In this class, we will deal with literary works from 19th and 20th century Germany as examples to examine how urban anonymity and economic disparity have been linked to and understood as fixed gender inequality, and how verbalized gender norms are connected to real life. The lecture will use examples from 19th- and 20th-century German literary works to deepen the discussion.

【Learning Objectives】

To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.

To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed review tasks.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50%of submitted assignments as prescribed review tasks.

ARSk300LA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)

比較文化 A

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食、メディアと現代文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】

- 。自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する能力を培うこと。
- 。固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 。海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題の提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の説明・選抜	シラバスを読み、授業内容を確認する。 ※ 定員を超える場合は選抜
②	TVの料理ドキュメンタリー（1）	テレビの料理ドキュメンタリーとの比較から偏見を見直す。
③	TVの料理ドキュメンタリー（2）	課題、ディスカッション
④	TVのCooking Show（1）	TVのCooking Showの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
⑤	TVのCooking Show（2）	課題、ディスカッション
⑥	TVの食品調査番組（1）	日本には存在していない食品調査番組の紹介で文化の違いを学ぶ。
⑦	TVの食品調査番組（2）	課題、ディスカッション
⑧	Youtubeの料理チャンネル（1）	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑨	Youtubeの料理チャンネル（2）	課題、ディスカッション
⑩	Webの料理検索・レシピサイト（1）	Webの料理検索・レシピサイトを比較する。
⑪	Webの料理検索・レシピサイト（2）	課題、ディスカッション

⑫	Foodfilm（1）	フードフィルムの分析を学ぶ。
⑬	Foodfilm（2）	課題、ディスカッション
⑭	まとめ	春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のためにHoppii学習支援システムにUPされた作品全体を観て比較する必要があります。

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。」

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

出席及び授業内の課題達成度：70%

授業への参加態度など平常点：30%

欠席が全体の3分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学のPCやプリンター、WIFIを利用して下さい。

【その他の重要事項】

定員は30人名程度です。受講希望者多数の場合には、第1回目の授業参加者の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席してください。

【Outline (in English)】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

- 。 To deepen understanding of different cultures and own culture.
- 。 Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- 。 Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Attendance and achievement of in-class assignments: 70%

Normal points such as participation attitude in class: 30%

If more than one-third of the class is absent, it will not be considered for grade evaluation.

ARSk300LA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)

比較文化B

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「神話とメルヘンにおけるシンボル動物」をテーマに、この授業では諸文化間の動物観とそれらのシンボリック意味を比べ、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高める。

【到達目標】

- ・人間と動物の関係についての異文化理解を深めること。
- ・固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- ・海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	狐（1）	童話におけるキツネの性格を比較する。
③	狐（2）	課題、ディスカッション
④	ロバと馬（1）	映画の中のロバと馬を比較する。
⑤	ロバと馬（2）	課題、ディスカッション
⑥	白鳥（1）	オペラとバレエを比較する。
⑦	白鳥（2）	課題、ディスカッション
⑧	禿鷹（1）	カフカの寓話『禿鷹』を読む。
⑨	禿鷹（2）	課題、ディスカッション
⑩	蛙（1）	現代ドイツ文学における蛙について
⑪	蛙（2）	課題、ディスカッション
⑫	人魚（1）	日本人と西洋人の「人魚」像の比較
⑬	人魚（2）	課題、ディスカッション
⑭	まとめ	秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のためにHoppii学習支援システムにUPされた作品全体を観て比較する必要があります。

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。」

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

出席及び授業内の課題達成度：70%

授業への参加態度など平常点：30%

欠席が全体の3分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学のPCやプリンター、WIFIを利用して下さい。

【Outline (in English)】

What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

・ Deepening cross-cultural understanding of human-animal relationships.

・ Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.

・ Acquire the ability to effectively utilize overseas media

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Attendance and achievement of in-class assignments: 70%

Normal points such as participation attitude in class: 30%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

ドイツ語圏の公共哲学 A

2017年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民主主義ってどういう仕組みで成り立っているのだろうか。そもそも私たちの考えることは本当に反映しているのだろうか。皆さんは投票に出かけたり、選挙特番をご覧になるときに、そう思ったことはありませんか。このことを考えるヒントを、ドイツ語圏の哲学者たち（例えば、カントやアーレントやハーバマス）により展開された公共哲学の議論の展開を検討しながら、探すことがこの授業の目的です。

その際に、現代のドイツ語圏の政治・社会事情を例に取ります。ドイツ語圏の諸国では、議会制民主主義が根付いていると考えられています。一方で、新聞の国際面などを見れば、ドイツ語圏の各国の政治状況は大きく動いていることも感じられます。ドイツ語圏は、一体どうなっているのだろうか。この授業はそんな問いに答えるヒントも探したいと思います。

つまり、哲学的な思考法を身につけるだけではなく、それらの考え方をを用いて実際の政治的な事例について考えることができるようになることが目的なのです。

【到達目標】

公共哲学についての基本的な概念とそれぞれの概念が持つ問題意識を理解する。

ドイツ語圏の政治に関わる話題について基礎的な理解を得る。

哲学的な思考に基づいて、レポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。毎回アクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます。この質問を匿名化の上、次の回の導入で一緒に検討します。

学期末にレポートを書いていただきます。

この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	なぜ公共哲学は重要なのかについてのイントロダクション
第2回	なぜ公共的意見は重要なのか	・ 公共性とは何ではないのか ・ 公共性と公開性の関係 ・ 歴史的出来事を題材に哲学することについて ・ 民主主義国家の正統性について
第3回	なぜ公共的意見は重要なのか（続き）	前回の続き
第4回	なぜ公共的意見は重要なのか（続き）	前回の続き
第5回	公共性と「公的なもの」	・ 行為調整の面から見た公共性と共同体の違い ・ 相互行為の合理的な調整方法としての討議 ・ 国家の役割の変容と公共性の変化
第6回	公共性と「公的なもの」(続き)	前回の続き

第7回	公共性と「公的なもの」(続き)	前回の続き
第8回	公共性と私（秘）性	・ 公私の区別を自由の観点から検討する ・ 親密さについて小家族を例に考える ・ 家父長制における親密さの持つ問題を捉える ・ その問題の背景にある構造的な問題について考える
第9回	公共性と私（秘）性（続き）	前回の続き
第10回	公共性と私（秘）性（続き）	前回の続き
第11回	公共の意見形成	・ 後期資本主義に変容するメディアの役割についてのハーバマスの悲観的見方 ・ 第2次世界大戦後のドイツのメディアをめぐる状況 ・ 熟議民主主義論の2回路 ・ 対抗し合う公共圏の中でメディアの果たす役割
第12回	公共の意見形成（続き）	前回の続き
第13回	公共の意見形成（続き）	前回の続き
第14回	春学期のまとめ	春学期に扱ったテーマの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布される授業をよく復習して次の授業に臨んでください。

学期末にレポートを書いていただきます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回、資料をHoppiiで配布しますので、そちらをダウンロードしてお持ちください。

【参考書】

毎回の授業ごとに資料内に掲示しますので、そちらをご参照ください。

【成績評価の方法と基準】

毎回アクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます(50%)。こちらを平常点として評価します。また授業中の積極的な発言はこちらで加味します。

学期末にレポートを執筆していただきます(50%)。こちらは、資料内で提示した参考文献の一部を読んで、要約することを含みます。

【学生の意見等からの気づき】

入り口の興味が、ドイツ語圏の事情・政治学・哲学のどれであっても理解しやすくできるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、資料をHoppiiを通じて配布しますので、教室でそれらが閲覧できるようにタブレットないしパソコンを準備してきてください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を分割して履修することもできますが、連続履修をお勧めします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to provide philosophical discussions on the public sphere and to apply philosophical concepts to social/political issues in the German-speaking region.

【Learning Objectives】

In this course, students will learn how to deal with philosophical concepts and apply them to actual political issues.

【Learning activities outside of classroom】

Students have to learn at least 2 hour outside of class each week.

【Grading Criteria /Policy】

Participation and homework (50%) + term paper (50%)

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

ドイツ語圏の公共哲学B

2017年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民主主義ってどういう仕組みで成り立っているのだろうか。そもそも私たちの考えることは本当に反映しているのだろうか。皆さんは投票に出かけたり、選挙特番をご覧になるときに、そう思ったことはありませんか。このことを考えるヒントを、ドイツ語圏の哲学者たち（例えば、カントやアーレントやハーバマス）により展開された公共哲学の議論の展開を検討しながら、探すことがこの授業の目的です。

その際に、現代のドイツ語圏の政治・社会事情を例に取ります。ドイツ語圏の諸国では、議会制民主主義が根付いていると考えられています。一方で、新聞の国際面などを見れば、ドイツ語圏の各国の政治状況は大きく動いていることも感じられます。ドイツ語圏は、一体どうなっているのだろうか。この授業はそんな問いに答えるヒントも探したいと思います。

つまり、哲学的な思考法を身につけるだけではなく、それらの考え方をを用いて実際の政治的な事例について考えることができるようになることが目的なのです。

【到達目標】

公共哲学についての基本的な概念とそれぞれの概念が持つ問題意識を理解する。

ドイツ語圏の政治に関わる話題について基礎的な理解を得る。

哲学的な思考に基づいて、レポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます。この質問を匿名化の上、次の回の導入で一緒に検討します。

学期末にレポートを書いていただきます。

この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	春学期の簡単な振り返りと、秋学期のテーマのイントロダクション。
第2回	熟議民主主義と公共性	・ 熟議民主主義論における政治システムの理論的な役割 ・ 東ドイツの崩壊と公共性 ・ アソシエーションの公共性
第3回	熟議民主主義と公共性（続き）	前回の続き
第4回	熟議民主主義と公共性（続き）	前回の続き
第5回	熟議民主主義と公共性（続き）	前回の続き
第6回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	・ 政治システムとしてのドイツ語圏の政党制度 ・ 熟議民主主義の対抗説としての闘技民主主義
第7回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	前回の続き

第8回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	前回の続き
第9回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	前回の続き
第10回	多元主義と公共性	・ 社会が多元的であることをどのように理解するか ・ 形而上学的思考とその世俗化 ・ ドイツ語圏における宗教に関わる状況 ・ ポスト世俗化論とは何か
第11回	多元主義と公共性（続き）	前回の続き
第12回	多元主義と公共性（続き）	前回の続き
第13回	多元主義と公共性（続き）	前回の続き
第14回	まとめ	1年間の講義を振り返ってまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布される授業をよく復習して次の授業に臨んでください。

学期末にレポートを書いていただきます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回、資料をHoppiiで配布しますので、そちらをダウンロードしてお持ちください。

【参考書】

毎回の授業ごとに資料内に掲示しますので、そちらをご参照ください。

【成績評価の方法と基準】

毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます (50%)。こちらを平常点として評価します。また授業中の積極的な発言はこちらで加味します。

学期末にレポートを執筆していただきます (50%)。こちらは、資料内で提示した参考文献の一部を読んで、要約することを含みます。

【学生の意見等からの気づき】

入り口の興味が、ドイツ語圏の事情・政治学・哲学のどれであっても理解しやすくできるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、資料をHoppiiを通じて配布しますので、教室でそれらが閲覧できるようにタブレットないしパソコンを準備してきてください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を分割して履修することもできます。春学期を履修していなくてもついて来れるようには工夫いたします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to provide philosophical discussions on the public sphere and to apply philosophical concepts to social/political issues in the German-speaking region.

【Learning Objectives】

In this course, students will learn how to deal with philosophical concepts and apply them to actual political issues.

【Learning activities outside of classroom】

Students have to learn at least 2 hour outside of class each week.

【Grading Criteria /Policy】

Participation and homework (50%) + term paper (50%)

HIS300LA（史学 / History 300）		
ドイツ語圏の歴史 A		
2017年度以降入学者		
辻 英史		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月 4/Mon.4		
単位数：2単位		
定員制（30）		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
ドイツ語圏の社会文化史		
中・近世から20世紀にいたる時期のドイツ語圏を中心にしたヨーロッパの歴史を、とくに社会の変化と芸術・文化の発展に焦点を当てて学ぶ。		
【到達目標】		
中・近世のドイツ語圏は、政治的には多数の地方権力に分裂していた。19世紀に入り、それらの勢力は次第に整理・統合され、最終的にはドイツ帝国やオーストリア帝国、スイス連邦といった近代国家として統一されていく。このような歴史的経緯から、現代に至るまでドイツ語圏は全体としてある程度の共通性を保ちつつ、地域ごとに非常に変化に富む社会である。そこから文化・芸術の領域において貴重な遺産の数々が作り出されてきた。		
この授業では、こうした地域差と多様性を有するドイツ語圏の社会が、ヨーロッパの他の地域と交流しながら、いかに独自の文化を生み出し、それと同時に優れた芸術作品を作り出していったかを学ぶ。		
なお、20世紀以降の時代については秋学期開講の「ドイツ語圏の歴史B」で扱う。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【授業の進め方と方法】		
ドイツ語圏の歴史のなかでもとくに重要ないくつかの時期や事件をとりあげて、当時の社会がどのようなものであったかを解説し、またそうした時代背景のもとでどのような文化現象や芸術作品が生み出されたのかを説明する。さまざまな映像・画像・テキストなどの資料により作品の解説を行う。		
授業は時代順に以下の5つのパートに分かれる：		
①中世編 フランク王国から宗教改革（16世紀前半）まで		
②近世編 16世紀後半から18世紀後半まで		
③初期近代編 18世紀末から19世紀前半まで		
④近代編 19世紀半ばから19世紀末まで		
⑤世紀転換期編 19世紀末から20世紀初頭まで		
参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも日本語または英語の翻訳を用意する。		
参加者は毎回リアクションペーパーを提出する。毎回の授業冒頭に前回のリアクションペーパーのフィードバックをおこなう。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツ語圏の社会と文化の特徴とは？
第2回	中世編① 中世社会とキリスト教	教会建築を手がかりに、中世のキリスト教が社会に与えた影響を考える。
第3回	中世編② 中世の都市文化	中世都市の発展と社会構造の関係を、ルネサンス期の絵画芸術を例として考える。
第4回	中世編③ 宗教改革と文化	中世社会の経済的発展がローマ・カトリック宗教改革期の社会と芸術の関係について。
第5回	近世編① 宮廷社会とバロック芸術	近世の宮廷では、強力な君主権力のもと各種のバロック芸術が花開いた。その例として建築、絵画、音楽などの作品を取り上げる。
第6回	近世編② 民衆のバロック	近世では、主としてプロテスタント圏において都市の経済力を原動力として新たな芸術活動が展開された。バッハの音楽芸術はその典型である。
第7回	近世編③ 啓蒙主義の出現	近世における経済発展は、哲学や思想上の革新をもたらした。その頂点に位置するのが啓蒙主義思想である。その思想内容は同時代の芸術作品にも影響を与えている。
第8回	初期近代編① 近代国家と古典主義	ドイツ語圏では啓蒙主義派君主権力と結びつき、国家や社会の近代化の動きをもたらした。古典主義の芸術は新しい国家と社会の象徴でもあった。
第9回	初期近代編② 市民社会の出現とロマン主義	18世紀の末になると、国家の保護をうけて商工業は活発化し、市民層と呼ばれる商工業に従事する中間層が台頭する。彼らはロマン主義の芸術に深く傾倒していく。
第10回	近代編① ナポレオン戦争とナショナリズム	フランス革命とそれに続くナポレオンによる侵略は、それまで分裂していたドイツを統一しようとするナショナリズムを高揚させることになった。
第11回	近代編② 工業化と市民層の文化	19世紀の半ばから後半にかけての工業化の進展は、市民層の地位をさらに高め、芸術の担い手としての活動を可能にした。
第12回	近代編③ 社会主義労働運動の展開	19世紀後半、低賃金と過酷な労働・生活環境に苦しめられた工業労働者たちは社会主義思想のもと団結し、ひとつの階級を形成し始めた。
第13回	世紀転換期編① 19世紀末の社会と芸術	ウィーンを例に、いわゆる世紀末文化の特徴と、ユエグントシュティルの芸術の隆盛を説明する。
第14回	世紀転換期② 20世紀初頭の生活改革運動と表現主義	19世紀末から20世紀初めに出現した改革運動の数々と、同時代の新しい芸術潮流との関係について扱う。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
プリントを配布する。		
【参考書】		
必要に応じて指示する。		
【成績評価の方法と基準】		
授業への参加(10%)、リアクションペーパー(30%)、期末レポート(60%)		
【学生の意見等からの気づき】		
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。		

【Outline (in English)】

In this class, students will study the history of Europe, especially the German-speaking countries, from the Middle Ages and early modern period to the 20th century, focusing especially on social changes and the development of art and culture.

Students are required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

HIS300LA (史学/History 300)

ドイツ語圏の歴史B

2017年度以降入学者

辻 英史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ナチズムを中心に20世紀のドイツ語圏の歴史を扱う。ナチスとその支配をドイツ＝ヨーロッパ史の文脈のなかに位置づけ、その特質を理解することを目的とする。

【到達目標】

20世紀の前半のドイツを中心とするヨーロッパの状況について学ぶ。とくに、歴史上例のない破壊と犯罪行為をおこなったナチ政権の成立に至る過程とその支配のイデオロギーや構造、およびナチ政権の下での「普通の人びと」の日常生活について理解する。ナチスの引き起こした第二次世界大戦とユダヤ人迫害（ホロコースト）を、そのヨーロッパワイドな広がりという文脈において理解する。さらに、大戦後から現代に至るまでのナチスをめぐる歴史認識についても考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は以下の3つのパートからなる。

- ①概説：政治・経済を中心に、時代の流れを説明する。
 - ②論点：経済・社会・文化を中心に、その時代の重要な特徴をいくつか抜き出し、解説する。
 - ③演習：それまでに得た知見を踏まえ、同時代史料（文書、画像、映像、芸術作品など）を読み解き、解釈する。史料は日本語のものを用意する。
- 参加者は毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。提出課題はフィードバックのうえ返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツの近現代史における特殊性と他地域との共通性について知る。
第2回	近現代ドイツ史の歩みとナショナリズム	ナポレオン戦争からドイツ帝国創建にいたるドイツのナショナリズムの発展を概観する。
第3回	第一次世界大戦とその帰結	ヴェルサイユ体制と敗戦国ドイツの処遇について学ぶ。
第4回	ヴァイマル共和国の誕生	ドイツ革命、ヴァイマル共和国の成立から1920年代半ばの相対的安定期までを扱う。
第5回	ヴァイマル共和国の崩壊	世界大恐慌から、ナチ党の台頭過程を経てその権力掌握に至るまでを明らかにする。
第6回	ナチ独裁支配の確立	全権委任法や「グライヒシャルトゥンク」と呼ばれる国内支配体制の足固め、「経済の奇跡」を達成するまでを概観する。
第7回	ナチ体制への国民統合	ドイツ国民の「民族共同体」への統合と、「共同体異分子」と呼ばれた人びとの排除について扱う。

第8回	ナチ・ドイツと国際社会	ヨーロッパ・グローバルな視点から1930年代の国際情勢を明らかにする。
第9回	「電撃戦」から「総力戦」へ	第二次世界大戦の開戦の経緯とドイツの戦争遂行体制の内実について知る。
第10回	ヨーロッパ・ユダヤ人の「絶滅計画」	大量虐殺に至るユダヤ人迫害の累進的急進化のプロセスについて学ぶ。
第11回	支配と協力のあいだで	ナチ支配体制に対するヨーロッパ各国の協働と抵抗について知る。
第12回	第二次世界大戦後のドイツ（1）	「崩壊社会」と呼ばれた敗戦後の混乱から、東西ドイツの建国にいたる時期を扱う。
第13回	第二次世界大戦後のドイツ（2）	戦後の東西ドイツにおける「過去の克服」の状況、とくに戦争犯罪人の訴追の問題を扱う。
第14回	再統一後のドイツと「記憶の文化」	統一ドイツにおけるナチズムの過去に関する「記憶の文化」の形成について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007年。
 芝健介『ホロコーストナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』中公新書、2008年。
 石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』講談社現代新書、2015年。
 芝健介『ヒトラー—虚像の独裁者』岩波新書、2021年。
 ウルリヒ・ヘルベルト（小野寺拓也訳）『第三帝国—ある独裁の歴史』角川新書、2021年。
 小野寺拓也／田野大輔『検証ナチスは「良いこと」もしたのか？』岩波ブックレット、2023年。
 原田昌博『ナチズム前夜』集英社新書、2024年。
 ほか、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加(10%)、リアクションペーパー(30%)、レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

This course covers the history of the German-speaking world in the 20th century, with a focus on National Socialism. The aim is to place the Nazis and their rule in the context of German-European history and to understand its particularities.

Students will pay close attention to the process led to the establishment of the Nazi regime, which committed destruction and criminality unprecedented in history, the ideology and structure of its rule, and the daily lives of "ordinary people" under the Nazi regime. The course will also provide students with an understanding of the role of the Nazi regime in the Second World War and the persecution of the Jews (the Holocaust) in the context of its Europe-wide spread. The course will also examine historical perceptions of the Nazis from the end of the war to the present day.

Students are required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語講読 A 2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、F・ニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』のドイツ語原文を講読します。

『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*, 1883-1885)は、「神は死んだ」という洞察や「超人」の概念、「永劫回帰」の思想など、ニーチェ思想の重要モチーフが展開されている著作です。複数の日本語訳も存在し、ニーチェの主著の一つと見なされているこの著作は、実際に本文に目を通すとわかるように、一義的には理解できない文章によって構成されています。その理解のためには、原文を丁寧に読み、テキストに織り込まれた思想の内実を紐解いていくことが、非常に有益であるはずです。

授業においては、ドイツ語原文の精読を通して、ニーチェの思想を精確に理解するとともに、学術的なテキストをドイツ語で読む力をつけることを目指します。春学期には、『ツァラトゥストラはこう語った』の序説を講読する予定です。

【到達目標】

(A) 辞書や参考書を用い、専門的なドイツ語のテキストを読解できる。

(B) ニーチェの思想を、テキストに即して精確に理解できる。

(C) 理解した内容について考察し、他者と議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

はじめにニーチェの生涯や思想、著作について導入をした後、『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*)のドイツ語原文を輪読形式で講読します。

講読に際しては、受講者全員が事前にテキストを十分に予習していることを前提とします。予習した内容に基づき、テキストを精確に訳読し、意味内容を厳密に確認した上で、疑問点や議論したい点を発言してもらいます。また各回に記録担当者を設定します。該当者には、担当する回の講読内容やなされた議論を記録し、レジュメにまとめて次回の冒頭に発表してもらいます。発言や発表に対するフィードバックは、授業の中で適宜行うようにします。受講者には積極的な参加が望まれます。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
	テキストについて導入	ニーチェの生涯や思想、著作の背景について導入
第2回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読(1)	7頁の精読、検討
第3回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読(2)	7-8頁の精読、検討

第4回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読(3)	8-9頁の精読、検討
第5回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読(4)	10-11頁の精読、検討
第6回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読(5)	11-12頁の精読、検討
第7回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読(6)	12-14頁の精読、検討
第8回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読(7)	14-15頁の精読、検討
第9回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読(8)	15-16頁の精読、検討
第10回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読(9)	17-19頁の精読、検討
第11回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読(10)	19-21頁の精読、検討
第12回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読(11)	21-22頁の精読、検討
第13回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読(12)	23頁の精読、検討
第14回	春学期のまとめ	春学期の講読内容の整理・検討 議論と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。準備としては、訳読ができるよう、わからない単語・熟語に関して辞書を丁寧に引き、ドイツ語テキストを予習しておく必要があります。また復習としては、辞書や専門の事典を参照しつつ、訳読内容や授業で議論された内容を整理しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

・F. Nietzsche, *Also sprach Zarathustra*, Reclam

※テキストの詳細や入手方法に関しては、第1回の授業で説明をするので、準備はそれからで構いません。

【参考書】

・独和辞典（必須）
 ・『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社
 ・『ニーチェ全集9・10 ツァラトゥストラ 上・下』吉沢伝三郎（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕
 ・須藤訓任「ニーチェ」(『哲学の歴史 第9巻 反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社、263-376頁)
 ・細見和之（編著）『ニーチェをドイツ語で読む』白水社
 その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（講読時のテキスト理解、議論への参加、その他の授業への取り組みなどの総合評価）60%、発表への取り組み40%です。成績評価に際しては、【到達目標】(A)～(C)を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新設科目のため昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典（必須）とあわせて、ドイツ語学習時に用いた教科書や参考書をできるだけ持ってきてください。
 ・オンライン授業の場合に必要なため、Zoomに接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

・履修に際してはドイツ語の初級文法を学習済みであることが望ましいですが、特に希望がある場合、初級文法の学習と並行して履修することも可能です。

- ・ドイツ語で文献講読をすることに不安を抱く方もいるかもしれませんが。予習をするのは前提ですが、その上でわからなかったり間違えたりすることは問題ではありません。調べた上で、何がどうわからなかったかを発言してもらうことが大切です。
- ・春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with Nietzsche's thought by reading his *Thus Spoke Zarathustra* (1883-1885) in German.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) read academic texts in German, (B) understand Nietzsche's text, and (C) discuss relevant topics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and in-class presentations (40%).

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語講読 B

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、F・ニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』のドイツ語原文を講読します。

『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*, 1883-1885)は、「神は死んだ」という洞察や「超人」の概念、「永劫回帰」の思想など、ニーチェ思想の重要モチーフが展開されている著作です。複数の日本語訳も存在し、ニーチェの主著の一つと見なされているこの著作は、実際に本文に目を通すとわかるように、一義的には理解できない文章によって構成されています。その理解のためには、原文を丁寧に読み、テキストに織り込まれた思想の内実を紐解いていくことが、非常に有益であるはずです。

授業においては、ドイツ語原文の精読を通して、ニーチェの思想を精確に理解するとともに、学術的なテキストをドイツ語で読む力をつけることを目指します。秋学期には、『ツァラトゥストラはこう語った』の幾つかの説話を講読する予定です。

【到達目標】

(A) 辞書や参考書を用い、専門的なドイツ語のテキストを読解できる。

(B) ニーチェの思想を、テキストに即して精確に理解できる。

(C) 理解した内容について考察し、他者と議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

はじめに序説の内容や論点を確認した後、春学期に引き続き、『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*)のドイツ語原文を輪読形式で講読します。

講読に際しては、受講者全員が事前にテキストを十分に予習していることを前提とします。予習した内容に基づき、テキストを精確に訳読し、意味内容を厳密に確認した上で、疑問点や議論したい点を発言してもらいます。また各回に記録担当者を設定します。該当者には、担当する回の講読内容やなされた議論を記録し、レジュメにまとめて次回の冒頭に発表してもらいます。発言や発表に対するフィードバックは、授業の中で適宜行うようにします。受講者には積極的な参加が望まれます。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認 序説の振り返り
		<i>Also sprach Zarathustra</i> , 7-23 頁の内容・論点の確認
第2回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (1)	24-26 頁の精読、検討
第3回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (2)	26-27 頁の精読、検討

第4回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (3)	27-29 頁の精読、検討
第5回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (4)	29-31 頁の精読、検討
第6回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (5)	31-32 頁の精読、検討
第7回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (6)	32-33 頁の精読、検討
第8回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (7)	33-34 頁の精読、検討
第9回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (8)	34-36 頁の精読、検討
第10回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (9)	36-37 頁の精読、検討
第11回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (10)	38-39 頁の精読、検討
第12回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (11)	39-41 頁の精読、検討
第13回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (12)	41-44 頁の精読、検討
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の講読内容の整理・検討 議論と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。準備としては、訳読ができるよう、わからない単語・熟語に関して辞書を丁寧に引き、ドイツ語テキストを予習しておく必要があります。また復習としては、辞書や専門の事典を参照しつつ、訳読内容や授業で議論された内容を整理しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

・F. Nietzsche, *Also sprach Zarathustra*, Reclam

※テキストの詳細や入手方法に関しては、第1回の授業で説明をするので、準備はそれからで構いません。

【参考書】

・独和辞典（必須）
・『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社
・『ニーチェ全集9・10 ツァラトゥストラ 上・下』吉沢伝三郎（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕
・須藤訓任「ニーチェ」(『哲学の歴史 第9巻 反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社、263-376頁)
・細見和之（編著）『ニーチェをドイツ語で読む』白水社
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（講読時のテキスト理解、議論への参加、その他の授業への取り組みなどの総合評価）60%、発表への取り組み40%です。成績評価に際しては、【到達目標】(A)～(C)を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新設科目のため昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典（必須）とあわせて、ドイツ語学習時に用いた教科書や参考書をできるだけ持ってきてください。
・オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

・履修に際してはドイツ語の初級文法を学習済みであることが望ましいですが、特に希望がある場合、初級文法の学習と並行して履修することも可能です。

- ・ドイツ語で文献講読をすることに不安を抱く方もいるかもしれませんが。予習をするのは前提ですが、その上でわからなかったり間違えたりすることは問題ではありません。調べた上で、何がどうわからなかったかを発言してもらうことが大切です。
- ・春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with Nietzsche's thought by reading his *Thus Spoke Zarathustra* (1883-1885) in German.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) read academic texts in German, (B) understand Nietzsche's text, and (C) discuss relevant topics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and in-class presentations (40%).

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム(Hoppii)を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。

9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学 B

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。

9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたいうで授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要(Course outline)】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標(Learning Objectives)】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークおよび講義、実習から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワーク「他己紹介」を通じたアイスブレイク。（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	運動の心理的效果 バドミントン	運動の心理的效果について、気分調査尺度を用いて検証する。（講義及び実習）
5	運動の身体的効果 バドミントン	運動の身体的効果について学ぶ（講義及び実習）

6	技術を高める効果的な練習法：注意の焦点 バスケットボール(+派生バスケ)	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として注意の焦点を学ぶ。（講義および実習）
7	技術を高める効果的な練習法：フィードバック法 ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてフィードバック法を学ぶ（講義および実習）
8	技術を高める効果的な練習法：運動イメージ ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として運動イメージを学ぶ（講義および実習）
9	技術を高める効果的な練習法：ブロック・ランダム法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてブロック・ランダム法を学ぶ（講義および実習）
10	技術を高める効果的な練習法：観察学習法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として観察学習法を学ぶ（講義および実習）
11	効果的な練習方法の探索 卓球	グループワークを通じて、効果的に運動を学習するための方法について探索する（講義及びグループワーク）
12	効果的な練習方法の実践 ユニホック	「効果的な運動学習法の実践」での結果を踏まえて、効果的に運動を学習するための方法を実践する（講義および実習）
13	Tea(お茶)とスポーツ ボッチャ	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート・試験40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.

The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
- (2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学 B

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークおよび講義、実習から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。（講義）
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワークを通じたアイスブレイク。実技種目はドッジビーを用いる（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	プレッシャーとスポーツ：実践 バスケットボール(+ 派生バスケ)	スポーツの場面ではしばしば緊張が高まる場面でのプレーが求められる。バスケットボールのフリースローを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する（講義及び実習）

5	プレッシャーとスポーツ：基礎理論 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ：実践」での結果を踏まえてプレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ（講義及び実習）
6	プレッシャーとスポーツ：あがりへの対処 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ」での結果と基礎理論を踏まえて、プレッシャーがかかる場面でも実力発揮をするための方法とあがりへの対処法を学ぶ（講義および実習）
7	スポーツの価値 卓球	これまでに五輪スポーツから地域レベルでのレクリエーションスポーツまで数多のスポーツ種目が生み出されてきた。既存のスポーツ種目を概観すると共にスポーツの本質的価値を学ぶ（講義および実習）
8	Tea(お茶)とスポーツ 卓球	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
9	運動の功と罪 卓球	運動による健康効果についてはよく知られている。一方で、運動が心身に及ぼす負の影響についてはあまり知られていない。運動の功と罪について学ぶ（講義および実習）
10	ニュースポーツと地域活性 ネオテニス	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める（講義および実習）
11	スポーツ栄養 ネオテニス	食の欧米化と多様化により、様々な健康リスクが増加した。近年、危惧されている超加工食品の摂取と健康リスクの関連について学ぶ（講義および実習）
12	睡眠の効果 ボッチャ	睡眠は健康に大きな影響を及ぼす。睡眠の効果について学ぶ（講義および実習）
13	スポーツとコーピング ユニホック	社会生活を営む中で、様々な心理的ストレスを受ける。ストレスに対処する方法を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括およびレポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60%、課題・レポート・試験 40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。

3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.

The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
- (2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

白井 隆長

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年におけるテクノロジーの著しい発展に伴い、スポーツサイエンスの分野においても顕著な進化が見られ、スポーツをより効果的かつ効率的に、そして安全に実践するための多様な方法が提案されている。本講義では、ゴール型競技、ネット型競技、対人型競技など、異なる競技特性を有するスポーツを対象とし、最新のスポーツ科学に関する理解を深めることを目的とする。また、各競技における技術の習得および向上を目指し、理論的知識と実践的スキルの双方を習得することに重点を置く。さらに、身体活動の意義や役割について包括的に理解を深めるとともに、生涯を通じた身体的・精神的・社会的健康の維持・向上に寄与する基礎的な知識の修得を促進し、自己管理能力の涵養を図る。本講義では、これらの知識や態度を、講義と実習を通じて総合的に育成することを目標とする。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について スポーツ科学の視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 人体のしくみを理解することで自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 健康に関する情報の取捨選択ができるようになるために、科学的根拠を踏まえた健康リテラシーを醸成する。
- ⑤ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑥ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいてレポート選抜で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技&講義 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操(フィットネス) バスケットボールの基本的技術とルール
3	実技&講義 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操(フィットネス)・レクリエーション、バスケットボールの応用的技術と戦術理解
4	実技&講義 ：バレーボール①	ストレッチ・体操(フィットネス)・レクリエーション、バレーボールの基本的技術とルール

5	スポーツ科学とは？ （講義）	スポーツ科学とは トップアスリートの特徴 サイエンスの活用
6	運動と代謝（講義）	代謝とそのメカニズム 運動が健康に与える影響
7	実技&講義 ：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール
8	実技&講義 ：卓球②	ストレッチ・体操(フィットネス) ダブルスの応用的技術とルール
9	実技&講義 ：バドミントン①	ストレッチ・体操(フィットネス) バドミントンの基本的技術とルール、試合形式のゲーム
10	実技&講義 ：バドミントン②	ストレッチ・体操(フィットネス) バドミントンのダブルスの応用的技術とルール、試合形式のゲーム
11	実技&講義 ：バレーボール②	ストレッチ・体操（フィットネス） バレーボールの応用的技術とルール
12	実技 & 講義 ：その他の種目	ストレッチ・体操(フィットネス) ドッジボール、フリスビー、ユニホック、ホッケーの基本技術とルール
13	サクセスフルエイジングの達成（講義）	エイジング 老化と加齢 エクササイズの効果
14	授業の総括、簡易テスト	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

本授業は、講義および実習を通じて、スポーツ活動が身体的および精神的健康の維持・増進に寄与し、さらに良好な対人関係の構築を促進することについて理解を深めることを目的としている。その一環として、日常生活における身体活動に費やした時間、食事内容、睡眠時間などの生活習慣を記録し、それらを振り返ることで、身体活動がもたらす効果を評価するとともに、今後の課題を明確にすることが求められる。また、テレビ、新聞、Webメディアなどを通じて発信される多様なスポーツ関連情報に注意を向け、それらを積極的に収集・分析する習慣を身につけることも推奨される。これらの取り組みにより、本授業で扱う内容への理解が一層深まり、スポーツ活動の意義についての認識を高めることが期待される。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で論理的かつ適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

本授業では、スポーツ競技の優れた技術をマスターすることを目的としていないため、初心者でもスポーツに親しめるよう授業の難易度を低く設定しています。そのため、競技に不安のある方でも楽しく参加できるよう配慮しております。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある

【Outline (in English)】

[Course outline] With the development of technology in recent years, sports science has evolved in various ways, and many methods have been proposed to make sports more effective, efficient, and safe. In this lecture, we will deepen our understanding of the latest sports science using sports with various characteristics such as goal-based, net-based, and opponent-based, and aim to acquire and improve skills in each sport. This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
[Learning Objectives] By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from sports science perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. To develop basic knowledge and attitudes that contribute to self-management through an understanding of how the human body works..
4. To foster health literacy based on scientific evidence in order to be able to discern information about health.
5. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
6. Acquire various skills related to the development of employability.

[Learning activities outside of classroom] Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy] Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

白井 隆長

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「運動・栄養・休養」という三つの観点から、自身および集団の健康に関する科学的理解を深めることを目的とする。特に、現代日本が直面する少子高齢化、ライフスタイルの変容、生活習慣病の増加などの社会的課題に焦点を当て、それらの背景や疾病の原因を多角的に考察する。さらに、スポーツ科学に関する理論的知識の習得にとどまらず、実践的アプローチとしてエクササイズやメンタルトレーニングを取り入れ、自己の健康を維持・向上させるためのセルフコントロール技法を身につけることを重視する。受講生は、科学的根拠に基づいた運動の効果や心理的アプローチを理解し、それを日常生活に応用することで、生涯にわたる健康管理能力を養うことができる。本講義ではより個人の健康管理に重点を置き、実践的なセルフマネジメント手法を修得することの特徴とする。健康維持・増進のための理論と実践を統合し、科学的な視点に基づいた健康習慣の確立を目指す。単なる知識の習得にとどまらず、個々のライフスタイルに適した運動やメンタルトレーニングの活用方法を探究し、自らの健康を主体的に管理する能力を培うことで、より質の高い生活を実現するための知識と実践力を養う。本講義を通じて、スポーツ科学の知見を活かし、健康的な生活を実現するための具体的な方法を学び、スポーツを通じた生涯健康管理の実践者となることを目指す。

【到達目標】

- ① スポーツの三要素「運動、栄養、休養」について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を送るために、スポーツ実習を通して自身に合ったコンディショニング法を身につける。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業は対面による実技と講義で実施する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技&講義 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール

3	実技&講義 ：バドミントン②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
4	実技&講義 ：フットサル①	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） フットサルの基本的技術とルール
5	健康とは?（講義）	WHOの健康の概念（Health Tips） JAMA 身体を健康を維持するしくみ
6	生活習慣病とスポーツ医学（講義）	生活習慣病とは（発症とそのメカニズム） スポーツ医学とその応用 運動が疾病を抑制するメカニズム
7	実技&講義 ：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール
8	実技&講義 ：卓球②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
9	実技&講義 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの基本的技術と戦術
10	実技&講義 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの応用的技術と戦術
11	実技&講義 ：フットサル②	3vs3 実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） フットサルの応用的技術とルール
12	実技&講義 ：ニュースポーツ	ストレッチ・体操（フィットネス） ユニホック・インディアカの基本的技術とルール
13	骨格筋の構造と特性を活かしたコンディショニング（講義）	骨格筋の量・質的变化 トレーニング適応 コンディショニング 遺伝とスポーツパフォーマンス
14	授業の総括・簡易テスト	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、講義および実習を通じて、スポーツ活動が身体的・精神的健康の維持・向上に寄与し、さらに良好な対人関係の構築を促進する役割を担うことについて理解を深めることを目的とする。そのため、日々の身体活動に費やした時間や睡眠時間などの生活習慣を記録し、その内容を振り返ることで、スポーツ活動が自身の健康に与える影響を評価し、今後の課題を明確化することが求められる。また、テレビ・新聞・Webメディアなどを通じて発信される多様なスポーツ関連情報に積極的に触れ、最新の知見や社会的動向を把握する習慣を養うことも重要である。これらの実践的取り組みを通じて、本授業で学ぶ内容への理解が一層深まり、スポーツ活動の意義に関する科学的かつ実践的な洞察を得ることが期待される。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。

7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ科学に関するエビデンスをもとにした講義や実習を通してスポーツの楽しさを学びます。運動によって身体が変化していくメカニズムを理解し、自身のライフスタイルに適切な運動・栄養・休養のコンディショニング法を紹介します。スポーツ科学A同様に、競技スポーツの習熟を狙いとしていない授業のため、スポーツ科学に親しんでみたい生徒の受講を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understood health from the three perspectives of exercise, nutrition, and rest, as well as a multifaceted understanding of the various problems facing Japan (declining birthrate and aging population, changing lifestyles, lifestyle-related diseases, etc.) and the causes of disease. The goal of this course is to learn how to maintain and improve health by practicing exercises and mental training for self-control methods to maintain one's own health.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Deepen understanding of the three elements of sports: exercise, nutrition, and rest, from various perspectives.
2. Acquire conditioning methods suited to themselves through sports and physical activity, to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

武井 敦彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや日常活動において、身体のパフォーマンスを向上させるための基礎的～発展的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体機能について様々な視点から理解を深める。
2. トレーニング要素(筋力トレーニング、有酸素運動、無酸素運動、柔軟など)を各種スポーツやトレーニングジムでの活動を通じて身に付ける。
3. 各種競技のパフォーマンス向上を図る。
4. スポーツ傷害と予防方法について知識を深める。
5. 自己管理に資する基礎～発展的な知識の習得や態度の育成を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。履修希望者が多数の場合は、事前のガイダンスにおいて抽選をおこない、履修可能者が決定される。なお、最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、プレゼンテーション（1回目）の実施（講義及び実習）
2	体力測定1	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	体力測定2	体力測定のフィードバック及びレポート作成(講義)
4	個人スポーツ1	卓球を通じた身体機能を学ぶ(講義及び実習)
5	個人スポーツ2	卓球を通じた身体の使い方を学ぶ(講義及び実習)
6	トレーニング理論と実践1	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ(講義及び実習)
7	健康とトレーニング	正しい身体機能を知る事により「QOL向上」を行う（講義及び実習）
8	スポーツ傷害	スポーツ傷害の理解と予防（講義及び実習）
9	個人スポーツ3	バドミントンを通じたパフォーマンスエンハンスメント（講義及び実習）
10	個人スポーツ4	バドミントンを通じた傷害予防を学ぶ（講義及び実習）

11	ウォームアップ	球技系種目を通じた効果的なウォームアップの理論と方法を学ぶ(講義及び実習)
12	チームスポーツ	フットサルを通じたパフォーマンスエンハンスメント(講義及び実習)
13	トレーニング理論と実践2	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ、プレゼンテーション（2回目）の実施(講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じて身体機能、各種トレーニング、そしてスポーツ傷害の知識を学び、スポーツや日常活動において身体のパフォーマンスを向上させることを目的としています。そのため、日々のトレーニングやリカバリーなどを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ医学関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

広瀬統一・泉重樹・福田崇・稲見崇考、ケガをしないカラダづくり、東洋館出版社、2023

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・プレゼンテーション・リアクションペーパー60%、2) 課題レポート40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

※原則として欠席3回までを評価対象とします。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。

※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

身体機能、各種トレーニング要素、スポーツ傷害の予防をより理解するために、多様な体験型学習を取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 授業内容に関する説明およびプレゼンテーションを実施するため、受講希望者は必ず初回授業に参加して下さい。

2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。

3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire basic to advanced knowledge and develop the attitudes required to improve physical performance in sports and daily activities through lectures and practical training.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Deepen understanding of physical functions from various perspectives.

2. Acquire training elements (strength training, aerobic exercise, anaerobic exercise, flexibility, etc.) through various sports and activities at training gyms.
3. Improve performance in various sports.
4. Deepen knowledge of sports injuries and prevention methods.
5. Acquire basic to advanced knowledge and develop attitudes contributing to self-management.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each. This class aims to learn about physical functions, various training methods, and sports injuries through lectures and practical training, as well as to improve physical performance in sports and daily activities. Therefore, please record your daily training and recovery, reflect on the content, and record the effects and future challenges. Also, please get into the habit of paying attention to various sports medicine-related information from TV, newspapers, the Internet, etc. This will deepen your understanding of the content of this class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Participation status for activities during class /Presentation /Reaction paper 60%,
2. Assignments /Reports 40%.

In principle, this grade evaluation method is used, and students with difficulty in regular activities will be treated and evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

武井 敦彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや日常活動において、身体のパフォーマンスを向上させるための基礎的～発展的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体機能について様々な視点から理解を深める。
2. トレーニング要素(筋力トレーニング、有酸素運動、無酸素運動、柔軟など)を各種スポーツやトレーニングジムでの活動を通じて身に付ける。
3. 各種競技のパフォーマンス向上を図る。
4. スポーツ傷害と予防方法について知識を深める。
5. 自己管理に資する基礎～発展的な知識の習得や態度の育成を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。履修希望者が多数の場合は、事前のガイダンスにおいて抽選をおこない、履修可能者が決定される。なお、最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、プレゼンテーション（1回目）の実施（講義及び実習）
2	体力測定1	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	体力測定2	体力測定のフィードバック及びレポート作成(講義)
4	個人スポーツ1	卓球を通じた身体機能を学ぶ（講義及び実習）
5	個人スポーツ2	卓球を通じた身体の使い方を学ぶ（講義及び実習）
6	トレーニングの理論と実践1	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ(講義及び実習)
7	健康とトレーニング	正しい身体機能を知る事により「QOL向上」を行う（講義及び実習）
8	スポーツ傷害	スポーツ傷害の理解と予防（講義及び実習）
9	個人スポーツ3	バドミントンを通じたパフォーマンスエンハンスメント（講義及び実習）
10	個人スポーツ4	バドミントンを通じた傷害予防を学ぶ（講義及び実習）

11	ウォームアップ	球技系種目を通じた効果的なウォームアップの理論と方法を学ぶ(講義及び実習)
12	チームスポーツ	フットサルを通じたパフォーマンスエンハンスメント(講義及び実習)
13	トレーニングの理論と実践2	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ、プレゼンテーション（2回目）の実施(講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じて身体機能、各種トレーニング、そしてスポーツ傷害の知識を学び、スポーツや日常活動において身体のパフォーマンスを向上させることを目的としています。そのため、日々のトレーニングやリカバリーなどを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ医学関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

広瀬統一・泉重樹・福田崇・稲見崇考、ケガをしないカラダづくり、東洋館出版社、2023

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・プレゼンテーション・リアクションペーパー60%、2) 課題レポート40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

※原則として欠席3回までを評価対象とします。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。

※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

身体機能、各種トレーニング要素、スポーツ傷害の予防をより理解するために、多様な体験型学習を取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 授業内容に関する説明およびプレゼンテーションを実施するため、受講希望者は必ず初回授業に参加して下さい。

2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。

3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire basic to advanced knowledge and develop the attitudes required to improve physical performance in sports and daily activities through lectures and practical training.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Deepen understanding of physical functions from various perspectives.

2. Acquire training elements (strength training, aerobic exercise, anaerobic exercise, flexibility, etc.) through various sports and activities at training gyms.
3. Improve performance in various sports.
4. Deepen knowledge of sports injuries and prevention methods.
5. Acquire basic to advanced knowledge and develop attitudes contributing to self-management.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each. This class aims to learn about physical functions, various training methods, and sports injuries through lectures and practical training, as well as to improve physical performance in sports and daily activities. Therefore, please record your daily training and recovery, reflect on the content, and record the effects and future challenges. Also, please get into the habit of paying attention to various sports medicine-related information from TV, newspapers, the Internet, etc. This will deepen your understanding of the content of this class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Participation status for activities during class /Presentation /Reaction paper 60%,
2. Assignments /Reports 40%.

In principle, this grade evaluation method is used, and students with difficulty in regular activities will be treated and evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、プッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ（講義及び実習）
6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）

7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える（コンディショニング）ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報を目向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート・試験40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.

(2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、プッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ（講義及び実習）
6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）

7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える（コンディショニング）ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報を目向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート・試験40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.

(2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることが目的とする。

実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は2年生以上を対象としており、A・B連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィシアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、バレーボールのルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第3回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第4回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第5回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第6回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第7回	フォーメーションについて（実習&講義）	コート上の位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第8回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。

第9回	集団的技術（三段攻撃使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃を用いる）を立ててゲームを行う。
第10回	集団的技術（レシーブのフォーメーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レシーブのフォーメーション）を立ててゲームを行う。
第11回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。
第12回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。
第13回	集団的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。
第14回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（60％）を主な基準として、筆記試験（40％）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】

- ・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
- ・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

[Learning Objectives]

1. Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

[Learning activities outside of classroom]

Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることが目的とする。

実習では、春学期Aで習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業（スポーツ科学B）は2年生以上を対象としており、スポーツ科学Aを受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及びビーチバレーのルールについて（講義）	授業のガイダンスを行い、ビーチバレーの歴史やルールについて資料を配布し説明する。
第2回	基本的な動きとボールに慣れる（実習&講義）	スポーツ科学Bからの受講者のため各技術の基本を説明する。
第3回	基本技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学Aで行った基本技術を復習する。
第4回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学Aで行った基本的技術や集団技術を復習する。
第5回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第6回	集団的技術・基礎（実習&講義）	スポーツ科学Aとは違うチーム分けをし、チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第7回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第8回	集団的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。

第9回	集団的技術（トスアップ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（トスアップ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第10回	集団的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第11回	集団的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第12回	集団的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第13回	集団的技術（総合的）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第14回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い等を理解し、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（70%）を主な基準として、レポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

- ・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
- ・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

[Learning Objectives]

1. Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

[Learning activities outside of classroom]

Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 目標達成に寄与する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3. トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する知識を習得する。
4. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する基礎的な理論と方法について学ぶ。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深める。本授業における主な取り組みは次の通りである。①授業から得た知識や気づきなどをリアクションペーパーにまとめる。②各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をレポートにまとめる。③トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する文献を講読する。④最終授業時に授業内で行ったリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定を行う（講義）
2	安全講習	安全講習及び各種機器の使用方法を学ぶ（講義及び実習）
3	目標設定	体組成の測定及びトレーニング目標の設定を行う（講義及び実習）
4	グループワーク1	描画法を用いたグループワークに取り組む（講義）
5	グループワーク2	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
6	トレーニングの理論	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義）
7	トレーニングの理論と実習1	サプリメントとその摂取方法について学ぶ（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習2	栄養不足が招く悪影響について学ぶ（講義及び実習）

9	トレーニングの理論と実習3	スポーツ現場での栄養指導について学ぶ（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習4	栄養摂取のポイントについて学ぶ（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習5	アミノ酸の役割について学ぶ（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習6	脂質の役割について学ぶ（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習7	糖質の役割について学ぶ（講義及び実習）
14	総括	体組成の測定及びレポートの作成、授業のまとめ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。

1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、レポート等による総合評価。

・授業への参画状況およびリアクションペーパー等の提出物：80 %
・レポート課題：20 %

1. 原則として出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）以上に満たない場合はE評価となります。
2. 授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
3. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、怪我、冠婚葬祭等による欠席を指します。
4. 急遽、病気、怪我、冠婚葬祭等により欠席することになった場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告するとともに、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。
5. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
7. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8. 授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事など）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30名程度）を決定します。本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2. 授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学A・Bの通年履修が理想的です。
3. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館5階の予定です。
4. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students learn the basic theory and methods of physical training that contribute to the achievement of own goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.

【Learning Objectives】

- 1.to learn the basic theory and methods of training.
- 2.to devise and implement original training program that contributes to the achievement of own goals.
- 3.to acquire knowledge of nutrition and supplements to promote the effects of training.
- 4.to understand that training is a means of contributing not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

- 1.to practice systematic training.
- 2.to record your meals and sleeping hours.
- 3.to read material on training, nutrition and sleep.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- 1.Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
- 2.Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ科学Aでの学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3. トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する知識を習得する。
4. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について学ぶ。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学Aにおいて考案したトレーニングプログラムを発展させる。本授業における主な取り組みは次の通りである。①授業から得た知識や気づきなどをリアクションペーパーにまとめる。②各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をレポートにまとめる。③トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する文献を講読する。④最終授業時に授業内で行ったリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明及び受講者の決定を行う（講義）
2	安全講習	安全講習及び各種機器の使用方法を学ぶ（講義及び実習）
3	目標設定	体組成の測定及びトレーニング目標の設定を行う（講義及び実習）
4	トレーニングに関する教養教育1	スポーツ傷害に関する予備知識を習得する（講義）
5	トレーニングに関する教養教育2	トレーニング効果を高める予備知識を習得する（講義）
6	トレーニングに関する教養教育3	栄養、発汗、睡眠に関する予備知識を習得する（講義）
7	トレーニングの理論と実習1	睡眠の質について学ぶ（講義及び実習）

8	トレーニングの理論と実習2	睡眠時間と就寝法について学ぶ（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習3	リカバリーとトレーニングの関係について学ぶ（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習4	生体リズムと体内時計について学ぶ（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習5	最終目標から逆算した栄養戦略について学ぶ（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習6	減量のポイントについて学ぶ（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習7	増量のポイントについて学ぶ（講義及び実習）
14	総括	体組成の測定及びレポートの作成、授業のまとめ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。

1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、レポート等による総合評価。

・授業への参画状況およびリアクションペーパー等の提出物：80％
・レポート課題：20％

1. 原則として出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）以上に満たない場合はE評価となります。
2. 授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
3. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、怪我、冠婚葬祭等による欠席を指します。
4. 急遽、病気、怪我、冠婚葬祭等により欠席することになった場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告するとともに、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。
5. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
7. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8. 授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事など）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

・新規の人間関係の構築を目的とした体験型学習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30名程度）を決定するため、本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。なお、授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学Bの履修者は春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

With the aim of developing learning in sports science A, students will learn practical theories and methods of physical training that will help them achieve their goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.

【Learning Objectives】

- 1.to acquire practical training theory and methods
- 2.to devise and implement effective and practical training program that contribute to the achievement of own goals.
- 3.to acquire knowledge of recovery, nutrition and sleep methods that promote the effects of training.
- 4.to understand that training is a means of contributing not only to physical health, but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

- 1.to practice systematic training.
- 2.to record your meals and sleeping hours.
- 3.to read material on training, nutrition and sleep.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- 1.Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
- 2.Report assignments : 20%.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。バドミントンと卓球を主な競技として、道具を用いた運動を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生の受講も十分に可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 現代社会におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を提出する必要があります。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	（講義）授業概要、目的、成績評価、安全上の注意事項
2	バドミントン①	ラケット操作
3	バドミントン②	フットワーク
4	バドミントン③	基礎動作
5	卓球①	ラケット操作（バドミントンとの違い）
6	卓球②	基礎動作（バドミントンとの違い）
7	バドミントン④	ダブルスルール・ゲーム
8	バドミントン⑤	サーブ
9	教育とスポーツ	（講義）体育とスポーツの違い、体罰、やりがい搾取
10	科学とは何か	（講義）スポーツを科学するとは
11	レクリエーションとは何か	（講義）労働と余暇、スポーツを消費することの是非
12	バドミントン⑥	シングルスゲーム
13	卓球③	ダブルスルール・ゲーム（バドミントンとの違い）
14	テクノロジーとスポーツ	（講義）テクノロジー介入の争点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】

スポーツに関する最新の人文社会科学の研究を取り入れながら、授業内容を随時更新しています。

【学生が準備すべき機器他】

課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

この授業は定員制です。履修希望者は履修登録をした上で、初回ガイダンスに必ず出席してください。履修希望者が定員を超えていた場合、以下の優先順位をもとに抽選と受講許可をおこないます。

- ①履修登録者かつ初回ガイダンス出席者
 - ②初回ガイダンス出席者
 - ③履修登録者かつ初回ガイダンス欠席者
 - ④履修登録者かつ第2回授業の出席者（欠員補充の場合）
- なお教場の都合により授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This course aims to acquire the knowledge and skills to exercise with others through habitual physical activity. Students will deepen their understanding of the significance of recreation in daily life while exercising with equipment, with badminton and table tennis as the main sports. The exercise load involved in this class is not heavy, so students who do not have an exercise habit can take this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to acquire knowledge of safe exercise through physical activity.
2. to acquire the skills to exercise with others according to individual abilities.
3. to recognize changes in one's body and physical condition while engaging in sports.
4. to understand the significance and issues of recreation in modern society.

Students are expected to complete assigned tasks after some sessions, with a recommended study time of at least four hours per class. The final grade will be determined through the evaluation of goal achievement(68%)and these assigned tasks(32%).

This course has a limited enrollment. Students who wish to take the course must complete course registration and attend the first guidance session.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学 B

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。バドミントン、ネオテニス、卓球を主な競技として、道具を用いた運動を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生の受講も十分に可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 現代社会におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を提出する必要があります。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	（講義）授業概要、目的、成績評価、安全上の注意事項
2	バドミントン①	ラケット操作
3	バドミントン②	フットワーク
4	バドミントン③	基礎動作
5	ネオテニス①	ラケット操作
6	ネオテニス②	フォアハンド
7	ネオテニス③	サーブ
8	ネオテニス④	ダブルスルール・ゲーム
9	多様な性とスポーツ	（講義）性別二元制、性別役割分業、スポーツ界の課題
10	メガスポーツイベント	（講義）メガイイベントの定義、レガシー、ナショナリズム
11	地域の生活とスポーツ	（講義）開発、ショックドクトリン、ツーリズム
12	卓球①	ラケット操作（バドミントンとの違い）
13	卓球②	基礎動作（バドミントンとの違い）
14	暴力・差別とスポーツ	（講義）定義、構造的差別、「中立性」の政治性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】

スポーツに関する最新の人文社会科学の研究を取り入れながら、授業内容を随時更新しています。

【学生が準備すべき機器他】

課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

この授業は定員制です。履修希望者は開講曜日の春学期初回授業日までに履修登録を完了してください。履修登録者が定員を超えていた場合、春学期1週目に抽選を実施します。抽選の結果は、春学期1週目に学習支援システムに掲示します。

受講許可者となった場合は、秋学期の初回ガイダンスに必ず出席してください。また秋学期が始まるまで、履修登録を外さないでください。初回ガイダンスを無断欠席した場合や、初回授業時点で履修登録が外れていた場合は、優先的な受講を取り消す場合があります。詳しい日程は学習支援システムから確認してください。なお教場の都合により授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This course aims to acquire the knowledge and skills to exercise with others through habitual physical activity. Students will deepen their understanding of the significance of recreation in daily life while exercising with equipment, with badminton, neo-tennis and table tennis as the main sports. The exercise load involved in this class is not heavy, so students who do not have an exercise habit can take this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to acquire knowledge of safe exercise through physical activity.
2. to acquire the skills to exercise with others according to individual abilities.
3. to recognize changes in one's body and physical condition while engaging in sports.
4. to understand the significance and issues of recreation in modern society.

Students are expected to complete assigned tasks after some sessions, with a recommended study time of at least four hours per class. The final grade will be determined through the evaluation of goal achievement(68%)and these assigned tasks(32%).

This course has a limited enrollment. Students who wish to take this course must complete their registration by the first class of the spring semester. If the number of applicants exceeds the limit, a lottery will be conducted in the first week of the spring semester.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム(Hoppii)を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニューススポーツとアダプテッドスポーツ	ニューススポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。

9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたいうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ 教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標 (Learning Objectives)】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学 B

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム(Hoppii)を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。

9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
教場の使用状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ 教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要(Course outline)】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標(Learning Objectives)】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments

(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A 2017年度以降入学者

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「生理学的変化（特に体脂肪・体組成を対象）に貢献する諸要因の理解」、「健康関連指標（特に体脂肪・体組成）の測定と評価」、「高い効果が期待できる身体活動や食事の理解と実践」をテーマに学習を進めて行きます。

【到達目標】

- ・身体活動による生理的および心理的效果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ。
- ・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
- ・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。

その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお、身体活動の実践に向けた計画や、個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め、評価の一部とします。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第2回	身体活動によって変化する生理的要因1	身体活動によって生じる体脂肪の変化や生理的意義について学ぶ
第3回	身体活動によって変化する生理的要因2	身体組成（体脂肪量・骨格筋）について様々な測定方法とその原理を学ぶ
第4回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価1	身体組成のうち、特に体脂肪について実際に複数の方法で測定した結果を比較・検討する（演習）
第5回	身体活動によって変化する生理的要因3	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第6回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因（食事）について学ぶ

第7回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案1	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少に向けた身体活動や食事案を提案する（プレゼンテーション）
第8回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案2	前回の内容に基づいて実際に身体活動や食事内容の改善を行った結果を踏まえて、グループで改善・修正案を検討する（演習）
第9回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案3	身体活動や食事内容の実践結果を踏まえて、仮定対象者に向けた脂肪量減少のための身体活動および食事の改善案を提案する（演習）
第10回	身体活動によって変化する生理的要因4	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第11回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実践について学ぶ（演習）
第12回	身体活動によって変化する生理的要因5	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ
第13回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価3	有酸素性運動時の循環器系機能の実際および自覚的運動強度について学ぶ（演習）
第14回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少や身体組成（骨格筋の増減など）に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめてから次回の授業に出席することを求めます。これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況と理解度（授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価）：80%、2) 各回のプレゼンテーションの内容：20%、の配分で総合評価する。
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】

本授業は、授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため、履修者の上限を原則20名とします。第1回目の授業時において履修希望者が20名を超えた場合には、履修人数の制限を行う予定です。そのため、第1回目の授業には必ず出席してください。体調不良等でどうしても出席できない場合には、事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。

また、本授業では、演習を行う回がありますが、単に履修者が運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

なお、履修者数によって、シラバスの内容を一部変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to understand the factors that contribute to physiological changes (especially in body fat and body composition), Measurement and assessment of health-related indicators (especially body fat and composition), and Understanding and implement effective physical activity and diet.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Learn evidence-based knowledge and information about physical activity's physiological and psychological effects.
2. Develop the ability to select necessary for oneself from various health-related information appropriately.
3. Understand and evaluate one's current physical condition and lifestyle, including exercise.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In addition, students are expected to review each class and summarize their thoughts and opinions before attending the next class. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on Class participation and understanding assessed by reaction papers and activities in class (80%) and Content of each presentation(20%). If a student is absent or late for a class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

エビデンスから学ぶ健康と身体の変化B 2017年度以降入学者

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、目的や対象に合わせた身体活動が実践できるようになることを目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少、骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく、健康やQoLの本質を理解した上で受講者自身が身体活動を実践でき、他者へも適切な助言ができるための知識や情報を学び、それらを取捨選択できる能力の獲得を目指します。また、文章の執筆、図表の作成、量的・質的分析について発展的な手法を学び、最終的に授業内で調べた内容について簡易論文としてまとめます。

【到達目標】

- ・目的に応じて身体活動の内容を適切に構築することができる。
- ・適切な分析方法や用いて、過去のエビデンスを取りまとめることができる。
- ・身体活動に関するエビデンスに基づき、適切な記述方法でレポート・論文として報告できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義、受講者間のディスカッション、探求テーマに対しての情報の集約や量的な分析・取りまとめ、さらにそれらを考察して文章としてまとめる作業から構成されます。授業目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。そのため、授業後半においては、受講者自身が定めた探求テーマに基づいて情報を取りまとめて検討し、最終的に簡易な論文の提出を求めます。

なお、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ
第2回	健康づくりに関する探求テーマの検討(1)	探求するテーマについて、個人またはグループ単位で検討する
第3回	健康づくりに関する探求テーマの検討(2)	前回に引き続き、探求するテーマについて、個人またはグループ単位でその詳細を検討する
第4回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 (1)	身体活動や食事などの健康づくりに関して、関連した論文等を調べる手法を学ぶ
第5回	健康づくりに関する探求テーマの検討(3)	論文等を調べた結果に基づき、探求するテーマについて、個人またはグループ単位でその詳細を再度検討し、調べるテーマを確定する

第6回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 (2)	身体活動や食事などの健康づくりに関して、その効果に関する種々の情報を集約して分析する手法（レビュー、メタアナリシス）を学ぶ
第7回	探求テーマに対する情報の集約と論議 (1)	探求するテーマについて論文やデータを調べて集約し、個人またはグループでその解釈について論議する
第8回	探求テーマに対する情報の集約と論議 (2)	前回の論議に基づいて、探求するテーマについて論文やデータを調べて集約し、個人またはグループでその解釈について論議する
第9回	探求テーマに対する情報の集約と論議 (3)	探求テーマについて、関連する情報をまとめ、個人またはグループで論文の形式に添って「方法」部分を記述する
第10回	探求テーマに関する情報の分析	探求テーマについて調べた情報を、適切な方法を用いて分析し、得られた結果について個人またはグループで検討する
第11回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 (3)	関連分野におけるエビデンスとして必要となる情報の「表現・表記方法」を学ぶ
第12回	探求テーマに関する結果の記述	分析の結果に基づき、個人またはグループで論文の形式に添って「結果」部分を記述する
第13回	探求テーマに関する結果解釈	分析の結果に基づき、個人またはグループで論文の形式に添って「考察」部分を記述する
第14回	探求テーマに関する分析結果の発表	個人またはグループで、探求したテーマに関する研究結果を報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、第11～13回においては、各自の探求テーマに沿って文献等の検索や取りまとめた結果を用いた論議を行いますので、これらの回の時間外学習では、求められた情報やデータをまとめる作業を行ってください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

各授業で課した授業内学習としての課題それぞれを100点満点で評価した上で合計し、それをすべての課題によって獲得可能な最大得点を母数とした相対値に変換する以下の式で評価を行います。評価得点 = 【すべての課題の「得点」の総和】 / 【すべての課題で「獲得可能な最高得点」（課題数×100）】 × 100
※欠席・遅刻をした場合は授業内学習の時間を減じることになるため、評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

分析に際してPCのソフトを使用する場合があります。タブレットなどでは分析が困難だと思いますので、ノートPCを持参できるよう準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本授業は、「エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A」の単位を取得していることを前提としています。ただし、第1回目の授業において、履修希望者が定員（20名）を下回っている場合には、担当者との面談を経て履修を認める場合があります。

また、履修者数によって、シラバスの内容を一部変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to make it become able to practice physical activities tailored to targets for achievements and physical and mental individuality of the subjects. Besides, students aim at learning knowledge and information about the nature of health and QoL and acquire the ability to be able to provide appropriate advice to others about exercise, not simply learning the methods of how to weight and body-fat loss and skeletal muscle reinforcing.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Construct physical activity content using appropriate methods according to its purpose.
2. Summarize previous evidence on physical activity using appropriate analytical methods.
3. Write evidence-based reports and papers on physical activity using appropriate academic writing methods.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In sessions 11 to 13, we will search for literature according to the theme of each student's inquiry and discuss the results of these searches. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 The evaluation uses the following formula to evaluate in each session learning subjects, with a maximum of 100 points.

Evaluation score = [Sum of all scores for all subjects] / [Highest score possible for all subjects (number of tasks x 100)] x 100

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。

本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は対面授業を基本として実施する。

- ・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
- ・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
- ・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
- ・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス （対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 （講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 （講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。

4	ヨーガの哲学とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 （講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 （講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 （講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、惰性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 （講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 （講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 （講義および実習）	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨーガと Meditation （瞑想） （講義および実習）	Meditation について概説し、ヨーガを実践することで Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 （講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。また、基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ （講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，1986

佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%
- 2) 期末レポート 20%
- 3) 授業への参画状況 20%

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。
それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の16時50分～18時30分までの100分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.

- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学 B

2017年度以降入学者

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。

本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は対面授業を基本として実施する。

- ・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
- ・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
- ・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
- ・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス （対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 （講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 （講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。

4	ヨーガの哲学とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 （講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 （講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 （講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、惰性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 （講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 （講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 （講義および実習）	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨーガと Meditation （瞑想） （講義および実習）	Meditation について概説し、ヨーガを実践することで Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 （講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。また、基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ （講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，1986

佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。
それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の16時50分～18時30分までの100分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.

- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動は病気の予防に効果的であるが、安全かつ効果的に実践するためには「セルフメディケーション」と「コンディショニング」が不可欠である。セルフメディケーションとは、自ら健康管理を行い、病気を予防するとともに、軽度の不調を改善することである。一方、コンディショニングとは、運動の効果を最大限に引き出し、怪我を予防するために身体の状態を整えることを指す。

本授業では、セルフメディケーションによって自身の健康状態を適切に管理し、コンディショニングを通じて運動と休養のバランスを取ることで、運動の効果を最大限に高めることを目的とする。

【到達目標】

- ・運動が病気の予防に効果的である理由を説明できる。
- ・スポーツ外傷・障害とその対策について説明できる。
- ・スポーツ外傷・障害とその応急処置について実践できる。
- ・コンディショニングとコンディショニングについて説明できる。
- ・コンディショニングの種類やその特徴を述べるができる。
- ・コンディショニングを実践でき、その評価をすることができる。
- ・セルフメディケーションについて説明できホメオスタシスとの関係を説明できる。
- ・セルフメディケーションが病気の予防に効果的な理由を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は実技を伴った演習形式を基本として実施する。

- ・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
- ・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
- ・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
- ・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する。 コンディショニングとコンディショニングについて解説し、コンディショニングの必要性について詳しく説明する。 また、体格・体組成計の測定を実施し結果を考察する。
2	コンディショニングとセルフメディテーション	コンディショニングの要素である身体的因子、環境的因子、心理的因子について説明する。 また、セルフメディケーションの種類とその具体的な内容について解説する。

3	ホメオスタシス（恒常性）	人間に備わっているホメオスタシスの意義とその定義について説明する。 また、自己治癒力と自然治癒力の違いについて説明する。
4	外傷・傷害とその対策	スポーツにおける怪我（外傷と障害）について説明し、その原因と対策について解説する。
5	スポーツ傷害の治癒過程	炎症の役割について説明し、さらに損傷細胞の修復メカニズムや免疫系が治癒過程において果たす役割について解説する。
6	スポーツ外傷の応急処置	現場における応急処置としてのRICE処置について説明する。 特に、冷却療法（アイシング）の効果を理解し、実際にその効果を体験する。
7	ストレッチングとコンディショニング	ストレッチングの種類や方法について説明し、実践する。
8	スポーツマッサージとセルフメディケーション（1）	マッサージの歴史や生理的効果について理解し、セルフマッサージの手法を実践する。
9	スポーツマッサージとセルフメディケーション（2）	セルフメディケーションの一環としてスポーツマッサージを習得し、学生同士でペアを組み、実践する。
10	鍼・灸療法とコンディショニング	スポーツ選手が比較的多く利用する鍼灸について、治効理論を説明し、実際の施術を実演する。 また、セルフメディケーションの一環として、お灸を実際に試す。
11	ヨガとコンディショニング	ヨガの歴史や哲学について説明し、アスリートのコンディショニングにおける役割や効果について解説する。
12	食事とセルフメディケーション	食品や食材に含まれる栄養素のうち、脂質の役割や体内での利用メカニズムについて説明する。 また、脂質異常による疾患を挙げ、それに対する運動の効果について解説する。
13	休養とリラクゼーション	心身の休養やリラクゼーションがコンディショニング調整に果たす役割について説明する。 また、セルフメディケーションの一環としての休養方法について解説する。
14	総括	これまでの内容を振り返るとともに、全授業に関する質問を受け付ける。 また、自身が理想とする健康観について、学生同士でディスカッションを行い、意見をまとめて総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

1. 日本スポーツ協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6（予防とコンディショニング）

2. 人体の不思議, 日経サイエンス社
3. 佐保田鶴治, ヨーガ根本経典, 平河出版社
4. リチャード・ミラー, iRest Yoga Nidra

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%
- 2) 期末レポート 20%
- 3) 授業への参画状況 20%

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 3/4 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。
それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の 16 時 50 分～18 時 30 分までの 100 分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Exercise is effective for preventing illness, but in order to practice it safely and effectively, 'self-medication' and 'conditioning' are essential. Self-medication means looking after your own health and preventing illness, as well as improving minor ailments. On the other hand, conditioning is about getting the most out of exercise and preparing your body to prevent injury.

The aim of this class is to maximise the benefits of exercise by managing your own health through self-medication and balancing exercise and rest through conditioning.

【Learning Objectives】

- ・ Explain why exercise is effective in preventing illness.
- ・ Understand the types of sports injuries and disorders, and explain how to deal with them.
- ・ Be able to provide appropriate first aid in the event of a sports injury or disorder.
- ・ Understand the concepts of condition and conditioning, and explain the differences and importance of each.
- ・ Describe the types of conditioning and their characteristics.
- ・ Be able to practice conditioning and evaluate its effectiveness appropriately.
- ・ Explain the concept of self-medication and discuss its relationship to homeostasis (the body's ability to maintain a constant internal environment).
- ・ Explain logically why self-medication is effective in preventing illness.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.

2) Final report: 20%.

3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 3/4 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

第三外国語としてのフランス語 A 2017年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記できるようになると同時に、簡単にでも（フランス共和国を含めた）現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。また、時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関し紹介する。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞avoir ・否定のde ・疑問文 ・数字11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方

8	中間まとめ	・これまでの学習事項の総復習 ・進度の調整
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞（aller, venir, vouloir）
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞devoir
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子，西部由里子著、『ヴァズィ！（改訂二版）』，駿河台出版社，2023年。

（＊自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。宮原信他著、『ディコ仏和辞典』，白水社，2003年。

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』，駿河台出版社，2011年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点（ミニ課題など）：30％

②期末テスト：70％

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に発音と筆記）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

第三外国語としてのフランス語 B 2017年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期から継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記ができるようになると同時に、簡単にでも（フランス共和国を含めた）現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心に、説明・練習・解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6つづき Leçon 7	たずねる（いつ、どこ、どのよう に、なぜ、いくつ）、命令する ・ 命令形 ・ 時の表現 人・ものを描写する ・ IR動詞（つづき） ・ 形容詞 ・ 動詞savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・ 数量表現 ・ 名詞 + à + 不定詞 ・ 動詞mettre
3	Leçon 8	時刻・天気と言う ・ 目的補語人称代名詞 ・ 非人称構文 ・ 動詞connaître
4	Leçon 8	時刻・天気と言う ・ 数字21～69 ・ 動詞faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動と言う ・ 代名動詞 ・ 日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動と言う ・ 代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・ 日常の活動を表す表現（つづき）

7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・ 直説法単純未来 ・ 形容詞・副詞の比較級
8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・ 形容詞・副詞の最上級 ・ 特殊な優等比較級・優等最上級 ・ 指示代名詞
9	中間まとめ	・ これまでの学習事項を総復習 ・ 進度の調整
10	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・ 数字70～100 ・ 直説法複合過去 ・ 目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・ 代名動詞を含む複合過去 ・ 中性代名詞en
12	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・ 直説法半過去 ・ 直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・ 直接法大過去 ・ 中性代名詞yとle ・ 様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ！（改訂二版）』、駿河台出版社、2023年。

（＊自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003年

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・ 平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点（ミニ課題など）：30%

②期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に発音・筆記）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【履修登録にかかわる特記事項】

●あなたが所属している学部の履修登録期間の最終日までに、この科目「教養ゼミⅠ」(Q6605)の履修登録を済ませるとともに、学習支援システムにて仮登録をおこなってください。

●この科目「教養ゼミⅠ」(Q6605)は、他の教養ゼミと異なり、定員がないため、選抜や抽せん、およびそれらの結果通知はありません。履修登録の流れは、一般的な春学期科目と同じとお考え下さい。

●興味・関心のある方は、教養ゼミⅡ：「ポピュリズム」入門～トランプ氏が再登場した世界で～（9月中旬）【授業コード：Q6606】もぜひ履修しましょう。社会人として知っておいたほうが良い、現代の政治・経済・文化のあり方について、初学者が学ぶコースになっています。

【科目のかんたんな説明】

●この教養ゼミⅠは、2025年8月4日（月）・8月5日（火）・8月6日（水）・8月7日（木）の4日間で開催される集中講座です（2単位）。

●短い日数で効率よく学べる利点があります。

●いわゆるグローバル・サウスから、より政治的に安定し、社会福祉の制度が整った、いわゆる先進国に旅する移民や難民の動きがテーマです。

●移民や難民といったテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」が軸となる内容ですので理解がしやすく、視野が広がります。

●映像作品に興味がある人にとっては、見たことがない作品について知るきっかけになるでしょう。

【到達目標】

コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになります：

1) 人口1700万人強のオランダが、なぜ、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的自由について、基本的な知識をもつよう求めているのかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。

2) 欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、宗教をめぐる公的な位置づけのあり方（政教分離）や、就労を促進するための雇用の流動化（福祉国家の変容）といった要素を、考慮に入れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) この教養ゼミⅠの授業形態は、基本的に「対面」です。

(イ) 2025年8月4日（月）・8月5日（火）・8月6日（水）・8月7日（木）の4日間に開催されます。

(ウ) 希望者は一部の授業回についてZoomでも参加できます。下記の【授業計画/Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。

(エ) 4日間でいきますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。

(オ) そのため「まとめコメント」の早期提出を認める予定です。

(カ) とはいえ、4日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/QA5Gp>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

(キ) 問い合わせは、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅠ『移民社会』入門～見える国境と見えない国境～（8月上旬）」URL <https://x.gd/3wVq9>にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【8月4日（月）2限、Zoom併用あり】	シラバス（授業の概要と成績評価）や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【8月4日（月）3限、Zoom併用なし】	「群衆」が感じる「問題」としての移民流入
3	避難民 migrants の暮らしを疑似体験する【8月4日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【8月4日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月4日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【8月5日（火）2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票
6	グローバル・サウス出身の避難民が「先進国」で住民の1人として溶け込むのに何が必要か【8月5日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品②について考える
7	あなたがもし、移民出自の生徒を公立中学校で担任する教師だったら？【8月5日（火）4限、Zoom併用なし】	映像作品③について考える
8	考える・まとめる【8月5日（火）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月5日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
9	他の人の意見を知る【8月6日（水）2限、Zoom併用なし】	2日めのまとめコメントへの学生投票／映像作品④について考える
10	クエスチョンを探そう【8月6日（水）3限、Zoom併用なし】	集団間の対立と他者の生の否定
11	考える・まとめる【8月6日（水）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月6日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【8月7日（木）2限、Zoom併用なし】	3日めのまとめコメントへの学生投票／《ともに働き、生活すること》は、どのような場合なら、外国出身者への差別感情をなくすのに役立つか
13	受け入れ側社会の多数派が抱く恐怖感【8月7日（木）3限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
14	考える・まとめる【8月7日（木）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月7日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

8月のサマー・セッションの時期を待つことなく、学習支援システム-Hoppii等をつうじ、4月から資料を事前に配布します。

【参考書】

購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいつそう進むでしょう。

水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。Cf. <https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 = 15%
2. まとめコメント = 52%
3. まとめコメントの早期提出
4. 4. 教室内活動への参加 = 33%
5. その他

※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/w913l>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。

※サマー・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に関連し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。ただし、サマー・セッションは春semester（前期）科目であるため、8月上旬には法政大学に学生の成績を提出する必要があります。そのため出席停止になった学生側は、仮に感染症から健康状態が快復したとして、代替の課題を8月9日ぐらいまでに提出する手はずになります。感染症で出席停止となった学生のための配慮については、オースタム・セッション科目である教養ゼミⅡ（Q6606）のほうが、配慮に使える時間的な余地が大きいことを、あらかじめご承知おきください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
- ・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
- ・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
- ・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください URL <https://x.gd/WTP7m>

【Outline (in English)】

What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders? Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.

【Learning Objectives】

The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.
- 2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.
- 3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

【Learning activities outside of classroom】

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" = 70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class = 30%

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【履修登録にかかわる特記事項】

●この科目「教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～」(Q6606)は、ひとりひとりの学生ではなく、市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC) が一括して履修登録を行います。

●学生で履修を希望する人は、2025年4月11日(金)午前11:59:59までに、2025年度オータム・セッション「教養ゼミⅡ」(Q6606)科目履修仮登録用Googleフォーム URL <https://forms.gle/gCxjCzgY6HxxYkvc9> に、必要事項を入力したうえで「送信」ボタンをクリックして(押して)ください。

●必要事項が全て入力され、Googleフォームの送信ボタンをあなたがクリックした時点で、仮登録が済んだことになります。

●送信ボタンの押し忘れがなく、Googleフォームが正常に作動していれば、入力した内容のコピーが、あなたがログイン時に用いたメール・アカウントに自動送信されます。

●仮登録された学生は全員、この「教養ゼミⅡ」に履修登録されますが、念のため、あなたが所属している学部の履修登録期間になったら、この科目「教養ゼミⅡ」の履修登録がきちんとなされているか、確認を行ってください。

【科目のかんたんな説明】

●教養ゼミⅡ「『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～」は2025年9月12日(金)・9月13日(土)・9月15日(月)・9月16日(火)の4日間で開催される集中講座です(2単位)。

●トランプ氏を2度、アメリカ大統領の座に押し上げ、世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしている、ポピュリズムがテーマです。

●こうしたテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」を軸に活動が組み立てられていますので理解がしやすく、視野が広がります。

●短い日数で効率よく学べる利点があります。

●映像作品に興味のある方にとっては、作品を知る機会になるでしょう。

【到達目標】

(1) さまざまな国と地域、歴史時代に存在した、ポピュリズムの構成要素とされる事象に幅広く触れることで、現代の政治・社会現象としてのポピュリズムにかんし、批判的な距離を保ちながら、意見を述べることができる。

(2) ポピュリストと反ポピュリスト、無関心層のような、ポピュリズムをめぐる異なる態度を産みだす感情的なバネについて、ひとつひとつの映像作品や人物の性格、ならびに制度的な背景(例 メリトクラシー)を掘り下げながら、研究上の問い(リサーチ・クエスチョン)を練ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) この教養ゼミⅡの授業形態は、基本的に「対面」です。

(イ) 2025年9月12日(金)・9月13日(土)・9月15日(月)・9月16日(火)の4日間に開催されます。

(ウ) 希望者は一部の授業回についてZoomでも参加できます。下記の【授業計画/Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。

(エ) 4日間で行いますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。

(オ) そのため、セッション授業終了後の話題提供を認める予定です。

(カ) とはいえ、4日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくは「進行予定表」URL <https://x.gd/ReYc0> にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

(キ) 問い合わせは、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～(9月中旬)」URL <https://x.gd/5yw1I> にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【9月12日(月)2限、Zoom併用あり】	シラバス(授業の概要と成績評価)や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【9月12日(月)3限、Zoom併用なし】	皆で資料からクエスチョンを掘り出す
3	メディアとポピュリズム【9月12日(月)4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【9月12日(月)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月2日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【9月13日(火)2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票／人びとはどのようにして立ち上がるのか(政治的動員)
6	対立の構図を理解する【9月13日(火)3限、Zoom併用なし】	映像作品②と③について考える
7	考える・まとめる【9月13日(火)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月13日(火)分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
8	他の人の意見を知る【9月15日(月)2限、Zoom併用なし】	2日めのまとめコメントへの学生投票／女性とポピュリズムの関係について、立ててみる価値がある問いを探す。
9	ポピュリズムと女性【9月15日(月)3限、Zoom併用なし】	映像作品④について考える
10	ファンタジーとポピュリズム【9月15日(月)4限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
11	考える・まとめる【9月15日(月)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月15日(月)分の「まとめコメント」を作成・提出する。遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【9月16日(火)2限、Zoom併用なし】	3日めのまとめコメントへの学生投票／ポピュリズムに私(たち)はどう対応すべきなのか
13	ポピュリズムの《需要側》と《供給側》【9月16日(火)3限、Zoom併用なし】	映像作品⑥について考える

- 14 考える・まとめる【9月16日（火）分の「まとめコメント」を作成・提出する。※Zoom併用あり】※遠隔・事前の提出可。※ただし提出した人から帰宅する 教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

9月のオータム・セッションの時期を待つことなく、学習支援システム-Hoppii等をつうじ、資料を事前に配布します。

【参考書】

購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいつそう進むでしょう。

カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム デモクラシーの友と敵』永井大輔&高山裕二訳、白水社、2018年。Cf. <https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 = 15%
2. まとめコメント = 52%
3. 教室内活動（授業時間内の個別の発言やグループディスカッション、各種の投票）への参加 = 33%
4. セッション授業終了後の話題提供
5. その他

※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/z2Z0I>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」を求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。

※オータム・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
- ・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
- ・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
- ・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～（9月中旬）」URL <https://x.gd/07gVQ> をご覧ください。

【Outline (in English)】

Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue: "What kind of culture do we want in our society of the 21st century?"

【Learning Objectives】

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
- 2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
- 3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

【Learning activities outside of classroom】

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" = 70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class = 30%

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

ル ルー 清野 ブレンドン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は、「日・欧米交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って、グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう変わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し、考察することです。

もう一つの目的は、日本語（と英語や他の言語）で歴史文書を読み、分析する方法について学び、活用することです。

【到達目標】

この授業では、学生達はグローバル化の歴史という背景における日本の歴史、とりわけ「日・欧米交流の歴史」の多様な側面を探求したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

1. 主要な概念や考え方を理解し、説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で、「日・欧米交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日・欧米交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な歴史的資料を批判的に検討するために、適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な歴史的な文章を読解し、語彙を調べたり、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史料を理解し、質問に答えることで、グローバル化の歴史の中で「日・欧米交流の歴史」そして「日本（文化）はどう変わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。

履修者は史料を見つけ出し、それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって、日本語や英語の他に、様々な言語の史料の紹介も期待できます。

この授業では、学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や史料、特に「日・欧米交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えます。この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレイカー
2	西洋への日本文化最初の紹介	西洋における、日本に関する最初の史料
3	第1次グローバル化における日本（1）	世界の分割と日本
4	第1次グローバル化における日本（2）	日本の「発見」
5	十字架、マスケット銃と「カステラ」（1）	マスケット伝来
6	十字架、マスケット銃と「カステラ」（2）	日本におけるキリスト教
7	十字架、マスケット銃と「カステラ」（3）	ラテン語、ポルトガル語、日本語
8	学生による発表①	史料の紹介と分析
9	学生による発表②	史料の紹介と分析
10	学生による発表③	史料の紹介と分析
11	学生による発表④	史料の紹介と分析
12	学生による発表⑤	史料の紹介と分析
13	学生による発表⑥	史料の紹介と分析
14	まとめ	前期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク、小テスト等(授業内):25%
- ・宿題、「予習シート」(自宅):20%
- ・発表（史料の紹介と説明）：40%
- ・出席点:15%

※欠席1回につき、「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり、単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。正当な理由なく10分以上遅刻した場合は、欠席とみなす。遅刻2回につき、欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特になく思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやLMSを使いますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景（言語レベル等）、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European /American relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese (or in other languages).

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European /American relations" in the context of the history of globalisation.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

ル ルー 清野 ブレンダン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではヨーロッパの近現代史をただ単に通史的に勉強するのではなく、「〇〇人とは何（誰）か?」、「国民はどう創られたのか?」というような問いについて考えながら、近現代ヨーロッパにおけるアイデンティティの問題を探っていきます。特に、近現代ヨーロッパにおける国民国家と言語（「国語」）との関係性に重点を置きたいと考えます。

【到達目標】

この授業では、学生達は近現代ヨーロッパにおける国民の創造に関する多様な側面を探究したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

①ヨーロッパについて基本的知識を獲得し、それらを説明できる。

②国民国家の概念を概ね理解できる。

③世の中の動きを歴史的に考えるための視点を獲得する。

④ヨーロッパへの留学に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な資料（歴史的文章、論文、新聞記事、図…）を読解・分析し、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて学生同士で協力して資料を理解し、質問に答えることで、近現代ヨーロッパにおける国民（アイデンティティ）の創造というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。この授業では、学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲や、歴史や資料、特に近現代ヨーロッパにおける国民（アイデンティティ）の創造に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えます。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 ヨーロッパとは何か？どこか？ （受講生に対するアンケート）
2	ヨーロッパとは何か？	ヨーロッパに対するイメージとステレオタイプ
3	ケーススタディ①	カタルーニャ「問題」について
4	ケーススタディ①	カタルーニャの形成過程

5	ケーススタディ①	カタルーニャとスペインにおける言語
6	ケーススタディ①	カタルーニャと「国民国家」／「国民国家」と「想像の共同体」
7	ケーススタディ②	18世紀「ドイツ」の状況／ヘルダーと「国民語」
8	「国民語」を求めて	ヨーロッパにおける言語状況
9	「国民一つに、言語一つ？」①	フランス語の成立過程①
10	「国民一つに、言語一つ？」②	フランス語の成立過程②
11	国語の普及①	フランス
12	国語の普及②	イギリス
13	国語の普及③	ドイツ
14	共通の祖先を求めて	「我々の祖先はガリア人なり」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。

大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

ティエス、アンヌ＝マリ著『国民アイデンティティの創造：十八～十九世紀のヨーロッパ』（勁草書房、2013）／配架場所＝市:1F、請求記号＝230/TH、資料番号＝21032000079280

それ以外の参考書については必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

・発表やリフレクションシート、小テスト等の授業内作業：約80％
・出席点：約20％

※欠席1回につき、「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり、単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。正当な理由なく10分以上遅刻した場合は、欠席とみなす。遅刻2回につき、欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特にないよう思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやLMSを使いますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景（言語レベル等）、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How national identities were forged in Europe".

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse diverse categories of documents, written in different languages.

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various documents, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "creation of the national identities in Europe".

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

The grading criteria shall be as follows:

- ・ Presentations, reflection papers, short tests, etc (in class assignments): app.80 %
- ・ Attendance:app. 20%

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

フランス語コミュニケーション(中・上級) A 2017年度以降入学者

ル ルー 清野 ブレンダン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はA1レベルに達している学生（つまり2, 3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は、日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に、自然な発音及び独特な表現を勉強し、フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も、勿論多く設けてあります。尚、この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の方の段階から、特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は、最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”）」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】

この授業では、日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり、正確なフランス語の発音を身に付けたり、日常会話で使える言葉を覚えたりして、積極的に会話ができるようになることを目指します。この授業を通じて、A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2 (仏検準2級・2級) や Study Abroad 留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし、履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり、世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。この授業では、作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので、そのつもりで下さい。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし /No**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Une rencontre inattendue
2	Faire connaissance:	招待を受け入れる・拒否する
3	le speed-dating La fête nationale belge et le parc Astérix	現在進行形
4	Le festival Gnaoua et le rai	コンサートへの招待
5	Le 14 juillet Un festival d'été	フェスティバルに関する情報 フェスティバルへの招待
6	Se déplacer en ville	交通手段①と道案内
7	Les transports en Afrique de l'Ouest	交通手段②
8	D'autres quotidiens	頻度と時間割

9	Modes de vie au Niger et à Djibouti	お茶 カート(植物)
10	La Défense, Marrakech, Montréal	交通手段③
11	Présenter son quartier préféré	好きな地域の紹介
12	L'habitat (ミニ口頭 発表)	フランス語圏の様々な伝統住居
13	Brèves francophones Amélie Poulain	半過去と複合過去の用法①
14	Hercule Poirot: "Que faisiez-vous à l'heure du crime?"	半過去と複合過去の用法②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語というものは、他の科目と違い、教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので、欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し、自分で口にし、はじめて身に付くものなので、毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。また、予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝2単位科目なので、法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています）。「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので、定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】

教材はその都度授業で配布するか、LMSにアップロードします。

【参考書】

仏和・和仏辞書（本でも、電子辞書でも、アプリでも）を持参することが望ましい。翻訳ソフト（Google translate 等）はNG：クラスではその使用を認めません。

【成績評価の方法と基準】

・宿題、(小)テスト、ミニ発表等: 約20 %
・「Furago, フランス語の練習帳」: 約20 %
・"リーディングマラソン"(フランス語多読): 約20 %
・作文: 約20 %
・平常点(授業への参加状況): 約20%。尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2回につき欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。10分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特にないよう思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】

※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン、タブレット、パソコンからアクセスできます。有料ですが、学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし、定額制ですので、安心して利用できます。登録費が6ヶ月につき990円になります。

【その他の重要事項】

授業中、頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので、そのつもりで積極的に授業に参加しましょう！

【Prerequisite】

履修の条件として、フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students' general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened. Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.). Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours. Grading criteria are as follows:

Homework, short tests, etc.: 20 %／Furago (exercises on line):20％／Reading marathon (Extensive reading):20％／Short essays:20 %／Class participation:20%

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

フランス語コミュニケーション(中・上級) B 2017年度以降入学者

ル ルー 清野 ブレンダン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はA1レベルに達している学生（つまり2, 3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は、日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に、自然な発音及び独特な表現を勉強し、フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も、勿論多く設けてあります。

尚、この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の方の段階から、特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は、最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”）」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】

この授業では、日常会話の基礎的な語彙と言ひ回しを身につけることを目標とします。つまり、正確なフランス語の発音を身に付けたり、日常会話で使える言葉を覚えたりして、積極的に会話ができるようになることを目指します。

この授業を通じて、A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2 (仏検準2級・2級) や Study Abroad 留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし、履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり、世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。

この授業では、作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので、そのつもりで下さい。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Voitures du passé et du présent
2	Visite en Normandie	過去の出来事を描写するメールを書く
3	Les Acadiens/Cajuns	歴史について考えよう
4	Histoires de personnalités	直接目的補語の代名詞
5	Quelques écrivains francophones	フランス語圏の文学に触れる
6	Catastrophe naturelle Chez le médecin	健康と身体の部位

7	Fêtes traditionnelles	お祭りについて知ろう
8	Faisons un quiz historique	クイズを作ろう
9	Le caractère	人の性格を描写する
10	Les noms en Afrique	アフリカの名前について知ろう
11	Qui est-ce? (jeu)	La description physique
12	Entretien d'embauche	成功と失敗①
13	Le commerce en Afrique	成功と失敗②
14	Qu'est-ce qu'on a fait au bon Dieu?	人の描写（作文）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語というものは、他の科目と違い、教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので、欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し、自分で口にし、はじめて身に付くものなので、毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。

また、予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝2単位科目なので、法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています）。

「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので、定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】

教材はその都度授業で配布するか、LMSにアップロードします。

【参考書】

仏和・和仏辞書（本でも、電子辞書でも、アプリでも）を持参することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

- ・宿題、(小)テスト、ミニ発表等: 約20%
- ・「Furago, フランス語の練習帳」: 約20%
- ・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20%
- ・作文: 約20%

・平常点(授業への参加状況): 約20%。尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2回につき欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。10分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要のある点は特にないと思います。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】

※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン、タブレット、パソコンからアクセスできます。有料ですが、学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし、定額制ですので、安心して利用できます。登録費が6ヶ月につき990円になります。

【その他の重要事項】

授業中、頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので、そのつもりで積極的に授業に参加しましょう！

【Prerequisite】

履修の条件として、フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students' general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

Homework, short tests, etc.: 20 % / Furago (exercises on line):20% / Reading marathon (Extensive reading):20% / Short essays:20 % / Class participation:20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語 A 2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットとその発音、そして最も基礎的な文法を3か月で学びます。

ロシア語の学習は、文法理解の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指します。基礎文法を理解した上で「読む、書く、話す」学習を重ね、日常的な会話ができるようにします。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を理解し、きれいな発音で朗読が出来る。シンプルな文章を書くことができる。コミュニケーションのための日常会話程度のロシア語力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、主に以下のポイントの習得に分けて学習を進めていきます。1) 文字と発音、2) 単語と熟語、3) 基礎文法、3) 文法習熟度確認のための練習問題、4) 本文テキスト（朗読と和訳）、5) 会話練習、6) シンプルな和文露訳。これらのポイントを簡潔な初級教科書を用いて学んでいきます。単語や文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。朗読やペアでの会話なども平常点として加算していきます。その他、学習支援システム上に教材を掲載し、授業時間内で課題を解いて頂きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音 2	単語の発音
第3回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第4回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第6回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第7回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第8回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第9回	「（何々）の」、 「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第10回	「（何々）に・へ」、 「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第11回	「（何々）で・によって」、 「～（何々）に取り組む」	名詞の造格、с я 動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第12回	「している／しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）

第13回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化

第14回 期末試験、まとめと解説 文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート（改訂版）』白水社、2005年、2,300円＋税

【参考書】

佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年
土岐康子・三神エレナ・佐藤裕子『ティータイムのロシア語《CD付》』白水社、2019年

小田桐奈美・北岡千夏『創って学ぶ！ シン・ロシア語入門』朝日出版社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習、課題などの学習への取り組み、単語などのミニテストなど）60％、評価テストが40％の予定ですが、受講者数が少ない場合は平常点のみで評価することもあります。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声も提出してもらい、その評価も加味する予定です。一步一步確実にロシア語をマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

3か月で新しい語学をマスターすることは難しくもありますが、皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

Elementary Russian Course for students who are starting to learn Russian as a third foreign language for the first time.

The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.

Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

第三外国語としてのロシア語B 2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットとその発音、そして最も基礎的な文法を3か月で学びます。ロシア語の学習は、文法理解の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指します。基礎文法を理解した上で「読む、書く、話す」学習を重ね、日常的な会話ができるようにします。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を理解し、きれいな発音で朗読が出来る。シンプルな文章を書くことができる。コミュニケーションのための日常会話程度のロシア語力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、主に以下のポイントの習得に分けて学習を進めていきます。1) 文字と発音、2) 単語と熟語、3) 基礎文法、3) 文法習熟度確認のための練習問題、4) 本文テキスト（朗読と和訳）、5) 会話練習、6) シンプルな和文露訳。これらのポイントを簡潔な初級教科書を用いて学んでいきます。単語や文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。朗読やペアでの会話なども平常点として加算していきます。その他、学習支援システム上に教材を掲載し、授業時間内で課題を解いて頂きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音1	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音2、名詞、形容詞	単語の発音、名詞の性、形容詞の性変化
第3回	所有代名詞	名詞の複数形、所有代名詞の性・数変化、形容詞の性・数変化
第4回	「～する」	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「(何々)を」	名詞の対格
第6回	「～しろ」	動詞の命令形
第7回	「(どこどこ)へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第8回	「(何々、誰々)の」、 「(何々)を持っている」	名詞の生格、所有の表現
第9回	「～するだろう」	動詞の未来形（人称変化）
第10回	「(どこどこ)で」	名詞の前置格
第11回	「～した」、「(誰々)を」	動詞の過去形（性・数変化）、活用体を表す名詞の対格
第12回	「(何々、誰々)へ」、 「(何々、誰々)と」	名詞の与格、名詞の造格
第13回	「～する／～しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）
第14回	期末試験、まとめと解説	文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート（改訂版）』白水社、2005年、2,300円＋税

【参考書】

朝妻恵理子・クセーニャ・ゴロウイナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021年、2000円＋税

佐藤純一『NHK新ロシア語入門』NHK出版、2001年

土岐康子・三神エレナ・佐藤裕子『ティータイムのロシア語《CD付》』白水社、2019年

小田桐奈美・北岡千夏『創って学ぶ！シン・ロシア語入門』朝日出版社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習、課題などの学習への取り組み、単語などのミニテストなど）60%、評価テストが40%の予定ですが、受講者数が少ない場合は平常点のみで評価することもあります。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声も提出してもらい、その評価も加味する予定です。一步一步確実にロシア語をマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

3か月で新しい語学をマスターすることは難しくもありますが、皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

※春学期A／秋学期Bは単独でも履修可能な科目のため初修者歓迎ですが、Aから継続して履修する学生が多い場合、授業内容は履修者の皆さまとご相談させていただきます。

【Outline (in English)】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.

Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

第三外国語としてのロシア語中級 A 2017年度以降入学者

エレーナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関するテキストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。会話練習を行なって聞き取り能力及び会話能力を楽しく伸ばしましょう。

ロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験(ТРКИ)の基本レベル (CERF A2) のロシア語運用能力を身につけるべき頑張りましょう。

【到達目標】

社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストの読解し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロシア語の学習	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
2	学校と大学	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
3	大学と大学生	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
4	留学生たち	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
5	寮の住まい	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
6	部屋	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
7	一日の流れ	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
8	週のスケジュール	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
9	休暇の過ごし方	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
10	好きなこと	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
11	移動の表現	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
12	図書館に行く	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
13	総合復習	聴解、文法練習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

期末テストの範囲及び成績評価の基準を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末(PCやタブレットなど)が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることがあります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

第三外国語としてのロシア語中級 B 2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続きロシア語の解説と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力と共に会話能力も楽しく伸ばしましょう。

ロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験(T P K II)の基本レベル (CERF A2) のロシア語運用能力を身につけるべき頑張りましょう。

【到達目標】

授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストを解説し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	お食事	テキストの読解、会話練習
2	カフェやレストランにて	テキストの読解、会話練習
3	手紙を書く	テキストの読解、会話練習
4	郵便局にて	テキストの読解、会話練習
5	プレゼントの文化	テキストの読解、会話練習
6	お買い物	テキストの読解、会話練習
7	招待する	テキストの読解、会話練習
8	病気と健康	テキストの読解、会話練習
9	病院にて	テキストの読解、会話練習
10	街の見学に行く	テキストの読解、会話練習
11	旅行に行く	テキストの読解、会話練習
12	空港にて	テキストの読解、会話練習
13	復習	テキストの読解、会話練習
14	期末試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の学習はオンラインでできるサイトを紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）（2018/2019年度版）と（2020/2021年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末(PCやタブレットなど)が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることがあります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

実用ロシア語A

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

現地留学またはロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験の基本レベル (CERF A2)、T P K И-1(CERF B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語能力試験 T P K И A2-B1 の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介、名前、挨拶	関係代名詞の用法。会話練習、リスニング
2	初回場面のトーク	意見を述べる。会話練習・リスニング
3	友好について	性格、家族メンバー、比較表現。会話練習、リスニング
4	人の外見	比較表現、形容詞の与格、慣用句。会話練習、リスニング
5	何を着る	衣類、最上級、形容詞の格変化復習。会話練習、リスニング
6	人の体	年齢や外見の話、比較、чем-тем構文。会話練習、リスニング
7	結婚パーティ	単語復習、関節発話、慣用句。会話練習、リスニング
8	薬局にて	症状の話、診察の表現、薬の購入。会話練習、リスニング
9	健康の維持	再帰動詞、慣用句。会話練習、リスニング
10	スポーツ	会話練習、リスニング
11	身近な人々について	人のことについて言える表現の復習、会話練習、リスニング
12	友人へのメール	メールの書き方、構成。会話練習、作文

13 総合復習

1～12の復習

14 期末試験

期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

数回音声データを使った宿題があります。授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムにて授業プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）（2018/2019年度版）と（2020/2021年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。期末テストの範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからダウンロードしたPDFプリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。学習支援システムにアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or T P K И B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test T P K И A2-B1.

(Learning activities outside of classroom)

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for some lessons to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

実用ロシア語 B

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、動画鑑賞やリスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

現地留学またはロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験の基本レベル (CERF A2)、T P K И-1(CERF B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語検定試験 T P K И A2-B1 の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	旅行先のホテル	ホテルの種類や特徴について話す。リスニング練習、会話練習
2	ホテルの受付	予約する、ホテルスタッフと話す。リスニング練習、会話練習
3	有名なホテル	接頭辞の移動動詞。リスニング練習、会話練習
4	住まいについて	住まいの種類や特徴。リスニング練習、会話練習
5	部屋について	場所の前置詞、与格の復習。リスニング練習、会話練習
6	引越しパーティ	慣用句。リスニング練習、会話練習
7	食べ物	料理、食べ物。リスニング練習、会話練習
8	食生活	生格、造格の復習。リスニング練習、会話練習
9	スーパーの買い物	数字と複数生格。リスニング練習、会話練習
10	ファストフード店	不定代名詞。リスニング練習、会話練習
11	料理を作る	レシピ、程度表現。リスニング練習、会話練習
12	レストラン	お食事エチケット、慣用句。リスニング練習、会話練習

13 総合復習

1～12 の復習

14 期末試験

筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

数回音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場で配布もしくは学習支援システムを通して配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）（2018/2019年度版）と（2020/2021年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。期末テストの範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからダウンロードしたPDFプリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。学習支援システムのアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or T P K И B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test T P K И A2-B1.

(Learning activities outside of classroom)

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

ロシア語講読 A

2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。

様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その1）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
2	基礎練習（その2）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習（その3）副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
4	テキスト講読（その1）回想、科学	短文「ある音楽家の体験」、「チンパンジーと会話能力」
5	テキスト講読（その2）ユーモア、ルポルタージュ	短文「少年の買物」、「ネヴァ川への旅客機の不時着」
6	テキスト講読（その3）ルポルタージュ、科学	短文「嵐の海の救出劇」、「自殺に関する19世紀科学」
7	テキスト講読（その4）おとぎばなし	短文「春夏秋冬」
8	テキスト講読（その5）文学、芸術	短文「美（『カラマーゾフの兄弟』より）」、「映画芸術」
9	テキスト講読（その6）文化、ユーモア	短文「祖国の外で外国語によって作品を執筆すること」、「親切心」
10	テキスト講読（その7）歴史	短文「アレクサンドル1世」、「ニコライ2世」
11	テキスト講読（その8）文学	短文「プーシキン」、「ドストエフスキー」
12	テキスト講読（その9）文学	短文「トルストイ」
13	テキスト講読（その10）文学	短文「パステルナーク『ドクトル・ジバゴ』」

14 期末試験

ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40%、期末試験60%。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading A.

This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

ロシア語講読 B

2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。
様々な文章を読んでいくことを通じて、「ロシア語講読A」よりもさらに高度な読解力を培うことを目的とします。
基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト講読（その1） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第1節）」
2	テキスト講読（その2） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第2節）」
3	テキスト講読（その3） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第3節）」
4	テキスト講読（その4） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第1節）」
5	テキスト講読（その5） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第2節）」
6	テキスト講読（その6） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第3節）」
7	テキスト講読（その7） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第4節）」
8	テキスト講読（その8） 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第1節）」
9	テキスト講読（その9） 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第2節）」
10	テキスト講読（その10） 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第3節）」

11	テキスト講読（その11） 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第1節）」
12	テキスト講読（その12） 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第2節）」
13	テキスト講読（その13） 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第3節）」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40%、期末試験60%。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading B. Continuation of Russian reading A.

This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

時事ロシア語 A

2017年度以降入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための練習をする。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。ロシア語の講読が初めての受講者も歓迎する。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は基本的に対面形式で実施するが、受講者の希望により、7回分を上限にオンラインで実施する可能性もある。毎回の授業でロシア語の文章を配布し、その場で辞書を用いながら読む練習をする。また、文章の内容についてのディスカッションも実施する。少人数の授業となることが予想されるため、フィードバックはその場で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	内政①	ロシア語の文章講読
3	内政②	ロシア語の文章講読
4	外交①	ロシア語の文章講読
5	外交②	ロシア語の文章講読
6	宗教①	ロシア語の文章講読
7	宗教②	ロシア語の文章講読
8	文化①	ロシア語の文章講読
9	文化②	ロシア語の文章講読
10	ビジネス①	ロシア語の文章講読
11	ビジネス②	ロシア語の文章講読
12	テクノロジー①	ロシア語の文章講読
13	テクノロジー②	ロシア語の文章講読
14	まとめ	半期の総括・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内での訳読が中心となるが、終わらなかった部分は宿題とすることがある。授業で訳読した部分についても、授業後に文法や単語を確認し、わからなかった場合には次回授業で質問すること。期末試験では授業で講読した文章の文法・語彙の理解度を確認する。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。講読する文章のテーマは受講者の関心に合わせて選定する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%、授業への参加：50%

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian.

【Learning Objectives】

The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

【Learning activities outside of classroom】

The main focus will be on reading the translation in class, but homework may be assigned for parts that are not completed. Students are expected to review grammar and vocabulary after class and ask questions in the next class if they do not understand. A final exam will be given to test your understanding of the grammar and vocabulary of the passages read in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%.

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

時事ロシア語 B

2017年度以降入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。ロシア語の講読が初めての受講者も歓迎する。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は基本的に対面形式で実施するが、受講者の希望により、7回分を上限にオンラインで実施する可能性もある。毎回の授業でロシア語の文章を配布し、その場で辞書を用いながら読む練習をする。また、文章の内容についてのディスカッションも実施する。少人数の授業となることが予想されるため、フィードバックはその場で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	社会①	ロシア語の文章講読
3	社会②	ロシア語の文章講読
4	司法①	ロシア語の文章講読
5	司法②	ロシア語の文章講読
6	経済①	ロシア語の文章講読
7	経済②	ロシア語の文章講読
8	環境①	ロシア語の文章講読
9	環境②	ロシア語の文章講読
10	スポーツ①	ロシア語の文章講読
11	スポーツ②	ロシア語の文章講読
12	ナショナリズム①	ロシア語の文章講読
13	ナショナリズム②	ロシア語の文章講読
14	まとめ	半期の総括・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内での訳読が中心となるが、終わらなかった部分は宿題とすることがある。授業で訳読した部分についても、授業後に文法や単語を確認し、わからなかった場合には次回授業で質問すること。期末試験では授業で講読した文章の文法・語彙の理解度を確認する。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。講読する文章のテーマは受講者の関心に合わせて選定する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%、授業への参加：50%

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian.

【Learning Objectives】

The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

【Learning activities outside of classroom】

The main focus will be on reading the translation in class, but homework may be assigned for parts that are not completed. Students are expected to review grammar and vocabulary after class and ask questions in the next class if they do not understand. A final exam will be given to test your understanding of the grammar and vocabulary of the passages read in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

第三外国語としての中国語 A 2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のイーラーニング教材（e宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」「発音3」	「発音の基本」ピンインの「発音3」
3	「発音3」「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつ」とば「動詞述語文」
6	「第7課」「第8課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第9課」「第10課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」「第12課」	「補語」「動詞述語文1」
9	「第13課」「第14課」	「動詞述語文2」「動詞述語文3」
10	「第15課」「第16課」	「動詞述語文4」「動詞述語文5」
11	「第17課」「第18課」	「動詞述語文6」「動詞述語文7」
12	「第19課」「第20課」	「完了態」「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	まとめ	「第1課から第20課」までのまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。e宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（授業への参加度）：50 %
②期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

最終回の授業内試験はオンライン試験で実施するので、各自PCができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 60%, Term-end examination: 40%.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

第三外国語としての中国語 B 2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のeラーニング教材（e宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」「第22課」	「経験態」「進行態」「持続態」
3	「第23課」「第24課」	「形容詞述語文」
4	「第25課」「第26課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」1課
5	「第27課」「第28課」	「名詞述語文」2課
6	「第29課」「第30課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
7	「第31課」「第32課」	「程度補語」「数量補語」
8	「第33課」「第34課」	「結果補語」「方向補語」
9	「第35課」「第36課」	「可能補語」「助動詞」
10	「第37課」「第38課」	「兼語文」「受け身表現」
11	「第39課」「第40課」	「把構文」「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習
14	まとめ	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。e宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（授業への参加度）：50%

②期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

最終回の授業内試験はオンラインで実施するので、PCができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 60%, Term-end examination: 40%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語中級A 2017年度以降入学者

木村 佳代子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】

1. 中国語の中級レベルの語彙、文法を学修し、運用することができる。
2. ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。課題等へのフィードバックは授業中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1課（助動詞、主述述語文の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第1課（トレーニング1）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第2課（“的”の用法、「原因・理由」の表現、文末助詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第2課（トレーニング2）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第3課（連動文、“是…的”の文、疑問詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第3課（トレーニング3）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第1課～第3課の復習	日文中訳・中文日訳の練習。
第8回	第4課（“了”の3つの用法、副詞“就”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第4課（トレーニング4）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第5課（様態補語、推量の表現、「假定」の表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第5課（トレーニング5）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第12回	総合練習（第1課～第3課）	期末試験に向けた復習と練習。
第13回	総合練習（第4課、第5課）	期末試験に向けた復習と練習。

第14回 試験・まとめと解説 朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しておこなってください。

【テキスト（教科書）】

『中国語つぎへの一歩』尹景春・竹島毅 白水社
2200円＋税

【参考書】

『中国語さらなる一歩』尹景春・竹島毅 白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】

期末試験40%、授業への参加度60%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化し到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

4群中国語履修者も履修可能ですが、中国語3Ⅰ・Ⅱ（法文営環）/中国語4Ⅰ・Ⅱ（法文営）と同じ教科書となる可能性があるので、履修の際は留意してください。

関連科目

300番台総合科目、配当年次2年4年

中国語コミュニケーション中級A・B

中国語視聴覚中級A・B

中国語作文中級A・B

中国語講読中級A・B

中国語翻訳・通訳A・B

資格中国語上級A・B

200番台 LA科目 配当年次1年4年

中国語の世界LA・LB

200番台 LA科目 配当年次2年4年

中国の文化と社会LA・LB

中国の文化と社会LC・LD

300番台 総合科目 配当年次2年4年

教養ゼミⅠ・Ⅱ

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

- ・ To review important point of Chinese grammar.
- ・ Improve reading, speaking, writing, and translating skills.
- ・ Learning Chinese cultures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.
- ・ Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
- ・ Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

第三外国語としての中国語中級B 2017年度以降入学者

木村 佳代子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、引き続き、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】

1. 中国語の中級レベルの語彙、その用法を学修し、運用することができる。
2. ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。

課題等へのフィードバックは授業中またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第6課（結果補語（1）、副詞“有点”の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第6課（トレーニング6）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第7課（存現文、主述句の主語、二つの“了”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第7課（トレーニング7）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第8課（状態の持続を表す“着”、副詞“再”、疑問詞の不定用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第8課（トレーニング8）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第6課～第8課の復習	日文中訳、中文日訳を中心とした練習
第8回	第9課（方向補語、使役表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第9課（トレーニング9）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第10課（可能補語、強調表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第10課（トレーニング10）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第12回	総合練習（第6課～第8課）	期末試験に向けた復習と練習。

第13回 総合練習（第9課、 期末試験に向けた復習と練習。第10課）

第14回 試験・まとめと解説 朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しておこなってください。

【テキスト（教科書）】

『中国語つぎへの一步』尹景春・竹島毅 白水社
2200円＋税

【参考書】

『中国語さらなる一步』尹景春・竹島毅 白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度60%、期末試験40%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化して到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

4群中国語履修者も履修可能ですが、中国語3Ⅰ・Ⅱ（法文営環）/中国語4Ⅰ・Ⅱ（法文営）と同じ教科書となる可能性があるので、履修の際は留意してください。

関連科目

300番台総合科目、配当年次2年4年

中国語コミュニケーション中級A・B

中国語視聴覚中級A・B

中国語作文中級A・B

中国語講読中級A・B

中国語翻訳・通訳A・B

資格中国語上級A・B

200番台 LA科目 配当年次1年4年

中国語の世界LA・LB

200番台 LA科目 配当年次2年4年

中国の文化と社会LA・LB

中国の文化と社会LC・LD

300番台 総合科目 配当年次2年4年

教養ゼミⅠ・Ⅱ

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

This course is continued from Spring semester.

・ To review important point of Chinese grammar.

・ Improve reading, speaking, writing, and translating skills.

・ Learning Chinese cultures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.

・ Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

・ Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語視聴覚中級A

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制 (25)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。この授業は木曜日2限の中国語視聴覚初級1・Ⅱと同じ教科書を使います。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】

初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第7課	文法理解と応用
3	第7課	会話と応用
4	第7課	読解文の理解と応用
5	第7課	課外練習と作文
6	第8課	文法理解と応用
7	第8課	会話と応用
8	第8課	読解文の理解と応用
9	第8課	課外練習と作文
10	第9課	文法理解と応用
11	第9課	会話と応用
12	第9課	読解文の理解と応用
13	第9課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

This class uses the same textbook as Chinese Audiovisual Beginner I and II on Thursday 2nd period. Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.

Final grade will be calculated according to the following

Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語視聴覚中級B

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制 (25)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】

初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス復習	授業内容に関するガイダンスと復習
2	第10課	文法理解と応用
3	第10課	会話と応用
4	第10課	読解文の理解と応用
5	第10課	課外練習と作文
6	第11課	文法理解と応用
7	第11課	会話と応用
8	第11課	読解文の理解と応用
9	第11課	課外練習と作文
10	第12課	文法理解と応用
11	第12課	会話と応用
12	第12課	読解文の理解と応用
13	第12課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.

Final grade will be calculated according to the following

Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語作文中級 A

2017年度以降入学者

楊 心苗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語作文に必要な知識とスキルを習得するための授業である。初級の文法知識を復習しつつ、短文を作る練習から始まり、作文を行うために必要なステップを学ぶ。また、モデルとなる中国語のテキストを分析し、模倣や書き換え練習を通して、わかりやすい短文の書き方、SNS文字メッセージやメールなどの書き方、フィードバックの与え方などを習得する。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing Chinese compositions. While reviewing basic grammar, students will start by practicing sentence construction and learning the steps required for effective composition. Additionally, students will analyze sample Chinese texts and engage in imitation and rewriting exercises to master clear and concise sentence writing. The course will also cover how to compose short messages for SNS, emails, and other forms of written communication, as well as how to provide constructive feedback. Please make sure to review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

【到達目標】

- 興味関心のある話題について、正確かつ自然な中国語の表現で自分の考えをまとめて文章にすることができる。
- 受講生同士のフィードバックができる。
- 教員が添削した作文をリライトし、より良い文章を作成する能力を身につける。
- 春学期の学習を完了した段階で、HSK 4級のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。

- Be able to express thoughts on topics of interest accurately and naturally in Chinese and compose written essays.
- Be capable of providing feedback to fellow students.
- Develop the ability to rewrite essays corrected by the instructor and create improved versions.
- Achieve a level of writing ability that can pass the HSK Level 4 exam upon completing the spring semester.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 本授業は講義形式と演習形式を組み合わせで行う。
 - 指定テキストを用いて、練習問題や作文に取り組んでもらい、受講生同士でフィードバックし、発表する機会も設ける。
 - 教員は作文の添削や質問への解答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。
- なお以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて進捗のペースや実施の順番を調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	第一課	形容詞述語文／“是”を用いる文
3	第二課 第三課 第四課	文章記号、記述の基礎を学ぶ。 疑問文／“是”を用いる文 SNS文字メッセージを書く練習・フィードバック
4	第五課	助動詞
5	第六課 第七課 第八課	メールを書く練習・フィードバック 完了態／変化態 会話を記述文に書き換える練習・フィードバック

6	第九課 第十課	進行態／持続態／経験態／数量の表現 会話を記述文に書き換える練習・フィードバック
7	第十一課 第十二課	介詞 会話を記述文に書き換える練習・フィードバック
8	第十三課 第十四課	離合詞／動詞の重ね型／結果補語 会話を記述文に書き換える練習・フィードバック
9	第十五課 第十六課	方向補語／可能補語 モデル文章を模倣し、40文字以上の日記を書く・フィードバック
10	第十七課 第十八課	程度補語／否定の表現 モデル文章を模倣し、50文字以上の日記を書く・フィードバック
11	第十九課 第二十課	“ ☒ ”と“再”と“又”／“就”“才”／比較文 モデル文章を模倣し、60文字以上の日記を書く・フィードバック
12	第二十一課 第二十二課	使役文／“把”構文／受け身文 モデル文章を模倣し、70文字以上の日記を書く・フィードバック
13	第二十三課 第二十四課	語気助詞／複文 モデル文章を模倣し、80文字以上の日記を書く・フィードバック
14	総括	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・宿題の練習問題や作文を用いて授業を進めることがあるため、宿題は必ずあらかじめ取り組んでください（宿題をこなしていない場合は授業参加が難しくなる）。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・ Since classes may involve homework exercises and essay writing, please make sure to complete your homework in advance (it will be difficult to participate in class without doing the homework).
- ・ The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

井田みずほ・小園瑞恵『初中級中国語作文トレーニング』（白帝社）2023年

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末課題を50%、平常点（授業への積極的参加度、作文、フィードバックなど）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
- ・本授業は期末試験は実施しない。
- ・ The final assignment will account for 50%and class participation (active participation in discussions, essays, feedback, etc.) will account for 50%, making a total of 100 points. Students who achieve 60%or more of the course objectives based on this grading system will pass.
- ・ There will be no final exam for this course.

【学生の意見等からの気づき】

本年度より新規開校のため、フィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
- ・事前学習は必須である。事前学習していることを前提に授業を進める。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を行うこと。

【Outline (in English)】

This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing Chinese compositions. While reviewing basic grammar, students will start by practicing sentence construction and learning the steps required for effective composition. Additionally, students will analyze sample Chinese texts and engage in imitation and rewriting exercises to master clear and concise sentence writing. The course will also cover how to compose short messages for SNS, emails, and other forms of written communication, as well as how to provide constructive feedback. Please make sure to review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語作文中級 B

2017年度以降入学者

楊 心苗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語作文のスキルを向上させるための授業である。リーディングとライティングは相互作用するスキルであるため、秋学期には、中国語のリーディングとライティングを関連させ、中国語で書かれた短いストーリーやエッセイなどを読み、既習のライティングスキルを活用し、要約や感想文、自由作文のトレーニングを行う。また、日中対照研究の視点から中国語を見ることにより、普段何気なく使っている日本語の文法の特徴を考える視点も養う。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

This course is designed to improve Chinese composition skills. Since reading and writing are interrelated skills, the autumn semester will focus on connecting Chinese reading and writing. Students will read short stories and essays written in Chinese and engage in training such as summaries, reflection essays, and free writing by applying previously learned writing skills. Additionally, by examining Chinese from a contrastive perspective between Japanese and Chinese, students will develop an awareness of the grammatical features of Japanese, which they often use unconsciously. Please ensure that you review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

【到達目標】

1. 句読点や段落構成に留意し、正しい中国語の文法や読みやすい言葉で論理的に文章を書くスキルを身につける。
2. 秋学期の学習を完了した段階で、HSK 5級のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。
3. 中国語圏の言語や文化に関心をもち、グローバルな視点で自分の考えを中国語で効果的に文章にまとめられる。

1.Acquire the skill to write logically with attention to punctuation and paragraph structure, using correct Chinese grammar and clear, readable language.

2.Achieve a level of writing ability that can pass the HSK Level 5 exam upon completing the fall semester.

3.Cultivate interest in the language and culture of Chinese-speaking regions and be able to effectively express personal thoughts in written Chinese from a global perspective.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式と演習形式を組み合わせで行う。
- ・秋学期は配布資料を用いて授業を進める。具体的進め方は以下の通りである。
- ＊授業前の事前学習

授業前に配布されたリーディング資料を読み、感想や意見を考える。

＊授業の進め方と方法

1. 事前学習したリーディング資料について要約や感想文を書く。
 2. 受講生同士でフィードバックを行う。
 3. HSK5級作文トレーニング。
 4. 教員が宿題の作文を添削し、中から数点を選んでプリントにまとめて、受講生全体で共有してフィードバックを行う。
- なお以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて進捗のペースや実施の順番を調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習	春学期に学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。
2	HSK5級自由作文	HSK5級作文問題説明、自由作文の練習、フィードバック
3	リーディング&ライティング	リーディング資料（故事）について要約、感想文を書く、フィードバック
4	HSK5級自由作文	HSK5級自由作文の練習、よく使う語句をまとめる、フィードバック
5	リーディング&ライティング	リーディング資料（エッセイ）について要約、感想文を書く、フィードバック

6	HSK5級自由作文	HSK5級自由作文の練習、テンプレートを作る、フィードバック
7	リーディング&ライティング	リーディング資料（論説文）について要約、感想文を書く、フィードバック
8	HSK5級自由作文	HSK5級自由作文の練習、フィードバック
9	リーディング&ライティング	リーディング資料（ショートショート）について要約、感想文を書く、フィードバック
10	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文の練習、フィードバック
11	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文説明、作文の練習、よく使う語句をまとめる、フィードバック
12	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文の練習、テンプレートを作る、フィードバック
13	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文の練習、フィードバック
14	総括	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業前に配付資料や宿題の作文を用いて授業を進めることがあるため、配付資料を必ず熟読すること、宿題はあらかじめ取り組んでください（こなししていない場合は授業参加が難しくなる）。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・Since classes may involve homework exercises and essay writing, please make sure to complete your homework in advance (it will be difficult to participate in class without doing the homework).
- ・The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末課題を50%、平常点（授業への積極的参加度、作文、フィードバックなど）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
- ・本授業は期末試験は実施しない。
- ・The final assignment will account for 50%and class participation (active participation in discussions, essays, feedback, etc.) will account for 50%, making a total of 100 points. Students who achieve 60%or more of the course objectives based on this grading system will pass.
- ・There will be no final exam for this course.

【学生の意見等からの気づき】

本年度より新規開講のため、フィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
- ・事前学習は必須である。事前学習していることを前提に授業を進める。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

This course is designed to improve Chinese composition skills. Since reading and writing are interrelated skills, the autumn semester will focus on connecting Chinese reading and writing. Students will read short stories and essays written in Chinese and engage in training such as summaries, reflection essays, and free writing by applying previously learned writing skills. Additionally, by examining Chinese from a contrastive perspective between Japanese and Chinese, students will develop an awareness of the grammatical features of Japanese, which they often use unconsciously. Please ensure that you review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者**周 重雷**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、発音を綺麗にする。
- 3、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回配布されている教材に沿って文法を確認する。またさまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。

また毎回発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	人称代名詞と指示代名詞 日常会話	文法を確認したのち、あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	述語 会話（1）	文法の確認と自己紹介
第5回	受け答え 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を各自に発表する
第6回	在と有	方位や場所を意味する表現を学ぶ
第7回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語の練習をする
第8回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方を学ぶ レストランでの会話を作る
第9回	連用修飾語（1） 授業内発表（2）	副詞と時間詞について勉強する レストランでの会話を発表する
第10回	完了と変化	「了」の様子を学ぶ
第11回	連用修飾語（2）	前置詞構造と副詞を学ぶ
第12回	三量補語 会話（3）	文法を確認したのち、買い物する時の会話パターンを作る
第13回	復習と質疑応答 授業内発表（3）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ及び期末テスト	文法のまとめ、と会話の口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（60％）と発表（40％）で評価される。

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSKや中国語検定の受験も推奨される。

留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should talk by accurate pronunciation.

We should talk daily conversation well.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者**周 重雷**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、作文能力を高める。
- 3、日常会話をできるようにする。
- 4、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。

また発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	文法を確認したのち、「私の夏休み」を作る
第2回	程度補語 作文のチェック	程度補語について勉強する 作文の添削をする
第3回	比較文と連動文 会話（1）	文法を確認する ホテルでの会話パターンを作る
第4回	構文分析 授業内発表（1）	構文を分析する ホテルでの会話を発表する
第5回	強調と重複	強調構文と重複表現について勉強する
第6回	方向補語	方向補語の用法を学ぶ
第7回	複合方向補語の派生的用法 会話（2）	文法を確認したのち、乗り物を使う場合の会話を作る
第8回	結果補語 授業内発表（2）	文法を確認したのち、会話を発表する
第9回	可能補語 会話（3）	可能補語を学ぶ スピーチ/ものを語る
第10回	使役と受身 授業内発表（3）	文法を確認したのち、スピーチを発表する
第11回	処置と倒置 ヒアリング（1）	処置文と倒置文について勉強する 映像教材を使って聞き取りをする
第12回	複文一 ヒアリング（2）	複文について勉強する 映像教材の聞き取り
第13回	複文二	接続詞を確認する 復習と質疑応答
第14回	まとめ	口頭テストと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績（60％）と発表（40％）で評価される。

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSKや中国語検定の受験も推奨される。

留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should do some writing and talk by accurate pronunciation. Achieve the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語翻訳・通訳 A

2017年度以降入学者

王 安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語入門～初級を修了した学習者を対象に、**HSK3級～5級**（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期は**HSK3級～4級レベル**（中国語検定試験3級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に付け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】

- 1、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
- 2、中国語中級レベルの重要文法事項を把握する。
- 3、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回3、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、**HSK試験**や中検試験の受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。 HSK に関する説明
第2回	中国語重要文型の復習 (その1)	名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文、二つの否定副詞
第3回	中国語重要文型の復習 (その2)	各種の疑問文、主述述語文
第4回	動作の状態の表し方 (その1)	将来の動作、動作の進行と持続、動作の経験の表し方
第5回	動作の状態の表し方 (その2)	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”（その1）
第6回	動作の状態の表し方 (その3)	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”（その2）
第7回	中国語の離合詞と動詞の重ね型について	離合詞の特徴と文型、重ね型の文型と機能
第8回	これまでの復習	総合復習（1）、中間テスト
第9回	翻訳・通訳練習	様々な翻訳パターン
第10回	重要な前置詞（介詞、その1）	“在”“从”“到”“離”
第11回	重要な前置詞（介詞、その2）	“往”“朝”“向”“对于”“对”“通过”“按照”“关于”など
第12回	様々な形容詞について	性質形容詞と状態形容詞の特徴と使い方
第13回	連体修飾と連用修飾	連体修飾の作り方、連用修飾の作り方

第14回 期末まとめ

これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。
- ・当日授業で説明した重要ポイントを必ず整理し、復習してください。

【テキスト（教科書）】

授業で資料を配布する。

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼子市著 2,500円（同社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題）40% + 中間テスト（30%）+ 期末テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の雰囲気明るく、文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後もたくさんの用例を提示しながら丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

- 1 日中中日辞書を用意してください。
- 2 授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は中間・期末試験の復習資料となります。
- 3、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the first semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK levels 3 to 4. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire difficult grammar points for intermediate Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.

Objectives

1. To develop advanced Chinese writing, reading, and understanding ability.
2. to master the important grammar items of intermediate Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through much writing practice.

Grading method:

assignment (40%) + mid-term test (30%) + final test (30%)

Work to be done outside of class (preparation:

The standard time for preparation and review is 3 hours each.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語翻訳・通訳 B

2017年度以降入学者

王 安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初級を修了した学習者を対象に、**HSK3級～5級**（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期に引き続き、後期では**HSK4級～5級レベル**（中国語検定試験3～2級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に付け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】

- 1、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
- 2、中国語中級～上級レベルの重要文法事項を把握する。
- 3、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回3、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、**HSK試験や中検試験における受験ポイント**を解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。前期の復習
第2回	中国語の助動詞	各種の助動詞の使い方
第3回	引用、伝聞を表す構文	引用を表す構文、伝聞を表す構文
第4回	特殊構文（その1）	使役文
第5回	特殊構文（その2）	受け身文
第6回	特殊構文（その3）	“是…的”構文
第7回	翻訳・通訳練習	様々な翻訳パターン
第8回	これまでの復習	総合復習（1）、中間テスト
第9回	特殊構文（その4）	“把”構文
第10回	中国語の補語（その1）	結果補語と方向補語
第11回	中国語の補語（その2）	可能補語、数量補語
第12回	中国語の補語（その3）	数量補語、様態補語
第13回	翻訳通訳練習	日中通訳の現場でよく使われる表現
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。
- ・当日の授業で紹介した重要ポイントを必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】

授業で資料を配布する。

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題）40%＋中間テスト（30%）＋期末テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の雰囲気が明るく、文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後もたくさんの用例を提示しながら丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

- 1 日中中日辞書を用意してください。
- 2 授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
- 3、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【その他の重要事項】

連絡先： annwang@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the second semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK levels 4 to 5. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate advanced Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.

Objectives

1. To develop advanced Chinese writing, reading, and understanding ability.
2. to master the important grammar items of intermediate advanced Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through much writing practice.

Grading method:

assignment (40%) + mid-term test (30%) + final test (30%)

Work to be done outside of class (preparation:

The standard time for preparation and review is 3 hours each.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語講読中級 A

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。春学期はHSK 3、4 級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読を通して、HSK 3、4 級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、受講者と話し合いながら授業を進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題①	HSK 3、4 級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題②	HSK 3、4 級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題③	HSK 3、4 級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題④	HSK 3、4 級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑤	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑥	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑦	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑧	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑨	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑩	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑪	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK 3、4 級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。

【参考書】

千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』（三省堂）
そのほか、適宜教場で示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（授業への参加度）50%
- ②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50%

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき丁寧な分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

最終回の授業内試験はオンラインで実施しますので、PCで受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語講読中級 B

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。秋学期はHSK 4、5級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読を通して、HSK 4、5級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、受講者と話し合いながら授業を進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK 4、5級閲読対策：練習問題①	HSK 4、5級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK 4、5級閲読対策：練習問題②	HSK 4、5級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK 4、5級閲読対策：練習問題③	HSK 4、5級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK 4、5級閲読対策：練習問題④	HSK 4、5級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK 4、5級閲読対策：練習問題⑤	HSK 4、5級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK 4、5級閲読対策：練習問題⑥	HSK 4、5級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK 4、5級閲読対策：練習問題⑦	HSK 4、5級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK 4、5級閲読対策：練習問題⑧	HSK 4、5級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK 4、5級級閲読対策：練習問題⑨	HSK 4、5級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK 4、5級級閲読対策：練習問題⑩	HSK 4、5級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK 4、5級級閲読対策：練習問題⑪	HSK 4、5級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK 4、5級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（授業への参加度）50%
- ②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50%

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき丁寧な分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

最終回の授業内試験はオンラインで実施しますので、PCで受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

資格中国語上級A

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、**HSK**（漢語水平考試）の**5級**に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】

過去問題や模擬問題を解くことで、**HSK**レベル5に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK5級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
3	HSK5級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
4	HSK5級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
5	HSK5級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
6	HSK5級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
7	HSK5級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
8	HSK5級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
9	HSK5級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
10	HSK5級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 添削及び解説

11	HSK5級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 添削及び解説
12	HSK5級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 添削及び解説
13	HSK5級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 添削及び解説
14	総まとめ	期末試験 まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の宿題・復習時間は、合わせて**2時間**を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書

【成績評価の方法と基準】

学習態度 40%

宿題と課題 40%

期末試験 20%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 5.

【Learning Objectives】

By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 5.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance and learning attitude 40%

Homework completion 40%

Final exam 20%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

資格中国語上級B

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、**HSK（漢語水平考試）の6級**に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】

過去問題や模擬問題を解くことで、**HSKレベル6**に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK6級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
3	HSK6級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
4	HSK6級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
5	HSK6級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
6	HSK6級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
7	HSK6級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
8	HSK6級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
9	HSK6級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
10	HSK6級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説

11	HSK6級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
12	HSK6級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
13	HSK6級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
14	総まとめ	期末試験 まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の宿題・復習時間は、合わせて**2時間**を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書

【成績評価の方法と基準】

学習態度 40%

宿題と課題 40%

期末試験 20%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 6.

【Learning Objectives】

By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 6.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance and learning attitude 40%

Homework completion 40%

Final exam 20%

ARSe300LA (地域研究 (東アジア) / Area studies(East Asia) 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「担仔麵に小籠包、臭豆腐、茶葉蛋、豆花…。台湾を代表する現代詩人が民間に根づいた食べものを題目に冠し、その味わいを綴る六十篇」（みすず書房HPより抜粋）を収める焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021年。原書『味道福爾摩莎』）をテキストとし、日本語訳された内容を味わいながら台湾の食文化への理解を深めます。適宜、原文も確認しながら中国語の世界にも慣れ親しむ予定です。※中国語の学習経験がなくても構いません。

【到達目標】

- ・映像資料の鑑賞・中国語文献の確認作業を通して、中国語の世界に慣れ親しむ。
- ・地理、地域の特色、食材、調理、生活、習慣等に対する調査を通して、中国語圏の食文化への理解を深める。
- ・各自でレストランを訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。
- ・プレゼンテーションに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021年）をテキストとします。各自担当したい項目を選んで、それに関する内容の整理、調査結果をまとめてパワーポイントを作成し、プレゼンします。プレゼンをもとに参加者はリアクションペーパーに感想・質問等をまとめ、ディスカッションを行います。
- ・シラバス記載の項目は一例です。
- ・調査結果や質問等へのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
2	プレゼンテーション 例と担当決め	各自エッセイのなかから一篇を選ぶ。「台湾珈琲」を例にプレゼン。
3	『味の台湾』から読み 解く食文化②	「肉臊飯（豚角切り肉の煮込みぶっかけ飯）」篇に関する調査と発表
4	『味の台湾』から読み 解く食文化③	「米粉湯（米めん入りスープ）」篇に関する調査と発表
5	『味の台湾』から読み 解く食文化④	「芒果牛奶奶冰（マンゴーミルクかき氷）」篇に関する調査と発表
6	『味の台湾』から読み 解く食文化⑤	「蚵仔煎（カキのオムレット）」篇に関する調査と発表
7	『味の台湾』から読み 解く食文化⑥	「小籠包（スープ入り小肉饅頭）」篇に関する調査と発表
8	『味の台湾』から読み 解く食文化⑦	「川味紅焼牛肉麵（四川風牛肉煮込み汁麵）」篇に関する調査と発表
9	『味の台湾』から読み 解く食文化⑧	「永和豆浆（永和豆乳）」篇に関する調査と発表

10	『味の台湾』から読み 解く食文化⑨	「仏跳牆（さまざまな乾物と肉類の蒸しスープ）」篇に関する調査と発表
11	『味の台湾』から読み 解く食文化⑩	「刈包（豚肉の醤油煮こみをはさんだ蒸しパン）」篇に関する調査と発表
12	『味の台湾』から読み 解く食文化⑪	「豆花（おぼろ豆腐）」篇に関する調査と発表
13	春学期のまとめ①	授業のふりかえりと各自での実地調査
14	春学期のまとめ②	授業のふりかえりと各自での実地調査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021年）

【参考書】

焦桐『味道福爾摩莎』（二魚文化事業有限公司、2015年）など

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への参加度、リアクションペーパー）：50%
- ・プレゼンテーション：50%

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Presentation 50%.

ARSe300LA (地域研究 (東アジア) / Area studies(East Asia) 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「吃货（くいしんぼう）」のための食エッセイを収める崔岱遠『中国くいしんぼう辞典』（川浩二訳、2019年、みすず書房。原書『吃货辞典』2014年、商務印書館）をテキストのひとつとして使用します。日本語訳された内容を味わいながら中国語圏の食文化への理解を深めます。適宜、原文も確認しながら外国語にも慣れ親しむ予定です。※中国語の学習経験がなくても構いません。

【到達目標】

- ・映像資料の鑑賞・文献の確認作業を通して、外国語の世界に慣れ親しむ。
- ・地理、地域の特色、食材、調理、生活、習慣等に対する調査を通して、中国語圏の食文化への理解を深める。
- ・各自でレストランを訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。
- ・プレゼンテーションに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・崔岱遠『中国くいしんぼう辞典』（川浩二訳、みすず書房、2019年）をテキストとします。各自担当したい項目を選んで、それに関する内容の整理、調査結果をまとめてパワーポイントを作成し、プレゼンします。プレゼンをもとに参加者はリアクションペーパーに感想・質問等をまとめ、ディスカッションを行います。
- ・シラバス記載の項目は一例です。
- ・調査結果や質問等へのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
2	プレゼンテーション 例と担当決め	各自エッセイのなかから一篇を選ぶ。「燙干絲（湯通しした細切り押し豆腐）」篇を例にプレゼンテーション
3	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化①	「紅焼肉（豚の角煮）」篇に関する調査と発表
4	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化②	「炸醬麵（煎りみそ和え麵）」篇に関する調査と発表
5	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化③	「包子（まんじゅう）」篇に関する調査と発表
6	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化④	「涮羊肉（羊のしゃぶしゃぶ）」篇に関する調査と発表
7	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑤	「粽子（ちまき）」篇に関する調査と発表

8	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑥	「生煎（焼き小籠包）」篇に関する調査と発表
9	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑦	「牛大碗（手延べ牛肉麵）」篇に関する調査と発表
10	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑧	「過橋米麵（各種の付け合わせを添えた汁米麵）」篇に関する調査と発表
11	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑨	「夫妻肺片（薄切りにした牛肉と牛モツの辛み和え）」篇に関する調査と発表
12	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑩	「雲吞麵（ワンタンメン）」篇に関する調査と発表
13	秋学期のまとめ①	授業のふりかえりと各自での実地調査
14	秋学期のまとめ②	授業のふりかえりと各自での実地調査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

崔岱遠『中国くいしんぼう辞典』（川浩二訳、2019年、みすず書房）

【参考書】

崔岱遠『吃货辞典』（2014年、商務印書館など）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への参加度・リアクションペーパー）：50%
- ・プレゼンテーション：50%

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Presentation 50%.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

第三外国語としてのスペイン語 A 2017年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合はZoomによるリアルタイム双方向式で行う。

教員が文法事項を説明し、履修生は音声聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループアクティビティを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。アクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 第0課 イントロダクション	授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴、スペイン語圏諸国
2	第1課 スペイン語で友だちになろう	アルファベット、発音、アクセント、数詞0～10、スペイン語圏の名前
3	第2課 慣用句を便利に使う	名詞の性数、職業、冠詞、指示詞
4	第3課 感動を伝えよう	主格人称代名詞、動詞ser、国籍、数詞11～20
5	第3課 感動を伝えよう	疑問文と否定文、形容詞、感嘆文
6	小テスト 第4課 いろいろな動詞を使おう	規則動詞、疑問詞1、数詞21～30
7	第4課 いろいろな動詞を使おう	所有詞、親族名称、アメリカ合衆国とメキシコ
8	第5課 お願いしたり、指示を理解しよう	動詞estar、直接目的語と間接目的語、数詞31～100、
9	第5課 お願いしたり、指示を理解しよう	túとusted への肯定命令、グアテマラ
10	第6課 どこにいるか、何があるか確認しよう	動詞estar, hay、位置関係を表す語句
11	第6課 どこにいるか、何があるか確認しよう	疑問詞2、コスタリカ

12	第7課 しなければいけない、するつもり	1人称単数不規則動詞、天候表現
13	第7課 しなければいけない、するつもり	動詞tener, ir、キューバ
14	期末試験、ふりかえり	春学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書や付属の語彙集で調べておく。舞台となっている地域の位置を地図で確認し、その特徴なども調べる。

復習：新たに学んだことをノートにまとめて復習し、音声聴いて発音練習を繰り返す。

宿題：練習問題

標準学習時間：計4時間

【テキスト（教科書）】

柳田玲奈／吉野達也『ラテアメ！ スペイン語—ラテンアメリカ縦断』朝日出版社、2023年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社

高橋寛二『テーブル式スペイン語便覧』評論社

西川喬『わかるスペイン語文法』同学社

小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社

高橋寛二、伊藤ゆかり、古川亜矢『とことんドリル！ スペイン語文法項目別』同学社

その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、小テスト（10％）、期末試験（40％）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているので、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

テキストの音声聴くための機器（パソコン、スマートフォンなど）とインターネット環境。

【その他の重要事項】

長期的にスペイン語を勉強するのなら、紙媒体の辞書を使うことお勧めします。西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のもの。自動翻訳機や生成AIの使用厳禁。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

The goals are to pronounce Spanish correctly, express your daily life in Spanish and apprehend Spanish-speaking world. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process;
in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

第三外国語としてのスペイン語 B 2017年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

現在と過去の動詞の時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合はZoomによるリアルタイム双方向式で行う。
教員が文法事項を説明し、履修生は音声聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループアクティビティを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。
アクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第8課 許可を求めたり、相手の希望を尋ねたりしよう	語幹母音変化動詞
2	第8課 許可を求めたり、相手の希望を尋ねたりしよう	不規則動詞、頻度の表現
3	第9課 好きなものを伝えよう	目的格人称代名詞
4	第9課 好きなものを伝えよう	前置詞格人称代名詞、動詞 gustar
5	第10課 日常生活について話そう	再帰動詞
6	第10課 日常生活について話そう	時刻、曜日、コロンビア
7	小テスト 第11課 今していることや、これまでの経験を話そう	現在分詞、過去分詞
8	第11課 今していることや、これまでの経験を話そう	現在完了、不定語・否定語
9	第12課 過去の出来事を伝えよう	点過去規則動詞
10	第12課 過去の出来事を伝えよう	比較、ペルー
11	第13課 過去の出来事を伝えよう	点過去不規則動詞
12	第13課 主語のない文を使おう	無人称表現、muy と mucho

13 第14課 昔のこと 線過去、アルゼンチンを語等

14 期末試験、ふりかえり 秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書や付属の語彙集で調べておく。舞台となっている地域の位置を地図で確認し、その特徴なども調べる。

復習：新たに学んだことをノートにまとめて復習し、音声聴いて発音練習を繰り返す。

宿題：練習問題

標準学習時間：計4時間

【テキスト（教科書）】

柳田玲奈／吉野達也『ラテアメ！ スペイン語—ラテンアメリカ縦断』朝日出版社、2023年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社

高橋寛二『テーブル式スペイン語便覧』評論社

西川喬『わかるスペイン語文法』同学社

小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社

高橋寛二、伊藤ゆかり、古川亜矢『とことんどリル！ スペイン語文法項目別』同学社

その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、小テスト（10％）、期末試験（40％）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているので、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

テキストの音声聴くための機器（パソコン、スマートフォンなど）とインターネット環境。

【その他の重要事項】

長期的にスペイン語を勉強するのなら、紙媒体の辞書を使うことを薦めます。西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のもの。自動翻訳機や生成AIの使用厳禁。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

The goals are to master basic daily Spanish conversation, reading and composition and apprehend Spanish-speaking world.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process;

in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語上級A

2017年度以降入学者

佐々木 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部SAスペインを修了した学生、または同程度のスペイン語力を持つ学生を対象の授業です。スペイン語によるコミュニケーション力のさらなる向上を目指します。スペイン語の基礎文法を再確認しながら、身近な事柄や個人的なテーマについて簡潔に文章を作成したり、わかりやすい口頭発表ができるようになることを目指します。

【到達目標】

- *仮説のことがらを表現できるようになる。
- *計画を提案したり、進言することができるようになる。
- *フォーマルな状況で、適切な対応ができるようになる。
- *他者の言ったことを伝えることができるようになる。
- *身近なテーマについて、議論を交わすことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はスペイン語と日本語を交えて、演習中心のテキストに沿って進めます。受講生がスペイン語によるプレゼンテーションを行ったり、スペイン語で議論をする機会を積極的に作ります。リアクション・ペーパーや課題に対するフィードバックは、授業内もしくは授業支援システムを活用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業についての説明
2	挨拶	個人の情報を伝えたり、求めたりする表現
3	授業内でのコミュニケーション	*義務、禁止、許可の表現 *授業中に質問ができる
4	文化と様々なイベント1	*過去の行動について話すことができる
5	文化と様々なイベント2	*出来事の描写ができる
6	祝祭1	*願望や感情の表現ができる
7	祝祭2	*社交辞令の表現
8	都市と環境1	*助言を求めたり、対策を相談したり、解決策を提案したりする
9	都市と環境2	*意見を述べたり、賛否を表現する
10	移住と旅行1	*今後の予定と課題について話す *エピソードを伝える
11	移住と旅行2	*相手の話に興味を示したり、話を促す *人から聞いたことを伝える
12	動物、楽器、スポーツ	*比較表現ができる
13	日常生活の道具	原因、目的、結果について表現する
14	期末試験・まとめと解説	学習内容の理解度を確かめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習：その日授業で扱う範囲についてはあらかじめテキストに目を通し、知らない単語/表現やことがらについては調べておくこと。
 - ・復習：授業内で新しく学んだことについて振り返り、1年次に購入した『段階別ドリル』を使って、知識の定着をはかること。
 - ・そのほか：適宜指示される課題に取り組むこと。
- この授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『エレボB1』ガルシア、濱本他、朝日出版、定価（税込）3,135円

【参考書】

『段階別 ドリル』、朝日出版

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、授業内での貢献度・課題50%を目安として総合的に評価する。
この授業は演習中心の授業であるため、出席は必須とする。
3回以上欠席した場合や5回以上遅刻した場合は、「不可」と評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Spain Program or have a similar level of Spanish proficiency. We aim to further improve our communication skills in Spanish. While reconfirming basic Spanish grammar, you will aim to be able to write concise sentences on familiar and personal topics and make easy to understand oral presentations. The principal goal of this class is to achieve B1level in DELE. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語上級B

2017年度以降入学者

佐々木 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部SAスペインを修了した学生、または同程度のスペイン語力を持つ学生を対象の授業です。スペイン語によるコミュニケーション力のさらなる向上を目指します。スペイン語の基礎文法を再確認しながら、身近な事柄や個人的なテーマについて簡潔に文章を作成したり、わかりやすい口頭発表ができるようになることを目指します。

【到達目標】

- *仮説のことがらを表現できるようになる。
- *計画を提案したり、進言することができるようになる。
- *フォーマルな状況で、適切な対応ができるようになる。
- *他者の言ったことを伝えることができるようになる。
- *身近なテーマについて、議論を交わすことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はスペイン語と日本語を交えて、演習中心のテキストに沿って進めます。受講生がスペイン語によるプレゼンテーションを行ったり、スペイン語で議論をする機会を積極的に作ります。リアクション・ペーパーや課題に対するフィードバックは、授業内もしくは授業支援システムを活用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業についての説明
2	迷信と日常生活1	*直説法未来完了 *直説法未来と可能性を表す直説法過去未来
3	迷信と日常生活2	*接続法過去 *条件文
4	観光、旅、休暇1	*方法・様態と場所を示す関係副詞 *結果を表す文
5	観光、旅、休暇2	*計画の提案・招待を受け入れる/断る *前置詞を伴う疑問文
6	仕事1	*時を表す副詞節Ⅱ *形容詞の語尾消失
7	仕事2	*就職の面接と履歴書作成に役立つ表現
8	食文化1	*直接話法と間接話法
9	食文化2	*食品や味に関する表現
10	人間関係1	*譲歩節 *逆説の接続詞
11	人間関係2	*不定代名詞と不定形容詞 *付き合いや人間関係を表す動詞
12	映画1	映画の世界について外観する
13	映画2	映画製作のプロセスを学ぶ

14 映画3

短編映画の撮影にチャレンジする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習：その日授業で扱う範囲についてはあらかじめテキストに目を通し、知らない単語/表現やことがらについては調べておくこと。
 - ・復習：授業内で新しく学んだことについて振り返り、1年次に購入した『段階別ドリル』を使って、知識の定着をはかること。
 - ・そのほか：適宜指示される課題に取り組むこと。
- この授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『エレボB1』ガルシア、濱本他、朝日出版、定価（税込）3,135円

【参考書】

『段階別 ドリル』、朝日出版

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、授業内での貢献度・課題50%を目安として総合的に評価する。
この授業は演習中心の授業であるため、出席は必須とする。
3回以上欠席した場合や5回以上遅刻した場合は、「不可」と評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Spain Program or have a similar level of Spanish proficiency. We aim to further improve our communication skills in Spanish. While reconfirming basic Spanish grammar, you will aim to be able to write concise sentences on familiar and personal topics and make easy to understand oral presentations.

The principal goal of this class is to achieve B1level in DELE. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語コミュニケーション中級 A 2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、スペイン語圏の文化や習慣を学びながら、語彙や表現を豊かにする練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習を行います。すべての授業は対面形式で行われます。

【到達目標】

スペイン語圏の文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の紹介 花見	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペイン語のよくある疑問	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペイン語ジェスチャー	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペイン語を話す国々	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	アンデスの言語	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	ケチュア語の紹介	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	アンデスのペルーの食べ物 (I)：クイ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	アンデスのペルーの食べ物 (II)：チュニユ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	ペルー料理	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	ペルーを代表するセビッチェのレシピ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

11	ペルーでよく食べらるデザート のレシピ ：Arroz con leche y mazamorra morada	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	ペルーにおける子供の誕生日祝い	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	女性の15歳の誕生日のお祝い	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	期末のレポートと口頭試験	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

辞書 (電子辞書可)/Shogakukan DICcionario ESPAÑOL - JAPONÉS

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など → 60 %
2. 期末のレポートと口頭試験に基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

対面授業になるので、口頭試験を行うことにした。

【Outline (in English)】

In this course, you will learn about the culture and customs of Spanish-speaking countries while simultaneously practicing and enriching your vocabulary. Each lesson will include the following activities: listening to a model text, reading the text individually and then in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.

The goal is to learn about the cultural practices of the Spanish-speaking world while strengthening Spanish vocabulary and developing expressive abilities.

Each session begins with an exercise consisting of 5 to 10 questions in Spanish with classmates, followed by a review of the previous lesson.

Activities include listening to a model text, reading it individually and in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.

For each session, students will be assigned homework consisting of 5 to 10 questions to discuss with classmates during the following session. At the end of the semester, students will write a report in Spanish on "The Japanese Coming of Age Ceremony" and deliver an oral presentation. During the presentation, they will answer questions in Spanish about the content.

Grading Criteria:

Class performance, including answers to in-class questions, assignments, attitude, and active participation → 60%

Reports and oral exam at the end of the term → 40%

To prepare for each lesson, students are expected to memorize the new vocabulary provided in the weekly PDF and practice answering the 5 to 10 questions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week.

As this is a communication-focused course, students will primarily work in pairs or groups.

毎回、最初にクラスメート同士で10個のスペイン語の質問を練習することから始まります。その後、前回の復習を行い、新しいモデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習などを行います。

本授業には課題があり、期末試験として「日本の成人式」についてスペイン語でレポートを提出してもらいます。

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、スペイン語圏の文化や習慣を学びながら、語彙や表現を豊かにする練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習を行います。

【到達目標】

スペイン語圏の文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化し、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回最初に仲間同士で10個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、新しいモデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習などを行う。

本授業には課題や小テストがあり。期末試験として「日本のクリスマスとお正月」についてスペイン語でレポートを提出してもらう。さらにその内容に関してのスペイン語での口頭試験もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スペイン語圏の伝統的なダンス(I)	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペイン語圏の伝統的なダンス(II)	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペイン語圏の伝統的な音楽(I)楽器	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペイン語圏の伝統的な音楽(II)ラ・ジョローナ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペイン語圏の物語(I)マテ茶の起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペイン語圏の物語(II)ラ・ジョローナ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペイン語圏の映画の上映(I)ラ・ジョローナ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペイン語圏の映画の上映(II)ラ・ジョローナ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習 小テスト
9	スペイン語圏の伝統的なお祭り	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

10	ペルーアンデスのハサミ踊り。	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	ペルーアンデスのクリスマス踊り。	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	ペルーのクリスマス料理	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	ペルーのクリスマスとお正月	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	期末のレポートと口頭試験	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習であらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えることと仲間との練習で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

辞書（電子辞書可）/Shogakukan DICcionario ESPAÑOL - JAPONÉS

【成績評価の方法と基準】

1.授業内で指された時の返事に基づく点数。小テスト、又、授業での態度や積極的な参加度など → 60%

2.期末のレポートと口頭試験に基づく点数 → 40%

【学生の意見等からの気づき】

対面授業になるので、口頭試験を行うことにした。

【Outline (in English)】

In this course, you will learn about the culture and customs of Spanish-speaking countries while simultaneously practicing and enriching your vocabulary. Each lesson will include the following activities: listening to a model text, reading the text individually and then in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.

The goal is to learn about the cultural practices of the Spanish-speaking world while strengthening Spanish vocabulary and developing expressive abilities.

Each session begins with an exercise consisting of 5 to 10 questions in Spanish with classmates, followed by a review of the previous lesson.

Activities include listening to a model text, reading it individually and in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.

For each session, students will be assigned homework consisting of 5 to 10 questions to discuss with classmates during the following session. At the end of the semester, students will write a report in Spanish on "The Japanese Coming of Age Ceremony" and deliver an oral presentation. During the presentation, they will answer questions in Spanish about the content.

Grading Criteria:

Class performance, including answers to in-class questions, assignments, attitude, midterm exam, and active participation → 60%

Reports and oral exam at the end of the term → 40%

To prepare for each lesson, students are expected to memorize the new vocabulary provided in the weekly PDF and practice answering the 5 to 10 questions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week.

As this is a communication-focused course, students will primarily work in pairs or groups.

すべての授業は対面形式で行われます。毎回、最初にクラスメート同士で**10個**のスペイン語の質問を練習することから始まります。その後、前回の復習を行い、新しいモデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習などを行います。

本授業には課題があり、期末試験として「日本のクリスマスとお正月」についてスペイン語でレポートを提出してもらいます。

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生を対象として（※後述の【その他の重要事項】の欄を参照のこと）、講読・講義・ゼミ形式でスペイン語圏の詩と歌（歌詞）について学ぶ。春学期は詩を講読対象とし、主に20世紀の作品を時代順・地域毎に取り上げていく。また、それぞれの作品と同時代に記された批評や現代の研究文献を併読することで、作品の背景にある歴史・社会・文化について考えていく。

【到達目標】

- (1) スペイン語圏の詩に関する基本的な理解を得る。
- (2) 作品の背景にある歴史・社会・文化に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スペイン語テキストの講読、教員による講義、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	ルベン・ダリーオとモデルニスモ	ルベン・ダリーオとその詩およびモデルニスモについて学ぶ。
3	「98年世代」の詩人たち	「98年世代」の詩人たちとその詩について学ぶ。
4	「14年世代」から「27年世代」へ	「14年世代」と「27年世代」の詩人たちとその詩について学ぶ。
5	スペイン内戦、抵抗、亡命	スペイン内戦期の詩について学ぶ。
6	フェデリーコ・ガルシア・ロルカ	フェデリーコ・ガルシア・ロルカとその詩について学ぶ。
7	フランコ体制下の詩	フランコ体制下の詩について学ぶ。
8	ポスト・フランコ期の詩	ポスト・フランコ期の詩について学ぶ。
9	パブロ・ネルーダ	パブロ・ネルーダとその詩について学ぶ。
10	ニカノール・パラ	ニカノール・パラとその詩について学ぶ。
11	レイナルド・アレーナスとキューバ革命	レイナルド・アレーナスとその詩およびキューバ革命について学ぶ。
12	ロケ・ダルトンと中米の動乱	ロケ・ダルトンとその詩および中米の動乱について学ぶ。

13	ホルヘ・ルイス・ボルヘスの詩論	ホルヘ・ルイス・ボルヘスとその詩論について学ぶ。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、各回で扱う予定のテキストを読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼ししておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：100%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- この授業ではスペイン語テキストの読解を行うため、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生（1年次必修クラスを履修済みの学生）を対象とする。ただし、スペイン語圏の詩や歌に強い関心を持つ学生であればこの限りではなく、初回授業時または事前に担当教員へ相談を寄せていただきたい。

- 履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨と選抜方法を前日のうちに同システムで通知する。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide the students with an opportunity to view the Spanish and Latin American histories, societies and cultures, through reading poetry and song lyrics written in Spanish, lecture and discussion about them.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of poetry and song lyrics in the Spanish-speaking world and its histories, societies and cultures, and the ability of express own ideas accurately in discussion.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (100%).

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生を対象として（※後述の【その他の重要事項】の欄を参照のこと）、講読・講義・ゼミ形式でスペイン語圏の詩と歌（歌詞）について学ぶ。秋学期は歌（歌詞）を講読対象とし、主に20世紀の作品を時代順・地域毎に取り上げていく。また、それぞれの作品と同時代に記された批評や現代の研究文献を併読することで、作品の背景にある歴史・社会・文化について考えていく。

【到達目標】

- (1) スペイン語圏の歌に関する基本的な理解を得る。
- (2) 作品の背景にある歴史・社会・文化に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スペイン語テキストの講読、教員による講義、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	国歌と「国民的」歌謡曲	スペイン語圏の国歌と「国民的」とされる歌謡曲について学ぶ。
3	カンテ・フラメンコとその系譜	カンテ・フラメンコとその系譜について学ぶ。
4	「ラテン」音楽の諸相	ラテン音楽と総称される音楽ジャンルの多様性について学ぶ。
5	タンゴとタンゴ・オペリータ	タンゴとタンゴ・オペリータについて学ぶ。
6	ビオレータ・パラ	ビオレータ・パラとその歌について学ぶ。
7	ビクトル・ハラ	ビクトル・ハラとその歌について学ぶ。
8	プエルトリコ、キューバ、パナマと米国	プエルトリコ、キューバ、パナマと米国の関係について楽曲とその歌詞から学ぶ。
9	ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ	映画『ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ』とその楽曲について学ぶ。
10	ヒスパニック社会とサルサ	米国のヒスパニック社会とサルサについて学ぶ。
11	ウィリー・コロソ	ウィリー・コロソとその歌について学ぶ。
12	ルベン・ブラーデス	ルベン・ブラーデスとその歌について学ぶ。

13	カバー曲における翻訳と翻案	カバー曲における翻訳と翻案について学ぶ。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、各回で扱う予定のテキストを読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直しておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：100%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- この授業ではスペイン語テキストの読解を行うため、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生（1年次必修クラスを履修済みの学生）を対象とする。ただし、スペイン語圏の詩や歌に強い関心を持つ学生であればこの限りではなく、初回授業時または事前を担当教員へ相談を寄せていただきたい。

- 履修予定者は、秋学期の初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨と選抜方法を前日のうちに同システムで通知する。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide the students with an opportunity to view the Spanish and Latin American histories, societies and cultures, through reading poetry and song lyrics written in Spanish, lecture and discussion about them.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of poetry and song lyrics in the Spanish-speaking world and its histories, societies and cultures, and the ability of express own ideas accurately in discussion.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (100%).

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語講読 A

2017年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧な復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法（学期終了までに、およそ接続法現在まで）の理解を深めながら、辞書を引きつつ短い読み物を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれた短い読み物を、語彙、文法、表現等に注目しながら読み解いていく。課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	1課 文法復習	教科書第1課の文法復習 (直説法現在形、serとestar、estarとhay、現在分詞など)
3	2課 文法復習	教科書第2課の文法復習 (再帰動詞など)
4	2課 読解	教科書第2課の本文読解
5	3課 文法復習	教科書第3課の文法復習 (直説法現在完了、直説法過去完了など)
6	4課 文法復習	教科書第4課の文法復習 (直説法線過去など)
7	4課 読解	教科書第4課の本文読解
8	中間テスト	今学期の中間テストを実施
9	5課 文法復習	教科書第5課の文法復習 (直説法過去完了、受身表現など)
10	6課 文法復習	教科書第6課の文法復習 (直説法未来、直説法過去未来など)
11	6課 読解	教科書第6課の本文読解
12	7課 文法復習	教科書第7課の文法復習 (関係詞など)
13	8課 文法復習	教科書第8課の文法復習 (接続法現在など)
	8課 読解	教科書第8課の本文読解
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

二宮哲『一歩進んだスペイン語-中級スペイン語-』同学社、2016年、ISBN: 978-4-8102-0430-8

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、中間テスト30%、期末テスト40%として総合的に評価する。

なお授業への出席は単位修得の前提条件であることから、学期中の出席が3分の2に満たない場合は、一律単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

文法をしっかりと復習しながら読解を進めるので、既習文法の理解に自信が無い場合も心配しないほしい。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read short stories in Spanish

- Have interest in Hispanic cultures and history

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)

- Mid-term exam (30%)

- Term-end exam (40%)

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語講読 B

2017年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、スペイン語で書かれたある程度の長さの映画脚本を読解できるようになる。またこれを通じ、スペイン語圏の文化に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、現代スペイン映画の巨匠ペドロ・アルモドバル（Pedro Almodóvar）監督の代表作の一つである『オール・アバウト・マイ・マザー』（原題: *Todo sobre mi madre*、1999年）のスペイン語脚本を、一学期間をかけて丁寧に読み解いていく。

問題の箇所が日本語の字幕ではどのように表現されているかを適宜確認しながら、翻訳という営みの奥深さにも触れていく。現代劇なので崩れた言い回しや俗語等が多用されているが、それらを通じて生きた現代スペイン語に親しむ。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	シーン 0～11	シーン 0 から 11 までの読解
3	シーン 12～23	シーン 12 から 23 までの読解
4	シーン 24～35	シーン 24 から 35 までの読解
5	シーン 36～47	シーン 36 から 47 までの読解
6	シーン 48～59	シーン 48 から 59 までの読解
7	シーン 60～71	シーン 60 から 71 までの読解
8	中間テスト	今学期の中間テストを実施
9	シーン 72～83	シーン 72 から 83 までの読解
10	シーン 84～95	シーン 84 から 95 までの読解
11	シーン 96～107	シーン 96 から 107 までの読解
12	シーン 108～119	シーン 108 から 119 までの読解
13	シーン 120～122	シーン 120 から最後までの読解
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回読解する箇所の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、中間テスト30%、期末テスト40%として総合的に評価する。

なお授業への出席は単位修得の前提条件であることから、学期中の出席が3分の2に満たない場合は、一律単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】

1学期間でテキスト全体を読み通すことを無理に目指さず、履修生の理解度を確認しつつ進める。

【その他の重要事項】

春学期開講の「スペイン語講読A」において学習した内容を踏まえて授業を進めることも多いため、同科目と合わせての履修を推奨する。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading a movie script written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read long conversation texts in Spanish
- Have interest in Hispanic cultures

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語オーラル・コミュニケーション I 2017年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (24)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills from a pre-intermediate level.

Students will be encouraged to discuss contemporary issues related to current world events and future changes in technology and society. Additional activities will include pronunciation and use of rhythm and intonation to assist oral communication.

【到達目標】

Students will practice the skills needed to make effective use of their voices to achieve more natural communication. Students will also practice speaking in "ideas" rather than words. The course will use TED Talks, BBC videos, generative AI and online English training applications and current news articles to enable students to become more effective and proficient in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be able to practice and develop their speaking skills using A++, BOOST and Yes/No/Key/Or techniques. Students will practice listening using Shadowing. We will also practice speaking by making online presentations. All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Outline of course, grading criteria and class policies. Access Google Classroom
2	Unit 1: Technology	Introduction of technology Generative applications; Practice A++ to encourage longer speaking.
3	Technology	Discussions of Technology: Building on Original statements (BOOST)
4	Technology: Reading	BBC Articles - Transport systems. Practice different questions Yes/No/Key/Or
5	Technology: Presentation skills	TED Talk: Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills

6	Unit 3: Culture	Introduction of Culture related Vocabulary; Oral Practice A++.
7	Culture	Theme Discussions. Build on Original Statement. Introduce Ballad
8	Culture: Research a country	Theme-related topic study. Negative Questions and TAG questions. Prepare a short presentation on main elements of culture
9	Culture:	Presentation Skills: Present about another culture using presentation aids.
10	Unit 5: Beliefs	Introduce key vocabulary for Belief systems. Discuss beliefs and culture.
11	Beliefs	Practice pronunciation Listening and Shadowing. Prepare a short presentation. Continue Ballad
12	Beliefs	Make a short presentation about beliefs
13	Presentation	Make small Group Ballad presentation.
14	Review and Recap	Watch a TED Presentation and evaluate for Academic or Social Style.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Class preparation; There will be some short worksheet assignments designed to test the students' understanding of the ideas presented in the major themes of the course.

Students will be required to work in small groups to prepare a short presentation of a Ballad.

Students will be required to complete weekly assignments to practice English and increase their ability.

【テキスト (教科書)】

The English Course "Discussion Book Two" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp >. Look in the カタログ and search for DB2. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company ¥3,000 to access The Study Centre.

【参考書】

To be issued during semester.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Worksheets 30%

Small Group Presentation: 12%

Group/Pair/Class Participation 10%

Online Unit Tests: 12%

On-Line Tasks/Exercises: 12%

Word Puzzle: 10%

Online practice: 14%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

2022: Change of textbook from previous years.

2023: Use of generative AI applications in development of a presentation outline.

2024: Added weekly on-line practice (Duolingo)

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. (Smartphones are only acceptable in unusual situations.) Students will be required to know their Hosei Gmail account details. Students may use voice recognition and generative AI software.

【その他の重要事項】

We will use Google “Classroom” to send, submit and record all assignments. Students can download "Classroom" from the Google Web site. Students will be required to join the subject using “Classroom”.

The Classroom Code for this subject will be advised via the university Hoppii system.

【Outline (in English)】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills from a pre-intermediate level.

Students will be encouraged to discuss contemporary issues related to current world events and future changes in technology and society. Additional activities will include pronunciation and the use of rhythm and intonation to assist oral communication.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語オーラル・コミュニケーション II 2017年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (24)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills. The course will develop students ability for person to person communication and presentation skills.

The course will use TED Talks and Academic presentations to compare and contrast the different styles of presentations. Students will be required to make short presentations on a variety of topics including: alternative meat products, transport technology and climate change.

【到達目標】

The goal of this course is to further enhance students' oral communication skills. Students will practice making both formal and informal presentations. Students will practice using punctuation to join and separate ideas and using gestures to emphasize ideas. Students will practice techniques to increase eye contact during online presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The level of the material should suit students at a pre-intermediate level.

Students will be able to practice and develop their speaking skills using A++, BOOST and Yes/No/Key/Or techniques. Students will practice listening using Shadowing. Students will gain critical thinking skills through comparison of different articles on the same topic. Students will also practice presentation skills including gesture, voice control, eye contact, using notes and timing of presentation.

All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction & Review	Welcome New Students. Review Semester 1, Ground rules, Study Centre.
2	Unit 7: The News	Introduction of Theme-Vocabulary; Oral Practice A++, Boost.
3	The News	Shadowing. Prepare a TV News presentation.

4	TED Talk - Julian Treasure	Small group presentation of Task from week 3. Analysis and Discussion of Presentation Skills.
5	The News	TED Talk: How to make people WANT to listen. Worksheet
6	Unit 9: Ecotourism	Introduction of Theme-related Vocabulary; Oral Practice A++ and Boost.
7	Ecotourism	Shadowing with Text Famous speech preparation.
8	Ecotourism	Presentation or Debate about Eco-Tourism. Famous speech Preparation
9	Academic style	Video Presentation TMWM.
10	Presentation using AI Text generator.	Analysis and Discussion; Presentation Skills
11	Unit 11: Environment	Introduction of Theme-related Vocabulary; Oral Practice A++, Boost
12	Environment	Environmental issues Discussions and Shadowing
13	Environment	BBC Articles - Soil and Water. Analyze video. Worksheet.
14	Famous speech Presentation	Presentation: Famous speech.
15	TED Talk - How not to be ignorant.	Video Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Class preparation; There will be some short worksheet assignments designed to test the students' understanding of the ideas presented in the major themes of the course.

Students will be required to work in small groups to prepare a short presentation of a Ballad.

Students will be required to complete short weekly online assignments to practice English and increase their ability.

【テキスト (教科書)】

The English Course "Discussion Book Two" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB2. A CD is not required but you might like it to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company ¥ 3,000 to access The Study Centre.

【参考書】

To be advised during course.

【成績評価の方法と基準】

Writing a presentation outline: 10%

In-Class Worksheets: 20%

Presentations: 12%

Pair/Group Participation: 10%

On-Line Tests: 12%

On-Line Tasks/Exercises: 12%

Word Puzzle: 10%

On-line English practice assignments: 14%

In principle, no more than 3 absences are allowed in order to gain a Credit grade.

【学生の意見等からの気づき】

2023: Introduced generative AI to create a presentation outline.

2024: Introduced on-line English practice

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. (Smartphones are only acceptable in unusual situations). Students will be required to know their Hosei Gmail account details and check it every day. Students may use voice recognition software. Google Docs is the required format for submitting written assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google “Classroom” to send, submit and record all assignments. Students can download "Classroom" from the Google Web site. The Classroom Code for this subject will be advised via the university Hoppii system.

【Outline (in English)】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills. The course will develop students' ability for person-to-person communication and presentation skills.

The course will use TED Talks and Academic presentations to compare and contrast the different styles of presentations. Students will be required to make short presentations on a variety of topics including alternative meat products, transport technology and climate change.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語オーラル・コミュニケーション I 2017年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：1単位

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (24)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their oral communication skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and reading fluency.
2. Students will become more capable of participating in discussions, debates, and making presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The teacher will act as a facilitator, providing oral and written feedback on assignments, unit tests, and speaking tasks to help students successfully achieve the course goals.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
One.	Class orientation	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 First Impressions	Features you look for when you meet someone.
3	Unit 2 Big or small?	Sharing ideas about living in a big city or a small town.
4	Unit Quiz. Unit 3 - The Good Language Learner	Units 1 & 2 quiz The pros and cons of living in another country.
5	Unit 6 What are friends for?	Things close friends do for each other.
6	Unit 7 What's for lunch?	Deciding which foods are healthy.
7	Unit Quiz. Mid-semester task preparation.	Units 3, 6 & 7 quiz.
8	Mid-semester speaking task	Mid-semester speaking task.

9	Unit 8 Your Online Past	Your digital literacy skills.
10	Unit 9 Taking Care of Father	Living with an older parent.
11	Quiz Unit 10 My Student Life	Units 8 & 9 quiz. Important reasons to go to university.
12	Unit 11 International Relationships	Good and bad things about international relationships.
13	Quiz Final speaking task preparation	Units 10 & 11 quiz Final speaking task preparation
14	Final speaking task	Final speaking task

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Impact Issues 2 (3rd Edition)
ISBN 9789813134386
Pearson

【参考書】

Worksheets
Handouts

【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (16%)
Homework completion /quizzes (45%)
Final task (25%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

The Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語オーラル・コミュニケーション II 2017年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：1単位

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (24)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone

wanting to work in an international environment. This course is

for students who wish to practice and develop their oral communication skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and reading fluency.

2. Students will become more capable of participating in discussions, debates, and making presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The teacher will act as a facilitator, providing oral and written feedback on assignments, unit tests, and speaking tasks to help students successfully achieve the course goals.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
One.	Class orientation Speaking task	Introduction to the semester. Speaking and writing task: your summer vacation.
2	Unit 12 Create another future	Ways to save the environment.
3	Unit 13 Ben and Mike	How to deal with rumors.
4	Quiz Unit 14 Government Control	Units 12 &13 quiz How much control do you want in your life?
5	Unit 15 Ask Annie	Getting support for a big decision.
6	Unit 16 What makes you happy?	What makes a person happy?
7	Unit Quiz. Mid-semester task preparation.	Units 14, 15 &16 quiz.
8	Mid-semester speaking task	Mid-semester speaking task.
9	Unit 17 Who will help them?	Who needs help in your country, city or neighborhood?
10	Unit 18 Finding the Right One	Your ideal partner.

11	Quiz Unit 19 Dress for Success	Units 17 &18 quiz. What makes someone a good teacher?
12	Unit 20 A Mother's Story	Is capital punishment the right punishment?
13	Quiz Final speaking task preparation	Units 19 &20 quiz Final speaking task preparation
14	Final speaking task	Final speaking task

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

【参考書】

Worksheets

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (14%)

Mid-semester task (16%)

Homework completion /quizzes (45%)

Final task (25%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

The Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

ビジネス・イングリッシュ I 2017年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：1単位

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (24)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students gain confidence to communicate effectively in global business environments and within Japanese companies that conduct international business.

【到達目標】

Student will gain confidence to share information in English while conducting business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include pair work, group work and discussions. Some written homework will be assigned. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course	Review syllabus and textbook Introduction
2	Unit 1: Pleased to meet you (1-6)	Introducing people Pages 7-10
3	Unit 1: Pleased to meet you (7-12)	Introducing people Pages 10-13
4	Unit 2: Who do you work for? (1-6)	Describing companies Pages 15-18
5	Unit 2: Who do you work for? (7-12)	Describing companies Pages 18-21
6	Unit 3: What do you do? (1-6)	Describing occupations Pages 23-25
7	Unit 3: What do you do? (7-12)	Describing occupations Pages 26-29
8	Unit 4: Can I leave a message (1-6)	Phone conversations Pages 31-34
9	Unit 4: Unit 4: Can I leave a message (7-12)	Phone conversations Pages 34-36
10	managing my time (1-6)	Describing time and schedules Pages 39-42
11	Unit 5: It's tough managing my time (7-12)	Describing time and schedules Pages 42-46

14	Unit 6 What do you call that thing? (1-6)	Talking about difficult words Pages 49-51
13	Unit 6 What do you call that thing? (7-12)	Talking about difficult words Pages 52-55
14	Student Pair Speaking Examination	Final Exam

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Communication Spotlight: Business 2 (Alastair Graham-Marr / ABAX ELT Publishers)

【参考書】

Students will be given supplemental material from time to time to increase their knowledge.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on a pair-speaking exam (75%) and class participation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback on class activities is encouraged.

【Outline (in English)】

This course will help students improve their English communications skills for business and to develop a better understanding of international business practices.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

ビジネス・イングリッシュⅡ 2017年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：1単位

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (24)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students gain confidence to communicate effectively in global business environments and within Japanese companies that conduct international business.

【到達目標】

Student will gain confidence to share information in English while conducting business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include pair work, group work and discussions. Some written homework will be assigned. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course	Review syllabus and textbook Introduction
2	Unit 7: How much is that in Korean Won? (1-6)	Talking about money Pages 57-59
3	Unit 7: How much is that in Korean Won?(7-12)	Talking about money Pages 59-62
4	Unit 8: You need to download a form (1-6)	Giving instructions Pages 65-67
5	Unit 8: You need to download a form (7-12)	Giving instructions Pages 68-72
6	Unit 9: Do you like Indonesian food?(1-6)	Describing food Pages 75-77
7	Unit 9: Do you like Indonesian food?(7-12)	Describing food Pages 77-81
8	Unit 10: Do you have the sales figures? (1-6)	Working with large numbers Pages 83-86
9	Unit 10: Do you have the sales figures? (7-12)	Working with large numbers Pages 86-91

10	Unit 11: Make sure you keep all receipts (1-6)	Giving advice /Business trips Pages 93-95
11	Unit 11: Make sure you keep all receipts (7-12)	Giving advice /Business trips Pages 96-99
12	Unit 12 When's the trade fair? (1-6)	Describing future plans Pages 101-103
13	Unit 12 When's the trade fair? (7-12)	Describing future plans Pages 103-108
14	Student Pair Speaking Examination	Final Exam

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Communication Spotlight: Business 2 (Alastair Graham-Marr /ABAX ELT Publishers)

【参考書】

Students will be given supplemental material from time to time to increase their knowledge of business topics.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on a pair-speaking exam (75%) and class participation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback on class activities is encouraged.

【Outline (in English)】

This course will help students to improve their English communications skills for business and to develop a better understanding of international business practices.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

ビジネス・イングリッシュ I 2017年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (24)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To learn English (all four skills) for use in a professional (corporate) setting

【到達目標】

This is an intermediate to advanced (level 3-4) business English course that focuses on improving oral and written communication skills in a business setting (listening & speaking, writing practice). Reading short essays and writing memos and business correspondence will also be emphasized in this course, as well as vocabulary development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The class will be conducted entirely in English and in person. Students are expected to actively participate in classroom activities and discussions, and to give short presentations on business-related topics. Students should be prepared for class by doing the assigned reading and homework. Regular feedback will be given in class and by means of written assignments.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Self Introductions; explanation of course guidelines.
2	Living Abroad part 1	Reading and vocabulary practice—describe a local festival.
3	Living Abroad part 2	Small Talk: listening and conversation practice.
4	Living Abroad part 3	Case study: Global recruit. First writing assignment due.
5	Unit 2 Dealing with Customers	Reading and discussion: The shopping experience.
6	Dealing with Customers part 2: Using Polite Language	Listening and role play telephone customer service. Reading advertisements.
7	Dealing with Customers part 3—Business Correspondence	Handling e-mail complaints and making apologies.
8	Units 1 & 2 Review:	Midterm test
		Midterm test

9	Unit 3: Operations— Lean Manufacturing	Reading and discussion: The Toyota Production System.
10	Unit 3 part 2: Trends and Planning	Company performance: reading and group assignment.
11	Unit 3 Part 3: Describing Company Performance	Student presentations
12	Unit 4: Case Study	Reading and discussion case study on the low cost air carrier (LCC) industry.
13	Unit 4 Review and Final Test	Unit review and final test,
14	Final Class: Wrap-up	Return tests. Feedback and discussion activities.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework is assigned every week and should take approximately 60 to 90 minutes. Students are expected to do the readings prior to the beginning of class and look up any unfamiliar vocabulary terms. Students will also do preparation for presentations outside of class.

【テキスト (教科書)】

Business Result Pre-intermediate: Student Book, 2nd edition, Grant/Hudson/Hughes; Oxford University Press.

【参考書】

Students should have a Japanese-English dictionary available (paper or electronic) for use in class.

【成績評価の方法と基準】

20%Attendance &Class Participation

30%Midterm &Final Tests

50%Presentations

【学生の意見等からの気づき】

The course will utilize more current issues and topics pertaining to the business world. Students are also encouraged to read business news and bring current topics into the classroom.

【学生が準備すべき機器他】

Students should have access to a computer to prepare for presentations.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences per semester. Coming late to class twice = one absence. Students who are absent more than 3 times without good reason will not receive credit for the course.

【Outline (in English)】

Students will learn about English used in international corporate settings. Special emphasis will be on speaking (presentations) and writing e-mails and short reports in formal English.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

ビジネス・イングリッシュⅡ 2017年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (24)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The course emphasizes the learning and development of advanced English skills (reading, writing, speaking, listening) for use in a global professional (corporate) setting.

【到達目標】

This is an intermediate to advanced (level 3-4) business English course that focuses on improving oral and writing communication skills in a business setting (listening & speaking). Reading short passages and writing memos and business correspondence will also be emphasized in this course, as well as vocabulary development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The class is conducted entirely in English and in person. Students are expected to actively participate in classroom activities and discussions, and to give periodic presentations on business-related topics. Students should be prepared for class by doing the assigned readings and exercises in the textbook. Regular feedback is provided orally during class and through written assignments.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 4: Success Stories	Reading and discussion: Business leaders.
2	Unit 4: Success Stories Part 2	Vocabulary practice. First Writing assignment.
3	Unit 4: Success Stories Part 3	Speaking activity: Evaluating strengths and weaknesses.
4	Unit 5: Selling & Promotion	Reading and discussion: Advertising Spaces.
5	Unit 5: Selling Part 2	Student Presentations: developing an effective advertising campaign.
6	Unit 5: Selling Part 3	Speaking practice: Role play and Negotiating
7	Units 4 & 5 Review	Units 4 & 5 Review and Midterm Test
8	Unit 6 The Organization	Reading and discussion: Entrepreneurs
9	Unit 6 The Organization Part 2	Vocabulary and writing practice: types of companies; business meeting agendas.
10	Unit 6 The Organization Part 3	Writing Assignment #2 due: Business Plans

11	Unit 8: Going Global	Reading & Discussion: International Franchises
12	Going Global Part 2	Vocabulary and speaking practice. Opening a franchise.
13	Going Global Part 3	Final Student Presentations
14	Units 6 & 8 Review & Assessment	Presentation feedback. Final test and course wrap-up.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to come to class prepared, having read the assigned readings and studied any unfamiliar vocabulary terms. The University recommends students spend approximately 60 minutes on preparation each week for a one credit class. Students will need to spend additional time outside of class to do research and prepare for presentations twice each semester.

【テキスト (教科書)】

Business Result Pre-intermediate: Student's Book, 2nd edition, Grant/Hudson/Hughes. Oxford University Press.

【参考書】

Students should have a good Japanese-English dictionary (paper or electronic) that they bring to class every week.

【成績評価の方法と基準】

20% Attendance & Class Participation

30% Midterm and final tests

50% Presentations

【学生の意見等からの気づき】

The course will utilize more issues and topics pertaining to the world of business.

【学生が準備すべき機器他】

Audio-visual equipment will be used as appropriate.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to three unexcused absences. Students who are late to class twice = one absence.

【Outline (in English)】

This class will teach students English skills used in international corporate settings. Students will have the opportunity to practice expressing themselves in spoken and written English.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Reading and Vocabulary 2017年度以降入学者 I

ウォルター カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

定員制 (36)

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn English using 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing). Discussion and short essay writing skills will be focused on.

【到達目標】

Students will read and learn 5-10 new vocabulary items per class.

Students will also acquire ability to handle discussions about some text topics related to economic, political, and current events related issues

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Skimming, scanning, reading for detail, reading for deep comprehension, taking dictations with cloze exercises, and role-plays based on new vocabulary.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Intro- duction	Present basic goals of course with examples.	Cover syllabus and basic ground rules for regular classes and tests.
Sustain- able commu- nities I	Keeping the social peace	Examining social goals for societies. Exploring cultural bonds.
Sustain- able commu- nities II	Social peace	Deepening understanding of social boundaries and possible conflicts.
Dilemmas for a respon- sible tourist I	Tourists and value they bring to societies	How tourism affects our lives in both positive and negative ways.

DilemmasNew trends of for a tourism respon-
sible
tourist
II

ProtectingProtecting our world cultural artifacts heritage

I
ProtectingLooking at world historical buildings heritage and the events they show
IINo more Engineered food Bananas and possible consequences
INo more Scientists develop Bananas strains and their goals
II
Blowing Corruption and its whistles problems
IBlowing Witness to whistles government waste
IIBreaking Bad laws the law I
Breaking Well meaning laws the law I

Summary Taking at look at useful words learned

Ponder tourism negatives and positive outcomes

How buildings are preserved and design shows our history

Why are these buildings important for remembering history?

Quiz 1

Researching food sources and why variety is important
Science and its end goals and how they might ruin our health

Looking at corporate problems and how difficult they are to solve

Trying to eliminate waste

Examining when do you have an obligation to protest

Quiz 2

Researching laws that don't cover all circumstances

Reviewing useful vocabulary and its parameters

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some reading and vocabulary review.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Issues that matter - Kinseido

ISBN 9784764740617 or 1921082018006

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Class participation 70%

Homework 30%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

English to English dictionary or web dictionary, paper, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact email

walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Students will learn English using 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing). Discussion and short essay writing skills will be focused on.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Reading and Vocabulary 2017年度以降入学者 II

ウォルター カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

レベル 3～4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

定員制 (36)

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn English using four skill areas (listening, speaking, writing, and reading). Students will focus on improving discussion and short essay writing.

【到達目標】

Students will read and learn 5-10 new vocabulary items per class.

Students will acquire discussion skills to handle discussions about economic, political, and current events topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Skimming, scanning, reading for detail, reading for deep comprehension, taking dictations with cloze exercises, and role-plays based on new vocabulary.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Intro- duction	Present basic goals of course with examples.	Cover syllabus and basic ground rules for regular classes and tests.
Food politics	Food politics	How do we get our food?
Food politics II	Sourcing our food	Positives and negatives of climate change on food sourcing
Food in- equality I	Food and its effects on society	Look at how inequalities affect our food
Recycling	recycling and government regulation	Show and discuss government regulations that try to reduce waste
Recycling II	Covering aspects of structure and use of waste	Looking at waste usage
Blowing whistles	Whistle blowing vs leaking	How whistle blowing affects us
Blowing whistles II II	Consequences of leaking	Government actions vs leaking

ProtestingProtesting

ProtestingHandling protests II

Fake news Where does fake news come from?

Fake news II Social media and fake news

review Review course of unit themes

ques-
tions

I

review Review course of unit themes

issues

and

Sum-

mary

Reasons why people protest

Why people protest and how governments handle it

Talking about fake vs real news

Why social media is full of it

Discussions of unit themes

Discuss course related themes.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare presentation material and review vocabulary lists.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Issues that matter- Kinseido

ISBN 978-4-7647-4061-7

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Class participation 70%

Homework 30%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

Require more use of English by students

【学生が準備すべき機器他】

English to English dictionary or web dictionary, paper, writing instrument

【その他の重要事項】

Contact email

walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Students will learn English using four skill areas (listening, speaking, writing, and reading). Students will focus on improving discussion and short essay writing.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Reading and Vocabulary I 2017年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

定員制 (36)

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈ゲ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

【到達目標】

1. Students will understand and utilize the writing process of planning, writing, and re-writing.
2. They will learn to understand the gist, details of short articles they read and summarize a magazine article.
3. Students will improve their reading speed and increase their vocabulary knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will learn new vocabulary from the textbook and reinforce it via discussions and readings. Feedback will be given in class and via Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 1	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
2	Unit 2	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
3	Unit 3	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
4	Unit 4	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension.

5	Unit 5	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension.
6	Unit 6	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion Feedback
7	Midterm	
8	Unit 7	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
9	Unit 8	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
10	Unit 9	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
11	Unit 10	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
12	Unit 11	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
13	Unit 12	Learn new vocabulary. Reading story. Homework: prepare for final exam.
14	Final exam	feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will study vocabulary on Quizlet and read articles.

【テキスト（教科書）】

Paul Nation: 4000 Essentials Words Book 4 (2nd edition). Perfect Paperback

【参考書】

Book and Quizlet should be studied.

【成績評価の方法と基準】

50%quizzes and exams

25%writing exercises using new words

25%effort and participation

No more than 4 absences or missed assignments are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【学生が準備すべき機器他】

Internet enabled device to participate in class with Zoom. Students should also be familiar with Google classroom and Hoppii.

【Outline (in English)】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

LANe200LA (英語 / English language education 200)
English Reading and Vocabulary 2017年度以降入学者
II
ERIC J RITTER
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：1単位
レベル 3～4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.
定員制 (36)
GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.
その他属性：〈ゲ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

【到達目標】

1. They will learn to understand the gist, details of short articles they read and summarize a magazine article.
2. Students will improve their reading speed and increase their vocabulary knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will learn new vocabulary from the textbook and reinforce it via discussions and readings. Feedback will be given in class and via Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 13	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
2	Unit 14	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
3	Unit 15	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
4	Unit 16	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion

5	Unit 17	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
6	Unit 18	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
7	Unit 19	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
8	Midterm Exam	Feedback
9	Unit 20	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
10	Unit 21	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
11	Unit 22	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
12	Unit 23	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
13	Unit 24	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
14	Final Exam	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hour a week for a two-credit class for a 2 hour class and 1 hour a week for a 1 hour class. Students will study vocabulary on Quizlet and read articles for homework before class.

【テキスト（教科書）】

Paul Nation: 4000 Essentials Words Book 4 (2nd edition). Perfect Paperback

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

50%quizzes and exams

25%writing exercises using new words

25%effort and participation

In principle, no more than 3 absences are allowed.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline (in English)】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Academic Writing I 2017年度以降入学者

PAUL K KALLENDER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

定員制 (24)

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an academic writing course focused on writing skills to improve scores on the IELTS Writing Task 1 (WT1) and to learn how to write and structure short essays with excellent structure, including an introduction, analytical content, using data sources, and conclusion.

WT1 involves writing short essays of at least 150 words, focusing on describing and analyzing visual data presented in a graph, table, chart, or diagram, requiring candidates to identify key trends and patterns and present them in a concise report format, to be written in 20 minutes.

【到達目標】

Students are expected to advance their practical writing skills (1) to improve their WTS1 scores and (2) to learn how to write and structure short essays with excellent structure, including an introduction, analytical content, using data sources, and conclusion.

Students are expected to

1. Improve their basic grammar
2. Develop the ability to write clear but relatively complex sentences
3. Understand and improve their ability to write paragraphs
4. Understand how to interpret, analyse, and present data to reach reasonable conclusions
5. Write clearly and logically under time pressure without access to dictionaries

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In the main part of the course, each week students will be given guidance and objectives on how to write a particular type of WT1 topic, and then either in class or for homework practice writing their own WT1.

In the following class, the student work will be given feedback and compared to model answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction and general outline of the course	Guide to IELTS academic and general WT1

Class 2	Informal and Formal Letters	How to write an informal letter and a formal letter in IELTS General
Class 3	Formal Letter Practice	Feedback on last week's work How to write a formal letter job application How to ask for time off
Class 4	Informal letter Practice	Feedback on last week's work How to write an informal letter to a friend How to write an informal letter selling a laptop
Class 5	Grammar and Vocabulary for WT1	Feedback on last week's work Writing task: Numbers, amounts, figures, totals
Class 6	Trends	Feedback on last week's work Writing task: Trends
Class 7	Statistics	Feedback on last week's work Writing task: Statistics
Class 8	Maps	Feedback on last week's work Writing task: Maps
Class 9	Process Diagrams	Feedback on last week's work Writing task: Process Diagrams
Class 10	Bar Charts	Skills: The pronouns it and then: writing about a favorite drink.
Class 11	Line Graphs	Feedback on last week's work Writing task: Line Graphs
Class 12	Pie Charts	Feedback on last week's work Writing task: Pie Charts
Class 13	Tables	Feedback on last week's work Writing task: Tables
Class 14	Student Choice of Task	Feedback on last week's work Writing task: Student Choice

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review feedback and grammar corrections each week from the instructor and apply lessons learned to the next writing task.

Students are expected to assimilate new vocabulary, grammar, and descriptive/analytical/interpretative skills on a weekly basis.

In particular, students are to review their writing assignments on a weekly basis so that their grammar, syntax, and narrative structure improve so as to raise their IELTS WT1 core.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course." Thank you for your co-operation.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. The instructor will provide all materials.

【参考書】

Supplied by the Instructor

【成績評価の方法と基準】

Weekly writing examples: 80%

In-class participation: 20%

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

1. Please address me as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in (Writing)(7)A

I could not attend today /cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

【Outline (in English)】

This course contains instruction, study and regular writing practice on a series of example topics taken from real exams, providing real practice, followed up by editing and feedback.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Academic Writing II 2017年度以降入学者

PAUL K KALLENDER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

定員制 (24)

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈ゲ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an academic writing course focused on writing skills to improve scores on the IELTS Writing Task 2 (WT2) and to learn how to write and structure short essays with excellent structure, including an introduction, analytical content, using data sources, and conclusion.

WT2 Involves writing a full essay in which/for which students need to respond to a given question or argument, demonstrating an ability to construct a well-structured opinion and argument with supporting evidence and clear opinions.

【到達目標】

Students are expected to advance their practical writing skills (1) to improve their WT2 scores and (2) to learn how to write and structure short essays with excellent structure, including an introduction, analytical content, using data sources, and conclusion.

Students are expected to

1. Improve their basic grammar
2. Develop the ability to write clear but relatively complex sentences
3. Understand and improve their ability to write paragraphs
4. Understand how to improve their ability to structure an argument/opinion
5. Write clearly and logically under time pressure without access to dictionaries

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In the main part of the course, each week students will be given guidance and objectives on how to write a particular type of WT2 topic, and then either in class or for homework practice writing their own WT2

In the following class, the student work will be given feedback and compared to model answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction and general outline of the course	Guide to IELTS WT2: Writing an essay introduction without paraphrasing
Class 2	IELTS Opinion Essay on shorter work weeks	Time Management Issues Practice Essay

Class 3	IELTS Discussion Essay on the utility of a university education	Feedback on last week's work 7-step guide to writing examples in main body paragraphs Practice Essay
Class 4	IELTS Discussion Essay on the topic of migration	Feedback on last week's work Realistic Expectations when preparing for IELTS Practice Essay
Class 5	IELTS Discussion Essay on the utility of a particular course	Feedback on last week's work Discussion essay language Practice Essay
Class 6	IELTS Two-Part Question Essay about home ownership	Feedback on last week's work Complex sentences Practice Essay
Class 7	IELTS Two-Part Question Essay on owning versus renting homes	Feedback on last week's work Words and phrases to avoid Practice Essay
Class 8	IELTS Opinion Essay on the role of newspapers and books in the future	Feedback on last week's work Balancing your opinion Practice Essay
Class 9	IELTS Opinion Essay on the topic of wealth	Feedback on last week's work Crime and Punishment vocabulary Practice Essay
Class 10	IELTS Opinion Essay on endangered animals	Feedback on last week's work Writing effective body paragraphs Practice Essay
Class 11	IELTS Opinion Essay on global warming	Feedback on last week's work Keeping your writing simple and concise Practice Essay
Class 12	IELTS Causes Solutions Essay on poverty	Feedback on last week's work Differences between problem solution and causes solutions essays Practice Essay
Class 13	IELTS Causes Solutions Essay on bullying	Feedback on last week's work Three types of advantage and disadvantage essays Practice Essay
Class 14	Student Choice of Task	Feedback on last week's work Practice Essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Students are expected to review feedback and grammar corrections each week from the instructor and apply lessons learned to the next writing task.

Students are expected to assimilate new vocabulary, grammar, and descriptive/analytical/interpretative skills on a weekly basis.

In particular, students are to review their writing assignments on a weekly basis writing so that their grammar, syntax, and narrative structure improve so as to raise their IELTS WT1 core

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. The instructor will provide all materials.

【参考書】

Supplied by the Instructor

【成績評価の方法と基準】

Weekly writing examples: 80%

In-class participation: 20%

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

1. Please address me as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in (Writing)(7)A

I could not attend today /cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

【Outline (in English)】

Such essays are usually at least 250 words and are to be written within 40 minutes.

This course contains instruction, study and regular writing practice on a series of example topics taken from real exams, providing real practice, followed up by editing and feedback.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Academic Writing I 2017年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

レベル 3～4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

定員制（24）

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing your own work with class members, in pairs or small groups. This course will emphasize "Academic Writing as a Process." Students will learn the structure of Academic paragraphs, different paragraph styles (Opinion, comparison, description) and appropriate formatting techniques and correct use of punctuation.

【到達目標】

The student will be able to prepare a paragraph with the basic structure of a topic sentence (with Main Idea), supporting ideas and detail sentences.

Students will be able to communicate his/her thoughts, in written format, to an Academic audience. The course will cover paragraph development, grammar structures for different paragraph styles and paragraph organization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will work in pairs or groups to develop paragraphs. In-class worksheets and homework assignments will check the student's understanding of the different paragraph styles. Videos of Academic presentations will be used to compare the similarities between written and oral presentations.

All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introductions Course overview Assessment Classroom Management
2.	Process Writing. Generative A.I.	Six Steps of Academic Writing. Using outlines. Using Generative A.I.

3.	Getting ready to write	Choosing a Topic Brainstorming Editing Describing a photograph
4.	Paragraph structure	Topic Sentence Supporting sentences Concluding sentence TOEIC Test 1
5.	Paragraph Development. Peer editing	Styles of support Detail, Explanation, Example. Give constructive feedback using on-line sharing.
6.	Descriptive Writing	Using Adjectives: describing people and places.
7.	Descriptive Paragraphs	Describing a process using connectors. Keeping ideas connected and in order
8.	TOEIC Test 2 Opinion Paragraphs.	Introduce opinion v.s. fact. Modal Auxiliary Verbs.
9.	Opinion Paragraphs	Convincing the reader. Causal Adverbs. Checking Punctuation.
10.	Compare and Contrast Paragraphs.	Comparative Structures.
11.	Advantages / Disadvantages.	Block vs. Point by Point organization. Trend Verbs.
12.	Problem /Solution Paragraphs.	Using Conditional Structures.
13.	Present a paragraph.	Identify the key features of a paragraph.
14.	Presentation Worksheet 2	Summarize paragraphs, Review Worksheet units 1 to 7. Wrap up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

Homework assignments writing different styles of paragraphs. Pre-reading of Text.

Worksheets related to Text.

All assignments are written in digital format and submitted via Google Classroom.

To assist in providing feedback, Google Docs format is preferred.

【テキスト（教科書）】

"Writing Essays: From Paragraph to Essay" by Dorothy E Zemach and Lisa A Ghulldu MACMILLAN Writing Series.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework writing Assignments: 30%

Worksheet Assignments: 20%

Pair and Group Participation: 10%

Presentation: 10%

TOEIC Tests: 20%

Word Puzzles: 10%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

2023: Incorporated use of AI text generators.

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. Smartphones are only acceptable in unusual situations. Students will be required to know their Hosei Gmail account details and check it daily. Students may use voice recognition software and will use Generative Artificial Intelligence applications. Google Docs is the required format for submitting written assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google “Classroom” to send, submit and record all assignments. Please download Google Classroom to your device before our first class. The "Course Code" will be advised via the Hoppii LMS.

【Outline (in English)】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing your own work with class members, in pairs or small groups. This course will emphasize "Academic Writing as a Process." Students will learn the structure of Academic paragraphs, different paragraph styles (Opinion, comparison, description) appropriate formatting techniques and correct use of punctuation.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Academic Writing II 2017年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

レベル 3～4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

定員制（24）

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will enable the student to acquire and develop ACADEMIC ESSAY writing skills. This course will emphasize "writing as a process".

Students will learn the structure of Academic ESSAYS using different paragraph styles and appropriate formatting techniques. Students will learn cohesion and unity in an essay and the use of essay outlines. Finally, students will prepare and present an academic style Essay.

【到達目標】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills for interview situations and written English tests (TOEIC/IELTS/TOFEL) where candidates have a limited time to prepare an essay. A final assignment will be a document suitable for submission as an academic essay. Students will use Generative Artificial Intelligence to generate an essay and then decompose the essay into its component parts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in pair work and small groups. Students will also practice using peer editing with online documents. In a final presentation, the student will demonstrate their understanding of the features of an academic essay.

All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction and review of Spring 2024.	Introduction Course Overview Assessment Classroom Management
2.	Thesis Statements	Greet New students. Voice recognition and Generative AI software. Introduce Thesis statements.

3.	Writing to communicate opinions or new ideas.	Prepare an Introduction with a Thesis.
4.	Using software to create an essay outline.	Introduction, body paragraphs, conclusion. The Waffle Puzzle
5.	Prepare and check Essay outline	Checking an Outline.
6.	Introduce the TOEIC Part 3 Writing Test.	TOEIC Writing test: What is it? What do examiners look for?
7.	Attempt the TOEIC Writing Test Part 3.	Attempt the TOEIC Test 3? Agree or Disagree? Prepare an outline with supporting ideas. Write an Essay.
8.	Cohesion in Essays	Linking the Body Paragraphs. Check everything is connected to the Thesis.
9.	Unity in Essays	Words and Expressions to connect ideas in Paragraphs.
10.	Introduce The TOEFL tests.	What is in the TOEFL Test? What do examiners want to see? Worksheet.
11.	TOEFL Test - In-class practice.	Take the TOEFL Test in-class. Review and discuss weak points.
12.	Introduce The TOEIC Writing Test.	The IELTS Test. - What is it? What are examiners looking for? Trend Verbs.
13.	The IELTS Test In Class practice.	What is the IELTS test? How to achieve a good score. Worksheet.
14.	Using citations for advanced writing.	Using Citations and Templates in Advanced Essays and Research documents.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Homework assignments will be set. There will also be short Worksheets based on material presented during lessons and the Text.

【テキスト（教科書）】

"Writing Essays from Paragraph to Essay" by D.E. Zemach and Lisa A Ghulldu, MACMILLIAN Writing Series.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Written Homework assignments: 30%

Classroom Worksheets: 20%

Pair and Group Participation: 20%

Writing Tests: 20%

Waffle Puzzle: 10%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. Smartphones are only acceptable in unusual situations. Students will be required to know their Hosei Gmail account details and check it daily. Students may use voice recognition software and will use Generative A.I. software. Google Docs is the preferred format for submitting assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google “Classroom” to send, submit and record all assignments. Please download "Google Classroom" to your laptop or tablet at the start of semester. The Course Code will be advised via the Hoppii LMS announcements.

【Outline (in English)】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. This course will emphasize "writing as a process.

Students will learn the structure of academic ESSAYS using different paragraph styles and appropriate formatting techniques. Students will learn cohesion and unity in an essay and the use of essay outlines. Finally, students will prepare and present an academic style Essay.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化 I 2017年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：1単位
レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。<https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/>)
定員制 (36)
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。1章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。各適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第2回	A Life Without Plastic	記事を読みます。
第3回	A Life Without Plastic	記事を読みます。
第4回	Rwanda Is Winning War on Plastic Bags	記事を読みます。

第5回	Rwanda Is Winning War on Plastic Bags	記事を読みます。
第6回	An Epidemic of Overweight Africans	記事を読みます。
第7回	An Epidemic of Overweight Africans	記事を読みます。
第8回	West's Toxic E-Waste Despoils Thai Countryside	試験・まとめと解説 (中間)
第9回	College Cheating, A Global Business	記事を読みます。
第10回	College Cheating, A Global Business	記事を読みます。
第11回	College Cheating, A Global Business	記事を読みます。
第12回	College Cheating, A Global Business	記事を読みます。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	試験・まとめと解説 (期末)	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでおく必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト (教科書)】

・ニューヨークタイムズ世界見聞, 喜多留女/Keith Wesley ADAMS 編注, 英宝社。(2,100円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
試験(80%)
平常点および課題 (20%)
欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合、初回の授業時に選抜を行う可能性があります。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 20%, Exam 80%

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ 2017年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。1章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第2回	In China, Daydreaming Students Are Caught on Camera 中国発：教室の映像、全国に生配信 (前半)	記事を講読します。
第3回	In China, Daydreaming Students Are Caught on Camera 中国発：教室の映像、全国に生配信 (後半)	記事を講読します。

第4回	Last Chance Travel' As the World Changes 失われゆく土地を指す旅 (前半)	記事を講読します。
第5回	Last Chance Travel' As the World Changes 失われゆく土地を指す旅 (後半)	記事を講読します。
第6回	Chinese Babies, Born Into Canadian Citizenship カナダ発：出生地主義の土地に妊婦殺到 (前半)	記事を講読します。
第7回	Chinese Babies, Born Into Canadian Citizenship カナダ発：出生地主義の土地に妊婦殺到 (後半)	記事を講読します。
第8回	試験・まとめと解説 (中間)	試験・まとめと解説
第9回	Human Contact Is Now a Luxury Good タブレットの中で猫を飼う (前半)	記事を講読します。
第10回	Human Contact Is Now a Luxury Good タブレットの中で猫を飼う (後半)	記事を講読します。
第11回	With Cloning, Pet Owners in China Need Never Say Goodbye 中国発：あなたのペット、クローンで蘇ります (前半)	記事を講読します。
第12回	With Cloning, Pet Owners in China Need Never Say Goodbye 中国発：あなたのペット、クローンで蘇ります (後半)	記事を講読します。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	試験・まとめと解説 (期末)	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト (教科書)】

・ニューヨークタイムズ世界見聞、喜多留女／Keith Wesley ADAMS 編注、英宝社。(2,100円＋税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
試験(80%)

平常点および課題（20%）

欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達することにより1回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「メディア」・「自然環境」・「テクノロジー」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力を高めることを目指す。
2. テキストの練習問題を通して、文法力を高めることを目指す。
3. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
4. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。適宜小テストを実施するので、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が3つか4つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。適宜授業内でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明 必要であれば、受講者の選抜をする
第2回	Chapter 1	Going Viral
第3回	Chapter 2	Tourist Traps
第4回	Chapter 3	Deal Me In
第5回	Chapter 1 ～ Chapter 3 のまとめ	Chapter 1 ～ Chapter 3 の中のいずれかについて、ライティング
第6回	Chapter 4	Full Contact
第7回	Chapter 5	Fake News
第8回	Chapter 6	Dead as a Dodo
第9回	Chapter 7	It's a Dry Heat
第10回	Chapter 4 ～ Chapter 7 のまとめ	Chapter 4 ～ Chapter 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第11回	Chapter 8	Man's Best Friend
第12回	Chapter 9	The Wild West
第13回	Chapter 10	Man versus Beast

第14回 学期末課題

期末課題の提出と期末のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各Chapterの英文について、必ず予習をすること。
適宜小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Getting Ready to Change the World (『グローバル時代を生き抜く変革への視点』) (François de Soete 他著、成美堂、2,000円(税別))
配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書 (電子辞書でも紙媒体でも可)

【成績評価の方法と基準】

期末課題 (50%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50%) によって総合的に評価する。

4回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から30分以上の遅刻は欠席となる。遅刻2回は欠席1回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や居眠りなど、授業中の不適切な態度によっては、減点もしくは程度により、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

英作文のクラス内発表を通して、クラスメイトの意見や発表の仕方を参考にしよう促す。英作文や小テストなどの課題において、テキスト内に出てきた語彙や表現の使用・応用を呼びかけることで予習・復習の時間をしっかりとるよう促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲載します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲載するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。オンライン授業を取り入れている分、自分で計画的に予習や復習、課題を行う必要があります。各Chapterの本文は900words程で、それを基本的に自力で読み解きます。課題の締め切りや提出条件を守ること、自主的な学習への姿勢が求められます。その点を考慮した上で受講を決めてください。受講者数に応じて選抜を行う可能性があります。受講を希望する場合は、必ず初回の授業の指示に従い、「学習支援システム」の「課題」ページから必要な課題を提出してください。初回の授業時に所定の課題が提出されない場合は、原則受講できません。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),
Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「メディア」・「自然環境」・「テクノロジー」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力を高めることを目指す。
2. テキストの練習問題を通して、文法力を高めることを目指す。
3. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
4. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。適宜小テストを実施するので、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が3つか4つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。適宜授業内でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明 必要であれば、受講者の選抜をする
第2回	Chapter 11	A Perfect World
第3回	Chapter 12	Modern Frankenstein
第4回	Chapter 13	Tinted Lenses
第5回	Chapter 11 ~ Chapter 13 のまとめ	Chapter 11 ~ Chapter 13 の中のいずれかについて、ライティング
第6回	Chapter 14	Get Well Soon
第7回	Chapter 15	The Need for Speed
第8回	Chapter 16	Time Travel
第9回	Chapter 17	The Great Unknown
第10回	Chapter 14 ~ Chapter 17 のまとめ	Chapter 14 ~ Chapter 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第11回	Chapter 18	The Endgame
第12回	Chapter 19	Heads Up
第13回	Chapter 20	Destination Mars

第14回 学期末課題

期末課題の提出と期末のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各Chapterの英文について、必ず予習をすること。
適宜小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Getting Ready to Change the World (『グローバル時代を生き抜く変革への視点』) (François de Soete 他著、成美堂、2,000円(税別))
配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書 (電子辞書でも紙媒体でも可)

【成績評価の方法と基準】

期末課題 (50%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50%) によって総合的に評価する。

4回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から30分以上の遅刻は欠席となる。遅刻2回は欠席1回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や居眠りなど、授業中の不適切な態度によっては、減点もしくは程度により、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

英作文のクラス内発表を通して、クラスメイトの意見や発表の仕方を参考にしよう促す。英作文や小テストなどの課題において、テキスト内に出てきた語彙や表現の使用・応用を呼びかけることで予習・復習の時間をしっかりとるよう促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲載します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲載するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。オンライン授業を取り入れている分、自分で計画的に予習や復習、課題を行う必要があります。各Chapterの本文は900words程で、それを基本的に自力で読み解きます。課題の締め切りや提出条件を守ること、自主的な学習への姿勢が求められます。その点を考慮した上で受講を決めてください。受講者数に応じて選抜を行う可能性があります。受講を希望する場合は、必ず初回の授業の指示に従い、「学習支援システム」の「課題」ページから必要な課題を提出してください。春学期の初回の授業時に所定の課題が提出されない場合は、原則受講できません。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),

Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：1単位

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。<https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/>)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

イギリスの真実の姿を描いたテキストを読みながら、「イギリス」「英国」と日本語で呼んでいる国についての、大学生として必要な知識を深め、英語の読解力、リスニング、英語による質問への回答、ライティング能力の充実を目指す。Chapter によっては、取り上げられているトピックに関連する映像を見て、理解を深めたり、課題として、テキストを復習したりリサーチをしてもらい、その結果を課題として提出してもらう (半期で2回を予定)。

【到達目標】

学生が教科書の英文を、正しい発音で読み、把握して、読解問題を解けるようになること。また、英文の難しい箇所については、わかりやすい日本語で訳せることを目指す。テキストのリスニングや英作文の問題を容易に答えられるようになること。そして、「イギリス」について、正しい基礎知識を身につけ、現状について説明できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各授業で予習をしてきたことを確認するため、CDを使用して、文を正しく声を出して読みます。きちんと日本語に訳す精読から、徐々に、テキストの読解問題を解いた後で、難しい部分のみを日本語に訳すという速読を目指します。順不同に学生を差して、読解や問題を答えてもらい、その後、必要な情報の説明を加えていきます。課題を課す場合は、「学習支援システム (Webclass)」から提出してもらい、採点あるいは、コメントをつけて、フィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業、および、テキストの進め方、予習の仕方などの説明。必要な場合は、受講者の選抜をする。
第2回	Part I Diversity Chapter 1 The Country of Diversity'	Warm-Up で、UK の地理的基礎知識を確認。 Vocabulary-Building Reading Passage 精読。 Getting the Gist
第3回	Chapter 1 The Country of Diversity	本文内容の確認。 テキスト後半。 UK の diversity の一例である Kazuo Ishiguro について映像教材で学ぶ

第4回	Chapter 2 England, Wales, Scotland, and Northern Ireland	Warm-Up ~ Reading Passage 精読。 the UK の nations について、学ぶ。
第5回	Chapter 2 England, Wales, Scotland, and Northern Ireland	テキスト後半。 UK の nations の理解を深め、アイルランドについて基礎知識を得るため、映像教材で学ぶ。
第6回	Chapter 3 The Power of the Commonwealth	Warm-Up の地図を見て、the British Empire の基礎知識を確認し、他の問題に答える。 Vocabulary-Building「コモンウェルス」とは何かを理解するために、 Reading Passage 精読。
第7回	Chapter 3 The Power of the Commonwealth	本文内容の確認。 テキスト後半。 Getting the Gist ~ Conversation and Writing と Extra Activities で、 リスニングと語彙力増強。
第8回	Chapter 4 The Birth of Cultural Studies in the UK	Warm-Up ~ Reading Passage 精読によって、「カルチュラル・スタディーズ」の勃興と現在を学ぶ。
第9回	Chapter 4 The Birth of Cultural Studies in the UK	テキスト後半。 Getting the Gist ~ Conversation and Writing で、 本文内容の確認、および、 リスニングと語彙力増強。 Extra Activities 「カルチュラル・スタディーズ」について、グループディスカッション。
第10回	Part III Communication に入る Chapter 5 The Languages of the UK	Warm-Up の画像について学ぶ。 Vocabulary-Building While Reading の画像が何かを、 Reading Passage 精読中に確認。 the UK で話されている多種類の言語について学ぶ。
第11回	Chapter 5 The Languages of the UK	本文内容の確認 テキスト後半 Getting the Gist ~ Conversation and Writing で、 リスニング力と語彙力増強読解。 Extra Activities を素材にした課題について説明。
第12回	Chapter 6 The Development of Journalism in the UK	Warm-Up の画像について学ぶ。 Vocabulary-Building で語彙を確認後、the UK のジャーナリズムについて、 Reading Passage 精読して学ぶ。
第13回	Chapter 6 The Development of Journalism in the UK	本文内容の確認 テキスト後半 Getting the Gist ~ Conversation and Writing で、 リスニングと語彙力増強。 Extra Activities でリサーチ結果を確認。 グループで、イギリスと日本のジャーナリズムの違いについてディスカッション。
第14回	試験・まとめと解説	試験に備えて、学期内で行なった課の復習しておく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Warm-Up, Vocabulary-Building を辞書を活用して予習しておく。
Reading Passage を辞書を活用して読め、かつ、訳せるように予習し、その後の読解問題で本文に出てきた単語の理解を深め、本文理解の質問に答えておく。Conversation and Writing および、Extra Activities も、予習の必要がある。また、Chapter によっては、次週までに課題を課す場合は、締め切りまでに、「学習支援システム（Webclass）」から提出すること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Noriyuki Harada, Andrew Houwen, Akira Morita 『Aspects of British Culture: Academic Approaches』 金星堂

【参考書】

参考書がある場合は、授業中に知らせる。また、テキスト以外に授業で読む資料がある場合は、「学習支援システム（Webclass）」に置く。

【成績評価の方法と基準】

平常点を30%、学期の途中で提出してもらう課題を20%、最後のテストを50%で計算する。学期末テスト未受験、欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

2025年度から初めて担当するので、これまでの意見はないです。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

予習、復習、課題のために、検索用に使用するスマホ、コンピュータあるいはタブレット

【Outline (in English)】

Through reading a textbook called *Aspects of British Culture: Academic Approaches*, the object of this class is to develop not only English reading skills but the other three English skills, and to understand more about the UK, or Britain. Study textbook, especially each reading section, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 30%, occasional assignments 20%, and the end-of-the term exam 50%.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ 2017年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：1単位

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。<https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/>)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

イギリスの真実の姿を描いたテキストを読みながら、「イギリス」「英国」と日本語で呼んでいる国についての、大学生として必要な知識を深め、英語の読解力、リスニング、英語による質問への回答、ライティング能力の充実を目指す。Chapter によっては、取り上げられているトピックに関連する映像を見て、理解を深めたり、課題として、テキストを復習したりリサーチをしてもらい、その結果を課題として提出してもらう (半期で2回を予定)。

【到達目標】

学生が教科書の英文を、正しい発音で読み、把握して、読解問題を解けるようになること。また、英文の難しい箇所については、わかりやすい日本語で訳せることを目指す。テキストのリスニングや英作文の問題を容易に答えられるようになること。そして、「イギリス」について、正しい基礎知識を身につけ、現状について説明できるようになることを目指す。第13回目の授業では、アイルランドについても理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各授業で予習をしてきたことを確認するため、CDを使用して、文を正しく声を出して読みます。きちんと日本語に訳す精読から、徐々に、テキストの読解問題を解いた後で、難しい部分のみを日本語に訳すという速読を目指します。順不同に学生を差して、読解や問題を答えてもらい、その後、必要な情報の説明を加えていきます。課題を課す場合は、「学習支援システム (Webclass)」から提出してもらい、採点あるいは、コメントをつけて、フィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Chapter 7 The Vessel of Worldwide Art and Culture ①	世界中から芸術人やアーティストが集まる the UK について、Warm-Up で基礎知識を学び、Vocabulary-Building で語彙確認をしてから、Reading Section を精読。Getting the Gist ～ Summarising で、Reaading 内容理解をチェックし、リスニング力の増強を図る。Reading で取り上げられていた人物を選んで、リサーチする課題について説明。
第2回	Chapter 7 The Vessel of Worldwide Art and Culture ②	

第3回	Chapter 8 The Relationship between Japan and the UK ①	Warm-Up で、日本の歴史についての基礎知識を確認し、Vocabulary-Building で語彙を確認。Reading Passage を、日本の歴史を確認しながら精読。
第4回	Chapter 8 ② The Relationship between Japan and the UK ② Gulliver's Travels について学ぶ	Getting the Gist ～ Convesation and Writing で、Reading Section のテーマの理解を深め、リスニング、ライティング力の増強を図る。Extra Activities 確認。「学習支援システム (Webclass)」に置く追加資料で、Gulliver's Travels の理解を深める。
第5回	Part III に入る Chapter9 The History of British Democracy ①	Warm-Up の画像で、日本との違いをディスカッション。Vocabulary-Building で語彙を確認後、Reading Section で、イギリスの民主主義、特に、「婦人参政権」運動について学ぶ。
第6回	Chapter 9 Chapter9 The History of British Democracy ② Extra Activities で、イギリス史における重大イベントを学ぶ	Getting the Gist ～ Summaring, Conversation and Writing で、テーマの理解を深め、リスニング力とライティング力増強を図る。Extra Activities で、イギリス史における重大イベントを学ぶ。
第7回	Chapter 11 With or Without God: The Development of the Natural Science ①	Warm-Up の画像で、著名な科学者の顔と業績を確認。Vocabulary-Building のあと、Reading Section を精読し、自然科学と神への信仰についての科学者たちの模索を学ぶ。While Reading の画像について、確認。
第8回	Chapter 11 With or Without God: The Development of the Natural Science ②	Getting the Gist ～ Conversation and Writing で、テーマの理解を深め、リスニング力とライティング力増強を図る。Extra Activities を、グループで解く。
第9回	Part IV British Common Sense に入る。 Chapter 12 The Country of Satire ①	Warm-Up の画像を見て、問題に英語で答える。Vocabulary-Building で語彙を確認後、Reading Section で、風刺について学ぶ。
第10回	Chapter 12 British Common Sense に入る。 Chapter 12 The Country of Satire ② テキスト後半の問題の後、風刺について追加資料を読む	Getting the Gist ～ Conversation and Writing を解くことで、テーマの理解を深め、リスニング力、語彙力の増強を図る。Extra Activities について、グループでディスカッションし、回答を探す。イギリスの風刺について、テキストのほかに、「学習支援システム (Webclass)」に置く追加資料で、理解を深める。提出課題について説明。
第11回	Chapter 14 An Oxbridge Education ①	Warm-Up の地図を見ながらの問に答える。Vocabulary-Building の後、Reading Section で、イギリスの著名な2つの大学について学ぶ。

第12回	Chapter 14 An Oxbridge Education ②[世界的に有名かつ、卓越した人物を輩出してきたイギリスの2つの大学]	Getting the Gist～Conversation and Writing, Extra Activities を解くことで、テーマの理解を深め、リスニング力、語彙力の増強を図る。 日本の大学との違いについて、グループでディスカッション。
第13回	Ireland について学ぶ	「学習支援システム (Webclass)」に置く資料と映像資料で、アイルランドについて学ぶ。
第14回	復習 まとめ テスト 解説	復習/まとめを行う。テストに備えて、学期内で行なった課の復習をしておく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Warm-Up, Vocabulary-Building を辞書を活用して予習しておく。
Reading Passage を辞書を活用して読み、その後の読解問題で本文に出てきた単語の理解を深め、本文理解の質問に答えておく。Extra Activities については、授業内で扱うか、課題にする場合がある。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Noriyuki Harada, Andrew Houwen, Akira Morita『Aspects of British Culture: Academic Approaches』金星堂

【参考書】

参考書がある場合は、授業中に知らせる。また、テキスト以外に授業で読む資料がある場合は、「学習支援システム (Webclass)」に置く。

【成績評価の方法と基準】

平常点を30%、学期の途中で提出してもらう課題を20%、最後のテストを50%で計算します。学期末テスト未受験、欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

2025年度から担当するので、返答できません。

【Outline (in English)】

Through reading a textbook called *Aspects of British Culture: Academic Approaches*, the object of this class is to develop not only English reading skills but the other three English skills, and to understand more about the UK, or Britain. Study textbook, especially each reading section, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 30%, occasional assignments 20%, and the end-of-the term exam 50%.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化 I 2017年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

鈴木 博雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：1単位

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

マスメディアで世界情勢を読むことを主眼とし、次の3点を目標とする。①国際問題を歴史や民族の問題を含めてルーツから見て行く。②必要な専門用語と基礎知識を身につけて、英字新聞や国際放送、インターネット情報にアクセスする力をつける。③簡単な構文を使ってニュースを英語で要約する力を身につける。

【到達目標】

マスメディアで国際情勢を読む英語能力獲得する。国際的な時事問題を扱った英文を読みながら、基礎語彙を増やし、行間を読む力や要約力を高める。その過程で英文内容についての質疑応答も行い、英語を深く、正確に、批判的に読む力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は、対面授業を基本とする。
- ・国際問題を扱った時事英語の文章の構造を踏まえながら、精読の演習を行う。
- ・英文内容についての質疑応答を行い、予習や復習の状況を確認し、個々の応答に対し、口頭で助言、学習方法等についてのフィードバックを与える。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキストUnit 1 前半	Ukraine: The Russian invasion of Ukraine ①
2	テキストUnit 1 後半	Ukraine: The Russian invasion of Ukraine ②
3	テキストUnit 2 前半	Ireland: "the troubles" in Northern Ireland ①
4	テキストUnit 2 後半	Ireland: "the troubles" in Northern Ireland ②
5	テキストUnit 3 前半	Brexit: Why did the UK leave the EU? ①
6	テキストUnit 3 後半	Brexit: Why did the UK leave the EU? ②
7	テキストUnit 4 前半	The second cold war?: US vs China ①
8	テキストUnit 4 後半	The second cold war?: US vs China ②
9	テキストUnit 5 前半	The Israeli-Palestinian conflict: The most difficult global issue to resolve ①
10	テキストUnit 5 後半	The Israeli-Palestinian conflict: The most difficult global issue to resolve ②

11	テキストUnit 6 前半	Rohingya: A troubled minority in Myanmar ①
12	テキストUnit 6 後半	Rohingya: A troubled minority in Myanmar ②
13	テキストUnit 7 前半	Busques: The oldest European people ①
14	テキストUnit 7 後半	Busques: The oldest European people ②

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・辞書を活用しながら、テキストを精読し、内容理解を深めておく。不明な点にマークし、質問事項をまとめておく。その他、必要に応じて前時に指示します。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。“University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.”

【テキスト (教科書)】

石谷由美子 著、『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues 国際問題のルーツを探る』(南雲堂)
ISBN：9784523179634

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (受講姿勢、予習、復習の状況、小テストなど) (60%)、期末試験点 (40%) を総合的に判断して評価する。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

- ・時事英語を積極的に読み、世界情勢を知ることの重要性を実感しながら、時事英語読解力の効果的な養成を図りたい。
- ・個々の学生の語学力を伸ばす工夫を凝らしたい。

【Outline (in English)】

- (1) To obtain the ability to read about world affairs in the mass media.
- (2) By the ability in (1), we mean the basic practical skill of reading mass media English which is required when students get out into the world after they graduate to live everyday life with an accurate understanding of international current events.
- (3) Students should intensively read the textbook in the preparatory reading range for at least 60 minutes outside of class time.
- (4) Evaluation will be based on a comprehensive evaluation of the student's normal points (attitude toward class, preparation, review, quizzes, etc.) (60%) and the final examination (40%). In principle, students who are absent more than 3 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe200LA (英語 / English language education 200)	
英語で学ぶ社会と文化Ⅱ	2017年度以降入学者
サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢	
鈴木 博雄	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金2/Fri.2	
単位数：1単位	
レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)	
定員制 (36)	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続き、マスメディアで読む世界情勢マスメディアで世界情勢を読むことを主眼とし、次の3点を目標とする。①国際問題を歴史や民族の問題を含めてルーツから見て行く。②必要な専門用語と基礎知識を身につけて、英字新聞や国際放送、インターネット情報にアクセスする力をつける。③簡単な構文を使ってニュースを英語で要約する力を身につける。

【到達目標】

春学期に養成した学力を踏まえ、マスメディアで国際情勢を読む英語能力獲得する。国際的な時事問題を扱った英文を読みながら、基礎語彙を増やし、行間を読む力や要約力を高める。その過程で英文内容についての質疑応答も行い、英語を深く、正確に、批判的に読む力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は、対面授業を基本とする。
- ・国際問題を扱った時事英語の文章の構造を踏まえながら、精読の演習を行う。
- ・英文内容についての質疑応答を行い、予習や復習の状況を確認し、個々の応答に対し、口頭で助言、学習方法等についてのフィードバックを与える。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 8 前半	Korea: The division of Korea ①
2	Unit 8 後半	Korea: The division of Korea ②
3	Unit 9 前半	Romani: Romani's great journey ①
4	Unit 9 後半	Romani: Romani's great journey ②
5	Unit 10 前半	Switzerland: Armed neutrality ①
6	Unit 10 後半	Switzerland: Armed neutrality ②
7	Unit 11 前半	Hong Kong: One country, two systems ①
8	Unit 11 後半	Hong Kong: One country, two systems ②
9	Unit 12 前半	The Pope and the Vatican City State: The smallest country in the world ①

10	Unit 12 後半	The Pope and the Vatican City State: The smallest country in the world ②
11	Unit 13 前半	Kurds: A stateless people ①
12	Unit 13 後半	Kurds: A stateless people ②
13	Unit 14 前半	Urughurs: How can Muslims survive in China? ①
14	Unit 14 後半	Urughurs: How can Muslims survive in China? ②

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・辞書を活用しながら予習反意を精読し、内容理解を深めておく。不明な点にマークし、質問事項をまとめておく。その他、必要に応じて前時に指示します。
 - ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
- “University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.”

【テキスト (教科書)】

石谷由美子 著、『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues 国際問題のルーツを探る』(南雲堂)
ISBN：9784523179634

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (受講姿勢、予習、復習の状況、小テストなど) (60%)、期末試験点 (40%) を総合的に判断して評価する。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

- ・時事英語を積極的に読み、世界情勢を知ることの重要性を実感しながら、時事英語読解力の効果的な養成を図りたい。
- ・個々の学生の語学力を伸ばす工夫を凝らしたい。

【Outline (in English)】

- (1) To obtain the ability to read about world affairs in the mass media.
- (2) By the ability in (1), we mean the basic practical skill of reading mass media English which is required when students get out into the world after they graduate to live everyday life with an accurate understanding of international current events.
- (3) Students should intensively read the textbook in the preparatory reading range for at least 60 minutes outside of class time.
- (4) Evaluation will be based on a comprehensive evaluation of the student's normal points (attitude toward class, preparation, review, quizzes, etc.) (60%) and the final examination (40%). In principle, students who are absent more than 3 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

金谷 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：1単位

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、TED TALKSのプレゼンテーションで繰り広げられた種々の独創的なアイディアに触れつつ、英語の4技能：読み、聴き、話し、書くを総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして文化、また人生と取り組んでいることを知ることは非常に重要です。本授業では、TED TALKSの英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会、そして文化について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること
- ・複雑な構文や語句を理解すること
- ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること
- ・英語の音声聴いて、必要な情報を得ること
- ・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること
- ・沢山の人の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各トピックについてそれぞれを3部構成とします。第1部: Lesson Aでは、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術(Reading Skills)について学びます。第2部: Lesson Bでは、実際にTED TALKの発表を聴き、またそのscriptを読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、第3部として、第1部、第2部で学習した事柄をまとめ、更にリサーチを進め、TED talkに関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。

受講者は第1部から第3部を通しての学習事項をチェックシートに書き、Unit終了毎に提出し、フィードバックを受けます。また、授業資料は、学習支援システムを通じて配布します。

【第1部】

第2週 Topic: Interdisciplinary

第5週 Topic: Business/Leadership

第8週 Topic: Life Science

第11週 Topic: Sociology/Fashion

【第2部】

第3週 : TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days

https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

第6週 : TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower

https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja

第9週 : TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments

https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

第12週 : TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New

https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【第3部】

第4週 : TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days

https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

第7週 : TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower

https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja

第10週 : TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments

https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

第13週 : TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New

https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	Introduction	What is TED?
第2週	Unit 1: Life Changes	Lesson A Topic:Interdisciplinary Reading Skills: Understanding sequence words,... etc.
第3週	Unit 1: Life Changes	TED TALK by Matt Cutts Lesson B Academic Skills: Understanding main ideas,...etc.
第4週	Unit 1: Life Changes	Check sheet summarizing and stating opinions
第5週	Unit 2: Team Power	Lesson A Topic:Business Leadership Reading Skills: Identifying main ideas in paragraphs,...etc.
第6週	Unit 2: Team Power	TED TALK by Tom Wujec Lesson B Academic Skills: Understanding stages in a process, ...etc.
第7週	Unit 2: Team Power	Check sheet summarizing and stating opinions
第8週	Unit 3: Ocean Wonders	Lesson A Topic: Life Science Reading Skills: Identifying purpose/referents
第9週	Unit 3: Ocean Wonders	TED TALK by David Gallo Lesson B Academic Skills:Understanding main ideas and key details,... etc.

第10週	Unit 3: Ocean Wonders	Check sheet summarizing and stating opinions	・ identify main ideas ・ clarify the structure of a paragraph
第11週	Unit 4: What We Wear	Lesson A Topic:Sociology/Fashion Reading Skills: Making connections/ Understanding a process	・ develop global and cross-cultural awareness ・ develop creative and critical thinking skills ・ effectively express their opinions on current issues
第12週	Unit 4: What We Wear	TED TALK by Jessi Arrington Lesson B Academic Skills: Recognizing point of view	[Learning activities outside of classroom] Students are expected to participate in the class fully prepared, having completed the vocabulary preview, listening, reading or writing tasks assigned the previous week.
第13週	Unit 4: What We Wear	Check sheet summarizing and stating opinions	University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. [Grading Criteria /Policy] Grading criteria for this course will be based on the following: Class participation: 40%(Class activities + Unit quizzes) / assignment : 30 %/Final test: 30%
第14週	final test	final test	In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各Unitで扱うTED talkについての予備知識を得るためにテキストを予習し、知らなかった語彙、表現、難しい文章などを特定し、**checksheet**に記入しておく。

復習：扱ったTED talkの要約をし、**checksheet**に記入した事項を習得することができたか、確認する。

宿題：授業で扱った TED talk 関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。以下が授業で扱う TED talk です。予習復習する際に聴いて下さい。

TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days

https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower

https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja

TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments

https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New

https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【テキスト（教科書）】

TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning), ISBN 978-1-305-26459-5

その他、配布資料

【参考書】

<https://www.ted.com>

その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価基準：授業参加度（授業内での発言および unit quiz）40％、課題30％、期末テスト30％

4回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3回遅刻あるいは早退すると、1回欠席としてカウントされます。30分以上の遅刻は欠席とみなされます。

【学生の意見等からの気づき】

英語を用いる場をなるべく多く設けます。

【Outline (in English)】

This course is designed to increase the students' ability to develop their overall English Language skills while learning about specific topics of TED Talks. Students are expected to improve their reading/listening skills as well as to broaden their understanding of current issues.

* This course will be conducted using Ims2025.

【Overall Objectives】

To help students

- ・ increase vocabulary
- ・ improve their reading/listening comprehension skills
- ・ understand English sentences without translating into Japanese

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

金谷 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：1単位

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期同様本授業では、TED TALKSのプレゼンテーションで繰り広げられた種々の独創的なアイディアに触れつつ、英語の4技能：読み、聴き、話し、書く—を総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして人生と取り組んでいることを知ることは非常に重要です。本授業では、TED TALKSの英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること
- ・複雑な構文や語句を理解すること
- ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること
- ・英語の音声を聴いて、必要な情報を得ること
- ・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること
- ・沢山の人の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各トピックについてそれぞれを3部構成とします。第1部では、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術(Reading Skills)について学びます。第2部では、実際にTED TALKの発表を聴き、またそのscriptを読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、セメスター終盤には、第3部として、学習したトピックをひとつ選び、更にリサーチを進め、TEDでの発表に関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。

受講者は第1部から第3部を通しての学習事項をチェックシートに書き、Unit終了毎に提出し、フィードバックを受けます。また、授業資料は、学習支援システムを通じて配布します。

【第1部】

第2週 Topic: Architecture and Design

第5週 Topic: Communication/Sociology

第8週 Topic: Visual Arts/Sociology

【第2部】

第3週 : TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

第6週 : TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral
https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

第9週 : TED TALK by Candy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

【第3部】

第4週 : TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

第7週 : TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral

https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

第10週 : TED TALK by Cindy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

第11週 13週 : Your favorite TED Talk

https://www.ted.com/

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	Introduction	授業の進め方についての説明 目標の確認
第2週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Topic:Architecture and Design Lesson A Reading Skills: Organizing supporting details,... etc.
第3週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Lesson B: Academic Skills: Understanding main ideas,summarizing ideas using a concept map,...etc.
第4週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Expressing ideas on the topic
第5週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Topic:Communication/ Sociology Lesson A Reading Skills: Scanning for numbers,...etc.
第6週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Lesson B Academic Skills: Understanding main ideas,summarizing ideas using a concept map,...etc.
第7週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Expressing ideas on the topic
第8週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Lesson A Topic:Visual Arts /Sociology Reading Skills: Understanding a paragraph's purpose
第9週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Lesson B Topic:Visual Arts /Sociology Reading Skills: Understanding a paragraph's purpose
第10週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Expressing ideas on the topic

第11週	Your favorite TED talk	Finding your favorite TED talk.
第12週	Your favorite TED talk	The Summary of the talk
第13週	Your favorite TED talk	Your own idea on the talk
第14週	期末テスト	final test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各Unitで扱うTED talkについての予備知識（テキストに記載）を得るためにテキストを予習し、知らなかった語彙、表現、難しい文章などを特定し、**checksheet**に記入しておく。

復習：扱ったTED talkの要約をし、**checksheet**に記入した事項を習得することができたか、確認する。

宿題：授業で扱ったTED talk関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。以下が授業で扱うTED talkです。予習復習する際に聴いて下さい。

TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral

https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

TED TALK by Cindy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

【テキスト（教科書）】

TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning), ISBN 978-1-305-26459-5

その他、資料配布

【参考書】

<https://www.ted.com>

その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価基準：授業参加度（授業内での発言および unit quiz）40％、課題30％、期末テスト30％

4回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3回遅刻あるいは早退すると、1回欠席としてカウントされます。30分以上の遅刻は欠席とみなされます。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多く英語を使う場を設けます。

【Outline (in English)】

This course is designed to increase the students' ability to develop their overall English Language skills while learning about specific topics of TED Talks. Students are expected to improve their reading/listening skills as well as to broaden their understanding of current issues.

* This course will be conducted using Ims2025.

【Overall Objectives】

To help students

- ・ increase vocabulary
- ・ improve their reading/listening comprehension skills
- ・ understand English sentences without translating into Japanese
- ・ identify main ideas
- ・ clarify the structure of a paragraph
- ・ develop global and cross-cultural awareness
- ・ develop creative and critical thinking skills
- ・ effectively express their opinions on current issues

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to participate in the class fully prepared, having completed the vocabulary preview, listening, reading or writing tasks assigned the previous week.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【Grading Criteria /Policy】

Grading criteria for this course will be based on the following:

Class participation: 40%(Class activities + Unit quizzes) / assignment : 30 %/Final test: 30%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化 I 2017年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。<https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/>)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

複数のパラグラフから成る記事を題材として、パラグラフの構造や、構文や文法などの知識を強化することを目的とする。それと同時に、今社会を取り巻くメディアと娯楽、環境保護問題や文化、などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

6回のオンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人々と対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方及び歴史や教養などを身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は全14回中8回を対面型授業、6回をオンライン授業（授業動画を配信するオンデマンド型）とする。

ほぼ2回の授業で1つのChapterを学習する。1回目の授業（授業動画配信オンデマンド型）では先ず宿題として授業当該日前までに各自記事を読んでTF内容問題に取り組み準備する。その後、授業動画を配信するオンデマンド授業を視聴して、指定の締め切り日までにHoppiiを通して課題を提出する。2回目の授業（対面）では、全員が内容を目を通していることを前提に問題演習を行い、教員が配布するプリント学習を行い、自分の考えをまとめる。

Chapter 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

授業で取り上げるChapterは以下の6つとする

Chapter 1,3,4,6, 9, 10

前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業ではexerciseを解きながら精読する。

適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、授業動画配信オンデマンド型の時はOpen LMS を通して指定の締め切り日までに提出し、それはOpen LMS を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。

小テストは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 履修者の決定	ここで履修者を決定するので、履修希望者は必ず初回アンケートに回答してLMSを通して提出すること。
2	Chapter1 Pressure to please: Why can't we say no?	授業動画配信オンデマンド型 Reading Comprehension Expand your Vocabulary
3	Chapter1 Pressure to please: Why can't we say no?	本文内容の確認 テキスト後半 Reading Details Finding Details Summary プリント教材、主にグループワークで行う。
4	Chapter 3 Marketing Genius: How did Red Bull achieve its success?	授業動画配信オンデマンド型 Reading Comprehension Expand your Vocabulary
5	Chapter 3 Marketing Genius: How did Red Bull achieve its success?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 1 語彙小テスト Question for Understanding Part 2, プリント教材、Over to You 主にグループワークで行う。
6	Chapter 4 Trains, Planes, and Automobiles: What is a Super Commuter?	授業動画配信オンデマンド型 Reading Comprehension Expand your Vocabulary
7	Chapter 4 Trains, Planes, and Automobiles: What is a Super Commuter?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 3 語彙小テスト Question for Understanding Part 2, プリント教材、Over to You 主にグループワークで行う。
8	Chapter 6 Tourism: Is it Blessing or a curse?	授業動画配信オンデマンド型 Reading Comprehension Expand your Vocabulary
9	Chapter 6 Tourism: Is it Blessing or a curse?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 4 語彙小テスト Question for Understanding Part 2, プリント教材、Over to You 主にグループワークで行う。
10	Chapter 9 Lost Cities: Are they myth or reality?	授業動画配信オンデマンド型 Reading Comprehension Expand your Vocabulary
11	Chapter 9 Lost Cities: Are they myth or reality?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 6 語彙小テスト Question for Understanding Part 2, プリント教材、Over to You 主にグループワークで行う。
12	Chapter 10 An Ordinary Hero: How did one man stop World War III?	授業動画配信オンデマンド型 Reading Comprehension Expand your Vocabulary
13	Chapter 10 An Ordinary Hero: How did one man stop World War III?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 9 語彙小テスト Question for Understanding Part 2, プリント教材、Over to You 主にグループワークで行う。

14 これまでのまとめと これまでのまとめ
期末試験 期末試験

term-end examination 50%

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

授業動画配信オンデマンド授業時には各自本文テキストを十分に読み込む。各Chapterのvocabularyを必ず学習し、語彙の確認を徹底する。本文内容に沿ったTF問題に真剣に取り組む。(vocabulary, TFは採点する。) 本文を読み込む際、未知の語彙があれば調べておく。対面授業時では、内容を大まかにわかっていることを前提として授業を行い、内容理解についての課題をこなすので、オンライン授業の学習時間をきちんと確保した上で対面授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Our World Our Stories

変動する世界と現代社会の再発見

成美堂（2,200 円税込）

【参考書】

特になし。

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

●授業動画配信オンデマンド授業時 課題提出 10%・・・Key Vocabulary 及び True or False は採点する。1点×10問＝10点 (Answer Sheet の空欄が全て解答されていることを条件とする)

●対面時 授業内課題提出 10%

●対面時小テスト 10点×5回分 50点 30%

●期末試験 50%

*欠席4回以上で、単位の修得は認められない。

*オンライン授業の出欠規定・・・毎回Answer Sheet の回答欄が全て記載されている（空欄の内容全て解答している）、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書のQRコードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は3回までとする。

オンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through the essays.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listening, reading, writing and speaking.

【Learning activities and outside of classroom】

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

submission assignments 10%

class contribution 10%

classroom quiz 30%

LANe200LA（英語 / English language education 200）			2	Chapter 11 Left or Right : What is bias in the media?	授業動画配信オンデマンド型 Reading Comprehension Expand your Vocabulary
英語で学ぶ社会と文化Ⅱ 2017年度以降入学者			3	Chapter 11 Left or Right : What is bias in the media?	本文内容の確認 テキスト後半 Reading Details Finding Details Summary プリント教材、主にグループワークで行う。 授業動画配信オンデマンド型 Reading Comprehension Expand your Vocabulary
サブタイトル：社会と文化の諸相を知る			4	Chapter 13 Digital Town Square: Why is Twitter always in the news?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 11 語彙小テスト Reading Details Finding Details Summary プリント教材、主にグループワークで行う。 授業動画配信オンデマンド型 Reading Comprehension Expand your Vocabulary
大曲 陽子			5	Chapter 13 Digital Town Square: Why is Twitter always in the news?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 11 語彙小テスト Reading Details Finding Details Summary プリント教材、主にグループワークで行う。 授業動画配信オンデマンド型 Reading Comprehension Expand your Vocabulary
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月3/Mon.3 単位数：1単位 レベル2,3（各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。 https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/ ） 定員制（36） その他属性：〈優〉			6	Chapter 15 Entertainment Empire: How did Disney take over the World ?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 13 語彙小テスト Reading Details Finding Details Summary プリント教材、主にグループワークで行う。 授業動画配信オンデマンド型 Useful Words Question for Understanding Part 1
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 複数のパラグラフから成る記事を題材として、パラグラフの構造や、構文や文法などの知識を強化することを目的とする。それと同時に、今社会を取り巻くメディアと娯楽、環境保護問題や文化、などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。 6回のオンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。			7	Chapter 15 Entertainment Empire: How did Disney take over the World ?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 15 語彙小テスト Reading Details Finding Details Summary プリント教材、主にグループワークで行う。 授業動画配信オンデマンド型
【到達目標】 タイムリーなトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人々と対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方及び歴史や教養などを身に着けることも目指す。			8	Chapter 16 Spooky Science : Are ghost real ?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 16 語彙小テスト Reading Details Finding Details Summary プリント教材、主にグループワークで行う。 授業動画配信オンデマンド型
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1			9	Chapter 16 Spooky Science : Are ghost real ?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 15 語彙小テスト Reading Details Finding Details Summary プリント教材、主にグループワークで行う。 授業動画配信オンデマンド型
【授業の進め方と方法】 本授業は全14回中8回を対面型授業、6回をオンライン授業（授業動画を配信するオンデマンド型）とする。 ほぼ2回の授業で1つのChapterを学習する。1回目の授業（授業動画配信オンデマンド型）では先ず宿題として授業当該日前までに各自記事を読んでTF内容問題に取り組み準備する。その後、授業動画を配信するオンデマンド授業を視聴して、指定の締め切り日までにHoppiiを通して課題を提出する。2回目の授業（対面）では、全員が内容に目を通していることを前提に問題演習を行い、教員が配布する記事を読んで自分の考えをまとめる。 Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。 授業で取り上げるChapterは以下の6つとする Chapter 11, 13, 15, 16, 17, 18 前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業ではexerciseを解きながら精読する。 適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。 課題等に対するフィードバック方法 毎週課題の提出があるので、授業動画配信オンデマンド型の時はOpen LMSを通して指定の締め切り日までに提出し、それはOpen LMSを通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。 小テストは採点返却される。			10	Chapter 17 Believing a Lie: Can we plant memories in the brain ?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 16 語彙小テスト Reading Details Finding Details Summary プリント教材、主にグループワークで行う。 授業動画配信オンデマンド型 Reading Comprehension Expand your Vocabulary
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり /Yes			11	Chapter 17 Believing a Lie: Can we plant memories in the brain ?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 16 語彙小テスト Reading Details Finding Details Summary プリント教材、主にグループワークで行う。 授業動画配信オンデマンド型
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No			12	Chapter 18 Cell Magic : Can we make a living robot?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 17 語彙小テスト Reading Details Finding Details Summary プリント教材、主にグループワークで行う。 Unit 20 語彙小テスト これまでのまとめ 期末試験
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			13	Chapter 18 Cell Magic : Can we make a living robot?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 17 語彙小テスト Reading Details Finding Details Summary プリント教材、主にグループワークで行う。 Unit 20 語彙小テスト これまでのまとめ 期末試験
回	テーマ	内容	14	これまでのまとめと 期末試験	
1	Warming Up	ここで履修者を決定する時事問題 プリント教材			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

授業動画配信オンデマンド授業時には各自本文テキストを十分に読み込む。各Chapterのvocabularyを必ず学習し、語彙の確認を徹底する。本文内容に沿ったTF問題に真剣に取り組む。(vocabulary, TFは採点する。)本文を読み込む際、未知の語彙があれば調べておく。対面授業時では、内容を大まかにわかっていることを前提として授業を行い、内容理解に關しての課題をこなすので、オンライン授業の学習時間をきちんと確保した上で対面授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Our World Our Stories

変動する世界と現代社会の再発見

成美堂（2,200円税込）

【参考書】

特になし。

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

●授業動画配信オンデマンド授業時 課題提出 10%・・・Key Vocabulary 及び True or False は採点する。1点×10問＝10点 (Answer Sheetの空欄が全て解答されていることを条件とする)

●対面時 授業内課題提出 10%

●対面時小テスト 10点×5回分 50点 30%

●期末試験 50%

*欠席4回以上で、単位の修得は認められない。

*オンライン授業の出欠規定・・・毎回Answer Sheetの回答欄が全て記載されている（空欄の内容全て解答している）、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】

トピックに關連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書のQRコードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は3回までとする。

オンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMSの質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through the essays.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listening, reading, writing and speaking.

【Learning activities and outside of classroom】

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

submission assignments 10%

class contribution 10%

classroom quiz 30%

term-end examination 50%

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Presentation I

2017年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

定員制 (24)

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈ゲ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their ability to make presentations in English. Students will increase their confidence in English communication through researching, talking, reading, writing and presenting about a variety of personal, academic, business and cultural topics. Students will choose their presentation topics according to their own interests. Students will focus in particular on developing and explaining their topics in a clear and engaging manner. Students will make three presentations of about 5-10 minutes.

【到達目標】

You will become a better presenter. You will improve your ability to communicate in front of a group, including topic selection, generating ideas, organising, collecting supporting information, visual communication, consideration of your voice, and movement. You will have many opportunities to express your thoughts in a concise and logical manner. You will try various ways to make your opinions more persuasive.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will research and collect information for your topics outside of class. You will organize and arrange your ideas, and prepare visual materials (using PowerPoint or poster paper) to accompany your presentation. Preparation is vital to participate fully and get the most from class time. In class, you will explain your research and ideas. This will enable you to become familiar with your topic and less reliant on a script. Additionally, you will have chances to find the points of interest that need more development, and the places in your work that need further re-thinking and reorganisation. You will also practise a number of important academic skills through listening and note-taking of your own and classmates' topics. These include identifying the key points, re-organising ideas, summarising and reconstructing partner's talks from your notes as well as giving critical feedback. You may be asked to prepare discussion questions related to your topic, and of course, must be ready to answer questions from the audience about your own work. Please come to class ready to participate actively and positively. You may sometimes record your presentations using easy editing software on your phone or PC to share with the class. Teacher feedback will be given in the class and online as necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	First presentation: "How to..."	Teach us how to do something better. Look at examples. Generate ideas and select topics.
3	Developing your work	Show your ideas and make an outline. Basic presentation structure.
4	Developing your work	Revise and practise. Body language and gestures -examples and practise.
5	Final practise	Combine all the elements and review your speech. Make changes after feedback from classmates and teacher.
6	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
7	Second presentation: SWOT analysis	A SWOT analysis. What is it? Look at examples. Generate ideas and select topics
8	Developing your work:	A SWOT analysis. Show your first research and organise. Voicework - how to vary your voice to make your words have more impact.
9	Developing your work:	Show us your presentation draft and practise. Turn your draft into notecards. Asking and answering questions during a presentation.
10	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates.
11	Third Presentation: Pechakucha	What is a pechakucha presentation? Explanation and examples. Topic planning.
12	Developing your work:	Practise. Speaking to time limits and on the spot transitions.
13	Final practise	Review and practise.
14	Presentation & Semester review	Perform your presentation. Watch and review classmates.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to find their own research materials, write presentations and prepare visual materials including Keynote or PowerPoint slides. Students will be asked to watch some speeches and share their impressions in class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

The above may change. Activities may change according to class size, students' interests and abilities. There is no textbook.

【参考書】

Recommended places to watch presentation examples are; the Pechakucha, TED and Jack Petchey Foundation websites.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 25%

Presentations 45%

Self evaluation 10%

Outside class preparation 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students enjoyed pair presentations.

【学生が準備すべき機器他】

The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.

We will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. You will need to use colour pens, large poster paper, slide making software such as PowerPoint or Keynote. You will need to access your smartphone, tablet, or PC to watch presentation examples and do quick research in class. You will need an English dictionary.

【その他の重要事項】

Please come to class ready to participate actively and positively.

【Outline (in English)】

Make your speeches and presentations better.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Presentation II

2017年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

レベル 3～4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

定員制（24）

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their ability to make presentations in English. Students will increase their confidence in English communication through researching, talking, reading, writing and presenting about a variety of personal, academic, business and cultural topics. Students will choose their presentation topics according to their own interests. Students will focus in particular on developing and explaining their topics in a clear and engaging manner. Students will make three presentations of about 5-10 minutes.

【到達目標】

You will become a better presenter. You will improve your ability to communicate in front of a group, including topic selection, generating ideas, organising, collecting supporting information, visual communication, consideration of your voice, and movement.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will research and collect information for your topics outside of class. You will organize and arrange your ideas, and prepare visual materials (using PowerPoint or poster paper) to accompany your presentation. Preparation is vital to participate fully and get the most from class time. In class, you will explain your research and ideas. This will enable you to become familiar with your topic and less reliant on a script. Additionally, you will have chances to find the points of interest that need more development, and the places in your work that need further re-thinking and reorganisation. You will also practise a number of important academic skills through listening and note-taking of your own and classmates' topics. These include identifying the key points, re-organising ideas, summarising and reconstructing partner's talks from your notes as well as giving critical feedback. You may be asked to prepare discussion questions related to your topic, and of course, must be ready to answer questions from the audience about your own work. Teacher feedback will be given in the class and online as necessary. Please come to class ready to participate actively and positively. You may sometimes record your presentation using easy editing software on your phone or PC to share with the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation and a review of the Spring Semester. First presentation: "Inspired by a movie"	A cultural or social theme picked from a movie For example. "The Lego Movie" - a comparison of the education systems of Denmark and Japan. The role of propaganda in Vietnam War movies "The Devil wears Prada" - Karoshi - is work / life balance really possible? Discussing ideas and topic selection.
2	Developing your work	Sharing research. Making outlines and considering some rhetorical techniques such as the rule of 3 and repetition.
3	Developing your work	Sharing research. Using rhetorical techniques. Review of voice techniques.
4	Final practise	Making discussion questions. Practise and make changes after feedback from classmates and teacher.
5	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
6	Second presentation: Something I've learned that you should know	What knowledge have you gained in your university life that you think other people would benefit from knowing? generating ideas
7	Developing your work	Considering different narratives styles. Sharing ideas.
8	Developing your work	Sharing your ideas and using props in a speech.
9	Final practise	Practise your speech using a prop.
10	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
11	Third Presentation: A persuasive speech	A speech about something you feel strongly about. Make us believe how correct and important your opinion is.
12	Developing your work:	Adding passion and emotion to your words. Speaking with your whole body - examples and practise.
13	Final practise	Looking again at body language and voice.
14	Presentation & Semester review	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to find their own research materials, write presentations and prepare visual materials including Keynote or PowerPoint slides. Students will be asked to watch some speeches and share their impressions in class. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

The above may change. Activities may change according to class size, students' interests and abilities. There is no textbook.

【参考書】

Recommended places to watch presentation examples are; the peckakucha, TED and Jack Petchey Foundation websites.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 25%

Presentations 45%

Self evaluation 10%

Outside class preparation 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested more time to prepare in class.

【学生が準備すべき機器他】

The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.

We will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. You will need to use colour pens, large poster paper, slide making software such as PowerPoint or Keynote. You will need to access your smartphone, tablet, or PC to watch presentation examples and do quick research in class. You will need an English dictionary.

【その他の重要事項】

Please come to class ready to participate actively and positively.

【Outline (in English)】

Make your speeches and presentations better.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Presentation I 2017年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

レベル 3～4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

定員制 (24)

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course teaches presentation skills through watching presentations, learning presentation techniques and making presentations on different topics.

【到達目標】

Students will be able to prepare and make presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include individual work, group work and discussions. Students will be required to prepare presentation material outside of classes. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook
2	Getting ready (Pages 2-7)	Give Self Introduction
3	Unit 1 A good friend (Pages 8-11)	- Exploring the topic - Focusing on language
4	Unit 1 A good friend (Pages 12-15)	- Organizing ideas - Adding impact techniques
5	Unit 1 A good friend (Pages 16-17)	- Developing presentation techniques
6	Unit 1 A good friend (Pages 18-19)	Presentation - "A good friend"
7	Unit 2 A favorite place (Pages 20-23)	- Exploring the topic - Focusing on language
8	Unit 2 A favorite place (Pages 24-27)	- Organizing ideas - Adding impact
9	Unit 2 A favorite place (Pages 28-29)	- Developing presentation techniques
10	Unit 2 A favorite place (Pages 30-31)	Presentation - "My Favorite Place"
11	Unit 3 A prized Possession (Pages 32-37)	- Exploring the topic - Focusing on language - Organizing ideas

12	Unit 3 A prized possession (Pages 38-41)	- Adding impact - Developing presentation Techniques
13	Unit 3 A prized possession (Pages 42-42)	Presentation - "My Prized Possession"
14	Make-up Presentations/ Course Review	Finalize spring semester course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 1 Experiences, Second Edition (Steven Gershon, Cambridge University Press)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on two components:

・ Presentations - 75%(Unit 1, 2 and 3 presentations are required.)

・ Class participation - 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student input and feedback is encouraged.

【Outline (in English)】

Students will gain confidence in public speaking.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Presentation II

2017年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

レベル 3～4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

定員制 (24)

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course teaches presentation skills through watching presentations, learning presentation techniques and making presentations on different topics.

【到達目標】

Students will gain confidence in public speaking.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include individual work, group work and discussions. Students will be required to prepare presentation material outside of classes. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course	Review syllabus and textbook
	Introduction	
2	Getting ready (Pages 2-7)	Give Self Introduction presentation
3	Unit 4 A memorable experience (Pages 44-47)	- Exploring the topic - Focusing on language
4	Unit 4 A memorable experience (Pages 48-51)	- Organizing ideas - Adding impact
5	Unit 4 A memorable experience (Pages 52-53)	- Developing presentation techniques
6	Unit 4 A memorable experience (Pages 54-55)	Presentation - "My Memorable Experience"
7	Unit 5 I'll show you how (Pages 56-59)	- Exploring the topic - Focusing on language
8	Unit 5 I'll show you how (Pages 61-63)	- Organizing ideas - Adding impact
9	Unit 5 I'll show you how (Pages 64-65)	- Developing presentation techniques

10	Unit 5 I'll show you how (Pages 66-67)	Presentation - "How to"
11	Unit 6 Screen magic (Pages 68-73)	- Exploring the topic - Focusing on language - Organizing ideas
12	Unit 6 Screen magic (Pages 73-77)	- Adding impact - Developing presentation techniques
13	Unit 6 Screen magic (Pages 78-79)	Presentation - "Movie or TV Show Review"
14	Make-up Presentations/ Course Review	Finalize fall semester course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 1 Experiences, Second Edition (Steven Gershon, Cambridge University Press)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on two components:

- ・ Presentations - 75%(Unit 4, 5 and 6 presentations are required.)
- ・ Class participation - 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student input and feedback is encouraged.

【Outline (in English)】

Students will be able to prepare and make presentations.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Presentation I

2017年度以降入学者

コートランド デイビッド スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

定員制 (24)

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈ゲ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【到達目標】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The content of the class will consist of practicing presentation techniques and delivering presentations. If time permits, there will be some discussion of the presentation topics. Student assignments will be reviewed during class time or submitted to instructor for evaluation by email. Instructor will provide feedback during class or by email

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. Introductions	Talk about spring break.
	HW/text pgs. 4-12	Getting started.

2	2. Text pgs. 13-14, 15-17, 18-22 HW/informative speech (pg. 17) with visuals, posture, eye contact, gestures	Watch sample presentation DVD.
3	3. Performance of informative speech HW/text pgs. 23-24, 28-29	Speech performance and feedback.
4	4. Text pgs. 30-38 HW/demonstration speech (pg. 38) with visuals, posture, eye contact, gestures, voice inflection	Demonstration speech.
5	5. Performance of demonstration speech HW/text pgs. 39-46	Student speech performances.
6	6. Text pgs. 47-48, pgs. 51-55 HW/country comparison (pgs. 49 & 56)	Prepare for country comparison speech.
7	7. Performance of country comparison HW/pgs. 57-59	Student speeches.
8	8. Text pgs. 60-67 HW/speech introduction (pg. 67)	Focus on speech introduction.
9	9. Performance of speech introduction HW/text pgs. 68-72	Speech introduction performances.
10	10. Text pgs. 73-85 HW/speech body (pg. 86)	Focus on speech body.
11	11. Performance of speech body HW/text pgs. 87-94 conclusion (pg. 95)	Student performances of speech body.
12	12. Presentation of conclusion HW/final presentation (pg. 99 steps 1,2,3)	Focus on speech conclusion.
13	Final presentations HW/None	Prepare and perform final presentations
14	Final presentations	End of term evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will research and prepare their presentations before scheduled classes.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech Level 2 Charles LeBeau MacMillan Education ISBN978-4-7773-6515-9 C3082

【参考書】

Students will use online resources to research and prepare their presentations.

【成績評価の方法と基準】

Presentations (50%)
Class participation (40%)
Final presentation (10%)

*Students will be expected to attend a minimum of 80% of all classes in order to get credit for this course. This means that you can be absent no more than three times.

Three late arrivals are counted as one absence (up to 29 min.). More than 45 minutes late without a good reason will be counted as absent. Students who are absent or late for a good reason—serious train delays, injury, illness, etc. should provide some evidence to instructor.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Students will prepare and deliver presentations during class time.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Presentation II

2017年度以降入学者

コートランド デイビッド スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

レベル 3～4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

定員制（24）

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈ゲ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to make effective presentations on a variety of topics. Students will learn to confidently deliver multimedia informative/descriptive speeches, as well as comparative, demonstrative and argumentative/persuasive presentations. Students will also learn to evaluate the quality and content of others' presentations, to take notes on presentation content, and to provide detailed feedback to help presenters to improve their presentation technique.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The content of the class will consist of practicing presentation techniques and delivering presentations. If time permits, there will be some discussion of the presentation topics. The fall semester of this course will concentrate on the preparation and delivery of persuasive, argumentative and rhetorical speeches. Student assignments will be reviewed during class time or submitted to instructor for evaluation by email. Instructor will provide feedback during class or by email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. Summer vacation HW/prepare speech on summer vacation	Warm up presentation.

2	2. Presentations on summer vacation HW/read handout parts 1&2	Students deliver their summer vacation presentations.
3	3. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 1	Read background information and answer questions.
4	4. Presentations on topic 1 and discussion HW/read handout parts 1&2	Delivery of speeches.
5	5. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 2	Read background information and answer questions.
6	6. Presentations on topic 2 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
7	7. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 3	Read background information and answer questions.
8	8. Presentations on topic 3 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
9	9. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 4	Read background information and answer questions.
10	10. Presentations on topic 4 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
11	11. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 5	Read background information and answer questions.
12	12. Presentations on topic 5 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
13	13. Complete handout reading HW/prepare final presentations	Prepare for final presentations.
14	14. Final presentation	Final performance, summary and evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will research and prepare their presentations before scheduled classes.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech Level 2 Charles LeBeau MacMillan Education ISBN978-4-7773-6515-9 C3082

【参考書】

Students will make use of a variety of online resources in the research and preparation of their speeches.

【成績評価の方法と基準】

Presentations (50%)
Class participation (40%)
Final presentation (10%)

*Students will be expected to attend a minimum of 80% of all classes in order to get credit for this course. This means that you can be absent no more than three times.

Three late arrivals are counted as one absence (up to 29 min.). More than 45 minutes late without a good reason will be counted as absent. Students who are absent or late for a good reason—serious train delays, injury, illness, etc. should provide some evidence to instructor.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Students will prepare and deliver presentations during class time.

LANe200LA（英語 / English language education 200） 英語アカデミック・リーディング I 2017年度以降入学者 岩崎 博 開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金3/Fri.3 単位数：1単位 レベル2,3（各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/） 定員制（36） その他属性：〈優〉					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 論理的な英文を読む喜びを感じることを目指します。その目標達成のために、パラグラフの論理的な構造に目を向け、その趣旨を的確につかむことによって、英文を正確に読みこなす能力を養います。授業では、トピックセンテンスを中心に、パラグラフの内容を理解する読みを実践します。美術、科学、文化、言語、環境、歴史など様々な分野を扱う興味深いエッセイを読み解くことによって、新しい視点、刺激的な世界観に触れてください。					
【到達目標】 パラグラフリーディングの技術を習得する。 パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。 パラグラフのトピックとそれを詳述する細部との関係を理解する。 コンテキストを正しく捉える力を養う。 抽象的な表現を具体的に理解する読み方を身につける。 辞書が活用できるようになる。 英語の論文を効率的に読み解くことができるようになる。 クリティカル・リーディングの重要性を理解する。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1					
【授業の進め方と方法】 演習を中心に授業を行います。各パラグラフの内容を詳細に考察しますので、授業はかなりゆっくりと進んでいきます。一回の授業で扱うのはテキスト1ページほどです。授業では、学生がパラグラフの和訳、要約、または内容の説明を行い、それについてみんなで話し合います。不明な点や問題点があれば、全員で話し合い、できるだけ自分たちの力で解決していきます。また、各論文を読み終わった後、それに関する意見を発表しクラス全体で議論します。フィードバックに関しては、学生が発表するたびに教師がコメントを出し、さらにそのコメントについてクラスで話し合います。学期末試験の答案に解説・コメントをつけて返却します。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり /Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし /No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
1	授業の説明	授業に関する説明の後、パラグラフの構造について理解します。	3	Session 1 What a Painting Can Tell Us パラグラフを理解し、トピックセンテンスを見つける	パラグラフが主題文、指示文、結論文から成ることを理解し、実際の英文の中でその構造を確認します。これを理解した上で、トピックセンテンスを見つけ、それが何故トピックセンテンスなのか、自分の言葉で説明します。
2	Session 1 What a Painting Can Tell Us 本エッセイの展望	筆者は絵画に隠された物語を読み解いていきます。筆者は絵の中にどんな物語を読み込むのでしょうか？ このセッションでは、学生は各パラグラフの内容を自分の言葉で説明していきます。	4	Session 1 What a Painting Can Tell Us パラグラフリーディングの実践	トピックセンテンスと支持文の関連性を考え、それを自分の言葉で表現します。 What a Painting Can Tell Us に関して自分の意見を発表し、クラスで話し合います。
			5	Session 2 Split-Brain Research 本エッセイの展望	右脳・左脳の機能の違いを世に知らしめた、有名な事例を紹介する論文を読みます。右脳と左脳の機能の違いに、言語がどのように関わっているのでしょうか？ このエッセイでは、学生はパラグラフのトピックに留意しつつ英文和訳を行います。 実験の模様を図解するイラストを参照しながら、実験の手順を記述する文章を正確に読む練習をします。
			6	Session 2 Split-Brain Research イラストを頼りに実験の記述を読む	
			7	Session 2 Split-Brain Research イラストと記述を照応させる	図と英語の記述を対応させることによって、視覚情報が左右の脳にどのように伝わるのかを理解します。
			8	Session 2 Split-Brain Research 記述内容を具体的に読む	実験の結果に関する記述が、具体的に実験の何を指し示すのかを理解します。抽象的な記述を具体的に理解し説明する読みを実践します。
			9	Session 2 Split-Brain Research 文脈をたどる	ある文が意味をなすということは、文脈を理解することに他ならないことを学習します。 また、言語が左右の脳の機能の違いにどんな影響を及ぼしているのか理解します。
			10	Session 9 On Speaking on Speaking 本エッセイの展望	Split-Brain Research に関する意見を発表し、クラスで話し合います。 Session 9 では、言語の変化生成に関する仮説を扱う論文を読みます。言語は原初の形を痕跡として残しつつ絶えず変化し続けること、人間には言語を生み出す普遍的能力があることを学びます。子供は言語の生成・変化にどんな形で関わってきたのでしょうか？ このセッションでは、学生は各パラグラフの内容を自分の言葉で説明していきます。言語が絶えず変化していることを学びます。 パラグラフにおける旧情報と新情報を識別し、パラグラフ間のつながりを考察します。
			11	Session 9 On Speaking on Speaking 言語の生成変化	

12	Session 9 On Speaking on Speaking 言語の生成変化(様態・担い手)	言語はどのように変化するのか、また誰がそれを担うのかを学びます。 トピックセンテンスの言い換えの文から、パラグラフ全体の主張をより具体的に理解できることを学びます。 itの指示内容を識別する方法を学習します。
13	Session 9 On Speaking on Speakingのまとめ 春学期学習内容の総括	On Speaking on Speakingについて各自の意見を発表します。 春学期に学習した内容で重要な箇所を振り返り、教師が学生からの質問に答えます。
14	学期末試験・解答	学期末試験を行います。試験後、解答・解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
予習は、テキストの指定箇所（1ページほど）を読み、パラグラフごとに簡単なメモを作成し、それを見ながら内容の要約・説明ができるようにします。特にトピックセンテンスと論証部分の関係性を自分の言葉で説明できるように準備します。
復習は、授業で扱った内容を確認し理解した上で、最低5回は読み返します。各エッセイを読み終えた後、自分の意見を発表できるように準備します。

【テキスト（教科書）】

『The Universe of English』東京大学英語教室編（東京大学出版会）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加40パーセント、試験60パーセントの比率で評価します。
授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まります。
一度休むごとに平常点から2点ずつ引いていきます。
4回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めません。
オンライン授業では、課題の提出を持って出席とします。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生の発表を中心にして、授業を進行していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を持っている人は電子辞書を持参してください。

【その他の重要事項】

教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve reading skills by understanding the basic logical structure of a paragraph in academic essays. Students will learn what kinds of connection a topic sentence and its supporting details make in each paragraph and describe what they have understood about it. The goal of this course is for students to be able to read and understand academic articles correctly, and also to be able to express their critical views on them. Students are expected to spend one hour reading assigned paragraphs of an article before the class and reviewing what they have learned after the class. The final grade will be decided based on class-participation 40 %and term-end examination 60 %.

LANe200LA (英語 / English language education 200)		
英語アカデミック・リーディング 2017年度以降入学者Ⅱ		
岩崎 博		
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金3/Fri.3		
単位数：1単位		
レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)		
定員制 (36)		
その他属性：〈優〉		

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理的な英文を読む喜びを感じることを目指します。その目標達成のために、パラグラフの論理的な構造に目を向け、その趣旨を的確につかむことによって、英文を正確に読みこなす能力を養います。授業では、トピックセンテンスを中心に、パラグラフの内容を理解する読みを実践します。美術、科学、文化、言語、環境、歴史など様々な分野を扱う興味深いエッセイを読み解くことによって、新しい視点、刺激的な世界観に触れてください。

【到達目標】

パラグラフリーディングの技術を習得する。
パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。
パラグラフのトピックとそれを詳述する細部との関係を理解する。
コンテキストを正しく捉える力を養う。
抽象的な表現を具体的に理解する読み方を身につける。
辞書が活用できるようになる。
英語の論文を効率的に読み解くことができるようになる。
クリティカル・リーディングの重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に授業を行います。各パラグラフの内容を詳細に考察しますので、授業はかなりゆっくりと進んでいきます。一回の授業で扱うのはテキスト1ページほどです。授業では、学生がパラグラフの和訳、要約、または内容の説明を行い、それについてみんなで話し合います。不明な点や問題点があれば、全員で話し合い、できるだけ自分たちの力で解決していきます。また、各論文を読み終わった後、それに関する意見を発表しクラス全体で議論します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	パラグラフの構造を理解します。
2	Session 17 Ecology 本エッセイの展望	エコロジーの入門書のエッセイを読みます。コンパクトながら、エコロジーの定義から始まり、生物圏の区分、食物連鎖、生物濃縮、生態遷移などに言及し、エコロジーの最も重要な分野をわかりやすく解説しています。また、生態学的知識を吸収することによって、現在我々を取り巻く環境問題を考えたいと思っています。
3	Session 17 Ecology 概念を定義するタイプのパラグラフ	エコロジーという概念の定義を行うパラグラフを読み、エコロジーとは何なのかを考察します。

4	Session 17 Ecology 抽象と具体	エコロジーという概念 (抽象) とそれが示す具体像の間を行き来しつつ、エコロジーに対する理解を深めます。
5	Session 17 Ecology エコロジーが扱う領域の外観	生態系・食物連鎖・生物濃縮・生体遷移とは何か、具体例を通して学びます。
6	Session 11 Disneyland: America's Sacred Land 本エッセイの展望	ディズニーランドの人気の理由を論じるエッセイを読みます。混沌とするアメリカ社会においてディズニーランドがどんな価値観を体現し、どんな役割を果たしているのか考察します。このエッセイでは、学生は各パラグラフの内容を要約します。ディズニーランドの人気を支える倫理観、歴史観、哲学を考察します。
7	Session 11 Disneyland: America's Sacred Land ディズニーランド人気の理由	
8	Session 11 Disneyland: America's Sacred Land ディズニーランドの神話的意義	ディズニーランドが単なるテーマ・パークにとどまらず、旧約聖書に登場する「約束の土地」であるという筆者の主張を考察します。
9	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy 本エッセイの展望	コロンブスが歴史上の偉人から、アメリカを侵略し破壊した悪人に評価が変わった理由を考察する論文を読みます。どうしてコロンブスは英雄から世紀の大悪人になってしまったのか、果たしてコロンブスを糾弾する者たちの真の意図とは何か? 歴史とは何かを考えさせる実にスリリングなエッセイです。このセッションでは、学生は各パラグラフの内容を自分の言葉で説明していきます。歴史的記述における視点の重要性を考えます。主格関係と目的格関係を表す前置詞ofの用法を学び、名詞句の中に主語+述部動詞、あるいは主語+述部動詞+目的語と似た構造が存在することを学習します。
10	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy クロノジカルな記述の視点	コロンブスの評価が英雄から人類最悪の男に凋落した理由として筆者が援用する歴史観について考察します。筆者が提示した理論を「アメリカ発見」の歴史に当てはめると何が読みとれるのか考えます。
11	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy 歴史とは何か	コロンブス以前のアメリカが理想郷として描き出されている現状の背後に隠された意図を考えます。
12	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy 反コロンブス神話とは	コロンブスが「歴史的コマ」として、現代の政治ゲームの中でどのように利用されているか、具体的記述の中で理解します。
13	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy コロンブスとは何なのか	「発見」された側がコロンブスを世紀の大悪人だと糾弾する本当の理由が明かされます。クラス全体でエッセイの問題点を指摘し、その内容を批判的に論じます。

14 試験日 秋学期試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
予習は、テキストの指定箇所（1ページほど）を読み、パラグラフごとに簡単なメモを作成し、それを見ながら内容の要約・説明ができるようにします。特にトピックセンテンスと論証部分の関係性を自分の言葉で説明できるように準備します。

復習は、授業で扱った内容を確認し理解した上で、最低5回は読み返します。各エッセイを読み終えた後、自分の意見を発表できるように準備します。

【テキスト（教科書）】

東京大学英語教室編『The Universe of English』（東京大学出版会）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加40パーセント、試験60パーセントの比率で評価します。
授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まります。

一度休むごとに平常点から2点ずつ引いていきます。

4回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めません。

オンライン授業では、課題の提出を持って出席とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生が話し合って問題を解決する機会を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を持っている人は電子辞書を持参してください。

【その他の重要事項】

できるだけ教師と学生の対話を通して、知的に楽しくて為になる、双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve reading skills by understanding the basic logical structure of a paragraph in academic essays. Students will learn what kinds of connection a topic sentence and its supporting details make in each paragraph and describe what they have understood about it.

The goal of this course is for students to be able to read and understand academic articles correctly, and also to be able to express their critical views on them.

Students are expected to spend one hour reading assigned paragraphs of an article before the class and reviewing what they have learned after the class.

The final grade will be decided based on class-participation 40 % and term-end examination 60 %.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策 I

2017年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2
 単位数：1単位
 レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)
 定員制 (36)
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

TOEICの頻出テーマを扱ったテキストを使用し、語彙、英語表現、文法を学びながら総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語 (Englishes) の発音に慣れます
- ・英語の文章を速く正確に読む力をつけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの各unitはlisteningとreadingの二つのパートから成り立っています。一回の授業で一つのパートを扱います。前半はlisteningです。語彙の確認をしてからlistening問題に取り組みます。ペアあるいはグループで答え合わせをし、その後クラス全体で間違えた箇所を確認しながら、英語表現、文法の確認をします。後半はreadingです。問題にチャレンジした後、ペアあるいはグループで答え合わせをし、クラス全体で内容の確認を行います。小テストに対するフィードバックは授業当日に行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1 Eating Out (listening)	Vocabulary, Useful Expression
3	Unit 1 Eating Out (reading)	Grammar
4	Unit 2 Travel (listening)	Vocabulary, Useful Expression
5	Unit 2 Travel (reading)	Grammar
6	Unit 3 Amusement (listening)	Vocabulary, Useful Expression
7	Unit 3 Amusement (reading)	Grammar
8	Unit 4 Meetings (listening)	Vocabulary, Useful Expression
9	Unit 4 Meetings (reading)	Grammar
10	Unit 5 Personnel (listening)	Vocabulary, Useful Expression
11	Unit 5 Personnel (reading)	Grammar
12	Unit 6 Shopping (listening)	Vocabulary, Useful Expression
13	Unit 6 Shopping (reading)	Grammar

14 学期末試験 試験と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後にテキスト・演習問題の復習をし、質問がある場合は次回授業にお願いします。本授業の復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 —Advanced—』(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

テスト35%、小テスト35%、平常点30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から30分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な英語力がつくように、文法事項の説明を丁寧にするように心がけました。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline (in English)】

Course Outline

The purpose of this class is to help students develop their listening and reading skills for TOEIC.

Learning Objectives

Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies such as skimming and scanning.

Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to review what was covered in the previous lesson. Study time will be an hour for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be based on the following criteria:

1. Final Exam 35%
2. Reports 35%
3. Classroom Participation 30%

LANe200LA (英語 / English language education 200)		
英語検定試験対策Ⅱ		2017年度以降入学者
妻鹿 裕子		
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水2/Wed.2		
単位数：1単位		
レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)		
定員制 (36)		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】		
TOEICの頻出テーマを扱ったテキストを使用し、語彙、英語表現、文法を学びながら総合的な英語力の向上を目指します。		
【到達目標】		
・語彙を増やします		
・様々な英語 (Englishes) の発音に慣れます		
・英語の文章を速く正確に読む力をつけます		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1		
【授業の進め方と方法】		
テキストの各unitはlisteningとreadingの二つのパートから成り立っています。一回の授業で一つのパートを扱います。前半はlisteningです。語彙の確認をしてからlistening問題に取り組みます。ペアあるいはグループで答え合わせをし、その後クラス全体で間違えた箇所を確認しながら、英語表現、文法の確認をします。後半はreadingです。問題にチャレンジした後、ペアあるいはグループで答え合わせをし、クラス全体で内容の確認を行います。小テストに対するフィードバックは授業当日に行います。		
【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】		
あり /Yes		
【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 7 Advertisement (listening)	Vocabulary, Useful Expression
3	Unit 7 Advertisement (reading)	Grammar
4	Unit 8 Daily Life (listening)	Vocabulary, Useful Expression
5	Unit 8 Daily Life (reading)	Grammar
6	Unit 9 Office Work (listening)	Vocabulary, Useful Expression
7	Unit 9 Office Work (reading)	Grammar
8	Unit 10 Business (listening)	Vocabulary, Useful Expression
9	Unit 10 Business (reading)	Grammar
10	Unit 11 Traffic (listening)	Vocabulary, Useful Expression
11	Unit 11 Traffic (reading)	Grammar

12	Unit 12 Finance and Banking (listening)	Vocabulary, Useful Expression
13	Unit 12 Finance and Banking (reading)	Grammar
14	学期末試験	試験と解説
【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】		
授業後にテキスト・演習問題の復習をし、質問がある場合は次回授業をお願いします。本授業の復習時間は1時間を標準とします。		
【テキスト (教科書)】		
『一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 ―Advanced―』(朝日出版社)		
【参考書】		
なし		
【成績評価の方法と基準】		
テスト35%、小テスト35%、平常点30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から30分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。		
【学生の意見等からの気づき】		
基礎的な英語力がつくように、文法事項の説明を丁寧にするように心がけました。		
【学生が準備すべき機器他】		
辞書		
【その他の重要事項】		
Hoppiiを使用します。		
【Outline (in English)】		
Course Outline		
The purpose of this class is to help students develop their listening and reading skills for TOEIC.		
Learning Objectives		
Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies such as skimming and scanning.		
Learning Activities Outside of Classroom		
Students will be expected to review what was covered in the previous lesson. Study time will be an hour for each class.		
Grading Criteria/Policy		
The final grade will be based on the following criteria:		
1. Final Exam 35%		
2. Reports 35%		
3. Classroom Participation 30%		

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策 I

2017年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このクラスでは英検準1級・1級とTOEFLの演習を行いながら「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の4つの能力強化を目指します。

【到達目標】

- 1.Be able to read texts on a variety of topics with accuracy
- 2.Be able to understand main points of interview and lectures
- 3.Be able to talk about basic topics
- 4.Be able to write a multi-paragraphs essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing.(授業は演習形式で行います)

- 1.Clarifying objectives and goals (なぜ英語力強化を目指すのか、ゴールをどこに設定するかを明確にする)
- 2.Explaining basic formats of two certificate tests and practicing (英検とTOEFL テストの紹介と演習)
- 3.Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Course Orientation	1.Explanation of the course 2.Clarifying objectives and goals
2回	Introduction to Eiken	1.Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2.Reading &Listening practice to identify your strong and weak points (強みと弱点を知る)
3回	Eiken: Reading and Listening Practice	1.Reading practice 2.Listening practice
4回	Eiken: Paragraph Reading Trainig	1.Reviewing home assignment 2.Learning Paragraph Structure 3.Paragraph reading practice 4.Listening practice
5回	Eiken: Intensive Listening Training	1.Overlapping and shadowing 2.Listening practice 3.Paragraph reading practice

6回	Eiken: Reading and Listening Practice	1.Overlapping and shadowing 2.Listening practice 3.Paragraph reading practice
7回	Eiken: Essay Writing	1.Learning basic writing structures and analyzing model essays 2.Writing an essay 3.Peer Editing
8回	Eiken: Essay Writing and Feedback	1.Rewriting your draft
9回	Introduction to TOEFL Test	1.Explanation of the basic format of TOEFL (TOEFLについて) 2.Reading practice 3.Listening practice
10回	TOEFL: Intensive Reading Training	1.Paragraph reading practice 2.Summarizing passages
11回	TOEFL:Reading and Listening Practice	1.Paragraph reading practice 2.Listening practice
12回	TOEFL: Intensive Listening Training	1.Overlapping and shadowing practice 2.Listening exercises 3.Mini-presentation
13回	TOEFL: Listening and speaking Training	1.Overlapping and shadowing practice 2.Mini-presentation
14回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業1回あたり1時間を標準とします)

- 1.Weekly reading and listening home assignments
- 2.Writing home assignments

【テキスト (教科書)】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Homework, including writing assignment (30%)

In-class contribution, including mini-presentation (20%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I hope your enthusiastic participation will make this course exciting. みなさんの熱心な参加により授業の質が高まっていくのを実感しました。本年度もよい授業を一緒に作り上げていきましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken and TOEFL tests. Students will practice paragraph reading, effective listening and speaking and well-organized writing skills. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (30%) and the contribution made in class (20%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このクラスでは英検準1級・1級と IELTS の演習を行いながら「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の4つの能力強化を目指します。

【到達目標】

- 1.Be able to read texts on a variety of topics with accuracy
- 2.Be able to understand main points of interview and lectures
- 3.Be able to give a mini-presentation on a given topic
- 4.Be able to write a multi-paragraphs essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing.(授業は演習形式で行います)

- 1.Clarifying objectives and goals (なぜ英語力強化を目指すのか、ゴールをどこに設定するかを明確にする)
- 2.Explaining basic formats of three certificate tests and practicing (英検と IELTS テストの紹介と演習)
- 3.Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Course Orientation	1.Explanation of the course 2.Clarifying objectives and goals
2回	Introduction to Eiken	1.Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2.Reading &Listening practice to identify your strong and weak points (強みと弱点を知る)
3回	Eiken: Paragraph Reading Trainig	1.Paragraph reading practice 2.Listening practice
4回	Eiken: Reading and Listening Practice	1.Paragraph reading practice 2.Listening practice
5回	Eiken: Intensive Listening Training #1	1.Overlapping and shadowing 2.Listening practice
6回	Eiken: Intensive Listening Training #2	1.Listening practice 2.Reading rapidly practice

7回	Introduction to IELTS	1.Explanation of the basic format of IELTS (IELTS について) 2.Reading practice 3.Listening practice
8回	IELTS: Reading and Listening Practice	1.Reading practice 2.Listening practice
9回	IELTS: Reading and Listening Practice	1.Overlapping and shadowing 2.Listening practice 3.Reading practice
10回	IELTS Writing: Writing an Essay for Task 2 (1)	1.Learning basic writing structures and analyzing model essays 2.Writing an essay
11回	IELTS Writing: Writing an Essay for Task 2 (2)	1.Peer editing 2.Feedback 3.Rewriting your draft
12回	IELTS: Intensive Listening practice	1.Overlapping and shadowing 2.Listening practice
13回	IELTS: Listening Training and presentation	1.Overlapping and shadowing 2.mini-presentation
14回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業1回あたり1時間を標準とします)

1 Weekly speaking home assignments (Online News in Levels listening or TED watching for mini-presentation)

2 Weekly reading or writing home assignments

【テキスト (教科書)】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Homework, including writing assignment (30%)

In-class contribution, including mini-presentation (20%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I hope your enthusiastic participation will make this course exciting. みなさんの熱心な参加により授業の質が高まっていくのを実感しました。本年度もよい授業を一緒に作り上げていきましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken and IELTS tests. Students will practice paragraph reading, effective listening and speaking and well-organized writing skills. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (30%) and the contribution made in class (20%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策 I

2017年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：1単位

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、TOEIC Listening & Reading Test 600点以上を目指し、主にリーディングとリスニングの解答テクニックの習得を目標とします。また、600点の取得に必要な語彙力と文法の基礎知識を学び、実践力を養うことを目標とします。この授業では予習よりも復習が大切です。反復学習を行う中で自分のミス进行分析し、解決のアプローチを探す訓練をします。

【到達目標】

- ・ TOEIC Listening & Reading Testを受験し、600点以上をとる。
- ・ TOEIC 受験に向けた学習の中で自分の苦手进行分析することができる。
- ・ 苦手に対して、解決のアプローチを考え実行することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

第2回から第13回授業において単語テストを行います。テキストに沿って、リスニング問題や長文読解問題などを解き、解説を行います。各自、解説・フィードバックを受けてテキストの復習をし、単語の暗記を行ってください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction/Goal Setting	授業の進め方の紹介を行う。自己目標を定める。
2	Unit 1	Vocabulary quiz < Listening part > Restaurant
3	Unit 1 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Restaurant
4	Unit 2	Vocabulary quiz < Listening part > Department Store
5	Unit 2 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Department Store
6	Unit 3	Vocabulary quiz < Listening part > Train Station
7	Unit 3 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Train Station
8	Unit 4	Vocabulary quiz < Listening part > Transportation
9	Unit 4 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Transportation

10	Unit 5	Vocabulary quiz < Listening part > Post Office
11	Unit 5 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Post Office
12	Unit 6	< Listening part > Bank
13	Unit 6 cont.	< Reading part > Bank
14	Final	期末試験を実施する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第2回から第11回授業で単語クイズを行います。予習をして授業に参加してください。授業で間違えた箇所を分析し、復習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

教科書：『ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC L&R Test』(石井隆之他著) 成美堂

【参考書】

辞書を持参してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%), 単語テスト (20%), 期末試験 (60%)

原則として、学期期間中に4回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。

毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業では単に答え合わせをするだけでなく、各問題の内容や背景を理解しながら授業を進めたいと思います。

学生の皆さんもできるだけ予習をして授業に臨んでください。

また、TOEIC試験の形式に慣れていただくように、復習もしっかりと行って下さい。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 This course is for students who aim to achieve 600+ points on TOEIC Listening & Reading Test. The course provides students the vocabulary and grammatical lessons. Students are expected to review their mistakes and improve their weaknesses.

【到達目標 (Learning Objectives)】 There are three goals for this course. 1) Achieve 600+ points at TOEIC Listening & Reading Test. 2) Analyze your own mistakes and weaknesses. 3) Come up with a solution to improve your weaknesses.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)】 University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria / Policy)】

Class Participation (30%), Weekly Vocabulary Quiz (20%), Final Exam (50%)

In principle, no more than four absences per semester are allowed.

Late arrivals are considered up to 30 minutes after the class starts, and late arrivals of 30 minutes or more are considered absent.

Two late arrivals will be counted as one absence.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：1単位

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、TOEIC Listening & Reading Test 600 点以上を目指す、主にリーディングとリスニングの解答テクニックの習得を目標とします。また、600 点の取得に必要な語彙力と文法の基礎知識を学び、実践力を養うことを目標とします。この授業では予習よりも復習が大切です。反復学習を行う中で自分のミスを分析し、解決のアプローチを探す訓練をします。春学期の「英語検定試験対策Ⅰ」受講による自身の到達度を確認し、より効果的な学習プランを立てましょう。

【到達目標】

- ・ TOEIC Listening & Reading Test を受験し、600 点以上をとる。
- ・ TOEIC 受験に向けた学習の中で自分の苦手进行分析することができる。
- ・ 苦手に対して、解決のアプローチを考え実行することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

第2回から第13回授業において単語テストを行います。テキストに沿って、リスニング問題や読解問題などを解き、解説を行います。各自、解説・フィードバックを受けてテキストの復習をし、単語の暗記を行ってください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction/Goal Setting	授業の進め方の紹介を行う。受講者は自分の前期到達度を確認し、後期の自己目標を立てる。
2	Unit 7	Vocabulary quiz < Listening part> Airport
3	Unit 7 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> Airport
4	Unit 8	Vocabulary quiz < Listening part> Hotel
5	Unit 8 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> Hotel Unit 7 & 8 Test
6	Unit 9	Vocabulary quiz < Listening part> Hospital
7	Unit 9 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> Hospital
8	Unit 10	Vocabulary quiz < Listening part> Events and Performances

9	Unit 10 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> Events and Performances Unit 9 & 10 Test
10	Unit 11	Vocabulary quiz < Listening part> College
11	Unit 11 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> College < Listening part> Office
12	Unit 12	< Reading part> Office
13	Unit 12 cont.	Unit 11 & 12 Test
14	Final	期末テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第2回から第13回までは毎回授業で単語テストを行います。予習をして授業に参加すること。授業で間違えた箇所を分析し、復習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

教科書：『ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC L&R Test』(石井隆之他著) 成美堂

【参考書】

辞書を持参してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%), Weekly Vocabulary Quiz (20%), 期末試験 (50%)
原則として、学期期間中に4回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。

毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業では単に答え合わせをするだけでなく、各問題の内容や背景を理解しながら授業を進めたいと思います。

学生の皆さんもできるだけ予習をして授業に臨んでください。

また、TOEIC試験の形式に慣れていただくように、復習もしっかりと行って下さい。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 This course is for students who aim to achieve 600+ points on TOEIC Listening & Reading Test. The course provides students the vocabulary and grammatical lessons. Students are expected to review their mistakes and improve their weaknesses.

【到達目標 (Learning Objectives)】 There are three goals for this course. 1) Archive 600+ points at TOEIC Listening & Reading Test. 2) Analyze your own mistakes and weaknesses. 3) Come up with a solution to improve your weaknesses.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)】 University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria / Policy)】 Class Participation (30%), Weekly Vocabulary Quiz (20%), Final Exam (50%)

In principle, no more than four absences per semester are allowed.

Late arrivals are considered up to 30 minutes after the class starts, and late arrivals of 30 minutes or more are considered absent.

Two late arrivals will be counted as one absence.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策 I

2017年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

TOEIC(R)650点を目標として、文法事項、リスニングを中心として学んでいく。従って、予習することが前提となるが、復習に重点を置いてもらいたい。特に、リスニングは毎日自宅学習すること。自分で勉強計画を立て、成果がわかるよう、最低1回は受験して、勉強計画を修正する。また、その結果をレポートにまとめる。そのためには、できれば通年受講が望ましい。

この授業を受講する学生は、必ず第一回目の授業に出席すること。

【到達目標】

英語の文法力・読解力・聴解力を鍛え、TOEIC650点を目標にしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、毎回必ず予習することを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書 (電子辞書可)、授業用ノートを必ず持ってくる。また、授業用ノートのほかに、自宅学習用の単語帳、練習帳を用意すること。

対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を詳しく説明していく
2	文法説明 第1課 Arts & Amusement 1	TOEIC(R)で必要とする基礎的文法の説明
3	第1課 Arts & Amusement 2	リスニング 音の脱落
4	第1課 Arts & Amusement 3	リーディング 名詞・代名詞
5	第2課 Lunch & Parties 1	第1課小テスト リスニング 子音と母音の連結 1
6	第2課 Lunch & Parties 2	リーディング 形容詞 & 冠詞

7	第3課 Medicine & Health 1	第2課小テスト リスニング 子音と母音の連結 2
8	第3課 Medicine & Health 2	リーディング 副詞
9	第4課 Traffic & Travel 1	第3課小テスト リスニング 音の混合
10	第4課 Traffic & Travel 2	リーディング 比較
11	第5課 Ordering & Shipping 1	第4課小テスト リスニング t音の変化
12	第5課 Ordering & Shipping 2	リーディング 動詞 & 時制
13	第6課 Factories & Production 1	第5課小テスト リスニング いろいろな数字に慣れよう
14	授業時試験	授業で学んだことを試験する。 まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

リスニング (教科書付属のCDその他)

NHK語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト (教科書)】

TOEIC(R) L&R TESTへのニューアプローチ 一改訂版—
大須賀直子・塚野壽一・山本厚子著
2019年 成美堂
2000円
ISBN978-4-7919-7189-3

【参考書】

学校語彙で学ぶTOEIC(R)テスト [単語集]
成美堂 (1700円)

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %
小テスト 10 %
レポート課題・発言点 20 %
平常点 10 %

欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。

遅刻は3回で欠席1回に換算される。

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to acquire the reading and listening skills for the TOEIC(R) L&R Test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for the TOEIC TEST.

Learning Objectives

This course will focus on grammar and listening skills with the goal of achieving a TOEIC(R) score of 650. Therefore, students are expected to prepare for the course, but are also expected to place emphasis on reviewing. In particular, students are expected to study listening at home every day. Students are expected to make their own study plans and take at least one exam to see the results and revise their study plans. Also, write a report on the results. For this purpose, it is desirable to take this class throughout the year if possible.

Students who take this class must attend the first class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Three tardies will count as one absence.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

定員制 (36)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

TOEIC(R)650点を目標として、文法事項、リスニングを中心として学んでいく。従って、予習することが前提となるが、復習に重点を置いてもらいたい。特に、リスニングは毎日自宅学習すること。自分で勉強計画を立て、成果がわかるよう、最低1回は受験して、勉強計画を修正する。また、その結果をレポートにまとめる。そのためには、できれば通年受講が望ましい。

この授業を受講する学生は、必ず第一回目の授業に出席すること。

【到達目標】

英語の文法力・読解力・聴解力を鍛え、TOEIC650点台の英単語を目標にしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、毎回必ず予習することを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書 (電子辞書可)、授業用ノートを必ず持ってくる。また、授業用ノートのほかに、自宅学習用の単語帳、練習帳を用意すること。

対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	TOEIC(R)に関する説明・情報、関連分野について
2	第6課 Factories & Production 2	リーディング 未来表現など
3	第7課 Research & Development 1	第6課小テスト リスニング 英語とカタカナ表記との発音の違いを認識しよう。
4	第7課 Research & Development 2	リーディング 主語と動詞の呼応、時制の一致
5	第8課 Computer & Technology 1	第7課小テスト リスニング トピックが何なのかを把握しよう！
6	第8課 Computer & Technology 2	リーディング 能動態&受動態

7	第9課 Employment & Promotion 1	第8課単語テスト リスニング 会話や説明文の状況・場所・人間関係を把握しよう！
8	第9課 Employment & Promotion 2	リーディング 不定詞&動名詞
9	第10課 Advertisements & Personnel1	第9課単語テスト リスニング 場面をイメージしよう！
10	第10課 Advertisements & Personnel 2	リーディング 分詞
11	第11課 Telephone & Messages 1	第10課小テスト リスニング 英語の話の展開の特徴を知ろう
12	第11課 Telephone & Messages 2	リーディング 助動詞
13	第12課 Banking & Finance 1	第11課小テスト リスニング すべての語句を聞き取ろうとしない
14	授業時試験	授業で学んだことを試験する。 まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

リスニング (教科書付属のCDその他)

NHK語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト (教科書)】

TOEIC(R) L&R TESTへのニューアプローチ 一改訂版ー
大須賀直子・塚野壽一・山本厚子著

2019年 成美堂

2000円

ISBN978-4-7919-7189-3

【参考書】

学校語彙で学ぶTOEIC(R)テスト[単語集]

成美堂 (1700円)

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%

小テスト 10%

レポート課題・発言点 20%

平常点 10%

欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。

遅刻は3回で欠席1回に換算される。

各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【その他の重要事項】

秋学期のみ登録予定の学生も、教科書は春学期に購入すること

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to acquire the reading and listening skills for the TOEIC(R) L&R Test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for the TOEIC(R) TEST.

Learning Objectives

This course will focus on grammar and listening skills with the goal of achieving a TOEIC(R) score of 650. Therefore, students are expected to prepare for the course, but are also expected to place emphasis on reviewing. In particular, students are expected to study listening at home every day. Students are expected to make their own study plans and take at least one exam to see the results and revise their study plans. Also, write a report on the results. For this purpose, it is desirable to take this class throughout the year if possible.

Students who take this class must attend the first class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Three tardies will count as one absence.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

Oral Communication I 2017年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：1単位

Intermediate

定員制 (20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、「ソーシャルメディア」「ビジネス」「ストーリー」にまつわるトピックについて、楽しみながら英語で聞き、読み、話す練習をし、それぞれの授業の終わりには、その日のトピックについて自信を持って英語で話せるようになることを目指します。（ソーシャルメディアやビジネスについての知識は必要ありません。）

【到達目標】

日常生活やビジネスで役立つ英語の表現をおぼえ、スピーキング力を向上させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回、その日のトピックについて、まずはリスニングとリーディングを通して主要な語彙や言い回しに慣れ親しみます（＝インプット）。その後、音読やリテリング（自分の言葉で説明する）などのアクティビティを通してインプットした表現を定着させ、最終的に自分が考えた内容を英語で自信を持って話せるようにします（＝アウトプット）。これらを、随時ペアワークによって行います。皆さんのアウトプットとしての発話に対して随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
第2回	Unit 1 What is important to you?	SNSで自分の大切なものを紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第3回	Unit 2 My morning routine	動画サイトでモーニングルーティンを紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第4回	Unit 3 Your recommended restaurant	グルメサイトでおすすめのレストランを紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第5回	Unit 4 The best film ever	映画レビューサイトでお気に入りの映画を紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第6回	Unit 5 What is a true friend?	Q&Aサイトで悩み相談に答える、という設定で英語を話す練習をします。
第7回	Unit 6 The best pizza in town	新メニュー開発に向けてユニークなピザを紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第8回	Unit 7 An ideal private tour plan	ニーズに合わせたツアープランを企画する、という設定で英語を話す練習をします。
第9回	Unit 8 Useful apps for your smartphone	あったらいいなと思うアプリの機能をプレゼンする、という設定で英語を話す練習をします。

第10回	Unit 9 A proposal for new flavors	データをもとにヒット商品の新しい味を提案する、という設定で英語を話す練習をします。
第11回	Unit 10 A great figure in the business world	ビジネス界の偉人を紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第12回	Unit 11 Cheese for Uncle David	クスッと笑える小噺を英語で話す練習をします。
第13回	Unit 12 The baby sitter	英語でストーリーの展開を予測して伝える練習をします。
第14回	期末試験とまとめ	授業でおぼえた表現を用いた試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のUnitで解説したポイントをよく復習して、期末試験でどのUnitのテーマでも自信をもって話せるように声に出して練習してください。予習や宿題は、それぞれのUnitの内容に応じて適宜指示します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Speaking Steps『スピーキング・ステップ～英語を話すための3ステップ～』（金星堂）

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みの積極度 (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。欠席4回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英語を楽しんでいただけて、うれしいです。

【Outline (in English)】

In this course, students listen to, read and speak English on various enjoyable topics regarding 'social media', 'business' and 'stories' so that they can speak confidently about a specific topic in English by the end of each class. The goal of this course is learning useful expressions for daily life and business and improving speaking skills in English. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grades will be decided based on participation (50%) and the final exam (50%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)

Oral Communication II

2017年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：1単位

Intermediate

定員制 (20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、様々な架空の設定やトピックで英語を楽しく話すアクティビティを行うことで、日常会話で役立つ英語表現に慣れ親しみ、様々なトピックについて英語で自信をもって話せるようになることを目指します。

【到達目標】

日常生活や旅行で役立つ英語の表現をおぼえ、スピーキング力を向上させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

それぞれの回のテーマに沿った架空の設定で英会話を行えるような、様々なアクティビティをペアワークやグループワークを取り入れながら行います。その際、随所で簡単なライティングを取り入れながら日常会話や旅行で使える便利な表現をおぼえることで、様々なトピックについて自信をもって英語で話せるようにします。学習成果としての皆さんの英語での発話に対して、随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
第2回	Unit 1 You and your classmates	自己紹介・他己紹介に関連した英会話の練習をします。
第3回	Unit 2 You, going out to eat	外食に関連した英会話の練習をします。
第4回	Unit 3 You, shopping	買い物に関連した英会話の練習をします。
第5回	Unit 4 You, out on the town	街での外出に関連した英会話の練習をします。
第6回	Unit 5 You, planning a trip	旅行の計画に関連した英会話の練習をします。
第7回	Unit 6 You, hotel guest	ホテル滞在に関連した英会話の練習をします。
第8回	Unit 7 You, world traveler	海外旅行に関連した英会話の練習をします。
第9回	Unit 8 You, living with others	ホームステイやシェアハウスに関連した英会話の練習をします。
第10回	Unit 9 You, job hunting	就職活動に関連した英会話の練習をします。
第11回	Unit 10 You, giving good advice	誰かに助言をする際の英会話の練習をします。
第12回	Unit 11 You, solving world problems	世界の諸問題に関連した英会話の練習をします。
第13回	Unit 12 You, inventor for the future	画期的な発明に関連した英会話の練習をします。
第14回	期末試験とまとめ	授業でおぼえた表現を用いた試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のUnitで解説したポイントをよく復習して、期末試験でどのUnitのテーマでも自信をもって話せるように声に出して練習してください。予習や宿題は、それぞれのUnitの内容に応じて適宜指示します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Starting off with role play and discussion『これからの英語コミュニケーション講座』（南雲堂）

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みの積極度 (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。欠席4回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英語を楽しんでいただけて、うれしいです。

【学生が準備すべき機器他】

教科書に書き込んだ内容を写真に撮ってLMS等に提出してもらうことがあるので、スマホまたはタブレットがあるとよいですが、ない場合はご相談ください。

【その他の重要事項】

前学期のOral Communication Iを取っていなくても受講可能です。

【Outline (in English)】

In this course, students speak English in various role-plays in imaginary situations and discussions on enjoyable topics so that they can familiarize themselves with useful daily life expressions in English and speak confidently about various topics in English. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grades will be decided based on participation (50%) and the final exam (50%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English through Movies and Drama I 2017年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：1単位

定員制 (20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト *Integrated Skills Through Movies* により、映画について書かれたエッセイを精読し、映画に出てくる表現が身につくよう練習します。

【到達目標】

1. 楽しみながら英語を読む習慣を身につけます。
2. 映画の内容について理解を深めます。
3. エッセイに出てくる語句や文法の知識を正確に身につけます。
4. 映画に出てくる表現を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

1. 映画の中で注目すべき英語表現を理解します。
 2. 単語や文法を確認しながら各課のエッセイを精読します。
 3. 映画の見どころを解説します。
 4. エッセイ理解のための練習問題と、1で学んだ表現をより深く理解するための練習問題に取り組みます。
- 授業内で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要を説明します。(受講を希望する人は、必ず初回授業に出席してください。)
第2回	Chapter 1: Finding Mr. Right	<i>Bridget Jones's Diary</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第3回	Chapter 2: Email: A Communication Revolution	<i>You've Got M@il</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第4回	Chapter 3: Love and Courage	<i>Titanic</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第5回	Chapter 4: Working Women and The American Dream	<i>Working Girl</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第6回	Chapter 5: The Communication of Love	<i>I am Sam</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第7回	Chapter 6: Over the Rainbow	<i>The Majestic</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第8回	Chapter 7: Figuring Life Out	<i>Cast Away</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第9回	Chapter 8: Who am I?	<i>Bicentennial Man</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。

第10回	Chapter 10: The Price of Fame	<i>The Bodyguard</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第11回	Chapter 11: Hollywood Laughs at Hollywood	<i>America's Sweethearts</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第12回	Chapter 12: Getting Rid of the Politicians	<i>Dave</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第13回	復習と春学期末テスト	春学期に学んだエッセイと映画の中のフレーズについて復習と筆記試験を行います。
第14回	筆記試験のフィードバックと秋学期授業 (English through Movies & Drama II) の予告	筆記試験を返却して徹底解説し、個別のフィードバックも行います。秋学期の課題映画 <i>Notting Hill</i> について解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストのエッセイ読解と各練習問題は、予習を前提として授業を進めます。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。その他に各映画を自主的に鑑賞することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

Integrated Skills Through Movies (Asahi Press)

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「映画を楽しみながら英語を学べてよかった」、「知っているはずの文法項目でも、抜けていたところに気づけてよかった」などと、好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

CALL(BT0309)教室での授業ですが、リアルタイムオンライン授業の回もあります。Zoomでも動画共有を行うので、使用機器 (PC利用のこと) とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoomではお顔出しと静かな環境からの参加をお願いしています。その他、教材・資料の配布や課題提出のため、学習支援システムも利用します。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

You will be expected to read intensively essays in *Integrated Skills Through Movies* and to practice key phrases in movies. Before/after each class, you will be expected to spend two hours to learn the class materials. Grading will be decided based on active participation(50%) and final exam(50%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)
English through Movies and Drama II
2017年度以降入学者
平野井 ちえ子
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火 4/Tue.4
単位数：1単位
定員制 (20)
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

*Notting Hill*により口語表現を学びます。この作品はいわゆるロマンティックコメディですが、日常会話に応用し易い比較的平易な表現を豊富に含んでいます。また、登場人物の台詞からイギリス英語とアメリカ英語の違いも学びます。

【到達目標】

1. 口語表現に親しみ、応用できるよう習得する。
2. **Authentic** な英語に対するリスニング力を向上させる。
3. イギリス英語とアメリカ英語の違いを学ぶ。
4. シナリオを読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

このテキストの各ユニットは、プレタスク（語句や表現の予備知識を習得する）、聴き取り、表現練習、イギリス英語とアメリカ英語の比較、映画本編のスク립ト等から構成されています。プレタスク、聴き取り、表現練習などのタスクから取り組み、英米語の比較を経て、スク립トの一部を読みます。授業内で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要を説明します。最初の授業にも必ず出席してください。
第2回	Unit 1: William's Notting Hill & 'She'	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→発音のポイント→シナリオ・ポイント講義
第3回	Unit 2: Surreal, But Nice	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→シナリオ・ポイント講義
第4回	Unit 3: A Goddess Is A Movie Star	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→発音のポイント→シナリオ・ポイント講義
第5回	Unit 4: Birthday Party	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→シナリオ・ポイント講義
第6回	Unit 5: A Date With Anna	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→発音のポイント→シナリオ・ポイント講義
第7回	Unit 1～Unit 5 の復習	Unit 1～Unit 5 で学んだ口語表現を復習します。

第8回	Unit 6: She's Gone	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→シナリオ・ポイント講義
第9回	Unit 7: She's Back	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→発音のポイント→シナリオ・ポイント講義
第10回	Unit 8: Rude Awakening -Ain't No Sunshine	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→シナリオ・ポイント講義
第11回	Unit 9: Like Me Again	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→発音のポイント→シナリオ・ポイント講義
第12回	Unit 10: The Right Decision -The Meaning of My Life Is She	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→シナリオ・ポイント講義
第13回	復習と秋学期末試験	<i>Notting Hill</i> で学んだ英語表現について復習と筆記試験を行います。
第14回	筆記試験のフィードバックと学習アドバイス	筆記試験を返却して徹底解説し個別のフィードバックも行います。英語学習に適した映画についての講義を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト前半の練習問題は予習を前提に進めます。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Notting Hill ー映画総合教材『ノッティング・ヒルの恋人』新装版（松柏社）

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

以前*Love Actually*を使用しましたが、映画好きの受講者が多く、楽しい授業となりました。

【学生が準備すべき機器他】

CALL(BT0309)教室での授業ですが、リアルタイムオンライン授業の回もあります。Zoomでも動画共有を行うので、使用機器（PC利用のこと）とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoomではお顔出しと静かな環境からの参加をお願いしています。その他、教材・資料の配布や課題提出のため、学習支援システムも利用します。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

You will be expected to learn and practice vocabularies and phrases in the movie *Notting Hill*, understanding the content. Before/after each class, you will be expected to spend two hours to learn the class materials. Grading will be decided based on active participation(50%) and final exam(50%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English through Movies and Drama I 2017年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

定員制 (20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒュー・グラント主演のイギリスのコメディ映画『アバウト・ア・ボーイ』を英語字幕付きで見て、そのスクリプト（映画脚本）と Exercise の載ったテキストを使い、日常的な英語を理解し、学ぶ。映画を見る前に、単語の確認をしてから、映画を見て、読解問題を解き、CD で、一部の聞き取り問題を行ってから、コメディ映画特有の比喩的な表現と British English の問題を解く。これらの作業から、英語の表現を学び、語彙能力をアップし、リスニング能力の向上を目指す。

【到達目標】

映画を見て、英語特有の表現（特に、イギリスの口語）を学び、スクリプトの音源の CD を聞き、リスニング能力を向上させ、内容については、テキストで問題を解き、スクリプトを読むことで、理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

教科書のスクリプトの英文を読み、各エクササイズに答えてもらいます。予習を前提にした授業を行う。授業では、映画を見る前のエクササイズの後、映画を見て、教科書の問題を解き、スクリプトを読むことで、理解を深める。課題やレポートは、「学習支援システム (Webclass)」から提出してもらい、採点あるいは、コメントをつけて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション。	テキストの説明と、どこを予習すべきかなどを説明。また、「学習支援システム (Webclass)」の教材のところに、Youtube の予告編を見て、どんな映画が想像して、ディスカッションする。テキストを手配しておく。
2	Unit 1 A Boy and a Man (万が一、テキストがまだない学生は、学習支援システム (Webclass) の教材に置いてある Unit 1 の Exercises と Script を予習して授業に臨むように。) 次週以降は、テキストがあるという前提で授業する。	ふたりの男子。テキストの予習復習をする。
3	Unit 2 Will joins SPAT	ウィル SPAT に入会。テキストの予習復習をする。
4	Unit 3 You Need a Backup	支えが要るんだ。テキストの予習復習をする。

5	Unit 4 Will and Marcus Become Mates	ウィルとマーカスの奇妙な友情。テキストの予習復習をする。
6	Unit 5 Marcus's Fashion Makeover	マーカスを変身させよう。テキストの予習復習をする。
7	Unit 6 Will's First Real Christmas	初めての本物のクリスマス。テキストの予習復習をする
8	Unit 7 The Boys Get Crushes	ふたりが同時に恋をした。テキストの予習復習をする。
9	Unit 8 Lies, Half-truths & Honesty	「ウソ」と「半端なホント」と「ホントのホント」。テキストの予習復習をする。
10	Unit 9 Marcus's Gift to Mum	お母さんへの贈り物。テキストの予習復習をする。
11	Unit 10 No Man Is an Island	人は孤島ではない。テキストの予習復習をする。
12	Unit 1-10 復習 (Unit 9 までしか見られない可能性があります。)	日本語字幕で、Unit 1 から、最後まで、一気に見て復習する。時間的に Unit 10 まで行かない場合は、翌週に、Unit 10 だけ日本語字幕で見る。
13	Unit 10(?) & Unit 1-5	もし第 1 2 回に日本語字幕で最後まで見られなかった場合は、Unit 10 を日本語字幕で見てから、映画の前半の Unit 1-5 を、英語字幕で復習する。テキストの巻末の「チャック」を学ぶ。
14	Unit 6 - Unit 10	英語字幕で、映画の後半を復習する。テキストの巻末の「チャック」を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの予習復習をする。予習として、テキストの問題を解き、辞書を引きながらスクリプトに目を通して、必ず、注を読んでおく。

【テキスト（教科書）】

Peter Hedges/Chris Weitz & Paul Weitz, 神谷久美子、Kim R.Kanel 『About a Boy』松柏社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

各時間の発表、授業への貢献度を含めた平常点を 30%、授業で回収する書き込みシートを 20%、学期末のレポートを 50% で採点する。課題未提出および欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生は楽しんでいました。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline (in English)】

Develop English skills through watching a film called About a Boy, and learn English expressions and what's going on in the film using its textbook.

Study textbook, through reading each script and solving questions for each week, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 50% and the final paper 50%.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English through Movies and Drama II

2017年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1単位

定員制 (20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リチャード・カーティスが脚本・監督し、ヒュー・グラント、リーアム・ニーソン、コリン・ファース、キーラ・ナイトレイ、ビル・ナイなど、イギリス出身の俳優が綺羅星の如く登場し、さまざまな恋模様が描かれる映画『Love Actually』を、英語字幕付きで見て、そのスクリプトと問題の載ったテキストを使い、映画を見てから、テキストでスクリプトを読み、問題を解くことで、英語の表現を学び、語彙能力をアップし、リスニング能力の向上を目指す。英語力アップだけでなく、イギリスを構成する様々な登場人物たちが話す英語から、階級や立場によって異なるイギリスで話されている英語についても学ぶ。

【到達目標】
映画を見て、英語特有の表現を学び、リスニング能力を向上させ、内容については、スクリプトを読み、テキストで問題を解くことで、理解を深めることができる。また、映画には、さまざまな英語が話されるので、実際に話される英語の聞き取り能力もアップさせる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】
予習を前提にした授業を行う。各章のスクリプト（映画脚本）と問題をあらかじめ予習している状態で、映画を見る前にやる教科書のエクササイズを解いてから、CDで映画のスクリプトを聴きながら、テキストのスクリプトの部分を読む。その後、各週の映画を見て、問題を解いて理解を深める。各Unitのテキストを終えてから、小テストを行い、答え合わせをしてから回収します。また、復習用に「単語テスト」を配布しますので、書き入れて、次週持ってきてください。また、「学習支援システム（Webclass）」に提出してもらう課題は、採点し、コメントをつけて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	テキストのどこを予習すべきかを含めた授業の説明。テキストを手配しておく。
2	Unit 1 Love Actually Is All Around	クリスマス5週間前のロンドン。様々な人物登場。映画の script の読み方について、解説してから、Previewing の答え合わせをしてから、映画を見て、問題に答える。以降の週も同じ流れ。
3	Unit 2 Agony of Being in Love	Daniel たちの物語。
4	Unit 3 Feel Uncomfortable?	6組の人物たちの想い。
5	Unit 4 Have You Gone Completely Insane?	新たな恋の展開？。
6	Unit 5 It's for you	Daniel の奮闘。他の登場人物の中には、自分の恋心に気づくものもいて、、、。

7	Unit 6 You're Beautiful	クリスマスプレゼント問題発生。
8	Unit 7 All I Want for Christmas is You	アメリカに到着する Colin。プレゼント問題がまたまた発生。
9	Unit 8 The Time to Be with the People You Love	ついにクリスマス。様々な想いが交錯。
10	Unit 9 All I want for Christmas is You	すべての恋がクライマックスに。
11	映画の冒頭から、なるべく最後の方まで、Unit 1-9 復習。>	日本語字幕付きで、Unit 1 から 9 を通して、授業時間内で見られるところまで見て復習する。
12	11回目の授業で見られなかった映画の最後までを復習 & Unit 1-5 復習	日本語字幕で、映画の最後まで見たあと、英語字幕付きで、映画の前半の Unit 1-5 を通して見て復習する。
13	映画の後半、Unit 6-9 を通して見る。	英語の字幕で、映画の後半を復習する。
14	Unit 10 Let's Review!	テキストの最初から最後まで復習しておく。授業では、テキストの Unit 10 の答え合わせ。学期末レポートの説明。（レポートは学習支援システム（Webclass）で、提出してもらうので、その確認。）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。テキストの予習復習をする。予習として、辞書を引きながら、テキストのスクリプトに目を通して、各Unitの問題を解いておく。注(Notes)もしっかり予習しておく。

【テキスト（教科書）】
仁科恭徳監修、藤原康弘／鎌倉義士／吉川祐介 編著『Love Actually』松柏社

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
各時間に回収する「小テスト」と3回目の授業以降に授業の冒頭で答え合わせをする復習用の「単語テスト」を20%。各授業におけるリアクションを含めた平常点を30%、学期末のレポートを50%で採点する。
各課題未提出あるいは欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
2025年度から新たなテキストを使用するので、これまでの別のテキスト／映画についての意見は参考にならない可能性がありますので、無回答とします。

【学生が準備すべき機器他】
辞書

【Outline (in English)】
Develop English skills through watching a film called *Love Actually*, and learn English expressions and what's going on in the film using its textbook.
Study textbook, through reading each script and solving questions for each week, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 50%and the final paper 50%.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

TOEIC(R) I

2017年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：1単位

Intermediate

定員制 (20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「TOEIC®って何？」という入門レベルの話題から出発しますが、秋学期授業終了時には、TOEIC®で問われる分野知識・言語スキルを一通り網羅できるよう、春学期から出題内容・言語スキルを系統的に学んでいきます。

【到達目標】

TOEIC®の概要を理解しスコアを伸ばすことが目的であることは言うまでもありませんが、その場限りの丸暗記や戦略本位の勉強でなく、いかに長期的視野に立って実用英語の力を養うか、を念頭に授業を運営していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

主として、後述のcore textに沿った授業ですが、単なるTOEIC®形式の問題演習だけでなく、言語知識・スキルが定着しやすいよう、身近な英語リソースの紹介を行いながら、クラス授業を展開します。進捗を見計らって、e-learningによる個別問題演習も行います。授業内で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期・秋学期の概要とレベルの説明。
第2回	Unit 1: Travel (名詞を学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第3回	Unit 2: Dining Out (形容詞を学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第4回	Unit 3: Media (副詞を学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第5回	Unit 4: Entertainment (時制を学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第6回	Unit 1～4	復習のためのポイント講義と問題演習
第7回	Unit 5: Purchasing (主語と動詞の一致を学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第8回	Unit 6: Clients (能動態・受動態を学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第9回	Unit 7: Recruiting (動名詞・不定詞を学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第10回	Unit 8: Personnel (現在分詞・過去分詞を学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。

第11回	Unit 5～8	復習のためのポイント講義と問題演習
第12回	Interview	個別の面接試験で、テキスト学習の定着度を確認しアドバイスを行います。
第13回	復習と春学期末テスト	春学期に学んだ単語・フレーズについて復習と筆記試験を行います。
第14回	春学期の総括	期末テストを返却して解説します。秋学期授業の予告、夏季休暇中の勉強のしかたなどを説明し、個別指導を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記Core textや関連配布プリントの予習を前提として授業を進めます。秋学期12月のTOEIC®本試に向けて、各自自分の学習計画を立てるよう心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Score Booster for the TOEIC® L&R Test Intermediate (金星堂)
そのほか、プリント教材

【参考書】

URL (例)

<http://heathrow.com/><https://www.expedia.co.uk/><https://www.ox.ac.uk/gazette/>など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%)、Interview (20%)、期末テスト (40%)から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

通年履修者の多くが、目標スコアを達成できたようです。少人数クラスならではのコミュニケーションが効果的だったのではと自負しています。

【学生が準備すべき機器他】

CALL(BT0309)教室での授業ですが、リアルタイムオンライン授業の回もあります。Zoom授業では、使用機器 (PC利用のこと) とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoom授業ではお顔出しと静かな環境からの参加をお願いしています。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

We will start with the introductory topic, 'What it is like the TOEIC® test?' Our final goal for a series of 'TOEIC(R)I・II' is to acquire knowledge and skills required for improving TOEIC® scores. We will learn such knowledge and skills systematically from the spring semester. By the end of the course, students should get familiar with the testing types. Before/after each class, you will be expected to spend two hours to learn the core material. Grading will be decided based on active participations(60%) and final exams(40%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)

TOEIC(R) II

2017年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：1単位

Intermediate

定員制 (20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習を踏まえて、秋学期はとくにビジネスシーンを意識した内容に取り組みます。秋学期終了時には、TOEIC®で問われる分野知識・言語スキルを一通り網羅できるよう、系統的に学んでいきます。

【到達目標】

TOEIC®の概要を理解しスコアを伸ばすことが目的であることは言うまでもありませんが、その場限りの丸暗記や戦略本位の勉強でなく、いかに長期的視野に立って実用英語の力を養うか、を念頭に授業を運営していきます。12月のTOEIC®本試は全員に受験していただく予定です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

主として、後述のcore textに沿った授業ですが、単なるTOEIC®形式の問題演習だけでなく、言語知識・スキルが定着しやすいよう、身近な英語リソースの紹介を行いながら、クラス授業を展開します。進捗を見計らって、実践力を養う一斉小テストも行います。授業内で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の学習内容の復習、秋学期の学習計画の説明などを行います。
第2回	Unit 9: Advertising (代名詞を学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第3回	Unit 10: Meetings (比較を学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第4回	Unit 11: Finance (前置詞を学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第5回	Unit 8～11	復習のためのポイント講義と問題演習
第6回	Unit 12: Offices (接続詞を学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第7回	問題演習 (1)	パート別に制限時間を設けての問題演習
第8回	問題演習 (2)	パート別に制限時間を設けての問題演習
第9回	Unit 13: Daily Life (前置詞と接続詞の違いを学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第10回	Unit 14: Sales & Marketing (関係代名詞を学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。

第11回	Unit 15: Events (語彙の結びつきを学ぶ)	テキストによるTOEIC®形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第12回	Interview	個別の面接試験で、テキスト学習の定着度を確認しアドバイスを行います。
第13回	復習と秋学期末テスト	秋学期に学んだ単語・フレーズについて復習と筆記試験を行います。
第14回	秋学期の総括	期末テストを返却して解説します。 12月のTOEIC®スコアレポート提出後、学生本人の希望に応じて個別指導を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記Core textや関連配布プリントの予習を前提として授業を進めます。12月のTOEIC®本試に向けて、各自自分の学習計画を立てるよう心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Score Booster for the TOEIC® L&R Test Intermediate (金星堂)
そのほか、プリント教材

【参考書】

『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 10』(Educational Testing Service)
URL (例)
<http://heathrow.com/>
<https://www.expedia.co.uk/>
<https://www.ox.ac.uk/gazette/>など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、Interview (20%)、期末テスト(30%)、12月TOEIC®本試のスコア (20%)から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の多くが、目標スコアを達成できたようです。少人数クラスならではのコミュニケーションが効果的だったのではと自負しています。

【学生が準備すべき機器他】

CALL(BT0309)教室での授業ですが、リアルタイムオンライン授業の回もあります。Zoom授業では、使用機器(PC利用のこと)とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoom授業ではお顔出し参加と静かな環境からの参加をお願いしています。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

Our final goal for a series of 'TOEIC(R)I・II' is to acquire knowledge and skills required for improving TOEIC® scores. We will continue to learn such knowledge and skills systematically. Especially in the fall semester, we will focus on a variety of business situations. By the end of the course, students should reach their target score in the TOEIC® testing. Before/after each class, you will be expected to spend two hours to learn the core material. Grading will be decided based on active participations(30%), interview(20%), final exam(30%) and TOEIC® score(20%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)

TOEIC(R) I

2017年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1単位

Intermediate

定員制 (20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、TOEICに初めて挑戦する人もスコアを上げたい人も、TOEICのための学習を通して、ビジネス英語だけでなく、日常生活で役立つ英語力（特にリスニングとリーディング）を身につけていきます。

【到達目標】

TOEICスコア500～600点取得できる程度の英語力を身につけると同時に、日常で役立つ英語の表現をおぼえ、リスニングとリーディングの基礎力をつけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回教科書を1unitずつ学習していきます。各unitでTOEIC全パートの問題形式の解法ポイントを押さえながら演習を行うと同時に、日本人にとって聞き取りにくいリスニングのポイントや見落としがちな文法事項を解説します。また、ビジネスや日常生活の様々な分野に関する英語に触れることで、TOEICだけでなく日常生活で役立つ表現をおぼえていきます。皆さんが取り組む演習問題等の解答に対して、随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、TOEICの概要
第2回	Unit 1 Restaurants	代名詞の聞き取り、人称代名詞
第3回	Unit 2 Entertainment	機能語の聞き取り、不定代名詞
第4回	Unit 3 Business	短縮形の聞き取り、現在・過去の時制
第5回	Unit 4 The Office	つながる音の聞き取り、現在完了
第6回	Unit 5 Telephone	音の脱落、前置詞（時・時間）
第7回	Unit 6 Letters & E-mails	音の脱落、前置詞（位置・場所）
第8回	Unit 7 Health	音の連結、数量形容詞
第9回	Unit 8 The Bank & The Post Office	音の連結、自動詞と他動詞
第10回	Unit 9 New Products	音の連結と脱落、接尾辞と品詞ー形容詞
第11回	Unit 10 Travel	短い対話文の聞き取り、接尾辞と品詞ー副詞
第12回	Unit 11 Daily Life	長い対話文の聞き取り、分詞構文
第13回	Unit 12 Job Applications	長い文章の聞き取り、比較
第14回	期末試験とまとめ	授業で勉強した内容に基づいた試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、授業で学んだ内容をよく復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Best Practice for the TOEIC L&R Test: Intermediate (成美堂)

*同タイトルのBasicまたはAdvancedと間違えないように気を付けてください。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。欠席4回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に気をつけます。

【Outline (in English)】

In this course, whether they are new to TOEIC or want to improve their score, through learning for TOEIC, students will acquire not only business English, but also English skills (especially listening and reading skills) that will be useful in everyday life. The aim of this course is for students to acquire English language skills to the extent that they can obtain a TOEIC score of 500-600 points. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grades will be decided based on participation (50%) and the final exam (50%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)

TOEIC(R) II

2017年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：1単位

Intermediate

定員制 (20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、TOEICに初めて挑戦する人もスコアを上げたい人も、TOEICのための学習を通して、ビジネス英語だけでなく、日常生活で役立つ英語力（特にリスニングとリーディング）を身につけていきます。

【到達目標】

TOEICスコア500～600点取得できる程度の英語力を身につけると同時に、日常で役立つ英語の表現をおぼえ、リスニングとリーディングの基礎力をつけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回教科書を1unitずつ学習していきます。各unitでTOEIC全パートの問題形式の解法ポイントを押さえながら演習を行うと同時に、日本人にとって聞き取りにくいリスニングのポイントや見落としがちな文法事項を解説します。また、ビジネスや日常生活の様々な分野に関する英語に触れることで、TOEICだけでなく日常生活で役立つ表現をおぼえていきます。皆さんが取り組む演習問題等の解答に対して、随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、TOEICの概要
第2回	Unit 1 Sightseeing / Guided Tour	「主語」と「述語動詞」を探そう
第3回	Unit 2 Restaurant	「人称」と「単数」か「複数」か、を考えよう
第4回	Unit 3 Hotel / Service	「現在形」か「現在進行形」か。「過去形」か「現在完了形」か。
第5回	Unit 4 Employment	「自動詞」と「他動詞」を使い分けよう
第6回	Unit 5 Entertainment	「現在分詞」も「過去分詞」も形容詞の働きをする
第7回	Unit 6 Shopping / Purchases	「文の要素」を思い出そう
第8回	Unit 7 Sports / Health	「基本5文型」と「第2文型」、「第3文型」の見分け方
第9回	Unit 8 Doctor's Office / Pharmacy	接続詞の種類と接続詞ではない「接続副詞」
第10回	Unit 9 Hobbies / Art	接続詞vs前置詞のよくあるパターンと関連語句
第11回	Unit 10 Education / Schools	「関係代名詞」と「関係副詞」
第12回	Unit 11 Technology / Office Supplies	「比較級」と「最上級」
第13回	Unit 12 Transportation	「仮定法」と「倒置」のケース
第14回	期末試験とまとめ	授業で勉強した内容に基づいた試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、授業で学んだ内容をよく復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Progressive Strategy for the TOEIC L&R Test (成美堂)

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。欠席4回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に気をつけます。

【その他の重要事項】

春学期のTOEIC Iを受講していなくても、受講できます。

【Outline (in English)】

In this course, whether they are new to TOEIC or want to improve their score, through learning for TOEIC, students will acquire not only business English, but also English skills (especially listening and reading skills) that will be useful in everyday life. The aim of this course is for students to acquire English language skills to the extent that they can obtain a TOEIC score of 500-600 points. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grades will be decided based on participation (50%) and the final exam (50%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策 I

2017年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

定員制 (20)

2018年度までに「英検準備 I」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検準1級と TOEFL の演習を行いながら「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の4つの能力強化を目指します。英語検定試験受験予定者に加え、英語の継続学習希望者の受講も歓迎します。

【到達目標】

- 1.Be able to read texts on a variety of topics with accuracy
- 2.Be able to understand main points of interviews and lectures
- 3.Be able to talk about basic topics
- 4.Be able to write a multi-paragraph essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing. Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (授業は演習形式で行います)

- 1.Clarifying objectives and goals (なぜ英語力強化を目指すのか、ゴールをどこに設定するかを明確にする)
- 2.Explaining basic formats of two certificate tests and practicing (英検と TOEFL テストの紹介と演習)
- 3.Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Course Orientation	1 Explanation of the course 2 Clarifying objectives and goals
2回	Introduction to Eiken	1 Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2 Reading & Listening practice to identify your strong and weak points(強みと弱点を知る)
3回	Eiken: Reading and Listening Practice	1 Reading practice 2 Listening practice
4回	Eiken: Paragraph Reading Trainig	1 Learning Paragraph Structure 2 Paragraph reading practice 2 Listening practice
5回	Eiken: Intensive Listening Training	1 Overlapping 2 Prosodic shadowing 3 Contents shadowing
6回	Eiken: Reading and Listening Practice	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Paragraph reading practice

7回	Eiken: Essay Writing	1 Learning basic writing structures and analyzing model essays 2 Writing an essay 3.Peer editing
8回	Eiken: Essay Writing and Feedback	1.Writing your draft 2.Feedback
9回	Introduction to TOEFL Test	1 Explanation of the basic format of TOEFL (TOEFL について) 2 Reading practice 3 Listening practice
10回	TOEFL: Intensive Reading Training	1 Paragraph reading practice 2 Summarizing passages
11回	TOEFL: Reading and Listening practice	1 Reviewing paragraph structure 2 Paragraph reading practice 3.Listening practice
12回	TOEFL: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing practice 2 Listening exercises
13回	TOEFL: Listening and speaking Training	1 Overlapping and shadowing practice 2 Mini-presentation
14回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業1回あたり1時間を標準とします)

- 1.Weekly reading or listening home assignments
- 2.Writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Homework, including writing assignment (30%)

In-class contribution, including mini-presentation (20%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

Your classmates' encouragement will keep you motivated.

語学学習は継続が重要です。互いに励ましあいながらさらなるレベルアップを目指しましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken and TOEFL tests. The goal of this course is to develop skills in paragraph reading, effective listening and speaking, and well-structured writing. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (30%) and the contribution made in class (20%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

定員制 (20)

2018年度までに「英検準備Ⅱ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検とIELTSの演習を行いながら「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の4つの能力強化を目指します。英語検定試験受験予定者に加え、英語の継続学習希望者の受講も歓迎します。

【到達目標】

- 1.Be able to read texts on a variety of topics with accuracy
- 2.Be able to understand main points of interview and lectures
- 3.Be able to give a mini-presentation on a given topic
- 4.Be able to write a multi-paragraphs essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing. Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (授業は演習形式で行います)

- 1.Clarifying objectives and goals (なぜ英語力強化を目指すのか、ゴールをどこに設定するかを明確にする)
- 2.Explaining basic formats of three certificate tests and practicing (英検とIELTSテストの紹介と演習)
- 3.Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Course Orientation	1.Explanation of the course 2.Clarifying objectives and goals
2回	Introduction to Eiken	1.Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2.Reading & Listening practice to identify your strong and weak points(強みと弱点を知る)
3回	Eiken: Paragraph Reading Trainig	1.Paragraph reading practice 2.Listening practice
4回	Eiken: Reading and Listening Practice	1.Paragraph reading practice 2.Listening practice
5回	Eiken: Intensive Listening Training #1	1.Overlapping and shadowing 2.Listening practice
6回	Eiken: Intensive Listening Training #2	1.Listening practice 2.Reading rapidly practice

7回	Eiken: Essay Writing	1.Learning basic writing structures and analyzing model essays 2.Writing an essay
8回	Eiken: Essay Writing and Feedback	1.Peer editing 2.Feedback 3.Rewriting your draft
9回	Introduction to IELTS	1.Explanation of the basic format of IELTS(IELTSについて) 2.Reading practice 3.Listening practice
10回	IELTS: Reading and Listening Practice	1.Reading practice 2.Listening practice
11回	IELTS: Reading and Listening Practice	1.Overlapping and shadowing 2.Listening practice 3.Reading practice
12回	IELTS: Intensive Listening practice	1.Overlapping and shadowing 2.Listening exercises
13回	IELTS: Listening Training and presentation	1.Overlapping and shadowing 2.mini-presentation
14回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業1回あたり1時間を標準とします)

- 1 Weekly speaking home assignments (Online News in Levels listening or TED watching for mini-presentation)
- 2 Weekly reading or writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Homework, including writing assignment (30%)

In-class contribution, including mini-presentation (20%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

Your classmates' encouragement will keep you motivated. 語学学習は継続が重要です。互いに励ましあいながらさらなるレベルアップを目指しましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken and IELTS tests. The goal of this course is to develop skills in paragraph reading, effective listening and speaking, and well-structured writing. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (30%) and the contribution made in class (20%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

Business Communication I 2017年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制 (20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスで使われる英語を学ぶことで、人間関係、および、取引関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの取り方を音声、文書の両面で習得する。

【到達目標】

英語で行われる国際ビジネス場面の話題について大まかな理解をもち、口頭および文書でコミュニケーションできるようにする。また、企業内の書類、商業通信文について英和ともに知識を習得し、英語でビジネスをする力を身に着ける。具体的には、基本的なビジネス英語の聴解や読解ができ、英語による口頭表現やEメール、英文レターなど自ら発信する文章を書くことができるようになる。これにより、TOEIC® Listening/Readingのみならず、TOEIC® Speaking /Writingにも対応できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業始めにListening小テストを毎回行う。メイン教材としては、まずTOEIC®実問題によりビジネス英語に慣れ、その後にビジネスDVD視聴、英文書類、Eメール作成と添削指導を行う。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Academic English	Business Communication に必と Business English
第2回	TOEIC® Listening Test	要な英語について概説する TOEIC® のListening問題を一回分(100問)解き、答え合わせを行う
第3回	Listening 1 TOEIC® Grammar 問題1	英語音声聴解 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる1（文法）
第4回	Listening 2 TOEIC® Grammar 問題2	英語音声聴解 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる2（語彙）
第5回	Listening 3 TOEIC® Reading 問題1	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる1（単一文書単語補充）
第6回	Listening 4 TOEIC® Reading 問題2	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる2（単一文書読解）
第7回	Listening 5 TOEIC® Reading 問題3	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる3（複数文書の関連付け）
第8回	Listening 6 TOEIC® Reading 問題4	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる4（図表・伝票を含む複数文書）

第9回	Listening 7 英文帳票作成	英語音声聴解 Leave Request Domestic/Oversea Travel Form
第10回	Listening 8 社内文書作成	英語音声聴解 Interoffice Memo Notice
第11回	Listening 9 社交文書作成1	英語音声聴解 ビジネスDVD視聴①会合
第12回	Listening 10 社交文書作成2	英語音声聴解 ビジネスDVD視聴②業務連絡
第13回	就職活動文書作成	履歴書作成 応募カバーレター 紹介状・推薦状 試験・まとめと解説
第14回	期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
和訳担当を割り当てられたときは、必ず自宅で辞書で単語を引きながら読み、問題の答えを考えてくることが必要。

【テキスト（教科書）】

TOEIC®問題、Listening問題、英文レター・メール等のWriting問題、ビジネスシーンを収録したDVDのDictation問題は、すべてプリントを配布する。

【参考書】

授業に必要なプリントを配布するため、特に参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、平常点40%。平常点は授業参加度10%、リスニング小テスト平均点10%、課題等20%を原則とする。よって、評価点は試験60点、平常点40点の合計100点とし、60%以上の得点で合格。授業始めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、小テストも0点となる。割り当てられた課題を遂行しない、担当のある日に無断欠席などは課題点がマイナスになり、たいへん不利になる。欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

TOEIC問題の中のビジネス関連部分を解きながらビジネス英語に慣れていき、無理なくビジネスシーンの英語に対応できるようになることを目指している。履修者の中でTOEIC受験を予定する人からの質問等には対応する。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書。英文メール&レターWritingを行う際、備付PCのない教室が割り当てられた場合は各自のモバイルPCを持ち込むことになる。PCの都合がつかない学生にはPC貸与を受けるなど方策をとるので、PCの有無で受講を控える必要はない。なお、授業で扱うTOEIC実問題が難しいと不安な場合は、学習支援システムに解説パワーポイントスライドをアップするので予習に活用していただきたい。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回授業に出席し、ガイダンスを受けること。また、単位取得のためには授業参加状況も大切で、遅刻・欠席のないように願う。

【Outline (in English)】

This class develops communication skills in both spoken and written English needed to succeed in international business and enlarge knowledge of the international business world. At the beginning of every class, students take a short exam of dictation of English sentences frequently used in a business correspondence. There are twenty chapters and the chapter themes follow the real trading process such as Inquiry, Quotations, Offers, Discounts, Orders, Contracts, Opening L/C, Insurance, Shipment, Customs Clearance, Drafts, and so on, and students can have a knowledge of international business flow. Additionally, the main part of class has two phases: listening and reading of business related materials in TOEIC®, and writing business letters and e-mails. The former activity enables students to imagine a business scene and know the basic format of various documents and English expression used in a business world, and based on these knowledge, they try the latter activity — business correspondence. Beginning from writing formats such as “Leave Request,” “Cash-advanced Request,” “Expense Report,” and documents used in import /export, the final step is writing a business letter with a company letterhead and sending/receiving a business e-mail. All these writings are proofread and returned to students. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part from the text. However, they need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student’s overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, mini-listening test average score 10%, and in class contribution 30%.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

Business Communication II 2017年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制 (20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスで使われる英語を学ぶことで、人間関係、および、取引関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの取り方を音声、文書の両面で習得する。

【到達目標】

英語で行われる国際ビジネス場面の話題について大まかな理解を持ち、口頭および文書でコミュニケーションできるようにする。また、企業内の書類、商業通信文について英和ともに知識を習得し、英語でビジネスをする力を身に着ける。具体的には、基本的なビジネス英語の聴解や読解ができ、英語による口頭表現やEメール、英文レターなど自ら発信する文章を書くことができるようになる。これにより、TOEIC® Listening/ReadingのみならずTOEIC® Speaking/Writingにも対応できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業始めにListening小テストを毎回行う。メイン教材としては、まずTOEIC®実問題によりビジネス英語に慣れ、その後にビジネスDVD視聴、英文書類、Eメール作成と添削指導を行う。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。なお、春学期とは別の問題を使って授業を進めるため、秋学期からの履修も可能で不利は一切ない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Business EnglishとTOEIC®等各種資格試験	Business Communicationに必要な英語とTOEIC®, ビジネス英語検定試験等について解説する
第2回	TOEIC® Listening Test	TOEIC®のListening問題を一回分(100問)解き、答え合わせを行う
第3回	Listening 1 TOEIC® Grammar 問題1	英語音声聴解 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 1(文法)
第4回	Listening 2 TOEIC® Grammar 問題2	英語音声聴解 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 2(語彙)
第5回	Listening 3 TOEIC® Reading 問題1	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 1(単一文書単語補充)
第6回	Listening 4 TOEIC® Reading 問題2	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 2(単一文書読解)
第7回	Listening 5 TOEIC® Reading 問題3	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 3(複数文書の関連付け)

第8回	Listening 6 TOEIC® Reading 問題4	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 4(図表・伝票を含む複数文書)
第9回	Listening 7 英文帳票作成	英語音声聴解 Cash Advanced Payment, Expense Report, Cash Payment Request
第10回	Listening 8 貿易書類作成	英語音声聴解 Packing List, Invoice
第11回	Listening 9 転職・売込	英語音声聴解 ビジネスDVD視聴①転職
第12回	Listening 10 会議英語	英語音声聴解 ビジネスDVD視聴②会議・プレゼンテーション
第13回	価格交渉と取引成立	ビジネスDVD視聴③交渉
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

和訳担当を割り当てられたときは、必ず自宅で辞書で単語を調べながら読み、問題の答えを考えてくることが必要。

【テキスト（教科書）】

TOEIC®問題、Listening問題、英文レター・メール等のWriting問題、ビジネスシーンを収録したDVDのDictation問題は、すべてプリントを配布する。

【参考書】

授業に必要なプリントを配布するため、特に参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、平常点40%。平常点は授業参加度10%、リスニング小テスト平均点10%、課題等20%を原則とする。よって、評価点は試験60点、平常点40点の合計100点とし、60%以上の得点で合格。授業始めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、小テストも0点となる。割り当てられた課題を遂行しない、担当のある日に無断欠席などは課題点がマイナスになり、たいへん不利になる。欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

TOEIC問題の中のビジネス関連部分を解きながらビジネス英語に慣れていき、無理なくビジネスシーンの英語に対応できるようになることを目指している。履修者の中でTOEIC受験を予定する人からの質問等には対応する。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書。英文メール&レターWritingを行う際、備付PCのない教室が割り当てられた場合は各自のモバイルPCを持ち込むことになる。PCの都合がつかない学生にはPC貸与を受けるなど方策をとるので、PCの有無で受講を控える必要はない。なお、授業で扱うTOEIC実問題が難しいと不安な場合は、学習支援システムに解説パワーポイントスライドをアップするので予習に活用していただきたい。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回授業に出席し、ガイダンスを受けること。また、単位取得のためには授業参加状況も大切で、遅刻・欠席のないようにお願いする。

【Outline (in English)】

This class develops communication skills in both spoken and written English needed to succeed in international business and enlarge knowledge of the international business world. At the beginning of every class, students take a short exam of dictation of English sentences frequently used in a business correspondence. There are twenty chapters and the chapter themes follow the real trading process such as Inquiry, Quotations, Offers, Discounts, Orders, Contracts, Opening L/C, Insurance, Shipment, Customs Clearance, Drafts, and so on, and students can have a knowledge of international business flow. Additionally, the main part of class has two phases: listening and reading of business related materials in TOEIC®, and writing business letters and e-mails. The former activity enables students to imagine a business scene and know the basic format of various documents and English expression used in a business world, and based on these knowledge, they try the latter activity — business correspondence. Beginning from writing formats such as “Leave Request,” “Cash-advanced Request,” “Expense Report,” and documents used in import /export, the final step is writing a business letter with a company letterhead and sending/receiving a business e-mail. All these writings are proofread and returned to students. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part from the text. However, they need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student’s overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, mini-listening test average score 10%, and in class contribution 30%.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

ニュース英語 I

2017年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

定員制 (20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

ニュース英語を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。各章の終わりには日英の変換練習を行い、ライティング・スピーキング力の向上に繋げていく。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。洋楽、洋画、TOEIC®の問題等も副教材として積極的に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第2回	Chapter 01: Reading	Vocabulary /Chunk reading
第3回	Chapter 01: Post-reading	Comprehension /Grammar section /Sight translation
第4回	Chapter 02: Reading	Vocabulary /Chunk reading
第5回	Chapter 02: Post-reading	Comprehension /Grammar section /Sight translation
第6回	Chapter 03: Reading	Vocabulary /Chunk reading
第7回	Chapter 03: Post-reading	Comprehension /Grammar section /Sight translation
第8回	Chapter 04: Reading	Vocabulary /Chunk reading
第9回	Chapter 04: Post-reading	Comprehension /Grammar section /Sight translation
第10回	Chapter 05: Reading	Vocabulary /Chunk reading
第11回	Chapter 05: Post-reading	Comprehension /Grammar section /Sight translation
第12回	Chapter 06: Reading	Vocabulary /Chunk reading
第13回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第14回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて60分程度を標準とする。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業である。予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかるので十分な準備が必要である。

【テキスト（教科書）】

VOA News: Reading for Cross-cultural Understanding (英宝社, 2021)

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50% + プレゼンテーション20% + 提出課題20% + 平常点10%によって評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上を合格点とする。

欠席が4回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退3回で欠席1回の扱いとする。授業開始後30分以上の遅刻、および授業終了30分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

チャンクリーディング、洋楽クイズ、クイズサイトの利用を引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】

学内ネットワークを利用するので、受講生はIDとパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint. The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

Students are required to practice phrase reading and oral reading at least for 60 minutes a week outside of class.

Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20%) + Participation (10%)

LANe200LA (英語 / English language education 200)

ニュース英語Ⅱ

2017年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

定員制（20）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

ニュース英語を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

ペア/グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。各章の終わりに日英の変換練習を行い、ライティング・スピーキング力の向上に繋げていく。提出課題に対しては、個別またはクラスのフィードバックを行う。洋楽、洋画、TOEIC®の問題等も副教材として積極的に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第2回	Chapter 06: Post-reading	Comprehension /Grammar section /Sight translation
第3回	Chapter 07: Reading	Vocabulary /Chunk Reading
第4回	Chapter 07: Post-reading	Comprehension /Grammar section /Sight translation
第5回	Chapter 08: Reading	Vocabulary /Chunk Reading
第6回	Chapter 08: Post-reading	Comprehension /Grammar section /Sight translation
第7回	Chapter 09: Reading	Vocabulary /Chunk Reading
第8回	Chapter 09: Post-reading	Comprehension /Grammar section /Sight translation
第9回	Chapter 10: Reading	Vocabulary /Chunk Reading
第10回	Chapter 10: Post-reading	Comprehension /Grammar section /Sight translation
第11回	Chapter 11: Reading	Vocabulary /Chunk Reading
第12回	Chapter 11: Post-reading	Comprehension /Grammar section /Sight translation
第13回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第14回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて60分程度を標準とする。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業である。予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかるので十分な準備が必要である。

【テキスト（教科書）】

VOA News: Reading for Cross-cultural Understanding (英宝社, 2021)

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50%＋プレゼンテーション20%＋提出課題20%＋平常点10%によって評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上を合格点とする。

欠席が4回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退3回で欠席1回の扱いとする。授業開始後30分以上の遅刻、および授業終了30分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

チャンクリーディング、洋楽クイズ、クイズサイトの利用を引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】

学内ネットワークを利用するので、受講生はIDとパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【Outline (in English)】

This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint. The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

Students are required to practice phrase reading and oral reading at least for 60 minutes a week outside of class.

Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20%) + Participation (10%)

LANd200LA (ドイツ語 / German language education 200)

ドイツ語コミュニケーション I 2017年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。
課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 自己紹介 (簡単な表現・会話)	Einführung Zur Person (einfache Redemittel, Übungen)
②	自己紹介 (ほかの表現・練習)	Zur Person (weitere Redemittel, Übungen)
③	趣味 (簡単な表現・会話)	Hobbys (einfache Redemittel, Übungen)
④	趣味 (ほかの表現・練習)	Hobbys (weitere Redemittel, Übungen)
⑤	家族	Familie
⑥	食べ物・飲み物 (簡単な表現・会話)	Essen & Trinken (einfache Redemittel, Übungen)
⑦	食べ物・飲み物 (ほかの表現・練習)	Essen & Trinken (weitere Redemittel, Übungen)
⑧	総復習	Wiederholung (Wortschatz, Grammatik, Redemittel)
⑨	住居	Wohnung
⑩	時刻と日付 (簡単な表現・会話)	Uhrzeit und Datum (einfache Redemittel, Übungen)
⑪	時刻と日付 (ほかの表現・練習)	Uhrzeit und Datum (weitere Redemittel, Übungen)

⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	練習	Übungen zur Wiederholung
⑭	全体のまとめとテスト	Zusammenfassung Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法・語彙などの復習 & 課題（ワークブック・プリント・インターネット上の練習問題）
本授業の準備・復習時間は、計1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト/レポート 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合にはZoomで接続可能な機器が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline:

German language course (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture and society)

Learning Objectives:

The purpose of this course is to acquire practical German language skills and cross-cultural understanding.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.

Grading Criteria /Policy: Term-end examination/report: 50%, in-class contribution 50%

LANd200LA (ドイツ語 / German language education 200)

ドイツ語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者**JENS OSTWALD**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。

単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	Einführung
②	春学期の復習	Wiederholung
③	旅行のためのドイツ語 1 道を尋ねる (簡単な表現)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - einfache Redemittel)
④	旅行のためのドイツ語 2 道を尋ねる (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - weitere Redemittel, Übungen)
⑤	旅行のためのドイツ語 3 ホテルで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Hotel - einfache Redemittel)
⑥	旅行のためのドイツ語 4 ホテルで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Hotel - weitere Redemittel, Übungen)
⑦	旅行のためのドイツ語 5 レストランで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Restaurant - einfache Redemittel)

⑧	旅行のためのドイツ語 6 レストランで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Restaurant - weitere Redemittel, Übungen)
⑨	旅行のためのドイツ語 7 駅にて (簡単な表現)	Reisedeutsch (Verkehr - einfache Redemittel)
⑩	旅行のためのドイツ語 8 駅にて (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Verkehr - weitere Redemittel, Übungen)
⑪	旅行のためのドイツ語 9	Reisedeutsch (Reiseziele)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen Übungen zur Wiederholung
⑬	復習	Übungen zur Wiederholung
⑭	全体のまとめとテスト	Zusammenfassung Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法・語彙などの復習 & 課題（ワークブック・プリント・インターネット上の練習問題）
本授業の準備・復習時間は、計 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト/レポート 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合には Zoom で接続可能な機器が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline:

German language course (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture and society)

Learning Objectives:

The purpose of this course is to acquire practical German language skills and cross-cultural understanding.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.

Grading Criteria /Policy: Term-end examination/report: 50%, in-class contribution 50%

LANd200LA (ドイツ語 / German language education 200)

ドイツ語表現法 I

2017年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで。

基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書く。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともあります、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Erste Schritte: Persönliche Angaben machen Sich selbst vorstellen	自己紹介を書く I 辞書の使い方 I
2.	Länder, Städte, Zahlen	自分の出身を紹介する 人を紹介する
3.	Meine Stadt beschreiben	方位と場所
4.	Mein Alltag	日常 時間を表す
5.	Tagesablauf	助動詞
6.	Hobby und Freizeit	分離動詞

7.	Freizeitangebote in der Stadt	場所と時間を表す
8.	Lieblingsdinge beschreiben	好きな「もの」を紹介する 冠詞と代名詞
9.	作文作成 2	発表
10.	Essen und Trinken	食生活についてと好み
11.	Im Restaurant	レストランのメニューと注文
12.	Süßigkeiten in Deutschland und Japan	日本のお菓子について書く
13.	Vor den Ferien I	不規則動詞 話法の助動詞
14.	Vor den Ferien II	休暇中の予定

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。予習はテキストを事前に読む、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト (教科書)】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう!』清野智明

白水社

ISBN : 9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度 (50%)
提出してもらったドイツ語の作文 (50%)
を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要です。電子辞書可。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this course students will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They will also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (50%) and written homework (50%).

LANd200LA (ドイツ語 / German language education 200)

ドイツ語表現法Ⅱ

2017年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書ける。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともあります、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは授業内または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Nach den Ferien	現在完了形
2.	Postkarte	Postkarte schreiben 手紙を書く
3.	Wohnen	前置詞
4.	Mein Traumhaus	住まいについて書く
5.	Wohnen in der Stadt oder auf dem Land ?	理由を表す
6.	Jahreskalender Datum und Monate Feiertage	年間行事 招待状を書く
7.	Feste feiern	複文
8.	An der Universität	大学について書く
9.	Meine Universität	グループワーク： 大学紹介を書く

10. Meine Universität グループワーク発表
2
11. Eine Reise planen 旅行計画
12. Sehenswürdigkeiten 観光名所の紹介文を書く
vorstellen
13. Erlebnisse und 過去形
Erfahrungen 1 私の人生
14. Erlebnisse und プレゼンテーション発表
Erfahrungen 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。

予習は事前にテキストを読む、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度 (50%)

提出してもらうドイツ語の作文 (50%)

を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要。電子辞書可。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this class we will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (50 %) and written homework (50 %)

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

ドイツ語の世界Ⅰ A

2017年度以降入学者

サブタイトル：映画を通じてドイツ語圏の国々を知る

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制 (60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- ・各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- ・映画の解釈方法を身につける。
- ・異文化理解能力を高める。
- ・テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- ・プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション	授業の概説 ドイツ語圏クイズ
2.	ドイツ語圏の世界 1	地理, 言語, 文化～政治、経済まで
3.	ドイツ語圏の世界 2	ドイツ語圏の映画史入門
4.	文学	ドイツ文学と言えばゲーテ？ 映画：ゲーテの恋 ～君に捧ぐ 「若きウェルテルの悩み」 Goethe! (2010) ディスカッション
5.	音楽	クラシック音楽の世界 Amadeus からクララ・シューマンまで
6.	オーストリア	Sissi とミュージカル「エリザベート」 サウンド・オブ・ミュージック
7.	スイスと日本	映画：ハイジ アルプスの物語 Heidi (2015) ハイジ in Japan
8.	映画鑑賞	作品未定
9.	戦争映画Ⅰ 第一次世界大戦	西部戦線異状なし(1930) 戦場のアリア (2005) ディスカッション

10.	ドイツと日本	ベートーヴェンの「第九」 プレゼンテーション 映画：バルトの楽園 (2006)
11.	映画の中のヒトラーⅠ	ヒトラーと女性 ドキュメンタリー映画 レニ Die Macht der Bilder: Leni Riefenstahl 1993
12.	映画の中のヒトラーⅡ	ヒトラー ～最期の12日間～ (2004)
13.	映画鑑賞	作品未定
14.	まとめ	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・文献を事前に読む。（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）

- ・映画鑑賞
 - ・自分担当のプレゼンテーションの準備とレジュメ作成
- 本授業の準備学習・復習時間は、計2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを配布

【参考書】

- ・森井 裕一（著、編）『ドイツの歴史を知るための50章』（エリア・スタディーズ151）
- ・宮田真治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』
- ・新野守広・飯田道子・梅田紅子（編）『知ってほしい国 ドイツ』
- ・スイス文学研究会（編）『スイスを知るための60章』（エリア・スタディーズ128）
- ・広瀬 佳一編著、今井 顕編著他 ウィーン・オーストリアを知るための57章【第2版】（エリア・スタディーズ 19）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。
質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。
ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society. The goals of the course are getting a deeper understanding of daily life, culture, society, and history in German-speaking countries. Besides students will learn how to interpret movies, how to collect and read materials and improve presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting (watching movies, research and read reference material etc.). Your study time will be about four hours for a class.

The Students' final grades will be based on presentation (50%) and active participation in class (50%)

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)
ドイツ語の世界 L B 2017年度以降入学者
サブタイトル：映画を通じてドイツ語圏の国々を知る
Schmidt Ute
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火5/Tue.5
単位数：2単位
定員制 (60)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。(履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。)

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- ・各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- ・映画の解釈方法を身につける。
- ・異文化理解能力を高める。
- ・テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- ・プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	戦後の東西ドイツ	サッカーを通してみる戦後ドイツ：『ベルンの奇跡』(2003)『僕たちは希望という名の列車に乗った』(2018)
2.	60年代の東西ドイツ	ベルリンの壁ができるまで『トンネル』Der Tunnel (2001)
3.	70年代の西ドイツ	極左のテロリズム『バーダー・マインホフ/理想の果てに』Der Baader Meinhof Komplex (2008)
4.	東ドイツ	東ドイツの秘密警察 (Stasi)『善き人のためのソナタ』Das Leben der Anderen (2006)『ゲンダーマン 優しき裏切り者の歌』Gundermann (2018)『東ベルリンから来た女』(2012)

5.	ドイツ統一	ベルリンの壁崩壊『グッバイ、レーニン!』Good Bye Lenin (2003) プレゼンテーション ディスカッション
6.	芸術	『Pina/ピナ・バウシュ』 踊り続けるいのち
7.	青春	児童文学の映画化 映画：『飛ぶ教室』2003『50年後のボクたちは』Tschick (2016) プレゼンテーション ディスカッション
8.	ヒトラーについて笑っているのか？	ヒトラーについて笑っているのか？『帰ってきたヒトラー』Er ist wieder da! (2015) プレゼンテーション ディスカッション
9.	ドイツ極右組織	ドイツ極右組織 NSU『女は二度決断する』Aus dem Nichts (2017) プレゼンテーション ディスカッション
10.	ドイツ極右組織	映画鑑賞
11.	ドイツ以外のドイツ語圏の映画	スイス映画・オーストリア映画と映画祭
12.	移民国ドイツ	難民問題
13.	移民国ドイツ	映画：初めてのおもてなし Willkommen bei Hartmanns (2016) プレゼンテーション ディスカッション
14.	まとめ	プレゼンテーション ディスカッション 映画鑑賞

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・文献を事前に読む (資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語)

・映画鑑賞

本授業の準備学習・復習時間は、計2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストを配布

【参考書】

- ・森井裕一 (著, 編集)『ドイツの歴史を知るための 50 章』(エリア・スタディーズ 151)
- ・宮田眞治・畠山寛・濱中春 (編著)『ドイツ文化 55 のキーワード』
- ・新野守広・飯田道子・梅田紅子 (編)『知ってほしい国 ドイツ』
- ・スイス文学研究会 (編)『スイスを知るための 60 章』(エリア・スタディーズ 128)
- ・広瀬 佳一編著, 今井 顕編著他 ウィーン・オーストリアを知るための 57 章【第2版】(エリア・スタディーズ 19)

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません。「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。
ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society.

The goals of the course are getting a deeper understanding of daily life, culture, society, and history in German-speaking countries. Besides students will learn how to interpret movies, how to collect and read materials and improve presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting (watching movies, research and read material etc.). Your study time will be about four hours for a class.

The Students' final grades will be based on presentation (50%) and active participation in class (50%)

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200)

ドイツの文化と社会 L A2017年度以降入学者

サブタイトル：

小川 敦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ドイツ」や「ドイツ語圏」と聞いて、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか？
本授業ではドイツやドイツ語圏についてトピックをとりあげ、少し深く考えてみたいと思います。
ドイツ語の学習は前提としません。

【到達目標】
ドイツ語圏に関する様々なテーマを見ることで、社会や歴史について理解し、今後探求していく糸口を見つけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーに反応したいと思います。また、授業中に受講生のみなさんにこちらから問いかけたり、受講生同士で話し合ってもらったこともあったかと思っています。積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ドイツとドイツ語圏について。
第2回	ドイツ語の歴史と多様性	ドイツ語が成立した歴史や地域的な違いを見ます。英語の知識が役に立つかもしれません。
第3回	ビール	ビールの歴史と現状について。
第4回	ドイツの環境政策	ドイツの環境政策について。
第5回	ドイツの交通政策	トラムや電気自動車、アウトバーンなど交通政策について。
第6回	ドイツの鉄道	ドイツの鉄道の歴史と現在について。
第7回	自動車産業から見るドイツ経済	ドイツ経済について、自動車産業から。
第8回	ドイツの教育制度	マイスター制度など、日本とは異なる教育制度について。
第9回	東ドイツ	かつて存在した東ドイツ（ドイツ民主共和国）やベルリンの壁について。
第10回	ドイツの歴史教育	過去をどう扱うのかについて。
第11回	多様化するドイツ	移民の歴史と現在、統合政策について。
第12回	オーストリアとウィーン	カフェ文化など独自の文化を形成するオーストリアの首都ウィーンについて。

第13回	日本の中のドイツ、ドイツの中の日本	ハリボー、バウムクーヘン、アニメ文化等、日本にあるドイツ語やドイツ語圏の文化、ドイツ（語圏）にある日本の文化について。
第14回	まとめ	これまでの話題について補足しながら振り返ります。期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
予習：次のテーマについて、思いつくことをいくつかメモしておいてください。
復習：ハンドアウトを読み直し、気になるテーマについては図書館で本を探してみてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。ハンドアウトを配布し、スライドを用いて授業します。

【参考書】
授業ごとに提示します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーを含めた授業への積極的な参加40%、期末レポート60%

【学生の意見等からの気づき】
受講生が意見を述べやすいようにとめます。

【学生が準備すべき機器他】
授業資料（ハンドアウト）はLMSなどを通じて配布します。スマートフォン以外にPCやタブレットなどがあると便利です。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期は独立して履修できます。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This course introduces and explores topics about Germany and the German-speaking world.
Students do not need to learn German to take this course.

【到達目標（Learning Objectives）】
Students will develop an understanding of the society, culture and history of the German-speaking world.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation 40%
Final report 60%

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）

ドイツの文化と社会 L B 2017年度以降入学者

サブタイトル：

小川 敦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ドイツ語が／ドイツ語も使われる／使われた地域の歴史や文化について扱います。言語の話も出ますが、ドイツ語の知識は不要です。

【到達目標】

ドイツ語圏の文化や社会、人々の多様性について理解を深めます。日本社会への気づきにもつなげます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーに反応したいと思います。また、授業中に受講生のみなさんにこちらから問いかけたり、受講生同士で話し合っているだけでもあることもあるかと思います。積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業で扱うテーマについて概観します。
第2回	オーストリアの歴史	オーストリアの現代史を中心に扱います。ハプスブルク帝国に遡ることもあります。
第3回	オーストリアの現代史と現在	オーストリアの現代史と現在のオーストリアの社会や文化を扱います。
第4回	スイスの歴史	多言語国家であり永世中立国であるスイスがどのように成立したのかを見ます。
第5回	スイスの現代史と現在	スイスの現代史と現在のスイス社会を考えます。
第6回	ベルギーの歴史	ベルギーの歴史を扱います（ベルギーには小さなドイツ語共同体があります）。
第7回	ベルギーの現代史と現在	ベルギーの現代史を扱いながら、EUの中心地でありながら今日でも言語問題でゆれるベルギーの今を考えます。
第8回	ルクセンブルクの歴史	GDPが世界トップクラスである小国ルクセンブルクの歴史を扱います。
第9回	多様化するルクセンブルク	多言語社会・移民社会となった今日のルクセンブルクについて考えます。

第10回	アルザス・ロレーヌの歴史	ドイツなのかフランスなのか、帰属をめぐるゆれたフランス東部のアルザス地方・ロレーヌ地方の歴史について扱います。
第11回	アルザス・ロレーヌ（言語）	アルザス・ロレーヌについて、特に言語問題に焦点を当てます。
第12回	ドイツ騎士団と東プロイセン	かつて東に移住したドイツ系住民の歴史を扱います。
第13回	アメリカ合衆国のドイツ系住民	かつて、ドイツ語圏からは多くの人々がアメリカに移住しました。今日にも残る移民の歴史を扱います。
第14回	まとめ	これまでの話題について補足しながら振り返ります。期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

予習：次の回のテーマについて、思いつくことをいくつかメモしたり、インターネット等で検索してください。

復習：ハンドアウトを読み直し、気になるテーマについては図書館で本を探してみてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。ハンドアウトを配布し、スライドを用いて授業します。

【参考書】

授業ごとに提示します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを含めた授業への積極的な参加40%、期末レポート60%

【学生の意見等からの気づき】

講生が意見を述べやすいようにつとめます。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料（ハンドアウト）はLMSなどを通じて配布します。スマートフォン以外にPCやタブレットなどがあると便利です。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期は独立して履修できます。春学期に履修した人も履修しなかった人も積極的な参加を期待します。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course focuses on the history and culture of the regions where German is also used or where it was used.

【到達目標（Learning Objectives）】

In this course, students deepen their understanding of the diversity of cultures, societies and people in German-speaking areas.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Active participation 40%

Final report 60%

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

フランス語の世界 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、世界に広がる「フランス語圏 (フランコフォニー)」を知ることを主たる目的とします。そのような (フランス共和国を含めた) 広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化 (言語、芸術、習慣、食生活など) が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、春学期は主にフランス共和国本土にある「地域圏」を中心として、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー (フランス語圏) の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

授業ではコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

提出されたコメントシートについて、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ：	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国及びフランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	① Île-de-France	・イル＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	② Bretagne	・ブルターニュ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など

4	③ Normandie	・ノルマンディー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	④ Hauts-de-France	・オー＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	⑤ Grand-Est	・グラン＝テスト地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	⑥ Pays de la Loire	・ペイ＝ド＝ラ＝ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	⑦ Centre-Val de Loire	・サントル＝ヴァール＝ド＝ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	⑧ Bourgogne-Franche Comté	・ブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	⑨ Nouvelle-Aquitaine	・ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	⑩ Auvergne-Rhône-Alpes	・オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	⑪ Occitanie	・オクシタニー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	⑫ Provence-Alpes-Côte d'Azur (PACA)	・プロヴァンス＝アルプ＝コート＝ダジュール地域圏 (PACA) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	⑬ Corse まとめ	・コルス地方公共団体に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・春学期授業のまとめ ・秋学期授業の予告：世界のフランコフォニー

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文 (場合によっては各地域圏サイト) を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
 - 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることが出来るわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
 - 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい (或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため)。
 - 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点 (特に引用の仕方、参考文献の書き方) について確りと学習しておいて欲しい。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の4冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
- 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018年。本体2600円＋税
- 2) ジャック・レヴィ編 (土居佳代子訳)『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018年。本体2800円＋税
- 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ著 (立花英裕監修・中尾ゆかり訳)『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008年。本体2400円＋税
- 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012年。本体3400円＋税
- II. 以下の2冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。
- 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France (フランス、地方を巡る旅)』駿河台出版社、2017年。本体1900円＋税

6) 小松祐子, Gilles Delmaire 著『Destination francophoneie: nouvelle édition (フランコフォニーへの旅：改訂版)』駿河台出版社, 2019年. 本体2300円＋税

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。

①平常点（コメントシートなど）：30%

②期末レポート：70%

【学生の意見等からの気づき】

・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the French speaking world (la Francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (discussion, reaction paper, etc.): 30%,
term-end report: 70%.

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

フランス語の世界 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、世界に広がる「フランス語圏 (フランコフォニー)」を知ることを主たる目的とします。そのような (フランス共和国を含めた) 広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化 (言語、芸術、習慣、食生活など) が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、秋学期はフランス共和国本土以外の「地域圏」、そしてフランス共和国以外の「フランコフォニー」について扱い、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー (フランス語圏) の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国外にある県・地域圏について簡単に紹介 ・フランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	カリブ海域の地域圏 Martinique et Guadeloupe	・カリブ海域の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など

3	南米大陸の地域圏 Guyane française	・南米大陸の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
4	インド洋の地域圏 Réunion et Mayotte	・インド洋の地域研に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	太平洋の海外領土 Nouvelle-Calédonie	・太平洋の海外領土に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	北米大陸のフランス語圏① Québec (Canada)	・北米大陸カナダにおけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	北米大陸のフランス語圏② Louisiane	・北米大陸アメリカ合衆国におけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	北アフリカのフランス語圏① Algérie	・マグリブ中央部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	北アフリカのフランス語圏② Maroc et Tunisie	・マグリブ西部および東部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	サハラ以南のフランス語圏① Sénégal	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー (旧仏領) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	サハラ以南のフランス語圏② Congo-Kinshasa et Congo-Brazzaville	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー (旧仏領およびベルギー領) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	サハラ以南のフランス語圏③ Rwanda	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー (旧ベルギー領) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	ヨーロッパのフランス語圏① Belgique	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	ヨーロッパのフランス語圏② Suisse	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
	まとめ	・秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文 (場合によっては各地域圏サイト) を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
- 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができないわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
- 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい (或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため)。
- 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点 (特に引用の仕方、参考文献の書き方) について確りと学習しておいて欲しい。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

1. 以下の4冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
- 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018年。本体2600円＋税
- 2) ジャック・レヴィ編 (土居佳代子訳)『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018年。本体2800円＋税
- 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ著 (立花英裕監修・中尾ゆかり訳)『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008年。本体2400円＋税
- 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012年。本体3400円＋税

II. 以下の2冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。

5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France (フランス, 地方を巡る旅)』駿河台出版社, 2017年, 本体1900円+税

6) 小松祐子, Gilles Delmaire 著『Destination francophonie: nouvelle édition (フランコフォニーへの旅: 改訂版)』駿河台出版社, 2019年, 本体2300円+税

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。

①平常点 (コメントシート等) : 30 %

②期末レポート : 70 %

【学生の意見等からの気づき】

・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the French speaking world (la Francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (discussion, reaction paper, etc.): 30%,
term-end report: 70%.

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

フランス語コミュニケーション(初級) I 2017年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Se présenter	自己紹介
2	Présenter quelqu'un	第三者の紹介
3	Parler des choses que l'on possède ; parler des animaux domestiques	持っている物について話す。 ペットについて話す。
4	「J'adore ça !」 ; les petits plaisirs de la vie	aimer動詞を使い、好き嫌いで話す。
5	「Je pense que les Français sont ...」 Les stéréotypes sur les Français	フランス人のステレオタイプ
6	「Vous avez des frères et sœurs ?」	兄弟がいますか。家族について話す
7	Que faites-vous le week-end ? Verbes aller et faire.	週末の過ごし方(ビデオ)
8	À la boulangerie	パン屋で (ビデオ)
9	「Je me lève à 7 heures.」	日常生活を話す
10	Décrire quelqu'un : apparence physique et vêtements	人を描写する。外見、服装
11	Un café français	フランスのカフェ (ビデオ)
12	Présentation de la France	フランスの簡単な紹介 (ビデオ)

13 「Où voudriez-vous partir en vacances ?」 「バカンスでどこに行きたいですか。」夏休みしたいことを言う。

14 révisions 復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は不要です。

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点100% (授業中の発言50%及び宿題の提出50%)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活の話をもっとします。

【Outline (in English)】

This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goal of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- In-class contribution and participation: 50%

- Homework: 50%

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

フランス語コミュニケーション(初級)Ⅱ 2017年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Qu'est-ce que vous avez fait pendant les vacances ?	ヴァカンスの時したことを言う。(ビデオ)
2	Chez le boucher	肉屋で (ビデオ)
3	Parler de son petit boulot	バイトについて話す (ビデオ)
4	Protester	クレームを言う (音声)
5	Parler de sa chambre	自分の部屋について話す。(ビデオ)
6	Acheter des vêtements	服を買う会話 (ビデオ)
7	C'est comment chez vous ?	自分の住んでいる家について話す (ビデオ)
8	Parler de son quartier	自分の住んでいる町を話す。(ビデオ)
9	「J'ai déjà fait de la plongée.」	スキューバダイビングをやったことある」経験・したことを話す
10	Présentation de Paris	パリの紹介のビデオ
11	Parler de sa ville	自分の住んでいる市町村について話す。(ビデオ)
12	Noël en France	フランス人のクリスマスの過ごし方
13	Parler de ses bonnes résolutions	新年の抱負を言う
14	Révision	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて、提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は不要です。

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業中の発言50%や宿題の提出50%)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活をもっと話します。

【Outline (in English)】

This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goal of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- In class contribution and participation: 50%
- Homework: 50%

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

時事フランス語 I

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目「時事フランス語 I」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（TV5Monde や Radio France Internationale）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、1年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください <https://youtube.com/shorts/0NmZ4iyyvSQ?feature=shared>

【到達目標】

リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のA～Dのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。

・カテゴリーA（大学で初めてフランス語を学び始めた1年生や、第3外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べることができる。

・カテゴリーB（大学入学後フランス語を学び始め、1年以上が経過した2年生を主に想定）：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」4級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーC（フランス語を2年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA2～B1、「実用フランス語技能検定試験」3級～準2級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーD（日本語が第1言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した2つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを1つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。この授業は基本的に対面ですが、体調不良等を理由とするリアルタイム・オンラインでの参加に積極的に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	世界を知るためのもう1つの視点	パリ18区に住む小学3年（CE2）生たちのぞのぞから見える世界
Séance 2	現代フランスの生活風景	結婚のプロポーズ（同性婚）やスクワット（空き住居の不法占拠）など
Séance 3	フランス移住の第一歩は共和主義の理解から	国歌ラ・マルセイエーズが歌えるのは、フランスではポイント高いです。
Séance 4	グローバル化（mondialisation）に対するフランス的見方＝ものづくりの衰退	フランスの伝統的な産品を知っているアジアからの留学生がいいたら、フランスの人は喜ぶでしょう。
Séance 5	グアドループ：中南米のカリブ海に浮かぶフランスの海外県	クレオール語に代表される文化の混淆で有名。1980年代には「ワールド・ミュージック」としてグアドループ発信のブークが流行
Séance 6	デモやストライキ	ストライキになると色々不便だと怒る人もいる一方、ストライキは労働者の重要な権利とみなされてもいます。
Séance 7	フランス語で炎暑はcanicule といいます	毎夏、山火事や40度を超える高温が南ヨーロッパを中心に伝えられるようになりました。
Séance 8	カンヌ映画祭	この季節に毎年開かれる有名文化イベント。娯楽作よりも芸術性の高い作品が受賞する傾向があり、日本人の活躍が目立ちます。
Séance 9	ラップとユーチューバー	さまざまな国や地域の出身者が、フランス語ラップのYouTube動画を制作
Séance 10	男女平等の理想と現実	女性の就業率が比較的高いフランスだが、男女の賃金格差など課題も残る。女性の権利への関心は高い。
Séance 11	ツール・ド・フランス	この季節に毎年開かれる有名スポーツイベント。7月の3週間、フランスや隣接国の路上を自転車レースが駆け抜ける。
Séance 12	格差社会アメリカの批判	大企業の経営者たちとその従業員の給与格差が大きすぎるというのも、フランス語圏のメディアではありがちな話題
Séance 13	環境問題の語彙（ごい）・表現①	絶滅危惧種を守ることをめぐる外交。「フカヒレ」や「象牙」が登場します。

Séance 14	環境問題の語彙（ごい）・表現②	コンゴ民主共和国（RDC）はフランス語圏ニュースではよく登場する国です。内戦などの要因で安全を脅かされる国立公園職員たちの話題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「時事フランス語Ⅰ」のような科目では、1回の授業につき、1時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。

・「毎回授業内容表 Tableau de bord /Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。

・(ア) 音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、1単語→1文→複数の文、のように広げていくことや、(イ) 番組内でひんばんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。

・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください <https://x.gd/IQfRj>

【テキスト（教科書）】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
 2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>
- ※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が利用している教材です。

【参考書】

仏和辞典が必要です。持っていない人は、法政大学図書館オンラインデータベース上で『ポケプロ仏和』『ロバール仏和』が利用できます（自宅など学外からもアクセス可）。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への毎週の参加（50%）※この科目「時事フランス語Ⅰ」は対面に分類される授業であるため、原則として教室での出席が求められますが、学期14回の授業のうち1人あたり合計7回まで、Zoomでのリアルタイム・オンライン授業の形式による参加を認めています（オンライン参加を希望する授業回ごとに、事前にメールで申し出ること）。
2. 授業への貢献の量と質、到達目標の達成に向けた努力（50%）※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリーA、B、C、Dの3つに学生を分けており、カテゴリーごとに努力していただきたい方向性を下↓に示しています。
3. 実用フランス語技能検定試験（仏検）やDELFLやTCFを受検したか、また合格したか（100%の枠外で5～20%程度の加点をします）※期末試験、期末レポートはありません。

・カテゴリーAの方にお願したい方向性：フランス語が初歩の段階なのは問題ありません。語学面で授業内容に喰らいつこうという努力の跡をお示ください。

・カテゴリーBの方にお願したい方向性：ニュースの内容理解の面を中心とした、質問や意見の表明など、授業への参加の姿勢をお示ください。

・カテゴリーCの方にお願したい方向性：聞きやすい発音や構文の理解、ある程度多くの語彙をもっていることを何らかの形で示してください。

・カテゴリーDの方にお願したい方向性：ご自身の第1言語（日本語ではない）と、日本語、フランス語の3つの言語や、それらの言語から得られる時事問題に関する知識や情報をお示し下さい。

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。

※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

・フランスに留学して、リスニング力や語彙（ごい）の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI) を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語Ⅰ」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。

・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となれば幸いです <https://x.gd/ZvduG>

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやタブレット、ノートパソコン等の情報端末が必要です。

【その他の重要事項】

「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイズメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。◀ Commencer ▶と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。<https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1>

もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【Goal】

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyū.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【Method(s)】

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.

2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【References】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)

2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

[Grading criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" = 50%
2. In-class activity participation and various contributions to the class = 50%

[Equipment student needs to prepare]

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

[Others]

- 1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
- 2) The above schedule is still subject to change.

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

時事フランス語Ⅱ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目「時事フランス語Ⅱ」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（TV5MondeやRadio France Internationale）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、1年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください <https://youtube.com/shorts/RQtay4cmhW8?feature=shared>

【到達目標】

リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のA～Dのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。

・カテゴリーA（大学で初めてフランス語を学び始めた1年生や、第3外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーB（大学入学後フランス語を学び始め、1年以上が経過した2年生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」4級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーC（フランス語を2年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA2～B1、「実用フランス語技能検定試験」3級～準2級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーD（日本語が第1言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した2つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを1つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。この授業は基本的に対面ですが、体調不良等を理由とするリアルタイム・オンラインでの参加に積極的に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	多様性と出会うためのもう1つの入り口	フレキシタリアン・ダイエットとフランスの駄菓子（食文化から近づいてみる）
Séance 2	気が早いですがクリスマスの話題	宗教を信じる・信じない、家族のあり方、消費社会について考えます。
Séance 3	移民の気持ちを（教員の補助付きで）疑似体験してみる。	移民を念頭においたフランス語検定試験の例題に取り組む。
Séance 4	職業と平等	職業名の女性形を認めさせるというフェミニズムのかたち
Séance 5	デパートの歴史	19世紀のパリの文化的影響力は大きく、鉄筋とガラスで作られたデパートは最先端の建築やファッションの舞台だった
Séance 6	フランスの「サラメシ」	フランスの会社員たちは昼食に何をどんな風に食べているのか？
Séance 7	モナ・リザを一言でたとえるなら？	ボルトレ・シノワについて学びます。
Séance 8	ある日のニュースのヘッドライン	年金問題やローマ教皇が登場
Séance 9	少子化問題	2010年を越えたあたりから出生率が低下傾向のフランス。その原因は？
Séance 10	コートジボワールから見た世界	起業家の女性が訪れたいと夢見る国は？
Séance 11	ブルキナファソから見た世界	外からの支援ではなく、地元根差した住宅の改善とは？
Séance 12	アフリカやアジアからヨーロッパを目指す多くの避難民を渡航させる業者たち	どんな国にでも行けるパスポートは、あなたを含めた世界の一握りの人しかもっていない。
Séance 13	ポーヴォワール	« On ne naît pas femme, on le devient. » という文を知っておきましょう。
Séance 14	エメ・セゼール	ネグリチュードとは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「時事フランス語Ⅱ」のような科目では、1回の授業につき、1時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。

・「毎回授業内容表 Tableau de bord /Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。

・(ア) 音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、1単語→1文→複数の文、のように広げていくことや、(イ) 番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。

・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください <https://x.gd/VHfLE>

【テキスト（教科書）】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>

※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】

仏和辞典が必要です。持っていない人は、法政大学図書館オンラインデータベース上で『ポケプロ仏和』『ロバール仏和』が利用できます（自宅など学外からもアクセス可）。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への毎週の参加（50%）※この科目「時事フランス語Ⅰ」は対面に分類される授業であるため、原則として教室での出席が求められますが、学期14回の授業のうち1人あたり合計7回まで、Zoomでのリアルタイム・オンライン授業の形式による参加を認めています（オンライン参加を希望する授業回ごとに、事前にメールで申し出ること）。
2. 授業への貢献の量と質、到達目標の達成に向けた努力（50%）※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリーA、B、C、Dの3つに学生を分けており、カテゴリーごとに努力していただきたい方向性を下↓に示しています。
3. 実用フランス語技能検定試験（仏検）やDELFやTCFを受検したか、また合格したか（100%の枠外で5～20%程度の加点をします）※期末試験、期末レポートはありません。

・カテゴリーAの方にお願したい方向性：フランス語が初歩の段階なのは問題ありません。語学面で授業内容に喰らいつこうという努力の跡をお示ください。

・カテゴリーBの方にお願したい方向性：ニュースの内容理解の面を中心とした、質問や意見の表明など、授業への参加の姿勢をお示ください。

・カテゴリーCの方にお願したい方向性：聞きやすい発音や構文の理解、ある程度多くの語彙をもっていることを何らかの形で示してください。

・カテゴリーDの方にお願したい方向性：ご自身の第1言語（日本語ではない）と、日本語、フランス語の3つの言語や、それらの言語から得られる時事問題に関する知識や情報をお示し下さい。

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。

※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

・フランスに留学して、リスニング力や語彙（ごい）の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5MondeやRadio France Internationale (RFI)を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5MondeやRFIは、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語Ⅱ」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。

・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となれば幸いです <https://x.gd/0NtiE>

【学生が準備すべき機器他】

音声ファイルやストリーミング動画をWifiのある環境で視聴したり、学習支援システム-HoppiiやGoogle Classroomを閲覧するために、タブレットやノートパソコン等の情報端末が必要です。

【その他の重要事項】

「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイズメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。◀ Commencer ▶と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。 <https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1>
もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【Goal】

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyū.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【Method(s)】

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.

2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【References】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - ◀ JapanKnowledge ▶)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【Grading criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" = 50%

2. In-class activity participation and various contributions to the class = 50%

[Equipment student needs to prepare]

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

[Others]

1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.

2) The above schedule is still subject to change.

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

フランスの文化と社会 L A 2017年度以降入学者

サブタイトル：フランスの映画

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これらフランス社会の様々な面について考えます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」、「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

誰でもが知っている大ヒット作、今では古典となったフランス映画の代表的作品、映画の歴史を創った作品、知る人ぞ知る映画などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。

皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『アメリカ』1 2001年の大ヒット作 パリという空間： モンマルトルからあ ちこちへ	空想に駆られる主人公： 他人の幸せのために
2	『アメリカ』2 なぜヒットしたか	空想から現実へ モンマルトルは理想郷？
3	『アメリカ』3 オードリー・トトゥ とマティユー・カソ ヴィッツ	刑事とシャネル／監督と俳優

4	『太陽がいっぱい』1 名優アラン・ドロ ン主演のフランス・イ タリア合作映画	このタイトルはどういう意味か。 誤訳かわざとか。外国映画の邦 題について。
5	『太陽がいっぱい』2 格差と犯罪	金持ちの傲慢青年と貧しき悪の 天才青年。
6	『太陽がいっぱい』3 犯罪は「太陽の せい」？ 映画音楽	地中海の熱い太陽と哀愁の音楽。 映画を知らずとも音楽は聴いた ことがある。
7	映画の始まり	世界初の映画上映：リュミエー ル兄弟。 初期の映画：『月世界探検旅行』 『ファントマス』
8	ヌーヴェル・ ヴァーグ 『勝手にしやがれ』1 ゴダールの代表作： 原題は「息切れ」	映画の「新しい波」 「外国映画の邦題について」その 2
9	『勝手にしやがれ』2 おかしなカップル： ジャン＝ポール・ペ ルモンドとジーン・ セバーグ	これは犯罪映画か？
10	『勝手にしやがれ』3 モンパルナス	右岸のモンマルトルと左岸のモ ンパルナス シャンソンとジャズ
11	ヌーヴェル・ヴァー グその2： トリュフォー	アントワヌ・ドゥワネルのシ リーズ：成長する主人公を成長 する同じ俳優が演じる
12	『女優マルキーズ』1 旅役者	ソフィー・マルソー演じる17世 紀の実在の女優はアクロバット もこなす旅役者
13	『女優マルキーズ』2 ルイ14世の時代	太陽王の古典主義時代： モリエールとジャン・ラシーヌ ；宮廷の豪華絢爛と場末の猥雑 さ
14	『女優マルキーズ』3 舞台上に死す	謎多き女優の生涯 ソフィー・マルソーとベルナ ール・ジロドー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人はAVライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。

- 1：モンマルトルについて調べる。
 - 2：アメリカの行く様々な地域について調べる。
 - 3：出演者の他の作品について調べる。
 - 4：フランス人にとっての地中海はどのようなものかを考える。
 - 5：「完全犯罪」は可能かを考える。
 - 6：フランス人および他の国の人々にとってアラン・ドロンとはどのような俳優かを考える。
 - 7：創世期の映画について調べる。
 - 8：外国映画の邦題について考える。
 - 9：『勝手にしやがれ』のどこが新しいのか考える。
 - 10：モンパルナスとモンマルトルの共通点と違いについて調べる。
 - 11：トリュフォーやその他のヌーヴェル・ヴァーグの監督について調べる。
 - 12：17世紀の俳優について調べる。
 - 13：17世紀の古典主義作家について調べる。
 - 14：出演者たちの他の作品について調べる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書0179
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書1603。
『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書C164
『悪文の構造』千早耿一郎 ちくま学芸文庫 C0180
『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】

This course deals with various aspects of lives in France with the aid of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to moviemakers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films.

The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in the French society.

The students are expected to see the whole of each film, which we can see only partially during the class, and to make some research on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.

The final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).

All students who are interested in France are welcome; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)	
フランスの文化と社会 L B	2017年度以降入学者
サブタイトル：フランスの映画	
鈴木 正道	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月3/Mon.3	
単位数：2単位	
定員制 (30)	
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に続いて、この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これら社会の様々な面について考えます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々 (フランス国籍を持つとは限りません) の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。

「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

21世紀に入って大ヒットしたいいかにもフランスらしい？映画、アメリカのミュージカルのアンチテーゼのようなミュージカル映画、そして戦時中に創られた不朽の名作、さらに演劇の人気ナンバーワンのヒーローの映画化作品などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『最強のふたり』1： 2011年のヒット作	「ふたり」とはどんな人たちか？
2	『最強のふたり』2： 格差社会と移民	パリの郊外とは？ 富裕層の多い区域は？
3	『最強のふたり』3： 「介護者」と「パートナー」：助 北の海岸での出会い	ける人とお膳立てする人

4	『シェルブールの雨傘』1 フランスのミュージカル； 原題そのままの邦題は何を意味しているのか	誰もが聞いたことのあるミシェル・ルグランの音楽； 1960年代のフランスの地方都市：やはり北の港町
5	『シェルブールの雨傘』2 フランスにとつての1960年代はじめ	アルジェリア戦争：様々な分断
6	『シェルブールの雨傘』3 Westside Storyの向こうを張った？	「曖昧な」結末：雪のクリスマスでの再会と別れ
7	『天井桟敷の人々』1 1945年の大作 19世紀のパリの下町という空間	伝説的名優勢ぞろい「犯罪大通り」
8	『天井桟敷の人々』2 庶民にとつての劇場	「言葉」の俳優とパントマイム役者
9	『天井桟敷の人々』3 カーニバルという空間	またしても「曖昧な」結末：追いかけても追いつけない悪夢
10	『おかしなおかしな訪問者』1 中世からのタイムスリップ。 ジャン・レノとクリスチャン・クラヴィエ共演	フランスのお笑い映画：フランス北部の中世と現代。名優たちの一人二役が見所
11	『おかしなおかしな訪問者』2 めでたしめでたしの結末？	お笑い映画の定番的な演出と筋書。続編を予想させる、終わつたようで終わらない結末？
12	『シラノ・ド・ベルジュラック』1： 17世紀の実在の人物をモデルにした19世紀末の芝居	フランスのヒーロー人気ナンバーワン：剣にすぐれて弁もたつが、コンプレックスが恋を妨げる
13	『シラノ・ド・ベルジュラック』2： 17世紀の宮廷と社会状況	過剰な繊細華麗 (préciosité) と過酷な戦争 (30年戦争とアラスの包囲)
14	『シラノ・ド・ベルジュラック』3： 普遍的な価値	「型破り」と自己犠牲、「身を引く」美学

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人はAVライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。

- 1：フランス映画に関する一般的なイメージについてまとめる。
 - 2：フランスの社会階層について調べる。
 - 3：なぜ『最強のふたり』がヒットしたのか考える。
 - 4：「ミュージカル」とは何であるかまとめる。
 - 5：アルジェリア戦争について調べる。
 - 6：『シェルブールの雨傘』の結末を他の作品の結末と比べて、その意味合いについて考える。
 - 7：『天井桟敷の人々』が公開された1945年ごろのフランスの状況について調べる。
 - 8-9：19世紀前半のパリについて調べる。
 - 10：『おかしな訪問者』で紹介されるフランスの中世と現代の生活について調べる。
 - 11：主人公を演じた俳優たちの経歴について調べる。
 - 12：『シラノ・ド・ベルジュラック』の主人公のモデルとなった17世紀の人物について調べる。
 - 13：17世紀当時のフランスの宮廷や社会の状況について調べる。
 - 14：なぜシラノという人物が時代と国を超えて人々を惹き付けるのかを考える。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書 0179

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書C164

『悪文の構造』千早耿一郎 ちくま学芸文庫 C0180

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】

This course deals with various aspects of lives in France with the aid of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to moviemakers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films.

The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in the French society.

The students are expected to see the whole of each film, which we can see only partially during the class, and to make some research on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.

The final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).

All students who are interested in France are welcome; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

フランス生活文化論 L A 2017年度以降入学者

サブタイトル：「美食の国 フランス」のルーツをたどる(近代フランスの食文化とその社会的要因)

梶谷 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、19世紀～20世紀フランスの食文化を中心に、そのあり方を学びます。「フランスの食文化」という表現から、どのようなことをイメージするでしょうか。「華やか・おしゃれ」、あるいは「特別な日の料理」など様々な印象があると思いますが、実は、現代の私たちがフランス料理に対して持つイメージのルーツの多くは、近代のフランスにあります。空腹を満たす以上の価値を自国の食に見出していったフランス。なぜそうなったのか？ その背景を知って、フランス文化への理解を深めていきましょう。

【到達目標】

フランスの食文化について、歴史の流れとともに理解できるようになること。また、意見の記述や発表を通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ画像を用意して進めていきます。映像資料も見ると予定です。

原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。

毎回授業の最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。質問をきっかけに時に食文化の話を超えて、フランスの他の文化や歴史に触れることもあります。

また、受講する皆さんのフランスの食や文化に関する興味関心を共有していただく発表の機会も設けます。授業とは異なる視点に触れることも目的としていますので、大枠のテーマを逸脱していただければ広く様々なテーマを歓迎します。

最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介。日本においてフランスの食文化はどのように紹介されているかについても解説。
第2回	テーブルに「映える」料理	テーブルに「映える」料理はなぜ必要だったか？／宮廷料理について
第3回	「華やかな食卓」の特徴の変遷	「映える」料理から「味で魅せる」料理へ／18世紀までの価値観と、19世紀からの価値観
第4回	美食を支える背景	パリの美食を支えた市場／給仕の変化
第5回	「美食」は誰のものか：レストラン	「おいしい」が皆のものになる時代：レストラン興隆史

第6回	「美食」は誰のものか：「おいしい」の基準の誕生	「おいしい」を評価するということ：ガストロノミー(前編)
第7回	「美食」は誰のものか：情報が生み出す「美食」	「おいしい」の評価の変遷：ガストロノミー(後編)
第8回	資料で見るフランスの美食	フランスの美食についての映像資料を視聴します。コメントカードを通して、感想や考察をまとめてください。
第9回	高級料理の変遷	ヌーヴェル・キュイジーヌの誕生と、その後
第10回	文化としての「郷土料理」	フランスにおける郷土料理の位置／郷土料理＝文化的遺産という視点の原点
第11回	報告会①	フランスの食や文化にまつわる興味関心を発表しあいましょう。授業とは異なる視点に触れることが目的です。
第12回	報告会②	報告会は、履修者の人数により2回から3回に渡る可能性があります。
第13回	報告会③(予備日) 郷土料理でめぐるフランス 映像資料視聴	フランスの代表的な地方の位置の確認・その土地に根差した郷土料理を網羅的に見ていきます。ほか、一部となりますが第8回とは異なる映像資料を視聴します。
第14回	まとめ・レポート作成の手引き	現代から見た、近代フランスの食文化の重要性／レポートの書き方案内 (映像資料視聴予備日)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。下記参考書のうち、①を読み切ること。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、資料配布を行いません。資料はすべて学習支援システムを通じての配信となります。授業中に使いますので、各自手元に用意の上出席してください。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013年。
- ②ジャン・ピエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017年。
- ③北山晴一『世界の食文化⑩ フランス』、農村漁村文化協会、2008年。

【成績評価の方法と基準】

平常点(コメントカードの提出・発表を含む受講態度全般)60%、期末レポート40%の総合評価。

特に、平常点評価に含まれる授業期間内の「報告会での発表」、授業期間終了後の「期末レポートの提出」は必須です。

【学生の意見等からの気づき】

テーマを十分にお伝えするため、授業中は講義形式を採用しています。しかしその分、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。フィードバックコーナーが長くなってしまうこともあるのですが、テーマを深める機会であると考えているので、今年度も継続していききたいと思います(質問多数の場合、調整することはあります)。コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードしたPC、タブレット端末等を持参すること。原則として教室内での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】

履修申請者が41人を超えてしまった場合、定員が40人の授業であるため、履修者を抽選とします。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to study the gastronomic culture of modern France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

フランス生活文化論 L B 2017年度以降入学者

サブタイトル：フランスの食文化史(古代から現代まで)

梶谷 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、フランスの食文化史を学びます。「美食の国」として名高いフランスはどのようにその食生活を営んできたのでしょうか。古代からの料理術の変遷を中心に、歴史の動きと連動させながら学びます。後半には、日本がフランスの食に与えた影響についても触れてゆきます。

【到達目標】

フランスの食文化について理解を深めること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ画像を用意して進めていきます。
原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。
毎回授業の最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。小さなことだと思っても、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。
最終回の前には、簡単な発表の機会も設けます。授業とは異なる視点に触れることも目的としていますので、大枠のテーマを逸脱していなければ広く様々なテーマを歓迎します。
最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介／現在のフランス食文化の最前線についての解説
第2回	古代から中世まで	何をどのように食べてきたのか／香辛料について
第3回	中世とルネサンス	マナーの確立／イタリアとの関わり
第4回	17世紀	グランド・キュイジーヌの誕生／「過剰」からの脱却と洗練
第5回	18世紀	宮廷料理の最盛期／「豪華な料理」とは？
第6回	フランス革命～19世紀初頭	「レストラン」とは何か／「ガストロノミー」の誕生／「スターシェフ」の出現
第7回	19世紀後半～19世紀末	19世紀後半～世紀末のレストラン／現代フランス料理の基礎の時代
第8回	20世紀初頭	第一次世界大戦とフランスの食文化／新しい「ガストロノミー」

第9回	20世紀半ば	全国的美食を求めてーガストロノミーとツーリズム／「美食ガイドブック」の誕生
第10回	20世紀半ば～20世紀末	ヌーヴェル・キュイジーヌー健康と美食
第11回	日本食文化のフランス食文化への影響	美しさを求めるということ／日本的味覚の広がり
第12回	フランス食文化の日本食文化への影響	「洋食」誕生物語
第13回	発表会①	レポートの構想、授業を通しての自分なりのまとめなど、いくつかのトピックの中から1つ選び、発表しましょう。
第14回	発表会② まとめ・レポート作成の手引き	発表会の予備日です。 主に「美食の国 フランス」のイメージはいかにして形成されたか、授業全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考書のうち②を授業期間中に読み切ること。授業中にも、おすすめの図書を紹介します。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しませんが、適宜、資料を主に学習支援システムを通じて配信します。授業開始までに、各自手元に用意してください。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013年。
- ②ジャン・ピエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017年。
- ③北山晴一『世界の食文化⑩ フランス』、農村漁村文化協会、2008年。

【成績評価の方法と基準】

平常点(コメントカード提出・発表参加を含む受講態度全般)60%、期末レポート40%の総合評価
特に、平常点評価に含まれる授業期間内の「報告会での発表」、授業期間終了後の「期末レポートの提出」は必須です。

【学生の意見等からの気づき】

テーマを十分にお伝えするため、授業中は講義形式を採用しています。しかしその分、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。フィードバックコーナーが長くなってしまうこともあるのですが、テーマを深める機会であると考えているので、今年度も継続していきたいと思います(質問多数の場合、調整することはあります)。コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードしたPC、タブレット等を持参すること。原則として教室での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】

履修申請者が41名を超えてしまった場合、定員が40人の授業であるため、履修者を抽選とします。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn the historical background of the gastronomic culture of France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

ロシア語の世界 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：ロシアの歴史

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの歴史および文化（言語、民族、宗教、文学、思想など）を概観し、ロシアという国がどのような国なのか、その特質を理解する。それによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」の基本を獲得する。

ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

一般の日本人にとっては理解しにくいロシアという国について、明確なイメージを持つことができる。

また、そうしたロシアの歴史や文化に関する理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義型の授業となる。

毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。

学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	9世紀半ばから13世紀の歴史	建国伝説、「キエフ・ルーシ」
第2回	13世紀から16世紀の歴史	「タタールの軛」、モスクワ大公国から「ロシア」へ（イヴァン3世とイヴァン4世）
第3回	17世紀の歴史	「動乱」、ロマノフ朝の成立
第4回	18世紀前半の歴史	ピョートル1世、「ロシア帝国」
第5回	18世紀後半の歴史	エカチェリーナ2世、ポーランド分割、「新ロシア」とクリミア半島、ウクライナ
第6回	19世紀初めの歴史	アレクサンドル1世、ナポレオン戦争、デカブリストの乱
第7回	19世紀半ばの歴史	ニコライ1世、クリミア戦争、アレクサンドル2世、農奴解放
第8回	19世紀終わりの歴史	アレクサンドル3世、産業革命
第9回	20世紀初めの歴史（0年代～20年代）	ニコライ2世、第1革命、第1次世界大戦、ロシア革命、「ソ連」、レーニン
第10回	20世紀半ばの歴史（30年代～40年代）	スターリン、第2次世界大戦
第11回	20世紀半ばの歴史（50年代～60年代）	冷戦、フルシチョフ
第12回	20世紀終わりの歴史（70年代～80年代）	停滞からベレストロイカへ、ゴルバチョフ

第13回 20世紀末の歴史（90年代） ソ連崩壊、「ロシア連邦」、エリツィン

第14回 21世紀初めの歴史 ブーチン、ウクライナ戦争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。

学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

『新版世界各国史22ロシア史』山川出版社、2002年。

『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004年。

『ロシア文化事典』丸善出版、2019年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（感想や質問の提出）40%、期末レポート60%。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言や発表の機会をより増やす。

毎授業の途中や最後に、授業内容に関する復習問題に取り組む。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to survey history and culture (languages, nations religions, literature, thought etc.) of Russia, as the background of Russian language. We will understand what kind of country Russia is and its special characteristics.

Students will be expected to have written a short report after every class work. Your study time will be more than two hours for a class.

Your final grade will be decided based on the following. Term-end report(40%), Short reports(40%), and in-class contribution(20%).

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

ロシア語の世界 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：ロシアの周辺国の歴史

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中・東欧、ロシア、およびそれらの周辺国 (旧ソ連圏の国々など) の歴史および文化 (言語、民族、宗教など) を概観することによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」を獲得する。より広い視野においてロシアという国を理解する。

ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

一般の日本人にとってなじみのない中・東欧、ロシア、およびそれらの周辺地域について明確なイメージを持ち、これらの国や地域の持つ世界史的な意義を理解できる。

また、そうした国や地域の歴史や文化に関する理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義型の授業となる。

毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。

学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ロシアの周辺国 (現在の国境)、スラヴ諸族と現在の国家
第2回	ロシアの周辺国の歴史 (その1)	北欧の歴史—デンマーク・スウェーデン・ノルウェー・フィンランド (前半：16世紀まで；ヴァイキングの遠征、デンマークによるカルマル同盟、同盟からのスウェーデンの独立)
第3回	ロシアの周辺国の歴史 (その2)	北欧の歴史—デンマーク・スウェーデン・ノルウェー・フィンランド (後半：16世紀以降；デンマークの興隆と衰退と復興、スウェーデンの興隆と衰退と復興、ノルウェーの独立、フィンランドとアイスランドの独立)
第4回	ロシアの周辺国の歴史 (その3)	バルト三国の歴史—エストニア・ラトヴィア・リトアニア (リヴォニアとドイツ騎士団、リトアニアの発展、ポーランドによるリトアニアの吸収、ロシア帝国によるリヴォニア・ポーランド・リトアニアの全面的支配、バルト三国の独立)

第5回	ロシアの周辺国の歴史 (その4)	ポーランドの歴史 (前半：17世紀半ばまで；成長期、最盛期、衰退期)
第6回	ロシアの周辺国の歴史 (その5)	ポーランドの歴史 (後半：17世紀半ば以降；独立喪失期、独立の回復)
第7回	ロシアの周辺国の歴史 (その6)	ウクライナの歴史 (前半：13世紀まで；キエフ・ルーシ、タールの輓)
第8回	ロシアの周辺国の歴史 (その7)	ウクライナの歴史 (後半：13世紀以降；ポーランド・リトアニア時代、ロシア帝国時代、ソ連時代)
第9回	ロシアの周辺国の歴史 (その8)	中央アジア五国の歴史—カザフスタン・ウズベキスタン・トルクメニスタン・キルギスタン・タジキスタン (前半：9世紀まで；イラン系の興隆、トルコ系の侵入)
第10回	ロシアの周辺国の歴史 (その9)	中央アジア五国の歴史—カザフスタン・ウズベキスタン・トルクメニスタン・キルギスタン・タジキスタン (後半：9世紀以降；イスラムの興隆、モンゴルの侵攻、トルコ化とイスラム化、ロシア帝国・ソ連と清・中国の支配)
第11回	ロシアの周辺国の歴史 (その10)	コーカサス三国の歴史—ジョージア・アルメニア・アゼルバイジャン (東西南北の諸勢力の交差点としての北コーカサスと南コーカサス、前6世紀以来のジョージア、前6世紀以来のアルメニア、3世紀以来のアゼルバイジャン)
第12回	ロシアの周辺国の歴史 (その11)	トルコの歴史 (前半：16世紀まで；封建的帝国期、集権的帝国期)
第13回	ロシアの周辺国の歴史 (その12)	トルコの歴史 (後半：16世紀以降；分権的帝国期、近代的帝国期)
第14回	スラヴ民族と周辺諸民族	ゲルマン民族、ボヘミア、ハンガリー、ルーマニア、スロヴェニア、クロアチア、セルヴィア、アルバニア、マケドニア、ブルガリア、ユダヤ、ジプシーなど

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。
学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布する。

【参考書】

『民族の世界史10 スラヴ民族と東欧ロシア』山川出版社。
森安達也『ビザンツとロシア・東欧』講談社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (感想や質問の提出) 40 %、期末レポート 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言や発表の機会をより増やす。
毎授業の途中や最後に、授業内容に関する復習問題に取り組む。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to survey history and culture (languages, nations, religions) of Central and Eastern Europe, Russia and their surrounding areas (countries of the former Soviet Union area etc.), as the background of Russian language. We will understand the specifics of Russia from a broader perspective.

Students will be expected to have written a short report after every class work. Your study time will be more than two hours for a class.

Your final grade will be decided based on the following. Term-end report(40%), Short reports(40%), and in-class contribution(20%).

ARSA200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）

ロシアの文化と社会 L A 2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくても履修できます。なお、SAエストニア（SAロシア代替）の事前学習も兼ねるので、SAエストニアの1年生もしくは2年生は必ず履修してください。ロシアは、峻厳で美しい自然、深く豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でパワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりです。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導くこと、そして教員が提起した問題に対して自身の意見を適切な文章でまとめる力を養うことも目的としています（コメントシートを通して）。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教場で資料を配付し、随時、映像資料を共有しながら講義を行います。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：ロシアについて	ガイダンス。今日のロシア社会、地理的環境、歴史的キーワード、ソ連・ロシアの国歌を通してロシアの概略を示す。
第2回	モスクワ観光スポット（美術館、博物館、教会、劇場、世界遺産）	ロシアの首都モスクワ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、地下鉄、美術館、建築、観光スポットを紹介。
第3回	サンクト・ペテルブルクの名所（美術館、劇場、博物館、教会）	ロシア第2の都市サンクト・ペテルブルグ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、美術館、観光スポットを紹介。

第4回	民俗文化とロシア正教、国民の祝日	ロシア正教を国教とするロシア。その影響力は政治と結びついて大きなものとなっているが、キリスト教受容以前の異教との習合現象としての二重信仰の伝統もロシアに独特の文化を育んできた。異教、正教、社会主義というイデオロギーなど常に信仰の対象を抱き続ける信心深いロシア人の民俗文化やこれに基づく祝祭、宗教的行事、祝日について紹介。
第5回	ロシア・バレエの世界1	バレエ・リュスからソ連時代のバレエ史に名を残すダンサー、そして現代の国際的ダンサーまで、ロシア・バレエの粋を紹介すると同時に、政治的に抑圧を受けたバレエ界の事象、亡命したダンサーについて概観。
第6回	ロシア・バレエの世界2	前回の授業を踏まえて、政治とバレエの問題を考える。
第7回	ロシアの音楽1：グリンカ、チャイコフスキー、ムソルグスキー	ロシア・クラシック音楽の歴史を概観。グリンカからムソルグスキーまでの音楽を、指揮者ゲルギエフ、現代ロシアのソリストのパフォーマンスを通して紹介。
第8回	ロシアの音楽2：政治と音楽（ショスタコーヴィチ、ラフマニノフ）	19世紀末からロシア革命時の音楽を概観。また、ショスタコーヴィチ、ストラヴィンスキー、ラフマニノフを通して音楽と政治の問題を考える。
第9回	ロシアの音楽3：政治と音楽（テルミン、肋骨レコード）	反体制派と呼ばれたソリスト、抑圧された音楽について。
第10回	ロシア文学1：イーゴリ軍記から19世紀前半	『イーゴリ軍記』における異教性、カラムジンの感傷主義、プーシキン、ロマン主義とリアリズムの融合について。『余計者』の確立。
第11回	ロシア文学2：19世紀半ば～（ゴーゴリ、ドストエフスキー）	ゴーゴリのグロテスクな手法、《小さな人間》について、ドストエフスキーの超人思想、神人について。
第12回	ロシア文学3：19世紀後半～20世紀（トルストイ、チェーホフ、アヴァンギャルド、フォルマリズム）	トルストイの「性愛・肉欲の否定」と聖愚者の賞揚。チェーホフの創作方法について。《異化》の概念について。政治と文学について。
第13回	ロシア文学4：亡命作家から現代（ソルジェニツィン、プロツキー、ペレーヴィン）／日本文学との影響関係	亡命作家を通して政治と文学の問題。検閲から自由になった現代作家の営みを概観。ロシア文学と日本文学との影響関係について。
第14回	民族問題とナショナリズムの歴史と現代の民族問題	ロシアの領土拡大とオリエンタリズムについて。ソ連時代の民族統合が現代に残した問題。チェチェン紛争、グルジア紛争、現代ロシアのナショナリズム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、AVライブラリーコーナーの活用を勧めます。期末レポートの作成には1週間程度の時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教場で教員が作成する資料を配付します。

【参考書】

参考文献については教場もしくは学習支援システムで、随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として総合的に判断します。本授業の到達目標の60%以上を達成した学生は合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんとロシアの多様な側面を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

【Outline (in English)】**● Course outline**

In this course, students will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Tourist spots Moscow and Saint Peter's burg, Russian ballet, music and literature.

● Learning Objectives

While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

● Learning activities outside of classroom

Find out about the themes covered in class through the internet, literature, video materials, and movies. When watching Soviet /Russian movies, we recommend using the AV library. Students should spend a week preparing the term-end report.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(25 %),Short reports(25 %) and term-end reports(50 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

ロシアの文化と社会 L B 2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの歴史、映画、アニメ、美術の領域からロシアの文化の多様性を見ていきます。本講義では映像資料を多用して概説を行います。多くの情報を統合してロシアの像をまとめていく作業は学生みなさん一人ひとりが行うことになります。この授業は、SAエストニア（SAロシア代替）の事前学習に位置付けられているので、SAエストニア1年の学生は必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を受けたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張をまとめる力を養うことを目標としています（コメントシートを通して）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教場で資料を配付し、随時、映像資料を共有しながら講義を行います。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／ロシアの歴史1：キエフ	ロシアの歴史：キエフルーシ、タタールの軋、イワン雷帝の世について。
第2回	ロシアの歴史2	ピョートル大帝、エカテリーナ女帝、大黒屋光太夫、祖国戦争について映像資料を交えて概観。
第3回	ロシアの歴史3	農奴解放、近代化、テロリズム、日露戦争について映像資料を交えて概観。
第4回	ロシアの歴史4	ロマノフ王朝の崩壊、ロシア革命、スターリニズムについて映像資料を交えて概観。
第5回	ロシアの歴史5	雪解けから停滞へ、ベレストロイカ、チェルノブイリ原発事故、ソ連邦崩壊、新生ロシアまでを映像資料を交えて概観。
第6回	ソ連映画1	映画黎明期からモンタージュ派（エイゼンシュテイン、ヴェルトフ）、文芸映画を鑑賞しつつ、とりわけ政治的背景と映画の手法について着目する。

第7回 ソ連映画2

第8回 ソ連映画3

第9回 ロシア映画4

第10回 ロシア映画5

第11回 ロシア・アニメ1

第12回 ロシア・アニメ2

第13回 ロシア美術1

第14回 ロシア美術2

雪解け期から停滞の時代までに制作された文芸映画を、社会的背景、政治的体制、手法の観点から見ていく。

反体制の烙印を押された監督の作家性、手法、映像美を堪能する。また、SF映画を概観するとともに、ベレストロイカ期に多く制作された不条理作品、諷刺コメディを通して、政治と映画の問題を確認する。

検閲から自由になった映画として、芸術性と映像実験を重ねるソクーロフの作品、また、大国ロシアを再び謳い上げる戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状を概観する。

前回に引き続き、戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状と傾向を概観する。

黎明期からプロパガンダ・アニメ、児童アニメ（タレーヴィチ、アタマノフ、ヒトルーク、カチャーノフ）の概説と作品の鑑賞。

アート・アニメ（ノルシュテイン、ペトロフらの作品）の概説と作品鑑賞。

イコン（聖像画）の機能について、移動派の活動、パトロンの役割について。

マレーヴィチ、カンディンスキー、シャガールの絵画について。ロシア・アヴァンギャルド期の建築について紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の視聴には、AVライブラリーコーナーの利用を勧めます。期末レポートの作成には1週間程度の時間を要することになります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教員が作成した資料を教場で配付するか、もしくは学習支援システムにアップします。

【参考書】

教場や学習支援システムで適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として、総合的に判断します。本授業の到達目標の60%以上を達成した学生が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

今学期はロシアの歴史、映画が中心となりますが、時事的な話題もとりこみながら講義をおこないます。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, students will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Russian history, and films, pictures and animations.

● Learning Objectives

While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

● Learning activities outside of classroom

Find out about the themes covered in class through the internet, literature, video materials, and movies. When watching Soviet /Russian movies, we recommend using the AV library. Students should spend a week preparing the term-end report.

●Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(25 %),Short reports(25 %) and term-end reports(50 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

検定のロシア語 A

2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を履修し終え中級以上を目指す学生のためのクラスです。資格として履歴書に書けるロシア語能力検定試験3級の合格を目指します。(3級はCEFR A2レベルの「文法・読解・聴解・会話・作文」力に相当します。)

【到達目標】

毎年5月と10月に実施されるロシア語能力検定試験に合格するために、以下の目標を達成する。1) 基礎文法を習得し確実に自身のものとする。2) テキストの内容を的確に把握し検定試験問題が解ける。3) 様々なテキストを和訳できる。4) ロシア語のリスニング問題が解ける、5) テキストを早く美しく音読できる。6) ロシア語の実践会話の習得、7) 語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語能力検定試験3級の合格を目指し、基礎文法の習得を完成させ、対策問題や過去問などを解いていく。視聴覚教材で生きたロシア語に触れ、リスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。単語や熟語のミニテストを適時行い、語彙力を強化していく。課題等に対するフィードバックは、授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、基礎文法の復習	オリエンテーション、既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	名詞と人称代名詞	名詞の性別と複数形、人称代名詞、名詞の格変化
第3回	形容詞、所有代名詞と指示代名詞	形容詞、所有代名詞と指示代名詞、その格変化
第4回	動詞（時制の表現）	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、完了体）
第5回	副詞、無人称文、テキスト読解	副詞、無人称文、テキスト読解
第6回	時制を表す表現、疑問詞	時制を表す表現、疑問詞とその返答
第7回	運動の動詞	1) 運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）2) 「(歩いて・乗り物で) 運ぶ」「連れて行く」
第8回	動詞の命令形	3) パターンの命令形（完了体・不完了体含む）
第9回	比較級	主に単一比較級
第10回	関係代名詞	関係代名詞、関係副詞、接続詞
第11回	数詞（主格・対格）	数詞（数詞と名詞の変化）
第12回	リーディング	リーディング練習（アクセント記号の付いていないテキスト）
第13回	リスニング	リスニング（過去問を時間内で解く練習）
第14回	和文露訳	和文露訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語学習の成果としてロシア語能力検定試験合格を目指した準備を進めて下さい。基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組んでいきましょう。授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨んでください。

本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。また、NHKロシア語講座（ラジオ）やインターネットなどでロシア映画や歌、ロシア関連のニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れてみましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

【参考書】

佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年

『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み、単語ミニテストなど）70%、提出物の評価（課題や宿題等の提出）30%で評価します。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声提出してもらい、その評価も加味する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

新規授業のため、次年度以降に記載されます。皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。

「検定」は、東京ロシア語学院主催のロシア語能力検定試験（毎年5月10月実施）を想定しておりますが、ロシア連邦教育科学省認定ロシア語検定試験（ТРКИ - テ・エル・カ・イ）受験の希望者が多い場合は、そちらに標準を合わせる予定です。

また、ロシア語能力検定試験4級受験希望者が多数の場合も4級対策を多めに行う予定です。

いずれかの検定試験を受験し、合格を目指してください。

なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

This course is for students who have completed Beginner Russian and are aiming for intermediate level or higher. Aiming to pass Level 3 of the Russian Language Proficiency Test, which can be written on your resume as a qualification. (Level 3 is equivalent to the CEFR A2 level of "grammar, reading comprehension, listening comprehension, conversation, and writing" ability.) Work to be done outside of class : students review basic grammar and work on past exam questions and preparation questions. Students prepare the textbooks and practice questions assigned in class in advance before attending class. Grading criteria : The evaluation will be based on 50% of the normal score (participation in class, study efforts such as preparation and review, vocabulary mini-test) and 50% of the evaluation of submitted materials (submission of assignments, homework, etc.).

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

検定のロシア語 B

2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を履修し終え中級以上を目指す学生のためのクラスです。資格として履歴書に書けるロシア語能力検定試験3級の合格を目指す。(3級はCEFR A2レベルの「文法・読解・聴解・会話・作文」力に相当します。)

春学期「検定のロシア語A」からの継続受講も可能です。

【到達目標】

毎年5月と10月に実施されるロシア語能力検定試験に合格するために、以下の目標を達成する。1) 基礎文法を習得し確実に自身のものとする。2) テキストの内容を的確に把握し検定試験問題が解ける。3) 様々なテキストを和訳できる。4) ロシア語のリスニング問題が解ける、5) テキストを早く美しく音読できる。6) ロシア語の実践会話の習得、7) 語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語能力検定試験3級の合格を目指し、基礎文法の習得を完成させ、対策問題や過去問などを解いていく。視聴覚教材で生きたロシア語に触れ、リスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。単語や熟語のミニテストを適時行い、語彙力を強化していく。課題等に対するフィードバックは、授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、基礎文法の復習	オリエンテーション、既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	名詞と人称代名詞	名詞の性別と複数形、人称代名詞、名詞の格変化
第3回	形容詞、所有代名詞と指示代名詞	形容詞、所有代名詞と指示代名詞、その格変化
第4回	動詞（時制の表現）	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、完了体）
第5回	副詞、無人称文、テキスト読解	副詞、無人称文、テキスト読解
第6回	時制を表す表現、疑問詞	時制を表す表現、疑問詞とその返答
第7回	運動の動詞	1) 運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）2) 「(歩いて・乗り物で) 運ぶ」「連れて行く」
第8回	動詞の命令形	3 パターンの命令形（完了体・不完了体含む）
第9回	比較級	主に単一比較級
第10回	関係代名詞	関係代名詞、関係副詞、接続詞
第11回	数詞（主格・対格）	数詞（数詞と名詞の変化）
第12回	リーディング	リーディング練習（アクセント記号の付いていないテキスト）
第13回	リスニング	リスニング（過去問を時間内で解く練習）
第14回	和文露訳	和文露訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語学習の成果としてロシア語能力検定試験合格を目指した準備を進めて下さい。基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組んでいきましょう。授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨んでください。

本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。また、NHKロシア語講座（ラジオ）やインターネットなどでロシア映画や歌、ロシア関連のニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れてみましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

【参考書】

佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年

『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）が70%、課題への回答やミニテストの評価30%の割合です。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声提出してもらい、その評価も加味する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

新規授業のため、次年度以降に記載されます。皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。

「検定」は、東京ロシア語学院主催のロシア語能力検定試験（毎年5月10月実施）を想定しておりますが、ロシア連邦教育科学省認定ロシア語検定試験（ТРКИ - テ・エル・カ・イ）受験の希望者が多い場合は、そちらに標準を合わせる予定です。

また、ロシア語能力検定試験4級受験希望者が多数の場合も4級対策を多めに行う予定です。

いずれかの検定試験を受験し、合格を目指してください。

なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

This course is for students who have completed Beginner Russian and are aiming for intermediate level or higher. Aiming to pass Level 3 of the Russian Language Proficiency Test, which can be written on your resume as a qualification. (Level 3 is equivalent to the CEFR A2 level of "grammar, reading comprehension, listening comprehension, conversation, and writing" ability.) Work to be done outside of class : students review basic grammar and work on past exam questions and preparation questions. Students prepare the textbooks and practice questions assigned in class in advance before attending class. Grading criteria : The evaluation will be based on 50% of the normal score (participation in class, study efforts such as preparation and review, vocabulary mini-test) and 50% of the evaluation of submitted materials (submission of assignments, homework, etc.).

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語コミュニケーション初級 I 2017年度以降入学者**周 重雷**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

構文をしっかりと覚える。

発音を正確にする。

日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教材を使って文法の勉強をする。また履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布と説明
第2回	発音	ピンインの復習
第3回	あいさつ	あいさつなどの日常用語の練習をする
第4回	人称代名詞と指示代名詞	文法を確認したのち、自己紹介の練習をする
第5回	会話（1）	
第6回	述語	文法を確認したのち、自己紹介を発表する
第7回	授業内発表（1）	「是」その他
第8回	受け答え	在と有
第9回	場所と方位	数量詞と連体修飾語を学ぶ
第10回	疑問文	ものの尋ね方
第11回	会話（2）	レストランでの会話を作成する
第12回	連用修飾語	副詞と時間詞を学ぶ
第13回	授業内発表（2）	講師と一対一またはグループでレストランでの会話をする
第14回	完了と変化	「了」の様々を知る
第15回	会話（3）	買い物する時の会話パターンを作成する
第16回	助動詞と前置詞構造	文法を確認したのち、講師と一対一またはグループで買い物のシミュレーションをする
第17回	授業内発表（3）	
第18回	三量補語	三量補語と離合詞
第19回	まとめ及び期末テスト	文法をまとめ、会話の口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や発表の準備など、毎回1時間ほどの予習・復習をする。

また、HSKや中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員による教材配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60%

発表：40%

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

受講者それぞれのレベルの差に配慮をする。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should talk the Chinese language by accurate pronunciation,

and talk the Chinese daily conversation well.

We should prepare and review about one hour a week.

It is better to take the test of HSK.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語コミュニケーション初級Ⅱ 2017年度以降入学者**周 重雷**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。
日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	持続態と進行形を確認したのち、「私の夏休み」を作成する
第2回	程度補語 作文の添削	程度補語を確認したのち、作文の添削をする
第3回	比較と連動	比較文と連動文
第4回	構文分析	構文分析と助動詞の補説
第5回	強調と重複 会話（1）	強調文と重複表現 待ち合わせの会話を作る
第6回	方向補語 授業内発表（1）	方向補語の用法 待ち合わせの会話の発表
第7回	複合方向補語の用法	複合方向補語の派生的用法
第8回	結果補語	結果補語の説明
第9回	可能補語 会話（2）	可能補語の説明 道を尋ねる・教える会話の作成
第10回	使役と受身 授業内発表（2）	使役と受身の確認と比較 道を尋ねる・教える会話の発表
第11回	処置と倒置	処置文と倒置文
第12回	複文一	複文の様々を知る
第13回	複文二	複文の後半
第14回	まとめ	口頭による試験を行う まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週1時間を目途に予習・復習する。
単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。
また、HSKや中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員による教材配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

受講者それぞれのレベルの差に配慮する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should do the exercise of reading, writing, listening and talking.

We should talk the chinese daily conversation well.

We should prepare and review about one hour a week.

It is better to take the test of HSK.

Term-end test:60%

presentation:40%

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語視聴覚初級 I

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

定員制 (35)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。この授業は水曜日3限の中国語視聴覚中級A・Bと同じ教科書を使います。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。

【到達目標】

1年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第1課	文法理解と応用
3	第1課	会話と応用
4	第1課	読解文の理解と応用
5	第1課	課外練習と作文
6	第2課	文法理解と応用
7	第2課	会話と応用
8	第2課	読解文の理解と応用
9	第2課	課外練習と作文
10	第3課	文法理解と応用
11	第3課	会話と応用
12	第3課	読解文の理解と応用
13	第3課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

This class uses the same textbook as Wednesday 3rd period Chinese Audiovisual Intermediate A/B. Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.

Final grade will be calculated according to the following Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語視聴覚初級Ⅱ

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

定員制 (35)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。

【到達目標】

1年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス復習	授業内容に関するガイダンスと復習
2	第4課	文法理解と応用
3	第4課	会話と応用
4	第4課	読解文の理解と応用
5	第4課	課外練習と作文
6	第5課	文法理解と応用
7	第5課	会話と応用
8	第5課	読解文の理解と応用
9	第5課	課外練習と作文
10	第6課	文法理解と応用
11	第6課	会話と応用
12	第6課	読解文の理解と応用
13	第6課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

This class uses the same textbook as Wednesday 3rd period Chinese Audiovisual Intermediate A/B. Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.

Final grade will be calculated according to the following

Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

資格中国語初級 I

2017年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK (□□水平考□) 1級～3級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的ですが、例年レベルが高い学生が多いため、春学期中に2～3級、秋学期中に3～4級に合格できるよう指導します。HSKのリスニングは難しいので、中国検定準4級程度からトレーニングを始めていきます。向上心のある学生の参加を歓迎します。単位のためだけの履修は向きません。中国語を1年以上履修した学生に限ります。中国語が好きな人が集まりますので、気軽に情報交換できる楽しいクラスを目指します。毎年全員が高得点で合格しています。

【到達目標】

春学期はHSK 2～3級に合格できるリスニング力と読解力を身につけてもらいます。秋学期はHSK3～4級合格を目指します。昨年の3級合格者の平均点は247点で、内訳は、聴力78点、閱讀86点、写作83点でした。日本人が苦手な聴力の得点も良好で、閱讀では4人が100点（満点）でした。また4級には3人合格しました。履修者は2年生が多いですが、就活を終えた4年生もいます。1年生のとき使用した教科書ポイント学習を復習しながら、初級中国語の基礎文法のしくみを解説します。必ずレベルアップを感じていただきたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

HSKの過去問プリントを使って学習します。必要な単語と文法を学び、実際の過去問を解いて実践力を養います。単語帳のテキストを使って、単語テストを行い、語彙力を高めます。ポイント学習の教科書を使って初級中国語の文法の構造を把握し理解します。フィードバックは授業内とメールで行います。メールは、qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	レベルチェックテスト	メンバーのレベルをチェックします。
2	HSK 1 級過去問①	HSK 1 過去問①を解き解説します。
3	HSK 1 過去問②	HSK 1 過去問②を解いて解説します。
4	HSK 2 過去問①	HSK 2 過去問①を解いて解説します。
5	HSK 2 過去問②	HSK 2 過去問②を解いて解説します。
6	HSK 2 級過去問③	HSK 2 級過去問③を解いて解説します。
7	HSK 2 級過去問④	HSK 2 級過去問④を解いて解説します。
8	HSK 3 級過去問①	HSK 3 級過去問①を解いて解説します。
9	HSK 3 級過去問②	HSK 3 級過去問②を解いて解説します。

10	HSK 3 級過去問③	HSK 3 級過去問③を解いて解説します。
11	HSK 3 級過去問④	HSK 3 級過去問④を解いて解説します。
12	HSK 3 級過去問⑤	HSK 3 級過去問⑤を解いて解説します。
13	HSK 3 級過去問⑥	HSK 3 級過去問⑥を解いて解説します。
14	春学期復習と学習のまとめ	復習テストと学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良く復習すること。覚えた単語は忘れないようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

過去問はプリントを配布します。法政大学のHSK合格講座のサイトも活用します。次のテキストを使用します。履修を決めてから購入してください。HSK/中検対応『中国語基本単語帳』 早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社。ポイント学習中国語を毎回持参してください。

【参考書】

HSK過去問、HSK公式アプリ単語、法政大学HSK合格講座

【成績評価の方法と基準】

出席状況80％と期末テスト20％で評価します。HSK合格者は、S評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

単語帳テキストを使って、単語テストを実施し、語彙力を高めます。同時にリスニングのトレーニングを多く行います。文法がもっとわかるようになりたいという要望が多いので、ポイント学習中国語を使って解説します。文法の基礎や構造を理解していただけるように工夫します。プリント教材の質を向上させて、復習しやすいように心がけます。また欠席者が困らないように、授業内容は、hoppiにアップするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマホ

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 1st 2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.

The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

資格中国語初級Ⅱ

2017年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK 3－4 級合格レベルの中国語を身につけることが目的です。この授業は春学期から継続しています。秋学期からの参加も歓迎しますが、春学期のシラバスを読んで、初回の授業に出てから履修を決めてください。中国語が好きで意欲的な学生の参加を歓迎します。

【到達目標】

HSK 3－4 級合格以上を目指します。昨年は4 級は3 人合格しました。詳細は春学期のシラバスをご覧ください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリント教材を使って、HSK 3－4 級の単語と文法を学びます。リスニング練習を重視します。そのほか単語帳とポイント学習中国語の教科書で初級文法の構造を解説します。フィードバックは授業内とメールで行います。qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HSK 3 級昨年度の過去問を使ったレベルチェックテスト	HSK 3 級昨年度の過去問を使って皆さんのレベルをチェックします。
2	HSK 3 級過去問①	HSK 3 級過去問①を解いて解説します。
3	HSK 4 級単語解説	HSK 4 級に出る単語を解説します。
4	HSK 4 級過去問リスニングチェックテスト①	HSK 4 級過去問リスニングを解いてリスニング力をチェックします。
5	HSK 4 級過去問リスニング②	HSK 4 級過去問リスニング②を解いて解説します。
6	HSK 4 級過去問リスニング③	HSK 4 級過去問リスニング③を解いて解説します。
7	HSK 4 級過去問リスニング④	HS 4 級過去問④を解いて解説します。
8	HS 4 級過去問閱讀①	HSK 4 級過去問閱讀①を解いて解説します。
9	HSK 4 級過去問閱讀②	HSK 4 級過去問閱讀②を解いて解説します。
10	HSK 4 級過去問閱讀③	HSK 4 級過去問③を解いて閱讀の解説します。
11	HSK 4 級過去問閱讀④	HSK 4 級過去問閱讀④を解いて、閱讀の解説をします。
12	HSK 4 級過去問作文①	HSK 4 級過去問の2 作文練習をします。
13	HSK 4 級過去問	HSK 4 級過去問の作文②を学習します。
14	授業の総まとめ期末テスト実施	期末テスト実施、解説をしながら学習の総まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを忘れないように、よく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布します。プリント以外に、次の単語帳テキストを使用します。

『中国語基本単語帳』 早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社。またポイント学習中国語を持参することが望ましいです。

【参考書】

HSK 一 4 3 級過去問、単語集。法政大学 HSK 合格講座

【成績評価の方法と基準】

出席状況80 %、期末テスト20 %で評価します。HSK 3 级以上合格者はS ランクで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

欠席者が困らないように、授業内容はhoppi にアップするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、PC。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 1st 2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.

The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200)

中国語の世界 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

高柳 浩平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ことばは一般的に「コミュニケーションのための手段」と見なされることが多いですが、ことばが使われる時、その背後には整然としたしくみが存在しています。本授業は、何かの手段としての中国語を学ぶのではなく、中国語を中国語たらしめているしくみがどのように形成されたのか、どのように運用されているのかを、言語学的見地から「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった分野に分けて学んでいきます。つまり、ことばとして中国語そのものを深く理解することこそが本授業の目的です。

【到達目標】

中国語のしくみを分析・探求する学問を「中国語学」と呼びますが、本授業の到達目標は、中国語学の根幹をなす「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった各分野における基礎知識を習得することと、いくつか取り上げる個別の事例について自力で分析が出来るようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員が作成して配布した資料をもとに講義をおこない、各回の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらいます。質疑応答、課題等へのフィードバックは授業時におこなうほか、随時大学の学修支援システムやメールも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業に関する留意点の説明等
②	中国語の文字（１）	漢字の起源と変遷
③	中国語の文字（２）	漢字の簡略化及び文字改革と簡体字
④	中国語の音韻（１）	古代の音とその表記法
⑤	中国語の音韻（２）	古代の音から現代の音へ
⑥	中国語の音韻（３）	ピンインの成立とその表記法
⑦	中国語の語彙（１）	古代の語彙とその分類
⑧	中国語の語彙（２）	古代の語彙から現代の語彙へ
⑨	中国語の語彙（３）	日中語彙交流と外来語・新語・流行語
⑩	中国語の文法（１）	中国語の文構造と品詞分類
⑪	中国語の文法（２）	中国語文法研究の変遷
⑫	共通語と方言（１）	共通語の成立と広がり
⑬	共通語と方言（２）	共通語と諸方言の比較
⑭	まとめと試験	講義のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。

【参考書】

参考書は授業内にて適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）とします。

※平常点には、毎回提出するリアクションペーパーや、数回実施する小レポート等が含まれます。

※期末試験は一切参照不可にて実施しますので、基本事項は早めに覚えておきましょう。

【学生の意見等からの気づき】

新任のため無し。

【学生が準備すべき機器他】

中日辞典を毎回持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

授業計画は変更する可能性がありますので、参考程度に考えてください。

なお、本授業は中国語を全く学んだことのない方でも履修可能です。中国語や言語学に触れたことのない方にとっても、面白いと思ってもらえる授業を心がけます。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course deals with the Chinese Linguistics. The purpose of this course is to gain a deep understanding of the Chinese language itself.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire basic knowledge of Chinese Linguistics .

【Learning activities outside of classroom】

4 hours for preparation and review for each class.

【Grading Criteria /Policy】

Term-end examination: 60%, Short reports and in class contribution: 40%

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 200）

中国語の世界 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

高柳 浩平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に引き続き本授業では、何かの手段としての中国語を学ぶのではなく、中国語を中国語たらしめているしくみがどのように形成されたのか、どのように運用されているのかを、言語学的見地から学んでいきます。つまり、ことばとして中国語そのものを深く理解することこそが本授業の目的です。

【到達目標】

中国語のしくみを分析・探求する学問を「中国語学」と呼びますが、本授業の到達目標は、中国語学の根幹をなす「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった各分野における基礎知識を習得することと、いくつか取り上げる個別の事例について自力で分析が出来るようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員が作成して配布した資料をもとに講義をおこない、各回の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらいます。質疑応答、課題等へのフィードバックは授業時におこなうほか、随時大学の学修支援システムやメールも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業に関する留意点の説明等
②	類型論からみる中国語（１）	形態的類型論における中国語
③	類型論からみる中国語（２）	語順類型論における中国語
④	中国語文法の分析（１）	中国語と西洋文法の受容
⑤	中国語文法の分析（２）	中国語とアスペクト
⑥	中国語文法の分析（３）	中国語と補語
⑦	中国語文法の分析（４）	中国語と類像性
⑧	中国語史（０）	中国語史における時代区分
⑨	中国語史（１）	上古中国語の特徴
⑩	中国語史（２）	中古早期中国語の特徴
⑪	中国語史（３）	中古中国語の特徴
⑫	中国語史（４）	近代中国語の特徴
⑬	応用演習	中国語と能格性
⑭	まとめと試験	講義のまとめと筆記試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。

【参考書】

参考書は授業内にて適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）とします。
※平常点には、毎回提出するリアクションペーパーや、数回実施する小レポート等が含まれます。
※期末試験は一切参照不可にて実施しますので、基本事項は早めに覚えておきましょう。

【学生の意見等からの気づき】

新任のため無し。

【学生が準備すべき機器他】

中日辞典を毎回持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

授業計画は変更する可能性がありますので、参考程度に考えてください。
なお、本授業は中国語を全く学んだことのない方でも履修可能です。中国語や言語学に触れたことのない方にとっても、面白いと思ってもらえる授業を心がけます。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course deals with the Chinese Linguistics. The purpose of this course is to gain a deep understanding of the Chinese language itself.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire basic knowledge of Chinese Linguistics .

【Learning activities outside of classroom】

4 hours for preparation and review for each class.

【Grading Criteria /Policy】

Term-end examination: 60%, Short reports and in class contribution: 40%

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 200)

中国の文化と社会 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：台湾の文化と社会

山本 律

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、台湾は日本人の旅行先として人気となっています。
日本と台湾は長い歴史の中で深いかわりを持っています。
本授業では映像資料を用いて日本と台湾の文化的関係についてみていきます。

【到達目標】

日本と台湾との文化的関係についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。

毎回コメントペーパーを出してもらいます。

その次の回の授業でコメントペーパーの内容や質問についてフィードバックします。

最終回には教場レポートを提出してもらいます。

出席や遅刻など毎回の授業態度と教場レポートが主な成績判定となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第1回） 教員による解説・講義
第3回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第2回） 教員による解説・講義
第4回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第3回） 教員による解説・講義
第5回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第1回） 教員による解説・講義
第6回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第2回） 教員による解説・講義
第7回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第3回） 教員による解説・講義
第8回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第1回） 教員による解説・講義
第9回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第2回） 教員による解説・講義
第10回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第3回） 教員による解説・講義
第11回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第1回） 教員による解説・講義

第12回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第2回） 教員による解説・講義
第13回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第3回） 教員による解説・講義
第14回	授業の総まとめとレポート	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。
映画は各自で観てください。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60%、レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn about Chinese culture and society by using various materials such as movies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 200)

中国の文化と社会 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：香港の文化と社会

山本 律

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。

映画は、その国の文化と社会を映し出します。

今期では、2008年に公開されて以降、人気を博しシリーズ化されたカンフーアクション映画を軸として香港の社会と文化についてみていきます。

【到達目標】

中国香港の文化と社会についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を行います。

毎回コメントペーパーを出してもらいます。

その次の回の授業でコメントペーパーの内容や質問についてフィードバックします。

最終回には教場レポートを提出してもらいます。

出席や遅刻など毎回の授業態度と教場レポートが主な成績判定となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 序章』（第1回） 教員による解説・講義
第3回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 序章』（第2回） 教員による解説・講義
第4回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 序章』（第3回） 教員による解説・講義
第5回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 葉問』（第1回） 教員による解説・講義
第6回	レポート映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 葉問』（第2回） 教員による解説・講義
第7回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 葉問』（第3回） 教員による解説・講義
第8回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン 継承』（第1回） 教員による解説・講義
第9回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン 継承』（第2回） 教員による解説・講義

第10回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン 継承』（第3回） 教員による解説・講義
第11回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン 外伝』（第1回） 教員による解説・講義
第12回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン 外伝』（第2回） 教員による解説・講義
第13回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン 外伝』（第3回） 教員による解説・講義
第14回	授業の総まとめと試験	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。映画は各自で観てきてください。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、毎回のコメントペーパー）60％、レポート40％。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn about Chinese society and culture by using various materials such as movies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200)

中国の文化と社会 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：

陳 瀟瀟

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中国の文化と社会に関する基礎知識を学ぶ。中国の食文化、民俗行事、芸術工芸及び文化遺産について概観し、現代中国社会における学校教育、ジェンダー構造、消費者意識、流行物などを紹介・解説する。中国文化の多様性及び現代中国社会の実態への理解を深め、異文化理解と異文化交流の力を養うことを目的とする。

【到達目標】

- ・中国の文化と社会に関する基礎知識を習得する。
- ・中国社会に関する知識や事柄を理解する。
- ・中国のマナー・文化風習・商習慣への理解を深める。
- ・現代中国社会の事柄と流行物を客観的・多角的に捉える。
- ・異文化理解と異文化交流の力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テーマごとに講義を行う。また、受講生が練習問題の解答や自分の考えを発表する機会も設ける。グループディスカッションがある。課題とリアクションペーパーへのフィードバックは授業内及び学習支援システムにて行う。

※対面授業。授業形態に変更がある場合は大学の方針が確定された後、学習支援システムでその都度知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバス、授業内容の説明 ・授業計画と進め方、成績評価の方法と基準を説明
第2回	行政区画・地理	・中国の東西南北と地理概念 ・地域の差
第3回	漢民族と少数民族	・漢民族 ・少数民族
第4回	中国語という言葉	・漢字の歴史 ・普通話と方言
第5回	食文化	・中華料理とは ・「南」と「北」の食文化 ・円卓文化 ・デリバリーの流行
第6回	コミュニケーション文化1	・茶文化 ・酒文化
第7回	コミュニケーション文化2	・ビジネスマナー ・「メンツ」について
第8回	祝祭日と民俗行事	・二十四節気と祝祭日 ・民俗行事
第9回	芸術：音楽、絵画と戯曲	・音楽：燕楽、琴楽、民謡 ・絵画：花鳥画、山水画 ・戯曲：昆劇、京劇、川劇

第10回	学校教育	・「科学」と「高考」 ・現代社会の教育制度 ・都市と農村での教育格差
第11回	「巻」と「躺平」	・「巻」とは何か ・「躺平」とは何か ・若者世代の現状
第12回	「二次元文化」と「国潮」	・急成長の二次元文化 ・新しいカルチャー：国潮
第13回	異文化コミュニケーション	・異文化コミュニケーション ・ギャップ ・異文化コミュニケーション・スキル ・ディスカッション
第14回	授業内容のまとめ レポートの提出	・まとめと質疑応答 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とする。
・授業前に学習支援システムにアップロードされた講義資料を読むこと。
・授業後は関連知識の振り返り、疑問点や感想を整理してまとめること。
・授業内で示される課題・ディスカッションの内容を対応すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。
講義資料は事前に学習支援システムにアップロードする。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

中国研究所編『中国年鑑』（2024年版）明石書店、2024年
許倬雲『中国文化的精神』九州出版社、2024年
樓宇烈『中国文化十五講』東方出版中心、2024年
程愛民『中国概況（修訂版）』上海外語教育出版社、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための54章（第7版）』明石書店、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
王力編『中国古代文化常識』北京聯合出版公司、2014年
毛里和子・園田茂人編『中国問題キーワードで読み解く』東京大学出版会、2012年
並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年
※その他の参考文献は授業中に必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題・リアクションペーパー・授業への参加度）を60％、期末レポートを40％として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の理解度を高めるために、音声・映像などのコンテンツを活用する。
私語などを注意し、授業に集中しやすい環境づくりに心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

学習支援システム上の本授業の連絡事項を確認すること。
不明な点がある場合、xiaoxiao.chen.77@hosei.ac.jp まで連絡してください。

【Outline (in English)】

This course provides fundamental knowledge of Chinese culture and society. It offers an overview of Chinese food culture, folk traditions, arts and crafts, and cultural heritage. Additionally, the course introduces and explains aspects of contemporary Chinese society, including education, gender structures, consumer awareness, and popular trends.

【Learning Objectives】

- ・Acquire basic knowledge of Chinese culture and society.
- ・Understand key aspects and characteristics of Chinese society.
- ・Gain a deeper understanding of Chinese etiquette, cultural customs, and business practices.

- ・ Be able to analyze contemporary Chinese society and trends from an objective and multifaceted perspective.
- ・ Develop intercultural understanding and communication skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend approximately two hours each on preparation and review, totaling four hours per session.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be based on in-class contribution(60%) and term-end report(40%).Students who achieve 60%or more of the course objectives will pass.

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会 L D 2017年度以降入学者

サブタイトル：

陳 瀟瀟

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中国の文化と社会に関する基礎知識を学ぶ。中国の宗教、文学、美術工芸、世界遺産、冠婚葬祭について概観し、歴史的・文化的背景を理解する。次に、現代中国社会に焦点を当て、情報化とグローバル化に伴う価値観の変化、消費行動の変化、ジェンダー構造の変容について考察する。本授業を通じて中国の文化と社会の特徴を理解し、その変遷を多角的に捉える力を養うことを目指す。また、異文化理解と異文化交流の視点を深めるとともに、自らの考えを発展させることを目的とする。

【到達目標】

- ・中国の文化と社会に関する基礎知識を習得する。
- ・中国社会に関する知識や事柄を理解する。
- ・中国の冠婚葬祭のマナー・文化風習への理解を深める。
- ・現代中国社会の事柄と流行物を客観的・多角的に捉え、自分なりの考えを深める。
- ・異文化理解と異文化交流の力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テーマごとに講義を行う。また、受講生が練習問題の解答や自分の考えを発表する機会も設ける。グループディスカッションがある。課題とリアクションペーパーへのフィードバックは授業内及び学習支援システムにて行う。

※対面授業。授業形態に変更がある場合は大学の方針が確定された後、学習支援システムでその都度知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教	・民間信仰と祖先崇拜 ・道教と仏教
第2回	文学	・古代文学 ・唐詩と宋詞 ・近現代文学
第3回	美術工芸	・ガラス工芸 ・陶器、磁器、景泰藍 ・刺繍
第4回	中国の世界遺産 1	・故宮 ・万里の長城 ・始皇帝陵と兵馬俑
第5回	中国の世界遺産 2	・パンダ保護区群 ・莫高窟、龍門石窟、雲崗石窟、大足石刻 ・九寨溝、黄龍、黄山、桂林
第6回	冠婚葬祭	・結婚式 ・葬儀

第7回	SNSとショート動画	・SNSと「自媒体」 ・ショート動画の急成長 ・娯楽性と実用性
第8回	消費行動の変化	・店頭購入とネットショッピング ・爆買いから理性消費へ ・モノ消費からコト消費へ
第9回	ジェンダー構造の変容とフェミニズム	・男尊女卑と男女平等 ・フェミニズム ・ジェンダー構造の変容
第10回	異文化コミュニケーション 1	・カルチャーショック ・異文化受容と異文化適応 ・自文化の変容
第11回	プレゼンテーション・ディスカッション 1	・カルチャーショック ・異文化理解・自文化理解 ・グループディスカッション
第12回	異文化コミュニケーション 2	・多文化社会とは ・多文化共生へ ・マイノリティへの理解
第13回	プレゼンテーション・ディスカッション 2	・プレゼンテーション ・グループディスカッション
第14回	授業内容のまとめ レポートの提出	・まとめと質疑応答 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。
・授業前に学習支援システムにアップロードされた講義資料を読むしておくこと。
・授業後は関連知識の振り返り、疑問点や感想を整理してまとめること。
・授業内で示される課題・ディスカッションの内容を対応すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。
講義資料は事前に学習支援システムにアップロードする。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

中国研究所編『中国年鑑』（2024年版）明石書店、2024年
許倬雲『中国文化的精神』九州出版社、2024年
樓宇烈『中国文化十五講』東方出版中心、2024年
程愛民『中国概況（修訂版）』上海外語教育出版社、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための54章（第7版）』明石書店、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
王力編『中国古代文化常識』北京聯合出版公司、2014年
毛里和子・園田茂人編『中国問題キーワードで読み解く』東京大学出版会、2012年
並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年
※その他の参考文献は授業中に必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題・リアクションペーパー・授業への参加度）を60％、期末レポートを40％として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の理解度を高めるために、音声・映像などのコンテンツを活用する。
私語などを注意し、授業に集中しやすい環境づくりに心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

学習支援システム上の本授業の連絡事項を確認すること。
不明な点がある場合、xiaoxiao.chen.77@hosei.ac.jp まで連絡してください。

【Outline (in English)】

This course provides fundamental knowledge of Chinese culture and society. It offers an overview of China's religion, literature, arts and crafts, world heritage, and traditional ceremonies. This course also explores contemporary Chinese society, analyzing shifts in values, consumer behavior, and gender dynamics.

【Learning Objectives】

- Acquire basic knowledge of Chinese culture and society.
- Understand key aspects and characteristics of Chinese society.
- Gain a deeper understanding of Chinese customs and traditions.
- Develop the ability to analyze contemporary Chinese society and trends from an objective, multifaceted perspective, while forming independent insights.
- Develop intercultural understanding and communication skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend approximately two hours each on preparation and review, totaling four hours per session.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be based on in-class contribution (60%) and term-end report (40%). Students who achieve 60% or more of the course objectives will pass.

LANs200LA (スペイン語 / Spanish language education 200)

スペイン語コミュニケーションⅠ 2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この講座では身近な話題を相手に伝える練習を行う。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。その後、学んだ表現を暗記し、仲間と練習する。次に暗記した表現をベースにしてモデル文章を書き換えて発表する。学習した内容は次週の講義の最初に何人かに聞いて確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Presentación personal	自己紹介の方法を学ぶ。
2	Nombres de personas e hipocorísticos del mundo hispano	スペイン語圏の人の名前。
3	Mi familia 1	自分の家族を説明する方法を学ぶ (1)
4	Mi familia 2	自分の家族を説明する方法を学ぶ (2)
5	Un día normal 1	自分の平均的な1日を説明する方法を学ぶ (1)
6	Un día normal 2	自分の平均的な1日を説明する方法を学ぶ (2)
7	Descripciones	人物の一般的な描写方法を学ぶ
8	Mi ciudad 1	自分の街を説明する方法を学ぶ (1)
9	Mi ciudad 2	自分の街を説明する方法を学ぶ (2)
10	Mi universidad 1	自分の大学を説明する方法を学ぶ (1)
11	Mi universidad 2	自分の大学を説明する方法を学ぶ (2)
12	La cultura de la ropa usada y la moda (1)	古着とファッション (1)
13	La cultura de la ropa usada y la moda (2)	古着とファッション (2)
14	試験・まとめと解説	期末試験を実施し、今学期のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者はペアで練習を行うので、予習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した8個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認を行う。学習の目安は毎回 60 分程度である。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

辞書(電子辞書可)

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

教師が用意した教材を改善し、生徒間でより良いコミュニケーションを実現するために生徒間で信頼できる環境を作ります。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

In this course students will practice communicating familiar topics to others. Model sentences will be created to explain important expressions and practice replacing them. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on the model sentences.

Grading criteria

Students will be judged on the basis of regular scores, assignments and final examination.

Regular point evaluation: 50%.

A score based on the student's response when pointed out in class. Also, your attitude and active participation in class. Regular points will be accumulated, so if a student is absent, the regular points for that day will be zero.

Midterm exam: 20%.

Final oral exam: 30%.

In this course, students will practice communicating familiar topics to others. After replacing model sentences and memorize the expressions you have learned, you will practice them with your pairs. Next, rewrite the model sentences using the memorized expressions and present them. I will confirm what you have learned by asking some of you at the beginning of the next week's lecture.

Every week begins with a review of the previous week. Students will practice in pair, so they are expected to prepare well and actively participate in class. The estimated study time is about 60 minutes for each class.

LANs200LA (スペイン語 / Spanish language education 200)

スペイン語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この講座では身近な話題を相手に伝える練習を行う。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。その後、学んだ表現を暗記し、仲間と練習する。次に暗記した表現をベースにしてモデル文章を書き換えて発表する。学習した内容は次週の講義の最初に何人かに聞いて確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Presentación del curso.	授業の説明。
2	Las dudas más frecuentes del español	スペイン語の正しい使い方を学ぶ
3	Gestos hispánicos(I)	スペイン語ジェスチャーを学ぶ。(I)
4	Gestos hispánicos(II)	スペイン語ジェスチャーを学ぶ。(II)
5	Mi mejor viaje 1	自分の平均的な1日を説明する方法を学ぶ (1)
6	Mi mejor viaje (2)	自分の平均的な1日を説明する方法を学ぶ (2)
7	Mis gustos (1)	自分の趣味を説明する方法を学ぶ (1)
8	Mis gustos (2)	自分の街を説明する方法を学ぶ (2)
9	Mi mejor regalo (1)	お気に入りのプレゼントを説明する方法を学ぶ (1)
10	Mi mejor regalo 2	お気に入りのプレゼントを説明する方法を学ぶ (2)
11	Mi personaje preferido	尊敬している有名人について説明する方法を学ぶ。
12	La Navidad Intercambio de regalo	日本のクリスマスを紹介する方法を学ぶ。 プレゼント交換。
13	Año Nuevo	新年
14	試験・まとめと解説	期末試験を実施し、今学期のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者はペアで練習を行うので、予習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した8個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認を行う。学習の目安は毎回 60 分程度である。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

辞書(電子辞書可)

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

教師が用意した教材を改善し、生徒間でより良いコミュニケーションを実現するために生徒間で信頼できる環境を作ります。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

In this course students will practice communicating familiar topics to others. Model sentences will be created to explain important expressions and practice replacing them. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on the model sentences.

Grading criteria

Students will be judged on the basis of regular scores, assignments and final examination.

Regular point evaluation: 50%.

A score based on the student's response when pointed out in class. Also, your attitude and active participation in class. Regular points will be accumulated, so if a student is absent, the regular points for that day will be zero.

Midterm exam: 20%.

Final oral exam: 30%.

In this course, students will practice communicating familiar topics to others. After replacing model sentences and memorize the expressions you have learned, you will practice them with your pairs. Next, rewrite the model sentences using the memorized expressions and present them. I will confirm what you have learned by asking some of you at the beginning of the next week's lecture.

Every week begins with a review of the previous week. Students will practice in pair, so they are expected to prepare well and actively participate in class. The estimated study time is about 60 minutes for each class.

LANs200LA (スペイン語 / Spanish language education 200)

現代のスペイン語Ⅰ

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

定員制 (30)

2021年度までに「時事スペイン語Ⅰ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語の初級クラスを履修済みの学生を対象として、すでに身につけている文法知識を活かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を養う。同時に、現代のスペイン語圏の文化や社会といった諸相について、その歴史も踏まえながら学んでいく。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員が各回のテーマに関する概説と文法事項に関する解説を行いながら、順番に指名された受講生が訳読を行う。課題等に対するフィードバックは授業内でを行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	初級文法の復習	過年度までにスペイン語初級の各クラスで学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法現在	直説法現在を使った文章を読解する。
4	gustar 型動詞	gustar 型動詞を使った文章を読解する。
5	現在分詞と直説法現在進行形	現在分詞と直説法現在進行形を使った文章を読解する。
6	現在分詞と直説法現在進行形	現在分詞と直説法現在進行形を使った文章を読解する。
7	過去分詞と直説法現在完了形	過去分詞と直説法現在完了形を使った文章を読解する。
8	直説法点過去	直説法点過去を使った文章を読解する。
9	直説法線過去	直説法線過去を使った文章を読解する。
10	直説法過去完了	直説法過去完了を使った文章を読解する。
11	再帰動詞	再帰動詞を使った文章を読解する。
12	受動表現	受動表現を使った文章を読解する。
13	無人称表現	無人称表現を使った文章を読解する。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

高松朋子ほか『行ってきます!』朝日出版社、2007年、ISBN9784255550220、本体価格2,100円。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%、学期末試験：50%。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- 履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨と選抜方法を前日のうちに同システムで通知する。

- この授業は秋学期の「現代のスペイン語Ⅱ」(授業コード：R8304、担当教員：久木正雄)との連続性を持つため、ⅠとⅡの両方を履修することが望ましい。

- 辞書の活用を怠らないこと。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course will focus on various current topics in Spanish-speaking countries, by enjoying rather long Spanish texts through the use of your grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

《Learning Objectives》

Students will improve the reading ability in Spanish.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (50%), and term-end examination (50%).

LANs200LA (スペイン語 / Spanish language education 200)

現代のスペイン語Ⅱ

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

定員制 (30)

2021年度までに「時事スペイン語Ⅱ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語の初級クラスを履修済みの学生を対象として、すでに身につけている文法知識を活かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を養う。同時に、現代のスペイン語圏の文化や社会といった諸相について、その歴史も踏まえながら学んでいく。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員が各回のテーマに関する概説と文法事項に関する解説を行いながら、順番に指名された受講生が訳読を行う。課題等に対するフィードバックは授業内でを行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	春学期の文法の復習	春学期で学んだ文法事項の復習を行う。
3	比較表現	比較表現を使った文章を読解する。
4	知覚・使役の表現	知覚・使役の表現を使った文章を読解する。
5	直説法未来と直説法過去未来	直説法未来と直説法過去未来を使った文章を読解する。
6	直説法未来完了と直説法過去未来完了	直説法未来完了と直説法過去未来完了を使った文章を読解する。
7	接続法現在 (名詞節)	接続法現在 (名詞節) を使った文章を読解する。
8	接続法現在 (形容詞節・副詞節)	接続法現在 (形容詞節・副詞節) を使った文章を読解する。
9	命令法	命令法を使った文章を読解する。
10	接続法過去と接続法過去完了	接続法過去と接続法過去完了を使った文章を読解する。
11	間接話法	間接話法を使った文章を読解する。
12	時制の復習	さまざまな時制を網羅的に使った文章を読解する。
13	法の復習	直説法と接続法を対比的に使った文章を読解する。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

高松朋子ほか『行ってきます!』朝日出版社、2007年、ISBN9784255550220、本体価格2,100円。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%、学期末試験：50%。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- 履修予定者は、秋学期の初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨と選抜方法を前日のうちに同システムで通知する。

- この授業は春学期の「現代のスペイン語Ⅰ」(授業コード：R8303、担当教員：久木正雄)からの連続性を持つため、ⅠとⅡの両方を履修することが望ましい。

- 辞書の活用を怠らないこと。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course will focus on various current topics in Spanish-speaking countries, by enjoying rather long Spanish texts through the use of your grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

《Learning Objectives》

Students will improve the reading ability in Spanish.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (50%), and term-end examination (50%).

ARSA200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）

スペイン語の世界 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐々木 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語圏で製作された映画を通じて、スペイン語圏の文化や社会、歴史について学びます。映画の中に出てくるスペイン語の台詞解説によって、スペイン語学習者にとっては、スペイン語による表現のさらなる理解につながります。また、スペイン語を学んでいない方にとっては、スペイン語の発音や文法に触れる絶好の機会となり、いずれにしても本授業は異文化理解の糸口となります。

【到達目標】

*日本で公開されたスペイン語圏の代表的な映画について、それぞれの内容と社会・文化・歴史的背景を踏まえて理解できるようになる。
*映画の内容について、自国とスペイン語圏の比較も交えた意見交換や議論ができるようになる。

*スペイン語圏の映画について、その魅力を他者に伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト『映画に学ぶスペイン語』をテキストを使用し、取りあげる映画についての講義授業の回と学生が演習・発表する授業の回を交互に行います。

各回で取りあげる映画はすべて、大学の視聴覚ライブラリーに所蔵しているため、受講生全員はあらかじめ各自で視聴する必要があります。映画を観たら、コメントシートに記入し、授業開始までに学習支援システムに提出します。

演習・発表の回では、フォーカスするシーンだけを見直し、提出されたコメントシートへのフィードバックを行いながら、受講生による発表やグループ（ペア）ワークを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説とオリエンテーション
2	ビクトル・エリセ監督作品（講義）	『ミツバチのささやき』『エル・スール』の中のスペイン語
3	ビクトル・エリセ監督作品（演習）	『ミツバチのささやき』とビクトル・エリセ監督について学生による発表
4	フェルナンド・トルエバ監督（講義）	『ベルエポック』のスペイン語
5	フェルナンド・トルエバ監督（演習）	『ベルエポック』とフェルナンド・トルエバ監督について学生による発表
6	カルロス・サウラ監督1（講義）	『カラスの飼育』『ゴヤ』のスペイン語
7	カルロス・サウラ監督2（演習）	『ゴヤ』とカルロス・サウラ監督について学生による発表

8	ベドロ・アルモドバル監督1（講義）	『マタドール』『神経衰弱ざりざりの女たち』のスペイン語
9	ベドロ・アルモドバル監督2（演習）	『神経衰弱ざりざりの女たち』とベドロ・アルモドバル監督について学生による発表
10	ギジェルモ・デル・トロ監督（講義）	『パンズ・ラビリンズ』のスペイン語
11	ギジェルモ・デル・トロ監督（演習）	『パンズ・ラビリンズ』とギジェルモ・デル・トロ監督について学生による発表
12	トマス・グティエレス監督（講義）	『低開発の記憶』『母とチョコレート』のスペイン語
13	トマス・グティエレス監督（演習）	『母とチョコレート』とトマス・グティエレス監督についての学生による発表
14	今学期の総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、計4時間を標準とします。授業参加前に必ず課題となっている映画を鑑賞し、コメントシートをあらかじめ提出することが毎回必要です。

【テキスト（教科書）】

柳原孝敦『映画に学ぶスペイン語』教育評論社、2021年、2,200円（税込）。

【参考書】

授業内で適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート・課題による平常点（60％）と発表は積極的な発言による授業貢献度（40％）をめやすに、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度、授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn about the culture, society, and history of Spanish-speaking countries through movies produced in them.

It also explains the Spanish lines that appear in the movies, which will help those who are learning Spanish to better understand Spanish expressions, and for those who have not learned Spanish, it will be a great opportunity to learn it.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process reports (60%), and in-class contribution (40%).

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

スペイン語の世界 L B 2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐々木 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語圏で製作された映画を通じて、スペイン語圏の文化や社会、歴史について学びます。映画の中に出てくるスペイン語の台詞解説によって、スペイン語学習者にとっては、スペイン語による表現のさらなる理解につながります。また、スペイン語を学んでいない方にとっては、スペイン語の発音や文法に触れる絶好の機会となり、いずれにしても本授業は異文化理解の糸口となります。

【到達目標】

- *日本で公開されたスペイン語圏の代表的な映画について、それぞれの内容と社会・文化・歴史的背景を踏まえて理解できるようになる。
- *映画の内容について、自国とスペイン語圏の比較も交えた意見交換や議論ができるようになる。
- *スペイン語圏の映画について、その魅力を他者に伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト『映画に学ぶスペイン語』をテキストを使用し、取りあげる映画についての講義授業の回と学生が演習・発表する授業の回を交互に行います。

各回で取りあげる映画はすべて、大学の視聴覚ライブラリーに所蔵しているため、受講生全員はあらかじめ各自で視聴する必要があります。映画を観たら、コメントシートに記入し、授業開始までに学習支援システムに提出します。

演習・発表の回では、フォーカスするシーンだけを見直し、提出されたコメントシートへのフィードバックを行いながら、受講生による発表やグループ (ペア) ワークを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説とオリエンテーション
2	スペイン内戦1 (講義)	『蝶の舌』の中のスペイン語
3	スペイン内戦2 (演習)	『ペーパーバード』の中のスペイン語
4	スペイン内戦3 (演習)	『キャロルの初恋』のスペイン語と学生の発表
5	チェ・ゲバラ1 (講義)	『モーターサイクル・ダイアリーズ』の中のスペイン語
6	チェ・ゲバラ2 (講義)	『チェ 28歳の革命』のスペイン語
7	チェ・ゲバラ3 (演習)	『チェ 39歳別れの手紙』の中のスペイン語と学生による発表
8	ペドロ・アルモドバル監督1 (講義)	『オール・アバウト・マイ・マザー』『トーク・トゥー・ハー』のスペイン語

9	ペドロ・アルモドバル監督2 (演習)	ペドロ・アルモドバル監督作品について学生による発表
10	ベネロベ・クルス (講義)	『ボルベール』のスペイン語
11	ベネロベ・クルス (演習)	ベネロベ・クルスについて学生の発表
12	アレハンドロ・アメナーバル監督 (講義)	『オープン・ユア・アイズ』『海を飛ぶ夢』のスペイン語
13	アレハンドロ・アメナーバル監督 (演習)	アレハンドロ・アメナーバル監督についての学生の発表
14	今学期の総括	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、計4時間を標準とします。授業参加前に必ず課題となっている映画を鑑賞し、コメントシートをあらかじめ提出することが毎回必要です。

【テキスト (教科書)】

柳原孝敦『映画に学ぶスペイン語』教育評論社、2021年、2,200円 (税込)。

【参考書】

授業内で適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート・課題による平常点 (60%) と発表は積極的な発言による授業貢献度 (40%) をめやすに、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度、授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn about the culture, society, and history of Spanish-speaking countries through movies produced in them.

It also explains the Spanish lines that appear in the movies, which will help those who are learning Spanish to better understand Spanish expressions, and for those who have not learned Spanish, it will be a great opportunity to learn it.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process reports (60%), and in-class contribution (40%).

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 4 B I (視聴覚)

2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力を向上させる。
 スクリプトの翻訳を通して読解力を向上させ語彙を増強する。
 韓国人留学生との会話も行う予定。

【到達目標】

- 1 韓国の小説・ドラマ・歌・アナウンスなどの聞き取りを通し、音から朝鮮語を理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・暗唱を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 小説・ドラマの一場面を聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 語彙、文型を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会話 サランバンのお客さんとおモニ ①②	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	サランバンのお客さんとおモニ ③④ シークレットガーデン 1	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	サランバンのお客さんとおモニ ⑤⑥ 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	サランバンのお客さんとおモニ ⑦⑧ シークレットガーデン 2	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	サランバンのお客さんとおモニ ⑨⑩ アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	サランバンのお客さんとおモニ ⑪⑫ シークレットガーデン 3	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	サランバンのお客さんとおモニ ⑬⑭ シークレットガーデン 4	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	サランバンのお客さんとおモニ ⑮⑯	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習

9	中間試験 シークレットガーデン 5	単語 暗誦 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	サランバンのお客さんとおモニ ⑰⑱ 会話練習	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	サランバンのお客さんとおモニ ⑲⑳ シークレットガーデン 6	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	サランバンのお客さんとおモニ 最終回 シークレットガーデン 7	スクリプト聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、聞き取り・翻訳・暗記等の課題を行うこと。
 本授業の準備・復習時間は各2時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

川口義一監修『耳から入る韓国語 1』学研
 シークレットガーデン DVD

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、積極性、課題）40％、テスト60％
 単語テストが50点以下の場合は単位が出ない。
 4回以上の欠席で単位は出ない。

【学生の意見等からの気づき】

韓国人留学生との会話が大変有意義だったという意見が多かったため、留学生の協力が得られればネイティブとの会話の時間を設けます。

【その他の重要事項】

課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
 2年生～4年生が履修可能なクラスのため、朝鮮語3より受講生のレベルが高くなる傾向があります。聞き取りとスクリプト翻訳がメインになるため朝鮮語の一定のレベルが要求されます。
 定員制のため履修希望者が多い場合は抽選をします。
 この科目は「法（法律学科・政治学科）文営」でパターンB（朝鮮語週2コマ）を選択した学生の「選択必修」科目なので、定員を超えた場合は、該当する学生に優先的に履修してもらい、定員に余裕がある場合に他学部他学科の学生を抽選して履修者を決定します。
 初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline and learning objectives】

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. The purpose of this class is to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study 2hours at home for assignments and quizzes.

【Grading criteria /policy】

Participation20%, Assignments20%, Exam60%

※ Students who miss 4 or more times each class will not be eligible for the credit on this course.

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 4 B II (視聴覚) 2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力を向上させる。
 スクリプトの翻訳を通して読解力を向上させ語彙を増強する。
 韓国人留学生との会話も行う予定。

【到達目標】

- 1 韓国のドラマ・歌・アナウンス・スピーチなどの聞き取りを通じ、音から理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・音読を行うことで自然で美しい発音をめざす。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 ドラマ・ニュースなどを聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 文型・表現を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会話 自己紹介 華麗なる遺産 1	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	華麗なる遺産 2 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	華麗なる遺産 3	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	スピーチなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	華麗なる遺産 4	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	アナウンスなど	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	華麗なる遺産 5	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	中間試験	単語 暗唱小テスト

10	華麗なる遺産 6	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	華麗なる遺産 7	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	華麗なる遺産 8	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スクリプト翻訳・単語暗記・音読・暗唱等の課題を行うこと。
 本授業の準備・復習時間は合計4時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、積極性、課題）40％、テスト60％
 単語テストが50点以下の場合は、単位が出ない。
 4回欠席の場合、単位が出ない。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も会話の時間を設ける予定です。

【その他の重要事項】

課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
 2年生～4年生が履修可能なクラスのため、朝鮮語3より受講生のレベルが高くなる傾向があります。聞き取りとスクリプト翻訳がメインになるため朝鮮語の一定のレベルが要求されます。
 定員制のため履修希望者が多い場合は抽選をします。
 この科目は「法（法律学科・政治学科）文営」でパターンB（朝鮮語週2コマ）を選択した学生の「選択必修」科目なので、定員を超えた場合は、該当する学生に優先的に履修してもらい、定員に余裕がある場合に他学部他学科の学生を抽選して履修者を決定します。
 初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】**[Course outline and learning objectives]**

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. The purpose of this class is to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study 2 hours at home for assignments and quizzes.

[Grading criteria /policy]

Participation, Assignments 40%, Exam 60%

※ Students who miss 4 or more times each class will not be eligible for the credit on this course.

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 5 A I (講読)

2017年度以降入学者

荻野 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

定員制 (30)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞記事やエッセイ、小説などを読み、韓国の文化や社会への理解を深めていくとともに読解力のさらなる向上をはかります。

【到達目標】

様々なジャンルの文章を読むことによって、さらなる語彙力の向上と読解力の強化を図ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストにそって授業を進めます。わからない単語等は調べて授業にのぞんでください。授業ではテキストの内容について翻訳・発表をしてもらい、文法事項の補足や参考訳、内容についての説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方 ・自己紹介など
2	「日韓の狭間での対馬の苦悩」	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
3	「江戸時代の朝鮮通詞」	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
4	「韓医学」	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
5	「書芸」	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
6	「ソウルという名称」	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
7	随筆を読む(1)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
8	随筆を読む(2)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説

9	随筆を読む(3)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
10	小説・ベストセラー作品を読む(1)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
11	小説・ベストセラー作品を読む(2)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
12	小説・ベストセラー作品を読む(3)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
13	小説・ベストセラー作品を読む(4)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
14	期末試験	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布

【参考書】

「韓日辞典」小学館など

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

課題、小テスト等：20%

期末試験：60%

出席が2/3に満たない場合は評価対象となりません。

【学生の意見等からの気づき】

ある程度長い文章を読んでいながら語感を磨き、原語で文章を味わう楽しさを感じてほしいと思います。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせて内容を若干変更する場合があります。

【Outline (in English)】**【授業の概要（Course outline）】**

By reading newspaper articles, essays, novels, etc., this class aims to deepen students' understanding of Korean culture and society and to improve their further reading comprehension.

【到達目標（Learning Objectives）】

This class aims to improve students' further vocabulary and reading comprehension by reading texts in a variety of genres.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. It is recommended strongly to study more than two hours per a week for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Completing all required components of the course is necessary to pass the course. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term-end examination (60%), and in-class contribution (20%).

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 5 A II (講読)

2017年度以降入学者

荻野 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

定員制 (30)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞記事やエッセイ、小説などを読み、韓国の文化や社会への理解を深めていくとともに読解力のさらなる向上をはかります。

【到達目標】

様々なジャンルの文章を読むことによって、さらなる語彙力の向上と読解力の強化を図ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストにそって授業を進めます。わからない単語等は調べて授業にのぞんでください。授業ではテキストの内容について翻訳・発表をしてもらい、文法事項の補足や参考訳、内容についての説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方 ・自己紹介など
2	新聞記事を読む(1)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
3	新聞記事を読む(2)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
4	新聞記事を読む(3)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
5	詩を読む(1)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
6	詩を読む(2)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
7	随筆を読む(1)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
8	随筆を読む(2)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説

9	随筆を読む(3)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
10	小説を読む(1)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
11	小説を読む(2)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
12	小説を読む(3)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
13	小説を読む(4)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
14	期末試験	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布

【参考書】

「韓日辞典」小学館など

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

課題、小テスト等：20%

期末試験：60%

出席が2/3に満たない場合は評価対象となりません。

【学生の意見等からの気づき】

ある程度長い文章を読んでいながら語感を磨き、原語で文章を味わう楽しさを感じてほしいと思います。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせて内容を若干変更する場合があります。

【Outline (in English)】**【授業の概要（Course outline）】**

By reading newspaper articles, essays, novels, etc., this class aims to deepen students' understanding of Korean culture and society and to improve their further reading comprehension.

【到達目標（Learning Objectives）】

This class aims to improve students' further vocabulary and reading comprehension by reading texts in a variety of genres.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. It is recommended strongly to study more than two hours per a week for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Completing all required components of the course is necessary to pass the course. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term-end examination (60%), and in-class contribution (20%).

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 5 B I (表現法) 2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：1単位

定員制 (30)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話ができるように練習をする。

韓国の時事ニュースに触れ、時事単語、リスニング力、漢字語の力をつける。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。学生のレベルに合わせ、導入用に朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読み、伝統文化への理解も深めたりする。中級向けの授業である。

【到達目標】

実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的社会的な理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。毎回、ウォーミングアップとして、授業のはじめに、身の回りの出来事について、簡単な日常会話を交わす練習をすることで、話すことに慣れていく。慣れてきたら、PPTを作成してプレゼンテーションの練習も随時していきたい。後半は昔話や時事ニュースのテキストに沿って、聞く力の伸長、読む力、語彙力のアップを図り、隣国への幅広い理解へとつなげていく。質問は授業内、掲示板で対応し、発表については授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	「おひさまおつきさま」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
3	「トラと干し柿」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
4	『時事韓国語』BTS、KPOP再燃するか。	会話、リスニング、リーディング、内容理解
5	『時事韓国語』韓国映画1000万人、	会話、リスニング、リーディング、内容理解
6	『時事韓国語』正月番組特集	会話、リスニング、リーディング、内容理解
7	『時事韓国語』南北合同チーム初登場	会話、リスニング、リーディング、内容理解
8	『時事韓国語』「シェアハウス人気」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
9	『時事韓国語』「無人化加速」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
10	『時事韓国語』「小1保護者10時出勤」	会話、リスニング、リーディング、内容理解

11	『時事韓国語』「二つの母国語」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
12	『時事韓国語』「高齢者10人に1人認知症」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
13	『時事韓国語』「変わる採用試験場」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
14	学習のまとめ	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、読み物課題を予習・復習すること。知らない単語を確認しておく。毎回、身近な話題について韓国語で話しますので、話題を準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布。

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典・日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

平常点80%、プレゼンテーション20%。

【学生の意見等からの気づき】

話すことに抵抗感がなくなるように、簡単な単語を駆使して伝える技術を身に付けられるようにします。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせ、順序や内容に若干の変更のある場合があります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with Korean intermediate level.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to enhance the development of the skill in reading, writing, listening and talking.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Presentation : 20%, in class contribution: 80%.

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 5 B II (表現法)

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：1単位

定員制 (30)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話がスムーズにできるように練習をする。朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読みながら、伝統文化についての理解を深めたり、時事ニュースに触れ、リスニング力、漢字語の力をつける。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。中級レベル向けの授業である。

【到達目標】

実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的社会的な理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、ウォーミングアップとして、授業のはじめに、身の回りの出来事について、簡単な日常会話を交わす練習をする。言葉がすぐ出てくるよう、とにかく話すことに慣れること。その後は、時事ニュースのテキストに沿って、聞く力の伸長、読む力、語彙力のアップを図り、隣国への幅広い理解へとつなげていく。質問は授業内、掲示板で対応し、発表については授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 『時事韓国語』 11「政府、原発新設 白紙化問題」	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	『時事韓国語』 12「はじめて呼ぶお父さん、お母さん」、 13「国政の安定化、 協力と統合」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
3	『時事韓国語』 14「南北65年ぶり終 戦宣言」 15「気候変動とウミ ガメ」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
4	『時事韓国語』 16「日本の公衆ト イレ」 17「米朝70年の対立 に終止符」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
5	18「監視カメラ」 19「5G先取り競争」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
6	20「気象ニュース」 21「ヨイドの桜」	会話、リスニング、リーディング、内容理解

7	22「珍道犬」 23「仮想通貨」 『時事韓国語』 24「変わる採用試験 現場」 25「不動産事情、ソ ウル、地方」	会話、リスニング、リーディング、内容理解 会話、リスニング、リーディング、内容理解
9	『時事韓国語』 26「経済成長と就業 者の増加」 『時事韓国語』 31「ワールドカップ 韓国サッカー旋風」	会話、リスニング、リーディング、内容理解 会話、リスニング、リーディング、内容理解
11	『時事韓国語』 32「野球ニュース ロッテ5連勝中」 『時事韓国語』 33「ニュース解説、 巨大な壁を打ち破つ た英雄」	会話、リスニング、リーディング、内容理解 会話、リスニング、リーディング、内容理解
13	『時事韓国語』 34「ドラマの名所ソ ウル桂洞」 35「蚊を追ひ払う方 法、ご存知？」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
14	36「そば粉パスタ、干 しだらのカルグクス」 ●学習のまとめ	内容理解、プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、身近な話題について、簡単な会話をしますので、話題を準備をしておくこと。毎回、課題の復習を十分すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布。

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典・日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

平常点80%、プレゼンテーション20%。

【学生の意見等からの気づき】

話すことに抵抗感がなくなるように、簡単な単語を駆使して伝える技術を身に付けられるようにします。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせ、順序や内容に若干の変更のある場合があります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with Korean intermediate level.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to enhance the development of the skill in reading, writing, listening and talking.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Presentation : 20%, in class contribution: 80%.

LANK200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 4 C I (コミュニケーション) 2017年度以降入学者

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

定員制 (30)

2022年度までに「朝鮮語 3 C I」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】
この授業の目的は、朝鮮語1・2で修得した文法知識を基に、実践的なコミュニケーション能力の向上を目指すことです。会話力と聴解力の向上を図り、自分の考えや経験を朝鮮語で効果的に表現できる力を養います。また朝鮮漢字音から日本漢字音への変換規則を学びます。

- 【到達目標】
1. 教材の会話文の文法構造を理解し、説明できる。
 2. 学習した会話表現を正確な発音で話すことができる。
 3. 学習した表現を応用して、自分の考えや経験を朝鮮語で表現できる。
 4. 日常的な場面での基本的な会話を聞いて理解することができる。
 5. 朝鮮漢字音から日本漢字音への変換規則を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

- 【授業の進め方と方法】
1. 前回の授業内容についての小テストを行う。
 2. 課題の答え合わせと解説を行う。
 3. 各課の重要事項を理解した後、練習問題を行う。
 4. 学生同士で会話練習をする。
 5. 今回学習した内容の確認テストを行う。
- 授業の始めに、前回の小テストのフィードバックを行う。
授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。
連絡事項や課題等は「Google Classroom」を通して行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 学番の言い方 (1課-前半)	授業の進め方・評価方法の説明 해요体の作り方
2	相手の学番を聞く練習 (1課-後半)	합니다体の使い方 終声「로」の対応
3	漢字音変換規則-終声1 意志や推測の言い方 (2課-前半)	-ㄹ 거예요 (意志・推量)、-고 (並列) 終声「ㄹㄱ」の対応
4	漢字音変換規則-終声2 目標を言う練習 (2課-後半)	-지요/죠? (確認) 終声「ㅇ」の対応
5	漢字音変換規則-終声3 逆接の言い方 (3課-前半)	-지만 (逆接)、-ㄴ (形容詞の現在連体形)
6	漢字音変換規則-初声1 依頼表現の練習 (3課-後半)	初声「ㄹㅇㅍ」 -아/어 주다 (依頼) 初声「ㅇㅍㅍ」
7	漢字音変換規則-初声2 中間試験	試験・まとめと解説
8	条件・仮定の言い方 (4課-前半)	-면 (条件・仮定)、-는 (動詞の現在連体形)
9	漢字音変換規則-初声3 条件を言う練習 (4課-後半)	初声「ㄴㅇㅍ」の対応 -지 않다 (否定) 初声「ㅎㅍ」の対応
10	漢字音変換規則-初声4 感嘆の言い方 (5課-前半)	-ㄴ (動詞の過去連体形)、-네요 (感嘆)
11	漢字音変換規則-中声1 最近の出来事を話す練習 (5課-後半)	中声「ㅏㅍ」の対応 ㅏ変則活用 中声「ㅏㅍ」の対応
12	漢字音変換規則-中声2 謝罪の言い方 (6課-前半)	-시 (尊敬)、-아서/어서 (理由)
13	漢字音変換規則-中声3 理由を言う練習 (6課-後半)	中声「ㅇㅍ」の対応 -ㄹ (動詞の未来連体形)、-지 못하다 (不可能)
	漢字音変換規則-中声4	中声「ㅏㅍ」の対応

- 14 期末試験 試験・まとめと解説
- 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
- 【テキスト (教科書)】
須賀井義教他(2025)『三訂版・韓国語の世界へ 初中級編』朝日出版社
※初回の授業で使用しますので、必ず購入してください。
- 【参考書】
内山政春(2022)『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社
須賀井義教他(2023)『確認しながらおぼえる韓国語基本単語帳』朝日出版社
- 【成績評価の方法と基準】
1. 欠席回数が学期の三分の一を超えたときは、単位を認めない。
2. 3回の遅刻で1回欠席としてカウントする。
3. 平常点(20%)、課題・小テスト(20%)、定期試験(60%)をもとにして、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
- 【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
授業の連絡や課題の提出は「Google Classroom」を利用する。

【その他の重要事項】
履修上の注意：
この科目は「法 (法律学科・政治学科) 文営」でパターンB (朝鮮語週2コマ)を選択した学生の「選択必修」科目なので、定員を超えた場合は、該当する学生に優先的に履修してもらい、定員に余裕がある場合に他学部他学科の学生を抽選して履修者を決定する。初回の授業にかならず出席のこと。該当者で初回4Bに出席し、そこで抽選で外れた場合は、2回目からでも受け入れることにする。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to develop practical communication skills in Korean, building on the grammatical foundation acquired in Korean 1 and 2. This course deals with conversational and listening comprehension abilities. It also enhances students' skill in expressing their thoughts and experiences effectively in Korean.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
- Engage in daily conversations using appropriate expressions in Korean
- Comprehend spoken Korean in various everyday situations
- Express their own thoughts and experiences effectively in Korean
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to spend two hours on preparation and review before and after each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class participation: 20%, Assignments and quizzes: 20%, Final examination: 60%
- Students must achieve at least 60%of the course objectives to pass this course.
- Students who miss more than one-third of the total classes will not receive credit for the course.

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 4 C II (コミュニケーション) 2017年度以降入学者

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

定員制 (30)

2022年度までに「朝鮮語 3 C II」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続き、朝鮮語1・2で修得した文法知識を基に、実践的なコミュニケーション能力の向上を目指すことがこの授業の目的です。会話力と聴解力の向上を図り、自分の考えや経験を朝鮮語で効果的に表現できる力を養います。さらに、ニュース等のメディアコンテンツを聞き取り、内容を理解する力を養っていきます。

【到達目標】

1. 教材の会話文の文法構造を理解し、説明できる。
2. 学習した会話表現を正確な発音で話すことができる。
3. 学習した表現を応用して、自分の考えや経験を朝鮮語で表現できる。
4. 日常的な場面での基本的な会話を聞いて理解することができる。
5. ニュース等のメディアコンテンツを聞き取り、内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業内容についての小テストを行う。
2. 課題の答え合わせと解説を行う。
3. 各課の重要事項を理解した後、練習問題を行う。
4. 学生同士で会話練習をする。
5. 今回学習した内容の確認テストを行う。

授業の始めに、前回の小テストのフィードバックを行う。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

連絡事項や課題等は「Google Classroom」を通して行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 経験の言い方 (7課-前半)	授業の進め方・評価方法の説明 -ㄴ 적이 있다/없다(経験)、-고 있다(進行)
2	経験を言う練習 (7課-後半)	ㄹ 변則活用(の用言) ニュース原稿の読解
3	視聴覚教材-1-1 理由を説明する言い方 (8課-前半)	-아/어 있다 (状態の継続)、-니까 (理由)
4	視聴覚教材-1-2 決定や約束を言う練習 (8課-後半)	뉴스의聴解と要約 -르 게요 (聞き手への約束) ニュース原稿の読解
5	視聴覚教材-2-1 許可と禁止の言い方 (9課-前半)	-ㄴ 데 (婉曲)、-아도/어도 되다 (許可) ニュースの聴解と要約
6	視聴覚教材-2-2 許可を求める練習 (9課-後半)	ㄹ 변則活用(の用言)
7	中間試験	試験・まとめと解説
8	意見を述べる言い方 (10課-前半)	-겠- (意志・推量)、-거든요 (根拠) ニュース原稿の読解
9	視聴覚教材-3-1 義務や必要性を伝える練習 (10課-後半)	-아야/어야 되다 (義務) ニュースの聴解と要約
10	視聴覚教材-3-2 相手の意向を聞く言い方 (11課-前半)	-ㄴ 까요? (問い合わせ)、-아/어 보다 (試み) ニュース原稿の読解
11	視聴覚教材-4-1 試みを言う練習 (11課-後半)	-ㄴ 수 있다/없다(可能・不可能) ニュースの聴解と要約
12	視聴覚教材-4-2 推測や意図を述べる言い方 (12課-前半)	-것 같다 (推測)、-려고 하다 (意図) ニュース原稿の読解
	視聴覚教材-5-1	

13	将来の計画を言う練習 (12課-後半)	-지 말다 (禁止) ニュースの聴解と要約
14	視聴覚教材-5-2 期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

須賀井義教他(2025)『三訂版・韓国語の世界へ 初中級編』朝日出版社
※初回の授業で使用しますので、必ず購入してください。

【参考書】

内山政春(2022)『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社
須賀井義教(2023)『確認しながらおぼえる韓国語基本単語帳』朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

1. 欠席回数が学期の三分の一を超えたときは、単位を認めない。
2. 3回の遅刻で1回欠席としてカウントする。
3. 平常点(20%)、課題・小テスト(20%)、定期試験(60%)をもとにして、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は「Google Classroom」を利用する。

【その他の重要事項】

履修上の注意：

この科目は「法(法律学科・政治学科) 文営」でパターンB(朝鮮語週2コマ)を選択した学生の「選択必修」科目なので、定員を超えた場合は、該当する学生に優先的に履修してもらい、定員に余裕がある場合に他学部他学科の学生を抽選して履修者を決定する。初回の授業にかならず出席のこと。該当者で初回4Bに出席し、そこで抽選で外れた場合は、2回目からでも受け入れることにする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to develop practical communication skills in Korean, building on the grammatical foundation acquired in Korean 1 and 2. This course deals with conversational and listening comprehension abilities. It also enhances students' skill in expressing their thoughts and experiences effectively in Korean.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- Engage in daily conversations using appropriate expressions in Korean
- Comprehend spoken Korean in various everyday situations
- Express their own thoughts and experiences effectively in Korean

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to spend two hours on preparation and review before and after each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation: 20%, Assignments and quizzes: 20%, Final examination: 60%

- Students must achieve at least 60%of the course objectives to pass this course.

- Students who miss more than one-third of the total classes will not receive credit for the course.

